文學博士　大槻文彦著

大言海

第二巻

く—す

東京
冨山房發行

くぐ

く 五十音圖、加行、第三ノ假名。(かノ條ヲ見ヨ)くノ音ハ、他ノ音ノ間ニアルトキ、促聲ノツノ如ク呼ブコトアリ、はくか(薄荷)、かくけ(脚氣)、あくき(惡鬼)、あくこう(惡口)ヲ、はっか、かっけ、あっき、あっこう、ノ如ク呼ブガ如シ。くノ音ハ、又、他ノ音ノ下ニアルトキ、其ノ發聲ヲ失ヒテ、韻ノうトナルコトアリ、からくして(辛而)、ひさしく(久)、かく(斯)、かくし(格子)ナドノ、からうじて、ひさしう、かう、かうし、トナルガ如シ。

ぐ くノ濁音ノ假名。(がノ條ヲ見ヨ)此音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキ、發聲ヲ失ヒテ、韻ノうトナルコトアリ、わらぐつ、(藁沓)ノわらうづトナリ、かぐはし(香細)ノかうばし(馨)トナルガ如シ。

く (名) 句 (一)文章ノ中ニテ、言詞ノ、少シ斷ルル所。又、數箇ノ單語ニ成リテ、未ダ文章トナラヌモノ。句ノ中ヲ、更ニ別チテ、點ナド付ケテ、讀ムニ便ニスルヲ、讀、又ハ、よみ、ト云フ。(二)〔和歌ノ中ニテ、五音、或ハ、七音ヲ、段トスルモノ、(稀ニ、三音、四音、六音、七音、ナドトナルモノアリ)即チ、常ノ和歌ハ、五、七、五、七、七、ノ五句ニ成ル。或ハ、初ノ五、七、五、ノ三句ヲ合ハセテ、上の句トモ云ヒ、末ノ七、七、ノ二句ヲ、下の句トモ云フ、又、或ハ、上の句ヲ、本ト云ヒ、下の句ヲ、末トモ云フ。(もとすゑノ條ヲ見ヨ) 伊勢物語、第九段「かきつばたト云フ五文字ヲ、句ノ上ニ据ヱテ、旅ノ心ヲ詠メ」 (三)〔詩ノ中ニ、五字、或ハ、七字(或ハ、四字、六字、等)ヲ一段トシ、下ニ、韻字ナド、置クモノ。(詩、律、起句、等ノ條ヲ見ヨ) 源、一、桐壺廿二「詩ナド作リカハシテ、云云、ミコモ、イトアハレナル句ヲ作リ給ヘルヲ」 宇津保物語、祭使七三十「八韻ノ詩作ル、云云、今日ノ詩ニ聞エザリツル句ヲ、一人、誦スル人アナリ」 (四)俳諧ノ一首。俳句。「宗因ノ句」芭蕉ノ句」

く (名) 苦 〔樂ニ對ス〕 (一)クルシミ。ホネヲリ。「苦ハ、樂ノ種」 (二)氣遣。心配。 狹衣、一、下廿五「此類モシキ人ノ御心バヘ、サヤウノ程(子生ムコトヲ云フ)トテモ、カヒガヒシウ、モテナシ扱ヒ給フベキニコソ見エ給ハネ、イヒ思ヘバ、くニテゾ侍ラム」「苦ニナル」苦ニスル」

く (名) 區 (一)マチ。ヒトカコミノ地。(二)府、縣、ノ下ニテ、郡ニ對シテ、人家多キ市、町ナドヲ、別チテ支配スル稱。「東京府東京市下谷區」大阪府大阪市北區」 (三)法令執行ノタメニ、特別ニ立ツルモノアリ。「選擧區」徵兵區」

く・クル・クレ・コ・キ・コヨ (自動、加變) 來 (一)此方へ、近ヅキ至ル。キタル。 古事記、中(景行)五五十「我家ノ方ヨ、雲居起チ久モ」 土佐日記、正月廿五日「海賊、追ヒくト云フ」 後撰集、九、戀、一「くヤくヤト、待ツタ暮ト、今ハトテ、歸ル朝ト、イヅレマサレル」 源、十六、關屋三「行クトくト、塞キトメガタキ、涙ヲヤ、絶エヌ淸水ト、人ハ見ルラム」 名義抄、雜部「來、ク、キタレリ」 古今集、二、春、下「春ノ野ニ、若菜摘マムト、こシモノヲ、散リカフ花ニ、路ハ迷ヒヌ」 命令形ニハ、こよトモ云ヘド、古クハ、よヲ添ヘズ。 萬葉集、七五十「雨ゾ降ルテフ、歸リ來吾ガ兄」 神樂歌、其駒「足駁ヤ、森ノ下ナル、若駒率テ古」 (二)往ク。(心ヲ、彼方ニオキテ云フナリ、行くニモ、來る意アリ) 仲哀紀、元年閏十一月「越國貢白鳥四隻云云、蘆髮蒲見別王、視其白鳥而問之曰、何處將去白鳥也」私記「毛天久留」 萬葉集、一廿七「吉野行幸ノ時ノ歌「倭ニハ、鳴キテカ來ラム、呼兒鳥、象ノ中山、呼ビゾ越ユナル」(倭トハ、持統天皇ノ藤原ノ皇都ヲ云フ、象の中山ハ、吉野ヨリハ、都ノ方ニアリ) 神樂歌、早歌「舍人古年ゾ、後(ヨリ)古年ゾ」我モ古年ゾ、後古年ゾ」(行かむぞナリ) 古今集、十三、戀、三「限リナキ、思ヒノママニ、夜モこム(行カム)、夢路ヲサヘニ、人ハ咎メジ」 後撰集、三、春、下「常ニマウデき(ユキ)カヨヒケル所ニ、障ルコト侍リテ、久シクマデ、き(ユキ)アハズシテ、年カヘリニケリ、明クル春、彌生ノツゴモリニ、ツカハシケル(歌)」

く (數) 九 ココノツ。キウ。 史記、鄒衍傳「中國之外、有赤縣神州者九」 列子、天瑞篇「一變而爲七、七變而爲九」

く (接尾) 口 〔口ノ吳音、公、く。工、く〕 (一)人口ヲ數フルニ云フ語。口。人。 玄蕃寮式「講師、讀師、呪願、各一口」 (二)器具ヲ數フルニ云フ語。 四時祭式、上「鍬一口、釵一口」「盆、一口」驛鈴、二口」

く (接尾) 軀 佛像ナドヲ數フルニ云フ語。 山密往來「奉修復地藏菩薩聖容一軀」 朝野群載、十六、佛事、東大寺大佛殿板文「金銅盧舍那佛像一軀、結跏趺坐、高五丈三尺五寸」

く (接尾) 工 工手間ノ略。「手間、十工、二十工」

ぐ (名) 具 〔說文「具、共置也」漢書、劉澤傳、註「具、供具也」〕 其用ニ具ヘオクモノ。ウツハ。ダウグ。什器。 史記、魏其侯傳「魏其夫妻、治具」 伊勢物語、六十五段「陰陽師、巫、云云、祓ノぐシテナム行キケル」 源、十二、須磨四十「彼ノ山里ノ御住家ノ具ハ、エサラズ取リツカヒ給フベキ物ドモ、云云、持タセタマフ」 宇治拾遺、四、第四條「家ノ具ヲ、舟ニ取リ積ミテ」「物ノ具」繪ノ具」

ぐ (名) 具 〔字典「具、與俱通」詩經、小雅、小旻之什、小旻篇「則具是違」詩詁「俱也」〕 (一)伴フモノ。ツレアフモノ。ツキソフモノ。配偶 狹衣、二、上十「彼ノ姫君コソ、大將ノ御ぐニモシツベケレ」 榮花物語、一、月宴「女君モオハシケリ、一所ハ、宮腹ノぐニテオハス、サシツギハ、女御ニテオハシケリ」 同、五、浦浦の別「サルベキ撿非違使ドモ四人ゾ、仕ウマツリタリケル、ソノぐノ者ドモノ、御車ニツキテ參ルゾ、アハレニユユシキ」(對ヲ、一具ト云フ) (二)〔食物ニツケ添フルモノ。 枕草子、三、廿四段、ゆづり葉「齡延ブル齒固ノぐニモシテ」 五目鮨、雜煮、汁掛蕎麥切、ナドニ雜ゼ加フル、魚肉、蔬菜、ナド。京都、長崎ニテ、カヤク。

ぐ (名) 具 屋內ニ取附ケタル料物。「建具」湯具」

ぐ (名) 虞 〔正韻「虞、慮也、測也」〕 オモンパカリ。懸念。オソレ。 書經、畢命篇「四方無虞、予一人以寧」 國語、晉語「有邢翟(二國名)之虞」「遂ニ、破壞ノ虞アルベシ」暴風雨ノ虞アリ」

ぐ (名) 愚 〔賢ニ對ス〕 (一)オロカナルコト。アハウ。 論語、陽貨篇「好仁不好學、其蔽也愚」 太平記、四、吳越軍「此レ汝ガ愚ノ三也」 (二)己レニ係ル物事ニ冠ラセテ、謙稱スル語。「愚妻」愚息」愚案」愚筆」愚存」愚考」

ぐ (代) 愚 自稱ノ代名詞、謙稱ナリ。 諸葛亮、出師表「愚以爲、宮中之事、事無大小、悉以咨之」「愚、案ズルニ」

ぐ (數) 五 五ニ同ジ、博奕ノ語、采ノ目ノ數ニ云フ。さいのめノ條ヲ見ヨ。 新猿樂記「博打、云云、五四倘利目」

ぐ (接尾) 具 〔俱ふ意〕 ソロヒ。對。揃ヒテ用ヲナス物ヲクルメテ數フルニ云フ語。 幸若、烏帽子折「瓶子いちぐ(一具)、蝶花形ニ口包ミ」「素袍、袴、一具」

ぐ-あひ (名) 工合 具合 事物ノ、能ク適ヒタル狀。調子。加減。アンバイ。「エ

合ノヨイ」具合ノワルイ」

ぐ-あん (名) 具案 草案ヲ具ルコト。考ヲ立ツルコト。

ぐ-あん (名) 愚案 愚ナル考へ。足ラハヌ意見。愚考。(多クハ、自說ヲ謙稱スルニ云フ) 盛衰記、六、小松殿再諫」父事「其事、人竊ニ背キ、愚案ノ企ニアラバ、何樣ニモ御計ナルベシ」(清盛、己レノ院參ヲ企テタルヲ云フ) 太平記、二、長崎新左衞門尉意見事「退テ、愚案ヲ廻スニ」(謙辭)

〜くい (名) 悔 クユルコト。後悔。 華嚴經私記音義「後悔無」及、乃智久伊奕與保須奈」 古今集、十六、哀傷「先ダタヌ、くいノ八千度、カナシキハ、流ルル水ノ、カヘリコヌナリ」

く-い (名) 區醫 區役所ニテ、醫務ノタメニ囑託シオク醫師。

ぐ-い (名) 愚意 己ガ意見ノ謙稱。愚存。 魏書、律歷志「臣雖」在二外官、竊慕二古人學」善之義、愚意所」及、不」能二自已二」

クイイン (名) 女王 〔英語、Queen.〕西洋ノ國ノ女王。

ぐ-いう (名) 具有 ソナヘ、タモツコト。「資格ヲ具有ス」

ぐい-ぐい (副) 次次條ヲ見ヨ。

ぐ-いち-さぶ-ろく (名) 五一三六 〔雙六ノ直打ナキ骰目ヨリ出デタル語、さいのめノ條ヲ見ヨ〕差引キ、同ジキコト。平平、凡凡、優劣ナキコト。ドングリノセイクラベ。

ぐい-と (副) 〔くと(突如)ノ語原ヲ見ヨ〕力ヲ入レテ物スル狀ニ云フ語。强メテ、ぐいぐいト云ヒ、音ヲ轉ジテ、ぐんぐん。 浦島年代記(元祿、近松作) 四「四足ヲ取ッテ、ぐいと引拔キ」 心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「其髮剃デ私ガ肋ヲ、横截ニぐいぐいと剃ス」ぐいぐい引ク」ぐんぐん進ム」

✣ぐ・いる (動) 悔 くゆ(悔)ノ口語。

くう (名) 空 (一)ソラ。虛空。「空ヲ眺メテ」空ヲツカンデ苦シム」 (二)ムナシキコト。イタヅラナルコト。實事ナキコト。カラ。虛 詩經、小雅、小旻之什、大東篇「杼柚其空」 朗詠集、上、蟬「歲去歲來聽不」變、莫」言秋後遂爲」空」 「空ナ話」空ナ事」 (三)佛教ノ語、世間ノ萬事、萬物、皆、假リノモノニテ、實體無シト云フコト。 般若心經「色卽是空」 著聞集、十八、飮食「萬法、ミナ空ナリト云フ法問、云云、寂蓮法師、詠ミケル(歌)」「本來空」 (四)思慮ナキコト。ココロナキコト。無心

〜くう (名) 功 〔功ノ呉音ナリ〕功。イタツキ。イサヲ。テガラ。(年經るヲ、くうづく、くうずるト云フ) 萬葉集、十六卌四「比來ノ、吾ガ戀苦勞、記シ集メ、功ニ申サバ、五位ノ冠」 字津保物語、祭使四十「家ニくうアル者ニ賜ヒテ」

く-う (名) 區宇 土地ノクギリ。境域。區畫。 晉書、地理志「表三提類、而分三區宇二」 太平記、十七、山門牒送三南都一事「暴風扇三于區宇、無辜之黎民墮二塗炭二」

〜く・う・ウル・ウレ・ヱ・ヱ・ヱヨ (他動、下二) 蹴 〔此語、くゆる、ゑゆる、ト轉ジ、口語調ニ、くゑる、くえる、トナリ、又、約マリテ、けるトナル〕蹴るノ古言。コユ。クユ。 神代紀、上三「若三沫雪一以蹴散」此、云三俱穢簸邏邏箇須二」 神功攝政前紀「雷電霹靂、蹴三裂其磐、令」通」水」 梁塵祕抄、二、雜「馬ノ子ヤ、牛ノ子ニ、くゑサセテム」 名義抄「蹴、クヱル」

ぐう (名) 偶耦 〔韻會「凡數 雙曰」偶、隻曰」奇」〕調ノ數。ソロヒ。對。 禮記、郊特牲篇「鼎俎奇、而籩豆偶」 易經、繫辭、下傳「陽卦奇、陰卦耦」

ぐう (名) 寓 カリズマヒ。寓居。寓所。「寓ヲ訪フ」

ぐう-い (名) 寓意 物事ニカコツケテ、我ガ意思ヲ含マシムルコト。 老學菴筆記「淵明之詩、皆適然寓意、而不」流三于物二」

ぐう-かう (名) 耦耕 二人ナラビテ、耕スコト。 陶潛詩「商歌非三吾事、依依在三耦耕二」

くう-かん (名) 空閒 アキマ。スキマ。空隙。間隙。

くう-かん (名) 空閒 〔英語、Space.ノ譯語〕上下、四方、遠近、長短、ノヒロガリヲ概念シテ云フ語。時間ニ對ス。空間ハ地圖ノ如ク、時間ハ年表ノ如シ。

ぐう-かん (名) 偶感 偶然ニ發シタル感想。フト、心ニ感ジタルコト。

くう-き (名) 空氣 又、大氣。雰圍氣。地球ノ周ヲ包ミ圍メル、無色ノ氣體、動ケバ、卽チ、風トナルモノ、動植物、皆、此中ニ生存ス。

くうき-じゅう (名) 空氣銃 壓榨空氣ノ作用ニテ、彈丸ヲ發セシムル裝置ノ銃。

くうき-ポンプ (名) 空氣喞筒 器ノ內ノ空氣ヲ拔キテ、眞空トスル機械。

くうき-まくら (名) 空氣枕 枕ノ一種、藥品ヲ塗リタル布ニテ製シ、口ヨリ空氣ヲ吹キ入レテ膨ラマセ、栓ニテトメテ使用ス。

くう-きょ (名) 空虛 ムナシキコト。中ニ、物ナキコト。カラ。 莊子、天運篇「形充三空虛、乃至三委蛇二」 戰國策、秦策「府庫不」盈、囷倉空虛」 史記、汲鄭傳「安」國富」民、使三囹圄空虛二」

ぐう-きょ (名) 寓居 カリズマヒ。寓所。 杜甫詩「古寺僧牢落、空房客寓居」

くう-くう (副) 空空 意識ノナキ狀ニ云フ語。ムナシキコト。 論語、子罕篇「有三鄙夫」問三於我、空空如也」

ぐう-ぐう (感) 〔くづち(鼾)ノ語原ヲ見ヨ〕鼾カク聲ニ云フ語。ゴウゴウ。

くうくう-じゃく-じゃく (句) 空空寂寂 〔空寂ヲ重ヌル、一種ノ書法ナリ、はろばろ(遙遙)ヲ波波魯魯、空漠空漠ヲ空空漠漠、奇妙奇妙ヲ奇奇妙妙ト書クガ如シ〕(一)佛經ノ語、空寂ヲ、强ク云フ語、其條ヲ見ヨ。(二)煩惱、執着ナク、無我、無心ナルコト。一切、思慮無キコト。何モ知ラヌコト。

くうくう-ばく-ばく (句) 空空漠漠 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕空漠ヲ、强ク云フ語、其條ヲ見ヨ。

くう-げ (名) 供花 佛前ニ、花ヲ供フル儀。五月、九月ノ、兩度ニ行ハレシト云フ。 增鏡、第十二、老波「九月ノ供花ニハ、新院サヘワタリモノシタマヘバ」

くう-げ (名) 空華 〔カスミタル目ニテ望メバ、空中ニ、ちらちらと花アルガ如ク見ユル義〕佛經ノ語。煩惱ノタメニ、種種ノ妄想ヲ生ズルニ譬フル語。 圓覺經、金剛藏章「用三此思惟、辨三於佛境、猶如三空華復結三空果二」

〜ぐう-け (名) 郡家 〔郡家ノ音便〕コホリノミヤケ。郡司ノ、居テ、民政ヲ掌ル官衙。國司ノ居ル所ヲ、國衙ト云フガ如シ。郡衙 天武紀、上六「天皇宿」于三桑名郡 家二」 續紀、七、靈龜元年十月、陸奧蝦夷「請於三香河村、造三建郡家、爲三編戶民、永保三安堵二」(香ハ、久呂ノ誤ニテ、後ノ、「黑川郡ナラム」) 倭名抄、九二「淡路國、津名郡、郡家鄉、久宇希」

ぐう-げ (名) 【藕花】 〔爾雅、釋草篇「荷、芙蕖、其根、藕」〕 ハスノハナ。蓮花。 孟郊、送二李翺一詩「新秋折二藕花一、應對吳語嬌」 太平記、廿九、師直以下被レ誅事「修羅、帝釋ノ軍ニ負ケテ、藕花ノ穴ニ身ヲ隱クシ」

くう-けい (名) 【空閨】 夫、又ハ、妻ノ、獨寢ノ閨。孤閨。空房。 白居易詩「空閨人獨愁」 鮑照詩「環情倦始復、空閨起晨粧」「空閨ヲ守ル」

くう-げき (名) 【空隙】 アキマ。スキマ。閒隙。 江淹詩「朱霞入二窗牖一、曜靈指二空隙一」

くう-けん (名) 【空拳】 武器ナドヲ持タヌ握拳。カラテ。スデ。 北齊書、神武帝紀「縱無二匹馬隻輪一、猶欲レ奮二空拳一而爭上レ之」

くう-げん (名) 【空言】 カラクチ。ソラゴト。虛言。 史記、藺相如傳「秦以二空言一求レ璧」 同、太史公自序「吾欲レ託二之空言一、不レ若レ見二諸行事一之深切著明上也」

ぐう-げん (名) 【寓言】 寓意ノ說。假リニ事ヲ設ケ、實ヲ諷カシテ作リタル話。 莊子、寓言篇「寓言十九、藉レ外論レ之」 史記、莊子傳「其著書十餘萬言、大抵率寓言也」

ぐう-ご (名) 【偶語】 相對シテ、語ルコト。 史記、秦紀「有二敢偶二語詩書一、棄市」「沙上偶語」

くう-こく-の-きょう-おん (句) 【空谷跫音】 山中ナド、人氣ナキ地ニ、足音ヲ聞クコト。希有ナルニ驚ク意ヲ云フ語。詔ヒ多キ中ニ、一人ノ、直言アルナドニ譬フ。 莊子、徐無鬼篇「夫逃二空谷一者、云云、聞二人之足音跫然一而喜矣、又、況乎昆弟親戚之謦二欬其側一者乎」（故事熟語大辭典）

ぐう-ざ (名) 【偶坐】 相對ヒテ、坐ルコト。對座。 禮記、曲禮、上篇「御二同於長者一、雖レ貳不レ辭、偶坐不レ辭」

くう-さう (名) 【空想】 モトヅク所ナキカンガヘ。空シキ想像。 唐書、祀二雨師一樂章「跪二拜靈壇一結二空想一」

ぐう-ざう (名) 【偶像】 〔字典「偶、俑也、象レ人曰レ偶、木土像、亦曰レ偶」〕 木石ナドニテ、象リ作レル像。木偶人。土偶人。 漢書「霍去病過二焉耆山一、得二休屠王祭天金人一、此中國偶像之最古者」（字源）「偶像崇拜」

くう-ざん (名) 【空山】 人氣ノナキ、寂シキ山。 朗詠集、上、花「猿叫二空山一、斜月瑩二千巖之路一」 太平記、廿一、先帝崩御事「寂寞タル空山ノ裏、鳥啼キ、日、已ニ暮レヌ」

ぐう-じ (名) 【宮司】 (一)伊勢大神宮ノ神官、祭主ニ次グモノ。(二)官國幣社ノ神官ノ長。

ぐう-じん (名) 【偶人】 〔ぐうざう(偶像)ノ語原ヲ見ヨ〕 デク。人形。 史記、孟嘗君傳「木偶人與二土偶人一、相與語」 同、殷紀「爲二偶人一、謂二之天神一」 倭名抄、十三ノ四祭祀具「偶人、云云、凡削レ物爲二人像一、皆曰二偶人一也」

くう-じゃく (名) 【空寂】 佛教ノ語。宇宙ノ萬事、萬物、皆、實體ナク、常住ナシト云フコト。空空寂寂。 往生要集「我所レ有三惡道、與二彌陀佛萬德一、本來空寂、一體無礙」 李俊民詩「一庵空寂地、香火讀二楞嚴一」

くう-しゅ (名) 【空手】 カラテ。スデ。テブラ。徒手。 漢書、武五子傳「空手搏二熊彘猛獸一」

くう-しゅう (名) 【空宗】 三論宗ヲ見ヨ。

くう-しょ (名) 【空所】 アキタルトコロ。

ぐう-しょ (名) 【寓所】 カリズマヒ。寓居。空虛ノ所。アキマ。

くう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 【功】 〔くう(功)ノ條ヲ見ヨ〕 年功、積ル。年、經ル。クウヅク。 醉醒記、宗祇ノ記セル諺「理モくうずれバ非ニナル」（俗說考、諺）

ぐう・ず・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 【寓】 〔說文「寓、寄也」〕 カリズマヒス。寄寓ス。寄宿ス。

ぐう・ず・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 【寓】 〔字典「寓、托也」〕 コトヨス。カコツク。假託ス。「意ヲ、物ニ寓す」

ぐう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 【遇】 モテナス。アヘシラフ。アツカフ。待遇。 史記、韓安國傳「卒善遇レ之」 漢書、季布傳「遇レ人恭謹」「賓客ヲ以テ遇す」

ぐう-すう (名) 【偶數】【耦數】 〔偶ノ條ヲ見ヨ〕 てう(調)ノ數。(奇數ニ對ス) 白虎通「陰數偶」 朱熹文「洛書以二五奇數一、統二四耦數一」

グウスベリイ (名) 〔英語、Gooseberry.〕 落葉灌木ノ名、主幹ナクシテ、根際ヨリ簇生シ、高サ三四尺ニ達ス、分岐多クシテ、多數ノ刺アリ、葉ハ小サクシテ圓ク、掌狀ニ分裂シテ、裂片、更ニ、三乃至五ニ淺裂シ、兩面ニ微毛アリ、春ノ季ニ花ヲ開ク、綠色ニシテ、葉ノ簇生スル所ヨリ、一箇乃至二箇ヅツ垂下ス、果實ハ、漿果ニシテ、球狀ヲ爲ス、生ニテ食シ、又、じゃむナドヲ造ルニ用キラル。

くう-すゐ (名) 【空翠】 (一)空ニ聳エタル、木立ノミドリ。 杜甫詩「石苔凌二几杖一、空翠撲二肌膚一」 (二)山氣ノ濕リタル、ミドリノ雫。 王維詩「山路元無レ雨、空翠濕二人衣一」 太平記、五、大塔宮熊野落事「山路、本ヨリ雨無ウシテ、空翠、常ニ衣ヲ濕ス」

くう-せい (名) 【空靑】 紺靑ノ漢名。 本草、空靑「生二益州山谷、云云、有レ銅處一、銅精熏則生二空靑一、其腹中空」 大安寺資財帳「空靑」 倭名抄、十三ノ六圖繪具「空靑」

ぐう-せい (名) 【偶成】 偶然ニ、成リタルコト。フト、出來タルコト。詩作ナドニ云フ。「春日偶成」

くう-ぜん (名) 【空前】 ソレ以前ニ、絕エテ無カリシコト。未曾有。 宣和畫譜「顧(愷之)空二於前一、張(僧繇)絕二於後一、而道子(吳道子)乃兼二有之一」「空前絕後」

ぐう-ぜん (名) 【偶然】 思ヒ寄ラズ、然ルコト。フト、生ジタルコト。 列子、黃帝篇「范氏之黨、以爲二偶然一」 後漢書、劉昆傳「偶然耳」「偶然ノ出來事」

くう-そく-ぜ-しき (句) 【空卽是色】 色卽是空ノ條ヲ見ヨ。

くう-だん (名) 【空談】 ムダバナシ。無用ノ話。「空談、時ヲ移ス」

❖ぐう-たらべゑ (名) 〔愚ヲ擬人シテ、愚太郎兵衛ノ訛ナルベシ(權兵衛、太郎兵衛)愚鈍ナル者ヲ十六兵衛ト云フモ、百文ニ十六文足ラズト云フナリ〕 智ノ鈍ク、意氣張ノナキ者ヲ稱スル俗語。鈍太郎。イクヂナシ。鈍漢。 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「オ心ヨシ、ぐうたらべゑオ秋」

くう-ち (名) 【空地】 家居、樹木ナド、ナキ土地。明地。サラチ。赤地。 史記、蕭何傳「上林中多二空地一弃二」 吾妻鏡、十、建久元年八月九日「於二件近邊一者、爲二御領一之上、多二空地一」

くう-ちょう-こく-さく (名) 【空頂黑幘】 〔後漢書、輿服志「未冠童子、幘無レ屋」〕 御幘ノ條ヲ見ヨ〕 ヒタヒノカガフリ。冠ノ、額當ノミニテ、上部ナキモノニテ、天皇、皇太子、御元服ノ時ニハ用キタマフモノ。黑紗、三山形ヲナシ、前面ニ、四目樣ノ紋、散ラシアリ、紫絹ノ緣ヲツク。 西宮記、十六、臨時、八、冠「空頂黑幘、其形如二

末額ハ中高有二花形一、天皇及太子、元服之時著レ之」字鏡「幘、比太比乃加加保利」(後ニ云フ額烏帽子)

くうちゅう (名) 【空中】 ソラノウチ。ナカゾラ。列子、天瑞篇「夫天地、空中之一細物」太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「舍利弗、愛ニ手ヲ擧テ、空中ヲ招キ給フニ」

くうちゅうろうかく (名) 【空中樓閣】〔蜃氣樓ノ事ナリ、夢溪筆談「登州四面臨レ海、春夏時遙見二空際有一城市樓臺之狀一、土人謂二之海市一」〕無キ事實ヲ構ヘ作レル文章ニ云フ語。虛構ノ文。作リ物語、小說、ナドヲ云フ。

くうづく・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【功就】〔くう(功)ノ條ヲ見ヨ、づくハ、に成るノ意、秋づく、老づく〕年功、積ル。年、經ル。功ズ。源、五、若紫「功ヅキテ、陀羅尼讀ミタリ」

クウデタア (名)〔佛語、Coup d'état. 國ノうちこはしノ義〕政府ガ、不意ニ發スル斷行政令。政治上ノ、激烈ナル非常手段。

くうてん (名) 【空點】 梵字ノ上部ニツクル、黑星ノ點、其音ハネテ、んトナル標ナリ、大空ノ音ト云フ。(涅槃點ニ對ス)

くうでん (名) 【供田】 供米ヲ作ル田。謠曲、淡路「此御田ハ、當社二ノ宮ノ御供田ニテ御座候フホドニ」

くうのう (名) 【空囊】 カラブクロ。財布ニ、錢ナキコト。

くうに (副) 【空】 ムナシク。イタヅラニ。目當ナク。考ナク。

くうはう (名) 【空砲】 カラデッパウ。彈丸ヲコメズ、火藥ノミニテ發スル大砲。明紀編年「寇攻レ城、守者攏、空礟向レ外、不レ實二鉛子一、徒以二硝隙一鳴レ之」(礟ハ、砲ニ通ズ)

くうばう (名) 【空房】 (一)アキマ。人ノ居ラヌ部屋。杜甫詩「古寺僧牢落、空房客寓居」(二)空閨。古詩、焦仲卿妻「賤妾留二空房一、相見常日稀」

くうはく (名) 【空白】 紙ノ面ノ、何モ書キテナキ部分。餘白。

くうばく (名) 【空漠】 (一)漠然トシテ、空シキコト。何モナク、廣廣トシテアルコト。空空漠漠。(二)アテノナキコト。トリトメノナキコト。(三)廣キ沙ハラ。蔡襄詩「胡雁畏二空漠一、寒飛戀二洲渚一」

ぐうはつ (名) 【偶發】 偶然ニ、發スルコト。不意ニ、オコルコト。

くうふく (名) 【空腹】 ハラノ、ヘルコト。食ニ飢エタルコト。スキハラ。【枵腹】 白居易詩「卯時十分空腹杯」本草綱目、酒「一人飲レ酒、一人飽食、一人空腹」庭訓往來、十一月「五更空腹」

くうぶん (名) 【空文】 何等ノ效力無キ文句、又ハ、法規。史記、司馬季主傳「飾二虛功一執二空文一以調二主上一」

くうまい (名) 【空米】 おめさうば(米相場)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ぐうもく (名) 【寓目】 目ヲツクルコト。着目。着眼。左傳、僖公廿八年「得臣(楚子玉ノ名)與二寓目一焉」蘇軾詩「寓目紫翠間」

くうやき (名) 【空也忌】 空也念佛宗ノ祖、空也上人ノ忌日、陰曆、十一月十三日ナリ。

くうやだう (名) 【空也堂】 空也念佛宗ノ本山。京都、四條坊門、油小路、紫雲山、極樂院、光勝寺ナリ。

くうやどうふ (名) 【空也豆腐】 空也念佛宗ノ本山、京都ノ空也堂ノ徒弟ノ、作リ始メタリト云フ豆腐。

くうやねんブツしゅう (名) 【空也念佛宗】 佛教、天台宗ノ一派、仁明天皇ノ皇子、常康親王ノ御子、空也上人光勝、創ム、(天祿三年寂ス、年七十)京都ノ空也堂ヲ本山トシ、住持ノ上人ノミ淸僧ニテ、徒弟ハ優婆塞ナリ、上人、頭ニ鹿角ヲツケタル杖ヲ執リ、彌陀ノ名號ヲ唱ヘ、徒弟、瓢ヲ叩キ、鉦ヲ鳴ラシ、和讃、頌文、ヲ誦シナガラ、歡喜シ踊ル、コレヲ、踊躍ト云ヒ、俗ニ、をどり念佛ト云フ。あみだのひぢり、並ニ、はちたたきヲ併セ見ヨ。

くうり (名) 【空理】 實際ノ用ナラヌ理。「空理ヲ談ズ」

クウリイ (名) 【苦力】〔英語、Coolie. 印度語、Quli.〕支那ニテ、勞働者ノ稱。

くうりん (名) 【空輪】 (一)五輪塔ノ、最頂ノ圓形。五輪ノ條ヲ見ヨ。(二)九輪ノ一名、其條ヲ見ヨ。

くうろん (名) 【空論】 據ドコロナキ論。用ヲナサヌ論。

くうゐ (名) 【空位】 (一)明キテアル地位。「空位五年」(二)名ノミニテ、實力ナキ位。

ぐえい (名) 【愚詠】 己ガ詩歌ノ謙稱。拙作。著聞集、五、和歌「圓位上人、云云、此歌合ハ、愚詠ヲ集メタレ共、祕藏ノ物也」

くえう (名) 【九曜】 (一)佛經ニ、七曜ニ、羅睺星、計都星、ヲ加ヘタル稱。著聞集、二、釋教「大原良忍上人、云云、九曜、廿八宿」(二)紋所ニ、中ニ、一ツノ大星アリ、外ニ、八ツノ小星、繞リ圍ミタル形。

くえき (名) 【苦役】 苦シキ使役。ツラキ勞働。史記、楚世家「國人苦役」

くえびこ (名) 【久延毘古】〔崩彥ノ義ニテ、立テルママニ古ク成リユキテ、朽チ崩ゆる意ト云フ(古事記傳)〕神ノ名、そほど(案山子)ノ事ナリト云フ。古事記、上六十四「久延毘古者、於レ今者、山田之曾富騰者也」

くえん (名) 【苦鹽】 ばうせう(芒消)ニ同ジ。

くえん (名) 【枸櫞】 マルブシュカン。本草集解「枸櫞、生二嶺南一、柑橘之屬也、其葉大、其實大如レ盞、味、辛酸」

ぐえん (名) 【虞淵】〔支那ノ西方遠キ國ノ名ナリト云フ〕日ノ、沒スル所。淮南子、天文訓「日出レ于二暘谷一、云云、入レ于二虞淵之汜一」楚辭「因二靈元於二虞淵一」

くえんさん (名) 【枸櫞酸】〔枸櫞ヲ、檸檬ニ宛テテ用キルナルベシ〕檸檬、蜜柑、橙、ナドノ中ニ存在スル酸味ニシテ、無色、無臭、ナル結晶體。らむね、さいだあ、ナドノ飮料ニ作ル。

くえる (動) 【崩】 くゆ(崩)ノ口語。

くが (名) 【陸】〔くにが、くぬがノ略、くにがノ語原ヲ見ヨ〕海、川、ナドニ對シテ、人ノ、步ムベキ地。クニガ。クヌガ。ヲカ。陸。地。最勝王經音註「陸、久何」夫木抄、十七、水鳥「水ノ上ニ、イカデカ鴛鴦ノ、浮ブラム、くがニダニコソ、身ハ沈ミケレ」

くがい (名) 【公界】 オホヤケ。オモテムキ。公儀。太平記、十九、青野原軍事「述懷ハ私

事、弓矢ノ道ハ公界ノ儀、遁レヌ所ナリ」三内口訣（永正、三光院内府實枝）「御所、是ハ大臣家以上之家、執ニ其主人ニ之故、家僕等稱ニ之候、公界ヘ不ニ出等候」

〔くがい（名）【公廨】〔公廨ヲ見ヨ〕官衙ノ稱。又、公廨。コレニ屬スル田ヲ公廨田ト云ヒ、ソレヨリ收納スル稻ヲ公廨稻ト云ヒ、略シテ、公廨トノミモ云フ、コレヲ民ニ貸シテ收ムル利ヲ、諸國ノ官衙、及、諸司ノ職員ニ、等級ニ因リテ配給セラル。續紀、三、慶雲元年七月「公廨祿、給ニ式部省大學散位等寮ニ」同、四、和銅元年三月「始給ニ儀仗ハ云云、其考選事力及公廨田、並准ニ史生ニ」同、十一、天平八年三月 太政官奏、諸國公田、國司隨ニ鄕土沽價ニ賃租、以ニ其價ニ送ニ太政官ハ以供ニ公廨ハ奏、可之」同、十六、天平十七年十一月、諸國公廨、大國四十萬束、上國三十萬束、中國二十萬束、云云、下國十萬束」

くがい（名）【苦海苦界】（苦ハ、煩惱ノ四苦、八苦ヲ云ヒ、其際限ナキヲ、大海ノ廣漠タルニ譬ヘテ云フ語）（一）佛教ノ語、三界、六道。特ニ、人間界。娑婆。遺教經「所作已辦、已度ニ苦海ニ」方登曉詩「苦海終無レ岸、慧波當レ攻」 勝鬘記、十九、文覺發心事「生死ノ苦海ヲ渡テ、菩提ノ彼岸ニ屆ン事ヲ志シ」謠曲、實盛「極樂世界ニ行キヌレバ、長ク、苦界ヲ越エ過ギテ」（二）遊女ノ生涯。ウキカハタケノナガレノミ。生玉心中（正德、近松作）上「流レノ憂節ヤ、日毎ニ變ル身ノ勤メ、今日モ苦海ノ神語デ」

くがい-さう（名）【九蓋草】（葉、對生シテ、九層ヲ成ス義）人家ニ多ク植ウ、春、舊根ヨリ叢生ス、莖、圓ク、高サ一二尺、葉ハ長クシテ、鋸齒アリ、深綠色ニシテ、五葉每ニ、節ニ對生シ、八九層、十二三層ヲナス、夏、莖ノ頭ニ、六七寸ノ穗ヲ出シテ、小花、密ニ綴ル、淡紫碧色ナリ　威靈仙

くがい-たう（名）【公廨稻】公廨ノ條ヲ見ヨ。

くがい-でん（名）【公廨田】公廨ノ條ヲ見ヨ。

ぐ-かう（名）【愚考】愚案ニ同ジ。

く-がく（名）【苦學】（一）苦心シテ、學問スルコト。李商隱詩「懸レ頭曾苦學、折レ臂反成レ醫」宋史、鄭俠傳「閉レ戸苦學」十訓抄、下、第十、一條院御時、藤原爲時申文「苦學冬夜、紅涙盈レ巾」（二）貧書生ナドノ、勞働シテ、學資ヲ得ツツ、學問スルコト。

く-かず（名）【工數】工手間ノ手數。浮世床（文化、三馬）二編、上「岩オコシ程ナ、大粒ナ痘痕ガアルケレド、上塗ニ工數ガカカノ、タカラ、見エネヘ」

〔く-か-だち（名）【探湯】〔くかハ、腐甕ノ略カ（腐鷄。平甕、齋甕。堅葉、かしは）垂仁紀、廿五年ニ、探湯主ト云フ人名モ見ユ、重ネテ、玖訶瓮トモ云フ、たちハ、役立、軍立、ニ同ジク、探湯瓮ノ所ニ出デテ、湯ヲ探ルニ從事スル意、或ハ、朝鮮語、kuk（湯）chat（探ル）ト同ジ語原ナラムトモ云フ〕上世、事ノ正邪、虛實、ヲ判ゼムガタメニ、神ニ盟ハシメ、手ニテ、熱湯ノ中ヲ探ラシムルコト。實ナル者ハ全クシテ、邪ナル者ハ爛ルト云フ。又、誓湯。後世ノ湯立、湯起請モ、此ノ遺ナルベシト云フ。應神紀、九年四月「天皇則、推ニ問武內宿禰與ニ甘美內宿禰ハ云云、令ニ請ニ神祇ニ探湯ハ云云、武內宿禰勝之」允恭紀、四年九月「一氏蕃息、更爲ニ萬姓ハ難レ知ニ其實ハ故諸氏姓人等、沐浴齋戒、各爲ニ盟神探湯ハ云云、坐ニ探湯瓮ニ而、引ニ諸人ニ令レ赴、云云、赴レ釜探湯、則得レ實者自全、不レ得レ實者皆傷」註「盟神探湯、此云ニ區訶陀智ハ或埿納レ釜煮沸、攘レ手探ニ湯埿ニ」繼體紀、廿四年九月「日本人與ニ任那人ハ頻以ニ兒息ハ諍訟難レ決、云

云、置ニ誓湯ニ曰、實者不レ爛、虛者必爛」（誓湯ノ左訓ニ、クカダチトアリ）

く-が-ぢ（名）【陸路】陸ノ上ノ路。（海路、船路、ニ對ス）太平記、十六、西國蜂起官軍進發事「甲斐河、三石、二箇處ノ城ヲ構テ、船路、陸路ヲ支ヘントス」

く-が-ぢ（名）【陸地】クガ。クヌガ。陸地。太平記、二、天下怪異事「紀伊國、千里濱ノ遠干潟、俄ニ陸地ニ成事、二十餘町ナリ」

〔く-がね（名）【黃金】こがねニ同ジ。萬葉集、十八、廿長歌「久加禰カモ、樂シケク（多ニ）アラムト、思ホシテ、心惱マスニ」

〔くか-べ（名）【玖訶瓮】〔くかだちノ條ヲ見ヨ〕探湯ノ時ニ用キル釜。古事記、下（允恭）九十「居ニ玖訶瓮ハ而定ニ賜天下之八十友緖氏姓ニ也」

く-かん（名）【軀幹】カラダ。ナリ。體格。杜甫詩「子雖ニ軀幹小ハ老氣橫ニ九州ニ」

く-かん（名）【苦諫】苦言ヲ告ゲテ、諫ムルコト。ネンゴロニ、イサムルコト。切諫。晉書、卞壼之傳「壼之非而苦ニ諫之ニ」

く-かん（名）【苦寒】寒サニ、苦シムコト。陸機詩「劇哉行役人、慊慊恆苦レ寒」

ぐ-がん（名）【具眼】眼識ヲ具ヘテアルコト。是非、善惡ヲ見分クル見識アルコト。許顗詩話「東坡祭ニ柳子玉ニ文、郊（孟郊）寒、島（賈島）瘦、元（元稹）輕、白（白居易）俗、此語具眼ニ」「具眼ノ士」

くき（名）【莖】（一）〔草ノ根ヨリ、中心トシテ、高ク出デテ、枝、葉、花、ヲ生ズルモノ。字鏡、五十「莖、久支」倭名抄、廿三木具「莖、枝之主也、久木」（二）花、葉、ノ蔕。ヂク。

〔くき（名）【岫洞】〔漏くノ名詞形、爾雅、釋山篇「山有ニ穴爲ニ岫」註「謂ニ巖穴ニ」（一）山ノ、洞アル處。仲哀紀、八年正月「岡、此云ニ久岐ニ」天治字鏡、六三「岫、山穴、久支」（二）轉ジテ、山。岡。景行紀、十八年七月「其山峯岫重疊」萬葉集、十二、三十四「玉クシロ、卷キ寢シ妹ヲ、月モ經ズ、置キテヤ越エム、此山ノ岫」字鏡、八十「嶂嶝、岑也、久支」

〔くき（名）【豉】〔漏くノ名詞形、漏き出づるモノノ義（倭訓栞）〕豆醬ナラムカト云フ。【豆醬汁】字鏡、廿七「豉、久支」倭名抄、十六八十「鹽梅類「豉、五味調和者也、久木」醫心方、一廿七「煮豉汁」同、廿二八十「鯉魚二斤、云云、相和作レ臛、少著レ鹽、勿レ著レ豉」

〔く-き（動）【漏】くく（漏）ノ條ヲ見ヨ。

〔くぎ（名）【釘】〔鉤ト通ズルカ、からむ、くるむ〕（一）鐵、又ハ、竹、木、ヲ細ソク短ク作リ、一端ヲ尖ラセタルモノ。材ト材トヲ合セムガ爲ニ、打込ミ貫ク。鐵くぎ、竹くぎ、木くぎ。（五寸釘ノ條ヲ見ヨ）倭名抄、十五造作具「釘、鐵杙也、久岐」（二）ぢやう（鎖、錠）。萬葉集、廿三十「樞ニ久枳刺シ、固メトシ」同、十六十五「樞ニ鏁刺シ、藏メテシ」字鏡、四十二「鉾、門乃久支」

〔くぎ-おほひ（名）【釘覆】次條ノ語ニ同ジ。太神宮式「壁柱、長押、釘覆、鋪十四口」

くぎ-かくし（名）【釘隱】クギオホヒ。長押ニ釘打チタル痕ニ被フ飾物、金屬ニテ、種種ノ形ニ作リ、樣樣ノ模樣ナド、彫リツク。運步色葉集「釘隱」

くぎ-しめ（名）【釘締】戸、又ハ、箱ナド、釘ニテ打付ケテ、開ケラレヌヤウニスルコト。クギヅケ。

くき-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）【莖立】莖、生ヒタツ。薹ニタツ。新六帖、二「山畦ノ、垣根ノ中ノ、からなづな、くきだつホドニ、春ゾナリヌル」拾遺集、七、物名、くくたち「山高ミ、花ノ

色ヲモ、見ルベキニ、ニくくたちヌル、有難カナ」(くくたちノ條ヲ見ヨ)

くきづけ [illegible] 大根ナドノ、莖、葉ヲ、鹽漬ニセルモノ。[illegible]六[illegible]」

くぎづけ (名) [釘附] (一)釘ニテ、打チツクルコト。クギジメ。盛衰記、四十八、大[illegible]ハ、大碑都婆ニ釘附ニセラレ給ヘル事」 (二)動クスコト。

くきながゑ (名) [莖長] 莖ハ、[illegible]ニテ、柄ノ莖[illegible]薙刀、槍、ノ柄ヲ持ツ[illegible]兩手ノ距離ヲ、長ク持ツニ云フ語。短ク持ツヲ、くきみじかゑト云フ。謠曲、[illegible]太平記、三十一、八幡合戰事「三尺五寸ノ小長刀、くきみじかゑ取テ搔合フ」

くぎぬき (名) [釘貫] (釘ハ、當字、清貫ノ義(漏くノ條ヲ見ヨ、清音ナルベシ)) [illegible] (一)通用門トシテ設ケタル、冠木門、[illegible]釘貫門、[illegible]ナドモナクテ、只くぎぬきト云フモノヲゾシタリケル」[illegible]八、くぎぬき門「[illegible]」ヲ、くぎぬきト云フ」 (二)通ジテ、くぎぬき門ニ連レル[illegible]一、白峯ノ新院御事「松ノ一叢繁レルホトリニ、くぎぬきシマハシタリ、是レナム御墓ニヤト、今更カキクラサレテ、物モオボエズ」[illegible] [illegible]十九日[illegible]云云、[illegible] (三)[illegible]トシテ立テタル門 京中ノ坊門ニ設ケタル門ナドヲ云フ、即チ、木戸ナリ。 夫木抄、廿「守ル人モ、マダ絶エナクニ、川口ノ、關ノくぎぬき、ハヤ朽チニケリ」(川口ハ、伊勢ノ地名) 倭訓栞、くぎぬき「關ノ釘貫ナド詠メルハ、[illegible]ヲ云フ也、[illegible]ハ、片ツ方ハ海ナルニ、[illegible]屋ドモ數多アリテ、海マデくぎぬきシタリ」(コレハ、矯矢來ヲコメテ云フト思ハル) [illegible]くぎぬきト云フ」[illegible]御通リアリ」 同「面面ニ手分ケヲシテ、口口ヲコソ堅メケレ、云云、西ノくぎぬきニ壁戸ヲ打テ、其勢、三千許ニテ堅ム」

くぎぬき (名) [釘拔] (一)打チコミタル釘ヲ、拔キトル具。古製ノモノハ、四角ナル鐵環(高サ四分、厚サ二分、方一寸許)ヲ座鐵トシテ、其穴ニ釘ノ頭ヲアテハメ、尺餘ノ鐵梃ノ尖ヲ、釘ノ頭ノ下顎ニ插シ、座鐵ヲ枕トシテ、コジアケテ拔ケリ、釘ハ、重點、座鐵ハ支點、梃ヲ提ル所ハ、力點ナリ。一名、萬力、千斤秤[illegible] 石集(弘安)二、下、第八、眞言ノ法「コレヲ譬ヘバ、釘拔ノ[illegible]」 (二)城壁ニ穿チ作レル、四角ナル穴(前項ノ座鐵ノ形ニ象リテ云フナリ)鳥銃ナド、打出ス所トス。(三)紋所ノ名。小サク四角ナル桝形ヲ圖ス、前前項ノ座鐵ナリ、四邊ノ線、太シ、奴僕ノ法被ナドニック、四ツ角ヲ、上下、左右、ニ向ケタルガ、多シ。[illegible] (四)今、用ヰル釘拔ハ、鐵製、形、唐鍬ニ似テ、大ナリ、頭ハ毛拔ノ如ク、ソレニテ釘ノ頭ヲ啄ハセテ、鉄ノ兩脚ヲ握リ、ネヂテ拔ク。

くぎぬきもん (名) [釘貫門] 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くきみじかゑ (副) [莖短] くきながゑノ條ヲ見ヨ。

くきん (名) [交趾鷄] (大ナルハ、肉ノ量、九斤アレバ名トストイフ、交趾國ノ種ナリ) 鷄ノ一種、體、肥エテ、甚ダ大ナリ、全身、毛茸ニシテ、脚ニモ毛多シ、尾、短ク、首、小サク、耳朶、赤シ、近年舶來ノ種ナリ。又、コウチトモ。

くぎん (名) [苦吟] 種種ニ苦心シテ、詩歌ヲ作ルコト。[illegible]苦吟ニ[illegible]

くきやう (名) 究竟 (究竟ノ呉音、急呼シテ、くッきやう) (一)極マリタルトコロ。畢竟。下學集、下、言辭門「究竟、必竟之義也」[illegible]「究竟ハ押卸ニヒトシ、大欲ハ無欲ニ似タリ」 (二)極メテ、スグレタルコト。至極。クッキヤウ。 長門本、平家物語、八、信連事「金武ト中シケル、くきやうノはういつノアリケルガ」 盛衰記、十三、信連戰事「金武ト云フ放免アリ、究竟ノ大力、云云」 平家物語、七、火燧合戰事「[illegible]所、[illegible]究竟ノ城郭ー」[illegible]代ニ[illegible]くきやうノ[illegible]ナリシカバ」

くぎやう (名) [公卿] 三公九卿ノ條、見合ハスベシ」 太政大臣、左大臣、右大臣ヲ公ト云フニ對シテ、大納言、中納言、三位以上、ヲ卿ト云ヒ、參議ハ、四位タリトモ、亦、之レニ入ルナリ、大臣公卿ト連ネテ云ヘバ、公卿ハ、大、中納言、參議、三位以上ヲ指ス。又、卿相。月卿。 職原抄、上、太政官「大納言、云云、中納言、云云、參議、云云、[illegible] 宇津保物語、祭使廿「衞府カケテキラフ大臣公卿ト、コレハ皆、アテ人、スキモノドモ」 同「公卿タチハ、タレタレカ物セラレシ、宮内、西ガハラ[illegible]ニナム」

くぎやう (名) [公卿公饗] 公卿衝重ノ條ヲ見ヨ。

くぎやう (名) [供饗] 公卿衝重ノ條ヲ見ヨ。

くぎやう (名) [苦行] 佛道ニ、刻苦シテ修行スルコト。 通鑑、唐紀「玄奘居處、一如苦行沙門」 俱舍論「[illegible]外道、受持種種、云云、[illegible]苦行」

くぎやう (名) [恭敬] 尊重、敬禮スルコト。恭敬。[illegible]讃拜、[illegible]泣不覺[illegible]時明、禮拜くぎやうシテ、數珠サラサラト押シモミ」

くぎやうついがさね (名) [公卿衝重] (くぎやうヲ、供饗、公饗、ナド書ケルハ、借字ナルベシ) 食盤ノ名、公卿ニ供スル衝重。常ニハ、略シテ、くぎやうトノミ云フ、さんぱう(三方)ノ條ヲ見ヨ。 俊成卿九十賀記「賜ニ經阿前物ニ云云、次、居ニ公卿衝重ニ」 下學集、下、器財門「公卿、[illegible]也」[illegible]木具、公卿人居之」 合類節用集、[illegible]「供饗、又作ニ公饗ニ、衝重也」 倭訓栞、くぎやう「[illegible]云云、三方ノ[illegible]衝重ニ、[illegible]スルハ、古ヘ、公卿ニハ、三方ヲ用ヰ、殿上人ニハ、足打ヲ用ヰタルヨリノ名ナリ」

くぎやうのざ (名) [公卿座] 貴人ノ寢殿ノ母屋ノ内ニ設クル、尊キ客ノ座。公卿の間。 吾妻鏡、五十、文應二年八月十四日「御持佛堂[illegible]公卿座ー[illegible]、公卿座トモ云フ、是レハ、殿内ニ、カネテシツラヒオク所ノ客座敷

ナリ、三內口訣ニ、臨殿ノ西面ニ、妻戶アリ、是、公卿座ノ入口ナリ」

くぎやうのま　(名)　[公卿間]　前條ノ語ニ同ジ。　三內口訣「公卿の間ノ妻戶、翠簾捲レ之」

くきやかに　(副)　際ヤカニ。クッキリト。分明。

くぎり　(名)　[句切]　(一)クギルコト。カギルコト。切目。(二)キリ。キダ。段落。

くぎる・ル・レ・ラ・リ・レ　(他動、四)　[句切]　[限る　ト通ズ、鉤、釘。かがまる、くぐまる]　中途ニテ、絶ツ。カギル。シキル。「室ヲくぎる」

くく　(名)　[區區]　(一)マチマチ。ベツベツ。　字類抄「區區、クク」「區區ノ議論」　(二)小サキコト。瑣細。　史記、管晏傳「區區之齊在二海濱一」　太平記、一、玄慧文談事「悲ムラクハ、公ノ、タタ古人ノ糟粕ヲアマナメテ、空シク一生ヲ、區區ノ中ニ誤ルヲ」「區區タル微意」

くく　(數)　[九九]　九ニ、九ヲ乘ケタル數、即チ、八十一。此語、乘算ヲ誦ミ習フ詞ノ稱トス。一一が一、ヨリ、九九、八十一、ニ至ル。　韓詩外傳「齊桓公設二庭燎一待二人士一、至、東野有下以二九九一見者上曰、九九薄能耳、君猶禮レ之、況賢二於九九一者乎」　拾芥抄、下、末「九九」

くく・ク・ケ・カ・キ・ケ　(自動、四)　[潛]　潛ル、脱クル。　神代紀、上四十「自二指間一漏」私記「具岐於知」　古事記、上十「自二手俣一漏出」訓二漏、云二久伎一」　萬葉集、十七二十「足引ノ、山邊ニ居レバ、ホトトギス、木ノ間立チ久吉、鳴カヌ日ハナシ」　同、卷廿「山吹ノ、繁ミ飛ビ久久、鶯ノ、聲ヲ聞クラム、君ハ聞シモ」鵙ノ草ぐきト云ヒ、鴉ヲ、草ぐきト云フモ、是レナリ」

くく　(副)　[栩栩]　(一)喜ブ狀ヲ云フ語。　莊子、齊物論「昔者莊周、夢爲二胡蝶一、栩栩然胡蝶也」(二)欣ビ伸ブル狀ヲ云フ語。(精神、又ハ、顏面ナドノ)　莊子、田子方篇「今視二子之則、栩栩然」

くぐ　(名)　[莎草]　草ノ名、海邊ニ生ズ、葉ハ、かやつりぐさニ似テ、高サ二三尺、又、いとすすきニ似テ、垂レズ、秋、小サキ穗ヲ出シテ、花ヲ開ク、かやつりぐさニ似テ大キク、初、青ク、後ニ、茶褐ナリ、莖ヲ刈リテ、蓑ヲ作リ、又、くぐ繩ヲ作ル。磚子苗草　箋注倭名抄、十七十二「莎草、久具」

くぐ　(名)　[供具]　神佛ヘノ、ソナヘモノ。　太平記、三十六、清氏叛逆事「祈リテタビ候ヘトテ、云云、供具ノ料足一萬匹副ヘテ送ラレ」　曾我物語、二、泰山府君事「調伏ノ壇ヲ立テ、幣帛、くぐヲ供ヘタリ」　運歩色葉集「供具」

くくしあ・げる・ゲル・ケレ・ゲ・ゲ・ゲヨ　(他動、下二)　[括上]　ククリアゲル。縛リアゲル。

くくしおび　(名)　[括帶]　くくし染、即チ、志ぼり染ノ帶。　尤の草紙、紫の物「紫、一人アリケルガ、紫鹿子ノ小袖着テ、薄紫ノくくし帶、紫足袋ヲハキニケリ」(嬉遊笑覽、二、くくしハ、纐纈ナリ)

くくしぞめ　(名)　[括染]　ククリゾメ。シボリゾメ。

くくしつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ　(他動、下二)　[括附]　ククリツケル。縛リツケル。

くく・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　[括]　[括る　ノ語原ヲ見ヨ]　ククル。シバル。　運歩色葉集「纐纈、ククシモノ」

くぐせ　(名)　[傴僂]　[跼脊ノ義、くづせト云フハ、頽脊ナルベク、くづまハ、頽身ノ轉ナルベシ(大御身、おほみま)]　又、くづま。くづせ。今、せむしト云フ、其條ヲ見ヨ。　靈異記、下、第廿條「背傴、世奈加久久世」　考證「高野本、作二世那加苦部世一」　萬安方(醫書)四十一「傴背、クグセ、俗ニ、えびト云フ、カガムヤマヒ」　顯宗紀、三年九月「傴僂、此云二倶豆磨一」　天治字鏡、一十三「傴、僂也、久豆世」　同、十二卅三「降背(隆背ノ誤)背痛也、曲背低頭之皃、久豆世」享和板本ニ、世久豆トアルハ、顚倒セルナリ)

くくたち　(名)　[莖立]　[くきたちノ轉(槻弓、つくゆみ。黃金、くがね)くくみら(莖韮)ト云フ語モアリ]　クキタチタルモノ。菘ノ薹。薹心。　萬葉集、十四廿九「上野、佐野ノ九久多知、折りハヤシ」　拾遺集、七、物名、くくたち「山高ミ、花ノ色ヲモ、見ルベキニ、ニくくたちヌル、春霞カナ」　內膳式「莖立」　倭名抄、十六十七　菜蔬類、薹「蔓菁苗也、久久太知、俗、用二莖立二字一」

くぐつ　(名)　[裹]　[莎草簀ノ轉、蒲簀ト同趣(放す、はなつ。寸斷、つたつた)莎草ニテ編ミ作ルニ起レル語ナリト云フ、或ハ、莎草苞ノ下略カ(蜘の絲、くものい)]　(一)藻ニテ編ミ作レル袋。蒲簀ノ類、越前、大野郡ニテハ、今モ、かますヲ、くぐつト云フ。　萬葉集、三廿四「沖ツ藻ノ、三津ノ海女ノ、久具都持チ、玉藻刈ルラム、イザ行キテ見ム」　袖中抄、十六「くぐつトハ、藻モテ、袋ノヤウニ編ミタルモノナリ、ソレニ、藻ナドヲモ入ルルナリ」　孝德紀、大化五年三月「綿二裹」通證「蒲裹、編レ蒲爲レ袋也、袖中抄、裹、訓二久具都一、今西部俗、以二具具一編レ之、名二加末伎一蒲笥也」　(二)轉ジテ、絲ニテ編ミ作レル網袋。　宇津保物語、嵯峨院「絹綫ヲ、絲くぐつニ入レテ」

くぐつ　(名)　[傀儡]　[華嚴經私記音義(奈良朝時代)「機關、久久都」からくりナリ]　(一)アヤツリ人形ノ類。デクグツ。テクルバウ。傀儡。其人形ヲ、歌ニ合ハセテ舞ハス伎ヲ業トスル者ヲ、くぐつまはし、傀儡子ト云フ。　倭名抄、四十九雜藝具「傀儡、久久豆」　名義抄「傀儡師、クグツマハシ」　定頼集「八幡ニ詣デタマヒテ、云云、おみト云フくぐつまはし呼ビニヤリタマヒケルガ、遲カリケレバ、云云」　今昔物語、廿八、第廿七語「傀儡子ノ者ドモ、多ク舘ニ來テ、守ノ前ニ並ビ居テ、歌ヲウタヒ、笛ヲ吹キ」　(二)諸國ヲメグルくぐつまはしノ妻女(くぐつめ)ノ、淫ヲ賣リシヨリ、くぐつハ、遊女ノ名トナル。(朝野群載、三、傀儡子記ニ、傀儡子、定居ナク、其妻女ドモ、旅客ニ色ヲ賣リテ、父、母、夫、知リテ、誡メズトアリ)　散木集、十、雜、下、伏見ノくぐつ、歌ウタハセムト、呼ビニツカハシタリケルニ、モト宿リタリケル家ニハナシトテ、云云「うかれ女ハ、うかれテ宿モ定メヌカ、くぐつまはしハ、マハリ來テ居リ」　詞花集、六、別、東ヘマカリケル人ノ、宿リテ侍リケルガ、曉ニ立チケルニヨメル、くぐつ、なびき「ハカナクモ、今朝ノ別レノ、惜シキカナ、イツカハ人ヲ、ナガラヘテ見ム」(旅館ノ遊女ナリ)　新續古今集、十、羇旅「傀儡侍從」　下學集、下、態藝門「傀儡、ククツ、日本俗、呼二遊女一日二傀儡一」　字類抄、二、四十三條「白拍子、遊女、傀儡」

くぐつまはし　(名)　[傀儡子]　前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くぐつめ　(名)　[傀儡女]　前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くぐなき　(名)　[喔喔]　[くくハ、聲ナリ]　鷄ノ鳴ク聲ニ云フ語。　運歩色葉集「喔喔、鷄鳴也」　白居易詩、「喔喔、鷄下レ樹、輝輝日上レ梁」

くぐなは　(名)　[莎繩]　莎草ノ莖ヲ割キテ綯ヒタル、細ソキ繩、錢差トシ、又、什器ヲ束ヌルナドニ用キル。

くぐひ　(名)　[鵠]　[鳴ク聲ヲ名トス、約メテ、おひト云ヒ、轉ジテ、おふト云フモ、聲ナリ、鵠モ、鳴聲ナリ、說文、顏師古、註「鵠、其聲鵠鵠」鵠ヲ、鶴ナリト云フ說アレド、非ナリ、鵠ハ群ヲ成スモノ、鶴ハ然ラズ、出典ノ神樂歌ヲ見ヨ]　鳥ノ名、又、クヒ。コヒ。コフ。今、はくてう(白鳥)ト云フ、其條ヲ見ヨ。　垂仁紀、廿三年十

月有□家持〔…〕宇□□、□、久久比、又、古比〔…十八、…〕…、久久比、又、古布…、久久比八、白…八、…ヲ改ス〕

〜**くぐま・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［跼］〔屈（クグ）む（自動）ノ轉、かがまるノ語原ヲ見ヨ〕屈ムヤウニナル。カガマル。カガム。コゴム。名義抄「跼、クグマル、セクグマル」太平記、廿七、…東宮…、山伏…、…止シク、金ノ…ヲ持ナタマヘル人モアリ、云云、…恐シナガラ、膝ニくぐまり居タルニ」

〜**くくみ**（名）［銜衘］〔含（クク）ノ義〕くつばみニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くくみ（名）［裹］刀ノ柄、鞘ヲ、金銀ナド…ニ、…タルモノ。…、…山…家…外、イタク見レアリ、…小…、内ノ…くくみニ…ルベシ、…條ヲ見ヨ」

〜**くくみら**（名）［莖韮］〔くきみらノ轉、くたちノ語原ヲ見ヨ〕韮（にら）ノ莖ノ、生ヒタチタルモノ。萬葉集、十四「…伎波都久ノ、…ノ久君美良、…我レ摘メド」

〜**くく・む**・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［裹包］〔括（クク）るノ語原ヲ見ヨ〕クルム。ツツム。萬葉集、九「…」…太平記、三十三、公家武家榮枯事「柄、鞘、皆、金ニテ打チくくみタル刀ニ、虎ノ皮ノ火打袋ヲサゲ」

くく・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［銜含］〔裹（クク）むト通ズ〕口ノ中ニ持ツ。含ム。拾遺集、七、物名「怒（イカリ）潟ノ、石ヲくくみテ、カミコシハ」宇治拾遺、十一、第九條「くくみタル水ヲ吐キ捨テテ」…

〜**くく・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［哺］（一）銜マシム。口ニ含メテ、食ハス。枕

草子、八、七十四段「雀ノ子、云云、…ノ、…ナド持…テ…ル…モ、イトラウタシ」…二十六、…ノ…、乳ナド、くくめマフ」（二）言ヒ含ムル。説キテ、ノミコマス。説諭。枕草子、四、四十四段「折稿ナド持タセテ、コレニ（…ノ）…ウテムトコロ、ヒタモノ入レテ、持テ來、云云、ナド、言ヒくくめテヤリタレバ」

くぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［屈］〔かがむト通ズ（頭槌（クブツチ）、くぶつち）〕カガム。クグマル。コゴム。跼蹐、崎嶇ヲ、さぐくむト云フモ、此語ニ、さノ發語ヲ冠ラセタルナリ。義經記、三、辨慶洛中にて人の太刀を取りし事「笛ノ音ノ、近ツキケレバ、サシくぐみテ見レバ、未ダ若キ人ノ、云云、黄金作ノ太刀ノ、心モ及バヌヲ佩カレタリ」（牛若丸ナリ）

くぐ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［屈］〔前條ノ語ノ他動〕かがむ（下一段）ニ同ジ。コゴメル。夫木抄、十九「ヒサカタノ、天ツ空（ソラ）ハ、高ケレド、背ヲくぐめテゾ、我ハ世ニ住ム」

✣**くく・める**（動）［哺］くくむ（下二段）ノ口語。

〜**くく・も・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［溟涬］〔くくむ（裹）ノ自動（うづむ、うづもる）或ハ、氣籠（ケクモ）る、又ハ、氣隱（ケコモ）るノ轉トモ云フ（異（ケ）し、奇（ク）し。闇（カク）む、かすむ）〕隱（コモ）リテ、分明ナラズ。神代紀、上「天地未剖、陰陽不分、溟涬而含牙（ククモリテキザシヲ）」名義抄「…、クク…、…ツツム、…」徒然草、五十三段「鼎ヲ被リテ物言フニ、くくもり聲ニ響キテ、聞コエズ」

くくり（名）［括］（一）ククルコト。統ブルコト。…集、十一、…ニ、色色ノ玉ヲ、…、くくりニシテ、古今ノ…、新シキ…ノカネノサウシ…人タリ」（二）係蹄（ワナ）。鹿ノ…、…十六、…利口「くくりヲカケテ、鹿ヲ捕リケル程ニ」夫木抄、十七、冬、二「水鳥ノ、脚ニ引カルル、蓴（ネヌナハ）葉ハ、人モカマヘヌ、くくりナリケリ」

（三）指貫ナドノ裾ニ、差通シテアル緒（ヲ）。括リ絞リテ、結フモノナリ。宇治拾遺、二、第十…條「指貫ノくくりヲ見ツケテ」同卷、第十三條「若ク男ミタル男ニテ、くくり高ヤカニ掻キ上ゲテ」（四）あづちまくらノ條ヲ見ヨ。

くぐり（名）［潜］潜門（クグリモン）、潜戸（クグリド）、ノ略。御定書百箇條、御仕置仕形之事「一、逼塞（門ヲタテ、夜中くぐりヨリ、不目立樣通路不苦）」心中天網島（享保、近松作）下「大和屋ノ潜リ、グヮラグヮラ、ツト入」

くくり・あ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［括上］くくしあげる（括上）ニ同ジ。

くくり・おび（名）［括帶］綿ヲ心トシテ、縫ヒククリタル圓帶（マルオビ）。鎧ノ上帶（ウハオビ）ナド、是レナリ。

くくり・ざる（名）［括猿］兒女ノ玩具、小サキ四角ナル布帛ニ、綿ヲ縫ヒ込ミ、四隅ヲ四足トシテ、一處ニ集メテ括リ、別ニ、綿ヲ縫込メタル圓キモノヲ、頭ニナゾラヘテ附ケテ、猿ノ形ヲ作ル、粟島ノ神ニ供フ。又、五月五日ノ飾幟ノ下ノ端ニモツケテ、幟猿（ノボリザル）トモ云フ。

くくり・そで（名）［括袖］衣服ノ袖口ニ、綿ヲ細長ク入レテ、縫ヒ括リタルモノ。そでふくりんノ條ヲ併セ見ヨ。催馬樂、寶永、近松作、中「五二心、…袖ノ、縁ニ縫絲（コワイト）、括袖」

〜**くくり・ぞめ**（名）［括染］ユハタ。シボリゾメ。ククシゾメ。…、十六、…屋三「旅姿ドモノ、色色ノ袂ノ、ツキヅキシキ、…、くくりぞめノサマ、云云」

くくり・づきん（名）［括頭巾］頭巾ノ一種、頭ノ形ニ合ハセテ、圓ク作リ、縁ヲ括リタルモノ。大黑頭巾ナド云フモ、是レナリ。…山の井（寛文）「カザス梅ノ、蕾（ツボミ）ハくくり頭巾カナ」空林風葉（天和）「くくり頭巾、風ノアケタ

ル、…モナシ」（…記、三）

くくり・つ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［括附］くくしつける（括附）ニ同ジ。…、…マツ…、…ノ木ニくくりつけテオイテ」

くぐり・ど（名）［潜戸］小サク低クシテ潜リテ出入スル戸口。切戸。紙上靈…「潜戸（クグリド）」

くくり・ひも（名）［括紐］物ヲ括ルニ用キル紐。

くくり・まくら（名）［括枕］綿、又、蕎麥がらナドヲ、布帛ニ包ミテ、兩端ニテ括リトメタル枕。（箱枕、木枕、ナドニ對ス）囊枕。國性爺合戰（正徳、近松作）二「…、仲人無シノ手枕ニ、括枕ト締（シメ）合シ」

くぐり・もん（名）［潜門］小サク低クシテ、潜（クグ）リテ出入スル門。（門ノ旁ノ小門ナドニ）耳門　好色一代男（天和、西鶴）五「門ヲ鎖（サ）シテ、一人一人、潜門ヨリ出入」

〜**くくり・を・の・はかま**（名）［括緒袴］指貫（サシヌキ）の袴ノ古名。天武紀、下、十三年閏四月「男子者有…冠…括緒褌（ククリヲノハカマ）」續紀、二、大寶元年三月「…以上著…白縛口褌（ククリ）」

くく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［括］〔轉轉（クルクル）ヲ約メテ活用セサセタル語カ（きらきら、きらら。きりきり、きりり）括す、裹（クク）むト云フモ、同ジカルベシ〕（一）絡ヒ、結ブ。束ヌ。シバル。名義抄「括、ククル、ムスブ」宇治拾遺、七、第五條「蛸（タコ）、云云、腰ヲくくられテ、外ヘエ行カデ、フタメキ飛マハリケルヲ」（二）［括染］括染（ククリゾメ）ヲス。絞染（シボリゾメ）ヲナス。［鈎染］六帖、一、…草ノ葉ミナ、カラクレナヰニ、くくるトテ」…撰集、五、秋、下「秋ハ今日、クレナヰくくる、立田川」（三）ワダク。ワナク。縊（クビ）ル。「首ヲくくる」（四）統ブ。マトムル。トヂムル。「多人

數ヲ綰メくくる」

くぐる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［潜］〔漏き入る、くぎる、くぐるト轉ジタル語カ、蹕、くびす〕（一）水ノ下ニ入ル。カツク。チグル。萬葉集、十四「二十」「妹ガ寐ル、床ノアタリニ、岩具久（久具ノ倒置カ）留、水ニモガモヨ、入リテ寐マクモ」名義抄「潜、クグル、カヅク」（二）スベテ、身ヲヒソメテ、物ノ下ヲ屈リテ過グ。金葉集、九、雜、上「傍ノ局ノ壁ノ崩レヨリくぐりテ、逃シテヤリ」「門ヲくぐる」「輪ヲくぐる」（をヲ受ケテモ、自動ナリ）

くぐゎい（名）［區會］地方ノ區ノ議會。

くくゎく（名）［區劃］シキリ。ワカチ。カギリ。「區劃ヲ設ク」「區劃整理」

くぐゎつ（名）［九月］年ノ、第九ニ當ル月。長月。菊月。

くけ（名）［絎］クケルコト。

くげ（名）［公家］（一）オホヤケ。朝家。朝廷。後ニハ、武家、將軍家ニ對シテ、京家ナドトモ云フ。文德實錄、四、仁壽三年正月十八日、幸冷然院、讓諸衛府騎射、公家以白布賜騎者」三代實錄、一、天安二年十一月廿六日「無益於公家、有煩於職吏」榮花物語、五、浦浦の別「但馬ニオハシツキタレバ、國ノ守、くげノ御定メヨリ外ニ、差シススミテ、仕ウマツルコト多カリ」太平記、十二「公家一統政道事」（二）主上。至尊。（朝廷ノ、帝ニ移レルガ如シ）平家物語、二、座主流事「座主明雲大僧正ハ、云云、六十卷妙經ヲ公家ニ授ケ奉リ、菩薩淨戒ヲ法皇ニ持タセ奉ル」海人藻芥、中「公家御膳、飯ハ強飯也」同、下「每日三度ノ供御ハ、云云、割リタル強飯ヲ聞コシメスナリ」（三）公家衆ノ略、其條ヲ見ヨ。

くげ（名）［公廨］くがい（公廨）ノ條ヲ見ヨ。

くげあく（名）［公家惡］歌舞伎ニ、敵役ノ、惡人ノ公家衆ニイデタツモノ。文化ノ川柳「公家惡ノ、前ニ魯國ノ、實事師」

くけあな（名）［匿穴］〔閒道ノ語原ヲ見ヨ〕ヌケアナ。密路。太平記、三十二、天竺震旦物語事「舜、傍ニ匿穴ヲゾ掘リタリケル、云云、匿穴ヲ通レ出デテ、己ガ家ヘゾ歸リケル」

ぐけい（名）［具慶］父母具ニ、生存スルコト。故事成語考「具慶下、父母俱存、重慶下、祖父母俱在」程子遺書、游定夫錄「伊川先生日、人無父母、生日當倍悲痛、更安忍置酒張樂以爲樂、若具慶者可矣」

ぐけい（代）［愚兄］他人ニ對シテ、我ガ兄ヲ云フ謙稱。

くげうみやう（名）［工巧明］〔巧、呉音、けう〕ごみやう（五明）ノ條ヲ見ヨ。

くげき（名）［駒隙］ひまゆくこまノ條ヲ見ヨ。莊子、知北游篇「人生天地之間、若白駒之過隙、忽然而已」

くげくゎぞく（名）［公卿華族］〔大名華族ニ對ス〕華族ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

くげこじつ（名）［公家故實］〔武家故實ニ對ス〕故實ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

くげしゅう（名）［公家衆］公家ニ仕フル人人ノ稱。（武家出仕ノ人ニ對ス）公家。堂上家。年中恒例記「諸家ハ、任大臣以後オクリ御申也、清家其他ノ公家衆ハ、タトヒ太政大臣ニ被任候ヘ共、オクリ御申儀無之候」保元物語、一、官軍召集事「公家ニハ關白殿下、内大臣實能、左衞門督基實、伏見源中將師仲ナドゾ參ラレケル」

くけぢ（名）［閒道］〔漏路（漏くノ條ヲ見ヨ）ノ轉、かぎろひ、かげろふ。いときなし、いとけなし〕ヌケミチ。クケミチ。カクレミチ。ワキミチ。閒道。聖德太子傳曆「從閒道出」塵囊抄（文安）五「匿路」運歩色葉集（天文）「匿路」

くけつ（名）［口訣］口傳ノ祕訣。口訣。抱朴子、内篇、仙、雖有其文、皆祕其要文、必須口訣」太平記、十七、日吉神託事「古來、碩學ノ相承シ來ル、一念三千ノ法門、唯受一人ノ口訣共」

くけつのかひ（名）［九穴貝］鰒ノ殼ニ、孔、九ツアルモノ、藥用トシテ佳ナリナド云ヒ、食ヘバ、長年死セズナド云フ。本草「石決明、九孔者、佳」（藥用ニ云フ）

くけぬひ（名）［絎縫］絎ケテ縫フコト。カクシヌヒ。名義抄「縭、クケヌヒ、ツヅル」

くけばり（名）［絎針］絎ルニ用キル針。宇津保物語、俊蔭三十「イト、ウツクシゲニ、ツヤヤカニ、ナメラカナルくけばりニ、縹ノ絲ヲゾ、左絲、右絲ニ縒リテ、一尋、カタワキバカリスゲタルヲ、鴿鷺ゾ、君ノ御前ニ落シツル」

くけひも（名）［絎紐］くけぬひニシタル紐。好色五人女（貞享、西鶴）、吉彌笠ニ、四ツガハリノくけひも」賢女心化粧（延享、其磧）「加賀笠頂キ、同ジくけ紐」

くけみち（名）［匿路］〔くけぢ（閒道）ノ條ヲ見ヨ〕ヌケミチ。カクレミチ。

くげん（名）［苦言］良藥ノ苦キガ如キ意見。直言。（甘言ノ反）戰國策、秦策「苦言、藥也、甘言、疾也」

くげん（名）［苦患］佛教ノ語、死シテ、地獄道ニ落チテ受クル、クルシミ。菩提敬經「更得無擾無邊苦患之法」盛衰記、廿六、入道得病事「後ノ世ノ苦患モ、思ヒヤラレテ、無慙ナリ」

ぐけん（名）［愚見］己ガ意見ノ謙稱。晉書、王渾傳「敢陳愚見、觸犯天威」

くける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［絎］〔匿路ノくけナリ、かくしぬひスル意（倭訓栞）博雅「絎、紩也」廣韻「刺縫也」此ノ語、古ク、くけ針、くけ縫、ナドトモアレバ、下二段活用ナルベケレド、くく、くくるト用キタル例ヲ見ズ〕絲ノ縫目ヲ、表ニ現ハサズシテ縫フ。カクシヌヒニス。類聚雜要抄（大治）四「各裁、弘六寸餘、弘三寸ニ折リ、久計テ、件ノ縫目ヲ中ニシテ、折リ」落穗集（享保）「女中ノ帶、云云、萬ノ卷物ヲ三ツ割ニ致シ、云云、三ツ割ヲ、又、三分狹ニくけ、其端ヲ詰メ、押込ミテ差置キ候」

くこ（名）［枸杞］古名、ヌミグスリ。灌木、漢種ヲ移ス、大ナルハ、高サ七八尺、叢ヲナス、葉、大キクシテ、刺アリ、夏、五瓣ノ淡紫花ヲ開ク、實、圓ク大ナリ、熟スレバ紅ニシテ、味、甘シ、他名ニ對シテ、唐枸杞ト云フ。又、鬼枸杞、一名、犬枸杞ハ、野生ニ多ク、人家ニモ多ク植ウ、葉、小サク、刺、多ク、實、小サク長クシテ、味、苦シ。枸棘。字鏡五十「枸杞、久己」倭名抄、廿木類「枸杞、奴美久須利、俗音、久古」

くご（名）［供御］（一）天子ニ奉ル、御飲食物。上皇、皇后、皇子、ナルニモ云フ。倭訓栞、くご「貞觀政要ニ、供御藥湯ト云ヘリ」宇津保物語、藏開、上五十「女御ノ君、梨壺ヨリ奉レタマヒシ、黃金ノ瓶ニ、くごヲ入レカヘテ」盛衰記、廿五、小督局事「君ハ、御故ニ、思召シ入ラセタマヒ、ツヤツヤ、供御モ聞召サズ」海人藻芥（應永）下、內裏、仙洞ニハ、云云、飯ヲバ供御、云云、每日三度ノ供御ハ、御メグリ七種、御汁二種ナリ」訛リテ、こごト云フ、近江ノ瀨田川ノ供御ノ瀨ヲ、こごのせト云フ、供御ノ氷魚ヲ採リテ、奉リシ所ナリ。（二）飯、ノ女房詞。海人藻芥、下「飯ヲバ供御、酒ハ九獻、云云、女房達、皆、異名ヲ申ス」籠耳草子（貞享）「侍ハ中食ト云ヒ、町人ハ晝飯、云云、御所方ニテハ、女中ノ詞ニハ、御供御ト云

フ、コレヲ罵リテ、おこごト云フハ、ワロシ」

〔くご〕[illegible]〔紀略、朝集一居士、嫁用ニ喫鍋、蓄召ニ歌兒、作三十[illegible]〕[illegible]

くこ‐おう（古止）[illegible]〔枸杞茶〕おにくこノ葉ヲ、製茶ノ如ク製シタルモノ、煎ナ飲ム、藥效アリトス。

くこつ‐はく（名）〔枸骨木〕「本草圖[illegible]」[illegible]竹木、鐵[illegible]骨、故名ニヒヒラギ

くごふ（名）〔口業〕[illegible]ニシ、口舌[illegible]二無言ヲセザレドモ、ヒトリ居レバ、口業ヲ謹メツベシ[illegible]カキツクル、イマニツヲバ、君ゾ知ルラン」

くとん（名）〔九頓〕（一）[illegible]ツ、三度[illegible]スコト。[illegible]レ[illegible]サンサン九こん[illegible]（二）[illegible]ノ異名〔女房詞〕[illegible]

くおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔口籠〕〔くくもるノ轉、うぐもつ、うおもつ。すぐす、すおす〕ククモル。クチゴモル。[illegible]ニ[illegible]リテ、際ヤカニ聞エズ

くさ（名）〔莖〕〔莖多ノ約略ナリト云フ說アリ〕（一）植物ノ、成長、甚ダ高大ナラズシテ、莖、枝、共ニ、一年ニシテ枯レ[illegible]モノ、[illegible]年ニ[illegible]根ヨリ芽ヲ生ズルアリ、根モ腐リテ、更ニ、子ヨリ生ズルモアリ。倭名抄、廿草類「草、百卉總名也、久佐」（二）[illegible]ナドヲ[illegible]ク[illegible]（三）〔倒〕藥。[illegible]、其駒、其駒ゾ、我レニ久佐乞フ、云云、久佐ハ取リ賣ハム」枕草子、八、九十一段

「牛繫ガセテ、ホナド貪ハスル」（四）くさどる[illegible]きノ、犬、ニ似タリ。「草[illegible]」草かげ[illegible]

〔くさ〕（名）〔種〕〔草ノ種ノ義カ〕（一）本トナリテ、物事ヲ生ズルモノ。タネ。[illegible]萬葉集、十七[illegible]「ヨロヅ代ノ、語ラヒ具佐ト、イマダ見ヌ、人ニモ告ゲム、音ノミモ、名ノミモ聞キテ[illegible]ハ、身ノマダ消エヌ、くさニゾアリケル」「數へ種」[illegible]（二）[illegible]ヒ。種類。[illegible]、七、紅葉賀「唐土、高麗ト盡シタル舞ドモ、くさ、多カリ」「一種」「二種」くさぐさ」

くさ（名）〔瘡〕〔瘡ノ轉カ（頭槌、くぶつち。かがまる、くぐまる）或ハ、腐ノ義カ〕瘡ノ（一）ニ同ジ。「黑瘡」「早瘡」「濕瘡」

くさ（名）〔濕疹〕〔瘡瘡ノ略カ、前條ノ語原ヲ見ヨ〕腫物ノ名、春夏ノ際ニ、小兒、多ク患フ、頭、耳邊、踝ニ、股ノ内側、肘ノ屈折部、脇ノ下ナドニ、赤キ粟粒ノ如キモノヲ生ジ、水疱トナリ、甚シク痒ケレバ、搔キテ破レレバ、血ヲ浸ラシ、次第ニヒロガル。白石紳書、九「小兒ノくさノ[illegible]、三小供、くさかさ出來タルニ、[illegible]ノ[illegible]ヲ[illegible]テ[illegible]リテ、[illegible]、[illegible]ユトゾ[illegible]ノ[illegible]、長キニくさモ、[illegible]リテアム、[illegible]ク刈リツクセ[illegible]ノ[illegible]」

〔クサ〕（名）〔俱舍〕くしゃしゅう（俱舍宗）ノ條ヲ見ヨ。

〔くさ‐あはせ〕（名）〔草合〕古へ、五月五日ニ、種種ノ草ヲ合ハセ、優劣ヲ[illegible]ジテ、[illegible]レトセシコト。鬪草[illegible]「荊楚歲時記云、五月五日、有鬪百草之戲、久佐阿[illegible]」[illegible]二、[illegible]百草[illegible]アリ。

ぐ‐さい（名）[illegible]ト[illegible]

くさ‐いち（名）〔草市〕[illegible]月十[illegible]日ニ、聖靈祭ニ供フベキ器物ヲ賣ル市、[illegible]、蓮ノ葉、みそはぎ、[illegible]、[illegible]工ノ牛馬、瓦器、經木、ナドナリ。東都歲事記、三、七月十[illegible]日、[illegible]市[illegible]トモイフ、精靈祭リ、魂棚、飾物ノ市ナリ」

くさ‐いちご（名）〔草苺〕いちごノ條ヲ見ヨ。

く‐さいばんしょ（名）〔區裁判所〕始審ノ裁判所。

くさ‐いろ（名）〔草色〕ミドリ。モエギ。綠

く‐さう（名）〔口唱〕口ニ、名號ヲ唱フルコト。[illegible]物語、廿五、[illegible]月、[illegible]トくさう、述ニ、鉦打チアゲタレバ」

くさ‐うづ‐の‐あぶら（名）〔臭水油〕〔くさうづハ、くさみづノ音便、臭氣アレバ名トス〕古名、燃水。石炭油ニ同ジ。特ニ、越後ノ北蒲原郡、草生水ノ地、其他、館組、鹽谷、等ニ出ヅルモノノ稱トス、越後七不思議ノ一トシタリ。石炭油 東遊記、五、七不思議「臭水の油ハ、芝田ノ城下（越後）ヨリ六里バカリ東北ニ、黑川トイフ村アリ、其黑川ノ東南五六丁バカリニ、[illegible]村トイフアリ、其所ニ高名川トイフ小川アリ、其川端ニ少シノ岡アリテ、杉林ナリ、其所ニ小キ池有リテ、其池ニ[illegible]クコトナリ」

くさ‐がく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔草隱〕〔島ノ蔭ニ隱ルルヲ、しまがくると云フニ同ジ〕草ノ蔭ニ隱ル。[illegible]集、十一、[illegible]、一「淺ミテ鳴ル、人モアフナム、[illegible]山ノ、木ノ下ホハ、草がくれツツ」

〔くさがくれ〕（名）〔草隱〕クサガクルルコト。草ノ中ニカクレタル所。拾遺集、十二、[illegible]草がくれモ、アルベカラズ」源、十五、蓬生「斯ル草がくれニ、過シタマヒケル、年月ノ哀レモ」（草深キ田舍家ヲ云フ）

くさ‐かげろふ（名）〔草蜉蝣〕〔くさハ、似テ眞ナラヌ意（草ノ條ノ（五）ヲ見ヨ）一かげろふ（蜉蝣）ノ類ニシテ、頭ニ、二本ノ多節ナル觸角アリテ、綠ナリ。此蟲ノ卵ヲ、うどんげト云フ、其條ヲ見ヨ。

くさ‐かんむり（名）〔草冠〕サウカウ。漢字ノ頭ニアル、サノ字、字書ニテ、艸ノ部首ニ屬ス、芋、芝、花、芹、草、葉、ナドノ如シ。草頭 草蓋頭

くさ‐かり（名）〔草刈〕野山ニテ、鎌、又ハ、肥ナドノ草ヲ刈取ルコト、又、其人。鎌鎚 [illegible]忠集「茂リケル、夏ノ大野ノ、草刈ハ、水入ニヒトシ、目、エッ[illegible]レツ」

くさかり‐がま（名）〔草刈鎌〕草ヲ刈ルニ用ヰル鎌。宇治拾遺、十三、第八條「[illegible]、大ニテ、打チトラレネバ、草かり鎌ト云フ物ヲ[illegible]チテ、[illegible]ヲ搔キ切リテ」

くさかり‐ぶえ（名）〔草刈笛〕草刈童ノ、牛ナドニ乘リテ、行ク行ク、吹ク笛。くさぶえ。牧笛 [illegible]、三十五、[illegible] 日暮レヌト、山路ヲイソグ、うたゐ子ガ、草かりぶえノ、聲ゾサビシキ [illegible]六[illegible]、五十二ヨリ、[illegible]ノうたゐカ、吹ク笛ハ、深キサトリノ、シルベトゾ聞ク」宇津保物語、初秋[illegible]「草ノ中ニ笛ノ音ノシハベルヲ尋ネテナム、ウベ、草笛ヲコソハ吹キケレ」

〔くさかり‐わらは〕（名）〔草刈童〕草刈ヲスル童。牧童 孝德紀、大化二年二月「鑒ニ芻[illegible]之說、親問芻[illegible]師」

くさ-がれ (名) 【草枯】 秋冬ノ際、草草ノ、露霜ニ枯ルル頃。詞花集、三、秋、好忠「草がれノ、冬マデ見ヨト、露霜ノ、オキテ殘セル、白菊ノ花」源、九、葵三十「草がれノ、籬ニ殘ル、撫子ヲ」朱雀院女郎花合「草がれノ、秋ヲ過ギヌベキ、女郎花」

くさ-き (名) 【草木】 草ト、木ト。草木。植物。萬葉集、廿、四十「八千種ニ、久佐奇ヲ植エテ、時毎ニ、咲カム花ヲシ見ツツシヌバナ」

くさ-ぎ (名) 【恆山】【常山】【蜀漆】 〔臭木ノ義、葉ヲ切レバ、臭氣甚シ、此木、支那ノ恆山ニ出ヅレバ、名アリ、宋ノ人、眞宗帝ノ諱ノ、恆ナルヲ憚リテ、常山ト改ム、蜀漆ハ、此木ノ苗ノ名ナリ〕 古名、ヤマウツギ。ウグヒスノイヒネ。今、又、コクサギ。落葉灌木ノ名。諸國ノ深山ニ多シ、高サ五六尺乃至丈餘、葉ハ梔子ニ似テ薄シ、春ノ末ニ、葉ノ閒ヨリ一二寸ノ穗ヲ出シテ、花ヲ簇生ス、大キサ三分許、四瓣ニシテ淡黄色ナリ、實ヲ結ブ、此ノ木、藥用トスレドモ、有毒植物ナリ。本草和名、上二十四「恆山、久佐岐、宇久比須乃以比禰」「蜀漆、恆山苗也、久佐岐、也末宇都岐乃波」倭名抄、同ジ 字鏡五十二「恆山、山宇豆支」「蜀漆、山宇豆伎乃苗」

くさ-ぎ (名) 【臭木】 次次條ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くさ-きり (名) 【草切】 鍋ヲ切リ挫ク具。今ノ、おしきりノ類。箋注倭名抄、五、六十二鞍馬具「剉碓、久散岐利」

くさ-ぎり (名) 【臭桐】 〔莖、葉ニ臭氣アリ〕 原野ニ多シ、高サ丈餘、葉ハ桐ニ似テ小サク、對生ス、紫黑ヲ帶ブ、夏、枝ノ梢ニ五瓣ノ白花、簇リ開ク、萼ニ赤ミアリ、實、圓ク、碧色ニシテ、大キサゑんどうノ如シ。クサギ。臭梧桐。

くさ-ぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【耘】 〔草切るノ義〕 田畠ノ雜草ヲ除ク。字鏡六十「耘、除草也、久佐支留」名義抄「耘、耨、クサギル」

くさ-く (名) 【孔雀】 孔雀ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

ぐ-さく (名) 【愚作】 (一)拙キ詩歌。(二)己ガ詩歌ノ謙稱。拙作。

くさ-ぐき (名) 【草潜】 〔くさハ、止種ノ枝ノ意(くさゞるノ條ヲ見ヨ)くきハ、くき(漏)ノ義(漏くノ條ヲ見ヨ)潜りノ意、草くき(鷚)、同趣ナリ〕 木ノ枝ノ繁ミニ潜リ入リテ、見エヌコト。鵙ニ云フ語ナリ、鵙ハ、秋ノ末、山ヨリ來リ、春ハ、林叢ニ隱レ居テ、夏ノ初ニ、山ニ歸ル。萬葉集、十、二十三「春去レバ、伯勞ノ草具吉、(序ニ)見エズトモ、吾レハ見遣ラム、君ノ邊ハ」(コレヨリシテ、歌ニハ、もずのくさぐきヲ、見えぬさとニ詠ム) 千載集、十三、戀、三「霞メコシ、野邊ノ道芝、夏深シ、イヅクナルラム、もずの草ぐき」散木集、九、雜、上「訪ヘカシナ、玉串ノ葉ニ、見隱レテ、鵙の草ぐき、目路ナラズトモ」袖中抄、一「もずの草ぐきトハ、鵙ノ草くぐるト云フナリ」 臨百首(慈鎭)ニ「取ラセテハ、クヤシカリケリ、小鷹狩、黄鷂ノモミヂノ、もずのくさぐき」トアルハ、もずのはやにへト取違ヘタルナリト云フ。

くさ-くさ (副) 【腐腐】 氣ノ、腐レタル狀ニ云フ語、飽キハツルニ云フ。浮世床(文化、三馬)二編、上「くさくさトシテ、倦キ果タノヨ」「氣ガくさくさスル」

くさ-ぐさ (名) 【種種】 〔くさ(種)ノ(二)ヲ見ヨ〕 物事ノ、色品、多キコト。サマザマ。イロイロ。萬葉集、十九、二十七「秋ノ花、種種ナレド、色毎ニ、見シアキラムル、今日ノタフトサ」字類抄「雜雜、クサグサ」

くさ-くだもの (名) 【草果物】 くだものノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くさ-ぐら (名) 【草倉】 飼葉ヲ納レオク家。倭名抄、十二十居宅類「廩、藁藏也、久佐久良」

くさ-ぐら (名) 【草鞍】 馬ノ肌背ニ、筵ナドニテ作レル鞍ニテ、草刈ノ用ノモノナルベシ。盛衰記、十九、佐佐木取馬下向事「草鞍置タル馬追テ、男一人、見エ來ル」甲亂記(天正十年、武田勝頼滅亡ノ記)上「アヤシゲナル夫、馬一疋尋出シ、草鞍ヲ敷キ、足ニ打乘セ參ル」

くさ-ごえ (名) 【草肥】 植物ノ莖、葉ヲ、鮮綠ノママニテ、田畠ニ鋤キコミ、肥料トスルモノ。紫雲英、苜蓿、大豆、豌豆、蠶豆、ナド、最モ宜シク、其他、藻類ナドモ用キル。綠肥。

くさ-ざうし (名) 【草雙紙】【草册子】 〔草假名ノ雙紙ノ義、或ハ、漉返紙ヲ用キシカバ、臭氣アリシ故ニ云フト〕 平假名ノミニテ記シタル、繪入本ノ短篇小說。コレニ、赤本、青本、黑本、黄表紙、合卷本等ノ種類アリ。寬天見聞記「草雙紙トイフ物ハ、昔ハ赤本、黑本トテ、表紙ヲ赤又黑ニシテ、表題ヲ黄紙ニシテ、續光四天王、其外、武者繪ニ、少ノ詞書アリシノミナリ、後ニ、黄ノ表紙ニシテ、桃太郎、花咲ヂヂ、舌キリ雀、狸兎ノ土船、等、勸善懲惡ノ心ヲ述ベテ、童ノ弄トセシモ、京傳、馬琴、一九、三馬、ナド、種種ノ作ヲ顯ハシ、文化ニ、合卷トイフ草紙出テヨリ、畫モ、豐國、北齋ナド、巧ヲ盡シ、近年、出版夥シ」正章獨吟千句「大方ハ、戀路ヲカケル、草ざうし」

くさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【臭】 〔腐る氣ざしノ意ナルベシ〕 (一)嫌ハシキ香アリ。鼻ニ、惡シク匂フ。字鏡八十二「臭、久佐志」落窪物語、一「ヨロヅノモノノ香、くさくニホヒタルガ、ワビシケレバ」 (二)ソノ氣ざしアリノ意ヨリ轉ジテ、熟語ニ用キテ、似たり、おとし、らしナドノ意ヲナシ、嫌フ意ヲ含ム。明惠上人家集、高雄山ヲ出ヅル時「山寺ハ、法師くさくテ、居タカラズ、心淨クバ、くそふくニダモ」「水くさし」古くさし」素人くさし」野暮くさし」胡散くさし」馬鹿くさし」面倒くさし」 (三)胡散くさしノ略。アヤシ。ウタガハシ。心中二腹帶(享保、紀海音)二「大方足、くさいモノ、ヌクヌクト、臑落チャノ」

くさ-じし (名) 【草鹿】 〔しゝノ條ヲ見ヨ、草中ニ立チタル鹿ノ義、足ハ、草ニ隱レテ見エネバ、作ラズ、鹿狩ヲ習フ設ケナリト云フ(四季草)〕 的ヲ、鹿ノ形ニ作リタルモノ、四足ナシ、二柱ノ上ニ、橫木ヲ互シタルモノニ、綱ニテ吊ル、鹿ノ長サ一尺八寸、首ノ長サ七寸五分、脇腹ニ矢當ノ星、大キサ四寸、廻リニ、小星八ツヲ圖ス。(笠掛日記) 盛衰記、廿、石橋合戰事「竹ノ小弓ニ、小竹鏑ノ矢、的、草鹿」吾妻鏡、十二、建久三年八月廿日「將軍家渡ニ御座所ニ召ニ父母兼備射手等ニ有ニ草鹿勝負ニ」

くさ-しばゐ (名) 【草芝居】 〔次次條ノ草相撲ヨリ移シテ云フ〕 素人ナドニテ興行スル芝居。

✣くさ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【貶】 〔くたす(腐)ト同義、腐らする意〕 貶シメ言フ。クタス。誹ル。ケナス。「人ノ事ヲくさす」

くさ-ずまふ (名) 【草相撲】 〔田草相撲ノ略、草芝居、コレヨリ移ル〕 田舍ナドニテ、素人、若者、ナドノ興行スル相撲。

くさ-ずみ (名) 【臭墨】 〔研レバ臭氣アリ〕 粗製ノ、價安キ墨、手習ニ用キキ。菅原傳授手習鑑(享保、竹田出雲)二「くさ墨二、三文筆」

くさ-ずり (名) 【草摺】 (一)衣服ノ袖、裾、ノ、行キ觸レテ、草ヲ摺ルコト。衣ノ、柴

二図ルルコト、[illegible]ト云フ。[illegible]
二、綴チ宿ヌラム」(二)鎧ノ胴ノ裾ニ垂ルモノ。又、腰甲。下散。五片ノ板ヲ綴リ成リ、其下ノ裾ヲ襟揃ト云フ、最[illegible]ノ板ヲ、[illegible]揃ル、攄グニ因リテ、ゆるぎの板ト云フ、胴ノ前、後、左、右ニ一枚ノ[illegible]、脇楯ニ一枚ナリ。[illegible]甲冑[illegible]腰甲[illegible]物語、大久保彦左衛門上「げさんヲマクリテ、尻ヲ出シ[illegible]」名義抄「甲ノ裾、云下散二」

くさ-だ (名) 草田 稲草ノ、繁リ茂レル田。[illegible]

くさ-たか (名) 草高 刈取リタル稲草ノ高。田ノ米ノ出来高ヲ、取納ト、付ケテ云フ、[illegible]實収納十萬石ノ地ニテ、四分ヲ公ニ納レ、六分ヲ民ノ所得トスレバ、コレヲ四公六民ト云フ、五公五民ナドモアリキ)領主ハ即チ、四萬石ヲ得、因リテ、領地ノ實収納十萬石ヲ草高ト云ヒ、其四萬石ヲ現石ト云フ。

くさ-だたみ (名) 草疊 (草原ヲ床トスル意) 野宿スルコト。「蒼天井ニ、くさだたみ」

くさ-だち (名) 草木 (草性ノ義) 木草[illegible]、其性、草ニ似タルモノノ稱(木本、[illegible]ニ對ス)

くさ-だち (名) 草立 クサダツコト。草ノ、[illegible]生フルコト。[illegible]マタくさだちニ、ナリニケリ、見シハ[illegible]根ノ、[illegible]

〜**くさ-たづ** (名) 蒴藋 接骨草 [接骨木ヲたづの木ト云ヒ、木木ナレバ、又、木たづト云フ、ソレニ對シテ、此草ハ、草木ナレバ、草たづト云フナリ、たつのきノ條ヲ見ヨ] 又、蒴藋。ソクヅ。草ノ名、山野ニ多シ、春、苗ヲ生ズ、莖、高サ五六尺、葉ハ接骨木ニ似タリ、夏、莖ノ梢ニ、傘ヲ成シテ、五出ノ小白花ヲ開ク、實モ接骨木ノ如シ、有毒植物ナリ。[illegible]「蒴藋[illegible]」

くさ-だ・つ ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 草立 草、生ヒ立ツ。[illegible]

くさ-たばね (名) 草束 女ノ結髪ノ名、飾リナシノ束ネ髪ナリ、油モツケズ、忌中ニ結プモノトス。文化ノ川柳「草市ヲ、買フニシァレタ、草たばね」

くさ-たんご (名) 草團子 米粉ニ、餅草ヲ搗キマゼテ作レル團子。

ぐ-さつ (名) 愚察 己ガ推察ノ謙稱。

ぐ-さつ (名) 愚札 己ガ手紙ノ謙稱。

くさ-づくし (名) 草盡 種種ノ草花ノ繪模様。[illegible]

くさ-づと (名) 草苞 (一)草包ミノ苞。ワラノト。[illegible] (二)[illegible]ク、粽カナ」

✣**くさっぱ** (名) 草葉 [くさばノ急呼、蚊食、かくひ] クサバ。草ノ葉。

くさ-とり (名) 草取 (一)生ヒタル草ヲ、除キ去ルコト。(二)草ヲ去ル具、形、熊手ノ小サキガ如シ。

〜**くさ-と・る** ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 草取 [くさハ、止種ノ意、止ル料トスル枝ヲ云フ(鐘の響、上) 鵙ノくさぐきノくさモ、是レナリ、猿ニ云フ木取ヲ併セ見ヨ] 鳥、木ノ枝ニ止ル。萬葉集、十九「[illegible]」[illegible]

くさなぎ-の-つるぎ (名) 草薙劍 三種ノ神器ノ一、其條ヲ見ヨ。景行紀、四十年十月[illegible]

〜**くさ-なすび** (名) 草茄 [くさハ、似テ異ナラヌ意(草ノ(五)ヲ見ヨ)犬ト云フモ、此意ナリ、實ヲ、小サキ茄ト見テノ名ナルベシ] いぬほほづきノ(一)ノ古名。又、さなすび。[illegible]

〜**くさ-ね** (名) 草根 [根ニ、意ナシ、羽ね、杵ね、岩ね、垣ね] 草ト云フニ同ジ。萬葉集、二十「岡ノ草根ヲ、イザ結ビテナ」同、十四「安可見山、久佐根刈リ除ケ」

〜**くさ-の-いほり** (名) 草庵 草葺ノイホリ。粗末ナルイホリ。草廬。伊勢物語、五十五段「ワガ袖ハ、草の庵ニ、アラネドモ、暮ルレバ露ノ、ヤドリナリケリ」源、三十四、上、若菜、上「草のいほりマカリ離レテ、深キ山ニ入リ侍リヌ」

〜**くさ-の-かう** (名) 草香 [草ニシテ、香料トナルモノノ意] うんかう(芸香)ノ和名、平安朝ノ頃、此葉ヲ香料トシタリ、此草、夙ク、世ニ絶エタリ。芸香ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

〜**くさ-の-かきは** (名) 草片葉 [草の缺葉ノ義、多クノ葉ヲ缺き取リテ、一ツ殘ル意ニテ、一枚ノ葉マデモ、ト云フ意ナリト云フ、朝野群載ニ「破葉」] 草ノ一葉。[illegible]

くさ-の-しる (名) 草汁 (一)鴨頭草ヨリ取レル染汁。[illegible] (二)後ニハ、繪具ノ名、あゐらふ(藍蠟)ニ、しわう(雌黃)ヲ和シタルモノ。(倭訓栞、後編) 草綠

くさ-の-たより (名) 草便 むらさきのゆかりヲ見ヨ。

くさ-の-と (名) 草戸 [草の庵の戸ノ略] イブセキ住居。夫木抄、七、卯花「卯ノ花ノ、垣根バカリハ、暮レヤラデ、くさのとササヌ、玉川ノ里」

くさのや（名）［草屋］草葺ニシタル家。クサヤ。浮世親仁形氣（元文、自笑）一「物造リノ、僅カナル草のやニ育チ」

〔くさのゆかり（名）［草緣］むらさきのゆかりヲ見ヨ。

くさのわう（名）［白屈菜］〔瘡ノ王ノ意カ、丹毒瘡ヲ治スト傳フ（倭訓栞、くさのかう）〕草ノ名、山野ニ生ズ、莖、高サ二三尺、葉ハ、菊ノ如シ、夏、黄色ノ花ヲ開ク、四瓣ナリ、有毒植物ナレド、藥用ニ供セラル、胃癌ニ效アリトス。

くさば（名）［草葉］草ノ葉。クサッパ。後拾遺集、十二、哀傷「二「曉ノ、露ハ枕ニ、オキケルヲ、草葉ノ上ト、ナニ思ヒケム」玉葉集、十七、雜、四「武藏野ノ、草葉ニ宿ル、白露ノ、（序）幾世アルベキ、モノナラナクニ」

くさばうき（名）［草帚］はうきぐさノ老イタル莖ヲ乾シテ、葉ト共ニ束ネ作レル帚、地ヲ掃フニ用キル。蔧

くさばな（名）［草花］草ノ花。花咲ケル草。木ノ花ニ對ス。花卉

くさばのかげ（名）［草葉蔭］墓所ノ地下。用明天皇職人鑑（寶永、近松作）二「草葉のかげノ父御ヘモ、未來ノ土產ニ語ラン」

〔くさはひ（名）［種］〔種延ひノ義カ、氣はひ、齡はひ、わざはひ、すぎはひノはひ、同ジカルベシ〕物事ノ、種トナルモノ。源、三十二、梅枝廿「思ヒ沈ムベキくさはひ無キ時」同、四十五、椎本廿二「女ハ、云云、人ノ心ヲ動カスくさはひニナムアルベキ」

くさはら（名）［草原］草ノ、生ヒ茂リタル地。平蕪 建禮門院右京大夫集一「露消エシ庭ノ草原、末枯レテ、繁キ歎キヲ、思ヒコソヤレ」

くさび（名）［轄］〔串合ノ約カ、古クハ、淸音ナリシト思ハル〕（一）〔鐵造ノ小サキ棒ノ、頭ヲ稍太ク、次第ニ末ニ至リ、細ク作リタルモノ、車ノ軸ヲ轂ニ貫キタル、其端ニアル穴ニ刺シコミテ、輪ノ外レヌヤウニ止ムル用トス。字鏡三十「轄、久佐比」倭名抄、十一「車具「轄、轂端鐵也、久佐比」（二）轉ジテ、木ニテ、前項ノ如キモノヲ作リ、木材ヲ木材ニ貫キタル、其端ノ穴ニ打チコムモノ、或ハ、材ノ切木口ニ打チコミ、材ヲ脹ラセテ、脫クルヲ防グ用トモス。楔子

くさびえ（名）［草稗］（一）のびえノ一名。（ひえノ條ヲ見ヨ）（二）はぐさノ一名。

〔くさひとがた（名）［草人形］祭祀ノ具、偶人（其條ヲ見ヨ）ノ、草ニテ作ラレタルモノ。贖物ノ形代ナリ。芻靈 京職式「元日貢朋、帰二除芻靈一」倭名抄、十三「祭祀具「芻靈、久佐比度加太」倭姬命世記「乙若子命、以二麁神芻靈等一進二倭姬命一而令二祓祭一」（孝德紀、大化二年三月、厚葬ヲ禁ズル詔ニ「無レ藏二金銀錦綾一、以二瓦器一合二古塗車 芻靈之義一云云」トアルハ、禮記ノ文ヲ取ラレタルニテ、實際、我ガ邦ニテ、埴輪ノ如ク、死者ト共ニ葬リタルモノニハアラザルベシ、禮記、檀弓、下篇「塗車芻靈」注「塗車、以レ泥爲レ車也、束レ草爲二人形一以爲二死者之從衞一謂二之芻靈一」芻ハ草、靈トハ神ノ意）又、神功紀、五年三月「造二芻靈一置二微叱許智之床一詐 爲二病者一」トアルハ、藥人形ニ、芻靈ノ字ヲ當テタルナリ）

くさひばり（名）〔草雲雀ノ義ニテ、鳴聲ニ因リテ名トスルカ〕昆蟲ノ名、蠅ニ似テ、稍大キク、全體、淡黄靑ニシテ、觸角、甚ダ長シ、夏、草間ニ多ク、夕ヨリちちちちト癇高ク鳴ク、人、捕ヘテ飼ヒ、其聲ヲ愛シ聞ク。コレニ似テ、形、小サク、ちち、ちちちト、節ヲ切リテ鳴クヲ、やまさずずト云フ。又、相似テ、鳴ク聲、ちいんちいんト、鉦ヲ叩クガ如ク聞ユルヲ、かねたたきト云フ。

〔くさびら（名）［蔬］〔草片ノ義〕（一）蔬菜。ヤサイモノ。持統紀、三年正月「蔬食持レ戒」倭名抄、十七「菜蔬部「菜蔬、久佐非良」（二）齋宮ノ忌詞ニ、肉ノ稱、菜ト、肉トヲ、反對ニ云フナリ。（いみことばノ條ヲ見ヨ）（三）轉ジテ、キノコ。茸。菌 宇津保物語、嵯峨院六二十一「御前ノ朽木ニ生ヒタルくさびらドモ、蕈ニサセ」名義抄「菌、タケ、クサビラ」和玉篇「蕈、菌、茸、クサビラ」

くさびらいし（名）［菌石］海中ノ石上ニ生ズル、珊瑚類ノモノ、形、松茸ノ笠ノ裏ノ如シ。石芝

〔くさふ（名）［蝟］〔草生ノ義ニテ、全身ニ叢生スル刺ノ象ヲ云フ名カ〕はりねずみノ古名。本草和名、下十六「蝟皮、久佐布」倭名抄、十九「蟲豸類「蝟、蟲似二豪猪一而小者也、久佐布」

くさぶえ（名）［草笛］（一）〔くさかりぶえニ同ジ、其條ヲ見ヨ。（二）草ノ葉ヲ卷キテ、口ニ含ミ、吹キテ、聲ヲナサシムルモノ。嘯葉 香字外集「小兒用二蘆板草一喻レ于二舌端一吹レ之、或用二竹葉一、古謂二之嘯葉一、蘆衛レ葉而嘯、其聲淸婉」（或書、橘、柚、光善ニ（萩居雜話、二）

くさぶえ（名）［草笛］〔雅樂ノ横笛ニ對スル語ナリト云フ、草ハ、似テ眞ナラヌ意カ、草ノ條ノ（五）ヲ見ヨ〕横笛ノ、七孔アリテ、俗樂ニ用キルモノ。シノブエ。

くさぶか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［草深］草立、繁シ。多クハ、田舍ノ地ニ云フ。草莽「草深き地二草深き村ニ生レテ」

くさぶき（名）［草葺］茅、又ハ、藁、ナドニテ、屋ヲ葺キタルモノ。草舍 夫木抄、十八、雪「カキクラス、雪サヘヒマハ、ナカリケリ、難波ノ小屋ノ、雪ノ草ぶき」

くさぶし（名）［草臥］（一）〔鹿ノ、野山ニ臥スコト。萬葉集、十三三十「小牡鹿ノ、小野ノ草伏」後拾遺集、四、秋、上「鹿ノ音ゾ、寢覺ノ床ニ、聞ユナル、小野ノ草ぶし、露ヤオクラム」（二）旅寢。クサマクラ。（くさむすぶノ條ノ（二）ヲ見ヨ）詩經、齊風、載驅篇、跋 涉二（古訓、ばっせうノ條ヲ見ヨ）關白内大臣家歌合（保安二年）二番、野行旅衣、野路ノ草ぶし、露ケキニ、鳳モ同ジク、夕居セヨカシ」

くさボザツ（名）ささぼさつヲ見ヨ。

くさぼたん（名）［草牡丹］芍藥ノ異名。

くさまき（名）［草皮］〔くさハ、似テ眞ナラヌ意、草ノ條ノ（五）ヲ見ヨ、いぬまきト云フ犬モ、同意〕樹ノ名、葉、厚ク細ク長クシテ、一處ニ集リ互生シ、冬、凋マズ、夏、葉ノ間ニ、花無クシテ、實ヲ結ブ、上ニ、綠ニシテ、圓キ實アリ、下ニ、紅ニシテ、稍ナル實アリテ、形、羅漢ニ似タリ、村、淡黄色ニテ、久シキニ耐フ、水桶ナドニ作ル。一名、イヌマキ。羅漢松

〔くさまくら（名）［草枕］（一）旅ニ、草ヲ枕トスルコト。古ヘ、旅路ノ宿リニ、假庵ヲ作ルヲ、草結ぶト云ヒ、茅草ナド束ネテ、枕トシタリ。欽明紀、六年十一月「藉レ草班レ荊」萬葉集、一廿長歌「孫雪降ル、阿騎ノ大野ニ、旗薄、篠ヲ押シ靡ベ、草枕、旅宿リセス、昔ヲ思ヒテ」（同、五廿長歌「タマボコノ、道ノ隈廻ニ、草手折リ、柴取敷キテ、床ジモノ、打チ臥イ伏シテ」）馬内侍集「其夜、旅ナルトコロニ來合ヒテ、枕モナケレバ、草ヲ結ビテシタレバ」（二）轉ジテ、旅寢。又、旅行。千載集、八、羇旅、草枕、假寢ノ夢

[illegible]女ノ[illegible]ナリ」

くさまくら (枕) 草枕 「[illegible]」旅ノ枕詞。萬葉集、一八長歌「草枕、旅ニシアレバ[illegible]」十五長歌「久左麻久良、旅行ク人ヲ」

くさむ・す…セ・サ・シ・セ (自動、四) 草生 [illegible]長歌「海行カバ、水ヅク屍、山行カバ、草生(クサムス)屍、大君ノ[illegible]」(古びす、さびすノ意)

くさむすび (名) 草結 (一)男女ノ間ノ契ノ、久シキヲ契ル意。(次條ノ(一)ヲ見ヨ)[illegible]くさむすびニモ云フハ、結納ノ意ナリ。曾我兒歌(寶永、近松作)上「化粧坂ノ少將樣ニ馴マレ、弟ノ五郎樣トノくさむすび」(二)クサムスブコト。草ヲ結ビ、庵ヲ作リテ住ムコト。(次條ノ(二)ヲ見ヨ)[illegible](三)衆ニ先ダチテ、事業ヲ開クコト。[illegible](次條ノ(三)ヲ見ヨ)草分ト、同義ナリ。草創 [illegible]くさむすび、俗ニ、草創ノ意ニ云ヘリ」

くさむ・す・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 草結 (一)[illegible]久シキヲ契ラムトテスルワザニテ、後ニ願ム時マデ、結ビタルママニテアレト云フ契リヲカクル、古ヘノならはしナリ。松ガ枝ヲ結ブト云フコトアルモ、同ジ。[illegible]ニテ、假庵ヲ作ル。古ヘ、旅中、假リニ山野ニ宿ルニスルコトナリ、即チ、旅に宿る意トナル、名詞ニ、くさむすびト云ヒ、草臥(クサブシ)ナド云フモ、是レナリ。結廬 [illegible](三)草ヲ結ビテ、路ノ栞トス。夏野ナドノ、草ノ繁ミヲ行ク導ニスルコトナリ。[illegible]

くさむら (名) 叢 「[illegible]ノ群」草、叢[illegible]サムラ」

くさめ (名) 休息萬命 (休息命ノ急呼、國府、こふ。脚絆、きゃはん。ささめく、そそめく。通夜、つや)(一)嚔リタル時ニ唱フルコトバ、嚔ノ呪文。命長かれト云フ意ナリ、嚔レバ、命終ハルト云フ、天竺ノ傳説アルニ因リテ、斯ル呪文アルナリ。千萬歳トモ呪シ、今、小兒、はなひれバ、母、とおまんざいトモ呪ズ。(其條ヲ見ヨ)何レモ、命長かれノ心ナリ。[illegible]四十七段ニ、老尼ノ、道スガラ、くさめくさめト言ヒモ行キ[illegible]レヲ、何事ゾト問ヘルニ、はなひたル時、カクマジナハネバ、死スルナリト云ヘル由、記セリ。[illegible]俗ニ、はなひるニ、千萬歳ナド祝フモ、[illegible]ノ事ナリ」(二)今ハ、直チニ、はなひりヲ、くさめトモ云ヒ、書キ轉ジテ、くしゃみトモ云フ。ハクショ。[illegible]

くさもち (名) 草餅 (一)米粉ニ、よもぎノ葉ヲ搗キマゼテ、蒸シ作レル餅。或ハ、おほばこからしヲ加ヘテ、色ヲ添フ。ヨモギモチ。上巳ノ供トス。古ヘノ母子餅ノ遺ナリ。又、灌佛會ノ供トモス。艾糕 夫木抄、廿八、母子草「花ノ里、心モ知ラズ、春ノ野ニ、ハラハラ摘メル、ハハコモチヒゾ」[illegible]くさもち入レテ奉リテト」(二)田舍ノ賣淫婦ノ異名、草餅ヲ賣リ歩キタルニ起ルカ。

くさもちひ (名) 草餅 ははもちひノ條ヲ見ヨ。

くさや (名) 草屋 草葺ノ家。ワラヤ。カヤヤ。カヤブキ。茅屋

くさやき (名) 草燒 春時、畑ノ枯草ニ火ヲツケテ燒クコト。肥トナル。

くさやのひもの (名) 臭干物 干魚ノ一種、伊豆ノ七島ノ産、名アリ、多クハ、鯵ナリ、燒ケバ、異ナル臭氣アルヲ賞シテ食フ。

くさらかし (名) 腐 物ヲ、腐ルヤウニナス藥。

くさらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 腐 〔くさる(腐)ノ他動、燻ゆる、くゆらかす。すべる、すべらかす〕腐ラシム。[illegible]腐ルヤウニ[illegible]。[illegible]抄、八、アミタメケル網ヲ打チステテ、くさらかしタルニ[illegible]」

くさり (名) 腐 クサルコト。腐リタル處。クサレ。腐敗。

くさり (名) 鎖 鏁 鎻 (一)〔[illegible]リタルモノ〕環ト環ト、相貫キタルモノ。カナツガリ。字鏡「鎖、鎖、鏁、久佐利」[illegible]抄、十五[illegible]馬具[illegible]久佐利」(二)又、環ヲ、數多連ネテ、長キ綱トシタルモノ。仁德紀、四十一年三月「以鐵鎖(ノクサリ)縛ニ酒君ニ」繼體紀、廿四年九月[illegible](三)又、平カニ編ミ連ネタルモノヲモ云フ。太平記、三、笠置軍[illegible]陶山小見山夜討[illegible]鎖ノ下ニ、[illegible]カ、[illegible]カヲ重テ着タレバコソ、前ノ矢ヲ[illegible]ナガラ、此ヲ射ヨトハ叩クラン」「くさり帷子」「くさり袴」(四)繋ギ合ハスルモノ。〔古語ノ係結ヲ、くさりト云フ、文字ぐさりノ歌アリ。

くさり [illegible] 〔鎖ノ義ニテ、一段落ノ意カ〕諸物、遊藝、ナドノ、一段ヲ云フ語。閑 浮世床、文化、[illegible]二編、下[illegible]さり聞テカラノ直打ダ」「手品、一くさり」

くさりあ・ふ (動) 鏈合 鏈る(自動)ノ(二)ヲ見ヨ。

くさりかたびら (名) 鏈帷子 細カキ鏈ヲ、平ニ綴リ合ハセテ作レル衣、甲トシ、下着ニ用キル。鎖甲 又、鏈袴モ、同ジ。[illegible]

くさりがま (名) 鏈鎌 武器、鎌ノ柄ニ、一尺八寸ナルニ、一丈二尺ノ鏈ヲツケ、鏈ノ他端ニ、分銅ヲツケタルモノ。分銅ヲ投ゲヤリテ、鏈ヲ敵ノ武器ニ卷キツカセ、モギトリテ、鎌ヲ打チコム。太閤記、三國

咲合戰]「越後方ノ士、宇佐美兵左衛門、鎖鎌ヲ振テ、上方勢ノ盤坂助太夫ヲ討ツ」

くさり-つ・く (動) [鏈着] 鏈る(自動)ノ(二)ヲ見ヨ。

くさり-ばかま (名) [鏈袴] くさりかたびらノ條ヲ見ヨ。

くさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [腐] 〔くたる(腐)ト通ズ、くた(朽)ノ條ヲ見ヨ、豐後國風土記ニ、直入郡、球覃鄕ハ、臭泉ノ訛ナリトアリ、ふたぐ、ふさぐ。大雨、ひさめモ、相通ズ〕 (一)〔暑、濕、等ニイタメラレテ、傷ル。餒ル。餲ユ。(肉、飯、果、ナドニ) 字鏡廿九「餒、伊比久佐禮利」 (二)〔臟ミ、爛ル。(身體ニ) 垂仁紀、廿八年十一月「集ニ近習者ヲ悉生而埋ニ立於陵城、數日不ニ死、晝夜泣吟、遂死而爛臰之」「瓜持ガくさる」月がくさる」 (三)朽ツ。(樹ニ) 「敷居、くさる」立木、くさる」 (四)鏽ビ、朽ツ。酸化ス。(金屬ニ) 「金網、くさる」 (五)性根ヲ失フ。用ニ堪ヘズナル。大鏡、中、伊尹、秀句「くさりタル讃岐ノ前司、フル受領ノ、鼓ウチソコナヒテ、立チタマヒタルゾカシト放言シ」「氣ガくさる」根性ガ、くさる」 (六)關西ノ俗語ニ、動詞ノ下ニツケテ、動作ヲ貶シ罵ル意ヲ云フ。(やあがるノ條ヲ併セ見ヨ) 丹波與作(寶永、近松作)中「横腹ヲ蹈ミくさる」「言ヒくさる」見くさる」行キくさる」

くさ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [腐] 〔四段、下一段、同意ノ語、亂る、みだるる。垂る、たるる。漏る、もるる〕 前條ノ語ニ同ジ。

くさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [鏈] (一)ツナガル。ツガル。發心集、四、第八條「蛇ト、モ、共ニ、僅カニ遁レウカリテ、次第ニ、くさりツラナリツツ、イクラトモナク、ワダカマリ」 (二)狎レツク。クッツク。ヒッツク。專ラ、男女、狎レ合ヒテ、不義ノ情ヲ通ズル意ニ云ヒ、くさりあふ、くさりつくナドトモ云フ。音ヲ轉ジテ、くされつくトモ云ヒ、くされあひ、くされ緣ナドモ云ヒテ、腐れノ意ニ移ス。嫗山姥(正德、近松作)「若イ女ニ立チマジハリ、三味線逗イテ居ケツカリ、くさりくさるヲ見ルヤウナ」曾根崎心中(元祿、近松作)「觀音廻「蜆川ノ、天滿屋ノ初メトヤラト、くさりあひ」信州川中島合戰(享保、近松作)ニ「タトヒ二人、腐りつきタル御中ナリトモ、一旦、緣切ラセ」

くさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [鏈鑹] 〔前條ノ語ト、自、他、同活用ナリ、いたはる、ます、まるナドト、同ジ〕 (一)〔綴リ、繫グ。ツガル。名義抄「鑹、クサル」 堀河太郎百首、夏「神山ノ、園ノ葵ヲ、くさりツツ、今日ノ御安禮ニ、カサシツルカナ」 三部抄(黄門定家)「其縅目縅目ヲ、くさりアヤツリテ」 (二)鎧ノ札ヲ、綴リツク。 和漢三才圖會、廿、兵器、甲「胴、草摺之中、皆有ニ札綴之數、謂ニ之鏈、久左留、連綴之義也」

くされ (名) [腐] (一)クサルルコト。クサリ。いッそのくされ、毀してしまはうナド云フハ、やぶれかぶれノ意ナリ。 (二)熟語トシテ、罵ル意トナル。「くされ儒者」くされ女」

くされ-あひ (名) [腐合] 〔鏈る(自動)ノ(二)ヲ見ヨ〕 男女、不義ノ情ヲ通ズルコト。クッツキアヒ。

くされ-いち (名) [腐市] 〔元ハ、專ラ、掛鯛ヲ賣リシナルベシ、遠ク、伊勢ヨリ來ル鹽鯛ニテ、臭氣アレバ、腐れト云フトゾ〕 東京、日本橋區、大傳馬町、一町目ニ、夷神社アリ、其辻、四方數町ノ間ニ、每年、十月十九日、夷講ノ前日、祭供ノ掛鯛ヲ初トシテ、雜貨、飮食物、植木、ナド賣ル市、時候ノ淺漬大根ヲモ、糠、麴ヲ洗ハズシテ賣ル、買フ者、繩ニテ提ゲテ歸ル、物ニ觸ルレバ、糠ノ、べッたりトツクコトアレバ、べッたら市トモ云フ。

くされ-えん (名) [腐緣] 〔鏈る(自動)ノ(二)ヲ見ヨ〕 男女、不義ノ情交。

くされ-じゅしゃ (名) [腐儒者] 〔藪醫者ト、同趣ノ語〕 事理ニ迂闊ナル儒者ヲ、罵リテ云フ語。腐儒

くさ-レダマ (名) [草連玉] 〔草本ノれだまノ意ナルベシ〕 ゆわうさうニ同ジ。

くされ-つ・く (動) [腐着] くさる(鏈)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くされ-をんな (名) [腐女] 事理ヲ辨ゼザル婦女ヲ、罵リテ云フ語。 心中天網島(享保、近松作)中「太兵衛メニ請ケ出サルル、腐れ女ノ、四ツ足メニ」

くさ-わき (名) [草別] 〔別く(四段)ノ條ヲ見ヨ、胸前ニテ、野草ヲ押シ別ケテ行クトコロノ義〕 馬、又、鹿ノ胸前。又、くさわけ。 平家物語、十、藤戸事「馬ノくさわき、胸繫ヅクシ、太腹ニツク所モアリ、鞍壺越ス所モアリ」(海ヲ渡ルニ、海水ノ深サヲ云フ) 異本、曾我物語、一、赤澤山藤事「柏木高ク、馬ノくさわき、傍腹ニツクホドニ、茂リ生ヒタチ」 盛衰記、三十六、清章射レ鹿事「高市武者所清章、鹿ヲ射留ム「草分ノ甲、背肉ノハヅレ」云云、鹿ノ肉ニハ佳キ所ゾ、鹿兪へ、(殿原」

くさ-わけ (名) [草分] (一)野路ナドノ、草茂キ處ヲ、分ケ行クコト。 玉葉集、四、秋、上「狩人ノ、草分け衣、干シモアヘズ、秋ノ嵯峨野ノ、四方ノ白露」 (二)くさわきニ同ジ、前條ヲ見ヨ。 (三)草深キ荒地ヲ、始メテ切リ開キテ、一村、一町ヲ立テタルコト。クサムスビ。草創 「くさわけノ名主」くさわけノ百姓」 (四)轉ジテ、何事ニモ、事ヲ、始メテ起スコト。發起。

くさ-ゐ-なき (名) [野猪黃] 〔草猪の黃ノ義カ、家猪ニ對シテ、野猪ヲ、草猪ト云ヘルナルベシ(水源、みなもと。手、心、たなごころ)黃ハ、腦ナリ、拾遺記「善別レ馬者、死則破ニ其腦ニ視レ之、云云、腦色黃、日行千里」玉子ノ黃身ヲ鷄子黃ト云ヒ、蟹ノ腦ヲ蟹黃ト云フ〕 野猪ノ腦ヲ、藥用トスル語ナルベシ。 本草、獸部、下品「野猪黃」 本草和名、下、十三「野猪黃、久佐爲奈岐」 倭名抄、十八、廿毛群名「本草云、野猪、久佐井奈岐」ニ(直チニ野猪トセシハ、誤レリ) 八雲御抄、三、下ニ「猯、クサヰナキ」トアルハ、玉篇ニ「猯、野猪也」トアルニ、混ゼラレタルナルベシ。

くし (名) 酒ノ事トスル說アリ、ソレハ、古事記、中(神功)六十ニ、少彥名命ニ「久志ノ神」ト見エ、同卷(應神)七十五ニ「具志ニ、我レハ醉ヒニケリ」トアル、久志、具志、ヲ、酒ナリト云フナリ、然レドモ、久志の神ハ、藥ノ神ナリ、具志ハ、許許呂具志(其條ヲ見ヨ)ノ脫字ナリト云フ說アレバ、酒ト云フ語、成立タズ。くしのかみ、幷ニ、ささなぐしノ條ヲ見ヨ。

くし (名) [串] 〔朝鮮語ニ、こヒト云フ、串ハ、丳ノ省畫字、正韻「丳、楓絹切、物相連貫也、與レ穿通」同「丳、楚簡切、燔レ肉器」韓愈、賭ニ張籍ニ詩「如ニ以レ肉貫ニ丳」〕 (一)〔竹木ヲ、細長ク作リ、物ヲ刺シ貫クニ用キル具。籤 鐵ニテ、箸ノ如ク作リ、魚肉ナド貫キテ、燒クニ用キルアリ、鐵串ト云フ。丳 古語拾遺、葉菱鳴神ノ毀畔ノ條ニ刺串注「久志佐志」倭名抄、十四、廿四「聤聤具「籤、細削竹也、太介乃久之」辟、炙、完畔也、夜以久之」(燒串ノ音便) (二)幕串ノ略、其條ヲ見ヨ。

(三)的串ノ條、[illegible]ヲ見ヨ。

くし (名) 【櫛】 〔串ト通ズ、髮ニ插すモノノ[illegible]〕[illegible]ニ、[illegible]ヲ插ストコロノ[illegible]、[illegible]ト云ヒ、又、[illegible]ヲ、髮ノ生フルトコロノ首ヲ、御首ト云フ、盌ニ盛ルモノノ、水トナリ、筒ニ盛ルモノノ、[illegible]トナルガ如シ〕 髮ニ插シテ、飾リトシ、又、髮ヲ梳ルニ用ヰル具、[illegible]ノ歯ヲ密ニ並ベ作ル、上代ナルハ、削竹ヲ集メテ作リ、且、大キカリシモノノ如シ。齒又、黃楊、蚊母樹、ナドノ材ヲ挽キテ、齒ヲ作ルハ、[illegible]ニ用ヰ、後世ハ、沈香木、象牙、[illegible]、今ハ、又、[illegible]ナドニテ作ルハ、飾リトシ、背ヲ、みねト云ヒ、左右ノ端ノ齒、[illegible]、[illegible]歯、トイフ、其形モ、種種ナリ、其用ニ因リテ、插櫛、粗櫛、[illegible]、梳櫛、水櫛、唐櫛、[illegible]、ナドアリ、各條ニ注ス、 [illegible]

くし (名) 【髮】 みぐし(御髮)ヲ見ヨ。

くし (名) 【首】 みぐし(御首)ヲ見ヨ。

く-ぢ (名) 【[illegible]】 ムシバ。ウシ。 [illegible]

く-ぢ (名) 【驅使】 オヒ、ツカフコト。 [illegible]

くじ (二) 【屈】 屈すノ連用形、屈す(自動)ノ條ヲ見ヨ。

くし・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【奇】 〔異ト通ズ〕 異シ。クスシ。クスハシ。靈妙ナリ。奇異ナリ。 神代紀、上 [illegible]

く-じ (名) 【公事】 (一)オホヤケゴト。スベテ、朝廷ニテ行ハセラルル政務、諸儀式ノ稱。 [illegible] 二月ノ追儺マデ、年中ノ儀式、諸祭事、ヲ記セリ。 (二)官ノ、夫役、課役、等ヲ務ムルコト。 [illegible] (三)ウッタヘ。訴訟。出入(裁判ノ、公務ノ意カ、或ハ、公文事ノ略カ、訴訟ヲ司ル公文職アリ) [illegible] 代言人ヲ、公事師ト云フ。

く-じ (名) 【鬮】 〔鬮子ノ呉音(子ハ、障子、瓶子ノ類)此字ヲ用ヰルハ、集韻ニ「鬮、鬭取」トブニ因ル〕 數多ノ竹木片、又ハ、紙片ニ、標ヲツケオキテ、人ニ知ラシメズシテ、抽キ取ラシムルモノ、標ナキヲ、白くぢト云フ、運ニ任セテ、事ヲ定ムルニスル事ナリ、古ヘノト串ノ遺ナリ。神ニ伺ヒテ取ルヲ、御くぢト云フ。(其條ヲ見ヨ) 籤 コレヲ抽クヲ、取る、又、引くト云ヒ、引くコトヲ、くぢびきト云フ。 抽籤 [illegible]

く-じ (名) 孔子 (一)孔子ノ呉音 (其條ヲ見ヨ) [illegible] (二)前條ノ當字、其條ヲ見ヨ。

く-じ (名) 【九字】 〔抱朴子、内篇、登渉篇ニ、山ニ入ル六甲秘祝トテ「臨兵闘者、皆陳列前行」ノ九字ヲ祝ストアリ、太公望ノ軍術ナリト云フ、是レヨリ移ル〕 呪法ノ名、臨兵闘者、皆陳列在前ノ九字ノ稱、元ト、道家ニテ唱ヘテ、邪魅ヲ避クル厭勝トシタルヲ、眞言宗、修驗道ニ傳ヘテ、此九字ヲ唱ヘナガラ、印ヲ結ビツツ、指頭ニテ、虛空中ニ、[illegible]ノ如ク、四縱線、五橫線、ヲ畫ク、コレヲ、九字を切るト云ヒ、(或ハ、下ニ、行ノ字ヲ加ヘテ、十字トス)九字護身法、又、縱橫の秘法、又、九字の大事ト稱シ、一切ノ災禍ヲ拂フトス、兵家ニモ移リテ、コレヲ行フ、武士ノ具足櫃ニ、前ノ字ヲ書ス、其字、九畫ナレバ、九字ニ寄スト云フ。 [illegible]野萬年草(寶永、近松作)上「九字護身法傳授シテ、禮拜、化度モ勤ムレバ」

く-じ (名) 【九時】 こゝのつどきノ條ヲ見ヨ。

ぐ-じ (名) 【五四】 雙六ノ語、賽目ニ、五ト、四ノ出デタルコト。さいのめノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

くじ-あひて (名) 【公事相手】 訴訟ノ相手方、 [illegible]「[illegible]、正シク、所領ノ敵ナレドモ」

くし-うら (名) 【櫛占】 古へ、女子、黃楊ノ櫛ヲ持チテ辻ニ出デ、境ヲ作リ、三度、櫛ノ齒ヲ鳴ラシテ後、境ニ入リ來ル人ノ言語ヲ聞キテ、吉凶ヲ占ヘルコトナリト云フ。(歌林良材集) [illegible] 黃楊ノ小櫛ノ、占ヲシテ、ツレナキ人ヲ、ナホ[illegible]

くじ-か (名) 【麕】 〔くハ、麕ノ音轉ナラム(庭訓、ていきん。汗衫、かざみ。案内、あない)〕 鹿ニ似テ、小サクシテ、角ナク、毛ノ、黃黑ナルモノ、雄ニ牙アリ、皮、極メテ柔ニシテ、用、多シト云フ、和產、無シ、 [illegible]

くし-がき (名) 【串柿】 晒柿ノ、竹串ニ貫キタルモノ、安藝ノ西條柿、名アリ。 [illegible]「[illegible]、クシガキ」

くし-がた (名) 【櫛形】 〔古製ノ櫛ノ背ノ形〕 (一)山形、卽チ、半圓ヲナスモノ。 [illegible] (二)窓ノ形ニモ云ヒ、火燈口ノ上部ニモ云フ。 (三)次次條ヲ見ヨ。

くじ-がた (名) 【公事方】 〔公事ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 武家ニ、訴訟ノ事ヲ掌ル職。 [illegible]

くしがた-の-あな (名) 【櫛形穴】 清涼殿ノ南ノ、鬼間ノ東南隅、晝御座ノ西南隅ノ壁ニ、柱ヲ中心トシテ、設ケラレアル小窓、形、櫛形、卽チ、半圓形ヲ成ス橫[illegible]

子ナリ、殿上間ニ奉仕スル近侍ノ者ヲ見ソナハスタメニ設ケテアルモノト云フ。禁腋秘抄「清涼殿「鬼間ノアハヒノ柱ヲハサメテ、櫛形の穴アリ」 平治物語、一、光頼卿參內事「朝餉ノ方ニ人音ノシ、櫛形の穴ニ人影ノシツルハ、何者ゾ」 徒然草、三十三段「閑院殿ノくしがたの穴ハ、圓ク、縁モナクテゾアリシ」

〔くしき (形) 奇 くし(奇)ノ條ヲ見ヨ。

くじき (名) 挫 (一)クジクコト。(二)骨ヲ、挫キ傷メタルコト。挫傷

〔くしく (形) 奇 くし(奇)ノ條ヲ見ヨ。

くじ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 挫 (一)〔折リ、傷ツク。曲ゲ、摧ク。字鏡「折曲、久自久」名義抄「挫、折、クジク」「骨ヲ挫く」 (二)勢ヲ抑フ。氣ヲ失ハス。ヨワラス。「兵氣ヲ挫く」「議論ヲ挫く」

くじ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 挫 〔前條ノ語ノ自動、裂く、さくる。碎く、くだくる〕 (一)折レ、傷ツク。曲ガリ、摧クル。(二)ヨワル。氣ヲ失フ。屈ス。「勢挫く」

ぐし-ぐし (副) 〔ぐちぐちノ轉ナルベキカ、其條ヲ見ヨ、恚恚まる、ちぢまる。ぐちゃぐちゃ、ぐしゃぐしゃ〕 勢ノ無キ意ヲ云フ語ナルベキカ。 出世景清(貞享、近松作)二「さ くトモセヌ丁稚メガ、手柄シサウニ見エケレドモ、ぐしぐしトナリケルハ、誠ニ愚人夏ノ蟲」 世話詞 明鑑、雙六「雙六ノ蟲、ぐしぐし腹ノ、立ツバカリ」(でっく、でっち、ぐしハ、雙六ノ采目ノ疊五、疊一、五四、二言ヒカケタルナリ、さいのめノ條ヲ見ヨ、下端ニ、疊二、五四ノ出デタル時ノロズサミ「ぐしぐしト、鳴クハ深山ノ、時鳥」)

〔くしげ (名) 櫛笥 〔笥ノ條ヲ見ヨ〕 婦人ノ、櫛、其外ノ、假粧ノ具ヲ入レオク筥。クシバコ。 崇神紀、十年九月「櫛笥」 萬葉集、九廿「君ナクバ、ナゾ身裝ハム、匣ナル、黃楊ノ小櫛モ、取ラムト思ハズ」「御くしげ」「玉くしげ」「唐くしげ」

〔くし-けづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 梳 〔くしハ、御髮ノくしカ〕 梳ル。スク。(髮ヲ) 九條殿遺誡「先起、稱二屬星名號一云云、次、服レ粥、次、梳レ頭」 吾妻鏡、一、治承四年九月十九日「昔藤原秀郷、僞稱下可レ列二門客一之由上、入二彼陣一之處、將門喜悅之餘、不レ整二所レ梳之髮一、即引二入烏帽子一謁レ之」

✣ぐじ・ける (動) 挫 くじく(下二段)ノ口語。

くし-こ (名) 串海鼠 いりこノ條ヲ見ヨ。

くじ-ごしんぽふ (名) 九字護身法 くじ(九字)ノ條ヲ見ヨ。

くしざし (名) 串刺 (一)物、二ツ、三ツ、串、又ハ、刀ナドニテ、刺シ貫クコト。(二)獄門ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

〔くし-さ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 串刺 〔串ハ、木札ノ意ナルベシ〕 人ノ耕レル田ニ、我ガ田札ヲ刺シ立ツ。我ガ所有ナリト爭フ意ナリト云フ。 古語拾遺「素戔嗚神、奉レ爲二日神一、行甚無狀、種種凌侮、所レ謂、云云、重二播種子一、刺レ串、云云 註「久志佐志」當二日神耕種之節一、竊往二其田一、刺レ串相爭」 神代紀、上、二十「素戔嗚尊、妬二害姉田一云云、插レ籤、伏レ馬」插籤、此云二久斯社志一」 口訣「插籤者、春二人畔一、立二己標一也」 纂疏、今世所レ謂、田札也」 大祓詞「頻蒔、串刺」(是レハ、名詞形ナリ)

〔くし-ざ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 串刺 屍ヲ斬リ、串ニ貫キテ、晒物ニス。梟 崇峻即位前紀「捕鳥部萬、云云、刺レ頸死焉、云云、朝廷下レ符稱、斬二之八段一、散二梟八國一」 靈異記、中、第四十緣、其山多有二狐子一、奴捉二狐子一、用レ木刺レ串、立二其穴戶一」

くじ-ざた (名) 公事沙汰 訴訟事件。訴訟ノ裁決。 甲陽軍鑑、十七、品第四十七「公事沙汰、人ノ存ズルニ違ヒタル落著」

くじ-し (名) 公事師 〔公事ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 江戸時代、人ニ代ハリテ、訴訟ノ事ヲ扱フヲ業トスル者。代言人。訟師

くし-だとう (名) 櫛疊 〔たたうハ、たたうがみノ下略〕 下女ナドノ、解櫛、すき櫛、毛筋立、ナド、入ルルニ用キル具。澁ヲ引キタル厚紙ニ、折目ヲツケテ、四ツニタタム。

くじ-づつ (名) 鬮筒 〔卜串ノ條ヲ見ヨ〕 木竹造ノ鬮ヲ入レオク竹筒、又ハ、小匣。密閉シテ、穴アリ、鬮ヲ振リ出ス、寺社ノ御鬮ナドニ用キル。

くじ-とり (名) 鬮取 〔鬮ノ條ヲ見ヨ〕 鬮ヲ取ルコト。鬮ニテ、事ヲ定ムルコト。クジビキ。拈鬮子 狂言記、鬮罪人「罪人ニハ、ナリテガ御座ルマイ、ソレハ、云云、くじ取ニ致シマショ」

〔くし-の-かみ (名) 藥神 〔藥神ノ轉、くすりノ語原ヲ見ヨ、或ハ云フ、くしハ、くすりノ約〕 醫藥ノ神、即チ、少彥名命。 古事記、中(仲哀)六十「長歌「此御酒ハ、我ガ御酒ナラズ、久志能加美、常世ニ座ス、岩タタス、少名御神ノ、云云、御酒ゾ」 神代ニ、大己貴命、少彥名命、療病ノ方ヲ定メタマヒキ、延喜式、神名帳ニ、常陸國、大洗磯前藥師菩薩神社、見エ、文德實錄、八、齊衡三年十二月ニ、大洗磯前ノ神「憑レ人云、我是大奈母知、少比古奈命也、云云」ト見エタリ。

〔くじ-の-たふれ (名) 孔子仆 〔くじハ、孔子ノ呉音〕 聖人タル孔子ニスラ、時トシテハ、過チアリト云フ語。莊子、盜跖篇ニ、孔子、盜跖ニ反詰セラレテ、歸リトアルニ因ル、此語、弘法ニモ筆ノアヤマリ、千慮ノ一失、ナドノ意ニ用キラル。 宇治拾遺、十五、十二條、孔子、盜跖ノ惡行ヲ敎訓シテ、烈シク反詰セラレテ「座ヲ立チテ、急ギ出デテ、馬ニ乘リタマフニ、云云、鐙ヲ頻リニ踏ミハヅス、コレヲ世ノ人、孔子たふれスト云フナリ」 源、廿四、胡蝶註「戀ノ山ニハ、くじのたふれ」 古本、義經記、五、吉野落事「辨慶、川ニ陷ル「過チハ常ノ事、くじのたふれト申スコト候ハズヤ、ト狂言ヲゾ申シケル」

くじ-の-やく (名) 鬮役 孔子役 〔孔子ハ、鬮ノ當字ナリ〕 室町幕府ニテ、評定始メアル時、評定ノ發言スル人ヲ、鬮取ニテ定ム、其鬮ヲ出ス役ノ人。(貞丈雜記、四、孔子之役) 室町日記、二、應安五年十一月廿二日「御評定被二始行一之、云云、鬮子、飯尾右近將監」 同、六年十二月十二日「御評定始、云云、孔子、諏方左近將監」(同上)

くし-ばこ (名) 櫛匣 クシゲ。梳ル具ヲ納レオク匣。梳匣 吾妻鏡、十八、元久二年三月十六日「扇三十六本、櫛箱等」

〔くし-はらひ (名) 櫛拂 櫛ノ齒ニタマル髮ノ垢ヲ、拂ヒ去ル刷子。梳帚 天治字鏡、十二ノ廿「刷子、久志波良比」

〔くしび (名) 靈 クシビタルコト。奇シキコト。 孝德紀、大化二年八月「萬物之內、人是最靈」

くし-ひき (名) 櫛挽 櫛ヲ、挽キ造ル工人。 七十一番職人盡歌合(文安)四十二番、櫛引「先ヅ、是レバカリ挽キテ、鋸ノ目ヲキラム」

くじ-びき (名) 鬮引 くじとりニ同ジ。鬮ノ條ヲモ見ヨ。

く-しふ (名) 句集 俳諧、發句、ノ書。歌集、詩集、ニ對ス。「芭蕉句集」「蕪村句集」

くし-ぶ（ナル・ナレ・ビ・ビ・ビフ）（自動）[illegible] 奇[illegible]シキ、仍テ、怪シミ、久志備マシキ」

くじふく-わうじ (名) 九十九王子 熊野三所權現ヲ見ヨ。

くじ-ふだ (名) 鬮札 鬮トシテ用ヰル札。

くし-まき (名) 櫛卷 少女ノ髮風、結髮ノ頂後ニ、櫛ヲ横ニシテ、コレニ、巻キテ結ヒタルモノ。「武野信春[illegible]中、鹿子寺地内ノお稲荷屋ニ、茶屋お六トテ、名題ノ女アリ、常ニ髮ヲ櫛ニシタリ、上手ニテ、櫛ノ堂シマニ[illegible]コミテ結ヒケル、くし卷ト名付ク、此マネヲシテ、江戸中ノ女、結フコトトナリタリ」

くし-みたま (名) 奇御魂 あらみたまノ條ヲ見ヨ。

く-しん (名) 苦心 深ク、心ヅカヒスルコト。[illegible]

く-しん (名) 苦辛 辛苦ニ同ジ。[illegible]

く-じん (名) 苦參 草ノ名。クララ。

ぐ-しん (名) 具申 具ニ、事情ヲ記シテ、上申スルコト。具狀。

ぐ-じん (名) 愚人 オロカナルヒト。アハウ。バカモノ。[illegible]

くじん-じる (名) 苦參汁 苦參ノ根汁ヲ[illegible]テ漉キタル汁、苦味ヲ具ス、蠅ヲ防グコト、黄蘗[illegible]ノ如シ、阿波國ニテ、明治以前マデ製出シタリト云フ。[illegible]

クシャ (名) 俱舍 くしゃしゅう(俱舍宗)ヲ見ヨ。

ぐ-しゃ (名) 愚者 オロカナルモノ。アハウ。愚人。「中庸、愚者不及也」史記、淮陰侯傳「愚者千慮必有一得」[illegible]

く-しゃう (名) 蒟醬 (一)ワタタビ。(二)キンマ。

く-じゃう (名) 公請 官命ニ因リテ、講論ヲ請求セラルルコト。コレニ出ヅル僧ヲ、公請僧トイフ。「僧綱、内供奉、ナドト同ジク、職名ノ如シ。」平家物語、二、座主流事「天台座主明雲大僧正、公請ヲ停止セラルル上、云云、御持僧ノ改易セラル」著聞集、二、釋教「千觀内供ハ、顯密碩學ノ人ニテ、公請ニモ從ヒケリ」

く-じゃう (名) 苦情 難儀ナリトスル事情。不平ノ心。「苦情ヲ申立ツ」

ぐ-しゃう (名) 具象 具體ニ同ジ。

ぐ-じゃう (名) 具狀 具申ノ文書。

くしゃう-じん (名) 俱生神 佛教ニ、人ノ生ルル時ヨリ附キ添ヒテ、其善惡ノ所業ヲ記スト云フ、男女ノ神ノ名、男神ハ、左肩ニアリテ、善行ヲ記シ、女神ハ、右肩ニアリテ、惡業ヲ錄スト云フ。無量壽經、註「人初生時、二人神在左右肩云云、人不見神[illegible]」

くじゃう-そう (名) 公請僧 くじゃう(公請)ノ條ヲ見ヨ。

くじゃう-にょらい (名) 久成如來 [久成如來] 本地ノ如來。垂跡、權化スルヲ、新成如來ト云フ。

くじゃう-むじゃうぼだい (句) 求成無上菩提 [無上菩提トハ、正覺、即チ、佛果ノコトナリ] 佛果ヲ成就セムコトヲ求ム。「[illegible]五體ノ地ニ投ゲテ、一心ニ誠ヲ致シテ、道心堅固ゾ、くじゃうむじゃうぼだいトゾ祈リケル」

く-しゃく (名) 拘惜 [拘ヘ惜しむノ義] 庇護スルコト。(鎌倉時代ニテ、文書、記錄、等ニ記スル語)

く-じゃく (名) 孔雀 又、くざく。鳥ノ名、熱國ノ產、舶來ス、雄ハ、形、長大ニシテ、高サ三四尺、羽ノ色、五彩ニシテ、美麗ナリ、頂ニ、三四寸ノ、綠ナル長キ羽アリ、尾、甚ダ長ク、其羽ノ端ニ、金色ニシテ翠ナル、珠ノ斑アリ、尾ヲ披ケバ、大ナル團扇ノ如クニシテ、最モ美ナリ、然レドモ、頂、尾ノ羽、共ニ、大毒アリト云フ、雌ハ、母鷄ノ形ニシテ、大キク、尾、短ク、珠ナシ。[illegible]七ニ孔雀、俗云宮尺」(下總本、作宮佐久)毛(尾)端圓一寸許、謂之珠毛」宇津保物語、藏開、上「[illegible]鳥籠、云云、右近ノ陣ヨリ、くざくヲ出ス、云云、とりモ、折レカヘリテ舞フニ」雅亮裝束抄、「くざくノ圓ヲ、イロイロニ書キ」

くじゃく-がひ (名) 孔雀貝 [殼ノ色、孔雀ノ尾ノ珠ニ似タリ] 介ノ名、殼ノ頂、尖リテ、表面、綠色ニテ、光ル。ウグヒスガヒ。

✣ぐしゃ-くしゃ (副) [くたくた、くちゃくちゃノ轉(消ち、けし。縮む、ちぢむ)其條ヲ見ヨ] (一)クチャクチャ。紙ナドノ、甚シク皺ミタルニ云フ語。「羽織ガ、くしゃくしゃニナル」濡レタルニハ、濁音ニ、ぐしゃぐしゃト云フ。名詞ニ、ぐしょぬれト云フモ、是レナリ。(二)轉ジテ、思ヒ亂レテ、堪ヘラレヌニ云フ語。「胸ガ、くしゃくしゃスル」

✣ぐしゃ-ぐしゃ (副) 前條ヲ見ヨ。

くじゃく-せき (名) 孔雀石 [孔雀ノ尾ノ珠ノ色ノ如シ] いはろくしゃうノ、上品ナルモノ、蝦蟇ノ背ノ如キ凸凹アリ、鮮綠ニシテ、光ル。(綠青ノ條ヲ見ヨ) 蝦蟇背石綠

く-しゃく-にけん (名) 九尺二間 [長屋ノ内ヲ、間口、九尺、奥行、二間ニ仕切リタル家] 極メテ狹キ家。下等民ノ住家。

くじゃく-みゃうわう (名) 孔雀明王 佛像ノ、孔雀ノ上ニ駕スルモノヲ圖ス、四臂ニシテ、蓮華、具綠果、吉祥果、孔雀羽、ヲ持ツ、釋迦ノ一變體ナリト云フ、此佛ノ神呪ヲ說ケル經典ヲ、孔雀經ト云ヒ、眞言宗ニテ、此佛ヲ本尊トスル修法ヲ、孔雀明王法、又、孔雀經法ト云フ。著聞集、二、釋教「[illegible]ノ寺、云云、金堂ノ丈六ノ彌勒ノ御身ノ中ニ、金銅一搩手半ノ孔雀明王像、體ヲ籠メ奉ル」[illegible]記、廿八、役行者事、「孔雀明王ノ法ヲ修行スルコト、三十餘年ナリ」

くじゃくみゃうわう-の-ほふ (名) 孔雀明王法 前條ヲ見ヨ。

クシャ-しゅう (名) 俱舍宗 [くしゃハ、梵語、阿毘(對)達法(法)俱舍(藏) Abhi-dharma-kōsa.ノ略] 佛教八宗ノ一。世

親菩薩ノ、倶舍論ト云フ經ヲ所依トス、奈良朝ノ頃、僧玄昉、入唐シテ傳ヘ來テ、唱道セリ、小乘敎ナリ。略シテ、くしゃ。くさ。 枕草子、六、五十八段「經ノ端ヲ讀ミ、くさノ呪ヲ、少シ言ヒツヅケ」 今鏡、上、花園のにほひ「くさ頌ナド、徳ク讀マセタマヒテ」 盛衰記、五、澄憲賜血脈事「倶舍、成實ノ性相ヨリ、法相、天台ノ深義ヲ極メ」

くじ-やど (名) 公事宿　江戸時代、地方ヨリ、江戸ニ出デテ訴訟スル者ノ、定宿トセシ旅店、江戸、馬喰町ニ多カリキ。

く-しゃ-み (名) 嚏　くさめノ轉、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

く-じゅ (名) 口授　クチウツシ。事ヲ、文書ニテハナク、言語ニテ、傳ヘ授クルコト。口傳。 漢書、藝文志「口授弟子、弟子退而異言」

く-じゅ (名) 口誦　口ニ言フコト。言語ニ誦フルコト。 後漢書、楊賜傳「口誦堯舜之言、身蹈絶俗之行」

く-しょ (名) 公所　役所。官衙 庭訓往來、八月「公所出仕、諸亭之經營」

く-しょ (名) 區處　區分シ、處置スルコト。 漢書、黄霸傳「具爲區處」

く-しょう (名) 口稱　クチヅカラ、念佛ヲ稱フルコト、 榮花物語、廿五、嶺月「阿彌陀ノ聖ノ、南無阿彌陀佛、南無阿彌陀佛ト、口稱遙カニ、聲ウチアゲタレバ」

✣**ぐしょ-ぬれ** (名) くしゃくしゃノ條ヲ見ヨ。

〜**くしり** (名) 釧　くしろノ條ヲ見ヨ。

〜**くじり** (名) 抉　物ノ結目ヲ、抉リテ解ク具。錐ノ如クニシテ、角、象牙、ナドニテ作ル。 [illegible] 和名抄、十五 [illegible]角鋭端、可以解[illegible]久之利」

〜**くじ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 抉　〔剜リ踩るノ略カ(鐫り剜る、ゑぐる。國栖、くず。土師、はぜ)掘ずニ通ズ〕 穿チ、エグル。コジル。 字鏡、八十「剜、久自利惡留」 名義抄「掘、ウガツ、クジル」「鑽、クジル」 字類抄「抉、クジル、抉眼」

〜**くしろ** (名) 釧　〔字鏡ニ「釧、久自利」トアリ(天治字鏡、同ジ)鑽るノ名詞形、くさりノ轉ナルベシ(手節、腕。石子、沙。禮代、ゐやぶり。被髮、童丱)玉釧、手玉、肘玉、ナド云ヒ、履中紀ニ、手鈴ナドモ見ユレバ、玉、又ハ、鈴ヲ鑽リツケタルガ元ナル名ナラム、正韻「釧、臂鐶也」說文「臂環也」倭名抄、十五、農耕具「鈲、加奈加岐」(鐵爪ノ合字、熊手ナリ)トアルニ、又「一云、久之呂」トアルハ、別ニ、釧ノ增畫字ナル、鈲アルト混ジタリ(萬葉集、一 三十二、𣜿ノ字ノ上ニ、一點ヲ加ヘ、同卷 六十二、櫃ノ字ニ二點ヲ加ヘタルナドアリ)萬葉集ニ「玉釼」トアルハ、金鈕ノ合字省畫ナリ(字鏡 六十二、紐トアリ)舊本古事記ニ「玉釵」トアルハ、其變體ニテ、(鞆、ノ靫類)萬葉集ニ「劍著」トアルハ、其誤寫ナリ〕 上古、臂ニ纏キテ、飾リトシタル輪ノ名。多クハ、左手ナリシガ如シ。又、くしり。古クハ、多ク、小玉、小鈴ヲ、ツケタリ。 字鏡 四十一「釧、太万支、又、久自利」 舊本、古事記、下「女鳥王、所纒御手之玉釵」 萬葉集、一 廿一「釧著、手節乃崎」 同、九 廿一「吾妹兒ハ、久志呂ニアラナム、左手ノ、吾ガ奧ノ手ニ、纏キテ往ナマシヲ」 同、十二 四「玉釼、卷キ寢ル妹モ、アラバコソ、夜ノ長ケキモ、歡シカルベキ」 箋注倭名抄、五 七十七「釧、久之路」 倭名抄、八 十、備中國、下道郡、釧代郷、久之呂(地名ヲ二字トスル制ニ因リテ、代ノ字ヲ加ヘタルナリ) 顕昭ノ袖中抄、十七、くしろ「內典ニハ、在指上名環、在臂上名釧」

〜**くしろ-つく** (枕) 釧著　〔前條ヲ見ヨ、釧ハ、腕頸ニツクルモノナレバ、手節ニカカル〕 手節ノ枕詞。 萬葉集、一 廿一「幸于伊勢國時歌」釧著、手節ノ崎ニ、今モカモ、大宮人ノ、玉藻刈ルラム」(釼ハ、釧ノ誤寫、前條ノ語原ヲ見ヨ、手節ノ崎ハ、志摩國、答志郷ニアリ)

〜**くす** (名) 藥　〔くすりノ下略、藥師、くすし。作田、つくだ。飾刀、かさだち〕 くすりニ同ジ、專ラ、熟語ニ用キラル。「藥師」藥殿」藥玉」

〜**くす** (名) 樟　くすのきノ略、其條ヲ見ヨ。

〜**く-す** (動) 屈　屈す(自動)ノ條ヲ見ヨ。

✣**く・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 越　〔おこすノ轉ナル、おくすノ上略、おどける、どうける(だうける)〕 致ス。ヨコス。來ス。 馬喰ノ鑑ト云フ書、債ヲ責ムル書「金三兩、馬代、右、馬代、くすカ、くさヌカ、コリャドウヂャ、くすト云フナラ、ソレデヨシ、くさヌニツケテハ、己ガ行ク、行クニツケテハ、只オカヌ、鑑ガ腕ニハ、骨ガアル」(洋洋社談、十四號)

くず (名) 葛　〔くず葛ト云フガ、正シキナルベシ、大和本草、六「葛粉ハ、吉野ヨリ出ヅルモノ、最モヨシ」本草綱目啓蒙、十四「葛粉、城州ニテハ、和州ノ芳野葛ヲ上品トス」トアリ、國栖葛ナルベキカト云フ、イカガ〕 (一)クズカヅラ。宿根ノ蔓草、山野ニ多シ、豆ノ類ナリ、春、生ズ、葉ハ、互生シテ、圓ク尖リ、一蔕ニ三葉ニシテ、ふぢまめ、又ハ、あづきノ葉ニ似タリ、蔓ト共ニ、褐色ノ毛、多シ、秋ノ初、梢ノ葉ノ間ニ、花穗ヲ出ス、三五寸ニシテ、垂レ、豆ノ花ニ似テ、紫赤ナリ、後ニ、莢ヲ結ブ、ささげまめニ似テ、狹ク薄シ、實、食フベカラズ、蔓、甚ダ強ク、ふぢかうり、又ハ、葛布ヲ製シ、又、根ニテ、葛粉ヲ製ス。(各條ニ注ス) 萬葉集、八 六十二、秋野ノ七種花ノ旋頭歌「萩ノ花、尾花、葛花、撫子ノ花、女郎花、又藤袴、朝顏ノ花」 同、十四 十一「久受葉」 倭名抄、廿 十一「葛、久須加豆良」 名義抄「葛、クズカヅラ」 (二)葛粉ノ略。(三)葛餡ノ略。(四)葛布ノ略。

〜**く-ず** (名) 國栖　くにすノ條ヲ見ヨ。

〜**ぐ・す**・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 具　〔字典「具、與倶通」〕 (一)トモナフ。連レ立ツ。伴隨 大和物語、中「此在次君ノ、一所ニぐしテ知リタリケル人、參河國ヨリ上ルトテ」 夫木抄、八、遷水ニ、螢ノ影ノ、戲ソ添フ、我ガ魂ヤ、行キテぐすラム」 (二)ツレアフ。ツレソフ。配偶 枕草子、五、五十段、くちをしきもの「イミジウスル人ノ、子生マデ、年頃、ぐしタル」

〜**ぐ・す**・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 具　〔廣韻「具、備也」〕 ソナハル。ソロフ。具備 宇津保物語、藏開、中 二十一「人ヒトリニ因リテ、父母、兄弟ぐしテ思ヒ歎クハ、イクソバクノ人ノナゲキゾ」

〜**ぐ・す**・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 具　〔前前條ノ語ノ他動〕 トモナフ、引キ連ル。具足ス。携帶 源、四、夕顏 十七「見ル身ヲぐしテ、出デタマフ」 山家集、上「モロトモニ、我レヲモぐしテ、散リネ花、憂キ世ヲ厭フ、心アル身ゾ」

〜**ぐ・す**・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 具　〔前前條ノ語ノ他動〕 ソナフ。ソロフル。陳設 源、十五、蓬生 十五「御髮ノ落チタリケルヲ取リアツメテ、鬘ニシタマヘル、云云、匣ニ入レテ、昔シノ薰衣香ノ、イトカウバシキ一壺、ぐしテ賜フ」 落窪物語、四「ハヤハヤト、硯、紙、ぐしテ責メタマフ」

くず-アン (名) 葛餡　〔あん(餡)ノ條ヲ

見ヨ」竹筒ニ、[illegible]山ニ、少シノ砂糖ヲ加ヘ、[illegible]其上ニ一倍ノ煮出汁ヲ[illegible]、くず[illegible]ヲ水溶ニシタルヲ流シコミ、どろどろニナルホド煉リタルモノ。或ハ、かたくり粉、わらびの粉ニテスルモアリ、食物ニカケテ用キル。略シテ、あん。「あんカケ豆腐」あんかけ饂飩」又、葛粉ヲ、少シ用キテ、稀薄ニシタルアリ、コレハ、ソノママ、肉菜ヲ入レ、汁物トス、薄葛あんト云ヒ、略シテ、うすくずト云フ。「冬瓜ノうすくず」

くずかづら（名）葛ノ條ヲ見ヨ。

くずきり（名）［葛切］くずねりノ條ヲ見ヨ。

ぐぜく（名）城［御宿ノ音轉ナリト云ノ宿、宿世、敬稱ナリ］沖繩ニテ、城。「中城、讀兒城」

くすくす（副）［おそおそノ轉、おそぐる、くすぐる］忍ビテ笑フ聲ニ云フ語。「くすくす笑フ」

くすぐったい（形）［癢痒］［くすぐり甚しノ約轉、ぢれったい、くちはばったい］おそはゆしノ條ヲ見ヨ。クスグラルル感ジ、甚シ。

くすぐる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［探］［おそぐるノ轉］（一）おそぐるニ同ジ。（二）俗ニ、滑稽ヲ諷シテ、人ノ笑ハス、

くずこ（名）［葛粉］葛ノ根ヲ截キ、水ニ浸シテ、汁ヲ揉ミ出シ、晒シ、漉シ、晒、水飛シテ取レル粉、色、甚ダ白ク、食用、其外、用、多シ、大和ノ吉野ノ産、最モ上品ナリ、吉野葛ト云フ。

くずさうめん（名）［葛素麪］葛煉ニ同ジ。

くすし（名）［藥師］［くすりしノ略、其語原ヲ見ヨ」又、くすりし。病ヲ癒スコトヲ業トスル人。醫者。醫師。醫 允恭紀、三年正月[illegible]使、求良醫於新羅[illegible]欽明紀、十四年六月[illegible]博士[illegible]、白雉五年正月 大山下[illegible]倭名抄[illegible]藥師、[illegible]治病工也、久須之 土佐日記、十二月廿九日、大湊ニトマレリ、醫師、フリハヘテ、屠蘇、白散、酒、加ヘテ持テキタリ」

くすし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［奇］［くし（奇）ノ一轉カ、再轉シテ、くすはしトモナル］（一）クシ。クスハシ。奇シ。奇異ナリ。希代ナリ。[illegible]紀、廿七、天平神護[illegible]十月、詔[illegible]如來ノ光[illegible]久須之久奇シキ事ヲ思[illegible]ルコト、極マリテ難シ」同、廿八、神護景雲元年八月、詔、瑞雲[illegible]其奇久、異ニ麗シキ雲、七色、相交リテ、立チノボリテアリ」萬葉集、三[illegible]筑紫ノ水島ノ歌、聞キシゴト、眞貴ク、奇しくモ、神サビマスカ、[illegible]コレノ水島」（二）轉ジテ、常ニ異ニテ、マジメナリ。實法ナリ。（くすむトモ云フ動詞モ、此意ナリ）紫式部日記、「我レハト、くすしく、ロモチ、氣色、コトゴトシクナリヌル人ハ」枕草子、七、六十四段「中納言ノ君、忌ノ日トテ、くすしガリ行ヒタマヒシヲ」同、十一、百四十五段[illegible]ナド、くすしうスル者」宇治拾遺、二、第六[illegible]シ、くすしく忌ム奴ハ、命モ短ク、ハカバカシキ事ナシ」

くすしぶみ（名）［藥師書］藥師ノ學ブ書物。醫書。宇津保物語、藏開、上「[illegible]くすしぶみ、陰陽[illegible]」

くすしゆび（名）［藥師指］［古ヘ、無名の指トモ云ヒシハ、名ノ無カリシモノカ、藥指ノ名ハ、室町時代ニ起リシモノカ、古ヘ、此指ヲ曲ゲテ、藥ヲ點ジタリ、藥師如來ノ印相ナリト云フ、其藥師ヲ、藥師ト訓讀シタル語カ、或ハ、動詞、くすすノ名詞形ナルカ、くすりゆびトモ云フハ、コレヨリ移リタルナリ］古名、無名ノ指。今、くすりゆびト云フ、其條ヲ見ヨ。無名指[illegible]下、[illegible]左訓、[illegible]ナリ[illegible]明[illegible]無名指ハ、くすし指ゾ、四番目ノ指ゾ」箋注倭名抄、二[illegible]無名指、[illegible]之久[illegible]之由比[illegible]供御藥[illegible]云云、[illegible]以二右手無名指一令レ塗レ於二左掌一給」註「[illegible]右第四指、藥師[illegible]也、[illegible]用レ之」

くすす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［藥］［藥師ノしヲ、四段活用ニ作做シテ、藥ヲ用キル意トセシ、中世ノ語ニ、假字ノミト、下畢ノみヲ、四段ニ作ル類ナルベシ、藥リヲ、くするトスルト、同ジ］病ヲ癒ス。クスル。ナホス。療治ス。醫療 [illegible]雜[illegible]、[illegible]不能[illegible]古文前賢、前集、上、[illegible]人[illegible]竹田法眼ノ[illegible]初心[illegible]天文十[illegible]年ニ[illegible]治ノ病ニテ、治[illegible]シ[illegible]くすしかたしト書ケルガ、三[illegible]アリ」

くすだま（名）［藥玉］五月五日ノ端午ニ、麝香、沈香、丁子、ナド、網ノ玉ニ入レ、菖蒲、蓬、ノ造花ヲ結ビ付ケ、五彩ノ絲ノ、八尺許ナルヲ垂レタルモノ。柱ナドニ掛ケテ、不淨ヲ拂ヒ、邪氣ヲ避クト云フ。續命縷 長命縷 又、玉ニ、五彩ノ絲ノミ添ヘテ、身ニモ繫ク、後ノ掛香ナリ。續後紀、十九、嘉祥二年五月五日、詔「五月五日ニ、藥玉ヲ佩ビテ、酒飲ム人ハ、命長ク、[illegible]アリトナモ聞食ス、故、是ヲ以テ、藥玉賜ヒ、御酒賜ハクト宣ル」枕草子、三、廿三段「后宮ナドニハ、縫殿ヨリ、御くすだまトテ、色色ノ絲ヲ組ミサゲテ、參ラセタレバ、御帳立テタル母屋ノ柱ノ、左右ニツケタリ」

くすどの（名）［藥殿］又、くすりどの。禁中ニテ、[illegible]侍醫、等ノ祗候スル所、江家次第、[illegible]供御藥[illegible]正月[illegible]殿[illegible]御[illegible]云云、御[illegible]御銚子、御酒盞、渡於藥殿、云云、宮内輔[illegible]侍醫[illegible]御藥云云」[illegible]外「藥殿、月華門南腋」續古事談、一、「王道后宮「くすり殿ノ御銚子」

くずに（名）［葛煮］肉、菜、ヲ煮テ、水溶ノ葛粉ヲ加ヘタルモノ。

くずぬの（名）［葛布］くずふノ條ヲ見ヨ。

くすね（名）［藥煉］［くすねりノ下略（項後、うなじ。主水、もんど）當字ニ、鼓絲ナドトモ書スルモ、腰鼓ノ緒ニモヒキタルモノカ］松脂ニ油ヲ交ゼテ、煮テ、煉リタルモノ。絲、絃、釣鉤、ノ絲ナドニヒキテ、強クス。（てぐすねひくノ條ヲ見ヨ）古事談、四、勇士「腰刀ノ柄ニ、くすね絲卷キタル、[illegible]ツボニサシ」名義抄、戸部「天鼠矢、クスネ」同「黏、クスネ」運歩色葉集「天鼠子、クスネ」狂言記、於[illegible]、「松脂ヲ、くすねニ煉リマショ」

くずねり（名）［葛煉］葛粉ヲ水ニ溶キ、砂糖ヲ加ヘ、煮テ、固ク煉リタルモノ。クズモチ。コレヲ切リテ、うんどんノ如ク製スルヲ、葛切、又、葛素麪ト云フ。

くすねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ（他動、下二）［竊盜］［くすハ、おそおそノ轉（くすくす笑フ）ねるハ、たばねるノねるナドノ意ナラムカ］竊ニ、掠メ盜ム。（東京卑語）浮世床（文化、三馬）二編、下「音ノシネエヤウニ、くすねテ食フノダノ」

くすのき（名）［楠］［奇しき木ノ意ニテ、香ノ高キニ就キテ云フナリト云ヒ、或ハ、年久シキハ、化石トナルニ就キテ云フナリト云フ］喬木ノ名。略シテ、くす。葉ハ、圓クシテ、頂、尖リ、互生シテ、

冬、凋マズ、春、新葉ヲ生ジテ、後ニ、舊葉ハ落ツ、夏、小サキ花ヲ開ク、白クシテ、黄ミアリ、後ニ、小サク圓キ實ヲ結ブ、秋ニ至リ、熟スレバ黒シ、實ヨリ蠟ヲ採ル、幹ノ心、赤黒シ、全體、殊ニ、根ニ、樟腦ノ香氣高ク、煎テ、樟腦ヲ取ル、材、堅クシテ、老イタルハ、木理亂レテ美シ、たまもくナド呼ビテ、種種ニ用キラル。樟 心ノ赤黒カラザルモノヲ、やまくす又、いぬくすト云フ。楠 字鏡四十六「樟」四十「楠、久豆乃木」本草和名、下二「楠材、久須乃岐」倭名抄、廿、木類「楠、久須乃木」神代紀、上九「櫲樟船」

くすのきりう (名) [楠流] 兵法ノ一派、楠正成ノ戰法ヲ傳フト云フモノ。

くずのそう (名) [國栖奏] 〔國栖ノ條ヲ見ヨ〕 大嘗會、其外、諸節會ニ、吉野ノ國栖人、參賀シテ、歌笛ヲ奏スルコト。國栖人ノ參賀スルコト、夙ク絶エテ、伶人、代ハリテ、古風ヲ奏スルコトトナリテ、ナホ、國栖の奏ト云フ。宮内省式、凡、諸節會、吉野國栖、獻御贄、奏歌笛、每節以二十七人一爲定、註、國栖十二人、笛工五人」江家次第、一、元日節會「國栖奏歌笛、註、於承明門外奏之」

くずのは (名) [葛葉] くずかづらノ葉。風ニ吹カルレバ、殊ニ飜ルニ因リテ、和歌ナドニ、多クハ、人情反覆ノ意ニカケテ云ヒ、葉ノ裏ヲ見るニ因リテ、恨みノ序ニ云フ。新勅撰集、四、秋、上「山里ハ、くずのうらはヲ、吹キカヘス、風ノ氣色ニ、秋ヲ知ルカナ」玉葉集、十四、雜、一「秋風ト、契リシ人ハ、カヘリコズ、くずのうらばノ、霜枯ルルマデ」古今集、十五、戀、五「秋風ノ、吹キうらカヘス、くずのはノ、うらみテモ猶、ウラメシキカナ」濱松中納言物語、一「忘レズヨ、くずの下葉ノ、下風ノ、うらみヲホドニ、昔ヲ聞カセヨ」

くずばかま (名) [葛袴] 葛布ニテ作リタル袴。菟玖波集、十、馬鬠「白キ水干ニ、葛ばかま」後松日記、十七「葛袴、白葛、又、紺ヲ用ユ、一日晴ニハ、末濃ニモ染メルナリ、水干ノ下ニ着ルモノナリ」

くすは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [奇] 〔奇しノ一轉(いたし、いたはし。いそがし、いそがはし)くはし(微妙、精細)ト云フ語モ、コノ中略ナルベシ〕 くすしニ同ジ。希代ナリ。奇異ナリ。萬葉集、十九廿六長歌「古ヘニ、アリケルワザノ、久須婆之伎、事ト言ヒ繼グ、云云」

くずびと (名) [國栖人] くにすノ條ヲ見ヨ。

くずふ (名) [葛布] クズヌノ。葛ノ蔓ヲ苧トシテ織レル布。蔓ヲ煮テ、水ニ浸シ、皮ヲ、苧ヲ績ム如ク、絲トシテ織ル、或ハ、經ニ、絹絲、又ハ、綿絲ヲ加フルモアリ、能ク水ニ堪フ、雨衣トシ、袴トシ、又、襖ナド、張ル、遠江、掛川ノ邊ヨリ産ズルモノ、名アリキ。名義抄「緒、クズヌノ」夫木抄、三十一、雜「コレモコノ、所ナラヒト、門毎ニ、くすテフぬのヲ、掛川ノ里」

くす・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) [燻] 〔ふすぶノ轉、次條ノ語原ヲ見ヨ〕 クスブラシム。フスブ。イブス。「蚊屑ヲくすべテ、蚊ヲ逐フ」

くすぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [燻] 〔ふすぶるノ轉、ふすぶ、くすぶ。ふすぼる、くすぼる。くなどの神、ふなどの神。ふふむ、くくむ〕 (一)ふすぶるニ同ジ。フスボル。クスボル。イブル。「薪ガくすぶる」 (二)烟ニ侵サレテ、黒クナル。クスボル。クスブレル。「天井板ガくすぶる」 (三)俗ニ、鬱悒クテ居ル。氣ヲクサラシテ居ル。鬱屈 「田舎ニくすぶッテ居ル」「部屋ニ閉ヂコモリ、くすぶッテ居ル」

くすぶ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [燻] 前條ニ同ジ。

✤**くす・べる** (動) [燻] くすぶノ口語。イブス。

くすぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [燻] 〔ふすぼるノ轉、くすぶるノ語原ヲ見ヨ〕 (一)ふすぼるニ同ジ。クスブル。イブル。(二)烟ニ侵サレテ、黒クナル。クスブレル。煤ケル。盛衰記、十、頼豪祈ニ出皇子事「明障子モ、護摩ノ烟ニ燻ぼッテ」

くずまんぢゅう (名) [葛饅頭] 餅菓子ノ名。又、くずもち。葛粉一ニ對シ、水二ト、砂糖一ノ割合ニ掻キマゼ、温火ニカケテ半煉トシタルヲ、程好キ大キサニ延べ、赤豆餡ヲ包ミ、蒸籠ニ濡布巾ヲ敷キタル上ニ並べ、葛ノ、水色ニ透キトホルマデ蒸シテ、成ル。

くずみづ (名) [葛水] 夏ノ飲水ニ、葛粉ト、砂糖トヲ加ヘテ、水ニ溶キタルモノ。心中刃氷朔日(寶永、近松作)中「此暑サデハ、霍亂シテ、信田森ノウラミくず水、一ツ飲シャ」

くす・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [質實] 〔くすし(奇)ノ(二)ノ意ヨリ移レル語〕 (一)質法、實體ナリ。マジメナリ。甄草(正保)「踊トナレバ、常ハ、くすみタル顔シテ居ル人マデモ、心ヲウカラカシ、生知ノ小歌モ、シドロニ唄ヒ」(柳亭筆記、三) (二)ハデナラズ。ヂミニテアリ。(裝束、染色、織模様、等ニ) 宗五大雙紙、衣裝「人ノ衣裝ハ、總ジテ、若キ人モ、年ノ程ヨリ、チトくすみテ出デ立タレ候ガ、ヨク候」

くすんごぶ (名) [九寸五分] 短刀ノ鎧通ノ異名、長サ、九寸五分ナルヲ、制トス。高館草子(室町時代)「鶴井六郎九寸五分ノ鎧どほしヲ、馬手ノ脇ニ刺シタリケリ」 切腹ノ時ニ用キル稱トス。永享記(續群書類從)「腎ノ肌ヲ押シヌギ、九寸五分ノ刀ヲヌキ」

くぞめち (名) [苦集滅道] 〔大智度論「云、何正遍知、答曰、知苦如苦相、知集如集相、知滅如滅相、知道如道相」佛教辭林「苦ハ、生老病死、等ノ苦果、集ハ、其ノ原因タル惑業煩惱ノ積集、滅ハ、苦集ノ滅了シタル悟境、道ハ、其ノ悟境ニ至ルノ要件タル修行」〕 佛經ノ語、聖者ノ果報ヲ得ル法。

くずもち (名) [葛餅] (一)葛煉ニ同ジ。(二)葛饅頭ニ同ジ。松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)三「葛餅、皆、一口ハ食フケレド」

くずや (名) [葛屋] 草葺ノ家。クサヤ。カヤヤ。茅屋 爲尹百首、春「夕ヘテ住ム、心ヨイカニ、茅ガ軒、カカル葛屋ノ、夜ノ春雨」易林節用集(慶長)「葛屋」

くずゆ (名) [葛湯] 葛粉ニ、砂糖ヲ加ヘ、熱湯ヲ注ギテ、淡ク溶キタルモノ。

くすり (名) [藥] 〔稜威言別、四ニ、草煎ノ約ナリトアリ、くさいり、くしり、くすりト轉ジタル語ナラム、少彦名命ヲ、久志の神(其條ヲ見ヨ)ト云フモ、藥の神ナリ(領く、うすはく)煎汁モ、煎煎ノ約ナルベシ」〕 (一)〔病、又ハ、傷ヲ癒スニ用キル劑。上古ハ、專ラ、藥草ヲ煎ジテ用キキ、後ニハ、種種ノ物ニテ製ス、飲ムアリ、塗ルアリ、煎藥、水藥、粉藥(散藥)、蒸藥、膏藥ナド、種種ナリ。萬葉集、五八「藥、久須利」倭名抄、四二十「藥、久須利」 (二)〔ヤマヒ。病氣。御惱。疾病 宇津保物語、

[illegible]「御くすりノ事オハシマスト承ハリテ、難キナ[illegible]ノ御くすりノコト、ナホ平ラギハテタマハヌニ因リ」[illegible]マシクナムシタマヒケル」(三)利日アルモノ。裨益アルコト。效力。[illegible]、笠下「アハハ、[illegible]、氣ノくすりナ坊主ヂャ」天神記(正[illegible]、十町四方ノ[illegible]兵ニ、作[illegible]ル者ハ候マジ」(四)火藥。[illegible](正徳、近[illegible]ノ[illegible]くすりトナル」(五)やきものぐすりノ略。釉

〔くすり-がり (名) 藥狩 〔鹿ノ若角ヲ、藥用トシテ採ルナリ、鹿ノ角、夏、落チテ、再ビ生ズ、[illegible]、十二[illegible]ノ藥ニ「鹿茸」〕陰暦、五月五日ニ行ハルル遊猟。キソヒガリ。[illegible]、七年五月五日「藥獵」[illegible]

くすり-くそうばい (名) 藥九層倍 〔藥ノ原價ニ對シテ云フ〕醫者ノ[illegible]ノ價高シト云フ語。診察料ト云フモノナキ世ニハ、然ラザルヲ得ザリシナリ。

くすり-ぐひ (名) 藥食 往時、獸肉ヲ、藥用ニ食ヒシコト。穢ルトテ、常食トハセザリシナリ。[illegible]

くすり-こ (名) 藥子 元日ニ、屠蘇酒ヲ、先ヅ嘗メテ、供御ニ奉ル童女ノ稱。鬼間ヨリ、供御座ニ入ル、(江家次第、一、供御藥)是レハ、毒味スルナリ。(屠蘇、鬼間、見[illegible]ノ條ヲ併セ見ヨ) [illegible]ニ、今日皆メソムル、くすりこハ、若エッツ見ム、君ガタメトカ」[illegible]

[illegible]未嫁者」

〔くすり-し (名) 藥師 〔藥爲ノ義、藥ヲする人ノ意(土師、繪師、鑄物師、同義)略シテ、くすしトナル(藥ノ語原、並ビニ、醫師ヲ見ヨ)〕藥師ニ同ジ。[illegible]、久須理師ハ、常ノモアレド、客人ノ、今ノ久須理師、尊カリケリ、愛シカリケリ」

くすり-どの (名) 藥殿 くすどのノ條ヲ見ヨ。

くすり-とり (名) 藥取 (一)〔藥園ノ藥草ノ、採摘、採收スル職。[illegible]、十五年二[illegible]〕(二)醫家ニ行キテ、藥ヲ受取ル人。

くすり-なべ (名) 藥鍋 藥ヲ煎ズルニ用ヰル銅鍋。藥鐺。[illegible]

くすり-の-つかさ (名) 藥官 てんやくれう(典藥寮)ノ條ヲ見ヨ。

くすり-ばこ (名) 藥箱 (一)藥ヲ收メ置ク匣。[illegible] (二)醫者ノ、患者ノ家ヘ行クトキ、種種ノ藥品ヲ貯ヘテ携フル匣。ヤクロウ。藥籠

〔くすり-び (名) 藥日 〔菖蒲ヲツケタル藥玉マカクル日ノ意カト云フ、藥獵ノ日ト云フニハアラザルベシ〕五月五日ノ稱。[illegible]、ホトトギス、鳴ケドモ知ラズ、菖蒲草、此ゾ[illegible]日ノ、シルシナリケル」[illegible]、七、夏くすり日ノ、袂ニ結ブ、アヤメ草、玉ツクリ江ニ、ヒケバナルベシ」[illegible]

くすり-ビン (名) 藥瓶 硝子壜ノ、水藥ヲ入ルルニ用キルモノ。

くすり-や (名) 藥屋 藥品ヲ賣ル商家。藥種屋、賣藥店。藥舖 [illegible]

[illegible]ノ一包、[illegible]ハ、[illegible]」

くすり-ゆ (名) 藥湯 (一)イデユ。溫泉。[illegible]、六、第七[illegible]ト云フ所ニ、ヨロヅノ人ノ浴ミケル、くすりゆアリ」(二)水風呂ノ湯ニ、藥品ヲ加ヘタルモノ。[illegible]八、[illegible]ノタメニ、杉葉ヲ乞ヒ侍リケル、云云」

くすり-ゆび (名) 藥指 〔くすしゆびノ語原ヲ見ヨ〕古名、ナナシノオヨビ。クスシユビ。手ノ指ノ、中指ト、小指トノ間ニアルモノ。又、ベニサシユビ。ベニツケユビ。無名指

くす・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 藥 〔藥りノりヲ、四段活用ニ作リ做シテ、藥ノ作用ヲオコス意トセシ語ニテ、聖ヲひじりト云ふ、行李ヲかうる、料理ヲれうるトスル類ナルベシ、後世、出來タル語ナルガ如シ、藥師ヲくすすトスルト、同ジ〕くすニ同ジ。癒ス。[illegible]ニ古キ字[illegible]ノ字ヲ、くす[illegible]ト讀メリ」[illegible]イデくすろうテカヤセ」トアルハ、くするノ延ビタル[illegible]ナルカ。(うつろふ、うつろふ、まつろふ、まつろふ)

〔く-すゐ-し (名) 鼓吹司 〔くハ、鼓ノ吳音(ロ、く)漢音ニハ、鼓吹ト云フ、其條ヲ併セ見ヨ、吹ハ、笛ナリ〕古ヘ、兵部省ニ屬シテ、鼓吹ノ調習ヲ掌リシ司。鼓ハ、鉦鼓ナリ、吹ハ、大角、小角ナリ、軍旅ヲ整フルニ、是レ等ノ器ヲ以テ、進退ノ節トセシナリ。鉦鼓師、大角師、小角師、等ノ職員アリキ、寛平八年ニ、兵庫寮ニ併セラル。[illegible]

〔く-せ (名) 曲瀨 〔屈瀨ノ略ナラム、蹲る、うづくまる。崎嶇む、さくむ〕川瀨ノ、曲レル所。曲。[illegible]ノ、淸キ河原ニ、禊シテ、齋フ命ハ、妹ガ爲ナリ」(玉ハ、美稱、玉藻、玉床)[illegible]久世」

〔く-せ (名) 曲 〔前條ノ語ノ轉ジタルニテ、せハ「ココヲせニセム」ナドノせノ意ニ移リタルナラム、瀨ノ條ヲ見ヨ〕曲レルコト。拗リタルコト。正シカラヌコト。熟語ニ用キラル。「くせぐせし」曲者、曲言」

く-せ (名) 癖 〔前條ノ語ノ轉、紀伊國ニテ、さり(避)ト云ヒ、中禪ニテ、くすト云フ〕(一)嗜好ニ拘泥ミカタヨレル習慣ノ、性質ノヤウニナレルモノ。[illegible]「人毎ニ、一ツノくせハ、アルモノヲ、我レニハ許セ、敷島ノ道」白氏文集、七「人各有二一癖一、我癖在二章句二」正字通「癖、嗜好之病」(二)〔批難トナルコト。ナンクセ。源、三十四、上、若菜、上「[illegible]シモアルマジキ事ニ、カドカドシクくせヲツケ」(三)物ニ、痕ノ、深クツキテ、直リガタキモノ。「髮ノくせ」(髮ノたわ)くせ毛、[illegible]ノくせ」(四)特ニ、常トナリテ、定マルコト。特徵 [illegible]集「主人ガラ、荒レタル宿ノ、くせナレバ、下シコメテモ、月ハ見エケリ」林葉集、[illegible]、三「目モアヤニ、サヤケキ月ノ、くせナレヤ、今夜始メテ、見ルココチスル」(五)「子供ノくせニ大膽ナコトヲスル」ナド云フハ、「定マリテアルニ」キマッテアルノニ」ノ意ナリ。[illegible]くせニ、身共ニ、[illegible]ヲ云ヒカクルカ」「知ッテルくせニ、知ラヌ顏ヲシテ」

ぐ-せい (代) 愚生 自稱ノ代名詞、謙稱ナリ。拙生。

ぐ-ぜい (名) [弘誓] 〔弘大ノ誓願ノ意〕佛教ノ語、佛ノ、アラユル衆生ヲ濟ハムトノ誓。其誓ノ深廣ナルヲ、海ニ譬ヘテ、弘誓の海、又ハ、ちかひのうみト云ヒ、衆生ヲシテ、生死ノ苦海ヲ渡リテ、涅槃ノ彼岸ニ到ラシムルヲ、弘誓の船、ちかひのふねナド云フ。法華經、普門品「弘誓深如レ海、歷劫不思議」盛衰記、十八、龍神守三種心ニ事「弘誓の船ニ棹シテ、生死ノ苦海ヲ渡リ」

ぐぜい-の-うみ (名) [弘誓海] 前條ヲ見ヨ。

ぐぜい-の-ふね (名) [弘誓船] 前前條ヲ見ヨ。

く-せう (名) [苦笑] ニガワラヒ。「微苦笑」

く-せきえい (名) [紅石英] をゐまぃう(水晶)ノ條ヲ見ヨ。

〜**くせ-ぐせ・し**・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [曲曲] 僻ミタリ。・源、四十三、竹川三十五「正身ノ御心ドモハ、殊ニカルガルシク、ソムキタマフニハアラネド、侯フ人人ノ中ニ、くせぐせしき事モ出デキナドシツツ」大鏡、上、師尹「此大將ハ、父大臣ヨリモ、御心ザマノ、ワヅラハシク、くせぐせしきオボエマサリテ」散木集、七、戀、上「麿ナラヌ、矢立ノ竹モ、節ゴトニ、くせぐせしくテ、世ヲバ過ギケリ」

く-せ-くゎんおん (名) [救世觀音] 〔救世觀世音ノ略〕くせぼさつ(救世菩薩)ノ條ヲ見ヨ。謠曲、弱法師「金堂ノ御本尊ハ、如意輪ノ佛像、救世觀音ト申ストカ」沙石集、二、上、第四條「ワキテハ、日域ノ佛法ノ盛衰、聖德太子、救世觀音ノ御方便也」

くせ-げ (名) [癖毛] 髮ニ、ちぢれナドアルモノ。チヂレゲ。

くせ-ぉと (名) [曲事] (一)道ニカナハヌコト。法ニ違フコト。宇治拾遺、六、第九條「オソロシキモノナリ、ユユシキくせ事出來候ハムズル」(二)曲事。死罪。切支丹一札ノ事、寬永十五年十二月十日「伴天連、いるまん、きりしたん宗旨、御改ニ付、爲二組之内一五二寺寺ヲ見屆申シ、若、脇ヨリ、きりしたん宗、訴人御座候ハバ、口二五人組共、くせ事ニ可レ被二仰付一候、爲二後日一仍如レ件」(二話一言、補遺、一)

〜**く-ぜち** (名) [口舌] 〔口舌ノ呉音、其條ヲ見ヨ〕(一)コトバ。多ク、物言フコト。辯口。戶令「凡棄レ妻、須レ有二七出之狀一云云、四、口舌」義解「謂二多言一也」(二)言ヒ爭フコト。イサカヒ。クゼツ。伊勢物語、九十六段「女ノ父、其人ノ許ニ行クベカナル事聞キテ、言ヒノノシリテ、くぜち出テ來ニケリ」蜻蛉日記、下、下「言ヒ悶ヒスレバ、三人バカリ、ヤマヒ言、くぜちナド言ヒタリ」著聞集、十六、興言利口「妻ト諍ヒテ、カヤウノ口舌ノ斷エヌモ、此故ニコソトテ、云云」(三)此語、末音ヲ活用セサセタリト見ユ。(假言、かたつ。謳言、まおつノ類)サレド、未ダ他ニ活用セサセタルヲ見ズ。宇津保物語、あて宮「宮ノ御子ト云ヘバ、マコトカトテ、モテ崇メタマフナムト、局ノコボレヌバカリ、くぜちノノシリテ」

く-ぜつ (名) [口說] 〔前條ノ口舌ノ轉、說ハ、當字ナリ〕(一)クゼチ。物言ヒ、爭フコト。イサカヒ。甲陽軍鑑、十八、品第廿八、第五條「更ニ聞ヘヌ事ナリトテ、樣樣、口說ヲ申カケ」(二)風說。(畿內)

〜**くせ-づ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [曲就] 〔くせハ、曲、卽チ、曲節(音曲ノ節廻シ)ノ意、づくハ、成リススム意、秋づく、老いづく、ノつくノ如シ、くせまひノ條ヲ見ヨ〕曲節ヲ生ズ。調子ヅク。枕草子、十一、百三十五段、歌は「神樂歌モ、ヲカシ、今樣(歌)ハ、長クテくせづきタル、風俗、(歌)善ク歌ヒタル」

く-せ-の-ちかひ (名) [救世誓] 次次條ヲ見ヨ。著聞集、十三、哀傷「八十ニテ、アルカナキカノ、玉ノ緖ハ、亂サデ救ヘ、救世のちかひニ」

く-せ-の-ねがひ (名) [救世願] 次條ヲ見ヨ。謠曲、惡源太「薩埵ノ悲願サマザマナレドモ、多キ中ニモ、救世の願ひ」

く-せ-ボサツ (名) [救世菩薩] 觀世音菩薩ヲ稱讚スル稱號、世人ノ苦ヲ救フト云フニ因ルナリ。救世觀世音、或ハ、救世觀音トモ云フ。法華經、普門品「觀音妙智力、能救二世間苦一」此菩薩ノ、衆生ヲ濟度スベキ誓願ヲ、救世の誓ひ、救世の願ひト云フ。法華經、普門品「汝聽二觀音行一、善應二諸方所一、弘誓深如レ海、歷劫不思議」

くせ-まひ (名) [曲舞] 〔くせハ、曲、卽チ、曲節ノ義、枕草子、十一、百三十五段「今樣ハ、長クテくせヅキタル」(くせづくノ條ヲ見ヨ)〕足利時代ニ行ハレタル、一種ノ舞謠。白拍子ノ謠ヘル今樣ノ一變セル宴曲ト云フモノニ、舞ヲツケタルモノト云フ、多クハ、女、女兒、ノ技ナリシガ如シ。七十一番職人盡歌合(文安)ノ曲舞舞ニハ、女ノ、水干、烏帽子ニテ、扇子、腰鼓、ヲ持チタルヲ圖セリ。東野州聞書 後小松院、與八ト申ス九世舞ヲ召サレテ、御前ニテ舞ハセラレケリ、三四度聞召サレテ、亂世ノ聲アリトテ、後、終ニ、御前ニ召サレズ」看聞日記、永享四年六月十五日「於二稻荷御旅所一、此間、くせ舞兒有二勸進一云云、上手ニ成リ、万人群集、云云、言語道斷、殊勝之由申」二水記、永正十七年九月十二日「参內、有二曲舞一如也(夕霧子、號二朝霧一)年廿六許也、近比聞事、各拭二感淚一了、云云、十八日、曲舞(大夫朝霧)令二見物一了」謠曲、山姥「是レハ、云云、百魔山姥トテ、隱レナキ遊女ニテ御座候、カヤウニ御名ヲ申スイハレハ、山姥ノ山廻リスルト云フコトヲ、曲舞ニ作テ、御謠ヒアルニヨリ、京童部ノ、申シナラハシテ候」

く-せん (名) [苦戰] クルシキタタカヒ。惡戰苦鬪。李白詩「苦戰竟不レ侯、當年頗惆悵」

く-せん (名) [口宣] 任官、敍位、ナドニ就キテ、主上ノ御口移ニ、卽チ、御口ヅカラ宣ベタマフ勅命。職事タル藏人、コレヲ記シテ、上卿ニ傳フルヲ、口宣案ト云フ、上卿、コレヲ受ケテ案トシ、別ニ、下知狀ヲ作リテ、外記ニ下サルルナリ。名目抄「口宣」

ぐ-せん (名) [具瞻] 衆人ノ、具ニ、仰ギ瞻ルコト。詩經、小雅、祈父之什、節南山篇「赫赫師尹、民具爾瞻」魏志、高柔傳「公輔之臣、皆國之棟梁、民所二具瞻一」太平記、三十九、神木御歸座事「傳陸具瞻ノ德」

くせん-あん (名) [口宣案] 前前條ヲ見ヨ。園太曆、觀應二年正月廿九日「天下穢氣遍滿之間、諸社祭延引之由、被レ宣下一云云、口宣案尋取遣之」京都下京文書、乾「口宣案、上卿三條大納言、天文三年三月二日、宣旨、法印嚴助、宜レ任二權僧正一、藏人權左少辨藤原惟房」

く-ぜん-と (副) [瞿然] 驚キ視ル狀ニ云フ語。禮記、檀弓、上篇「曾子聞レ之、瞿然曰呼」莊子、徐無鬼篇「子綦瞿然」柳文、與二蕭翰林一書「瞿然注視」

く-せん-はっかい (名) [九山八海] 佛教ニ云フ、山海ノ稱。俱舍論、十一ニ、須彌山ノ周圍ニ、持雙山、持軸山、等ノ八山アリ、香水海、七アリ、大鹹水、一アリ、トアリ。コレニ模シテ、庭ニ、假山泉水ヲ造ル。安土記「東山慈照院殿ノ御庭ニ、一年、御立置候、九山八海トテ、無レ隱名石御座候」

くせ-もの (名) [曲者] [癖物] (一)正シカラヌ者。ワルモノ。惡徒 平治物語、一、信賴謀反事「火ヲモ水ニ中ナス、證佞至極ノ曲者ナリ」(信賴ガ、信西ヲ云フ) (二)怪異ノモノ。怪物。盛衰記、十六、三位入道藝等事「實ニ、希代ノ癖物也」(鵺) (三)ヌスビト。盜賊。

くそ (名) 【糞屎】 〔臭(クサ)ノ轉カ(ささやく、[illegible])〕 く、[illegible]細ニテ、くすト云フ」 (一)〔腸、胃、ノ中ニテ消化レタル食物ノ滓ノ、肛門ヨリ[illegible]ノ、[illegible]、糞。大便。 [illegible] 倭名抄、二 [illegible] (二)[illegible] 滓。[illegible] 「鐵くそ」「火くそ」「目くそ」「鼻くそ」「耳くそ」 (三)[illegible]ニ、卑シメテ云ヒ、罵リテ呼ブニ云フ語、多クハ、熟語ニ用ヰル。「くその[illegible]ニモ立タヌ」「くそオチツキ」「くそボネヲリ」「くそヤケ」「くそタハケ」「くそ度胸」「くそイマイマシイ」

くそ (名) [illegible] [illegible] [illegible]ヨリ稱レセナラムト[illegible]シ [illegible] 「其二、菩提ヲ[illegible]ム」

くそ [illegible] 人ヲ[illegible]スル語、さそノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 [illegible]、[illegible]コノ[illegible]六ノヌシタチ、サバカリイマスラン、ソチドモノイテアルマジキト云フくそタチカナ」 源、五十二、手習「エイツラ、くそタチ、[illegible]トリテマヰレ」 大和物語、中「コヤクシくそト云ヒケル人」

◇くそいまいましい (形) 【糞忌忌】 バカニ、腹立タシイ。[illegible]ニイヤラシク、憎ラシイ。

ぐそう (代) 【愚僧】 僧ノ自稱ノ代名詞、[illegible]リ。 [illegible]ノ[illegible]、名聞ノ高位モ、所望ナク」(謙遜自己ヲ云フ)

くそかづら (名) 【屎葛】 〔臭氣アレバ云フナルベシ〕今云フ、へくそかづらナラム [illegible]ト云フ。[illegible]レル、屎葛」 倭名抄、廿「[illegible]子草、久曾加豆良」

くそがへる (名) 【糞蛙】 いぼがへるニ同ジ。

くそく (名) 【休息】 〔休息ノ呉音〕 休ムコト。休息。 [illegible]ノ呪文ニ、休息萬命ト云フ。(くさめノ條ヲ見ヨ) 淨土和讃「有[illegible]ヲ度シテ、シバラクモ、くそくアルコトナカリケリ」

ぐそく (名) 【愚息】 〔愚カナル息子ノ意〕 他人ニ對シテ、我ガ子ノ謙稱。豚兒。 [illegible]、十一、[illegible]伊與入道、云云、愚息ノ小童ヲ[illegible]テ[illegible]侯」

ぐそく (名) 【具足】 ソナハリ、タルコト。 ソロヒタルモノ。香爐、花瓶、燭臺、ソロヒタルヲ、三つ具足ト云フ。

ぐそく (名) 【具足】 〔具足する(ともなふ)ものノ意〕 (一)携ヘタルモノ。用意シタルモノ。携帶品。 平家物語、十一、遠矢「[illegible]是レハ、[illegible]ガ、少シ弱ク候、矢束モ、少シ短ク候ヘバ、[illegible]ジクハ、[illegible]ガ具足ニテ仕リ候ハムトテ、云云、大ノ矢ノ、云云、十五束三伏アリケルヲ、云云、取ッテツガヒ、ヨッピイテ、ヒャウト放ツ」 盛衰記、廿六、[illegible]「只一具持チタリツル裝束ハ、水ニ[illegible]シテ[illegible]フシメ、[illegible]フベキ具足ハナシ」 (二)携フル意ヨリ轉ジテ、所持品。調度。道具。什器。 宇治拾遺、十一、十二[illegible]「[illegible]ニ行キテ、子孫ドモニ、家ノ具足ドモ負セ持タセテ、己レモ持チテ」 海[illegible]、中、人ノ家中ノ具足、[illegible]也、云云、[illegible]中ニ[illegible]、[illegible]、云云、坊中ノ具足ヲ[illegible]之具[illegible]ノモテナシ、云云」

ぐそく (名) 【具足】 〔前條ノ(二)ノ意ニテ、武士ノ所持品、調度、道具ハ、鎧ヲ第一トスルニ因リテノ名ナリ、もののぐ(什器)ヲ、鎧ノ稱トシ、調度ヲ弓矢、道具ヲ槍ノ名トスルト、正ニ同意ナリ、甲冑、[illegible]手、[illegible]、等、六具、具備スル稱ト云フハ、具足ヲ、そなはる意ニ解シテ、考ヘタル[illegible]説ナリ、何レノ器カ、所要ノ部分ノ備ハラザルモノアラム〕 (一)鎧、甲冑ノ異名。 [illegible]元和[illegible]、二、[illegible]「[illegible]三郎(高間三郎)ガ具足ノ、草摺ノハヅレヨリ、上サマニ、三刀刺テ、エイヤット突キノケタリ」 (二)後世ハ、鎧ノ、脇楯ナク、種種ノ附屬品ナク、簡略ナル制ノモノノ稱。

ぐそくかい (名) 【具足戒】 〔具足ハ、圓滿具足ノ義〕 佛教ニ、比丘、比丘尼、ノ持スベキ、一切ノ戒法。數百條アリ。 盛衰記、四十、弘法大師入唐事「具足戒ノ時、又、改メテ、空海ト號ス」

ぐそくし (名) 【具足師】 甲冑ヲ製造スルヲ業トスル工人。甲匠。

ぐそく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 【具足】 具リ、足ル。ソロフ。 法華經、[illegible]喩品「威儀具足、及不具足、云云」 枕草子、十一、百三十三段「[illegible]ノ中ニ、威儀具足しテモオハシマサテ、且、苦シウ、女房ノ中ニ、ナド笑フニ、[illegible]滿具足す」

ぐそく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 【具足】 〔具ニ歩マスル意ナルベシ〕 トモナフ。引キ連ル。具ス。携帶。 盛衰記、十五、宇治合戰事「三尺五寸ノ長刀、童ニ持タセテ、具足セリ」 太平記、二、天下怪異事「京[illegible]ノ[illegible]侍ナンドノ、女姓ヲ具足シタル體ニ見セテ」

ぐそくに (名) 【具足煮】 〔殼ヲ、具足(鎧)ニ見立テテ、名トス〕 いせえびノ頭ヲ去リ、身ヲ、殼ノママニテ、輪切ニシテ、味醂、醬油、同量ニ、砂糖ヲ加ヘテ、煮立テタル汁ニテ煮付ケタルモノ。

ぐそくびつ (名) 【具足櫃】 甲冑ヲ納レ置ク櫃。其前面ニ、前、ノ字ヲ書クヲ常トス。 [illegible] 三好亭御成記「御[illegible]八[illegible]具足櫃ニ入、黒漆ニテ、金物、金御紋、在之、前字モ、[illegible]」

ぐそくびらき (名) 【具足開】 鏡開ノ條ヲ見ヨ。

ぐそくもち (名) 【具足餅】 鏡餅、又、鏡開ノ條ヲ見ヨ。

くそたはけ (名) [illegible]ケタルタハケ。タハケノ、甚シキコト。

くそだめ (名) 【糞溜】 大イナル桶ヲ、地ニ埋メテ、肥料トスベキ糞尿ヲ貯ヘオクモノ。コエタメ。

◇くそたれ (名) 【糞垂】 〔糞ヲたれるノミニテ、外ニ能ナシノ意カ、鼻液たれ、はなたらしト云フ語モアリ〕 人ノ、無能ヲ罵リ云フ卑語。

くそぢから (名) 【屎力】 バカヂカラ。イヤニ、力ノアルコト。

くそつぼ (名) 【糞壺】 便所ノ下ニ、大瓶、又ハ、大桶ヲ埋メオキ、糞尿ヲ受ケシムルモノ。コエツボ。

くそどきょう (名) 【糞度胸】 意外ニ、度胸ノ強キコト。

くそとび (名) 【糞鳶】 今、まぐそとびト云フ、其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十八、羽族類「[illegible]、久曾止比」 今昔物語、廿、第三語「屎鵄ノ、翼折タルニ成テ、木ノ上ヨリ、土ニ落テ、フタメクニ(天狗ノコトナリ)」

くそばへ (名) 【糞蠅】 蠅ノ、大キク、黃ニシテ、好ミテ、糞ニツクモノ。

くそひりのやまひ (名) 【痢病】 りびやうニ同ジ。 倭名抄、三[illegible]「[illegible]痢、久曾比里乃夜萬比」

くそふく (名) 【廁】 〔糞拭くノ意ニテ、終止形ヲ、名詞ニ云フ語ナルカ、調ぐの船(貢船)、沫吹(口沫)〕 廁ノ異名。隱所。

雪隱。便所。蜻蛉日記、下、下「此頃ハ、メヅラシゲナウ、時鳥ノムラドリ、我ガくそふくニ下リ居タルナド、言ヒ罵ルナレド」花園天皇御記、元亨二年四月廿六日「今日、郭公滿レ耳、朕、於ニ淨所ニ聞レ之、世俗ニ古以來忌レ之、可ニ祈禱之由、女房等謳諒」明惠上人家集「山寺ハ、法師クサクテ、居タカラズ、心淸クバ、くそふくニテモ」建武二年二條河原落書「去年火災ノ、空地ドモ、くそ福ニコソ、ナリニケレ、タマタマ殘ル、家家ハ、點定セラレテ、置キ去リヌ」

〜くそ-ぶくろ (名) 糞嚢 (一)腹、腸、ノ古名。腸 字鏡「肚、腹也、久曽夫久呂」名義抄「肚、ハラ、クソブクロ」同「腸、クソブクロ、ハラワタ」同「腸、上通下正」 (二)轉ジテ、胃。モノハミ。エブクロ。胃 天治字鏡、一廿「胃、久曽不久呂」倭名抄、三六藏府類「胃、久曽和太布久呂ニ腸ナルベシ」箋注倭名抄、二三十七「胃、久曽布久路」名義抄、肉部「胃、クソブクロ、モノハミ」

くそ-ぶね (名) 糞船 糞尿ヲ運漕スル船。

〜くそ-へ (名) 屎戶 〔屎放ノ轉、川邊、かはび〕屎ヲ、放ルコト。大祓詞「串刺、生剝、逆剝、屎戶」神代紀二、素戔嗚尊ノ無狀ノ行ニテ、天津罪トス」神代紀、上二十二、送糞トアリ。

くそ-べら (名) 糞篦 卑人、脫糞ノ後、肛門ヲコソゲルニ用キル篦。セッチンベラ。(べら坊ト云フ語、コレヨリ起ル) 倭訓栞、くし「萬葉集(十六廿八)ニ、屎遠クマレ、櫛造ル刀自、ト詠メルモ、籤ノ類ナリ、今モ、岐蘇ノ山中ニ用ウ、廁ノへらナリト云ヘリ」輟耕錄(十、二)今寺觀、削レ木爲レ籌、置ニ廁溷中ニ、名曰ニ廁籌ト見エタリ」

〜くそ-まゆみ (名) 衞矛 〔檀ニ似テ、非ナルモノノ意ニモアルカ〕灌木ノ名、今、にしきぎト云フ、其條ヲ見ヨ。本草和名、上五十七「衞矛、久曽末由美」(倭名抄、同ジ)

〜くそ-ま・る (動) 送糞 まる(放)ノ條ヲ見ヨ。

く-そん (名) 九尊 佛經ノ語、五佛ト、四菩薩トノ稱。(五佛ハ、東ニ寶幢佛、西ニ阿彌陀佛、南ニ開敷華王佛、北ニ天鼓雷音佛、中央ニ大日如來ヲ云ヒ、四菩薩ハ、普賢、文殊、觀音、彌勒、ヲ云フ) 盛衰記、十三、入道信ニ嚴島ニ事「九尊ノ中尊ノ寶冠ヲバ、腦ヨリ血ヲ出シテ被レ書タリ」

ぐ-ぞん (名) 愚存 己ガ存寄ノ謙稱。愚意。愚見

くそ-むし (名) 糞蟲 〔好ミテ、人糞ニツク〕 (一)又、マロムシ。今、くろこがねむしト云フ、こがねむしノ條ヲ見ヨ。本草和名、下卅「蜣蜋、末呂牟之、久曽牟之」(倭名抄、同ジ) (二)糞中ノ蛆。

✣✣くそ-やけ (名) 自棄ノ條ヲ見ヨ。

〜くそ-わた-ぶくろ (名) 糞腸嚢 くそぶくろノ(二)ヲ見ヨ。

✣✣くそ-を-くらへ (句) 喰糞 〔命令形ナリ〕 (一)人ヲ貶シメ罵リテ、言ヒ捨ツルニ云フ、卑語。(二)卑人、嚏シタル時、直チニ言フ呪文。くさめガ、糞喰めトモ聞ユルニ因リテ、言ヒカヘテ云フカト云フ。

〜くた (名) 朽 〔腐るノ語根、朽つ、朽ちト通ズ〕 朽チタルモノ。腐レタルモノ。痿エタルモノ。氣力ノ、失セタルモノ。毀レテ、混雜セルモノ。多ク、熟語ニ用キラル。音ヲ轉ジテ、くちゃ。「塵芥ニアくた、ゴミくた」「腐鷄」「腐くた」「襤褸くた」「毀くた」(シワくちゃ)「揉くた」(モミくちゃ)「一處くた」「端ぐた」ガラくた ゴタくた」「メタくた」(メチャくちゃ)くたビル」(草臥)くたくたト伏ス」(恭頤)

くた (名) 塵芥 〔朽ノ意(前條ヲ見ヨ)コレニ、發語ノあノ添ハレルガ、あくた(塵芥)ナリ、字典「芥、草芥、揚子方言、自ニ淮以西、或曰ニ草、或曰ニ芥」〕アクタ。コツミ。ゴミ。元眞集、物名、からくだもの「小餘綾(相摸國)ノ、濱ニ風ノ、吹キシカラ、くたモ殘サズ、波モ寄セケリ」字鏡集、小學ニ、艸冠ニ稿ノ字ニ「クタ」

くだ (名) 管 (一)〔竹筒ナド、スベテ、圓ク、中、空虛ナル物ノ稱。筒。金屬製ナルヲモ云フ。天治字鏡、十二九廿「管、筒、久太」管の穴から天のぞくト云フハ、くゎんけん(管見)ノ條ヲ見ヨ。(二)〔機ノ具、緯絲ヲ卷キ付ケテ、梭ニ納レテ、緯ヲ遣ルモノ。籰 莩 字鏡六十二「籰、調レ糸者也、久太」倭名抄、十四五十織機具「莩、纏レ絲管也、管子、久太」(三)絲車ノ左ノ方ニアル、紡錘ニ插ム、小サキ軸。(いとよりぐるまノ條ヲ見ヨ)車ヲメグラセバ、おびいとヨリ、つむニ傳ヒテ、ぶうぶうト音ヲタツ。コレニ因リテ、醉漢ノ、漫語ヲぶうぶう言フヲ、くだを卷くト云ヒ、又、何事ニモ、くだくだしく繰言スルヲモ、くだをまく、くだまくト云ヒ、略シテハ、くだトノミ云フ。高屏風管物語(萬治)「來シカタノ事ドモ、ソコハカトナク書キツクレバ、何事モ、ツマル所ハ、管ナリケリ」吾吟我集、世話「酒ニ醉ヒ、くだまく人ハ、何事モ、イサ白絲ノ、亂レ心ヨ」(四)〔くだのふえノ略、はらのふえノ條ヲ見ヨ。(五)くだぎつねノ略、其條ヲ見ヨ。

〜く-たい (名) 裙帶 くんたいノ條ヲ見ヨ。

く-だい (名) 句題 詩歌ノ題ニ、古キ詩歌ノ中ノ一句ヲ用キルモノ。倭訓栞、くだい「三代集ノ歌ノ一句ヲ取リテ、題ニ出スヲ云フ也」

ぐ-たい (名) 具體 全ク、形體ヲ具備シタルコト。孟子、公孫丑、上篇「子夏、子游、子張、皆有ニ聖人之一體ニ、冉牛、閔子、顏淵、則具體而微」

ぐ-たい (名) 具體 〔英語、Concrete. ノ譯語、具體、具象ハ、形ヲ具フルナリ、抽象ハ、象ヲ抽クナリ、離スナリ〕 個體、特殊ノ、形體、性質ヲ具有スルコト。有形ナルコト。具象。形而下 其形體、性質ヲ、其個體ヨリ離シテ觀ズルヲ、抽象ト云フ。無形ナルコト。形而上

くだ-いし (名) 管石 くだだまニ同ジ。(倭訓栞)

くだ-いと (名) 管絲 莩ニ卷キツケタル絲。

く-たう (名) 狗盜 〔狗ニ裝ヒテ、物ヲ盜む義〕小ヌスビト。賤劣ナル人。史記、孟嘗君傳「最下坐、有ニ能爲ニ狗盜ニ者ニ曰、臣能得ニ狐白裘ニ、乃夜爲レ狗、以入ニ秦宮藏中ニ、取ニ所レ獻狐白裘ニ」韓非子、外儲說、左下篇「齊有ニ狗盜之子ニ、與ニ刖危子ニ戲而相誇」

〜くた-かけ (名) 腐鷄 〔くた(朽)ト、かけ(鷄)トノ條ヲ見ヨ、天智紀、二年六月「福信卽唾レ於ニ執得ニ曰、腐犬、癡奴」又、萬葉集、八ニ、醜霍公ナドアルト、同意ナリ、腐儒者ナドモ云フナリ〕鷄、卽チ、にはとり。但シ、惛ミ罵リテ呼ブナリ。伊勢物語、第十四段「男、云云、行キテ寐ニケリ、夜深ク出デニケレバ、女、夜モアケバ、狐ニ食メナム、くたかけノ、マタキニ鳴キテ、夫ヲ遣リツル」(鷄ノ宵鳴シテ、曉カト思ハセテ、男ヲ、早ク歸ラセタルヲ云フ) 遊仙窟「薄媚狂鷄、三更唱レ曉」夫木抄、廿七、雜「くたかけハ、何レノ里ヲ、ウカレ來テ、マダ夜深キニ、八聲鳴クラム」

くだ-ぎつね (名) 管狐 小狐ヲ使ヒテ、人ニ憑カシムルモノト云フ、いづなつかひノ類ナルベシ。略シテ、くだ。寫本、

[illegible]ハ、気つかひ、[illegible]上代ノおさ[illegible]、くだ、[illegible]。雲州ノ人ノ語リテ曰ハク、くだ狐ハ、大サ鼬ノ如ク、[illegible]ニナ、狐つかひ、術セラレシ事アリ、其狐、云云、鼠ト、大小、[illegible]六帖）上「くだハ、信濃國、伊奈郡ニアリ、小狐、管中ニ藏スルヲ云フナラム、大さき使ハ、上野國、南牧ニアリ、亦、畜シ、くだぎつねノ類ナリ」

くだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［碎摧］（くだハ、段ノ活用カ（莖立、くくたち。踵、くびす）崩すト通ズルナルベシ（嚼吐、くゑだく））（一）擊チテ、破ル。タタキ、クヅス。ハタク。コハス。「石ヲ碎く」（二）（チヂニ、思ヒヤ[illegible]）摧心　萬葉集、十八、四十「君ガ摧かム、心ハ持タジ」　源、十二、須磨「心ヲくだきタマフ人ゾ、多カリケル」（三）事ヲ、細カニ分ツ。［解説］[illegible]「相撲ハ、四十八手トイヘドモ、くだけバ、八十八手ニモ、百手ニモ取ル」「道理ヲくだいテ聞カスル」

くだ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［碎］［摧］（前條ノ語ノ自動、くじく、くじくる。ひしぐ、ひしぐる）（一）擊タレテ、破ル。[illegible]コハル。クヅル。[illegible]二十、須磨ノ碎シ、波所ニ散リケム」（くだけシ端片ガ）（二）亂ル。思ヒ惱ム。　萬葉集、四、「ムラギモノ、心摧けテ」　古今集、十一、戀、一「淡雪ノ、タマレバガテニ、くだけツツ、我ガ物思ヒノ、シゲキ頃カナ」[illegible]「僧侶等、山賤ノ、はてニ刈リホス、麦ノ穂ノ、くだけテ物ヲ、思フ頃カナ」（三）容易クナル。打チ解クル。［融解］「話題ガ、だくろ、世事ニくだけテ語リ合フ」

くた-くた（副）［腐腐］（[illegible]ヲ重ヌ、其條ヲ見ヨ）（一）くたりハ、くたノ音便（うかと、うかりと、うっかりと。さくと、さくりと）醉ウテぐでんぐでんトナルト云フモ、是レヨリ轉ジタルナリ（た[illegible]）。萎エ伏ス状ニ云フ語。ヘトヘト。今ハ、濁音ニ、ぐたぐた、ぐたり、ぐったり、ト云フ。　著聞集、十、相撲強[illegible]云フ男女[illegible]ハ、くたくたト[illegible]入リテ、ワヅカニ息バカリ通ヒケル」　宇治拾遺、三、第二條「狂メキケルホドニ、イト高ク鳴ラシテケリ、女房ハ、言フニモ堪ヘズ、くたくたトシテ寄リ伏シニケリ」同、十二、[illegible]ヲ打テバ、背骨ヲ打切リテ、くたくたトナシツ」（虎ヲ殺シタルニ云フ）「疲レテ、身體ガぐたぐたニナッタ」ぐたり倒レタ」

ぐた-ぐた（副）（一）萎エ伏ス状ニ云フ語。ぐたり、（前條ヲ見ヨ）（二）物ノ、煮エ立ツ音ニ云フ語。グツグツ。（くつくつノ條ノ（三）ヲ見ヨ）

〜**くだ-くだ・し**・シキ・シクレ・シク・シク（形、二）［煩碎］［煩絮］「碎くるノ語根ヲ重ネテ活用セシム、喧喧しナドノ例、此ノ語、くどくどし、[illegible]つト變ズ（ふもだし、ふんどし。怖怖、おぢおぢ、おど[illegible]）」事繁クシテ、煩ハシ。濃ヤカナルニ過ギテ、厭ハシ。クドクドシ。　[illegible]廿四年九月[illegible]頻繁[illegible]」　源、四、夕顔五十二「カヤウノくだくだしきホハ、云云、皆、漏ラシトドメタルヲ」

くだけ（名）［碎］碎クルコト、碎ケタル物。「搗米ノくだけ」

✣**くだ・ける**（動）［碎］碎く（下二段）ノ口語。

くださん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［くだされんずノ略轉（行かんとする、行かんずる。ござります、ござんす）］更ニ略シテ、くだんす」クダサル。クダンス。　薩摩歌（寶永、近松作）下「水一ツ、マヅ飲マセテ下ださんせ、云云、氣遣ヒシテ下ださんすナ」私ニ、ソレラくださんせ、くださんせメ　ヨウ來テくだんした」

くださ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［被下］（前條ノ語ノ、約マリテ、四段活用ニ轉ジタル語、成さるる（下二段）ノ、なさる、いらるる、いらる[illegible]）（一）前條ノ語ニ同ジ。タマハル。イタダク。　孝經集「守[illegible]さりマシ、何モ、くださらズ」（二）敬語助動詞ノ如ク用キテ、　狂言記、餅酒「ヨロシウ、仰セアゲラレ下ださりマセ」「行ッテくださる」待ッテくだされ」（三）轉ジテ、食フ、飲む、ノ敬語。「[illegible]ヲバ、モハヤ、くださいマシタ」私ニハ、酒ヲバ、くださいマセヌ」

くださ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［被下］［下すノ未然形ノくださニ、敬語ノ助動詞ノるるガ附キテ、熟語トナレル語］與ふノ敬語。アタヘタマフ。給ル。賜ハル。イタダク。頂戴ス。　保元物語、一、新院召[illegible]「[illegible]爲義丸ト云フ[illegible]ヲゾ、下されケル」　狂言記、拔殼「イヤ、御酌、慮外ニゴザリマスル、コレヘ下されマセウ」同、宗論、同、云云、芋茎、云云、芥子デ、辛辛トシヘ、[illegible]ガタデ下さるる時ハ、涙ウテ、アリガタウテ、涙ガコボルル」

くだされ-もの（名）［被下物］貰物ノ敬語。タマモノ。　[illegible]先代[illegible]天明[illegible]賞門等[illegible]御[illegible]光ノ御菓子、賴朝公ヨリ下されし物」

くだし（名）［下］（一）下スコト。（二）クダシグスリ。

くだし-ぐすり（名）［下藥］大便ヲ通ゼシムル藥。通ジグスリ。下劑。瀉劑

くだし-ぶみ（名）［下文］（文書ノ初、終ニ、下（クダス）ト云フ字ヲ書ケバ、云フ）官府ヨリ下ス、命令ノ文書。院廳、攝關大臣家ノ政所ヨリ出スモノアリ、鎌倉、室町時代、幕府ノ政所ヨリ、所領ヲ宛行フナドニ出スモ[illegible]リ。其例ニ、院廳下、攝政家政所下、又ハ、將軍家政所下、ナド記シテ、末ニ、所レ仰如レ此以下、ト記ス。[illegible]

〜**くた・す**・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［腐］［くたる（腐）ノ他動、至る、致す。濁る、にごす］（一）腐ラス。クサレシム。朽チシム。　萬葉集、十九、[illegible]卯花ヲ、[illegible]ハ時日ニ、[illegible]キニシヲ、今日ハ斧ノ柄、ココニくたさム」朽チサセム、仙人ノ[illegible]ヲ見テ居テ、イツノマニカ、斧ノ柄ノ朽チタル故事ニ云フ）（二）損フ。毀損。　萬葉集、五ノ二十八「[illegible]人ノ、家ノ子等ノ、[illegible]ル身[illegible]ミ、久多志[illegible]ツラム、[illegible]ラハモニアハレ、ソレ一ツ欲シサ」同、十六[illegible]レバ、卯花具多思、吾ガ越エシ、妹ガ[illegible]ハ、荒レニケルカモ」（三）貶ス。クサス。ケナス。　[illegible]、十七、[illegible]在五中將ノ名ヲバ、エくたさジ」同[illegible]ニ、イカガハ、推シハカリ、思ヒくたさム」

くだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［下降］［下るノ他動、いたる、いたす。きたる、きたす］（一）下ルヤウニス。下ヘ遣ル。サグ。オロス。　拾遺集、十一、戀、一「大井川、くだす筏ノ、ミナレ棹、ミナレヌ人モ、戀シカリケリ」（二）都ヨリ、田舍ヘ行カシム。（のぼすノ（三）ヲ見ヨ）　沙石集、二、上、第四條「田舍ヨリモ、國ノ物のぼせ、京ヨリモ、イロイロノ物くだしナンドシテ」（三）賜フ。與フ。［下賜］　延慶本、平家物語、二、中、三位入道謀射[illegible]、御衣ヲ下させタマフ」（四）筆ヲ、紙ニオロシテ、書ク。　下筆　宇治拾遺、九、第[illegible]條[illegible]繪師、云云、筆ヲくださムトスルニ」（五）貶ス。サグ。退クル。　字鏡、[illegible]、久太[illegible]」　沙石集、六上、第七條「我ガ身ノ

非ヲ知ラズ、持救ノ人ヲバくだし」「位一級ヲくだす」(六)勝チテ、我レニ從ハス。降參セシム。「敵ヲ降す」「城ヲ降す」(七)〔サゲワタス。〕申シワタス。下附ス。源、七、紅葉賀「十三」「オホヤケ事、多ク奏シくだす日ニテ」(八)大便ヲ、通ゼシム。瀉「下痢ニテくだす」「ハヲ呑ミ過ギテ、腹ヲくだす」

くだ-すだれ (名) 管簾 又、くだのれん。極メテ細ソキ竹ヲ、二三寸ニ切リ、其數箇ニ絲ヲ貫キツヅリタルヲ、數條、並ベ垂レテ、簾トシタルモノ。近代世事談(享保)二、器用門、管簾「古來ヨリアリトイヘドモ、當物トスル始ハ、正德ノ頃、築地、小笠原家ノ道具持、沖忠右衞門ト云フ者、作ル」傾城島原ノ合戰(享保、近松作)三「オウイト答ヘテ管のれん、顔、差入ルレバ」

くだ-だま (名) 管玉 まがたまノ條ヲ見ヨ。

〔**くだち** (名) 降 (一)クダツコト。日ノ、カタムクコト。ユフグレ。日夕 大祓詞「六月、晦日ノ、夕日ノ降ノ大祓ニ」(二)夜ノ、深クルコト。ヨフケ。夜闌 萬葉集、十九「夜具多知ニ、寐覺メテ居レバ」

〔**くだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ** (自動、四) 降 〔降る ト同意、あやまる、あやまつ〕(一)クダル。日、カタムク。昃 武烈卽位前紀「日晏坐朝」字類抄「斜、日斜、クダツ、ヒクダチ」(二)夜、深クル。更タクル。夜闌 萬葉集、十七「三山ノ端ニ、イサヨフ月ヲ、出デムカト、待チツツ居ルニ、夜ゾ降ちケル」同、十九「夜降 雨、鳴ク川千鳥、宜シコソ、昔ノ人モ、偲ビ來ニケレ」(三)衰フ。末ニナル。衰頽 萬葉集、五「我ガ盛リ、イタク久多知ヌ、雲ニ飛ブ、藥食ムトモ、又復チメヤモ」(仙人ノ藥ヲ服ストモ、若返ラムヤハ)古今集、十七、雜、上「笹ノ葉ニ、降リツム雪ノ、末ヲ重ミ、下くだち行ク、吾ガ盛リハモ」

く-たに (名) 苦膽 〔字モ不審ナリ、古今要覽稿ニ、論アリ〕植物ノ名、龍膽ノ異名ナリト云ヘド、詳カナラズ。古今集、十、物名、くたに「散リヌレバ、後ハアくたにナル花ヲ、思ヒ知ラズモ、惑フ蝶カナ」源、廿一、少女「五十三」「花橘、撫子、薔薇、くたに、ナドヤウノ花ノ、クサグサヲ植ヱテ」藻鹽草、八「くたに、苦膽、りんだうノ一名」大和本草、六「龍膽、倭名、リンダウ、一名、くたにト云フ」

くたに-やき (名) 九谷燒 加賀ノ江沼郡、九谷ノ地ヨリ產ズル磁器、今ハ、他ノ郡村ヨリモ出ス、質ハ、瀨戶燒ニ似テ、染付ヲ佳シトスレド、赤繪、金襴手、却ッテ世ニ賞セラル。

〔**くだ-の-ふえ** (名) 小角 はらのふえノ條ヲ見ヨ。

くだ-ノレン (名) 管暖簾 くだすだれノ條ヲ見ヨ。

〔**くた-は・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 憔悴 〔くたハ、朽ナリ、其條ヲ見ヨ、くづほる、くたびるト通ズ(もとほる、まつはる)〕悴ク。カジカム。シボム。名義抄「憔悴、クタハル、オトロフ、シボム、ツヒユ」

✣**くた-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 斃 〔くたくたト、へたばるトノ略合ニモアラムカ(ひしげかがむ、ひがむ。かんざらしとさらてん、かんてん)〕死ぬノ卑語。ゴネル。雜兵物語(天和)上、挾箱持「死ヌベイト思ノテモ、ナカナカ卒爾ニ、くたばりサウデモナイ」

くた-び・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 草臥 〔くた(朽)ト、きたなびるトノ條ヲ見ヨ、くづほる、くたはるト通ズ、草臥ノ字ヲ慣用スルハ、詩經、鄘風ノ跋涉ニ、くさぶし(草臥)みづわたる(水渡)ト、古訓アルニ因ル〕歩ミ、又、動クニ過ギテ、疲ル。烈シク働キテ、弱ル。疲勞 疲倦 爲忠集「くたびるる、旅ノトマリノ、曉ハ、ソコハカトナク、見ケル古里」中務內侍日記(弘安)「遊ビ、たびれテ侍ルト申ス」(遊ビハ、管絃ナリ)太平記、五、大塔宮熊野落事「御身モ草臥れハテテ、流ルル汗、水ノ如シ」易林節用集「勞倦、疲、クタビル」

くたびれ (名) 草臥 クタビレタルコト。ツカレ。疲勞 中務內侍日記(弘安)「御くたびれニヤアリケム、御舟ニモ召サズ」

くたびれ-まうけ (名) 草臥儲 草臥ノミ殘リテ、何ノ功モ立タヌコト。「骨折損ノくたびれまうけ」

✣**くた-び・れる** (動) 草臥 くたびるノ口語。

✣**くた-ぶ・れる** (動) 草臥 前條ノ語ノ訛。

くだ-まき (名) 管卷 蟲ノ名、きりぎりすノ類、頭、小サク、身、大キク、髭アリ、羽、大キク、羽ヲ振ヒテ聲ヲナスコト、緯車ノ廻ル音ノ如シ。クダムシ。スイト。莎鷄

くだ-まく (句) 管卷 管ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

〔**くだん** (名) 件 件ノ條ヲ見ヨ。

くだ-むし (名) 管蟲 くだまきノ條ヲ見ヨ。

✣**くだん・す** (動) くださんすヲ見ヨ。

くだ-もの (名) 果 〔木種物ノ略轉ト云フ(かたねなし、結政。金兒、庚)或ハ、木之物ノ轉(黃金、くがね。熱海、あたみ。礫、つぶて。之ヲ濁ルハ、己ガ(自)獸モ、毛之物ナリ、なりくだものト云フハ、唐菓子(菓子)ヲ、單ニ、くだものト云ヘバ、ソレニ別チテ、木に成るくだものト云フナリ(成山椒、成瓠)乾菓子ニ對シテ、水菓子ト云フ、同ジ〕(一)〔木實ノ、食フベキモノ。柿、桃、梨、ノ類。ナリクダモノ。ナリモノ。水菓子。(二)草ノ實ノ、食フベキモノ、卽チ、瓜ノ類ヲ、くさくだものト云フ。蓏 倭名抄、十七、菓類「果、或作菓、久太毛乃、蓏、久佐久太毛乃」宇津保物語、藤原君「九」「柿ノ枝ヲ一ツニ、實ノ成ル數アリ、くだものニ食フニ、ヨキモノナリ」(三)唐菓物(唐菓子)ノ略。菓子。菓物司アリ、次條ヲ見ヨ。落窪集、十八、飲食「御くだ物ヲ參ラセラレタリケルニ、オコシ米ヲ取ラセ給ヒテ、參ル由シテ」

くだもの-の-つかさ (名) 菓物司 〔くだものハ、からくだものノ略〕古ヘ、大膳職ニ屬シテ、唐菓子ヲ製造スル所。職員令、大膳職「主菓餅二人、掌造雜餅等」

くだ-やり (名) 管槍 槍ノ柄ニ、管ヲハメタルモノ。管ノ進退、自由ナリ、左手ニ管ヲツカミ、右手ニテ柄ヲ突ク。近代世事談(享保)二、器用門、管鎗ノ條ニ、慶長ノ頃、大谷刑部(吉隆)始メテ作ル、病アリテ、手ノ中、心ニマカセズ、因テ工夫ス、事始ニ云フ、手ぼうト云フヨリ見レバ、手ノ中、自由ナラズト云フニヒトシ、刑部ヲ、初メ左馬之助ト云ヘルカトアリ。

〔**クダラ** (名) 百濟 〔百濟ハ、貊人種ヨリ出ヅ、朝鮮古語ニ、山ヲたらト云フ、くたらハ、貊山ノ略ニテ、貊族國ノ意ナラム(金澤庄三郎說)高句麗ヲ併セ見ヨ〕古ヘノ三韓ノ一、三韓ノ條ヲ見ヨ。音讀シテ、百濟。百濟。其國ヨリ渡セル物ニ冠シテ「百濟樂」「百濟琴」ナドアリ。源、五、若紫「廿」「くだらヨリ得タマヘリケル、金剛子ノ數珠ノ玉」倭名抄、五「六」攝津國、百濟郡、久太良」易林節用集(慶長)乾坤部「百濟」

〔クダラ-ごく [illegible] 百濟樂 [illegible] 百濟國ヨリ傳ヘタル音樂、高麗樂 [illegible]〕

〔クダラ-ごと (名) 百濟琴 〔前前條ヲ見ヨ〕箜篌ノ異稱、百濟國ヨリ渡セル [illegible] 百濟國箜篌也、久太良古止」

〔くだら-す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 下 〔くだらノ數語〕下リタマフ、古事記、下仁 [illegible] 〔ナリ〕

〔くだら-な・い (形) 次條ニ同ジ。

くだら-ぬ [illegible] 〔へりくだる(謙)ヲくだるトノミモ云フ、くだらぬハ、人前モ憚ラヌ意ナラム、謙らずロト云フ語モアリ〕理ナキコトヲ、言ヒ立ツル。理ニツマラヌ。クダラナイ。沒理 狂言記、鏡男「松ノ山家ノ者ヂャ、鏡ヲ見タ事ガ無イトコロデ、くだらぬ事ヲ申ス」 新竹取(貞享)「くだらぬ理屈、アワウロ」

くだり (名) 下 (一)〔クダルコト。サガルコト〕[illegible] 俱舍論、役モ闕ニ、黃キテカ行カム」「山ノ、ノボリくだり (二)時ノ、過ギ移ルコト。宇治拾遺、十一、第九條「只今ハ、何時ゾ、云云、申ノくだりニナリ侍ヒニタリ」云フ [illegible] (三)都ヨリ、田舍へ行クコト。下向。(一)くだるノ條ノ(三)ヲ見ヨ) (二)くだるノ條ノ(三)ヲ見ヨ) 宇治拾遺 [illegible] 都ノ下リノマネノ事」 [illegible] 人ノ、揺籃くだり二、カチヂナリシカバ」「京くだり」海道くだり [illegible] 高ナド、 [illegible] コロボヒユキ [illegible] ヲ見レバ、物ノコトワリ、皆知ラレケリ」 [illegible] 一千句

(元和)「公方ノ前モ、オメヌ佐保姫」カブキスル、春 [illegible] くだり、拾ヒ集メテ、かかしカナ」 (五)轉ジテ、遠方ノ地 旅シテ歩クニ云フ、音便ニ、くんだりナドトモ云フ、嘲リテ、滑稽ニ云フ意アリ。「江戸さんがいへ往カシャンス」ナド云フモ、境ノ音便ナリ、さんがいノ條ヲ見ヨ。「江の島くだり、ボッツキ歩ク」北海道くんだりマデ、旅烏シテ」 (六)くだりあめノ略。(七)くだりばらノ略。

くだり (名) 下 〔上方ヨリ來レルヲ云フ義〕 地黃煎ノ一名。[illegible] 下リ出茶屋、此茶屋ハ、晩茶ノ煎茶ナリ、是又、一服一錢ナリ、くだりトハ、上方ヨリ來レルヲ云フ、今モ諸物ニサハ云ヘド、下りトテ、一種ノ名トナレルハ、地黃煎ノミナリ、今(天保)モ、上野山ノ香煎賣ノ、地上ニムシロ敷ケルハ、昔ノ出茶屋ノサマ、殘レルナリ」

〔くだり (名) 行 〔下ノ義〕 上ヨリ下マデノ一列。[illegible] 多クハ、文章ニツキテ云フ。行 宇 [illegible] クダリ、字行等類」 源、三十二、梅枝「タダ三くだリバカリニ、文字ズクナニ、好マシクゾ [illegible]」

〔くだり (名) 件 〔行ノ義、音便ニ、くだんト云フ(殘の雪、のさんのゆき。榛の木、はんのき)假名、かんな〕說文「件、分也」字類抄「件、クダリ、分次也、如件」六書故「條件、俗號、物數、曰若干件」 (一)文書ニ記セル章。段。條。音便ニ、くだん。推古紀、十二年四月「作憲法十七條」[illegible] 日、上和下睦 [illegible] 大和物語、下「アリツル由ヲ、上ノくだり皆セサセケ

リ」宇治拾遺、十、第一條「アリノくだりノ事ヲ申シテケリ」 後ニハ、初の、上の、ナド云フベキヲ略シテ、さき、だんトノミ用ヰラル、文書ノ末ニ、如 上件ナルベキヲ、仍而如レ件、ナド記スハ、卽チ、上の件の如しナリ、[illegible] 如件、クダンノゴトシ、クダリノゴトシ」 (二)轉ジテ、これ(其)ノ意トナル。宇津保物語、國讓、下「[illegible] カノ件ノ三條ノ [illegible] 僞ニ向ヒタル事、チヒサキアリ 宇治拾遺 [illegible] 八チ坊中ニ入レテ、件ノ樂ヲ [illegible] 蛇、くだんノ頭ニ、アヤマタズ、食ヒツキニケリ」

〔くだり (接尾) 領 襲 〔行ノ義カ〕 裝束ナドノ、ひとそろひヲ數ヘ云フ語。 源、廿一、少女 [illegible] 睦月ノ御裝束ナド、云云、アマタくだり、イト淸ラニ仕立テタマヘルヲ」

ぐだ-り (副) くたくたノ條ヲ見ヨ。

くだり-あめ (名) 下飴 〔下痢ヲ治スト〕テ名ヅクトカ云フ」 地黃煎(一名、くだり)ヲ加ヘタル膠飴。略シテ、くだり。

くだり-きしや (名) 下汽車 都ヨリ、田舍へ向ヒテ行ク汽車。上汽車ニ對ス。

くだり-ざか (名) 降坂 (一)坂ノ、降リ路。(登坂ニ對ス) 宇治拾遺、三、第七條「手ヲ立テタル樣ナル岩ノ、五六丈アルヲ、三ノ脚ヲ持チテ、くだり坂ヲ走ルガ如ク、上リテ行ケバ」 (二)次第ニ、衰へ行クコト。衰勢 [illegible] 三十三、車「柴車、落ス深山ノ、谷深ミ、くだり坂ナル、身ニコソアリケレ」 同、三十六、述懷「老ガ身ノ、山トシ [illegible] くだりムキナル、坂ゾ木ナキ」

くだり-ざけ (名) 下酒 〔江戸ヨリ、上方ヲ指シテ云フ〕 畿内ヨリ、江戸へ送來レル酒。

くだり-ばら (名) 瀉腹 はらくだりニ同ジ。下痢。略シテ、くだり。

くだり-ぶね (名) 下舟 川下へ行ク舟。(登舟ニ對ス) [illegible] ヒアリキ、くだり船ノアリケルニ、乘ラムトス」

くだり-むね (名) 下棟 屋ノ、大棟ヨリ下リテ、檐ニワタル棟。

くだり-やな (名) 下梁 梁ノ條ヲ見ヨ。

くだり-やみ (名) 下闇 きもつやみヲ見ヨ。

〔くた・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 腐 〔くた(朽)ノ條ヲ見ヨ、腐るト通ズ、他動ニ、くたす(腐)ト云フ〕腐ル。爛ル。損ハル、[illegible] 廿四年九月 [illegible] 宇 [illegible] くたれァ [illegible] くたるるにねくたれ髮〕

くだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 下降 (一)〔上ヨリ、下へ行ク。オルル。サガル。低キニツク。萬葉集、廿五長歌「朝ナギニ、艤ヒキノボリ、ダシホニ、棹サシ久太理」 (二)降ル。延寶本、平家物語、一、末、[illegible]「空、カキクモリ、國土ニ、雨くだりテ」 (三)〔日影、傾ク。時、過ギ移ル。昃 源、廿一、少女 [illegible] ドニ [illegible] 時 [illegible] 宇津保物語、[illegible] 中 巳ノ時打チくだりテノ程ニ(午前十時過)」 (四)〔都ヨリ、田舍へ行ク。下向ス。(のぼるノ條ノ(三)ヲ見ヨ) 萬葉集、十七廿二長歌「足曳ノ、山坂越エテ、天離ル、鄙ニ久太理テ」 (五)時勢、移リテ、末トナル。末世トナル。澆季「くだれる世ニ」世ノくだる程ニ」 (六)〔謙ル。ヘリクダル。謙遜 仁賢即位前紀「壯而仁惠、謙恕溫慈」 論語、顏淵篇「慮以下レ人」 (七)劣ル。品、落ツ。劣 (八)戰ニ負ケテ、敵ニ從フ。降參ス。降 三代實錄、三十四、元慶二年十月十三日「勅ニ符出羽國司一曰、得ニ今月日奏狀一具知三賊虜乞、降之由一云云、但古之降者、去ニ其甲兵一而歯待レ命、武得レ制ニ其死生一然可レ謂ニ

降伏歸降之法ニ 太平記、六、楠出₌張天王寺₌事「湯淺入道、内外ノ敵ニ取籠ラレテ、可₌戰様モ無リケレバ、忽ニ頸ヲ伸テ、降人ニ出ヅ」(九)大便、烈シク通ズ。下痢ス。瀉 「腹ガくだる」

くち (名) 口 (一)顔ノ下ノ方ニテ、脣ヨリ喉ニ通フ穴、中ニ、齒、舌、アリ、物ヲ言ヒ、又、食ヲ受ク。 古事記、中(神武)ノ長歌「瑞瑞シ、久米ノ子等ガ、垣モトニ、植ヱシハジカミ、久知ヒビク、ワレハ忘レジ」 (二)口ヨリ出ヅル言葉。モノイヒ。 榮花物語、廿二、鳥舞「コレハ彼レニ云フベキ事ニモアラズ、ソノヲリノ事、今ノ世ノ事ト、同ジくちニ云フベキナラネバ、コレバカリメデタキコトナクナム」「くちニ任ス」ヒトくちニ言フ」「くちヲ合ハス」「くちヲ消ス」 (三)家、或ハ、車ノ、出入スベキ處。戸口。 榮花物語、十七、音樂「未ノ時バカリニナリテ、御車寄セ奉ル、くちニハ大宮、皇太后宮、奉ル」 (四)物ニ、出シ入レスベキ穴。口 宇治拾遺、三、十六條「月比ヘテ、今ハヨク成リヌラム(瓢ノ)トテ見レバ、ヨクナリニケリ、取リ下シテ、くちアケントスルニ」「匣ノくち」壺ノくち」 (五)事物ノ端。ハジメ。オコリ。端緒 拾遺集、七、物名「足引ノ、山ノ木ノ葉ノ、落チくちハ、色ノヲシキゾ、哀レナリケル」「議論ノくち」 (六)タヅキ。テヅル。貢緣 「奉公ノくち」嫁入ノくち」賣レくち」マウケノくち」 (七)スキマ。ヒマ。アナ。隙 (八)物ノ口ニ、支ヒ置ク物。栓。 「徳利ニくちヲスル」 (九)タグヒ。ルヰ。品類 心中萬年草(寶永、近松作)中「九文、七文ヅツ、百ノくちヲ拔イテオケヤ」「此ノくちノ品物」 (十)一人、食フベキ糧。口糧 「くちヲ減ラス」「くちヲ貰フ」 (十一)口を塞ぐ、口を閉づ、口を噤むトハ、默ス。ダマル。默 口の端にかくトハ、取リ出デテ言フ。掛齒牙 口をきくトハ、物言フ。口を切るトハ、始ム。口をたたくトハ、饒舌ル。鼓口

〔**くち** (名) 鷹 〔觜ノ鋭キ故ノ名ニモアルカ、百濟ニテモ云フトハ、我ガ邦語ヲ傳ヘタルニヤアラム、今ノ朝鮮語ニハ、まいト云フ」 鷹ノ一名。 古事記、中(神武)七長歌「宇陀ノ高城ニ、鴫羂張ル、我ガ待ツヤ、鴫ハ障ラズ、イスクハシ、(鷹)久治等障ル」(萬葉集、十七₄₁₁₂「二上(山)ノ、ヲテモコノモニ、網刺シテ、吾ガ待ツ多可(鷹)ヲ、夢ニ告ゲツモ」下ノ長歌ニモ、網ニカカリシ久知トアリ) 仁德紀、四十三年九月「依網屯倉阿弭古、捕₂異鳥₁獻₂於天皇₁云云、百濟俗、號₂此鳥₁曰₂倶知₁」註「是、今時鷹也」 日本紀竟宴歌(天慶)得₂土倉阿弭古₁「網ノ中ニ、カカリハジメシ、久知ヨリモ、放チカヘサヌ、歎キマサレリ」(鷹ヲ、異鳥トセシハ、古事記、中(仁德)ニ三變ノ蟲ヲ、奇蟲トセシ類ナルベシ、此奇蟲ト云フハ、蠶トオボシ、蠶ハ、神代ヨリアリ) 倭名抄、十八、三十羽族類「鷹、鷹鶻總名也、太加、古語云、倶知、兩字急讀、屈」 散木集、一「雉子鳴ク、須多野ニ君ガ、くち居エテ、朝踏マスラム、イザ行キテ見ム」 夫木抄、廿七、鷹「我レト云ヘバ、サモアラヌ鷹ヲ、敎ヘオキテ、野守モ見エヌ、くちノ屋形尾」

くち (名) 鯢 魚ノ名、いしもちノ條ヲ見ヨ。

くち (名) 朽 クツルコト。クサルコト。腐朽 新千載集、十二、戀、二「アダナリト、カネテ思ヘバ、言ノ葉ノ、くちモ朽チズモ、ワク方ゾナキ」

ぐ-ち (名) 驅馳 (一)馬、車ヲ、走ラスルコト。馳驅。 史記、韓安國傳「驅₂馳國中₁以夸₂諸侯₁」 諸葛亮、出師表「遂許₂先帝₁以₂驅馳₁」 (二)人ノタメニ、奔走スルコト。(三)世ノタメニ、奔走スルコト。 王充、論衡「材能之士、隨₂世驅馳₁」

ぐ-ち (名) 愚痴 愚癡 (一)オロカナルコト。 謠曲、籠頼寺「四句ノ文トヤラン、云云、愚痴ノ我レ等ニ示シ給ヘ」 字類抄「愚痴、イトケナシ」 (二)佛敎ニテ、煩惱ノ迷ヒ。 阿毘曇論「愚痴邪見」 法華經、譬喩品「愚痴暗蔽、三毒之火」 發心集、七、十一條「愚痴闇鈍」 (三)轉ジテ、煩悶エテ、詮ナキ繰言スルコト。「詮ナイ愚痴」 コレヲ、愚痴ヲこぼすト云フ。

ぐち (接尾) 共 〔ごと(共)ノ條ヲ見ヨ〕 ト、共ニ。グルミ。ゴト。 俚言集覽、ぐち 大阪詞、菓物ナド、皮トモ食フ、皮ぐち食フト云フ」 菅原傳授手習鑑、享保、竹田出雲作三、切「童子ノ湯モタギッテアロ、釜ぐちソット取ッテ來イ」

くち-あけ (名) 口明 (一)物ノ口ヲ、開クコト。クチビラキ。クチキリ。(二)事ノ、シハジメ。カハキリ。 曾我五人兄弟(元祿、近松作)一「女郎狂ノ口明け」「商ヒノ口あけ」

〜**くち-あそび** (名) 口遊 〔口ハ、ことばナリ〕 (一)クチズサビ。クチヅケ。 宇津保物語、梅花笠十「人ニ物モ言ハデ、タダ、佛ノ御名ヲノミ、稱言ニモ、口あそびニモシツツ行フ」 (二)アダクチ。ワルクチ。 宇津保物語、藤原君七「戲言ハ宮フトモ、コノ斯ルくちあそびハ、サラニ承ハラジ」 長門本、平家物語、十六「木曾ガ世ニアリシ時ハ、御料ト言ハレテ、草木モ靡キテコソアリシニ、イツシカ、天ノ下ノくちあそびニ及べリ」 百錬抄、十四「天福字、自₂始世人不₁受、諒闇相續、爲₂其徵之由口遊₁」(天福ハ、年號) 愚管抄、七、兒女子ガ口遊トテ、コレラヲ、ヲカシキ事ニ中スハ、云云」

くち-あたり (名) 口當 飮物、食物ノ、舌ニ於ケル感ジ。クチザハリ。味覺。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三「カマヘテ、口あたりヨシトテ、多ク御マヰルナ」「くちあたりヨキ酒」

くち-あひ (名) 口合 〔口ハ、ことばナリ、語ト語トノ音ノ合ふナリ〕 (一)同音異義ノ語ヲモヂリテ、同語ノヤウニ聞カシムルコト。秀句ノ、野鄙ナルモノナリ。 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八、秀句「律ノ國ノ多田ノ在所ノ者ノ通ルヲ、關守、咎ムレバ、ただの夫ト答フ、サラバ、八島ノ軍ヲ語レト云ヘバ、ソレハ、つぎの夫ニ問ハレヨ」 (二)江戸ニテ成レル口合ヲ、地口ト云フ、畿内ノ口合ナラズ、地(江戸)ノ口合ノ義ナリ。神社ノ祭禮ナドニ、地口行燈ヲ飾ルコト、江戸ニ始マル。 「伊勢、出羽、越中、駿河、美濃、志摩」伊勢屋では、越中するが、身の始末」 (三)地口ノ變ジタルモノヲ、語路ト云フ、ことばつづきニテ、サモナキ言ヲ、ソレト聞カシムルモノ。天明年間ヨリ起ル。 「先づ明けまして、結構の春」まづ中てまして、鐵砲の春」死なざ止むまい、三味線枕」田舍侍、茶店にあぐら」アカサタナ、ハマヤラワ」淺ハカナ、馬鹿野郎」 題ヲ出シテ、人人ニ作ラシメテ、其優劣ヲ判ズルヲ、語路合ト云フ。(四)口合ト、語路ヲ兼ネタルモノヲ、洒落ト云フ。「朝朝粥を、食ふや(空也)上人」恐れ入谷(江戸地名)の鬼子母神」其手は桑名(桑名)の燒蛤」安宅(邪)で道中がなるものか」殘念(顏淵)閔子騫」

〜**くち-あ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ** (自動、下二) 口會 言語ヲ交ハス。 御門祭、祝詞「禍津日ト云フ神ノ言ハム惡事ニ、相マジコリ、相口會タマフコトナク」 道饗祭、祝詞「根國底國ヨリ、荒ビ疎ビ來ル物ニ、相率リ、相口會事ナクテ」

くち-あみ (名) 口網 (一)引網ノ一種。(二)轉ジテ、口重キコト。(口網ノ重キヨリ出ヅ) 土佐日記、十二月廿七日「別レ難クイヒテ、カノ人人ノ口網モ諸持ニテ、コノ海邊ニテ、荷ヒ出ダセル歌」

くち-あらそひ (名) 口爭 コトバアラソヒ。イサカヒ。口論。

くち-あわ (名) 口沫 物言フ時ナド、唾ノ、沫ノ如クナリテ、口吻ニ出ヅルモノ。アワブク。アブク。責メラレテ、甚シク苦痛スル時ナドニモ、出ス。上略シテ、あわを吹くト云ヒ、又、勝負事ナド、スベテ、相手ヲ責メテ負カスヲ、あわを吹かすト云フ。 靈異記、下、第十八縁「女、口溫

[illegible]ドニ頁セシヲ云フ」同、あわをくふ、沫ヲ、口中ヨリ吹キ出スヲ云フ、又、人ヲ苦シムルヲ、あわをふかすト云フナリ」

✣くち・い（形）［滿腹］〔おおろぐし、めぐしノ、くしノ轉ニテ（皂角子、さいかち[illegible]）次もなし、らっちもない）苦しノ意ナル[illegible]、胃ニ滿チテ、苦シ。「腹ガくちい」

〜くちい・る・ルル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）［口入］〔口ハ、ことばナリ〕人ノ事ニ、言語ヲ加フ。口出ヲス。クチマゼヲス[illegible]モ、口いれサセヌ人ノ事ニ侍レバ」同、五十二、手習[illegible]、口いれ[illegible]ソメザリケル」

くちいれ（名）［口入］（一）クチイルルコト。クチダシ。（二）此方ノ用事ヲ、彼方ヘ[illegible]仲立スルコト。ヒキアハセ。口入。紹介（三）奉公人ノ奉公口ヲ、世話スルコト。又、ソレヲ營業トスル人。ケイアン。雇人口入宿。心中重井筒（寶永、近松作）上「堀江ノ口入れ[illegible]トイフ[illegible]」

くちうつし（名）［口移］（一）直接ニ、言傳ヘ[illegible]コト。直語。口傳。[illegible]（二）[illegible]ミテ、他ノ口ニ入ルルコト。（小兒ニ哺ムナドニ）哺

くちうら（名）［口占］偶然ノ言葉ノ、吉凶ノ占トナル[illegible]ノ口占アリトゾ、私語キケル」（節文）

くちうら（名）［口裏］他ニ物言ハセテ、其心底ヲ探リ知ルコト。[illegible]「吹ク風ノ、口うらデ知レ、今朝ノ秋」「くちうらヲ引ク」

くちえい（名）［口永］口米ノ條ヲ見ヨ。

〜くちおそ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［口遲］物言ヒ、鈍シ。クチオモシ。（くちばやしノ反）[illegible]

くちおそろ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［口恐］[illegible]モ、オソロシ。カケマクモ、カシコシ。[illegible]そろしく侍レドモ」

〜くちおも・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［口重］物言ヒ、鈍シ。クチオソシ。（くちがるしノ反）囁嚅　源、六、末摘花「ヨダむむト打笑ヒテ、イトロおもゲナルモ」徒然草、七十九段「ヨク辨ヘタル道ニハ、必ズ口おもく、問ハヌ限リハ、言ハヌコソイミジケレ」

くちがき（名）［口書］罪ヲ白狀シタル、[illegible]書キ留メタルモノ。口供。訊牒[illegible]

くちがしこ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［口賢］物言ヒ、[illegible]シナリ。利口「口がしこく言ヒヌケル」

くちかず（名）［口數］（一）物言フ[illegible]コトバカズ。[illegible]「口數ヲ減ラス」口數ガ殖エル」（二）人數。（人口ノ意）人員「口數ヲ減ラス」口數ガ殖エル」

くちがた・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［口固］（一）（くちおはしノ條ノ（一）ニ同ジ。枕草子、五、四十七段「實ニ過ギテケリトハ言ハデ、くちおたうアラゾヒタル」（二）言フコト、確カナリ。「くちがたく言フ」「くちがたき約束」

〜くちがた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（自動、下二）［口固］言フナト、固ク止ム。クチドメ[illegible]宣フナト、マヅくちおためサセタマヒテケレバ」[illegible]

くちがため（名）［口固］クチガタムルコト。クチドメ。新六帖、五「我ガ戀ハ、ホコノネチトフ、くちおため、始メ終リモ、人ニ語ラヒジ」

くちがね（名）［口金］器ノ口ニツクル金具。「蟇口ノくちがね」

くちがみのさけ（名）［口嚙酒］米ヲ口ニテ嚙ミテ、釀シ造ル酒。（大隅國風土記）[illegible]「大隅ノ國ニハ、一家ニ、水ト米トヲマウケテ、村ニ告ゲメグラセバ、男、女、一所ニ集リテ、米ヲかみテ、酒[illegible]デクル[illegible]コレヲ[illegible]土記ニ見エタリ」琉球使錄「酒以水漬米、越宿、婦人嚼以取汁、曰米奇」

〜くちがる・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［口輕］物言ヒ、カルシ。口キクコト、カロガロシ。（くちおもしノ反）字鏡「[illegible]、口加留之」[illegible]デモ徳ラシ聞ユルモ、且ハ、イトくちおるけれド」

〜くちき（名）［朽木］朽ちたる木。[illegible]

〜くちき（名）［口木］ばい（枚）ニ同ジ。天[illegible]

くちぎ（名）［口木］德利、瓶、ナドノ口ヲ止メオク栓。

くちきがき（名）［朽木書］〔朽つトハ、燒くる意カ、或ハ、朽木形ノ狀ナル意カ〕炭ニテ、下繪ヲ書キタルモノ。後ニハ、朽筆ト云ヒテ、檜ノ燒筆ヲ用ヰル。粉本[illegible]テ書ク也、下繪也」本朝畫史（延寶）五「朽筆、今俗、[illegible]」

くちきがた（名）［朽木形］「朽木ノ板目ノ肌ノ象」模樣ノ名、鹿尾菜ヲ散ラシタルガ如キ象ナリ、多クハ、几帳ノ帷ニ染メツクルナリ。住吉物語「母屋ノ御簾ニ、[illegible]」[illegible]冬、朽木形」

くちきき（名）［口利］（一）巧ミニ、クチキクコト。上手ニ、物言フ人。利口。能辯[illegible]タル上、口ききナリシカバ、理正シウ、思フ心ヲツヅケタリ[illegible]、云云、口利ナリケルガ、大音揚ゲテ僉議シケルハ、云云」（二）紛擾ニ際シ、巧ミニ仲裁スル人。[illegible]（正德、近松作）下「コレモ、在所ノ口利き」

くちき・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［口利］〔きく（利）ノ條ヲ見ヨ〕（一）物、言フ。語ル。[illegible]（二）巧ミニ、物言フ。[illegible]（三）上手ニ理ヲ言ヒテ、ナダム。仲裁ス。[illegible]ロヲきいテ治メル」

くちぎたな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【口穢】（一）物言ヒノ狀、卑シ。罵ルヤウニ言フ。（次次條ノ反）　發心集、五、第九條「ソレハ別ノ果報ノ人ゾ、口ぎたなくテ言フベカラズ」（二）食物ヲ食ル狀ナリ。（くちぎれいノ反）

くちきぬり（名）【朽木塗】　漆器ニ、朽木形ノ模樣ヲ塗リ出シタルモノ。膳、椀、盆、類ニアリ。　貞德文集（寛永）「椀、折敷、二十人前、新ニ用意仕置候、但、椀ハ、朽木、五器、木具」洛陽集（延寶）「花ニ呼バヌ、主ノ椚ヤ、朽木盆」

くちぎよ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【口淸】　物言ヒ、イサギヨシ。クチギレイナリ。（くちぎたなしノ反）　明言　源、三十八、夕霧十五「ゲニ此御名ノ、タケカラズ洩リヌベキヲ、心ノ間ハムニダニ、口ぎよう答ヘムト思セバ」

くちきり（名）【口切】（灸ノ皮切ト、同趣ノ語）（一）物ノ口ヲ、始メテ開クコト。クチビラキ。クチアケ。　狂言記、千鳥「今度取ッテ（酒ヲ）來タラバ、汝ニ、口切リヲサセウ」「酒樽ノくちきり」（二）事ヲ、始ムルコト。テハジメ。（三）特ニ、茶道ニテ、今年製ノ薄茶、濃茶、ノ茶壺ヲ、始メテ封ヲ切リテ催ス、茶會ノ稱。陰曆、十月初ニスルコトナリ、爐開トモ云フ。九月、昨年製ノ茶ノ盡クルニ催スヲ、名殘の茶ト云フ。　茶話指月集（元祿）「口切ノ時分、宗易、サル侘ノ方ヘ、鵙屋宗安伴ヒテ參ラレケレバ」（嬉遊笑覽、一）

くちぎれい（名）【口綺麗】（一）クチギヨキコト。立派ユ、物言フコト。明言「くちぎれいニ話ス」（二）食物ヲ食ラヌコト。（くちぎたなしノ反）

く-ちく（名）【苦竹】　マダケ。

く-ちく（名）【驅逐】　オヒ、ハラフコト。後漢書、臼宿傳「諸郡縣、不、得、迫、脅驅、遂長史」

くちく-かん（名）【驅逐艦】　軍艦ノ一種、小形ニシテ、（七八百噸ヨリ千二三百噸）速力、極メテ强ク、運用自在ナリ、魚形水雷、速射砲、爆彈、等ヲ以テ、敵ノ水雷艇、潜水艇ヲ驅逐シ、破壞スルニ用キラル。又、驅逐艇。

くちくさ（名）【腐草】　螢ノ異名。　鹽袋（弘安）四「ほたるヲ、くちくさト云フハ、草ノ、クチテ、螢トナル心歟、禮記、月令ニ、腐草爲ㇾ螢ト云ヘリ、是又、古キ事ナリ、詩ニモ、歌ニモ、此意アルベシ」

くちぐすり（名）【口藥】（一）火繩筒ノ火蓋ニ用キル火藥。信藥（二）口止ニ用キル金品。　菅原傳授手習鑑（延享、竹田出雲）一「オ供ノ衆ニハ口藥、水撒ク樣ニ飲マシテ置イタ」

くちくせ（名）【口癖】　癖トシテ、同ジ事ヲ、屢、言フコト。恆言　常套語　武野燭談（延寶）廿七「太閤ニ、諸大名出仕スレバ、云云、能キ夢ヲ見ザル哉ト、口癖ニ宣フトゾ」

くちぐち（名）【口口】　一同ノ言葉。衆口　源、五、若紫四「イカナル人ナラムト、くちぐち言フ」

ぐぢ-ぐぢ（副）【呶呶】（くだくだしノ語原ヲ見ヨ）　物言ヒノ、ツブヤクヤウニテ、聞取リニクキニ云フ語。クドクド。グヅグヅ。　狂言記、伊文字、上﨟ノ、和歌ヲ言ヒ・テ去レルヲ、太郎冠者ガ、其下ノ句ヲ聞キ忘レテ「何ヤラ、マダ、ぐぢぐぢト、オッシャレテゴザル」

くちく-てい（名）【驅逐艇】　驅逐艦ニ同ジ。

くちぐるま（名）【口車】（欺くヲ、俗ニ、載せるト云フヨリ云フ）　タクラミ言廻シテ、人ヲダマシ誘フコト。　傾城買二筋道（寛政、梅暮里谷峨）「内ハ火ノ車ダケレド、手メヘノ口車ニ逃ッテ」「くちぐるまニのせる」「くちぐるまニのる」

くちおと（名）【口小言】　小言ト云フニ同ジ。

くちおたへ（名）【口答】　言葉ヲ、カヘスコト。抗ヒテ、答フルコト。口返答。抗論　𠑊懟　教訓抄（天福）八「イササカ我ガ心ニタガヘバ、高ゴヱニ口おたへヲシ、知ル知ラヌニ向テハ、誹謗ス」

くちおとば（名）【口詞】　日常ノ談話ニ用キル言葉。ハナシコトバ。口語。（文章詞ニ對シテ云フ）

くちおは・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【口强】（一）物言ヒ、强シ。强ク、諍フ。抗辯　源、九、葵六「是レハサラニ、サヤウニ、差除ケナドスベキ御車ニモアラズト、口おはくテ、手觸レサセズ」狹衣、三、下廿「問答ドモノ、劣ラジト爭フ口おはサドモモ面白ク、聞クトコロアルコト、限リナシ」（法華八講ノ論議）（二）口、執リガタシ。荒馬ノ、制御シ難キニ云フ。駻　曾我會稽山（享保、近松作）三「沛艾ニ、口おはく、乘リイレモセヌ、野髮ノ馬」倭訓栞、くちおはし「世說ニ、强口馬、見エタリ」

くちおも・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【口籠】（一）言葉、口ノ中ニ籠ル。物言ヒ、分明トセズ。クゴモル。（二）ドモル。物ヲ言ヒエズ。瘖　信州川中島合戰（享保、近松作）三「言ヒ掛ケルホド口籠リ、只、あいあいト笑顏バカリヲ」

くちざ（名）【口座】　こうざノ條ヲ見ヨ。

くちさがな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【口善惡】（物言ヒ不祥しノ義）　クチヤカマシ。惡シザマニ、言ヒ觸ラス。　源、四、夕顏四十「ナキ御ウシロニ、口さがなくヤハト思ヒ給フルバカリニナン」同、廿、朝顏七「世ノ人ノ、口さがなサヲ思シ知リニシカバ、且ハ候フ人ニモ、打チトケタマハズ」

くちさき（名）【口先】（一）口ノ端。喙（二）くちさきらノ略、次條ノ（三）ヲ見ヨ。辯舌。吻「口さきノ達者ナ人ニハ、言ヒマクラレル」（三）深キ理アルニアラズ、ウハベバカリノ言ヒグサ。　源氏烏帽子折（元祿、近松作）一「くちさきノ廣言バカリニテ、臆病者ノ大腰拔」「くちさきノ理窟」

くちさきら（名）【吻】（倭訓栞、くちさきらッ口裂ノ義ナルベシ、くちわきトモ云ヘリしらハ、添ヘタル辭、其條ヲ見ヨ、まがおら、まなおりト同趣ナラム）（一）〔くちわきニ同ジ。人ノ口ノ、左右、兩邊ノ、裂ケタル如ク見ユルトコロ。　華嚴經私記音義（奈良朝時代）「吻、脣兩角頭邊也、口左岐良」倭名抄、三ニ鼻口類「吻、久知佐岐良」周禮、冬官篇、考工記、梓人「銳、喙、決、吻」文選、文賦、注「吻、脣兩邊也」醫心方、三廿「吻」（二）〔鳥ノ、クチワキ。　倭名抄、十八十羽族體「喙、鳥口也、久知佐木良」（三）辯舌。クチサキ。略シテ、さきらトノミモ云ヘリ。　後三年軍記「多クノ兵、各、口さきらヲ磨ギテ、答ヘムトス、將軍制シテ、物言ハセズ」源、三十七、鈴蟲五「法華經ノ講師「只今ノ世ニ、オモ優レ、寛ケキさきらヲ、イトド、心シテ言ヒツヅケタル、イト尊ケレバ、皆、人人、シホタレタマフ」細流抄、さきら「辯舌アル也」字類抄「說、サキラ、辯辭也、說文「說、辯論也」今昔物語、廿八、三十五語「大臣屋ノ前ニシテ、次第ニ座ヲ敷テ、口開キ、吻有テ、物可咲シク云フ者ヲ、云云」新猿樂記「宏才博覽、而論議決擇之、吻破ㇾ滿座憇」

くちさしなは（名）【口差繩】　馬ノ口ノサシナハ。クチトリナハ。

くちざはり（名）【口觸】　くちあたりニ同ジ。

くちざみせん（名）【口三味線】　聲ニテ、三味線ノ音調ヲマネルコト。　浮世風呂（文化、三馬）三編、上「口三味線デ、イケモシナイ鼻唄サ」

くちすぎ（名）【口過】〔口ハ、食ナリ、生

酒ノ[illegible]口ヲスゴスコト。スギハヒ。ヨスギ。生活。餬口。本朝若風俗(貞享、鈴木)「元日ヨリ大ツゴモリマデ、夫婦ノ口すぎバカリニ、サリトハ、急ガハシク」

くちずさび (名) [口遊] (一)クチズサブコト。クチアソビ。クチズサミ。口號 口占 枕草子、四、四十三段「西ノ方、都門ヲ去レル事、イクバク地ゾト、くちずさびニシツル」金葉集、九、雜、上「[illegible]云云、引キ鳴ラシケルヲ聞キテ、くちずさびノヤウニテ、[illegible]ケル[illegible]」四十八、皆生[illegible]「タダ口ずさみノヤウニ宣フヲ」(二)ウヘナ。源、四、夕顏[illegible]「ヨカラヌ童部ノ、口ずさびニナリヌベキナメリ」

くちずさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) [口遊] [illegible](同義)ノ條ヲ見ヨ。くちずさむ、[illegible]、何トナク、口ニ[illegible]。漫ニ唱フ、[illegible] [illegible]入リメル[illegible]ノト、口ずさびテ」同、二十四、上、若菜、上「[illegible]レル[illegible]ト、シノビヤカニ、くちずさみタマヒツツ」

くちずさみ (名) [口遊] 前前條ノ(一)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くちずさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [口遊] 前前條ノ語ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くちすす・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [嗽] [口濯グノ義] 湯水ナドニテ、口ノ中ヲ濯グ。ウガフ。ウガヒスル。くちそそぐ。天治字鏡、二「嗽、口須須久」

くちす・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [口吸] 脣ヲ吸フ。接吻ス。多ク、小兒ナド、親愛ス[illegible]ニスルコトナリ。[illegible]

くちぜに (名) [口錢] こうせん(口錢)ニ同ジ。

くちせん (名) [口錢] 古へ、口米ヲ納ムル際、米ノ代リニ、錢ヲ納ムルコト[illegible]

くちそそ・ぐ (動) [嗽] くちすすぐノ轉。

くちぞへ (名) [口添] 言葉ヲ添ヘテ、トリナスコト。オコエガカリ。

くちだし (名) [口出] サシデグチ。人ノ話ノ間ニ差シ出デテ、口利クコト。クチマゼ。插嘴 容喙

くちたた・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [口叩] [水鷄ノ嘴ヲたたくナドト、同意ナルカ] クチキク。モノイフ。罵リ云フ意アリ。津國女夫池(享保、近松作)二「今ノ内、隨分、口たたけ」

くちぢゃ (名) [口茶] 煎ジテアル茶ノ上ニ、又、茶ヲ足シ加ヘテ、煎ズルコト。

くちづから (副) [口] [口之從ノ義、手づから、身づから、同ジ] 己レノ口ヨリ、親シク。クチウツシニ。紫式部日記「聊モ忘レテ、くちづから言ヒタレバ」

くちつき (名) [口附] [顏つき、目つき、腰つき、同ジ] (一)[口ノ姿。源、三、空蟬「目見、口つき、イト愛敬ヅキ」(二)物言ヒノ狀、イヒブリ。クチブリ。口調。貨長、一、[illegible]トモソ、ナベテノ人ノ口つきニテ」

くちつき (名) [口附] (一)乘馬ノ、くちとりニ同ジ。吾妻鏡、三十四、仁治[illegible]年五月六日、[illegible] (二)かみまきたばこノ條ヲ見ヨ。

くちづき (名) [口附] クチヅクコト。言ヒ馴ルルコト。[illegible]馴レタル口づきヨリゾ、言ヒ出ダスラム」

くちづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [口附] 言ヒ馴ル。口馴ル。口癖トナル。源、四十六、總角「山里ノ老人ドモハ、マシテ口づき、憎ゲニ打笑ミツツ」十訓抄、中、第六、十七條「皆人、口づきタル物語ナレバ、委シク書キ述ブルニ及バズ」

くちづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [口附] [前條ノ語ノ他動] 言ヒ馴ラス。口癖トス。十訓抄、中、第六、[illegible]「此人、若クヨリ道心アリテ、常ノ言種ニハ、古瑟何世人、不知[illegible]名、化[illegible]路[illegible]上、年年春草生トゾ、口づけタマヒケル」

くちづけ (名) [口附] クチヅクルコト。言ヒ馴ラスコト。口癖。七十一番職人盡歌合、[illegible]七十一番、[illegible]イツマテカ、待ツ言ゴトノ、口づけニ、明日ヤ明日ヤト、言フヲ賴マム」

くちづたへ (名) [口傳] (一)クチウツシ。口傳。口授。(二)人ヨリ人ニ、言ヒ傳フルコト。約メテ、くちづて。傳言。

くちづつ (名) [口約] [言葉ノ約しキ義、足ラハヌ意(熟語トナリテ、清濁、顚倒ス、約し、並ニ、いづつしノ條ヲ見ヨ)手づつト云フ語モ、同ジ] 辯舌ノ、足ラハヌコト。物言ヒノ、ユキトドカヌコト。クチテヅツ。口不調法。吶 字類抄「訥、クチツツ」字鏡集「吶、クチツツ」[illegible]、廿四、廿二、[illegible]、俊平入道「己レハ、口づつニ侍レバ、人ノ笑ヒタマフバカリノ物語モ、知リハベラズ」

くちつづみ (名) [口鼓] 志たうちニ同ジ。上代ハ、口ニテ酒ヲ醸シ、口鼓打チテ[illegible]ハリ、古事記、中(應神)七十二、吉野ノ國栖人ガ、横臼ニ、御酒ヲ醸シテ奉ルニ、擊口鼓[illegible]トアリ(日本紀ニ、同事ヲ記シテ「打レ口仰咲」トアリ)同巻(仲哀)六十、建内宿禰ノ歌ニ「此御酒ヲ、醸ミケム人ハ、ソノ鼓[illegible]、臼ニ立テテ、歌ヒツツ、醸ミケムカモ」トアル、鼓立美モ、口鼓ナリ、口鼓ヲ立ててトハ、爲始めてノ意ナリ、(爵ヲ立つる、飾り立つるノたつるナリ)後ニモ、造酒丁ガ、米ヲ洗ヒ精ゲ、又醸ス時ニ、口笛ヲ吹キツツ、スルナリ。

くちづて (名) [口傳] くちづたへノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ぐちっぽ・い (形) [愚痴] [ぽいハ、[illegible]ノ急呼、骨ッぽい、理窟ッぽい] 愚痴、多シ。繰言口言ヒガチナリ。

くちてづつ (名) [口手約] [てづつノ、手ノ意、失セテ、唯、拙キ意トナレルナリ、てづつノ條ヲ見ヨ] くちづつニ同ジ。口不調法。宇治拾遺、十四、十一條「己レハくちてづつニテ、人ノ、笑ヒタマフバカリノ物語ハ、エ、シハベラジ」

くちてんがう (名) [戲言] てんがうノ條ヲ見ヨ。

くちど・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [口疾] くちがるしニ同ジ。クチバヤシ。字鏡廿「[illegible]、口止之、又、口加[illegible]之」[illegible]、少納[illegible]ト云フ人ハ、イト、口ごう、物ヲカシウ言ヒ、歌詠ム」

くちどめ (名) [口止] 祕スベキコトヲ、言フナト、禁メオクコト。クチガタメ。クチフサギ。箝口 堀川夜討(寶永、近松作)上「不[illegible]ノ沙汰、世間ノ口留セン爲ニ」

くちとり (名) [口取] [口ハ、轡ナリ] 乘馬ノ口ヲ取リテ牽ク者。クチツキ。ウマツキ。馬丁 馬奴 倭名抄、二十九「馭、[illegible]馬人、久知止利」宇治拾遺、七、第六條「人人、イミジキ馬ノ聲カナト聞キケル程ニ、[illegible]柱ヲ蹴折リテ、口取ヲ引キサゲテ出デ來ルヲ見レバ」

くちとり (名) [口取] [口取肴ノ下略、初獻の取肴ノ義、とりざかなヲ見ヨ] (一)勸盃ノ時ニ、先ヅ出ス取肴。熨斗鮑、昆布、勝栗、ノ類。心中萬年草(寶永、近松作)中「土器ヲ三方ニ、口取ハ熨斗昆布」(二)後ニハ、

味、甘ク濃ク調理シタル、種種ノ肴ヲ取添ヘタルモノ。クチトリモノ。

くちとりなは (名) 【口取繩】 牛馬ノ口ニ附ケテ、牽ク繩。クチサシナハ。 大職冠稚物語(元祿、近松作)五「行縢、追鞁、口取繩、馬場先狹シト打タリケル」

くちとりもの (名) 【口取物】 前前條ノ(二)ニ同ジ。

〜くちなし (名) 【梔子】 〔口無ノ義、實、熟スレドモ、開カズ〕 (一)灌木ノ名、人家ニ多ク植エテ、籬トシ、又、花ヲ賞ス、高サ丈餘、葉ノ形、長クシテ、末、廣ク、厚ク堅ク、互生ス、夏ノ初ニ、六瓣ノ白花ヲ開ク、香氣アリ、實ハ、棗ノ實ニ似テ、長大ニシテ、竪ニ六ツノ角アリ、熟スレバ黃ナリ、内ニ、紅肉、白子アリ、黃色ノ染料トス。 字鏡、十「梔」同、五十五「支子、久知奈之」 倭名抄、十四、廿「染色具「梔子、支子、久知奈之」 (二)次次條ノ(二)ノ略、其條ヲ見ヨ。

くちなしいろ (名) 【梔子色】 くちなしぞめノ色。黃色。 金葉集、三、秋「咲キニケリ、くちなしいろノ、女郎花、いはねド著シ、秋ノケシキヘ」 風雅集、廿、賀「くちなしノ、色ニ流ルル、川水モ、千度澄ムベキ、君ガ御代カナ」(支那ノ黃河ノ、清ヲ待ツヲ詠ジタルナリ)

くちなしぞめ (名) 【梔子染/支子染】 (一)布帛ヲ、くちなしノ實ニテ染メタルモノ、色、黃ナリ。 彈正臺式「支子染深色、可ㇾ盛二黃丹一者、不ㇾ得二服用一」 三代實錄、四十、元慶五年十月「禁下男女著二茜紅花支子染支子二之色上」 (二)襲ノ色目ノ名、略シテ、くちなし。表裏共ニ、黃ナルモノ、四季ヲ通ジテ着用ス。 源、十、賢木「薄鈍、くちなしノ袖口」

〜くちなは (名) 【蛇】 〔身、繩ノ如クニシテ、口アル意ナラム、くちばみ(蝮)ノくちモ、口ナリ、今、紐ノ端ニ、小サキ輪ヲツケタルモノヲ、蛇口ト云フ〕 へびニ同ジ。關西ニテハ、今モ云フ。 倭名抄、十九、鱗介類「蛇、倍美、一云、久知奈波」

〜くちなは (名) 【朽繩】 〔朽索ノ訓讀〕 朽チタル繩。 六帖、四「荒ルル馬ヲ、朽チタル繩ニ、繫グトモ、人ノ心ヲ、イカデ頼マム」 書經、五子之歌篇「予臨二兆民一、懍乎若二朽索之馭一六馬一」

くちなは (名) 【口繩】 牛馬ナドノ、口ニ着クル繩。 源氏十二段長生島臺(元祿、近松作)五「馬、云云、舍人四人ニ、口繩、遣繩、取ラセツツ、白洲ニ引セ」

〜くちなはいちご (名) 【蛇苺】 へびいちごニ同ジ。 枕草子、八、七十六段、名おそろしきもの「くちなはいちご」

くちなほし (名) 【口直】 〔なほしハ、婦人ノ、色小袖ヲ白小袖ニ替ヘテ着ルヲ、色なほしト云フト、同意ナリ〕 不味ノ物ヲ食ヒシ後ニ、改メテ、美味ヲ食フコト。 「藥ヲ飲ンダ口直シニ、菓子ヲ食フ」

くちなめづり (名) 【口舐】 〔なめづるヲ見ヨ〕 したなめづりニ同ジ。 唐船噺今國性爺(享保、近松作)下「ズット一飲ミ、口なめずり」

〜くちならす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【口馴】 口馴レシム。言ヒナラス。 紫式部日記「人ゴマダ、ヲラレヌモノヲ、誰レカコノ、スキモノゾトハ、口ならしケム」

くちなる ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 【口馴】 口ニ、言ヒ馴ル。常ニ馴レテ、言フ。クチヅク。 狹衣、一、下、三「大宮、例ノユユシキコトニ、口なれタマヘルコソ、心憂ケレトテ、イト、イマイマシクト思シタルヲ」

くちのご (名) 【口籠】 馬ノ口ニハムル籠。くつこトモ云フ、其條ヲ見ヨ。

くちのとら (名) 【口虎】 多言ノ、身ヲ害スルヲ、虎ニ譬ヘテ云フ語。 十訓抄、上、第四、第一條、行基菩薩ノ言「口の虎ハ身ヲヤブル、舌ノ劍ハ命ヲタツ」 報恩經「禍從ㇾ口生、口舌者鑿ㇾ身之斧也」

〜くちのは (名) 【口端】 コトバノハシ。コトノハ。言ヒナラシ。 後撰集、十六、雜、二「アハレテフ、事コソ常ノ、くちのはニ、カカルヤ人ヲ、思フナルラム」 狹衣、四、下、十「此頃、童部ノ、くちのはニカケタル、アヤシノ今樣歌ドモヲ、イトシラジラシキ聲ニテ歌ヒテ」 夫木抄、三十六、言語「アヤシキモ、嬉シカリケリ、オトシムル、ソノくちのはニ、カカルト思ヘバ」

〜くちば (名) 【朽葉】 (一)落葉ノ、朽チタルモノ。 源、四十六、總角、五十「岩隱レニ積レル、もみぢノくち葉」 (二)次條ノ語ノ略。

くちばいろ (名) 【朽葉色】 染色ノ名、卽チ、朽葉ノ色、黃ニシテ、赤ミアル色。略シテ、くちば。赭黃 拾遺集、七、物名「くちばいろノ折敷」 宇津保物語、樓上、下、六十「くちばノ裾濃ノ几帳ノ、綾 シタル、立テテ」

くちはげで (名) 【口兀手】 〔てハ、錦手、金襴手ノ、てナリ〕 一種ノ陶器ノ稱、茶家ニテ珍重ス。 和漢三才圖會、三十一、窯「順德院朝、有二陶人一、名二加藤四郎右衞門一、始作二小坩一、茶入ハ然未ㇾ得二手練一、樹二口於下一之、故、坩口、兀不ㇾ美、謂二之口兀手一」(春慶、入宋前ナリ)

〜くちばし (名) 【觜/喙】 〔口端ノ義〕 鳥ノ、口ノ端。觜。クチサキ。 字鏡、三十「觜、久知波志」 倭名抄、十八、羽族體「觜、鳥喙也、久知波之」 他の議論に喙を容るト云フハ、さしでぐちスルナリ。

くちばしる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 【口走】 言フマジキコトヲ、誤リテ云フ。失口。 字鏡、卅「[illegible]、久知波志留、久留比天毛乃云」 廣韻「[illegible]、譫言也」

✧くちばった・い (形) 〔口幅甚しノ約轉、くすぐったい、じれったい〕 次條ノ語ニ同ジ。 「口はばったい申シ分ナガラ、云云」

くちはばひろし キ・ケレ・ク・ク (形、一) 【口幅廣】 物言ヒ、無遠慮ナリ。廣言ナリ。クチビロシ。クチハバッタイ。

くちばみ (名) 【蝮】 〔蝮、及、蛇ノ語原ヲ見ヨ〕 蝮ニ同ジ。今、まむしト云フ、其條ヲ見ヨ。 塵袋(弘安)四「毒蛇ヲくちばみトイフ」 林逸節用集(文明)「蝮、ハミ、マムシ、クチバメ」 物類稱呼(安永)二「まむし、土佐ニテ、くつばみ、上總、房州ニテ、くちばみト云フ、是レ、和名、はみ也」 徒然草、九十六段「メナモミ(菊葵)トイフ草アリ、蝮ニ螫サレタル人、カノ草ヲ揉ミテ附ケヌレバ、スナハチ癒ユトナン」

〜くちばやし キ・ケレ・ク・ク (形、一) 【口速】 言フコト、捷シ。クチドシ。(くちおそしノ反) 源、四十三、竹川、十「宰相君ト聞ユル上臈ノ、詠ミカケタマフ、(歌)くちばやしト聞キテ(歌)」

くちび (名) 【口火】 火繩筒ノ火蓋ニ用キル火藥。藥綫

くちひげ (名) 【口髭】 ひげノ條ヲ見ヨ。

〜くちひそむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【口窄】 〔ひそむ(自動)ノ條ヲ見ヨ〕 口ノアタリ、窄クナル。クチユガム。ホホユガム。モドキ思フ心ヲ表ハスナリ。 釋氏要覽 天治字鏡、二十 口偏ニ他ノ字ニ「口戾皃、口由加牟、又、口比曾牟」 名義抄「噘、クチヒソム」 源、四十六、總角、四十「山里ノ老人ドモハ、云云、姫君ノ御心ヲ、アヤシクヒガヒガシク、モテナシタマフヲ、モドキ、口ひそみ聞コユ」

〜くちひび (名) 【口皸】 口角ノ、爛ルル瘡。カラスノキウ。 倭名抄、三、四十、瘡類「胗、脣瘡也、

久留比比」

くちひも [illegible] [口紐] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

くちびやうし (名) [口拍子] [illegible]言葉ノ調子ヲ[illegible]ニ、拍子ヲ取ルコト。[illegible]

くちびらき (名) [口開] 物ノ口ヲ、始メテ開クコト。クチアケ。クチキリ。[illegible]二命名セントスル時、廿日カト聞キタルヲ、女房ノ、[illegible]嶺ヲ、初雁ト命名セリト。(諺文)

〜くちびる (名) [脣] (口緣ノ轉、川傍、川邊。ありく、あるく。釋名「脣、口之緣也」) 口ノメグリノ緣。[illegible]「脣、久知比留」 くちびるを反すトハ、謗る意ナリ、[反脣] [illegible]事、アハレトハ言ハデ、口びるをかへしテ憎マヌ者ゾナカリケル」

くちびろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [口廣] 口廣[illegible]ニ同ジ。[illegible]口ナリ[illegible]

くちぶえ (名) [口笛] ウソノキ。嘯笛。上下ノ脣ヲスボメテ、息ヲ強ク吹キ出シテ、笛ノ如キ音ヲナスコト。[illegible]ノ事也」(嘯吹)

くちふさぎ (名) [口塞] クチフタゲ。物言ハセヌコト。クチドメ。大經師昔曆(正[illegible]二三匁ノ豆板二ツ、飲マセヌ様ノ口ふさぎ」

〜くちふたげ (名) [口塞] (ふたぐノ條ヲ見ヨ) 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]物語、二、下「カタヘハ、妻ヲ思フナリト、イトホシナガラ、口ふたげニ言ヘバ、帶刀笑ヒテ」

くちふで (名) [口筆] (口宣ナドト、同義ナルカ) 御口移ノ文書。榮花物語、八、初花「村上ノ御、我ガ御くちふでシテ、書セアレテ、作物所ノ物トモ御[illegible]シテハ、書シセサセタマヘルヲ」

くちふで (名) [朽筆] (くちきがきノ條ヲ見ヨ) 朽筆ニ同ジ。

くちぶてうほふ (名) [口不調法] クチヅツ。クチテツツ。物言ヒノ、ユキトドカヌコト。クチベタ。吶 狂言記、内沙汰「アノ方ハ、物ハナリ、コナタハ、口ぶてうほうナ程ニ、御[illegible]テハ、負ケニナリマセウ」

くちぶと (名) [口太] 次條ヲ見ヨ。

〜くちぶとが (名) [口太蚊] (くちぶとハ、嘴、大ナル義カ) 蚊ノ、大ナルモノ。略シテ、くちぶと。字鏡[illegible]蚊、[illegible]大口不[illegible]、[illegible]蚊、口[illegible]止」名義抄 蚊、クチブト」

くちぶり (名) [口風] モノイヒブリ。口調 甲陽軍鑑、十一、上、品第三十四、武田信長對陣[illegible]二長陣故、信玄公、[illegible]名シ、口ぶりヲ聞キ給ヘバ

くちべた (名) [口下手] クチヅツ。物言ヒノ、下手ナルコト。クチブテウホフ。

くちべに (名) [口紅] (一)婦人ノ脣ニ塗ル紅。好色一代男(貞享、西鶴)[illegible]上方ノハスハ女、云云、口紅、ムサキ程塗リテ」(二)花ナドノ瓣ノ周圍ノ、紅ナルモノ。

くちへん (名) [口偏] 漢字ノ偏ニアル、口ノ字ノ稱、叩・吐、吠、吹、吸、咬、ナドノ如シ。[illegible]偏、叩カウヨリハ」

くちべんこう (名) [口辯口] (豆納豆、黄黄ノ類ノ語) 辯口ト云フニ同ジ。

くちへんたふ (名) [口返答] くちごたへニ同ジ。

くちべらし (名) [口減] (食糧ヲ減らす意) 人數ヲ、減ラスコト。減員。

くちまい (名) [口米] (上米取ナド云フト、同意ナリト云フ) 江戸時代、農民ヨリ、通常ノ年貢米ノ外ニ、取立ツル米。代官ノ手代ノ扶持、并ニ、筆紙墨、其外、諸入用ニ充テタルモノ。口米、永錢ニテ取立ツルヲ、口永ト云フ。(地方凡例錄、五) 地方要集錄「口米、口永ト云フハ、關東方ニテハ、御取箇、田方、米壹石ニ米三升、畑方取箇、永壹貫文ニ口永三拾文ツツ、古來ヨリ、御代官ニ被下來候、上方ハ、田、畑トモニ、米取故、御取箇米、壹石ニ米三升ヅツ」

くちまき (名) [口卷] (鳶口ヲ卷きすク義、音ヲ轉ジテ、くつまき(沓卷ト書クハ、借字)トモ云フ、口輪、くつわ、口食、くつばみ、口籠、沓子」) 鏃ヲ、鳶ニ差込ミタル所ヲ、絲、又ハ、籐ニテ卷キオクモノ。又、くつまき。吾妻鏡、一、治承四年十一月廿六日「件鏑口卷之上、注[illegible]」同、十、建久元年九月十八日[illegible]云云、[illegible]下宗物語、十一、[illegible]ノ、云云、くつまきヨリ、一束バカリオイテ、和田小太郎平義盛ト、讀ニテゾ書キツケタル」太平記、十五、正月廿七日合戰事[illegible]云云、[illegible]マデ、中ナヲ打チ通シテ、[illegible]マキニ卷キテ」

くちまじくり (名) [口惑] (口ハ、言葉ナリ、まじくるノ條ヲ見ヨ) イヒ紛ラカスコト。

くちまぜ (名) [口雜] くちだしニ同ジ。サシデグチ。容喙

くちまつ (名) [口松] ロマメナルヲ、擬人シタル語。又、其人。饒舌 浮世風呂(文化、三四)二編、下「長屋中喧嘩引トハ、ナンノコタ、ワタシラガ嫁ハ、ソンナ口松ヂャアゴゼエヤシネエ」

くちまね (名) [口眞似] 次條ノ語ノ略。發心集、八、第五條、[illegible] 口まねノシツツ、阿彌陀佛ト鳴ク」

くちまねび (名) [口學] 人ノ物言風ニ似セテ、言フコト。クチマネ。學舌 新六帖、五「オノヅカラ、妹ガツタヘノ、くちまねび、アラメケシキモ、ナツカシキカナ」

くちまへ (名) [口前] (まへ(前)ノ條ヲ見ヨ) モノイヒブリ。クチブリ。ハナシブリ。「口前ノ好イ」

くちまめ (名) [口忠] 忠ニ、物言フコト。ヨク、シャベルコト。多辯。饒舌 堀川波鼓(寶永、近松作)下「イヅレ下部ノ口まめニ、アレハ田舍ノ御侍」

〜くちめ (名) [口女] (くちハ、食鈎ノ約カト云フ(口モ、食路ナリ)めハ、其條ヲ見ヨ) (一)鯔ノ古名。今モ、畿内ニテハ言フト云フ。神代紀、下、六「海神召赤女、口女、問之時、口女自口出鉤、以奉焉」赤女、即、赤鯛也、口女、即、鯔魚也」(二)いせおひ。(西國)

〜くちめ (名) [朽目] 名物ノ和琴ノ名。西宮記、十八、臨時、五、延喜十八年二月廿六日「幸[illegible]六條院」之日、召朽目」枕草子、五、四十六段、なまめかしきもの「琴モ、笛モ、皆、メヅラシキ名ツキテコソアレ、云云、和琴ナドモ、くちめ、鹽竈、二貫、ナドゾ聞ユ」拾芥抄、上、末、和琴「朽目」

くちめ (名) [朽目] 板ノ、朽チタル所。林葉集(俊頼ノ子、俊恵)三、螢、「橋ヲ照ラス「タドリ

ユク、イタダノ齒ハ、くちめ多ミ、數數點火セ、夜ノ寢覺」

〔くちもち (名) 口持 第一語ノ口附ノ(一)ニ同ジ。紫式部日記「我レハト、クスシク、くちもち、ケシキコトゴトシクナリヌル人ハ」

くちもと (名) 口許 (一)口ノ邊。口ノ際。口邊 東海道名所記(萬治)一「太夫、云云、くちもとハ、紅ク苔メル花ニ譬ヘ」 (二)口ノ姿。クチツキ。狂言記、合柿「其方ガ食ウテモ、旨イカ、澁イカハ、口許デ知ルル事ヂャ」 (三)〔入口〕。ハジメ。宇津保物語、藏開、上「云云、奥ノ方ニ、云云、赤ク固キ物ヲ積ミオキタリ、タダくちもとニ、目錄ヲ書キタルフミヲ」

くちゃう (名) 區長 區ヲ治ムル職ノ長。(區ノ條ヲ見ヨ)

くちやかま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 口喧 (一)クチサガナシ。人言、カマビスシ。評判、ウルサシ。「世評、くちやかまし」 (二)誨語多クテ、煩ハシ。「老人、くちやかまし」

くちやくそく (名) 口約束 口頭ダケノ約束。口約。證文ヲ取リカハスナドニ對ス。

◇くちゃくちゃ (副) 〔くたくたノ轉、くちゃくちゃハ、又轉ジテ云フナリ、めちゃくちゃノ條ヲ見ヨ〕 布帛、紙、ナドノ、甚シク揉マレ、皺ミタルニ云フ語。クシャクシャ。「着物ガくちゃくちゃニナル」 濡レタルニハ、濁音ニ、ぐちゃぐちゃト云フ。

◇ぐちゃぐちゃ (副) 前條ヲ見ヨ。

くちやはらげ (名) 口和 〔口ハ、詞ナリ、阿蘭陀語ヲ、おらんだぐちト云フ、やはらげハ、日本語ニ變ヘテ、わからうヤウニスルナリ〕 外國語ヲ、日本語ニ飜譯スルコト。長崎ノ阿蘭陀通詞ノ語ナリ。略シテ、やはらげト云ヒ、和解ノ字ヲ充テタルヲ、わげト讀ムヤウニナレリ。下二段活用ノやはらぐノ(二)、幷ニ、和解ノ條ヲ見ヨ。和蘭語語 阿蘭陀、南蠻、ラテイ、三國口和ニ對譯辭書、寫本一冊、家藏、年代、作者、ナシ)

〔くちゅう (名) 宮中 きゅうちゅう(宮中)ニ同ジ。皇宮ノ内。源、四十五、椎本「くちうナドニテ、カヤウナル秋ノ月ニ、御前ノ御遊ビノヲリニ、候ヒアヒタル中ニ」(あそびハ、管絃)

くちゅう (名) 苦衷 クルシキココロ。心痛。苦心。「苦衷ヲ察セラレヨ」

くちゅう (名) 驅蟲 蟲ヲ、驅リ除クコト。害蟲驅除。「驅蟲劑」

ぐちゅう (名) 禺中 巳ノ時ノ異稱。晝四時。午前十時。字典「日在巳曰禺中」

ぐちゅう (名) 愚衷 己ガ赤心ノ謙稱。愚存。洛陽伽藍記「乞收二成旨一以允二愚衷一」「愚衷ヲ披瀝ス」

ぐちゅう (名) 愚忠 己ガ忠義ノ謙稱。漢書、張湯傳「臣固愚忠、苦二張湯一乃詐忠」 韓非子、存韓篇「雖レ欲レ竭二臣愚忠之計一、不レ可レ得已」 雲州消息「某指蹤無二其能一、已列二人數一畢、是則愚忠之所レ致歟」

ぐちゅうれき (名) 具注曆 〔普通ノ曆ヨリ、具ニ注シタル義〕 曆ノ一種、日日ノ行事ノ吉凶、禁忌、太歲ノ位置、月ノ盈虧、等ヨリ、七十二候マデ、詳カニ記シタルモノ。

〔くちゆが・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 喎 病ニ由リテ、口、歪ム。口、曲ル。倭名抄、三、病類「喎僻、久知由加無」 醫心方、三十六「喎」 靈異記、上、第十九條「誹謗法花經品之人而現口

喎斜得二惡報一」訓釋「喎斜、二合、ユガミテ」 字鏡

くぢょ (名) 驅除 カリ、ノゾクコト。オヒノクルコト。史記、秦楚之際月表「向秦之禁、適足下以資二賢者一爲中驅除上耳」 范成大詩「煩將二殘暑一驅除盡」「害蟲ヲ驅除ス」

ぐちょく (名) 愚直 正直一途ニテ、應變ノオナキコト。バカシャウヂキ。宋史、李綱傳「惟陛下哀二其愚直一、而取二其辛擘之忠一」

くちよごし (名) 口汚 〔不味ノ物、口ヲ穢ス意〕 (一)客ニ饗スル飲食物ノ謙稱。「おくちよごしヲ差上ゲマス」 (二)轉ジテ、不味ノ食物。

くちよせ (名) 口寄 (一)巫女、神人ニ、物怪ノ靈ヲ憑ラシメテ、其言語ヲ述ベシムルコト。榮花物語、廿一、後悔大將「物怪ノ聲ハ宜ハムコトヲモ聞カム、又、神ノ眞言、空言ヲモ聞カムトテ、左近ノ乳母、泣ク泣ク、御くちよせニ出デ立ツニ、云云、かうなぎヲバ、御草ノ口ノ方ニ藏セタリ」 枕草子、十二、百五十六段「物怪ニ、イタウ惱メバ、ウツスベキ人トテ、大キヤカナル童ノ、云云、三尺ノ几帳ノ前ニ居タレバ、云云」 台記、久壽二年八月廿七日「先帝崩後、又寄巫口二日、云云」 (二)後世、梓巫、市子、ノ、人ノ求メニ應ジテ行フ口寄ト云フハ、先ヅ、弓弦ヲ彈ジテ、唱ヘ出ス詞アリテ、次ニ、死靈、生靈、ヲ乘リウツラセテ、死口、生口、ヲ、口ニ浮ベテ說キ出シ、聞ク人ト問答スルナリ。畿内ニテ、巫口ト云フ。此法ハ、外法ヨリ移レルナルベシ、此巫ハ、外法頭、後佛、ヲ懷中スト云フ。(各、其條ヲ見ヨ) 新猿樂記(藤原明衡)「四御許者、巫女也、卜占、神遊、寄絃、由(一、作レ口)寄之上手也」

くぢら (名) 鯨 〔其口、大ナレバ、口廣ノ約轉ナリト云フ(すべらき、すめろき、

濁音ノ上下スルハ、いづつしノ語原ヲ見ヨ)字鏡ニ久地良、本草和名ニ久知良トアリ(神武紀ニ久治良ト見ユルハ、鷹ナリ、其條ヲ見ヨ)又、案ズルニ、常陸國風土記、久慈郡「有二小丘一、體似二鯨鯢一、倭武天皇因名二久慈一」塵袋(弘安)六「くぢらヲバ、或ハ、くじらト云ヘル事モアリ、云云、常陸國ニ、久慈理ノ岡ト云フ岡アリ、其岡ノ姿、鯨鯢ニ似タル故ニ斯云ヘリト、云云、俗語ニハ、謂レ鯨爲二久慈理一ト云ヘリ」同國風土記ニ、常陸ハ、衣手漬國、那賀郡、大櫛岡ハ、大朽ノ義ニ因ルトアリ、萬葉集ノ廿ニ、天地ヲ阿米都之、母父ヲ阿母志志トアリ、東國ノ發音ナルカ、然レドモ、名義抄ニ「鯨、クヂラ、クジラ」トアリ(ちぢむ、ちじむ)土佐、薩摩ノ人ハ、今モ、平常ニ、ぢト、じトヲ、別チテ發音シ、鯨ハ、くじらナリト云フ、熟考スベキナリ、倭訓栞、後編、くぢら「典籍便覽ニ、海翁、音、屈支羅ト見エタリ」〕 (一)〔海獸ノ名、常ニ、寒帶ノ洋中ニ棲ミテ、冬、暖海ニ來ル、動物ノ中ノ、最モ大ナルモノ、長サ數丈、形、甚ダ魚ニ似テ、前脚ハ、鰭ヲナシ、後脚ハ、尾ノ如クニシテ、岐ヲナシテ、橫ニ着ク、鱗毛、無ク、形、肥エテ圓クシテ、口、甚ダ大キク、頂ノ上、顋ノ前ニ、孔アリテ、潮ヲ吹キテ呼吸ス、志ほふきト云フ、眼、體ニ比ブレバ、小サシ、色、種種ナリ、皮、骨、肉、筋、鬚、等、全身、棄ツベキ所ナシ、脂、最モ用、多シ、骨ヲ肥トス、肉、皮、皆、食フベシ。せび鯨ヲ最上トシ、さ鯨、まつかう鯨、ながす鯨、いわし鯨、ざとう鯨、等、種類、多シ、字鏡七十二「䲔、女久

（…）〔鯨、一名鯢、一名海鰌、久知良〕倭名抄、十九ニ龍魚類「鯨鯢云、雄曰鯨、雌曰鯢、久知良」（二）せびくぢらナド、鯨類ノ頭ニ生ジテアルモノヲ、細工ニ用ヰル稱、筬トモ、ひれトモ稱ス、口中ノ上下兩邊ニアリテ、櫛ノ歯ノ如シ、長キハ數尺、廣サ五六寸、厚サ五六分、色黒ク、柔軟ニシテ、折リ斷チ難シ、簪、物差、等、種種ノ細工ニ用ヰル。又、さくぢらナルハ、色白シ、まろく[illegible]ト稱シテ、最モ貴ブ。鯨鬚（三）次次條ノ語ノ略、其條ヲ見ヨ。

くぢら-おび（名）鯨帶〔鯨肉ハ、白クシテ皮ハ、黒シ、切リマゼテ食フコトアリ、晝夜帶トモ云フハ、晝ハ白ク、夜ハ黒キ意（黒布、白布、縫合ハセタル鯨幕モ、同意）此帶ニ、此名ノ起レルハ、昔ハ、帶ハ、一幅ヲ二ツ折リニシテ製シタルニ因ル〕女帶ノ、片側ハ黒天鵞絨、片側ハ白繻子ニテ、縫ヒ合ハセタルモノ。一名、晝夜帶 後ニハ、なゞ、南面ニ、異種ノ帛ヲ用ヰルモアルヲ、兩面帶、くく、腹合ハセ帶トモ云フ。[illegible]川〔帶サヘ今ハ、おもてうら〕俳諧名物選（明和）兩面帶〔夜ノ、帶モ解ケツツ、閨ノ月〕（海錄、三）

くぢら-ざし（名）鯨差〔初ハ、鯨ノ鬚ニテ作リシカバ、名トス、今ハ多ク、竹ニテ作ル〕物差ノ一種、曲尺ノ一尺二寸五分ヲ、一尺トスルモノ。又、鯨尺。略シテ、くぢら。（ものさしノ條ヲ見ヨ）乳母草紙、[illegible]「[illegible]じら、着ノ物ニ、帶ノ丈ケ、鯨モナヒ候」「くぢら二尺九寸」

くぢら-じゃく（名）鯨尺〔尺度ニ、古今ノ差違アリ、ものさしノ條ヲ見ヨ〕前條ノ語ニ同ジ。寛政曲三味線[illegible]「鯨尺ヲ土蓮ニ譲フテ、何ニスルト問ヘバ、太夫様ニ運ビサンシタ、富サン達ノ鼻毛ヲ度マト」

くぢら-じる（名）鯨汁 味噌汁ニ、鯨肉ヲ加ヘタルモノ。鹽鯨ノ黒キ皮ヲ除キ、白キ肉ヲ薄ク切リ、豆腐殼ノ中ニ入レテ、能ク揉ミ、熱湯ヲカケテ又揉ミ、殼ノ取ルルマデ水ニ洒シ、椀ニ盛リテ、味噌汁ヲ注ギ、胡椒ノ粉ヲ添フ。味噌汁ハ、味噌ニ、鰹節ヲ加ヘテ擂リ、かすヲ漉シテ、煮立テタルヲ用ヰル。文政四年御觸書「六ノ御膳、云云、鯨汁」

くぢら-とり（名）鯨捕 海上ニ出デテ、鯨ヲ捕フルコト。捕鯨。

くぢら-ぶね（名）鯨船 鯨捕ニ用ヰル船。捕鯨船。鯨船打直井籾御修覆書留 鯨船打[illegible]云云、故事類苑、舟）

くぢら-まく（名）鯨幕〔くぢらおびノ語原ヲ見ヨ〕だんだら幕ノ製ニ、竪ニ、黒布ト白布トヲ、一幅置ニ縫ヒ合ハセ、横ニ、上、地ニ、黒布ヲツケタルモノ。

くち-りこう（名）口利口 口ヲ利クコトノ上手。口巧者。又、其人。生玉心中（正德、近松作）中「此ノ期ニナ テモ口利口、後ノ見セヌハ、ツハ者ナリ」

⁂**く・ちる**（動）朽 朽つノ口語。

⁂**ぐち・る・ル・レ・ラ・リ・レ**（自動、四）愚痴 ぐづる（嘲哫）ノ轉訛、其條ヲ見ヨ。

くち-ろん（名）口論 コトバアラソヒ。イサカヒ。口論。うたたねの記（阿佛尼）「御前ハ、人ノ手ヲ逃ゲ出デタマフカ、又、くちろんナドヲシタマヒタリケルニカ」

—**くちわ**（名）轡 くつわノ條ヲ見ヨ。

—**くち-わき**（名）口脇 口ノ、左右ノホトリ。口ノ端。クチサキラ。口吻 枕草子、二、十七段、にくきもの「又飲メナド云フナルベシ、身フレヒノシ、鼻振リ、口わきヲサヘ引キタレテ、ワラハベノ、コウドノ（國府殿）ニ參リテ、ナド謠フ」宇治拾遺、二、第五條「[illegible]ク、シタリガホニ、[illegible]ヲツク口ヒテ、口わきカイ拭ヒナトシテ、居アガリノゾキテ」めのこのさう[illegible]明和「イカニ仕キ口つきモ、思フサマニヱミ濫ゲ、咽喉ノ穴見エ、舌ノヒロキ、口わきヨリアハヅク垂リテ物[illegible]ヘバ、イカニ[illegible]シキ口つきモ、惡シクナリ候」

くち-わけ（名）口分 物ヲ、類ニ因リテ、分クルコト、類別。分類。

くち-わる（名）口惡 クチワルキコト。クチワルキ人。

くちわる・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）口惡 物言ヒ、ワルシ。物事ヲ、惡シザマニ言フ癖アリ。クチサガナシ。醒筑波（寛永、西武）「口わるく、云フコトコソハ、ウタテケレ」袋カラタダ、米ハコボルル」

くち-ゑ（名）口繪 書物ナドノ、首ニ揭グル畫。[illegible]草雙紙ノ題[illegible]文化ノ中比ニヤ、京傳、お六櫛木曾の仇討ヲ作ラレシ時、畫師豐國、思ヒツキニテ、卷中ノ人、初メテ、役者ノ似顏ニナセリ、又、口繪トイフモノ（さう志ノ始メニ、一卷ノ人物ノ出ダシ、畫ナドアリ）使ヒハジメテ、加フ」

—**くちを・し・シキ・シケレ・シク・シク**（形、二）口惜〔心地惜しノ、おちをしト約リテ、くちをしト轉ジタル語ナルベキカ（中心、なかお。名義抄「心、ココロ、ナカゴ」黄金、くがね、圍む、かこむ）〕（一）心ニ、惜シト思フ。ノコリヲシ。クヤシ。殘念ナリ。遺憾 枕草子、五、五十段[illegible]嘯シト思フバカリニ鳴キ合ヒタル時鳥ノ聲ヲ、口をしう、御前ニ聞コシメサズ」源、一、桐壺「我レモ亡クナリヌ[illegible]テ、[illegible]しう思ヒクヅホルナト、サヘマガヘ[illegible]メナカレ」（二）情シ、賤ンムベシ。枕草子、三、廿八段、似げなきもの「下種ノ家ニ、雪ノ降リタル、又、月ノ差入リタルモ、イト口をし」同卷、三十六段「夕顏ハ、花ノカタチ、朝顏ニ似テ、言ヒツヅケタルモ、イトヲカシカリヌベキ[illegible]、實ノアリサマコソ、イト口をしけれ」（鄙ナリ）（三）轉ジテ、物足ラズ思フ。飽カヌ心地ス。竹取物語「かぐや姫、キト影ニナリヌ、ハカナク、くちをしきコトニ思シテ」源、二、帚木「取ルモナク口をしき分際ト、優ナリトオボユバカリ勝レタルトハ」同卷七「世ノオボエ、口をしからズ」同、四、夕顏「口をしノ花ノ契リヤ」

—**くつ**（名）沓靴〔沓ハ、鞜ノ省字、鹽鐵論「革沓絲履」〕足首ノ形ニ準ヘテ作リ、穿キテ歩クニ用ヰル具。木沓、革沓、絲沓、藁沓、ナドアリ。又、束帶、衣冠ノ時ニ用ヰル深沓、淺沓、靴の沓、半靴、ナドアリ、各條ヲ見ヨ。今ハ、西洋製ニ傚ヒテ、多クハ革製ニテ、長沓、半沓ナド、種種アリ。神代紀、上[illegible]古事記、中（應神）[illegible]新撰字鏡[illegible]倭名抄、十二[illegible]

くつ（名）狐 きつね（狐）ノ條ヲ見ヨ。

—**く・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ**（自動、上、二）朽〔腐る、壞るニ通ズ、縮ぬ、束ぬ〕（一）枯レ、壞ル。腐レテ、毀ル。後撰集、廿、賀[illegible]出ダサセタマヒケル、云云「斧ノ柄ノ、くちムモ知ラズ、君ガ代ノ、盡キム限リハ、打チ試ミヨ」（仙人ノ圍碁ヲ見テアリテ、斧ノ柄ノ朽チタリト云フ故事ヲ詠メリ）（二）衰フ。廢ル。源、六、末摘花「[illegible]人ノ程ノ心苦シキニ、名ノくちナムハ、サスガナリ」

くづ（名）屑〔頽るノ語根、くづれノ意〕（一）スベテ、頽レ、碎ケ、切レナドシタル末ノ廢物。倭名抄 十八金銀「金屑、古加禰[illegible]」

乃須利久都」徒然草、百七十七段「鋸ノくづ」「絲くづ」(二)佳キ中ノ、劣レルモノ。擇(エ)リ殘リノモノ。カス。徒然草、十四段「古今集ノ中ノ歌くづ」大槐祕抄(九條伊通)「藏人五位ノハテニテ、人くづト、諸人ニ思ヒ申候シ者」

ぐづ(名)[愚圖]〔崩(クヅ)るノ語根、貶シメテ、濁ル〕次條ノ語ニ同ジ。

ぐづ(名)[鈍漢]〔くづぐづ(遲鈍)ノ條ヲ見ヨ〕決斷ナキ人。(卑語)

くつ-いし(名)[沓石] 緣(エン)ノ束柱(ツカバシラ)ナドノ下ニ用ヰル礎(イシズエ)。

く-つう(名)[苦痛] 苦シク、痛ムコト。苦シキナヤミ。韓非子、解老篇「痛禍薄外、則苦痛雜於腸胃之閒」宇治拾遺、十三、第八條「骨、喉ニタテテ、云云、トミニ出デザリケレバ、くつうシテ、ツヒニ死ニ侍リケリ」

ぐ-づう(名)[弘通] 弘ク、世間ニユキワタルコト。多ク、佛敎ニ云フ。盛衰記、三十二、惟高惟仁位爭「佛法東漸シテ、眞言上乘、日域ニ弘通セリ」

くつ-かう(名)[屈行] 腰ヲカガメテ行クコト。貴人ノ前ヲ步ム時ノ敬禮ナリ。江家次第、十八、外記政「少納言著座、外記捧盤文筥云云、屈行、置於上卿前机」後押小路内府抄「屈行、屈腰行也」

くつ-かうぶり(名)[沓冠] くつかぶりニ同ジ、をりく(折句)ノ條ヲ見ヨ。

くつ-がた(名)[沓型] 沓ヲ作ル型(カタ)。皮沓、絲沓、ナド作ル心(シン)トシテ、用ヰシモノナルベシ、後世ニ云フ、足袋ノ足型(アシガタ)ノ類カト云フ。倭名抄、十二、沓楦具「楦、久都加太」拾遺集、八、雜、上、讀人不知「たうづのかた(沓型)ヲ取リニオコセテ侍リケレバ　年ヲ經テ、立チナラシツル、あし鶴(タヅ)ノ、イカナルかたニ、跡トドムラム」

くつ-がた(名)[沓形]〔前條ノ具(モノ)ノ形ニ似タレバ名トス(花瓦ヲ、鐙瓦(アブミガハラ)ト云フガ如シ)端ノ上ニ曲(マガ)レルハ、爪先(ツマサキ)ナリ〕瓦葺、唐風ノ造リノ宮殿ノ、大棟ノ兩端ニツクル飾物。唐土ノ製ノ移リタルモノナルベシ、(檜皮葺ニハ用ヰズ)其端、曲ガリテ、上ニ向フ。トビノヲ。鴟尾。後世ハ、しやちほこトナリ、鬼瓦トナル。西大寺資財帳「沓形」大安寺資財帳「鴟尾」天治字鏡、十二「鵄吻、左右頭、如鳥尾起在著名也、大極殿上、左右所置者也、倭云、久都可多」倭名抄、十三「居宅具、鴟尾、久都賀太」

くつ-がた(名)[靴形] クツノカタチ。クツノナリ。

くつ-かぶり(名)[沓冠] 和歌ノ一體。折句(ヲリク)ノ條ヲ見ヨ。續千載集、七、雜體、折句歌、花山院ノ御時、小屛風、硯箱ヲ、折句、くつ冠ニオキテ詠メト仰セゴトアリケレバ、ツカウマツリケル「コマ渡ス、一瀨モ見エズ、ヤヘコホリ、ウハ波ナキハ、深キ水底」

くつ-がへ・す ス・セ・サ・シ・セ(他動、四)[覆]〔次條ノ語ノ他動、ひるがへる、ひるがへす〕覆(クツガヘ)ルヤウニス。ヒ、クリカヘス。運步色葉集「覆(クツガヘス)」

くつ-がへ・る ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)[覆]〔崩反(クツカヘ)る意、ひるがへる、うらがへる〕(一)倒レテ、ウラガヘル。ヒックリカヘル。字鏡「覆、久豆加戸利不須」天治字鏡、六ニ「顚、久豆加戸留」(二)他ノ動詞ト熟語トナリテ、動作ノ、甚シキヲ云フ語。(沸キかへる、煮エかへる)大和物語、上「詠メリケレバ、(歌ヲ)監命婦愛(メ)デくつがへりテ、モトメテヤリケリ」「戲(ザ)レくつがへる」

くつ-かむり(名)[沓冠] くつかぶりニ同ジ、をりく(折句)ノ條ヲ見ヨ。

くつ-き(名)[崛起][屈起]〔說文「崛、山短(ミジカ)高也」增韻「勃起曰崛起」〕起リ立ツコト。蘇逢詩「天地三分魏蜀吳、武侯屈起贊訏謨」文選、甘泉賦「洪臺崛其獨出兮」

くつ-きやう(名)[屈强][屈彊] 人ニ屈セザルコト。意地ノ、强キコト。漢書、匈奴傳「揚信、爲人剛直屈强」文選、魏都賦「屈强」注「不順貌」史記、陸賈傳「酒欲以新造未集之越屈强於此」

くつ-きやう(名)[屈竟]〔究竟(クキヤウ)ノ急呼、其語原ヲ見ヨ〕(一)くきやう。極メテ、優(スグ)レタルコト。至極。著聞集、九、弓箭「顯光朝臣ノ郞等季武ガ從者、究竟ノモノ有ケリ」(二)ヨク、當テハマルコト。太平記、二、阿新殿事「蛾トイフ蟲ノ、數多、明(アカ)リ障子(シヤウジ)ニ取リツキタルヲ、スハヤ、究竟ノ事コソアレト思ヒテ、障子ヲ少シ引キアケタレバ、此蟲アマタ、內ヘ入リテ、軈テ、燈ヲ打チ消シヌ」「今ガ、事ヲ始ムルニくつきやうノ時ナリ」

くつ-きよく(名)[屈曲] 折レ、曲(マガ)ルコト。南史、王微傳「遠如屛風屈曲」李白詩「人心若波瀾、世路有屈曲」

くつ-きり(副)[分明]〔くつきハ、くきやかにノくきノ急呼、りハ、らノ條ヲ見ヨ〕キハヤカニ。キハダチテ。ハッキリ。「色、くつきり白シ」

くつ-くつ(副)〔くつめくノ條ヲ見ヨ、くつくつぼうし(寒蟬)モ、くつめかしテ鳴クヨリ云フ〕(一)氣息ノ、喉ニ支ヘテ鳴ル音ニ云フ語。宇治拾遺、十、第八條「臺盤ニ、人人、アマタ著キテ、物食ヒケルニ、藏人さだたか、云云、臺盤ニ額ヲ當テテ、喉ヲ、くつくつト、クツメクヤウニ鳴ラセバ、云云、ハヤ死ニタマヒニタリ」(頓死ナルベシ)(二)鼻液(ハナシル)ノツマリタルニ、息スル音ニハ、濁音ニ、ぐつぐつト云フ。(三)濁音ナルハ、物ノ煮エ立ツ音ニモ云フ、音ヲ轉ジテ、グタグタ、(熱海、あたみ)沸沸「味噌汁ガぐつぐつ煮エル」「湯ガぐたぐたト沸キカヘル」

くつ-くつ(副)[吃吃]〔前條ノ語ノ(一)ト同ジカルベシ〕(一)可笑(ヲカ)シキニ堪ヘズ、竊カニ、喉ニ音立テテ笑フニ云フ語。好色一代女(天和、西鶴)六「我レナガラ、くつくつ笑ヒ出シテ」(二)笑ハセムト、輕ククスグルニ云フ語。狂言記、子盜人「サラバ、チト笑ハシマショ、ヤア、くつくつくつ、ハア、殘雖ガナホッタ」「くつくつクスグル」

ぐつ-ぐつ(副) 物ノ、煮エ立ツ音ニ云フ語。前前條ノ(二)(三)ヲ見ヨ。

ぐづ-ぐづ(副)[弛緩]〔くつろぐノ語原ヲ見ヨ〕(一)釘ナドノ搖(ユル)グ狀、物ヲ結(ユ)ヒ束ネテ、緊(シマ)ラヌ狀ニ云フ語。「楔(クサビ)ガぐづぐづシテ居ル」「行李ノ細引ガ、ぐづぐづニナッタ」(二)事ノ、決定セヌニ云フ語。「相談ガぐづぐづデ、キマラヌ」

ぐづ-ぐづ(副)[遲鈍]〔前條ノ語意ニ同ジ、鈍漢(グヅ)ノ條ヲモ見ヨ〕氣力ニ、シマリナキ狀、心ニ、決斷ナキ狀ニ云フ語。「ぐづぐづノ男」「何ヲ愚圖愚圖シテ居ル」

ぐづ-ぐづ(副)[呶呶]〔くだくだしノ語原ヲ見ヨ〕獨言ニ、繰リカヘシ、口說(クド)クニ云フ語。ブツブツ。「何カ、愚圖愚圖言ッテ居ル」

くつくつ-ぼうし(名)[寒蟬]〔聲ヲ、名トス、今ハ、倒サニ、つくつくぼうしト云ヒ、ほうしいつくつくト云フ、聞取(キキトリ)ニ因リテ、天地スルナリ、うつくしト聞取ルモ、同ジ〕今ハ、つくつくぼうしト云フ、

蟬ノ一種、形、小サク、色、黑シ、秋ノ半[illegible]、午後[illegible]鳴ク、其聲、おうしいつくつくト聞ユ、古クハ、うつくしトモ聞取ラレタリ。 箋注倭名抄、八[illegible]「蛁蟟、久都久都保宇之、蛁蟟ハ、みんみんぜみナリ」[illegible]八月ニナリヌ、[illegible]、時雨レ[illegible]つくつほうし、イトカシカマシキマデ鳴ク」散木集、二、夏「女郎花、ナマメキ立テル、姿ヲヤ、うつくしよしト、蟬ノ鳴クラム」[illegible]くヤ、思フラム、うつくしト云フ、蟲ノ鳴ク鳴ク」

くっ-けい (名) 屈繼 屈系 〔脇肋ノ形ニ[illegible]ト、開ク屈ミテ、腹背ニ連ル意カト云フ、一名、傾胴トモ云フ、是レナリ〕 鎧ノ左脇ノ稱。 [illegible]

くつ-こ (名) 口籠 〔くちこノ轉、くちわ、くつわ。口卷、くつまき〕 又、くちのこ。くつのこ。牛馬ノ口ニハムル、小サキ籠、噛ムコト防グ爲ニ、竹縄ニテ、粗ク編ミ作レルヲモ用ヰル。 倭名抄、十五[illegible]「[illegible]口籠、久豆古、牛馬口上籠也」拾玉集、四「御牧ヨリ、草飼フ馬ノ、口のこヲ、見ルモ悲シキ、世ノナラ[illegible]二口の籠ヲハメタルガ如シト云フ意ナルベシ)

くっ-し (名) 屈指 ユビヲリ。 [illegible]

くづし (名) 崩 クヅスコト。クヅシタルモノ。「政所ノくづし」「くづし字」

くっ-しいた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 屈甚 〔いたし(甚)ノ條ヲ見ヨ、くしいたし、くんじいたしト轉ズルコト、くっす(屈)ノ語原ヲ見ヨ〕 心、屈スルコト、甚シ。くんじいたし。 源、廿一、少女[illegible]「物ナドモ見入レラレズ、くっしいたくテ、書モ讀マデ、眺メ伏シタマヘルヲ」同、十二、須磨[illegible]「ウシロデモ、ヲコナルベシトテ、くしいたうテ、行カズ」同、四十三、竹川[illegible]「皆人、コレニコソ心寄セタマフラメ、我ガ身ハ、イトドくんじいたく思ヒ弱リテ、アヂキナウゾ恨ムル」

くづし-い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (他動、下二) 崩出 片端ヨリ少シヅツ、話シ出ダス。 源、十三、明石[illegible]「年頃、オボツカナク[illegible]ワタクシ、御暇ナクテ、サシモ聞キ置キタマハヌ世ノ古事ドモ、くづしいでテ聞ユ」

くっし-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 屈入 〔くっす(屈)ノ條ヲ見ヨ〕 心屈シテ、考フ。フサギコム。 源、四十三、竹川[illegible]「イタウくっしいりテ、ナガメ居タマヘレバ」

くづし-がき (名) 崩書 文字ヲ、草書ニテ書クコト。

くつ-した (名) 靴下 沓下 シタウヅ。沓ノ内ニ穿ク足袋。クツタビ。 韈

くづし-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 崩立 少シヅツ、言ヒ立ツル。 [illegible]四十八、[illegible]年頃、日頃、[illegible]急メシク[illegible]シケル事ドモヲ、くづしたてテ申サセ給ヒケルハ」

くっ-しん (名) 屈伸 ノビチヂミ。 莊子、秋水篇「[illegible]屈伸」[illegible]「[illegible]屈伸自在」

くっ-しゃう (名) 屈請 〔枉ゲテ請フ意〕 請ヒテ、招クコト。請待。 [illegible]

[illegible]コソ、[illegible]ヲ建テ、今日ノ十萬僧會ノ如ク、多ク、持經者ヲ屈請シテ、坊坊ニ、一兩ニ宿ケ、念誦[illegible]、丁寧ニ勸行致サレ候フ」

くつ-じゅう (名) 屈從 くっぷく(屈伏)ニ同ジ。

くつ-じょく (名) 屈辱 屈伏ノ恥辱。 史記、[illegible]「屈辱ニ甘ンゼズ」

くっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 屈 〔くすトナルハ、約マレルナリ(鬱金、うこん。一向、いかう)くんず、くんじトナルハ、其音便ナリ(蒟蒻、こんにゃく。無くば、なくんば)〕 (一)カガム。クジクル。折レ、シタガフ。 易經、繫辭、下傳「尺蠖之屈、以求信也」[illegible]二屈ス」 (二)意氣、クジクル。心氣、沈ム。氣ガフサグ。くす。くんず。 源、廿一、少女[illegible]「イト、ツレヅレニ思ヒテ、くっしハベレバ」同、三十四、下、若菜、下[illegible]「イタク面痩セテ、物思ヒくしタマヘル」落窪物語、一「心驕リセムモノゾ、カヤウノ者ハ、くせサセテナクゾヨキ」[illegible]日頃、ヨロヅニ思ヒくしタリツル人人モ、打チヤスミテ、心ユルビシタル[illegible]ノホドニ」 枕草子、四、四十四段「カカル苦ハ、打チくんじタルコソ、アハレナレ、ウタテモ、花ヤカナルカナ」同、五、五十段「ムゲニ、思ヒくんじニケリ、イトワロシ」

くっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 屈 (一)カガムル。ヲリマグ。 [illegible]「屈ス」 (二)ヘリクダラス。卑下セシム。 孟子、滕文公、下篇[illegible]「身下レ士」

くづ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 崩壞 〔崩ルノ他動、腐る、くたす。至る、いたす〕 (一)崩ルルヤウニス。掘リ、毀ツ。碎キ、[illegible]ヲ埋メテモ、我ガ君ノ頼ヒ給ハム物ヲ、ツカウマツラム」「家ヲくづす」 (二)破リテ、散ラス。潰エシム。破潰 「敵陣ヲくづす」 (三)惡シクナス。亂シテ、衰ヘシム。[illegible]ヲくづす」「政事ヲくづす」 (四)畫ヲ省ク。省畫 「字ヲくづす」「草書ニくづす」

くつ-ずみ (名) 沓墨 靴墨 西洋式ノ革沓ニ塗ル黑キ汁。(赤、白、又、固形物モアリ)

ぐっ-すり (副) 〔くづつ(熟睡)、くづち(熟)ノ語原ヲ見ヨ、くづち、くっち、くっし、ぐっすいト轉ジタル語(べちゃんと、しゃんと、すさる、すざる)靜岡ニテハ、熟ヲいくち、いぐすり、いぐすいト云フ、いハ、寢ナリ〕 熟睡シタル狀ニ云フ語。「ぐっすり寢入ル」

くつ-ずれ (名) 靴擦 〔鞍すれナドモアリ〕 靴ト擦レアヒテ起レル、足ノ傷ミ。靴傷

くづ-せ (名) 傴僂 せむしノ古言。くぐせノ條ヲ見ヨ。

くっ-せつ (名) 屈折 カガマリ、折ルルコト、ヲレ、マガルコト。 [illegible]「[illegible]不可屈折」

くつ-ぞこ (名) 沓底 靴底 (一)沓ノ底。 (二)魚ノ名、次條ノ語ノ略、したびらめノ條ヲ見ヨ。

くつぞこ-がれひ (名) 沓底鰈 したびらめ(鞋底魚)ノ異名。くつぞこ。

くっ-たく (名) 屈託 〔屈着ノ急呼ナリト云フ〕 心、一事ニ執着スルコト。其事ヲノミ、氣ニカクルコト。 [illegible]品第八、[illegible]ハ、現在斗ニ屈託シテ、[illegible]故、天

道ノ惡ミヲ受クル」

くつ-たび (名) 〔沓足袋〕 (一)足袋ノ、鞐以下ノミニテ、筒ナキモノ。 都風俗鑑(延寶二、)「足袋ハ、筒短カニ、沓たび、セチベンナリ」二私亭記、下) 我衣(天和)「寶永ヨリ、薄柿ノくつ足袋ハヤル、筒アル足袋、ハク人、稀ナリ」 (二)洋服ノ沓、くつまた。

ぐったり (副) くたくたノ條ヲ見ヨ。

くづち (名) 〔鼾〕 〔次條ノ語ノ名詞形、癲癇ト共ニ、其條ノ語原ニ記シオケリ、靜岡ニテ、いくちト云フ、寢くづちノ約ナリ(遺尿ヲ、寢浸ト云フ)沖繩ニテ、くくつト云フ、今、鼾ノ聲ヲ、ぐうぐう、おうおうト云フモ、緣アルナリ」 (一)〔鼾ノ古言〕 字鏡廿一「鼾、久豆知、又、伊比支」 (二)癲癇ノ異稱。 太秦廣隆寺牛祭祭文「咳病、鼻多里、傷心地、癲狂、擢直、傳死病」(惡心僻部作ト云フ、寬仁元年寂ス) 沙石集、三、上、第一條「癲狂、云云、此病ハ、火ノ邊、水ノ邊、人ノ多カル中ニシテ發ル、心憂キ病ナリ、俗ハ、くづちト云ヘリ」 易林節用集(慶長)支體「癲狂」

くづ・つ ·ツレ·ツレ·チ·チ·チヨ (自動、上二) 〔鼾睡〕 〔くづハ、頽るノ語原、つハ、落つノ上略ナラム(枯落穗、かれちぼ)頽れ落つる義、死ぬるヲ、落ち入るト云フト、同意、名詞形ニ、くづちト云ヒテ、鼾ノ事トモナリ、癲癇ノ事トモナル。(前條ヲ見ヨ)ぐたりと倒る、ぐ、たり臥す、ぐ、すり眠る、ナド云フモ、此語ノ轉ナルベシ、正體ナク、ぐたりと倒ルルニ因リテ、癲癇ノ名トナルナリ」 正體ナク倒レ臥シテ、鼾カク。 落窪物語、二、上「賢シキ翁ノ德ニ、御邊ニ、今宵些リタル事ト思フ程ナク、臥入リテ、くづち臥セリ」

くっつき-あひ (名) くされあひ(腐合)ニ同ジ。

✤**くっ-つ・く** ·ク·ケ·カ·キ·ケ (自動、四) 〔噛ひつくノ急呼カ(追ひつく、おっつく)くっつける、同ジ」 (一)着くト云フニ同ジ。(東京) (二)男女、クサレアフ。

✤**ぐづ-つ・く** ·ク·ケ·カ·キ·ケ (自動、四) グヅグヅスル。ハキハキトセズ。「天氣ガぐづつく」

くつ-づくり (名) 〔沓造〕 沓ヲ造ル工人。 靴工 七十一番職人盡歌合(文安)廿九番「沓造」

くつ-つけ-の-あしだ (名) 〔沓附足駄〕 屐ニ、革沓ヲ附ケタル、後ノ、爪がけノ如キモノカ、屐子沓、是レナルベシ。 箋注倭名抄、四廿九「屐履、久都都計乃阿之太」 枕草子、一、第三段「けいまぐつナドノ、緒スゲサセ」 同、九、百十三段「屐子ノツヤヤカナルガ、革ニ、土多クツイタルヲハキテ」

✤**くっ-つ・ける** ·ケル·ケレ·ケ·ケ·ケヨ (他動、下一) 〔くっつくノ語原ヲ見ヨ〕 着けるト云フニ同ジ。

くっ-て-かか・る ·ル·レ·ラ·リ·レ (自動、四) 〔喰掛〕 〔噛ひてかかるノ急呼、かみつくノ意〕 ハムカフ。敵對ス。抗敵

くつて-どり (名) 〔沓直鳥〕 〔時鳥ノ雛ノ啼聲ヲ、くつてト聞做シテ名トセシナルベシ、ほでたかさノ條ヲ見ヨ、附會シテ沓直トスルハ、沓ノ價ノ意ナリ、て(直)ノ條ヲ見ヨ〕 時鳥ノ異名。 物類稱呼、二、ほととぎす、伊豫、松山邊ニテ、くつて鳥ト稱ス、くつて、くつて、轉ジタル詞ナルベシ」 新撰萬葉集、上、夏「時鳥、鳴キタツ夏ノ、山邊ニハ、沓直不輸、人ヤ住ムラム」(くつてト云フ鳴聲ヲ、沓直ト寄セテ詠メルナリ) 附會ノ傳說ニ、蜀帝、零落シテ、沓ヲ造リテ賣ル、鹽賣ル翁、コレヲ買ヒ、價ヲ濟マセズシテ、共ニ死ス、蜀帝ハ時鳥トナリ、翁ハ鵙トナル、鵙の速贄ハ、時鳥ニ償フナリ、因リテ、時鳥ヲ、沓直鳥ト云フトゾ。(蜀魂ノ條ヲ併セ見ヨ) 比古婆衣、五「鳥僕抄ニ、ほとときすノ一名ヲ、くつて鳥ト云フ由ヲ載セテ、鵙トほとときすノ沓ノ料ヲ取リテ、カクレニケレバ、ソレ尋ヌトテ、呼ビアリクヨリ、此名アリ、ト見エ、綺語抄ニモ、同說ヲ擧ゲテ、くつて、たばらんト鳴クト見エタリ」

くっ-と (副) 〔突如〕 〔くとノ急呼、其條ノ語原ヲ見ヨ、濁音ニ、ぐっとトナル〕 スグト。ヒトイキニ。ぐっと。 沙石集、五、上、第八條、蛇、蛙ニ見參セムト云フニ、エ參ラジトゾ返事シケル、ゲニモ、アブナキ見參也、くっと呑マレナバ、云云、蘇生ル道アラジ」

ぐっ-と (副) 〔前條ノ語ノ、濁レルモノ〕 (一)タダチニ。ヒトイキニ。ヅイト。 〔突如〕 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「長刀取りノベ、障子越、ぐっと通シテ、一エグリ」「ぐっと飲ム」「ぐっと詰ル」 (二)ヅイト、優レテ。 〔嶄然〕 「此方ガ、ぐっと、好ク出來テ居ル」

くつ-ぬぎ (名) 〔沓脫〕 〔沓ヲ脫ぐ所〕 (一)寢殿ノ廊ノ邊ナドニ、昇降スベキ所。厚キ板ヲ、束柱ニテ支ヘテ作ル。 明月記、嘉祿二年四月十六日「立ニ中門外、頭辨出逢來、召次昇ニ外沓脫、入ニ妻戶ニ」 禁腋祕抄、享「要、沓脫、實ニ、沓ヲ脫ギテアガル、小板敷、沓脫ノ間ヲ、神仙門ト云フ」 (二)緣側ヨリ、庭ナドニ下ルル所ニスヱタル、高キ石。其次ニ、稍低キヲスヱタルヲ、二番石ト云ヒ、飛石ニウツル。

くつ-ね (名) 〔狐〕 きつねニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くつ-の-こ (名) 〔沓子〕 〔沓子ハ、當字、口の籠ノ轉〕 口籠ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くつ-の-しき (名) 〔履敷〕 〔しき(敷)ノ條ヲ見ヨ〕 履ノ底ニ敷ク物。クツワラ。 本草和名、上十五「故麻鞋底、布留岐乎久都乃之岐」 倭名抄、十二、廿二履襪類「履屜、履中薦也、久都和良、一云、久都乃之岐」

くつ-ばみ (名) 〔馬銜〕 〔口食ノ轉(くちわ、くつわ)〕 左右ノ轡ノ鑣ヲ聯絡スル鐵條ノ、馬ノ口中ニ含マシムルトコロ。くくみトモ云ヒ、今、ふくみ、又、はみト云フ。 倭名抄、十五ニ鞍馬具「銜、馬銜也、馬口中鐵也、久都波美、俗云、久久美」(鑣ハ、馬銜ト、轡のかがみトノ總稱ナリ)

くつ-びき (名) 〔臥機〕 〔沓引ノ義ナラムト云フ、足ニカケテ引く意カ〕 機ノ具、麻繩ニテ作リ、織ル者ノ足ニ縛リ着ケテ、足ノ屈伸ニ隨ヒテ、機躡ヲ俯仰セシメ、綜ヲ上下セシムル機。今、スソヲ。 倭名抄、十四十五織機具「臥機、久豆比岐」

くっ-ぷく (名) 〔屈伏〕〔屈服〕 勢ニ挫ケテ、從フコト。屈從。 五代史、桑維翰傳「見吾無不屈服ニ」 太平記、二、宣房卿二君ニ仕ヘ兩朝ニ事「資明卿(日野中納言)理ヲ盡シテ責ラレケレバ、宣房卿、顏色誠ニ屈伏シテ」

くづ-ほ・る ·ル·レ·ラ·リ·レ (自動、四) 〔衰頽〕 〔くづハ、頽るノ語根、ほるハ、作用ヲ云フ(よほる、とどほる)〕 衰フ。ヨワル。 萬葉集、五四十亡兒ヲ戀フル長歌(拾穗本)「ヤウヤウニ、容貌久都保里、朝朝、言フコト止ミ、タマキハル、命絕エヌレ」(當違本ニ、都久保里トアルハ、活字本ノ誤植ヲ襲襲セルナリ) 源、一、桐壺「我レナクナリヌトテ、口惜シク思ヒくづほるる(ほるノ誤寫)ナト、カヘスガヘス、イサメオカレ」(コレハ、四段活用ナルカ、下二段ナルカ)

くづ-ほ・る ·ルル·ルレ·レ·レ·レヨ (自動、下二) 〔衰頽〕 〔前條ノ語ニ同ジ、假名遣ハ、前

條ヲ見ヨ。[illegible]活用、下二[illegible]モ、同[illegible]

[illegible]心[illegible]ヲモ[illegible]トれタラム人ノヤウニモ[illegible]フカナト宜ヘバ、老イネドモ、くづをれタル心地ゾスルヤト、獨リチテ」同、十三、明石「心モ萎、くづをれニケリ」堀川百首、不遇「跡ムナヨ、逆ハス思ヒニ、くづをれテ、影ノ如クニ、ナレル姿ヲ」(以上共ニ、をるハ、ほるノ誤寫)

ぐづま(クズマ) (名) [傴僂] せむしノ古名。くぐせノ條ヲ見ヨ。

くつまき [illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

くづ・む(クズム)・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [くづほるノくづカト云フ] くづほるト同意テルベシ。ヨワル。 おのびね物語、上「もろおひナマシ[illegible]、[illegible]、(清水濱臣)六「くすむト云フ詞ノ轉カ、又、くづほる意カ」

くつめき (名) [百日咳] [くつめくノ名詞形、次條ヲ見ヨ] ひやくにちぜきニ同ジ。[illegible]小兒ノ百日咳[illegible]小兒、くつめき[illegible]ニアヘバ、必ズ、百日咳、痰咳ニ苦シム」

くつめ・く・ク・カ・キ・ク・ケ・ケ (自動、四) [百日咳ヲ、くつめきト云フ、前條ヲ見ヨ] 咳咳シテ、喉、くつくつト音ス。宇治拾遺、十、第八條[illegible]、グックット、くつめくヤウニ鳴ラセバ」

くつもち (名) [沓持] 沓ヲ持チテ、主人ノ供スル者[illegible]トリ[illegible]スル事、日ヲ數ヘテ待ツベシ」

くつや (名) [沓屋] 沓ヲ造リ、又、賣ル家。

くづや(クズヤ) (名) [屑屋] かみくづかひニ同ジ。

くづ・る(クズル)・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [崩] [崩ゆ、朽つ、ニ通ズ、屑ノ活用ト云フ。意ハ、粉ル、飢ル、[illegible]] (一)[缺ケ、碎ケ、毀ル] 崩ユ。コボル。碎ケ、毀ル。 天治字鏡[illegible]、クヅル、クユ」宇津保物語、俊蔭「山、サカサマニくづるヲ[illegible]」多クノ人死ヌレバ」(二)[集マレル人人、散リユク。離ル。解散] [illegible]八段「殿上ノ名對面、云云、足音ドモシテ、くづれ出ヅ」(三)敗レ、散ル。潰ユ。潰散。亂ル。[illegible]、くづるゝ」(四)惡シクナル。[illegible]風儀くづる」

ぐづ・る(グズル)・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [呶呶] [ぐつぐづ(呶呶)ヲ略シテ活用セシム、惡痴る、義太夫節ヲぎたる、贅沢ヲどどるナドノ例] (一)口說クノ卑語。グヅ[illegible]ダ[illegible](二)イヒガカリヲツケル。(二)ヤンチヤヲ云フ。ダダヲコネル。(京都)小兒ノぐづる

くづれ(クズレ) (名) [崩] (一)[クヅルルコト] クヅレタル所。[illegible]、崩ル、久、[illegible]、四、上[illegible]、[illegible]、くづれヨリ、ヤホラ入リテ」(二)人人ノ、散リユクコト。解散「集會ノくづれ」(三)敗レ、散ルコト。潰散[illegible]、くづれ

ぐづ・れる(グズレル) (動) [崩] 崩るノ口語。

くつろか・ま (副) [寛] [くつろハ、くつろぐノ語根、さやぐ、さやかま。はるく、はるか[illegible]] 寛ゾヤカル狀ニ云フ語。ユルヤカニ[illegible]ノ內ニ、[illegible]唐衣ドモ、くつろかニ脫ギ垂レッツ」

くつろぎ (名) [寛] クツログコト。ユル

ミ。[餘裕] 「くつろぎガ無イ」

くつろぎのおんぞ (名) [甘御衣] [正裝ヨリ、略裝ニくつろぎタマフ意、次條、幷ニ、おんぞノ條ヲ見ヨ] 上皇、又、親王ノ召シタマフ小直衣ノ稱。かんのおんぞ。[illegible]云云、[illegible]、かんの御衣ナトヲ召サルヘシ」後松日記、十八「かんの御衣ハ、甘の御衣トシタタメ、小直衣、傍ノコトヲ稱ヘ申シ候、くつろぎの御衣トモ[illegible]申シ候、[illegible]度ニモ出テ申シ候」

くつろ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [寛甘寛] [くつハ、頹る(朽る)ノ語根カ、ろぐハ、動搖スル意、すするぐ、かするぐ、釘ノユルムヲ、ぐづぐづニナルナド云フモ、コレナルベシ] (一)ユルクナル。ユルム。源、三十四、上、若菜、上「上臈モ亂レテ、冠ノ額、スコシくつろぎタルニ久シク額ヲ問タルナリ」新六帖、三「大井川、波打ツ堰ノ、古杭ハ、くつろぎナガラ、拔クルヨモナシ」左傳、昭公廿一年「小者不窕」淮南子、道應訓「大徐則甘而不固」(二)ユルヤカニナル。[illegible]アリ[illegible]「源氏ノ大納言、內大臣ニナリタマヒヌ、數定マリテ、くつろぐ所ナカリケレバ、加ハリタマフナリケリ」(三)身ノ、オゴソカナルヨリ、ユルヤカナルニ移リテ、起居ス。安居。[illegible]、二十段、法華八講ノ座「モト居タリツル人モ、少シ打チミジロギ、くつろぎテ、高座ノ許近キ柱ノ下ナトニスヱタレバ」[illegible]、平家物語、九、[illegible]、云云、[illegible]ヲ出デサセタマヒシカバ、くつろぐヤラムト、オボシメシケルニ」 くつろぎの御衣ヲ、甘の御衣ト書ク、正裝ヲ解キテ、略裝ニナリタマフナリ。(前條ヲ見ヨ) 名義抄「寛、クツロク」[illegible]甘、緩也[illegible]「人之甘甘、痼[illegible]之」爾雅、釋言「窕、閒也」

くつろ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [寛] クツログヤウニナス。ユルヤカニナス。ユルムル。 榮花物語、六、丹波少將被召

[illegible]カハ[illegible]ニ、[illegible]モくつろげタマハズ」「刀ノ鯉口くつろげテ」

ぐつろ・げる (動) [寛] 前條ノ語ノ口語。

くつわ (名) [轡] [くつはみ、轡(くちはみ)ノ略] 十一「[illegible]口和、沖繩ニテ、くちがかみ、かなみガ、元ナル名ノ、おの[illegible]ノ意ニテ、かなみガ、元ナル名ノ、おかみ、くくみノ總稱トナレルナルベシ、轡ノ字ハ、手綱ナルヲ、くつわニ慣用スルナリ、禮記、曲禮正義ニ「轡、御ヶ馬索也」トアリ、倭名抄、十五[illegible]鞍馬具「轡、久豆和豆良」ト見ユ」 (一)[馬ノ口ニ附クル具] 手綱ヲツケテ、人、馬上ニテ執リテ、馬ヲ操縱スル用ノモノ、二箇ノ鐵輪ヲ、鐵條ニテ聯絡セシメ、鐵條ヲ、馬ノ口中ニ含マシム、コレヲ、くつばみ、又、くくみ、はみト云ヒ、(銜)左右ノ輪ヲ、くつわのかがみト云フ、(鑣)かがみノ製、古今、種種アレド、輪中ニ十字形ヲ作ルヲ、常ノモノトス。 [illegible]、[illegible]、[illegible]、宇鏡[illegible]、久豆和」同[illegible]、天治字鏡[illegible]、字馬乃口和」 (二)紋所ノ名、輪ノ中ニ、十字形ヲ圖スルモノ。

くつわ (名) [轡忘八] [異本洞房語園(享保、溫知叢書、一)ヒニ、豐臣太閤ノ馬ノ口取、原三郎左衞門ト云フ者、浪人シテ、京都ニ遊女町ヲ開ク、人人、原ヲ、異名ニ、轡ト云ヒシカバ、若キ侍衆、隱語ニ、轡ガ許ニ行カウト、言觸レテ、終ニ、遊女町ノ稱トナレリ、トアリ、諸說アレド、此說、然ルベシ、又、忘八、又、亡八ナド書ク事ハ、わんはノ條ヲ見ヨ] 遊女町、遊女屋ノ異名。 娼家[illegible]、近松作[illegible]ひらぎ屋ノ長トテ、卷レモナイおくつわ、太夫バカリガ五十人」我衣(天和、溫知叢書、十)「轡

女ハ、云云、諸人ヲ落穴ヘ入レ、一生ヲアヤマラセ、云云、是ヲ亡八ト云フ、云云」

〜くつわ-づら (名) 【馬銜】〔轡綱ノ轉、おもづらモ、おもづなナリ（せせらぎ、せせなぎ。つらぬき、つなぬき）〕 馬ノ手綱ノ古名。天治字鏡、九「羇、久豆和豆良」 倭名抄、十五ニ鞍馬具「羈韁、馬轡、久豆和都良」 左馬寮式「羈韁、紺細布以三一端一充三二疋二」

くつわ-の-かがみ (名) 【轡鏡】〔古製ナルハ、圓形ニシテ、小鏡ノ如クナリシナルベシ〕 轡ノ兩旁ノ輪。くつわノ條ノ(一)ヲ見ヨ。鑣

〜くつわ-むし (名) 【轡蟲】〔鳴ク聲、轡ノ鳴ルガ如シ〕 きりぎりすノ屬、翅、背ク、腹、黄ニシテ、前脚、長ク、疾ク走リ跳ネル、秋、鳴ク、がちゃがちゃト聞ユ、堅キ翅ヲ烈シク振ヒ、擦レ合フ聲ナリト云フ、人、籠ニ畜ヒテ、聲ヲ聞ク。聒聒兒 曾丹集「くつわむし、ユラユラ思ヘ、秋ノ野ノ、藪ノスミカハ、長キ宿カハ」 枕草子、九、百九段「箏篥ハ、イト喧シウ、秋ノ蟲ヲ言ハバ、くつはむしナドノ心地シテ、ウタテ ケヂカク聞カマホシカラズ」

〜くつ-わら (名) 【沓藁】 履ノ底ニ敷ク物。クツノシキ。字鏡、廿「屧、履内薦也、久豆和良」 倭名抄、十二「裝履具、屧、久都和良」

くて (名) 【湫】〔窪處ノ略轉カ（顏映ゆし、かはゆし）井手モ、堰處ナリ〕 低キ濕地ノ稱ト云フ。倭訓栞、くて「湫ノ字ヲ讀メリ、尾張ノ地名ニ、長湫アリ、美濃ニ、大久豆、細久豆アリ、集韻ニ、北人呼二水池一爲レ湫ト見エタリ、或ハ、ぬまト讀メリ、窪手ノ義ナルベシ」

ぐ-てい (名) 【愚弟】 他ニ對シ、己ガ弟ヲ云フ謙稱。

く-てう (名) 【口調】 クチブリ。言葉ニ言ヒマハス調子。語路。（詩、歌、文章、謠物、ナドニ）

く-でう-の-ケサ (名) 【九條袈裟】 袈裟ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

く-でふ (名) 【公帖】 禪宗ノ五山等ノ大寺ノ住職ナド、其位ニ任ゼラルル時、公方家ヨリ下サルル許狀。又、公文。貞丈雜記、九、書札「公帖ト云フハ、五山派、臨濟派ノ僧、官位ニ昇ル時、公方家ノ許狀也、首座以上ニ授ケラル、是又、室町家ヨリ始マル例ナリ」

く-でま (名) 【工手間】 工匠ノ、物ヲ作ル手間。又、其賃。テマチン。浮世床（文化、三馬）二編、上「工手間ガカカ、チャア、請負ダト、棟梁、出奔ダ」

く-てん (名) 【句點】 文章ノ中ニテ、句ノ切目ニシルス點。句ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

く-でん (名) 【口傳】 (一)クチヅタヘ。言葉ニテ、傳フルコト。口授。クチウツシ。（文字ニ記スニ對ス） 孔安國、書經序「濟南伏生、年過二九十一失二其本經一口以傳授」 皇侃、論語義疏、敍「口傳不レ同耳」 (二)技ノ奧義ナド、祕シテ、唯、言葉ニテ敎フルコト。著聞集、十五、宿執「白河院ノ御時、云云、納蘇利ヲ傳ヘケリ、手ニオキテハ、是ヲ殘サズ、口傳ハヒカヘタル由申テ、想講文ニ及ズ」

✣ぐでん-ぐでん (副) 〔くたくたノ條ヲ見ヨ〕 醉ヒッブレテ、萎エ伏スヤウニナレル狀ニ云フ語。「ぐでんぐでんニ醉フ」

く-と (副) 【突如】 〔すくすくと、すくと（すッくと、すぐと）ノ上略（湯坐、ゆゑ。眞沙子、まなご）急呼シテ、くッと、又、濁音ニ、ぐッとモ云フ、音ヲ轉ジテ、ぐいと、ぐいぐい、ぐんぐん〕 タダチニ。スグト。ツイト。盛衰記、三十五、粟津合戰事「駈ケ破リテハ出デ、喚キテハ入リ、五六度マデ戰ヒテ、くと拔ケテ出デタレバ、二百餘騎ハ討タレニケリ」「駈ケ破ッテ、くと拔ケテ見レバ」

く-ど (名) 【竈突】 〔漏處ノ意（漏くノ條ヲ見ヨ、構隔、壁。舁籠、駕籠）煙ノ漏レ出ヅル處ノ意ナルベシ〕 (一)竈ノ後ノ、ケムリダシ。竈ノ煙突。天治字鏡、十二「竈埃、竈尾也、久止」 集韻「竈埃、竈二之埃二」 箋注倭名抄、四、百六「竈、竈後穿也、久度」 竹取物語「竈ヲ三重ニシコメテ、云云、くどヲアケテ」 (二)今轉ジテ、直チニ、竈ノ稱。ヘッツヒ。（京都、仙臺）

く-ど (名) 【苦土】 白色ノ粉末、まぐねしうむノ、酸化シタルモノ、醫藥ニ用ヰル。酸化マグネシウム。

✣くど-い (形) 【煩縟】 〔くどしト云フベキ語ノ口語〕 くどくどし、くだくだしニ同ジ。松屋筆記、百六、廿八條「俗ニ、餘リニ、物ノ根底ヲ問フヲ、くどひト云フ、蜷川親元ノ東明寺百首ニ「ムツカシク、根問ヒくどひヤ、無用ナル、事ヲバ尋ネ、聞カデアルベシ」（くどいヲ、問ひニカケタリ、親元ハ永享年間ノ人ナリ、此口語モ古シ） 狂言記、法師物狂「くどい事ヲ云フテ、行カヌカ、出テ失セイ」

く-とう (名) 【句讀】 句ト、讀ト。句ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。童子ニ、書物ノ讀方ヲ敎フル人ヲ、句讀師ト云フ。韓愈、師說「彼童子之師、授二之書一而習二其句讀一者」

くとう-し (名) 【句讀師】 前條ヲ見ヨ。

くとう-てん (名) 【句讀點】 句點ト、讀點ト。（句ノ條ノ(一)ヲ見ヨ）

くどき (名) 【口說】 (一)クドクコト。(二)琵琶法師ノ、平家ヲ語ル曲節ノ名。語ル半ニ、特ニ、調子ヲ變ヘテ、所感ナドヲ語ルトコロ。幸若、謠曲、等ニモ移リテ云フ。(三)一種ノ小唄ノ名。松の葉（元祿）三、端歌、くどき「戀ノ初風、身ニシムホドゾ、ナツカシ、月ハ文月、誰ガ通ハシノ文月、七ノタヲ、星モ幾瀨ノ思川、鵲橋ヲカケウヨ」

〜く-どく (名) 【功德】 〔天台仁王經疏「施レ物名レ功、歸レ己曰レ德」〕 佛敎ノ語、善キ作業。善根。史記、秦始皇紀「誦二功德一」 宇津保物語、藤原君廿「佛ニ尋ル物ハ、イタヅラニナラズ、來世、未來ノくどくナリ」 推古紀、三十二年四月「諸僧尼、云云、悉赦而勿レ罪、是大功德也」 天武紀、上「臣、今日出家、爲二陛下一欲レ修二功德一」

くど-く く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 【口說】 〔くだくだ、くどくどノ語根ヲ活用セシム、苛苛、いらいら。連連、つらつら〕 (一)クドクドシク言フ。繰返シテ、說ク。複說 永久四年百首、寺「初メナキ、（無始ノ條ヲ見ヨ）罪ノツモリノ、悲シサヲ、叩頭ノ聲聲、くどきツルカナ」 讚岐典侍日記（堀河院女房）「念ジ入リテ、佛ヲ恨ミくどき申サルルサマ、イトタノモシ」 平治物語、一、光頼卿參內事「ノロノロシゲニ、憚ルトコロナク、口說きタマヘバ」 (二)迫リテ、切ニ說キツクル。又、女ヲ挑ム。吉野都女楠（正德、近松作）一「色カヘ、品カヘ、くどきシヲ、ツレナク、返事モ致サヌ間ニ」

くどく-え (名) 【功德衣】 〔五事ノ功德アレバ、名トスト云フ〕 袈裟ノ(一)ノ異名。

くどく-ち (名) 【功德池】 〔清冷、甘味、等、八功德アレバ、名トスト云フ〕 極樂淨土ニアリト云フ池ノ名。[illegible]門葉集（嘉元）十、釋敎「露ノ身ノ、消エナム後ハ、功德池ノ、蓮ノ内ヲ、家トコソセメ」

くどく-てん (名) 【功德天】 次條ノ語ノ略。沙石集、八、下、十六條「容貌端麗ナル女人、云云、答云、我ヲバ、功德天ト云、ソノ故ハ、至ル所ニ、吉祥、福德アリトイフ」

くどく-てんにョ (名) 【功德天女】 吉祥天女ノ異名。略シテ、功德天。

くどくど (副) 呶呶　ぐぢぐぢニ同ジ。狂言記、鬘貫山伏「何ヲくどくどトシテヰル、早ウ[illegible]」

くど-くど・し …シ・シケレ・シク・シク (形、二) 煩絮　くだくだしニ同ジ。

くどく-ふう (名) 九德風　江戸浮世繪師、勝川九德齋春英ノ書キ出シシ、一流ノ狂畫ノ名 (寛政、享和ノ頃)

くどく-ぶろ (名) 功德風呂　湯錢ヲ取ラズシテ、人ヲ入ルル風呂。接待風呂。[illegible]一千句(寛政、元和ニ[illegible])、くどく風呂ヨリ、アガリテ[illegible]モ入リヤハリ入リカハリ[illegible]ニ風呂ヲ焚ク」

クドン (名) 瞿曇　〔梵語、瞿答摩(Gautama)、釋迦牟尼ノ別姓ナリト云フ〕釋迦如來ヲ指シテ云フ稱。釋門初心ノ僧ヲ、瞿曇沙彌ト云フ。[illegible]

ぐ-どん (名) 愚鈍　愚ニシテ、智ノ鈍キコト。[illegible]

クドン-シャミ (名) 瞿曇沙彌　前前條ヲ見ヨ。

く-ない-しやう (名) 宮內省　ミヤノウチノツカサ。古ヘ、八省ノ一、宮中、大小ノ事務、及、調度、調物、等ノ事ヲ掌ル。今ノ省モ、略、同ジ。

くない-だいじん (名) 宮內大臣　宮內省ノ長官。宮相。

く-なう (名) 苦惱　クルシミ、ナヤムコト。苦痛。[illegible]

[illegible]三十八段「アナワビシ、[illegible]ヘ、夜中ニハ[illegible]」

くながひ (名) 婚　〔くなぎあひノ約(たたきあふ、たたかふ、たたかひ)或ハ、くなぐノ延ビタル、くながふノ名詞形(願ぐ、ねがふ、ねがひ。禱ぐ、ほがふ、ほがひ)〕クナグコト。マグハヒ。交媾　房事。交接。靈異記、上、第一縁「婚合(クナガヒ)」[illegible]

くな・ぐ ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 搖　〔くね(拗)ヲ活用セシム、拗、くなたぶれ。畝、うなふ(船、ふなばた)。綱、つなぐ。塞、ふたぐ〕(一)搖シテ、匿、相觸レシム。[illegible]鶺鴒ヲ、石くなぎ、石たたきト云フ。(尾ヲ搖シテ、石ヲタタクナリ) (二)犯ス。(臀ヲくながふノ意ナルベシ) 名義抄「婚、クナグ、マグ、ツルブ」[illegible]云フゾ、妻ヲバ人ニくながレテト云ハレタリケル、聞ク人、恥ヲ知ラズ、ウタテキ事ナリトゾ云ヒアヒケル」

くな-たぶれ (名) 頑狂　〔拗狂れノ轉(狂るノ條ヲ見ヨ)歟、うなで(溝手)。稻、いなむしろ〕クネクネシク、狂レタルコト。ネヂケ、惑ヘル者。頑狡　續紀、廿、天平寶字元年七月[illegible]

くなど-の-かみ (名) 岐神　〔くなどハ、來莫處ノ義、ふなどトモ云フ、モ、來莫處ノ義(或ハ、くト、ふト通ズ、くくむ、ふふむ)〕神代紀、上「伊奘諾尊、伊奘冊尊ニ追ハレタマヒテ「曰、自レ此莫レ過、即投二其杖一、是謂二岐神一」同卷「投二其杖一、曰、自レ此以還、雷不二敢來一、是謂二岐神一」道路ノ神。又、ふなどの神、チマタノ神、サヘノ神、道祖神。[illegible]

くに (名) 國　(一)天地。[illegible] (二)天ニ對スル、地、國土。[illegible] (三)皇御國。日本全國。[illegible] (四)皇國ノ統御、皇位、國家。[illegible] (五)地球上ニテ、大小ノ境ヲ成シ、他ト異ナル政府ノ下ニ、統ベ治メラルル土地ノ稱。邦國「高麗ノ國」「唐ノ國」「英吉利ノ國」

くに (名) 國邦　(一)大小、廣狹、ニ拘ハラズ、境ヲ立テテ、人ノ住ム地ノ稱。[illegible] (二)孝德天皇、日本全國ヲ區畫シタマヒテ、次第ニ、畿內、七道、ヲ立テラレ、又、其內ヲ區劃シテ、國司ヲシテ治メシメタマヒシ、其一地方ノ稱。分合、屢ナリシガ、嵯峨天皇ノ御世ニ、六十六國、二島(壹岐、對馬)ト定マリス、山城國、伊勢國、武藏國、陸奥國、近江國、丹波國、ナド云フ、是レナリ、明治ニ至リテ、陸奥國、出羽國ヲ分チテ、七國トナサレ、蝦夷島ヲ北海道ト建テ、十一國ニ分タレ、全國、畿內、八道、八十五國トナル。(三)轉ジテ、國衙、國府、ノ稱トナリ、又、國司ノ任、國司ノ政令ノ意トナル。[illegible] (四)國司ノ、都ヨリ、地方ニ赴任スルヲ、縣ノ任ト云ヒ、ゐなかわたらひナド云フヨリ、國ハ、地方、田舍、ノ意トナル。[illegible] (五)地方ヨリ、都ヘ出デテ居ル者ノ、其生地ヲ指シテ云フ語トナリ、又、故鄕ノ意トナル。鄕國　古事記、下(仁德)[illegible]

皇后ノ御長歌「吾ガ見ガ欲シ國ハ、葛城高宮、吾家ノアタリ」(御本郷ノ遠望) 萬葉集、十九「燕來ル、時ニナリヌト、雁ハ、本郷思ヒツツ、雲隠リ鳴ク」(二六)大名ナドノ、江戸ニ居テ、其領地ヲ稱スル語。封國「國表」國詞」國替」

くに (名) 訓 〔訓ノ轉、蘭、らに。錢、ぜに。緣、えに〕 くん(訓)ノ(二)ニ同ジ。ヨミ。音ニ對ス。訓讀。宇津保物語、藏開、中「一度ハくにニ、一度ハ音ニ讀マセタマヒテ」

ぐ-に (名) 五二 雙六ノ語、二ツノ賽目ニ、五ト、二ト、並ビ出デタルコト。ぐさいのめノ條ヲ見ヨ。玉藻前曦袂(寛延、浪岡橘平等)三「雙六、云云、重一、一六、五二、四三」

くに-あらそひ (名) 國爭 一國ノ政權ヲ握ラムト、爭ヒ合フコト。保元物語、一、軍評定事「主上、上皇ノ御國爭ひニ、源平、數ヲ盡シテ、兩方ニアテ、勝負ヲ決セムニ」平家物語、十一、先帝御入水事「源平ノ國あらそひ、今日ヲ限リトゾ見エタリケル」

くに-いへ (名) 國家 〔國家ノ文字讀ナルベシ、其條ヲ見ヨ〕 朝家ノ成立。仁德即位前紀「夫君二宗廟社稷一重事也、僕之不侫、不足二以稱一」顯宗即位前紀「天皇以二社稷一爲計、百姓爲心」

くに-いり (名) 國入 始メテ、我ガ領地ニ入リ向フコト。入部。義經記、四、義經都落事「十一月三日ニ都ヲ出デタマフ、義經ガ國入ノ初ナレバ、引キツクロヘトテ、尋常ニコソ出立タレケレ」(義經ニ宣旨アリテ、九州ヲ賜ヒシナリ)

くに-うど (名) 國人 〔くにびとノ音便、商人、あきうど〕 くにびとノ(一)ニ同ジ。其國ノ住人。太平記、三十八、和田楠箕浦軍事「當國ノ守護代、箕浦次郎左衞門、佐促ノ國人取合セテ、其勢僅ニ五百餘騎、云云、中白一揆ノ勢、三百餘騎ハ、國人ナレバ、案内ヲ知リテ、何時ノ間ニカ落失セケム、一騎モ殘リ留ラズ」

くに-うら (名) 國裏 〔國の絹ト、同意ノ語ナルカ、きたのものノ語原ヲ見ヨ〕 越後ニ產ズル麻布。夜着ノ裏ナドニ用キラル。

くに-おもて (名) 國表 〔おもて(表)ノ(四)ヲ見ヨ〕 我ガ鄕國ノ方面。國許。

くに-おもひ (名) 國思 〔孝ヲ、おやおもひト云フ、同趣〕 己ガ國ヲ、大切ニ思フコト。自國ノ安否ヲ、心ニカクルコト。愛國

くに-が (名) 陸 〔國處ノ義、國ナルトコロノ意ト云フ、海ヲうみがト云フ、同ジ、轉ジテ、くぬがトナリ(八尺瓊の曲玉、天の瓊矛)略シテ、くがトナル(國栖、くず、鍛冶、かぢ)〕 又、くぬが 專ラ、陸トモ云フ、其條ヲ見ヨ。景行紀、廿五年七月「北陸」(次次條ヲ見ヨ) 欽明紀、六年十一月「劬二勞陸海一」孝德紀、大化元年八月「開池水陸之利」

くに-がた (名) 國形 〔國ハ、地ナリ〕 國土ノ形勢。地形 地勢 景行紀、廿七年十二月「到二於熊襲國一因以伺二其消息及地形之險易一」出雲國造神賀詞「天穗日命ヲ、國體見ニ遣ハシシ時」(天孫御降臨ノ前ニ、下國ノ形勢ノ視察ナリ)

くにが-の-みち (名) 北陸道 〔前前條ヲ見ヨ、此語ハ、海邊之道(東海道)、山の道(東山道)ニ對シテ、海、山、陸、ト並べ稱シタルマデニテ、北陸道ノ文字ヲ定メラレタル後ノ訓語ナルベシ、サレバ、北の道ノ稱モアルナリ、くるがト轉ズルハ、ぬト、るトハ、舌音ニテ、相通ズルナリ、血の臭、角鹿、敦賀(越前ノ郡名)、群馬、くるま(上野國ノ郡名)。駿河、す

るが(うちよするノ條ヲ見ヨ)〕 北陸道ノ古稱。又、くぬがのみち。くるがのみち。キタノミチ。越ノ道。景行紀、廿五年七月「遣二武內宿禰一、令レ察二北陸及東方諸國之地形一」(左訓、クヌガノミチ) 崇神紀、十年九月「以二大彥命一遣二北陸一」崇峻紀、二年七月「遣二阿倍臣於二北陸道一」(左訓、クヌガ)

くに-がへ (名) 國替 武家時代、大名ノ領地ヲ、他處ニ替ヘラルルコト。移封

くに-がまへ (名) 國構 〔字彙「口、古文、國字」〕 漢字ノ國ノ字ノ周圍ニアル、口ノ稱、因、固、圍、園、ノ類。

くに-がら (名) 國柄 〔接尾語ノがら(柄)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 國ノ成立。國體

くに-がらう (名) 國家老 江戸時代、大名ノ家老ノ、國詰ナルモノ。(江戸家老ニ對ス) 治家記錄、寛永十九年四月十三日「奉行(家老)衆六人之內、二人者江戸供奉、(江戸家老)殘四人之內、二人ハ仙臺ニ相詰、(國家老)二人者、在鄕ニ可(ヲ)休息一候二(仙臺治記錄)

くに-くづし (名) 國崩 〔城ヲモ、國ヲモ、崩すべキ義、美人ノ、傾國、傾城、ナド、同意〕 大ナル石火矢。佛郞機、大砲、ノ類。大友興廢記、十八「先年、南蠻國ヨリ渡リタル、國崩ト云フ大石火矢、城中ニアリ」

く-にく-の-はかりごと (名) 苦肉之計 皮肉ナル手段。「反間苦肉之計ヲメグラス」

くに-ことば (名) 國言葉 (一)一國ノ人種ニ、固有スル言語、其人種ノ間ニ、通用スルモノ。國語。(二)一地方ノ人人ニノミ、行ハルル言語 トコロコトバ、ヰナカコトバ 鄕談、方言

くに-ざかひ (名) 國界 國境 國ト國トノ境界。狂言記、磁石「參ル程ニ、國境ヘ出タガ、コレハ、何トイフ國ヂャ」「國境マテ見送レ」

くに-ざむらひ (名) 國侍 一地方ニ住居スル武士。大名ノ家來ノ、其國ニ居ルモノ。(江戸定詰ナドニ對ス) 弦吉記 播磨ノ國侍ヲ引起シカドモ、遂ニ不レ叶シテ」

くに-す (名) 國栖 國巣 〔國主ノ、くにぬし、くにす、ト轉ジタルニテ(宮主、みやぬし、みやす。戸主、とぬし、とす。領く、うすはく。藥の神、くしの神)萬葉集、一八十二、吉野乃國トアルハ、吉野郡ナリ、其國ノ土着ノ地主ノ義ナラムト云フ、古事記、中(應神)七十二、吉野之國主等トアリ、神代ヨリノ地祇ノ裔ナリ、國栖トモ云フハ、くにすノ約ナリ(姓氏錄、諸蕃、山城國、國背宍人ハ、後紀、廿四、弘仁六年六月ニ、乙訓郡、國背鄕トアル地名ヲ、氏ニ負ヘルニテ、後ニ、久世トナレルニ同ジ)常陸國ノ國巣モ、土着ノ地主人種ノ義ナリ、是レヲ、土蜘蛛ト云フモ、土公ニテ、地主ノ事ナリ」上古、大和國、吉野郡、吉野川ノ川上ニ住メル土民ノ稱。又、國栖。又、國栖人ト云フ、後マデモ、此地ニ、國栖莊ノ名ヲ存セリ、此土民、神武天皇ノ御時ニ、始メテ聞エ、應神天皇ノ御代ニ來朝シ、其後、朝廷ノ儀式ノ時參リテ、歌笛ヲ奏スルヲ常トセリ、國栖の奏ト云フ、其條ヲ見ヨ。又、上古、常陸國ニモ、國巣ト云フ人種、住メリキ 神武即位前紀八「國巣部之子、此則吉野國巣部始祖也」(古事記ニ、國巣トアリ) 姓氏錄、中、七、和國諸別、地祇、國巣「神武天皇行二幸吉野一時、川上有二遊人一、云云、于時、問、答曰、石穗押別神子也、爾時詔賜二國栖名一」應神紀、十

九年十月、幸吉野[illegible]國栖人來朝之[illegible]、[illegible]
蛙、朝貝、遡ツ川、吉野ノくにす、イツシカモ、仕ヘゾ參ル、春ノ初ニ」常陸國風土記、茨城郡「昔在國巣、[illegible]」

くにたいみやう (名) 國大名 武家時代、一國、或ハ、一國以上ヲ領有スル諸侯。國持大名。太平記、三十一、「[illegible]合戰事 御内ノ長者、國大名、關カニ馬ニ控ヘタリ」

くにたまひ (名) 國魂 一國ヲ統べ治ムル中心。中石。太閤記、十七、「[illegible]アリテハ、天下ノ邪法ヲ正シタマハムコソ、國だまひノ役ナルベキ」

くにたみ (名) 國人 〔夏山雜談(寛保)三「國人ト云フ字ヲ、くにたみト讀ムコトハ、後嵯峨院ノ御諱ヲ、邦仁ト申奉リシ故ニ、コレヲ避ケタル也」トアリ、サレバ、鎌倉時代以後ノ語ナルベシ、くにびと、及、ひとごノ條ノ語ヲ見セヨ〕一國ノ人民。ヒトクサ。タミ。國民。孟子、梁惠王、下篇「國人(古訓)皆曰賢、然後察之」

〽くにつかみ (名) 國津神 〔國之神ノ義〕あまつかみノ條ヲ見ヨ。

くにづくし (名) 國盡 五畿、七道、ノ國國ノ名ヲ連ネテ、記シタルモノ、寺子屋ノ手本ナドニ云フ「[illegible] 國盡」

〽くにつこ (名) 國造 くにのみやつこノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くにつづき (名) 國續 國境ノ、接シテアルコト。

〽くにつつみ (名) 國津罪 〔國之罪ノ義〕あまつつみノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

〽くにつぶみ (名) 國史 風土記ノ類ナルベシト云フ。推古紀、廿八年十二月「是歲、皇太子、島大臣、共議之、錄天皇記、及國記二」

くにつまなび (名) 國學 國學ノ訓讀。

くにづめ (名) 國詰 江戸詰ノ條ヲ見ヨ。

〽くにつもの (名) 國物、土物 〔國之物ノ義、國トハ、地ヲ云フ〕其土地ニ産ズル物。國產。土産。土毛。神功紀、五十二年九月、百濟「[illegible]土物、毎貢不絕」雄略紀、十九年十月「[illegible]土毛、其土毛者、栗、菌、及年魚之類」[illegible]推古紀、廿六年八月「[illegible]使貢方物」

〽くにつやしろ (名) 國津社 〔國之社ノ義〕あまつやしろノ條ヲ見ヨ。

くにてがた (名) 國券 〔券ハ、證スル意〕江戸時代、大名ノ領地ノ方言、國訛ヲ稱シタル語、其地ノ人ナル證トシテ、勉メテ、變ヘシメザルコトトシタリ。

くにな (名) 國名 宮女、僧徒、ナドノ、和泉、伊勢、ナドト、諸國ノ名ヲ、呼名トスルモノ。女房官品(永祿)「上臈、及ビ、院、宮ニテ、國名ツクサハ、云云、[illegible]ハ、父ノ官ニ引カレハベルコトナルベシ、其内ニ、五位以上ノ諸大夫、及ビ、名家ノ[illegible]、云云ノ娘ナド、常ニ、國名ヲツキハベルナリ、陸奥、常陸、上野、上總、等ハ、[illegible]ルベキ名家ノ娘モ、ツキハベルナリ」海人藻芥(應永)中「禪侶者、古、多分、附二國名一、近代、一向、公名計也」

くになまり (名) 國訛 其地方ノ言語、發音ノナマリ。トチナマリ。ヰナカナマリ。博多小女郎波枕(享保、近松作)上「毛剃九右衞門、生レハ長崎、國訛」

〽くにのおほばらへ (名) 國大祓 おほばらひノ(二)ヲ見ヨ。

〽くにのおや (名) 國親 〔國ハ、國王ナリ(國民ノ意ニハアラズ)國ノ條ノ(四)ヲ見ヨ、國の母ト云フモ、同ジ〕(一)天子ノ御父ヲ申ス語。源、一、桐壺「源氏の君ヲ、右大辨ノ子ノヤウニシテ、高麗人ノ相人ニ見スニ、相人驚キテ、云云、くにのおやト成テ、帝王ノ、上ナキ位ニノボルベキ相、オハシマス人ノ、ソナタニテ(帝王ノ相ニナシテ)見レバ、亂レ憂フルコトヤアラム、云云、又其相、違フベシト云フ」〔源氏ノ君、終ニ、太上天皇ノ尊號ヲ得タマヘリ、天子ノ御父ヲ云フト云フ說、源氏物語玉の小櫛、五ニ、委シク云ヘリ〕(二)天子ノ御母ヲ申ス語、國の母。國母。宇津保物語、國讓、上五十一「藤壺ノ、くにのおやト成リタマフベキ御心ナレバニヤアラム、局ナドシテ賜ヒシニ、出デタマハデ、遣ハセタマヒシコソ、云云」紫式部日記、中宮彰子、皇子ヲ生ミタマフ「カク國の親ト、モテ騷ガレタマヒ、云云、大殿ゴモレル御アリサマ、常ヨリモアエカニ、若ク美シゲナリ」

くにのかぜ (名) 國風 〔國風ノ文字讀、家風ヲ、いへのかぜト讀ムニ同ジ〕國風 一國ノ氣風。風雅集、廿、賀「藤原ヤ、亂レシ國の、風ヲカヘテ、民ノ草葉モ、今靡クナリ」

〽くにのかみ (名) 國守 國守ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くにのきぬ (名) 國絹 貢調ノ絹。[illegible]抄、一、下張[illegible]、國絹、雅亮裝束抄、一「くにのきぬヲ、油單ニシタル」倭訓栞、くにつもの「くにのきぬハ、調ノ絹ヲ云ヘリ」

くにのだいがく (名) 國大學 國學(熟字、第一)ノ條ヲ見ヨ。

くにのたち (名) 國館 〔國司ヲ、くにト云フ、國(邦)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕國司ノ廳。土佐日記、初「土佐守[illegible]京[illegible]取リテ、住ムたちヨリ出デテ、船ニ乘ルベキ所ニワタル」同、十二月廿五日「守ノたちヨリ、呼ビニ、文持テ來レリ、呼バレテ行キテ」〔新任ノ守ナリ〕

〽くにのつかさ (名) 國司 國司ニ同ジ、其條ヲ見ヨ、竹取物語「國のつかさ、マウデトブラフニモ」

〽くにのはかせ (名) 國博士 諸國ノ國學ノ教授ノ職。職員令、凡、國博士、[illegible]、各一人」

くにのはな (名) 國華 (一)一國ノ映トシテ、外ニ誇ルベキモノ。晉書、洪範篇、五行傳「時則有二華孽一」註「華、當、[illegible]」國語、魯語「季文子曰、吾聞、以二德榮一爲二國華一」(二)文章ノ稱。國華ノ訓讀。八雲御抄、四、人部「文章、くにのはな」論語、公冶長篇「夫子之文章」註「章、明也」[illegible]延之、皇太子釋奠會詩「舒[illegible]國華、敷[illegible]」

〽くにのはは (名) 國母 〔くにのおやノ條ノ語原、及、(二)ヲ見ヨ〕國母ニ同ジ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。

〽くにのほ (名) 陝區 〔地の含ノ義、山山ニ含マレテアル地ノ意ト云フ、ほほむノ條ヲ見ヨ〕(一)四方、山山ニテ圍メル間ノ平地。クムシラ。古事記、中(應神)六十三「山背ノ宇治野ノ上ヨリ望ミタマフ大御[illegible]、知婆ノ、加豆怒ヲ見レバ、云云、久爾能富母見ユ」〔葛野ナリト云フ、山城國ノ、四面、山ナル平野ナリ〕(二)國ノまほらニ、發語ノまヲ冠ラセ、下ニ、無意ノ辭ノら、又ハ、ろヲツケ、又ハ、更ニ間ヲ添ヘテ、まほらま、まほらば、まほろばトモ云フ。(らノ條ヲ見ヨ)景行紀、十七年三月、長歌「大和ハ、國ノ磨保羅摩、疊ナヅク、青垣、山[illegible]」私記「奥區也」神武紀ニ、大和國ヲ、青山四周トアリ 古事記、中(景行)五十「長歌 久[illegible]呂婆」(同ジク、大和國ヲ云フ)萬葉集、十八 長歌「皇ノ、神ノ命ノ、聞シ食ス、久爾能麻保良ニ、山ヲシモ、多ニ多ミト、云云」(越中國ナリ、コレモ、山間ノ平野ナリ)(二)國のまほらハ、轉ジテ、唯、一望ノ平野ノコトニ云ヒ、又、轉ジテハ、廣ク、

國土ト云フ意ニ用キラル。 萬葉集、九ニ筑波山、「登臨ノ長歌」時トナク、雲居雨降ル、筑波嶺ヲ、淸ニ照フシテ、鬱悒シ、國之眞保良ヲ、委曲ニ、示シタマヘバ」、山跡ノ宰、ヒタマヘルヲ頌シテ、關東ノ平野ヲ望ミ得タルヲ云フナリ）同、五七長歌「地ナラバ、大君座ス、コノ照ラス、日月ノ下ハ、天雲ノ、向伏ス極ミ、云云、聞シ食ス、久爾能麻保良ゾ」

〜くにのまほら (名) 陝區 前條ヲ見ヨ。

〜くにのまほらま (名) 陝區 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜くにのまほろば (名) 陝區 くにのほノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

〜くにのみおともち (名) 國宰 みおともちノ條ヲ見ヨ。

〜くにのみやつこ (名) 國造 〔諸國の御臣ノ義、地方ノ官人ノ意、推古紀、十二年、憲法第十二條「國造、勿レ斂ニ百姓ニ」みやつこノ條ヲ見ヨ、造ノ意モ、ソコニ云ヘリ〕 (一)廣ク云ヘバ、上代ノ世襲ノ地方官、君、別、國造、縣主、村主、稻置、等ノ總稱。國造ヲ以テ總稱スルハ、支那ニテ、公侯伯子男ヲ、(其內ノ侯ヲ取リテ)諸侯ト云フガ如クナルベシ、(玉勝間、六)伴 造、國 造、ト併稱ス、伴造ハ、京 官ナリ、國造ハ、外官ナリ。 孝德卽位前紀「百官、臣、連、國造、伴造、百八十部、羅列匝拜」(二)狹ク云ヘバ、地方官ノ中ノ一、其治ムル區域ハ、大ナルハ、後ノ一箇國ホドナルアリ、小ナルハ一郡ナルアリ。略シテ、くにつことモ云ヘリ。 古事記、中(成務)「五十定-賜大國、小國之國造、亦定-賜國國之堺、及、大縣、小縣之縣主-也」 成務紀、五年九月「國郡立造長、縣邑置稻置」 當時、國造ノ數、百四十四アリキ、(國造本紀)神武卽位前紀、宛授ニ國造一 同十二段 隆以國ニ後國造一

〜くにのみやつこ

古事記、上卅「出雲國造、遠江國造、上菟上國造(上總國、海上郡)、馬來田國造(同國、望陀郡)」 (三)國造ハ、祭、政、ヲ兼掌セシガ、孝德天皇ノ朝ニ、國郡ノ制ヲ立テラルルニ及ビテ、國造ハ、多クハ、郡ノ大領トナサレテ、專ラ、政務ニ從ヒ、別レテ、祭祀ヲ掌ルヲ、國造ト稱シタリ、出雲國造(大社ノ神官)、紀伊國造(日前宮神官)、阿蘇國造(肥後ノ阿蘇神社神官)ナド、後マデ存セリ。 續紀、二、大寶二年二月「爲レ班ニ大幣ニ、馳レ驛、追ニ諸國國造等ニ入レ京」 類聚三代格、七、延曆十七年三月、太政官符「昔者、國造、郡領、職員有レ別、云云、慶雲三年以來、令ニ國造帶ニ郡領ニ、寄ニ言神事ニ、動致ニ公務ニ云云、宜ト改ニ舊例ニ、國造、郡領、分レ職任サ之」

〜くにはら (名) 國原 國ヲ、其廣キニ就キテ云フ語。 萬葉集、一七長歌「國原ハ、煙立チコメ、海原ハ、鷗立チタツ」

〜くにひき (名) 國引 出雲國風土記、意宇郡ノ條ニ、神代ニ、水臣津野命(素戔嗚尊四世ノ孫)新羅ノ三崎ノ餘レル地ヲ、綱ニ打チカケテ、國來、國來ト、出雲國ヘ引キツケタマヒシト云フコトアルヲ言フ語ナリ。委シクハ、風土記ヲ見ルベシ。

くにびと (名) 國人 〔此語、くにたみト讀ムヲ例トス、其語原ヲ見ヨ〕 (一)〔其土地、其地方ニ住ム人。くにうど。住人。 神代紀、上十「紀伊國熊野之有馬村、土俗祭ニ此神之魂ニ」(丹鶴本ニ、土俗ニ「クニヒト」ト訓ズ) (二)廣ク、國民。人民。 夫木抄、廿「トミ山ノ、蔭マサリユク、君ガ代ニ、會ヘル國人、タノモシキカナ」

く-にふ (名) 口入 クチイレ。トリツギ。紹介。 明月記、寬喜二年七月十六日「右大臣殿、此事引導口入、可レ進ニ名簿ニ歟」

くにぶみ (名) 國文 〔くにハ、國司ナ

くにぶみ

リ、くに(國)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 國司ヨリ、貢物ニ添ヘテ奉ル文書。 新六帖、五「春ハマヅ、御調ソナフル、國ぶみヲ、サシテ幾代モ、君ノミゾ見ム」

くにぶり (名) 國風 (一)國ノ風俗。クニノカゼ。 言塵集「アトサキニ、同ジ宿リニ、行キアヒテ、語ルニコソハ、國ぶりモ聞ケ」 (二)諸國ノ風俗歌。

〜くにまぎ (名) 覓國 〔まぐ(覓)ノ條ヲ見ヨ〕 國土ヲ、求メ行クコト。 神代紀、下五「自ニ頓丘ニ覓レ國行去」(覓國、此云ニ矩貮磨儀ニ) 萬葉集、廿五長歌「山河ヲ、磐根サクミテ、踏ミトホリ、久爾麻藝シツツ、チハヤブル、首帥ヲ征平ケ、服從ハヌ、人ヲモ和シ」(共ニ、天孫ノ、日向ニ天降リマシシ時ノコト)

くにまつり (名) 國祭 〔くにトハ、國司ナリ、くに(國)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 賀茂祭ノ、山城國司ノ行フモノ。 江家次第、六、賀茂祭「警固「雖ニ祭停止年ハ猶有ニ警固ハ依レ有ニ國祭ニ也」

〜くにみ (名) 國見 高キヨリ、國ノ形勢ヲ、望ミ見ルコト。眺望。 萬葉集、一九長歌「高殿ヲ、高知リマシテ、登リタチ、國見ヲスレバ、タタナハル、靑垣山ノ」 同、三三八長歌「國見スル、筑波ノ山ヲ」 同、十卅「雨間明ケテ、國見モセムヲ」

く-にん (名) 公人 〔公方、卽チ、幕府ノ吏ノ意カ〕 鎌倉幕府ノ政所、問注所、ノ寄人ノ稱。 室町幕府ノ政所ニモアリキ。 太田康有記、建治三年九月四日「以ニ安富民部三郞入道、島田七郞、云云ハ(注、政所公人)注ニ入引付衆ニ了」 武家名目抄、職名、八、下「按、ココニ公人ト云ヘルハ、寄人ノ事ナリ」此餘ヲ、政所公人トモ云ヘルハ、猶、政所衆ト云フガ如シ」 太田康有記、同年八月廿九日「問注所公人不足、先日所ニ擧申ニ之富來十郞光行、山名彌太郞行佐、可レ召ニ加寄人ニ」 蜷川親元日記、寬正六年三月五日「政所公人新加(注、右衞門次(忌)ニ相京職抄「被官人、公人ハ、太政官ノ史生、官 掌ニ准

ズベキモノ歟」(古事類苑)

く-にん (名) 公人 〔武家名目抄、職名、八、下「政所下部、云云、足利殿ノ時、コレヲ公人トモ稱セシハ、其身、卑賤ナガラ、公方ノ祿ヲ食スル者ナレバ、然呼ビテ、私人ニ分チシナリ」案ズルニ、公役ニ出デシ者、卽チ、公役人ノ意ニハアラヌカ、ざふしき(雜色)、てうじゃくにん(朝夕人)ノ條ヲ併セ見ヨ〕 室町幕府ノ時、政所ノ下部ノ、雜事、奔走、ニ使ハル者。 貞丈雜記、四、役名「公人ハ、くにんト讀ム、云云、政所ニテ、小間使スル役人也」 年中恒例記、五月四日「菖、菖蒲、御殿ニ葺カルル、檜皮師ノ役也、公人相添、下行在レ之」 伊勢守貞忠亭御成記「公人、御厩者、御輿舁、御牛飼、車副、舍人、河原者以下、樣被レ遣」

くにん-てうじゃくにん (名) 公人朝夕人 〔公人ノ朝夕人ナリ、各條ヲ見ヨ、此者、初ハ、種種ノ職務アリシニ、其務メ、別レテ、中間、小人、其外ニ移リテ、尿筒ヲ持ツノミトナリテ、唯、其名稱ヲ存シタルナリ〕 德川幕府ノ賤職ノ稱。將軍、束帶シテ出行ノ時、尿筒ヲ持チテ從フ者ナリ、目附ノ支配ニ屬シタリ。 瑠田問答、公人朝夕人「此動向ハ、御上洛ノ節ナド、御供被ニ仰付ハ、御參內ノ節、御束帶ニテ、御小用難レ被レ遊、其小用筒ヲ持ツ役目也」(注、錫ノ筒ナリ) 明良帶錄(文化)公人朝夕人「君邊ニ侍シテ、御裝束ノ節、御儀ノ跡ニ、御筒ヲ持ツ也、便竹ト云フ、君、御用道具ノ第一ナリ、俗ニ、裝束筒ト云フ」

くにん-ぶぎゃう (名) 公人奉行 〔前前條ヲ見ヨ、武家名目抄、職名、十三「政所問注所ノ寄人ハサラナリ、在京セル奉公人ノ事ニサヘ與ルヲモテ、ヤガテ、公人奉行ト稱セルナリ」〕 室町幕府ニテ、

年行人ノ連比ヲ掌ル職名。[illegible]代ニ[illegible]月[illegible]日[illegible]、[illegible]人[illegible]中[illegible]月[illegible]日、[illegible]八六、[illegible]八六、[illegible]職名、十三「諸奉行ニハ、公人奉行ヲ上首トス、云云、足利殿ノ時ニ至リテ、奉行人ノ内ヨリ、更ニ、公人奉行ノ職ヲ置カルル事トハナリヌ」

くに-めつけ (名) 國目付 德川時代、大名ノ幼少ニテ、江戸屋敷ニテ家督シ、未ダ領入府セザル時ナドニ、幕府ヨリ、役人ヲ其領地ニ遣ハシ、滯在セシメテ、國政ヲ監視セシメシモノ。[illegible]月廿日[illegible]、加賀、仙臺八半年、桑名八百日、川中島八明年[illegible]マデニ、[illegible]ルヘシト、[illegible]サル

〜くに-も-せ-ま (副) 國狹 (せハ、せし(狹)ノ語根) 國モ、狹クナルバカリニ。諸國ニ、普ク播リテ。萬葉集、十八、[illegible]長歌「[illegible]、[illegible]サレバ、[illegible]イツツ[illegible]錦抄、四、七夕ノ歌「くにもせま、常ニ徒名ハ、立ツメレト、[illegible]

くに-もち (名) 國持 室町時代、大名ノ、一國以上ヲ領スル者ノ稱、國持衆ト云ヒ、江戸時代ニ至リテ、國主トモ云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]日記[illegible]紙、三職ハシメトシテ、諸大名、其外、國持タル方ニ[illegible]大人道、云云[illegible]

くにもち-しゅう (名) 國持衆 前條ヲ見ヨ。

くに-もと (名) 國許 本國ノ地。クニモト、故鄕、鄕里。[illegible]千石[illegible]テ[illegible]捨テウト云フノニ、泣ユルハ、國本ニ殘シ置イタル、メコ[illegible]

くに-もの (名) 國者 其國ノ者。地方ノ人。キナカモノ。

ぐにゃ-ぐにゃ (副) 柔軟 (ぐたぐたガ、ぐなぐなト轉ジ、又、ぐにゃぐにゃト轉ジタルナリ、[illegible]、わなわな。端、はな。空、むだノ轉ト、同ジ、ぐにゃり、ぐんにゃりトモナル) 萎エテ、直立シガタキ狀ニ云フ語。グニャリ。グンニャリ。

ぐにゃ-り (副) 柔軟 前條ヲ見ヨ。

くに-わけ (名) 國別 國名ニ因リテ、區別スルコト。

〜くに-を-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 國食 國ヲシロシメス 國ヲ治ム。[illegible]記、上、第三段「[illegible]余謂語田宮食」國訓釋「久爾乎主」同、上、第[illegible]「[illegible]城宮金刺宮食」國天皇、訓釋「久爾乎師ス」

〜くぬ-え-かう (名) 薰衣香 (薰ノ字ノ音、香内ニテ、くぬナリ、衣ヲ薰ずる香ノ義、くのえハ、音轉ナリ、野、の) 又、くのえかう。沈香、丁子、麝香、ナド、種種ノ香料ニテ製セル煉香ノ名。衣服ニ香ヲトメシムル用ノモノト云フ、かけがうトモシタルナルベシ。源、十七、繪合「[illegible]御藥物ドモ、くぬえかう[illegible]花物語、八、初花「くのえかうナ[illegible]ビテ、云ム、此薰ニヤト」[illegible]抄、四「沈香、丁[illegible]香、麝香、云云、已上香、薰衣香用之」

〜くぬ-が (名) 陸 くにがノ條ヲ見ヨ。

〜くぬが-の-みち (名) 北陸道 くにがのみちヲ見ヨ。

〜くぬ-ぎ (名) 櫟 (東雅、十六、櫟木「景行天皇、其地ヲ、御木ノ國ト名ヅケタマヒシニ因リテ、其樹ヲ、くぬきト云フ、國木ト云フガ如シ、國造陸伊府ニテハ、くにぎト云フトゾ」) くのぎ。樹ノ名、高キハ、二三丈ニ及ブ、樹、葉、甚ダ、栗ニ似テ、葉ノ形、細長ク、邊ニ刺アリ、雌く、ぬぎハ、葉ノ形、多ク、ユガミ、或ハ、葉ノ末、廣シ、雄くぬぎハ、形、正シクシテ、栗ノ葉ニ混ジ易シ、共ニ、冬、枯レテモ落チズシテ、春、新葉ヲ生ズ、夏ノ初、葉ノ間ニ花ヲ生ズ、栗ノ穗ニ似タリ、雌ハ、枝ノ上ニ實ヲ結ビ、秋、熟ス、どんぐりト云フ、(其條ヲ見ヨ)材堅キガ故ニ、薪トシ、又、さくらずみトス。(其條ヲ見ヨ) 櫟 [illegible]行紀、十八年七月「到筑紫後國御木[illegible]樹長、九百七十丈、[illegible]樹者、歷木也、大皇曰[illegible]木也、故、是國宜[illegible]御木國[illegible]萬葉集、十[illegible]渡會ノ、大河ノ邊ノ、若歷木[illegible]字鏡[illegible]櫟、久奴木」

〜くぬち (名) 國中 國内 (くにのうちノ約、腹のうち、はらぬち、屋のうち、やぬち) 國ノ中。コクチュウ。コクナイ。古事記、下、仁德[illegible]詔之、於國中烟不發、國皆貧窮、故、自今至三年、悉除人民之課役」萬葉集、五[illegible]悔シカモ、カク知ラマセバ、アヲニヨシ、奈良ノ久奴知(都ノ内)盡、見セマシモノヲ」(亡妻ヲ悲シメル歌) 同、十七[illegible]長歌「越ノ中、久奴知コトゴト、山ハシモ、繁ニアレドモ」(越中國)

くね (名) 竹籬 (次條ノ語ノ下略) (駿河、甲斐、安房、越後) 陸中邊ニテハ、屋敷境ノ列樹ヲ、いぐねト云ヒ、居久根ナド、書ク。江[illegible]記、瓜[illegible]人「腹モ立ツ、くねヲモ引キ拔イテヤラウ」

くね-がき (名) 竹籬 (くねらセタル籬、卽チ、竹ノをりかけ垣ガ、元ナル名ナラム、くべがき、くべト云フモ、音通ナルベシ) 又、くべ。くべがき。略シテ、くね。竹籬、生籬、ノ一名 [illegible]語、五「御庭ナルくね垣ノ隔テニ沿ヒテ、伺ヒタルニ」(大日本國語辭典)

〜くね-くね・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 拗戾 心、甚ダクネリタリ。佞ケタリ。ヒスカシ。源、七、紅葉賀[illegible]くねくねしう恨ムル人ノ心」同、四十三、竹川「事ニ隔レテ、ヤスカラズ、くね、くねしき事、出來ナトシテ、オノヅカラ、御中モ隔タルベカメリ」

く-ねつ (名) 苦熱 暑熱ニ、苦シムコト。クルシキアツサ [illegible]苦熱念[illegible]無時」

クネンボ (名) 九年母 (印度語、Kunneb[illegible] 柑橘ノ略、松村任三說) 此果ハ、天正年中渡來ノモノナリ、沖繩ニテハ、くにぶ、くぬぶト云フ) 樹ノ名、橘ニ同ジクシテ、刺、少ナシ、葉、長クシテ、淺ク粗キ刻ミアリ、初夏ニ、香氣アル白花ヲ開ク、實ノ形、大キサ、柚ノ如ク、皮ノ厚サモ、同ジ、肌、細カニシテ、熟スルコト遲ク、春ノ初ニ、皮ト共ニ食フ、香氣アリテ、味、甘酸ナリ。香橙 治平金[illegible]村[illegible]「天正十一年、京都ヨリ、九年母ヲ、[illegible]松ヘ[illegible]上ス、其頃、南國ヨリ渡ル[illegible]、北條氏直方ヘ[illegible]

くねり-みち (名) 紆路 紆曲リタル路。

くね・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 拗 (倭訓栞ニ、繰練るノ義ナルベシトアリ、退く、志ぞく。わたりまし、わたまし」) (一)〔クネクネシクス。ネヂケ、怒ル。スネル。名義抄「憤、イカル、イキドホル、クンネル」源、四十九、東屋「母ナル者モ、コレヲ僻人ト思ヒワケタル事ト、くねり言フ事、侍リテ」盛衰記、廿二、入道申[illegible]事、[illegible]入道[illegible]事ヲ、源氏ヲ引キ思召シテ、[illegible]マセタマフト覺エ候ト、くねり申ス」[illegible]三、上、第一條「老イヒガミテ、くねり腹立テ、用ヰズ候」 (二)〔恨ミ、カコツ。[illegible]ヲ云フ。古今集、序「男山ノ昔ヲ思ヒ出デ、女郎花ノ一時ヲくねるニモ、歌ヲ言

ヒテゾナグサメケル」遠鏡「男ハ、男盛リデアッタ昔ノ事ヲ思出シ、女ハ、若盛リノ、早ウ過ギタ事ヲ、愚痴ニ、クヨクヨト思フヤウナ時モ、ミナ、歌ヲ詠ンデ、サ、心ヲハラシタコトヂャワイ」(古今集、十九、誹諧秋ノ野ニ、ナマメキ立テル、女郎花、アナカシカマシ、花モ、時ニ) 狭衣、三、上「大殿ノミゾ、更ニ、イト見苦シキ事ニ思シテ、殊ニ口入レタマハデ、夜、晝、言ヒくねらレタマフ」沙石集、九、上、第五條「妻、恨ミくねり、打泣キナンドシテ」運歩色葉集 恨、クネル」(三)折レ、マガル。ウネル。ウネクレル。紆曲「ウネリくねる」

くの-えかう (名) 薫衣香 くぬえかうノ條ヲ見ヨ。

くの-ぎ (名) 椚櫟 くぬぎノ轉。

ぐの-め (名) 五目 (一)賽目ニ、五ノ出デタルコト。さいのめノ條ヲ見ヨ。(二)紋所ノ名、四隅ト、中央トニ、圏點ヲ圖シタルモノ。卽チ、賽ノ目ニ、五ノ盛ラレタル象ナリ。(三)朝鮮製ノ陶器ニ、五點ノ燒痕アルモノ。

ぐのめ-ななこ (名) 五目魚子 彫金ノ魚子刻ヲ、五目ノ形ニ作リタルモノ。

くは (名) 鍬 〔くハ、崩ゆ(くやす)ノ語根ナラムカ、はハ、刃ノ意〕 土石ヲ、掘リ發ス具、頭ハ鐵製ニテ、扁ク、内ニ曲リテ、長キ柄ヲ添フ。鑁 字鏡 十四「鑁、久波」(倭名抄、同ジ) 宇津保物語、藤原君 八廿「殿ノ人、上下、スキ、くはヲ取リテ、畑ヲ作ル」

くは (名) 桑 〔蠶葉ノ轉カト云フ(黄金、くがね)くはの木ト云フガ、成語ナルベシ〕 木ノ名、諸國ニ多ク植ヱテ、葉ニテ蠶ヲ養フ、春、葉ニオクレテ、花ヲ生ズ、穗ヲナシテ、楮ノ穗ニ似タリ、小サキ實、簇リ生ジテ、穗ヲナス、いちごノ如クニシテ、長シ、初、青ク、後、赤ク、熟スレバ、黑ク、味、甘シ、くはいちごト云フ。(椹) 葉ノ形、圓ク尖リテ、刻ミアルヲ、眞桑、圓桑(白桑)ト云フ、厚クシテ、汁多ク、蠶ヲ養フニ好シ。又、葉ニ、岐アリテ薄キヲ、山桑、薊桑(鷄桑)ト云フ、此品、藥用トモナス。材モ亦、堅ク、良シ、皮ニテ、紙ヲモ製スベシ。神代紀、上 十「稚産靈、此神頭上、生蠶與桑」天治字鏡、七 五「桑、久波乃木」倭名抄、廿 六 木類「桑、久波 說文「桑、蠶所食葉木也」」

くは (感) 〔是者ノ轉、此奴、くやつ。何ガシ、くれガシ〕 コハ。コレハ。コレハ。ソリャ。サア。神樂歌、明星「アカボシハ、明星ハ、久波ヤ、ココナリヤ」(夜ノ間ト思ヒ居タルニ、明ケタリト驚ケルナリ) 狭衣、四、中 四十「くはヤ、イタウ莫憎ミソ」宇治拾遺、一、十六條「今、來ナムト言ヘバ、くは此處ナリ、地藏ノオハシマス處ハ、ト言ヘバ」同、十四、第六條「袖ヲヒカヘテ、くはコレゾコレゾトテ、引出デタリケレバ」

くは-いちご (名) 桑苺 桑ノ實ノ名、前條ヲ見ヨ。椹

くばい-ゐん (名) 驅黴院 〔黴毒ヲ驅リノゾク〕 黴毒ノ病院、賣淫婦ナド、入ル。

くばう (名) 公方 (一)〔オホヤケガタ。オホヤケザマ。公家。公儀。朝家。官邊〕 貞信公記、延長九年三月廿五日「公方勘文、合四枚、合ニ公忠朝臣出陣ニ申ニ」海人藻芥(應永)上「宮ノ息ヲバ、多分、宮ノ僧正ナド謂フコトアリ、是レハ只、含羅ノ體也、於ニ公方ハ、更不レ可レ稱事也」(南北朝時代ノ初ノ國太歷ニ、公方樣トアルハ、おほやけ方ノ意トナリテ、重言ニ云ヘルナリ) (二)鎌倉、室町時代ニ、幕府ヲモ、公方ト稱セリ、是レハ、唯、下ヨリ、幕府ヲ、官邊ノ意ニ云ヒシナリ、公儀(朝家)ヲ、幕府ノ稱トセシト、同ジ。謠曲、鉢の木、最明寺時頼、佐野源左衞門ニ「自然、鎌倉ヘ御上リアラバ、御尋ネアレ、云云、公方ノ緣ニ成リ申サム」太平記、十、鹽飽入道自害事、嫡子忠顯ニ「御邊ハ、未ダ、私ノ督識ニテ、公方ノ御恩ヲモ蒙ラネバ、縱令、一所ニテ、今、命ヲ棄テズトモ、云云、出家、遁世ノ身トモナリ」(北條高時滅亡ノ時ナリ) 同、三十五、京勢重南方發向事「大名三十餘人、云云、公方ノ催促ヲモ相待タズ、我レ先キニト、天王寺ヘゾ向ヒケル」(足利義詮ノ時ナリ) (三)足利義滿以後ハ、專ラ、征夷大將軍ノ稱トナル。富士御覽記(永享)「公方樣、富士御覽ニ」(將軍義教) 康富記、寶德元年三月、「自ニ管領ニ以ニ使節ニ可レ被ニ尋究ニ之由、被レ申ニ入傳奏ニ又、被レ申ニ公方ニ」同、二年七月、「公方樣御直衣也、云云」(將軍義政) 增補、下學集(寛文)上、人倫門「大樹將軍、云ニ公方ニ也」合類節用集(元祿)人倫 公方家、鹿苑院義滿公、准ニ攝家ニ之後、斥ニ將軍家ニ云レ爾」 鹽尻(享保)六十四「足利義滿公、帝家ノ御准子トナラレシ故、公方家ト稱セシ、云云」

くは-がた (名) 鍬形 〔一角ノ形、鍬ヲ倒サマニ立テタルガ如シ、勢ヲ加ヘニ寄セテ付クルナリト云フ、蝦夷ハ、鍬形ノ如キモノヲ、鍬先ト稱シテ、祈禱ニ用キルト云フ〕 兜ノ目庇ノ上ニ、雙ノ角ノ如ク立ツルモノ、其端、外ヘ反ル、中間ニ、龍頭ナドノ立物ヲ立ツ。參考太平記(北條家南都本)三十二、山名父子背ニ將氏ニ事「長山、洗革ノ鎧ノ、マダ巳刻ナルヲ著テ、徑リ三尺許ナル、大日ノ丸ノ打タル、鍬形ノ兜ノ緒ヲシメ、」

くはく (名) 琥珀 琥珀ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くばく (名) 瞿麥 ナデシコ。

くは-こ (名) 桑子 〔桑ノ葉ヲ食ヒテ育ツ意、子ハ、稻ご、蒲穗ご、ナドト、同趣ノ語カ、或ハ、蠶ノ義カ〕 蠶ニ同ジ。萬葉集、十二 廿「ナカナカニ、人トアラズハ、(アラムヨリハ)桑子ニモ、成ラマシモノヲ、玉ノ緒バカリ」天治字鏡、八 四廿「小學篇字ニ、虫偏ニ紫ノ字ニ、久波古」新六帖、五「駿河ナル、富士ノくはごノ、新綿ハ、高嶺ノ雪ノ、色ニ似ルラシ」

くは-こぶ (名) 桑瘤 〔木ニ生ジテ、瘤ノ如シ〕 桑ノ樹ニ生ズル、さるのこしかけ。

くは-さき (名) 鍬先 蝦夷ノ持チ傳フル、兜ノ鍬形ノ如キモノ、病氣、災難、ヲ祈禱スレバ、奇特アリト云フ。(東遊記、後篇、五)

くは-ざけ (名) 桑酒 桑ノ實ニテ釀シタル酒、味、略、味醂ニ似テ、芳烈ナリ、丹波ノ船井郡、八木町ノ產、名アリ。寬政武鑑「細川越中守齋茲時獻上(正月)桑酒」

くは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 微妙 〔くすはしノ中略ナラム(奇し、くし。多ま、ふさ子)假名遣ハ、くはしめノ條ヲ見ヨ〕 スグレテ、美シ。妙ナリ。「名くはし」花くはし」香くはし」くはし妹」

くは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 委 〔前條ノ語ノ轉〕 (一)事、細カナリ。ツブサナリ。ツマビラカナリ。精細 委曲 名義抄、委、子細、クハシ」白氏文集、十二、鴻人苦「爲レ君委 曲言」「文義、くはし」調べ、くはし」(二)事ノ意義ヲ辨ヘテ、明カナリ。精 名義抄「精、クハシ」「學ニくはし」藝ニくはし」

くは-した (名) 鍬下 〔鍬ニテ掘起ス間ノ意ナルベシ〕 荒地ヲ開墾シテ、全クノ田トスル期間。其間、地目ヲ變換セズ、納租ノ徵收ヲ猶豫スルコト數年ナルヲ、鍬下年期ト云フ。

くはした-ねんき (名) 鍬下年期 前條ヲ見ヨ。

見ヨ。

くはしほこちたるのくに（名）細戈千足國〔くはしハ、美ムル語、くはし（微妙）ノ條ヲ見ヨ。上代ハ、戈ヲ武器トシテ、道ヲ行ケリ、くはしほこハ、道ノ枕詞（玉梓の道、同ジ）其道ヲ、千ニ移シテ、千足ニカカルナリト云フ、千足トハ、飽カヌ事ナク足ル義ト云フ、百千足トモ云ヘリ〕日本國ノ美稱。神武紀[illegible]

くはしめ（名）麗女〔くはし（微妙）ノ條ヲ見ヨ〕ウルハシキ女。古事記[illegible]

くはす（他動、下二）食〔食ふノ未然形ノくはニ、使役ノ助動詞ノすノ附キタルナリ、成語ト見ル、食ふノ、くらはするト同ジ〕（一）飲食セシム。クラハス。枕草子、五、五十段[illegible]（二）銜ミ、持タシム。[illegible]（三）受ケシム。アザムク。（くはせ物）「一杯くはす」[illegible]

くはす（他動、下二）交〔かふ（交）ノ使役ノ、かはするノ轉、かはす、まじふ〕交シ合フ。[illegible]

くはずいも（名）不食芋　いしいもニ同ジ。

くはすき（名）鍬鋤　鍬鋤ノ義カ、一草取ノ具、鍬ト云フニ同ジカルベシ。字鏡[illegible]

くはずぎらひ（名）不食嫌　物事ノ、實ヲ味ハズシテ、タダ、嫌フコト。

くはせもの（名）食物〔くはすハ、騙すナリ、其條ノ（四）ヲ見ヨ、己レガ利トスル物ヲ、食ひ物ト云フヨリ、他ニ不利ナル物ヲ、食はせ物ト云フ〕ダマシ物。ニセモノ。贋物

✣くはせる（動）食　くはす（食）ノ口語。

くはぞめ（名）桑染〔桑ノ材ノ色、淡黄ナリ〕染色ノ名、黄ノ、淡キモノ。好色一代男（天和、西鶴）五「桑染ノ木綿足袋」

くはた（名）桑田〔桑田ノ訓讀ナルベシ〕クハバタケ　クハバラ　夫木抄、廿三「海原ノ、三タビくはたニ、ナルヲ見シ、人ニモマサル、[illegible]」

くはだつ（他動、下二）企〔足趾立つノ中略（覗、くはだつ、かねらふ。かしおみつく、かしづく）馬ノ後脚ノ蹄ヲ、くはゆぎト云フモ、足趾ノ約轉ナルベシ〕（一）踵ヲ立ツ。踵ヲ擧グ。ツマダツル。セノビスル。禮記[illegible]

[illegible]心方、廿七五三十「男夫勿レ呟ニ井中ハ、今古大忌」（二）[illegible]

九、東屋五十「カシコク思ヒくはだてラレケレド、モハラ本意ナシ」（是レハ、鍬立つニテ、土木ノ鍬初ノ意ノ語ナリト云フ説アレド、イカガ。）

くはたて（名）企　クハダツルコト。思ヒ立ツコト。モクロミ。企圖[illegible]中、第六、十七條「孟永ガ身ヲ賣シ志、郭巨ガ子ヲ埋ムくはだて、トリドリ也」

✣くはだてる（動）企　前前條ノ語ノ口語。

くはつみ（名）桑摘　養蠶ノタメニ、桑ノ葉ヲ摘ミ採ルコト。又、其人。採桑

くはのかど（名）桑門〔桑門ノ文字讀、其條ヲ見ヨ、桑の扃、同ジ〕又、桑の扃。沙門ニ同ジ。僧侶。夫木抄、[illegible]「カラクシテ、入リシハ何ゾ、桑の門、道ノ心ヨ、ソノシルシアレ」同、同「搖キコモル、くはのとざしノ、老ラクヨ、コハイカナレヤ、哭ノミ泣カルル」

くはのとざし（名）桑扃　前條ヲ見ヨ。

くはのゆみ（名）桑弓　[illegible]（桑弧蓬矢）ノ條ヲ見ヨ。

くははじめ（名）鍬初〔鍬ニテ、地形ノ基礎ヲ作ル〕土木建築ヲ始ムル儀式。[illegible]「慶長十九年三月廿一日、[illegible]ニテ、鍬ヲ取ルニ、鍬初ト云フコトアリ、高田ノ城ノ鍬初ハ、城和泉守某、今一人アリ、長袴、小刀ニテ、鍬ヲ取リ、曳曳聲ノ聲ヲカケテ、打始ムル也」[illegible]山公治家記録[illegible]江戸小石川[illegible]五月晦日、吉日ニ因テ、鍬初アリ」

くはばたけ（名）桑畠　桑原、クハタ。養蠶用ノ桑ヲ植付ケオク畠地、桑田

くはばら（名）桑原　前條ノ語ノ一名。[illegible]

くはばら（名）桑原〔菅原家所領ノ地名ナリト云フ、大和、和泉、攝津、近江、其他ニ、桑原ノ地、多シ、公家衆ニ桑原氏アリ、菅公ノ裔ナリ〕雷鳴ノ時ニ唱ヘテ、雷落ヲ避クルヲ得トスル呪語。狂言記、[illegible]かみなりが鳴ルワ、恐ロシヤ、オソロシヤ、桑ばら、くはばら[illegible]ト云フ所ハ、昔、菅公ノ知シメシタ[illegible]、其[illegible]、雷ノ落チタリシ時、[illegible]ニハ、一度モ落チズ、雷、[illegible]、コレニ因テ、京中ノ兒女子、いかづちノ鳴ル時ハ、桑原、桑原ト云ヒテ、呪シケルトナリ」和泉名所圖會（寛政）ニ、泉北郡、桑原ノ井ニ、昔シ、雷落チタリ、[illegible]、蓋ヲ覆フ、雷、[illegible]、永ク、此處ニ落ツマジト云ヒシカバ、[illegible]、因リテ後世、雷鳴ノ時ニ、[illegible]ト呼ベバ、雷、[illegible]地ニ落チズト云フトアリ。沖繩ニテハ、桑の木の陰ト云フ、雷害テ、桑樹ノ上ニ落チ、其股ニ挾マリテ死セリト傳フ（古琉球）

くははる（自動、四）加〔くはふるノ自動、よこたふる、よこたはる、こはふる、こはる〕（一）物ニ、物、添フ。益シ入ル。殖ユ。古今集、一、春、上[illegible]（二）其列ニ入ル。參加　孝徳紀、大化元年九月「吉野古人皇子、與蘇我田口臣川堀等謀反、臣預其徒」（三）[illegible]

ぐはい（名）具合　工合〔くひあひノ約ト云フ、元ト、出來ぐはひナドノ上略ニテ、濁ルナルベシ〕（一）物事ノ、組ミ立チタル狀。構成　（二）デアヒ。ハマリ。塩梅　（三）アンバイ　加減　調子。程度

くはびら (名) 鍬鑼 〔鍬鑼ノ轉(川邊、かはべ。屎放、くそへ) 倭名抄、十五農耕具「犂、犂ν田器也、鑼、犂耳也、閉良」〕 (一)鍬ノ先ニツケタル鐵片、柄ノ端ニ曲リツキタルコト、足首ノ如シ。鑁頭 新撰字鏡「足如ν鍬故ニ」 宇津保物語、俊蔭「足手ヲ見レバ、鋤、鍬ノ如シ」 太秦廣隆寺牛祭祭文(恵心僧都作ト傳フ)「久波比良足ニ、白黒高ブ縮 付ニ共ニ、足ノ大ナルニツキテ云ヘルカ」 (二)轉ジテ、足首ノ異名。踵ヨリ、爪先マデヲ云フ。足趾 東海道名所記(萬治)三、西坂「御草臥デアルベイニ、おくはびら出シメサレイ、叩ケマウサウ」(下野生レノ下女ノ詞)(跂つノ條ヲ併セ見ヨ)

くは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 咥 〔嚙合ふるノ約、玉篇「咥、大結切、齧也」正字通「凡口含ν物曰ν銜」〕 上下ノ齒ニテ、輕ク嚙ミテ持ツ。クフ。 源、三十二、梅枝 五「筆ノ尻くはへテ、思ヒメグラシタマヘル狀」 盛衰記、廿、石橋合戰事「觜尻ヲくはへテ、拔カム、拔カムトシケレドモ」

くは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 加 (一)物ニ、物ヲ添フ。增ス。ツケタス。殖ス。 萬葉集、五 廿七 長歌「マスマスモ、重キ馬荷ニ、上荷打ツト云フ、コトノゴト、老イニテアル、我ガ身ノ上ニ、病ヲラ、(ナド)加ヘテアレバ」 名義抄「增、クハフ、マス」同「加、クハフ」 (二)人人ノ中ニ、列ラシム。參列セシム。 源、十八、松風 四十「大井ノ宿「稻フベキ所所ノ預、今、くはへタル家司ナドニ仰セラル」 (三)注ギ、入ル。ツギイルル。 土佐日記、十二月廿九日「屠蘇、白散、酒、くはへテ持テ來タリ」 醫心方、十七 三十 治疥、水銀膏方「猪脂和塗、或小與ν鹽」 (四)ホドコス。アテガフ。與フ。 狂言記、婿聟「此度ハ、折檻ヲくはへウズレドモ、カサネテ、折檻ノくはへウズル」「[illegible]ヲ加ふ」「意見ヲ加ふ」

くはへ (名) 加 (一)クハフルコト。增加。 (二)酒ヲ盛ル器、銚子ノ酒ノ減リタルニ、注シ加フルニ供フルモノ。「銚子加」

くはへ・ぎせる (名) 咥烟管 烟管ニ手ヲ添ヘズ、吸口ヲ咥ヘテ、烟草ヲ吸フコト、不躾ナルコトトス。 浮世床(文化、三)二、編「店ノ師、咥烟管ヲ取テ、絃ヲ鼓テ去ル」

❖くは・へる (動) くはふ(咥)、又ハ、くはふ(加)ノ口語。

くは・まゆ (名) 桑繭 桑ノ樹ニ自生スル蠶ノ、山繭ノ類。桑蠶 萬葉集、十四 三十 「筑波嶺ノ、新具波麻欲ノ、衣ハアレド、君ガ御衣シ、アヤニ着欲シモ」 箋注倭名抄、六 五十八「桑繭、蠔、桑上繭、即、桑蠶也、久波万由」 萬代集、雜、六「引ク人モ、無クテヤミヌル、くはまゆノ、イタヅラモノハ、我ガ身ナリケリ」

くは・ゆぎ (名) 烏頭 〔足趾歩ノ約略ニモアラムカ、跂つモ、足趾立つノ略ナリ〕 馬ノ後脚ノ曲肘。からすがしらノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十一 七 牛馬體「烏頭、曲肘、久波由岐」

❖くは・ゆる (動) くはふ(咥)、又ハ、くはふ(加)ノ誤。 運歩色葉集「咥」

くは・よぼろ (名) 鍬丁 官ノ御田ヲ作ルニ役ハルル丁。 安閑紀、元年十月「以ニ難波屯倉與ニ毎ν郡鍬丁、給ニ貺宅媛ニ」同、閏十二月「大河內直味張、云云、毎ν郡以ニ鑁丁、春時五百丁、秋時五百丁、奉ニ獻天皇ニ」

くばり・あ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 配充 次條ノ語ニ同ジ。 履中紀、五年十月「旣分ニ寄于神祇、車持部兼奪ニ取之ニ」

くばり・つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 配附 クバリアツ。ワリワタス。配付

❖くばり・つ・ける (動) 配附 前條ノ語ノ口語。

くばり・もの (名) 配物 人人ニ、分ケ贈ル物。多クハ、祝儀、謝禮、ノ贈物ニ云フ。賄賂 「彼岸ノくばりもの」

くば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 燒 〔燒ぶ、くべらる、約マリテ、四段ニ活用スルモノ、敎へらる、をそはるノ例、其條ヲ見ヨ〕 火ニ入リテ、燒クル。 女殺油地獄(享保、近松作)下「油壺ヘテ、火ニくばらウガ」「綿ガ、火ニくばる」

くば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 配賦 〔分るト通ズ、隱る、なまる〕 (一)分ケテ、與フ。銘銘ニ、割リワタス。配分ス。 字鏡 五十「賦、以ν財施ν於ν僧尼ν也、久波留」 宇津保物語、藏開、下 廿四「心ニシタガヒテ、人人ニくばりタマフ事ナム侍リシ」 (二)遍ク、行キワタラス。 枕草子、十二、百五十五段「目ヲ配りツツ躙ミヰタルコソ、罪ヤ得ラント覺ユレ」「心ヲくばる」 (三)緣ヅクル。カタヅケル。令嫁 源、四十九、東屋 三「娘多カリ、云云、初(前妻)ノ腹ノ二三人ハ、皆、サマザマニくばりテ、オトナビサセタリ」 (四)ソレゾレ、適當ナル處ニ置ク。配置 「兵ヲ配る」字ヲ配る」

くひ (名) 食 クフコト。クラフコト。 狂言記、合柿「柿ヲくひニ行クトコロヂャ」

くひ (名) 杙 〔嚙(食)ノ義ニテ、地ニ嚙ひ(食ひ)入ル意カ、蟎蛺ト同義ナルベシ、支柱ヲ、すけ(助)ト云ヒ、櫂モ、掻きノ音便ニテ、水ヲ掻きヤル意ナルト、同趣〕 (一)長キ材ヲ、地ニ打込ミ、或ハ、埋メ立テタルモノ。 古事記、下(允恭)三十 長歌「上ツ瀨ニ、齋久比ヲ打チ、下ツ瀨ニ、眞久比ヲ打チ、齋久比ニハ、鏡ヲカケ、眞久比ニハ、眞玉ヲカケ」 天治字鏡、七 二「杙、久比」(倭名抄、同ジ)「棚ノ杙」「牓示杙」「橋ノ杙」「帚杙」「綱代ノ杙」 (二)ときのくひ。(ときのふだノ條ヲ見ヨ) 枕草子、十一、百四十五段「時奏スル、云云、時のくひサス音、云云、スベテ、夜ノミゾ、くひハサシケル」

くひ (名) 杌 〔くひぜノ下略、おほまへつぎみ、おほまつぎみ〕 くひぜニ同ジ。樹ノ伐株。 徒然草、四十五段「根ノアリケレバ、切杌ノ僧正トイヒケリ」「刈りくひ」「剃りくひ」

くひ (名) 蟎蛺 〔食ノ義、皮中ニ食入ル意ナルベシ、前前條ノ語原ヲ見ヨ〕 牛馬ニツク蜱。 倭名抄、十一 七 牛馬病「蟎蛺 在ニ牛馬皮中ニ蟲也、久比」 字鏡集「蜱、クヒ、ウシノシラミ」

くひ (名) 鵠 くくひノ條ヲ見ヨ。

くひ (名) 區費 區ノ經費。

くび (名) 頸 〔凹みノ約(倭訓栞)陰門ヲつびト云フモ、窪みノ約ナリ、後くぼ、項のくぼ、ぼんのくぼノ名モアリ〕 (一)頭ト、體ト、細ソク接ギ合フ所、前ハ喉ニテ、後ハぼんのくぼナリ。エリクビ。クビネッコ。 神代紀、上 四十「頸 所嬰、五百箇御統之瓊」 倭名抄、三 二 頭面類「頸、頭莖也、久比」「頸ヲ斬ル」 斬ラルベクシテ斬ラレズ、存スルコトヲ得タルヲ、頸を繼ぐト云フ。 盛衰記、六、大納言音立事「小松ノ內府ガ、頻ニ歎キ申スニ依テ、云云、頸を繼ぎ、大國、莊園、數多賜ハリ」 斬首ニナルヲ、くびになるト云フ。 薩摩歌(元祿、近松作)下「此源五ガ戻サヌト云フ一言、首になっても、通ス」 緣切レニナリ、免職ニナルヲモ、くびになるト云ヒ、免職ニスルヲ、くびにするト云フ。縊レテ死ヌルヲ、くびを括る、くびを吊るト云フ。 (二)物ノ、頸ノ形シタル所。「手くび」足くび」德利ノくび」

くび (名) 首 〔頸ヨリ上ノ部ト云フ意ヨリ移ル〕 カウベ。カシラ。アタマ。

[illegible]シマサズバ、くびヲモ召ラム」吾妻鏡、九、文治五年七月、[illegible]」

首ヲ傾ケテ考フルヲ、くびをひねるト云フ。かぶりシテ否ムヲ、くびを振るト云フ。金錢盡キテ、かぶりモ振ラレズ、否モ諾モ言ハレズナルヲ、くびがまはらぬト云フ。

〜**くび** (名) [領衿] (頸ヲ圍ム所ノ義) 衣ノくび、衣のくびノ略。襟(一)ノ古言。[illegible]

ぐび (名) [具備] 十分ニ、備ハルコト。[illegible]「大[illegible]曲」[illegible]

くひ-あげ (名) [食上] 饋口ノ道ヲ失フコト。生計ガ、[illegible]ルコト。[illegible]サセ申スト、ソレコソ、扶持ノ食上げダ」

くひ-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [嚙合] [くふ(嚙)ノ條ヲ見ヨ] (一)齒ヲ、クヒシバル。[illegible]齒入レズシテ濡出ス「けいいたう段、齒ヲくひあはせ[illegible]セト叫ブ」(二)被蓋ナド、身ト接ギ合ハセテ、ハメル。

くひ-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [illegible]二物ヲ、同時ニ食フ。

くひあはせ (名) [食合] 食ヒアハスルコト。二種ノ食物ニ、合ハセテ食ヘバ、胃ニ害アリト云フ物ヲ、共ニ食フコト。[illegible]

くひあひ (名) [嚙合] 嚙ヒ合フコト。カミアヒ。「犬ノくひあひ」

くひ-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [嚙合] [くふ(嚙)ノ條ヲ見ヨ] (一)互ニ嚙ム。[illegible] (二)被蓋ナド、身ト接ギ合ヒテ、ヨクハマル。

くひ-いだ・す (動) [嚙出] カプリイダス。嚙出ス。くふ(嚙)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

くひ-いぢ (名) [食意地] 強ヒテ、食ヲ貪ル心。イヂキタナキコト。クヒシンバウ。饕餮

くびかき-がたな (名) [頸掻刀] (敵ノ頸ヲ掻切ル義) 鎧通ニ同ジ。[illegible]時代ニ、鎧刀、首かき刀、長刀、小反刀ヲ這リチガヘ、[illegible]ニシメツケテ」

くひ-かけ (名) [食掛] クヒサシ。食物ノ一部分ヲ食ヒテ、ヤメタルモノ。クヒノコシ。食殘 [illegible]

くび-かざり (名) [首飾] 頭髮ニツケテ、飾トスル物、簪、插花、櫛、笄、ナド。

〜**くび-かし** (名) [頸枷] 枷ノ條ヲ見ヨ。

くび-かせ (名) [頸枷] (一)前條ノ語ノ轉、かし(枷)ノ條ヲ見ヨ。(二)絆。テアシマトヒ。係累 [illegible]「子ハ三界ノくびかせ」

くひ-か・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ (自動、下二) [喰兼] 饋口シガタクアリ。食フニコマル。生活ニ窮ス。今宮心中(寶永、近松作)上「喰兼ヌ身代、行キヲレバ、奴奴ガ果報」

くび-かみ (名) [頸髮] 一頸圍ノ約、[illegible] さくみ。屈る、うづくまる。かくばかり、かばかり」コロモノクビ。キヌノクビ。衣ノ襟ノ、頸、喉、ヲ廻リ圍ムヤウニ作レルモノ、其、圍クシテ、[illegible]ノ如キヲ、上領、又、盤領、圓領、ト云フ、入紐ニテ止ム、袍、狩衣、ナドノ襟、是レナリ。喉ノ下、稍、方形ニテ、胸紐ニテ結ブヲ、垂領、又、方領ト云フ、直垂、水干、素襖、ナドノ襟、是レナリ。[illegible]

〜**くび-き** (名) 頸木 牛車ノ、轅ノ端ニ互シツケタル横木、牛ノ頸ニツクルモノ。軛 [illegible]

くひきり (名) [喰切] (嚙切ノ義、くふ(嚙)ノ條ヲ見ヨ) 針金ナドヲ挾ミ切ル具、形、剪挾ニ似テ、挾ム所ニ刃アリ。

くびきり (名) [首切] (一)クビキルコト。[illegible] (二)死罪人ノ頸ヲ切ルヲ職トスル者。劊手 江戸幕府ノ獄ニ、世襲ノ者アリ、首切淺右衛門ト云ヒキ。

くびきり-ちやう (名) [首切疔] 癰、疔、ノ、頸ニ發スルモノ。斷頭瘡 [illegible]

くびきり-ばった (名) (物ヲ噛くマバ、決シテ放サズ、強ク引ケバ、頸切るる故ノ名ト云フ) [illegible]ノ一種、頭ハ圓錐形ニシテ、緑色、又ハ、褐色ナリ、鳴ク聲、高シ。

くひ-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [食切] 食ヒテ、了ル。食了「井飯ヲくひきる」

くひ-き・る (動) [嚙切] カプリキル。カミキル。くふ(嚙)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

くび-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [首切] (頸切る義) (一)頸ヲ斬ル。馘 (二)斬罪ニ處ス 處斬 (三)今、俗ニ、[illegible]ニ解傭ス。(頸ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)

くびきれ-ちやう (名) [首切疔] くびきりちやうノ條ヲ見ヨ。

くび-くくり (名) [首縊] 縊キテ、死ヌルコト。縊レテ、死ヌルコト、專ラ、くびつりヲ云フ。高キ所ニ、紐、綱、ヲ懸ケテ、ソレニ、己ガ頸ヲ懸ケテ、吊リサガレバ、體ノ重ミニテ、喉、括ラレテ死ヌ。縊死 吊死 [illegible]

ぐび-ぐび (副) (喉ニ呑ミ入ルル音ナリ) 酒ナド、一口ニ、[illegible]ニ、續ケテ呑ムニ云フ語。グビリト。「酒ヲぐびぐび呑ム」

くひ-け (名) [食氣] 食物ヲ欲シガル心地。食氣、食欲。[illegible]

くひ-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [喰込] (嚙込むノ義、くふ(嚙)ノ條ノ(六)ヲ見ヨ) (一)嚙ミテ、入ル。蝕入 「白蟻ガ、柱ニくひこむ」 (二)侵シテ、入ル。押シ入ル。侵入 「隣ノ領分ニくひこむ」他ノ勢力、我ガ圏内ニくひこむ」 (三)商賣ノ損」、資本ニ侵シ入ル。缺損トナル。心中重井筒(元祿、近松作)上「四百目トイフ銀ヲ、何ニスルトテ借タゾ、[illegible]ダカ、ヘコンダカ」

くひ-お・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［食込］食ヒテ、呑ミ入ル。「飯ヲ深山ニくひおむ」

くひさし（名）［食止］食ヒサスコト。クヒノコシ。クヒカケ。食殘　曾我兒殿（寶永、近松作）下「此奴ハ、猪ノくひさし」

くひ-さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［食止］〔さす（中止）ノ條ヲ見ヨ〕食ヒ終ヘズシテ、止ム。クヒノコス。沙石集、三、下、第三條「嚴融房、修行者、多ク給仕、奉事シテ、云云、齋、非時、云云、遲キヲモ腹立テ、法師ニ物食ハセジトスルカトテ、くひさしテ打置キテ、叱リケリ」

くび-ぢっけん（名）［首實檢］討取リタル敵ノ首ノ、實否ヲ檢ムルコト。平治物語、一、光賴卿參内事「少納言入道ガ首實檢ノタメニ、神樂岡ヘ向ケラレケル、云云」後世、武家ニテノ儀式ハ、大將、床机ニ着ク、兵士、首級ニ首札ヲツケ、白布ヲカケ、臺（八寸四方、四脚）ニ載セテ出ス、討取人、出デテ候ス、兵士、布ヲ披キ、左手ニ髻ヲ取リ、右手ニ頤ヲ載セテ、右側ヲ示ス、大將、弓ヲ取リテ立チ、首ヲ射向ノ方ニシテ、左眼ニテ視ル、申次ノ者、敵將某ノ首、某、討取ルト、各、姓名ヲ唱フ、次ニ、酒ヲ供シ、別所ニテ、首級ニモ供ス。

くひ-しば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［嚙締］〔くふ（嚙）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ、しばるハ、しまるノ轉ニテ（分る、くばる。隱る、なまる）他動ナリ、其條ヲ見ヨ〕上下ノ齒ヲ、強ク嚙ミ合ハス。切齒　天智紀、二年八月「朴市田來津、仰レ天而誓、切レ齒而嗔、殺二數十人一、於レ焉戰死」名義抄「嚙、切、クヒシバル」

ぐびぢんさう（名）［虞美人草］〔項羽、死シテ、虞姫、自刎ス、其墓上ノ草、人、呼ビテ、美人草トスト云フ（古文眞寶、注）〕ひなげしノ漢名。類說「褒斜山谷中、有二虞美人草一、狀如二雞冠一、大而無二花葉一、皆相對、或唱二虞美人曲一、則兩葉如二人撫一レ掌之頗中二節拍一」遊歩色葉集「虞美人草」

✣**くひ-しんばう**（名）〔しんばうハ、いやしばうノ上略、音便、其條ヲ見ヨ、あたりまへ坊、あたん坊。おろつき坊、おろん坊〕イヤシバウ。イヂキタナ。食ヲ貪ル者ノ渾名。（東京）

くび-す（名）［踵］くびびすノ條ヲ見ヨ。

✣**くひ-す・ぎる**・ギル・ギレ・ギ・ギ・ギヨ（他動、上二）［食過］分量ヲ過シテ、食フ。過食

くび-すぢ（名）［頸筋］ぼんのくぼノ左右、骨ノ、竪ニ長ク高マリタル處。狹衣、三、上「細目アケテ、くびすぢ引キタテテ」

くひ-ぜ（名）［杌株］〔杙末ノ約、足頭居、くびす（踵）。多ス、ふさス〕樹ヲ伐リテ、殘レル根株。キリカブ。下略シテ、くひ。字鏡、四十「柮、久比是」天治字鏡、七五十「杌、久比世」倭名抄、廿十木具「株、久比世」夫木抄、十六、冬「枯レ立テル、櫨ノくひぜノ、ワカダチニ、色ヅクト見シ、葉サヘ散リヌル」「伐くひ」「刈くひ」くひぜを守りて兎を待つト云フハ、徒ラニ舊習ニ拘リテ、時勢ニ處スルヲ知ラズノ意。臨機應變ヲ知ラズ。膠柱　韓非子、五蠹篇「宋人有レ耕レ田者、田中有レ株、兎走觸レ株、折レ頸而死、因釋二其耒一而守レ株、冀二復得一レ兎、兎不レ可二復得一、而身爲二宋國笑一、今欲下以二先王之政一、治中當世之民上、皆守レ株之類也」梁武帝、圍棊賦「或龍化而超絕、或神變而獨悟、勿二膠レ柱以調一レ瑟、專守レ株而待レ兎」輿儀抄、序「くひぜを守る譬リアラム、コレヲ知ラズシテ」

くひ-ぞめ（名）［喰初］小兒、生レテ百餘日ニ、始メテ、物食ハスル祝事。箸初。ハシタテ。ハシゾロヘ。小笠原流禮儀書「喰初ノ祝、云云、男女共、其生レタル日ヨリ數リテ、百二十日ニ當ル日也、今、男、百十日、女、百二十日ト定エタル人アリ、略儀ナリ、云云、餅、五ツ、五度、土器ニ盛リ出ス」（古事類苑）元服次第「生レテ百一日ト云フニ、善惡ヲキラハズ、喰初、男子ハ、男、ヤシナフ也、女子ナラバ、女、ヤシナフ也」（松尾筆記、百五）

くひぞめ-もやう（名）［喰初模樣］次條ヲ見ヨ。

くひぞめ-わん（名）［喰初椀］特ニ、喰初ノ儀式ニ用キル椀ノ名、黑漆塗ニ、朱漆ニテ、一種、粗筆ノ繪樣ノ鶴龜ナドヲ書ク。コレヲ採リテ、染物ナドノ模樣ニスルヲ、くひぞめもやうト云フ。

くび-だい（名）［首代］斬首ノ刑ニ代ヘ、贖トシテ納ルル金。

くび-たけ（名）［頸丈］くびったけヲ見ヨ。

くひ-たふ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［喰倒］物ヲ食ヒテ、償ヒヲ爲ズ、食ヒテ、他ニ、損ヲカク。「友達ヲ喰ひ倒しテ歩ク」

くひ-だふれ（名）［喰倒］きだふれ（着倒）ノ條ヲ見ヨ。

くび-たま（名）［頸玉］（一）數多ノ玉ヲ、緒ニ貫キタルヲ、頸ニ懸ケテ飾トセシモノ。同ジ物ヲ手腕ニ纏フヲ、手玉（手纏、釧）ト云ヒ、足頸ニ纏フヲ、足玉ト云フ。古事記、上七十「御頸珠ノ玉ノ緒、瑲瑲ニ取リユラガシ」安閑紀、元年閏十二月「瓔珞」仁德紀、四十年二月「空女所レ貨之足玉、手玉」萬葉集、十七十「足玉モ、手珠モユラニ、織ル絹ヲ」同、十三八長歌「海部處女ドモ、云云、手ニ卷ケル、玉モユララニ」太神宮式「頸玉、手玉、足玉」（二）猫、犬、ナドノ、頸ニハメオク輪。好色一代女（貞享、西鶴）四「首玉ノ入シ白猫、御祕藏ナレバ、タトヘ、肴ヲ引トテモ、追ハヌ事ナリ」

くび-たま（名）［首玉］くびったまヲ見ヨ。

✣**くひ-た・める**・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［喰溜］食ヲ、多ク、胃ノ中ニ貯フ。

くひ-ち（名）［弶］〔杙打ノ約カ（垣内、かきつ。河内、かふち）〕應韻「弶、張取レ獸也」〕獸ヲ捕フル機械。羂ヲ、杙ニカケテ、張リオクモノナルベシ。倭名抄、十五ニ畋獵具「弶、取レ獸械也、久比知」名義抄「弶、クヒチ、ワナ」和漢三才圖會、廿三「弶、久比知、今云、和奈」

くひちがひ（名）［喰違］（一）クヒチガフコト、相合ハヌコト。（二）タガヒチガヒニ築ケル、城門ノ土手、「見付ノくひちがひ」

くひ-ちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［喰違］〔嚙交ふノ義〕（一）タガヒチガヒニ、入リコム。イリチガフ。交錯　犬牙　（二）相合フベキニ、外レテ、合ハズ。互ニ、方向ヲ異ニス。イキチガフ。齟齬

くび-ちやう（名）［首帳］討取リタル敵ノ首級ヲ、記シツクル帳面。甲陽軍鑑、九、上、品第廿三「尾河ノ城ヲ、板垣信形、人數ヲ以テ攻崩シ、上下、二百餘リノくび帳ニテ、勝鬨ヲ取行ヒ」

くひ-ちら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［食散］彼レ此レト、不揃ニ食フ。徒然草、四十八段「光親卿（藤原）云云、供御ヲ出サレテ、食ハセラレケリ、物食ひ散しタル衝重ヲ、云云」

ぐ-ひつ（名）［愚筆］己ガ手蹟、又ハ、文章ノ謙稱。

くび-づか（名）［首塚］首級ヲ埋メタル塚。耳塚モアリ。信長記、十一、攻二元取二國播州上月

[illegible]

くび-きり [illegible] 次條ノ語ノ(一)ニ同ジ。

くひ-つ・く[illegible] [食付] [くふ(噛)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ] 噛ミツ[illegible]つきテ、引キアリク」「犬ガくひつく」

くびっ-たけ (名) [首丈] [頸丈ノ急呼] (一)足許ヨリ、頸マデノ丈。クビッキリ。「川中ニくびったけ陷ル」「水風呂ニくびったけ」(二)深ク、色ニ溺ルルコト。「女ニくびったけ」

くびっ-たま (名) [首玉] [首天窓ノ略ナル(どあたま、どたま)くびたまノ急呼、重言ナリ] 首ト云フニ同ジ。頸。アタマ。「猫ノくびったまヲ抑ヘ」「首ったまニ縋リツク」

くひ-つづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [喰續] 饑口ノ道ヲ續ク。[illegible]

くび-づな (名) [首綱] 犬、猫、ナド、頸ニ繋ケテ、曳ク綱。[illegible]

くび-ひき (名) [首引] [くびひきノ急呼] くびひきノ條ヲ見ヨ。

くひ-つぶし (名) [喰潰] (一)徒ラニ、糧ヲ食ヒツブシテ、[illegible]コト。(二)身代ヲ、クヒツブシタル人。[illegible]

くひ-つぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [喰潰] (一)糧ヲ食ヒテ、[illegible]。(二)財産ヲ、費シ果ス。[illegible]

くひつみ-の-たい (名) [喰積臺] [くひつみハ、食器ノ義、取肴ヲ臺ニ盛リタルヲ、端ヨリ少シヅツ、挾ミ取ル意、元服次第、[illegible]ノ時ノ、肴組、昆布、[illegible]、鮑のし取リヤウノ事ハ(箸ノ)細ソキ方ヲ二本引キソロヘテ、少シヽヽひつみテ置ク也」(松屋筆記、百五、九十七條)] 蓬萊の臺ニ同ジ。堂上諸家ニテ、正月、三方ノ飾ニハ熨斗鮑、昆布、一種ヲ盛リオキ、年始賀客ノ時、三方ヲ主人ノ前ニ供フ、主人、箸ヲ以テ挾ミテ、客ニ進メ、終ハレバ引ク、凡家ニハ、喰積の臺トテ、種種ノ物ヲ盛リ飾ルナリ。(故實拾要、九、節文)

くひ-つ・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) [喰詰] 糧ヲ、盡クス。饑口ニ困窮ス。

くび-つり (名) [頸吊] 頸ヲ吊リテ、死ヌルコト。くびくくりノ條ヲ見ヨ。吊死。

くひ-て (名) [食手] [手ハ、人ノ轉] 飲み手、書き手、同ジ] 食フ人。「不味イカラ、くひてガ無イ」

くひ-と・む・ム・ル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [喰止] [噛ひとむノ義] 抑ヘテ、止ム。セキトム。抑止。[illegible]、十八、品第四十八、[illegible]くひとむる時ニ[illegible]ヲくひとむ」

くひ-な (名) [水鷄] [鳴キハ、ジメハ、ハ、ひくハト聞ユト云フ、なハ、鳴ノ語根(ひこ鳴、ひひなき、馬嘶、うませ)] 沖縄ニテ、くみぬ] 水禽ノ名、形、鶴ノ雛ノ成長シタルモノニ似テ、全身、淡黑クシテ、白キ斑アリ、赤褐ノ羽、相、雜ハル、嘴、黑ク、嘴ハ、淡黑ク、目ノ上ヨリ頸ヲ、メグリテ、灰赤ニシテ、淡黑キ横文アリ、脚、長大ナリ、夏、秋、田澤ニ居リテ、夜、鳴ク、聲、人ノ、戸ヲ叩クガ如シ、故ニ、其鳴クヲ、たたくト云フ。秧鷄 皇極紀、元年二月「水鷄、此云二倶比那一」(倭名抄、同ジ) 本草和名、下[illegible]ト云フ」 和泉式部集、夏ノ夜ハ、槇ノ戸タタキ、門タタキ、人ダノメナル、くひなナリケリ」

くび-なげ (名) [首投] 相撲ノ手ノ名、相手ノ頸ニ、我ガ手ヲカケ、腰ヲヒネリテ、投ゲ倒スコト

くび-なは (名) [頸繩] くびづなノ條ヲ見ヨ。

くひ-にげ (名) [喰逃] 喰ヒ倒シテ、逃グルコト 飲食シテ、其代金ヲ拂ハズ、逃ゲ去ルコト。無錢飲食。吉野都女楠、[illegible]、近松作、四「犬モ、人モ、此屋敷ハ、食ひにげノ大名サセ」

くび-ねっこ (名) [頸根子] [くびねハ、項ト同ジク、本ノ意、ね、こハ、其條ヲ見ヨ] ウナネ。ウナジ。頸ノ本。クビス ヂ。「くびねっこ抑ヘテ、動サズ」

くひ-の・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [食退] 食フコトニ、遠ザカル。食ヒ止ム。十訓抄、中、第七、第一條「松ノ葉バカリニテハ、命生クベクモ見エネバ、年頃、イミジクくひのきツル五穀ヲモテ、樣樣イタハリ養ヘバ」

くひ-のこし (名) [食殘] クヒノコスコト。クヒサシ。クヒカケ。又、其物。

くひ-のこ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [食殘] クヒサス。食ヒ終ヘズシテ、止ム。

くび-の-ざ (名) [首座] 首斬ラルベキ時ニ、坐ル席。「くびのざニナホル」

くひ-のば・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [喰延] 糧ヲ食ヒ[illegible]、時ヲ[illegible]。

くひ-はぐ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [食逸] 食フベキ時ニ、離ル。食フ時ヲ失フ、一時ニ後レテ、くひはぐれる」

くび-は・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ (他動、下二) [刎] [はぬ(刎)ノ條ヲ見ヨ] 頸ヲ、切リ落ス。安康紀、元年二月、大草香皇子殺サル、侍臣難波吉師日香蚊「自刎之、死レ於二皇子屍一」

くび-ひき (名) [首引] [頸引ノ義、急呼シテ、くびっぴき] (一)二人相向ヒ、雙方ノ頸ニ、紐ヲ掛ケ互シテ、頸ノ力ニテ引キ合フ戯レ。クビノビキ。[illegible]正月、遊戲、日比、頸引」若菜合、其角「首引ノ、コロブ拍子ニ、起キアガリ」 明和ノ川柳「首引、マヲノケサマニ、ミソヲアゲ」(嬉遊笑覽、四)(二)轉ジテ、互ニ、離レズ、張リ合フコト。

くび-びす (名) [踵跟] [くびびハ、縊頸ノ約ニテ(際際、きはは、撓撓、たわわ)足頸ヲ云フ、すハ、居ノ下略ナラム(杙末、杭)] 釋名「跟、在二下方一著レ地、一體任レ之、象二木根一也」きびすハ、音轉(黃金、こがね、くがね)くびす、きびすハ、再ビ約レルナリ」 足ノ裏ノ、後部。脚ノ、地ヲ踏ミテ立ツトコロ。又、くびす。きびす。今、かかと、又、あくとト云フ。仁德紀、六十五年「踵」華嚴經私記音義(奈良朝)「跟、久比比須」 天治字鏡、二「跟、踵也、久比比須」 字鏡「踵、偏二穿ノ字、踵也、支比比須乃須知一同」 字鏡「踵、之合字、踵之頭也、久比乃支比比須」 倭名抄、三「手足部、踵、足後也、久比須、俗云、岐比須」 宇津保物語、あて宮「一首片足、草鞋片足、きびすヲバ、はた二穿キテ、從共カラ走リテ、帝ノ、南殿ニ出デタマヘルニ立チテ」(草鞋ノ踵ノ方ヲ、足ノ端ニ穿キタルナリ)

くびふだ (名) 首札 首實檢ノ時ナドニ、首級ニ結ビツクル木札。首級ノ姓名ト、討取人ノ姓名トヲ記ス。 越後軍記、三、「景虎問三頸實檢之法式一事「首札ノ事、大將ノ首札ハ、桑ナリ、云云」

くひぶち (名) 食扶持 食料ノ扶持米。

くびほそ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 首細 〔かしらかたし(頭堅)ノ反、其條ヲ見ヨ、心、堅固ナラヌ意ナリ〕 心細シ。心、弱シ。 源、二、帚木六四「タノモシゲ無ク、くびほそしトテ、フツツカナル後見設ケテ、カク侮リタマフナメリ」

くびまがり (名) 首曲 頸ノ傾キタル、不具ノ名。歪頸

くびまき (名) 頸卷 えりまき(衿卷)ニ同ジ。 好色一代男(貞享、西鶴)二「綿入ノ頸卷」

ぐひん (名) 俱賓 狗品 狗賓 〔狗品ニテ、人品ニ對シタル語カト云フ〕 天狗ノ異名。 正章千句(慶安)七「ノドケクモナシ、山伏ノ行、狗品ニヤ、籠マレヌラム、春ノ空」 心中萬年草(寶永、近松作)上「假リニモ、女犯ノ穢レガアレバ、一山荒レテ震動シ、其身ハ、狗賓ニ五體ヲ裂カレ」 松屋筆記、五十七、第一條「天狗ヲ、俱賓ト云ヘルコト、續太平記、廿三卷、天狗餞の事ノ條ニ見エ、今俗モ、サ云ヘリ、コハ、狗品ノ義ニテ、人品ニ對シタル名ナルヲ、通音ニ、俱賓トハ書キタルナルベシ」

くひもの (名) 食物 (一)〔食フベキ物。クラヒモノ。食物。(飲物ニ對ス) 竹取物語「糧盡キテ、草ノ根ヲくひものトシキ」 (二)騙シテ、己ガ餬口ノ利(益)トスルモノ。(くはせものノ條ヲ見ヨ)「人ノ娘ヲくひものニスル」

くひものむつかり (名) 「むつかしく禁ズル意」 食禁ニ同ジ 宇津保物語、國讓、上六十「削り氷ヲナム食ス、大將、アナオソロシヤ、イミジク忌ム物ヲ、宮、カカレバコソ、イヤサリツレ、氷、食ハデ、イカデアラム、サキニ、物忌ムト云ヒツツ、食ハマホシキ物モ食ハセズト宣ヘバ、アナ心憂ヤ、くひものむつかりヲ、醫師侍リ、言ヒテ聞エムトテ、出デタマヒ、典藥頭ニ問ヒタマヘバ、云云」

くひやぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 嚙破 嚙ミテ、破ル。 續古事談、二、臣節「犬ノ、腹ヲ一口くひやぶりタリケレバ、腹ノ中ヨリ、火出デキテ」 「猫ガ、障子ヲくひやぶる」

くひや・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 食止 くひのく(食退)ノ條ヲ見ヨ。

クビラ (名) 宮毘羅 金毘羅ノ條ヲ見ヨ。

クビラたいしやう (名) 宮毘羅大將 こんぴらノ條ヲ見ヨ。

ぐびりと (副) ぐびぐびニ同ジ。

くび・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 縊 〔頸ヲ活用セシム、頭る、雲る〕 (一)〔紐ニテ、喉、頸ヲ、ククリテ、殺ス。シメコロス。 神代紀、上十四「縊 殺」 字鏡廿八「縊、久比留」 (二)〔絞罪ニ行フ。絞 孝德紀、大化五年三月「田口臣筑紫等、被ㇾ絞者九人、被ㇾ流者十五人」 齊明紀、四年十一月「絞二有間皇子於藤白坂一」 (三)中程ヲ、シメククル。結束 「綿包ヲくびる」

くび・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 縊 〔前條ノ語ノ自動、亂る、みだる〕 自經 ワナク。自ラ、喉ヲ縊リテ、死ヌ。クビククル。 天武紀、上十四「大友皇子走無所入、乃還隱二山前一以自縊焉」

くひれう (名) 食料 (一)食用トスル料ノモノ。「食料トシテ貯フ」 (二)食ヒタル物ノ代金。「食料ヲ拂フ」

くび・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 括 〔四段活用ノくびるノ自動〕 兩端、廣ク、中、狹マル。「くびれタル瓢箪」

くびわ (名) 頸輪 犬、猫、ナドノ頸ニ嵌メオク輪。クビタマ。

くひわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 食分 食ヒテ、味ヲ辨ヘ知ル。品味 「美味イ、不味イヲ、くひわく」

くびをけ (名) 首桶 首級ヲ入ルル桶。高サ一尺三寸、口ノ廣サ八寸、わげ物ニシテ、かぶせ蓋ナリ。首函 越後軍記、三、「景虎問三頸實檢之法式一事「首桶ノ事、高サ不定ナリ、大方、一尺二三寸バカリ然ルベシ、又、ワタリノ廣サ、八九寸タルベシ」

く・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 嚙 (一)〔嚙むニ同ジ。齧ム。カブル。カジル。 宇津保物語、俊蔭六「阿修羅、云云、齒ヲ、劔ノ如クくひ出シテ、怒ル」 源、二、帚木十九「指一ツヲ引寄セテ、くひテ侍リシヲ」「齒ヲくひシバル」齒ヲくひアハス」 「繩ヲくひ切ル」犬がくひ合フ」猫ガくひツク」鼠ガ、壁ヲくひ破ル」 (二)〔輕ク、嚙ミ持ツ。啣ヘ持ツ。啣 銜 古事記、上三十六「鼠咋二持其鳴鏑一出來」 同卷五十七「栫八玉神、化ㇾ鵜入二海底一咋二出底之波邇一」 萬葉集、十六十八「池神ノ、力士舞カモ、白鷺ノ、桙啄持チテ、飛ビワタルラム」 源、廿四、胡蝶三「水鳥ノ、友ノ番ナ離レズ遊ビツツ、細ソキ枝ドモヲくひテ、飛ビチガフ」 (三)履物ノ緒ニ擦レテ、傷フ。鼻緒ズレヲナス。肉刺 金葉集、十、連歌「加茂ニ詣リケルニ、草鞋ニ足ヲくはレテ、紙ヲ卷キケルヲ」 (四)嚙ミツク。(餌ニ) 桑花咄(貞享)「ヨクくふモノハ、川口ノはぜ鉤」 (五)嚙ミ取ル。 十返舍一九「借金ヲ、質ニオキテモ、初鰹、求メテ、くはム、利モくはバくへ」「借金ガ、利ヲくふ」 (六)嚙ミ入ル。クヒコム。侵シ入ル。「敵ノ領土ニくひ込ム」

く・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 食 〔前條ノ語ノ轉、嚙ひテ入ルル意、喰ノ字ヲ書クハ、口食ノ和製合字〕 (一)〔嚙ミテ、呑ム。クラフ。ハム。喫ク。喫グ。タブ。タウブ。タベル。 雄略紀、四年八月、長歌「阿武ニ、虻擾キツキ、其虻ヲ、蜻蜓ハヤ俱ヒ」 (二)口過ヲス。生活ス。(自動ノ意トナル) 餬口 「商業ニテ食ふ」 (三)無キモノニスル。輕蔑ニス。侮ル。バカニスル。「人ヲ食ふ」(人ヲ呑ム) 受身ニハ、食はれるト云フ。 (四)無キモノニスル。省略ス。(芝居、藝人ノ語)「大切ノ一幕ヲくふ」淨瑠璃ノアトサキヲくふ」 (五)食ふハ、物ヲ、身ニ受ケ入ルル意ヨリ轉ジテ、受く、被る、ノ義トナル。(食すノ、着るノ意ト轉ズルガ如シ) 浦島年代記(元祿、近松作)一「コッチヘオコセトハ、法ヲ知ラヌ雜言、權威ヲくふ男デナシ」 自動トシテ、出會ふノ意ト解ス。「陰雨ヲくふ」おとわりヲくふ」不意打ヲくふ」叱責ヲくふ」騙ヲくふ」一杯くふ」狼狽ヲくふ」

く・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 構 〔咥ふ、咥ヘ來テ作ル意〕 作リ、イトナム。構フ。カク。クム。(鳥ノ巣ニ云フ) 繼體紀、八年正月「飛天之烏、爲ㇾ愛二育兒一樹顚作ㇾ巢」 倭名抄、十八十羽族體「巢、須久不」 竹取物語「燕ノ、巣くひタラバ、告ゲヨ」 六帖、六、紅梅「露ノ、巣くへル枝ヲ、折リタラバ、おをばいカデカ、生マムトスラム」「雀ガ、屋根ニ巣ヲくふ」

く・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) 燒 〔薰るト通ズルカ〕 火ニ入レテ、燒ク。モス。モヤス。タク。 竹取物語、皮衣、云云、火ノ中ニ打チくべテ燒カセタマフ」 宇津保物語、藏開、中廿「火遠シテ、焚物ドモくベテ」 建保五年十一月四日歌合 柴折りくぶる、夕煙」

ぐ-ふ (名) [愚父] 己レノ父ヲ、他人ニ對シテ云フ、謙稱。

ぐ-ぶ (名) [供奉] (一)御供ニ、仕ヘ奉ルコト。[illegible]云、供奉ノ人人ヲ召テ」「行幸ノ供奉」「御輿ノ供奉」 (二)内供奉ノ略、其條ヲ見ヨ。榮花物語、十八、玉の臺「御厨子所ノ方ヲ見レバ、サルベキ下﨟[illegible]」

く-ふう (名) [工夫功夫] [工夫ハ、人夫工手間ノ義ヨリ、思案ノ手間、意ニ移レルナリト云フ、ドノ書ノ音書ヲ見ヨ] 心ニ、方法ヲ求メ尋ネテ、思ヒメグラスコト。思案。[illegible]

ぐ-ふう (名) [颶風] [南越志「颶風者、具四方之風一也」] 夏秋ノ間ニ、南海上ニ起ル暴風ノ名。旋風ノ、極メテ大キク、極メテ暴キモノ。[illegible]

ぐ-ふ-ぐ-ふ (名) [illegible] 豊カナル男女[illegible]

くぶさ (名) [贏利] くぼさノ條ヲ見ヨ。

ぐ-ぶ-たい-てん (句) [illegible] 不倶戴天ノ條ヲ見ヨ。

ぐ-ぶつ (名) 愚物 オロカモノ。バカモノ。アハウ。「相手ニナラス愚物」

くぶつつ (名) [頭槌] かぶつちノ條ヲ見ヨ。

くぶん (名) 區分 區別ニ同ジ。[illegible]

くぶん-でん (名) [口分田] 班田ノ條ヲ見ヨ。

くふや-くはず (句) [食不食] 糧アルコトアリ、無キコトアリ、衣食ニ、極メテ困窮シテアルニ云フ。[illegible]

くべ (名) [竹籬] 次條ノ語ノ下略。

くべ-がき (名) 竹籬 [くねがきト音通ナルベシ、其條ヲ見ヨ] 竹籬ノ一名。略シテ、くべ。クネガキ。クネ。萬葉集、十四[illegible]「[illegible]くへ越シニ[illegible]」[illegible] 山田ノ、稻葉ヲコムル、くべ垣ノ、荒レマク見レバ、鹿入リニケリ」

く-べつ (名) [區別] ケヂメ。ワカチ。差別。區分。[illegible]

くへ-な-い (形) [illegible] 次條ノ語ニ同ジ。

くへぬ [illegible] [食ひ得ぬナリ、煮ても焼いてもくへぬト云フ語アリ、其上略ナリ、らちあかぬヲ、あかんトノミ云フガ如シ] 狡猾クシテ、扱ヒ難キ。クヘナイ。「くへぬ奴」「くへぬシロモノ」

く-へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) [食ハ得るノ約、書く、かける、讀む、よめる] 食ヒ得ル。食フコトガデキル。

く-べる (動) [燒] 燒ぶノ口語。

く-ぼ (名) [凹窪] [漥含ノ約カ、かきなぐる、かなぐる。おぼほる、おぼる] (一)ヘコミ。クボミ。周、高ク、中央、低キ處。[illegible]

(二)陰門ノ異名。ツビ。[illegible]十八[illegible]「シナタリクボ」(也ト、朱門、トノ合字、嶺合也、女陰也 字鏡[illegible] 陰茎ヲ[illegible]ト云フニ對ス 名義抄[illegible]「クボ、ツビ」 催馬樂、陰名「久保ノ名ヲ、何トカ云フ、川比タリ」

くぼ (名) [踵] くびすニ同ジ。

ぐ-ぼ (名) [愚母] 他人ニ對シテ、己ガ母ニ云フ、謙稱。

くぼ-かみ (副) [凹] 凹ミタル狀ニ云フ語。[illegible]

くぼ-さ (名) 贏利 [窪幸ノ下略、窪レ利ノ意ト云フ(松屋筆記、一)八十職、やそか、土器、つかさ、くぶさト云フハ、音轉ナリ、つぼね、つぶね(局)。かがふり、かがほり(冠)ノ如シ、字鏡[illegible]藏也、久牟志良」トアリ、くむハ、隈ナリ、參考スベシ] 又、くぶさ。利。利益。利潤。マウケ。[illegible]「求者不[illegible]」[illegible] 名義抄、雜部「贏、クブサ」

くぼ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [凹] [凹ヲ活用ス(厳れし、臭し)其條ヲ見ヨ] 周、高ク、中、低シ。ヘコミタリ。[illegible]「まかふら、くぼく、鼻ノ、アザヤカニ高ク」(まかふらハ、まかふちノ誤寫ニテ、目鉢ナラムカ)

くぼ-た (名) [窪田漥田] あげた(高田)ノ條ヲ見ヨ。

くぼ-つき (名) [窪坏] 今ノ膳部ニ云フ、[illegible]

くぼて (名) [葉椀] ひらでノ條ヲ見ヨ。

ぐ-ほふ (名) [弘法] 佛教ノ語、佛法ヲ、世ニ弘ムルコト。[illegible]

ぐ-ほふ (名) [求法] 佛教ノ語、佛法學習ノ不備ヲ補ハムガタメニ、旅行シテ、智識ヲ求ムルコト。[illegible]「日本國ヲ修行シテ、求法ノ志、イト懇ナリ」

くぼ-まる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [凹] [次條ノ、くぼむ、自動ノ轉、かがまるノ語原ヲ見ヨ] (一)凹ムヤウニナル。クボクナル。ヘコム。凹陷。土佐日記、二月十六日「池メイテくぼまり、水ヅケル所アリ」 (二)ウヅクマル。宇治拾遺、三、第九條「女ノ童ノ、くぼまり居テ侍ルヲ」

くぼみ (名) [凹窪] クボムコト。クボキ處。ヘコミ。凹處。[illegible]「くぼみニ溜レ水」

くぼ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [凹窪] [凹ヲ活用ス、窪む、腹む、嵩む] クボクナル。クボマル。ヘコム。天治字鏡、十三「凹、久保无」名義抄「窪、沼、クボム」

くぼ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [凹] [前條ノ語ノ他動、かがむ、かがむる、たわむ、たわむる] (一)中ヲ、低クナス。中央ヲ、ヘコマス。クボクスル。宇津保物語、藏開、中[illegible]物ノ大イナル、瓦器ノヤウニ作りくぼめテ」 (二)彫リ、作ル。[illegible]「刻、クボム、[illegible]」

く-ほん-じやうど (名) [九品淨土] 佛教ノ語、多クハ略シテ、九品トノミモ云フ。極樂淨土ニ往生スル等級、上品、中品、下品、アリテ、其、各品ニ、又、上生、中生、下生、アリ、合ハセテ、九品ナリトス。阿彌陀如來ヲ、其教主トス。源、三十四、上、若菜、上「遙カニ西ノ方、十萬億ノ國隔テタル、九品ノ上ノ望ミハ、疑ヒナクナリハヘリヌレバ」枕草

子、五、五十段「一（第一）ニテ、ヲ、アラムナド云ヘバ、一乘ノ法ナリト、人人、笑フスヂナメリ、筆、紙、賜ハリタレバ、九品蓮臺ノ中ニハ、下品ト云フトモ、ト書キテマキラセタレバ」盛衰記、八、法皇三井灌頂事「夕日、西ニ傾ケバ、九品上生ノ蓮臺ニ、三尊來迎ノ御心ヲ運ビタマヘリ」

くぼ-め（名）【凹眼】凹ミタル眼。（出眼ニ對ス）

✣**くぼ・める**（動）くぼむ（他動）ノ口語。

くぼ-やか-み（副）凹キ狀ニ云フ語。クボカニ、

〜**くま**（名）【隈阿】〔奧間ノ上略カ（おとなふ、さなふ。おもや、もや）隱ト通ズト云フ〕爾雅、釋地篇「隈隈」疏「隩、一名隈也、隈、即、厓内深隩之處也」玉篇「阿、水岸也」字鏡七十「隩、藏也、久牟志良」（一）曲リ入リ、隱レテ見エヌ處、道ニモ、川ニモ云フ。神代紀、下五「我、當於百不足之八十隈、將隱去矣」隈、此云矩磨坐（隈路ナリ）萬葉集、一廿長歌「川隈ノ、八十阿毎ニ」字鏡三十「嶼、曲岸也、久万」「道、前、八十阿毎ニ」（二）籠リ、隱ルトコロ。物蔭。【隱處】源、十三、明石十「カノ浦ニ、靜ニ隱フベキくま侍リナムヤ」同、四十四、橋姫三十「山里メイタルくまナドニ、すノヅカラ侍ルベカンメリ」とりかへばや、四「上ノ、ワタラセオハシケルハ、何處ノくまニカト、サシノゾキ」古今集、十九、誹諧「思フテフ、人ノ心ノ、くまゴトニ、立チ隱レツツ、見ル由モガナ」後撰集、六、秋、中「秋ノ夜ノ、月ノ光ハ、清ケレド、人ノ心ノ、くまハ照ラサズ」（三）不明。クモリ。クラガリ。ワダカマリ。源、二、帚木十三「くまナキ物イヒモ、イト定メカネテ、イタク打歎ク」同、三十四、上、若菜、上三十一「根ミ妬ミスマフナルナ、云云、オイラカナル人ノ御心トイヘド、イカデカハ、カバカリノくまハナカラム」同、四十八、寄生五十三「イトくまナキ御心ナラヒニ、思シ知ラルレバ」（四）トコロ。場所。頓阿集「イヅコトモ、分カヌ櫻ノ、花ナレバ、尋ネ至ラヌ、くまノナキカナ」源、七、紅葉賀廿一「到ラヌくまナキ心ニテ、マダ、思ヒ寄ラザリケルヨ」

くま（名）【暈】〔前條ノ語ノ轉〕（一）光ト、曇トノ出合。一方、影ノクラガルコト。陰翳 源、十、榊廿「月ノ少シくまアル、立部ノ許ニ立テリケルヲ、知ラデ」同、四、夕顏八十八「八月十五夜、くまナキ月影」（二）色ト色トノ出合。色ノ、濃キト淡キト、相接スル處。暈抹「彩色ノくま」（三）隈取ノ略。其條ヲ見ヨ。

〜**くま**（名）【熊】〔隈獸ヲ成語トシテ、穴居スレバ云フ名カ（羆獸ナドモアリ）朝鮮語ニテハ、こむト云フ〕（一）猛獸ノ名、長、四尺許、全身、爪ニ至ルマデ黑ク、唯、喉ノ下ニ白キ處アリテ、形、半輪ノ月ノ如シ、月の輪ト云フ、眼、小サクシテ、稜ヲナシ、前脚、短ク、後脚、長ク、四脚共ニ太クシテ、皆、踵ニテ歩ム、力、殊ニ強ク、能ク樹ニ上ル、深山中ニ棲ミテ、果ヲ食トス、冬ハ穴居ス、飼ヘバ馴ルベシ。皮ヲ敷物トスベク、肉モ美ナリ、膽ヲ、くまのい、又ハ、熊膽ト云ヒテ、健胃ノ藥トシテ、大イニ貴ブ。又、赤熊、白熊、志熊、等アリ、各條ニ注ス。字鏡十三「羆、久萬」（倭名抄、同ジ）萬葉集、十一、二十一「荒熊ノ、棲ムト云フ山ノ」新六帖、二「奧山ニ、住ム荒熊ノ、月のわニ、夜目コソイトド、曇ラザルラメ」（二）強ク大イナルモノヲ呼ブ語。「熊蜂」熊鷹」熊葛」熊笹」

〜**くま**（名）【奠】くましねノ條ヲ見ヨ。

く-まい（名）【口米】くちまいノ條ヲ見ヨ。

く-まい（名）【供米】神供ノ米。クマシネ。吾妻鏡、六、文治二年、月九日、院ノ御熊野詣「御山供米事、可、被沙汰進之由、云云」

ぐ-まい（名）【愚昧】オロカニシテ、理ニ味キコト。愚蒙。舊唐書、賈耽傳「臣雖愚昧」盛衰記、四十、維盛入道熊野詣事「彼ハ明醫聖主ノ君、云云、我ハ愚昧凡人ノ臣」風俗三師範「果敢二技掘」

くまい-ざさ（名）【九枚笹】紋所ノ名、三枚ノ笹ノ葉ヲ、山ノ字ノ形ニシテ、ソレヲ三箇、中央ニ向ヒ合ハセタルモノ。

くまがい-がさ（名）【熊谷笠】〔武藏國、熊谷（かいハ、峽ノ音便）ノ地ヨリ製出シタリト云フ〕編笠ノ一種、形、播鉢ヲ伏セタルガ如キモノ、虛無僧、醫師、用キ、武士ノ、人目ヲ忍ブ者ナド、深ク被ル。吉原證明記（寛文）「深キモノ、くまがへがさ」色道大鏡（延寶、箕山）「熊谷笠ノ事、江戸ニ多シ、三谷ヘ通フ武士ノ中公人、好ミテ、是ヲ着セリ、江戸ニテモ、町ハ、サシテ着セズ」飛鳥川當流男（元祿）「熊谷あみ笠、ふかふかトキタルモ」（柳亭筆記、四）

くまがい-さう（名）【熊谷草】〔葉ノ形、熊谷直實ガ、母衣着タル狀ナルヲモテ、名ヅクト云フ〕草、莖ノ高サ尺許、梢ニ二枚ノ大葉ヲ生ズ、圓クシテ、平行ノ脈アリ、反リテ、盛リアガル、春、莖ノ梢ニ、紫赤ノ一花ヲ開ク、内ニ、細蕊子アリ。

くまがい-ざくら（名）【熊谷櫻】〔熊谷直實ノ、一ノ谷ニ先陣セシ事ニ寄セテ名ヅクト云フ〕櫻ノ一種、彼岸櫻ニ次ギテ、早ク開クモノ、擣ニ尖アリテ、盛リアガル、初、紅ニシテ、後ニ、白シ。 茉濱雅宿日記、慶長十年二月四日「初櫻被送之云云、彼岸八重櫻（くまがへト云也）」

〜**くま-がし**（名）【熊樫】〔くまハ、隱ル意ト云フ、くま（隈）ノ語原ヲ見ヨ〕枝、葉ノ繁リタル橿木ナリト云フ。古事記、中（景行）五十五長歌「平群ノ山ノ、久麻加志ガ葉ヲ、髻華ニ刺セ」同卷（垂仁）三十九「葉廣熊白檮」同、下（雄略）三十一長歌「山ノ峽ニ、立チ榮ユル、葉廣久麻加斯」

くま-がり（名）【熊狩】熊ヲ、狩リ捕フルコト。太平記、廿八、三角入道謀叛事「後ノ山ヨリ、熊ノ落チ通リケルゾ、云云、熊狩シツル兵共ハ、熊ヲモ追ハズ、云云、落チ行キケル」

〜**くま-ぐま・し**・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔隈隈シニテ、甚ダ隱レル意ナリ、くま（隈）ノ條ヲ見ヨ〕（一）樹木、立チコモリテ、甚ダ繁シ。森鬱 出雲國風土記、飯石郡、熊谷郷「尊與麻奴良比賣命任身、及將產時、求處生之、爾時到來此處、詔、甚久麻久麻志枳谷在、故云熊谷」（二）甚ダ、コモリカナリ。甚ダ薄暗シ。陰鬱 源、四、夕顏二十「火ハ、ホノカニマタタキテ、母屋ノ際ニ立テタル屏風ノカミ、ココカシコノ、くまぐましくオボエタマフニ」（物オソロシト思フナリ）（三）ウシログラシ。懷疑 源、三十一、槙柱五「深ク隱シタマフト思ミテ、イト、ユカシト思シタリ、何事カハ侍ラム、くまぐましく思シタルコソ、苦シケレ」

くまさか-づきん（名）【熊坂頭巾】〔強盜、熊坂長範ノ名ニ因ル、能樂ノ熊坂ノ裝束ヨリ云ヒシ語ナルベシ〕頭巾ノ一種。俚言集覽「熊坂頭巾、丸頭巾ニ、しころ付ケタルヲ云フ」

くま-ざさ（名）【熊笹】〔暈笹ノ義、葉ニ、白キ暈ヲ生ズル故ノ名〕笹ノ、大イナルモノ、高キハ、五六尺、一枝ニ、六七葉ヲツック、廣サ二寸許、長サ八寸許、老ユレバ、葉ノ緣、皆、白キ斑葉ヲナス、採リテ、魚鮨ナドニ敷ク。燒刃ザサ。刃ザサ。銀邊竹 槍權三重帷子（享保、近松作）上「庭ノ面、云云、熊笹ノ露ハ、豊力」

くま-しね（名）【精】〔精稻ノ轉ナラム、皇極紀、三年六月ニ、小林ヲ烏麻野始トアリ、はだら、まだら（斑）、しまし、しばし（暫）〕神ニ供フル精米。略シテ、

くま。敬稱シテ、おくま。御洗米。御供米。[illegible]

くま-しろ (名) 神稻代 〔奠代ノ義、代ハ、田地ノ段別ノ名、其條ヲ見ヨ〕 神供ノ稻米ヲ作ル田。[illegible] 宅、久良之宮ニ(神稻代ナルヲ、地名二字ノ制ニ因リ) [illegible] 加佐之宮」

くま-ぜみ (名) 熊蟬 〔熊ハ、大イナル意、蟬ノ(二)ヲ見ヨ〕 古名、ウマゼミ。蟬ノ一種、形ノ、最モ大ナルモノ、體ノ長サ一寸五分ニ至ル、身、黑ク、羽、透キトホリテ、[illegible]アリ、聲モ大ナリ、あきぜみヨリ少シ後レテ出ヅ。一名、オホゼミ。[illegible]

くま-そ (名) 熊襲 〔くまハ、肥後國、球磨郡ニ、其地名ヲ存シ、そハ、大隅國、贈於郡ニ存ス(曾ノ[illegible]ヲ引キテ、曾[illegible]トシ、二字ノ地名トス、木國ヲ、紀伊トスル、同ジ)古事記、上「熊曾國」景行紀、十二年九月「熊襲反之不朝貢」[illegible]〕 [illegible]セシ民族ノ稱。隼人ト稱スルモ、此族[illegible]年七月「隼人反之不朝貢」同、廿七年八月「[illegible]」

くま-たか (名) 熊鷹 〔熊ハ、大イナル意〕 鷹ノ類ニシテ、大ナルコト、常ノモノニ三倍ス、形、全ク、鷹ニ同ジクシテ、耳ノ上ニ毛アリテ、角ノ如シ、力、最モ猛クシテ、能ク、狐、狸、猿、兎、ノ類ヲモ捕フ。[illegible]

くま-つづら (名) ばべんさう(馬鞭草)ノ古名。[illegible] 名抄、同ジ」

くま-で (名) 熊手 〔熊ノ手爪ノ如シ〕 (一)武器、鎖ニ、鐵ノ爪アリテ、長キ柄ヲ添フ、敵ニ引懸クルニ用ヰル。[illegible] (二)又、落葉、穀物、ナドヲ搔キ寄スル具、頭ヲ、竹ニテ、扇ノ骨ノ如ク、末廣ニ作リ、尖、内ニ曲リテ、長キ柄アリ。[illegible]

くま-ど (名) 隈所 〔隱レタル所ノ義、くま(隈)ノ條ヲ見ヨ〕 物蔭ノ所。隱處。[illegible] モシホホニ、泣キシゾ思ユ」

くまどり (名) 隈取 (一)クマドルコト。ボカシ。陰影法。暈抹。(二)歌舞伎役者ノ、荒事ナドスル者ノ、顏ノ眼邊、頰ナドニ、種種ノ繪具ヲ以テ、種種ニ色取ルコト。略シテ、くま。筋くま、猿くま、[illegible]、紅くま、黑くま、ナド云ヒ、色ヲ以テ、[illegible]ナド云フ。[illegible] 花驗 三稜例通誌「顏ノくま名目」

くま-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 隈取 〔くまハ、隈ノ義、其條ヲ見ヨ〕 (一)彩色ニテ、際ヲボカス。ボカス。暈抹。[illegible] (二)くまどり(二)ヲナス。

くま-な・し (形) 前條ヲ見ヨ。

くま-の-い (名) 熊膽 (一)熊ノ膽、味、極メテ苦シ、健胃ノ藥トシテ、甚ダ效アルコトヲ云フ。熊膽 [illegible] (二)藥用ノ人參ノ古稱、其根、苦シ。又、かのこけいさ。其條ヲ見ヨ。[illegible]

くま-の-ごわう (名) 熊野牛王 ごわうほういん(牛王寶印)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くま-の-さんざん (名) 熊野三山 次條ヲ見ヨ。

くま-の-さんしよ-ごんげん (名) 熊野三所權現 紀伊國、東牟婁郡、熊野ノ地ナル本宮、新宮、那智、ノ三所ノ神社ノ稱、又、熊野三山トモ云フ。中古、僧徒ノ學ツ所トナリ、盛ンニ、本地垂迹ノ說ヲ唱ヘテ、本宮ヲ證誠殿ト稱シ、新宮ヲ兩所權現ト稱シ、那智ト併セテ、熊野三所權現ト稱ス、後ニ、末社ノ神、若王子、禪師宮、聖宮、兒宮、子守宮、ナド、凡ソ、九所ヲ加ヘテ、十二所權現トス。熊野ヨリ出ス牛王寶印ト云フモノ、名高シ。古來、熊野へ、上皇、女院ノ御幸、大臣以下ノ參詣アリ、庶人モ亦、盛ンニ到ル、熊野詣ト云フ、熊野比丘尼ナド云フモノアリ(其條ヲ見ヨ) 京都ヨリ、熊野ニ至ル途次、[illegible]所ニ、王子社アリ、御幸ノ時ニ、御休所ト[illegible]ニ、臨時ニ、熊野本社ヲ、[illegible]地ナリト云フ、地名ヲ冠シテ、某王子ト云ヒ、九十九王子ナド云ヘド、[illegible]、其少キヲ稱スルノミ、實數ニハアラズ。某王子、同日王子、藤代王子 [illegible] 謠曲、安宅「即心即佛ノ山伏ヲ、ココニテ討チトメタマハム事、云云、熊野權現ノ御罰ヲ當ラムコト、立チドコロニ於テ、疑ヒアルベカラズ」

くま-の-びくに (名) 熊野比丘尼 比丘尼ノ、弟子ヲ伴ヒテ、紀伊國ノ熊野三山ニ詣デテ、行ヲ勤ムルモノ。此者ドモ、後ニ、勸進比丘尼トモナル。[illegible] 野ニ參ル、此故ニ、熊野比丘尼ト名ヅク、其中ニ、聲ヨク、歌ヲウタヒケル尼ノアリテ、歌フテ勸進シケリ、[illegible]、亦、歌ヲウタヒケリ」

くま-の-まうで (名) 熊野詣 紀伊國ナル熊野ノ神社ニ詣ヅルコト (前前條ヲ見ヨ) [illegible]

くま-ばち (名) 熊蜂 〔熊ハ、大ナル意〕 やまばちノ一種、形、最モ大キクシテ、黑ク、腰ノ色、黃赤ナルモノ。クマンバチ 胡蜂 馬蜂 [illegible]

くま-びき (名) 九萬疋 〔善ク群ヲ成セバ名ヅクト云フ、或ハ云フ、多子ナレバ云フト〕 魚ノ名、しいらニ同ジ、多クハ、婚禮、又ハ、雛遊ナドニ用ヰテ、安産、多子ヲ祝ス。[illegible]「進上、云云、くまびき一オリ」

くま-びる (名) 熊蛭 〔熊ハ、大ナル意〕

ウマビル。水蛭ノ一種、甚ダ大キクシテ、三四寸アルモノ、梅雨ノ候ニ出ヅ。馬蜞

くま-まつり (名) 熊祭 蝦夷人、熊ノ兒ヲ捕ヘ、婦人、コレヲ乳育シ、三年ニシテ、コレヲ殺シテ、神ニ供フル祭。

〜くま-み (名) 隈邊 〔隈ト、接尾語、傍トノ條ヲ見ヨ〕 路端ノ空處。くまわ。 萬葉集、五八長歌「タマボコノ、道ノ久麻尾ニ、草手折リ、柴取リ敷キテ、床ジモノ、打チ臥イ伏シテ」

くまんばち (名) 熊蜂 〔くまばちノ音便、眞名、まんな。おのまま、おのまんま〕 くまばちニ同ジ。

〜くま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 分 〔配るト通ズ、隱る、なまる。暫、しばし〕 ワク。ワカツ。配ル。 古事記、上十訓分、云久麻理 神武紀、十年九月「武埴安彦、興兵忽至、各分道而、夫從山背、婦從大坂共入」 景行紀、四十年十月「日本武尊、從日向至ル、於是分道、遣吉備武彦於越國」

〜くま-わ (名) くまみニ同ジ。 萬葉集、二廿九「夢ニダニ、見ザリシモノヲ、オホホシク、宮出モスルカ、サヒノ隈回ヲ」

くま-わし (名) 熊鷲 〔熊ハ、大ナル意〕 鷲ノ一種、體ノ長サ二三尺、尾ノ本、白クシテ、に、黒キモノ、老イタルハ、頭ヨリ尾マデ、灰白ト、灰黑トノ斑アリ。イヌワシ。

くみ (名) 組 (一)〔組ミタル紐、綵。 字鏡七十「絛、組也、久彌」 神樂歌、採物、劍「イソノカミ、布留ヤ少男ノ、太刀モガナ、久美ノ緒垂デテ、都路通ハム」 靈、四十四、橘姫四十 袋、云云、細ソキくみシテ、口ノナヲ結ヒタルニ〕 (二)〔珮物ノ玉ヲ貫クモノ 綬 倭名抄、十四服玩具「綬、所以貫玉珮玉相承受也、久美、又、用組字」 (三)組合フベキ物ノ、揃ヒタルコト。對。「硯箱一組」 (四)合體シテ、一事ニ從フ人人。クミアヒ。ナカマ。團體。夥件。「白柄組、兵兒組、爲替組」 (五)軍兵ノ、一群ニナリタルモノ。隊。「弓組、鐵砲組」 (六)組唄(二)ノ略。

〜くみ (名) 胡頹子 〔くハ、黄ノ轉ニモアルカ(黄金、くがね)實ノ皮ニ、きらら色ノ斑アリ、小子ノ轉カト云フ說ハ、オボツカナシ、もろなりト云フハ、衆多成ニテ、實ノ繁キ故ノ名ナリト云フ說アリ〕 今、濁音ニ、ぐみト云フ、次次條ヲ見ヨ。モロナリ。 本草和名、下三十「胡頹子、久美」 倭名抄、十七菓類「胡頹子、久美、一云、毛呂奈里、本朝式、用諸生子三字」 大膳職式「備中國貢進菓子、諸成」

くみ (名) 苦味 ニガキアヂ。ニガミ。

ぐみ (名) 茱萸 〔前前條ノ語原ヲ見ヨ、一名、苗代ぐみヲ上略シタルニテ、濁音トナレルモノカ、常ニ、茱萸ノ字ヲ用ヰルハ、山茱萸ノ上略ナリ、倘、茱萸ノ條ヲモ見ヨ〕 古名、くみ。又、モロナリ。灌木、高サ六七尺、小枝多ク茂リテ、木瓜類ノ如シ、葉ハ、互生シ、橢圓ニシテ、波狀線ヲ有シ、面ハ、深綠ニ、背ハ、褐色、或ハ、白色ナリ、冬、枯レズ、故ニ多ク、庭際ニ植ウ、冬ノ末、白色ノ花ヲ開ク、二三蕊垂レテ、本ハ筒ノ如ク、末、分レテ四裂ス、香氣アリ、實ノ形、棗ノ如シ、長サ、五分許、熟スレバ赤ク、きららいろノ斑アリ、食フベシ、仲夏、田植ノ頃ニ熟スルガ故ニ、京都ニテハ、類名ニ對シテ、苗代ぐみノ名モアリ。胡頹子 別ニ、夏ぐみ、秋ぐみ、等、倘アリ、各條ニ注ス。 夫木抄、廿九、植「小山田ノ、たはらぐみノ、春過ギテ、我ガ身ノ色ニ、出デニケルカナ」 大和本草(元祿)十一、藥木「山茱萸、京都ノ方言、たはらぐみト云フぐみアリ、苗代スル時、實、熟ス、中華人云、是卽山茱萸也」 本草拾遺、胡頹子「李時珍曰、結實、小長、儼如山茱萸」 本草一家言、三「吳茱萸、食茱萸、山茱萸、雖名同、物各異也、和邦、訓茱萸爲久美、久美、故不識者、誤解三種、以爲久美之屬、非也、云云、山茱萸、宜訓爲久美、其他、吳茱萸、食茱萸、皆、椒屬也」(古事類苑、食茱萸)

くみ-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 組上 (一)組ミテ、積ム。「櫓ヲくみあぐる」 (二)組ミテ、成ル。「百本ノ紐ヲくみあげタリ」

くみ-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 組合 組ミテ、相合ハシム。取合ハス。交フ。 中外軍鑑、九、下、品第廿七「一万、二万、三万ノ人數迄ハ、御旗本ヲ守護シテ、一手ノ樣ニ備ヲ立テ、くみあはせテ、一戰ノスベヲ執行給フ」

くみ-あひ (名) 組合 (一)組合フコト。 (二)組合フ人人。ナカマ。團體。伴。 拾要抄、一、享保六丑年十一月「諸商人、諸職人、組合相極メ、月行事相立」 (三)互ニ、引キ組ムコト。摶闘 「相撲ノくみあひ」

くみ-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 組合 (一)互ニ、組ム。クミチガフ。 (二)相合シテ、一群トナル。仲間ニナル。與ス。與 「數町、組み合ふ」 (三)互ニ、引キ組ム。取組ム。摶闘 狂言記、文山賊「オノシト、ワレト、くみあふタ義勢ハ、エイ義勢デハナイカ」

くみいれ (名) 組入 (一)格天井ノ異名。約メテ、くみれ。 堤中納言物語、貝合「塗籠、云云、くみいれノ上ヨリ、フト、物ノ落チタラバ、云云」 辨内侍日記(建長)下「此御所中ノ、くみいれノ數ヲ、皆、數フベキ由ヲ承リテ、云云、數ヘ侍リシニ、釣殿ノくみいれノ、殊ニ多クテ」 大鏡、上、三條院「佛ノ御前ヨリ東ノ庇ニ、くみいれハセラレタルナリ」 爲忠百首、閨上霰「吹拂ヒ、荒レタル宿ハ、閨寐ノ、くみれノ上ニ、霰降ルナリ」 (二)後世ハ、格天井ノ格間ニ、小サク組ミタル格子形ヲ入レタルモノ。 (三)白木造リノ、小サク方ナル盆ノ如キモノ、大、小、組ミ入ルル如ク、入子ニ造ル、離シテ、供物ナド、盛ルニ用キル。

✤くみ-い・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 組入 加ヘテ、入ル。クミコム。

くみ-うた (名) 組唄 (一)三味線ノ小唄ヲ、ソクバク、組合ハセタルモノ。 嬉遊笑覽、六「組ト云フコトハ、三絃ノ曲ヨリ出デ、同ジ趣ノ小歌ヲ寄セ集メタルヲ、組ト云フナリ」 (二)筑紫琴ニモ移リテ、幾唱歌、幾曲ヲ集メテ、一組トシタルモノ。略シテ、くみ。八橋檢校城談、(貞享二年歿)越天樂ニ因リテ作レリト云フ。(春臺獨語) 蕗組ナド云フアリテ、コレヲ、表組六曲トス、後ニ、裏組三曲、中組一曲、奧組三曲、ナドアリ。(安永ノ箏曲大意抄) 後ニモ、新作多シ、筑紫琴、蕗組、ノ條ヲ併セ見ヨ。

くみ-うち (名) 組討 敵ト引組ミテ、首ヲ擊チ取ルコト。 太平記、八、持明院殿行幸六波羅事「赤松ガ勢ドモ、尙、御方ニ紛レテ、此中ニアリト覺ユルゾ、河ヲ渡シツル敵ナレバ、馬、物具ノ濡レヌハアルベカラズ、ソレヲ驗シニシテ、組討ニ打テ、ト呼ハリケル間」

くみ-おび (名) 組帶 (一)〔縒絲ニテ、平ニ組ミ成セル帶。禮服ニ用キラル。 絛帶 後世ノ束帶ノ、袴ノ上ニ垂ルル平緒ハ、此遺ナリト云フ。 衣服令、禮服「絛帶」 (二)丸打ノ太キ紐ヲ、帶トスルモノ。ナゴヤオビ。 好色一代男(天和、西鶴)二「男達、云云、袖下、九寸足ラズ、染分ノ組帶」

〜くみ-がき (名) 組垣 竹木ヲ組ミ編ミテ、

垣トシタルモノ。檜垣、韓垣、綾杉ナド、是レナリ。「武烈紀、前紀、大君ノ、八重ノ組垣、[illegible]」「[illegible]イトド夢エヌル、八重ノくみがき、造リカサネテ」

くみ-かけ（名）［組掛］組緒ノ掛緒。紙縒ノ[illegible]。[illegible]後鳥羽院、隨願御好ミユヘ、建久年中ヨリ始メテ出來ル事也、云云、近代ハ、尋常用ユル事ニナレリ」（後[illegible]）

くみ-がしら（名）［組頭］（一）弓組、鐵砲組、ナド、一隊ノ兵ノ長、又、與頭（[illegible]ノ音讀ナリ）部長。隊長。其兵ヲ、組ノ者、組下、組子、組衆、トモ云フ。部下。隊下。又、長ヲ寄親、兵ヲ寄子トモ云フ。甲陽軍鑑、八、品第十七、西面遠州三州江之御先一、山縣三郎兵衛、云云、此組衆、一、朝比奈駿河守、云云、[illegible]（二）地方ニテ、村寄、名主ノ次ノ職。（五人組ノ頭ノ義カ）丹波與作（寶永、近松作）中「庄屋、關屋、組がしら」

くみ-かは・す　ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［酌交］［くむ（汲）ノ條ノ（三）ヲ見ヨ］互ニ飲ム。差シツ押ヘツシテ、飲ム。（酒ヲ）[illegible]くみかはす

くみ-かは・す　ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［組交］くみあはす、組交、（他動）ニ同ジ。

くみ-か・へる　ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［組替］替ヘテ、組ム。改メテ、組ム。編改。[illegible]「くみかへる」

くみ-がみ（名）［組髪］[illegible]。辮髮ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。字鏡集「辮、クミガミ」世ノ太平ナルヲ、くみがみを解くト云フ。[illegible]「治マレル代ニハ、夷モ組髪をとくト云フ、くみ髪を、[illegible]ミルノ春ノ[illegible]、[illegible]、みかみ、辮髪ヲ云フナリ、えびす國ハ、亂レタル時ハ、髪ヲくみテ居ルナリ、治マレル時ハ、髪ヲ解ケリ、內[illegible]世ノ、[illegible]くみ髪をとくト云フ、ト云ヘリ」

くみ-こ（名）［組子］（一）支配下ノ者。組頭ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。（二）細ツキ材ヲ、方形ニ組ミ作レル、格子ノ如キモノ。「紙障子ノ組子」

くみ-こ・む　ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［組込］（一）入レテ、組ム。アミコム。「草鞋ノ藁ニ、麻絲ヲくみこむ」（二）人人ノ中ニ、加フ。クミイレル。「仲間ニくみこむ」

くみ-ざかな（名）［組肴］〔數品、組合ハセタル意カ〕口取肴ノ類。「[illegible]組肴、大[illegible]ト云フ、すゞりぶたものナリ」

くみ-し（名）［組師］組絲ヲ造ルヲ業トスルモノ。七十一番職人盡歌合、五十一番「組ミ、タクフクハ、此ノ頃、メス人モナキ、ウタテサヨ」

くみ-し・く　ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［組敷］撲ト引、組ミテ、下ニ敷ク。捍倒

くみ-した（名）［組下］支配下。配下。組頭ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

くみ-しゅう（名）［組衆］くみがしらノ（一）ヲ見ヨ。

くみ-し・る　ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［斟知］斟酌ケテ、知ル。クミハカル。クミトル。斟酌「其心ヲくみしる」

くみ・す　スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［與］〔組ヲ爲ス義、寇す、宿す〕方人トナル。クミアフ。[illegible]、五年二月「皇居不レ與ニ天[illegible]」字類抄「與、クミス」與みし易しト云フハ、相手にして、當りやすしノ意ナリ。「史記、[illegible]」

くみ-た・つ　ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［組立］組ミテ、作リ成ス。組織ス。結構。構成「[illegible]心ニ組み立つる、[illegible]」

くみ-たて（名）［組立］クミタテタルコト。構成

くみ-たて（名）［設立］〔立つハ、爲始ムル意、翻ヒヨ立つる、備リ立（へる）〕今、設ミタルバカリナルコト。[illegible]

くみ-た・てる（動）［組立］くみたつ（組立）ノ口語。

くみ-ちが・ふ　フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［組交］相交リテ、組ミ合フ。ブッチガヒニナル。交叉

くみ-ちが・ふ　フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［組交］組ミカハス。十字ニ組ム。ブッチガヒニスル。交叉

くみ-ちがへ（名）［組交］（一）クミチガフルコト。組ミカハシタルコト。交叉（二）馬ノ臀ノ上ニテ、鞦ノ、交叉ニ結バレタルトコロ。鞦ノ辻。盛衰記、廿一、小坪合戰事「唯一矢ニト志シ、云云、能引テ放ツ、畠山ガ[illegible]タル馬ノ當胸[illegible]ヨリ、鞦ノ組違ヘ、矢先白ク射出シ、馬ハ、屏風ヲカヘスガ如ク臥シケレバ」

くみ-チンキ（名）［苦味丁幾］〔ちんきノ條ヲ見ヨ〕橙皮、龍膽、ナドヲ、稀薄ナル酒精ニ溶カシテ製シタル水藥、味、苦シ、健胃劑トス。

くみ-ちゃう（名）［組長］人、一組ノ長。組合ノ長。

くみ-ぢゅう（名）［組重］組合ハセタル重箱。カサネヂュウ。

くみ-て（名）［組手］〔手ハ、人ノ轉〕敵ト組ミ合フ人。平治物語、二、義朝野間下向事「橘七五郎ハ、近國ニ無雙ノ大力ナレバ、組手ナルベシ」

くみ-てがた（名）［組手形］手形ノ紛失ナドニ備フル爲ニ振出ス、二通、若シクハ、三通ノ、連續セル、同文ノ手形。

くみ-てんじゃう（名）［組天井］格天井。てんぢゃうノ條ヲ見ヨ。

くみ-ど（名）［久美度］〔隱處ノ轉（假寢、くづま。籠、かたみ）くまハ、隱る意、寢たまふヲ、大殿ごもるト云フ、是レナリ、さハ、寢處ノとニテ、床ナリ、みとノまぐはひノとモ、同ジ〕隱リテ、寢ル處。寢處 ネドコ。寢所　古事記、上[illegible]「[illegible]、久[illegible]興而、生子水蛭子」（[illegible]始めてナリ、遘交シタマフナリ）神代紀、上[illegible]「[illegible]、稻田姬、[illegible]遘合而、生兒大己貴神」

くみ-と・む　ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［組留］引組ミテ、抑フ。太平記、廿三、大森彥七事「化物、組留めタリ、寄レヤ者ドモ」

くみ-と・る　ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［汲取］（一）汲ミテ、得ル。「水ヲ汲み取る」（二）推察シテ、承ケ引ク。クミハカル。クミワクル。斟酌ス。酌量　甲陽軍鑑、十九、品第五十三「信玄公御在世時より人の[illegible]、成程之事、クドク物ヲ御尋アリ、其人ノ心ヲくみとりナサルルコト、常ノ儀ナリ」「話ノ趣意ヲ汲み取る」

くみ-もの（名）［組者］組頭ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

一くみのを (名) [組緒] 太刀ノ組紐ノ下緒。「伊呂波字類抄、雑物、組緒」「イソノカミ、布留ヤ少男ノ、太刀モガナ、くみのを垂デテ、都路通ハム」 三代實錄、廿六、元慶六年九月、「撿非違使帶刀之緒、五位已上、用中… 六位已下、…用…組緒」

一くみはか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [酌量] 心中ヲ、オシハカル。クミトル。クミワクル 斟酌ス。 源、三十七、鈴蟲「思ヒ聞エタマフヲ、深ウモくみはかりタマハヌナメリカシ」

くみひも (名) [組紐] 絲ニテ、組ミ成セル紐。クミヲ。絛

くみぶくろ (名) [茱萸袋] 〔支那ノ桓景ノ、茱萸ニ因リテ、禍ヲ免レタル故事ニ因ル〕陰暦、九月、重陽ノ節ニ、袋ニ、茱萸ヲ入レテ携フルモノ、禍ヲ免ルトス。 公事根源、九月重陽、「御帳左右ニ、茱萸ノ袋ヲ懸ケ、御前ニ、菊瓶ヲ置ク」

くみほ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [汲乾] 汲ミテ、盡ス。 夫木抄、三十五「伊勢ノ海、蜑ノマテガタ、行キカヘリ、くみほす潮ノ、…ナク程ヒツツ」「井ノ水ヲ、くみほす」

ぐみん (名) [愚民] オロカナルタミ。無智ナル下民。 漢書、張釋之傳「愚民、取二長陵一抔土一」

くみめ (名) [組目] 組ミ結ビタルトコロ。 新六帖、五「下結年經トモ、ヨモ絶エハテジ、下カツラ、結ブ、みのノ、長キ契リハ」「組ノ組目ガ解ケル」

くみもの (名) [組物] 手藝ニ、絲ナドニテ、種種ノ物ヲ、組ミ作ルコト。

くみやしき (名) [組屋敷] 江戸時代、與力組、同心組、ナドノ者ノ、一處ニ集リテ住居セル屋敷 京都御役所向大概覺書、一「京都…、組屋敷、明屋敷之事」

くみれ (名) [組入] くみいれノ條ヲ見ヨ。

くみわ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [汲分] (一)汲ミテ、別ノ器ニ移ス 「汁ヲ、くみわく」 (二)推察シテ、是非ヲ分ツ。クミハカル。クミトル。酌量。斟酌 「情ヲ汲ミ分ク」

くみを (名) [組緒] くみひもニ同ジ。

く・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [組] 〔文條ノ語ノ(二)ノ、自動トナルモノ〕 (一)互ニ、手ニ手ヲ取リテ、抑フ。トリクム。相抱持 搏 保元物語、一、白河殿攻落事、「駿河ヤ、若ドモ」 (二)事ヲ成サムト、共ニナル。仲間ヲ作ル。與ス。與黨

く・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [組] (一)細ソキ物ヲ、二筋、三筋、打違ヘニ絡ヒ、又、織ル。アザナフ。編ム。 拾遺集、七、物名、こにやく(蒟蒻)「野ヲ見レバ、春メキニケリ、青葛、籠ニヤくまマシ、若菜摘ムベク」「紐ヲ組む」 (二)一交フ。打違フル。交叉 字鏡、七十「拱、手足久弱天打二膝ヲ組む」「手ヲ組む 手ニ手ヲ組む」 (三)打違ヘニ構ヘ作ル 構造 萬代集、十六、雜、「三遠近ノ、宮木ヲ、引寄セテ、杣山川ニ、筏くむナリ」「梁ヲ組む」「櫓ヲ組む」 (四)別ケ合ハス。編成 「隊伍ヲ組む」

く・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [汲] 〔組むニ通ズ、水、能ク物ニ交ハル意、汲むヲ、むすベバトモ云フ(倭訓栞)〕 (一)〔分ケテ、スクヒトル。ムスブ。シャクフ。 天治字鏡、十ニ「挹、酌也、太久云」 (二)〔推シ量ル。思ヒヤル。クミハカル。クミトル。斟酌ス。酌量 六帖、三「思フトハ、何ヲカサラニ、いはむみづ、心ヲくみテ、人ハ知ラナム」夫木抄、二「解ケソムル、岩谷水ノ、ケシキニテ、春立ツコトノ、くまレヌルカナ」 (三)酒ヲ飲ム (漢語ノ酌ノ訓讀語ナラム) 酌 新後拾遺集、「…酌」「三盃酌む」

くん (名) [君] キミ。(人名ノ下ニ添ヘテ、敬稱トス)、「某君」

くん (名) [訓] (一)漢字ノ意義ヲ、解釋スルコト。訓詁。訓釋。訓義。 字彙「訓、如下某字釋作二某義一其義以説之也上」字典「訓詁、注解之別名」 (二)漢字ニ、和語ヲ當テテ、讀ムコト。クニ。ヨミ。和訓。訓讀。(音ノ條ノ(三)ヲ見ヨ) 譯

くん (名) [勳] (一)イサヲ。テガラ。勳功。 書經、大禹謨篇「爾尚一乃心力、其克有勳」 (二)勳位。(其條ヲ見ヨ) 軍防令「凡、行軍敍勳、定滿、每一隊、以二先鋒者一爲二第一一」 續紀、三十一、寶龜二年十月戊辰、詔、充二越前國從四位下勳六等劒神、食封廿戸、田二町一」「勳一等」「勳三等」

一ぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (動詞態、接尾) 物ノ兆候、又ハ、含蓄ノ狀ヲ云フ語。 後拾遺集、一、春、上「難波潟、浦吹ク風ニ、浪タテバ、ツノぐむ蘆ノ、見エミ見エズミ」 古事記、下(仁德)「山ヤマシロノ、ツツキノ宮ニ、モノ申ス、アガセノ君ハ、涙具麻シモ」 菩開集、十八、飲食「瓜ヲ取出タリケルガ、ワルク成テ、水ぐみタリケレバ」 新古今集、廿、釋教「朝日サス、峰ノツツキハ、芽ぐめドモ、マダ霜フカシ、谷ノカゲ草」

ぐん (名) [軍] (一)ツハモノ。軍勢。兵隊。 左傳、昭公五年「使三晏伯與二子元一將二軍事一其後一」 菩聞集、九、武勇、源頼義、十二年ノ合戰後、夫、軍、野ニ伏ス時ハ、飛雁、列ヲヤブル」 (二)イクサ。タタカヒ。軍事。

ぐん (名) [郡] (一)コホリ。 孝德紀、大化二年正月甲子朔、凡、郡、以二四十里一爲二大郡一、三十里以下、四里以上爲二中郡一、三里爲二小郡一」 (二)モト支那ニテハ、州ノ下ニテ、數縣ヲ統ブル地界ノ稱。

ぐん (名) [群] 〔群ハ、羣ノ俗字〕 ムラガリ。アツマリ。多數 群集。 禮記、檀弓、上「吾離レ群而索居、亦已久矣」 宋書、王華傳「才… 拔レ群」 梁簡文帝、何徵君墓誌「卓居成レ群」 臨濟記、三十五、廊類、… 京入事「群ニ拔タル高名」

ぐんい (名) [軍醫] 陸海軍ノ醫官。

くんいう (名) [薰蕕] 〔說文「薰、香草也」字典「蕕、臭草也」〕 ヨキモノト、アシキモノト。善人ト、惡人ト。 孔子家語、致思篇「薰蕕不レ同レ器而藏、堯桀不レ共レ國而治、以其類異一也」 大學衍義「白黑相和、黑必辨レ白、薰蕕共レ器、蕕必辨レ薰」 十訓抄、中、第五、序「ハカナク打チ語ハム友ナリトモ、ヨク、其人ヲ擇ブベシ、薰蕕、器ヲ異ニスベシト也」

くんいく (名) [訓育] (一)ヲシヘ、ソダツルコト。 (二)品性ノ訓練ニ關スル教育。

ぐんえい (名) [軍營] 軍隊ノ營所。陣屋。兵營 陣營 盧綸詩「亂山臨二野戍一、落日照二軍營一」 軍防令「凡軍營門、恒須二嚴警一、呵二出入一」

ぐんえき (名) [軍役] (一)軍役ニ同ジ。 (二)イクサ。タタカヒ。戰爭。 史記、蘇秦傳「三軍之良、五家之兵、進如二鋒矢一、戰如二雷霆一、解如二風雨一、卽有二軍役一、未レ嘗倍二泰山一」

くんおん (名) [君恩] キミノメグミ。皇恩。 李商隱、宮詞「君恩如二水向一レ東流」

ぐんか (名) [群下] 多クノ、支配下ノ者ドモ。 詩經、小雅、彤弓之什、吉日篇、序疏「以二恩惠一接二及群下一」 太平記、十七、官軍方方相圖事「主上、龍顏麗シク、群下ヲ照臨有テ」「恩、群下ニ及ブ」

ぐんか (名) [軍歌] 進軍、又ハ、凱旋ノ時ナドニ唱フル歌、多クハ、軍事上ノ壯烈ナル事柄ヲ詠ズ。

ぐんが (名) [郡衙] (一)郡司ノ廳。(國衙ノ(一)ニ對ス) (二)郡役所。

くんかい (名) [訓誡] 〔正韻「訓、誨也」〕 ヲシヘ、イマシムルコト。訓誨。教誡 「將來ヲ訓誡ス」

くんかい (名) [燻蓋] 火舍ノ上ノ蓋。[illegible]

ぐんかう (名) [軍港] 軍備ノアル港。海軍ノ鎭守府ノアル港。

ぐんかう (名) [群行] (一)ムラガリテ、ユクコト。[illegible]「群行者二十里」 (二)齋王ノ、野宮ニテ、潔齋ヲ終ヘテ、伊勢ヘ下向シタマフ時、行フ儀式。[illegible]「野宮ニ儀」

くんかう (名) [illegible] 多クノ[illegible]

ぐんがく (名) [軍學] (一)軍事ノ學問。兵學。軍法。[illegible] 博士等、教習[illegible]ト云フコトアリ。 (二)江戸時代ノ初ヨリ、軍學者ト云フモノ起リテ、[illegible]ヲ唱ヘテ、軍勢ノ陣立、武器ノ製造、築城ノ術ナド、各、其方法ヲ立テテ、教ヘタリ、越後流、信玄流(甲州流)、北條流、山鹿流、ナド云フ、是レナリ。明良洪範、十一「山鹿某、軍學、諸流ヲ發學シテ、一統ヲ爲シ」

ぐんがく (名) [軍樂] 軍隊ニ用ヰル音樂。

ぐんがくしや (名) [軍學者] 軍學ニ通ジタル人。兵學者。

ぐんかん (名) [軍監] (一)軍事ヲ監督スル職。[illegible] (二)ぐんげん(軍監)ノ條ヲ見ヨ。軍防令「凡將帥出征、兵滿一萬人以上、云云、軍監二人」

ぐんかん (名) [軍艦] イクサブネ。兵船。[illegible]

ぐんかんき (名) [軍艦旗] 軍艦ニ揭グル、表彰ノ旗。我ガ國ノハ、日ノ丸ニ、八方ニ射ル十六條ノ光ノ象ヲ出ス。

ぐんかんぶぎやう (名) [軍艦奉行] 德川幕府ノ職名、海軍ノ長。[illegible]

くんき (名) [勳記] 敍勳ノ證書。(位記ニ對ス)

くんぎ (名) [訓義] くん(訓)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ

ぐんき (名) [軍毅] 軍團ノ將。(ぐんだんノ條ノ(一)ヲ見ヨ)

ぐんき (名) [軍記] 軍中ノ記錄。戰記。「軍記物」

ぐんき (名) [軍紀][軍規] 軍隊ノ紀律。軍中ノ規則。「軍紀ヲ嚴肅ニス」

ぐんき (名) [軍氣] 軍隊ノ意氣。兵氣。「軍氣沮喪ス」「軍氣ヲ鼓舞ス」

ぐんき (名) [軍器] イクサダウグ。軍用ノ器具。兵器。唐書、百官志「軍器出[illegible]十」軍防令[illegible]

ぐんき (名) [軍機] イクサノカケヒキ。軍事上ノ機密。[illegible]

ぐんき (名) [軍旗] 陸海軍ニ用ヰル旗、[illegible]、陸軍ノ聯隊旗、大隊旗、海軍ノ軍艦旗ノ類。軍旗下賜ノ日、又ハ、戰勝記念日ナドニ行フ祝典ヲ、軍旗祭ト云フ。

ぐんきさい (名) [軍旗祭] 前條ヲ見ヨ。

ぐんきしよ (名) [軍機處] 支那、清朝ノ世ニ、軍機ヲ掌レル官。塞外經略ノ際、軍機ノ漏ルルヲ慮リテ、雍正年間ニ創置シ、乾隆ニ至リテ完成ス、大臣ハ、內閣ノ大學士、各部ノ尙書侍郞ヨリ、優秀ノ材ヲ拔擢シテ任ジタルガ、後ニハ、次第ニ、他ノ重要政務ヲモ行ヒ、終ニ、內閣ノ實權、全ク、此官ニ移レリ。

ぐんく (名) [軍區] 陸海軍ニテ、軍務上ノ所用ニテ立テタル區域ノ地。

✣ぐんぐん (副) ぐいとノ條ヲ見ヨ。

くんくわい (名) [訓誨] ヲシヘ、ミチビクコト。訓戒。教誨。[illegible]

ぐんくわい (名) [郡會] 郡ノ議會。

ぐんけ (名) [郡家] ぐうけ(郡家)ノ條ヲ見ヨ。

くんげん (名) [訓言] 古人ノ、訓誨ノコトバ。「先哲ノ訓言」

ぐんけん (名) [郡縣] コホリ。アガタ。(封建ノ條ヲ見ヨ) [illegible]

ぐんげん (名) [軍監] 古ヘ、鎭守府、及、征夷使ノ判官。[illegible]

くんこ (名) [訓詁] (訓ノ條ノ(一)ヲ見ヨ、[illegible]) 古キ漢語ノ意義ノ解釋。又、訓詁、支那、漢代ノ儒者ハ、專ラ、經典ノ訓詁ヲ明カニスルヲ務メタリ、因リテ、ソレヲ、宋代ノ儒者ナドハ、訓詁學ト稱シタリ。[illegible]

くんこう (名) [君公] キミ。主君。殿樣。

くんこう (名) [勳功] (周禮、司勳篇「王功曰勳、國功曰功」) イサヲ。テガラ。[illegible]

ぐんこう (名) [軍功] イクサノテガラ。軍忠。武勳。[illegible]

ぐんこう (名) [群口] 多クノ人ノ言フコト。衆口。

くんこうぶぎやう (名) [勳功奉行] おんたくぶぎやうノ條ヲ見ヨ。

くんこがく (名) [訓詁學] 訓詁ノ條ヲ見ヨ。

くんこく (名) [君國] 君ノ、知シメス國。君主、國家。[illegible]

ぐんこく (名) [軍國] (一)軍事ト、政事ト。[illegible] (二)國ノ、戰爭ノ世ニアルコト。交戰中ノ國。[illegible] (三)近來ハ、軍備ヲ爲政ノ要務トス、トヤウノ意ヲ、軍國主義ナド云フ。

ぐんこくしゆぎ (名) [軍國主義] 前條ノ(三)ヲ見ヨ。

ぐんさう (名) [軍曹] (一)古ヘノ鎭守府ノ主典。[illegible] (二)今ノ陸軍ニ、下士ノ官。

ぐん-さう (名) 【軍装】 イクサノヨソホヒ。軍陣ニ用キル服装。武装。戎装。蘇軾詩「軍装藥、詩殺」

❖くんさ・る (動) 下さるノ轉訛。俚言集覽、くんさ二奴 詞也、被レ下ト云フコト、二君、トマノテくんさるナラ、ナド云フ」

くん-し (名) 【君子】 (一)德ノ備ハレル、大人ノ稱。論語、學而篇「人不レ知而不レ慍、不二亦君子一乎」注「君子、成徳之名」 (二)高位、高官ノ賢者。論語、顏淵篇「君子之徳風、小人之徳艸、艸尚二之風一必偃」書經、大禹謨篇「君子在レ野、小人在レ位」

くん-じ (名) 【訓示】 (一)ヲシヘ、シメスコト。訓諭。(二)特ニ、上官ノ、部下ニ對スル、執務上ノ注意。「大隊長ノ訓示」

くん-じ (名) 【訓辭】 訓誡ノコトバ。左傳、僖公七年「綏レ之以レ德、加レ之以二訓辭一」

〔くん・じ (動) 【屈】 くッす(屈)ノ條ヲ見ヨ。

ぐん-し (名) 【軍士】 イクサビト。軍人。兵士。後漢書、皇甫嵩傳「其夕遂大風、嵩乃約二敕軍士一」續紀、十三、天平十二年十月壬戌「常人(佐伯宿禰)等、率二軍士六千餘人一、陣二于河東一」

ぐん-し (名) 【軍師】 戰爭ノ軍機ヲ謀ル人。軍者。參謀。後漢書、岑彭傳「南陽大人可二以用一、乃貴二寵武一尋以二爲軍師一」三國志、蜀志、成都平、以二亮爲一軍師將軍一 諸葛亮 貞丈雜記、三「古ヘハ、大將ノ外ニ、軍者ト云フ者、別ニ無カリシナリ、武田信玄ノ家臣、山本勘助ヨリ、軍者ト云フコト始マルカ、何流、彼流ノ軍法ト云フ事モ、近代ノ事也」

ぐん-し (名) 【軍使】 (一)使番。傳令使。陰德太平記、五、毛利元就夜討之事「亂レ立タル諸陣ヘ、軍使ヲ以テ下知シケルニゾ」(二)使命ヲ受ケテ、敵陣ニ赴ク人。「旅順勸降ノ軍使」

ぐん-し (名) 【軍資】 軍事ニ、必要ナルモノ。軍需。後漢書、袁紹傳、軍資委積、前後不レ絶」晉書、官帝紀「內鎮二百姓一、外供二軍資一」軍防令、義解「凡甲二刺海一云云、軍資、云云(軍資謂、粮食牛馬之屬也)」

ぐん-じ (名) 【軍事】 イクサノコト。軍務ニカカハルコトガラ。兵事。韓非子、外儲說、左、下篇「卿必有二軍事一」唐書、百官志「法曹司レ法、參二軍事一」

ぐん-じ (名) 【郡司】 (一)コホリノツカサ。古ヘ、一郡ヲ統治スル官。其政廳ヲ、郡家ト云フ。(元ノ郡長、郡役所、ノ如シ)四等ノ官ハ、大領、少領、主政、主帳、ナリ、大郡、上郡、中郡、下郡、小郡、ニテ、人員ニ差アリ。郡司ヲ選任スル時ハ、國司、先ヅ、候補者ヲ立テテ、上申シ、式部省ニテ試問シ、及第シタル者ヲ任ズ、コレヲ、擬郡司ト云フ。大領ヲ、おほいさほりのみやつこト云ヒ、少領ヲ、すけのみやつこト云フ。續紀、一、文武天皇二年三月「筑前國宗形、出雲國意宇、二郡司、云云、任二諸國郡司一、因詔、諸國司等、銓二擬郡司一、勿レ有二偏黨一云云」 (二)專ラ、大領ノ稱。宇治拾遺、九、第一條「郡ノ司ニ宿ヲ取レリ、主ノ郡司ハ、云云」

〔くんじ-いた・し (形) 【屈甚】 くッしいたし(屈甚)ノ條ヲ見ヨ。

くんし-こく (名) 【君子國】 〔民族、醇良ナルコト、君子ノ如キ國ト云フナルベシ〕我ガ日本國ノ美稱。淮南子、地形訓「東方有二君子之國一」山海經、海外東經「君子國在二其北一(九州ノ北)衣冠帶劍、其人、好レ讓不レ爭」續紀、三、慶雲元年七月「唐人謂二我使一曰、亟聞、海東有二大倭國一、謂二之君子國一、人民豐樂、禮義敦行、今看二使人一、儀容太淨、豈不レ信乎」(遣唐使粟田眞人)

くんし-じん (名) 【君子人】 君子ノ如キ、德高キ人。論語、泰伯篇「臨二大節一而不レ可レ奪也、君子人與、君子人也」

ぐん-しふ (名) 【群集】 くんじゅ(群集)ニ同ジ。增續韻府「有レ燕群集」

くん-しん (名) 【君臣】 きみト、おみト。主君ト、臣下ト。易經、序卦「有二父子一然後有二君臣一、有二君臣一然後有二上下一」十訓抄、中、第六、十四條「菅家、云云、君臣ノ禮ハ、忘レ難ク、魚水ノ契モ、忍ビ得ズヤ覺エサセ給ケン、云云」

ぐん-しん (名) 【群臣】 群レ居ル臣下。多クノ臣。中庸、廿章「體二群臣一則士之報禮重」十訓抄、中、第六、第六條、但馬毛理「帝、群臣ニ仰セテ、云云」

ぐん-じん (名) 【軍人】 イクサビト。イクサニン。軍ニ出ヅルヲ職務トスル人。陸海軍ノ兵籍ニアル人ノ總稱。鶡冠子「軍人舉レ法、戰士忘レ身」軍防令「凡、大將出レ征、云云、諸費用、軍人兵馬甲仗、見在損失」

ぐん-じん (名) 【軍神】 いくさがみヲ見ヨ。

ぐんじ-めし (名) 【郡司召】 郡司ヲ敍任スル式。貞信公記、延喜十九年六月廿八日「郡司召」

ぐん-しや (名) 【軍者】 軍師ノ條ヲ見ヨ。

くん-しやう (名) 【勳章】 勳等ノ徽章。菊花章、旭日章、瑞寶章、等アリ、菊花章ノ外ハ、各、一等ヨリ八等ニ至ル。軍人ニ賜ハルヲ、金鵄勳章ト云フ、功一級ヨリ七級ニ至ル。又、婦人ニ賜ハルヲ、寶冠章ト云フ、亦、一等ヨリ八等ニ至ル。

くん-しやう (名) 【勳賞】 勳功ノ賞賜。軍防令「凡、申二勳簿一云云、勳賞(謂、下、臨時聽レ勅)」

くん-じやう (名) 【君上】 キミ。主君。韓非子、難三篇「君上者、臣下之所レ爲レ飾也」

くん-じやう (名) 【勳狀】 勳功ノ褒狀。感狀。軍防令、義解「凡申二勳簿一云云、勳狀(謂、下文、官軍以下、戰處以上、皆具錄申、是爲二勳狀一也)」

ぐん-じやう (名) 【群青】 (空青ノ音便、漢、かん。强盜、がんだう) 礦物ノ名、繪ノ具トス、色、そらいろニシテ、濃ク、紺青ヨリ稍淡キモノ、今、紺青ノ細末ノ水飛ノ滓ヲ僞リテ用キルモノ、多シ。空青 白青

くん-しやく (名) 【訓釋】 〔くん(訓)ノ(一)ヲ見ヨ〕 字訓ノ解釋。漢字ノ音義ヲ、說キアカスコト。

くん-しゆ (名) 【君主】 キミ。帝王。主君。

くん-しゆ (名) 【葷酒】 僧家ニテ、五葷ト、酒トノ稱、コレヲ飲食スルヲ戒ム。莊子、人間世篇「回之家貧、唯不レ飲レ酒、不レ茹レ葷者、數月矣、若レ此則可三以爲二齋乎一」「不レ許二葷酒入二山門一」

くん-じゆ (名) 【群集】 多人數、群リアツマルコト。群集。盛衰記、四十八、女院六道廻物語事「萬人ノ群集ハ、門前ニ市ヲ立ツルニ異ナラズ」「老若男女、くんじゆシテ」

ぐん-しゆ (名) 【郡守】 一郡ノ太守ニテ、元ノ、郡長ノ如キモノ。漢書、百官公卿表「郡守、秦官、掌レ治二其郡一秩二千石、云云、景帝中元二年、更名二太守一」

ぐん-じゆ (名) 【軍需】 軍事上ノ需用。軍用ニ必要ナルモノ。軍資。其料ノ物ヲ、軍需品ト云フ。十六國春秋、南涼錄、禿髮利鹿孤傳「課二農桑一以供二軍需一」

ぐん-しゆう-しんり (名) 【群衆心理】 人氣ノ立チタル時、心アル者モ、心ヲ失ヒ、其勢ニツリコマレテ、共ニ動クコト。多人數ノ雷同心。

くんしゆ-こく (名) 【君主國】 君主政治ノ國(共和國ナドニ對ス)

くんしゆ-せいぢ (名) 【君主政治】 一人ノ

君主ノ、一國ヲ統治スル政體。專制ト、立憲トノ別アリ。(共和政治ニ對ス)

ぐん-じゅつ (名) 軍術 兵學ヲ見ヨ。

ぐんじゅ-ひん (名) 軍需品 ぐんじゅ(軍需)ノ條ヲ見ヨ。

ぐん-しょ (名) 軍書 戰陣ノ事ヲ記セル書。軍記。軍史。 諸書、下學集、[illegible] 支那ノ[illegible]ヨリモ、[illegible]吉野山

ぐん-しょく (名) 軍職 陸海軍ニ關係スル職。 宋史、[illegible]

ぐんしょ-よみ (名) 軍書讀 たいへいきよみノ條ヲ見ヨ。

くむ-しら (名) 隈 (くむハ、くま(隈)ノ轉(隈處、くみど)隈ヲ活用セシメテ、くむしき卜云フ(眞しき、大人しき)奥深キ意ノ語アリテ、其終止形ニ、らノツキテ、賢しら、わびしらナドト同ジ成立ノ語ナルベキカ、おきス(奥)、まほら、まほらま、まほろば、共ニ、同意ノ語ナリ) 山山ニ圍マレテ、隈リタル平地ノ稱ナルベシ。 天智紀、元年十二月、[illegible] [illegible]之上[illegible] [illegible] 「國ニ夫敵傍山東南[illegible]原地之香、[illegible]、[illegible]之壤[illegible]乎、可レ治レ之」(壤語ニ、壤、陝、共ニ、音、與、音、[illegible]ノ二音アリテ、[illegible] [illegible] [illegible]土[illegible] トアリ) [illegible] 抄、十、作毛部、[illegible]ヲ、くしらト讀メルハ、常ニ人ノありくしらまト云フ語ナルベシ」

クン-ズ (名) 裙子 (字ノ宋音、[illegible]ノ語) コシゴロモ。

くん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 薫 カヲル。ニホフ。 [illegible]花物語、[illegible]七、[illegible] [illegible]ニ、イロイロノ、[illegible]ノ香トモヲ焚カセタマヘレバ、異香、くんじタリ」

くん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 薫 薫ラス。[illegible]ハス。 [illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、香ヲ焚キ、[illegible]ヒケル

くん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 訓 和語ニ當テテ、讀ム。(訓讀ノ條ノ(二)ヲ見ヨ)

くん-ず 動 屈 くっす(屈)ノ條ヲ見ヨ。

ぐん-すゐ (名) 軍帥 (廣韻「帥、所類切、將帥也」) 軍ノ大將。將軍。 左傳、宣公十二年[illegible]

くん-せい (名) 燻製 豚、鮭、ナドノ肉ヲ、燻ベ固メテ、臘乾ニシタルモノ。

ぐん-せい (名) 軍政 軍事ノ政務。 左傳、宣公十二年「百官象レ物而動、軍政不レ戒而備」 後漢書、黃香傳、[illegible]軍政、皆得二其宜一

ぐん-せい (名) 軍制 軍事ノ制度。 五代史、[illegible]、[illegible]立二軍制一、[illegible]將校、兵、[illegible]法」 [illegible]院[illegible]二、七、安政元年七月廿四日、[illegible]軍制、御[illegible]正[illegible]出[illegible]、右[illegible]可二相[illegible]旨、伊勢守申[illegible]之」

ぐん-ぜい (名) 軍勢 (一)イクサノイキホヒ。 三國志、魏志、王[illegible]傳、[illegible]以[illegible]其軍勢、[illegible]其外[illegible]也 [illegible] [illegible]軍勢[illegible]」 (二)軍ニ從フ、一群ノツハモノ。軍隊。略シテ、勢。兵衆。 太平記、十二、公家一統政道事「可レ有二[illegible]ト」テ、[illegible]院[illegible]門[illegible]世[illegible]ヲ[illegible]上[illegible]ニ、[illegible]ノ軍勢、其勢、[illegible]」

ぐん-せう (名) 群小 多クノ小人。 詩經、[illegible]、[illegible]心[illegible]、慍二于群小一 晉書、張重[illegible]、[illegible]、[illegible]小[illegible]」

くん-せき (名) 捃摭 ヒロヒ、トルコト。ヒロヒ、集ムルコト。 史記、十二[illegible]年表、[illegible]、[illegible]之[illegible]、[illegible]、[illegible]捃摭[illegible]之文、以著二書」

ぐん-せき (名) 群籍 多クノ書籍。種種ノ書物。 晉書、[illegible]傳[illegible]、博覽二群籍一、老[illegible]

ぐん-せき (名) 軍籍 軍人ノ屬籍。兵籍。 [illegible]、[illegible]、[illegible]

くん-せん (名) 薫染 (一)香ノ、移ルト、染マルト。(二)他ノ影響ニヨリテ受クル感化。感染。 程子、[illegible]、[illegible]、使[illegible]染[illegible]成レ性」

ぐん-せん (名) 軍扇 大將ノ、軍勢ヲ指揮スルニ用キル扇。骨ハ十二本、親骨ニ、猶閉ヲスカシ、共ニ、黑漆ニ塗リ、地紙ニ、表ニ、日輪ヲ出シ、裏ニ、月、星、ナドヲ出ス、爪 紅ニシタルモアリ。

くん-せん-し (名) 君仙子 安本ノ實 (藥種屋ノ稱)

くん-そく (名) 君側 キミノカタハラ。主君ノオソバ。君邊。 禮記、曲禮、上篇「刑人不レ在二君側一」「君側ノ奸ヲ除ク」

ぐん-ぞく (名) 軍屬 陸海軍ニ出仕スル文官、及、雇員、等ノ稱。

ぐん-そつ (名) 軍卒 ツハモノ。軍兵。卒伍。 [illegible]

くん-たい (名) 裙帶 (說文「裙、下裳也」) くたいハ、くんたいノ略、又、かもん、本尊、ほぞん) 又、くたい。貴婦人、正裝ノ具、帽廣キ紐ノ如キモノ、腰ニ結ビテ垂レ、末ハ、地ヲ曳キタルモノノ如シ、肩ノ領巾ト對ス、後世ノ引腰、引帶、ト云フモノ、此遺ナリト云フ。 白氏文集、廿三[illegible]、[illegible]、此[illegible]、[illegible]、如字 [illegible]、六、五十[illegible]「[illegible]」[illegible] [illegible] 一[illegible]心結」 [illegible]抄、十二 「御テウヅバンノ釆女、青裾濃ノ裳、くんたい、領巾ナドシテ」 同、五、四十六段「赤紐ノ色ニハアラヌヲ、領巾、くたいナドシテ」 庭訓往來、八月「巫、八乙女者、曳二裙帶一、舞二遊透[illegible]二」

ぐん-たい (名) 軍隊 軍兵ヲ、一群ニ組立タルモノ。小隊、中隊、大隊、聯隊、旅團、師團、ナド、是レナリ。

ぐん-だい (名) 郡代 (郡ノ代官ノ意ナリト云フ) (一)武家時代ノ地方官ノ稱。 公方樣正月御事始之記、永正十一年三月七日「豐田紀伊國之郡代ヲ持タル時、公方樣、能野御[illegible]」 (二)德川幕府ニテハ、凡ソ、十萬石以上ノ直領ヲ支配スル職、代官ノ上ニアリキ。 [illegible]、[illegible]、五、[illegible]、年[illegible]月十[illegible]日「關東郡代伊奈半十郎忠治ハ、玉川水道奉行ヲ命ゼラル」

ぐん-たい (名) 軍代 陣代ニ同ジ。

くん-たう (名) 薫陶 (揚子方言「陶、養也」廣韻「化也」) 火ニテ物ヲ薫ジ、粘土ヲ燒キテ器ニ化セシムル意) 人ヲ、訓育、敎化スルコト。 宋史、[illegible]傳、[illegible]今、夫、人民善敎、其子弟[illegible]、必[illegible]名德[illegible]使[illegible]、之[illegible]、以二薫陶成レ性」

くん-だう (名) 訓導 (一)ヲシヘ、ミチビクコト。敎導。 南史、[illegible]山[illegible]傳、[illegible]、[illegible]其有[illegible]之[illegible]二 (二)小學校ノ正敎員。

ぐん-たう (名) 軍刀 イクサガタナ。軍陣ニ用キル刀。陣刀。

くん-だん (名) 涒灘 申ノ年ノ異名。 爾雅、[illegible]天「[illegible]在二申一曰二涒灘一」

ぐん-だん (名) 軍團 (軍防令、抄「軍、兵士也、軍團、團、聚兵之義也」) (一)古ヘ、軍隊ヲ組立テラレシ所、諸國ニ數所アリ、國トノミモ云ヒキ。正丁ノ中ヨリ取リ、軍事ヲ習ハス、千人以上ヲ大トシ、六百人以上ヲ中トシ、五百人以下ヲ小トス、軍毅ノ大毅、少毅、校尉、等、コレヲ率ヰ、戰時ノ大軍ニハ、將軍、副將軍、コレヲ統ベ、軍監、軍曹、アリ、[illegible]

百官志「卒伍軍團之名數、器械車馬之多少」 字類抄「軍團、グンタム、イクサノツカサ」 享祿本、類聚三代格、十八、元慶ノ太政官符「七團軍毅」 職員令「軍團、大毅一人、掌ニ檢ニ校兵士ハ充ニ備戎具ハ調ニ習弓馬ハ簡ニ閲陣列ニ事ハ少毅二人、掌、同ニ大毅ニ」 續紀、十、神龜五年四月「陸奧國請、新置ニ白河軍團ハ又、改ニ丹取軍團ハ爲ニ玉作軍團ハ並許ニ之」 出雲國風土記「意宇軍團」「熊谷軍團」「神門軍團」 正倉院文書、三十五、周防國、天平十年正稅帳「長門國豐浦團」 (二)今ハ、數箇師團ヲ合ハセテ、一司令官ノ、コレヲ統ブルモノ。

ぐん-だん (名) 軍談 戰陣ニ係リタル話。軍談師ノ語ル話。演史。

ぐんだん-し (名) 軍談師 〔太平記讀ノ條ヲ見ヨ〕人ヲ集メテ、軍談ヲシテ、錢ヲ得ルヲ生業トスル者。講釋師。演史家。

くんだり (名) 下 くだり(下)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。

グンダリ-ヤシャ (名) 軍荼利夜叉 〔梵語、軍荼利(Kundali)甘露瓶ノ意、甘露水ヲ以テ、衆生ノ煩惱熱ヲ除クト云フ夜叉神ナリ〕眞言宗ノ所立ノ五大尊明王ノ一、南方ヲ護ル、八臂ニシテ、忿怒ノ相ヲナス。此明王ヲ本尊トシテ修法スルヲ、軍荼利法、又ハ、軍荼利夜叉法ト云フ。 太平記、十六、神泉苑事「本尊ヲ北向キニ立テテ、軍荼利夜叉の法ヲゾ被ニ行ケル」 榮花物語、十八、玉臺「佛ヲ見奉レバ、降三世、軍荼利ハ、立チ給ヘリ」

グンダリヤシャ-の-ほふ (名) 軍荼利夜叉法 前條ヲ見ヨ。

クンヂ (名) 軍持 「梵語、捃稚迦(Kundika)ノ略」僧尼ノ持ツ水瓶ノ義ト云フ。 翻譯名義集、上「梵、云ニ軍持ハ唐、言ニ淨瓶ニ也」 瓶ノ異名。 陸游詩「遊ニ山豐不ニ借、取ニ水一軍持」 太平記、三十七、楊國忠事「尋常ノ寒梅、樹、折レテ、軍持ニ上レバ、一段ノ清香、人ノ心ヲ惱ゼシムニ」 下學集、下、器財門「古銅華瓶、軍持、華瓶異名」

ぐん-ぢん (名) 軍陣 軍隊ノ、陣立シタルトコロ。 史記、李將軍傳「畫ニ地爲ニ軍陣ニ」 盛衰記、廿二、衣笠合戰事「軍陣ニ酒ヲ送ルハ法ナリ、戰場ニ酒ヲ講ルハ禮ナリ」

くん-ちやう (名) 君長 君タリ、長タル人。 禮記、表記篇「敬ニ事其君長ニ」

ぐん-ちやう (名) 郡長 郡ノ長官。

ぐん-ちゅう (名) 軍中 (一)軍陣ノ中。軍隊ノウチ。 戰國策、秦策「以ニ軍中ニ爲ニ家、將帥爲ニ父母ニ」 (二)戰陣ニ出デアル間。出征中。 漢書、周勃傳「軍中、聞ニ將軍之令ハ不レ聞ニ天子之詔ニ」

ぐん-ちゅう (名) 軍忠 軍功ニ同ジ。イクサノテガラ。武勳。 太平記、十二、諸大將恩賞事「サシモノ軍忠アリシ、赤松入道圓心ニ、佐用庄一所許リヲ被レ行」 己レガ軍忠ヲ記シテ上ニ申ス文書ヲ、軍忠狀ト云フ。目安狀ノ條ヲ見ヨ。

ぐんちゅう-じゃう (名) 軍忠狀 前條ヲ見ヨ。

くん-ちょう (名) 君寵 キミノイツクシミ。主君ノ寵愛。「君寵ヲ恃ム」

くん-でう-ず (句) 組みてむとす、くみてむず、くんでうずト轉ジタル語。(ふみて、ふんで(筆)。候ふ、さうらふ) 平家物語、七、實盛最後事「手塚太郎、齋藤實盛ニ、ムツト組ム「アッパレ、己レハ、日本一ノ剛ノ者ト、くんでうず、ヨ、ナ、うれ」(感動詞ノうれノ條ヲ見ヨ)

くん-てん (名) 訓點 「點トハ、をこと點(ヲコト點)ヨリ移レル語」 漢文ヲ訓讀スルタメニ、ツケタル振假名。返點。經書ナドニハ、古註(漢代ノ儒者)ト、新註(宋ノ朱熹)トニ因リテ、解釋ノ異ナルコトアレバ、訓讀ヲ異ニス、古註ナルニハ、菅原家、大江家、ノ訓ヲ存ズル、船橋家ノ點アリ、堂上點ト云フ、仁齋點(伊藤仁齋)、山子點(片山兼山)ナドモ、古註ナリ、新註ナルニハ、道春點(林道春)、闇齋點(又、嘉點、山崎闇齋)、後藤點(後藤芝山)、一齋點(佐藤一齋)、ナドアリ、其外ニ、道乙點、金平點、三平點、日尾點、ナドモアリ。

くん-とう (名) 勳等 勳位ノ等級。くんゐ(勳位)、幷ニ、くんしゃう(勳章)ノ條ヲ見ヨ。

くん-どく (名) 訓讀 〔音、幷ニ、訓ノ條ヲ見ヨ〕 (一)漢字ヲ、和語ニ飜譯シテ讀ムコト。(音讀ニ對ス) 「父母ヲちち、はは、上下ヲうへ、したト讀ムガ如シ。 (二)漢字ノ成語ナルヲ、唯、字面ニスガリテ訓ジテ、和語ヲ作ルモノ。國華ヲくにのはな、絲瓜(ヘチマ)ヲいとうり、五濁ヲいつつのにごりト訓ズルガ如シ。此類ニ、もじよみ(文字讀)ト云フガアリ。

ぐん-ない (名) 郡內 次條ノ語ノ略。 心中天網島(享保、近松作)中「小袖モ郡內カヘテ、云云、下ニ郡內、黑羽二重」

ぐんない-じま (名) 郡內縞 改機ノ條ヲ見ヨ。

✤ぐんにゃ-り (副) 柔軟 ぐにゃぐにゃヲ見ヨ。 孕常盤(正德、近松作)五「イキイキナサレタ牛若樣モ、ぐんにゃりナランシタ」

〰くんね・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 憤 怒リヲ含ム。不平ヲ抱ク。 名義抄「憤、クンネル、イキドホル、ムツカル」

くん-のう (名) 君王ニ同ジ。連聲ノ轉ナリ。

ぐん-ば (名) 軍馬 軍用ノ馬。騎兵ニ用キルハ乘馬、野砲、山砲、輜重ノ車ニ用キルハ輓馬ナリ。 漢書、王莽傳「養ニ軍馬ニ」

ぐん-ばい (名) 軍配 〔軍陣ノくばりツケ〕戰ニ、陣立、駈引、等ヲ、程好ク指圖スルコト。配陣。 甲陽軍鑑、三、品第十一「山本勘助、云云、一切ノ軍法ヲ、能ク鍛錬イタス、云云、軍配ヲモ、存知仕リタル者ナリ」

ぐんばい-うちは (名) 軍配團扇 大將ノ、持チテ、軍配ヲスルニ用キル團扇。製、種種アレド、羽ヲ、革、又ハ、薄鐵ニテ、へうたん形ニ作リ、中骨ニ、勝軍木ヲ用キ、末ヲ柄トシテ、黑漆ヲ塗レルヲ常トス、柄ノ端ニ、腕貫ノ穴アリテ、打紐ヲ通シオク。軍扇。 甲陽軍鑑、十、下、品第三十二「信玄公、立テ、軍配團扇ニテ受ケナサル(謙信ニ切付ケラレシ時ナリ)」 今、相撲ノ行司モ、此團扇ヲ用キテ、揚ゲテ、勝負ノ決ヲ示ス、略シテ、うちはト云フ、因リテ、うちはをあげろト云ヒテ、優者とすトノ意トス、

ぐん-ばう (名) 軍防 イクサノフセギ。軍事ノ防衛。 大寶令、軍防令

ぐん-ばう (名) 軍帽 軍人ノ制帽。

ぐん-ばつ (名) 軍閥 (一)イクサノイサヲ。軍功。 唐書、郭虔瓘傳「開元初、錄ニ軍閥ニ」 (二)軍人ノ門閥。「長州系ノ軍閥」

ぐん-ぱふ (名) 軍法 (一)軍ノ法則。兵

法（軍學ノ條ヲ見ヨ）。[illegible] 得ルコトワザヲ指テ、能軍法ト申ス」(二)軍律。[illegible] (三)軍人ノ刑法。其裁判ヲ、軍法會議ト云フ。

ぐんぱふくゎいぎ (名) [軍法會議] 特別裁判所ノ一、陸海軍ノ刑法ヲ用ヰテ、裁判スル所。

ぐんび (名) [軍備] イクサノソナヘ。軍事ノ設備。武備。[illegible]

ぐんぴ (名) [軍費] 軍事ノ費用。軍用金。[illegible] 以二軍役方費一、事不二相贍一、欲下藥二涼州一、并中力北邊上」

ぐんぴゃう (名) [軍兵] ツハモノ。軍卒。軍勢。軍隊。「三國志、魏志、文帝紀「詔諸軍兵追進」」[illegible]

くんぷ (名) [君父] きみト、ちちト。左 [illegible] 「君父ノタメニハ、命ヲモ捐ア」 [illegible] ノ仇ハ、俱ニ天ヲ戴カズ」

ぐんぷ (名) [軍夫] 從軍ノ人夫。

くんぷう (名) [薫風] 夏時ノ、南風ノ異稱。爽涼ナル意ニ云フ。呂氏春秋、有始覽「何謂八風、東南曰薫風」」史記、五帝紀「南風之 [illegible]

ぐんぷく (名) [軍服] 軍人ノ制服。

くんぺん (名) [君邊] 主君ノオソバ。君側。「君邊ニ侍ス」

ぐんまう (名) [群盲] 多クノ盲人。又、多クノ愚人。[illegible]

ぐんむ (名) [軍務] 軍事ノ事務。「軍務ニ從事ス」

くんめい (名) [君命] キミノオホセ。主君ノ命令。論語、子路篇「使於四方、不辱君命、可謂士矣」

くんもう (名) [訓蒙] (書經、伊訓篇「具訓于蒙士」、疏「蒙、謂蒙稚、卑小之稱」) 童蒙ニ、訓ヘ諭サムガ爲ニ作レル書物ナドニ稱スル語。訓蒙。小學、明倫篇、小序「[illegible]」

くんもく (名) [薫沐] 髮ヲ洗ヒ、衣ニ香ヲ薫ズルコト。身ヲ清ムルニスルコトナリ。[illegible]

ぐんもん (名) [軍門] 軍營ノ門。左傳、文公十二年 [illegible] 「降ヲ、軍門ニ乞フ」

ぐんやく (名) [軍役] 軍アル時、出ダスベク宛テラルル軍勢、兵糧、等。德川幕府ノ制ニテ、大小名ノ軍役人數ト云フハ、時代ニ因リテ變遷アレド、知行千石ニ付キ、步兵二十三人、鎗二、弓一、銃一、トシ、一萬石ニ付キ、步兵二百三十五人、騎兵十、銃二十、弓十、鎗三十、旗五、トシ、五萬石、千五人、十萬石、二千百五十五人、コレニ對スル兵器、糧食、ヲ備ヘ置クベキ事ト定メタリ。甲陽軍鑑、十九、品第五十三「天正四年子ノ歲、云云、軍役ノ定ハ、弓千張、鐵砲千丁トノ儀也」

ぐんやくしょ (名) [郡役所] 一郡ノ事務ヲ取扱フ役所。郡衙。

くんゆ (名) [訓諭] [訓喩] ヲシヘ、サトスコト。訓示。三國志、魏志、[illegible]

ぐんゆう (名) [群雄] 多クノ英雄。[illegible]

ぐんよう (名) [軍用] (一)軍ノ用ニ供フルコト。軍須。左傳、[illegible] (二)軍ノ費用。[illegible] セメテハ、カナキ折節ナレバ」

ぐんよう (名) [軍容] 軍隊ノイデタチ。武裝。[illegible]

ぐんようきん (名) [軍用金] 軍用ニ供フル金錢。軍資。「軍用金ヲ調達ス」

くんらう (名) [勳勞] テガラ。ホネヲリ。功勞。[illegible]

ぐんり (名) [郡吏] 郡役所ノ役人。

クンリク (名) [薫陸] くんろくノ條ヲ見ヨ。

ぐんりつ (名) [軍律] 軍隊ノ規律。軍規。

ぐんりつ (名) [郡立] (市立、縣立、國立、等ニ對ス) 郡ニテ、取立ツルコト。「郡立ノ講習所」

くんりん (名) [君臨] 君主トシテ、上ニ立チテ、下民ヲ治ムルコト。左傳、襄公十三年「[illegible]」

ぐんりゃう (名) [郡領] 郡司ノ(一)ニ同ジ。郡ノ大領、少領。[illegible]

ぐんりゃく (名) [軍略] 軍ノ進退、動作、等ニ關スル方略。戰略。

ぐんりょ (名) [軍旅] (支那、周ノ制ニテ、一萬二千五百人ヲ軍ト云ヒ、五百人ヲ旅ト云フ) (一)軍隊ノ數ヲ云フ語。我ガ古制ニ、一萬人以上ヲ大軍トシ、五千人以上ヲ中軍トシ、三千人以上ヲ小軍トシ、旅帥ハ、百人ヲ統ブ。(二)イクサ。合戰。戰事。論語、衞靈公篇「軍旅之事、未之學也」太平記、十六、正成下向兵庫事「軍旅ノ事ハ、兵ニ讓ラレヨ」

ぐんるゐ (名) [群類] 多クノ生類。諸物。[illegible]

くんれい (名) [訓令] 訓示、命令スルコト。「上官ノ訓令」

ぐんれい (名) [軍令] 軍中ノ命令。管子、小匡篇「作内政、而寓軍令焉」[illegible]

くんれん (名) [訓練] (一)訓ヘテ、技藝、實務ニ熟練セシムルコト。唐書、郭廷玉傳 [illegible] (二)教育ノ上ニテ、生徒ノ德性ヲ涵養スルコト。(教授ナドニ對ス)

くんろ (名) [薫爐] ひとり(薫爐)ノ條ヲ見ヨ。平家物語、八、太宰府落事「埴生ノ小屋ノ

スダレ、蘆簾ノ壁ニ異ナル、海士ノ藻鹽火タク、賤シキニツキテモ」

くんろう (名) 〔熏籠〕 たきもののこヲ見ヨ。太平記、一、立后事「金屋ニ人ナクシテ、皎皎タル殘ノ燈ノ、壁ニ背ケル影、薫籠ニ香消エテ、蕭蕭タル暗雨ノ、窓ヲ打ツ聲」

クンロク (名) 〔薫陸〕 〔梵語、Kunduru-ka.〕 (一)〔くんりく〕。印度、波斯、等ニ産ズル、一種ノ樹ノ脂。大木ニシテ、海邊ノ沙中ニ生ジ、盛夏ニ、脂、沙上ニ流レテ、凝リ固リテ成ルト云フ、舶來ス、形、石ノ如クニシテ、研リ難シ。其乳頭ノ如キヲ、乳香ト云ヒ、專ラ、外科ノ藥用トス、世ニ、南蠻松脂トモ稱ス、味、苦シ、焚ケバ、馨シ。五代史、閩世家「日焚ニ龍腦、薫陸、諸香數片ニ」 倭名抄、十二、香名類「薫陸香、俗音、君祿、出ニ中天竺ニ也」 同箋注、六三十八「本草衍義注、薫陸香、形似ニ白膠、出ニ天竺、單于ニ國、嵇含引ニ南方草木狀ニ云、出ニ大秦、在ニ海邊、自有ニ大樹、生ニ於沙中、盛夏、樹膠流ニ出沙上、夷人採ニ取之、賣ニ與賈人ニ」 (二)又、陸中、南部ノ山中ヨリ産ズル薫陸ト云フモノハ、香ニ入ル、是レハ、琥珀ノ下品ナルモノニテ、黒ミヲ帶ブ、夏ハ、溶クルナリ。古名、アカダマ。一名、和の薫陸。康賴本草、上六十八「琥珀、松脂是也、日本謂ニ薫陸香用レ之、甚不レ知レ人」 同卷四十「薫陸香、似ニ松脂、安加太末、日本從ニ奥州ニ出レ之、論云、唐希之、從ニ天竺ニ來之」

くんわう (名) 〔君王〕 キミ。オホキミ。詩經、小雅、祈父之什、斯干篇「朱芾斯皇、室家君王」 運歩色葉集「君王」

くんゐ (名) 〔勳位〕 軍功アリシ人ニ賜ハル位、(之レニ對シテ、常ノ位ヲ、文位ト云フ)古ヘハ、十二等アリテ、一等ハ、正、從二位ノ間ニ列シ、次第ニ下リ、十二等ハ、從八位下ノ下ナリ、其六等(從五位下ノ下)以上ヲ敕授トシ、七等以下ヲ奏授トス。今ハ、八等ニ定メラレ、三等以上、敕授ニ當リ、六等以上、奏授ニ當ル。潛夫論「勳位不レ足ニ以尊レ我」(勳ハ、勲ノ古字) 軍防令「五位以上、加ニ敍勳位ニ外、仍有ニ除勳ニ者、聽レ授ニ父子ニ」

くめ (名) 〔貢馬〕 貢トスル馬。吾妻鏡、六、文治二年十月三日「貢馬、貢金、秀衡所レ進貢金等、所レ被ニ京進ニ也」

くめい (名) 〔苦茗〕 〔玉篇「茗、茶芽也」〕 ニガキ茶。茶ヲ、人ニ勸ムルニ、卑下シテ云フ語ナリト云フ。高適詩「偏謁ニ僧房ニ、寄ニ苦茗ニ」 下學集、下、飲食門「苦茗(惡茶)」

くめうた (名) 〔來目歌〕 來目部、并ニ、久米舞ノ條ヲ見ヨ。

くめぢのはし (名) 〔久米路橋〕 次條ヲ見ヨ。

くめのいはばし (名) 〔久米岩橋〕 〔葛城山ノ東、高市郡ニ、久米鄕、久米川、アリ〕 又、久米路の橋。昔、役ノ行者、大和ノ葛城山ヨリ 吉野ノ金峯山ニ、岩橋ヲ架サムトシ、山神ヲ使役シテ造ラシメタルニ、工事、半ニシテ成ラザリシ事ヲ傳フ、(扶桑略記、五、大寶元年)因リテ、和歌ナドニ、男女ノ契リノ、半途ナルニ詠メリ。千載集、十六、雜、上、橋の歌「葛城ヤ、ワタシモハテヌ、モノユヱニ、くめの岩橋、苔生ヒニケリ」 後撰集、十一、戀、三、「志アリテ、人ニ言ヒカハシ侍リケルヲ、ツレナカリケレバ「葛城ヤ、くめぢのはしニ、アラバコソ、思フ心ヲ、中空ニセメ」 拾遺集、十八、雜賀、大納言朝光、下﨟ニ侍リケル時、女ノ許ニ、忍ビテマカリテ、曉ニ、カヘラジト云ヒケレバ「岩橋ノ、夜ノ契リモ、絶エヌベシ、明クルワビシキ、葛城ノ神」

くめのせんにん (名) 〔久米仙人〕 〔大和國、高市郡、久米ノ地ニ、久米寺アリ、此仙人ノ創立ナリト云フ〕 昔シ、大和國ノ人、久米ト云フ者、吉野郡ノ龍門寺ニ籠リテ、仙ノ法ヲ行ヒ、仙人ト成リテ、空ニ昇リテ、飛渡ル間ニ、吉野川ノ邊ニ、若キ女ノ、衣ヲ洗フトテ、衣ヲ揭ゲテ、白キ脛ヲアラハシタルヲ見テ、心、穢レテ、其女ノ前ニ落チ、遂ニ、夫婦ト成リテ、凡人トナリシト云フ。(今昔物語、十一) 徒然草、第八段「世ノ人ノ心惑ハスコト、色欲ニハ若カズ、云云、久米の仙人ノ、物洗フ女ノ、脛ノ白キヲ見テ、通ヲ失ヒケムハ、誠ニ、手足、膚ナドノ、淸ラニ、肥エ、脂ヅキタラムハ、外ノ色ナラネバ、サモアラムカシ」

くめべ (名) 〔來目部〕 〔くめハ、組ノ轉(雀、すずめ。蝸蝉、かざめ)編成ノ軍隊ノ義ト云フ〕 上代ノ軍隊ノ稱、御軍士ナレバ、大來目部トモ云フ、神代紀、下、ニ、天孫降臨ノ時、來目部ノ遠祖、大來目命ノ、來目部ヲ率キテ、前驅セシコトヲ記セリ、大來目命トハ、大伴連ノ遠祖、天忍日命ノ一名ニテ、來目部ヲ率キタルニ因リテ、此稱アルナリト云フ、神武紀ニ、大伴氏之遠祖、道臣命ノ、大來目部ヲ率キテ、土蜘蛛ヲ討滅セシ事、見エ、大御歌ニ、勇威し、來目の子等、云云、ト詠ミタマヒ、來目部、コレヲ謠ヒシニ因リテ、來目歌ト云フトアリ、後ノ久米舞ニ歌ヒシナルベシ。萬葉集、十八、廿大伴家持ノ長歌「大伴ノ、遠ツ神祖ノ、其名ヲバ、大久米主ト、負ヒモチテ、仕ヘシ官、云云」

くめまひ (名) 〔久米舞〕 〔伴氏ハ、大伴氏ノ改氏ナリ(佐伯氏ハ、大伴氏ノ同族ナリ) 大伴氏ノ部下ノ來目部の舞ノ義ナラム、前條ヲ見ヨ〕 舞ノ名、神武天皇ノ御軍ニ、來目部ノ、土蜘蛛ヲ斬リシ舞ナリト云フ、舞人、劒ヲ拔キテ舞フ、多クハ、大嘗祭、豐明節會、ニ行ハル、初ハ、伴氏、佐伯氏、舞人ヲ率キテ奏シテ、來目歌ヲ謠ヒシナルベシ、後ニハ、舞樂ニ存シテ、伶人、コレヲ奏スルコトトナレリ、明治以後、紀元節ニハ、此舞ヲ奏スルコトニ定メラレヌ。北山抄、五、大嘗會「午日、云云、伴、佐伯、兩氏、人レ自ニ儀鸞門ニ著ニ中庭床子ニ、奏ニ久米舞ニ舞人二十人、歌工六人、云云、於ニ舞臺東ニ供奉、舞人在ニ前後列ニ、云云、拔レ劒舞、無レ歌、以レ歌爲レ節、舞如ニ駿河舞ニ」 續紀、十八、天平勝寶四年四月、東大寺、大佛像開眼ノ條、五節、久米儛」 三代實錄、三、貞觀元年十一月十九日、大嘗會「伴、佐伯、兩氏、久米儛」

くめん (名) 〔工面〕 〔工夫面倒ノ略ニテ、竊カニ金策スルニ、骨ノヲレルヲ云フ隱語(菓子辨當餡ヲ、かべすト云フ類)ナリシモノガ、普通語トナリ、意味モ、廣クナリシニモアルベキカ〕 (一)工夫。才覺。算段。(多ク、金錢ノ調達ニ云フ) 畫策 生玉心中(正德、近松作)上「氣ヲ揉デモ、モガイテモ、身ハ裸ナリ、工面ハナラズ」 (二)金錢ノ都合。カネマハリ。金融。戲レニ倒サニシテ、めんくトモ云フ。東海道中膝栗毛(文化、一九)十編、下「…デ、くめんノ良イ處ノ後家殿」「くめんガワルイ」

くも (名) 〔雲〕 〔隱る義ナリト云フ(かくむ、かさむ。くくもる、くさもる。曇る)ト云フモ、雲ヲ活用セシメタル語ナリ、沖繩ニテ、くむ、朝鮮ニテ、くらむ〕 (一)〔空氣中ノ水蒸氣ノ、凝リテ、形ヲナシ、空中ノ若干高キ處ニ、浮ビ漂フモノ。〕 神代紀、上三十六「大蛇所レ居之上、常有ニ雲氣ニ」 允恭紀、八年二月「吾ガ夫子ガ、來ベキ夜ナリ、佐瑳ガ能ノ、區茂ノオコナヒ、今夜著シモ」(ささがねノ條ヲ見ヨ)

二、(雲ノ象ハ、種種ニ見ユルニ因リテ、[illegible]ノ八重山「雲ノ林」「雲ノ波」「雲ノ水沼」「雲ノ柵」「雲ノ錦」「雲ノ衣」「雲ノ袖」「雲ノ帯」「花ノ雲」「雲ノ[illegible]」[illegible] (三)[illegible]ル、[illegible]トモ云フ、ニ因リテ云フ。[illegible]ノ白雲ニ、[illegible]マシカバ」[illegible]三、(貫之)「昨日マデ、逢ヒ見シ人ノ、今日ナキハ、山ノ雲トゾ、タナビキニケル」新千載集、十九、哀傷「程モナク、雲トナリヌル、君ナレド、昔ノ夢ノ、心地コソスレ」(四)晴レヌコト。[illegible]、心ノ雲[illegible] (五)定メナキコト。痕ナキコト。謡曲、[illegible]「[illegible]水」(六)(天。空。虚空。菅家[illegible]「[illegible]下[illegible]、[illegible]トノミ見エルカナ、雲ノ[illegible]モ[illegible]カリケリ」[illegible]アマタノ[illegible]ノ葉ノ中ニ、[illegible]雲ニトモ、[illegible]ナリ

くも (名) 【蜘蛛】 (沖縄ニテ、くむ、朝鮮ニテ、[illegible]) 小蟲ノ名、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]大ナリ、頭[illegible]ニ八足アリ、腹部ヨリくものいヲ出シテ、くものすヲ作ル。(其各條ヲ見ヨ) 他名ニ對シテ、圓ぐも、棚ぐも、ノ名アリ。字鏡[illegible]「蜘[illegible]」此外、[illegible]ぐも、まだらぐも、女郎ぐも、犬ぐも、ひらたぐも、笹ぐも、土ぐも、袋ぐも、さがりぐも、蠅取ぐも、等、種種アリ、各條ニ注ス。

くも-あし (名) 【雲脚】 雲ノ、動キテ、過ギ行クコト。クモノアシ。クモユキ。[illegible]七、秋、下「野分立ツ、夕ノ雲の、あし早ミ、時雨ニ似タル、秋ノ村雨」「夕立ノくもあし早シ」

くも-あし (名) 【雲脚】 案ノ脚ノ、彎曲レルモノ。倭訓栞、くもあし「雲脚ノ臺ハ、禁中、院宮ヘ[illegible]ル物ノ[illegible]也、[illegible]八足ニ、[illegible]見エタリ、[illegible]三位以上ハ、八足十[illegible]」

くも-あひ (名) 【雲合】 雲ノ、晴曇ノヤウス。ソラモヤウ。雲氣 風俗文選(寶永、許六)五、[illegible]ヨキ、夜アケノ雲あひ、[illegible]カウリ」

くも-いり (名) 【雲入】 蹴鞠ノ技ニテ、鞠ヲ、極メテ高ク、上空ニ蹴上グルコトナルベシ。[illegible]享保、[illegible]公通[illegible]モ、[illegible]ノたかし、花ノ雲入[illegible]入ハ、[illegible]ニテ、昔シ、[illegible]モ、[illegible]代ニ、只、一二度、蹴ラレシ由、[illegible]記ニ見エタリ」(藤原成道、蹴鞠ノ名人、たかしハ、えもんながしナルベシ)

ぐ-もう (名) 【愚蒙】 愚昧ニ同ジ。杜甫詩「[illegible]」太平記、十一、[illegible]ウタテカリケルハ、[illegible]上人ノ行儀カナト、[illegible]ヲ[illegible]セリ」

くも-がく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【雲隱】 (四段活用ノ隱るヲ見ヨ) (一)雲ノ中ニ隱ル。又、雲居隱る 萬葉集、七、「雲隱ル、小島ノ神ノ、恐ケバ、目ハ隔ツレド、心ハ隔ツヤ」同、十五、長歌「ワギモコニ、あはぢノ島ハ、夕サレバ、久毛隱リ[illegible]」(二)死ぬノ敬語。天翔リ 萬葉集、三、大津皇子被死之時、云云、「[illegible]ノ、磐余ノ池ニ、鳴ク鴨ヲ、今日ノミ見テヤ、雲隱リナム」同、卷五長屋王賜死歌「大君ノ、命恐ミ、大殯ノ、時ニハアラネド、雲隱リマス」

くも-がく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 【雲隱】 (四段、下二段、同意ノ語、離る、はなるる) (一)前條ノ(一)ニ同ジ。又、雲居隱る。後撰集、六、秋、中「[illegible]、秋ノ夜ノ、月ノ光ハ、[illegible]くれツツ」拾遺集、十九、雜戀「春日山、雲居がくれテ、遠ケレド、家ハ思ハズ、君ヲコソ思ヘ」(二)前條ノ(二)ニ同ジ。後拾遺集、十、哀傷、[illegible]ノ皇太后宮かくれタマヒテ、葬送ノ夜、月明クハベリケルニ詠メル「ナドテカク、雲がくるラム、カクバカリ、ノドカニ澄メル、月モアルヨニ」

くも-がくれ (名) 【雲隱】 (一)雲隱ルルコト。又、雲居隱れ。[illegible]コホシハテデ、匂フモノカラ、白雲ニ、雲がくれスル、山櫻カナ」[illegible]、下、カリガネハ、[illegible]キテ[illegible]ノ下[illegible]キ頃」(二)人ノ、隱レテ、見エズナルコト 拾遺集、十三、戀、三「秋ノ夜ノ、月カモ君ハ、くもがくれ、シバシモ見ネバ、許多戀シキ」

くも-かすみ (名) 【雲霞】 (一)雲ト、霞ト。[illegible]ハ、森ノ[illegible]ヘカケ[illegible]シ、雲ト霞ニ分ケ入テ、[illegible]デマツリシカバ」[illegible] (二)遠ク立チ紛ルルコト。クモヲカスミ。「くもかすみト逃ル」

くも-がた (名) 【雲形】 模樣、彫刻、ナドニ、雲ノ、タナビキタル象ヲ圖シタルモノ。(繪雲ノ條ヲ併セ見ヨ) 宇津保物語、樓上、下「樓ノ天井ニハ、鏡形、雲形ヲ織リタル高麗錦ヲ張リタリ」倭訓栞、くもがた「筋馬ノ具ニ云ヘリ、今、[illegible]ニモ呼ベリ、[illegible]也」

くも-がみ (名) 【雲紙】 うちぐもり(內曇)ノ(一)ニ同ジ、ゑぐも(繪雲)ノ條ヲ見ヨ。

くも-きり-さう (名) 【[illegible]】 草ノ名、いかりさう ニ同ジ、江戸、[illegible]ノ[illegible]

くも-きり-まる (名) 【蜘蛛切丸】 源家ニ相傳セシ、名劍ノ名、源滿仲、鍛ヘシメ、其子、賴光、蜘蛛ノ妖ヲ斬リシヨリ、名トス 太平記、[illegible] 云、大路ニ曝スベシトテ、鐵ノ串ニ指シ、河原ニ立テゾ置ケル、是ヨリ、膝丸ヲバ、蜘蛛切トゾ號シケル」

くも-ぎれ (名) 【雲切】 雲ノ間ノ、絕ユルコト。雲ノキレメ。雲間。

くもじ (名) 【九文字】 九獻(酒)ノ、女房詞 [illegible]

くも-すかし (名) 【雲透】 雲ヲ背景ニシテ、仰ギ見ルコト [illegible]「くもすかしニ見ル櫻」

⁂**くも-すけ** (名) 【雲助】 (住處定メズ、雲ノ如キヨ、擬人シテ呼ブ語、信濃助、出子助、ノ類、今モ、(雲助ナド、云フ)」江戸時代、諸國ノ、逃亡、無籍ノ者ノ、驛路ニウロツキテ、到ル所、宿場ノ雲立人トナルヲ業トセシ者、互ニ、生地ヲ名トシテ、信州、甲州、ナドト呼ビキ、長持ヲ昇クヲ上トシ、駕籠ヲ昇クヲ中トシ、一人持ノ荷持ヲ、下人トシテ、下トシタリ 風俗文選(寶永、許六)三、旅賦、馬士、駕籠昇「一生ヲ、[illegible]トシテ、[illegible]」[illegible]子、妻、[illegible]ヲ呼ビテ コレ ソコナ、[illegible]、云云、男、[illegible]アル名ヲ呼バテ[illegible]介トハ、云云、サウ、[illegible]知レヌト云フコト」

くも-だこ (名) 【[illegible]】 海產動物、鮹ニ似テ、最モ小サク、鱗、雀ノ卵ノ如ク、形、蜘蛛ノ如シ、加賀、越前、播磨、等ニ產シ、乾シテ、四方ニ送ル。塗婆 運歩色葉集「蛛蛸」

くも-たちわき (名) 【雲立涌】 たちわきノ條ヲ見ヨ。

くも-ぢ (名) 【雲路】 (雲ハ、空ナリ) 天路、多クハ、鳥ノ、空中ヲ翔リ行クニ云フ

フ。クモキヂ。 新古今集、三、夏「聲ハシテ、雲路ニムセブ、時鳥」 續千載集、一、春「同ジクハ、空ニ霞ノ、關モガナ、雲路ノ雁ヲ、シバシトドメム」

くもつ (名) 【公物】 〔私物ニ對ス〕 オホヤケノモノ。官有物。公物。 徒然草、九十九段、「廳屋ノ唐櫃、上古ヨリ傳ハリ、云云、累代ノ公物、古弊ヲ以テ規模トス、タヤスク改メラレ難キ由、云云」

くもつ (名) 【供物】 ソナヘモノ。神佛ニ奉ル物。 著聞集、二、釋敎、湛空上人「涅槃會、云云、人人、五十二種ノ供物ヲソナヘケルニ」

くもで (名) 【蜘手】 〔蜘様ノ義、蜘様ノ意〕(蓋手、水手、錦手、金襴手)蜘蛛ノ足ノ、八方ニ出デタル狀ニ比シテ、云フ。 金葉集、七、戀、上「荒カリシ、風ノ後ヨリ、絶エヌルハ、くもでニスガク、絲ニヤアルラム」(蛛の絲ナリ)」 (一)〔線ノ、アマタ、打違ヒタル狀ニ云フ語。 古本、伊勢物語「水堰ク川ノ、くもでナレバ、橋ヲ、八ツ渡セルニ」(堰ノ川ナレバ、別レテ流ルルナルベシト云フ、蛛ハ、八足ナリ) 小大君集「花薄、くもでニ人ニ、結バレテ、イッカ解クルト、待ツゾハカナキ」 (二)材ヲ、アマタ、打違ヘタルモノ。 盛衰記、五、成親被召捕事「一間ナル所ニ、大ナル木ヲ以テ、蜘蛛手ヲ結ヒ、其中ニゾ押籠メケル」 (三)材ヲ組ミ違ヘテ、橋ノ梁、桁ヲ受ケシムルモノ。 山家集、上「五月雨ニ、水堰ルベシ、宇治橋ノ、くもでニカクル、波ノ白絲」 詞花集、九、雜、上「並ミ立テル、松ノ下枝ヲ、くもでニテ、霞ミワタレル、天ノ橋立」 (四)棒ヲ立テ、上端ニ、細ソキ材ニテ、六出ノ形ヲ作リツケタルモノ、大ナルハ、手水鉢ヲ栽セ、小ナルハ、行燈ノ中ノ油皿ヲ栽セナドス。 (五)田ノ畔ノ、數線、一處ニ集リタル處。

くもでに (副) 【蜘手】 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)四方、八方へ。八重、十文字ニ。交ゞ。 狹衣、四、中「山ヨリ僅カニ落チクル水ヲ、オノオノ、竹ノ樋ドモヲ、くもでにマカセ遣リツツ」 平家物語、四、橋合戰事、淨妙房「太刀ヲ拔テ戰フニ、敵ハ大勢ナリ、蜘蛛手、加久繩、十文字、蜻蛉返リ、水車、八方透カサズ切タリケリ、向フ敵、八人切リ伏セ、云云」 (二)〔チヂニ、思ヒ亂ルル狀ニ云フ語。煩慮。 大和物語、下「イカニ忘レザリケルニカ、若シ、男ナドニ具シテ來タルニヤナド、くもでに思ヒ亂ルルホドニ」 狹衣、二、下廿「サラデダニ、くもでに思エ候フニ、都離レテモ、何シニカハ、ト物思ヒ姿ナルケシキモ」

くもどり (名) 【雲鳥】 〔雲ハ、空ナリ〕 空飛ブ鳥。 玉葉集、十五、雜、二「雲鳥モ、歸ルタノ、山風ニ、背面ノ谷ノ、蔭ゾ暮レヌル」

くもどり (名) 【雲鶴】 綾ニ、雲ト、鶴トノ文アルモノ。雲鶴。雲鶴綾。 大和物語、下「くもどりノ、綾ノ色ヲモ、思ヒエズ、人ヲ逢見テ、年ノ經ヌレバ」 袖中抄、廿「雲鶴ノ文ノ綾也」 千載集、十八、雜、下、長歌「ハカナキコトモ、雲鳥ノ、(序)あやニカナハヌ、癖ナレバ」

くもなし キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【無苦】 〔苦シミなし〕 タヤスシ。カヤスシ。難ナシ。容易。「くもなく爲遂ゲタリ」

くもにとぶくすり (名) 【飛雲藥】 〔雲ハ、天空ナリ、下ノ出典ヲ見ヨ〕 仙人ノ靈藥、飲メバ、天ニ昇ルコトヲ得ト云フモノ。 萬葉集、五十八、思二故郷一歌(久シク、太宰府ニ仕官シテ居テ、故郷ノ京ヲ戀ヒ、天ニ昇リテ、飛ビ歸ラマホシキ心ヲ詠メルナリ)「我ガ盛リ、イタク降チヌ、久毛爾得夫、久須利食ムトモ、亦復チメヤモ」「久毛爾得夫、久須利食ムヨ(ヨリ)ハ、都見バ、彌賤キ我ガ身、マタ復チヌベシ」(彌賤き復ちぬナリ、萬葉集古義ノ解、尙、復つノ條ヲ見ヨ) 列仙全傳、卷二、二、漢ノ八公ト云フ仙人、淮南王ニ「授二丹經及三十六水銀等方一、云云、埋二金於地一、白日昇レ天、遺二所レ餘藥鼎一、鷄犬、舐レ之、並得二輕擧一、鷄鳴二雲中一、犬吠二天上一」

くものあし (名) 【雲脚】 くもあし(雲脚)ノ條ヲ見ヨ。

くものあみ (名) 【蛛網】 くものすノ條ヲ見ヨ。

くものい (名) 【蛛絲】 い(蛛絲)ノ條ヲ見ヨ。

くものいがき (名) 【蛛絲構】 い(蛛絲)ノ條ヲ見ヨ。

くものいと (名) 【蛛絲】 い(蛛絲)ノ條ヲ見ヨ。

くものうへ (名) 【雲上】 (一)空中ノ雲ヨリ、上ナルトコロ。天上。 萬葉集、十四、廿八「久毛能宇倍ニ、鳴キ行ク鶴ノ、 (二)禁中ヲ、天上ニ比シテ中ス語。雲上。紫微。 古今集、十八、雜、下「雲鶴ノ、獨後レテ、鳴ク聲ハ、雲のうへマデ、聞エ繼ガナム」(立身セズシテ歎クヲ、上へ申シ次ギテ下サレカシ) 十訓抄、上、第一、廿六條、事アリテ召還サレ、內裏ニ參ラレタリケルニ、云云、女房ノ中ヨリ、昔ヲ思ヒ出テテ「雲の上ハ、アリシ昔ニ、カハラネド、見シ玉垂ノ、內ヤユカシキ」

くものうへびと (名) 【雲上人】 〔前條ヲ見ヨ〕 淸涼殿ノ殿上ノ間ニ勤仕スル人。殿上人。雲客。 源、一、桐壺十五「イトドシク、蟲ノ音シゲキ、淺茅生ニ、露オキソフル、雲のうへ人」 今鏡、上、第二、玉章「誰レニカアリケム、殿上人ノ參リテ、殿上ニ昇リテ居タリケレバ、雲ノ上ニ、雲の上人昇リヌ、ト仰セラレケル」

くものうへぶし (名) 【雲上臥】 うへぶし

くものおこなひ (名) 【雲行】 ささがね(佐瑳餓泥)ノ條ヲ見ヨ。

くものかけはし (名) 【雲梯】 〔雲梯ヲ訓讀シタル語ナルベシ、高キ梯子ノ意、戰國策、宋策「公輸般、爲レ楚設レ機、將三以攻二宋、云云、墨子曰、聞公爲二雲梯一、將三以攻二宋、云云」〕 (一)高キニ昇ルト云フ意ニ用キル語。天梯立ト云フ語モアリ。 落窪物語、一、上「天ノ川、雲のかけはし、イカニシテ、ふみ見ルバカリ、渡シツヅケン」(少將ノ、落窪君ヨリ返歌ナキニ、再ビ詠ミテ贈レル歌ナリ、踏ト、文トヲカケタリ) (二)殿上ノ異稱。禁中ヲ雲上ト云フヲ緣ニ、降、昇ニカケテ云フナリ。 金葉集、九、雜、上、殿上オリテハベリケル頃、人ノ、殿上シケルヲ聞キテ、詠メル「ウラヤマシ、雲のかけはし、立チカヘリ、フタタビ昇ル、路ヲ知ラバヤ」 後拾遺集、十七、雜、三、藏人ニテ冠賜ハリケル日、詠メル「限リアレバ、天ノ羽衣、脫ギカヘテ、降リゾワヅラフ、雲のかけはし」(冠ハ、五位ナリ、くゎんぎよ(還昇)ノ條ヲ見ヨ)

くものかへし (名) 【雲返】 雨雲ヲ吹キカヘス風。 月詣集、三「山櫻、雲のかへしノ、風吹ケバ、雨ハ雪ニゾ、降リカハリケル」 更級日記、八月、雨降リクラシタル夜、雲カヘル風、烈シウ打吹キテ」

くものこ (名) 【蜘蛛子】 つちぐもノ條ヲ見ヨ。「くものこヲ散スガ如シ」

くものこし (名) 【雲輿】 佛、仙人、ナドノ、乘リテ、空中ヲ行クト云フ輿。 宇津保物語、俊蔭、四十「佛、文珠ヲ引キツレテ、雲のこしニ乘リテ、ワタリタマフ」

くものす (名) 【蛛巢】 〔蛛の簀ノ義、絲ニテ簀ノ如ク作ル意、い(蛛絲)ノ條ヲ併セ見ヨ〕 蜘蛛ノ作ルモノ。其腹部ヨリ出スくもの絲ヲ、草木ノ枝葉、又ハ、軒下、ナドニカケテ、後脚ノ爪ヲ以テ、空中ニ編ミ作ルコト、網ノ如シ、因リテ、くもの網トモ云フ、絲ニ粘アリ、蚊、蜂、ナドノ、網ニカカルアレバ、捕ヘテ食ヒ、朝ニナレバ、絲ヲ腹中ニ收メテ、物ノ隙ナドニ隱ル。蛛網。 萬葉集、五十、長歌「竈ニハ、久毛能須構キテ」 枕草子、七、六十四段「透垣、羅文、薄ナドノ上ニかいタルくものすノ、毀レ殘リ

[illegible]、ツトモ、人ノ心ヲ、イカガ頼マム」十訓抄、上、第一、[illegible]

くものすがき (名) [蛛巣構] い(蛛絲)ノ條ヲ見ヨ。

くものつかひ (名) [雲使] かぜくもノ條ヲ見ヨ。

くものはたて (名) [雲旗] [illegible]はたて(極)ノ條ヲ見ヨ、旗手ナド記スハ、當字ナリ」[illegible]一「夕暮ハ、雲のはたてニ、物ゾ思フ、天津空ナル[illegible]」[illegible]ルガ、二三日マデ動クニ「ササガニノ、くものはたてノ、[illegible]セ、てヲ、手ニカケタリ」狭衣、一、上廿「雲のはたてマデ、靄キノボル心地スルニ」(笛ノ音) 同巻廿「此人ヲ、カク、目ニ見ス見ス、雲のはたてニ迷ヘシテハ」

くものふるまひ (名) [雲振舞] ささがね[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

くものゆめ (名) [雲夢] [支那ノ諸越ノ地ヲ、もろこしト讀ミテ、支那ノ事トシ、同ジ白波谷ヲ、しらなみト讀ミテ、盗賊ノ事トスル例ナリ」支那ノ楚ノ七澤ノ一ナル雲夢澤(一ニ、雲夢澤)ヲ、文字讀ニシノ、[illegible]ニ寄セタル語。[illegible]雲の夢マデ、見ルココチスル」

くもはく (名) [雲箔] 雲形ニオキタル金銀箔。[illegible]

くもばなれ (名) [雲離] 遠ク、離ルルコト。[illegible]ナド云フ語ノ、序ノ詞ニ

用キラル。 古事記、下(仁徳)卅「ヤマトベニ、西ニ[illegible]」萬葉集、十五廿「玖毛婆奈禮、遠キ國邊ノ」

くもま (名) [雲間] 雲ノ、斷レタル所。クモギレ。 萬葉集、[illegible]借シケドモ、[illegible]ノ花ノ、ムラムラ咲ケル、垣根ヲバ、雲間ノ月ノ、影カトゾ見ル」

くもまひ (名) [蛛舞] [くものすヲ渡ル如キ意カト云フ(蛛渡ノ略、[illegible])] [illegible]綱渡リナリト云フ。[illegible]メデタクモアリ」蜘舞ノ、芝居デ金ヤ、拾フラム」小町踊(寛文、立圃)春、上、歸雁「くも舞歟、飛デハカヘル、天津雁」(俳諧) 西鶴[illegible]土産(元祿)五 渡世[illegible]シク、[illegible]、くも舞ノ人形遣ヘテ」

くもみづ (名) [雲水] (一)雲ト、水ト。[illegible]、至ラヌ山ノ奥モナシ」(二)行方定マラヌ意ニ云フ語。雲水ノ僧ト云フ、此意ナリ。[illegible]キ雲ヒカナ」

くもん (名) [苦悶] [くるしみ、もだゆ] 煩悶ニ同ジ。

くもん (名) [公文] 「官府ノ文書、公文所ト云フモ、公文ヲ處理スル所ナリ」(一)國司ヨリ、京都ヘ奉ル租、庸、調、等ニ關スル、四種ノ文書ノ稱。コレヲ、四度公文、四度帳、ト云フ。二中歴、七、公文「四度公文、[illegible]」名目抄 公文、[illegible] (二)領主ヨリ、其所領、莊園ヘ、下ス文書。鎌倉幕府ヨリ下ス諸文書ヲモ、公文ト云フ。[illegible]公文ト云フハ、元ト[illegible]ノ

通稱ナレバ、私ニテハ言ハザル事ナリシヲ、中頃、妄リガハシクナリテ、公卿ノ家家ニモ、私ノ所領ヘ下サル文書ヲバ、公文ト云フ事トナリシ故ニ、武家ニモ[illegible]、御教書、下文、[illegible]ヨリ下サルル文書ヲバ、ナベテ、公文ト呼ベリ」(三)莊園ノ領家ニ、公文職ト云フアリ、略シテ、公文トモ云フ、文書、訴訟、等ノ事ヲ掌ル(訴訟ヲ、公事トモ云フ)[illegible]古文書類纂、上、[illegible] (四)室町幕府ヨリ、五山、十刹、等、禪寺ノ住職ノ補任ナドニ下ス文書ノ稱、又、公帖トモ云フ。コレヲ掌ルヲ、公文奉行ト云フ。[illegible]院ニ下セル文書ニノミ、公文ノ名ノ殘リシニヤ」

くもんごと (名) [公文事] 訴訟ノ事、デイリゴト、略シテ、公事。

くもんじよ (名) [公文所] [公文ヲ處理スル所] (一)文書ヲ司リ、公事、租税、其他ノ事務ヲ扱フ所。攝關、等、諸家ニアリ、國衙ニモアリキ。[illegible]「安德天皇御[illegible]公文所」 (二)鎌倉幕府ノ政令ヲ發

セシ[illegible]、元暦二年、[illegible]、始メテ建テテ、[illegible]人、ナドノ職ヲ置ケリ。建久元年ノ冬、賴朝、右大將ニ任ゼシカバ、明年春、政所ト改稱シ、明ニ、政所ノ郭内ニ、公文所ヲ建テテ、文書ニ關スル事ノミ沙汰セシメタリ」(武家名目抄、職名、八、上) [illegible]

くもんしよく (名) [公文職] くもん(公文)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

くもんぢほふ (名) [求聞持法] 眞言宗ニテ、虛空藏菩薩ヲ本尊トシテ修スル行法、[illegible]

くもんぶぎやう (名) [公文奉行] 公文ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

くもやけ (名) [雲燒] [朝燒、夕燒、同趣] 火災ノ光ノ、遠ク、雲ニ映リテ、赤ク見ユルモノ。

くもゆき (名) [雲行] (一)雲ノ、過ギ行クヤウス。クモアシ。ソラモヤウ。雲氣。(二)晴曇ヲ考フル心ヨリ、事ノ成行ヲ思フ意ニモ云フ。「政界ノ雲行ヲ見ル」

くもらはし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [曇] 「曇るノ未然形ニ、はしノ附キテ、其狀ヲ云フ、けがる、けがらはし」曇ル狀セリ。 狭衣、四、中廿「籬ノ霧ノ、イトドヒマナク立チワタリテ、月影モ、ナカナカ、くもらはしくナリヌレバ」源、十四、澪標[illegible]「ソニ色ノ[illegible]ノ、くもらはしきニ[illegible]イタマヘリ」

くもり (名) [曇] (一)クモルコト。雲ノ、起レルコト、 夫木抄、十八、[illegible]降リヌベキ、宵

ノくもりヲ、眺メオキテ、明ケヌニ向フ、初雪ノ庭」(二)〔光、色ノ、薄暗クナレルコト。陰翳。源、九、葵四十「衣ガヘノ御シツラヒ、くもりナク、鮮カニ見エテ」「鏡ノくもり」

くもり-び (名) 【曇日】 曇リタル日。(次條ノ語ノ對) 古今集、十四、戀、四「くもり日ノ、蔭トシナレル、我レナレバ、目ニコソ見エネ、身ヲバ離レズ」

くもり-よ (名) 【曇夜】 曇リタル夜。ヤミノヨ。(前條ノ語ノ對) 萬葉集、十二、十八「陰夜ノ、(如ク)便宜モ知ラズ、山越エテ、往マス君ヲバ、何時トカ待タム」 同、十三、廿八長歌「雲入夜ノ、(如ク)迷ヘルホドニ」

くも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【曇・陰】 〔雲ヲ活用ス(陰る、宿る) 萬葉集、二、三十五「殿雲流夜ノ」同、十三、廿三長歌「棚雲利、雪ハ降リ來ヌ」〕 (一)雲、霧、起リテ、空ヲ覆フ。天治字鏡、一八「曇、久毛禮利」 (二)光、色、薄暗クナル。暗ム。陰翳 源、廿三、初音六「御容ナド、イト花ヤカニ、ココゾくもれるト見ユル所ナク」 新六帖、一「夜トトモニ、くもる涙ヲ、身ニソヘテ、月ニモ疎キ、我ガナガメカナ」「鏡、くもる」

くもゐ (名) 【雲居・雲井】 〔雲ノ集ルトコロノ義(仙覺抄)即チ、中空ノ意、萬葉集、三、廿一「三船ノ山ニ、居雲ノ」或ハ、雲搖ノ約(地震ヲ、なゐト云フモ、根搖ノ約)雲ノ漂フトコロノ意〕 (一)〔中空。虛空。雲際 萬葉集、二、四十長歌「時津風、雲居ニ吹クニ、沖見レバ、頻浪立チ、邊見レバ、白浪騷グ」 貫之集「遥フコトハ、くもゐ遥カニ、なるかみノ、音ニ聞キツツ、戀ヒヤワタラム」 (二)〔雲。古事記、中(景行)五十倭建命、伊勢ニテノ御歌「愛シケヤシ、我家ノ方ヨ、(ヨリ)久毛韋起チ來モ」 萬葉集、三、六長歌「雲居タナビキ」 同、七、九「由槻ガ岳ニ、雲居起ツラシ」 (三)〔遥カニ遠キ處。 萬葉集、十四、廿七「遠クシテ、久毛韋ニ見ユル、妹ガ家ニ、イツカ到ラム、歩メ吾ガ駒」 拾遺集、十四、戀、四、遠キ所ニ、思フ人ヲ置キハベリテ「雲居ナル、人ヲ遥カニ、思フニハ、我ガ心サヘ、そらニコソナレ」 (四)禁中。禁裏。雲上。 新古今集、十六、雜、上、御讓位ノ時「忘レジヨ、忘ルナトダニ、言ヒテマシ、雲井ノ月ノ、心アリセバ」 新葉集、六、冬「仕フトテ、マヅ踏ミワケシ、九重ノ、雲居ノ庭ノ、雪ノアケボノ」 (五)雲居調子ノ略、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

くもゐ (名) 【雲井】 〔禁裏御用トナリシカバ、名ヅクト云フ〕一種ノ烟草ノ名、常陸國、久慈郡、太田ノ邊ノ產、氣、芳シクシテ、烈シカラズ。

くもゐ-がく・る (動) 【雲居隱】 くもがくるヲ見ヨ。

くもゐ-がくれ (名) 【雲居隱】 くもがくれヲ見ヨ。

くもゐ-ぢ (名) 【雲居路】 〔くもゐノ條ヲ見ヨ〕 雲路ト云フニ同ジ。 後撰集、十六、雜、二「くもゐぢノ、遥ケキ程ノ、空言ハ、イカナル風ノ、吹キテ告ゲケム」

くもゐ-でうし (名) 【雲居調子】 〔空ヲ眺ムト云フ、歌ノ文句ヨリ名トスト云フ、下ノ解ヲ見ヨ〕 (一)三味線ノ調子ノ名、二上ト同ジトオボシク、弄齋節ニカケタルモノノ如シ。 松の葉(元祿)二、長歌、雲井、弄齋一節ニ「我レ振リステテ、一聲バカリ、イヅクヘ(行クゾ、山時鳥)」ノ句アリ。 (二)移リテ、筑紫箏ノ調子ニモ云フ。(三味線ノ組唄ヲ、箏ニ取リタルト、同ジ)平調子ノ第三絃ヲ下ゲ、第四絃ヲ上グルモノ、三味線ノ二上ナリ、箏唄ノ雲居弄齋ト云フニ「ハナレバナレノ、浮雲見レバ」ト云フ句アリ、此調子ハ、寛文ノ頃、八橋檢校、始メタリト云フ。(嬉遊笑覽、六) (三)尺八ノ曲ノ名ニモ、雲井ト云フアリ、三味線、箏ト、高律ニテ吹ケバ、名トスルナルベシ。

くもゐ-かすみ (句) 【雲霞】 くもかすみ(雲霞)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くやう (名) 【供養】 (一)〔又、きょうやう。三寶(佛、法、僧)ニ向ヒテ、財ト、行トヲ進ムルヲ、供ト云ヒ、攝養スル所アルヲ、養ト云フ。其堂舍ヲ莊嚴スルナドヲ、敬供養トシ、讀經、禮佛スルナドヲ、行供養トシ、飮食、衣服ヲ供スルナドヲ、利供養トス。(佛教辭林)〕一般ノ亡者ノ靈ニ向ヒテスルヲ、追善ノ供養ト云フ、其條ヲ見ヨ。 法華經、序品「香花伎樂、常以供養」 同、授記品「供養恭敬、尊重讚歎」 天武紀、下、朱鳥元年正月「請三三綱律師、云云、九僧、以二俗供養一之、仍施三絁綿布一」 源、三十四、上、若菜、上三、六十「院ノ御賀ニ、嵯峨野ノ御堂ニテ、藥師佛、供養シ奉リタマフ」 同、下五、七十「日ゴトニ、法華經一部ヅツ、くやうセサセタマフ」 同、四十七、早蕨二「蕨、筆頭菜、ヲカシキ籠ニ入レテ、コレハ、童部ノくやうジテ侍ル初穗ナリトテ、奉レリ」 (二)〔轉ジテ、修行者ノ食物。 宇津保物語、忠社三廿山伏「往ヌル七月ヨリ、修行ニマカリアリクニ、くやう絕エテ、今日三日、ワラハベニ、物モエ給バデ、疲レ臥シハベレバ、トドマリ中ス」 同、吹上、上十「果、松ノ葉ヲくやうトシ、木ノ皮、苔ヲ衣トシテ、年比ニナリ侍リヌ」 (三)食物ノ料。 太平記、十一、金剛山寄手等被レ誅事「口實ノ資ケナクシテ、子ニ後レタル老母ハ、僅ニ、一日ノ餐ヲ求メカネテ、自ラ、溝壑ニ倒レ伏ス」(鎌倉武士ノ母ナリ)

くやく (名) 【舊譯】 天竺佛教ノ、支那ノ後漢ノ世ニ、翻譯セラレタルモノ。唐宋ノ世ニ改メ譯シタルヲ、新譯ト云フ。

くやく (名) 【公役】 官ヨリ課セラルル、軍役、夫役、等。 吾妻鏡、四、元暦二年四月十五日「東國侍內任官輩中、可レ令レ停二止下一向本國一各在京勤中仕陣直公役上事」

くやくしよ (名) 【區役所】 區ノ事務ヲ取扱フ役所。

くやくや (副) 【感感】 思ヒワヅラフ狀ニ云フ語、くよくよノ條ヲ見ヨ。

くやくや (感) 〔くやハ、是者ノ轉(障る、さはる。はれ、やれやれ)〕神樂歌、明星「アカボシハ、明星ハ、くはヤ、ココナリヤ」 人ヲ呼ビカクルニ發スル聲。コラコラ。(九州)「くやくや、何チフ奴カ」

くやくや (句) 【來耶來耶】 來るか來るかト待ツニ云フ。 後撰集、九、戀、一「くやくやト、待ツ夕暮ト、今ハトテ、歸ル朝ト、何レマサレル」 安法法師集(寛和)「くやくやト、心ニ待タルル、雁ガネハ、音ヅレッラシ、今ゾ鳴クナル」

くや・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【悔】 悔ミ思フ。クチヲシ。殘念ナリ。遺恨。 古事記、中(應神)三七十長歌「我ガ心シ、イヤ愚ニシテ、今ゾ久夜斯岐」 萬葉集、十五、六「潮待ツト、アリケル船ヲ、知ラズシテ、久夜之久イモヲ、別レキニケリ」

くやしが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 【悔】 悔シク思フ。クヤシム。悔恨 土佐日記、二月七日「嫉ク、言ハザラマシモノヲト、くやしがる」

くやしなみだ (名) 【悔涙】 〔終止形ヲ、此ノ如ク用キルコト、くやしまぎれ、同じ物、愛し子、例、多シ〕 悔シク思ヒツメテ、出ヅル涙。(嬉し涙ノ對)

くやし・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 【悔】 次次條ノ(一)ヲ見ヨ。

くやしまぎれ (名) 【悔紛】 〔くるしまぎれ、くやし涙、あやし火、同趣〕 悔シサノ

情ニ激シ、我レヲ忘レテ、振舞フ[illegible]「此フレタくやしまぎれニ、茶碗ヲ打チ毀ス」

くやし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [悔] (一) くやしがる(悔)ニ同ジ。クヤム。古事記[illegible]カナ、ナドサル事ヲ云ヒケント、悔しまレケルコト、限リナカリケリ」(二)人ノ死ヲ惜シミテ、弔フ。クヤム。クヤシブ。弔慰 神代紀、三[illegible]

くやしんばう (名) [悔坊] 〔くやしヲ、擬人シタル語、喫しん坊、くひしん坊ナド[illegible]〕[illegible]悔ヤシガル性質ノ者[illegible]くやしんばうデ、手メヘニ、蹴躓ゲヘシヲシタノダハナ」

くや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [崩] 〔[illegible]ノ他動、生ゆ、生やす、肥ゆ、肥やす、燃ゆ、もやす〕崩ユルヤウニナス。崩ス。長崎ニテハ、今モ云フ〕 仁徳紀、十六年七月「以播磨國」(いはくやすノ條ヲ見ヨ)

くやつ (代) [此奴] さやつノ條ヲ見ヨ。

くやみ (名) [悔] (一)悔ムコト。[illegible](二)[illegible]弔フコト。弔慰

くやみ-じゃう (名) [悔状] 死ヲ弔フ書状、

くや・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [悔] 〔悔ゆノ轉、萎ゆ、なやむ(悩)〕(一)悔シク思フ。クヤシム。クヤシガル。拾遺集「[illegible]ニ、過ギニシ事ハ、くやまネド、思ヒゾ出ヅル、老ノツレヅレ」(二)人ノ死ヲ惜シム。死ヲ惜シミテ、弔フ。くやしむノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

く・ゆ・ユル・ユレ・イ・イ・イヨ (自動、上二) [悔] [illegible]〔[illegible]〕過ギシ事ノ非ヲ[illegible]知リ[illegible]悔ム。クヨクヨ[illegible]岩崩ノ、(序)君ガ久由ベキ、心ハ持タジ」同、十一「吾ガ[illegible]思ヒ悔ゆベキ、心ハ持タジ」同、十八「君ガ代伊ニ云フ[illegible]」拾遺集、十二、戀、四「来ヌ人ヲ、まつゲニ降ル、白雪ノ、消エコソカヘレ、くゆる思ヒニ」

く・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) [崩] 〔朽ツニ通ズルカ〕崩ル、朽ツ。[illegible]序[illegible]枕ナル、埋火ノ、下ニくゆるヲ、ヨソニヤハ見ル」新古今[illegible]八[illegible]下[illegible]くゆる、世ノ中ニ、今日トモ知ラデ、オクル我レカナ」

く・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) [蹴] 〔くう(蹴)ノ轉(移る、ゆつる)其語原ヲ見ヨ、又、轉ジテ、さゆトナル(黄金、くがね。いづく、いづさ)〕蹴ルノ古言。又、さゆ。皇極紀、三年正月、中臣鎌子[illegible]中大兄於法興寺槻樹之下打毬之侶」名義抄「蹴、クユ、コユ、ケル」字鏡「[illegible]、蹴、古由」天治字鏡、十二「蹴然、豆己江」(爪蹈)[illegible]阿古江」(足蹴、蹴爪)

くゆらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [燻] 〔次次條ノ語原ヲ見ヨ〕次次條ノ語ニ同ジ。源、廿三、初音「火桶ニ侍從(薫物)ヲくゆらかしテ、物毎ニ染メタル」

くゆらくえ (句) [悔] 〔恐くも、ナドノ語調ニ成リシ語ナラム、いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ〕悔ユルコトハ。「悔ゆらくた、諫メザリシ、云云」

くゆら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [燻] 〔次條ノ語ノ他動、再轉シテ、くゆらかすトナル、後る、おくらす、おくらかす。紛る、まぎらす、まぎらかす〕燻ユルヤウニス。クユラカス。フスブ。クスブ。イブス。顕昭陳状「山田ノ庵、下ニ、火ヲくゆらしテ、蚊ヲ拂フハ、云云」「葉巻煙草ヲくゆらす」

くゆら・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [燻] 〔次條ノ語ノ未然形ニ、使役ノすノ附キタルモノ、或語ト見ユ〕前條ノ語意ニ同ジ。[illegible]上「烟ヲ、イト多クくゆらサテ」

く-ゆ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [燻薫] 〔氣搖るノ轉カ、烟るニ通ズ(異し、奇し)〕(一)燃エアガラズシテ、焦ル。フスボル。クスブル。イブル。源、八、花宴「空薫物、イト[illegible]くゆりテ」同、三十七、鈴蟲「[illegible]ニ燒クハ、イヅクノ烟ゾト、思ヒワカレヌコソ、ヨケレ、富士ノ峯ヨリモ、ゲニ、くゆり滿チ出デタルハ、本意ナキワザナリ」和泉式部集「蘊草、くゆらヌモノヲ」拾遺愚草、員外、上「サラデダニ、イブセキ宿ゾ、蚊遣火ニ、くゆる烟ノ、立タヌ夜モナク」字類抄「燻、クユル」(二)思ヒ焦ル。心、ムスボホル。イブセクアリ。鬱悒 大和物語、下「人知レヌ、心ノ中ニ、燃ユル火ハ、烟ニ發タデ、くゆりコソスレ」返「富士ノ嶺ノ、絶エヌ思ひモ、アルモノヲ、くゆるハツラキ、心ナリケリ」狭衣、三、下四十「オボロゲニ、消ツトモ消ユル、思ひカハ、烟ノ下ニ、くゆりワビッツ」

くよ-くよ (副) [感感] 〔心ニ燻ゆ燻ゆノ轉(歩ぶ、あよぶ。眉、まよ)思ヒ焦ルル意、泣く泣く、見す見す、ノ例ナリ、轉ジテ、くやくや、きやきやトナリ(にさよかに、にさやかに。嫡、いよ。踵、きびす、くびす)又、轉ジテ、きなきなトナル(否、いや、あたにく、おやに[illegible])〕絶エズ、思ヒ煩フ狀ニ云フ語。くやくや。きなきな。古本、住吉物語「くよくよト、ウラビレテ泣クヲ見レバ、[illegible]」一代女(古草、西鶴)五「女心ニ、くやくやト、云ウテモカナハヌ事ナツクリシ」[illegible]ドモ、きたきたスルヤ、[illegible]心」「きなきな思フ」稍、意ヲ轉ジテ、包ミテ、心ヲ痛ムル狀ニ、きやきやトモ云フ、其條ヲ見ヨ。

くら (名) [座] (一)人ノ、居ル處。坐ル處。座。座。席。「天磐座」高御座」座上」座後」上座」[illegible](二)物ヲ、載スル物。物ヲ置ク處。「千座ノ置處」(座代ノ物)「御手座」(幣)矢座」(箙)

くら (名) [鞍] 〔馬上ノ座ノ義〕牛馬ノ脊ニ置ク具、人、コレニ跨リテ乗リ、或ハ、荷ヲ載ス、其製ハ、くらぼねノ條ヲ見ヨ。古事記、上「[illegible]八千矛神、片御手者、繋御馬之鞍、片御足、踏入其御鐙」雄略紀、十三年九月「甲斐ノ黒駒、鞍著セバ」字鏡、三十「鞍、馬乃久良」(倭名抄、同ジ)「唐鞍」和鞍」移鞍」結鞍」シツ鞍」水干鞍」鏡鞍」

くら (名) [藏倉庫] 〔物ヲ納メオク座ノ義、物置座ノ意〕(一)穀物、財寶、家具、ナド、納メテ、貯ヘ置クニ用キル家、多クハ、母屋ノ外ニ造ル。古クハ、校倉アリ、又、板倉アリ、皆、木製ナリ。壁ヲ、土ニテ、厚ク塗リ固メタルヲ、塗籠、又ハ、土倉、土藏、ト云フ、又、穴藏アリ。垂仁紀、八十七年二月「神庫、此云二保玖羅二」萬葉集、十六「枳殼ノ、棘原刈リソケ、倉建テム」倭名抄、十 居宅「倉、藏也、藏穀物也、久良」(二)質屋。(土倉ノ略、其條ヲ見ヨ)

くら (名) [暗] 〔くらしノ語根〕クラキコト。暗黒。[illegible]物語、二「火消エヌ、口惜シトオモホシケレド、遂ニハト思シナス、アナ暗ノワザヤ、人アリト言ヒツルヲ、ハヤ往ネ、ト云フ」

くら (名) [谷] 〔暗ノ義ニモアルカ、朝鮮語ニ、洞ヲ、ころト云フ〕谷ノ古言。く

らたにトモ云フ。萬葉集、十七「霍公鳥ノ、鳴ク久良谷ニ、打チ頃メテ、燒ケハ偏ストモ、君ヲシ待タム」古事記、上ニ、闇淤加美神トアルモ、谷ノ闇ニテ、神代紀、上ニ、高龗トアルハ、山ナルニ對ス、股ぐらトモ云フモ、谷ニテ、諸國ノ地名ニ、何倉、某倉、トアルモ、谷ナラムト云フ。(古事記傳)

くら (名) 樂ノ倒サ、芝居者ノ語。千秋樂ノ條ヲ見ヨ。

❖**くら** (接尾) 競 接尾語ノ、くらべ(競)ノ條ヲ見ヨ。

くら-あぢ (名) 鞍味 〔刀ノ切味ナドト、同趣〕鞍ニ乘リテ、馬ヲ進マスルニ、快、不快ノ程。乘リ心地。「―、くらあぢノ可キ馬」

くら-あづかり (名) 藏預 (一)藏ヲアヅカリテ、守ル役。藏守。藏番。(二)他ノ所有ノ貨物ヲ、我ガ藏ニ入レテ、預リ置クコト。 政所壁書、諸土倉並人事(永享、五、十、十三)「取二質物一之上者、自今以後、爲二倉預辨一」

くら-いしやう (名) 藏衣裳 往時、芝居ノ樂屋ニ、衣裳藏ト云フアリテ、其内ニ置ク衣裳ノ名、座ヨリ、下級ノ役者ニ貸シテ、着スルモノ。上級ノ者ハ、自分所持ノモノヲ用ヰシナリ。(劇場新話)

くら-いり (名) 藏入 (一)貨物ノ、藏ノ中ニ收ルコト。(二)領地ノ年貢米ノ納入。 京都御役所向大概覺書、三「八箇國御藏入云云、正德四年年、高、三萬四千五百八石餘」古事類苑) (三)武家ニテ、領地中ニ、年貢ノ、直收入トナル地ノ稱。(家來ニ分與セシ、知行地ニ對ス)

くら-いれ (名) 藏入 物ヲ、藏ニ入レ納ムルコト。多クハ、商品ノ穀物、貨物、ナドニ云フ。出スヲ、藏出ト云フ。

くらう (名) 苦勞 クルシミ、ツカルルコト。事ニ當リテ、甚シク、心身ヲ役フコト。劬勞。 莊子、漁父篇「苦レ心勞レ形、以危二其眞一」李洞、從上人詩「臥聽二曉耕者一、與レ師知二苦勞一」浮歩色葉集「苦勞」

くらう (名) 劬勞 〔說文「劬、勞也」〕前條ノ語ニ同ジ。 詩經、小雅、小旻之什、蓼莪「哀哀父母、生レ我劬勞」

ぐらう (代) 愚老 自稱ノ代名詞、老人ノ謙稱ナリ。 平治物語、一、信賴降參事「後白河上皇ノ御詞「愚老ヲ憑テ參タル者共ナレバ、枉テ、助ケ置セ給へ」

くらう-しやう (名) 苦勞性 物事ヲ、深ク氣ニカクル性質。神經質。

くら-うち (名) 鞍打 鞍作リヲ業トスル工匠。鞍師。 雍州府志、七「鞍、鐙、云云、造レ之人、稱二鞍打、鐙打一乎」

くら-うづ (名) 藏人 〔次條ノ語ノ轉、次條ヲ見ヨ〕次條ニ同ジ。クランド。

〰**くら-うど** (名) 藏人 次條ヲ見ヨ。

くらうど-どころ (名) 藏人所 〔くらうどハ、藏人ノ音便、倭訓栞、くらんど「藏人ヲ讀メリ、くらうどノ轉ナリ、俗ニ、くらうづトモ云ヘリ」(唐櫃、からうづ。冠、かんむり。東人、あづまうど、あづまど、あづまうづ)〕禁中ノ文殿(校書殿)ハ、累代ノ書籍、服御ノ物ヲ納メオカルル御藏ナリ、コレヲ掌ルガ、藏人ニテ、自ラ、大御前ニ物ヲ持チ搬ビナドシテ、親シク仕フレバ、本文ノ職トナレルナリ、藏人所ハ、校書殿ノ内ニアリ、詰所ノ名ナリ」 (一)至尊ニ近侍スル職掌ノ人ノ、集會スル所。嵯峨天皇ノ弘仁元年三月ニ、始メテ置カル、(紀略)初ハ、機密ノ文書ヲ掌リシガ、後ニハ、御衣食、御起居、ノ事ニ供奉シ、終ニ、少納言、侍從ノ職掌モ、此レニ移リ、傳宣、進奏、除目、諸節會ノ式、其他、殿上一切ノ事ヲ奉行シ、其權、甚ダ重カリキ。職員ニハ、別當(左大臣兼任)、頭、五位藏人、六位藏人、非藏人、雜色、所衆、瀧口、ナドアリ。頭、五位藏人、六位藏人ヲ、職事ト云フ。(唐名、侍中)又、音便ニ、くらんど。くらうづ。 住吉物語「くらうど」宇津保物語、吹上、上「くらんど、殿上人、馬ニ乘リテ」有職袖中抄「藏人所、藏人ノ集會スル所也、云云、藏人ハ、小姓ノ如キモノ也、天子近習ノ職也」標註、職原抄、下、本「藏人所ハ、校書殿ニアリ、藏人トハ、御藏ヲ掌ル人ト云フコト也、云云、此殿ノ內ニ、納殿トテ、アリ、書ヲ納ルル庫ノ事ナリ、サレバ、納殿ヲ、ヤガテ御倉トモ云フ、云云、後ニ、ヤウヤウ、服御ノ器物ヲモ、多クココニ置カセタマヒ、御用ノ度毎ニ、藏人ニ仰セテ、持チハコバセタマフ」(二)女藏人ノ略、其條ヲ見ヨ。(三)院藏人所アリ、攝關家ニモ、藏人所アリ。納殿ヲ掌ル。

〰**くらうど-の-ごゐ** (名) 藏人五位 還昇ノ條ヲ見ヨ。

〰**くらうど-の-とう** (名) 藏人頭 藏人所ノ職、別當ノ次、藏人ノ上ニ居ル、二人アリ、コレヲ兩頭ト云フ。貫首。前前條ヲ見ヨ。 源、廿九、行幸「覺エ高ク、ヤンゴトナキ殿上人、藏人頭、五位ノ藏人、近衞ノ中少將、辨官ナド」

くらうど-まち (名) 藏人町 〔町ノ條ヲ見ヨ〕禁中ノ、藏人ノ詰所、即チ、藏人所。 著聞集、十九、草木「內裏ニテ、日給果テテ、源仲朝以下、藏人町へ罷リケルニ」夕拜備急至要抄、下「藏人町、云云、本所藏人所ニ」(古事類苑)

くらう-にん (名) 苦勞人 〔人事ノ苦勞ヲ、多ク經驗シタル意〕世事ニ長ケタル人。通人。

くら-うま (名) 鞍馬 くらおきうまノ條ヲ見ヨ。

クラウン (名) 〔英語、Crown.〕英國ノ銀貨ノ名、しりんぐノ條ヲ見ヨ。

グラウンド (名) 〔英語、Ground.〕運動場、野球ノ競技場、

〰**くら-おかみ** (名) 闇龗 谷、及、おかみノ條ヲ見ヨ。

くらおき-うま (名) 鞍置馬 鞍置キタル馬。鞍ヲツケタル馬。鞍馬。鞍馬 天武紀、上「鞍馬」平家物語、七、倶利迦羅落事「鞍置馬十疋」左馬寮式「鞍馬十疋」

〰**くらおき-どころ** (名) 鞍置所 牛馬ノ脊ノ鞍ニ當ルトコロ。鞍下。 倭名抄、十一、七、牛馬體「排鞍肉、久良於岐度古路、二字與二排、安置也」

〰**くら-お・く・ク・ケ・カ・キ・ケ** (自動、四) 鞍置 牛馬ノ脊ニ、鞍ヲ載ス。取リ下グルヲ、くらおろすト云フ。 倭名抄、十五、鞍馬具「鞍、以レ鞍置レ馬也、久良於岐、卸鞍、除レ鞍也、久良於呂須」萬葉集、十四、十六「妹許ト、馬ニ鞍置きテ、伊駒山、打越エ來レバ、紅葉散リツツ」類政集「花咲カバ、告ゲヨト云ヒシ、山守ノ、來ル音スナリ、馬ニくらおけ」

〰**くら-おほひ** (名) 鞍覆 馬韉ノ古名。 天治字鏡、十二「韉、久良於保比」(倭名抄、同ジ)

〰**くら-おろ・す・ス・セ・サ・シ・セ** (自動、四) 鞍卸 前前條ノ條ヲ見ヨ。

くら-かいぐ (名) 鞍皆具 馬具ノ、皆具シタルコト。鞍具足。鞍具 義經記、五、義經吉野落事「雲、群山ニ降リ積ミテ、谷ノ小川モヒソカ

ナリ、駒ノ蹄モ通ハネバ、鞍かいぐモツケズ」太平記、三十九[illegible]

くらかけ (名) 鞍架 (一)卸シタル鞍ヲ、懸ケ置ク臺。[illegible] 宇治拾遺、五、第二條「移ノ鞍二十具、鞍かけニカケタリケリ」(二)同上ヲ、大キク逞シク、木馬ニ作リナシ、馬具ヲツケテ、馬術ヲ習フ具トスルモノヲモ云フ。[illegible](三)同上ヲ、蹈臺ニ用ヰルニモ云フ。アシツギ。京都、其大ナルヲ、馬ト云フ。

くらかけまめ (名) 鞍掛豆 〔黒キ斑、馬ニ鞍ヲかけタル狀ニ見ユ〕くろまめノ一種、豆ニ、黒キ斑アルモノ。烏眼黄

くらがさ (名) 鞍嵩 〔嵩にあがるハ、嵩にあぐる、嵩にかかるト云フト同ジク、嵩ノ條ヲ見ヨ、勢に乘るト云フ意ニテ、此語ニ、鞍ヲ過ラセテ、鞍上ノ擧動ニ云フナリ〕(鞍上ニ聳立シテ、曲馬スルニハアラズ)太平記、七、吉野城軍事「敵、既ニかさニ取リあげテ、御方ノ氣ノ疲レ[illegible]鞍嵩ニ立ちあがるト云フハ、馬上ニテ、身ヲ脊シテ、勢ヲナスナリ。[illegible]

くらがへ (名) 鞍替 〔寢座替ノ上略ナラム(きりぎりす、きり、ところてん、てんト略スルナドアリ)遊女ノ生涯ヲ、籠の鳥ト云ヒ、其病むヲ、埒につくト云ヒ、[illegible]年季奉公ノ遊女ノ、他ノ妓樓ニ、住替ヘスルコト。

くらがみ (名) 座上 〔座ノ條ヲ見ヨ〕

一席ノ、上座ノ人。座長 末座ヲ、座後ト云フ。[illegible]

くらがり (名) 暗 クラガルコト。暗キ處。クラヤミ。[illegible]「[illegible]門ヲ、[illegible]ニ通ル男」

くら-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 暗 〔むかふる、ひろがる、ひろぶる、ナドト同趣〕暗クナル。霧フ。賓ル。晦冥 竹取物語「疾キ風吹キテ、世界、くらがりテ」夫木抄、十八、[illegible]「[illegible]くらがりテ、降ル雪ヲ、夜目ニハ明キ、月カトゾ見ル」

くらく (名) 苦樂 クルシミト、タノシミト。史記、[illegible]世家「與二百姓一同二苦樂一」[illegible]

くら-ぐそく (名) 鞍具足 〔馬具ノ、具足シタル意〕鞍皆具ノ條ヲ見ヨ。

くら-くら (副) 〔轉轉ノ轉カ、からうす、かるうす(碓)〕(一)目クルメキ、眩スル狀ニ云フ語。眩迷 狂言記、文相撲「ハ、シハツシト打テキタレバ、眼ガくらくらトシタ」(二)湯ノ、タギル狀ニ云フ語。グラグラ。滾滾 平家女護島 [illegible]

ぐら-ぐら (副) (一)事物ノ、動搖シテ、定マラヌ狀ニ云フ語。「地震テ、ぐらぐら動ク」(二)前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くら-ぐら-と (副) 暗暗 くれぐれと(暗暗)ニ同ジ。

くらげ (名) 水母海月 〔語原、考ヘ得ズ、試ニ云ハバ、輪狀ノ轉ニテ(弦、つら)形ニ就キテ名トスルカ、イカガ、倭訓栞ニ、海鏡トモ云フトアリ、天治字鏡ニハ、鏡虫ノ合字ヲ作レリ、器ニ見立テテハアルナリ、水母ニ目なしト云ヘバ、暗氣ナラムナド云フ說モアレド、開闢ノ時、泥海然ル、謎詞ハアラジ〕海產ノ動物、泥海ニ棲息ス、形、荷葉ヲ伏セタルガ如ク、心太ノ凝レルガ如シ、色、紅紫ニシテ、鱗、骨、眼、無ク、裏面ノ中央ニ、紐ニ似タルモノ、四條、垂レテ、長ク曳ク、コレニ口アリト云フ、潮ニ從ヒテ、海面ニ游泳ス、製シテ乾セバ、白クナリテ、食フベシ。又、一種、水くらげト云フアリ、色、白クシテ、光ル、食フベカラズ。古事記、上「天地初發ノ時、國稚ク、浮脂ノ如クシテ、久羅下那州多陀用弊流」天治字鏡、八「蟯、久良介」(小學篇字トアレバ、和製字ナリ、鏡虫ノ合字ナルベシ) 本草和名、下「海月、[illegible]在海中、故以名之、一名、水母、久良介」(倭名抄、同ジ) 夫木抄、廿七、雜「我ガ戀ハ、海ノ月ヲゾ、待チワタル、くらげノ骨ニ、逢フ夜アリヤト」(アルマジキ事ニ云フ)

くら-ざらへ (名) 藏浚 藏拂ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。「藏ざらへ、大賣出シ」

くらし (名) 暮 (一)クラスコト。時ヲ過スコト。消過 (二)スギハヒ。ナリハヒ。クチスギ。クラシムキ。生活 [illegible]狂言記、[illegible]「[illegible]鶴ノ島ヘ連レテ行テ、思フ儘ニ、くらしヲサセウゾ」

くら・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 暗闇 〔黑しト通ズ、すめ、らぎ、すめろぎ〕(一)光リ無シ。闇ナリ。(明しノ反) 伊勢物語、第九段「宇津山ニ到リテ、我ガ入ラントスル道ハ、イトくらう細キニ、蔦、カヘデハ茂リ」(二)智ニ乏シ。オロカナリ。暗愚 蒙昧 「心くらし」

くらき路ト云フハ、冥途ノ闇黑ナリ〕[illegible] 拾遺集、廿、哀傷「くらきヨリ、くらきみちニゾ、入リヌベキ、遙カニ照ラセ、山ノ端ノ月」

くらし-かた (名) 暮方 生活ノ方法。生計 活計

くら-しき (名) 鞍敷 韉ノ上ニ敷ク褥。ウハシキ。クラブトン。鞍褥 倭名抄、十五[illegible]「[illegible]久良之岐、俗云、[illegible]」

くら-しき (名) 藏敷 次條ノ語ノ略。

くらしき-れう (名) 藏敷料 〔くらしきハ、藏敷地ノ略、ももしきノ條ヲ見ヨ〕藏ヲ貸シ、貨物ヲ預リテ、取ル貸料。藏預ノ貸。略シテ、くらしき。角倉文書(慶長)「從嵯峨丹州ヘ之船路、云云、船致上下、藏ヲモ立置、大津ナミニ、藏式ヲモ取申度之由、云云」(角倉ハ、德川初期の海外貿易家)

くら-しし (名) 羚羊 〔座獸ノ義、毛皮ヲ、褥トスルヨリ云フ〕かもしし、かもしか、ニ同ジ。

くら-した (名) 鞍下 (一)クラオキドコロ。牛馬ナドノ脊ノ、鞍ノ下ニアタル所。(二)同上ノ部分ノ肉ノ稱、食用トシテ、最モ美味ナリトス。

クラシック (名) 古典 〔英語、Classic〕(一)百世ノ模範タルベキ作。特ニ、羅甸、希臘文學ノ作ヲ云フ。(二)後ニ、擬古ニ傾キ、客觀ヲ主トシ、格式、齊整ヲ重ンズル、文藝上ノ作物。

✣くらし-つ・ける (動) 毆打 〔食はしつける、ナグリツケル、毆ル、ゲンコヲくらは

す、等ト、同趣」打擲ス。ウチタタク。

くらしむき (名) 暮向 クラシノ方面。生計 生活ニ就キテノコト。

〔**くらしり** (名) 座後 くらがみノ條ヲ見ヨ。

〔**くらしろのもの** (名) 座代物 机代ノ物ノ條ヲ見ヨ。

クラス (名) 級 〔英語、Class.〕級。階級。等級、學級。「同ジくらすノ學友」

くら・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 暮 〔生活ノ日ヲ暮らすト云フベキヲ上略シテ、自動トナリシ語〕營生ヲナス。生計ノ營ミヲナス。渡生 狂言記、餓道心「資本ハ無シ、商モナラズ、何共、くらさウ様ガ無イ」「無事ニくらしテ居ル」

〔**くら・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 暮 〔暮るノ他動、晴る、はらす。濡る、ぬらす〕(一)日ノ暮ルルマデ、時ヲ過ス。消日 萬葉集、五 五十「春サレバ、マヅ咲ク宿ノ、梅ノ花、獨リ見ツツヤ、春日久良佐ム」源、三十八、夕霧 七十四「大殿ノ見聞キタマハム所モアレバ、くらしテ、ミヅカラ參リタマヘリ」(二)轉ジテ、夜、月、年、ニ云フ。消遣 古今集、十一、戀、「夢ノ中ニ、逢ヒ見ムコトヲ、頼ミツツ、くらせル夜ハ、寐ムカタモナシ」「月ヲ・くらす 年ヲ・くらす」

〔**くら・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 暗 〔暗るノ他動、枯る、からす。垂る、たらす〕暗クナス。クラマス。曇ラス、濱松中納言物語、四、「立チ昇ル、煙ノ中ニ、くらさレテ、月トナリムヘ、モ知フレズ」源、四十六、總角「カタガタニ、くらす心ヲ、思ヒヤレ、人ヤリナラヌ、道ニ惑ハベ」

✤**ぐら・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 毆 〔拳固ヲくらはすノ略、おはかす、わらかす〕クラハス。クハス。毆ル。打チ、タタク。「頭ヲくらしツケル」

グラス (名) 硝子 〔英語、Glass.〕がらすニ同ジ。

✤**ぐら・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 擾亂 〔ぐれるノ他動、ばれる(暴露)、ばらす〕順序ヲ亂ス。マゼカヘス、(卑語)「三番ヲ、五番ニぐらしテヤル」

くらずれ (名) 鞍擦 〔靴ずれナドモアリ〕牛馬ノ脊ノ、鞍ニ擦レテ、傷ツキタルモノ。鞍傷

くらだし (名) 藏出 くらいれノ條ヲ見ヨ。

〔**くらたに** (名) 谷ノ條ヲ見ヨ。

〔**くらづかさ** (名) 藏職 ウチノクラ。くられう(内藏寮)ニ同ジ。履中紀、六年正月「始建二藏職一」源、一、桐壺 五「御袴着ノ事、一ノ宮ノ奉リシニ劣ラズ、くらづかさ、納殿ノ物ヲ盡シテ、イミジウセサセタマフ」

ぐらつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 動搖 〔ぐらぐらノ、ぐらヲ活用ス(ぐづぐづ、ぐづつく)つくハ、老いづく、秋づくナドノつくナリ〕グラグラスル。ユレル。倒レムトス。「地震デ、家ガぐらつく」身代ガぐらつく」

〔**くらづくり** (名) 鞍作 鞍ヲ作ルヲ職トスル者。但シ、上代ノ小馬ノ鞍ニハアラズ、韓國ヨリ、大馬ノ渡リシ後、其製ノ鞍ナリ。又、鞍作部ト云ヒ、後ニハ、氏トナレリ。雄略紀、七年八月「鞍部 村主 司馬達等、」推古紀、十三年九月「鞍部 堅貴」敏達紀、十三年四月「鞍作鳥」(何レモ、韓人ナリ) 職員令、内藏寮、「典履二人、掌下作二鞍具一、及校百濟手部上」

くらづくり (名) 藏作 土藏ノ製ニテ、建築シタル家、土藏ヅクリ。傾城酒呑童子(享保、近松作)三「ヒラギノ長ガ、土藏作」

クラッチ (名) 〔英語、Crutch.〕短艇ノ具、船端ニ立テテ、櫂ヲ支フルモノ、上端、叉形ヲ爲ス。

くらつぼ (名) 鞍壺 くらぼねノ條ヲ見ヨ。

くらづめ (名) 鞍爪 くらぼねノ條ヲ見ヨ。

〔**くらに** (名) 鞍橋 くらぼねノ古言。欽明紀、十五年五月、百濟、餘昌「筑紫國造、射二落新羅騎卒一、通、所、乘鞍前後橋一、餘昌尊而名曰二鞍橋君一」二節文、左訓、クラホネ)註「鞍橋、此云二矩羅膩一」(膩、貝偏ニ作レルハ、誤ナリ、膩ノ字ハ、式ニ通ハセテ用ヰタルカ、集韻、膩、汝利切、式、而至切)

くらのかみ (名) 内藏頭 〔内藏寮ノ條ヲ見ヨ〕ウチノクラノカミ。くられう(内藏寮)ノ長官。

くらのすけ (名) 内藏助 くられう(内藏寮)ノ次官。

くらのつかさ (名) 内藏寮 くられう(内藏寮)ノ條ヲ見ヨ。

くらは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 食 〔食ふノ未然形ニ、使役ノすノ附キタルモノ、成語ト見ル〕(一)飲食セシム。クハス。(二)利益ヲ以テ、誘フ。啗「啗するニ、利ヲ以テス」(三)受ケシム。クハス。毆ル意トナル。食ふノ(五)、及、くはすノ(三)ヲ見ヨ。淀鯉出世瀧徳(寶永、近松作)上「くらはするが、ぬかヌカニ間ヲ・くらはす」

くらばん (名) 藏番 藏ノ番人。クラモリ。

くらはんかぶね (名) 淀川ノ三十石船ノ夜船ニ寄リ來テ、飲食物ヲ賣ル小舟ノ稱、賣詞ノ無禮ナルヲ習慣トス。寛永紀行(烏丸光廣)「伏見ヨリ夜舟ニ乘ル、云云、夜中過グルホドニ、食はんか食はんかト呼ブ舟アリ「くらはぬか、くらはんかニハ、あかねドモ、喰フ數ニ明クル、淀ノアケボノ」丹前能(元祿)二「暮方急グ野波ノ浮、云云、枚方ノ岸根ニ、舟ヲツナゲバ、奈良茶賣ノ話聲、一二ヲ爭ヒ、ココカシコヨリ來リ、我レサキニトつきつけ賣ル」若草文集(寶暦)淀ノ文「牛蒡、くらへ、酒くへ、ト呼ブスラ、所納ノ風流ニ(嬉遊笑覧、七)

くらばらひ (名) 藏拂 〔藏ノ内ノ物ヲ、一切掃除スル義、藏凌ト云フモ、同意ナリ〕商家ニテ、アル限リノ貨物ヲ出シテ、大安賣スルコト。又、藏凌。

くらひこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 喰込 〔召捕ヲくらひこむノ略、受クル意、陰雨ヲくらひこむナド、同ジ、くらふ(食)ノ(二)ヲ見ヨ〕捕ヘラル。捕縛セラル。(盜賊ノ語)

〔**くらびと** (名) 藏首 藏人 〔藏首ノ略(稻置、いなぎ。思ふ、もふ。おほおぼし、おぼほし)藏人部ノ職ナリシゾ、可婆禰トナリシモノノ如シ〕可婆禰ノ名。古事記、下(用明)「當麻之倉首比呂」萬葉集、十六 卅「春日藏首 老」同、十九 七十二「高安藏人種麻呂」

〔**くらひとべ** (名) 藏部 〔藏人部ノ義〕藏職ノ下級ノ官、官物ノ出納ヲ掌ル。又、大藏省ニモ置カル。履中紀、六年正月「始建二藏職一、因定二藏部一」古語拾遺「…」

✤くらひ-ぬけ (名) [食抜] [抜群ニ食ふト云フ意カ] 度ハノレニ、多ク飲食スル人 [illegible]ノ語 [illegible]

〜くらひ-もの (名) [食物] くひもの(食物)ノ(一)ニ同ジ。 神武紀十三「爲」食 [illegible]之」 宣化紀、元年五月「食者天下之本也、黄金萬貫、不[illegible]」

くら-びらき (名) [藏開] 新年ニ、始メテ、藏ノ門ヲ開クコト、正月ノ初ニ、此事ニ吉キ日ヲ撰ンテ云フ。 大經師昔暦(正德、近松作)脇歌「彼ノ[illegible]ヘテ、[illegible]カルル[illegible]ノくらびらき、[illegible]一カク」

くら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [食] [喰ふ ト通ズルカ(平、なから。荒廢、疎疎。[illegible]意、通ジ)食ふ(くふ、くらふ、同語ノ語用)モ、嘴ふヨリ移ルナリ」 (一)[食ふ]ニ同ジ。食ム、飲む[illegible]。(今ハ、キタナキ物言ヒトス) 神代紀、上[illegible]「須」啖八十[illegible] [illegible]十二月廿七日「敢取云云、已レシ、酒ヲくらひツレバ、早ク往ナムトテ」 (二)受ク。被ル。(食ふ ノ(五)ヲ見ヨ) 明ノ高僧傳、六、寶印傳「忽爲[illegible]合喫ニ多少痛棒ニ」後[illegible]集、くらふ、此娶ハ、かうぶるト[illegible]セリ」 碧巖集、五、四十二則「[illegible]心不」改、又是[illegible]棒」 [illegible]ノくらふ[illegible]くらふ[illegible]ヲくらふ、射撃砲ヲくらふ」メンくらふ」

クラブ (名) [倶樂部] [英語、Club.] 同志ノ者ノ組合

クラブ (名) [英語、[illegible]] 西洋骨牌ノ札ニ、黒キ葉三枚ノ形ヲアラハシタルモノ。

〜くら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) [比] [[illegible]並ぶるノ約轉カ(かかるがゆゑ、かるがゆゑ。蹴ゆ、くゆ。此者、くは。)ら、ふ、ノ約、ら)多数並ベテ見ル意、或ハ、座並ぶるノ約、位置ヲ並ベテ見ル意] (一)二種並ベテ、差違ヲ見ル。タクラブ、比較ス。 枕草子、七、六十四段「[illegible]ノ程ヲくらぶるニ、君シウコソハ」 (二)力ヲ比ベテ、勝負、優劣ヲ試ミル。キホフ。キソフ。ハリアフ。競爭ス。 競 天治字鏡、十二「競、[illegible]良久良夫」[illegible]

グラブ (名) [英語、Glove [illegible]とも] [英語、Mitten] 革製ノ手套、各指ヲ、別別ニ容ルル鞘ノアルモノ、野球ナドニ用ヰル。グロオブ。各指ノ、別別ノ鞘ナキモノヲ、ミ[illegible]ト云フ。

くら-ぶぎやう (名) [藏奉行] 武家時代、米穀、貨物ノ倉庫ノ奉行。 [illegible]云云、藏奉行二人モウツル」

くら-ブトン (名) [鞍蒲團] 鞍ノ上ニ用ヰル[illegible]

くら-ぶね (名) [藏船] [船ヲ、藏ノ用トス] 一處ニ繫ギ置キテ、只、物ヲ納メ置クニ用ヰル船。

くらべ (名) [比] (一)クラブルコト。差違ヲ見ルコト 比較 [illegible]三十六[illegible]「[illegible]ノ命くらべノ、勝チ負ケヲ、君コソ知ラメ、萬代ヲヘテ」「くらへニナラズ」 (二)比ベテ、優劣ヲ爭フコト。セリアヒ。競爭 「力くらべ」「くらべ馬」

くらべ (接尾) [競] [此語、くらべ、くらさ、ト、次第ニ約リテ、再ビ、さ、ニ、くらヲ添ヘテ、さくらト云ヒ、又略シテ、さくト云ヒ、又、或ハ、さヲ重ネテ、さっさト云フ、接尾語ノさくら、さ、さっさ、ノ各條ヲ併セ見ヨ] 勝負事ニ、互ニ技ヲ競ブルコト。又、唯、競ヒ合フコト。くら。コクラ。 「馬くらべ(競馬)狩りくらべ、カリくら 追ケくらべ、カケくら、カケっくら、[illegible]」

〜くらべ-うま (名) [競馬] けいば(競馬)ニ同ジ。 枕草子、八、胸つぶるるもの「くらべ馬見ル」

〜くらべ-ぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [比苦] [比ベ定ムルニ難キ意ナルベシ] 如何ニセバ可カラム、思案ヲツケガタシ。 [illegible] キ心ゾト、イトくらべぐるし」

くらべ-や (名) [倉部屋] [塗籠ナルベキカ、禁中ノ納殿ヲ、御藏ト云フ] 禁中ノ局ノ名 [illegible] テ、くらべやノ女御トゾ聞エケル」 同、六、[illegible]「くらべやノ方ヲ見ヤレバ、御經、教ヘサセタマフト [illegible]」

✤くら・べる (動) [比] くらぶ(比)ノ口語。

くらべ-わ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [比侘] 比ベ苦シク思フ。 [illegible]

〜くら-ぼね (名) [鞍橋 鞍瓦] [鞍骨ノ義、橋ハ、居木ノ、前後ノ輪ニ亙ルガ、橋ノ如クナレバ云フカ、字典「[illegible]之行」横梁 [illegible]] 鞍橋ト瓦トハ、居木ノ背ナリ、左傳、昭公廿六年「射」之中」楯瓦」註「瓦、楯背」 牛馬ノ鞍ヲ構成セル骨組 其前後ニ、圓ク高ク作リツケテ、兩脚、左右ニ開キテ、[illegible]ナルモノアリ、其具ヲ、山形ト云ヒ、其ヲ、前輪、又前[illegible]ト云ヒ、後ナルヲ、後輪 [illegible]ト云フ。前後輪ノ間ニ、低クナリテ、人ノ跨ガリテ、尻ノハマリ居ル所ヲ、鞍壺ト云ヒ、其底ヲ、居木、轉シテ、由木ト云フ [illegible] 平家物語、四、橋合戰事「くらつぼニ、ヨク乘定マッテ、鐙ヲ強ク踏メ」 盛衰記、三十七、重衡卿虜事「家長、ツト寄リ、我ガ馬ニ搔乘セ奉リ、差繩ニテ、[illegible]メツケテ、我ガ身ハ、乘替ニ乘テ [illegible] 東雅、八、器用、九、鞍「鞍瓦トハ、俗ニ、いふ[illegible]ナリ」 [illegible]」

グラマ (名) [英語、Grammar.] 文法、語法、文典。

くらまい (名) [藏米] 藏ニ貯ヘテアル米。 廩米 多クハ、收納ノ年貢米ニ云フ。 [illegible]

くらまい-とり (名) [藏米取] 武家時代、俸祿ヲ、米ニテ給セラルル者(知行取ニ對ス) 天保集成[illegible]八十七、文政[illegible]「[illegible]可」被二思召一候」

くらま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) ［暗］ 〔暗むノ未然形ヲ活用ス、眩む、すます。鱗む、ふとす〕 暗ムヤウニス。暗クス。(明すノ反) 目をくらますト云フハ、見紛フヤウニスルナリ。(分明ナラヌハ、暗むナリ)迷はす、たぶらかすノ意トナル。晦者 跡をくらますハ、逃ゲ隱レテ、見エヌヤウニスルナリ。晦迹 韜晦 「赤色雲集 晦、晦、跡」

くら・まはり(クラ・マワリ) (名) ［藏廻］ 〔藏ハ、質屋ノ義、土藏(ツチグラ)ノ條ヲ見ヨ〕 質流レノ古着、古道具ナド、買ヒマハリテ、牙儈(スアヒ)ヲ業トスル者。古手買。 七十一番職人盡歌合(文安)四十一番、くらまはり「襤衣、袖ヲカヘバヤ、くらまはり、絶エズ涙ノ、流レモノトテ」

くら・まへ(クラ・マエ) (名) ［藏前］ 土藏、米藏、ナドノ前。「江戸、淺草ノ藏前」

くらま・まうで(クラマ・モウデ) (名) ［鞍馬詣］ 山城國、鞍馬山ノ毘沙門天ニ、參詣スルコト。 著聞集、十二、偸盗「くらまうでノ者ノ、夕暮ニ、市原野ヲ過ケルニ、云云「夕暮ニ、市原野ニテ、負フ所ハ、くらまぎれトヤ、云フベカルラン」

くら・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) ［暗］ 〔暗(クラ)しノ語根ヲ活用ス、蒼む、黑む〕 暗クナル。暗ル。クラガル。 眩 狂言記、蛸「俎ノ上ニ引スヘラレテ、後ヨリ庖丁ヲ押アテラルレバ、眼(マナコ)モくらみ、息詰ッテ」「燈火、くらむ」

くら・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) ［暗］ 〔前條ノ語ノ他動、たわむ、たわむる、いたむ、いたむる〕 暗クス。クラマス。 著聞集、十六、興言利口「郎等ヲ召スニ、跡ヲくらめテ失セヌ」

グラム (名) ［瓦］ 〔英語、Gramme〕 重量ノ單位、本邦ノ二分六厘七毛弱ニ當ル、

グラム・カロリイ (名) 〔英語、Gramme-calorie〕 熱量ノ單位、一瓦ノ水ヲ攝氏零度ヨリ一度マデ昇ルニ要スル熱量。

くらんど (名) ［藏人］ くらうどノ音便、其條ヲ見ヨ。

くら・もと (名) ［藏本］ (一)米穀、貨物、ノ倉庫ヲ管理スル者。(二)藏本用達ノ略。商人ノ、武家ノ藏本ニ出入シテ、金錢ヲ融通スル者。 大坂米商舊記、一「當時大坂ニテ、諸侯方ノ米ヲ引請、取扱フヲ、藏元ト稱シ、云云」

くらもと・ようたし (名) ［藏本用達］ 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くら・もの (名) ［暗者］ 隱賣女(カクシバイヂョ)ノ異名。地獄(ヂゴク)ノ條ヲ見ヨ。 好色一代女(西鶴)六「衣裝ト、頭ハ、各別ニ違ヒ、云云、凡、イカナル女房ヤラント、子細ヲ尋ネシニ、何レモ、世間フ忍ブ、暗物女トイヘリ、云云、暗者ト云フハ、惣ノ中宿ニ呼バレテ、カリソメノ戀ヲ、銀ニ咲夕」

くら・もり (名) ［藏守］ 藏ヲ守ル者。藏番。 內藏寮式「凡御藏守、丼、門守、火長、等、月粮」

くら・やく (名) ［藏役］ 米藏ヲ守ル役人。

くら・やく (名) ［藏役］ 〔土藏(ツチグラ)ノ條ヲ見ヨ〕 室町時代、質屋ニカケタル課役錢、卽チ、稅。 應仁記、一「公家モ、武家モ、皆、所領ヲ質ニ置キ、云云、普光院殿ノ御代ニ、倉役、四季ニカカリ」

くら・やしき (名) ［藏屋敷］ 德川時代、武家ノ米穀、諸物ノ倉庫(クラ)アル屋敷(大名ノ米、其外ノ租稅ハ、多クハ、現物ニテ納ム、其餘レルヲ、西國大名ハ、大阪ニ輸送シ、(東北ナルハ、江戸)其地ニ藏屋敷ヲ設ケ、役人ヲ置キテ、賣拂ヒテ、藩ノ諸費ニ充テタリ) 心中刃氷朔日(正德、近松作)上「國ノ迎ヘカ、ツヒ、藏屋敷テ、金ヲ調ヘ」

くら・やど (名) ［藏宿］ ふださし(札差)ノ條ヲ見ヨ。

くら・やみ (名) ［暗闇］ 暗キ闇(ヤミ)。暗キトコロ。闇黑 拾遺集、七、物名、さくら「花ノ色ヲ、アラハニメデバ、アダメキヌ、イザくらやみニ、ナリテカザサム」 後鳥羽院御集「都ヲバ、くらやみニコソ、出デシカド、月ハあかしノ、浦ニ來ニケリ」

くら・ら (名) ［苦參］ 次次條ヲ見ヨ。

くら・らか・ヰ (副) ［暗］ 〔らかハ、其狀ヲ云フ、薄らか、廣らか、高らか〕 暗キ狀ニ云フ語。ウスグラク。 讚岐典侍日記、下「御前ノ大殿油(オホトナブラ)、くららかニ爲ナシテ」

くらら・の・き (名) ［苦參］ 〔眩(クララ)草ノ義ニテ(草ノ條ヲ見ヨ)根汁、苦烈ニシテ、目ニ入レバ、目眩(クラ)メク意カ、一名、まひりぐさモ、目ノ疼(ヒヒ)ラグ意ナルベシ(倭訓栞、後編)〕 略シテ、くらら。又、まひりぐさ。宿根草、山野ニ多シ、春、生ズ、直立、三四尺、葉ハ、槐ニ似タリ、夏、莖ノ梢ニ、淡黄ノ花ヲ開ク、あづき(ズ)ノ花ノ如シ、後ニ、莢(サヤ)ヲ結ブ、二寸許、根、甚ダ苦シ、藥用トス。 天治字鏡、七十五「黃苓、三月七日採根、蔭干百日、味ニ佐佐乃木ニ形似ニ久良良乃木ニ」 同卷、六十「苦參、三月採、根曝干、久良良」 本草和名、上、廿八「苦參、一名、地槐、陶景注云、葉似ニ槐樹ニ、久良良、一名、末比利久佐」(倭名抄、同ジ)

くら・れう(グラ・リヨウ) (名) ［內藏寮］ 古ヘ、中務省ノ被管ニテ、佳節ノ御膳ヨリ、供進ノ御服、祭祀ノ奉幣、等ノ事ヲ掌ル所。ココニ、頭、助、允、屬、主鑰、史生、ナドノ職員ヲ置ク。ウチノクラヅカサ。 職員令、中務省、內藏寮、頭一人、掌金銀、珠玉、寶器、錦綾、雜綵、氈褥、諸蕃貢獻奇瑋之物、年料、供進御服、及、別勅用物事」

くら・ゐ(クラ・イ) (名) ［座居］ (一)座ニ居ルコト。座(ザ)ニ就クコト。座。席(セキ)。天皇ノ高御座

ト申スモ、至高ノ御座居(クラヰ)ヲ申シ奉ルナリ。 古事記、下(雄略)三十「坐(マシマ)ニ其御吳床(ミアグラ)ニ云云」(あぐらノ條ヲ見ヨ)大御歌ニ「阿具良韋」 持統紀、四年七月「甲申朔日、凡朝堂座上見ニ親王者如レ常、大臣與ニ王、起ニ立堂前ニ、二王以上、下レ座而跪、己丑詔曰、朝堂座上見ニ大臣ニ、動レ坐而跪」 同紀、廿一、天平寶字二年八月、讓位ノ詔「年長ク、日多ク、此座ニ坐セバ」 同、三十二、寶龜三年五月、詔「高御座(タカミクラ)、天之日嗣座(ヒツギノクラヰ)」 (二)官ノ座居ニ就キテ執務スル義トナリ轉ジテ、直チニ、官(ツカサ)、職務、ノ義トナレリ。 古事記、下(履中)六十「於ニ其年人ニ賜ニ大臣位ニ、百官(モモノツカサ)令レ拜」 後ニ、官ノ外ニ、位階ヲ設ケラレテモ、ナホ、官ニ、くらゐノ稱ヲ存ス。 天智紀、八年十月、藤原鎌足ニ「授ニ大織冠與ニ大臣位ニ」 續紀、三十一、寶龜二年二月「太政大臣ノ位ニ上ゲタマヒ」 三代實錄、三十三、元慶二年三月「辱ニ大將位ニ」 源、十二、寶龜五大臣致仕ノ詔「公ニモ仕ウマツラズ、位ヲモ還シ奉リテ侍ルニ」

くら・ゐ(クラ・イ) (名) ［位］ 〔前條ノ座居ノ語ヲ、等級アルモノノ意ニ用キタルニテ(位階ハ、支那ノ制ヲ取リテ、立テラレタルナリ)卽チ、正四位上ハ大四座居上階級(オホイヨツノクラヰノカミツシナ)ニテ、從八位下ハ廣八座居下階級(ヒロイヤツノクラヰノシモツシナ)ナリ(倭名抄、五二)〕 (一)〔又、かがふり。かうぶり。〕 親王、諸王、諸臣、ニ賜ハリテ、朝廷ノ座次ノ高下ヲ示ス稱號。版位(ヘンヰ)ノ板、又ハ、位袍ニテ、標トス、又、位階トモ云フ。推古天皇十一年ニ、始メテ冠位ヲ制セラル、德、仁、禮、信、義、智、ニ各、大、小、アリテ、十二階ナリ、各階ノ者ニ冠(カウブリ)ヲ賜ヒ、其縫ヒ作レル絁ノ色ニテ、高卑ノ差トシタマヘリ。 孝德天皇大化三年、改メテ、織、繡、紫、錦、青、黑、トセラレ、各、大、小アリ、末ニ、建武(初位)ヲ加ヘテ、七色、十三階ナリ。同五年ニ、織、繡、紫、以上、大、小ニ別レテ六階、華、

山、乙、以上、大、小、上、下ニ、別レテ十二階、末ニ、建武ヲ加ヘテ、十九階トナル。[illegible]、改制アリテ、天武天皇十四年、諸臣ヲ加セシレテ、諸王以上ニ、明位二階、浄位四階、各、大ト、広ト、アリテ、十二階トナリ、諸臣ニ、正、直、勤、務、追、進ノ六階、階毎ニ四階、又、各、大、廣、アリ、合ハセテ四十八階ナリ。文武天皇ノ御代ニ、改メラレテ、諸王ノ階ヲ、品トシ、(其條ヲ見ヨ)諸王、諸臣ニハ、位ト云ヒ、一位ヨリ九位マデトナリ、各、正、従ト別チ、四位以下ニハ、別ニ又、上、下ノ別アリテ、合ハセテ三十階トナリ、即チ、正一位、従一位、正二位、... 正四位上、正四位下、従四位上、従四位下、ナドトナリ、正、従ヲ、ナホ、おほきひろきト、モ云フ、但シ、九位ヲバ、初位ト稱シ、其正、従ヲバ、大、少、ト云フ。此等ニ、[illegible]賜フコトヲ俘メラレ、位記ヲ賜フコトトナル。然レドモナホ、冠位ト云ヒ、[illegible]ト云ヒテ、其名ヲ存ス。續紀、四、和銅元年正月、宣命「冠、位、上ゲタマフベキ人人」「初位」明治ノ御代ニ至リテ、上、下ノ稱ヲ止メラレ、一位ヨリ九位マデ、各、正、従、アリテ、十八階ト改メラレ、外ニ、文位、勲位、内位、外位、ト云フアリ、各條ニ註ス。(三)物事ノ等級、高下、優劣、[illegible]ノ程度。[illegible]くらゐ五二位名、位階、久良井」[illegible]くらゐヅケ」くらゐガ落チル」[illegible]ノくらゐ取リ」

くらゐ (接尾) [位] (前條ノ(二)ノ程度ノ意) [illegible]ホド、ナケ、バカリ (ニ)[illegible]、[illegible]イヤ、[illegible]ミガ、何ト、利分位デ、賣ルモノヂャ」「馬ぐらゐ早シ見ルくらゐ取ル」首脚ぐらゐカカル」コレくらゐアル」コノくらゐ残ル」

くらゐ-ぎぬ (名) [位衣] 位袍ニ同ジ。くらゐいきぬ、[illegible]、くらゐぎぬ、[illegible]ミソメテシ、色ナレバ、イトド深クモ、ナリヌベキカナ」傍輩、[illegible]くらゐのきぬニ、[illegible]ノ指貫」

くらゐ-さだめ (名) [位定] 帝位ヲ定ムルコト。井筒業平河内通(享保、近松作)五 雨親王ノ御位定め、天下分ケ目ハ今日」

くらゐ-だふれ (名) [位倒] (倒るハ、傾クノ義、偏重ナルナリ、着だふれ、食ひだふれ、ナドノ倒ニ同ジ) 位階ノミ高クテ、資産ナドノ伴ハヌコト。クラキマケ。傾城酒呑童子享保、近松作)二「御公家様達、云云、何ボ御位高フテモ、勝負ニハ勝レヌ、木ノ位倒れジャ」「公卿衆ノくらゐだふれ」

くらゐ-づけ (名) [位附] シナサダメ。物事ニ、等級ヲツクルコト。浮世床(文化、三馬)初編、下「道化役者デ、シカモ位附ガ上上吉、名人」

くらゐ-どり (名) [位取] 多少、高下、ノ取リキメ。[illegible]ノ位取」

くらゐ-のきぬ (名) [位衣] くらゐぎぬヲ見ヨ。

くらゐ-まけ (名) [位負] 分ニ應ゼヌ位地ニノボリテ、見劣セラルルコト。名前まけ、ニ同ジ。

くらゐ-まさり (名) [位優] 位ノ、進ミテ、榮アルコト。榮花物語、十六、本雫「七日ノ叙位ニ、上達部、カズカズ、御位まさりナドシツツ」

くらゐ-やま (名) [位山] 位ノ、昇リ下リスルヲ、山ニ譬ヘテ云フ語。落窪物語、三「八十坂ヲ、越エヨト切レル、杖ナレバ、突キテヲのぼれ、[illegible]ニモ、[illegible]、[illegible]ヤヘヤヘノ、人ダニのぼる、くらゐ山、老イヌル身ニハ、苦シカリケリ」拾遺集、十八、雜賀「人ノ、[illegible]位シ侍リケルニ「[illegible]、垂レ引ク雲ヲ、シルベニテ、くらゐの山ノ、峯ヲタヅネム」

くり (名) [黯] (黒ト通ズ、黒屋、厨。拾ふ、ひろふ) 黒キコト、黯黒 字鏡「黯、深黒、久利」孔子家語[illegible]

くり (名) [涅] (黯土ガ、成語ナルベシ、皂色ノ語モアリ) 黒キ土ノ、水中ニアルモノ、極メテ黒キ色ヲ染ムル料トナル。倭名抄、一 [illegible]土類「涅、水中黒土也、久利」[illegible]二、下、第八條「聖人ハ、國ニ仕ヘ、[illegible]二交リ、光ヲツツミ、迹ヲ隱シテ、涅ニ黒マズ、泥ニ染マヌガ如シ」淮南子、[illegible]訓「以レ涅染レ緇、則黒レ於レ涅」倭訓栞、くり 涅、水中黒土也ト注セリ、俗ニコレヲ、涅[illegible]ト云ヘリ」天武紀、下、朱鳥元年正月「皂衣」[illegible]七年正月「皂衣」下註「皂、色黒也」「鳥[illegible]」

くり (名) [栗] (黯ノ義、くりの木ト云フガ、成語ナルベキカ、樹ノ皮ハ黒灰色ニテ、實ノ鬼皮ノ色ハ赭黒ナリ) (一)〔喬木、高サ、二三丈、葉、甚ダ櫟ニ類ス、梅雨ノ中ニ、葉ノ間ニ、三四寸ノ穗ヲ垂レテ、黄白色ノ、極メテ小サキ花、簇リ開ク、後ニ、實ヲ結ブ、圓ク稍クシテ、毛刺密ニ生ジテ、鋭シ、中ニ二三子アリ、秋ノ末ニ、自ラ裂ケテ落ツ、皮、堅ク、稜ブリ、色、赭黒ニシテ、鬼皮ト云フ、其肉、甚ダ甘美ナリ、材、堅クシテ、用、多シ、古事記、中[illegible]「[illegible]」字鏡「栗、久利」倭名抄、同ジ。(二)栗色ノ略、其條ヲ見ヨ。

ク-リ (名) [庫裏] (倭訓栞、くり、寺院ノ香積ヲ稱スルハ、庫裡ノ唐音也ト云ヘリ、[illegible]故事ニ、[illegible]曰、香積之廚ト見ユ」) 寺院ノ七堂ノ一。齋膳ナド、一切ノ[illegible]ヲ調フル處、寺ノ廚。[illegible]、十一月、[illegible]、[illegible]、東司、[illegible]

[illegible]

ぐり (名) [屈輪] ぐりぐり(屈輪)ノ條ヲ見ヨ。

くり-あ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [繰上] (一)繰リテ、終フル。「絲ヲ繰上ぐ」(二)次第ニ、上ヘアグ。狂言記、富士松「一手矢ナ、片手ハヒヘ、くりあげテ、上ニカタカタ、下ニカタリタ」「一段くりあぐ」(三)繰引ニス、順ニ、ヒキアグ。綏退「軍勢ヲくりあぐ」

くり-あは・す スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [繰合] 便宜ノタメニ、差繰リテ、間ニ合ハス。サシクル。「用事ヲくりあはす」事務ヲくりあはす」

くり-アン (名) [栗餡] 小豆ノ白餡ニ、栗ノ子ヲ煮テ混ゼタルモノ。

グリイキ-けう (名) [希臘教] ぎりしあけうヲ見ヨ。

くり-いし (名) [栗石] (塊石(いしくれ)ノ轉カ、沙利モ、さざれノ轉ナルベシ、地形ニ用キル沙利ニ、割栗石ト云フアリ、暗礁ヲ、いくりト云フモ、石塊ナリ」) 圓クシテ、小サキ石。イシクレ。イシコロ 玄関前ノ廣場ナドニ 敷キ並ブルモノ。東海道名所記(萬治)一、品川「此處ヨリ、くり石ヲ取リ、江戸ニ出シテ賣ル」

くり-いだ・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [繰出] (一)絲、綱、ナドヲ繰リテ、次第ニ抽キ出ダス。クリダス。(二)順ニ出ス、段段ニ、送リ出ス。(くりいるる ノ反) 「人數ヲくりいだす」「軍勢ヲくりいだす」[illegible]ノ[illegible]くりいだす」

クリイム (名) [牛乳皮] (英語、Cream.)

牛乳ヲ、淺キ器ニ盛リ、數時間、放置スレバ、其脂肪ノ浮上リ、凝リテ皮ヲナスモノ、料理、菓子、又、假粧ナド、種種ニ用キラル。

くりいも (名) [栗芋] (一)はすいもノ一名、其條ヲ見ヨ。(二)薩摩薯ノ、水氣少ナク、甘味多キモノ、味、栗ノ實ニ次グト云フ。燒薯ニ、八里半ノ名アリ、九里(栗)ニ次グ、ト云フ謎ナリ。

くりい・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [繰入] 順ニ入ル。次第ニ、入リコム。「人數、くりいる」

くりい・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) [繰入] (一)絲、綱、ナド、次第ニタグリコム。(くりいだすノ反) 枕草子、十二、百四十八段「蜑ノ潜キ入ル、云云、栲繩ヲ、海ニ浮ケアリク、云云、海士モ、上ラムトテハ、其繩ヲナム引ク、取リ惑ヒ、くりいるるサマゾ、理ナルヤ」(二)前ノ物ヲ、次ヘ、次ノ物ヲ、又其次ヘ、ト、次第ニ送リ入ルル。クリコス。和井家日記、桂川合戰事「心靜ニ引取ル、諸陣ヲくり入れノ法トシテ、段段ニ引入レ」「前年度計算ノ餘金ヲ、翌年度ヘ繰り入る」

くりいろ (名) [栗色] (栗ノ子ノ鬼皮ノ色) 黑ニ、赤ミアル色。トビイロ。クリ。褐黑「運歩色葉、栗色」

〔**くりいろ** (名) [涅色] 涅ノ條ヲ見ヨ。

くりうめ (名) [栗梅] (栗色ノ梅染) 染色ノ名、黑ノ、黃赤ヲ帶ビタルモノ。 衣食住記「色ハ、檳榔子、くり梅」

くりかた (名) [栗形] (其形、半圓ニシテ、栗ノ實ニ似タリ) 刀ノ鞘ノ中程ヨリ少シ上ニ著ケテ、突出シタルモノ、孔アリテ、下緒ヲ貫キオク。 盛衰記、廿、石橋合戰事「箱巻ノくりかた」

くりかた (名) [刳形] 材ニ、凹ク刳レル形ヲ作ルコト。衝重、三方、ノ臺ナドナルハ、圓ク刳リ貫キテ、猪目形ニ、えふいり(葉入)ニス。被、臺ノ文箱ナドノ、兩側ノ中央ニハ、下ヨリ、圓形ニ刳リアゲテ作ル、身ニ、紐ノ環アレバナリ、又、山形ナルアリ、洲濱形ナルアリ。 建武年中行事、御馬御覽「臺盤所前、御裝物所、渡殿ノ末マデ、柱ノくりかたニ、馬寮ノ綱、召シテ張リタリ、舞人以下ノ裝束ヲカケワタス」 徒然草、九十五段「箱ノくりかたニ、緒ヲツクル事、云云」

くりかはのくつ (名) [烏皮沓] (くりかはハ、涅色の革ノ義、くろかはトモ、くれかはトモ云フ、涅ノ條ヲ見ヨ) 又、くろかはのくつ。禮服ニ用キル沓、革製、黑塗ノ鼻高履ナリ、鼻、三山形ヲナシ、內ニ赤地ノ錦ヲ貼リ、赤紐ニテ結ビツク。 衣服令、義解「烏皮舄、謂ニ烏皮ニ沓、烏皮也、舄音、(高履沓)」 倭名抄、十二「履襪類「烏皮履」 名目抄、烏皮沓、禮服之時著ㇾ之」 雅亮裝束抄、二「くろかはのくつニ、緒ツキタリ、足ノ上ニ結フベシ」

くりかふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [繰替] 便宜ノタメニ、此レト、彼レトヲ、差繰リ易ヘテ用キル。 轉用「人ヲくりかふ」「時ヲくりかふ」「金錢ヲくりかへテ」「仕事ヲくりかヘテ」

くりかへす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [繰返] (一)綛、繰ル。 萬葉集、七十「河內女ノ、手染ノ絲ヲ、絡反シ、片絲ニアレド、絶エムト思ヘヤ」(二)カヘサフ。綛、同ジ事ヲスル。度度、仕直ス。反復「仕事ヲくりかへす」「幾度モくりかへシテ話ス」

∴**くりか・へる** (動) [繰替] 前前條ノ語ノ口語。

くりカン (名) [栗羹] くりやうかんノ條ヲ見ヨ。

くりがんな (名) [刳鉋] 鉋ノ一種、孔ヲ、圓ク刳ルニ用キルモノ。 七十一番職人盡歌合、五十五番、鑿目くり「くり鉋、カタイリシタル、彼レ目ノ、其ママニスム、ヒキメヤノ月」

クリカラ (名) [倶利迦羅] (梵語、Krkara. 黑龍ト譯スト云フ) 岩ノ上ニ立テタル劍ヲ、黑龍ノ、卷キメグリテ、其切先ヲ呑マムトシ、其背ニ、火焰ノ、燃エアガル象ヲ圖シタルモノ。劍ハ、不動明王ノ三摩耶形ニテ、右手ニ持テル降魔ノ劍、龍ハ、左手ニ持テル縛ノ索ニテ、龍ノ、劍ヲ卷クハ、卽チ、不動ノ化身ノ像ナリト云フ。勇肌ノ火消、鳶者、ナドノ、其背ニ、此圖ヲ文身ニシタルヲ、倶利迦羅もんもんト云フ、焚エ燃エヲ、火焰ノ勢ニ因ミテ、勇マシクハネテ云フナルベシ。 倶利迦羅大龍勝外道伏陀羅尼經「倶利迦羅大龍、以ニ何因緣、吞ニ飲利劍ニ」 盛衰記、四、白山神輿登山事「此明神(白山妙理權現)ト申スハ、云云、本地ハ、倶梨伽羅不動明王也、魔王ト、威勢ヲ諍テ、邪見ノ劍ヲ呑給フ」

クリカラふどうみやうわう (名) [倶利迦羅不動明王] 前條ヲ見ヨ。

クリカラみやうわう (名) [倶利迦羅明王] 前條ノ語ノ中略。 盛衰記、廿九、倶梨伽羅山事「諸國修行シ給ヒシニ、倶梨伽羅明王ノ行ヒ給ヒタリシカバ」

クリカラもんもん (名) [倶利迦羅紋紋] くりから(倶利迦羅)ノ條ヲ見ヨ。

クリカラやき (名) [倶利迦羅燒] 一種ノ料理法。 庖丁聞書「くりから燒トイフハ、鰻ノヒレヲ、串ニ卷キ附ケ燒キテ、鰭足ヲ附ケ添ヘ、肴ニ出ダスナリ」

くりき (名) [功力] 佛經ノ語。功能。效。 阿彌陀經「因ニ他功力ニ」 平家物語、六、慈心坊事「彼僧ノ功力ニ依テ、都率ノ內院ニ生ズベシ」「佛ノ功力」

くりきんとん (名) [栗金團] きんとんノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くりくり (副) [旋回] (回轉ノ語原ヲ見ヨ) (一)圓ク廻ル狀ニ云フ語。くるくる。 小島のくちずさみ(南北朝、二條良基)「小舟ノ、くりくりトスルヤウナルニ、乘リタル心地、イトムクツケシ」「蜜柑ノ皮ヲ、くりくりト剝ク」 (二)圓キ狀ニ云フ語。 孕常盤(正德、近松作)三、十六七ノ馬追ノ、人ニ勝レテ目ノ中モ、くりくり栗毛ノ馬追フテ、小褄袈裟ニ立寄ル」「眼ノ、くりくりシタ人」「くりくり眼」「頭髮ヲ、くりくりト剃ル」「くりくり坊主」「くりくりト、太ッタ兒」

ぐりぐり (名) [屈輪曲輪] (くりんトモ云フ、九連絲ノ略轉ナルベシ(衣輪、襟。囲モ、鳥揃ノ轉)九連絲ハ、漢語トオボシ(九連環ト云フモアリ)元來、漢、渡ノ物ナリ(享保ノ萬寶全書ニ「張成ガ作、花鳥くりくり」文樣ノ、くりくり廻ルノ意ニ移シテ、くりくりト重ネテ云ヒ、屈輪、曲輪トモ書クカ、初、淸音ナリシニ、ぐるぐるニ思ヒ寄セテ、濁音ニ呼ブナリ) 又、くりん。くりくり。堆朱、堆紅、ナドノ刻上ノ文樣ノ渦卷、又ハ、唐草ノ如キモノ。今ハ專ラ濁音ニ、ぐりん、ぐり、ぐりぐりト云フ。九連絲。金絲花。 太平記、三十三、公家武家榮枯事「沙金百兩ヅツ、金絲花ノ盆ニ入レテ置ク」 尺素往來(文明)「堆朱、堆紅、金絲花、九連絲」 後松日記(松岡行義)六、けいきゃうノくりくり「君臺觀左右帳記(足利義政藏品)及、小川御所御座敷飾、等ニ、推朱、色黑シ、線目ニ、

赤キ重ネノ筋、一二ツアリ、云云、堆烏、桂漿ノくりくり[illegible]云云、[illegible]香合[illegible]也」曲輪」曲[illegible]九連鎖盤」屈輪ノ玉ノ如ク圓キ形ナルニ、ぐりノ香合ト云フアリ、ぐりハたヾトモ云ヒ、朱泥、紫泥ノ[illegible]ノ、屈輪ノ小圓形ナルヲモ云フ。倭訓栞、くりん「香合ニモ云へリ、北越ノ製也トゾ」

✤**ぐりぐり** (名) 〔回轉ノ轉〕 瘰癧ノ一種、頸筋ナドノ肉ニ、[illegible]ヲ生ズルコト。エノコ。

くりくりばうず (名) 圓頭 〔くりくりト圓キ坊主天窓〕 髮ヲ、悉ク剃リ去レル頭。

くりくりまなこ (名) 圓眼 くりくり(旋回)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くりげ (名) 栗毛 「栗色毛ナリ」 馬ノ毛色ノ、赭黑ナルモノ、[illegible]、橡栗色、黑栗色、白栗色、等ノ種類アリ。[illegible]

くりこす (他動、四) 繰越 [illegible]「[illegible]」年正月廿八日「一疋、栗色、武田太郎進」

くりごと (名) 繰言 同ジ事ヲ、屢、繰返シテ言フコト。[illegible]

くりこむ (他動、四) 繰込 順ニ、入ルル。クリイルル。「人數ヲくりこむ」

くりさぐ (他動、下二)

繰下 [illegible]ニ、下へ送リヤル。[illegible]「[illegible]くりさぐ」

クリスチアン (名) 基督教徒 〔英語、Christian.〕 基督教ノ信者。

クリスマス (名) 耶蘇降誕祭 〔英語、Christmas.〕 耶蘇基督ノ生レタル日ニ當ル日ノ祝祭。即チ、十二月二十五日ナリ、贈答ノ事アリ。さんたくろおすノ條ヲ併セ見ヨ。

グリスリン (名) 〔英語、Glycerine.〕 又、ぐりせりん。略シテ、りせりん。脂肪ヨリ製出シタル、無色、甘味ノ結晶。但シ、普通販賣スルモノハ、水、其他ノ雜物ヲ含ミ、粘液ヲナス、藥用、又、工業用トス。

グリセリン (名) 前條ヲ見ヨ。

くりぞめ (名) 涅染 涅ノ條ヲ見ヨ。

くりだい (名) 曲臺 剔上文樣ノ渦卷ヲ彫リタル臺。曲輪ノ條ヲ見ヨ。

くりたけ (名) 栗茸 栗ノ樹ニ生ズル菌、莖、長ク、傘、圓ク扁ク、色、橘黄ナリ、食フベシ。栗菌。[illegible]

くりだす (動) 繰出 くりいだすノ約。

クリケット (名) 〔英語、Cricket.〕 一種ノ競技、地上ニ、鐵線ニテ作リタル小門ヲ立テ置キ、ばっとヲ以テ木ノ球ヲ打チ、其門ヲ潛ラセ、勝負ヲ爭フモノ。

くりど (名) 繰戸 雨戸ナド、一木溝ノ敷居ニテ、一枚ヅツ、順ニ繰リ送リテ、遣引スルモノ。二木溝ノ、違遣戸ナドニ

對ス。「[illegible]」

くりぬく (他動、四) 刳貫 刳リテ、貫ク。「[illegible]」

くりのいが (名) 梂 いがノ條ヲ見ヨ。

✤**くりのべる** (他動、下二) 繰延 時日ヲ、次ニ延バス。延期ス。「期日ヲくりのべる」

くりのもと (名) 栗本 かきのもとノ條ヲ見ヨ。

くりバチ (名) 刳鉢 〔刳舟ト、同趣〕 全木ヲ刳リテ造リタル鉢。

ぐりはま (名) 蹕 〔蛤ノ倒語、合はずト云フ謎詞ナリ、蛤ノ殼ノ兩片ノ合口ハ、極メテ密接スルモノニテ、逆ニスレバ、合フコトナシ、ぐれはまト云フハ、意ヲ、狂ルニ移シテ云フナルベシ〕 物事ノ、喰違フコト。又、ぐれはま。[illegible]「蛤ノ、ぐりはまトコソ、水ノ月」向の岡(延寶)「上ヲ下へ、踏ムヤぐりはま、今日千鳥」曾我會稽山(享保、近松作)四「言フコト、爲スコト、ぐりはまニナリ」[illegible]

ニ引上グルコト。[illegible]

くりひろぐ (他動、下二) 繰廣 一枚ヅツ、順ニ開ク。[illegible]

くりぶね (名) 繰舟 渡船ノ、兩岸ニ、大綱ヲ架シ、乘ル者ノ兩手ニテ、綱ヲ手繰リテ、船ヲ遣ルモノ。信濃ノ犀川、筑摩川、ナドニモアリキト云フ。タグリブネ。[illegible]

くりぶね (名) 刳舟 〔刳鉢ト、同趣〕 大楠ナドノ、全材ノ中央部ヲ刳リテ作レル舟。丸木舟。獨木舟。

くりまはす (他動、四) 繰廻 次第次第ニ、繰替フル。ヤリクル。サシクル。運轉 「[illegible]ヲ、くりまはす」

くりまんぢゅう (名) 栗饅頭 唐饅頭ニ、栗餡ヲ用ヰタルモノ。但シ、形ハ圓クシテ、小石ノ如シ。

くりん (名) 九輪 塔ノ頂ノ露盤ノ、九層ナルモノ。相輪。空輪。九層露盤 [illegible](元祿)二「相輪塔、云云、相輪者、是乃俗間所謂九輪也」[illegible]

ぐりん (名) 屈輪 ぐりぐり(屈輪)ノ條ヲ見ヨ。

くりむし (名) 栗蟲 (一)形、小サク圓クシテ、色、白キ蟲、栗ノ實ノ内ニ嚙ヒ入リテ、食フ。倭訓栞「くり、栗蟲ハ、形、丸ク、色、白ミ、肥テ、生兒ノ美ナルヲ喩ヘ云ヘリ」 (二)天蠶ノ一名。

ぐりん-だま (名) 屈輪玉 屈輪ノ條ヲ見ヨ。

くり-めいげつ (名) 栗名月 いもめいげつノ條ヲ見ヨ。

くり-もど-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 繰戻 順ニ回ス。次第ニモドス。「人數ヲくりもどす」

くり-や (名)・廚 〔黑屋ノ轉(黯ノ條ヲ見ヨ)烟ニ煤クルヨリノ名ナリ、出雲國造神賀詞「嚴瓮黑瓮シ」禁中ノ黑戸モ、同意ナリ」〕(一)飲食物ノ煮燒ヲ調フル處。臺所。天治字鏡、十九「庖、久利也」同、十一廿「廚、久利也」倭名抄、十二十居宅類「廚、庖屋也、久利夜」(二)廚人ノ略、其條ヲ見ヨ。(三)饗應。椀飯ブルマヒ。後三年合戰物語ニ、源義家、陸奧守ニナリテ下リケルニ、眞衡、新司ヲ饗應セムコトヲイトナム、三日廚ト云フ事アリ、日毎ニ、上馬五十匹ナム引キケルトアリ。庭訓往來、三月「椀飯古法、廚膳トテ、結構シ餝ル膳ナリ、領主入部ノ時、百姓迎拜スルコトナリ、椀飯モ、同前」

く-りやう (名) 公領 朝廷ノ御領。公領。吾妻鏡、七、文治三年四月廿三日「件所所者、非ニ指庄號之地ハ有」限國保、勿論之公領也」運歩色葉集「公領、クリャウ」

くり-やうカン (名) 栗羊羹 〔羊羹ニ似タリ〕略シテ、栗羹。料理ノ名、かんてんヲ水ニテ煮テ沸カシ、砂糖ト、少シノ鹽ヲ加ヘタルニ、栗ノ實ヲ煮テ搗リツブシタルヲ入レ、掻キマゼテ煮ツメテ、器ニ流シ込ミオケバ、數時ニシテ成ル。

くりや-びと (名) 廚人 廚ニ居ル人。臺所ノ人。料理人。雄略紀、二年十月「欲レ貢レ人曰、我之廚人菟田」

くりや-め (名) 廚女 廚ノ事ヲスル女。ミヅシメ。枕草子、三、廿八段、にげなきもの「くりや女ノ、イト清ケナルガ、サシ出デテ、何ガシ殿ノ人ヤサフラフナド、イヒタルモ、ヲカシ」

くりゃ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔與れ遣るノ約カ、くれるノ轉カ〕(一)與ルル。アタフ。狂言記、磁石「約束ノ鳥目ヲくりゃれ」(二)助動詞ノ如ク用キテ、仕向くる意ヲナス。くれる(與)ノ條ヲ見ヨ。狂言記、鬮座頭「來テくりゃるマイカ」國性爺後日合戰(正德、近松作)三「目ヲ眠ッテおくりゃれ」

く-りょ (名) 苦慮 心配ニ同ジ。范泰詩「華髮彌二性容一、苦慮陵二懷抱一」

く-りょく (名) 苦力 くうりいヲ見ヨ。

くり-わた (名) 繰綿 木綿ノ實ヲ、わたくりぐるまニカケテ、核ヲ去リテ、未ダ、打チワケザルモノ。綿英。御當家令條、十六、異國船入津留物覺「一、繰木綿、丼、くり綿、云云、右之分、從二當年一異國江指渡申間敷者也、寛文八年三月八日」

くる (名) 樞 くるるニ同ジ。萬葉集、廿三十六「ムラタマノ、(枕)久留ニ釘刺シ、固メトシ」(同、十五十六「家ニアリシ、櫃ニ鏁刺シ、藏メテシ」)

く-る (名) 痀瘻 クヅセ。セムシ。列子、黄帝篇「見二痀僂者承一レ蜩」(僂ハ瘻ニ同ジ)

く・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 暗 クラクナル。心、クラム。源、一、桐壺三十一「くれ惑フ心ノ闇モ、タヘ難キカタハシヲダニ、晴ルルバカリニ、キコエマホシウ侍ルヲ」

く・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 暮 〔前條ノ語ニ同ジ、晝ノ日影ノ暗るる意〕(一)日、傾キ果テテ、夜ニナル。伊勢物語、第九段「ハヤ舟ニ乘レ、日モくれヌト」源、十二、須磨三十二「くるるホドニ、カヘリタマヒヌ」(二)轉ジテ、時、過グ。年、終ツ。源、六、末摘花廿「カノワタリニハ、イトオボツカナクテ、秋、くれハテヌ」古今集、六、冬二「雪降リテ、年ノくれヌル、時ニコソ、ツヒニ紅葉ヂヌ、松モ見エケレ」

く・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 眩 目、眩ム。落窪物語、一「イカニナシ奉リ給ハントスルニカアラント思フニ、目くるるココチシテ」

く・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 繰 〔次條ノ語ト通ズルカ〕(一)廻ラシテ、引出ス。タグリヒク。箋注倭名抄、六六十「綜、絡」繭取レ絲也、久流」神樂歌、早歌「眞山ノ小葛、久留久禮小葛」(二)順ニ、送リ遣ル。遞送「雨戸ヲくる」(繰戸ノ條ヲ見ヨ)「くり出ス」「くり入ル」「くり上グ」「くり越ス」(三)順ニ、數ヘ行ク。推算。「曆ヲくる」「日ヲくる」「年ヲくる」

く・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 刳 〔前條ノ語ト通ズルカ〕廻ラシ、穿ツ。刻ル。エグル。クジル。コジル。「鑿目ヲくる」「壁ヲくりヌク」(刳舟)

く・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 與 與フ。神樂歌、杖「アフ坂ヲ、ケサ越エクレバ、山人ノ、我レニクレタル、山杖ソコレ」土佐日記、一月十四日「鹹取、又、鯛モテキタリ、米、酒、シバシバくる」「物ヲくる」

くる (動) 來 く(來)ノ條ヲ見ヨ。

✣**ぐる** (名) 共謀 〔とちぐるひノ上下略ナラムカ(ねぐらかへ、くらがへ。がさつき、がさつ)〕なれあひノ隱語ナリシナルベシ。卑語ナリ。新板歌祭文(安永、牛二)野崎村「コレホドワメクニ、聞耳ツブスハ、親仁モ、ぐるノ仕事ヂャナ」

くる-が-の-みち (名) 北陸道 くぬがのみちヲ見ヨ。

くる-くさ (名) 大靑 〔蓼藍ノ葉ヲ藥用トスル名カト云フ〕ハトクサ。倭名抄、廿十八草木部「大靑、汝止久佐、一云、久流久佐」

くる-くる (名) 來來 數子ノ女房詞 さずさずノ條ヲ見ヨ。親元日記、寛正六年正月十日「齋藤越中守入道、曆一、來來一折」

くる-くる (副) 回轉 〔繰る繰るノ義、くるくろ廻るト、副詞ニ用キルハ、代ろ代ろ語るナド云フト同ジク、繰り繰りめぐるトモ云フハ、代り代り話すト云フト同ジク、轉ジテハ、きりきりめぐるトモ云フ(踵、きびす)〕廻ラシ、又ハ、廻ル狀ニ云フ語。クルリクルリ。濁音ニ、ぐるぐる。グルリグルリ。枕草子、八、八十一段、うらやましきもの「經ナド習ヒ、云云、男モ、女モ、くるくるト、ヤスラカニ讀ミタルコソ」「絲ヲ、くるくる卷ク」「輪ヲ、くるくるマハス」「風車ガ、ぐるぐるマハル」

ぐる-ぐる (副) 回轉 前條ノ語ニ同ジ。

くる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 苦 (一)身、痛ミテ、艱マシ。イタマシ。竹取物語「翁、心地惡シク、くるしき時モ、此ノ子ヲ見レバ、くるしき事モヤミヌ」(二)悶エテ、安ンゼズ。萬葉集、二十四十一「難波潟、シホヒナアリソネ、沈ミニシ、妹ガ姿ヲ、見マク苦流思モ」「心、くるし」「思、くるし」

くるしび (名) 苦 クルシブコト。くるしみ。ナヤミ。宇津保物語、吹上、上廿二「地獄ノくるしびヲモ、救ヒマウサム」

くるし・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 苦 くるしむニ同ジ。名義抄、口部「苦、クルシブ」「困、クルシブ」

くるし-まぎれ (名) 苦紛 苦シサニ堪ヘズ、我レヲ忘レテ振舞フコト。「くるしまぎれニ、出デ言ヒメケル」

くるしみ (名) 苦 クルシムコト。くるしび。ナヤミ。苦痛。夫木抄、三十四「くるしみト、歎キトウケバ、我ガ心、五ノ欲ニ、アヒミチナセソ」

くるし・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [苦] (一)苦シク感ズ。身、痛ミテ、艱ム。くるしぶ。 萬葉集、十八、雑、五「イタヅラニ、安キ我ガ身ゾ、恥シキ、苦しむ民ノ、心思ヘバ」 (二)〔心、思ヒ[illegible]〕[illegible]「人無キニ苦しむ」「[illegible]事ニ苦しむ」

くるし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [苦] 前條ノ語ノ他動。(痛む、いたむる) (一)苦シムヤウニス。「罵リ、心ヲ苦しめテ」 (二)タシナムル。コマラス。イヂメル。「多クノ人ヲくるしむる」

⁂**くるし・める** (動) [苦] 前條ノ語ノ口語。

クルス (名) [十字架] [葡語、(Cruz)] 葡語、(Cruz) (一)耶蘇教ノ十字架ノ原名。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。 (二)紋所ノ名、圓ノ内ニ、十字ヲ畫キ、四端ノ、稍外ニ出デタルヲ象リ圖ス。中川氏(作、豊後、岡藩)ノ紋ナド、是レナリ。切支丹宗門ノ十字架ナルベシ。十文字ノ稍ノ稍ナドニモ、くる花ト云フアリ。

⁂**くるつ・あした** (名) [明旦] くるとし(明年)ノ條ヲ見ヨ。

⁂**くるつ・とし** (名) [明年] くるとし(明年)ノ條ヲ見ヨ。

⁂**くるつ・ひ** (名) [明日] 次次條ヲ見ヨ。

クルップ・ほう (名) [獨逸、Krupp] 大砲ノ一種、獨逸國ノモノ、獨逸ノくるっぷ會社ニテ造ル。

⁂**くるとし** (名) [明年] [あくる年ノ上略(殯、もがり。跡絶ゆ、とだゆ)くるつあしたハ、明之朝、くるつ年、くるつ日、同ジ] 明年。翌年。[illegible]

[illegible]年、[illegible]日」

くるは・か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [狂] [次次條ノ語ノ一轉、あらはす、あらはかす。かどはす、かどはかす] (一)次次條ノ語ニ同ジ。 古今著聞集、廿八、第廿七話「ソレハ傀儡神ト云フ物ノ、狂かしケルナメリ」 (二)タブラカス。ダマス。 住吉物語、[illegible]侍従ニくるはかされテ、ヨモノフルマヒドモ拾フモ知ラデ」

くるは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [狂] [狂ふノ未然形ヲ活用セシム(わづらふ、わづらはし。うるほふ、うるほはし)くるほしハ、音轉ナリ(いたはし、いとほし。おもはし、おもほし)] 狂ヘル如シ。又、くるほし。 宇治拾遺、十二、第七條「名利ヲ厭ヒテ、頻ル物くるはしくナム、ワザト、フルマヒタマヒケル」 最勝王經音註「狂、久留保之」 枕草子、四、四十四段「聞ク人モ、物くるほしト笑フ」

くるは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [狂] [狂ふノ未然形ノくるはニ、使役ノ助動詞ノすノ附キタルモノ、成語ト見ル] 狂フヤウニナス。度ヲ外レシム。クルハカス。「時計ヲくるはす」「[illegible]ヲくるはす」

⁂**くるは・せる** (動) [狂] 前條ノ語ノ口語。「相場ヲくるはせる」(番くるはせ)

くるひ (名) [狂] (一)氣ノ、狂ヒタルコト。キチガヒ。狂氣。癲癇。 齊明紀、三年九月「有間皇子、性狂、陽狂云云」「物ぐるひ」 (二)常識ノ、亂ルルコト。氣チガヒジミタルコト。 大鏡、中、伊尹「冷泉院ノくるひヨリハ、花山院ノくるひコソ、術ナキ物ナレ」「色ぐるひ」「傾城ぐるひ」 (三)度ノ、外レタルコト。「傾城ノくるひ」「商業ノくるひ」

くるひ・ざき (名) [狂咲] [開花ノ時節ニ外レ、狂ヒテ咲く] カヘリザキ。カヘリバナ。狂花。[illegible]「[illegible]ノ狂ひ咲き」

くるひ・じに (名) [狂死] 狂ヒニ狂ヒテ、死ヌルコト。

くる・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [狂] [回轉(くるくる)ノくるヲ活用ス(うねうね、うねる。ふてふて、ふてる)] (一)〔廻ル〕 古事記、中、仲哀、六十長歌「神壽ギ、壽ギ狂流本斯」(めぐるノ他動敬語ナリ) (二)〔精神、亂ル〕氣ガチガフ。狂氣ス。 垂仁紀、五年十月「狂」 (三)〔神、託ス〕物怪、憑ク。クルメク。 靈異記、中、第三十四縁「[illegible]子哉、若託鬼邪」 訓釋「託、クルヘル」 天治字鏡、三十「誑(誆)、久留比天毛乃伊不、又、口波之留」 同巻十、三「詭、久留不」 宇治拾遺、十五、第四條「コハ、鬼ニくるはセタマフカ」 (四)〔常識、亂ル〕甚シク悶ユ。 萬葉集、四、五十「逢ヒ見テハ、幾日モ經ヌヲ、幾許モ、久流比ニ、思ユルカモ」 (五)トサマ、カウサマニ、動キメグル。「舞ヒくるふ」「馬、駆せくるふ」 (六)正シク合ハズ。度ニ外ルル。グレル。「[illegible]ガくるふ」「目算ガくるふ」

くる・ぶし (名) [踝] [樞節ノ約(萬葉集、廿「久留(樞)ニ釘刺シ」)足首ヲ俯仰セシムル樞節ナリ] 古名、ツブブシ。ツブナキ。脛ト足首トノ骨組ノ處、骨、高ク現ハル。内へ向ヘルヲ、内踝ト云ヒ、外へ向ヘルヲ、外踝ト云フ。ツクブシ。訛リテ、クロブシ。クロボシ。手腕ニモアリテ、同ジ。 [illegible]「富士三里、ドットサガリテ、タツ鳥ノ、くるぶしナレヤ、足柄ノ山」

くるべか・す (動) くるめかす(回轉)ノ條ヲ見ヨ。

くるべき (名) [反轉] [次條ノ、回轉くノ詞形、[illegible]ノ條ヲ見ヨ] [illegible]縦ヲ繰ル具。 天治字鏡、[illegible]六六 [illegible]具、反轉、久流[illegible] [illegible]「[illegible]」 [illegible]かせわトモ云ヒ、又、まひばトモ云フナリ、云云、今、[illegible]ノカニハ、くるべきト云フナリ」 萬葉集、四「[illegible]ノ如ニ、思ヒ亂レバ、久流部寸ニ、懸ケテ寄セムト、吾ガ思ヒ初メシ」 枕草子、五、五十段「稲ト云フモノ、多ク取リ出デテ、云云、見モ知ラヌくるべき物ニ、二人シテ引カセテ、歌ウタハセナドスルヲ、メヅラシクテ笑フ」

くる・べ・く (動) くるめく(回轉)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くるほ・し (形) [狂] くるはしノ轉、其條ヲ見ヨ。

くるほ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [廻] [狂ふノ敬語(思ふ、おもほす。狂し、くるほし)他動ニ變ズ、廻らしたまふ意、もとほる(廻ル)ヲもとほすト云フモ、同意ノ敬語ナリ(古事記傳、稜威言別ニ、私意ヲ加フ)] 繰リ返シタマフ。 古事記、中(仲哀)六十長歌「此御酒ハ、云云、少御神(少彦名神)ノ、神壽ギ、壽キ狂流本斯、豊壽ギ、壽ギ母登本斯、奉リ來シ御酒ゾ」

くる・ま (名) [車] [くるハ、回轉ノ義、まハ、輪ト通ズト云フ(磯間、磯曲。曲ぐる、わがぬる)或ハ、くるくる廻はる意カ] (一)〔輪ヲ廻ラシテ、種種ノ運轉ヲナサシムル具。人、又、物、ヲ載セテ、地上ヲ牽キ行クニハ、輪ニ軸ヲ貫キ、轅ヲワタシテ、轅ヲ牽ケバ、輪、廻リテ行ク、人ノ乗ルニハ、上ニ車箱アリ、牛、馬、ニ牽カスルニ、牛車、馬車、アリ、人ニ牽カスルニ、荷車、人力車、アリ、蒸氣機關

ニテ牽クニ、汽車アリ。萬葉集、四、四五「戀草ヲ、力車ニ、七車、積ミテ戀フラク、吾ガ心カラ」倭名抄、十一、車類「車、久留萬」車を懸くト云フコトハ、懸車ノ條ヲ見ヨ。(二)輪ヲ廻ラシテ、諸ノ器械ニ用キルモノ。「水車」「風車」「時計ノ車」(三)輪ノ如キコト。圓キコト。「車切り」「車座」

くるま-あらそひ (名) 車爭 數多ノ牛車ノ立所ヲ、牛飼童ナドノ、相爭フコト。又、車立論、トモ云フ。源、九、葵十「祭ノ日ハ、(賀茂祭、大殿ニハ、物見タマハズ、云云、カノ御車ノ所あらそひヲ、眞似ビキコユル人アリケレバ」ハカナカリシ所ノ御車あらそひニ、人ノ心ノ動キニケルヲ」思の儘の日記(貞治)「アラヌ狀ノ車あらそひ」沙石集、九、下、第六條「故金剛王院ノ僧正、公請勤メラレケル時、僧正ノ牛飼、御室ノ御車ト、車立論シテ、御室ノ車ヲ、散散ニシタリケルヲ、房官、侍、牛飼ヲ制シカネテ、云云」

くるま-うし (名) 車牛 牛車ヲ牽カスル牛。宇津保物語、嵯峨院六十六「黄ナル御車うし、懸ケタリ」

くるま-えび (名) 車鰕 〔煮レバ、體、内ニ卷キテ、形、車輪ノ如シ〕うみえびノ一種、形、常ノ鰕ノ如クニシテ、大キサ六七寸ニ過ギズ、殼、厚クシテ白ク、節毎ニ、紅ナル斑アリ、煮レバ、全身、紫紅トナル、秋、冬ヲ、節トス。又、サイマキ。斑節鰕 高野萬年草(寶永、近松作)中「祝言、云云、肴ハ、鰕、車海老」

くるま-がかり (名) 車懸 〔車トハ、陣陣、廻リ出ヅル意〕(一)軍法ニ、先陣、二陣、三陣、ト、次第ニ廻ハリ廻ハリテ、攻メカカルコト。甲陽軍鑑、十、下、品第三十二、信玄、謙信、川中島ノ戰「ソレハ、車掛トテ、幾廻リニ、旗本ト、敵ノ旗本ト打合ハセテ、一戰スル時ノ軍法、是レナリ」常山紀談、九「關白ト佐野天德寺ト物語ノ武田、上杉ノ弓矢盛ナリシ事ヲ申シケレバ、秀吉冷笑ヒテ、謙信、信玄ト云フ坊主モ、今ニ存生ヘテ居バ、薙刀ヲ肩ゲサセ、朱傘ヲ持タセテ、馬ノ前ニ召具スベキニ、何條、車がかり、坐備、皆、タハコトナリ、トゾ言ハレケル」(節文)(二)劒術ナドニ、先番ニ勝チタル者ニ、新手ノ、代ル代ル掛ルコト。

くるま-がへり (名) 車返 かへりうち(反打)ノ條ヲ見ヨ。

くる-まき (名) 搯卷 〔回轉卷ノ義ナルベシ、說文「搯、搯也」搯、拔也」〕轆轤ノ異名。太平記、三十六、天王寺造營事「棟木ヲ揚ゲムトシケルニ、搯卷ノ綱ニ、信濃皮ムキ千束入ルベシ」

くるま-ぎり (名) 車切 〔車ハ、即チ、輪ナリ〕輪切ニ同ジ。太平記、十、長崎高重最後合戰事「奴原ヲ、齊面ヘ追ヒ出シテ、弓手、馬手ニ相付ケ、車切り、胴切り、立チ破りニ仕リ」犬子集(寛永)「幾度モ、マハレヤ瓜ノ、くるまぎり」

くるま-ざ (名) 車座 衆人、環ノ如ク、圍ミテ坐ルコト。圓欒 幸若、和田酒盛「義盛ヲ初メ、虎モ、長者モ、一門九十三騎、くるま座ニ、ハラリト居流レ」毛吹草(正保)五「車座デ、祝ヒ初ムルヤ、丑ノ年」

くるま-ざき (名) 車裂 私人ノ刑、車ニテ、人ヲ裂キ殺スコト。轘 字類抄(天實、長寬)「轘、クルマザキ、刑レ人也」塵袋(弘安)六、五刑事「轘 裂、世ノ人、兩車ノ罪ト云フ、くるまざき也、車二兩ニ、片足ヅツ結ヒ付ケテ、兩方ヘ遣リノケテ裂ク也」立入左京亮入道隆佐記、天正六年、織田信長ノ、荒木攝津守ノ族ノ刑「津國ニテノ成敗、燒討、はたもの、京ニテノ車ざき、上下、三十六人」(古事類苑)

くるま-ぞひ (名) 車副 牛車ノ左右ニ副ヒテ、供スル舍人。官位ニ因リテ、服裝ヲ異ニシ、十餘人ヨリ、以下、一二人ニ至ル。源、四十九、寄生八十「御前、隨身、くるまぞひ、舍人、ナドマデ」

くるま-たて-ろん (名) 車立論 くるまあらそひノ條ヲ見ヨ。

くるま-づか (名) 車塚 〔形、貴人乘用ノ車ノ如シ〕上代、貴人ノ墓ノ、今ニ存スルモノ、土ニテ築ケリ、前ノ方ハ、方形ニシテ、低ク、後ノ方ハ、圓形ニシテ、高ク、此處ニ、屍ヲ藏メタリ、周圍ニ溝アリ、側面ヨリ見レバ、靴ノ形ニ似タレバ、くつがたノ塚トモ云フ、古キ御陵ナド、皆、亦、此制ナリ。又、兜塚アリ。山陵志「凡、其營レ陵、因レ山、從二其形勢一、所レ向無レ方、大小、高卑、長短、無レ定、其後制也、必象二宮車一、而使二前方後圓一、爲レ壇三成、且環以レ溝、夫、其圓而高者、如レ張レ蓋也、頂後二一封一、即、其所レ葬、方而平者、如レ置レ衡也、其上隆起、如二衡轅一也、前後相接、其間稍卑、而左右有二圓丘一、倚二其下壇一、如二兩輪一也、及レ至二後世一、民瞻レ之、而莫二能識一焉、猶號曰二車塚一、蓋亦以レ是也」

くるま-ど (名) 車戸 戸ノ下框ノ底ニ、小サキ輪ヲ仕付ケタルモノ、敷居ノ溝ヲ遣ルニ、タヤスク走ル。多武峯略記、下、第二、堂舍、講堂、北方、在二車戸一具一」曾根崎心中(元祿、近松作)中、門口「車戸ノ音、イブカシク、明ケカネシ折リカラ」

くるま-どめ (名) 車止 路、橋、ナドニ、車ノ、通行ヲ止ムルコト。

くるま-ながもち (名) 車長持 長持ノ下ニ車輪ヲツケテ、地ヲ牽キ行クベク造レルモノ。天和元年十一月、町觸「火事出來之節、兩國橋假橋、長持井車長持通シ候ヘバ、往還之妨ニ成リ候間、通シ中間敷候」(俚言集覽)

くるま-ばった (名) ばったノ條ヲ見ヨ。

くるま-ひき (名) 車引 荷車、人力車、ニテ、物、又、人ヲ載セテ、引キ送ルヲ業トスル者。車力。車夫 寶暦集成続編錄、三十一、延享二丑年五月「車引之者、ガサツニ無レ之節之儀、近來、猥ニ往來ニテ、乘馬之側ヘ車引カケ、馬之驚候ヲ慮抔ニ致候由」

くるま-へん (名) 車偏 漢字ノ偏ニアル、車ノ字ノ稱、軒、軸、輻、輔、轉、ナドノ如シ。車旁 運歩色葉集「車」

くるま-ぼね (名) 車骨 〔形、車輪ニ似タル意カ〕セボネ。脊椎骨。

くるま-や (名) 車屋 (一)車宿ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。(二)次次條ノ語ニ同ジ。

くるま-やかた (名) 車屋形 やかたノ條ヲ見ヨ。

くるま-やど (名) 車宿 車引ノ家。クルマヤ。

くるま-やどり (名) 車宿 寢殿造ノ貴族ノ邸ノ總門ノ内、中門ノ外ニ設ケ、牛車ノ牛ヲハナシテ、引入レ置ク建物。又、車屋。車舍 輿ナルヲ、輿宿ト云フ。輿舍 枕草子、二、十四段「車ヲヤリテ待ツニ、來ル音スレバ、云云、くるまやどりニ入リテ、轅ホウト打チオロス」榮花物語、廿七、衣珠「北ノ方ノ御くるまやニ、女房タチノ車ナド、引キツヅケタリ」下學集、下、家屋門「車宿」運歩色葉集「輿車宿」家屋雜考、一、「車舍ハ、中門ノ外ニアリ、車ニテ來ル客人アレバ、牛ヲハヅシテ、車ヲ引キ入レ置ク所也、此方ノ車ヲモ、常ニ、引キ入レ置ク所ナリト云フ(輿舍ニ同ジ)」同卷、輿舍「北山殿行幸記ニ、寢殿南面七箇間、云云、階間、修理職儲二御輿寄一云云、中門南廊、儲二御輿舍一云云、ナド見エタル、是ナリ」

くるま-よせ (名) 車寄 殿舍ニ、牛車ヲ寄セテ、昇降スル處、寢殿ノ東西ノ妻戸ノ前ニ、廂ノ屋根ヲ差出シテ作リ、下ヲ敷石トス。(家屋雜考) 盛衰記、六、丹波少將事「人人、泣ク泣ク起上リテ、車寄ニ出テ向ヒテ」

くるまゐど（名）〔車井戸〕滑車ヲ仕掛ケテ、釣瓶ヲ掛ケテ、汲揚ゲシ仕掛ノ井。（すねくるまノ井戸ナドニ對ス）

くるみ（名）〔包〕クルムコト。ツツミタルモノ。〔包括〕總テくるみ

クルみ〔胡桃〕（呉桃トモ書ク）[illegible]喬木ノ名、[illegible]高サ[illegible]、葉ハ、漆ニ似テ大キク、周リニ[illegible]、長サ五六寸、[illegible]春ノ末、黄白花ヲ開ク、栗ノ花ニ似テ、長サ六七寸、花ノ後ニ實ヲ結ブ、栗ノ如シ、實ハ、桃ノ如クニシテ、青ク、熟スレバ黒シ、核、甚ダ堅ク、皺、深シ、仁ヲ取リ食フ、他方ニ對シテ、おにくるみトモ云フ。又、唐くるみト云フハ、胡桃ニ似テ、少シ小シ、葉ハ、胡桃ニ似テ、其大ナリ、核モ大キク、一寸餘ニシテ、[illegible]

ぐるみ（接尾）〔包〕ヒキクルメテ。ト、共ニ、ノ意。[illegible]大[illegible]ニモ、[illegible]くるめ[illegible]くるみ」

クルみあへ〔胡桃和〕（あふ（和）ノ條ヲ見ヨ）胡桃ノ仁ヲ擂リツブシ、味噌ト醬油トヲ加ヘ、擂リマゼ、[illegible]ニ加ヘ[illegible]モノ。

クルみいろ（名）〔胡桃色〕（胡桃ノ核ノ色ノ如キ）色ノ名ニ云フ、[illegible]黄、白ク、表、薄香色ナルヲ云フ。（[illegible]）源、十三、[illegible]「胡桃ノくるみいろノ紙[illegible]ナリ」枕草子、七、六十四段「くるみいろト云フ色紙ノ、厚肥エタルヲ」後拾遺集、十、哀傷「くるみ色ノ紙ニ、云云、書キテ」

クルみやき（名）〔胡桃燒〕（形、圓クシテ皺アルコト、胡桃ノ核ノ如ク、大キサモ、色モ、似タリ）うどんこヲ水ニ溶シタルヲ、鐵板ニ圓キ凹アルニ、油ヲ延キテ、流シ入レ、炙リ燒キテ、餡ヲ包ミタルモノ、形、圓シ。

くる・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）〔包〕（回轉ノくるヲ活用ス、剋剋、きざむ）包ミ、卷ク。ククム。（くるめろヲ併セ見ヨ）包括　[illegible]補遺、長キ小袖ニテ、足ヲくるみ」[illegible]ニ、着物ヲくるむ」

ぐるめ（接尾）〔包〕ぐるみニ同ジ。雙生隅田川（享保、近松作）四「刀ノ柄、手先ぐるめニ、シッカト取リ」

くるめか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔回轉〕（[illegible]條ノ語ノ他動（いろめく、いろめかす。かがやく、かがやかす）次次條、及、めくノ條ヲ見ヨ）クルメクヤウニス。クルクルト、マハス。轉ジテ、くるめかす　宇治拾遺、十二、第二條「[illegible]ハ、口ヲ張リ[illegible]、云云、ト引キ、カウ引キ、くるめかせバ、倒レ[illegible]」宇津保物語、[illegible]「[illegible]、怒レル[illegible]ヲ出シテ、云云、眼ヲ、[illegible]ノ如ク[illegible]くるべかして」宇治拾遺、十五、第十二條[illegible]くるへかす、鼻ヲ吹キ怒ラカシ」

くるめがすり（名）〔久留米絣〕筑後國、久留米地方ヨリ産出スル、木綿織ノ絣。

くる・め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔回轉〕（くるハ、回轉ノくる（ひらひら、ひらめく。ふたふた、ふためく）めくハ、其條ヲ見ヨ、他動ニ、くるめかすトナル、べくハ、めくノ音轉（うごめく、うごろめたし、うごろめたし。すべる、ぬめる）他動ニ、くるべかすトナル）（一）クルクルト、廻ル。狂ヒ、マハル。轉ジテ、くるべく、[illegible]「女、[illegible]ニ[illegible]出デテ、アラ[illegible]、[illegible]ヤト叫キ入リ、くるめくコトオビタダシ、驗者ヲ呼ビテ祈ラスルニ、蛇ノ靈、病者ニアラハレテ」[illegible]ノ如ク、クルクル轉きテ」名義抄「轉、クルベク」（二）〔眩〕回ルガ如ク、感ズ。メマヒス。目クラム。[illegible]眩暈[illegible]名義抄[illegible]「[illegible]夜[illegible]眩、目女久留」名義抄[illegible]眩、クルベク、メメグル、メクル」

くる・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）〔包〕（四段ヨリ轉ジテ、生得ノ下一段）（一）クルム。ツツム。包括　總括「何モカモ、引キくるめテ」（二）十分ニ、タブラカス。ノセル。訛リテ、くろめる。籠絡「相手ヲくるめテ、同意サセル」鷺ヲ鵄ト、言ヒくろめる」

くるり（名）〔樞〕くるりやノ條ヲ見ヨ。

くるり（名）〔連枷〕くるりほうト、からざほノ條ヲ見ヨ。

ぐるり（名）〔周圍〕メグリ。マハリ。「屋敷ノぐるりニ、垣ヲ構ク、池ノぐるりヲ[illegible]」

ぐるりおとし（名）〔周圍落〕女ノ髮風ノ名、おさしばらげノ條ヲ見ヨ。

くるりくるり（副）〔旋回〕（回轉ノ語原ヲ見ヨ）回ル狀ニ云フ語。ぐるりぐるり[illegible]、四十六、與一射扇事「[illegible]扇ハ、[illegible]ニモタマラネバ、くるりくるりトマハリケリ」[illegible]ぐるりトマハル」

ぐるりぐるり（副）〔旋回〕前條ノ語ニ同ジ。

くるりと（副）〔回轉〕廻ハリ、又、卷キ締マル狀ニ云フ語。クルッと、グルグルト。ぐるりと。「くるりと廻ハル」くるりと卷キック」

ぐるりと（副）〔周繞〕物ノ周圍ヲ廻ル狀ニ云フ語。グルグルト。「ぐるりと、池ヲ廻ハル」ぐるりと取卷ク」

ぐるりと（副）〔翻轉〕（回轉とマハル意、音ヲ轉ジテ、がらりと、がらりとトナル、くぐまる、かがまる。むながらみ、むなぐら）物事ノ趣キノ、全ク變ル狀ニ云フ。一轉「[illegible]ガぐるりと變ル」形勢ガからりと[illegible]、ぐるりと忘レタ」

くるりぼう（名）〔連枷〕（棒ニ樞アリテ、くるりトマハル）からざほノ條ヲ見ヨ。略シテ、くるり　マヒギネ

くるりや（名）〔樞〕（鏑ナドニ裝置アリテ、くるりくるりト、旋回ルモノナルベシ）水鳥ノ、水ニ浮ビ居ルヲ射ル矢。くるり。甲子夜話、四十五「くるり箭、此くるりト云フハ、浮禽ノ、水上ナドニ居ルヲ射ルタメノ設ケナリ、矢ノ制ハ、矢末ニ、輕キ木ニテ、小キ鏑ヲツケ、其先キニ、半月鏃ヲ打テ、此箭ヲ、弓ヨリ放ツ、故ニ、前、水上ヲ走リテ、浮禽ノ脚ニ中ル」東大寺獻物帳[illegible]十五日[illegible]射[illegible]、クルリ、乘[illegible]くるり射流ス、川ノ瀬ニ、たちヌル鳥ノ、アトハカモナシ」（起ツト、箭ノ、肉ニ立ツト、カケタリト云フ）犬子集（寛永）[illegible]くるりくるりト、メグル盃、射鳥ヲ、射テハ悦ブ、矢ヒロメニ」

くるる（名）〔樞〕（回轉ノ約（きらきら、きら、きりきり、きり）くるる木ト云フガ、成語ナルベシ）（一）戸ヲ開閉セ

シムル機。クル。クロロ。(とぼそノ條ヲ見ヨ) 夫木抄、十「納殿、くるるノ妻戸、オシ明ケテ、今日七夕ニ、貸ス物ヤ何」 (二)戸ノ棧。オトシ。 排縮緬卯月紅葉(寶永、近松作)中「倉ノ戸ヲ明テ、内ニ忍ト入リ、樞ヲ、ハタト、落シケル」

くるる-ぎ (名) [樞木] 前條ノ(一)ニ同ジ。とぼそノ條ヲ見ヨ。 爲忠百首、下「吾妹子ガ、聲ハ隔テズ、くるるぎノ、ナド開ケガタキ、中トナルラム」 名義抄「鏁、クルルギ、トザシ」 藻鹽草、六「くるるぎ、トザス木也、樞ト書ク」

くるる-ど (名) [樞戸] 樞ニテ開閉スル戸、(遣戸ナドニ對ス) 源、八、花宴五「人ズクナナルケハヒナリ、奥ノくるるどモ開キテ、人音モセズ」

くるわ (名) [曲輪] [古築城ハ、くるくる囘ゞ遶ラセタリ、丸ト云フ、是レナリ] (一)城、砦、ノ周圍ニ、繞ラシ築ケル、上石ノ圍。丸ノ條ヲ併セ見ヨ。郭‖ 内部ニアルヲ、内郭ト云フ。牙城‖ 更ニ、其外部ヲ繞ルヲ、外郭ト云フ。羅城‖ 奥羽永慶軍記、十五、門屋落城并常盤合戰事「常盤ノ城モ、外曲輪、三ノ曲輪、攻トラレ、二ノ丸バカリ、ヤウヤウ抱タリ」 (二)遊里ノ一名。 色道大鑑(延寶、箕山)家屋門「何處ニテモ、傾城町ノ一構ヘヲ、郭ト云フ也」「郭通ヒ」「郭言葉」

くるわ-がよひ (名) [郭通] 遊郭ニ通ヒ行クコト。

くるわ-ことば (名) [郭言葉] 遊郭ニテ、娼妓ナドノ用キル、特種ノ語。

くれ (名) [暗] [くる(暗)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ] 暗ルルコト、暗キコト。 萬葉集、廿、十「木ノ久禮ノ、繁キ尾上ヲ、ホトトギス、鳴キテ越ユナリ、今シ來ラシモ」 倭訓栞、くれ「東國ノ俗ニ、木ナドノ蔭ニ、くれト云ヘリ」

くれ (名) [暮] (一)暮ルルコト。日ノ沒ラムトシテ、空ノ暗クナル時。ヒグレ。夕。晩。 萬葉集、十四、十「日ノ具禮ニ、碓比ノ山ヲ、越ユル日ハ、セナノガ袖モ、サヤニ振ラシツ」 (二)終ハリ。スエ。 源、四十三、竹川、廿「ツレナクテ、スグル月日ヲ、數ヘツツ、モノウラメシキ、暮ノ春カナ」「年ノ暮」「暮ノ秋」

くれ (名) [榑] [くれ木ト云フガ、成語ナルベシ、即チ、黑木ノ轉(黑、皂皮、皂革)] (一)杣山ヨリ伐リ出シタル、皮ナガラノ材木。黑木。大小ノ丸木。丸太。 箋注倭名抄、五、八十「榑、久禮」 内匠寮式「椙榑、大七十五材」 榮花物語、十七、音樂「筏ヲサシテ、多クノくれ材木ヲ運ブ」 同、廿五、峯月「くれ、エモ言ハヌ大木ドモヲ、タダ、此牛一ツシテ、遞ビアグルコトヲシケリ」 同、廿六、楚王夢「立チサマヨヒ、くれ材木ノ上ナトニ、座シナラバセタマヘリ」 今昔物語、十四、第四十四語「榑ヲ以テ、蓉柱ニ造テ、張廻ハレバ」 (二)用ヲ轉ジテ、木ヲ剝ギテ薄板トシ、板屋根ヲ葺クモノ。ソギ。ヘギイタ。コケラ。 沙石集、五、上、第六條、伊豆ノ山寺僧「榑寶、くれヤ召シ候フト云ヒテ、馬ニツケテ來ル」 下學集、上、家屋門「榑、日本俗、爲葺屋之板」 (三)又、轉ジテ、薪。 菟玖波集(文和)「イソヤノ庭ハ、くれ(榑)ニナリヌル」「浦ニ又、乾ス薪ヲモ、取入レテ」 (四)今ハ、脊板ヲ、榑木ト云フ。

くれ (名) [塊] カタマリ。「土くれ」「石くれ」「芝くれ」

くれ (名) [圦] [芝塊ノ略、訛リテ、すばきりトモ云フ] 結縷草ヲ、程ヨク地ヨリ切取リテ、庭ノ砌、堤、又ハ、茅屋ノ上ナドニ、移シ植附クルモノ。 東雅、六、宮室、門ノ條「東國ノ俗ニ、地上ノ芝ばト云フ草ヲ、土ナガラ取テ起シテ、屋ヲ葺クヲ、くれを切るナド言ヒテ、圦ノ字ヲ用ヒテ、くれト讀ム也」 名言通(天保、服部宜)上、結縷草「陸奥國ノ方言ニ、くれ、云云、切取テ、庭砌、又ハ、坡ナドニ用ユ、云云、又、すばきりト云フモノアリ、白昌ノ圌生ニシテ、くれノ中ニアルモノ、ソノママ切取リ、屋脊ニ用ユ」

クレ (名) [吳] [韓語、くるノ轉(吳桃、くるみ)文采ノ義、織物ノ文ノ意(白鳥庫吉說)高麗ノ久禮波、久禮志モ、織工ナルベク、百濟ノ吳服西素、亦、織工ナリ(此吳服ノ字ハ、追記ナリ)此久禮ノ語、移リテ、吳國ノ稱トナリシナラム(韓ノ、漢ニ移リタルガ如シ)漢モ、綾ニテ、秦モ、綃ナリ、スベテ、織物ヲ以テ國名トセシナリ、漢ノ條ノ語原ヲ併セ見ヨ] 支那ノ吳國ノ稱。揚子江南、今ノ南京地方、六朝ノ政府ノ在リシ京師ノ地ナリ、應神紀ニ、織工女ノ吳織ノ來リ、推古紀ニ、吳樂ノ傳ハリシナド、此地ヨリナリ。此くれト云フ語、後ニハ、支那全部ノ稱トナリテ、もろこしト共ニ用キラル、隨ッテ、スベテ、支那渡來ノ物ニ冠ラスル語トナレリ。 應神紀、三十七年二月「遣阿知使主於吳、令求縫工女、阿知使主渡高麗國、欲達吳、高麗王乃副久禮波、久禮志二人爲導者、由是得通吳、吳王於是、與工女兄媛、弟媛、吳織、穴織」(節文) 古事記、中(應神)五「百濟國王、貢上手人、吳服西素二」(節文) 雄略紀、十四年正月「吳國使來朝、爲吳客道、通磯齒津路、名吳坂」三月「命臣連、迎吳使、即安置吳人於檜隈野、因名吳原」「吳釘」「吳竹」「吳ノ藍」(鑑)「吳ノ椒」(鑑)

くれ (代) [某] [是ノ轉(此者、くは。此奴、くやつ)それがしノ條ヲ併セ見ヨ] 不定稱ノ代名詞。何ト云フ語ト、並ベ用キテ、其名ヲ知ラヌ人、又ハ、其ト定メヌ人ニ代ヘテ云フ。 源、廿一、少女廿「何ノ御子、くれノ源氏ナド、數ヘタマヒテ」 同、四、夕顏十四「御隨身共モアリシ、何ガシ、くれガシト數ヘシハ」 枕草子、十一、百三十三段「殿上人、地下、六位、何くれマデ」

く・れ (動) [暗] くる(暗)ノ條ヲ見ヨ。

く・れ (動) [暮] くる(暮)ノ條ヲ見ヨ。

く・れ (動) [與吳] くる(與)、又、くれるノ條ヲ見ヨ。

くれ-あひ (名) [暮合] 日ノ、暮ルル頃。クレガタ。晩閒 三河物語(大久保彥左衞門)上「七ツ時分ヨリ行キ、暮相ニ成リケレバ、御門之カギヲ渡サセ給ヘ」

クレエン (名) [起重機] [英語、Crane.] 重量ノ物ヲ、上下、左右、ニ動カス機械。

グレエン (名) 量ノ名、げれえんノ條ヲ見ヨ。

クレオソオト (名) [英語、Creosote. 獨語、Kreosot.] 藥品ノ名、橅ノ木ヨリ製スル、透明、微黃色、油狀、ノ液、齲齒ノ鎮痛劑ナドニ用キラル。

クレ-がく (名) [吳樂] 吳ノ國ヨリ傳ハリタル舞樂、又、伎樂。今、伎樂ノ面トテ、奇怪ナル相ノ假面ヲ藏スル寺、往往アリ。 推古紀、廿年五月「百濟人味摩之歸化、曰、學于吳、得伎樂舞、則安置櫻井、而集少年、令習伎樂舞」 聖德太子傳曆「味摩之、云云、集少年令傳習、今諸寺伎樂舞是也、云云、令習吳鼓」 職員令、雅樂寮「伎樂師一人、掌教伎樂生」義解「伎樂、謂吳樂」

くれ-がし (代) [某] くれ(某)ト、それがしトノ條ヲ見ヨ。

くれ-がた (名) [暮方] 暮ニ向フ時。クレアヒ。薄暮 千載集、十九、釋教「サラニマタ、花ゾ降リシク、鷲ノ山、法ノ筵ノ、くれがたノ空」

くれ-かは-なめ (名) [皂革] [くれかはハ、皂皮ノ轉(黑木、榑木)なめハ、なめしかはノ下略] 皂色ノ革。 天治字鏡、十二、廿九「皂革、久禮加波奈女」

くれぎ (名) 榑木 [illegible]榑ノ條ヲ見ヨ。[illegible]杉ノ材木ノ皮ヲ[illegible]

クレ-くぎ (名) 〔吳釘〕〔吳ノ國ノ製ニ倣ヒシモノナルベシ〕きりくぎノ一名。[illegible]

くれ-ぐれ (名) 〔暮暮〕日ノ、暮レムトスル頃。タソガレ。[illegible]

くれ-ぐれ (副) [illegible]心細く[illegible]ノ情ナド[illegible]「くれぐれ[illegible]」[illegible]記、石陰「くれぐれ秘ミマス」「くれぐれ秘ム」

くれ-ぐれ-と (副) 〔暗暗〕〔暗るノ連用形ヲ重ヌ、其條ヲ見ヨ〕又、くれま。クラグラトオボツカナク、思ヒ晴ルル狀ニ云フ語。[illegible]久曙久曙等、イカニカ行カム、糧ハ無シニ」同、十三云「沖津浪、來寄ル濱邊ヲ、久曙久曙等、獨リゾ我山近ニテハ、下リサセタマヒテ、くれぐれと分ケ入[illegible]

くれ-さし-ま・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔くれさしハ、くれさせたまふノさせノ訛〕與ふ、くれる、ノ敬語。狂言記、比丘貞「ヨウコソ、くれさしましタ」同、枕物狂「鉢几ヲくれさしませ」

クレ-たけ (名) 〔吳竹〕〔吳ノ國ヨリ移植シタルモノト傳フ〕(一)淡竹ノ類、丈、數尺ニ過ギズ、葉、細ソクシテ、[illegible]ナドニ用ヰル。禁中ノ仁壽殿ノ西向ノ北ノ閾ニ、吳竹臺ト云フアリ、吳竹ヲ植エサセタマヘリ。かはたけ(河竹)ノ條ノ(一)ヲ併セ見ヨ。本草和名、上五十六「淡竹、[illegible]」[illegible]「此殿、天下吳竹、貫如ㇾ麦、其後枯盡」江家次第、八、[illegible]北行、[illegible]くれたけ、吳竹臺、仁壽殿ノ[illegible]アリテ、[illegible]致ノ設也ト云ヘリ」(二)此ノ語、節、節、ナド云フ語ノ序ニ用ヰル。通ジテ、世ニモ云フ。古今集、十八、雜、下「世ニ[illegible]レバ、[illegible]キ、くれ竹ノ、うきふしゴトニ、鶯ゾ鳴ク」竹取物語「くれ竹ノ、よよノたけ取り、野山ニモ、サヤハワビシキ、ふしヲノミ見シ」「吳竹ノ代ノ里」

ぐれ-つ (名) 〔愚劣〕愚鈍ニシテ、拙劣ナルコト。[illegible]、谷永傳、[illegible]吏之日、京師士大夫、[illegible]不ㇾ能ㇾ[illegible]攝[illegible]分こ

クレ-つづみ (名) 〔吳鼓腰鼓〕吳樂ニ用ヰル鼓。つづみノ條ヲ見ヨ) 倭名抄、四[illegible]

くれ-て-や・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔與〕〔遣るハ、往向くる意、見テやる、聞イテやるナドモ云フ〕與フ。クルル。ツカハス [illegible]、サルベキ[illegible]アフバ、[illegible]ラズ顏ニテ、くれてやらム、トシツルモノヲ」

クレ-どこ (名) 〔吳床〕〔吳ノ條ヲ見ヨ、支那ノ胡床ノ製ニ倣ヒテ作レルモノナレバ云フ〕椅子ノ、大ナルモノ。又、吳床ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。西大寺資財帳「吳床」[illegible]

クレ-なゐ (名) 〔紅〕〔吳ノ藍ノ約、其條ヲ見ヨ〕(一)スエツムハナ。紅花。[illegible]ケ持チテ、往ヌベクオモホユ」(二)紅花ノ汁ニテ染メ成シタル色。赤クシテ、鮮カナル色、(紅花、及、紅ノ條ヲ見ヨ) 萬葉集、[illegible]ノ、八鹽ノ衣」(三)此語、色、移す、ナド云フ語ノ序ニ用ヰラル [illegible]ヒノ、恐キ國ゾ、紅ノ、色ニ[illegible]出デソ、思ヒ死ヌトモ」同、七[illegible]「言痛クバ、左右セムヲ、紅ノ、移し心ヤ、妹ニ逢ハザラム」

クレなゐ-の-ちり (名) 〔紅塵〕〔紅塵ノ文字讀〕世俗ノ中。夫木抄、十九、塵「苔深キ、[illegible]ノ中ハ、紅ノ、塵ノ外ナル、棲家ナリケリ」

クレなゐ-の-ふで (名) 〔紅筆〕〔彤管ノ訓讀〕支那ニテ、軸ノ赤キ筆、女ノ用ヰルモノ。移シテ、男女贈答ノ書ノ意ニ用ヰ、くれなゐのふみナド云フ。左傳、定公九年「靜女之三章、取ニ彤管ニ焉」註「彤管、赤管筆、女史記ㇾ事」疏「必用ㇾ赤者、示ㇾ其以ニ赤心ニ正ㇾ人也」金葉集、七、戀、上「ただバカリオコセテ、言ヒ絕エニケル人ノ許ニ「ふみソメテ、思ヒ歸リシ、紅の、筆ノスサビヲ、イカデ見セケム」(女ノ歌) 新六帖、五「[illegible]カヘリ、染メテ色濃キ、くれなゐの、文見シアトモ、今ハ絕エッツ」

クレなゐ-の-ふみ (名) 〔紅書〕前條ヲ見ヨ。

くれ-ふ (副) 〔暗〕くれぐれと(暗暗)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

クレ-の-あゐ (名) 〔吳藍〕〔吳ノ國ヨリ移植セシモノ、紅藍ノ、物ヲ染ムルコト、青藍ノ如クナレバ云フ〕紅花。專ラ、約メテ、くれなゐト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]十四[illegible]「[illegible]色[illegible]紅藍、吳藍、久禮乃阿井、本朝式云、紅花、俗用ㇾ之」

クレ-の-おも (名) 〔吳母〕〔吳ノ國ヨリノ移種ナリ(茴香ハ、地中海沿岸ノ原產ナリト云フ)おもハ、[illegible]、吳音、ゑんノ轉ナリ(茴香、[illegible])[illegible]んおろ。茱、やむめ)草の香(芸草)ナドト、音訓、混成シタル、同趣ノ語ニテ、莖、葉、實、共ニ、香氣アルコト、芸香ニ同ジ〕うゐきやう(茴香)ノ古名。本草和名、上[illegible]「[illegible]、一名、[illegible]、一名、香[illegible]、久禮乃於毛」(倭名抄[illegible]同ジ)

クレ-の-はじかみ (名) 〔吳椒〕生薑ノ古名、はじかみノ條ヲ見ヨ。

クレ-の-みみず (名) 〔吳蚯蚓〕〔吳の國の蚯蚓ノ義、蠶ノ名ハ、神代ヨリアリキ、後ニ、隋唐ノ頃、支那ヨリ渡來シタル種ヲ、形ノ、略、蚯蚓ニ似タルヲ以テ、一時、呼ビシ名ナラム、而シテ、專ラ此種ヲ養成シテ、今ニ至レルナルベシ、爾雅、釋蟲「[illegible]蚓、[illegible]」〕古ク、蠶ノ異名。字鏡、天[illegible]蠶、久禮乃彌彌受」

くれ-はし (名) 〔吳橋〕〔庫橋ノ轉(群、むら。賓客、まらうど)椅立、卽チ、梯子ノコト、萬葉集、七[illegible]「橋立、倉椅山」古義「垂仁紀、八十七年ニ、神之神庫隨ニ樹梯ニト、アリ、庫ニ登ラム料ニ造レル梯ヲ、庫梯ト云ヒケム、云云、くれはしト云フモ、庫梯ノ轉語ナルベクオボユ」〕神庫ハ、校倉ニテ、床、甚ダ高シ〕ニ階梯、石階、ノ古名 [illegible]形、及、[illegible]上、下[illegible]ニ登リ給フベキホドノくれはしハ、色色ノ木ヲ、マゼマゼニ造リテ、下ヨリ流ルル水ハ、涼シク見ユベク作ル」枕草子、六、五十八段「初瀨ナドニ詣デテ、云云、くれはしノ許ニ、車引寄セテ立テルニ、云云、[illegible]バラノ、[illegible]ト云フ[illegible]ハキテ、イササカ[illegible]モナク、下リ登ル」(初瀨寺ノ石階ナルヘシ)

クレ・はとり (名) 〔吳織吳服〕〔はとり

ハ、綺織ノ約)(一)應神天皇ノ御代ニ、呉ノ國ヨリ召サレシ、織工女ノ稱。雄略天皇ノ御代ニモ來レリ、漢織トモ云フ、(其條ヲ見ヨ)呉モ、漢モ、支那ノ事ナリ、古事記ニモ、應神天皇ノ御代ニ、百濟王、呉服西素ヲ貢ストアリ、是レハ、男織工ナリ、呉ノ條ヲ見ヨ。(二)轉ジテ、綾類ノ織物ノ名。字ヲ音讀シテ、呉服トモ云フ、其條ヲ見ヨ。此ノ語、あやト云フ語ノ序ニ用ヰラル、卽チ、漢ニカケテ云フナリ。後撰集、十一、戀、三、人ノ、心ザシテ贈リケルくれはどりト云フ綾ヲ、二匹包ミテ、遣ハシケル「くれはどり、奇ニ戀シク、アリシカバ、二村山モ、越エズナリニキ」(二匹ヲ、二村ニカケタリ、山ハ、尾張國ニアリ、東ノ方ヘ使ニ遣ハサレシ人ノ、召シ還サレシ時ノ詠ナリ)金葉集、七、戀、上「逢ヒ見ムト、頼ムレバコソ、くれはどり、あやしヤイカガ、立チ還ルベキ」玉葉集、四、秋、上、七夕「稀ニ逢フ、秋ノ七日ノ、くれはどり、あやなくヤガテ、明ケヌコノ夜ハ」山家集、上、深顯戀「オボツカナ、イカニモ人ノ、くれはどり、怪ムルマデニ、濡ルル袖カナ」

ぐれ-はま (名) ぐりはまノ條ヲ見ヨ。

くれ-ふたが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [暗塞] 一帶ニ、暗クナル。全ク、暗黑トナル。大鏡、下、道長「冷泉院ノ御代トナリテコソ、世ハ、くれふたがりタル心地シ侍リシカ」

くれ-ぶね (名) [榑船] 材木ヲ積メル船。山家集、下「くれ船ニ、胡麦渡リ、今胡ナ寄セソ、伊吹ノ岳ニ、雪シマクナリ」

〜**くれ-まど・ふ**・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [暗惑] 心暗クナリテ、迷フ。途方ニクル。源、十、榊「キコエ出デ給フベキカタモナク、くれまどひテオボサルレド」

ぐ-れん (名) [紅蓮] 佛經ノ語、紅蓮地獄ノ略。太平記、十七、北國下向勢凍死事「紅蓮、大紅蓮ノ苦シミ、眼ニ遮ル」

✢✢**ぐれん-かへ・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [群連反] (繰りかへすノ音便轉、繰り繰り、ぐりはま、ぐれはま。牛蒡、ごんばう) 頻リニ、尋ネ求ム。倭訓栞、ぐれんかへす「俗語也、物ヲ尋ネ求ムル事ニ云ヘリ」俚言集覽、くれにかへす「失セタル物ヲ、尋ネ索ムル時ニ云フ言ナリ、反返ス義カ、貞享節用集、世話詞、群連反、グレンカヘス」

✢✢**ぐれん-たい** (名) [愚連隊] (ぐれんハ、狂れるノぐれノ音便ニテ、常識ヲ逸スル意ナラム) 不良少年ノ群ノ、女藝人ナドニ、ネック戯レカカルモノ。(俗語)

ぐれん-ぢごく (名) [紅蓮地獄] 佛經ニ、八寒地獄ノ一、罪人、此地獄ニ墮ツレバ、極寒ノタメニ、身、裂ケテ、紅蓮ノ花瓣ノ如シト云フ。略シテ、ぐれん。更ニ甚シキヲ、大紅蓮ト云フ。盛衰記、十八、龍神守三種心事「身ハ紅色トナリテ、紅蓮地獄ノ衆生ノ如シ」謠曲、氷室「寒風頻リニ肝ヲツヅメテ、紅蓮、大紅蓮ノ氷ヲ砕ク」

くれ-むつ (名) [暮六] 日暮ノ、六ツ時。酉ノ時。午後六時。(明六ニ對ス、時ノ條ヲ見ヨ)

✢✢**く・れる** (動) [暮] くる(暮)ノ口語。

✢✢**く・れる**・レル・レレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) [與] 〔多クハ當字ニ、呉ノ字ヲ書ク〕(一)くる(與)ノ口語。ツカハス。ヤル。クレテヤル。狂言記、惡坊「汝ヲくれるゾ」(二)色ヲ與フ。染メツケル。「藍染ニ、紅ヲ一入くれる」(三)助動詞ノ如ク用ヰテ、仕向くる意ヲナス。くりゃるトモ云フ。給はるヲ轉ジテ、たもるト云フモ、敬意アリテ、同趣ナリ。狂言記、武惡「宿デモ、斯ウト云フテくれろナラバ、メコ共ニ、言ヒ置キタイ事モアルノニ」「分ケテくれる」分與「言ッテくれよう」說與

✢✢・**ぐ・れる**・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [狂] 「まぐれるノ上略、むさぼる、ぼる」(一)狂フ。逸レル。(卑語) 逸 「氣ガぐれる」(二)クヒチガフ。手チガヒニナル。ハヅレル。コレハ、ぐれはまノぐれヲ活用スルナリ。(ぐづぐづ、ぐづる。都都逸ヲどどるノ類、他動ニ、ぐらすトナル) 齟齬「目算ガぐれタ」

くろ (名) [黑] (暗ト通ズ(はらぐ、ほろぐ。白、しら)沖繩ニテ、くる」(一)色ノ名、光明、又、白ミノ、全ク無キ色。最モ暗キ色。(二)碁ノ黑石。碁石ノ條ヲ見ヨ。

〜**くろ** (名) [畔] (旋回ト繞ル義(はろばろ、はるばる。かろがろ、かるがる)回輪ノ意、朝鮮語、くろんぐ」 畔ニ同ジ。倭名抄、一 六田園類「畔、久路、一云、阿世」

〜**くろ** (名) [壠] 平地内ニ於ケル、小高キ處。字鏡 三十六「壠、塚也、久呂」名義抄「壠、クロ、ツカ、ウネ」

クロ (名) [崑崙] (地名、Colombo.) 印度ノ錫蘭島ノ崑崙國。(くろんばうヲ併セ見ヨ) 皇極紀、元年二月「百濟使、擲二崑崙使於二海裏一」(通釋ニ、古訓ニ「クロ」トアリト云フ) 續紀、十三、天平十一年十一月、平群廣成等ノ入唐ノ船「漂二著崑崙國一」類聚國史、百九十九、延曆十八年七月ニ、崑崙人、參河國ニ漂着ス、左肩ニ紺布ヲ著ク、形、袈裟ニ似タリ、自ラ、天竺人ト云フ、綿種ヲ攜フト云フコト、見エタリ、雅樂ニ崑崙八仙アリ、藥物ニ崑崙方アリ、各條ヲ見ヨ。

くろ-あしげ (名) [黑葦毛] 馬ノ毛色ノ名、葦毛ノ條ヲ見ヨ。烏驄

くろ-あづき (名) [黑小豆] あづきノ一種、實ノ粒、小サクシテ、眞黑ナルモノ、味、下品ナリ。

くろ-あへ (名) [黑齏] 烏賊ノ墨ニテ、其肉ヲ齏ヘタルモノ。(くろづくりト云フモノモアリ) 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三「烏賊ヲ、くろあへニシテ」

くろ・い (形) [黑] (一)黑しノ口語。(二)技ガ、其道ノ眞ニ入ル。黑人ナリ。上手ナリ。クロッポイ。(くろうとノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 文政ノ川柳「聲色モ、翁ニ黑い、奴ガ出ル」(芝居、元日ノ翁渡シ、餘興ニ、座附立者ノ聲色ヲツカフ者、三番叟ノ假面ノ黑キニ寄セタリ)

くろ-いし (名) [黑石] (一)石ノ、色、黑キモノ。新六帖、六「秋風ニ、軒端ノ椎ノ、落チツレバ、庭ニくろ石、敷クカトゾ見ル」(二)碁石ノ、黑キモノ。(白石ニ對ス)碁石ノ條ヲ見ヨ。

くろ-いと (名) [黑絲] (一)絲ノ、色黑ク染メタルモノ。(白絲ナドニ對ス) (二)次條ヲ見ヨ。

くろいと-をどし (名) [黑絲縅] 鎧ノ、黑絲ニテ縅シタルモノ。略シテ、黑絲。平治物語、一、六波羅行幸事「黑絲縅ノ腹卷」太平記、九、六波羅攻事「老武者ノ、黑絲ノ鎧ニ、五枚兜ノ緒ヲシメテ」

くろ-いぬ (名) [黑犬] 毛色ノ、眞黑ナル犬。(白犬ナドニ對ス) 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)一「黑犬ノ大ナル出デテ、シタタカ、臑ヲ喰ヒケリ」

くろい-ひと (名) [黑人] 黑人、及、くろいノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ぐ-ろう (名) [愚弄] 欺キ、ナブルコト。嘲弄。左傳、襄公四年、寒浞施「略于外、愚二弄其民一」

ぐ-ろう (名) [愚陋] オロカニシテ、イヤシキコト。愚劣。韓愈、潮州謝表「臣受性愚陋」

クロウス（名）〔英語、Cloth.〕西洋織ノ毛織ノ長衣ニ用ヰル、薄キ布。

くろうど（名）【黒人】〔くろひとノ音便、素人ノ打チカヘシテ云ヘルマデノ語ナリ（おもしろいヲカヘシテ、おもくろいナド云フ）しろうとノ語原ヲ見ヨ〕(一)一技ニ、専業トスル者ヲ指シテ、他ヨリ云フ語。職人（素人ニ對ス）　源氏物語、[illegible]「男ノ仕力ノ、[illegible]、或ハ、大宮見ナドノ、[illegible]黒人ノ[illegible]」(二)特ニ、其技ニ精熟シタル人ノ稱。黒い人。（素人ノ條ノ(二)ヲ見ヨ）(三)遊女、藝者、ナド、男客ヲアシラフヲ專業トスル者ノ稱。ソレシャ。廢業スルヲ、素人ニナルト云フ。

くろうま（名）【黒馬】黒毛ノ馬。クロマ。クロゴマ。　保元物語、一、官軍方ノ手分事、平基盛「黒馬ニ、黒鞍置テゾ乗タリケル」萬葉集、十三廿三「ヌバタマノ、黒馬ニ乗リテ」雄略紀、十三年九月「ヌバタマノ、甲斐ノ黒駒、鞍著セバ」

くろうら（名）黒裏　衣服ノ裏地ニ、黒色ナルヲ用ヰタルモノ。　浮世風呂（文化十年）三編、下「路考茶縮緬ニ、一枚裏子ノ黒裏」

くろえぬり（名）黒江塗　紀伊國、海草郡、黒江町ヨリ製出スル漆器。

グロオブ（名）ぐらぶヲ見ヨ。

くろがい（名）【黒柿】〔かいハ、柿ノ音便、透垣、すいがい。築土、ついぢ〕黒柿ノ音便、次條ヲ見ヨ。

くろがき（名）【黒柿】音便ニ、くろがい。柿ノ材ノ中心ノ、黒キ部、澁柿ニ多シ、烏木ノ如クニシテ、堅ク、純黒ニシテ、美シ、諸ノ器ニ作ル。柿心黒木、又、黒氣アル混ニ理メテ、黒クシタルモアリ。　倭名抄、廿木類「柿心、久呂加木、俗用黒柿、柿木心中黒也」宇津保物語、吹上、下「紫檀、蘇芳、くろがい、者子、ナド云フ木ドモヲ、材木トシテ」

くろかげ（名）【黒鹿毛】馬ノ毛色、鹿毛ノ、黒ミアルモノ。青驪　倭名抄、十一、牛馬毛類「青驪、[illegible]也」

くろがし（名）【黒樫】〔新芽ハ、黒シ〕樫ノ類、幹ノ高サ四五丈、葉ハ、幅廣クシテ、裏ニ、白キ毛茸アリ。

くろがしら（名）黒頭　あかがしらノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

くろかすげ（名）【黒糟毛】馬ノ糟毛ノ、黒ミアルモノ。

くろかど（名）【緇門】〔緇門ノ文字讀（桑門、くはのかど、同ジ）緇徒ノ條ヲ見ヨ〕緇徒ノ道、即チ、佛門。　鹿島問答（北朝、永和）上、第六章「世ヲ遯シト、思ヒ入リニシ、くろかどニ、何ユカシサニ、立チカヘルラム」

くろがね（名）【黒金】〔色、黒シ〕鐵ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。　仁徳紀、四十一年三月「鐵」倭名抄、十一、金類「鐵、黒金也、久路加禰、一訓、爾利」

くろがねのはだ（名）【鐵皮】〔皮ノ條ヲ見ヨ〕かなくそ（鐵屎）ノ(一)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

くろがねもち（名）冬青ニ同ジ。

くろがねもん（名）【鐵門】門ノ柱、扉、ニ、鐵ノ筋鐵ヲ打チ固メタルモノ。　本朝二十不孝、一、京「[illegible]、攻圍ミテ連レ歸リ、鐵門ノ藏シキ人家ニ入レ」

くろかはのくつ（名）【烏皮沓】くりかはのくつヲ見ヨ。

くろかはらげ（名）【黒川原毛】馬ノ毛色ノ名、駱ニ、黒ミアルモノ。　倭名抄、十一、牛馬毛「沙[illegible]馬、黒川原毛也」

くろかはをどし（名）【黒革縅】鎧ノ縅毛ノ名、黒色ノ革ヲ、細ソク裁チテ縅シタルモノ。　保元物語、一、白河殿夜討事「黒革威ノ鎧ニ、同ジ毛ノ五枚甲ヲ、猪頸ニ着」庭訓往來、六月「黒革威」

くろかび（名）【黒黴】色黒キ黴、クロボ。クロンボ。

くろかみ（名）【黒髪】(一)〔壯年ノ時ノ、黒ク、ツヤヤカナル髪〕鬒髪　萬葉集、十一「ヌバタマノ、妹ガ黒髪、今夜モカ、吾ガ無キ床ニ、ヌラシテ寐ラム」(二)此ノ語、亂る、解くる、ト云フ語ノ序ニ用ヰラル。　千載集、十三、戀、三「長カラム、心モ知ラズ、くろかみノ、亂レテ今朝ハ、物ヲコソ思ヘ」新葉集、十二、戀、二「思ヒヤレ、獨リ搔キヤル、くろ髪ノ、とけテ寐ラレヌ、小夜ノ手枕」

くろがも（名）【黒鴨】鴨ノ一種、羽ノ、全身、黒キモノ、冬時ノモノナリ。

くろき（名）【黒酒】〔酒ノ條ヲ見ヨ〕酒ノ名、新嘗祭、大嘗祭、ニ供ヘラルルモノ、白酒ト並ベ稱ス。古醸ナルハ、詳カナラズ、或ハ云フ、荒稻（平精）ニテ醸セルガ黒酒ニテ、和稻（眞精）ナルガ白酒ナルベシト。平安朝ノ頃ハ、白酒ハ、常ノ酒ニテ、コレニ、常山ノ燒灰ヲ入レタルヲ黒酒トス、室町時代ナルハ、醴酒ヲ白酒トシ、コレニ、黒胡麻ノ粉ヲ入レテ、黒酒ヲ作レリ。　萬葉集、十九、天平勝寶四年新嘗會歌「天地ト、久シキマデニ、萬代ニ、仕ヘマツラム、黒酒白酒ヲ」續紀、廿六、天平神護元年十一月、行ニ大嘗之事ニ「由紀須伎、二國ノ奉レル、黒紀、白紀ノ御酒ヲ、赤丹ノ保ニ賜ヘヱラギ」造酒司式、新嘗會、白、黒、二酒料「造酒料米一石、云云二斗八升六合[illegible]、七斗一升四合得、酒、合ニ木五斗八合等分掛ニ二甕、云云、[illegible]以ニ久佐木灰三升、和ニ合一甕、號稱ニ黒貴、其一甕不レ和、是稱ニ白貴ニ」[illegible]永享、[illegible]年十一月「醴、[illegible]也、白酒、白其色也、黒酒、上御振ニ烏胡麻粉ニ」

くろき（名）【黒木】〔削リタル白木ニ對スル語〕(一)〔皮ナガラノ材木。皮ツキノ丸木、榑木。　大嘗會儀式「正殿一宇、構以ニ黒木ニ」萬葉集、八、聖武天皇ノ御製「アヲニヨシ、奈良ノ山ナル、黒木持チ、造レル宿ハ、居レド飽カヌカモ」〔黒木アル家居トナスナリ〕十訓抄、上、一、第二條、天智天皇ノ朝倉宮ノ事「黒木ノ屋ヲ作リテオハシケルヲ、木丸殿ト云フ、丸木ニテ作レル故ナリ」(二)〔烏木ノ一名。烏木ノ訓讀〕（烏皮沓）　源、十二、須磨、三十四「くろきノ御數珠」倭訓栞、くろき「琉球ノ黒木ハ、大明會典ニ云フ所ノ烏木也ト云ヘリ」(三)山城國、八瀬、大原、ヨリ出シテ、京都市中ニ賣ル薪ノ稱、大原木トモ云フ（其條ヲ見ヨ）　[illegible]（安永）「八瀬、大原ノ賤女トモノ、端山ノ楷ヲ推リタメテ、云云、炭ヲ燒ク如ク、竈ヲ作リテ、ソレニ、生木ヲ入レテ、木ノ葉ニテ燻シタレバ、水氣ノヌケテ、黒木ノフスボリタルヲ、京ニ持出テ賣ルガ、黒木ニテ、云云」見た京物語（天明）「黒木ハ、云云、常ノ木ノ枝ヲ、イブシタルモノナリ、ソレヲ賣リシハ、昔ニテ、今ハ、手ガヨゴレルトテ、皆、籠朶ナリ」

くろきのごしよ（名）【黒木御所】黒木ヲ以テ造營シタル御殿。　太平記、四、備後三郎高徳事「佐佐木隠岐判官貞清、府ノ島トイフ所ニ、黒木ノ御所ヲ作リテ、皇居トス」

くろくさ（名）【黒瘡】〔瘡ノ條ヲ見ヨ〕人ノ面皮上ニ生ズル、黒キ斑。雀卵斑ノ類。　倭名抄、三、瘡類「[illegible]、面中[illegible]也、久路久佐」

くろくせん（名）【九六錢】てうびやく（調百）ノ條ヲ見ヨ。

くろくちなは（名）【黒蛇】からすへびニ

同ジ。

くろくは（クロ・クワ）（名）【黒鍬】〔畔鍬ノ義〕（一）田畑ヲ開墾シ、又ハ、石垣ヲ築クナドヲ業トスル者。土方（ドカタ）。俚言集覧「畔鍬者「是ハ、田舍ニテ、耕作ノ田畑ヲ掘テ業トスル者也」（二）徳川幕府ノ賤職、普請奉行ノ下ニ屬シ、土木ノ事、石垣ノ草取、荷物（カツギ）ノ事ナド勤メ、黒鍬の者、黒鍬組、ナド云ヒキ、土工兵ノ如キモノナリシナルベシ。（幕朝故事談、温知叢書、二）見聞雜録、不レ限二晝夜一御普請、此ノ人足ニハ、黒鍬ノ小組千人二 幕朝故事談「御作事奉行ハ、御曲輪外御要害ノ場所、御出陣之節ハ、城之水ヲ渡ギ、堀ヲ埋ル類、皆職掌之事也、其人足ハ、黒鍬ト申也、黒鍬ハ、名字モナキモノ也、本ハ、脇指計リノハヅナルベシ、然レドモ今ハ、刀ヲ差也、云云、今、黒鍬ノ御奉公ハ、絶テノ荷物ナリ、御執（カゴ）ニテモ、箱ニ入候得バ、御小人ハ不レ持事ナリ、包狀ナレバ、御小人持レ之、箱ナレバ、黒鍬持レ之、大野和泉守殿、石垣ノ草ナトモ、黒鍬ガ取事ナリトテ、黒鍬ニ被二仰付一候處、三人落テ死ス、依テ、始ノ如ク、日傭ノ者トナル、御普請奉行ハ、御休息其外奥向ノ御普請ヲ可レ掌ナルガ、今ハ、外曲輪普請等モ、掌ル如クニナリタルナリ、黒鍬、荷物ノ時ハ、刀ヲ不レ指也」拾遺、柳營秘鑑、三「一、西丸大手へ、黒鍬之者、出火之節出候筈、享保八卯九月十八日ヨリ相極候」明良帯録、新番「黒鍬之者、懸リ懸リニテ、與廻リ」見聞雜録「頭果テ、觸廻ハ、雙方ヨリ郡村奉行、夫、アラシチヲ支配スル小人頭、道造ノくろ鍬之頭、網ヲ引運、夜中、篝ヲ燃テ」東役、別手、下、御目見以下 黒鍬之者三組、合四百七十人（兩組合、百五十七人、一組、百五十六人）、組組之頭六人、組頭世話役ニ給、物數之內二而、三十六俵二人扶持」

くろくはぐみ（クロクワ・グミ）（名）【黒鍬組】前條ノ（二）ヲ見ヨ。

くろくはのもの（クロクワ・ノ・モノ）（名）【黒鍬之者】前前條ノ（二）ヲ見ヨ。

くろくびゃく（名）【九六百】ちょうびゃく（チョ）

（調百）ノ條ヲ見ヨ。

くろくも（名）【黒雲】濃厚ニシテ、色黒ク見ユル雲。宇治拾遺、二、第一條「香爐ノ烟空ヘアガリテ、扇バカリノくろ雲ニナル」「夕立ノ黒雲」

〜くろくりげ（名）【黒栗毛】馬ノ毛色ニ、栗毛ノ、黒ミアルモノ。紫騮（ズ）倭名抄、十一「牛馬毛二紫騮、黒栗毛也」吾妻鏡、九、文治五年五月十九日「一疋、黒栗毛、遠江守進」

くろぐろと（副）【黒黒】甚ダ黒ク。著聞集、十七、變化「堂ノ軒トヒトシキ法師ノ、くろぐろとシテ見エケリ」「墨、くろぐろと書キツケタル」「髮、くろぐろとシテ」

〜くろぐわゐ（クロ・グワイ）（名）【黒慈姑】池澤中ニ生ズ、葉ハ、ふとゐ（イ）ニ似テ、細ソク小サク、長サ二三尺、多ク叢生ス、質、柔カニシテ、内、空シ、夏、葉ノ上ニ、一寸許ノ穗ヲ生ズ、黒クシテ、白キ蘂アリ、すげノ穗ニ似タリ、冬、春、根ニ塊アリ、くわゐ（イ）ノ如クニシテ、六七分、皮、黒ク、肉、白シ、生、熟、共ニ食フベシ。烏芋　本草和名、下三十「烏芋、久呂久和爲」

くろげ（名）【黒氣】〔くろハ、形容詞ノ語根、コレニ、接尾語ノげ（氣）ノ添ハリテ、熟語名詞トナリタルモノ、青げ、重げト同趣〕黒キヤウナルコト。「黒げニ見ユ」

〜くろげ（名）【黒毛】馬ノ毛色ノ、濃ク黒キモノ。後世ハ、青毛（アヲゲ）ト云フ。驪　續紀、廿四、天平寶字七年五月、丹生河上社奉幣「黒毛馬」倭名抄、十一「牛馬毛、驪馬、黒毛馬也、純黒馬也」

くろけぶり（名）【黒烟】烟ノ、濃ク黒ク立昇ルモノ。くろけむり。小町踊（寛文、立圃）冬、雪「白雪ノ、堪ムヤ富士ノ、黒烟」熱心ニ丹誠ヲ込ムルヲ、黒烟な立つト云フ。源平盛衰記、侍日ニ、上、僧正ノ、サシモ、頭ヨリ黒けぶりを立テテ、祈レドモ」宇治拾遺、二、第二條「くろけぶりを立テテ、驗（シルシ）ヲアラハサムト祈リ」謡曲、道成寺「明王ノ火焔ノ、黒けむりを立テテゾ祈リケル」

くろげん（名）【黒玄】玄（ゲン）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

くろけむり（名）【黒烟】前前條ヲ見ヨ。

くろこはく（名）【黒琥珀】琥珀ノ一種、黒ク光ルコト漆ノ如ク、極メテ堅シ、大キサ、指頭ノ如キアリ、豆ノ如キアリ。

くろごま（名）【黒駒】くろうまニ同ジ。

〜くろごま（名）【黒胡麻】ごまノ條ヲ見ヨ。

くろこめ（名）【黒米】穀（タニ）ヲ脱シテ、未ダ搗（ツ）キ精（シラ）ゲザル米。玄米（ゲンマイ）。黒米（コクマイ）。糙米　七十一番職人盡歌合（文安）三十五番、米賣、山ニヤ、木（コ）ノ下闇（シタヤミ）ノ、くろこめノ、つき出デテコソ、まらげ初メケレ」三代實録、十二、貞觀八年二月十六日、白米、黒米」

くろざたう（クロ・ザ・トウ）（名）【黒砂糖】砂糖ノ、粗製ニシテ、色ノ、暗黒ナルモノ。さたうノ條ヲ見ヨ。兩吟一日千句（延寶）「黒砂糖、タルウナリタル、中ヨリモ」其（ソ）佛ヲ、見レバ羊羹（ヤウカン）」

くろザン（名）【黒棧】くろざんとめノ略、次次條ヲ見ヨ。

くろさんご（名）【黒珊瑚】うみまつ（海松）ノ（三）ニ同ジ。

くろザントメ（名）【黒棧留】棧留（サントメ）縞（シマ）、又ハ、棧留革ノ、黒ク染メラレタルモノ。くろざん。

くろ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）【黒】（一）〔黒（クロ）〕ノ色ナリ。古事記、上、八千矛神歌「ヌバタマノ、久路岐御衣（ミケシ）ヲ、マツブサニ、取リ裝（ヨソ）ヒ」（二）くろいノ條ヲ見ヨ。

くろしたて（名）【黒仕立】黒色ニテ、成立タセタルモノ。萬葉千紅（文化、四方赤良）「青豆ノ黒仕立」「黒仕立ノ裝束」黒仕立ノ裝具」

くろしぶ（名）【黒澁】澁ノ、黒キモノ。

くろしほ（クロ・シホ）（名）【黒潮】〔潮水、暗藍色ニ見ユ、急流、川瀬ノ如シ〕太平洋中ノ暖流ノ名、臺灣島邊ノ洋中ヨリ起リテ、東北ニ向ヒ、薩摩ノ七島海ヲ歷テ、伊豆ノ七島ト八丈島トノ間ヲ、尚、東北へ流ル。黒瀨川。日本海流。八丈島筆記「八丈島、云云、三宅島ヨリハ未ニ當リテ、云云、此間ニ、早潮、黒潮、云云、黒潮ハ、海面ニ墨ヲスリシ如ク、幾百トモナク、渦バカリ流ルルユヘ、見ル者、怪シク、是ヲ見ズ、目クルメカズトイフ人ナシ」

くろジュス（名）【黒繻子】繻子ノ、純黒ナルモノ。博多小女郎波枕（享保、近松作）道行「泣ク泣ク憂キくろ繻子ノ、絲ノ切レサル緋ガラ織ノ」

くろしよゐん（クロ・ショ・イン）（名）【黒書院】しろしよゐん（イ）（白書院）ノ條ヲ見ヨ。

くろずみけう（クロズミ・キョウ）（名）【黒住教】神道ノ一派、備前國、御津郡、中野村ノ人、黒住宗忠、創ム。（嘉永三年歿）黒住派。

くろずみは（名）【黒住派】前條ヲ見ヨ。

くろ・ず・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）【黒】〔黒染むノ轉カ、すすろ、そぞろ、そそき、すすき〕黒ミヲ帶ブ。クロバム。黯

くろずゐしやう（クロ・ズイ・シ・ヨウ）（名）【黒水晶】たゐ（イ）しやう（ヨ）ノ條ヲ見ヨ。

くろせがは（クロ・セ・ガ・ワ）（名）【黒瀨川】〔くろしほノ語原ヲ見ヨ〕くろしほ（黒潮）ニ同ジ。

くろそこひ（名）【黒內障】そこひ（內障眼）ノ條ヲ見ヨ。

くろだち (名) 【黑太刀】 くろづくりのたちヲ見ヨ。

くろだな (名) 【黑棚】 全體、黑漆ニテ塗レル棚。三棚ノ一ニテ、御廚子棚ノ類。其條ヲ見ヨ。 倭訓栞、くろだな「黑棚ト書ケリ、廚子ノ類ナレバ、くりやだなノ轉ゼシナルベシ、徒然草ニ、くろみだたト云フハ、黑棚ノ事ナリト云ヘリ、サレバ、[illegible]、くろみだなニテ[illegible]ナルベシ」嫁入記「一、くろだなトハ、チガヘダナノ事ナリ、以上三ヂウナリ、上下ハ板ヲヒタワタシニアルベシ、中ハ高クヒキテ、過テコシラヘ候、何ニテモ、テグサノ物ヲ置クナリ、みづゑトハ、此タナノ下ヲ、四方フサギテ、マヒ戸ヲシテ、カラジャウオロスヤウニシタルヲ云フナリ、少シ祕スル物ナド入ベキ也」御廚子黑棚三莊之卷「黑棚諸具、掃箱、小角赤、元結箱、將箱、屑作箱、黑齒箱、亂箱、渡金、爪切[illegible]、やう、やはやは、文鎭」

くろだひ (名) 【黑鯛】 古名、チヌ。西國ニテ、[illegible]ヌダヒ。形、眞鯛ニ似テ、身、圓ク短ク肥エテ、[illegible]、大ナリ、全身、灰黑ニシテ、赤ミアリ、鱗、鰭、頭、尾、光リテ、鐵ヲ磨キタルガ如シ、大ナルハ尺餘、味、眞鯛ニ劣ル。烏頰魚 [illegible] トモ云フ。

くろだま (名) 【黑玉】 (一)黑ク圓キ標。クロボシ。クロマル。 (二)クロマナコ。クロメ。睛

くろち (名) 【黑血】 腫物ナド切リテ出ヅル血ノ、色、甚ダ黑ミタルモノ。ワルチ。惡血

くろぢ (名) 【黑地】 物ノ地色ノ、黑キモノ。(白地、赤地、ナドニ對ス) [illegible]「[illegible]」「黑地ニ鍛取リノ鞋子」「黑地ニ蒔繪ノ箱」

くろづか (名) 【黑塚】 (畔塚ノ義) 田ノ畔ナドニ、土ノ、堆キトコロ。[illegible]「[illegible]塚也、久呂」(畔塚ナルベシ) 倭訓栞、くろづか「畔塚ノ[illegible]、春ノ山田ノくろ塚ナド、詠メリ、一所ノ名ニ云フハ、拾遺集ニ、陸奥ノ、安達ガ原ノ、くろづかトヨメリ、或ハ、黑塚トモ書ケリ」

くろつぐみ (名) 【黑鶫】 つぐみノ條ヲ見ヨ。

くろづくり (名) 【黑作】 (つくりハ、つくりみノ意、黑ハ、黑造ノ意) 烏賊ノ肉ヲ、細カニ刻ミ、烏賊ノ墨ニテ漬ケタルモノ。越中、富山ノ産、名アリ。

くろづくりのたち (名) 【黑作太刀】 太刀ノ鞘、鍔ヲ、黑漆ニテ塗リタルモノ。又、黑太刀。 衣服令、武官朝服「衞府督、佐、云云、[illegible]橫刀、云云、其志以上、云云、烏裝橫刀」[illegible]「[illegible]、黑太刀持チテ出デ、定[illegible]二枝」下」

くろつち (名) 【黑土】 (赤土ナドニ對ス) 土ノ、色、黑キモノ。クロボコ、クロホク。 [illegible]「[illegible]」倭名抄、一「[illegible]、土色[illegible]、久路豆知」

くろっぽ・い (形) 【黑】 (くろおほい(黑多)ノ急呼) (一)黑ズミタリ。黑ミタリ。「色ガくろっぽい」(二)黑人ラシ。「技ガくろっぽい」

くろづる (名) 【黑鶴】 形、まなづるヨリ小サク、頂、赤褐ニシテ、頂、背、白シ、胸ヨリ、全身、尾、脚、ニ亙リテ、皆、淡黑シ、背、稍、短ク、嘴、青黃ナリ、[illegible]、丹頂ニ似テ、肉、最モ美ナリ。玄鶴

くろつるばみ (名) 【黑橡】 染色ノ名、橡ノ、黑キモノ。喪服ノ色ナリ。 榮花物語、[illegible]「[illegible]、皆、[illegible]ノ御[illegible]ニテ、云云、くろつるばみニナラセタマフ」

くろでしま (名) 【黑手縞】 (くろでハ、黑縮絲ノ略) 舶來ノ奧縞ノ、紺地ニ、赤絲ノ經線ノ、三線入リタルモノ。寬文年中、長崎ヘ黑船來ル、制外ノ船ナレバ、燒キ沈メラル、其船ニ載セ來レル縞ノ形ナリト云フ。(享保ノ東[illegible]、二)

くろど (名) 【黑戸】 (烟ニ煤ケタルニ因リテ申スト云フ) (一)禁中、淸涼殿ノ北、瀧口ノ西ニアル細閒ノ稱、黑戸の御所トモ云フ。 [illegible]、中、[illegible]、宮[illegible]、瀧口戸西」枕草子、六、九十段「[illegible]少シ打チカヘリタルホド、黑戸ニ、主殿ヅカサ來テ」同、七、六十四段「弘徽殿ノ、くろ戸ヨリ出デサセタマフトテ、女房ノ、廊ニ隙ナク候フヲ」平治物語、一、光賴參內事「主上ハ何處ニオハシマスゾ、黑戸の御所ニ、上皇ハ、一本御書所ニ、云云」[illegible]記、一、五[illegible]、[illegible]殿ノ陣、黑戸のごしよ」 徒然草、百七十六段「黑戸ハ、小松御門(光孝天皇)位ニ即カセタマヒテ、昔、タダ人ニオハシマシシ時、マサナゴトセサセタマヒシヲ忘レタマハデ、常ニイトナマセタマヒケル閒ナリ、御薪ニ煤ケタレバ、黑戸ト云フトゾ」(二)御佛壇ノ稱。 [illegible]、くろどノみさ[illegible]、御[illegible]ト云フ」松屋筆記、八十三、四十三條「禁中ノ御佛壇ハ、黑戸の閒ニアル由、[illegible]記ノ上ノ上卷居所部ニ見ユ」

くろどのごしよ (名) 【黑戸御所】 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

くろどのま (名) 【黑戸之閒】 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

くろとび (名) 【黑鳶】 鳶色ノ、黑ミアルモノ。 衣食住記(天明)「染色ハ、黑とび」

くろどり (名) 【黑鳥】 (一)海濱ニ棲ム、黑キ水鳥ノ名、今ノ、黑鴨ナラムト云フ。 倭名抄、十八、羽族名「鳥、黑色水鳥也、久呂止里」土佐日記、正月廿一日「[illegible]、くろとりノ、[illegible]ニ集リ居リ」(土佐ノ安藝郡ニ、黑鳥村アリ) (二)秧鷄ノ、小形ナルモノ。

くろとりげ (名) 【黑鳥毛】 鳥ノ羽ノ、純黑ナルモノ、槍ノ鞘ナドニ飾ルニ云フ。

くろなまり (名) 【黑鉛】 (しろなまり(錫)ニ對ス) なまり(鉛)ノ條ヲ見ヨ。

くろにく (名) 【黑肉】 印肉ノ、黑キモノ。(朱肉ニ對ス)

くろぬり (名) 【黑塗】 (朱塗ナドニ對ス) 墨汁ニテ塗リタルコト。黑漆ニテ塗リタルモノ。 平治物語、二、六波羅合戰事、淸盛「黑塗ノ太刀ヲ帶ビ」吾妻鏡、十一、建久二年十一月廿二日、[illegible]、云云、一匹、[illegible]ノハリカハ[illegible]」

くろねこ (名) 【黑猫】 毛色ノ、眞黑ナル猫、(赤猫ナドニ對ス) 御湯殿上日記、慶長三年三月十九日「サエモンノスケヨリ、くろねこ進上申サルル」

くろねずみ (名) 【黑鼠】 (一)毛ノ、灰色ニシテ、黑ミ濃キ鼠。(二)鼠色ノ、黑ミアルモノ。(三)しろねずみノ條ヲ見ヨ。

クロノメエトル (名) (英語、Chronometer.) 極メテ精密ナル時辰儀、天文ノ觀測、等ニ用キル。

クロはう (名) 【崑崙方黑方】 (くろ(崑崙)ノ條ヲ見ヨ、方ハ、方法ノ義) 合炷物ノ名、沈香、丁子、白檀、甲香、麝香、薰陸、ナド、各、分量ニ制定アリテ、煉リ作ル。(類聚雜要抄、四) [illegible]、四「黑方、烏方、坎口、崑崙方、皆是一名也、云云、崑崙仙人所傳、仍曰崑崙方、後人略之、通稱之」宇津保物語、國讓、上、五「くろはう、侍從、薰衣香、合ハセタキモノ」

くろばえ (名) 【黑南風】 (暗南風ノ轉カ、

暗し、黑し、相通ズ、白、まち」梅雨ニ入リテ吹ク、南風。(物類稱呼、一)

〔クロ-はせ (名) |崑崙八仙| 〔くろ(崑崙)、くろんぱう ノ條ヲ見ヨ、西域ヨリ傳ヘタル舞カ、八仙ハ、八羽ノ仙禽ナルベシト云フ、冠鶴ト云フハ、毛冠アリテ、觜、短シ」 舞樂ノ曲ノ名、高麗樂ナリ、今ハ、こんろんはっせんト云ヒ、略シテ、八仙トノミモ云フ、四人舞ニシテ、冠ハ、觜、戴勝鳥ノ如ク、假面ハ、鳥ノ如ク、觜、短クシテ、端ニ、小鈴ヲ垂ル、衣ニハ、鯉ノ模樣アリ。倭名抄、四「高麗樂曲「崑崙八仙、久呂波世」

くろ-はちぢやう (名) |黑八丈| 厚キ絹布、黑色ノ無地ニテ、織目ヲ、高ク粗ク織ル、八丈島ノ產ナリ、今、武藏國ノ八王子邊ヨリモ、多ク、擬シテ織出ス。

くろ-はぶたへ (名) |黑羽二重| はぶたへノ條ヲ見ヨ。

くろ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |黑| 〔接尾語ノ、ばむノ語原ヲ見ヨ〕 黑ミアリ。クロズム。クスム。十訓抄、上、第一、第三條「くろばみタル水干着タル人」

くろ-び (名) |黑日| 往時ノ曆ニ、黑星ヲ記シタル日ノ稱、萬事ニ凶ナル日トス。假名曆略註、受死日ハ、年曆ニ●如、此黑點ヲ記ス日ニシテ、俗ニ云フ、黑日也、大惡日ナルガ故ニ、百事ニ用ベカラズ」

くろ-ふ (名) |黑斑| 〔白斑ニ對ス〕 鷹ノ羽ニ、黑キ斑アルモノ、矢ニ矧グニ用ヰル。夫木抄、十八、鷹狩「吹雪スル、交野ノ原ヲ、狩リ行ケバ、くろふノ鷹ゾ、雪ニ紛ハヌ」

くろ-ふ (名) |黑生| 〔生ハ、其條ヲ見ヨ〕 春ノ燒野ニ、草ノ生ヒタル所。倭訓栞、くろふ「萩ニ云フハ、黑生也、春ノ野ヲ燒キタル跡ニ、生ヒ出ヅルヲ云フ也」「くろふノ薄」

✣くろ-ぶし (名) |踝| くるぶしノ訛。百日曾我(元祿、近松作)一「猪、云云、膝口ヨリくろぶしマデ、マックダリニカケ通セバ」

くろ-ぶだう (名) |黑葡萄| 〔白葡萄ニ對ス〕 葡萄ノ一種、實ノ色、紫黑色ナルモノ。ヤマブダウ。食フベク、又、酒ヲ釀スベシ。

くろ-ぶち (名) |黑駮| クロマダラ。牛馬、犬猫ナドノ毛ニ、黑キ駮アルモノ。盛衰記、三十五、東使戰三木曾一事「黑駮馬ニ、金伏輪ノ鞍置テ乘タリケル」

くろ-ふね (名) |黑船| 〔船體、多クハ、黑塗ナレバ云フ〕 中世、スベテ、南蠻、等、諸外國ノ大船ノ稱。外蕃通書、廿四、阿琉港書、波爾杜瓦爾「其本國直仕出ノ船ニハアラズ、是則、吾邦ニテ、古來、南蠻人ト呼ビ、其船ヲ黑船ト云ヘルハ、是ナリ」通航一覽、百八十六、南蠻波爾土瓦爾「正保四年六月廿四日、肥前國長崎之沖ニ、黑船貳艘、見ヘ申候、云云」

くろ-べ-すぎ (名) |黑部杉| 〔材、薄黑ケレバ、黑ベ杉ノ轉カ(くちびる、くちべり)〕 兒手柏類ノ喬木、各地ノ山山ニアリ、葉ハ、あすならうニ似テ、小ナリ、夏、球花ヲ開ク、材ハ、薄黑シ。

くろ-ぼ (名) |黑穗| 〔くろんぼト云フハ、音便ナリ、牛蒡、ごんばう。鳶、とんび〕 古名、ムギノクロミ。大麥、小麥、ノ穗ノ、熟セムトスル時ニ生ズル黑黴、黴菌ナリ、くろんぼトモ云フ。麥奴

くろ-ほう (名) |黑保| 紙ノ名、あさくさがみノ條ヲ見ヨ。

くろ-ぼく (名) |黑木| 〔黑木ノ湯桶讀〕 黑キ皮ツキノ木。

くろ-ぼく (名) |黑岩| 〔ぼくハ、凹凸ノ意ニモアルカ〕 (一)岩ノ如クニシテ、輕ク、色、黑キモノ、火山ヨリ噴出セル浮石ノ類ナリ、形、凹凸、種種ノ姿アレバ、多ク、築山、泉水ノ崖ナド築クニ用キル。(二)次條ヲ見ヨ。

くろ-ぼこ (名) |黑壤| 〔ぼこハ、土質ノ、ぼこぼこシタル意カ、くろぼくト云フハ、音轉ナリ、寸白、ぞばこ。くぐる、こぐる〕 色、黑キ土。クロツチ。壚 俚言集覽、黑ぼこ「黑壤ヲ云フ、樹木屋詞、くろぼくト云フ、綾襞(芭蕉)春、下「黑ぼこノ、松ノソダチヤ、若ミドリ」(黑ト、綠トヲ對セシム)

くろ-ぼし (名) |黑星| 圓クシテ、黑キ點。クロマル。クロダマ。黑圈

✣くろ-ぼし (名) |踝| くるぶしノ訛。

くろ-ぼたん (名) |黑牡丹| 牡丹ノ、花ノ、紫黑色ナルモノ。コクボタン。

くろ-ぼね (名) |黑骨| 扇、團扇、ノ骨ノ、黑ク塗ラレタルモノ。故實拾要、八「黑骨ノ扇」

くろ-ほん (名) |黑本| ゑざうし(繪草紙)ノ條ヲ見ヨ。

くろ-ほんぞん (名) |黑本尊| 黑漆ニテ塗リタル佛像ヲ、本尊トスルモノ。東京、芝ノ增上寺ニ、德川家康ノ護身佛タリシト傳フル、黑本尊ト云フ、アリキ。西湖逕志「黑漆瀰音ニ(俚言集覽)

〔くろ-ま (名) |黑馬| くろうまノ條ヲ見ヨ。

くろ-まく (名) |黑幕| (一)黑木綿製ノ引幕、芝居ノ舞臺ニテ、場面ヲ覆ヒ隱ス時ニ引キ用キル。(二)隱レテ、人ノ指揮スル者。「政黨ノくろまく」會社ノくろまく」

くろ-ま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) |黑| 〔くろむノ未然形ヲ活用セシム、暗む、くらます。澄む、すます〕 黑クナス。黑ムル。榮花物語、廿九、玉の飾「一品宮ノ御服ヤツレ、イト哀ニ、心グルシウ、皆ニモカカマホシウオハシマス、女房、宮ヅカサナド、皆、イトくろましタリ」

〔くろ-まだら (名) |黑斑| 黑キマダラ。クロブチ。皇極紀、三年七月、常世蟲「綠而有二黑點一」字津保物語、吹上、下「くろまだらノ牛」

くろ-まつ (名) |黑松| まつノ條ヲ見ヨ。

〔くろ-まなこ (名) |黑眼| 黑目ニ同ジ。倭名抄、三、耳目類、「瞳子黑、久呂萬奈古」醫心方、五十四「烏珠」

〔くろ-まめ (名) |黑豆| 大豆ノ一種、色、黑キモノ、粒、長大ニシテ、食用トスルハ、雌ナリ、粒、小サクシテ、藥用トスルハ、雄ナリ。黑大豆 倭名抄、十七、豆類「烏豆、一名、雄豆、久呂末女」

くろ-まる (名) |黑丸| クロダマ。クロボシ。黑圈

くろ-ま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) |黑| 〔くろむノ未然形ヲ活用ス、たたむ、たたまる。くぼむ、くぼまる〕 黑ムヤウニナル。黑ク染マル。

くろ-み (名) |黑| 〔みハ、接尾語、其條ヲ見ヨ〕 いかのくろみ、及、むぎのくろみノ條ヲ見ヨ。

〔くろ-みどりのうま (名) |黑綠馬| 馬ノ、黑毛ニ、靑ミアルモノ、今、靑毛ト云フ。鐵驄 倭名抄、十一、五牛馬毛「靑驪馬、鐵驄馬、久路美度里字麻」

〔くろ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |黑| 黑クナ

ル。[illegible]、四、夕顔「少シ、くろみヤツレタル旅姿」同、十九、薄雲「殿上人、ナベテ一ツ色ニ、くろみワタリテ」

くろ・む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [黒] (一)黒クナス。(二)言ヒ紛ラハス。言集ニテ、[illegible] 諂言 心中宵庚申(寶永、近松作)中「イヤイヤ、言イニ往ナウヨリ、還リ…[illegible]」「言ヒくろむ」

ぐろん (名) [愚論] オロカナル論。取ルニ足ラヌ議論。「愚論、聞クニ堪ヘズ」

くろむぎ (名) [黒麥] [illegible] 其子、麥ニ似テ、皮、黒シ。燕麥ニ同ジ、其條ヲ見ヨ

くろんばう (名) [黒坊] 〔印度ノ錫蘭島ノ地名、崑崙(Colombo.)ニ起ル、古クハ、崑崙ヲ、くろトモ呼べリ(其條ヲ見ヨ) 其國人ノ膚ノ色黒ケレバ、遂ニ、黒ノ意トシ、[illegible]人シテ、黒坊ト稱シ、音便ニ、くろんばう、約メテ、くろんぼト云フナリ(櫻坊、さくらんばう。隱坊、かくれんばう、かくれんば)[illegible]〕
(一)印度人、及、阿非利加洲ノ黒人種ノ通名。約メテ、くろんぼ。太閤記、十六、土佐國寄船事「くろんぼ二百五十人」大子集(寛永)「黒坊ハ、ウララナ日和、悦ビテ」[illegible]ダル牛ノ、皮ヤ張ルラム」[illegible]
(二)常人ノ、色ノ黒キヲ嘲リテ呼ブ語。

(三)芝居ニテ、[illegible]中ノ役者ノ、後見スル者ヲ云フ。見物人ノ眼ニサハラヌヤウニ、黒木綿ノ服ヲ着テ、黒布ニテ頭ヲモ包ム。

くろんぼ (名) [黒坊] 前條ヲ見ヨ。

くろめ (名) [黒目] 眼ノ睛ノ内ノ、黒キ部、此中心ニ、瞳アリ。クロマナコ。クロダマ。黒睛

くろめがち (名) [目黒勝] 黒目ノ、殊ニ麗シク、アザヤカナルコト。[illegible]

❖**くろ・める** ・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔くるめるノ轉、樞、くろろ。ぬるし、のろし〕くるめる。取リツクロフ。ヨキニアツカフ。處分 [illegible]「ヨイヤウニくろめテ下サレイ」[illegible]

くろもじ (名) [黒文字] 〔[illegible]木、削チ、皮ツキニ削リ故ノ名ナリ、又、青もじトモ呼ブハ、黒眼ヲ、青眼ト呼ブト、同意〕 (一)くろもじのきノ材ヲ削リテ作レル小楊枝。(二)クロモジノキ。

くろもじのき (名) [黒文字木] 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕 小木ノ名、山中ニ多シ、高サ六七尺、皮、淡緑ニシテ、黒キ斑アリ、樟ノ科ニテ、香氣多ケレバ、小楊枝ニ作ル、葉ハ、細長クシテ堅ク、椎ノ葉ニ似タリ、春ノ初、葉ニ先ダチテ、淡黄ナル五瓣ノ小花ヲ開キ、三、五、簇リ生ズ、實

ハ、ふんてんノ如ク、秋、熟シテ、黒シ。

野宮[illegible] 笠懸記、永正九年、埒ノ木「木ハ、くろもんホト云フ木ナリ」

くろもの (名) [黒物] 〔底、畑ニ煤ケテ、黒シ〕 鍋ノ、女房詞。大上臈御名の事(足利義政時代)女房詞「鍋、くろもの」イリコ、くろもの」(いりなべハ、炒鍋ナルベシ)

くろもん (名) [黒門] 冠木門ヲ、黒漆ニテ塗リタルモノ。「東京上野ノ黒門口」

くろもめん (名) [黒木綿] 木綿ノ、色、黒キモノ。(白木綿、茜木綿ナドニ對ス)

くろやき (名) [黒燒] 物ヲ燒キテ、黒キ灰トナシタルモノ。多クハ、藥トシテ飲ミ、又ハ、局部ニ塗ルニ用ヰルモノニ云フ。動物ナルハ、蒸燒ノ時、肉ヨリ出ヅル脂液ナドノ中ニ含マレタル性分ガ、或特有ナル作用ヲナスモノカト云フ。民間ニテ用ヰテ、功能アリト云フモノ、二三ヲ云ハバ、鷹、鷺、雉、鳥、雁、鴇(血道)、梟、巧婦鳥、鳩、雀(喘息)、海雀、鶚ノ頭、鶏ノ頭(黴毒)、山鳥(肺病)、鵜(疝氣)、八目鰻(眼病)、蠑螈ノ黒燒ヲ、女ニ振リカクレバ、惚藥トナルナド云フハ、其理、知ラレズ。[illegible]ち「下總國、大鹿村ノ弘教寺ノ小僧、此風ニアタリテ[illegible]ニシテ付ケシカバ、[illegible]タルトナリ」

くろやけ (名) [黒燒] 燒ケテ、黒クナレルコト。[illegible]

くろやま (名) [黒山] 人人ノ、夥シク群集スルヲ形容シテ云フ語。「見物人、黒山ノ如シ」

くろやんま (名) [黒蜻蜓] 〔やんまノ條ヲ見ヨ〕 とんばうノ一種、身、甚ダ痩セテ、細ソクシテ、緑ニシテ、光ル、翅、黒シ、水邊ニ飛ブ、草木ニ止ルトキハ、四ツノ翅ヲ、一ツニ重ヌルコト、常ノとんばうノ、並ブルニ、異ナリ。一名、オハグロトンボ、カネツケトンボ。紺蜻

くろゆり (名) [黒百合] 百合ノ一種、初夏ニ、黒紫色ノ花ヲ開ク。

くろらか・ま (副) [黒] 〔高らか、廣らか、同ジ〕 黒キ狀ニ云フ語。クロミテ。榮花物語、十九、御裳着「黒、くろらかまツケテ、紅、赤ウ、假粧セサセテ」

くろろ (名) [樞] 〔くるるノ轉、わるし、わろし。ぬるし、のろし〕 くるるノ(一)ニ同ジ。[illegible](室町時代)六「くろろぎ、[illegible]ク、云云、又、くろろヲサストモ詠メリ、くろろヲアクルトモ云ヘリ」

クロロホルム (名) 〔英語、獨語、Chloroform.〕 藥品ノ名、無色、揮發性ニシテ、多少、甘味ヲ有スル液體、外科手術ノ麻醉劑ナドニ用ヰル。

くろわく (名) [黒框] 黒ク、幅廣ク、アラハス輪廓 多クハ、死亡ノ時ノ通知書、新聞紙ノ廣告、ナドニ用ヰルニ云フ。西洋風ニ倣ヒテスルナリ。

くゎ (名) [火] (一)ヒ。燃ユルヒ。[illegible] (二)ごぎゃう(五行)ノ一、其條ヲ見ヨ「木、火、土、金、水」

くゎ (名) [火] 〔軍防令ニ、火鑽ヲ携ヘシムルコト、炊ノタメナルベシ〕 古ヘノ軍團ニテ、兵士、十人一組ノ稱。軍防令「凡、兵士、十人爲二一火一、火別一具、」

熟艾一斤」

くゎ（カ）（名）〔戈〕（一）鉾。書經、武成篇「前徒倒レ戈、攻二于後一以北」左傳、宣公十二年「止レ戈爲レ武」「戈ヲ倒ニス」「干、戈ヲ戢ム」（二）[illegible]ニテ、一丈三尺ノ度。

くゎ（カ）（名）〔和〕ヤハラグコト。心底ノ、打解クルコト。和合。中庸「和也者、天下之達道也」孟子、公孫丑、下篇「天時不レ如二地利一、地利不レ如二人和一」

くゎ（カ）（名）〔卦〕卦ノ條ヲ見ヨ。「乾ノ卦」「巽ノ卦」

くゎ（カ）（名）〔果〕佛教ノ語、因ノ果。因縁ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。沙石集、二、下、第八條「因ノ菩薩ノ、實ニシテ、果ノ佛ハ、謚トイフ事、云云」「因ヲ成シ、果ヲ成ス」

くゎ（カ）（名）〔窠〕〔集韻「窠、音科」蜂ノ窠ヲ輪切リニシタル象ナリトモ云ヒ、瓜ノ音ナリトモ云フ、サレバ、紋所ナルヲ、瓜トモ云フ、又、くゎんトモ云フハ、音便カ（和雜胎、かんざふなます。冬瓜、とうぐゎん。羅文、らんもん）或ハ、鼈筒ノ環ノ象ナリト云フハ、イカガ〕模樣、又ハ、紋所ナドニ、瓜ヲ、輪切リニシタル、鳥巢ノ周ノ如キ象。くゎん。モカウ。モ、カウ、主計寮式、上「窠綾」字類抄「窠文、クヮンモン」名目抄「窠、霰、浮文、長術文、是也」

くゎ（カ）（名）〔課〕（一）課スルコト。役ニ充ツルコト。エダチ。租ノ條ヲ見ヨ。唐書、食貨志「凡、賦、人之制、有レ四、一日租、二日調、三日役、四日課」（二）官衙、吏務ノ内ノ、小サキ區分。（割リツクル意ナリ）

くゎ（カ）（名）〔科〕（一）シナ。タグヒ。區別。論語、八佾篇「爲レ力不レ同レ科」「科目」「文科」「國語科」「理科」（二）トガ。罰。罪科。諸葛亮、前出師表「若有下作レ姦犯レ科、及爲二忠善一者上、宜下付二有司一、論中其刑賞上」「嚴科ニ處ス」

くゎ（カ）（名）〔寡〕〔說文「寡、少也」釋名「寡、單獨也」〕（一）數ノ、少ナキコト。（多ニ對ス）大學「生レ之者衆、食レ之者寡」孟子、梁惠王、上篇「寡、固不レ可二以敵一レ衆」（二）獨リナルコト。ヤモメ。大戴禮「五十無レ夫曰レ寡」又「無レ夫無レ婦、並謂二之寡一」「鰥、寡、孤、獨」

くゎ（カ）（名）〔過〕（一）過グルコト。餘ルコト。論語、先進篇「過猶レ不レ及」「過、不足ナシ」「百ニツキ、五ノ過トナル」（二）過去ノ略。「過、現、未、ノ三世」（三）アヤマチ。シソコナヒ。論語、雍也篇「有二顏回者一好レ學、云云、不レ貳レ過」漢書、汲黯傳「出二入禁闥一、補レ過拾レ遺」「功、過、相半ス」

くゎ（カ）（名）〔化〕感化。德化。漢書、敍傳「敗レ俗傷レ化」柳宗元、爲二李諫議一賀レ赦表「恩覃二九有一、化被二萬方一」太平記、一、武家繁昌事「其德ヲ稱シ、其化ニ誇ラヌ者、ナカリケリ」「民ノ豐カナルハ、仁政ノ化ナリ」

くゎ（カ）（名）〔訛〕ナマルコト。アヤマルコト。「鍛冶ハ、鍛冶ノ訛ナリ」

くゎ（カ）（名）〔靴〕くゎのくつノ條ヲ見ヨ。

くゎ（カ）（接尾）〔顆〕〔說文「顆、小頭也」六書故「凡、圜物、以レ顆計」〕粒、玉、果、印、ナドヲ數フルニ云フ語。字類抄「顆、クハ、珠也、小頭也」「玉二顆」「印三顆」「數珠百八顆」

ぐゎ（ガ）（名）〔畫〕ゑ（畫）ニ同ジ。繪畫。後漢書、馬援傳「眉目如レ畫」倭名抄、十三「六圖繪具「畫、音卦、丹青所レ圖也」」「山水ノ畫一幅」「畫帖」

くゎあふ（カオウ）（名）〔花押〕〔華押〕花字ノ押字ノ義ニテ、書判ノコト。花字トハ、己レガ名ヲ、草書ニ崩シテ、變化セサセテ、花ノ如ク書クナリ、花書トモ云ヒ、草名トモ云フ、ソレヲ文書ニ記スヲ、押字ト云ヒ、其文書ヲ、押書ト云フ。（韻會「押、署也、今人、言二文字押署一是也」）古今原始「唐韋陟、每レ書二陟字一云云、花押之巧、始二于韋陟一、古人破レ眞從レ草、以レ難二于模倣一、非レ盡去二其名一也」唐彥謙詩「公文持二花押一」北齊書、後主紀「文書各作二花字一、不レ具二姓名一、莫レ知二其誰一」歸田錄「今俗、謂二草書名一爲二押字一也」

くゎい（カイ）（名）〔快〕ココロヨキコト。心ニカナフコト。愉快。孟子、梁惠王、上篇「構二怨於諸侯一、然後快二於心一與」戰國策、秦策「蔡澤入說二應侯一、應侯不レ快」「其快、言フベカラズ」

くゎい（カイ）（名）〔怪〕（一）アヤシキコト。クシキコト。不思議ナルコト。奇怪。（二）惑フコト。淮南子、說林篇「習語不レ怪」（三）バケモノ。變化。妖怪。

くゎい（カイ）（名）〔會〕（一）ヨリアヒ。アツマリ。集會。會合。左傳、莊公十三年「宋人、背二北杏之會一」（二）特ニ、人ヲ招待シテ、遊樂ナドスルコト。賴政集、賀「作文、和歌ノ會」「花ノ會」「茶ノ會」「書畫會」「踊リノ會」「名弘メノ會」

くゎい（カイ）（名）〔檜〕（一）ビャクシン。（二）ヒノキ。

くゎい（カイ）（名）〔晦〕ツゴモリ。ミソカ。晦日。釋名、釋天篇「晦、灰也、火死爲レ灰、月光盡、似レ之也」「三月晦、帝都ヲ發ス」

くゎい（カイ）（名）〔魁〕（一）カシラ。ヲサ。首魁。禮記、檀弓、上篇「不レ爲レ魁」（二）サキガケ。「梅ハ、百花ノ魁」

くゎい（カイ）（名）〔塊〕（一）土ノカタマリ。ツチクレ。土塊。（二）凝固シテ、形ヲナスモノ。カタマリ。「肉塊」「血塊」（三）不平ノ心。壘塊

くゎい（カイ）（名）〔隗〕先づ隗より始めよト云フ語ハ、士ヲ招クニハ、先ヅ、劣レル者ヨリ採レト云フコトナリ。戰國策、燕策「今、王、誠欲レ致レ士、先從レ隗始、隗且見レ事、況、賢二於隗一者乎」（郭隗ノ、燕昭王ニ云ヘル語ナリ）

くゎい（カイ）（名）〔華夷〕中華ト、夷狄ト。中國ト、外蠻ト。夏夷。唐書、狄仁傑傳「天限二華夷一」儀制令「皇帝、華夷所レ稱」

クヮイ（カイ）（數）〔九〕〔字ノ、支那音ノ訛ナルベシ〕拳ノ語。ココノツ。

くゎい（カイ）（接尾）〔回〕〔小說ノ用語ナリ〕（一）小說文中ノ段。「第一回」「第二回」（二）轉ジテ、常ノ記事文書ニモ用キラル。雅文ニハ、一次、二次、ト書クナリ。（三）轉ジテ、タビ。メグリ。マハリ。度。返。「三回、碁ヲ打ツ」「藥ヲ七回服ス」名詞ニ、「回ヲ重ヌ」

くゎいい（カイイ）（名）〔怪異〕シルマシ。アヤシキコト。怪異。漢書、董仲舒傳「不レ知二自省一、又出二怪異一以警二懼之一」盛衰記、十三、鳥羽殿鼬沙汰事「サテモ唯今、然然怪異アリ、急ギ、聞召シタク思召ス」「怪異見」

くゎいい（カイイ）（名）〔會意〕（一）心ニ、合フコト。會心。晉書、陶潛傳「每レ有二會意一、欣然忘レ食」（二）六書ノ條ヲ見ヨ。

ぐゎいい（ガイイ）（名）〔外夷〕（一）化外ノ夷狄。（中華ニ對ス）（二）外國人ヲ、卑シメテ云フ語。

くゎいいう（カイユウ）（名）〔回遊〕巡廻、遊歷。處處ヲ歷廻リテ、見物スルコト。「回遊列車」

ぐゎいいう（ガイユウ）（名）〔外遊〕外國ニ、旅行スル

コト。「[illegible]ノ外ヲ[illegible]ル」

くわいいうぎよ（名）［洄游魚］〔英語、Migratory fishノ譯語〕魚ノ一種、潮流ニ順ヒ、又ハ、溯リテ、海中ヲ旅行スルモノ、かつを、まぐろ、いわし、ノ如シ。又、河魚ニモ云フ、鮎ノ如シ。

ぐわいいん（名）［外印］外印ノ條ヲ見ヨ。

くわいう（名）［灰雨］灰ヨク、黒シク降ル雨。夏ノ濱南ナドニ云フ。[illegible]

ぐわいいう（名）［臥遊］畫ヲ見テ、臥シナガラ、其地ニ遊ブ心地スルコト。世說、棲逸[illegible]宋書、宗炳傳[illegible]

ぐわいえき（名）［外役］外國ニ於ケル兵役。外征。

くわいが（名）［怪訝］アヤシク、イブカシキコト。「怪訝ニ堪ヘズ」

くわいかい（名）［詼諧］フザケルコト。オドケルコト。常談。詼謔。漢書、枚皋傳「東方朔傳、詼諧倡優」

ぐわいかい（名）［外界］或ル物ノ、外ノトコロ。（內界ニ對ス）[illegible]「使銀人ニ外界也」

ぐわいかい（名）［外海］（一）陸地ノ外面ニアル海。外洋。（內海ニ對ス）（二）陸地ヨリ、遠ク離レタル海。公海。（近海ニ對ス）

くわいかう（名）［回航］（一）處處ヲ、ヘメグル航海。（二）きかう（歸航）ニ同ジ。

ぐわいかう（名）［外交］（一）外國トノ交際。（內治ニ對ス）[illegible]（二）家ノ外ノ交際。史記、[illegible]「不好外交、雖賜洗沐不欲出」

ぐわいかうか（名）［外交家］外交ヲ職トスル人。

くわいかふ（名）［魁蛤］〔字典「魁、蜃蛤也」〕アカガヒ。說文「[illegible]一名、復累、老服翼所化也」

くわいがふ（名）［會合］ヨリアヒ。アツマリ。會。集會。[illegible]「君子以文會友」[illegible]「君子之人、以文德會友」[illegible]「會合何時諧」[illegible]五十一、弘長三年八月四日「於議會之間、取遁手便物」[illegible]

くわいかん（名）［快感］心地ヨキ感ジ。

くわいき（名）［快氣］氣分ノ、快クナルコト。病ノ、癒ユルコト。「快氣ニ赴ク」

くわいき（名）［回忌］〔年回忌ノ略〕人、死シテ後、年年、回リ來ル、其月ノ忌日ノ稱。一年ナルヲ、一回忌、又ハ、一周忌ナド云ヒ、（小祥）二年ナルヲ、三回忌ナド云ヒ、（大祥）次ハ、七回、十三回、十七回、ト、次第ニ、三ト、七ト、ノ數ニ當ル年、（三ハ、數ノ小終、七ハ、天ノ紀數ナリト云フ）次ハ、五十回忌、百回忌、以上ハ、五十年毎ナリ、スベテ、佛事ヲ修スルニ云フ。年忌。年回。佛道ニテノ追薦ハ、七、七、四十九日ヲ限リトシ、我ガ國ニテモ、古ヘハ、一周忌ヲ、果ト云ヒテ、限リトシタリ、支那ニテモ、喪ノ終ノ三年ヲ、大祥トテ、祭ルノミナリ、七年以上ハ、我ガ國ニ崇拜ノ念ニ起レルカ。[illegible]九月廿五日[illegible]三十三回忌辰也」

くわいき（名）［回歸］メグリ、カヘルコト。「回歸線」

くわいき（名）［會期］集會ノ時期。左傳、[illegible]

くわいき（名）［會規］會ノ規則。會則。

くわいぎ（名）［會議］（一）數人寄合ヒテ、事ヲ評議スルコト。史記、平津侯傳「每朝會議、開陳其端、使人主自擇」[illegible]（二）特ニ、議員ノ、集リテ、或ル公務ヲ議スルコト。

ぐわいき（名）［外氣］屋外ノ空氣。「外氣ニ觸ル」

くわいきう（名）［懷舊］オモヒデ。アリシ昔ヲ、思ヒ出ヅルコト。懷古。[illegible]「懷舊ノ涙」

ぐわいきう（名）［外舅］妻ノ父。爾雅、[illegible]「妻之父、爲外舅、妻之母、爲外姑」

くわいきせん（名）［回歸線］地球ノ赤道ヲ中トシテ、南北、各、緯度二十三度二十八分ニ當ル所ノ稱、太陽、此（南、北）ニ至リテ、赤道ニ回歸スルナリ。北ナルヲ、夏至線トモ云ヒ、南ナルヲ、冬至線トモ云フ。又、地球ノ、此兩線ノ間ヲ、熱帶ト云フ、極メテ、熱ケレバナリ。

くわいきねつ（名）［回歸熱］病ノ名、窒扶斯ノ一種、數日ヲ隔テテ、熱ノ、回歸スルモノ。

くわいきん（名）［廻勤］任官、就職、ノ時ナド、其筋ノ諸家ヲ歷訪シテ、禮ヲ述ブルコト。回禮。

ぐわいきん（名）［外勤］外部ニ、勤務スルコト。（內勤ニ對ス）

くわいきよ（名）［快擧］愉快ナル擧動。心地ヨキ仕業。「元祿ノ快擧」

くわいきよく（名）［槐棘］〔三槐、九棘ノ略、各條ヲ見ヨ〕三公ト、九卿ト、公卿。[illegible]

くわいぎろく（名）［會議錄］會議ノ發言ノ記錄。

くわいく（名）［懷句］ハラミ句。

くわいく（名）［化育］造化ノ、萬物ヲ成育スルコト。中庸、第二十二章「能盡物之性、則可以贊天地之化育」

くわいぐわ（名）［繪畫］繪。畫。周禮、考工記「繪畫之事、後素功」

ぐわいくわ（名）［外科］げくわ（外科）ニ同ジ。

くわいくわい（副）［恢恢］〔說文「恢、大也」〕ヒロラカニ。廣大ニ。老子、第七十三章「天網恢恢、疎而不失」史記、滑稽傳「天道恢恢、豈不大哉」

くわいくわい（副）［憒憒］理解力ノ、遲鈍ナル狀ヲ云フ語。クラキサマ。愚カナルサマ。（次次條ヲ見ヨ）

くゎい-くゎい-けう (名) 回回教 ふゐふゐけうヲ見ヨ。

くゎい-くゎい-赤ゃ-りう (名) 憒憒者流 〔莊子、大宗師篇「彼又惡能、憒憒然爲二世俗之禮一」三國志、蜀志、蔣琬傳「楊敏毀レ琬曰、作レ事憒憒」註「事不レ當レ理、則憒憒矣」〕〔集韻「憒、心亂也」〕道理ニ暗キ輩。

くゎい-くゎつ (名) 快闊 快活 ココロヨク、打開ケタルコト。五代史、劉昫傳「諸吏云云、聞二罷レ知、皆歡呼相賀曰、自レ此我曹快活矣」「天空快活」（景色、快闊ナリ）快闊ナル氣象」

くゎい-くゎん (名) 會館 集會、又ハ、會議ヲスル建物。會堂。「華族會館」

ぐゎい-くゎん (名) 外患 國ノ外ノウレヘ。外國ヨリ來ル難。（內憂ニ對ス）孟子、告子、下篇「入則無二法家拂士一出則無二敵國外患一者、國恒亡」

ぐゎい-くゎん (名) 外觀 外見ニ同ジ。「外觀ヲ裝フ」

くゎい-けい (名) 會計 金錢ノ出入ヲ計ルコト。勘定。算勘。孟子、萬章、下篇「孔子嘗爲二委吏一矣、曰、會計當而已矣」周禮、天官篇、司會、註「會、大計也」孟子抄（文明）十六「年中ノ算用ヲ遂グルヲ、會ト云フ、一月ノ算用ヲ遂グルヲ、計ト云フゾ」周禮、天官、小宰篇「聽二出入一以二要會一」註「月計曰レ要、歲計曰レ會」

くゎい-けい (名) 會稽 くゎいけいのはぢ（會稽之恥）ノ略、北條ヲ見ヨ。

くゎい-けい-けんさゐん (名) 會計檢査院 政府ノ、スベテノ會計ヲ、檢査、監督スル官廳。

くゎい-けい-ねんど (名) 會計年度 政府ノ、一年間ノ會計計算ノタメニ、特ニ設ケタル年度、每年、四月一日ヨリ、翌年、三月三十一日マデトス。曆年ノ、一月ヨリ十二月マデナル年度ニ別ツ。

くゎい-けい-のはぢ (名) 會稽之恥 〔支那、三代ノ周ノ時、越王、勾踐ガ、吳王、夫差ト、會稽山ニテ戰ヒ、敗レテ、恥辱ヲ受ケ、深ク謀ルコト二十年ニシテ、終ニ、吳ヲ滅シタル故事ニ因ル、臥薪嘗膽ノ條ヲ併セ見ヨ〕深ク心ニ忘ルル能ハザル恥。常ニ、コレヲ雪ガムトスル意ニ云フ。略シテ、會稽、トノミモ云フ。史記、越世家「苦レ身勠レ力、與二勾踐一深謀二十餘年、竟滅レ吳、報二會稽之恥一」同、貨殖傳「勾踐、云云、修レ之十年、國富、云云、遂報二强吳一云云、雪二會稽之恥一」吾妻鏡、一、治承四年八月廿四日「公私全レ命、廻二計於外晉、盍レ雪二會稽之恥一哉」同卷、同年八月廿六日「爲レ雪二由井浦會稽一欲レ襲二三浦之輩一」

ぐゎい-けう (名) 外敎 外國ヨリ入リ來レル宗敎。特ニ、天主敎、希臘敎、耶蘇新敎、回回敎、ナドヲ云フ。

くゎい-けつ (名) 潰決 堤防ナドノ、潰レテ、河水ノ、流逸レ出ヅルコト。蘇軾、制科策「江河潰決、百川騰溢」

くゎい-けつ-びゃう (名) 壞血病 身體處處ヨリ、出血スル病、食物、鹽、肉、ナドノミニテ、蔬菜ヲ用キザルニ起ル。

くゎい-けん (名) 懷劍 （一）フトコロガタナ。隱劍。常山紀談、附錄、稻葉伊豫守一徹「其方ヲ、刺殺サントセシ巧ミナリ、相伴ノ三人、皆、懷劍ヲ差タリ」（二）懷句ノ異名。

くゎい-けん (名) 會見 會ヒテ、顏ヲ見ルコト。面會。對面。「使節ノ會見」

ぐゎい-けん (名) 外見 ウハベノミエ。ウチミ。ミバ。ミテクレ。外觀。「外見ヲ飾ル」

くゎい-こ (名) 懷古 懷舊ニ同ジ。北史、常景傳「經二涉山水一悵然懷レ古」「懷古ノ情」

くゎい-こ (名) 回顧 カヘリミルコト。「回顧スレバ、往時ヲ、想ヒメグラスコト。

くゎい-ご (名) 回護 カバフコト。庇護。「五十年」

くゎい-ご (名) 乖忤 〔玉篇「乖、戾也」說文「忤、逆也」〕モトリ、サカフコト。漢書、孝成許皇后傳「輕細微渺之漸、必生二乖忤之患一」

くゎい-ご (名) 魁梧 身體ノ、壯大ナルコト。大兵。魁偉。史記、留侯世家「其人計魁梧奇偉」註「魁梧、丘虛壯大之意、言レ可二驚以悟一於人也」

くゎい-ご (名) 悔悟 過ヲ、悔イ悟ルコト。白居易詩「壯歲不二歡娛一長年當二悔悟一」

くゎい-こう (名) 恢弘 ヒロク、オホキクスルコト。後漢書、馮異傳「恢二弘聖緒一損二被四表一」

ぐゎい-こう (名) 外寇 外國ヨリ攻メ來ル寇。國語、晉語「唯忠信者、能留二外寇一而不レ害」

くゎい-こく (名) 廻國 國國ヲ、歷廻ルコト。市中取締類集、九、百八「於二御關所一モ、許狀無レ之廻國六部順禮等、相通シ申間敷旨、改而被二仰渡一御座候」「廻國修行」廻國巡禮」

ぐゎい-こく (名) 外國 トツクニ。アダシクニ。我ガ政府ノ支配ナラヌ國。異國。異域。（內國ニ對ス）史記、樂書「承二鑑成一今降二外國一涉二流沙一兮四夷服」

ぐゎい-こく-ご (名) 外國語 外國ノ言語。

ぐゎい-こく-こうさい (名) 外國公債 〔英語、Foreign bond.〕外國ヨリ募集シタル公債。外債。（內國公債ニ對ス）

ぐゎい-こく-じん (名) 外國人 外國ノ人。トツクニビト。異國人。外人。

ぐゎい-こく-せん (名) 外國船 外國ノ船。異國船。

ぐゎい-こく-ぶぎゃう (名) 外國奉行 德川幕府ノ職名、外國ニ關係スル事務、一切ヲ掌ル。泰平年表、四編、一「安政五年七月八日、新規御役、外國奉行出來」

くゎい-こん (名) 塊根 植物ノ根ノ、大ナル塊狀トナレルモノ、甘藷ノ類。芋ノ親。

くゎい-さい (句) 快哉 〔善哉ト、同趣〕ココロヨキカナ。宋玉、風賦「楚襄王、云云、有レ風颯然而至、云云、快哉此風、寡人所レ與二庶人一共者耶」「快哉ヲ叫ブ」

ぐゎい-さい (名) 外債 外國公債ノ略。（內債ニ對ス）

くゎい-さう (名) 會葬 葬儀ノ式ニ列スルコト。左傳、隱公元年「衞侯來會レ葬」

くゎい-さう (名) 回想 オモヒデ。往時ヲ回顧シテ、思ヒ出ヅルコト。追想。

くゎい-さう (名) 廻漕 フナマハシ。船ニテ、物ヲ運漕スルコト。

くゎい-ざん-ぎょ (名) 鱠殘魚 〔下ノ出典ヲ見ヨ〕しらうをノ漢名。但シ、支那ナルハ、長サ五六寸アリト云フ。本草綱目、鱠殘魚「潔白如レ銀、無レ鱗、若二已鱠之魚一」

くゎい-し (名) 【懷紙】 [illegible] フトコロガミ。懷中ノ用紙。昔ハ、男子ハ、懷紙ヲ懷ニシ、女子ハ、色紙ヲ携ヘ居テ、席上ニ、詩歌ヲ記スコトナドアル時ハ、各、其紙ヲ取出シテ書ケリ。後ニハ、詩、和歌、ヲ、正式ニ詠進スル用トシテ、檀紙、又ハ、杉原紙ノ、小紙ヲ用キルヲ、專ラ、懷紙ト云フ。其書式ハ、初ニ、題ヲ、[illegible]同詠、[illegible]水花光、ナド記シテ、次ニ、官位姓名ヲ書シ、次ニ、歌ヲ、一行ニシテ、末行ヲ、三字ニ[illegible]ヲ例トス。[illegible]記、二十三、平氏九月十三夜[illegible]事「懷紙ヲ進メケルニ、寄月戀ト云フ題ニ[illegible]」[illegible]三十四、仁治二年八月十五日、右[illegible]懷紙」

くゎい-じ (名) 【怪事】 怪シキ事柄。晉書、[illegible]「[illegible]作咄咄怪事四字而已」

くゎい-じ (名) 【繪事】 繪ヲ畫クコト。周禮、[illegible]功」論語、八佾篇「繪事後素」集註「後素、後於素也」云云、謂先以粉地爲質、而後施五采[illegible]ノ下地ナリ[illegible]」

ぐゎい-し (名) 【外史】 〔官撰ノ正史ニ對シテ云フ語〕在野ノ人ノ記セル歷史。一個人ノ作レル史。野史。野乘。又、其體史、又ハ、其書ノ作者ノ雅號ニ添ヘテ稱スル語。「日本外史」山陽外史」

ぐゎい-し (名) 【外史】 外記ノ唐名。周禮、春官「外史」[illegible]外記ニ」職原抄、上、太政官、大外記「[illegible]外史」

ぐゎい-し (名) 【外資】 外國ヨリノ資本金。

ぐゎい-じ (名) 【外事】 (一) ホカノコト。ヨソノコト。後漢書、光武帝紀「帝以中國初定、未[illegible]外事」 (二) 外國ニ關係シタル事柄。[illegible]傳、文公十三年「能外事、且由舊勳」

くゎい-しう (名) 【回收】 トリモドスコト。「利權回收」

くゎい-じう (名) 【懷柔】 ナツケ、シタガハシムルコト。詩經、周頌、時邁篇「懷柔百神、及河喬嶽」左傳、僖公廿四年「其懷柔天下也、猶懼有外侮」

くゎい-じつ (名) 【會日】 會合スル日。アツマル日日。曹植詩「別促會日長」

くゎい-じふ (名) 【會集】 多人數、ヨリアフコト。アツマリ、ツドフコト。陸游詩「春[illegible]社」[illegible]「子弟每會集」

くゎい-じふ (名) 【晦澁】 文章、言語、ナドノ、難澁ニシテ、明瞭ナラヌコト。

くゎい-しん (名) 【會心】 善ク、我ガ心ニカナヒタルコト。氣ニ入リタルコト。會意。世說、言語、中篇「會心處不必在遠、翳然林水、便自有濠濮間想也、覺鳥獸禽魚自來親人」「會心ノ笑」會心ノ友」

くゎい-しん (名) 【回申】 返答申スコト。

くゎい-しん (名) 【回診】 醫者ガ、病家ヲ廻リアルキテ、診察スルコト。

くゎい-じん (名) 【灰燼】 燒ケタル跡ノ、灰ト、燼ト。物ノ、滅亡シタルニモ云フ。[illegible]傳「一時焚蕩、至於灰燼」[illegible] 平治物語、一、信西宿所燒拂事「殿舍ノ、烈シキ風ニ吹立ラレテ、灰燼、地ニホドバシリケレバ」「一生ノ事業ヲ灰燼ニ委ス」

ぐゎい-しん (名) 【外臣】 一國ノ臣民ガ、外國ノ君主ニ對スル自稱。儀禮、士相見「他國之人、則曰外臣」國語、魯語「外臣之言、不越境」

ぐゎい-しん (名) 【外心】 隔テゴコロ。ヨソゴコロ。フタゴコロ。異心。左傳、昭公三年「寡君如晉、夫人且告曰、而國有外心」

ぐゎい-じん (名) 【外人】 (一) 外ノ人。我ガ黨ナラヌ人。餘人。孟子、滕文公、下篇「公都子曰、外人皆稱夫子好辯」菅家集、十二、哀傷、花山院御出家ノ時、外戚、中納言義懷ニ、[illegible]外戚トシテ、重クオハシツルニ、外人ト成テ、今更ナル世ニ、マジラハン事、イカガ空ジ給フ」名義抄「外人、ウトキ人」 (二) 外國人。

ぐゎい-じん (名) 【外腎】 睾丸。キンタマ。折骨分經「外腎、睾丸也」

くゎい-しゃ (名) 【膾炙】 〔禮記、曲禮、上篇「膾炙處外、醯醬處內」膾ト、炙トハ、一般ノ人ノ口ニ上リテ、旨シトセラルルモノノ意〕 美味ナルコト。孟子、盡心、下篇「公孫丑曰、膾炙與羊棗孰美、孟子曰、膾炙哉」人口ニ膾炙ストハ、普ク、人人ノ口端ニカカリテ、褒メラルルヲ云フ。宣和書譜「[illegible]所[illegible]詩頗多、世[illegible]往往、膾炙人口」

くゎい-しゃ (名) 【會社】 〔明治以後ノ造語ナリ、漢書、五行志「禁民私所自立社」註「舊制、二十五家爲一社、而、民或十家五家共爲田社、是私社也」此意ヨリ、採ル、組合ノ意ナリ〕 商行爲ヲ目的トシテ、二人以上協同シテ、立テタル社團法人。「合名會社、合資會社、株式會社」

くゎい-しゃう (名) 【會商】 會合シテ、商議スルコト。

くゎい-しゃう (名) 【回章・廻章】 (一) 返事ノ書狀。返書。回書。運歩色葉集「回章」 (二) 廻狀。

くゎい-じゃう (名) 【廻狀】 メグラシブミ。名宛ヲ連名ニシテ、順順ニ廻ラシテ、事ヲ通ズル書狀。廻文。廻章。順達。傳單。移文。[illegible]雙紙、上「上總介(今川範政)關東ノ諸家、回狀ヲ出サル」

ぐゎい-しゃう (名) 【外相】 外務大臣ノ異稱。

くゎい-しゃいん (名) 【會社員】 會社ニ勤ムル人。

くゎい-しゅ (名) 【魁首】 賊徒ナドノ、カシラ。魁帥。首魁。盛衰記、十四、興福寺返牒事「天平御宇、大野東人、雖斬魁首、僅[illegible]八座」

くゎい-しゅ (名) 【會主】 集會ヲ催ス主人。

ぐゎい-しゅつ (名) 【外出】 ソトデ。ヨソユキ。他出。他行。南齊書、張敬兒傳「不復外出」

くゎい-しゅん (名) 【悔悛】 〔廣韻「悛、改也」〕後悔シテ、前非ヲ改ムルコト。悔悟。

くゎい-しゅん (名) 【回春】 (一) 春ノ、回リ來ルコト。(二) 身體ノ、元氣ニカヘルコト。病氣ノ全快。回癒。

くゎい-しょ (名) 【回書】 返書。回章。夢溪筆談「使人不肯去、須索回書」運歩色葉集「回書」

くゎい-しょ (名) 【會所】 (一) 人人ノ、集會スル所。沙石集、七、上、第五條「酒宴ノ座席、詩歌ノ會所」 (二) 貴族ノ邸內ニ設ケタル、一棟ノ建物、客殿トス。太平記、三十七、新將軍京落事「佐渡判官入道道譽、都ヲ落チケル時、我ガ宿所ヘハ、定メテ、サモトアル大將ヲ入レ替ヘムズラ

ムトテ、云云、六間ノ會所ニハ、大紋ノ疊ヲ敷キナラベ、本尊、脇繪、花瓶、香爐、云云、ニ至ルマデ、一様ニ置キ調ヘテ、云云」後花園院永享九年行幸記「御會所ノ西ノ馬道ノ軒ニ、魚鼈ノ提燈ヲ數多カケラル」三内口訣(永正)「會所、押板、書院等、如レ常、有レ泉、或、有レ池」（三）特ニ、町村ナドニテ、町役人、村役人、ナドノ、事務ニ就キテ集會スル所。折たく柴の記、下、元祿十二乙卯「長崎ノ會所ニテ、外國ノ貨物ヲモテ、我國ノ商人ニ賣付シ價錢ヲ、金子ニ換シ所、云云」

くゎい-しょく（名）［會食］會合シテ、飲食スルコト。多人數相聚リテ、食スルコト。孟郊詩「同室會食當千夫」

くゎい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［會］（一）アツマル。ヨリアフ。會合ス。書經、泰誓、上篇「惟十有三年春、大會二于孟津一」「衆人、相會す」（二）流レ合フ。流レ入ル。書經、禹貢篇「岷山導レ江、東別爲レ沱、云云、東迤北會二于匯一」「百川、海ニ會す」（三）出會フ。デクハス。遭遇。唐書、虞世南傳「俄會二帝謀一」「風雲ノ際ニ會す」「好機ニ會す」

くゎい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［會］覺リ知ル。會得ス。了解ス。白氏文集、三十七、感二所見一詩「誰人會二我心中事一、冷笑時時一掉頭」

くゎい-すう（名）［回數］タビカズ。度數。「回數ヲカサヌ」

くゎい-すう-けん（名）［回數券］汽車、電車、ノ乘車切符ナドニ、數度分ヲ一紙ニ作リ、割引キシテ賣ルモノ。

くゎい-すゐ（名）［魁帥］くゎいしゅ(魁首)ニ同ジ。

くゎい-せい（名）［魁星］（一）北斗星ノ第一星ノ名。支那ニテハ、科擧及第ノ第一狀元ノ稱ニモ用キフル。史記、天官書、註「魁、北斗第一星也」（二）支那板本書籍ノ卷首ニ、多ク、魁星ノ象トテ、印スルモノ。夜叉形ノ者、左手ニ筆一枝ヲ取リ、右手ニ鑑一錠ヲ握リ、左上ニ斗ヲ圖シタルヲ、左脚ヲ曲ゲテ踢ル狀ヲナス、魁星踢斗ト云フ。魁ヲ鬼斗トシ、筆錠ヲ必定ノ意トシ、必定、狀元ノ魁タルヲ得ト云フ寓意ナリト云フ、書肆ノ、書ヲ賣ラムガ爲メニ圖スルナルベシ。(堯山堂外記) 魁星ヲ、文昌星ト混ジテ云フ者アリ。

くゎい-せい（名）［快晴］空ノ、快ク晴レタルコト。好天氣。陳與義詩「兩鶴翻二明月一、孤松立二快晴一」吾妻鏡、一、治承四年十月十二日「辛卯、快晴」

くゎい-せい（名）［回生］ヨミガヘルコト。イキカヘルコト。「回生起死ノ藥」

ぐゎい-せい（名）［外甥］母ノ兄弟姉妹ノ子。字類抄「外甥、母方ノヲヒ」

ぐゎい-せい（名）［外征］外國ヘ、出征スルコト。外役。

くゎい-せき（名）［怪石恠石］凹凸、種種ノ形ヲナシタル石、庭石ナドトスルモノ。太平記、廿三、土岐頼遠參二合御幸一事「奇樹、怪石ヲ集メテ、見所アリシ栖塒ナレドモ」倭訓栞、くゎいせき「香蓮庵ノ怪石供ト云ヘル書アリ、奇石ノ事ヲ委シクセリ」

くゎい-せき（名）［懷石會席］（懷石ハ、禪家ノ語、小食、夜食ノコト、聊、腹ニ滿タスヲ、溫石ヲ懷ニ入ルル意トシテ、懷石ト稱ス、茶會ノ客モ、初ハ、割子ヲ懷ニシテ、各、食物ヲ持寄リタルニ因リテ、此稱アリト云フ、茶道ハ、禪ヨリ出ヅ、サモアルベシ、會席ハ、當字ナリ、茶會ノ席上ノ料理ノ意ニ思ヒ移シタルナルベシ）茶會ニ、茶ヨリ前ニ出ス膳部獻立ノ稱。初ハ、一汁二三菜ヲ限リ、食物ハ、銘銘盛ニシテ、華美ヲ避ケテ、味ヒヲ本意トシタリト云フ。會席料理ト云フモノ起リテヨリ、却ッテ、茶會ノ料理ヲ、茶會席ナド云フ。南方錄、三、懷石號「懷石ハ、禪林ニテ、菜石ト云フニ同ジ、溫石ヲ懷ニシテ、懷中ヲアタタムルマデノ事ナリ、禪林ノ小食、夜食ナド、藥石トモ、點心トモ云フ、同意ナリ、草庵相應ノ名ナリ、ワビテ、一段面白キ文字ナリ」（古事類苑）

くゎい-せき（名）［會席］（一）會ノ席。寄合ノ座敷。（二）會席料理ノ略。東海道名所記(萬治)六「會席、菓子、事、終リ」

ぐゎい-せき（名）［外戚］ゲシャク。母方。母方ノ親族。史記、外戚世家「守レ文之君、非二獨內德茂一也、蓋亦有二外戚之助一焉」漢書、淳于長傳「以二外戚一居二九卿位一」儀制令、親族「親戚(謂、親戚、內親也、戚者、外戚也)」宇津保物語、祭使三十五「大臣、源氏ニオハシマセドモ、外戚、藤氏ニオハシマス」

くゎい-せき-ぜん（名）［會席膳］次次條ヲ見ヨ。

くゎい-せき-れうり（名）［會席料理］（會席ハ、懷石ノ當字、其條ヲ見ヨ）料理茶屋ノ一種ニ、飯肴ヲ、茶道ノくゎいせき料理ニ倣ヒテ調ズルモノ。肴ヲ、銘銘盛ニシ、くゎいせき椀、くゎいせき膳、ヲ用キルナド、是レナリ、寬政、文化、頃ヨリ始マルト云フ、今ノ東京ノ料理茶屋ト云フモノ、大抵、皆、此風ノ料理ナリ。大器ニ肴ヲ盛リテ、席ノ中央ニ出シ、席上ニテ盛リ分クル事、絕エタリ。料理早指南大全、初編、會席「飯、汁、膾、附合、手鹽皿、平皿、大ちょく、茶碗」嬉遊笑覽(文政)十、飮食「會席料理ト云フハ、予ガ覺エテ、藥研堀ノ川口忠七、鳴竹、始ナリ」

くゎい-せき-わん（名）［會席椀］（懷石椀ナリ）椀ノ、黑漆ニテ塗リタルモノ。折敷ノ黑漆ナルヲ、くゎいせき折敷、くゎいせき膳、ト云フ。歌林雜話(松永貞德)「近年、宗易(千利休)ガ、茶湯ニ用キ初メテ、黑圓ノ椀、折敷ヲ用ル、云云」

くゎい-せき-をしき（名）［會席折敷］前條ヲ見ヨ。

くゎい-せつ（名）［回雪廻雪］（文選ノ用語ヨリノ語ナリ）舞ニ、巧ミニ、クルクルト、袖ヲ飜スコト。曹植、洛神賦、河洛之神「髣髴兮若二輕雲之蔽一レ月、飄颻兮若二流風之回一レ雪」盛衰記、一、五節始事「天武天皇、芳野河ニ御幸シテ、御心ヲ澄シ、琴ヲ彈ジタマヒシニ、神女、空ヨリ降リ下リ、淸見ガ原ノ庭ニテ、廻雪ノ袖ヲヒルガヘシ」謠曲、羽衣、天女、霓裳羽衣ノ舞「綠ハ浪ニ浮島ガ、拂フ嵐ニ花降リテ、ゲニ、雪をめぐらす白雲ノ、袖ゾ妙ナル」

ぐゎい-せふ（名）［外妾］（一）本宅ノ外ニ住ハセ置ク、メカケ。カコヒモノ。（二）外國人ノメカケ。ラシャメン。

くゎい-せん（名）［會戰］兩軍、出會ヒテ、戰フコト。孫子、虛實篇「知二戰之地一、知二戰之日一、則、可三千里而會二戰一」

くゎい-せん（名）［回旋］メグルコト。回轉。ぐるぐるマハルコト。舊唐書、回紇傳「改爲二回鶻一、義取二迴旋輕捷如一レ鶻也」白樂天詩「落葉隨レ風還回旋」

くゎい-せん（名）［廻船］海上ノ廻漕ニ用キル船。漕船。庭訓往來、四月「廻船着岸津」

[illegible]江戸時代ニテハ、江戸、大坂、其外、諸方ノ海上ニ、運漕ヲ專ラトスル船ノ、二百石積以上ノモノヲ稱シタリ。

くわいせん (名) [illegible] 形ノ、[illegible]大ナル狀ニ云フ語。史記、孟嘗君傳「始以[illegible]」

くわいせん (名) [illegible] [illegible]スル狀ニ云フ語。[illegible]

ぐわいそ (名) [外祖] 外祖父、祖母ニ同ジ。漢書、[illegible]傳「外祖司馬遷」

くわいそう (名) [快走] 疾ク走ルコト。

くわいそう (名) [回送] オクリ、カヘスコト。

くわいそく (名) [會則] 會ノ規則、會規。

くわいそくりよく (名) [快速力] 甚ダ疾キ速力。[illegible]

ぐわいそふ (名) [外祖父] 母方ノ祖父。[illegible]外祖父外從五位上[illegible]

ぐわいそぼ (名) [外祖母] 母方ノ祖母。[illegible]天平七年十一月己未「賀茂朝臣比賣卒、云云、天皇之[illegible]」

ぐわいそん (名) [外孫] [illegible]ノ、[illegible]ニ嫁ギテ生メル子。史記、劉敬傳「陛下誠能以適長公主[illegible]外孫故與大父抗禮者哉」

くわいたい (名) [懷胎] くわいにん(懷姙)ニ同ジ。[illegible]

くわいたう (名) [快刀] 能ク切ルル刃物。[illegible]

くわいだう (名) [會堂] 集合ニ用キル、大ナル建物。會館。

ぐわいたう (名) [外套] [illegible]ノ譯語、集韻、套、[illegible]凡物重沓者爲套、[illegible]洋服ノ上衣ノ上ニ、更ニ重ネテ着ル服。雨、雪、寒冒、ナドヲ防グニ用キラル。[illegible]コオト。[illegible]コオト。

ぐわいだう (名) [外道] げだう(外道)ノ(一)ヲ見ヨ。

くわいだく (名) [快諾] 心ヨク、承諾スルコト。「快諾ヲ得タリ」

ぐわいたく (名) [外宅] 別宅ニ同ジ。[illegible]

くわいたふ (名) [回答] コタヘ、ヘンジ。運歩色葉集「回答」

くわいたん (名) [怪誕] アヤシキ、ソラゴト。[illegible]

くわいだん (名) [怪談] バケモノバナシ。

くわいだん (名) [會談] 會合シテ、談話スルコト。[illegible]

くわいだんし (名) [快男子] 愉快ナル氣性ノ男。

ぐわいぢん (名) [外陣] 外陣。ないぢん(内陣)ノ條ヲ見ヨ。

くわいちや (名) [回茶] 十服茶ノ條ヲ見ヨ。

くわいちやう (名) [會長] (一)會ノ長。會頭。(二)會議ノ議長。

くわいぢやう (名) [會場] 集會スル場所。

くわいちう (名) [蛔蟲][蚘蟲] [illegible]古名、カイ。アクタ。小腸ノ中ニ寄生スル蟲、野菜、飲料水、ノ中ニ、此蟲ノ卵アルヲ飲ミタルガ、腸ニ入リテ、發育スルナリ、小兒ニ多シ、時時ニ口ヨリ出ヅ、みみずニ似テ、色、白シ、或ハ、薄赤キモアリ、長サ、數寸ヨリ、尺ニ至ル、種類、多シ。

くわいちゆう (名) [懷中] (一)フトコロノウチ。懷ニ入るるヲ、懷中すると云フ。(二)小硯、筆ノ、懷中シテ攜フベキヲ、懷中硯ト云ヒ、懷中鏡ト云ヒ、袂時計ヲ懷中時計ト云フ、同ジ。又、疊ミテ懷中スベキニ、懷中合羽ト云フアリ。史記、扁鵲傳[illegible]我衣(過知草書、十)懷中合羽「厚紙單ニテ、小紋ヲ染メ、桐油ヲ引ク、細カニタタミテ、懷ニ入ル」(寶保ノ頃ナリ) 一向宗ノ信徒ノ打掛肩衣ヲモ、懷中肩衣ト云フ、皆、同ジ。(三)懷中物ノ略。

くわいちゆうかがみ (名) [懷中鏡] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くわいちゆうかたぎぬ (名) [懷中肩衣] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くわいちゆうかつぱ (名) [懷中合羽] 懷中ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くわいちゆうしるこ (名) [懷中汁粉] [攜

フルニ便ニス」汁粉ヲ作ルベキ小豆餡ヲ、乾シ固メタルモノ、[illegible]汁ト[illegible]テ、又、汁粉トス。

くわいちゆうすずり (名) [懷中硯] くわいちゆう(懷中)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くわいちゆうどけい (名) [懷中時計] 袂時計ニ同ジ。

くわいちゆうべに (名) [懷中紅] 厚紙ニ、紅ヲ濃ク塗リツケテ、二ツ折ニシタルモノ、婦人ノ外出ニ、懷中シテ、時時、口紅ヲヨソホフ。

くわいちゆうもの (名) [懷中物] 懷中ニ入レテアル品。即チ、鼻紙、袋ノ類。

くわいちようしゐ (名) [懷寵尸位] 主君ノ寵愛ニ懷キ、退クベキニ退カズシテ、位ヲヌスムコト。[illegible]

くわいてう (名) [怪鳥] けてう(怪鳥)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

くわいてき (名) [快適] 善ク、心ニ適フコト。[illegible]

ぐわいてつ (名) [外姪] 姉妹ノ、他ニ嫁ギテ生メル子。

くわいてん (名) [回天] [illegible]「天、至高無上、天子ノ象ナリ」(一)君ノ心ヲ、挽回スルコト。[illegible](二)衰勢ヲ、挽回スルコト。陸機、弔魏武帝文「[illegible]之力、而不能[illegible]形骸之内[illegible]」

太平記、廿七、左兵衛督欲ㇾ誅ニ師直ニ事「義旗、義龍ヲ靡カシテ、回天ノ機ヲゾアラハシケル」

くわいてん (名) 【廻轉】 ぐるぐるト、マハルコト。回旋。

ぐわいてん (名) 【外典】 外典。内典ノ條ヲ見ヨ。

ぐわいでん (名) 【外電】 外國ヨリ來レル電報。

くわいてんくわんぼく (名) 【廻轉關木】 〔英語、Turnstile. ノ譯語〕 觀覽場ノ入ロナドニ設ケタル廻木戶。

くわいとう (名) 【會頭】 (一)會ノ長。會長 (二)會讀ノ師。

くわいどう (名) 【怪童】 怪力アル童子。金時ナドニ云フ。

くわいどう (名) 【會同】 (一)くわいがふ(會合)ニ同ジ。論語、先進篇「宗廟之事、如會同端章甫、願爲ニ小相ニ焉」 (二)二水、合シテ、一トナルコト。オチアフコト。合流。書經、禹貢篇「雷夏既澤、灉沮會同」

くわいとく (名) 【會得】 ゑとく(會得)ノ條ヲ見ヨ。十國春秋「宋太宗時、或言、劉昌言ニ閩語、恐發對難ㇾ會、太宗曰、我自會得」

くわいどく (名) 【會讀】 數人集リテ、同ジ書ヲ讀ミ合ヒ、意味ヲ解キ、疑ヒヲ論ズルコト。會業

くわいにん (名) 【懷姙】 ハラムコト。ミモチ。懷胎。姙娠。後漢書、章帝紀「諸懷姙者、賜ニ胎養穀人三斛ニ」 今昔物語、六、第五語「既ニ懷テ後、懷姙スル事ヲ行ツト云ヘドモ、懷姙スル事無シ」

くわいはう (名) 【懷抱】 (一)フトコロニイダクコト。後漢書、陳忠傳「夫父母與ㇾ子、同氣異息、一體而分、三年乃免ニ于懷抱ニ」 十訓抄、下、第十、七十八條「大江公資、大外記ヲ所望シケル時、云云、公資ハ、相撲ヲ懷抱シテ、秀歌案ゼン程ニ、公事ヲ闕如」「母ノ懷抱ニアリ」 (二)心ニ思フコト。王羲之文「或取ニ諸懷抱、晤言一室之内ニ」 太平記、一、資朝俊基被ㇾ捕下ニ向關東ニ事「七月七日、今夜ハ、牽牛、織女ノ二星、烏鵲橋ヲ渡シテ、一年ノ懷抱ヲ解夜ナレバ」「久シク懷抱スル所アリ」

くわいはう (名) 【快方】 ココロヨキカタ。病ノ、癒ユルニ向フコト。快氣。「快方ニ趣ク」

くわいはう (名) 【回報】 ヘンジ。返信。運歩色葉集「回報」

くわいはう (名) 【會報】 會ノ事件ノ、會員ヘノ報告。「同窓會ノ會報」

ぐわいはう (名) 【外邦】 ぐわいこく(外國)ニ同ジ。

ぐわいばう (名) 【外貌】 目ニ見タルカタチ。表面ノ狀。禮記、樂記篇「外貌斯須不ㇾ莊不ㇾ敬、而易慢之心入ㇾ之矣」

ぐわいばう (名) 【外防】 外寇ノ防備。

くわいはく (名) 【灰白】 ネズミイロ。古今注「蠅虎、云云、形似ニ蜘蛛ニ而色灰白」

ぐわいはく (名) 【外泊】 我ガ家ノ外ニ、宿ルコト。「外泊ヲ禁止ス」

くわいひ (名) 【會費】 會ニ要スル費用ノ金。「獨文會ノ會費」

くわいひ (名) 【回避】 (一)畏レテ、避クルコト。漢書、蓋寛饒傳「刺擧無ㇾ所ニ回避ニ」 運歩色葉集「難ニ回避ニ」 (二)判事、又ハ、書記ガ、偏頗ノ嫌疑ヲ招クベキ場合ニ、自ラ、裁判所ニ申シ出デテ、其ノ裁判ニ關與スルヲ避クルコト。

ぐわいひん (名) 【外賓】 外國ヨリ來レル賓客。元稹、河滿子歌「古者諸侯饗ニ外賓ニ、鹿鳴三奏陳ニ圭瓚ニ」

くわいふ (名) 【廻附】 送リ屆クルコト。

ぐわいぶ (名) 【外部】 ソトガハ。外面。(内部ニ對ス) 「外部ヲ裝フ」「物體ノ外部」

ぐわいぶ (名) 【外侮】 外國ヨリ受クルアナドリ。左傳、僖公廿四年「其懷ニ柔天下ニ也、猶懼ㇾ有ニ外侮ニ」

くわいふく (名) 【回復恢復】 〔增韻「恢、大ㇾ之也」〕 (一)モトヘ、モドスコト。モリカヘスコト。モトノ姿ニカヘルコト。陶潜詩「回復遂無ㇾ窮」 五代史、南唐世家「不ㇾ能ㇾ恢ニ復内地ニ」 (二)元氣ニカヘルコト。病ノ、癒ユルコト。平癒。全快。「病氣回復」

くわいぶつ (名) 【怪物】 アヤシキモノ。バケモノ。禮記、祭法篇「山林川谷丘陵、能出ㇾ雲爲ニ風雨ニ見ニ怪物ニ皆曰ㇾ神」

ぐわいぶつ (名) 【外物】 ホカノモノ。外界ノ物事。韓愈、送ニ高閑上人ニ序「雖ニ外物至ニ不ㇾ膠ニ于心ニ」

くわいぶん (名) 【廻文】 メグラシブミ。廻狀。盛衰記、廿、佐殿大場勢汰事「先ヅ廻文ノ御敎書ヲ以テ、御家人ヲ召サルベシ」 太平記、十九、與ニ山城守ニ事「國家卿、時ヲ得タリト悅ビテ、廻文ヲ以テ、便宜ノ輩ヲ催サル」 甘露寺權大納言元長卿記、永正五年正月十五日「和歌御會、廻文、云云、過限、可ㇾ待ニ午一點ニ也」

くわいぶん (名) 【廻文】 和歌ノ一體ニ、倒ニ讀ミメグラシテモ、意義ヲ成スヤウニ詠メルモノ。同一ノ歌トナルアリ、別意ノ歌トナルアリ。奥儀抄(藤原清輔)「廻文歌、サカサマニ讀ムモ、同ジ歌ナリ、詠ニ草花ニ「むらくさに、くさのなはもし、そなはらば、なぞしもはなの、さくにさくらむ」(叢草ニ、草ノ名ハ若シ、備ハラバ、ナゾシモ花ノ、咲クニ咲クラム) 古來、此體ノ歌、往往見ユレド、多クハ、晦澁ニシテ、流暢ナラズ。(永キ世ノ、遠ノ眠ノ、ミナメザメ、浪乘船ノ、音ノヨキカナ) 卜養狂歌集(寬文)上、春、雉ヲ料理シケル、云云「雉の眉は、鷹の盒」ト云ヘバ、くわいぶんニナル、云云、廻文ノ歌、詠メト責メラレテ「雉れうる、今や昔のみ、その友と、望みの御酒や、まいる嬉しき」 仙臺花屋編成ノ、狂歌ニ巧ミナルモノアリ「惑うたらば、可愛らしあの、顏で居て、外のあしらい、赤腹な嘘」詳針ノ辭宮「腹減らば、燒鯛や欲し、此木の子、煮染と飯に、柴の枝の箸」(毎句廻文)「今朝飲むか、盛りありさの、燗の酒」入ヨリ「生娘か、金が欲しいか、酒飲むか」ト出サレテ「願はくは金、願はくは金」(編成ハ、通稱、編屋勘左衞門、仙臺、荒町ノ麴問屋、明治二年歿、年、七十四) 明治十六七年、假名の會ノ盛ンナリシ頃「假名の世の中、假名の世の中」

ぐわいぶん (名) 【外聞】 (一)ヨソノキコエ。ヒトギキ。世間ニ、評判セラルルコト。聲聞 宋史、選擧志「惟恐ㇾ玷ニ缺外聞ニ」 吾妻鏡、二、壽永元年六月一日「妾女、云云、御中通之餘、依ㇾ有ニ外聞之憚ニ云云」「外聞ガワルイ」 (二)住キ外聞。(天氣ヲ、晴天ノ意ニ用ヰルガ如シ) 面目 體面 狂言記、萩大名「一首詠マセラレテ下ダサレウナラバ、私ノ外聞ニモナル事デゴザル」

ぐわいぶんざらし (名) 【外聞晒】 〔人聞キニ曝露サルル意〕 恥ノ、世ノ中ニヒロマルコト。ゴフザラシ。

くわいべん (名) 【快辯】 辯舌ノ、サハヤカ

ナルコト。能辯。「快辯ヲフルフ」

ぐわいべん（名）［外辯］内辯ノ條ヲ見ヨ。

くわいまい（名）［[illegible]］[illegible]方ヨリ送リ來レル米。[illegible]

くわいみ（名）［快味］快キ感ジ、オモシロミ。「頗ル快味ヲ覺ユ」

ぐわいみやうぶ（名）［外命婦］外命婦。みやうぶ（命婦）ノ條ヲ見ヨ。

くわいむ（名）［會務］會ノ事務。

くわいいん（名）［火印］やきいん（燒印）ニ同ジ。[illegible]

くわいいん（名）［[illegible]］酒ノ、ノミスギ。

ぐわいむきやう（名）［外務卿］次次條ノ、外務大臣ノ舊稱（明治十八年、改稱）

ぐわいむしやう（名）［外務省］外國交際トノ事、其外國ト關係アル一切ノ事ヲ[illegible]省

ぐわいむだいじん（名）［外務大臣］國務大臣ノ一、外務省ノ長官。外相。

くわいめい（名）［[illegible]］古ヘ、支那ニテ、諸侯、相會シテ、盟ヒヲ結ビシコト。牛ノ血ヲ啜ル[illegible]

くわいめい（名）［晦冥］クラヤミトナルコト。[illegible]

ぐわいめん（名）［外面］ソトガハ。ウハベ。表面。（內面ニ對ス）[illegible]

くわいもん（名）［槐門］三槐ノ條ヲ見ヨ。

くわいゆ（名）［回癒］くわいしゅん（回春）ニ同ジ。

ぐわいよう（名）［外用］身體ノ外面ニ用ヰルコト。膏藥、塗藥ナドニ云フ。（內服ニ對ス）

くわいらい（名）［傀儡］クグツ。デクルバウ。絡繰人形。列子、湯問篇「周穆王時、巧人[illegible]此偃師之所也」

ぐわいらい（名）［外來］（一）外ヨリ、入リ來ルコト。史記、孟嘗君傳「今旦代（蘇代）從レ外來」「外來[illegible]」（二）外國ヨリ、來ルコト。

ぐわいらいご（名）［外來語］外國ノ語ノ、入リテ、[illegible]、國語ニ化シテ、人人ノ、普通語トシテ用ヰラルルモノ。だ[illegible]、てんぷら（天麩羅）、[illegible]ん（石鹼）ノ類。

くわいらいし（名）［傀儡子］クグツマハシ。[illegible]

くわいらう（名）［廻廊］［回廊］長ク、折レ廻レル廊下。[illegible]

くわいらく（名）［快樂］ココチヨク、タノシムコト。快樂。[illegible]

くわいらん（名）［乖亂］ソムキ、ミダルルコト。[illegible]

くわいらん（名）［壞亂］ヤブレ、ミダルルコト。[illegible]五濁惡世、魔作二沙門一壞二亂吾道一」

くわいらん（名）［廻鑾］［[illegible]］鑾輿ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

くわいらん（名）［廻覽］順ニ、傳ヘ廻シテ見ルコト。

くわいりう（名）［會流］二川、流レ合フ所。オチアヒ。合流。

くわいりふでん（名）［廻立殿］［悠紀ノ[illegible]］[illegible]改メタマフニ因リテ、廻立ト申ス」大嘗祭ニ設ケラルル御殿ノ名、同祭、悠紀、主基ノ御神事ニ、御[illegible]、主上ノ御[illegible]浴、御祭服着御アル所ナリ。[illegible]

くわいりよく（名）［怪力］（一）非常ナル力量。太平記、五、大塔宮熊野落事、村上義光「大ノ男ヲ[illegible]デ、四五丈バカリゾ抛タリケル、其怪力、比類ナキニヤ怖レタリケン」（二）怪異ト、勇力ト。[illegible]

くわいれい（名）［乖[illegible]］「玉篇「乖、[illegible]也」」モトルコト。ソムクコト。乖忤。易林「異レ意乖戾、動擧失レ便」

くわいれい（名）［回禮］[illegible]ヲ[illegible]テ、禮ヲ述ブルコト。（年始ノ賀ナドニ）

くわいれき（名）［回曆］曆ノ上ニテ、一年、回リタルコト。年立チカヘリタルコト。

くわいろ（名）［懷爐］懷中シテ、胸、腹ナド、暖ムルニ用ヰル具、金屬製ノ小匣ニ、懷爐灰ヲ貯ヘ、火ヲ點ジテ、密閉シテ、火、永ク滅セズ。灰ハ、茄子ノ蔕ノ黑燒ナリ。西鶴諸國噺（元祿）一「[illegible]エスル人ヲ語ヒ、始メテ、[illegible]トイフ物ヲ仕出シ」

くわいろく（名）［回祿］［支那ニテ、火ノ神ノ名、左傳、昭公十八年「子產云云、禳二火于玄冥、回祿一」註「玄冥、水神也、回祿、火神也」］火災ノ異稱。[illegible]火災、[illegible]之災」[illegible]火ノタメニ、回祿セシメ畢ハンヌ」

くわいろばひ（名）［懷爐灰］懷爐ニ入ルル灰。茄子ノ莖、蔕、ナドヲ、黑燒ニシタルモノ。

くわいわ（名）［會話］（一）相對シテ、談話スルコト。（二）特ニ、外國人ニ對シテ、其國語ヲ用ヰテスル談話。

くわいゐ（名）［魁偉］［博雅「魁、大也」說文「偉、奇也」］魁梧、奇偉、ノ略。（各條ヲ見ヨ）體格ノ、長大ナルコト。オホガラ。大兵。後漢書、郭[illegible]傳「身長八尺、容貌魁偉」

ぐわいゐ（名）［外位］外位。ふいゐ（內位）ノ條ヲ見ヨ。

ぐゎいゐ (名) 【外圍】 ソトガコヒ。ソトマハリ。「競技場ノ外圍」「大木ノ外圍」

くゎいゐん (名) 【會員】 會ニ加入シテ居ル人。「赤十字社會員」「同盟會員」

くゎう (名) 【皇】 〔皇帝ノ語原ヲ見ヨ〕 スメラ。スベテ、帝王ノ事物ニ冠ラセテ、尊稱トスル語。「皇位」「皇祖」「皇居」

くゎうあう (名) 【黃鶯】 朝鮮うぐひすノコトナレド、我ガ國ニテ、うぐひすノコトトス。黃鳥。黃鸝モ、然リ。詩經、周南、葛覃篇「黃鳥于飛、集于灌木、其鳴喈喈」疏、「今俗謂之黃鸎、黃鸝二」唐詩選「打起黃鶯兒、莫敎枝上啼、啼時驚妾夢、不得到遼西」杜甫詩「兩箇黃鸝鳴翠柳」

くゎうい (名) 【黃衣】 わうえ(黃衣)ヲ見ヨ。

くゎうい (名) 【荒夷】 (一)荒服ノ地ノ夷。遠キ夷。韓愈詩「不以珍怪誇荒夷」崇神紀、十年十月「海外荒俗」(二)荒ブル夷。アラエビス。

くゎういう (名) 【皇猷】 〔爾雅、釋詁篇「猷、謀也」疏「猷者、以道而謀也」〕 帝王ノ、治國ノ道。皇謨。皇圖。忠經「皇猷丕丕、行於四方」北史、牛弘傳「皇猷遐闡、化覃海外」

くゎういん (名) 【光陰】 〔日の陰ノ義ト云フ〕 ヒマ。トキ。月日。歲月。顏氏家訓「光陰可惜、譬諸逝水」朱熹詩「少年易老學難成、一寸光陰不可輕」太平記、廿三、依直義病惱光嚴上皇御願書事「點七日之光陰、課弱天之碩才」「命ハ、義ニ依リテ輕シ、光陰ハ可惜、此ノ後ハ、百歳ノ齡、何ゾ惜シムニ足ランヤ」古今集、二、春、下、「梓弓、春立チショリ、年月ノ、射ルガ如クモ、オモホユルカナ」光陰、矢ノ如シ。

くゎういん (名) 【皇胤】 天子ノ御血統。皇裔。謝莊文「皇胤肇式、帝女金相」大鏡、上、基經「近キ皇胤ヲ尋ネバ、融ラモ侍ルハ」

くゎううん (名) 【皇運】 皇室ノ御運命。「皇運隆盛」

くゎうえい (名) 【皇裔】 天子ノ御子孫。皇胤。釋紀、一「弘仁私記序曰、云云、日本書紀三十卷、幷帝王系圖一卷、云云、神胤皇裔、指掌灼然」

くゎうえい (名) 【光榮】 光映アル榮譽。李白詩「名在列女籍、竹帛以光榮」太平記、廿七、雲景未來記事「宿因ノアル程ハ、子孫、無窮ニ光榮セリ」

くゎうえき (名) 【廣益】 廣ク、一般ヲ益スルコト。公衆ノ利益。諸葛亮、出師表「裨補闕漏、有所廣益」

くゎうえつふう (名) 【光悅風】 次次條ヲ見ヨ。

くゎうえつぼん (名) 【光悅本】 次條ヲ見ヨ。

くゎうえつりう (名) 【光悅流】 和樣書風ノ一、京都ノ刀劍鑒定家、本阿彌光悅ヲ祖トス。(寬永十四年歿、八十一歲)御家流、青蓮院尊純法親王ノ門下ニ習ヒ、小野道風ノ上代流ヲ加フ。(三筆ノ條ヲ見ヨ)其書ノ刻本ヲ光悅本、又、嵯峨本ト云フ。光悅、又、土佐風ノ繪ヲ善クシ、光悅風ト云フ。和漢三才圖會、十五「本朝能書、云云、光悅流、本阿彌光悅」

くゎうえふ (名) 【黃葉】 秋、草木ノ葉ノ、黃色ニナリタルモノ。モミヂバ。歐陽修詩「綠苔人迹少、黃葉雨聲多」榮花物語、十七、音樂「虎珀ノ葉ハ、仲秋ノ黃葉ノ如シ」萬葉集、八、二十「秋ノ黃葉、散ラマク惜シモ」

くゎうえん (名) 【光焰】 〔光ト、焰ト〕 文章ノ氣力ノ、盛大ナルニ云フ語。韓愈、調張籍「李杜文章在、光焰萬丈長」

くゎうおん (名) 【皇恩】 天子ノ御恩。岑文本詩「皇恩被九區」「皇恩、四海ニ加ハル」

くゎうが (名) 【光駕】 光來、光臨、ニ同ジ。

くゎうかう (名) 【皇考】 〔かうひ(考妣)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)天子ノ御父。崩御シタマヒシヲ申ス。御母ニハ、皇妣ト云フ。(二)支那ニテハ、平人ノ亡父、亡母、ノ尊稱。(皇ハ、大ノ義) 詩經、周頌、雝篇「假哉皇考、綏予孝子」禮記、曲禮、下篇「祭王父(祖父ナリ)曰皇祖考、王母曰皇祖妣、父曰皇考、母曰皇妣」

くゎうがく (名) 【皇學】 國學(熟語、第二)ニ同ジ。

くゎうがく (名) 【光學】 〔英語、Optics.ノ譯語〕 光ノ現象ヲ研究スル學。

くゎうかつ (名) 【黃褐】 色ノ、黃ニシテ、代赭色ヲ帶ビタルモノ。桂海虞衡志「南中無白羊、多黃褐白斑如黃牛」

くゎうかん (名) 【黃閒】 〔出典ノ潘岳ノ射雉賦ノ黃閒ノ右傍ニ、弓名ト記シテ、左訓ニ「ヲホユミ」トアリ〕 弓ノ異名。潘岳、射雉賦「捧黃閒以密彀」吾妻鏡、九、文治五年九月四日「軍士廿八萬四千騎也、而面打立白旗、各傍黃閒」

くゎうかんきう (名) 【廣寒宮】 ツキノミヤコ。月宮殿。開元天寶遺事「唐明皇(玄宗)遊月宮、見天府、榜曰廣寒宮淸虛府」胡宿詩「卻疑身在廣寒宮」

くゎうき (名) 【皇基】 皇謨ノ基礎。

くゎうき (名) 【光輝】 (一)ヒカリ。カガヤキ。史記、封禪書「光輝若流星」(二)ホマレ。光榮。「事業ノ光輝」

くゎうき (名) 【軌】 てつだう(鐵道)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうぎ (名) 【廣義】 物事ノ義理ヲ廣クシテ、考フルコト。狹クスルヲ、狹義ト云フ。

くゎうぎ (名) 【光儀】 光來、光臨、ニ同ジ。范雲詩「誰云相去遠、脈脈阻光儀」吾妻鏡、一、治承四年十月一日「於石橋合戰之時分散之輩、今日多以參向于武衞駿河御旅館、又、醍醐禪師全成、同有光儀、云云、以修行之體、下向之由、被申之」

くゎうきう (名) 【曠久】 〔曠日彌久ノ略〕 くゎうじつ(曠日)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうぎう (名) 【黃牛】 アメウシ。易經、下經、革卦「鞏用黃牛之革」

くゎうきう (名) 【皇宮】 次條ニ同ジ。

くゎうきょ (名) 【皇居】 オホウチ。ココノヘ。モモシキ。帝王ノ御住居。御所。內裏。禁裏。禁中。禁廷。禁闕。皇宮。宮城。何晏、景福殿賦「備皇居之制度」孔融、薦禰衡文「帝室皇居、必蓄非常之寶」盛衰記、十六、遷都事「池大納言賴盛ノ家ヲ、皇居ト定テ、主上、渡ラセ給フ」

くゎうきょう (名) 【惶恐】 オソレ、カシコマルコト。漢書、朱博傳「博問其故、對言惶恐」

くゎうきょく (名) 【皇極】 天皇ノ御位。書經、洪範篇「五、皇極、皇建其有極」

くゎうぎょく (名) 【黃玉】 寶石ノ名、色、

黃ニシテ、極メテ堅ク、美シキ光澤アリ、透明ナルアリ、不透明ナルアリ。禮記、月令篇「中央土、天子、云云、衣黃衣、服黃玉」

くわう-く（名）【鑛區】鑛物ノ採掘ヲナス土地ノ區域。

くわう-ぐう（名）【皇后】くゎうごう（皇后）ニ同ジ。

くわう-ぐん（名）【皇軍】スメラミイクサ。皇命出征ノ軍隊。（賊軍ナドニ對ス）

くわう-くわ（名）【皇化】皇政ノ德化。聖化。王化。李白詩、七葉運皇化、千齡光本支」 盛衰記、二十六、淸盛息女事「皇化ニ隨ハズ、朝憲ヲ輕ズル者ヲバ、互ニ誡ヲ加ヘシカバ、世ノ亂ハ無カリキ」

くわう-くわ（名）【皇華】（一）天皇、又ハ、皇室ノ敬稱。榮花物語、十五、疑「爰承累葉之遐、浴皇華之恩年三十」（二）敕使。文華秀麗集「皇華辭宅還有期、行盡雲山臨月時」

くわう-くわ（名）【光華】ウルハシキヒカリ。ハエアルヒカリ。光彩。帝舜歌「日月光華、旦復旦兮」 神代紀、上「八諸、册二尊、生日神」「此子、光華明彩、照徹於六合之內」次生月神其光彩亞日」

くわう-くわ（名）【黃花】（一）菊ノ花。禮記、月令篇「季秋之月、鞠有黃花」許渾詩「秋獨黃華酸酒濃」朗詠集、上「黃花助彭祖之術」（二）菜ノ花。司空表聖詩「綠樹連村暗、黃花入麥稀」

くわう-くわ（名）【黃禍】（英語、Yellow peril ノ譯語）黃色人種ガ勃興シテ、白色人種ニ禍スト云フコト。日本、支那、聯合シテ、歐洲ヲ侵サムト云フナリ。此說ハ、明治十五六年頃、露國人、ばくうにいんガ說キ出シ、北淸事變後、獨逸皇帝、再ビ唱ヘタリ。黃人禍。

くわう-くわう（副）【廣廣】ヒロビロト。盛衰記、史記、日者傳「天地曠曠」（曠ハ、廣ニ通ズ）盛衰記、三十五、範賴義經京入事「宇治ノ在家ヲ燒拂、云云、廣廣ト燒拂タリケレバ、云云」「廣廣トシタル田野」

くわう-くわう（副）【煌煌】ピカピカト。キラキラト。詩經、陳風、東門之楊篇「明星煌煌」郭璞、鹽池賦「光旰旰以晃晃」（晃ハ、煌ニ通ズ）盛衰記、十六、司天臺事「五星煌煌トシテ、赤キ事、火ノ如ク」「煌煌ト光リ燿ク」

くわう-くわう（副）【轟轟】トドロキワタル音響ニ云フ語。ゴロゴロ。ドロドロ。ガラガラ。又、轟然。韓愈詩「堅流激轟射」水府八一海百里鼓雲濤」「轟轟タル汽車ノ響」轟然トシテ爆發ス」

くわう-くわつ（名）【廣闊】ヒロビロト、見渡サルルコト。「廣闊ナル景色」

くわう-けい（名）【皇系】皇統ニ同ジ。

くわう-けい（名）【皇繼】くゎうし（皇嗣）ニ同ジ。

くわう-けい（名）【光景】目ニ映ルケシキ。アリサマ。

くわう-けつ（名）【壙穴】ツカアナ。墓穴。

くわう-げふ（名）【鑛業】鑛物ノ採掘、及、ソレニ屬スル、一切ノ事業。

くわう-げん（名）【荒言】ワルクチ。惡口。雜言。惡語。倭訓栞、くゎうげん「荒言ト書ケリ、口ニ任セテ云フ言也」古老雜話、小田原陣ニテ秀吉ノ言「花房（助兵衞）ガ惡言、不屆トハ云ヒナカラ、大名、旗本、數千人、我レヲ恐レ、詞ヲ出ス者ナキニ、本陣ニ唾ヲ吐キカケ、大將ハ、酒狂カ、亂心カ、トノ荒言ハ、類ヒモナキ器量者ナリ、云云」（良將達德抄、八）

くわう-げん（名）【廣言】口ハバヒロク、物言フコト。大言。[illegible]人ニ云レント存ズルナリ」

くわう-けん-えう-ふ（名）【黃絹幼婦】（離合ノ隱字ナリ、黃絹ハ、色絲ナレバ、絕ト。シ、幼婦ハ、少女ナレバ、妙トス（世說、捷悟篇）梵妻ヲ、妙（少女）トモ、是レナリ」）詩ヲ、絕妙ナリト贊ムル語。[illegible]

くわう-こう（名）【黃口】雀ノ雛ノ、嘴ノ黃ナルコト。（黃雀ノ語アリ）黃吻。借リテ、幼稚ナル小兒ノ事ヲ云ヒ、若輩ナル者ヲモ云フ。（くちわきノ條ヲ見ヨ）孔子家語、本篇「見羅雀者所得皆黃口小雀」古樂府「上殿蒼浪之天、下愧黃口小兒」北史、崔暹傳「崔暹騃、文宣帝、罵黃口小兒」

くわう-こう（名）【黃耉】七八十歲程ノ老人。詩經、小雅、白華之什、南山有臺篇「南山有枸、北山有楰、樂只君子、遐不黃耉」

くわう-ごう（名）【皇后】［后ノ語原ヲ見ヨ］オホキサキ。キサキ。クヮウグウ。帝王ノ御嫡妻。秋ノ宮。（きさきノ條ヲ見ヨ）皇后ニテ、次ノ帝王ノ母トナリタマヒテ、尊稱ヲ奉レバ、太后、又、皇太后ト申ス。後ニ、其祖母トナリタマヘバ、太皇太后ト申ス。漢書、高帝紀「尊王后曰皇后」公式令「皇后、皇太后、太皇太后」義解「皇后、謂天子之嫡妻也、[illegible]」[illegible]色葉集「皇后、クヮウゴウ」

くわう-ごう-ぐう（名）【[illegible]】（一）[illegible]ノミヤ。皇后ノ御住居。長秋宮。枕草子、八、七十七段、見るにおさなる事なき物「皇后宮[illegible]」（二）皇后ノ御異稱。[illegible]レ共マコトハ、皇后宮（近衞后、藤原多子）ノ侍長、[illegible]

くわう-ごう-ぐう-しき（名）【[illegible]職】中宮職ノ條ヲ見ヨ。

くわう-ごう-ぐう-しよく（名）【[illegible]】令、皇后宮ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル職。

くわう-こう-じ（名）【黃口兒】くゎうふん（黃吻）ノ條ヲ見ヨ。

くわう-こく（名）【皇國】スメラミクニ。大日本國ノ尊稱。「皇國ノ臣民」

くわう-こく（名）【廣告】廣ク、世上ニ告ゲ知ラスルコト。新聞紙上ノひろめ、又ハ、引札ノ類。公告ト對照セヨ。

くわう-こつ（名）【恍惚】［老子、第廿一章「道之爲物、惟恍惟惚」］見惚レテ、精神ヲ失ヘムトスル狀ナルコト。ウットリトスルコト。禮記、祭義篇「致其志意、以其恍惚、以與神明交」（恍ハ、怳ニ通ズ）

くわう-ごふ（名）【曠劫】佛經ノ語。長キ年月。永劫。（劫ノ條ヲ見ヨ）[illegible]

くゎうこん（コウ・コン）（名）［黄昏］（一）タソガレ。ユフグレ。ヒグレ。岑參詩「尙書蹟ニ黄昏鐘、別駕渡ニ頭一歸鳥」（二）戌ノ時ノ異名。淮南子、天文訓「日至ニ于虞淵一、是謂ニ黄昏一、至ニ于蒙谷一、是謂ニ定昏一」

くゎうざ（コウザ）（名）［廣坐］廣キ席ニ、多人數ノ列坐スルコト。戰國策、趙策「衆人廣坐之中」

くゎうさい（コウ・サイ）（名）［光彩］くゎうくゎ（光華）ノ條ヲ見ヨ。魏文帝詩「上天垂ニ光彩一、五色一何鮮」北齊書、魏收傳「朝有ニ魏收一、便是國之光彩」

くゎうさう（コウ・ソウ）（名）［宏壯］宏大ニシテ、サカンナルコト。水經、注「彭城築レ城、悉以ニ磚壘一、宏壯堅峻」

くゎうざん（コウザン）（名）［鑛山］鑛物アル山。鑛物ヲ掘リ採ル山。又、其場所。

くゎうざんがく（コウザン・ガク）（名）［鑛山學］鑛山ノ鑛物ヲ探リ、又ハ、掘リ採ルコトノ學問。

くゎうし（コウ・シ）（名）［皇子］わうじノ條ヲ見ヨ。名物六帖「皇子、汎稱ニ天子之子一、古者稱ニ王子一、如ニ王子比干、王子晉一是也」

くゎうし（コウ・シ）（名）［皇嗣］マウケノキミ。天子ノ御世繼。皇繼。皇儲。漢書、明德馬后紀「后常以ニ皇嗣未一レ廣、毎懷ニ憂歎一」

くゎうし（コウ・シ）（名）［壙誌］墓誌ニ同ジ。壙穴ニ埋ムルニ就キテ云フ。

くゎうしき（コウ・シキ）（名）［黄鐘］わうしきニ同ジ、十二律ノ條ヲ見ヨ。

くゎうしつ（コウ・シツ）（名）［皇室］天子ノ御家。帝王ノ御家筋。帝室。郭璞詩「擢ニ穎蓋ニ漢陽一、鴻翼贊ニ皇室一」

くゎうじつ（コウ・ジツ）（名）［曠日］日ヲ曠クスルコト。爲スコトナクシテ、日ヲ過スコト。漢書、賈山傳「曠ニ日十年一」註「曠、空也、廢也」曠日彌久ト云フハ、數日、空シク長引ク意。史記、刺客傳「太傅之計、曠日彌久」韓非子、說難篇「曠日彌久、而周澤既渥」

くゎうしん（コウシン）（名）［皇親］天子ノ御親族。皇族。金枝玉葉。繼嗣令「自ニ親王一五世、雖レ得ニ王名一、不レ在ニ皇親之限一」

くゎうじん（コウ・ジン）（名）［荒神］（竈神ノ音便ニテ、かうじんナルベシ（宣はく、のたうまく。寒狀、さむさう）荒神ト書クハ、次條ノ、三寶荒神ヲ混ジタルナリ、文德實錄、九、天安元年四月「內膳司、忌火庭火皇神、授ニ從五位下一」トアルハ、竈ノ神ナリ、夏山雜談（三十輯、四）ニ、民家ノ竈ノ神ヲ、荒神ト云フハ、此皇神ナルニヤト、云ヘレド、典據、甚ダ遠クシテ、鑿ナリ、竈神ヲ、荒神ト云フハ、遙カニ後世ノ語ナリ、但シ、竈神ヲ祭ルコトハ、陰陽師ノシタルコトニテ、古シ）民間ニテ、竈神ノ稱。常ニ、三寶荒神ト混ゼラル、臺所ノ竈ノ上ニ、棚ヲ設ケテ祀ル、荒神棚ト云フ。荒神松ト云フハ、松ノ小枝ニ、胡粉ヲ塗シタルモノ、晦日毎ニ、取替ヘテ供スルモノ。荒神祓ト云フハ、晦日毎ニ、神前ニテ行フ祓ナリ、竈祓ノ條ヲ見ヨ。荒神帚ト云フハ、竈ヲ掃フ小帚ナリ。（其條ヲ見ヨ）合類節用集（元祿）三、神祇門「三寶荒神、俗云、竈神、事見ニ舊事紀一」玉手綴（文政、平田篤胤）八「木國ノ玉置山ト云フ山ニ、荒神祭神社ト申スアリテ、コハ、火神ヲ祭レル社ナリト、天野信景ガ鹽尻ニ見エタリ、然レバ、俗ニ、竈所ノ神ヲ、三寶荒神ト稱シ、云云、障礙神ノ一名ヲ、荒神ト稱シ、云云、文字ノ同ジキママニ、附會シ、混一セルモノナリ」千紅萬紫（蜀山人）「淺草ノ、市ノ鷄、注連繩ヲ、荒神棚ニ、かけろトヤ鳴ク」（荒神棚ニハ、鷄ノ繪馬ヲカク）俚言集覽、三寶荒神松「江戸ニテ、毎月晦日ニ、荒神棚ニ奉ル、是ハ、常陸ノ鹿島ヨリ出ス」

くゎうじん（コウ・ジン）（名）［荒神］さんぽうくゎうじん（三寶荒神）ノ條ヲ見ヨ。

くゎうじんぐ（コウ・ジン・グ）（名）［荒神供］三寶荒神ノ條ヲ見ヨ。

くゎうじんくゎ（コウ・ジン・カ）（名）［黄人禍］黄禍ノ條ヲ見ヨ。

くゎうじんしゅ（コウ・ジン・シュ）（名）［黄人種］黄色人種ニ同ジ。

くゎうじんだな（コウ・ジン・ダナ）（名）［荒神棚］荒神ノ條ヲ見ヨ。

くゎうじんばうき（コウジン・ボウキ）（名）［荒神帚］（荒神ハ、竈神ナリ）もろおしばうきノ、小サキモノ。他ノ不淨ノ帚ト別チテ、特ニ、竈ヲ掃フニ用キル。煙帚

くゎうじんばらひ（コウジン・バライ）（名）［荒神祓］（荒神ハ、竈神ナリ）かまばらひ（竈祓）ニ同ジ。

くゎうじんまつ（コウジン・マツ）（名）［荒神松］荒神ノ條ヲ見ヨ。

くゎうしゃう（コウ・ショウ）（名）［翺翔］（一）鳥ノ、空ヲ翔ルコト。古詩、傷歌行「春鳥翻南飛、翩翩獨翺翔」（二）人中ニ、立チマジルコト。詩經、鄭風、淸人篇「河上乎翺翔」「士大夫ノ間ニ翺翔ス」

くゎうじゃう（コウ・ジョウ）（名）［皇上］きんじゃう（今上）ト申スニ同ジ。

くゎうじゃう（コウ・ジョウ）（名）［皇城］大內裏。宮城。唐書、地理志「上都皇城、長、千九百一十五步、廣、千二百步」

くゎうじゃく（コウ・ジャク）（名）［黄雀］（黄口ノ條ヲ見ヨ）すずめノ（一）ノ異名。漢書、五行志、歌謠「桂樹華不レ實、黄雀巢ニ其顚一」述異記「淮水中、黄雀至レ秋、化爲レ蛤、春復爲ニ黄雀一」

くゎうしゅく（コウ・シュク）（名）［皇叔］天子ノ伯叔父。澠水燕談「皇叔燕王元儼薨」

くゎうじゅく（コウ・ジュク）（名）［黄熟］草木ノ實ナドノ、熟シテ、黄バムコト。アカラムコト。韓維詩「麥苗黄熟稻苗靑」

くゎうじゅくかう（コウジュク・コウ）（名）［黄熟香］熱帶地ヨリ舶來セル、香木ノ材、奇南ノ類ニテ、輕虛ナルモノト云フ、奈良ノ東大寺正倉院御藏ノ蘭奢待、此ノ種ナリトゾ。

くゎうじゅはうしゃう（コウ・ジュ・ホウショウ）（名）［黄綬褒章］海防費ニ私財ヲ獻ジタル人ニ、賜ハル褒章。

くゎうしょう（コウ・ショウ）（名）［黄鐘］（一）陰曆十二月ノ異稱。（二）黄鐘。じふにりつ（十二律）ノ條ヲ見ヨ。

くゎうしょく（コウ・ショク）（名）［曠職］（曠日ノ條ヲ見ヨ）職務ヲ、曠シクスルコト。勤メヲ、怠ルコト。北史、薛端傳「設レ官分レ職、本康ニ時務一、苟非ニ其人一、不レ如ニ曠職一」

くゎうしょくき（コウ・ショクキ）（名）［黄蜀葵］（蜀葵ノ條ヲ見ヨ）トロロアフヒ。

くゎうしょくじんしゅ（コウ・ショク・ジンシュ）（名）［黄色人種］膚ノ色ノ、黄褐ナル人種。亞細亞洲東部ノ人、是レナリ。黄人種。（白色人種、黑色人種、ナドニ對ス）

くゎうせい（コウ・セイ）（名）［皇政］天皇ノ政治。

くゎうせい（コウ・セイ）（名）［曠世］（曠ハ、空ナリ（曠

日ノ條ヲ見ヨ）一世ヲ空シウシテ、他ニ[illegible]ナキ意）又ト、世ニナキコト。[illegible] ニ比類ナキコト。稀世。[illegible]

くゎうせき（名）［鑛石］ 金屬ヲ含ミテアル石。

くゎうせん（名）［黄泉］〔天玄、地黄、泉ハ、地中ニアリ〕（一）地下ノ水。孟子、滕文公、下篇「[illegible]下飲黄泉」（二）轉ジテ、黄泉ノ下。即チ、地下。死者ノ行ク處。泉下。黄ナルイヅミ。ヨミ。ヨミヂ。[illegible]

くゎうせん（名）［鑛泉］ 鑛物ノ性質ヲ、多量ニ含メル泉。

くゎうせん（名）［光線］ 光ノ照射スル直線。「直射スル光線」

くゎうぜん（副）［恍然］ 心地ノ、ウットリトナル状ニ云フ語。[illegible]

くゎうぜん（副）［滉然］ 滉滉ニ同ジ。

くゎうそ（名）［皇祖］〔祖ハ、始ナリ、宗ハ、本ナリ、祖宗トハ、支那ニテ、先祖ノ宗廟ヲ稱スル語ニテ、創業有功ノ君ヲ祖トシ、守成有徳ノ君ヲ宗トシ、合ハセテ、祖先ノ尊稱トスルナリ〕御祖。天皇ノ御先祖。凡ソハ、高皇産靈神、神皇産靈神ヨリ、天照大神マデヲ申シ奉リ、天照

大神ヲ、又、天祖トモ申シ奉リ、人皇ニ對シテハ、鸕鷀草葺不合尊マデヲモ、天祖ト申シ、神武天皇モ、人皇ノ祖ニマシマセバ、皇祖ノ御列ナリ。綏靖天皇以下、歴代ヲ、皇宗ト申シ奉ル。書經、五子之歌「皇祖有訓、民可近不可下」

くゎうそ（名）［皇祚］〔踐祚ノ條ヲ見ヨ〕（皇位）ニ同ジ。北史、外戚傳、序「[illegible]践皇祚」

くゎうそう（名）［皇宗］ 前前條ヲ見ヨ。

くゎうぞく（名）［皇族］（一）天皇ノ御親族。皇族身位令、第一章、第一條「皇族ノ班位ハ、左ノ順序ニ依ル、第一、皇后、第二、太皇太后、第三、皇太后、第四、皇太子」（二）汎ク、帝室ノ御一族。金枝玉葉。沈約文「[illegible]」

くゎうそん（名）［皇孫］（一）神代紀ニ、皇孫トアルハ、天照大神ノ御孫ナル、瓊瓊杵尊ヲ申シ奉ル。天孫。（二）汎ク、帝王ノ御孫。漢書、成帝紀「爲世嫡皇孫」

くゎうたい（名）［荒怠］ スサビ、オコタルコト。書經、[illegible]

くゎうだい（名）［廣大］［宏大］〔狹小ニ對ス〕 ヒロク、オホイナルコト。中庸「致廣大而盡精微」史記、孔子世家「博辯廣大」平家物語、十一、腰越状「貴殿、くゎうだいノ慈悲ヲ仰ギ」「廣大無邊」

くゎうたいこう（名）［皇太后］ くゎうごう（皇后）ノ條ヲ見ヨ。

くゎうたいこうぐう（名）［皇太后宮］（一）皇太后ノ御住居。（二）皇太后ノ御異稱。三代實録、四十九、仁和二年二月廿一日「皇太后宮（藤原高子）[illegible]」

兵範記、仁安三年三月廿日「[illegible]皇太后宮[illegible]」

くゎうたいこうぐうしき（名）［皇太后宮職］ 中宮職ノ條ヲ見ヨ。

くゎうたいし（名）［皇太子］ ヒツギノミコ。ヒツギノミヤ。ミコノミヤ。マウケノキミ。ハルノミヤ。豫テ、天日繼知ラシメスベク、定メラレタマヘル皇子。儲貳。儲君。東宮。今ハ、皇長子ハ、御誕生、即チ、皇太子ニマシマセド、尚、別ニ、冊立ノ式ヲ行ハセラル。[illegible]

くゎうたいしひ（名）［皇太子妃］ 皇太子ノ御嫡妻。

くゎうだいじん（名）［皇大神］ スメラオホミカミ。多クハ、伊勢ノ大神宮ヲ申ス。[illegible]

くゎうだいじんぐう（名）［皇大神宮］ 大神宮ノ條ヲ見ヨ。

くゎうたいそん（名）［皇太孫］ 皇孫ノ、日繼ノ皇子タル方ヲ申シ奉ル稱。

くゎうたいてい（名）［皇太弟］ 皇弟ノ、日繼ノ皇子タル方ヲ申シ奉ル稱。紀略、前篇、十四、弘仁元年九月庚戌「立中務卿爲皇太弟」

くゎうたう（名）［荒唐］〔字典「荒、空也」説文「唐、大言也」〕説ノ、據リドコロナキコトヲ云フ語。出放題。荒誕。莊子、天下篇「[illegible]之説、荒唐之言」「荒唐、無稽ノ説」

くゎうだう（名）［黄道］ 太陽ノ視軌道。即チ、天動説ニテ云フ、日ノ軌道。赤道ニ對シテ、二十三度半ノ傾斜ヲナス。漢書、天文志「日有中道、中道者、黄道、一曰光道」 黄道吉日ト云フハ、暦ニ云ヒシ語ニテ、萬事ヲ行フニ吉ナリトスル日。ヨキヒガラ。

くゎうだうきちにち（名）［黄道吉日］ 前條ヲ見ヨ。

くゎうたく（名）［光宅］ 大キニ、居ルコト。天下ヲ、スベテ、家トスルコト。書經、序「昔在帝堯、聰明文思、光宅天下、將遜于位、讓于虞舜、作堯典」松浦[illegible]宮先祖次第并本緣起「我聖朝之爲國也、光宅日本、臨長安而並明」（群書類從）

くゎうたく（名）［光澤］ ツヤ。ヒカリ。

くゎうたく（名）［皇澤］ 天子ノ御恩澤。[illegible] 太平記、十四、新田足利確執奏状事「[illegible]」

くゎうたん（名）［荒誕］〔字典「荒、空也」説文「誕、詞誕也」徐曰「妄爲大言也」〕説ノ、據ナキコト。イツハリ。ネナシゴト。荒唐。歐陽修詩「[illegible]」

くゎうち（名）［荒地］ アンチ。荒蕪ノ地。[illegible]

くゎうちん（名）［轟沈］〔轟然ト、音響ヲ發ス〕 船ヲ、砲撃シテ、沈ムルコト。船ノ、爆發ニカカリテ、沈ムコト。

くゎうぢん（名）［黄塵］ 黄色ノチリ。[illegible]「寸心明白日、千里暗黄塵」

くゎうちやう (名) 【皇張】 大キニ、ウケバルコト。主張。「其論ヲ皇張ス」

くゎうちやう (名) 【廣長】 ヒロク、ナガキコト。「廣長舌」

くゎうちやうし (名) 【皇長子】 第一ノ皇子。文獻通考「宋高宗建炎元年、以皇長子生大赦」

くゎうちやうぜつ (名) 【廣長舌】 (一)佛敎ノ語、廣長ナル舌。長廣舌。言語ノ淸淨ナルモノ、其果報ヲ受クト云フ。佛菩薩ノ三十二相ノ一ヲ、廣長舌相ト云フ。阿彌陀經「出廣長舌相遍覆三千大千世界」 (二)大イニ、說法スルコト。大イニ、言論スルコト。蘇軾詩「溪聲便是廣長舌、山色豈非淸淨身」「廣長舌ヲフルフ」

くゎうちゆう (名) 【蝗蟲】 イナゴ。貞觀政要、務農篇「貞觀二年、京師旱、蝗蟲大起」 逕步色葉集「蝗蟲」

くゎうちよ (名) 【皇儲】 〔儲ハ、儲貳ノ略〕帝王ノ御世繼。儲君。皇嗣。陸機詩「皇儲延髦俊、多士出幽遐」

くゎうぢよ (名) 【皇女】 わうによノ條ヲ見ヨ。

くゎうてい (名) 【皇帝】 〔皇ハ、美大ノ意、帝ハ、德ノ、天ニ合フ者ノ意、書經、序「三皇、伏犧、神農、黃帝」疏「稱皇者、以皇是美大之名、言大於帝也」字典「皇、君天下者之通稱」說文「帝、諦也、王天下之號也」白虎通「德合天者、稱帝」〕 (一)天子ノ尊號。史記、秦始皇紀、博士等、尊號ナヒル「王爲秦皇、云云、王曰、去泰著皇、采上古帝位號、號曰皇帝」 蔡邕獨斷、漢天子、正號曰皇帝、自稱曰朕、臣民稱之曰陛下」 (二)我ガ國ニテハ、中外ニ對スル時ノ、天皇ノ御稱號。儀制令、義解「天子、詔書於華夷所稱皇帝」 續紀、廿、天平寶字元年十一月「皇帝、皇太后、如日月之照臨並治萬國」 (三)締盟各君主國ノ、君主ノ稱號。King, Kaiser. 皆、然リ。「英吉利皇帝」獨逸皇帝」伊太利皇帝」 (四)わうだい(皇帝)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうてい (名) 【皇弟】 天子ノ御弟君。續紀、三十六、天應元年四月壬辰「立皇弟早良親王爲皇太子」

くゎうてう (名) 【皇朝】 和、漢、共ニ、其朝廷、又ハ、其國ノ尊稱。潘尼詩「斂跡侍儲宮、攜手登皇朝」

くゎうてう (名) 【黃鳥】 くゎうあう(黃鶯)ヲ見ヨ。

くゎうてん (名) 【皇天】 (一)天ト云フニ同ジ、其條ヲ見ヨ。書經、蔡仲之命篇「皇天無親、惟德是輔」 (二)天皇。天子。太平記、三十七、淸氏正儀寄京事「朝敵、都ヲ落ツル事、已ニ五箇度ニ及ビ候、然レドモ、天下ノ士卒、猶、皇天ヲ戴ク者少ク候フ間」

くゎうてん (名) 【皇典】 我ガ國ノ典籍。國書。

くゎうでん (名) 【荒田】 アレタ。荒廢セル田。後紀、五、延曆十五年十一月「河內國志紀郡荒田一町、賜正七位下秋篠朝臣淸野」同、廿四、弘仁六年五月「備前國津高郡荒廢田十九町、賜良親王」

くゎうてんこうど (名) 【皇天后土】 〔天神地祇ト云ハムガ如シ。書經、武成篇、底商之罪、告于皇天后土、所過名山大川」〕 天ノ條ヲ見ヨ」

くゎうと (名) 【皇圖】 皇謨、皇猷、ニ同ジ。謠曲、氷室「皇圖、長ク堅ク、帝道、遙ニ盛ンナリ」

くゎうと (名) 【皇圖】 天皇ノ版圖。天子ノ領土。班固賦「於是聖皇乃握乾符、闡坤珍、披皇圖、稽帝文」李賀詩「皇圖跨四海」

くゎうと (名) 【皇都】 ミヤコ。都市。釋齊己詩「新詩跨價滿皇都」

くゎうど (名) 【黃土】 わうど(黃土)ヲ見ヨ。

くゎうとう (名) 【皇統】 天子ノ御血統。皇系。後漢書、郎顗傳「援立皇統、奉承大宗」 權記、寬弘八年五月廿七日「帝有以正嫡令嗣皇統之志」

くゎうどう (名) 【黃銅】 わうどう(黃銅)ヲ見ヨ。眞鍮。

くゎうどく (名) 【鑛毒】 毒瓦斯ノ發生ニ因ル、植物ナドノ被害。鑛物ヲ熔鑛爐ニ入レテ熔解スルヨリ發ス。「鑛毒事件」

くゎうねん (名) 【荒年】 キキンドシ。凶年。「荒年饑歲」

くゎうのたき (名) 【光瀧】 えだずみノ條ヲ見ヨ。

くゎうはい (名) 【荒廢】 アレ、スタルルコト。禮記、疏「田無主則荒廢、故用人爲主」盛衰記、十三、入道信嚴島事「氣比ノ社ハ繁昌セリ、嚴島ハ荒廢シテ候」「田園荒廢」

くゎうばい (名) 【黃梅】 梅雨ノ頃、梅ノ實ノ、熟シテ黃バメルモノ。黃梅の雨ト云フハ、五月雨、卽チ、黃梅雨。略シテ、梅雨トモ云フ。儲光羲、晚霽詩「五月黃梅時、陰氣蔽遠邇」風土記「夏至之日雨名黃梅雨」白居易、送客之湖南詩「帆開靑草湖中去、衣濕黃梅雨裏行」

くゎうばいう (名) 【黃梅雨】 前條ヲ見ヨ。

くゎうはいでん (名) 【荒廢田】 くゎうでん(荒田)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうはう (名) 【黃袍】 無位ノ者ノ着スベキ袍。わうはうト讀ムヲ可トス、袍ノ條ヲ見ヨ。支那ニテハ、下ノ如ク見ユ。宋史、石守信傳「帝曰、云云、一旦有以黃袍加汝之身、雖欲不爲、其可得乎」野客叢書「自唐高祖武德初、用隋制、天子常服黃袍、遂禁士庶不得服」

くゎうばう (名) 【荒亡】 流連荒亡ノ條ヲ見ヨ。

くゎうはく (名) 【黃白】 〔黃ハ、黃金、白ハ、銀〕 金錢ノ異稱。金錢。秋燈叢話「黃白物頓盡」「黃白ヲ散ズ」

くゎうばく (名) 【廣漠・廣莫】 ヒロビロトシテ、涯ナキコト。莊子、逍遙遊篇「廣莫之野」書經、禹貢篇、注「廣漠而斥鹵」「廣漠タル原野」

くゎうひ (名) 【皇妣】 くゎうかう(皇考)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうひ (名) 【光被】 光リノ、被ヒ及ブコト。恩澤ノ、霑ヒ及ブコト。書經、堯典篇「光被四表、格于上下」

くゎうふ (名) 【鑛夫】 鑛山ニテ、鑛石ヲ採掘スル人夫。國朝典彙「熟知鑛脈者爲鑛夫」

くゎうぶ (名) 【荒蕪】 〔說文「蕪、薉也」〕田圃等ノ、アレハツルコト。孟子、告子、下篇「入其疆、土地荒蕪」

くゎうふうせいげつ (名) 【光風霽月】 胸中、灑洒トシテ、晴レタル風月ノ、爽カナルガ如キコト。宋史、周敦頤傳「黃庭堅、

[illegible]」[illegible]

くゎうふく　(名)　[illegible]　[illegible]　荒服ト云フモ、是レナリ。[illegible]外ノ地ノ稱。(甸服ナドニ對ス)　書經、禹貢篇「五百里荒服」

くゎうぶつ　(名)　[illegible]　[illegible]金、石、土、沙、玉、化石、[illegible]、等、スベテ、[illegible]ノ物ノ總名。(動物、植物、ニ對ス)

くゎうぶつがく　(名)　鑛物學　鑛物ノ性質、[illegible]形狀、結構、等ヲ研究スル學問。

くゎうふん　(名)　[illegible]　黃口ニ同ジ。雀ナドノ雛ノ、吻ノ、黃ナルモノ。人ノ、若輩ニテ、萬事ニ未熟ナルヲ嘲シテ、黃口兒、黃口兒、ナド云フ。(くわうこうノ條ヲ見ヨ。)　[illegible]世說「黃吻年少、勿[illegible]評論[illegible]」

くゎうふんじ　(名)　[illegible]　前條ヲ見ヨ。

くゎうべつ　(名)　皇別　姓氏ノ出自ノ區別ニ云フ語。天神地祇ノ裔ヲ神別ト云ヒ、天皇、皇子ヨリ派レタルヲ皇別ト云ヒ、[illegible]ノ姓ヲ蕃別ト云フ。[illegible]

くゎうぼ　(名)　皇謨　皇猷ニ同ジ。[illegible]

くゎうぼ　(名)　宏謨　大イナル、ハカリゴト。[illegible]

くゎうぼう　(名)　廣袤　[字典「東西曰廣、南北曰袤」博雅「袤、長也」]　土地ノ、四方ノ廣サ。面積。[illegible]六里」張衡、西京賦「量三徑輪八壽三[illegible]」

くゎうみやう　(名)　光明　ヒカリ。光輝。[illegible]「顯若王心、作光明燭」榮花物語、十七、音樂「諸ノ[illegible]光明[illegible]」

くゎうみやうしんごん　(名)　光明眞言　[illegible]ノ眞言ナリ。[illegible]

くゎうみやうへんぜう　(句)　光明遍照　光明ハ、遍ク十方世界ヲ照ラシ、稱名、念佛スル衆生ヲバ、光明ノ中ニ攝メ取リテ、一人モ捨テズ。觀無量壽經、九「光明遍照十方世界、念佛衆生、攝取不捨」

くゎうみやく　(名)　鑛脈　ツル。岩石ノ開ニ、溶解シタル鑛物ガ流レ入リテ、凝結シタル處。

くゎうん　(名)　火雲　夏ノ天ノ雲。[illegible]

くゎうめい　(名)　皇命　天皇ノ命令。

くゎうめいせいだい　(名)　光明正大　心ノ潔白ニシテ、道理ノ正シキコト。[illegible]光明正大」(故事熟語大辭典)

くゎうもくてんわう　(名)　廣目天王　[illegible]てんわう(四天王)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうもん　(名)　黃門　[支那ニテ、門下省ノ次官ヲ、黃門侍郞ト云フ、黃門ノ內ニ給事ス]　(一)中納言ノ唐名。[illegible]上、大政官、中納言、唐名、黃門」(二)特ニ、水戶中納言德川光圀ノ稱トス。

くゎうや　(名)　曠野　廣野　廣キ野原。詩經、小雅、都人士之什、何草不黃篇「匪兕匪虎、率彼曠野」[illegible]

くゎうやう　(名)　黃楊　ツゲ。埤雅「黃楊、性[illegible]長、[illegible]長一寸、閏年[illegible]一寸」

くゎうやうと　(副)　滉瀁　[滉ハ、集韻「水深廣貌」瀁ハ、正韻「無涯際也」]　水ノ、深ク、廣廣トシタル狀ヲ云フ語。劉禹錫、[illegible]「[illegible]之[illegible]而無涯」[illegible]記、廿八、源氏追討使事「水、南山ノ影ヲ浸シテ、蒼クシテ、滉瀁たり」

くゎうらい　(名)　光來　光榮アル來訪。客ノ入來ノ敬語。オイデ。ゴジュライ。光臨。光駕。光儀。

くゎうらうのがく　(名)　黃老之學　[老子ノ虛無ノ道ハ、黃帝ニ本ヅクト云ヒ、道家、又、老子ヲ祖トス]　老子ノ道。道家ノ學。史記、申不害傳「學本黃老、而主刑名」[illegible]

くゎうらく　(名)　黃落　秋ノ季ニナリテ、草木ノ葉ノ、黃バミテ落ツルコト。禮記、月令篇「季秋之月、云云、草木黃落」

くゎうり　(名)　黃鸝　くゎうあう(黃鶯)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうりん　(名)　光臨　くゎうらい(光來)ニ同ジ。曹植、七啓「幸見光臨」晉書、劉[illegible]之傳「使君既枉駕光臨」庭訓往來、五月「客人光臨、結構[illegible]」

くゎうりんは　(名)　光琳派　京都ノ、緒方光琳ノ始メタル畫風。(享保元年歿、五十七歲)障子ニ映ル物ノ影ヲ見テ、書出セリト云フ、(近代世事談)花木ヲ畫クニ、模樣化シタルガ、多シ、濃厚ナル彩色ヲ用ヰ、染物ノ模樣ニモ施セリ、光琳風ナド云フ。又、器ニ、菊花ナドカクニ、胡粉ヲ盛リテ、浮彫ノ如クシテ、色取レルアリ、此方法ヲ、蒔繪ニモ應用シタリ。[illegible]

くゎうりやう　(名)　廣量　[狹量ニ對ス]　度量ノ、廣キコト。オホヤウナルコト。

くゎうりやう　(名)　荒涼　(一)野原ノ、荒レテ、凄ジキコト。[illegible]「[illegible]荒涼」(二)[空漠トシテ、取リトメナキコト。漠然。[illegible]ル、[illegible]ハ、立チ[illegible]シソ、右歌ハ、何處ニ來ツツ見ルゾ、頗ル荒涼ナリ」(三)心ノ、スサマジキコト。大氣。廣量。[illegible]記、十九、女院入定京人事「御邊ハ、以ノ外ニ、心廣キ人カナ、云云、其荒涼ニテハ、一定、天下ノ主トナリタマヒナム」(文覺ガ、[illegible]ニ云フ詞)　(四)言フコトノ、凄ジキコト。口ニ任セテ言フコト。(荒言、廣言ノ意)　傲語　平家物語、九、宇治川事「未ダ生キタリト聞召シ候ハバ、定メテ、先陣ヲバ、高綱ソシツラムモノヲト思召サレ候ヘトテ、御前ヲ罷立ツ、參會シタル大名、小名、アハレくゎうりゃうノ申シヤウカナトゾ、ササヤキ合ハレケル」(佐佐木高綱ガ、宇治川ノ先陣ヲ豫期シテ云ヘル詞)　無名抄、上、「諸人、口ヲトヂテ止ミニケリ、荒涼ニ、物ヲバ難ズマジ

くゎうりゃういっすゐのゆめ (名) 黄粱一炊夢 かんたんゆめのまくらヲ見ヨ。

くゎうりょう (名) 皇陵 ミササギ。

くゎうれいでん (名) 皇靈殿 東京、皇居ノ内、賢所ノ西ニ建テラレタル神殿。神武天皇以來、御歴代、及、皇后、皇親ノ御靈ヲ祀ラル、明治天皇ノ思召ニ成レリト云フ。毎年、春分、秋分、ノ日ニ、兩度ニ奉祭アルヲ、春季皇靈祭、秋季皇靈祭、ト云フ。

くゎうれいはう (名) 皇禮砲 れいはう(禮砲)ノ條ヲ見ヨ。

くゎうろ (名) 黄櫨 ハニシ。ハジ。

くゎうろく (名) 光祿 〔支那、唐朝ノ官名、饗宴、膳羞ノ事ヲ掌ル〕大膳職ノ唐名。〔拾芥抄、上、大膳職、唐名、光祿〕

くゎうろくたいふ (名) 光祿大夫 從二位ノ唐名。〔拾芥抄、中、本、官名、唐名、從二位 光祿大夫〕

くゎうろぜん (名) 黄櫨染 天皇ノ御袍ノ染色ノ名、黄櫨、蘇方、酢、灰、等ニテ染ム、黄赤ニシテ、赤ミアリ。黄櫨染ノ御袍ハ、御儀式ノ時ニ召サセラル、中央、左右ニ桐竹、上部ノ中央ニ桐葉、左右ニ鳳凰、下部左右ニ麒麟ヲ出シタル、幅六寸、竪八寸ノ文ヲ、處處ニ織出サル。名目抄、衣服、黄櫨染〕

くゎうゐ (名) 皇位 帝王ノ御位。皇祚。〔□□□〕帝位

くゎうゐ (名) 皇威 ミイツ。帝王ノ御威光。〔盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「怨敵ヲ眼前ニ退テ、皇威ヲ海内ニ照サシメ給へ」「皇威、八紘ニ周シ」〕

くゎうゑん (名) 宏遠 宏大ニシテ、悠遠ナルコト。〔晉書、賈充傳「雅量宏遠」 教育勅語「國ヲ肇ムルコト宏遠ニ」〕

くゎえい (名) 花營 〔花御所ニ、柳營ノ字ヲ當テタルナリ〕花御所ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。〔「花營三代記」〕

くゎえう (名) 火曜 まちえう(七曜)ノ條ヲ見ヨ。

くゎえん (名) 火焔 ホノホ。ホノケ。〔唐高僧傳「如火焔發ニ」 宇治拾遺、三、第六條「ナンデフ、物ノツクベキゾ、年比、不動尊ノ火焔ヲ、惡シク書キケルナリ」〕

くゎえん (名) 火煙 ヒケムリ。

ぐゎえん (名) 臥烟 (一)江戸時代ノ消防夫。〔江戸職人歌合、臥烟「フリ廻ハス、纏ノ露ニ、カゲ見エテ、火ノ子マジリニ、月ゾ散リカフ」〕(二)江戸城見附ノ警固ニ屬スル奴。(三)品性不良ノ、無頼漢。

くゎえんだま (名) 火焔玉 玉ノ、火焔ニ包マレタル象ヲナセル細工物。神輿ノ頂ナドノ飾ニツクル、唐鞍ノ雲珠ノ如シ。火珠。

くゎおく (名) 花屋 花ヲ入レオク家。〔夏宇記「晉元帝竹林堂、多種三花卉、有三十間花屋二〕

くゎおく (名) 華屋 華麗ナル家。〔世說言語、上篇「伯成耦耕、不レ慕ニ諸侯之榮一、原憲桑樞、不レ易ニ有官之宅一、何有ニ坐則華屋、行則肥馬、侍女數十一、然後爲レ奇」〕

くゎおん (名) 華音 〔漢學スル者ハ、支那ヲ、中華ト稱シテ、尊ビタリ〕支那ノ字音、普通ニ、唐音ト云フモノ、多クハ、漢學儒者ノ稱シタル語ナリ。漢音ノ條ヲ見ヨ。〔徂徠集、十九、譯文筌蹄題言十則「華音訛轉爲三國音二」〕

くゎか (名) 華夏 〔夏ハ、大ノ義〕中華、中國、ニ同ジ。〔集韻「中國日二華夏二」 三國志、蜀志、關羽傳「威震二華夏二」〕

くゎか (名) 禾稼 穀物。タナツモノ。〔禮記、月令篇「行二秋令一則丘隰水潦、禾稼不レ熟」〕

ぐゎか (名) 畫家 エシ。エカキ。〔研北雜志「梁代畫家、以二王子元、郭忠恕一爲二第一二〕

くゎがい (名) 華蓋 キヌガサ。ハナガサ。〔古今注「黄帝與二蚩尤一戰、常有二五色雲氣、金枝玉葉、止於帝上、有二花葩之象一、故作二華蓋二〕

くゎがい (名) 花街 ハナノチマタ。花柳ノチマタ。遊里。次次條ヲ見ヨ。

ぐゎかい (名) 瓦解 〔史記抄(文明)十四「簷端ノ瓦ニ、釘、一ッ打置ク、ソレガ落ツレバ、皆、一度ニ落ッヒ〕(一)一端、崩レ初メテ、全體、崩ルルコト。ソウクヅレ。〔淮南子、泰族訓「紂師、云云、士億有餘萬、然皆倒レ矢而射、傍レ戟而戰、武王左操二黄鉞一、右執二白旄一以麾レ之、則瓦解而走」 史記、秦始皇紀「秦之積衰、天下土崩瓦解」〕(二)徳川幕府ノ覆滅ヲ稱スル語。〔「瓦解ノ時、云云、ノ事アリ」〕

くゎがいりうかう (名) 花街柳巷 ハナノマチ、ヤナギノチマタ。イロザト。遊里。略シテ、花柳。〔呂巖、竅文歌「花街柳巷覓二眞人一、眞人只在花街說」〕

くゎかう (名) 花梗 草木ノ花ノ着ク柄。

くゎかう (名) 和羹 (一)種種ノ物ヲ調和シテ作レル羹。〔書經、說命、下篇「若作二和羹一、爾惟鹽梅」〕(二)宰相ノ、天下ヲ燮理スルコト。鹽梅。〔張說詩「位竊二和羹重一、恩叨二醉酒深二」(賜宴ノ作)〕

くゎかうせき (名) 花崗石 ミカゲイシ。

くゎかく (名) 華客 商家ナドニテ、得意ノ客。トクイサキ。カヒッケノ人。

くゎかく (名) 過客 過訪ノ客。來客。〔李白、春夜宴二桃李園一序「天地者、萬物之逆旅、光陰者、百代之過客」〕

くゎがく (名) 科學 〔英語、Science. ノ譯語〕日常、箇箇ノ知識ヨリ歸納シテ、コレヲ部分ニ組織シテ、一科ト立テタル學問。(哲學ノ、對象全般ナルニ對ス)即チ、倫理、心理、論理、法律、動物、植物、物理、化學、ナドノ學、是レナリ。

くゎがく (名) 化學 自然科學ノ一分科、之レヲ、無機、有機ニ分ツ、(むきくゎがく)ノ條ヲ見ヨ)

くゎかつ (名) 瓜葛 〔瓜蔓ハ、枝葉ニ相纏ヒ、相連ル〕血筋ノ緣。親類。親戚。〔蔡邕、獨斷「凡與二先帝先后一有二瓜葛一者、」 晉書、王濬傳「王濬與二三子一悅、□□□□、道、□□、相與有二瓜葛之親一得二□□□□」〕

くゎかば (名) 果下馬 〔朝鮮ノ濟州島ニテ、かかばト云フ、英國ニテ云フ Pony. ノ類〕イバフミミノモノ。又、小馬。馬ノ、體格ノ、小サキモノ、丈、三尺乃至二尺五寸、土佐駒トモ云フ、我ガ國、土產ノ馬ニテ、神代ニ天斑駒ト云ヘルナド、是レナリ、應神天皇ノ時、百濟國ヨリ大馬ヲ渡リシヨリ、專ラ飼育セラレズナ

リヌ、然レドモ今モ、此種ノモノ、土佐、[illegible]、等ニ生存スト云フ。(國、拜、小馬ノ條、併セ見ヨ) [illegible]果名也、其馬、長三尺、乘之可以過果子之低枝之下」[illegible]

くゎかふ (名) [華甲] 次條ヲ見ヨ。

くゎかふし (名) [華甲子] [離合迷字ノ合迷字ト見ル、華ノ字ヲ拆ケバ、十、六ツ、一、ヒトツアリテ、六十一ナリ(四十八歳ヲ、桒字年ト云フガ如シ)甲子ハ、干支ナリ、生レテ六十囘シテ、又、一年、生年ノ本命ニメグリカヘルト云フナリ(周易ノ本卦回ナリ)(梅園日記、三)] 人、生レテ、六十一歳トナレルコト。又、單ニ、華甲子。略シテ、華甲。又、華甲重逢トモ云フ。還暦。本卦回。[illegible]次條ヲ見ヨ。[illegible](范成大)本命ノ歳ナリ、花ノ字ニ作ルベシ、華ノ字ハ[illegible]、華甲子ト云フ[illegible]六十一歳、[illegible]

くゎかふぢゅうほう (名) [華甲重逢] 前條ヲ見ヨ。

くゎかん (名) [華翰] 他ノ手紙ノ敬稱。華簡。貴翰。 劉禹錫、啓「每捧華翰、[illegible]」

くゎかん (名) [果敢] [果斷、敢行ノ義] 鋭ク、爲ルコト。[illegible]

くゎがん (名) [花顔] 花ノ如ク、美シキ顔。[illegible]楊貴妃)

くゎき (名) [和氣] 暖ジク打チトケ、和ラグ氣色。和氣。[illegible]必有愉色」 漢書、劉向傳「和氣致祥」 運歩色葉集「和氣 クワキ」

くゎき (名) [火氣] ヒノケ。火ノイキホヒ。 蘇軾[illegible]火氣浮」

くゎき (名) [火器] 大砲、小銃ナド、火藥ヲ用キル道具。トビダウグ。

くゎき (名) [花器] ハナイケ。花瓶。

くゎき (名) [花卉] [說文「卉、草之總名」] クサバナ。 南史、[illegible]果、雜以花卉」

くゎき (名) [花期] ハナドキ。ハナザカリ。花候。 蘇軾詩「且銜二杯酒一問二花期一」

くゎき (名) [禍機] 禍害ノ、發ラムトスル機會。 北史、[illegible]

くゎぎ (名) [火技] 銃砲ヲアツカフ技。

ぐゎき (名) [瓦器] (一)土燒ノ燒物。(二)カハラケ。

くゎぎう (名) [火牛] 牛ノ尾ニ炬火ヲ點ジテ、敵ヲ攻セシコト。 史記、[illegible]

くゎぎう (名) [蝸牛] カタツムリ。マヒマヒツブリ。デデムシ。 古今注「蝸牛、陵螺也、形如蝸牛、[illegible]」

くゎぎうかくじゃうのあらそひ (名) [蝸牛角上爭] [莊子、則陽篇「有下國二于蝸之左角一者上、曰二觸氏一、有下國二于蝸之右角一者上、曰二蠻氏一、時相與爭レ地而戰」] 極メテ見識狹ク、極メテ小サキ爭ヒ。ハカナキヤワザ。蠻觸の爭。 白氏文集、廿六、對酒「蝸牛角上爭二何事一、石火光中寄二此身一」 太平記、廿七、上杉畠山流罪事「治亂ノ亂ニ誇リケム、火打ガ石ヲ見上ゲレバ、蝸牛の角の上三千界、石火ガ光ノ中一刹那、哀レ、アダナル世カナ」(貫之)

くゎぎうろ (名) [蝸牛廬] くゎろ(蝸廬)ニ同ジ。

くゎきふ (名) [火急] 火ノツクヤウニ、急ナルコト。甚ダシク、急グコト。大至急。 北史、[illegible]火急、[illegible] 太平記、十一、[illegible]「コハ如何仕ルベキ、以ノ外ニ火急ニ侍ル」

くゎきょ (名) [科擧] [科目ニ應ジテ選擧セラルル義] 支那ニテ、民間ヨリ、才學アル者ヲ、吏員ニ採用スルニ行フ試驗ノ稱、文官登庸試驗ノ如シ。試驗ノ方法ハ、書ノ義ヲ問ヒ、科題ヲ出シテ、答文ヲ作ラシムルナド、種種ナリ。最下ノ程度ノ試驗ニ應ズル者ヲ秀才ト云フ、(判任官程度)其上ナルヲ擧人、(奏任官)最上ナルヲ進士ト云フ。(勅任、親任)試驗ニ當レルヲ、及第、又、登第ト云ヒ、當ラザルヲ、落第、又、下第ト云フ。進士ノ第一ナルヲ狀元ト云ヒ、第二ナルヲ榜元、第三ナルヲ探花ト云フ。 宋史、選擧志、[illegible]一切如故」

くゎきょ (名) [萵苣] [わきょナルベシ、集韻「萵、烏禾切、音倭」] チサ。チサナ。

くゎきょ (名) [illegible] ヤモメグラシ。 史記[illegible]

くゎく (名) [郭廓] クルワ。 孟子、公孫丑、下篇「三里之城、七里之郭、環而攻レ之而不レ勝」[illegible]

くゎく (名) [槨] オホドコ。棺ノ上箱。[illegible]先進篇、[illegible]以爲之槨」(槨ハ、椁ニ通ズ)

くゎく (名) [畫] 字ヲ書クニ、一筆ノアタリ。即チ、一ハ一畫ナリ、人ハ二畫ナリ、大ハ三畫ナルガ如シ。

くゎく (名) 鶴、確ハ、漢音、かくナリ。 唐韻[illegible]下各切[illegible]「克角切」

ぐゎぐ (名) [臥具] 夜具。ネダウグ。寢具。[illegible]

くゎくいつ (名) [畫一] [一ノ字ヲ書キタルガ如シ] 線ヲ引キタルガ如ク、正シク整フコト。 史記、曹相國世家[illegible]「畫一」(集韻「畫、直也」)

くゎくかう (名) [藿香] 舶來藥品ノ名、植物ノ葉ナリ、莖、大キクシテ厚ク、毛茸アリ、五ツノ刻缺アリテ、邊ニ鋸齒アリ、兩對シテ生ズ、香氣アリ。香料、藥用トス。[illegible]

くゎくきょのかま (名) [郭巨釜] 二十四孝ノ一人、郭巨ト云フ者ガ、孝感ニ因リテ、土中ヨリ掘リ出シタリト云フ、金ノ釜。常ニ、繪師ガ圖スルハ、此ノ如クナ

レド、誤解ニテ、釜ハ、量ノ名ナリ。孝子傳、後漢、郭巨「家貧養二老母一、妻生二一子一、三歳、母常減レ食與レ之、巨謂レ妻曰、貧乏不レ能レ供給一、共汝埋レ子、云云、遂掘レ坑二尺餘、忽見二黄金一釜一、釜上云、天賜二孝子郭巨一」　論語、雍也篇「子華使二於齊一、冉子爲二其母一請レ粟、子曰、與二之釜一」集註「釜、六斗四升」

くゎく-とう（名）［郭公］かっこうどりノ漢名。時鳥ニ似テ、稍大ナル鳥ニシテ、語モ相似タレバ、郭公ノ字ハ、常ニほとゝぎすニ用ヰラル。王士禎詩「春山處處郭公啼」注「似文鳥、郭公、鳥名、即、布穀也」　萬葉集、三、四十六「郭公鳥、鳴ク早月ニハ」字鏡、六十「郭公鳥、保止止支須」倭名抄、十八、羽族類「郭公、保度度木須」

くゎく-さく（名）［畫策］ハカリゴトヲ立ツルコト。史記、留侯世家「常爲二畫策臣一、時時從二漢王一」（張良）

くゎく-しゃく（名）［矍鑠］〔唐韻「鑠、書藥切」〕年老イテ、勇健シキコト。後漢書、馬援傳「年六十二、云云、援據レ鞍顧眄、以示レ可レ用、帝曰、矍鑠哉是翁也」註「矍、勇貌」字典「矍鑠、健貌」

くゎく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［畫劃］ワカツ。區劃ス。區分ス。ワル。左傳、襄公四年「畫爲二九州一」　韓愈詩「有レ若二天劃一」「劃するニ、一線ヲ以テス」

くゎく-せい（名）［廓清］〔集韻「廓、開也」〕害物ヲ、拂ヒ清ムルコト。後漢書、陳蕃傳「廓二清天下一」「弊政ヲ廓清ス」

くゎく-ぜん-と（副）［畫然］畫ル意ニ云フ語。キッパリト。ハッキリト。莊子、庚桑楚篇「其畫之畫然、知者去レ之」「畫然と二分ス」

くゎく-ぜん-と（副）［廓然］オシ弘メタル状ニ云フ語。大イナルサマ。漢書、東方朔傳「今世之處士、魁然無レ徒、廓然獨居」

くゎく-だい（名）［廓大］〔揚子方言「張レ小使レ大、謂二之廓一」〕ヒロゲテ、大キクスルコト。（縮小ニ對ス）　柳宗元文「廓舍煙居、階序廓大一」「寫眞ニ廓大シテ取ル」

くゎく-たくだ（名）［郭橐駝］橐駝師ノ條ヲ見ヨ。柳宗元「種樹郭橐駝傳」

くゎく-ちゃう（名）［擴張］オシヒロムルコト。「事業ヲ擴張ス」

くゎく-とく（名）［獲得］獲リ、得ルコト。「巨利ヲ獲得ス」

くゎく-にち（名）［畫日］ちょくくゎく（劃畫）ノ條ヲ見ヨ。

くゎく-びき（名）［畫引］漢字書ニ、漢字ヲ、畫ノ數ノ多少ニ因リテ次第シテ、引キ索ムルヤウニ作レルモノ。

くゎ-くん（名）［寡君］〔寡德の君ノ義〕諸侯ノ臣ノ、己ガ君ヲ、他ニ對シテ謙稱スル語。（漢文、上ニ）　禮記、坊記篇「民作レ亂、故稱二人之君一曰レ君、自稱二其君一曰二寡君一」儀禮、燕禮篇「寡君有二不腆之酒一」

くゎく-らん（名）［霍亂］〔霍ハ直音、かく、揮霍、撩亂ノ義、身ヲ悶エ、手足ヲ振リマハス態ヲ云フナリト云フ〕烈シク吐瀉スル病、多ク、夏日ノ飲食ニ起ルニ云フ。急性腸加答兒。漢書「南越多二霍亂之病一矣」聖心方、十一「病源論云、霍亂者、由二人溫凉不調一、云云」字類抄「霍亂、クヮクラン」

くゎく-りん（名）［獲麟］〔孔子ノ著書ナル、春秋ノ終ニ「哀公十四年春、西狩獲レ麟」左傳、杜注「絕二筆於獲麟之一句一」〕終リ。果。臨終。最後。塵袋、十一「春秋ハ、孔子ノ記シタマヘル書ナリ、此麟ヲ獲タルマデノ事ヲ記シテ、程ナク失セタマヒニケリ、孔子、御年七十一、云云、コレヨリ、最後ニ臨ムヲバ、獲麟ト云フナリ」下學集、下、態藝門「呼二一切事終一云二獲麟一、亦、呼二人之臨終一云二獲麟一」玉海、承安二年五月五日「當齋宮頓病及二獲麟一」　明月記、建仁二年九月廿六日「嬉御前、被レ渡二西御方一、已以獲麟給」

くゎ-くゎ（名）［火化］くゎぢゃう（火定）ニ同ジ。容齋隨筆「自二釋氏火化之說起一、於レ是死而焚レ尸者、所在皆然」

くゎ-くゎい（名）［花魁］（一）百花之魁ニ同ジ。梅ノ異名。ハナノアニ。古詩「不二是花魁一誰是花魁」（二）オイラン。

くゎ-ぐゎい（名）［化外］〔王政敎化ノ外ノ義〕治下ノ外。領土ノ外。宋史、太祖紀「崇二銅錢一無レ出二化外一」戶令、義解「化外奴婢、自來投レ國者、悉放爲レ良」註「謂二敎化之所一不レ被、是爲二化外一也」

くゎ-くゎん-ぷ（名）［火浣布］〔火浣トハ、火ニテ燒ケバ、垢ヲ除クコト、浣ふガ如シト云フ意ナルカ、集韻「浣、濯二衣垢一也」〕（一）支那ニテ、火鼠ノ毛ニテ織リタル布、火ニ燒ケズト云フ、想像ニテ、石綿布ノ事ナルベシ。水經、注「東方朔神異傳、南方有二火山一焉、云云、火中有レ鼠、重百斤、毛長二尺餘、細如レ絲、色白、云云、取二其毛一以爲レ布、謂二之火浣布一」周書「火浣布垢、必投二諸火一、布則火色、垢則灰色、出レ火振レ之、皜然疑レ於レ雪焉」（二）石綿ニテ製シタル物ヲモ云フ、其條ヲ見ヨ。

くゎ-わけ（名）［區別］區別。區分。

くゎ-けい（名）［花兄］はなのあにノ條ヲ見ヨ。

くゎ-けい（名）［火刑］ヒアブリ。

くゎ-げき（名）［過激］度ニ過ギテ、激シキコト。「過激ノ論」

くゎ-けつ（名）［果決］決斷ノ、速キコト。歐陽修詩「遲疑與二果決一」

くゎ-げつ（名）［花月］くゎてうふうげつ（花鳥風月）ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-けつ-たう（名）［火血刀］〔火途、血途、刀途、ノ略（三途ノ川ト云フ、是レナリ）火ハ地獄道、血ハ畜生道、刀ハ餓鬼道ナリ〕三惡道ニ同ジ、六道ノ條ヲ見ヨ。平家物語、十、戒門事、法然上人「カクシテ空シク絡ハリ候ヒナバ、火血刀ノ苦果、敢ヘテ疑ヒナシ」

くゎ-げふ（名）［課業］業ヲ、課スルコト。ワリアテタル業。宋史、李絢傳「兄絢敎二之書一、嚴二其課業一」

くゎ-けん（名）［華軒］〔左傳、閔公二年「鶴有二乘レ軒者一」註「軒、大夫車」〕華麗ナル車。太平記、五、大塔宮熊野落事「此君元ヨリ、龍樓鳳闕ノ内ニ長ナラセ給ヒテ、華軒香車ノ外ヲ出サセ給ハヌ」

くゎ-げん（名）［訛言］オヨヅレゴト。タハコト。妖言。詩經、小雅、祈父之什、正月篇「民之訛言、寧莫二之懲一」字類抄「訛言、クヮゲン」

くゎ-げん（名）［寡言］コトバズクナナルコト。多ク物言ハヌコト。禮記、內則篇「必求二其寬裕慈惠、溫良恭敬、愼而寡言者一使レ爲二子師一」文德實錄、五、仁壽三年十二月丁丑「山田宿禰古嗣、云云、爲レ人廉謹、而寡二言辭一」

くゎ-げん（名）［過言］くゎごん（過言）ニ同ジ。禮記、哀公問篇「孔子曰、君子過レ言、則民作レ辭」說苑、說叢篇「默無二過言一」

くゎ-げん（名）［禍源］禍害ノ、因リテ起ル根源。禍根。「禍源ヲ芟除ス」

くゎ-げんみ（名）［過現未］過去、現在、未来。[illegible] アリ、過、現、未ノ時明、遷移、流動、改ムコトナク、而 [illegible] 十方ハ、空間ニツク。（佛教辭林）

くゎ-こ（名）［過去］（一）過ギ去リシ時。[illegible]（二）佛教ノ [illegible]「[illegible] 知ミ未來ト過去之事ニ」（三）文法ノ [illegible] 時、ヲ、條ヲ見ヨ。

くゎ-こ（名）［[illegible]］[illegible] ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-ご（名）［訛語］ヨコナマルコト。ナマリコトバ。

くゎ-ご（名）［過誤］アヤマチ。アヤマリ。[illegible]

くゎ-こう（名）［課口］［人口ノ口］課役ニ [illegible] 課口ト云 [illegible]

くゎ-こう（名）［火口］噴火口ノ略。

くゎ-こう（名）［火攻］ヒゼメ。ヤキウチ。[illegible]

くゎ-こう（名）［花候］ハナドキ。花期。花時。

ぐゎ-こう（名）［畫工］エダクミ。エカキ、[illegible]

くゎ-こく（名）［禾穀］イネ。穀物。易林

くゎ-こく（名）［過刻］サキホド。先刻。

くゎ-こく（名）［過酷］甚シク、酷キコト。苛酷。「刑罰過酷」

ぐゎ-ごじ（名）［元興寺］がごぢヲ見ヨ。

ぐゎ-ごぜ（名）［元興寺］がごぜヲ見ヨ。

くゎ-こちやう（名）［過去帳］［過去ノ條ヲ見ヨ］寺院ニテ、死者ノ法名ヲ記シ置ク帳。[illegible]

くゎ-こん（名）［禍根］ワザハヒノモト。

くゎ-ごん（名）［過言］イヒスギ。[illegible] 年七月十日 [illegible]

くゎ-さ（名）［過奢］過分ナル奢侈。分限ヲ越エタルオゴリ。[illegible]

くゎ-ざ（名）［火舍］火舍ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-ざ（名）［冠者］くゎんざノ條ヲ見ヨ。

ぐゎ-さ（名）［畫叉］カケジカケ。カケモノカケ。[illegible]

くゎ-さい（名）［火災］[illegible] ヒノワザハヒ。火事。出火。[illegible]

くゎ-ざい（名）［貨財］貨幣ト、財物ト。タカラ。[illegible]

くゎ-さう（名）［火葬］死者ノ屍ヲ、火ニ焼キテ、骨ノミ收メテ、葬ムルコト。荼毘。（土葬、水葬、ナドニ對シテ云フ）[illegible] 續紀、一、文武天皇四年三月「道照和尚物化、云云、弟子等 [illegible] 火葬 [illegible] 天下火葬、從此而始也」[illegible]

くゎ-さう（名）［火槍］鳥銃。小銃。[illegible]

ぐゎ-ざう（名）［畫像］ゑざう（繪像）ニ同ジ。エスガタ。肖像。[illegible] 續紀、廿三、天平寶字四年七月癸丑「阿彌陀淨土畫像」

くゎ-ざういろ（名）くゎんざういろ（萱草色）ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-ざん（名）［火山］ヤケヤマ。絶頂、或ハ、山腹ナドヨリ、常ニ、火煙、水蒸氣、等ヲ噴ク山。噴火山。噴キツツアルニ就キテハ、活火山ト云ヒ、息ミテ、噴カズナリシヲ、死火山ト云フ。神異經「南荒之外、有火山」

ぐゎ-さん（名）［[illegible]］[illegible] 上ニ、書キ加フル讃。多クハ、[illegible] スモアリ。[illegible]

くゎざん-がん（名）［火山岩］火山ヨリ噴キ出シテ、凝リ固マリタル、浮石ノ如キモノ。

くゎ-し（名）［菓子］食事ノ外ニ、茶請ニ食フモノノ總名。元ハ、くだものナリ、今、專ラ、米粉、小麥粉、葛、砂糖、餡、ナドニテ、種種ニ製シタルモノヲ云フ。餅ト、餡ト、ナドナルヲ、餅菓子ト云フ。養餅粉ト、砂糖ト、ナドナルヲ、乾菓子ト云フ。糕 而シテ、くだものナルヲバ、水菓子ト云ヒテ、別ツ。[illegible]

くゎ-し（名）［課試］（一）貢擧ノ條ヲ見ヨ。[illegible] 課試、及第、二個度ナリ、今始メテ、文字ヲ問フベキニアラズ」（二）事ヲ割當テテ、試スコト。[illegible]「博士課試」

くゎ-し（名）［花肆］遊里ニ同ジ。[illegible]「花街」[illegible]

くゎ-し（名）［花子］［勸化スル主ヲ、化主ト云フヨリ、乞食ヲ、叫化子ト云ヒ、略シテ、化子ト云ヒ、音通ニテ、花子ト云フ］支那ニテ、乞食ノ異名。五雜組 京師謂乞兒爲花子」

くゎ-じ（名）［花字］くゎあふ（花押）ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-じ（名）［火事］ヒノコト。ホヤケ。ミ

ヅナガレ。火、發リテ、家、船、ナドノ燒クルコト。出火。失火。火災。燒亡。炎上。祝融。回祿。舞馬。池魚。山ノ樹木ノ燒クルヲ、山火事ト云フ。 汝南先賢傳「登果上ニ火事ニ」 維摩經「火事」 倭訓栞、後編、くゎじ「火事ノ字、王旦ガ神道碑ニ見ユ」 建禮門院右京大夫集、上「内裏ニ近キ火の事アリテ、スデニアブナカリシカバ」 親長卿記、文明十年十二月廿五日「今夜有ニ火事ニ」

ぐゎし (名) 【畫師】 エシ。エカキ。畫工。 唐書、閻立本傳「閤外傳呼、云ニ畫師閻立本ニ」 運歩色葉集「畫師」

くゎじかぜ (名) 【火事風】 東京ニテ、冬、春（陽暦、十一月ヨリ四月マデ）ノ閒ニ、烈シク吹ク、西北風ノ稱。江戸時代ヨリ明治、大正、ニワタリテ、數十度ノ大火災ハ、其大多數ハ、此風ニ起レリ。

くゎしがた (名) 【菓子型】 乾菓子ノ、落雁ナド製スルニ、粉ヲ打込ムニ用キル型。‖糕印‖

くゎしかんだんけい (名) 【華氏寒暖計】 かんだんけいノ條ヲ見ヨ。

くゎじしゃうぞく (名) 【火事裝束】 火災ノ時、出張スルニ用キタル、武家ノ服裝。頭巾ハ、張貫、又ハ、木製ノ兜、羅紗ノ羽織、緞子ナドノ野袴、踏込、ナリ。‖救火衣‖ 武家儀制錄、三十六、「火事裝束之儀、伺之覺」 享保集成絲綸錄、三十六、元祿十七年二月「火事羽織頭巾、結構ニ無レ之、云云」

くゎしだね (名) 【菓子種】 乾菓子ヲ作ル料ノモノ。糯米ヲフカシテ乾シ、水飴ヲカケテ炒リ、水飴ノ力ニテ脹ラマセタルモノ、おこしナドヲ作ル。又、炒粉ハ、落雁ヲ作ル。

くゎしぢゅう (名) 【菓子重】 菓子ヲ入ルルニ用キル、小サキ重箱。‖菓盒‖

くゎしつ (名) 【過失】 アヤマチ。シソコナヒ。過誤。 禮記、儒行篇「儒、云云、其過失可ニ微辨一而不レ可ニ面數一也」 漢書、刑法志「三宥、一曰、弗識、二曰、過失、三曰、遺忘」 盛衰記、十九、文覺發心事、袈裟御前ヲ「過失ナキ美人也ケリ」

くゎしつ (名) 【火失】 〔說文「失、錯也、過也」〕 火ノアヤマチ。過チテ、火災ヲ起スコト。失火。 平治物語、二、待賢門軍事「火失ナカラム條コソ、難儀ノ勅定ニテ候へ」

くゎじつ (名) 【果實】 コノミ。クダモノ。 呂氏春秋、辯俗篇「華不レ盛、則果實不レ生」

くゎじつ (名) 【華實】 華ト、實ト。華實相稱ト云フハ、詞章ト、操行トヲ兼備スルヲ云フ。 左傳、文公五年「陽處父、云云、華而不レ實、怨之所レ聚也」 南史、齊衡陽王、鈞傳「武帝謂ニ王儉一曰、衡陽王須ニ文學一當レ使ニ華實相稱ニ」

くゎじつ (名) 【過日】 サキノヒ。先日。‖前日‖ 「過日、御目ニカカリシ時」

くゎじば (名) 【火事場】 火事ニテ、家、藏、ノ燒クル處。 享保集成絲綸錄、三十六、元祿十七年二月「火事場ノ鑑ニ、金銀之類、用申間敷事」 火事場盜賊ト云フハ、他ノ紛紜ニツケコミテ、竊カニ己レガ利ヲハカルコト。

くゎじばおり (名) 【火事羽織】 火事裝束ヲ見ヨ。

くゎじばみまはり (名) 【火事場見廻】 武家ノ職、火事場ヲ見廻リテ、其容子ヲ報告スルモノ。 德川禁令考、廿九、享保九年正月十八日「火事場見廻之面面、防之儀ニ引之事」

くゎしパン (名) 【菓子麪麭】 菓子トシテ作レル麪麭。多ク、砂糖ヲ加へ、又ハ、小豆餡ナド、包ム。食麪麭ト別チ云フ。

✣くゎじばや・い (形) 【火事早】 ヤヤモスレバ、火事起ル。「江戸ハ、火事ばやい」

くゎしぼん (名) 【菓子盆】 菓子ヲ盛リタル器ヲ載スルニ用キル盆。‖菓盤‖ 運歩色葉集「菓子盆」

くゎじみまひ (名) 【火事見舞】 火事ニ逢ヘル家ヲ、救ヒ、又ハ、慰安フコト。

くゎしん (名) 【禍心】 他ニ、禍害ヲ加ヘムトスル心。害心。 左傳、昭公元年「將レ恃ニ大國之安靖己、而無ニ乃包ニ藏禍心一以圖レ之」

くゎしん (名) 【花信】 花ノ、咲キタリト云フ音信。 司馬光詩「風色傳ニ花信ニ」

くゎしん (名) 【化身】 化身ノ條ヲ見ヨ。

くゎじん (代) 【寡人】 〔寡德の者ノ意〕 王侯ノ、自稱ノ代名詞、謙稱ナリ。（漢文ノ上ニ） 禮記、曲禮、下篇「諸侯見ニ天子一曰ニ臣某、侯某ニ、其與レ民言、自稱曰ニ寡人ニ」

ぐゎじん (名) 【畫人】 エカキ。エシ。畫家。 書畫指南「畫匠曰ニ畫人ニ」 酉陽雜俎「畫人宗牧」

ぐゎしんしゃうたん (句) 【臥薪嘗膽】 讎ヲ報イムトシテ、苦心、焦慮ス。會稽の恥ヲ併セ見ヨ。 十八史略、一「夫差志レ復レ讎、朝夕臥ニ薪中、出入使ニ人呼一曰、夫差、而忘ニ越人之殺ニ而父ニ邪」（吳王夫差） 史記、越世家「吳既赦レ越、越王句踐反レ國、乃苦レ身焦レ思、置ニ膽於坐、坐臥卽仰レ膽、飲食亦嘗レ膽也、曰、女忘ニ會稽之恥一邪」 吳越春秋「越句踐、臥レ薪嘗レ膽、欲レ報レ吳」

くゎじんせいたい (名) 【寡人政體】 寡頭政治ノ條ヲ見ヨ。

くゎしんぷう (名) 【花信風】 春時、百花ノ開カムトスル時ニ吹ク風ノ稱。 春秋演繁露「三月花開時風、名ニ花信風ニ」 歲時記「冬至至ニ夏至一、有ニ二十四番花信風、始ニ梅花一、終ニ楝花ニ」

くゎしゃ (名) 【菓子屋】 菓子ヲ製シテ賣ル商家。

くゎしゃ (名) 【火車】 （一）ヒノクルマ。佛說ニ、生前ニ惡事ヲセシ亡者、地獄ニ墮チムトスル時、コレヲ迎フル車ナリト云フ。 因果經「今身作ニ後母ヲ、與ニ前母兒ニ者、死墮ニ火車地獄中ニ」 法華經「無量刀林當レ上而下、火車爐炭十八苦事、一時來迎」 拾玉集（慈鎮）一「火の車、今日ハ我ガ門、遣リ過ギテ、アハレ何地ニ、巡リ行クラム」 （二）葬送ノ時、俄カニ風雨起リテ、棺ヲ吹キ飛バス事アルヲ、くゎしゃト云フ。妖アリテ、屍ヲ取ラムトスルニテ、卽チ、地獄ノ火車ノ、迎ニ來リシナリトテ、大イニ恐レ恥ヅルコトナリト云フ。（茅窻漫錄） （三）惡婆ノ稱。 倭訓栞、くゎしゃ「俗ニ、惡心ノ老婆ヲ云フハ、因果經ニ（前前項ニ擧ゲタリ）ト見エタリ、此ニ本ヅキタル詞也、老鴇ヲ云フモ、義、同ジ」 （四）ヤリテ。當字ニ、花車。遊女屋ニテ、遊女ノ掟ヲスル老婆ノ稱。苛酷キヲ常ナリトス。（前項ヲ見ヨ） ‖鴇母‖ 長町女腹切（近松作）中「お花ガ浮カヌ貌ツキニ、火車モ、亭主モ、氣ノ毒ガリ」 壽門松（享保、近松作）下、ニ行「花車ガ、叩ク、口舌ノ門、遣手ガ叩ク、兒ガ睡リ」 （五）火輪車ノ略。汽車。

くゎしゃ (名) 【花車】 次條、及、前條ノ（四）ヲ見ヨ。

くゎしゃ (名) 【花奢・華奢】 衣食住ニ奢リテ、花ヤカニ飾ルコト。‖豪華‖

くゎしゃ (名) [貨車] [illegible] 汽車ノ、車ノ一種ノ、貨物ノ運搬ニ用ヰルモノ。貨物車 (客車ニ對ス)

くゎしゃ (名) [冠者] くゎんじゃノ條ヲ見ヨ。

くゎしゃ (名) [火舍] 香爐ノ火屋ノ名、くゎ。[illegible] 下ニ置ニ火蛇ニ逕」榮花物語、十七、音樂「火舍ドモニ、イロイロノ寶ノ香ドモヲ、焚カセタマヘレバ、異香、[illegible] 香爐」字類抄「火舍、クヮサ」

くゎしゃう (名) [火傷] ヤケド。

くゎしゃう (名) [過賞] ホメスギ。過稱。

クヮシャウ (名) [和尙] をしゃうノ條ヲ見ヨ。

くゎしゃう (名) [官掌] 〔くゎんしゃうノ讀例、勘文、かもん。案内、あふい〕 太政官ノ、屬官、下ニ居テ官掌人ヲ傳道シ、官府ヲ守當シ、官掌、[illegible] 中ノ[illegible]ヲ掌ル。名目抄「官掌、クヮジャウ」

くゎじゃう (名) [款狀] 〔說文「款、意有ㇾ所ㇾ欲也」口供ノ款 狀ト、同意ナリ、其條ヲ見ヨ、くゎぢゃうト云フハ、讀例ナリ、冠者、くゎざ。汗衫、かざみ〕 願ヒノ申狀。願書。[illegible]

くゎじゃう (名) [過狀] 怠狀ニ同ジ。アヤマリ證文。[illegible]

[illegible] 已畢」[illegible] リケルトゾ」

ぐゎしゃう (名) [臥床] ネドコ。フシド。臥蓐。[illegible]

くゎしゃがた (名) [花車形] 〔花車ハ、花奢ナリ、其條ヲ見ヨ〕 芝居ニテ、女形ノ年寵ヲ、勤ムルモノノ稱。[illegible] 三十ヨリ四十ニ及ビテハ、くゎしゃがたト云フ」

くゎしゃく (名) [掛錫] 禪家ノ語、雲水僧ノ、一時、一寺ニ入リテ、寄居スルコト。又、掛搭。[illegible] 云ニ掛錫ニ」庭訓往來、十月「掛搭僧」

くゎしゅ (名) [華主] 華客ニ同ジ。

くゎしゅ (名) [火珠] (一)火焰玉。(たふのひさくがたヲ見ヨ) (二)ヒトルタマ。[illegible]

くゎしゅ (名) [火酒] 燒酒、ういすきい、ホド、酒精分ノ强キ酒。

くゎしょ (名) [花書] 書判ニ同ジ。其條、及、くゎあふ(花押)ノ條ヲ見ヨ。

くゎしょ (名) [華胥] 支那ノ黄帝ノ夢ニ見タル、治平極マレリト云フ國ノ名。心地佳キ夢ノ意ニ用ヰラル。列子、黄帝篇「黄帝[illegible]」

[illegible]

くゎしょ (名) [過所] 〔過所劵ノ略ニモアルベキカ〕 官ヨリ出ダサルル、關門通行ノ劵。くゎそ。船ニモアリ、過所船ノ條ヲ見ヨ。鎌倉、室町幕府ヨリ出シタルニハ、過書トシタリ。(同音ナルニ因リテ、誤記セルカト云フ) 後ニ專ラ、關所ニ用ヰタル關所手形、是レナリ。[illegible] 往還ノ事ヲツカサドリ、過書ヲ下セル有司ナリ」

くゎしょう (名) [過稱] ホメスギ。過賞。

くゎじょう (名) [過剩] アマリ。ノコリ。[illegible]「過剩金」人口過剩」

ぐゎしょう (名) [瓦松] カハラマツ。ツメレンゲ。

くゎしょく (名) [華族] くゎぞく(華族)、及、せいぐゎ(清華)ノ條ヲ見ヨ。

くゎしょく (名) [華燭] ハナヤカニ光ル蠟燭火。[illegible] 華燭之典ト云フハ、婚姻ノ儀式ヲ云フ。

くゎしょく (名) [火食] 火ニテ物ヲ煮焚シテ、溫キヲ食フコト。(冷食、寒食、ニ對ス) 莊子、讓王篇「孔子窮於陳蔡之間、七日不火食」[illegible]

くゎしょく (名) [過食] クヒスギ。

くゎしょく (名) [貨殖] 貨財ヲ、殖スコト。カネヲタメルコト。[illegible] 論語、先進篇「賜、不ㇾ受[illegible]」

ぐゎじょく (名) [臥蓐] 蓐ニ、臥スコト。病ミテ、床ニ就クコト。臥床。[illegible]

くゎしょぶぎゃう (名) [過書奉行] くゎしょ(過所)ノ條ヲ見ヨ。

くゎしょぶね (名) [過所船] (一)古ヘ、河ニ關アル所、又ハ、海ニ、攝津、長門、ナドヲ過グル船ノ、過所(其條ヲ見ヨ)ヲ要シタルモノ。[illegible] (二)山城ノ淀川ノ過所船ト云フハ、昔ハ、淀ヨリ神崎、難波、ヘ通航セシヨリ、淀船ト云ヘリシヲ、伏見城築營ノ時ヨリ、淀ヲ乘リ越エテ、伏見マデ上ルニ因リテ、免許ノ書ヲ要シタルナリト云フ。(俗語考) 後ノ三十石船、淀川ノ夜船、是レナリ。又、天道船。[illegible] 三十三條、過所船[illegible]往來ニ、過所船ト云フ名目、見エタリ、太平策、下云、今モ、京ニ過所船ト云フモノアルハ、元來、通事ヲ致シ置テ、關所ノ往來ヲ自由ニサセル舟ヲ云フ、今ハ、舟ノ名トナレリ」[illegible] 七、慶長八年十月二日「河村與惣右衛門、云云、淀川過書船支配ノ御朱印ヲ下サル」

くゎしれう (名) [菓子料] 菓子ヲ買フベキ代金。(贈物ニスルナドニ云フ) 茶菓銀 「[illegible]前ニ、菓子料ヲ供ス」

くゎしをり（名）［菓子折］菓子ノ折箱。

くゎ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［化］（一）形、變ハル。異ナル體トナル。バケル。變化ス。中庸「變則化」史記、高祖紀「吾子白帝子也、化爲ㇾ蛇當ㇾ道」「魔草化シテ螢トナル」外來ノ物事、日本化す」（二）曝レテ、質、變ハル。「風化ス」水化ス」（三）肖リテ、良キニ移リ改マル。カマク。カブレル。感化ス。老子「無爲而民自化」「人民、其德ニ化す」

くゎ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［化］變ハラシム。肖ラセテ、良キニ移ラス。禮記、學記「君子如欲ㇾ化ㇾ民成ㇾ俗、其必由ㇾ學乎」名義抄「化、ヲシフ、メグム、ウツクシブ」「德政、民ヲ化す」

くゎ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［和］（一）ヤハラグ。心、合フ。和ス。論語、子路篇「君子和而不ㇾ同、小人同而不ㇾ和」（同ハ、阿比ナリ）「人心、相、和す」（二）マジリアフ。「膏、藥、和しテ、綠トナル」

くゎ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［訛］ナマル。「課ヲ訛しテ、くろぼしト云フ」

くゎ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［課］オホス。負ス。役ニ充ツ。賦課ス。漢書、京房傳「發ニ考功ㇾ課ニ吏法ニ」「稅ヲ課す」

くゎ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［科］ツミス。法ニ照シテ、處斷ス。「罰ヲ科す」

くゎずゐ（名）［花蘂］花ノ、雄蘂、雌蘂、ノ總稱。孟浩然詩「物華皆可ㇾ玩、花蘂四時芳」李商隱詩「蝶銜ニ花蘂ニ蜂銜ㇾ粉」

くゎせい（名）［火星］太陽ヨリ第四ニ位スル行星ノ名、色、甚ダ赤シ、地球ヨリ小サク、六百八十七日ニシテ、太陽ヲ一周ス。一名、熒惑。漢書、五行志「古之火正、謂ニ火官ニ也、掌ㇾ祭ニ火星ニ行ㇾ火政ㇾ」

くゎせい（名）［火勢］火ノイキホヒ。玉堂逢辰錄「拆ニ西北主廊ニ以絕ニ火勢ニ」

くゎせい（名）［火精］ヒトルタマ。火珠。孔武仲詩「灼以ニ炎皇之火精ニ變以ニ少昊之金液ニ」

くゎせい（名）［化生］（化ハ、造化ノ化）世ニ、生レ出ヅルコト。生ヒ立ツコト。易經、下經、成卦「天地感、而萬物化生」同、繫辭、下傳「男女構ㇾ精、萬物化生」太平記、一、玄惠文談事「汝、天地ノ中ニ化生シテ、仁義ノ外ニ逍遙ス」

くゎせい（名）［化成］德化シテ、善ニ遷ルコト。易經、下經、恆卦「聖人久ㇾ於ニ其道ニ而天下化成」

くゎぜい（名）［課稅］稅ヲ、課スルコト。稅金ヲ・人民ニ賦課スルコト。

ぐゎせい（名）［畫聖］（碁聖ナド、同趣）繪ノヒジリ。極メテ優レタル、繪ノ名人。畫品「楊子華、畫ニ馬于壁ニ每夕必蹄齧長鳴、號爲ニ畫聖ニ」畫鑒「吳道子、筆法超妙、爲ニ百代畫聖ニ」

くゎせう（名）［過小］餘リニ、チヒサキコト。チヒサスグルコト。（過大ニ對ス）

くゎせう（名）［過少］餘リニ、スクナキコト。スクナスグルコト。（過多ニ對ス）

ぐゎせうせい（名）［畫燒青］アヲエグスリ。吳須ノ條ヲ見ヨ。

くゎせき（名）［化石］（一）珪酸ノ、動植物ノ體ニ浸入シテ、其形ヲ殘ヘルモノ、、其形ノミ故體ヲ存シテ、質ハ全ク石ノ如シ、木ノ化石ナド、是レナリ。又、炭酸石灰ノ浸入シタルモアリ、介殼ノ化石ナド、是レナリ。（二）地層ノ成ルトキ、磐石ノ間ニ、動植物ノ入リテ、其形ノミヲ印シ遺シタルモノ。（三）又、動植物ノ、久シク土中ニ敗頹シテ、其質ヲ變ヘタルヲモ云フ、木ノ、石炭トナリ、松脂ノ、琥珀トナレルガ如シ。

ぐゎせき（名）［瓦石］（一）かはらト、いしト。八王故事「似ニ珠玉在ニ瓦石間ニ」（二）轉ジテ、物ノ、價値ナキモノヲ呼ブ語。三國志、吳志、孫權傳「彼所ㇾ求者、于ㇾ我瓦石耳、孤何惜焉」

くゎせん（名）［火戰］火兵戰ノ略。

くゎせん（名）［火箭］火矢ノ條ヲ見ヨ。宋史、兵志「神衛水軍長唐福、獻ニ所ㇾ製火箭、火毬、火蒺藜ニ」通鑑、晉紀「以ニ火箭ニ燒ニ東北角樓ニ」

くゎせん（名）［戈鋋］ほこト、小ナル短キほこト。太平記、七、吉野城軍事「戈鋋、劍戟ヲ降ラス事、電光ノ如クナリ、磐石、岩ヲ飛ス事、春ノ雨ニ相同ジ」

くゎせん（名）［花穿］（穿ハ、穴ナリ、飾リノ穴ノ意）錢ノ四角ナル穴ノ四隅ノ、外ヘ、深ク細ソク剞リ入リタルモノ。

くゎせん（名）［貨泉］（錢ノ通行、泉ノ流行ノ如シ）支那、新ノ王莽ノ鑄テ發行シタル、篆文ニテ貨泉ノ二字アル銅錢ノ名。（錢ノ異名トス）同時ニ鑄タルニ、形、琴柱ノ兩脚ノ開カザルモノノ如クニテ、薄ク、面ノ左右ニ、篆書ニテ貨布ノ二字アルアリ、亦、銅ナリ。たう（刀）ノ條ヲ併セ見ヨ。漢書、食貨志「天鳳元年、莽罷ニ大小錢ニ改作ニ貨錢ニ徑一寸、重五銖、文右曰ㇾ貨、左曰ㇾ泉、枚直ㇾ一、與ニ貨布ニ二品並行」（節文）字典「貨泉、卽、錢也」

くゎせん（名）［過錢］くゎれう（過料）ノ條ノ（一）ニ同ジ。

くゎぜん（副）［果然］（果然ノ條ヲモ見ヨ）ハタシテ。案ノ如ク。終ニ。史記、汲黯傳「天下謂ニ刀筆吏不ㇾ可ㇾ以爲ニ公卿ニ果然、必湯（張湯）也、令ニ天下重ㇾ足而立、側ㇾ目而視ㇾ矣」

ぐゎぜん（名）［瓦全］玉碎ノ條ヲ見ヨ。

ぐゎせんし（名）［畫牋紙畫仙紙］支那產ノ紙ノ名、白紙ヨリ厚ク、白ク、上品ニシテ、判モ、大ナリ。

くゎそ（名）［過所］過所ノ條ヲ見ヨ。

くゎぞく（名）［華族］（一）身分ノ貴キ家柄。貴族。華冑。晉書、王遐傳「遐字桓子、少以ニ華族ニ仕」柳宗元句「公以ニ令名ニ顯ニ于ニ華族ニ」盛衰記、一、一族官位昇進事「六波羅殿ノ御一家ノ公達ト云ヒテケレバ、華族モ、英オモ、面ヲ向ヘ、肩ヲ並ブル人ナカリケリ」（二）淸華ノ條ヲ見ヨ。（三）明治二年六月、公家衆ト、大名トヲ併セテ、一族トシテ賜ハリシ稱。（皇族ノ次、士族ノ上ニ居ル、而シテ世ニ之レヲ、公卿華族、大名華族、ト稱ス）同十七年ニ、五等ノ爵（其條ヲ見ヨ）ヲ設ケラレ、又、國家ニ功勞アリシ者ハ、特旨ヲ以テ、其階級ニ列セラル。

くゎそぶね（名）過書船ヲ見ヨ。

くゎた（名）［掛搭］（一）ニ、掛搭、又ハ、掛搭ニ作ル）くゎしゃく（掛錫）ノ條ヲ見ヨ。

くゎた（名）［夥多］オビタダシク、多キコト。タクサン。史記、陳涉世家、注「涉爲ㇾ王、宮殿帷帳、其物夥多」「實貨スル者、夥多ナリ」

くゎた（名）［過多］多キニ、過グルコト。オホスギルコト。（過少ニ對ス）

ぐゎたい (名) 過怠 (一)アヤマチ。オコタリ。〔[illegible]〕(二)過怠ノ科ニ因リテ、贖ヒヲ出サシムルコト。過料。過怠金。〔[illegible]〕

くゎだい (名) 過大 大キニ、過グルコト。オホキスグルコト。(過小ニ對ス)

くゎだい (名) 科第 學術ヲ試驗シ、其科目ニ因リテ、高下ノ次第ヲ定ムルコト。〔漢書、元帝紀「以此、科第郎從官」〕

くゎだい (名) 科題 科目ノ題。

くゎだい (名) 課題 詩文ヲ作ラシメムト、課スル題。

ぐゎだい (名) 畫題 畫ニ書クベキ事柄ノ題目。畫ノ圖案。〔[illegible]〕

くゎたいきん (名) 過怠金 過怠ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くゎたう (名) 過當 當然ニ過グルコト。程ヲ超ユルコト。〔[illegible]〕

くゎだう (名) 華道花道 立花、又ハ、生花ヲ習フベキ法。

ぐゎたう (名) 瓦當 〔字彙「當、底也」〕巴瓦ナドノ、圓キ端ノ、文字、模樣、アルトコロ。

ぐゎだう (名) 畫道 ヱノミチ。繪畫ヲ書キ習フ法。

くゎたく (名) 火宅 〔三界ハ、煩惱熾ンニシテ、安キコト無キコト、火災ニ罹レル家ノ如シトノ義、火宅の僧トハ、煩惱ヲ離レヌ意〕佛敎ノ語、現世ノ稱。婆婆。〔[illegible]〕吳竹集、二「世ノ中ニ、牛ノ車ノ、ナカリセバ、思ひノ家ヲ、イカデ出デマシ」〔[illegible]一乘ノ心〕火宅の僧ト云フハ、僧ニシテ、妻帶シテアルモノ、一向宗ノ僧、修驗者、ナド、是レナリ。〔[illegible]〕

ぐゎたふ (名) 臥榻 ネドコ。ネダイ。臥床。〔[illegible]〕

くゎだん (名) 果斷 能ク、是非、善惡、ヲ、決定スルコト。キッパリト、キメルコト。〔[illegible]〕

くゎだん (名) 花壇 前栽。庭園ニ、草花ヲ植ヱ置カムガ爲ニ、一段高ク、土ヲ盛リタル處。花畦。〔[illegible]〕云、コレハ、身共ガ花だんノ花ジヤ」

ぐゎだん (名) 畫壇 (一)畫ヲ展覽スル場處。〔[illegible]〕(二)畫人ノナカマ。

ぐゎち (名) 月 〔月輪ノ下略、此道ニ至ラズシテ、物知リタル面影ヲ映セドモ、粹(水)ニ及バヌ故ニ、水ノ月影ニ寄セテ云フ謎詞ナリト云フ〕江戸時代ノ〔[illegible]〕初、遊所ノ詞、不粹、ニ同ジ。〔吉原鏡(寫油)「男ニ金銀與レヨトハ、サスガニ、キタナク中シガタシ、云云、[illegible]、少シ御コシト云フ、云云、月ハ、[illegible]カト心得テ、マコトノきゃちヲオコシ申スコトアリ」太平御色道大鑑(延寶、箕山)人倫「五智トハ、當道不堪ノ者ヲ云フ」丹前能(元祿)「ココノ茶立女ヲ望メバ、與ニトモナヒ、花代ガ月、酒ヲツメバ、外ニ分、入レコトナリト語ル、月、分、トハ、イカナルコトゾ、且那衆ハ、イカイぐゎちカナ、月ハ、[illegible]、分ハ五分ト云フ、吉イ[illegible]ジナイカ(共一、京都ナリ、月ハ一ツ、[illegible]ハニツ、ト云フ事ヲトレリ、分トハ、其半分ヲ云フナルベシ、[illegible]九)〕

くゎちう (名) 華胄 〔華ハ、美稱、增韻「胄、裔也、系也、[illegible]」〕身分高キ家柄。華族。貴族。〔[illegible]〕

くゎちゃう (名) 火長 〔衞門府ノ衞士ノ火頭ヨリ選任セラルルヨリ云フト云フ、火頭ヲ見ヨ〕檢非違使ノ下ノ職、看督長ト、案主ト。〔[illegible]〕前ヲ追フベシヤ、否ヤ」

くゎちゃう (名) 課長 官衙ノ中ノ、課ノ長。(課ノ條ノ(二)ヲ見ヨ)

くゎちゃう (名) 課丁 よぼろノ條ヲ見ヨ。

くゎぢゃう (名) 火定 佛道ヲ修スル者、火ノ中ニ投ジテ、入定スルコト。火化。

くゎちゅう (名) 火中 (一)火ノ中。〔元史、[illegible]、自投火中〕(二)文書ナド、後ニ傳ハラムコトヲ憚リテ、火ノ中ニ入レテ、燒棄ツルコト。(丙丁童子ヲ併セ見ヨ)投火。〔[illegible]〕太平御覽、九百五十一、[illegible]〕

くゎちゅう (名) 渦中 水ノ渦卷ノ中。或ル事情ノ中ニ立入ルコト、渦中に入るト云フ。〔[illegible]、初不[illegible]佛、只因在渦州、陷入此游渦中〕

くゎぢゅう (名) 過重 オモスグルコト。度ニ過ギテ、[illegible]コト。

くゎちゅうのくんし (名) 花中君子 蓮花ノ異名。〔周敦頤愛蓮說「菊、花之隱逸者也、牡丹、花之富貴者也、蓮、花之君子者也」[illegible]花木志「[illegible]花、曰花中君子」〕

ぐゎちりん (名) 月輪 (一)輪ノ月、日輪ニ對ス。(二)月、ト云フニ同ジ。〔[illegible]〕

くゎつ (名) 活 (一)活クルコト。命ノ、助カルコト。活路。「死中ニ、活ヲ求ム」(二)柔術ノ語、氣絕シタル人ヲ、手ニテ、衝キナドシテ、活スコト、體中ニ、其法ヲ行フ所、數所アリ。コレヲ行フヲ、活ヲ入ルト云フ。〔[illegible]〕「生を入るる」ト見ユ、いきナルベシ。

くゎづ (名) 火途 三途ノ條ヲ見ヨ。

ぐゎつ (名) 月 年ノ内ノ、月ヲ稱スル語。ゲツ。〔[illegible]「正月」二月」三月」〕

くゎつえふじゅ (名) 闊葉樹 闊ク、平カナル葉ヲ有ツ樹。針葉樹ニ對スル語。

くわつ-がん (名) 活眼 鋭敏ニ、物ヲ見分クルコト。眼識ノ、明ラカナルコト。「活眼ヲ開キテ、活書ヲ讀ム」

くわつ-き (名) 火氣 火氣ノ急呼。「くわつきガ立ツ」「くわつきガ強イ」

くわつ-き (名) 活氣 活潑ナル氣力。イキイキシタル、イキホヒ。詩經、周頌、載芟、疏「殺之種實、皆含ニ此當ニ生之活氣一」

ぐわつ-き (名) 月忌 毎月ノ忌日。(年忌ニ對ス) 人車記、嘉應元年九月廿九日「依ニ故殿御月忌一云云、百種供物、御供養如レ例」 千載集、九、哀傷「仁和寺法親王、蓮花門院ニテ隱レハベリケル後、ぐわつきノ日、カノ墓所ニマカリケルニ」 吾妻鏡、六、文治二年六月十五日「安能寺務、後始ニ行佛神事一、於ニ寶前一、毎月廿五日、天神御月忌、屈ニ碩學八口一、勤ニ修八講一事」

くわつ-くわ (名) 活火 盛ンニ熾リテ居ル火。(溫火ナドニ對ス) 蘇軾詩「活水還須ニ活火煎一」

ぐわつ-くわうてんし (名) 月光天子 日光天子ヲ見ヨ。

くわつ-くわざん (名) 活火山 火山ノ條ヲ見ヨ。

くわつ-けい (名) 活計 (一)生活スルハカリゴト。クラシカタ。スギハヒ。生計。白居易詩「莫レ嫌ニ家貧活計微一」 運歩色葉集「活計」 (二)活計ノ限リヲ盡スト云フヨリ、ヤガテ、歡樂ノ意トナル。太平記、三十三、公家武家榮枯易ニ地一事「宴ヲ結ビテ、茶ノ會ヲ始メ、日日ニ寄合ヒ、活計ヲ盡スニ、異國、本朝ノ重寶ヲ集メ」 箱根靈驗躄仇討(享和、司馬芝叟)「活計歡樂、思ヒノ儘」

くわつ-げき (名) 活劇 (喜劇ヲ見ヨ) 演劇ニテ、扮裝ニテスル狀ヲ、常ノ實地ニ、活現スルコト。事情ノ、演劇ジミタルコト。「甲笑ヒ、乙泣キ、一場ノ活劇ヲ演ジタリ」

くわつ-げん (名) 活現 實地ニ、アラハルルコト。

くわつ-こ (名) 括弧 數字、又ハ、文章ノ間ニ挾ミテ、區別ヲ明ラカニスル爲ニ用キル記號。「 」『 』( ) 〔 〕 ( ) ｛ ｝等、種種アリ。

くわつ-ご (名) 活語 (一)現在、世ニ通用シテアル言語。古キ廢レタル言語ヲ、死語ト云フ。(二)活用語ノ略。はたらく(活用)ノ條ヲ見ヨ。

くわつ-さつ (名) 活殺 活カスト、殺スト。生殺。「活殺自在」

ぐわつ-さん (名) 月參 ツキマウデ。ツキマヰリ。北史、薛愼傳「毎月一參」

くわつ-じ (名) 活字 (整板ノ如ク固定セズ、何書、何版ニモ、活用シ得ル故ノ名カ) 文字ヲ、一字ヅツ、木、又ハ、銅ニ造リツケタルモノ。コレヲ組ミテ、植エナラベテ版トスルヲ、活字版、略シテ、活版ト云ヒ、コレニ、墨ヲ塗リ、白紙ニ摺リツケテ書籍ニ作ルヲ、活字本、活版木、略シテ、活本ト云フ。活字版ヲ、古クハ、一字板、又、植字板ト云ヒキ。聚珍版 我ガ邦ノ活字ハ、室町時代ヨリアリシヤウナレド、專ラ、朝鮮ヨリ傳ハレ、應永年中、彼ノ政府ノ事業トシテ、此事ヲ起シテ行ヒ居リシヲ、文祿ノ朝鮮役ノ時、將士、携ヘ歸リテヨリ、其業、廣マレリ。江戸時代ノ末ニ、鉛製ノ西洋活字ニ倣ヒテ行ヒシヨリ、更ニ一變シテ、今ハ、盛大トナリ、大小、種種、ニ作ル。夢溪筆談「慶曆中、有ニ布衣畢昇一、爲ニ活板一、用ニ膠泥一刻レ字」 遣老物語(享保)八「一字板ハ、高麗入アリシ故也」 文祿活字版、蒙求、跋、洛陽住居「甫庵道喜、新刊ニ一字板一、繡ニ此書一、以贈ニ童蒙之求一云云、文祿第五丙申小春、云云」(小瀬甫庵) 時慶卿記「文祿二年閏九月起レ工、勅版古文孝經、活字」 名物六帖、器財、一「字印 銅版活字」 倭訓栞、うゑじ「活板ヲ云フ、植字ノ義ナリ」 經籍答問「官刻ノ書、云云、國初、御公命ニテ出來候ハ、活字板ニ可レ被ニ存候」

くわつ-じ-ばん (名) 活字版 前條ヲ見ヨ。

くわつ-じ-ぼん (名) 活字本 前前條ヲ見ヨ。

くわつ-じん-ぐわ (名) 活人畫 演劇ノ類、扮裝シ、姿勢ヲ成シテ、動カズ、畫中ノ人ノ如ク見スルモノ、近年、西洋風ニ倣ヒテ、集會ノ餘興ナドニ行フ。

くわつ-じん-けん (名) 活人劍 殺人刀ノ條ヲ見ヨ。

くわつ-しや (名) 滑車 (圓轉滑脫ノ車ノ意カ) セミ。輪ノ周圍ニ溝ヲ刻リタルモノニ、繩ヲカケテ廻轉セサスルモノ、高ク、低ク、設ケテ、重キ物ヲ動カシ、又、引クニ用キテ、力ヲ省ク機械トス。

くわつ-しよ (名) 活書 敏活ナル書。イキイキトシタル書。「活眼ヲ開キテ活書ヲ讀ム」

くわつ-じよ (副) 豁如 心ノ、ヒロラカナル狀ニ云フ語。史記、高祖紀「爲レ人仁而愛レ人、喜レ施、意豁如也」 太平記、六、大塔宮御ニ赤松入道圓心令旨一事「其意、豁如トシテ、人ノ下風ニ立ン事ヲ思ハザリケレバ」

ぐわつ-しよく (名) 月蝕 日蝕ノ條ヲ見ヨ。

ぐわつ-すゐ (名) 月水 月經ニ同ジ。運歩色葉集「月水(女)」

くわつ-せき (名) 滑石 鑛物ノ名、色、白ク、光潤ナルヲ上品トス、又、靑ミ、或ハ、黄ミアルアリ、蠟石ヨリ柔カナリ、裱裝工、コレヲ用キテ、紙ニ刷シ、粉ニ代ヘ用キナドス、最モ、白膩ナリ。

くわつ-ぜん (副) 豁然 ガラリト、打開ケタル狀ニ云フ語。陶潛、桃花源記「初極狹纔通レ人、復行數十歩、豁然開朗」「豁然トシテ悟ル」

くわつ-そう (名) 滑走 飛行機ノ、地ヲ離レムトスル時、機關ヲ廻ラシテ、動力ヲ起スコト。

ぐわつ-そく (名) 月蝕 ぐわつしよくニ同ジ、日蝕ノ條ヲ見ヨ。

ぐわつ-たい-そく (名) 月帶蝕 日蝕ノ條ヲ見ヨ。

くわつ-たう (名) 活套 (集韻「套、叨號切、凡、物重沓者、爲レ套、今之沓杯曰ニ套杯一」重ネ、又、取分クルヨリ、活ト云フカ) 器ノ、重入子ナルモノ。

くわつ-たつ (名) 豁達 闊達 人ノ氣象ノ、大樣ニシテ、迫ラヌコト。豁如タルコト。陸贄、奏議「漢高、豁達大度、天下之士、至者納用」(前漢ノ高祖) 後漢書、馬武傳「武爲レ人嗜レ酒、闊達敢言」註「闊達、大度也」 運歩色葉集「豁達」

くわつ-だつ (名) 滑脫 善ク、メグルコト。ウマク、事ニ應ズルコト。「圓轉滑脫」

くわつち（名）猾智 狡猾ナル智、ワルガシコキチヱ、ワルヂヱ。

ぐわつてんし（名）月天子 日光天子ノ條ヲ見ヨ。

くわつとう（名）活東 蝌蚪ニ同ジ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。

くわつどう（名）活動 活潑ニ、動クコト。イキイキト、ハタラクコト。活躍。

くわつどうしやしん（名）活動寫眞 寫眞ヲ、幻燈ニテ映シテ、人物ノ、活動シ居ルガ如ク見スルモノ、數百枚、續キタルふいるむニ、寫眞機ニテ、物ノ活動セル現狀ヲ、連續シテ寫シ、同ジ速度ニテ幻燈ニ映スニ因リテ、現狀ノ如キ活動ヲ現ズルナリ。

ぐわつぱい（名）月牌 日牌ノ條ヲ見ヨ。

くわつぱつ（名）活潑 〔活潑潑ノ略、魚ノ躍ル狀ヲ、潑潑ト云フ、范仲淹ノ詩、潑潑晴波上、彼中ニコレニ、活ノ字ヲ冠ラセタルナリ、次條ノ語モ、是レナリ〕(一)魚ノ、ばちばちト躍リハネル狀ニ云フ語。〔[illegible]〕(二)勢ヒ好キ狀ニ云フ語。テキハキトシタルコト。イキイキトシタルコト。

くわつぱつぱつち（名）活潑潑地 〔前條ノ語原ト、的ノ條トヲ見ヨ〕前條ノ(二)ニ同ジ。中庸、註「此一節、子思吃緊爲人處、活潑潑地、讀者其致思焉」朱子語類「[illegible]」活潑潑地「[illegible]」活潑潑地ナルマヲ、死殺殺地ト云フ。

〔[illegible]也〕

くわつぱん（名）活版 活字ノ條ヲ見ヨ。

くわつぱんぼん（名）活版本 活字ノ條ヲ見ヨ。

ぐわつぴ（名）月日 〔月日ノ湯桶讀〕ツキヒ。某ノ月、某ノ日。「月日ヲ記スベシ」又、其月日ノ定マラヌトキ、月、日、ノ字ノミ記シ置クヲモ云フ。

くわつぶつ（名）活物 イキモノ。生キテ居ルモノ。生物。(死物ニ對ス)

くわつぶつ（名）活佛 (一)イキボトケ。[illegible] 水滸傳、第四回「莊家門不省得師父是活佛去處來的」(二)活佛。喇嘛ノ條ヲ見ヨ。

※くわつべん（名）活辯 活動寫眞ノ辯士ヲ、略シテ云フ俗語。映畫ノ傍ニ立チテ說明スル者ナリ。

くわつぽ（名）闊步 (一)大股ニ歩ムコト。魏文帝、說文論「[illegible]闊步高談、無危懼之心」(二)他ヲ、眼下ニ見、威ヲ成シテフルマフコト。「天下ヲ闊步ス」

くわつぽん（名）活本 活字ノ條ヲ見ヨ。

くわつもく（名）刮目 〔說文「刮、摩切也」〕目ヲ、拭ヒコスルコト。物ヲ、明ラカニ見ムトスル時ニスルワザナリ。「三國志、吳志、呂蒙傳、注「士別三日、卽更刮目相待」」

くわつやく（名）活躍 活動ニ同ジ。

くわつやくきん（名）括約筋 口、眼、肛門、等ノ孔端ヲ締ムル、特殊ノ筋。擴大作用ヲナスモノト、收縮作用ヲナスモノトノ、二種ノ纖維ヨリ成ル。

くわつゆ（名）蛞蝓 ナメクヂ。本草、蛞蝓、生二大山、池澤、及、陰地沙石、垣下ニ[illegible]

くわつよう（名）活用 (一)活カシテ、モチヰルコト。善キ手段ニツカフコト。利用。(二)語學ノ語ニ、語尾ノ變化。はたらく(活用)ノ條ヲ見ヨ。

くわつようげん（名）活用言 はたらく(活用)ノ條ヲ見ヨ。

くわつようご（名）活用語 はたらく(活用)ノ條ヲ見ヨ。

くわつりよく（名）活力 活動スル力。生活スル力。「活力充實」

くわつれき（名）活歷 〔活歷史ノ略ニテ、其古態ヲ活現セシムル意〕古歷史ノ脚色ノ演劇ヲ、從來ノ衣裳、さかなし、ナドヲ改メテ、其當時ノ實地ノ狀ニシテ演ズルコト。九代目市川團十郎ノ爲始メタル技ニテ、ソレニツキテ唱フル語ナリ。

くわつろ（名）活路 (一)辛ウジテ、助カリ活クベキ路。「萬死ニ、一活路ヲ開ク」(二)生活ノ手段。「活路ヲ求メ[illegible]」

くわつろう（名）栝樓 キカラスウリ。[illegible] 栝樓、注「栝樓、一名、果臝、一名、玉瓜、亦、日王瓜」

くわてい（名）課程 課スル仕事ノ程度。[illegible]

くわてい（名）花亭 (一)花園ノ家。朗詠集、上「花亭我醉[illegible]」(二)花御所ノ條ヲ見ヨ。

くわてう（名）花鳥 はなト、とりト。花鳥風月ノ條ヲ見ヨ。

くわてう（名）花朝 次次條ヲ見ヨ。

くわでう（名）科條 オキテ。法律。條目。貴ビテハ、金科玉條ト云フ。戰國策、「科條既備、民多僞態」

くわてうげつせき（名）花朝月夕 支那ニテ、花朝ハ、陰曆、二月十五日ノ稱。月夕ハ、八月十五日。春秋ノ、樂シムベキ時。[illegible] 下學集、上、時節門「花朝、二月也、[illegible]」花朝月夕、世俗[illegible]二月十五日、[illegible]八月半、爲二春秋之中一、故以二二月半一爲二花朝一、八月半爲二月夕一也」

くわてうのつかひ（名）花鳥使 好色ノ媒介。艷書ノ使者。[illegible] 花鳥使[illegible]「[illegible]以レ是爲二花鳥之使一」

くわてうふうげつ（名）花鳥風月 花ヲ觀、鳥ノ聲ヲ聞キ、風ニ嘯キ、月ヲ眺ム、風雅ノ情ニ、對象トナル景物ノ稱。花鳥。花月。轉ジテ、風流韻事ノ意トモナル。庭訓往來、二月「花鳥風月、好士之所レ樂」

ぐわでふ（名）畫帖 畫ヲ集メテ作レル折本。

くわてん（名）花天 花ノ、滿開シテ、空ニ滿チタルコト。[illegible]詩「滔滔花天廿[illegible]」

くわでん（名）訛傳 オヨヅレ。無根ノ

取沙汰。流言。

くゎ-でん-の-くつ (句) 〔瓜田之履〕 瓜田ニテ、脱ゲタル履ヲ、俯シテ穿ケバ、瓜ヲ盗ムカト疑ハレ、李ノ枝ノ下ニテ、手ヲ上ゲテ冠ヲ直セバ、實ヲ取ルカト怪シマル。凡テ、嫌疑ヲ受クベキ事、痛クナキ腹ヲ探ラルル振舞ハ、スベカラズ、トノ意ニテ、瓜田に履を納れず、李下に冠を整へずト云フ。 文選、君子行、古詩「君子防ニ未然一、不レ處ニ嫌疑間一、瓜田不レ納レ履、李下不レ整レ冠一」

くゎ-と (名) 〔科斗蝌蚪〕 〔説文「科、程也、从レ禾从レ斗、斗者、量也」漢書、王莽傳「作ニ威斗一、長二尺五寸」長キ柄アル、大ナル圓キ枡ナリ、おたまじゃくしノ形、頭、圓大ニシテ、尾、細長シ、活東ハ、蝌蚪ト音通ナリ〕 (一)支那ニテ、蝦蟆子ノ異名。カヘルゴ。オタマジャクシ。一名、活東。 莊子、秋水篇「還ニ奸蟹與ニ科斗一、莫ニ吾能若一也」 (二)蝌蚪の文字、蝌蚪の書、ト云フハ、支那古代ノ文字ノ稱、篆ノ、古體ノモノナリ。古ヘハ、筆紙ナカリシカバ、竹簡ニ、竹挺ニ漆ヲ點ジテ、落シテ書キタレバ、落シタル所、溜マリテ、末ハ長ク引キ、頭、太ク、尾、細長シ、形、かへるごニ似タレバ、名ヅク。 書經、序「科斗文字」疏「科斗、蟲名、蝦蟆子也、書形似レ之」 [illegible]「蝌蚪、本作ニ科斗一」爾雅、釋魚、注「科斗、活東、蝦蟆子也」疏「頭圓大而尾細、古文似レ之」

くゎ-と (名) 〔火途〕 三途ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-と (名) 〔過渡〕 (一)川ヲ渡ルコト。 (二)物事ノ、舊態ヨリ、新態ニ移リカハリツツアル時、未ダ、整頓シテ成ラザル時ニ云フ。(英語、Transition. ノ譯語) 「過渡ノ時代」過渡期」 (三)過渡ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-ど (名) 〔過度〕 度ニ過スコト。程合ノ、過ギタルコト。 史記、高祖紀「宮闕壯甚、云云、何治ニ宮室一過度也」 [illegible]往來、十一月「房内過度」「過度ノ勉強」

ぐゎ-と (名) 〔畫圖〕 繪。圖。繪畫。圖畫。 莊子、田子方篇「宋元君將レ畫レ圖」 李白詩「九天開出一成都、萬戸千門入ニ畫圖一」 吾妻鏡、三、壽永三年正月廿一日「藤原爲久、云云、無雙畫圖達者也」

くゎ-とう (名) 〔火頭〕 〔兵士十人ヲ一火トシ、火毎ニ、白丁ヲ採リテ、火頭トス、火ノ條ヲ見ヨ〕 衞士ノ、炊飯ニ從事スル者。此者ノ内ヨリ、火長ヲ選任セラル。 賦役令、義解「凡、役ニ丁匠一、皆十人外、給ニ一人一充ニ火頭一」註「謂ニ火頭一者、厮丁也、執ニ炊爨之事一、故曰ニ火頭一」

くゎ-とう (名) 〔裹頭〕 僧徒ノ、袈裟ニテ頭ヲ全ク裹ミ、尙、覆面シテ、兩眼ノミ出ス裝ヒ。袈裟頭巾。 盛衰記、廿四、「胡億求舎門弟等、留メカネテ、袈裟ニテ頭ヲ裹ミ、面ヲ隱シテ、和尙ノ裳裾ヲ留メケリ、裹頭ノ十衆ト云フハ、コレヨリ又始マレリ」

くゎ-とう (名) 〔瓦燈〕 〔特ニ、清音ニ云フハ、談合、漢道、群集、ナドモアリ〕 (一)燈火ヲ點ズル具、陶製、方形、ニシテ、上、窄ク、下、廣ガリテ、傍腰、又ハ、將棋頭ノ形ヲナス。 [illegible]「瓦燈、燈籠」 運歩色葉集(天文)「瓦燈」 (二)スベテ、上、窄ク、下、廣ガリタルヲ、瓦燈形ト云ヒ、えふいり(葉入)ナルニモ云フ「瓦燈窓」瓦燈垣」瓦燈口」瓦燈額」ナド、是レナリ。

くゎ-とう-がき (名) 〔瓦燈垣〕 垣ニ、瓦燈形ノ出入口アルモノ。圭竇。

くゎ-とう-がた (名) 〔瓦燈形〕 瓦燈ノ上部ノ形。瓦燈、幷ニ、瓦燈額、ノ條ヲ見ヨ。

くゎ-とう-ぐち (名) 〔瓦燈口〕 〔盛衰記ニ、額附ニ、燈アリト見ユ、釣燈籠アリシナルベシ、ひたひつきノ條ヲ見ヨ〕 古名、ヒタヒツキ。壁ヲ切拔キナドシテ、上ノ方ヲ瓦燈形ニ塗リ作レル出入口。今多ク、茶室ノ勝手口ナドニ、低ク潛ルベク作レルヲ、茶道口トモ云フ。圭竇。

くゎ-とう-せいぢ (名) 〔寡頭政治〕 〔英語、Oligarchy. ノ譯語〕 少數ノ人ガ、共同ニテ行フ、一種ノ共和政治。又、寡人政體。

くゎ-とう-びたひ (名) 〔瓦燈額〕 〔瓦燈形ノ額附〕 女ノ額附ノ髮際ノ形ノ名、今云フ、富士額、若シクハ、雁金額ナルベシ。 色道大鏡(延寶)、芽出三「額ノ取リヤウハ、丸キニ若クハナシ、云云、瓦燈形、[illegible]、固クコレヲ制ス」 [illegible]ばなし(貞享)「木使ノ女、手拭巾淺ク、火燈びたひヲ剃リヒロゲ」 好色一代女(貞享)、西鶴、四、「茶屋女ノ[illegible]、額際ヲ火燈ニ取テ、[illegible]」 [illegible]「元祿ニ女ノ額附「丸ビタヒ、火燈口」

くゎ-とう-まど (名) 〔瓦燈窓〕 窓ノ上部、左右ノ壁ヲ、瓦燈形ニ塗リ造レルモノ。

くゎ-とく (名) 〔寡德〕 薄德ニ同ジ。 左傳、宣公十一年「[illegible]」 [illegible]、元帝[illegible]

くゎ-とん (名) 〔火遁〕 火中ニ入リテ遁ルル、一種ノ隱形ノ術。

ぐゎ-ない (名) 〔臥內〕 臥處ノ內。 史記、信陵君傳「晉鄙之兵符、常在ニ王臥內一」 落間集、三、公事、萬壽二年、云云「權大納言行成卿、ソノ失錯ヲ扇ニ記シテ、臥內ニウチ置カレタリ」

くゎ-なふ (名) 〔過納〕 正當ニ納ムベキ高ヨリ、多ク納メタルコト。コレニ反シテ、多ク拂ヒタルヲ、過渡ト云フ。

くゎ-なん (名) 〔火難〕 〔水難、等ニ對ス〕 火ノワザハヒ。火災。 韓非子、喩老篇「故白圭無ニ水難一、丈人無ニ火難一」 運歩色葉集「火難」

くゎ-にゅう (名) 〔貫乳〕 陶磁器ニ云フ語。くゎんにゅうノ條ヲ見ヨ。

くゎ-ねん (名) 〔果然〕 尾長猿ノ漢名。 宋國史補「揚州取ニ一果然一、數十果然可レ得」 倭訓栞、後編、くゎねん「果然ト書ケリ、面白、毛ノ如ク、尾、體ニシテ、長シ、夜啼ル時ハ、其尾ニテ面ヲ掩ヒ臥ス、人ニ捕レテ、自ラ嚙ムベシ」

くゎ-のう (名) 〔化膿〕 腫物、疵口、ナドノ、膿ヲ持ツコト。

くゎ-の-くつ (名) 〔靴沓〕 束帶ノ時ニ穿ク沓、革製、黑塗、ニシテ、上部ノ筒ニ錦ヲ用キ、革ノ細紐ニ金具ヲツケタルニテ結ブ。 天治字鏡、十二「[illegible]」 [illegible]「靴、亦作レ[illegible]、化乃久ツ」 [illegible]「[illegible]妃[illegible]馬矢ハ自作レ靴」[illegible]靴、胡履也」

くゎ-ほう (名) 〔果報〕 因果ノ應報。結果。多クハ、善キニ云フ。(因緣ノ條ヲ見ヨ) 涅槃經「護ニ正法一、得ニ大果報一」 阿毘曇論「得ニ之果報一」 南史、江革傳「果報不レ可レ不レ信、[illegible]」 榮花物語、廿七、衣珠「スベテ、サルベキ昔ノ世ノ果報ニコソハト、思ヒ給ヘレバ」 保元物語、三、「[illegible]果報ハ[illegible]テ、[illegible]モ失セ、形モ[illegible]テ」

くゎはう (名) [過言] [illegible]コト。[illegible]ガラ、人ノ言ニ[illegible]コト。

くゎばう (名) [過房] 房事ノ度ヲ過スコト。

ぐゎはう (名) [畫舫] 彩色シタル船。[illegible]「[illegible]八九曲、畫舫[illegible]」

ぐゎはう (名) [畫報] 出來事ヲ畫ニ描キテ、報告スルコト。又、其畫。「世界畫報」

くゎほうまけ (名) [果報負] 「名前負ナドト同趣」餘リニ果報ナクシテ、却ッテ、不運ニ陷ルコト。

くゎはく (名) [科白] 演劇ノせりふ。

ぐゎはく (名) [畫伯] [說文「伯、長也」] (一)畫道ニ達シタル人。畫ノ大家。(二)畫人ノ敬稱。

くゎはん (名) [窩伴] [窩ハ、正音、わ] 仲間。友。(小說ノ語)

くゎはん (名) [過半] 半ヲ、過グルコト。[illegible]

くゎはんすう (名) [過半數] 數ノ、半分以上。[illegible]

くゎひ (名) [花費] ハヅノツヒ。浪費。

くゎび (名) [華美] ハナヤカニ、美シキコト。ハデナルコト。[illegible]

ぐゎび (名) [畫眉] 黛ニテ、眉ヲ畫クコト。[illegible]

くゎびん (名) [過敏] 度ヲ超エテ、鋭敏ナルコト。スルドスグルコト。「神經過敏」

くゎビン (名) [花瓶] ハナガメ。插花ノ瓶。花瓶。[illegible]

ぐゎびゃう (名) [臥病] 病ミテ、臥スコト。[illegible]

くゎふ (名) [火夫] ヒタキ。汽罐ノ火ヲ焚ク者。

くゎふ (名) [貨布] 貨泉ノ條ヲ見ヨ。

くゎふ (名) [寡婦] ヤモメ。詩經、小雅、北山之什、大田篇「彼有遺秉、此有滯穗、伊寡婦之利」

くゎふうびゃう (名) [花風病] コヒヤミ。

くゎふきふ (名) [過不及] 過ギタルト、及バザルト。(何レモ、相當ヲ外ルル意) [illegible]「[illegible]過不及之差一矣」

くゎふく (名) [禍福] ワザハヒト、サイハヒト。[illegible]

くゎふそく (名) [過不足] 過ギタルト、足ラザルト。

くゎぶつ (名) [貨物] 代物。品物。史記、[illegible]

くゎふん (名) [花粉] 植物ノ花ノ雄蕊ニ生ズル、粉ノ如キモノ、色、黃ナリ。蟲、又ハ、風ノ媒介ニ因リテ、雌蕊ニ附着シテ、生殖ノ作用ヲナス。[illegible]

くゎぶん (名) [瓜分] [瓜ヲ切ルガ如クニ分ツナリ] 土地ヲ、分割ツコト。戰國策、[illegible]「天下將因二秦之怒一、乘二趙之弊一、而瓜二分之一」漢書、賈誼傳「高皇帝瓜二分天下一、以王二功臣一」

くゎぶん (名) [過分] (一)分際、分量ニ過ギタルコト。程ヲ超エタルコト。左傳、[illegible]八年「[illegible]」平治物語、一「信賴信西不快事」「官途ノミニアラズ、俸祿モ猶心ノ儘也、角ノミ過分也シカドモ、猶不レ足シテ、云云」吾妻鏡、三、元曆元年十一月廿一日「汝不レ知二產財之所一[illegible]過分也」(二)過分ノ扱ヒト云フ意ヲ含メテ、身ニ餘リテ、カタジケナキコト。謠曲、[illegible]「[illegible]過分ニ存ジ候」「御[illegible]メニアヅカリ、過分ノ至リ」

くゎぶん (名) [寡聞] 聞クコト、見ルコトノ、スクナキコト。見聞ノ、狹キコト。[illegible]

くゎへい (名) [貨幣] カネ。ゼニカネ。金錢。(かねノ條、見合ハスベシ) 政府ヨリ發行スルニ、金貨、銀貨、銅貨、アリ、硬貨ト云フ。紙ナルヲ、紙幣トス。後漢書、光武紀「[illegible]貨幣雜用布帛金粟一」

くゎへい (名) [花瓶] ハナイケ。花瓶。[illegible]

ぐゎへい (名) [畫屛] 畫ヲ書キタル屛風。[illegible]

ぐゎべい (名) [畫餠] [下ノ出典ヲ見ヨ] 事ノ、用ニ立タヌコト。用キルベカラザルコト。[illegible]「[illegible]」「志、畫餠ニ屬シタリ」

くゎへいせん (名) [火兵戰] [火兵ハ、火ノ兵器、火器] 銃砲ノ戰ヒ。火戰。(白兵戰ニ對ス)

くゎへう (名) [華表] (一)支那ニテ、門前、又ハ、大路交叉ノ處ニ建テタル標木、一柱ナルアリ、二柱ナルアリ、陵墓ノ前ニ建ツルアリ。[illegible] 白氏文集、十九「第三松[illegible]」[illegible] (二)華表ノ字、我ガ國ニテハ、神門、即チ、鳥居ノ事ニ用キラル。[illegible]「[illegible]鳥居、唐云二花表一」

くゎへん (名) [火片] ヒノコ。

くゎへん (名) [花片] ハナビラ。元稹詩「[illegible]」[illegible]花片一

くゎべん (名) [花瓣] ハナビラ。群芳譜「[illegible]」[illegible]

くゎほ (名) [花圃] ハナバタケ。ハナゾノ。[illegible]

くゎぼく (名) [花木] 花ノ咲キタル木。[illegible]四百五「唐明皇時、沈香亭前牡丹一株、朝則深碧、暮則深黃、夜則粉白、晝夜之間、香色各異、帝曰、此花木之妖也」

くゎぼく (名) [華墨] 他ノ手紙ノ敬稱。華翰。「華墨拜見仕候」

くゎん (名) [官] (一)オホヤケ。カミ。朝

廷。政府。(私ニ對ス)「官立」「官業」「官民」(二)ツカサ。ミヤヅカヘ。ツトメ。政府ニ奉仕シテ、ソレゾレノ事ヲ執ル分際ノ稱。役目。古ヘ、官、省、寮、司、等ノ位階ノ相當アルヲ、官ト云ヒ、又、攝政、關白、參議、ヨリ、藏人所、撿非違使、ナド、令外ニテ、相當ナキヲ、職ト云ヒテ、分テリ。官ニハ、任ずト云ヒ、職ニハ、補すト云フ。書經、周官篇「官不必備、惟其人」孟子、告子、下篇「士無世官」左傳、成公二年「敢告不敏、攝官承乏」「官ニ任ズ」「官ヲ辭ス」(三)ツカサ。政事ヲ執行スル所。役所。官衙。(四)〔だいぢやうくわん(太政官)〕ノ略。記制式「其臨時祭祀、所司隨事、館攝前祭六日進官」枕草子、八、八十三段「官ノつかさノ朝所」「官符」「官印」「官外記」(五)體ノ中ノ官。(五官ノ條ヲ見ヨ)孟子、告子、上篇「耳目之官」「視官」「聽官」

くわん (名) 管 (一)クダ。莊子、秋水篇「用管闚天、用錐指地」「竹管」「銅管」「土管」(二)管作リノ樂器。笛、笙、篳篥、ヲ三管ト云フ、三絃ト合ハセテ、管絃ト云フ。(三)筆。「管ヲ取ル」(四)笛、筆、ナド數フル接尾語ニモ用キラル。「尺八一管」「筆十管」(五)小銃ノ火門ニ、雷藥ヲツケテ被ラシムルモノ、銅製ニテ、甚ダ短小ナル管ノ如シ、打金ニテ打チテ、火ヲ發セシム。

くわん (名) 棺 ヒツギ。屍ヲ納ムル箱。其上ヲ覆フニ用キル箱ヲ、槨ト云フ。禮記、曲禮、下篇「在床曰尸、在棺曰柩」韓非子、備内篇「匠人成棺、則欲人之夭死」賦役令「凡丁匠赴役、身死者、給棺」榮華物語、三十、鶴林「御棺ハ、備ミソメサセ給ヒシ日ヨリ、造ラセ給ヘレバ、ヤガテ、入棺シ奉リツ」棺を蓋ひて、事、定まる、ト云フハ、人ノ生涯ノ是非、善惡ノ論ハ、死シテ始メテ定マルト云フナリ。晉書、劉毅傳「丈夫、蓋棺事方定」杜甫、贈蘇徯詩「丈夫蓋棺事始定、君今幸未成老翁」

くわん (名) 館 舘 (一)タチ。タテ。ヤカタ。館舍。孟子、告子、下篇「交(曹交)得見於鄒君、可以假館、願留而受業於門」左傳、莊公元年「秋築王姬之館于外」(二)大ナル建物。南齊書、武帝紀「館在孫陵崗」「書籍館」「博物館」

館を捐つト云フハ、貴人ノ死スルヲ云フ。死ト云フヲ忌ミテ、住家ヲ捨テテ去ルト云フナリ。戰國策、趙策「今奉陽君捐館舍」史記、范雎傳「君卒然捐館舍」

くわん (名) 冠 (一)カンムリ。史記、項羽紀「楚人、沐猴而冠耳」同、儒林傳「冠雖敝必加於首、履雖新必關於足」漢書、王吉傳「世稱、王陽在位、貢公(貢禹ノコト)彈冠、言其取舍同也」「寶冠」「月桂冠」冠を挂くトハ、辭職スルヲ云フ。けいくわん(挂冠)ノ條ヲ見ヨ。(二)加冠。元服。禮記、曲禮、上篇「二十曰弱、冠」同、冠義篇「冠者禮之始也、是故、古者聖王重冠」聖德太子傳曆、上、崇峻天皇三年「冬十一月、太子冠焉」(三)頭。長。首位。史記、項羽紀「楚兵冠諸侯」「其功、衆ニ冠タリ」

くわん (名) 貫 〔錢ヲ、緡ニ貫ク義、說文「貫、錢貝之貫」漢書、食貨志「京師之錢、累巨萬、貫朽而不可校」〕支那ニテ、古ハ、緡ニテ、錢千枚ヲ貫キタルナリ、往時ハ、普通ノ錢ハ、皆、穴明ナリキ」一文錢、一千枚ノ稱。九六百ニテハ、九百六十枚。金史、宣宗紀「興定元年二月、初用貞祐通寶、凡一貫、當貞祐寶劵千貫」續紀、五、和銅四年十月「詔、錢一十貫」神祇官式、園井韓神三座祭、神祭料「錢一貫文」云云、「錢八百文」宇津保物語、國讓、下、三十「ぜに二十くわん、一緡ニ入レテ、物オホヒテ、結ヒタリ」徒然草、六十段「坊ヲ百貫ニ賣リテ、彼是三萬疋ヲ、芋頭ノ錢ト定メテ、京ナル人ニ預ケ置キテ、十貫ヅツ取寄セテ、芋魁ヲ、乏シカラズ召シケル」相國寺供養記、明德三年八月廿八日、布施「導師、鵝眼三千貫」

くわん (名) 貫 〔支那、唐代ノ初鑄ノ開元通寶錢ノ、一文ノ目方ニ起ル、卽チ、一文ガ一文目ニテ、千文ガ貫ナリ(前條ヲ見ヨ)我ガ寬永錢ノ初鑄ノ一文モ、コレニ同ジト云フ〕秤目ニ、千匁ノ稱。合類節用集(元祿)十、數量「一貫、匁、千錢目也、其重猶二錢十貫文之義」元祿板、新編塵劫記「金千枚ノ重サ、四十四貫目ナリ」

くわん (名) 貫 〔錢ノ貫ヨリ移レル語ナリ、分米ヲ錢ニテ代納スル、分錢ヨリ起ル〕田ノ段別、領地、知行ノ納租ノ高ヲ云フ語。鎌倉時代ノ中頃ヨリ、田ノ町段積ニ代ハレル稱ナリ、室町時代ノ永高ニモ移リテ、稱セリ、コレヲ、貫積、又、貫高ト云フ。一貫文ハ、凡ソ後ノ十石ニ當ルト云ヘド、其高、各地ニテ同ジカラザリキ。(永樂錢ノ條ヲ見ヨ)天正年中、石直トテ、石積トナリ、江戶時代ニ至リテ、知行幾石ト云ヒ、石高ト云フコトトナリヌ。然レドモ、仙臺藩ニテハ、明治以前マデハ、藩士ノ知行、家祿ニ、尙、幾貫文ト云ヒ、一貫文ハ、十石ナリキ。(現石ナリ)太平記、三十五、青砥左衞門事「近國ノ大庄八箇所ヲゾ賜ヒケル、左衞門、大ニ驚キテ、是レハ、今、何事ニ、三萬貫ニ及ブ大庄、賜ハリ候フヤラム、云云」(節文)神皇抄(奧書、延文五年)「武藏國、飯倉御厨、當時四貫文」淨瑠璃物語(一條兼良作ト云フ、校訂評釋本)十二段、御曹司東下ノ末文、矢矧ノ宿、六萬貫ノ所ヲ、君ニマキラスベシ」(義經ノ、淨瑠璃姬ニ云フ詞、是レハ、當時ノ永高ニテ云ヘルナラム)田園類說「鎌倉將軍家ノ末、京都將軍家ノ初ヨリ、田地ニ、貫ト云フ事始マリテ、知行、領地ナド、直チニ此貫高ヲ用テ、東國、西國、四國、一統、行ハレシナリ、其後、關東ニテ、永高ト云フ事、始マリシガ、世上ニテ、此貫高ト一ツ事ト思フハ、誤レリ」

くわん (名) 卷 (一)マキ。卷物。轉ジテ、書籍ヲモ云フ。宋書、陶潛傳「少年來好書、偶愛閑靜、開卷有得、欣然忘食」蘇軾詩「掩卷輒長吁」韓愈、與陳給事書「獻近所爲復志賦已下十首爲一卷、卷有標軸」「上ノ卷」「下ノ卷」「卷ノ初メ」(二)同上ヲ數フル接尾語ニモ用キラル。「卷物三卷」「書物五卷」「一卷」

くわん (名) 澣 浣 〔韻會「澣、濯衣垢也」〕旬ニ同ジ。支那、唐朝ノ制ニ、官人、一旬ニ、一日ノ暇ヲ賜ハルヨリ出デタル語ナリ。楊升庵文集「上澣、本、唐官制、十日一休沐、今聽用之、或省作浣」下學集、上、時節門「上澣、中澣、下澣、上旬、中旬、下旬之義也、凡百官、在朝廷而勤仕時、毎月、一旬一度、出私宅澣衣服、謂之上澣也、又、云上浣、中浣、下浣、往來書狀之類、所用之語也」

くわん (名) 鐶 環 〔鐶トモ書クハ、丸金ノ合字〕(一)タマキ。漢紀「楊寶、云云、與寶雙玉環曰、好令掌此環、累世爲三公」(二)金屬ノ輪。(三)鐶ニ、切目アリテ、專ラ、茶釜、飯釜、ノ兩耳ヲ貫キテ、釜ノアゲオロシノ用トスルモノ。鉉。茶窻間話、上「奈良鐶トイフハ、奈良ノ鍛冶ガ鑄シ鐶ナリ」槐記「角環コトハ、大事ノ祕也、釜ニヨリテ用ユ、釜ノ環付ノ大手ナルハ、丸キ環ニテハ、ユブル故ニ、角ヲ用ユ」(四)箪笥ノ引出シナドニ着クル取手、引手ノ類ノ、輪ヲナセルモノ。

くわん (名) 鰥 〔釋名「鰥、愁悒不寐、目、恆鰥鰥然也、故鰥字從魚、魚目恆不閉」〕ヤモヲ。鰥寡孤獨ノ條ヲ見ヨ。書經、堯典篇「有鰥在下、曰虞舜」孔傳「無妻曰鰥」

くわん (名) 款 〔博雅「款、誠也」〕相、善ミスルコト。好。北史、盧柔傳「與三荊之地、

通ニ欵於梁國ニ」 魏收、移梁文「有ニ背納レ欵、末レ挙征伐ニ」

くゎん (名) 【款】 〔款狀ノ款ニ起ル(其條ヲ見ヨ)字典「款、科也、今、章疏言ニ列款ニ、謂ニ科條列レ之ニ」〕 箇條。部ノ内ノ小區分。 會計法、第六條「歳入、歳出ノ總豫算ハ、之ヲ、經常、臨時、ノ二部ニ大別シ、各部中ニ於テ、之ヲ、款、項、ニ區分スベシ」

くゎん (名) 【寬】 ユルヤカナルコト。(嚴ニ對ス) 書經、舜典篇「寬而栗」 左傳、昭公廿年「寬以濟レ猛、猛以濟レ寬、政是以和」「處分、寬ニ過ク」

くゎん (名) 【觀】 (一)見ルコト。ミエ。アリサマ。ヤウス。狀態。 孟子、梁惠王、下篇「吾何修而可ニ以比ニ於先王之觀ニ也」 北夢瑣言「朱溫盛飾迎ニ入十改レ觀」「大演習ハ、實戰ノ觀アリ」 (二)觀ズルコト。觀察シ、思想スルコト。觀念。 左傳、襄公廿九年「觀止矣、若有ニ他樂ニ、吾不ニ敢請ニ已」 榮花物語、十五、疑「發ニ菩提心ニ、凝ニ消場觀ニ」 人生觀、自然觀、厭世觀、樂觀、悲觀 (三)タカドノ。モノミ。樓臺。樓觀。 三輔黃圖「周置ニ兩觀ニ、以表ニ宮門ニ、登レ之可ニ以遠觀ニ、故謂ニ之觀ニ」 字鏡抄「觀、クヮン、樓觀、爾雅云、觀、謂ニ之觀屋ニ於ニ上觀望也」 倭名抄、十ニ、居宅類「洞清樓、在ニ栖霞觀ニ」 有職抄、二、禁中殿門「栖霞樓、五間、二階、豐樂殿ノ東北ニアリ」

くゎん (名) 【歡】【懽】 ヨロコビ、タノシムコト。 漢武帝、秋風辭「中流與ニ羣臣ニ飲燕、歡甚」 陶潛、雜詩「得レ歡當レ作レ樂、斗酒聚ニ比鄰ニ」「終日宴會シテ、歡ヲ盡ス」

くゎん (名) 【罐】 かんノ條ヲ見ヨ。

くゎん (名) 【窠】 くゎ(窠)ノ條ヲ見ヨ。

ぐゎん (名) 【元】 元金ノ略。モトキン。元金利息ヲ、元利ト云フ。

ぐゎん (名) 【願】 ネガヒ。神佛ニ、心事ヲ祈リ願フコト。日數ヲ定メテ、行ナドスルヲ、願を立つ、願を起す、願かなふ、願かくト云ヒ、其期ニ至リテ止ムルヲ、願ほどく、願をはたすト云フ。 陶潛、歸去來辭「富貴非ニ吾願ニ」 竹取物語「祈リヲシ、願を立て、思ヒ止メムトスレドモ、止ムベクモアラズ」 源、十六、關屋「石山ニ、御願はたしニ詣デタマヒケリ」

ぐゎん (名) 【頑】 カタクナナルコト。頑固。 書經、堯典篇「父頑、母嚚」「頑トシテ應セズ」

ぐゎん (接尾) 【丸】 丸藥ノ名ニ添ヘテ云フ語。 倭名抄、十二、藥名類「丸藥、牛角丸、代赭丸、人參丸」

ぐゎん-い (名) 【願意】 ネガヒノ趣意。

くゎん-いう (名) 【官有】 政府ノ所有ナルコト。(民有ナドニ對ス)「官有地」官有物」

くゎん-いう (名) 【官遊】 官吏トナリテ、遠地ニ往クコト。 史記、司馬相如傳「長卿久宦遊不レ遂、而來過レ我」(宦ハ、官ニ通ズ)

くゎん-いう (名) 【寬宥】 ユルシ、ナダムルコト。宥免。寬假。 後漢書、竇章傳「幸以下獄、馬融上書日、云云、宜ニ遠覽ニ二君ニ、晉侯、秦伯、ヲ云フ)使ニ參得ニ在ニ寬宥之科ニ」 侍所沙汰篇、牛馬流人人勾引等事「雖レ可レ令レ處ニ重科ニ、就ニ寬宥之儀ニ、可レ召ニ禁其身ニ許也」「寬宥ノ處置」

くゎん-いう (名) 【勸誘】 ススメ、イザナフコト。 劉子雲、與ニ齋至忠ニ論ニ史書「每汲ニ汲于勸誘ニ、勤ニ勤于課績ニ」 續紀、十五、天平十五年十月乙酉「爲レ奉レ造ニ盧舍那佛像ニ云云、行基法師、率ニ弟子等ニ、勸ニ誘衆庶ニ」「保險ノ勸誘」

くゎん-いう-ち (名) 【官有地】 官有ノ土地。官地。

くゎん-いん (名) 【官印】 (一)官衙、又ハ、官吏ガ、其職務ニ就キテ用ヰル印章。 漢書、[illegible]「[illegible]千石官印ニ」云云 行事、貞觀三年十月廿八日「公文史生請ニ領[illegible]、新ニ鑄ニ本官印ニ持來」 (二)特ニ、太政官ノ官印ノ稱。即チ、太政官印ノ略。太政官符ヲ、官符トノミ云フト、同ジ。 續紀、廿五、天平寶字八年九月、勅「逆臣惠美仲麻呂、盜ニ取官印ニ逃去、云云、北陸諸國、不レ須レ承ニ用太政官印ニ」 制度[illegible]、五、印章、外印ハ、官ノ印ナリ、其文、太政官印ト云フ、方、二寸半」

くゎん-えい (名) 【官營】 政府ノ經營。(民營ニ對ス)

くゎん-えい (名) 【卷纓】 卷纓ノ條ヲ見ヨ。

くゎん-えい-せん (名) 【寬永錢】 寬永十三年ニ、德川幕府ニテ鑄テ發行シタル銅錢。表ニ、寬永通寶ノ四字アリ、一枚、一文ニ當ル、コレヲ、一文錢トモ云フ、後、屢、改鑄アリ。又、明和五年ニ、眞鍮ニテ鑄タルモノヲ發行ス、形、稍、大キク、一枚、四文ニ當ル、コレヲ、當四錢、又、四文錢、ト云ヒ、色、青ケレバ、青錢トモ云ヒ、裏ニ波文アレバ、波錢トモ云フ。一文錢、四文錢、共ニ、鐵ナルモアリ、鐚錢ナド、唱ヘタリ。

くゎん-えん (副) 【奐焉】 文采ノ、粲明ナル狀ヲ云フ語。 禮記、檀弓、下篇「美哉奐焉」

くゎん-おん (名) 【觀音】 (一)觀世音ノ略、其條ヲ見ヨ。(二)東俗ニ、虱ヲ、くゎんおんさまト云フ。(手ノ多キコト、千手觀音ニ似タルト云フナリ)

くゎん-おん-く (名) 【觀音供】 觀世音供養ノ佛事。昔、宮中ニテハ、每月十八日ニ行ハレ[illegible]和元年、[illegible]ルトアリ、[illegible](江家次第、十二)[illegible]仁壽殿觀音供、天子ノ御祈ノタメナリ」

くゎん-おん-かう (名) 【觀音講】 觀音經(法華經普門品)ヲ講ズル法會。 [illegible]

くゎん-おん-さう (名) 【觀音草】 [illegible](吉祥草)ニ同ジ。

くゎん-おん-ちく (名) 【觀音竹】 〔沖縄ノ觀音山ニ産ズ〕 竹ノ類、高サ尺餘ニ過ギズ、[illegible]ニ似タリ、鉢植トス。一名、リウキウシュロチク。筋頭 草木育種、後編、下「觀音竹、琉球ヨリ[illegible]竹ニアラズ[illegible]、竹ノ一種ナリ、長大ナラズ、葉多キヲ異ナリトス、[illegible]扉ヲ製スハ、柏カ(テヨシ、云云」

くゎん-おん-びらき (名) 【觀音開】 〔觀音ノ廚子ノ製ニ起ルカ〕 兩片ノ開キノ、中央ニテ合ヒ、左右ヘ開クベク作レルモノ。

くゎん-おん-むゐ (名) 【觀音無畏】 觀世音ト、施無畏者トナルベシ、各條ヲ見ヨ。 盛衰記、十、中宮御産事「況ンヤ觀音無畏ノ利益ヲヤ、千手ノ神呪ノ效驗ヲヤ」

くゎん-おん-りう (名) 【觀音柳】 〔楊柳觀音ニ圖スルヨリノ名カ〕 柳ノ一種、其條ヲ見ヨ。

くゎん-おん-りき (名) 【觀音力】 觀世音ノ佛力。 法華經、觀世音菩薩普門品「或遭ニ王難苦、臨ニ刑欲ニ壽終ニ、念ニ彼觀音力ニ、刀尋段段壞」

くゎん-か (名) 【官家】 天子ノ稱。 [illegible]

斷天子無ㇾ外、以二天下一爲ㇾ家、故又曰二官家一」書言故事、一、人君類「五帝官二天下一、三王家二天下一」云云、兼三五二之德一、故曰二官家一」

くわんか (名) 〔官家〕 一家ノ支配人。番頭。「必學須知、管家、伴當、皆、奴僕」

くわんか (名) 〔管下〕 管轄ノ下。支配下。

くわんか (名) 〔寬假〕 寬宥、宥免、ニ同ジ。史記、孝武紀「其道非二少寬假一、神不ㇾ來」、其罪ヲ寬假スー

くわんが (名) 〔寬雅〕 ユッタリトシテ、ミヤビナルコト。南史、沈文季傳「以二寬雅一見ㇾ知」

くわんが (名) 〔官衙〕 政務ヲ執ル所。ヤクショ。官署。劉禹錫詩「馬蹄踏ニ月趨二官衙一」

くわんが (名) 〔換鵝〕 書ノ異名。下ノ出典ヲ見ヨ。晉書、王羲之傳「羲之性愛ㇾ鵝、云云、山陰有二一道士一、養二好鵝一、云云、道士云、爲寫二道德經一、當二擧ㇾ羣相贈一耳、羲之欣然寫畢、籠ㇾ鵝而歸」

くわんかい (名) 〔官海〕 〔俗ニ、官ニ勤メワタルヲ、泳グト云フヨリノ造語ナルカ〕 官吏ノ境涯。「官海ニ浮沈ス」

くわんかい (名) 〔環海〕 陸地ノ周圍ニ沿フ海。江淹、報二袁叔明一書「狂士之行有ㇾ三、其奇者、則以二紫天一爲ㇾ宇、環海爲ㇾ池、俟身大笑、被髮行歌」韓愈、賀二冊二尊號一表「環海之內」

くわんかい (名) 〔勸解〕 爭ヒヲ止ムベク、勸誘シテ、和解セシムルコト。今、裁判官ガ、民事訴訟ノ原告、被告、ヲ說諭シテ、和解セシムルニモ云フ。輟耕錄、廿三、誘官「某甲與二某乙一鬪毆、某甲之母、勸解」

くわんがい (名) 〔菅蓋〕 大嘗祭ノ時、主上ノ、廻立殿ヨリ、悠紀院、主基院ヘ通御ノ時、翳シマヰラスル御笠。神宮禮拜ニモ用ヰラル、菅笠ノ御衣笠ナリ。徑、四尺、彎曲セル長キ柄ノ先ニ、鳳凰ノ象アリ、其口ヨリ、紐ニテ、笠ノ頂ヲ釣ル、左右ニ綱ヲツケテ、持ツ。踐祚大嘗式「車持朝臣一人、執二菅蓋一、子部宿禰一人、笠取直一人、並執二蓋綱一」萬葉集、十一、九「大君ノ、御笠ニ縫ヘル、有馬菅」

くわんがい (名) 〔冠蓋〕 〔冠ト、車蓋ト〕 冠蓋相望むト云フハ、車ノ行クコト、陸續タリノ意。戰國策、韓策「韓使二使者求二救於ㇾ秦、冠蓋相望也」

くわんがい (名) 〔灌漑〕 田ニ、用水ヲ、ミチビキ注グコト。漢書、溝洫志「可ㇾ令二各順二從其性一、毋ㇾ復灌漑一、則百川流行、水道自利」後紀、十四、大同元年六月癸巳「池之爲ㇾ用、必由二灌漑一」

くわんかう (名) 〔款項〕 款ト、項ト、ノ條ヲ見ヨ。

くわんかう (名) 〔還幸〕 行幸ノ條ヲ見ヨ。太平記、三、主上御沒落事「龍駕ヲ廻ラシテ、六波羅ヘ成シ進ラセントシケルヲ、前前、臨幸ノ儀式ナラデハ、還幸ナルマジキ由ヲ、強ヒテ仰出サレケル」

くわんかう (名) 〔慣行〕 習慣トナリテ、行ハルルコト。「慣行ノ儀式」

くわんかく (名) 〔觀客〕 ミテ。見物人。看客。「觀客、場ニ滿ツ」

くわんかく (名) 〔丱角〕 (一)總角。角髮。(二)丱童。兒童。

くわんがく (名) 〔官學〕 〔私學ニ對ス〕 官立ノ學校。

くわんがく (名) 〔勸學〕 學問ヲ、勸メハゲマスコト。左傳、閔公二年「敬ㇾ教勸ㇾ學、授ㇾ方任ㇾ能」

くわんがくでん (名) 〔勸學田〕 田地ノ、大學寮ナドノ學生ノ、食料、諸費、ニ給與セラレタルモノ。類聚國史、百七、職官、延曆十三年十一月、詔「大學寮田三十町、生徒稍衆、不ㇾ足ㇾ供ㇾ費、宜三更加二越前國水田一百二町一」云云、名曰二勸學田一」

くわんがくゐん (名) 〔勸學院〕 藤原氏ノ私立ノ學問所ノ名。弘仁十二年、藤原冬嗣、其一族子弟教育ノ爲メニ、京都ニ創立ス。大學寮ニ、東西ノ曹司アリ、此院、大學ノ南ニアレバ、南曹司トモ云ヒキ。藤原氏ノ氏長者、コレヲ管領シ、公卿ノ別當アリ。(弘文院、學館院、獎學院、ヲ併セ見ヨ) 氏長者ノ家ニ大慶事アル時ハ、院ノ學生、練步シ行キテ拜賀スルヲ、氏院拜賀ト云ヒ、勸學院の步トモ云フ。江家次第、廿、勸學院步」紫式部日記「勸學院ノ衆トモ、あゆみシテ參レリ、見參ノ簿トモ、又、啓ス」勸學院の雀は蒙求を囀るト云フハ、傍ニ居テ、聞馴レ、見馴ルレバ、自ラ、其道ヲ學ビ知ルト云フ諺ナリ、蒙求トハ、勸學院當時ノ教科書ナリ、學問ノ、甚ダ盛ンナリシヲ云ヘルナリ。八幡愚童訓、享祿〕下「勸學院雀鳴二蒙求一、神泉苑鷺ハ勅使ニ被ㇾ取」古秋崖、蜀立詩「村夫子挾二兔園冊一、敎二得黃童二解ㇾ讀ㇾ書、能記二蒙求中一句一、百般嬌婉可ㇾ儕ㇾ渠」自注「蓋俗以二其聲一爲二呂蒙非熊一、二呂蒙非熊ハ、蒙求中ノ題目ノ語ナリ)トアルハ、相似タルコトナリ。

くわんがくゐんのあゆみ (名) 〔勸學院步〕 前條ヲ見ヨ。

ぐわんがけ (名) 〔願懸〕 神佛ニ、願ヲカクルコト。グヮンダテ。立願。

くわんかつ (名) 〔管轄〕 〔周禮、地官篇「授二管鍵一、以啓二閉國門一」註「謂ㇾ籥也」轄ハ、くさび〕 統ベ、治ムルコト。支配。孫綽、遂二初賦一「居二管轄之任一、以紀二司外內一」

くわんがん (名) 〔官銜〕 官職ト云フニ同ジ。隨園隨筆、七「家語、禮運篇、官有ㇾ銜、職有ㇾ序」孔子家語、執轡篇「善御ㇾ馬者正ㇾ銜勒一」云云、善御ㇾ民者正二百官一」白居易、贈二張籍一詩「獨有二詠ㇾ詩張大祝一、十年不ㇾ改舊官銜」

くわんかんしき (名) 〔觀艦式〕 軍艦ヲ、一定ノ海上ニ集メ、主上乘御ノ一艦、其間ヲ巡航シ、親閱シタマフ儀式。(觀兵式ニ對ス)

くわんき (名) 〔官記〕 任官ノ時、下付セラルル辭令書。(位記、勳記、ニ對ス)

くわんき (名) 〔官紀官規〕 官吏ノ、守ルベキ規律。唐書、杜佑傳「神龍中、官紀蕩然」、官規振肅」

くわんき (名) 〔管窺〕 管見ノ條ヲ見ヨ。

くわんき (名) 〔歡喜〕 (一)ヨロコブコト。ヨロコビ。戰國策、秦策「秦軍大克、趙軍大破、秦人歡喜、趙人畏懼」 (二)佛教ニテハ、くゎんぎト、濁音ニ云ヒ、念佛行者ガ、未來淨土ニ往生シテ、滅度ノ證悟ヲ得ルノよろこびナドヲ云フ。法華經、譬喩品「心懷二大歡喜一、疑網皆已除」榮花物語、三十七、音樂「三世ノ諸佛ノ說法ノ儀式モ、斯ウコソハト、歡喜ノ涙、禁メ難シ」

くわんき (名) 〔換氣〕 空氣ヲ、入レカフルコト。「換氣法」

くわんぎ (名) 〔官妓〕 官ニ召使ヒ置カルル妓女。朝鮮ニテハ、奏樂ヲ以テ宮廷ニ仕フル妓女ヲ云フ。宋史、太宗紀「拯元獻二

[illegible]高安、隠氏女、云云、與二道士一淫佚、云云、謫爲二官妓一」(故事熟語大辭典)

くわんぎく（名）［觀菊］キクミ。「觀菊ノ宴」

くわんぎく（名）［[illegible]］[illegible]菊ハ、丸金ノ合字）[illegible]ノ菊花ノ形ヲ、金菊ノ形トシテ、コレニ、環ヲ添ヘタル紋。

くわんぎくわう（名）［[illegible]］阿彌陀佛ノ身ヨリ放ツ光ヲ、[illegible]陀佛ノ異名ニ、歡[illegible]光佛ト云フ。

くわんぎだん（名）［[illegible]］[illegible]供フルモノ、又、[illegible]八種ノ唐菓子ノ一、米、豆、蜜、ナドヲ和合シテ作ルモノト云フ。今ハ、米ノ粉ニ、胡[illegible]ノ子ヲ[illegible]合ハセ、[illegible]ヲ包ミ、団子ニシテ、油ニテ揚ゲ、[illegible]俗ニだんごト云フモノノ形ノ如ク、[illegible]

くわんぎてん（名）［歡喜天］正シクハ、大聖歡喜天、(聖天)ニ同ジ。[illegible]暗シテ、大聖天、常ニハ、[illegible]天ト云フ。天竺ノ神ノ名、[illegible]病[illegible]、[illegible]自在ナリト云フ。[illegible]頭、人身ニシテ、二臂、四臂、六臂ナルア[illegible]

くわんきふ（名）［官給］官ヨリ、支給、給[illegible]與フ」宋史、[illegible]官[illegible]

くわんきふ（名）［緩急］（一）ユルヤカナルト、急ナルト。遲速。[illegible]（二）専ラ、急ナルコト。危急。（緩ノ字ニ、意ナシ、[illegible]ノ條ヲ見ヨ）史記、[illegible]

くわんきふしや（名）［緩急車］鐵道ノ車輛ニ、裝置アリテ、緩急、遲速、ノ、自在ナルモノ。

くわんきん（名）［官金］官有ノ金錢。

くわんきん（名）［官禁］官ニテ、禁止スルコト。

くわんきん（名）［懽欣］ヨロコブコト。歡喜。[illegible]和節二花懽欣一」

くわんきん（名）［[illegible]］[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

ぐわんきん（名）［元金］もときんニ同ジ。

ぐわんぎん（名）［頑嚚］頑固ニシテ、暗愚ナルコト。書經、堯典篇「岳曰、瞽子、父頑、母嚚、象傲、[illegible]ヒテ、母ハ頑嚚ナリ」

くわんきやう（名）［環境］メグリ、カコム境域。[illegible]「人ハ、環境ニ支配セラル」

くわんきやう（名）［還饗］カヘリダチノアルジ。

ぐわんぎやう（名）［願行］佛教ノ語、願念、修行ノ稱。佛果ニ到ラムガタメニ、六度ノ修行ヲスルコト。禪定、智慧ハ、願念ニシテ、布施、持戒、忍辱、精進ハ、修行ナリ。[illegible]

ぐわんきやう（名）［頑強］カタクナニ、強キコト。イヂバリ。「頑強ニ抵抗ス」

くわんきよ（名）［官許］政府ヨリノ免許。公許。

くわんぎよ（名）［還御］行幸ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

くわんきよく（名）［款曲］［字典「款、款曲、猶二委曲一」］事、細カナルコト。懇切ナルコト。[illegible]

くわんく（名）［管區］管轄スル區域。

ぐわんぐ（名）［頑愚］カタクナニ、オロカナルコト。愚ニシテ、意地ツヨキコト。

ぐわんぐ（名）［玩具］モテアソビモノ。オモチャ。

くわんぐん（名）［官軍］スメラミイクサ。朝廷ノ軍。皇軍。政府方ノ軍隊。官兵。（賊軍ニ對ス）[illegible]「差二遣官軍一、殊可レ令三防禦二之處」

くわんくわ（名）［觀花］花見。[illegible]

くわんぐわい（名）［管外］［管内ニ對ス］管轄スル區域ノ外。支配外。

くわんくわう（名）［觀光］［他國ノ光華ヲ觀る義］他國ヲ巡行シテ、其土地、風俗、制度、文物、ヲ[illegible]スルコト。近年、數人一組[illegible]トナリテ、[illegible]所ノ[illegible]會、社寺、名所、ナドヲ巡リ、見物シアルク者ヲ、觀光團ナド云フ。[illegible]

くわんくわうじゆす（名）［觀光繻子］［東京淺草ノ、觀光社ト云フ商店ヨリ賣出シタルモノト云フ（大日本國語辭典）或ハ云フ、[illegible]工場ニテ賣始メタル名ナラムカト］絹絲ニ瓦斯絲ヲ雜ゼテ織リ、繻子ニ擬ヘタルモノ。同ジ方法ニテ、縮緬ニ擬ヘタル、觀光縮緬モアリ、

くわんくわうだん（名）［觀光團］前前條ヲ見ヨ。

くわんくわうちりめん（名）［觀光縮緬］前前條ヲ見ヨ、

くわんくわく（名）［棺槨］［孝經、喪親章、注疏「周レ尸爲レ棺、周レ棺爲レ槨」］ヒツギト、ヒツギノ圍ミノ箱ト。[illegible]

くわんくわこどく（名）［鰥寡孤獨］ヤモヲ、ヤモメ、ミナシゴ、ヒトリモノ、皆、困窮ノ者ノ意ナリ。孟子、梁惠王、下篇「老而無レ妻曰レ鰥、老而無レ夫曰レ寡、老而無レ子曰レ獨、幼而無レ父曰レ孤、此四者、天下之窮民、而無レ告者、文王發レ政施レ仁、必先二斯四者一」[illegible]

くわんくわつ（名）［寛闊］（一）寛大、闊達

ナルコト。合類節用集(元祿)八、言辭「寛仁大度、寛宥、寛閑」(二)轉ジテ、擧動ヲ粗暴ニシテ、人ヲ威シ、服裝ヲ異風ニシテ、伊達ヲ盡ス意ヲ成シ、多クハ、旗本奴、町奴、ニ就キテ云ヒ、寛闊者、寛闊姿、ナド云ヘリ。(はたもとやっこ、まちやっこノ條ヲ見ヨ) 甚後記、二、萬德丸殿御家督、家老安藤九郎左衞門、若殿居間、屛風、共ヲ、金銀ニテ、極彩色ニシテ、吉原ノ景色ヲ、委細ニ寫サセ、別シテ、其身ノ寛活姿ニテ、隨身ノ者共、通フ體、少シモ違ヒナク、云云」續無名抄(延寶)下「寛闊者」天和笑委集、六、ばさらヲ好ム伊達女、ツヅラ笠、綿帽子、カハユラシキ禿、くゎんくゎつナ腰元、云云」(芝居ノ事ナリ) 竹丈點、前句附「ソロリソロリト、ソロリソロリト くゎんくゎつモ、昔ヲ忍フ、立鼓柄」嬉遊笑覽、二「浦島年代記、元祿、近松作、龍宮七世鏡、趣ニ寛闊ナ地フ伊達ナヤ、寛闊削イタ長刀」

くゎんくゎつ-すがた (名) 【寛闊姿】 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

くゎんくゎつ-もの (名) 【寛闊者】 前前條ノ(二)ヲ見ヨ、

くゎん-くゎん (名) 【宦官】 支那ノ後漢ノ朝ニ、後宮ニ仕フル小吏、大勢セラル。閹官。後漢書、宦者傳「中興之初、宦官悉用閹人」

くゎん-くゎん (副) 【關關】 鳥ノ鳴ク聲ニ云フ語。詩經、國風、周南、關雎篇「關關雎鳩、在河之洲」註「關關、雌雄相和聲也」朗詠集、上、紫藤花落門閑[illegible]

くゎん-くゎん (副) 【桓桓】 〔字典「桓桓、武貌」〕 勇猛ナル狀ヲ云フ語。詩經、周頌、桓「桓桓武王」書經、牧誓「尚桓桓、如虎如貔」

くゎん-くゎん (副) 【緩緩】 ユルヤカナル狀ヲ云フ語。朗詠集、下、眺望[illegible] 太平記、十、新田義貞謀叛事「此ノ時、

若シ緩緩ノ沙汰ヲ致サバ、大逆ノ基トナリヌベシ」

くゎん-ぐぇん (名) 【管絃】 〔ぐぇんハ、絃ノ古音、源氏、法華經ナドモアリ〕 管絃ニ同ジ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。東宮年中行事、七月「御遊ビアル時ハ、くゎんぐぇんニ堪ヘタル輩ヲ召シ」

くゎん-け (名) 【菅家】 (一)菅原氏ノ家系。大江氏ヲ、江家ト云フ、二氏、共ニ、平安朝時代ノ儒家ニテ、並ベ稱セラレ、大學寮ノ東西ノ曹司ヲ掌リ、歷代、碩儒ヲ出シテ、名アリ。故實拾要、八、諸道ノ輩「日野家、云云、菅家、江家者、儒門也、云云、土師宿禰、古人ノ居所ノ地ノ名ニ依テ、賜二菅原姓一是、菅家ト稱スルノ始也」(二)特ニ、菅原道眞ノ稱。(大師ヲ弘法大師、太閤ヲ豐臣秀吉ノ專稱トスルガ如シ) 八雲御抄、一、學書「號二菅家萬葉集一ハ菅家撰也」百人一首、菅家「コノタビハ、幣モ取リアヘズ、手向山、モミヂノ錦、神ノマニマニ」

くゎん-け (名) 【勸化】 〔勸誘、化導ノ意〕 又、勸進。堂塔、佛像ナド、建立、修復ノタメニ、人人ニ勸メテ、金品ノ寄附ヲ乞ヒアルクコト。官ノ免許ヲ得テセシコトナリ、御免ノ勸化ナド云ヒキ。其趣意ヲ記シタル書ヲ、勸化帳、又、勸進帳ト云フ。釋氏要覽「勸化得財、擬造佛像」享保集成絲綸錄、廿一、寛保二年五月「諸國寺社修復ノ爲ニ助力、勸化御免之上、寺社奉行連印之勸化狀持參、云云、在町致巡行候寺社之輩、云云」倶舍論「勸進令修善道」

くゎん-けい (名) 【關契】 關所ノ割符。軍事ヲ帶シテ關ヲ過グル者ニ授ケラル、木契、長サ三寸、幅一寸、檜ニテ作ル、大臣、惟ヲ執リテ、一兩ニ、賜伊勢國ナドト記シ、字ノ中央ヨリ割キテ、一片ヲ、先ヅ國司ニ賜ヒ、一片ヲ、固關使ニ賜ヒ、合ハセシメテ證トス。(貞觀儀式、江家次第) 軍防令、義解「凡差レ兵二十人以上者、須二契勅一始合差發二」謂、有レ關國須レ契、餘國皆待二勅符一」公式令「三關國、各給二關契二枚一」

くゎん-けい (名) 【關係】 カカハリ。カカリアヒ。「師弟ノ關係」

くゎん-けい (名) 【換刑】 罰金、又ハ、科料ヲ納ムルコト能ハザル者ヲ、金高ヲ日數ニ換算シテ、禁錮、勞役、ナドニ處分スルコト。

くゎん-けい (名) 【還啓】 行幸ノ條ヲ見ヨ。

くゎん-げい (名) 【歡迎】【驩迎】 歡ビ、迎フルコト。祝意ノ出迎。陶潛、歸去來辭「僮僕歡迎、稚子候レ門」

くゎん-げき (名) 【觀劇】 〔劇ノ條ヲ見ヨ〕 芝居ノ見物。「觀劇ニ招待ス」

くゎん-げき (名) 【官外記】 太政官三局中ノ、外記局ノ官吏。平治物語、三、經宗惟方遠流事「官外記ノ記錄ニハ、令ニ左近將監射二殺仲成於禁所一ト註シタレバ」黄門白石問答「使部、是ハ諸國司ニ必有レ之候、今モ、官外記之使部ハ有レ之候」

くゎんけ-ちゃう (名) 【勸化帳】 勸進帳ノ(一)ニ同ジ。

くゎん-けつ (名) 【完結】 全ク、終結シタルコト。成リ果テタルコト。完成。大團圓。「圖書出版ヲ完結ス」

くゎん-げつ (名) 【觀月】 ツキミ。「觀月ノ

くゎん-げふ (名) 【官業】 政府ニテ營ム業務。官營。(民業ニ對ス) 國語、楚語「其事不

レ煩二官業一、其日不レ廢二時務一」

くゎん-げふ (名) 【勸業】 農、工、商、等ノ業ヲ勸メテ、盛ンナラシムルコト。史記、貨殖傳「各勸二其業一、樂二其事一、若二水之趨一レ下、日夜無二休時一」

くゎんげふ-ぎんかう (名) 【勸業銀行】 農工業ノ勸業ノタメニ、專ラ、不動產ヲ抵當ニシテ、金ノ貸附ヲスル銀行。此銀行ニテ、許可ヲ得テ發行スル債券ヲ、勸業債券ト云フ、金十圓以上ハ、償還ノ時、割增金ヲ附スルコトヲ得。

くゎんげふ-さいけん (名) 【勸業債券】 前條ヲ見ヨ。

くゎん-けん (名) 【官權】 官府ノ權力。

くゎん-けん (名) 【官憲】 (一)政府ノ權力。官權。(二)官吏。官僚。「官憲ノ壓迫」

くゎん-けん (名) 【管見】 〔管ノ中ヨリ天ヲ窺ヒ見るガ如キ意、蘆ノずゐカラ天ノゾクト云フモ、是レナリ〕 甚ダ狹キ意見。管窺。何承天、答二顏永嘉一書「吾少信二管見一、老而彌篤」庭訓往來、八月「右筆等雖レ難レ叶候ハ、雅意風情計、成二管見之鏡一度候」莊子、秋水篇「是直用レ管闚レ天、用レ錐指レ地也、不二亦小一乎」晉書、王獻之傳「管中窺レ豹、時見二一斑一」說苑「以レ管窺レ天、以レ錐刺レ地、所レ窺甚大、所レ見者甚少」

くゎん-けん (名) 【關鍵】【關楗】 (一)門ノ貫木ト、鍵ト。老子、第廿七章「善閉、無二關鍵一而不レ可レ開、善結、無二繩約一而不レ可レ解」淮南子、人間訓「家無二[illegible]之信、關楗之固一」(二)すうえう(樞要)ニ同ジ。

くゎん-げん (名) 【管絃】 〔風俗通「竹曰レ管、絲曰レ絃」〕 (一)絲竹。笛類ト、絃

類ト／樂器。絲竹。クヮングェン。漢書、禮樂志「[illegible]」(二)絲竹ノアソビ。音樂。榮花物語、十七、音樂「管絃歌舞ノ曲」(三)管絃樂ノ略。

くゎんげん (名)［換言］言ヒ換フルコト。言詞ヲ改メテ、別ニ云フコト。

くゎんげん (名)［寬嚴］ゆるやかなると、きびしきと。宋史、[illegible]「[illegible]寬嚴適中ニ」

くゎんげん (名)［還元］モトノ姿ニ、カヘスコト。「還元剤」

ぐゎんけん (名)［頑健］己ガ身體ノ壯健ナルヲ云フ謙稱。頑強。北夢瑣言「自知三臣州八幸自頑健」

くゎんげんがく (名)［管絃樂］雅樂ニ、舞ナク、三鼓ナク、三管ト、三絃トノミニテ奏スルコト。略シテ、管絃。

くゎんこ (名)［官戸］賤民ノ一、官人ノ、罪ニ坐シテ、沒收セラレタルモノ。官府ノ賤業ヲ營マシム。唐律疏議、釋文「二官戸(官戸者、亦謂前代配役、及配[illegible]者、此等之人、州縣無貫、唯屬本司、故曰雜戸、官戸)」戸令「凡官奴婢、年六十六以上、及廢疾、若被配良、[illegible]合爲戸者、並爲官戸」

くゎんこ (名)［歡呼］［驩呼］ヨロコビ、サケブコト。元稹文「萬姓歡呼、四方來賀」

くゎんご (名)［歡娛］ヨロコビ、タノシムコト。蘇武詩「歡娛在今夕」杜甫詩「萬事[illegible]付形骸外、百年未見歡娛畢」平治物語、一、信西宿所燒拂事「保元ノ亂以後ハ、云云、歡娛、遊宴シテ、上下ノ屋ヲ比シニ」

くゎんご (名)［款語］［款曲、[illegible]、委曲ノ談］事細カニ、語シ合フコト。款談。款話。[illegible]

ぐゎんこ (名)［紈袴］［文選、[illegible]「紈袴不餓死」紈與素、李善註、范子曰、白紈素出齊」紈素ノ條ヲ見ヨ、白練絹ノ袴ナリ、古ヘ、支那ノ貴族ノ子弟ハ、常用シタリ」貴族ノ子弟ノ稱。世事ニ慣レザルヲ嘲ル意ニ云ヒ、紈袴子弟、紈袴公子、ナド云フ。漢書、敍傳「出與王許子弟爲群、在於綺襦紈袴之間」(王氏、許氏、貴族ナリ) 宋史、魯宗道傳「館閣育天下英才、豈紈袴子弟得以恩澤處耶」

ぐゎんこ (名)［頑固］カタクナナルコト。カタイヂナルコト。陸游詩「所願踏德容、頑固或少痊」李[illegible]、兵部尚書王紹碑「頑[illegible]中心、[illegible]內如春」

くゎんこう (名)［寬厚］寬大ニシテ、溫厚ナルコト。魏志、任峻傳「寬厚有度」「寬厚ノ君子」

くゎんこうば (名)［勸工場］「勸工ハ、中庸、第二十章「日省月試、既稟稱事、所以勸百工也」」大ナル建物ノ內ヲ、數多ク區分シテ、種種ナル商店ヲ開キテ、物賣ル所。

くゎんこく (名)［勸告］我ガ意ヲ述ベテ、說得スルコト。「辭職ヲ勸告ス」

くゎんこく (名)［館穀］(一)軍兵ノ、敵國ノ館舍ニ入リテ、其糧ヲ食フコト。左傳、[illegible]公十六年「晉人[illegible]楚軍、三日穀」(晉義「本或作館、[illegible]」)南史、宋高帝紀「帝討南燕、容超、[illegible]廣固城、館穀于齊土」(二)扶持ヲ與ヘテ、養ヒ置クコト。(小說ノ語、俚言集覽)

ぐゎんここうし (名)［紈袴公子］ぐゎんこ(紈袴)ノ條ヲ見ヨ。

ぐゎんこしてい (名)［紈袴子弟］ぐゎんこ(紈袴)ノ條ヲ見ヨ。

くゎんこつ (名)［顴骨］［けんこつナルベシ、廣韻「顴、巨員切、音權」］ツラボネ。ホホボネ。[illegible]「[illegible]面上有高骨卓起、名爲顴骨、主權勢」(「顴骨突出」)

くゎんこつだったいはふ (名)［換骨奪胎法］古人ノ詩文ニ本ヅキテ、稍、其語句、意趣ヲ、換ヘテ作ル手段。冷齋夜話「不易其意而造其語、謂之換骨法、規模其意形容之、謂之奪胎法」[illegible]「[illegible]文章雖不要蹈襲古人一言一句、然自有奪胎換骨等法、所謂靈丹一粒、點鐵成金也」(故事熟語大辭典)

くゎんこんさうさい (名)［冠婚葬祭］元服、婚禮、葬禮、死者ノ祭祀。支那ニテ、コレヲ、人生ノ四大禮トス。大戴禮、保傅篇「[illegible]」禮記、[illegible]「夫禮必本於天、殽於地、列於鬼神、達於喪祭、射御、冠昏、朝聘」

くゎんこんし (名)［還魂紙］すきかへし紙ノ漢名。天工開物「[illegible]其廢紙[illegible]去朱墨汚穢、浸爛入槽再造、云云、名曰還魂紙」

くゎんこんたう (名)［還魂湯］起死回生ノ煎藥ナルカ。倭名抄、[illegible]「還魂湯、[illegible]、全死口噤者、服之亡生」

くゎんさ (名)［關左］關東ノ條ヲ見ヨ。北史、孫紹傳、[illegible]「[illegible]關左之士、又[illegible]時務」

くゎんざ (名)［冠者］くゎんじゃノ條ヲ見ヨ。

くゎんさい (名)［官祭］今、官幣諸社ノ祭。

くゎんさい (名)［官裁］官府ノ裁斷。類聚三代格、一、貞觀十七年三月廿八日、太政官符「[illegible]」

くゎんさい (名)［[illegible]］關東ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

くゎんさい (名)［[illegible]］皆濟ニ同ジ。「[illegible]」

ぐゎんざい (名)［丸劑］ぐゎんやく(丸藥)ニ同ジ。

くゎんざいにん (名)［管財人］破產者、家資分散者ノ財產ヲ、管理スル人。

くゎんさう (名)［觀相］にんさうみ(人相見)ニ同ジ。

くゎんざう (名)［萱草］(一)古名、ワスレグサ。[illegible]ノ小塊[illegible]、長キ葉ヲ叢生ス、[illegible]、[illegible]ヲ出シ、枝ヲ分チテ、單瓣ノ[illegible]ヲ開ク、[illegible]おにゆりノ花ニ似テ、色、紅黃ニシテ、紫黑ナル點アリ、家ニ植エテ、花ヲ賞ス。又、野生ノモノハ、花、重瓣ナリ、おにかんざう、又ハ、やぶかんざうトモ云フ。倭名抄、廿、草類「萱草、和須禮久佐、俗云[illegible]」[illegible]「[illegible]」ニハ、くゎんざうト云フ草ヲ、籬結ヒテ、イト多ク植エタリケル」(二)次條ノ語ノ略。

くゎんざういろ (名)［萱草色］萱草ノ花ノ色ノ意、くゎんざうハ、略ナリ、官掌、くゎんざう。款[illegible]「[illegible]」染色ノ名、紅黃ナルモノ。くゎんざういろ、略シテ、くゎんざう[illegible]。[illegible]イト濃キ鈍色ニ、黑キナド」同、九、葵「三十三黑キ汗衫、くゎんざう色ノ袴」花鳥餘情「萱ト蘇芳ニ、だうさヲ

入レテ染ムル」源、五十二、手習五十「薄鈍色ノ綾、中ニハ、くゎんざうナド、スミタル色ヲ着テ」

ぐゎん-さく（名）【玩索】〔字典「玩、習也」〕文意ヲ、究メ索ムルコト。研究。易經、繫辭、上傳「所樂而玩者、爻之辭也」中庸集註、卷首、子程子ノ語「善讀者、玩索而有得焉、則終身用之、有不能盡者矣」

くゎん-ざし（名）【貫緡】錢緡ノ、一貫文ヲ貫クベキモノ。狂言記、緡縄「百ざしニ綯ハズトモ、貫ざしニ綯ヘ」

くゎん-さつ（名）【觀察】善ク觀テ、推察スルコト。見拔クコト。孔叢子、記義篇「官人之任臣、無大小一一自觀察之、猶復失之」

くゎん-さつ-し（名）【觀察使】古ヘ、畿內、七道ヘ遣ハサレシ使、國司、郡司ノ、政治ヲ觀察スルヲ掌ル。新唐書、方鎭表「至德元載、置觀察使」後紀、十四、大同元年五月「始置六道觀察使」

くゎん-さん（名）【換算】算ヘ換フルコト。「一里ノ步行ヲ、幾時間ニ換算ス」「一日ノ仕事ヲ、何圓ニ換算ス」「弗ヲ、圓ニ換算ス」

くゎん-ざん（名）【關山】吾ガ鄕關ノ四圍ヲ繞レル山。木蘭詩「萬里赴戎機、關山度若飛」

ぐゎん-ざん（名）【元三】〔三始ノ條ヲ見ヨ〕正月元日ノ異稱。又、三箇日ノ稱。枕草子、六、五十五段「常よりも殊に聞ゆるもの「元三ノ車ノ音」平家物語、四、嚴島御幸事「元日、元三ノ間、參入仕ル人モ無シ」

ぐゎんざん-だい-し（名）【元三大師】〔元三ハ、前條ヲ見ヨ〕天台座主良源（慈慧大師）ノ敬稱。（永觀三年正月三日、寂ス）正月、人家ノ門戶ニ、此大師ノ像ヲ畫キテ貼ル、邪氣ヲ防グトス。（貞享ノ日本歲時記）元亨釋書、四、釋良源傳「源、道貌雄毅、自把鏡寫照曰、置我像之所、必辟邪魅、從茲模印、天下爭傳、方今、人室明架戶皆之所、黏貼殆遍」

ぐゎんざん-にち（名）【元三日】〔元三ハ、三始ト同義、年、月、日、ノ元ノ義、名目抄「元三、後生以三字可令清歟、故注之」〕（一）元日ノ異名。略シテ、元三。三始。一月一日。榮花物語、二、花山「年モカヘリヌ、元三日ノホドヨリシテ、今メカシウ、サハヤカナル御政ドモニテ」（二）又、正月初ノ三箇日。玉葉、承元四年三月三日「三月三ケ日、如元三可歸禮儀」天台座主良源（慈慧大師）永觀三年正月三日ニ寂シタレバ（元亨釋書、四）、元三大師ト敬稱スルモ、是レナルベシ。

くゎん-し（名）【官使】人ヲ、官ニ任ジテ、使フコト。漢書、董仲舒傳「天下之士、可得而官使也」

くゎん-し（名）【官使】太政官ノ使。類聚三代格、七、天長二年、太政官符、定詔使官使事「賑給檢損田地溝疫死等使、猶爲官使」保元物語、一、內府意見事「召シマヰラスベキ由ノ宣旨ヲ、官使ニ持タセテ、宇治ニ行キ向ヒテ」

くゎん-し（名）【官仕】ミヤヅカヘ。官途ニ仕フルコト。史記、南越王尉佗傳「宗族官仕爲長吏者、七十餘人」

くゎん-し（名）【冠詞】〔英語、Article. ノ譯語〕歐羅巴語ニテ、品詞ノ一、名詞ニ冠ラセテ、其語ノ定、不定、單數、複數、又ハ、男性、女性、中性、等ナルヲ別チテ示スニ用キル語。東洋語ニハ、無シ。

くゎん-し（名）【款識】〔韻會「識、音志、與誌同、記也」〕鼎、鐘、ナドノ金屬器ニ、銘、年、月、日、氏、名、語句、ヲ刻リツケタルモノ。史記、孝武紀、鼎「文鏤無款識」註「款、刻也、三代鐘鼎文、陰刻而凹曰款、以象陽、中陽刻而凸曰識、以象陰」

くゎん-し（名）【環視】【圜視】四方ヨリ圍ミテ、視ルコト。賈誼、過秦論「天下圜視而立」「列國環視ノ中ニアリ」

くゎん-じ（名）【官寺】官ヨリ、堂塔修理ノ費用、僧尼修行ノ用途、等ヲ、悉ク給セラルル寺。其格式、諸寺ノ上ニアリ、國分寺、定額寺、等モ、是レナリ。續紀、十、天平元年八月「在近江國紫樂鄕山寺者、入官寺之例」同、十七、天平勝寶元年四月、東大寺「新造寺乃官寺止可成波、官寺止成賜夫」

くゎん-じ（名）【冠辭】〔賀茂眞淵ノ、枕詞ニ當テタル語ナリ、冠辭考ノ著アリ〕枕詞ニ同ジ。

くゎん-じ（副）【莞爾】微笑ム狀ニ云フ語。ニコリ。ニッコリ。論語、陽貨篇「夫子莞爾而笑曰」何晏、註「莞爾、小笑貌」

くゎんじざい-ボサツ（名）【觀自在菩薩】〔觀世音菩薩ノ語原ヲ見ヨ〕觀世音菩薩ノ別號。吾妻鏡、九、文治五年九月九日、高永寺、是爲稱德天皇勅願、諸國被安置一丈觀自在菩薩像之隨一也」

ぐゎん-じつ（名）【元日】ぐゎんにちニ同ジ。書經、舜典篇「月正元日」

くゎん-しふ（名）【慣習】しふくゎん（習慣）ニ同ジ。ナラハシ。梁武帝文「經史文藝、多所貫習」杜甫詩「慣習炎蒸歲絺綌」

くゎん-しぼん（名）【卷子本】マキ。書物ノ、卷物仕立ナルモノ。古ヘハ、皆、然リシナリ、綴本ハ、後ニ出來タリ。

くゎん-しん（名）【關心】心ニ關ルコト。氣ガカリ。懸念。王維詩「晚年唯好靜、萬事不關心」「無關心」

くゎん-しん（名）【歡心】ヨロコブ心。多クハ、人ノ、我レニ親シム心ニ云フ。人ノ歡心を買ふトハ、機嫌ヲ取ルナリ。孝經、孝治章「得百姓之歡心、以事其先君」同「得萬國之懽心」史記、楚世家「奈何絕秦之驩心」（懽、驩、共ニ、歡ニ同ジ）

くゎん-しん（名）【勸進】勸ムルコト。晉書、何曾傳「武帝襲王位、以曾與裴秀王沈等勸進」六代論「非賴爲伍、非所以勸進賢能」續紀、元年正月「明ニ通王、性惠仁孝、可承天緒、冀悉勸勸進、終隆帝業」庭訓往來、二月「御勸進之詩、相叶本懷候哉」（近來名花、以步行儀思立事候、云云、御同心候者本望也ト、觀花ニ誘ハレタルニ云ヘルナリ）勸進表ト云フハ、人物ヲ、天子ニ勸ムル書ナリ。文選、十二、劉琨ノ勸進表アリ。

くゎん-じん（名）【勸進】〔勸誘、進導ノ義、自己ノ意思ヨリスル、寄進ニ對スル語ナルベシ〕（一）勸化ニ同ジ。佛寺ニ要スル金錢、材料ヲ、諸人ヨリ募集スルコト。募緣。盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「自力造營ノ事ハ、イカデカ叶フベキナレバ、知識奉加ノ勸進ニテ、自他ノ利益ヲ遍クセム」宇治拾遺、十二、第四條「材木取ラムトテ勸進シ、集メタル物ヲ皆運ビ寄セテ、此陰陽師ニ取ラセツ」尺素往來「爲勸進、本座新座之田樂、云云、可播所能候、殊見物之志候、棧敷四五間、打可被寫之候」、勸進聖「勸進能、勸進相撲」（二）乞食ノ事ヲ、伊豆ニテ、かんじんト云ヒ、越後、出雲ニテ、かんじんト云フ、勸進聖ノ名ニ因リテ、錢ヲ乞ヒシヨリノ名ナリ。

くゎん-じん（名）【完人】完全ナル人物。難ナキ人。

くゎんじん [illegible] 勧進ノ[illegible]。

くゎんじん 寛仁 [illegible] 寛大ニシテ、仁心[illegible]。 [illegible] 不[illegible]然仁而後[illegible]相[illegible]ニ故位[illegible]不[illegible]也」「寛仁大度」

くゎんじんずまふ [illegible] 勧進相撲 [illegible] ノ[illegible]ニ興行スル相撲。[illegible]ダリテ、寛[illegible]後府内ニ於イテ、勧進相撲ヲ興行ス

くゎんじん-たいど (名) 寛仁大度 仁心ニテ[illegible]、度量ノ[illegible]ナルコト。[illegible]

くゎんじんちやう (名) 勧進帳 (一)寺塔建立ナドノ、勧進ノ趣意ヲ記シテ、巻物ナドトシタルモノ。何ニノ、人ニ勧進スル時ニ、讀ミ聞カス。勧化帳。募[illegible] (二)歌舞伎十八番中ノ[illegible]ガ、[illegible]云ヘル[illegible]

くゎんじんのう (名) 勧進能 [illegible]ニ興行スル能狂言。糺河原勧進猿楽日記ニ、寛正五年四月、京都糺河原ニテ、勧進能興行アリ、[illegible]

[illegible]テ、人ニ見物セシムル能ナリ)

くゎんじん-ビクニ (名) 勧進比久尼 熊野比久尼ノ比久ヲ比丘トモ書ス」 諸國ヲ勧進シテアルクモノ、初ハ熊野ノ牛王寶印ヲ賣出ス[illegible]、[illegible]ニ入レテ持タセ[illegible]ニ勧[illegible]行ナリ、後ニハ地獄、極楽、ハセテ[illegible]行ナリ、[illegible]、[illegible]佛、六道ノ繪ヲ[illegible]ハ、[illegible]説ヲシ、又、小唄ヲ謠ヘリ、因リテ歌比久尼トモ云フ、人倫訓蒙圖彙[illegible]、後ニハ、[illegible]ヲ賣[illegible]ナリ[illegible]、賣[illegible]ナリテ、[illegible]ニ、比久尼[illegible]ノミモ云ヘリ。[illegible]ナド云フ賣女モ、是レナリ。好色一代女[illegible] [illegible]

くゎんじんびやく (名) 勧進柄杓 [illegible] [illegible]ノ[illegible]、銭ヲ受クル柄杓。[illegible]

くゎんじん-ひぢり (名) 勧進聖 (ひぢり)ノ條ヲ見ヨ) 勧進ヲスル僧。(勧進能ノ條ヲ見ヨ) 後ニハ、諸國ヲ[illegible]行シテ、銭[illegible]コトヲ[illegible]

くゎんじん-へいけ (名) 勧進平家 琵琶法師ノ、勧進ノタメ、平家物語ヲ語ルコト。康富記、[illegible]年[illegible]月七日、[illegible]寺ノ勧進平家[illegible] [illegible]

くゎんじん-へう (名) 勧進表 くゎんぢん(勧進)ノ條ヲ見ヨ。

くゎん-しや (名) 官社 (一)神祇官ノ神名帳ニ載セラレ、祈年祭ニ預カル社[illegible]。(二)今、官幣社、國幣社、ノ總稱。

くゎん-しや (名) 官舍 (一)官ヨリ、其吏員ノ住宅ニ充テタル家屋。官宅。官邸。(二)役所。[illegible]

くゎん-しや (名) 館舍 タチ。ヤカタ。史記、田叔傳「下執休 相、就館舍ニ」「館舍ヲ掃ツ」

くゎん-じや (名) 冠者 [元服シ、加冠シタル者ノ義、くゎんじやハ、音略ナリ(合歓、がふくゎん、かうかノ木。紺帶、くたい。[illegible]文、かもん)。[illegible]ハ、音轉ナリ(從者、ずさ)] (一)少年ノ、元服スル人、元服セシ人ノ稱。弱冠トモ云フモ、是レナリ。又、くゎんざ。[illegible] [illegible] [illegible] (二)くゎんじやハ、少年ノ未熟ナルヲ貶シテ云フ語ニ用キラル。[illegible] [illegible] 云ヘリ」(三)召使ノ若者。又、從者。從僕。家來。[illegible] [illegible]

くゎん-じや (名) 患者 [病ヲ患ヘ居ル者] 病人ヲ、醫者ヨリ云フ語。

くゎん-しやう (名) 官掌 くゎんじやう(官掌)ノ條ヲ見ヨ。

くゎん-しやう (名) 管掌 ツカサドルコト。支配。

くゎん-しやう (名) 勸賞 人ヲ勵マサムタメニ、賞與スルコト。けんじやう。宋史、良吏傳、[illegible] [illegible]左、必ズ賞ヲ行ハレズトモ、何事カアランヤ」

くゎん-しやう (名) 觀象 氣象ヲ、觀測スルコト。三國志、[illegible] 觀象スルタメニ設ケタル建物ヲ、觀象臺ト云フ。天文臺。

くゎん-じやう (名) 官情 仕官スベキ心。[illegible]

くゎん-じやう (名) 款狀 〔款ハ、誠ナリ、誠ヲ述ブルナリ、下ノ出典ヲ見ヨ、倘、くゎんじよう(款状)ヲ併セ見ヨ〕 [illegible] [illegible] 「孔熙先、與范曄同逆、下獄、[illegible]、[illegible] 新井白石ノ西洋紀聞ノ附錄ニ、寶永五年

ニ渡來ノ羅馬人ノ事ニ就キテ「羅媽人款狀、異人申口之覺」トアリ。

くゎん-ぢやう（名）[勸請]（一）佛ヲ、勸メ請ズルコト。來臨ヲ請フコト。菩薩本行經「勸請如來說法」法華經、化城喩品、偈「請佛已、勸請世尊轉於法輪」徒然草、二百五段「比叡山ニ、大師勸請ノ起請文トイフ事ハ、慈惠僧正書キ始メ給ヒケルナリ」（二）八幡大菩薩、熊野權現、ナド申スヨリ、移シテハ、神託ヲ請ヒ奉ルニモ云フ。保元物語、一、鳥羽院御熊野御參詣事「不思議ノ瑞相アリ、權現ヲ勸請シ奉ラヤ」盛衰記、廿四、胡德樂事「神託ニ任セテ勸請ノ爲ニ、勅使百官ヲ、宇佐宮ニ立テラレタリケレバ」（三）轉ジテ、神佛ノ靈ヲ、離レタル地ニ移シ祀ルコト。

ぐゎん-じやう（名）[元正] 元旦。元日。一月一日。唐書、禮樂志「元正、歲之始」

くゎん-じやう-し（名）[管城子] 筆ノ異名。下ノ出典ヲ見ヨ。韓愈、毛穎傳「毛穎者、中山人也、秦始皇時、蒙將軍恬、南伐楚、次中山、云云、而歸、始皇賜之湯沐、而封諸管城、號曰管城子」（古文）文房四譜「宣城毛元鋭、字文鋒、封管城侯」

くゎん-しやう-だい（名）[觀象臺] くゎんさう（觀象）ノ條ヲ見ヨ。

くゎん-しやく（名）[官爵] つかさト、くらゐト。官職ト、爵位ト。濁音ニモ云フ。禮記、仲尼燕居篇「朝廷官爵、失其序」源、廿一、少女「心ノ儘ナルくゎんざくニ昇リヌレバ、時ニ從フ世ノ人ノ、心ニハ、鼻マジロギシツツ、追從シ」

くゎん-じやく（名）[官爵] 前條ヲ見ヨ。

くゎん-しゆ（名）[官守]（官ニアリテ守ルベキコト）ヤクメ。ツトメ。職責。孟子、公孫丑下篇「有官守者、不得其職則去」

くゎん-しゆ（名）[管守] 管理シテ、守ルコト。「物品ヲ管守ス」

くゎん-しゆ（名）[觀取] 觀テ取ルコト。認ムルコト。「其心術ヲ觀取ス」

くゎん-しゆ（名）[卷首] 卷物、書物ノ首。卷頭。

くゎん-じゆ（名）[卷數] 下、くゎんぞ。初ハ、經供養ニ讀誦シタル經卷ノ數ヲ記シタル文書。後ニハ、寺院ヨリ、長日ノ祈禱ニ、千度、萬度、誦ジタル經卷ノ數ヲ記シテ、願主ニ贈レルモノ。初ハ、內ニ、祈禱ノ趣ヲ書キテ、上包ニ、御祈禱卷數ト記シ、梅、櫻、ナドノ花枝ヲツケタリ。後ニハ、短册形ノ紙片ニ、卷數ヲ記シテ、歲暮ニ、檀家ニ配レリ。神職モ、コレニ倣ヒ、中臣祓ノ數、祓ノ度數ヲ記シテ、贈リテ、卷數ト稱シタリ。拾遺集、五、賀「天曆ノ帝、四十ニ成リオハシマシケル時、山階寺ニ、金泥壽命經四十八卷ヲ書キ、供養シ奉リテ、御卷數、鶴ニ啣ハセテ、洲濱ニ立テタリ」盛衰記、廿八、源氏追討使事「白淨衣ニ立烏帽子着タル老翁六人、梅ノ楉ニ卷數付ケテ、各、捧ゲテ、六人ノ大將軍ニ奉ル、門出吉シトテ、云云、各、卷數ヲ披イテ讀ミタマヒケル」拾玉集、五、文治六年「公德中將、祈禱成就之後、遣卷數返事之次、云云、包メル薄樣ニ（歌）」東山殿年中行事、十二月晦「歲暮御卷數之事ハ、云云、梅ノすはえニ結付ケ候フヲ、幾ツモ取リ集メ、本ト末トヲ、紙燃ニテ結ヒテ、云云、箱ニ入レ候ヲバ、御床盤ニ居エ候テ、云云、所所ヨリノ御卷數ト申入レ候テ、御頂戴アラセ申ス者也」御湯殿上の日記、元龜三年十二月廿二日「伏見ノはんじゆ院卿くゎんぜう、深草ノあんらくぎう院ヨリモ、御卷數マキル」

くゎん-じゆ（名）[貫首]（首ニ貫スノ義、くゎんす（貫）ノ條ヲ見ヨ、貫主トモ書ケルアリ、當字ナルベシ」（一）頭立ツコト。又、其人。孝經、註「須同、弟子者、孔門之弟子人弟子貫首」慈恩傳、大唐三藏聖教序、勅賜三衆經之首」內裏式、新嘗祭、授賞首人」註「不論、爲貫首之授上小錄第一人也」（二）藏人頭ノ異稱。殿上ニテ、第一ノ人ナレバ、ナリ。又、くゎんぞ。職原抄、下、藏人所「頭二昇殿一簡、併以頭爲貫首」平家物語、十、吉田大納言沙汰事「夕郞ノ貫首ヲ經、云云、大納言ニ經上リ」著聞集、廿、草木「渡殿ニハ、貫首ニ從ヒタル藏人ドモ、並ビ居テ、云云」（三）佛教ニテ、一宗、一山、ノ管長ノ稱。くゎんぞ。天台宗比叡山延曆寺ニテ、座主ノ稱。太平記、廿六、妙吉侍者事「山門、寺門ノ貫首、宗ヲ改メテ、衣鉢ヲ持チ」（山門ハ延曆寺、寺門ハ園城寺）盛衰記、四、白山神輿登山事「寺官、依貫主ノ御下知ニ、山三院ニ披露シ」平家物語、二、座主流事「先座主、宮ヒケルハ、昔コソ、三千ノ衆徒ノくゎんずタリシカ、今ハ、カカル流人ノ身トナリテ」

くゎん-じゆ（名）[貫主] 前條ニ同ジ。

くゎん-じゆ（名）[貫衆] オニワラビ。本草、貫衆「草鴟頭如鴟尾、其根一本、而衆枝貫之、故草名鳳尾、根名貫衆」

ぐゎん-しゆ（名）[願主] ネガヒヌシ。願ヲ立ツル人。千載集、七、離別「人ノ、法會行ヒケル導師ニ、越前國ニマカリテ、上リナムトスル時、彼國ノ願主、別レヲ惜シミケルニ、詠メル」（歌）

ぐゎん-しゆ（名）[願酒] 神佛ニ祈願シテ、禁酒スルコト。浮世床（文化、三馬）初編、上「酒ハ、明日カラ願酒ダ」

くゎん-しよ（名）[官署] 官廳。官衙。役所。宋史、食貨志「定州諸山多銀鑛、鳳州山銅鑛復出、請置官署、掌其事」

くゎん-しよ（名）[關雎]（關ハ、和グコト、雎ハ、みさごニテ、雎雄ノ和合スル義、詩經、周南、關雎篇「關關雎鳩、在河之

洲」トアルニ起因ス）夫婦ノ道、行ハレテ、家庭ノ、融和スルコト。漢書、匡衡傳「孔子論詩、以關雎爲始、」綾歌加留多、享保、近松作、一「夫婦ハ大倫也、關雎ハ榮ンデ淫セズ」

くゎん-じよ（名）[還昇]（くゎんじやうノ讀例（見證、けんぞ。承和菊、そがぎく）名目抄「還昇、常ノ音、ぢやう也、ぢよ、名目也」又、上ニヒカレテ濁ルナリ」還殿上。殿上人ノ、昇殿ヲ停メラレシガ、再ビ、昇殿セシメラルルコト。藏人ニ就キテ云フハ、藏人ハ、六位ナリトモ、昇殿スルモノナルガ、其極臈ノ人、巡爵ニアヅカリテ、五位ニ敍爵スレバ、（コレヲ、藏人五位ト云フ）五位ノ新藏人トナル、因リテ、退スル後、特ニ、昇殿ヲ聽サルルヲ、還昇ト云フナリ。職原抄、私抄（搢紳清原宣賢）「殿上ヨリ地下ヘオリテ、又、昇殿スルヲ、還昇ノ殿上ト云フナリ」禁祕御抄、中、藏人事「敍爵後、或月內、或次月、還昇」公卿補任、後冷泉、永承二年、藤原經季「長元四年三月廿八日補藏人五位藏人」云云、同八年正月五日、敍從四位下、同九日還昇」狹衣、一、下「去年ヨシ見タマヘヨ、來年バカリ、かへりてんぢやうシテ、五位ノ藏人ニナリテ、云云、見セ奉ラム」千載集、十七、雜、中「還昇シテ侍リケル人ノ、許ニ遣ハシ侍リケル「ウレシサヲ、ヨソノ袖マデ、包ムカナ、立歸リヌル、天ノ羽衣」名目抄「還昇」註「私、六位藏人、五位ニ敍シテ、かえり殿上スル事ナリ」枕草子、二、廿段「藏人降リタル人、云云、藏人の五位トテ、ソレヲシモゾ、イソガシウ使ヘド、云云」

くゎん-じよ（名）[寬恕] 心ヒロクシテ、思ヒヤリノアルコト。後漢書、魏覇傳「以寬恕爲政」

ぐゎん-しよ（名）[願書]（一）祈願ノ旨ヲ記シタル文書。吾妻鏡、一、治承四年九月十一日

「立[illegible]可[illegible]付[illegible]之由、有[illegible]」[illegible]、法[illegible]コノ世ニ弘マリ給ヒシ事ナド、泣ク泣ク申シ設ケタリ」（二）ネガヒシヨ。政府ヘ願ヒノ趣意ヲ記シタル文書。

くわん-かうちたい（名）〔緩衝地帶〕[illegible]利害[illegible]國ト國トノ間ニ、不[illegible]、一定ノ中立地ノ帶、各國[illegible]、此地ニ軍隊ヲ入レザルヲ約ス。中央亞細亞ノ、英國ト、露國トノ領地間ニ設ケタルアリ、日露[illegible]以前ニ、兩國ノ、滿洲、朝鮮ノ南北ノ間ニ設ケムトシタルコトアリキ。

くわん-しよく（名）〔官職〕（一）官ト、職ト。くわん（官）ノ條ヲ見ヨ。（二）官ノツトメ。役目。[illegible]

くわん-す（名）〔鑵子〕〔禪家ヨリ出デタル語ナルベシ〕（一）湯ヲ沸カスニ用ヰル器、[illegible]ナドニ、作リ[illegible]。[illegible]（二）[illegible]

くわん-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）〔冠〕[illegible]ニ、[illegible]。[illegible]國、[illegible]ノ稱。（[illegible]）（二）畿内、西ムニ、如何ニヨカラムズラント」（三）大[illegible]

くわん-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）〔關〕カカハル。[illegible]關係[illegible]

くわん-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）〔貫〕（一）ツラヌキ、[illegible]。[illegible]（二）[illegible]人別ニス。名籍ニス。

くわん-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）〔管〕統ブ。トリシマル。[illegible]管理ス。管轄ス。[illegible]

くわん-ず（名）〔卷數〕卷數ヲ見ヨ。

くわん-ず（名）〔貫首〕貫首ヲ見ヨ。

くわん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）〔觀〕佛教ノ語、靜カニ心ニ思ヒ浮カベテ、法ノ眞理ヲ觀ル。[illegible]心[illegible]身ヲくわんじ[illegible]、コトワリニ、イミジ」

ぐわん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）〔丸〕マロムル。丸藥ニ作ル。搏

くわん-すう（名）〔卷數〕卷物ノ數。[illegible]ノカズ。册數。

くわん-すずめ（名）〔鐶雀〕紋所ノ名、鐶ノ上ト、左右ト、中トニ置キテ、雀ノ象ヲ圖シタルモノ。

くわん-ぜ（名）〔觀世〕觀世流ヲ見ヨ。

くわん-せい（名）〔官制〕官職ノ制度。[illegible]

くわん-せい（名）〔完成〕全ク、成就シタルコト。全ク、デキアガリタルコト。完結。

くわん-せい（名）〔關西〕關西ニ同ジ、關東ノ條ヲ見ヨ。

くわん-ぜい（名）〔關稅〕[illegible]ニテ、輸出、輸入品ニ課スル稅金。

くわんせい-れき（名）〔寬政曆〕寬政十年ニ改訂、發行セラレタル曆。

くわんぜ-おん（名）觀世音、[illegible]ヲ見ヨ。

くわんぜおん-ぼさつ（名）〔觀世音菩薩〕〔梵語、阿婆盧吉帝濕伐羅ノ譯、世間ノ苦惱ノ音聲ヲ觀ずる義、是レ、舊譯ナリ、新譯ニハ、觀自在トス、觀力自在ナル義〕佛ノ名、勢至菩薩ト共ニ、阿彌陀佛ノ脇侍ナリ。慈悲救濟、拔苦與樂ノ德アリ、三十三身ニ化現シテ、衆生ヲ濟度スト云フ。略シテ、常ニ、觀音ト云フ。又、觀自在菩薩。施無畏者。[illegible]、千手觀音、如意輪觀音、等ノ六觀音アリ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

くわん-せき（名）〔貫籍〕〔貫すノ條ノ（二）ヲ見ヨ、韻府「本貫、鄉籍也」〕其地ノ戶籍ニ貫スルコト。實ニ在籍スルヨ、本貫、本籍、ト云ヒ、其戶籍ニ屬キテアルヲ、貫屬ト云フ。「東京府貫屬[illegible]」

くわんぜ-ごより（名）〔觀世紙捻〕[illegible]くわんぜよりノ條ヲ見ヨ。

くわん-せつ（名）〔關節〕骨ノツガヒ。[illegible]

くわん-せつ（名）〔官設〕官ノ設立。政府ニテ、設建スルコト。（私設ナドニ對ス）

くわん-ぜつ（名）〔冠絕〕優レテ、上ニ出ヅルコト。最モ、ヌキンヅルコト。第一ナルコト。卓絕。[illegible]

ぐわん-ぜ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔無頑是〕聞キワケナシ。理解ナシ。[illegible]

くわん-せふ（名）〔關涉〕〔關係、涉獵ノ義、かんせふハ（干涉）ト、異ナリ〕廣ク、學問ニ涉ルコト。博學。[illegible]

くわんぜ-ぶ（名）〔觀世麩〕〔渦ノ觀世水ノ如キニ云フカ〕燒麩ノ一種、切口ニ、靑キ渦ノ形ノ現ハルル如ク製シタルモノ。

くわんぜ-みづ（名）〔觀世水〕〔能樂ノ觀世氏ノ扇ノ章ニ、五色六卷ト云フアリ、ソレナルベキカ〕紋所ノ名、卷きするめノ如キ象ヲ延ハセテ、半圓形ヲ圖ス。[illegible]

くわん-せん（名）〔官線〕官設ノ鐵道線路。又、電信、電話線ニモ云フ。（私線ニ對ス）

くわん-せん（名）〔官撰〕官府ノ撰書。政府ノ編輯。

ぐわん-せん（名）〔官選〕官ニテ、選ブコト。（民選ニ對ス）「官選辯護士」

くわん-せん（名）〔貫穿〕〔貫きトホス〕

博ク、學問ニ通ズルコト。漢書、司馬遷傳「貫ニ穿經傳ニ」

くゎんぜん（名）［完全］マッタキコト。缺ケタル所ナキコト。劉禹錫詩「吟レ詩猶覺力完全ニ」「完全無缺」

ぐゎんせん（名）［紈扇］ぐゎんそ（紈素）ノ條ヲ見ヨ。

ぐゎんせん（名）［頑癬］タムシ。

くゎんせんきょく（名）［管船局］遞信省中ノ一局、船舶、航路ノ事ヲ掌ル。

くゎんせんじ（名）［官宣旨］太政官ヨリ、其被管ノ諸司、又ハ、寺社、等ニ下ス宣旨。太政官符、太政官牒ノ、輕便ナルモノト云フ。

くゎんぜんちょうあく（句）［勸善懲惡］善ヲナス者ヲ勸メ、惡ヲナス者ヲ懲ラス。略シテ、勸懲。左傳、成公十四年「春秋之稱、云云、懲レ惡而勸レ善」漢書、賈誼傳「慶賞以勸レ善、刑罰以懲レ惡」宋史、禮志「是非較然、用爲ニ勸懲ニ」

くゎんぜんより（名）［觀世縒］次條ヲ見ヨ。

くゎんぜより（名）［觀世縒］（冠、烏帽子ノ懸緒ニ、神事ノ時ハ、紙縒ヲ用キルヲ例トセリ、ソレヲ二筋合ハセタルモノヲ、世阿彌ガ始メタルナルベシ、くゎんぜんより、かんぜんより、かんぜんより、ハ、音便轉ナリ（烏帽子、えんばうし。馬道、めんだう。元興寺、がごぜ、[illegible]））紙縒ヲ、二筋合ハセテ、縒リタルモノ。又、クヮンゼコヨリ。クヮンゼンヨリ。カンゼンヨリ。カンジンヨリ。近代世事談（享保）五、人事門「觀世縒、文明ノ頃、觀世世阿彌、式三番ノ翁ノ烏帽子ノ懸緒ニ、紙縒ヲ合ハセテ用ヰ始ムト云ヘリ、云云、彼家ニテハ、コレヲ、合紙縒ト云フナリトゾ」（世阿彌ハ、觀世流ノ二代目ナリ）合類節用集（元祿）七、器財門「觀世錢縒」嘉艶大全（天和）五「老女ノ昔塗笠ニ、觀世よりノ緒ヲツケテ」

くゎんぜりう（名）［觀世流］（初代、觀阿彌、二代、世阿彌、三代、音阿彌、觀世音ノ三字ヲ別チ稱セリ、三代目音阿彌、觀世音ノ夢想ニ因リテ、結崎氏ヲ、觀世氏ニ改メタリト云フ）能樂ノ一派ノ名。結崎三郎清次ヲ祖トス、卽チ、能樂ノ開祖ナリ、名ヲ觀阿彌ト改ム、二代世阿彌元清ト、父子共ニ、義滿ノ寵ヲ受ケ、大イニ能樂ヲ擴張シ、二人ノ作成セシ新曲、多ク、遂ニ、能樂ヲシテ、武家ノ式樂タラシム、三代音阿彌元重以下、後孫、業ヲ繼ギ、德川氏ノ世トナリ、幕府ニ仕ヘテ、能役者ノ家トナリ、能樂ノ首席ヲ占ム。寶生流、今春流、金剛流、喜多流、皆、觀世流ノ流派ナリ。

ぐゎんそ（名）［元祖］（一）家系ノ、第一ノ人。先祖。始祖。三國志、蜀志、先主傳、注「不レ知、以ニ何帝ニ爲ニ元祖ニ」（二）スベテ、始メテ、事ヲ爲出シタル人。開祖。鼻祖。（藝術、製造ナドニ）創意者 狂言記、宗論「元祖日蓮上人ノ、持タセラレタ數珠ナレド」

ぐゎんそ（名）［紈素］［文選、古詩「被レ服紈與レ素」李善、註「范子曰、白紈素出レ齊」急就篇、註「素、謂ニ絹之精白者ニ」］白色ノ練絹。コレニテ張リタル團扇ヲ、紈扇ト云フ。古文眞寶、前集、班婕妤、怨歌行「新裂ニ齊紈素、鮮潔如ニ霜雪、裁成ニ合歡扇、團團似ニ明月ニ」石川丈山、富士山詩「雪如ニ紈素ニ烟如レ柄、白扇倒懸東海天ニ」江淹詩「紈扇如ニ團月、出ニ自ニ機中素ニ」

くゎんそう（名）［盥漱］手ヲアラヒ、口ヲソソグコト。禮記、內則篇「子事ニ父母ニ、雞初鳴、咸盥漱、云云」寬平御遺誡「未旦求衣之勤、每日整服盥漱、拜レ神ニ」

くゎんそく（名）［觀測］物事ノ、現象、狀態ヲ、觀察シ、測量シテ、其、變化、推移、等ヲ知ルコト。

くゎんぞく（名）［貫屬］貫籍ノ條ヲ見ヨ。

くゎんそんみんぴ（句）［官尊民卑］官、尊ク、民、卑シ。

くゎんたい（名）［緩怠］（一）オコタリ。等閑。ナマケ。保元物語、二、爲義最後事「淸盛、旣ニ叔父ヲ誅ス、何ゾ緩怠セシメム」（義朝ヲシテ、急ギ、其父爲義ヲ誅セシメムト云フナリ）（二）等閑ノ意ヨリ轉ジテ、失禮。不作法。甲陽軍鑑、十三、品第四十、上「穴山殿ハ、信玄公御從弟、シカモ、總領聟ニテマシマスガ、緩怠ナガラ、サヤウノ御詞ヲ、他國ノ家中ニ、聞キニ笑ヒ候ハムスルナリ」

くゎんたい（名）［款待］誠心ヲ以テ、待遇スルコト。手厚ク、モテナスコト。「來客ヲ款待ス」

くゎんたい（名）［寬待］寬大ニ、應待スルコト。ユルヤカニ、モテナスコト。「過失ヲ咎メズシテ、寬待ス」

くゎんだい（名）［寬大］人ヲアツカフニ、寬カナルコト。漢書、高帝紀「沛公素、寬大長者」同、丙吉傳「寬大、好ニ禮讓ニ」

くゎんだい（名）［寰內］［說文「寰、天子封畿內縣也」］畿內ト云フニ同ジ。又、寰中。後漢書、孔融傳「宜ト準ニ古王畿之制、千里寰內、不ニ以封ニ建諸侯ニ」李百藥詩「聲教溢ニ寰中ニ」太平記、十三、中前代蜂起事「今、天下、一統ニ歸シテ、寰中、無事ナリト雖モ、朝敵ノ餘黨、ナホ、東國ニアリヌベケレバ」

くゎんだいこう（名）［關內侯］支那ノ戰國ノ世ヨリ漢代マデ、功アル者ニ、諸侯ノ號ヲ與ヘテ京畿ニ居ラシメ、祿ノミニテ、國邑ナキモノノ稱。漢書、百官表「爵十九、關內侯」戰國策、魏策「不レ若ト與ニ賓屋關內侯ニ而令セ之レ趙ニ」制度通、四、官品、正從「關內侯トハ、侯號アリテ、居ニ京畿ニ國邑ナシ、漢書ニ見ナリ」

くゎんだう（名）［官道］政府ニテ設ケタル道路。（私有地內ノ道路ナドニ對ス）

くゎんだか（名）［貫高］くゎん（領地ノ貫）、幷ニ、分錢ノ條ヲ見ヨ。

くゎんたく（名）［官宅］官舍ニ同ジ。

ぐゎんだて（名）［願立］神佛ニ、願ヲ立ツルコト。グヮンガケ。運歩色葉集（天文）「願立」心中刃氷朔日（正德、近松作）下「跡ニ尋ヌル願立テニ、神ヤ佛ノ控ヘ綱」

くゎんたん（名）［卷丹］オニユリ。

くゎんだん（名）［款談］くゎんご（款語）ニ同ジ。

ぐゎんたん（名）［元旦］ぐゎんにちニ同ジ。[illegible]

くゎんち（名）［官地］官有地ニ同ジ。

くゎんぢく（名）［卷軸］（一）卷物仕立ノ文書、書畫。李白、與ニ韓荊州ニ書「至ニ于制作、積成ニ卷軸ニ」盛衰記、十九、[illegible]經ノ說時、不同ニシテ、卷軸、區區ニ分カレタレトモ、法華ハ、八箇年ニ說キテ、八軸ニ調卷セリ」（二）卷物

ノ末ノ、輔ニ至ルマデ[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

くゎんちやう　(名)　官廳　(一)政治ヲ取扱フ所。官衙。役所。[illegible]　(二)太政官廳ノ上略。[illegible]

くゎんちやう　(名)　官長　(一)官吏ノ長。官廳ノ長官。(二)太政官、又ハ、神祇官ノ長官。[illegible]

くゎんちやう　(名)　管長　神道、佛教、ニテ、一教、一宗ヲ、管理スル長。

くゎんちやう　(名)　灌腸　醫ノ語、肛門ヨリ、藥水ヲ注ギ入ルルコト。多クハ、大便ノ通利ヲ促サムガ爲ニ行フ。又、滋養物ヲ注入スルコトアリ、之レヲ、滋養灌腸ト云フ。

くゎんぢやう　(名)　灌頂　佛道ニテ、香水ヲ頂ニ灌ク法式。今、專ノ、眞言宗ニテ行フ事トナレリ。一般道俗ノ、佛縁ヲ結ブガタメニ、受衣スルニ行フヲ、結縁灌頂ト云ヒ、密法傳授者ニ行フヲ、傳法灌頂、又ハ、授職灌頂ト云フ、コレヲ受ケシ者ヲ、阿闍梨ト稱シ、人ニ灌頂ヲ行フコトヲ得ト云フ。[illegible]

ぐゎんぢやう　(名)　頑丈　がんでう(五[illegible])ノ條ヲ見ヨ。

くゎんぢやうがう　(名)　灌頂號　[illegible]トハ、金剛佛子ノ受ケタル字ノ義、修法ニ、金剛堅固ナル意ヲ表スルナリ」　密宗ニテ、始メテ、灌頂壇ニ入ル時ニ受クル稱號。又、金剛號トモ云フ。[illegible]

くゎんぢやうだん　(名)　灌頂壇　灌頂ヲ行フハムタメニ設クル壇。[illegible]

くゎんちやく　(名)　[illegible]着　[illegible]着ヲ見ヨ。

くゎんちう　(名)　寰中　くゎんだい(寰内)ノ條ヲ見ヨ。

くゎんぢよ　(名)　官女　官女ノ(一)ニ同ジ。[illegible]

くゎんちやう　(名)　勸懲　勸善懲惡ノ略、[illegible]其條ヲ見ヨ。

くゎんつう　(名)　貫通　貫キ、通ルコト。[illegible]

くゎんづめ　(名)　罐詰　罐ニ食品ヲ、永ク保存ニ堪ヘサセム爲ニ詰ムルコト、又其物。

くゎんづもり　(名)　貫積　くゎん(領地ノ貫)ノ條ヲ見ヨ。

くゎんてい　(名)　官邸　[私邸ニ對ス]　官宅、官舍、[illegible]

くゎんてい　(名)　官底　[illegible]之草、樞密院謂之底」　太政官ノ外記ノ稿案。小右記、寬仁二年十二月廿日「天台四至官符、在天台、敕、又、官符之案、在官底」[illegible]　國衙ノ稿案ヲ、國底ト云フ。

くゎんてい　(名)　關帝　支那ニテ、三國ノ時ノ蜀ノ勇將、關羽ヲ、祀ルニ就キテノ稱號。商人ナド、殊ニ尊崇ス。[illegible]

ぐゎんてう　(名)　元朝　元日ノアサ。元日。[illegible]

くゎんてつ　(名)　貫徹　趣意ノ、貫キ徹ルコト。[illegible]

くゎんてん　(名)　寬典　寬大ナル恩典。[illegible]

くゎんてんきち　(句)　歡天喜地　喜ビテ、小踊リス。水滸傳、第一回「當時只得歡天喜地[illegible]」

くゎんと　(名)　官途　(一)仕官ノミチ。白居易、香爐峯下詩「官途自此心長別、世事從今口不言」　(二)官職ノ稱號。吾妻鏡、十六、正治二年九月廿五日「山城三郎行村等、[illegible]人ノ官途[illegible]」

くゎんと　(名)　環堵　環堵之室ノ略、其條ヲ見ヨ。

くゎんとう　(名)　關東　(一)古クハ、近江國、逢坂關ヨリ東ノ方、東海道、東山道、ノ總稱。コレヨリ西ナル方ヲ、關西ト云フ。(萬治ノ東海道名所記ニ、相坂ヨリ東ヲバ、關東ト申ス)　[illegible]　後ニ、足柄坂(東海道)、碓氷坂(東山道)、二處ニ關ヲ設ケラルルニ及ビテ、關東ノ稱ハ、自ラ此二關以東ノ地方ニ稱ル、又、坂東、山東、トモ云フ、即チ、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野、ノ八國ナリ。コレヲ、關東八州、關八州、東八箇國、又、坂東八州トモ云フ　後ニ、陸奥、出羽、ヲ加ヘテ、關東十箇國トモ稱セリ。支那ニテハ、函谷關ヨリ東ヲ關東、西ヲ關西、トモ云ヒ、又、關左、關右、トモ云フ。[illegible]　我ガ國ニテモ、文學ニ從フ人ハ、コレニ倣ヒテ　關東ヲ、關左トモ云フ。然シテ、今、關西ト云フ語ハ、關東ヨリシテ、漠然ト　尾張、美濃、以西ニ稱スルガ

如シ。享祿本、類聚三代格、十八、昌泰二年九月十九日、太政官符「相摸國、足柄坂、上野國、碓氷坂、云云、件兩箇處、特置關門」 延慶本、平家物語、五、本、兵衛佐軍兵付二宇治勢田一事「坂東太郎トテ、關東第一ノ大河也」(利根川ヲ云フ) 太平記、十一、諸將被レ進二早馬於船上一事「…ニ、東八箇國ノ勢ヲ以テ、日本國ノ勢ニ對シ、云云」 保暦間記、建武元年十二月「成良親王ト申スニ、足利直義副ヘテ、關東八箇國ノ守護トシテ、鎌倉ヘ下向ニ(節文)」 建武年間記、於二決斷所一可レ有二沙汰一條條「關東十箇國成敗事」 合類節用集(元祿)一、乾坤「關東、關左、坂東、並同」 (三)鎌倉時代ニハ、京都ヨリハ、鎌倉幕府、又ハ、將軍ヲ、關東ト汎稱シ、又、關の東ト云ヒ、室町時代ニハ、關東管領、關東將軍ヲ稱シ、江戸幕府、又ハ、將軍ヲ稱セリ。增鏡、第十三、今日日影「サテモ、岩清水ノ流レヲワケテ、せきのひがしニモ、宮君ト聞ユルコソオハシマス」 同、飛鳥川「此由ヲモ、せきのひがしヘゾ宣ヒツカハシケル」 貞永式目「國司、領家成敗、不レ及二關東御口入一事」

くゎん-とう (名) 【官等】 官ノ等級。役目ノ高下。

くゎん-とう (名) 【卷頭】 卷物、書物、ノ初頭ノ稱。卷首。終尾ヲ、卷軸ト云フ。共ニ、詩歌、文章、ナドノ、殊ニ、優レタルモノヲ載スル所トス。

くゎん-とう (名) 【欵冬】 〔灌木ノ棣棠トスルハ、誤リナリ、其條ヲ見ヨ、欵冬ハ、冬、花、咲ク〕 蕗ノ漢名。其花ヲ、欵冬花ト云フ、卽チ、ふきのたうナリ。急就篇、顏師古、注「欵冬、以二其凌レ寒叩レ氷而生一、故爲二此名一也」 本草、欵冬花、云云、十一月採二花陰乾一」

くゎん-どう (名) 【丱童】 〔詩經、齊風、甫田篇「總角丱兮」 朱傳「丱、兩角貌」〕 總角シタル童子。少女ナルヲ、丱女ト云フ。

盛衰記、十二、高博稻荷社琵琶事「金ノ扉ヲ押シ開キ、玉簾ヲ卷キ上ゲテ、丱童一人、出現シ」 白氏文集、三、海漫漫「童男丱女舟中老」 宇津保物語、初秋、五十六「蓬萊ノ山ヘ、不死藥取リニ渡ラムコトハ、どうぶん、くゎん女ダニ、其使ニ立チテ、舟ノ中ニテ老イ」

ぐゎん-どう (名) 【頑童】 頑ニシテ、愚ナル小兒。書經、伊訓篇「遠二耆德一、比二頑童一」

ぐゎん-どう (名) 【玩童】 カゲマ。ヤラウ。ワカシュ。孌童

くゎんとう-くばう (名) 【關東公方】 鎌倉管領、及、次條ヲ見ヨ。

くゎんとう-くゎんれい (名) 【關東管領】 〔管領ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 室町幕府時代、相摸國、鎌倉ニ置キテ、東國ヲ統轄セシメシ職。又、鎌倉管領トモ云フ、政所、評定衆、引付、問注所、侍所、等ヲ立テタリ。足利尊氏ノ次子、足利基氏、此職ニ就キシヨリ、子孫相續ギテ、關東管領タリ。後ニハ、室町幕府ニ倣ヒ、御所、又ハ、公方、ト稱シ、俗間ニハ、關東將軍ト稱シ、其執事ヲ、管領ト稱スルニ至レリ。然シテ、上杉氏、管領トナリシヨリ、又、上杉氏一家ノ世職トナリ、關東公方足利持氏ノ卒後ハ、上杉氏代ハリテ、關東公方トナリテ、東國ノ政務ヲ執レリ。喜連川判鑑「從三位左兵衛督基氏、尊氏ノ次男、貞和五年十月、任二關東管領職一」 太平記、三十三、新田義興自害事「鎌倉ノ管領足利左馬頭基氏」

くゎんとう-ぐんだい (名) 【關東郡代】 江戸時代、關東所在ノ幕領ヲ支配スル職。

くゎんとう-しう (名) 【關東州】 支那ノ遼東半島ノ一部、我ガ關東廳ノ管轄スル地。

くゎんとう-しゃうぐん (名) 【關東將軍】 くゎんとうくゎんれい(關東管領)ノ條ヲ見ヨ。

くゎんとう-ととく (名) 【關東都督】 元ト、關東州ヲ統治セシ官。其官廳ヲ、關東都督府ト云ヒキ。

くゎんとう-はっしう (名) 【關東八州】 關東ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

くゎんとう-びゃく (名) 【關東百】 (一)九六百ニ同ジ。(二)百文ヨリ、四文ぬけるト云フヨリ、拔作、卽チ、愚者ノ異名。アハウ。バカ。

くゎんとう-べい (名) 【關東兵】 關東ニテ、口語ノ末ニ、べいト云フ語ヲ使フヲ云フ語。(べい(可)並ニ、奴詞ノ條ヲ見ヨ) 他我身の上(明曆)「大脇差ノ落しさし、小鬢剃リサゲ、柿頭巾、日ノ照リツルニモ鉄子杖、タマタマツカフ言葉サヘ、關東兵ノ如クナリ」(町奴ノ姿ナリ)

くゎんとう-みち (名) 【關東道】 坂東道ノ條ヲ見ヨ。

くゎんと-の-しつ (名) 【環堵之室】 〔玉篇「環、繞也」 說文「堵、垣也、一丈爲レ板、五板爲レ堵」〕 狹キ住宅。小サキ室。略シテ、環堵。禮記、儒行篇「儒有二一畝之宮、環堵之室一」 韓詩外傳、一「原憲居レ魯、環堵之室、茨以二蒿萊一」 陶潛傳「環堵蕭然、不レ蔽二風日一」

くゎんと-ぶぎゃう (名) 【官途奉行】 〔官途ハ、官職ノ稱號ノ義、其條ノ(二)ヲ見ヨ〕 鎌倉、室町幕府ノ職名、家人ノ官ノ敍任ノ事ヲ掌ル。武家名目抄、職名部「官途奉行ハ、御家人タル輩、官爵、任敍ノ事ヲ、承ハリ沙汰スル所職ナリ」

クヮン-トン (名) 【廣東】 支那、廣東地方ヨリ出ヅル、種種ノ物產ニ冠ラセテ云フ語。又、かんとう。「廣東絹」「廣東縞」「廣東鴨」 家鴨ニモ、くゎんさんト云フアリ。

クヮントン-ぎぬ (名) 【廣東絹】 前條ヲ見ヨ。

クヮントン-じま (名) 【廣東縞】 前前條ヲ見ヨ。

クヮントン-やき (名) 【廣東燒】 くゎんさん(廣東)ノ條ヲ見ヨ。

くゎん-ない (名) 【管內】 管轄スル區域ノ內。支配內。(管外ニ對ス)

くゎん-なふ (名) 【還納】 受ケタル物ヲ、還シ納ムルコト。

くゎん-なふ (名) 【完納】 全ク、納ムルコト。殘リナク、納レタルコト。「租稅完納」

ぐゎん-にち (名) 【元日】 正月ノ朔日。一年ノ第一ノ日。一月一日。元日。元旦。元正。元三。三元。三始。三朔。三朝。土佐日記、正月「元日、猶、同ジ泊リナリ」 名目抄、恒例諸公事「元日宴(今世諸人、以レ音爲レ師、或俗云二元日一、故爲レ誡レ之註レ之)」 節用集「元日(ジツ、ニチ)」

ぐゎんにち-さう (名) 【元日草】 福壽草ノ異名。開年ニ、花咲キ、福壽ノ佳名ニ因リテ、鉢植エナドトシテ、元日ノ裝飾トス。大和本草、七、福壽草「フクヅク草トモ、元日草トモ云」

くゎん-にん (名) 【官人】 (一)ツカサビト。官ニ仕フル人。官員。官吏。有司。役人。後漢書、和帝紀「惟官人不レ得二於下一」 謠曲、天鼓「イヅクカ王地ナラネバ、官人ヲ以テ探シ出ダシ」

(二)台ニハ、侍ニ、初位以上、六位以下、官位アル人ノ稱トス。大鏡[illegible]親王、諸王、[illegible]

ぐゎんにん(名)〔願人〕(一)官府ナドニ、事ヲ願フ人。ネガヒヌシ。(二)神佛ニ、願ヲカクル人。願主。(三)次條ノ語ノ略。

ぐゎんにんばうず(名)〔願人坊主〕〔江戸、[illegible]ノ支配下ニ屬シ、[illegible]ニ入ラムト願ヒ居ル者ノ稱ナリシト云フ、或ハ云フ、願ヲカクル人ノ、代待、代垢離、ノ代參ナドスルヨリ、呼ベル名ナリト〕江戸時代、[illegible]ノ橋本町ニ住メリシ、一群ノ乞食、[illegible]、すたすた坊主トナリ、[illegible]、小木魚ヲ鳴ラシ、あほだら經ヲ唱ヘアルキナドシテ、人家ニ錢ヲ乞ヘリ。[illegible]年六月[illegible]願人職共ヨリ、其配下之願人江、銘銘、札相[illegible]

くゎんにゅう(名)〔貫乳〕〔貫入〕[illegible]ナド、當字多シ、官窯ヨリ[illegible]、建窯ニ呼ビ(下ノ、尺素往來ニ、官窯)又、[illegible]支那、宋代ノ政和年間ニ、政府ノ、京師ニ設ケタル官窯ニテ焼キ成シタル陶器ノ稱ニ、製ヲ作リタルヨリ呼ベル名ナリ」(一)陶磁器ノ釉ノ面ニ、細目ノ如キ、細カキ裂文ヲ成サシメタルモノ、焼ク時ノ火力ノ[illegible]ニ因リテナリ、青磁、[illegible][illegible]ナドニアリ[illegible]、乳、文、[illegible]ナド云フ。[illegible]裂文[illegible](二)轉ジテ、誤チテ瑕ツケテ、未ダ割レザルヲモ、にゅうト云フ。

くゎんによ(名)〔官女〕(一)ミヤビト。ヒメトネ。[illegible]中ニ仕ヘ奉ル婦人。宮仕ヘノ女房。宮人。女官。官女。太平記、[illegible]盃ヲ下サレタリ」(二)轉ジテ、將軍ナルニモ云フ。[illegible]官女、[illegible]

ぐゎんにょ(名)〔卯女〕くゎんどう(卯童)ノ條ヲ見ヨ。

くゎんぬき(名)〔閂〕〔くゎんのきノ轉、ナカ七日、なぬか。仰く、あふぬく〕(一)くゎんのきニ同ジ。[illegible](二)相撲ノ手ノ名、相手ノ[illegible]ヲ押シ[illegible]、[illegible]雨腕ニテ、上手ヨリ締メツケテ殺スコト。左、右、何レヘカ捻リ倒スヲ、きめ倒シト云ヒ、ソノママ押シ出スヲ、きめ出シト云フ。

くゎんぬきざし(名)〔閂刺〕刀ヲ腰ニ刺シヤウノ名、閂ノ如ク、前後、高低ナク、横ニ、一文字ニ刺スコト。おとしざしナドニ對シテ云フ。平家女護島(享保、近松作)二「金銅、梅花皮、くゎんぬきさし」

くゎんぬし(名)〔官奴司〕みやつこのつかさノ條ヲ見ヨ。

くゎんねん(名)〔觀念〕(一)佛教ニ、心ヲ靜カニシテ、[illegible]法ノ理ヲ思ヒ浮ベ、觀察[illegible]スルコト。[illegible]、觀念ノ眼ト云フ、[illegible]觀念ハ、[illegible]ニ依リテ得ラルルナリ。[illegible]心モ澄メバ、山里モ、常楽我淨、トコソ聞ユレ」(二)俗ニ、アキラメ。覺悟。決意。狂言記、宗[illegible]ヘ、[illegible]觀念ヲ以テ、云云」

くゎんねん(名)〔觀念〕〔英語、Idea.ノ譯語トス〕心理學ノ語、[illegible]ヲ指ス、[illegible]ニ見ル[illegible]ヲ閉ヂタル後ニモ、ナホ、心中ニ現ハルル物象ハ、觀念ナリ。

ぐゎんねん(名)〔元年〕ハジメノトシ。古ヘ、帝王ノ代替ノ年ノ稱、後ニハ、年號ノ改リタル、第一ノ年ノ稱、共ニ、其次ノ年ヲ、二年、三年、等ト數ヘユク。(年號、改元、ノ條、見合ハスベシ)[illegible]元年、云云」

くゎんのう(名)〔官能〕〔英語、Function.ノ譯語〕動物ノ器官ノ機能。例ヘバ、耳、目、鼻、口、皮膚、ノ感觸ナドヲ云フ。(植物ニモアリ)

くゎんのう(名)〔勸農〕農業ヲ、勸メ勵マスコト。時鳥ヲ、勸農の鳥ト云フ、田植ノ頃ニ出デテ、鳴キ叫ベバナリ。[illegible]六、延寶九年二月二日、大政官符[illegible]勸農之道[illegible]

くゎんのうのとり(名)〔勸農鳥〕前條ヲ見ヨ。

くゎんのき(名)〔閂〕〔關の木ノ義、説文「關、以木横、持門戸也」字彙補「閂、[illegible]」〕門戸ヲ閉ヂテ、コレヲ鎖シ固ムル横木。訛シテ、くゎんぬき。[illegible]の木」

くゎんのそう(名)〔官奏〕(一)太政官ヨリノ奏聞。太政官式、凡[illegible]、左經記、長元元年正月廿五日[illegible](二)不堪田奏ヲ見ヨ。

くゎんのちゃう(名)〔官廳〕太政官廳ノ略。[illegible]

ぐゎんのつかさ(名)〔官司〕太政官ニ同ジ。[illegible]くゎんのつかさニ、定[illegible]ト云フ事スルハ、何事ニアラム」

くゎんばい(名)〔觀梅〕ウメミ。探梅。

くゎんばい(名)〔勸盃〕盃ヲサシテ、酒ヲ勸ムルコト。勸盃。[illegible]、十一、[illegible]盃アリ、三[illegible]ノ後、云云」

くゎんばう(名)〔觀望〕(一)ナガメ、ノゾムコト。[illegible](二)他ノ、兩軍ノ戰ヲ觀テ居テ、勝敗ニ因リテ、去就ヲ決セムトスルコト。ヒヨリミ。洞ガ峠。[illegible]

くゎんばう(名)〔關防〕(一)關ヲスエテ、敵ヲ防グコト。[illegible]關防[illegible]閉塞防人ヨリ起ル也」(二)關防印ノ(二)ノ略。

くゎんばう(名)〔官房〕官廳ノ、官長ニ屬[illegible]

シテ、直屬ノ事務ヲ取ル局。「大臣官房」「知事官房」

くゎんぱう (名) 【官報】 (一)官邊ニテ施行セル諸種ノ公事ヲ載セテ、內閣印刷局ニテ、日日、發表、報告スル摺物。明治十六年七月一日、創刊。(二)公用ノ電報。(私報ニ對ス)

くゎんぱう-いん (名) 【關防印】 〔關防ノ語ニ起ル〕(一)詐僞ヲ防ガムガ爲ニ、官府ノ文書ニ押ス印。明太祖實錄「朕初于文書設關防印記者、本以鑒欺蔽、防奸僞、特一時權宜爾、果正人君子、惡用是爲」(二)書畫ヲカキテ、其右肩ニ押ス印。他ノ、裂キ取ラムヲ防グガ爲ニ、其端初ナルヲ認メシメムトテ、スルナリト云フ、多クハ、長方形ニシテ、種種ノ語ヲ刻ス。略シテ、關防。引首印 倭訓栞、くゎんばう「印ニ云フ關防ハ、五雜組ニ見ユ」

くゎんぱく (名) 【關白】 〔萬機ニ關リ白す義、霍光ガ故事ヲ採リ用キラレタル職號ナリ、霍光、又、博陸侯ニ封ゼラル〕天皇輔佐ノ重職。大臣ノ人、コレヲ兼ヌ、萬機ノ政務ヲ總ベテ、一切ノ奏文ヲ、御覽ニ供フル前ニ、與リ申スナリ、異稱ニ、博陸侯トモ云フ。此職ニアルモノハ、內覽ノ宣旨、一座ノ宣旨、ヲ蒙リ、大臣ノ上位ニ列シ、一座、一の人、一の上、一の所、ト尊稱セラレ、職ヲ辭スレバ、太閤ト稱セラレ、出家スレバ、禪閤ト稱セラル。宇多天皇ノ時、攝政太政大臣藤原基經、始メテ、此職ニ補セラレシヨリ、代代、藤原氏ノ人ノ專任トナリテ、江戶時代ノ末ニ至レリ。漢書、霍光傳「諸事皆先關白光、然後奏ニ御天子ニ」[illegible]政太政大臣ニ關ニ白萬機ニ詔「其萬機巨細、百官總レ己、皆關ニ白於太政大臣ニ、然後奏下」

くゎんぱく (名) 【歡伯】 〔類書纂要、十二「歡伯」註「酒以合レ歡、故、名ニ歡伯ニ」〕酒ノ異名。易林「酒爲ニ歡伯ニ、除レ憂來レ樂」下學集(文安)下、飲食門「歡伯、酒異名也」桂川地藏記(弘治)「酒者、御屋歡伯」易林節用集(慶長)「歡伯、酒名」

くゎんぱつ (名) 【渙發】 〔渙ハ、水ノ、四方ニ散ズルガ如キ意、易經、下經「渙卦」正義「渙者、散釋之名、大德之人、建レ功立レ業、散レ難釋レ險、故謂ニ之渙ニ」〕詔勅ナド、大キニ廣ク、天下ニ發布セラルルコト。柳宗元、賀ニ大赦ニ表「渙ニ發大號ニ」「大詔渙發」

くゎんぱつ (名) 【煥發】 〔火ノ燃エ出ヅルガ如キ意、說文「煥、火光也」玉篇「明也」〕精彩ノ、アキラカニ發スルコト。廣川書跋「魯公於レ書、其神明煥發、正在ニ筆畫外ニ」

くゎんぱッしう (名) 【關八州】 關東八州ノ略。關東ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。關訟祕鑑「關八州幷伊豆國ヨリ訴出候出入者、云云、但(相摸、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野)關八州ト云フ、伊豆國者、准レ之候事」

くゎんぱん (名) 【官版】 官府ニテ發スル版木ノ稱。(私版ニ對ス) 右文故事、九、御本日記、續錄、中「慶長御版ハ、官版ノ權輿也、世ニ、駿河本ト云ハ、足利本、嵯峨本ニ對シテ、答、其版ノ成ル處ヲ云ノ名ナルベシ、御本日記ニ載スル者ヲ、今稱シテ、慶長御寫本トスレバ、此ハ、慶長御版本ト云ベキカ」

❖ぐゎんば・る (動) 【頑張】 がんばるヲ見ヨ。

くゎんび (名) 【卷尾】 卷物、書籍、ノ末。卷軸。(卷頭、卷首、ニ對ス)

くゎんび (名) 【完備】 完全ニ、備ハルコト。缺ケタルコトナキコト。歐陽修文「獨斯碑、首尾完備、可レ見ニ當時之制ニ也」

くゎんぴ (名) 【官費】 官給ノ費用。(民費、私費、ニ對ス) 漢書、貢禹傳「三工官、官費五千萬」「官費支給」「官費留學」

くゎんぴ-せい (名) 【官費生】 官費ヲ受ケテ、學問スル生徒。(自費生ニ對ス)

くゎんぶ (名) 【患部】 身ノ內ノ、病ム局部。

くゎんぷ (名) 【官府】 〔府ノ條ヲ見ヨ〕(一)オホヤケ。朝廷。(二)ツカサ。役所。官衙。周禮、天官篇、冢宰「太宰、以ニ八法ニ治ニ官府ニ」

くゎんぷ (名) 【官符】 太政官符ノ略。盛衰記、廿二、入道申ニ官符ヲ事「入道ノ計ヒ申スニヨリテ、即チ、官符ヲ下サル」

くゎんぷ (名) 【還付】 受ケタル物ヲ、元ヘカヘスコト。

くゎんぷ (名) 【完膚】 皮膚ノ、完全ニシテ、疵ナキコト。無疵ノ膚。完膚無シト云フハ、きずだらけナルコト。唐書、劉逖傳「迺佯瘖不レ答、灸無ニ完膚ニ」

ぐゎんぷ (名) 【頑夫】 頑愚ナル者。孟子、萬章、下篇「故聞ニ伯夷之風ニ者、頑夫廉、懦夫有レ立レ志」

くゎんぷう (名) 【觀風】 他所ノ風俗、風物ヲ、觀察シテアルクコト。觀光。禮記、王制篇「命ニ大師ニ陳レ詩以觀ニ民風ニ」

くゎんぷう (名) 【觀楓】 楓ノ紅葉ヲ、觀賞スルコト。モミヂガリ。

くゎんぷく (名) 【官服】 〔私服ニ對ス〕官人ノ制服。「巡査ノ官服」

くゎんぷ-せん (名) 【官府宣】 關白、攝政ノ、下ス文書。庭訓往來、六月「令旨、官府宣」倭訓栞、くゎんふせん「庭訓ニ、官府宣ト見ユ、關白、攝政ノ御詞ヲ文ニ認ムルヲ云フ、政事也」

くゎんぶつ (名) 【官物】 〔私物ニ對ス〕官府ニ屬キタル物。官有ノ物。呉志、陳武傳「時有ニ盜ニ官物ニ者ニ」賦役令「凡丁匠赴レ役、身死者、給レ棺、在レ道亡者、所在國司、以ニ官物ニ作給」

くゎん-ブツ (名) 【灌佛】 次次條ノ語ヲ見ヨ。

ぐゎんぶつ (名) 【玩物】 モテアソビモノ。玩弄物。玩具。書經、旅獒篇「玩レ人喪レ德、玩レ物喪レ志」

くゎんブツ-ゑ (名) 【灌佛會】 釋迦佛ノ誕生日、即チ、四月八日ニ修スル法會。香湯ヲ以テ、佛像ノ頭ニ灌ギ洗フ、今ハ、花御堂ヲ作リ、天上天下唯我獨尊(其條ヲ見ヨ)ノ誕生佛ヲ安置シ、甘茶ヲ煎ジテ、コレニ灌ギカケテ、禮拜、供養ス。又、佛生會。降誕會。略シテ、灌佛。浴佛功德經「灌佛偈、我今灌ニ沐諸如來、淨智功德莊嚴聚、願彼五濁衆生類、速證ニ如來淨法身ニ」南史、劉敬宣傳「四月八日、見ニ衆人灌佛ニ」續後紀、九、承和七年四月癸丑(八日)「請ニ律師傳燈大法師靜安於ニ清涼殿ニ始行ニ灌佛之事ニ」建武年中行事、四月「鉢ノホヲ汲ミアハセテ、一ツニ入レテ、マヅ、御導師、灌佛ス」思の儘の日記(貞治)八日ノ灌佛「上達部、女房ノ布施ナド、花ノ色色ヲ盡シテ、イトオモシロシ」

くゎんぶんしょ (名) 【官文書】 官府ノ文書。「官文書僞造」

くゎんぺい (名) 【官兵】 〔賊兵ニ對ス〕官軍ニ同ジ。文德實錄、一、嘉祥三年五月壬辰

ニ勸ニ曰、[illegible]二年、六六官[illegible]、云云」

くゎんぺい (名)［觀兵］軍勢ヲ張リテ、武威ヲ示スコト。書經、泰誓上篇、孔傳「武王三年、[illegible]觀兵至于孟津」[illegible]二[illegible]傳[illegible]

くゎんぺい-しき (名)［觀兵式］天皇、長崎、陸軍始、ナドニ、軍隊ヲ整列、分列セシメ、大元帥ノ親閲セサセタマフ儀式。明治四年ニ始ル。(海軍ノ觀艦式ニ對ス)

くゎんぺい-しや (名)［官幣社］(神祇官ニテ奉幣アル義)(一)神祇官ニテ祭ラルル[illegible]ノ稱。大社、小社、アリ、大社ハ、祈年祭、月次祭、新嘗祭、等ニ、案上ノ官幣ニ預カリ、全國ニテ凡ソ、百四座ア リ、小社ハ、祈年祭ニ、案下ノ官幣ニ預カリ、四百三十三座アリ、國司ニテ祭ル、國幣社ニ對ス)(二)今ハ、官府ニテ祭ラルル官幣社ニ、大社、中社、小社、ト、別格官幣社トアリ。

くゎんぺき (名)［完璧］(一)無瑕ノ玉。(二)物ヲ、還スコト。還付。史記、藺相如傳「相如曰、臣願奉璧往、使城入趙、而璧留秦、城不入、臣請完璧歸趙」(十五城ナリ)

くゎんぺん (名)［官邊］政府ニ屬スルコト。オホヤケムキ。カミムキ。公邊。

くゎんぽ (名)［緩步］ユルユルト步ムコト。徐步。[illegible]

くゎんぼく (名)［灌木］(博雅「灌、聚也」)字典「木叢生曰灌」木トシテハ、長大トナラズ、草トシテハ、其幹、根、冬ヲ歷テモ枯レズ、木ト、草トノ間ナル植物ノ稱、山吹、萩、牡丹、山吹、躑躅、ノ類ナリ。又、コレニ似テ、更ニ小サキヲ、亞灌木ト云フ、芝蓉ノ類ナリ。[illegible]

くゎんぼく-やうじ (名)［灌木楊枝］くろもじ、空木、ノ類ノ灌木ニテ作レル總楊枝。

くゎんぼつ (名)［官沒］罪アル者ナドノ所有物ヲ、政府ニ沒收スルコト。

ぐゎんほどき (名)［願解］(願戻ヲ解くコト)カヘリマウシ。神佛ニ、立願セルコトアリテ後ニ、報賽スルコト。報賽。[illegible]先、願ほどきニ、悦ビノ幣帛ヲアゲ、神樂ヲアゲ」

くゎんぼふ (名)［觀法］佛教ニ、心法ヲ觀ズルコト。心ニ、明ラカニ眞理ヲ觀察スルコト。摩訶止觀「觀法雖レ正、若レ心同レ邪」[illegible]人ハ、[illegible]常ニ立テコモラセタマヒテ、御觀法ナドアルニハ、人ノ參ルコトモ、タヤスクナシ」

くゎんぽん (名)［官本］(一)官版ノ書物。(二)官府ニ藏スル書物。

くゎんぽん (名)［完本］書籍ノ、全部、揃ヒタルモノ。(端本ニ對ス)

ぐゎんまう (名)［願望］ネガヒ、ノゾムコト。希望。[illegible]四十、法輪寺事「往昔、[illegible]人ハ、木鉢、必、願望ヲ滿給フ」

くゎんまん (名)［緩慢］(一)ユルヤカナルコト。[illegible](行步緩慢)往生要集、上「善行人、[illegible]」(二)オロソカナルコト。ナホザリ。怠慢。書經、

ぐゎんみ (名)［玩味］文義ナドヲ、善ク吾ク讀ミ辨フルコト。[illegible]「[illegible]、反覆玩味ニ[illegible]玩味」

くゎんみん (名)［官民］朝廷ト、人民ト。政府ト、人民ト。官民一致

ぐゎんみん (名)［頑民］カタクナナル民。事理ヲ辨ヘヌ人民。書經、多士篇、序「成周既成、遷殷頑民」

くゎんみやう (名)［官名］官ノ名。役目ノ名。

くゎんむ (名)［官務］(一)官府ノ事務。公務。(二)太政官ノ辨官局ノ下ノ、大史ノ稱。官中ノ政務ヲ執レリ。(外記ノ、局務ニ對ス)[illegible]上、太政官、中古以來、小槻宿禰[illegible]官中[illegible]之官務」

くゎんめ (名)［貫目］(一)秤ノ目方。物ノ重サ。御觸書「荷物貫目於改所」[illegible]貫目[illegible](二)オモミ。人ニ、重キ人物ト見ラルルコト。人ヲ服從セサスル威力。貫祿。威望。「大臣ノ貫目」

くゎんめい (名)［官命］官府ノ命令。左傳、[illegible]二年「諸大夫欲、從、晉、子駟曰、官命未、改」

ぐゎんめい-ふ-れい (句)［頑冥不靈］カタクナニ、無智ニテ、感應セズ、[illegible]「頑冥不靈、而物[illegible]民物[illegible]皆可殺」

ぐゎんめん (名)［願面］願書ノ文面。願書ニ記シタル趣意。

くゎんもん (名)［關門］セキド。關所ノ門。周禮、地官、司關「國凶札、則無關門之征、猶幾」

くゎんもん (名)［喚問］呼ビ出シテ、問ヒタダスコト。「證人ヲ喚問ス」

ぐゎんもん (名)［願文］神佛ニ立願ノ趣意ヲ記シタル文。源、四、夕顏「願文作ラセ給フ」大キナル沉ノ文箱ニ封ジコメテ奉リタリ」狹衣、三、上「五一乘ノ法文スグルルワザニヤ、願文ノココロバヘ、泣クナク讀ミ給ヘルモ、淚流サヌ人ナキニ」

くゎんやく (名)［管籥］(一)笛ノ一種。孟子、梁惠王、下篇「百姓聞王鐘鼓之聲、管籥之音」(二)鑰。禮記、月令篇「修鍵閉、愼管籥」

くゎんやく (名)［關鑰］(一)關木ト、鑰ト。(二)出入ノ要所。神仙傳「門戶樞楗、有關鑰者、指之即開」[illegible]、新書「口者、言語之門戶、舌者、門戶之關鑰、云云、故君子、[illegible]其關鑰、以慎言語」

ぐゎんやく (名)［丸藥］藥ヲ煉リ合ハセ、摶メテ、小サキ丸トシテ、飲ムニ用キルモノ。丸劑。(煎藥、粉藥、ナドニ對ス)

くゎんゆう (名)［寬裕］寬カニシテ、餘裕アルコト。中庸、第三十一章「寬裕溫柔、足以有容也」

くゎんよ (名)［關與］其事ニ、參リ與カルコト。晉書、羊祜傳「實利之求、無所關與」

くゎんよう (名)［官用］(一)官ニテ、使用スルコト。漢書、食貨志「量吏祿、度官用、以賦於民」(二)官府ノ事務。役所ノ用事。(私用ニ對ス)

くゎんよう (名)［慣用］モチキナルルコト。常常、用キルコト。「慣用手段」

くゎんよう (名)［寬容］心ユルヤカニシテ、善ク、人ノ事ヲ受ケ容ルルコト。韓詩外傳「德行寬容、而守之以恭」

ぐゎん-らい (副) 【元來】 モトヨリ。モトモト。章碣詩「劉項元來不讀書」

くゎん-らく (名) 【歡樂】 ヨロコビ、タノシムコト。孟子、梁惠王、上篇「民歡樂之」 漢武帝、秋風辭「歡樂極兮哀情多」

くゎん-らく (名) 【歡樂】 〔病ト云フヲ嫌ヒテ、反覆ノ語ヲ用ヰシナリ、揚子方言「苦、快也、郭璞曰、反覆用之也」〕 病氣、所勞ノ稱。但シ、貴人ノ用語ナリ。人車記、久壽三年正月一日「下官雖爲御手水番、聊有歡樂事、還參也」 同二日「猶有歡樂氣不出行」 吾妻鏡、十九、承元二年正月十一日「御所心經會也、去八日雖爲式日、依將軍家御歡樂、延及今日也」 蔭涼軒日錄、寬正六年三月廿一日「依飯尾兵衞大夫歡樂、可書上公文之事、以布施下野被仰出也」

くゎん-らん (名) 【觀覽】 ミルコト。見物スルコト。「觀覽料」

くゎん-り (名) 【官吏】 ツカサビト。官人。役人。史記、秦始皇紀「大臣不服、官吏尙强」

くゎん-り (名) 【管理】 取締ルコト。支配。

くゎん-り (名) 【冠履】 冠ト、履ト。轉ジテ、上ト、下ト。淮南子、泰族訓「今重法而棄義、是貴其冠履而忘其頭足也」 後漢書、楊賜傳「冠履倒易、陵谷代處」「冠履顚倒」

ぐゎん-り (名) 【元利】 元金ト、利息ト。本息。 貸附金無利足年賦證文一件、天保十四年十二月「輕キ御家人、町人共江、元利成崩シ之仕法ニ而、當時二十萬兩餘ニモ、貸附ニ相成居候處」(故事類苑、政治部、貸借、上)

ぐゎん-りき (名) 【願力】 立願シテ、貫カムトスル志。陸游詩「香火徒勞願力遲」 盛衰記、四

十、中將入道入水事「彌陀如來ハ、云云、一念、十念ヲモ導給ハント云、悲願オハシマス、彼願力ヲ憑マン人、疑ヤハ有ベキ」

くゎん-りつ (名) 【官立】 政府ニテ、取立ツルコト。國立。官設。(私立、公立、ナドニ對ス)「官立ノ學校」

くゎん-りん (名) 【官林】 官有ノ林。(私有林ニ對ス)

くゎん-りゃう (名) 【管領】 〔くゎんれい(管領)ヲ參見セヨ〕 占メテ、我ガ物トスルコト。道德指揮論「心意虛靜、神氣和順、管領天地、無不包裹」 朗詠集、上「歌酒家家花處處、莫空管領上陽春」 後愚昧記、應安四年四月四日「佐川下人死人等、川原者取棄之、取衣裳之間、犬神人等、稱可管領之旨、返川原者所取之、云云」

ぐゎん-りょう (名) 【丸龍】 模樣ノ名、龍ノ、圓ク蟠マリタル象ヲ圖ス。

くゎん-れい (名) 【冠禮】 元服ノ禮式。儀禮、士冠禮篇「士冠禮、筮于廟門」

くゎん-れい (名) 【慣例】 シキタリ。ナラハシ。先例。「慣例ニ從フ」

くゎん-れい (名) 【管領】 〔日中行事「くゎんれいノ陰陽師」林逸節用集(文明)人倫「關白、管領」運歩色葉集「管領」れいハ、領ノ漢音、令、靈、同ジ、くゎんりゃう(管領)ヲ參見セヨ〕 (一)管リ、治ムルコト。支配スルコト。管轄スルコト。盛衰記、十九、文覺頼朝對面事「太政入道、云云、天下ヲ管領スレドモ、惡逆無道ニシテ、宿運、既ニ盡キタリ」 (二)管領スル職。諏訪大明神繪詞(延文)「東夷蜂起シテ、奥州騷亂スル事アリキ、云云、武家、其濫吹ヲ鎭護セム爲ニ、安藤太ト云フ者ヲ、蝦夷管領トス」 武家名目抄、廿七、職名、下「蝦夷管領、又、稱蝦夷代官、云云、北條義時、武家ノ執權タリシ時ニ、

安藤氏ヲ、津輕ノ夷地ニ居ラシメテ、奥羽、及、渡島ノ蝦夷ニ備ヘ、夷人ヲ管領セラレシ、云云」 太平記、十四、新田足利確執奏狀事「中務卿親王ヲ、東國ノ御管領ニ成シ奉リ、新田左兵衞督義貞ヲ、大將軍ニ定メテ、關國ノ大名ドモヲゾ、添ヘラレケル」 日中行事(後醍醐天皇)「代厄ノ御祭、くゎんれいノ陰陽師勤ムル也」 (三)室町幕府ノ第一ノ重職ノ稱、鎌倉幕府ノ執權、江戶幕府ノ老中ノ如シ、初、執事ト稱セシガ、將軍義滿以後、管領ト改ム、斯波氏、細川氏、畠山氏、ノ三家、代ル代ル、之レニ補セラレテ、コレヲ、三管領ト稱セリ。儀式ナドニ、管領ノ出仕セザル時、其一族ノ者ノ代理スルヲ、管領代ト云フ。又、別ニ、鎌倉ニ置キテ東國ヲ鎭セシメシヲ、關東管領ト云ヒキ、其條ヲ見ヨ。海人藻芥、下「細川武藏守賴之迄ハ、執事ト稱ス、其以後、皆稱管領、如此事、依時事歟」

くゎんれい-だい (名) 【管領代】 前條ノ(三)ヲ見ヨ。

くゎん-れう (名) 【完了】 (一)全ク、了ルコト。完結。(二)文法ノ語、現在ノ條ノ(五)ヲ見ヨ。

くゎん-れう (名) 【官僚官寮】 〔どうれう(同僚)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)同ジ官ニ在ル人。相役。同役。同僚。(二)ヤクニン。官吏。官員。南嶽記「崑崙上有九府、諸仙皆是九官之官僚耳」「官僚政治」

くゎんれう-せいぢ (名) 【官僚政治】 官僚ノ、內閣ヲ組織シテスル政治。政黨ノ內閣ニ對ス。

くゎん-れき (名) 【還曆】 〔曆ノ上ノ六十干支ヲ一周シテ、初ニ還リタル義、くゎかふぢ(華甲子)ノ條ヲ見ヨ〕 齡ノ、六十一歲トナリタルコト。賀ナド、行フ。本卦回。(がのいはひヲ併セ見ヨ)

くゎん-れき (名) 【官歷】 仕官中ノ履歷。

くゎん-れん (名) 【關聯】 カカハリ、ツラナルコト。ツナガルコト。「甲ハ、乙ニ關聯ス」

くゎんれん-せつ (名) 【觀蓮節】 陰曆、六月二十四日ノ異名。內觀日疏「六月二十四日、謂之觀蓮節」

ぐゎん-ろう (名) 【玩弄】 (一)モテアソブコト。手ズサビニスルコト。後漢書、鄧皇后紀「翫弄之物、皆絕不作」(翫ハ玩ニ同ジ) (二)ナブルコト。愚弄。「人ヲ玩弄ス」

ぐゎんろう-ぶつ (名) 【玩弄物】 ぐゎんぶつ(玩物)ニ同ジ。

くゎん-ろく (名) 【官祿】 (一)官職ト、俸祿ト。張耒詩「淸明得食與官祿」 (二)官府ヨリ賜ハル俸給。

くゎん-ろく (名) 【貫祿貫陸】 人物ノ、オモミ。人ノ威望。貫目。「大臣ノ貫祿」

くゎん-わ (名) 【款話】 款語ニ同ジ。癸辛雜識「一日內宿、召對天顏、甚喜曰、欲與卿款話」

くゎん-わ (名) 【官話】 支那ニテ、北京ヲ始メトシ、全國ノ官府ニ通用スル語、雅文ナラズ、小說語ニ近シ。「北京官話」

くゎん-わ (名) 【緩和】 ユルミ、ヤハラグコト。ユルメ、ヤハラグルコト。「緩和下劑」

くゎん-ゐ (名) 【冠位】 かうぶり(冠)ト、くらゐ(位)ト。各條ヲ見ヨ。

くゎんゐ (名) [官位] 官ト位階ト。ツカサ、クラヰ。[illegible]「上六上[illegible]仲忠ニ正四位ノ位賜ヒテ、右近中將ニナサレヌ、[illegible]同ジ位、同ジ中將ニナサレヌ、[illegible]ナリ、[illegible]マツノズトモ、コノくゎん位賜ハルベシ」

くゎんゐさうたう (名) [官位相當] 令ニ、何官ハ、何位ト、制定セラレアルコト。例ヘバ、太政大臣ハ正從一位、左右大臣ハ正從二位、諸寮ノ頭ハ從五位上下、諸司ノ正ハ正從六位上下ナド、相當セシメラレタルガ如シ。[illegible]凡位、有貴賤、官有高下、階貴則職高、位賤則任下、官位相當[illegible]」

くゎんゐん (名) [官員] ツカサビトノカズ。官人。官吏。役人。

くゎんをけ (名) [棺桶] 棺トシ用ヰル桶。[illegible]（享保、近松作）「[illegible]公ノ首ヲ、花桶ヤ、棺桶ノ投ゲ入レニ挿スカ」

くゎもく (名) [科目] (一) 科別。類別。(二) 支那ニテ、科擧ニテ、人ヲ採用スル類別。[illegible]

くゎもく (名) [寡默] 言詞ズクナナルコト。多辯ナラザルコト。寡言。

くゎもつ (名) [貨物] シナモノ。貨物。

くゎもつしゃ (名) [貨物車] 貨車ニ同ジ。

くゎもん (名) [火門] ヒグチ。銃砲ノ發火スル火口。

くゎもん (名) [花紋] 花形ノ模樣。[illegible]

くゎやく (名) [火藥] 花時ハ、硝石七十五ニ、硫黃ト、炭ト、各、十二半ヲ合ハセテ、粉ニシテ、乾シタルモノ。粒ヲナス、火ヲ點ズレバ、烈シク發ス。銃砲ニ用キ、又、彈丸ヲ放チ、或ハ、花火ニ用キ、又ハ、物ヲ破裂セシムル等、用、多シ。ガフヤク。アハセグスリ。テッパウグスリ。焰硝。[装藥] 今ノ火藥ハ、製法、又、種種トリ。[illegible]「[illegible]火藥モ、なかなかニ[illegible]手當テヲ丈夫ニシテ、待ツ」

くゎやく (名) [課役] (一) 調ト、役ト。(租ノ條ヲ見ヨ) [illegible] (二) 役ヲ課スルコト。夫役。[illegible]

くゎよ (名) [過譽] 實際ニ過ギテ、譽メ立ツルコト。ホメスギ。過賞。[illegible]

くゎよく (名) [寡欲] 欲心ノ、寡キコト。貪ラヌコト。孟子、盡心、下篇「[illegible]人也寡欲」

くゎら (名) [掛絡] [掛け絡ふモノノ意ナルベシ、掛羅、掛落、ナドトモ書ケリ] (一) 袈裟ノ、小サク製シタルモノ、禪僧ノ、作業ノ便ニ用キルモノト云フ。頸ニ掛ケテ、胸間ニ垂ルル如ク作ル、下部、方形ナリ。一名、絡子。又、掛子。[illegible]故[illegible]下[illegible]絡也」[illegible]第十三、今日の日影「シバシハ、禪僧ニ成ラセタマフトテ、綾ノ御衣ニ、くゎらト云フ袈裟掛ケサセタマリ」(後深草院ノ御事) (二) 誤チテ、掛

絡ニ附キタル象牙ノ輪ヲ云フ。和漢三才[illegible]又、誤チテ、圓キ根付。好色一代男(天和、西[illegible]里ヘスヱテ、銳ヲシカムル、云云」

くゎら (名) [illegible] スガル。ジガバチ。[illegible]

くゎらく (名) [花洛] ハナノミヤコ。京都。らくやう(洛陽)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]物語、一、待賢門軍事「年號ハ平治也、花洛ハ平安城也、我等ハ平氏ナリ、三事、相應セリ」

くゎらく (名) [和樂] ヤハラギ、タノシムコト。和樂。詩經、小雅、鹿鳴之什、鹿鳴篇「鼓[illegible]和樂且湛」[illegible]

くゎらん (名) [禍亂] 世ノミダレ。左傳、昭公五年「國家之敗、失之道也、則禍亂興」

くゎりう (名) [驊騮] 駿馬ノ稱。淮南子、[illegible]千里ニ」

くゎりう (名) [花柳] (花街、柳巷ノ略) イロザト。遊里。狹邪。李白詩「昔在長安[illegible]花柳」[illegible]

くゎりうかい (名) [花柳界] 藝妓、遊女、ナドノ社會。

くゎりうびゃう (名) [花柳病] (花柳ヨリ傳染スルコト、多シ) 黴毒、痳病、下疳、等ノ總名。

くゎりん (名) [花櫚] [花櫚ノ音轉カ、花トハ、木理ノ花紋ヲ云フ] アカギ。熱地ヨリ舶來スル木材ノ名、木理コマヤカニシテ、紫檀ニ似テ、堅シ、又、紅色ヲ帶ブルモアリ、三等ノ別ナド、諸器ニ作ル。櫚木 其木理ニ花紋アルヲ、上品ナリトス。花櫚木。花櫚 [illegible]紫赤色似[illegible]紫檀[illegible]有[illegible]花紋[illegible]可作[illegible]器皿[illegible]俗作[illegible]花梨[illegible]三十六、鷲尾[illegible]白金筒ノ金入リタル刀」

くゎりん (名) [榠樝] (木理、花櫚ニ似タレバ、轉ナス) 喬木ノ名、高サ一二丈、幹ノ皮、一二寸毎ニ、鱗ノ如ク落チテ、痕、美シ、葉ハ、林檎ニ似テ、長大ニシテ、細カキ刻ミアリ、質、堅ク、互生ス、春ノ末、五瓣ノ淡紅花ヲ開ク、實ハ、秋、熟ス、まくはうりニ似テ小サク、末、廣ク、香氣、多シ、蜜ニ漬ケテ菓トス。木理、密ニ、淡紅色ニシテ、花櫚ニ似タレドモ、質、柔カニシテ、磨ギテ光無シ。

くゎりん (名) [火輪] (一) 火焰ノ、輪ノ如クメグルモノ。[illegible]火輪[illegible] (二) 日ノ異名。日輪。[illegible]

くゎりんしゃ (名) [火輪車] 汽車ノ一名。

くゎりんせん (名) [火輪船] 汽船ノ一名。

くゎりんたう (名) [花林糖] うどんこニ砂糖ヲ和シテ、細長ク切リテ、乾シテ、油ニテアゲタルモノ。

くゎりんぼく (名) [花櫚木] 花櫚ノ條ヲ見ヨ。

くゎりょ (名) [過慮] 思ヒスゴスコト。トリコシグラウ。

ぐゎりょう (名) [臥龍] 龍ノ、臥シテ居

ルモノ。英雄ノ、世ニ出デズシテアルニ云フ。〔三國志、蜀志、諸葛亮傳「諸葛孔明、臥龍也」〕

ぐわりよう (名) 畫龍 繪ニカキタル龍。〔朗詠集、下、下所日記之畫見、紅旗風吹畫龍揚〕

ぐわりようてんせい (句) 畫龍點睛 龍ヲ畫キ了ヘテ、一點ヲ、睛ニ入ル。名人ノ畫キタルハ、點睛スレバ、飛ビテ天ニ昇ルト云フ。文章ノ末ナドノ、全篇ヲ活動セシムル、緊要ナル一句ノ評語ナドニ云フ。〔名畫記「張僧繇於金陵安樂寺、畫四龍、不點睛、每云、點之卽飛去、人以爲誕、因請點之、須臾雷電破壁、二龍乘雲上天、未點睛者見在」〕

ぐわりようばい (名) 臥龍梅 野梅ノ一種、枝、幹、地上ニ蟠リ延ヒテ、枝、地ニ着ク所ニ、根ヲ生ズルモノ、花、淡紅ナリ。梅龍

くわりよく (名) 火力 〔水力ニ對ス〕 火ノチカラ。火ノ勢。〔陸龜蒙詩「分與火力、燒二金鼎一」〕

くわれい (名) 華麗 ハナヤカニ、ウルハシキコト。〔梁書「宮室則嬌、華麗、姬嬙則靡、美饒」運步色葉集「華麗」〕

くわれう (名) 過料 (一)過怠ノ罪ニ科スル金品。過錢。過怠。罰金。罰銀。〔吾妻鏡、十、文治六年二月六日、奧州、云云、新留守所、本留守、共有二餘任同意之罪科一云云、可レ召二申二百領之過料一〕 (二)德川幕府ノ制ニテハ、庶人ノ閏刑トシ、重キハ錢十貫文ヨリ、輕キハ三貫文、五貫文ヲ、出サシム。〔御定書百箇條、御仕置仕形之事、享保三年極、過料(十貫文、五貫文)但、重キハ拾貫文、又ハ、拾拾兩、貳拾兩、其員數ハ、村高ニ應ヒ、或ハ、村高ニ應シ、員數相定、三日之內納、缺候、但、至テ輕キ身上ニテ、過料難二差出一〕

者、手鎖二(三)今ノ制ニテハ、規定違反ノ者ヨリ、一定ノ金額ヲ徵收ス、數百圓ニ至ルアリ。

くわれう (名) 科料 罪科ヲ贖フベキ料。又、其金品。〔沙石集、六、下、十二條「大ナル咎アリテ、マドフベキ事アリケルニ、云云、此科料ニ、七匹四丈ノ絹ヲヤ奉ラスル」〕

ぐわれき (名) 瓦礫 瓦ト、小石ト。多クハ、價値ナキ物ニ云フ。〔北史、李安世傳「聖朝不レ貴二金玉一、所レ以同二于瓦礫一」〕

くわろ (名) 火爐 爐ト云フニ同ジ。炭火ヲ入ルルモノ。ひばち、こたつ、ゐろり、そこうぶノ類。〔行宗集「火爐」、大嘗日元嘗ノ頃、手嘗日ニ手爐ノ頃、足嘗日ニ足爐ニ」 內匠寮式、加茂初齋院井野宮裝束「白銅火爐一具」〕

くわろ (名) 蝸廬 〔蝸牛ノ殼ノ如ク、小ナル義〕 蝸牛廬ノ略。小サキ家、多クハ、己ガ家ノ謙稱。〔三國志、魏志、焦先傳「先居作二蝸牛一、形如二蝸牛殼一、故謂二之蝸牛廬一」〕

ぐわろう (名) 畫樓 彩色シタル樓。〔李嶠、晚秋喜レ雨詩「累雲遶二仙閣一、連霧退二畫樓一」〕

くわわい (名) 貨賄 タカラ。財寶。〔禮記、月令篇「納二貨賄一以便二民事一」〕

くわわう (名) 花王 〔獅子ヲ、獸王ト云フガ如シ〕 (一)花ノ王。櫻ノ異名、花ノ艷麗シキニ就キテ云フ、衆花中ノ第一ナルモノ、單ニ、花トノミモ云ヒ、上古ニハ、木花ト云ヒキ。〔合類節用集(元祿)六、生植門「櫻、支那、以二牡丹一爲二花王一、日本、只以レ櫻爲二花王一、故、國俗、止呼レ櫻、花苦、櫻而已」 道光上人詩「白是三春第一芳、吉野舊俗爭光、若使二唐山生一此樹一、牡丹不二敢當一花王一」 藤森弘庵詩「牡丹讓... 花王」〕 (二)支那ニテハ、牡丹ノ異名。〔歐陽修、牡丹記「人謂二牡丹花王一」〕

くわわたし (名) 過渡 くわふ(過納)ノ條ヲ見ヨ。

くわゐ (名) 茨菰 慈姑 〔嚙破柔ノ義ニテ、葉ノ形ニ云フニモアルカ〕 水菜ノ名、舊キ根塊ヲ、水田ニ植ウ、一根ヨリ叢生ス、葉ハ、長クシテ尖リ、下ハ、二ツニ分レテ、剪刀ノ如シ、因リテ、剪刀草ノ漢名モアリ、冬、春、塊ニ、側子ヲ生ズ、形、圓ク、徑、一寸許、皮、淡綠ニシテ、肉、白ク堅シ、煮テ食フベシ、黑くわゐニ對シテ、白くわゐノ名モアリ、秋、花ヲ開ク、三瓣ニシテ、白ク、おもだかノ花ニ似テ、大ナリ。〔倭名抄、十七、芋類「烏芋、久和井、生二水中一、澤瀉之類也」(烏芋ハ、本草和名ニ、久呂久和爲トアリテ、當ラズ)〕

ぐわゐ (名) 瓦韋 シノブグサ。

ぐわゐん (名) 畫院 支那ノ官屬ノ御繪所。其畫ヲ、院畫ト云ヒ、其畫ノ風ヲ、院體ト云フ。南宗ノ條ヲ見ヨ。〔宣和畫譜、宣和睿覽集、云云、當時畫院諸人、仿二效其作一〕

くわゑん (名) 花園 ハナゾノ。ハナバタケ。花圃。〔李嶠、路寺、宿廳閣「花苑ハ藏二庭苑一竹菜二」 創業起居注「幡旗四合、赤白相映、若二花園一」 李淳風「花園四望錦屏開」〕

くゐき (名) 區域 カギリ。クギリ。サカヒ。〔晉書、后妃傳、序「陰教治二于宮闈一、淑聲騰二于區域一」〕

くゑ (名) 華ノ古音、華足、華鬘、法華經、ナド、各條ヲ見ヨ。

くゑち (名) 決、闕、ナドノ古音、決定、闕、等ノ各條ニ就キテ見ヨ。

くゑにち (名) 凶會日 〔凶會ハ、凶事ノ會スル意カ〕 曆ノ上ニ、陰陽、相向ヒテ剋スル日トシ、萬事ニ凶ナリトスル日。〔拾芥抄、下、末、諸事吉凶日部「凶會日」(每月ノ其日ヲ記セリ、本書ニ就キテ見ヨ)〕

くゑのマンダラ (名) 九會曼陀羅 まんだらノ條ヲ見ヨ。

くゑはらかす (他動、四) 蹴散 〔くう(蹴)、幷ニ、はらかすヲ見ヨ〕 蹴散ラス。〔神代紀、上「蹈二堅庭一而陷レ股、若二沫雪一以蹴散、此云二俱穢簸邏邏箇須一」〕

くゑまり (名) 蹴鞠 〔くう(蹴)ノ條ヲ見ヨ〕 けまりノ古言。〔皇極紀、三年正月「中臣鎌子、云云、偶預二中大兄、於二法興寺槻樹之下一、打毬之侶一」〕

くゑん (名) 卷、懸、勸、還、眷、源、ナドノ古音、卷纓、懸魚、勸盃、還昇、眷屬、源氏、等ノ各條ニ就キテ見ヨ。

くゑる (動) 蹴 くう(蹴)ノ口語體。(其條ヲ見ヨ) コレガ約リテ、蹴ろトナル。〔名義抄「蹈、クヱル」〕

くをん (名) 久遠 佛經ノ語、過去、悠久、長遠ノ義、過ギテ、遠ク久シキ意。久遠劫ト云フハ、極メテ久遠ナルコト。こふ(劫)ノ條ヲ見ヨ。久遠實成の佛、久遠古成の佛ト云フハ、久遠ニ、眞實成道シタル佛ノ意ニテ、釋迦佛、又ハ、阿彌陀佛ヲ云フ。

くをんこじやうのほとけ (名) 久遠古成佛 前條ヲ見ヨ。

くをんごふ (名) 久遠劫 前條ヲ見ヨ。

くをんじつじやうのほとけ (名) 久遠實成佛 くをん(久遠)ノ條ヲ見ヨ。

けげ

け 五十音圖、加行第四ノ假名。(かノ條ヲ見ヨ)此音ハ、う、又ハ、ふ(うノ如ク呼ブモノ)ニ連ル時ハ、きョノ如ク呼ブコトアリ、けう(教)、けふ(今日)ノ如シ。

げ けノ濁音ノ假名。(かノ條ヲ見ヨ)此音ハ、う、又ハ、ふ(うト呼ブモノ)ニ連ルトキハ、ぎョノ如ク呼ブコトアリ、れんげう(連翹)、げふ(業)ノ如シ。

け (名) 【毛】 (一)人、獸、ノ皮膚ニ生ズル、細ソクシテ、絲ノ如キモノ。竹取物語「モチ月ノ明サヲ、十、合セタル許ニテ、在ル人ノ毛ノ穴サヘ、見ユルホドナリ」 (二)髮。カミノケ。榮花物語、[illegible]「イト清ウ、毛フクダミナゾ、ニ人、オハスメルモ」今昔物語、十二、第三十四語「頭ノ毛共リ、怖ロシクテ」 (三)【鳥ノ羽】 倭名抄、十八、羽族[illegible] 神代紀、上「[illegible]」「鷹、田古計」「鶏ノ毛衣」 (四)【細ソクシテ、毛ノ如キモノ】 [illegible]、七[illegible]「[illegible]ノ毛挑、木繁ク、花ノミ開キテ、實ラザラメヤモ」「蚕毛」「絲毛ノ車」かきょういもノ毛」 (五)【毛色ノ略】 宇津保物語、[illegible]使「[illegible]ニ乗リテ、[illegible]ニ向キテ、馬ノ毛、申シタマヘリ」 **毛を吹きて疵を求む**ト云フハ、毛ノ中マデ吹キ求ネテ、疵ヲ捜スト云フニテ、僅カナル過チモ、許サズ、苛ク糺ス意ナリ。[illegible] 拔毛、アルモノヲ、毛を吹き疵を云ふガワリナサ」[illegible]情シテ、人ノ過チヲ咎ムトシテ、却テ、我ガ身ノ過チヲアラハス義トシ、藪ヲ焼キテ蛇ヲ出スノ意トナレリ。大和故事「人ノ惡ヲ知ラムトテ、餘リ吟味スレバ、却テ我ガ身ノ過チニ落ツル事アルベシ、其時、初ノママニ爲キタラバト思フコトアラム、是レ、毛を吹きて疵を求むるモノナリ」 (六)絨毛ノ略。保元物語、一、白河殿攻落事「[illegible]ノ鎧ニ、同ジ毛ノ五枚甲」

け (名) 【毛】 [動物ノ毛(前條)ニ通ズ(漢語ノ毛ト暗合ス)神代紀、上ニ、素戔嗚尊ノ、御身ノ毛ヲ拔キテ散ラシタマヘルガ、種種ノ木ト成リシ事ヲ記セリ、神代紀ニテ、毛ヲ、きトモ云フ、尚、木、ノ條ノ(一)ヲ併ハセ見ヨ] (一)【大地ニ生ズル、草木ノ別名。】 神代紀、上「一兒」古事記、上「[illegible]子之一木」古事記傳、私記曰、一兒、古事記、及、日本紀、[illegible]云云 景行紀、十八年七月「筑紫後國御木」歌「御間ノ[illegible]小橋」萬葉集、廿[illegible]「[illegible]之良」(萬木社) 同卷廿「[illegible]都花[illegible]」(松木) 左傳、昭公七年「食土之毛」注「毛、草也」公羊傳、宣公十二年「不毛之地」注「不毛者、磽确不生五穀」賦役令「凡土毛、臨時應用者」義解「謂、土地之所生、[illegible]毛也」[illegible]、古語、云、土毛、謂草木也」 崇神紀ニ「上毛野、下毛野」トアルモ、草木野ノ義ナルベシ、名義抄ニ「毛、ケ、クサ」トアリ。和字道例書「世俗、木ナキ山ヲ、けなし山ト云フ」 (二)稻ノ穗。沙石集、三、上、第二條「秋ノ毛ノ上ヲ賜ハリテ、下ル」「作毛」「毛見」「本毛」「半毛」「一毛作」「二毛作」「稲毛」 (三)鯉ノ鱗 [料理法ニテ] 狂言記、[illegible]八「鯉ニ[illegible]、[illegible]ふ、トハ中サヌ、毛ヲふくト申ス」

け (名) 【笥】 [籠ト通ズルカ、食ト云フ語モ、此器ヨリ移レルナリ、笥子ノ條ヲ見ヨ] (一)飯ヲ盛ル器。字鏡、六十二「[illegible]、笥也、太[illegible]介」名義抄「笥、イヒモルケ」倭名抄、十六、木器「[illegible]」[illegible]「玉笥ニハ、飯サヘ盛リ」[illegible] 孝徳紀、廿一年六月「共笥」[illegible]「家ニアレバ、笥ニ盛ル飯ヲ、草枕、旅ニシアレバ、椎ノ葉ニ盛ル」内匠寮式「銀器御笥一合」「御笥」 (二)轉シテ、種種ノ物ヲ入ルル器。枕草子、九、九十九段「基石、けニ入ル音ノ、アマタ聞エタル」夫木抄、廿三、雜「四方ノ海ヲ、一ツノけシテ、汲ミ乾サム、時ニヤ我ガ身、成リモ出ヅベキ」「櫛笥」「麻笥」「瓦笥」「皿笥」

け (名) 【食饌】 [盛ル器ノ笥(前條)ヨリ移レル語、盌ノ、水ニ移レルガ如シ、櫛ノ、御櫛トナレルモ、同ジ、朝鮮語ニ、食ヲ、きト云フ] 飯。メシ。食事。神代紀、下、九[illegible]「天採之膳」萬葉集、一、九「長氣」「大御氣」新年祭祝詞「[illegible]御膳ノ[illegible]御膳」云云、朝御食、夕御食」名義抄「食、ケ」四季物語、七月「言ヒシラヌ、オドロオドロシキ膳ヲ食ヒ」「朝け」「晝け」「夕け」

け (名) 【異】 [奇し、異し、ノ語根] (一)異シキコト。希有。異常。(異ナ、及、異シ、ノ條ヲ併セ見ヨ) 繼體紀、八年正月「有異於常」[illegible] 萬葉集、十三、九「衣手ノ、(枕)葦毛ノ馬ノ、嘶ク聲モ、心アレ(バ)カモ、常ニ異ニ嗚ク」 (二)上越スコト。特出。源、九、葵廿八「法界三昧普賢大士ト打チ宣ヘル、行ヒナレタル法師ヨリハけナリ」 新古今集、四、秋、上「[illegible]キテ見ム、ト思ヒシホドニ、枯レニケリ、露ヨリけナル、朝顔ノ花」拾遺集、[illegible]外、下「宮城野ノ、木ノ下露ニ、比ベバヤ、雨ヨリけナル、袖ノ雫フ」

け (名) 【病】 [異ノ義、異常ノ意、病ヲ、異例ト云フト通ズト云フ、時のけ、同ジ] ヤマヒ。蜻蛉日記、中、中廿「けャアガリヌラン、心チイト惡シウ覺エテ、ワサト、イト苦シケレバ」 源、十、賢木廿「御けアガリテ、猶、惱シウセサセ給フ」「物ノけ」「時ノけ」「脚ノけ」(各條ヲ見ヨ)

け (名) 【怪】 【恠】 [怪ノ呉音トスルハ、常説ナレド、或ハ、異ノ義ニテ、異常ノ意ナラムカ] (一)シルマシ。アヤシキコト。不思議。怪異。太平記、廿、義貞馬騒強事「カヤウノ怪ドモ、未然ニ凶ヲ示シケレドモ」 (二)【モノノケ。祟。】 源、十九、薄雲廿「天變頻リニサトシ、世ノ中、靜カナラスハ、コノけナリ」

け (名) 【蹴】 [古音、くぇノ約] ケルコト。榮花物語、三十七、[illegible]上人、鞠けサセテ御覽ズル」同、三十六、根合「花ノサカリニハ、人人マヰリテ、鞠けナド、アソバセ給ヒシ所ナリ」

け (名) 【來經】 [き、へ、ノ約ト云フ(八年歷、八年。高嶺、嶽)きふ(來經)ノ條ヲ見ヨ、幾日ノか、日讀(曆)ノさ、此語ノ轉ナリ] 年月ノ、來ツツ、經行クコト。長ク經ル日數。累日。萬葉集、二、十「君ガ行、氣長クナリヌ」同、十七、廿「長氣、戀ヒシケク、氣長キモノヲ」同、廿、廿「長氣ヲ、待チカモ戀ヒム」

け (名) 【褻】 [け(來經)ノ義ニテ、日常ノ意ナラム、褻の衣ハ、常の衣ナリ] 常。平生。フダン。(公、又、晴、ニ對ス) 多クハ、衣ニ云フ、褻の衣ハ、不斷着ノ服ナリ、褻居ト云フハ、常ノ居間ナリ。論語、鄉黨「紅紫、不以爲褻服」注「褻服、私服、非公會服」 大鏡、中、兼通「代[illegible]、打チナキテ、けニ着タマフ御衣ヲバ、既ニテゾ着セ奉リタマフ」無名抄、上、關見の小川ノ歌ヲ詠ミタル難ジテ「カヤウノ事ヲバ、イミジカラム晴レノ會、若シハ、國王、大臣ノ御前ナドニテコソ詠マメ、カカルけノ事ニ詠ミタル、無念ナル事也」

け (名) 【故】 [故ノ約カト云フ、故、同ジ] 故。ユヱ。タメ。竹取物語「泣ク泣ク喚ヒタマフ事、千度バカリ申シ給フけニヤアラム、ヤウヤウ、雷鳴リヤミヌ」 源、九、葵廿「限リナキ頭ドモ立テサセタマフけニヤ、平カニ、事ナリハテヌレバ」大和物語、中「此在次君、在中將ノ、東ニ行キタルけニヤアラム、此子共モ、人ノ國通ヒヲナムシケル」 落窪物語、一「猶、我ガ君ノオハシマスけナリト云ヘバ」 榮花物語、一、月宴「ソノけニコソアラメ」

け (名) 【氣】 [氣ノ音ノ轉ナリ] (一)【息。勢。氣。おき。】 蜻蛉日記、下、中「東面ノ朝日ノけ、イト苦シケレバ、南ノ廂ニ出デタルニ」「火ノけ」 (二)【ケシキ。ケハヒ。ヤウス。】 源、三十五、柏木廿「イヨイヨ、白ウ、アテハカナルけ

シテ、枕ヲソバダテテ」 管見記、十、中宮御産事「治承二年十一月十二日寅時ヨリ、中宮、御産ノ氣オハシマスト聞ケリ」 (三)味。香。「嗅け」「酒ノけ」「けモナシ」

け (名) 卦 易ノ、算木ノ面ニアラハル象ニテ、其象ヲ見テ、吉凶ヲ考フ、乾、兌、離、震、巽、坎、艮、坤、ノ八樣アリ、コレヲ、八卦ト云ヒ、更ニコレヲ、種種ニ配合シテ、六十四卦トナル。 榮花物語、十六、本雫「男トモ召シ集メツツ、けタテサセ給フホド、猶イトメヅラカナリケル」

け (名) 罫界 (一)紙ノ上ニ、物書カム目標ニ引ク線。罫。罫引。界行。欄界。烏絲欄。 字類抄「堺、ケ、文堺」 源、三十七、鈴蟲、二「阿彌陀經、唐ノ紙、云云、けカケタル金ノ線ヨリモ、罫ツキノ上ニカガヤク狀ナドモ、イトナム、メヅラカナリケル」 宇治拾遺、八、第四條「四卷經、書キ奉ルベキ紙、經師ニ打チツガセ、罫カケサセテ、書キ奉ラムト思ヒケルガ、云云、」「罫紙」「罫版」 (二)碁盤ノ上面ノ、縱横ノ線。方罫 線道

け (名) 假暇 イトマ。官人ノ、喪ニ遭ヒテ、定レル日數ノ暇ヲ賜ハリテ、職ヲ休ムコト。(服ノ條ヲ併セ見ヨ) 假寧令、義解「凡、職事官、遭父母喪、並解官、自餘皆、給假」 拾芥抄、服暇篇「いとま十日」「いとま二十日」

け (動) 消 消ゆノ連用形ノ、きえノ約。 萬葉集、九十九長歌「忽チニ、心消失セヌ」 同卷三十長歌「朝露ノ、消易キ命」 同、十七「雪消ノ水ニ」 伊勢物語、百五段「白露ハ、けナバけナナム、消エズトモ、玉ニ貫クベキ、人モアラジヲ」

け (接頭) 氣 「け摩る、け憎し、けざっぱり、ナドノけハ、此轉ナリ」 動詞、形容詞ノ上ニ添ヒテ、意ナシ、或ハ、稍、意ヲ強ムルカト思ハルルアリ。「け劣ル」「け遠サル」「け淸グ」「け咲クル」「け疎シ」「け高シ」「け惡シ」「け長シ」「け近シ」「け遠シ」「け恐シ」「け荒ジ」(各條ヲ見ヨ)

け (接尾) 匹 〔匹ト通ズ、いときなし、いとけなし〕 匹ニ同ジ。匹。 雄略紀、十三年三月「山ノ邊ノ、こゝま子(女名)故ニ、人衒フ、馬ノ耶都擬(八匹)ハ、惜シケクモナシ」(齒田根命ノ歌)

け (接尾) 家 〔家ノ吳音(加、加行)家ノ條ヲ併セ見ヨ〕 (一)イヘ。家筋。「五攝家」「源家」「平家」「武家」 (二)官位、稱號、ノ下ニ添フル敬稱。 後拾遺集、廿、釋教「故土御門右大臣家ノ女房」 吾妻鏡、四十七、康元二年十月一日「將軍家、御束帶、御帶劍、云云、於右大將家法華堂ノ前」「三位中將家被レ稅ニ御留一」「近衛家ノ使者」 (三)道。教。 「佛家」(佛道)「浮圖家」(佛)「禪家」「道家」(道教)「陰陽家」(陰陽道)

ケ (接尾) 箇 〔箇ノ條ヲ見ヨ〕 箇ニ代ヘテ記ス文字。「一ケ月」「何ケ條」「數ケ國」

げ (名) 下 (一)シモ。シタ。スヱ。「上、中、下」「下ノ卷」 (二)下ルコト。「下馬」「下山」 (三)劣レルコト。賤シキコト。下等。 丹波與作(寶永、近松作)中「勤メノ身ニモ、オジャレノ身ハ、下ノ下ト云フハ、愛ノ事」「下衆」「下品」

げ (名) 牙 ざうげ(象牙)ノ略、其條ヲ見ヨ。

げ (名) 解 諸司ヨリ、太政官、又ハ、其所管ノ省、臺、等ニ奉ル公文書ノ稱。解文。國司ヨリ奉ルヲ、國解ト云フ。 公式令「八省以下、內外諸司、上太政官及所管、並爲解」 類聚三代格、一、承和十一年、太政官符「山城國解」 雜式「凡內外諸司解文、不得用薄晃紙、其字、必令分明」 盛衰記、四、白山神輿登山事「苔爲國司之御沙汰、可被裁許者、速賜解狀、可申上也」 今昔物語、廿五、第一語「國國ノ民、コレヲ歎キ愁シミテ、國解ヲ以テ、公ニ、此由ヲ申シ上ゲタルニ」

げ (名) 夏 一夏安居ノ條ヲ見ヨ。

ゲ (名) 偈 〔梵語、偈陀、又、伽陀(Gatha.)ノ略、頌ト譯ス〕 佛家ノ詩、頌、ノ義、讚美ノ詞ナリ。梵漢、雙舉シテ、偈頌トモ云フ、(懺悔、禪定ノ如シ) 其體、四句ヅツナルガ多ケレバ、四句トモ云フ。卽チ「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂」「願以此功德、平等施一切、同發菩提心、往生安樂國」ノ類ノ如シ。 聖德太子繪傳記(享保、近松作)四「金字、金泥ノげごえ(偈頌)ノ文トアラハレ、光明、天ニ滿チ滿チタリ」

げ (接尾) 氣 〔氣ノ連濁ナリ〕 他語ノ下ニ屬キテ、風情、氣色、ヲ云フ接尾語。「人げ」「心アリげ」「物思ヒげ」「無げ」「惜シげ」「嬉シげ」

けあ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 蹴上 蹴テ、上ヘノボス。 宇治拾遺、十二、第廿二條「僧キ男ノ云ヒゴトカナトテ、三度、上ザマへけあげけあげシテ、ナヘナヘ、クタクタトナシテ、落ツル所ヲ、口ヲ開キテ食ヒタリケリ」「鞠ヲけあぐ」

けあげ (名) 蹴上 (一)蹴上グルコト。 謠曲、鬮原與市「旅ノ衣ニ、馬ノ蹴上ヲカクルコト、存外、アマリノ振舞ナリ」(泥ノハネナリ) (二)段梯子ノ、一段ノ高サ。

けあげ (名) 蹶上 舟ニテ、閾ノ稱。「けあげ六寸」

けあし (名) 毛脚 (一)毛ノ、延ビユクコト。(日脚、雨脚ト、同趣)「毛脚ガ早イ」 (二)ケズネ。

けあ・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 氣惡 風力、凄ジ。 師光集「泊リスル、渡ノ風モ、けあしきヲ、波高砂ノ、浦ハイカニゾ」 今昔物語、廿、第四十語「冬ノ頃ナリ、泉川原ノ風、極メテ氣惡く吹キテ、寒キコト、限リナシ」

けあな (名) 毛孔 膚ニ、毛ノ生ズル、微細ナル孔。毛孔。 竹取物語「望月ノ明サヲ、十、合セタルバカリニテ、在ル人ノ毛ノ穴サヘ、見ユル程ナリ」

けあは (名) 毛粟 おほあは(大粟)ニ同ジ、あは(粟)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

けあひ (名) 蹴合 互ニ、蹴ルコト。又、トリアハセ。「鷄ノ蹴合」

げあんご (名) 夏安居 一夏安居ノ條ヲ見ヨ。

けい (名) 卿 (一)くぎやう(公卿)ノ條ヲ見ヨ。 禮記、王制篇「大國三卿、小國二卿」 晉書、百官志「古者、天子諸侯、皆名執政大臣曰正卿、自周後、始有三公九卿之號」 (二)支那ノ爵ノ名。(爵ノ條ヲ見ヨ)

けい (名) 啓 申シ上グルコト。三宮、及、皇太子ニ進言スルニ云フ語。其文書ヲモ云フ。又、上啓。動詞トシテ、啓すト云フ。 張華瑯琊記「蕭卓呼三臺尙書已下爲自啓事、然後得行、此則、啓事、得名之始也」 公式令「啓式」註「三后、亦準此式」 崇神紀、六十年七月「氷香戸邊、啓于皇太子」 神功攝政前紀「田裳見宿禰、啓于皇后曰」 源、廿八、野分、十二「御消息けいせサセタマヒテ」注「春宮、中宮へ物申すヲ、啓すト云フ也」 枕草子、一、第三段「ヨキニ奏シタマヘ、けいしタマへ」

けい (名) 系 スヂ。血筋。系統。「萬世一系」「父子ノ系」

けい (名) 刑 政府ニテ、法律ヲ以テ、人ノ罪ヲ處分スル制。罪ナフコト。仕置。刑罰。古ヘハ、笞、杖、徒、流、死、ノ、五ツニ分チテ、五罪、又ハ、五刑ナド云ヘリ、(各條ニ注ス)德川氏ノ制ニテハ、敲、追放、遠島、死罪、ノ四等トス、コレニ屬シテ、引廻、晒、入墨、闕所、ノ四ツアリ、輕重ニ從ヒテ、本刑ニ加ヘテ行フ。閏刑ハ、士族ニ、逼塞、閉門、蟄居、改易、切腹、等アリ、平民ニ、叱、過料、戶締、手錠、等

アリ、新定ノ刑ニハ、懲役、徒刑、贖罪、又ハ、禁洞、禁獄、等、科目、多シ、各條ニ注ス。 事物紀原「書經、呂刑曰、黃尤作二五虐之刑一曰レ法、至レ舜、乃命二皐陶一明二五刑一也、世本曰、伯夷作二五刑一誤矣、呂氏春秋、又、謂下皐陶作上レ刑也」 盛衰記、二、「其際打二殿下御隨身一事、鳥羽院晏駕ノ後ハ、兵革打續、死罪、流刑、解官、停任、常ニ行ハレテ、海内モ靜ナラズ、世間モ安カラズ、就中、永曆、應保ノ比ヨリ、禁裏ノ近習ヲバ、仙洞ヨリ召禁ラル、仙洞ノ近習ヲバ、禁裏ヨリ刑ヲ加ラル」

けい (名) 【計】 (一)ハカリゴト。シクミ。計畫。 史記、淮陰侯傳「計者、事之機也」「一年ノ計ハ、元旦ニ在リ」「百年ノ計ヲ立ツ」 (二)シメダカ。合計。總計。 漢書、武帝紀「受二計於甘泉宮一」「計、五萬圓」

けい (名) 【京】 〔京師ノ條ヲ見ヨ〕 ミヤコ。京。「京ニ留ルコト數日」「京城」

けい (名) 【景】 景色ニ同ジ。ケシキ。 李商隱雜纂、不快意「樹陰遮レ景」 狂言記、ふねふな「西ノ宮、云云、浦山ヲ抱ヘマシテ、上下ノ船ナドヲ眺メ、事ノ外、景ノ多イ所デ御座リマスル」「松島ノ景」

けい (名) 【圭】 枡目ノ名、才ノ條ヲ見ヨ。

けい (名) 【奎】 星ノ名。奎宿。にじふはつしゆく(二十八宿)ノ條ヲ見ヨ。此星、明ラカナレバ、天下安シト云ヒ、(動ケバ、兵亂アリト云フ)又、文章ヲ主ルト云フ、隨ッテ、文運ヲ、奎運ト云フ。 宋史、竇儼傳「丁卯歲、五星聚レ奎、天下自レ此太平」(文明ノ兆ナリトス) 孝經、援神契曰「奎、主二文昌一」

けい (名) 【桂】 (一)木ノ名、カツラ。 楚辭、招隱士「桂樹、叢二生兮山之幽一」 (二)熱帶地ノ大木ノ名、にくけい(肉桂)ノ條ヲ見ヨ。(三)桂花ノ條ヲ見ヨ。(四)桂馬ノ略。

けい (名) 【罫】 罫ニ同ジ。「罫ヲ引ク」

けい (名) 【徑】 ワタリ。サシワタシ。直徑。「徑、一尺五寸」

けい (名) 【經】 (一)タテイト。「經、緯」 (二)經書ニ同ジ。 漢書、兒寬傳「寬治二尚書一、貧無二資用一、帶レ經而鋤、息則誦讀」 班固、答賓戲「徒樂二枕レ經藉一レ書、紆二體衡門一」「六經」 (三)經度ノ略。(緯度ノ條ヲ見ヨ)「東經、西經」

けい (名) 【慶】 ヨロコビ。イハヒ。コトホギ。 書經、呂刑篇「一人有レ慶、兆民賴レ之」 よろこびまうしヲ、慶を奏すト云フ、慶賀ノ略、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

けい (名) 【警】 警蹕ノ略、其條ヲ見ヨ。

けい (名) 【磬】 〔釋名「磬、罄也、聲堅、罄罄然」〕 樂器、一種ノ、甚ダ堅キ石ヲ用キ、架ニ掛ケテ撃ツ、清ク高キ響ヲナス。今ハ多ク、銅ニテ作ル、銅磬ト云ヒ、略シテ、專ラ、磬トモ云フ。キン。ウチイシ。 白虎通「磬者、夷則氣象、萬物之成」 宇津保物語、祭使「男君タチ、笛トモ吹キアハセ、琵琶、御コト、磬ウタセ、コカノ聲ニアハセナリ」

けい (名) 【蹊】 ミチ。コミチ。徑路。 史記、李將軍傳、贊「桃李不レ言、下自成レ蹊」

けい (名) 【契】 ワリフ。券契。(大刀契、及、關契ノ條ヲ見ヨ) 年中行事祕抄「契七十四枚」

けーい (名) 【怪異】 アヤシキコト。奇怪。怪異。ワザハヒ。 盛衰記、十六、三位入道藝等事「今蒙二勅命一、怪異ヲ鎭メムトス」

けい (代) 【卿】 君主ノ、其臣下ニ對シテ用キル、對稱ノ代名詞。敬親ノ意アリ。 後漢書、光武紀「卿曹努力」 又、同輩、相呼ブニモ用キテ、敬稱トス。 史記、荀卿傳、注「卿者、時人相尊而號、爲レ卿也」 正韻「君呼レ臣爲レ卿、蓋朋レ之以レ卿也」 韻會「秦漢以來、君呼レ臣以レ卿」 同「敵對相呼亦爲レ卿、蓋、貴レ之也」 續紀、八、養老五年十月、詔「汝卿房前、當下作二内臣一云云上」

けい (代) 【兄】 〔兄事スル意〕 同輩ニ對シテ用キル敬稱。 元稹詩「不レ辭二兩年便喚一レ兄」 韓愈、與二孟尚書一書「吾兄皆見」「一草兄以下兄以テ、如何トス」

けい (數) 【京】 數ノ名、十萬ヲ億ト云ヒ、十億ヲ兆ト云ヒ、十兆、即チ、京ナリ。 風俗通「十億曰レ兆、十兆曰レ京、十京曰レ垓」

げい (名) 【藝】 (一)身ニ學ビ得タル、文武ノ藝。技藝。 禮記、少儀篇「士依二於德一、游二於藝一」 平治物語、一、信賴信西不快事「藝モナク、能モナシ」「學藝」「六藝」「藝術」 (二)遊藝。 熟名「藝人」 藝が身を助くるト云フハ、道樂ニ學ビタル遊藝ナドガ、零落レタル時ニ、餬口ノ資トナル意。 吾吟我集、慶安、三、秋「シメバヤト、捕ル野ノ雞、聲ヨクテ、汝サヘ藝は、身を助けヌル」 錦花翁隆志、獨吟十百韻「藝が身を、助くるホドノ、不仕合」(享和ノ書、東牖子ニ見ユ、隆志ハ、京都ノ俳人、寶曆ノ初、歿セリ)

げい (名) 【鯨鯢】 〔鯨ハ、をくぢら、鯢ハ、めくぢら〕 (一)クヂラ。 劉基詩「遂令二鯨與一レ鯢、掉レ尾乘二利便一」 (二)鯢魚ハ、さんせうのうを。 重修本草綱目啓蒙、三十、無鱗魚「鯢魚ハ、溪間中ニ生ズ、溝瀆ニモ亦アリ、形、鮎魚ニ似テ、鬚ナク、四足アリ、足ハ扁ク、前ハ四指ニシテ、手ノ如シ、後ハ五指ナリ、能ク樹ニ上ル、頭、圓扁ニシテ、口、大ニ、眼、甚小ナリ、背上、皮色、沙噀、及、蝦蟇ニ似テ、黑斑アリ、斑、大ナル者、小ナル者アリ、頭ニ近クシテ疣瘤アリ、椴樹皮ニ似タリ」

げい (名) 【黥】 いれずみノ刑。 書經、呂刑篇「爰始淫、爲二劓刵椓黥一」

けい-あい (名) 【閨愛】 娘ノ子。 輟耕錄、廿八、爵祿前定「宇文公諒、云云、少時、嘗館二授上虞一、其閨愛、中夜來奔、堅拒不レ納」

けい-あい (名) 【敬愛】 ウヤマヒ、慈シムコト。 魏志、韓暨傳「所在見二敬愛一、而表深恨レ之」

けい-あく (名) 【輕幄】 片方ノミヲ支フル幕。 小右記、永觀三年二月十三日「立二輕幄一、懸二御簾一、其中立二平帷一」

けい-あん (名) 〔江戸ノ醫、大和慶安ト云フモノ、貴人ノ婚姻ノ媒シテ、持參金ヲ私シ、寛文五年ニ追放セラル、其頃、詐ヲ以テ媒スル者ヲ、慶安ぢゃト云ヒシニ起ルト云フ〕 奉公人ノ口入宿ノ異名。雇人請宿。(東京)慶安口ト云フハ、雇人ヲ住ミ込マシメム、請宿ノ、其人物ノ取繕ヒヲ云フコト。奉人ノ媒妁ニ就キテモ云フ。仲人口。

けい-い (名) 【敬意】 ウヤマフココロ。 部帳、闘楽賦「昭二敬意於庸直一、本二善心之淳純一」「敬意ヲ表ス」

けい-い (名) 【輕易】 カロンジ、アナドルコト。イヤシミ、アナドルコト。輕侮。 劉向、新論「輕二易其足一、雖二夷路一亦蹶」

けい-いう (名) 【經由】 經來ルコト。トホリスグルコト。通過。 王粲、樂府「末代多儀侯、卿相紛經由」 宋書詩「千里煙波一葉舟、二十年上是兩經由」「米國ヲ經由シテ歸ル」

けい-いう (名) 【啓誘】 〔啓發、誘導ノ略〕 智識ヲ啓キ、ミチビクコト。啓迪。啓發。

けい-いん (名) 【契印】 公文書類ニ捺ス割印。

げい-いん (名) 【鯨飲】 多量ニ、酒飲ムコト。 杜甫、飲中八仙歌「左相日興費二萬錢一、飲如二長鯨吸二百川一」

けい-う (名) 【輕雨】 小雨。微雨。 蕭穎士、泛二舟蓮池一序「輕雨泛灑、微風清潤」「輕雨霏霏」

けい-うん (名) 【慶雲】【景雲】 メデタキ兆ニ出ヅル雲。太平ノ世ニ、天ニ顯ハルル

瑞氣。晉書、天文志「景雲、太平之應」續紀、三「慶雲三年」夫木抄、十九「諸人ノ、仰グノミカハ、君ガ代ハ、空ニよろこぶ、雲モアリケリ」

けい-うん (名) 奎運 文運ト云フニ同ジ、奎ノ條ヲ見ヨ。

けい-えい (名) 形影 形ト、影ト。相、附添フコトニ云フ。列子、說符篇「顧而觀影、形枉則影曲、形直則影正」 形影相弔ふト云フハ、我レヲ訪フハ、我ガ影ノミナル義ニテ、獨居すノ意。李密、陳情表「煢煢孑立、形影相弔」

けい-えい (名) 經營 〔經ハ、繩張ナリ、營ハ、其向背ヲ正スナリ〕(一)營ムコト。造リ構フルコト。基ヲ定メテ、物事ヲ取立ツルコト。詩經、大雅、文王之什、靈臺篇「經始靈臺、經之營之、庶民攻之、不日成之」(二)事ヲ、計フコト。戰國策、楚策「欲經營天下、混一諸侯」 應瑒、與滿炳書「適有事務、須自經營」太平記、廿七、崇光院御卽位事「御卽位ノ大禮ハ、四海ノ經營ニテ」「書ヲ著ハサムト、拮据經營ス」

けい-えう (名) 瓊瑤 美シキ玉。瓊玉。南史、隱逸傳「從少姬三十六色艷、桃李ハ賞防瓊瑤」曾我物語、一、奧野角觝事「コレヤ、瓊瑤ハ少キヲ以テ美ナリトシ、石礫ハ多キヲ以テイヤシトス」

げい-えつ (名) 迎謁 ムカヘテ、マミユルコト。漢書、疏廣傳「宣帝幸太子宮、受迎謁應對」

けい-えん (名) 瓊筵 〔美筵ト云フガ如シ〕宴席ノ、美稱。李白、春夜宴桃李園序「開瓊筵以坐花、飛羽觴而醉月」謠曲、花筐「洛陽ニ於イテ、遊樂ノ瓊筵ツキセヌ」

けい-が (名) 慶賀 (一)コトホギ。ヨロコビ。イハヒ。周禮、秋官篇、小行人「若國有福事、則令慶賀之」太平記、廿五、醫師評定直義室產事、男子出生 蓬矢ノ慶賀」「新年ノ慶賀」(二)ヨロコビマウシ。任官、敍位ノ禮ヲ申上グルコトヲ、慶賀を奏すト云ヒ、略シテ、慶を奏すト云ヒ、奏慶ト云フ。江家次第、廿、任大臣「新任大臣、參弓場殿、令奏慶賀」名目抄「奏慶」註「當世、そうけいト云フ名目出來、更不知故實、可尋事也」

げい-か (名) 猊下 猊座ノ條ヲ見ヨ。

けい-かい (名) 經界 サカヒ。クギリ。孟子、滕文公、上篇「仁政必自經界始、經界不正、井地不均」

けい-かい (名) 警戒 イマシムルコト。心ヅクルコト。用心。書經、大禹謨篇「儆戒無虞、罔失法度」(儆ハ警ニ同ジ)

けい-がい (名) 形骸 ムクロ。カラダ。人ノ肉體。莊子、德充符篇「今、子與我遊於形骸之內、而子索我於形骸之外、不亦過乎」

けい-がい (名) 謦欬 シハブキ。セキバラヒ。言笑スルコトニ云フ。莊子、徐無鬼篇「久矣夫、莫以眞人之言、謦欬吾君之側乎」注「輕曰謦、重曰欬」 謦欬ニ接すト云フハ、面會すノ敬語。御目ニカカル。

けい-がい (名) 傾蓋 〔孔子ノ、路ニテ、初見ノ人ニ、車ノ蓋ヲ傾ケテ、款語シタル故事ニ因ル〕人ト一見シテ、舊友ノ如ク、相親シムト云フ意ニ云フ語。孔子家語、致思篇「孔子之郯、遭程子於塗、傾蓋而語、終日甚相親」史記、鄒陽傳「白頭如新、傾蓋如故」

けい-かう (名) 經行 (一)經メグリ、行クコト。「日月ノ經行」(二)ツキノメグリ。月經。經水。

けい-かう (名) 啓行 〔行ヲ啓くノ義〕カドデ。タビダチ。發程。詩經、大雅、生民之什、公劉篇「弓矢斯張、干戈戚揚、爰方啓行」

けい-かう (名) 景行 高明ナル德行ニ喩フル語。大ナル道。詩經、小雅、桑扈之什、車舝篇「高山仰止、景行行止」注「景、大也」

けい-かう (名) 傾向 カタムキ、ムカフコト。其方向ニ進マムトスルコト。「風俗、改善ノ傾向アリ」

けい-かく (名) 圭角 〔圭ハ、將棋頭〕人ノ氣鋒ノ、銳利ナルコト。カドカドシキコト。朱熹、孟子序說「孟子、有些英氣、才有英氣、便有圭角」

けい-がく (名) 經學 經書ノ意義ヲ硏究スル學問。修身上ニ、政事上ニ應用シ、又、其文章、字句ノ解釋ヲ考證ス。漢書、宣帝紀「博聞經學之士、有以應變、輔朕之不逮」同、兒寬傳「見上說經學、上說之」

けい-がく (名) 谿壑 深キ谷。張衡、南都賦「谿壑錯繆而盤紆」谿壑の慾ト云フハ、深クシテ、滿タスベカラザル慾望ヲ云フ。國語、晉語「谿壑可盈、是不可饜也」

けい-かつ (名) 慧黠 敏捷ニシテ、機智アルコト。コザカシキコト。北史、馮淑妃傳「慧黠、善彈琵琶」

けい-かふ (名) 挂甲 かけよろひニ同ジ。

げい-がふ (名) 迎合 〔他ノ意ヲ迎へ合はする義〕アドウツコト。アヒヅチ打ツコト。機嫌ヲ取ルコト。「人ノ云フ所ニ迎合ス」

けい-がみ (名) 罫紙 罫ヲ引キタル紙。ケビキガミ。罫紙。界紙。

けい-かん (名) 輕寒 肌サムキコト。劉孝綽詩「季秋弦望後、輕寒朝夕殊」「輕寒、膚ヲ侵ス」

けい-かん (名) 勁悍 ツヨク、アラアラシキコト。晉書、陶璜傳「土地阻險、夷獠(西南ノ夷)勁悍、歷世不賓」

けい-かん (名) 鷄姦 男色ニ同ジ。陸圖隨筆「張氏正韻箋、律有鷄姦之條、要、言鷄、將男作女也、今、男淫爲鷄姦、誤矣」

けい-がん (名) 冏眼 烱眼 〔冏ハ、光るナリ〕銳キ眼光。「冏眼、人ヲ射ル」

けい-がん (名) 慧眼 聰キ眼力。活眼。佛語ニテハ、ゑげんト云フ。無量壽經「慧眼見眞、能渡彼岸」金剛經「如來有慧眼」

けい-がん (名) 啓龕 かいちやう(開帳)ニ同ジ。

け-いき (名) 氣色 けいき(氣色)ノ音便。「鳥羽殿ノ御所ノ氣色」

けい-き (名) 京畿 京城ニ近キ地方。畿內。虞世基、樂府「鼓吹入京畿」

けい-き (名) 景氣 (一)ケハヒ。ミエ。氣色。光景。殷仲文詩「景氣多明遠、風物自淒緊」盛衰記、三、左右大將事「神前ニ參リテ、社頭ノ景氣ヲ拜シ給ヘバ」(二)商家ニ、賣買ノ行ハルルイキホヒ。世上一般ノ金融ニ就キテノ人氣。生意。「景氣ヨシ」「景氣ワルシ」「不景氣」

けい-き (名) 刑期 刑ノ執行ヲ受クル期間。

けい-き (名) 經紀 〔經綸、紀理ノ義ト云フ〕(一)スヂミチヲ立ツルコト。秩序。紀律。綱紀。後漢書、卓茂傳「凡人之生、羣居雜處、故有經紀禮義、以相交接」(二)イトナムコト。トトノフルコト。韓愈、柳子厚墓誌銘「旣往葬子厚、又將經紀其家」

けい-ぎ (名) 經義 經書ノ意義。漢書、張禹傳「講論經義」

げい-ぎ (名) 藝妓 藝者ノ(二)ニ同ジ。

けいきう (名) [輕裘] 輕キ、カハゴロモ。[illegible] 手輕ナル裝ヒニ云フ。[illegible]「[illegible]甲」太平記、廿七、田樂事「輕軒、香車、地ヲ爭ヒ、[illegible]」

けいききう (名) [輕氣球] [輕き氣體ヲ入レタル袋] 薄綾ヲ作リタル、大ナル袋ノ袋ニ、水素、又ハ、瓦斯、ナドヲ滿タシタルモノ、空中ニ飛揚セシム、人モ乘ル。氣球。風船。

けいきふ (名) [警急] 警ムベキ、急遽ノ事。急ニ起リシ變事。[illegible]「人不語」

けいきんこ (名) [輕禁錮] きんこ(禁錮)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

けいきゃう (名) [景況] [況ハ、ありさまナリ] アリサマ。オモムキ。ヤウス。

けいぎゃう (名) [景仰] [篇海「景、慕也」] [illegible] 人徳ノ高キ人ヲ、仰ギ慕フコト。[illegible]

けいきょ (名) [輕擧] 輕率ナル擧動。カルハズミ。[illegible]

げいぎょ (名) [鯢魚] げい(鯢)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

けいきょく (名) [荊棘] 刺アル植物。ウバラ。[illegible]「[illegible]」

けいぎょく (名) [瓊玉] 美シキ玉。左傳、[illegible]

けいく (名) [形軀] カラダ。身體。莊子、[illegible]

けいく (名) [警句] 奇拔ナル意味ヲ含メル語句。寸鐵、人ヲ殺ス句。[illegible]

けいぐ (句) [敬具] 敬ミテ、具申ス。書翰文ノ末ヲ結ブニ用キル敬語。

けいくう (名) [敬空] 謹空ニ同ジ。[illegible]

けいくつ (名) [敬屈] ウナダレテ、カシコマルコト。盛衰記、十一、靜憲與二入道一問答事「[illegible]」吾妻鏡、三十四、仁治二年十一月三十日「皆以[illegible]」

けいくつ (名) [磬屈] 磬折ノ條ヲ見ヨ。

けいぐん (名) [鷄群] にはとりノ一羣。鷄群の一鶴ナド云フハ、衆人ノ中ニ、一偉人アルヲ云フ。[illegible]

けいくゎ (名) [京華] [華ハ、繁華ノ義] 花ノ都。花洛。[illegible]

けいくゎ (名) [螢火] ホタルビ。螢ノ光リ。[illegible]

けいくゎ (名) [桂花] 木犀ノ花 (詩ニ云こ) 桂。李商隱詩「昨夜西池涼露滿、桂華吹斷月中香」

けいくゎ (名) [經過] (一)經ヘ、過スグスコト。「年月、經過ス」(二)通リコスコト。[illegible]「[illegible]過也」註、道路所ニ經過ニ」庾信詩「[illegible]」「山川ヲ經過ス」(三)ウツリ行クコト。ナリユキ。「事變ノ經過」

けいくゎい (名) [經廻] (一)諸方ヲ、經ヘ廻ルコト。平家物語、十一、腰越事「京都之經廻難治之間、[illegible]」(二)世ヲ、經ヘ廻ルコト。[illegible]

けいくゎい (名) [輕快] (一)スラスラト、滯ラヌコト。カルク、速カナルコト。[illegible]「輕快ナル筆法」(二)病ノ、少シク快クナリタルコト。快方。「病勢、輕快」

けいくゎい (名) [計會] (一)ハカラヒ、アハスルコト。計算。[illegible] (二)苦シム、困ルコト。[illegible]

けいくゎく (名) [計畫] ハカリゴト。ハカラヒ。モクロミ。シタゴシラヘ。[illegible]

けいくゎつ (名) [契闊] 別レテ、久シク會ハザリシコト。ブサタ。疎闊。久闊。[illegible]

「[illegible]」

けいくゎのくゎい (名) [繼華會] 陰暦、九月十三夜ノ月ノ宴。[illegible] 九月十三夜名ニ繼華會一トイヘリ、[illegible] 清明此夕價千金トイヘルガ、イト名高シ」

けいくゎん (名) [京官] 京中ノ諸官。[illegible]

けいくゎん (名) [警官] 警察ノ官人。

けいくゎん (名) [圭冠] [圭ハ、將棋頭ナリ] ハシハカウブリ。

けいくゎん (名) [掛冠] [けいハ、くゎいナルベキナリ、韻會「挂、古買切」正韻「古畫切、音卦」玉篇「懸也」] 官途ヨリ、退クコト。致仕。[illegible]

けいくゎん (名) [鷄冠] ニハトリノトサカ。[illegible]

けいくゎんくゎ (名) [鷄冠花] 鷄頭花ニ同ジ。

けいくゎんせき (名) [鷄冠石] 鑛物ノ名、砒鑛ノ屬、舶來ス、古渡ナルハ、大塊ナルアリ、臭氣無ク、透明ニシテ、色、赤キコト、鷄冠ノ如シ、之レヲ眞トス、新渡ナルハ、黃赤ニシテ、臭氣アリ。伊勢、

大和、陸前、石狩、ヨリモ産ズ、焼キテ、繪具トス。古名、黄土。雄黄

けい-けい (副) 雉子、犬、ナドノ鳴ク聲ニ云フ語 ケンケン。ワンワン。袖中抄二顯昭「雉子ハ、けいけいト鳴キテ、ほろほろト羽ヲ打ツ」著聞集、九、武勇「犬、射ラレテ、けいけいト鳴キテ走ル」

けい-けい (副) 【輕輕】 カロガロシク。「輕輕ニ看過ス」

けい-けい (副) 【炯炯】 (一)光リ、カガヤク狀ニ云フ語。蘇舜欽詩「禄懐兩沈淡、炯炯抱二明玉一」「眼光炯炯、人ヲ射ル」 (二)心ニカカリテ、忘ルル能ハザル狀ニ云フ語。耿耿。楚辭、遠遊「夜炯炯而不レ寐」

けい-けい (副) 【熒熒】 (一)光リテ、カガヤク狀ニ云フ語。杜牧、阿房宮賦「明星熒熒、開二妝鏡一也」(二)光リテ、艶アル狀ニ云フ語 史記、趙世家「美人熒熒兮、顏若二苕之榮一」

けい-けい (副) 【煢煢】 〔煢ハ、獨ナリ〕 獨リ寂シク孤立シテ、倚ル所ナキニ云フ語。左傳、哀公十六年「俾下屛二余一人一以在上レ位、煢煢余在レ疚」李密、陳情表「煢煢孑立、形影相弔」

けい-けい (副) 【焭焭】 單獨ノ狀ヲ云フ語。張衡、思玄賦「何孤行之焭焭兮」

けい-げい (名) 【鯨鯢】 (一)鯨ト、鯢ト。李白詩「小舟若二鳧雁一、大舟若二鯨鯢一」平家物語、十一、腰越「不レ痛レ沈二身於海底一、投二於鯨鯢之腮一」(二)鯨鯢ハ、小魚ヲ食フヨリ、不義ノ者、小國ヲ併呑スルニ譬ヘテ云フ。左傳、宣公十二年「明王伐レ不レ敬、取二其鯨鯢一而封レ之、以爲二大戮一」杜註「鯨鯢、大魚之名也、以喩下不義之人、吞中食小國上也」

けい-けう (名) 【景教】 支那ノ唐朝ノ代ニ、支那ニ入リシ天主教ノ稱。景教流行中國碑ノ文ニ據ルニ、唐太宗、貞觀九年、(舒明天皇七年、西洋紀元六百三十五年)教徒、阿羅本、數人ヲ伴ヒテ長安ニ至リ、同十二年、義寧坊ニ大秦寺ヲ建テテ布教ストアリ。碑文ハ、金石萃編、卷百二ニ載セテアリ、碑石、今尚、存スト云フ。ねすとる派。

けい-げつ (名) 【桂月】 〔桂花(木犀)ノ月ノ意ナラム〕 陰暦八月ノ異稱。又、月の異名。張正見詩「長河上二桂月一、澄彩照二高樓一」

けい-げつ (名) 【禊月】 〔三月三日、禊アレバ云フ〕 陰暦三月ノ異名。

けい-けつ-せき (名) 【鷄血石】 蠟石ノ一種、支那産ナリ、血ノ色ノ如キ、鮮紅ナル斑ノアルモノ、印材ナドトシテ、珍トス。

けい-けん (名) 【敬虔】 〔虔ハ、敬ナリ〕 ウヤマヒ、ツツシムコト。皮日休詩「開レ卷設二敬行一、爲レ之加二敬虔一」「敬虔ノ念、自ラ起ル」

けい-けん (名) 【契券】 〔釋名「契、刻也、刻二識其數一也、卷、綣也、綣綣以爲レ限也」〕 契約證書。契約手形。荀子「合二符節一、別二契券一者、所二以爲一レ信也」金史、耶律安禮傳「再伐レ宋、資貨人口、一無レ所レ取、貴爲二執政一、奴婢止二數人一、皆有二契券一」

けい-けん (名) 【勁健】 ツヨク、スコヤカナルコト。濯水燕談錄「雖レ奇崛肥重、而筆力勁健」

けい-けん (名) 【經驗】 經歷シタル實驗。度度出會ヒテ、實地ニ得タル智識。「經驗ヲ積ム」

けい-けん (名) 【輕軒】 〔左傳、閔公二年「鶴有二乘レ軒者一」註「軒、大夫車」〕 製作ノ、輕快ナル車。朗詠集、上「花明二上苑一、輕軒馳二九陌之塵一」太平記、十二、公家一統政道事「日來、武威ニ誇リ、本所ヲ無ニスル檻門、高家ノ武士共、イツシカ諸庭奉公人トナリ、或ハ、輕軒、香車ノ後ニ走リ、或ハ、青侍、格勤ノ前ニ跪ク」

けい-げん (名) 【輕減】 減シテ、輕クスルコト。漢書、刑法志「其議下律令可二蠲除一輕減上者、條奏、惟在レ便二安萬姓一而已」「租稅ヲ輕減ス」

けい-こ (名) 【稽古】 (一)古ヘノ事ヲ、稽フルコト。書經、堯典「曰若稽二古帝堯一」(二)古書ヲ讀ミテ、學問スルコト。後漢書、桓榮傳「榮爲二太子少傅一、賜以二輜車乘馬一、榮大會二諸生一、陳二其車馬印綬一曰、今日所レ蒙、稽古之力也、可レ不レ勉哉」(三)學ブコト。習フコト。學習。平治物語、一、信頼信西不快事「在所ニ籠リ居テ、云云、偏ニ、武藝ヲゾ稽古セラレケル」太平記、八、四月三日合戰事「多年稽古ノ犬(犬追物)笠懸、今ノ用ニ立タズバ、イツヲカ期スベキ」同、十七、山門攻事「稽古、鑽仰ヲノミ事トスル修行者」

けい-こ (名) 【蟪蛄】 蟬ノ屬、ひぐらし。詩經、疏「三輔以西爲レ蜩、云云、楚地曰二之蟪蛄一」莊子、逍遙遊篇「蟪蛄不レ知二春秋一、此小年也」

けい-ご (名) 【警固】 非常ヲ警メ、固ク備ヘ守ルコト。カタメ。警衞。警備。西宮記、五「加茂祭警固、公卿卷纓」太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「輿ヲ庭前ニ舁キ止ム、轅ヲ叩キテ、警固ノ武士ヲ近ヅケ、宿ノ名ヲ問ヒ給フ」

けい-ご (名) 【警護】 非常ヲイマシメ、マモルコト。警固。警衞。狂言記、鬮罪人「イツモ此屋カラ、警護ガ、二人ヅツ出マスル」

けい-ご (名) 【敬語】 敬ヒテ稱スル語。品ノヨキコトバ。丁寧ナルコトバヅカヒ。古語ニ、立つヲ、立たす、摘むヲ、摘ます、作るヲ、作らす、知るヲ、知らす、服るヲ、服す、見るヲ、見すナド、左行四段ニ活用セサスルモノ、皆、敬語ナリ。

げい-こ (名) 【藝子】 〔舞子ニ對スル語〕 藝者ノ(二)ニ同ジ。(京阪)

げい-ご (名) 【囈語】 ネゴト。ウハコト。拾遺記「呂蒙囈語通二周易一」宋玫、遠芳亭詩「囈語嘈嘈誰得レ知、再三三王諾二授簡錄一」

けい-こう (名) 【雞口】 ニハトリノクチ。小ナル團體ノ頭トナルニ喩フル語。雞口となるも、牛後となる勿れト云フハ、小ナリトモ、人ノ上ニ立ツベシ、大ナリトモ、人ノ尻ニ屬クベカラズノ義。史記、蘇秦傳「鄙諺曰、寧爲二雞口一、無レ爲二牛後一、今西面交レ臂而臣二事秦一、何異二於牛後一乎」

けい-こう (名) 【磬控】 馬ヲ、馳驅セシメタリ、佇止セシメタリスルコト。詩經、鄭風、大叔于田「抑磬控忌」註「騁レ馬曰レ磬、謂レ使レ之曲折如レ意、止レ馬曰レ控、謂レ有レ所二控制一不レ逸也」太平記、十七、京都兩度軍事「義貞兵共、元來、磬控、驍捷、百錬、千錬シテ、己ガ物ト得タル所ナレバ」

けいこ-ぎ (名) 【稽古着】 劍術、柔術、等ヲ稽古スル時ニ着ル服。綿布ニ、木綿ヲ入レ、刺子ナドニス。

けい-こく (名) 【經國】 國家ヲ、經營スルコト。魏文帝、典論「文章、經國之大業、不朽之盛事」「經世經國」

けい-こく (名) 【傾國】 美人ノ稱。(傾城ノ條ヲ見ヨ)

けい-こく (名) 【頃刻】 少シノ間。シバラク。暫時。韓愈詩「張旭得二大筆一作二歌詩一、頃刻揮レ毫萬千字」太平記、四、呉越戰事「頃刻ニ變化シテ」

けい-こく (名) 【熒惑】 〔莊子、人間世篇「而目將レ熒レ之」註「使二人眼眩一也」正韻「惑、疑也」廣韻「迷也」字典「亦通作レ或、孟子、無レ或二乎王之不一レ智」〕 (一)惑ハスコト。迷ハスコト。史記、孔子世家「匹夫而熒二惑諸侯一者、罪當レ誅」 (二)火

星ノ異名、熒惑星ノ略。人ヲ惑ハス星ノ意。[illegible]

けい-こく (名) [警告] イマシメ、告グルコト。[illegible] 同、天官書「[illegible]也、若當レ之、若經レ之、可レ移レ于レ相」[illegible]

けい-こく-せい (名) [熒惑星] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

けい-こつ (名) [輕忽] 輕ンジ、ユルガセニスルコト。輕忽。輕率。漢書、孔光傳「[illegible]」「[illegible]ヲ輕忽ニスベカラズ」

けい-こ-にん (名) [稽古人] 學術ヲ稽古スル人。學生。

けい-こ-ぼん (名) [稽古本] (一)學習ニ用ヰル書物。教科書。(二)音曲ヲ稽古スル時ニ用ヰル本。其歌謠ヲ記ス、多クハ、半紙本ノ大字ナリ。「長唄ノ稽古本[illegible]」

けい-ご-や (名) [警固屋] 警固ノ衞士ナドノ、詰メ居ル小家。字類抄「警固屋、ケイゴヤ」

げい-ざ (名) [猊座] [猊、狻也、獅子ナリ] 獅子座ニ同ジ。佛ノ坐スル座。轉ジテ、高僧ノ座。弟子ヨリ、高僧、又ハ、各宗ノ管長ナドヲ、猊下ト呼ビテ、敬稱トス、猊下ハ、猊座下ノ略ナリ。[illegible]

けい-さい [illegible] ノチヲツヒ。[illegible]

けい-さい (名) [荊妻] [荊釵布裙ノ條ヲ見ヨ] 己ガ妻ヲ、他ニ對シテ云フ謙稱。愚妻。

けい-さい (名) [掲載] カカゲ、ノスルコト。書キ上グルコト。「新聞紙上ニ掲載ス」

けい-ざい (名) [經濟] [經レ國濟レ世、經、治也] (一)國家ヲ經營シ、世民ヲ救濟スルコト。治國ノ術。政治ノ方。抱朴子、内篇、[illegible]經世濟俗之略、而[illegible] (二)此語、今、專ラ、財貨ヲ經濟スルニ用ヰラレ、理財ノ意トス、其條ヲ見ヨ。

けい-ざい (名) [輕罪] [重罪ニ對ス] カロキツミ。御仕置例類集、二、文化十四年[illegible]「[illegible]之分ハ、其場ニ而、當座之叱申付候」

げい-ざい (名) [藝才] げざい(藝才)ノ條ヲ見ヨ。

けいざい-がく (名) [經濟學] 理財學ニ同ジ。

けい-さう (名) [輕躁] カロガロシキコト。沈着ナラザルコト。[illegible]

けい-さう (名) [輕裝] 手輕キ身仕度。[illegible]

けい-さう (名) [稽顙] 稽首ノ條ヲ見ヨ。

けい-さう (名) [係爭] 爭論ニ係ルコト。訴訟中ナルコト。

けい-さう (名) [珪藻] [珪酸質ヨリ成ルトニフ] 植物ノ名、淡水、鹹水ニ生ズ、細胞ヲ有シ、其形、方圓、等、種種ナリ。

けい-さく (名) [計策] ハカリゴト。計略。[illegible] 人ハ、侍千人ノ中ニ、ヤウヤウ一二人有者也、又、武略ト、斗策トハ、別成ベシ、云云」

けい-さく (名) [警策] [馬ヲ警め策打つコト、きゃうざく(警策)ノ條ヲ併セ見ヨ] 一語ノ、文章ノ全篇ヲ活動セシムルコト。陸機、文賦「立ニ片言ニ而居レ要、乃一篇之警策」注「馬因レ策而行、[illegible]以ニ一言ニ入ニ此辭ハ、若ニ策之驚ニ馬」 禪宗ニテ、師僧ガ、弟子、雲水ノ僧ナドト問答スル時ニ、垂誡ノタメニ、又ハ、座禪スル僧ノ睡ルヲ懲ラサムガタメニ、警打スル策ヲ、呉音ニテ、警策ト云フ。

けい-さつ (名) [警察] 行政ノ行爲、公共ノ安寧、秩序ヲ保チ、法律ノ違犯ヲ警メ、人民ノ禍難ナドヲ護ル職。

けいさつ-しよ (名) [警察署] 警察ノ事務ヲ行フ役所。

けい-さ-ふ-くん (名) [荊釵布裙] [荊ノ釵、布ノ裙] 人ニ對シテ、己ガ妻ノ謙稱。略シテ、荊布。荊妻。列女傳、[illegible]

けい-さん (名) [計算] ハカリ、カゾフルコト。數ヘ上グルコト。史記、平準書「桑弘羊、以ニ計算ニ用ニ事侍中ニ」

けい-さん (名) [卦算] [形、八卦ノ算木ニ似タリ] けさんニ同ジ。文鎭。

けい-さん (名) [珪酸] 化學ノ語、珪素ト、酸素ト、水素トノ化合物、性、不安定ニシテ、熱スレバ二酸化珪素トナル、二酸化珪素ハ、天然ニ、數多存在ス 珪石、水晶、等、是レナリ。

けい-し (名) [京師] [白虎通「京、大也、師、衆也」、大衆ノ住居スル所ノ意] ミヤコ。京都。詩經、曹風、下泉篇「[illegible]」

けい-し (名) [家司] [家司ヲ延ベテ云フ、けいし。詩歌、しいか。弑す、しいすノ例] (一)イヘツカサ。親王、攝關、以下、三位以上ノ家ノ、家務ヲ掌ル職。元ト、家令、家扶、家從、書吏、等ヲ家令ト稱シタリシヲ、後ニコレヲ、家司ト、下家司トニ分チ、四位、五位ノ諸大夫ヲ以テ補スルヲ、家司トシ、其以下ヲ、下家司ト稱シタリ。落窪物語、三「衞門ノ督ノ殿ノけいしナル但馬守、下野守」榮花物語、八、初花「殿ノけいし、サルベキ限リ、加階ス」源、四、夕顏「御供ニ、人モサブラハザリケリ、不便ナルワザカナトテ、睦ジキしもけいしニテ、殿ニモ仕ウマツル者ナリケレバ、參リ寄リテ」(二)鎌倉幕府ニテモ、政所ノ別當、令、案主、知家事、ナドヲ、家司ト稱シタリ。

けい-し (名) [屐子] [屐子ノ音便、集韻「屐、奇逆切」] 足駄ノ類。くつつけのあしだヲ見ヨ。又、けいしぐつ。音ヲ轉ジテ、けいち。枕草子、一、第四段「高キけいしヲサヘ履キタレバ、ユユシク高シ」同、九、百十三段「けいしノ、ツヤヤカナルガ、革ニ、土多クツイタルヲハキテ」倭名抄、十二「履襪類「屐、阿師太」」 幸若、最期「途ッタリシけいちニ、アヰ革ニテ緒ヲタテ」

けい-し (名) [繫子] 尻居。蓋繫子ノ條ヲ見ヨ。

けい-し (名) [繼子] ママコ。[illegible]

けい-し (名) [繼嗣] ヨツギ。アトツギ。相

繼人。史記、孝文帝紀「子孫繼嗣、世世弗レ絶ニ天下之大義一也」繼嗣令「凡三位以上繼嗣者、皆嫡相承」

けい-し (名) [罫紙] 罫ヲ引キタル紙。ケイガミ。

けい-し (名) [警視] 警察ノ官人ニシテ、高等官ナルモノ、警部ノ上ニ位ス。

けい-し (名) [桂枝] にくけい(肉桂)ノ條ヲ見ヨ。

けい-し (名) [輕視] 輕ンジ、見下グルコト。アナドルコト。蔑視。

けい-し (名) [經史] 經書ト、歴史ト。蜀志、尹默傳「受ニ古學一、皆通ニ諸經史ニ」藝閣集、四、文學「應神天皇十五年ニ、百濟國ヨリ、博士、經典ヲ相具シテ來リ、而シテ後、經史、我國ニ學ビ傳ヘタリ」

けい-し (名) [經始] イトナミツクルコトヲ始ムルコト。普請ヲ始ムルコト。經營ノ(一)ノ出典ヲ見ヨ。

けい-し (名) [經死] 經ギテ、死ヌルコト。クビククリ。縊死。雄略紀、三年四月「伺ニ人不一レ行、埋レ鏡經死」

けい-し (名) [刑死] 刑ニ處セラレテ、死スルコト。「獄中ニ刑死ス」

けい-じ (名) [刑事] (一)刑罰ニ處セラルベキ、犯罪ニ關スル事件。(民事ニ對ス)「刑事訴訟法」(二)刑事巡査ノ略。

けい-じ (名) [兄事] 他人ニ、我ガ兄ノ如クニ、敬ヒ事フルコト。禮記、曲禮、上篇「年長以倍、則父ニ事之、十年以長、則兄ニ事之」

けい-じ (名) [慶事] メデタキコトガラ。ヨロコビゴト。イハヒゴト。鶴林玉露「不レ得レ預ニ慶事ニ」運歩色葉集「慶事」

けい-じ (名) [繫辭] 易ノ語。卦ヲ説明スルコトバ。易繫辭、上傳「聖人設レ卦觀レ象、繫レ辭焉、以斷ニ其吉凶ニ」

けい-じ (名) [繫辭] 論理法ノ語。命題ノ主辭ト、賓辭トヲ結合セシメテ、否定トカ、肯定トカヲ、云ヒアラハス語。

けい-じ (名) [揭示] 國體ノ人、或ハ、一般ノ人ニ知ラセンガタメニ、揭グルコト。又、其文書。宋書、食貨志「前期揭ニ示不レ費者、民得ニ自言ニ」

けい-じ (名) [擕貳] (字典「擕、離也」爾雅「貳、疑也」) 背キ離レテ、信ゼザルコト。左傳、襄公四年「我德則睦、否則擕貳」

けい-じ (名) [形似] 形ノ、似タルコト。圖繪寶鑑「得ニ其形似ニ而不レ失ニ規矩ニ者、謂ニ之能品ニ」

けい-しう(ケイ-シユウ) (名) [桂秋] 陰暦八月ノ異名。

けい-しう(ケイ-シユウ) (名) [輕舟] 輕ク走ル小舟。ハヤブネ。李白、早發ニ白帝城ニ詩「朝辭ニ白帝彩雲間ニ、千里江陵一日還、兩岸猿聲啼不レ住、輕舟已過ニ萬重山ニ」(江水ノ流ルルコト、急ナルヲ云フ)

けい-しう(ケイ-シユウ) (名) [繫囚] ツナガレ、トラハルルコト。又、其人。盛衰記、廿七、周武王誅ニ紂王ニ事「依ニ謀叛之罪ニ在ニ繫囚之中ニ」

けい-しう(ケイ-シユウ) (名) [閨秀] (一)賢婦人ノ稱。世說、賢媛篇「家婦、清心玉映、自是閨房之秀ニ」(二)女子ノ、詩歌、書畫、ナドノ伎ニ秀デタル者ノ稱。「閨秀畫家」閨秀歌人」

けい-しう-か-じん(ケイ-シユウ-カ-ジン) (名) [閨秀歌人] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

けい-しう-ぐわ-か(ケイ-シユウ-グワ-カ) (名) [閨秀畫家] 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

けい-じ-か (名) [形而下] 形而上ノ條ヲ見ヨ。

けい-しき (名) [形式] (一)外形ノ狀態。

表面。外見。杜氏通典「鑄ニ二銖錢ニ云云、形式轉細」(二)アリカタノママナルコト。カタバカリ。(英語、Form.ノ譯語)

けい-しき (名) [景色] けしき(景色)ノ條ヲ見ヨ。

〔けい-しぐつ〕 (名) [屐子履] けいし(屐子)ノ條ヲ見ヨ。枕草子、一、第三段「藏部、云云、姿ハ皆、綻ビ斷エ、亂レカカリタルモアルガ、けいしぐつナドノ緒スゲサセ、裏ヲサセナド、モテサワギ」

けい-し-し-しふ(ケイ-シ-シ-シユウ) (名) [經史子集] 支那ニテ、羣書ヲ四種ニ分類スルニ云フ語、經書ト、歴史ト、老子、莊子、韓非子、ノ類ト、諸集トナリ。事物紀原「今崇文所レ錄書、具ニ經史子集ニ、爲ニ甲乙丙丁四部ニ者、蓋、始ニ於晉李充ニ、按ニ晉書李充傳ニ、充爲ニ著作郎ニ、時典籍混雜、充以レ類相從、分爲ニ四部ニ、此蓋其始也、續事始曰、魏武置ニ四庫圖書ニ、分ニ甲乙丙丁ニ爲レ部、目錄之錄云、晉祕書監荀勗、因ニ魏中經ニ、更以ニ四部ニ別レ之、惠懷之亂、及ニ李充ニ始加ニ刪正ニ、荀勗四部之法、總以ニ甲乙ニ爲レ次也」

けい-じ-じやう(ケイ-ジ-ジヨウ) (名) [形而上] 形ヲ、ハナレタルモノ。精神ノモノ。道理ノモノ。無形ノモノ。抽象。コレニ對シテ、形アルモノヲ、形而下ト云フ。有形ノモノ。具體。易經、繫辭、上傳「形而上者、謂ニ之道ニ、形而下者、謂ニ之器ニ」

けい-じ-じゆん-さ (名) [刑事巡査] 巡査ノ、刑事ニ專務ナルモノ、卽チ、罪人ヲ探偵シ、捕縛スルヲ掌ルモノ。略シテ、刑事。

けい-し-そう-かん (名) [警視總監] 次條ヲ見ヨ。

けい-し-ちやう(ケイ-シ-チヨウ) (名) [警視廳] 東京府下ノ警察ノ事ヲ、統ベ掌ル官衙。其長ヲ、警視總監ト云フ。

けい-しつ (名) [形質] 形ト、質ト。形體

ト、性質ト。南史、徐摛傳「形質陋小、若レ不レ勝レ衣」

けい-しつ (名) [繼室] 繼妻ニ同ジ。ノチゾヒ。後妻。左傳、隱公元年「繼レ室以ニ聲子ニ」同、昭公三年「齊侯使ニ晏嬰請ニ繼室於晉ニ」

けい-しん (名) [桂心] (一)肉桂ヲ、藥用トスルニ云フ語。(二)唐菓子ノ八種ノ一、桂心ヲ加味シテ製スルモノナルベシ。倭名抄、十六、飯餅類「唐菓子、梅枝、桃枝、餲餬、桂心、黏臍、饆饠、䭔子、團喜」建武年中行事「晴ノ御膳四種以下八ゼン供ジヌレバ、ヤガテ、ワキノ御膳ヲ供ズ、云云、餲餬、桂心ナドヤウノ物ナリ」

けい-しん (名) [桂薪] 桂ヲ、薪トスルコト。物價ノ騰貴スルヲ喩フル語。戰國策、楚策「楚國之食、貴レ於レ玉、薪、貴レ於レ桂」

けい-しん (名) [輕進] 輕率ニ、進ミ出ヅルコト。晉書、張華傳「時大臣皆以爲、未レ可ニ輕進ニ、華獨堅執、以爲ニ必克ニ」

けい-しん (名) [雞晨] ニハトリノ鳴クアシタ。ヨアケ。アカツキ。雞旦。柳宗元、梅雨詩「愁深楚猿夜、夢斷越雞晨」

けい-じん (名) [雞人] 〔唐制ニ倣ヒタルモノニテ、赤頭巾ヲ被リテ、雞冠ニ擬ンタリト云フ〕ニハトリビト。時ヲ奏スル役人。禁中ニテ、夜中、時刻ヲ告ゲ知ラスル役人。周禮、春官篇「雞人、掌ニ共ニ雞牲ニ、辨ニ其物ニ、大祭祀夜、嘑レ旦以嘂ニ百官ニ」朗詠集、下「雞人曉唱、聲驚ニ明王之眠ニ、鳧鐘夜鳴、響徹ニ暗天之聽ニ」平家物語、四、嚴島御幸事「閑院殿ニハ、火ノ影モカスカニ、雞人ノ聲モトドマリ」太平記、四、備後三郎高德事「雞人曉ヲ唱ヘシ聲、警固ノ武士ノ番ヲ催ス聲バカリ、御枕ノ上ニ近ケレバ」

げい-しん (名) [迎神] カミオロシ。

けい-しん-あい-こく (句) [敬神愛國] 神ヲ崇メ敬ヒ、御國ニ忠節ヲ盡ス。禮記、

[illegible]、六行[illegible]可[illegible]」

けい-[illegible]計ニ、傾クコト。幻[illegible]。[illegible]乃[illegible]而正[illegible]」

げい-しゃ (名) [藝者] (一)遊藝ニ、堪能ナル者。甲[illegible]、云、品第十二月見、花見、云云、又ハ、[illegible]ヲ專ラシタマヒ、タマタマ、[illegible]ノ、云云、稽古アレーモ、其心[illegible]ナルユエ、已ハノ道ヘハ、オトサズ、[illegible]ノヤウニシナシ、云云」 (二)遊里ニテ、幇間ト云フ者ノ本名。遊藝ヲ以テ、客ノ招キニ應ジ、酒宴ノ興ヲ助クルヲ業トス、(女ノ、藝子ニ對ス)江戶ノ新吉原ニテ、寶曆ノ頃、女ニテ此業ヲスル者出來テ、女藝者ト稱シ、隨ッテ、幇間ニ、男藝者ノ名、起レリ、(古キ新吉原細見ニ、其名目、見ユ)後ニ、男業ニハ、其名失セテ、女藝者ヲ、單ニ、藝者ト云ヒ、又、江戶市中ニ踊子ト云フ者起リ、吉原ナルニ對シテ、コレヲ町藝者ト云ヒキ、是レ等、女業ノ者、今モ、音曲、歌舞ヲ以テ、遊[illegible]ニ勤ム。京阪ニテ、藝子。酒妓。歌妓[illegible]。 [illegible]、[illegible]者、大坂詞、男[illegible]者、太鼓持ヲ云フ、女ハ、藝子ト云フ」

けい-しゃう (名) [卿相] くぎゃう(公卿)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、[illegible]、[illegible]子、乃[illegible]之卿相也ニ平[illegible]、一、院御所仁和寺御室[illegible]供奉ノ卿相[illegible]ノ、一人モナケレバ、御[illegible]ニ任セテ御室ナル」

けい-しゃう (名) [卿章] (卿ノ條ヲ見ヨ) 文章。太平記、四十、中[illegible]、下[illegible]、[illegible]引[illegible]之巧[illegible]之[illegible]」

けい-しゃう (名) [[illegible]] [illegible]ノ訛、きんまナリト云フ」 [illegible]ノ類、色、黑クシテ、剣目ニ、赤キ[illegible]ネノ[illegible]ルモノト云フ。東山殿御飾之記「けいしゃうノぐりぐり」後松日記、六、「[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]、色黑シ、ホリメニ、赤キカサネノスヂ、一二ツアリ、又、地ヲ赤ク塗リタルモアリ、地紅のけいしゃうトイフ、奔走ナリ、地ハ黃ウルシナリ、又云、堆鳥けいしゃうノグリグリニハ、地ノ黃ウルシ見エズ、堆モクヮシ曲[illegible]ニアルモノナリ」[illegible]、下「[illegible]」名ヅケテ、キンマト呼ブ、コレ又、西皮ノ一種ニシテ、ナドニ、桂漿トイヘルハ、蒟醬ニテ、是ヲ入ル小合ヲ[illegible]モノナリ、云云、[illegible]ニ具理トイヘルハ、盆子ノ類ヲイフ名ニテ、是ト八異ナリ、[illegible]ニ、曲輪ト出タルハ、[illegible]名ニアラズ、古[illegible]、堆朱ノ說ハ、グリト等シク心得タルナリ」

けい-しゃう (名) [輕傷] カロキキズ。少シノ手オヒ。ウスデ。(重傷ニ對ス)

けい-しゃう (名) [輕症] 病症ノ、輕キモノ。(重症ニ對ス)

けい-しゃう (名) [形象] カタチ。サマ。形[illegible]。杜甫詩、[illegible]形[illegible]、[illegible]二」

けい-じゃう (名) [形狀] ナリカタチ。スガタ。アリカタ。史記、[illegible]傳「使ニ形狀不レ可レ知」

けい-じゃう (名) [契狀] 契約ノ書狀。契券。[illegible]記「入道[illegible]心ニ、[illegible]院殿ヨリ、七通ノ御契狀ノ[illegible]」

けい-じゃう (名) [京城] (一)京都ノ宮城。ミヤコ。白居易詩「自言本是京城女」 (二)朝鮮ノ首府、總督府、李王ノ居所ノアルトコロ。

けい-じゃう (名) [經常] 一定シテ、變ハラザルコト。(一時限リノ、臨時ニ對ス) 唐書、[illegible]「[illegible]、其[illegible]而[illegible]、[illegible]民ニ[illegible]、必立[illegible]經常[illegible]之法」 一定シテ支出スル經費ヲ、經常費ト云ヒ、每年一定シタル歲入、歲出ヲ、經常歲入、經常歲出、ト云フ。

けい-じゃう (名) [計上] カゾヘアグルコト。「[illegible]ニ、損失ヲ計上ス」

けい-じゃう (名) [啓上] 言ふおとノ敬語。申シ上グルコト。通鑑、宋[illegible]、[illegible]使[illegible]上」[illegible]色[illegible]「啓上」「一筆啓上仕候」

げい-しゃう (名) [霓裳] (一)ニジノモスソ。(天人ノ着ル衣) 楚辭、東君篇「青雲衣兮白霓裳」 (二)次條ノ語ノ略。太平記、[illegible]、[illegible]會合戰事「コレゾコノ霓裳一曲ノ聲ノ中ニ、漁陽ノ鼙鼓、動レ地來タリ」

げい-しゃう-うい (名) [霓裳羽衣] [龍神錄「八月望日、唐明皇、與ニ申天師、遊ニ月宮ニ、寒氣逼レ人、霜露霑レ衣、過ニ一大門ニ、在ニ玉光中ニ、見ニ一大府ニ、榜曰ニ廣寒清虛之府ニ、少前見ニ素娥十餘人ニ、皓衣乘ニ白鸞ニ、笑ニ舞於廣庭大桂樹下ニ、樂音清麗、上[illegible]、製ニ霓裳羽衣曲ニ」] 天人ノ音樂ニ基ヅキテ作リタル舞曲。白居易、長恨歌「風吹ニ仙袂ニ[illegible]、猶似ニ霓裳羽衣舞ニ」十[illegible]抄、下、第十、六十四條、古キ目錄ニモ、霓裳羽衣ハ、[illegible]調ノ樂ナリ、本ノ名ヲバ、[illegible]門トイヒケルヲ、同ジ帝ノトキ、天寶年中ニ、モトノ名ヲ改メテ、霓裳羽衣ト名ヅク」謠曲、羽衣「少女ハ衣ヲ着シツツ、霓裳羽衣ノ曲ヲナシ、天ノ羽衣、風ニ和シ、雨ニ潤フ花ノ袖、一曲ヲカナデ舞フトカヤ」

けい-じゃう-げん (名) [形狀言] 形容詞ニ同ジ。

けい-じゃう-さいしゅつ (名) [經常歲出] けいじゃう(經常)ノ條ヲ見ヨ。[臨時歲出ニ對ス]

けい-じゃう-さいにふ (名) [經常歲入] [臨時歲入ニ對ス] けいじゃう(經常)ノ條ヲ見ヨ。

けい-じゃう-ひ (名) [經常費] [臨時費ニ對ス] けいじゃう(經常)ノ條ヲ見ヨ。

けい-しゃう-もんじ (名) [形象文字] 物ノ形象ヲ畫キテ、文字トシタルモノ、卽チ、支那文字、埃及文字、ナドヲ云フ。假名、橫文字、ナドノ、音標文字ニ對シテ云フ、六書ノ象形ヲ併セ見ヨ。

けい-しゅ (名) [稽首] [荀子、大略篇「平衡曰レ拜、下レ衡曰ニ稽首ニ、至レ地曰ニ稽顙ニ」] ヌカヅクコト。首ヲ屈シ、地ニ着ケキリニシテ、拜スルコト。(頓首ノ、首ヲ抑揚スルニ對ス) 又、稽顙。書經、舜典篇「禹、拜稽首」周禮、春官篇「大祝辨ニ九拜ニ一曰、稽首」禮記、[illegible]、下篇「[illegible]、哀戚之至隱也、稽顙、隱之甚」同、曾[illegible]篇「爲ニ父母長子ニ稽顙」後漢書、梁[illegible]傳「[illegible]、徒跣而稽、稽顙納[illegible]、[illegible]拜稽首」內[illegible]式、上「[illegible]先再拜、今唯稽顙、下亦同レ之」 古事記、下(雄略)十三「爾登ニ山上ニ望ニ國內ニ者、有下上ニ堅魚ニ作ニ舍屋ニ之家ニ、天皇令ニ問ニ其家ニ云、其上ニ堅魚ニ作レ舍者、誰家、答白、志幾之大縣主家、爾天皇詔者、奴乎、己家似ニ天皇之御舍ニ而造、卽遣レ人令レ燒ニ其家ニ之時、其大縣主懼畏稽首白」

けい-しゅ (名) [警手] 宮內省、主殿寮、警察部ノ職員。皇宮ノ警衛ヲ掌ルモノ。

けい-じゅ (名) [瓊樹] 玉ノ如ク美シキ木。朗詠集、下「此花非ニ是人間種ニ、瓊樹枝頭第二花」盛衰記、四、[illegible]谷酒宴事「代代、神農ノ聖人タル、猶、瓊樹、根ヲ別ニシ、軒轅、[illegible]ノ明王タル、又、玉體、種ヲ分ツ」

げい-しゅ (名) [黥首] 額ニ、イレズミスルコト。又、其刑。後漢書、蔡邕傳「邕陳[illegible]謝、乞ニ黥首刖足、繼ニ成漢史ニ」

けい-しゅく (名) [經宿] 一夜ヲ經ルコト。

げいじゅつ (名) 藝術 (一)學藝ト、技術ト。後漢書、安帝紀「百家藝術」(二)文學、繪畫、彫刻、建築、音樂、演劇、舞踊、ナドノ稱。

げいじゅつかい (名) 藝術界 藝術ニ從事スル社界。藝術ヲ旨トスル人達。(詩人、音樂家、美術家、ノ類)

げいしゅんくゎ (名) 迎春花 わうばい(黃梅)ニ同ジ。

けいしょ (名) 經書 又、經典。經籍。支那古代ノ聖賢ノ、作リテ、教旨ヲ記シタル書ノ稱。易經、書經、詩經、春秋(左氏傳)、禮記ヲ、五經ト云ヒ、コレニ、公羊傳、穀梁傳ヲ加ヘテ、七經ト云ヒ、更ニ、周禮、儀禮、論語、孝經、孟子、爾雅、ヲ加ヘテ、十三經ト云フ。又、上古ニハ、前ノ五經ニ、樂經ヲ加ヘテ、六經トモ云ヒキ、後世ニハ、或ハ、五經ニ、四書ヲ合ハセテ、六經トモ云フ。四書トハ、大學、論語、孟子、中庸、ナリ。史記、游俠傳「誦二學書一」折たく柴の記、上「四書ヲ講ゼシメラレシ事、凡、三遍、云云、聖人ノ大經、大法、ソノ詳ナル事ヲシロシメサレンニハ、五經ノ書ヲ、兼學バセ給フベキカ」

けいしょ (名) 雞黍 〔雞ヲ割キテ黍ヲ炊ギテ飯トス〕 人ヲ饗應スルニ云フ語。北史、盧思道傳「於二草屋下一設二雞黍之膳一」

けいしょう (名) 形勝 地形ノ、勝レテ佳キ國。史記、高祖紀「秦、形勝之國、帶二山河之險一」榮花物語、十五、疑「彼ノ寺、指二點形勝一」

けいしょう (名) 勁松 風霜ヲ淩ギタル、強キ松。潘岳、西征賦「勁松彰二於歲寒一、貞臣見二於國危一」十訓抄、中、第六、十七條「霜雪ノハゲシキニモ、色ヲ改メズ、イツトナク綠ナレバ、コレヲ貞心ニ譬フルナリ、勁松ハ年ノ寒キニアラハレ、忠臣ハ國ノ危キニ見ユト」

けいしょう (名) 繼承 ウケ、ツグコト。錄底、平准西碑「聖子神孫、繼繼承承」「皇位ノ繼承」

けいしょう (名) 敬承 敬ミテ、承ルコト。後漢書、光武帝紀「皇天大命、不レ可二稽留一、敢不二敬承一」

けいしょう (名) 敬稱 敬ヒテ云フ稱。

けいしょう (名) 警鐘 非常ヲ告ゲ知ラスルニ、打鳴ラス、鈎鐘ノ聲。ハヤガネ。「警鐘ヲ亂打ス」

けいしょく (名) 景色 ケシキ。風景。宋之問詩「岑壑景色佳」朗詠集、下「丹霞道成仙室靜、山中景色月華低」

けいしょく (名) 形色 オモモチ。カホイロ。孟子、盡心、上篇「形色天性也、惟聖人然後、可二以踐一レ形」「怒ル心ヲ、形色ニ顯ハサズ」

けい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 啓 申シ上グ。三宮、東宮、ニ對シテ用キル語。啓ノ條ヲ見ヨ。

けい・す スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 敬 ウヤマフ。崇ム。尊敬ス。論語、學而篇「敬レ事而信」同、雍也篇「敬二鬼神一而遠レ之」

けいそう (名) 計數 (一)數ヲ、計フルコト。(二)ハカリゴト。計策。北史、沮渠蒙遜傳「有二勇略一、多二計數一、頗曉二天文一」

けいすゐ (名) 溪水 谷川ノ水。張籍詩「溪水無レ風映二天碧一」太平記、三十二、天竺震旦物語事「許由、遂ニ樹苔ヲ申サズ、剰サヘ、松風、溪水ノ清キ音ヲ聞テ、爽カナル耳ノ」

けいすゐ (名) 經水 ツキノサハリ。月經。

けいせい (名) 形勢 アリサマ。アリカタ。史記、劉敬傳「非三其德薄一也、而形勢弱也」運歩色葉集「形勢」「世ノ形勢」「天下ノ形勢」「國ノ形勢」

けいせい (名) 形聲 六書ノ一、其條ヲ見ヨ。諧聲。說文、序「形聲者、以レ事爲レ名、取レ譬相成、江河、是也」

けいせい (名) 景星 瑞祥ノ星。史記、天官書「景星者、德星也、其狀無レ常、出二於有道之國一」

けいせい (名) 經世 世ヲ治ムルコト。莊子、齊物論篇「春秋經世、先王之志、聖人議而不レ辯」

けいせい (名) 警世 世人ニ、警戒ヲ與フルコト。「警世ノ言」

けいせい (名) 警醒 警戒ヲ與ヘテ、人ノ迷夢ヲ醒サシムルコト。「一世ヲ警醒ス」

けいせい (名) 傾城 〔城ヲ傾ケシムル〕モノナレバ、云フ、傾くるハ、ほろぼすニテ、不祥ノ語原ナリ、傾國ト云フモ、意、同ジ、草苞(賄賂)に國傾くト云フ諺アリ、大砲ヲ、國崩ナドトモ云フ」(一)美人ヲ、色香ヲ以テ、人ヲ溺ラスルニ就キテ稱スル語。又、傾國。詩經、大雅、瞻卬之什、瞻卬篇「哲夫成レ城、哲婦傾レ城、云云、婦有二長舌一、維厲之階」(哲ハ、智ナリ、コレハ、支那三代ノ周ノ幽王ノ寵姫、褒姒ヲ指シテ云フ)漢書、外戚傳「李延年歌曰、北方有二佳人一、絕世而獨立、一顧傾二人城一、再顧傾二人國一」太平記、一、三位殿御局事「傾城、傾國ノ亂、今ニ有ヌト覺テ、淺マシカリシ事ドモナリ」(二)轉ジテ、唯、美人ノ異稱。白氏文集、長恨歌「漢皇重レ色思二傾國一」(楊貴妃ヲ指ス)武平一詩「常矜絕代色、復恃傾城姿」太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「顏政ガ、鵺ヲ射タル勸賞ニ、傾城ヲ賜ハリタルハ、面目ナレドモ」(宮女、藤壺ノ菖蒲)平家物語、十一、那須與一事「宮女ノ、舟ニ乘リテ出デタルニ「大將軍(義經)ノ、矢面ニ進ンデ、けいせいヲ御覽ゼラレム所ヲ、手ダレニ狙フテ射落セトノ謀トコソ存ジ候へ」(三)轉ジテ、遊女ノ稱。(色ヲ以テ人ヲ溺

ラスル意ハ、同ジ)後ニハ、專ラ、遊女ノ上等ナルモノノ稱トス。宇治拾遺、十二、廿四條「昔、一條ノ棧敷屋ニ、或男、泊リテ、けいせいト臥シタリケルニ」太平記、廿四、天龍寺建立事「傾城、田樂ニ、無量ノ財ヲ與へ」庭訓往來、四月「傾城、白拍子、遊女、夜發」史記抄(文明)四呂「太后ハ、邯鄲ノ傾城ノはてヂャホドニ、不調デ、淫亂ナゾ」(秦ノ始皇ノ母)似勢物語(寛永)「男、けいせいニ知音シテ、卽時モ離レズ、アリワタルニ」

けいせいまち (名) 傾城町 遊所。遊郭。イロザト。東海道名所記(萬治)六「一構へ見エタルハ、コレ、傾城町ナリ、世ニ、島原ト名ヅク」

けいせう (名) 輕少 僅カナルコト。少シナルコト。些少ナルコト。輕微。些少。北史、侯深傳「部曲輕少、難二於東道一」「輕少ノ品」

けいせき (名) 經籍 けいしょ(經書)ニ同ジ。晉書、杜預傳「立レ功之後、從容無事、乃耽二思經籍一」職員令、圖書寮「頭一人、掌下經籍、圖書、云云、給二紙筆墨一事上」

けいせき (名) 景迹 きゃうじゃく(景迹)ノ條ヲ見ヨ。夏侯湛文「遂遂景迹、君子攸レ欽」

けいせき (名) 形跡 アトカタ。物事ノ、アリシ痕。「形跡ヲ存ス」

けいせき (名) 珪石 寶石ノ名、其結晶セルモノハ、卽チ、水晶、瑪瑙、等ナリ、結晶セザルモノハ、角石、珪板石、燧石、等ナリ。

けいせき (名) 螢石 ホタルイシ。山海經「小華之山、其陰多二磬石一」

けいせち (名) 磬折 次次條ノ語ニ同ジ。

けいぜち (名) 鷄舌 けいぜつかうノ條ヲ見ヨ。

けいせつ (名) 磬折 〔體ヲ折ルコト、磬ノ形ノ如クスル意(磬ノ條ヲ見ヨ)〕磬

賀ト云フ、同ジ、[illegible] 群臣朝賀ニ宴會初見、云云、群臣會所」式部省式「凡[illegible] 年中行事歌謡ヲ召シテ、宣命ヲ賜フ、[illegible]内竪ノ役ニ進ミテ、けいせちシテ立ツ」 西宮記、一、正月、[illegible]

けいせつ (名) 〔螢雪〕 〔車胤、孫康ガ故事ニ云フ、[illegible]〕 學問ニ苦學スルコト。苦學。[illegible] 大夫ニ謀書、從頭使「末ニ蓄聚」[illegible]顛沛ノ段」[illegible]聞エアリケリ」

けいせつ (名) 〔勁節〕 強ク氣節ヲ立テ[illegible]

けいぜつ (名) 〔鴃舌〕 次條ヲ見ヨ。

けいぜつかう 名 〔鷄舌香〕 丁子ノ形、鷄ノ舌ニ似タレバ名トスト云フ」 薫香ノ名、丁子ノ一種ナリト云フ。略シテ、けいぜつ。けいぜち。[illegible] 合歡「香爐ニ、鷄舌ノ沈香ヲ薫ジタレバ」

けいせふ (名) 〔輕捷〕 身ガルク、素速キコト。サトク、ハヤキコト。捷疾。 宋史、[illegible]輕捷」

けいせふ (名) 〔勁捷〕 強クシテ、スパヤキコト。勁疾。[illegible] 高シトセズ」

けいせん 名 〔[illegible]〕 フナガカリ。[illegible]

けいせん (名) 〔輕賤〕 (一)カロンジ、イヤシムルコト。庭訓往來、七月「白紙捲座之間、[illegible]」 (二)カロク、少キコト。[illegible]物事、但輕賤也」

けいせん 名 〔[illegible]〕 經度ニ同ジ、經度ノ條ヲ見ヨ。

けいそ 名 〔鼷鼠〕 ハツカネズミ。

けいそ (名) 〔珪素〕 化學ノ語、非金屬元素ノ一、[illegible]ニヨリ、無定形、褐色ノ粉末トナリ、或ハ、[illegible]ノ結晶トモナリ、或ハ、鋼色ノ光澤ヲ有スル針狀結晶トモナル、而シテ、自然ニ遊離シテハ存在セザレドモ、化合物トナリテハ存在ス。砂、粘土、岩石、等ノ主成分タリ。砂素

けいそう (名) 〔輕鬆〕 目方輕ク、質粗キコト。[illegible]

けいぞう (名) 〔惠贈〕 物ヲ贈ラレタルニ[illegible]敬語、恵與。

けいぞく (名) 〔繼續〕 ツヅクコト。又、[illegible]

けいそつ (名) 〔輕卒〕 アシガル。身ガルノ兵。[illegible] 小松ニ出ニ輕卒ニ」

けいそつ (名) 〔輕率〕 カロハズミ。輕忽。[illegible]

けいたい (名) 〔[illegible]〕 天子ノ位ヲ繼ギタマフコト。[illegible] 事「三種ノ神器ハ、古ヘヨリ、繼體ノ君、位ヲ、天ニ受ケサセタマフ時、自ラ、コレヲ授ケサル也」

けいたい (名) 〔形體〕 カタチ。スガタ。 莊子、在宥篇[illegible]

けいたい (名) 〔形態〕 スガタナリフリ。[illegible]

けいたい (名) 〔携帶〕 〔携ハ、攜ノ俗字〕 タヅサフルコト、身ニ添ヘテ、持チユクコト。[illegible]

けいだい (名) 〔境内〕 (一)國境ノウチ。[illegible] (二)其ノ、社寺等ノ、一構ヘノ地ノ稱。[illegible] 九日、[illegible]境内云云」

けいたう (名) 〔傾倒〕 (一)カタムキ、タフルルコト。(二)器ヲ傾ケテ物ヲ出ダシ、殘ス所ナキコト。[illegible]

けいたう (名) 〔蹊道〕 [illegible]ヤサノミチ、[illegible]

けいたつ (名) 〔啓達〕 申シ入ルルコト。[illegible]

けいたつ 名 〔閨闥〕 (一)ネヤ。寢室。(二)女官ノ部屋。ツボネ。[illegible]

けいたん (名) 〔鷄旦〕 「人日ノ語原ヲ見ヨ」 元日ノ異稱。[illegible] 七日爲人、八日爲穀」 埃山の井「正月元日、上日、年頭、鷄旦、[illegible]」

けいたん (名) 〔輕煖〕 衣服ノ、輕ク、煖カキコト。[illegible]

けいち (名) 〔景致〕 景色ノ風致。

けいち (名) 〔[illegible]子〕 〔けいしノ轉〕うるしね、うるち。さいかし、さいかち」けいし([illegible]子)ノ音轉、其條ヲ見ヨ。

けいちつ (名) 〔啓蟄〕 「蟄ハ、集韻「直立切、音蟄」ナルヲ、ちつト云フハ、慣習音ナリ」 二十四氣ノ一ニシテ、陰曆、二月ノ節ヲ云フ。コモリタル蟲ノ、動キ出ヅルヲ云フ語。大戴禮、夏小正篇「正月啓蟄」

けいちふ (名) 〔啓蟄〕 前條ノ語原ヲ見ヨ。

けいぢん (名) 〔啓陣〕 立后、立太子ノ儀アラセラレシ後、初メテ行啓セラルル時、左右六衛府ノ官人ノ、護衛ニ立ツコト。[illegible]

けいちやう (名) 〔傾聽〕 耳ヲ傾ケテ聽クコト。心ヲコメテ聽クコト。[illegible]

けいちやう (名) 〔計帳〕 大帳ニ同ジ。[illegible]

也」戸令「凡造₂計帳₁」

けいぢやう（名）［刑場］仕置場。「刑場ノ

露ト消ユ」

けいちやうきん（名）［慶長金］德川幕府ニテ、慶長六年ニ鑄造、發行セシ大判金、小判金、一分判金、等ノ稱、元祿中マデ、絶エズ出シタリ、舊金貨幣中ニテ、品質、最モ良シトス。貨幣通考「慶長六年五月、大判、小判、分判、丁銀、豆板ノ製ヲ定ム、按ルニ、此時新ニ鑄ルニ非ズ、天正十九年以來造ル所ノモノ、其形式一定セザレバ、是ヲ鑒ヘテ、一定ノ法ヲ立シ也、小判ノ裏書ヲ止メ、極印ニ改シナド、其一ナリ、云云、此ヨリ以來、連年、鑄造シ、大ニ天下ニ行ハレ、元祿ニ至ル迄、通行ス、去年、關原ノ大捷ヨリ、海内一統シテ、天下ノ通貨、定シテ、遂ニ、後世通行ノ良製ヲ得タリ、故ニ世世、是ヲ慶長金銀ト稱シ、貴重ス」享保集成糸綸錄、三十一、正德四年五月十五日「慶長ノ古金ハ、只今通用ノ金ニ拾割增、右慶長ノ古金壹兩ニハ、只今通用ノ金貳兩ヲ用ユベシ、今度被₂仰付₁候新金ハ、スナハチ、此古金ト其品同ジク候故ニ、其割增モ又、コレニ同ジ」

けいちやうくわつじぼん（名）［慶長活字本］慶長年間ニ、木製活字、又ハ、銅製活字ニテ、印行セシ書物。（蒙求、勅板孝經、ノ如キモノ）

けいちやうさう（名）［鷄腸草］カハラケナ。ホトケノザ。

けいちやうし（名）［計帳使］王朝時代、四度使ノ一、各國ニテ、調庸ノ豫算ヲ上ルタメ上京スルモノ。

けいちやうつうはうせん（名）［慶長通寶錢］德川幕府ニテ、慶長十一年ニ鑄造セル一文銅錢、遍ク行ハレザリキ。[illegible]上元、近代和錢、慶長通寶錢、按ズルニ、此錢、大小二樣アリ、大ナル者ハ、徑リ八分、重サ一錢一分、小ナル者ハ、徑リ七分五厘、重サ八分、計ルニ、當時鑄トコロ、今ノ世、尙多クコレアリ」

けいちゆう（名）［傾注］（一）傾ケテ、注ギコムコト。（二）心ヲ、其事ニノミ入ルルコト。傾倒。

けいぢゆう（名）［輕重］〔ぢゆうハ、呉音〕かろきト、おもきト。周禮、秋官篇、司寇「以辨₂罪之輕重₁」左傳、宣公三年「楚子問₂鼎之大小輕重₁」韓愈、送₂竇員外₁序「豈不₃眞知₂輕重₁大丈夫₁哉」甲子「嘗₂權衡₁以稱₂輕重₁」庭訓往來、八月「火印追放已下、隨₂事輕重₁、其人是非、可₂被₁行₁是」

けいちよう（名）［輕重］〔ちようハ、漢音〕前條ノ語ニ同ジ。輕重すべからずト云フハ、優ルトモ、劣ルトモ、定メラレズノ意ナリ。

けいちよく（名）［勁直］剛直ニ同ジ。韓非子、孤憤篇「不₂勁直₁、不₂能₁矯₁姦」

けいづ（名）［系圖］〔系統ノ圖譜〕氏文。繼文。先祖ヨリ、代代ノ父子、兄弟、等ノ系ヲ、表ニ記シタルモノ。系譜　家譜　譜牒　續紀、八、養老四年五月「一品舍人親王、奉₂勅修₁日本紀₁、至₂是功成奏上₁、紀三十卷、系圖一卷」平治物語、三、牛若奥州下向「牛若ハ、鞍馬寺ノ東光坊阿闍梨蓮忍ガ弟子、禪林坊阿闍梨覺日ガ弟子ニ成テ、遮那王トゾ申ケル、十一ノ年トカヤ、母ノ申事ヲ思出シテ、諸家ノ系圖ヲ見ケルニ、ゲニモ、淸和天皇ヨリ十代ノ御苗裔、六孫王ヨリ八代、多田滿仲ガ末葉、伊豫入道賴義ガ子、八幡太郎義家ガ孫、六條判官爲義ガ嫡男、前左馬頭義朝ガ末子ニテ候ケリ」北條五代記、一「關東天文亂事「武家ノ大系圖ハ、神武ヨリ以來ヲ記シ、和漢合運ハ、慶長十六歲マデヲ記セル明鏡也」

けいてい（名）［兄弟］あにト、おとうとト、キャウダイ。ハラカラ。詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「兄弟旣具、和樂且湛」書經、君陳篇「惟孝、友₂于兄弟₁」兄弟、牆にせめぐト云フハ、兄ト、弟ト、家ノ内ニテ爭フヲ云ヒ、轉ジテ、スベテ、内訌スルニ云フ。詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「兄弟鬩₂于牆₁、外禦₂其務₁」（務、侮也）

けいてい（名）［徑庭］［逕庭］〔徑ハ、狹キ路、庭ハ、堂前ノ廣場ナリ、廣狹ノ差アル意ト云フ〕カケハナレタルコト。懸隔。莊子、逍遙遊篇「大有₂徑庭₁、不₂近₁人情₁」

けいてう（名）［慶弔］慶事ト、喪事ト。祝儀、不祝儀。荀子、大略篇「慶者在₂堂、弔者在₂閭、禍與₂福鄰、莫₂知₂其門₁」史記、蘇秦傳「是何慶弔相隨之速也」「慶弔、相訪フ」

けいてう（名）［輕窕］［輕佻］〔窕ハ、佻ニ同ジ〕カロハズミナルコト。輕率。左傳、襄公廿六年「楚師輕窕、易₂震蕩₁也」尉繚子、治本篇「民相輕佻、則欲心興、爭奪之患起矣」

けいてう（名）［京兆］〔韻會「兆者衆數、言₂大衆所₁在也」〕支那ニテ、京兆尹、京尹、トモ云フ、尹ハ、長ナリ、帝都ノ太守ナリ」左京職、右京職、ノ唐名。（左京職ノ條ヲ見ヨ）左京大夫、右京大夫ノ唐名ヲ、京兆尹、又、京尹、ト云フ。

けいてうのゐん（名）［京兆尹］前條ヲ見ヨ。

けいてき（名）［啓廸］〔廸ハ、導ナリ〕ヒラキ、ミチビクコト。啓誘。啓發。書經、太甲、上篇「旁求₂俊彥₁、啓₂迪後人₁」

けいてき（名）［勍敵］［勍敵］強敵ニ同ジ。左傳、僖公廿二年「勍敵之人、隘而不₂列、天贊₂我也」

けいてき（名）［警笛］警戒ノタメ、笛ヲ鳴ラスコト。又、其笛。「汽車ノ警笛」

けいてん（名）［經典］けいきよ（經書）ニ同ジ。漢書、孫寶傳「周公上聖、召公大賢、尙猶不₂相說₁、著₂于經典₁」後漢書、鄧皇后紀「志₂在₂典籍₁、不₂問₂居家之事₁」（宋脩₂婦業₁、暮誦₂經典₁」著聞集、四、文學「應神天皇十五年ニ、百濟國ヨリ博士、經典ヲ相具シテ來リ、而ウシテ後、經史、我國ニ學ビ傳ヘタリ」

けいてん（名）［景天］草ノ名、イキクサ。ベンケイサウ。

けいでん（名）［圭田］〔圭ハ、潔ノ義〕潔キ收穫ヲ以テ、祭祀ニ奉ズル田。又、圭角アル田。松屋筆記、十二、五十條「總國風土記ニ、圭田何束トイフコト多カリ、三才圖會、地理、十五卷ニ、ソノ圖ヲ載テ曰、圭田、則公田百畝之半也、中ニ分之ニ而已、故其法一定而不₂可₂亂、若公田内除₂廬舍二十畝₁、則田畝互相湊合、而畸零之數、必至₂煩擾₁矣、云云、又、同十六卷ニモ、圭田ノ圖アリ、ソノ田ノ形ノ、□カクノ如キヲイヘリ、孟子（滕文公、上篇）ニ、卿以下、必有₂圭田₁云云」

けいと（名）［毛絲］羊ノ毛ヲ、絲ノ如ク撚リタルモノ、編物ナド造ルニ用キル。

けいとう（名）［鷄頭］鷄頭花ノ條ヲ見ヨ。

けいど（名）［勁弩］力ノ強キ、イシユミ。史記、賈生傳「良將勁弩、守₂要害之處₁」

けいど（名）［經度］ゐど（緯度）ノ條ヲ見ヨ。

けいとう（名）［系統］（一）一族ノ血系。（二）順序ヲ追ヒテ、續キツナガルコト。スヂミチ。「學問ノ系統」

けいとう（名）［繼統］皇統ヲ承ケ繼ギタマフコト。繼體。漢書、昭帝紀「昔成周、以₂孺子₁繼₂統、而有₂管蔡四國流言之變₁」「繼統ノ君」

けいとう（名）［閨竇］［圭竇］〔圭ハ、將棋頭、瓦燈形ナリ、竇ハ、小戸ナリ、窬モ、同ジ〕又、圭窬トモ云フ。潛門。貧家ノ稱　左傳、襄公十年「篳門閨竇之人」注「閨竇、小戸、穿₂壁爲₂戸、上銳、下方、狀如₂圭形₁」梁昭明太

[illegible]

けい-とう (名) 〔鷄頭〕 〔冠ノ形、鷄ノ頭ニ似タリ〕 (一)鬼趾ノ漢名。倭名抄、十七 [illegible] (二)鷄頭花ノ略、次條ヲ見ヨ。

けいとう-げ (名) 〔鷄頭花〕 草ノ名、古名、カラアヰ [illegible] 高サ二三尺、圓ク、或ハ、扁シ、葉ハ、披針形ニテ、互生ス、秋、梢ニ、細小ノ花ヲ密生シテ、全形、鷄冠ノ如クニシテ、[illegible] 或ハ、黄、白等ノ種類アリ、多ク人家ニ植エテ、花ヲ賞ス。鷄冠花 約メテ、けいとげ [illegible] 略シテ、けいとう、又、けいと [illegible] 「鷄頭花、ケイトウゲ」 [illegible] 云、はけいと、鷄冠紅也」

けい-どく (名) 〔惸獨〕〔煢獨〕 〔惸ハ、獨ナリ〕 [illegible] 身寄ノナキ、獨リモノ。[illegible]

けいどく-でん (名) 〔惸獨田〕 古へ、惸獨ノモノヲ賑恤スルタメニ、設ケオカレシ不輸租田。[illegible]

けいとう-げ (名) 〔鷄頭花〕 けいとうげノ條ヲ見ヨ。

けい-とせい (名) 〔計都星〕 星ノ名、九曜星ノ一、其神ノ像ハ、兩手ニ日月ヲ捧ゲ、忿怒ノ相ヲ具ヘテ、青龍ニ乘ル。

げい-なう-ゆ (名) 〔鯨腦油〕 抹香鯨ノ頭蓋中ニアル、油ノ如キ液體、コレヨリ鯨蠟ヲ取リ、又、[illegible]

けいな-しざる (名) 〔[illegible]〕 [illegible]

げい-にん (名) 〔藝人〕 遊藝ヲ演ルヲ、生業トスル者。

げい-のう (名) 〔藝能〕 藝ニ、堪能ナルコト。ワザ。[illegible]

けい-ば (名) 〔競馬〕 (一)キホヒウマ。クラベウマ。コマクラベ。百錬抄、四、寛和二年 [illegible] (二)ウマカケ。現時、西洋風移リテノ競馬ハ、産馬改良ヲ奨勵セムガタメニ行ハル、一種ノ馬場ヲ設ケテ、時ニ開催シ、諸人、飼養ノ乘馬ヲ牽キテ集リ、共ニ驅ケシメテ、其駿足ヲ競ハシメ、優劣ヲ決ス。

けい-ば (名) 〔桂馬〕 桂馬ノ條ヲ見ヨ。

けい-は (名) 〔[illegible]〕 (一)マホナミ。[illegible] (二)[illegible] 鯨聲。(かちどきヲ見ヨ) [illegible]

けい-はい (名) 〔輕輩〕 身分輕キトモガラ。

けい-はい (名) 〔傾廢〕 カタムキ、スタルルコト。太平記、廿 [illegible]

けい-ばい (名) 〔競賣〕 セリウリ。キャウバイ。

けい-はう (名) 〔輕砲〕 陸軍ニテハ、口徑九糎米以下、海軍ニテハ、口徑十二糎米以下ノ火砲ノ稱。コレヨリ大ナルヲ、重砲ト云フ。

けい-ほう (名) 〔警報〕 事變、又ハ、暴風雨、等ニ就キ、警戒スベキヲ、豫メ知ラシムルコト。

けい-ばう (名) 〔閨房〕 寢室。内室。閨門。[illegible]

けい-はく (名) 〔輕薄〕 (一)擧動、思慮、輕輕シクシテ、誠意ノ薄キコト。[illegible] (二)ツイショウ。オセジ。諂諛。[illegible]

けい-はく (名) 〔啓白〕 けいびゃく(啓白)ノ條ヲ見ヨ。

けい-はく (句) 〔敬白〕 けいびゃく(敬白)ノ條ヲ見ヨ。

けいはち-かぜ (名) 〔警八風〕 [illegible] 料理屋、待合茶屋、藝者、等ノ取締規則ヲ發布セラル」 東京ノ俚語、待合茶屋ナドニ、刑事巡査ノ入リテ、藝者ノ賣淫ナドヲ糺スコト。警八風が吹くト云フ。

けい-はつ (名) 〔啓發〕 智力ヲ、開キミチビクコト。啓誘。啓迪。[illegible]

けい-ばつ (名) 〔警拔〕 奇拔ニ同ジ。着想ノ、意表ニ出ヅルコト。[illegible]

けい-ばつ (名) 〔刑罰〕 刑ト、罰ト。シオキ。論語、子路篇「刑罰不中、則民無所措手足」

けい-ほふ (名) 〔刑法〕 刑ニ係ル法律。仕置ノ掟。[illegible]

けい-はん (名) 〔京阪〕 京都ト、大阪ト。

けい-ひ (名) 〔經費〕 經常費ノ略。一定ノ費用。史記、平準書 [illegible] 自天子以至于封君湯沐邑、皆各爲私奉養焉、不領於天子之經費」

けい-び (名) 〔輕微〕 少シバカリナルコト。輕少。[illegible]

けい-び (名) 〔警備〕 「警戒、防備ノ略」 注意シテ、警メマモルコト。「警備艦」「警備隊」

けい-びき (名) 〔罫引〕 罫ヲ引クコト。ケビキ。界行

けい-ひち (名) 〔警蹕〕 次條ヲ見ヨ。

(けい-ひつ (名) 〔警蹕〕 〔周禮、夏官篇、隷

僕、註「蹕、謂止行者清道」」ミサキオヒ。ミサキバラヒ。天子、出入シタマフトキ、人行ヲ警ムルコト。御先拂ノ、制シ聲ヲカクルコト。天子出御、入御ノ時、供御ヲ奉ル時、神供ノ時、神樂ヲ奏スル時、ナド、人ニ、かしこまれ、鳴ヲしづめト警ムルコト。けいひち。略シテ、警。其聲、伏狀ニ、をを、又ハ、をを、或ハ、をし、又ハ、をしをしト云フトゾ。漢書、梁孝王傳「出稱」警、入言」趕」(趕ハ蹕ニ同ジ)同、淮南衡山王傳、出入警蹕 古今注、輿服篇「警蹕所」以戒二行徒一也、云云、出稱」警、入稱」蹕」枕草子、一、十三段「日ノオマシノ方ニ、オモノマヰル足音高シ、けいひつナド、をしをしトイフコヱ聞ユ」內裏式、上、元正受二群臣朝賀一、成儀初見、執仗者稱」警」

けいひん (名) 景品 景物ノ(三)ニ出ス品物。

けいびゃく (名) 啓白 (一)物申スコト。申シ上グルコト。(神佛ニ對シテナドニ云フ) 吾妻鏡、一、治承四年七月五日「供二香花於二佛前一、第二白其旨趣一」盛衰記、三、殿下御所「雨事」啓白ニ言ヲ盡シ、龍神ニ理ヲ責メテ、雨ヲ祈リ乞ヒタマヒケリ」 (二)又、經文ノ小口ノミヲ讀ムヲ云フト云フ。庭訓往來、九月「雖」非二御音樂之儀、以二啓白許一可」被」唱二一曲一候也」 倭訓栞、けいびゃく「啓白ト書ケリ、經文ノ小口バカリヲ讀ム義也ト云ヘリ」

けいびゃく (句) 敬白 ウヤマヒテ、マウス。願文、書翰文、ナドニ記ス敬語ナリ。 朝野群載、二、朝「供物於北野廟一」敬白、獻上御幣、上紙百帖、云云、繪馬一匹」 庭訓往來、九月「一向仰二御哀憐、恐惶敬白」

けいふ (名) 系譜 系圖ニ、事柄ヲ記シ入レタルモノ。 宋史、藝文志「錢惟演錢氏慶系譜一卷」續泰平年表、弘化二年十月十六日「大目付、諸大名江可」云云、系譜取調御用被」仰付」

けいふ (名) 繼父 ママチチ。 禮記、喪服小記註「繼父不二同居一」喪葬令「凡服紀者、云云、繼母、繼父、云云、一月」

けいふ (名) 繼夫 後配ノ夫。再度ノ入婿。

けいふ (名) 荊布 荊釵布裙ノ略、其條ヲ見ヨ。

けいふ (名) 輕浮 (一)カルキコト。 (二)深切ノ情ニ乏シキコト。「人情輕浮」

けいぶ (名) 警部 警察事務ニ從事シ、部下ノ巡査ヲ指揮、監督スル官。

けいぶ (名) 輕侮 輕ンジ、侮ルコト。ナイガシロニスルコト。輕蔑。後漢書、徐防傳「輕二侮道術一」

けいふう (名) 輕風 ソヨ吹ク風。微風。 杜甫詩「輕風生二浪遲一」

けいふく (名) 敬服 敬ミテ、服フコト。心實ニ、服從スルコト。 搜神記「百姓敬服、從者如」歸」

けいふく (名) 輕服 きゃうぶくト讀ム、重服ノ條ヲ見ヨ。

けいふく (名) 景福 メデタキ、サイハヒ。ヨロコビ。

けいふく (句) 敬復 〔復ハ、復申ノ義〕謹ミテ、返事申ス。手紙ノ語。

けいぶつ (名) 景物 (一)春夏秋冬、其時時ノ景色トナルモノ、花鳥風月ノ類。 杜審言詩「三春景物滋」白氏長慶集「江樓晚眺二景物鮮奇一」 (二)時節相應ノ、珍ラシキ食物、酒肴ナド。 明衡往來、上、末、八月「所」奉者勸盃役也、旨酒一樽、景物少少相具、可」合二推參一侍」」庭訓往來、十月「菓子者、柚、柑、云云、可」隨二時景物一也」 尺素往來「是皆一時一會之景物、當日當座之賞翫也」 (三)其時ニツケテノ贈物。商家ノ店開キノ時ナド、賣ル品ニ添ヘテ、客ニ贈ル物。景品。京都ニテ、ソヘモノ。

けいぶつ (名) 輕物 かるものニ同ジ。

けいふん (名) 輕粉 〔量ノ輕きニ因リテ、輕ノ字ヲ充ツレド、桂粉ニ起リ、阿膠、金漆ナド同趣ノ語カ、嶺外代答「西融州有二鉛坑一、鉛質極美、桂人用以制」粉、澄」之以二桂水之清一、故桂粉聲二天下一」(嬉遊笑覽、一(二)〕 鹽素ト、水銀トノ化合物。甘汞ニ同ジ。はらやモ、同ジ。東海道名所記(萬治)六、「唐瘡ヲカキ出シテ、コレヲ防ガントテ、輕粉、大風子ナンド、アラケナキ藥ヲ飲ミテ」

けいぶん (名) 奎文 〔奎ノ條ヲ見ヨ〕文學、文教、ナド云フニ同ジ。孝經、援神契「奎、主二文昌一」「奎文隆興」

げいぶん (名) 藝文 文藝ニ同ジ。學藝。 後漢書、爾衡傳「英才卓礫、初涉二藝文一、升」堂睹」奧」

けいへい (名) 啓閉 ヒラキ、又、トヅルコト。アケタテ。 晉書、律曆志「啓閉升降之紀」

けいへき (名) 刑辟 〔字典「辟、刑也」〕刑罰ニ同ジ。ツミ。トガ。シオキ。左傳、昭公六年「昔先王、議」事以」制、不」爲二刑辟一」世說「皐陶造二刑辟之制一」

けいべつ (名) 輕蔑 カロンジ、ナイガシロニスルコト。アナドルコト。見サグルコト。サゲスムコト。侮蔑。輕侮。 詩經、大雅、蕩之什、桑柔篇「國步蔑資」箋「國家爲」政、行」此輕二蔑民一之資用」」 蘇轍、三宗論「矜」己自聖、輕二蔑臣下一」

けいべん (名) 輕便 手輕クシテ、便利ナルコト。手ガル。輕易。簡易。 後漢書、宋均傳「陰陵便宜、言二邊事一」 方輿、遊二金華三洞一詩「跕」奇不」憚」歷二險阻一、足以」日故差輕便」

けいべんてつだう (名) 輕便鐵道 鐵道建設ノ、小規模ニシテ、輕便ナルモノ、軌道モ狹ク、機關車、列車モ、小形ナリ。

けいぼ (名) 繼母 ママハハ。 儀禮、喪服篇、傳「繼母與二同母一同」喪葬令「凡服紀者、云云、繼母、繼父、云云、一月」

けいぼ (名) 敬慕 ウヤマヒ、シタフコト。欽慕。 南史、劉勣傳「學徒敬慕、不二敢指斥一」

けいぼ (名) 景慕 けいぎゃう(景仰)ノ條ヲ見ヨ。

けいぼ (名) 傾慕 心ヲ傾ケテ慕フコト。

けいほうきょく (名) 警保局 內務省中ノ一局、行政警察、高等警察、出版物、著作權、等ノ事ヲ掌ル。

けいほうしゃうしょ (名) 刑部尚書 ぎゃうぶしゃう(刑部省)ノ長官ノ唐名。 職原抄、上、刑部省「卿、一人、相當、正四位下、唐名、刑部尚書」

けいほうじらう (名) 刑部侍郎 ぎゃうぶしゃう(刑部省)ノ次官ノ唐名。 職原抄、上、刑部省「大輔、一人、相當、正五位下、唐名、刑部侍郎」

けいま (名) 桂馬 (一)將棊ノ駒ノ名。其利道ハ、盤ノ格ヲ、一ツ置キテ前ノ左右ヘノミ進ムコトヲ得ルモノ。ナリテハ、金將ニ同ジ。又、けいば。略シテ、けい。 守武千句(天文)「加茂ノけいばニ、袖ハ濡レケリ」「將棋サス、野宮人ニ、雨降リテ」 桂馬の高あがり、歩の餌食ト云フハ、餘リニ進ミテ、退クコトモナラズシテ、斃ルルヲ云フ。人ノ、分不相應ニ立身シテ、窮スルニ譬ヘテモ云フ 俳諧懷子集(明曆)「拔數テ、見ルヤ驗シ(桂馬ニカク)の、高あがり」 (二)圍碁ノ語ニモ、將棊ノ桂馬ノ進ミ得ル如キ位地

ニ、[illegible]ヲ置クコト。[illegible]

げいみやう (名) [藝名] 藝人ガ、本名ノ外ニ[illegible]名乘ル名。「[illegible]」

けいむ (名) [警務] 警察ノ事務。

げいいん (名) [外印] 太政官ニテ、[illegible]ニ用ヰル[illegible]、内印ト云フニ對ス。其印ヲ捺シタル[illegible]文書ヲ[illegible]ト云フ。[illegible]

けいむしよ (名) [刑務所] 監獄ノ條ヲ見ヨ。

けいめい (名) [警衛] (けいゑいノ轉音) [illegible]マシク、マモルコト。[illegible]年七月「少納言從五位下清原朝臣河根、率二諸衛府[illegible]」[illegible]クけいめいシアリクケシキニ、此御アリサマ知リハ[illegible]今コノ[illegible]シテ、經ランヨトテ、歸ル」

けいめい (名) (經營ノ音轉ナリト云フ) 設ケ、イトナムコト。狹衣、三、上「御座敷ナド、けいめいシ、サワグ」源、四、夕顔二十「大殿モ、イミジクけいめいシタマヒテ、日日ニ渡リタマヒツツ[illegible]ノ中納言殿オハシマストテ、けいめいシアヘリ」[illegible]、第十三、今日のひかげ「三日ガ程ハ、垸飯ト云フ[illegible]」「けいめいナリ」

けいめい (名) [敬命] 謹ミ、敬フコト。[illegible]日記、中、中卷「ヲサナキ人、けいめいシテ出デタレバ、車ナガラ立チテ」

けいめい (名) [啓明] 明の明、星。金星[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

けいめい (名) [鷄鳴] (一)曉ニ、鷄ノ鳴クコト。鷄ノ第一聲、一番鷄ハ、午前二時過ナリ。孟子、盡心、上篇[illegible]「[illegible]云云」(二)丑ノ時(八ツ時、午前二時)ノ異名。

けいめいくたう (名) [鷄鳴狗盗] (史記、孟嘗君傳ニ、其客ニ、一人ハ、謀リテ、狗ノ吠聲ヲナシテ、物ヲ盗ミ出シ、又、一人ハ、曉ニ、鷄ノ鳴聲ヲナシ、欺キテ、函谷關ヲ開カシメテ、孟嘗君ヲ逃レシメシ事ヲ記セリ) 卑劣ナル小策ヲ弄スルニ云フ語。[illegible]

けいめいのがく (名) [刑名之學] (十七史商榷、刑、與、形同、古字通用、刑罰ノ意トスルハ、非ナリト云フ) 支那、三代、周ノ世ノ韓非子ノ唱ヘタル學。其名ブレバ、其形ナリ、名ト形ト、相當セザルヲ責ムト云フナリ。[illegible]

けいめう (名) [輕妙] 輕快ニシテ、妙味アルコト。(文章、技藝ナド) [illegible]

けいも (名) [毛芋] かしゅういもニ同ジ。[illegible]集、十一、雜歌「小野宮ノ大臣、衛立障子ニ、松ヲカカセン、云云、カシラ、毛芋ニ似タリ」

けいもう (名) [啓蒙] 童蒙ノ智ヲ、啓クコト。童兒ニ、教ヘ示スコト。訓蒙。「易[illegible]」

けいもん (名) [閨門] (一)ネヤ。フシド。閨房。[illegible] (二)轉ジテ、一家内ノ事。家庭。[illegible]

けいやう (名) [輕漾] サザナミ。漣波。[illegible]

けいやく (名) [契約] チギリ。約束。約定。[illegible]兄弟ノ上、父子ノ御契約ニテ」

けいやくしようしよ (名) [契約證書] 契約ノ條款ヲ記シタル證書。

けいやくてがた (名) [契約手形] 契約シタル證券。

けいゆ (名) [圭竇] けいとう(圭竇)ノ條ヲ見ヨ。

げいゆ (名) [鯨油] 鯨ヨリ採レル、脂肪ノ液、種種ノ用ニ供セラル。

けいよ (名) [刑餘] (一)刑罰ニ處セラレ、猶、壽命ヲ保チ居ルコト。[illegible]「刑餘ノ人」(二)宦者ノ稱。[illegible]

けいよ (名) [惠與] (一)物ヲ、惠ミ與フルコト。(二)人ヨリ物ヲ與ヘラレタルヲ謝スルニ云フ敬語。惠賜。

けいよう (名) [形容] (一)ナリ、カタチ。スガタ。屈原、漁父辭「顔色憔悴、形容枯槁」(二)アリサマ。容子ヲ、カタドルコト。

けいようし (名) [形容詞] 又、形狀言。語學ノ語、物事ノ形容、性質、情意、等ヲ云ヒテ、且、其語尾ノ活用スル語ノ名。例ヘバ、高し、高き、高く、高けれ。樂し、樂しき、樂しく、樂しけれ、ノ如シ。高しノ活用ノ如キヲ、第一形容詞トシ、樂しノ活用ノ如キヲ、第二形容詞トス。

けいよう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [形容] 其形容ヲナス。象リ、アラハス。[illegible]

けいよく (名) [啓沃] 我ガ思フコトヲ開陳シテ、君主ノ心ニ入ルルコト。誘導シ、輔佐スルコト。書經、説命、上篇「啓乃心、沃朕心」[illegible]

けいらく (名) [京洛] (らくやう(洛陽)ノ條ヲ見ヨ) ミヤコ。京都。[illegible]

けいらく (名) [經絡] 漢醫書ニ、經ハ動脈、絡ハ、靜脈ニシテ、人身ニ、十二經脈、十五絡脈アリト云フ。(神武紀ニ、五瀬命ノ肱脛トアルハ、肱經ナリ、搢紳ヲ縉紳、爛漫ヲ爛熳ト書クガ如シ)

げいらふ (名) [鯨蠟] 鯨腦油ヨリ採ル蠟。

けいらん (名) [鷄卵] にはとりノたまご。[illegible]

けいらん (名) [蕙蘭] ゑらん(白及)ノ異名。[illegible]

けいり (名) [經理] (經ハ、常法、理ハ、條貫ナリ) (一)ヲサメ、トトノフルコト。經營、處理。荀子、正名篇「心也者道之工宰也、道也者治之經理也」史記、秦始皇紀[illegible]

國不忘」(二)經書ノ義理。後漢書、光武紀「講論經理、夜分乃寐」(三)會計、給與ノ事務。陸海軍ニ、經理局アリ。

けいり (名) 警吏 警察ノ官吏。警官。

けいり (名) 計吏 會計ノ官吏。漢書、朱買臣傳「隨計吏爲卒」

けいりう (名) 繫留 ツナギ、トドムルコト。漢書、汲黯傳「不敢枉法、妄繫留人」「飛行船ヲ繫留ス」

けいりう (名) 稽留 トドコホルコト。トドマルコト。逗留。史記、滑稽傳「男女雜坐行酒、稽留六博投壺」

けいりく (名) 刑戮 刑ニ處セラルルコト。死刑。論語、公冶長篇「邦無道、免於刑戮」太平記、十三、西園寺公宗謀叛事「縉俗、男女、云云、多ク召捕ハレ、不慮ニ刑戮ニ遭ケリ」

けいりん (名) 惠臨 人ノ來臨ヲ謝スル語。

けいりん (名) 經綸 〔易經、上經、屯卦、疏「經、謂經緯、綸、謂綱綸」經ハ、經絲、綸ハ、理ムルナリ〕天下ヲ經理スルコト。國家ヲ經營スルコト。易經、上經、屯卦「君子以經綸」中庸「經綸天下之大經、立天下之大本」太平記、廿三、依直義病惱上皇御願書事「不忘文治撥亂之昔、合體以早施經綸安全之令驗」

けいりん (名) 桂林 カツラノハヤシ。美シキ林。左思、吳都賦「數軍實乎桂林之苑」謠曲、放下「桂林雨ヲ拂ッテ、松風ヲ調ム」

けいりん (名) 鷄林 (一)新羅國ノ異稱。崇神紀、六十五年七月「鷄林」東國通鑑ニ、新羅脱解王九年ニ、王、金城ノ西ナル始林ニ、鷄聲アルヲ聞キ、翌朝見シメシニ、金色ノ小櫃アリテ、樹梢ニ懸リ、白鷄、其下ニ鳴ケリ、櫃ノ中ニ小男兒アリ、因リテ養ヒテ子トス、是ニ於テ、始林ヲ鷄林ト改メテ國號トストアリ。(二)後ニ、朝鮮半島ノ異稱トナル。

げいりん (名) 藝林 藝苑ニ同ジ。魏書、常景傳「馳聲藝林」「藝林ノ佳話」

けいりん-の-いっし (名) 桂林一枝 〔晉ノ郤詵ガ、賢良ニ擧ゲラレ、第一トナリタレドモ、之レヲ滿足トセズシテ、僅カニ一枝ヲ獲タリト云フ故事ニ起ル、下ノ出典ヲ見ヨ〕第一ニ推擧セラレタレド、コレニ滿足セザルヲ云フ語。晉書、郤詵傳「武帝問詵曰、卿自以爲何如、詵對曰、臣擧賢良對策爲天下第一、猶桂林之一枝、崑山之片玉、帝笑、云云、詵在任、威嚴明斷、甚得四方聲譽」

けいりゃく (名) 計略 ハカリゴト。計策。後漢書、杜詩傳「善於計略」太平記、二、後醍醐天皇潜幸笠置事「此ハ又、餘リ山深ク、里遠クシテ、何樣ノ計略モ叶フマジキ處ナレバ、云云」

けいりゃく (名) 經略 ハカリ、ヲサムルコト。經營、統治スルコト。左傳、昭公七年「天子經略、諸侯正封、古之制也」

けいるい (名) 係累・繫累 (一)繩ニテ、縛ルコト。孟子、梁惠王、下篇「殺其父兄、係累其子弟」(二)絆サルルコト。許月卿詩「高者無繫累、翛然出詩仙」「名利ニ繫累ス」「妻子ノ係累ヲ斷タムトス」

けいれい (名) 敬禮 ウヤマヒ、禮スルコト。オジギスルコト。最敬禮ト云フハ、立禮ニ云ヒテ、敬禮ノ、最上ナルモノ、直立ノ上身ヲ前ヘ折リテ、兩手ヲ兩膝ニ當ツルヲ云フ。磬折 史記、汲黯傳「其見敬禮如此」

けいれき (名) 經歷 (一)ヘメグリ、來ルコト。過ギ去ルコト。經過。書經、君奭篇「天命不易、天難諶、乃其墜命、弗克經歷嗣前人恭明德」古詩、善哉行「經歷名山、芝草翻翻」「百年ヲ經歷ス」「戰場ヲ經歷ス」(二)閱歷。履歷。「官吏ノ經歷アル人」

げいれふ (名) 鯨獵 〔げいハ、慣習音、けいハ漢音〕海上ニテ、鯨ヲ捕フルコト。捕鯨

けいれん (名) 頸聯 詩ニ云フ語、律ノ條ヲ見ヨ。

けいれん (名) 痙攣 醫術ノ語、筋肉ノ、引キツルコト。

けいろ (名) 毛色 (一)獸類ノ毛ノ色、葦毛、糟毛、鹿毛、栗毛、三毛、ナド。七十一番職人盡歌合、五十五番、むかばき造り「アハレ御ムカバキヤ、けいろモ良シ」毛色がかはって居ろトハ、尋常ナラズノ意。(二)鎧ノ縅毛ノ色。

けいろ (名) 徑路 (一)コミチ。(本道ニ對ス)易經、說卦傳「艮爲山、爲徑路、爲小石」晉書、阮籍傳「獨駕不由徑路」(二)ミチユキ。スヂミチ。「變遷ノ徑路」

けいろうこ (名) 鷄婁鼓・雞鞻鼓 雅樂ノ樂器ノ名、革製ニシテ、形、甕ノ如ク、胴ノ長サ六寸、面ノ徑六寸、左右ニ環ヲツケ、紐ニテ頸ニカケテ、撃チ鳴ラス。唐六典、十四「大燕會、則設十部之伎於庭、云云、六曰、龜茲伎、云云、腰鼓、雞婁鼓具、各一」教訓抄、九「鷄婁、云云、於唐國鳳樓、曉鷄鳴之、仍名鷄樓」

けいろく (名) 鷄肋 〔鷄ノあばらぼね〕有用ナルニモアラネド、サテ、捨ツルモ惜シキ意ニ云フ語。後漢書、楊修傳「鷄肋、食之則無所得、棄之則如可惜」「著述ノ餘材、鷄肋ノ如シ」

けいわく (名) 熒惑 けいこくノ誤讀、其條ヲ見ヨ。

けいゐ (名) 經緯 (一)經絲ト、緯絲ト。タテヌキ。タテヨコ。又、骨子。左傳、昭公廿五年「禮、上下之紀、天地之經緯」(二)經度ト、緯度ト。南北ト、東西ト。大戴禮、易本命篇「凡地、東西爲緯、南北爲經」(三)經理。經營。史記、秦始皇紀「普施明法、經緯天下、永爲儀則」太平記、十四、尊氏義貞確執奏狀事「當今聖主、經緯天地、光古今、化蓋三王五」(四)此語、今、事ノ徑路、顚末、ノ意ニ用キル人アリ。史記、禮書「人道經緯萬端、規矩無所不貫」

けいゐぎ (名) 經緯儀 〔英語、Theodolite. ノ譯語〕水平角、及、垂直角、測定ノタメニ、陸地測量、幷ニ、天體觀測ニ用キラルル、主要ナル器械。其構造ノ種類、多樣ナレド、イヅレノ種類ニ在リテモ、其特性ニ於テハ、變化ナシ。即チ、主要部ハ、銅、眞鍮、其他ノ金屬ノ、二箇ノ水平同中心圓板ヨリ成リ、各圓板ハ、共通軸ノ周リニ、獨立ニ廻シ得ベシ。上部ノ水平板上ニ、二箇ノ架臺、竪立シ、垂直面ニ廻轉スル、垂直圈ノ軸ヲナセル横軸ヲ支フ、望遠鏡ハ、此横軸ニ取付ケラル、或ハ、垂直圈ニ代フルニ、半圓ヲ以テシ、望遠鏡ハ、其直徑ニ平行シテ、横軸ニ取付ケラルルコトアリ、水平圓板、幷ニ、垂直圈ハ、共ニ、水平、及、垂直角ヲ測定スルニ用キラルルモノニシテ、外部水平圓板ニハ、全周、目盛セラレ、內部圓板ニハ、指針、遊標、及、目盛ヲ讀ムタメノ單顯微鏡ヲ裝置シ、而シテ、分度ハ、一般ニ、指針、及、遊標ニヨリテ讀マルルモノナリ、上部水平圓板上ニハ、二箇ノ水準器、互ニ、直角ヲナシテ据付ケラル。(日本百科大辭典)

けいゐん (名) 京尹 けいてうのゐん

（京兆尹）ニ同ジ、けいでう（京兆）ノ條ヲ見ヨ。

けいゑい（名）［警衛］カタメ。警固。後漢書、光武紀「不徭、用憲作龍事二、在長安、一百二十年、二月廿一日、詔、以新警衛之ヲ宮二」

けいゑん（名）敬遠〔論語、雍也篇「敬二鬼神一而遠レ之」トアルハ、鬼神ヲ敬ヒテ瀆サズ、且、禍福ノ事ニ、心ヲ惑ハサズト云フナリ、此義ヲ誤解シテ、疎外スル意トシテ、近来、何者カノ用ヰ始メシ、文官ナル言語ナリ〕表面ハ敬ノヤウニシテ、内心ハ遠ザクルコト。一敬遠主義ニテ接フ」

けいゑん（名）［閨怨］婦人ノ、夫ニ別レテ、空房ヲ守リ居ル情懐、詩ノ題トシテ用キル。黄庭堅詩「善吟二閨怨一斷二人腸一」

げいゑん（名）［藝苑藝園］〔藝術ノ淵叢〕學藝ノ社會。文壇。藝林。藝術界。後漢書、… 遊二手藝苑一…

けう（名）［孝］「孝ノ呉音、校正、校合」
（一）かう（孝）ニ同ジ。孝養。字類抄「孝、ケウ」宇津保物語、俊蔭「イト賢キ、けうノ子ナリ」（二）親ノ喪。宇津保物語、俊蔭「父カクレテ三年、母カクレテ五年ニナリヌト云フ、俊蔭、嶽キ思ヘドモ、カヒナクテ、三年ノけうヲ心ルニ源、三十五、柏木「親ノけうヨリモ、實ニヤツレタマヘリ」源氏物語玉のをぐし、八「けうハ、孝ナリ、スベテ親ノ喪ヲ、孝ト云フナリ、もろこしニテモ、然云へり」けうす（孝）ノ條ノ（二）、及、かうし（孝子）ノ條ノ（二）ヲ併セ見ヨ。

けう（名）［興］〔興ノ字ノ音ハ、きょうナルヲ、平常ノ文ニハ、多ク、けうト書ケリ、…清ンデ、けうト書クハ誤ナルベシ〕興

ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

けう（名）［希有］〔けハ、希ノ呉音、訓渇、けかつ〕有ルコト、希ナルコト。メヅラシキコト。不思議ナルコト。意ヲ強メテ、希有希有。法華經、序品「諸佛神力、智慧希有」今昔物語、七、第十四「生二希有之想一」源、五十二、手習五十「イト怪シク、けうノ事ヲナム見タマヘシ」宇治拾遺、二、第十條「ツユバカリモ騒ギタルケシキナシ、希有ノ人カナト思ヒテ」大鏡、下、道長「甚深甚深、希有希有ナリトハ、コレヲ申スベキナリ」伊呂波字類抄、希有希有、讃嘆シテ、希有けけうト云」形容詞ニ活用セサセテ。運歩色葉集「希有」

けうあく（名）［梟惡］〔字典「梟、健也、雄也」〕强逆ト云フニ同ジ。平家物語、一、二代后事「然レモ、世、澆季ニ及ビテ、人、梟惡ヲ先トスル故ナリ」

けうあん（名）［教案］〔教授ノ草案〕教授ノ方法、次第。教授案。

けういく（名）［教育］（一）ヲシヘ、ソダツルコト。孟子、盡心、上篇「得二天下英才一而教二育之一」（二）男、女、少年、青年ニ、修身、學藝、等ノ事ヲ教ヘ、智識ヲ開カシムルコト。

けういくちょくご（名）［教育勅語］明治二十三年十月三十日、教育ニ關シテ下シタマヘル勅語、國民教育ノ大本ヲ說キ、國民道德ノ要旨ヲ示シタマヘルモノナリ。教育ニカカル儀式、集會、等ニ、コレヲ捧讀シテ、聖旨ヲ奉戴ス。唯、教育ニ從ケルノミナラズ、凡ソ、日本國民タル者ハ、服膺セズハアルベカラズ。勅語、左ノ如シ、

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト倶ニ拳拳服膺シテ咸其德ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名　御璽

けういつ（名）［驕溢］オゴリ、タカブルコト、不相應ナルオゴリ。史記、平準書「網疏而民富、役レ財驕溢」

けういつ（名）［驕佚］オゴリテ、ワガママナルコト。左傳、成公六年「國饒、則民驕佚」

けうかい（名）［教誡教戒］ヲシヘ、イマシムルコト。漢書、陳萬年傳「子咸數言二事譏二近臣一萬年嘗病、召レ咸教二戒於牀下一」史記、十六、正義「下二向兵庫一時、家ノ兵ニ事、一一二、耳ニトドマラバ、我教誡ニ違フコトナカレ」

けうがう（名）［叫號］サケビ、ヨブコト。叫呼。詩經、小雅、北山之什、北山篇「或不レ知二叫號一」

けうがう（名）［驕傲］オゴリ、タカブルコト。倨傲。漢書、翟方進傳「去二驕傲之心一」號或驕傲勉勢」

げうかう（名）［僥倖］思ヒガケザルシアハセ。コボレザイハヒ。マグレザイハヒ。班固、幽通賦「侯君有二不遇一、小者有二僥倖一」

げうかう（名）［徼倖徼幸］サイハヒヨ徼ムルコト。僥倖ヲ求ムルコト。左傳、昭公六年「並有二爭心一以徵二於書一而徼幸以成レ之」韓愈文「徼二倖于萬一一」

げうかく（名）磽确〔正韻、磽确、石地」〕小石多キ土地。イシヂ。

げうかく（名）［墝埆］土地ノ、瘠セテ、耕作ニ適合セザルコト。又、其地。後漢書、丁鴻傳、受レ封、必求二墝埆之地一」

けうがふ（名）［校合］〔校合ノ呉音、交易、けうやく〕カンガヘアハスルコト。數類ノ文ヲ見比ベテ、誤レルヲ正スコト。運歩色葉集「校合」御湯殿上之日記、慶長三年二月三日「榮花物語ノ御けうがうニ、外様、内内ノ男達召シテ、小御所ニテ御けうがうアリ」

げうかん（名）［驍悍］氣性ノ、荒荒シク、強キコト。勇悍。吳志、孫瑯傳「瑯、權弟也、驍悍果烈、有二兄策風一」

けうがり（動）［興］きょうがりニ同ジ。義經記、六、判官南都へ忍び御出ある事「判官ハ、イツモノ事ナレバ、心ヲスマシテ笛ヲ吹キ給ヒテオハシケリ、けうがる僧侶ニテ通フントスル者有り」

けうき（名）［驕氣］驕慢ノ氣風。オゴリタル氣色。史記、老子傳、去二子之驕氣與二多欲、態色與二淫志一」

けうぎ（名）［教義］ヲシヘノ趣意。宗門

ノ主義。梁簡文帝、大法頌「羅二刑教義一」

げうき (名) 【澆季】 〔說文「澆、薄也」季ハ、末ナリ〕 世ノ、末トナリテ、人情、輕薄ナル時代ニ。スエノヨ、末世。澆末。 任昉、王文憲集序「宋末選巢、百王澆季」 祖庭事苑、澆季、言二澆薄之末世一 合義解、序「降及二澆季一、煩諠益彰」 平家物語、一「二代后事「世、澆季ニ及ビテ、人、梟惡ヲ先トスル故ナリ」

げうき (名) 【曉起】 アカツキオキ。朝早ク、起キ出ヅルコト。ハヤオキ。アサオキ。 溫庭筠詩、曉起動二征鐸一

げうき (名) 【驍騎】 (一) ツヨキ騎兵。勇敢ナル騎馬武者。 班固、東都賦「輕車霆激、驍騎電鶩」 (二) 將軍ノ名號。史記、李將軍傳「吳楚軍時、廣爲二驍騎都尉一」

けうきよ (名) 【僑居】 カリズマヒ。寓居。 韓愈詩「僑居念二歸緣一」

けうきよう (名) 【驕矜】 オゴリ、ホコルコト。 史記、循吏傳「倨蟻堂場、驕矜而不二敢進一」

けうくん (名) 【敎訓】 (一) ヲシヘ、サトスコト。敎誨。 禮記、曲禮、上篇「敎訓正レ俗、非レ禮不レ備」 左傳、文公十八年「顓頊氏有二不才子一、不レ可二敎訓一」 古詩、焦仲卿妻「生小出二野里一、本自無二敎訓一」 (二) 諫ムルコト。意見スルコト。諫言。忠告。 盛衰記、六、丹波少將被二召捕一事「是レハ、小松殿ト、門脇殿ト、賢キ敎訓シタマフシルシニヤ」(父、淸盛ヘノ諫言ナリ) 明月記、嘉禎元年十二月十六日「以二賢寂一進二敎訓一、夜中令二逕渡一」

けうくわ (名) 【敎科】 敎授ノ科目。

けうくわ (名) 【敎化】 敎誨、化導スルコト。敎ヘ諭シテ、善ニ導クコト。敎化。 詩經、國風、關雎、序「美二敎化一、移二風俗一」 後漢書、禮樂志「敎化浹洽、民以和睦」

げうくわ (名) 【蕘花】 ハマニレ。キコガンピ。

けうくわい (名) 【敎會】 宗敎上ノ會合、結社。又、其團體、宗派。(多クハ、耶蘇敎ニ云フ) 「美以美敎會」「福音敎會」

けうくわい (名) 【敎誨】 ヲシヘ、サトスコト。敎訓。 詩經、小雅、小旻之什 小宛篇「敎二誨爾子一、式穀似レ之」

けうくわい‐し (名) 【敎誨師】 刑務所ノ職員、囚人ニ、過チヲ悔イ、善ニ移ルベク、敎誨スルヲ掌ル、僧侶、宣敎師、ナド、コレニ任ズ。

けうくわ‐しよ (名) 【敎科書】 學校ノ敎科ニ供フル書籍。「國定敎科書」

けうくわん (名) 【敎官】 敎師ノ職。 周禮、地官篇、司徒「司徒、敎官之職」「漢文ノ敎官」

けうくわん (名) 【叫喚】 ヲメキ、サケブコト。 宋書、竟陵孝獻王義宣傳「單騎追尋、緣レ道叫喚」 太平記、十八、金崎城落井一宮新田義顯自害事「其怨靈、此處ニ留テ、月曇リ、雨暗キ夜ハ、叫喚、求食ノ聲、啾啾トシテ、人ノ毛孔ヲ寒カラシム」

けうくわん‐ぢごく (名) 【叫喚地獄】 佛經ニ、八熱地獄ノ第四ノ稱。其第五ヲ、大叫喚ト云フ。罪人ハ共ニ、熱湯、猛火ノ苦ニ遭ヒ、泣キ叫ブト云フ。

けうけ (名) 【毛受】 月代ノ剃毛ヲ受クルニ用キル板。形、扇子ノ地紙ノ如シ。 川柳「平等院、毛受ノヤウナ、古蹟アリ」(扇ノ芝)

けうけ (名) 【敎化】 「敎誨、化導ノ略」 佛敎ノ語、敎ヘ諭シテ、善ニ感化セシムルコト。敎化。 法華經、藥草喩品「轉二無上法輪一、敎二化諸菩薩一」 枕草子、六、五十八段「初瀬ナドニ詣デテ、云云、敎化ナドシタル、云云」

けうげ (名) 【敎外】 敎外別傳ノ略、其條ヲ見ヨ。 謠曲、大會「一代ノ敎法ハ、五時、八敎ヲケヅリ、敎內、敎外ヲワカタレタリ」

げうげう (副) 【譊譊】 口喧シキ狀ヲ云フ語。 莊子、至樂篇「彼惟人言之惡レ聞、奚以二夫譊譊一爲哉」

げうげう (副) 【翹翹】 (一) 高キ狀、又、衆キ狀ニ云フ語。 詩經、周南、漢廣篇「翹翹錯薪、言刈二其楚一」 (二) 危キ狀ニ云フ語。 詩經、豳風、鴟鴞篇「予室翹翹、風雨所二漂搖一」 (三) 遠キ狀、又、長キ狀ヲ云フ語。 左傳、莊公廿二年「翹翹車乘、招レ我以レ弓」

けうけう・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【希有希有】 希有ノ條ヲ見ヨ。

けうげき (名) 【矯激】 〔矯ハ、強ナリ〕 強ヒテ、常ニ異ナレル言語、動作ヲ、ナスコト。過激。 後漢書、第五倫傳「詭非二矯激一、則未レ可下以二中和一言上也」

げうげつ (名) 【曉月】 明方ノツキ。アカトキヅクヨ。 謝靈運詩、夕慮二曉月流一、朝忌二曛日馳一

けうげ‐べつ‐でん (句) 【敎外別傳】 禪家ノ語、經論以外ニ、別ニ、佛祖ノ心印ヲ傳ヘ、以心傳心ニテ、師弟、相承スト云フコト。不立文字ノ敎。 祖庭事苑「吾祖敎外別傳之道、不立文字、直指人心、見性成佛」 正宗記、修レ心詩「初祖安禪在二少林一、不レ傳二經敎一但傳レ心、後人若悟二眞如性一、密印由來妙理深」 七十一番職人盡歌合、六十四番、律宗「けうげ別傳ト申候ハ、ナドヤ、祖師トハ仰候ゾ」

げうこつ (名) 【髐骨】 白骨。又、白骨ノ如ク、痩セ衰ヘタルコト。 謠曲、景清「衰、寒嗟

ニ與ヘザレバ、膚ハ、髐骨ト衰ヘタリ」

けうさ (名) 【敎唆】 〔正韻「唆、桑何切、音梭」正字通「俗云二使唆一」〕 敎ヘ、ソソノカスコト。ケシカケ、オダツルコト。シリオシ。サシガネ。 品字箋「以レ言弄レ人、謂二之唆哄、敎唆一」

けうざい (名) 【敎材】 敎授ニ用キル材料。

けうざい (名) 【絞罪】 〔けうハ、絞ノ吳音〕 かうざい(絞罪)ニ同ジ、死罪ノ條ヲ見ヨ。

けうさう (名) 【敎相】 佛敎ノ語、眞言宗ニテ、理論的學問ノコト。(觀心ナドニ對ス) 徒然草、四十二段「唐橋ノ中將トイフ人ノ子ニ、行雅僧都トテ、敎相ノ人ノ師スル僧アリケリ」

けうさう (名) 【叫騷】 サケビ、サワグコト。 宇津保物語、祭使「十二エ念ゼズ、一度ニ、さと笑フ聲ノス、アラクけうさうシテ、鳴鏑リヌ」 源、廿一、少女九「大殿ハ、イトアザレ、カタクナナル身ニテ、けうさうシ、惑ハサレナムト宣ヒテ、御簾ノ內ニ隱レテゾ御覽ジケル」 太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「祖師ノ心印、空シク、叫騷、怒張ノ中ニ廢ツベシ」

げうさん‐やき (名) 【樂山燒】 〔げうよく(樂欲)ノ條ヲ見ヨ〕 出雲國、八束郡、樂山ノ地ニテ製スル陶器ノ名。出雲燒。

けうし (名) 【孝子】 〔孝子ノ吳音〕 かうし(孝子)ニ同ジ。 謠曲、松山鏡「孝子ノ弔フ功カニヨッテ」

けうし (名) 【敎師】 (一) 學校ニテ、學術ヲ敎フル人。師匠。「國語ノ敎師」 (二) 宗敎ノ道ヲ敎ヘ諭ス人。宣敎師。

けうし (名) 【敎旨】 (一) ヲシヘノムネ。

(二)宗教ノ趣意。「[illegible]ノ教旨」

けうじ (名) 教示 ヲシヘ、シメスコト。[illegible]

けうし (名) [illegible]

けうしつ (名) 教室 けうぢゃう(教場)ニ同ジ。

けうしつ (名) 皦日 [唐韻「皦、古了切」] [illegible]

けうしふ (名) 教習 ヲシヘ、ナラハスコト。[illegible]

けうしゃ (名) 驕奢 オゴリ。贅澤。左傳、隱公三年「驕奢淫佚、所ニ自邪ニ也」

げうしやう (名) 驍將 (げうゆう(驍勇)ノ諸将ヲ見ヨ) 勇将ニ同ジ [illegible]

けうしゆ (名) 梟首 [illegible] 梟首トモ云フ。[illegible] 其首ヲ木ニ懸ケテ晒スコト。サラシクビ。(獄門、死罪ノ條ヲ併セ見ヨ)[illegible]

けうしゆ (名) 教主 けうそ(教祖)ニ同ジ。釋迦ヲ、大恩教主ト云フ。[illegible] ハコレ、極樂世界ノ教主也」

けうじゆ (名) 教授 (一)學術ヲ、教ヘ授クルコト。[illegible] (二)官立ノ、高等、又ハ、專門ノ學校ニテ、生徒ニ教授スル職名。

げうしゆ (名) 翹首 [廣韻「翹、擧也」] 首ヲ、反ラシ擧クルコト。望ミ待ツ意ヲ云フ。翹首シテ待ツヲ、翹望トモ云フ。[illegible]

げうしゆん (名) 堯舜 帝堯(陶唐氏)ハ、支那古代ノ唐帝ノ名、帝舜(有虞氏)ハ、堯ニ[illegible]ギテ天子タリ。共ニ、聖人ノ模範トス。[illegible]

けうしよ (名) 教書 命令、論告ノ、文書。(御教書ヲ參見セヨ)[illegible]

けうしよう (名) 喬松 丈ノ高キ松。[illegible]

けうしよく (名) 教職 教育、教授、ノ職[illegible]

けうしよく (名) 矯飾 イツハリ、カザルコト。外觀ヲ裝フコト。後漢書、章帝紀「俗[illegible]

げうしよく (名) 曉色 曉ノ景色。孟郊、[illegible]

けうしよでん (名) 校書殿 [「文書ヲ校ス、殿内ニ、校書所アリ」] フミドノ。フドノ。納殿。古ヘ、禁中、清涼殿ノ傍ニ

アリテ、累代ノ御書籍ヲ、納メ置カレシ處。此殿ノ藏ヲ掌ルガ、藏人ナリ。字類[illegible]

けう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ [illegible] 梟首ノ條ヲ見ヨ) 梟首ヲ、獄門ニ晒ス[illegible] 首ヲ、獄門ニ晒ス [illegible]

けう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ 自動 [illegible] 孝 [illegible](孝養)ノ條ヲ見ヨ) (一)孝行ス。孝養ス。[illegible] (二)親ノ亡魂ニ、供養ス。[illegible]

けう・ず (動) 興 きょうずニ同ジ。

けうせい (名) 教正 教導ノ職名、大、中、少、正、權、ノ階級アリ。

けうせい (名) 矯正 タメ、ナホスコト。[illegible]

げうせい (名) 曉星 アカツキノホシ。[illegible]

けうせん (名) 驕僭 心驕リテ、分不相應ナル事ヲナスコト。驕奢ニシテ、僭越ナルコト。[illegible]

けうそ (名) 教祖 一宗教ノ元祖。教主。

げうそ (名) 翹楚 [衆多ナルヲ、翹翹ト云フ、翹楚ハ、雜薪中ノ楚ノ意] 衆ニ拙デテ、勝レタルコト。[illegible]

けうそく (名) 教則 教授ノ規則。教授ノ次第。

けうたい (名) 嬌態 ナマメキタル姿。[梁簡文帝、詠舞詩「逐節工新舞、嬌態似愁盈」]

けうたい (名) 交代 かうたい(交替)ニ同ジ。太平記、三十七、新將軍京落事「郎等一人止[illegible]

けうだう (名) 教導 (一)ヲシヘ、ミチビクコト [illegible] (二)特ニ、神道、佛教ヲ以テ、人ヲ教導スルコト。

けうだん (名) 教壇 教場ニテ、教師ノ着席スル壇。[教師ヲ[illegible]リテ、教壇ニ立ツ」]

けうぢやう (名) 教場 教練スル場所。[illegible]

けうぢやう (名) 教場 學校ニテ、教授ヲスル室。教室。

けうてい (名) 教程 教授ノ程度。教則。

けうてい (名) 轎丁 コシカキ。カゴカキ。轎夫。駕輿丁。

けうてん (名) 教典 (一)教育上ノ典籍。又、邦國ヲ安ンジ、人民ヲ教フル法

令。周禮、天官篇、太宰「一曰、經(教)典、以安二邦國一、以教二官府一、以擾二萬民一」(二)宗教ノ經文。

げうてん (名) 曉天 アカツキノ空。アケガタ。東子昂詩「長河没二曉天一」太平記、六、「宇都宮事、夜已ニ曉天ニ及ヘリ、敵定メテ今ハ近ヅクラン、イササセ給ヘ」

けうと (名) 教徒 宗教ノ信徒。(多クハ、耶蘇教ニ云フ)

けうとう (名) 教頭 學校ノ、首席ノ教員。「中學校ノ教頭」

けうと・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 氣疎 〔けハ、接頭語(其條ヲ見ヨ)けうとましモ、同ジ〕 疎マシ。ケ疎マシ。厭ハシ。源、廿八、野分廿「立入リ、馴レキコエタマヘレバ、女房ナドモ、イトけうとくハアラズ」蜻蛉日記、中、上卅「サルマジキ御中ノ、違ヒニタレバ、ココヲモ、けうとく思スニヤアラム、斯ク、海ノ外ナルヲモ知リタマハデ、ト思ヒテ」徒然草、廿段「骸ハ、けうとき山ノ中ニ納メテ」

けうと・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 愕然 〔前條ノ語ノ、厭はしき意ヨリ轉ズ〕 恐ロシ。懼クベシ。謡曲、夕顔「聞クモけうとき物怪ノ、人亡ヒシアリサマヲ」七十一番職人盡歌合、六十一番、山伏「イカニシテ、けうとく人ノ、思フラム、我レモ女ノ、マネカタゾカシ」獨言、享保、鬼貫「俳諧ハ、云云、文字ヲけうとく傍シタル句モ侍レド」賢女心化粧(延享、其碩)「伽羅油、云云、武家方ノ中間奴ナドガ、髭ニ付クルモノナルニ、女ノアタマニ付ルトハ、アンマリけうとい事ナリ」

けうとま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 氣疎 〔前前條ノ語原ヲ見ヨ〕 前前條ノ語ニ同ジ。榮花物語、二、花山「今年、イカナルニカ、大風吹キ、地震ナトサヘ振リテ、イトけうとましきまでミアレバ」

けうばう (名) 教坊 支那ニテ、官設ニテ、音樂、歌舞ヲ、教フル所。我ガ朝ニモ、內教坊アリ。唐書、百官志「開元二年、云云、京都置二左右教坊一、掌二俳優雜劇一」白氏文集、十二、琵琶行「十三學二得琵琶一成、名屬二教坊第一部一」

げうばう (名) 翹望 げうきょ(翹首)ノ條ヲ見ヨ。

けうばく (名) 蕎麥 (一)ソバムギ。ソバ。白居易、村夜詩「獨出二前門一望二野田一、月明蕎麥花如レ雪」(二)ソバキリ。

げうはく (名) 澆薄 人情ノ、ウスキコト。澆季、輕薄。後漢書、朱穆傳「常感二時澆薄一、慕二尚敦篤一」盛衰記、一、「法皇打二殿下御惡身一事、是世、及二澆醨之俗一人、挾二梟惡之心一故ナリ」(醨ハ薄ニ同ジ)

けうふ (名) 轎夫 カゴカキ。コシカキ。力者。龍圖公案「將レ銀備二道士一、假二扮轎夫一」

けうふ (名) 教父 〔ばてれんノ語原ヲ見ヨ〕 舊稱、伴天連。天主教ニテ、宣教師ノ稱。

げうぶ (名) 驍武 ツヨキコト。タケキコト。勇武。晉書、苻洪載記「驍武善二騎射一」

けうふう (名) 矯風 惡シキ風俗ヲ、矯正スコト。「婦人矯風會」

げうふう (名) 曉風 曉方ニ吹ク風。羅隱、竹詩「籬外清陰接二藥闌一、曉風交戛碧琅玕」

けうふく (名) 枵腹 〔韻會「枵、虛嬌切」左傳、襄公廿八年「玄枵」杜註「虛也」枵ニアラズ〕 スキハラ。空腹。正字通「凡物淺、耗曰レ枵、人饑曰二枵腹一」范成大、除夜感懷詩「匏瓜藏枵腹、蒲柳質衰姿」

けうぶしやう (名) 教部省 宗教ノ事務ヲ總監スル省。明治五年ニ建テラレ、十年ニ廢セラル。

けうへい (名) 驕兵 心、オゴリタルツハモノ。誇ル心ノアル軍兵。漢書、魏相傳「相曰、恃二國家之大一、矜二人庶之衆一、欲レ見二威於敵一者、謂二之驕兵一、兵驕者滅」

けうべん (名) 教鞭 教師ガ、教授スル時、黑板ノ文字ナド指示スニ用ヰル細竹。「教鞭ヲ執ル」

けうぼく (名) 喬木 (一)丈ノ高キ樹。詩經、小雅、鹿鳴之什、伐木篇「出レ自二幽谷一、遷二于喬木一」孟子、梁惠王、下篇「故國者、非レ謂レ有二喬木一之謂也」(二)植物學ノ語ニ、樹ノ性ノ、高大ニ成長スルモノノ稱。(灌木ニ對ス)

けうぼく (名) 梟木 けうきょ(梟首)ノ條ヲ見ヨ。

けうほふ (名) 教法 〔佛教、法門ノ意〕 釋迦ノ說キタル教。謡曲、大會「ソレ、一代ノ教法ハ、五時、八教ヲケヅリ、教內、教外ヲワカタレタリ」

けうほん (名) 教本 教導ノ根本。教化ノ基礎。唐書、蕭瑀傳「請下崇二建太學一以樹中教本上」

げうまつ (名) 澆末 げうき(澆季)ニ同ジ。太平記、三十九、神木入洛事「今、澆末ノ世ニ向テ、大木ノ還キヲ見ルニ」

けうまん (名) 驕慢 心驕リテ、獨リ自ラ誇ルコト。漢書、五行志「奢淫驕慢、則土失二其性一」十訓抄、上、第二「可レ離二驕慢一事、云云、人、世ニアル、皆驕慢ヲ先トシテ、ヨク穩便ナルハ少シ」

けうみやう (名) 交名 〔交名ノ呉音〕 人名ヲ、列ネ記シタルモノ。連名書。(上申書ナドニ云フ) 內裏式、上「大臣進二宣命文、及、見參侍從交名一」平家物語、九、六箇度軍事「百三十餘人ガ頸切テ、討手ノ交名記シテ、福原ヘ參ラル」吾妻鏡、六、文治二年三月廿七日「搦二取賊徒一之由、於二其中一、撰二定勇士一被レ差二遣之一、其交名注二載折紙一」公事根源、正月、供二御藥一「晦日ノ日、奉行ノ藏人、交名ヲ切紙ニ記シテ、殿上ノ隅ノ柱ニ押スナリ」倭訓栞、後編、けうみやう「交名ヲ謬メリ、東鑑ニ見エタリ、今、連名ト云ヘリ」

けうむ (名) 教務 (一)教育、教授ノ事務。「教務課」(二)宗教ニ關スル事務。

げうめい (名) 驍名 〔げうゆう(驍勇)ノ語原ヲ見ヨ〕 勇名ト云フニ同ジ。「驍名、一軍ニ高シ」

けうやう (名) 孝養 〔孝養ノ呉音〕 かうやう(孝養)ニ同ジ。觀無量壽經「孝二養父母一、奉二事師長一、慈心不レ殺、修二十善業一」源、廿六、常夏廿「親ニけうやうセムノ心アラバ、云云、けうやうノ心深ク、アハレナリト見タマフ」平家物語、一、妓王事「タダ我ヲバ、都ノ內ニテ住ミ果テサセヨ、ソレゾ、今生、後生ノけうやうニテヤアランズルゾト云ヘバ」盛衰記、十八、龍神守二三種心一事「佛、涅槃ニ入リテ後、孝養、報恩ノ輩ヲ守護スベシ」(此孝養ハ、供養ト混淆セルガ如シ)

けうやく (名) 交易 〔交易ノ呉音〕 かうえき(交易)ニ同ジ。アキナヒ。靈異記、中、第廿四縁「受二寺交易錢一而奈レ商」大藏省式「交易商布」宇津保物語、藤原君、六十八「八年ト云フニ、けうやくノ舟ニツキテ、此國ニ歸リヌ」(唐國ニ行キタルナリ) 同、初秋、九十五「スベテ、モロコシノ人ノ來ル每ニ、唐物ノけうやくシタマヒテ」易林節用集(慶長)言語「交易、ケウヤク」

けうゆ (名) 教諭 (一)ヲシヘ、サトスコト。禮記、文王世子篇「入則有レ保、出則有レ師、是以教喩而德成也」(喩ハ、諭ニ通ズ) (二)中等程度ノ學校ノ教員ノ職名。

けうゆう（名）[illegible]〔[illegible]〕スグレテ、タケキモノ。（惡徒ニ云フ）[illegible]

げうゆう（[illegible]）[illegible]〔[illegible]〕[illegible]、捷[illegible]、驍勇ヨリ、[illegible]健ニ移[illegible]力強ク、勇マシキコト。[illegible]「[illegible]」

げうよく（名）〔樂欲〕（げうハ、がうノ呉音、[illegible]）[illegible]、好ミ、望ムコト。[illegible]「[illegible]」十三段「樂欲スル所、一二ハ名ナリ、名ニ二種アリ、行跡ト、才藝トノ譽レナリ」

けうら（名）〔毛裏〕衣服ノ裏ニ、毛皮ヲツケタルモノ。

けうらみ（[illegible]）〔清〕〔清らガ、音便ニテ、きよらトナレルヲ、けうらト書取リタルナルベシ、[illegible]、けうト書ク類カ〕清ラニ、キヨラカニ。竹取物語「[illegible]、けうらなるコト、[illegible]、[illegible]ナク、光リミチタリ」宇津保物語、[illegible]、中ヘ「イミジウけうら[illegible]キタマヒテ」

けうり（名）[illegible]。宗教上ノ主意。教旨。

けうり（名）〔[illegible]〕教導ニ同ジ。[illegible]

げうりう（名）[illegible]、ハシ。カケハシ。[illegible]

けうりう（[illegible]）[illegible]校[illegible]（一）[illegible]ハカルコト。[illegible]「[illegible]、ケウリャウ」

（二）オシハカルコト。[illegible]

けうれう（名）校了　校了〔かうれう（校了）ニ同ジ。[illegible]、ケウレウ〕

けうれん（名）〔教練〕ヲシヘ、ネルコト。[illegible]、[illegible]、スコト。[illegible]

けうわう（名）驕横　オゴリテ、氣ママナルコト。驕佚。[illegible]

けうゐん（名）〔教員〕教師ノ員ニアル人。教授ノ事ニ當ル人。

けうゐん-けんてい（名）〔教員檢定〕小學校、中學校、師範學校、等ノ教員タルベキ學力ヲ、檢定スルコト。合格シタル者ニハ、教員タル免許狀ヲ授與セラル。

ケエキ（名）菓子〔英語、Cake〕西洋製ノ菓子。

ケエス（名）函匣〔英語、Case〕（一）匣（特ニ、活版所ニテ、活字ヲ入レ置クニ云フ）（二）やくけふ（藥莢）ニ同ジ。

けえずかひ（名）〔窩主〕〔けえずハ、窩主ノ訛、大根、でえこ〕贓物ト知リナガラ買取ル商人。（東京）

ゲエトル（名）〔英語、Gaiter〕西洋製ノ脚絆、[illegible]ニ着ク。

けえぶん（名）外聞〔ぐゎいぶん（外聞）ノ（一）ノ口語。東海道中膝栗毛（文化、一九）[illegible]、[illegible]いぶんハ[illegible]リイ」

ケエブル（名）電線〔英語、Cable〕數條ノ電線ヲ、一束トシテ、互スモノ。海底けえぶる、架空けえぶるナドアリ。

ケエブル-カア（名）〔英語、Cable car〕電車ノ一種、電線ノ索ヲ傳ヒテ運轉スルヤウニ構ヘタルモノ。

ゲエム（名）競技〔英語、Game〕勝負ヲ争フ遊戲。

け・える（動）〔消〕消えるノ約、消ゆノ條ヲ見ヨ。「火ガけえる」

けおさ・る・ルル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）〔氣壓〕〔けハ、接頭語（其條ヲ見ヨ）おさるハ、壓すノ未然形ノおさニ、受身ノるノ添ヒタルモノ、成語ト見ル〕ウテル。壓倒セラル。[illegible]、七、[illegible]、第一ニホヒニけおされタル心地シテ、[illegible]、けおさるるコソ、[illegible]ナキワザナレ」

けおそろ・し・シキ・シケレ・シク・シク・形、二）〔氣恐〕〔けハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕おそろしニ同ジ。[illegible]、三十四、下、[illegible]下ミヅカラモ、大臣ヲ見奉ルニ、けおそろしく、マバユク、ワカル心ハアルベキモノカ」[illegible]、[illegible]ノ高キハ、イトけおそろしくテ」

けおご・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔氣劣〕〔けハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕劣ルト云フニ同ジ　宇津保物語、[illegible]、中將ハ、イキホヒコヨナクマサリタナリ、サリトモけおどる人ガラハ、イト久シキヲ」源、廿八、野分廿「昨日見シ御ケハヒニハ、けおどりタレド」

けおり（名）〔毛織〕獸ノ毛ニテ織リタル織物。毛布[illegible]、[illegible]上ニ毛[illegible]、先[illegible]上之二

けが（名）怪我〔穢るノ語根、血ニ穢れタル意（[illegible]）[illegible]、[illegible]、月經ヲ、けがれト云フ、醫心方、十八廿「月經血」〕（一）圖ラズ、傷キタルコト。過傷[illegible]、[illegible]、思ハヌアヤマチ。粗相。過失　史記抄（文明）二[illegible]、[illegible]、[illegible]、アルマイゾ、文章ナンドニ書イタニバ、けがデアラウゾ」けがの功名ト云フハ、思ハヌ事ノ、功トナルコト。マグレザイハヒ。僥倖

げかい（名）〔下界〕〔三界ノ中ノ最下等ノ意ト云フ〕佛經ノ語、此人間界ノ稱。娑婆世界。（天上ナドニ對ス）中[illegible]「上界宮殿、[illegible]、[illegible]、下界[illegible]、[illegible]」[illegible]、[illegible]、盛衰記、四十六、土佐坊上[illegible]上天、下界ノ[illegible]」

げかう（名）〔下向　還向〕〔神社、佛閣ハ、多クハ、山岡ノ上ニアルヨリ、下ルト云ヒ、言ヒ馴レテハ唯、還ル意トナリシト思ハル〕還向ハ、げんかうノ約〔案内、あない。本尊、ほんぞん〕（一）〔高キヨリ、下リ向フコト。〕神佛ニ參詣シテ、還ルコト。枕草子、八、八十一段、うらやましきもの、稲荷ニ思ヒオコシテ參リタルニ、云云、未ニハげかうシヌベシ、[illegible]、[illegible]、其日ノ内ニ、還向仕ラサリシカバ」[illegible]、[illegible]、八幡ヘ詣デテ、云云、下向ノ時」今昔物語、十四、第三語「今熊野ニ參リテ、云云、還向ノ次ニ」[illegible]、[illegible]、二所ヘマウデシ下向ニ、春雨イタク降リシカバ」（二）都ヨリ、田舍ヘ下ルコト。盛衰記、二、日向[illegible]、西[illegible]ニ下向シテ」

げかうし（名）下格子〔かうし（格子）ノ條ヲ見ヨ〕格子ヲ、下スコト。大鏡、中、[illegible]「月ノ明キ夜ハ、げかうしモセデ、詠メサセ

タマヒケルニ」 江家次第、八、乞巧奠「給レ祿、及二曉更一撤之、事了、下格子」

けがし (名) 〔穢汚〕 ケガスコト。 雲葉集、九、賀「アリ馴レシ、契リハ斷エテ、今更ニ、心けがしニ、千代ト云フラム」

〔けが・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔穢汚〕 〔穢るノ語根ヲ活用セシム、驚く、おどろしき。碎く、くだくだしき〕 けがらはしニ同ジ。ケガラシ。イブセシ。 萬葉集、四、五十四「イカナラム、時ニカ妹ヲ、葎生ノ、穢屋戸ニ、入リマサセナム」 和歌呉竹集、六「葎生ヒノ、けがしき宿ノ、苔ノ上ニ、アタラ月ヲモ、宿シツルカナ」 夫木抄、三十六、述懷、年經レバ、けがしき潮ニ、オチブレテ、濡レシホドケヌ、イトホシノ身ヤ」

けが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔穢汚〕 〔穢るノ他動、のがる、のがす。はづる、はづす〕 (一)〔穢ルル如クニナス。不淨ノモノニス。(淨むノ反)〕 神代紀、下、三十六「以レ龍塗レ穢レ面、告二其弟一曰、吾汚レ身如レ此」 字類抄「汚、汙、ケガス」 (二)〔ヨゴス。ワルクス。ソコナフ。〕 靈異記、中、序「拙類ニ詫紙一、誤注ニ口傳一、訓釋二覽、計加之一」 源、四十五、椎本三十五「立田ノ川ノ濁ル名ヲモ、けがしし」 平治物語、一、信賴信西不快事「信賴ナドガ身ヲ以テ、大將ヲ汚さバ、イヨイヨ奢ヲ究メテ、謀逆ノ臣トナリ、云云」 (三) 辱クス。カタジケナウス。(不肖ノ身ニテ、官ヲ汚すト云フ謙語ナリ) 盛衰記、十三、高倉宮信連戰事「衛府ノ官ヲけがす侍ニ、纏附ケムナド申シ行ヒツル事、ムゲニ、骨法ヲ知ラザリケリ」

けかち (名) 〔飢渇〕 〔飢渇ノ呉音、希有、けう。闕、けち〕〕 飢渇ニ同ジ。饑饉。又、飢渇。 太平記、十二、神泉苑事「天下ニ大旱魃ヲ行リテ、四海ノ民ヲ、一人モナク、飢渇ニ會ハセムト思ヒテ」 運歩色葉集「飢渇、ケカチ」

けかつ (名) 〔飢渇〕 前條ヲ見ヨ。 下學集、下、態藝門「飢渇、ケカツ」

けがにん (名) 〔怪我人〕 〔怪我ノ條ヲ見ヨ〕 傷ヲ受ケタル人。負傷者。「地震ノ怪我人」

けがは (名) 〔毛皮〕 獸ノ皮ノ、毛ヲ去ラザルモノ。アラカハ。(つくりかは、なめしがはナドニ對ス)

けかへし (名) 〔蹴返〕 (一)ケカヘスコト。(二)歩ク時、着物ノ裾ノ、開クコト。(蹴出ヲ參照セヨ) 世間娘形氣(享保、其磧)「紅ノ脚半、蹴かへしニ見エテ」 (三)相撲ノひねりノ手ノ一、四番ニ組ミテ、機ヲ窺ヒ、己レノ足ニテ敵ノ足先ヲ蹴テ倒スモノ。

けかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔蹴返〕 (一)蹴テ、元ヘ遣ル。「鞠ヲ蹴返す」 (二)再ビ蹴ル。

けがまけ (名) 〔怪我負〕 〔怪我ノ條ヲ見ヨ〕 勝負ニ、誤チテ負ケタルコト。 異本、曾我物語、一、狩場角觝事「サシタル事モ候ハザルヲ、けがまけ致シツルコソ、無念ニ覺エ候へ」

けがみ (名) 〔罫紙〕 界ヲ引キタル紙。ケイガミ。ケイシ。界紙

げかん (名) 〔下澣〕 げくゎん(下浣)ニ同ジ、三澣ノ條ヲ見ヨ。

げかん (名) 〔下疳〕 黴毒ノ小瘡ノ、下部ニ發シテ、爛ルルモノ。疳瘡。下疳瘡。硬性下疳。黴病。軟性下疳モアリ。

けがら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔穢汚〕 〔汚しノ一轉、再轉シテ、けがらはしトナル、むおし、むおらし。かはゆし、かはゆらし。もどかし、もどかはし。なげかし、なげかはし〕 汚シ。ケガラハシ。 爲忠百首、下「竹ニ臥ス、ネグラノ鶴、けがらしく、上葉ニ雲ノ、降リニケルカナ」

〔けがらは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔穢汚〕 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕 穢レタル狀ナリ。不淨ナリ。 神代紀、上、二十一「穢ケガラハシキカモ矣」 同卷、三十二「濁惡」私記「介我良波志」

〔けがらひ (名) 〔穢汚〕 ケガラフコト。ケガレ。 源、五十一、蜻蛉五「此けがらひナド、人ノ忌ミ侍ルホド、過シテ」 蜻蛉日記、上、上四十九「けがらひモ、忌ムマジキ狀ニアリケレバ」 宇治拾遺、七、第五條「寺ノタメ、けがらひ出デ來テ、大事ニナリナム」

〔けがら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔穢汚〕 〔穢るノ延、食ふ、くらふ。藥る、くすらふ〕 次條ノ語ニ同ジ。 源、五十二、手習十「けがらひタル人トテ、立チナガラ追ヒ返シツ」

けが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔穢汚〕 〔清離るノ約カ、淸ら、けうら〕 (一)〔不淨ニナル。キタナクナル。ヨゴル。觸穢〕 源、十七、繪合十一「カグヤ姫ノ、此世ノ濁リニモけがれズ」 長方集「春ノウチハ、花ニけがるトイハルベキ、庭ヲモ風ノ、朝ギヨメスル」 字類抄「汗、穢、涴、ケガル」 (二)忌服、産穢、ニ關係シテ居リ。 (三)〔婦女ノ、貞操ヲキズツク。〕 源、十、榊五十四「世ニ、けがれタリトモ、オボシハツマジキヲ類ミニテ」 (四)惡シキ習慣ニ染ム。卑劣ナリ。 延慶本、平家物語、二、法皇御灌頂事「內外共ニ清淨ナリシカバ、御心けがるるコトナカリキ」 平家女護島(享保、近松作)三「常盤ガ如キ、汚れタ根性、サゲマイモノ」 (五)〔月經トナル。 源、五十、浮舟廿「ヨベヨリ、けがれサセ給ヒテ」 落窪物語、一「アコキハ、云云、オノガ君ノ、タダ一人オハスルニ、イミジク思ヒテ、俄カニ、けがれ侍リヌト申シテ、トマレバ」

けがれ (名) 〔穢〕 (一)ケガルルコト。不淨。ヨゴレ。汚。 信州川中島合戰(享保、近松作)四「理非辨ヘヌ人ノ詞、聞イタル耳ノ穢れヲ、此ノ瀧ニ洗ヒシガ」 (二)死者ニ觸レ、産ニ遇ヘル時ナドニ、身、穢ルトシテ、勤ニ就キ、神事ニ與ルナドヲ憚ルコト、其日數ニ定メアリ。觸穢。「ユキブレノけがれ」産 (三)〔月經。 宇津保物語、俊蔭二十「イツヨリカ、御けがれハ止ミタマヒシ、イト近ゲニナリ給フメルヲ」(孕メル月ノ數ヲ問ヒシナリ) 醫心方、十八九世「月經血」

✣けが・れる (動) 〔穢〕 前前條ノ語ノ口語。

けぎ (名) 〔化儀〕 佛教ノ語。俗人ヲ、誘導、感化セサスル法。 太平記、十六、日本朝敵事「或時ハ、垂跡ノ佛ト成リテ、番番出世ノ化儀ヲ調へ、或時ハ、本地ノ神ニ返リテ、塵塵刹土ノ利生ヲナシ給フ」

げき (名) 〔戟〕 〔增韻「雙枝爲レ戟、單枝爲レ戈」〕 三鋒ノ戈。 詩經、秦風、無衣篇「王于興レ師、修二我矛戟一與レ子偕作」

けき (名) 〔檄〕 〔文體名辯「釋文云、檄、軍書也、說文云、以二木簡一爲レ書、長尺二寸、用以號召、若有レ急、則插二雞羽一而遣レ之、故謂二之羽檄一、言、如二飛之疾一也、古者、用レ兵誓レ師而已、至レ周、乃有二文告之辭一、而檄之名、則始見二於戰國一、史記、載二張儀爲レ檄、以告二楚相一曰、始吾從レ若飮、我不レ盜二而璧一、若笞レ我、若善守二汝國一、我顧且レ盜二而城一、是也、後人倣レ之、代有二著作一、而其詞有二散文一、有二儷語一、儷語始二於唐人一也」〕 (一)文體ノ一種、人ヲ徵スル文書。召文。檄文。急用ナルヲ、羽檄ト云フ。 史記、淮陰侯傳「三秦可二傳レ檄而定一也」 後漢書、劉平等傳「府檄適至、以レ爲守レ令、喜捧レ檄而入、喜動二顏色一」「檄ヲ飛バス」「檄ヲ移ス」 (二)轉ジテ、觸告ノ文書。 韻會「陳二彼之惡一說二此之德一、曉二諭百姓一之書也、又曰、檄、皎也」「漢司馬相如、喩二巴蜀一檄」「魏陳琳、討二曹操一檄」

げき (名) 〔劇〕 〔王粲、詠史詩、注「劇、戲也」〕

[illegible]。

げき [illegible] 古ヘノ太政官中ノ官、大外記二人、少外記二人アリ、恆例、臨時ノ大小ノ公事ノ記錄、奏文、[illegible]、外記局、外記ノ廳、結政所、ト云フ、後ニハ、清原氏、中原氏ノ人、代代、此官ニ任ゼラルル事トナ[illegible]。「太政官中有三局、左右辨官、外記、是也」 [illegible]、六、天慶三年十二月廿一日「今夜、外記局文書、自然燒失」 百錬抄、五、保安三年十二月十五日「外記廳、侍從所、修造以後、始行政」

げき-いん (名) 〔劇飲〕 酒ナドヲ、ハゲシク飲ムコト。[illegible]

げき-かい (名) 〔劇界〕 演劇、俳優ノ社會。

げき-かう (名) [illegible] [illegible]ノオセアタルコト。[illegible]

げき-かう (名) 〔逆行〕 〔逆行ノ呉音〕 退クコト。[illegible] ガラ、左ニメグリテ退ク」

げき-かん (名) 〔劇寒〕 冬ノ、烈シキ寒サ。[illegible]

げき-く (名) 〔隙駒〕 〔隙行く駒ノ義〕 ヒカゲ。隙間ヨリ白駒ノ[illegible]ヲ見ヨ。[illegible]

げき-けん (名) 〔擊劍〕 [illegible]、[illegible]トブリテ、劒術ノ事トスルハ、誤ナリトモ云

フ」竹刀、或ハ、木劒ヲ以テ、身ヲ守リ、敵ヲ討ツ術。劒術。今、劒道ト云フ。史[illegible]

げき-さい (名) 〔擊碎〕 ウチ、クダクコト。[illegible]

げき-ざい (名) 〔劇劑〕 げきやく(劇藥)ニ同ジ。

げき-し (名) 〔屐齒〕 足駄ノ齒。白居易、野[illegible]

げき-し (名) 〔隙駟〕 げきく(隙駒)ニ同ジ。[illegible]

げき-しん (名) 〔逆臣〕 〔逆臣ノ呉音〕 ぎゃくしんニ同ジ。[illegible]云ヘル逆臣アリ」

げき-しん (名) 〔劇震〕 烈シキ地震。

げき-じん (名) 〔劇甚〕 極メテ、ハゲシキコト。[illegible]

げき-しやう (名) 〔激賞〕 甚シク、ホムルコト。[illegible]

げき-しやう (名) [illegible] [illegible]シテ止マズ」

切」 兄弟喧嘩。ウチハモメ。ドシウチ。[illegible] 鬩、兄弟ノ條ヲ見ヨ。

げき-じやう (名) 〔擊壤〕 ゲタウチ。ネッキ。[illegible]

げき-じやう (名) 〔擊壤〕 〔大地ヲ叩きテ、歌ヲ[illegible]フ、天下泰平ノ光景〕 鼓腹擊壤ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

[illegible]、[illegible]年四月廿九日、中外和平、[illegible]不[illegible]生、[illegible]

げき-しゆ (名) [illegible] 鷁首 〔龍頭鷁首〕ヲ見ヨ。

げき-しよ (名) 〔劇暑〕 夏ノ、烈シキ暑サ。[illegible]

げき-しよく (名) 〔劇職〕 〔閑職ニ對ス〕 極メテ、忙シキ職務。[illegible]

げき・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 〔激〕 烈シク當ル。逆シテ、烈シク發ル。[illegible] 散ニ切廻リケル間」

げき-ぜつ (名) 〔鴃舌〕 〔鴃ハ鵙ナリ、夷人ノ聲、鵙ニ似タレバ、云フ〕 蠻夷ノ言語ノ解スベカラザルヲ云フ語。侏離。[illegible]

げき-せん (名) 〔激戰〕 ハゲシキタタカヒ。

げき-ぜん (副) 〔闃然〕 シヅカナル狀ヲ云フ語。ヒツソリ。[illegible]

げき-たい (名) 〔擊退〕 ウチ、シリゾクルコト。オヒカヘスコト。[illegible]

げき-たい (名) 〔鷁退〕 六位ノ藏人ノ極﨟ガ、敍爵ヲ辭シテ、新藏人トナルコト。(極﨟、及、還昇ノ條ヲ併セ見ヨ)

げき-たう (名) 〔劇道〕 芝居道。「劇道ノ[illegible]」

げき-たく (名) 〔擊柝〕 拍子木ヲ擊チテ、夜マハリスルコト。又、其人。[illegible]

〔け-ぎたな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔氣穢〕 〔けハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 きたなし

ニ同ジ。(け淸しノ反) 名義抄「穢、ケガラハシ、ケギタナシ」

げき-たん (名) 〔激湍〕 岩石ナドニ激シテ流ルル、早キ瀨。急湍。[illegible]千里、平[illegible]激湍ニ」

げき-ちん (名) 〔擊沈〕 大砲ニテ、敵ノ船艦ナド、擊チ沈ムルコト。

げき-ぢやう (名) 〔劇場〕 演劇ノ場所。芝居ヲ興行スル建物。芝居小屋。

げき-つう (名) 〔劇通〕 芝居通。

げき-つう (名) 〔劇痛〕 ハゲシキ、イタミ。

げき-と (名) 〔逆徒〕 〔逆徒ノ呉音〕 ぎゃくとニ同ジ。[illegible]三十八、平家首渡[illegible]「逆徒、自二去五日ハ攝津國一谷二、上二八城郭ヲ構ヘ、云云、兵船ニ乘テ海上ニ浮ビ、其勢、十萬餘騎也」

げき-と (副) 〔闃〕 シヅカナル狀ヲ云フ語。ヒッソリト。闃然。「闃とシテ人ナシ」

げき-ど (名) 〔激怒〕 事ニ當リテ、烈シク怒ルコト。[illegible]以激ニ怒其衆ニ」

げき-どう (名) 〔激動〕 烈シク、動クコト。

げき-どく (名) 〔劇毒〕 ハゲシキ毒。

げき-はつ (名) 〔激發〕 (一)ハゲマシ、オコスコト。[illegible] (二)ハゲシキ聲ヲ發スルコト。[illegible]

げき-ぶし (名) 〔外記節〕 江戶淨瑠璃節ノ一派、[illegible]ノ頃、薩摩外記直政、始ム。(二代目薩摩太夫ノ弟子ナリ)

げき-ぶん (名) 〔檄文〕 檄ノ條ヲ見ヨ。

げき-へん (名) 〔劇變〕 急劇ナル變化。ハ

ゲシキ變事。急變。「氣候ノ劇變」「病症劇變」

げきむ (名) 劇務 忙ハシキ職務。ハゲシキ、ツトメ。北史、裴昭傳「昭定州刺史、昭好レ酒、晩得二偏風一、雖レ病不レ能レ隨二劇務一、在レ州甚委二貧窮一、昭亦以レ此大損而已」 盛衰記、廿五、大佛造營并行勧進事「若、大勧進ノ職ニ候ハバ、定テ、劇務萬端ニシテ、自行成就セジ」

けぎやう (名) 加行 〔加行ノ呉音(暇、け。夏、げ)修行力ヲ加ふるノ意ト云フ、〕靈異記、下、第三十八縁「授レ書者新重ニ種子二加二行人宗智一也」 天台宗ニテ、佛門ニ入リシ者ノ、灌頂、受戒ノ前ニスル、豫修ノ修行。增鏡、第十四、浦千鳥「東寺ニ三七日オハシマシテ、御灌頂ノ御けぎやうトゾ聞ユル」 運歩色葉集「加行、ケギヤウ」 平家物語、二、山門滅亡事「法皇、是レ無益ナリトテ、御加行バカリ御結願有リテ、御灌頂ヲバ、思シ召シ留マラセ給ヒケリ」

げきやう (名) 外痙 外科ニ同ジ。倭訓栞、げきやう「俗ニ、外科ヲ、外痙ト云フ、字林拾葉ニ見エタリ」 俚言集覽「外痙、謂二外科一也、賀茂眞淵曰、今モ近江國ニテハ、外痙ト云フ由」

げぎやう (名) 顯形 神佛ノ、形ヲアラハスコト。伊勢物語、百十七段「大御神、げぎやうシタマヒテ(歌)」 倭名抄、二、鬼魅類「鬼、或說云、隱字、鬼物隱而不レ欲レ顯形一、故俗呼曰レ隱也」

げぎやう (名) 夏行 一夏安居ノ條ヲ見ヨ。

げぎやう (名) 下行 〔下宛行ふ意カ〕下シ賜ハルコト。クダサレモノ。多クハ、米ニ云ヒ、下行米ト云フ。著聞集、十六、興言利口「供米ヲ下行セラル」 鎌倉年中行事、上、正月九日「初子日ニ相當、兒好法師參リテ、種種ノ祝言ヲ申シ、云云、自二公方一、樣、御祝、自二政所一下行、其外、祝言アリ」

げぎやう (名) 下桁 げぎよ(懸魚)ノ條ヲ見ヨ。

げきやく (名) 劇藥 效力ノ、ハゲシキ藥。劇劑。

げぎよ (名) 下御 下リタマフコト。建武年中行事「御輿、云云、下御、神嘉殿ノ廂ニ入ラセタマフ」

げぎよ (名) 懸魚 〔元ハ、魚ノ尾ノ形ニ刻ミテ懸けタリ、水ニ因ミテ、火災ノ厭勝トシタルモノナリト云フ〕破風ノ頂ノ下ニ垂レテ、棟木ノ端ヲ被フモノ、板ヲ、種種ノ形ニ刻ミ作ル。今、當字ニ、下桁ト云フ。倭名抄、十、屋宅具「懸魚、俗云如レ字、屋背桁端懸板名也」 字類抄「懸魚、クェムギョ」 庭訓往來、三月「雲形木、懸魚」

けぎよ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 氣清 〔けハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕清しト云フニ同ジ。爲忠百首、下「古里ハ、けぎよし人モ、通ヒ來デ、雪踏ミケガス、跡ダニモナシ」 枕草子、五、五十段「ヨシ、哭(コトトキ)時ハ知ラズ、今夜(コヨヒ)ハ詠メ、ナド責メサセタマヘド、けぎよう聞キモ入レデサフラフニ」(コノけぎようハ、全クノ意、きよしノ條ノ(四)ヲ見ヨ)

げきらう (名) 逆浪 (一)サカナミ。逆巻ク浪。杜甫詩「窮冬急二風水一、逆浪開レ帆難」 吾妻鏡、五、文治元年十一月六日「疾風俄起、而逆浪覆レ船」 (二)轉ジテ、世ノ亂ルルコト。太平記、三十五、北野通夜物語事「百姓[illegible]シテ、四海逆浪ヲナス」

げきらう (名) 激浪 ハゲシキ波。荒ダツナミ。潘尼、西道賦「廻波激浪、飛レ沙濺レ瓦」 元稹詩「激浪纔撃レ沂、撼心亦自恐」

けきらず-ビロオド (名) 天鵞絨ノ條ヲ見ヨ。

けぎらひ (名) 氣嫌 「當字ニ、毛嫌ナド記ス」相手ノ氣色ヲ、嫌フコト。運歩色葉集「毛嫌」 坂坂卜齋記(慶長)「雉ヲ合セ候ニ、向ウノ鳥、一方ノ鳥ヲ見テ退キ候、是レヲ下下ニテ、毛嫌ト申シ候」

げきらん (名) 逆亂 〔逆亂ノ呉音〕ぎやくらんニ同ジ。盛衰記、三十八、平家首掛二獄門一事「保元ノ逆亂ニ、御方ニ參テ、凶徒ヲ退ケ」

げきりう (名) 激流 川水ノ、烈シク流ルルモノ。急流。謝靈運、沫泡贊「水性本無レ泡、激流遂聚レ沫」

げきりん (名) 逆鱗 〔天子ヲ、龍ニ譬フ、龍顔ナド云フ語アリ、韓非子、說難篇「龍之爲レ蟲也、柔可二狎而騎一也、然其喉下、有二逆鱗徑尺一、若人有レ嬰レ之者、則必殺レ人、人主亦有二逆鱗一、說者能無レ嬰二人主之逆鱗一、則幾矣」〕天子ノ御立腹。宸怒。戰國策、燕策「奈何以レ見レ陵之怨一、欲レ批二其逆鱗一哉」 後漢書(一本)、李雲傳「今日殺レ雲、臣恐剖レ心之譏、復萌二於世一矣、故敢觸二逆鱗一、冒レ昧以請」 太平記、二、三人僧徒關東下向事「帝大ニ逆鱗アリテ、行死定リテ後、三奏ストイヘリ」 保元物語、一、主上三條殿行幸事「朝威ヲ輕シメ奉ル者、豈、天命ニ背サランヤ、早ク兇徒ヲ追討シテ、逆鱗ヲ休メ奉ラバ、先ヅ、日來申ス處ノ昇殿ニ於テハ、疑アルベカラズ」

げきりよ (名) 逆旅 〔旅人ヲ逆ヘテ宿ラシムル意〕宿屋。ハタゴヤ。旅館。莊子、山木篇「陽子之レ宋、宿二於逆旅一」 李白、春夜宴二桃李園一序「夫天地者萬物之逆旅、光陰者百代之過客、而浮生若レ夢」 太平記、二、三人僧徒關東下向、附、配流事「逆旅ノ内ト成テ、逆旅ノ月ニサスラヒ給フ」

けぎれ (名) 毛切 毛ニ摩ラレテ、皮膚ニ傷ツクコト。

げきれい (名) 激勵 ハゲシク、ハゲマスコト。史記、范雎傳「内無二良將一、而外多二敵國一、吾是以憂、欲レ以激二勵應侯一、應侯懼不レ知レ所レ出」

げきれつ (名) 激烈 極メテ、烈シキコト。蘇軾、陪二歐陽公一宴二西湖一詩「醉後劇談猶激烈」 太平記、三十九、蒙古寇二本朝一事「風烈シク吹テ、逆浪天ニ漲リ、雷鳴ハタメイテ、電光地ニ激烈ス」

げきろん (名) 劇論 激論 激シキ議論。元史、元明善傳「每與二虞集一劇論、以相切劘」

げくう (名) 外宮 伊勢ノ豐受大神宮ヲ、内宮ニ對シテ稱スル語。紀略、後篇、十、長保四年九月六日「伊勢外宮遷宮」

けくげん (名) 希求言 〔けくハ、希求ノ呉音(希有、けう。九、く)佛經ノ讀ナリ〕語學ノ語、命令形ニ同ジ。動詞、助動詞ニ云ヒ、又、感動詞ノがなナドヲモ云フ。(僧義門、命名ノ語)

けぐつ (名) 毛沓 熊ノ毛皮ニテ作レル沓。騎馬用ノモノニテ、公卿勅使、及、扈從ノ人、用キルト云フ、又、軍用トモス。著聞集、十二、博奕「白襖ニ、毛沓ハキテ」 太平記、廿三、雲客下車事「唐笠ニ、毛沓ハキ」

けくにものまうすまうちぎみ (名) 申食國政大夫 大連、大臣ノ如キモノ。舊事紀、七、綏靖「三年正月、宇摩志麻治命之兒、彥湯支命、爲二申食國政大夫一也」

けぐるま (名) 毛車 絲毛車ニ同ジ。著聞集、四、文學「曲上達部乘二毛車一、時時似レ有二臨幸一トゾ申ケル」

げくわ (名) 外科 醫術ニ、内科ニ對シテ、專ラ、身體外部ノ瘡、傷、ナドヲ療スルモノ。太平記、三十三、將氏逝去事「背ニ癰瘡出テ、云云、本道、外科ノ醫師、數ヲ盡シテ參リ聚リ」

げくわばさみ (名) 外科鋏 阿蘭陀流外科ニ用キル鋏。常ノ唐鋏ニ似テ、一方ノ鋒ニ、小サキ鐵ノ玉ヲツケタリ。のぼ

[illegible]

げくゎん（名）［外官］地方官ノ稱。ふい（內官）ノ條ヲ見ヨ。外官の除目ト云フハ、縣名の除目ニ同ジ。「公式令、凡[illegible]京官、[illegible]外官」

げくゎん（名）［解官］官職ヲ、解クコト。「保元物語、一、[illegible]解官セ[illegible]」

けくゎん（名）［下濟下流］さんくゎん（三濟）ノ條ヲ見ヨ。

けくゎん（名）下官　身分低キ官人。「[illegible]記、唐人相撲、仰セ出ダサルルハ、下官トモ[illegible]」

げくゎん（代）［下官］官人ノ、自稱ノ代名詞、謙稱シテ云フ。「[illegible]下官不聽」

げげ（名）［解夏］一夏安居ヲ見ヨ。

げげ（名）〔げんげノ約、其條ヲ見ヨ〕蓮華草ノ異名。ゲンゲ。ゲゲ花トモ云フ。

げけ（名）［下下］一下下ノ字ノ音讀。シタジタ、シモジモ。身分低キ者ドモ。「[illegible]人ニ因リテ、[illegible]下下ノ人ハ、不可有[illegible]日本書紀[illegible]」

げげ（名）下下　〔下下ノ名ノ草履ノ意、前條ヲ見ヨ〕常ノ草履ノ異名。極メテ粗造ニシテ、緒モ、緒ナリ、又、繭ニテ造レルヲ、繭げげ、繭金剛、ト云フ、稍、上品ナリ。「[illegible]九、[illegible]馬ニモ乘ラズ、げげヲハキ、弓杖ヲ突テ」七十一番職人盡歌合（文安）廿一番、「[illegible]つくり「谷ムベキ、人モアラジナ、ゐげげハキ[illegible]」鎌倉年中行事、[illegible]御[illegible]げげ」

ヲ召サセ申ス、[illegible]ナルベシ」[illegible]「うはげげハキテ」[illegible]

けけゑ（名）［蘿虎］〔又、けけす、けけハ、鳴キ聲、ゑ、す、ハ、鳥ニツクル語（雉子、きぎす、うぐひす、ほとときす）き、うき、こうートモ云フ一〕蘿虎ノ異名。（播磨、物類稱呼）仙臺ニテモ、鳴キ聲ニツキテ、けゑけけゑト云フ。又、けけす（阿波、丹波、伊豫仙臺）

けけ・し・シキ・シク・シケレ・シク・シク（形、二）〔異しヲ重ネタル語ナリ、喧し、かまかまし〕（一）キハギハシ。コトゴトシ。「源、廿一、少女「[illegible]アタリ近クダニ寄セズ、イトけけしうモテナシタレバ」同、四十「物隔テヌ親ニオハスレド、イトけけしう、サシ放チテオボイタレバ、オハシマスアタリニ、タヤスクモ參リ馴レ侍ラズ」名義抄、分明、ケケシ　[illegible]、ケケシウ」（二）テキハキトシタリ。「發心集、八、第十條、親シキ者ノ、御獄へ登ルトテ、アナガチニけけしかりケルヲ」運歩色葉集「賢、ケケシ」

げけゐぢゃう（名）下化衆生　ぼだい（上求菩提）ノ條ヲ見ヨ。

けけす（名）蘿虎　よしきりノ異名、けゑノ條ヲ見ヨ。

げけつ（名）下血　血ノ、瀉ルコト。血便。「[illegible]下、上、[illegible]下血」

げげばな（名）紫雲英　れんげさう（蓮華草）ノ異名、其條ヲ見ヨ。

けげん（名）化現　佛ノ、形ヲ化ヘテ、世ニ現ハルルコト、觀世音菩薩ノ、衆生濟度ノタメニ、三十三身ニ變化シテ世ニ出現スト云フガ如キニ云フ。權化。化身。「[illegible]記、九、[illegible]」[illegible]仙、人丸、[illegible]小町、[illegible]之ヲハジメテ、皆コレ、佛陀ノ化現ナリ」

けげん（名）怪訝〔前條ノ語ノ、不思議ナル意ヨリ移リタル語ナルベシ〕不思議ト思フ狀ノ顏色ナドニ云フ語。「けげんナ顏ヲシテ」

ケゲン（名）活佛　蒙古ノ活佛。喇嘛ノ條ヲ見ヨ。

けけれ（名）心〔こころノ轉、名義抄「械、コケラ、ケケラ」かのおまだらモ、鹿の毛斑ナルベク、ころノ、わト通ズルハ、ほどころ、はだれ。くれき（榑木）モ、黑木ナルベシ〕おおろニ同ジ。東語ナリ。古今集、廿、甲斐歌「甲斐ガ嶺ヲ、サヤニモ見シガ、けけれ無ク、横ホリ臥セル、佐夜ノ中山」[illegible]カケテ、中ニタユタフ[illegible]けけれなくト云フハ、甲斐ノ國ノ[illegible]ナリ、[illegible]國ノ音ハ、九つヲ、けけねつト云フト、元喬（南郭）云ヘリ」[illegible]古今集ニ見ユ、古キ甲斐ノ[illegible]ニテ、心なくノ[illegible]ナリト云ヘリ」

けこ（名）華筥［華筥ノ異音］ハナザラ。佛具ナリ、法會繞道ナドノ時ニ、散華ノ花片ヲ盛ル、金屬ノ皿、飾紐ヲ垂ル。「江家次第、五、仁王會「[illegible]」[illegible]八、秋[illegible]」

けご（名）［笥子］〔食籠ノ義〕飯ヲ盛ル器。筍。「名義抄[illegible]ケコ」伊勢物語、廿三段「手ヅカラ、飯匙取リテ、けごノウツハモノニ盛リケルヲ見テ」（闕疑抄「家子ノウツハモノ」）」

けご（名）［家子］〔家子ノ音讀、沖繩ニテ、家子〕イヘノコ。奴僕ノ稱。下部。下男。「[illegible]」[illegible]抄（文明）十四、三十「[illegible]井ノ家トハ、一切ノ事ヲスレバ、[illegible]けごハ、下部ノ[illegible]」[illegible]家人ト云フニ、[illegible]ノけごトナンド云フモアルゾ」[illegible]けご上[illegible]けごト云フ」

けご（名）〔警固ノ約ニテモアルカ（榮耀、ええう。清和井、せがゐ）長崎ニテハ、內偵スルヲ、けろうみるト云フ〕軍陣ノ動靜。「[illegible]けごヲ見ルゾ」

げこ（名）［下戶］〔上戶ニ對ス〕人ノ性質ニテ、酒ヲ飲ミ得ヌコト。小戶　不喫子「著聞集、六、管絃歌舞「日頃ハスベテ、一カハラケダニモ、エ[illegible]下戶ナリケルガ、大ナリシかはらけニテ、二度飲ミテケリ」酒食論（文明）「生レツキタル貧福ハ、下戶ノ建テタル藏ハナシ」」

げこく（名）［下國］國司ノ格ニ云フ語、大國ノ條ヲ見ヨ。「[illegible]記、三、[illegible]左右大將[illegible]下國ノ受領ヲコソ拜任セシニ」

げこく（名）下國　國へ、下ルコト。都ヨリ、國許へ行クコト。「庭訓往來、八月「奉行人[illegible]下國[illegible]下國時否下ニ」」

げこくじゃう（名）［下剋上］〔五行ノ條ヲ見ヨ、此語、でもくらきいトモ解スベシ〕下トシテ、上ニ剋ツコト。臣トシテ、君ヲ凌グコト。「[illegible]記、五、[illegible]西光ガ、我一人ト[illegible]至リナリ、ト不思議ニ存ジ侍リキ」太平記、廿七、[illegible]臣、君ヲ弑シ、子、父ヲ殺ス、力ヲ以テ爭フベキ時到ル故ニ、下剋上ノ一端ニアリ」同、三十」

六、鼠山道誓事「師宮心替、下トシテ上ヲ退クル吸評、下剋上ノ至リ哉」

けおみ (名) [蹴込] [履先ノ當ル所ノ意カ] (一)家ノ入口ノ上段ノ、くつぬぎニ當ル所。(二)人力車ノ上ノ、腰掛ノ前ノ所。

けおむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [蹴込] (一)蹴テ、內ヘ入ルル。(二)損ヲナス。クヒコム。 心中重井筒(寶永、近松作)上「四百目トイフ銀ヲ、何ニスルトテ借タゾ、喰ヒコンダカ、蹴おんダカ、夫婦ノ中ノ榮耀使カ」

げこん (名) [下根] ぎやうこん(下根)ノ條ヲ見ヨ。 近思錄「或曰、釋氏地獄之類、皆是爲ニ下根之人ニ設ニ此怖ニ令レ爲レ善」

けごんしゅう (名) [華嚴宗] 佛法八宗ノ一、釋迦所說ノ華嚴經ヲ、所依トス。天平八年、唐ノ僧、道璿、初メテ華嚴ノ章疏ヲ、モタラシテ來朝シ、南都ノ僧、良辨、此宗ヲ唱ヘテ、東大寺ニ隆興ス。此經ヲ講ズル法會ヲ、華嚴會ト云フ。

けおも (名) [食薦] 供御ノ物ノ下ニ敷ク薦。 字類抄「食薦、ケコモ」見、式「一七、大嘗祭式、卯辰「布一段、安藝木綿八斤、木綿麻各二斤、黃蘗十枚、鍬四口、鰒堅魚各六斤、腊二斗、鮭八隻、鹽八升、雜海藻八斤、酒米各四斗、稻四束、食薦四枚、云云」

げおもり (名) [夏籠] 一夏安居ヲ見ヨ。

けおろ (名) [蹴轉] 次條ヲ見ヨ。

けおろばし (名) [蹴轉] [淺草、兩國邊ニ起リシ、轉倚者ノ末ヨリト云フ] 江戶、下谷廣小路、廣德寺前通、淺草堀田原邊ニ居タル賣婬婦ノ渾名。略シテ、けおろ。又、蹴倒。安永ノ末マデアリキト云フ。 [illegible]、賃錢、平賀源內ニ出ル內アレバ、入舟町、石場ニ個、けおろばし」 天明ノ川柳「仰山ニ、バカリ毛呉絽ハ、起サレル」(上野ノ曉鐘) 艶道通鑑(享保)「開短、蹴倒、夜鷹」

げごろぶな (名) げんごろうぶなノ條ヲ見ヨ。

けごろも (名) [褻衣] 褻ニ着ル衣。フダンギ。 神樂歌、弓立「宮人ノ、神ハ、古キ日祭レバ、明日ヨリハ、明衣ヲ、介古呂毛ニセム」 和泉式部集「此衣ノ、色白妙ニ、ナリヌトモ、靜心アル、けごろもニセヨ」 字類抄「褻、ケゴロモ、常衣也」

けごろも (名) [毛衣] (一)毛皮ニテ作レル衣。カハゴロモ。裘 萬葉集、二十「毛許呂裳ヲ、春冬カタマケテ、出デマシシ、宇陀ノ大野ハ、オモホエムカモ」 (二)鳥ノ羽ニテ製セル衣。羽衣。 朗詠集、上「雪似ニ鵝毛ニ飛散亂、人被ニ鶴氅ニ立徘徊」 字類抄「氅、ケコロモ、鳥毛也」 (三)海苔ノ類。 倭訓栞、けごろも「海苔ノ名ナリト云ヘリ」 西行「駿河ナル、苔ノ毛衣、來テ見レバ、サナガラのりノ、姿ナリケリ」

けさ (名) [今朝] [けふ(今日)ノ語原ヲ見ヨ] 今日ノ朝。今朝。 續禮記、八年正月「今旦」 萬葉集、十七「氣佐ノ朝ケ、秋風寒シ」 名義抄、內部「今朝、ケサ」

ケサ (名) [袈裟] [梵語、迦沙曳(Kasaya)ノ略、不正雜色ノ義、五色ノ正色ナラヌ意、色ヲ見テ、愛着心ヲ起サシメヌガタメナリト云フ] (一)僧ノ服。又、功德衣。木蘭色、即チ、香染ナルヲ本義トスト云フ、左ノ肩ヨリ、右ノ脇下ニ、斜ニ懸クル、長方形ノモノ、天竺ノ服ナリト云フ。支那、日本ニテハ、氣候モ違ヘバ、下ニ、別ニ衣服ヲ着テ、其上ニ懸クルナリ。五條ノ袈裟ト云フハ、長短ノ、幅狹キ布帛ニテ、五幅ニ作ル、作務、旅行、ナドニ着ル。七條ノ袈裟ト云フハ、一長、一短ニテ、七幅、聽講、禮佛、等ニ着ル。大衣ト云フハ、九條ナルアリ、廿五條ナルアリ、王宮ニ入ル時ナドニ着ル。此三種ノ袈裟ヲ、三衣ト云フ、コレヲ容ルルヲ、三衣匣ト云フ。又、輪袈裟ト云フアリ、其條ヲ見ヨ。 釋氏要覽、上、法衣「袈裟、云云、業疏云、本作ニ迦沙ニ至ニ葛洪撰ニ字苑ニ下方添ニ衣、言ニ道服ニ也」 同「一日、僧伽梨、即、大衣也、二日、鬱多羅僧、(又、鬱陀羅トモ云フ)即、七條也、三日、安陀會、即、五條也、此是三衣也」 倭名抄、十三「僧坊具、袈裟、介佐、天竺語也、此云ニ無垢衣ニ又、功德衣、云云、即、沙門之服也」 云、衣匣、佐無江乃波古」 宇津保物語、嵯峨院「四十「五でうノけさ具シタル法服」 (二)けさがけノ略、其條ヲ見ヨ。

げざ (名) [下座] (一)下座。末席。(上座ニ對ス) 史記、孟嘗君傳「客之居ニ下座ニ者、有下能爲ニ雞鳴ニ者上」 唐書、宋璟傳「每宴ニ朝堂ニ、璟居ニ下座ニ、云云、曰、公第一人、何下座」 十訓抄、上、第一、五十二條「大判事明兼ガ、下座ニ候ヒテ、イササカロ入ヲ申シタリケルヲ」 (二)芝居ニテ、舞臺ノ、向ヒテ、左ノ方ノ稱。上手ニ對シテ、下手トモ云フ。(三)轉ジテ、囃子方ノ稱。(下座ノ方ニ居ルナリ) 下方トモ云フ。オハヤシ。

げざ (名) [下座] [下ニ居る意、下座觸ノ聲ニ、下ニ居ろうト云フ] 座ヲ立チ、式臺ナドニ下リテ、蹲踞フコト。貴人ノ通行ニ對シテ、禮スルニスルコトナリ。地上ニテスルヲ、土下座ト云フ。 享保集成絲綸錄、五十、正德元年七月「朝鮮信使、道中往來共ニ、宿舍ノ與通リ候時、下馬、下座、等致シ、無禮之儀有ベカラズ」

けさい (名) [潔齋] [潔齋ノ約、殺生、せちゃう。一向、いかう] 潔齋ニ同ジ。モノイミ。 大鏡、上、實賴「湯、タビタビ浴ミ、イミジクけさいシテ、淨マハリテ、裝束シテ、ヤガテ、神ノ御前ニテ」

げさい (名) [解齋] 神事ノ齋戒ヲ解キテ、平常ニ復スルコト。直會。 江家次第、七、神今食次第「明旦、所司、供ニ解齋御手水、御粥ニ」

げざい (名) [下財][藝才] [當字ナルベシ、詳カナラズ、地下ノ財貨ノ意トセムハ、イカガ] 鑛山ノ語、かねほりノ異名。鑛夫 庭訓往來、四月「藝才七座之店」 古抄「藝才、銅鐵掘ノ事ナリ」 嬉遊笑覽、附錄「古ク、金掘ル者ヲ、げざいト云ヘリ」

げざい (名) [下劑] クダシグスリ。通ジグスリ。瀉劑

げざいろく (名) [毛才六] 才六ノ條ヲ見ヨ。

けさう (名) [假粧] けしやう(假粧)ニ同ジ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。

けさう (名) [懸想] 思ヲカクルコト。戀フルコト。戀慕。 伊勢物語、第三段「昔、男アリケリ、けさうシケル女ノ許ニ、ひじきもト云フ物ヲヤルトテ(歌)」

けさう (名) [顯證] けんそう(顯證)ノ條ヲ見ヨ。

げさう (名) [外相] 言語、擧動、等、スベテ、外ニ現ハレタル狀貌。 盛衰記、十八、譜神守三種心ニ事「內德ヲ顯サザレバ、外相ニ信ヲ取ラセントテ」 徒然草、百五十七段「外相若シソムカザレバ、內證必ズ熟ス」

けざうせかい (名) [華藏世界] 蓮華藏世界ヲ見ヨ。

けさうだつ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [顯證立] キハヤカダツ。ハレバレシク、タツ。ケサウバム。 源、六、末摘花「けさうだつ、ギナウ、心ヤスキモノノ」 同、四十四、橋姫「何ぶ、

[illegible]

けさうな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無顯證] キハヤカデナシ。ハレバレシクナシ。源、三十八、夕霧「ゲニけさうなき御文ナリケリト、[illegible]」

けさうば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [顯證] 前前條ノ語ニ同ジ。源、三十八、夕霧二「初ヨリ、けさうびテモ聞エ給ハザリシニ、ヒキカヘシ、け[illegible]」

けさうびと (名) [懸想人] 懸想スル人。[illegible]ビト。情人。[illegible]

けさう・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) [顯證] ケサウメキテアリ。ケサウバム。源、廿二、玉鬘「古風ナルオマシニ、ツイヰ給ヒテ、火コソイタクけさうびタル心チスレ、親ノ顔ハユカシキモノトコソ聞ケ、サモオボサヌカトテ」

けさうぶみ (名) [懸想文] (一)懸想シタル心ヲ書送ル文。イロブミ。艶書。[illegible]タリト思フ歌ヲ、人ノ許ニヤリタルニ、返シセヌ、けさうぶみハ、イカガセム」 (二)昔、正月ノ初ニ、京ノ市中ニ、懸想文ト云フヲ賣リアルキシ者アリ、懸想文賣ト云フ。其文ノ一例「覚ノ氷ノ解クルヲ便リニ、山ノ端ノ[illegible]……日ノ子ノ日ハ、共ニ千代モト祝ヒマキラセ[illegible]……者ノ裝束ハ、赤キ布衣ニ、[illegible]テ、烏帽子ヲカブリ、白布ニテ顔ヲ包ミ、花ノ枝ニ文ヲツケタリト云フ、後ニハ、文ナラデ、懸想ニ、洗米二三粒入レタルヲ賣シ、望ムニマカセ、夫婦ノ事、商賣ノ事ナド、サマザマノ祝言ヲ云ヒシトナリ、此事、元祿ノ頃マデアリシト云フ。(寛文ノ曾呂利狂歌咄、四、閑田耕筆、一) 化政中[illegible]、けさう文、[illegible]ヤ、メデタク思ヒ、登ラスル」 續山井(寛文)「人ハコレヲ、懸ト云フラム、けさう文」呼ブ人ヤ、懸ノ門立、懸想文」

けさうぶみうり (名) [懸想文賣] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

ケサがけ (名) [袈裟懸] [袈裟ハ、左ノ肩ヨリ、右ノ脇ニ懸け垂ラス] 刀ニテ、人ヲ斬ルニ、一方ノ肩ヨリ、一方ノ脇ニ斬リ下ゲルコト。略シテ、けさぎり、又、けさニ切ルト云ヒ、背ノ方ヨリ斬ルヲ、うしろげさニ斬ルト云フ。太平記、十、長[illegible]」 同、十四、箱根竹下合戰「手負ノ上ヲ飛越エ飛越エ、坂本樣ノ袈裟切ニ、成佛セヨト云フママニ、追攻メ[illegible]」

ケサぎり (名) [袈裟切] 前條ヲ見ヨ。

げさく (名) [外戚] 外戚ノ條ヲ見ヨ。

げさく (名) [下策] 劣リタル、ハカリゴト。(上策、中策ニ對ス) [illegible]

げさく (名) 下作 下卑タル、カタチツクリ。下品。[illegible]げびたナリ」

げさく (名) [戲作] (一)戲レニ、作ルコト。(二)オモシロカシキ事柄ヲ作リナシテ、[illegible]書トスル人ヲ、戲作者ト云フ。小說家。[illegible]ハラニ、ナグサミニスベキ物ナリ、今時鳴ナル作者、皆然リ、サテ又戲作ハ、弟子トシテ教フベキ事、一ツモナシ、サレバ己レヲハジメ、古今ノ戲作者、一人モ、師匠ハナシ、マヅ弟子入ハ、オコトワリナリ」

げさくしゃ (名) [戲作者] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

げさくぼん (名) 戲作本 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

けざけざと (副) [明亮] [けざけざハ、けざやかノけざヲ重ヌ] 甚ダ、明亮ニ。キハヤカニ。源、廿八、野分五十「日ノハナヤカニ差出デタルニ、けざけざと[illegible]」 狹衣、三、下廿「イトドけざけざと、光ルヤウニ見エサセタマヘルニ」

げざしき (名) [下座敷] 下座スル時ニ、敷キ用ヰル筵。

ケサずきん (名) [袈裟頭巾] 裹頭ニ同ジ。

げざぶれ (名) [下座觸] [人ニ下座セシムル先觸ニテ、天子ニ云フ、警蹕ナリ] 貴人ノ出行ノ時、行列ノ先拂ノ者、[illegible]ニテ、行人ニ、注意ニカケ、制警、江戸ニテハ、三家、三卿ニハ、下に居らう、訛シテ、したにょう、たにょう、略シテ、したに、したに、ト云ヒ、老中、若年寄ナド、諸職ノ者ノ登城ニハ、城門ナドニテ、馳走トテ、控へよう、訛シテ、はいようト云フ。將軍出行ノ時ハ、[illegible]ヨリ、通行止メナリ、往來ノ者、眞先ニ、扇ヲ開キテ、[illegible]グヤウニ動カシツツ、[illegible]ニテ、御拂、御拂、ト云ヒキ。

げざみ (名) [下座見] [下座スベキ方法ヲ見取ル意] 城門ノ[illegible]、大名ノ[illegible]敷ノ門番所、ナドニ居マル見識ノ職名。三家、三卿、老中、若年寄、其他、諸大名、等ノ供ノ[illegible]、槍ノ形、家ノ紋、六尺ノ衣服、ナド、[illegible]見知リ居テ、其通行ノ時、速カニコレヲ認メ、下座ノ者ニ告テ、其長名ヲ高ク呼ブ、其家格等ニ因リテ、下座ノ方法ニ差違アルヲ注意セシナリ。

けさん (名) [卦算] [八卦ノ算木ニ似タルモノヲ用キタルニ起リシモノカ] 文鎭ノ一種、横ニ長クシテ、鈕アルモノ。ケイサン。紙尺

げさん (名) 下山 山ヲ、下ルコト。(登山ニ對ス) [illegible]、近松作]一[illegible]ニ、下山ノ用意アル」

げさん (名) [下散] 草摺ノ條ヲ見ヨ。

げざん (名) [見參] [見參ノ約、還同、げかう。[illegible]かざみ」] (一)謁見、宴會、ナドニ、伺候シタル人ノ交名ヲ注シテ、御前へ出スコト。源、三十二、梅枝八「内ノオホイ殿ノ[illegible]、モ、げざんバカリニテマカデ給ヒテ」 類聚國史、七十五「見參五位以上、賜祿」 (二)轉ジテ、會ふことノ敬語。見參。[illegible]ノ、げざんニハ[illegible]侍レバ」 [illegible]ニ、げざんセマホシキ」

げざんのいた (名) [見參板] げんざんのいたニ同ジ、なるいたノ條ヲ見ヨ。

けざや (名) [毛韉] 尾韉ノ、虎、又ハ、熊ノ毛皮ニテ作ラレタルモノ。

けざやか・な (副) [明亮] [けハ、接頭語、

其條ヲ見ヨ〕さやかなりト云フニ同ジ。キハヤカニ。著(イチジ)ルク。ハッキリト。源、三十四、上、若菜、上五十「雪ナド、けざやかなりワタラムモ便ナキヲ、夜ノ間ニ忍ビテナム、ト思ヒ侍ル」同、四十六、總角十一「御アカシノ火、けざやかニ挑ゲサセテ」榮花物語、七、鳥邊野「池ノ上ニ、同ジ色色、サマザマノ紅葉ノ錦、映リテ、水ノ、けざやかに見エテ、イミジウメデタキニ」

〔けざや・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 明亮 〔前條ノ語ヲ活用ス〕 明亮(ケザヤカ)ナリ。キハヤッ。源、十八、松風「アサマシウ覺ユレド、今、コトサラニ、打チけざやぎテ參リヌ」同、三十、藤袴「ウケバリテ取リ放チ、けざやぎタマフベキ事ニモアラネバ」

〔けし (名) 衣 御衣(ケシ)ノ條ヲ見ヨ。

けし (名) 消 消スコト。無キモノトスルコト。「此事ハ、けしニスル」「いんく消し」

けし (名) 芥子 〔倭訓栞、後編、けし「罌粟ヲ云フ、芥子ノ音ヲ謬稱セシナルベシ」〕 (一)草ノ名、秋、種ヲ下ス、夏ノ初、莖、高サ二三四尺、葉ハ、互生シ、あざみニ似テ、刺無ク、白ミアリ、梢ト葉ノ間トニ、花ヲ開ク、初、青キ苞ヲ結ビテ垂レ、漸ク開キ、漸ク仰ギテ、色ハ、紅、白、紫、等ナリ、四瓣ニシテ、二ツハ大キク、二ツハ小サシ、又、八重ナルハ、美ナルコト、牡丹ノ如シ、中ニ、罌(カメ)ノ形ノ如キモノアリ、芥子殼(ケシガラ)ト云フ、(其條ヲ見ヨ)蘂、コレヲメグル、(米囊花)罌ノ中ニ、粟ノ如キ、極メテ細カナル子(ミ)、滿ツ、阿片(アヘン)ヲ作ルベシ、花ノ白キハ、子モ白クシテ、食フベケレド、多ク食ヘバ、害アリ。罌粟 [illegible]節用集(文明)「芥子、ケシ」 (二)女ノ、髮ヲ結フニ、先ヅ、頂ノ正中ニ、少許ノ毛ヲ、一束ニ結フ、コレヲ、芥子ト云フ、小兒ノけしばうずヨリ云フナルベシ。(此四周ノ毛ヲ剃リ去ルガ、けしばうずナリ) (三)芥子ノ實ノ、極メテ細カキヨリシテ、スベテ、細カキモノ、小サキモノニ云フ。法華經、提婆達多品「觀ニ三千大千世界、乃至無レ有ト如ニ芥子許、非ヲ是菩薩捨ニ身命ニ處上」 羅州府志、七「芥子人形、芥子、比ニ至小者ニ」「芥子粒」「芥子グクリ」「芥子ホド」 (四)けしぐくりノ略、其條ヲ見ヨ。

けし (名) 家司 けいし(家司)ノ條ヲ見ヨ。

〔け・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 異 〔異(ケ)ヲ活用セシム(其條ヲ見ヨ)奇しト通ズ〕 (一)常ニ異ナリ。異樣(コトヤウ)ナリ。萬葉集、十四 三廿「韓衣、裾ノ打交(ウチカヘ)、合ハネドモ、家思吉心(ケシキココロ)ヲ、吾ガ思ハナクニ」同、十五 五「遙遙ニ、オモホユルカモ、然レドモ、異情ヲ、吾ガ思ハナクニ」 (二)轉ジテ、奇シ。希有ナリ。變(ヘン)ナリ。宇津保物語、藏開、下五十五「けしう物シタマハズバ、イカニ嬉シカラム」古事談、一、王道后宮「花山院御出家之時、天下騷動、有ル人、申ニ大入道殿ニ仰云、けしうハアラジ、能ク求メヨ、不ト令ニ騒給ニ」(花山天皇、宮中ヲ脱シタマヒシコトナリ)

けし (感) 犬ヲ嗾(ケシカ)クル聲、けしかくノ條ヲ見ヨ。

げし (名) 夏至 にじふしき(二十四氣)ノ一、其條、及、冬至(トウジ)ノ條ヲ見ヨ。

げし (名) 下司 (一)シタヅカサ。卑シキ官人。下司(ゲス)。 (二)莊園ノ吏務ヲ掌ル者。庭訓往來、十二月「下司、郷司」

げじ (名) 蚰蜒 げじげじノ略、げじげじむしノ條ヲ見ヨ。

けし-あざみ (名) 芥子薊 古名、ニガナ。オホトチ。秋、生ズ、葉ハ、薊(アザミ)ニ似テ、刺ナク、柔カニシテ白ミアルコト、罌粟(ケシ)ノ葉ノ如シ、莖、青ク、或ハ、紫ニシテ、中、空シク、稜(カド)アリ、春、高サ二三尺、葉ハ、互生シ、葉ノ間ニ、叉(マタ)ヲ分チテ、上ニ、黄ナル花ヲ開ク、集リテ、ちさノ花ノ如シ、後ニ、絮トナリテ飛ブ。ノゲシ。ノヂサ。茶 苦菜

けし-いん (名) 消印 消滅ノ證トシテ、押シタル印影。消印(セウイン)。「郵便局ノ消印」

〔け・しう (形) 異 異(ケ)しくノ音便、異(ケ)しノ條ヲ見ヨ。

けしか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 嗾 〔けハ、發語、仕懸くるナリ(けおさる)下略シテ、けしト云ヒテ、し、かくる聲トナル〕 (一)犬ヲ嗾(ケシカ)マシテ、敵ニ向ハシム。左傳、宣公二年「公嗾ニ夫獒ニ焉」嗾、使ニ犬噬ニ 逍遙色葉集、嗾、ケシケシメカス」 筑波集(西音法師)「我ガ心、菜種バカリニ、ナリニケリ、人食ヒ犬ニ、けしト言ハレテ」(菜種ト、芥子ヲカク) (二)人ヲ、ソソノカス。オダテル。教唆

☆けしか・ける (動) 嗾 前條ノ語ノ口語。

けし-がら (名) 芥子殼 芥子ノ實ノ外皮。形、棗(ナツメ)ノ實ヲ立テタル如ク、頂、菊紋ヲナス、小兒ノ髮ノ髫(スズシロ)ノ如シ、因リテ、すずしろヲ、けしがらあたま、けしばうずト云フ。

けしがら-あたま (名) 芥子殼頭 前條ヲ見ヨ。

〔けしから・ぬ (動) けしかりノ打消(ウチケシ)、次條ヲ見ヨ。

けしか・り・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、左變) 異常 〔異(ケ)しくありノ約、怪ノ字ヲ書ケルハ、字ノ音ヲ取リテ記セル、當字ナリ〕 (一)異(ケ)シクアリ。奇(アヤ)シクアリ。異樣(コトヤウ)ナリ。希有ナリ。平家物語、二、新大納言流されの事「天王寺詣デナドニハ、二ツ瓦、三棟ニ作リタル船ニ乘リ、云云、漕ギ續ケテコソアリシニ、今ハけしかるカキスヱ屋形船ニ、云云、見モ馴レヌ兵共ニ具セラレテ」同、五、文覺流されの事「イデサラバ、文(フミ)ヲヤラウト云ヒケレバ、怪しかる紙ヲ得サセタリ」撰集抄、五、第五條「けしかる庵ヲ結テ」增鏡、第十五、村時雨「內ニハ、イツシカ、けしかる御ナト仕ミツキテ、或時ハ、紅ノ袴、長ヤカニ蹈ミタレテ、火トモシタル女、見ル間ニ、長ハ、軒ト等シクナリテ」 (二)〔打消ニ、けしからずト用キテ、希有ナラズ。惡(ワロ)クハアラズ。オモシロシ。紫式部日記「けしからぬ人ヲ思ヒ聞エサストモ」四季物語(鴨長明)第四「放免ノ下人ノ袖袂ニツケタル百生瓢(モモナリヘウ)ノ、薄(ススキ)ニ成リタルナド、けしからぬ見モノ(ミモノ)ナリ」(文學全書本ニ「久米舞ノ下人ノ袖袂ニツケタルマリヅクシ、秋ノ花垣、百ナリ瓢簞ノ、ススキニナリタルナド、けしからぬ見モノナルニ」トアリ) (三)〔轉ジテ、惡シカリ。アルマジキコトナリ。(けしからぬニハあらずノ略ナラム、おぼろげならずヲ略シテ、おぼろげなト用キルナド、同ジ用法ナルカ) 宇津保物語、藤原君二十「カクけしからぬ事ハウケタマハラジ、戲レニモ御徒言(アダゴト)カナ」(板本ニ「タハブレニテモ人ノ御アダゴトナドキコエ給フベクナム」ト見エタリ) 源、五十、浮舟八十五「遂ニ我ガ身ハ、けしからずアヤシクナリヌベキナメリト、イトド思フトコロニ」榮花物語、一、月宴「同ジクハ、今ハ、イカデ疾ク死ナムトノミ思フゾ、けしからぬ心ナリヤ」同、八、初花「ソレニツケテモ、けしからぬ事ドモ出デ來テ、帥殿、イトド世ノ中、スズロハシウ思(オボ)シ歎キケリ」枕草子、十、百三十三段「けしからず過ギタナクすハシケリ、ナド云ヘバ」 (四)〔又、轉ジテ、無理ナリ。不法ナリ。不當 落窪物語、三「何カ、けしからず侍ラム、道理ナキ事ニモ侍ラバコソアラメ」十訓抄、中、第七、廿三條「妻ニテ候フ女ノ、心バヘけしからぬニ因リテ、過グベクモ覺エズ候フ、浮レ出デテ候フ也」「けしからぬ申シ條」「けしからぬ振舞」 (五)〔又、轉ジテ、甚シ。至甚 謠曲、土蜘蛛

[illegible]けしからぬ事ナリ、[illegible]けしからぬ事サ」(二項以下ハ打消ノ任用法)

けしき [illegible] 〔けしき二、[illegible]ノ字ヲ先テテ、氣色ト讀ム語〕 (一)ケハヒ。[illegible]アナ[illegible]ヤウス 竹[illegible]ナリ[illegible]、四「人ノ媼ニ、イト忍ビテ通ヒ侍リケルニ、けしきヲ見テ、親ノ守リケレバ」 枕草子、八、八十三段、心もとなきもの、子生ムベキ人ノ、程過グルマデ、サルけ[illegible]ナリニケリ」 (二)顔ノケハヒ。カホイロ。顔色 源、廿一、少女「時ニ従フ世ノ人ノ、心ニハ皆マジロギヲシツツ、追従シ、けしき取リツツ従フ[illegible] (三)心ノケ[illegible]色ニ入ラムトテ、時ノ才人共申シケルハ、云云」 吾妻鏡、三、壽永三年三月六日「猶冠者殿ニ御氣色ニ漏免[illegible]「小川殿口定國ト云フ、御けしき好キ者侍リケリ」 (四)[illegible]ナム仰セラレツル」 盛衰記、十一、「靜憲熊野參詣事」「右[illegible]シヅキ呼バレケル」

けしき (名) 景色 〔景色ノ約、[illegible]え、〕 目ニ映ツル、山水ナドノ景、又、[illegible]景、風景 [illegible]木ノ葉「スグヨカナラヌ山ノけしき、木深ク、世バナレテ、[illegible]見セバヤ[illegible]

げしき (名) 下食 〔陰陽師ノ言ヒシ語ナルベシ、天狗星ノ、下界ニ下リテ食ヲ求ムル義ナリトテ云フ〕 暦ニ云フ語、天狗星ノ精ノ、食ヲ求ムト云フ日ノ稱、六十一日ニ出テ[illegible]シ、一歳ニ、六度アリ、歳下食ト云ヒ、コレニ當ル日ヲ、下食日ト云ヒ、食初ナドニ忌ム、此日ハ、舊暦ニハ、一一、記シテアリキ。其日ノ一定ノ時ヲ、下食時ト云フ、此時ニ髪ヲ洗ヘバ、髪落ツト云フ、俗ニ、蚰蜒ニ、頭ヲ舐ラルレバ、髪落ツトテ、下食時蟲ト云フモ、是レナリ。[illegible]正月「歳下食、其日注」[illegible]、云云、此日沐浴、[illegible]拾芥抄、下、末「下食日[illegible]」 口遊、陰陽門、攷、拾芥抄、上、末、[illegible]ニ、下食日ニ、[illegible]ヲ載セテアリ。暦例「歳下食ハ、天狗星ノ精、下界ニ下テ、[illegible]天[illegible]六十一日出[illegible]

けしき-ぢ (名) 下食時 前條ヲ見ヨ。

けしき-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 氣色立 (一)様子、アラハル。キハダツ。源、[illegible] (二)ケ[illegible]色メキタツ[illegible]きだたせ給ヒケレド」

けしき-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 氣色

付 ケシキダツ。ケシキバム。源、廿八、野分「イト、オホトカニ、女シキモノカラ、け[illegible]きづきテゾオハスルヤ」

けしき-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 氣色取 氣色ヲ察ス。ケドル。察知 源、四十二、紅梅五「サモ思ヒタチテ宣フコトニハト、けしきどリ心ヤケシタマフ見ルニ」 同、三十八、夕霧「ツヒニ、サルヤウアルベキ御ナカラヒナメリト、北ノ方けしきどりタマヘバ」 宇治拾遺、[illegible]、九條 其侍ノ女[illegible]けしきどリテ、主ノ女、[illegible]カカル事ノ候フハ、イカナル事ニカ候フラムト、告ゲケレバ」

げしき-にち (名) 下食日 下食ノ條ヲ見ヨ。

けしき-ばかり (副) 氣色許 容子バカリ。少シバカリ。宇津保物語、樓上、下五「ナト、けしきばかりモ露カセタマハサラム、トテ悩ミキコエタマヘバ」 源、七、紅葉賀「日心レカカルニ、けしきばかりチシグレテ」 枕草子、一、第三段、紙ナドニ、けしきばかり包ミテ」 源、一、桐壺「朝餉ノ、けしきばかり觸レサセタマヒテ」 榮花物語、三十二、[illegible]、けしきばかり咲キ、サビテ」

けしき-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 氣色 氣色、兆ス。ケハヒ、アラハル。ケシキダツ。兆 宇津保物語、俊蔭「子生マルベクナリヌ、けしきばみ悩メバ、[illegible]、肝心ヲ惑ハシテ」 同、[illegible]、下五「時時、けしきばめル事ハアレド、知ラズ顔ナルニヤアラム」 源、廿五、螢三十「若ヤカナル殿上人ナドハ、目ヲタテツツけしきばむ」

けし-ぐくり (名) 芥子括 〔芥子トハ、少しばかりノ意、けしノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 (一)括 袖ヲ、極メテ細ソク縫ヒ作レルモノ。(そでふくりんヲ見ヨ) 賤小手巻(延享)「袖口モ、芥子ぐくりトテ、イカニモ細ソクくくりテ、色モ、淺黄ナド、專ラ用ヒタリシ」 (二)袋物、巾着、ナドノ唐開ニックル、片片シタル縁、略シテ、けし。(三)歌舞伎ノ

排財天女、乙姫、唐子、ナドノ着附ノ、領、袖口、裾、ナドニ、別ニ、五彩ノ布帛ニテ、ひらひらニ縫ヒ添ヘタルモノ。

けし-くち (名) 消口 東京ニテ、消防組ノ、火災ヲ消止メタル所ヲ稱スル語、其組ノ働キナルヲ表シテ、記ヲ立ツ、コレヲ、消口を取るト云フ。

げぢ-げぢ (名) 蚰蜒 次條ノ語ノ略、

げぢげぢ-むし (名) 蚰蜒蟲 〔下食時蟲ノ轉(芒、のげ)此蟲ニ舐ラルレバ、髪禿ゲ落ツトスルニ起ル、這ふヲ、舐るト云フハ、鬼舐頭ト云フ病名ニ因ル(下食ノ條ヲ見ヨ)土佐、薩摩ノ人ハ口語ニ、ぢ、ぢ、ヲ言ヒ別ク、此蟲ハ、げぢげぢノ發音ナリト云フ、靜岡縣ニテハ、げんげきトモ云フ、木[illegible]ノ[illegible]ヲ、げ[illegible]きト云フモ、是レナリ、花原京時ノ事ニ就キテ云フハ、附會ナリ、かちはらむしノ條ヲ見ヨ〕 蟲、長サ一寸許、蜈蚣ニ似テ、狹ク、平カナラズ、淡褐色ニシテ、薄黒キ斑アルモアリ、脚ハ、細長クシテ、左右、十五對アリ、走ルコト疾シ、床下ナドノ濕地ニ棲ミ、夜、出デテ、小蟲ナドヲ捕リ食フ、此蟲ニ、頭ヲ這ハルレバ、髪、禿ゲ落ツト云フ傳說アリテ、人ニ嫌ハル。略シテ、げぢげぢ。げぢ。又、カヂハラムシ。[illegible](寛永)「げぢげぢニ、ドコネブラレテ、姨ガ禿」 海錄、十、四十條(文政、天保、[illegible])日、俗間ニ、頭髪ノ、フト脱ケテ、錢ノ大サニ禿ゲタルヲ、げぢニ舐ラレシト云テ、げぢげぢ蟲ノ事トセリ、下食ト云ヘル鬼ニ舐ラレシト云フ義ナルベシ、[illegible]ニ、鬼舐頭ト云フ病アリ、サレバ、[illegible]、げぢハ、げしきノ約 リタルナルベシ、げしきハ、今ノ假名暦ニモアリ二節文)

けしずみ (名) [消炭] (一)薪ノ火ヲ消シテ、成レル炭。輕浮ナリ、急ニ火ヲ熾スニ用ヰル。浮炭。 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「柔炭ト消炭ヲ俊ニシテ賣ルハ、オカミサンノホマチニナル」(二)東京ニテ、引手茶屋ノ奴婢ノ渾名。(夜中、何時ニテモおこされる)

げしせん (名) [夏至線] くゎいきせん(回歸線)ノ條ヲ見ヨ。

けしだま (名) [芥子玉] [芥子粒ノ玉ノ意] 模樣ノ名、極メテ細カキ玉ヲ散ラシタル象ナリ。

けしつぶ (名) [芥子粒] 罌粟ノ子ノ粒。極メテ小サキモノニ譬ヘテ云フ語。 狂言記、茶壺「汝等ガ、指ノ腹ニ、けしつぶ程附ケ」

けしとばす (他動)(四) [蹴飛] (次條ノ語ノ他動) (一)蹴飛ス。「跳馬ガ、人ヲけしとばす」 (二)容易ク、口舌ニテ、擊退ス。說破「他ノ論ヲけしとばす」

けしとぶ (自動)(四) [蹴飛] [蹴りとぶノ轉ニテ、平治年間、既ニ、蹴るヲ、四段活用トセシニハアラヌカ、後世ノ語ナレド、捲りたてるヲ、まくしたてると云フ、雲林院、うぢゐ] 蹉跌キ、躍ル。ハネアガル。 平治物語、二、待賢門軍事「惡源太ノ乘リタマヘル馬、云云、右手ノ方へけし飛びテ、小膝ヲ折リテ、ドウト伏ス」

けしとむ (他動)(下二) 消止 他ニ燃エ移ル火ヲ、消シテ止ム。

げしなる (動) 御寢なるノ約。

げしにん (名) [解死人] 下手人ノ條ヲ見ヨ。

けしにんぎやう (名) [芥子人形] [芥子ハ、小サキ義、けしノ條ノ(三)ヲ見ヨ] 極メテ小サキ木彫ノ人形ニ、絹布ノ衣裳ヲ着セタルモノ。豆人形。 雍州府志、七「木偶人、作二男女老少形一施二衣裳一其小者、謂二芥子人形一」

けしね (名) [飯米] [食稻ノ義] 飯トスベキ米。飯米。安房ニテ、米櫃ヲ、けしね櫃ト云フ。 倭訓栞、後編、けしね「東國、西國、共ニ、雜穀ヲ、けしねト云フ、因テ、米びつヲ、けしねびつト云ヘリ」 俚言集覽、けしね「越後、高田ノ在ニテ、飯米ノ事ヲ、けしねト云フ」

〔**けしのか**〕 (名) [芥子香] 護摩ノけしやきノ香。 源、九、葵「御衣ナドモ、タダ、けしのかニ染ミカヘリタマヘリ」 河海抄「邪氣ノ祈禱ノ時、護摩ニ、芥子ヲタクコトアリ、其香、邪氣ヲサクコトト、云云、[illegible]流 其香、御息所ノ衣ニトマルナリ」

けしばうず (名) [芥子坊主] [形ノ圓キヨリ、擬人シタル語、照照坊主、三日坊主ナドト、同趣] (一)芥子殼ノ異名。 小町踊(寬文、立圃)夏、芥子「花ノ雨、かかれトテコソ、罌粟坊主」 (二)スズシロ。ケシガラアタマ。小兒ノ、全髮ヲ剃リテ、頂ニ圓ク、毛ヲ剃リ殘シオクモノ、形、けしがらノ如シ。(淸國人ノ辮髮ヲモ云フ)婦人、小兒ノ語ニ、おけしト云フ。 髻 其左右ニモ削リ殘シオクヲ、ちやんちやんト云フ。 國性爺合戰(正德、近松)二「辮髮頭ノ芥子坊主」

けしん (名) [化身] 佛經ノ語、佛ノ、其本身ヲ化ヘテ、人間ニ顯ハレ、衆生ノ濟度ナドスルコト。觀世音ノ三十三身ニ化身スルナド、是レナリ。 [illegible]、帝釋化身」 著聞集、二、釋教「三井寺ノ公顯僧正、結緣ノ爲ニ、四十九日ノ導師ヲ乞ミニ、兩界曼陀羅、井ニ、阿彌陀ノ像ヲ供養シケリ、云云、夜、僧正ノ夢ニ見侍リケル告ヲ示シテ、去リ給ヒニケリ、勢至菩薩ノ化身トイフ」

けしむらさき (名) [滅紫] 紫ノ色ノ、褪メテ、少シ變リカケタル如キ色。滅紫。

げしや (名) [下車] 車ヲ、下ルコト。下乘。(乘車ニ對ス) 禮記、樂記篇「未レ及レ下レ車、而封二黃帝之後于薊一」 台記、仁平三年七月六日「出御、仍下車蹲レ地、御車過後、乘レ車候二御後一」

けしやう (名) [假粧][化粧] (一)[又、けさう] 紅、粉、ニテ、顏ヲヨソホフコト。カタチヅクリ。ケハヒ。オツクリ。オシマヒ。紅粧 粉飾 宇津保物語、初秋、廿九「御息所、手盥シタル御けしやうヲシオハシマス」 源、廿一、少女「宮、けさうシタマヘル御顏ノ色タガヒテ、御眼モ大キニナリヌ」 枕草子、二、十八段、心ときめきするもの「頭洗ヒ、けさうシテ、香ニ染ミタル衣着タル」 榮花物語、十九、御裳着「齒ぐろめ黑ラカニ、紅赤ウ、けさうセサセテ」「厚假粧 薄假粧」 (二)外見ノカザリ。實地ナラヌコト。虛飾。 常盤太平記(寶永、近松作)「サイタ刀ハ、けしやうカ、伊達カ」「假粧軍」

けしやう (名) [化生] (一)佛語、しやうしやう(四生)ノ一、其條ヲ見ヨ。(二)形ヲ化ヘテ、アラハルルコト。バケモノ。變化。妖怪 類聚名義抄「無而忽現、名二化生一」 謠曲、殺生石「王法ヲ傾ケント、化生シテ來タリタリ」「化生ノモノ」

げしやう (名) [牙象] [象牙ノ象シタリ] 机ノ脚。華足ニ同ジ。ネコアシ。 倭名抄、十六、木器具「机、牙脚者、今所レ謂牙象脚也」 字類抄「牙象、俗云、ケンシヤウ」

げしやう (名) [下姓] 姓ノ、下種ナルコト。種姓ノ、卑キコト。(上姓ニ對ス) 江家次第、二、叙位「若有二下姓者一、令三奏聞一可レ叙二外階一」 今昔物語、廿四、第九語「下姓ノ人ナリト云ヘドモ、[illegible]」

げぢやう (名) [下城] 城ニ出仕シテ、退出スルコト。(登城ノ反)

げぢやう (名) [眼象] げんざう(眼象)ノ條ヲ見ヨ。

げぢやう (名) [解狀] 解ノ狀ヲ見ヨ。

けしやういくさ (名) [假粧軍] [假粧ハ、實地ナラヌ意] 小競合ノ戰。 史記抄、文明十一年「先借二秦軍一ト、先ヅけしやういくさヲシテ試ヨ、ヨクバ、吾レモ行カウズト云フゾ」 淺井三代記、十五、佐和山城攻事「磯野丹波守ハ、云云、若者共二百計、左右ニシテ、云云、信長勢ノ先勢ニ、弓鐵砲ヲ少少打チカケ、化粧軍シテ、城ノ中へ引入ル」

けしやうがは (名) [假粧側] [假粧ハ、飾ノ意、假粧垂木、同意ナリ] 井戸側ノ最上部、地ノ上ニ出デタルトコロ、板モ、厚キヲ用ヰ、鐵箍ナド、ハム。

けしやうがみ (名) [假粧紙] ちからがみノ條ヲ見ヨ。

けしやうだ (名) [假粧田][化粧田] 嫁入ノ時、假粧料トシテ、持參スル田地。ケハヒデン。 民事慣例類集、婚姻「凡ソ富ミタル者、入嫁ノ節、富家ハ簞笥、長持、等、數荷ノ嫁具ヲ運搬シ、貧家ハ風呂敷包一個ヲ携ヘ、其品、多少アリト雖モ、衣類、手道具ヲ持參スル事、一般ノ通例ナリ、嫁具ノ外ニ、金員ヲ持參スヲ、持參金ト稱シ、地所ヲ持參スヲ、持參田畑、或ハ、化粧田ト稱シ、其所有權ヲ、夫ニ移スモノ、或ハ、時ニ、コレ有リト云ヘドモ、多クハ、身體不具、兩親醜惡ノ償料ニ充ルニ過ギズ」

けしやうだち (名) [假粧立] 相撲ニ云フ語、兩力士、立合ヘドモ、呼吸ノ合ハヌ時、氣ヲ變ヘムトテ、立チテ、假粧水ヲ飮ムコト。

けしやうだるき (名) [假粧垂木] 垂木ノ、軒裏ニ現ハレテアルモノ。

けしやうのいた（名）［假粧板］鎧ノ胴ノ前面上部ノ、胸板ト、弦走トヲ界スル、細ソキ横板ノ名、廣サ五分アリ、上ニ、模様アル染革ヲ貼ル。本朝軍器考、九、甲冑「昔ノ鎧ハ、脇楯アレバ、馬手ノ脇ハ合ズ、乳ノ下ヨリ下ノ札四段ナレバ、古物ニモ、四枚胴ナド云ヒケリ、此四枚ハ、前ヨリ射向後マデツラナル、鎧ノ前ノ第一ノ板ヲ、一ノ板トモ云ヒ、胸板トモ云フ、胸板ノ次ヲバ、弦走ノ板ト云フ、世ニハ、假粧板ナド云フ」

けしやうべに（名）［假粧紅］女ノ、假粧ニ用キル紅。（臙脂紅ナドニ對シテ云フ）

けしやうまはし（名）［假粧廻］相撲力士ノ用キルモノ、まはし(廻)ノ條ヲ見ヨ。

けしやうみづ（名）［假粧水］ちからみづノ條ヲ見ヨ。

けしやうめぬき（名）［假粧目貫］刀劍ノ柄ヲ装ヘル鮫皮ノ上ニ打チックル鋲釘。タハラメヌキ。

けしやうれう（名）［假粧料］貴婦人ニ給與セラルル手當金。鏡臺金。粧資

けしやき（名）芥子燒〔倭訓栞、けしの〔か〕「護摩供、云云、魔怨ナドヲ降伏スルニハ、白芥子ナド用ウト云ヘリ、芥子ノ香ヲ併セ見ヨ」〕護摩ヲ修シテ祈ルコト。蜻蛉日記、中、上「けしやきノヤウナルワースレド、ナホ驗無クテ、積經ルニ」源、五十二、手習「忍ビヤカニ、芥子燒くコトセサセタマフ」新猿樂記「修法、芥子燒、有レ驗」

けしやき（名）芥子燒　紅梅燒ノ如キ、方形ノ煎餠ノ面ニ、芥子粒ヲツケタルモノ。

けしやく（名）［挂錫］〔挂ハ、漢音、くゎい、呉音、け、ナリ〕くゎしやく(挂錫)ニ同ジ。

げしやく（名）外戚〔げしゃく、さく、ハ、戚ノ呉音、寂滅、ぢゃくめつ。寂寂し、さくさくし〕又、げさく。外戚ニ同ジ。母方。字津保物語、初秋、五「內しやくニモ、外しやくニモ、なドト云フヤナム、乏シク侍ルニ」榮華記、廿九、文覺八道京上事「文覺ニハ、げしやくニツキタル縁ナリ」同、三十、實盛被討事「內戚、外戚ニツキテ、親類、一門ニ非サル者ナシ」宇津保物語、祭使「二源氏ニオハシマセドモ、げさく、藤氏ニオハシマス」增鏡、七、北野雪「[illegible]兒ニモ物シタマヘドモ、御げさくノ弱キハ、今モ、昔モ、カカルコソ」

げしやく（名）［牙笏］象牙ニテ作レル笏。內藏寮式「元日節會、[illegible]、牙笏、等、云云」

げしやく（名）［下若］酒ノ異名。ぢやうりん(上林)ノ條ヲ見ヨ。

げしやくばら（名）［外戚腹］嫡妻ノ子。[illegible]、七、貫、十中[illegible]、[illegible]ケレニ、內外戚ノ祖父ニテ、舅親、公資、侍ルヲ見テ詠メル「方方ノ、親ノ親ドチ、祝フメリ、子ノ子ノ千代ヲ、思ヒコソヤレ」

げしやくばら（名）［下借腹、外借腹］〔前條ノ語ノ、外戚ナキヲ知ラズ、下借ト當字シテ、サテ、賤シキ意ニ移シタルナラムト云フ〕妾腹ナドニ生レタル子ノ稱。劣リバラ。メカケバラ。庶出　倭訓栞「げしやく「俗ニげしやくばらナド云フハ、外借腹ノ義也ト云ヘリ、庶腹ヲ云フ也」俚言集覽、下借腹、妾腹ヲ云フ、下腹ヲ、おとり腹トモ云メリ」傾城反魂香、寶永、近松作、中「げしやくばらノ娘吾[illegible]」

けシャリ（名）［牙舍利］佛牙ノ舍利。[illegible]、舍利、現住寺持ノ牙舍利ノ御寵好」

けしゆ（名）［化主］〔化導ノ教主ノ義〕佛ノ異稱。阿彌陀ハ淨土ノ化主、釋迦ハ娑婆ノ化主、ト云フガ如シ。太平記、十八、

比叡山[illegible]、[illegible]ハ、九品安養界ノ[illegible]菩薩ノ分身」

げしゆ（名）［下手］下等ノ人。下權。げす。[illegible]、長元四年正月廿八日、[illegible]石集、二、上、第二條「尾張國、熱田ノ社頭ニ、若キ下手男、今年十一月十五日、[illegible]」同、四、上、第一條「下手法師、酒ヲ愛スル有キ、直モナキママニ、一衣ノ片袖ヲ[illegible]」

ゲしゆ（名）［偈頌］偈ノ條ヲ見ヨ。

げしゆう（名）夏衆　[illegible]ケテ、[illegible]ニ、夏ニ參ル人。（一夏安居ヲ併セ見ヨ）[illegible]

げしゆく（名）［下宿］（一）ヤドサガリ。ヤドオリ。（二）豫メ日數ヲ定メテ、旅宿スルコト。（一夜ナルニ對ス）

けジュス（名）［毛繻子］舶來ノ毛織物、滑カニシテ光ルコト、繻子ノ如シ。

げしゆつ（名）［外術］〔外道ノ術ノ義ト云フ〕まほふ(魔法)ノ[illegible]、九[illegible]、京ニ、下衆ト云フ事ヲ好ミ[illegible]法師アリケリ」

げしゆにん（名）［下手人］〔手ヲ下シタル者〕法律ノ語、爭鬪ナドニ、相手ノ中ニ、重手ヲ負ハセタル者ノ稱、其傷、死ニ至レバ、死罪トス。下手人。[illegible]一年[illegible]廿六日、[illegible]二年[illegible]三十日[illegible]名」[illegible]河ノ[illegible]由、仰出サル」後ニ、其殺サレシ人ノ代リニ、自ラ死ニ就ク意ト心得テ、解死人ナド書クハ、誤レリ。運歩色葉集「下死人、[illegible]人、ゲシニン」太平記、廿七、師直[illegible]兵居所[illegible]

「累代ノ家人ニ闘マレテ、下手人ヲ讃出ス例ヤアル」南留別志「下手人ヲ取ルト云フコトハ、律ニ、[illegible]ヲハ、[illegible]コトナルヲ誤リテ、抵死スルコトニ云ヘルナリ」

けしよ（名）［下旬］旬ノ條ヲ見ヨ。

けしよ（名）［下[illegible]］シャ[illegible]

げしよう（名）［下乘］乘物ヨリ、下ルルコト。神社、佛閣、ノ境內ナドノ、車、馬、肩輿、ノ乘打ヲ禁ズル所ニ云フ。（退凡下乘、及、下馬ノ條、參見セヨ）又、貴人ニ[illegible]下乘スルナリ。徒然草、二百一段「退凡下乘ノ[illegible]」

けしらみ（名）［毛虱］つびしらみニ同ジ。

け・す・ス・セ・サ・シ・セ（[illegible]）［着］〔着るノ敬語[illegible]〕[illegible]衣ノ」（共ニ、けすノ完了ナル、けせりノ連體形ナリ）

け・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［消］〔きやすノ約、雪消、ゆきげ〕（一）燃ユルヲ、止ム。消ツ。キヤス。「火ヲ消す」（二）無クス。[illegible]（三）[illegible]「墨ニテ、文字ヲ消す」（四）禁ム。ツブス。絶ユルヤウニナス。滅「人口ヲ消す」肝ヲ[illegible]「老少共ニ魂をけし、鳥獸モ悉ク心ヲ迷ハス」

げし（名）［下司］シタヅカサ。卑シキ官

人。下司。源、廿二、玉蔓「筑紫ノ國ニ、二十年バカリ經ニタル、げすノ身ヲ」宇治拾遺、二、第五條「門ヲ、オビタダシク叩キケレバ、下司出デ來テ」

げす (名) [下種・下衆] 〔下下ノ種姓ノ義ナラム〕(一)身分卑シキ者。下賤。(上種ニ對ス) 源、四十四、橋姫「アヤシキげすナド、田舍ビタル山賤ドモノミ、稀ニ、馴レ參リツカウマツル」枕草子、三、廿八段、似氣なきもの「げすノ、紅ノ袴着タル」建武元年落書「下衆、上﨟ノ、際モナク、大口ニ着ル、美精好」 (二)卑シキコト。鄙劣「下種根性」「下種バル」

げ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [解] 〔げハ、解ノ呉音〕(一)解ク。心ニ、分ケ知ル。理解ス。「其理、解し難シ」(二)消ス。除ク。「毒ヲ解す」

げすげす・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [下種下種] 〔次次條ノ、げすし(下種)ヲ重ネテ、意ヲ強クス、鬼しき、鬼鬼しき。喧しき、かまかましき、同趣〕 甚ダ、卑シ。源、四十九、東屋「イトムクツケク、げすげすしき女トオボシテ」

けすさま・じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク (形、二) [氣凄] 〔けハ、接頭語〕 何トナク、スゴシ。すさまじニ同ジ。枕草子、三、廿八段、にげなきもの「此君コソ、ウタテ見ニクケレ、コト人ノヤウニ、誦經シ、歌唄ヒナドモセズ、けすさまじナド譏ル」

げす・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [下種] 〔下種ヲ活用ス、鬱陶し、骨骨しナド、同趣〕 下種ラシ。卑シ。ゲスゲスシ。賀茂保憲女集「賢キハ高キ人ト成リ、ヲサナキハげすしき身ト定メケル」曾我物語、七、母の勘當許さるる事「色黑ク、げすしく見ユル」

けすぢ (名) [毛筋] (一)髮ノ毛。「けすぢ一本、亂レヌ」(二)極メテ、細小ナルコト。毫末「けすぢホド」(三)髮ヲ梳リタル痕。髮理「毛筋タテ」

けすぢたて (名) [毛筋立] 〔古ヘノかみがきナリ〕 小サキ櫛。髮ノ毛筋ヲ正スニ用ヰル、柄、細ソクシテ、甚ダ長シ。ケスヂボウ。

けすぢぼう (名) [毛筋棒] 前條ノ語ニ同ジ。

げすにん (名) [下手人] げしゅにんノ條ヲ見ヨ。

けずね (名) [毛髓] 〔髓ハ、臑、脛、ト同意〕 其人ノ性トシテ、髓ニ、毛ノ、多ク生エタルモノ。毛脚。

げすば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [下種張] 〔欲ばる、意地ばる、同趣〕 鄙劣ニ、振舞フ。多クハ、食ヲ食ルニ云フ。(いやしん坊、くひしん坊ナドト、意、通ズ) 七偏人(安政、梅亭金鵞)初編、上「際ドイ所デ、下卑ばるナヨ」(立チザマニ、ツマミ食ヒシタルナリ)

げすぼうこう (名) [下種奉公] 卑シキ奉公。奴僕ノ勤メ。嫗山姥(正德、近松作)一「賤シキ下種奉公」

けすらひ (名) 樣子。ソブリ。無名祕抄「腰ノ句ヨク續ケテ、言葉ノ休メニ置キタルハ、イミジク歌ノ品モ出デキ、フルマヘルけすらひトモナルナリ」

けすら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [擬] クラブ。ナズラフ。新拾遺集、廿、雜、下「夕凪ニ、ホヅツシメ繩、クリサゲテ、トマリけすらひ、寄スル船人」賀茂翁家詞、齋園ノ有樣「若キ衞府ノ公卿、殿上人ナドハ、興アル業ニ、思ヒけすらひタルメリ」

けずり (名) [酒] 〔酒ヲ、けんずゐト云フ(玄水ノ條ヲ見ヨ)けんずゐ、けずゐ、けずり、ト轉ジタル語ナリ(懸念、けねん。雲林院、うぢゐ)現今モ、東京ノ大工ノ仲間ニハ、此語ヲ用ヰテアリ、大工ナレバ、人人、此語ヲ、削ニ思ヒ寄スルナリ〕 酒ノ異名、大工ノ語ナリ。物類稱呼(安永)四、酒「畿内ノ番匠ノ詞ニ、閒水ト云フ、今ハ、けづりトモ云フ、江戶ニテモ、番匠ハ、けづりト云フ」

けずりともだち (名) [酒徒] 前條ヲ見ヨ。酒飲友達ヲ、けずりともだちト云フ。酒徒 東海道中膝栗毛、享和、一九、初編、上「近所ノ削友達ガ打寄テ」俚言集覽、けづりともだち「酒飲仲閒ヲ云フ」

げすゐ (名) [下水] (一)雨水、又ハ、臺所、風呂場、ナドヨリ流シ棄ツル汚水ナドノ稱。(上水ニ對ス) 運歩色葉集「下水」甲陽軍鑑、十、下、品第三十三「御閑所(便所ノコト)、云云、御風呂屋緣ノ下ヨリ樋ヲカケ、御風呂屋ノげすゐニテ、不淨(糞尿)ヲ流スヤウニ遊バシ」 (二)下水ヲ流ス溝。下水道。

げすゐた (名) [下水板] 下水板ノ略。下水ノ溝ノ上ニ蓋フ板。ドブイタ。倭訓栞、げすゐ「下水ノ音也、げすゐいたモ、下水板也」

げすゐだう (名) [下水道] 下水ヲ流シ遣ルタメニ、布設スル排水管、排水路。(上水道ニ對ス) 享保集成絲綸錄、四十二、寛文元年五月、覺「下水道、其邊之面面、月番役ニ致シ、切切、淩候樣ニ可レ被二申渡一事」

げすをとこ (名) [下種男] 下種ナル男。奴僕。盛衰記、四十二、六條北政所使逢義經事「立文持チテ、足早ニ行ク下種男アリ、京家ノ者ト見ユ」

げすをんな (名) [下種女] 下種ナル女。下婢。源、廿二、玉蔓「樋洗メク者、フルキげすをんな二人バカリ、トゾアル」

けせう (名) [顯證] けんそう(顯證)ノ條ヲ見ヨ。

けせううた (名) [戲笑歌] 俳諧歌、狂歌、ノ類。續詞花集、廿、戲咲「紅葉葉ヲ、尋ヌル旅ニ、アラネドモ、ニシキヲノミモ、身ニ着ツルカナ」コマゴマト、カク玉章ニ、コトヨセテ、クル初雁ノ、數ゾヨマルル」

げせつ (名) [下說] 下下ノ者ノ云フ所ノ說。下世話。順德院御記、承久三年「下說、源氏歌ハ劣也、狹衣ノ歌コソヨケレト云フ人アリ」盛衰記、廿二、佐殿遭三浦一事「食ヲ願ハバ[illegible]ト云フ、下說ノ喩アリ」

げせつ (代) [下拙] 自稱ノ代名詞、謙稱ニ云フ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「下拙コトハ、狩野ノ四郎二郎元信ト申ス、僅ノ繪書」

げせん (名) [下賤] 下種。イヤシキコト。身分ノ、低キコト。卑賤。左傳、襄公廿九年「閽」杜註「守レ門者、下賤非レ士」太平記、廿七、雲景未來記事「高貴、淸花モ、君主、一人モ、共ニカヲ得ズ、下輩、下賤ノ士、四海ヲ呑ム」

げせん (名) [牙籤] 象牙ノ小札ニ、書物ノ外題ヲ記シ、書物ノ帙ノ外ニ下ゲテ、目標トスルモノ。

け・せる (動) 着すノ條ヲ見ヨ。

げ・せる・セル・セレ・セ・セ・セヨ (他動、下一) [解] 〔解し得るノ約〕 解スコトヲ得。能ク理解ス。「其意味ガげせタ」

げせわ (名) [下世話] 〔世話ノ條ヲ見ヨ〕 下說。民閒ノウハサ。世俗ノ話。春花五大力(寛政、[illegible])「[illegible]下世話ニテイフ、智慧ツケノタメ」

けそう (名) [顯證] けんそう(顯證)ノ條ヲ見ヨ。

けそく (名) [華足] 〔華やかニ飾レル脚

ノ[illegible]ニ云ヘリ、(二)[illegible]、花、香、燭、臺、ナドノ脚ノ、彎曲ニシテ、雲形ナド、彫リタルモノ。今云フ、ねこあしノ如シ。[illegible]（沈香）ノけそくノ机ニスヱテ、佛ノ大御、同ジ樣經ノ上ニ飾ラレタマヘリ」(經文ナリ)紫式部日記「[illegible]シクシテ」(二)佛供ノ盛物ノ臺。供養ノ、[illegible]小[illegible]ノ如シ、[illegible]云ヒ[illegible]フ」(三)[illegible]供ノ[illegible]、くハ、菓子ナドヲ云フ。(盌ノ、水ニ、櫛ノ、御饌ニ[illegible]リタル[illegible]ナリ)[illegible]けそくトモ云フ」[illegible]供シタル品ヲ、をけそくト云フ」

げそく (名) 下足 [illegible]脱ギ捨テタル履物。

げそくばん (名) 下足番 客ノ下足ヲ預カリ守ル者。

げそくれう (名) 下足料 下足番ノ申受クル賃料。

けぞめぐすり (名) 毛染藥 白赤髮ヲ染メテ黑クスル、液體ノモノ、又ハ、粉藥。

げそり (副) 〔又、げっそり、げそハ、けざやか、けさけざノけざノ轉(ささめく、[illegible])浮、うっかりナドノ例、らノ條ヲ見ヨ、かななほし「物ノ、けざやかナルコトヲ、けざりト云フコト、如何」〕物ノ、俄カニ、見遁ヘル程ニ減ル狀ニ云フ語。げっそり。[illegible]

けた (名) 方 〔角ト通ズルカ、赤、あけ。[illegible]いたはし、いとほし」〕角アル形。四角。

けた (名) 桁 〔方ノ義、縱横ニ打交フル意〕(一)〔南向キノ家ニ、南北端ノ列柱ノ上ニ、東西ニ互ス材。(梁ト打チチガヒニナル)「梁[illegible]桁行」ニモ云フ、井ニモ、井桁、リ、桁條ヲ見ヨ。[illegible]〕(二)算盤ノ竪ニ、上下ニ互リテ、珠ヲ貫ケル串。(横ニアル木ノ稱ヲ誤レルカ)「一桁違ル」けたが外れるト云フハ、勘定ニ合はぬト云フ意ナリ。

げた (名) 下駄 〔下ハ、低キ意カ、駄(駄ハ、俗字)ハ、足板ヲ、足駄ト書クヨリ移レルカ(倭訓栞、げた「木履ヲ云フ、下踏ノ音ニヤ」踏ノ字ハ、踏皮ナドトモ用ヰラル、北[illegible]、僧侶ノ所用ニ始レルモノカ、然レドモ、偈陀ノ、歩行ノ義ヨリ名ツケタリト云フハ、鑿ナルベシ」〕(一)ヒラアシダ、[illegible]、齒ノ低キモノ。ヒヨリゲタ。義經記、三、書寫山炎上事「武藏坊ガ頬ニ、ニクダリ、物ヲ書キタリケリ、片頬ニハ、あしだト書ク、[illegible]ニハ、[illegible]下駄ニハ、[illegible]モアガラズ」ト書付ケテ、云云」(二)一木ヲ刳リテ、齒ヲモ、造附ニシタル履物。「駒げた」ボクリげた」ゴメンげた」ザウリげた」

けたい (名) 懈怠 オコタルコト。ナマケ。又、けだい。韓非子、說林、下篇「將軍不[illegible]」[illegible]四十九、東屋「今ノ御モ、イト懈怠シテ參ラセ給ヘル」同、五十、浮舟「サルベキ男ドモハ、けたいナク催シサブラハセ侍ルヲ」

けたい (名) 希代 〔希代ノ轉(希有)京畿ニテハ、きヲ、けト云フ、狐ヲけつねトモ云ヒ、出來ヲ、でけるナド云フ、けったいト云フハ、急呼ナリ、奇怪、きっくワい。餓鬼、がき」〕又、けたい。奇妙、不思議。(京畿) 浮世草子(文化、三年)[illegible]上、サイロクヲ、ゼエロクト、けたいナ[illegible]キギャナア」「けたいナ物」けったいナ事」

けだい (名) 華臺 〔蓮華臺ノ略〕蓮臺ニ同ジ。

けたい (名) 假諦 佛經ノ語、三諦三觀ノ條ヲ見ヨ。鴉鷺合戰物語、頸トイフハ、現在未佛けだい假身如來」

けだい (名) 懈怠 けたい(懈怠)ニ同ジ。

げだい (名) 外題 (一)ウハブミ。表題。書物ノ名ヲ、表紙ノ上ニ記セルモノ。表題。題簽。冊題 伊勢大輔集「ソノ人亡クテ、後ノワザノ[illegible]外題、四條中納言ニ書カセ[illegible]エシニ」(二)轉ジテ、物ノ標トシテ揭グル名稱。題號

げだいがくもん (名) 外題學問 多ク、書名、書目、ノミ知リテ、書中ノ意義ヲ究メヌヲ嘲リ云フ語。俚言集覽「外題學問「本居學問ニ同ジ」

げたいん (名) 下駄印 〔中間ヲ凹クシテ、下駄ノ二齒アル形シタリ〕一ツノ村ニ、二ツノ印ヲ連ネテ彫リツケタルモノ、長方形ヲナス。

けたう (名) 毛唐 けたうじん(毛唐人)ノ略。其條ヲ見ヨ。

けだう (名) 化導 〔感化、教導、略〕教化シ、引導スルコト。教ヘ導クコト。盛衰記、八、法皇三井灌頂事「山王ノ化導、[illegible]受[illegible]頂ノ[illegible]メ也」太平記、廿六、[illegible]「[illegible]ヲ建テ、化導、利生ヲ事ニシ給フベシ」

げだう (名) 外道 〔外法ト、同意〕(一)佛教ニテ、己ガ修ムル道ノ外ノ道ヲ呼ブ語。佛教外ノ教學。佛教ニ云フ、異端ナリ。法華經、[illegible]持品「[illegible]外道[illegible]」[illegible]心外求法、名爲外道」[illegible]上、[illegible]げだうノ娘ニモ、佛ハ、ハカラレ給ハザリケルモノヲ」(二)外道ヲ信ズル者ヲ、惡魔ト見テ、憎ムヨリシテ、スベテ、我レニ反對スル者ヲ罵リ呼ブ稱呼。(三)里神樂ナドニ用キル、惡魔トモ云フベキ、獰猛キ相貌ノ假面ヲ、外道の面ト云フ。

けたうじん (名) 毛唐人 〔唐人ハ、外國人ノ意、邪人ハ、一般ニ、鬚ヲ剃リテ居タル世ニ、鬚ヲ生シテ居ルヨリ呼ベルナリ〕外國人ノ稱呼。支那人、阿蘭陀人、他ノ歐洲人、共ニ云フ。[illegible]ニハ、賤メテ呼ブ意ノ語トナル。略シテ、けたう。芭蕉ノ句「乾鮭ヤ、何ガシ殿ハ、毛唐人」[illegible]先生ノ集「蜀山人ニ「毛唐、陳奮翰、子角石」

げたうち (名) 下駄打 〔支那ノ遊戯ノ擊壤ニ、其用ホル木ノ形、履ノ如シトアルニ就キテ、訓ジタル語ナルベシ〕遊戯ノ名、ねっきニ同ジ。擊壤 和漢三才圖會、十七、[illegible]「[illegible]古戲也」

げたがけ (名) 下駄掛 道路ナドニ、草鞋ナラデ、下駄ハキテ行クコト。春花五大力[illegible]、五幕「[illegible]下駄がけニテ、ブラ提灯ヲ點シ」

けだかし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 氣高 ココロダカシ。氣品、高シ。品格、タエマサリタリ。上品ナリ。(人ノ風采ナドニ云

フ〕 昂昂然 宇津保物語、國譲、下四十九「宮ハイト、ラウラウシウけだかく、物物シキ顔シテ居タマヘリ」 榮花物語、八、初花「御顔ノカヲリメデタク、けだかく愛敬ヅキテ」

けたくり (名) 桁繰 〔十呂盤ノ桁ヲ動カス意〕 (一)徳川幕府ノ使番ナドノ、雇ヒオキテ、日日、江戸城、中ノ口部屋ニテ、組中ノ番割ヲ繰リテ、割リ定メ、ソレゾレニ通達スルヲ勤メトシタルモノ。(二)小身ノ旗本ノ家ナドニテ、雇入レノ用人ノ、會計ナド掌リシ者ヲ渾名シテ、けたくり用人ナド云ヒキ。

けたぐり (名) 蹴手繰 相撲ノ手ノ名、手繰込ノ條ヲ見ヨ。

けたくりようにん (名) 桁繰用人 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

げたげた (感) 馬鹿笑ヒスル聲ニ云フ語。「氣狂ガ、げたげた笑フ」

けだし (名) 蹴出 〔裾ノ蹴返ニ出す意カ、けかへしノ條ヲ見ヨ〕 女ノ衣服ノ内ノ、湯具ノ上ニ巻キテ着ルモノ、染模様ノ布帛ニ、裏ヲツケテ製ス、コレハ、上着ノ裾ノ損ゼムヲ厭ヒテ、上ヘ折リカヘシテ歩ムニ、足ノ現ハルルヲ防グモノナリ、文化ノ頃ヨリ行ハル。(嬉遊笑覧、二)

〜けだし (副) 蓋 蓋蓋 〔氣憾ノ義、憾氣ノ意ナラムト云フ、たし(憾)ノ條ヲ見ヨ〕 若シ斯クモアラムカト、推シ定ムル意ニ云フ語。モシモ。モシクハ。定メテ。 神代紀、上十四「其中、蓋有レ國乎」 字鏡「倘、設也、若也、太志」 萬葉集、二十四十一「古ヘニ、戀フラム鳥ハ、霍公鳥、蓋ヤ鳴キシ、吾ガ戀フルゴト」 同、四四十八「夜晝ト、云フ別知ラズ、吾ガ戀フル、心ハ蓋、夢ニ見エキヤ」 同、十五卅「吾ガ夫子ガ、氣太之ノ罷ラバ、白栲ノ、袖ヲ振ラサネ、見ツツ偲バム」 此語、けだしくトモ用キラル、形容詞ニ活用セサセタルモノカ、若シヲ、もしくえトモ用キル類カ。 萬葉集、十二廿七「人目多ミ、直ニ逢ハズテ、蓋雲、吾ガ戀ヒ死ナバ、誰ガ名ナラムモ」 同、十七四十六「氣太之久毛、今フコトアリヤト、足引ノ、此ニ、鳥網張リ」(遇レタル鷹ニ云フ) 詩經、小雅、都人士之什、采芭篇、正義「蓋者、疑辭」 禮記、檀弓、上篇「蓋有ト受レ我厚レ之者」正義「蓋者、意有レ疑退、不レ敢指斥、事雖レ不レ疑、亦云レ蓋也」 倭訓栞、けだし、蓋 性理群書ノ補注ニ、不レ敢決レ辭ト云ヘリ」

〜けだしく (副) 蓋蓋 前條ヲ見ヨ。

けだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 蹴出 (一)蹴テ、出デシム。 狂言記、腥夜盗「藪ヲけ出しテモ、アノ様ナ男ハ、二人ヤ三人ハ、け出すれドモ」 (二)金銭ノ受拂ヒヲシテ、剰餘ヲ生ゼシム。(此語、或ハ、十呂盤ノ桁ヲ活用セシメタルナラムカ、勘定ニ、桁繰ト云フ語アリ)

けたたま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔けたましヲ、強ク云フ語カ〕 俄カニ立チ騒グ貌ニ云フ語。アワタダシ。急遽。 生玉心中(享保、近松作)上「早ウハヤウト急キックル、アア心モトナイ、けたたましい、何事ガ起ッタ」 倭訓栞、けたたまし「俄ニ遽クコトニ云フ、消碎ノ義也」

けたちがひ (名) 桁違 〔十呂盤ノ桁ナリ〕 勘定ノ、カケヘダタリテ、差違アルコト。ケタハヅレ。

〜けた・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 蹴立 蹴テ、起ス。荒荒シク踏ム。 落窪物語、二「カウ、けたつる我ガ殿モ、中納言ニオハシマスナリ」 延慶本、平家物語、三、太政入道他界事「馬、車、馳セチガヒ、上下、騒ギ罵リ、京中ハ、塵灰ニけたてラレテ」「塵ヲ蹴立てテ 馳セ去ル」「席ヲ蹴立てテ立去ル」

げだつ (名) 解脱 〔煩惱ノ束縛ノ解ケ、生死ノ迷苦ヲ脱スル意〕 佛經ノ語、世ノ俗念ヲ脱クルコト。 法華經、方便品「禪定、解脱、三昧、深入二無際一」 翻譯名義集「互細相容、曰隨意、於レ法自在、解脱無礙」 榮花物語、十八、玉臺「如ナリ、寂ナリ、解脱ナリ、乃至、般若波羅密ナリ」

げだつどうさうのほふえ (名) 解脱幢相法衣 〔幢相ハ、幢幡ノ標識ノ義、解脱ヲ求ムル佛道修行者ノ着ル意ナリ〕 袈裟ノ異稱。又、解脱の衣。 平家物語、二、教訓事「三世ノ諸佛、解脱幢相の法衣ヲヌギ捨テテ、忽チニ甲冑ヲ鎧ヒ、弓箭ヲ帶シマサンコト、内ニハ、破戒無慚ノ罪ヲ招クノミナラズ、外ニハ、仁義禮智信ノ法ニモ背キ候ヒナンズ」

けたで (名) 毛蓼 いぬたでニ似テ、葉ニ、圓キアリ、長キアリ、背ニ、白キ毛アリ、初夏ニ、花ヲ開ク、淡紅色ナリ。

✣けた・てる (動) 蹴立つノ口語。

けだに (名) 毛蜹 〔毛ハ、極メテ微小ナル意ナルベシ〕 つつがむしノ一名。

〜けた・ぬ (句) 不消 けつ(消)ノ打消、其條ヲ見ヨ。

けたはづれ (名) 桁外 〔十呂盤ノ桁ヲ云フナリ〕 勘定ノ、合ハヌコト。ケタチガヒ。

けたふし (名) 蹴倒 けおろばしヲ見ヨ。

けたふ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 蹴倒 (一)蹴テ、地ニ倒ス。蹴仆 宇治拾遺、二、第十三條「走リカカリテ、けたふさント、足ヲ甚クモタゲタルヲ」 (二)勘定ヲ拂ハズ。借金ヲ返サズ。フミタフス。タフス。

けだま (名) 毛玉 うまのたま(馬玉)ノ條ヲ見ヨ。

けたま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔消魂ノ活用(魂消る)ニモアルカ、アラヌカ、けたたましト云フハ、此語ヲ強ク云フ語ナルベシ〕 驚クベシ。タマゲタリ。 勸進聖判歌合(天文)廿一番、桂女「名乘リノミ、逢ヘバ上﨟、けたましヤ、汚レ草鞋、蒸レ帷子」

けだ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 酌量ス。内端ニス。 古事談、六、亭宅諸道「此ノ兩人、御棧敷之前、各、けだみテ通リケル」

げだん (名) 下段 (一)下ノ段。下ノ段。 運歩色葉集「下段」 (二)劍術、槍術ニ云フ語、ぢゃうだん(上段)ノ條ヲ見ヨ。

げため (名) 下駄目 〔緒ノ目、三ツアリ〕 車夫ナドノ符牒。三ヲ云フ。

〜けだもの (名) 獸 〔毛之物ノ轉ト云フ(雷モ、厳之靈、手モ、手之從ニテ、濁ル、果モ、木之物ノ轉ト云フ)或ハ、毛肢物ノ約ト云フ、イカガアルベキ、又、けものハ、飼物ノ約ト、古事記傳、十七、ニ云ヘリ(長息、なげき。高市、たけち)〕 身ニ、毛生ヒ、四足ニテ歩ミ、哺乳スル動物ノ總名、多クハ、山野ニ棲ムモノニ云フ。毛麁物。シシ。四足。猿ハ四手ナレド、亦、獸ナリ。同ジ物ニテ、人家ニ飼フヲ、けものト云フ。家畜。畜 神代紀、上十四「鳥獸」 宇津保物語、俊蔭五十「人ノ身ヲ受ケナガラ、イカニ契リナキテ、カク、荒シキけだものノ中ニ、ソレヲ友トシテ、彼レニ翼ハレテ、云云」 源、二、帚木二十六「猛キ國ノ、烈シキけだもの」 神代紀、上十四「蒼生、及、畜産」 皇極紀、三年七月「六畜」 大祓詞「犯レ畜犯」(馬、牛、犬) 倭名抄、十八、毛群類「獸、介毛乃、畜、介太毛乃」トア

ル八、交互ニ誤レルナルベシ。同ジク「牝、米汁毛乃、畜母也」牡、乎介毛乃、畜父也」トアリ、然レドモ、獸、畜、混淆シ、相通ジテ稱シタルガ如シ、今ニ至リテ、然リ。古今集、十九、長歌「古へモ、藥ケガセル、けだものノ、雲ニ吠エケム、心地シテ」(犬ナリ)

けた-ゆき (名) 桁行 〔行きハ、延ビ行ク意カ、衣ニ、裄トモ云フ〕 工匠ノ語、桁ノ長サ、卽チ、棟ノ家ノ長サヲ云フ語。(幅ヲ、梁間ト云フニ對ス)「桁行十間、梁間五間」

け-だらけ (名) 〔だらけノ條ヲ見ヨ〕 一面ニ、毛ナルコト。「けだらけノ足」

けた-る (句) 被消 けつ(消)ノ受身、其條ヲ見ヨ。

けち (名) 結 〔結ノ呉音、碁ヲ打終フルヲ結局ト云フ、結ナリ、弓ニ云フモ、勝負ノ最後ノ決定ノ意ナルベシ〕 (一)圍碁ノ終ハリガタニ、隅隅ナドノ、キマラヌ目ヲ詰メ寄スルコト。コレヲ、けちヲさすト云フ、今、よせト云フ、是レナリ。けちヲ、先手ニさすヲ、結鼻ヲ取ルト云フ、先手ニさせバ、一目ヅツノ得トナルナリ。源、三、空蟬四「碁、打チハテテ、けちさすワタリ、心疾ゲニ見エテ、キハギハシウ騷ドケバ」孟津抄「けちさす、圍碁ノ結也、闕ハ、だ目ヲサスナリ、結ハ、カタムル也」碁聖園碁式(正治)結事「半番過グルホドヨリ、結ヲ心ニカケテ、結鼻ヲ取リテ、敵ニ、一手モ、先手ヲ取ラセジト、次第ヲ案ジツヅケテサス也、云云、能クサセバ、二十目ナドノ負ケヲ、サシヨスルナリ」今、駄目ヲサスヲ、けちさすト云フハ、闕ノ音ニテ、闕目、卽チ、駄目ナリ。(二)賭弓ニ、勝負ヲ定ムルコト。弓の結ト云フ。源、八、花宴十「右ノ大殿ノ弓のけちニ、上達部、御子タチ、多ク集ヘタマヒテ」實方集「弓のけちニ、[illegible]暮ニ、雪ノ降リカカレルヲ」藻鹽草、十七、弓部「弓の[illegible]ち、小弓ノ勝負也」倭訓栞、けち「源氏ナドニ、賭弓ニ云フけちハ、結ノ音也、碁ノだめさす事ヲモ、けちさすト云ヘルモ、亦、同字也」(駄目ナルハ、闕ナリ)

けち (名) 闕 〔けち、くゑち、共ニ、闕ノ呉音〕 (一)けっくゎん(闕官)ニ同ジ。又、くゑち。宇津保物語、嵯峨院、中、六十「除目、云云、大臣けちノ侍ラザランニハ、イカデカハ」同、國讓、中、七十「左ノ大臣、イカデ、此ノ大臣召ノくゑちニ、中納言ニ、思フ人ナサムト思ス程ニ」 (二)碁ニ云フ語。駄目。(前條ノ(一)ヲ見ヨ)

けち (名) 怪事 〔倭訓栞、けち「アヤシキ事ニ云フハ、恠事ノ音轉也」(履子、けいち。皀角子、さいかち。うるしね、うるち。弟子、丁稚。私、わっち)〕 (一)怪シキコト。不吉。不緣起。緣起ノ惡クナルヲ、けちがつくト云ヒ、惡キヤウニスルヲ、けちをつけるト云フ。(二)怪事ヲ恐ルルヨリシテ、臆病。卑怯。(俚言集覽、けち「俗ニ、小事ニ拘ルヲ、けちナ事ト云フ、駿河ニテ、氣弱ヲ云フ」) 卑劣(「けち臭イ」「けちナ根性」) 卑劣ナルヨリシテ、些少ノ費ヲ惜シムニ、重ネテ、副詞ニ用キテ、けちけちするト云フ。(三)轉ジテ、吝キコト。吝嗇。ケチンバウ。シハンバウ。浮世風呂、文化、三馬、二編、上「江戸チャア、ソンナけちナ事ハ流行ラネエノサ」

け・ち (動) 消 けつ(消)ノ條ヲ見ヨ。

げ-ち (名) 下地 下等ノ地位。シモノ位地。沙石集、八、下、十六條「下總國ニ、先世房ト云者アリケリ、下地ノ者ナリケレドモ、心樣、尋常ナリケリ」

げ-ぢ (名) 下知 〔下し知らしむる義、下文ナドノ意〕 (一)オホセ。申シツケ。イヒツケ。サシヅ。命令。指揮。下命。文德實錄、一、嘉祥三年四月「宜下知[illegible]」盛衰記、四十二、[illegible]錦六郎ガ[illegible]ニ立テ、己レハ軍モセズ、人ノ舟ヲ下知シテ、軍ハ、トコソスレ、カクコソスレト云ヒケル」 (二)鎌倉幕府ニテ、將軍ノ命ヲ奉ジテ、執權ノ下ス命令。其文書ヲ、下知狀ト云フ、下文ナリ、末文ニ「依レ仰下知如レ件」ナド、記ス。室町幕府ニ下リテハ、奉行人ヨリ下知狀ヲ下セリ、奉書ト、略、似タリ。吾妻鏡、三十五、仁治四年五月廿三日、[illegible]之時、諸人歎申事也、[illegible]引合[illegible]清書之由、云云」沙汰未練書、御下知トハ、[illegible]人相論事[illegible]御成敗ニ下知狀也、又、[illegible]也」

けち-えん (名) 結緣 佛經ノ語、佛ノ道ニ、緣ヲ結ブコト。源、三十五、若菜、下、「カク物シタルツイデニ、戒受ケタマハムヲダニ、結緣ニセムカシ」

けちえん-くゎんぢゃう (名) 結緣灌頂 佛ニ結緣ノタメニ、灌頂ヲ行フコト。增鏡、第八、北野の雪「大殿[illegible]ニモ、西八條ニテ、故東山殿ノ御タメニ、八講行ハセ給フ、關白殿モ、光明峯寺ニテ、結緣灌頂トリ行ハル」

けちえん-よ (副) 掲焉 イヤチコニ。著ジルク。キハヤカニ。[illegible]館、掲焉中峙[illegible]其左ニ[illegible]物語、一「[illegible]ノ[illegible]ハ、[illegible]シキ[illegible]モ、カシカマシク[illegible]バ、けちえんニ褒ムル心ザマナレバ」源、廿一、少女九「夜ニ入リテハ、ナカナカ今少シけちえんなる火影ニ、サルガウガマシク佗シゲニ」榮花物語、三十一、殿上花見「此フタトコロノ御ヤウニハ、エオハシマサズナド[illegible]けちえんに[illegible]給フ」

け-ぢか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 氣近 〔けハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 ちかしト云フニ同ジ。(けどほしニ對ス) 六帖、二、下消[illegible]ノ、[illegible]、冬ナガラ、春ノけぢかき、心地コソスレ」後撰集、十三、戀、五「今ハハヤ、深山ヲ出デテ、時鳥、[illegible]」[illegible]語、上「女ニ、けぢかく物ナド言ヒテ」

げ-ぢき (名) 下直 〔高直ニ對ス〕 直段ノ、低キコト。價ノ、ヤスキコト。安直。[illegible]「百バカリニナリマスマイカ、云云、ソノ樣ナ下直ナ物デハナイ、ヨウ、御買ヤルマイゾ」甲陽軍鑑、九、下、[illegible]ニモ申マジ

げ-ぢく (名) 牙軸 卷物、掛物、等ノ軸ノ、象牙ニテ作レルモノ。[illegible]ベシ」

けち-くさ・い (形) 卑劣 けち(怪事)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

けち-ぐゎん (名) 結願 〔願ヲ終結スルナリ〕 (一)日數ヲ定メ、佛ニ立願、[illegible]ドシテ、果テタル日。結願日。[illegible]「結願乞三本情一」源、十、榊十「果ノ日ハ、我ガ御事ヲ結願ニテ、世ヲソムキタマフ由、佛ニ申サセタマフニ」枕草子、四、四十三段、とりもてるもの「御導經ノけちぐゎんニテ、宰相中將ノ、御物忌ニ籠リタマヘルニ」 (二)轉ジテ、數日續キタル講釋ナドノ、[illegible]終ヘタルコト。[illegible]二年十月廿一日[illegible]卿申レ之」十二月十四日「今日日本紀講尺、結願也」

けち-げ (名) 結夏 けつげ(結夏)ニ同ジ。

けち-けち (副) 卑劣 けち(怪事)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

げ-ぢ-じゃう (名) 下知狀 げぢ(下知)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

げぢのことば (名) [下知詞] 命令形ニ同ジ。希求言。

けちばな (名) [結鼻] けち(結)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

けちばん (名) [結番] 組ヲ立テテ、交替シテ、勤メニ當ルコト。ケツバン。保元物語、一、將軍塚鳴動事「日夜ニ結番シ、禁闈ヲ守リタマフ」盛衰記、九、山門堂塔事「堂衆ト申スハ、云云、三塔ニ結番シテ、云云、佛ニ花奉リシ輩也」

けちみゃく (名) [血脈] チスヂ。ケツミャク。血系。

けちみゃく (名) [血脈] 〔父祖、子孫ノ血脈相續ノ如ク、法脈ヲ相續スル意ナリ〕(一)佛教ノ語、又、法脈ト云フ。佛祖ヨリ授カリタル法門ニ、外道ヲ混ゼズ、正シク、師弟ノ間ニ、代代、相傳スルコト。師資相承。法門傳承。盛衰記、五、澄憲賜二血脈一事「一心三觀ノ相承血脈ヲ授ラル、云云、相承、師資ナラズ、血脈、法燈ヲ守ル」(二)血脈ヲ受ケタル者ニ授クル、相承ノ系譜。盛衰記、五、澄憲賜二血脈一事「僧都ハ、血脈ヲ賜ハリテ、法衣ノ袖ニ裹ミツツ」

げぢん (名) [外陣] 内陣ノ條ヲ見ヨ。

げぢん (名) [解陣] 禁中ニ、警固ノ陣ヲ立テタル時、事、畢リテ、其陣ヲ解カルルコト。内裏式、上「使下内豎喚二諸陣一解陣上」名目抄「解陣」

けちんばう (名) [吝嗇坊] 〔吝坊ノ音便(弱坊、よわんばう。賤坊、いやしんばう)けち(怪事)、及、ばう(坊)ノ條ヲ見ヨ〕吝嗇キ人ヲ呼ブ卑語。シハンバウ。

けぢめ (名) [差別] 〔結目ニテ、碁ノ結ヨリ、別目ノ意カ、或ハ、掲焉ノけちカ〕ワカチ。ワイダメ。ワケメ。區別。伊勢物語、六十三段「世ノ中ノ例トシテ、思フヲバ思ヒ、思ハヌヲバ思ハヌモノヲ、此人ハ、思フヲモ、思ハヌヲモ、けぢめ見セヌ心ナムアリケル」源、二、帚木「劣リ、勝ル、けぢめ、フトシモ、見エワカレズ」同、三十四、下、若菜、下「廂ノ中ノ御障子ヲハナチテ、コナタ、カナタ、御几帳バカリヲけぢめニテ」

げちゃく (名) [下着] クダリ、ツクコト。都ヨリ、田舍ノ地ヘ到リツクコト。保元物語、二、爲義降參事「ソレハ、東國ヘ下着シテノ事ゾカシ」

げぢょ (名) [解除] 祓ニ同ジ。神祇令、大祓義解「謂、祓者、解二除不祥一也」齋宮寮式「卜部解除、神部以二木綿一着二賢木一、立二殿四面及内外門一」

げぢょ (名) [下女] 〔下女(其條ヲ見ヨ)ノ字ヲ音讀シタル語ナルガ、下婢ノ事トナリシナリ〕古言、女奴。ミヅシメ。ハシタメ。家ノ雜事ニ使ハルル女。女中。オサン。下婢。婢。太平記、五、大塔宮熊野落事「内ヨリ、怪シゲナル下女一人、出デ合ヒ」運歩色葉集「下女」

けちらかす (動) [蹴散] 〔次條ノ、けちらすノ一轉、くゆらかすノ語原ヲ見ヨ〕次條ノ語ニ同ジ。義經記、四、土佐坊上二義經討手一事「銚子、土器、けちらかし」

けちらす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [蹴散] (一)又、けちらかす。蹴テ、亂ス。(二)追ひ散らすヲ、勢強ク云フ。延慶本、平家物語、六、末、余一助高射二雨一事「若黨共、係出テけちらせヤ」「數多ノ敵ヲ、けちらしテ」

けつ (名) [決] キメ。サダメ。決定。「決ヲ採ル」

けつ (名) [頁] ぺえぢノ條ヲ見ヨ。字彙全書、[illegible]色式、注「面頁謂二一呈字一」

けつ (名) [結] (一)ムスビ。ヲハリ。終結。(二)詩文ノ末ノ節、句。結節。結句。「起、承、轉、結」

けつ (名) [碣] 〔後漢書、竇憲傳、注「方者謂二之碑一、圓者謂二之碣一」〕碑ノ、形、圓キモノ。通ジテ、碑ヲモ云フ。法書要錄「蔡尚書入二鴻都一、觀二碣十旬不一レ返」「何某先生遺德之碣」

けつ (名) [桀] 支那、三代ノ、夏ノ王ノ名、暴逆ナリシニ名アリ。史記、留侯世家、「此所レ謂、助レ桀爲レ虐」桀の犬、堯ニ吠ゆト云フハ、惡王人ナレドモ、主ナレバ、忠ヲ盡スヲ云フ。鄒陽、獄中上二梁王一書「桀之犬可レ使レ吠レ堯」史記、淮陰侯傳「跖之狗吠レ堯、堯非二不仁一、狗固吠レ非二其主一」「跖ハ、盗ナリ」

けつ (名) [闕缺] 〔欠ノ字ヲ用キルコトアルハ、闕ノ省字ナリ、あくびノ欠ト、異ナリ〕闕ケタルコト。足ラヌコト。

けつ (名) [橛] (一)門ノシキミ。閾。(二)壇上ノ四隅ニアル小柱。下學集、下、器財門「橛、眞言壇上、四隅之小柱」左傳、襄公元年「以レ閾、好結、信、[illegible]、闕」

けつ (名) [尻] 〔尻ノ穴ノ音讀ヨリ移リタル語カ、卑語ニ、肛門ヲけつめどト云フ〕卑語ニ、ゐさらひヲ云フ。キシキ。

けつ ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) [消] 〔けすニ通ズ、放す、はなつ。寸斷、つたつた〕(一)けすニ同ジ。キヤス。源、四十一、匂宮五「世ハ、タダ、火ヲ消ちタルヤウニテ」伊勢物語、三十九段「消ちモ、消ちナンズ」字鏡「[illegible]、火滅二消ノ皆」火介知乎佐年」伊勢集「イタヅラニ、溜ル涙ノ、水ナラバ、コレシテけてト、言ハマシモノヲ」六帖、四「置ク露ヲ、けたデ玉トハ、ナシツトモ、人ノ心ヲ、イカガ頼マム」(二)劣ス。ケナス。悪ク云フ。源、四十九、東屋「[illegible]ヨキ人ハ、人ヲけつコソ惜ケレ、云云、宮ヲバけちタテマツラム、ナドモ云フホドニ」(三)オシノケル。壓倒ス。爲忠百首、下「小夜深ケテ、庭オモシロク、照ル月ヲ、けたレニケリナ、庭ノ初霜」

げつ (名) [月] ツキ。グヮツ。(年月ノ月ニ云フ、下ニ、熟語トシテノミ用キル)蘇軾詩「酒來三月食無レ鹽」「一月」「二月」「三四箇月」

けつい (名) [決意] 決心ニ同ジ。宋史、呂端傳「小事糊塗、大事不二糊塗一、決レ意相レ之」

けついん (名) [訣飲] 訣別ノ酒ヲ飲ムコト。「某從ニ訣飲ス」

けついん (名) [血胤] 血系ノ子孫。

けつうん (名) [血暈] チブルヒ。

げつうん (名) [月暈] ツキノカサ。史記、天官書「漢之興、云云、月暈參畢七重」

けつえい (名) [缺盈] カクルコトト、ミツルコト。盈缺。太平記、廿、[illegible]事「有二源家譜爾尊氏直義一無二忠貞一大逆[illegible]官[illegible]自恣越泝之[illegible]不顧缺盈之天眞[illegible]之義[illegible]之心一」

げつえう (名) [月曜] ぐわちえう(七曜)ノ條ヲ見ヨ。

けつえき (名) [血液] 脈ヲメグル血汁。

けつえき (名) [闕掖] 〔掖ハ、正門ノ左右ノ小門〕宮中。禁闕。禁掖。宮掖。王充、[illegible]

けつえき (名) [闕腋] ワキアケノコロモ。常ニ連讀ニシテ、けってきト讀ム、はう(袍)ノ條ヲ見ヨ。

けつえん (名) [血緣] チスヂ。

けつえん (名) [訣宴] 訣別ノ酒宴。別宴。

けつえん (副) [闕焉] カケテ、足ラザル

[illegible]

けっか (名) 闕下 禁闕ノモト。皇居。[illegible]

けっか (名) 決河 堤ヲ決シテ、河水ノ[illegible]

げっか (名) 月下 月ノ光ノ下。賈島詩「鳥[illegible]」

けっかい [illegible] (一)[illegible]

[illegible]一錢ヲ紅白ノ紙ニ包ム、コレヲ、字ト云[illegible]

けっかい (名) 結界 (一)佛法ニ、衣、食、人[illegible]ノ登山スルヲ禁ジテ、女人結界地トシタリ。[illegible]（伊豆山權現ノ境内ナリ） (二)轉ジテ、スベテ、内外ヲ[illegible]スルコト。

[illegible]ノ條ヲ併セ見ヨ）

げっかい (名) 月界 月世界。月球界。

けっかいせき (名) 結界石 かいだんせき（戒壇石）ニ同ジ。

けっかいち (名) 結界地 けっかい（結界）ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

けっかう (名) 血行 體内ニ於ケル、血液ノ[illegible]

けっかう (名) 決行 決斷シテ、行フコト。斷行。「一大事ヲ決行ス」

けっかう (名) 桔槹 [illegible]

けっかう (名) 頡頏 [illegible] 勢力ノ、相上下スルコト。優劣ナキコト。ハリアフコト。（頡頏ヲモ見セヨ）[illegible]

けっかく (名) 結核 （核ヲ結ぶハ、患部ノ、凝リムスボホルコト） 一種ノ黴菌ノ名、結核菌ト云フ、人體中ニ寄生スル所ニ因リテ、肺結核、腸結核ナドノ病トナル。肺結核ハ、結核菌ノ、空氣、或ハ、食物ト共ニ、肺ノ組織中ニ入リ、次第ニ[illegible]

げっかく (名) 月客 げっけい（月卿）ニ同ジ。

げつがく (名) 月額 一ケ月ニ就キテノ定額 月月ノ金高。[illegible]

けっかくきん (名) 結核菌 けっかく（結核）ノ條ヲ見ヨ。

けっかつ (名) 桀黠 狡智ノ、人ヨリ過グレタルコト。ワルガシコキコト。漢書、[illegible]傳「桀黠無」所」畏」

げっかひょうじん (名) 月下冰人 （月下老人ト、冰上人トノ略、故事ハ、出處ヲ見ヨ） 婚姻ヲ取リ持ツ人。媒妁。[illegible]（コレハ、月下老ノコト） 晉書、索紞傳「索紞字叔徹、[illegible]」（節文）（コレハ、冰上人ノコト）

けつがふ (名) 結合 ムスビアフコト。結託スルコト。

けっかふざ (名) 結跏趺坐 （跏ハ、足ノ裏ナリ、趺ハ、足ノ表ナリ、足ノ表裏ヲ結ビテ坐するナリ、圓滿安坐ノ相ト云フ） 如來ノ坐相ノ名、[illegible]右足ヲ左股ノ上ニ、左足ノ末ヲ右股ノ上ニ、[illegible]コト。[illegible]上堂「文殊ハ禪床ニ上リ、結跏趺坐シテ、大日ノ印ヲ結[illegible]」

けっかん (名) 缺陷 缺ケテ、不足セルコト。十分ナラヌコト。不備。[illegible]

げっかん (名) 月刊 毎月、刊行スルコト。（日刊、週刊、ナドニ對ス）「月刊ノ雜誌」

げっからうじん (名) 月下老人 （月下冰人ノ條ヲ見ヨ） ムスブノカミ。

✻けつかる [illegible] （語原、詳ナラズ、けつハ、尻、[illegible]ニテ、居[illegible]） 居ルヲ、[illegible]云フ卑語。「知ラヌ顔シテけつかる」

けっき (名) 血氣 (一)血ト、氣ト。人ノ生キテ居ルコト。生命。中庸「凡有血氣者、莫不尊親」 (二)少年ノ、血ノ湧ク如ク、壯ンナル氣象。又、氣ノ、ハヤリカナルコト。物ニハヤル心。客氣。[illegible]

けっき (名) 決起 キッパリト、起ツコト。勢ツヨク起ツコト。莊子、逍遙遊篇「我決起而飛[illegible]」

けっき (名) 蹶起 蹶立テテ、起キアガルコト。[illegible]

けっき (名) 譎詭 (一)イツハリ、アザムクコト。詭詐。[illegible] (二)物事ノ、奇異ナ

ルコト。史記、司馬相如傳「奇物譎詭、俶儻窮變」

けつぎ (名) 闕疑 疑ハシキコトハ、措テオクコト。論語、爲政篇「多聞闕疑、愼言其餘則寡尤」

けつぎ (名) 決議 會議シテ、事ヲ決ムルコト。議定。漢書、田延年傳「按劍廷叱羣臣、即日議決」常衮、授崔圓左僕射制「僉決議于廟堂、早奉教于下府」宋史、上都留守賀公墓誌「有材優佐布、在行列、求其臨事決議之際、必得其一言而後定、則他人固不能矣」

けっきう (名) 血球 血液ヲカタチヅクル、極メテ微小ナル成分。赤血球、白血球、アリ。

げっきふ (名) 月給 月毎ニ、定メテ授クル給料。月俸。宋書、沈慶之傳「月給錢十萬、米百斛」宋史、趙士安傳「出知韶州、特加月給之數」

けっきん (名) 缺勤 勤務ヲ缺クコト。

げっきん (名) 月琴 〔其形、月ノ如ク、其響、琴ノ如シ(三才圖會)古製ナルハ、今ノ三味線ニ似タリ〕支那ノ樂器、渡來シテ弄バル、琵琶ニ似テ、小サク、胴、正シク圓クシテ、薄ク、四絃ニシテ、十二柱アリ。阮咸。資暇錄「有人於古塚中得銅琵琶而圓、云云、元(唐ノ元行沖)以其形似月、聲合琴、因是名月琴」和爾雅、五「阮咸(又、稱月琴、或稱阮)似琵琶而四絃十二柱、或五絃十三柱」

げつぎゃうじ (名) 月行事 行事ノ、毎月、交替スルモノ。ツキギャウジ。

げっきゅう (名) 月宮 次條ノ(一)ニ同ジ。謠曲、羽衣「ヨロコビニ、トテモサラバ、人間ノ御遊ノカタミノ舞、月宮ヲメグラス舞曲アリ」

けっきゅうでん (名) 月宮殿 (一)又、月宮。月ノ中ニアリト豫想スル宮殿。ツキノミヤコ。開元天寶遺事「明皇(玄宗)與申天師、中秋夜遊月宮」(二)佛經ニ、須彌山ノ半腹ニアル、月天子ノ宮殿。

けっきょ (名) 穴居 アナズミ。開ケヌ世ニ、人ノ、岡ノ半腹ナドニ、洞ヲ掘リテ住ミタルコト。易經、繫辭、下傳「上古、穴居而野處、後世聖人、易之以宮室」神武紀、廿七「中洲之地、無復風塵云云、民心朴素、巢棲穴住」

けっきょ (名) 拮据 〔拮ハ、說文「手口共有所作也」据ハ、詩經、豳風、箋「韓詩云、口足爲事、曰拮据」トアレバ、手足ヲ以テ働クヲ云フ〕骨折ルコト。勞働スルコト。拮据。詩經、豳風、鴟鴞篇「予手拮据、予所捋荼」

けっきょく (名) 結局 〔結ハ、終結、局ハ、碁盤ナリ〕(一)圍碁、一番、打チハテタルコト。(二)ヲハリ。ハテ。トドノツマリ。「事ノ結局」

けっきょく (副) 結局 〔前條ノ語ヨリ移ル〕終ニ。ツマリ。畢竟。結句。「結局、大勝セリ」「結局、失敗トナレリ」

けつぎろく (名) 決議錄 會議ノ決議ノ記錄。

けっきゑ (名) 血氣穢 血ニ觸レタル穢レ。觸穢ノ條ヲ見ヨ。

けっく (名) 結句 詩、歌ノ、末ノ句。藝苑卮言「七言律不難中二聯、難在發端及結句耳」

けっく (副) 結句 〔前條ノ語ヨリ轉ズ〕(一)揚句ノハテニ。終ニ。トドノツマリニ。到頭。盛衰記、三十四、鼓判官知康事「先ヅ鼓ヲ取テ、初ニハ、居ナガラ打チケルガ、云云、結句ハ、座ヲ起テ、十六間ノ侍ヲ打廻ッテ」同、四十三、平家志度道場詣事「能登殿コソ、ユユシク振舞ヒ給ヒタリシカ、云云、結句、舟ニ乘リ、海ニ入リタマヒヌ」史記抄、十一、七「けっく、秦、齊ハ、帝ト稱シタゾ」(二)ナカナカニ。却ッテ。謠曲、鳥追船「イカヤウナル恩賞ヲモ、ナドト、都ニテ、アラマシノカヒモナク、結句、主ヲ追下ゲテ、下人ニ使フベキ謂ハレバシアルカ」「けっく、無イ方ガヨロシイ」

けっくゎ (名) 結果 事ノ、出キバエ。ナレノハテ。「盡力ノ結果、成功ス」

けっくゎ (名) 缺課 課業ヲ、缺クコト。

げっくゎ (名) 月華 〔國華モ、くにのひかりナリ〕ツキノヒカリ。月光。三體詩、杜荀鶴、旅懷「月華星彩坐來收、嶽色江聲暗結愁」太平記、廿六、秦始皇帝事「月華、星彩、蒼茫タリ」

けっくゎい (名) 血塊 (一)チノカタマリ。(二)古キ病名。

けっくゎい (名) 決壞 キレ、クヅレ、ヤブルルコト。史記、平準書「隄塞河、輒決壞、費不可勝計」「堤防、決壞ス」

けっくゎい (名) 決潰 充チテ、裂ケ、潰ユルコト。歐陽修詩「雞鵝爭喧聚、決潰終當過」

げっくゎう (名) 月光 ツキノヒカリ。舊唐書、江泌傳「泌少貧、晝斫屧、夜讀書、隨月光、握卷升屋」李白詩「牀前看月光、疑是地上霜」

けっくゎく (名) 闕畫 漢字ノ中ノ一畫ヲ、闕キテ記サヌコト、帝王ノ御名ノ字ナドニ當レルトキ、憚リテセシコトナリ、英、紵、ナドノ如シ。此事、支那ノ制ニシテ、我ガ邦ニテ憚ルコトナカリキ、德川六代將軍家宣ノ時、此制ヲ定メ、將軍ノ名ニ用ヰ、仁孝天皇ノ御代ニ、天皇ノ御名ヲモ、闕畫スベキコトニ定メラレシガ、明治五年、其儀ニ及バズトセラレタリ。文心雕龍「是以馬字缺畫、而石建懼死」二條家番所日記、文政元年五月十八日「御諱相避、且臨文省末畫之儀、云云」(故事類苑、姓名部)

けっくゎん (名) 闕官 其官ニ任ズベキ人ノ、闕ケテアルコト。略シテ、けち。吾妻鏡、五、文治元年十二月六日「院奏折紙狀云、可有御沙汰事、云云、一、闕官事、撰定器量可被採用也」

けっくゎん (名) 血管 心臟ヨリ出デテ、血ノ、體内ヲ循環スル脈管、全身ニ分布ス。出ヅルモノヲ動脈トシ、動脈管ト云ヒ、再ビ還リ入ルモノヲ靜脈トシ、靜脈管ト云フ、兩管ノ連接部ニアル、微細ナル網ノ如キ血管ヲ、毛細管ト云フ。

けつぐゎん (名) 結願 けちぐゎん(結願)ニ同ジ。方行詩「一室安禪久、三生結願頻」

けつげ (名) 結解 〔解ハ、解由ノ略ナルベシ、算用ヲ終フル意〕勘定ノシアゲ。決算。庭訓往來、十二月「公文、田所、結解、勘定」運歩色葉集「結解、算用」

けつげ (名) 結夏 又、結夏。僧ノ、一夏九旬ノ間、(陰曆、四月十六日ヨリ、七月十五日マデ)禁足シテ、靜カニ家ニ籠リ居ルコト、コレヲ、始ムルヲ、結夏ト云ヒ、又、安居トモ云フ。草木ノ芽、蟲蟻ノ類ヲ踏ミ傷メムコトヲ恐レテ、然リト云フ。庭訓往來、十月「可參行大齋候、同者結夏以前、可然之時分候」

けづけ (名) 毛附 敵ノ鎧ノ縅毛ノ色ニ注目シテ、ツケ、ラフコト。

けづけ (名) 毛付 (一)貢馬ナドノ毛色ヲ、書キツケタル文書。公事根源、上、白馬節會「今日ノ毛付ノ姿ニモ、皆、葦毛トバカリアリ」

[illegible]ノ、杉箭ノカゲニ、アハセテゾ見ル」

けっけい (名) 〔血系〕 血脈ニ同ジ。

げっけい (名) 〔月卿〕 くぎゃう(公卿)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

げっけい (名) 〔月計〕 一月ノ會計。一箇月ノ勘定。「[illegible]有二月計一、然後歲計可レ知」

げっけい (名) 〔月經〕 ツキノサハリ。ツキノメグリ。ツキヤク。月水。

げっけい (名) 〔月桂〕 (一)つきのかつらノ條ヲ見ヨ。[illegible]「謠曲、[illegible]月桂[illegible]カナリ」(二)やぶにくけいノ實。(茅窓漫錄、百十六)

げっけいくゎん (名) 〔月桂冠〕 次條ヲ見ヨ。

げっけいじゅ (名) 〔月桂樹〕 〔英語、Laurel.〕 [illegible]ニハ、桂樹ト譯シテアルニ、多クハ、月桂樹ト譯ス、靈樹ト云フヨリシテ、つきのかつらニ充テテ譯スナルカ」歐羅巴、地中海邊、原產ノ樹、喬木、樟ノ類、高サ二三丈、常綠ニシテ、芳香アリ、葉ハ、長楕圓形ニテ、質、厚ク、互生ス、春、小黃花、短キ花梗上ニ簇生ス、實、暗褐ニテ、種子ハ、豌豆ヨリ少シ大ナリ。古ヘ、希臘國ニ、靈樹ト稱セシモノアリ、其枝葉ヲ以テ、輪ヲ作リ、鉢卷ノ如クシテ、名譽ノ表章トシ、月桂冠ト云フ。今ニ在リ、競技ナドノ勝者ニ冠セシム。

けつげき (名) 〔穴隙〕 アナ。スキマ。「王充、論衡「人在天地之間、猶蚤虱之在衣裳之內、螻蟻之在穴隙之中」」穴隙ヲ鑽ルト云フハ、戶ニ穴ヲ穿チ、男女、相引クヲ云フ、卽チ、野合スル意ナリ。「孟子、滕文公、下篇「不[illegible]父母之命、媒妁之言、鑽穴隙相窺、踰牆相從、則父母國人、皆賤之」」

けっけつ (名) 〔孑孑〕 ボウフリムシ。「淮南子、說林訓「孑孑爲蟁」(蟁ハ、蚊ナリ) 康熙字典「孑孑、井中赤蟲、一名蜎、人則沈」」

けつけつ (副) 〔決決〕 水ノ、流ルル狀ニ云フ語。「王建詩「溫泉決決出宮流」謠曲、葛城「天狗、嶮岨タル山路、イヅレノ時カ[illegible]キン、決決タル溪泉、到ル所ニ聞ク」」

げつげつ (名) 〔月月〕 ツキヅキ。毎月。

けつご (名) 〔歇後〕 〔韻會、歇、許竭切、說文「息也」〕 語句ノ後尾ヲ、歇メテ言ハヌコト。貽厥子孫ニヲ、貽厥ト云ヒテ、子孫ノ意トシ、友于兄弟ニヲ、友于ト云ヒテ、兄弟ノ意トスルガ如シ。[illegible] 我ガ大御國ニテモ、言ヒサシタル詞、多シ、唐國ニテ、コレヲ歇後ノ詞ト云フ、古今集ニ「津ノ國ノ、なには思ハズ、山城ノ、とはニ逢ヒ見ム、コトヲノミコソ」云云ノ類、擧ゲテ數フベカラズ (なにはハ、難波、何は、とはハ、鳥羽、常)

けっこう (名) 〔結構〕 (一)ムスビ、カマフルコト。組立ツルコト。作リイダスコト。シツラフルコト。「白氏文集、廿九 [illegible] 結構[illegible]」(二)心ニ、結構スルコト。タクミ。クハダテ。モクロミ。計畫。[illegible]「[illegible]御結構トゾ聞ケ」[illegible] (三)結構ニシテ、好ク出來タリ、ト云フ意ヨリ轉ジテ、勝レタルコト。佳キコト。宜シキコト。精巧 美麗 「海人藻芥(應永)中「人之家中ノ具足、結構無益也、云云、寺主、云云、[illegible]」[illegible]香聞味(天文)「大名、云云、御茶湯ニ、モテナシモけっかうニ、云云、金銀ノ鑑足樣、高ナド、然ルベキナリ」(柳亭筆記、二)」(四)心ノ、好キコト。好人物ナルコト。溫良 [illegible] (五)ネンゴロナルコト。手厚キコト。優遇 [illegible]

けっこうじん (名) 〔結構人〕 〔前條ノ(四)ヲ見ヨ〕 (一)好人物。正直者。オヒトヨシ。(二)心ニ、ハタラキナキ人。バカシャウヂキ。[illegible] 愚直 [illegible]

けっこく (名) 〔闕國〕 國守ノ任ヲ缺ケテ、其後任ノ闕ケテアル國。「平家物語、一、殿上闇討事「闕國ニハ、闕國ヲ可レ給由仰セ下サレケル、ヲリフシ、但馬國ノアキタリケルヲゾ被レ下ケル」」

けっこく (名) 〔缺刻〕 キザミ。鋸ノ齒ノ如ク、キレコミ、多ク、葉ノ緣ナルニ云フ。鋸齒。

けつごく (名) 〔決獄〕 罪ヲ、判決スルコト。斷獄。[illegible]

けっこん (名) 〔結婚〕 〔婚姻ノ條ヲ見ヨ〕 夫婦ノ緣ヲ結ブコト。婚姻。[illegible]

けっこん (名) 〔血痕〕 血ノツキタル痕。

けっこんじ (名) 〔血混兒〕 アヒノコ。混血兒。

けっさい (名) 〔潔齋〕 モノイミ。キヨマハリ。[illegible]

けっさい (名) 〔決裁〕 さいけつ(裁決)ニ同ジ。「上司ノ決裁」

けっさう (名) 〔血相〕 血バシリタル顏色。ケシサウ。キソサウ。「血相カヘテ[illegible]」

けっさう (名) 〔結裝〕 身ゴシラヘ。ミジマヒ。ミジタク。「結裝シテ侯ツ」

げつさうとう (名) 〔月僧敲〕 にちさうとう(日僧敲)ノ條ヲ見ヨ。

けっさく (名) 〔傑作〕 詩、歌、文章、書畫、彫刻、ナドノ、出來ノ、勝レタルモノ。[illegible]

けっさん (名) 〔決算〕 勘定ノ仕上ゲ。

けッし (名) 【決志】 志ヲ、定ムルコト。キッパリト、志ヲキムルコト。易經、上經、乾卦「或躍在レ淵无レ咎」王注「持レ疑猶豫、未三敢決二志一」

けッし (名) 【決死】 死ヌベシト、心ニ決ムルコト。史記、項羽紀「今日固決レ死、願爲二諸君一決戰、必三勝レ之」

けッし (名) 【楔子】 (一)クサビ。(二)事ノ、最モ肝要トスル處。

けッし (名) 【傑士】 スグレタル人士。

けつじ (名) 【闕字】 (一)文章ノ中ニ、帝王、高貴ノ人ニ係ル稱號、等ノ出デタル時、敬ヒテ其上ニ一字、或ハ、二字、記スベキ程ノ間ヲ闕キテ、明ケオクコト。(擡頭、平出、ニ對ス)明治五年、廢止セラル。公式令、大社、陵號、乘輿、車駕、詔書、勅旨、明詔、聖化、天恩、慈旨、中宮、御、(謂、斥二至尊一)云云、皇太子、殿下、右如レ此之類、並闕字」 (二)ヌケジ。

けつじ (名) 【訣辭】 ワカレノコトバ。告別ノコトバ。

げッし (名) 【孽子】 妾腹ノ子。外借腹。通鑑「妾媵之子、曰レ孽、孽之言、孽也、有レ罪之女、沒三入於公一得レ幸而有レ所レ生、若三木既伐而生二枿、故於レ文、从三子辥一爲レ孽、辥、辠也」 孟子、盡心、上篇「孤臣孽子、其操レ心也危、其慮レ患也深」

げつじ (名) 【月事】 ツキノサハリ。月經。黃帝內經「月事以レ時下、謂二婦人天癸、匝月而至一也」

げッしう (名) 【月收】 一箇月ノ收入。

げッしき (名) 【木𦬇】 (下食ノ急呼(其條ヲ見ヨ)下食時ニ沐浴スレバ、髮落ツトスルガ故ニ、名トスト云フ) 木製ノ毛拔。慶長見聞記、四「當世男鬚なき事「げ、しきトテ、木ヲ以テ、はさみヲ、大ニ拵ヘ、髮ノ毛ヲ拔キツレバ」和事始(元祿)「昔ハ、げしきトテ、髭ヲ拔ク物ヲ以テ、顏ノ上ヲ、少シ拔キシニ」

けッしたい (名) 【決死隊】 決死シテ、敵ニ向フ隊。「白襷ノ決死隊」

けッしつ (名) 【闕失】 (一)カケ、ウスルコト。(二)アヤマチ。アヤマリ。過失。五代史、裴皞傳「喜三論駁一、每陳二朝廷闕失一、多斥二權臣一」

けッしつ (名) 【蹶膝】 ハヤル馬。下學集、上、氣形門「蹶膝、逸馬也」

けッして (副) 【決】 決定シテ。ドウシテモ。ウッナク。(多クハ下ニ、打消ノ語ヲ用キル)「決して無シ」決して見ズ」

けッしふ (名) 【決拾】 ゆがけト、射韝ト。詩經、小雅、形弓之什、車攻篇「決拾既佽」通典「皇帝射二于射宮一、儀設二拾於執レ弓者之前一、設二御決拾笥於二其上一」

けッしん (名) 【決心】 志ヲ、決ムルコト。念ヲ、一途ニ定ムルコト。オモヒコミ。決意。「斷乎タル決心」

けッしん (名) 【欠伸】 (集韻「欠、去劒切」闕ノ省字ノ欠ト混ズ、氣倦ム時ハ欠し、體疲ルル時ハ伸す」 けんしんノ誤讀。

けッしん (名) 【缺脣】 イグチ。ミツクチ。兎脣。淮南子、說山訓「孕婦見レ兎、而子缺脣」

けつじん (名) 【劂人】 ホリモノシ。彫刻師。印版師。

けつじん (名) 【竭盡】 ツクルコト。アリタケヲ、悉クツクスコト。蘇轍文「犬馬之誠、本期三於竭盡一」

けッしゃ (名) 【結社】 (月令廣義「賓朋(習聚、曰二結社一」) 社ヲ、立ツルコト。還庭筠詩「暫對二山松一如レ結レ社、偶因二麋鹿一自成レ羣」 蓮社高賢傳「結レ社念レ佛」

げッしゃ (名) 【月謝】 月每ニ贈ル、謝禮ノ金。授業料ナドニ云フ。

けッしゃう (名) 【結晶】 化學、金石學ノ語ニ、金石類ノ、晶形ヲナスコト。晶形トハ、金石類ノ形狀ニ、天然一定ノ式アリテ、面、稜(二面、相合フ頭)、角(數面、相聚ル尖)、等ヲナスヲ云フ、コレヲ、六晶屬、三十二樣ニ分ツ、三角、四角、六角、八角、ヨリ、十八稜、二十四面、等ニ至ル。方柱、方底、斜立、斜方、等ノ目アリ。

げつじゃう (名) 【月城】 (土手ヲ、半月形ニ築ク) 城ノ馬出。三ノ丸。

けッしゃうざ (名) 【結政座】 (けッしゃうハ、きッせいトモ讀ミタルガ如シ) かたなし(結政)ノ條ヲ見ヨ。萬代集、十五、雜、二、外記廳、結政座ニ、古宮ノ柱一本、今ニ殘レルヲ、まつりおどノツイデニ見テ詠メル「古ヘノ、奈良ノ都ノ、宮柱、コノかたなしニ、ナホ殘ルカナ」

けッしゅつ (名) 【傑出】 勝レテ、抽ンデタルコト。モヌケタルコト。水經、注「桓帝聞二尙書令陳蕃、徐稚雍內、誰爲二先後一、蕃答稱、袁生公族、不レ鑽自曠、至二於徐稚一、傑二出海域一、故宜レ爲レ先」 太平記、一、玄惠文談事「韓昌黎、云云、文章ハ、漢魏、晉宋ノ間ニ傑出セリ」

けッしょ (名) 【血書】 我ガ血ヲ以テ、書クコト。又、其文書。

けッしょ (名) 【闕所】 (一)莊園ナドノ領主ノ、闕ケタル地。罪アリテ收公セラレタル地ニモ云ヒ、領主、他ニ移リテ、未ダ新主ナキニモ云フ。平治物語、三、賴朝舉義兵事「大莊ヲ賜ハリタケレドモ、折節、闕所ナシ」(二)德川氏ノ制ニ、追放以上ノ刑ニ屬シテ行フ刑ノ稱、其領地、田宅ヲ、官ニ取上グルアリ、罪ノ重キハ、一切ノ財產ヲモ、併ハセテ取ルアリ。沒收。籍沒 御定書百箇條、御仕置ニ成候者欠所之事「一、磔、一、火罪、一、獄門、一、死罪、一、遠島、一、重追放、云云、右御仕置ニ申付候者ハ、田、畑、家、屋敷、家財、共、欠所可レ申付二」

けつじょ (名) 【闕如】 闕キテ、省略シ置クコト。論語、子路篇「君子於二其所一レ不レ知、蓋闕如也」十訓抄、下、第十、七十八條「公資(大江)ハ、相撲ヲ懷抱シテ、秀以案ゼン程ニ、公事ヲ闕如、云云」

けッしょう (名) 【決勝】 最後ノ勝敗ヲ、決定スルコト。史記、留侯世家「高帝曰、運二籌策帷帳中一、決二勝千里外一、子房功也」「競技ノ決勝」

けつじょう (名) 【結繩】 支那ニテ、太古、未ダ文字無カリシ頃ニ、繩ヲ結ビテ、事ノ記憶トシタルコト。易經、繫辭、下傳「上古結レ繩而治、後世聖人、易レ之以二書契一」 因リテ、古代ノ政事ヲ、結繩の政ト云フ。孔安國、尙書序「古者、伏羲之王二天下一也、造二書契一、以代二結繩之政一」

けッしょうてん (名) 【決勝點】 競技ナドニテ、勝負ヲ決ムル箇所。「決勝點ニ入ル」

けッしょく (名) 【血食】 (類篇「血、祭所レ薦牲血也」) 子孫、連綿トシテ、先代ノ靈ノ、絕エズ、祭ヲ受クルコト。戰國策、趙策「今王既受二先王之傳一、欲二宗廟之安、壤地不一レ削、社稷之血食一乎」 史記、陳涉世家「置二守冢三十家碭一、至レ今血食」

けッしょく (名) 【血色】 (一)血ノ色。(二)病ニ因リテ、顏色ノ變ハルコト。

げッしょく (名) 【月色】 ツキノイロ。月ノ光。月影。月華。江淹、月賦「宮堂淸穆、月色如レ霜」

げッしょく (名) 【月蝕】 ぐゎつしょくニ同ジ、日蝕ノ條ヲ見ヨ。

けッ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 【結】 (結ハ、祕結ノ略ナルベシ) 大便、滯リ

[illegible]

けっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［決］キマル。定マル。史記、張湯傳「天下事、皆決二[illegible]」

けっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［決］[illegible]史記、周本紀「親疏ハ決二嫌疑一、別二同異一、明二是非一也」[illegible]「訟獄ヲ決す」

けつ-じゅん（名）［闕巡］古ヘ朝廷ニテ、[illegible]宴ヲ群臣ニ賜ハリ、盃巡、巡流ルル時、闕座ノ人アレバ、其ノ來ルヲ待チテ、連飲シ、[illegible]ハ、シムルコト。[illegible]

けっ-すい（名）［決水］堤防ナドノ、潰レテ、水ノ、流レ出ヅルコト。

けっ-せい（名）［潔淸］イサギヨキコト。[illegible]

けっ-せい［血淸］[illegible]纖維素ノ分離シ去リタル後ノ、透明ナ[illegible]

けつ-ぜい（名）［血稅］〔生命ヲ稅トスル意〕兵役ノ異稱。

けっ-せき（名）［闕席］集會ナドニ、[illegible]

けっ-せき［月夕］[illegible]くわてうげっせき（花朝月夕）ノ條ヲ見ヨ。試筵錄、孩子曰、云云、遲晨月夕、杖履野歩」

けっせき-さいばん（名）［闕席裁判］「對席裁判」ニ對ス。[illegible]事訴訟ノ原告、又ハ、被告ガ、口頭辯論ノ當日、法廷ニ出頭セザル場合ニ、出頭シタル相手方ノ申立テニヨリテ行フ判決。其出頭セザル一方ガ原告ナル時ハ、訴訟ノ却下ヲ言ヒ渡シ、被告ナル時ハ、原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ、被告ノ自白ト看做シテ、正當ナル時ハ、被告ノ敗訴ヲ言渡シ、正當ナラザル時ハ、訴訟ノ却下ヲ言渡ス。

けっ-せん（名）［血戰］血ヲ流シテ、戰フコト。[illegible]五代史、[illegible]

けっ-せん（名）［決戰］勝チ負ケハ、コノ戰ニテ決ルト云フタタカヒ。勝敗決定ノ一戰。史記、項羽紀「願爲二諸君一決戰、必三勝之」

けっ-せん（名）［決選］選擧セラレタル者、當人アル時、更ニ、其人人ニ就キテ投票シテ、一定數ノ當選人ヲ決ムルコト。

けつ-ぜん（副）［決然］決斷スル状ニ云フ語。[illegible]

けつ-ぜん（副）［缺然］意ノ、滿タザル状ニ云フ語。[illegible]

けつ-ぜん（副）［蹶然］蹶立テテ、起キアガル状ニ云フ語。[illegible]

けっ-そく（名）［結束］（一）ユスビ、ツカヌルコト。タバスルコト。聯環記「左右餘髮、各租一指結束、作二同心帶一、垂二手兩肩一」「結束ヲ固クス」（二）衣服ノ、身支度ヲスルコト。結裝[illegible]「結束」

けつ-ぞく（名）［血族］チスヂノ、別レタル人。血ツヅキノ一族。

けっ-そん（名）［缺損］〔穴があく、ト云フ、是レナリ〕缺ケ、損ズルコト。損亡。損失。多ク、計算ニ、收支不足スルニ云フ。「缺損補塡」

⁂げっ-そり（副）俄カニ、減少、又ハ、衰頽シタル状ヲ云フ語。「[illegible]、げっそり少ナクナル、身體ガ、げっそり瘦セタ」

けっ-たい（名）［希代］〔けたいノ急呼〕けたい（希代）ノ條ヲ見ヨ。

けっ-たい（名）［結滯］脈搏ノ、トドコホルコト。

けっ-たう（名）［結黨］黨派ヲ結ブコト。

けっ-たく（名）［結託］互ニ、心ヲ通シテ、與シ合フコト。[illegible]

けっ-たふ（名）［決答］決定ノ返答。

けつ-だん（名）［決斷］（一）トリキムルコト。確ト、定ムルコト。[illegible]（二）サバキ、キメルコト。裁決スルコト。唐書、百官志[illegible]ソ、政道トイフコトハ、云云、正直、慈悲ヲ本トシテ、決斷ノ[illegible]アルベキナリ」

げっ-たん（名）［月旦］（一）月ノ初ノ日。ツイタチ。運歩色葉集「月旦、月頭、月尾」（二）[illegible]

けつだん-しょ（名）［決斷所］鎌倉幕府ノ頃、訴訟ノ裁判ヲ司リシ役所。

げったん-ひゃう（名）［月旦評］人物ノ品評。後漢書、許劭傳「初劭與二靖（從兄ナリ）一俱有二高名一、好共[illegible]」

⁂げっ-たる・い（形）かひたゆしノ訛、かったるいノ轉。クタビレタリ。（東國）

けっ-ちゃう（名）［結腸］だいちゃう（大腸）ノ異稱。

けつ-ぢゃう（名）［決定］決メ、定ムルコト。決リ、定マルコト。決定。[illegible]十六、本集「決定シテ、二世ノ大願、アヒカナハジヤ」

けっ-ちゃく（名）［決着］〔決擇ノ字音ナリト云フ〕キマリノ、ツクコト。「ギリギリ決着」

けつ-づ（名）［血途］三途ノ條ヲ見ヨ。

けっ-てい（名）［決定］けつぢゃうニ同ジ。史記、[illegible]

〔けっ-てき（名）［闕腋］〔闕腋ノ連聲ナリ〕ワキアケノコロモ、はう（袍）ノ條ヲ見ヨ。

けっ-てん（名）［闕典］儀式ノ、闕ケテ、備ハラヌコト。事ノ、缺目。[illegible]

けっ-てん（名）［缺點］事ノ、缺ケ損ジタル所。非難スベキ所。キズ。アラ。瑕瑾。

けっ-と（名）［血途］三途ノ條ヲ見ヨ。

ケット（名）［毛布］ぶらんけっとノ上略。

けっ-とう（名）［血統］チスヂ。

けっ-とう（名）［決鬪］〔英語、Duel. ノ譯語〕ハタシアヒ。[illegible]ナルハ、血ヲ流スニ止ル。國體ト國體トヨリ、選手ヲ出シテ鬪フモアリ、國ニ因リテハ、此事、

禁制トナリ居ルモアレド、ナホ、竊カニ行ハル。魏書、侯莫陳悦傳「欲ト待二明日一決鬬上」

けっとう-ぢゃう (名) [決鬬狀] 決鬬セムトノ旨ヲ、言ヒ送ル書狀。ハタシジャウ。

けつ-なふ (名) [結納] 心ニ誓ヒテ、タヨルコト。唐書、田弘正傳「弘正不レ覺自失、乃深相結納」

けつ-にく (名) [血肉] (一)ちト、にくト。讀書錄「況我有二血肉一父生二名利區一」 畫墁記、十一、有王俊寛問答事「終ニハ是レ、山川ノ土ナレドモ、滋テ在キハ、血肉ノ身也」(二)チスヂ。骨肉。

けつ-ね (名) [狐] (けたい(希代)ノ語原ヲ見ヨ) きつねニ同ジ。(畿内) 東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、下「テッキリ、けつねニガナ、ツママレクサッタモンヂャアロゾイ」「三狐ノ神」

けっ-ぱい (名) 結界ノ訛。七里結界ノ條ヲ見ヨ。「七里けっぱい」

けつ-ばう (名) [缺望觖望] (望ハ、怨む義) 望ミ遂セズシテ、不滿足ニ思フコト。史記、司馬相如傳「觖此何觖望」

げっ-ぱう (名) [月報] [年報、週報、ナドニ對ス] 毎月ノ報告。

けっ-ぱく (名) [潔白] (一)イサギヨク、汚レナキコト。南史、王茂傳「身長八尺、潔白美二容儀一」 (二)眞白ナルコト。純白。詩經、小雅、白華之什、白華序「白華、孝子之潔白也」(三)所行ニ、不正ナルコトナキコト。清廉。清潔。晉書、任遠傳「任遠良之人、邀二以清白之地一……」

げっ-ぱく (名) [月迫] 一箇月ノ中ノ日數ノ、盡クルニ迫マリタルコト。(多クハ、十二月ノ末ニ云フ) 庭訓往來、四月「月迫之……」

けっ-ぱつ (名) [結髮] (一)カミアゲ。髮ヲ、結フコト。(二)元服スルコト。成人トナルコト。加冠。漢書、李廣傳「廣結髮、與二匈奴一大小七十餘戰」

けつ-ばふ (名) [缺乏闕乏] 物ノ、缺ケテ、乏シキコト。減リテ、少ナクナルコト。五代史、孔謙傳「晉與レ梁相二拒河上一十餘年、大小百餘戰、兵、調發供給、未二嘗缺乏一」 金史、高汝礪傳「章宗時用甚多、而得レ不二闕乏一者、蓋先朝有二以遺之也」

けつ-ばん (名) [結番] けちばんノ條ヲ見ヨ。

けっ-ぱん (名) [血判] 神文、誓詞ナドニ、名、書判ヲ記シタルニ、血ヲ捺スコト、最モ、信實、至誠ナル意ヲ示スニ、スルコトナリ。其方法ハ、左ノ藥指ノ爪際ヲ、小刀ニテ突キテ出ヅル血ヲ、右ノ藥指ノ腹ニツケテ、書判ノ、穴アル白キ所ニオス。(一話一言)

けつ-び (名) [結尾] トヂメ。ヲハリ。スヱ、結末。荀子、賦篇「一往一來、結レ尾以爲レ事」

けっ-ぴょう (名) [結氷] 氷ノ、ハルコト。「諏訪湖、結氷ス」

げっ-ぷ (名) [噯氣] [其出ヅル聲ヲ名トス] おくび(噯)ニ同ジ。越前、大野郡ニテ、げっぽ。

げっ-ぷ (名) [月賦] 年賦ノ條ヲ見ヨ。

けつ-ぶつ (名) [傑物] 傑出シタル人物。

けつ-ぶん (名) [闕文] 文ノ中ニ、闕ケ脱チタル文句。論語、衞靈公篇「吾猶及二史之闕文一也」

けつ-ぶん (名) [結文] 文章ノ結末。末文。

げっ-ぺう (名) [月表] [年表ナドニ對ス] 計算ナドノ表ノ、毎月、作リ出サルルモノ。史記、太史公自序「著二秦楚之際月表第四一」

けっ-ぺき (名) [潔癖] キレイズキ。左傳、定公三年「莊公卞急而好レ潔」 澄懷錄「米元章有二潔癖一」

けつ-べつ (名) [訣別] ワカレ。イトマゴヒ。(多ク、死別ノ時ナドニ云フ)告別。後漢書、獨行傳「今子遠適二千里一食而無レ期、故與行相訣、以展二訣別一」

げつ-べつ (名) [月鼈] [犬猿ナドト、同趣ノ造語] 月ト鼈ト云フヲ音讀シタル俗造語、甚シキ相違ニ云フ。「雲泥月鼈ノ相違」

けつ-べん (名) [血便] 大便ニ、血ノ、混ジテ出ヅルモノ。下血。血痢。

げっ-ぽう (名) [月俸] (一)一箇月ノ俸給。月給。周禮、天官冢宰「祿位以馭二其士一」注「祿、若二今月俸一也」晉書「祿、本或作レ俸」(二)毎月ノ賄料。宋史、職官志「貞元四年、定二百官月俸一」 齋宮式「凡諸司男女官月俸、雜色人衣服者、云云」

けつ-ぼん (名) [缺盆] (一)灸穴ノ名、肩上ノ横骨ノ陷入レル所。(二)乆、喉ノ下、胸ノ上ニ、半環形ヲ成セル骨。鍼術ニ、巨骨ハ、臑ノ上ノ横骨、其上ノ陷キヲ缺盆ト云フ。(三)トックリイチゴ。

けっ-ぽん (名) [闕本] 巻數ノ、闕ケテアル書冊。端本。(完本ニ對ス) 捫窓小牘「及二亂離來一缺不且不レ可レ得二、闕ハ、闕ニ同ジ)

けつ-まく (名) [結膜] 眼瞼ノ内面ヨリ、眼球ノ表面ヲ覆フ膜。

けつまく-えん (名) [結膜炎] 眼病ノ名、常ニ、はやりめト云フ、眼瞼結膜、赤ク充血シ、且、腫レテ、分泌物多ク出デ、眼中ニ、ぢろぢろト、何物カ入リテアルヤウニ感ジ、熱ク、痛ク、痒シ。

けつ-まつ (名) [結末] 末ノククリメ。ヲハリ。シマヒ。終局。「話ノ結末」

げつ-まつ (名) [月末] ツキズヱ。梁書、武帝紀「今移三之於月末一」

けつまづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [蹶躓] (一)つまづくト云フニ同ジ。躓。蹉跌。宇治拾遺、十一、第八條「我レニけつまづきテ、ウツブシニ倒レタリケルヲ」(二)事ニ、障リテ、シソコナフ。ヤリソコナフ。今昔物語、廿三、十五語、陸奥前司橘則光「云云、我レニ蹶テ、倒レタルニ違テ、立上リテ」

けつ-みゃく (名) [血脈] (一)血筋。ケチミャク。脈管。血管。呂氏春秋、侍君覽「血脈欲二其通一也、筋骨欲二其固一也」 小說、華佗引「血脈流通、者、人之四肢百骸、雖レ各爲二一體一、然脈絡相貫通」 還歩色葉集「血脈」(二)血系。血統。漢書、劉吉傳「下僧部發、乾幾、遍、詩二百血脈所レ円」

けづめ (名) [距爪蹴爪] 古名、アコエ。鷄、雉子、ナドノ雄ノ、脛ノ後ニ、岐トナリテ出デタル爪、蹴リ鬬フニ用キル。カケヅメ。距。太平記、十二、廣有射二怪鳥一事「其頭ハ人ノ如クニシテ、身ハ蛇ノ形ナリ、嘴ノ先、曲リテ、齒、鋸ノ如ク生ヒ違フ、兩ノ足ニ、長キ距アリテ、利キコト、劍ノ如シ」

けつめい (名) 決明 (倭名抄、十二草名類ニ、決明實、決明丸、アリテ、共ニ、治二目不レ明トアリ、此草ニテ製シタル目藥ナルベキカ) 草ノ名、古名、エビスグサ。春分ニ種ヲ下ス、苗、高サ二三尺、葉、互生ス、初出ノモノハ、兩葉、排出

シ、[illegible]ノモノハ、六七尺、[illegible]ニテ、一大[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]二、五瓣ノ花ヲ開ク、梅花ニ似テ、深黄ニシテ、大キサ錢ノ如シ、莢、長サ六七寸、小豆ノ莢ノ如シ、子ハ、小豆ニ似テ、一頭、尖リテ、[illegible]ニシテ、光リアリ、[illegible]ニシテ、[illegible]

けつめい（名）［決明］あはびのかひノ條ヲ見ヨ。

けつめい（名）［月明］ツキアカリ。月ノ光ノ明キコト。[illegible]

✤けつめど（名）［肛門］（尻ノ條ヲ見ヨ）肛門ノ卑語。シリノアナ。

けつや（名）［月夜］ツキヨ。[illegible]

けつやく（名）［結約］約束ヲ、ムスブコト。契約。[illegible]

けつよ（名）［月餘］ヒトツキアマリ。[illegible]

けつらい（副）［月來］ツキゴロ。

げつらう（名）［月老］月下老人ノ略、其條ヲ見ヨ。ムスブノカミ。

けつり（名）［血痢］チクソ。アカナメ。痢病ニ、血ノ、雜リ、瀉ルモノ。血便。[illegible]

けづり（名）［削］ケヅルコト。ケヅリタルコト。「けづりノ惡イ鉋」

げつり（名）［月利］一箇月ニ就キテノ、利息ノ率。（年利、日步、ニ對ス）

けづりあめ（名）［削飴］極メテ堅ク製シタル飴。臺鉋ニテ削リテ食フ、小兒ノ玩ナリ。

けづりかけ（名）［削掛］ケヅリバナ。柳ノ枝ヲ切リ、削リカケテ、茅花ノ形ノ如ク作リタルモノ、往時、正月十五日ニ、門戸ニ懸ケ[illegible]レテ、祝事トシタリ、竈杖ノ遺ナリシナラム。東都歲事記、一、正月「家家[illegible]、削花、初春十五日[illegible]」

けづりき（名）［削木］（一）木ヲ削リテ、鶴ノ如クニ作リタルモノ、大嘗祭ナドニ用ホル。（二）削花ナルベシ。蜻蛉日記、中、上「カミ[illegible]紙ニ書カセテ、[illegible]文ニテ、けづり木ニツケタリ」

けづりぐし（名）［梳髮］〔くしハ、御髮ノくしナルベシ〕髮ヲ、クシケヅルコト。枕草子、一、第四段「早朝、御けづりぐしニ參リ、御手[illegible]」「御髮ノアタリナド、御けづりぐしシタラムヤウニ見エ[illegible]」

けづりさを（名）［削棹］削リタル棹。[illegible]をヲワタシテ、色色ノ御ぞドモ、色ヲツクシ」

けづりばな（名）［削花］〔古ヘノ木綿花ニシテ、後世ノけづりかけト云フ、是レナリ〕圓木ヲ削リカケテ、花ノ形ニ作レルモノ、多ク、十二月ノ御佛名ニ供ヘラルルモノニ云フ。（生花ナキ時ナレバナリ）聖教、コレヲ春ルヨ、馬道ナドニ插シテ、御遊ビアソバシナドス。古今集、十、物名[illegible]

[illegible]

けづりひ（名）［削氷］氷ヲ、削リタルモノ。[illegible]デ、消入リ、消入リセサセタマヘバ、けづりひバカリヲ御前ニ[illegible]子、三、廿六段、あてなるもの「けづりひノ、アマヅラニ入リテ、新シキ鋺ニ入リタル」[illegible]

けつりん（名）［血淋］淋病ニ、血ノ、雜リテ出ヅルモノ。

げつりん（名）［月輪］〔輪ハ、形ノ圓キヨリ云フ〕月。ゲチリン。グヮチリン。

けづりもの（名）［削物］魚肉ナドヲ乾シ固メ、削リテ食フモノ。運歩色葉集「五種削物[illegible]」「五志ュのけづり物（ほしとり、ひだい、あはび、かつほ、いりこ）」

けつりゃく（名）［闕略］闕キ、略クコト。省略。[illegible]

けづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［削刪］（一）〔薄ク、剝ギ去ル。少シヅツ、殺ギ取ル。[illegible]〕

[illegible]十六、雜、上「松ノモトヲけづりテ、カキツケ侍リケル」「鋤ヲけづる」板ヲけづる」（二）土地ヲ、掘リ缺シテ、召上グ。取上グ。[illegible]ニ御領けづらレテ、ツカサモ取ラレテ、ハシタナケレバ[illegible]（四）酒ヲ飲ムヿ。東京、大工仲間ノ語、時代ヲけづるニカケテ云フナルベシ。（けづりともだちト云フ語モアリ）飯ヲ食フ[illegible]ト云ヒ、蕎麥切ニ、さくト云フ。

けづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［梳］〔垢ヲ削リ去ル意〕[illegible]髮ニテ、髮筋ヲ理ク、クシケヅル。[illegible]上「佐保姫ノ、打垂レ髮ノ、玉櫛、タダ春風ノ、けづるナリケリ」[illegible]

けつるめ（名）馬ノ、毛深クシテ、蹄ノ長ク垂レタルモノ。[illegible]皆靑駒ノ、毛つるめヲ、引キツヅケタル、馬ヅカサ[illegible]

けつるゐ（名）［血淚］血ノ淚。白居易、崔[illegible]

けつれい（名）［厥冷］醫術ノ語、人ノ體ニ、血ノ運行絕エテ、冷カニナルコト。「手足厥冷」

けつれい（名）［闕禮］禮ヲ闕クコト、失禮。[illegible]

げつ-れい (名) 月令 又、ぐゎつりやう、トモ云フ。一年間ニ行ハルル一定ノ政事、儀式ナドヲ、月月ノ順ニ、書記シタルモノ。年中行事。禮記「月令篇」楊升菴外集「呂不韋月令、自二東風解凍一、至二水澤腹堅一」

げつ-れい (名) 月齡 月ノ、新月、上弦、滿月、下弦ト、盈チ虧ケシテ變ハルヲ、日數ニテ數ヘユクコト。

けつ-れう (名) 結了 結尾トナルコト。終ハルコト。

けつ-れつ (名) 決裂 (一)サキ、ワカツコト。キリサクコト。戰國策、秦策「要侯使者操二王之重一、決二裂諸侯一」 (二)ヤブリ、コハスコト。史記、蔡澤傳「商君決二裂阡陌一、以靜二生民之業一、而一二其俗一」

✣けづ-れる・レル・レレ・レ・レヨ (自動、下二) 削 〔けづるノ未然形ニ、受身ノるノ附キタル口語、成語トシテ、自動詞トス〕 削ラレテ、剝グル。

けつ-ろ (名) 血路 (一)獵ニ、獸ノ血痕アル路筋。韓愈、城南聯句「羽空顛二雉鵠一、血路迸二狐麑一」注「血路、血盈路也、麑、大鹿也」 (二)轉ジテ、人ノ逃路。活路。「一方ノ血路ヲ開ク」

げつ-ろ (名) 月露 秋ノ夜ノ、月ノ下ノ露。劉禹錫、新秋寄二樂天一詩「月露發二光彩一、此時方見レ秋」

けつ-ろう (名) 闕漏 カケ、モルルコト。モレ。オチ。諸葛亮、出師表「必能裨二補闕漏一、有レ所二廣益一也」

けつ-ろん (名) 結論 議論ヲ、結ブコト。結末ノ議論。「結論ニ達ス」

けつ-ゐ (名) 闕位 其位地ニ居ルベキ人ノ、闕ケテアルコト。

けつ-ゐ (名) 闕遺 カケ、オチタルコト。漢書、司馬相如傳「今封疆之內、冠帶之倫、咸獲二嘉祉一、靡レ有二闕遺一」

げつ-ゐ (名) 孑遺 〔說文「孑、人無二右臂一形」玉篇「孑、單也、短也」〕 僅カニ、殘ルコト。詩經、大雅、蕩之什、雲漢篇「周餘黎民、靡レ有二孑遺一」(虐政、旱魃ニ遭ヒ、一人モ存セズト云フナリ)

けつ-ゐん (名) 闕員 人員ノ、闕クルコト。舊唐書、路隋傳「闕員既少、取レ士良難」

けつ-をん (名) 血溫 血液ノ溫度。

け-てう (名) 怪鳥 〔衆鳥ハ、夜ハ、眼、見エズナルヲ、鵺、怪鴟、鵂鶹、木菟、梟、ノ類ハ、夜、見エテ、鳴キ飛ブガ故ニ、怪しト云フナリ、爾雅ニ「恠鴟、晝伏夜行鳴、以爲レ怪者也」唐韻ニ「鵺、怪鳥也」ナドアリ、鵺ノ鳴クヲ、凶兆トスルハ、妖怪ノ鳥ト誤解シテナリ〕 怪シキ鳥。妖怪ヲナス鳥。神仙傳「有二怪鳥一、止二屋上一」盛衰記、十六、三位入道藝等事「コレハ、怪鳥カ、變化カ、目ニ見ハレタル者也、以二武士一射サスベキ也」(鵺ナリ) 太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「鵼ト云フ怪鳥、飛來リテ、夜夜鳴キケルヲ」

け-てう (名) 化鳥 變化ノ鳥。狂言記、紫野「三足ノ雉、出生ス、化鳥ナレバ、退治アルベシト」

け-てふ (名) 化蝶 〔下ノ出典ヲ見ヨ〕 錢ノ異名。元和、寬永ノ頃、御所ニテ、化蝶定メトテ、古錢ヲ比べ、遊戲スル會合ヲ催サレシト傳フ。延寶、元祿ノ頃、越中、富山侯、前田大藏大輔正甫、化蝶類苑ヲ著ハセリ、古錢ノ書ナリ。(古錢ノ條ヲ見ヨ) 易林節用集(慶長)器財「化蝶、匁名」(匁ハ、錢ナリ) 古今和漢泉貨鑑「唐ノ穆宗ノ時、禁中ニ花開ク、夜、蛺蝶、數萬アリ、飛テ花ニ集マル、云云、上、網ヲ空中ニ張ラシメテ、數萬ヲ得タリ、遲時ニコレヲ視レバ、皆、庫中ノ金玉錢ナリト、後ノ世ニ、錢ヲ、化蝶ト云ヘル、此故事ナリ」泉貨鑑、十九、說翁「元和、寬永ノ頃ニ、御所ニ於テ、化蝶定メト云ヘルコトアリシト云傳フ」

け-でん (名) 怪顚 心ノ顚倒スル程、不思議サニ驚クコト。艶狩劒本地(寶永、近松作)二「思ヒノ外ニ、金剛兵衞ガカ士立、ハットバカリニけでんシテ、進ミ兼ネテ」

げ-でん (名) 外典 內典ノ條ヲ見ヨ。

げ-でん (名) 下田 下等ノ田地。最モ瘠セタル田地。(上田、中田、ニ對ス) 薄田 民部式「凡諸國地子帳、云云、具錄二田上中下及損益一」主稅式「凡公田穫稻、云云、下田三百束」

け-ど (名) 〔怪事ノ轉(父、とと)けいとうハ、延ベタルナルベシ〕 怪事。邪魔。ケイトウ。色道大鑑(延寶、箕山)一「けどを附ける、けどを入るナド云フ、云云、災ヲカマヘテ、人ニカクル貌也」屠龍工隨筆(安永)「物ニ、邪魔ノ入ルヲ、けどの入るト云フ、隱賣女ノ家ニ、不意ニ押入テ捕フルヲ、けいとうの入るト云フ」

け-ど (名) 化度 凡夫ヲ敎化シ、衆生ヲ濟度スルコト。卽チ、佛者ノ大行ナリ。金剛經、注「說二種種方便一、化二度衆生一」榮花物語、十五、疑「成佛ヲ得テヨリ此ノ方、四十餘年ニ、化度シ給ヘル所ノ涌出ノ菩薩、ハカリナシ」

け-どう (名) 戲動 戲レノ動作。凱陣八島(元祿、近松作)一「戲言モ思ヒヨリ出テ、戲動モハカルヨリオコル」

げ-とう (名) 下等 等級ノ、下レルコト。最モ劣レルコト。下等。(上等、中等、ナドニ對ス)

げ-どく (名) 解毒 毒ヲ、解クコト。ドクケシ。「解毒ノ藥」

げどく-ざい (名) 解毒劑 解毒ノ藥劑。

け-と-つち (名) 〔化土土ノ義ニモアルカ(溫石石、豌豆豆)〕 蘆、眞菰ナドノ根ノ、多年、地下ニ埋レテ、土ト化セルモノ、鉢植ノ草木ニ培フナドニ用キラル。

け-とば・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 蹴飛 蹴テ遣ル。關八州繫馬(享保、近松作)五「蹈ミ退ケ、蹴飛ばし、薙ギ立ツレバ」

け-どほ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 氣遠 〔けハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 遠し、ト云フニ同ジ。(けぢかしニ對ス) 源、十五、蓬生「ウトマシウけどほき木立ニ、梟ノ聲ヲ、朝夕ニ耳ニ聞ラシツツ」同、五十二、手習「過ギニシ方、イトドけどほくノミナム侍ルヲ」

ケトン (名) 毛布 〔蒲團ナド、聯想シテ、移ル、すとうぶヲ、すとう風呂、すてえしょんヲ、すてん所ト云フ類ノ語ナリ〕 ぶらんけっとノ略ナル、けっとノ訛。

け-ど・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 氣取 氣色ヲ見テ、其內意ヲ覺リ知ル。暗合字類抄「氣、ケトル、憶、同」聖德太子繪傳記(享保、近松作)一「面面ニ云ヒ合ハセシ某ガ企テ、けどッタリトオボユル」

げ-な (名) 沙蠶 〔げハ、餌ノ轉、伊賀國、阿拜郡、柘殖鄕、今、柘植村アリ、つげト云フ、なハ、調菜ノなナルヲ、餌ニ云フナリ〕 いさおむしヲ、魚ノ餌トスル名。(京都) 俚言集覽、げな「京ニテ、いさおむしヲ云フ」名言通(天保)上「石蠶、餌魚ナリ、用テ、魚餌トスルヲ云フ、蟲ナレドモ、なノ餌トスルニヨリ、スグニ、なト云フ、俗語ノサマナリ」

げな (助) 推量シテ云フ詞。ヤウナ。サウナ。狂言記、吟聟「今日ハ最上吉日、聟ノ、ワスルげな」曾根崎心中(寶永、近松作)觀音廻り「私ガ

名サマノ話ジャガ、暗レテ死ナンシタげたト云フモアリ」

けなが・し ・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔け(來經)ノ條ヲ見ヨ、[illegible]ノ[illegible]添ヘテ、たけな[illegible]トモ云フ〕 時、長シ。時日ヲ經ルコト、久シ。 古事記、下[illegible]君ガ行、[illegible]スナーリヌ、[illegible]イリズニ、[illegible]長クナリヌ、[illegible]ニ[illegible]ヤ[illegible]、同、下[illegible]「山河ノ、隔リテアレバ、[illegible]シケク、氣奈我枳モノヲ」

けなげ (名) 〔健氣〕 〔異なり氣ノ略、其條ヲ見ヨ(作り田、佃。渡り瀨、わたせ)〕 [illegible]

けな・す ・ス・セ・シ・セ (他動、四) 〔貶〕 〔消微すノ意カ、貶すノ轉カ(持ちて、もて。心、けけれ)〕 貶シメテ云フ。クサス。 [illegible]

けなつか・し ・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔氣懷〕 〔けハ、接頭語〕 何トナク、ナツカシ。 [illegible]イトアノマホシウ、[illegible]ナシ僞キ聞エテ、けたつかしう、心バヘヲカシウ、ウチトケヌサマニテ」

けなみ (名) 〔毛並〕 (一)毛ノ、生エタルアリサマ。 [illegible]けたみサヘ、オトシカネタル、夏ノトヤ鷹」「猫ノ毛なみ」 (二)[illegible]シナ。種類。

げなん (名) 〔下男〕 〔下女ニ對ス〕 シモベ。奴僕。

けなもの (名) 〔異物〕 〔異ノ條ヲ見ヨ、ものハ、異ナもの、ケナゲもの、イカサマものノナドト、同趣〕 異ナリタルモノ。希有ノモノ。奇ノモノ。 [illegible]

謂ニ、けの物ト云ハ如何、日本紀ニ、異字ヲ、けトヨム、群ニ勝レ、常ニ異ナル由ヲ譽ル詞ナレバ、其心、叶ヘリ」 狂言記、毘沙門「イトウシノ與一ヤ、ヨウ射サセタ、けなもの、コチヘ來テ、餅ヲ飲ウデ、酒ヲ食ヘ」

けならべて (副詞句) 〔け(來經)ノ條ヲ見ヨ、日並べて、夜並べてト云フ語モアリ〕 時日ヲ重ネテ。 萬葉集、三廿「馬莫(吾馬)ノ[illegible]ト[illegible]ク、打チテ莫行キソ、氣並而、見テモ我ガ歸ク、滋賀ニアラナクニ」

けなり (句) 〔羨〕 〔異なりノ義(異ノ條ヲ見ヨ、異なり氣ト云フ語モアリ)特異ナリト、同趣〕 ウラヤマシ。 狂言記、連歌毘沙門「ヤラヤラ、けなりヤ、けなりヤナ、我レ等モ、福ヲ給ヒタマヘ」

けなり・い (形) 〔羨〕 〔前條ノ語ヲ活用セシメシ語ナルベシ(異しト云フモ、異ノ活用ナリ)特異ナルニ羨ムナルベシ〕 羨マシ。若狹、越前ニテ、けなるい。 狂言記、[illegible]コノヤウニ[illegible]ヲツクラレマスルナバ、[illegible]モ、イカウけなりう思ヒマスル」(太郎冠者ノ言) 諸國落首物語(元祿)二都ニテ、[illegible]ト、云云、ソノ責レルコト、[illegible]ラズ、サレバ、世ノ人、けなりく思ヒテ、サマザマ[illegible]ヒモノ出來ケレバ[illegible]、一[illegible] 藤川[illegible]、享保、荒木宗門「人ガ見タラ、けなりかロ」

けなりげ (名) 〔殊勝〕 〔異なり氣ノ義(異ノ條ヲ見ヨ)尋常ニ異ナル意、約メテ、けなげトナル(怪し氣、すさまじ氣)〕 [illegible]カヒガヒシク見ユルコト、ケナゲ。 [illegible]石集、七、下、十四條「型セテハ候ヘドモ、此犬ハ、けなりげニ候」

けに (名) 〔化尼〕 變化ノ尼。尼ニ化現シタルモノ。 [illegible]、廿三日夕、文、化人ノ女、忽ニ來テ、化尼ニ、糸スデニ調レリヤト、云云、化尼ト願主トノ中、云云」

けに (副) 〔異〕 〔名詞ノ異ニ、辭ノニノ添ヒタルナレド、別ニ揭ゲタリ、尙、異ノ條ヲ見ヨ〕 上越シテ。 古今集、十二、戀、二「タサレバ、螢ヨリけに、燃ユレドモ、光見ネバヤ、人ノツレナキ」 伊勢物語、六十五段「イトド悲シキコト、數マサリテ、アリシヨリけに、戀シクノミオボエケレバ」 大和物語、上「柳ノ垂枝、物ヨリけに長キナム、此家ニアリケルヲ、折リテ」 拾後撰集、十九、羈旅「ツヒニユク、道ヨリモけに、悲シキハ、命ノ內ノ、別レナリケリ」 玉葉集、九、戀、一「相思ハヌ、人ノ心ハ、山ナレヤ、[illegible]ヨリけに、動カザルラム」

けに (接續) 〔故〕 〔故にノ約、けんハ、音便ナリ(樺、かんば。[illegible]、かんづる)〕 ノ、故ニ。ニ、因リテ。カラニ。サカヒニ。(中國)轉ジテ、けん(九州、肥前)「何スルけに、何スル」「何スルけん、何スル」

げに (副) 〔實〕 〔現ニノ約(見參、げさん。菊の宴、きくのえ)〕 宇治拾遺、一、第四條「何ノ料ノ書付カハ候ハムト云ヘバ、げにアリ、コレヲ見ヨトテ、見スルニ」 倭訓栞、げに「[illegible]實ノ字ヲ讀メリト云ヘリ、顯ノ字音ト云フハ、イカガ」 雅言集覽「資臣云、げにハ、現ニノ字音也ト云ヘリ、サモアルベキニヤ」 (一)マノアタリニ。現ニ。現然 げにげにト、重ネ用キテ、意ヲ深クス。 枕草子、三、廿一段「木の花は、梨子ノ花、云云、愛敬オクレタル人ノ顏ナド見テハ、[illegible]ニ云フモ、げに其色ヨリシテ、愛ナク見ユルヲ」 源、五、若紫五「げに故國ノ內ニ、サモ人ノ籠リヌベキ處處モアリナガラ、深キ里ハ、人離レ、心スゴク」 新古今集、十五、戀、五「[illegible]キニコソ、げに[illegible]リハ、ナカリケレ、忘ルル方ノ、ツラキマコトニ」 榮花物語、八、初花「[illegible]ノ[illegible]、聞ケサセタマヘレバ、見奉ル人人モ、げにげにト、アハレニ見奉ル」 (二)轉ジテ、マコトニ。ソノ如ク。實ニ。實 竹取物語「げに、タダ人ニハアラザリケリ、トオボシテ」 土佐日記、正月十一日「此歌、佳シトニハアラネ

ド、げにト思ヒテ一[illegible]、[illegible]ワタレリ」 [illegible]ニ、人ノ御心ヲツクシタマフモ、げにコトワリト見エタリ」 同、五十三、夢浮橋十「僧都モ、げにトウナヅキ」 著聞集、十六、興言利口「イカニ、カカル[illegible]ヲ、げにげにト宣フゾ」

けにく・し ・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔氣憎〕 〔けハ、發語、其條ヲ見ヨ〕 憎し、ト云フニ同ジ。 源、廿九、行幸十「初ノ事ハ知ラズ、今ハ、けにくくモテナスニツケテ」 宇治拾遺、九、第一條「アナガチニ、けにくからズ、[illegible]ニ入レメ」 榮花物語、二、月宴「只今アリツルヤウニ、けにくくモテナサセタマハズナドシテ」

げにげに (副) 〔實實〕 前前條ヲ見ヨ。

げにげに・し ・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔實實〕 〔げにげにヲ活用セシム(下種下種しき、骨骨しき)〕 甚ダ、實ラシ。 三部抄「遂ニ、げにげにしき長キ世ノ思出」 塵袋(弘安)六「蟷螂ニ五能アレドモ、げにげにしき事ニアラザル故ニ」 宇治拾遺、十四、第七條「イトげにげにしくモ覺エズシテ」 黑谷上人語燈錄、[illegible]「げにげにしく念佛ヲ行ジテ、げにげにしく人ニ成リヌレバ、ヨロヅノ人ヲ見ルニ、皆、我ガ心ニハ劣リタリ」

けにごし (名) 〔牽牛子〕 〔牽牛子ノ轉(訓、くに。蘭、らに)ごハ、牛ノ呉音、[illegible]類本草「此藥始出田野人牽牛易藥、故以名之」〕 草ノ名、アサガホ。實ヲ、藥用トス。 本草和名、上四十「牽牛子、阿佐加保」(倭名抄、同ジ) 典藥寮式、[illegible]「牽牛子丸」 古今集、十、物名、けにごし「ウチツけに、こし(濃)トヤ花ノ、色ヲ見ム、置ク白露ノ、染ムルバカリヲ」 拾遺集、七、物名、けにごし「忘レニシ、人ノ更ニモ、戀シキカ、ムけにこじトハ、思フモノカハ」

けにさい (名) 〔毛二歲〕 小二歲ノ條ヲ見ヨ。

けにん (名) 〔化人〕 化生ノ人。 宇治拾遺、四、十三條「後ニ、タビタビ尋ネケレド、尋ネ逢ハズシテ止ミニケリ、若シ、化人ニヤアリナムト思ヒケリ」

け-にん（名）家人　〔家人ト、異ナリ〕イヘノコ。家ニ仕フル者。主從ノ義ヲナス、從ノ者。從者。家來。隷從　平治物語、一、光頼參内事「伊勢ノ家人等」盛衰記、二、五節夜闇討事「平家年來ノ家人、爲レ助二其難一」幕府將軍ノ諸第ノ臣ヲ敬稱シテ、御家人ト云フ、其條ヲ見ヨ。

げ-にん（名）下人　下下ノ者。身分低キ者。下部。僕隷　本朝俚諺「大智度論云、接レ賓下人二」蜻蛉日記、下、上十三「馬ニ乘リタル男ドモ四人、下人ハアマタアル」

げ-にん（名）外任　國司ノ任。外官。（京官ニ對ス）續紀、七、養老元年十二月壬申「從二外任一遷二京官一者、云云」

げにん-の-そう（名）外任奏　節會ノ宴ニ召サルベキ、外任ノ人人ノ姓名ヲ記シテ、外記ヨリ奏聞スルコト。江家次第、三、踏歌「召二外記一令レ進二外任奏一付二藏人一奏レ之」江次第抄、一、正月、元日宴會、外任奏「諸國守介等、或任符未レ給、或雖レ給二任符一未レ赴レ國、或爲レ治二權政一入京者、謂二年預一節會之時、外記注二其人名一奏レ事未レ始之前、就二内辨一奏聞」

〔**け-にゃう**（名）假寧　〔假ハ、暇ニ同ジ、寧ハ、歸省ナリ、けハ、暇ノ、にゃうハ、寧ノ呉音〕官人ニ賜ハル休暇。假寧令、義解「假者、休暇、即、每二六日一並給二休假一日一之類、是也、寧者、歸寧、即、三年一給二定省假一是也」

〔**け-ぬき**（名）毛拔　鑷子。鬢、鬚、ナド、夾ミテ拔キ取ル具。鐵製ニテ、鋏ニ似テ、頭ハ、人ノ齒ヲ合ハスルガ如ク作ル。ナンバウ。昔ハ、剃刀ハ、法師ノ用トシテ、鼻毛、月代ノ毛、婦人ノ眉毛ナド、皆、拔取リタリ。剃レバ、後ヨリ早ク生ユレバナリ。鑷　倭名抄、十四二十容飾具「鑷子、拔二取毛髮一也、計沼岐」枕草子、四、三十九段、ありがたきもの「物ヨク拔クル、シロカネノけぬき」

けぬき-あはせ（名）鑷合　〔鑷子ノ頭ノ二ツノ物ノ、縫ト縫トヲ、重ラヌヤウニ、雨刃ノ、平カニ合フヤウニ合はす〕二ツノ物ノ、縁ト縁トヲ、重ラヌヤウニ、直ト、平カニ接ギ合ハスルコト。裁縫ノ兩布帛ノ縫合ナドニ云フ。小町踊（寛文）夏、更衣「春夏ノ、境ヤけぬき、あはせカナ」

けぬき-おや（名）鑷親　まゆはらひノ條ヲ見ヨ。

けぬき-がた（名）毛拔形　毛拔ノ形シタルモノ。嬉遊笑覽、二、中、刀脇指「新野問答云、蒔繪螺鈿野劒ヲ平鞘トモ申候、又、革緒劒ト稱シ候、毛拔形劒トモ申候、眞劒候故、目貫ヲハシラセメ爲ニ、目貫ニ、毛拔形ヲ打テ、手ニ握ラシムルヤウニ搆候」

けぬきがた-の-たち（名）毛拔形太刀　〔毛拔形ト云フバ、此ノ太刀ノ目貫、毛拔ノ形ニ似タレバナリ〕古ヘ、武官ノ佩帶セシ野太刀。一名、衞府太刀トモ云フ、本名、蒔繪野劒ナリ。又、革緒太刀トモ云フハ、帶取ノ緒ニ、革ヲ用キテ、組絲ニセザレバナリ。名目抄「蒔繪野劒（或號二平鞘太刀一、或號二毛拔形太刀一、或又號二革緒太刀一、上下、隨時合レ持レ之、又殿上人束帶時、依レ事著レ之」

け-ぬく・じ・キ・ケレ・ク・ク（形、二）氣溫　〔けハ、接頭語〕氣色、暖シ。又、けぬるし。相撲集「下氷、けぬくくナラバ、打チトケテ、何ノつららカ、今ハアルベキ」重之女集「東風モ、けぬるくナレバ、吾ガ宿ノ、梅ノニホヒヲ、ヲリヲリゾ見ル」夫木抄、廿五「潮ネル、鹽ノ烟、けヲぬるミ、雪モタマラヌ、海人ノ荒屋」

け-ぬる・し（形）氣溫　前條ノ語ニ同ジ。

げ-ねつ（名）解熱　體熱ヲ、醒スコト。ネツサマシ。「解熱藥」

げねつ-ざい（名）解熱劑　解熱ノ藥劑。

け-ねん（名）懸念　繫念　思ヒノ、カカルコト。思ヒ思ヒテ、心ヲ安ンゼヌコト。氣ガカリ。心配。關心　盛衰記、三十八、小宰相局事「人ヲモ、身ヲモ、鬼ニナシテ、何カセン、繫念無量劫トカヤモ、罪深シ」

〔**け-の-あな**（名）毛穴　肌膚ニ、毛ノ生ズル、微ナル穴。ケアナ。ハダノキメ。毛孔　腠理　竹取物語「望月ノ明サヲ、十合ハセタルバカリニテ、アル人ノ毛の穴サヘ見ユルホドナリ」

〔**け-の-あら-もの**（名）毛麁物　〔麁ト、柔トハ、獸ト、鳥トニ、別チ云ヘルマデノコトナラム、にぎトハ、ヤハラカキ意、大小ノ魚ヲ、鰭ノ廣物、鰭ノ狹物ナドトモ云フ〕獸ノ古名。コレニ對シテ、鳥ヲ、毛柔物ト云フ。古事記、上五十六「火遠理命者、爲二山佐知毘古一而、取二毛麁物、毛柔物一」廣瀨祭祝詞「山ニ住ム物ハ、毛の和キ物、毛の荒キ物」倭訓栞、けのあらもの「神代紀ニ、毛麁、毛柔ヲ、けのあらもの、けのにこものト訓メリ、禽獸ヲ云フナリ」

け-の-ごしょ（名）褻御所　上皇ノ、平常マシマス御殿。吾妻鏡、八、文治四年六月九日「御堂傍褻御所」

〔**け-の-こ・る**（動）消殘　消え殘るノ約。萬葉集、十九三十「此雪ノ、消遺時ニ、イザ行カナ、山橘ノ、實ノ照ルモ見ム」

け-の-ころも（名）褻衣　けごろも（褻衣）ニ同ジ、け（褻）ノ條ヲモ見ヨ。

〔**け-の-すゑ**（名）毛末　極メテ少シキ意ニ云フ語。毫末　安康即位前紀「若咸依二言語一、如二毛不一レ似二王意一豈爲レ親乎」小町集「我ガ如ク、物思フ心、けのすゑニ、アリセバマサニ、相見テマシヲ」

〔**け-の-にこ-もの**（名）毛柔物　〔毛麁物ニ對ス〕けのあらものノ條ヲ見ヨ。

けば（名）毳　〔毛生ノ下略、榮手、さかて（逆手）。氣障、きざ。喧噪、がさつ〕綿布、紙、ナドノ、揉マレナドシテ、其面ニホホケダツ、細小ナル、毛ノ如キモノ。「けばガ立ツ」「けばヲ燒ク」

げ-ば（名）下馬　（一）乘リタル馬ヨリ、下ルルコト。貴人ノ門前、又ハ、路ニ、貴人ニ行キ遭ヒタル時ニ、敬禮ニ行ヒ、社寺ノ境内ナド、乘打ヲ禁ズル所ナドニモ行フ。下乘ノ條ヲ併セ見ヨ。杜甫詩「馬上誰家白面郎、臨レ階下馬坐二人牀一」續紀、二、大寶二年七月「親王乘馬入二宮門一」吾妻鏡、廿一、建曆三年五月二日「於二同中下馬橋一」同、四十七、正嘉元年十月一日「於二右大將家法華堂一、前三位中將家、被レ投二御鞍一、供奉人雖レ令二下馬一、今度不レ可レ有二其禮一之由、兼日被レ定レ之」（二）げばさきノ略。

げ-はい（名）下輩　（一）卑シキ、トモガラ。シモザマノモノ。下人。本朝俚諺「無爲經云、與爲二下輩一」（二）己レヨリ、身ノ分際ノ、低キモノ。メシタ。卑屬　太平記、廿七、田樂事「高貴、清花モ、君主一人モ、共ニ、カヲ得ズ、下輩、下賤ノ士、四海ヲ呑、是ニ依テ、天下、武家ト成ナリ」

けは-ぐすり（名）毛生藥　毛ノ生ユルヤウニトテ、用キル塗藥。

げ-はくまい（名）下白米　はくまいノ條ヲ見ヨ。

けは-けは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）鮮明　〔けはやか（鮮明）ノけはヲ重ネ、意ヲ強クシテ、形容詞ニ活用ス、實ヨ、げにげにし〕甚ダ、キハヤカナリ。曾我物語、四、平六兵衞喧嘩事「けはけはしく、實ノ夫トモ覺マサリケレバ」

⁂**けば-けば・し・シキ・シケレ・シク・シク**（形、二）

[illegible]ノ[illegible]セテ、[illegible]ク[illegible]ス」　キラキラシ。ハデヤカナリ。[illegible]（正保）「けばけばしくモ假粧シテ」「衣服、裝束、けばけばし」

げばさき（名）［下馬先］　城門ナドノ、下馬札ノ立チタル前ノ地。略シテ、下馬トノミモ云フ。[illegible]城、大手門ナル[illegible]、大下馬ト云ヒ、大名ノ[illegible]シテ[illegible]供待ノ人[illegible]大[illegible]、[illegible]スル間ニ、[illegible]ナドシタル[illegible]作）上「供サキ、乘打、下馬さきニ、大名方ノ目印モ、[illegible]

けはし・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［嶮險］［際ヲ活用セシメタル語カ（幼し、いと[illegible]、[illegible]）］（一）[illegible]行キ[illegible]ニ、危シ。[illegible]ナリ。[illegible]はしき山路ノアリサマヲ見タマフニゾ」（二）荒シ。[illegible]はしく、見ユルカナ、沖ニナゴロヤ、高クユクラム」（三）[illegible]ニ、女房ノ[illegible]しいハ、當世ノハヤリ物デゴザル」

げばさうぐん　名　下馬將軍　酒井氏ノ屋敷ハ、江戸城、大手門ノ下馬先ナリキ。德川四代將軍家綱ノ世ノ大老、酒井[illegible]、[illegible]路ニ移リタルハ、後ノ事ナリ）

けばた・つ・ツ・テ・チ・テ（自動、四）［毳立］　毳ガ、起ル。ソソク。ホホク。ホホケダツ。毳起「紙ガけばたつ」

けはなし（名）［戯放］　門ノ閾。敷居ニシテ、溝ナシ。[illegible]　閾[illegible]、けはなし　門ニ云フ。[illegible]

けはな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［戯放］　蹴テ、開ク。「戸ヲ蹴放す」

けはひ（名）［氣色］［けハ、氣ナリ、はひハ、業はひ、過はひノはひニ同ジク、事ノ、廣ガルヲ云フ語ナリ、くさはひノ語原ヲ見ヨ］ミエ。氣色。ソブリ。ケブリ。ケブラヒ。容子。[illegible]「人ヨリハ[illegible]けはひ、貌ノ、面影ニ、ツト添ヒテ、オボサルルモ」同、四十六、總角九「マダ[illegible]ノけはひ、ママニ、土ゲナンニ[illegible]日記、秋ノけはひ、[illegible]ノアリサマ、言ハムカタナク、ヲカシ」

けはひ（名）［假粧］［顏ノ氣色ヲ粧フ意］けさう（假粧）ノ（一）ニ同ジ。ケサウ。オツクリ。[illegible]、けはひ[illegible]トスフテ、[illegible]、[illegible]モ、けはひシテ」

けはひでん（名）［假粧田］　けさうだ（假粧田）ノ條ヲ見ヨ。

げばひやう　名　下馬牌　げばさきノ條ヲ見ヨ。

げばふだ（名）［下馬札］　下馬スベキ旨ヲ示シテ、下馬ノ二字ヲ記シタル立札、二字札トモ云フ。札、高サ一尺五寸或ハ七寸、[illegible]、[illegible]シ、上ハ、左右サガリニ削リ、中央、尖リ、コレヲ、劍頭ト云フ、上ニ、[illegible]ヲ、下ニ、串ト稱スル、長サ、五七尺ノ、長柄ヲ添ヘテ、立ツ。下馬牌。下馬[illegible]人ハ不[illegible]、[illegible]下馬[illegible]、[illegible]下、[illegible]立ニ

下馬坊[illegible]、正安三年ノ下馬牌アリ、元德三年三月比叡山行幸記ノ三ニ、[illegible]ノ下馬札ノ[illegible]、[illegible]

けばん（名）　罫板　罫ヲ引クニ[illegible]板木。

けばやき（名）［毳燒］　鳥ノ羽ヲムシリ取リテ、殘リタル毳ヲ燒キ捨ツルコト。

けはやか・なり（副）［鮮明］［けはやハ、きはやか（際）トモ通ズ（清、けう、ら）］後ニ濁音ニ、けばけばしト云フ、是レナリ」キハヤカニ。けざやかに。[illegible]、けはや[illegible]ニ、[illegible]、けばやカニ見ユト云ヘリ、云云、けざやかナト云フガ如シ」

けはらひ（名）［毛拂］　木ニ、硬キ獸ノ毛ヲ植エタルモノ、衣服ノ塵ナド、拂フニ用ヰル。ハケ。ブラシ。毛刷子

けはりねずみ（名）［毛針鼠］　はりねずみニ同ジ。蝟

けはれ（名）［褻晴］　褻ノ時ト、晴ノ時ト。家居ノ時ト、表立ツ時ト。内外。公私。[illegible]、百九十一段「[illegible]トチ、心トドメテ見ル人ハ、時ヲモワカメ物ナレバ、既ニウチ解ケヌベキ折節ソ、けはれナク、ヒキ繕ハマホシキ」下[illegible]、下、[illegible]門[illegible]、内外之[illegible]也」

げび（名）［下卑］［げびるノ名詞形］　ゲビタルコト。品格、劣レルコト。[illegible]シキコト。

けびき（名）［毛引］　證書、口供、ナドニ、[illegible]ヲ押スニ、印ト紙トノ間ニ、毛筋一本ハサミテ押スコト、印影ヲ紛ラカサム奸計ニスルコトナリ。

けびき（名）［罫引］　（一）紙ニ、罫ヲ引キ記スコト。界行。（二）線ノ、二重ナラヌモノ。一本筋。

けびき（名）［罫引］　工匠ノ具、罫ヲ引クニ、定木トシテ用ヰルモノ。

けびきがみ（名）　罫引紙、罫引シタル紙。けいがみ。けいし、[illegible]

けびきをどし（名）［毛引縅］　毛絲ニテヲドシタル鎧。

げびざう（名）［下卑藏］［げびろヲ、擬人シタル語、[illegible]、若藏ノ類］　食ヒイヂノ、キタナキコト。（卑語）[illegible]「イヂキタナキ、ツマミグヒヲスルヲ云フ」

けびつ（名）［米櫃］［食櫃ノ義、けあねびつ、同ジ］　米櫃ノ（一）ノ一名。（大阪）ケシネビツ。訛リテ、けぶつ。俚言集覽、けひつニ[illegible]、[illegible]ト云フ、又、[illegible]、[illegible]（[illegible]）ト云フ」[illegible]、[illegible]用ケフツ」

げひん（名）［下品］［上品ノ反］（一）下レル品。品柄ノ、劣レルコト。（二）品格ノ、賤シキコト。ゲビタルコト。

けびやう（名）［假病］　ツクリヤマヒ。病メリト、僞ルコト。虚病。詐病「假病ヲ使ヒテ休ム」

げ・びる・ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）［下卑］［下ヲ活用ス、上びニ對ス、大人び、鄙ぶノ類（後詞系）翁ぶノ語原ヲ見ヨ、此語、上二段活用ナルベケンド、[illegible]ぶるナド用キタルヲ見ズ、因リテ、口語ノ活用ニテ舉グ］品格、卑シクナル。鄙[illegible]十訓抄、中、第七、十七條[illegible]ノ[illegible]二、[illegible]アブラムナド候ハムコト、無下ニげびテ、恐レヤ候ハムズラムト云フ」

けびゐし（名）［檢非違使］　（一）非法、非

達ヲ撿スル職。其役所ヲ檢非違使廳ト云フ。淳和天皇ノ時、始メテ置カセラレシヨリ、衞府ノ追捕、彈正ノ糺彈、刑部ノ判斷、京職ノ訴訟、併セテ、此廳ニ歸シ、權、甚ダ重シ、別當、佐、尉、志、等ノ官ヲ設ケ、兵衞、衞門ノ官ヨリ、兼ネシメラル。文德實錄、二、嘉祥三年十一月、興世朝臣書主「弘仁七年、一月、轉爲左衞門大尉、兼行撿非違使事」(二)又、國郡衙、伊勢神宮、鹿島神宮、等ノ大社ニ設置セラレ、國司ニ隷屬シテ、檢察、追捕ノ職ヲナスモノ。類聚三代格、五「太政官符、應諸國撿非違使、立秩限幷停節無位人事」

けふ (名) 【俠】 ヲトコギ。ヲトコダテ。

けふ (名) 【怯】 〔勇ニ對ス〕 氣オクレスルコト。オソルルコト。怯懦。卑怯。史記、淮陰侯傳「若雖長大好帶刀劍、中情怯耳」

~けふ (名) 【今日】 〔倭訓栞、けふ「今日ヲ云フ、此日ノ義也、さト、けト、ひト、ふト、通ゼリ」(古事記、下(允恭)「許存コソハ」トアルハ、記傳ニ、許布ノ誤寫ナルベシトモ云フ)今朝ノけ、昨日ノふナリ(きのふノ語原ヲ見ヨ)今朝モ、此朝ノ略轉ニテ(倭訓栞)夜ノ、夜間ノ略ナルト同ジク、今日朝ノ意ナリ、沖繩ニテハ、今日ヲちゆうト云ヒ、今朝ヲちゆうあさト云フ〕 此ノ日。今ノ日。今日。本日。古事記、下(雄略)三十長歌「祁布モカモ、酒ミヅクラシ」 萬葉集、十四 廿「逢フコト難シ、家布ニシアラズバ」 同、廿 十「氣布ノ日ヤ、出デテマカラム」 催馬樂、本瀧「今ノ世ノタメ、介不ノ日ノタメ」

けふ (名) 【狹布】 〔狹布ノ約(少輔、せふ)狹き布ノ義、狹布の狹布、狹布い狹布、狹布の細布ナド云フハ、音訓雙擧ノ文選讀ノ如シ(倭訓栞)希婦郡ヨリ産ズル故ノ名ナリト云フ說アレド、陸奧國ニ、然ル郡名ナシ〕 幅ヲ、狹ク織リ成セル、色白キ麻布。古ヘ、陸奧國ヨリ貢ギタル調布ナリ、けふの細布、けふの狹布、けふの狹布、ナドモ云フ、下着ニ用キタリト見ユ、狹ケレバ、和歌ニハ、胸合ハズ、又ハ、はつはつニ合フナド、詠メリ。類聚三代格、八、大同五年、太政官符「應陸奧國浮浪人、准土人、輸狹布並調庸事、云云、土人調庸、全輸狹布、至于浪人、特進庸布云云」 主計寮式「狹布、二丁成端、長三丈七尺、廣一尺八寸」 散木集、二、夏「卯ノ花ノ、垣根ナリケリ、山賤ノ、はつきニ晒ラス、けふト見ツレバ」 袖中抄、十八「陸奧ノ、けふのほそぬの、程狹ミ、胸合ヒガタキ、戀ヒモスルカナ」 吾妻鏡、九、文治五年九月十七日「希婦細布二千端」 夫木抄、三十三「思ヘタダ、けふのさぬのノ、麻衣、キテモアヒ見ヌ、胸ノ苦シサ」 堀河百首、戀「碑ヤ、けふのせばぬの、ハツハツニ、アヒ見テモナホ、飽カヌ今朝カナ」

けーふ (名) 【家譜】 其家ノ系譜。家ノ系圖。

けぶ (名) 【烟】 〔けぶるノ語根ナリ、けぶたし、けぶいトモ用キラル〕 けぶりノ條ノ(一)ニ同ジ。ケムリ。ケム。

げふ (名) 【業】 ナリ。ワザ。爲ベキ仕事。ツトメ。ナリハヒ。孟子、梁惠王、下篇「君子創業垂統」 史記、平準書「其弟讓破其業」

げーぶ (名) 【下部】 シモノカタ。下部。

けふーあい (名) 【狹隘】 セマキコト。クツロギ無キコト。史記、李斯傳「遂秦地之陋隘」(陋ハ、狹ニ同ジ)「土地狹隘、道路狹隘」

けふーあたり (名) 【今日邊】 〔あたり(邊)ノ條ヲ見ヨ〕 今日ノ頃。イマゴロ。「けふあたりハ來ルデアラウ」

∴けぶ・い (形) 【烟】 〔烟ヲ活用ス(凹し、窪し)けぶしノ口語ナリ〕 けぶたしニ同ジ。けむい。

けふーかう (名) 【峽江】 入江ノ、陸地ニ深ク灣入シ、傾斜面ヲナシタル所。

けふーかく (名) 【俠客】 ヲトコダテ。李白、少年行「君不見、淮南少年游俠客、白日毬獵夜擁擲」

けふーかく (名) 【脅嚇】 〔廣韻「嚇、呼格切、怒也」〕 オビヤカシ、オドスコト。オドシツクルコト。威嚇。

けぶか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【毛深】 毛、密ニ多ク生エテアリ。榮花物語、三、さまざまの悦「御顏色惡シウ、毛ぶかく、殊ノ外ニ、見ニククオハスルニ」 堤中納言物語、蟲めづる姬君「かは蟲ノけぶかき狀」(かは蟲ハ、毛蟲ナリ)

けふーき (名) 【俠氣】 ヲトコギ。任俠ノ氣質。俠心。後漢書、袁術傳「少以俠氣聞」

けふーき (名) 【狹軌】 てつだう(鐵道)ノ條ヲ見ヨ。

けふーぎ (名) 【狹義】 くゎうぎ(廣義)ノ條ヲ見ヨ。

けふーぎ (名) 【協議】 數人、心ヲアハセテ、評議スルコト。ハナシアヒ。相談。其集會ヲ、協議會ト云ヒ、其人人ヲ、協議員ト云ヒ、其議案ヲ、協議案ト云フ。宋史、禮志「溥等同詞、指紳協議」

けぶく・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【毳】 毛、深ク覆フ。

けふーくゎい (名) 【協會】 會員ノ、協同シテ組織セル會。

けふーげき (名) 【夾擊・挾擊】 ハサミウチ。史記、淮陰侯傳「漢兵夾擊大破之」

げふーげふ (副) 【業業】 (一)危ブミ、懼ルル狀ニ云フ語。詩經、大雅、蕩之什、雲漢篇「旱既大甚、則不可推、兢兢業業、如霆如雷、周餘黎民、靡有孑遺」 (二)動ク狀ニ云フ語。詩經、大雅、蕩之什、常武篇「赫赫業業、有嚴天子、王舒保作、匪紹匪遊、徐方繹騷、震驚徐方」

げふげふ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【業業】 ぎやうぎやうし(仰仰)ニ同ジ。

けふーこつ (名) 【俠骨】 俠氣ノ氣象。王維詩「孰知不向邊庭苦、縱死猶聞俠骨香」

けふーさく (名) 【狹窄】 狹マリ、窄マリタルコト。「幽門狹窄」

~けふーさん (名) 【夾竿】 〔竿ハ、算ニ同ジ〕 竹ヲ、長サ三寸、幅五分許ニ、薄ク削リ、三分ノ二マデ割リカケテ、裂ケヌヤウニ、絲ニテ纏ヒタル具。割目ニテ、文書ノ紙ヲ挾ミオクニ用キ、又、書物ノ讀ミサシタル紙ニ挾ミテ、標トス、後世ノ栞ノ用ナリ。西宮記、除目直物「刺夾竿、勾申文」 江家次第、四、除目「置刀執筆書之、刺夾竿置之」 江次第抄「夾刺、長三寸、以竹作之、以絲結之、誠以細紙捻結之、兩說也」 枕草子、一、十三段「古今(集)ヲ隱シテ、モテ渡ラセタマヒ、云云、十卷ニモナリメ、更ニ不用ナリトテ、御草子ニけうさんシテ、御殿籠リヌルモ、イトメデタシカシ」

けふーさん (名) 【協贊】 協同ノ贊成。蜀志、來敏傳「敏子忠、云云、與尙書向充等、並能協贊大將軍姜維」「帝國議會ノ協贊」

~けふーじ (名) 【挾侍・俠侍】 〔挾み侍る意、脇侍、脇士、トモ書ク、挾、夾、俠、相、通ズ、陳書、韋載傳「素有名望、每大事、恆令俠侍左右」 唐書、禮樂志「侍臣夾侍」

(脇侍トアルハ、[illegible]) 脇侍ハ、日適[illegible]ナラム。脇士トアルハ、脇侍大士ノ意カ、[illegible]アルハ、俗ナリ」脇立。ワイダチ。如來ノ左右ニ侍リ立ツ菩薩ノ稱。阿彌陀如來ニ、觀世音菩薩、勢至菩薩、釋迦如來ニ、文殊菩薩、普賢菩薩ノ類ナリ。又、不動明王ノ制吒迦童子、矜羯羅童子ナドヲモ云フ。 [illegible] 鈴鹿ニ「阿彌陀佛、けうじノ菩薩、各、白檀シテ造リ奉リタル [illegible] 「脇立、ワキダチ、佛神」

けぶし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [烟] けぶたしニ同ジ。 [illegible] けぶくトモ、[illegible] ヤリカナ」

けふしん (名) [協心] 共共ニ、心ヲ合ハスルコト。 [illegible] 「協心同力」

けふしん (名) [俠心] ヲトコダテノ心。 [illegible] 俠心」

けふしや (名) [狹斜] (支那ノ長安ノ曲巷ノ名、娼婦ノ住處) 遊女ノ居ル地。イロザト。遊里。花柳ノ巷。狹邪。 古樂府「長安有狹斜、狹斜不容車」 盧照鄰、長安古意「長安大道連狹斜」

けふしやう (名) [協商] 協同シテ、商議スルコト。 [illegible]

けふじやく (名) [怯弱] 物ニ怯ヂ、氣ノ弱キコト。怯懦。 易經、上象、小過卦「[illegible]」 [illegible]

けふしよう (名) [夾鐘] 十二律ノ一、其條ヲ見ヨ。 禮記、月令「仲春之月、[illegible]律中夾鐘」

けふじゆう (名) [脅從] 脅カサレテ、惡ニ從フコト。 [illegible] 「脅從罔治」

けふそく (名) [脇息] オシマヅキ。ワキヅキ。座ノ側ニ置キテ、肘ヲカケ、體ヲ凭セテ休ムル具、形、小サキ書案ノ如シ。オサヘ。ヒヂカケ。憑几。 倭名抄、十四「[illegible]脇息之名ニ」 新撰字鏡「几、脇足」 源、二、帚木「[illegible]けふそくニ倚リオハス、イト安ラカナル御フルマヒナリヤ」 榮花物語、八、初花「御けふそくニ押シかかりテ」

けふそへゑ (副) 今日ト云フ日ニ。今日ト云フ時季ニ。 後撰集、十二、戀、四「今日そへニ暮レザラメヤハト、思ヘドモ、堪ヘヌハ人ノ、心ナリケリ」 [illegible] 「[illegible]サコソ時ト知ラレメ」

けふだ (名) [怯懦] 「韻會「怯、乞業切、說文、多畏也」集韻「懦、奴臥切」」 物ニ、怯ヂ恐ルルコト。臆病ナルコト。 韓非子、「[illegible]」

けぶたし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [煙] (煙甚しノ義) (一)煙ニムセブ。煙ニテ、呼吸、苦シム。ケブシ。ケムタシ。ケムシ。 倭名抄、十二、燈火具「燻、[illegible]」 夫木抄、十九、燻「[illegible]サビシサニ、[illegible]モ、燻けぶたき、宿ノ蚊遣火」 (二)心苦シ。氣ヅマリナリ。 源、三十、[illegible]「イト苦シキ判者ニモ當リテ侍ルカナ、イトけぶたしヤト、惱ミタマフ」

けふちくたう (名) [夾竹桃] 樹、高サ七尺、乃至、一丈五尺、葉ハ、三枚、輪生シ、披針狀ニシテ、表面、濃綠、光澤アリ、夏ノ末ニ、梢頭ニ、複繖狀ヲナシテ花ヲ開ク、色ハ、白、乳白、淡紅、紫紅ナド、種種ナリ、枝ヲ折レバ、白乳、出ヅ。

けぶつ (名) [化佛] 佛ノ、化現スルコト。 [illegible] 「[illegible]化佛、化菩薩ヲ現ジタリケレバ」

けふてい (名) [協定] 協議シテ、決定スルコト。國際條約ニテ協定スルナドニ云フ。「協定稅率」「協定關稅」

けふてい (名) [篋底] ハコノソコ。「篋底ヲ搜ル」「深ク篋底ニ納ム」

げふてい (名) [業體] 營業ノスヂ。

けふどう (名) [協同] 心力ヲ合ハセテ、共ニ、事ヲ行フコト。 後漢書、[illegible] 「協同一致」

けふのさぬの (名) [狹布狹布] けふ(狹布)ノ條ヲ見ヨ。

けふのせばぬの (名) [狹布狹布] けふ(狹布)ノ條ヲ見ヨ。

けふのほそぬの (名) [狹布細布] けふ(狹布)ノ條ヲ見ヨ。

けふのむかし (名) [今日昔] 昔シ出來事ノアリシ當日。昔シノ今日。 玉葉集、十四、雜、一「昔ヲソヘテ、猶コソ忍べ、アヤメ草、忘レヌツマノ、今日の昔ヲ」

けふはく (名) [脅迫] オビヤカシ、セマルコト。甚シク、オドシツクルコト。威嚇。 [illegible]

けふび (名) [今日日] (何時何時ナドノ例) 今日アタリ。イマゴロ。キノフ、ケフ。昨今。「昔ハ知ラズ、けふびハ[illegible]」

げふむ (名) [業務] ナスベキツトメ。「業務ニ勵ム」「業務ヲ擔任ス」

げぶん (名) [外文] 外印ノ條ヲ見ヨ。

けふやく (名) [協約] 協議シテ、契約スルコト。國際條約ニテ協約スルナドニ云フ。

けふゆう (名) [怯勇] 怯懦ナル事ト、剛勇ナル事ト。剛臆。 呂氏春秋、[illegible]

けぶらひ (名) [氣振] 「次次條ノ氣振ノ延、語リ、かたらひ。關る、かからふ」 次次條ノ語ニ同ジ。 [illegible] 倭訓栞「けぶらひ[illegible]」 [illegible]けぶりトモ云フ、[illegible]ニ、けきはみト云フニ同ジ」

けぶり (名) [烟][煙] (一)(ケブルコト) 火ノ、物ヲ燒クヨリシテ起ル、黑キ氣。ケムリ。ケム。ケブ。 萬葉集、三三十「鹽燒ク火氣」 華嚴經私記音義(奈良朝)「煙、氣夫利」 (二)[霞] 萬葉集、十三「[illegible]煙立ツ、春ノ日暮ラシ[illegible]見レドアカネバ、萬代ニ」 (三)[塵] [illegible]水、ナドノ、飛ビ散リテ、烟ノ如ク起ツモノ。 夫木抄、三「イカニセン、風吹ク浦ノ、シホけぶり、[illegible]」「水煙」「土煙」「沙煙」 (四)草木ノ芽、又ハ、毛ナドノ、淡ク生ヒテ、薄キ霧、烟ノ如ク見ユルモノ。 新

勅撰集、十六、雜、一「春日野ニ、マダ萠エヤラヌ、若草ノ、煙短キ、荻ノ燒原」 (五)火葬ノ烟ヨリ轉ジテ、死シタルコト。徒然草、第七段「アダシ野ノ露、消ユル時ナク、鳥部山ノ烟、立チサラデノミ、住ミハツルナラヒナラバ、イカニ、物ノアハレモ無カラン」

けぶり (名) [氣振] (氣ノ、搖レ立ツコト、振る(自動四段活用)ヲ見ヨ) ケハヒ。ソブリ。容子。「嫉フ心ハ、けぶりニモ見セヌ」

けぶりぐさ (名) [煙草] (煙草ノ訓讀) たばこノ異名。俊訓栞、けぶりぐさ「煙草ノ義、近キ世ノ御製トカ、賤ノ住ム、浦ナラネドモ、けぶり草、立居ニ人ノ、志ほトコソナレ」

けぶりくらべ (名) [煙比] (思ひノ、ひヲ、火ニ寄セテ、燃ユル思ひニ云フナリ) 互ニ戀フル心ノ、深淺ヲ比ブルコト。源、三十五、柏木五「立チソヒテ、消エヤシナマシ、憂キコトヲ、思ひ亂ルル、けぶりくらべニ」

けぶりだし (名) [煙出] けむりだしニ同ジ。煙窓 字類抄「六、ケブリダシ」

けふりつらう (名) [協律郎] 雅樂頭ノ唐名。職原抄、上「雅樂寮、頭一人、唐名、大樂令、協律郎」

けぶりのきり (名) [烟桐] (せうびきん(焦尾琴)ヨリ出デタル名ナルベシト云フ、其條ヲ見ヨ) 琴ノ異名。八雲御抄、三、下、異名、和琴「けぶりのきり」

けふりやう (名) [狹量] 雅量ノ條ヲ見ヨ。(廣量ニ對ス)

けふりやく (名) [劫掠] オビヤカシ、カスメトルコト。史記、高祖紀「今乃與王黄等、劫掠代地」

けふりよく (名) [協力] 力ヲ、アハスルコト。共共ニ、事ヲナスコト。「同心協力」

けぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [煙] (けハ、火氣ノけナリ、ぶるハ、搖れ立つ意、振る(自動四段活用)ノ條ヲ見ヨ) (一) [煙、起ツ。ケムル。元慶六年日本紀竟宴歌「高殿ニ、登リテ見レバ、天ノ下、四方ニ氣不利テ、今ゾ富ミヌル」 (二) [淡キ煙ノ如ク見ユ。宇津保物語、菊宴三十「御前ノ木芽ノ、打チけぶりタルヲ見タマヒテ」 源、五、若紫四「四方ノ梢、ソコハカトナウけぶりワタレル程、繪ニイトヨクモ似タルカナ」 同卷九「眉ノワタリ、打チけぶり」 (三)火葬ノ煙トナル。死ヌ。 夫木抄、三十六、哀傷「向ヒ居テ、見ルニモ悲シ、けぶりニシ、人ヲおもひノ、灰ニヨソヘテ」

けふわ (名) [協和] 協心シ、和合スルコト。書經、堯典篇「協和萬邦」

げべん (名) [外辨] 内辨ノ條ヲ見ヨ。

げほくめん (名) [下北面] 北面ノ條ヲ見ヨ。

けボサツ (名) [化菩薩] 菩薩ノ、化現スルコト。又、其菩薩。(化佛ノ條ヲ見ヨ)

げほふ (名) [外法] (内典、外典、外道ナド云フ、外ナリ、内法ニ對ス) (一)佛教ニテ、其教義ノ外ノ修法ヲ云フ語。此法ヲ行ヒテ、受クベカラザル果報ヲ、强ヒテ佛ニ祈リテ得タルヲ、外法成就ト云フ。今昔物語、四、廿四語「外法ノ事ハ、益ナシトテ、羅漢ノ所ニオハシテ、出家シマタヒテ、内法ヲ習ヒ傳ヘテ、名ヲバ、龍樹菩薩ト申ス」 盛衰記、一、清盛行ニ佗天ニ事「實ニヤ、外法成就ノ者ハ、子孫ニ傳ハラズト云フモノヲ」 (二)一種ノ妖術ノ名。外術。此術、陰陽師ガ、支那ノ道家ヨリ傳ヘタルモノトオボシク、(出典ノ續夷堅志ヲ見ヨ)佛家ヨリ、外法ト稱シタルナルベシ、髑髏ヲ用キテ、種種ノ妖術ヲ行フモノナリ。髑髏神 コレヲ行フ者ヲ、外法遣、外法僧、ト云フ。外法ニ用キル髑髏ハ、人ノ頭ノ形ノ、尋常ニ異ナルモノヲ採ル、コレニ因リテ、異形ナル頭ヲ、外法頭、外法あたまト云フ。(其條ヲ見ヨ) 續夷堅志、四ニ、術者、童男ヲ捕ヘテ、食ヲ與ヘズシテ、死セシメ、其頭ヲ收メ、髑髏神ト名ヅケ、魂ヲトドメテ、物言ハセ、人ノ吉凶ヲ云フ、ト見ユ。(犬神ノ條ヲ見ヨ) 增鏡、第九、北野の雪「西園寺太政大臣公相薨ズ「御葬事ノ夜、御棺ニ入レタマヘル御頭ヲ、人ノ、盜ミ取リケルゾ、メヅラカナル、御顏ノ、下短ニテ、半程ニ、御目ノオハシマシケレバ、外法トカヤ祭ルニ、カカル生首ノ要ル事ニテ、何某ノ聖トカヤ、云云、取リテケルトテ、後ニ、沙汰ガマシク聞エキ」 (三)次次條ノ語ノ略。(四)げほふげた(外法下駄)ノ略。

げほふあたま (名) [外法頭] 次條ヲ見ヨ。

げほふがしら (名) [外法頭] (一)人ノ頭ノ、生得ニ、異形ナルモノ。又、外法あたま。外法ヲ修スル者、此髑髏ヲ用キルト云フ、梓巫、市子ナドノ口寄スルニモ用キルナリ。(前前條ノ(二)ヲ見ヨ) 慶長見聞集、八、壽庵ト云フ醫者ノ治效ニツキテ「或人評シテ云フ、世ニ色色ノ術法アリテ、げほうがしら、うまろ佛ナドト云フ物ヲ持チヌレバ、奇特ヲ云フトカヤ」 居龍工隨筆(安永)「外法つかひト云フ者アリ、俗ニさい樋あたまト云フ頭形ノ人アレバ、其人ニ財寶ヲ贈リ、云云、其髑髏ヲ懷中ニ隱シ持テバ、人ノ心ノ内ニ思フ事ヲ、彼ノ首ノ、悉ク言ヒ知ラスルナリ、云云、昔アリシ大臣ノ、寵ゼラレシ時、首ヲ、人ノ盜ミシ事アリ、其大臣、外法あたまナリケリト」 嬉遊笑覽ノ八ニ、龍宮船ト云フ草子ノ記事ヲ載セテ、巫女ノ携フル、一寸五分許ノ佛像ト、猫ノ頭トモ云フベキ、干固マリタル物ヲ云フニ、異相ノ人ノ髑髏ナリトアリ。俊訓栞、げはふがしら「人ノ枯骨ヲモテ、蠱ヲナス也、外法頭ノ義ナルベシ、續夷堅志ニ云フ、髑髏神也ト云ヘリ、縣巫ノ懷中ストモ云フ、後佛モ、同類ナルベシ」 (二)大津繪ニ、福祿壽ノ像ヲ圖スルニ、其頭、甚ダ長ク高シ、外法あたまト云ヒ、略シテ、げほふトモ云ヒテ、福祿壽ノ渾名トス。大津繪節、元唄「げほふ梯子剃り」(梯子ヲカケテ髮ヲ剃ルヲ云フ)

げほふげた (名) [外法下駄] (製造者ガ、外法頭ナリシヨリノ名ナルベシ、出齒庖丁ノ類) 下駄ノ一種、齒ヲ、漆塗ニシタルモノ。我衣(天和、溫知叢書、十)「寶永頃、和泉町新道ニ、げほうノ足駄作ノ上手アリ、げほう下駄トテ、名代ナリ、云云、江戸ノ塗下駄ノ始ハ、げほうナリ」

げほふソウ (名) [外法僧] げほふ(外法)ノ(二)ヲ見ヨ。

げほふつかひ (名) [外法遣] げほふ(外法)ノ(二)、及、げほふがしら(外法頭)ノ(一)ノ條ヲ見ヨ。

げぼん (名) [下品] 佛經ノ語、此品ハ、世間善ヲ行フモノノタメニ成レルナリ、九品淨土ノ條ヲ見ヨ。枕草子、五、五十段、ロをしき物「紙賜ハリタレバ、九品蓮臺ノ中ニハ、下品ト云フトモト書キテ、マヰラセタレバ」

けぼり (名) [毛彫] (毛ノ如ク細ソキ意) 彫物ニ、模樣ヲ、極メテ細ソク刻ルモノ。鐵刻 宗五大雙紙、衣裝ノ事「御晴ノ時、云云、一段ノ時ハ、云云、持タセ候太刀ハ、蛭卷太刀トテ、云云、カナゴ、赤銅、ウケ彫、けぼり、ナナコ、タルベシ」

けまう (名) [希望] 希望ニ同ジ。

けまはし (名) [蹴廻] 衣服、袴ノ裾口。スソマハシ。今、洋服ノ上着ニモ云フ。運歩色葉集「蹴廻、ケマハシ、袴」 後松日記、十八「寸法抄云、水干之事、云云、股立ヨリ裾割幅、右一尺七八寸、けまはしノ内ニ有事ト見エ申候」 宗五大雙紙、

女装の事「ゑぼうしノきぎは、(狩衣)、狩ノけまはし、生絹トハ甲ナガラ、又ハ、タシナミニモヨルベシ」日[illegible]まはしマデ、五色ノ組ヒノタグリ程」

〔け-マン〕(名) [華鬘] 〔鬘ハ、梵語、俱蘇摩摩羅(花ノ義)ヲ略シテ、鬘トシ、髪ヲ加ヘタル字ニテ、華鬘ハ、即チ、梵漢雙舉ノ語ニテ(俄省、[illegible]定ノ類)生花ノ指頭ナリ、[illegible]西域記、六、國中人物、首飾華鬘、云云、梵云[illegible]、此云花、云云、多用[illegible]花、行列結レ之以爲[illegible]男女貴賤皆以莊嚴ニ」佛前ニ懸クル、莊嚴ノ具、金屬ニテ造レル[illegible]ニ、造花ヲ綴リテ垂ル。[illegible]「[illegible]花鬘」吾妻鏡、四十七、正嘉元年十月一日「堂中[illegible]」

けマン-さう (名) [華鬘草] 〔花、垂ルルコト、華鬘ノ如シ〕葉ハ、牡丹ニ似テ、小サク、花莖、長サ一尺餘、春ノ末ニ、淡紫ノ花ヲ開ク、莖、斜ニ偏シテ、直立セズ、花ノ形、扁圓ニシテ、大キサ八九分、綴リテ垂ル。一名、ケマンボタン。荷包牡丹

けマン-ぼたん (名) [華鬘牡丹] 前條ノ語ニ同ジ。

けマン-むすび (名) [華鬘結] 組紐ノ結ビ方ノ名、組紐ヲ、[illegible]違ニスルコト、同心結ニ同ジ。[illegible]出ダス、或ハ、輪違ヒ、或ハ、けまん結び」後調集、けまん「けまん結びハ、同心結也」

けまり (名) [蹴鞠] クヱマリ。まりけ。略シテ、まりトノミモ云ヒ、又、蹴鞠トモ云フ。貴人ノ遊戯、庭上ニテ、數人、

革沓ヲ穿キテ、鞠ヲ、且蹴上ゲ、且承ケテ、地ニ落チシメヌ戯レナリ。鞠ハ、鹿ノ韋皮ニテ、二枚ヲ、中ニテ綴リテ、圓ク作ル、徑、七八寸、内ニ空氣ヲ滿タシ、輕ク空ニアガル。コレヲ行フ式、種種ナレド、普通ナルハ、庭上ニ場ヲ設ク、鞠場トモ、懸リトモ云フ、廣サ、數間、四方ヲ圍ヒ、東北ノ隅ニ櫻、東南ニ柳、西南ニ楓、西北ニ松ヲ植ウ、(此樹樹ヲ、切立ト云フ)四木懸ト云フ、四人、又ハ、六人、八人、此場内ニ立チテ、鞠ヲ蹴合フナリ。此技、支那ヨリ傳ハリテ、古代ヨリアリシガ、崇德天皇ノ比ノ人、大納言藤原成通、練達シテ、妙技ヲ稱セラレ、其子孫、公家衆ニ、難波家、飛鳥井家ト稱シテ、數十世、此技ノ師範家タリキ。 近代世事談ノ三、京師ノ西洛外ノ限外ノ吉林ト云フ所、鞠ニ手[illegible]、種種ノ曲ヲ蹴タリ、是レヨリ、堀下ノ名モ、コレヲ據ベリ、外[illegible]ト云フ、トアリ、[illegible]一年五月、中臣[illegible]子、打[illegible]中大兄於法興寺槻樹之下[illegible]之侶[illegible]而候[illegible]、[illegible]字鏡[illegible]「[illegible]マリ」倭名抄、四[illegible]下[illegible]、宇ニ、鞠ヲ蹴レリ」本朝月令、五月、國史云、[illegible]寶元年五月九日、[illegible]」西宮記、臨時、八、蹴鞠「延喜五年三月二十日、御二仁壽殿一、召二殿上人一、云云、令[illegible]蹴鞠二」[illegible]物語、二十一、「殿上花[illegible]、一品宮、云云、殿上人、朝夕ニ參リ、罷出、まりけニ、小弓射ナド、オカシク[illegible]ベリ」同、三十六、[illegible]ノ盛リニハ、人[illegible]、まりけナドアソバセタマヒシ所ナリ」享德二年晴之御鞠之記「御鞠ハ、獨生ノ下ノ七日ノ事ナリケリ、云云、式部卿ノ宮ノ、今日ノ御まりニ參ラセタマフ」吾妻鏡、四十三、建長五年三月一日「於二御所[illegible]御[illegible]、[illegible]蹴鞠二」尺素往來「近日於二禁中一、可[illegible]、[illegible]、[illegible]候、[illegible]、[illegible]松、各擇二古木佳株一、被二移栽一候」

けみ (名) [毛見] 〔稻ノ毛ヲ見ル義(作毛、一毛作)毛ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕田ノ稻ノ結實ノ、豐凶ヲ見定ムルコト。多クハ、音便ニ、けんみ(檢見)ト云フ、其條ヲ見ヨ。 長谷[illegible]記[illegible]、國中知行方之儀、以二毛見之上二三分一、地頭、三分一、者、百姓可レ取レ之」倭訓栞、けみ、豐凶ノ人、田野ヲ巡リ、年ノ上下ヲ視テ、收納ヲ定ムルヲ云ヘリ、云云、毛ハ稻、稻梁ノ毛ヲ以テ、豐儉ヲ知ルノ意也」

けみじか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [氣短] 何トナク、ミジカシ。みじかしノ條ヲ見ヨ。

けみ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) [閱] 〔けみハ、檢ノ音ノ轉〕(一)[習ハシテ、檢メ見ル。(練兵ニ云フ)閱兵ス。 天智紀、四年十月「大閱二于菟道一」軍防令、義解「閱、簡也、俗所レ謂點兵也」周禮、夏官篇、司馬「中冬教二大閱一」注「大閱、簡二兵而習戰也」孟子、公孫丑、上篇「關譏而不レ征、則天下之旅皆悅、而願レ出二於其路一矣」(二)亂サムトテ、見ル。 左傳、襄、九年「商人閱二其禍敗之釁一」「書ヲ閱す」(三)經。過ス。 漢書、文帝紀「閱二天下之義理一多矣」正韻「閱、歷也」「年月ヲ閱す」

けみち (名) [蹊道] 馬術ノ語、馬ノ、常ニ道ヲ行ク足並。

けみ-どり (名) [毛見取] 檢見ノ條ヲ見ヨ。

げ-みん (名) [下民] シモザマノモノ。小前ノモノ。

け-みゃう (名) [家名] イヘノナ。家ノ名譽。家名。 吾妻鏡、廿二、建保四年九月廿日「[illegible]官[illegible]、欲レ擧二家名一」

け-みゃう (名) [假名] 〔實名ニ對スル語〕呼名。後世ニ云フ、俗名、通稱、ナリ。梶原景時、那須宗高ハ、實名ニテ、平藏、

與一ハ、假名ナリ。 平家物語、二、六、京都[illegible]「千本ノ卒都婆ヲ作リ、阿字ノ梵字、年號、月日、けみゃう、實名、二首ノ歌ヲゾ書キツケケル」(撿非違使平判官康賴ナリ)同、十一、「[illegible]、其けみゃう、未つみ、う、分明ナラズ、今日ノ源氏ノ大將軍ハ、誰レ人ニテマシマスゾ」(源九郎義經)

げ-みゃうぶ (名) 外命婦 みゃうぶ(命婦)ノ條ヲ見ヨ。

けむ (名) [煙] 〔けぶノ轉〕けぶニ同ジ。ケムリ。けむに卷くト云フハ、氣焔ヲ以テ、相手ヲ驚息セシムルナリ。けむになるトハ、消エ失スルナリ。

〔け・む・ム・メ〕(助動) 動詞、助動詞ノ連用形ニ添ヒテ、過去ヲ推量スル意ヲ云フ語。 古事記、中(仲哀)六十長歌「此御酒ヲ、釀ミ祁牟人ハ」萬葉集、七、二十四「眞木柱、作ル杣人、イササメニ、假庵ノタメト、作リ計米ヤモ」「行キけむ」「立チけむ」「落チけむ」「見けむ」「行キニけむ」「見タリけむ」

〔け・む・ム・メ〕(助動) 〔善くあらむ、惡しくあらむナドノ約ナル、からむノ約〕 形容詞ノ語根ニ添ヒテ、未來ノ意ヲ云フ語。 古事記、中(景行)五十長歌「命ノ、全部牟人ハ」萬葉集、五、廿五「サブシ計米ヤモ、君坐サズシテ」「善けむ」「惡シけむ」「無けむ」「可けむ」

けん (名) [權] 〔權ヲ、假ト訓ズ、正官、權官ト云フモ、是レナリ〕 臨機應變ニ行フ手段。正ニ違ヘドモ、成功ニ歸着スル行爲。佛教ニ云フ、方便ノ如シ。コレヲ、權道トモ云フ、權宜ノ處置ナリ。 [illegible]、[illegible]解、下傳「巽以行レ權」註「權、反レ經而合レ道者也」[illegible]子、[illegible]、權、變也」後漢書、馮衍傳、注「於二正道一雖二違逆一、而事有レ成レ功者、謂二之權一」

けん (名) [權] 〔權柄ヲ略シタル語、其語原ヲ見ヨ〕(一)其事、其人ノ分際ニ具ハリテ、事ヲ處分スルヲ得ル力。權力。

漢書、劉向傳「乗ノ權藉」、荀子、議兵篇「權出ニ於一ニ」「政事ノ權、官吏ノ權、爻ノ權」(二)權利。「所有ノ權、特權」

けん (名) [間] [兩柱ノアヒダヲ、閒ト云フ、其字ヲ音讀シタル語、其條ヲ併セ見ヨ」(一)宗ノ、柱ト柱トノ間。狹衣、四、中「三十七大殿ノオハシマス方ヨリハ、別ニ、五けん四面ナリ」拾芥抄、中、末「清涼殿、九間四面」(二)度ノ名、曲尺六尺ノ長サ。コレニ、田舍間、京間、ノ別アリ。宇治拾遺、四、十七條「枚大豆ヲ投ゲヤルニ、二間バカリノキテ、居給ヒテ」(三)円ノ稱、(圍碁、又ハ、將棊ナドニ) 浮世風呂(文化、三馬)初編、下「モウ一間、角ヲツッコメ」「三間飛ビ」四間飛ビ」

けん (名) [拳] [拳相撲ト云フガ、成語ナリ、此技、寬永年間、支那人ノ、長崎ニ傳ヘタルモノニテ、其他ニ傳ハリタルハ、元祿ノ頃ナルベシト云フ、呼ブ所ノ數字、皆、支那音ナリ」拳相撲。遊技ノ名、酒宴ノ席上ニテ行フ競技ニテ、負ケタル者ニ、酒ヲ飲マスル戲レナリ。コレヲ行ふヲ、打つト云フ。二人對坐シテ、互ニ五指ヲ屈伸シ、指ノ數ヲ呼ビツッ出シ、其雙方ノ出シタル指數ヲ合算シ、呼ビタル數ニ中リタルヲ勝トス、同聲ナルニハ、勝負ナシ。呼聲ハ、一ヲ、いい、又ハ、ヰト云ヒ、二ヲ、兩、三ヲ、さん、四ヲ、をう、又ハ、四矣、五ヲ、うう、又、ごう、六ヲ、りう、又、六麼、七ヲ、ちぇえ、又、七麼、八ヲ、八麼、九ヲ、きう、又、くゎい、十ヲ、都來(都ハ、統ナリ、來ハ、助辭、詩去來ナドノ來)ト云ヒ、拳ナルヲ、無手、又ハ、にぎりト云フ、三回ヲ一回トシ、三本勝負トスルヲ、本則トス、以上ヲ長崎拳トモ云ヒ、他ニ對シテ、本拳トモ云フ。拇戰 猜拳 一本勝負ナルヲ薩摩拳ト云フ。相手ニノミ指ヲ出サセ、此方タダ、數ヲ呼ブノミニテ中ツルヲ、片拳ト云フ。一本增(相手、一指ヲ出セルニ、此方、二指ヲ出セル如キ)ヲ勝トスルヲ、大阪拳ト云フ。尙、種種ナル打方アリ。其外、變態ナル、三竦ノ蟲拳、石拳(ぜいけん拳)、狐拳(庄屋拳、藤八拳)ナドアリ、各條ヲ見ヨ。嬉遊笑覽、十、拇戰「江戶名物鹿(文化)拳すまふ、米淅ヤ、指デ戰フ、秋ノ雲」唯、拳ヲ打ツモ、拳ずまふナリ」拳會角力圖會(文化)上「長崎、圓山、開發ノ時、彼所ノ靑樓ニ、唐人、アマタ來リ、宴ヲ設ク、云云、酒闌ニ及ブ頃、唐人、左右ニ分レ、云云、拳ヲ拾ヒマハル、云云、負ケト見エタル方ノ家ニハ、ぎやまんノ大器ニ、一二三盃ホドヅツ飲ミ乾シテ、後ニ退ク、云云、今世ニ云フ、長崎拳ノ濫觴、是レナリ」(圓山町ノ遊郭創立ハ、寬永十九年ナリ)

けん (名) [乾] (一)乾坤ノ條ヲ見ヨ。(二)方角ノ名、戌亥。(西北)

けん (名) [賢] カシコキコト。才德ノ、勝レタルコト。又、其人。論語、學而篇「賢賢易色」同、雍也篇「賢哉回也」史記、高祖紀「項羽、妬賢嫉能」盛衰記、三、「實定卿ニ大將ニ事」「賢ハ、愚ニカヘル」「賢ヲ求ム」其妻、賢ナリ」

けん (名) [見] [見解ノ義] ミカタ。ミコミ。カンガヘ。沙石集、九、下、第八條「惡人ノ中ニ、マレニ、臨終、穩シケレバ、是ヲ見テ、惡人モ臨終善シ、惡業恐ルベカラズトイフ見ヲ起シテ、罪ヲ恐レズ、惡ニ、三惡、四趣ノ業ヲノミナス事、世ニ多シ二井畦ノ見」一箇人ノ見」

けん (名) [見ノ義、梅酢ナルヲ見サムガタメノモノニテ、昔ハ、米ノ酢ナク、皆、梅酢ナリシト云フ」 膾ノ眞中ニ盛ルモノ、梅漬ノ蔬菜ヲ用キル。ツマ。ツケアハセ。アヘモノ。アヘシラヘ。倭訓栞、けん「膾ニ云フハ、間ノ字ニヤ、或ハ、羹音ノ轉訛ナリト云ヘリ」俚言集覽「權、けん、膾ノけん也」傾城酒顚童子(享保、近松作)四「和雜膾、けんニ置イタル、めうがノ程ゾオソロシキ」

けん (名) [儉] ツヅマヤカナルコト。儉約。節儉。論語、八佾篇「禮與其奢也、寧儉」左傳、莊公廿四年「儉、德之共也」十訓抄、上、第一、第五條「文集、云云、四卷ノ杏爲梁ニハ、儉ナルハ存シ、奢レルハ失スル事、今、目ニアリトモ書カレタリ」

けん (名) [險] (一)ケハシキコト。險阻。戰國策、秦策「百人守險、千人不能過也」史記、高祖紀「秦、形勝之國、帶河山之險」(二)けんさう(險相)ノ略、其條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「能イ御器量ダ、チト險ガアルヨ、アレデ愛敬ガアリャア、鬼ニ金棒サ」

けん (名) [劒 劍] (一)ツルギ「專ラ、諸刃ナル太刀ヲ云フ。史記、平原君傳「毛遂按劍、歷階而上」保元物語、一、新院召爲義事「判官代ニ補シテ、上北面ニ候スベキヨシ、能登守家長シテ仰セラレ、鵜丸トイフ御劍ヲゾ下サレケル」(二)劍術。擊劍。史記、項羽紀「去學劍、又不成」(三)銃ノ頭ニックル、槍ノ穗先ノ如キモノ。銃槍(四)蜂ナドノ尻ニアル螫。螫

けん (名) [健] スコヤカナルコト。壯健。易經、上經、乾卦「天行健、君子以自强不息」「健ニシテ、壯ナリ」

けん (名) [鍵] (一)おるがん、ぴあの、等ノ鍵ノ樂器ニテ、指ニテ押シテ、音ヲ發セシムルモノ。(二)たいぷらいたあニテ、指ニテ押シ、字ヲ寫サシムルモノ。

けん (名) [絹] 絹布ノ略。キヌオリモノ。大佛物語(寬永)上「醫師ト見エテ、云云、けんノ羽織ニ投頭巾、後ニ、乘物釣ラセテ來タリ」神亭幸記、三)

けん (名) [兼] 本官ニ兼ネテ、外ノ官ニ任ゼラルルコト。兼官。兼任。梁書、王僧孺傳「遷驃將軍、兼、御史中丞」選敍令「凡任二兩官以上ニ者、一爲ニ正、餘皆爲ニ兼一」「大納言兼左近衞大將」

けん (名) [謙] ヘリクダルコト。卑下スルコト。誇ラザルコト。謙遜。易經、大有謙篇「滿招損、謙受益」太平記、十一、長門探題降參事「手ヲ束ネテ恥ヲ忍ビキ、然ルニ今、天道、謙ニ祐シテ、測ラザル世ノ變化ヲ見ル」

けん (名) [妍] ウックシキコト。美麗。韓愈、送李愿歸盤谷序「爭妍而取憐」陸游詩「野草閑花自鬪妍」「百花、妍ヲ競フ」

けん (名) [縣] (一)アガタ。(二)今、一地方官ノ管轄スル地ノ區分ノ稱。現時、日本全國ニ、四十餘縣アリ、縣ノ地ハ、郡ト、市トニテ成ル。初、其長官ヲ、令ト云ヒキ、今、知事ト云フ。(三)支那ニテハ、郡ノ內ヲ小分シタル地ノ稱。今ハ、道ニ屬ス。秦紀「幷諸小鄕、聚爲縣」

けん (名) [堅] (一)カタキコト。カタキモノ。堅固。歐陽修、論范富狀「堅不可奪」(二)堅甲ノ略。ヨロヒ。「披堅」

けん (名) [件] とトクダリノ事。事物ノ一箇ヲ、一件ト云フ。正字通「俗謂物數曰若干件」俚言集覽「件、小說語、シナ、一件、ヒトシナ也、兩件、フタシナ也」「何何ノ件」「二三件」

けん (名) [劵] 莊園、田地ナドノ、所有ノ劵。劵契。史記、高祖紀「兩家折劵棄責」源、十二、須磨「領ジタマフ御莊、御牧ヨリ始メテ、所所ノけんナド、皆、奉リオキタマフ」落窪物語、三「男君、けんハアリヤト問ヒタマヘバ」榮花物語、十六、本の雫「女御ハ、吾レ領ズベシトオボシタレド、大殿ノ、けんヲバ、故女御殿ニ奉リタマヒテケレバ」

けん (副) [故] [故ノ音便、古言ノ存スルナリ] 故ニ。因リテ。カラ。アヒダ。サカヒ。(中國) 俚言集覽、けん「安藝、廣島ニ

[illegible]云フ、[illegible]けん、ヨウ行カン」

けん [illegible] (一)[illegible] (二)ノヤ。學者、[illegible]者、ナドノ、己ガ住ム室ノ號ニ用ヰル語。「在軒莬公昭[illegible]」 (二)家、又ハ、屋數ノ數[illegible]語。 (三)一家族ノ住メル竈數ヲ數フル語。戸。「一町ニ人家千軒、人頭五千」 (四)[illegible]

げん (名) 言 (一)コト。コトバ。言語。[illegible] (二)字。文字。白氏文集[illegible]「[illegible]味フベシ」

げん [illegible] 元 [illegible] (一)モト。ハジメ。カシラ。[illegible]之長也」 (二)[illegible]我ガ一圓內外。

げん (名) 玄 [名乘ニ、はるト訓ズルハ、[illegible]] (一)[illegible]ノ、極メテ、深[illegible]幽玄 [illegible] (二)[illegible]老子ノ學ヲ、玄學トイフ。[illegible] (三)黑キコト。[illegible]ト云ヒ、黑毛ノ鹿ヲ玄鹿ト云フ。說文[illegible]ニ、黑玄ト呼ブ、法師、[illegible]ノ名ニ、玄、[illegible]ノ字ヲツク、口ニ呼ブ時ニ、くろ玄、もと元、みなもと源、ト言ヒ別クルナリ、はん[illegible]、すすむ[illegible]ナド云フモ同ジ。(玄ヲ、名ニツクルハ、前項ノ幽玄ノ義ニ[illegible]) [illegible] げんヲ付クルナレバ、カク云フナルベシ」(げんさま[illegible])

げん (名) 弦 (一)ユミヅル。ツル。[illegible] (二)ユミハリヅキ。「上弦、下弦」

げん (名) 絃 和琴、琴、箏、琵琶、三味線、月琴、ナドニ張リテ、彈ク絃。(いとノ條ノ(三)ヲ見ヨ) [illegible]

げん (名) 驗 (一)[加持、祈禱ナドノ效。シルシ] [illegible] (二)[illegible]功能 [illegible] (三)キザシ。緣起。(京都) [illegible]兆」「げんガワルイ」

げん (名) 監 [官吏ヲシテ、監臨セシムル[illegible]] 古へ、太政官被管ノ國ノ稱。[illegible]

げん (名) 源 ミナモト。水源。韓詩外傳 [illegible]

げん (名) 愿 [說文「謹也、又、愨也、善也」] ツツシムコト。スナホナルコト。[illegible]

げん (名) 減 (一)減ルコト。減ラスコト。(增ニ對ス) [illegible] (二)算術ノ語、引算。「加、減、乘、除」

げん (名) 現 (一)ウツツ。現在。[illegible]げんニアリ、コレヲ見ヨトテ、見スルニ」 (二)現世ノ略 [illegible]

げん (名) 嚴 キビシキコト。嚴重。(寬ニ對ス) [illegible]

げん (名) 顯 げんけう(顯教)ヲ見ヨ。「顯、密、二敎」

けん-あい (名) 徧愛 偏見ヲ去リテ、親疎ノ別ナク、天下ノ、總ヘテノ人ヲ、博ク愛スルコト。[illegible]

けん-あい (名) 涓埃 [涓滴ト、點埃ト] 極メテ少シキナルコト。少シバカリナルコト。[illegible]

けん-あい (名) 險隘 險シクシテ、隘キ地。[illegible]

げん-あう (名) 玄奧 [幽玄、深奧ノ略] 奧深クシテ、測ラレザルコト。[illegible]

けん-あく (名) 險惡 [illegible]惡シキコト。[illegible]

けん-あく (名) 元惡 大惡人。[illegible]

けん-あん (名) 懸案 事ノ、引懸リトナリテアルコト。未濟ノ事柄。[illegible]

けん-あん (名) [illegible] 事情ヲ、シラベ考フルコト。[illegible]

げん-あん (名) 原案 理事者ヨリ、議場ニ提出シタルママノ議案。(修正案ナドニ對ス)「原案可決、原案執行」

けむ・い (形) 烟 けぶいニ同ジ。ケブタシ。

けん-い (名) 險易 險惡ト、平易ト。戰國[illegible]

けん-いう (名) 兼有 カネ、タモツコト。アハセ、モツコト。幷有。宣和書譜「[illegible]」

けん-いち (名) 見一 八算ノ條ヲ見ヨ。

けん-いん (名) 檢印 見認ニ押ス印。

けん-いん (名) 鈐印 [鈐ハ、鎖ナリ] 文書ノ緘印。緘封印。[illegible]

げん-いん (名) 原因 事ノ原。事ノ、因リテ起レル所。(結果ニ對ス) [illegible]元因ニ」(元ハ、原ニ同ジ)

けんいん-れう (名) 檢印料 [一部每ニ、著者、檢印ス] 著者ガ、其著書ヲ、書肆

ナドニ刊行、發賣セシムルニ就キテ受ケ收ムル、其書ノ定價ノ幾分。印稅。

けん-うん（名）［眩暈］メマヒ。タチクラミ。大猷院殿御實紀、附錄、一「眩暈ヲ疾マセラレ、名アル藥師トモ、日夜伺公シテ、御藥奉リケルニ」

けん-えい（名）［卷纓］まきえいニ同ジ。（纓ノ條ヲ見ヨ）

けん-えい（名）［顯榮］名ノ、アラハレ、身ノ、サカユルコト。立身、出世スルコト。戰國策、秦策「富貴顯榮、成ニ理萬物ニ」

けん-えい（名）［獻詠］自詠ノ詩歌ヲ、宮中ニ奉リ、又ハ、神佛ニ供フルコト。又ハ、其詩歌。

げん-えい（名）［幻影］マボロシ。虛無ヲ、實在ノ如ク感ジ認ムルモノ。蘇軾、海市詩「心知所見皆幻影、敢以ニ耳目一煩ニ神工ニ」蒲道源詩「頃ニ壁間出ニ幻影、恍若ニ面映ニ新鸊鵜ニ」

けん-えう（名）［顯要］〔貴顯ナル要路ノ義〕尊キ位ニ居リテ、國家ノ要職ニ當ルコト。又、其人。晉書、諸葛恢傳「於レ時王氏爲ニ將軍、而氣兄弟及恢會、立居ニ顯要ニ」盛衰記、十二「行隆被ニ召出ニ事「辨ニ成リ給ヘリシ時モ、右少辨長方ヲ越エテ、左ニ加ハリ給ヘリ、五位正上シ給ヘリシ中ニモ、顯要ノ人八人ヲ越エナドシテ、優優シカリシガ」「顯要ノ地位」

けん-えう（名）［權要］威權アル要路。宋書、謝靈運傳「才能宜レ參ニ權要ニ」

けん-えう（名）［險要］險阻ナル要害。晉志、劉毅傳「開ニ拓邊守、屯ニ據險要ニ」「險要ニ據ル」

げん-えう（名）［眩燿］キラメキテ、マバユキコト。班固、兩都賦、序「臣作ニ兩都賦、以極ニ衆人之所ニ眩曜ニ」（曜ハ、燿ニ通ズ）

けん-えき（名）［檢疫］傳染病ノ豫防ノ爲ニ、人體、貨物ナドヲ檢メテ、診察シ、消毒スルコト。「入港船ノ檢疫」

げん-えき（名）［現役］軍人ノ、現ニ、常備ノ兵役ニ就キテアルコト。（豫備役、後備役、ニ對ス）

けん-えつ（名）［檢閱］檢メ、見ルコト。ケミスルコト。後漢書、張堪傳「檢ニ閱庫藏ニ」

けん-えん（副）［眷焉］回視スル狀ヲ云フ語。朱熹、示ニ同志一詩「眷焉撫ニ流光、中夜歎以疑」

けん-えん（副）［慊焉］意ニ滿タズ。飽キ足ラズ。不足ヲ感ズ。不完全ナル狀ヲ云フ語。後漢書、五行志「慊慊常苦レ不レ足」

げん-おう（名）［大鐵槌］〔玄翁和尙ノ、下野國、那須野ノ殺生石ヲ碎キシト云フニ寄セテ、名ヅクト云フ、せっしゃうせき（殺生石）ノ條ヲ見ヨ〕鐵槌ノ、大ナルモノ。此器、古キハ、頭、巨大ニシテ、專ラ、石ヲ碎クニ用キシモノナリ、今ハ、工匠モ用キル。攻石椎　柴田退治記「以ニ鈎鐵玄翁鶴嘴ニ突ニ崩築地ニ」雍州府志（天和）七、土産門、鐵槌「其大者謂ニ玄翁、古那須野有ニ怪石ニ云云、號ニ殺生石ハ玄翁和尙誦レ呪、以ニ大鐵槌一碎ニ其石ハ然後怪止、世稱ニ石破玄翁ハ自レ茲石工、謂ニ大鐵槌一直曰ニ玄翁ニ」日本山海名物圖繪（寶曆）一、金山諸道具ノ圖ニ、げんのう、見ユ、形、甚ダ大ナリ。

げん-おう（名）［玄應］目ニ見エザレドモ、神佛ノ、感應スルコト。盛衰記、三十、平家延曆寺願書事「日光、月光、十二神將、照ニ無二之丹誠ハ垂ニ唯一之玄應ニ」

けん-か（名）［權家］政事ナドニ、權力アル人ノ家。權門、勢家。南史、袁昂傳「依レ事劾奏、不レ憚ニ權家ハ當時號爲ニ正直ニ」逆步色葉集「權家」「權家ニ出入ス」

けん-か（名）［蒹葭］〔詩經、蒹葭篇、毛傳「蒹、薕、葭、蘆也」〕ひめよしト、あしト。詩經、秦風、蒹葭篇「蒹葭淒淒、白露未レ晞」

けん-か（名）［縣下］縣ノ管轄地ノ內。縣內。

けん-が（名）［懸河］水ノ、懸リ垂ルル如キ、流レノ早キ河。瀨ノ早キ川。水經、注「瀑布垂レ巖、懸河注レ壑、二十餘丈」謠曲、山姥「懸河、渺渺トシテ、巖、峨峨タリ」

けん-が（名）［犬牙］〔犬ノ牙ノ、上下、相當ラズ、相嚙ヒチガフガ如キ意〕（一）地境ノ、他境ト、互ニ入リ組ミタルコト。史記、文帝紀「宋昌曰、高帝封ニ王子弟一地、犬牙相制、此所レ謂盤石之宗也」（互ニ控制セシムルナリ）田令、義解「若因ニ國郡改ニ隸ハ地入ニ他境ハ及犬牙相接者」謂、犬牙者、附着也、犬牙者、如ニ犬之牙ハ不ニ相當一而相銜入也」（二）事ノ、入リチガフコト。「犬牙錯綜」

げん-か（名）［絃歌］琴、三絃ナド彈キ、歌ヲウタフコト。論語、陽貨篇「子之ニ武城ハ聞ニ絃歌之聲ニ」

げん-か（名）［原價］モトネ。仕入直段。玉堂雜字「照ニ依原價ニ」聖燈餘話「問レ貪以賑レ之、但取ニ元價ハ不レ求ニ厚利ニ」（元ハ、原ニ通ズ）

げん-か（名）［減價］ネサゲ。ネビキ。漢書、食貨志「減レ價而糶」

げん-か（名）［現價］現在ノ直段。現時ノ相場。

げん-か（名）［玄關］〔玄關ノ略轉、合歡、がふかノ木。羅文、らんま（欄間）。勘忍、かにシテオクレ〕げんくゎん（玄關）ノ條ヲ見ヨ。

げん-か（名）［言下］コトバノシタ。速カナル意ニ云フ。傳燈錄「師於ニ言下ニ惑悟」

けん-かい（名）［狷介］〔狷ハ、集韻「有レ所レ不レ爲也」トアリテ、人ノ、己レガ分ヲ守リテ、不義ヲセザルコト、介ハ、詩經、周頌、注「堅確不拔、亦曰レ介」トアリテ、精神ノ、堅固ニシテ、拔クベカラザルコト〕人ノ性質ニ、頑ナニ志ヲ執リテ、情ヲ容レズ、聊カナル不義、不正ヲモ、敢ヘテセザルコト。狷狹。國語、晉語「小心狷介、不ニ敢行一也」晉書、向秀傳「巢許狷介之士、未レ達ニ堯心ニ」

けん-かい（名）［硯海］〔硯、海ノ音讀、漢語ニハアラジ〕スズリノウミ。硯池。墨池

けん-かい（名）［見解］〔字彙「解、釋也、曉也」〕（一）道理ヲ見テ、覺ルコト。鶴林玉露「曾點之見解、顏子之工夫」（二）解シ方。見所。ミコミ。意見「他人ト、見解ヲ異ニス」

けん-かい（名）［懸解］〔懸れるモノガ解くる義〕困苦ノ境涯ヲ脫スルコト。莊子、養生主篇「古者、謂ニ是帝之懸解ニ」

けん-がい（名）［懸崖］（一）キリギシ。ガケ。斷岸。絕壁。張煌儒、書斷「懸崖墜レ石」（二）盆栽ニ云フ語、植木ノ枝ノ、根ヨリ低ク、鉢ノ外ニ垂レサガルヤウニ作レルモノ。「懸崖ノ菊」

けん-がい（名）［兼該］カネ、ソナフルコト。晉書、庾亮傳「先帝神武、籌略兼該」

けん-がい（名）［險害］險惡ニシテ、害心アルコト。後漢書、賈淑傳「雖ニ世有ニ冠冕ハ而性險害、邑里患レ之」

げん-かい（名）［限界］カギルコト。シキルコト。經界。宋史、劉筠傳「令レ區ニ植楊柳數十萬株ハ使ニ相連屬以爲ニ限界ニ」

げん-かい（名）［諺解］〔昆陽漫錄、一「朝鮮ニテ、俗ノ讀ミヤスキタメニ、諺文ヲ以テ書ヲ譯ス、我ガ國、伊呂波ニテ漢籍

コト[illegible]ナルハ、シー[illegible]ノ條ヲ見ヨ[illegible]ニ[illegible]シタルモノ[illegible]

けんかう (名) [illegible] 〔[illegible]「稱上謂二之衡一、稱錘謂二之權一」〕（一）秤ノ[illegible]ト、[illegible]ト。ハカリ。[illegible]（二）[illegible]事ノ、[illegible]

けんかう (名) 乾綱 〔天子ノ綱紀ノ義〕君主タルモノノ大權。[illegible]

けんかう (名) 健康 スコヤカナルコト。病ナキコト。ヂャウブ。達者。堅勝。

けんかう (名) [illegible] 〔左傳、僖公、注〕[illegible]以受箭、韜以受弓〕（一）弓矢ノ袋。（二）弓矢ヲ袋ニ收ムルコトヨリシテ、天下太平ノ意ヲ云フ語トナル。[illegible]

けんかう (名) 兼行 （一）二三ノ事ヲ、兼ネ行フコト。[illegible]（二）晝ニ夜ヲ兼ネテ、歩ムコト。日夜、急ギ行クコト。[illegible]「倍道兼行」「晝夜兼行」

けんかう (名) 軒昂 意氣ノ、高ヒ揚ルコト。昂進。[illegible]

けんがう (名) [illegible] カマビスシキコト。ヤカマシキコト。[illegible]

けんがう (名) 堅剛 カタク、コハキコト。意志ノ、強キコト。[illegible]

げんかう (名) 言行 ことばト、おこなひト。口ニ言フコト、身ニ行フコト。[illegible]「言行不一致」「言行相反」

げんかう (名) 現行 マノアタリ、行フコト。現在、行ハルルコト。「現行犯」

げんかう (名) 原稿 原ノ稿本。タネホン。「言海ノ原稿」

げんかう (名) 還向 げかう（還向）ノ條ヲ見ヨ。

げんがう (名) 元號 年號ニ同ジ。[illegible]令、第二條「天皇踐祚ノ後ハ、直ニ元號ヲ改ム」

げんかう (名) 減耗 ヘルコト。少ナクナルコト。[illegible]

けんかうしんだん (名) 健康診斷 健康ナル身體ニ、病アルカヲ診斷スルコト。

げんかうはん (名) 現行犯 法律ノ語、罪ヲ犯セルヲ、マノアタリニ認メラレタルモノ。

げんかうりてい (名) 元亨利貞 乾元亨利貞ヲ見ヨ。

げんかがまへ (名) 玄關構 嚴シク、玄關ヲ造リ設ケテアルコト。「[illegible]ノ玄關構」

けんかく (名) 劍客 劍術ツカヒ。又、劍士。後漢書、馬[illegible]傳「吳王好二劍客一百姓多二創瘢一、楚王好二細腰一宮中多二餓死一」莊子、說劍篇「趙文王喜レ劍、劍士夾レ門、而客三千餘人」

けんかく (名) 懸隔 カケヘダタリタルコト。[illegible]ニ、[illegible]レタルコト。[illegible]コト。[illegible]イフ心也、次トイヘバトテ、天地懸隔ノ心ニハアラズ、タトヘバ、左右、[illegible]イフ程ノ[illegible]

けんかく (名) 堅確 カタク、タシカナルコト。シッカリシテ、動カサルコト。[illegible]

けんかく (名) 研覈 研究、調査スルコト。[illegible]

けんがく (名) 研學 學問ヲ、研究スルコト。

けんがく (名) 兼學 數事ヲ、兼ネ學ブコト。平治物語、一、[illegible]

けんがく (名) 見學 目ニ見テ、學ブコト。實地ニ見習フコト。[illegible]

けんがく (名) 謇諤 〔謇謇、諤諤ノ略〕遠慮ナク、直言スルコト。正シク、議論スルコト。後漢書、[illegible]

げんかく (名) 玄鶴 黒キ色ノ鶴、ツロツル。古今注[illegible]

げんかく (名) 幻覺 幻影ノ知覺。

げんかく (名) 嚴格 嚴重ニ同ジ。

げんがく (名) 玄學 玄ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

げんがく (名) 減額 數ヲ、減ラスコト。

けんか[illegible]ら (名) [illegible] [illegible]ニ同ジ。下馬[illegible]ノ條ヲ併セ見ヨ。

けんがた (名) 劍形 劍先ノ形シタルモノ。ケンガシラ。[illegible]

けんかたばみ (名) 劍酸漿 紋所ノ名、酸漿ノ花瓣ノ間ニ、劍先ヲ挿ミタル象ヲ圖ス。

けんがのべん (名) 懸河之辯 〔懸河トハ、懸垂ニ流ルル河ナリ〕立板ニ水ヲ流スガ如キ能辯。滔滔トシテ、快キ辯舌。[illegible]

げんかばん (名) 玄關番 玄關ヲ守リ居テ、來客ノ取次ナドスル者。玄關子。

げんかばらひ (名) 玄關拂 訪レタル人ヲ、面會セズ、玄關ニテ追ヒカヘスコト。「玄關拂ヲ喰フ」

けんかふ (名) 肩胛 カイガネ。カイガラボネ。

げんかふ (名) 嚴閤 げんぷ（嚴父）ノ（二）ニ同ジ。十訓抄、下、第十、第二條「嚴閤ノ[illegible]」[illegible]

けんかふりへい (名) 堅甲利兵 堅キ鎧ト、利キ兵器ト。精兵ノ意ナリ。孟子、[illegible]「可レ使レ制レ梃以撻二秦楚之堅甲利兵一矣」太平記、十一、金剛山寄手等被レ誅事「堅甲利兵、徒ニ[illegible]滅亡ヲ瞬目ノ中ニ得タル事」

げんかん (名) 嚴寒 酷シキサムサ。甚寒。極寒。開元天寶遺事「天氣嚴寒」[illegible]「欲冬花二於嚴寒一」

げん-かん (名) 阮咸 〔支那、晋ノ阮咸ノ造リ出セルモノト傳フ〕 樂器ノ名、琵琶ニ似テ、胴、正圓ニシテ、棹、直ク、五弦、十三柱ナル物ト云フ、後ニ變ジテ、月琴トナルト云フ。 唐書、元行沖傳「有﹆人、破﹆古冢﹆得﹆銅器﹆似﹆琵琶﹆、行沖曰、此阮咸所﹆作器也、命易以﹆木絃﹆之、其音雅亮、樂家遂謂﹆之阮咸﹆」 雅樂寮式「阮咸」 倭名抄、四「音樂具、阮咸、晋竹林七賢中有﹆阮咸﹆因﹆琵琶體﹆所﹆造歟、其頭不﹆曲者也」

げん-かん (名) 玄鑒 神佛ノ、冥冥裏ニ照覽セラルルコト。 太平記、五、大塔宮熊野落事「今、朝日、忽ニ浮雲ノタメニ隱サレテ、冥闇タリ、豈不﹆傷哉、玄鑒似﹆空、神若シ神タラバ、君盍﹆爲﹆君ト、五體ヲ地ニ投ゲテ」

げんか-れき (名) 元嘉曆 〔支那、六朝ノ宋ノ元嘉二十年ニ、何承天ノ作リシモノ〕 持統天皇ノ御代ニ用キラレシ太陰曆ノ名、我ガ邦、最初ノ曆ナリ、凡ソ七年ノ後、儀鳳曆ニ改メラル。 持統紀、四年十一月「奉﹆勅、始行﹆元嘉曆與﹆儀鳳曆﹆」

けん-き (名) 軒騎 車ニ乘ルコトト、馬ニ乘ルコトト。又、其車馬。 陳子昂、宴﹆李録事宅﹆序「軒騎如﹆雲、捴﹆名都之車馬﹆」 平家物語、一、我身榮花事「綺羅、充滿シテ、堂上、花ノ如シ、軒騎、羣集シテ、門前、市ヲナス」

けん-き (名) 顯貴 貴キ位ニアルコト。又、其人。 貴顯。 史記、韓阁傳「諸齊人、以﹆詩顯貴者、皆、固子弟也」

けん-き (名) 權貴 權威アリテ、分限ノ貴キコト。又、其人。 書斷、柳子厚墓誌銘「以﹆不﹆能﹆媚﹆權貴﹆失﹆御史﹆」

けん-ぎ (名) 權宜 〔正ニ對スル、權ノ條ヲ見ヨ〕 權ノ、宜シキニ從フコト。程良キハカラヒ。 後漢書、西羌傳「負﹆其智安之變﹆、信﹆其臨服之情﹆、討﹆日用之權宜﹆、忘﹆經世之遠略﹆」

けん-ぎ (名) 建議 意見ヲ建テテ、申シ出ヅルコト。建白。建言。 漢書、賈捐之傳「珠厓、云云、連年不﹆定、上與﹆有司﹆議﹆大發﹆軍、捐之建﹆議、以爲﹆不﹆當﹆擊﹆」

けん-ぎ (名) 軒岐 〔黃帝軒轅氏ト、岐伯ト〕 醫術ノ異稱。 帝王世紀、黃帝使﹆岐伯司﹆醫藥﹆、以﹆治﹆衆庶疾﹆」 「軒岐ノ道」 軒岐ノ學」

けん-ぎ (名) 嫌疑 (一)相似テ、紛ラハシキコト。 禮記、曲禮、上篇「夫禮者、所﹆以定﹆親疏﹆、決﹆嫌疑﹆、別﹆同異﹆、明﹆是非﹆也」 (二)〔疑ハシク思ハルルコト。イブカシムコト。ウタグリ。キラヒ。 楚辭、九章、惜往日「奉﹆先功﹆以照﹆下令、明﹆法度之嫌疑﹆」 枕草子、三、廿八段「けんぎノ者ヤアルト、戲レニモ咎ム」 落窪物語、一「我レヲ、嫌疑ノ者ト思ヒテ捕フルト、思ヒツルニ」

けん-き (名) 元氣 (一)天地ノ大氣。萬物ノ、根本ノ勢力。 後漢書、明帝紀「升﹆靈臺﹆、望﹆元氣﹆」 (二)人ノ精神ノ、健全ニナルコト。人ノ精氣。 唐書、柳子華傳「柳公度、善﹆攝生﹆、云云、吾初無﹆術、但未﹆嘗﹆以﹆氣海﹆暖﹆冷物﹆、熟生物﹆、不﹆以﹆元氣﹆佐﹆喜怒﹆耳」 (三)轉ジテ、氣象ノ、勢好キコト。活氣。勇氣。生氣 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)下「三條ノ元喜ト申ス醫者デ、メッキリ元氣ガ見エマシタ」

げん-き (名) 驗氣 病ノ、快キ驗ノ見ユルコト。 今昔物語、十四「二人ノ子、西京ノ家ニテ、付添ヒテ療スルニ、母ハ、少シげんきニ付キケル故」(俚言集覽)

げん-き (名) 衒氣 世ニ衒フ氣性。自慢氣。「行動ニ衒氣アリ」

げん-き (名) 嚴毅 〔嚴格、剛毅ノ略〕 オゴソカニシテ、タケキコト。 唐書、李光弼傳「嚴毅沈果、有﹆大略﹆」

げん-き (名) 嚴器 〔莊王、諱ノ莊ヲ避ケテ、嚴ト云ヒシト〕 唐櫛笥ニ同ジ。 倭名抄、十四「容飾具、嚴器、魏武疏云、漆畫嚴器、俗用﹆唐櫛匣三字﹆、賀良以師介」 字類抄「嚴器、カラクシゲ」

げん-ぎ (名) 原義 根本ノ意義。

げん-ぎ (名) 玄義 幽玄ナル義理。 沙石集、三、下、第八條「心肝ニソミ、耳ノ底ニトドマレリ、此ハ、玄義ノ中ニ侍ルニヤ」

けんぎ-あん (名) 建議案 建議ノ議案。

けん-きう (名) 研究 ミガキ、キハムルコト。事ノ理ヲ、善ク深ク、考ヘ分クルコト。研鑽。 元史、鐵木兒塔識傳「伊洛諸儒之書、深所﹆研究﹆」

けん-ぎう (名) 牽牛 〔牽牛星ノ略〕 ヒコボシ。イヌカヒボシ。(たなばたノ條ヲ見ヨ) 詩經、小雅、小旻之什、大東篇「睆彼牽牛、不﹆以服﹆箱、東有﹆啓明﹆、西有﹆長庚﹆」 太平記、一、資朝俊基關東下向事「七月七日、今夜ハ、牽牛、織女ノ二星、烏鵲橋ヲ渡シテ、一年ノ懷抱ヲ解ク夜ナレバ」

けんぎう-くわ (名) 牽牛花 アサガホ。 牽牛子。 孔平仲詩「籬上牽牛花、高當照﹆秋色﹆」

けんぎう-せい (名) 牽牛星 ヒコボシ。 牽牛。 古詩「迢迢牽牛星、皎皎河漢女」

げん-きふ (名) 減給 給料ヲ、減ズルコト。(增給ノ反)

げん-きふ (名) 言及 言ヒ及ボスコト。 「人身攻擊ニマデ言及ス」

けん-きん (名) 乾金 乾字金ノ略、其條ヲ見ヨ。

けん-きん (名) 兼勤 二三ノ役目ヲ、兼ネテ勤ムルコト。兼務。

けん-きん (名) 獻芹 〔下ノ出典ノ故事ヨリ出ヅ〕 進上物ニ云フ謙稱。志ハアレドモ、品物ハ粗ナル意。寸志。 呂氏春秋「野人美﹆芹、願﹆獻﹆之至尊﹆」

けん-きん (名) 獻金 金錢ヲ、獻上スルコト。 王筠、爲﹆王儀同﹆發﹆初讓表﹆「執﹆玉獻﹆金、辛先五等﹆」 嘉永明治年間錄、二「嘉永六年十一月六日、品川海中砲台新築ニ就テ、獻金ヲ、農工商ニ許ス」

けん-きん (名) 懸金 賞與ヲナスニ、金錢ヲ懸ケテナスコト。 後漢書、竇憲傳、序「遂﹆捕竊人﹆、或有﹆逃逸不﹆獲、皆懸﹆金購募﹆」

げん-きん (名) 現金 物ヲ買フニ、マノアタリニ、價ノ代ヲ拂フコト。現銀。即金。(かけうり、かしうりニ對ス) 唐書、姚崇傳「見金不﹆足」 壽門松(享保、近松作)下「コリャ現金ヂャト五十兩、亭主ガ前ヘ投ゲ出ダス」

げん-きん (名) 元金 (一)モトキン。(二)元字金ノ略、其條ヲ見ヨ。

げん-きん (名) 嚴禁 嚴シク、禁止スルコト。嚴重ナル禁制。 宋書、顏竣傳「空立﹆嚴禁﹆」

げん-ぎん (名) 現銀 現金ニ同ジ。 日本永代藏(元祿、西鶴)一、三井九郎兵衞、「新棚ヲ出シ、萬、現銀賣ニ、カケネナシト相定メ」

けん-きやう (名) 牽強 强ヒテ、ヒキツクルコト。無理ニ、コジツクルコト。 歐詩「窮﹆荒探﹆幽﹆玄、牽強附會」

けん-きやう (名) 檢鏡 物ノ形狀ヲ、顯微鏡ニ因リテ檢スルコト。「微生物ヲ檢鏡ス」

げん-きやう (名) 現況 〔けいきやう(景況)ヲ見ヨ〕 現在ノ景況。現狀。

けん-きやく (名) 健脚 遠キヲ行キ、高キニ登ルニ、足ノ、タッシャナルコト。健足。濟勝ノ具。

けん-きう (名) 研窮 ミガキ、キハムルコト。善ク深ク、考ヘ分クルコト。研

究、[illegible]

げんきゅう (名) 〔玄宮〕 玄室ニ同ジ。

けんきう [illegible] 犯罪ヲ檢シテ、其 [illegible]

けんぎょ [illegible] 〔懸魚〕 懸魚ノ條ヲ見ヨ。

白居易詩「[illegible]懸魚[illegible]」

げんぎょ (名) 〔言語〕 〔周禮、大宗伯篇、大司寇、[illegible]〕 コトバ。モノイヒ。ケンゴ。[illegible]

けんぎょう (名) 〔喚喝〕 アギトフコト。魚ガ、口ヲ水上ニアラハシテ、泡ヲ吹クコト。[illegible] 記、十九、諸國宮方蜂起事「[illegible]魚、雨ヲ得テ、喚喝ノ時ヲ湛ス」

げんきょう (名) 元兇 大惡人。元惡。

けんきょく (名) 拳曲 マガリ、クネルコト。[illegible]

けんぐ (名) 〔賢愚〕 サカシキト、オロカナルト。かしこきト、おろかト。[illegible]

けんぐう (名) 〔眷遇〕 手アツキ、モテナシ。[illegible]

けむくだ・つ ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 〔毛竦立〕 〔むくハ、竦メク、尨毛ノ、むく〕 毛、密ニ生ヒ立ツ。毛茨「毛むくだッタ獸」

けむくぢゃら (名) [illegible] 〔毛[illegible]ノ訛ニテモアルカ、なめくぢり、なめくぢら。そっくり、そっくら〕 毛ノ繁ク、ケムクダチタルコト。(東京)「けむくぢゃら[illegible]」

けんくん (名) 〔賢君〕 賢德アル君。(暗君ノ反) 墨子、親士篇「雖レ有二賢君一、不レ愛二無レ功之臣一」

けんぐん (名) 〔懸軍〕 懸隔レテ、敵地ニ深入シタル軍。遠征ノ軍。 張廷[illegible]「[illegible]懸軍[illegible]」

げんくん (名) 〔元勳〕 國家ニ大功アル人ノ稱 [illegible]

げんくん (名) 嚴君 チチギミ。家大人。家嚴。[illegible]「[illegible]父母之謂也[illegible]」 太平記、三十、南朝與二義詮一休和睦事「北畠入道[illegible]嚴君二[illegible]嚴君ニテナハスレバ」

げんくらべ (名) 〔驗競〕 修驗ノ程度ヲ、互ニ競べ合フコト。 金葉集、九、雜、上「年久シク修行シ出キテ、熊野ニテげんくらべシケルヲ」

けんくゎ (名) 〔諠譁〕〔喧嘩〕 (一)カマビスシキコト。サワガシキコト。 史記、叔孫[illegible] 明月記、建曆三年七月十一日「明後日[illegible]」 (二)イサカヒ、爭ヒ、鬪フコト。(いさかひハ、言逆ナリ、怒聲ノ騷ガシキヨリ移ル) 諍鬪 [illegible] 室町殿日記、十九[illegible] 見テ「手ヲ出セロ、折テクレベイ、馬鹿面メ、云云」 喧嘩を買ふ、喧嘩を賣るト云フハ、けんくゎかひノ條ヲ見ヨ、喧嘩兩成敗ト云フハ、爭鬪シタル者ハ、雙方共ニ罰スト云フコト、[illegible] 條氏ニ始マルト云フ) 喧嘩過ぎての棒ちぎりト云フコトハ、いさかひノ條ヲ見ヨ。

けんくゎ (名) 〔嚴科〕 嚴シキ罰。嚴刑。(多クハ、死刑ニ云フ) 徐陵、讓二五兵尚書一表「[illegible]嚴科[illegible]」

げんくゎ (名) 〔玄關〕 玄關ノ略。

げんくゎ (名) 現果 佛經ノ語。過去ノ業因ニ依リテノ、現世ノ果報。 [illegible]

けんくゎい (名) 〔縣會〕 縣ノ議會。縣ノ歳入、歳出ノ財政、等ヲ議決ス。

けんくゎい (名) 〔顯晦〕 世ニ知ラルルト、隱レテ知ラレザルト。世ニ顯レテ時メクト、世ヲ遁レテ跡ヲ晦スト。晉書、隱逸傳「[illegible]君子之行殊途、顯晦之謂也」

けんくゎい (名) 喧[illegible] カマビスシク、相噪ツコト。又、トキノコエ。李白詩[illegible]

けんぐゎい (名) 〔圈外〕 〔圈内ニ對ス〕 文ノ末ニ、[illegible]ヲ附シテ、其次ニ記ス文ヲ、圈外ノ說ナド云フ、正文ノ外ニ、他ノ一說、又ハ、餘論ナド、記スナリ。朱熹ノ四書集注ナド、此例ナリ。

けんぐゎい (名) 〔遣外〕 人、又ハ、物ヲ、外國へ遣スコト。「遣外ノ使節」

げんぐゎい (名) 〔言外〕 言詞ニ表ハレタル外。「意、言外ニ在リ」

げんぐゎい (名) 〔限外〕 制限ノホカ。制限ヲ出ヅルコト。「限外發行」

けんくゎう (名) 〔劍光〕 ツルギノヒカリ。[illegible]

げんくゎう (名) 玄黃 天地玄黃ヲ見ヨ。

けんくゎうり (名) 〔喧嘩賣〕 次條ヲ見ヨ。

けんくゎかひ (名) 喧嘩買 人ニ、喧嘩ヲ挑ムコト。好ミテ、鬪爭ヲ求ムルコト。又、喧嘩賣ト云フハ、人ノ喧嘩ヲ挑ムヲ求メテ、コレニ應ズル意ニテ、同ジニ落ツ、賣言葉ニ買言葉ノ類ナリ。[illegible]「室町日記、浪花ニテ、云云、人立チタキ方ヲ擇ビテ、云云、喧嘩かはふ、かはふト、五人、三人ヅツ、組テ廻リケル、諸人、恐レヲノノキケルヲ」 東海道名所記(萬治)「けんくヲ買ひニ來レ奴トモ」

けんくゎごし (名) 〔喧嘩腰〕 喧嘩ヲ仕掛ケムトスル身構。鬪爭ヲ挑ム意氣込。「喧嘩腰デ議論スル」

けんくゎしょくぶつ (名) 〔顯花植物〕 花ヲ生ジ、果實ヲ結ビ、中ニ種子ヲ生ジ、コレニヨリテ繁殖スル高等植物ノ稱。其花、及、子實ナキモノヲ、隱花植物ト云フニ對ス。

けんくゎん (名) 〔兼官〕 カケツカサ。本官ノ外ニ、兼ネ勤ムル官。兼任。兼帶。[illegible] 小右記、治安元年七月廿八日「[illegible]不レ兼レ官、故技長」「被二兼官一如レ先宣旨二了者、云云」

けんくゎん (名) 縣官 縣ニ奉仕スル官人。[illegible]「[illegible]、縣官、云云」

けんくゎん (名) 〔權官〕 〔[illegible]「權字、唐始

用レ之、韓愈權知ニ國子博士一、三歲爲レ眞」）本官ノ外、他官ヲ兼ヌルコト。兼官。夢溪筆談「唐制、官序未レ至、而以ニ他官一權攝者、爲ニ試官一、如ニ詩散宗白記室一是也、國朝但以ニ資淺者一爲レ之、其實、正官也」

けんぐゎん（名）〔顯官〕（一）顯要ノ官。貴顯ナル官人。（二）才智アル者ヲ用キル官。江家次第、四、除目「令ニ公卿擧ニ顯官一」

げんくゎん（名）〔玄關〕〔玄妙、法門ノ義、幽玄ノ道ノ入口ノ意、老子「玄之又玄、衆妙之門」〕（一）禪學ニ入ルコト。禪學ニ入ル手始メ。李白詩「還公愛ニ康樂一、爲レ我開ニ玄關一」（還公ハ、僧ノ名）方干詩「律儀通ニ外學一、詩思入ニ玄關一」傳燈錄「法師普踞ニ師子之座一、爲ニ暢ニ河之辯一、對ニ稠人廣衆一、啓ニ鑿玄關一」頭陀寺碑「玄關幽鍵、感而遂通」（二）轉ジテ、禪寺ノ門ノ意トナリ、我ガ邦ニテ、禪寺ニ設ケタルハ、鎌倉時代ノ禪僧榮西、入宋シテ歸朝シ、京都ノ建仁寺ニ建テタルヲ初トストエフ。兩開キ、二扉ノ門ニテ、大門ノ内ノ中門ノ類ニテ、敷瓦アリ、漸ク步ミテ、履ヲ脫ギテ、階ニ昇リ、客殿、書院ニ入ル。門、常ニハ閉ヂテ、客ヲ期シテ開ク、幽玄ノ門ナリ。空華日工集、至德三年六月廿二日「忽有レ報：玄關、著、山名奧州上六守氏淸來禮」運歩色葉集「玄關、禪家小門之名也」（三）又、轉ジテ、寺ノ書院ノ昇降口、堂上方ノ車寄、武家居宅ノ正面ノ入口ノ、式臺アル所ノ名トナル。室町殿日記「義輝公最後「玄關ニ出デタマヒテ、差シ取リ、引キツメ、サンザンニ射タマヘバ」云云」（四）又轉ジテ、げんかト云ヒ、常ノ人家、居宅ニ、稍、嚴シク設ケタル表上口。（五）江戸市中ノ名主ノ宅ヲ、げんかト云ヒキ、町人ナレドモ、勤務アルニ因リテ、玄關ヲ構ヘタレバナリ。

げんくゎん（名）〔絃管〕イトタケ。くゎんげん（管絃）ニ同ジ。嵇康、無哀樂論「理ニ其絃管一」太平記、十三、北山殿謀叛事「流ルル水ノ聲ニ、絃管ノ響キアリ」

けんぐゎんのきょ（名）〔顯官擧〕〔才器ヲ要スル重要ナル官ナレバ云フ〕正月十一日、縣召ノ除目ノ第二日ノ夜ニ行ハルル儀式。公卿ヨリ、外記、史、式部丞、民部丞、等ノ官ニ、人物ヲ推擧スルナリ。江家次第、四、除目「令ニ公卿擧ニ顯官一、外記、史、式部丞、民部丞、左右衛門尉、以上申文等、作レ付ニ短冊一下給」建武年中行事、正月十一日、第二日「今夜、顯官の擧アリ、左右衛門尉ヲ申シ、外記、史ヲ申ス」

げんけ（名）〔幻化〕萬物、皆、幻ノ如ク變化スルコト。無量壽經、上「善學ニ無畏之網一、曉ニ了幻化之法一」徒然草、九十一段「人ノ心、不定ナリ、物ミナ、幻化ナリ、何事カ、シバラクモ住スル」

げんげ（名）〔紫雲英〕れんげさう（蓮華草）ノ條ヲ見ヨ。

けんけい（名）〔劵契〕地劵、手形、割符ナドノ總名。戰國策、齊策「約レ車治レ裝、載ニ劵契一而行」吾妻鏡、九、文治五年九月十四日「尋ニ定諸郡劵契、鄕里田畠一」

けんけい（名）〔建溪〕〔俚言集覽、唐土ノ茶ノ名所〕茶ノ一種。詩人玉屑、十五「建溪先暖水微開、溪邊奇茗冠ニ天下一」太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「九輪ノ寶形、一ツ下シテ、鑵子ニゾ鑄サセタリケル、實ニモ、人ノ云ヒシニ差ハズ、腐、窪ナクシテ、磨クニ光、冷冷タリ、芳甘ヲ酌ミテタツル時、建溪ノ風味、濃ナリ」節用集、食服部「建溪（茶名）」

けんけい（代）〔賢兄〕〔兄事スル意〕對稱ノ代名詞、同輩ニ用キテ、敬稱ナリ。（主トシテ、書翰文ニ用キラル）

げんけい（名）〔嚴刑〕嚴シキ刑罰。嚴科。韓非子、姦劫弑臣篇「夫嚴刑重罰者、民之所レ惡也」

げんけい（名）〔減刑〕刑罰ヲ減ジテ、輕クスルコト。「情狀ヲ酌量シテ減刑ス」

げんけい（名）〔原形〕モトノアリカタ。「震災ニ遇ヒテ、原形ヲ留メズ」

げんけい（名）〔現形〕形ヲ現ハスコト。又、現在ノ姿。アリカタ。黃庭堅、大悲閣記「維觀世音、應レ物現レ形」

けんげう（名）〔檢校〕〔檢す、校すノ語原ヲ見ヨ、けうハ、校ノ呉音、獄令、義解「檢校、猶ニ勘問一也」寺官抄「事務ヲ檢知、校量スル義、緇流ニ在テハ、寺務ニ異ナラズ」「有職故實辭典」名目抄「撿挍」〕（一）檢メ、校フルコト。檢閱スルコト。王建詩「騎レ馬城西檢ニ校花一」垂仁紀、廿六年八月「遣ニ使者於出雲國一、雖レ檢ニ校其國之神寶一、無ニ分明申言者一」宮衛令「凡國海内、不レ得ニ輙入一、其監仗之官、檢校者、得ニ去來一」（二）僧尼ヲ監督スル職。推古紀、三十二年四月「自今以後、任ニ僧正僧都一、仍應レ檢ニ校僧尼一」靈異記、上、第五緣「僧尼檢校（推古ノ御代ナリ）」後ニ、寺社ニアリテ、總務ヲ監督スル僧官、石淸水八幡宮、熊野三山、東大寺、金剛峯寺（高野山）、金峯山寺、等ノ上首ナリ。文德實錄、七、齊衡二年九月「修理東大寺大佛司檢校」沙石集、二、下、第十條「高野ニ、南證房ノ撿挍寛海トイフ人」（三）盲官ノ名、次條ヲ見ヨ。

けんげう（名）〔檢校〕〔此語、撿校、檢挍、檢校、ト三使用アリ、語原ニ從ヒテ、檢校ニ定ム〕昔時、盲官ニ、四階アリ、其最上ノ官名。臥雲日件錄「文安五年八月十九日、最一撿挍罷而宿焉、最一話、及ニ鎌倉持氏之事一、最一曰、某廿二歲、初到ニ鎌倉一、持氏歲十一二也、云云、又到ニ鎌倉一時、管領上杉金吾、承ニ持氏命一、與ニ諸大名一戰、力賜ニ三百貫一、持レ此上洛爲ニ撿挍一」醫官玄談、中「撿校ニ、一﨟、二﨟ト次第シテ、至ニ十﨟一有、是ヲ﨟内ト云フ」醫幻書「江戸總錄の始、總錄島崎撿挍、元文元丙辰三月ヨリ、同二丁巳六月迄、御家人ニ而勤役」

げんけう（名）〔顯敎〕〔顯敎ハ、敎義ノ顯ニテ、理解スルヲ得ル意、密敎ハ、敎義ノ幽玄、祕密ニシテ、容易ニ窺ヒ知リ難キ意〕佛敎中ノ天台宗、華嚴宗、禪宗、其他ノ諸宗ノ總稱。又、顯宗。唯、眞言宗ノミ、密敎、又、密宗ト云フ、卽チ、顯敎トハ、密敎ヨリ別シテ云フ語ナリ、コレヲ合ハセテ、顯密ト云フ。庭訓往來、四月「顯敎密宗學生」太平記、二、僧徒六波羅召捕事「忠圓僧正ハ、顯宗ノ碩德也」沙石集、十、上、第一條「密敎ノ本意ハ、心ヲ以テ、心ニ傳フ」著聞集、二、釋敎「千禩内供ハ、顯密兼學ノ人」

けんげき（名）〔劍戟〕つるぎト、ほこト。史記、蘇秦傳「韓卒之劍戟、皆出ニ于冥山一」太平記、七、千劍破城軍事「劍戟ノ、日ニ映ジテ耀ケル有樣ハ、曉ノ霜ノ、枯草ニ敷ルガ如クナリ」

けんげき（名）〔嫌隙〕疑ヒテ、交情ノワルキコト。ナカタガヒ。不和。晉書、孫楚傳「嫌隙遂構、苞奏下楚與ニ呉人一訕中毀朝政上」

けんけつ（名）〔權譎〕イツハリノハカリゴト。カケヒキ。權謀。漢書、王吉傳「各取ニ一切一、權譎自在」

げんげつ（名）〔玄月〕ナガツキ。陰曆九月ノ異稱。爾雅、釋天篇「九月爲レ玄」

げんげつ（名）〔弦月〕〔釋名「弦、半月之名也、其形、一旁曲、一旁直、若ニ張レ弓施ニ弦也一」〕ユミハリヅキ。范成大詩「雨餘弦月上」

げんげつ（名）〔限月〕定期取引所ニ於ケル、賣買ノ期限。

げんげぬか（名）洗粉ノ一名。（京都）

げんけばな [illegible] れんげさう（蓮華草）ノ條ヲ見ヨ。

けんげふ（名）［兼業］本業ニ兼ネテスル [illegible]

けんげふ（名）［建業］事業ノ基礎ヲ建ツルコト。[illegible]

げんげふ（名）［現業］現在、務メテ居ル [illegible]

けんけん（名）〔蹴る蹴るノ轉カ（あるめり、あんめり。ふんてん、ふるてん）〕[illegible]ノ手ニ、足ニテ蹴ルコト。

けんけん（副）[illegible] 叫ブコト。[illegible]「[illegible]而從之來也」

✤けんけん（名）〔慳貪ノけんナルベシ〕[illegible] 慳貪地獄、けんけん「人ニとげとげトアタルヲ、けんけんスルト云フ」女殺油地獄（享保、近松作）下「詞デハけんけんト、慳貪ニ云フタレド」

けんけん（副）［涓涓］細ソキ水ノ、流ルル状ニ云フ語。[illegible]

けんけん（副）［娟娟］麗ハシキ状ヲ云フ語。杜甫詩、風含翠篠娟娟淨」

けんけん（副）［悁悁］憂フル状ヲ云フ語。[illegible]

けんけん（副）［拳拳］（一）忠ニシテ、謹ム状ナド云フ語。[illegible]（二）愛慕スル状ヲ云フ語。[illegible]

けんけん（副）［眷眷］懇ミテ、目ヲ注グ状ニ云フ語。[illegible]

けんけん [illegible] 直下ノ、主君ノタメニ、[illegible]ヲ盡ス状ヲ云フ語。[illegible]

けんけん（副）［喧喧諠諠］囂シキ状ヲ云フ語。ガヤガヤ。唐明皇詩「夕鳥喧喧入上林」

けんけん（副）[illegible] サカシキ状ヲ云フ [illegible]

けんげん（名）［建言］建議、建白、ニ同ジ。

けんげん（名）［權限］權力、權利、等ノ界限。

げんけん（名）［嚴譴］〔譴責ノ語原ヲ見ヨ〕嚴重ナル譴責。キビシキシカリ。「嚴譴ヲ蒙ル」

げんげん（名）［元元］〔字典「元元、黎庶也」元、頭首也」〕オホンタカラ。百姓。[illegible]

げんげん（副）［嚴嚴］（一）オゴソカナル状ヲ云フ語。[illegible]（二）ハゲシキ状ヲ云フ語。[illegible]

けんげんかうりてい（句）［乾元亨利貞］〔易經、乾卦「乾、元亨利貞」トアリテ、吉兆ナルヨ、孔子カ、文言傳ニ、四德ニ配シテ作ランタリ、出典ヲ見ヨ〕乾ノ四德ト云フコト。即チ、元ハ、萬物ノ始メニテ、[illegible]ニ配ス、故ニ、仁トナス、亨ハ、[illegible]ノ長ニテ、[illegible]ニ配ス、故ニ、[illegible]ト、利ハ、萬物ノ遂グルコトニテ、秋ニ配ス、故ニ、義トナス。貞ハ、萬物ノ成ルコトニテ、冬ニ配ス、故ニ、智トナス。[illegible]

けんげんたいはうせん（名）［乾元大寶錢］村上天皇ノ天德二年ニ鑄サセラレタル錢。面ニ、乾元大寶ノ字アリ。

けんけんひきゅう（名）［蹇蹇匪躬］〔易經、蹇卦ノ語ナリ、其條ヲ見ヨ〕臣ガ、君ノ爲ニ忠義ヲ盡シテ、勤ムルコト。[illegible]

けんけんふくよう（句）［拳拳服膺］〔拳拳ハ、捧持ノ貌、服膺ハ、胸間ニ着ケテ守ル義〕胸間ニ捧持シテ、守ルコト。[illegible]

けんこ（名）［眷顧］カヘリミ。情ヲカクルコト。メグミ。愛顧。[illegible]

けんご（名）［謙語］謙遜ノ言語。ヘリクダリタル詞。謙稱。

けんご（名）［堅固］（一）物ノ、カタキコト。容易ニ毀レヌコト。ヂヤウブナルコト。堅牢。[illegible]「要害堅固」（二）心、シカト定マリテ、動カザルコト。固守 [illegible]二、第四條「道心堅固ノ人」徒然草、百五十段「イマダ堅固、カタホナル [illegible]」（三）身ノ、スコヤカナルコト。達者ナルコト。[illegible] 竹田出雲）五「和殿ハ早野勘平ナラズヤ、サイフ貴殿ハ千崎彌五郎、是ハ堅固デ、御無事デト、絶エテ久シキ對面ニ」（四）タシカナルコト。マルママナルコト。全クナルコト。疑ナキコト。[illegible]十八、[illegible]「母ハ、[illegible]ニ死ニヌ、云云、三歳ノ時、父、[illegible]モ死ニニケリ、堅固ノ孤子ナリケレドモ」（文覺ノコト）

げんこ（名）拳固〔拳子ニテ（接尾語ノ子ノ條ヲ見ヨ、胸拳、面子、團子、團ノ字ハ、握リ固むる意ノ當字ナラム）怒リテ毆ツヨリ、濁ラセテ云フカ、げんこつト云フハ、げんこ毆ノ約、げんこち、げんこつ（ト前ジヤルナラム（[illegible]）[illegible]ぺんこつハ、洋人ノ、國語ヲ聞キアヤマレルナルベシ）（一）ニギリコブシ。（多クハ、人ヲ毆ツニ云フ）又、[illegible]。（[illegible]ニテ、きんこつ）開港場ナドニテ、洋人ハ、ぽんこつト云フ。拳「げんこテ頭ヲ毆ル（げんこつヲ食ハセル」ぽんこつ遣上」（二）魚屋、人力車引ナドノ符帳詞ニ、五ノ數ヲ、げんこト云フ、五文、五錢、五十錢、皆、然リ、拳ハ、五指ナレバナリ。（ふちゃうことば（符帳詞）ノ條ヲ見ヨ）

げんご（名）［言語］〔言ハ、漢音、ごんハ、呉音、語ハ、漢音、ごハ、呉音、故ニ、げんぎょ、ごんごト熟語トナルヲ至當トス、今ハ、漢呉音ヲ混ジテ云フ、言語道斷ノ語アリ〕げんぎょニ同ジ。コトバ。

げんご（名）原語 原ノ言詞。（寫取リ、

翻譯シ、又ハ、改メタルニ對シテ云フ〕

けん-こう（名）【鉗口】【箝口】〔正韻「箝、其廉切、音鉗、鎖ㇾ項也」說文「籋也」〕（一）口ヲ噤ミテ、物言ハヌコト。ダマルコト。 荘子、田子方篇「形作不ㇾ欲ㇾ動、口鉗而不ㇾ欲ㇾ言」（二）人ニ、物言ハシメヌコト。クチドメスルコト。 漢書、袁盎傳「君自閉ㇾ箝天下之口、而日益ㇾ愚」

げん-こう（名）【元寇】支那ノ元ノ世祖忽必烈ガ、我ガ弘安四年ニ、其將、范文虎、忻都、洪茶丘、等ヲシテ、大擧シテ、來リ寇セシコト。其兵凡ソ十萬人、筑前、博多海ニ到リシ時、暴風起リテ、其船艦、悉ク覆沒シ、我ガ兵、大イニコレヲ敗リテ、敵ノ、生キテ還ルコトヲ得タルモノ、僅カニ三人ナリキト云フ。

げん-ごがく（名）【言語學】世界各人種ノ言語ノ、起源・發達・變遷、等ヲ、科學トシテ研究スル學。

けん-こく（名）【建國】新ニ、國ヲ建ツルコト。獨立ノ國ヲ興スコト。 易經、上經、比卦「先王以建ニ萬國一、親ニ諸侯一」 左傳、桓公二年「天子建ㇾ國、諸侯立ㇾ家」 漢書、高帝紀、贊「古之建國也、今揔ニ都縣一、其後以ㇾ侯ニ諸侯一」「建國祭」

けん-ごく（名）【兼國】本官ニアリテ、國司ノ官ヲ兼任スルコト。 續紀、三、大寶三年六月「引出朝臣目、爲ニ兼官遠江守一」 朝野群載、廿二、諸國雜事、博士帶ㇾ助、爲ニ兼國一例「從五位長朝臣、康平三年兼ニ土佐介一、助三兼二、年兼ニ備前權介兼博士一」主計頭兼博士三善信長」

げん-こく（名）【現石】草高ノ條ヲ見ヨ。

げん-こく（名）【嚴酷】【嚴刻】キビシキコト。苛々、辛キコト。 漢書、酷吏傳「…」 晉書、…傳「以ニ嚴刻一立ㇾ功」

げん-こく（名）【原告】〔原ノ告訴人、被告ハ、告訴せられタルヲ云フナリ〕訴訟ヲ申シ出デタル方。訴訟人。其相手取ラレタル方ヲ、被告ト云フ。相手方。 水滸傳、第二回「只有ニ原告人李吉在ニ這里一」

げん-こつ（名）【拳骨】拳固ノ條ヲ見ヨ。

げん-こどり（名）【拳固取】餅ノ名、五文取ノ條ヲ見ヨ。

けん-こん（名）【乾坤】（一）易ノ卦ノ名。乾ハ、天、男、ノ義ヲ成シ、坤ハ、地、女、ノ義ヲ成ス。 易經、說卦傳「乾爲ㇾ天、坤爲ㇾ地」 同、繫辭、上傳「天尊地卑、乾坤定矣、乾道成ㇾ男、坤道成ㇾ女」（二）天地。天下。 杜甫、洗兵馬行「二三豪傑爲ㇾ時出、整ニ頓乾坤一濟ㇾ時了」 僧貫休詩「乾坤有ニ清氣一、散入ニ詩人脾一」 韓愈、潮州刺史謝上表「陛下卽位以來、躬親聽ㇾ斷、旋ㇾ乾轉ㇾ坤」云云、天戈所ㇾ麾、莫ㇾ不ニ寧順一」

げん-こん（名）【現今】イマ。マノアタリ。現在。現時。「現今ノ時勢」

けん-こん-いってき（句）【乾坤一擲】〔擲つハ、博打ノ塞ニ就キテ云フ〕天下ヲ賭ニシテ、勝敗ヲ決セムトス。己レノ全滅ヲ期シテ、斷行スル意ナリ。 韓愈、過ニ鴻溝一詩「誰勸ニ君王一回ニ馬首一、眞成一擲賭ニ乾坤一」

けん-こん-つうはう-せん（名）【乾坤通寶錢】後醍醐天皇ノ建武元年ニ鑄サセタマヒシ銅錢。

げんごらう-ぎつね（名）【源五郎狐】〔毛黑狐ノ訛カト云フ〕延寶ノ頃、大和ノ宇多郡ニ居タリシ狐、關東ノ飛脚ニ賴マレ、片路十日餘ノ所ヲ、七八日ニテ往來セリナド傳フ。（諸國里人談ニ詳カニ記セリ）

げんごらう-ぶな（名）〔室町時代、近江ノ佐佐木家ノ臣、錦織源五郎、漁業ヲ司リテ、年年、鮒鮨トシテ、京都ノ將軍ヘ進ラセシニ起ルト云フ、或ハ云フ、げんごらうハ、夏頃ノ延ナリト〕鮒ノ、最大ナルモノ、近江ノ湖北ノ尾上、島津ノ湖上ニ產ズ、初夏ニ、多ク取ル、大ナルハ、長サ二尺、巾八寸ニ至ル、首、小サク、色、白クシテ、略、銀色ヲナセリ、味、最上ナリトス。ゲゴロブナ。堅田鮒。荷包鯽

げんごらう-むし（名）【源五郎蟲】形、あぶらむしニ似テ、肥ユ、池、溝ナドニ生ジ、自在ニ泳ギ、水面ニ浮ブ時ハ、頭ヲ下ニシ、尾ヲ上ニス、又、能ク飛ブ、體ニ、油ノ氣アリ。幼蟲ハ、孫太郎蟲ト云ヒ、成蟲ト共ニ、水中ニ棲ミテ、小魚ヲ食ス。龍蝨

けん-さ（名）【檢査】〔正字通「查、考察也」〕物事ノ、實ヲ檢メテ察ルコト。

げん-ざ（名）【驗者】げんじャニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

けん-さい（名）【賢才】賢德アリ、才智アルコト。又、其者。 論語、子路篇「赦ニ小過一、擧ニ賢才一」 太平記、十一、金剛山寄手等被ㇾ誅事「道蘊ハ、朝敵ノ最一、武家ノ輔佐タリシカドモ、賢才ノ譽、カネテヨリ、叡聞ニ達セシカバ、召仕ハルベシト」

けん-さい（名）【賢宰】けんしャう（賢相）ニ同ジ。 張說、至尉氏詩「吾兄昔臨ㇾ邑、遺愛稱ニ賢宰一」

けん-さい（名）【賢妻】サカシキツマ。カシコキツマ。賢婦人。 陶潛、告ニ子儼等一疏「余嘗感ニ孺仲賢妻之言一」

けん-さい（名）【縣債】縣ノ公債。縣ノ負債。

けん-さい（名）【兼濟】アハセ、スクフコト。 易經、繫辭、上傳、注「兼ニ濟萬物一、故不ㇾ過也」

けん-ざい（名）【健在】身ノ、スコヤカニテアルコト。無事ニテ、消光シ居ルコト。 黃庭堅詩「身健在且加ㇾ餐」

げん-さい（名）【幻妻】〔下下妻、下種妻ナドノ音便ニテモアルカ、下女下男〕京、大阪、三河、尾張、ニテ、賤民ノ妻ヲ罵リ呼ブ語。（物類稱呼、馬琴ノ羇旅漫錄） 俊訓栞、げんさい「浪華、尾張ニテ、人ノ妻ヲ云フ、罵ル詞ニヤ、云云、紀州ニテ、草嫁ノ事ヲ、幻妻ト云フ」

げん-さい（名）【減殺】〔廣韻「殺、所界切、降也、減削也」〕殺ギ、減ラスコト。

げん-ざい（名）【現在】【見在】（一）マノアタリニアルコト。目ノ前ニ、アリアハスルコト。現存。 史記、齊悼惠王世家「於ㇾ今見在」 劉歆、移ニ書讓太常博士一「今其書見在」（二）現ニ、然ルコト。實在。實際。 曾我物語、三、兄弟ハ原殿ニ申請ニ事「況ヤ彼等ハ、げんざいノ孫ナリ、シカモ、嫡孫ゾカシ」（三）今。今ノ時。タダイマ。マノアタリ。メノマヘ。 繪本太功記（寛政、近松柳）十「現在、母御ヲ手ニカケテ、殺ストイフハ、何事ゾ」（四）佛說ニ、三世ノ一。現世。（三世ノ條ヲ見ヨ） 金剛經「過去心不ㇾ可ㇾ得、見在心不ㇾ可ㇾ得、未來心不ㇾ可ㇾ得」 法華經、方便品「現在未來佛、其數無ㇾ有ㇾ量」（五）文法ニ云フ語、とき（時）ノ（十）ヲ見ヨ。

げん-さい-ききん（名）【減債基金】公債ヲ減ゼムガタメノ基本金。

けん-さう（名）【乾燥】かんさう（乾燥）ニ同ジ。

けん-さう（名）【喧噪】カマビスシキコ

ト。サワガシキコト。〔[illegible]〕

けんさう (名) 〔險相〕 顔ツキノ、銳キコト。ケンマク。怒リナドシテ、顔色ノ變ハルコトヲ、けんさうかへてト云フハ、自相ノ轉カ（[illegible]、きんとん）

けんざう (名) 〔建造〕 （一）ツクリ、タツルコト。〔[illegible]〕 （二）建物ヲ造ルコト。（家屋、倉庫ナド）

げんさう (名) 〔嚴霜〕 キビシキシモ。〔[illegible]〕

げんざう (名) 〔現像〕 現レテ、目ニ見ユル、物ノ像。〔[illegible]〕

けんざうぶつ (名) 〔建造物〕 タテモノ。家、藏、ノ類。

げんさうれつじつ (名) 〔嚴霜烈日〕 〔[illegible]ナル霜、暑氣ノ酷烈ナル日ノ熱〕 人ノ志操ノ、嚴格ニシテ、犯スベカラザルナドニ云フ語。嚴霜烈日ノ如シト云フ。〔[illegible]〕

けんさき (名) 〔劍先〕 （一）劍ノ穗先。中、尖リテ、左、右、稍ヤ[illegible]形ヲナス。劍形。ケンガシラ。劍鋩 （二）はぐんせい（破軍星）ノ條ヲ見ヨ。（三）袵ノ上部ノ尖[illegible]。

けんさきえぼし (名) 〔劍先烏帽子〕 烏帽子ノ一種、頂ノ、劍先ノ形ヲ成セルモノ、[illegible]ナド、被ル。

けんさきぶね (名) 〔劍先船〕 〔舳、尖リテ、劍先ノ如シ〕 大和、河内ノ淺瀨ノ川川ニ用ヰル運送船ノ名、長サ九尋餘、深サ一尺四寸、荷、十六駄ヲ載ス。〔嬉遊笑覽、二〕 〔[illegible]川劍先舟之事、云云」

けんさく (名) 〔獻策〕 ハカリゴトヲ、タテマツルコト。〔[illegible]〕

けんさく (名) 〔建策〕 ハカリゴトヲ、タツルコト。〔[illegible]〕

けんさく (名) 〔檢索〕 シラベテ、サガシ出スコト。〔[illegible]〕

げんさく (名) 〔玄賾〕 〔賾ハ、易繫、[illegible]〕 深遠ナル奧義。〔[illegible]〕

げんさく (名) 〔絃索〕 樂器（琴、三味線ノ類）ニ張リタル索。〔元稹詩 [illegible]〕

げんさく (名) 〔原作〕 改メヌ、原ノ出來。（詩歌、著作、畫、彫刻、ナドニ云フ）

けんざけ (名) 〔拳酒〕 拳ニ負ケテ、飲ム酒。

けんさつ (名) 〔賢察〕 推察ノ敬語。〔[illegible]〕

けんさつ (名) 〔檢察〕 シラベ、ミルコト。開キタダスコト。（多クハ、刑官ノ、犯罪ナド、檢スルニ就キテ云フ）〔[illegible]〕

げんさま (名) 〔玄樣〕 〔醫者、又ハ、法師ノ名ニ、多ク、玄ノ字ヲツクレバ云フナリ、玄ノ條ノ（二）ヲ見ヨ〕 江戶ノ新吉原ニテ、坊主客ノ異名。寬文頃ヨリ寶永頃マデノ流行語ナルベシト云フ。出家ノ、遊郭ニ入ルハ、女犯ニテ、人目ヲ憚ルナレバ、醫者ノ扮裝シテ、長羽織着テ入リシナリ。〔[illegible]〕 吉原つねづね草（元祿）下「淺草アタリノ玄、[illegible]イヅレニテモ、玄ト云ヘルハ、彼里ノ言葉ナリ」 〔[illegible]〕

けんさん (名) 〔研鑽〕 〔鑽ヲ研グナリ〕 物事ノ理ヲ、深ク究ムルコト。研究。〔[illegible]〕

けんざん (名) 〔嶮山〕 ケハシキヤマ。險阻ナル山。〔[illegible]ノ手ハ、物具ヲ帶シテ、嶮山ヲ上リケル」「嶮山懸所」〕

けんざん (名) 〔獻殘〕 獻上ノ物ノ殘餘ノ、不用ニナレルモノ。コレヲ買ヒ受ケテ賣ル商人ヲ、獻殘屋ト云ヒキ。

けんざん (名) 〔建盞〕 〔支那、福建省、泉州府、德化縣、建安ノ地ノ產ナルヲ元トスレバ、名アリト云フ、阿膠、金漆ノ例ナリ〕 茶器ニ、天目ノ一種、上品ナルモノノ稱、土燒、黑釉ナリ。星ノアラハレタルヲ、星建盞ト云フ。又、土、釉、同ジ物ニテ、形ノ稍異ナルヲ、胡盞、又、烏盞ト云フハ、高麗ノ茶碗ナリト云フ。〔[illegible]〕

げんさん (名) 〔原蠶〕 一年ニ二度化スル蠶。ナツコ。〔[illegible]〕

げんざん (名) 〔見參〕 〔現在、參着ノ義、げざんハ、約メテ云フナリ、顯證、けそう。還向、けかう〕 現在、參リテアルコト。現ニ、祇候シテアルコト。又、げざん。（缺席ニ對ス）見參ノ人人ノ連名書ヲ、見參の文ト云ヒ、略シテ、見參トノミモ云フ。〔[illegible]〕 西宮記、十一月「初雪降者、依宣旨、取諸陣見參、給祿」

げんざん (名) 〔見參〕 〔見參ノ字ノ音讀（みゆノ條ヲ見ヨ）げざんハ、ツヅメテ云フナリ、撿非違使、けびゐし〕 見エマヰラスルコト。マミユルコト、面會、對面ノ敬語。又、げざん。謁見 見參するヲ、見參に入るト云フ。〔[illegible]〕

けんさんじくゎい (名) 〔縣參事會〕 縣知事ト、縣ノ高等官二人ト、縣會議員中ヨリ互選セラレタル議員若干人トニテ組織スル議會。知事ヲ會長トシテ、縣政ニ關スル種種ノ事項ヲ議決ス。

けんざんのいた (名) 〔見參板〕 なるいた（鳴板）ノ條ヲ見ヨ。

けんざんや (名) 〔獻殘屋〕 けんざん（獻殘）ノ條ヲ見ヨ。

けんざんやき (名) 〔乾山燒〕 〔鳴瀧山ハ、王城ノ乾ナレバ、乾山ト號セシト云フ〕

陶器ノ名、享保年間、京都、嵯峨ノ住、尾形乾山、(名ハ深省、畫工光琳ノ弟)鳴瀧山ノ土ニテ燒キ始ム、樂燒ニ似タリ、てづくねアリ、旋盤製アリ。支那製ノ陶器ニ、建山ト云フアリ、乾山燒ニ別チテ、渡建山ト云フ。生玉心中(正德、近松作)上「錦手、乾山、音羽燒」

けんさ-やく (名)「檢査役」所定ノ事柄ヲ檢査スルヲ司ル役員。(株式會社、相撲協會ナドニ云フ)

けんざり (副)「明亮」けざやかヲ(明亮)ニ同ジ。かなほし「物ノけざやかなるコトヲ、けんざりト云フコト、如何、但シ、けんハ、露顯ノ顯ルル歟、然フサレバ、付字ナルベシ、物ノあざやかなるヲあんざりナドイフさりニヤ、如何、愚案、さりハ、うんざりノざりニヤ」(俚言集覽)

けんざを (名)「間棹」(檢地棹ノ略ナルベシ)土地、面積ノ廣狹ヲ測ルニ用キル棒。尺度ヲ盛レリ。丈竿 日本永代藏(元祿、西鶴)三「大工、云云、袖口ノ切レタル羽織ノ上ニ、帶シテ、間棹、杖ニ突クモ有リ」地方落穗集、七、檢地致方の事「間竿ハ、長一丈二尺二分也、末三尺ノ内ヘ目ヲ盛リ、外ハ、一間ゴトニ切廻シヲシテ、墨ヲ入ル也」

〔けむし〕(名)「皇」からむしノ條ヲ見ヨ。

けむし (名)「毛蟲」古名、カハムシ。黑色、或ハ、褐色ニシテ、大ナルハ一二三寸、身、圓ク長ク、全身ニ剛キ毛アリテ、人ヲ螫ス、樹ニ棲ミ、葉ヲ食フ、後ニ羽化シテ、蝶トナル。毛蟲 字類抄「毛蟲、ケムシ」

けむ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二)「烟」けぶしニ同ジ。

けん-し (名)「犬齒」キバ。キンバ●イトキリバ。

けん-し (名)「妍蚩」(字典「蚩、騃也」)美シキト、醜キト。美醜。陸機、文賦、序「研蚩好惡、可ニ得而言一」世說、巧藝篇「四體妍蚩、本無レ關ニ於妙處一、傳神寫照、正在ニ阿堵中一」

けん-し (名)「繭絲」(一)まゆト、いとト。又、マユノイト。(二)苛酷ナル賦稅ヲ課スルコト。(繭ノ絲ヲ取ル如ク、取リ盡サザレバ止マザルヨリ云フ)國語、晉語「趙簡子使ニ尹鐸爲一レ晉陽、請曰、以爲ニ繭絲一乎、抑爲ニ保鄣一乎、簡子曰、保鄣哉、尹鐸損ニ其戶數一」

けん-し (名)「檢視」(一)アラタメ、ミルコト。物ヲ、取リ糺シ、視ルコト。後漢書、杜根傳「使ニ人檢視一」(二)次條ニ同ジ。

けん-し (名)「檢屍」變死ナドノ死骸ヲ、檢ムルコト。檢視。

けん-し (名)「檢使」出來事ニ立向ヒテ、事實ヲ、檢メ見屆クル役目。用明天皇職人鑑、寶永、近松作)四「道中マデ檢使ヲ立テ、ソイツニ腹ヲ切ラセヨ」

けん-し (名)「劍士」ケンジュツツカヒ。劍客ノ條ヲ見ヨ。

けん-じ (名)「劍璽」草薙ノ劍ト、八尺瓊ノ曲玉ト。(三種神器ノ條ヲ見ヨ)天位御繼承ノ時、劍璽ヲ新帝ノ御座ニ移シ奉ル儀ヲ、劍璽渡御ト云フ。此御儀ヲ、踐祚ト稱ス。代始和抄、御讓位事「御讓位ノ時ハ、警固、固關、諸官宣制、劍璽渡御、新主ノ御所ノ儀式、等アリ、云云、劍璽渡御ノ事アリ、舊主ノ御所ヨリ、三種ノ神器ヲ、新帝ヘ渡サルル義ナリ」

けん-じ (名)「檢字」漢字ノ偏、旁、畫引、ノ字書ニ、何レノ部首ニ屬スルカ知リ難キ字ヲ、檢出シ得ルヤウニ作リタル索引。

けん-じ (名)「檢事」人民ノ罪ヲ、裁判所ヘ訴ヘ出ヅル職。

けん-じ (名)「健兒」(兒ハ、男子ノ稱、男兒ト云フモ、是レナリ)(一)身體、強健ナル男子。吳志、甘寧傳「寧選ニ健兒百餘人一」樂府、折、楊柳ニ歌「健兒須ニ快馬一、快馬須ニ健兒一」「蕭南ノ健兒」(二)轉ジテ、軍卒ノ稱。唐六典、兵部「天下諸軍、有ニ健兒一」五東詔瑞「唐舊制、戍レ邊者、三年而代、以ニ其勞ニ於遠路一、募ニ能更住三年者一、謂ニ之健兒一」杜甫詩「健兒簸ニ紅旗一」注「健兒、隨侍軍卒」同、洗兵馬行「淇上健兒歸莫レ懶」注「健兒、軍之總稱」(三)健兒ノ條ヲ見ヨ。

けん-じ (名)「卷耳」ミミナグサ。詩經、周南、卷耳篇「采ニ采卷耳一、不レ盈ニ頃筐一」

けん-じ (名)「謙辭」ヘリクダリテ云フコトバ。卑下スルコトバ。謙遜ノ語。後漢書、隗囂傳「深執ニ謙辭一、言レ無ニ功德一」

げん-し (名)「原始」(一)モト。ハジメ。オコリ。易經、繫辭、下傳「易之爲レ書也、原レ始要レ終、以爲レ質也」(二)天然ニ成立セル、ソノママナルコト。「原始語」原始時代」

げん-し (名)「原子」「元子」物體ノ分子ヲ組織スル、極メテ微細ナル物。如何ナル方法ニヨルトモ、ソレヨリ小サクハ分解シ得ラレザルモノ。

げん-し (名)「元子」(元ハ、廣韻「長也」)長子。皇太子。詩經、魯頌、閟宮篇「建ニ爾元子一」

げん-し (名)「嚴師」敎授ニ嚴格ナル師。師ノ尊稱トモス。禮記、學記篇「凡學之道、嚴師爲レ難、師嚴然後道尊」

げん-し (名)「言志」カラウタ。詩。書經、舜典篇「詩言レ志、歌永レ言」

げん-じ (名)「言辭」コトバ。モノイヒ。コトバヅカヒ。吳質、答ニ東阿王一書「威儀鄙替、言辭漏渫」

げん-じ (名)「言次」言語ノ序次。語次。三國志、魏志、裴注「令狐邵因從容、言次微激レ之」

げん-じ (名)「源氏」げんぺいとうきつ(源平藤橘)ノ條ヲ見ヨ。

げん-じ (名)「現時」現在ノ時。イマノトキ。現今。

〔けん-しい〕(名)間食(食ノ字、飯ノ義ナル時ハ、祥吏切ニテ、しナリ、しいト云フハ、韻ヲ延ブル、一種ノ音便、そしい(疏食)ノ條ヲ見ヨ)朝食、夕食ノ間ノ食事。古ヘハ、一日、一定ノ食ハ、朝夕ニテ、所謂、二食ナリシカバ、勞働スル者ニハ、特ニ、晝食ヲ給セシナリ。此語、後ニハ、けんぜいト訛リテ、晝食ト夕食トノ間ニ、小食事ヲ取ルコトノ名トナレリ、其條ヲ見ヨ。靈異記、上、第二緣「年米舂時、其家室於ニ稻舂女等一將レ充ニ間食一」造酒司式「仕丁、云云、春稻仕女、云云、釀レ酒日給ニ間食一」

けん-しう (名)「獻酬」盃ノヤリトリ。詩經、小雅、北山之什、楚茨篇「爲レ賓爲レ客、獻酬交錯」陶潛詩「提レ壺接ニ賓侶一、引レ滿更獻酬」

けん-しう (名)「妍醜」容姿ノ、ウツクシキト、ミニクキト。美醜。妍蚩。蘇軾、論ニ茶墨一文「譬如ニ賢人君子、妍醜黔晳之不一レ同」

げん-しう (名)「減收」收入、收穫、等ノ、減ルコト。

げん-じ-かう (名)「源氏香」香道ニ云フ語、組香中ノ一方法ナリ、六國香ノ中、五炷ナリ、五炷ノ內、一ヨリ五マデ、各、五包ヅツニシテ、合、二十五包ヲ打チマゼテ、何レナリトモ、其內、五包ヲ取出

シ、香[illegible]ヨリ一[illegible]ノ[illegible]ニテ、[illegible]ニ香ヲ[illegible]中[illegible]ニ[illegible]スニ、一、二、三、[illegible]、[illegible]トスレバ、皿ト、此如キ圖ヲ、名乘紙ニ書ク、一ト三ト同ジクシテ、二、[illegible]、五、[illegible]ナリトスレバ、皿、一、三、四、同香、二、五、同香トスレバ、皿、次第ニ作レバ、自然ニ、五十二圖、成ル、源氏物語ノ五十四帖ノ題ニ合ハセ、(初ノ桐壺、終ノ夢浮橋ニハ、圖ナシ)、帚木、空蟬、[illegible]、ナドト呼ビテ、源氏香ト云フナリ、又、コレヲ、香の圖ト云フ。(夏山雜談)

けん-じき (名) 見[illegible] 〔見ハ、見トホスコト、識ハ、識リ分クルコト〕 物事ノ、觀[illegible]、[illegible]ト見サダメテ、[illegible]、〔これ〕ノ考ヘヲ持チ居ルコト。[illegible]

げん-じき (名) 眼識 〔百法問答鈔「以レ眼爲ニ所依一住、故名ニ眼識一也」〕 佛經ノ語、六根ノ一ナル、眼根ニヨリテ、物ノ[illegible]ヲ[illegible]スルコト。[illegible] 第四上層ニ、モシ或カベ、シモノげんじき、カリテエンセン」

✧✧けんじき-ば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 見[illegible] [illegible] 外貌ヲ構ヘナス。「見識張ッテ、人ヲ見クビル」

けんじ-きん (名) 乾字金 德川幕府ニテ、寶永七年ニ改鑄セシ小判金、一歩判金ノ[illegible]、[illegible]、小[illegible]、乾字金トモ云フ、略シテ、乾金トモ云フ。[illegible] 寶永七年四月[illegible]、金之位[illegible]、[illegible]不自由之事候、依レ之、今度古金之位ニ吹直被ニ仰付一候、然共、金之位

[illegible]、金[illegible]、少少小形ニ[illegible]、世間之[illegible]、寶永七年[illegible]、乾字金、此[illegible]、[illegible]トノ[illegible]而モ不レ辨出ニ候得共、御趣意有レ之、被ニ仰出一候旨[illegible]、[illegible]、小判、一歩判金共、小形ニナル、乾字ノ極[illegible]、又、乾金トイフ」

げんじ-きん (名) 元字金 德川幕府ニテ、元祿八年ニ改鑄セシ大判金、小判金、一歩判金ノ稱。背ニ、元ノ字ヲ印ス、略シテ、元金トモ云フ。(温知叢書、五、貨幣雜錄) [illegible]、元祿八年八月、[illegible]、近年山ヨリ出候金銀モ多ク無レ之、世間之金銀モ次第ニ減少可レ申ニ付、金銀之位ヲ[illegible]、世間之金銀多ク成候タメ、此度[illegible]仰付之[illegible]」 金銀圖錄、二「元祿八年九月十日、金銀ノ法ヲ改メ、大判、小判、丁銀、[illegible]、背ニ元ノ字ノ[illegible]アリ、世ニ是ヲ元字金銀ト云、又、[illegible]、世ニ、元ノ字判トモ云フ、小判ハ、元ノ字金ト云フ」

けんじ-きょく (名) 檢事局 裁判所ノ檢事ノ、執務スル局。

げんじ-ぐも (名) 源氏雲 〔源氏繪ニ多ク畫ケレバ、名トス〕 靄雲ノ條ヲ見ヨ。

げんじ-ぐるま (名) 源氏車 〔源氏繪ニ[illegible]車ヨリ、名トス〕 御所車ノ一名。牛車。

げんし-ご (名) 原始語 原始時代ヨリ、傳ハリ來テ、言ヒ出デタル語。(後世ニ生ジタル語ニ對ス) 日本釋名(元祿)上、天象、天地「あめつち、上古ノ時ノ語也」(此類ヲ、自語ト云フ)

げんし-さい (名) 元始祭 年ノ初ノ御祭事。一月三日ニ、賢所、皇靈殿、神殿ニテ御親祭アリ、皇位ノ祝シ、報本反始ノ誠ヲ致サセラルルト云フ。

げんじ-じ (名) 源氏師 〔源氏車ヲ借リテ云フ〕 盗人ノ、專ラ、路上ニテ、荷車ノ積荷ヲ、盗ミ去ル者ノ稱。

げんし-じだい (名) 原始時代 原始ノ世。天地開闢成立自然ノママニテ、未ダ進化セヌ時。原人時代。

けんじ-せい (名) 檢事正 地方裁判所ノ檢事局ノ長。

けんじ-そうちょう (名) 檢事總長 大審院ノ檢事局ノ長。

げんし-ち (名) 言質 (一)コトバジチ。(二)コトバジリ。

けんじ-ちょう (名) 檢事長 控訴院ノ檢事局ノ長。

けんし-つ (名) 堅質 人ノ性質ノ、テガタキコト。コクメイ。篤實。「堅質ヲ缺ク」

けんし-つ (名) 權實 權ナルコト、實ナルコト。佛教語ニ、權實。[illegible]宗[illegible]權實ニ」

けんし-つ (名) 兼日 (一)日ヲ、カヌルコト。數日ニ涉ルコト。[illegible]、[illegible]、[illegible]不ニ[illegible]日、[illegible]不[illegible]」 (二)兼日ノ字ノ音讀。數日前。前日 [illegible]七年五月[illegible]「補芳門院根合、兼日定ニ兩方念人」 白河文書、親[illegible]、此事、自ニ兼日一聊[illegible]云云、兼日之[illegible]歌、無ニ子細一候ヒケリ」

げんし-つ (名) 玄室 〔字典「玄、深也」漢書、揚雄傳「麗哉神聖、處ニ於玄宮一」〕 塚墓ノ中ニ、四方、上下、石ニテ築キテ作リタル窟。中央ニ、棺ヲ置ク。又、玄宮。[illegible]

げんし-つ (名) 現實 (一)現在ニ、アラハルルコト。(二)實際ノ事實、又、狀態。(理想、空想ナドニ對ス) 「[illegible]ヲ捨テテ、現實ニ[illegible]ク」

げんじ-な (名) 源氏名 〔多ク、源氏物語五十四帖ノ題ニ因ル、小路名ト云フモアリ〕 宮中高等女官ニ賜ハル稱號。早蕨典侍、榊命婦、ノ如シ。

げんじ-ぶし (名) 源氏節 明治十二三年頃、名古屋ノ岡本美左松ノ、語ヒ創メタル俗曲、歌祭文ニ似タルモノ。

げんじ-ぼたる (名) 源氏螢 螢ノ、大ナルモノ。ほたるノ條ヲ見ヨ。

けむし-まゆ (名) 毛蟲眉 〔毛蟲ニ似タレバ云フ〕 濃ク太ク生ヒタル眉毛。

けん-しん (名) 獻身 身命ヲ捧グルコト。我ガ身ヲナキモノニシテ、其事ニ力ヲ盡スコト。[illegible]、坊記[illegible]、男女無レ媒不レ交、[illegible]云、恐ニ男女之無レ別也、以レ此防レ民、民猶有ニ自獻ニ其身一」「獻身ノ努力」

けん-しん (名) 欠伸 あくびト、のびト。[illegible]記、曲禮、上[illegible]君子欠伸、云云」注「志倦則欠、體倦則伸」

けん-しん (名) 賢臣 賢德アル臣。[illegible]、[illegible]「賢臣之事、其主一也」[illegible]序[illegible]、[illegible]之[illegible]也」 保元物語、一、新院御謀反事「手蹟ハ一旦ノ興也、賢臣必シモ、是ヲ好ムベカラズ」

けん-じん (名) 賢人 (一)カシコキヒト。賢德アル人、德ノ、聖人ニ亞グ人。[illegible]語、[illegible]、[illegible]云、古之賢人也」[illegible]

「人人臺ニ引所ノ私、以充ニ蠻朝廷ハ坊ニ賢人路ニ」平家物語、二、教訓狀「潁川ノ水ニ耳ヲ洗ヒ、首陽山ニ薇ヲ折リシ賢人ニ(許由ト、伯夷叔齊ト)」 (二)濁酒ノ異名。聖人ノ條ヲ見ヨ。

げん-しん (名) 嚴親 チチオヤ。嚴君。嚴父。司馬光、送ニ王殿丞知ニ眉山ニ詩「嚮昔侍ニ嚴親ニ」 保元物語、二、白河殿攻落事「嚴親、判官殿、院宣ヲ蒙リ給ヒテ」

げん-しん (名) 現身 ウツシミ。現在ノ其身。 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)一「此ノ法ヲ學ブモノハ、云云、げんしんニ[illegible]ヲ感行シ」

げん-しん (名) 原人 原始ノ時代ノ人。

げん-しん-じだい (名) 原人時代 げんしだい(原始時代)ニ同ジ。

けん-しん-りう (名) 謙信流 軍學ノ一派、越後ノ上杉謙信ノ遺流ヲ汲ムト云フモノ。又、越後流。

けん-じゃ (名) 賢者 賢德アル者。賢人。 [illegible]、[illegible]「[illegible]道之不レ明也、我知レ之矣、賢者過レ之、不肖者不レ及也」 十訓抄、中、第六、三十四條「小野右大臣(實資)トテ、世ニハ賢人右府ト申、云云、是ヨリ、オノヅカラ賢者ノ名顯レテ、云云」

けん-じゃ (名) 縣社 神社ノ社格。國幣社ノ下、郷社ノ上ニアリ、祭時ニ、縣官、奉幣ス。

けん-しゃ (名) 懸車 (下ノ出典ヲ見ヨ) 官ヲ辭スルコト。辭職。致仕。七十歲ヲ、懸車の年ト云フ。 漢書、[illegible]傳「[illegible]三公ハ[illegible]、[illegible]其安車ハ傳ニ子孫ニ[illegible]」 [illegible]「[illegible]身退、古人常道、今年[illegible]、[illegible]懸車ニ白[illegible]ニ「七十[illegible]車致仕」[illegible] 永久四、[illegible]光、今年滿ニ七十ニ[illegible]、人臣[illegible]、[illegible]也」 [illegible]抄、三十三「[illegible]フレバ、[illegible]かくる、[illegible]ニテ、ナホ此世ニゾ、メグリキニケル」

〔げん-ざ〕 (名) 驗者 (修驗者ノ略、約メテ、げんざ。儒者、ざさ。冠者、くゎざ) 病氣平癒ノ加持、祈禱ヲスル修驗者。又、げんざ。 枕草子、八、八十段、苦しげなるもの「強キ物怪アツカリタル驗者、驗々ニ早クバ、ヨカルベキヲ」 榮花物語、八、初花「驗者ヲ[illegible]ボネツツ、驗者ドモ、アヅカリアヅカリニ加持シ、ノノシリ叫ビアヒタリ」 源、九、葵「ヤンゴトナキげんざドモ、メヅラカナリト、モテナヤム」 同、五十二、手習「カバカリノ天ノ下ノげんざ」 字類抄「驗者、ケンシャ」

けん-しゃう (名) 賢相 賢明ナル宰相。 史記、太史公自序「國有ニ賢相良將ハ民之師表也」

けん-しゃう (名) 縑緗 (一)書籍ヲ表裝スル、薄キ絹。(二)轉ジテ、書籍。 駱賓王、上ニ兗州刺史ニ啓「顧惠[illegible]、少閲ニ縑緗ニ」

けん-しゃう (名) 肩章 文武官ノ制服ノ、肩ニツクル飾。官等ニ因リテ、形様、種種ナリ。

けん-しゃう (名) 憲章 掟トスルコト。則トスルモノ。法則。 中庸、第三十一章「祖ニ述堯舜ハ憲ニ章文武ニ」 後漢書、[illegible]、注「憲、法也、章、明也、[illegible]法則ニ」

けん-しゃう (名) 顯彰 アラハスコト。世人ニ、知ラスルコト。史記、齊世家、贊「九ニ合諸侯ハ顯ニ功勞ヲ顯彰ス」

けん-しゃう (名) 兼掌 數事ヲ、兼ネ掌ルコト。カケモチ。兼務。 晉書、簡文帝紀「太常職、掌ニ天地[illegible]宗廟ニ」

けん-しゃう (名) 懸賞 賞ヲ懸クルコト。優等ノ者ニハ、賞ヲ贈ル方法ヲ設ケテ、詩歌、文章、考案、ナドヲ募ルニ云フ。後漢書、桓譚傳「張ニ官置ニ吏、以理ニ萬人ハ懸ニ賞設ニ罰、以別ニ善惡ニ」 鹽鐵論「懸ニ賞以待レ功」

けん-じゃう (名) 勸賞 功ヲ賞シテ、官ナド、授クルコト。 平家物語、一、殿上闇討事「勸賞ニハ、闕國ヲ賜フベキ由、仰セ下サレケル」 同、五、文覺被ニ流事「安藤武者ハ、文覺組ンダルけんじゃうニ、一臈ヲ經ズシテ、當座ニ、右馬允ニゾナサレケル」

けん-じゃう (名) 賢聖 (けんせいノ呉音) (一)賢人ト、聖人ト。「賢聖障子」 (二)佛家ニ、三世、十方ノ諸菩薩、諸大羅漢ノ泛稱。聖。 沙石集、二、上、第五條、地藏菩薩「諸ノ賢聖ニ優レタマヘリ」 (三)轉ジテ、高僧ノ稱。聖。法師ノ、凡僧ノ稱トナレルガ如シ。 賢聖衆ナド云ヒ、略シテ、賢衆ト云フ。 榮花物語、十五、疑「臨ニ三百餘口賢聖衆ハ以ニ香花、云云、七珍百味ハ供ニ養之ニ」 同、三十、鶴林「無數ノ賢聖來リテ、此所ハ、何レノ經論ノ文ゾト問ハバ」

けん-じゃう (名) 獻上 タテマツルコト。進上。 後漢書、班固傳「每行ニ巡狩ハ輒獻ニ上賦頌ニ」 三國志、魏志、曹植上ニ牛表「敢不ニ獻上ニ」

けん-じゃう (名) 謙讓 ヘリクダリ、ユヅルコト。謙遜。 書經、堯典傳「允恭、克讓」 西「信實恭勤、善ニ于謙讓ニ」 史記、淮陰侯傳、贊「假令ニ韓信學ニ道謙讓、不レ伐ニ己功、不ニ矜ニ其能ハ則庶幾哉、于ニ漢家勳ハ可ニ以比ニ周召太公之徒ハ後世血食ニ」 榮華記、四十六、關白忠實人人書「右大臣(兼實)ニ、內覽ノ宣旨ヲ下サルベキノ由、云云、右府頻ニ、謙讓申サレケリ」「謙讓ノ德」

けん-じゃう (名) 劵狀 (一)テガタ。證文。(二)沽劵。

げん-じゃう (名) 現狀 現在ノ狀。現況。「現狀維持」

げん-じゃう (名) 眼象 (猪眼ノ象ナリ、げんじゃうハ、約メテ云フナリ(見參、げざん。還向、げかう)) ゐのめニ同ジ。器物ノ飾リニ彫リ込ミタル穴。又、げんじゃう。 貞丈雜記、八、調度ノ條ニ、三方、四方ノ臺ニ穴ヲ、眼象ト云フ、其外、何ニテモ、穴ヲ、飾リニアケタルハ、眼象ナリ、いの目ナドモ、同ジ、トアリ。 三中口傳抄(大永)懸盤「四角立レ設テ、上下ニ有ニ横眼象ハ四方ニ牙眼象ヲ彫ル也」

げん-じゃう (名) 玄象 玄上 (撥面ニ玄き象ノ、水ヲ呑ム所ヲ圖セレバ、名トストモ云フ、或ハ云フ、參議藤原玄上(承平廿一年薨)延喜帝ニ獻ジタレバ、名トスト) 名器ノ琵琶ノ名、累代ノ御寶物タリ。又、牧馬ト云フ琵琶モ、玄象ト等シキ、名器ノ御寶物ナリ。 禁祕御抄、上「玄上、累代寶物也、置ニ中殿御廚子ハ云云、內裏燒亡之時被レ出、撥面文有、云云、或云、玄象、呑ニ青鉢之水ハ所ハ畫レ之」 玄象ハ又、玄上宰相、獻ニ延喜帝ハ仍號ニ玄上ハ云云」 絲竹口傳、琵琶寶物、牧馬ハ、撥ニ、四角アル馬ノ形ヲ、大納ニ彫入レタリ、延喜帝ノ御物也ニ(古事談苑) 著聞集、六、管絃歌舞「永保三年、白河院、琵琶、牧馬ヲ、大納言經信ニ彈カセラレテ、玄象トハ如何ニト問ハセタマヒケルニ、經信申スニハ、昔、前一條院ノ御時、信明ニ玄象ヲ、信義ニ牧馬ヲ彈カセラレケルニ、牧馬スグレテ聞ユ、取リカヘテ、玄象ヲ彈クニ、玄象スグレタリ、琵琶ノ勝劣ニアラズ、彈ク人ニヨリケリト奏セラル」(節文)

げん-じゃう-かう-い (名) 玄象衣 (玄ハ、黑ナリ、縞ハ、白絹ナリ) 鶴ノ白黑ノ羽ヲ、衣裳ニ形容シテ云フ語。 蘇軾、後赤壁賦、「鶴、玄裳縞衣、戛然長鳴」

けん-じゃう-くゎん (名) 乾政官 天平寶字二年八月、太政官ノ改稱。(續紀、廿一) 同八年九月、復稱セラル。

げん-じゃう-さんざう (名) 玄奘三藏 さ

……ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

けんしやうじやうブツ (句) 見性成佛 [illegible]、佛性ナリ、其見得ハ、即チ、成佛ナリ。教外別傳、不立文字、只、傳心、見性成佛ト連ネテ、禪宗ノ旨トス。[illegible]

けんしやうじゆ (名) 賢聖衆 けんじやう(賢聖)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

けんじやうのしやうじ (名) 賢聖障子 [illegible]、北ノ方、下座ノ後ノ御簾ノ[illegible]障子ノ名、白紙繪ナリ。中央ニ獅子、狛犬ヲ畫キ、東西、各、四間、間ゴトニ、四人、合ハセテ三十二人、支那、三代ヨリ唐マデノ、下ノ偉人ノ像ヲ畫ク。(賢聖トアレドモ、聖人ハ見エズ)東ヨリ一、馬周、房玄齡、杜如晦、魏徵、二、諸葛亮、蘧伯玉、張良、第五倫、三、管仲、鄧禹、子産、蕭何、四、伊尹、傅說、太公望、仲山甫、西ヨリ四、李勣、虞世南、杜預、張華、三、羊祜、揚雄、陳寔、班固、二、桓榮、鄭玄、蘇武、倪寬、一、董仲舒、文翁、賈誼、叔孫通、ナリ。(著聞集、十一) 名目抄「賢聖障子」

けんじやうはかた (名) 獻上博多 〔獻上ノ品ニ織リシモノナリト云フ〕 帶地ノ博多織ノ、上等ナルモノ、多クハ、中央ニ、一筋シ、[illegible]、模樣ヲ織ル。[illegible]

けんじやうもの (名) 獻上物 けんもつ(獻物)ニ同ジ。

げんじやうらく (名) 還城樂 舞樂ノ曲ノ名、西域ノ人、好ミテ、蛇ヲ食フニ擬スル舞ニテ、即チ、見蛇樂ノ轉ナリト云フ。一人舞ニテ、一尺一寸ノ金飾、紅緒ノ蛇ヲ持チ、木製ニテ、[illegible]蛇ヲ地ニ置キ、舞人、コレヲ見テ、喜悅ノ態ヲナシ、舞踏ス、假面ハ、赤顏、深目ニシテ、[illegible]ナリ。[illegible]

けんじやく (名) 顯爵 顯貴ナル爵位。[illegible]

けんじやく (名) 劍尺 〔刀劍ニ用キレバ、名トス〕 物差ノ一種、鐵尺一尺二寸ヲ、八段トセルモノ。俳諧故事談(享保)「劍尺、[illegible]、太刀、[illegible]ニ用フ、[illegible]尺、尺、寸ヲ、八ツニ割リタル法也」倭訓栞、けんじやく「劍尺也、一名、玉尺ト云フ、凡、刀劍、佛像、門戶、等ニ用フ、金ざし一尺二寸ヲ、八段トス」

けんじやぶり (名) 賢者振 サカシキ人ラシク、見セカクルコト。犬子集、一「妻ニハネヲ、キセヌヤ蝿ノ、賢者ぶり」

けんジヤリ (名) 劍舍利 〔舍利ノ條ヲ見ヨ〕 石英ノ、劍鋩ノ形ヲナセルモノノ稱。カブトズキシヤウ。倭訓栞、けんじやり「石英ヲ云フ、舍利ノ義、又、冑ノ鉢ト云ヘリ」[illegible]、けんさきのしやり「[illegible]、西宮ニテ、白水精ト云フ」

けんしゆ (名) 黔首 黎民ト云フニ同ジ。人民。國民。[illegible]

けんしゆ (名) 懸珠 珠ト見紛フ、麗シキ眼ツキ。[illegible]

けんしゆ (名) 賢主 賢明ナル主君。賢君。[illegible]

けんしゆ (名) 賢衆 けんじやう(賢聖)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

けんしゆ (名) 劍樹 枝、葉、花、果、皆、刀劍ニテ成レリト云フ樹林。地獄ニアリト云フ。[illegible]

げんしゆ (名) 元首 〔漢書、注「元、首也」〕 君主。國君。カシラ。[illegible]

けんじゆう (名) 拳銃 ピストル。タネガシマ。

げんしゆう (名) 顯宗 げんけう(顯教)ノ條ヲ見ヨ。

げんしゆく (名) 嚴肅 嚴重ニ、靜肅ナルコト。オゴソカニ、ツツシメルコト。[illegible]

けんしゆつ (名) 檢出 シラベ、イダスコト。「諸書ニ就イテ、例文ヲ檢出ス」

けんしゆつ (名) 劍術 シアヒ。太刀打ニテ、相鬪フ術。擊劍ノ術。竹刀、又ハ、木刀ニテ習フ。劍法。劍道。略シテ、劍。此術ヲ專業トスル者ヲ、劍術つかひト云フ。[illegible]

げんしゆつ (名) 幻出 マボロシニ、現ハレ出ヅルコト。[illegible]

げんじゆつ (名) 幻術 (一)隱形ナドノ術、外法。魔法。妖術。[illegible] (二)手品ノ類。メクラマシ。[illegible]

けんじゆつつかひ (名) 劍術遣 けんじゆつノ條ヲ見ヨ。

けんしゆん (名) 險峻 險阻ニ同ジ。ケハシキコト。[illegible]

げんしゆん (名) 嚴峻 オゴソカニ、キビシキコト。[illegible]

けんしよ (名) 賢所 〔賢 所ノ字ノ音讀〕 カシコドコロ。

けんしよ (名) 見證 けんぞヲ見ヨ。

けんしよ (名) 卷舒 卷キタリ、舒ベタリスルコト。伸縮。[illegible]

けんしよ (副) 慊如 けんえん(慊焉)ニ同ジ。[illegible]

げんしよ (名) 嚴署 キビシキアツサ。酷暑

げんしよ (名) 原書 (一)寫サヌ、改メヌ、原ノ書物。原本。(二)特ニ、西洋文ノ、翻譯セヌ書物。西洋書。洋書。

げんしよ (名) 還昇 〔昇ハ、名目抄「本音、

ぢょう也、而シテ、名目、ぢょ、又、濁也」」殿上人ノ、昇殿ヲ停止セラレタル者ノ、再ビ、昇殿ヲ差聽サルルコト。カヘリテンジャウ。げんぢょう。長秋詠藻、下「四品ニ敍シテノチ、崇德院ノ御方ノ還昇ハ、マダ申サザリシ頃」

けん-しょう (名) 〔顯證〕 けんそうノ條ヲ見ヨ。

けん-しょう (名) 〔見證〕 けんぞ(見證)ノ條ヲ見ヨ。

けん-しょう (名) 〔健訟〕 能ク、訴訟ヲ起スコト。クジズキ。易經、上經、訟卦、象傳「訟、上剛、下險、險而健、訟」疏「險而健者、恆人之意懷險惡、性又剛健、所以訟也」

けん-しょう (名) 〔健勝〕〔堅勝〕 身ノ、勝レテ、スコヤカナルコト。ヂャウブ。タッシャ。堅固。健康。「時下益御健勝之段、作賀候」

けん-しょう (名) 〔謙稱〕 ヘリクダリ云フコト。卑下シタル稱。謙語。左傳、僖公四年、疏「不穀一詞、好注、楚君不穀、諸侯謙稱」

けん-しょう (名) 〔弦誦〕 琴ヲ彈ジ、書ヲ誦ムコト。學問スルコト。蔡經詩「敏于弦誦」李觀、貢四學記「或連數紀亡弦誦聲」

げん-しょう (名) 〔還昇〕 げんぢょ(還昇)ノ條ヲ見ヨ。

げん-しょく (名) 〔減食〕 (一)食物ノ量ヲ、減ズルコト。漢書、公孫弘傳「事繼母及伯父甚謹、年餘貧賤、僅減食、以供母及伯」(二)監獄ニテ、紀律違反ノ在監人ノ懲罰、七日以內、減食セシム。

げん-しょくばん (名) 〔原色版〕 寫眞ヲ應用シテ、原物通リノ色彩ヲ出ダス印刷方法ニシテ、三色版、四色版、等アリ。

けむしろ (名) 〔毛席〕 毛織ノ席。氈。倭訓栞「けむしろ、氈ヲ讀メリ、毛席ノ義也、靑氈、白氈、錦氈、花氈ナド、見エタリ」

げんじ-ゑ (名) 〔源氏繪〕 源氏物語ノ五十四帖ノ記事ノ旨ヲ、繪卷物ニシタルモノ。此繪ヲ繪合ニスルヲ、源氏繪合ト云フ。著聞集、十一、畫圖「源氏繪十卷、泥ミタル料紙ニ畫キテ」

げんじゑ-あはせ (名) 〔源氏繪合〕 源氏繪ヲ以テ行フ繪合。

けん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 〔檢〕 〔木偏ノ檢ハ、管子、山權數篇「此檢二數百里之地一也」注「檢、猶レ比也」後漢書、周黃、徐姜、申屠傳、注「檢、猶レ察也」手偏ノ撿ハ、字典「撿、按也、廣韻、比收レ檢、以レ撿爲二俗字一」經籍纂詁、上聲、儉韻「檢、俗作レ撿」〕 シラベ、カンガフ。アラタメテミル。檢視ス。晉書、閻纘傳「王濬表、科二校中書故事、見二其表啓一」民部省式、上「檢二實申一レ官」「事實ヲ檢す」「書中ヲ檢す」

けん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 〔獻〕 タテマツル。サシアグ。獻上ス。進上ス。書經、旅獒篇「無レ有二遠邇一、畢獻二方物一」吾妻鏡、六、文治二年六月七日「獻二書狀一申送云、云云」

げん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 〔減〕 ヘル。少ナクナル。「收入、減ず」人口、減ず」

げん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 〔減〕 ヘラス。ヘス。少ナクナス。ハブク。唐書、食貨志「貞元八年、以二水災一減レ稅」賦役令「疾病及、遇レ雨不レ堪二執作一之處、減二半食一」「人數ヲ減ず」「給料ヲ減ず」

げん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 〔現〕 アラハル。出デテ、見ユ。淨住子「有レ形則影現、有レ發則響應」平家物語、十一、先帝御入水事「八幡大菩薩ノ、現じ給ヘルニコソト悅ビテ」

げん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 〔現〕 アラハス。法華經、序品「今者世尊、現二神變相一」保元物語、一、鳥羽院熊野御參詣事「種種ノ神變ヲ現じテ後」宇治拾遺、十一、第十一條「堅固ノ田舍人ニテ、子ニヲ知ラズ、無禮ヲ現じ候ツラン」

けん-ぜい (名) 〔間食〕 〔間食ノ訛、其條ヲ見ヨ、建水ト書ケルハ、當字ナリ、硯水ト書ケルハ、玄水(酒)ノ當字ナルニ混ジタルナリ〕 (一)晝飯ノ稱。古ヘ、一日二食ナリシ頃ノ、間食ノ遺語ナリ、其條ヲ見ヨ。籠耳草子(貞享)二「作八中食ト云ヒ、町人ハ晝飯、寺方ニハ點心、道中旅籠屋ニテハ晝息ミトイヒ、農人ハ鋤簾、御所方ニテハ、女中ノ詞ニハ、御供御ト云フ」合類節用集(元祿)六、服食「晝食ヲ、硯水ト云フ」風俗文選(寶永、許六)南部狀「晝食、建水、農家晝食」物類稱呼(安永)四、衣食「晝食、南部ニテ、けんぜいト云フ」(二)此語、一日三食トナリシヨリ、轉ジテ、小晝飯ノ稱トナレリ。(畿內)ヤッヂャ。オヤツ。アヒダグヒ。間食。(晝食ノ點心ノ、茶請ニ移レルガ如シ) 閑田耕筆(寬政、伴蒿蹊)四「今世、造作ヲセル時、諸職人ニ、三時ノ食物ノ外ニ、勞ヲ慰ムルタメニ、酒餠ノ類ヲ與フルヲ、けんぜいト云フ、其字モ、義モ、知ラズ、云云、括嚢ハ、間食ト云ヘリ」東牖子(享和)「農民、餉時前ニ食スルヲ、けんぜいト云フ、間炊ナルベシ、建水ト、古ク書キ來レド、據ヲ知ラズ、云云、靈異記、延喜式ノ間食ハ、後世ノ硯水トハ異ナルベシ」

けん-そう (名) 〔間數〕 間(六尺ノ)ノ數。「間數ヲ測ル」

けん-そう (名) 軒數 家ノ數。戸數。

けん-ずまふ (名) 〔拳相撲〕 拳ノ條ヲ見ヨ。

けん-すゐ (名) 〔懸垂〕 上ニ懸リテ、眞直ニ垂レサガルコト。下墨ナド、是レナリ。

けん-すゐ (名) 〔建水〕 「集韻「建、覆也」史記、高帝紀「建二瓴水一」註「翻二瓴水一」下學集、下、態藝門「魚道者、建二殘盃一器也」」ミヅコボシ。コボシ。

けん-ずゐ (名) 〔玄水〕 〔硯水、間水、ナド書ケルハ、當字ナリ、正韻「玄、瑚涓切、音懸」(玄ヲ、常ニ濁音ニ云フハ、吳音ナリ、驗、げん。見參、げんざん)禮記、禮運篇「玄酒在レ室」註「玄、酒水也」本草綱目啓蒙、十七「酒、一名、玄水」註「本草滙」特ニ、大工ニ宛行ハルル酒ニ云ヒ、大工ノ語ニ、酒ヲ、けぜりトモ云フ、けんぜゐノ訛ナリ、其條ヲ見ヨ〕 酒ノ異名。雜談集(嘉元、無住)「寺院ノ院主、弟子ノ律僧、夏ノ頃、對面ノタメ來リケルニ、人ヲ召シテ、大乘ノ茶茶ヲセヨト云フ、何物ニヤト思フホドニ、打銚子ニ、玄水タプタプト入レテ來レリ」(大乘茶、玄水、隱語ナリ) 永德二年春日社御供失記「けんずゐ六升、御供二前、御奉行ヨリ、大工ニ給ハル」同、八月廿五日「米、稻ニ三斗常住ニ、けんずゐ代、南北ニ六百文」(古事類苑) 林逸節用集(文明)財寶「玄水　下ニ「酒」」運步色葉集(天文)「硯水、依ニ爲硯水凍、入レ酒則硯水不レ凍、餘酒、大工飮レ之、今世專來日ニ硯水一也」(昔ノ教科書ナル史記ニ據リテ設ケタル辭會ナリ、愚者ヲ、厨房宮ニ寄セニ云フト、同ジ) 閑田耕筆(寬政、伴蒿蹊)四、古文書ノ零紙、天正十九年六月、楠造作入目注文、同、硯水、一日分、云云、十六文、酒、硯水一易林節用集(慶長)食服「硯水」物類稱呼(安永)四、酒、畿內ノ番匠ノ詞ニ、酒ヲ、けんずゐト云フ」

けん-ずゐ (名) 〔肩隨〕 年長者ト同伴スル時、肩ヲ並ベ、稍退キテ、隨ヒ行クコト。長者ニ隨フ禮ナリ。禮記、曲禮、上篇「五年以長、則肩二隨之一」

げん-すゐ (名) 〔元帥〕 (一)イクサノキミ。軍勢ノ總大將。左傳、宣公十二年「子爲二元帥、師不レ用レ命、誰之罪也」職原抄、下「外武官、云云、大將、謂二之元帥一」(二)今、特ニ、海陸軍

大宮ニ嗣ク[illegible]。…[illegible]ノ、[illegible]上ノ[illegible]間ノ[illegible]、[illegible]ヲ、[illegible]等ト云フ。[illegible]

げんすゐ（名）【減水】水ノ量ノ、減ルコト。[illegible]

げんすゐ-コマまはし（名）【源水獨樂廻】〔松井源水ト云フ者ヲ祖トシ、師弟、相承ケ[illegible]傳セリ〕江戸ニテ、[illegible]ニテ、大イナル獨樂ヲ廻ハシテ、曲ヲナシ、[illegible]、[illegible]賣リシ者。[illegible]、又、齒ノ療治ヲモシタリ。

げんすゐふ（名）【元帥府】元帥ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

げんぜ（名）【現世】佛教ノ語、現在世ノ當世ノ世。コノヨ。[illegible]。（三世ノ條ヲ見ヨ）[illegible]

けんせい（名）【賢聖】賢人ト、聖人ト。智德ノ、卓越セル人。[illegible]世ニ稱ニ其名…[illegible]

けんせい（名）【憲政】立憲政治ノ略。

けんせい（名）【權勢】權力アリ、勢力アルコト。又、其位ニ居テ、人ヲ威服スルコト。[illegible]太平記、一、[illegible]四海ノ外モ、ヒトシ[illegible]

けんせい（名）【牽制・牽掣】引止メテ、自由ナラシメヌコト。肘ヲ引クコト。制肘。漢書、元帝紀「[illegible]制文義、優游不斷」唐書、[illegible]

けんせい（名）【研精】研究シテ、精細ニ至ルコト。[illegible]

げんせい（名）【幻世】マボロシノ如キ世。ハカナキ世ノ中。白居易詩「幻世如[illegible]」

げんせい（名）【芫青】蟲ノ名、アヲハンミャウ。[illegible]

げんせい（名）【嚴正】嚴格ニ、正シキコト。少シモ、情實ナド容レヌコト。[illegible]ト嚴正ナリ」

げんせい（名）【減稅】稅ノ額ヲ、減ズルコト。（増稅ニ對ス）[illegible]明用不ㇾ充」

げんせい-ちゅうりつ（名）【嚴正中立】〔英語 Strict neutrality. ノ譯語〕他國ノ交戰中、嚴正ニ局外中立ヲ守リ居ルコト。

けんせう（名）【顯證】けんそう（顯證）ノ條ヲ見ヨ。

けんぜう（名）【譴攘】カマビスシキコト。[illegible]

げんせう（名）【元宵】げんせき（元夕）ノ條ヲ見ヨ。

げんせう（名）【減少】減リテ、少ナクナルコト。後漢書、明帝紀「[illegible]用減少」「人口減少」

げんせう（名）【言笑】物言ヒ、且、笑フコト。[illegible]若タリ」「言笑ノ間ニ決ス」

けんせき（名）【譴責】〔廣雅「譴、責也」〕[illegible]（一）叱リ、責ムルコト。[illegible]七、仁平元年八月廿四日「[illegible]」

[illegible]ノ罰、非ヲ責メテ、後來ヲ戒ムルコト。

げんせき（名）【言責】（一）是非ヲ言フベキ職責。孟子、公孫丑、下篇[illegible]其言則去」（二）述べタル言詞ニ就キテ、遁レラレヌ責任。「言責[illegible]ニアリ」

げんせき（名）【元夕】上元ノ夜、卽チ、陰曆正月十五日ノ夜ノ稱。又、元宵。[illegible]元夕、元宵、[illegible]正月十五夜二

げんせき（名）【原籍】[illegible]ノ本籍。

けんせき-うん（名）【卷積雲】ウロコグモ。イワシグモ。

けんせつ（名）【兼攝】〔字典「攝、兼也」〕兼務、兼帶、ニ同ジ。[illegible]

けんせつ（名）【建設】新ニ、建ツルコト。[illegible]以强ニ守國二」「學校ヲ建設ス」

けんぜつ（名）【懸絶】カケハナレタルコト。懸隔。易經、上經「水洊至」注「重險、懸絶、故水洊至也」「山河懸絶ス」

げんせつ（名）【言說】イヒ、トクコト。[illegible]

けんせん（名）【健羨】イタク、ウラヤムコト。史記、太史公自序「[illegible]」

けんぜん（名）【健全】（一）身、スコヤカニシテ、病無キコト。（二）[illegible]健ニシテ、[illegible]ナラヌコト。[illegible]

けんぜん（副）【顯然】分明ニシテ、隱レ無キ意ニ云フ語。保元物語、[illegible]

げんぜん（副）【泫然】淚ノ、ハラハラト落ツル狀ニ云フ語。[illegible]

げんぜん（副）【眩然】眼ノ昏ムヤウナル狀ニ云フ語。史記、[illegible]而不ㇾ下」

げんぜん（副）【儼然】儼シキ狀ニ云フ語。[illegible]相儼然トシテ、「異香芬馥セリ」「威儀儼然タリ」

けんせんじ（名）【兼宣旨】〔兼日ニ賜ハル意〕大臣ニ任ゼラルベキ人ニ、前以テ、某レノ日ニ任ズベキ旨ヲ、仰セホサルル宣旨。當日ニ至リ、任大臣ノ節會ヲ行ハレ、宣命ヲ讀マシメラレテ、任ゼラル。[illegible]

けんそ（名）【儉素】儉約ニシテ、質素ナルコト。[illegible]布衣蔬食」十訓抄、上、第二、第一條「家好ニ儉素一不[illegible]ヲ守ル」「生活、儉素ナリ」

けんそ（名）【險阻】〔[illegible]、下傳、「大難曰ㇾ險、小難曰ㇾ阻」〕ケハシキコト。サカシキ處。左傳、僖公廿八年「險阻艱難」太平記、三、陶山小見山夜討事「第一ノ難所ヲバ、安安ト、[illegible]上リテケリ、其ヨリ上ニハ、サマデノ[illegible]無リケレバ」「山路、險阻ナリ」「險阻ヲ越エテ」

けんぞ（名）【見證】〔見證ヲ約メテ、濁ル

(顯證ノ條ノ語原ヲ見ヨ)又、けんぞうトモ云フ、名目抄「見證、常ノ音、ぞう也、依テ名目ニハぞう也、又、上ニ引カレテ濁ル也」證ヲ、けんぞうトモ云フ」 闘碁、蹴鞠、雙六ナドノ競技ヲ、傍ニ居テ、勝負ヲ見屆ケテ、證スルコト。相撲ノ行司ノ如シ。又、けんぞ。 徒然草「碁打チタマフトテ、謂之見證ニ」 源、四十三、竹川五「碁打チタマフトテ、云云、侍從ノ君、けんぞシタマフトテ、近クサブラヒタマフニ、兄君タチ、差シノゾキタマヒテ、侍從ノオボエ、コヨナクナリニケリ、御ごノけんぞユルサレニケルヲヤトテ、オトナオトナシキ狀シテ、ツイ居タマヘバ」 狹衣、一、下「碁打タセタマフナリケリ、近ヤカニ居タマヘルニ」 吾妻鏡、四十七、康元元年四月九日「御所御鞠、仁和寺三位能清朝臣、範忠朝臣、範行等、候見證ニ」 著聞集、十一、蹴鞠、民部卿、見證セラレテ、是レホドノ事ナレバ、トモカクモ、言フ事アラズトゾ、言ハレケル」 同、十六、興言利口「或人ト、雙六ヲ打チケルヲ、傍ニアル越前房ト云フ僧、索リテ、見所ストテ、云云、サマザマノサカシラヲ、憎シ、憎シト思ヒケレドモ、云云」

げんそ (名) [元素] 化學ノ上ニテ、地上ノ萬物、其成分、必ズ、單體九十餘種ノ結構スル所ノ外ハアラズ、單體ト云フ者ハ、得テコレ、二ツニ分ツベカラザルモノニテ、コレ、元素ナリ。元素ヲ分チテ、金屬、非金屬ノ二類トス。元素ノ特立、天然ニ發スルモノハ、十四五種ニ過ギズ、即チ、酸素、窒素、硫黃、炭素、砒素、安質母尼(アンチモニイ)、蒼鉛、鐵、銅、鉛、水銀、銀、黃金、白金、等ナリ。其他ノ天産物ハ、總テ、元素、二種、若シクハ、數種ノ、集成セル複體ニシテ、コレヲ、化合物トス。

げんそ (名) [減租] 地租ノ額ヲ、減ズルコト。 [illegible]

けんそう (名) [顯證] [韻會]證、諸應切、蒸去聲」玉篇「證、驗也」證ノ漢音ニ、しょう、そうノ二音アリ、けそうト云フハ、約ムルナリ(撿非違使、けびゐし)けんせう、けせうトアルハ、譌ナリ、興ヲけう、躬ヲきうト記ス類ナルベシ、けさうハ、全クノ誤ナリ」 顯ナルコト。ハレバレシキコト。又、けそう。けんせう。けせう。 源、四十三、竹川ニ「タ暮ノけんそうナリケムニ、イトド、カウアヤニクナル心ハ、添ヒタルナラム」 更級日記「道、けんそうナラヌサキニト、夜深ク出デシカバ」 大鏡、上、花山院「御局ノ小戸ヨリ出デサセタマヒケルニ、有明ノ月、イミジウ明カリケレバ、見證(顯證ナリ)ニコソアリケレ、イカガアルベカラム、ト仰セラレケルヲ」(花山天皇、潜ニ、宮中御脱出ノ時ノ事ナリ) 蜻蛉日記、中、中「山科ニテ明ケハナルルニゾ、イトけんせうナル心地スレバ、アレカ人カニオボユル、人ハ、皆、後ラカシ、先立テナドシテ、カスカニテ歩ミ行ケバ」 源、四十六、總角ニ「カク、けせうニ、コレカレニモ、口入レサセズ、隱ヤカニ、イツ、アリソメケム事トモナク、モテナシテコソト思ヒソメタマヒケル」 枕草子、五、四十六段「年若キ人ノ、サルけせうノホドナレバ、言ヒニクキニヤアラム、返シモセズ」 同、九、九十一段「高坏ニマキリタル大殿油ナレバ、髮ノ筋ナドモ、ナカナカ、晝ヨリハけさうニ見エテ、目映ケレド、念ジテ見ナドス」

けんそう‐し (名) [監送使] 齋宮ノ、伊勢ニ御發向ノ時、送リ奉ル職。 齋宮寮式「凡、齋內親王臨行、預定監送使、參議一人(或、以中納言充之)」

けんそく (名) [賢息] 他ノ子息ヲ稱スル敬語。令息。 吾妻鏡、一、治承四年八月九日「大庭三郎景親、招秀義(佐佐木源三)談云、云云、賢息佐佐木太郎定綱、云云」 太平記、四、笠置囚人死罪流刑事「萬里小路大納言宣房卿、云云、二人ノ賢息、(藤房、季房)ハ、死罪ニゾ行ハレンズラント覺エテ」

けんそく (名) [健足] 健脚ニ同ジ。

けんそく (名) [檢束] [魏了翁、跋邵康節檢束大字ニ文「檢、謂檢其行止、束、謂束其性情」] (一)トリシマルコト。 小學、自檢束、則日就規矩ニ」「自ラ我ガ身ヲ檢束ス」 (二)官ノ力ニテ、オサヘツクルコト。行動ヲ、束縛スルコト。「不法ノ者ヲ檢束ス」

けんぞく (名) [眷屬] [親眷、愛屬ノ略] (一)ウカラ。ヤカラ。ミウチ。親族。くゑんぞく。 史記、樊噲傳「誅諸呂呂須婘屬ニ」注「婘音眷」 白居易詩「家居雖濩落、眷屬幸團圓」 枕草子、十、百三十二段、たのもしきもの「オホヤケハラタチテ、けんぞくノ心地モ、心ウク見ユベケレド」 源、四、夕顏三十「くゑんぞくモ、タチマジリタラン」 雅言集覽、けんぞく、眷屬、大經、下「六親眷屬」注「父母兄弟妻子曰六親也、云云、六親之外、名爲眷屬ニ」 (二)家子。從者。 今昔物語、廿五、第二語「多クノ猛キ兵ヲ集メテ、眷屬トシテ」 (三)佛ノ化身、又ハ、弟子ノ菩薩ナドヲ、佛陀自內證ノ眷屬ト云フ。

けんぞく (名) [縣屬] 縣ノ屬官。

げんそく (名) [原則] 多クノ場合ニ適用セラルル、根本ノ法則。

げんぞく (名) [還俗] 僧ノ、俗體ニ還ルコト。僧ノ生涯ヲヤメテ、常ノ人トナルコト。法師ガヘリ。バウズガヘリ。 宋書、徐湛之傳「時有沙門釋惠休、善屬文辭、湛之與之甚厚、世祖命使還俗ニ」 持統紀、七年六月「詔高麗沙門福嘉、還俗」 保元物語、三、謀叛人[illegible]

けんそん (名) [謙遜] ヘリクダルコト。身ヲ、卑下スルコト。謙退。謙讓。 漢書、東方朔傳「謙遜靜愨、天表之應」 [illegible]

げんそん (名) 玄孫 [爾雅、釋親篇「曾孫之子、爲玄孫ニ」] ヤシハゴ。ヤシャゴ。曾孫ノ子。 史記、孟嘗君傳「孫之孫爲何、曰、爲玄孫ニ」 左傳、僖公廿八年「及而玄孫、無有老幼ニ」 續紀、二、大寶二年十月乙卯「上自曾祖、下至玄孫、奕世孝順者、云云」

げんそん (名) [現存] 現ニ、存在スルコト。目ノ前ニ、アルコト。現在。 吾妻鏡、十、建久元年八月十六日「件男(河村三郎義秀ヲ云フ)可行斬罪之由下知畢、于今現存、尤奇異事也」

けんだ (名) [拳打] コブシニテ、ウツコト。 南史、魚復侯子響傳「每入朝、輒忿、拳打車壁ニ」

げんだ (名) [黿鼉] おほすっぽん、よろひがめ。 中庸、第廿六章「今夫、水一勺之多、及其不測、黿鼉、蛟龍、魚鼈、生焉」

⁂けむたい (形) [烟] けむたし(烟)ノ口語。

けんたい (名) [兼帶] (一)二三以上ノ官職ヲ、兼ネテ帶ブルコト。兼任。兼務。兼職。 事文類聚、兼帶僧綱起居注ニ」 續後紀、十二、承和九年八月乙酉「未堪二一職、兼帶四官ニ」 名目抄、諸公事「兼帶」 (二)スベテ、數用ヲ兼ヌルコト。カケモチ。

けんたい (名) [謙退] ヘリクダリ、シリゾクコト。謙遜。謙讓。 漢書、王莽傳「[illegible]謙退ニ」 續後紀、十二、承和九年十月壬午、阿保親王、云云、稟性謙退、才兼文武ニ」

けんたい (名) [倦怠] ウミ、オコタルコト。アキテ、ナマケルコト。 晉書、[illegible]「自頃以來、衰耗[illegible]、而倦怠頗來、耳目本聰明、而[illegible]」

けんたい (代) [賢臺] 同輩以上ニ用キル、對稱ノ代名詞、敬稱ナリ。貴所。貴下。

けんだい (名) [憲臺] [漢ニ、御史臺ヲ、憲臺ト云フ、國憲ヲ掌ルナリ] たんぜうだい(彈正臺)ノ唐名。 職原抄、[illegible]

[illegible]州一女、坐傾二三盃一[illegible]、[illegible]　[illegible]

けんだい (名) 見臺 〔書見臺ノ略〕 書物ヲ載セテ、坐シテ見ルニ用ヰル具、臺ニ、短キ柱ヲ立テ、上ニ板アリ、板、坐セル人ノ方ヘ傾ク。倚書架　欹案 [illegible]

けんだい (名) 兼題 〔兼日の題ノ略〕 和歌、會ナドニ、題ヲ、數日前ニ、豫テ出シテ、詠ゼシムルモノ。當座ノ(當日ノ)會席ニ出ス題ヲ、當座、又、席上ト云フニ對ス) [illegible]

けんたい (名) 減退 減リ、衰フルコト。 [illegible]

げんだい (名) 現代 〔前代、後代ナドニ對ス〕 現在ノ時代。今ノ世ノ中。當世。

けんたう (名) 見當 (一)ミアテ。メアテ。[illegible] (二)ミスエ。ミコミ。[illegible] (三)[illegible]ノ名所、照星ニ同ジ。

けんだう (名) 萱堂 〔詩經、衛風、伯兮[illegible]〕 [illegible]北堂。[illegible]也 釋文「諼、本、又作レ萱」 他人ノ母ノ敬稱。北堂。[illegible]

けんだう (名) 縣道 〔縣費ニテ作ル道ノ義ナルベシ〕 道路ノ等級ノ名、國道ニ次ギテ、要アルモノ、道幅、四間、又、五間。

けんだう (名) 權道 權宜ノ處置。權ノ[illegible]

[illegible]ノ見ヨ。

けんだう (名) 劒道 劒術ニ同ジ。

げんたう (名) 現當 佛經ノ語、現世ト、當來ト、現未。[illegible]

けんたうし (名) 遣唐使 モロコシノツカヒ。又、入唐使。古へ、朝廷ヨリ、支那ノ唐代ノ朝廷ニ遣ハサレ、國書、贈物ヲ奉ジ、唐帝ニ謁見セシ使臣。臨時官トシテ、大使、副使、判官、錄事、譯語、等ヲ任ゼラレ、四隻ノ船、分乘シテ、發シ、支那ノ明州(今ノ寧波)ニ着キテ、上陸シテ、彼ノ國都ニ至ルヲ定メトシタリ。此使ハ、舒明天皇ノ御代ヨリ始マリ、仁明天皇ノ承和年中マデ、十數回ナリシガ、宇多天皇ノ寛平六年ニ、菅原道眞、大使ニ任ゼラレシカド、時ニ、唐國ノ亂ニ遭ヒテ、罷メラレ、其後、永ク絶エタリ。[illegible]

けんたうずり (名) 見當摺 錦繪ノ色摺ニ云フ語。先ヅ、繪ノ、墨ノック所ノミ刻レル板木ヲ、一枚作リ、次ニ、彩色ノ色ニ就キテ、赤ノック所ノミノモノ、一枚ヲ刻リ、黃、紫、綠、皆、此ノ如ク、同一ノ繪ニ、色ノ異ナル數ダケノ板木、數枚ヲ設ケテ、各板ノ端ニ見當ヲ附ケオキ、同一ノ紙ヲ、見當ニアテテ、各板ニ、追ヒカケ追ヒカケ、摺リテ成ル。此術ハ、延享元年ニ、江見屋上村吉右衛門ト云フ者、工夫セリト云フ、因リテ、上村ト稱ストゾ。(或ハ、明和二年ノ錦繪ニ始マルトモ云フ)

けんたうちがひ (名) 見當違 見當ノ、違ヒタルコト。見込ノ、外レタルコト。ミコミチガヒ。カンチガヒ。

げんたく (名) 原拓 〔拓本ノ語原ヲ見ヨ〕 石摺ノ碑ナド、實物ヨリ摺取リタルモノ。(覆刻ナドニ對ス)

けむたし・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 烟 けぶたしニ同ジ。

けんたつ (名) 顯達 立身、出世スルコト。榮達。[illegible]

げんたつ (名) 嚴達 嚴重ナル布達。

ケンダツバ—ぢやう (名) 乾闥婆城 〔梵語、乾闥婆 (Gandharva) ハ、天竺ノ神ノ名、天上界ニテ樂ヲ奏スト云フ、慧琳音義「彥達縛、常與二上界諸天一設レ樂」〕 天竺ニテ、蜃氣樓ノ稱。喜見城。貝櫓。[illegible] 佐シマル」

けんたん (名) 健啖 〔玉篇「啖、同レ噉」(食フナリ)〕 能ク、多量ニ、物食フコト。[illegible]

けんたん (名) 間短 夜發ノ異名。ヨタカ。サウカ。[illegible]川町(京都)ニ、間短商ヒシテ」[illegible]、けんさい「草[illegible]ノ事ヲ、四國ニテ、間短ト云フ」[illegible]一、夜發「四國ニテ、けんたんト云フ、間短ト書クカ」

けんたん (名) 卷丹 オニユリ。

けんだん (名) 檢斷 (一)非違ヲ檢メテ、其罪ヲ斷ムルコト。又、其職。鎌倉幕府時代、諸國ノ守護ノ專務ニテ、稍、撿非違使ニ類セシモノ。室町幕府時代ニ至リテ、檢斷職ハ、侍所ノ管掌ナリキ。[illegible]、十八、元久二年六月廿六日「[illegible]」[illegible]「足利殿ノ時、檢斷ノ職掌ハ、スベテ侍所ノ丞タマハル所ニシテ、所司代以下、侍所ノ被管タル輩、專ラ、其事ニ從ヘリ」 (二)後ニハ、大莊屋ヲ、檢斷ト稱シ、仙臺領ニテハ、宿驛ノ問屋場ノ小役人ヲモ稱シタリ。[illegible]ト唱フル所モアリ」

げんだん (名) 嚴談 嚴重ニ、談ジツクルコト。

ケンダラ (名) 乾陀羅 〔梵語、Gandhara.〕 (一)印度西部ノ古代ノ國名。此國、昔ハ佛敎繁盛ニシテ、文化ノ中心ナリキ、美術モ發達シテ、一種ノ樣式アリ、建築、彫刻ニ、乾陀羅式(又、がんだらしき)ナド云フ。(二)香樹ノ名、其煮

汁ヲ染料トス、茶褐色ナレバ、僧衣ヲ染ム、香染ノ衣ト云フ、是レナリ。

けんち (名) 【硯池】 スズリノウミ。墨池。 傅休奕、硯賦「節三方圓一以定レ形、鍛二金鐵一而爲レ池」 蘇平殿詩「雙雙瓦雀行二書案一、點點楊花入二硯池一」

けんち (名) 【見地】 〔地ハ、的ノ語原ヲ見ヨ〕 見ルコト。ミカタ。ミコミ。見解。 「人ト、見地ヲ異ニス」

けんち (名) 【檢地】 田畠、宅地、山林、等ノ廣狹ヲ、檢メ測ルコト。ナハウチ。サヲイレ。丈量 大内家壁書、堺目相論之時、餘地井隙得之事、諸人知行分、堺目相論、自二地内一及二御沙汰一以下上使二被レ檢地一之時、云云」

けんち (名) 【縣治】 縣ノ政治。縣ノ行政。

けんち (名) 【軒輊】 〔字貫「車前高曰レ軒、前下曰レ輊」〕 アガリ、サガリ。輕重。優劣。 詩經、小雅、彤弓之什、六月篇「戎車既安、如レ輊如レ軒」 後漢書、馬援傳「夫居レ前不レ能レ令二人輊一、居レ後不レ能レ令二人軒一、臣所レ羞也」註「言二爲レ人無一レ所二輕重一也」

けんち (名) 【堅緻】 堅固ニシテ、緻密ナルコト。 釋名、釋器「器、愨也、其器堅緻、愨然可レ愛」

けんちいし (名) 【劍地石】 〔けんちハ、劍打ノ約ニテ(石打、印地。拳固打、げんこつ(一)劍形ニ切ル意ニモアルカ〕 一端、平カニシテ、一端、尖リ、楔ノ形ニ切リナシタル石。平カナル方ヲ面トシテ、石垣ナドニ積ミ築ク。

けんちう (名) 【繭紬絹紬】 支那ヨリ舶來スル、一種ノ山繭織ノ紬。 寄園寄所寄「鐙谷識餘云、繭紬、明初何末、至二明季一某時、臣僚服、上意二其儉樸一、以多以二繭紬一爲レ服、始盛行」 華裔通商考(一)人、繭紬……土絹、繭紬」

ケン-チェン (名) 【卷繊】 〔字ノ支那音、卷ハ、黒大豆ノ萌ナリ、纖ハ、細カニ刻ミタルナリ、今モ、大根ヲ纖ニ切ルト云ヒ、纖蘿蔔ノ名モアリ、けんちゃんハ、音ヲ轉ジタルナリ、此調理ハ、卓袱料理ナリ〕(一)黒大豆ノ萌ヲ刻ミ、胡麻ノ油ニテ煎リ、鹽、醬油ニテ味ヲツケタルモノ。又、けんちゃん。長崎ニテハ、もやしヲ油ニテイタメ、湯葉ニ卷キテ煮びたしニス。 倭訓栞、後編、けんちぇん「ちっぽくニ用フル料理ノ名也、油あげノ品也、卷煎ナリト云ヘリ」俚言集覽、けんちゃん「卷纖ノ字ヲ書ク、卷ハ、黒大豆ノもやしヲ云フ、此豆ヲ油ニテ煎リ、鹽、醬油ヲ加ヘ食ス、イハユルちっぽく料理ナリ」(二)普茶ナルニハ、大根、牛蒡、椎茸、麩、青菜ナド、纖ニ打チ、胡麻ノ油ニテ煎テ、醬油ニテ味ヲツケ、豆腐ノ油揚ニテ卷キ、卷目ニうどんこヲ塗リ、又、油ニテ揚ゲテ、小口切ニス。是レハ、精進ノモノナリ。けんちん汁ハ、コレヨリ轉ジタルナリ。(三)又、鯛、伊勢蝦、鷄肉、銀杏ナドヲ材料ニ加ヘ、玉子燒ニテ卷クモアリ。(以上、料理通、四編)

けんちく (名) 【建築】 キヅキ、タツルコト。家屋、橋梁、城壁、等ヲ作ルコト。普請。作事。

けんちじ (名) 【縣知事】 縣ノ長官。縣ト、知事トノ條ヲ見ヨ。

ケン-チン (名) 【卷纖】 次次條ノ語ノ略、其條ヲ見ヨ。

けんぢん (名) 【堅陣】 堅固ナル陣立。 晉書、沈勁傳「前後陷二堅陣一」 太平記、四、吳越軍事「士卒ノ心ヲ一ニシテ、吳王ノ堅陣ニ駈ケ入リ」

ケンチン-ぢる (名) 【卷纖汁】 〔けんちんハ、けんちぇん、けんちゃんヨリ轉ジタルナリ、其條ヲ見ヨ〕 豆腐ヲ絞リテ水氣ヲ去リ、胡麻ノ油ニテ煎テ、牛蒡、芋ナド、種種ノ野菜ヲ刻ミテ加ヘ、澄汁ニ入レタルモノ。略シテ、けんちん。 俚言集覽、けんちん「豆腐、牛蒡、芋、其外、時ノ菜ヲ入レテ、油ニテ煎テ、汁ノ物ニスルヲ、けんちんト云フ」

けんちゃう (名) 【縣廳】 一縣内ノ、土地、人民ヲ、統ベ治ムル廳。

けんちゃう (名) 【褰帳】 女官ノ名。御卽位、朝賀ノ時、高御座ノ御帳ヲ、褰ゲ開クコトヲ掌ル。 古事談、一、王道后宮「花山院御卽位之日、馬内侍爲二褰帳命婦一進二參」 公事根源、朝賀「天子、高御座ニツカセタマヘバ、云云、褰帳、出デテ、帳ヲ、八字ニカカグ」

けんぢゃう (名) 【傔仗】 〔說文「傔、從也」 通雅「唐制、大使、副使、皆有二傔人一」 正韻「仗、直亮切、劍戟總名」唐制、殿下兵衞曰レ仗」〕 古ヘ、邊境ノ官人ニ給セラレ、兵仗ヲ帶セシ護衞兵士。 續紀、四、和銅元年三月、勅「太宰府帥、大貳、並、三關、及、尾張守、等、始給二傔仗一、其員、帥、八人、大貳、及尾張守、四人、三關國守、二人」 職原抄、下、鎭守府「傔仗二人、擬二重代武士一補レ之、將軍判授之官也、凡傔仗者、陸奧守同給二二人一、按察使給二四人一」

げんぢゃう (名) 【現場】 現ニ、物ノアリ、事ノ起リタル場所。ゲンバ。

げんぢゃく (名) 【還着】 還リテ、ツクコト。モトヘモドルコト。 平家物語、六、祇園川合戰事「前右大將宗盛卿、大納言ニ還着シテ、十月三日ノ日、内大臣ニ成リタマフ」

げんぢゃく-おほんにん (句) 【還著於本人】 〔棒讀ノ語ナリ〕 還リテ、本人ノ身ニ着ク。己レニ出ヅルモノハ、己レノ身ニ入ル。 法華經、普門品「呪咀諸毒藥、所欲害身者、念彼觀音力、還著於本人」(呪咀、毒害セラレムトスル時、其人ガ觀音ヲ祈念スレバ、其禍却ッテ、本人ニ及ブ) 太平記、十二、神泉苑事「守敏、云云、心身惱亂セラレケルガ、云云、遂ニ、ハカナクナリニケリ、呪咀諸毒藥、還著於本人ト說キタマフ金言、誠ニ、驗アリテ、云云」(守敏僧都ガ、弘法大師ニ、調伏ノ法ヲ行ヒタルナリ) 謠曲、田村「千手觀音、云云、千ノ御手毎ニ、大悲ノ弓ニハ、智惠ノ矢ヲハメテ、ヒトタビ放セバ、千ノ矢先、雨霰ト降リカカッテ、云云、鬼神ハ、殘ラズ討タレニケリ、云云、誠ニ、呪咀諸毒藥、念彼觀音ノカヲアハセテ、スナハチ還著於本人ノ敵ハ亡ビニケリ」(坂上田村麻呂ガ、鈴鹿山ノ鬼神ヲ討ツ時、觀音ノ冥護アリシヲ云フ)

ケン-チャン (名) 【卷纖】 けんちぇんノ條ヲ見ヨ。

けんちゅう (名) 【檢注】 〔檢田シ、注記スル義〕 田ノ段別ヲ、檢地スルコト。檢田。又、其職トシテハ、檢注使ト云フ。檢田使。 十訓抄、下、第十、七十四條「陸奧守ニナサレニケレバ、彼國ニ下リテ、檢注ヲ行ヒケルニ」 吾妻鏡、廿三、建保六年三月廿三日「檢注使以二寺僧一可レ入二勘寺領一之由、張行」 武家名目抄、職名、三十三、下「檢注使ト云フハ、田地ヲ檢別シテ、町段ノ數ヲ改正スル職掌ニテ、後ノ世ニ、竿打、竿入ナド云ヘル所役ノ類ナリ、注トハ、町段ノ多少、又ハ、損田ノ有無ヲモ注記スル心ナルベシ」

げんぢゅう (名) 【現住】 (一)現在、其地ニ住居シテアルコト。 現住所、(現住ノ地) (二)寺院ノ、現在ノ住持。當住。現住職。(先住、後住ナドニ對ス)

げんぢゅう (名) 【嚴重】 (一)オゴソカナルコト。イカメシキコト。 後漢書、趙安傳「安爲レ人嚴重有レ威、見レ敬二於州里一」 宇津保物語「大藏正竹生島記事「大辯才功德天女、云云、此島(竹生

[illegible]（二）[illegible]

けんちゅうし（名）[検注使] けんちゅう(検注)ノ條ヲ見ヨ。

げんぢゅうのもち（名）[厳重餅] ゐのこ(玄猪)ノ條ヲ見ヨ。

げんぢゅうみん（名）[原住民] 原始ノ時代ノ住民。[illegible]シテ居タリト推測セラルル人民。原人。

けんちょ（名）[顕著] アラハナルコト。[illegible]「其功績、顕著ナリ」

けんぢょ（名）[賢女] 賢徳アル女。ケンニョ。[illegible]

けんぢょ（名）[蠲除] ノゾキ、サルコト。[illegible]

げんちょ（名）[原著] 原ノ著作。[illegible]作ナドシタルニ對ス)

げんぢょ（名）[玄猪] ゐのこノ條ヲ見ヨ。

けんちく（名）[illegible]ムルコト。厳重ナル戒術。宋史[illegible]

げんづ（名）[原圖] 原ノ圖。(寫シ、又ハ、改作シタルニ對ス)

けむつか・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[illegible]見ユ」 むつかしトニ同ジ、[illegible]

十訓抄、一、第五條「大ナル蜂、云云、打群レテ、イクラトモナク入リ集ルサマ、イトけむつかしく見エケ[illegible]コソアリツレ、世ニ、けむつかしくテ、ナド云フヲ」

けんつきでっぽう（名）[illegible] 小銃ノ先端ニ、劍ヲツケタルモノ。

けんつく（名）[illegible]「けんけんつん、つんけんト云フアリ」 又、劍呑。荒荒シク、物イフコト。「けんつくヲ食ハス」

けんづく（名）[權盡] けんぺいづく(權柄盡)ノ略。[illegible]遣バカリハ、權づくニ押セド押サレヌ、萩ノ枝」

けんづけ（名）[權附] けんぺいづけ(權柄附)ノ略。[illegible]權づけニ、ユキヌケノ合ハヌ絹物ヲ借リテ」

✣けむったい（形）[烟] けむたい(烟)ノ急呼。

けんてい（名）[賢弟] 他人ノ弟ヲ稱スル敬語。[illegible]

けんてい（名）[illegible]可ナルヲ[illegible]ルコト。[illegible]

けんてい（名）[illegible]二日ヲ兼ヌルミチノリ。[illegible]

けんてい（名）[検定] 検メテ、可シト定ムルコト。[illegible]

げんてい（名）[限定] [英語、Determination ノ譯語] (一)サギリ、サダムルコト。[illegible]

げんてい・さうぞく（名）[限定相續] 家ノ相續人[illegible]

げんてい・しょうにん（名）[限定承認] [英語、Limited recognition.ノ譯語] 相續ノ承認方法ノ一。相續人[illegible]ノ債務、及、遺贈ヲ辨濟スベキコトヲ留保シテ、相續ノ承認ヲナスモノ。(單純承認ニ對ス)

げんてう（名）[玄鳥] [玄ハ、黒ナリ、[illegible]] ツバクラメ。ツバメ。乙鳥。[illegible]

けんてき（名）[涓滴] (一)[illegible]ナドノ、シタタリ。シヅク。[illegible] (二)些少。微少。徐寅詩「也應[illegible]涓滴[illegible]」

けんてつ（名）[賢哲] 賢人ト、哲人ト、[illegible]

けんてん（名）[圏點] 批點ノ條ヲ見ヨ。

けんてん（名）[illegible]はるゝ意ナルベシ][illegible]ドノ、赤ク色ヅキテ發シタルコト。

けんでん（名）[硯田] [硯池ヲ、田ニ譬ヘテ、耕作スル意] 硯田ニ筆耕ス[illegible]フハ、文士ナドノ、著作スルヲ云フナリ。[illegible]

けんでん（名）[検田] 田ノ段別ヲ、検ムル[illegible]ト云フ。今昔物語、十七、第五語「[illegible]ノ守ニテ有[illegible]

けんでん（名）[illegible]コト。[illegible]

げんでんぎゅういつ（名）玄田牛一 [illegible]牛ノ[illegible]如シ、玄田牛一ト讀マバ可ケムト云フ」[illegible]ニモ[illegible]ト云フ隠詞ナリ。(俚言集覧)

けんでんし（名）[検田使] けんでん(検田)ノ條ヲ見ヨ。

けんと（名）[illegible]見[illegible]也」[illegible]ニン。刑人。囚徒。囚人。[illegible]「有二一囚徒、相見曰」

けんと（名）[建都] 都ヲ、建テ設クルコト。

けんど（名）[譴怒] [譴責ノ語原ヲ見ヨ] 怒リテ、叱リ責ムルコト。[illegible]

けんど（名）[限度] 限レル程度。カギリ。[illegible]

けんとう（名）[献燈] 神佛ニ供ヘタル燈火。奉納ノ燈明。

けんとう（名）[軒燈] 住居ノ標トシテ、軒端ニカケトモス燈火。

けん-とう (名) [健鬪] 能ク、鬪フコト。後漢書、馮異傳「諸將非レ不二健鬪一、然好二虜掠一」

けん-とう (名) [拳鬪] [英語、Boxing-match ノ譯語] 西洋ニテ、二人、立向ヒ、互ニ拳ヲ以テ、攻擊シ、又、防禦スル術。手袋ヲハメテ、身體ノ上半部ノミヲ用キル。拳法ノ類ナリ。

けん-とう (名) 拳頭 [小說語ナルベシ] ヲトコゲイシャ。タイコモチ。

げん-とう (名) [玄冬] [玄ハ、黑ナリ、冬ヲ、色ニ配スレバ、黑ニ當ル、北方ノ星宿ヲ、玄武ト云フ] 冬ト云フニ同ジ。梁元帝纂要「冬、云云、曰二玄冬、三冬、九冬一」 劉楨詩「白露涉二玄冬一、開二講十餘旬一」 朗詠集、上「玄冬素雪之寒朝、松彰二君子之德一」

げん-とう (名) [嚴冬] 寒サノキビシキ冬。下兪詩「嚴冬榮柘治、塞苑馬騎肥」

げん-とう (名) 幻燈 カゲヱ。ウツシヱ。

げん-とう (名) [舷燈] 船ノ兩舷ニ點ズル燈火ノ名。左舷ナルハ紅色、右舷ナルハ綠色ノモノ、光力ノ、二海里外ニ達スルモノト定メラル。

げん-とう (名) [減等] 等級ヲ、減シ下スコト。新唐書、武宗紀「繫囚、云云、罪退二減一等一、流以下釋放」

げん-どう (名) [玄同] [老子ノ、言同玄德ノ語ヨリ出ヅ] 玄妙ニシテ、彼此ノ區別ナキコト。文中子「無レ所レ樂、無レ所レ苦、無レ所レ怒、萬物玄同」 莊子、胠篋篇「削二曾史之行一、鉗二楊墨之口一、攘二棄仁義一、而天下之德始玄同矣」

げん-どう (名) [言動] 言語ト、擧動ト。北史、劉芳傳「記二言動於帷閣一」「言動ヲ愼ム」

げん-どう-りょく (名) [原動力] 物ノ運動ヲ起ス力。回轉ノ機械、水力電氣ナドニ云フ。

けん-とく (名) [賢德] 才智、善行ヲ備ヘタルコト。後漢書、姜肱傳「賢武欲レ借二寵賢德一、以釋二衆望一」

けん-とく (名) [乾德] [乾坤ハ、天地ノ義、天長節、地久節] (一)天子ノ御德。皇后ノ御德ヲ、坤德ト云フ。長編「趙太祖得二四鑑一、皆有二乾德四年鑄一、竇儀曰、昔、僞蜀有二此年號一」(天德ノ義ニ據ルカ、或ハ、次項ノ意カ) 易經、坤卦、彖「坤、厚載レ物、德合二無疆一」 (二)進ミテ、息マザル德。勉强シテ、怠ラザル德。易經、上經、乾卦「君子、終日乾乾」 易林「扶陽之政、以保二乾德一、終無二患惑一」

けん-とく (名) [謙德] 人ニ謙リクダル美德。史記、太史公自序「景公謙德、熒惑退行」

けん-とく (名) 見得 佛敎ノ語、我レ等ガ日常ニ見得スル所ハ、凡テ妄想ニシテ、眞性ニ非ズ、眞面目ニ非ズ、一切ノ執見ヲ打破シテ後、見來ル、人間ヤ、自然ヤ、萬物悉皆、本來ノ實相、本來ノ眞面目ニシテ、コノ見得、卽チコレ、成佛ト云フ、サレバ、ソノモノヲ、熟視、得心スルコト。

けん-とく (名) [見德] とみくじ(富籤)ノ一種。天明集成絲綸錄、四十九「大和國村村ニ而、けんとくト唱へ、富ニ似寄リ候儀、相企テ」

げん-とく (名) [玄德] 玄妙ナル道德。書經、舜典篇「玄德升聞、乃命以レ位」

けんとく-うり (名) [見德賣] トミクジヲ賣ルコト。又、其者。寬天見聞記「見德賣、札賣」

けん-どこ (名) [絹床] 絹布製ノ夜具。

けん-ど-ちょうらい (句) [卷土重來] 〔卷レ土重來ノ棒讀、地ヲ蹴立テテト云フホドノ意〕 再ビ、勢ヲ持チナホシテ、攻メ來ル。モリカヘス。シカヘシスル。杜牧、題二烏江亭一詩「勝敗兵家事不レ期、包レ羞忍レ恥是男兒、江東子弟多二才俊一、卷レ土重來未レ可レ知」

けん-どん (名) [兼呑] アハセテ、トルコト。併呑。孔叢子「秦有下兼二吞天下一之志上」

けん-どん (名) [慳貪] [正韻「慳、吝堅」廣韻「悋也」] (一)己レガ物ヲ慳ミ、他ノ物ヲ貪ルコト。慾ノ深キコト。論語、皇侃義疏「慳貪吝嗇之人之言」 法華經、方便品「與二生盲一重「慳貪嫉妬」 宇治拾遺、十一、第八條、東大寺、上座法師「ツユバカリモ、人ニ物與フル事ヲセズ、慳貪ニ、罪深ク見エケレバ、云云、此上座ノ、物惜シム罪ノアサマシキニ、云云」 林逸節用集(文明)雜用「慳貪」 (二)轉ジテ、苛キコト。情愛ナキコト。ムゴキコト。邪險。苛酷。可笑記(寬永、如儡子)三「けんどん邪心ノどうよく人」

けん-どん (名) [倹飩] [倹約饂飩ノ略ニテ(攝政關白ヲ攝關、指貫小袴ヲさしこ、工夫面倒ヲ工面ト云フ類ナリ)一人前一杯ニテ、かはりモナキ意ト云フ、倭訓栞、けんどん「旅店ノ麪類ヲ云フハ、倹飩也ト云ヘリ」多クハ、當字ニ、慳貪ト書ク」 (一)汁ニテ煮タル饂飩ヲ、塗箱ニ、一杯、盛切ニテ賣ルモノ、蕎麥切ニモ云フ。初ハ、下民ノ食ナリキ、後ニハ、歷歷モ食ヒ、大名けんどんナド云ヘリ。コレヲ賣ル家ヲ、けんどん屋ト云フ。 (二)轉ジテハ、一杯盛切ニテ賣ル物ノ稱トモナレリ、けんどん酒、けんどん奈良茶飯ナドアリ。曾我虎磨(寶永、近松作)傾城十番斷「饂飩ノコハイ傾城殿、ソレガけんどん、けんどんト」(倹飩ト、慳貪トヲカケタリ) 昔昔物語(享保)「寬文辰年、けんどん蕎麥切ト云フ物、出來テ、下下、買喰フ、貴人ニハ、喰フ者ナカリシガ、近年、歷歷ノ衆モ喰フ、結構ナル座敷ヘ上ルトテ、大名けんどんト云ヒテ、持ヘ出ス」 嬉遊笑覽、十「大名けんどんト云フハ、一代男ニ、川口屋ノ帆かけ舟ノ重箱、云云、帆かけ舟ハ、諸大名ノ舟ヲ、五色ノ漆ニテ繪ニカキタルナリ、西國ノ大名、難波ニテ艤シテ出立ツ故、其船ドモノ相印ヲ見習ヘリ、大名けんどんノ名、ココニ起ル」 近代世事談(享保)一「慳貪ト名ヅクルハ、云云、給仕モ入ラズ、挨拶スルニモアラネバ、ソノサマ慳貪ナル心、又、無造作ニシテ、倹約ニカナヒタリトテ、倹飩ト書クト云フ、此說、宜シ」 江戶鹿子(貞享)「見頓屋、堺町市川屋」 風俗文選(寶永、許六)蕎麥切頌「慳貪屋」 吉岡染「小半切ノけんどん酒」(大日本國語辭典) 元祿曾我物語(元祿)六「丸屋ヘ伴ヒ、先ヅ、取リアヘズ出ス盃、けんどんたら樂ノワケヲ立ツル」

けんどん-ざけ (名) [倹飩酒] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

けんどん-ばこ (名) 倹飩箱 倹飩、又ハ、蕎麥切ヲ入レテ、持運ブ箱。諸大名ノ船ヲ、五色ノ漆ニテ畫キナドシテ、大名けんどんナド云ヒキ、(前前條ヲ參見セヨ)此箱、ロハ、橫ニアリテ、上下ニ、一本溝アリ、板ノ蓋ヲ、先ヅ、上ノ溝ニハメテ、後ニ、下ノ溝ヘオトスヤウニシテ、はめはづしス、コレヲ、けんどん蓋ト云ヒ、略シテ、けんどんトノミモ云ヒ、移シテハ、小サキ袋戶棚、又ハ、木箱ナドノ戶ノ、同ジ製ナルモノニモ云フ。

けんどん-ぶた (名) 倹飩蓋 前條ヲ見ヨ。

けんどん-や (名) [倹飩屋] けんどん(倹飩)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

けん-ない (名) [縣內] けんか(縣下)ニ同ジ。

げんない-ぐし (名) [源內櫛] [平賀源內

ノ、作リ出デシモノ一[illegible]リ、背ニ、一ケ通ヒ、[illegible]ケタルモノ。[illegible]

けんなは (名) [illegible] (倹約、同音)
[illegible]ニ用ヰル網。

けんなふ (名) [獻納] (一)物品ヲ、タテマツルコト。奉納。(二)意見ヲ、上ニ申スコト。建議。[illegible]

けんなふ (名) 倹納 ブラダク、ヲサムルコト。[illegible]

⁂けんなま (名) [現生] (なまトハ、手當金ナドニ、品物、酒肴ナドニ替ヘズ、生ノ物ノ意) 現物ノ金錢ヲ云フ卑語。[illegible]一九)初編、下「けんなまデ、先ヘ、オ勸メヲ被シテオイタ」

けんなん (名) [險難] 險阻ナル[illegible]「[illegible]分三一往之仁心、扶[illegible]之險難二」太平[illegible]サセタマヘバ」

けんなん (名) [劒難] 刀傷ノ災難。火難、[illegible]ナドノ類。[illegible]「劍難ノ相」[illegible]

げんなり (副) [げんなハ、氣無ノ音便ニテモアルベキカ(又、げんのり、和、やんはり)意ヲ強ク云フトテ、濁ルカ、りハ、接尾語ノらノ條ヲ見ヨ] (一)倦ミ厭キテ[illegible]、又、食ヒ飽キタル狀ニ云フ語。[illegible]ガ山ノヤウデ、げんなりダ」「汁粉五杯、げんなりスル」(二)大阪詞ニテハ、力ヲ落シテ、がっかりスル狀ニ云フ。[illegible]「コチャ、げんなりトナル程、八メハ、イキッテ」「モットモッシイ人カト思ウテ居ッタラ、會ウテげんなりシタ」

げんに (副) 現 マノアタリニ。現在ニ。[illegible]「現ニ、今目ノ前ニ[illegible]」

げんに (副) 嚴 キビシク。嚴重ニ。「嚴[illegible]」

けんにち (名) [兼日] けんじつ(兼日)ニ同ジ。[illegible]

けんにん (名) [堅忍] 堅ク、堪ヘ忍ブコト。我慢ヅヨキコト。[illegible]「堅忍不拔」

けんにん (名) [兼任] 數職ニ、兼ネ任ゼラルルコト。兼帶。兼務。兼攝。[illegible]

げんにん (名) [還任] 解官セラレシ人ノ、再ビ、故ノ官ニ還ルコト。名目抄「還任」[illegible]

げんにん (名) 現任 見任 (一)現ニ、其官ニ任ゼラレテアルコト。(前官、散官、ナドニ對ス) (二)參議以上ノ公卿ヲ、見任ノ公卿ト云フ。[illegible]

けんにんじがき (名) [建仁寺垣] [京都市下京區、大和大路四條ノ南ナル建仁寺ニテ、往時、其西面一帶、此竹垣ヲ作リメグラシタルヨリ、此名起ルト云フ] 竹垣ノ一種。太キ丸竹ヲ四割リニシ、皮附ヲ外ニシテ、密ニ竪ニ並ベ、二ツ割リノ竹ニテ、押緣ヲ數段ニ亙シ、蕨繩ニテ結ヒツケタルモノ。常ニ訛リテ、けんねんじト云フ。

けんにょ (名) [賢女] 賢女ニ同ジ。

けんにょ (名) [懸念] 次次條ノ語ノ訛。[illegible]

けんにょう (名) 前條ヲ見ヨ。

けんね (名) [懸念] けねん(懸念)ニ同ジ。[illegible]

けんねう (名) [建繞] [建ノ字ニ取ル、乏ノ、進繞ナルト、同ジ] 漢字ノ偏ノ名、建、延、廻、ナドノ字ノ、廴ヲ稱ス。

けんねん (名) 懸念 懸念ニ同ジ。

けんねんじ (名) 建仁寺垣ノ條ヲ見ヨ。

けんのう (名) 賢能 [詩經、大雅、[illegible]] 賢ニシテ、才能アルコト。[illegible]

けんのう (名) [權能] 權利ヲ行ヒ得ル能力。

げんのう (名) [大鐵鎚] [謠曲、殺生石(寶治)ノ故事ニ起因ス、げんおうノ條ヲ見ヨ、近衛天皇ノ頃(或ハ云フ、建長年中)、玄翁、杖ニテ殺生石ヲ敲キテ其祟ヲ除ス。柴田退治記[illegible]シモ、ナラム」[illegible]

げんのしょうこ (名) [現の證據] 草ノ名、田野ニ多シ、冬、枯レズ、莖、大キサ一寸許、五岐ニシテ、鋸齒アリ、面、紫黑、斑點ヲ生ズルアリ、對生ス、夏、葉ノ間ニ、淡紅ノ花ヲ開ク、梅花ニ似テ、小サク、微毛アリ、莢、熟スレバ、堅ニ、五ツニ裂ケテ、卷ク、形、神輿ノわらびでノ如シ、故ニ、又、みこしぐさノ名モアリ、莖、葉、痢病ニ現效アリトテ、名トス。牻牛兒苗 [illegible]うこ」[illegible]、一名、ホッケ草、ホノケ花(土佐)、ミコシャサ(長門)、サクラカハ(江戸)、フウレイ(近江)、フウギク(…)、ネコアシ(仙臺)、ベニバナ(岩倉)、[illegible]ノウメ(…)、チゴグサ(土佐)、救荒本草ノ牻牛兒ノ一種ナリ」同書、驗の證據「草ノ名、驗の證據、漢名、牻牛兒苗」「ふうろさう(牻牛兒苗)ノ異名」(大日本國語辭典)

けんのみ (名) [劒呑] けんつくノ條ヲ見ヨ。

けんのみね (名) [劒峯] (一)噴火山頂ノ噴火口ノ、四周ノ緣ノ稱、專ラ、富士山頂ナルニ云フ。(二)相撲ノ土俵場ノ四周ニモ云フ。

けんのん (名) 危險 [險難ノ轉ニテ(わなく、をののく)險難ナル處ヲ危ブムヨリ移リタルカ] 危キコト。アブナキコト。(東京) [illegible]けんのんダ」

けんのんしょう (名) [危險性] 物事ヲ、ヤヤモスレバ、アヤブム性質ヲ、けんのん性ト云フ。

けんば (名) [犬馬] (一)犬ト、馬ト。書

釋、放鷹篇「犬馬、非ニ其土性ニ不レ畜ニ」韓非子、外儲說、左上篇「齊君問ニ畫者ニ曰、犬馬難シ」十訓抄、中、第五、唐ノ畫師某ニ玄狩アリ、云云、犬馬ニ至リテハ、云云」

(二)スベテ、自己ニ就キテノ物事ノ謙稱。漢書、趙充國傳「犬馬之齒七十六」同、汲黯傳「常有ニ犬馬之心ニ」(君ニ報效ノ心ニ犬馬ノ等ヲ取ル)

げんば (名) 現場 〔現場ノ湯桶讀〕 (一)物事ノ、現在シテアル場所。「げんばニテ見屆ケタリ」 (二)マノアタリ。メノマヘ。取引所ニテ、定期取引ニ對スル直取引ヲ、げんば取引トモ云フ。

げんば (名) 玄番 (一)げんばれう(玄蕃寮)ノ略。(二)げんば桶ノ略。(三)げんばいしノ略。

けんばい (名) 見敗 まちりけっかい(七里結界)ノ條ヲ見ヨ。

けんばい (名) 檢黴 黴毒ノ有無ヲ、檢診スルコト。「娼妓ノ檢黴」

けんばい (名) 勸盃 盃ヲサシテ、酒ヲ勸ムルコト。獻盃ノ人アリテ、勸盃ス。保元物語、上「於ニ後白河院ニ勸盃ニ」公事根源、上、石淸水臨時祭「弓場殿ニテ勸盃、祿ナドタマフ」建武年中行事、三日、「殿上ノ饗饌アリ、藏人頭以下、事ニタヘタル男ドモ、饗饌ニツク、六位藏人、けんばいスー」明衡往來、「所レ座也勸盃役也、旨酒一樽相具、可レ令ニ持參ニ侍上」

げんば-いし (名) 玄蕃石 堅石ヲ、長サ三尺許、幅、厚サ、共ニ、一尺許ニ切リ成シタルモノ、建築用トス。略シテ、げんばいし。

けん-ばう (名) 劍鋩 ツルギノキッサキ。楊宗元、賦「海畔尖峰ハ劍鋩ニ」

けん-ばう (名) 健忘 甚シク、物忘スルコト。ドワスレ。ドウワスレ。白居易詩「老來多ニ健忘ニ、惟不レ忘ニ相思ニ」「健忘症」

けん-ぱく (名) 建白 〔建議、告白ノ略、建、立也、設也、白、陳也、告也〕 政府、尊長、等ニ對シテ、己ガ意見ヲ申シ立ツルコト。建言。又、其文書。建議。唐書、宦者傳「每ニ建白ニ必同ニ邑倡和」

けん-ぱく (名) 卷柏 いはひばヲ見ヨ。謝靈運、山居賦「卷柏萬代而不レ殞」

けんぱく-どう-い (名) 堅白同異 〔下ノ出典ヲ見ヨ〕 詭辯ヲ以テ、人ヲ壓服スルコト。鷺ヲ烏ト言ヒクルムルコト。史記、孟荀傳「公孫龍爲ニ堅白同異之辯ニ」公孫龍、堅白論「目視レ石、但見レ白、不レ知ニ其堅ニ、則謂ニ之白石ニ、手觸ニ石、則知ニ其堅ニ、而不レ知ニ其白ニ、則謂ニ之堅石ニ、是堅白終不レ可ニ合爲ニ一也」

げんぱく-なす (名) 玄白茄 品質、劣等ノ茄。(元ト東京、本所ノ產)

げんば-ざる (名) 玄蕃猿 子供ノ手遊ビニ、猿ノ形ヲ、木ニテ作リタルモノ。俚言集覽、玄蕃猿「有馬玄蕃頭(二十四萬石、筑後、久留米侯)ノ屋敷ノ、下人ノツクル所也、ヨリテ、げんばざるトイフ」

けん-ばつ (名) 圈發 漢字ノ四隅ニ標スル、半圈ノ稱、四聲ヲ分ツニスルコトナリ。字ノ左下ニアルハ、平聲ノ標ニテ、左上ニアルハ、上聲、右上ナルハ、去聲、右下ハ、入聲ナリ。例ヘバ、長ノ字ノ左下ニ、半圓ヲ附スレバ、平聲ニテ、長しノ義トナリ、左上ニ附スレバ、上聲ニテ、長上ノ義トナレルガ如シ。點發。

げん-ばつ (名) 嚴罰 キビシキ罰。盛衰記、五、山門奏狀事「今遂レ仰ニ天裁ニ、速被レ行ニ嚴罰ニ、未レ得レ蒙ニ「嚴罰ヲ科ス」

げんば-とりひき (名) 現場取引 げんば(現場)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

けん-はなびし (名) 劍花菱 紋所ノ名、はなびし(花菱)ノ條ヲ見ヨ。

げんばのかみ (名) 玄蕃頭 玄蕃寮ノ長官。

けん-ぱふ (名) 憲法 國家ノ法律。國ノ法度。國語、晉語「賞レ善罰レ姦、國之憲法也」推古紀、十二年四月、皇太子(聖德太子)憲法十七條ヲ作ラセラル、是レハ多クハ、敎訓ノ旨ヲ述ベタマヘリ。弘仁格、序「上宮太子親作ニ憲法十七箇條ニ、國家制法、自レ茲始焉」

けん-ぱふ (名) 憲法 (英語、Constitution.ノ譯語) 一國政府ノ施政ノ道ヲ制定セル大法。明治廿二年二月十一日、欽定、發布セラル。(天皇、臣民、權利、義務、帝國議會、國政、司法、會計、等)

けん-ぱふ (名) 劍法 劍術ニ同ジ。

けん-ぱふ (名) 拳法 支那ニテ、拳ニテ人ヲ衝ク技。兩手ノ拳ヲ、前後、左右ニ、巧ミニハタラカセテ攻擊ス、拳鬪ノ類ナリ。(柔術ノ條、見合ハスベシ)沖繩ニテ、唐手ト云フ。武備志「拳者、卽、古之手搏也」紀效新書、拳法「要ニ身法活便、手法便利、脚法輕固、進退得レ宜、腿可ニ飛騰ニ」

けんぱふ-こもん (名) 憲法小紋 次條ヲ見ヨ。

けんぱふ-ぞめ (名) 憲法染 〔慶長ノ頃、京都ノ染工、吉岡仁右衞門、或ハ、又三郞憲房(房ヲ、法ニ改メテ、法名トス)始メテ染出ス、此者、又、劍法ニ達ス〕 染模樣ノ名、黑茶色ニ、小紋ヲ染出シタルモノ。けんぱふ小紋トモ云フ。一名、吉岡染。宇治拾遺物語「りんぎヤ、さやニ、羽二重ヲ、けんぱふぞめニ致ヲシテ、裏ニ紅梅モミヲ附ケ」

けん-ばん (名) 見番 東京ニテ、新吉原、又ハ市中ノ女藝者ノ、身柄ヲ取締リ、且、客ヨリノ招キヲ受附クル所。箱廻。

げん-ばん (名) 原版 出版物ノ、原ノ版。(重版、飜刻、ナドニ對ス)

げん-ばん (名) 元版 支那ノ元ノ世ニ出來タル版本。

げんば-れう (名) 玄蕃寮 〔げんばハ、玄蕃ノ約(合歡、がふかノ木。精進、さうじ)玄ハ、遠ナリ、蕃ハ、韓、唐ナドノ、遠キ諸蕃ヲ云フ〕 ホフシマラビトノツカサ。古ヘ、治部省被管ノ寮、唐、三韓、諸外國ノ事ヲ掌リ、又、僧尼ノ名籍ノ事ヲ兼ヌ。倭名抄、五三「玄蕃寮、保宇之萬良比止乃豆加佐」(宇ハ、不ノ音便)

げんば-をけ (名) 玄蕃桶 火災ノ時ナドニ、水ヲ擔ヒ運ブニ用キル、大イナル桶。略シテ、げんば。

けん-び (名) 兼備 カネ、ソナフルコト。皆、一ツニ有チテアルコト。史記、禮書「管仲之家、兼ニ備三歸ニ」漢書、尹翁歸傳「文武兼備、惟所レ施設ニ」太平記、二、三人僧徒關東下向事「智行兼備ノ譽、諸寺ニ人ナキガ如シ」「智、仁、勇、兼備」「才色兼備」

けん-ぴ (名) 犬皮 犬ノ皮ヲ、革トシタルモノ。三味線ノ胴ニ貼ル皮ハ、猫皮ナルニ、下等ナルニハ、小犬ノ皮ヲ用キル。浮世床(文化、三馬)二編、上「此ノ身ハ、上方ト違ッテ、皮ノ性ガ惡イカラ、犬皮ノ三味線トナッテナ」

けん-ぴ (名) 縣費 縣治ノ經費。

けん-ぴ (名) 顯否 アラハルルト、アラ

ハレザルト。上達スルト、退歩スルト。〔[illegible]〕

けんぴ (名) 〔建碑〕 新ニ碑ヲ作リテ、建ツルコト。〔[illegible]〕

けんぴ (名) 〔巻餅〕 けんびん(巻餅)ノ條ヲ見ヨ。

げんぴ (名) 〔元妃〕 皇后ト云フニ同ジ。〔[illegible]、人ミナ、皇后、元妃ノ恩ヲナセリ、疑キ見ル、光彩ノ、始メテ門戸ニ生ルコトヲ」〕

げんぴ (名) 〔原被〕 原告ト、被告ト。(各條ヲ見ヨ)〔原被兩造〕

けんぴき (名) 〔痃癖〕 けんぺきノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

けんぴきやう (名) 〔顯微鏡〕 肉眼ニテハ見エズ、極メテ小サキ物ヲ、大キクシテ見スルめがね。二三ノ硝子ヲ筒ノ中ニ仕掛ケテ作ル。ムシメガネ。

けんぴし (名) 〔劒菱〕 (一)紋所ノ名、菱形ノ四角ヲ、劒先ノ形ニ尖ラセタルモノ。(二)灘津、伊丹ニ產ズル、一品ノ名酒ノ名、劒菱ヲ、標トス。

けんぴつ (名) 〔健筆〕 (一)能ク、文字ヲ書クコト。達筆。「健筆ヲ揮フ」(二)達者ニ、詩文ヲ作傳スルコト。〔[illegible]〕

ケンピン (名) 〔巻餅〕 〔巻餅ノ宋音、[illegible]〕 [illegible]

キテ、小口切ニシテ成ル。(菓子大全)略シテ、けんぴ。又、ケンピヤキ。キヌタマキ。〔庭訓往來、十月、點心「巻餅」尺素往來「[illegible]」〕

げんぴん (名) 〔現品〕 現在ノ品物。現物。

けんびやう (名) 〔硯屏〕 (硯屏風ノ意) 机ノ上ニテ、硯ノ頭ニ立テテ、風塵ヲ防グ具。形、小サキ衝立ノ如シ、木製、塗漆製、陶製、等、種種ナリ。〔[illegible]〕

ケンピやき (名) 〔巻餅燒〕 又、キヌタマキ。けんびんノ條ヲ見ヨ。

けんぴよう (名) 〔堅氷〕 カタキコホリ。アツゴホリ。〔易經、上經、坤卦「履霜堅氷至」〕

けんぴよう (名) 〔懸氷〕 ツララ。氷柱。〔[illegible]〕

けんぴゐし (名) 〔撿非違使〕 撿非違使ノ條ヲ見ヨ。

けんぶ (名) 〔劒舞〕 (一)劒ヲ拔キテ、舞フコト。〔孔子家語、好生篇「子路戎服見於孔子、拔劒而舞之曰、古之君子、固以劒自衛乎」〕(二)今俗、詩ヲ吟ジナガラ、白刃ヲ振ヒテ、獨自ラ舞蹈スル技ヲ云フ。

けんぶ (名) 〔健武〕 タケク、ツヨキコト。〔宋史、[illegible]〕

けんぷ (名) 〔絹布〕 キヌオリモノ。キヌナリ。〔[illegible]〕

けんぷ (名) 〔賢婦〕 賢妻ニ同ジ。賢婦人。〔列女傳「[illegible]」〕

げんぶ (名) 〔玄武〕 げんむニ同ジ、四神ノ條ヲ見ヨ。

げんぷ (名) 〔嚴父〕 (一)キビシキチチ。〔[illegible]〕(二)チチウヘ、父ヲ尊稱スル語。嚴君ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。嚴閤 〔宋史、[illegible]〕

げんぷう (名) 〔玄風〕 幽玄ナル風致。奥ブカキオモムキ。〔[illegible]〕

げんぷく (名) 〔元服〕 〔漢書、昭帝紀「元鳳四年春正月丁亥、帝加元服」注、師古曰、元、首也、云云、[illegible]〕首ノ服(頭衣)ノ義ニテ、卽チ、冠ノコトナリ、首服ト云フモ、同ジ、而シテ、加元服(加冠)ト云フベキヲ略シ、元服トノミ云ヒテ、初冠ノ意ニ用キルナリ、案內を知ルヲ、案內トノミ云フガ如シ、冠トノミモ云フハ、更ニ略スルナリ、此禮ハ、支那ニテ、冠、婚、喪、祭、トテ、人生ノ四大禮トスルヨリ、移レルナリ」男子ノ、大人ト成ルヲ表スル儀式。又、首服。童兒ノ被髪ナルガ、成長シテ髪ヲ結ヒ、始メテ、冠ヲ着クルナリ。男に成るト云ヒ、初冠ト云ヒ、初元結ト云ヒ、冠スル人ヲ、冠者ト云フ。(加冠ノ條ヲ併セ見ヨ) 年齡ハ不定ナレド、大抵、十五六歳ナリキ。冠禮 武家時代トナリテハ、烏帽子ヲ用キ、着スル人ヲ、烏帽子親ト云ヒ、隨ッテ冠者ヲ、烏帽子子ト云ヒ、童名ヲ改メテ名乘ヲツク、烏帽子名ト云フ。江戸時代ニ到リテハ、貴人ノ外、普通ノ武士ハ、烏帽子ヲモ用キズ、唯、前髪、月代ヲ剃リ落シ、服ノ袖留ヲスルヲ例トシタリ、戰國ノ世ヨリ、武士ハ常ニ戰場ニアリテ、久シク冑ヲ脱ガザレバ、前髪、月代ヲ剃リ去リテ、逆上ヲ防ギシガ、終ニ、一般ノ髪風トナレリ、前髪、月代ヲ剃ルハ、卽チ、一武士トナルヲ表スルナリ。此禮、農工商ニモ行ハレタリ。明治以後ハ、男子、皆、散髪トナリタレバ、元服ノ禮、全ク廢セラレヌ。女子ニモ、元服ト云フコトアリ、まゆはらひノ條ヲ見ヨ。〔[illegible]〕

げんぷくおや (名) 〔元服親〕 元服ノ條ノ烏帽子親ニ同ジ。

げんぷくし (名) 〔元服子〕 元服ノ條ノ烏帽子子ニ同ジ。

げんぷくしや (名) 〔現福者〕 〔福ヲ現ズル意ナルベシ〕福ノ神。〔狂言記、釣女「西宮ノ夷三郎殿ハ、げんぷくしやデゴサル、コレヘ參ラッシャレテ、定マル妻ヲ申シ請ケサッシャレタラバ」〕

けんぷじん (名) 〔賢婦人〕 賢婦ノ條ヲ見ヨ。

けんぶつ (名) 〔見物〕 〔見物ノ字ノ訓讀〕(一)物ヲ、見ルコト。モノミ。ミモノ。(多クハ、芝居、角力、ナドノ觀場ニ云フ) 遊覽 〔[illegible]〕(二)見物

人ノ略。

けん-ブツ (名) 見佛 けんぶつもんぼふ(見佛聞法)ノ條ヲ見ヨ。

げん-ぶつ (名) 現物 現在ノ物。生ノ物。現品。實物。(雛形ナドニ對ス)

けんぶつ-にん (名) 見物人 見物スル人。ミテ。略シテ、見物。觀客 看客

けんブツ-もん-ぽふ (名) 見佛聞法 目ニ、大悲ノ佛ヲ拜シ、耳ニ、微妙ノ敎法ヲ聞クコト。寺院ヲ、見佛聞法ノ道場ト云フ。榮花物語、十五、疑「內外殿之影從、抑亦見佛聞法之大緣」謠曲、東北「見佛聞法ノカズカズ、順逆ノ緣ハイヤマシニ、日夜、朝暮ニ忘ラズ」

けん-ぶん (名) 檢分 見分 役人ナドノ、物事ニ立合ヒテ、檢メ見ルコト。ミトドケ。點視 凱陣八島(元祿、近松作)二「家家ニ入リテ、檢分仕リ候ハン」

けん-ぶん (名) 見聞 見るト、聞くト。ミキキ。見聞。「見聞ノ及ブ所」「見聞ヲヒロム」

げん-ぶん (名) 言文 言語ト、文章ト。史記、曹相國世家「參代ニ何爲ニ漢相國一云云、吏之言文深刻、欲ㇾ務ニ聲名一者、輒斥ニ去之一」 言文一致ト云フコトハ、一般ノ記事ヲ、文章言葉ニテ綴ルコトヲ廢シテ、話言葉ヲ用キテ、日本ノ文體ヲ一途ニセム、ト主張スル語ナリシガ、今ハ、唯、話言葉ニテ文章ヲ綴ルコトノ意トナル。

げん-ぶん (名) 原文 原ノ文章。(寫シ、翻譯シ、或ハ、改メタルニ對ス)

げん-ぶん (名) 諺文 諺文ノ條ヲ見ヨ。

げんぶん-こばん (名) 元文小判 〔眞文小判トモ云フハ、背ニ、眞書ノ文ノ字ヲ極印シテアレバナリ、文政小判ヲ、草文小判ト云フヨリ、別ッ稱ナリ〕 徳川幕府ニテ、元文元年ニ鑄テ、發行セシ小判金。竪、二寸二分弱、横、一寸一分五厘。又、眞文小判。同時ニ、一分金ヲモ發行セリ。

けん-ぺい (名) 憲兵 陸軍ニ屬シテ、軍事ノ警察ノ事ヲ掌ル兵隊。將校、下士、兵卒、ニテ成ル。

けん-ぺい (名) 兼幷 カネ、アハスルコト。合ハセテ、一ツニスルコト。史記、平準書「網疏而民富、役財驕溢、或至ニ兼幷豪黨之徒、以武ニ斷於鄉曲一」 漢書、武帝紀「又禁ニ兼幷之塗一」

けん-ぺい (名) 權柄 〔莊子、天運篇「親ㇾ權者、不ㇾ能ㇾ與ニ人柄一」權ハ、秤ノ錘ナリ、柄ハ、衡ナリ、權目ハ、衡ニ盛リテアリ、柄ヲ、人ニ借スベカラズ〕 (一)政權ノ執行。執權。多クハ、生殺與奪ノ權ヲ恣ニスル意ニ云フ。漢書、劉向傳「夫大臣、操ニ權柄一持ニ國政一、未ㇾ有ㇾ不ㇾ爲ㇾ害者也」 班彪、王命論「遭ㇾ羅ニ厄會一、竊ニ其權柄一」 太平記、九、足利殿御上洛事「況ヤ、源家ノ貴族トシテ、天下ノ權柄ヲ捨テタマヘルコト、年久シケレバ」史記抄(文明)六「ナントシテ、權柄ヲ專ラニセウゾ」 (二)權勢ヲ以テ、人ヲ壓シツクルコト。威力 「權柄デ威シツケル」「權柄ヅク」

げん-ぺい (名) 源平 (一)源氏ト、平氏ト。(源平藤橘ノ條ヲ見ヨ) (二)源氏ハ、白旗、平氏ハ、赤旗ヲ用キシヨリ、轉ジテ、紅白ノ意トナル。紅花、白花、雜リ咲クヲ、源平桃ト云ヒ、紅絲、白絲、雜ヘ綯ヒタルヲ、源平絲ナド云フ。

げんぺい-いと (名) 源平絲 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

げんぺい-じだい (名) 源平時代 平安朝時代ノ末、保元、平治年間ヨリ、壽永年間ニ涉リテ、凡ソ、三十年間、源氏ト、平氏ト、相、爭ヒシ時代ノ稱。

けんぺい-づく (名) 權柄盡 〔權柄ト、づくトノ條ヲ見ヨ〕 權勢ニテ、押シトホスコト。ケンヅク。「けんぺいづくデ叱リツケル」「權柄づけニ壓シツケル」

けんぺい-づけ (名) 權柄附 前條ニ同ジ。

げんぺい-とう-きつ (名) 源平藤橘 源氏、平氏、藤原氏、橘氏ヲ、列擧シテ云フ語。コレヲ、四姓ナドト云フ。源氏ハ、清和天皇ノ皇子、貞純親王ヲ祖トシ、平氏ハ、桓武天皇ノ皇子、葛原親王ノ御子、高棟王ヲ祖トシ、藤原氏ハ、天兒屋根命ノ裔ノ中臣鎌足ヲ祖トシ、橘氏ハ、敏達天皇ノ玄孫、葛城王ヲ祖トス。此四祖ノ末孫、殊ニ、國中ニ繁殖シタレバ、特別ニ擧ゲテ云フナリ。南留別志「四姓ト云フ事ハ、天竺ニアルコトナリ、源、平、藤、橘、ヲ四姓ト云ヒタルハ、佛法ヲ信ズルアマリニ、何事モ、天竺ノ事ヲヨシト思ヒテ、ソレニ擬シテ云ヘルナリ」(天竺ノ四姓ハ、貴賤ノ別ナリ、其條ヲ見ヨ) 玉かつまノ二ニハ、源平藤原ハ、中昔ヨリ、殊ニ盛キ姓ナレド、橘ハ、狹キヲ、數ニ入ルルハ、嵯峨天皇ノ皇后ノ御緣ニ、尊ミタルニヤアラム、此四姓ノ事、漢書ニサヘ出デタレバ、世ニ、イミジキ事ニゾ思フメル、ト云ヘリ。萬姓統譜「稱ニ張、王、李、趙ハ白常姓一」

げんぺい-もも (名) 源平桃 〔源平ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 桃ノ一種、一樹ノ中ニテ、紅花ト、白花ト、雜リテ咲クモノ。サキワケモモ。エドモモ。日月桃 二色桃

けん-ぺき (名) 痃癖 (一)病ノ名、癪ノ一種。運歩色葉集「痃癖」 (二)痃癖ヲ揉ミテ治スト云フ意ヨリ、按摩ノ術ノ稱。訛シテ、けんびき。唐船噺今國性爺(享保、近松作)上「身ガ覺エタ按摩、痃癖、抓リ殺シテクレン」

けん-べつ (名) 甄別 〔增韻「甄、明也」〕 アキラカニ、見別クルコト。元史、張昉傳「甄ニ別能否一」

けん-べつ (名) 軒別 家每ニ、モノスルコト。戶別。每戶 「軒別ニ配ル」

けん-べん (名) 軒冕 〔支那ニテ、大夫ノ車ヲ、軒ト云ヒ、大夫以上ノ冠ヲ、冕ト云フ〕 高位、高官ノ稱。莊子、胠篋篇「雖ㇾ有ニ軒冕之賞一弗ㇾ能ㇾ勸」 杜甫、獨酌詩「本無ニ軒冕意一不ㇾ是ㇾ傲ニ當時一」

けん-ぺん (名) 權變 (一)變ニ應ジテ、權ニ事ヲ計フコト。場合ニ相應スル計略。史記、蘇秦傳、贊「蘇秦、兄弟三人、皆游ニ說諸侯一以顯ㇾ名、其術長ニ於權變一」 (二)詐謀。ペテン。

けん-ぼ (名) 賢母 賢德アル母。詩經、思齊篇序、疏「文王所ニ以得ㇾ聖、由ニ其賢母一」「良妻賢母」

けん-ぽ (名) 畎畝 (一)田ノみぞト、うねト。孟子、萬章、下篇「舜發ニ於畎畝之中一」 (二)轉ジテ、田園ノ間。田舍。太平記、三十七、楊國忠事「楊國忠ト云フ者アリ、元來、家、賤シクシテ、畎畝ノ中ニ長トナリシカバ、云云、文ニモアラズ、武ニモアラザリシカド、后ノ兄ナリシカバ、ヤガテ、大臣ニゾナサレケル」

けん-ぽ (名) 健步 達者ニ、アルクコト。健脚。健足。韓愈詩「一點心隨ニ健步一歸」

げん-ぼ (名) 原簿 原ノ帳簿。(寫シ、又、改メタルニ對ス)

げん-ぼ (名) 玄謨 深キ、ハカリゴト。晉書、慕王閔傳、贊「偉哉武閔、首創ニ玄謨一」

げん-ぽ (名) 玄圃 崑崙山ノ異名。抱朴子、外篇、廣譬「登ニ玄圃一者、悟ニ丘阜之卑一、浮ニ溟海一」

名、[illegible]池沼之[illegible]」

けんぼう (名) 權謀 時機ニ應ジテタクノム、ハカリゴト。權略。[illegible] 權謀術數ト云フハ、巧ミニ人ヲ欺キ謀ルヲ云フ。

けんぼう (名) 獻謀 ハカリゴトヲ、タテマツルコト。獻策。[illegible]

げんぽう (名) 減俸 俸給ノ額ヲ、減ズルコト。官吏ノ懲戒ノ一ニモ云フ。

けんぽく 名 硯北 [illegible]「[illegible]杯宴之時、當居[illegible]、几案間南、人坐硯之北」也」硯ハ、硯ナリ」書翰文ナドニ、名宛ノ左方ニ添書シテ、敬意ヲ表スル語。其人ノ、座右ニ呈スル意ナリ。

げんぼく (名) 愿朴 素撲ナルコト。飾氣ノナキコト。スナホ。後漢書、劉[illegible]傳「山[illegible]」

けんぽなし 名 枳椇 [illegible]草ニ、けむのきトアリ、味、甘美トアリ、けんぽハ、甘美ノ轉ニテモアラムカ(甘、けん)なしハ、梨ノ義、實ノ皮ノ色、梨子ノ如シ、てんぽトモ云フハ、手棒ニテ、實ノ形、五指ヲ成シテ、脹レテアルヨリ云フ、漢名ニ、[illegible]指頭、別名モアリ、或ハ、けんぽハ、[illegible]、手棒ノ轉ナリトノ說モアリ(啄木鳥、てらつつき)或ハ、江南橘ニ對シ、玄圃梨ナリトモ云ヘド、[illegible]ナリト見エ)[illegible]野生ニモアリ」又、けんぽのなし。てんぽなし。喬木ノ名、春ノ高サ三四丈、山野ニ自生ス、春、新葉ヲ生ジ、互生ス、形、圓ク、長ク、大キサ三四寸、端、尖リ、周ニ細齒アリ、夏、枝、梢ニ、小白花ヲ開ク、果實ハ、小ク、五ツニワカレ、圓、其上ニ續ヒテ、[illegible]スレバ、茶褐色ニシテ、稍稍指ノ如ク、味、甚ダ甘シ。[illegible]指頭 [illegible]

頭 [illegible]

[illegible]ノナシ、京、ケンポナシ(筑前)、テンポナシ(肥前)、[illegible]テンポナシ、[illegible]、テンポナシ(仙臺)、[illegible]指頭(物理小識)」(實ハ、[illegible]ナリ)和訓六帖(天保、[illegible]部宜)上「枳椇、テンポナシ也、實、五指ニワカレテ、手指ニ似タレバ云フ、漢ニモ、[illegible]指頭ノ名アリ、テンポハ、手纏坊也」

けんぽのなし (名) 枳椇 前條ヲ見ヨ。

けんぽん (名) 絹本 (絹ノ繪木ノ義) 繪絹ヲ地ニ同ジ。繪絹トシテ、書畫ヲ書キタルニ云フ。紙ナルヲ、紙本ト云フ [illegible]「[illegible]、宋少文、[illegible]、唐人[illegible]絹本六在[illegible]」「絹本ノ掛幅」

けんぽん (名) 獻本 書籍ヲ、獻上スルコト。又、其書籍。[illegible]

げんぽん (名) 原本 原ノ書物。原書。(寫シ、或ハ、[illegible]シタル方ヨリ云フ)

けんぽんほっけしゅう (名) 顯本法華宗 日蓮宗ノ一派、永德三年、日什、京都ニ妙滿寺ヲ開創シテ、本迹勝劣ノ敎義ヲ首唱セシモノ、此寺、今、上京區、三條南寺町ニアリ。一名、妙滿寺派。什門派。

けんま (名) 研磨研摩 スリ、ミガクコト。學藝ヲ、研究スルコト。[illegible]

げんまい (名) 玄米 クロゴメ。精ゲヌ米。(白米ニ對ス)

げんまい (名) 現米 (一)現ニ[illegible]米。現在スル米。[illegible] (二)禄ヲ、現米ニテ宛行フ語。(知行ノ收穫ニ對ス) [illegible]

けんまく (名) 險惡 (險惡ノ連聲(三惡ヲ、さんまく)險惡ノ相ヲスル[illegible]、[illegible]ヲ云フ」けんさう(險相)ニ同ジ。

けんまこくげき (句) 肩摩轂擊 (人ノ肩ト肩ト摩れあひ、車ノ轂ト轂ト擊ちあふ。往來、甚シク雜沓フ [illegible]、上「臨淄之途、車轂擊、人肩摩、[illegible]、[illegible]」

けんみ (名) 檢見 物事ヲ、檢ベ見ルコト。又、其職。監視。監察 [illegible]、十、文治六年[illegible]月五日、[illegible]、[illegible]、利定、[illegible]州[illegible]三十[illegible]、依、可[illegible]合戰、[illegible]其檢見也」、大[illegible]

けんみ (名) 檢見 (毛見ノ音便) 毛見。地方ノ役人ノ、秋、田ヲ巡リテ、稲穂ノ豐凶ノ状ヲ見テ、年貢米ノ高ヲ定ムルコト。ケンミトリ。[illegible]、八、[illegible]判官ニ妻「此ノ二三年、知行ヲ[illegible]見タルラム、けんみニ罷リ下ダルベキヨシ、仰セ出ダサル」

げんみ (名) 現未 現世ト、未來世ト。現當 [illegible](元禄、近松作)二「只今出家セバ、云云、兄上ノ現未ヲ助ケ」「過、現、未」

げんみつ (名) 嚴密 漏ナク、嚴重ニモノスルコト。後漢書、[illegible]、宮[illegible]、[illegible]、[illegible]三十九、寶治[illegible]年[illegible]月廿日、[illegible]寺[illegible]、停止[illegible]、可致嚴密沙汰」

げんみつ (名) 顯密 げんけう(顯敎)ノ條ヲ見ヨ。

けんみどり (名) 檢見取 檢見ノ條ヲ見ヨ。

けんむ (名) 兼務 兼ネ、務ムルコト。兼勤。(本務ニ對ス) 數職ヲ兼帶スルコト。

げんむ (名) 玄武 (玄ハ、黑ナリ、色ニ配スレバ、北ハ、黑ナリ、武ハ、甲兵ノ象、龜甲ヲ云フ」北方ノ稱。龜ノ象ヲ、コレニ當ツ、四神ノ一ナリ、其條ヲ見ヨ。

けんめい (名) 賢明 賢クシテ、明慧アルコト。史記、李斯傳「生則有賢明之名、死則有[illegible]也」[illegible]九、承和七年五月辛巳[illegible]治[illegible]子名、我朝之賢明也」

げんめい (名) 嚴命 キビシキ、オホセ。史記、[illegible]、[illegible]、治承四年七月十日、從嚴命之趣、[illegible]内[illegible]之輩、多之」

げんめう (名) 玄妙 (中庸、幽深、謂之玄、理微、謂之妙」) 幽玄ニシテ、微妙ナルコト。奧フカク、趣キアルコト。[illegible]、[illegible]、玄妙理、[illegible]北史、[illegible]、[illegible]、其玄妙、[illegible]、其[illegible]」

けんめん (名) 券面 證券ノ上ニ、記シテアルコト (物ノ數、又ハ、金額ナドニ云フ)「券面ノ金額」

げんもく (名) 言默 イフコトト、イハザルコト。莊子、[illegible]、道物之極、言默不足以載」

げんもく (名) 玄默 奧床シク、物言ハヌコト。漢書、古今人表、注「老子玄默、孔子所師」

けんもつ (名) 監物 オロシモノノツカサ。古ヘ、中務省ノ屬官、大監物、少監物アリ、大藏、内藏ノ諸司ノ諸庫ノ出納ヲ掌ル。職員令、中務省「大監物二人(掌、監察出納、請、進管鑰)中監物四人(掌、同大監物)少監

物四人(掌、同ニ中監物ニ)」

けんもつ (名) 〔獻物〕 獻上スル品物。獻上物。 代始和抄(一條兼良)御禊行幸事「山城ノ國司、獻物三十捧ヲトリテ、庭中ニ列立ス」「東大寺獻物帳」

✣**けんもほろろ** (名、副) 〔慳貪ナルヲ、けんけんト云フヲ、雉ノ鳴聲ノ、けんけんほろろニ寄セタル語、もハ、意ナキ感動詞、つれもなし、らちもないノ類〕 慳貪ニシテ、寄リツク術モナキヤウニモテナス狀ニ云フ語。 俚言集覽、けんもほろろ「大和故事、權もほろろ、けんけんするナド云フ、寄リモツカレヌヤウナル、惡シキ詞ヲ、權威ト、雉ノ聲トニナゾラヘ、云云」(けんハ、慳貪ノけんけんナリ)「けんもほろろノ挨拶」(名詞ニ)けんもほろろニ言ヒ散ラス」(副詞ニ)

けんもん (名) 〔見聞〕 見ルト、聞クト。ミキキ。見聞。 盛衰記、廿九、新八幡願書事「見ニ聞彼平清盛暴惡ニ不能顧ニ思慮ニ」 沙石集、七、上、第五條 眼ニ有ヲ見トイヒ、耳ニ有ヲ聞トイヒ、鼻ト、舌ト、身ニ有ヲ覺トイヒ、意ニ有ヲ知ト云、此見、聞、覺、知、六塵ニ著セズシテ、現量無分別ナル、コレ本分ノ靈光、自性ノ寶藏ナリ」

けんもん (名) 〔權門〕 (一)官ニ居テ、權威アル家。勢家。 陳孔璋、檄ニ呉將校部曲一文「輸ニ貨權門ニ」注「權勢也」 後漢書、明帝紀「權門請託」 太平記、五、相摸入道翫ニ田樂闘犬一事「諸國ヘ相觸テ、或ハ、正稅、官物ニ募リテ、犬ヲ尋、或ハ、權門、高家ニ課テ、是ヲ求ケル間」 (二)權門ニ賂スル意ヨリ轉ジテ、直チニ、マヒナヒ。音物。賄賂。 賄賂權門」

けんもん (名) 〔遣悶〕 煩悶ヲ、遣ルコト。ココロヤリ。氣バラシ。氣散ジ。 李德裕、与上兩相公書 誌下謎、不可信也、上曰、宮中無事、以此遣悶耳」

けんもん (名) 〔諺文〕 おんもん(諺文)ノ條ヲ見ヨ。

けんもんかご (名) 〔權門駕籠〕 〔權門ヲ訪フ意カ〕 切棒駕籠ノ一種、大名ノ使者ナドノ、乘用スルモノ。

げんや (名) 〔原野〕 〔呂氏春秋、季秋紀傳「廣平曰原、郊外曰野」〕 ノハラ。 禮記、月令篇、季春之月「命ニ司空ニ、云云、循ニ行國邑ニ、周視ニ原野ニ」 杜甫詩「始蒞原野闊」

けんやう (名) 〔顯揚〕 世ニ、アラハスコト。名ヲアグルコト。顯彰。 禮記、祭統篇「顯ニ揚先祖ニ所ニ以崇ニ孝也」

けんやう (名) 〔眷養〕 情ヲカケテ、ヤシナフコト。 太平記、十、鹽飽入道自害事「御邊ハ未ダ私ノ眷養ニテ、公方ノ御恩ヲモ蒙ラネバ」

けんやく (名) 〔儉約〕 金錢ノ出入ヲ、ツヅマヤカニスルコト。漫ニ費ヤサヌコト。始末ナルコト 節儉。 漢書、平津侯傳「身行ニ儉約ニ」 吾妻鏡、三十三、延應二年一月十八日「萬事停ニ止過差ニ可ニ好ニ儉約一條」

けんやく (名) 〔堅約〕 堅ク結ビタル約束。 漢書、蕭望之傳「烏孫持ニ兩端ニ亡ニ堅約ニ」 太平記、三十六、義長降ニ参南朝ニ事「何シカ、天下ヲ、君ノ御成敗ニ任セタリシ堅約、忽ニ敗レテ」

けんやく (名) 〔兼約〕 豫テ、結ビオケル約束。豫約。 運歩色葉集「兼約」

けんやく (名) 〔兼役〕 二三ノ役目ヲ、カケモツコト。兼務。兼任

けんやき (名) 〔乾也燒〕 三浦乾也ノ燒キ出シタル、一種ノ陶器。(江戸ノ人、明治二十三年歿)

けんよ (名) 〔肩輿〕 〔肩ニテ擔ひ行ク輿〕 駕籠。乘物。 荻園雜記「古稱ニ肩輿、云云、兒子ハ即今轎也」 平定家朝臣記、康平四年九月廿五日「導師前大僧正明尊、乘ニ肩輿ハ無ニ蓋」 長秋記、大治二年十一月五日「本院(白河)御肩輿、新院(鳥羽)騎馬」 光盛一覽、二「肩輿(あげおし、春慶ヌリ)」

けんよ (名) 〔權輿〕 〔廣韻「權輿、始也、造衡自權始、造車自輿始」〕 物事ノ、始リ。ハジメ。オコリ。 大戴禮、虞戴德篇「於時冰泮發蟄、百草權輿」 晉書、禮志「天地更始、萬物權輿」 運歩色葉集「權輿、始之義也」

けんよう (名) 〔娟容、妍容〕 ウツクシキ貌。アテナル姿。娟麗ナル容姿。

けんらう (名) 〔堅牢〕 カタク、ヤブレザルコト。丈夫ナルコト。堅固。 蘇軾、雪詩「也知不作堅牢玉、無奈能開頃刻花」

げんらう (名) 〔元老〕 〔大老ノ義〕 官位、年齡、名望ノ積リタル老人ノ稱。 詩經、小雅、彤弓之什、采芑篇「方叔元老、克壯其猶」 後漢書、孝章帝紀「惡三世在位、爲國元老」

げんらうゐん (名) 〔元老院〕 〔議長、議員ニ、多クハ元老ヲ任ゼラル〕 法律案ヲ討議シ、天皇ノ御諮詢ニ奉答スル合議制ノ官府。議長、議官ヲ置カル、明治八年四月設ケ、同二十三年三月廢セラル。

けんらん (名) 〔絢爛〕 (一)キラビヤカニシテ、アヤアルコト。 朱德潤詩「絢爛晴光入座紅」 (二)詩文ナドノ、字句、豐富ニシテ、適麗ナルコト。 蘇軾、與姪書「凡文字、少小時、須令氣象崢嶸、采色絢爛、漸老漸熟、乃造平淡、其實不是平淡、乃絢爛之極也」

けんらん (名) 〔建蘭〕 蘭ノ條ヲ見ヨ。

けむり (名) 〔烟〕 けぶりニ同ジ。ケム。

けんり (名) 〔權利〕 權勢ト、利益ト。 史記、鄭世家、贊「以權利合者、權利盡而交疎」 左傳、襄公廿三年、「既有利權、又執民柄、將何懼焉」

けんり (名) 〔權利〕 〔英語、Right. ノ譯語、義務ハ、Duty. 福澤諭吉ノ譯シタル語ナリト聞ク〕 利益ヲ受クベキ權力。人トシテ、特定利益ヲ主張シ、享受シ得ル、法律上ノ能力。之レニ對シテ、義トシテ、從フベキ務ヲ、義務ト云フ。人トシテ、法律上、道德上、服從、從事セズハアルベカラザル本分ナリ。

げんり (名) 〔玄理〕 玄妙ナル理。深遠ナル道理。 張喬詩「四海求玄理、千峰繞定身」

けんりう (名) 〔涓流〕 ホソキ、水ノ流。涓涓タル細流。 後漢書、周紆傳「涓流雖寡、浸成江河」

げんりう (名) 〔源流〕 水ノ、源ヨリ、末長ク流ルルコト。 荀子、富國篇「禹十年水、湯七年旱、而天下無菜色者、云云、知本末源流之謂也」

けむりだし (名) 〔烟出〕 竈、爐、ナドヨリ起ツ烟ヲ、家ノ外ヘ導キ出サムガ爲ニ、屋ノ上ニ明ケ置ク窓。烟窓 或ハ、竈ニ取付ケ、鐵板、煉瓦、ナドニテ、長ク高ク作ルモアリ。ケブリダシ。ケブダシ。ケムダシ。烟突

けんりつ (名) 〔縣立〕 〔府、市立ニ對ス〕 縣ニテ、取立テタルモノ。 「縣立ノ學校」

けんりん (名) 〔乾臨〕 〔乾ハ、天ナリ、天子ノ、下ニ臨まろる意〕 天子ノ御處置。 太平記、三十、持明院殿吉野遷幸事「乾臨枉ケテ恩免ヲ蒙ラバ、速ニ、桑門ノ徒ト成テ、遠郊ノ幽居ヲトメムト思フ」

けんりん (名) 〔慳吝〕 〔慳貪、吝嗇ノ略〕 欲深クシテ、吝ナルコト。 原化記「慳吝未除、術何由成」

けんりやう (名) 〔賢良〕 (一)賢德アリ、善良

ナルコト。又、其人。周禮、地官篇「興賢良二」續紀、三、大寶三年七月甲午「擧賢良方正之士二」

(二)支那、漢ノ世ニ、科擧ノ科目ノ名。事物起原「漢唐逓今取士之制、有賢良方正茂才、異等、六科、謂之制擧、亦曰大科、遂謂之賢良二」

けんりゃく (名) 〔權略〕 權謀ノ計略。ハカリゴト。後漢書、祭彤傳「有權略、視事五歲、縣無盜賊二」晉書、祖逖傳「多權略二」

けんりょ (名) 〔賢慮〕 他ノ思慮ヲ云フ敬語。吾妻鏡、一、治承四年九月廿九日「定挿害心歟之由、賢慮思食疑之間、爲令安全、早可送進于當時御作所之由、被仰遣二」「賢慮ヲ仰グ」

けんりょく (名) 〔權力〕 權勢ヲ、徹底セシムルコト。漢書、賈誼傳「況莫大諸侯權力且十此者乎」

けむる (動) 〔烟〕 けぶるニ同ジ。和泉式部集、二「ソレト見ヨ、都ノ方ノ、山際ニ、ムスボホレタル、烟けむらバ」

けんるゐ (名) 〔堅壘〕 守備ノ、堅固ナル壘。杜牧、戰論「名城堅壘、𡸴嶭相貫二」「堅壘ニ據ル」

けんれい (名) 〔縣令〕 (一)支那ニテ、一縣ヲ主宰スル官。縣ノ長官。史記、商君傳「秧令邑聚爲縣、置令丞、則縣令及丞、自秦孝公始也」 (二)縣知事ノ舊稱。(明治十九年改メラル)

けんれい (名) 〔縣令〕 〔府令、省令、ナドニ對ス〕 縣知事ガ、其縣內ニ發スル行政命令。

けんれい (名) 〔黔黎〕 〔黔首、黎民ノ略〕 人民。タミ。百姓。唐文宗詩「顧慚四海二、福二黔黎二」

けんれい (名) 〔娟麗〕〔妍麗〕 ウツクシキコト。花ヤカナルコト。名畫錄「天人姿態、筆蹤妍麗」

げんれい (名) 〔嚴令〕 嚴シキ命令。嚴命。史記、酷吏傳「嚴令繁刑、不足以爲威」

けんれう (名) 〔見料〕 (一)貸本ナド、見ルニ拂フ料金。(二)人相ヲ見ルニ、受クル料金。(三)見世物、展覽會ナド、見ル料金。見物料。觀覽料。

げんれう (名) 〔原料〕 製造物ノ、材料トナルモノ。

けんれん (名) 〔眷戀〕 思ヒ、シタフコト。愛着ノ情ノ、絕チ難キコト。思ヒ切レヌコト。晉書、庾亮傳「哀悲眷戀、不敢違距二」

けんれん (名) 〔見連〕 見物スル連中。

けんれん (名) 〔牽連〕 ヒカレ、ツナガルコト。ヒキツヅクコト。揚雄、答劉歆書「翁孺與雄外家牽連之親」

けんれん (副) 〔蹇連〕 〔往蹇、來連ノ略〕 行步ノ、難クシテ、進マザル狀、又、苦惱スル狀ニ云フ語。蔡邕賦「從迍邅其蹇連兮」

けんろ (名) 〔蹇驢〕 足ナヘタル驢馬。(惡シキ馬ニ云フ) 易林「蹇驢不材、駿驥失時」持統天皇歌軍法(享保、近松作)四「或ル時ハ、蹇驢ニ鞭打ッテ、衣ヲ西山ノ雨ニ濕シ」

けんろ (名) 〔險路〕 ケハシキミチ。險阻ナル道路。舊唐書、禮儀志「開鑿險路二」

けんろ (名) 〔賢路〕 賢者ノ、進ムベキ仕途。史記、平津侯傳「願歸侯印、乞骸骨、避賢者路二」說苑「臣爲令尹、處士不升、妨蔽賢路二」

けんろ (名) 〔涓露〕 ツユホドノ水。少シバカリノ水。盛衰記、三十九、重衡酒宴事「雖二十惡兮猶引接、甚於疾風披雲露、雖二一念兮必感應、喩之巨海納涓露二」

けんろ (名) 〔顯露〕 アラハルルコト。アラハナルコト。周禮、地官篇、大司徒、疏「昏姻之禮、不可顯露、故曰陰禮也」延慶本、平家物語、一、末、成親康賴俊寬等油黃島被流事「大外道ト聞コエタリ、努努、顯露ニ御披露有ルベカラズ」

げんろ (名) 〔言路〕 君上、官府、ニ對シテ、下下ノ情實ヲ申シ立ツル手續。後漢書、袁紹傳「欲迷奪時明、杜絕言路二」「言路洞開」

げんろく (名) 〔玄鹿〕 玄ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

げんろくもやう (名) 〔元祿模樣〕 元祿年間ニ流行セル染模樣、織模樣ノ名。スベテ、大形ニテ、ケバケバシ。

げんろん (名) 〔言論〕 議論ニ同ジ。後漢書、符融傳「李膺風性高簡、每見融、輒絕它賓客、聽其言論二」

げんわく (名) 〔眩惑〕 クラミ、マドフコト。又、クラマシ、マドハスコト。淮南子、氾論訓「同異嫌疑者、世俗之所眩惑也」

けんわん (名) 〔懸腕〕 腕ヲ擧ゲテ、字ヲ書クコト。古今法書苑「腕法有三、有枕腕、有提腕、有懸腕二」懸腕直筆ト云フハ、腕ヲ下ニツケズ、眞直ニ筆ヲ持チテ、字ヲ書クコトナリ。

けんゐ (名) 〔健胃〕 胃ノ腑ヲ、スコヤカニスルコト。「健胃ノ藥」

けんゐ (名) 〔權威〕 權力アルニ就キテノ威勢。權勢。平治物語、一、信賴信西不快事「信西ガ權威モ、イヨイヨ威ヲ奮ヒテ、飛ブ鳥モ落チ、草木モ靡クバカリナリ」

けんゐ (名) 〔權威〕 〔英語、Authority.ノ譯語、此語ニ、別ニ、大家ノ意アルヲ、權威ノ字ヲ用キルハ、誤譯ナリト云フ〕 學術ノ大家。泰斗。又、著書ノ、最モ信用スベキモノ等ニモ云フ。

げんゐ (名) 〔嚴威〕 莊嚴ナル威儀。オゴソカナル威光。禮記、祭義篇「嚴威儼恪、非所以事親也」

けんゐざい (名) 〔健胃劑〕 健胃ノ爲ニ、服用スル藥。

けんゐん (名) 〔險韻〕 用キルニ險難シキ、詩ノ韻字。蘇軾詩「險韻尙詩苦關新」

げんゐん (名) 〔現員〕 現在スル人員。魏書、鄭羲傳「館宇既修、生房鑄播、博士見員、足可講習二」

けんゑん (名) 〔犬猿〕 〔犬と猿トノ語ヲ音讀スル、俗語ナリ、月鼈ノ類ナリ〕 人ト、人ト、仲ノ惡キニ云フ語。

けんゑんがくは (名) 〔蘐園學派〕 其徂徠ヲ、蘐園社、江戶、日本橋茅場町ニアリキ。蘐ハ、萱ナリ)ト稱シタリ」荻生徂徠ノ門人ノ、古文辭學ヲ奉ズル者ノ稱。

けんをんき (名) 〔驗溫器〕 人ノ體溫ノ高低ヲ驗シ知ルニ用キル器械。硝子管ニ水銀ヲ盛ル、寒暖計ノ如シ。體溫器。

げめん (名) 〔外面〕 〔內心ニ對ス〕 外ニ見ハレテアル顏色。(次條ノ出典ヲ見ヨ)

げめんぼさつ (句) 〔外面似菩薩〕 〔棒讀ノ語〕 外面似菩薩、內心如夜叉ト云フハ、女人ハ、外面ハ、溫和ニシテ、菩薩ニ似タリ、內心ハ、險惡ニシテ、夜叉神ノ如シト云フナリ。華嚴經「所有三千界男子、諸煩惱合集、爲一人女人之業障、女人地獄使、能斷佛種子、外面似菩薩、內心如夜叉二」

〜けもの (名) 〔獸〕 けだものノ條ヲ見ヨ。

けもの-へん (名) 獸偏 (一)漢字ノ偏ニアル、犭ノ字ノ稱、字書ニテ、犬ノ部首ニ屬ス、狐、狗、狩、狸、狼、ノ如シ。反犬 (二)俗ニ、猿智慧ノ隱語。コザカシキコト。

け-もん (名) 暇文|假文 いとまぶみ(暇文)ニ同ジ。台記、久安三年正月廿八日「暇文、近代絕不ㇾ拳ㇾ之」 中歷、十二、書禮「假文、請ㇾ假、若干、箇日」 侍中群要、九「假文事、上啣假文可ㇾ奏也、就ㇾ中、大臣大將等假文、必奏、是上代之事也、云云、但、近代不㆓必奏㆒ㇾ之」

げ-もん (名) 解文 解ノ條ヲ見ヨ。

〜け-もん-れう (名) 花文綾 花ノ紋樣アル綾。源、廿八、野分「けもんれうヲ、此頃摘ミ出シタル花シテ、ハカナウ染出給ヘル」 花鳥餘情「花文綾ハ、有㆓花文㆒之綾也、天曆御記、經櫃二合、並置㆓下机一脚之上㆒ハ加㆓花文綾覆㆒」

〜け-もも (名) 毛桃 桃ノ一種。花、大キク、色、淺シ、實モ大キク、杏子ノ如クニシテ、皮ニ、毛アリ。萬葉集、七 三十五「ハシキヤシ、我家ノ毛桃、本繁ク、花ノミ咲キテ、成ラザラメヤモ」

げ-や (名) 下屋 (下屋ノ意ナルベシ) 母屋ニ作リ掛ケタル小屋。

〜け-やか-に (副) 異|貴 (異やかにノ義) けやに。ケヤケク。キハダケク。ケザヤカニ。アザヤカニ。雄略紀、十四年四月「舍人復命曰、根使主所ㇾ著玉縵、大貴最好」

けやき (名) 欅 (異樹ノ義、木理ニ云フ) 喬木ノ名。春、新葉ヲ生ズ、櫻ノ葉ニ似テ、鋸齒、大ナリ、春、淡黃綠色ノ小花ヲ開ク、實ハ、小サクシテ、扁シ、材、堅クシテ、木理、美シク、色、紅紫ナリ、建築、器具、種種ノ用ヲナス。林逸節用集(文明)「欅、ケヤキ」

けやき-ばひ (名) 欅灰 欅ヲ燒キタル灰。釉藥ニ加フルニ用キラル、又、酒ヲ造ルニモ入ルル。

〜けやけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 尤異 (けやかヲ轉ジテ(赤、あか。宅、やか)活用セシメシ語、靜やか、おづやけしモアリ) ケヤカナリ。ケヤシ。際ヤカナリ。尋常ニ異ナリ。舒明卽位前紀「皇位旣定、誰人異言、云云」 字類抄「尤、ケヤケシ、尤物」 源、三十三、藤裏葉「例ノ辨少將、聲、イトナツカシクテ、葦垣ヲ歌フ、大殿、イトけやけくモ仕フマツルカナト」 大鏡、下、道長、末代ニハ、けやけき命保チテ侍ル翁、モナリカシ」 後三年軍記「江帥匡房卿、立聞キテ、器量ハ良キ武士ノ、合戰ノ道ヲ知ラヌヨ、ト獨言チタマヒケルヲ、義家ガ郎等ラ聞キテ、我ガ主ホドノ軍人ヲ、けやけきコト云フ翁カナ、ト思ヒツツ」

〜けや・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 尤異 (けやかノけやヲ活用セシム、けやにト云フ副詞モアリ、けやかハ、けやけしトモ活用ス、かまびすき、かまびすしきナドノ例ナリ) 尋常ニ異ナリ。ケヤケシ。

〜けやす・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 消え易しノ約。萬葉集、五 四十七「朝露ノ、(如ク)旣夜須伎我ガ身」 同、七 三十七「朝霜ノ、消安命」 仁賢紀、六年九月「哭聲尤切、令㆓人斷㆒ㇾ腸」

〜けやに (副) 異 けやかにノ條ヲ見ヨ。

〜げ-ゆ (名) 解由 次條ヲ見ヨ。

げゆ-ぢやう (名) 解由狀 古ヘ、國司ナド、任、終ヘレル時、官、稅、等、滯リナク濟メル由ノ文書ヲ、後任ノ人ヨリ前任者ニ渡ス狀。略シテ、解由。類聚三代格、五「應㆓前後國司共、署㆒㇐不與解由狀㆒事」 土佐日記、十二月廿一日「アル人、縣ノ四年、五年ハテテ、例ノ事ドモ、皆、爲終ヘテ、解由ナド取リテ、住ム館ヨリ出デテ」

けら (名) 螻 蟲ノ名、夏、秋、土中、四五分ノ下ニ穴居シテ、善ク鳴ク、長サ一寸許、形、いなごニ似テ、首、圓ク長シ、全身、黑褐色ニシテ、雄ニハ、翅アリ、夜、飛ビテ、燈ニツク、雌ハ鳴カズ、翅、甚ダ短ク、飛ブコト能ハズ、冬ハ、深ク土中ニ蟄ス。又、オケラ。シャウライムシ。螻蛄

けら (名) 啄木鳥 小鳥ノ名、けらつつきノ略、きつつきノ條ヲ見ヨ。

けら (名) 鉧 鐵ノ條ヲ見ヨ。熟鐵

け-らい (名) 家禮 (一)(尊貴ニ對シテ、敬禮ノ意ヲ表スルコト。史記、高祖紀「高祖五日一朝㆓太公㆒ハ如㆓家人父子禮㆒」 源、三十三、藤裏葉「文籍ニモ、家禮ト云フ事アルベクヤ、ナニガシノ敎ヘモ、能ク覺シ知ルラム」 花鳥餘情「家禮ト云フハ、子ノ、父ヲ敬フ事ナリ、他人ナレドモ、子ニ准ジテ禮ヲ致スヲバ、今ノ世ニモ、家禮ト云ヒ來レリ」 中右記、康和四年正月廿日「內大臣有㆓大饗事㆒ハ云云、尊者進㆓寄南階㆒ハ揖讓之間、主人居㆓階西頭㆒被ㇾ揖、是家禮之貴、異㆓他之尊者儀㆒」(尊者ハ、源俊房、主人ハ、源雅實) 台記、久安三年六月五日、德大寺供養㆒法親王來臨、余起入㆓簾中㆒ハ依ㇾ致㆓家禮㆒也」(藤原賴長) 同、仁平四年正月七日「宣命使、卷ㇾ文拔ㇾ笏揖、云云、自㆓本路㆒昇ㇾ殿、復坐、余已下、雖ㇾ列昇ㇾ殿」註「此間、宣命使降ㇾ殿、依㆓家禮㆒也」(余ハ、藤原賴長、宣命使ハ、其子兼長) 今昔物語、廿二、第八語「家禮ノタメニ、カク參リタルニ、實ニ喜バシト思召サバ、心異ナラム引出物ヲ賜ヘ」 (二)貴族ノ家ニ出入、祗候スル人。吾妻鏡、一、治承四年十月十九日「於㆓源氏人人㆒者、家禮猶可ㇾ被㆓怖畏㆒ハ況亦如ㇾ抑㆓留下國㆒事、頗似ㇾ服㆓仕家人㆒」 職原抄、下「執柄一門、及可ㇾ然人人子孫、謂㆓之公達㆒ハ然雖㆓累代家禮之人㆒ハ不ㇾ失㆓其名號㆒歟」 安齋隨筆、後編、一二「諸家ノ公家衆、公事ノ法式、故實ヲ習ハムガ爲ニ、攝家方ヘ親シク附キ從ヒ、出入シテ官仕セラルルヲ、家禮ト云フモ、子ノ、父母ヲ敬スル如ク、攝家ヲ禮ズル故也」 日次紀事(延寶)七月七日「昨六日、東西本願寺末派並家禮、以㆓花數種㆒ハ獻㆓門主㆒」

け-らい (名) 家來 (前條ノ語ノ意ノ、轉ジタルモノ、家來ハ、當字ナリ) 家ニ仕フル者。家人。從者。隷從 下學集(文安)下、態藝門「家來、家人之義也」

けらい-ぶん (名) 家來分 (親分、子分、同意) 假リニ、家來トシテアツカフコト。信州川中島合戰(享保、近松作)一「然レバ、直江兄弟ハ家來分、主從ノ禮儀知ラヌカ」

げ-らう (名) 下郎 (下臈ヨリ轉ズ、郎ハ、當字ナリ) 賤シク使ハルル者ノ稱。下衆。下部。奴僕 沙石集、七、下、第十二條「武士ノ郎等、下人ノ、手鋒ヲ盜メル、云云、下郎ノ盜ハ、常ノ事也」

け-らく (名) 快樂 (けハ、快ノ吳音) 快樂ニ同ジ。ココロヨク、タノシムコト。榮花物語、十六、本雫「九重ノ宮ノ內ニ遊戲シタマフ事、彼忉利天女ノ快樂ヲ享ケテ、歡喜苑ノ內ニ遊戲スルニ劣ラズ」 盛衰記、四十、維盛出家事「欲、色、二界ノ快樂ノ天、限リアレバ、衰沒ノ悲シミアリ」

げ-らく (名) 下洛 比叡山ヲ下リテ、洛中ニ入ルコト。平家物語、一、淸水炎上事「山門ノ大衆、夥シウ下洛スト聞エシカバ」(山門ハ、比叡山ナリ」

げ-らく (名) 下落 等級、物價ナドノ、下ルコト。(昇級 騰貴ニ對ス)

✧✧けら-けら-と (副) 笑フ聲ニ云フ語、からからとニ同ジ。曾我扇八景(寶永、近松作)上「五郎、けらけらと大笑ヒ」

けら-ざい (名) 螻蛄才 (出典ヲ見ヨ) 多藝ナレドモ、何レモ、精シカラヌコト。石臼藝。倭名抄、十九 三十 蟲豸類「螻蛄、一名、碩鼠、和名、介良、有㆓五能㆒而不ㇾ成㆓伎術㆒ハ能飛不ㇾ能ㇾ過ㇾ屋、能啼不ㇾ能㆓畢竟㆒ハ能泅不ㇾ能ㇾ渡ㇾ瀆、能緣不

[illegible]（弘安）[illegible]二字[illegible]ケラサイ」[illegible]四「鼯鼠ノ五能トテフハ、けら二五能アレドモ、ゲニゲニシキ事ニハ、アラザル故ニ、チト物ヲ似テ、ヨクモナキヲバ、けらオト云フ是也」（鼯鼠ノ條ヲ見ヨ）

けらし （助動） ける、らしノ約。けりト、らしトノ各條ヲ見ヨ。 萬葉集、四「我ガセコガ、着セル衣ノ、針目落チズ、入リニ家良之ナ、我ガ心サヘ」 古今集、一、春、上「櫻花、咲キニけらしモ、足曳ノ、山ノ峽ヨリ、見ユル白雲」

けらつつき （名） 啄木鳥 小鳥ノ名、てらつつきノ轉、きつつきノ條ヲ見ヨ。

けらば （名） [螻羽] 〔羽ニテ、飛ブ用ナキニ云フ、カト云フ、或ハ云フ、桁端ノ訛カ〕 （一）檐。 [illegible]許ト」 （二）東京ニテ、土藏ノけちまきノ上ノつま。破風ノ如ク、左右へ下ル。

げらふ （名） [夏臘] 一夏安居ヲ見ヨ。

げらふ （名） [下臈] 〔上臈ニ對ス〕 臈ヲ積ムコト、短キモノ。（臈ノ條ヲ見ヨ） 伊勢物語、六十九段「[illegible]マダ下らふニテ、内へ參リ給フニ」 [illegible]「ハヤウマダ、下らふニ侍リシ時、[illegible]ハレト思フ人、侍リキ」

げらふ-くらうど （名） [下臈藏人] 〔前條ヲ見ヨ〕 （一）六位ノ藏人ノ稱。 日中行事「下臈ノ藏人、申シ入ル」 （二）女藏人ノ、末席ニ侍フ者。

げらふ-ずゐじん （名） [下臈隨身] 下級ノ隨身。 [illegible]

げらふ-にようばう （名） [下臈女房] 下級ノ女官。 [illegible]五十一、[illegible]北面ニ涼ミケ[illegible]

[illegible]語作、切藏、日吉[illegible]

けり （名） [鳧] 〔鳴ク聲ヲ、名トス〕 水鳥ノ名。形、鵈ニ似テ、大キク、嘴、脛、短ク、脚、長クシテ、共ニ、黄ナリ、嘴ノ端ハ、黑シ、頭、背、胸ハ、灰色ニシテ、翼ハ、黑、白、交ハリ、腹ヨリ尾マデハ、白クシテ、尾ノ末、黑ク、横紋アリ、水邊ニ居テ、魚ヲ捕リ食フ。 [illegible]鳧

け-り-ル-レ-ラ-リ-レ （自動、良變） [來] 〔來ト、ありトノ約轉ニテ（いときなし、いとけなし。刈集む、かりつむ。夜聞、よひ）〕 來てありノ意ニテ、現在完了ノ義ヲ成ス（咲きてあり、さけり。書きてあり、かけり）次次條ヲ併セ見ヨ、次條ノ着りモ、同趣ナリ」 來テアリ。來リ。 古事記、中（景行）七十「[illegible]國、云云、天之日子、是人參[illegible]來也」 [illegible]記、九、神護元年[illegible]月、宣命、六[illegible]物部八レ來理[illegible]ナリ」 萬葉集、三、二十「[illegible]ノミ見ツツ、アリカネテ、雪消ノ路ヲ、ナヅミ來有カモ」 同、十七、長歌「玉梓ノ、使ノ來レバ、ウレシミト、吾ガ待チ問フニ」

け-り-ル-レ-ラ-リ-レ （他動、良變） [服着] 〔着るノ完了（着けりノ約トモ見ラル）着てあり、着たりノ意、服スヲ併セ見ヨ〕 行くノ、ゆけりトナリ、來ノ、けり、爲ノ、せりトナルト、同ジ、但シ、此語、連體形ノ外ハ、物ニ見エザレド、此活用トシタリ〕 着テアリ。着タリ。 [illegible] 萬葉集、六[illegible] 同、十二「[illegible]我ガ旅ハ、久シクアラシ、此我ガ家流、妹ガ衣ノ、垢ツク見レバ」

け-り-ル-レ-ラ-リ （助動） 〔來ト、ありトノ約〕 動詞ノ第五變化（連用形）ニ附キテ、過去ノ意ヲ示ス助動詞。つ、ぬ、たり、等ヨリハ、更ニ、時ヲ經シニ云フ、きノ意ニ同ジ。（富尾ノ語法指南ノ助動詞ノ條ヲ見ヨ）「行キけり 落チけり 見タりけり」

げり （名） 外吏 外任ノ吏。國司。 萬葉集、十五、雜、一「外吏ニ、シバシバ、マカリアリキテ、國上スリテ作リケル時」

げり （名） [下痢] ハラクダリ。クダリバラ。 [illegible]南中八[illegible]志曰、[illegible]特出[illegible]云云、不レ可二多喫、令二人下痢一」

けり-かもめ （名） [鳧鷗] 小鷗ノ一種。形、鷗ニ似テ、背ハ薄黑ク、腹ハ白ク、嘴、脚、共ニ、赤シ。

けりやう （副） [假令] 〔假令ノ字ヲ音讀シテ、凡ノ意ニ用キタル語〕 （一）大凡ニ積リテ。大概。大約。 字類抄「假令、ケリャウ」 [illegible] （二）轉ジテ、最初ニモ。 [illegible]「人ノ盛リヲ指テナイニ、けりやう、[illegible]タラ、コナサン、斬テ捨テサンスカ [illegible]」「川ノ中ニ衣ニツカ、テ、一日、半ヲ以テ、[illegible]バカリ、コレガ、假令ヤ、名聞デハ出來ルモノデハナイ」

げりやく （名） [下略] ぜうりやく（上略）ノ條ヲ見ヨ。

け-る-レ-レ-ラ-リ-レ （他動、四） [蹴] 次條ノ語ニ同ジ。

ける-ケル-ケレ-ケ-ケ-ケヨ （他動、下一） [蹴] 〔古言下二段活用ノ蹴うノ口語調ニ、くゑるトナレルガ、約リテ成レル語ナリ、名義抄「蹴、クヱル」字類抄「蹴、クヱル」數訓抄（四條天皇ノ頃）七、舞譜名目「蹴足、左右アリ」〕 古言、クウ。コユ。足ノ先ニ力ヲ入レテ、突キ遣ル。 此語、口語ニハ、連用形ニ、けり飛ばすナドトモ云へド、未ダ全ク、四段活用ヲ成サズ。 落窪物語、二「只今ノ北政所ノ兄ハ、けるトモ、此殿ノ牛飼ニ、手觸レテムヤ」 榮花物語、三十七、煙の後「殿上人ニ、蹴けサセテ御覽ズ」 今昔物語、廿[illegible]、第廿話「男ノ尻ヲ、フタト蹴タリケレバ、男、彼、蹴ケルママニ、忽ニ見エズ」（盜人ナリ） 盛衰記、三十七、景時秀句事、梶原[illegible]子[illegible]ニテ、梶原景時、河中ニテ、云云、沛艾ノ馬ニテ、鎌倉殿ニ、水ヲ、ササト蹴カケ奉リ、云云、梶原「鞠子川、けれバゾ、波ハアガリケル」ト仕リテ」 宇治拾遺、二、十三條「尻けヨト云ヒツル相撲ニ尻けムトスル相撲」

け-る （動） [服] けり（服）ノ條ヲ見ヨ。

ゲレエン （名） [傑列印] 〔英語、Grain.〕 英國ノ衡量ノ名、我ガ一厘七毫二四。

げれつ （名） [下劣] 卑シク、劣レルコト。 漢書、外戚傳、注 師古曰、[illegible]身、手レ帝[illegible]近親[illegible] 延慶本、平家物語、一、本、得長壽院[illegible]姓、下劣ナリトモ、心ニ慈悲アリテ、身ニ行德イミジク」

げれつ-まん （名） [下劣慢] 七慢ノ條ヲ見ヨ。

けれ-ども （接） [雖] 然レドモ。シカシナガラ。ニ、ヨッテ。

げれん （名） [外連] 〔上手ノ節ヲ眞似テ、似テ非ナルニ起リ、外ノ者モ、ソレニ連れテ眞似ル意ナリト云フ、イカガ〕 （一）義太夫節ヲ語ルニ、本法ヲ破リ、己ガ作意ニテ、偏ニ味ヲツケテ語ルコト。 （二）轉ジテ、事ヲ、紛ラカスコト。欺罔 俚言集覽、けれん「江戸ニテ、まぎらかすコトニ云フ」「けれん師」「けれんヲ使フ」

けろ-けつ （名） [繫驢橛] 〔驢馬ヲ繫ぐ橛〕 佛教ノ語ニ、證悟ノ自由ヲ束縛スル言

論ヲ云フ語。禪家ニテ、叱咤スル時、多ク、此語ヲ用ヰル。碧巖集「是甚繫驢橛」

⁂けろり-と (副) 物ニ感ゼズ、何氣ナキ體ナルナドニ云フ語。「けろりとシテ居ル」病、けろりとナホル」

け-わう (名) 【花王】 蓮華藏世界ノ法王ノ略、即チ、盧遮那佛ノ稱。盛衰記、廿四、胡徳樂河南浦樂並「悲シキ哉、烏瑟怨ニ、花王ノ本土ニ歸シ、寶閣寥シク、蒼海ノ波濤ニ泝ルコトヲ」(花王ノ本土ハ、即チ、蓮華藏世界ナリ)

け-ゐ (名) 【褻居】 〔け(褻)ノ條ヲ見ヨ〕 家ノ内ノ、主人ノ居間。(出居ニ對ス) 仲正集「北東風ニ、けゐノ床マデ、トホリツル、小雪ハ蘸ノ、師フナリケリ」 古事談、六、亭宅諸道「敦光朝臣發レ酒之間、不レ斷レ謁ニ酒於褻居棚ニ」 沙石集、一、上、第三條、高野ノ明遍ノ使、善阿ノ、三井寺ノ公顯ノ所ヘ行キタルニ「ナツカシク思ハレケルニヤ、顯附シタルけゐニ呼入レテ、高野ノ事、後世ノ物語ナンド、通夜セラレケリ」(顯附ハ、瓦燈口ナリ)

げ-ゐ (名) 【外位】 外官、即チ、地方官ニ賜ハルベキタメノ位ナリシガ、後ニハ、卑シキ氏姓ノ人ニマデ賜ハル位トナレリ、正五位上ヨリ少初位下マデ、二十階アリタリ。

げ-ゑ (名) 【外衞】 左右衞門、及、左右兵衞ノ稱。(近衞ヲ、内衞ト云フ ニ對ス) 百寮訓要「外衞トイフ、是レハ、宮城ノ外ヲ警固スル職ナリ」

こ(ご)

こ 五十音圖、加行第五ノ假名。(かノ條ヲ見ヨ)

ご こノ濁音ノ假名。(がノ條ヲ見ヨ)

こ (名) 【子】 〔小ノ義ニテ、稚子ヨリ起レル語ナルベシ〕 (一)兩親ノ間ニ生レタル人。萬葉集、六 三十六長歌「父君ニ、吾レハ眞名子ゾ、母刀自ニ、吾レハ愛兒ゾ」同、五 八「白銀モ、黄金モ玉モ、何セムニ、優レル寶、子ニ若カメヤモ」 (二)幼キ子。コドモ。ワラベ。 【幼兒】 土佐日記、二月十六日「船人モ、皆、子抱キテノノシル」 (三)ウミノコ。ハツコ。子孫。幾代ニテモ、子ト云フ。祖父以上、幾代ニテモ、親ト云フガ如シ。御代御代ノ天皇ヲ、天津神ノ御子ト申シ奉リ、大己貴命ハ、素戔嗚尊ノ六世ノ孫ナルヲ、(古事記)神代紀ニハ、子トシテアリ。(四)動物ノ、牝牡、雌雄ノ間ニ生レタルモノ。「蝦蚪ニ(オタマジャクシ)」「殼子」かりの子」「鰕子」鳥子」(卵ナリ) (五)草木ノ、幹ヨリ支レテ、生ヒ出ヅルモノ。古事記、下(仁徳)九天皇ノ歌三八田若郎女ニ賜レ遣御長歌「八田ノ、一本菅ハ、古持タズ、立チカ荒レナム、云云」(八田皇女ニ、皇子オハシマサズ) 拾遺集、十八、雜賀「我レノミヤ、子持タルテヘバ、高砂ノ、尾上ニ立テル、松モ子持タリ」「竹ノ子」木ノ子」茄ノ子」芋ノ子」

こ (名) 【子】 〔親ガ、子ヲ呼ビシニ起リテ、自ラモ呼ビ、人モ呼ビシ語ナルベシ、男之子ノ子、男子ノ子ナリ、左傳、昭公十二年、注「子、男子之通稱」白虎通、號「子者、丈夫之通稱也」和漢、暗合ナリ〕 (一)男ノ通稱。人ト言ハムガ如シ。神武天皇、大來目部ヲ、倶梅能古ト呼ビタマヒ、(神武紀)丹後ノ水江浦島子ハ、自ラ、宇良志麻能古ト云ヒ、(釋紀、十二、丹後國風土記)吉備臣尾代モ、自ラ、嗚之盧能古ト云ヒ、(雄略紀)圓ノ大臣ノ妻ハ、夫ヲ、飫瀰能古ト云ヒ、(同紀、萬葉集、三 三十五 「臣之壯士」) 推古天皇ハ、蘇我馬子ヲ、蘇我能古ト呼ビタマヘリ。(推古紀) 允恭紀、八年二月「吾ガ勢故(夫子)ガ、來ベキ夜ナリ」 萬葉集、十四 四十九 「奈勢能古ヤ」(汝夫の子) 同、二十 四十 長歌「ツルギタチ、(枕)身ニ副ヘ寐ケム、若草ノ、(枕)其嬬子ハ、サブシミカ、思ヒテ寐ラム」(夫の子ノ借字ニテ、妻ヲ喪ヘル夫ナリ) 同、廿 五十六「イザ子ドモ、(人人)狂行莫爲ソ、天地ノ、堅メシ國ゾ、大和島根ハ」 神樂歌、採物、劍「白銀ノ、目貫ノ太刀ヲ、下ゲ佩キテ、奈良ノ都ヲ、遶ルハ誰ガ古ソ」「舟子」網子」獵子」田子」馬子」江戸ッ子」河岸ッ子」人ッ子」 (二)女ヲモ、子ト云フコト、特ニ、多シ、女之子ノ子、女子ノ子ナリ。雄略天皇ハ、伊勢三重釆女ヲ、美弊能古ト呼ビ、(古事記、下 二十八)菜摘女ヲ、菜採須兒ト呼ビタマヘリ。(萬葉集、一 一七) 萬葉集、二 二十 長歌「ハシキヤシ、(枕)吾ガ嬬乃兒ガ、夏草ノ、(枕)思ヒ萎エテ」(妻ヲ云フ) 同、五 三十三 松浦河、佐用媛ノ故ガ、領巾振リシ」 同、三 四十「兒等ガ家路、稍間遠キヲ、ヌバタマノ、夜渡ル月ニ、競ヒ敢ヘムカモ」(妹ヲ云フ)

こ (名) 【蠶】 〔桑子ノこナラム、家ニ養フニ因リテ、常ニ、養蠶ト云フナリ〕 蠶ノ本名、其條ヲ見ヨ。クハコ。クレノミミズ。今、婦人語ニ、御蠶樣。春蠶、夏蠶、秋蠶、蠶種ナドモ云フ。萬葉集、十二 二十六「タラチネノ、母ガ養フ蠶ノ、繭ゴモリ、(枕)鬱悒クモアル哉、妹ニ逢ハズシテ」 字類抄「蠶、コ」

こ (名) 【利子】 〔このしろ(利)ノ條ヲ見ヨ〕 元金ノ利息。持統紀、五年三月「貸倍」(貸物の子ノ義、貸借ノ利倍ヲ云フ)「元モ子モ失フ」

こ (名) 【籠】 〔籠むノ語根、篭ニ通ズルカ〕 (一)竹ニテ編ミ作レル器ノ總稱。カゴ。倭名抄、十六 二十 竹器類「籠、竹器也、古」 神代紀、下 二十六「取二其竹一、作二大目麁籠一、内二火火出見尊於籠中一、投二之于海一」 萬葉集、十四 二十「キハツクノ、岡ノ莖韮、吾レ摘メド、故ニモ滿タナフ、夫ト摘マサネ」字鏡 六十 「筌、炭籠也、阿良須彌乃古」 土佐日記、正月七日「若菜、こニ入レテ」 拾遺集、十八、雜賀「飾粽ヲ、山菅ノこニ入レテ」 (二)伏籠。倭名抄、十二 二十 香藥部「薰籠、多岐毛乃古」 源、二、帚木 廿「ナエタル衣ドモノ厚肥エタル、大イナルこニ打チカケテ」 (三)鳥籠。トリカゴ。皇極紀、元年七月「以二白雀一納レ籠」 赤染衞門集「身ハココニ、心ハ空ニ、飛ブ鳥ノ、こニコモリタル、心地コソスレ」 (四)蟲籠。ムシカゴ。源、廿八、野分 十一「童オロサセタマヒテ、蟲ノこドモニ、露カハセタマフナリケリ、云云、色色ノこドモヲ、モテサマヨヒ」

こ (名) 【粉】 〔倭訓栞、粉、「小ノ義ナルベシ」〕 物ノ、碎ケテ、極メテ細カクナリテ、乾キテアルモノ。コナ。倭名抄、十六 六十「麪麩粉、古」「米ノ粉」麥ノ粉」石ノ粉」身を粉にすト云フハ、甚シク骨折ル意。粉骨

こ (名) 木 〔木ノ轉、黄金、こがね〕 木ニ同ジ。火の穗、ほのほ」 神代紀、下 二十 「磐根、木株」 古事記、下(雄略) 七 三十 長歌「許ノ根ノ、根延フ宮」「こノ葉」こノ間」こノ芽」こノ實」こノ下」

こ (名) 【濃】 〔濃しノ語根〕 色ノ、濃キコト。古事記、中(應神) 一 七十 長歌「眉、畫、許(濃)ニ畫キ垂レ」(黛ナリ)「濃紫」濃染」濃酒」

こ (名) 【海鼠】 〔凝るノ語根ニモアラムカ、體、凝レルガ如シ、常ニ、乾海鼠、熬海鼠ナドニ對シテ、生ナルヲ、なまこト云ヒテ、通名トス〕 海鼠ノ本名、其條ヲ見ヨ。其腸ヲ、このわたト云フ。沙噀 乾こ、熬こ、串こ、虎こ、金こナド、アリ。古事記、上 六十「海鼠口拆也」 本草和名、下 廿六「海鼠、古」(倭名抄、同ジ) 字類抄「生海鼠、ナマコ、コ」

こ (名) 【格子】 〔格子、格天井ナドノ格ノ略轉ナラム(鉤、こ、籐、と。紙縒、こより。合器、ごき)〕 (一)格天井ノ竿材、紙障子ノ骨ナド、縱横ニ組ミタルモノ。

[illegible]子 [illegible] 翁ノ子ヲ、翁ニ下リ下リテ、翁車ヘ登リケル」

こ 釣 (名) 鉤ノ約、[illegible] 鉤丸トモ云フ、[illegible] [illegible]

こ 戶 (名) (一)戶。トビラ。 老子 [illegible] 十七章「不出戶知天下」[illegible] (二)家ノ出入口。[illegible] (三)ヘ。出入口ヲ以テ、所帶ヲ持ツル人家ヲ數フル語。軒。[illegible]

こ 故 (名) 〔[illegible] 故、舊也〕 (一)古キコト。舊。〔新ニ對ス〕[illegible] (二)〔物故ノ略〕死シタル人ノ名稱ニ冠ラセテ云フ語。亡。 土佐日記 [illegible] ニオハセシヲ」 同、三十五、柏木「こ とゞの(故殿)ノ御ケハヒ」

こ 姑 (名) (一)チチハハ。父ノ姉妹。[illegible] (二)シウトメ。

こ 胡 (名) 〔考工記鯛目、胡無弓車同 [illegible] 胡、今何奴、風俗通「胡者、山戎之別種」〕 支那ノ北方ノ夷。[illegible]

こ 湖 (名) ミヅウミ。湖水。「湖、[illegible]」

こ 鈷 (名) こんがうしよ(金剛杵)ノ條ヲ見ヨ。

こ 孤 (名) (一)ミナシゴ。孤兒。[illegible] (二)ヒトリミ。ヒトリダチ。孤獨。[illegible]

こ 弧 (名) 〔說文「弧、木弓也」〕 數學ノ語。圓線、曲線ノ一部分。

こ 鼓 (名) 〔鼓、正韻「音古」唐韻「音古」〕(こすノ語原ヲ見ヨ)陣太鼓。[illegible]

こ 股 (名) 〔股ヲ開キタル象〕 數學ノ語。直角三角形ノ直角ヲ挾ム二邊ノ中ノ、長キ方。其短キ方ヲ、勾ト云フ。

コ 火 (名) 火ノ宋音、禪家ノ語ニ用キラル。「下火、火爐、火箸、火鉢子」

こ 此 (代) 最モ我ガ身ニ近キ物事ヲ指シテ云フ語(彼、其、ニ對ス)多クハ、これト云フ。[illegible]「こハ何事ゾ」こハソモイカニ」

こ 己 (代) 支那ニテ、諸侯ノ自稱、謙シテ云フナリ。[illegible]

こ 來 (助) く(來)ノ條ヲ見ヨ。

こ 小 (接頭) (一)チヒサキ。コマカキ。[illegible] (二)イササカ。ワヅカ。微ツカナ。[illegible] (三)スコシ。少。[illegible] (四)足ラヌ。及バヌ。弱。[illegible] (五)智ノ足ラヌヲ、云ヒ貶シムル意ヲ含ム。「小賢シ」小利口」小二歳」

こ 子 (接尾) 〔第二語ノ子ト同ジ理由ニテ、父母ガ、男女子ヲ愛ミ呼ビテ名ヅケシニ起レルナルベシ、殊ニ、女ハ、親愛ノ情深キモノナレバ、後ニハ、專ラ、女子ノ名ニツクルガ多クナレルナリ〕 男女ノ名ノ下ニツケテ用キル語。上代、歷世ノ天皇ノ御通稱ニ、倭根子ト申ス。(其條ヲ見ヨ) [illegible] 女ノ名ニ、子ヲツクルコト、上代ニハ、貴賤ニワタレリ、平安朝時代ニハ、專ラ、貴女ニ用キラレタルガ如シ、後世ハ、又、上下ノ別ナケレド、亦、自ラ、身分アリ、文學アルナド女ニ限ラレタリ、サレバ、梅、松ト云フ名ナルニ、他ヨリ、梅子、松子ヲ呼ブハ、稍、尊稱スル意アリ、(お梅、お松ト云フガ如シ)自ラ、梅子、松子ト稱スルハ、稍、自尊ノ意トナル、サレド、和歌、自著 署名ナドニ用キルハ、其嫌ヒナキカ、(戶籍面ノ名ナルニハ、論ナシ)然シテ、今モ、下民ノ女ニ、子ヲツクルコト多キガ如シ。

こ 子 (接尾) 〔其物事ノ體ヲ成サシメ、名詞ヲ形作ラシムル語ナルガ如シ、漢語ノ冊子、帷子、帽子、瓶子、雉子、倚子、茄子、ナドノ子ト、其意、同ジ、和漢暗合ナリ〕 意味ナク、種種ノ語ノ下ニツクル語。多クハ、物ノ意ヲ成ス。[illegible]

こ [illegible] (接尾) 〔常ニ、子ノ字ヲ記ス、物ノ義ナル子(前條ノ)ニテ、[illegible]、數フルニ云フナルベシ〕 [illegible]タル絲線ヲ數フルニ云フ語。「[illegible]一子二子三子」

こ 處 (接尾) 〔ところノ本言、ところノこ、是レナリ、住處、住處ナドノかニ通ズ(其、かみら。日處、こよみ(曆)ノこ)〕 處。「宮處(都)」許處」アソこ」カシこ」イヅこ」コ

こヲこ」

こ (接尾) 競 〔くらべ、くらノ約リタルナリ、接尾語、ハ、くらべノ語原ヲ見ヨ〕 (一)互ニ、相競フコト。クラ。コクラ。「腕ッこナラ勝ツ」「競ッこデハ負ケマイ」「駈ケッこ」カケくらニ行リ、こニヤリくらニ讀ミ、こニラメこくら (二)轉ジテ、互ニ爲ルコト。ゴッコ。「相こニテ」「デンこ出シッこ」

こ (接尾) 箇個 〔箇、個ノ百姓讀ナリ、其條ヲ見ヨ〕 箇ニ同ジ。物ヲ數フルニ云フ語。一箇、二箇ハ、ひとつ、ふたつナリ。「五箇」「百箇」

こ (名) 豆汁 まめのごノ條ヲ見ヨ。

ご (名) 御 〔敬稱ノ御前ノ下略、其條ヲ見ヨ、御前ハ、男女ニ稱スレバ(二)ノ意モ了解スベシ、本朝文粹ノ註ニ「俗謂ニ貴女ニ爲レ御、蓋取ニ夫人女御之義ニ也」トアルハ、附會ナルベシ〕 (一)貴婦人ノ稱呼ノ下ニ添ヘテ、敬稱トスル語。 本朝文粹、一、菅公ノ詩ニ「辨 御」註「俗謂ニ貴女ニ爲レ御」云云、（藤相公策）辨官、故稱ニ其女ニ也」 土佐日記、二月八日「淡路ノごノ歌ニ劣レリ」 枕草子、一、第三段「家ノごダチ、女房ナドノ親フヲ」 源、二、帚木、註「ツカフ人、古ごダチナド」 大和物語、上「弘徽殿ノ壁ニ、伊勢ノごノ書キツケケル」 同、中「筑紫ニアリケル、檜垣ノごト云ヒケルハ」是レハ、遊女ノ、老婆トナレルナレバ、（濫用ナリ） (二)此語、接尾語トシテ、男女ニ用ヰラル。「父ご」「母ご」「ヲヂご」「ヲバご」「兄ご」「姪ご」「殿ご」 娘ごニ各條ヲ見ヨ）

ご (名) 碁 〔碁ノ呉音、期、ご〕 支那ヨリ傳來ノ遊戲ノ伎。二人、相對シテ、碁盤ノ線ノ上ニ、互ニ、黒白ノ碁石ヲ排ベ、相圍ミ、相鬪ハセテ、勝負ヲナス。コレヲ行フヲ、打つト云ヒ、漢語ニ、圍碁ト云ヒテ、碁ヲ圍むト訓ム。（碁盤、碁石ノ條見合ハスベシ） 倭名抄、四、雜藝類「博物志云、堯造ニ圍碁ニ、音期、字亦作レ棊、世間云レ五ニ」 懷風藻、釋辨正法師「大寶年中、遣ニ學唐國ニ、時遇ニ李隆基龍潛之日ニ、以レ善ニ圍棊ニ、屢見ニ賞遇ニ」 源、五十二、手習「御碁うたセタマヘト云フ」云云、うたムトオボシタレバ、盤取リニヤリテ」 天正ノ頃、京都ノ寂光寺中ノ本因坊住僧日海、（算砂ト號ス） 此技ヲ善クセリ、後ニ、德川家康、江戸ニ召シテ、祿ヲ與ヘ、碁所トシテ、代代、本因坊氏ヲ稱ス、後、井上、安井、林、ノ三氏、亦、碁所トナル。碁ハ、巧拙ニ因リテ、階級アリ、初段ヨリ、九段ニ至ル、九段ヲ名人ト云ヒ、八段ヲ半名人ト云ヒ、七段ヲ上手ト云フ、而シテ、初段以下ヲ素人ト云ヒ、素人モ亦、數級ニ分ツヲ得ベシ。

ご (名) 期 〔期ノ呉音、碁、ご、同ジ〕 (一)トキ。ヲリ。期限。 後撰集、十四、戀、六「逢フごナキ、身トハ知ル知ル、戀ストテ」 拾遺集、十五、戀、五「燃エハテテ、灰トナリナム、時ニコソ、人ヲおもひノ、止マムごニセメ」 蜻蛉日記、中、上「降ル雪ニ、積ル年ヲバ、ヨソヘツツ、消エムごモナキ、身ヲゾ恨ムル」 字類抄「期、ゴ」「此期ニ及ンデ」 (二)死ヌ時。末期。最期。 大和物語、六「カカル山ノ末ニ籠リ侍リテ、死ナムヲごニテト思ウタマフルヲ」 謠曲、土蜘蛛「昨日ヨリ、心モ弱リ、身モ苦シミテ、今ハ、期ヲ待ツバカリナリ」

ご (名) 松枯葉 〔松の枯葉ヲ下略シテ、まつのこト云ヒシヲ、更ニ上略シタル語ナルベシ〕 松ノ枯落葉。多クハ、掻キ集メテ、焚物トスルニ云フ。又、こくば。 宇津保物語、菊宴六十「紅葉折りシキテ、まつのご、果、盛リテ、菌ナドシテ、尾花色ノ强飯ナド、マヰルホドニ」 芭蕉句集、冬「ごヲ焚イテ、手拭焙ル、寒サカナ」 駿河ノ燒津邊ニテハ、今モ、ごヲたくト云フ、其地ノ諺ニ「ごハ婆サンノ顏ニアリ、ごハ松ノ木ノ下ニアリ」ナド云フ。（皺ト、四ト、五トニカケテ云フナリ） 倭訓栞「こくば、四國ニテ、落葉ヲ稱ス、こけ葉ノ義ニヤ、さらひヲ、こくばかきト云フ（さらひハ、竹杷ナリ）」 播磨ノ龍野邊ニテハ、松ノ落葉ニ就キテ、こく葉、こくばかきト云フ、甲斐國ニテハ、スベテノ木ノ枯落葉ヲ、ごかト云ヒ、ごかかきニ行クナド云フ。 俚言集覽「ごかくも、甲斐ニテ、松の落葉ヲ云フ」

ご (名) 後 〔前、先、ナドニ對ス〕 ノチ。アト。「其後ハ逢ハズ」

ご (名) 語 コトバ。モノイヒ。ハナシ。言語。 漢書、嚴安傳「其後語遷」 鮑照詩「寄レ語後生子」 朗詠集、下「花間覓レ友鶯交レ語」

ご (名) 午 (一)ウマノトキ。晝ノ九ツ時。晝ノ十二時。午時。正午。 孫綽、遊ニ天台山ニ賦、注「午、日中也」「午前」「午後」「午下」「日、午ニ入ル」 (二)午夜ノ條ヲ見ヨ。

ご (名) 吳 吳國。くれ(吳)、幷ニ、りくてう(六朝)ノ條ヲ見ヨ。

ご (名) 伍 (一)五ノ意味ノ大字、次條ノ數詞ヲ見ヨ。(二)古昔ノ軍隊ニテ、五人ヲ一組トシタルモノ。 軍防令、義解「凡兵士、各爲ニ隊伍ニ、謂ニ五十人ニ爲レ隊也、五人爲レ伍也」 (三)五人組ノ條ヲ見ヨ。 左傳、襄公三十年「子産云云、使ニ廬井有レ伍」 (四)ナカマ。同列。 字典「既レ與ニ衆雜處、曰レ伍」 史記、韓信傳「信過ニ樊將軍門ニ、出曰、生乃與ニ噲等ニ伍」

ご (數) 五 イツ。イツツ。 易經、繫辭、上傳「天數五、地數五、五位相得」 書經、武成篇「列レ爵惟五、分レ土惟三」

ご (接頭) 御 〔漢字ノ御ノ意ハ、天子ノ事ニ限レド、我ガ國ニテハ、敬語ノ、み、おニ借リテ用ヰルナレバ、妨ゲナシ、御ノ條ヲ見ヨ〕 ミ。オン。オ。御。物事ニ冠ラセテ、敬ヒテ云ヒ、丁寧ニ云フ語。 辨内侍日記「御所モ、二位殿抱キ參リテ」 義經記、二、伊勢三郎初めて義經の臣下になる事「御酒ススメ奉レドモ、少シモキコシ召シ給ハズ」 太平記、五、大塔宮熊野落事「北野天神ノ御神體ヲ、金銅ニテ鑄進ニタル」「御覽」「御用」「御論」「御門」「御近處」「御返事」「御挨拶」

ゴア (名) 臥亞 〔印度ノ地名、(Goa.)〕 阿蘭陀人ノ舶來セル、一種ノ織物ノ名。 倭訓栞「ごは、織物ニ名ヅク、阿蘭陀ヨリ來ル」

ご-あく (名) 五惡 〔五戒ニ對ス〕 佛敎ニテ、五ツノ惡事、卽チ、殺生、偸盜、邪婬、妄語、飮酒、コレナリ。

こ-あげ (名) 小揚 船荷ヲ陸揚スルヲ業トスル人夫。江戸、藏前ノ幕府ノ米藏ニ附屬スル小揚、二百人アリキ、沖ノ親船ヨリ、米俵ヲ傳馬船ニテ運漕シテ、米藏ノ河岸ニ積ムヲ、外小揚ト云ヒキ。(コレガ、大揚ナルベシ) 其河岸ヨリ、藏ノ内ヘ運ビ込ム、コレヲ、小揚ト云ヒシナリ。 吏徵、下、御目見以下「淺草御藏小揚之者、云云」 吏徵、附錄、郡職、二條、云云、御藏小揚之者、三十五人」

こ-あざ (名) 小字 字ノ條ヲ見ヨ。

こ-あどの (名) 小安殿 やすみどのノ條ヲ見ヨ。

こ-あは (名) 小粟 あは(粟)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こ-あふひ (名) 小葵 ぜにあふひニ同ジ。

こ-あへ (名) 子鑒 さなますヲ見ヨ。

こ-あゆ (名) 小鮎 〔あゆこノ條ヲ見ヨ〕 アユコ。鮎ノ子。ワカアユ。 江家次第、六、幼主、二孟旬「氷魚、若、夏以ニ小鮎ニ替レ之」 萬葉集、

十九、長歌「[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]サバシリ」[illegible]「小鮎サバシル小瀬ニ」

こい （名） 棘 〔棘ゆノ名詞形〕 棘ユルコト。コユルコト。 [illegible]

こい （名） 肥 〔こえノ轉、榮螺、さざい〕 依怙地、いこぢ〕 こえニ同ジ。肥料。「畑ノこい（こえ）取リ」

こい （名） 古意 イニシヘブリ。古代ノ意向。（詩歌、文章ナドニ） [illegible] アリ」

こい （名） 故意 コトサラニ、思ヒタクミムコトトリボトスルコト。有意。 [illegible]

こ・い （動） 棘 こゆ（棘）ノ條ヲ見ヨ。「こいタル處」

こい （動） 來 來ノ命令形ナル、こよノ轉。こいよトモ云フ。キタレ。地方ニ因リテハ、こうト云フ所アリ。

こ・い （形） 濃 〔こし、こきノ音便〕 濃シノ口語。「濃い墨」「濃い茶」

ごい （名） 五衣 イツツギヌ。

ごい （名） 五噫 ごいのうたノ條ヲ見ヨ。

ごい （名） 唔咿・吾伊 いご（咿唔）ニ同ジ。

ごい （名） 語意 コトバノココロ。言語ノ意味。 [illegible]「語意」「語義、相同ジ」

こ・いう （名） 固有 （一）モトヨリ、アルコト。天然ニ、所有スルコト。孟子、盡心、下 [illegible] 子也[illegible]（二）其物事ニ限リテ、有テルコト。モチマヘ。特有。本色「固有名詞」

こいう （名） 故友 フルキトモダチ。故舊。[illegible]

ごいう （名） 嬉遊 [illegible]ト、遊戯ト。タノシミ、アソブコト。 [illegible]

こいうめいし （名） 固有名詞 名詞ノ條ヲ見ヨ。

こいき （名） 小意氣 〔こハ、接頭語、其意キト云フニ同ジ、其條ノ（三）ヲ見ヨ〕 [illegible] ノ無イ、小いき過ギタ、且那振ッタ顔附ハ、[illegible]ヤ」「小意氣ナ形姿」

ごいし （名） 碁石 碁ヲ打ツニ用キル石。小サク、扁ク、圓クシテ、黒ト、白トアリ、昔ハ、自然ノ石ヲ用キタリ、今ハ、白キハ、朝鮮蛤ノ殻ニテ造ル、（白蜃）黒キハ、那智黒ニテ造ル、（玄石）各、百七十箇ヲ用キル、 碁子 [illegible]「碁子、各一百七十枚」 [illegible] ノ答志ト申ス島ニハ、ごいしノしろノ限リ侍ル濱ニテ、云云、向ヒテ、すが島ト申スハ、くろノ限リ侍ル也」 日本風土記（全浙兵制）五「圍碁子、非造成者、[illegible] 白子、出于三大隅山海傍ニ 昔ハ、尊長、黒石ヲ取リタレド、後世ハ、優者、白石ヲ取ルコトトナレリ。 江家次第、五、列見「數ニ莪枰[illegible]」 [illegible]

ごいし （名） 御倚子 倚子ノ條ヲ見ヨ。

ごいしがひ （名） 碁石貝 〔碁ノ白石ニ作ル故ニ、名ツク〕 てうせんはまぐりニ同ジ。

ごいしげ （名） 碁石笥 〔笥ノ條ヲ見ヨ〕 碁石ヲ入レ置ク器。今云フ、碁笥。 [illegible] セタマヒケル、ごいしげノ蓋ニ「斧ノ柄ノ、朽チムモ知ラズ、君ガ代ノ、盡キム限リハ、打チ、こミヨ」

ごいしはまぐり （名） 碁石蛤 〔碁ノ白石ニ作ル〕 こうせんはまぐりニ同ジ。

ごいしまめ （名） 碁石豆 〔形、碁ノ黒石ノ如シ〕 黒大豆ノ一種。形、大キク扁クシテ、色、黒キモノ。零烏豆

こいしめ （名） 小以締 次條ヲ見ヨ。

こいたか （名） 小以高 〔以上締高ノ、小ナルモノ、小以締モ、同ジ〕 計算ニ云フ語、小部分ヲ合計スルコト。今、小計ト云フ。又、小以締。 地方凡例錄、一「小以高[illegible]」 [illegible] ヲ、こいしめト云フ」

こいたじき （名） 小板敷 禁中、殿上間ノ南面ノ小庭ヨリ、殿ニ昇ル處ノ板敷ノ稱。藏人、職事ノ祗候スル處ナリ。 江家次第、八、乞巧奠「行事藏人、[illegible] [illegible] 小板敷」 名目抄「清涼殿、小板敷」

こいただきもち （名） 子戴餅 〔こハ、粉カト云フ〕 産婦ノ、七夜ニ祝フ、五色ノ餅。 [illegible]

こいち （名） 魚ノ名。くちニ似テ、鱗、大キク、口、更ニ長シ、大キサ、五六寸ヨリ、尺ニ至ル、秋ヲ時トス。 [illegible]

こいち （名） 小一 東京ノ芝居ニテ云フ語、土間ノ條ヲ見ヨ。

こいちゃ （名） 濃茶 〔こきちゃノ音便〕 （一）碾茶ノ一種。氣、淡シ、分量ヲ多クシテ、湯ニ立テテ飲ムモノ。又、其氣ノ、稍、烈シクシテ、分量ヲ少ナクシテ立ツルヲ、薄茶ト云フ、葉ノ製ニ因リテ異ナルナリ。（碾茶、末茶ノ條、見合ハスベシ） 茶家ニテ、濃茶ハ、茶碗一杯ニ立テテ、坐客、數人ノ飲ミマハシトシ、薄茶ハ、立テテ、一杯、一人分トス。（二）染色ノ名、茶色ノ、濃キモノ。コビチャ。

こいちゃぢゃわん （名） 濃茶茶碗 茶家ニテ、濃茶ヲ立ツルタメノ茶碗、製、種種ニテ、特ニ、底深キモノヲ用キル。薄茶ヲ立ツルニハ、底淺キモノヲ用キル、薄茶茶碗ト云フ。 生玉心中（正德、近松作）上「假初ノ薄茶茶碗モ、[illegible]、こいちゃ茶碗屋」

ごいっしん （名） 御一新 一新ノ條ヲ見ヨ。

こいとり （名） 肥取 こえとりノ條ヲ見ヨ。

こいぬ （名） 小犬 狗 犬ノ子。小サキ犬。

こいねずみ （名） 濃鼠 〔こきねずみノ音便〕 染色ノ名、鼠色ノ、濃キモノ。

ごいのうた （名） 五噫之歌 〔噫ハ、嗚呼ニテ、歎ク聲、廣韻「噫、恨聲」集韻「歎聲」〕 支那ノ後漢ノ梁鴻ガ、世事ノ非ナルヲ作リシ歌。常ニ、歎息スル意ニ用

キラル。 後漢書、梁鴻傳「東出レ關過二京師一作二五噫之歌一曰、陟二彼北芒一兮噫、顧二覽帝京一兮噫、宮室崔嵬兮噫、人之劬勞兮噫、遼遼未央兮噫一」吾妻鏡、十四、建久五年八月十九日「安田遠州梟首、昔、爭二彼レ誅一子息義資、收二公所領一之後、頻歎二五噫一、人相談テ曰、來有レ好ン二反逆一、令三反逆二辭一已發覺、云云」

おいはなだ (名) 濃縹 〔おきはなだノ音便〕 はなだ色ノ、濃キモノ。 催馬樂、淺緑「淺緑ヤ、己以波奈太、染メカケタリトモ、見ルマデニ、玉光ル、下光ル、新京、朱雀ノ、垂枝柳」

おいび (名) 小指 〔おゆびノ轉、老ゆらく、おいらく。蚊母樹、いす。鮎、あい〕 おゆびニ同ジ。（東京）

おいふす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 臥 臥ゆノ條ヲ見ヨ。

おいへ (名) 小家 チヒサキ家。 矮屋 枕草子、十、百三十三段「おいへナド云フモノノ、多カリケル所ヲ、今、作ラセタマヘレバ、木立ナドノ、見所アルハ、イマダナシ」

おいまろぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 展轉 臥ゆノ條ヲ見ヨ。

ごいん (名) 五音 （一）音樂ノ上ニテ、宮、商、角、徵、羽、ノ五ツノ音ノ稱。十二律ノ條ヲ見ヨ。 老子、第十二章「五音、令二人耳聾一」孟子、離婁、上篇「師曠之聰、不レ以二六律一不レ能レ正二五音一」 （二）又、五音。舊說ニ、脣音、舌音、牙音、齒音、喉音、ノ五ツ。其別ノ歌「あわや喉、たらなだ舌ニ、か牙さ齒音、はまノ二ツハ、脣ノ輕重」 脣內音、舌內音、喉內音ト云フ語モ、同ジ。 遍歩色葉集「五音、脣舌牙齒喉、宮商角徵羽」 （三）五十音圖ノ、毎行ノ五ツノ音。五音。 名目抄、序「或有二連聲之相呼一、或有二五音之相通一」

こいんじゅ (名) 胡飲酒 こんじゅノ條ヲ見ヨ。

おいも (名) 子芋 いものおニ同ジ、さといもノ條ヲ見ヨ。

おいよ (動) 來 さよ、おい（來）ヲ見ヨ。

ごいり (名) 後入 ノチイリ。ちゃのゆノ條ヲ見ヨ。

こう (名) 公 （一）偏頗ナキコト。オホヤケナルコト。（私ニ對ス） 書經、周官篇「以レ公滅レ私、民其允懷」 （二）ヤクショ。官府。オホヤケ。 詩經、召南、羔羊篇「委蛇委蛇、自レ公退食」 （三）公共。共同。共有。一般。 （四）五等爵ノ第一位。公侯伯子男ノ條ヲ見ヨ。 孝經、孝治篇「公侯伯子男」 （五）宰相、大臣ノ尊稱。「三公」公卿」 （六）汎ク、貴人ノ尊稱。キミ。

こう (名) 工 （一）シゴト。物ヲ、造ルコト。建築ナドニ云フ。 「五月吉辰起レ工」工事」土工」 （二）タクミ。物ヲ造ルヲ業トスル者。工人。 論語、衞靈公篇「工欲レ善二其事一、必先利二其器一、居二是邦一也、事二其大夫之賢者一、友二其士之仁者一」 禮記、曲禮、下篇「天子之六工、曰、土工、金工、石工、木工、獸工、草工」「士、農、工、商」

こう (名) 紅 ベニイロ。クレナヰ。（染色ナドニ云フ） 李商隱雜纂、惡想「夏月見二紅似レ熱」「紅染メ」紅裏」紅、一點」

こう (名) 功 （一）イサヲ。イタヅキ。功。テガラ。ハタラキ。 書經、旅獒篇「爲レ山九仞、功虧二一簣一」 老子、第九章「功成、名遂、身退、天之道」 榮花物語、十七、音樂「功ヲウタヒ、德ヲ舞フ」「功ヲ立ツ」勞シテ、功ナシ」 （二）クウヅキタルコト。年ノ功ノ、積リタルコト。 狹衣、二、下五十六「三昧堂ノ方ニ、千手經ヲゾ、イミジクこう入リタル聲ノ、尊キニテ誦ムナル」（千手陀羅尼經ナリ） （三）金鵄勳章（其條ヲ見ヨ）ノ等級ニ冠ラセ稱スル語。「功一級」功五級」

こう (名) 后 〔禮記、曲禮、下篇「天子有レ后」疏「后、後也、言下其後二於天子一、亦以二廣ク後胤上一」〕 キサキ。くゎうごう（皇后）ニ同ジ。 禮記、曲禮、下篇「天子之妃曰レ后」 白虎通「商以前、皆曰レ妃、周始立レ后、正嫡曰二王后一、秦漢曰二皇后一」

こう (名) 侯 矦 （一）爵ノ名、其條ヲ見ヨ。 孟子、萬章、下篇「侯一位」 （二）諸侯。大名。 康熙字典「古者以レ射選レ賢、射中者獲二封爵一、故因謂二之諸侯一」

こう (名) 候 氣候、又、時候ノ條ヲ見ヨ。 魏書、律曆志「五日一候」「梅雨ノ候」秋冷ノ候」

こう (名) 薨 こうず（薨）ノ條ヲ見ヨ。

こう (名) 講 〔講會ナド云フガ、成語ナルベシ、講ハ、漢音、かう、吳音、こう〕 （一）佛教講義ノ會。 伊勢物語、七十七段「失セタマヒテ、安祥寺ニテ、御佛事シケリ、云云、こうノ終ハルホドニ」 後拾遺集、廿、釋教「故土御門右大臣ノ家ノ女房、車、三ニ相乘リテ、菩提講ニ參リテ」 續詞花集（二條院ノ頃）十九、連歌「前中宮執後、阿彌陀講、行ヒケルニ」 儒教ニモ移ル。 日次記、四十四、久安六年五月廿四日「孔子講、云云、祭禮、云云」 （二）信者ノ、佛閣參詣ナドノ組合、奉加、寄進ナドヲモス。主タル人ヲ、講元ト云ヒ、コレニ加ハレル人人ヲ、講中ト云フ。結社。「講ヲ立テル」講ヲ結ブ」念佛講」報恩講」木魚講」 神ニモ移リテ、起レリ。 續詞花集、十九、連歌「日吉社ノ禮拜講」 鈴鹿家記（京都吉田神官）永享二年八月「來ル廿八日、伊勢講、私所ニテ仕候」春日講中、皆、大和ヘ參、云云」寬仁元年十二月「春ノ稻荷講ニ、三ケ村衆寄合被レ申候」 （三）諸人、遊樂ノ寄合。 梅窓筆記、上「惡比須講」 俳諧うたたね、寬永、「將棊講、庭ノ下駄マデ、駒ノ爪」 （柳亭筆記、二）「無禮講」汁講」

こう (名) 鴻 オホカリ。ヒシクヒ。 易經、下經、漸卦「鴻漸二于陸一、其羽可レ用爲レ儀」

こう (名) 鉤 こ（鉤）ノ條ヲ見ヨ。

こう (名) 勾 鈎 數學ニ云フ語。股ノ條ヲ見ヨ。

こう (代) 公 對稱ノ代名詞、貴人ニ用ヰ、又、他ノ尊稱ニ用ヰル。キミ。「貴公」尊公」八公」熊公」

おう (動) 來 おい（來）ノ條ヲ見ヨ。

こう (接尾) 口 （一）人數ヲ數フルニ云フ語。口。人。（口ノ條ヲ見ヨ） 孟子、盡心、上篇「八口之家、可二以無一レ飢」 太平記、三十六、天王寺造營事「伴僧二十口」 （二）器具ヲ數フルニ用ヰル語。 臨時祭式「金銀裝橫刀一口」金作鈴四口」鐵四口」缶四口」甕五口」坏二百口」

こう (接尾) 喉 〔喉ニテ數ヘ、尾ニテ數フ、こト云フハ、約メテ云フナリ、鈎、こ。籐、と〕 魚ヲ數フルニ云フ語。又、こ。尾。 著聞集、廿、魚蟲禽獸「網魚、三喉、引キ出シ、云云、二喉ヲバ、忠盛朝臣ノ許ヘ持テユキ、一喉ヲ、舘人ニカヘシテケレバ、云云」 下學集、下、數量門「一喉、魚之數也」雜喉」

こうあん (名) 苟安 カリソメノ安堵。暫時ノ安樂。 後漢書、西羌傳、論「朝議、憚二兵力之損一、情存二苟安一」「苟安ヲ偸ム」

こうあん (名) 公安 公共ノ安全。「公安ヲ保ツ」公安ヲ害ス」

こうあん (名) 公案 禪家ノ用語。高僧ガ、史中ヨリ、宗旨ノ本色ヲアラハシテ、依標トスルニ足ル語ヲ、弟子ニ、悟道上ノ問題トシテ示スモノ、碧巖集ニ、古則、又ハ、本則ト云ヘル、是レナリ。 禪宗無門關、序「遂將二古人公案一作二敲レ門瓦子一、隨レ機導二引學者一」 中峯廣錄、十一、上、山房夜話「公案、乃喩二乎公府之案牘一也、云云、公者、乃聖賢一二其轍一、天下同二其途一之至理也、案者、乃記二聖賢爲レ理之正文一也」

こうあん (名) 後案 未後ノ案。後リノ案。[illegible]

こうい (名) 厚意 アツキ、ココロザシ。[illegible]

こうい (名) 鴻儀 [康熙字典「鴻、通作レ洪、大也」] 鴻儀、鴻徳、又、鴻啚、大イニ、[illegible]コト。[illegible]

こうい (名) 口遊 [口遊ノ字ノ音讀] クチアソビ。クチズサミ。

こうゆう (名) 公有 所有權ガ、公共團體ニ屬シテアルコト。(官有、私有、ニ對ス)「公有地」公有財産」

こういってん (名) 紅一點 青葉ノ中ニ、一輪ノ紅花ノ咲ケルコト。常ニ、多クノ拙劣ナル物ノ中ニ、一ツ、優レタル物アルニ喩ヘテ云フ。[illegible]

こういん (名) 後胤 ウミノコ。ハツコ。數代ノ後ノ子。子孫。又、後裔。[illegible]

こういん (名) 勾引 [引きかけ入るる意] ヒトカドヒ。カドハカシ。

こういん (名) 拘引 勾引 礼問スベキコトアリテ、人ヲ、警察、裁判ノ手ヘ召連ルルコト。[illegible]

こうう (名) 紅雨 (一)紅ナル花ニソソグ雨。[illegible] (二)飛ビ散ル、紅ナル花。[illegible]

こううら (名) 紅裏 [紅裏ノ字ノ湯桶讀] ウチアカ。紅裏ノ小袖。江戸時代ニテハ、武家ノ老人、醫師、茶坊主ナド、特ニ、公ニ許ヲ得テ着ルモノトシタリ。

こうえい (名) 後榮 ノチノサカエ。後日ニ傳フル榮譽。[illegible]モ既ニ致仕ニ餘レバ身ノイクバク後榮ヲカ期セン」

こうえい (名) 後裔 [說文「裔、衣裾也」] 後胤ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

こうえき (名) 公益 [私益ニ對ス] 世上一統ノ利益。

こうえき (名) 鴻益 大ナル利益。大イナルマウケ。

こうえふ (名) 後葉 ノチノヨ。後世。後代。[illegible]

こうえふ (名) 紅葉 モミヂ。[illegible]

こうえふどうふ (名) 紅葉豆腐 往時、和泉國、堺津ノ名物ノ豆腐、上ニ、紅葉ヲ印セリ。江戸ニテモ、然リシナリ、コレニ因メルナリト云フ。[illegible]

こうえん (名) 口演 口述ノ條ヲ見ヨ。

こうえん (名) 枸櫞 カフチ。マルブシカン。[illegible]

こうえん (名) 後援 [援ハ正音ゑん、] (一)後詰ノ援兵。[illegible] (二)ウシロミ。ウシロダテ。[illegible]

こうえん (名) 紅焰 クレナヰノホノホ。[illegible]

こうお (名) 紅於 [杜牧詩、霜葉紅ニ於二月花一ノ歌後ノ語ナリ、けつごノ條ヲ見ヨ] 紅葉ノ異名。

こうおん (名) 厚恩 アツキメグミ。[illegible]モ、日ニソヒ、落失テ」

こうおん (名) 洪恩 鴻恩 [洪ハ、大ナリ] 大イナルメグミ。大恩。[illegible]「奉公ニ忠勤ヲ致セバ、官祿ニ洪恩アリ」

こうおん (名) 喉音 (一)五音ノ條ヲ見ヨ。(二)西洋ノ聲音ノ學說ニ據レバ、喉ヨリ氣息ヲ出ス時、喉頭ヲ開閉シテ、氣流ヲ摩擦シ、又ハ、破裂セシメテ、發スル音。加行ノ清濁音ナド、是レナリ。

こうおん (名) 後音 後日ノ音信。ノチノタヨリ。[illegible]

こうか (名) 公家 君ノ家。[illegible]

こうか (名) 公暇 私暇ニ對スル官ヨリ、吏員ニ賜ハル休暇。[illegible]

こうか (名) 後架 [禪寺ヨリ出デタル語、禪ニテハ、後架ト讀ムカ、家ノ後ニ架けワタシテ設ケタル洗面所ナリ、其傍ニ便所アリ。後、轉ジテ、厠トナル] (一)小便所。敕修百丈清規、六、日用規範「輕手[illegible]」(二)轉ジテ、便所。大便所。厠。雪隱。

こうが (名) 姮娥 月ノ異名。ぢやうが(嫦娥)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]死之藥于西王母、姮娥竊以奔レ月」

こうかい (名) 公海 りやうかい(領海)ノ條ヲ見ヨ。

こうかい (名) 公開 公衆ニ對シテ、開放スルコト。廣ク一般ノ人ヲシテ、使用シ、見聞セシムルコト。「裁判對審ノ公開」公開演說」公開狀」

こうかい (名) 公廨 [廨ハ、役所ナリ] 公廨。官衙。[illegible]之場ヲ云フ」

こうがい (名) 口蓋 上顎。「軟口蓋」

こうかう (名) 公行 上ニ弘ク、行ハルルコト。人人ノ、顯ニ行フコト。[illegible]

こうがう (名) 口號 クチズサミノ詩歌。[illegible]

こうがう (名) [鴻號] 大イナル名。 韓愈、「臣以致吾君於堯舜之上、鴻號於無窮」

こうかき (名) [紺搔] こんかきノ條ヲ見ヨ。

こうかく (名) [口角] クチワキ。クチノハタ。口角、沫を飛ばすト云フハ、唾ヲ吹キトバスヲ云ヒ、烈シク議論スルナドニ云フ。 李商隱詩「口角流レ沫右手胝」

こうかく (名) [後覺] 先覺ノ條ヲ見ヨ。 孟子、萬章、上篇「天之生二此民一也、使下先知覺中後知上、使下先覺覺中後覺上」

こうがく (名) [溝壑] 溝ト、壑ト。陷リテ死スルコトニ云フ。 孟子、梁惠王、下篇「凶年饑歳、君之民、老弱轉二乎溝壑一」 戰國策、趙策「及レ未レ填二溝壑一而託レ之」 太平記、十一、金剛山寄手等被レ誅事「子ニ後レタル老母ハ、饑、一日ノ餐ヲ求メ餓テ、自、溝壑ニ倒レ伏ス」

こうがく (名) [後學] (一)後進ノ學者。 後漢書、徐防傳「宜下爲二章句一以悟中後學上」 (二)後日ノ心得。 曾我五人兄弟(元祿、近松作)上「是レゾ若君ノ後學、政訓ノ第一ト申スモノ」「後學ノタメニ伺ヒオキタシ」

こうがく (名) [工學] 工業ニ係ル學問。

こうがくし (名) 工學士 學士ノ一。大學ノ工學部本科卒業生ノ稱號。

ごうがしゃ (名) [恆河沙] 〔恆河ハ、天竺ノ大河ノ名、梵語、がんがあ(Gangā)今、がんぢす(Ganges)雪山ニ發源シ、東南流、五百里ニシテ、印度洋ニ入ル、恆河ノ沙、其數、無量ナリ〕 佛經ニ云フ語、數量ノ、無量、無限ナルコト。略シテ、恆沙トモ云フ。 [illegible] 恆河沙」 榮花物語、十五、疑「三歸、五戒ヲ受クル人スラ、三十六部ノ善神、恆河沙眷屬ドモ、護ルモノナリ、況ンヤ眞ノ出家ヲヤナド、アハレニ尊キコト限リナシ」 華嚴經「現在十方佛、其數如二恆河沙一」 宇津保物語、俊蔭「波斯國寶ノ木一寸ヲ持チテ、空シキ土ヲ叩クニ、一萬恆沙ノ寶ヲ出ヅベキ木也」 謠曲、春日龍神「恆沙眷屬、引キ連レ、引キ連レ」

こうがふ (名) [苟合] カリソメニ、同意スルコト。 李康、運命論「凡希世苟合之士、蘧蒢戚施之人」

こうがふ (名) [媾合] ばうじ(房事)ニ同ジ。

こうかん (名) [後勘] 〔後日ノ勘事〕後日ノ譴責。 保元物語、三、新院御遷幸事「安キ御事ニテ候ヘドモ、宣旨ノ刻限、移リ候ヒナバ、後勘如何ト恐レ申シケレバ」

こうかん (名) [後勘] 後來ノ勘考。ノチノカンガヘ。 甲陽軍鑑、一、品第六「五畿内三ツニテアリ、昨日、味方ト思ヘバ、今日ハ敵、或、夫、サスガノ松永彈正モ、後勘ヤ無カリケム、信長公ヲ引キ出ダシ、己ガ敵ヲ、三ケ年ノ間ニ、大方、成敗ス」

こうかん (名) [後鑑] 後來ノ龜鑑。 運歩色葉集「后鑑」

こうかん (名) [槓桿] テコ。梃子。

こうがん (名) [紅顏] クレナヰノカホバセ。少年ノ、ウルハシキ顏色。 劉廷芝、代下悲二白頭一翁上詩「此翁白頭眞可レ憐、伊昔紅顏美少年」 白居易、宮詞「紅顏未レ老恩先斷」 太平記、十一、越中守護名越時有等自害事「上﨟女房、云云、紅顏、翠黛ノ、世ニ類ナキ有樣」

こうがん (名) [厚顏] アツカハ。恥ニ感ゼヌコト。鐵面皮。 詩經、小雅、小旻之什、巧言篇「巧言如レ簧、顏之厚矣」 書經、五子之歌篇「鬱陶乎予心、顏厚有二忸怩一」

こうがん (名) [鴻雁] 〔詩經、鴻鴈篇、毛傳「大曰レ鴻、小曰レ鴈」〕 大雁ト、小雁ト。雁。 禮記、月令篇「季秋之月、鴻雁來賓」 詩經、小雅、彤弓之什、鴻雁篇「鴻雁于飛、肅肅其羽」

こうき (名) [口氣] モノイヒザマ。クチブリ。語氣。「其口氣ヲ察スルニ」

こうき (名) [拘忌] (一)カカハルコト。忌ミ、憚ルコト。 元結、夜宴二石魚湖一詩「坐無二拘忌人一、勿レ限二醉與レ醒一」 (二)物忌。ゴヘイカツギ。 唐書、食貨志「文宗曰、苟利レ于レ人、陰陽拘忌、非レ朕所レ顧也」

こうき (名) [後記] 後後ノ記錄。 謠曲、八島「惜シムハ名ノタメ、惜シマヌハ一命ナレバ、身ヲ捨テテコソ、後記ニモ佳名ヲトドムベキ、弓筆ノ跡ナルベケレ」

こうき (名) [後期] 前期ノ條ヲ見ヨ。

こうき (名) [弘毅] 〔弘ハ、爾雅、釋詁篇「大也」毅ハ、正韻「剛也」〕 心、大ニシテ、志、剛キコト。 論語、泰伯篇「士不レ可三以不二弘毅一、任重而道遠」

こうき (名) [興起] オコリ、タツコト。奮ヒ起ルコト。 孟子、盡心、下篇「百世之下、聞者、莫レ不二興起一也」「感奮興起ス」

こうぎ (名) [公義] 世上一貫ノ義理。公平ナル義理。世ノ通義。 漢書、匡衡傳「聖人、云云、不下以二私恩一害中公義上」 韓詩外傳「公道達而私門塞、公義立而私事息」

こうぎ (名) [公儀] (一)世間一統ノ儀例。オホヤケザマ。オモテムキ。公界。 太平記、三十九、諸大名讒二道朝一事「是レハ心中ノ憤リニテ、公儀ニ出スベキ咎ニモアラズ」 誰が身の上(明曆)庄屋ノ一人子「内證ニテ、我ガ内ヨリ外ヲ知ラザレバ、イカニシテ、人ヅキアヒヲモサセ、公儀ヲモ見習ハシタク思ヘドモ」 (二)オホヤケ。公方。公家、朝家、ノ稱。 開成書、凡、重代軍、皆是王民也、保元平治以來、[illegible]云云 然而[illegible]時[illegible]等、[illegible]分存二公儀一不[illegible]諸[illegible]（北畠親房ガ、結城親朝ニ與ヘタル書ト云フモノ） (三)移リテ、幕府、將軍ノ稱。公方(公家、朝家)ノ、幕府將軍ノ稱トナレルト、同ジ。公方ノ(二)ヲ見ヨ。 太平記、三十四、畠山道誓上洛事「左馬頭(足利義詮)、云云、南方ノ敵陣ヘ發向スベシトゾ宣ヒケル、畠山入道ハ、元來、上ニ公儀ヲ借リテ、下ニ私ノ權威ヲ貪ラムト思ヘル心アリケレバ、先ヅ、大名ドモノ許ニ行向ヒ、云云、大名、小名、一人モ殘ラズ、皆、催促ニゾ從ヒケル」

こうぎ (名) [公議] 世上公衆ノ議論。公平ナル議論。 唐書、[illegible]宗皇后武氏傳「后柔屈不レ恥、以就二大事一、帝謂二能奉レ己、故排二公議一立レ之」 太平記、十四、尊氏直義奏狀事「尊氏好假二宿意於公議外一、[illegible]於國朝中一」

こうぎ (名) [厚誼] 〔かうぎ(交誼)ノ語原ヲ見ヨ〕アツキ交誼。「厚誼ヲ辱クス」

こうきう (名) [購求] アガナヒ、モトムルコト。買ヒ入ルルコト。購入。購買。 漢書、張安世傳「後購求得レ書、以相校、無レ所二遺失一」

こうきう (名) [攻究] 〔類篇「攻、治也」論語、爲政篇「攻二乎異端一、斯害也已」朱註「攻、專治也」〕 修メ、究ムルコト。研究。考究。「學術ヲ攻究ス」

こうきう (名) [恆久] 永久ニ同ジ。 易經、上、象傳、恆卦「天地之道、恆久而不レ已也」

こうきでん (名) [弘徽殿] こきでんノ條ヲ見ヨ。

こうきふ (名) [口給] 〔集韻「給、極業切、音劫、敏言也」〕 口合ヨク、言ヒマハスコト。口辯。 論語、公冶長篇「禦レ人以二口給一、屢憎二於人一」何晏註「佞人、口辭捷給」

こうきん (名) 公金 官府、又ハ、公共團體ノ所有ニ屬スル金錢。「公金費消ノ罪」

こうきん (名) [拘禁] 拘束シ、監禁スル

コト。一[illegible]

こうきん (名) 口吟 クチズサミ。口號。[illegible]

こうぎゃう (名) 興行 (一)オコシ、オコナフコト。オシヒロムルコト。張行。[illegible]十四、[illegible]大將陣門始出仕、和歌興行、遊也」太平記、廿四、依二山門[illegible]公卿[illegible]頃年、[illegible]行[illegible]世、[illegible]不[illegible]思之」(二)觀客ヲ集メ、能、角力、芝居ナド、行フコト。[illegible]追相撲ヲ興行ス」

こうきゅう (名) 後宮 「天子ノ居ナル、前殿ノ後ニアリ」ウチノミヤ。宮中奥向ノ殿舍。后、妃、女官、等ノ住居セラルル處。掖庭。椒房。[illegible]十二、大内裏造營事「三十六ノ後宮ニハ、三千ノ淑女[illegible]

こうきょ (名) 公許 政府ノ免許。官許。

こうきょ (名) 溝渠 ミゾ。上水、下水ニ[illegible]溝渠ヲ築クト云フハ、隔心ヲ生ズルヲ云フ

こうきょ (名) 貢擧 古ヘ登庸ノ試ハ、其國學ヨリスルモノハ、式部省ニ申送シテ、得業ノモノハ、之レヲ大學生ニ補シ、大學ヨリスルモノハ、寮、又ハ、式部省ニテ、其所定ノ試験ヲ行ヒテ、及第セシモノハ、仕途ニ就クコトヲ得、其受験ノ選ニ當リシモノヲ、貢人、擧人、等ト云ヒ、貢人ヲ薦擧スルヲ、貢擧ト云フ [illegible]關ニ才之高下、人之勞逸ニ」 桂林遺芳抄「家記云、貢[illegible]

[illegible]

こうきょ (名) 薨去 薨ズノ條ヲ見ヨ。

こうきょ (名) 薨御 薨ズノ條ヲ見ヨ。

こうぎょ (名) 控御 〔詩經、鄭風、大叔于田篇、毛傳「止レ馬曰レ控」說文「御、使レ馬也」〕馬ヲ、乘リマハスコト。駕御。轉ジテ、人ヲ、我ガ思フママニ制シ治ムルニモ云フ。[illegible]控御ニ」[illegible]控御ノ者」

こうきょう (名) 口供 クチガキ。供述。[illegible]狀、是反是數ニ」

こうきょう (名) 公共 公衆ト、共共ナルコト。史記、張釋之傳「法者、天子所下與二天下一公共上也」、公共ノ利益。公共組合。公共事業」

こうきょうだんたい (名) 公共團體 國家ガ、其政務ノ一部ヲ委任シ、國家ニ對シテ、其事務ヲ處理スル義務ヲ負ハシメタル、公法上ノ法人。府、縣、郡、市、町、村、ノ如キ地方自治體、及、水利組合、土功組合ノ如キ、國家ガ創設シタル法人モ、コレナリ。

こうきょく (名) 溝洫 ミゾ。ドブ。溝渠。[illegible]

こうぎょく (名) 紅玉 (一)寶石ノ名。鋼玉ノ、色ノ、純紅ナルモノ。ルビイ。(二)婦人ノ血色ノ、紅ヲ帶ビテ、艶ナル狀ヲ云フ語。西京雜記[illegible]太平記、六、民部卿三位局御夢想事「香餘ノ髮珠ニシテ、云云、紅玉ノ膚濃テ、今日ヲ限ノ命トモガナト思召ケル」

こうぎょく (名) 攻玉 〔攻ハ、磨也〕玉ヲ磨キテ、ヨクスルコト。詩經、小雅、鶴鳴之什「他山之石、可三以攻二玉」」

こうぐう (名) 后宮 くゎうごう(皇后)ニ同ジ。年中行事秘抄、三月「后宮御[illegible]」

こうぐう (名) 厚遇 手厚ク、アヘシラフコト。重ク、取扱フコト。優待。史記、高祖紀、張耳來見、漢王厚二遇之二

こうくん (名) 紅裙 (一)紅ノ裙。女ノ服ニ云フ。杜甫詩[illegible](二)藝妓ノ異名。服裝ヨリシテ云フ。[illegible]能醉二紅裙二」

こうくゎ (名) 工科 工學ノ學科。

こうくゎ (名) 紅花 (一)紅ノ色シタル花。[illegible](二)べにばなヲ、藥用トスル稱。宋史、地理志「興元府、貢二臙脂紅花二」

こうくゎ (名) 功過 功ト、過ト。功罪。唐書、百官志[illegible]功過狀、以[illegible]功過相償フ」

こうくゎ (名) 篝火 カガリビ。カガリ。[illegible]篝火[illegible]

こうくゎ (名) 公課 公法上ノ賦課。

こうくゎい (名) 公會 公衆ノ集會。隋書、[illegible]世基傳「[illegible]公會ハ一見而[illegible]之」[illegible]服二」

こうくゎい (名) 後悔 事ヲ違ヘテ、後ニ悔ユルコト。先非ヲ、惡シト覺ユルコト。[illegible]後悔雖レ追」保元物語、一、新院御謀反事「御勘當ヲ蒙ル時、道理ヲ立テ申セバ、御氣色ト思召テ、罪ナケレバ、御後悔アリキ」「後悔、先ニ立タズ」

こうぐゎい (名) 口外 クチノホカ。言葉ニ、言ヒモラスコト。吾妻鏡、一、治承四年八月六日[illegible]口外[illegible]之由、[illegible]「堅ク、口外ヲ禁ズ」

こうくゎいだう (名) 公會堂 衆人ノ公會ニ設ケタル建物。

こうくゎう (名) 鴻荒 〔史記、夏紀「鴻水滔レ天」索隱「鴻、大也」廣雅、釋詁篇「荒、遠也」〕オホムカシ。太古。鴻古。[illegible]「鴻荒ノ世」

こうくゎん (名) 後患 ノチノウレヘ。後日ノ心配。後後ノ禍。孟子[illegible]人之不善、當下如二後患一何上」詩經、周頌、閔予小子之什、小毖篇「予其懲、而毖二後患二」「後患ヲ顧ミズ」

ごうけ (名) 江家 〔江ノ呉音、ごう〕大江氏ノ家系。くゎんけ(菅家)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こうけい (名) 公卿 くぎゃう(公卿)ノ條ヲ見ヨ。論語、子罕篇「出則事二公卿一入則事二父兄二」

こうけい (名) 口徑 口ノ、サシワタシ。[illegible]「口徑三十糎ノ大砲」

こうけい (名) 紅閨 婦人ノ閨ヲ美稱スル語。[illegible]詩「君不レ見、紅閨少女端正時」[illegible]三十八、平家公達最後事「翠帳紅閨、萬事ノ

獨法引替テ、船中波ノ上、一生ノ恙、喉ン方コソ無リケレ」

こうけい (名) 【後繼】 (一)アトツギ。後嗣。唐書、裴公南傳「再娶ニ後繼ニ」 (二)アトヨリ、ツヅクコト。後詰。後續。三國志、魏志、毌丘儉傳「爲ニ大軍後繼ニ」

こうけい (名) 【肯綮】 〔肯ハ、着くナリ、綮ハ、筋ナリ、集韻「肯綮、筋肉結處也」スヂノツケネナリ〕 事ノ、要ナルトコロ。ツボシ。莊子、養生主篇「解ニ牛之時、云云、技經ニ肯綮ニ」註、「綮、骨肉也、肯著也」「說ク所、肯綮ニ中ル」

こうげい (名) 【工藝】 工業ノ、美術ニ成ルモノ。彫物、金物、鑄物、燒物、塗物、織物、染物、縫物、其外、スベテノ細工物ニ就キテ云フ。唐書、閻立德傳「父毗爲ニ隋殿內少監ニ、本以ニ工藝ニ進、故立德與ニ弟立本ハ皆機巧有ν思」

こうけい (名) 【虹霓】 〔霓モ、虹ナリ〕 ヌジ。ニジ。春秋元命苞「虹霓者、陰陽之精、陰陽交爲ニ虹霓ニ」註「雄、赤白色謂ニ之虹ハ、靑白色謂ニ之霓ニ」

こうけき (名) 攻擊 攻メ、ウツコト。セメカカルコト。責メツクルコト。韓非子、喩老篇「天下無道、攻擊不ν休」史記、南越王尉佗傳「毋ν得ニ擅興ν兵相攻擊ニ」「人身攻擊」

こうけつ (名) 【口訣】 ロヅカラ授クル祕術。口訣。岑參詩「早年好ニ金丹ハ方士傳ニ口訣ニ」

こうげふ (名) 【功業】 イサヲ。テガラ。易經、繫辭、下傳「爻象動ニ乎內ハ吉凶見ニ乎外ハ功業見ニ乎變ハ聖人之情見ニ乎辭ニ」

こうげふ (名) 工業 工作ニ係ル事業。天產物、粗製品ニ加工シ、形ヲ種種ニ作リカヘテ、有用ノ物トスルコト。

こうげふ (名) 【鴻業】 大業ニ同ジ。(帝王ノ事ニ云フ) 後漢書、皇帝紀「皇帝紹ν祚、承ニ洪鴻業ニ」晉書、何充傳「康帝曰、朕嗣ニ鴻業ニ、君之力也」

こうげふ (名) 【興業】 事業ヲ、創メオコスコト。特ニ、殖產、經濟ニ關スル事業ヲ起スコト。史記、太史公自序「孔子述ν文、弟子興ν業」

こうげふぎんかう (名) 興業銀行 專ラ企業ノ興業ニ、資本ヲ貸シツクル銀行。

こうけん (名) 【後見】 〔後見ノ字ノ音讀〕 (一)うしろみノ條ヲ見ヨ。(二)政事ノ輔佐。鎌倉幕府ノ執權ヲ稱セリ、室町幕府ノ管領ヲモ云ヘリ。將軍次第「右大臣源朝臣實朝公、治十七年、後見、時政、後、義時ニ北條氏」 (三)江戶幕府時代ニテハ、戶主ノ、幼年者、又ハ、女子ナル時、別ニ、男子ヲ後見トシテ、之レニ家事ヲ託ス、其後見ハ、親族、又ハ、家臣ヨリ擇ビタリ。明良洪範(寶永)廿一「備前新太郎少將ハ、幼少ニテ家ヲ繼ギシカバ、云云、宮內少輔忠雄、後見セラレ、云云」泰平年表、有德公、享保元年四月廿九日、有章院殿薨去、是日、二丸ヘ入御、御遺言トシテ、御後見ニ(將軍家宣ノ遺言、其子、將軍家繼、八歲ニテ薨去) 德川禁令考、十四、後見「宰相樣、御若年被ν成ニ御座ニ候間、御政事向之儀、當分之內、田安中納言殿、御後見」ニ(將軍家茂十四歲、田安慶賴) (四)明治以後ハ、禁治產者、又ハ、戶主ノ未成年者ナドヲ監督シ、敎育シ、其財產ヲ管理シ、其法律行爲ヲ代表スル職務。(五)能、芝居、舞踊、ナドニ、演技者ノ後ニ控ヘ居テ、演技ニ就キテ、諸事ヲ補助スル者。

こうけん (名) 【貢獻】 (一)貢物ヲ奉ルコト。左傳、昭公十三年「貢獻無ν極、亡可ν待也」職員令「內藏寮、頭一人、掌ニ諸蕃貢獻物等ニ」(令文) (二)心力ヲ盡シテ、其事ノ利益ヲ謀ルコト。「斯道ニ貢獻ス」

こうけん (名) 【公權】 〔私權ニ對ス〕 一箇人ノ有テル、公法上ノ權利。所有、居住、信敎、官吏トナル、兵籍ニ入ル、議員ノ選擧、被選擧、等、其外、種種ナル資格ニ就キテ云フ。刑ニ觸ルレバ、剝奪、又ハ、停止セラルルコトアリ。「公權剝奪」

こうげん (名) 【公言】 公ニ、言ヒフラスコト。史記、孝文本紀「所ν言公、公言之、所ν言私、王者不ν受ν私」「公言ヲ憚ル」

こうげん (名) 【後言】 シリウゴト。アトウガタリ。カゲゴト。カゲグチ。書經、益稷篇「汝無ニ面從ハ退有ニ後言ニ」

こうこ (名) 【後顧】 後ヲ、カヘリミルコト。ウシロメタキコト。後ヲ、氣ヅカフコト。顧慮。元稹詩「後顧當ν陰高樹枝」魏書、李沖傳「無ニ後顧之憂ニ」

こうこ (名) 工賈 工匠ト、商賈ト。工商。左傳、昭公廿六年「民不ν遷、農不ν移、工賈不ν變」

こうご (名) 【箜篌】 箜篌ヲ見ヨ。

こうご (名) 【口語】 ハナシコトバ。口ニ言フ言葉。(文章言葉、文語ニ對ス)

ごうこ (名) 【江湖】 〔かうこ(江湖)ノ條ヲ見ヨ(江、呉音、ごう)四方ヲ行脚スル意ナルベシ〕 禪宗、曹洞宗ニテ、雲水ヲ云フ。雲水僧ヲ、江湖僧ト云ヒ、其僧ドモノ、一堂ニ會シテ、坐禪修行スルヲ、江湖會ト云フ、他宗ニテ云フ、安居ナリトゾ。甲陽軍鑑、一、品第四「曹洞宗大益ト云フ僧ノ、江湖首ニテ、云云、信州、岩村田ニテ、千人ノ江湖アリテ、會上ノ執リ行ヒ、凡ソ日本國中ニテハ、例稀ナラズト云フコトナシ、扨又、甲州ニテ、云云、惠林寺、云云、常法堂ニ、學問僧七十人アマリアリ、學問僧ヲ、洞家ニテハ、江湖僧ト云フ」

こうこう (名) 【鴻溝】 〔唐韻「溝、古侯切」鴻溝ハ、地名、今ノ支那ノ河南省、開封縣ニアル賈魯河ナリ、史記ノ項羽紀ニ、項羽ト、漢高祖ト、此地ヲ以テ、領地ノ界トセシコトヲ記セリ〕 境界。ヘダテ。段克己詩「中分不ν若ν割ニ鴻溝ニ」

こうこう (名) 【口腔】 醫ノ語。口ノ內。

こうこう (感) 〔きつ(狐)ノ條ヲ見ヨ〕 狐ノ鳴聲ニ云フ語。クヮイクヮイ。コンコン。散木集、十、連歌「ワヅカニ狐、坂ニ來タレリ」こうこうト云ヒケルシルベ、走ラセテ」今昔物語、廿七、三十九語「其妻、忽ニ狐ニ成リテ、戶ノ開キタリケルヨリ、大路ニ走リ出デ、こうこうト鳴キテ、逃ゲ去リニケリ」同卷、四十語「獨リ立チテ、狐狐ト呼ビケレバ、こうこうト鳴キテ、出デ來ニケリ」

こうごう (名) 【箜篌】 箜篌ノ條ヲ見ヨ。

こうこう (感) 〔くづち(鼾)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)高鼾ノ聲ニ云フ語。グゥグゥ。韻草、五「齁、ゴウゴウ、寢テ、鼻息ノ高キヲ云フ」蘇軾詩「鼻息齁齁自成ν曲」 (二)又、地鳴ノ音、遠波ノ音ナドニ云フ語。

こうこうぜん (副) 【公公然】 公然ノ條ヲ見ヨ。

こうこうはくしだん (名) 【公侯伯子男】 古ヘ、支那、三代(夏、殷、周)ノ諸侯ノ階級ノ名稱。(漢以後ニハ、公ノ上ニ、王爵ヲ設ケ、伯子男ヲ廢シ、王、公、侯、ノ三等トス) 現今、我國ニ於イテ、爵位ト云ヒテ、之レヲ採用セリ。孝經、孝治章「子曰、昔者明王之以ν孝治ニ天下ニ也、不ニ敢遺ニ小國之臣ハ而況於ニ公侯伯子男ニ乎」

こうこく (名) 公告 公法上ニ、或事件ヲ、公衆ニ告ゲ示スコト。くゎうこく(廣告)ト對照セヨ。「特許登記ノ公告」

こうこく (名) 【鴻鵠】 鴻ト、鵠ト。史記、

[illegible]鴻鵠ハ、大鳥ナリ、燕雀ハ小鳥ナリ、燕雀安ンゾ鴻鵠ノ志ヲ知ランヤト云フハ、小人ハ、英雄ノ志ヲ知リ得ベキヤト云フナリ。史記、陳渉世家「[illegible]嗟乎、燕雀安知鴻鵠之志哉」

こうこく (名) 興國 國威ヲ、振興セシムルコト。又、勃興セル國。五代史、伶官傳「憂勞可以興國、逸豫可以亡身」

こうこげん (名) 勾股弦 [曲尺ノ曲レル長キ方ヲ股ト云ヒ、短キ方ヲ勾ト云フ、股ノ條ヲ見ヨ] 古キ數學ノ語。曲尺ノ曲レル長キ方ノ端ヨリ、短キ方ノ端ヘ、弓弦ヲ張ル如ク、斜ニ引キタル線ノ距離。[illegible]

ごうこそう (名) 江湖僧 ごうこ(江湖)ノ條ヲ見ヨ。

こうこん (名) 後昆 [爾雅、釋言「昆、後也」] ノチノチ。ノチノヨ。後世。書經、仲虺之誥「垂裕後昆」[illegible]

こうさ (名) 公差 (一)貨幣ノ實質ノ品位、量目ト、法定ノ品位、量目トノ差。我ガ國ノ品位ノ公差ハ、金貨ハ千分ノ一、銀貨ハ千分ノ三ナリ。(二)度量衡ニテ、一定ノ標準ト、實際ノモノトノ差異ヲ、法律ニテ認許シタル範圍。(三)數學ニテ、等差級數ノ、相隣レル二項ノ差ヲ云フ。

こうざ (名) 口座 クチザ、簿記ニテ、原

簿ニ、各勘定每ニ、口別ニシタル區分。

こうさい (名) 口才 物言フニ、賢シキコト。辯口ノ、上手ナルコト。孔子家語「[illegible]」

こうさい (名) 公裁 官ノ裁判。「公裁ヲ請フ」

こうさい (名) 公債 公ノ負債。官府、又ハ、地方自治團體ノ借入金。國債ト、地方債ト、其借入ノ券ヲ、公債證書ト云フ。

こうさい (名) 後妻 後配ノ妻。ゴサイ。(先妻ニ對ス) 孔子家語「高宗以後妻殺孝己、尹吉甫以後妻放伯奇」

こうざい (名) 功罪 てがらト、つみト。後漢書、荀悅傳「[illegible]功罪相覆フ」

こうさいしようしよ (名) 公債證書 こうさい(公債)ノ條ヲ見ヨ。

こうさう (名) 鴻爪 [出典ヲ見ヨ] 痕ノ、消エテ遺ラヌ意ニ云フ語。[illegible]蘇軾、和子由澠池懷舊詩「人生到處知何似、應似飛鴻踏雪泥、泥上偶然留指爪、鴻飛那復計東西」

こうさう (名) 後裝 銃、砲ノ、モトゴメ。

こうさう (名) 構想 思想ヲ、構フルコト。作文、詠歌、繪畫ナドノ意匠。構思。

こうざう 名 構造 カマヘ、ツクルコト。ツクリカタ。宋書、[illegible]

こうざう (名) 興造 作リ、立ツルコト。[illegible]

漢書、食貨志「[illegible]不能無爲、毎有所興造、必欲依古」

こうさく (名) 工作 土木、製造、一切ノ仕事。後漢書、[illegible]傳「有老人方工作」宋史、職官志「曰、工作、曰、營造」

こうさん (名) 恆產 常ニ、生クベキ產業。一定ノ生業。孟子、滕文公、上篇「有恆產者有恆心、無恆產者無恆心」同、梁惠王、上篇「無恆產而有恆心者、惟士爲能、若民、則無恆產、因無恆心、苟無恆心、放辟邪侈、無不爲已」

こうざん (名) 恆山 [くさぎノ語原ヲ見ヨ] 木ノ名。クサギ。

こうさん (名) 空盞 カラノサカヅキ。江家次第、一、元日宴會「酒止、授空盞於貫首人」名目抄「空盞、コウザン」

ごうさんぜみやうわう (名) 降三世明王 [降、呉音、ごう] 佛經ノ語、五大明王ノ一。容姿ハ、三面、又ハ、四面八臂ニシテ、玄青色ノ身ヲ持シ、白蓮花ニ座ス、貪、嗔、痴、ノ三毒ヲ降伏スル法力ヲ有シ、常ニ、東方ヲ護ルト云フ。謠曲、調伏曾我「東方ノ降三世明王ハ、青蓮ノマナジリニ、惡魔ヲ降伏シテ、壇上ニカケリ給ヘバ」

こうし (名) 小牛 牛ノ子。小サキ牛。倭名抄、十一「牛馬部、犢、牛子也、古字之」

こうし (名) 孔子 呉音ニ、孔子トモ云フ。儒教ノ崇奉スル聖人。姓ハ孔、名ハ丘、字ハ仲尼、孔子ト云フハ、尊稱ナリ、支那ノ上古、三代ノ周ノ時、魯國ノ昌平鄉ニ生ル、周ノ文王、武王、周公、ノ遺教ヲ祖述シ、仁ヲ以テ德ノ根本トス、諸國ヲ巡リテ敎化ス、弟子三千人ニ及ビ、道德ノ書、數部ヲ作ル、論語ハ、孔子ノ言行ヲ記シタルモノナリ、忠孝仁義ノ道、ココ

ニ立ツ、懿德天皇ノ三十二年(周ノ敬王四十一年、魯ノ哀公十六年)卒ス、年七十三。文武天皇大寶元年、始メテ、大學寮ニテ釋奠ヲ行ヒテ、孔子ヲ祭ラレ、孝謙天皇ノ神護景雲二年、唐制ニ倣ヒテ、孔子ニ、文宣王ノ尊號ヲ贈リタマヒキ。米元章、孔子贊「孔子孔子、大哉孔子、孔子以前、既無孔子、孔子以後、更無孔子、孔子孔子、大哉孔子」

こうし (名) 公子 貴族ノ男子。キンダチ。ワカトノ。儀禮、喪服篇「諸侯之子、稱公子」詩經、周南、麟之趾篇「振振公子」漢書、貨殖傳「宛孔氏、有游閑公子之名」

こうし (名) 公私 おほやけト、わたくしト。官府ト、人民ト。韓非子、難三篇「無比周、則公私分、公私分、則朋黨散」漢書、食貨志「公私之積」宋書、王僧達傳「公私兩匱、宜賜蠲許」吾妻鏡、一、治承四年八月廿四日「今明難治、後大幸也、公私全命、盡計於外、[illegible]」

こうし (名) 公示 オホヤケニ、示スコト。一般ニ、知ラスルコト。

こうし 名 公使 外交ノ官、條約國ノ都ヘ遣ハシ置カレテ、兩國ノ交際事務ヲ掌ラシメラル。

こうし (名) 厚志 アツキココロザシ。淺カラヌ志。厚意。厚情。

こうし (名) 後嗣 アトツギ。ヨツギ。書經、伊訓篇「敷求哲人、俾輔于爾後嗣」

こうし (名) 構思 こうさう(構想)ニ同ジ。晉書、左思傳「欲作三都賦、構思十稔」

こうし (名) 貢士 [尚書大傳「古者諸侯之於天子、三年一貢士」] 明治元年二月、四十萬石以上ノ大藩ヨリ三人、十萬石以上ノ中藩ヨリ二人、一萬石以上ノ小藩ヨリ一人ヲ選ビテ、朝廷ニ出シシ

藩士ノ稱。

こうし (名) 紅脂 紅ト、脂粉ト。ベニ。臙脂。 袁宏已、東飛伯勞歌「[illegible]紅脂映二寶鏡一」

こうじ (名) 講師 〔講、呉音、こう〕(一)古ヘ、諸國ノ國分寺ニ置カレタル僧官、初メ、國師ト云ヒシガ、後ニ、講師ト改メラル、僧尼ヲ司リ、佛教ヲ講說ス。 二中歷、四、[illegible]、諸國講讀師「大寶二年、初置二國師於諸國一、延暦十四年、初、諸國國師、云云、宜下改二國師一爲二講師一每國置中一人上」 伊勢集、下「せきう法師ガ、和泉ノ講師ニナリテ、流サレシ時」 (二)法會開催ノ時、高座ニ登リテ、佛經ヲ說クモノ。 源、十、賢木「十一月十餘日バカリ、中宮ノ御八講ナリ、云云、今日ノこうじハ、心コトニエラセタマヘバ、薪樵ルホドヨリウチハジメ、同ジウ云フ言ノ葉モ、イミジウ尊シ」

こうじ (名) 公事 オホヤケゴト。官府ノ用事。公用。(私事ニ對ス) 論語、雍也篇「非二公事一、未三嘗至二偃之室一也」 詩經、大雅、蕩之什、瞻卬篇「婦無二公事一、休二其蠶織一」 禮記、曲禮、下篇「公事不二私議一」

こうじ (名) 工事 作事。普請。建築。 周禮、天官篇、太府「邦甸之賦、以待二工事一」

こうじ (名) 後事 後後ノ事。死後。 史記、始皇紀「前事之不レ忘、後事之師也」 晉書、司馬紹傳「欲レ屬以二後事一」 白居易詩「[illegible]後事一」「後事ヲ託ス」

こうしう (名) 寇讎 アタカタキ。 孟子、離婁、下篇「君之視レ臣如二土芥一、則臣視レ君如二寇讎一」

こうしう (名) 拘囚 トラハルルコト。トラハレタル人。 韓愈詩「早知皆是自拘囚」

こうしつ (名) 公室 天子ノ家柄。君王ノ族。公家。 論語、季氏篇「祿之去二公室一五世矣」

こうしつ (名) 後室 後家ト云フニ同ジ。貴人ノ寡婦ニ云フ。 東大寺造立供養記「重衡卿後室」 吾妻鏡、廿五、承久三年八月一日「坊門大納言忠信、云云、妹、西八條禪尼是、右府將軍後室也」

こうじつ (名) 口實 (一)食物。 易經、上經、頤卦「觀レ頤自求二口實一」「頤、養也」 (二)話ノタネ。イヒグサ。イヒマヘ。話柄。 書經、仲虺之誥篇「成湯放二桀于南巣一、惟有レ慙レ德、曰、予恐來世以レ台爲二口實一」

こうじのがく (名) 口耳之學 耳ニ聞キタルコトヲ、ソノママ、口ニ出シテ、心ニ留メヌ學問。 荀子、勸學篇「小人之學也、入レ乎レ耳、出レ乎レ口、口耳之間則四寸耳、曷足三以美二七尺之軀一哉」

こうしふ (名) 後集 しふ(集)ノ條ヲ見ヨ。

こうしん (名) 功臣 國家ニ、功勞アル臣。 韓非子、主道篇「賞偸、則功臣墮二其業一」 戰國策、楚策「新尚曰、張儀者、秦王之忠信有功臣也」 史記、李斯傳「功臣爲二諸侯一者、使三後無二戰攻之患一」

こうしん (名) 恆心 人ノ、常ニ所有スル善心。(恆產ノ條ノ出典ヲ見ヨ)

こうしん (名) 後身 ノチノミ。後ニ、生レ變ハレル身。(前身ニ對ス) 商芸小說「張衡死日、蔡邕始懷孕、二人才貌甚相類、人云、邕是張衡後身」 梁書、劉孝綽傳「臨レ死歎曰、惟願後身、不レ生二天王家一」 鄭谷詩「後身唯願似二師身一」

こうしん (名) 後進 學術、官途ニ、後ヨリ進ミ昇レル者。後學ノ學者。 論語、先進篇「後進於二禮樂一君子也」 後漢書、孔融傳「性寬容少レ忌、好レ士、喜誘二益後進一」 晉書、胡母輔之傳「(輔ノ字)吐二佳言一如二鋸木屑一、霏霏不レ絕、誠爲二後進領袖一也」

こうじん (名) 後人 ノチノヒト。後世ニ生レ出デム人。(先人ニ對ス) 左傳、昭公廿一年「先人有レ奪二人之心一、後人有レ待二其衰一」

こうじん (名) 公人 公職、公務ニ就キテアル人。(私人ニ對ス)

こうじん (名) 工人 テビト。工匠。職人。職工。 列子、湯問篇「道有レ獻二工人一、名偃師」

こうしんふう (名) 恆信風 〔英語、Trade wind. ノ譯語、是レハ、英國ノ古語、Tredan (直行ノ義、方向一定ノ意)ヨリ來レルニテ、貿易風ト譯スルハ、誤ナリト云フ〕 恆ニ、一定ノ方向ニ吹ク風ノ稱。又、恆風。貿易風。此風ハ、赤道ヲ中心トシテ、凡ソ、北緯三十度ト、南緯三十度トノ間ニ起ル、赤道附近ノ上昇氣流ノ空處ヲ補ハムガタメニ、風、雨極地ヨリ來リ、地球自轉ノ勢ニ因リテ、北半球ニテハ、東北風トナリ、南半球ニテハ、東南風トナリテ、一定不變ナリ。

こうしゃ (名) 功者 技ニ、巧ミナル人。かうしゃ(巧者)ノ條ヲ併セ見ヨ。 撰集抄、八、十八條「經信大納言、俊忠中納言トテ、當世ノ功者、歌道ノ長者」 運歩色葉集「功者」

こうしゃ (名) 講社 講中ニ同ジ。

ごうしゃ (名) 恆沙 恆河沙ノ略、其條ヲ見ヨ。

こうしやう (名) 工匠 工人ニ同ジ。 孔子家語「桓魋自爲二石槨一、三年而不レ成、工匠皆病」 遼史、聖宗紀「禁下工匠不レ得レ銷二毀金銀器一」 盛衰記、廿四、胡德樂河南浦樂事「三明六通ノ羅漢ハ、五百ノ工匠ト成テ、大小ノ諸材ヲ削リ」

こうしやう (名) 公娼 公許セラレタル娼妓。(私娼ニ對ス)

こうじやう (名) 口上 〔口頭ト云フニ同ジ、言語上ニテ演ブルヲ下略シテ、口上トノミ云フナリ、案内ヲ知ろヲ案内、獄門にかくヲ獄門トノミモ云フガ如シ〕 (一)言葉ニテ、用事ヲ申シ述ブルコト。(文書ナルニ對ス) 演舌。口演 ソレヲ筆記シタルヲ、口狀、又、口上書ト云フ。 承久記、一「院宣ノ御使、押松丸ヲ、右京大夫ノ前ニ召出シ、請文ヲ返進ス、云云、其上、口上ニ申サルルヤウ、義時、昔ヨリ、君ノ御爲ニ、忠アッテ私ナシ、云云」 (二)芝居ノ幕明キノ前ニ、舞臺ニテ、見物人ニ、狂言外題、役者替名、役割、其外ヲ述ブルコト。說白 啓科 ソノ述ブル者ヲ、口上言、口上人、ト云フ。 俳諧昔物語(享和、手柄岡持)「幕明キノ前ニ出テ云フ口上、云云、口上人ハ、只、役割ヲ、成リタケ早口ニ、紙ヲ目紛ハシキヤウニ卷込ミ、卷込ミ、早早ニ讀ミテ入ル」

こうじやう (名) 口狀 〔口ハ、言語ナリ〕 前條ノ(一)ヲ見ヨ。口上書。 吾妻鏡、六、文治二年三月六日「於二京都一申旨、與二今口狀一頗依違、仍任レ法可二召問一之旨、被二仰出一」

こうじやう (名) 厚情 アツキナサケ。深切ナル心。厚情。厚意。厚志。

こうじやういひ (名) 口上言 こうじやうノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こうじやうがき (名) 口上書 こうじやうノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こうじやうかんばん (名) 口上看板 興行物ノ口上書シタル看板。

こうしやうじは (名) 興正寺派 一向宗ノ一派、京都、六條堀川ノ興正寺ヲ本山トスルモノ、本派本願寺ニ屬セシガ、明治九年ニ、別レテ、獨立セリ。眞宗興正派。 [illegible]原、初篇、上「眞宗、興正寺派」

こうじやうちやばん（コウジョウ・チャバン）(名)［口上茶番］ 茶番ノ條ヲ見ヨ。

こうじやうにん（コウジョウ・ニン）(名)［口上人］ こうじやう(口上)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こうじやうやせん（コウ・ジョウ・ヤ・セン）(名)［攻城野戰］ 城ヲセメ、野ニテタタカフコト。 史記、廉頗傳「我爲₂趙將₁、有₂攻城野戰之大功₁」 戰國策、趙策「攻城野戰、未₃嘗不₂爲₁王先₁、被₂矢石₁也」

こうしやく(名)［公爵］ 爵(シャク)ノ條ヲ見ヨ。

こうしやく(名)［侯爵］ 爵(シャク)ノ條ヲ見ヨ。

こうしゆ(名)［公主］〔天子ノ女ヲ諸侯ニ嫁セシムル時ハ、秦漢以來、三公ヲシテ主(ツカサド)ラシムレバ云フト(左傳、莊公元年、疏)〕 支那ニテ、天子ノ女(ムスメ)ノ、諸侯ニ嫁シタル者ノ尊稱。天子ノ姉妹ナルヲ長公主ト云フ。 漢書、高帝紀「相₂魯元公主₁亦皆貴」 蔡邕獨斷「帝之女曰₂公主₁、儀比₂諸侯₁、帝之姊妹曰₂長公主₁、儀比₂諸侯王₁」

こうしゆ(名)［攻守］ 戰ニ、敵ヲ攻メ、又ハ、自ラ守ルコト。 史記、秦始皇紀「仁義不₂施而攻守之勢異也」 攻守城砲ト云フハ、要害ノ攻守ニ用キル大砲ニテ、移動セザルモノ。

こうじゆ(名)［鴻儒］〔鴻ハ、大ナリ〕 碩學ノ儒者。經學、漢學ノ大學者。 晉書、儒林傳、序「鴻儒碩學、無₂乏₁于時₁」 劉禹錫、陋室銘「談笑有₂鴻儒₁、往來無₂白丁₁」

こうしゆう(名)［公衆］ モロビト。世間ノ人人。世上一般ノ人人。

こうじゆつ(名)［口述］ 人ニ向ヒテ、口上ニテ用事ヲ述ブルコト。言葉ニテ陳述スルコト。口陳(カウチン)。言葉ニテ演舌スルコト。口演。(文書ナルニ對ス)「口述試驗」

こうじゆはうしやう（コウ・ジユ・ホウ・シヨウ）(名)［紅綬褒章］ 褒章ノ條ヲ見ヨ。

こうしよ(名)［鴻緒］ 王者ノ、國家ヲ統治スル大業。又、帝王ノ大統。 後漢書、順帝紀「奉₂遵鴻緒₁、爲₂郊廟主₁、承₂續祖宗無窮之烈₁」

こうしよ(名) 公署 官衙。役所。 宋史、陳仲微傳「知₂崇陽縣₁、寢₂食公署₁」

こうしよ(名)［苟且］〔いやしくもスルナリ、字典「苟、且也(カリソメ)」且、姑且也(シバラク)」〕 カリソメ。マニアハセ。姑息。 漢書、宣帝紀「樞機周密、品式備具、上下相安、莫₃有₂苟且之意₁也」

こうしよ(名)［購書］ 書籍ヲ、購(アガナ)ヒ入ルルコト。 蘇軾詩「百金購₂書收₁散亡₁」「購書費」

こうしよ(名)［口書］ クチガキ。口供。

こうしよう(名)［口誦］ クチズサムコト。口號。 魏書、李彪傳「手抄口誦、不₂暇₁寢食₁」

こうしよう(名) 洪鐘 オホガネ。ツリガネ。 張衡、西京賦「洪鐘萬鈞」 榮花物語、十五、疑「香花、梵唄、洪鐘」

こうしよう(名)［公稱］〔英語、Nominal. ノ譯語〕 表向ノトナヘ。名義。「公稱馬力」銀行ノ公稱資本」

こうしよう(名)［公證］ 官吏、又、公吏ノ、其職權ニ因リ、其事件ヲ證明スルコト。「公證文書」公證手形」

こうしよう(名)［後證］ 後日ノ證據。「爲₂後證₁一札如₂件」

こうじよう(名)［後乘］(一)副車(ソヘグルマ)。 蔡邕、述行賦「前車覆而未₂遠兮、後乘驅而競入」 倭名抄、十一、車類「副車、後乘也、曾閉久流萬」 (二)騎馬ノ、アトノリ。 太平記、十二、大塔宮補₂征夷將軍₁御入洛事、入洛ノ行列「一番ニハ、云云、後乘ニハ、千種頭中將忠顯朝臣、千餘騎ニテ供奉セラル」「前騎、後乘」

こうしようにん(名)［公證人］ 人民ノ依賴ニ因リテ、民事公正證書ヲ作ル公吏、地方裁判所ニ隷屬ス。其事務ヲ執ル所ヲ、公證人役場ト云フ。

こうしよく(名)［公職］ オホヤケノツトメ。官府、又ハ、公共團體ニ屬スル職務。

こう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變)［候］〔集韻「候、伺望也(ウカガフ)」〕 サブラフ。祗候ス。伺候ス。 後漢書、竇融傳「融小心不₂能₁居、乃就候₂之」 公事根源、下「弓箭ヲ帶シテ、御前ノ孫廂ニ候ジテ、御門ヲ守護シ奉リシナリ」

こう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變)［薨］〔薨御ハ(崩御ニ混ジテ)薨去ト音通ノ當字(アテジ)ナラム〕 死ぬノ敬語、皇太子、親王、女御、大臣、三位以上ノ人ニ云フ、薨去ト云フ語モ、同意ナリ。皇后ハ、古ヘ、薨ト申シシカド、今ハ、崩ト申ス。 爾雅、釋喪制篇「諸侯曰₂薨₁」 靈異記、下、第三十九縁「薨、死也」 喪葬令「凡百官身亡者、親王及三位以上、稱₂薨₁」 垂仁紀、廿八年十月「天皇母弟倭彦命薨(ミウセタマフ)」 同紀、三十五年「皇后日葉酢媛命薨(カンサリマシヌ)」 舒明紀、四年正月「左大臣、巨勢徳太臣薨」 盛衰記、三十、覺明語₂山門₁事「入道既ニ大臣ヲ絶シテ、薨去シ畢ハンヌ」 太政大臣平清盛入道淨海、海[illegible]、上、國、六、當御、仙院ヲ薨御、若宮、或大臣同₂之、大中納言以下卒去」 故實拾要(享保、八、薨御ハ、親王、女御、攝家、大臣以上ヲ云フ」 倭訓栞、こうぎ「薨御ハ、上下、女院、攝家、大臣以上ニ稱シ、薨去ハ、大中納言ニ云」

こう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ(自動、左變)［困］〔困(コヌ)ずノ音便、論(ロヌ)ず、ろうず。艸冠(サククワヌ)、さうくゎう〕 コマル。艱(ナヤ)ミ、ワヅラフ。［困卻］ 源、三十四、下、若菜、下「一日日ニ責メラレ、こうじテ」 同、廿八、野分「帷子(カタビラ)こうじテオハシケルニ」 蜻蛉日記、中、中三十一「町ノ程ヲ、石階(イシバシ)、オリノボリナドスレバ、歩ク人、こうじテ、イト苦シウスルマデナリ」

こう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ [illegible] オコス。[illegible]

こうずい（コウ・ズイ）(名) 洪水 オホミノ。[illegible]

こうせい(名) 公正 公平ニシテ、正シキコト。正シクシテ、疑ヒナキコト。 史記、伯夷傳「非₂公正₁不₂發₁憤」

こうせい(名)［恒星］ 天文學ニテ、星ノ一類ノ、其位置、常ニ、一處ニ定マリテ、動カザルモノ、卽チ、別天ノ太陽ナリト云フ、地球ヨリ極メテ遠ク、又、其數、幾億萬ナルヲ知ラズ。一名、定星(テイセイ)。(遊星(イウセイ)ニ對ス) 左傳、莊公七年「夜恒星不₂見」

こうせい(名)［後世］ ノチノヨ。末代。後代。 易經、繫辭、下傳「上古穴居而野處、後世聖人、易₂之以₁宮室₁」

こうせい(名)［後生］ 少年。後進。 論語、子罕篇「後生可₂畏、焉知₂來者之不₁₂如₁今也」

こうせい(名)［厚生］ 人民ノ生活ヲ、ユタカニスルコト。 書經、大禹謨「正徳利₂用厚₁生惟和」

こうせい(名)［厚情］〔情(ジヤウ)ノ漢音、せい、厚情(コウジヤウ)〕 アツキナサケ。厚情ニ同ジ。 風情(フゼイ)「御厚情ニアヅカリ、厚ク存候」

こうせい(名)［構成］ カマヘ、ナスコト。組ミタテ、ツクルコト。シクミ。構造。

こうせい(名)［攻勢］ セメカカルイキホヒ。(守勢ニ對ス)「守勢ヨリ攻勢ニ轉ズ」

こうせい (名) 控制 ヒカヘ、トドムルコト。ヒキトムルコト。牽制。 詩經、秦風、駟驖篇「疏」御人執ニ其六轡一在レ手而已、不レ須レ控ニ制之一也」傳「止レ馬曰レ控」唐書、王忠嗣傳「帶ニ四將印一、勁兵重地、控ニ制萬里一」

こうせいがい (名) 公生涯 公人トシテ、公務ニ從事シタル年間。

こうせいしようしよ (名) 公正證書 公證人ナドガ、人民ノ囑託ニ因リ、其法律行爲ノ事件ヲ證明セル證書。

こうせう (名) 哄笑 〔哄然ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 衆人、哄然トシテ笑フコト。タカワラヒ。 孔平仲詩「遊人哄笑閧ニ俳優一」佩文韻府、三院笑、因話錄「雜端、公堂會レ客、皆絕笑、左右不レ可レ忍、雜端大笑、而三院皆笑曰ニ哄堂一」

こうせう (名) 紅蕉 ヒメバセウ。ビジンセウ。 王建詩「白氎家家織、紅蕉處處栽」

こうせき (名) 口跡 〔言葉ノ狀〕 聲遣。コワネ。コワイロ。 東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、上「オマイノこうせきデハ、コワイロガ出ルヂャアロ」「俳優ノ口跡」ヨク似タ口跡」

こうせき (名) 功績 〔書經、堯典篇、傳「績、功也」〕 イサヲ。テガラ。 史記、蔡澤傳「君之功績、愛信親幸」呂覽「功績銘ニ乎金石一」

こうせきそう (名) 洪積層 地質學ノ語、地質年代中ノ、第四紀ノ沖積層ヨリ、前ノモノ、沙、粘土ヨリ成ル。

こうせつ (名) 公設 官府、又ハ、公共團體ノ、設立シタルモノ。(私設ニ對ス) 「公設ノ學校」公設市場」

こうぜつ (名) 口舌 (一)クゼチ。コトバ。モノイヒ。辯口。 史記、留侯世家「此難ニ以ニ口舌一爭上也」 潜夫論、浮侈篇「今人奢ニ衣服ニ侈ニ

飲食ハ事ニ口舌ハ而習ニ調欺ニ」(二)次條ヲ見ヨ。

こうぜつのくゎん (名) 喉舌之官 〔天子ノ命ヲ下ニ傳フル官〕(一)支那ニテ、宰相ノ異稱。 詩經、大雅、蕩之什、烝民篇「出ニ納王命ハ王之喉舌」傳「喉舌、冢宰也」 後漢書、虞詡傳「虞詡上疏、薦ニ左雄一曰、雄有ニ王臣蹇蹇之節ハ宜レ擢ニ任喉舌之官ハ必有ニ𥘉正之益ハ由レ是拜ニ尙書一」(二)我ガ邦ニテ、大納言ノ異稱。下ノ言ヲ上ニ納レ、上ノ言ヲ下ニ宣ブレバナリ。口舌の官。

こうせん (名) 口占 (一)口ノ中ニテ、隱ニ考フルコト。 漢書、陳遵傳「召ニ善書吏十人於レ前、云云、遵馮レ几口占授ニ書吏ハ且省ニ官事ハ書數百封」註「師古曰、占、隱度也、口隱ニ其辭一以授レ吏也」 通鑑、魏「宗「在レ輿據レ鞍、不レ忘レ講レ道、善屬レ文、多於ニ馬上一口占、旣成、不レ更ニ一字一」(二)誤リテ、口號ト混ジテ、クチズサミ。

こうせん (名) 口錢 〔うはまへ(上前)ノ條ヲ見ヨ〕 賣買ノ媒シテ、其手數料トシテ取ル錢。クチゼニ。牙錢 諸問屋身元金調、上「古來ヨリ、商內代金之內ヨリ、六步、口錢請取來リ候處、云云」(故事類苑、政治部、雜稅篇)

こうせん (名) 功錢工錢 テマチン。 東大寺要錄、六、封戶、廿一箇國、云云、伊賀國「封丁四人、養米廿三石、人別五石七斗五升、功錢九貫二百十六文、人別二貫三百四文」

こうせん (名) 功錢 〔成功ヨリ移レル語ナルベシ、貞永式目追加「被レ召ニ成功一之時、進ニ納功物一」〕 鎌倉幕府ノ家人ノ、任官ナドニ就キテ、獻納スル金錢。 吾妻鏡、三十三、仁治元年十二月十六日、三島社春日社神樂用途、每月被ニ沙汰一之條、御家人煩也、云云、被レ定ニ功錢ハ云云、次、御家人任官功錢事、云云、隨ニ納、或百貫、或五十貫、令レ進ニ上官倖一」

こうせん (名) 公選 (一)公衆ノ選擧。

(二)公平ニ、人ヲ選ブコト。 漢書、董仲舒傳「郡國諸侯、公ニ選賢良修絜博習之士一」

こうせん (名) 洪纖 洪大ナルコトト、纖小ナルコトト。細大。 後漢書、班固傳「鋪ニ觀二代洪纖之度ハ其賾可レ探也」

こうぜん (副) 哄然 〔集韻「吅、大聲也、或作レ哄」〕 高ク笑フ聲ニ云フ語。「哄然トシテ大笑ス」

・こうぜん (副) 公然 オホヤケニ。アラハニ。オッケハレテ。表向キニ。意ヲ强メテ、公公然。 杜甫詩「公然抱レ茅入レ竹去一」「公然ト、衆人ニ告グ」公公然ト、天下ニ發表ス」

こうそ (名) 公訴 (一)官ヘノ訴訟。(二)檢事ガ、犯罪人ニ對シテ、刑ノ適用ヲ、裁判所ニ求ムルコト。(私訴ニ對ス)

こうそ (名) 控訴 〔廣韻「控、告也」詩經、鄘風、載馳篇「控ニ于大邦一」朱傳「控、持而告レ之」〕 始審、等ノ裁判ニ服セズシテ、更ニ、上ナル裁判所ヘ訴ヘ出ヅルコト。控訴ヲ受ケテ審理スル所ヲ、控訴院ト云フ。

こうそ (名) 貢租 ミツギ。年貢米。

こうそ (名) 後素 〔素ハ、白粉ノ義〕 繪ノ異稱。繪畫。繪事ノ條ヲ見ヨ。

こうそう (名) 後送 (一)後ヨリ、送リヤルコト。(二)後ヘ、送リモドスコト。 「負傷兵ヲ後送ス」

こうそう (名) 倥偬 〔正韻「倥偬、事迫促也」集韻「倥偬、俗、作レ偬」〕 (一)戰爭ナドニ、イソガハシキコト。トリコムコト。 劉基詩「縱怪天地氣、去來何倥偬」「兵馬倥偬ノ間」 (二)苦シムコト。困苦スルコト。 楚辭、九歎、愍命「愁倥ニ傯於山陸一」

こうそうぼち (名) 公葬墓地 〔葬ハ、呉音、さう〕 公衆ノ埋葬墓地。

こうそく (名) 拘束 ツナギ、トムルコト。オサヘツケテ、自由ナラシメヌコト。 北史、馮偉傳「上知ニ其不レ願ニ拘束ハ以レ禮發遣」 「情誼ニ拘束セフル」人身ヲ拘束ス」

こうぞく (名) 寇賊 アダシ、ソコナフコト。人ヲ劫カシテ、害ヲナスコト。又、ソノモノ。 書經、舜典篇「蠻夷猾レ夏、寇賊姦宄」

こうそんじゆ (名) 公孫樹 〔萩園雜記、銀杏「一名、公孫樹、言ニ公種而孫始得レ食」(數十年ナラザレバ、實ヲ結バズ)〕 イチャウノキ。

こうぞめ (名) 紅染 紅ニ、染メタルコト。ベニゾメ。モミ。 運歩色葉集「紅染」

こうそゐん (名) 控訴院 第二審ノ合議裁判所。卽チ、三人ノ判事ニヨリ組織セラレタル部ニテ、地方裁判所ノ第一審判決ニ對スル控訴、又、其他、定メラレタル範圍內ノ訴訟ヲ、審問、裁判スル所。東京、大阪、名古屋、廣島、長崎、宮城、札幌、等ニアリ。

こうた (名) 小謠小唄 (一)短キ謠物。古來、種種ノ體アリ、イサカ長短アレド、皆、數句ニテ了ハル。俗謠トシテ、節、面白ク謠フモノハ、文祿、慶長ノ頃ノ隆達節ヲ初トスト云フ。 二川隨筆、享保、細川宗春、信長公時代ニ、小歌ニ作リ謠ヒシトテ、古老ノ士語リシハ、木綿藤吉、米五郞左衞、カクレ柴出ニ、ノケ佐久間、云云、隆達ノ小歌ハ、此二十六字ナルト」(二)小謠。 花鳥營、「四月朔日、同ジク卯月八日ナドノ謠、賀茂ノ小うたひ、尤ニ候」

こうたい (名) 後退 前進ノ條ヲ見ヨ。

こうたい (二) [illegible]大、大イナルコト。[illegible]

こうだい (名) [後代] ノチノヨ。後世。[illegible]事ヨリハ、桃花苑、マコトニ、こうだいノ例トモナリヌベク見給ヘシニ」

こうだいくゎ (名) [後庭花] [たいハ、庭ノ呉音、たいゑノ] 支那ノ陳ノ後主ノ作リシモノ。[illegible]

こうたう (名) 勾當 [專當ノ義] (一) 事柄ヲ、專ラ擔當シテ、處分スルコト。[illegible] (二) 掌侍ノ、第一ニ居ル者ノ稱、勾當の內侍ト云フ。[illegible] (三) 關白家ニテ、大小ノ雜務ヲ掌ル者ノ稱。[illegible] (四) 盲官ノ名、其條ヲ見ヨ。

こうたう (名) 公道 [世の常ノ意、道ハ、清音ニ讀ム、神道、歌道] 目ニ立タヌコト。ケバケバシカラヌコト。オトナシキコト。ザミ。(はでノ反) 樸素 [illegible]

[illegible]ウゴザラウ、タダ、中昔ヲ數ヘテ下サレイ」 大子集[illegible]ヲ出シテ、[illegible]ニ「昔ハ、人ノ心、[illegible]ニテ、女子、十八九マデモ、前後見ルト云フコトナク、髮親ト云フニ、寐起ノママニヒリアリキ、[illegible] こうたうナ箇柄」

こうたう (名) 公道 (一) オホヤケノミチ。世上オシナベテ、當然ノ道理。コレニ反スルヲ、私道ト云フ。荀子、君道篇「公[illegible]而公道行」[illegible] (二) 公衆ノ、自由ニ通行スベキ道路。國道、縣道、里道、ノ類。私有地ニ開キテ、所有主ノ用ニ供スルヲ、私道ト云フ。

こうだう (名) 講堂 伽藍ノ一、佛經ヲ講演スル堂。山門堂舍記、講堂(在二四王院、廷[illegible]九間堂一宇」

こうたうのないし (名) 勾當內侍 こうたう(勾當)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。官位訓、四「勾當內侍ト申スハ、內侍裝ノウチノ第一﨟ヲ云フ也、又ハ、長[illegible]ノ局ニ居給ヘルユヘニ、[illegible]トモ申ス也、天子ヘ、公方ヨリ、內內ノ取次ハ、勾當內侍シ給フ也」

こうたき (名) 香燒 [香、呉音、こう] だう(堂)ノ忌詞。(こりたきノ條ヲ見ヨ) [illegible]

こうたつ (名) 口達 言葉ニテ、通達スルコト。(文書ナルニ對ス) [illegible]

こうたつ (名) 公達 官府ヨリノ通達。イヒワタシ。

かうたひ (名) 小謠 謠曲ノ文句中ヨリ、妙所、又ハ、要所ノ一節ヲ謠フモノ。く、小謠。酒宴ノ餘興ナドニ謠フニ因リテ、後世ノ俗ニハ、肴謠トモ云フ。狂言記、[illegible]「都ニハ、面白イかうたひガ、ハヤリマシタ」同、花子「某ガ山ノ神ガ姿ヲ、小うたニ謠フタ」

こうたん (名) 口端 クチノハ。クチサキ。「口端、滾ヲ飛バシテ談ズ」

こうだん (名) 口談 口ニテ、物語ルコト。ハナシ。談話。(筆談ニ對ス) 莊子、[illegible]

こうたんゑ (名) 降誕會 [降、呉音、こう] (一) 釋迦ノ灌佛會。(二) 佛敎各宗ニテ、其宗祖ノ誕生日ノ法會ヲモ云フ。

こうち (名) 拘置 拘留ノ(二)ニ同ジ。拘置スル監獄ヲ、拘置監ト云フ。

コウチ (名) 交趾 こうちやきヲ見ヨ。

かうぢ (名) 小路 [さみちノ音便(狹路、せうぢ。手水、てうづ)さんぢハ、更ニ、音便ニ云フナリ(督殿、かんのとの)] (一) 幅狹キ路。(大路ニ對ス) さんぢ。小路。徑 小巷 宇津保物語、祭使三十五「大學ヨリ、三條ノ院近シ、かうぢヨリ步マムト」[illegible]一、上「イト狹キかうぢナレバ、エ步ミカクレズ」催馬樂、大宮「大宮ノ、西ノ[illegible]」 (二) 江戶ニテ、橫町。「薮小路」式部小路」浮世小路」

ごうち (名) 碁打 碁ヲ打ツニ、上手ナル人。碁客。散木集、十、連歌「長如來ト云フこうちノ、碁打ツヲ見テ」

かうぢいくさ (名) 小路軍 市街中ニテ行フ戰爭。市街戰。[illegible]記、二、一條大宮[illegible]合戰「人家ノ軒端直リ、小路軍ノ事ナレバ、武衞方、

甲[illegible]、[illegible]ガ[illegible]兵、[illegible]レ、若手ニ、マクリ立テラレニ、云云」

こうちう (名) [illegible] [「正字通、俗[illegible]衣紐曰[illegible]」] ボタン。又、コハゼ。(衣ニックル)

かうぢがくれ (名) 小路隱 (町小路ナドニ、フト行キ隱るニ云フト云フ、神隱モアリ) 人ノ身ノ、フト隱レテ、見エヌヤウニナルコト。宇津保物語、嵯峨院七十「此童ゾ、マウデハベリヌル、夜ハ、ココニモ、トマリタマハズ、云云、ワサトニハ、アラデ、夕暮、夜ノ[illegible]ニゾ、かうぢがくれセラルルナルヤ」山岡明阿類「かハ、かうノ[illegible]ニテ、小路[illegible]リ、ソコラ通ヒワタリテ、町小路ナドニモ、行キカクルルナリ」俚言集覽、小路かくれ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]クラウタル惡太郎、小路かくれヲ尋出シ、浮世物語(明曆)小路かくれノ[illegible]アリ、[illegible]二[illegible]ル[illegible]、人ノ、亡命シタルヲ、小路かくれノ樣ノコトニテ、云云」[illegible]、七十六、第四「俗ニ、かうぢがくれト云フ語アリ、アカラサマニ行キカクルル事ニテ、田舍人ハ、かうぢんがくれト、訛リ云ヘリ、コハ、家居ニ祭レル[illegible]神ノ御前ヲ、シバシカクレテ、他處ニ居ル由ニ心得タメリ、[illegible]嵯峨院ニ「上ニ學ケタリ」トアリテ、町小路ナトニ、行キ隱ルルニ言ヒタレバ、コレヲ、出處トスベシ」

こうちかん (名) 拘置監 こうち(拘置)ノ條ヲ見ヨ。

かうちぎ (名) 小袿 婦人ノ禮服、裳、唐衣ナド着ヌ上ニ、打掛ケテ着ルモノニテ、小袖ノ如ク、廣袖ニテ、裏アリ、地ハ、綾ニテ、色、種種ナリト云フ。(うちぎノ條、見合ハスベシ)

かうぢぎり (名) 小路切 四ツ辻ヲ、眞直ニ行キ切ル所。落窪物語、一、上「先追ヒテ、アマタ火點サセテ、かうぢぎりニ、辻ニ、差逢ヒヌ」

太平記、十七、京都両度軍事「前ニハ、京中ヲ經テ、遥遙ト、東寺マデ寄スレバコソ、小路ぎりニ、前後、左右ノ敵ヲ防ギカネテ、共ニミヲバ破リカネツレ」

こうち-去 (名) [後置詞] 前置詞ノ條ヲ見ヨ。

こうぢ-な (名) [小路名] 貴人ヘ呈スル書札ノ宛名ニ、其官、姓名ニ代ヘテ、其住所ヲ書クコト。敬フニスルコトナリ。宗五大雙紙(室町時代)書札之事、宛所の次第「家人ノ名ニ、人人御中、二、小路名、三、云云」貞丈雑記、九、書札「小路名、云云、宛所ニ、貴人ノ名ヲ書クニ、其官名ヲ書カズシテ、其人ノ住ミタマフ所ノ名ヲ書ク事也、云云、一條ニ住ミタマフ故、一條殿ト書ク類ヲ云フ也、云云、敬ヒタル儀ナリ」「進上、武者小路殿」

こうぢ-な (名) [小路名] (源氏名ト云フモアリ) 女房ノ稱號ニ、町小路ノ名ニテ呼ブモノ。鳥羽院ニ始リ、禁中ニテハ用キラレザリシト云フ。禁秘御抄、上、女房、上臈「禁中無ニ小路名、仍雖ニ最上臈、大納言ニ」女房官品、こうち名の事「一條、二條、三條、近衞、春日、此等ハ上ノ名也、大宮、京極、此等ハ中ノ名也、高倉、四條ナドハ、小路ノ中ニモ、劣リタル也」倭訓栞、こをち「院中ノ女房ニ、小路名アリ、綾小路、梅小路、勘解由小路、等也」

こうちん (名) [工賃] 工手間。手間賃。

こうちん (名) [口陳] 口述ニ同ジ。 漢書、張延壽傳「口陳至誠」

コウチン (名) [交趾鷄] こおちん(交趾鷄)ニ同ジ。

こうぢん (名) [紅塵] (一)くゎうぢん(黄塵)ニ同ジ。 班固、西都賦「紅塵四合、煙雲相連」 (二)伽羅ノ異名。 近代世事談(享保)三、能讃「十種名香、云云、紅塵」 倭訓栞、後編、こうぢん「東大寺正倉院、云云、大紅塵トテ、云云、名香、伽羅ニアリ、コレモ、奇南ノ極品ナリ」 續近世畸人傳(寛政)五、何某ノ宮ノ御殿ニ、紅塵ト云ヘル名香、アマタ貯ヘタマフガ、云云」

こうぢん (名) [後塵] 馬車ノ走リ行ク後ニ、風ニ立チノボル塵。人ノ下風ニ立ツヲ、後塵ヲ拜スト云フ、卽チ、諂フ意ナリ。 晉書、石崇傳「與ニ潘岳一諂ニ事賈謐一云云、每レ出、崇降レ車、路左望レ塵而拜、其卑佞如レ此」崔駰文「幸得レ充ニ下館一序ニ後塵一以鶬ニ其塵一故進ニ一言」

こうちゃ (名) [紅茶] (煎汁ノ色、紅褐ナリ、綠茶ニ對ス) 支那、臺灣、等ヨリ產出スル、一種ノ製茶。塊ヲ成シテ、色、黑褐ナリ、熱湯ニ點ジテ飲ム。

こうちゃ (名) [貢茶] 十服茶ノ條ヲ見ヨ。

こうちゃう (名) [公聽] オホヤケノキコエ。公府ニテ、聞キ知ルコト。 漢書、鄒陽傳「公聽竝觀、垂ニ明當世ニ」「其旨、公聽ニ達シテ」

こうぢゃう (名) [工場] 職工ノ集マリテ製造スル仕事場。細工場。湯桶讀ニ工場。

コウチ-やき (名) [交趾燒] (Cochin. 又、Cochin China. 安南ノ南) 交趾國ヨリ渡レル陶器ノ泛稱。略シテ、交趾。

こうちゅう (名) [口中] クチノウチ。クチノナカ。口內。口腔。 韓非子、內儲說、上篇「因ニ援ニ口中蝨ニ也」史記、任敖傳「老、口中無ニ齒、食ニ乳ニ」 盛衰記、四十三、京都注進事「兵亂打ツヾキテ、口中ノ食ヲ奪取バ、天下ノ人民、飢死ニ及ブ」

こうぢゅう (名) [講中] 講ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こうぢょ (名) [工女] 工作ヲ業トスル女。機織、絲取ナドニ云フ。

こうぢょ (名) [紅女] (紅ハ、工ト通ズ、女工) 紅ヲ併セ見ヨ) 機織女。 漢書、酈食其傳「紅女下レ機」註「師古曰、紅、讀曰レ工」董仲舒、對策「奪ニ園夫紅女之利ニ」

こうぢょ (名) [控除] (集韻「控、引也、除也」) サシヒクコト。ヒキサルコト。數量ノ計算ニ云フ。「百圓ヨリ、十圓ヲ控除ス」

こうで (名) [小腕] (腕ノ端ノ意カ、手トノ關節ナリ、小肱ト云フ、同ジ、腕ヲ、肱ト混稱スルコトモ、古シ) (一)叉、小肱。手節。ウデクビ。ウデブシ。 太平記、十六、正成首送ニ故鄕ニ事「子息正行、云云、楠木ノ刀ヲ、右ノ手ニ拔キ持チテ、云云、自害ヲセムトゾシ居タリケル、母、急ギ走リ寄リテ、正行ガ小腕ニ取リツキテ、泪ヲ流シテ申シケルハ、云云」同、廿六、四條繩手合戰事「和田新發意、長刀ノ柄ヲ取延ベテ、云云、目ノ前ニ切落サルル者、五十餘人、小腕打落サレテ朱ニナル者、二百餘騎」 盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「文覺、云云、右ノ手ニハ、懐ヨリ刀ヲ拔キ出デ、云云、右宗が小がひなヲ突貫ク二武者所安藤右宗」 (二)力量ノ、足ラヌコト。「高ノ知レタ小腕デ、手向ヒテ來ル」

こうてい (名) [後庭] 後宮ニ同ジ。掖庭。 漢書、王商傳「後庭之事、皆受ニ命皇太后ニ」 戰國策、秦策「美女充ニ後庭ニ」

こうてい (名) [公廷] 公判ノタメニ、開カレタル法廷。

こうてい (名) [公庭] 朝廷ニ同ジ。(家庭ニ對ス) 禮記、曲禮、下篇「祭事不レ言凶、公庭不レ言婦女ニ」 盛衰記、一、五節夜闇討事「其劍ヲ帶シテ公庭ニ座列シ、兵仗ヲ賜ハッテ宮中ニ出入スルコトハ、格式ノ禮ヲ定メタリ」

こうてい (名) [公定] 公ニ、定メラレタルコト。公法ノ規定。 土地臺帳ニ據ル田畑ノ公定價格」

こうてい (名) [公程] 公務ノ旅行。 三體詩、七言絶句、趙嘏過ニ鳳翔ニ詩「中春色ニ」「水生ニ風熱帆前、只見ニ公程不レ見春、歷ニ盡百花ヲ天地一閑人」(公程ノ旅行ヲ云フ)

こうてい (名) [工程] 工事ノ、進ミカタ。作業ノハカドリ。工作ノ能率。

こうてい (名) [興替] 盛衰。興亡。隆替。 唐書、劉資傳「以ニ相為ニ法、可レ知ニ興替ニ」

こうてい (名) [肯定] (肯ヒ云フコト。英語、Positive.ノ譯語、否定ハ、Negative.) 正面ヨリ、あり、又ハ、たしかなりナドト云フコトヲ肯定トス。コレニ反シテ、なし、又ハ、たしかならずナド云フコトヲ否定トス。否認。文法ニテ、打消ト云フ。

こうでい (名) [拘泥] カカハリ、ナヅムコト。片寄リテ、思ヒ込ムコト。 程史「每ニ多レ拘泥ニ一說ニ」「蘇軾、剪ニ拘泥不レ得ニ即決ニ」「理窟ニ拘泥ス」

こうてう (名) [候鳥] (時候ニ因リテ住地ヲ移ス故ノ名) ワタリドリ。雁、燕、鶴、等ノ類。

こうてう (名) [紅潮] (潮ハ、潮ノさす意、七發「海水、上潮」) (一)顏色ニ、赤ク映ヒアラハルルコト。酒ニ醉ヒ、又、恥ヂナドシタル時ニ起ル。 蘇軾、詞、玉盤[?]「紅潮」范成大、酒邊詩「日長蘭徑酒紅潮」 (二)月經ノ異稱。 散樓記「紅潮、謂ニ桃花癸水ニ也」

こうてう (名) [後朝] ごてう(後朝)ヲ見ヨ。

こうてう (名) [後凋] (他ニ後レテ凋ム) 松柏ノ意、松柏ノ葉ハ、冬ヲ越エテ凋ム) 松柏ノ、他ノ草木ノ落葉シタル後マデ、青青トシテアルコト。能ク、霜雪ヲ凌グ義ヨリ、人ノ、堅ク節操ヲ守リテ、變ゼザル意ニ云フ。 論語、子罕篇「歲寒、然後、知ニ松柏之後凋ニ也」 莊子、讓王篇「天寒既至、霜雪既降、吾是以

[illegible]

こう-てき（名）［公敵］　世上一般ノカタキ。［[illegible]、論語、不仁者、仁者之公敵也］

こう-てん（名）［後天］　先天ノ條ヲ見ヨ。

こう-てん（名）公轉［自轉ニ對ス］　遊星ノ引力ニヨリテ、一天體ガ、他ノ天體ノ周圍ヲ周轉スル運動。［[illegible]］

こう-でん（名）公田　（一）古ヘ支那ノ、井田法ニテ、中央ニアル公有田。［[illegible]］「雨ニ我公田（ワガコウデン）ニ及ビ、我私ニ及ブ」（二）位田、職田、賜田、口分田、及、墾田、等ノ以外ノ田ノ稱。即チ、剩餘田ナリ、故ニ、乘田トモ云フ。文武天皇、大寶ノ令制ニテ、始メテ公田、私田、ノ制ヲ定メラレタリ。［田令、[illegible]公田、[illegible]、公田者、乘田也」後紀、五、延曆十五年九月「山城國葛野郡公田[illegible]、賜[illegible]、同、廿一、弘仁[illegible]年四月、近江國[illegible]田廿八町、賜[illegible]」］

こう-でん（名）［功田］　國家ニ功勞アリシ者ニ、賜ハリシ田。功ノ大小ニ因リテ、年少アリ、又、年限ノ差ヒアリ。（位田、職田ニ對ス）［田令「凡、功田、大功、世世不絶、上功、傳三世、中功、傳二世、下功、傳子、[illegible]、六「文治八、六年トイフ四月十一日ニ、改元ニテ、建久ニナリニケリ、元年十一月七日、頼朝卿ハ、京ヘ上リニケリ、云云、十一月十八日ニ、[illegible]ニケリ、[illegible]ノ日、[illegible]功田[illegible]宣下ナド[illegible]ケリ」］

こう-でん（名）公電　當信ノ、官府ヨリ發スルモノ。（私電ニ對ス）

こう-ど（名）［[illegible]］［[illegible]、共ニ、大ノ義］大イナル、ハカリゴト。［[illegible]］

こう-と（名）［後圖］　後日ノ、ハカリゴト。［[illegible]］

こう-とう（名）［口頭］　クチサキ。口上。（文書ナルニ對ス）言語（コトバ）ニテ述ブルコト。［[illegible]「口頭試驗」］

こう-とう（名）［喉頭］　呼吸器ノ一部、氣管ト、舌骨トノ間ニ位シ、空氣ヲ通ジ、聲音ヲ發スル器官ナリ。男子ニ在リテハ、前頸部ノ中央ニ、皮下ニ、隆起ヲ呈スルヲ以テ、容易ニ知ルコトヲ得、九箇ノ軟骨ヲ基礎トシ、靱帶、筋肉、及、粘膜、等ヨリ成リ、三角漏斗狀ニシテ、上下、二口ヲ有ス、上口ハ喉頭咽頭口ト稱シ、稍、三角形ニシテ、咽頭ニ開口シ、鼻腔、及、口腔ニ交通ス、下口ヲ喉頭氣管口ト稱シ、圓形ニシテ、直チニ氣管ニ連接シ、肺臟ト交通ス、ソノ皮下ニ隆起ヲ呈スルモノヲ、喉頭結節、或ハ、おだむ氏果ト云フ、婦人、或ハ、小兒ニ在リテハ、著明ナラズ。（日本百科大辭典）

こう-とう（名）［叩頭］　（頭ニテ地ヲ叩（タタ）く）頭ヲ地ニ垂レテ、拜スルコト。［[illegible]］

こう-とう（名）［後藤］　ごとう（後藤）ヲ見ヨ。

こう-とう（名）［倥侗］　（倥侗、倥侗、無知也）同「侗、無知也」無知ナルコト。［[illegible]］

こう-とう-えん（名）［喉頭炎］　喉頭ノ炎症。コレニ、急性ト、慢性トアリ、急性ハ、感冒、高聲、或ハ、飲酒、喫煙、ノ過度ニ因シ、慢性ハ、急性ノ不治、職業的發音過勞、梅毒、結核、等ニ因ス。療法ハ、飲酒、喫煙、聲音過用ヲ禁ジ、職業ニヨリテハ、一時廢止スル要アリ。喉頭加答兒。

こう-とう-カタル（名）［喉頭加答兒］　前條ニ同ジ。

こう-とう-がん（名）［喉頭癌］　喉頭ニ生ズル癌腫。此ノ病ノ特徵ハ、初期ニ、乳嘴狀、或ハ、扁平ノ增殖ヲ起シ、次ニ、潰瘍トナリ、進ミテ、崩潰ヲ起スニ至ル。多クハ、四十歲以後ノ男子ニアリテ、女子ニ少ナシト。

こう-とく（名）［功德］　（一）功ト、德ト。［史記、始皇紀、[illegible]功德ニ］（二）功業ノ、世ノ爲トナルモノ。（功德ノ條ヲ併セ見ヨ）

こう-とく（名）［公德］　（英語、Public virtue. ノ譯語）國家、公衆ニ對シテ守ルベキ德義。公共ノ精神ト、同情トノ結合。

こう-とく（名）［溝瀆］　（唐韻「溝、古侯切」集韻「居侯切、音鉤」）ミゾ。［[illegible]、論語、憲問篇「豈若匹夫匹婦之爲諒也、自經於溝瀆而莫之知也」（縊レテ溝ニ死スルナリ）］

こう-どく（名）［購讀］　書籍、新聞、雜誌ナド、購（アガナ）ヒテ讀ムコト。

こう-とん（名）［紅暾］　アサヒ。紅日。

こう-ない（名）口內　クチノウチ。口中。

こう-ない-えん（名）［口內炎］　（えんしやう（炎症）ノ條ヲ見ヨ」）口熱（コウネツ）。病ノ名、口內ノ粘膜、赤クナリ、白斑ヲ生ジテ、ひりひりト痛ミ、唾液多ク出デ、臭氣ヲ放ツモノ。過熱ノ飲食物ヲ攝ル習慣、酒、煙草ノ刺戟、水銀劑、沃度劑ノ內用ナドニ起リ、又、胃病ヨリモ起ル。

こう-ない-おん（名）［喉內音］　五音（ゴイン）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

こう-のう（名）［貢納］（コウノウ）　貢物（ミツギモノ）ヲ、納ムルコト。

こう-なん（名）［後難］　後（ノチ）ノワザハヒ。後日ノ災難。［晉書、杜預傳「不レ慮ニ後難ニ」盛衰記、四十三、湛増同ニ意源氏ニ事「國中悉源氏ニ志ヲ運、湛増一人背テモ、後難アリ」］

こう-にふ（名）［購入］（コウニユウ）　購（アガナ）ヒ入ルルコト。買ヒ取ルコト。購求。購買。「書籍ヲ購入ス」

こう-にん（名）［公認］　公（オホヤケ）ニ、認ムルコト。特ニ、國家、社會ガ、是認（ゼニン）スルコト。「政府ノ公認」公認候補」

こう-にん（名）［後任］　前任ノ條ヲ見ヨ。

こう-にん（名）［候人］　（候（サブラ）ヒ人（ビト）ノ字ノ音讀、其條ヲ見ヨ）（一）藏人所（クラウドドコロ）ノ職、殿上ニアリテ、藏人ト同ジク、結番シ、御膳ニ侍シ、宿直スル者。［類聚符宣抄、四「內舍人藤原守典、候藏人所」（承平七年十二月十七日）朝野群載、五、朝儀、正四位下行主殿頭[illegible]、云云、合レ候ニ藏人所ニ」（應德三年十二月八日）］（二）門跡家ニ使ハルル、僧形、妻帶ノ者。［坊官故實記「寬平法皇ノ御隨身、地下ニテ供奉、僧形ノ妻帶ノ者ノ作法師者、候人ト稱シ始也」］

こう-ねつ（名）［口熱］　口內炎（コウナイエン）ヲ見ヨ。

こう-ねん（名）［後年］　ノチノトシ。後ノ世。

こう-のう（名）［功能］　（一）功力ト、能力ト。［[illegible]、杜欽傳[illegible]功能[illegible]］（二）效用。ハタラキ。キキメ。驗（シルシ）。效驗。（多ク、藥ナドニ云フ）［[illegible]、法苑珠林「功能利益」］

ノ贈ノ功能」

こうのうがき (名) 〔功能書〕 藥ノ功能ヲ、書キタテタルモノ。能書。

こうば (名) 工場 〔工場ノ湯桶讀〕 工場ニ同ジ。仕事場。

こうはい (名) 〔興廢〕 おこるト、すたるト。興替。興亡。詩經、頌、四、序、疏「王者政有ニ興廢一」漢書、賈奉傳「五性不ニ相害一六情更興廢」「國ノ興廢」興廢存亡」

こうはい (名) 後輩 先輩ノ條ヲ見ヨ。南史、袁、劉孺傳「王叔文於ニ東宮一用レ事、後輩務レ進、多附ニ離之一」

こうはい (名) 功牌 功ヲ彰シテ、與フル賞牌。有功賞牌。楊億詩「功牌銀榜篇」

こうばい (名) 〔紅梅〕 (一)こをばい。梅ノ一種、花ノ色、杏花ノ如ク、紅ナルモノ。杜甫詩「江上紅梅已放、春一」范成大、梅譜「紅梅偽是梅、而繁密如レ杏」云云「宇津保物語、菊宴「十二御前ノこうばいノ、匂フサカリニ」金槐集、春「我ガ宿ノ、八重ノ紅梅、咲キニケリ、知ルモ知ラヌモ、ナベテ訪ハナム」(二)染色ノ名、古クハ、紅梅ノ花ノ色、卽チ、ももいろノ、濃キモノ。後ニハ、赤ト紫ト混ジタル色。枕草子、十、百三十三段「御返シハ、こうばいノ薄様ニ書カセタマフガ、云云」(三)襲ノ色目ノ名、表ハ紅梅ノ色、裏ハ蘇芳、春ノ着用トス。枕草子、二、十四段、すさまじきもの「三四月ノ紅梅ノ衣」增鏡、第十三、今日の日影、正慶三年睦月一日節會中宮ハ、濃キ紅梅ノ十二ノ御衣、云云」

こうばい (名) 〔勾配〕 〔勾ハ、勾股弦ノ勾ナルベシ、玉篇「配、當也、合也」〕 (一)算術、測量、語、斜ナル線ノ、傾ケル度。傾斜ノ度。正弦、正切(正安、ドモ、ルドキ、傾斜ノこうばへ」「山星ノこうばい」(二)勾配に走ると云フヲ略シテ、氣バタラキ。氣轉。

心機「こうばいガ疾イ」こうばいガノロイ」

こうばい (名) 公賣 公衆ニ觸レ示シテ、競賣ニスルコト。

こうばい (名) 〔購買〕 買ヒ取ルコト。購求。購入。蘇武詩「吳興太守實好」古、購ニ已殘缺一策ニ集昭二」

こうばいくみあひ (名) 〔購買組合〕 組合ヲ立テ、各自ノ要スル物品ヲ、廉價ニ購買シテ、組合員ニ購買セシムルモノ。

こうばいやき (名) 紅梅燒 饂飩粉ト、米粉ト、砂糖トヲ和シテ、薄ク堅ク、梅花ノ形ニ燒キナシタルモノ。

こうはう (名) 〔孔方〕 こうはうけい(孔方兄)ヲ見ヨ。「孔方ヲ散ズ」

こうはう (名) 公報 〔私報ニ對ス〕 官府ノ報告。

こうはう (名) 〔後報〕 ノチノ知ラセ。後刻ノ報知。「後報ヲ待ツ」委細、後報」

こうはう (名) 〔後方〕 シリヘノカタ。アトノハウ。(前方ニ對ス)「後方勤務」

こうばう (名) 〔後房〕 ウシロノヘヤ。婦人ノ居ルツボネ。晉書、石崇傳「室宇宏麗、後房百數」

こうばう (名) 〔興亡〕 おこるト、ほろぶルト。興廢。杜牧、後、明宮「興殺、亡之迹」運亡遷、興廢集、興亡」

こうはうきんむ (名) 後方勤務 戰鬪線ノ後ヨリ、彈藥、糧食、其他ノ必需品ヲ後送スル事務。

こうはうけい (名) 〔孔方兄〕 〔出典ヲ見ヨ、兄ヲ、ひんト云フハ、禪僧ノ唱ヘニテ、宋音ナリ〕 錢ノ異稱。又、孔方兄。晉書、魯褒傳「錢神論」曰、親レ之如レ兄、字曰ニ孔方一失レ之則貧弱、得レ之則富昌」(古文) 蘇軾詩「管城子無ニ食肉相一孔方兄有ニ絕交書一」壒囊抄(文安)十、三十九「錢ヲ、鳥目、鵝眼ト云フ、云云、亦、孔方兄トモ云フ也、是レモ、孔ハ、穴ナリ、穴、四方ナル故ニ、孔方ト云フ、兄ハ、唐音、尊敬ノ義ナリ」下學集(文安)下、器財門「孔方兄、錢異名也」運歩色葉集「孔方、錢名」

こうはう-ヒン (名) 〔孔方兄〕 前條ヲ見ヨ。

こうはく (名) 〔紅白〕 あかきト、しろきト。源平。韓愈、寒食出遊詩「桃花又見桃紅白、交開紅白如ニ爭競一」杜牧、念昔遊詩「紅白花開山雨中」「紅白ノ旗」紅白ノ餅」源平桃」

こうはく (名) 侯伯 〔公侯伯子男ヲ見ヨ〕 諸侯。大名。左傳、哀公十二年「侯伯致レ禮」書經、周官篇「外有ニ州牧侯伯一」

こうはく (名) 〔厚薄〕 あつきト、うすきト。禮記、月令篇「塋丘壟之大小、高卑、厚薄之度」太平記、廿、結城入道墮ニ地獄一事「結緣ノ多少ニ依テ、利生ノ厚薄ハアリ共、云云」「情ニ、厚薄アリ」

こうばつ (名) 〔攻伐〕 セメ、ウツコト。タタカフコト。イクサ。戰爭。史記、孟軻傳「天下方務ニ於合從連衡一以ニ攻伐一爲レ賢」

こうはふ (名) 〔公法〕 オホヤケノ法度。韓非子、有度篇「當ニ今之時一能去ニ私曲一就ニ公法一者、民安而國治」

こうはふ (名) 〔公法〕 〔英語、Public law. ノ譯語〕 私法ハ、Private law. ノ譯語) 法律ノ語、統治關係ノ規定、卽チ、憲法、行政法ナド。コレニ對シテ、私人ノ間ノ權利關係ノ規定ヲ、私法ト云フ、卽チ、民法、商法ナド。

こうはん (名) 〔公判〕 (一)裁判所ノ裁判。(二)特ニ、豫審ニ對シテ、刑事ノ有罪、無罪、決定ノ公開裁判。

こうはん (名) 〔後半〕 前半ヲ見ヨ。

こうひ (名) 〔后妃〕 キサキ。禮記、曲禮、下篇「天子之妃、曰レ后」詩經、周南、序「關雎、后妃之德也」

こうひ (名) 〔公費〕 〔私費ニ對ス〕 官府、又ハ、公共團體ヨリ支出スル費用。

こうひ (名) 工費 工作ノ入費。范成大、次レ韻ニ小橋一詩「喜試與レ匠謀、工費留毛出」

こうひ (名) 〔口碑〕 〔世ニ言傳ヘテ滅セズ、石ニ刻セルガ如キ意ト云フ〕 イヒツタヘ。五燈會元「太平安與時云、勸、君不レ用レ鐫ニ頑石一路上行人口似レ碑」書言字考「有レ名何必鐫ニ頑石一路上行人口似レ碑」「事、口碑ニ存ス」

こうひ (名) 〔喉痺〕 〔こうトハ、約メテ云フナリ、風土記、ふどき。通夜、つや〕 喉ノ、腫レ塞リテ痛ム病。又、こひ。字類抄「喉痺、コウヒ」下學集、上、支體門「喉痺、咽之病」倭名抄、三十病類「喉痺、俗說云ニ古比一病源論云、喉痺、喉裏、腫塞痺痛、水漿不レ得レ入、是也」醫心方、五五十「喉痺」

こうび (名) 〔後備〕 (一)アトゾナヘ。後詰ノ兵卒。范成大詩「殿數前驅營住月、笙簫後備帶行春」(二)豫備役ヲ終ハリタルモノ。(陸海軍軍人ノ)

こうびへいえき (名) 〔後備兵役〕 現役定限年齡ニ達シタルモノ、又ハ、豫備役ヲ經過シタル者ノ服スル兵役。後備役。

こうびん (名) 〔後便〕 ノチノタヨリ。又ノオトヅレ。後信。運歩色葉集「後便」

こうひやう (名) 公評 世上ニ、公ナル評判。王休賦「公評在レ人令、何思何慮」

こうふ (名) 公布 (一)公法ノ布告。

(二)徧ク、公衆ニ顯レ示スコト。

こうふ (名) 工夫 職工トシテ、働ク人。[illegible]

こうぶ (名) 工部 (一)支那ニテ、六官ノ一。[illegible] (二)宮内省ノ唐名。[illegible]「[illegible]侍郎、大丞、工部郎中」然レドモ、宮内省ヲ、工部ニ當ツルハ、誤レナシ、省中ニ、[illegible]唐名ニ當テバ、殿中省ナルベシト云フ。

こうぶ (名) 公武 公家ト、武家ト。朝廷ト、幕府ト。「公武合體」

こうふう (名) 恆風 恆信風ノ條ヲ見ヨ。

こうぶきやう (名) 工部卿 工部省ノ條ヲ見ヨ。

こうふく (名) 公服 朝廷ニ出勤ノ時ニ着スル制服。[illegible]

こうふく (名) 口腹 口ト、腹ト。飲食。[illegible]

こうふく (名) 興復 再ビ、興スコト。[illegible]

ごうぶく (名) 降伏 〔降ノ呉音、ごう〕佛法ノ法力ニ因リテ、怨敵、惡魔ナドヲ、伏セ鎭ムルコト。[illegible]

こうぶしやう (名) 工部省 鑛山、鐵道、

電信、等ノ諸業、土工、事務ヲ統ベ掌ル官省。[illegible]明治十八年ニ廢セラル。

こうぶつうほう (名) 洪武通寶 支那ノ明ノ太祖ノ、洪武年間ニ鑄テ發行シタル錢。面ニ、洪武通寶ノ字ヲアラハス、其一文錢ノモノ、我ガ國ニモ渡リ來リ、遍ク民間ニ通用セリ、洪武錢トモ云ヒキ。(其條ヲ見ヨ)

こうふん (名) 紅粉 〔紅脂、白粉ノ略〕ベニ、オシロイ。[illegible]「紅粉ヲ粧フ」

こうふん (名) 口吻 (一)クチワキ。クチバシ。[illegible]「口吻、黄ナリ」(二)モノイヒ。ハナシブリ。[illegible]「口吻ヲ弄ブ」

こうふん (名) 興奮 心氣、激シテ、フルヒオコルコト。[illegible]

こうふん (名) 公憤 〔私憤ニ對ス〕オホヤケバラダツコト。公衆ノイキドホリ。[illegible]

こうぶん (名) 公文 官府ヨリ發スル文書。公文書。[illegible]

こうぶんしよ (名) 公文書 前條ノ語ニ同ジ。

こうぶんゐん (名) 弘文院 和氣氏ノ子弟ノ學問所。延暦年中、和氣清麻呂ノ

子廣世、父ノ遺志ヲ繼ギテ建テタルモノナリ。(勸學院、學館院、ヲ併セ見ヨ)[illegible]田四十町、永充學料[illegible]

こうへい (名) 工兵 兵士ノ、土工、建築、等ノ事ニ從フモノ。

こうへい (名) 公平 (一)公正ニシテ、偏頗ナキコト。事ヲ行フニ、平等ナルコト。[illegible] (二)大小。[illegible]

こうへう (名) 公表 公ニ、發表スルコト。オモテムキニスルコト。

こうへき (名) 孔壁 孔子ノ舊宅ノ壁。孔壁ノ古文ト云フハ、其壁中ヨリ出デタル經傳ノ書ナリ。[illegible]

こうへん (名) 公邊 オホヤケザマ。オモテムキ、公儀。江戸時代ニハ、幕府ヲ云フ。官邊「公邊ノ御沙汰ニ逢ス」

こうへん (名) 後篇 後編 前篇ヲ見ヨ。

こうほ (名) 候補 〔補セラレムヲ候ふ意ナルベシ、集韻「候、伺望也」〕(一)某ノ地位ニ就カムト、望ミ居ルコト。又、其人。俗ニ、アトガマ。「議員選擧ノ候補」(二)豫ネテ、某ノ位地ニ就カシムベク、設ケテアルコト。又、其人。「士官候補生」

こうぼ (名) 後母 繼母ニ同ジ。父ノ後妻。[illegible]

こうぼく (名) 厚朴 支那舶來ノ藥品、朴ト云フ樹ノ皮ナリ、皺アリテ、厚シ、色ノ、紫褐ニシテ、潤ヒ多キヲ良シトス、味、苦ク、辛シ。

こうばふむぎ (名) 弘法麥 〔[illegible]下、[illegible]其種、弘法大師ノ所ニ將來ニ因テ、號弘法麥」(俚言集覽)此草、舊世界ノ原產ニシテ、牧草ニ良ケレバ、廣ク、栽培セラレタルナリト云フ〕燕麥ノ一名。ちやひきぐさノ條ヲ見ヨ。

こうぼふむぎ (名) 弘法麥 〔一名、筆草ハ、球根ニ、毛アリテ、筆ニ似タレバ云フト云フ、弘法ニモ筆ノ誤ナド云フヨリ、弘法大師ニ因ミテ名トスルカ〕一名、筆草。草ノ名、海邊ノ沙地ニ生ズ、葉ハ、すげニ似テ小サク、はますげニ似テ大キクシテ、堅ク厚ク光リテ、邊ニ刃アリ、一根ニ叢生ス、夏、五六寸ノ莖ヲ出シ、頂ニ、一寸餘ノ穗ヲ生ジ、黄ナル葉、多ク集ル、實ハ、小麥ノ穗ノ如ク、六稜ニシテ、固シ。イヌムギ。ウミゴメ。莎草

ごうま (名) 降魔 〔約メテ、がまトモ云フハ、風土記、ふどき。通夜、つやノ例〕惡魔ヲ、降伏セサスルコト。不動明王ノ怒レル如キ面相ヲ、降魔の相ト云ヒ、其持テル劍ヲ、降魔の利劍ト云フ。降魔の相ヲ、がまの相ト云ヒ、恐シキ顏色ノ意トス。源、四十九、東屋「人聞キモ、カタハラ痛キ事ト思ウタマヘテ、がまのさうヲ出シテ、ツト見ヲリツレバ、イトムクツケク、ゲスケマシキなトナ·ボシテ」

こうまう (名) 孔孟 支那ノ、孔子ト、孟

子ト。孔孟の學ト云フハ、卽チ、儒學、儒敎ナリ。張協、洛禊賦「主希二孔孟之晉盛一頗切二」

こうまう (名) 鴻毛 〔まう(毛)ノ條ヲ見ヨ〕 鴻ノ羽。事物ノ、極メテ輕キコトニ譬ヘテ云フ語。司馬遷、報二任安一書「死或重二於泰山一或輕二於鴻毛一」史記、刺客傳「夫以二鴻毛一燎二於爐炭之上一必無レ事矣」

こうまう (名) 紅毛 〔まう(毛)ノ條ヲ見ヨ、其國人、毛髮、紅色ナレバ呼ベルナリ、蝦夷ガ島ニテ、露西亞人ヲ赤人ト云ヒシモ、同ジ〕 阿蘭陀國ノ異稱。其國人ヲ、紅毛人ト云ヒキ。(英吉利人ヲモ含メテ云ヘリ) 明實錄「萬曆間、紅毛國進貢」漳州府志「紅毛番、本名二米栗果一佛郎機與國也、其國、當二中國之背一晨昏、晝夜、皆相反、云云」芭蕉ノ句「天和二紅毛ヤ、花ニ來ニケリ、馬ニ鞍」(每年三月、甲必丹ノ、江戶來貢ヲ云ヘリ) 增補、華夷通商考、四「紅毛人」外蕃通書、六、阿蘭陀國書「明清ノ書ニ、紅毛番ト云フ」註「東西洋考ニ云」瀛環志略、四「歐羅巴之人云云」註、明季、稱二荷蘭一爲二紅毛一近年、稱二英吉利一爲二紅毛一皆、因二其鬚髮之赤一」

こうまうじん (名) 紅毛人 前條ヲ見ヨ。

こうまつ (名) 口沫 アワブク。

こうまろ (名) 鉤丸 御簾ノ鉤。コレニツクル緒總ヲ、こうまろ緒ト云フ。建武年中行事、正月、御齋「常ノ時ノ如ク、こうまろをニ掲ゲ」

こうまろを (名) 鉤丸緒 前條ヲ見ヨ。

こうみ (名) 子產 子ヲ、產ムコト。出產。榮花物語、三十、鶴林「中納言殿ノ上モ、此頃、御子うみノコトアベレケレバ」

こうみ (名) 厚味 旨キ食物。美味。列子、楊朱篇「豐屋、美服、厚味、姣色」國語、周語「高位ハ實疾顚、厚味實腊毒」字典「實、是也」

こうみん (名) 公民 〔英語、Citizen.ノ譯語〕 一定ノ資格ヲ有スル、市町村ノ住民ノ稱。乃チ帝國ノ臣民タル、年齡、滿、二十五年以上ノ男子ニテ、二年以上、其市町村ニ住居スルモノハ、當然、此資格ニ因リテ、市町村議員ノ、選擧人、被選擧人タルヲ得ルナドノ權利ヲ、公民權ト云フ。

こうみんけん (名) 公民權 前條ヲ見ヨ。

こうみやう (名) 功名 〔こうみやうハ、吳音、こうめいハ、漢音〕 功ヲ立テタル名譽。功名。「功名手柄」功名拔群」後漢書、鄧禹傳「垂二功名於竹帛一」「功名富貴」

こうむ (名) 公務 (一)官府ノ務メ。公用。宋史、信從吉傳、論「勤二于公務一而疎二於訓レ子」增鏡、第五、內野雪「公務ノ日ナリトモ、暇ヲ申シテ、コノ八講ニアフベシ」 (二)公共團體ニ關スル事務。

こうん (名) 孤雲 一片ノ雲。ハナレグモ。李白詩「孤雲獨去閑」謠曲、實盛「筆貺、遙カニ隔コユ、孤雲ノ上ニ」

ごうん (名) 五雲 (一)五色ノ雲。周禮、保章氏篇「以二五雲之物一辨二吉凶、水旱、降豐、荒之、祲象一」 (二)書簡ノ稱。出典ヲ見ヨ。唐書、韋陟傳「陟常以二五采牋一爲二書記一使二侍妾主一之、其以裁レ答受レ意而已、皆有二楷法一陟唯署レ名、自謂、所レ書陟字、若二五朶雲一時人慕レ之、號二郇公五雲體一」 (三)ごうんのくるま(五雲車)ノ略。其條ヲ見ヨ。太平記、十一、還幸事「左輔右弼列ヲ引キ、六軍次デヲ守リ、五雲閑カニ幸スレバ」

ごうん (名) 五運 陰陽師ノ語、五行ノ木、火、土、金、水、ノ運行。

ごうん (名) 五蘊 〔玉篇「蘊、積也、聚也」〕 イツツノモノ。佛敎ノ語。色、受、想、行、識、ノ五ツノ稱。色トハ吾人ノ肉身、受ハ感覺、想ハ想像、行ハ心ノ作用、識ハ意識、要スルニ、五ツノモノハ、煩惱ヲ發生スルモノナリ。祖庭事苑「毘婆沙曰レ色、領納曰レ受、取像曰レ想、造作曰レ行、了知曰レ識、亦名二五蘊一」增鏡、第十六、久米皿山「四大本無レ主、五蘊本來空」狗張合戰物語「五蘊有待ノ身、捨ツトイフトモ、捨テラルベシ」太平記、二、長崎新左衞門意見事、資朝卿辭世頌「五蘊假成レ形、四大今歸レ空」

ごうんのくるま (名) 五雲車 五雲ノ(一)ヲ描キタル車。太平記、三十七、楊國忠事「アダナル色ヲノミ、御心ニシメテ、五雲の車ニ召サレ、左右ノ侍兒人ニ手ヲ引カレ、殿上ヲ幸シテ、後宮三十六宮廻リ」

こうめ (名) 小梅 (一)まなのうめノ一名。(二)にはうめノ一名。

こうめい (名) 鴻名洪名 大ナルホマレ。洪大ナル名譽。史記、司馬相如傳「前聖之所下以永保二鴻名一而常爲中稱首上者、用レ此」

こうめい (名) 功名 こうみやうノ條ヲ見ヨ。

こうめい (名) 公明 私ナク、アキラカナルコト。說苑「公生レ明、偏生レ暗」

こうめいせいだい (名) 公明正大 〔此語ノ出典、探リ得ズ〕 趣意ノ、公平、明白ニシテ、聊カモ、私ナキコト。

こうもつ (名) 公物 オホヤケノモノ。官倚ノモノ。官物。大內家壁書「就二寺領一沙汰出來之儀、被レ押二置中途土貢一事、準二武領一不レ可レ被レ用二御公物一」

こうもと (名) 講元 こう(講)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こうもん (名) 告文 〔こうハ、告ノ吳音〕 神ニ告ゲ奉ル文。三代實錄、十六、貞觀十一年十二月十四日「伊勢太神宮、奉幣、告文」吾妻鏡、二、治承六年五月廿九日「奉二告文等於一伊勢太神宮一」太平記ノ一ノ御告文事ノ條ニ、北條高時ガ怒ヲシヅメタマハムトテ、主上ヨリ、告文一紙ヲ下サルトアルハ、神文、誓紙ノ意ナリ。

こうもん (名) 公門 君ノ門。論語、鄕黨篇「入二公門一鞠躬如也」

こうや (名) 紺屋 こんや(紺屋)ノ條ヲ見ヨ。

こうやく (名) 口約 クチヤクソク。イヒアハセ。申シアハセ。

こうよ (名) 公餘 公務ノ餘暇。王禹偁詩「公餘多愛レ入二林泉一」

こうよう (名) 功用 ハタラキ。キキメ。テガラ。史記、伯夷傳「典レ職數十年、功用既興、然後授レ政」續古事談、一、王道后宮「後冷泉院御時、云云、天降リケル油漏器、燒ケニケリ、賀陽親王、是ヲウツシ造リタリケレドモ、功用、施ス事ナシ」

こうよう (名) 公用 (一)官ノ用事。職務ニ係ル用事。(私用ニ對ス) 公務 公事 (二)公衆、公共ノ用ニ供スルコト。漢書、毋將隆傳「武庫兵器、天下公用」

こうようにん (名) 公用人 大小名ノ家ニ、公用、卽チ、公儀ニ係ル用事ヲ辨ズル役目。

こうらい (副) 後來 コノノチ。ユクスヱ。晉書、豫章王熾傳「後來佳器也」

こうらう (名) 功勞 〔周禮、大宗伯篇、司勳「國功曰レ功、事功曰レ勞」〕 イタヅキ。ホネヲリ。テガラ。史記、秦始皇紀「積二功勞一世以相傳久矣」

こうらうでん (名) 後涼殿 禁中ノ殿舍、清涼殿ノ西ニアリ、中央ニ、馬道ヲ

以テ、南北ニ納殿アリ。こうりゃうでん。又、後涼殿。「…中宮ヲ…、イミジウ…セサセマヒケレバ、…人ノ…ヲ、こうらう殿ノ…ノ…サセタマヒテ、…ノ…ニ…キ…ロ…サセタマヒテ、云云」著聞集、十九、草木「後涼殿ノ簀子」名目抄「後涼殿」

こうらん（名）勾欄〔正韻「闌、…、…」…「俗作レ勾」說文「…也、…」〕（一）宮殿、堂社、橋、ナドノ欄干。テスリ。（王勃、宮詞…、…ケタアルハ、…ナリ」…）（二）支那ニテ、芝居ノ棧敷。（…「…」…十二「…」）

こうらん（名）紅藍〔英語、Indigo red.〕いんぢごちんト、組成ノ同ジキ紅色素。其少量ハ、常ニ普通ノ印度藍中ニ存ス、暗紫色、針狀ニ結晶シ、熱酒精、あみるあるさおる、えいてる、あせとん、氷醋酸、等ニ溶解シ、又、昇華性アリ、稀薄ノ酸類、あるかり類ニ作用ヲ受ケザレド、還元劑ニヨリテ、無色體ニ還元セラル。（日本百科大辭典）

かうり（名）小賣 物ヲ、少シヅツ分チテ賣ルコト。（卸賣ナドニ對ス）零賣

こうり（名）公吏 公務ノ吏員。市町村ノ吏員、又ハ、執達吏、公證人ノ類。

こうり（名）功利（一）功勞ト、利益ト。（…子、…功利…、而不…）（二）功名ト、利得ト。（史記、平準書「…俗…功利…」）

こうり（名）厚利 厚キ利益。（…子、…「…之…厚利…下…」）

こうりう（名）拘留（一）人ヲ、拘束シテ、留メ置クコト。（漢書、…傳「…、…拘…使、以…」）（二）刑事ノ被告人ヲ拘置場（監獄）ニ拘留スルコト。拘置。

こうりうじやう（名）拘留狀 豫審判事ガ、刑事ノ被告人ヲ拘留セムガタメニ發スル令狀。

こうりせつ（名）功利說〔英語、Utilitarianism.ノ譯語、功業、利益ヲ目的トスル說、實利主義ナリ〕英國ニ起レル倫理學說。最大多數ノ最大幸福ヲ云ヒ、此結果ノ生ズル行爲ハ善ニシテ、之レニ反對ノ結果ヲ生ズル行爲ヲ惡トシ、學問モ、事業モ、利益ヲ成サザルヲ卻クト云フナリ。功利主義。功利教。

こうりつ（名）公立 公共團體ノ、取立テタルモノ。（官立、私立、ナドニ對ス）「公立學校」「公立病院」

こうりやう（名）虹梁 宮殿、佛堂、ナドノ、正面ノ、大イナル梁。中ヨリ高クシ、虹ノ形ニ造リ、彫刻ヲ施シ、彩色ス。（張衡、西京賦「…」…「…」…太閤記、七、大佛殿「…虹梁ヲ、百人バカリニテ、車ヲ廻ハシ、引上ゲニケリ」都林泉名勝圖會、四、妙心寺、法堂「此堂ノ虹梁ハ、大木ノ…、…長サ九間半」）

こうりやう（名）公領（一）朝廷ノ御領地。（…、廿八、…元…九月一日「…公領…」…）（二）江戸幕府ノ領地。公儀（朝家）ガ、幕府ノ稱ニ移レルガ如シ。又、公料。

こうりやうでん（名）後涼殿 こうらうでんノ條ヲ見ヨ。

こうりやく（名）攻略 セメ、トルコト。（…「…」…「…」…）

こうりう（名）興隆 隆ニ、興ルコト。隆盛。（…「…」平家物語、二、…「…、我ガ山ノ…ヲノミ思ヘリ」「佛法興隆」）

こうりようし（名）告陵使（こうハ、告ノ吳音）朝廷ノ大禮、祥瑞、事變、等ニ際シ、特ニ、其由ヲ、山陵ニ申告スル勅使。（每年恆例ノ荷前使ト別チ稱ス）（文德實錄、二、嘉祥三年十月「從五位下藤原朝臣…、…向…深草山陵…（仁明）告以…瑞之由…」…史、三十六、帝王「大同五年九月丁未、遣…使告…于柏原山陵（桓武）」玉海、壽永二年五月十五日「今日被レ立…佐保山陵（聖武）使…」）

こうりよく（名）公力（一）公ノタメニ、無報酬ニテナス力役。エダチ。（宋書、…傳「立…宅於…、…役…公力…」）（二）國權ヲ行使スル機關ノ強制力。「公力使用」

こうりよく（名）功力（一）功勞ノ力。（二）效驗ノ力。「藥ノ功力」

かうるか（名）うるかノ條ヲ見ヨ。

こうるゐ（名）紅淚〔紅粉ノ、淚ニ混ジタルヲ云フナルベシ〕（一）女子ノ淚ニ云フ語。（…、…、妃…召…「…紅淚…」…「…」）…太平記、六、民部卿三位局…「…千行萬行ノ紅淚ヲ…盡シテ、七日七夜ノ丹誠ヲ致サセ給ヘバ」（二）血ノナミダ。（紅ヲ、血ニ寄セテ云ヘルニカ）血淚。（吾妻鏡、…、元…二年五月廿四日「…、…、…御…之…、…紅…」）

こうれい（名）恆例 公事、儀式ナド、常例トシテ行ハルルモノ。定例。（臨時ニ對ス）（貞觀…記、…「…」…「…」…公事「恆例、臨時ノ大小事」）

こうれう（名）公料 幕府ノ領地、公領。（…「…」、…十三、享保六年閏七月廿九日 松平…守…、云云、二、公料ノ地ヲ預ケラル」）

こうれつ（名）鴻烈 大イナルテガラ。（後漢書、馮衍傳「…、…鴻烈…」）

こうれん（名）公廉 公平ニシテ、廉潔ナルコト。（漢書、尹翁歸傳「…市吏…公廉不…受…」）

こうれん（名）厚斂 厚キ取立。苛斂誅求。（左傳、昭公廿六年「公厚斂焉、陳氏厚施焉」）

こうれん（名）後聯 律（漢詩ノ）ノ條ヲ見ヨ。

こうろう（名）紅樓 朱塗ノタカドノ。紅色ニ飾リタル殿。（白居易詩「紅樓…女、…」）

こうろく（名）厚祿 手厚キ俸祿。高祿。（戰國策、楚策「…位…厚祿…」）

こうろくわん（名）鴻臚館〔史記、河渠書「鴻水…、大水也」洪ト通ズ、正韻「臚、傳也」廣ク傳フル意、尙、次次條ヲ見ヨ〕古ヘ、京都ニ設ケラレテ、唐國、韓國ナドヨリ來貢スル使者ヲ宿セシメラレシ館舍。朱雀大路、七條坊門ノ東西ニアリキ。難波ニモアリキ。太宰府ニテハ、博多ニ設ケラレタリ、初ハ、筑紫館ト云ヒキ。（持統紀、二年二月「…霜林等於…筑紫館…」…萬葉集、十五「…筑紫館…」）

寮ニ依信作歌」後紀、廿四、弘仁六年三月「蕃國之使、入朝有レ期、客館之設、常須ニ牢固一」職員令、義解、玄蕃寮、頭「掌ニ蕃客辭見、監ニ當館舍一事ト」(節文)註「謂ニ鴻臚館一也」源、一、桐壺廿「其頃、高麗人ノ參レルガ中ニ、カシコキ相人、アリケルヲ聞召シテ、云云、イミジウ隱ビテ、此皇子ヲ鴻臚館ニツカハシタリ」

こうろけい (名) 鴻臚卿 次條ヲ見ヨ。

こうろじ (名) 鴻臚寺 〔鴻臚ハ、前前條ノ語原ニ同ジ、此條ノハ、外國人ノ言ヲ傳フル意ナリト云フ、寺ハ、漢書、註「凡府廷所レ在、皆謂ニ之寺一」〕支那ニテ、外國ノ使者ナド、接待スル官府。其長官ヲ、鴻臚寺卿、又、鴻臚卿ト云フ。我ガ邦ニテ、玄蕃頭ヲ、鴻臚卿ト云フ。又、外國ノ使者ヲ宿セシムル館舍ヲ、鴻臚館ト云フ、前前條ヲ見ヨ。宋史、職官志「鴻臚寺卿、掌ニ四夷朝貢宴勞給賜送迎之事一」文獻通考、職官考、鴻臚卿「掌ニ諸侯及歸義蠻夷一」職原抄、上、玄蕃寮「唐名、鴻臚寺」頭 唐名、鴻臚卿」

こうろじけい (名) 鴻臚寺卿 前條ヲ見ヨ。

こうろ・へる ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 老熟 〔功勞經るノ約轉、鈎、こ。籐、と。杏葉、ぎやうえふ〕(一)年功ヲ積ミテ、熟練ス。老練ス。(二)老イテ、長大トナル。「古狸ガ、こうろヘテ」

こうろん (名) 公論 (一)偏頗ナキ論。公平ナル議論。世說、品藻、上篇、下「大將軍下、云云、何者、居ニ其右一、王曰、云云、噫其自有ニ公論一」(二)世上、公衆ノ論。

こうろん (名) 口論 コトバアラソヒ。クチロン。韓維詩「擾擾世俗爭、不レ得ニ口舌一」江談抄、三、雜事「菅相公(三善清行)與ニ紀納言(紀長谷雄)口論事」

こうわ (名) 媾和 〔廣韻「媾、古候切」字典「和好也」〕兩國、相、親シムコト。和睦。(かうわ(講和)ノ條ヲ併セ見ヨ) 史記、平原君虞卿傳「不レ如ニ發ニ重使ニ爲レ媾」集解「求レ和曰レ媾」戰國策作レ講」

こうゐ (名) 攻圍 セメ、カコムコト。攻擊、包圍スルコト。祖君彥文「四面攻圍、千里援絕」

こうゐん (名) 後院 天皇御讓位ノ後ノ御所。新儀式、四「後院事 代代多有ニ後院一」

こうゑ (名) 講會 信者(神佛ナドノ)ノ集リテ行フ法會。

こうゑん (名) 後園 家ノ後ノ庭、又、畠。史記、曹相國世家「相舍後園、近ニ吏舍一」王維詩「終朝前庭月、酒勸後園春」平治物語、三、頼朝被ニ生捕一事「何トナク、後園ニ出テ見廻スニ」(青墓ノ大炊ノ家ノ)

こうゑん (名) 公園 〔英語、Public garden. ノ譯語〕公衆ノ、逍遙、行樂スルニ設ケタル庭園。

こえ (名) 肥 田畠ニ培ヒ、地ノ力ヲ肥エシメテ、草木ヲ繁殖セシムルモノ。糞尿、動植物ノ腐敗物、干鰯、糠、ナドヲ用キル。コヤシ。コイ。肥料。培糞 箋注倭名抄、一、七十四「白田」注「糞、訓ニ古江一」

こ・え (動) 肥 こゆ(肥)ノ條ヲ見ヨ。

こ・え (動) 越 こゆ(越)ノ條ヲ見ヨ。

こえ (接尾) 越 峠路ヲ越ユルニ云フ語。「伊賀越」「龍華越」

ごえい (名) 御影 ミエイ。神佛ナドノ畫像ノ敬稱。吾妻鏡、廿五、承久三年七月八日「上皇(後鳥羽)云云、召ニ信實朝臣ニ被レ模ニ御影一」

ごえいか (名) 御詠歌 〔花山院奉納ノ勅吟ナリナド傳フレド、妄ナリ、歌、皆、後世ノ俗調ナリ〕西國三十三所ノ觀音順禮ノ謠フ和歌。一所每ニ、一首ヅツアリ、節長ク、アハレゲニ、人ノ心ニ徹ルヤウニウタフ、僧徒ノ、三十三所觀音ト云フコトヲ定メテ、其寺ニ詣ヅル者ニ歌ハセムトテ、佛道ノ旨ヲ、其寺ノ事ニ取添ヘテ作リタルモノナルベシ。三十三番札所ノ第一ナル紀伊國、那智山ノ靑岸渡寺「補陀落ヤ、岸打ツ波ハ、三熊野ノ、那智ノ御山ニ、響ク瀧ツ瀨」二番、紀伊、紀三井寺「古郷ヲ、ハルバルココニ、紀三井寺、花ノ都モ、近クナルラム」三番、紀伊、粉河寺「父母ノ、メグミモ深キ、粉河寺、佛ノ誓ヒ、タノモシキカナ」三十三番、美濃、谷汲ノ華嚴寺「萬代ノ、願ヒヲココニ、納メオク、水ハ苔ヨリ、出ヅル谷汲」「今マデハ、親ト賴ミシ、笈摺ヲ、脫ギテ納ムル、美濃ノ谷汲」

ごえう (名) 御要 〔御用ヲ併セ見ヨ〕要用ノ敬語。モトメタマフコト。古今著聞集、十七、第九語「是ヲ米ニ交易シテ、御要ニ可レ被レ充シト云テ、云云」吾妻鏡、三、壽永三年十一月廿一日「武衞有ニ御要一、召ニ筑後權守俊兼一」

ごえう (名) 五曜 水、火、木、金、土、ノ五ツノ星。史岑、出師頌「五曜霄映」

コ・えき (名) 虎疫 〔虎ハ、虎列剌ノ略〕コレラ病。

こえだ (名) 小枝 小サキ枝。枝ノ先ニ差シタル枝。サエダ。

こえたご (名) 肥桶 〔こえ(肥)ノ條ヲ見ヨ〕肥ヲ盛リ運ブ擔桶。糞桶

こえため (名) 肥溜 地ヲ掘リテ、大イナル桶ヲ埋メ、人糞ノ肥ヲ溜メ置ク所。

こえつぼ (名) 肥壺 壺、又ハ、桶ヲ、廁ノ下ニ埋メオキテ、大小便ヲ受ケシムルモノ。

こえとり (名) 肥取 〔こいとりト云フハ、音轉ナリ、こい(肥)ノ條ヲ見ヨ、人糞ヲ、田畑ノ肥トスルナリ〕廁ノこえつぼノ人糞ヲ、汲取ル者。又、こいとり。金汁行 倭訓栞、後編、こえ「通雅、後周紀ニ、抒廁行乞之人、注ニ、取ニ人家之糞子ニ、爲ニ去ニ穢惡ニ洗レ之者也ト見ユ、抒廁ハ、こえとりノ類、行乞ハ、乞食ノ類也」說文「抒、挹也」(おほつぼ(大壺)ノ條ヲ見ヨ) 水蛙眼目(頓阿)「道ニ、こえとり車ノアルヲ見テ「瘦牛ニ、こえ車ヲゾ、カケテケル」」

こえびしゃく (名) 肥柄杓 人糞ノ肥ヲ汲取ルニ用キル、柄ノ長キ柄杓。

こえふ (名) 枯葉 カレハ。樹ノ枯落葉。後漢書、鄭太傳「以ニ膠固之衆ニ、當ニ解合之勢ニ、猶レ以ニ烈風ニ、掃ニ夜枯葉一」

ごえふ (名) 梧葉 梧桐ノ葉。韋應物詩「況茲風雨夜、蕭條梧葉秋」

ごえふ (名) 五葉 次條ヲ見ヨ。

ごえふのまつ (名) 五葉松 イツハノマツ。略シテ、イツハ。又、ごえふ。松ノ類、葉ノ形、細ソク短ク、柔カク、めまつノ葉ノ如クニシテ、一莖、五針ナリ、樹ノ皮、鱗甲ノ如クナラズ、材理モ密ナリ。五鬣松 五針松 宇津保物語、藏開、下九「五えふの松」枕草子、三、廿四段、木は「ごえふ」

こえん (名) 小緣 〔緣ノ條ヲ見ヨ〕緣側ノ、幅、狹キモノ。謠曲、熊坂「長範ヲ手楯ニ取テ、二尺五寸ノ小太刀ヲ拔テ、小緣ニ躍リ出デテ、向フ敵ヲ待懸ケタリ」

ごえん (名) 後宴 儀式終ハリテ後ノ酒宴。踏歌、御元服ナドノ後ニアリ。紀略、

[illegible]、[illegible]日ニハ[illegible]アリテ、[illegible]シャマヒツ、等ノ器、ツカウマツリタマフ」

コエンドロ (名) 胡荽 〔蘭語、Koriander.〕 [illegible]ノ莖、[illegible]、地中海沿岸ノ原産ト云フ、案ズルニ、倭名抄ニ、胡荽アリ(其條ヲ見ヨ)中世、其種絶エ、後ニ、蘭人ノ舶來セシヲ、更ニ栽培セシモノナリ〕 古名、コニシ。コシ。草ノ名、舶來ノ種ナリ。秋ノ末ニ種ヲ下ス、葉ハ、互生シ、細、圓ク小サクシテ、鋸齒アリ、成長シテ、二尺ノ莖ヲ出ス、梢ノ葉ハ、細ソクシテ絲ノ如シ、夏ノ初、莖ノ上ニ、細小ノ花、簇リ開キテ、傘ノ狀ヲナス、五瓣ニシテ、淺紫色ナリ、實ハ、正圓ニシテ、一分許、臭ミアリ、熟トス、根、莖ニシテ、白シ、冬、春、採リテ食フベシ、香、美ナリ。

※**こ・える** (動) 肥 肥ゆノ口語。

※**こ・える** (動) 越 越ゆノ口語。

こ-おう (名) 呼應 カレ、呼ビ、コレ、應フ。[illegible]フォコト、呼ビカハスコト、カケアヒ。テリアヒ、[illegible]

コオク (名) 栓 ころく(栓)ノ條ヲ見ヨ。

コオクス (名) 骸炭 〔英語、Cokes.〕 石炭瓦斯ノ條ヲ見ヨ。

コオセット (名) こるせっとノ條ヲ見ヨ。

コオチン (名) 交趾鷄 〔英語、Cochin. 交趾國ノ原產〕 鷄ノ一種、くきんニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

コオト (名) 〔英語、Coat.〕 洋服ノ上衣、

コオヒイ (名) 咖啡珈琲 〔蘭語、Koffie. 英語、Coffee.〕 咖啡ノ樹ノ種子ヲ乾シタルヲ、炒リテ碎キテ、細末ニシタルモノ、砂糖ヲ加ヘ、熱湯ニ混ジテ飮ムモノトス。色、褐黑ニシテ、一種ノ香氣アリテ、少シ苦ミアリ。カッフェイ。此樹ハ、熱帶地方ニ生ズル常綠ノ灌木ニシテ、葉ハ、對生シテ、長橢圓ナリ、其葉ニ、小白花ヲ叢生シテ、香氣アリ、實ニ、二種子アリ。

こ-おん (名) 古音 昔シ呼ビタル、漢字ノ音。 宋史、藝文志「鄭庠詩古音辨一卷」

ご-おん (名) 五音 五音ノ條ノ(二)(三)ヲ見ヨ。

ご-おん (名) 吳音 漢音ノ條ヲ見ヨ。

ご-おん[illegible] (名) 御恩所 次次條ノ語ニ同ジ。

お-おんぞ (名) 小御衣 〔おんぞヲ見ヨ〕 小忌ノ寢衣。 [illegible](天文)「小御衣」[illegible] 雜記、三、小袖之部「おおんぞト云フハ、小寢卷ノ事也、當ノ小袖ノ形ニテ、ゆき、たけヲバ、長クスルナリ」

ご-おんち (名) 御恩地 恩賞ニテ、拜受シタル領地、御恩所。 吾妻鏡、三十四、仁治二年五月廿三日、肥後國、大町庄「以二御恩地一不レ可二[illegible]之由、治定[illegible]」

お-および (名) 小指 〔およびノ條ヲ見ヨ〕 おゆびニ同ジ。 倭名抄、三、手足類「季指、小指、[illegible]」

コオル (名) 短資 おおるまねえノ略、其條ヲ見ヨ。

コオル-タアル (名) 〔英語、Coal-tar.〕 石炭瓦斯製造ノ際、副生物トシテ成ル、黑色、半流動體ノ物質。あにりん、石炭酸、等ヲ製スル原料ニ供セラレ、又、鐵材、木材ノ防腐、煉炭、防水布、等ノ製造ナドニモ用キラル。

コオル-てん (名) 〔こおるハ、英語、Corduroy.ノ下略、てんハ、天鵞絨ノ天ナリ、わなてんモ同ジ〕 天鵞絨ニ類シタル、一種ノ綿絲ノ畝織物。

コオル-マネエ (名) 短資 〔英語、Call money. 呼ブ金錢ノ意〕 銀行ノ當座貸附金。何時ニテモ返濟スベキ契約ニシテ、日步、低利ニテ貸スモノ。略シテ、こおる。

お-おろし (名) 子卸 懷胎セル子ヲ、藥ナドニテ、オロスコト。墮胎。 [illegible]中抄、下「子おろしノ藥レ」「おおろし藥」

こ-か (名) 古歌 フルキウタ。古人ノ詠ミタル詩歌。 [illegible]、古歌[illegible]君休[illegible]十訓抄、中、第七、二條ニ位[illegible]ノ條「此侍、君が來ませるト云古歌ヲ不レ知ケルニヤ」

こ-か (名) 故家 古キ家柄。舊家。 孟子、公孫丑、上篇「故家遺俗、流風善政、猶有二存者一」

こ-か (名) 估價 賣買ノネダン。 唐書、陸贄傳「估價[illegible]、月平[illegible]」關市令「凡官與レ私交關、以レ物爲レ價者、准二中估價一」

こ-か (名) 胡笳 あしぶえノ條ヲ見ヨ。 [illegible]、胡笳[illegible]、送[illegible]使赴二河隴一詩「君不レ聞胡笳聲最悲、紫髯綠眼胡人吹、吹レ之一曲猶未レ了、愁殺樓蘭征戍兒」(樓蘭ハ、西域ノ國名)

お-が (名) 大桶 〔おハ、大ニテ、かハ、瓮、筒ノ意カ〕 大イナル桶。今、酒造ニ用キルナドニ云フ。 下學集、下、器財門「桶[illegible]」倭訓栞、おが「下總國ニ桶ヲ讀ミ、[illegible]桶也ト註セリ、今、[illegible]國邊ニテ、酒桶ヲ云ヘリ」

こ-が (名) 古雅 古ビテ、雅致アルコト。 [illegible]

こ-が (名) 虎牙 〔將軍ノ、帝王ニ侍シテ守衛スルハ、虎ノ、牙アルガ如キ意、揚雄、執金吾箴「如二虎有一レ牙、如二鷹有一レ爪」〕 (一)近衛府ノ異稱。 後漢書、蓋延傳「光武卽位、以延爲虎牙將軍」 [illegible] (二)轉ジテ、將軍ノ異稱。 [illegible]ナリ」

ご-か (名) 午下 〔午ノ條ヲ見ヨ〕 ヒルスギ。午後。「午下、午眠ヲ貪ル」

ご-か (名) 梧下 〔梧桐造ノ机ノ下ノ意〕 机下ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。案下。

ご-か (名) 五加 〔出典ヲ見ヨ〕 灌木ノ名。ムコギ。ウコギ。 本草和名、上「五茄、一名、五家、五葉同レ本、而外五分、故名二五家一、如二五家爲一レ隣比一也」

こ-かい (名) 湖海 (一)ミヅウミ。 韋應物詩「山川表二明麗一、湖海吞二大荒一」 盛衰記、十六、大臣以下流罪事「[illegible]、湖海之二[illegible]レテ」(近江ノ湖) (二)江湖ニ同ジ。民間。 三國志、魏志、陳登傳「陳元龍、湖海之士、豪氣不レ除」

ご-かい (名) 五戒 〔戒ノ條ヲ見ヨ〕 佛敎ニ、五惡ノ戒。佛敎初步ノ戒法ナリ。五惡トハ、殺生、偸盜、邪淫、妄語、飮酒、ナリ、各條ニ注ス。 [illegible]「以二五戒一[illegible]敎」 [illegible]、不殺生、二、不偸盜、三、不邪淫、四、不妄語、五、不飮酒」源、三十四、下、若菜、下五十七「忌ムコト(戒)ノカモヤトテ、御

項、シルシバカリ鍬ミテ、五かいバカリ受ケサセ奉リタマフ」

こがいまき (名) [小搔卷] かいまきノ條ヲ見ヨ。

コカイン (名) [古加乙涅] 〔英語、Cocaine.〕 南亞米利加ニ產ズル、古加(古柯)トイフ灌木ノ主成分ニシテ、白色、無臭ノ結晶體ナリ、局所痲痺劑トシテ、皮下注射ニ用ヰ、又、點眼ノ料トス。

こかう (名) [鼓行] 軍隊ガ、鼓ヲ鳴ラシテ、行進スルコト。漢書、項籍傳「引ㇾ兵鼓行而西、必擧ㇾ秦矣」

こかう (名) [枯槁] カルルコト。痩セ、衰フルコト。戰國策、秦策「形容枯槁、面目黎黑」

こがう (名) [呼號] ヨビ、サケブコト。漢書、陳遵傳「晝夜呼號、車騎滿ㇾ門」

ごかう (名) [五更] 〔かう(更)ノ條ヲ見ヨ〕 午前四時ヨリ六時マデノ間。五夜。韓愈詩「鷄三號更五點」太平記、七、先帝船上臨幸事「時打ツ鼓ノ聲ヲ聞ケバ、夜ハマダ五更ノ初ナリ」淨瑠璃物語(室町時代)御座うつり「五更ノ天モ過ギユケバ、人目ヤ夢ヲサマスラム」

ごかう (名) [五港] 德川幕府ニテ、始メテ外國ニ對シ、交易場トシテ開キタル、五所ノ港。即チ、橫濱、神戶、長崎、新潟、函館。

ごかう (名) [御幸] 行幸ノ條ヲ見ヨ。三中口傳、四、院御幸御裝束事「神社御幸之外、尋常之儀、皆御直衣也」

ごかうしよはじめ (名) [御講書始] 新年御儀式ノ一、和、漢、洋ノ碩學、各、一人(外ニ、控、各、一人)ヲ召シテ、其專門ノ書ノ、各、一節ヲ講ゼシメラレ、主上、親シク聽カセタマフナリ。

こかうぢやう (名) [小考定] かうぢやう(定考)ノ條ヲ見ヨ。

ごかうらい (名) [御高來] 人ノ訪ヒ來ルコトノ敬語。オコシ。オイデ。御來臨。

こがき (名) [小書] 文書ノ中ニ、別ニ、其意味ヲ、細カク書キ入レタルモノ。細註。

こがき (名) [小蠣] いそがきニ同ジ。

こかく (名) [小角] 〔かくなきノ條ヲ見ヨ〕 小サキ折敷、三寸四方ナルモノ。松屋筆記、百五、(第四十八、閑窓瑣談「索麪、むし麥ノ小角ハ、チト長キ小折敷也」同卷、第九十七、元服次第、出陣肴組之事「肴組ノヤウハ、引わたしノ上ニ、小角ニ盛リ付也」

こかく (名) [孤客] ヒトリタビノ人。謝朓詩「孤客傷ニ逝湍一、徒旅苦ニ奔峭一」

こかく (名) [顧客] 商家ニテ、かひつけノ客。トクイ。花客。

こかく (名) [古格] 古ク、仕來リタル格式。古例。

こがく (名) [古學] (一)支那ニテハ、古文ノ學。後漢書、盧植傳「上書曰、臣少從ニ通儒故南郡太守馬融一受ニ古學一、頗知ニ今之禮記、特多ニ回冗一」註「回冗、猶ニ紆曲一也」(二)我ガ邦ニテハ、支那傳來ノ經書ニ、漢、魏、晉、等ノ儒ノ、孔安國、董仲舒、鄭玄、趙岐、何晏、ナドノ註解ノ說ヲ奉ズルモノ。古ヘノ大學寮ノ明經道ヲ初トシテ、江戶時代ノ山鹿素行(貞享二年歿、六十四)、伊藤仁齋(寶永二年歿、七十九)ナドノ學派、是レニテ、宋ノ朱子學、明ノ陽明學ナド行ハレテヨリ、起レル稱ナリ。九經談、一、總論「我邦唱ニ古學一者、以ニ伊藤仁齋先生一爲ニ祖師一矣」(三)皇朝ノ學トシテハ、スベテ、後世ノ說ニカカハラズ、何事モ、古書ニ據リテ、其本ヲ考ヘ、上代ノ事ヲ、ツバラカニ明ラムル學ノ稱。僧契沖(元祿十四年寂、六十二)、荷田春滿(元文元年歿、六十九)、賀茂眞淵(明和六年歿、七十三)、本居宣長(享和元年歿、七十二)等、コレヲ唱道ス。(國學ノ條ヲ併セ見ヨ) 鉗狂人(天明、本居宣長)「ワガ古學ノ眼ヲ以テ見レバ、外國ハ、スベテ、云云、ミナ、少名毘古那神ノ、何事ヲモ始メ玉ヘル物トコソ思ハルレ」

こがく (名) [古樂] 〔新樂ニ對ス〕 古代ノ音樂。多クハ、雅樂ヲ云フ。禮記、樂記「吾端冕而聽ニ古樂一、則唯恐ㇾ臥」歌舞品目、五、上「古樂、コレハ、謠曲ノ傳來ノ時世ヲ定ムル名目ナリ、云云、體源抄曰、古樂者、古之風俗、夏殷舊俗、謂ニ之古歌一、歌者、樂也、小拍子ニ用ニ一鼓一云云、譬、夏、殷、周、秦、漢、魏、晉、宋、齊、梁、陳、之時、已上十一代ヲ、古ト云フト見ヘタリ、又、吉野吉水院樂書ニ、馬助入道孝時說曰、古樂ハ胡國也トアリ、按ズルニ、ココニ傳フル所ノ樂曲ノ中ニ於テ、蘭陵王ハ、北齊ノ樂、玉樹後庭花ハ、陳ノ樂、桔槹モ、陳ノ時ニ西域ヨリ傳ヘシ等ニ據レバ、蘭陵王ハ相當ナリトイヘド、玉樹ハ新樂ニ收メ、桔槹ハ狛樂ニ收メ入ル等ノ誤リアリ、今傳フル所ノ古樂ナル者ノ曲ニハ、鷄鼓ヲ用ヒズシテ、鞨鼓ヲ用ユルナリ」

ごかく (名) [牛角互角] 〔牛ノ角ノ、左右互ニ、長短、大小ナキ義〕 互ニ、優リ劣リノナキコト。法華經、科註「依ニ我見一而起見、如ニ牛頭兩角一耳」太平記、十七、京都兩度軍事「京勢ハ又勢ニ乘リ、山門方ハカヲ落シテ、牛角ノ戰ニナリニケリ」

ごかく (名) [語格] 文章ノ上ニテ、詞遣ヒノ規則。語法。通略延約辨「上ツ代ハ、言葉ニ今古ノ別チナカリシニヨリ、古言ヲ解ク學業トテハ無カリシヲ、時代ノ移リユクニシタガヒ、音便ニヨコナマリ、外國ノ言語ヲマジヘナドシテ、ツヒニ、今古ノワカチ出デキタルニヨリ、オノヅカラ古言ヲ解ク學業ハオコレルナリ、云云、契沖法師ハ、世ノ中ノかなづかひヲ改メ、岡部眞淵ハ、通、略、延、約、トイフ、四ノ科ヲタテ、北邊成章ハ、ヨク虛辭等ノ意ヲトキ、本居宣長ハ、てにをはノ格ヲタダシ、本居春庭ハ、活語ヲ四種ニワケタリ、コノ五人ノ功、今古ニ比類ナク、マコトニ貴シ」

ごがく (名) [語學] (一)言語ノ、成立、變遷ナドヲ考究スル學。(二)字、字ノ音、言語、文章等ノ性質、意義、用法、等ヲ知ル學問。文法學。(三)外國ノ語學ノ略。

ごがく (名) [五嶽] 支那國中ニアル、五ツノ大山ノ稱。東嶽ハ、山東省ノ泰山、南嶽ハ、湖南省ノ衡山、西嶽ハ、陝西省ノ華山、北嶽ハ、山西省ノ恆山、中嶽ハ、河南省ノ嵩山ナリ。(風俗通、山澤篇)後ニ、道士、五嶽ノ符ヲ出シテ、專ラ、祈禱所トス。

ごがく (名) [吳樂] くれがくヲ見ヨ。

こがくる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [木隱] 木蔭ニ、隱ル。古今集、十九、雜體「君ガ代ニ、逢坂山ノ、岩清水、こがくれタリト、思ヒケルカナ」伊勢集「こがくれテ、五月待ツ間ノ、時鳥、マダシキ程ノ、聲ヲ聞カバヤ」

こがくれ (名) [木隱] コガクルルコト。木蔭ニ、隱レタルコト。萬葉集、十七「春去レバ、木隱多キ、夕月夜、オボツカナシモ、山陰ニシテ」千載集、三、夏「夕月夜、イルサノ山ノ、こがくれニ、ホノカニ名ノル、郭公カナ」

こかげ (名) [木蔭] 樹ノ蔭。樹陰。更級日記「ワケテ訪フ、心ノ程ノ、見ユルカナ、木蔭小闇キ、夏ノシゲリヲ」

こかげ (名) [小蔭] イササカナル物蔭。

心中天網島、享保近松作、上「格子ノ小窓ニ居身ヲスボメ、隠レテ聞クトモ、内ニハ知ラズ」「頰杖ノ小窓[illegible]」

あか・あか（感）【啞啞】 鶏ノ鳴聲ニ云フ詞。[illegible]ア[illegible]ハ、おほ[illegible]。萬葉集、東歌「鵲トフ、オホオソドリノ、マサデニモ、來マサヌ君ヲ、あろくトゾ鳴ク」鵲ノ、あかあかト鳴クノ、ころく[illegible]鳴クト云フ也。狂言記、花子「[illegible]アケヌ」

あかさかけ（名）小[illegible] あかさかけノ條ヲ見ヨ。

あかし（名）【焦】（一）米、麥ヲ炒リ焦シテ、醸キテ粉トセルモノ。ハッタイ。畿內、西國ニテハ、麥ノあかしヲ、は、たいト云フ。[illegible]見エタル、是也トイヘリ、[illegible]太閤、北野大茶湯ノ時、一僧アリテ、酒リタル白湯ニ、フリウカシテ參ル、太閤、其風雅ノ一瞬ヲ感ゼラル」同、はったへ「田家、新穀[illegible]フ成ルベシ、秋穀、小麥、等ノ品アリ」「米ノあかし」「麥あかし」（二）香煎ノ一名、大唐米ノあかしヲ入ルレバ、云フ。

あかたら（名）小頭 [illegible]ノ人ノ長ノ下ニ、又、其群ノ小分ノ長。[illegible]十三、先手數本役備小荷駄惣備の事「六十二騎、云[illegible]」

あかす（名）[illegible]ニ同ジ。

あか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【倒仆】〔倒く(あける)ノ他動(解くる、とかす)くかすト云フハ、音轉ナリ(黄金、くがね。闇む、かあむ)おためおかしノ語原ヲ併セ見ヨ〕（一）倒ケシム。倒ス。クカス。名義抄「倒、コカス、コク、サル、ハラフ、ノゾク」〔擲ト同ジ〕[illegible]あかす「人ヲ仆スヲ云フ」沙石集、九、上、第四條「人ノ命ヲモ助ケ、物ヲモ少シくかさせ[illegible]」（二）[illegible]シテ、押シヤル。排。[illegible]リあかす」（三）盗ミ隠シテ、他へ送ル。[illegible]カリデ、二十八段目[illegible]、黒ガ盗移[illegible]作右[illegible]円ヲ[illegible]かモフヤ」

あが・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【焦】〔焦るノ他動、熾る、けおす〕（一）焦レシム。焦ゲシム。[illegible]キテ、黒クス。[illegible]焦、コガス」（二）薫物ノ燗ニ燻ブ。源、四、夕顔「白キ扇ノ、イタウあがしタルヲ、コレニオキテ參ラセヨ」（三）思ヒヲ苦シメ、惱マス。焦心（おもひヲ、火ニカケテ云フナリ）焦心 [illegible]モノナラバ、イトカク物ハ、あおさ[illegible]ラマシ」[illegible]三年九月十二日、[illegible]供[illegible]「燃ダニ、ソレトハ見エシ、アヂキナク、心ニあがす、下ノおもひハ」

あかぜ（名）【小風】ソヨ吹ク風。ソヨカゼ。微風 倭名抄、一「[illegible]、微風、古加世」

あかた（名）子方 （一）子分ニ同ジ。（親方ニ對ス）浮世床、文化[illegible]、初編、中、上方ノ[illegible]ヲ云フ[illegible]子分、子方ノ、兩方カフ、引連レテ」（二）演藝ニ、童男女ノスル役。コヤク。

あがた（名）小形〔大形ニ對ス〕形ノ、小サキコト。又、其物。

ごがたき（名）【碁敵】〔おそびがたきナドノ類〕友ダチノ、圍碁ノ相手トナルモノ。[illegible]川柳「碁敵ハ、憎サモ憎シ、ナツカシサ」

あがたな（名）【小刀】小サキ刀ノ、雜用ニ使フモノ。又、腰刀ノ鞘ニ刺シ副ヘオク小柄ナドヲモ云フ。刀子 著聞集、十七、變化「唯蓮坊「硯ニ、小刀アリケルヲ」吾妻鏡、十六、建久元年十月十三日、佐佐木盛綱[illegible]小刀於[illegible]「[illegible]身トレ、丸刀ニ研ゲル、あがたたノ、世ニツカハレヌ、身トゾナリニシ」大内問答（永正）「柄頭、目貫、笄、小刀」

あがたなざいく（名）【小刀細工】（一）小刀ニテ、細カナル彫物ナドノ細工ヲスルコト 日本永代藏[illegible]、五、[illegible]桶「小刀細工利キケレバ、卯木ノ耳掻、鼠ノ作リ物、仕出シテ」（二）轉ジテ、コセコセ、取繕フ策略。小伎倆 俚言集覽、小刀細工「彫物ナドスルヲ云フ、細カナル細工ユヱ、轉ジテ、物事、大マカナラヌ、コセツクコトヲ云フ」

こかつ（名）【枯渴】カレ、カワクコト。元稹詩[illegible]

あがなし（名）【久我梨】〔山城國、乙訓郡、久我ノ地ノ產ナルヲ以テ名トストト云フ、或ハ云フ、肥前ノ空閑ノ產ナリト〕梨ノ一種、實ノ形、圓クシテ、皮ノ色ニ、赤ミアルモノ。乳梨 俚言集覽、久我梨「洛南ノあがハ、梨ノヨキ所ナリ、又、下總ノ古河モ、名產ナリ、[illegible]山ノ[illegible]ノ產ナ[illegible]セシト云フ」[illegible]あがなし、[illegible]云フ、肥前[illegible]郡ノ空閑ノ產ナルヲモテ名トセルナリト云ヘリ」

あがね（名）【黄金】〔きがねノ轉(木芽、このめ)くがねモ、轉ナリ(踵、くびす)沖繩ニテ、くだに〕（一）又、キガネ。クガネ。鑛物ノ、最モ貴重セラルルモノ、常ニ、金、又ハ、黄金トモ云フ、色、黄ニシテ、美シク光リ、諸金ノ中ニテ、最モ薄ク打延バスベク、最モ細ソク引延バスベク、水ヨリ十九倍ノ重サアリ。神代紀、上[illegible]「韓鄉之島、是有金銀」古加[illegible]」倭名抄[illegible]、同ジ」萬葉集、十八、長歌[illegible]」名義抄「黄金、コガネ、キガネ」（二）黄金ノ貨幣。金貨 竹取物語「あがね五十兩、賜ハルベシ」（三）コガネヅクリ。キンメ、キ。「あがね[illegible]ノ十刀[illegible]あがねノ[illegible]」

あがね（名）【小金】〔大金ニ對ス〕多カラヌ金錢。僅少ナル貨幣。「小金ヲ貸ス」小金[illegible]マル」

あがねいろ（名）【黄金色】黄ニシテ、光ル色。キンイロ。[illegible]

あがねぐさ（名）【黄金草】〔黄菊ノ色ニ就キテ云フ〕菊ノ異名。蓋草、八、菊、金草、名ニシナフ、秋ノ野邊ノ、あがねぐさ、コレモ貢ノ、數ニ備ヘマシ」

あがねづくり（名）【黄金造】鍍金ノ金具ニテ仕立テタルモノ。宇津保物語、藤原君「あがねづくりノ車」（貴婦人乘用ノモノ）欽明紀、廿三年八月「金飾刀」名目抄「金作太刀、大臣已上著之」大内問答（永正）「あがね作、云云、折金、栗形、柄頭、目貫、笄、小刀、柄、金ニテ仕タルハ、一段ノあがね作タルベシ」

あがねぬり（名）【黄金塗】鍍金。銀滅金ナルヲ、白塗ト云フ。[illegible]里ノ、錦取リツケテ、大黑ハ、鷹ノ名）同、十九、長[illegible]之小鈴[illegible]レモ、鷹ノ鈴ナリ）松屋筆記、百十七、第廿七、上「金塗ハ、今ノ金滅金也、白塗ハ、銀滅金也」

あがねのもじ（名）【黄金文字】金泥ニテ書キタル文字。今鏡、上、あがねのみのり「[illegible]ニテ、あがねノ文字ノ御[illegible]、帝、御ミヅカラ書カセタマヒテ、御八講行ハセタマヒキ」

あがねむし（名）【黄金蟲】たまむしノ屬、大キサ、なたまめノ如ク、頭、面、鬼ノ如シ、甲、黒ク、堅ク、龜甲ノ狀ヲナシテ、六足ナリ、身、首、皆、綠ニシテ、金ノ如ク光ル、夜ハ燈ニ集リ、晝ハ草木ノ花葉、桃、葡萄ノ實ナドニ集リテ食フ、種類、多

シ、金龜子ニ似テ、背ニ堅キ甲アリ、全身黒クシテ漆ノ如キモノヲ、黒こがねむしト云フ、好ミテ、人糞ニツク、因リテ、古クハ、くそむし、又、まろむしノ名モアリ。蜣蜋

こがねめぬき (名) 黄金目貫 〔金製ノ菊形ノ目貫ニ似タレバ云フ〕 寒菊ノ異名。

ごかのあもう (名) 呉下阿蒙 〔出典ヲ見ヨ〕 相變ハラヌ、無學ノ人物ト云フ意ニ云フ語。 三國志、呉志、呂蒙傳、註「江表傳曰、初孫權謂呂蒙及蔣欽曰、云云、宜學問以自開益、云云、蒙始就學、篤志不倦、云云、魯肅、云云、過蒙言議、常欲受屈、肅拊蒙背曰、吾謂大弟但有武略耳、至於今者、學識英博、非復呉下阿蒙、蒙曰、士別三日、卽更刮目相待」(昔日ノ呉國ノ呂蒙ナラズノ意、阿ハ、發語ナリ)

こかのき (名) 古柯樹 〔こかハ、英語、Coca.〕 樹ノ名、幹ノ高サ六尺餘、葉ハ、長橢圓形ニシテ、全縁ナリ、花ハ、小サク、淡黄色ニシテ、單性、雌雄、株ヲ異ニシ、初夏ニ、花、開キ、晩秋ニ、實、熟ス、南亞米利加洲、ぺる國ノ產ナリ、葉ハ、古柯葉ト稱シテ、藥用ニ供セラレ、實ヨリ蠟ヲ採ルヲ、こからふト云フ。天竺桂

ごかのこゑ (名) 五箇聲 次條ヲ見ヨ。

ごかのしらべ (名) 五箇調 琴ノ、五種ノ彈法。又、五箇の音。 源、三十四、下、若菜、下「きんハ、ごかのしらべ、アマタノ手ノ中ニ、心トドメテ、必ズ彈キタマフベキ五六のはらヲ、イト面白ク澄マシテ彈キタマフ」河海抄「五箇調、搔手、片垂、水宇瓶、蒼海波、雁鳴調」宇津保物語、春日詣「都風ト云フ琴ヲ、ごかの聲ニ調ベテ、ここのめでたト云フ手ヲ、折リカヘシアソバス」

こがは (名) 小川 ヲガハ。狹ク、淺キ川。(大川ニ對ス) 小流

こがはざる (名) 粉川猿 〔紀伊國ノ粉川ヨリ出タレバ云フトゾ〕 小サキ猿。四國猿ノ異名。(伊勢) 俚言集覽、猿「四國猿、云云、勢州ニテハ、粉川ざるト云フ」

こがはせ (名) 小爲替 郵便局ニテ扱フ爲替ノ、金高、二十圓以下ノモノ。

ごかばん (名) 五箇番 室町幕府ノ營中勤番ノ職。五組アリテ、順次ニ勤ム、番方詰衆トモ云フ。 年中恒例記「朔日ヨリ六日マデ、一番衆、御番ナリ、云云、二十五日ヨリ晦日マデ、五番衆、勤役ノ申也」

こカハラけ (名) 小瓦器 瓦器ノ、小ナルモノ。土器ノ、小サキモノ。 徒然草、二百十五段「臺所ノ棚ニ、小土器ニ、味噌ノ、少シ附キタルヲ、見出デテ」

こがはり (名) 子變 子供ノ、生ヒ立ツママニ、顏貌ノ變ハルコト。

こがひ (名) 小貝 チヒサキ貝。小形ノ貝。 夫木抄、廿七、貝「難波潟、汐干ニ群レテ、出立タム、白沙ノ崎ノ、こ貝拾ヒニ」

こがひ (名) 小貝 〔貝ニ對シテ云フ〕 漢字ノ偏ニアル、貝ノ字ノ稱、財、貶、賄、貯、ナドノ如シ。

こがひ (名) 小買 當用ニノミ、少シヅツ、物ヲ買入ルルコト。零買

こがひ (名) 子飼 (一)子ヲ、養フコト。育兒。 枕草子、一、十八段、心ときめきするもの「雀ノ子がひ」 (二)兒童ナル頃ヨリ、育テ敎フルコト。(工商ノ家ノ、年季ノ弟子、雇人ナドニ云ヒ、中年ト云フニ對ス) 雛養 心中重井筒(元祿、近松作)中「十ノ年カラ、子飼ニテ」

こがひ (名) 蠶飼 〔こ(蠶)ノ條ヲ見ヨ〕 蠶飼フコト。蠶ヲ養フコト。養蠶 神代紀、上、廿「始有二養蠶之道一焉」私記「古加比」 天智紀、元年十二月「農桑之地」

ごかひ (名) 沙蠶 〔蚯蚓ヲ餌トスルニ對シテ、小飼ヲ濁音ニ云フ語ナルカ(撥、ばち)かひハ、餌ナリ、其條ヲ見ヨ)〕 蟲ノ名。又、餌蟲。河海ノ際ノ泥中ニ生ズ、形、蚯蚓ノ如クニシテ、扁シ、長キハ三四寸ニ至ル、色、赤シ、左右ニ細カキ足ノ如キモノ多キコト、むかでノ如シ、取リテ、魚ヲ釣ル餌トス。 嬉遊笑覽、十二「魚ヲ釣ル餌ニ、江戸ニテごかいト呼ブモノ、潮ノ入ル川ノ土中ニアル蟲ナリ、云云、十一月ノ三四日ノ夜、新月ニ映ジ、水面ニ紅トナリ、浮ミテ流ル、云云、是ヲ取リ貯ヘテ、冬月、釣ノ餌ニ賣ル、云云、みみずヲ陸餌ト云ヒ、ごかひヲ川餌ト云フ」

こがひす (名) 蠶飼簀 エビラ。カヒコカゴ。

こがひな (名) 小肱 小腕ノ條ヲ見ヨ。

こかぶ (名) 小蕪 蕪ノ一種、形ノ、極メテ小サキモノ。

こかぶ (名) 子株 株式會社ガ、更ニ株式ヲ募集シタル新株式ノ稱。從來ノ株式ニ割リ當テテ、其所有者ヨリ募集ス、因リテ、舊株ヲ、親株ト稱シテ、ソレニ附キタル新株ヲ、子株ト云フナリ。

こがふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 蠶飼 〔蠶ノ條ヲ見ヨ〕 蠶ヲ飼フ。蠶ヲヤシナフ。 繼體紀、元年三月「后妃親蠶而、勉二桑序一」

こかべ (名) 小壁 狹ク小サキ壁。鴨居ト天井トノ間、窓ノ四邊ノ壁ナド、云フ。 家屋雜考、二「小壁トハ、戸窓ノ上下ニアル壁ヲイフナリ」三內口訣「翠簾、本式主殿之時、母屋之簾各別也、小壁無レ之候故、自二裏板一直掛レ之」

こがへり (名) 子轉 胎內ニ在ル子ガ、出產ノ際、頭ヲ、下方ニ轉ズルコト。 六帝精蘊「凡孕胎、男背、女向、臨レ產腹痛、子轉、身首向レ下、始分娩也」(俚言集覽)

ごかぼう (名) 五荷棒 五家寶 〔享保年中、上野國、五箇村ノ人、始メテ製シテ、五箇棒ト名ヅクト傳フ、其人ヲ直チニ、五箇ト呼ビシカ、雲助ナド、其人ヲ五ニ、甲州、房州ト呼ビシガ如キカ〕 菓子ノ名。餅米ヲ、興米ノ如ク作リ、水飴ト砂糖ニテ固メ、棒形ニ製シ、青豆粉ヲ塗シタルモノ、今、武藏國、熊谷ノ產、名アリ。 奴師勞之(蜀山人)「安永六年、日光御社參ノ時、道中ニテ見シ駄菓子ニ、五荷棒ト云フモノアリ」

こがみ (名) 小腹 おのかみ(小腹)ノ條ヲ見ヨ。

こがん (名) 胡雁 北方、胡地ニ住ム雁。 鮑照詩「河畔草木未レ黄、胡雁已矯レ翼」

ごかん (名) 御感 〔天子ニハ、御感ト申ス〕 感賞ノ敬語。 吾妻鏡、十五、建久六年七月十六日「武藏國務事、義信朝臣成敗、尤叶二民庶雅意一、云云、被レ下二御感御書一」

ごかん (名) 五感 ごくゎん(五官)ノ條ヲ見ヨ。

ごかん (名) 沍寒 〔玉篇「沍、故胡切、音護、閉塞也」〕 陰氣、閉ヂテ、寒キコト。寒サノ、烈シキコト。極寒。甚寒。 左傳、昭公四年「其藏レ氷也、深山窮谷、固陰沍寒、於レ是乎取レ之」

ごかん (名) 語幹 語根ノ條ヲ見ヨ。

ごかん [illegible] 川ノ岸ヲ、崩レヌヤウニ、[illegible]ト、石籠[illegible]、こんくわいハ[illegible]、川岸ニハ、蛇籠ナド設クルヲ云フ。「護岸工事」

こがんぴ (名) [小雁皮] 灌木、がんぴノ一種、小サキモノ、高サ、二三尺、花ハ、夏秋ノ交ニ開キ、白シ、皮ヲ、[illegible]、こがんぴノ[illegible]ノ如シ、[illegible]花一[illegible]

こがも (名) [小鴨] 古名、たかべ [illegible] 鴨ノ一種、形、稍、小サク、雄ハ、[illegible]、彩ナシ、[illegible]、種々ニ美シ、[illegible]もヨリ早ク來リ、後レテ歸ル。刀鴨

ごかもん (名) [御家門] 家門ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こがら (名) [子柄] [がらノ條ヲ見ヨ] 子供ノ容貌。「こがらガヨイ」

こがら (名) [小柄] [がらノ條ヲ見ヨ] 形ノ、小サキコト。(大柄ニ對ス) [illegible] 二十[illegible]ノこがらノ[illegible]

こがら (名) [小雀] こがらめヲ見ヨ。

こがらし (名) [木枯風] [木ノ葉ヲ吹キシヲリテ、枯木ノヤウニスル意ナリ、からす枯ノ條ヲ見ヨ、風ハ、木風ノ合字] (一)秋冬ニ吹ク、強キ風ノ名。[illegible] がらしノ、[illegible]ニテ秋ハ、過ギニシヲ、今モ梢ニ、絶エズ[illegible]キハラフ、高嶺ヨリ、サエテモ月ノ、澄ミノボルカナ」續古今集、四、秋、上「霜ユルダニ、惜シゲニ見ユル、秋萩ノ[illegible]、こがらしノ[illegible]」(二)[illegible] すりこぎ、ノ女詞。[illegible]、九「木枯しトハ、[illegible]チタル木ヲ、すりこぎト云フガ如シ」(すろト[illegible]云フヲ忌ミテ、言ヒカヘタル語ナルベシ、あたり木

ナド云フモ、是レナリ) 女重寶記(元祿)「れんぎハこがらし、せっかいハうぐひす」

こがらす (名) [小烏] 平家ニ重代セル名劍ノ名。盛衰記、四、唐皮小烏拔丸ノ事ノ條ニ、桓武天皇、南殿ニオハシマス時、八尺靈烏、飛來リテ、一ツノ太刀ヲ、御前ニ留メテ去ル、大靈烏ヨリ出デタレバ、小烏ト名ヅケサセタマヒ、代代、内裏ニ傳ハリケルヲ、平貞盛ガ代ニ、下シ預リテ、平家ノ重寶トナレリトアリ。倭訓栞、「こがらす 小烏ノ太刀ハ、平家ノ寶トスル所ニテ、今、伊勢氏ニ傳フル所ハ、一尺バカリハ、世ノ常ノ平造ノ刀ニシテ、末、兩刃也、キッサキハ、尖レルトゾ」

こからふ (名) [古柯蠟] こかのきノ條ヲ見ヨ。

こがらめ (名) [小雀目] [からめノ條ヲ見ヨ] 小鳥ノ名、やまがらニ似テ小サク、頭、黑ク、頸、頰、白クシテ、圓紋ノ如シ、背、腹、白ク、翅、尾、黑シ、善ク囀ル、身、輕クシテ、上下スルコト速カナリ。略シテ、こがら。雌雄、羽ヲ交ハシテ臥ス、こがらめぶしト云フ。土御門院御集、鳥名「深山ベノ、嵐ニウツル、こがらめハ、時雨ニ競[illegible]」[illegible]「こがらめノ、思フ人ダニ、アル世ナリケリ」[illegible]こがらめぶしノ、[illegible]テモマヅ、我ガ[illegible]ノ、契リヲゾ知ル」

こがらめぶし (名) [小雀目臥] 前條ヲ見ヨ。

こかりぎぬ (名) [小狩衣] 狩衣ノ後ノ、一尺バカリ短キモノ。[illegible]

こが・る ・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [焦] (一)燒ケテ、黑クナル。コゲル。枕草子、八、九十一段[illegible] (二)日ニ照リツケラレテ、色、變ル。[illegible] 夏ノ日ニ、こがれタルカモ」夏ノ日ニ、こがるる山ノ、草ナレヤ、シバシバシノ露ニ、心ヤルラム」(三)[思] ヒワヅラフ。悶ユ。切ニ、慕ヒ惱ム。(おもひヲ、火ニカケテ云フナリ) 焦心 [illegible]、十一「アシビキノ、山川[illegible]、蚊火ノ(如ク)、心[illegible]枯れノミ、吾ガ戀ヒ居ラク」[illegible]

こがれ (名) [焦] コガルルコト。切ニ、慕フコト。[illegible]「[illegible]心ノこがれハ、我レゾワビシキ」

こがれいひ (名) [焦飯 燋飯] 燋レタル飯。コゲメシ。名義抄「燋飯、コガレイヒ」

こがれじに (名) [焦死] 深ク戀ヒ慕ヒテ、死ヌルコト。戀死。百合若大臣野守鏡[illegible]

こがれば (名) [焦羽] 焦茶色ノ羽。[illegible]

こがれゆ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [焦行] 戀ヒ焦レテ、月日ヲ經。(此語多クハ、船ノ漕ぎかるニ言ヒカケテ云フナリ) [illegible] 太平記、二、[illegible]

こが・れる (動) [焦] こがるノ口語。

こき (名) [國忌] 「國忌ノ讀例(國府、こふ、など)」[illegible] ミナリ」ミハテノヒ。皇考、皇妣ノ、御忌日。先帝、母后ノ御命日。此日、御佛事ヲ行ハセラレ、廢朝セサセタマフ。[illegible]

こき (名) [古記] フルキ書キモノ。古キ記錄。舊記。漢書、平帝紀[illegible]

こき (名) [古器] フルキウツハ。古代ノ器什。古器物[illegible]

こき (名) [古稀] [出典ヲ見ヨ] 七十歳ノ異稱。がのいはひノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]「[illegible]古稀ヲ超ユ」

こき (形) [濃] 濃しノ連體形、其條ヲ見ヨ。

こぎ (名) [小木] チヒサキ木。若バエノ木。小樹。源順集「コノこぎノ、生ヒ出デテ、萬代ノモ、ニナラムマデノ心バヘヲ、詠マセタマフニ、河社「こぎハ、小木也」」

こぎ (名) [古義] 文字、文章ノ、古キ意義。[illegible]

こぎ (名) [古儀] 古代ノ儀式。張籍詩[illegible]

宛轉有古儀ニ」

こ-ぎ（名）〔狐疑〕〔狐ノ性、疑ひ多ク、冰河ヲ渡ル毎ニ、且聽キ、且渡ル、コレニ因リテ云フ語ナリト云フ〕疑ヒテ、猶豫フコト。呉子、治兵篇「用レ兵之害、猶豫最大、三軍之災、生二於狐疑一」漢書、文帝紀「方二大臣誅二諸呂一迎レ朕、朕心狐疑」盛衰記、四十六、義經行家出二都事「大物浦ニ於テ、急ニ逆風ニ逢ヒ、漂沒ノ由、風聞アリトイヘドモ、命ヲ亡フノ條、狐疑ナキニアラズ」

ご-き（名）〔御器〕御臺盤ノ異稱。臺盤ハ、臺ノ上ニ、折敷ヲ載セタルモノ。大鏡、上、時平「右大臣顯忠、御臣打ハ、ウルハシク、御器ナドニモマキリスヱデ、只、御土器ニテ、臺ナドモナク、折敷ナドニ取リスヱツツゾマキラセケル」ニ儉約ノ狀ナリ」

ご-き（名）〔合器〕〔合器ノ約（狹布、けふ。納言、なごん）當字ニ、五器、御器ナド、記ス〕（一）〔合子ノ器〕蓋附ノ椀。宇津保物語、吹上、上「沈ノ燒傳挽ノごき、云云、黃金ノごき」落窪物語、四「殿ノ御ごきヲナム、一具賜ヘル」讚岐典侍日記「合器ナクテ、瓦器ニテアルゾ、見苦ハメ」（二）後ニ、乞食ノ椀ノ名トナル。淀鯉出世瀧德（寶永、近松作）上「今ノ間ニ、御器サゲテ、心ガラノ非人仇討」

ご-き（名）〔五畿〕五畿內ノ略。畿內ノ條ヲ見ヨ。宋史、日本傳「五畿、七道、三島」

ご-き（名）〔五氣〕（一）東、西、南、北、中央、ノ五ツノ氣。五方。史記、五帝紀「炎帝修レ德、振レ兵治二五氣一」（二）寒、熱、風、燥、濕、ノ五ツノ稱。素問「寒、暑、燥、濕、風、五氣之聚也」

ご-き（名）〔語氣〕モノイヒブリ。コトバツキ。語勢。辭氣。「語氣强シ」

ご-き（名）〔誤記〕カキアヤマリ。カキソコナヒ。「帳簿ノ誤記」

ご-き（名）〔五義〕五ツノ、正シキ道、卽チ、父ハ義ニ、母ハ慈ニ、兄ハ友ニ、弟ハ恭ニ、子ハ孝ニ、アルコト。國語、周語「五義紀レ宜」

ごき-あらひ-むし（名）〔合器洗蟲〕蜚蠊ノ異名、ごきかぶりヲ併セ見ヨ。

こぎ-いた（名）〔胡鬼板〕〔胡鬼ハ、當字、羽子木板ノ上略（淸濁、顚倒スルコト、いづつしノ語原ヲ見ヨ）日次紀事（延寶）正月ノ末條「女子、動二羽子木板一弄二絲毬一」同、十二月ノ末條「羽古義板」此板ニテ突クニ因リテ、羽子ヲ、胡鬼ノ子ト云フナリ〕羽子板ニ同ジ。羽子ヲ、胡鬼ノ子ト云フ、共ニ、羽子ノ條ヲ見ヨ。看聞日記、永享四年正月五日「女中、近衞、春日、以下、男、長資、隆富等朝臣以下、こぎの子勝負分二方、男方勝」（後世ニ云フ、やりはごナルベシ）同、永享六年正月五日、室町殿毎年佳例「宮御方へ、云云、こぎ板二、（註、昨晩羽遊物等風流）こぎの子、五、被進」（古事類苑、羽子板）下學集（文安）下、器財門「羽子板、正月用レ之」「羽子板ノ右訓、コギイタ、左訓、ハゴイタ」俚言集覽、古器木筒用集、財寶、胡鬼子、正月小兒戲レ之、胡鬼板、コギイタ」

こぎ-い-づ　ヅル・ヅレ・デ・デヨ（自動、下二）〔漕出〕〔こぎづハ、約メテ云フナリ、づ（出）ノ條ヲ見ヨ〕漕ギテ、進ミ出ヅ。約メテ、こぎづ。萬葉集、七「國ニ立チ、沖方ヲ見レバ、海藻刈舟、海人榜出ラシ、鴨翔ル見ユ」同、卷五「大船ニ、荒舟ニ榜出、八船タケ」同、廿「防人ノ、堀江己藝豆流、伊豆手船、梶取ル間ナク」

こき-い-る　ルル・ルレ・レ・レヨ（他動、下二）〔搔入〕〔搔入るノ轉（搔きハ、接頭語ニテ、意味ナシ、其條ヲ見ヨ）そぞろかし、そぞろさし。韮、こみら。日讀、こよみ（搔騷る、こ、ぼる）相、通ズ、倭訓栞、こきれつ「萬葉集ニ、袖ニこきれつト見ユ、かきいれつナリ」（こきおろす、こきしく、こきたる、こきちらす、こきどむ、こきまず、こきよす、同ジ）こきるハ、約メテ云フナリ（引入、ひきれ）〕入る（入レル）ト云フニ同ジ。約メテ、こきる。萬葉集、八「引キ攀ヂテ、折ラバ散ルベミ、梅ノ花、袖ニ古寸入ツ、染マバ染ムトモ」古今集、五、秋、下「紅葉ハ、袖ニこきいれテ、持テ往ナム、秋ハ限リト、見ム人ノタメ」拾遺集、十六、雜春「野邊ニ、花ヲこきいれテ」萬葉集、十九「藤浪ノ、花ナツカシミ、引攀ヂテ、袖ニ古伎入ツ、染マバ染ムトモ」同、廿「池水ニ、影サヘ見エテ、咲キ匂フ、馬醉木ノ花ヲ、袖ニ古伎禮ナ」

こ-きう（名）〔故舊〕年舊キ知緣。フルナジミ。舊友。舊知。論語、微子篇「故舊無二大故一則不レ棄也」太平記、十一、五大院宗繁事「故舊多シトイヘドモ、一飯ヲ與フル人ナクシテ」

こ-きう（名）〔狐裘〕狐ノ毛皮ニテ作レル裘。貴キモノトス。禮記、檀弓、下篇「晏子、一狐裘三十年」史記、田敬仲完世家「狐裘雖レ敝、不レ可レ補以二黃狗之皮一」騶忌子曰「謹受レ令、請、謹擇二君子一、毋レ雜二小人其間一」太平記、三十七、身子聲聞一角仙人事「上人、狐裘ニ、鳩ノ杖ヲツキ」

ごぎう-つきに-あへぐ（句）〔吳牛喘月〕〔出典ヲ見ヨ〕似タルモノヲ、眞物ト見誤リテ、畏ル。世說、言語篇「滿奮畏レ風、在二晉武帝坐一、北窗作二琉璃屛一、實密似レ疎、奮有二難色一、帝笑レ之、奮答曰、臣猶二吳牛見レ月而喘一」注「今之水牛、唯生二江淮間一、故謂二之吳牛一也、南土多レ暑、而此牛畏レ熱、見レ月疑二是日一、所以見レ月則喘」

こき-おろ-す　ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔搔卸〕〔かきおろすノ轉、こきいるノ語原ヲ見ヨ〕吹キ落ス。散木集、一、春「跡絕エテ、嶮シキ谷ノ、岩ノ上ニ、花こきおろす、春ノ山風」拾遺愚草、中「今日ゾヘニ、冬ノ風トハ、思ヘトモ、絕エズこきおろす、四方ノ木ノ葉ハ」

こき-おろ-す　ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔扱卸〕痛ク、貶シ罵ル。ドクヅク。痛罵。

ごき-かぶり（名）〔合器嚙〕〔厨下ノ椀ノ殘飯ヲ食フ意カ〕伯耆、出雲、筑前、筑後、ニテ、蜚蠊ノ稱。伊勢ニテ、ゴキクラヒムシ。丹後ニテ、ゴキアラヒムシ。越前ニテ、飯食蟲。中略シテ、ごきぶり。（本草綱目啓蒙、廿八、蜚蠊）

こ-ぎく（名）〔小菊〕菊ノ一種、小形ノ花ヲ開クモノ。

こ-ぎく（名）〔小菊〕紙ノ名、粗惡ナル楮皮ニテ製スル、下等ノモノ、竪、七寸許、橫、四寸五分許、鼻紙ニ用ヰラル、美濃、土佐、等ヲ主產地トス。好色一代男（天和、西鶴）七「小菊ノ鼻紙、還魂ノ袋絡皮」

ごきげん-よう（副）〔御機嫌能〕〔おめでたう、おはやう、同趣〕ごきげんよくゐらせられます、又ハ、ゐらせられよノ音便略。人ト出會ヒタル時、又ハ、別ルル時ニ、挨拶スル語。珍重

こ-きざみ（名）〔小刻〕小早キコト。（きざみあしナド云フ）「こきざみニアルク」

コ-キシ（名）〔鞬吉之〕こにきしノ條ヲ見ヨ。

こき-し-く　ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔搔敷〕〔搔き敷くノ轉、こきいるノ語原ヲ見ヨ〕敷くト云フニ同ジ。萬葉集、十八 大臣橘宿禰歌「堀江ニハ、玉敷カマシヲ、大君ヲ、御船漕ガムト、豫テ知リセバ」御製歌「玉敷カズ、君ガ悔イテ云フ、堀江ニハ、玉古伎之伎テ、繼ギテ通ハム」（元正天皇ノ、難波宮ニマシマス時ノ御製ナリ、略解「こきハ、かきト云フニヒトシク、詞ナリ」）同、廿「秋風ノ、吹キ古吉之家流、花ノ庭、淸キ月夜ニ、見レド飽カヌカモ」

こきんごんきやう (名) 古今[illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ

さぎそ・く・ク・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 濯[illegible] 下二段活用ノモノ、(退)ノ條ヲ見ヨ「濯ギ除クル [illegible]、イブセカリツル、[illegible]、濯ギそけた、[illegible]ニケリ」

さきだ (副) 幾許 次條ノ語ニ同ジ。

さきだく (副) 幾許 〔ここだ、ここだくノ語原ヲ見ヨ〕 イカバカリ、幾ジテ、甚シク。「[illegible] ヨロヅノ、下略シテ、さきだ [illegible] [illegible]行ク[illegible]、[illegible]カモ、[illegible]、長歌[illegible]ハサバ、[illegible]ノ[illegible]ヒエネ」

さぎたな・い (形) 小穢 〔さハ、發語ノけノ轉ナリ、接頭語ノさ(小)ノ條ヲ見ヨ〕 きたなしト云フニ同ジ (さきれい、さぎ[illegible]ニ對ス) 「[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]小[illegible]イザルナア、さぎたない[illegible]」

さぎた・む・ム・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 濯回 〔一段活用ノたむ(回)ノ條ヲ見ヨ〕 濯回 濯ギメグル。「濯ギ[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]小舟」

さぎた・む・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 濯回 〔下二段活用ノたむ(回)ノ條ヲ見ヨ〕 濯ギメグラス 「[illegible]、[illegible]、行キ[illegible]ル、島ノ崎々」

さきた・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 掻垂 〔かきたるノ轉、さきいるノ語原ヲ見ヨ〕 「[illegible]、六、[illegible]花ニ雪かきたれ、イミジウ降リケリ」 垂るト云フニ同ジ、(多クハ、雨ヲ[illegible]テ憂フル意ニカケテ云フ) 降ル、古今集、十三、戀、三 「[illegible]ケストテ、[illegible]ル[illegible]ニハ、さきたれテ、雨モ[illegible]モ降[illegible]ソホチナツツ」 「[illegible]かきたれて[illegible]ニ[illegible]、十七、[illegible]、[illegible]テ、[illegible]、山田ノ[illegible]ノ、さきたれ」「[illegible]ニソワタ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ケレバ、[illegible]、十、[illegible]、四、引[illegible]ノ、カク[illegible]、[illegible]リ、セマホシミ、[illegible]さきたれテ、泣クフ[illegible]セハヤ、[illegible]くニカケタリ」 [illegible]、六、[illegible]ノ、早[illegible]田ノ小[illegible]、さきたれテ、[illegible]モ[illegible]エジト、[illegible]カ[illegible]代集、[illegible]、上、カ、ミツツ、空打チ[illegible]フシ、さきたれ、[illegible]花ノ散ルゴト、[illegible]ゾ降ル」 [illegible]、五、[illegible]ド、アシヒキノ、山田ノ稲ノ、カタヨリニ、[illegible]さきたれ[illegible]ソ吹ク」

さきちら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 掻散 〔掻きちらすノ轉、さきいるノ語原ヲ見ヨ〕 散ラストイフニ同ジ。 古今集、十七、雜、上「さきちらす、瀧ノ白玉、拾ヒオキテ、世ノ憂キ時ノ、[illegible]ニソ借ル」 [illegible]、十四、[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ナル中ニ、花[illegible]さきちらしタルト見ユル」 [illegible]ノ[illegible]キ、「[illegible]キ」散木集、四、冬「烈シサノ、深山嵐ハ、手モナキニ、イカテ木ノ葉ヲ、さきちらすラム」 [illegible]カケタリ」

さぎ・づ (動) 濯出 さぎいづノ約リタル語、其條ヲ見ヨ。

さきつか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 扱使 酷ク、追ヒ使フ、虐使 「[illegible]、[illegible]、セメテ、[illegible]テモ[illegible]ハスルコトカ、手[illegible]テ、さき使はレ」「丁稚ヲさきつかふ」

さぎつ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 濯着 (一)濯ギテ、到着セシム。「舟ヲ、[illegible]ニさぎつける」 (二)自動ニ用ヰテ、骨折リテ、目的ニ達ス。「丁稚カラ勤メアゲテ、番頭マデさぎつけタ」

さぎて (名) 小切手 〔英語、Cheque.ノ譯語、切手ノ條ヲ併セ見ヨ〕 銀行ニ當座預金アル者ガ、他ニ、金錢ヲ支拂フベキコトアル時、用紙ニ、金額、受取人ヲ記シ、其銀行ニ宛テテ、支拂フベキコトヲ委託スル證券、受取人ハ、此證券ヲ持參シテ受取ルナリ、即チ、銀行ヲシテ、代ハリテ支拂ハシムルナリ。小切手用紙ハ、預テ、銀行ヨリ、預金者ニ交付シオク。

さぎつ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 濯連 數隻ノ舟、連レテ漕ク、「新[illegible]集、三、夏「大井川、山モト遠ク、さぎつれテ、[illegible]ニ並ブ、[illegible]火ノ影」

こきでん (名) 弘徽殿 「弘徽殿ノ讀例、風土記、ふどき、杏葉、きやうえふ」 (一)禁中、清涼殿ノ北ニアル宮殿 後宮ニシテ、皇后、中宮、等ノ御在所ナリ。又、こうきでん 倭名抄、十[illegible]居宅部「弘徽殿、在清涼殿北」 榮花物語、廿八、若水「こうきでんニ、御裝束具シタレバ」 (二)弘徽殿ニオハシマス御方。[illegible]、[illegible]、弘徽殿ナドニハ、ナホ許シナウ宮ヒケル」 [illegible]只、こきでんトヨムヘシ、朱雀院ノ御[illegible]、見レナリ」 倭[illegible]、こきでん 弘徽殿也」

さきとど・む・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 掻止 〔掻止むノ轉、さきいるノ語原ヲ見ヨ〕 止むト云フニ同ジ。 [illegible] [illegible]ノ、吹クニサキダツ、[illegible]ノ花、[illegible]ガタメニソ、さきとどめツル」

ごきあい (名) 五畿内 畿内ノ條ヲ見ヨ。

さぎぬ・く・ク・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 濯拔 急ギ追ヒ濯ギテ、前ノ舟ヨリ先ニヌケイヅ。

さぎの・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 濯退 コギテ、ノクル。コギソク。夫木抄、廿三「アマ小舟、八十島ツタフ、浪ノ上モ、さぎのく[illegible]ハ、松ノ、[illegible]」

さぎのさ (名) 胡鬼子 (一)羽子ニ同ジ、胡鬼板ノ條ヲ見ヨ。(二)灌木ノつくばね(衝羽根)ノ實。其條ヲ見ヨ。

さきばく (副) 幾許 さわさはノ條ヲ見ヨ。

さきび (名) 小氣味 〔きびハ、きみノ轉、秦、きび。蛇、へび〕 小氣味ヲ見ヨ。

こきふ (名) 呼吸 (一)息ヲ、出スト、入ルルト。動物ガ、呼吸器ニ因リテ、空氣中ヨリ、酸素ヲ體内ニ攝取シ、體内ノ炭酸ヲ排出スル機能ナリ。 莊子、刻意篇「吹呴呼吸、吐故納新」 [illegible]「出息爲呼、入息爲吸」 [illegible]小說、十二、一[illegible]夜ニ、[illegible]萬三千五百息「一呼吸ヲ、一息トス」」 (二)呼吸スル時間、チヨトノマ。瞬間 [illegible]「[illegible]決勝於一朝、定[illegible]於呼吸」 (三)俗ニ、ハヅミ。カネアヒ。グアヒ。機 「コノこきふヲ知リテ居ルト」 「コノこきふデ行レ」

ごきふ (名) 御給 御たうばり。院、宮、ナドノ、御給分、即チ、年官、年爵、ノ類。 北山抄、一、上「院宮御給」 [illegible]日記、中、中、「[illegible]ニ、院ノ御たうばり申サム[illegible]、六二御代始ニ行ハルル大事ニツキテ、院ノ御給モ行ハルルニツイテ」

こきふき (名) 呼吸器 動物ノ、呼吸ヲ營ム器官、人ニアリテハ、喉頭、氣管、肺臓、ヨリ成ル、肺臓ハ、其主要部ナリ、魚ナドニアリテハ、鰓ニテ呼吸ス、其他ノ小動物ニアリテハ、種種ナルアリ。

こきぶつ (名) 古器物 古代ノ器仕。古器。「古器物ヲ愛玩ス」

さきま・ず・ズル・ズレ・ゼ・ゼ・ゼヨ (他動、下二) 掻雜 〔かきまずノ轉、さきいるノ語原ヲ見ヨ、倭訓栞、さきまぜてハ、掻交ぜてノ義ナリト云ヘリ〕 大鏡、上、村上「サマザマノ

御歎キ、御喜ビ、かきまぜタル心地」」雜ずト云フニ同ジ。カキマズ。古今集、一、春、上「見渡セバ、柳櫻ヲ、こきまぜテ、都ゾ春ノ、錦ナリケル」源、廿一、少女五十「御箱ノ蓋ニ、色色ノ花紅葉ヲこきまぜテ、コナタニ奉ラセタマヘリ」

こぎ-まふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［漕舞］「倭訓栞、こぐ「源氏ニ、こぎまひてト見エタルハ、漕廻ゐ義也」」漕ギマハル。漕ギメグル。源、廿四、胡蝶「二船ニ載セタマウテ、南ノ池、云云、小サキ山、云云、其山ノ岬ヨリこぎまひテ、東ノ釣殿ニ、云云」新六帖、三「海ノ原、御神ノこぎまふ、釣舟ノ、遙ニナレバ、心スミケリ」

こ-きみ（名）［小氣味］〔こハ、發語、接頭語ノこ（小）ノ條ヲ見ヨ」氣味ト云フニ同ジ。キモチ。稍、痛快ヲ感ズル意アリ。轉ジテ、こきび。心中天網島（享保、近松作）上「小氣味ノ惡イ女郎ジャ」「こきみガヨイ」

こ-ぎみ（名）［故君］〔こ（故）ノ條ヲ見ヨ」故人ノ（二）ノ敬語、宇津保物語、忠杜廿一「こぎみノ遺言ナレバ」

こ-きん（名）［古今］こきんしふ（古今集）ノ略、其條ヲ見ヨ。

こ-きん（名）［古金］古ク通用シタル貨幣。

こ-きん（名）［胡琴］（一）琵琶ノ異稱。歌儛品目、三、八音記原「胡琴、教訓抄ニ、琵琶、一名、胡琴ト、簾名苑ニ、本出ニ於ニ胡ト、ソレヨリ得タル稱ナルベシ」（二）又、支那ノ樂器ノ名、我ガ邦ノ鼓弓ニ似テ、二絃ナリ、竹ニテ造レリ。獨醒記「陳子昂張ニ讀席ニ起捽ニ胡琴ニ」

こ-きん（名）［孤衾］ヒトリネスルコト。孤閨。獨枕。韓愈、操衣詩「孤衾引ニ思緒ニ獨枕懷ニ前事ニ」

ご-きん（名）［五金］金、銀、銅、鐵、錫、ノ總稱。白居易詩「五金七寶相玲瓏」

こきん-しふ（名）［古今集］〔今ノ字、漢音、きん、呉音、こん〕正シクハ、古今和歌集ナリ、甚シク略シテ、古今トノミモ云フ。醍醐天皇延喜五年、紀貫之、等、詔ヲ承ケ、撰リテ奉リシ、和歌ノ集ノ名、官撰ノ撰集、二十一代集ノ第一ニシテ、歌道ニテ、金科玉條トスル集ナリ。紀略、後篇、一、延喜五年四月十五日「今日、御書所預紀貫之、撰ニ進古今和歌集一部廿巻ニ」古今和歌集、一、古今倭歌集序、紀淑望「爰詔ニ大内記紀友則、御書所預紀貫之、前甲斐少目凡河内躬恒、右衞門府生壬生忠岑等ニ、獻ニ家集、幷、古來舊歌ニ曰ニ續萬葉集ニ於ニ是重有レ詔、部ニ類所ニ奉之歌ニ勒爲ニ二十巻ニ名曰ニ古今和歌集ニ云云、于レ時延喜五年、歳次ニ乙丑ニ四月十八日」拾芥抄、上、末、撰集「古今集、廿巻、千百首、云云、有レ序、假名、貫之、眞名、依ニ紀貫之命ニ紀淑望書レ之」枕草子、一、十三段「古今ノ草子ヲ、御前ニ置カセタマヒテ、云云、古今、アマタ書キ寫シナドスル人ハ、云云、古今ノ歌、二十巻ヲ、皆、諳ベサセタマハムヲ、御學問ニハセサセタマヘ」

こきん-でんじゅ（名）［古今傳授］古今集中ノ難義ヲ、師弟ノ間ニ、傳授シタルコト。大極祕傳トシタリ、三鳥三木、三草ナド云フコト、是レナリ。さんてう（三鳥）ノ條ヲ見ヨ。古今集祕訣。古今集ノ相傳ハ、二條家ノ爲世ヨリ頓阿ニ傳ヘ、數傳シテ、美濃ノ東下野守常緣ニ傳ハル、常緣始メテ、古今傳授ト云フコトヲ始メテ、宗祇ニ傳ヘ、ソレヨリ三條西實隆ニ傳ヘ、三條西家ニ數傳シテ、細川玄旨、コレヲ受ケ、又、烏丸光廣ナド、受ケタリ、コレヲ、二條家傳授ト云フ、又、宗祇ヨリ牡丹花肖柏（和泉國、堺浦ニテ歿ス）ニ傳ヘタル流ヲ、堺傳授ト云ヒ、肖柏ヨリ奈良ノ林宗二ニ傳ヘタルヲ、奈良傳授ト云フ。（和漢三才圖會、十六、藝能）宗祇集「文明三年、東下野前司常緣ヨリ、古今集傳授ノ後、云云」良將達德抄、一「細川藤孝、云云、歌道ヲ好マレ、達人ニナリ、後ニ、幽齋玄旨トテ、古今傳授マデアリシ人也」安齋隨筆、前編、十三、古今傳授「大極祕事トセラレテ、云云、傳授ヲ受ケザレバ、歌よみニアラズ、ト云フナルベシ、上古ノ風俗ハ、祕事、祕傳トテ、物事ヲ惜ミ隱ス事ハナシ、後代ニ及ビテハ、公家ニハ、細少ノ事ヲモ、祕スル風俗ニ成リ來レリ、潤屋ノ計也」

こきん-びな（名）［古今雛］〔古キ有職雛ニ對シテ、今世ノ雛ノ意カト云フ〕雛人形ノ一種、寛政ノ頃、江戸ニテ作リ出シタル、內裏雛ノ、小形ナルモノ。東都歲事記、一、二月「內裏雛ハ、寛政ノ頃、江戸ノ人形師、原舟月ト云フ者、一般ノ製ヲ工夫シ、名ヅケテ、古今ひひなト云フ、是ヨリ以來、世ニ行ハレテ、大カタ、此製作ニナラヘリ」

こきん-ぶし（名）［古今節］小唄ノ名、元祿年中、行ハレタルモノ、傳ハラズ。增補、松の落葉（寛永）三「中興當流丹前古今ぶし」（十七首揭ゲタリ）本朝世事談綺（享保）三、歌謠「古今節、元祿ノ頃、古今新左衞門ト云フ芝居者、歌ヒ始メシ也」

こきん-わた（名）［古今綿］女ノ綿帽子ノ一種、筠庭雜考、三ノ圖ニハ、前頂部ヨリ額上ヘ張出シテ被レル狀ヲ畫ケリ。嬉遊笑覽、二、上「伎藝古實ニハ、コレヲモ、藤井古今ト云ヘル女形ヨリ始マレリト云ヘリ」萬金產業袋（享保）五「船綿、云云、古今綿トモ云フナリ」

こき-もとゆひ（名）［扱元結］もとゆひノ條ヲ見ヨ。

こ-きゃう（名）［故鄕］フルサト。己レガ生レシ地。史記、項羽紀、項羽曰「富貴不レ歸ニ故鄕ニ如ニ衣レ繡夜行ニ誰知レ之者」太平記、一、玄惠文談事「日暮レ、馬泥ミテ、前途程遠シ、遙ニ故鄕ノ方ヲ顧ミレバ、秦嶺ニ雲横リテ」狂言記、鈍太郎「イヤ誠ニ、故鄕忘ジ難シトハ、ヨウ申シタモノデゴザル」

こ-きゃう（名）［古經］〔古キモノナレバ、古トスフナリ、新經書ト云フハ、ナシ〕經書ト云フニ同ジ。漢書、藝文志「禮古經五十六卷、出ニ于魯淹中ニ」後漢書、儒林傳「鄭康成本習ニ小戴禮ニ後以ニ古經ニ校レ之、取ニ其義長者ニ爲ニ鄭氏學ニ」

ご-きゃう（名）［五經］（一）五ツノ經書。（漢ノ武帝ノ建元五年ニ、五經博士ヲ置ケルヨリ初レリト）卽チ、易經、詩經、書經、春秋、禮記、ナリ。（二）五ツノ醫書。卽チ、素問、靈樞、難經、金匱要略、甲乙經、ナリ。（三）五ツノ禮。卽チ、吉、凶、軍、賓、嘉、ナリ。禮記、祭統篇「禮有ニ五經ニ莫レ重ニ於レ祭」注「謂ニ吉禮、凶禮、賓禮、軍禮、嘉禮ニ也」

ご-ぎゃう（名）［五行］〔五つノ運行るモノ〕支那ノ理學ニ、天地ノ間ニ運行シテ、生生、化育シ、曾テ息ムコトナキ、五種ノ物、佛說ニ云フ、五大ノ如シ、卽チ、木、火、土、金、水、ナリ。木ハ火ヲ生ジ、火ハ土ヲ生ジ、土ハ金ヲ生ジ、金ハ水ヲ生ジ、水ハ木ヲ生ズトシテ、コレヲ、相生ト云ヒ、又、木ハ土ニ剋チ、土ハ水ニ剋チ、水ハ火ニ剋チ、火ハ金ニ剋チ、金ハ木ニ剋ツトシテ、コレヲ、相剋ト云フ。又、方角、四季、五色、ニ配當シテ、木ヲ東、春、青ニ、火ヲ南、夏、赤ニ、土ヲ中央、四季ノ土用、黃ニ、金ヲ、西、秋、白ニ、水ヲ北、冬、黑ニ當テナドス。凡ソ、世ノ萬物、皆、此五行ニ基ヅキテ循環ストシテ、陰陽道ナドニテ、推步シテ、吉凶、禍福ヲ云フ。書經、洪範篇「五行、一曰水、二曰火、三曰木、四曰金、五曰土」拾芥抄、下、末、五行部「木生レ火、火生レ土、土生レ金、金生レ水、水生レ木、謂ニ之相生、火剋レ金、金剋レ木、木剋レ土、土剋レ水、水剋レ火、謂ニ之相剋ニ」合類節用集（元祿）九、言辭門、相

母、相生、五行説相剋相生、逆則相剋、洋ニ義無差ニ」

ごぎやう (名) [御形] [illegible]兒、嫗ノ[illegible](遭兒、其條ヲ見ヨ)ハ、母子ノ音便ニテ、[illegible]ハ人形ナリ、コレニ供フル母子餅[illegible]ヲ作ル、因リテ、其草ヲ母子草ト云フナリ、御形ハ、人形(人形)ニ由アル語ナルベシ、又、御形 母子草ヲ、正月ノ七種ニ用ヰル時ノ名[illegible]鼠麹草 本草綱目啓蒙、十一、隰草「鼠麹草、ははこぐさ、母子草[illegible]今ハ、ほうこぐさト云フ、おぎやう、御形ト書ク[illegible]」 塵添壒囊抄(文安)一、第二條、正月七日七草「五行」 和漢三才圖會[illegible]七種菜、御形[illegible]

ごぎやうのゐん (名) [五行尹] [陰陽道ハ、専ラ、五行循環ノ説ニ據ル] 陰陽寮ノ長官ノ、陰陽頭ノ唐名。 職原抄、上、陰陽寮、頭、唐名、五行尹」

ごきやうはかせ (名) [五經博士] 五經ニ博通セル學士。[illegible] 日本紀略[illegible]、十年九月、百檢「賢二五經博士清高安茂二」

ごぎやうぼん (名) [五行本] ぎだいふぼん(義太夫本)ノ條ヲ見ヨ。

こきやく (名) [沽却] 字典「沽、賣也」論語、子罕篇「求善賈而沽諸」賣ルコト。賣却。[illegible] 成竄ニ沽却シニケルトゾ」

ごぎやく (名) [五逆] 佛教ニ、天理ニ違逆スル、五種ノ惡行。[illegible]四人以上集合シテ、佛道ヲ修スルモノ」大藏法數「逆[illegible]

[illegible]、五逆罪ノ其一ヲ犯スベシ」平家物語、一、妓王事「死期モ來ラヌ母ニ、身ヲ投ゲサセムズルコトハ、五逆罪ニテヤアラムズラム」

こきゆう (名) 鼓弓 [弓ニテ鼓スル意ナリ(胡弓ニ、胡弓ナドトモ記ス 葡萄牙國ヨリ渡來ノ、三絃ノ樂器ノ、らべいかナリ、其條ヲ見ヨ)] 樂器ノ名、形、三味線ニ似テ小サク、三絃ナルモノ、中心先ヲ長クシ、コレヲ膝ノ間ニ挾ミ、左手ニテ棹ヲ持チ、撥ナラデ、別ニ、小弓ニ馬尾ヲ張レルモノヲ、右手ニ取リテ、絃ヲ摩リテ彈ク、常ニ、三味線ト合奏シテ用ヰラル、今モ、名古屋以西ハ、三絃ナルガ、江戸ニテハ、寶暦ノ頃、藤植檢校ト云フ者、第三絃ノ音、淋シトテ、一絃ヲ添ヘ加ヘタレド、同調ノモノナレバ、三絃ト異ナルコトナシ。 竹取物語[illegible]遊女、遊君、[illegible]リテ、若キ人人、打チマジリ、三味線、こきうニて竹ヤ、踊ベソヘヌル、云云」 季吟[illegible]、神代ヨリコソ、伊勢ヲドリ歌」天照ラス、月ハこきうノ、弓張リテ[illegible]、こきう[illegible]中山[illegible]

こきゆ (名) 故墟 [illegible] 廢跡ニ同ジ。 [illegible]

こぎよ (名) 枯魚 ホシウヲ。ヒモノ。 孔子家語[illegible]

おきよ・す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [揺寄] [かきよすノ轉、おきいるノ語原ヲ見ヨ] 寄ストヱフニ同ジ。 [illegible]、春風ハ、八重ヤツ浪ノ、色ニサヘ、色おきよする、井手ノ山吹」

おきりお (名) [小切子 筑子] [倭訓栞、おきりお「筑子ヲ讀メリ、云云、切子ノ棒

ノ如シ」風俗通「筑、狀如瑟而大、頭安[illegible]、以竹擊之」此竹ヨリ、筑子ノ字ヲ用ヰルト云フ、イカガアルベキ] 放下師ノ技ニ用ヰル具、小竹ノ管ノ中ニ、赤小豆ヲ入レタルモノ、手玉ニ取リ、綾織ヲナシ、指先ニテマハシ、拍子取リ、打鳴ラシナドシテ、弄ブ。 七十一番職人盡歌合(文安)四十九番、放下「[illegible]ツ、放下ノ、おきりおノ、竹ノ夜聲ノ、[illegible]」 [illegible](文安)一、小兒戲物字「ささらトハ、編竹ト書キ、或ハ、編木ト書ク、[illegible]、おきりおハ、放下ニモマルル」 俳諧[illegible]子集(萬治)十「[illegible]竹ノ、節ナキ中ハ、[illegible]ミテ、君おきりおヲ、ウツツナノ我レ」

おき・る (動) おきいる(揺入)ノ條ヲ見ヨ。

おぎ・る ・ル・レ・フ・リ・レ (他動、四) 小切 [限ルノ轉カ、かきまぎ、おきまぎ] ねぎるニ同ジ。 狂言記、佛師「價ハ、おぎりマスマイ」

おぎれ (名) [小切] 布帛ノ、キレハシ。 零帛 零布

おぎれい (名) [小綺麗] [おニ、意味ナシ、接頭語ノお(小)ノ條ヲ見ヨ] 綺麗ト云フニ同ジ。コザ・パリ (おぎたない ニ對ス) [illegible]作(寶永、近松)上「[illegible]ガナッテ、小奇麗ナ、聲ノ良イノヲ選ラレシモ、金ニ[illegible]カセシ[illegible]ナリ」 おぎれい十[illegible]」

こく (名) [穀] タナツモノ、米、麥、粟、黍、ナド、人ノ、日日ノ飯トシ、糧トスルモノノ稱。穀物。ごく。又、豆、稗、ナドヲモ併セテ云フ。 禮記、月令篇、孟秋「[illegible]」 續紀、六、和銅七年六月、詔老人、歳百以上、賜[illegible]伍斛、云云、八十已上、[illegible]石二」 宇治拾遺物語[illegible]、モロモロノ衆生、國土ノ人、こくニ飢レシ時アリキ」

こく (名) [斛 石] [唐韻「斛、胡谷切」説文「斛、十斗也」倭名抄、十四「稱量具「野王案、説文云、十斗爲斛、[illegible]、斛也」普通ニハ、字畫ノ少ナキ石ノ字ヲ取リ、斛ノ音ヲ移シテ用ヰル」 (一)古語、サカ。量ノ名、斗ノ十倍。 漢書、食貨志、[illegible] 一石半、百錢爲[illegible]百五十石ニ[illegible]」 續紀、六、和銅七年六月「詔老人、歳百以上、賜[illegible]伍斛、九十已上參斛、八十已上壹石ニ」 (二)日本形ノ船ノ積量ニテハ、十立方尺ノ稱。「五百石積、千石積」 (三)材木ノ容積量ニ云フ語、尺締ノ條ヲ見ヨ。

こく (名) [酷] [石ニテ、量ノ意ナルカ、或ハ、濃ニテ、醲ノ濃汁ナド云フ意ナルカ] (一)分量。「こくガ減ル」「こくガアガル」 (二)酒ナドノ、濃キコト。濃厚。 [此酒ニハ、こくガアル]

こく (名) [刻] [爾雅、釋器篇「木謂之刻」] (一)刻ムコト。彫ルコト。彫刻。 史記、[illegible] 印文、文二稱ノ[illegible]「金石刻」[illegible]高華著ノ刻」 (二)漏刻ニハ、一時ノ四分ノ一ノ稱、晝夜、十二時、四十八刻ナリ、十二時ヲ、十二支ニ配當シテ云フ。(漏刻ノ條、見合ハスベシ) 三代實錄、十九、貞觀十三年[illegible]月[illegible]、仁和三年十月五日、子・刻[illegible]用[illegible]辰四刻ニ[illegible] 地震[illegible]」 (三)後世ノ時ニハ、晝夜ノ百分ノ一ノ稱、一日ヲ、十二時トシ、日ノ長短ニ因リテ、一時ノ刻ニ差アリ、平均スレバ、一時ハ、八刻ト、三分ノ一ニ當ル、春分、秋分ハ、晝夜、各、五十刻、冬至ハ、晝四十刻、夜六十刻ナリ、夏至ハ、コレニ反ス。(時ノ條、見合ハスベシ) (四)又、一時ノ三分ノ一ノ稱トモスルコトアリ、コレヲ、上刻、中刻、下刻、ト云フ、晝夜、三十六刻ナリ。(時ノ條ヲ見ヨ) 「午ノ上刻」甲ノ下刻」

こく (名) 剋 〔爾雅、釋詁篇「剋、勝也」〕 勝ツコト。多クハ、五行ノ相剋ニ云フ。ごぎやう(五行)ノ條ヲ見ヨ。

こく (名) 鵠 (一)クグヒ。白鳥。莊子、天運篇「鵠不日浴而白」 後漢書、馬援傳「刻鵠不成、尙類鶩者也」 王充、論衡「貴鵠賤雉者、鵠遠而雉近也」 (二)的ノ星。周禮、天官篇、司裘「王大射則、云云、設其鵠」 禮記、射義篇「循聲而發、發而不失正鵠者、其唯賢者乎」 註「鵠之言、梏也、梏直也、言人正直、乃能中也」

こく (名) 酷 〔廣韻「酷、虐也」增韻「慘也」〕 嚴シキニ過グルコト。ムゴタラシキコト。殘酷。酷薄。 史記、李斯傳、贊「嚴威酷刑」 同、酷相國世家「百姓離秦之酷」「其處置、甚ダ酷ナリ」「刑罰、酷ニ過グ」

こ・く・クル・クレ・ケ・ケヨ (自動、下二) 倒仆 〔漏クト通ズルカ、倭訓栞、こける「仆るヲ云フ、神代紀ニ、漏落ヲ、くきおちト讀メリ、こけト、くきト通ゼリ」此語、他動ニハ、こかすト云フ〕 倒ル。コケル。コロブ。(九州ニテハ今モ、こくるト云フ) 名義抄「頽、コク」(こかすノ條ヲ見ヨ) 色道大鏡(延寶)箕山「こくる「物ヲ立テすキテ、引クニ、我ガ思フヤウニ、コナタヘこくるヤウノ心也」

こ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 放 (一)身ノ外ヘ、出ダス。放ル。 倭名抄、三十病類「霍亂、之利與理久知與理古久夜萬比」 奥の細道(芭蕉紀行)「蚤虱、馬ノ尿こく、枕モト」「屎こく」屁こく」 (二)言ヒ放ツ。(罵リ云フ詞) 東海道中膝栗毛(享和)一九)四編、下「背中ヲ流シテ下セエト云ッタラ、ハイトこいテ、云云」「嘘ヲこく」タハコトヲこく」

こ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 扱 〔掻くト通ズ(掻裂す、さきます)集韻「扱、迄及切、音吸、斂、取也」〕 (一)掻キオトス。引張リ、取ル。チギリトル。 雄略紀、六年三月「天皇欲使后妃親桑、以勸蠶事」 後撰集、十二、戀、四「引繭ノ、カクニ籠、セマホシミ、桑こきタレテ、泣クヲ見セバヤ」(こきたるノ條ヲ見ヨ) 枕草子、五、五十段「稻ト云フモノ、云云、五六人シテ、こかセ」 齋宮女御集「御前ノ藤ヲナム、隱ビテこく人アリ」 字類抄「扱、コク」 眞名伊勢物語「扱」 (二)左手ニ握リテ、右手ニテ引ク。シゴク。「槍ヲこく」綱ヲこく」

こ・く (形) 濃 濃しノ連用形、其條ヲ見ヨ。

こく (接尾) 競 こくら(競)ノ條ヲ見ヨ。

こ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 搒漕 〔掻くノ轉ジタル語ナラムカ、擢ハ、掻ノ音便ナリ、字典「搒、進舟也」同「水運曰漕」〕 檝、擢ヲ動カシ、又ハ、艪ヲ押シテ、舟ヲ進ム。舟ヲ、前ヘ遣ル。 萬葉集、一 廿「潮サヰニ、伊良虞ノ島邊、搒ク船ニ、妹乘ルラムカ、荒キ島回ヲ」 同、十八 十「堀江ニハ、云云、御船許我ムト」

ごく (名) 玉 ごくのおびノ條ヲ見ヨ。

ごく (名) 曲 〔曲ノ呉音、極、ごく〕 曲ト云フニ同ジ。琴曲ナリ。 宇津保物語、樓上、上 三十「龍角ヲ大將ニ奉リタマヒテ、ごくノモノ、タダ一ツヲ、同ジ音ニテ彈キタマフ」 源、三十四、下、若菜、下 四十「多クノ調ベ、ワヅラハシキごく多カルヲ、云云、諸ト云フモノノ限リヲ、遍ク見アハセテ、云云」 紫式部日記「笙ノ笛ニテ安名尊、次ニ席田、此殿(催馬樂ノ曲ノ名)ナド歌フ、ごくノモノハ、鳥ノ破、急ヲアソブ」

ごく (名) 穀 〔こくノ呉音、曲ヲ、ごくトモ云フ、至極、極印〕 穀ニ同ジ。專ラ、米ニ云フ。「ごくヲ斷ツ」ごくツブシ」

ごく (名) 極 製茶ニ云フ語、ごくぞろへ(極揃)ノ下略、其條ヲ見ヨ。

ごく (名) 獄 (一)ヒトヤ。牢屋。獄舍。 宇治拾遺、二、第四條「獄ニ入タリケレバ、僅ニ二十日バカリアリテ、死ニケリ」「獄ニ下ル」獄ニ投ズ」 (二)ウッタヘ。訴訟。疑獄ト云フハ、判決シ難キ訴訟ナリ。 論語、顔淵篇「子曰、片言可以折獄者、其由也與」(孔子門人、仲由、字、子路) 國語、魯語「君臣無獄」

ご・く (名) 御供 御供ノ條ヲ見ヨ。

ご・く (名) 語句 語ト、句ト。コトバ。 金史、王庭筠傳「文藝頗佳、然語句不健」

ご・く (名) 五苦 佛語ニ、生苦、老苦、病苦、死苦、愛別離苦、ノ稱。 觀无量壽經「濁惡不善、五苦所逼」

ごく (副) 極 〔至極ノ上略、神託ヲ、御託ト云フ類〕 至極ニ同ジ。キハメテ。ゴクズキ。意ヲ强メテ、ごくごく。「ごく好イ」ごく面白イ」極極上等」

ごく・あく (名) 極惡 極メテ、惡シキコト。惡虐極マルコト。 王符、潛夫論「下愚極惡之人」 榮花物語、十九、御裳着「極惡ノ衆生」

こく・あん (名) 國安 一國全體ノ安泰。「國安ヲ保ツ」

こく・あん・ぢごく (名) 黑闇地獄 地獄ノ一。暗キ處ニテ、罪人ヲ呵責ス、佛、法、僧、ノ燈明ヲ盗ミ、父母、師長、和上ノ者ヲ盗ミ、說法者、論議師、等ヲ誹謗セシ者ノ、墮ツル所ナリト云フ。(觀佛三昧海經、五)

こく・あん・てんによ (名) 黑闇天女 〔衆生ノ罪業ヲ、分明ニ知ルガ故ニ、無明、黑闇ニ喩ヘテ名トスト云フ〕 佛說ニ、閻魔天ノ后妃ノ稱。 沙石集、八、下、第十六條「涅槃經中ノ一譬喩、女人來ル、容顔醜陋ニシテ、見ニクシ、何ナル人ゾト問、我ヲバ黑闇天トイフ、ソノ故ハ、至ル所ニ、不祥災害有トイフ」

こく・い (名) 黑衣 〔衣、呉音、え、佛語ニハ、こくえ〕 (一)黑キ色ノ衣。支那ニテハ、武官ノ服ナドニモ云フ。 史記、趙世家「左師公曰、老臣賤息、舒祺最少、云云、願得補黑衣之缺、以衞王宮」 (二)黑衣。スミゾメノコロモ。緇衣。黑衣宰相ト云フハ、僧ニシテ、政治ニ與ル者ノ稱。支那ノ宋ノ文帝ノ時、僧慧琳、朝政ニ參與セシヲ呼ビシニ始リ、我ガ邦ニテモ、僧天海、德川幕府ノ初世ニ、政治ニ與レリトテ、史家ハ、黑衣宰相ナド、呼ベリ。 通鑑「宋文帝以慧琳道人善談論、因與議朝廷大事、遂參權要、賓客輻輳、孔覬曰、遂有黑衣宰相、可謂冠履失所矣」

ごく・い (名) 極意 (一)至極ノ意味。(二)オクノテ。奥義。(藝術ナドノ) 甲陽軍鑑、十一、下、品第三十七「山本勘介流、城取ノごくいナリ」

こく・いう (名) 國有 國家ノ所有。政府ノ所有。(公有、私有ニ對ス)「國有地」國有林」

こく・いん (名) 國印 國司ノ、公文書ニ用キタル印。 公式令「諸國印、方二寸」

こく・いん (名) 黑印 朱印ノ條ヲ見ヨ。 享保集成絲綸錄、十三、寬保元酉年九月「此度差出候台徳院様(德川秀忠)御黑印ニ付、公儀ニ被留置候」

ごく・いん (名) 極印 〔ごくハ、極ノ呉音、曲、曲水。穀、穀斷〕 極ノ印。通用ノ金銀ニ、發行所、又ハ、量目ナドノ、文字、標目、等ヲ打込ミテ、證トスルモノ。コックイ。川船ナドヲ、官ニテ改メテ、燒印押シタルヲモ、極印ト云ヒキ。 金銀御吹替次第、一、通用銀御吹替之次第「慶長銀、云云、最初之極印、元祖常是常是隆形之」 享保集成絲綸錄、

四十二、貞享四年十一月、[illegible]第二西[illegible]二两[illegible]、四十五、元禄十二年七月、[illegible]中、代八[illegible]、三傳馬町名主共方ヨリ、致ニ捺印一候箸ニ役ニ仰付一先達而相願候」

こくう（名）穀雨 〔孝經、緯、穀雨「言ニ雨生ニ百穀一也」〕陰暦三月ノ中ノ氣節。にじふしき（二十四氣）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

こくう（名）虚空 （一）ソラ。オホゾラ。[illegible]（二）心ノ、ソラナルコト。有頂天。[illegible]三、品第四十、上「我發願ノ書モ、虚空ニ、ヨキトバカリ[illegible]スル事」

ごくう（名）御供 〔御供ノ延、佐官、さうくゎん〕御供物ノ略。ソナヘモノ。[illegible]六、文[illegible]年六月十五日[illegible]、云云、[illegible]御供[illegible]」

こくうざう（名）虚空藏 〔又、虚空孕トモ云フ、智慧ノ無窮ナルコト、天ノ如キ意ナリトイフ〕菩薩ノ名、大悲、利生、不[illegible]ニシテ、能ク諸願ヲ滿タストイフ、右ニ劍ヲ持チ、左ニ如意寶珠ヲ持ツ。[illegible]

こくうざう（名）穀象 〔こくざうノ延（御供、ごくう）虚空藏菩薩ニ混ジテ、米ヲ、よさへト云フニ寄セタルニモアラムカ〕蟲ノ名、こくざうニ同ジ。コメノムシ。

ごくうしょ（名）御供所 神社ナドニ、御供物ヲ調フル處。神厨。[illegible]六、文治二年六月十五日「安樂寺、云云、建ニ立六間四面御供所屋一宇ニ」

ごくうすゐ（名）御供水 佛ノ御供ノ水。

ごくうでん（名）御供田 御供ノ料ノ田地。[illegible]

こくうん（名）黑雲 クロクモ。[illegible]

こくうん（名）國運 一國ノ運命。國步。[illegible]

こくうよう（名）虚空孕 こくうざう（虚空藏）ニ同ジ。

こくうれんぼ（名）虚空戀慕 虚無僧ノ尺八ノ曲ノ名。

こくえ（名）黑衣 黑衣ノ條ヲ見ヨ。

こくえき（名）國益 クニノタメナルコト、一國全體ノ利益。國利

こくえん（名）黑鉛 石墨ニ同ジ。

こくおん（名）國恩 國家ノ恩 其國ニ生レ、其生ヲ遂ゲ、其身ヲ安ンジテアル恩。[illegible]

こくか（名）國家 〔孟子、離婁、上篇「天下之本在ㇾ國、國之本在ㇾ家、家之本在ㇾ身」コレニ因メル語カ、或ハ、家ハ、帝說ノ語カ、其條ヲ見ヨ〕國ト云フニ同ジ。一國ノ、上下、全體ヲ總稱スル語。邦家。[illegible] 十訓抄、下、第十、七十五條「件ノ託宣（石清水八幡ノ）ノ末ニ、爲ニ國家ニ亘惡者出來之時、非ニ此限一ト侍」「國家ニ忠アリ」カヲ、國家ニ竭ス」

こくか（名）國歌 〔我ガ國ノ歌、國學ナドト同意〕ヤマトウタ。和歌。詩ノ、からうたニ對シテ云フ。（近年、出來タル語ナリ）

こくか（名）國歌 〔國家ノ儀表トスル歌、英語、National anthem. ノ譯語〕公ノ儀式、祝賀、又ハ、國國ノ交際、聘問、往來ノ儀典ニ、奏樂ニ伴ヒテ歌フ歌、我ガ國ノ國歌ハ、和漢朗詠集、下、祝ニ「君ガ代ハ、千代ニ八千代ニ、細石ノ、巖トナリテ、苔ノ產スマデ」（きみ、およノ條ヲ見ヨ）トアルヲ採用セラレ、明治十三年、宮內省雅樂寮ノ伶人林廣守等ノ作譜ニ係リ、同二十六年八月、文部省告示ニヨリテ、各小學校ニ採用セラル。

こくか（名）轂下 天子ノ、オヒザモト。輦轂ノ下。輦下。史記、司馬相如傳[illegible]

こくか（名）刻下 〔時刻ノ下〕時下ニ同ジ。イマ。タダイマ。目下。「災、刻下ニ起ル」

こくが（名）國衙 （一）トホノミカド。國司ノ廳。國廳。國府。[illegible]下學集、上、天地門「國衙」[illegible]（二）國衙ノ、治メアツカフ地。吾妻鏡、四、元暦二年八月十三日「云云、國衙ハ云ニ庄園ハ如ㇾ元、可ㇾ令ㇾ委ニ附國司、領家ニ」

こくかい（名）國界 クニザカヒ。國ト國トノ界。國境 漢書、匡衡傳「郡邑定ニ國界ハ」[illegible]

こくかう（名）國交 國家ト國家トノ交際。國際。[illegible]許ニ以鄰ニ國交ニ也」[illegible]」

こくかう（名）國香 〔國中ニ秀デタル意、名譽ヲ國ニ云フ、同趣〕優レタルカヲリ。建蘭ノ花ノ香ニ云フ。左傳、宣公三年「以ㇾ蘭有ニ國香一人服ニ媚之一如ㇾ是」范成大、[illegible]詩、但知是國香ハ此外付ニ爲有ニ

こくがう（名）國號 國ノ名。國ノ名稱。日本ト云ヒ、山城、伊勢ナド云フモ、是レナリ。史記、五帝紀「自ニ黃帝一至ニ舜禹一皆同ㇾ姓而[illegible]其國號一以章ニ明德一」[illegible]雖ニ則八遷一而國號不ㇾ改」

こくがく（名）國學 〔禮記、學記篇「古之教者、云云、國有ㇾ學」每國ノ學校〕古ヘ、諸國（伊勢、尾張、武藏、ナド）ニ設ケ、博士ノ職ヲ置キテ、郡司ノ子弟ヲ教育セラレシ學校。國大學。（京都ノ大學寮ニ對シテ云フ）職員令、凡國博士、醫師、國別各一人、其學生、大國五十人、上國四十人、中國三十人、下國二十人」賦役令「國學博士、醫師、諸學生」

こくがく（名）國學 クニマナビ。我ガ國書ヲ講究スル學問。又、和學ト云フ、中世以來、漢學ニ對シテ起リシ稱ナリ。德川時代ニ至リ、北村季吟（寶永二年歿ス、八十二）ナドノ修メタル、是レナリ、尋ギテ、僧契沖、荷田春滿、賀茂眞淵、本居宣長、塙保己一（文政四年歿ス、七十六）等ノ講究セシ古學（其條ヲ見ヨ）ト稱スルモノモ、是レナリ。洋學起ルニ及ビ、スベテ、外國ノ學ニ對シテ、皇學トモ稱ス。元亨釋書、十、[illegible]「梵學猶若ㇾ彼、況國學乎、國學猶若ㇾ此」[illegible]有職者流ヲ指シテ云ヘルニヤ、道德ニ關ラヌ如ク思ヘルハイブカシ」[illegible]正保四年版、[illegible]國學[illegible]、云云」[illegible]文集、五十一、式[illegible]經科、史科、[illegible]（荷田春滿ガ[illegible]造國學校[illegible]アリ、我ガ

國ノ古書ノ眞相ヲ究メムトセシナリ」倭訓栞、こくがく「國學ハ、倭學也、神學アリ、歌學アリ」

こくか-けいさつ（コッカ・ケイサツ）(名)〔國家警察〕國家一般ニ關スル警察。(地方警察ニ對ス)

こくか-けういく（コッカ・キョウイク）(名)〔國家教育〕國家一般ニ關スル教育。

こく-かん（コッ・カン）(名)〔國漢〕國語ト、漢文ト。「國漢文試驗」

ごく-かん（ゴッ・カン）(名)〔極寒〕極メテ、寒キコト。甚寒。沍寒。易緯通卦驗「日冬至之後三十日、極寒」

こく-き（コッ・キ）(名)〔克己〕己レニ、克ツコト。私欲ヲ、抑ヘツクルコト。制欲。論語、顏淵篇「克己復禮、天下歸仁焉」集註「仁者、本心之全德、克、勝也、己、謂身之私欲也」

こく-き（コッ・キ）(名)〔國器〕國ヲ治ムル才器アルモノ。史記、晉世家「晉公子賢、而困於外久、從者皆國器、此天所置」

こく-き（コッ・キ）(名)〔國基〕國礎ニ同ジ。クニノモトキ。國本。左傳、昭公十三年「仲尼謂子産於是行也、是足以爲國基矣」

こく-き（コッ・キ）(名)〔國忌〕國忌ノ條ヲ見ヨ。

こく-き（コッ・キ）(名)〔國旗〕〔英語、National flag. ノ譯語〕外國ニ對シテ、一國ノ目標トスル旗章。我ガ國ナルハ、日丸ノ旗ナリ。徳川幕府ニテハ、總旗印ト云ヒキ。「國旗ヲ揭揚ス」

こく-きん（コッ・キン）(名)〔國均〕〔事ヲ權リテ、平均ナラシムル意〕國政ヲ行フコト。詩經、小雅、祈父之什、節南山篇「秉國之均、四方是維」集傳「均、平也、維、持也」白居易詩「爲問三丞相、如何秉國鈞」鈞ハ、均ニ通ズ」

こく-きん（コッ・キン）(名)〔國禁〕國法ニテ定メテアル禁制。周禮、秋官、士師「五禁、云云、三日、國禁」

こく-きゃう（コッ・キョウ）(名)〔國境〕國界ニ同ジ。クニザカヒ。禮記、奔喪篇「望其國竟哭」蜀志、楊戲傳、魏文長贊「折衝外禦、鎭保國境」

こく-く（コッ・ク）(名)〔刻苦〕〔說文「刻、痛也」〕痛ク、苦勞スルコト。甚シク、心身ヲ使フコト。宋史、孔文仲傳「刻苦問學、號博洽」「刻苦勉勵」

こく-くん（コッ・クン）(名)〔國君〕クニノキミ。一國ノ君主。易經、上經、復卦「用行師、終有大敗、以其國君凶」禮記、曲禮、上篇「國君撫式、大夫下之」

こく-くん（コッ・クン）(名)〔國訓〕漢字ニ就キテ、我ガ國ニテ附クル訓。訓ト云フニ同ジ。

こく-ぐん-ぼく-ぢゃう（コク・グン・ボク・ジョウ）(名)〔國郡卜定〕大嘗祭ノ時ニ、齋田トスベキ地ヲ、龜卜ニ因リテ、定メラルルコト。悠紀ニハ、某國、某郡、主基ニハ、何國、何郡ト定メテ、神饌ノ稻ヲ作リテ、奉ラシメラル。延喜以後ハ、國ハ、近江、丹波、備中、ナドト定マリタレド、郡ノミハ、其國中ノ郡ニ就キテ、卜定セラレシナリ。儀式、二、踐祚大嘗祭儀「天皇卽位之年、云云、大臣奉勅、召神祇官、密封令卜定悠紀主基國郡」大嘗會便蒙、上「先、國郡卜定ト云フコトアリ、是ハ、悠紀、主基ノ國郡ヲ、何ノ國、何ノ郡ト、ウラナヒ定メラルル儀式也」

こく-くゎ（コッ・カ）(名)〔國華〕くにのはなノ條ヲ見ヨ。晉書、衞瓘張華傳「忠爲令德、學乃國華」

こく-くゎい（コッ・カイ）(名)〔國會〕帝國議會ノ條ヲ見ヨ。

こく-くゎう（コッ・コウ）(名)〔國光〕(一)くゎんくゎう(觀光)ノ條ヲ見ヨ。易經、上經、觀卦「六四、觀國之光、利用賓于王」(二)國ノ威光。國華。

こく-ぐゎつ（コク・ガツ）(名)〔黑月〕白月ノ條ヲ見ヨ。書言字考節用集、二、時候「黑月」註「俗云、下十五日、西域記、白分黑分前後合爲一月、詳倶舍論」

こく-くゎん（コッ・カン）(名)〔國患〕國家ノウレヒ。國家ノ災難。戰國策、魏策「今王亡地數百里、亡城數十、而國患不解」

ごく-くゎん（ゴッ・カン）(名)〔極官〕(一)昇進最高ノ官。(二)家格ニ因リテ定メラレタル、至極ノ官。官位略記ニ、尾張徳川氏、紀伊徳川氏ノ極官ハ大納言、水戸徳川氏、三卿ハ權中納言、前田氏ハ參議、島津氏、伊達氏ハ中將、ナド、列擧シタリ。(古事類苑)

こく-げ（コク・ゲ）(名)〔國解〕解ノ條ヲ見ヨ。中務式「凡諸國所進不動倉鎰者、官副國解下省、省卽勘收庫」新任辨官抄「於諸國解者、守、介、掾、目、連署、稱之國解、仍注其國言上也」

こく-けい（コッ・ケイ）(名)〔酷刑〕〔酷ノ語原ヲ見ヨ〕殘酷ナル刑罰。ムゴタラシキ、シオキ。

こく-けう（コッ・キョウ）(名)〔國教〕一國ノ文學ノ敎。孟郊、讀經詩「海若國敎異、天聲多冷冷」

こく-けう（コッ・キョウ）(名)〔國教〕〔英語、State religion. ノ譯語〕國家ガ、認定シ、管理、財政、等ニ、保護、干涉ヲナス宗敎。狹義ニテハ、國家的教會ニ同ジ。國民敎トハ、異ナリ。

こく-げき(名)〔轂擊〕〔車ノこしきトこしきト打ち合フ義〕車馬ノ往來ノ繁キニ云フ語。史記、蘇秦傳「臨菑之塗、車轂擊、人肩摩」

ごく-げつ(名)〔極月〕〔しはすノ條ヲ見ヨ〕十二月ノ異名。シハス。臘月。

こく-けん（コッ・ケン）(名)〔國憲〕こくはふ(國法)ニ同ジ。後漢書、曹褒傳「撰定國憲」教育勅語「國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ」

こく-けん（コッ・ケン）(名)〔國權〕(一)國政ノ權力。左傳、昭公三十二年「魯君於是乎失國」杜註「失國權」漢書、五行志「襄公時、天下諸侯之大夫、皆執國權」(二)國家ヲ統治スル全權力。天皇ニ屬スルニ就キテハ、大權ト云フ。

こく-けん（コッ・ケン）(名)〔黑圈〕黑キ圈點。クロボシ。クロマル。

こく-げん(名)〔刻限〕時ノカギリ。定メタル時。保元物語、三、新院讚岐遷幸事「宣旨ノ刻限移リ候ナバ、後勘如何ト、恐申ケレバ」

こく-こ（コッ・コ）(名)〔國庫〕政府ノ金錢出納ノ所。「國庫準備金」「國庫借入金」「國庫支辨」「國庫補助」

こく-ご(名)〔國語〕(一)クニコトバ。其國人民ノ、固有ノ言語。(二)特ニ、我ガ國ノ國語。日本語。(外國語ニ對ス)「國語學校」「國語科」

こく-こく（コッ・コク）(名)〔刻刻〕一刻、一刻。其時時。「刻刻ニ迫ル」「時時刻刻」

ごく-ごく(副)〔極極〕極(副詞ノ)ノ條ヲ見ヨ。

こくこ-さいけん（コッコ・サイケン）(名)〔國庫債券〕政府ノ、臨時ニ發行スル國債證券、短期ナルモノトス。

こく-さい(名)〔國宰〕一國ノ大宰相。國相。春秋繁露「臣明其職、爲之國宰」盛衰記、廿七、賴朝追討廳宣事「宜從朝宣、而肖壞臭惡之心、旁企狼戾之謀、或寃凌國宰之使、或侵奪土民之財」

こく-さい　(名)　國祭　〔國ハ、國司ノ義ナリ、くに(邦、國)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕國事、國宰、國守、國務、國頭、皆、同ジ〕古ヘ、山城ノ賀茂神社ノ祭ノ名、官祭ノ前日、又ハ、當日、山城國司以下、當國ノ人等、參向シテ行ソ。續紀、二、大寶二年四月「賀茂神祭日、徒衆會集、執仗騎射、唯當國之人、不在禁限」。類聚三代格、二、延曆四年四月廿日「賀茂御祭日、自今以後、國司宜參」。台記、久安三年四月「賀茂國祭、四月中酉日」「今日國祭也」

こく-さい　(名)　國祭　〔國家上下ノ祭ノ義〕神嘗祭、新嘗祭、春季、秋季皇靈祭、神武天皇祭、紀元節、元始祭、天長節、明治節、等ノ大祭日、祝日ノ總稱

こく-さい　(名)　國際　〔英語、International.ノ譯語〕（一）國ト國トノ交際。國交。（二）國際條約ニ因リテ行ハルルモノ〔國際郵便、國際電信、國際公法、國際私法〕

こく-さい　(名)　國債　國家ノ負債　政府ノ公債〔國債證券〕

コクサイ・コウホウ
こくさい-こうはふ　(名)　國際公法　〔英語、Public international law.ノ譯語〕國際間ノ條規ハ、萬國公法〔國際間慣例ニテ、國家間ノ權利、義務ノ準則、萬國ノ交際上ニ、相通ジテ守ルベク立テタル法律、國際法〔國際私法ニ對ス〕

ごく-ざい-しき　(名)　極彩色　彩色ノ條ヲ見ヨ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「朽チテ朽チセヌ金沙子、極彩色ニ劣ラジト」

コクサイ・シホウ
こくさい-しはふ　(名)　國際私法　〔英語、International private law.ノ譯語〕涉外的事件ニ就キ、內外私法ノ適用區域ヲ定ムル國法。例ヘバ、いぎりす人ガ、日本ニ於テ、日本女子ト結婚スル場合ニ、其當事者ノ婚姻能力、婚姻要件、婚姻方式、等ニ就キ、日、英、イヅレノ法律ニ從フベキカヲ定ムル等ノ法律ナリ。(國際公法ニ對ス)

こくさい-しようけん　(名)　國債證券　國債ニ就キテ發行スル證券。

コクサイ・ジョウヤク
こくさい-でうやく　(名)　國際條約　國際ニ就キテノ條約。

コクサイ・ホウ
こくさい-はふ　(名)　國際法　國際公法ヲ見ヨ。

コク・ソウ
こく-さう　(名)　國喪　〔國家上下ノ喪〕天皇、三后、等ノ御喪。

コク・ソウ
こく-さう　(名)　國葬　國費ニテ行フ葬式。〔國葬ノ國葬〕

コク・ソウ
こく-さう　(名)　國造　くにのみやつこノ條ヲ見ヨ。

コク・ソウ
こく-ざう　(名)　穀象　〔其頭、嘴ノ、彎曲シテ垂ルルコト、象鼻ノ如クナレバ名ヅクト云フ、倭訓栞、後編、こくざう「俗ニ、米蟲ヲ名ヅクルハ、云云、象鼻蟲也ト云ヘリ」〕おめのむしノ(一)ノ異名。コクウザウ。

コク・ソウ
ごく-さう　(名)　獄窓　獄屋ノ窓、獄屋ノ内〔獄窓ニ呻吟ス〕

コク・ソウ・イン
こく-さう-ゐん　(名)　穀倉院　朝廷ノ倉庫。畿內諸國ノ調錢、無主ノ位田、職田、及、沒官田、等ノ穀ヲ收メオカレシ所。年中ノ饗物、賑恤、學生ノ學問料、等ニ充テラレタリ。西宮記、臨時、五「穀倉院、在[illegible]」百寮訓要抄「穀倉院別當、四位五位[illegible]、是ニ補ス」「[illegible]一、[illegible]ノ君、元[illegible]所ノ[illegible]ナド、司」「こくさう院ナド、公事ニツカウマツレル」

こく-さぎ　(名)　小臭木　〔佐山ニ對シテ、小ト云フナルカ〕灌木ノ名、くさぎ(常山)ニ同ジ。

コク・サク・ノ・キ・ヨウ
こく-さく-の-きやう　(名)　告朔之餼羊　(一)重キ禮ハ、廢レテ、虛禮トナリタリトモ、ナホ亡スニ忍ビズ、ト云フ意ニ云フ語。論語、八佾篇「子貢欲去告朔之餼羊、子曰、賜也、爾愛其羊、我愛其禮」ニ孔子ノ弟子、端木賜、字、子貢、云云、古ヘニ、天子、季冬ニ、來年ノ曆ヲ、諸侯ニ頒テバ、諸侯ハ、受ケテ祖廟ニ藏メ、月每ニ、餼羊ヲ以テ、廟ニ告ゲテ施行セリ、魯國ニテハ、文公ノ時ヨリ、此禮、行ハズナリタレドモ、有司ハ、猶、此羊ノミヲ供ヘタリ、子貢ハ、此羊ヲモ廢セムトス、孔子ハ、羊ダニ存スレバ、禮モ復スルヲ得ベシトテ、惜シミタルナリ)　(二)かうさく(告朔)ノ條ヲ併セ見ヨ。

こく-さん　(名)　國產　(一)クニツモノ。其國土ノ產物、土毛　(二)特ニ、我ガ國ノ產物。〔國產ヲ獎勵ス〕

こく-し　(名)　黑子　(一)ハハクソ。ホクロ。史記、高祖紀、左股、有七十二黑子」倭名抄、三「黑子、[illegible]云、黑子、今中國呼黑子、爲波々久曾」　(二)狹小ナル地ヲ、黑子ニ譬ヘテ云フ語。庾信、哀江南賦「地惟黑子、城猶彈丸」

こく-し　(名)　黑齒　鐵漿ニテ、黑メタル齒　涅齒　史記、趙世家「黑齒、雕題、云云、大吳之國也」(雕題ハ、額ニ黥スルナリ)　淮南子、地形訓「有裸人國、黑齒民」

こく-し　(名)　國士　〔國中ニ秀デタル意、國色、國香、同趣〕資格優秀ノ士。史記、淮陰侯傳「蕭何曰、諸將易得耳、至如信者、國士無雙」同、刺客傳「智伯、國士遇我、我、故國士報之」

こく-し　(名)　國史　(一)其國ノ歷史。詩序、周南、關雎、序、國史明乎得失之迹」春秋、序「諸侯亦各有國史」　(二)特ニ、我ガ國ノ歷史。日本歷史。「學校ノ國史科」

こく-し　(名)　國司　クニノミコトモチ。クニノツカサ。ジュリャウ。ズリャウ。古ヘ、日本、六十六國、二島ニ置カレ、其地方ヲ管轄セシメラレシ官。(今ノ、縣官ノ如シ)大國ニハ守、介、掾、目、等ノ官アリ、中國ニハ介ナク、下國ニハ守ト、目トノミナリ。孝德紀、大化元年八月「拜東國等國司」竹取物語「國のつかさ、まうでとぶらふ」

こく-し　(名)　國師　〔國子監ノ師ノ義〕國子祭酒ニ同ジ。南史、王承傳「王承爲國子祭酒、率由舊章、父、陳、皆爲此職、三世爲國師」

こく-し　(名)　國師　〔國王ノ師ノ義〕(一)天子ニ、佛教ノ師範タル僧ノ稱。支那ニテハ、北齊ノ高僧法常、禪法ニ通ズルヲ以テ、齊ノ文宣帝ヨリ、國師號ヲ賜ハリシヲ、此號ノ初トス。晉書、鳩摩羅什傳「諸侯國師」[illegible]記、三十、玄昉僧正傳「玄昉、云云、皇帝敬信ヲ尊シオハシマシテ、云云、天ノ國師タリ」運歩色葉集「國師、天子之御師也」　(二)朝廷ヨリ、學德兼備ノ高僧ニ授ケラルル稱號、初ハ實際、國師タリシ僧ニ、雅字ヲ冠シテ賜ハリシモノノ如シ　山城ノ東福寺ノ開基、僧辯圓(弘安三年歿ス)ニ、花園天皇ノ正和元年ニ、聖一國師ヲ贈號セラレタルヲ初トス。元亨釋書、七、釋辯圓、字、圓爾、云云、正和、始賜諡國師、國師之號、始于爾矣」圓太曆、延文二年、[illegible]月九日「聖一國師、龜山院國師、花園院御代

濫觴一、清宗勅號記「國師號、起自、聖一國師、本朝之濫觴也、然則、以二禪宗一爲二其濫觴一云云」、東福寺ノ山號ナリ）

こく-し（名）｜國師｜〔六十六國、其國ノ師ノ義〕古ヘノ僧官、諸國ノ國毎ニ置カル、後ニ、講師ト改メラル、其條ノ（一）ヲ見ヨ。續紀、二、大寶二年二月「任二諸國國師一」後紀、十三、延暦廿四年十二月「延暦年中、改二諸國國師一曰二講師一」

こく-し（名）｜穀紙｜〔說文「穀、楮也」〕穀ノ皮ニテ漉キ作レル紙。（圖書寮式「穀紙」）倭名抄、十三、文書具「紙、有二色紙、穀紙、麻紙一云云、字名二」

こく-し（名）｜穀子｜ とうし（穀子）ノ百姓讀。

こく-し（名）｜告示｜（一）告ゲ、示スコト。荀子、榮辱篇「仁者好告二示人一」（二）官ヨリ、文書ニテ、世ニ告示スルモノ。フレワタシ。「官報ニテ告示ス」

こく-じ（名）｜國字｜（一）其國ニ通用スル文字。元史、百官志「蒙古翰林院、掌二譯寫一切文字、及頒降璽書、並用二蒙古新字、仍各以二其國字一副レ之」張昱詩「學二寫國字一教二皇孫一」（二）日本ノ國字、即チ、假名。書名ニ、國字解アリ。同文通考ニハ、峠、杣、榊、ノ如キ和字ヲ、國字トシタリ、イカガアルベキ。

こく-じ（名）｜國事｜ 一國ノ政事。國家全體ニ係ル事柄。周禮、地官篇、司徒、下、司諫「能而可レ任二于國事一者」史記、屈原傳「入則與レ王圖二議國事、以出二號令一」「國事ヲ私議ス」「國事ヲ憂フ」

こく-じ（名）｜國事｜〔國祭ノ語原ヲ見ヨ〕國司ノ政務。國務。吾妻鏡、十、建久元年十一月五日、下二陸奥國諸郡郷新地頭等所一二改、早從二留守並在廳下知、先例有レ限國事、致レ其沙汰一」

こく-じ（名）｜國璽｜〔國家ノ印ノ義ナルベシ、說文「璽、王者印也」〕明治ノ初年ニ制定セラレタル官印。金ノ鑄造ニシテ、方三寸アリ、大日本國璽ノ五字ヲ、篆書ニテ刻ス。外國條約書、國書、勅記、等ニ用キラル。

こく-じ（名）｜酷似｜〔集韻「酷、甚也」〕甚ダ善ク、似タルコト。瓜、二ツ。晉書、何無忌傳「外甥、酷二似其舅一」「孫、其祖父ニ酷似ス」

こ-ぐし（名）｜小串｜ 射術ニ用キル的ノ、紙ヲ折リテ、小ナル串ニ挾ミテ立ツルモノト云フ。庭訓往來、正月「笠懸、小串之會」

ごく-し（名）｜獄死｜ 獄中ニテ、死ヌルコト。牢死。

こく-しう（名）｜刻舟｜〔出典ヲ見ヨ〕愚人ノ、舊ヲ守リテ、時勢ノ變遷ヲ知ラザルヲ譬ヘテ云フ語。刻船。守株。膠柱 呂氏春秋、察今篇「楚人有二渉レ江者一、其劍自二舟中一墜二於水一、遽契二其舟一曰、是吾劍之所二從墜一、舟止、從二其所レ契者一入レ水求レ之、舟已行矣、而劍不レ行、求レ劍若レ此、不二亦惑一乎」（契、ほト通ズ、刻むナリ）抱朴子、外篇、尙博「刻レ船不レ可二以索一レ遺劍、膠レ柱不レ可二以諧一レ淸音一」蘇軾詩「堪レ笑東坡痴鈍老、區區猶記刻舟痕」

こく-じかい（名）｜國字解｜〔國字ハ、假名ノコトナリ〕漢籍ノ經書ナドヲ、假名交リ文ニテ、口語ヲ雜ヘナドシテ、註釋シタル書ノ稱。又、俚言抄。松屋筆記、六十七、第廿一「寬延、明和ノ比ヨリ、儒者、古籍ヲ假名注シテ、俚言抄ト名ヅク、徂徠ガ徒、コレヲ譯リテ、國字解ト號ス」

こく-しかん（名）｜國子監｜〔支那ニテハ、貴族ノ子弟ヲ、國子ト云ヒ、ソレラヲ教育スル學校ノ稱ナリ、我ガ學習院ノ如シ、又、國子學トモ云フ、周禮、地官篇、師氏「國子」注「公卿大夫之子弟」事物紀原「晉武帝咸寧四年、初立二國子學一」云云、隋煬帝改曰二國子監一」〕大學寮ノ唐名。職原抄、上「大學寮、唐名、國子監」

こく-しき（名）｜穀食｜ 穀物ノミ、常食トシテ居ルコト。（木食、肉食、ニ對ス）漢書、元帝紀「太僕減二穀食馬一、水衡省二肉食獸一」

こく-しさいしゅ（名）｜國子祭酒｜〔支那ニテ、國子監（國子學）ノ長ノ稱ナリ、古ヘ、會同、饗宴ニハ、老者、先ヅ、酒ヲ以テ地ヲ祭リキ、因リテ、學校長ノ稱トセシナリ、事物紀原「採卿在レ齊爲二三老一稱二祭酒一」、晉咸寧中、初立二國子學一、始置二國子祭酒一」〕大學頭ノ唐名、祭酒トノミモ云フ。（德川幕府ノ儒役、林大學頭ヲ、林祭酒ト稱シタリキ）職原抄、上「大學寮、頭、唐名、國子祭酒」

こく-しじげふ（名）｜國子司業｜〔支那ニテハ、國子監ノ教授ノ稱ナリ、事物紀原「隋煬帝、始於二國子監一置二司業官一、取二禮記樂正司業之義一」〕大學助ノ唐名。職原抄、上「大學寮、助、唐名、國子司業」

こく-しだい（名）｜國司代｜ 公卿ナドノ、國司ノ大介タル時、身ハ京ニ在リテ、代官ヲ遣ハシテ、其國内ノ政治ヲ掌ラシメシ者。守ノ代官タル目代ト、別チ稱スルナリト云フ。東大寺小櫃文書、下「阿拜郡、依二寺家御牒一加二署印一、國司代散位阿閉朝臣在判、云云、國判大介藤原朝臣在判」（天德二年ノ文書、阿拜郡ハ、伊賀國ナリ）

こく-じたんてい（名）｜國事探偵｜ 國事犯ニ就キテノ探偵。

こく-しつ（名）｜黑漆｜ 黑色ノ漆塗。後漢書、禮儀志「公特進二樟棺黑漆一、中二千石以下坎侯漆」

著聞集、十三、哀傷「惡左府主尚郎、云云、興福寺北山陵ニ渡シ奉リケルニ、云云、黑漆箱一合、云云、云云、御笛ナド、入ラレケリ」

こく-じはん（名）｜國事犯｜ 國事ニ異見ヲ抱キ、反抗セムトシテ犯セル罪。一國ノ政治ノ秩序ヲ壞亂セムトスル罪。

こく-しびゃう（名）｜黑死病｜ ぺすとノ條ヲ見ヨ。

こく-じん（名）｜國人｜〔くにたみノ語原ヲ見ヨ〕クニタミ。其國中ノ人民。大學「與二國人一交」孟子、梁惠王、下篇「左右皆曰レ賢、未レ可也、諸大夫皆曰レ賢、未レ可也、國人皆曰レ賢、然後察レ之、見レ賢焉、然後用レ之」

こく-じん（名）｜黑人｜ 黑色人種ノ條ヲ見ヨ。

こく-じんしゅ（名）｜黑人種｜ 黑色人種ノ條ヲ見ヨ。

こく-しゃ（名）｜國社｜（一）クニツヤシロ。（二）國幣社。

コグ-シャ（名）｜工社｜〔こぐハ、支那音、工ノ約、こんしゃト云フハ、其下略ナリ、占婆國ノちゃむ語、こくちゃ（Kokcha）使者、代表ノ義ナルガ、船ニ乘リテ往復スルヨリ、船員ノ意トナリタルカト云フ（坪井九馬三ノ說）〕唐船ノ水主。コンシャ。和漢三才圖會（正德）六十三、末「工社、即、水主、大船百人、小船四十人」華夷通商考（寶永）二、唐船役者「工社、水主ヲ云フ、大船ハ百人、中船ハ六七十人、小船ハ三四十人ナリ」

ごく-しゃ（名）｜獄舍｜ ヒトヤ。獄屋。牢舍。牢屋。平家物語、五、伊豆院宣事、源義朝ノ髑髏「平治ノ後ハ、獄舍ノ前ノ苔ノ下ニ埋レテ、後世弔フ人モナカリシヲ」

こく-しゃう（名）｜國相｜ 一國ノ宰相。國

[illegible]

こく-しやう（名）[國掌]〔一〕太政官ノ官掌、[illegible]國司ノ屬官、書[illegible]雜務ヲ掌ル。[illegible]年七月十七日「[illegible]」[illegible]二十九日「[illegible]大和國國掌二員ニ[illegible]」[illegible]文ニ云云、宣ニ仰ヶ國掌六合ニ勒ニ進之ニ」

こく-じやう（名）[國情]一國ノ情態。[illegible]

ごく-じやう（名）[極上]〔一〕第一ニ、上ナルコト。最モ、勝レタルコト。コノウヘナキコト。[illegible]「極上」〔二〕製茶ニ云フ語、ごくぞろへ（極揃）ノ條ヲ見ヨ。

こく-しやう-がん（名）[黑障眼]そこひノ條ヲ見ヨ。

こく-しゆ（名）[國主]〔一〕天子。[illegible]守「故院（後白河）御位ニテ、打勝チタマヒシカバ、天照御神モ、御宿禰川ノ同ジ流レト申シナガラ、ナホ、時ノ國主ヲ守リタマハスル事ハ強キナメリトゾ、古キ人人モ聞エシ」〔二〕一國ノ君主。五代史、南唐世家「[illegible]江南國主ニ」

こく-しゆ（名）[國主]〔一箇國ノ領主ノ義〕德川時代、大名ノ、大國一箇國以上ヲ領スル者ノ稱。コレヲ、國主大名、又、國持大名トモ云ヒキ、一國ヲ領セザレドモ、其領地ノ大ナル者ヲモ稱シタリ、大名ノ家ノ格式ノ稱呼ナリ。松平氏（越前福井）、松平氏（出雲、隱岐）、前田氏（加賀、[illegible]）、[illegible]津氏（[illegible]）、[illegible]、伊達氏（[illegible]）、細川氏（肥後熊本）、黑田氏（筑前）、淺野氏（安藝）、毛利氏（周防、長門）、鍋島氏（肥前佐賀）、池田氏（因幡、伯耆）、池田氏（備前）、蜂須賀氏（阿波、淡路）、山內氏（土佐）、有馬氏（筑後久留米）、佐竹氏（出羽秋田）、上杉氏（出羽米澤）、以上ヲ、十八國主ト云フ、又、十萬石以上ノ伊達氏（伊豫宇和島）、立花氏（筑後柳川）、丹羽氏（陸奧二本松）、ナドヲ、准國主、准國持、ト云フ。

こく-しゆ（名）[國守]國ノ守。國司ノ長官。受領。（今ノ、縣知事ノ如シ）任期ハ、五年、或ハ、六年、事モアリシカド、大抵ハ、四年ナリキ。刺史。[illegible]

こく-しゆ（名）[國手]〔一國中ノ名手ノ義〕國士、國色、國香、同趣ナリ、國語、晉語「上醫醫レ國」ヨリ出ヅト云フハ、イカガ」醫者、[illegible]ナドノ、上手ヲ稱スル語[illegible]

こくしゆ-だいみやう（名）[國主大名]こくしゆ（國主）ノ條ヲ見ヨ。

こく-しよ（名）[國初]建國ノ當初。

こく-しよ（名）[國書]一國ノ元首ガ、署名シテ發スル、外交ノ文書。[illegible]

こく-しよ（名）[國書]我ガ國ニテ撰ラレタル書籍。和書。

こく-しよ（名）[酷暑][illegible]甚暑。極暑。二同ジ、[illegible]

ごく-しよ（名）[極暑]極メテ、暑キコト。嚴シキ暑サ。極熱。酷暑。[illegible]

こく-しやう（名）[濃汁]〔濃汁ノ音便轉カト云フ（莖立、くくたち。踵、くびす。倦怠し、たるし）或ハ、濃く煮たる汁ノ中略カ。政所ヲまんどころ、屋仲居ヲやさなナド、中略シタル語モアリ〕料理ノ名、濃キ味噌汁ニテ、熟ク煮タルモノ。今、專ラ、鯉ヲ煮ルニ就キテ云ヒ、鯉こくナド云フ、上等ナル赤味噌ヲ擂リテ、適宜ノ水ヲ加ヘタルニ、鯉ヲ、鱗ノママニ、筒切ニシテ入レ、二十四時ホドモ煮ルナリ。[illegible]

こく-しよく（名）[國色]〔國中第一ノ容色ノ義、國香、國手、同ジ〕〔一〕絕世ノ美人ノ稱。[illegible]〔二〕牡丹花ノ異名。王建詩「國色[illegible]」

こく-じよく（名）[國辱]クニノハヂ。一國ノ體ニ係ル恥辱。

こく-しよく-じんしゆ（名）[黑色人種]人種ノ一、膚ノ色、純黑、又ハ、黑褐ナルモノ、亞弗利加、又ハ、印度、等ニ住ム。（黃色人種、白色人種ナドニ對ス）黑人種。黑人。クロンバウ。

こく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[哭]「說文」哭、哀聲也」[illegible]大聲ヲ立テテ泣ク。泣キサケブ。[illegible]

こく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）[剋]ごぎやう（五行）ノ條ヲ見ヨ。神皇正統記、醍醐帝「時ノ到ラズ、天ノユルサヌ事ハ、疑ヒナシ、但シ、下ノ、上ヲ剋するハ、極メタル非道ナリ、終ニハ、ナドカ、皇化ニマツロハザルベキ、先ヅ[illegible]ノ德政ヲ行ハレ、朝威ヲタテ、カレヲ剋するバカリノ道アリテ、ソノ上ノ事トゾオボエ侍ル」

こく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）[刻]キザム。ホリコム。彫刻ス。[illegible]「銘ヲ石ニ刻す」

こぐすり（名）[粉藥]粉トシテ用ホル飲藥。散藥。（煎藥、丸藥、水藥、ナドニ對ス）[illegible]（元祿、近松作）上「[illegible]」

こく-すゐ（名）[國粹]〔粹ノ條ヲ見ヨ〕國民ノ特有スル道德、好尙、技術ナドノ長所。[illegible]

ごく-ずゐ（副）[至極]極隨一ノ下略カ、極內證、ごくない。當推量、あてぞゐ〕第一ニ。此上ナク。ゴク。ゴクゴク。「ごくずゐ好ダ」

ごく-すゐ-の-えん（名）[曲水宴]〔ごくハ、曲ノ呉音、極、極樂〕きよくすゐのえんノ條ヲ見ヨ。

こく-ぜ（名）[國是]國政施行ノ方針ニ於イテ、是ナリトスルトコロ。劉向新序、雜事篇「[illegible]」

こく-せい（名）[國政]一國ヲ、統べ治ムル政事。國務。國命。[illegible]

こく-せい（名）［國勢］一國ノ形勢。國情。「國勢調査」

こく-せい（名）［國製］其國ニテ、製リ出セルモノ。國產。

こく-ぜい（名）［國稅］政府ノ賦課スル稅。（地方稅ナドニ對ス）薩都剌詩「上以充ニ國稅ヽ下以祀ニ松楸ニ」

ごく-せい（名）［極製］極上ノ製作。別製。

こくせい-てうさ（名）［國勢調査］〔英語、Census.ノ譯語〕一國社會ノ、構成ノ狀態ヲ見ルノ目的ヲ以テ、人ヲ主トシテ、コレニ、或ハ、家屋、家畜、等ノ事項ヲ加ヘ、一定ノ時ニ於テ、全國一般ヲ、直接ニ、一時ニ、調査スルコト。民勢調査。人口調査。

こく-せき（名）［國籍］〔英語、Nationality.ノ譯語〕其國ノ戶籍ニ屬スルコト。國籍ニ屬スル個人ガ、其國家ニ、絕對ニ服從スル關係ヲ表ス。何レノ地ニ住居ストモ、一定ノ國家ニ從屬スベキモノトス。國籍ニ入ルヲ、國籍取得ト云ヒ、外國ニ歸化ナドシテ、國籍ヲ離ルルヲ、國籍喪失ト云ヒ、國籍ヲ喪失シタル者ガ、再ビ國籍ヲ取得スルヲ、國籍回復ト云フ。魏書、李彪傳「綜ニ理國籍ニ」

こく-せん（名）國宣（國司ノ宣旨（國祭ノ語原ヲ見ヨ）院宣、廳宣ナド、同趣ナリ）公卿ノ、國司タル時、其家司ガ、國司ノ命ヲ奉ジテ、國內ニ下知スル公文書。（國符ヲ併セ見ヨ）書法ハ、雜筆要集、國宣樣、第廿三ニ「被ニ國宣ニ偁、云云、可ﾚ致ニ丁寧ニ之由所ﾚ候也、仍執達如ﾚ件、月日、姓某、奉ﾚナド、見ユ。盛衰記、三十三、絡形三郎攻ニ平家ニ事「惟義、今ハ今、昔ハ昔、速ニ平家ヲ追出奉ルベシ、院宣、國宣ヲ下サルル上ハ、子細ニヤ及ブベキ」

こく-せん（名）［刻船］刻舟ノ條ヲ見ヨ。

こく-そ（名）［蠶糞］（蠶ノ條ヲ見ヨ）蠶ノ糞。コカス。コジリ。田ノ肥トス。［蠶沙］　本草和名、下、五十三「蠶沙、加比古乃久曾」倭名抄、十四、六十「蠶絲具「蠶沙、蠶矢名也、古久曾」字類抄「蠶糞、コクソ」

こく-そ（名）［木屎］〔籠屎ノ義ニテ、塗籠ムル屑ノ意ナルベシ、鐵落ハ、鐵屑ナリ、屑ノ條ヲ見ヨ〕（一）漆塗ノ下地ニ塗込ムル麻布ナルベシ。類聚雜要抄（大治）二「障子帳雜事、云云、同帳一基垂支度、眞漆一斗、岺土二斗五升、糯粉一斗、稀灰七升、云云、木屎布一丈、云云」（几帳ノ事ナリ）（二）轉ジテ、漆塗ノ板ノ合目、破目ニ塡ムル物ヲ云ヒ、船ノ板ノ隙ニ押込ム船茹、まいはだナドヲモ云フ。倭訓栞、こくそ「木屑ノ義ナルベシ、類聚雜要ニ、木屎布、見ユ、云云、船ノこくそハ、船茹也」俚言集覽、粉くそ、漆際ヲ云フ、云云、くそハ、敝綿ヲ云フ「爲井章草」引うるゝ、粉くそ一坪ニ漆目三匁付」松屋筆記、九十五、第一「物ノ合セ目、破レ目ナドニ、木屎ヲ加フト云フハ、運步色葉集、古部ニ、木屎、粉麩ナドアリ、塗師ノ、常ニ用ル物也」日本百科大辭典、こくそ「酒桶ノふし等ヲ塡充スルタメ、漆ト米糊トヲ混ジタル物モ、こくそうるゝ、又ハ單ニ、こくそト稱ス」

こく-そ（名）［國礎］クニノモトヰ。國基。國本。「國礎ヲ固ム」

こく-そ（名）［告訴］ツゲ、ウッタフルコト。犯罪ノ被害者ガ、其事實ヲ、檢事、又ハ、司法警察官ニ申告シテ、追訴ヲ求ムルコト。（告發ト、異ナリ）史記、鄒策傳「王有ニ德義ヽ故來告訴」

こく-そく（副）［殼觫］死ヲ懼ルル狀ニ云フ語。孟子、梁惠王、上篇「有ﾄ牽ﾚ牛而過ニ堂下ニ者ﾖ、云云、將ニ以釁ﾚ鐘、王曰、舍ﾚ之、吾不ﾚ忍ﾆ其觳觫ﾄｼﾃ若ﾆ無ﾚ罪而就ﾆ死地ﾆ集注「殼觫、恐懼貌」

こく-ぞく（名）［國俗］其國ノ風俗。國風。孟子、告子、下篇「變ニ國俗ニ」韓非子、內儲說、上篇「入ニ王之境內ヽ聞ニ王之國俗ニ」「國俗ノ良否」

こく-ぞく（名）［國賊］國家ノ賊。國敵。尉繚子、重刑令「將自ニ千人ニ以上、有ニ戰而北、守而降、離ﾚ地逃ﾚ衆、命曰ニ國賊ニ」韓詩外傳、四「不ﾚ恤ニ公道之達義ヽ偷合苟同、以持ニ祿養ニ者、是謂ニ國賊ニ也」後漢書、臧洪傳「誅ニ除國賊ニ」

こ-ぐそく（名）［小具足］〔具足ハ、調度ノ義（其條ヲ見ヨ）小道具ト云ハムガ如シ〕鎧ノ具ノ、籠手、頰當、喉輪、脇當、脛楯ナドノ稱。吾妻鏡、二、治承四年九月十七日「千葉介常胤相ニ伴一弱冠ヽ云云、號ニ毛利冠者賴隆ニ也、著ニ紺村濃鎧直垂ヽ加ニ小具足ヽ蹄ニ常胤之傍ニ」

ごく-そく（名）［獄則］監獄內ニ於ケル規則。「獄則ヲ守ル」

ごく-そつ（名）［獄卒］（一）牢屋ヲ守ル卒。獄守。獄丁。看守。後漢書、應范傳「求ﾚ代ニ廷尉獄卒ニ」明律「獄官、獄卒」（二）地獄ニテ、亡者ヲ呵責スル者。地獄ノ鬼。盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「琰羅獄卒之責」

ごく-ぞろへ（名）［極揃］〔そろふるハ、擇る意、そそるトモ云フ〕山城、宇治ニテ、最上、精製ノ碾茶ノ銘、卽チ、濃茶ニ用キルモノ。又、極無上。極上。略シテ、極トモ云フ。蒸ヲ少ナクシタルヲ、別義揃ト云フ、卽チ、薄茶ニ用キルモノナリ。（はつむかしノ條ヲ併セ見ヨ）狂言記、止動方覺「手前ニ、茶ヲ切ラシマシタ、云云、極上一袋、ワタシニ入テ、御貸シナサレテ下サレイ」同、鱸庖丁「宇治邊ニ、云云、極フ、三袋クレタ、云云、イカニソナタガ茶好デモ、極ヲ、一、服ト、エ飲ムマイゾ」土佐節淨瑠璃、茶湯（延寶）「鷹、爪、年ハ歷レドモ、わかもりノ姿ハナホモ、そそりノ茶、外ハ別きむぞやう」嬉遊笑覽、十、下「茶ニ、極揃、別義揃ト云フアリ、別義ハ珠光、松葉ノ眞壺ニ茶ヲ詰メシニ、眞壺、餘リニ持チスギテ、茶焦ルル故ニ、宇治ヘ言ヒツカハシ、蒸ヲ少ナクサセシナリ、薄茶ノ上ヲバ、別義ト云フトナリ」

こく-たい（名）［國體］（一）クニガラ。國家成立ノ體裁。教育勅語「我カ臣民、克ク忠ニ、克ク孝ニ、億兆心ヲ一ニシテ、世世、厥美ヲ濟セルハ、此レ我カ國體ノ精華ニシテ、教育ノ淵源、亦實ニ此ニ存ス（中略）一旦、緩急アレハ、義勇、公ニ奉シ、以テ、天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ」（かみのみち、及、やまとだましひノ條ヲ併セ見ヨ）（二）國ノ政治、風俗ノ狀態。國情。漢書、成帝紀「儒林之官、四海淵原、宜ﾄ皆明ニ於古今ヽ溫ﾚ故知ﾚ新、通ニ達國體ヽ故謂ニ之博士ヽ否則學者無ﾚ述焉」（三）國家ノ體面、面目。國威。漢書、翟方進傳「色厲內荏、墮ニ國體ヽ亂ニ朝廷之序ヽ不ﾚ宜ﾚ處ﾚ位」宋史、李綱傳「數年之間、兩遷、兩謫、上累ニ陛下ﾉ知ﾚ人任使之明ヽ實有ﾚ係ﾚ于國體ニ」（四）國家、統治組織ノ體裁。「君主國體」「共和國體」

こく-だい（名）［國內］こくない（國內）ニ同ジ。

こく-だい（名）［石代］〔米幾石ノ代金〕米ノ代リニ渡ス金錢。年貢米ヲ、石代ニテ納ムルヲ、石代金納ト云フ。飛州志、二、國法「本土ハ、凡テ、平陸ノ地、少シ、云云、故ニ、精米、其地ニ乏シク、他ノ精米ノ價ヲ用キ、金銀ヲ以テ貢納スルヲ、石代金納ト稱セリ」

ごく-たい（名）［玉帶］ごくのおびヲ見ヨ。

こくだい-きんのふ（名）［石代金納］前前條ヲ見ヨ。

こく-だう（名）［國道］〔國費ニテ支持スル道路ノ意カ〕第一等ノ道路。東京ヨ

リ住[illegible]、各[illegible]、各[illegible]、各[illegible]場ナドニ通ズルモノ、路幅、七間。(縣道、村道ナドニ對ス)

ごくだう (名) [無頼漢] (殺盗人ノ音讀ナルベシ(強盗、夜盗)ごくつぶしト同意。人ヲ罵リ呼ブ語。[illegible]遠前ニテ、[illegible]なごすものゝヲ云フ、[illegible]人ヲ罵ル詞ニ云ヘリ」女殺油地獄(享保、近松作)中「[illegible]ノ月、[illegible]人ノ[illegible]シ、[illegible]リノ[illegible]、ごくだうノ[illegible]ヒアハセ、[illegible]、合フ[illegible]、[illegible]人ヘ、[illegible]ノ事外、六六

ごくだう (名) [遊蕩] (極道樂ノ下略ナルベシ)、極道一、ごくだう、極内蕩、ごく[illegible]い、酒女狂ヒナドスルコト。ウキヨグルヒ。放蕩。(閻[illegible])

こくだか (名) [石高] 田ノ收穫米ノ高ヲ、石、斗、升、合、ニテ數ヘ量ルニ云フ語、く"ノだか"(貫高)、永高ノ後ニ起リタル語ナリ。(石峰ノ條ヲ併セ見ヨ) 德川幕府ノ頃ニ領地、知行地、扶持米ニ、百石高、千石高、萬石高ナド云フ、此石高ト云フハ、[illegible]云フニテ、大抵ハ、三石分物成ナレバ、百石高ハ、米ト[illegible]シテハ、三十五石ナリキ。(三斗五升俵ナリ) 盛衰記、四十二、屋島合戰事ニ「大串小橋太郎鶴六郎ヲ討取リタルニ「兵衛佐殿モ、武藝ノ道、神妙神妙トテ、千餘石ノ勸賞アリ」トアルハ、石高ニハアラデ、米、千斛ナルベシ。[illegible]

ごくだち (名) [殺斷] (殺斷ナドモアリ) 修行、立願ナドニ、穀ヲ斷チテ、食ハヌコト。[斷穀] [illegible]人アリケリ、五穀ヲたちテ、年來ニナリヌ、木ノ葉ヲノミ食ヒケル、云云、穀たち、幾年バカリニナリタマフト問ハレケレバ、云云、五十餘年ニマカリナリヌトエフ」[illegible]

こくたん (名) [穀旦] 吉旦、吉日、ニ同ジ。詩經、陳風、東門之枌篇「穀旦于差」注「穀、善也、差、擇也」

こくたん (名) [黑檀] (紫檀、白檀ナドニ對スル語ナルベシ) 熱帶地ニ產ズル樹、其材ヲ輸來ス、色、黑ク麗ハシク、黑柿ニ似テ、堅シ、諸ノ器ナドニ作ル。クロキ。烏木 又、白キ線ノアラハレタルヲ、すぢ黑檀ト云フ、嫩木ナリトゾ。閩道烏木

こくち (名) [告知] ツゲ、シラスルコト。通知。「告知板」

こぐち (名) [小口] (一)物事ノ端。端緒。「縁ノこぐち」話シノこぐち」積荷ヲ、こぐちカラ出ス」(二)物ノ切端。切リタル面。横斷面「材木ノこぐち」黄楊ノこぐち彫」書籍ノ小口ガキ」大根ノ切りこぐち」(三)小口袴ノ略、おほくちばかま(大口袴)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こぐち (名) [小口] (口ハ、品類ノ義、別口ナドモ云フ) 少ナキ方。少額。(大口ニ對ス)「金錢ノ小口ノ支拂」小口當座預金」

こぐち (名) [小口] (口ハ、言語ノ義) 小口をきくト云フハ、イササカ、辯口ノ才アルヲ云フ。存花五大力(寛政、並木五瓶)、[illegible]深川ノマハシ仲間テモ、こぐちモきく[illegible]」

こぐち (名) [虎口] (虎口ノ湯桶讀、大事ノ場所ノ意、虎牙ノ條ノ語原ヲ併セ見ヨ) 城郭、陣營ノ門ニ、枡形ヲ造リ、曲リテ出入スベキモノ、要害ニ構フルナリ。甲陽軍鑑、十五、品第四十二、城取の事「馬出ナシノこぐちハ[illegible]ヤウノ事」武家名目抄、居所、廿四、虎口「城郭、陣營ノ、尤モ要害ナル處ヲ、[illegible]ヘテ、虎口ト云フナリ」[illegible]門「城ニハ、虎口、云云、虎口、井、町口ナドハ、直ナレバ、押込ム敵、奥マデ見込ム故ニ、人數ノ方便モ、[illegible]リカヘス[illegible]リガタシ、曲レバ、押込ム[illegible]、[illegible]目、心許ナク思ヒ、又ハ、[illegible]矢コハク思ヒテ、サホド押込マヌモノナリ」鈐錄(荻生徂徠)十六、城制「虎口ニハ、必ズ升形アリ」

こぐちがき (名) [小口書] 書物ナドノ小口、卽チ、側面ニ、題號、又ハ、册ノ番號ナド、書キツクルコト。册號

こぐちぎり (名) [小口切] (小口ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 物ノ小口ヨリ、薄ク、輪切ニ切リユクコト。柳樽「黑ヌリノ、マナ板指ノ、こぐちぎり」「大根ノ小口切」

こぐちたうざよきん (名) [小口當座預金] 特別當座預金ノ一名。銀行ニテ、少額ノ當座預金ノ稱。一口、十圓以上ノモノ。

こぐちばかま (名) [小口袴] おほくちばかまノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こぐちぼり (名) [小口彫] (小口ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 木ノ材ノ横斷面ニ、彫刻スルコト。(板目彫ニ對ス)「黄楊ノ小口彫」

こくちやう (名) 國廳 こくが(國衙)ノ(一)ニ同ジ。

ごくぢやう (名) [獄定] (罪科、入獄ト決定ノ意カ) 入獄ニ同ジ、後ニ云フ、牢舍、永牢ナルカ。[illegible]盛衰記、廿七、[illegible]事「[illegible]ノ[illegible]テ、大元[illegible]行テ、云云、平家[illegible]代ノ[illegible]ヲ致スト申シタリ 云云、平家ハ、コレヲ聞テ[illegible]、[illegible]カト[illegible]アリ」

こくちゆう (名) [國中] クヌチ。クニノウチ。クニヂュウ。一國內。孟子、梁惠王、下篇「方四十里、爲ニ阱於國中ニ」宇治拾遺、三、第十四條「キャツ、タシカニ召シ[illegible]メテ、[illegible]セヨ、[illegible]官トイハンカラニ、國中ニハラマレテ、イカニ[illegible]ヲ致ス、トテ召シ立テテ」

こくちよ (名) [國儲] 國君ノ世繼。皇儲。儲君。漢書、疏廣傳「太子、國儲、副君」

こくちよ (名) 國儲 諸國ニ貯蓄セシ米穀。コレハ、宣化天皇紀ニ、河內、尾張、等ノ國ノ屯倉ノ穀ヲ運シ、之レヲ筑前國、那津ノ官家ニ蓄ヘ、以テ、凶荒ニ備ヘタリ、類聚國史ニ、是レヲ以テ國儲ト云フ、而シテ、元明天皇ノ和銅元年ニ、大稅ヲ割キ、之レヲ不動倉ニ藏シ、以テ、國儲トセリ、然ルニ、聖武天皇ノ神龜元年ニ、七道諸國ヲシテ、正稅ヲ割キ、國儲ヲ置キ、每年出擧シ、其利息ヲ以テ、朝集使留京ノ費、及、常例外ノ使ノ費等ニ供セリ、天平十七年ニ、國儲ヲ罷メテ、公廨ヲ置キ、孝謙天皇ノ天平寶字元年ニハ、國司ノ公廨ヲ處分スル法ヲ定メテ、先ヅ、官物ノ欠負未納ヲ塡シ、次ニ、國儲ヲ置キ、後ニ、其餘ル所ヲ以テ、國司ニ分配スル事トセリ、桓武天皇ノ延曆十七年ニ、公廨ヲ停止シ、之レヲ、正稅ニ混ジ、正稅ノ利ヲ割キテ、國儲、及、國司ノ俸ヲ置ケリ。カクノ如ク、王朝時代ノ國儲ハ、變遷アリタルナリ。三代實錄、三十九、元慶五年二月廿三日「備後國司言、此國依ル格、割ニ公廨十分之一ヲ爲ニ國儲料ヲ、充ニ四度使雜掌等粮ヲ、常苦ニ不足ニ、[illegible]、望請、四箇年之間、割ニ十分之二ヲ以爲ニ國儲ヲ、[illegible]、聽之」

こくぢら (名) [小鯨] 形、せびくぢらニ似テ、小サシ、大ナルモノモ一二丈、色、淡黑ク、或ハ、灰白ナリ、口中ノ鬚、白ク、長サ、一尺五六寸、廣サ三寸、厚サ二三分

許アリ。

こく-づけ (名) [刻附] 時刻ヲ、記シツクルコト。 運歩色葉集「刻付」

ごく-つぶし (名) [穀潰] 〔米ヲ、徒ラニ食ヒ減ラスノミナル意、沖縄ニテ、いいくえつぶし(飯食潰)〕 勞スルコト無ク、世ニ益スルコト無クシテ、徒ラニ生活スル人ヲ罵ル語。ゴクヌスビト。 卜養狂歌集、冬「或人ノ方ヘ行キケルニ、亭主、坊主ニ、續飯ヲ押サセケレバ、押シヤウ惡シキトテ、ごくつぶしナドト叱リ侍リケレバ「此竹ヲ、ケヅリテごくヲ、押シつぶす、コレゾマコトノ、そくひべらぼう」

こく-てい (名) [國底] 〔くゎんてい(官底)ノ條ヲ見ヨ〕 國衙ノ稿案。 類聚符宣抄、六「諸國司、有ニ風土記文ニ云云、若無ニ國底ニ探ニ求部內ニ尋ニ問古老ニ」

こく-てい (名) [國定] 〔國家ノ制定〕 政府ノ、定メタルコト。「國定稅率」國定教科書」

ごく-てい (名) [獄丁] 〔ちやう(丁)ノ條ヲ見ヨ〕 獄守。牢屋ヲ守ル者。獄卒。看守。

こく-てう (名) [國朝] (一)他國、異世ニ對シテ、我ガ當代ノ朝廷ヲ稱スル語。本朝。 舊唐書、禮儀志「高祖神堯皇帝、國朝首祚、萬葉所レ承」 鎌倉詩、國朝盛ニ文章ニ子昂始高蹈」 (二)俗ニ、我ガ國。本國。本邦。

こく-てう (名) [黒貂] ふるき(黒貂)ノ條ヲ見ヨ。

こく-てき (名) [國敵] 國家ノ敵。國賊。 吾妻鏡、一、治承四年十一月八日「於ニ國敵ニ者、天下勇士、可レ奉レ合ニ一揆之力ニ、而彼誅ニ無レ誤一門ニ者、…身之上鬪敵、仰ニ誰人ニ可レ被ニ對治ニ哉」

こく-てん (名) [國典] (一)國ノ法典。國法。又、國ノ典禮。 禮記、月令篇「天子乃與ニ公卿大夫ニ、共飭ニ國典ニ、論ニ時令ニ以待ニ來歲之宜ニ」 (二)國ノ典籍。國書。 漢紀、序「命立ニ國典ニ以及ニ羣籍ニ」

こく-てん (名) [黒點] 墨ニテ記シタル點。(朱點ナドニ對ス) 「太陽ノ黒點」

こく-テン (名) [黒貂] 〔てん(貂)ノ條ヲ見ヨ〕 ふるき(黒貂)ノ條ヲ見ヨ。

こく-てん (名) [黒甜] 〔說文「甜、美也」博雅「甘也」瞑目、甜醉ノ世界ノ意ニモアルカ〕 ヒルネ。午睡。黒甜鄕ト用キルコトアリ、華胥鄕ト云フガ如シ。 詩人玉屑「西清詩話云、南人以レ飮レ酒爲ニ軟飽ニ、北人以ニ晝寢ニ爲ニ黒甜ニ、故東坡云、三杯軟飽後、一枕黒甜餘」 陸游詩「遣レ悶憑ニ清聖ニ、忘レ情付ニ黒甜ニ」

こくてん-がう (名) [黒甜鄕] 前條ヲ見ヨ。

こくてん-し (名) [告天子] 〔出典ヲ見ヨ〕 雲雀ノ異名。天鷚。 爾雅「鷚」郭璞註「今、江東名レ之曰ニ天鷚ニ、後世、名曰ニ告天子ニ」 常熟縣志、告天子「郡縣行日、高飛直上、鳴聲相屬、有レ如ニ告訴ニ、或謂ニ之告天鳥ニ」(箋註倭名抄、七雲雀、注)

こく-と (名) [國都] 一國ノ都。首都。 戰國策、燕策「涉ニ易水ニ、不レ至ニ四五日ニ、而距ニ國都ニ矣」

こく-ど (名) [國土] (一)國ノ土地。 漢書、王莽傳「國土人民」 (二)〔天ニ對スル、地。〕アメノシタ。 宇津保物語、俊蔭四十「昔、勤メ深ク、犯シ淺カリシニヨリテ、都卒天ノ人ト生レキ、今、淺カリシ嘆キノ報ニ、こくどノ衆生ニナリニタリ」 風雅集、十六、雜、中「大空ニ、アマネクオホフ、雲ノ心、國土ウルホフ、雨降スナリ」「日月、國土ヲ照ラス」 (三)國家。 華嚴經「天下太平、國土安穩」 吾妻鏡、五、文治元年十一月廿四日「爲ニ國土泰平ニ、被レ奉ニ御願書於諸社ニ」

こく-ど (名) [國帑] 〔帑ハ、金庫ナリ、玉篇「帑、金布所レ藏之府」後漢書、鄭弘傳「人食不レ足、而帑藏ニ金帑ニ」〕 國庫ノ金錢。國家ノ貨財。 「空シク國帑ヲ費ヤス」

こく-ど (名) [黒奴] 黒色人種ヲ、賤シメテ云フ語。クロンバウ。

こく-とう-こう (名) [黒頭公] 〔白髮ナラヌ意〕 (一)壯年ニシテ、三公ノ官ニ擬セラルル人ノ稱。 晉書、諸葛恢傳「恢、弱冠知レ名、試守ニ即丘長ニ、轉ニ臨沂令ニ、爲レ政和平、云云、王導嘗謂曰、明府當レ爲ニ黒頭公ニ」 (二)隼ノ異名。 下學集、下、器財門「黒頭公、コクトウコウ、隼異名也」

こく-ない (名) [國內] 一國ノ領域ノ內。國中。 左傳、莊公十四年「苟主ニ社稷ニ、國內之民、其誰不レ爲レ臣」

ごく-ない (名) [極內] 〔極內證、極內密ノ下略(氣丈夫、きぢやう)〕 極メテ、內密ナルコト。最モ、祕密ナルコト。極祕。 川柳「ごくないデ、疝氣ニコマル、女形」

こく-ないしやう (名) [黒內障] 眼ノ病。そこひノ條ヲ見ヨ。

こく-なん (名) [國難] 國家ノ厄難。一國總體ニ被ムルワザハヒ。 曹植、白馬篇「捐レ軀赴ニ國難ニ」「身ヲ以テ、國難ニ代ラントス」

こく-にく (名) [黒肉] 黒色ノ印肉。(朱肉ナドニ對ス)

ごく-に-たたず (句) [言語道斷] 〔言句ニ立たずノ約カト云フ(昆布、こぶ。懸念、けねん)〕 役ニ立タズ。イクヂナシ。(關西) 倭訓栞、ごくだふ「ごくにたたずト云フハ、不レ堪ニ言句ニノ意ナルベシ、言語道斷ト云フガ如シ」 俚言集覽、穀につかず「穀にたたずトモ云フ」 鷹筑波集(寛永)「ごくにたたねド、イトホシノ人」 紙子仕立兩面鏡(明和、吉專助)「ごくにたたぬ奴ニカカノテ、十キナ骨折」

ごく-ぬすと (名) [穀盜人] 〔次條ノ、ごくぬすびとノ約(隼人、はやと)穀物ヲ害スレバ、名ヅク〕 甲蟲ノ名、長サ一分、細長クシテ扁ク、色、赤褐ニシテ、黄毛ヲ蒙ル、觸角、十一節アリ、前胸ニ、三條ノ隆起線アリ。幼蟲ハ、長サ一分五厘、細ソク、扁ク、白クシテ、背ニ、黒斑アリ、體ニ、粗毛ヲ生ズ。此幼蟲ハ、穀物、又ハ、其外ノ食品ヲ侵食ス。

ごく-ぬすびと (名) [穀盜人] 〔ごくつぶしト同意、穀盜トモ云フ、祿盜人ト云フ語モアリ〕 人ヲ、罵リ呼ブ語。ゴクツブシ。 唐船噺今國性爺(享保、近松作)上「ヤイ、病ミカラゲノ穀盜人」

ごく-ねち (名) [極熱] 〔ねちハ、熱ノ呉音、吉、きち。質、しち〕 (一)極暑ニ同ジ。 宇津保物語、田鶴の群鳥三「カクテ、ごくねちノ頃ハ、誰レモ誰レモ、オサオサ內ヘモ參リタマハズ、詣リオハシマス」 同、國讓、上五十七「ごくねちニ、此釣殿ヘコソ、云云、朝涼ミニコソハ、云云」 (二)熱湯ナド、極メテ、熱キコト。 源、二、帚木十一「月比、風病重キニタヘカネテ、ごくねちノ草藥(蒜)ヲ服シテ、イト臭キニヨリナム、エ、對面給ハラヌ」

ごく-ねつ (名) [極熱] (一)極メテ、暑キコト。ゴクネチ。 易稽覽圖「夏至之後三十日、極熱」 盛衰記、四十五、重衡向ニ南都ニ被レ斬事「只今首切ラレンズル者ノ、極熱ニ、酒ハ惡カル者ヲ」(陰曆六月ナリ) (二)前條ノ(二)ニ同ジ。

ごくねつ-ぢごく (名) [極熱地獄] 佛說ニ、地獄ノ一、炎熱ノ、最モ烈シキトコロ。無間地獄トモ云フ。

ごく-の-おび (名) [玉帶] 〔ごくハ、玉ノ呉音、極、ごく。曲、ごく〕 革帶ノ背部ノ飾リヲ、白玉ニテ造リタルモノ、參議三位以上ノ着用スベキモノトス。又、

[illegible]くのおび借リハベリケルヲ、淡紫ヨリ上リテ、返シツカハシタリケレバ(歌)「[illegible]」[illegible]

ごくのもの (名) [曲物] ごく(曲)ノ條ヲ見ヨ。

こくは (名) [木鍬] [又、木鋤、金鋤アリ] [illegible]、木造ニテ、鐵ノナキ鍬。今モ越後ニテ、雪ヲ除クニ、此器ヲ用キルト云フ。仁徳紀、三十年十一月、長歌「[illegible]」

こくは (名) [illegible] まらくはノ條ヲ見ヨ。

こくば (名) [落葉] こ(松枯葉)ノ條ヲ見ヨ。

こくはう (名) [國寳] (一)國ノ寳。大學「[illegible]」(二)今、國ニ於テ、寺等ノ什物中ニ、特ニ、美術上、又、歴史上ニ、貴重スベキ價値アリトスル物ノ稱。文部大臣ガ、古社寺保存會ニ諮詢シテ、其資格ヲ認定セラルルナリ。其甲種ト稱スルハ、製作ノ優レタル物ニテ、其中ニ、一等、二等、三等、四等、ノ別アリ、乙種ハ、由緒ノ特別ナル物、丙種ハ、歴史ノ證徴トナルモノトス。

こくばう (名) [國防] 國家ガ、外國ノ敵ニ對シテ設置セル防備。[illegible]

こくはく (名) [告白] アカラサマニ、告グルコト。分明ニ、心中ヲ語ルコト。

こくはく (名) [酷薄] 殘酷ニシテ、薄情ナルコト。[illegible]

こくはく (名) [刻薄] [illegible] ムゴクキビシキコト。[illegible]

こくばく (副) [幾許] [そこばくノ語原ヲ見ヨ] こゝばく(幾許)ニ同ジ。ココバ。イクバク。宇津保物語、忠こそ「[illegible]」萬葉集、十五「[illegible]」

こくはつ (名) [告發] アバキ、ツグルコト。告ゲ、訴フルコト。他ノ犯罪ヲ、檢事、又ハ、司法警察官ニ、申告スルコト。被害者ノ申告訴ト、異ナリ。

こくはふ (名) [國法] 國家ノ法律。一國ニ互ル大度。國憲。國典。[illegible]

こくはん (名) [刻板] 文字、畫圖ヲ刻リツケタル版木。[illegible]

こくばん (名) [黒板] 黒ク塗リタル板。高ク掲ゲテ、白堊ニテ、文字ナドヲ、記シテハ拭ヒ、記シテハ拭ヒスルニ用キルモノ。多クハ、學校ノ教室ニ備ヘテ、教授ノ用トス。

こくひ (名) [國費] 國家ノ支出スル費用。國用。[illegible]

こくび (名) [小頸] [大頸(袵)アリ、くびハ、襟ナリ] 袵ノ一端ヲ云フ語ナリトカ。[illegible]

こくび (名) [小首] 小首を傾くト云フハ、少シ、頭ヲ、横ニ曲グルナリ、思案スル意ヲ表ス。[illegible]

ごくひ (名) [極秘] 極メテ、祕密ナルコト。ゴクナイ。

こくひん (名) [國賓] [國家ノ賓客] 外國ノ君主、其代表者、又ハ、皇族ザ、公然ノ資格ニテ、來訪シタル時、國家ザ、公然ノ賓客トシテ、優待スルモノ。[illegible]

ごくひん (名) [極品] 極上ノ品。

ごくひん (名) [極貧] 極メテ、貧シキコト。[illegible]

こくひやう (名) [酷評] [酷ノ語原ヲ見ヨ] 苛酷キ批評。手キビシキ批難。

こくびやく (名) [黒白] (一)くろト、しろト。烏鷺。[illegible] (二)是非。善惡。正邪。曲直。[illegible] (三)白月、黒月ヲ、黒白二ツノ月ト云フ、びやくぐつノ條ヲ見ヨ。

こくふ (名) [國富] クニノトミ。一國ノ財産。[illegible]

こくふ (名) [國符] 國司ヨリ其國内ニ下ス下知ノ文書。(國宣ノ條ヲ見ヨ) [illegible]

こくぶ (名) [國府] こふト云フヲ、讀例トス、其條ヲ見ヨ。

こくふう (名) [國風] [風ハ、化ナリ、風ノ條ヲ見ヨ] 其國ノ風俗。國ノてぶり。國ノならはし。國俗。詩國風、大序「以二一國之事一、繋二一人之本一、謂二之風一」史記、晉世家「[illegible]」[illegible]

こくふう (名) [國風] [論衡、明雩「引論語風下雩一説上、風、歌也」] 風俗歌。(其條ヲ見ヨ) 其國民ノ謠フ歌、我ガ邦ニテハ、駿河歌、甲斐歌ノ類 [illegible] 詩經ノ國風ニ、衛風、齊風、秦風、陳風、ナドトテ擧ゲタルハ、其國國ノ詩ナリ。[illegible]

こくふう (名) [谷風] [爾雅、釋天篇「南風謂二之凱風一、東風謂二之谷風一」] 東風ノ異名。コチカゼ。詩經、邶風、谷風篇 [illegible] 曰「即、谷風」

こくふく (名) [剋復][克復] [亂ニ克チテ、常ニ復ル義、集韻「克、通作レ剋」] 亂ヲ討チ平ゲテ、故態ニ復スルコト。[illegible]

こくぶじ (名) [國分寺] [國別分置ノ寺ノ義、今、諸國ニ存スル國分寺、又ハ、寺

址ノ地名、多ク、こくぶト唱フ、又、こくぶんト唱フルモアレド、古稱ハ、こくぶナリ、倭訓栞、こくぶ「氏姓、村里ニ云ヘリ、國分ト書ケリ、昔、諸國ニ國分寺、云云」　聖武天皇ノ御代ニ、國毎ニ、二寺ヅツ建テラレシ官寺ノ稱。壹岐、對馬ナルハ、島分寺ト云フ。金光明最勝王經、妙法蓮華經ヲ講讀セシメ、國土安穩ヲ禱ラレシ寺ニテ、一ヲ僧寺トシ、金光明四天王護國之寺ト云ヒ、一ヲ尼寺トシ、法華滅罪之寺ト云ヒ、又、國分尼寺ト云フ、多クハ、其國ノ國府ノ傍ニ置カレタリ、今モ存スルモノアリ。又、寺址ノ、地名ニ存スルアリ。續紀、十四、天平十三年正月「三千戸施ニ入諸國國分寺ニ」類聚三代格、三、天平十三年二月、勅「一、每レ國僧寺、尼寺、各可レ施ニ水田一十町ニ、一、每レ國造ニ僧寺ニ、必令レ有ニ廿僧ニ、其寺名、爲ニ金光明四天王護國之寺ニ、尼寺、一十尼、其寺名、爲ニ法華滅罪之寺ニ云云、一、願、天神地祇、共相和順、恆將ニ福慶ニ、永護ニ國家ニ」

こくぶ-タバコ (名) ［國分煙草］ 〔地名ハ、國分寺ニ起ル〕 大隅國、始良郡、國分ノ地ニ産スル煙草ノ稱。優種ニシテ、氣、甚ダ芳烈ナリ。火つきヨシ。

こくぶ-にじ (名) ［國分尼寺］ 前前條ヲ見ヨ。

こく-ぶん (名) ［告文］ こうもん(告文)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

こく-ぶん (名) ［國文］ (一)其國語ニテ記セル文。自國ノ文章。(汎ク、外國文ニ對ス) (二)專ラ、日本ノ國文。和文。邦文。(漢文、洋文ナドニ對ス) 國文ノ古書ヲ研究スル學問ヲ、國文學ト云フ。

こくぶん-がく (名) ［國文學］ 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

こくぶん-じ (名) ［國分寺］ こくぶじノ條ヲ見ヨ。

こく-へい (名) ［國秉］ 〔國ノ平均ヲ秉ル義〕 國ノマツリゴト。史記、絳侯世家「君後三歲而侯、侯八歲爲ニ將相ニ、持ニ國秉ニ」

こく-へい (名) ［國柄］ 〔國ヲ治ムル權柄ノ義〕 國民ヲ統治スル權力。後漢書、陳元傳「王莽擅操ニ國柄ニ以偸ニ天下ニ」

こく-へい (名) ［國幣］ 國司(今ハ、府縣知事)ヨリ、神社ニ、幣帛ヲ奉ルコト。

こくへい-じゃ (名) ［國幣社］ 〔國ハ、國司ノ義、國祭ノ語原ヲ見ヨ〕 古ヘ、祈年祭ニ、國司ノ、奉幣セシ神社ノ稱。(神祇官ヨリ奉幣アル、官幣社ニ對ス) 大社、小社、ノ等級アリ。

こくへい-じゃ (名) ［國幣社］ 〔國家ヨリ奉幣アルナリ〕 例祭ニハ、政府ヨリ奉幣シテ祭ラルル神社。明治四年五月、新ニ定メラル。大社、中社、小社、ノ等級アリ、宮司、禰宜、主典、等ノ職員アリ。

こく-へう (名) ［黑表］ 〔英語、Black list. ノ譯語〕 不行狀者ヲ記ス表。犯罪嫌疑者名簿。「某ハ、黑表ニ載ッテ居ル」

こく-べつ (名) ［國別］ 〔人別、軒別ナドノ如シ〕 クニワケ。國毎ニ、モノスルコト。「人口ヲ、國別ニ調査ス」

こく-べつ (名) ［告別］ 別レヲ告グルコト。イトマウシ。イトマゴヒ。杜甫、酬ニ孟雲卿ニ詩「相逢難ニ袞袞ニ、告別莫ニ怱怱ニ」

こくべつ-しき (名) ［告別式］ 近年、葬式ノ稱ニ用キラルル語。葬場ニテ行フニモ云ヘド、多クハ、自宅ニテ行フニ云フ。

こく-ほ (名) ［國步］ 〔國運ノ進ミ行ク義、天步ハ、天ノ時運ノ、日ニ、遷リ行クナリ〕 國ノ運命。國運。又、天步。詩經、大雅、蕩之什、桑柔篇「於乎有レ哀、國步斯頻」 隋書、音樂志「國步惟艱」 詩經、小雅、白華之什、白華篇「天步艱難」「國步艱難」

〔こく-ぼ (名) ［國母］ こくもト云フヲ讀例トス、其條ヲ見ヨ。

こく-ぼたん (名) ［黑牡丹］ 〔出典ヲ見ヨ〕 牛ノ異名。類苑「唐劉訓者、京師富人、春游以ニ牡丹ニ爲ニ時賞ニ、訓邀ニ客賞ニ花、乃繫ニ水牛累百子ニ門、人指曰、此劉氏黑牡丹也」 下學集(文安)上、氣形門「黑牡丹、牛異名也」 撮壤抄(文安)七、牛ノ異名「黑牡丹トモ云フ」

こく-ほん (名) ［國本］ クニノモトヰ。國礎。國基。南史、郭祖深傳「人爲ニ國本ニ」

こく-ほん (名) ［刻本］ 版木ニ同ジ。宋史「與ニ刻本ニ不レ同」

こ-ぐま (名) ［黑熊］ 白熊ノ條ヲ見ヨ。

こく-まい (名) ［黑米］ くろごめノ條ヲ見ヨ。玄米。庾肩吾詩「黑米生ニ菰葉ニ、青花出ニ稻苗ニ」

こく-み (名) ［瘜肉］ あまじしノ條ヲ見ヨ。

こく-みん (名) ［國民］ (一)クニタミ。國中ノ民。人民。左傳、昭公十三年「國民信レ之」 (二)一主權ノ下ニ、政治上ノ團結ヲ成セル人民。(英語、Nation. ノ譯語)

こくみん-ぐん (名) ［國民軍］ 次次條ヲ見ヨ。

こくみん-へい (名) ［國民兵］ 次條ヲ見ヨ。

こくみん-へいえき (名) ［國民兵役］ 戰時ニ際シ、後備兵ヲ召集シテ、尙、兵員ヲ要スル時ニ、更ニ、國民ニ課スル兵役。後備兵役ヲ終ヘタル者、其他、滿十七歲ヨリ滿四十歲マデノ帝國男子ヨリ採ルナリ。其編制セラレタル軍ヲ、國民軍ト云フ。又、志願ナドニ因リテ國民軍ニ編入セラレタルヲ、國民兵ト云フ。

こく-む (名) ［國務］ 國家ノ政務。國政。梁武帝、幸ニ蘭陵ニ詔「獄訟稍簡、國務少閑」

こく-む (名) ［國務］ 〔國ハ、國司ノ義、國祭ノ語原ヲ見ヨ〕 國司ノ政務。國事。又、其政務ヲ執ル人。吾妻鏡、四、元曆二年八月十三日「諸國諸庄、任ニ本國司領家ニ可ニ知行ニ之處、面面武士、各各押領、云云、國務庄家、行ニ庄務ニ、永停ニ新儀ニ、可レ守ニ先規ニ云云」 盛衰記、十八、文覺流罪事「此僧ヲ、中京ニ置テハ惡カリナムト、伊豆國へ流罪ノ由ニテ、當時ノ國務ナリケレバ、源三位入道ノ子息仲綱ニ仰セツケラレヌ」(伊豆守仲綱)

こ-くん (名) ［古訓］ (一)古ク傳ヘ來レル訓誡ノ言。詩經、大雅、蕩之什、烝民篇「古訓是式、威儀是力」 集傳「古訓、先王之遺典也」 (二)漢字、漢文ノ上ノ古キ訓。「古訓古事記」

こ-くん (名) ［故君］ 先代ノ君主。物故セシ主君。戰國策、趙策「爲ニ故君ニ賊ニ新君ニ」

こ-ぐん (名) ［孤軍］ 孤立セル軍。應援ナキ軍隊。故事成語考「五月、孤軍渡ニ瀘水ニ、蜀丞相何等忠勤」(前出師表「恐ニ託付不レ效、以傷ニ先帝之明ニ、故五月渡レ瀘、深入ニ不毛ニ」)「孤軍奮鬪」

ご-くん (名) ［五葷］ 〔集韻「葷、許云切、音熏」〕 佛家ニテ、辛辣ニシテ臭氣アル五種ノ蔬菜ノ稱。之ヲ禁ジテ食ハヌモノトス。又、五辛。徐鍇、說文、注「葷、臭菜也、云云、方術家所レ禁、謂ニ氣不潔ニ也」 爾雅、翼「西方、以ニ大蒜、小蒜、興渠、慈葱、茖葱ニ爲ニ五葷ニ」 字類抄「五辛、大蒜、慈葱、角葱、蘭葱、興渠、已上、見ニ于僧尼令ニ」 拾芥抄、下、末、飲食「五辛、大蒜、薤葱、茖葱、

鶏冠、鳩巣、巳上、見ニ今俗尼、又、梵網經ニ多ニ異説ニ、又、ヒル、クレノオモ、キ、ニラ、アサトキ、此可レ爲レ[illegible]之由、有ニ說宜ニ」大和本草、二、穀目「五辛、又、曰ニ五[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、何況、佛之[illegible]上」

ごくむじゃう (名) 極無上　ごくぞろへノ條ヲ見ヨ。

こくむだいじん (名) 國務大臣 〔英語、Minister of state. ノ譯語〕 内閣ヲ組織シ、國政ノ[illegible]大臣ノ[illegible]。閣[illegible]。

こくめい (名) 國命 〔民命ノ繋ル所ノ義ト云フ〕 國政ニ同ジ。[illegible]

こくめい (名) 國命 國家ノ命令。朝命。「國命ヲ奉ジテ、外國ニ使ス」

こくめい (名) 忠實 〔[illegible]テモアル[illegible]〕 [illegible]語ナリ (一)忠實ニ、[illegible]ニ、爲ルコト。「こくめいニ勤ム」「こくめいニ働ク」 (二)人ノ性ノ、實體ナルコト。律義。實直。篤實 「こくめいナ生レツキ」「こくめいナ人」

こくも (名) 國母 〔國王ノ母ノ義、くに(國)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕 (一)くにのはゝニ[illegible]ノオヤ コクボ。皇太后ヲ申ス語。但シ、[illegible]皇后ニ立テセラレ、其御子ノ、帝位ニ即キタマヒ、然シテ、皇太后ニナラセラレタルニ申ス。(二)ノ異例ハアリ) 三代實錄、三十五、元慶三年三月廿九日、今月廿三日、[illegible]、[illegible]、上、[illegible](國石中宮)[illegible]ハ、春宮ニ登リタマヒテ、男宮生レタマヘル由ヲナム、深ク悦ビ申シケル、云云、若君、母の母トナリタマヒ、[illegible]、云云」[illegible]、六、[illegible]、[illegible]、[illegible]モ[illegible]サレ、[illegible]、[illegible]モ[illegible]ナレンズ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ十二ニテ、皇子御誕生アリテ、皇太子ニ立チ、位ニ即カセタマヒシカバ、[illegible]フセタマヒテ、[illegible]門院トゾ申シケル、入道相國ノ御女ナル上、天子ノこくもニテマシマセバ、世ノ、重クシ奉ルコト斜ナラズ」增鏡、第十、老の波「[illegible]、兩院(後深草、龜山)打チツヾキ、出デモノシタマヘリシ、云云、二代ガ國母ニテ、今ハ既ニ、御孫(後宇多)ノ位ヲサヘ見タマフ」拾芥抄、中、本、官位、唐名「國母、云云、國母仙院、[illegible]」名目抄「國母、母后、女院」[illegible]母、治世天子御母也」 拾芥抄ニ、國母ハ、唐名トアリ、魏書、張普惠傳「天子、尊則配レ天、莫レ非ニ臣妾ニ、何[illegible]、云云、不[illegible](前後ノ文ヘ、[illegible]解セラレザレド、國王ノ母ノ義ナルガ如シ) 宇津保物語、俊蔭「[illegible]娘ハ、天道ニマカセタテマツル、天ノ掟アラバ、國母、女御トモナレ、掟ナクバ、山ガツ、民子トモナレ」 (二)近年、皇后陛下ヲ國母ト申シ奉ルコト、往往見ユルハ誤レリ。[illegible]書經、泰誓、上篇「天地萬物父母、云云、元后作ニ民父母ニ」ナドアルハ、元后ハ、大君(天子)ノ義、父母ハ、扶[illegible]ト云ハムガ如シ、又、宇津保物語、初秋「七十二、七人ノこくもノ容色ヲ繪ニ畫カセテ、胡國ニ送ル由」、記セルハ、支那ノ漢ノ王昭君ノ事ヲ云ヘルニテ、妃ヲ、國母ト云フ、妄ナリ、(七人ノ皇后ト云フコト、アルベシヤ)同ジク「[illegible]許サレヌ人アルニ、云云、境エケムこくもニ、[illegible]許ラヌ國王」トアルハ、王昭君ノミ、胡國ニ行ケルヲ云ヘルナリ。

こくもち (名) 黑餅 石持 〔矢口祭ノ黑餅ノ、家紋トセシモノカト云フ、矢口祭ノ條ヲ見ヨ、石持ト借字スルハ、知行所ノ石高ヲ多ク持つニ寄セテ祝フ意ナラムト云フ〕 (一)紋所ノ名。舊筑前、福岡藩主、黑田氏ノ家紋ノ、黑圓形ナル、是レナリ。[illegible](元祿、近松作)諸國[illegible]御紋モ、[illegible]マン丸、[illegible]ハ筑前[illegible]ノ御城主ノ[illegible]、こくもち「黑餅ノ義、衣幕ノ紋ニ云ヘリ、中世ノ武士ノ、矢口祭ノ黑餅ヲモテ、家紋トセシナリト云ヘリ」 (二)轉ジテ、衣幕ナドノ紋ノ所ヲ、正圓ニ白ク染メ殘シテ、内ニ、文ナキモノ。[illegible]物」衣服ナルハ、田舍人ナドハ、ソノママニ用キルモアレド、元來ハ、侍小袖ニ染マテ仕入レオキテ、人ノ需メニ應ジテ、紋形ヲ上繪シテ、用ニ供スルモノナリ 紋ヲ入レタルモノヨリ見レバ、其形、外輪ニ殘ル、紋所ニ、こくもちニ劍菱、こくもちニ五三桐、ナド云フアリ。

こくもつ (名) 穀物 穀ト云フニ同ジ。穀類。[illegible]

ごくもつ (名) 御供物 神佛ニ奉ル供物ノ敬語。オソナヘモノ。ごくう。ごく。

ごくもん (名) 獄門 (一)獄舍ノ門。宋書、[illegible]、云云」 (二)古ヘ、朝敵ナド、重罪人ノ、斬刑ニ處セラレタル者ノ首ヲ、首臺ノ上ニ、釘ヲ打チテ刺シテ、串刺ト云ヒ、コレヲ、大路ニ渡シテ後ニ、囚獄司ニ屬セル獄舍ノ門ノ樗ノ木ニ懸ケテ、晒首トセラレタリ。けうしゅ(梟首)ノ條ヲ併セ見ヨ。倭訓栞、くしざし「宇代記ニ、梟ヲ訓メリ、梟首ヲ云フナリ」[illegible]、[illegible]、[illegible]、云云、[illegible]、云云」[illegible]タリケル」

ごくもん (名) 獄門 〔獄門ニ懸くト云フヲ略シタル語、景迹を計るヲ、きゃうざくトノミ云ヒ、案内ヲ知るヲ、あんないトノミ云フガ如シ〕ソレガ、唯、晒首ト云フ意ニ轉ジタルナリ、前條ノ(二)ヲ見ヨ」 江戸幕府ノ刑ノ名、重キ斬刑ノ附加刑ナリ、公儀ニ對シテ重キ謀計、主殺、親殺、強盗、關所破リ等ノ罪ニ行フ、獄内ニテ斬首シ、其首ヲ、江戸、千住ノ小塚原、又ハ、大森ノ鈴ガ森ノ仕置場ニ於テ、獄門臺ニ懸ケ、罪科書ノ捨札ト云フモノヲ建テテ、三日間、晒首トシタリ。梟首 [illegible]「享保十四年四月廿二日、天一坊改行、右ハ、[illegible]兵ヲ申觸レ、浪人共ヲ集メ、公儀ヲ不[illegible]、不届ニ付、[illegible]ノ上、獄門ニ行者也」

ごくもんだい (名) 獄門臺 梟首ニスル首ヲ載スル木架。四寸角、高サ五尺許ノ柱ヲ、五六尺距離ノ左右ニ立テ、上ニ板ヲ互シ、中央ニ釘ヲ倒サニ立テ、コレヲ、首ノ切口ニ刺ス。梟木

こくもり (名) 石盛 〔田地ノ段別ニ、石高ヲ盛る義〕 田地 穀物ノ收穫高ニヨリテ、等級ヲ區別シ、年貢高ヲ定ムルコト。斗代。地方落穗集、二「石盛、斗代ヲ積ル事、古人、井田ノ法ヲ考ヘ、其國郡、所所ノ土地、善惡、井、利害、損益ヲ料辨シテ、山野、海川、共ニ、貢高、石高ノ法ヲ立テ、高ニ結ビ、後世ノ掟トス」又「石盛ヲ定ル事、先ヅ、土地ノ位ヲ定ル事、第一也、土ニ、品品有リ、其一品ノ内ニ、甲乙有リ、然レドモ、其類ヲ集メ、上位ノ位ニ准シ、其村切ニ、上、中、下、三段ニ極ル事ヲ、三段ノ内ニ譲リ難キハ、下下田惡地ト、段ヲ極ル也」

ごくもり (名) 獄守 獄屋ヲ守ル者。獄卒。獄丁 平家物語、五、伊豆院宣事「[illegible]、故左馬頭義朝ノ首ヨ、平治ノ後ハ、獄舍ノ苔ノ下ニ埋レテ、云云、[illegible]、存ズル旨アリテ、獄守ニ乞ヒ、頸ニ掛ケ、山山、寺寺ヲ修行シテ」

ごくや (名) 獄屋 ヒトヤ 獄舍 牢屋。監獄。刑務所。獄

こくゆ (名) 告諭 告ゲ、サトスコト。史記、高帝紀「使ニ人與ニ秦吏ニ行至ニ縣鄕邑ニ告ニ諭之ニ秦民大喜」

こくよう (名) 國用 政府ノ、國事ニ就

キテノ費用 國費。 禮記、王制篇「冢宰制國用ハ、必ズ二歳之杪一」 孫子、作戰篇「國用不足」

おくら (名) [小倉] おくらおりノ略。「小倉ノ袴」

おくら (接尾) [競] 〔鬼ごっこナド云フ、ごっこ二同ジ、接尾語ノくらべノ語原ヲ見ヨ、おくハ、下略ナリ(鱗、おけ)〕 互ニ、相競フコト。おく。ゴッコ。 犬子集(寛永)一「竈ト、飛ビおくらセヨ、梅ノ花」 鳥遊集「二ツアル、林ノ鐙ヤ、掻キおくら」(俚言集覽、おくら) 唐船噺今國性爺(享保、近松作)「飛ビおくら、賦ケおくら、輕技、早技」「鬼おくら」(鬼ごっこ) 狂言記、さし聟「汝カ鎖ウダ者ト、某ト、賭貢おくヲシタレバ」

こくらう (名) [國老] (一)支那ニテ、卿大夫ノ、致仕セル者ノ稱 禮記、王制篇「養國老于上庠」 左傳、僖公廿七年「國老皆賀」 (二)我ガ國ニテハ、諸侯ノ大夫。卽チ、大名ノ家老 (漢學者ノ、用ヰ始メタル語ナルベシ) 家宰

ごくらう (名) [極老] キハメテ、老イタルコト 甚シク、年寄リタル人。 遊楽經「年老極老」

ごくらう (名) [御苦勞] (一)苦勞ノ敬語。 百日曾我(元祿、近松作)三「ワシノコトハ、虎様ヤ、少將様ノ、御苦勞ニナサレシ故」 (二)介抱ノ敬語。 オセワ。 「ごくらうニアヅカル」 (三)人ノ盡力ヲ勞フ ニ云フ語 ゴタイギ 狂言記、右近左近「見レハ何レモ様、近來、御苦勞ニ存ジマス」「御骨折、ごくらうニ存ジマス」

おくらおり (名) [小倉織] 〔豐前國、小倉ヨリ織出シタレバ、名トス、今ハ、其地ノ産ハ、甚シク衰微セリ〕 木綿織物ノ名 絲ヲ合ハセテ、厚ク強ク織ル、紺地、白地ナドアリ、多クハ、帶地、袴地トス。

コクラジマ。略シテ、おくら。

おぐらかる ・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [纏綿] 〔おハ、接頭語、ぐらかるハ、からぐるノ自動ニテ、音ヲ轉ジタル語ナルベシ、おんがらかるトモ云フ(まぐる、まがる。あぐる、あがる。匣がらみ、はおぐるみ。胸がらみ、むなぐら)濁音、顚倒シタルナリ(續續ぐ、つづく)いづつしノ語原ヲ見ヨ〕 (一)絲、打雜リテ、縺レ絡ル。コンガラカル。 「紙鳶ノ絲ガおぐらかる」紐ガおぐらかる」 (二)人事、入リクミ亂ル。複雜ス。 紛糾 「相談ガ、段段おぐらかる」

ごくらく (名) [極樂] 〔極樂世界、極樂淨土ト云フガ、成語ナリ、生死、寒暑、憂惱、等ノ苦ナクシテ、至極樂しき清淨ナル國土ノ義〕 (一)スズシキ道。佛說ニ、西方、十萬億佛土ヲ行キテ、アリト云フ安樂ナル國土ノ稱。極樂世界、極樂淨土ト云フ。此國土ニ在ス佛ヲ、阿彌陀如來トシ、極樂世界の教主ト云フ。其國土ニ入ルベキ第一ノ門、東ニ向ヘリ、極樂の東門ト云フ。衆生ノ、此國土ニ往生セムト欲スルヲ、極樂の望み、極樂の願ひト云フ。衆生、臨終ノ際ニ、阿彌陀三尊ノ來迎アルヲ、極樂の迎ヘト云フ。 阿彌陀經「爾時佛、告ニ長老舍利弗一、從レ是西方、過ニ十萬億佛土一、有ニ世界一、名曰ニ極樂一、其土有レ佛、號ニ阿彌陀一、今現在說法、舍利弗、彼土何故名爲ニ極樂一、其國衆生、無レ有ニ衆苦一、但受ニ諸樂一、故名ニ極樂一」 羅林藝課(黃檗宗ノ經)「西方極樂世界」(明 音ナリ) 拾遺集、廿、哀傷「極樂ハ、遙ケキ程ト、聞キシカド、ツトメテ至ル、所ナリケリ」 (二)俗ニ、蓮根ノ異名。(極樂世界ヲ、蓮華藏世界トモ云フ)

ごくらくあんやうぼさう (名) [極樂安養淨土] 前條ノ(一)ニ同ジ。 賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)三「傾城ノ懷ハ、極樂安養淨土ニ表シ」

ごくらくおとし (名) [極樂落] ねずみおとしノ條ヲ見ヨ。

ごくらくじやうど (名) [極樂淨土] ごくらく(極樂)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 榮花物語、十九、御裳着「佛ハ極樂淨土ノ曼陀羅、日日ニ法華經一部、阿彌陀經四十九卷ヲゾ、供養セサセ給ヒケル」

ごくらくせかい (名) [極樂世界] ごくらく(極樂)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 榮花物語、十七、音樂「極樂世界、コレニツケテモ、イカニイカニト、イトドユカシク思ヒヤリ奉ル」

おぐらし ・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [小暗] 〔小ハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 暗しト云フニ同ジ。 小暗シ。 蜻蛉日記、下、下「五月雨ヤ、おぐらき宿ノ、夕サレバ、面照ルマデモ、照ラス螢カ」

こぐらし ・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [木暗] 〔木、及、木の暗ノ條ヲ見ヨ〕 木立、繁リテ、暗シ。 四條大納言集「逢坂ノ、關マデ月ハ、照ラサナム、杉ノ木立、おぐらかルラム」 曾丹集「日暮ルレバ、下葉おぐらき、木ノ下ノ、モノオソロシキ、夏ノ夕暮」

おくらしま (名) [小倉縞] おくらおりニ同ジ。

ごくらふ (名) [極臈] 〔年臈ヲ積ミタル意、らふ(臈)ノ條ヲ見ヨ〕 六位ノ藏人ノ、古參ニシテ、首座ニ居ル人ノ稱 キョクラフ。 ろくゐくらうど(六位藏人)ノ條ヲ見ヨ。 職原抄、下、藏人所、六位藏人「藏人者、不レ依ニ年齒老少一、以ニ當學次第一、定ニ上下一、至ニ于ニ極臈一者、必預ニ巡爵一」

こくらん (名) [國亂] 一國中ノ亂。 國内ノ騷亂。「國亂ヲ鎭定ス」

こくり (名) [國利] 國益ニ同ジ。 後漢書、劉陶傳「欲下因緣行レ詐、以中賈國利上」 孫子、作戰篇「夫、兵久而國利者、未ニ之有一也」「國利民福」

こくり (名) [酷吏] 〔酷ノ語原ヲ見ヨ〕 官吏ノ、苛酷ナル性ノ者。 史記、漢書ニ、酷吏列傳アリ。 漢書、刑法志「自レ是笞者得レ全、然酷吏猶以爲レ威」

コクリ (名) [高句麗] かうらい(高麗)ノ(一)ニ同ジ。其條、幷ニ、三韓、むくりこくりノ條ヲ見ヨ。 後漢書、東夷傳「高句驪、在ニ遼東之東千里一、南與ニ朝鮮濊貊一、東與ニ沃沮一、北與ニ夫餘一接、地方二千里」 北史、高麗列傳「高句麗」 和漢三才圖會(正德)十三、異國人物、朝鮮「高勾麗」 日本書紀通證(延享)十四、神功「高麗、古來、云云、又、云ニ古久利一、高句麗也」

ごくり (名) [獄吏] 牢役人。監獄ノ吏人。 漢書、尹翁歸傳「欲ニ獄吏一、曉ニ習文法一」

おくりおくり (副) 〔おくハ、小首ヲ略シテ、重ヌルナリ、小首ノ傾ク意(木強、ぎすぎす、氣惱、きなきな)りハ、らノ條ヲ見ヨ、おっくりト云フハ、急呼ナリ、がくがく、がくりがくり、がっくりト云フモ、是レナリ〕 前、左右ヘ、小首ヲ傾クル狀ニ云フ語 コックリ、コックリ。「おくりおくり居眠ヲスル」

こくりつ (名) [國立] 〔國家ノ設立〕 官立ニ同ジ

こくりつぎんかう (名) [國立銀行] 〔英語、National bank. ノ譯語〕 銀行ノ一種、政府ノ公債證書ヲ、大藏省ニ預ケ入レ、許可ヲ得テ、紙幣ヲ發行スルコトヲ得タルモノ。 明治五年以後、各地ニ設立セラレシガ、二十箇年ヲ限リトシ、次第ニ滿期トナリテ、三十二年ニ至リ、全

ク、私立ノ銀行トナレリ。

こくりみんぷく (名) 國利民福 國利ト、民福ト。國ノタメ、世ノタメ。

こくりやう (名) 國領 〔國ハ、國司ノ義、國祭(コクサイ)ノ語原ヲ見ヨ〕 國司ノ管スル區域ノ地。西宮記、九、伊勢例幣使發遣「下樋小川(シタビノヲガハ)云云、[illegible]トノ堺」

こくりやうし (名) 高陵使 こうりょうしヲ見ヨ。

こくりょく (名) 國力 國家ノ勢力、又、財力。[illegible]「國力充實」

こく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 刳 〔倭訓栞、[illegible]、俗ニ、はりさぐる、こる、木デ鼻ヲ[illegible]、えるナド云ヘリ、[illegible]ヲ、強ク云フ詞ナルベシ〕 (一)刳グ。コソゲル。參河ニテ、擦ル意ニ云ヒ、越前、大[illegible]ニテ、磨、意ニ云フ、古意ナルベシ。「[illegible]こくる」 (二)扱キオロス。扱ヒ[illegible]クル 日本振袖始、[illegible]「[illegible]カヌバカリニ叱リおくって、追ヒ出シタ」「追ヒおくる[illegible]」

こぐ・る (動) 潜 〔くぐるノ轉、蹴ゆ、おゆ。闇む、かおむ〕 くぐるニ同ジ。「[illegible]居ヲおぐる」

こぐるま (名) 小車 てぐるま(手車)ノ條ヲ見ヨ。

こくるゐ (名) 穀類 穀ノタグヒ。穀物。

こぐれ (名) 木暗 〔暗るノ條ヲ見ヨ〕 木暗キコト。コノクレ。コノシタヤミ。木ノドノ、暗キ所。 永久四年百首、[illegible]「[illegible]ノ、こぐれニモ、見エ給ハヌハ、木ノ下[illegible]」 新六帖、五、筧「雨過グル、外山ノ路ノ、木ぐれヨリ、おからき笠ゾ、見エ隠レスル」

こくろん (名) 國論 國人一致ノ論。輿論(ヨロン)。[illegible]

ごくゎ (名) 五果 〔山果(サンクワ)ノ條ヲ見ヨ〕 五種ノ果實(コノミ)。 素問、五常「李、杏、棗、桃、栗」[illegible]

こぐゎい (名) 戸外 (一)戸ノホカ。戸ノソト。 禮記、曲禮、上篇「戸外有二二屨一、言聞則入、言不レ聞則不レ入」 (二)家ノ外。野天(ノテン)。[illegible]

こくわう (名) 國王 國ノ王。帝王。 竹取物語「國王ノ仰言(オホセゴト)ヲソムカバ、ハヤ殺シタマヒテヨカシ」 源、三十四、下、若菜、下「[illegible]タタこくわうノ、御心ヤオオキタマハムトバカリヲ、憚ラムハ」

こくゎう (名) 弧光 二本ノ炭素棒ヲ、電氣源ニ接續シ、他ノ兩端ヲ相接近セシメ、之レニ強キ電流ヲ通ズル時ハ、其接觸部ガ紅熱シテ光ヲ放チ、此際、鎔解(ヨウカイ)シタル炭素棒ノ蒸氣ハ、弧狀ヲ呈スルモノ、アアク。「弧光燈」

ごくゎう (名) 御光 後光 〔御光明ノ下略ナルベシ(極內證、ごくない。極隨一、ごくぜゐ)沖縄ニテハ、背光ヲ、光明トノミ云フ、後光ト記スハ、背光ニ云フニツキテ、書キ改メタルナルベシ〕 (一)光明(ヒカリ)ノ敬語 「[illegible]如來[illegible]ノごくゎう」 (二)佛像ノ背ノ飾物ノ名、金色ニシテ、物體ヨリ光ヲ放テル如ク作リツク。背光。環ノ如キヲ、輪後光ト云フ。圓光。又、小舟ヲ立テタル如キヲ、舟後光ト云フ。

こくゎうでんとう (名) 弧光電燈 ああくらいとノ條ヲ見ヨ。

ごくゎく (名) 御畫 ちょくくゎく(勅畫)ノ條ヲ見ヨ。

こくゎくてう (名) 姑獲鳥 ウブメ。 本草、[illegible]、陳藏器曰、姑獲[illegible]收二人魂魄一」

ごくゎくにち (名) 御畫日 ちょくくゎく(勅畫)ノ條ヲ見ヨ。

こくゎじゃ (名) 小冠者 年、未ダ若キ冠者。弱冠。 平家物語、九、老[illegible]「[illegible]トテ、生年十八歳ニナリケル小冠者」

ごぐゎつ (名) 五月 サツキ。年ノ、第五ノ月。 著聞集、十九、草木「堀川院ノ御時、五月五日、江師、菖蒲ヲタテマツリタリケル」

ごぐゎつささげ (名) 五月豇豆 隠元豆ノ(一)ノ異名。 俚言集覽、五月ささげ「大和ニテ、江戸ノ、いんげんまめヲ云フ」

ごぐゎつにんぎゃう (名) 五月人形 五月五日ノ節句ニ、男兒ノ祝ニ飾ル武者人形。冑人形、及、次條ヲ併セ見ヨ。

ごぐゎつのぼり (名) 五月幟 五月端午ノ節句ニ、男兒ノ祝(イハヒ)トシテ樹ツル、紙製、布製ノ幟、槍、吹流(フキナガシ)、ナド共ニ飾リ、庭、又ハ、門ニ立ツ。後世、小サキ絹製ノモノモ出來テ、座敷幟トナル。外幟、內幟、ト云フ。 俳諧[illegible]子集(明曆)三、五月幟「門ヤ又、立榮ユベキ、紙のぼり」 羅山文集、慶安辛卯五月端午「[illegible]家、云云、[illegible]、童兒立紙幟」 日本歳時記(貞享)四、五月五日「紙旗ニ、色色ノ繪ヲカキテ、長竿ニツケ、是ヲモ、戸外ニ立テ作ル、コレヲ、のぼりト云フ、或ハ、絹ヲ用ルモアリ、或ハ、長旒ヲ加ヘテ、是ヲ、吹ながしト云フ、朔日ヨリ五日マテ、兒童ノ弄事トス」 和漢三才圖會(正德)四、時候、端午「此日毎家、立[illegible]及甲冑刀[illegible]兵器」

ごぐゎつばへ (名) 五月蠅 さばへなす、并ニ、うるさしノ條ヲ見ヨ。

こくゎん (名) 固關 こげんト讀ム、其條ヲ見ヨ。

ごくゎん (名) 五官 〔出典ヲ見ヨ〕 視覺、聽覺、嗅覺、味覺、觸覺、ノ總稱。五感。佛教ノ語ニ、五根ト云フモ、是レナリ、各條ヲ見ヨ。 荀子、天論篇「耳、目、鼻、口、形、云云、心居二中虛一以治二五官一」[illegible]注「官、猶任也、言天之所二付任一也、心居二於中空虛之地一以制二耳目鼻口形之五官一」

ごぐゎん (名) 御願 祈願(キグワン)ノ敬語。願(グワン)ヲ立テタマフコト。一七日、二七日、祈願シタル結願(ケチグワン)、御願はたしト云フ、願ほどきナリ。 宇津保物語、俊蔭「太政大臣、御[illegible]アリテ、[illegible]ニ[illegible]デタマヒケルヲ」 源、三十九、御法「年頃、ワタクシノ御願ニテ、書カセ奉リタマヒケル法華經、千部、急ギテ、供養シタマフ」 落窪物語、一「御願はたしニ、石山ニ[illegible]デタマフニ」

ごぐゎんじ (名) 御願寺 ちょくぐゎんじ(勅願寺)ノ條ヲ見ヨ。

ごくゎんのひ (名) 五卷日 法華八講會ノ、第三日ノ稱。法華經八卷ヲ、朝、夕、一卷ヅツ講讀スルニ、第三日ノ朝ハ、第五卷ニ相當スルナリ、此日、繞佛(ネウブツ)ノ式ノ薪行道(タキギノギャウダウ)アリ。(其條ヲ見ヨ) 源、五十一、蜻蛉「十[illegible]御八講セラル、云云、五卷の日ナドハ、イミジキ見物ナリケレバ、コナタ、カナタ、女房ニツキテ參リテ物見ル人、多カリケリ」 細流抄「薪の行道ノ日ナリ」 榮花物語、八、初花「五月五日ニゾ、五卷の日ニアタリケレバ、云云、法華經ヲ說カレタマヒタルモ、アハレニ、[illegible]トメガタシ」

ごぐゎんはたし (名) 御願果 ごぐゎん(御願)ノ條ヲ見ヨ。

こくゐ (名) 國威 國ノ威光。國ノイキホヒ。國光。 後漢書、竇憲傳「宣二明國威一而兵隨二其後一」「國威ヲ宣揚ス」

こくゐ (名) 國位 國王ノ位。王位。 韓非子、難勢篇「以二國位一爲レ車、以レ勢爲レ馬、以二號令一爲レ轡、以二刑罰一爲二鞭策一」 保元物語、一、爲義最期事「ソレハ、諸ノ惡王、國位ヲ奪ハントテノ爲ナリ」

ごくゐ (名) 極位 最上ノ位。 太平記、十三、北山殿謀叛事「官、太政大臣ニ至リ、位、一品ノ極位ヲ極メズト云フコトナシ」

こけ (名) 苔蘚 「和訓栞ニ、木毛ノ義ナルベシトアリ、古クハ、木ノこけヲ云ヒシガ多ケレバ、木ナルガ元ニテ、他ニモ言ヒ及ボシ、スベテ、毛ノ如ク生エツキタルモノノ總名トナレルナラムト云フ、物類稱呼(安永)ニ、常陸、尾張、北國ニテハ、きのこヲ、こけト云フトアリ」(一)下等ノ植物ノ名。極メテ小サク、毛ノ如ク、物ニ着キテ密生シテ、ソレヲ包ムコト、衣ノ如キモノ、形、色、種類、甚ダ多シ、古樹ノ幹、古キ瓦屋ノ上、陰地ノ地面、石面ナドニ生ズ、瓦ナルヲ屋上のこけ(屋遊)、地ナルヲ地ごけ、青ごけ(地衣草)ナド云フ。 古事記、上廿八段大蛇「其身、生二蘿及檜椙一」 萬葉集、二 四十三「妹ガ名ハ、千代ニ流レム、姫島ノ、小松ガ末ニ、蘿生スマデニ」 同、三 廿六「イツノマモ、神サビケルカ、香山ノ、鉾杉ガ本ニ、薜蘿スマデニ」 同、十一 四十「苔」 本草和名、上 三十五「垣衣、一名、青苔衣、古介」 倭名抄、廿 苔類「苔、古介」 (二)苔ノ、産シタルコト。 「苔ノ岩橋」「苔ノ通路」「苔ノ下路」 (三)古クナリタルコト。フルビルコト。(苔むすノ條ヲ見ヨ) 平六帖、六「マダキヨリ、我モ稿モ 苔ニノミ、ナル身ノハテヲ、イカデ埋マム」 (四)樹下、石上ヲ住處トシテ、佛道ヲ修行スト云フ意ヨリ、僧ノ衣服ナドヲ、苔の衣、苔の袂、苔の袖ナド云ヒ、又、閑居ノ體ニ、苔の庵、苔の戸、苔の樞ナド云フ。 古今集、十六、哀傷、僧正遍昭「皆人ハ、花ノ衣ニ、ナリヌナリ、苔の袂ヨ、乾キダニセヨ」(諒闇果テテ、衆人、喪服ヲ、吉服ニ着カヘタルヲ云フ) 宇津保物語、嵯峨院 五七十「山伏ノ、こけの衣ヲヌギ、松ノ葉ヲツツミテ、深キ山ヨリ、トブラヒハベルモ、云云」 (五)苔ヲ、他物ニ見立テテ云フ語。 堀河百首、雜「年經レバ、苔の鬘ヲ、結ヒカケテ、岩ノ姿ゾ、神サビニケル」(和漢朗詠集ニ「氷消波洗二舊苔鬚一」トアルニ因レルナリト云フ) 師氏集「奥山ノ、苔のむろもニ、比べ見ヨ、イヅレカ露ノ、オキマサルラム」「苔ノ筵」「苔ノ床」 (六)苔の下ト云フハ、地下、黄泉ヲ云フ。 千載集、十七、雜、中「烏邊山、君尋ヌトモ、朽チハテテ、苔の下ニハ、答ヘザラマシ」 拾遺愚草、中「立チカヘリ、思フコソナホ、悲シケレ、名ハ殘ルナル、苔ノ行方ニ」(苔の下ノ行方ナリ) (七)〔日蔭葛〕。松蘿 倭名抄、廿 苔類「松蘿、茲豆乃古介」 新勅撰集、十二、戀、二「君ニ逢ハム、其日ヲイツト、松ノ木ノ、こけノ(如ク)亂レテ、物ヲコソ思ヘ」 源、五十、浮舟 六十「宮ヨリハ、イカニイカニト、こけノ(如ク)亂ルルワリナサヲ宣フ」

こけ (名) 鱗 こけらノ下略、其條ヲ見ヨ。

こけ (名) 虛假 (虛假ノ吳音) (一)佛教ノ語、心相ノ、眞實ナラヌコト。虛僞。心内ト、外相ト、違フコト。心ニ就キテハ、虛假心ト云ヒ、修行ニ就キテハ、虛假の行ト云フ。 安樂集ニ、虛假ノ相ヲ示シテ、譬ヘバ、人アリテ、父母、師僧ニ、外ニハ、孝順ヲ現ジ、内ニハ、不孝ヲ懷キ、外ニハ、精進ヲ現ジ、内ニハ、不實ヲ懷クガ如シト云ヘリ。 (二)ウツケタル意ヨリ、轉ジテ、歌ナドノ意味ノ、淺ハカナルコト。 無名抄(鴨長明)上「靜縁法師、身ヅカラガ歌ヲ語リテ云フ「鹿ノ音ヲ、聞クニ我レサヘ、なかれぬる、谷ノ庵ハ、住ミウカリケリ」云云(泣かるト、流るヲ カケタルカ)予云フ、云云、なかれぬるト云フ詞コソ、アマリニこけ過ギテ、イカニゾヤトオボエ侍ル、云云、靜縁、云云、イミジクワロク難ズト思ヒゲニテ、去リヌ、云云、大夫公ノ許ニ行キテ、云云、語リ侍リシカバ、ナデフ、御房ノ、カカルこけ歌詠マルルゾトヨ、云云、ハシタナメラレテ侍リシ」 語林類葉(清水濱臣)こけ「今モ俗言ニ云ヘリ、アマリニ心淺ク、趣キナキ意ナリ」(虛假讀ト云フ語モアリ) (三)轉ジテ、俗ニ、心ノ、ウツケタル者。マヌケ。痴呆 俚言集覽、こけ「俗ニ、疎漏ニテ、人ニ欺カルルヲ云フ」「こけノ一心」「こけノ考ヘ休ムニ似タリ」「人ヲこけニスル」「こけ威」

こげ (名) 焦 (一)火ニ焦ゲタルコト。「着物ノこげ」 (二)焦飯ノ略。

ごけ (名) 後家 (一)死後ノ遺族。 賦役令、集解、十三「古記云、天平八年正月廿日、格云、太宰官人、及、所部國司等後家、徭役免、負著、云云、官人相替、稍忘二恩勅一、免役之家、還被二驅使一、云云」 類聚符宣抄、八、天曆七年六月十日、太政官符、下總國司「應レ令レ入レ京、故守藤原朝臣有行後家事、云云、件後家、宜下給二食十具、馬十疋一、令上レ入レ京者」 朝野群載、七「公卿家、公卿年給、云云、故權中納言某朝臣後家、請下寬弘二年給二一合、以二男正六位上藤原朝臣某一、被上レ拜二任諸司助闕一狀、治安四年正月廿六日」 山槐記、治承三年十一月四日「故前左衞門督(註、公光卿)後家(註、三條高倉)强盗入、云云」 (二)後家の尼ト云フハ、主人ノ死後、其妻ノ、薙尼トナレルモノ、多クハ略シテ、後家トノミ云フ。 五代帝王物語「故右大將賴朝卿後家尼二品モ、嘉祿元年七月ニ死亡」 平家物語、九、重衡生捕事「法橋死テ後、後家の尼公ノ、訴訟ノ爲ニ、京ヘ上リタリケルニ」 吾妻鏡、五、文治二年三月「故前宰相光能卿後室比丘尼阿光」 愚管抄、六、土御門「賴朝ガ母、賴朝ガ後家ナレバ」 吾妻鏡、十五、建久六年九月廿九日「故秀衡入道後家、于レ今存生」 (三)泛ク、寡婦。 後撰夷曲集(寬文)七「子ヲ捨テウ、我ガ身ハ若キ、後家ナレバ」 (四)對ノ物ノ、一片、殘リタルモノ、ソレヲ、他ノ物ニ配ヘ合ハセタルニ云フ。チグハグ。鞘ノミアルニ、他ノ刀ヲ刺シ置クヲ、ごけ鞘ト云ヒ、合器ナドニ、他ノ蓋ヲ合ハセ用キルヲ、ごけ蓋ト云フ。

ごげ (名) 碁笥 〔碁石笥ノ中略、其條ヲ見ヨ〕ゴイシゲ。碁子ヲ盛ル、小サキ器。碁奩 今多クハ、形、茶入ノなつめニ似テ、大キク、蓋モ、身モ、眞圓ク作ル、底ニ、高臺ナシ。因リテ、スベテノ器ノ、高臺ナキ作リナルヲ、碁笥底ト云フ。 運歩色葉集「碁器、碁家、ゴゲ」

ごけい (名) 御禊 禊ノ敬語。大嘗會ノ年ノ十月、主上、京都ノ賀茂河原ニ出デマシテ、禊ガセタマフヲ、御禊ノ行幸ト云フ、此日ハ、文武百官、女御女官ナド、隨從シ奉リテ、車馬ノ行裝、美觀ヲ極メタリ。又、賀茂ノ齋院ト定アリテ後ニ、賀茂川ニ臨ミ禊ギタマフヲモ、御禊ト云フ。 紀略、後篇、八、寬和元年十月廿五日「大嘗會御禊、午刻御出」 雅亮裝束抄(治承)一「ごけいノ女御代ナドノ車」 名目抄(洞院實熙)「御禊、有二行幸一、河原、是大嘗會禊也」 代始和抄(一條兼良)御禊行幸事「大嘗會行ハレムトテノ十月ニ、此事アリ、云云、世俗ニハ、河原の御はらへト云フ、云云、二條、三條ノ川原ニ行幸シテ、コレヲ行ハル」 源、十五、蓬生 廿四「祭リ、御けいナドノ程、御イソギドモニコトヅケテ、云云」細流抄「加茂ノ祭ノ御けい也」

ごけい (名) 五刑 五種ノ刑法。支那ニテ古ク云ヘルハ、書經、舜典篇「五刑」註「墨、劓、剕、宮、大辟」トアリ、(漢書、百官公卿表「五刑」註「剕、去レ髕骨一也」) 白虎通、五刑「宮者、女子婬、執二置宮中一、不レ得レ出也、丈夫淫、割二去其勢一也」)其後、歷代、變更アリ、隋ニ至リ、笞、杖、徒、流、死、ト定マル、我ガ邦モ亦、コレヲ採ラレタリ。刑ノ條ヲ見ヨ。 盛衰記、二、主上上皇御目相避事「縱、八虐ノ犯アリテ、五刑ノ法ヲ行

ハルル共、耳名ニ及バズシテ、忽ニ露蓋セラレンヤ」

こけい-たい (名) [固形體] 〔英語、Solid body; 液體 Liquid body; 氣狀體 Gaseous body.〕 物理學ノ語、物體ノ多少ニ因リテ、固形體ト、流動體ト、氣狀體トノ三ツトナル。固形體ハ、固體トモ云フ、固マリテ、形ヲナシ、長サ、厚サ、幅ヲ有ス、木、石、鐵、硝子等、皆、是レナリ。流動體ハ、流體、液體トモ云フ、流レテ動ク、水、油、水銀ナド、是レナリ。氣狀體ハ、氣體トモ云フ、氣トナリテアリ、空氣、瓦斯、煙ナド、是レナリ。水ハ、流動體ニテ、凍レバ固形體トナリ、沸ケバ氣狀體トナル。

ごけい-でうやく (ゴ・ケイ・ジョウヤク) (名) [互惠條約] 〔英語、Reciprocal treaty ノ譯語〕 甲國、乙國、相互ニ、同一ノ利益ヲ與フルヲ條件トシテ結ブ條約。

こけい-の-さん-せう (コ・ケイ・ノ・サン・ショウ) (名) [虎溪三笑] 〔虎溪ハ、廬山ニアリ、入蜀記(八月八日)ニ、東林寺、正對寺門外ノ小[illegible]ナリ、トアリ〕 畫題ノ語、(禪機の三聖ノ類) 支那ノ廬山東林寺ノ僧慧遠、客ヲ送ルニ、嘗テ、虎溪ヲ過ギザリシニ、陶淵明、陸修靜、來リ訪ヒ、コレヲ送リテ、行ク行ク談ジテ、覺エズ、虎溪ヲ過ギ、三人相顧ミテ、大イニ笑ヘリト云フ。廬山記 [illegible] 三人、東晉、劉宋、間ノ人、年代、合ハズ、後世ノ附會ナルベシト云ヘド、東坡集ニ、三笑圖贊アレバ、古キ事ナリ、謠曲ノ三笑ニ、此事ヲ演ズ。

ごけ-いり (名) [後家入] 〔ごけりハ、約メテ云フナリ、よめいり(嫁入)、ひきいれ(引入)〕 寡婦ノ家ニ、入壻トナルコト。ごけり。 [illegible]法師コソ、[illegible]、スレ、長刀ヲ、野太刀ノ鞘ニ、サシコミテ」(後家鞘ヲ云フ) [illegible]「いりむこナリ」ごけり「莊内ニテ、繼父ヲ云フ」

ごけう (ゴ・キヤウ) (名) [五教] イツツノヲシヘ。五常、及、五倫ノ條ヲ見ヨ。

こけ-うた (名) [虛假歌] 虛假ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こけ-おどし (名) [痴威] 〔虛假ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 愚人ヲ驚カスノミノ、淺薄ナル手段。詐術。 [illegible]

こげ-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [焦臭] 物ノ、焦ゲル臭アリ。きなくさし、かんくさし、ヲ併セ見ヨ。

こけ-こけ (感) 〔鷄ヲ、かけト云フモ、鳴聲ヲ名トセルナリ、こけっこうハ、こけこけト急呼略シテ延ベタルナリ〕 鷄ノ鳴聲ニ云フ語。こけ、こう。こけ、こう。 和歌肝要(俊成)「俳諧ハ、狂歌也、俳諧謌歌「鷄ハ、イクラノ稻ヲ、モタヤラム、(モタルヤラム)曉毎ニ、こけトコフ」」 [illegible]

ごけ-ざや (名) [後家鞘] ごけ(後家)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

こけ-ざる (名) [虛假猿] 〔虛假歌ト同趣ノ語、虛假ノ條(二)(三)ヲ見ヨ〕 猿ヲ貶シメテ呼ブ語。馬鹿猿。 俗訓栞、こけざる「痴猿ノ義ニヤ、群猿ノ中ニ、ハネダサレテ、獨ニナリタルヲ云フ」(イウガアルベキ) [illegible]色葉集、天文「長猿、コケザル」 狂言記、花子「人ノ妻見テ、吾ガ妻見レバ、深山ノ奥ノこけざるメガ、雨ニショボ濡レテ、ツイツクバウタニ、サモ似タ」

こけ-しみづ (コケ・シミズ) (名) [苔清水] 苔生ヒタル間ヲ、流レ出ヅル清水。 [illegible]四「里人ノ、汲ムダニ今ハ、ナカルベシ、岩井ノしみづ、[illegible]」

ごけ-ぞこ (名) [碁笥底] 〔碁笥ノ條ヲ見ヨ〕 スベテノ器ノ、底ニ、高臺ナキ作リノ稱。

ごけ-だふし (ゴケ・ダオシ) (名) [後家倒] 〔やもめだふしノ條ヲ見ヨ〕 農具ノ名、いなさきニ同ジ。

こけ-ぢ (コケ・ジ) (名) [苔路] 地苔ノ、繁レル路。 永久四年百首、[illegible]

こげ-ちゃ (名) [焦茶] 〔色、焦ゲタルガ如キ意〕 染色ノ名、茶色ノ、黑黄ノ、濃キモノ。黑褐

こ-けつ (名) [虎穴] 虎ノ棲ム穴。極メテ危險ナル場所ニ譬ヘテ云フ。 後漢書、班超傳 [illegible]

こ-けつ (名) [固結] 固ク、結バルコト。カタマルコト。 [illegible]

こげ-つ・く・ク・ケ カ・キ・ケ (自動、四) [焦着] (一)強ク、焦ゲル。「釜ノ飯ガこげつく」(二)取引所ノ語、相場、動カズ。高低セズ。こげつき相場ナドト云フ。

こけっ-こう (感) 〔こけこけノ條ヲ見ヨ〕 (一)鷄ノ鳴聲ニ云フ語。コケコケ。コッケコウ、東天紅。(二)小兒語ニハ、名詞トシテ、直チニ、鷄ヲ云フ。

ご-けにん (名) [御家人] 〔家人ノ條ヲ見ヨ〕 (一)家人ヲ、丁寧ニ稱スル語。平治物語、[illegible]テ、東ノ方ヘトコソ仰セ候ヒシ」(二)源家ニテモ、家人、御家人ノ稱アリシガ、鎌倉幕府立チテ後ハ、將軍譜代ノ臣ハ、待遇、他ニ勝レタルニ因リテ、一ノ身分、資格ノ稱トナリ、罪アレバ、其稱ヲ剝奪セラルルコトアリキ。室町幕府ノ世トナリテモ、地頭、御家人ト連稱セリ。(花營三代記) [illegible] (三)江戸幕府ノ世ニ至リテハ、萬石以下、將軍ニ謁見スル以上、卽チ、御目見以上ノ者ヲ、旗本ト稱シ、御目見以下ノ者ヲ、御家人ト稱シタリ。(德川禁令考、三十六) 下等ノ者ニハ、幕府ノ威ヲ假リ、人ヲ侵シ振舞フ者、多カリシカバ、ごけにんト云フ語ニハ、風儀ノ惡シキ意味ヲ含ミ云ヒキ。

ごけ-ぶた (名) [後家蓋] ごけ(後家)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

こ-けん (名) [古賢] 古代ノ、賢キ人。 後漢書、[illegible] 太平記、十二、驪姬事「牝雞晨スルハ、家ノ盡クル相ナリト、古賢ノ云ヒシ詞ノ末、實ニモト思知ラレタリ」

こ-けん (名) [沽券] 〔沽却ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)賣券狀。沽券狀。地所、屋敷ナドノ賣買、所有ヲ證スル券。卽チ、賣渡證文ナリ。 光明寺[illegible]記、[illegible]右件屋敷者、云云、[illegible]

レ券」沽却渡子荒木田氏子、實正明白也、云云、沽券之狀如レ件、永和四年戊午十一月一日、播磨官度會久兼」東大寺文書、五「右件敎却者、云云、限二永代一、直錢拾伍貫文仁、宗安殿方奉二賣渡一事、實正明鏡也、云云、爲レ存狀如レ件、應永五年戊寅八月廿二日、年預慶乘花押」(古事類苑) (二)價値ノ意ヨリ轉ジテ、人ノ資格。ヒトガラ。人品。品位「ソンナ言ヲ云ハレテハ、こけんニカカハル」默ッテハ、こけんガサガル」

こ-げん (名) [古言] 古ヘノ言。古代ノ言語。古語。 左傳、昭公十一年「五大不レ在レ邊」註「稱二習古言一、故云二五大一也」 東雅、總論「古言トハ、太古ヨリ近古ニ至ルマデ、其世世ノ人ノ云ヒシ所ノ語言ナリ」

こ-げん (名) [古諺] 古キ諺。 語苑、醍醐「左傳、脣亡齒寒、蓋古諺也」

こ-げん (名) [固關] (けんハ、關ノ吳音(間、けん。華、け)名目抄「固關」) 朝命ニテ、諸國ノ關ヲ、警固セシメラルルコト。專ラ、近江ノ逢坂ノ關、伊勢ノ鈴鹿ノ關、美濃ノ不破ノ關ニ云フ、關ニハ、平時ニモ守備アレド、大事アル時ハ、特ニ、使ヲ在關ノ諸國司ニ遣ハシ、更ニ、非常ヲ警戒セシメラレタリ、コレヲ、固關使ト云フ。日數ヲ經テ、此警固ヲ解クヲ、開關ト云フ。 北山抄、四、拾遺雜抄「固關事、天皇讓位、及、崩、井、上皇、皇后崩、攝政、關白薨時、有二此事一」 禁祕御抄、下「警固、固關、云云、三箇日也」 名目抄、臨時「固關、有二天下吉凶之事一之時、固二三關一」註「會坂、不破、鈴鹿、開關、固關有二日數一、開レ之儀也」 續紀、八、養老五年十二月己卯「崩レ于二平城宮中安殿一、云云、遣レ使固二守三關一」(元正天皇) 同、廿五、天平寶字八年九月「太師藤原惠美朝臣押勝、逆謀頗泄、云云、卽遣レ使、固二守三關一」 後紀、廿、弘仁元年九月「緣二遷都事一、人心騷動、仍遣レ使、鎭二固伊勢、近江、美濃、等三國府、幷故關一」 貞信公記、承平元年七月廿七日「伊勢美濃固關使」

ご-げん (名) [御監] (一)左右馬寮ノ職、左右、各一人、長官ノ上ニ立チテ總裁ス、近衛大臣、兼任ナリ。 倭訓栞、ごけん「御監ヲ云フハ、西宮記ニ、左右馬寮之御監事、上卿奉レ勅、召御寮官人一ト見エ、御二覽馬一、監二騎射一之義也、ト云ヘリ」 (二)親王家司ノ上官。 類聚國史、百六十五、祥瑞、延曆十六年六月「三品朝原内親王、獻二白雀一、御監及家司等、賜レ物有レ差」 中右記、大治四年十月廿二日「五宮親王宣下之日也、云云、職別當三人、御監仰下」

ご-げん (名) [御見] (御見參ノ下略、御光明、御光。 ごげんもぢハ、もぢノ條ヲ見ヨ) 見參ヲ、丁寧ニ云フ語。ごげんもぢトモ云フ。おめもぢ。 俚言集覽、補、御見「見參ノ略カ、多クハ、婦人ノ詞ナリ」 牛太夫節、虎が文(元祿、大磯ノ虎)「マコトニ文ハ閨ノ友、イヨシ御げんト書イタルハ、ホダシノタネカ花薄、云云」 淀鯉出世瀧德(元祿、近松作)下「明日、御見ナリマセウ」 嫗山姥(享保、近松作)五「鬼ノ娘ニ御見もぢ」

ご-げん (名) [五眼] 佛敎ノ語、五種ノ、物見ル作用。卽チ、肉眼、天眼、慧眼、法眼、佛眼、ナリ、(無量壽經)各條ヲ見ヨ。 盛衰記、廿四、胡德樂河南浦樂事、菩提僧正「金容ヲ拜シテ、正シク、五眼ノ功德ヲ開ケリ」

ご-げん (名) [語原] (英語、Derivation.ノ譯語、起源、出所ノ義、我ガ國ニテモ、桑家漢語抄、東雅、倭訓栞、其他、語原ヲ說キタル書、往往アレド、名稱ナシ、言のもとナド云ヘルハ、アリ) 一箇ノ語ノ成立テル原。起源。由來。出自。出所。熟語ナルモノ、(通、略、延、約、アリ)意義ノ移レルモノ、外來ノモノ、ナド、種種ノ成立アリ。此語原ヲ究メザレバ、語意ノ解釋ヲ下スコト能ハズ、隨ッテ、誤釋スルコト多シ。鷄、雉子、蛙、狐、猫ハ、鳴聲ナリ、琴、笛、大鼓ハ、音ナリ、旗モ、はたはたトヒラメク、母ハ愛し愛しノ略、劍ハ吊佩ノ約、馬ハ大馬、漁るハ磯求食る、噓ハ休息萬命ノ急呼、唐土ハ支那ノ地名ノ諸越ノ文字讀、鵲ハ鵲ノ朝鮮語かしニ、鵲ノ字音、痴ハ佛敎語、虛假ノ意ノ轉、鴨脚ハ鴨脚ノ宋音、天麩羅ハ天主敎金曜日祭ノ伊太利語、Tempora.ニ出デタリナド說クガ、語原ナリ。

ご-げん-きん (名) [五絃琴] 支那ノ上古ノ樂器ノ名、傳ハラザレバ、詳カナラズ、コレニ二絃ヲ增シテ、七絃トセルモノ、卽チ、常ニ云フ、琴ナリ。唐書ノ禮樂志ニ、五絃ハ、琵琶ニ似テ小ナルモノトアルハ、琵琶ノ、五絃ニシテ、小ナルモノナリ。(琵琶ハ、四絃ナリ) 倭名抄、四、廿琴瑟類「琴、帝王世記云、炎帝作二五絃琴一、琴操云、伏犧作レ之、以具二宮商角徵羽一、一說云、文王武王、各加二一絃一、二爲レ文武二絃一、云云、琴、長、三尺七寸」 字類抄「琴、キン、樂器也、本五絃、周加二文武二文」

こ-けん-じやう (名) [沽券狀] こけん(沽券)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こけ-むしろ (名) [苔席] 地苔ノ密生シタルヲ、席ニ見做シテ云フ語。 萬葉集、七九「三芳野ノ、靑根ガ峯ノ、蘿席、誰レカ織リケム、經緯ナシニ」

こけ-む・す ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [苔產] (產すノ條ヲ見ヨ) 古くなるト云フ意ヲ云フ語。 萬葉集、十一四十「敷細布ノ、枕ニ人ハ、言問ヘヤ、其枕ニハ、苔生シニタリ」

ご-げんぢゆう-の-もち (名) [御嚴重餠] (ごげんぢゆうハ、御玄猪ノ訛) 玄猪餠ノ敬語、其條ヲ見ヨ。

ごげん-もぢ (名) [御見文字] ごげん(御見)ノ條ヲ見ヨ。

こげ-めし (名) [焦飯] コガレーヒ。炊グ時、釜ノ底ニ、焦ゲツキタル飯。略シテ、こげ。

こけ-もも (名) [苔桃] (果、小ナレバ、苔ト云フニカ) いはなしニ同ジ。

こけ-ら (名) [柿柹] (こけハ、木削ノ下略(弓削、ゆげ)らハ、添ヘタル辭(苔ヲこけらトモ云ヒ、鱗ヲこけトノミモ云フ)らノ條ヲ見ヨ、集韻「柹、芳廢切、音肺」說文「削レ木札樸也」晉書、王濬傳「造レ船木柹、蔽レ江而下」正字通「柿、同レ柹」柹ノ旁ノ中ノ竪畫ハ、上下ヲ貫ケリ、こけら葺ヲかきぶきトモ云フハ、果ノかきノ字ト見誤リテ讀ムナリ、かきノ條ノ語原ヲ見ヨ) (一)木材ヲ、斧、又、手斧ニテ、削リテ落チタル細片。小刀ノ削りくづヲモ云フ。今、こっぱト云フ。 倭名抄、十五六造作具「謂下削二木之朴一所レ出細片上、曰レ柹也、音廢、古介良」 醫心方、十七廿治二漆瘡一方「削二杉材一作レ柹、煮洗」 名義抄「柹、コケラ、ケケラ」 落關集、十一、靈國「コレホドノ大木ヲ、中 過切入リテ候フニ、只今散リタルこけらバカリニテ、前ニ散リツモリタル、無シ」 西鶴織留土産(元祿)「燒木モ、舟大工ノこけらヲ用、云云」 (二)轉ジテ、特ニ、板屋ヲ葺クニ用ヰル、薄キ板、大小、種種ナリ、檜、槇、椹ナドノ材ニテ、長方形ニ削リ成ス、長サ六七寸、又、尺餘ノモノアリ、幅三寸許、厚サ一分許、こけら板トモ云フ。ソギイタ。クレ。コパイタ。ヤネイタ。此板ニテ屋ヲ葺キタルヲ、こけらぶきト云フ。 著聞集、廿、魚蟲禽獸、藥師堂「此堂ヲ修理シケルニ、モトこけらぶきニテアリケルガ、年久シクナリテ、皆朽チ腐リテ侍リケル、云云、建立ノ年紀ヲ數フレバ、六十餘年ニナリニケリ」

(其頃ノ板ノ厚サ、知ルベシ)

こけら (名) 鱗 〔魚、蛇ノ甲、柿葺ノ形ニ似タレバ云フ〕 うろこ、いろこニ同ジ。東京ニテハ略シテ、こけ。[illegible]ノこけら[illegible]トイフ事有、蛇ノこけらノ如ク切ルヲ云也」 佐夜中山集(寛文)「蛇ヲバ、取替ニシテ、こけら鮨」(取替屋根ニ小石ヲ置キタル状ヲ云ヘルナリ) 東雅、十五、草森茸「今モ俗ニ、蛇、又、魚ノ鱗ヲ、こけト云フ」[illegible]

〜こけら (名) 苔 〔らハ、添ヘタル辭(其條ヲ見ヨ)〕 苔、[illegible] 苔ト云フニ同ジ。[illegible]らツイタル松ノ枝ニツケテ、モノス」

こけら (名) 小啄木鳥 〔小けらつつきノ下略〕 小鳥ノ名、きつつきノ條ヲ見ヨ。

こけらいた (名) 柿板 こけら(柿)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こけらずし (名) 柿鮨 〔魚ノ肉ヲ[illegible]スルコト、柿葺ノ如キ意、[illegible]メタル鮨ニ對ス〕 鮨ノ製法。魚肉ヲ薄片トシテ、飯ノ上ニ置ヒ製スルモノ。押鮨ナドモ、是レナリ。[illegible]けらずしノ仕方、鮓ヲオロシ、身ヲ、ヒラヒラト、大キニツクリ、飯ニ鹽加減シテ、程キアハセ、ソノママ[illegible]カケ申ス[illegible]ハカリ也」[illegible] 和漢三才圖會(正德)五十一、魚之用、鮓、云云「一種、[illegible]」

こけらぶき (名) 柿葺柿茸 〔こけら(柿)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 屋ヲ、柿ニテ葺キタルモノ。(茅葺、瓦葺ニ對ス) 板屋[illegible]

こけり (名) 後家入 ごけいりノ條ヲ見ヨ。

こ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 憔 〔瘠ノ意ノ、移リタル語ニテモアルカ〕 痩セテ、肉、脱ツ。痩セ細ル。「[illegible]こけるヲ痩セこける」

こ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 倒 仆 〔下二段活用、倒くニモ擧ゲタレド、今ハ專ラ、下一段ニテ通用ス〕 タフレル。コロブ。横ニナル。臥ス。(つるこけるヲ併セ見ヨ) 丹波與作(寶永、近松作)「[illegible]ニ、ストント腰掛ケテ二ぬかるみテこける」[illegible]ノ上ニこけテ居ル」

こ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下二) 焦 〔こがるノ轉(すがなし、すげなし)下二段ナルベケレド、こぐる、こぐれ、見當ラズ、後世、生マレタル語ナルベシ〕 焦ル。火ニ燒ケテ、黑クナル。「[illegible]」

こ・こ (名) 箇箇個個 〔箇箇ナルベキナリ、箇ノ條ヲ見ヨ〕 一箇、一箇。ヒトツ、ヒトツ。ヒトリ、ヒトリ。杜甫詩「砧聲家家[illegible]」

こ・こ (代) 此處 〔此ト、處トヲ重ネタル語、各條ヲ見ヨ〕 (一)地位ヲ指ス、近稱ノ代名詞。最モ近キニ云フ。モノ、コトコロ。(そこ、かしこニ對ス) 萬葉集、[illegible]大宮此ト、定メケラシモ」 (二)〔これ(是)ニ同ジ。此事。萬葉集、八二、[illegible]長歌「何ストカ、一日一夜モ、離リ居テ、歎キ戀フラム、許己思ヘベ、胸コソ痛メ」 同、十二「死ナム命、此ハ、思ハズ、唯ニシモ、妹ニ逢ハサル、事ヲ、シソ思フ[illegible]」[illegible]門絕エズ、仕ヘマツリ榮エム、許己知リテ、謹マリ、[illegible]キ心ヲ以テ仕ヘマツレ」 (三)此身。我ガ身(其許ニ對ス) [illegible] (四)此時。此場合。「ここヲ先途ト思フ」「ここニ至テ、志ヲ立テテ」

〜こ・こ (數) 九 〔此處ニテ、十ニ迫リタル意ニテモアルカ、イカガ、行帳詞ニ、九ヲ、際、又、崖ト云フ〕 三ノ三倍ノ數。常ニ、九ノ兩ト云フ。「[illegible]」「九ノ夜」「七、八、ここ、十」

こ・こ (感) 呱呱 〔文選、[illegible]、注「字林、呱、子泣聲」〕 乳呑兒ノ泣ク聲ニ云フ語。[illegible]

こ・ご (名) 古語 (一)古ヘノ言。古言。[illegible] (二)古人ノ、語リタル詞。「古語ニ日ク」

こ・ご (名) 胡語 〔胡ノ條ヲ見ヨ〕 胡國ノ言語。

こ・ご (名) 供御 供御ノ條ヲ見ヨ。

ご・こ (名) 五古 五言古詩ノ略、五言、及、古詩ノ條ヲ見ヨ。

ご・こ (名) 五胡 〔胡ノ條ヲ見ヨ〕 支那、東晉、及、南北朝ノ頃、揚子江ヨリ北部一帶ノ地ヲ占據セル五ツノ胡國。即チ、匈奴、羯、鮮卑、氐、羌、ノ種族ノ稱。此五族、分レテ、十六國ヲ建テテ、紛爭セリ。

ご・こ (名) 五湖 支那ニアル、五ツノ、大イナル湖、出典ヲ見ヨ。[illegible] 其他、五湖ニ就イテハ、異說頗ル多シ。

ご・こ (名) 五鈷 こんがうしよ(金剛杵)ノ條ヲ見ヨ、

ご・ご (名) 午後 〔午前ニ對ス〕 ヒルスギ(午、并ニ、時ノ條ヲ見ヨ) 午下。[illegible]

ご・ご (名) 御後 (一)紫宸殿ノ賢聖障子ノ北廂ノ稱。[illegible]「東與ノ端ニ向ヒテ、[illegible]」 (二)神社ニ詣リテ、神殿ニ上リ、背後ヨリ、祭神ヲ拜スルコト。

ご・ご (名) 後五 後五百歲ノ條ヲ見ヨ。

ココア (名) 柯柯阿 〔英語、Cocoa〕 熱帶植物ノ、柯柯阿樹ノ、種子ヲ炒リテ粉トセシモノニテ製シタル飲料。甘クシテ馥シ。(ちよこれえとヲ併セ見ヨ)

こ・こう (名) 戸口 戸數ト、人口ト。史記、高祖功臣年表「[illegible]戸口、[illegible]十二三」

こ・こう (名) 虎口 〔虎穴ト、同意〕 (一)トラノクチ。甚ダ危キ所ニ譬ヘテ云フ語。史記、[illegible] 莊子、盜跖篇「[illegible]幾不免虎口哉」 太平記、七、[illegible]虎口ノ[illegible]遁有テ」 (二)虎口ノ條ヲ見ヨ。

こ・こう (名) 餬口 〔說文「餬、寄食也」糊口ト書キテ、口ニ糊スナド讀ムハ、惡シ〕 (一)他ニ寄リテ、食ヲ得テ、生活スルコト。左傳、隱公十一年「[illegible]使餬其口於四方」 字鏡「餬、寄食也、阿佐利波牟、毛良比波牟」 (二)クチスギ。生活。「[illegible]作ヲ、餬口ノ資トス」

こ・こう (名) 股肱 〔手足ト賴ムナド、同意〕 股ト、肱ト。大切ナル箇所ナレバ、最

モ賴ミトスベキモノニ喩ヘテ云フ語。書經、益稷篇「帝曰、臣作朕股肱耳目」 左傳、昭公九年「君之卿佐、是謂股肱」 太平記、廿六、楠正行參吉野殿事「朕、汝ヲ以テ股肱トス、愼テ、命ヲ全スベシ」

ごこう (名) 蜈蚣 ムカデ。本草別錄「蜈蚣」 時珍曰「節節有足、雙鬚岐尾」 古事記、上八「呉公」 字鏡六十七「呉公」

ごこうごみん (名) 五公五民 くさだかノ條ヲ見ヨ。

こごえじに (名) 凍死 寒サニ凍エテ、死ヌルコト。太平記、十七、北國下向勢凍死事「元ヨリ薄衣ナル人、飼事無リシ馬共、此ヤ彼ニ凍死テ」

✣**こごえる** (動) 凍 こごゆ(凍)ノ口語。

ここく (名) 故國 (一)フルキクニ。舊クヨリアル國。(舊家ト、同趣) 孟子、梁惠王、下篇「所レ謂故國者、非レ謂レ有二喬木一之謂上也、有二世臣一之謂也」 (二)フルサト。故鄉。杜甫詩「取レ醉他鄉客、相逢故國人」

ここく (名) 胡國 〔胡ノ條ヲ見ヨ〕 支那ノ北ノ、胡ノ國。保元物語、二、左府薨逝事「蘇武ガ胡國ニ趣シモ、二タビ、漢家萬里ノ月ニ歸」

ごこく (名) 五穀 イツクサノタナツモノ。イツツノタナツモノ。稻、粟、稗、麥、豆、ノ稱。(神代紀、上卷ニ記セル所ニ據ル、支那ニテ云ヘルハ、區區ナリ、たなつものノ條ヲ見ヨ) 禮記、樂記篇「五穀時熟」 同、王制篇「五穀不レ時、果實未レ熟」 神代紀、上十「五穀」 崇神紀、七年十一月「五穀」

ごこく (名) 護國 一國ヲ鎭護シ、安泰ナラシムルコト。「護國ノ神」

ごこく (名) 呉國 くれ(呉)、幷ニ、りくてう(六朝)ノ條ヲ見ヨ。

ごこく (副) 後刻 ノチホド。ノチガタ。

博多小女郎波枕(享保、近松作)上「跡ノ咄ハ、後刻後刻ニ」「後刻、御目ニカカラウ」

こごぐゎつ (名) 小五月 五月九日ノ稱ナルベシ。中務内侍日記(弘安十一年)「五月九日ハ、小五月ノ御幸ナリ」(近江、日吉神社ノ御幸ナルベシ) 俚言集覽、小五月「古寫本節用集、時候、小五月、コサツキ、江州、坂本祭祀」

こごころ (名) 子心 ヲサナゴコロ。コドモゴコロ。太平記、十六、正成首送二故鄉一事「汝、幼クトモ、父ガ子ナラバ、是程ノ理ニ迷フベシヤ、小心ニモ、ヨクヨク事ノサマヲ、思テモ見ヨカシ」(正行ガ自害セムトスルヲ、母ガ止メテ、父正成ガ遺言ヲ言聞カスル所)

ここ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 子子 〔子子ヲ活用ス、大人大人しノ對、おとなしノ條ヲ見ヨ〕 子供ラシ。イカメシカラズ。源、七、紅葉賀三「舞ノサマ、手ヅカヒナム、家の子ハ異ナル、云云、ゲニイト、カシコケレド、ここしうナマメイタルスヂヲ、エナム見セヌ」 同、廿一、少女九「舞姬ノカタチ、大殿ノ(姬)ト、大納言殿(姬)トハ、勝レタリト、愛デノノシル、ゲニイトヲカシゲナレド、ここしう美シゲナルコトハ、ナホ、大殿ニハ及ブマジカリ」 落窪物語、一、下「心愛シトコソ思ハメト宣フ、ここしけれバ、ラウタシ(愛ラシ)ト思ヒテ」

こごし (名) 小腰 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 腰ト云フニ同ジ。「小腰ヲカガメテ」

こごし (名) 小腰 裳ノ紐。こし(腰)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こごし (名) 小輿 腰輿ノ、小サクシテ、屋形ナキモノ、四方ニ、低キ勾欄アリ。最勝講、法華八講會ノ講讀師、乘用ス、又、齋王ノ、伊勢ヨリ御入京ノ時、乘替ニ用ヰラル。江家次第、五、二月圓宗寺最勝會「講讀師、云云、各居二小輿一、云云、諸司擎、蓋覆二其上一」 西宮記、臨時、五、齋王入京「於二伊賀國堺一、乘二腰輿一、云云、改用二小輿一」

こご・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 磊嵬 〔こごハ、凝凝ノ義ト云フ(凝ろノ語根ヲ重ネタル語、こごろノ語原ヲ見ヨ)ソレヲ形容詞ニ活用セシメタルナリ、碎碎し、喧喧し、同趣〕 磐根、凝リ重リテ、險阻シ。萬葉集、三廿四「磐ガ根ノ、凝敷山ヲ、越エカネテ、哭ニハ泣クトモ、色ニ出デメヤモ」(古義、凝リ重ル山ヲト云フナリ) 同、十三十三長歌「磐ガ根ノ、許凝敷道ノ、磐床ノ、根延ヘル門ニ」 同、三卅八長歌「極此カモ、伊豫ノ高嶺ノ」

こごしやう (名) 小小性 こしやう(小性)ノ條ヲ見ヨ。

こごしよ (名) 小御所 〔御所ノ條ヲ見ヨ〕 (一)鎌倉、室町幕府時代、將軍ノ世子ノ居所ノ稱。又、其世子ノ稱。(大御所ノ(二)ニ對ス) 吾妻鏡、九、文治五年正月九日「若君御方弓始也、射手十人、於二小御所南面一、而有二此儀一」 同、十七、建仁三年九月三日「於二小御所跡一、大輔房源性、欲レ拳レ拾二故一幡君遺骨一之處、云云」 蜷川親俊記、天文十一年十一月廿日「御兄御所樣、一乘院御入室」 (二)室町時代、禁中ニアリテ、將軍ノ、休息シ、裝束ヲツケナドセシ所。音便ニテ、こんごしよ。足利治亂記、上、義滿公任二大政大臣一事「源道義公、此内ノ御時ハ、禁中ニ、御便宜所トテ、休息殿アリ、是レヲ、禁中ノ上下、小御所トゾ申シ合ヘル」 倭訓栞、こんごしよ「二水記ニ、小御所ト見エタリ、足利將軍ハ、云云、禁裏ノ休息所ニテ、裝束ナドモナサレタルヨリ、此名アリ、長橋局ノ向ヒナリトゾ」 (三)江戸時代、禁中ニアリシ御殿、淸涼殿ノ東北ニアリキ。幕府ノ使臣、京都所司代ナドニ、謁見ヲ賜ハリシ所ナリ、文久、慶應ノ頃ニハ、諸大名モ、皆、此所ニテ謁見セシメラレタリ。

ここだ (副) 幾許 次條ノ語ニ同ジ。

ここだく (副) 幾許 〔そこばくノ語原ヲ見ヨ〕 イカバカリ。轉ジテ、甚シク。コキダク。下略シテ、ここだ。萬葉集、十一四上「夕影ニ、來鳴ク茅蜩、幾許モ、日毎ニ聞ケド、飽カヌ聲カモ」 續紀、廿、天平寳字元年七月、詔「汝等ヲ、皇朝ハ、己己太久高ク治メタマフヲ、何ヲ怨シキ事トシテカ、然セム」(謀反ヲ告グル者アルニツキテ宣フナリ) 萬葉集、二、四十五「三笠山、野邊ニユク道、己伎太久モ、荒レニケルカモ、久ニアラナクニ」 同、五八十「妹ガ家ニ、雪カモ降ルト、見ルマデニ、許許陀モ紛フ、梅ノ花カモ」 同、六十三「三吉野ノ、象山ノ間ノ、木末ニハ、幾何モ騷グ、鳥ノ聲カモ」

ここち (名) 心地 〔ここハ、心ノ下略、ちハ持ノ上略(おもほゆ、おぼゆ。おもほす、おぼす)即チ心持ナリ、面持ト同趣ノ語、萬葉集、廿廿二「古米知痩スラム」トアルハ、顏持ノ約ナリト云フ、心地ノ字ハ、釋氏要覽ニ「衆生之心、猶二大地一、五穀五果、從二大地一生、如二是心法一、生二世出世善惡五趣三乘一、以二是因緣一三界唯心、故名二心地一」トアルニ採レルナルベシ〕 (一)ココロモチ。キモチ。氣分。心神 古今集、五、秋、下「神奈備ノ、三室ノ山ヲ、秋行ケバ、錦裁チキル、ここちコソスレ」 源、十七、繪合二「烏ノ囀ルホド、ここち行キ、メデタキ朝ボラケナリ」 同、四十六、總角六十「心ちモ違ヒテ、イト惱マシウオボエタマフ」 (二)〔ここちノ立樣ノ意ニ轉ジテ、思ヒハカルコト。カンガヘ。ココロダテ。思慮 源、三十四、上、若菜、上四九「幼キ人ノ、ここちナキサマニテ、ウツロヒモノスラムヲ、罪ナクオボシ許シテ、後見タマヘ」 同、五十一、蜻蛉四十五「マメ人ノ、サスガニ心ヲトドメテ物語スルコソ、ここち後レタラム人ハ苦シケレ」 (三)ここち惡シキコト。病。(源、十三、明石廿四「ここちあしトテ、寄リ臥シヌ」 榮花物語、八、初花「世ノ中、ここち起リテ、人モ皆亡クナリ、アハレナル事ドモノミ多カリ」 同、九、岩蔭「十四日ヨリ、御心地オ

モラセタマフ」太秦廣隆寺牛祭祭文(惠心僧都作ト云フ)[illegible]「都ニ住ミハベリケル、弱生ノ頃ノコノホド、聖ここち侍ル由、人ノ許ヘ申シツカハシケル(歌)」

ここち・よ・し(キ・ケレ・ク・ク・形、一)心地好快〔ニ同ジ〕[illegible]アヤシノ男ドモ、歌ウタヒ、心ちよゲニ誇リテ」

ここつ(名)枯骨　朽チタル骨。死後ノ骸。[illegible]「恩、枯骨ニ及ブ」

ここと(名)小言〔[illegible]轉トナホル〕(かきます、おきます。かがむ、おおむ。おまかい、おまおい)〕(一)ツブヤクコト。狂ここと云フコト。狂言記、柿山伏、柿盛人ノ山伏ニ、柿主ノ詞、柿盛ミナガラ、ここと言ハズトモ、急イデ往ネ」(たはここと云ヒシナリ)(二)咎メダテシテ云フコト。クチコゴト。[illegible]カモ、説カセマセ」

ここみ(接)於是爰「此處ノ條ヲ見ヨ」書經、咸有一德篇「爰革夏正」傳「爰、於也」(一)此時ニ。此場合ニ。古事記、上[illegible]八[illegible]何故」(二)前ノ事ヲ言ヒ終ヘテ、次ノ事ヲ言ヒ起ス發語ニ用ヰラル。古今集、序「優レタル人モ云云、絶エズゾアリケル、(奈良朝ノ歌人)ここみ、古ヘノ事ヲモ、歌ノ心ヲモ知レル人、僅ニ、一人二人ナリキ、然ハアレド、云云」

ここみおいて(接)於是於玆〔於是ノ二字ハ、ここみトノミ讀ミテアルベキヲ(前條ヲ見ヨ)字ヲ漏ラスマジトテ訓點スルナリ、爲レ人所レ知ナルベキヲ、爲ニ人所ニ知ト訓點スル類ナリ」漢籍讀[illegible]

ノ訓點語　ココニ、此時ニ。又、此故ニ。此理ニ因リテ。ココヲモテ。

ここぬか(名)九日　次次條ヲ見ヨ。

ここの(數ニ連ル)九〔九之ノ義ナリ、ここ(九)ノ條ヲ見ヨ、此、ここの。其、そのナド、代名詞ノ、連體トナルト、同ジ〕ここのへノ九度ノ、「ここの夜」ここのつ[illegible]

ここのか(名)九日〔九の日ノ義、ここぬかハ、音轉ナリ、七日、なぬか。野、の。沼、ぬま〕(一)日數、ココノツ。「九日ノ旅路」(二)月ノ、第九ノ日。ここぬか。長能集「心憂キ、年ニモアルカナ、二十日アマリ、ここのかト云フニ、春ハ暮レヌル」(三月廿九日小[illegible]秋ノ長月ノ、ここぬか毎ニ、[illegible]ム菊ノ、花ノカヒナク、老イニケルカナ」九月九日。

ここのかさね(名)九重　ここのへ(九重)ノ二條ナル、各條ヲ見ヨ。

ここのかへり(名)九返　ココノ度。九度、九次。九回。[illegible]賀「君ニ今日、十年ノ數ヲ、讓リオキテ、ここのかへリノ、萬代ヤ經ム」

ここのし(名)九層〔層ノ條ヲ見ヨ〕九重。舒明紀、十一年十二月「九重塔」

ここのそぢ(數)九十〔九十箇ノ轉、箇ノ條ヲ見ヨ〕十ヲ、九ツ合ハセタル數。九十。[illegible]十五、雜、上「ここのそぢ　アマリ老イヌル、身ニモナホ、花ニ飽カヌハ、心ナリケリ」

ここのたび(名)九度　度ノ、九ツ重ナルコト。ココノカヘリ。九度。九返。

九回

ここのつ(名)九　次次條ヲ見ヨ。

ここのつ(數)九箇〔ここの(九)、丼ニ、箇ノ條ヲ見ヨ〕(一)ココ[illegible]十トヲ合ハセタル數。九。九。(二)年齡、ここのつノ時。九歳。榮花物語、八、初花「小姫君ハ、九ツ、十バカリニテ」「ここのつノ小姫」

ここのつどき(名)九時　往時ノ時ノ名。午前ノ十二時、又、午後ノ十二時。晝、略シテ、ここのつ。時ノ條ヲ見ヨ。[illegible]九、上、[illegible]十九、[illegible]モナク、云云[illegible]ハ九つ時分迄、オヨリ候ヘバ」「明日、九時ニ出仕スベシ」夜ノここのつ過ギ」

ここのつばしご(名)九梯子　格ノ、九段アル梯子。[illegible]七段目「九つ梯子、是レヲ踏マヘテ、下リテタモ」

ここのへ(名)九重〔[illegible]門ニ、外重、中重、内重ト云フコトモアレド、コノここのへハ、漢語、九重ノ訓讀ナルベシ(其條ヲ見ヨ)ここのかさねト云フモ、同ジ〕(一)大内。禁中。禁闕。皇宮。又、ここのかさね。[illegible]十九、[illegible]二年三月、長歌「九重ノ、御垣ノ下ニ、云云、侯ヒ、聞エソト申ス」詞花集、一、春「古ヘノ、奈良ノ都ノ、八重櫻、今日ここのへニ、匂ヒヌルカナ」古今集、十九、長歌「ここのかさねノ中ニテハ、[illegible]モ聞カザリキ」(二)帝都。京都。謠曲、浦島「九重出ヅル旅衣、八重ノ潮路ニ急ガム」同、田村「都ノ都路隔テ來テ、九重ノ春ニイソガム」

ここのへ(名)九重　物ノ、九ツ、重リタルモノ。又、ここのかさね。[illegible]五、秋、下、「[illegible]マダキ、八重[illegible]ノ、ここのへニ、[illegible]ユルハ霜ノ、オケルナリケリ」壬二集、中「冬來レバ、ウツロヒ殘ル、八重菊ヲ、ここのかさねニ、霜ヤスクラム」

ここのよ(名)九夜　九度、夜ヲ歷タルコト。九日ノ夜。古事記、中「[illegible]行」[illegible]カガナベテ、夜ニハ許能用、日ニハ十日ヲ」

ここば(副)幾許　次條ノ語ニ同ジ。

ここばく(副)幾許〔そこばくノ語原ヲ見ヨ〕イカバカリ。轉ジテ、甚シク。コキバク。下略シテ、ここば。萬葉集、四[illegible]五十二[illegible]テハ、幾日モ[illegible]ヌヲ、幾許久モ、狂ヒニ狂ヒ、思ホユルカモ」同、十七[illegible]長歌「島回ニハ、木末花咲キ、許己婆久モ、見ノ清明キカ」同、廿[illegible]長歌「已伎婆久モ、[illegible]キカモ、[illegible]ノ[illegible]キヲ云フ」同、十四[illegible]「[illegible]ノ、絶エニシ妹ヲ、何[illegible]ロト、心ニ乘リテ、許己婆カナシケ」同、十五[illegible]秋ノ夜ヲ、長ミニカアラム、ナゾ許己波、寢ノ寢ラエヌモ、獨寢レバカ」

ココバ・ぢごく(名)虎虎婆地獄〔こばハ、梵語、Hahava. 寒サヲ忍ブ苦聲〕八寒地獄ノ一、酷寒ニ顫ヒテ、口ヨリ開クコト能ハズ、唯、虎虎ノ聲ヲナスヲ得ルノミナリト云フ。(倶舍論寶疏、十一)

ごごひゃくさい(名)後五百歲　佛敎ノ語、釋迦入滅ノ後ノ二千五百年ヲ、五ツニ分ケタルヲ、五五百年ト云フ、其最後ノ五百年ノ稱。卽チ、佛法ノ末期ナリト云フ。(大集經月藏分)法華經ノ利益ヲ說クニモ、「後五百歲、遠沾ニ妙道ニ」ト云ヘリ、略シテ、後五ノ時代ナド云フ。謠曲、現在七面「ソレ、世尊ノ敎法ハ、云云、滅後ノ弘モ、云云、今、後五百歲ノ時ナレバ、時、實ニカナフ、此妙經ヲ弘メツツ」同、舍利「後五ノ時代ノ今更ニ、ナホ執心ノ見佛ノ緣」

ここまでおいで(句)是迄御出　次ニ「甘酒進ぜよ」ト言ヒ添ヘテ、稚兒ノ、歩ミハジメタル時、母ナドノ、好餌ヲ示シテ、少シ離レテ呼ブ語。轉ジテハ、人ヲ誘ク意ニモ云フ。俚言集覽、ここまでござれ甘酒進ぜよ[illegible]瓜喰ニ、昔サル人ノ云友ダチニハ、相應シタル人ヲ求メタルガヨキト云フ事ニ、古人云、君子交淡如レ水、小人交甘如レ蜜ト、ソレヨリ、子共ノ、

友ダチトカタラヒテ、愛までござれ、あまざけ飲ませうト、云フト申サレシ」

こ-こん (名) 古今 いにしへト、いまト。古代、今代。 莊子、大宗師篇「無₂古今₁而後能入₂於不死不生₁」 運歩色葉集「古今(ココン)」「古今ニ類ヒ無シ、古今獨歩、古今無雙」

こご・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 屈踞 〔かゞむノ轉、かきまず、こきます。かごさ、こごさ〕 かゞむ(四段)ニ同ジ。カガマル。クグマル。

ご-こん (名) 五根 〔根トハ、其知覺ノ作用ヲ發生セシムル意〕 佛教ノ語、眼、耳、鼻、舌、身、ノ稱。五官、五感ニ同ジ。(佛教ノ專門語ニ、別ニ、コレト異ナル、五根モアリ) 阿彌陀經「其音、(迦陵頻伽鳥ノ)演₂暢五根五力、七菩提分、八聖道分、如₁是等法₁」

ご-こん (名) 語根 〔英語、Root.ノ譯語、語幹ハ、Stem.〕 語學ノ語。動詞、形容詞、助動詞ノ、語尾ヲ除キテ、殘レルモノ。語尾ノ條ヲ見ヨ。Aka(赤)、Ake(朱)ニ就キテ、Akヲ語根トシ、akeヲ語幹トスル說モアレド、論多シ。語根ハ、語尾ヲ除キタルモノト見テ、然ルベシ。又、語幹トモ云フ。(動詞ニテ、咲(サ)くノ、四段活用ニ變化シテ、く・く・け・か・き・けトナルモノノ、其さヲ指シテ、語根ト稱ヘ、形容詞ニテ、甘(アマ)くノ、第一類活用ニ變化シテ、し・き・けれ・く・く、トナルモノノ、其あまヲ指シテ、語根ト稱フル類)

ご-ごん (名) 五言 詩(シ)ノ條ヲ見ヨ。

ここん-どくぽ(ココン-ドッポ) (名) 古今獨歩 〔どくぽ(ツポ)ノ條ヲ見ヨ〕 古今ニ、唯、一人。古今ニ、匹敵ナキコト。「古今獨歩ノ名人」

こご-め (名) 醜女 醜女(シコメ)ノ條ヲ見ヨ。

こ-ごめ (名) 粉米 小米 古言、コメサキ。アラモト。米ヲ、搗キ精グルトキ、碎ケタルモノ。碎米 米屑 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)三「今日ハ粉米ノ身ヲ碎ク、我レハひね米一年米」

こごめ-ざくら (名) 小米櫻 〔花、粉米(コゴメ)ニ似タリ〕 灌木、叢生、高サ三四尺、葉、狹ク長ク、薄クシテ、縱理(タテスヂ)アリ、春、白花ヲ開ク、大キサ、錢ノ如ク、形、糅(ハゼ)ノ如シ。一名、小米花。畿內ニ、はぜばな。其重瓣ナルハ、形、蜆ノ肉ノ如シトテ、しじみばなノ名アリ。笑靨花

こごめ-ばな (名) 小米花 〔花、粉米(コゴメ)ノ如シ〕 (一)灌木、數多ノ莖、叢生シ、高サ四五尺、葉ハ、披針形ナリ、春、小白花ヲ開ク、簇生シテ、雪ノ積リタルガ如シ。イボタ。珍珠花 (二)前條ノ語ノ一名。

こごめ-びな (名) 小米雛 〔頭、小サク圓ク、小米花ノ如クナレバ云フカ〕 紙雛ノ、極メテ小サキモノ、伊勢ノ山田ニテ、三月三日ニ製シテ飾リタルモノ、丹青ニテ紋樣ヲ畫(カ)キ、男雛、女雛、同製ニテ、男ハ裾ヲ前ノ方ヘ折リ、女ハ後ノ方ヘ折ルニテ、區別シタリ。

こごめ-ゆき (名) 小米雪 〔粉米(コゴメ)ノ如キ意〕 雪ノ、細カク降ルモノ。 遊近集(寬文)「降リナロス、雪ハ瓢(ルヒ)カ、小米ゆき」 倭訓栞、こごめゆき「霰雨雑ニ、粉米雪ト見エタリ」

こご・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 屈踞 〔かゞむ(下二段)ノ轉〕 腰ヲ、前ヘ折ル。カガムル。クグムル。

ここ-もと (代) 此許 コノトコロ。 狹衣、一、上三十八「カノ蓮ガモトハ、何レゾト問ハセタマヘバ、云云、こゝもとニ侍ル」

こ-ごもり-ざけ (名) 子籠鮭 鹽引ノ鮭ノ腹ニ、又、其鮞(コ)ヲ鹽漬ニシタルヲ、籠メタルモノ。イレコザケ。內子鮭 主計寮式「內子鮭(コイモリノサケ)」

こごや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 凍 〔次條ノこごゆノ他動、冷(ヒ)ゆ、ひやす。費(ツヒ)ゆ、つひやす〕 コヨス。凍ユルヤウニス。冷(ヒ)ヤス。 孟子、告子、上篇「一日暴(アタタメ)之、十日寒(コゴヤス)之」

こご・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 凍 〔凍(コ)い凍(コ)ゆト重ネテ、意ヲ強メタル語ニテ(凍い凝る、こごる。續ぎ續ぐ、つづく)然シテ、上二段活用ガ、下二段ニ變ジタルナルベシ、棄てらるノ、約マリテ、廢(スタ)るトナリテ、四段ニ變ズルナドノ例モアリ〕 強(イタ)ク凍(コ)ユ。甚シク寒サニ侵サレテ、體ノ感覺ヲ失フ。 名義抄「凍、ココヒタリ、コイタリ」 延慶本、平家物語、一、末、成親北方被₂遣₁使備前₁事「飢エテヤ死ニタマハム、こごえテヤ失セタマハム」

こ-こら (代) 爰等 〔らハ、是(コ)、これ、其(ツ)、それノ、れニ通ズ、らノ條ヲ見ヨ〕 ココ。ココノアタリ。「こゝらニ居タ」

こ-こら (副) 幾許 〔そこばくノ語原ヲ見ヨ〕 こゝだく、こゝだニ同ジ。イカバカリ。甚ダ。多ク。ココバク。 八雲御抄、五「こゝら、多キ也」 倭訓栞、こゝら「萬葉集ニ、幾許ヲ讀メリ、こゝだニ同ジ」 萬葉集、十七 五十「秋ノ夜ノ、月カモ君ハ、雲(クモ)隱(ガク)リ、シバシモ見ネバ、幾許(ココダ)戀シキ」 古今集、十九、誹諧「世ノ中ハ、イカニ苦シト、思フラム、こゝらノ人ニ、恨ミラルレバ」 亭子院歌合「程モナク、散リナムモノヲ、櫻花、こゝら久シク、待タセツルカナ」 源、四十八、寄生「中宮ニハ、宮達サヘ、アマタこゝら、大人(オトナ)ビタマフメルニ」

こご・らす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 凍結 〔こごるノ他動、照る、てらす。鳴る、ならす〕 凍結(コゴ)ルヤウニス。コゴラシム。 靈異記、下、第十五緣「煮(コゴラス)鯉寒凝」

こ-こり (名) 心 〔こころノ語原ヲ見ヨ〕 こころ(心)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

こごり (名) 凍結 コゴリタルモノ。 料理物語、煮物「鮒ノこごり、タレ味噌ニカゲヲオトシ、骨ノ和(ヤハ)ラカニナリ候マデ煮申候テ、風フキニヲキ候ヘバ、一時ノ間ニ、コゴリ候」「煮こごり」

こごり-どうふ (名) 凍豆腐 こほりどうふ(氷豆腐)ニ同ジ。

こご・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 凍結 〔凍(コ)い凝(コ)るノ義(倭訓栞)凍(コ)い凍(コ)ゆ、こごゆモアリ〕 凍(コホ)リテ、凝(コ)リ固マル。(油ナドニ) 萬葉集、一 廿九 長歌「磐床(イハドコ)ト、川ノ氷凝リテ、冱(サ)ユル夜ヲ」 同、十一 廿二「雖₂打不₁寒(ウテドモコリズ)」(寒ノ字ノ誤ナド、訓ヲ採ル、但シ、活用、異ナリ)

こ-ころ (名) 心 〔凝(コ)り凝(コ)りノ、こごり、こゞろト轉ジタル語ナリ、サレバ、こゞり、こゞろトモ云ヘリ、萬葉集、廿一 三十「妹ガ去去里(ココリ)」 神代紀ニ、田心姬(タゴリヒメ)トアルモ、こごりナルベキカ、凝海藻(ココロブト)、自凝島(オノコロジマ)、同趣ナリ(凍(コ)い凝る、寒(コ)凝る、凝凝(ココ)シキ山。禮代(キヤシロ)、ゐやじろ。拾(ヒロ)ふ、ひりふ)沖繩ニテ、心ノヲ、くくるト云フ、きも(肝膽)ト云フ語モ、凝物(コリモノ)ノ略ニテ(其條ヲ見ヨ)臟腑ノ事ナリ「こゝろぎも」きもごころ「きも向フ心」叢(ムラ)ぎもノ心」ナドモ云フ〕 (一)〔腹中ニ凝リ集レル臟腑ノ稱ニテ、ヤガテ、腹(ハラ)ノコトヲ云フ。(伴信友ノ方術源論) 古事記、中(仲哀)六十二 神功皇后「懷姙臨₂產₁、卽為₂鎮₂御腹₁、取₂石以纏₂御裳之腰₁」 萬葉集、五 廿七 鎮懷石長歌(神功皇后)、云云、御許許呂(ミココロ)ヲ、鎭

メタマフト、云云、二ツノ石ヲ、云云、歌ノ題ニ「用ニ亞ル石ハ福岡郡神之中ハ以錢三錢紙ニ」(こころハ、腹ナリ) 雄略紀、廿三年八月「腎ノ鍋心府ニ」名義抄「心、ココロ、ムネ」萬葉集、二十、防人歌「[illegible]カネツモ」武士ノ、赤心ヲ示サムガ爲ニ、腹ヲ割ルコト、又、腹を見せる、腹をすゑてかかるナド云フモ、是レナリ。(二)[illegible]人ハ、[illegible]ノ、[illegible]ナリ(心ヲ、うらトモ、おたトモ云ヒ、心ノ隈ナドモ云フ)因リテ、動物ノ、思ヒ覺ルコトノ主宰ノ稱トス。意識生活ノ本體。[illegible] (三)〔ナサケ、情〕情。萬葉集、一「三輪山ヲ、シカモ隠スカ、雲ダニモ、情アラナム、隠サフベシヤ」(四)〔ココロバセ〕オモヒ。意 神代紀、上「意所不快」(五)オモンバカリ[illegible] (六)コトワケ。意味。意義「文字ノ心」「歌ノ心」

こころ (名) [心臓] 〔支那ヨリ醫術ヲ傳ヘ、五臟六腑ノ明ニ[illegible]、腹中ノ一機關ノ名ニ移シ[illegible]リ、ここトモ云ヒ、臟ノ、肝臓ノ名トナリシモ、是レナリ〕 心臓ニ同ジ。心さわぎ、心ときめきナド云フモ、心臟ノ鼓動ナリ。字類抄「心、ココロ、五臟、心也」

こころあがり (名) [心上] 思ヒアガルコト。高ブルコト。傲慢 枕草子、三、二十三段、草は「おもだか(面高)モ、名ノヲカシキナリ、心あがりシタラムト思フニ」

こころあさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [心淺] 情、薄シ。了解、少ナシ。源、三十一、槇柱「心あささ人ノタメニゾ、寺ノ驗モアラハレケン」

こころあたり (名) [心當] 心ニ、思ヒアタルコト。又、其所。[illegible]、[illegible]上[illegible]分、心當りガアルカラ、[illegible]シニャラウ」「こころあたりガナイ」こころあたりヲ聞キアハス」

こころあて (名) [心中] 考ヘ中テテ居ルコト。心ニ、頼ミテ居ルコト。推測 「明日ハ晴ルルカト、こころあてニシテ」

こころあてみ (名) [心當] 心ニ、オシアテ。推量シテ。推測 古今集、五、秋、下「心あてに、折ラバヤ折ラム、初霜ノ、オキ惑ハセル、白菊ノ花」源、四、夕顔六「心あてに、ソレカトゾ見ル、白露ノ、光ソヘタル、夕顔ノ花」

こころあひのかぜ (名) [心合風] 〔心合ノ風〕 心ヲ[illegible]ト、父子、男女、朋友、思ヒ合ふ、心ヲ消息スルニ就キテ云フナリ」 消息シテヨコト、夫方へ吹ク風ニアツラフル意ニ云フ語。催馬楽、道口「道口、武生ノ國府ニ、我レアリト、親ニ申シタベ、心合ノ風ヤ、[illegible]」(越前ノコトナリ) 古今集、廿、東歌「甲斐ガネヲ、[illegible]シ、吹ク風ヲ、人ニモガモヤ、言傳テヤラム」 平家物語、[illegible]ガ、配所ヨリ、木ノ卒都婆ニ[illegible]ケテ、[illegible]ニ[illegible]トテ、海ニ流シタル歌ニ「薩摩潟、沖ノ小島ニ、我レアリト、親ニハ告ゲヨ、八重ノ潮風」

こころいき (名) [心行] 〔こころゆくノ名詞形〕 (一)ココロバセ。心ノ、向フトコロ。意向 曾我五人兄弟(元禄、近松作)三「心の[illegible]ノイトシラシイ、氣ノマノ、スゲナ男」傾城買二筋道(寛政、梅暮里谷峨)「主ノ心いき次第デ、ドウトモ致シイス」(二)轉ジテ、キダテ。キマヘ。意氣。

こころいられ (名) [焦燥] 〔心被焦ノ義〕 心、苛立テ、肝ヲ煎ラスナドスルコト。焦燥 源、四十六、總角「ノドカニオボセ、こころいられシテ、ナ、根ミ聞エタマヒソ」枕草子、八、八十段、くるしげなるもの「心いられシタル人」

こころい・る・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) [心入] 心ヲ、カタムク。熱心ニナル。[傾意] 宇津保物語、藤原君「[illegible]二心いれテ、アソビノ道ニモ入リタチタマヘル」萬代集、四、秋、上「語人ノ、こころいるラシ、梓弓、引[illegible]ノ野邊ノ、秋萩ノ花」源、十、榊五十六「强ヒテ、我ガ心ノいる方ニ靡キタマフニコソハ侍ラメ」

こころいれ (名) [心入] ココロイルルコト。氣ヲツクルコト。注意 [illegible]四十六、[illegible]「イト心いれナカリケル[illegible]色ヲ見テ」

こころ・う・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) [心得] 其心ヲ、覺リ得。其意ヲ解ス。會得ス。意得 會心 源、二、帚木「吾ガ妹ドモノ、ヨロシキ聞エアルヲ思ヒテ宣フニヤ、トヤこころうラム」狹衣、一、下「ツラキ方ニ思ヒタルト、心得さマヒテ」源、十三、明石六「サバカリ[illegible]シカリツル[illegible]ニ、イツノマニカ[illegible]出シツラムト、こころえ[illegible]ク思ハリ」枕草子、八、八十三段、[illegible]ノ[illegible]ト言出デバ、心モゾ得タマフ、スズロニ、フト、[illegible]ヒタラバ、アヤシナド、打チカタブキタマハム」

こころう (形) [心憂] 次條ヲ見ヨ。

こころう・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [心憂] 心ニ思ヒテ、ツラシ。心ノ中、苦シ。[illegible]七、紅葉賀三「若キ女房ナドハ、心うしト、耳トドメケリ」枕草子、四、四十四段「何カ、イト心うきコトノ侍リシカバ」伊勢物語、廿二段「心うかりテ、行カズナリニケリ」宇[illegible]拾遺、三、第八條「佳キヲ取ラレテ、ワビシウ心うしト思ヒテ」 こころうト、語根ノミヲ用キルコトアリ。あな尊ナド同趣ナリ。源、五、若紫四十六「オソロシト思ヒタレバ、アナ心う、麿呂モ同ジ人ゾトテ、掻キ抱キテ、出デタマヘバ」

こころうつく・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [心可愛] 〔うつくし(愛)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)其心、愛シ。愛ラシ。カハユラシ。萬葉集、十四[illegible]「[illegible]」伊勢物語、十六段「人ガラハ、こころうつくしう、貴ハカナル事ヲ好ミテ」(二)打チトケテ、親シマル。源、廿三、初音三「心うつくしト云ヒナガラ、アマリ打チトケ過ギタリトオボセド」花鳥餘情「心ニ思フコトヲ、アリノママニ云フヲ、心うつくしト云フナリ」同、七、紅葉賀十三「例ノウルハシウ装シキ御狀ニテ、心うつくしき御氣色モナク、苦シケレバ」[illegible]女君ニモ、心うつくしう、アリサマ語リキコエテ、一ツ心ニオボシメスベク」

こころうつり (名) [心移] 意思ノ、他ニ移ルコト。ココロガハリ。變心

こころえ (名) [心得] (一)ココロウルコト。心ニ、解シテアルコト。會得 狹衣、四、下廿「大方ノ殿上人ナドノ心得ニシツツ、アマタマキラセシ扇ヲバ、云云」(二)トリハカラヒ。狂言記、[illegible]「[illegible]上ヘハ、[illegible]ノ御心得ヲ以テ、宜シウ仰上ラレテ下サレマセイ」「我ガ一分ノ心得ヲ以テ、受取リオク」(三)假リニ、其職務ヲ取リハカラフコト。假役。權官ノ意。「[illegible]心得」

こころえがほ (名) [心得顔] 得意ナル才モモチ。源、三十四、上、若菜、上八「フト心えがほニモ、何カハ應ヘキコエサセム」夫木抄、十四、冬「今夜ハト、こころえがほニ、[illegible]月ノ、光ヲモテナス、荷ノ白露」

こころえちがひ (名) [心得違] 思ヒ誤リテアルコト。ココロタガヒ。オモヒチガヒ。誤解 「心得ちがひノ無キヤウ、注意ス」

✣こころ・える (動) [心得] こころう(心得)ノ口語。

こころおきて (名) [心掟] 心ノ處置。源、

十四、澪標「生キタラムトモ覺エザリツルヲ、此御こゝろおきてノ、スコシ、物思ヒ、ナグサメラルルニゾ」同、五十三、夢浮橋「昔ヨリ深カリシ方ノこゝろおきて、語リタマフ」宇治拾遺、十五、十二條「人ノ世ニアルヤウハ、道理ヲモチテ、身ノ飾トシ、心ノおきてトスルモノナリ」

こころ-おきなく (副) 〔無心置〕 氣ガネセズニ。氣ヅカヒナク。遠慮セズニ。「こゝろおきなく受取ラレヨ」「心おきなく話ス」

こころ-お・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔心置〕 (一)心ヲ、トドム。氣ヲツク。注意 源、廿一、少女「今サラノ齡ノ末ニ、心おきテハオボサルラム」古今集、十二、戀、二「露ナラヌ、心ヲ花ニ、おきソメテ、風吹ク毎ニ、物思ヒゾツク」(二)ココロヅカヒス。遠慮ス。顧慮 源、二、帚木「我レモ人モ、ウシロメタク、心おかレシヤ」同、卷廿四「好キタハメラム女ニハ、心おかセタマヘ」

こころ-おく・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔心後〕 心、鈍クアリ。心ニおくれアリ。氣オクレス。憚ル。逡巡 狹衣、三、上「カウマデ、こゝろおくれ、思ヒヤリナキワザ、爲出デタマフベシトハ思ハザリケル」源、三十二、梅枝「泣シウこゝろおくれテモ、進ミ出ヅル涙カナ」

こころ-おごり (名) 〔心劣〕 こゝろまさりノ條ヲ見ヨ。

こころ-おひ (名) 〔心生〕 自然ニ、生ヒ出デタルコト。自生 宇津保物語、吹上、上「草木ナトハ、こゝろおひニ思ヒタルハ、ツタナキモノナリ、人近ニテ、朝タナク、ツクロヒタルナム、姿、アリサマ、ナサケ侍リ」

こころ-おぼえ (名) 〔心覺〕 (一)心ニ、オボエテ居ルコト。記憶 (二)記憶ノタヨリニスルモノ。備忘 狂言記、料理聟「ソナタハ、物ヲ書クカ、イヤ私ハ、書キマセヌガ、女共ガ、鳥ノ足跡ノ樣ナ事致シテ、心覺致シマス」

こころ-がかり (名) 〔心掛〕 思ヒワヅラフコト。氣ガカリ。殘念。關心 拾玉集、三「シバシナル、今朝ノ別レニ、見ツルカナ、心がかりノ、行末ノ夢」金葉集、一、春「衣手ニ、雪ハ散リ積ム、櫻花、夜ハ心ニ、かかるナリケリ」

こころ-が・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔心掛〕 常ニ、心ヲツク。常ニ、思ヒ設ク。用意 基佐集、冬「此ノ頃、東ノ方ヨリノボレル人トテ、侍リケルガ、腰折ヲモこゝろがくる人ト、ある者イヘリケレバ、強ヒテ詠マセニケリ」源、六、末摘花「中務ノ君、云云、頭ノ君心がけタルヲ、モテハナレテ」後撰集、一、春、上「年ヲ經テ、こゝろがけタル女ノ、今年バカリヲダニ、侍チクラセト云ヒケルガ」

こころ-がけ (名) 〔心掛〕 心掛クルコト。用意 常ニ心ニ、思ヒ設ケテ居ルコト。狂言記、文山だち「矢立ヲ用意シタ、夫レハ、好イ心掛けヂャ」

✤**こころ-が・ける** (動) 〔心掛〕 前前條ノ語ノ口語。

こころ-がさ (名) 〔心嵩〕 心ニ、嵩アルコト。膽太キコト。剛氣 太平記、七、先帝船上臨幸事「家富ミ、一族廣ウシテ、心がさアル者ニテ候ヘト、ゾ語リケル」(名和長年ノ事) 沙石集、四、下、第三條「在家ノ風情、云云、器量モ弱ク、果報モ下リテ、心ノかさナク、オホケナキ企テナシ、タダ世ニ從ヒ諂ヒテ、云云」

こころ-がはり (名) 〔心變〕 (一)氣ノ、狂フコト。多武峯少將物語「頭剃レト宣ヒケリ、イトアサマシクテ、禪師ノ君、ナド、カクハ宣フ、御心がはりヤシタマヘル、ト宣フママニ、泣キタマフ」(二)意思ノ、他ニ移ルコト。ココロウツリ。變心 源、五十、浮舟「イカナル人ノ、心がはりヲ見ナラヒテ、ナド、ホホヱミテ」續千載集、五、秋、下「老イヌレバ、昔バカリモ、ナガメヌヲ、心がはりト、月ヤ思ハン」

こころ-がへ (名) 〔心替〕 互ニ、心ヲ入レ替フルコト。我ガ心ヲ、他ニ思ヒ知ラスル意ニ云フ。古今集、十一、戀、一「心がへ、スルモノニモガ、片戀ハ、苦シキモノト、人ニ知ラセム」新續古今集、二、春、下「散ル花ノ、惜シサヲシバシ、知ラセバヤ、心がへセヨ、春ノ山風」玉葉集、十一、戀、三「我ガ魂ヲ、君ガ心ニ、入レかへテ、思フトダニモ、言ハセテシガナ」

こころ-がまへ (名) 〔心構〕 心ニ構ヘテ、待受クルコト。思ヒ設クルコト。ココログミ。覺悟。用意 心算 源、五、若紫「殘リノ齡ユタカニ經ベキ心がまへモ、ニナクシタリケリ」狹衣、二、上「ツレナノ御心がまへヤト思フモ、憎クハアラデ、打チ笑マレケリ」

こころ-から (副) 〔心從〕 (一)シンカラ。シンソコカラ。心底ヨリ。御堂關白集「色ウスキ、垣ホシカゲノ、ナデシコノ、心からニヤ、色ハマスラン」狂言記、泣尼「唯眞實ニ來世ハ助ケ給ヘト、心から隨喜ノ泪ヲコボシ、佛ヲ禮マセラレ」(二)自心ヨリ。心ヅカラ。ココロト。後撰集、十三、戀、五「人ヲノミ、恨ムルヨリハ、心から、コレ忌マザリシ、罪ト思ハン」

こころ-がら (名) 〔心柄〕 然、思ヘルヨリ、斯クナレルコト。新拾遺集、十五、戀、五「オノレ鳴ク、心からニヤ、空蟬ノ、葉ニオク露ノ、身ヲクダクラン」「心からニテ、乞食トナル」

こころ-がろ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔心輕〕 心得、輕輕シ。心、移リヤスシ。六帖、四「出デテ往ナバ、心がろしト、云ヒヤセム、世ノアリサマヲ、人ハ知ラズテ」源、四十五、椎本「ナホサリゴトナドノ給フワタリノ、心がろうテ、ナビキヤスナルナドヲ」

こころ-ぎたな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔心穢〕 心、卑シ。(次次條ノ心ぎよしノ反) 腹グロシ。源、三十二、梅枝、薫物合「何レヲモ、ムトクナラズ、定メタマフヲ、心ぎたなき判者ナメリト、嫌ヒタマフ」

こころ-ぎも (名) 〔心肝〕 (こゝろト、きもトノ條ヲ見ヨ) 心ト云フニ同ジ。キモゴロ。キモダマシヒ。雄略紀、廿三年八月「何不罄竭心府、誡勅懇懃」源、五十、浮舟「言ヒカハス事ドモニ、イトド心ぎもモツブレヌ」大和物語、下「心ぎもヲ惑ハシテ、求ムルニ」

こころ-ぎよ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔心淸〕 心ニ、濁リナシ。(前前條ノ心ぎたなしノ反) 榮花物語、三十、鶴林「今ナム、云云、極樂ニモ、こゝろぎよく參リハベルベキ」源、十四、澪標「ヒキタガヘ、心ぎよくテ、アツカヒキコエン」

こころ-ぐ・き (形) 次條ヲ見ヨ。

こころ-ぐ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔心苦〕 (こゝろぐるしノ略ト云フ(目苦し、めぐし。蝦手、かへで(楓)。歸るさ、かへさ)形二ノ、形一トナルハ、熱き、熱しきナドノ例ナルベキカ) こゝろぐるしニ同ジ。萬葉集、四、五十一「春日山、霞タナビキ、情具久、照レル月夜ニ、獨リカモ寐ム」(心苦シク獨寐セムカ、マア) 同、八、九十七「情具伎、モノニゾアリケル、春霞、タナビク時ニ、戀ノ繁キハ」同、十七、廿九長歌「君侍ツト、心戀スナリ、己許呂具志、イザ見ニ行カナ」古事記、中(應神)七十五ノ大御長歌ニ、許登那具志トアルモ、言苦しノ意ナリト云フ。(其條ヲ見ヨ)

こころ-くばり (名) 〔心配〕 心ヲ、種種ニ配ルコト。ココロヅカヒ。氣クバリ。心配。配慮。注意 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「思ヒハ四方、身ハ一身、心くばりニ目モクラミ」

こころ-ぐみ (名) 〔心組〕 思ヒ設クルコト。ココロガマヘ。心算

こころ-くらべ (名) 〔心競〕 心ノタケヲ、競ブルコト。イキハリ。源、十三、明石「こゝろくらべに負ケムコソ、人ワルケレ」後拾遺集、十六、雜、二「サモコソハ、こゝろくらべニ、負ケザラメ、ハヤクモ見エシ、駒ノ御カナ」

こころ-ぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二)

[心苦]（一）思ヒテ、苦シ。ココログシ。[illegible]竹取物語「御心、[illegible]バ、情（ココログル）苦しモ」（辞リテ歸ル時ナリ）竹取物語「御使、仰言トテ、翁ニ曰ハク、イト心ぐるしく物思フナルハ、眞（マコト）ニカト仰セタマフ」（竹取翁ニ勅使ナリ）（二）氣ヅカハシキ意ヨリ轉ジテ、アハレナリ。カハユサウナリ。氣ノ毒ナリ。[illegible]フコト、月日經ニケリ、岩木ニシアラネバ、心ぐるしトヤ思ヒケム、ヤウヤウ、アハレト思ヒケリ」枕草子、一、第四段「思ハム子ヲ法師ニナシタラムコソハ、イト心ぐるしけれ」源、廿三、初音二「織物ノ袿（ウチギ）ヲ着タマヘル、イト寒ゲニ、こころぐるし」

こ-ゴロけ（名）[小瓦器]〔小がはらけノ約〕瓦器（カハラケ）ノ、極メテ小サキモノ。倭訓栞、「こころけ「土器ノ小キヲ云フ、小がはらけノ急語也、[illegible]はらけ[illegible]フ」

こころげさう（名）[心懸想]　心中ニ、[illegible]思ヒ[illegible]忍ビ[illegible]二三人アルハ、世ニメデラレタマフ御アリサマヲ、ユカシキモノニ思ヒキコエテ、心げさうシアヘリ、云云、正身（サウジミ）ハ、何ノ心げさうモナクテオハス」榮花物語、十一、若花、尼上、イミジウシツラヒテ、我レモ、イミジク心げさうセサセ給ヒテ、待チ聞エサセ給フホドニ」

こころおは・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）[心強][illegible]

こころざし（名）[志]（一）[illegible]コミ。意向。大和物語、中「心ざしノ、マサラムニコソハ逢ハメ、ト思フニ、心ざしノホド、タダ同ジヤウナリ」（二）〔贈物。進物。贈貽。土佐日記、二月十六日「ツラク見ユレド、心ざしハセムトス」源、十四、澪標十「御使ニモ、二ナキサマノ心ざしヲ盡ス」同、五十一、蜻蛉三十帖、太刀「是レハ、昔ノ人ノ御心ざしナリトテ、贈ラセテケリ」志は木の葉に包む。又ハ、松の葉に包む、ナドトイフハ、志ダニ厚クアラバ、贈物ハ、輕微ニテモヨシ、ノ意（こころざしハ、語原、[illegible]）[illegible]及、其[illegible]ヲ見ヨ）[illegible]心ざし、木の葉に包む、[illegible]ラレモセヌ、[illegible]心ざしは、ホンノ松の葉[illegible]ヤフ[illegible]（三）亡魂へノ手向。追善。追福。狂言記、どちはぐれ「今日ハ、サル御方ニ、志ヲナサレ」

こころざ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）[志]〔心指すノ義〕（一）心、其方へ動キ向フ。思ヒタツ[illegible]メザス。貫之集、三「打チナムレテ、心ざしツツ、行ク道ノ、思フ思ヒヲ、神モ知ルラムニ」（二）[志]シテ、贈ル。[illegible]贈與。後撰集、十三、戀、五「此男ノ志ざせリケル扇ニ、書キツケテ侍リケル」同、十六、雜、二「筑紫ヨリ、播磨（サシグシ）ヲ心ざすトテ」宇治拾遺、一、第二條「里村ノ者、コレ[illegible]人ニモこころざし、[illegible]我レモ[illegible]ド[illegible]（三）亡魂へ、香花ヲ手向ク。[illegible]今日ハ[illegible]ニテ候フ程ニ、[illegible]所へ參リ候」

こころざはり（名）[心障]　思ヒニ、逆（サカ）フコト。氣ザハリ。

こころざび・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[心淋]　心ニ、サビシク感ズ。懐然

こころざま（名）[心狀]　心操（ココロバセ）ノ狀。心體（シンテイ）。源、六、末摘花[illegible]物思ヒ知ラヌヤウナル心ざまノ、[illegible]サ[illegible]一[illegible]七[illegible]ハ八、[illegible]イ[illegible]ママニ、イトワキ心ざま、カタチニテ、十二心モ[illegible]ハシキコ[illegible]」

こころさわぎ（名）[心騷]　心識ノ、動キ騷ルコト。ココロバシリ。ムナサワギ。

[心悸]　狹衣、一、下四十八「何ト思ヒ別（ワ）クコトハナケレド、心さわぎシテ、胸、ツト塞（フタ）ガリタル心地スー」源、四、夕[illegible]ママ[illegible]、イキ[illegible]ツ、トナキモホス心さわぎニ、身ノ上モ知ラレ給ハズ」

こ-ころし（名）[子殺]　吾ガ子ヲ、殺スコト。（主殺、親殺ナド二對ス）[illegible]條、人殺、井、疵付、御仕置之事「非分モ無レ之實子、養子ヲ殺候實、[illegible]ニテ、[illegible]殺候ハバ、[illegible]島、但、[illegible]之者、利得ヲ以テ殺候ハバ、死罪」

こころしづかに（副）[心靜]　心、オチツキテ。心ノドカニ。宇津保物語、樓上、下四十「仲忠、官（ツカサ）ニ暇（イトマ）申シ（ウ）ハリテ、こころしづかに物シハベラムトオシ[illegible]ヘバ」後拾遺集、廿、[illegible]サヘテマサヘ、[illegible]花ノ[illegible]ヲ、心しづかに」

こころしらひ（名）[用意]　ココロシラフコト。ココロヅクシ。ココロクバリ。ココロヅカヒ。源、四十九、東屋[illegible]「フリハヘ、サカシラメキテ、心しらひノヤウニ思ハレハベラム」[illegible]物語、一、下[illegible]「こころしらひノ用意[illegible]ギテ」

こころしら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[用意]〔しらふノ條ヲ見ヨ〕心ヲ盡（ツク）ス。心ヲツカフ。心ス。注意ス。[illegible]廿一年六月「正[illegible]仁[illegible]兵[illegible]」火右ニ物[illegible]大[illegible]上[illegible]」[illegible]宮ニ曰、[illegible]」[illegible]名[illegible]心シラフ」[illegible]物語、廿九、玉[illegible]「ヨロ[illegible]カニ、心しらひマヰラセタマフモ、アハレニナム」

こころしり（名）[心知]　心體（シンテイ）ヲ知ル者。ネンゴロナル人。知人。宇津保物語、國譲、上、三[illegible]少将、心しりノ御乳母（メノト）ノ[illegible]ニ、[illegible]ヒキコセタマフ[illegible]源、十、[illegible]心しりノ人、二人バカリ、心ヲ惑ハス」同、三十四、上、若菜、上百三「ヤヤモスレバ、花ノ木ニ目ヲツケテ、眺メヤル、大将ハ、心しりニ、アヤシカリツル、ミスノスキカゲ、思ヒ出ルコトアラント」

こころ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、[illegible]）[心]　心ヲ、トドム。ココロシラヒス。[illegible]ヲ[illegible]ク、用心ス。注意。古[illegible]ニウタニ[illegible]フ[illegible]子ナレバ、[illegible]草子、四、三十九段「良キ草紙ナドハ、イミジク心して書ケドモ[illegible]ヨ、今日ヲバ常ノ、春トヤハ見ル」

こころすご・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[心凄]　思ヒテ、恐（オソ）ロシ。ケ、スサマジ。悽愴。宇津保物語、[illegible]ト云フ鳥ノ、心すごく鳴キタル[illegible]中務集[illegible]ニモ、アルモノヲ、心すごくモ、風ノ吹クカナ」

こころぜは・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）[心忙]　心ニ、忙シク思フ。氣ゼハシ。忙忙「心ぜはしさ節季」

こころぞへ（名）[心添]　他ニ、思案ヲ、添ヘ教フルコト。ココロヅケ。忠告

こころそら（名）[心空]　こころノ條ヲ見ヨ。

こころだか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）[心高]　見識、高シ。ケダカシ。昂昂然　源、五、若紫六「海龍王ノ后ニナルベキいつき娘ナナリ、こころだかサ、苦シヤトテ、笑フ」新古今集、十七、雜、中「世ノ中ヲ、心だかくモ、厭フカナ、富士ノ煙ヲ、身ノ思ヒニテ」拾玉集（慈鎮）二「世ノ中ヲ、心高くハ、思ヘドモ、人トヒトシキ、事ノナキカナ」

こころたがひ（名）[心違]　心ノ、常理ニ違（タガ）ヒタルコト。心得チガヒ。誤解。乖忤　源、三十一、槇柱六十「心たがひトハ云ヒナガラ、ナホ、メヅラシウ、見知ラヌ人ノ御アリサマナリヤ、ト爪（ツマ）彈（ハジキ）セフレ」他動ニ用ヰテ、宇津保物語、[illegible]一アナ、[illegible]ニクヤ、心たがへナリト宣フ」

こころだくみ（名）[心匠]　心ノ工夫。思案。[心算][illegible]物語、[illegible]五、雜、御室トナ[illegible]造ルベキ、カクナム建ツベキナド云フ御心だくみ、イミ

ジ」山家集、下、觀音寺ノ堂「寺造ル、此我ガ谷ニ、土埋メヨ、君バカリコソ、山モ崩サメ」返「山崩ス、其力根ハ、難クトモ、心だゝみヲ、添ヘコソハセメ」

こころだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）[心立] 思ヒ立ツ。思ヒオコス。發意 源、三十四、上、若菜、上廿「イヨイヨ御心だたセタマヒテ、マヅ、彼辨シテゾ、カツガツ、案内傳ヘ聞エサセタマヒケル」同、廿四、胡蝶十「ワサト、フルカラデ、花蝶ニツケタルタヨリゴトハ、心娭ウモテナイタル、中中、心だつヤウニモアリ」

こころだて（名）[心立] 志ヲ、立テテアルコト。氣立。心操 立志 十訓抄、中、第五、十三條「イミジキ心だてニ因リ、アヤシキ片端ナル身ナガラ、后トナリニケリ」

こころだのみ（名）[心頼] 頼ミニ思フコト 期心 槍權三重帷子（享保、近松作）三「仲人頼ミテ、本式ノ言ヒ入レハ、オ前カラ、兄レハマヅ、ソレマテノ心頼み」

こころだましひ（名）[心魂] たましひト云フニ同ジ キモゴコロ。キモダマシヒ 精神 欽明紀、廿三年八月「筋力精神、一時勢粧」宇津保物語、俊蔭十「一世ノ源氏ノ、心だましひ、人ニスグレタマヘリケルヲ得テ」同、祭使四十七「こころだましひモナク、泣キ惑ヒタマヘバ」蜻蛉日記、上、上「容トテモ、人ニモ似ズ、こころだましひモ、アルニモアラテ」

こころだらひ（名）[心足] 心ノ、足フコト。滿足。萬葉集、十八 卌 長歌「老人モ、女ノ童兒モ、其カ願フ、心太良比ニ、撫デタマヒ、治メタマヘバ」同、卷二十「雨モ降ラスカ、許己呂太良比ニ」（早ノ歌）

こころづかひ（名）[心遣] 心ヅカフコト。心ヲ用ヰルコト。ココロシラヒ ココロクバリ。キヅカヒ 注意 源、十、上「官ニ仕ウマツリタマフヘキ御心づかひ、此宮ノ御後見シタマフヘキコトヲ」枕草子、一、第三段「打タレジト用意シテ、常ニ、後ヲ心づかひシタルケシキモ、ヲカシキニ」（女房タチノ、卯杖ヲ持チテ覗ヒ寄リテ、尻ヲ打タムトスルナリ）遣ひヲ、使者ニカケテ用ヰタルアリ。仲文集、花ノ枝ニ、文ノアルヲ見テ「春ノ訪フ、心づかひヲ、タヅヌレバ、花ノ使ニ、さてふナリケリ」道長公集「若菜ツム、春日ノ原ニ、雪フレバ、心づかひヲ、今日サヘゾ遣ル」

こころづか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）[心遣] 心ヲ、用ヰル。心ヲクバル。氣ヅカヒス。竹取物語「戰ハントスルトモ、彼國ノ人來ナバ、タケキこころづかふ人モ、ヨモアラジ」源、三十二、梅枝廿「限リアルモノカラ、スキズキシキ心づかはルナ」同、三十四、下、若菜、下七十二「ユメ御宮仕ヘノホドニ、人ト、キシロヒ嫉ム心づかひ給フナ」

こころづから（副）〔心之從ノ義〕己ガ心ヨリシテ。心カラ。古今集、二、春、下「春風ハ、花ノアタリヲ、避キテ吹ケ、こころづからヤ、ウツロフト見ム」後撰集、七、秋、下「年毎ニ、雲路マドハヌ、カリガネハ、心づからヤ、秋ヲ知ルラム」中務集「戀シキモ、心づからノ、事ナレバ、オキドコロナク、モテゾワヅラフ」夫木抄、十四「タテナガラ、笆ノ荊ノ、ツクリ花、心づからノ、色トヤハ見ル」

こころづき（名）[心附]（一）心附クコト。思ヒツクコト。後撰集、十、戀、二「人ノ家ヨリ、物見ニ出ヅル車ヲ見テ、心づきニオボエハベリケレバ、誰ソト尋ネ問ヒケレバ、出デケル家ノ主ト聞キテ、ツカハシケル「人妻ニ、心アヤナク、カケハシノ、危キモノハ、戀ニゾアリケル」源、四、夕顔四十六「賢ク、人ニ靡カヌ、イトこころづきナキワザナリ」（二）氣ガキクコト。枕草子、六、五十九段、心づきなきもの「物ヘモ行キ、寺ヘ詣ヅル日ノ雨」源、二、帚木十二「常ハ、少シソハソハシク心づきナキ人ノ、ヲリフシニツケテ、出映スルヤウモアリカシ」

こころづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）[心附]（一）思ヒツク。氣ヅク。源、四十九、東屋十「イト嬉シク、第二仕ウマツラマホシト、心づきテ思ヒ聞エシカト」（二）氣ガキク、宇津保物語、忠社、上「藏人、在原ノさげ家、心づきタル人ニテ、カシコクオドロキテ」

こころづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）[心附]（一）思ヒヲカク。伊勢物語、第十段「父ハ、（娘ヲ）異人ニアハセムト云ヒケルヲ、母ナム、貴ナル人ニ、心づけタリケル」源、九、葵四十九「御櫛笥殿ノ、ナホ、此大將ニノミ、こころづけタマヘルヲ」（二）氣ヲツクル。注意 拾遺集、一、春「春ノ田ヲ、人ニマカセテ、我レハタダ、花ニこころヲ、つくる頃カナ」（三）こころづけるヲ見ヨ。

こころづくし（名）[心盡] 思ヒヲ、盡スコト。氣ヲモムコト。古今集、四、秋、上「木ノ間ヨリ、漏リ來ル月ノ、影見レバ、心づくしノ、秋ハ來ニケリ」源、四、夕顔十七「心づくしニ、思シ亂ルルコトドモアリテ」同、六、末摘花十二「心ヲつくしテ、讀ミ出デタマヘラムホドヲ、オボスニ」

こころづけ（名）[心付]（一）心ヅクルコト。ココロゾヘ。忠告（二）心ヅケテ、金品ヲ與フルコト。手當 贈貽 昨日は今日の物語（寛永）「毎年二季ニ、心づけヲ致サウなど」

こころづ・ける（動）[心附]（一）こころづく（下二段）ノ口語。（二）骨折ニ、心ヲ付ケテ、金品ヲ與フ。

こころづま（名）[情配偶] 心ニ、夫ト定メタル人。萬葉集、八 四十八 笠縫女王歌「足引ノ、山下響ミ、鳴ク鹿ノ、事乏シカモ、吾ガ情都末」（古義「事ハ、戀ノ誤カ」代匠記「吾ガ心ニ、つまト定メテ思フ人ナリ」）

こころづもり（名）[心積] 心ノ中ニテ、分量ヲハカルコト。ムナザンヨウ。ムナカンヂャウ。（十呂盤ニカクルニ對ス）心算

こころづよ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）[心強]〔心弱しニ對ス〕（一）氣ニ、力アリ。氣ヅヨシ。氣丈夫ナリ。宇津保物語、あてみや七十「カク來リタマハヌトモ、限リト思ハジト、心づよう思ヒテ」源、一、桐壺廿「心づよく、念ジカヘサセタマフ」（二）木強ナリ。ココロゴハシ。無情シ。兼盛集「ミチノクノ、安達ノ原ノ、白眞弓、心づよくモ、見ユル君カナ」（戀ノ歌ナリ、拾遺集ニハ、心おはくトアリ）

こころてい（名）[心太] こころぶとノ條ヲ見ヨ。

こころと（副）[心]〔心としてノ略ナラム〕心カラ。自分カラ。オノヅト。元眞集「風ニノミ、負セツレドモ、櫻花、今日ハこころと、散リ果テヌベシ」新古今集、十八、雜、下「ツクヅクト、思ヘバ易キ、世ノ中ヲ、こころト歎ク、我ガ身ナリケリ」

こころど（名）[心利]〔利ク張ルコト〕利心ニ同ジ。張氣。氣力 萬葉集、三 五十三「遠長ク、仕ヘムモノト、思ヘリシ、君シ座サネバ、心神モナシ」（大伴旅人薨ジテ、仕人ノ歌）同、十一 五十「ネモゴロニ、片思スルカ、此頃ノ、吾ガ情利ノ、生クルトモナキ」同、十七 廿六「出デ立タム、カヲナミト、籠リ居テ、君ニ戀フルニ、許己呂度モナシ」

こころときめき（名）[心悸]〔ときハ、心臟ノ鼓動ヲ形容シテ云フ語（今、どきどきスルト云フ）めきハ、むくめく（蠢）、ほのめく（閃）ナドノめくノ、名詞形ナルベシ（どちめくト云フ語モアリ）サレド、終止形ナルヲ見ズ、又、心ヲ冠セザルヲ見ズ〕（一）心サワギ。ココロバシリ。ムネバシリ。ムナサワギ。源、三十三、藤裏葉五「待チツケタマヘルモ、心ときめきセラレテ」同、四十八、寄生四十「メヅラシク、ウレシキニ、心ときめきモシヌヘシ」（二）急クコト。取リイソグコト 急遽 宇津保物語、國讓、上二「此侍ル人ニモ、重キ卸服ヲコソ着セハベルヘカリケ

レ、心ときめきノヤウナレドモトテ、[illegible]色ノ[illegible]、云云、打チ出デテ、見セ奉リタマヘリ」同、樓上、上「宮、見タマヒテ、イトウレシトオボサル、アヤシノ心ときめきヤトテ、打チオキタマヒツ」

こゝろ-と-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）[心解] 心、和グ。ユッタリス。[暢然] [illegible]ニ、[illegible]フル[illegible]ノホル、冬ノ夜ハ、こゝろと[illegible]けタル、霰ヤハ霰ラルル」

こゝろ-と-し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[心疾] （一）聰シ。早シ。[発敏] 源、九、[illegible]「今日ハイマイマシキナドケリト、[illegible]ホホヱミ[illegible]、心[illegible]ニテ、フ[illegible]ノコト」同、廿四、胡蝶「心とく殺イテ、ウタテモ覺シ給ルカナ」（二）心、忙忙シ。[遑遑然] 源、三、空蟬「碁打チハテテ、闕サスワタリ、こゝろとく見エテ、キハキハシウ、サウドケバ」

こゝろ-どり（名）[心取] [illegible]、取ルコト。迎合 源、四十八、寄生「イト[illegible]ウ侍リシ路ノ草モ、少シ打拂ハセハベラムカシト、心どりニ[illegible]エマハバ[illegible]八、[illegible]ト、云フモコトワリ、小夜中ニ、君ノ心ヲ、どりニ來タレバ」

こゝろ-なぐさ-み（副）[心慰] （なぐさハ、なぐさむノ語根）心ヲ、慰ムルタメニ。[illegible]

こゝろ-な・し・キ・ケ・レ・ク・ク（形、二）[無心] 思慮ナシ。分別ナシ。心スベキ事ヲセズ。[illegible]

[illegible]ノ心たしノ、カカルワサヲシテ、サイナマルルコソ、[illegible]く、心な[illegible]語根ノミ用キル。萬葉集、十五「佗人ノ、アナ情無ト、思フラム、秋ノ長夜ヲ、寐覺シテノミ」

こゝろ-ならず（副）[不心] 本意ニアラズシテ。心ニタガヒテ [illegible]

こゝろ-ならひ（名）[心慣] 心ニ染ミタルナラハシ。源、四、夕顔「スグヨカナラヌ心ならひ一」同、九、[illegible]「亡キ魂ソ、イトド悲シキ、[illegible]シ床ノ、アクガレ難キ、心ならひニ」同、十五、蓬生「[illegible]ラヌ心ならひ一」

こゝろ-にく・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）[心憎] （一）にくしハ、無情シ、不愛相ナリノ意、枕草子、一、十七段「心羞シキ人、イト憎し」（二）他ノ内心ニ、心置セラル。伊勢物語、廿三段「初コソこゝろにくくモ作リケレ、今ハ打チトケテ」源、四十四、橋姫「姫君ハ、心バセ静カニ、由アル方ニテ、見ル目、モテナシモ、氣高ク、心にくき狀ゾ爲タマヘル」同、四十九、東屋「人ガラハ、イトヤンゴトナク、オボエ心にくくオハスル君ナリケリ」（三）心、測リガタキ意ヨリ轉ジテ、オクユカシ。宇津保物語、樓上、下「イト貴ニ、ケハヒナドモ、式部卿ノ君ヨリモ、心にくく茂シゲニ、物シタマヘリ」源、一、桐壺「シノビヤカニ、こゝろにくきカギリノ女房、四五人、候ラハセタマヒテ」同、九、葵「少納言ガモテナシ、心モトナキ所ナク、心にくしト見タマフ」

こゝろ-ね（名）[心根] 心ノ本、心ノ底。心ノ根。心性 多クハ、草木ノ根ニカケテ云フ。[illegible]式部集、下「こゝろねノ、ホドヲ見スルゾ、[illegible]、草ノユカリニ、引キカケネドモ」[illegible]、松山鏡ニ、ウツロヒシ、云云、[illegible]ノ[illegible]、サシナガフ、心ねサヘゾ、枯レニケル」夫木抄、三十六「ナガメスル、心の根ヨリ、生ヒソメテ、軒ニ

[illegible]のぶハ、[illegible]ルナルベシ」

こゝろ-の-あか（名）[心垢] こゝろのにごりヲ見ヨ。

こゝろ-の-あき（名）[心秋] 人ニ厭キラレテ、心ノ淋シク感ズルコト。多クハ、厭キト、秋トヲカケテ云フ。古今集、十五、戀、五「時雨レツツ、[illegible]ヨリモ、言葉ノ、心ノ秋ニ、逢フゾワビシキ」新葉集、十四、戀、四「カハリユク、言ノ葉ニコソ、色見エヌ、心の秋モ、マヅ知ラレケレ」

こゝろ-の-あた（名）[心仇] 煩惱ガ、悟道ノ害ヲナスコト。（心の師ヲ併セ見ヨ）六帖、四「心コソ、心ヲハカル、心ナレ、心のあたハ、心ナリケリ」正法念經、六「等喚受苦處、獄卒呵責罪人ハ心是第一怨、此怨能縛レ人」

こゝろ-の-あらし（名）[心嵐] 人心ノ、險惡シキコト。又、心ノ風。[illegible]集、十七、雜、三「身ニ近ク、アラヌモノカラ、ワビシキハ、人ノ心の、あらしナリケリ」夫木抄、二十九「[illegible]ヤ、[illegible]ノ、渋ヨリモ、人ノ心の、かぜゾハゲシキ」

こゝろ-の-いろ（名）[心色] 心中。狀態。[illegible]、十一、[illegible]、二「紅ノ、[illegible]ノ[illegible]、フリ出デテ、心の色ヲ、知ラセツルカナ」

こゝろ-の-うま（名）[心馬] こゝろのこまヲ見ヨ。

こゝろ-の-うみ（名）[心海] 佛敎ノ語、心海ノ[illegible]、[illegible]、こゝろのうみ「心[illegible]也、梵書ニ見エタリ」 心ノ、廣ク深キヲ、海ニ譬ヘテ云フ語。謠曲、西王母「御心ハ海ノ如クニ、[illegible]ニ廣キ御惠ミ」

こゝろ-の-うら（名）[心占] 心ニ、オシハカルコト。推量。古今集、十四、戀、四「カク戀ヒム、モノトハ兼ネテ、思ヒニキ、心のうらゾ、正シカリケル」[illegible]集、十三、[illegible]、三「サリトモト、思フ今夜モ、更ケユケバ、心のうらヤ、マタ違フラム」

こゝろ-の-おく（名）[心奧] こゝろのそこ（心底）ニ同ジ。伊勢物語[illegible]「[illegible]、シノビテ通フ、道モガナ、人ノ心の、おくモ見ルベク」源、三十五、柏木「此宮コソ、聞キショリハ、こゝろのおく見エ給ヘ」

こゝろ-の-おに（名）[心鬼] 己ガ思做シニ、物恐シク思フコト。闇鬼 源、廿一、少女「內ノ大臣ノ御車ノアレバ、心ノ鬼ニ、ハシタナクテ、ヤホラ隱レテ」同、三十六、橫笛「母宮ノ御心の鬼ニヤ、思ヒ寄セタマフラムト」紫式部集「亡キ人ニ、カゴトヲカケテ、煩フモ、己ガ心の、鬼ニヤハアラム」列子、[illegible]心生[illegible]鬼」正法念經、[illegible]獄卒、[illegible]有情、以二衆生妄業力一故見レ之」 心に鬼を作るトハ、妄想シテ恐ルルヲ云フ。[illegible]百首、戀「相見テモ、心の鬼を、つくりテヤ、今朝シモ人ノ、隱レ蓑着ル」保元物語、三、爲朝鬼島渡事「謀リテ、[illegible]ニアケテゾ[illegible]タムスラムト、心に鬼を作りテ、[illegible]右ナク近ヅカズ」 心な鬼にすトハ、情心ヲ斷ツヲ云フ。「心を鬼にして、我ガ子ヲ[illegible]ル」

こゝろ-の-かぜ（名）[心風] 心の嵐ノ條ヲ見ヨ

こゝろ-の-くま（名）[心曲] （心曲ノ訓讀語ナラムカ、隈ノ條ヲ見ヨ）心ノ奧。心ノ底。思ヒテ居ルコトノ一部始終。古今集、十九、誹諧「思フテフ、人ノ心の、くま每ニ、立チ隱レツツ、見ル由モガナ」[illegible]、十六、雜、二「イヅクニカ、夜テモ隱レム、隔テツル、心のくまノ、アラバコソアラメ」源、四十六、總角「ツツミタマフ御心のくま、殘ラズモテナシタマハムナム」[illegible]、小我[illegible]念[illegible]其如玉、在[illegible]其衣裏[illegible]我心曲二」

こゝろ-の-くも（名）[心雲] 心ノ迷ヒ。[illegible]後撰集、十、戀[illegible]「秋ノ夜ハ、心の雲モ、晴レニケリ、[illegible]如ノ月ノ、澄ムニマカセテ」

こゝろ-の-こま（名）[心駒] （意馬ノ訓讀語）意馬心猿ノ條ヲ見ヨ。又、心の馬。[illegible]、こゝろのこま[illegible]心馬[illegible]ト見ユ

「引カレナバ、悪シキ道ニモ、入リヌベシ、心のたまニ手綱ユルスナカシコサノ、己カ心ニ、ツナガレテ、ウキヲ哀ノ、鳴ク聲ヲ聞ケ」謡曲、常陸帶、「疑フベシヤ、心の駒ノ、直ユク道ヤ、神ノユフシテ」

こころ-の-おり (名) 〔心殘〕 思ヒノ、斷レヌコト。 〔春戀〕 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)二「今夜、廓ヲ出ルト思ヘバ、云云、心殘りハ、此ノ新造ノ唐衣殿」

こころ-の-おに (名) 〔心師〕 我レ、吾ガ心ノ師匠トナルヲ云フ、即チ、吾ガ心ヲ善導シテ、邪思ニ惡導セラルルコト勿レノ意。(心の仇ヲ併セ見ヨ) 涅槃經、師子吼菩薩品「願作心師不師於心」 發心集、序「佛ノ敎ヘタマヘル事アリ、心の師トハナルトモ、心ヲ師トスルコト勿レト、實ナルカナ、此言」 陸象山語錄「學者大病、在於師心自用、師心自用、則不能克己、不能聽言」 新六帖、四「オロカナル、心の師トハ、ナリヌトモ、思フ思ヒニ、身ヲバ任セジ」 山家集、下「オロカナル、心ニノミヤ、任スベキ、師トナルコトモアルナルモノヲ」

〔**こころ-の-すさび** (名) 〔心遊〕 〔すさぶノ條ヲ見ヨ〕 心ノ、逸リカニナルコト。デキゴコロ。 源、九、葵三「こころのすさびニ任セテ、カク好ワザスルハ、イト、世ノモドキ、負ヒヌベキコトナリ」 同、四十五、椎本九「若若シキ人ノ心のすさびニ」

こころ-の-せき (名) 〔心關〕 〔塞ヲ、關ニカケテ云フ、人目の關、同意〕 思ヒヲ、塞キトドムルコト。 新千載集、十二、戀、二「憂キ人ノ、心の關ニ、打チモ寐デ、夢路ヲサヘゾ、許サザリケル」 月詣集、四「惜シメドモ、トマラデ過ギヌ、ホトトギス、心の關ハ、カヒナカリケリ」

こころ-の-そこ (名) 〔心底〕 〔心底ノ訓讀ナルカ〕 (一)心ノ奧。ココロノクマ。心底。 千載集、十七、雜、中「曉ノ、嵐ニタグフ、鐘ノ音ヲ、こころの底ニ、コタヘテゾ聞ク」 倭訓栞、こころのそこ「心底ノ字ハ、謝過ガ辭ニ見エタリ」

(二)眞心。赤心。ソコゴコロ。 推古紀、十六年八月「遠脩朝貢丹心、欽之美、朕有嘉焉」 源、三十四、下、若菜、下二十「モテナシナド、ケシキバミ、ハヅカシク、こころの底ユカシキ狀シテ」

こころ-の-たけ (名) 〔心丈〕 心ノ分量。心ノ及ブトコロ。 山家集、上、月「物思フ、心のたけゾ、知ラレヌル、夜夜月ヲ、ナガメアカシテ」

こころ-の-たね (名) 〔心種〕 思藻ヲ生ズル本。 古今集、序「和歌ハ、人ノ心ヲ種トシテ、萬ノ言ノ葉トゾナレリケル」 倭訓栞、こころのたね「石田ガ亂ニ、倭歌ノ口訣ヲ、公家ニ奉ルトテ、幽齋翁「古ヘモ、今モカハラヌ、世ノ中ニ、こころのたねヲ、殘ス言ノ葉」ニ細川幽齋、籠城中ヨリ、古今傳授ヲ奉レリ)

こころ-の-たま (名) 〔心魂〕 (一)魂ト云フニ同ジ。玉ニカケテ云フ。 玉葉集、十九、釋敎「明ラケキ、聖ノ御代ニ、フタカヘリ、心の玉ヲ、マタ研クカナ」 (二)魂ヲ、水取玉ニカケテ云フ。 夫木抄、三十二、玉「月見レバ、ヤガテ袂ノ、濡ルルカナ、心のたまヤ、水ヲ取ルラム」

こころ-の-ちり (名) 〔心塵〕 こころのにごりノ條ヲ見ヨ。

こころ-の-つき (名) 〔心月〕 〔佛教語、心月ノ訓讀、倭訓栞、こころのつき「心月ヲ云フ、釋敎也」〕 悟道、智見ノ明カナルヲ、月光ニ譬ヘテ云フ語。 詞花集、十、雜、下、顯成佛道の心を「イカデ我ガ、心の月ヲ、アラハシテ、闇ニ惑ヘル、人ヲ照サム」 山家集、下「イカデ我レ、清ク曇ラヌ、身トナリテ、心の月ノ、影ヲミガカム」

こころ-の-つの (名) 〔心角〕 角ノ條ヲ見ヨ。

こころ-の-どか-み (副) 〔心長閑〕 心、ユルリトシテ。ココロシヅカニ。 後撰集、九、戀、一「夢ニダニ、見ルコトゾナキ、年ヲ經テ、心のどかに、寐ル夜ナケレバ」

こころ-の-とも (名) 〔心友〕 〔心友ノ訓讀語カ〕 心底ヲ知リ合フ友。 徒然草、十二段「我レト等シカラサラム人ハ、大方ノヨシナシ言、云ハムホドコソアラメ、マメヤカノ心の友ニハ、遙ニ隔タル所ノアリヌベキゾ、ワビシキヤ」

こころ-の-なし (名) 〔心做〕 ココロナシ。心ノ、思ヒナシ。然、思ヒ取ルコト。 源、四十六、總角四十九「ワガ身ニテハ、マダイト、アレガ程ニハアラズ、目モ鼻モナホシト覺ユルハ、心のなしニヤアラン」 同、四十八、寄生八十四「心のなしニヤアラン、今少シオモオモシク、ヤンゴトナゲナルケシキサヘ添ヒニタリ」

こころ-の-にごり (名) 〔心濁〕 〔ごぢょく(五濁)ノ條ヲ見ヨ〕 煩惱。罪障。又、心ノ垢。心の塵。 方丈記(鴨長明)「人、皆、アヂキナキ事ヲ述ベテ、イササカ心のにごりモ薄グカト見シホドニ」 續政集、雜「底清ミ、掬ブ眞井ノ、水澄ミテ、心のあかヲ濯ギハテツル」 新古今集、廿、釋敎「濁リナキ、龜井ノ水ヲ、ムスビアゲテ、心のちりヲ、ススギツルカナ」

こころ-の-ね (名) 〔心根〕 こころね(心根)ニ同ジ。 新千載集、九、釋敎「世ノ中ハ、千グサノ花ノ、色色モ、心の根ヨリ、ナルトコソ聞ケ」

こころ-の-はな (名) 〔心華〕 〔心華ノ訓讀、國華、くにのはな、同意〕 心ノ、色ニアラハルルコト。 倭訓栞、こころのはな「心の花也、圓覺經ニ、心華發明、照十方刹ト見ユ、又、徒ナル意ニモ云ヘリ」 古今集、十五、戀、五「色見エデ、ウツロフモノハ、世ノ中ノ、人ノこころの、花ニゾアリケル」 新後撰集、九、釋敎「鷲ノ山、後ノ春コソ、待タレケレ、心の花ノ、色ヲ頼ミテ」(靈鷲山)

こころ-の-みづ (名) 〔心水〕 〔心水ノ訓讀、倭訓栞、こころのみづ「心水ヲ云フ、釋敎也」心の濁ナドニ緣アル語ナリ〕 心ニ、清濁、深淺アルヲ、水ニ譬ヘテ云フ語。 新古今集、廿、釋敎「底清ク、こころの水ヲ、澄サズバ、イカガ悟リノ、蓮ヲモ見ム」 新勅撰集、十、釋敎「數知ラヌ、チヂノ蓮ニ、スム月ヲ、心のみづニ、ウツシテゾ見ル」 漢書、鄭崇傳「臣門如市、臣心如水」(是レハ、潔白ナルヲ云フ)

〔**こころ-の-やみ** (名) 〔心闇〕 思案ニ暗ルルコト。ココロマドヒ。 古今集、十三、戀、三「カキクラス、こころのやみニ、惑ヒニキ、夢ウツツトハ、世人定メヨ」 源、十八、松風九「心のやみ晴間ナク、歎キワタリハベリシママニ」 風雅集、十五、雜、上「月影ノ、隈ナシトテモ、ワビ人ノ、心のやみノ、晴レバコソアラメ」

こころ-の-を (名) 〔心緒〕 〔心緒ノ訓讀〕 しんしょ(心緒)ニ同ジ。 拾玉集(慈鎭)五「ムスボホル、心の緒コソ、悲シケレ、思ヒシ解カバ、解ケヤスキ身ノ」

こころば (名) 〔心葉〕 〔こころばせノ下略(明衣、あかば。柳匣、やないば)贈物ニ用キルガ元ニテ、我ガこころばせヲ表スル意ノ語ナラム、贈物ヲ、こころざしトモ云フト、同意ナルベシ〕 (一)〔方形ノ綾帛ノ面ノ、四隅ト、中央トノ五所ニ、銀、銅造リノ梅ヲツケ、ソレニ、揚卷ノ組緒ヲツケタルモノ、物ノ上ニ覆ヒカクル用トス。(後世ノ覆紗ト云フモノヲ併セ見ヨ)大小、一樣ナラズ、壺心葉ト云フハ、小ニシテ中央ニ一所ナリ、香壺ヲ覆フ用トス、類聚雜要抄(大治)四ニ、圖アリ、解說アリ。或ハ、絲ニテ松葉ヲ作リツケタルモアリ。文匣、又ハ、贈物ニハ、心葉ノ帛ヲ覆フ。轉ジテハ、造花ナラデ、生花、生葉ヲ添ヘ、旅立ツ人ニ、幣ヲ添ヘテ贈ルナドヲモ、心葉ト云フ、後世、上巳ノ贈物ニ桃ノ花、端午ニ菖蒲ノ葉、重陽ニ菊ノ花ヲ添ヘ、又、熨斗鮑ヲ添フルナド、此遺ナルカ。輕微ナル贈物ニ、こころざしは松の葉に包めナド

トモ云フ。[illegible]大嘗會、内[illegible]、供[illegible]、[illegible]六[illegible]、己上、[illegible]、[illegible]之」源、十七、繪合三「御消息ナド、絶エニタルヲ、[illegible]、エナラズ、[illegible]ソヒトモ、御[illegible]ノ[illegible]、云[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ノこゝろばニ[illegible]ルナルベシ」同、三十二、梅枝三「御消息、云云、沈ノ匣ニ、瑠璃ノ坏二ツスヱテ、云云、入レタマヘリ、心ば、[illegible]ジク、引結ビタル絲ノサマモ、ナヨビカニ、ナマメカシウゾシタマヘル」榮花物語、八、初花「匣一具ニ、[illegible]入レテ[illegible]、[illegible]こゝろば、梅ノ枝ナリ一[illegible]、五[illegible]、小[illegible]ソ、小[illegible]ニツケタレ、云云、[illegible]文取リソヘテ」是レモ、こゝろばナリ）和泉式部續集、紅葉ノ、イト多ウ散リタルヲ、匣ノ蓋ニ入レテ「人知レヌ、我がこゝろばニ、アラネドモ、誰集メテモ、物ヲコソ思ヘ」拾遺集、八、雜、上、物ヘマカリケル人ノ許ニ、幣ヲ結ビ、袋ニ入レテツカハストテ「逢カラヌ、契結ベル、こゝろばハ、手向ノ神ゾ、知ルベカリケル」(二)又、絲ニテ、松、梅ナド造リ、[illegible]ニ立ツルモノヲモ、[illegible]云フ。源、十七、繪合三「插頭ノ匣ノこゝろば」花[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、心[illegible]、[illegible]テ、絲ニテ葉ヲ結ヒテ、鶴ナド作リテ立ツルコトアリ、コレ、心葉ノ由ナリ」貞丈雜記、七「心葉ノ事、右、[illegible]ニ、[illegible]テ、松、藤、かづら、梅、ナドヲ作リテ立ツル事、是ヲ、[illegible]ナリ、云云、中[illegible]七十[illegible]ニ、主人資、赤木机、云云、心葉、松ト見エタリ」(三)大嘗祭ノ神事ニ供奉スル官人ガ、冠ノ巾子ノ前面、中央ニ着クル、小サキ梅ノ造花ヲモ、心葉ト云フ、此物、古クハ見エズ、平安朝末期ヨリ聞ユル名稱ナリ、古ヘノ髻華ニ擬シタルモノカト云フ。[illegible]抄、下、小忌、心葉「平治政始記曰、心葉、梅枝三寸[illegible]」[illegible]、二、小忌ノ[illegible]ノ巾子ノ前ニ、ひかげかづら[illegible]モノヲ[illegible]ヒ、云云、[illegible]

こゝろ葉トテ、梅ノ枝ノ、小サク作リタルヲ、此かづらニ結ヒテ立テタリ」明月記、建暦二年十一月十三日「少[illegible]、[illegible]紅梅、[illegible]一紙、[illegible]、[illegible]枝、付[illegible]之」[illegible]、こゝろば、大嘗會ニ、冠ノ上ニ懸クルモノ也、云云、桃花蘂葉ニ、心葉ハ、金銅ノ梅花ナリト見エ、云云、今、主上ハ、櫻ノ插頭ニテ、[illegible]、大臣ハ藤、大中納言ハ山吹、[illegible]ハ梅ナリ、共ニ、鍍金ヲ用ウ」謠曲、梅「毎年ノ大嘗ニ從フ、小忌ノ人タチモ、昔ノ榮華ノ心バセ、木ノ花ノ木ヲ、冠ノ巾子ニ添ヘ立テ」

こゝろばかり　(名)　心計　心許　イササカ、志ヲ示スニ云フ語。吉野忠信(寶永、近[illegible])「御[illegible]遠クヨリ送リテ、心ばかりノ暇乞ニ「心ばかりノ"物"」

こゝろばしり　(名)　心走　ココロトキメキ。ムネハシリ。ココロサワギ。ムナサワギ。心悸　名義抄「悸、心バシリ」源、五十、浮舟七十「アヤシク、心ばしりノスルカナ、夢モサワガシクト宣ハセタリツ」細流抄、心ばしり「むなさはぎノコトル也」

こゝろばせ　(名)　意　〔心馳ノ義、心ノ動ク状ヲ云フ、こゝろざしニ同ジ、類推シテ、顏様、腰支ナド云フ語アリ、かほつき、おしつきニテ、こゝろばせモ、こゝろつきナリ〕心ノ、動キ向フコト。ココロバヘ。ココロザシ。オモヒイリ。オモヒコミ。字類抄「志操、ココロバセ」源、四十、幻[illegible]「木ノ世ニハ、五ニこゝろばせヲ見知ルドチニテ」同、四十四、[illegible]「[illegible]ハ、心ばせ靜カニ」

こゝろはづか・し・シキ・シケレ・シク・シク　(形、二)　心羞　羞シク思フ。(優者ニ對シテ、面ト向ハレヌ意ニ云フ語)ウラハヅカシ。氣ハヅカシ。源、五、若紫廿「法師ナレド、イト心はづかしく、人柄モヤムゴトナク、世ニ思ハレ」同、十三、明石廿「イト氣高ウ、心はづかしき御アリサマニ」

こゝろばへ　(名)　心延　〔心ノ動キ延ぶる意、萬葉集、十八廿九「下波布流、心シナクバヒ」〕(一)心ノオモムクトコロ。ココロダテ。ココロバセ。意向　[illegible]即位前紀「[illegible]」皇極紀、三年正月「[illegible]中臣鎌子連之爲人、氣高逸、容止難犯」天武紀、下、十年十月「大山位以下、小建以上人[illegible]、[illegible]見ニ」源、四十四、[illegible]「ハカナキ[illegible]ヒワザニツケテモ、(姫君)タチノ心ばへドモヲ見奉リタマフニ」(二)オモムキ。アヂハヒ。趣味。趣致　源、四十七、早蕨三「歌ノこゝろばへモ、イトアハレニテ」同、三十二、梅枝三「[illegible]ノ御[illegible]ドモノ様、[illegible]こゝろばへハ、モ、目馴レヌ[illegible]ニ、今メカシウ」同、廿、朝顔五「カレガレナル前栽ノこゝろばへモ、[illegible]ニ見ワタサレテ」同、二、帚木三十五「水ノ心ばへナド、サルカタニ、ヲカシクシナシタリ」

こゝろひとつ　(名)　心一　〔ひとつハ、滿ツノ意、一心ト云フニ同ジ、一山ニ滿ツト云フハ、山一杯ナリ、一冬火ナシト云フハ、冬中ナリ〕心イッパイ。一心　心ヲ悉スコト。思フカギリ。伊勢物語、三十四段「言ヘバエニ、言ハネバ胸ニ、騒ガレテ、心ひとつニ、歎ク頃カナ」古今集、四、秋、上「女郎花、秋ノ野風ニ打チナビキ、心ひとつヲ、誰レニ寄スラム」

こゝろぶと　(名)　心太　〔こゝろハ、凝りノ、こゞり、こゝろト轉ジタルナリ(心ノ語原ヲ見ヨ)一名ヲ、凝海藻トモ云フ、是レナリ(毛吹草(正保)三ニ、紀伊ニテ粉凝草ト云フトアリ)東雅、十三、海藻、凝海藻「こゝろハ、凝也、ふとハ太也、卽チ大凝菜也」(小凝菜ニ對ス)太凝菜ノ意ナルベシ(長手、手長)こゝろていト云フ、心太ノ湯桁讀ナリ、太ノ呉音、ていナリ、(體、帝、提、締)こゝろていんハ、此音轉ナリ(野老ノ語原ヲ併セ見ヨ、安房ニテハ、心無しヲ、とごろなしト云フ、冷泉、れんぜい、閑清韻、かんせいんぬひこ」海藻ノ名、又、コルモハ、ココロテイ。今、ところてんぐさト云フ、其條ヲ見ヨ。石花菜　天治字鏡、十二三「凝菜、心(夫)止」[illegible]抄、九三十「[illegible]氏[illegible]抄云、大凝菜、古古呂布度、本朝式云、凝海藻、古識毛波、俗用心太二字」[illegible]「凝菜一同」大膳式、下「心太一主水司式「凝海菜」七十一番職人盡歌合(文安)七十一番、心太賣「[illegible]ノ、牟ノ秋ノ、ヨモスガラ、月ニスマスヤ、我ガこゝろてい」我レナガラ、及バヌ戀ト、知リナガラ、思ヒ寄リケル、心ぶとサヨ」

こゝろぶと・し・キ・ケレ・ク・ク　(形、一)　心太　〔次條ノこゝろぼそしノ反〕氣力、大ナリ。氣ヅヨシ。膽大　萬葉集、二十三十「草壁皇子舍人慟傷歌「眞木柱、太き心ハ、アリシカド、此我ガ心、鎭メカネツモ」天治字鏡、十二三十「意强、心(夫)止」沙石集、五、下「心ぶとノ様ニテ生マレタリケレバ、云云、[illegible]、心太きモノニゾ侍リケル、スリコ鉢ニサシ入レテ」

こゝろぼそ・し・キ・ケレ・ク・ク　(形、二)　心細　〔前條ノ心ぶとしノ反、首細しト同意〕(一)賴ミ少ナクテ、心弱シ。悄然　古今集、九、羇旅「[illegible]ニ經ル、モノナラナクニ、別路ノ、心ぼそくモ、オモホユルカナ」源、一、桐壺三「事トアル時ハ、ナホ賴リドコロナク、心ぼそゲナリ」同、六、末摘花「イミジウ、カシヅキタマヒシ御娘、こゝろぼそくテ殘リ居タマヒタルヲ」(二)心サビシ。モノサビシ。伊勢物語、第九段「駿河ノ國ニ到リヌ、宇都ノ山ニ至リテ、我ガ入ラムトスル路ハ、イト、暗ウ細ソキニ、蔦、楓ハ茂リテ、物心ぼそく、スズロナルメヲ見ルコトト思フニ」

こゝろまうけ　(名)　心設　心ニ、思ヒ設クルコト。用意。期待　源、十二、須磨九「御供ニマヰルベキ心まうけシテ」狹衣、二、下廿「御出家ノ本意、遂ゲサセタマヒヌベキ御心まうけナド、セサセタマフ」

こゝろまかせ　(名)　心任　思ヒノママ

ニ、任スルコト。任意 昔忠集、故里ニ、若テモ歸ラバ、時ハ今、紅葉ノ錦、心まかせニ」

こゝろまさり (名) 心優 思ヒ設ケシヨリ、優レルコト。コレニ反スルヲ、心劣ト云フ。宇津保物語、初秋、廿二何事ニカ侍ラム、心まさりシヌベキ事ニモ侍ルナルカナ」著聞集、八、好色「イヨイヨ、心まさりシテ、メデオボシメシケリ」宇津保物語、藏開、下、三十「醜キ人ドモナレバ、御覽ゼムカラ、御心おとりヤセムト、ハヅカシクテナム」源、三十四、上、若菜、上四七「クチヲシク思シ捨ツベキニハアラネド、イト、イトホシク、こゝろおとりシタマフラムトオボユ」

こゝろまち (名) 心待 心ニ若シヤト、待チ思フコト。ココロマウケ。豫期

こゝろまどひ (名) 心惑 ココロマドフコト。ココロノヤミ。字類抄、失意、悶絶、ココロマドヒ」源、一、桐壺、八「聞シメス御心まどひ、何事モ思召シ別カズ、籠リオハシマス」新古今集、十四、戀、四、「昨日トモ、今日トモ知ラズ、今ハトテ、別レシ程ノ、心まどひニ」

こゝろまど・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 心惑 精神、惱惚ク。氣ヲ失フ。失意 景行紀、四十年十月、日本武尊「至ニ膽吹山ニ、山神化ニ大蛇ニ當ニ道、云云、踰ニ蛇猶行、云云、失意如ニ醉、因居ニ山下之泉側ニ、乃飲ニ其水ニ而醒之」(失意ノ一訓、ココロマドヒテ) 倭名抄、三、病類「日本紀私記云、失意、古々路萬止比一」源、四十三、竹川、廿九「イトこゝろまどふバカリハ、思ヒ入レザリシカド」

こゝろみ (名) 試 (一)ココロミルコト。古今集、十二、戀、二「死ヌル命、生キモヤスルト、心みニ、タマノヲバカリ、逢ハムト言ハナム」和泉式部日記「こゝろみニ、雨モ降ラナム、宿過ギテ、空行ク月ノ、影ヤトマルト」名義抄「嘗、試、ココロミニ」 (二)試驗。明經道、經書直講ノ試、五節、舞姫、帳臺ノ試ナドアリ。宇津保物語、吹上、上、三十二「こゝろみノ題、賜ハリテ」枕草子、八、七十九段「五節ノこゝろみ」

こゝろみえ (名) 心見 (みえハ、みられノ意(みゆノ條ヲ見ヨ)虛榮ト云フモ、是レナリ) 心ヲ、人ニ見ラルルヤウニスルコト。心ヲ、示シ衒フコト。拾遺集、十八、雜賀、人ノ、冊子書カセ侍リケル奥ニ「書キツクル、こゝろみえナル、跡ナレド、見テモ偲バム、人ヤアルトテ」後拾遺集、八、別「尋常ニ、思フ別レノ、旅ナラバ、こゝろみえナル、手向セマシヤ」枕草子、十二、百五十七段「歌ナドヲモ、云云、言出シタラバコソ、云云、心見えナリトモ誹ラレメ」

こゝろみじか・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 心短 心、急キガチナリ。ココロゼハシ。性急ナリ。遲遲然 六帖、六「水鷄ダニ、タタケバアクル、夏ノ夜ヲ、心みじかき、人ヤ歸リシ」

こゝろ・みる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ (他動、上一) 試 (心試るノ意) 其實ヲ知ラムト、驗ス。和泉式部集「こゝろみヨ、君ガ心モ、こゝろみム、イサ都ヘト、來テサソヒミヨ」紫式部日記「女房、盃ナドアルヲリ、イカガハ云フベキナド、クチグチニ思ヒこゝろみる」名義抄「試、心ミル」

こゝろ・む・ムル・ムレ・ミ・ミ・ミヨ (他動、上二) 試 (前條ノ語ノ變、うこゝろみるノ、うこゝろむ。かいまみるノ、かいまむトナル例) 前條ニ同ジ。平治物語、一、信賴卿被滅ニ信西ニ議事「當家ノ浮沈ヲモ試むベシトコソ存ジ候ヘ」公事根源、中、試樂「試樂トモ云ヘリ、マヅ、音樂ヲ、トトノヘこゝろむる心ナリ」

こゝろむけ (名) 心向 心ヲ、ソノ方ヘ向クルコト。思ヒヲカクルコト。意向 源、廿四、胡蝶十「ヒトヘニ打チトケ顏ミ聞エタマフ、心むけナド、ラウタケニ、若ヤカナリ」同、廿八、野分五十「ヤウヤウ、カカル御心むけコソ添ヒニタレ」

こゝろも (名) 襖 襖ノ古名。天治字鏡、四二「襖、袍也、古己呂毛」

こゝろもち (名) 心持 心ニ感ズル所。ココチ。キモチ。氣分。心神 運歩色葉集「心持、ココロモチ」狂言記、餅酒「ノフノフ嬉シヤ、心ガ、クヮット晴ウナ タハ、身共モ、心持ガ、クヮラクヮットシタ」「こゝろもちガ惡イ」良イ心持」

こゝろもち (副) 心持 心ニ、イササカ感ジ思フホド。少許。狂言記、梓德「肴ニ、何ゾ、小舞ヲ舞ヘ、イヤ、此ナリデハ舞ハレヌ、ドウナリト、心持斗リ舞ヘ」「此方ガ、こゝろもち、長イ」こゝろもち、高クシテクレ」

こゝろもとな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無心許 (許ハ、所ナリ、心ノ落チツク所なしノ意ナルベシ、萬葉集ニ、もとなト云フ語、多シ、此語ノ上下略ナラム) (一)ウラモトナシ。ウシロメタシ。オボツカナシ。不安心ナリ。枕草子、三、廿一段、梨の花「花片ノ端ニ、ヲカシキ匂コソ、心もとなく附キタメレ」榮花物語、十六、本雫「イミジウ、オボツカナク、心もとなくオボシメサレツツ」 (二)心、モドカシ。シレジレシ。ジレッタイ。(多クハ、待遠ニ思ヒ苛立ツニ云フ) 字鏡、八十六「忙怕、急務也、己己呂毛止奈加留」竹取物語「天人、遲シト、心もとながりタマフ」伊勢物語、六十九段「我レ、人ヲヤルベキニシモアラネバ、イト心もとなくテ、待チ居レバ」同、八十三段「御送リシテ、疾ク往ナムト思フニ、大御酒賜ヒ、祿賜ハムトテ、ツカハササリケリ、此馬頭、心もとながりテ」土佐日記、正月廿日「心もとなければ、タダ、日ノ經ヌル數ヲ、今日イクカ、二十日、三十日ト數フレバ」(歸京ヲ急グナリ)

こゝろやす・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 心安 (一)心ニ、煩ヒナシ。安心ナリ。氣ヅカヒナシ。安意 拾遺集、一、春、淺茅原、主ナキ宿ノ、櫻花、心やすくヤ、風ニ散ルラム」源、四、夕顏廿七「イザ、イト、心やすき所ニテ、ノドカニ聞エム」 (二)交リ、親シ。親睦ナリ。親睦 源、二、帚木三「親シク馴レキコエタマヒテ、遊ビ戲レヲモ、人ヨリハ心やすく、馴レ馴レシクフルマヒタリ」

こゝろやすだて (名) 心安立 親シキニ慣ルルコト。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「氣ガ張ラズ、三味線無シノ心やす立テデ、イイハナ」

こゝろやま・し (形) 心疚 やましノ條ヲ見ヨ。源、三十一、槇柱八廿「ナドカサシモナド、心やましうナンナドアルヲ」清正集「オボツカナ、曇レル空ノ、月ナレバ、心やましき、夜半ニモ有ル哉」

こゝろや・む (動) 心惱 やむ(惱)ノ條ヲ見ヨ。

こゝろやり (名) 心遣 ココロヤルコト。ココロユカシ。氣バラシ。念バラシ。遣情 土佐日記、正月十八日「男ドチハ、心やりニヤアラム、詩ナド言フベシ」大和物語、上「片岡ニ、蕨萌エズバ、尋ネツツ、心やりニヤ、若菜摘ママシ」風雅集、十三、戀、四「水鷄ダニ、叩ク音セバ、槇ノ戸ヲ、心やりニモ、明ケテ見テマシ」

こゝろや・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 心遣 (思ヒヲ遠クヘ遣る、自動ニハ、心行クト云フ) 心ヲ、ユカス。オモヒヤル。思ヒヲ晴ラス。氣ヲ晴ラス。遣情 萬葉集、三、三十一「夜光、珠ト云フトモ、酒飲ミテ、情ヲ遣るニ、豈ニ若カメヤモ」同、十一、七「戀フルコト、意遣リカネ」同、十九、七長歌「木暗ニ、繁キ思ヒヲ、見アキラメ、情也良ムト、布勢ノ海ニ、小船連ラナメ」字鏡、八十五「遊意、心也留」

こゝろゆかし (名) 心行 (次次條ノ心行くノ他動ノ、心ヲゆかすノ名詞形) 心ヲ、ユカスコト。ココロヤリ。氣バラシ。遣情 夫木抄、三十六「涇ハス夜ノ、心ゆかしノ、手習ハ、戀ヒシトノミゾ、筆ニ書カルル」林葉集(俊頼ノ子、俊惠)二「コレヤコノ、待タレ待タレテ、ホトトギス、心ゆかしノ、小夜ノ一聲」

こゝろゆか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 心懷 他ノ心ヲ、懷シト思フ。オクユカシ。「心ゆかしき擧動」

おもろゆ・く ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [心行] [illegible]、行キ[illegible]テ、心ノ[illegible]意、他[illegible]ハ、心おもろトモ云フ。[illegible] 晴[illegible]、心ニ、満足[illegible] [illegible]ニ、[illegible]ソ[illegible]タル、ソ[illegible]レ、心モ[illegible] 源、七、[illegible]ニ、カシコマリタル[illegible] [illegible]ヘモ[illegible]エタマハネバ、[illegible]メリト、イトホシクオボシメス」[illegible] 川[illegible]ニ、[illegible]リテ心ノ、行ク時ハ、沈メル身トモ、オモホエヌカナ」(二)[illegible]ク思フ。[illegible]、おもろゆくもの「川船ノ、下リサマ、鶴黒メノ、ヨクツキタル」

おもろ・ゆる (動) [心得] おもろうるノ[illegible]。[illegible]、云云、[illegible]、カヘシ、心ゆるト云フ[illegible]ニ見レモ是レモ、トヤ論ズラン、弓ト馬トモ、[illegible]代ノ道」

おもろゆるび (名) [心弛] 心ノ、ユルブコト。[illegible]ヲユルスコト。油断。[illegible] 源、十、[illegible]「マイテ、人ノ、怒リ、[illegible]出、ナドスル事ノ音スレバ、[illegible]ハセタマヒテ、心ゆるびナクオボス」

おもろよく (副) [容易] [快ノ義] タヤスク。 源、二、帚木[illegible]「少シ見バヤ、サテナム、此[illegible]」[illegible]「[illegible]ノ、イカニハルトモ、おもろよく、寄合フベク[illegible]」

おもろよ・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) [快] [情佳しノ義] (一)思フコトカナヒテ、樂シ。ココチヨシ。氣モチヨシ。娯シ。愉快ナリ。 神代紀、上[illegible]「其狀[illegible]、八握[illegible]」[illegible] (二)病、癒ユルニ向フ。「[illegible]おもろよくナル」

おもろよ・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) [心善] 惡意ナシ。[illegible]、邪氣ナキ意ニモ云フ。「好人物、[illegible]ニ云フ、おひとよしノ意」 [illegible]、廿二、下[illegible]「カノ親ナリシ人ヘ、心ナム、アリガタキマデよかりシ」 枕草子、二、十六段「こにあなづらるるもの「アマリ心よきト、人ニ知ラレタル人」 [illegible]、此形ヲ、名詞ノ如ク用ヰフル。 源、廿[illegible]ニ、下[illegible]「心よ[illegible]ガ[illegible]ヒソメタルモノニ、改[illegible]ボシタレバ」 又、後ニハ、情人、おもひもののヲ云ヘルガ如シ。(情人ヲ、ねんおろトモ云フ) [illegible]、[illegible]太[illegible]、下、京ノ山ノ神ハ、心ガカハルトモ、上、京ノ心よしハ、ヨモヤ、カハルマイト存ジタレバ、案ニ相違ナコトデゴザル、云云、七人ノ子中ヲナストモ、女ニ心ヲユルスナ、ト申スガ、[illegible]デゴザル」

おもろよ・す スル・スレ・セ・セ・セヨ(自動、下二) [心寄] 心ヲ寄ス。心ヲ向クル。思ヒヲカクル。[寄心] 源、一、桐壺[illegible]「ハカナキ[illegible]ニツケテモ、心ザシヲ見エタテマツリ、ココナウ心よせキコエタマヘレバ」 同、四十三、竹川[illegible]「ハカナキ[illegible]ニモ、心よせタマヒシナゴリニ」

おもろよせ (名) [心寄] ココロヨスルコト。贔屓スルコト。 宇津保物語、[illegible]「心よせアルヤウニ聞ユル内ニテ、サテゾ、ヨカラムト思シテ、大将ニナシタマフ」同、樓上、下[illegible]「心よせニテアリシ、大和介ナル人ヲ召シ出デテ、率リタマフ」 源、十二、須磨[illegible]「國ノ守モ、親シキ殿人ナレバ、[illegible]ビテ、心よせ仕ウマツル」同、五十、浮舟[illegible]「二人、見侍リシヲ、云云、女ハ、今ノ方ニ、少シ心よせマサリテゾ侍リケル」

おもろよわ・し キ・ケレ・ク・ク(形、二) [心弱] [心強しニ對ス] 情、脆シ。氣ガ弱イ。 古今集、十五、戀、五「ツレナキヲ、今ハ戀ヒジト、思ヘドモ、心よわくモ、落ツル涙カ」

おもろをか・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) [心可愛] [心ニをかしト感ズルナリ、をかしハ可愛ヲ見ヨ] 愛ヅベシ。愛ニベシ。[illegible]カハユラシ。 源、三十[illegible]、下、[illegible]「心をかしく、人馴レタルハ、アヤシク、ナツカシキモノニナム侍ル」

おもごゑ (名) [小聲] 調子、低ク、物言フコト。おほごゑニ對ス。低聲 平家物語、二、[illegible]「西光斬られの事、多田蔵人行綱、平清盛ニ、西光等ヲ[illegible]ニナリテ、云云」

おもろせんどど (副) [此先途] [せんど(ハ、前途ノ音便、其條ヲ見ヨ)[觀世音]、くわんぜんより)此場合を極とスル意] 力ヲ[illegible]シテ。イキゴミテ。鋭意。[illegible] [illegible]六年)「[illegible]せんどとシタル[illegible]モ、何レモ、キラキラシク見エタリ」「[illegible]せんどと戰フ」

おもろもて (接) [是以] 此故ニ。 大學、傳、第十章「[illegible]天下[illegible]在[illegible]其國[illegible]、上老[illegible]而民興[illegible]弟、云云、是以、君子有[illegible]之道[illegible]也」[illegible]、[illegible]也、所[illegible]以[illegible]也」

おさ (名) [樹蔭] [木叢ノ義ナルベシ] 木ノ蔭。コカゲ。 倭名抄[illegible]、おさふく、[illegible]ニテ、樹蔭ヲ、おさト云フ」[illegible]ニテ、木ノ蔭ヲ、おさト云テ、田[illegible]ナトニ、[illegible]ヒ陰リテ蔭トナルヲ、おさニナルト云ヘリ」[illegible](上)「おのぶ山、おさ路ノ奥ニ、カフ[illegible]ノ、其ヲバカリヤ、人ニ知ラルル」

こさ (名) [胡沙] [胡ノ條ヲ見ヨ] (一)支那ノ北方、胡國ノ沙漠。風ノ、沙ヲ吹キアグルニ云フ。[illegible]「[illegible]」[illegible](天[illegible])「[illegible]云、胡國ニハ、胡[illegible]トテ、白沙ノ、[illegible]不生ノ地、二三百町アリ」(二)胡國ヲ、我ガ蝦夷地ニ移シテモ云ヘリ。「種種ノ說アレド、何レモ、採ルニ足ラズ」 [illegible]夫木抄、十三「こさ吹カバ、曇リモゾスル、ミチノクノ、蝦夷ニハ見セジ、秋ノ夜ノ月」

ござ (名) [御座] (一)座ノ敬語。貴人ノ席。オマシ。 宇津保物語、藏開、上[illegible]「御子ハ、[illegible]父宮タチノ御ざノ下ニ着キタマヒヌ」(二)上疊。 枕草子、十、百三十三段「[illegible]タル男ノ、[illegible]ヲ持チ來テ、云云、取入レタレバ、[illegible]ニ、御[illegible]ト云フ[illegible]ノサマニテ、[illegible]ナド、イト清ラナリ」

ござ (名) [蓙] ござむしろノ條ヲ見ヨ。

ござ (名) [後座] (一)前座ノ條ヲ見ヨ。(二)茶湯ノ條ヲ見ヨ。

ござあ・り ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [御座在] (ござハ、御座すノ字ノ音讀) 在リノ敬語。(ござないノ反)約メテ、ござる。 太平記、[illegible]「[illegible]上臨幸[illegible]、屋形ノ中ニ御座あるコソ、日本國ノ主、忝クモ、十善ノ君ニテイラセタマヘ」

こさい (名) [巨細] 事ノ、大ナルト、小ナルト。事コマカナルコト。細大。キョサイ。 史記、田儋傳「政無巨細、皆斷於相」 大學衍義、[illegible]、序「[illegible]」 吾妻鏡、九、文治五年九月十日「可注進巨細之由、言上」

こさい (名) [瓠犀] [瓠ハ、ゆふがほナリ、犀ハ、瓠ノ實ナリ、色、白クシテ、並ビ齊ヘリ] 齒ノ、白ク並ビテ、美シキニ云フ語。 詩經、衞風、碩人篇「齒如瓠犀」 [illegible]詩、一[illegible]「[illegible]千金[illegible]瓠犀」

おざい (名) [小才] 少シノ才智。チヨットシタル氣轉。「小才ノアル男」「小才ガキク」

ごさい (名) [後妻] 後妻ニ同ジ。

ごさい (名) [五采] [字典「采、采色也」] 五色ノ(一)ニ同ジ。 史記、項羽紀「吾令人望其氣、皆爲龍虎、成五采、此天子之氣也」

ごさいば (名) [御菜葉] [葉ニ、菜ヲ盛ルニ用ヰル由ナリ、楠ノ葉ニ似タリ] 赤芽柏ノ異名。 [illegible]、後編、ございば、御菜葉ノ義、菜ヲ盛ルベキヲ、苘麻ヲモ稱セリ」

ございぶし (名) [語齋節] あふみぶし(近江節)ニ同ジ。

ございま・す (動) [御座在] 御座りますノ音便。 浮世風呂、文化、三馬、二編、上「オ早ウございます」又「思ヒヤリガございませンノサ」

ございり (名) [後座入] ノチイリ。後入。

茶湯ノ條ヲ見ヨ。

ご-さい-ゑ (名) 御齋會 〔精進潔齋ノ法會〕 禁中ノ公事ノ一。毎年正月八日ヨリ十四日マデ、諸宗ノ高僧ヲ召シテ、大極殿(後ニハ、清涼殿)ニテ、金光明最勝王經ヲ講説セシメラルル儀式ナリ。此經ハ、國家鎭護ノ功德アルニ因ルト云フ。十四日結願ノ日ニハ、問者、講師、ノ内論議(内裏ニテ論議スル意ナリ)アリ。西宮記、正月、中「御齋會、内論議」 榮花物語、十五、疑「正月ノ御齋會ノ講師、仕ウマツル」公事根源、正月、御齋會「コレハ、云云、桓武ノ御宇、延曆二十一年正月ヨリ、カヤウニ、年年ノ事ニハナリヌルナルベシ」名義抄「齋會」

ご-さう (名) 鼓譟 〔玉篇「譟、羣呼煩擾也」〕 戰ニ、太鼓ヲ鳴ラシ、聲ヲアゲテ、騷グコト。左傳、昭公十九年「登者(城ニ)六十人、縋絕、師、鼓譟、城上之人、亦譟」

こ-ざう (名) 故造 〔增韻「造、爲也」〕 故意ニ、企ミテ爲タルコト。「有心故造」

ご-さう (代) 吾曹 〔史記、平準書「分レ曹循二行郡國一」注「曹、輩也」〕 吾ガ、トモガラ。吾ガ輩。我レ等。吾儕。蘇軾詩「山向二吾曹一分外青」杜甫詩「客從投二異縣一詩態憶二吾曹一」

ご-ざう (名) 五臟 ざうふ(臟腑)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ご-ざうさ (名) 御造作 〔ざうさ(造作)ノ條ヲ見ヨ〕 造作ノ敬語。 菅門松 享保、近松作)上「イカイ御造作、云云、才覺申スト立出ル」

こ-さか (名) 小坂 イササカナル坂。 嶮シカラヌ坂。 堤 玉葉集、十四、雜、「キノツカラ、秋ノアハレヲ、身ニツケテ、歸ルこさかノ、夕暮ノ寂サ」

こ-ざか・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 小賢 〔小ハ、足ラス意、其條ノ(五)ヲ見ヨ〕 (一)サカシラナリ。カシコダテナリ。利口ブル。小慧 狹衣、二、下「言こざかしきやうにやと、賴カシク覺サルレド、若キニ紛ラハシテ」十訓抄、中、第七、三十一條「主ノ對面ノ座席ニハ、從者ノこざかしく差過ギタルハ、イト見苦シキ事ナリ」 (二)ワルガシコシ。猾智 「こざかしき下郞ドモ」

こ-ざかな (名) 小魚 種種ノ、小サキ魚ノ稱。 本朝語園俗(貞享、西鶴)「嚴近ク引キ寄スレバ、小ざかなは皆ミ取リナリ」

こ-さく (名) 小作 他ノ田ヲ引受ケテ、耕作スルコト。其收納ノ幾部ヲ、田主ニ納レテ、其餘ヲ所得ス。佃 地方凡例錄、四「小作ノコトヲ、下作、入作、掟作、請作、切作トモ唱ヘ、國所ノ俚語ニテ、樣樣ニ云ヒ習ハストイヘドモ、何レモ、小作ノコトデ、直小作、別小作、名田小作ナドト、色色ノ定メ方ニ遣ヒアリ」名主五人組心得書「一、質ニ取候地所ヲ、スグニ、質入主ニ小作イタサセ候ヲ、直小作ト唱ヘ、小作證文ヲ、キツト可レ取置レ申ノ事」「一、質ニ取候地所ヲ、質入主ニ小作イタサセズ、外ノモノヘ作ラセ候ヲ、別小作ト唱ヘ、是マタ、小作證文可二取置一申ノ事」

ご-さく (名) 御幘 〔急就篇、注「幘者、韜レ髮之巾」かしはばさみ、幷ニ、くうちうこくさく(空頂黑幘)ヲ參見セヨ。〕 白キ生絹ヲ、四折ニシタルモノ。立纓ノ御冠ノ纓ヲ、巾子ノ前ヘ曲ゲテ、二ツ折ニシテ、ソレヲ、御幘ニテ結ヒツクルナリ。主上ノ、大嘗祭ナドノ時ニ召サルルモノナリ。江家次第、十、新嘗祭「藏司供、御幘(ヘッ、内藏司供レ幘」 俊訓栞、さく「御幘ハ、白キ絹ニテ、御冠ノ巾子ヲ結ハセタマフ、神事ノ時ノ儀式ナリト、三國覽事抄ニ見エタリ」

こ-さく-にん (名) 小作人 小作ヲ業トスルモノ。

こ-ざくら (名) 小櫻 山櫻ノ一種、花ノ色、淡クシテ、密ニ咲クモノ。

こざくら-がは (名) 小櫻革 地ヲ藍染ニシテ、白ク小サキ櫻ノ花形ヲ染メ出シタル革。 吾妻鏡、三、壽永三年(元曆元年)正月十七日「相二具盛帶之甲一云云、召二御前一賜二彼甲一(注、小櫻皮威)」

こざくら-をどし (名) 小櫻縅 小櫻革ヲ細ク裁チテ、鎧ノ札ヲ縅シタルモノ。 盛衰記、三十五、高綱渡二宇治川一事、梶井大藏太行武「緋ノ直垂ニ、小櫻縅ノ鎧着」

こ-ざけ (名) 醴 〔濃酒ノ義カト云フ、あまざけヲ併セ見ヨ〕 酒ノ一種。又、一夜酒。米ト麴ト酒トニテ醸スモノ。應神紀、十九年十月「國樔人來朝之、因以二醴酒一獻二于天皇一」 類聚國史、大寺正倉院文書、四十五「酒、六斗七升六合」造酒司式、醴酒者「米四升、蘖二升、酒三升、和合醸造」 倭名抄、十六「醴酒、四聲字苑云、醴、一日一宿酒也、古佐介」 公事根源、一條兼良、六月一日、供二醴酒一「一夜ざけトハ、今日造レバ、明日ハ供スルナリ、云云、又ハ、こざけトモ、或文ニ侍リ」

ござ-ござ (副) 「こせこせト通ズルカ(ふさぐ、ふせぐ)ござハ、混雜ノ音カト云フ(イカガ)」 物事ノ、細カク入リ雜リタル狀ニ云フ語。複雜。「ござござシタ話」

ござ-さうらふ (動) 御座候 ござるト、さふらふトヲ見ヨ。ゴザリマス。 落窪、消息「御座ヲ書ヘラレ、皆皆ノ中ニ、ウチ交リ御座候ヘカシト存ジ候」

ご-ざしよ (名) 御座所 オマシドコロ。座所ノ敬語。 松屋夜話、談淵金大夫トイフ見州浪人、云云、御座所ノ次ノ間ニテ、仙臺トイフ、若年ノ童坊ト、不二差出一口論ヲ仕リ」

こ-さ・す スル・スレ・セ・セ・セヨ(他動、下二) 令來 〔こ(來)ノ未然形ノこニ、使役ノ助動詞ノ、さすノ附キタル語、一成語ト見ル〕 來ラシム。呼ビ寄ス。 新古今集、十七、雜、中「山里ハ、人こさせジト、思ハネド、訪ハルルコトゾ、疎クナリユク」 萬代集、四、秋、上「思フ人、こさせマホシキ、處カナ、ミカキガ原ノ、萩ノ盛リハ」

ご-さた (名) 御沙汰 沙汰ノ敬語。仰セ出サレ。 御指圖。 太平記、一、立后事「若モ、御哀ノ聞エ候ルベシト思召シテ、取分、立后ノ御沙汰モアリケルニヤ」

こ-さつ (名) 小札 紙幣ノ、一圓以下ノモノ。小額紙幣。(大札ニ對ス)

こ-さつ (名) 故殺 法律ノ語。故意アリテ、人ヲ殺シタルコト。(謀殺、誤殺、ナドニ對ス) 元史、刑法志「諸故殺無罪、子孫以讎殺仇人者、以二故殺常人論」

こ-さつ (名) 古刹 〔刹ハ、梵語、Ksetra〕 舊キ寺院。フルデラ。古寺。 蘇軾、遊靈 隱寺詩「靈隱三十年、古刹空遺墟」

ご-さつ (名) 誤殺 誤リテ、人ヲ殺シタルコト。(謀殺、故殺、ナドニ對ス) 元史、世祖紀「有下誤殺、持二鎧往一謁二宰相一蒙古人、誤殺、免官」

こ-さつき (名) 小五月 陰曆五月九日、近江國、坂本ナル日吉神社ノ祭ノ名。 百錬抄、十六、寶治元年五月九日「新日吉小五月會也」 俚言集覽、小五月「古今著聞集、小五月、こさつき、江州坂本祭禮」

コサック (名) 哥薩克 〔英語、Cossack.〕 露西亞國ノ東南部ニ住スル人民ノ稱、騎兵トシテ、驍名アリ。コッサック。

こ-ざっぱり (副) 小灑酒 〔小ハ、接頭語ナリ、其條ヲ見ヨ〕 さっぱり(清爽)ト云フ

ヲニ同ジ、コギレイ。こぎたないノ反」
「こざっぱりシタ[illegible]」

こさつまぶし（名）［小薩摩節］ 江戸淨瑠璃ノ一、大薩摩淨雲ノ小、薩摩太夫次郎右衛門ノ創メタルモノ。 東海道名所記、[illegible]二、江戸、淨瑠璃、大薩摩、小ざつまナドトテ、鼠戸ヲナノヘテ太鼓ヲ打ツ」

こさとへん（名）［小邑偏］（おほざとノ條ヲ見ヨ） 漢字ノ偏ニアル、阝ノ字ノ稱、字書ノ上ニテ、阜ノ部首ニ屬ス、即チ、防、阿、陛、陸、限、ナドノ如シ。又、コザトヘン。阜旁

ござない（形二）［無御座］ あらずノ敬語。無シヲ、丁寧ニ云フ語。 太平記、[illegible]山寺「内裏へ登テ見ルニ、主上ハ御座無クテ」 狂言記、上、[illegible]物、云云、[illegible]コトモござない」

こざね（名）［小札］ 札ノ條ヲ見ヨ。

ござのま（名）［御座間］ 貴人ノ着座スル室。 吾妻鏡、四十二、建長四年四月十四日「將軍家、云云、[illegible]御座間、并、左右二間御簾」

こさび（名）［小錆］ 烏帽子ノさびノ、小ナルモノ。（大錆ニ對ス）又、其烏帽子。 [illegible]「[illegible]ハ、大さびサウカ、こさびサウカ」

ござぶね（名）［御座船］（一）貴人乘用ノ船、唐破風造ノ船屋形ナドアリ。 樓船 [illegible]」（二）屋形船。 大坂

こさぶらひ（名）［小侍］ 若年ノ侍。 宇治拾遺、一、第五條「十七八バカリナル小侍ノ、フト走リ出テ」云云」

こさぶらひどころ（名）［小侍所］ 承久元年、鎌倉幕府ニ設ケタル役所ノ名、諸士ノ宿衞、扈從、弓始射手、選定、着色賜使、等ノ事ヲ掌ル、長官ヲ、別當ト云フ。 吾妻鏡、廿四、承久元年七月廿八日[illegible]侍[illegible]等定[illegible]小侍所[illegible]」

こさへる（動）［拵］ こしらへるノ急呼。

ござぼ（名）［座帆］ 帆ノ、蓙ニテ作リタルモノ。（布帆ニ對ス）

こさん（名）［古參］ 古ク參リテ、仕ヘテアルコト。又、其人。（新參ニ對ス）

こざん（名）［故山］ フルサト。故郷。 謝[illegible]詩「故山日既遠、[illegible]」 朗詠集、下、[illegible]「[illegible]故山無[illegible]」

ござん（名）［五山］（天竺ニ、五精舍アリ、支那ニモ、五山ト稱シテ、五箇寺アリ、ソレニ傚ヒテ稱スルナリ）京都ノ天龍寺、相國寺、建仁寺、東福寺、萬壽寺ノ、五箇ノ禪寺ノ稱、南禪寺ハ、此上ニ位ストス。（下學集）鎌倉、室町時代、是レ等ノ寺寺ニテ、木刻、刊行セシ書籍ヲ、五山版ト云フ。又、鎌倉ノ五山ト云フハ、建長、圓覺、壽福、淨智、淨妙、ノ五禪寺ナリ。 空華日工集、永徳二年五月七日「君（足利義滿）問三東西五山之起、余曰、昔[illegible]年間、先君（足利義詮）乘レ鈞、創議五山、第一建長南禪（均等）、第二圓覺天龍（均等）、第三壽福、第四建仁、第五東福、其次、淨智、淨妙、萬壽、以準五山而入、選號三相若五山こ」

ござん（名）［五三］（揚代、五十三匁）昔、京都ノ島原ニテ、遊女ノ大夫ノ異名。 色道大鏡（延寶）「五三、三八、天神、圍、トテ、皆、一日ノ揚錢ノ數ヲ擧ヘテ、名トセリ」 [illegible]（貞享）「一年大坂ノ新町ニ、木村屋ト云ヘルヨリ、御大夫ヲ仕出シ、云云、難波ニ、五三八、メヅラシク、云云」

ごさん（名）［午餐］ ヒルメシ。晝食。 白氏文集、三十六「午餐何所有、魚肉一兩味」 [illegible]ハ餐ノ俗字「午餐ヲ喫ス」

ごさん（名）［誤算］ 誤リタル計算。カンヂャウチガヒ。

ごさん（名）［後產］ ノチザン。アトザン。

ごさんしょ（名）［御產所］ 產所ノ敬語、鎌倉、室町時代、將軍ノ御臺所ノ產所ヲ稱セリ、其調度、其他ノ庶事ヲ掌ル頭ヲ、御產所奉行ト云フ。 吾妻鏡、二十二、[illegible]元年七月十二日「御產所依三御產氣一渡三御比企谷殿一云云、[illegible]其所、云云、[illegible]仰付こ」 同、六、文治二年二月廿六日「御產所、長門江七景遠宅也」

ござむしろ（名）［蓙莚］（御蓙莚ノ義、客ノ御座ノ敷物トシタルモノナルガ故ニ、御座ノ名、遺ル、蓙ハ、御座ノ座ニ、艸冠ヲツケタル造字ナリ）藺莚ニ、緣ヲツケタルモノ。後ニハ略シテ、ござトノミ云フ。ウスベリ。藺莚 東大寺文書、二、寶德二年文書「御さむしろ四枚」「[illegible]ござ」「花ござ」「ござ包ミ」

ござん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）［御座］ ござりますノ訛。 [illegible]出世景清、寶永、近松作、下「八ツノ時分ニ、又ござんせ、[illegible]ヘテ前キマセウ」[illegible]享保、近松作「ニコレ、[illegible]ござんせ、[illegible]」 生玉心中（正德、近松作）上「[illegible]掛ケテ御座んす」

こさんすゐ（名）［枯山水］ こせんすゐト讀ム、せんすゐ（山水）ノ條ヲ見ヨ。

ごさんちく（名）［五三竹］ 布袋竹ノ類、 倭訓栞、後編、ござんちく「五三竹也、[illegible]東八五、[illegible]ハ三、相違ルヲモテ名ヅク、佛面竹ナリト云ヘリ」

ござんなれ（句）（ござ、ある、なれノ音便約）（一）ニテ、アルヨ。 長門本、平家物語、十五、備前中納言「サテハ、人、ござんなれ、イデサラバ、[illegible]セム」 保元物語、二、白河殿攻落事「[illegible]八、[illegible]通ノ弟、ござんなれ、汝、兒ニ向ヒテ、云云」 [illegible]語、一、[illegible]早馬[illegible]事「敵、[illegible]源大ニテハアラズシテ、[illegible]方、ござんなれ、ウテヤ者ドモトテ」（二）サア、來タレ。ヨシキタ。 [illegible]元祿、近松作、二「キャツコソ、丑ノ時參リ、ござんなれ、大内ノ[illegible]タツネン」

ごさんねん（名）［後三年］ 前九年ノ條ヲ見ヨ。

ごさんのきり（名）［五三桐］ 紋所ノ名、桐ノ葉三枚ヲ垂レナラベテ、上ノ中央ニ、花ヲ五ツ、其左右ニ花ヲ三ツヅツ立テタル象ヲ圖ス。又、中ナル花ヲ七ツニシテ、左右ナル花ヲ、五ツニシタルヲ、五七の桐ト云フ。

ごさんばん（名）［五山版］ 五山ノ條ヲ見ヨ。

ござんまい（名）［五三昧］（さんまい（三昧場）ノ條ヲ見ヨ）近畿ニアリシ、五箇處ノ葬所。 平家物語、三、許文事、宇治左大臣頼長「葬所ハ、大和國、添上郡、河上村、般若野ノ五三昧也」 山城名勝志「[illegible]鳥邊野ナトモ、其一ナリ、[illegible]鳥邊野ノ南、延仁寺ノ三昧ニ送リテ、火葬シ奉ル」

こさめ（名）［小雨細雨］（雨ノ條ヲ見ヨ）細カク降ル雨。コヌカアメ。 萬葉集、十一「ヌバタマノ、黑髮山ノ、山菅ニ、小雨降リシキ、シクシク思ユ」 同、十六「伊夜彦ノ、オノレ神サビ、青雲ノ、タナビク日スラ、小雨ソボフル」 [illegible]「[illegible]雨、古佐女」 倭名抄、一「[illegible]細雨、一名、霡霂、古佐女」

ござめ（名）［蓙目］ 大判金ナドノ表面

ニ、横ニアラハシタル、藁座ノ筋目ニ似タル象。内部マデ、表面ト同質ナルヲ示スガタメニ設ケタルモノト云フ。

こ-さら (名) 【小皿】 小サク、淺キ皿。小碟 饅頭屋本節用集、器財「小皿、コサラ」

ござり-ま・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 【御座在】 次條ノ語ノ連用形ノ御座リニ、ますヲ添ヘテ、熟語トナシタル敬語。ゴザイマス。狂言記、福渡「イヤ私チャ御ざりますマイ」同、おんくゎい「添ウコソ御ざりますれ」同、どぶかつちり「ココヘ御ざりませエ」同、吟聟「コリャ、ドナタカラ御ざりましタ」

ござ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 【御座】 (御座ありノ約ナリ、而シテ、變格良行ノ語尾變化ナルベキガ、正格良行四段ノ語尾變化ニ轉ズ) (一)御座すヲ、音讀シタル語、御出デナサル。狂言記、福渡、宿坊「カラ、才人ガ御座リマシタ」同、粟田口「マヅサキヘ御ざれ」 (二)有り、ノ敬語。ヲリマス。狂言記、雜立江「畏マッテござる」同、薩摩守「人通リガ御ざらヌヨ」

こ-ざる-へん (名) 【小猿偏】 こざとへん(小邑偏)ニ同ジ。(おほざるニ對ス) 逐歩色葉集「阝、コザルヘン」

こし (名) 【腰】 〔體ノ層ノ義ナルカ、括レタル意〕 (一)〔脊柱ノ下部ト、骨盤ノ上部ト、相接スル處。俯仰スレバ、屈折ス。皇極紀、元年「大和ノ、忍ノ廣瀨ヲ、渡ラムト、脚帶手ヅクリ、腰ツクラフモ」倭名抄、三四身體類「要、或作腰、和名、古之」 (二)〔袴、又ハ、裳ノ、腰ニ當ル處。又、其處ニ結ブ紐。源、三、空蟬「紅ノこし、ヒキ結ヘルキハマテ、胸アラハニ、バウゾクナルモテナシナリ」枕草子、二、十七段、にくきもの「指貫ノこし、ツヨクヒキユヒ」 (三)山ノ、麓近キ所。國性爺合戰(正德、近松作)四「白雲、帶ニ似テ、山ノ腰ヲメグル」腰を押すトハ、後ヨリ助力ス。唆シ、勸ム。教唆 腰を掛くトハ、尻ヲ、物ニ載ス。狂言記、内沙汰「足レニ、腰をかけて居サセマセ」 腰を衝くトハ、腰ヲ折リ、倒レテ、尻ニテ地ヲ衝ク。腰を挫ケテ止ム。腰を折るトハ、屈ム。諂フ。晉書、陶潛傳「吾不能爲五斗米折腰、拳拳事鄉里小人邪」 腰の句トハ、和歌ノ、第三ノ、五文字ノ句。無名抄「夕サレバ、野邊ノ秋風、身ニしみテ、鶉鳴クナリ、深草ノ里、云云、ノ歌ハ、身にしみてトイフ腰の句、イミジウ無念ニオボユル也」 腰が脱けるトハ、腰ヌケトナル。國性爺合戰(正德、近松作)三「女ニ絆サレ、慾ニ引カレ、腰が脱けテ、弓矢ノ義ヲ忘レシト、縱鞨人ノ雜口ニカケラレンハ必定」 腰が強いトハ、押シ通ス意氣、又ハ、受ケ耐フル力、強シ。

こし (名) 【層】 〔腰ノ義カ、腰骨ノ狀ニ擬シテ名ヅケシナルベシ、肘木ナドモ、其狀ニ因ル名ナリ〕 五重、七重、九重ノ塔ノ階。階。級。舒明紀、十一年十二月「於百濟川側、建九重塔」靈異記、下、第三十六緣「西大寺八角塔成四角、七層減五層也」訓釋「層、古之」字鏡「層、級也、重屋高也、志奈、又、塔乃己志」倭名抄、十三佛塔具「七層靈塔、層、太布乃古之」

こし (名) 【越】 〔山ヲ越す義、近江國、高島郡ノ北境、荒發山ヲ越セバ、道口村アリ、越道口(越前)ナリ、萬葉集、四廿「厭カザル君ヲ、山越ニオキテ」久安百首、冬「初深雪、降リニケラシナ、あらち山、越ノ旅人、橇ニ乘ルマデ」〕 北陸道ノ舊稱、此道ヲ、越路ト云ヒ、發語ヲ冠ラセテ、みこしぢト云ヒ、又、くにがのみちトモ云フ。古事記、上三十八「高志國」同、中(崇神)廿八「高志道」景行紀、四十年十月「越國」萬葉集、十八廿九「深雪降ル、古之ニ下リキ」日本紀私記「有坂、名角鹿、此入國、故曰越國」(角鹿ハ、敦賀ナリ)

こし (名) 【輿】 〔越ノ義ト云フ、地ニ置カズ、手越ニスル具ノ意、たおしノ條ヲ見ヨ〕 人ヲ載セテ行ク具、二本ノ棒ノ上ニ、蓋アリ、棒ヲ擔ゲテ行ク。垂仁紀、十五年八月「竹野媛、云云、自墮輿而死之」靈異記、上、第一緣「擧、去之」倭名抄、十一車類「擧、或作輿、車無輪也、古之」 手輿、網代輿、四方輿、板輿、塗輿ナド、種種アリ、各條ニ註ス。

こ-し (名) 【古史】 古代ノ歷史。

こ-し (名) 【古詩】 (一)古代ノ詩。十八史略、一、孔子「删古詩三千篇爲三百五篇」 (二)詩ノ一體、五言、或ハ、七言ニテ、五六句(短古)ナルヨリ、數十百句(長篇)ニモ至ル、隔句ニ、韻ヲバ履ム、一韻、到底アリ、數句、換韻アリ。但シ、句中ノ字ハ、平仄ニ拘ハラズシテ、綴ル。

こ-し (名) 【古紙】【故紙】 (一)古キ紙。 (二)反古紙。北夢瑣言、韓軌鏡「安能作刀筆吏、返披故紙乎」

こ-し (名) 【胡荽】 草ノ名、こにし、及、こえんどろノ條ヲ見ヨ。

こ-し (名) 【枯死】 カレハツルコト。「草木、皆、枯死ス」

こ-し (名) 【誇示】 〔くゎしナルベシ、姑ラク謂音ニ從フ、唐韻「誇、苦瓜切」廣韻「大言也」集韻「誇、區遇切、歌也」〕 誇リ、シメスコト。衒フコト。後漢書、鄧禹傳「當下揚漢和親、誇示降敵上」

こ-し (名) 【虎子】 シノハコ。溲瓶。西京雜記「漢朝以玉爲虎子、以爲便器、使侍中執之、行幸以從」侯鯖錄「李廣射臥虎、斷其頭爲枕、鑄銅象其形爲溲器、至今、溲器、之虎子二附會ナルベシ」

こ-し (名) 【虎視】 虎ノ物ヲ見ル如ク、四方ヲ見廻ハスコト。虎視眈眈ノ條ヲ併セ見ヨ。

こ-し (名) 【顧視】 カヘリミルコト。振リカヘリテ、見ルコト。後漢書、宋弘傳「帝數顧視之」

こ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、一) 【濃】 〔凝るト、語根、相、通ズルカ〕 (一)〔色、染ミテ、深シ。(薄し、淡しノ反) 古今集、十、物名「花ノ色ハ、只一サカリ、こけれドモ、返ス返スゾ、露ハ染メケル」 (二)液類ノ成分、コマヤカナリ。滋 濃 厚 宇治拾遺、三、第十八條「鬂洗ノ革籠、云云、香シサ、譬ヘン方ナシ、見レバ、沈、丁子ヲ、こく煎ジテ入レタリ」「酒、濃し」「濃く、茶ヲ煎ズ」 (三)茂ク、多シ。厚シ。「髮ノ毛濃し」

こし (接尾) 【腰】 腰ニ帶ブル物ヲ數フルニ云フ語。大炊寮式「袴一腰」平治物語、一、從三人、波羅ニ被立ニ早馬於紀州ニ事「五十腰ノ矢」(箙ニテ、腰ニ佩ブ)「太刀一腰」

こ-し (名) 【巾子】 〔巾子ノ吳音ノ、こんしノ約ナリ(汗衫、かざみ)天治字鏡、十二八「巾子、斤自」名義抄「巾子、コンシ」倭名抄、十二八冠帽具「巾音如渾」急就篇、註「巾者、一幅之巾、所以裹頭也」子ハ、椅子、瓶子ノ子ノ類〕 冠ノ名所、頂ノ上ニ、高ク突出シタル處、内、空ナリ、髻ヲ插シ入ル。醍醐紀、十三、承和十年七月、藤原緒嗣加冠「鬢頭、巾子、皆是、乘輿之所、御也」倭名抄、十二八冠帽具「巾子、鬢頭具、所以插髻者也、此間、巾音如渾」神樂歌、早歌「近衞ノ御門ニ、古志落イツ、髮ノ根ノ、ナケレバ」(古製ナルハ、別ニ作リテ、插シタリト云フ) 名目抄「巾子、コジ」

こ-し (名) 【居士】 〔家ニ居處スル士ノ義ナルベシ、處士ト云フモ、同ジ〕 (一)學德アリテ、仕官セザル者ノ稱。處士。禮記、玉藻篇「居士錦帶」註「道藝處士也」 (二)佛

語ニ、道義清白ニシテ、居モ[illegible]ニ隠業ナキ者ノ稱。又、[illegible]ノ稱。[illegible]宮中ニ遊ケコモル」「維摩居士」 (二)佛家ニテ、男子ノ法名ノ下ニ附スル稱。(女子ニ、大姉ト云フニ對ス)

こ-じ (名) 古字 古代ノ文字。古文。[illegible]

こ-じ (名) 古寺 こさつ(古刹)ニ同ジ。

こ-じ (名) 故事 (一)古キ事。古ヘアリシ事。[illegible] (二)昔ヨリアリテ、[illegible]アル事柄。先例。[illegible]

こ-じ (名) 孤兒 ミナシゴ。親ノナキ子。[illegible]

こ-じ (名) 固辭 カタク、イナムコト。[illegible]

こ-じ (名) 巾子 こつこノ條ヲ見ヨ。

ご-じ (名) 互市 「說文、市、買賣所レ之也」からえき(交易)ニ同ジ。シロモノガヘ。ウリカヒ。[illegible]

〜こ・じ (動) 抉 こす(抉)ノ條ヲ見ヨ。

こ-じ (代) 吾子 親シミ云フ語、自分ナド云フハ、對稱ノ代名詞ナリ」對稱ノ代名詞。キミ。オンミ。孟子、公孫丑、上篇[illegible]

〜こし (接尾) 越 物越ニ、モノコシ、ニ云フ語。[illegible]

ご-じ (名) 五時 とき(時)ノ條ヲ見ヨ。

ご-じ (名) 午時 午ノ時。眞晝時。午天。(午ノ條ヲ見ヨ) 白居易詩「不作午時眠」

ご-じ (名) 誤字 誤リタル字。書キ違ヘタル文字。[illegible]

ご-じ (名) 語次 言葉ノツイデ。話ノツヅキ。言次。[illegible]

こし-あき (名) 腰明 のしめこそでノ條ヲ見ヨ。

こし-あげ (名) 腰揚 衣物ノ腰ノ所ヲ、縫ヒアゲタルコト。又、其アゲタルモノ。肩揚ニ對ス。

こじ-あ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下一) 抉明 (こす(抉)ノ條ヲ見ヨ) 抉ジテ開ク。[illegible]

こし-あて (名) 腰當 (一)騎射、狩獵、旅行、等ノ時、後腰ニ當ツル毛皮。踞スル時、敷皮ニ充ツルモノカ。一名、引敷。[illegible] 中行事、虎皮ノ引敷」 (二)箙ノ上帶ヲモ、腰當ト云フ、箙ヲ負ヒ、其上ニ引キカケテ、腰ニ結ヒトドムレバ云フ。庭訓往來、六月「逆靱、箙、鏃、胡籙、云云、各相具調度」 (三)又、鎧ヲ着テ、(太刀ヲ佩カズ)打刀ト、長脇差ヲ刺スニ用キル具ニ、腰當ト云フアリ、長サ七寸許、幅三寸許ノ楕圓ナル中ニ、十文字ニ、細ソキ革ニテ綱ヲ二ツ作リテ、兩刀ヲ刺シテ佩ク。(貞丈雜記)

〜こし-あぶら (名) 金漆 金漆ノ條ヲ見ヨ。

こし-アン (名) 漉餡 餡ノ(一)ヲ見ヨ。

こし-いた (名) 腰板 (一)垣、壁、障子ナドノ腰部ニ張レル板。[illegible] (二)袴ノ名所。(はかまおびしヲ見ヨ)[illegible]

こし-いたみ (名) 腰痛 腰ノ邊ノ、痛ム病。腰痛。

こし-いれ (名) 輿入 新婦ノ婿ノ家ヘ、舁キ入ルルコト。貴人ニハ、入輿ト云フ。[illegible]

こ-しう (名) 狐臭 ワキガ。

ご-しうぎ (名) 御祝儀 (一)祝儀ヲ、丁寧ニ云フ語。(二)俗ニ、死ノ凶事ヲ忌ミテ云フ。死スルヲ、おめでたいト云フガ如シ。[illegible]

〜こ-じうと (名) 小舅 夫ノ兄弟ノ稱。倭名抄、二十夫妻類「夫之兄曰兄公、和名、古之宇斗、夫之弟曰叔、和名、同兄公」[illegible]化島ニ井一族官位昇進事「六波羅殿ノ御一家ノ公達ト云テケレバ、花族モ、英雄モ、面ヲ向ヘ、肩ヲ並ブル人ナカリケリ、太政入道ノ小舅ニ、平大納言時忠卿ノ、常ノ言ニ、此一門ニアラヌ者ハ、男モ、女モ、尼法師モ、人非人トゾ被レ申ケル」

こ-じうとめ (名) 小姑 (一)夫ノ姉妹ノ稱。倭名抄、二十夫妻類「夫之姉曰女公、和名、古之宇止女、夫之女弟爲女妹、和名、與女公同」[illegible] (二)妻ノ姉妹。倭名抄、二十夫妻類「妻之姉妹[illegible]、和名、伊毛之宇止女」

こし-うや (名) 腰禮 (うや(禮)ノ條ヲ見ヨ) 腰ヲ屈メテ、禮ヲスルコト。[illegible]

こじ-え (名) 居士衣 「居士ノ條ヲ見ヨ」隠者ナドノ着ル服。[illegible]

こし-おし (名) 腰推 (一)嶮シキ坂路ナドヲ、登リ悩ム時、後ヨリ、其人ノ腰ヲ推シテ、助ケ上グルコト。[illegible] (二)轉ジテ、スベテ、後ヨリ、助力スルコト。唆シ。勧ムルコト。シリオシ。使唆 [illegible]

こし-おび (名) 腰帶 (一)石帶ノ本名。[illegible] (二)婦人ノおひきずりノ服ヲ、着丈ニ端折リ、ソレヲ腰ニ巻キ止ムル紐

ノ名。服ノたるみヲ垂レテ、其上ニ帯ヲ締ムルナリ。 書言字考節用集「腰具、搊、帶、腰帶」物類稱呼、四、衣服「東國ニテこしをびト云」諸家奥女中袖鏡「紳、帯掛ハ、御側御次以上、白地ノ事」

こしかき (名) 輿昇 輿ヲ昇ク者。輿丁 鶴岡放生會職人歌合(文安)廿六番、輿昇「旅ノ世ノ、憂キヲ厭ハバ、輿かきノ、苦シム道ゾ、差シアハセナル」判ニ云フ「二人輿ニテサヘ、通路ハカナヒガタキニ、さしあはせノ苦行、アヂキナクゾ侍ル」(差合はせトハ、二人ニテ昇クコトナリ)

こしかけ (名) 腰掛 (一)腰ヲ掛クルニ用キル具、椅子類ノ總名。椅子 (二)勤務ナドヲスルニ、一時、身ヲソレニ寄セオキテ、永ク落着カヌ心ナルヲ、こしかけ仕事ナドト云フ。 俚言集覧、腰掛「俗ニ、假ニ、暫ノ間、其處ニ居ルヲ腰掛ト云フ」

こしかけだい (名) 腰掛臺 數人、並ビテ、腰ヲ掛クベク作レル床。長サ六尺、幅一尺乃至三尺、高サ一尺二三寸、四脚アルモノ。又、緣臺。九州ニテ、パンク。

こしかけぢゃや (名) 腰掛茶屋 路傍ニ、葦簀張ナドシ、腰掛臺ヲ設ケテ、煎茶ヲ賣ル茶屋。行人ヲ憩ハシム。掛茶屋。 衣食住記「明和ノ頃ヨリ、通町ヲ初メ、所所ニ、腰かけ茶屋、多クナレリ」

こしかけまつ (名) 腰掛松 偉人ノ、枝ニ腰ヲカケテ休ミタリト傳フル松ノ稱。處處ニアリ。 傾城反魂香(寶永、近松作)上「金ガ崎ニハ、義貞ノ腰掛松、[illegible]ノ腰掛松」

こしかた (名) 來方 來リシ方。過ギ去リシ方。又、其時。きしかたトモ云フ。既往 往時 後拾遺集、九、羈旅「[illegible]、今日過ギユクト、こしかたヘ、歸ル波ニヤ、言ヲ傳テマシ」[illegible]ニ、こしかたノ山ハ、霞遙カニテ」同、四、夕顔「きしかたノ事ナドモ、人知レズ思ヒ出デケリ」親輔集「きしかたモ、今行ク末モ、遠ケレバ」

こじがた (名) 巾子形 (冠ノ巾子ノ形ニ似タリ、屋ノ棟ノ沓形ト、同趣ノ語) 閾ナキ門ノ中央ニ立テオク、小石ノ名。頭後ヲ缺キテ、兩扉ヲ當テテ止ム。ヘイ、とあたりト云フ。梱 閫 倭名抄、十七門戶具「梱、所以止扉也、梱、謂之閫、門中央杙也、巾子形」

こしがたな (名) 腰刀 (自ラ腰ニ刺シ居ル稱、太刀ハ、供人ニ持タス) 短刀ノ名。又、腰指。鞘卷ニ同ジ。 刀劍問答「腰刀、云云、鞘卷ノ事ナリ、常ニ腰ヲ離サヌ刀ナル故、腰刀ト云フ」古事談、四、勇士「九寸バカリナル腰刀」盛衰記、一、五節夜闇討事「殿上人タル者、腰刀ヲ差シアラハス條、傍若無人ノ振舞也」(前後ニ、黒鞘卷トアリ)長門本、平家物語、八、宮殺レ討御曹子「腰刀ヲ拔キ、云云、頸掻キ切リ」

こしがはら (名) 腰瓦 土藏、長屋ナドノ、外壁ノ腰板ノ部ニ、瓦ヲ並ベテ、塗リツケタルモノ。 衣食住記「享保ノ中頃マデ、諸侯大夫ノ殿門、表長屋ノ屋根、云云、度度、火災ユヱ、用心ノ爲ニトテ、瓦屋根ニ造リ、爰腰板モ、腰瓦ニカハレリ」

こしがはり (名) 腰變 (片身がはりナドニ對ス) 衣服ノ、腰ニアタル所ノミ、織文、染色ヲ變ヘタルモノ。女ノ服ノかたすそ、熨斗目、小袖ノ腰あき、ナドモ、是レナリ。 女殺油地獄(享保、近松作)上「桔梗染ノ腰がはり」

こじがみ (名) 巾子紙 冠ノ纓ヲ、巾子ニ挾ムニ用キル具。檀紙ヲ二枚重ネテ、長サ四寸餘、幅一寸五分程ニ切リテ、其中央ニ、長方形ノ穴ヲ切リヌキ、纓ヲ、後ヨリ、巾子ノ上ヲ引越シテ、前ニテ、其末ヲ上ヘ折返シ、ソレヲ、巾子ト共ニ、紙ノ穴ニ插シテ止メオクナリ。紙ヲ、金箔ニテダミテ、金巾子ノ御冠ト云フ、主上、御内内ノ時、召サルルモノナリ。(貞丈雜記) 禁秘御抄、中、御裝束「巾子紙、以ニ檀紙ニ用之」蛙抄、七、纓「天子モ、御束帶、御物具、御引直衣ノ時ハ、御垂纓也、平生ハ、御巾子紙ヲ入レラルル也」装束秘抄「金巾子、常ニ召サルル御冠也、金ノ紙ヲ以テ、御纓ヲハサム也」

こしき (名) 甑 (炊ノ轉ナリト云フ(日讀、暦。可笑し、をかし)周禮、考工記「陶人爲レ甑、云云、七穿」李時珍ノ説ニ「北人用ニ瓦甑、南人用ニ木甑ニ」支那ニテハ、陶製モアリシナルベク、故ニ、字、瓦ニ从フ、我ガ邦ナルハ、スベテ、木製ナリシトオボシ、字鏡ニ、檝、榏、ノ字ヲ記セルハ、木甑ノ合字ナリ、倭名抄ニモ、甑ヲ、木器トシタリ」强飯ヲ、蒸シ炊グニ用キル器。木製ニシテ、底ニ、竹ノ簀ヲ敷ク、今云フ、蒸籠ナリ。 孝德紀、大化二年三月「有ニ百姓、就ニ他借ニ甑炊ニ飯」萬葉集、五十三貧窮問答長歌「許之伎ニハ、蜘蛛ノ巣カキテ、飯炊グ、事モ忘レテ」字鏡三十五「甑、年須己志支」同四十八四十九「㽄、檝、己志木」倭名抄、十六木器類「甑、古之岐」

こしき (名) 轂 (其形、甑ニ似タレバ、名ヅクト云フ) 車輪ノ中央ニ設ケテ、軸ヲ貫クモノ。一名、筒。今、又、輪筒。輪ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、十一車具「轂、輻所ニ湊也、車乃古之岐、俗云、筒」

こしき (名) 古式 フルキシカタ。古代ノ方法。舊式。(新式ニ對ス) 潘尼頌「强ニ要累ニ反ニ故式ニ」(故ハ、古ニ同ジ)

こじき (名) 乞食 こつじき(乞食)ニ同ジ。乞丐 左傳、僖公廿三年「乞ニ食于野人ニ」宇津保物語、樓上、上四十「こじき、カタヰマデ、如何ナル事ナラム、見聞カバヤト思ヒ云フ」

ごしき (名) 五色 (一)青、黄、赤、白、黒ノ五ツノ色ノ稱。五采。いろノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 禮記、樂記篇「五色成レ文而不レ亂」土佐日記、二月朔日、土佐國、黒崎「所ノ名ハ黒ク、松ノ色ハ青ク、磯ノ波ハ、雪ノ如クニ白ク、貝ノ色ハ蘇芳ニテ、五色ニ、今ヒト色ゾ足ラヌ」 (二)種種ノ色。雜彩 竹取物語「龍ノ頸ニ、五色ノ光アル玉アナリ」 (三)次次條ノ語ノ略。

ごしきあげ (名) 五色揚 精進揚ニ云フ語、種種ナル色ノ野菜ヲ、つけあげニシタルモノ。

ごしきうり (名) 五色瓜 (種種ナル色ヲ呈スル瓜ナルベシ) 京都ノ壬生ノ大通寺ノ邊ニ生ズル、一種ノ瓜。略シテ、五色トノミモ云フ。 阮籍詩、東陵瓜「五色曜ニ朝日ニ」吾妻鏡、十一、建久二年八月一日「獻ニ盃酒ニ、其儀、强不レ極レ美、以ニ五色、鹽魚等ニ爲ニ肴物ニ」看聞記、嘉吉元年六月廿四日「五色、二籠、通照心院進上」殿中次記、六月十八日「五色、二十籠、進上」林逸節用集、古部、草木「五色瓜」

こしきおとし (名) 甑落 御産ノ時ノ儀。御殿ノ棟ヨリ、甑ヲマロバスナリ。 校定本、平家物語、三、中宮御産事「后、御産ノ時、御殿ノ棟ヨリ、甑ヲマロバスコトアリ、皇子御誕生ニハ南ヘ落シ、皇女御誕生ニハ北ヘ落ス、云云」山槐記、二、治承二年十一月十二日「皇子(安德天皇)降誕、云云、自ニ日隱間上ニ轉ニ甑、云云(件甑、自ニ社所有大原ニ渡ニ内膳ニ大炊ニ令ニ用ニ之)」徒然草、六十一段「御産ノ時、甑落すコトハ、定マレル事ニハアラズ、御胞衣トドコホル時ノマジナヒナリ、云云、大原ノ里ノ甑ヲ召スナリ」俗語考「あやかるニ甑を落すヲ、腰氣を下す由ニ取リ、大原ヲ、大腰ニ准ヘタル、あやかりわざナルニヤ」

ごしきささえ (名) 五色榮螺 さざえノ類、大キサ一寸許、刺、無シ、殼ノ内面ノ

色、五彩ヲアラハス。イロササエ。

こじき-しばゐ（名）[乞食芝居]　(一)乞食ノ群ノ、人家ニツキテ、演劇シアルキテ、錢ヲ乞フモノ。(二)下等ノ芝居小屋ニテ、演戲スルモノ。

ごしき-ちやづけ（名）[五色茶漬]　茶漬飯ニ、五品ノ小菜ヲ添ヘテ、賣ルモノ。

こじき-ぶくろ（名）[乞食袋]　こつじきぶくろノ(二)ノ見ヨ。

こし-ぎんちやく（名）[腰巾着]　(一)巾着ノ、腰提ニ用ヰルモノ。(二)俗ニ、其人ニ愛セラレ、常ニ、附キマトヒテ、離レザル者。オソバサラズ。浮世風呂(文化、十)三編、下「私ガ湯ヘ來ルニモ、腰巾着ダ、サウサノウ[illegible]可愛ガルカラサ」

こし-きりばんてん（名）[腰切半纏]　半纏ノ裾ノ、腰ノ邊マデナルモノ、職人ノ用ナリ。

こし-きわら（名）[甑藁]　(甑ノ條ヲ見ヨ)　[illegible]トノ敷物ニ、藁ニテ作リ、甑ヲ載セ[illegible]

こし-くじき（名）[腰挫]　相撲ノ手ノ名。相手ノ褌ヲ取リテ引キツケ、其肩ニ、我ガ腰ヲ當テテ、其腰ヲ挫キオトスコト。此ヨリ變ジテ、相手ヲ釣リアゲオヤウニシテ、前ニ挫クヲ、鯖折ト云フ。

こじく-る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）[抉]　〔ほじる、ほじくる。ねぢる、ねぢくる」こじる(抉)ト云フニ同ジ。

こし-ぐるま（名）[腰車]　輦車ノ條ヲ見ヨ。

こし-ぐるま（名）[腰車]　〔車トハ、メグラス意カ〕　柔術ノ手ノ名、相手ノ體ノ浮キ來ル時、我ガ腰ヲ相手ノ横ニ差入レ、其横カ、我ガ腰ノ眞後ニ着クヤウニシテ、我ガ體ノ上部ヲ曲ゲナガラ、捩リテ投グルコト。

こし-くわ（名）[鼓子花]　ゆふがほ(夕顏)ノ漢名。

ごじ-くわ（名）[午時花]　〔花、午時ニ開キテ、夕刻ニ閉ヅ〕　草ノ名、高サ、二三尺、乃至、五尺、葉ハ、互生シテ、箭形ヲ成ス、長サ、三四寸、夏、葉數ニ、徑、一寸五分許ノ五瓣ノ紅花ヲ開ク。

こし-け（名）[腰氣]　子宮ノ病ノ總名。帶下　月經ノ、度ヲ失ヒテ、下ルコト久シキヲ、長血ト云フ。赤帶下　子宮ノ液、常ニ變ジテ、白ク、或ハ、血ヲマジヘテ下ルヲ、白血ト云フ。白帶下　又、子宮ノ内、爛レナドシテ、出血スルヲ、ぼうろうト云フ。崩漏

ごじ-けう（名）[五時教]　釋迦ガ一代五十年間ノ說教ヲ、五期ニ區分シタル稱。第一期ハ華嚴經、第二期ハ阿含經、第三期ハ方等經、楞伽經、第四期ハ般若經、第五期ハ法華經ナリ　淺ヨリ次第ニ、深ニ進メテ、衆ヲ誘導シ、最後ニ、涅槃經ヲ說キテ、悉皆成佛ノ本懷ヲ了セリト云フ。大鏡、序「法華經一部ヲ說キ奉ラムトテコソ、マヅ四[illegible]ヲバ說キマヒケレ、ソレヲ名ヅケテ、五時教トハ云フニコソハアンナレ」

こし-げ・し・き・けれ・く・く（形、二）[木繁]　木立、繁シ。源、十九、薄雲三十六「イトこしげき中ヨリ、篝火ドモノ影ノ、遣水ノ螢ニ見エ紛フモ、ヲカシ」詞花集、十、雜、下「タマグレ、木こしげき庭ヲ、眺メツツ、木ノ葉ト共ニ、落ツル涙カ」[illegible]集、下「ホトトギス、今ハ通ハジ、山科ノ、こしげき路ハ、露ケカリケリ」

こじ-ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）[拗]　〔抉ル、ノ自動、ねぢる、ねぢける〕　モツレユク。直リ難クナリユク。コジレル。「相談ガこじける　病ガこじける」

こし-こし（副）〔音ヲ云フカ〕　力ヲ入レテ、物ヲ研ギ、又ハ、磨ルニ云フ語。「水デ米ヲ、こしこし磨グ」「襦袢ヲ、こしこし洗濯スル」

こし-ばた（名）[腰小旗]　腰ニツケテ、相印トスル小旗。コシザシ。平治物語、二、待賢門軍事「平家ハ赤ハタ、赤ジルシ、日ニ映ジテカガヤキケリ、源氏、大バタ、腰小旗、[illegible]ヘテ白カリケリ」貞丈雜記、十一「旗ハ、身ノ[illegible]シルシナリ、袖ニハ袖ジルシ、腰ニハ腰小旗ヲ付ケテ、何ナヨリモ、[illegible]ノシルシナルベシ」

こし-ごろも（名）[腰衣]　僧衣ノ、甚ダ短クシテ、黑キモノ、腰ニ纏フ。裙子。

こじ-さう（名）[虎耳草]　ユキノシタ。

こし-さげ（名）[腰提]　腰ニ提ゲテ携フル、烟草入、巾着、印籠、胴亂、矢立、ノ類ノ稱。

こし-ざし（名）[腰指]　(一)腰ニ插スモノ。(二)絹卷ノ賜物ニテ、腰ニ差シテ、罷出ヅル故、名ナリト云フ。[illegible]、腰ニ[illegible]マデ賜ビニケリ」枕草子、四、九段「腰ニさしテ、皆、罷出ヌ」　(三)こしさばた(腰小旗)ニノ一名。[illegible]記、九、[illegible]「[illegible]一腰シテ、打チ出テントセシガ、[illegible]セズ」　(四)こしがたな(腰刀)ノ一名。[illegible]井日記、[illegible]「[illegible]腰指ノ、保昌五郎トイフ、一尺五寸ノ名物」

こし-しや（名）[五侍者]　禪寺ニテ、長老ニ給仕スル、五人ノ侍者。[illegible]「[illegible]五侍者ト云フ」[illegible]

こし-しやうじ（名）[腰障子]　紙障子ニ、高サ一尺許ノ腰板ヲ付ケタルモノ。一二尺許ナルヲ、腰高障子ト云フ。盛衰記、四十八、法皇大原入御事「御腰障子ニモ、女院御手ト思シクテ(歌)」

こし-しろ（名）[腰白]　衣服ノ腰ノ[illegible]、色、白キモノ。御供故實「白帷子、こししろナド、若キ人可ㇾ然候」

こし-ぞひ（名）[輿添]　輿ニ添ヒテ從フ供人。婚禮法式、上、婿入之部「一、御輿ノ兩方ニ、歩行ニテ供セラルベシ、是ヲ、こし添トイフ」

こし-た（名）[小舌]　病ニ因リテ、舌ノ根、脹レテ、又、舌ノ如キモノヲ生ジタルモノ。重舌　箋注倭名抄、二、五十八「病源論云、舌本血[illegible]、舌之狀、謂之重舌也、俗云、古之太」[illegible]「こしたト云ヒテ、舌ノ根ニ、小サキ舌ノヤウナルモノ、カサナリテ生ヒ出ヅルコトアリ」

こし-だい（名）[輿臺]　輿ノ榻。輿ヲ地ニ据ウルトキ、棒ヲ受ケシムルモノ。四脚ニシテ、小サキ机ノ如シ。前後ニ、二ツヲ供フ。宗長息女婚禮記錄「道具[illegible]以下次第之事、云云、五拾、御[illegible]臺」[illegible]

こし-だか (名)〔腰高〕高坏(タカツキ)ニ同ジ。四季草、六「碗ニ、平皿、壺皿、腰高トイフ物アリ、云云、腰高ノ形ハ、カハラケノ下ニ、檜ノ木ノ輪ヲ臺ニシタル形ヲ摸シテ、作レルナリ」

こしだか-しやうじ (名)〔腰高障子〕こしじやうじノ條ヲ見ヨ。

こし-だき (名) 腰懷。産婦ノ、産ニ臨ム時、其腰ヲ抱キ居ル役ノ者。室町殿御産所日記、永享六年二月十三日「御腰懷」

こし-たんたん (句)〔虎視眈眈〕〔説文「眈、視近而志深」〕虎、眼ヲ張リテ視ツムルコト、鋭シ。易經、上經、頤卦「虎視眈眈、其欲逐逐、无レ咎」註「虎視眈眈、虎下視貌、其欲逐逐、求而繼也」

ご-じ-ダラニ (名)〔五字陀羅尼〕だらに(陀羅尼)ノ條ヲ見ヨ。

こし-ぢ (名)〔越路〕北陸道(ホクロクダウ)ニ行ク路。越(コシ)ノ條ヲ見ヨ　萬葉集、十九、長歌「シナサカル、古之地(コシヂ)ヲサシテ」古今集、十八、雜、下「君ヲノミ、思ヒこしぢノ、白山ハ、イツカハ雪ノ、消ユル時アル」

ご-しち-にち (名)〔五七日〕〔五七、三十五〕さんじふごにち(三十五日)ノ條ヲ見ヨ。

ご-しち-にち (名)〔後七日〕次次條ノ語ノ略。

ごしちにち-の-アザリ (名)〔後七日阿闍梨〕次條ヲ見ヨ。徒然草、六十三段「後七日ノ阿闍梨、武者ヲ集ムル事、イツトカヤ、盗人ニ逢ヒニケリ、宿直人トテ、カクコトゴトシクナリニケリ」

ごしちにち-の-みずほふ (名)〔後七日御修法〕〔元日ヨリ七日マデハ、宮中ニ公事多キガ故ニ、此週間、東寺ノ阿闍梨、自坊ニテ、此法ヲ内修ス、ソレヲ、前七日ト云フ、因リテ、後七日ノ稱アルナリ〕又、御修法(ミズホ)。御修法(ミシホ)。昔、正月八日ヨリ十四日マデ、宮中ニテ、玉體安全、國家隆昌、五穀成就、萬民豐樂、ノ爲ニ修セシメラレシ、眞言宗、最重要ノ大法ノ稱。略シテ、後七日トノミモ云ヒ、其導師ヲ、後七日の阿闍梨ト云フ、承和元年、空海大阿闍梨ノ修セシヲ始トス。玄蕃式「凡眞言法、毎年正月、起二八日一至二十四日一七箇日、於二眞言院一修レ之」東寺長者補任、上、承和元年、長者大僧都空海」註「奉二勅命一於二中務省一初修二後七日御修法一」

ごしち-の-きり (名)〔五七桐〕紋所ノ名、ごさんのきりノ條ヲ見ヨ。

こし-ぢやうちん (名)〔腰提燈〕腰ニ插シ得ルヤウニ、長キ柄ヲツケタル提燈。柄ニハ、鯨鬚(クヂラ)ヲ用ヰル。室町千疊敷(享保、近松作)五「用意ノ腰提燈」

こ-しつ (名)〔固執〕固(カタ)ク執リテ、動カザルコト。持論ナド、主張シテ、枉ゲザルコト。中庸「誠レ之者、擇レ善而固二執之一者也」

こ-しつ (名)〔痼疾〕久シク病ミテ、癒エ難キ病。持病。宿痾。禮記、月令篇「季冬行二春令一、云云、國多二固疾一」註「久疾也」後漢書、光武紀「醴泉涌出、飲レ之者、痼疾皆愈」唐書、田游巖傳「臣所謂泉石膏肓、烟霞痼疾者」

こ-じつ (名)〔故實〕〔故(フル)き事實〕(一)故例、舊例、先例、ト云フニ同ジ。典故。國語、周語「樊穆仲曰、魯侯賦レ事行レ刑、必問二於遺訓一、而咨二於故實一」註「故實、故事之是者也」爾雅、釋古篇「實、是也」古語拾遺、序「書契以來、不レ好レ談レ古、云云、顧二問故實一、靡レ識二根源一」三代實錄、十五、貞觀十年二月廿五日「山陵失レ火、未レ見二故實一」同、廿八、貞觀十八年三月九日「今譜二擬故實一」盛衰記、三十四、東國兵馬汰事「富士ノ河水、增リツツ、東西ノ岸ヲ浸シタレバ、云云、宇治、勢多ヲ渡サム故實ノ爲ニモ、先、此河ヲコソ、渡テ見ルベキナレ」(二)後世、朝家ノ儀式ノ法則ノ稱トス、卽チ、有職(イウソク)ノ學ナリ。コレヲ、公家故實ト云ヒ、鎌倉幕府以來、武家ノ儀式、別ニ起リ、コレヲ、武家故實ト云ヒテ、別ツ、流鏑馬、笠懸、犬追物、ノ類ノ、弓馬ノ藝術ヲ初トシテ、元服、嫁娶、ノ式、家作、書札、衣服、飲食、ノ事、應對、進退、周旋、ノ禮ニ至ルマデ、各、法アリ、室町幕府義滿將軍ノ時ニ、其法、具サニ備ハリ、武家禮式ハ、小笠原氏ニ、其他ハ、伊勢氏ニ傳ヘテ、江戸幕府ノ世ニ至レリ、コレヲ、諸禮(ショレイ)、又、禮方(レイカタ)トモ云ヒキ。南方紀傳、下「應永三年、命二小笠原長秀、今川範忠、伊勢貞行、等一、定二武家禮式一」貞丈雜記、一、上、禮法「小笠原ハ弓馬ノ家、室町將軍ノ御師範也、弓馬ノ事ハ、小笠原ヲ本トス、座敷ノ進退、酌、ハイゼン、元服、婚禮ノ法式ハ、彼家ノ私ノ家風也、將軍ノ家法ヲ傳ヘタルニアラズ、細川流ナドト云モ、皆、私ノ家風ナルベシ、公方ノ禮流ニハアラズ」東照宮御實紀、五、慶長八年三月「是月、細川幽齋法印玄旨ハ、足利家代代ニ仕ヘケレバ、ソノ身、文武ノ才藝スグレタルノミナラズ、武家ノ故實、典禮ニ委シク、當時、有職ノホマレ高カリシカバ、永井右近大夫直勝モテ、幽齋ニツキテ、武家法令、典故ヲ尋ネ問ハシメラレ、今ヨリ後、禮法、儀註ヲ定制セラル」

ご-しつ (名)〔牛膝〕〔牛(ギウ)ノ呉音、ご、莖節、牛ノ膝ニ似タリ、駒の膝、節高(フシダカ)、ノ名モアリ〕草ノ名、ゐのこづち(イノコヅチ)ノ漢名。

ご-じつ (名) 後日　ノチノヒ。後日(ゴニチ)。平治物語、一、從二六波羅一被レ立二早馬於紀州一事「此無勢ニテ、大勢ニ合テ、討レン事コソ無念ナレ、先是ヨリ、四國ヘ渡リ、勢ヲ催シテ、後日ニ、都ヘ入バヤ」「後日ニ、悔ユルコト勿レ」

こし-つき (名)〔腰附〕腰ノ姿體(フリ)。コシバセ。源、六、末摘花「キタナゲナル褶、引結ヒツケタル腰つき」

ゴシック (名)〔英語、Gothic〕(一)活字ノ字體ノ一種、字ノ畫ノ、太キモノ。(二)西洋建築ノ様式ノ一、古代ノモノニテ、裝飾、多シ、構成、主トシテ、垂直線ニシテ、あおちノ上端、高塔ノ頂、皆、鋭ク尖リ、稜稜トシテ、衝天ノ槩アルヲ特色トス。(るねえさんす式、せせっしよん式ナドニ對ス)

こじ-つけ (名)〔附會〕コジツケルコト。道理アリゲニ云フコト。浮世風呂(文化、三馬)二編、上「江戸ジヤアネ、西ヲ、西落レテ、蓋(フタ)ト云ヒヤスヨ、云云、蓋ノ様ダカラ、蓋す、上方ノ、丸(マル)ト八、ナゼダネエ、甲ガ丸イサカヒ、丸ジヤワイナ、ソンナラ、ドチラモ、五分五分ノこじつけダネ」

こじ-つ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケヨ(他動、下一)〔附會〕〔故實(コジツ)附けるノ約ナルベシ、水漬(ミヅツ)く、みづく〕合ハヌ理ヲ、道理アリゲニ云フ。紛(マギ)ラカシテ、理ナリトス。浮世風呂(文化、三馬)三編、下、跋「クダラヌ趣向ノ毫取リテ、又、三編ハこじつけるトモ、云云」

こし-つづみ (名)〔腰鼓〕えうこ(腰鼓)ニ同ジ。つづみ(腰鼓)ノ條ヲ見ヨ。塵袋(弘安)七「呉樂、云云、拍子ニハ、ほそつづみヲ用フ、腰鼓トモ云フモノ也、くれつづみトモ云フ」

ごじつぽ-ひやくぽ (名)〔五十步百步〕幾分カノ差違ハアレド、先ヅハ、同ジ事ト云フ語。孟子、梁惠王、上篇「兵刃既接、棄レ甲曳レ兵而走、或百步而後止、或五十步而後止、以二五十步一笑二百步一則何如、曰、不可、直不二百步一耳、是亦走也」

ご-して (副)〔後而〕後ニ。ヤガテ。オッツケ。「後而御尋可レ申候」

こし-とみ (名)〔小蔀〕〔蔀(シトミ)、半蔀(ハジトミ)ヲ併セ見ヨ〕(一)小サキ窓ニ、格子蔀アルモノ。

あかりとりナドニ設クルナリ。枕草子、[illegible]吹キ入リテ」徒然草、廿三段「殿ノ所ニモアリヌベキ[illegible]戸」(二)殿上ノ小蔀ト云フハ、半蔀トモ云フ、清涼殿ノ上戸ノ方、石灰壇ノ南壁ノ上ニ設ケラレタル、格子窓アル小窓ノ名。主上、ココヨリ、殿上間ヲ御覽見アル所ナリ、御物忌ノ時ハ、蔀ヲ下ス。[illegible]

こしなげ (名) [腰投] 柔術ノ手ノ名、敵ノ體ヲ、己ガ腰ニ乗ケテ、投ゲ倒スコト。

こしなづむ (動) [腰惱] なづむ(二)惱ノ條ヲ見ヨ。

こしなは (名) [腰繩] 罪人ノ囚人ノ、腰ニノミ、繩ヲカクルコト。又、其繩。(本繩ニ對ス) [illegible]

こしぬけ (名) 腰拔 (一)[illegible]オザリ。諺 東海道名所記(萬治)一、江戸、木挽町ノ芝居[illegible] (二)氣慨ナキ人ヲ罵ル語。[illegible]

こしのく (名) [腰句] 和歌ニ云フ語、こしをれうたノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こしのしるし (名) [腰標] 着帯ノ條ヲ見ヨ。

こしのもの (名) [腰物] (一)鞘卷ノ短刀。コシガタナ。相州兵亂記、一、持氏卿御最後[illegible]少シモ御驚キナク、云云、御腰物ヲ拔キ、左ノ[illegible]キ立テタマフ」 (二)腰ニ差ス刀劍ノ總名。大小ノ刀、脇差。[illegible]東鑑記聞、二六腰物奉行、第二一切刀劍之事ニ之職也」

こしのゆき (名) [越雪] [越國ノ産ニテ、色白クヤハラカナルコト、雪ニ似タリトノ名ナリト云フ] 越後國、長岡市ノ名産ナル干菓子。白砂糖ニ、清水ヲ少シ注ギ、純白ナル微塵粉ヲ入レテ、ヨク撹キマゼテ、金篩ニテ漉シ、器ニ入レ、押蓋ヲシテ、ソノママ固メ、賽目ニ切ル。極メテ、ヤハラカシ。

こしのりぞめ (名) [輿乗始] (一)新造ノ輿ニ、始メテ乗ルコト。[illegible]年十二月廿九日「今春新造輿、于レ今不レ乗、今日吉日之由、在方申レ之、仍乗始」 (二)新婦ノ輿ニ入レ、輿ノ前ニ、新造ノ輿ニ乗リ試ミル式。婚禮[illegible]ヲ二ノ間ヘ入レ、東ノ方ヘ向ケ、家中ニテ目出度筋目ノ老女ヲ撰ミ出シ、乗初ヲサスル也」(古事類苑)

こしば (名) [小柴] 細小ナル柴。萬葉集、廿[illegible]阿波ノ神ニ、古志波サシ、我レハ齋ハム、歸リ來マデニ」小柴ヲ刺シ立テテ、神籬ヲ作ル)

こしはう (名) [小四方] おしほ(小四方)ニ同ジ、ついがさねノ條ヲ見ヨ、

こしばがき (名) [小柴垣] 柴垣ノ、低キモノ、[illegible]二十八、夕顔ノ卷「ハカナキ柴垣モ、故アルサマニシナシテ、假初ナレド、アテハカニ住居ナシタマヘリ」

こしばせ (名) [腰支] [こしさノ語原ヲ見ヨ、字典「支、與レ肢通ジ」] 腰ノ體。コシツキ。[illegible]

こしばめ (名) [腰羽目] 羽目板ヲ、外壁ノ下部、三尺以上ニ張リタルモノ。

こしばり (名) [腰張] 壁、襖ナドノ下部ニ、紙ヲ貼レル所。[illegible]

こしびやうぶ (名) [腰屏風] 屏風ノ、丈低キモノ。[illegible]

ごじふ (名) [五十] (一)十ノ五倍。イソ。(二)年齢ノ、五十ヲ重ヌルコト。[illegible]

ごじふうで (名) 五十腕 病ノ名。五十手トモ云フ。俚言集覽、五十腕、凡ソ、人、五十歳バカリノ時、手腕、骨節ノ、痛ムコトアリ、程過グレバ、藥セズシテ癒ユルモノナリ、俗ニ、コレヲ五十腕トモ、五十肩トモ云フ、又、長命病トモ云フ」

ごじふおん (名) [五十音] 我ガ國人ノ發音ヲ記シ取ル假名ノ四十七ニ、やいゆえよ、わゐうゑを、ノい、え、う、ヲ加ヘテ、五十ノ音トスルモノ。(此、い、え、う、ハ、yi, ye, wu ナレド、言ヒ別ケラレズ)五十ノ音ノ發聲ノ同ジキモノヲ、かきくけこ、さしすせそノ如ク、縦ニ、十行ニ列ネ、韻ノ同ジキモノヲ、あかさたなはまやらわ、いきしちにひみいりゐノ如ク、横ニ五行ニ列ネテ記ス、コレヲ、五十音圖ト云フ。(多クハ、片假名ニテ記ス)古來傳フルモノニハ、縦行、横行ノ順序ノ、種種ニ錯綜セルアリ、今ハ、一定セリ。五十音圖ハ、弘法大師ノ、唐國ヨリ將來セシ悉曇字記中ノ十二轉聲ト云フモノニ據リテ、我ガ國人ノ發音ニアル音ノミヲ取リテ、凡ソ、文德天皇、清和天皇ノ御代ノ頃ニ、眞言僧ノ作リシモノカト云ヘリ。此圖ハ、悉曇大師良源傳本ニ、五韻次第トテ擧ゲタルヲ、最モ古シト思ハルト云フ。

ごじふかた (名) [五十肩] 前前條ノ語ヲ見ヨ。

ごじふから (名) [五十雀] 小鳥ノ名、形、やまがらニ似テ、稍、小サク、尾モ短シ、秋來リ、冬去ル。

こしぶくろ (名) [腰袋] 腰提ノ袋。オビブクロ。字鏡「帶、己志不久呂」

ごじふさんつぎ (名) [五十三次] [つぎハ、宿繼、即チ、驛ナリ] 江戸時代ニ、江戸ヨリ京都ニ至ル、東海道中ノ五十三所ノ、人馬ノ繼場ノ稱。丹波與作(寶永、近松作)上「五十三次ニ、汁カケテ、嚙ミコナス與作ジヤ」帳中涙録「梁谿漫志、十三卷ニ、唐ノ德宗ノ時、金華驛ニ、驛守ノ[illegible]ヲ書ク、コレヲ、宋ノ[illegible]ノ詩ニ、五十三驛是皇州トアリ」(暗合ナリ)

こしふたへ (名) [腰二重] 年老イテ、腰ノ、前ヘカガミタルコト。略シテ、ふたへトノミモ云フ。散木集、一、春「老ラクノ、こ

しふたへナル、身ナレドモ、卯杖ヲツキテ、若菜ヲゾ摘ム」 清輔集、四位ノ正下シタリケルヨロコビヲ、若キ人人ノ云ヘリケレバ、詠メリケル「今日コソハ、位ノ山ノ、峯マデニ、こしふたへニテ、登リツキヌレ」 大和物語、下、此嫗、イトイタウ老イテ、ふたへニテ居タリ」 金槐集、下、「踏還シ、腰ハふたヘニ、カガマレリ、杖ニスガリテ、ココマデモ來ル」

ご-じふ-で (名) [五十手] ごじふうで(五十腕)ノ條ヲ見ヨ。

こ-じふ-にん-ぐみ (名) [小十人組] 〔こじふにんハ、扈從人ノ當字ナリ〕 徳川幕府ノ職名、將軍出行ノ時、先驅ニ仕フルモノ、一組、二十人、十一組アリ、毎組ノ長ヲ、組頭ト云フ。 東照記、四「撰二譜代諸士二三男之壯勇者一、而被レ令レ警二衛御床机前後一也、號云二扈從人一」

ご-じ-ぶん (代) [御自分] 〔御手前、又、漢語ニ、吾子ト云フト、同趣〕 對稱ノ代名詞、敬シテ云フ。 曾我扇八景(寶永、近松作)上「御自分ハ、工藤殿ノ御内、近江小藤太」

ご-じふ-ゐん (名) [五十韻] 連歌ノ條ヲ見ヨ。

こし-べん (名) [腰辨] 次條ノ語ノ(二)ノ略。

こし-べん-たう (名) [腰辨當] (一)腰ニ結ビツケテ、携フル行廚。(二)俗ニ、下級ノ官吏ノ渾名。略シテ、こしべん。

こ-じぼ (名) [小皺] しぼノ條ヲ見ヨ。

こ-じほ (名) [小潮] 潮ノ滿干ニ云フ語、おほじほノ條ヲ見ヨ。

こ-じほ (名) [小四方] 衝重ノ條ヲ見ヨ。

こし-ぼそ (名) [腰細] 腰ノ、細ヤカナルコト。細腰。蜂腰。 萬葉集、九、長歌「腰細ノ、蜾蠃少女ノ、其容ノ、端正シサニ」 同、十六、長歌、「少女ガ有ノ帶ヲ、蜾蠃ノ如キ、腰細ニ、取飾ラヒ」

こし-ぼそ-ばち (名) [腰細蜂] スガル。サソリ。今、じがばち(似我蜂)ト云フ、其條ヲ見ヨ。

こし-ぼね (名) [腰骨] 人體ノ胴ノ下部ニテ、腰ヲ成ス大骨、形、稍、漏斗ノ如シ。骨盤。 倭名抄、三、五 筋骨類「髖、腰骨也、古之保禰」

こ-じま (名) [小島嶼] チヒサキ島。 萬葉集、七「荒磯ニモ、マシテ思フヤ、玉ノ浦ノ、離レ小島ノ、夢ニシ見ユル」

こし-まき (名) [腰卷] 近世、婦女ノ服ノ稱。近古以來、禁中ニ奉仕スル雜仕、御樋洗、等ノ、暑中、表着ノ上、腰部以下ニ着用シタルモノ。武家ニテハ、貴婦人モ着用ス、内内ノ時ハ、平士以下ノ妻女モ着用ス、張着、又、尻切トモ云フ、將軍家ニテハ、五月五日ヨリ着用スト。 貞丈雜記「コレ、禁裏ニテハ、雜仕、御樋洗ナドイフ、賤シキ女ノ、著ルモノ也、武家ニテハ、賤シカラヌ女モ、腰卷スル也」 禁中、女官ノ腰卷ハ、ナホ、袴ノ下ニ着コメテ、肩ヲ脱ギタリ、近世、武家女房ノ腰卷セシ樣ハ、袴ヲ着ズシテ、別ニ、下帶ト云フ細ソキ帶ヲ、後ニ結ビ下ゲ、上ニ腰卷着テ、肩ヲ脱ギテ、袖ノ中ニ、下帶ヲ結ビタルワナヲ刺シ通シ、裾ヲバ、小袖ト等シク曳キタリ。

こし-まき (名) [腰卷] (一)女ノ服、衣ノ下ニテ、腰ヨリ脚ヲ卷キ絡フ衣。脚布。(二)土藏ノ外圍ノ礎ノ上ノ部ニ、一層厚ク、土ヲ塗レル處。

こ-じみ (名) [昏鐘鳴] タソガレ。イリアヒ。クレガタ。黄昏 林逸節用集(文明)時節「昏鐘鳴」 合類節用集(元祿)時候門「昏鐘鳴、俚俗謂二黄昏時一爲二昏鐘鳴一」

こし-みの (名) [腰蓑] (一)腰ニ絡フ、短キ蓑。 平の靈、前篇、三「腰トイフ言ノ付ルハ、腰ざし、腰蓑ナドアリ、其腰蓑ノ狀ハ、西行物語ノ畫、十二類ノ畫卷、又、福富雙紙ノ畫ナドノ中ニ見エタリ、今、獵師ノ著ル物ト同ジクテ、大方、腰ノホドニノミマトヒ著タリ」 (二)冑ノ腰ニ引纏フ蓑。 本朝軍器考、頭書、九「近世、冑ノ腰蓑ト云フモノアリ、毛ヲ編ミ連ネテ、蓑ノ如ク作テ、冑ノ腰ニ引纏ヒ、赤熊付ノ緒ニ付ル、コレ、雨フル日、冑ノシコロヲ、雨ニ濡ラスマジキ爲ノ設ナリ、此モノモ、古代無レ之、新物ナリ」

こ-しん (名) [湖心] 湖ノ中心。湖水ノ中程。 劉禹錫、洞庭秋月行「洞庭秋月生二湖心一、層波萬頃如レ鎔レ金」

こ-じん (名) [古人] イニシヘノヒト。昔ノ人。 詩經、邶風、綠衣篇「我思二古人一俾レ無レ訧兮」 年中行事歌合抄、六月「服者忌レ之、古人口傳也」「古人ノ金言」

こ-じん (名) [故人] (一)フルキ友ダチ。フルナジミ。舊友。故舊。 呂氏春秋、必己篇「舍二故人之家一」 註「故人、知舊也」 白氏文集、十四「三五夜中新月色、二千里外故人心」 (二)死シタル人。物故セシ人。死者。 謝朓詩「故人心尚爾、故心人不レ見」 朗詠集、下「秋風滿レ袂涙、泉下故人多」

こ-じん (名) [商人][個人] 一箇人ヲ見ヨ。

こ-じん (名) [賈人] 〔說文「賈、賈市也」〕 アキンド。商人。 王充、論衡「農夫載レ穀奔レ都、賈人齎レ貨赴レ遠、皆欲レ得二其願一也」

ご-しん (名) [五辛] 五葷ノ條ヲ見ヨ。

ご-しん (名) [護身] (一)身ヲ、護ルコト。一身ノ守護。 享祿本、類聚三代格、十八、太政官符「應レ給二鎮官護身一事、給二國司以下、軍毅以上六員身兵士、守八人」云云 「護身刀」「護身佛」 (二)[護身法]ノ條ヲ見ヨ。

ご-しん (名) [誤診] 誤レル診察。

ご-しん (名) [御深] ごしんもじノ條ヲ見ヨ。

ご-じん (代) [吾人] ワレワレ。ワレラ。 史記、河渠書「泛濫不レ止兮、愁二吾人一」

ご-しん-えい (名) [御眞影] 主上、皇后、皇太子ノ御寫眞。諸學校ナドニ賜ハリテ、奉安ス。

ご-しん-ざう (名) [御新造] 〔貴人、妻ヲ迎フル前ニ、新らしく其居所ヲ造る故ニ云フト云フ、其居所ヲ指シテ云フ名稱ナルベシ、ごしんざうハ、深窓ナリト云フハ、學者ノ鑿說ト思ハル、出雲國風土記、神門郡、八野鄕「大穴持命將二娶給一爲而、令レ造レ屋給」萬葉集、三、四十、長歌「廬屋建テ、妻問シケム」ごしんざう(新造)ノ條ヲ併セ見ヨ〕 身分アル人ノ新婦ヲ呼ブ、敬語。轉ジテ、其老大トナレルニモ云フ、稱呼ノ階級トシテ、奧樣ノ次、おかみさんノ上ニ云フ。略シテ、ごしんぞ。ゴシンサマ。 貞丈雜記、二、人品「人ノ妻ヲ、御新造ト云フ事、古禮ノ前ニ、其妻ノ居所ヲ、新ラシク造ル故、あたらしくつくるト書キテ、しんぞうト云フ也、婦ヲ新造ト稱スル事、昔モアリ、蜷川殿日記ニアリ」

ご-しん-さま (名) [御新樣] 前條ヲ見ヨ。

こ-じん-しゆぎ (名) [個人主義] 〔英語、Individualism. ノ譯語〕 個人ヲ本位トシテ、個人ノ行動、自由ハ、何物ニモ掣肘セラレザルベキ事ヲ唱フル主義。(家族主義ナドニ對ス)

こ-じん-せいど (名) [個人制度] 個人自體ヲ、社會構成ノ單位トシ、コレヲ、法律

上ノ權利、義務ノ主體トスル法律制度、(家族制度ニ對ス)

ごしんぞ (名) [御新造] 御新造ヲ見ヨ。

ごしんたう (名) [護身刀] マモリガタナ。「護身刀ヲ賜ニス」

こじんのさうはく (名) [古人之糟粕] 古人、已ニ、其道ノ精信ナル所ヲ述ベ、世セリ、今ニ傳ハレルモノハ、其糟粕ニテ、用ヰルモ益ナシ、トノ意ヲ云フ語。 莊子、天道篇「桓公讀書於堂上、輪扁、云云、問ニ桓公一曰、讀書、公之所讀者、何言邪、公曰、聖人之言也、曰、聖人在乎、公曰、已死矣、曰、然則、君之所讀者、古人之糟魄已夫、[illegible]古人之糟粕耳ニ作ル」

ごしんぷ (名) [護身符] マモリフダ

ごしんぶつ (名) [護身佛] 身體ヲ守護スル佛。守リ本尊

ごしんぽふ (名) [護身法] 眞言宗ニテ云フ語。諸行法ヲ修スル前ニ、自己ノ身心ヲ護持シ、堅固ナラシムル法ナリ、印相ヲ結ビ、陀羅尼ヲ誦シナドス。略シテ、護身 [illegible]

ごしんまり (名) [小締] 〔こハ、精、意ヲ強メテ云フ語、接頭語ノこ(小)ヲ見ヨ、こんまりハ、締ノ音便(侍り、はんべり、こめり、こんめり)こざっぱりナドト同趣ノ語〕 家作ナドノ、餘リニ廣カラズヲ賞シテ云フ語。小作。小體。「こぢんまりシタ住居」

ごしんもじ (名) [御深文字|御心文字]

ネンゴロナルコトヲ云フ女詞。略シテ、御深。 [illegible]、有常ノ息女、誰レカアグベキト詠ミカハシ、井戸ヨリ深キ御心もじニ、マメ男ノ、コロリトナラセ給フ」

こしもと (名) [腰元] (一)腰ノアタリ。 [illegible]此帯ノ如ク、何時マデモ、才腰元ヲ離レズ、[illegible]フテヤ」 (二)マカタチ。オモトビト。貴人ノ側廻ニ侍リ仕フル女。侍女 奥羽永慶軍記、三十二、鳥海御兵衛尉事 山形ノ腰元、年、十七ナリシ、花紬ト云フ女房」

こしや (名) [瞽者] 〔瞽ハ、周禮、春官篇、瞽矇註「無レ目眹、謂ニ之瞽一」〕メシヒ。メクラ。 論語、子罕篇「子、見ニ齊衰者、冕衣裳者、與ニ瞽者一」 莊子、逍遙遊篇「瞽者無ニ以與一乎文章之觀、聾者無ニ以與一乎鐘鼓之聲一」

ごしや (名) [五車] ごしやのしよヲ見ヨ。

ごしや (名) [誤寫] ヒガウツシ。ウツシアヤマリ。ウツシチガヘ。

こしやう (名) [小性] 〔子性ナルベシ(女性モアリ)子ノ生れつきノ意カ〕 (一)子供。小兒 [illegible]「小名、小性」 (二)轉ジテ、若者ノ稱。貶シメテ云フ語ナル、シ。 豎子 [illegible]アレホドノ小性一人ヲ斬レバトテ、手並ニイカデ減ラスベキ、牛若丸ヲ云フ」

こしやう (名) [小性|小姓] 〔前條ノ語ヨリ移ル、姓ハ、當字〕 貴人ノ側近ク仕へ、雜用ニ給仕スル役名、少年ヲ用ヰル。未ダ元服セザルヲ、小小性ト云フ。侍豎 [illegible]、兄弟三人、[illegible]、秀吉公、御小性ニ召出サレ、[illegible]、信長記、十五、上、惟任日向守謀叛事、小小性ニハ森亂丸、力丸、坊丸、兄弟三人、

云云、所所ニシテ、討タレケリ」 武家名目抄、職名、附錄、十二、上「小小性ト云フハ、イマダ元服セズシテ、近習ニ祗候スル者ナリ、タマタマニハ、元服セシモアルベシ」

こしやう (名) [故障] (一)ササハリ。サシツカヘ。サマタゲ。障礙 九條殿遺誡「若有ニ故障一之時、早參ニ假文ハ可レ申ニ障之由ニ」 (二)異議。不同意。 盛衰記、四十二、屋島合戰事「與一ヲ、判官ノ前ニ引居テ、面面ノ故障ニ、日、既ニ暮ナントス」「故障ヲ云フ」故障ヲ申立ツ」

こじやう (名) 古狀 古キ書狀。昔ノ文書。 寺子屋ノ手習ノ手本ニ、古狀揃ト云フアリ、義經ノ腰越狀、今川狀 今川了俊ノ今川[illegible]ナド、數十通ヲ載セタリ。

こじやう (名) [古城] フルジロ。 武元衡、登ニ闔閭古城一詩「登ニ高望ニ遠自傷レ情、柳發花開映ニ古城ニ」

こじやう (名) [孤城] 孤立セル城 多クハ、援軍ナキ意ニ云フ。 [illegible]下、[illegible]城ニ百戰之師一」「孤城落日」

ごしやう (名) [後生] 〔後世ニ生れカハルコト、今生ニ對ス〕 (一)佛敎ノ語。後世。來世。未來世ト云フニ同ジ。 榮花物語、廿七、衣珠「此世ノ御幸ヒハ、極メサセタマヘリ、後生ハイカニ」 保元物語、一、義朝白河殿夜討事「矢一ツ賜ハラン、受テ見ヨ、且ハ、今生ノ面目、又ハ、後生ノ思出ニセヨ」 (二)後生ノ安樂。 狂言記、六人僧「コレハ只事デアルマイ、後生ヲ願ヘトアル、オ告ゲデアラウゾ」「後生ノ供養」 (三)俗ニ、人ニ、ヒタスラ事ヲ頼ム時ニ、云フ語、人ヲ救フ善根ハ、後生安樂ノ果報トナラムトノ意。「後生ダカラ、赦シテクレ」

ごしやう (名) [五障] イツツノサハリ。佛敎ノ語、女人ハ、成佛スルコト能ハズ

ト云フ、五件(出典ノ法華經ヲ見ヨ)ノ障礙。五障ヲ、雲ノ、月ヲ覆フニ譬ヘテ、五障の雲ト云フ。 法華經、提婆品「女人身、猶有ニ五障一、一者不レ得レ作ニ梵天王一、二者帝釋、三者魔王、四者轉輪聖王、五者佛身」 盛衰記、四十、弘法入唐事「女人、影ヲ隔テテ、五障の雲、長ク散リ、俗、心ヲ研キテ、三明ノ月、高ク晴レタリ」

ごじやう (名) [五常] (一)人ノ、常ニ守ルベキ、仁、義、禮、智、信、ノ五ツノ道。 漢書、董仲舒傳「仁義禮智信、五常之道」 十訓抄、中、第六、十八條「すヨソ、人ハ、云云、仁義禮智信ノ五常ヲ亂サザルヲ、德トスベシ」 (二)五倫ニ同ジ。

ごじやう (名) 五城 天上ノ白玉京ト云フ所ニアル、五ツノ城樓。文學ノ士ノ逝クヲ、白玉樓に上るト云フ。 李白詩「天上白玉京、十二樓五城、仙人撫ニ我頂一、結ニ髮受ニ長生一」 (如時ニ、長生ノ術ヲ受ケタリトナリ) 三體詩、七言律詩「仙掌初見ニ五城樓、風物凄凄宿雨收」注「仙掌、在ニ長安西山ニ、漢文帝作、十洲記云、崑崙山、有ニ五城十二樓、黃帝效レ之而作」 書言故事、五、祭奠類「唐李賀將レ死、有ニ緋衣人、駕ニ赤虬ニ召、賀、緋衣曰、帝成ニ白玉樓ニ、立召ニ爲記、天上差樂、不レ苦也」

ごじやう (名) 互讓 雙方、其主張ヲ、讓リ合フコト。アユビアヒ。「經盟各國ノ互讓」

ごじやう (名) 御狀 書狀ノ敬語。御書。 狂言記、拔殼「久シウテ、人ヲ進ゼラルルホドニ、御狀ヲ遣ハサレタラ、ヨウ御座リマセウ」「御狀拜見仕候」

こしやうぐみ (名) [小性組|小姓組] 〔こしやう(小性)ノ條ヲ見ヨ〕 德川幕府ノ職名、小性番衆トモ云フ、殿中ノ諸儀式ニ參シ、將軍ノ出行ニ、前後ヲ警衞ス、(書院番衆ト共ニ、兩番ト云フ) 一組、五十人、六組、三百人、每組ノ長ヲ、番頭ト

云フ。柳營秘鑑、四「一、御小性組番頭、云云、組衆五十騎」 吏徴、上、御目見以上「御小性組三百人、云云、一組五十人」 大猷院殿御實紀、三十六、寛永十四年十一月廿六日「小姓組津田平左衛門正重、牧野織部成常、大野藤右衛門元吉、府内ヲ巡夜シ、火災ヲ警察スベシ、ト命ゼラル」

こしやうぐわつ (名) 【小正月】 〔小五月ト云フ語モアリ、又、二十日正月アリ〕 陰曆、正月ノ十五日、十六日ノ稱。 守貞漫稿、廿六「正月十五日、十六日、俗ニ、小正月ト云フ、云云、京、坂、トモニ、十五日ニ、門松、注連飾ヲ取除ク也、江戸モ、昔ハ、今日ナリ」

ごしやうだいじ (名) 【後生大事】 (一)後世ノ安樂ヲ、一心コメテ願フコト。 狂言記、路蓮坊主「今ヨリ、後世ヲ大事ト心得、願ハセラルルガ肝要デゴザル」 卜養狂歌集、秋「淨土穢土ノ、ナラヒトセノ、うらぼんニ、後世ヲ大事ト、引クハたむあみ」 (二)俗ニ、殊ニ、大切ニ守ル意ニ云フ語。「團子ヲ、後生大事ニ育テル」

ごしやうねがひ (名) 【後生願】 佛ニ歸依シテ、偏ヘニ、後生ノ安樂ナラムヲ願フコト。 冥途飛脚(正德、近松作)下「若イ上﨟ノ、オ優シイ、年寄ト思召シ、梃子モナラヌ介抱、寺道場ヘ參ッテモ、コレ、ココノ一心ガ邪見デハ、參ラヌモ同然、此方ガ本ノ後生願ひ」

こしやうばんしゆう (名) 【小性番衆】 小性組ノ條ヲ見ヨ。

ごしやうらく (名) 【五常樂】 〔常ノ字、清音ニ讀ム、秀句ニ、後生樂ト云フ、次條ヲ見ヨ、倭名抄ニ、五聖樂トアリ、但シ、借字ナリ、唐太宗ノ、宮、商、角、徵、羽、ニ、仁、義、禮、智、信、ノ五常ヲ配シテ作レル樂ナリト云フ〕 舞樂ノ曲ノ名、四人舞ノモノ、童舞ナリ。 吾妻鏡、三、元曆元年四月廿日「和琴笛、先、吹五常樂」 倭名抄、四、卅三 曲調類、道調曲「五聖樂」

ごしやうらく (名) 【後生樂】 (一)前條ノ語ヲ、秀句ニ云ヒタル語、後生ハ安樂ナリ、ト云フ意。 平家物語、十、千手事「千手前、此樂ヲバ、五常樂トハ云ヘドモ、今、重衡ガタメニハ、後生樂トコソ觀ズベケレ、ヤガテ、往生の急ヲ彈カムト戲レ、琵琶ヲ取リ、轉手ヲネヂテ、皇麞の急ヲゾ彈カレケル」 (二)轉ジテ、俗ニ、何事ヲモ、氣ニカケズシテ居ルコト。萬事ヲ、樂觀スルコト。 浮世床(文化、三馬)初編、下「アノ地震ヲ知ラネエトイフハ、後生樂ダノ」「家ガ燒ケテモ、平氣デ居ル、後生樂ナ人ダ」

こじやうらくじつ (名) 【孤城落日】 孤城ノ、落日ノ邊ニアルコト。心細ソキ意ニ云フ。 王維、送韋評事詩「欲逐將軍取右賢、沙場走馬向居延、遙知漢使蕭關外、愁見孤城落日邊」

こじやうらふ (名) 【小上﨟】 じやうらふ(上﨟)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こじやうるり (名) 【古淨瑠璃】 ふるじやうるりヲ見ヨ。

こしやく (名) 【小癪】 〔こさかしノ語根ノ、こさかノ轉(かがまる、くぐまる。かぎる、くぎる。ごたごた、ごちやごちや)〕 コザカシキコト。サカシラナルコト。未熟ナルニ、物知リ顏ニフルマフコト。 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「子守リノ小女、云云、こしやくナコトヲシャベリナガラ、御隣ゴトヲシテキル」「こしやくナ少女」

こせき (名) 【戸籍】 戸籍ノ條ヲ見ヨ。

こしやく (名) 小癪 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 癇癪ニ同ジ。「小癪ニ障ル」

ごしやく (名) 【語釋】 言語ノ意義ヲ、釋キアカスコト。又、其モノ。

ごしやくのみ (名) 【五尺身】 〔ちやうふ(丈夫)ノ條ヲ併セ見ヨ〕 尋常ノ男子ノ身丈ハ、曲尺五尺ナルヨリ、人、一人、又、一身ノ意。 漢語ニ、五尺童子ト云フハ、周尺ニテ云フナリ、(周尺ノ一尺ハ、曲尺ノ六寸五分五厘) 十二三歲ノ童子ヲ云フ。 平家物語、三、大臣流罪事「三界廣シトイヘドモ、五尺の身、置キ所ナシ」 孟子、滕文公、上篇「雖使五尺之童適市、莫之或欺」 呂氏春秋、重己篇「五尺童子引其棬、而牛恣所以之、順也」

こしやどり (名) 【輿宿】 くるまやどりノ條ヲ見ヨ。

ごしやのしよ (句) 【五車書】 五輛ノ車ニ滿載スル書籍。即チ、甚多ナル書ヲ云フ。略シテ、五車トノミモ云フ。 莊子、天下篇「惠施多方、其書五車」 杜甫、題柏學士茅屋詩「富貴必從勤苦得、男兒須讀五車書」 庾肩吾、謝湘東王賚書詩「五車方累篋、七閣自連雲」

こしゆ (名) 腰湯 腰ノ邊ヨリ下部ヲ浸シテ、浴スルコト。逆上ヲサグル治療ナドニスルコトナリ。坐浴 冥途飛脚(正德、近松作)上「オ湯沸イテ、腰湯シテ」

こしゆ (名) 【戸主】 一戸ノ家ノ主。即チ、家名ヲ繼ギ、其一家族ヲ統治シ、扶養スベキ者。 開元戸令「諸戸主、皆以家長為之」 孝德紀、白雉三年四月「是月、造戸籍、云云、凡戸主、皆以家長為之」 東大寺正倉院文書、十一、山背國、愛宕郡、雲上里計帳「戸主、出雲臣川内、年伍拾漆歲」

こしゆ (名) 【故主】 嘗テ仕ヘタリシ主君。舊主。 史記、項羽紀「逐其故主」

こしゆ (名) 【固守】 固ク、保チ守ルコト。 後漢書、任光傳「郡國皆降、光獨固守」「志操ヲ固守ス」「孤城ヲ固守ス」

こしゆ (名) 【古酒】 清酒ノ、火入後、一定ノ貯藏期間ヲ過ギ、賣出シ得ベクナリシモノ。未ダ火入セザルヲ、新酒ト云フ。

ごしゆ (名) 【御酒】 オサケ。酒ヲ、丁寧ニ云フ語。 義經記、二、伊勢三郎初めて義經の臣下になる事「樣樣ノ菓子ヲ取出シテ、ごしゆ勸メ奉レドモ、少シモ、キコシ召シ給ハズ」

ごしゆ (名) 【五趣】 佛敎ノ語、ごだう(五道)ニ同ジ。 無量壽經「開示五趣、度未度者」

ごしゆいん (名) 【御朱印】 朱印ノ條ヲ見ヨ。

ごしゆいんち (名) 【御朱印地】 社寺ノ領地ニ云フ語、朱印ノ條ヲ見ヨ。

ごしゆいんぶね (名) 【御朱印船】 〔朱印ノ條ヲ見ヨ〕 天正ノ頃ヨリ、我ガ國ノ商船、盛ンニ南洋ノ諸國、諸島ニ航シテ貿易セリ、然ルニ、切支丹宗門禁制後、コレヲ止メラレタリシガ、尚、通商ヲ望ム者アリシカバ、文祿元年、豐臣秀吉、富商數人ヲ擇ビ、朱印ヲ押シタル免狀ヲ附與シテ、特許セリ、是レ、御朱印船ナリ、又、奉書船トモ云ヒキ。德川氏ノ初世ニモ、コレニ倣ヒテ附與シテ、船免狀ト稱シキ。通航シタルハ、臺灣、呂宋、交趾、東京、占城、柬埔寨、六昆、太泥、暹羅、等ノ十八商國ナリ、船ハ、長崎商人、末次平藏、等、五艘、京都茶屋四郞次郎、角倉與一、等、三艘、其他、和泉ノ堺商人、等、合、十數艘、皆、長崎ヨリ出航セリ、天竺德兵衛物語ニ據レバ、船ノ大キサ、大抵、長サ二十間、幅九間、四百人程ヲ載セタ

リト云フ(是レ等ノ船、明國ヘハ行カズ、明ニ航スルハ、別ニ、唐渡(カラワタリ)ト云ヒシトゾ)寛永中ニ至リテ、德川幕府、切支丹宗門ヲ嚴禁シ、一切、海外ノ出航ヲ止メタレバ、御朱印船モ廢セラレタリ。

こ-しゅう (名) 扈從 〔字典「扈、從(ニフ)也」扈ニ〕供スルコト。隨行。扈從(コンジョウ)。 司馬相如、上林賦「扈從横行」 [illegible]十九、永[illegible]十二年[illegible]月、天皇幸水[illegible] [illegible]

ご-しゅ-かう (名) 五種香 〔五種ノ香ヲ混ズ〕種々ニ刻ミタル香。普通、佛前ニテ焚クニ用キルモノ。

ご-しゅ-せん (名) 五銖錢 〔重サ、五銖アリ〕支那ノ古キ銅錢ノ名、漢ノ武帝、半兩錢ヲ止メテ、鑄ル、文ニ、五銖トアリ、其後、唐ノ世ニ至ルマデ七百餘年間、歷代、改鑄アリテ、種類、多シ。 漢書、(武帝紀)「元狩五年、始鑄五銖錢」

ご-しゅつ (名) 五出 葩(ハナビラ)ノ、五輪ナルヲ云フ語。 宋書、符瑞志「草木花多五出、雪花獨六出」[illegible]花出[illegible]人」

ご-しゅ-でん (名) 御主殿 貴族ノ邸ノ、表向ノ廣間。 [illegible]御主殿ナバ、御所侍ト、御[illegible]、表ヘ申候」(御所侍ノ御所侍ナリ)

ご-しゅ-でん (名) 御守殿 〔前條ノ語ノ移リタルニテ、其居所ヲ指シテ云ヘル語、内室タルニ因リテ、守ノ字ニ書替ヘタルモノカ〕德川氏ノ世ニ、將軍ノ女(ムスメ)ノ、大名ニ嫁ギタル者ノ尊稱、但シ、其夫(ヲット)ノ、三位以上ナルニ云フ。其以下ナルニハ、御住居(オスマヒ)ト云ヘリ。

ご-しゅ-の-ふ-ほん (句) 五種不翻 佛經中ニ、漢語ニ翻譯セザル、五種ノ梵語。[illegible]名義集、序、[illegible]師、[illegible]五種不翻、一、[illegible]故、如[illegible]多含故、如[illegible]六義、三、此無故、如[illegible]浮樹、此土無ナシ」四、順古故、如阿耨菩提、非不可翻、而摩騰以來、常存梵音」五、生善故、如般若尊重、智慧輕淺」

こし-ゆひ (名) 腰結 袴着(ハカマギ)、裳着(モギ)、等ノ式ノ時、腰ノ紐ヲ結ブ役目。曾長、德望ノ人ヲ擇ブコト、元服ノ加冠ノ如シ。 源、廿九、行幸「此御こしゆひニハ、カノ大臣ヲナム」水左記、承保[illegible]年八月十六日「[illegible]宮御裳着也、云云、[illegible]結[illegible]結」李部王記「康子内親王、初着裳、小一條左大臣親王外舅、結ニ御裳腰ニ」

ご-しゅ-ふ-あん (名) 五種不男 男子ノ生殖器ノ、不具ナルモノ。又、五不男トモ云フ。女子ナルニハ、五種不女。又、五不女ト云フ。 下學集、下、數量門「五種不男、生、[illegible]、變、半、也」五種不女、螺、筋、鼓、角、脉、也」和漢三才圖會、十、人倫之用「五不男、天、犍、漏、怯、變、是也、天者、陽痿不用、犍者、[illegible]也、[illegible]者、[illegible]不閉、常自漏泄也、怯者、舉而不強、或見敵不興也、變者、體兼男女、俗名、半月也」五不女、螺、紋、鼓、角、脉、是也、螺者、牝竅内、旋有物如螺也、紋者、竅小、卽、實女、一名、石女、鼓者、無竅如鼓、角者、有物如角、一名、陰挺、脉者、一生經水不調、及、崩帶(ナガチ)之類、是也」

ご-しゅ-ふ-にょ (名) 五種不女 前條ヲ見ヨ。

ご-しゅゆ (名) 吳茱萸 〔古名、漢椒(カラハジカミ)、本草一家言、三、吳茱萸「結ニ子五六十顆、云云、狀似ニ山椒ニ而出ニ于吳地ニ故名ニ吳茱萸」(古事類苑、食茱萸)〕古名、カラハジカミ、コニスイ。樹ノ名、高サ、六尺、乃至、一丈、葉ハ、楕圓ニシテ、對生ス、夏、葉ノ梢毎ニ、黃綠ナル五瓣ノ細小花、簇リ開キテ、圓錐形ヲナス、後ニ、紫赤色ノ實ヲ結ブ、大キサ一分餘、核ヲ藥用トス。 [illegible]本草綱目啓蒙[illegible]吳茱萸、通名、享保年中ニ、漢種渡ル」(然レドモ、昌泰年中ノ新撰字鏡、延喜年中ノ本草和名ニ、吳茱萸、見ユ、甚シ、中絕シタルナラム)

こしょ (名) 古書 古キ書物。昔シ作リタル書物。 抱朴子「古書雖ニ多、未ニ必盡善ニ」[illegible]詩[illegible]特酌ニ山[illegible]古書ニ」

ご-しょ (名) 御書 書狀、文書ノ敬語。 吾妻鏡、一、治承四年九月三十日、新田義重[illegible]自立志ニ之間、武衞雖ニ遣ニ御書ニ、不ニ能ニ返報ニ」

ご-しょ (名) 御所 (一)天子ノ御座所。又、其御身。 後漢書、[illegible]帝紀、嘉平五年十月壬午、御所居殿後槐樹、自拔倒竪、根在ニ上」天武紀、下、十一年五月「遣ニ高麗大使佐伯連廣足、云云、奏ニ復使旨於ニ御所ニ」 後調集、こしょ「モト、御所ハ、天子ノ稱也、山門公驗記ニ、矢下如ニ雨、及ニ御所ニト見ユ 常語數、寶政、北史、帝特召[illegible]至ニ御所ニ」平家物語、十一、大坂越事「御所(安德天皇)ノ御船ニハ、女院、北政所、二位局、以下ノ女房タチ、召サレケリ」看聞日記、嘉吉三年九月廿三日「御所樣(後花園天皇)未ニ歧ニ御覽ニ」 (二)轉ジテ、主上、上皇、三后、皇子ノ御住所。 盛衰記、十三、高倉宮籠ニ三井寺ニ事「大衆ハ、云云、法輪院ニ、御所ヲシツラヒ、聞キ入レマヰラセテ」「禁裏御所」仙洞御所」院ノ御所」「大宮御所」 (三)轉シテ、大臣家以上ノ住所。又、其身。其家僕ヨリ稱セシナリ、御所(ゴス)トモ云ヘリ。(ごしょさまヲ見ヨ) 太平記、十八、一宮御息所事「御所侍ノ、御格子マヰラスル者シテ、ハヤ、人、定マリヌレバ」今出川右大臣公顯ノ邸ナリ) 三内口訣 永正ニ「御所、是ハ、大臣家以上ノ家執、其主人ノ故實等、稱ニ之儀、公界(クガイ)ヘ出デザル事ニ候」 (四)轉シテ、幕府將軍、及、其一族ノ住所。又、其身。 吾妻鏡、四、文治元年四月廿一日「最時、将、御所進士ニ」同、五十一、弘長三年五月一日「鎌倉御所、云云」鎌倉年中行事、下「若君、姫御所、御誕生」武家名目抄稿、居處 當將軍家ノオハシマス所ヲ、御所ト稱スルカラニ、又君ノ御所ヲ、大御所ト云フ、猶、若君ノマシマス所ヲ、小御所ト云フノ例也」「室町、花ノ御所」「古河御所」「小弓御所」

こ-しょう (名) 古松 年舊(フ)リタル松。 李白詩、貞心比ニ古松ニ」太平記、三、笠置軍、陶山小見山夜討事「屏風ヲ立タル如クナル岩石重リテ、古松、枝ヲ垂、蒼苔、露、滑ナリ」

こ-しょう (名) 孤松 ヒトツマツ。 陶潛、歸去來辭「撫ニ孤松ニ而盤桓」盛衰記、廿八、伯耆巷毛事「奇キ石高時テ、孤松一株アリ」

こ-しょう (名) 誇稱 〔くっしょうナルベシ、誇示ノ語原ヲ見ヨ〕 ホコリカニ云フコト。「歌ハ大勝ナリト誇稱ス」

こ-しょう (名) 扈從 こじゅう(扈從)ノ條ヲ見ヨ。

ご-しょう (名) 五乘 佛敎ノ語。聲聞、緣覺、菩薩、人間、天上ノ、五種ヲ云フ。乘ノ字ハ、實ハ、コレラノ果ヲ得ベキ法門ヲ云フ、而シテ、此ノ五種ノ人ノ所乘ノ法ナルガ故トゾ、今ハ、法門ヲ指スニ非ズシテ、コレ等ノ五類ノ人ヲ指スト。(佛敎辭林) 釋迦如來誕生會(元祿、近松作)五「大乘五十年ノ御法ノ聲、一乘、五乘、七方便、四種、八部、二十五有」

ご-しょう-いも (名) 五升薯 〔一顆ノ種ヲ植ウレバ、五升トナル義、蕃殖ノ多キ意〕 じゃがたらいもノ異名。 馬鈴薯

ご-しょ-がう (名) 御所號 〔御所ノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕 鎌倉公方ノ裔、足利成氏、下總ノ古河ニ居テ、古河公方、古河御所ト稱シキ、其裔、德川時代ニ至リテ、下野ノ喜連川ニ居テ、喜連川氏トナリ、大名ニ列シテ、其家格ニ、御所號ノ稱アリ

キ。（他ノ大名ノ、屋形號ノ上ナリ）」 三年六月「足利、大將下向御所号、幕府川左馬頭」

ごしよがき (名) 五所柿 〔大和國、南葛城郡、五所町ノ原産ナリト云フ、やまごしよ柿ノ異稱アリ〕 柿ノ一種、實ノ形、扁ク大キクシテ、四ツニ筋アリテ、粗、四角ニ見エ、蔕モ、四角ナリ、色、紅ニシテ、核、少ナク、柿ノ最上品トス。一名、大和柿。平柿。方柿 紅柿 合類節用集(元祿)六「五所柿、本名、巨勢柿、巨勢、地名、在二和州葛上郡二」

ごしよぎたひ (名) 御所鍛 きくづくりのたちノ條ヲ見ヨ。

こしよく (名) 古色 物ノ、年舊リタル氣色。杜甫、送韋諷事ノ詩「古色沙土裂、積水陰雲稠」 王安石詩、「帝ノ石出ニ古色ハ洗、松納二空光ニ」「古色蒼然」

こしよく (名) 小童 〔小僧子ノ轉ナルベシ、寸白、すばこ。猪口、ちよこ〕 童子。子供。又、少女ヲモ云フ。娼家ニテ、禿ノ稱。 孕常盤(正徳、近松作)三「ヤイ若イ者ドモ、ココナ小童メヲ知ノタカ」 東海道中膝栗毛(享和、一九)五編、下「十一二バカリノ小ちょく、諸ヲモチ、北八ニスヱル」

ごしよく (名) 誤植 活字ノ組方ノ、誤レルコト。「誤植ノ少ナキ書籍」

ごしよぐるま (名) 御所車 牛車ノ俗稱。源氏車。 傾城酒呑童子(享保、近松作)四「オ主ハ、地體、京ハレ、若シ、貴キ公家ニ近付ガアルナラバ、御所車一輛、買テクレ」

ごしよことば (名) 御所詞 室町時代ヨリ、江戸時代ニワタリテ、禁中ノ女房ノ言葉ノ間ニ行ハレタル、物事ノ、一種ノ異名。又、女房詞。幕府、大名ノ奥女中ノ間ニモ移リテ、行ハレ、更ニ移リテハ、家柄ノ女詞ニモ用キラル。髢ヲかもじ、鮨ヲすもじ、豆腐ヲおかべ、餅ヲおかちんナド云フ類ナリ。 海人藻芥(應永)下「酒ハ九獻、餅ハかちん、味噌ハむし、鹽ハしろもの、豆腐ハかべ、鯉ハこもじ、鮒ハふもじ、如レ此異名ヲ被レ付、近頃ハ、將軍家ニモ、女房達、皆、異名ヲ申ス」(節文)

ごしよざくら (名) 五所櫻 櫻ノ一種、花、大キク、重瓣ニシテ、五花、一處ニ集リテ開ク、甚ダ美ナリ。 雪女五枚羽子板(寶永、近松作)源義教公道行「我北山ノ御所櫻、春ノ眺メト櫻盛」

ごしよざぶらひ (名) 御所侍 〔御所ノ條ヲ見ヨ〕 仙洞、又ハ、執柄家ニ仕フル侍。 鹽嚢記、廿六、御所侍酒盛事「法住寺殿ノ御所侍、東ノ釣殿ニ、ヲ集メテ、酒呑ミケル」 太平記、十八、一宮御息所事「御所侍ノ、御格子マヰラスル音シテ」(今出川右大臣公顯ノ邸)

ごしよぞめ (名) 御所染 染色ノ名、寛永ノ頃、女院御所ノ御好ミニテ、絹布ニ染メサセラレタルモノト云フ。下ノ出典ヲ見ヨ。 近代世事談(享保)一、衣服、御所染「寛永ノ頃、女院ノ御所(東福門院ナルベシ)ニテ好マセラレ、多クノ絹ヲ染メサセラレ、宮女、官女、下ヅカサマデニ賜ハル、此染、京、田舎ニ流行リテ、御所染ト云フ」 萬金産業袋(享保)四、夏物「平御所染、地白ニシテ、總地ハナ色型ニ、照柿、黑柿、萌黄ナドノ小色ヲ、所所ニ入レ染ムル、檜垣ニ菊、龍田川、等ノ形、コレヲ上方ニテハ、地白染ト云フ」

ごしよづくり (名) 御所造 (一)きくづくりのたち(菊作太刀)ノ一名。 太平記、十七、隆資卿自二八幡一被レ寄事「イツモ帶キ副ヘニシ給ヒケル御所作、兵庫鎖ノ御太刀ヲ、引出物ニゾセラレケル」 (二)家屋建築ノ一種。 浦島年代記(元祿、近松作)二「桃ノ小路ヲ、櫛笥通リ、引キ廻ハシタル御所造リ」

ごしよどころ (名) 御書所 古ヘノ官、別當、預、開闔、覆勘、等ノ職アリ、宮中ノ御書籍ヲ保管ス。祕書閣。又、一本御書所ト云フハ、世上流布ノ書籍、各、一本ヲ寫シテ、藏セシメラレシ所ナリ。 類聚符宣抄、十、延喜廿一年五月十三日、式部少録 矢田部公望「令レ候二御書所二」 古今集、序「御書のところのあづかり、紀貫之」 源順集「御書所預、坂上茂樹」 西宮記、臨時、五「御書所、在二式乾門東腋一、有二預、書手、熟食二」 同「一本御書所、在二侍從所南一、有二公卿別當、預、並、書手、熟食、世間書一本、進二公家二」

ごしよはじめ (名) 御書始 みふみはじめノ條ヲ見ヨ。

ごしよふう (名) 御所風 女ノ結髮ノ風。下髮ヲ、頂ニ卷キテ、笄ニテ止メオクナリ。かうがいわげ、かたはづしノ條ヲ併セ見ヨ。 當流女用鑑「御所風」

ごしよまと (名) 御所的 年始ニ、將軍ノ御所ニテ行フ、弓始ノ稱。 後愚昧記、應安七年四月十六日「武家弓始、云云(註、俗、號二御所的二)年始有レ之、而依二新院(後光嚴天皇)御事ハ、可レ令二延引二」 尺素往來「新春吉光、云云、御所的者、五番五度弓、可レ爲二往古之例一歟、射手、井、弓太郎、等、從二氣日ハ被レ定二其人二」 貞丈雜記、十二、武藝「御所的ト云フハ、將軍ノ御所ニテ射ルヲ云フ」

ごしよやき (名) 御所燒 御所鍛ニ同ジ。きくづくりのたちノ條ヲ見ヨ。

ごしよらくがん (名) 御所落雁 〔禁中御用ナドニナリシモノカ、落雁ノ條ヲ見ヨ〕 乾菓子ノ名、加賀國、金澤ノ名産ニテ、長方形ナルモノ、紅ト、白トアリ、其製、落雁ニ同ジ、但シ、種ハ、糯米ノ乾飯ヲ碾キテ粉トシ、少シ炒リテ、氷砂糖水ヲ煎ツメタルニ加ヘテ、捏ネテ、模ニ壓シテ作ル、面ニ、長生殿ノ三字ナド、打出シタルアリ。 諸國咄(貞享)二「時代蒔繪ノ硯箱ノ蓋、云云、此ユニ、御所落雁、前樋、サマザマノ菓子積ミテ」

こしよろひ (名) 腰甲 くさずりノ(二)ニ同ジ。

こしよわ (名) 腰弱 又、ヨワゴシ。前ヘ押ス力ノ、弱キコト。張氣ナキ意ニ云フ。

ごしよゐんばん (名) 御書院番 しよゐんばんぐみノ條ヲ見ヨ。

こじらかす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 拗 〔こじれろノ他動、まぎるる、まぎらかす。はぐれる、はぐらかす〕 コジレルヤウニス。病ヲ、癒シソコナフ。シコジラカス。シコジラス。 「感冒ヲこじらかして、肺炎トナッタ」

こしらふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 慰諭 〔こハ、請ふノ語根ニテ、こひしらふ、しつらふノ條ヲ見ヨ、誂りつらふ、へつらふ。侘びつらふ、わづらふ〕 (一)慰メ、諭ス。賺ス。 允恭紀、七年十二月「皇后聞レ之恨日、云云、因、慰二喩皇后之意一曰」 舒明紀、七年五月「招二慰島人一、云云、同載二客船一」 源、十九、薄雲三十六「慰メガタキ氣色ナレバ、こしらへカネタマフ」 同、三十四、下、若菜、下五十九「腹立ツヲ、ヨロヅニ言ヒこしらへテ」 著聞集、十三、哀傷「莫泣キソトこしらへテ」 沙石集、六、下、十六條「命アラバ、メグリアフコトモアリナムト、こしらへオキツレドモ」 (二)誘フ。ヲコツル。 華嚴經私記音義「誘、古之良布」 字鏡一「誘、古志良不」 名義抄「誘、コシラフ、アザムク、ヲコツル」 後拾遺集、廿、釋教、化城喩品「こしらへテ、假ノ宿ニ、ヤスメズバ、眞ノ道ヲ、イカデ知ラマシ」(方便ナリ) (三)取リツクロフ。執リ成ス。 宇津保物語、嵯峨院八「喜ビニ、サテ、來リケルヲ、言ヒこしらへ侍リ、云云、怪シミ思ヒシハ、こしらへラレニタリケルニ

コソハ」 發、四、夕顔[illegible]「事ノサマ、思ヒメグラシテトナム、こしらへオキ侍リツル」

こしら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [拵] (前條ノ語ノ(三)ノ意ヨリ移ル、倭名抄、[illegible]、拵、[illegible]之、[illegible]之、云云、[illegible]、[illegible]ふハ、閑ふニテ、卽チ、構キ作ルナリ) 集[illegible] (一)構ヘ作ル。調ヘ供[illegible] [illegible] 抄(西行)二「落チツクベキ方ヲこしらへ侍ルベキト[illegible]」 米國山「正成ハ、金剛山千早ト云フ所ニ、イカメシキ[illegible]」 [illegible]

こしらへごと (名) 拵事 無キヲ、アルヤウニ作リタル事。虛構 「こしらへ言」(こしらへ物」

こしらへもの (名) 拵物 (僞り作セル物)、マガヘモノ。イカサマモノ。僞物。贋物

こしらへや (名) 拵屋 [illegible]

こしら・へる (動) 拵 こしらふ(拵)ノ口語。

こしら・ゆる (動) 拵 こしらふ(拵)ノ[illegible]

こしり (名) [木尻] (一)椽ノ端。椽端 今昔物語、十七、第六話「一ツノ草堂アリ、律寺ト云フ[illegible]」(二)一本尻ノ、僞リモノ[illegible]

[illegible]「古之利」

こじり (名) 鐺 [前條ノ語ノ義ニ同ジ、鐺ハ、金當ノ合字] 刀劍ノ鞘尻。多クハ、其端ヲ、金屬、角、ナドニテ包ミ飾リタルモノニ云フ。鏢 [illegible]

こじり (名) [小尻] [小ハ、接頭語、糞詰ナド云フ語ト同趣ナルカ、尻がわれるト云フ語モアリ] 小尻がつまるト云フ語ハ、[illegible]ニ窮迫スルヲ云フ。(正德、近松作)中「方方ノ屆金、不埒ニナリ、當ル所ガ[illegible]八百、イカウ小尻ガ[illegible]テ來タ」 (寬治)三「下手ノ作レル奈良刀ノ、鞘鳴リシテ、小尻つまりヌレバ、刃刀ノ刃ヨリモ薄キ身上ニテ」、刀ノ鐺ニカケタリ)

こじり (名) [illegible] [illegible]ノ條ヲ見ヨ」 [illegible] 糞ヲ、肥料トスルモノ。コカス。

こじりあて (名) [鐺當] [鞘當ト云フ語モアリ」(一)人ガ、行キチガヒザマニ、其刀ノ鐺ヲ、我ガ身ニ當テタルコト」ソレヲ、無禮ナリトテ咎ムルヲ、こじりとがめト云フ。(笠とがめナド云フモアリ」[illegible]ニ斷リカケム」(二)轉ジテ、イササカナル事ヲ、咎メダテスルコトヲ、こじりとがめ[illegible]

こじりさがり (名) [鐺下] 刀ノ、[illegible]ニ對シテ、落差ノ、鐺ノ、地ニ垂ルルコト。「二本ノ刀ヲ、こじりさがりニブッコミ」

こじりとがめ (名) [鐺咎] 前條ヲ見ヨ。

こじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [抉] [くじる(抉)ノ轉、潜る、こぐる」(一)抉ル。刳ル。コジクル。(二)モヂル。ネヂル。拗

こじ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下一) [前條ノ拗るノ自動、切ろ、切ろる。捩ろ、ねぢれろ] こぢけるニ同ジ。コジレル。七偏人(安政、梅亭金鵞)四編、中「化下手ナ上ニ、化こじれテ仕[illegible]テ、何分ニモ、[illegible]思ヒ付ガ出來ネヘカラ」「病ガ、ナホリこじれタ」

こしろ (名) 子代 みこしろノ條ヲ見ヨ。

こじろ (名) [小城] 繩張、狹ク築ケル城。規模、小ナル城。太平記、七、千[illegible]「[illegible]二町許ニテ、廻リ一里ニ足ヌ小城ナレバ、何程ノ事カ有ベキト、寄手、是ヲ見侮テ」

こしゐ (名) [腰居] 腰、屈ミテ、起チ得ヌ不具ノ名。コシヌケ。キザリ。躄 著聞集、十二、偸盜「強ナリケルこしゐガ、盜ミタリケリ、云云、こしゐ、申シケルハ、手ヲ拵チテコソ、キザリアリキ候へ、手ヲ離レテハ、イカデカ取リ侍ルベキ」

こじゐん (名) [孤兒院] いくじゐん(育兒院)ニ同ジ。

こしをけ (名) [腰桶] かづらをけヲ見ヨ。

こしをれ (名) [腰折] (一)年老イテ、腰ノ、前へ折レ屈ミタル人。傴 著聞集、十六、[illegible]利口「奈良坂ノ、[illegible]シキ[illegible]ヲ、イカニシテ、こしをれドモノ、越エテ來ツラム」(二)次條ヲ見ヨ。

こしをれうた (名) [腰折歌] [詩ニ、蜂腰病トテアルト、同趣ナリ」(一)三十一文字、五句、ノ和歌ノ、腰の句(第三の句)ニ、用法アルニ、其詠ミ方ノ、整ハヌ歌。略シテ、こしをれ。紫式部日記「[illegible]こし[illegible]レヌバ[illegible]、こしをれウタリタル[illegible]ヲ詠ミ出テ、云云、我レ[illegible]ニ思ヒタル人」 [illegible]抄[illegible]後[illegible]ニ、テマヌノ品アリ、一ニハ、腰ノ字ヲ、腰ニスヱズシテ、ナマジヒニ、カマガタニマエヌル也、二ハ、發句、後句ニ、物ヲ[illegible]キリテ、[illegible]ハ、別別ニナシタル也、[illegible] [illegible]ノ[illegible]二六、今時ノ歌ハ、ヨキ歌トイヘトモ、皆、腰ノ句、折レタリ、古ノ歌ノ腰ノ、強ク細キタルヲ見レバ、誇リガタシ」 無名抄、下「夕サレバ、野邊ノ秋風、身ニシミテ、鶉鳴クナリ、深草ノ里」カノ歌ハ、身にしみてト云フ腰ノ句ノ、イミジウ無念ニオボユル也」 (二)拙ク詠ミタル歌。拙キ文ヲ、こしをれ文ト云フ。[illegible]、四十九、東屋「[illegible]こしをれタル歌、合[illegible]物[illegible]、夜中ヲシ」同、二、「[illegible]トシテナム、ワヅカナルこしをれぶ[illegible]侍リシカバ」 紫式部日記「こしをれタルコトヤ、書キマゼタリケム」 躬恒集「近ゴロ、イマイマシキこしをれノ中ニ、好ク詠ミ侍ル」 (三)自詠ノ和歌ノ謙稱。更級日記、治安、事ヨロシキ時コソ、こしをれカカリタル事モ、思ヒ續ケケレドモ、カクモ、云フベキカタモ覺エヌママニ(歌)」 明月記、正治二年十月十一日「自」院給三五首[illegible]六云、指出腰折歌於[illegible]中、[illegible]二

こしをれぶみ (名) 腰折文 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

こす (名) [小簾] [小簾ノ條ヲ見ヨ、鉤簾ト書クハ、非ナリ、湯桶讀ナルモ、語ヲ成サズ] 小簾ノ異 ミス。スダレ。簾 [illegible]、[illegible]ヤこすヲ、アゲツラム、拵フニ惜シキ、簾ノツモレル」 堀川院艶書合「玉簾ノ、こすノ間遠ク、見テシヨリ、君ニ心ヲ、カケヌ日ゾナキ」 風雅集、一、春、上「雨晴ルル、風ハヲリヲリ、吹キ入レテ、こすノマ匂フ、軒ノ梅ガ枝」 和漢三才圖會、三十二、家飾具「[illegible]」

こ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [越] (一)物ノ上ヲ過ギテ、[illegible]ヘ行ク。 萬葉集、十四[illegible]「比呂旛ヲ、馬古思カネテ、心ノミ、妹ガリ遣リテ、我ハ此所ニシテ」(古義「ひろはしハ、鷁旛ナルベシ、反

橋ノ事ナリ」) 同、廿十「高圓(山)ノ、尾花吹キ故酒、秋風ニ」「山ヲ越す」川ヲ越す」 (二)〔引キ移ル。移轉ス。 播磨國風土記、揖保郡、越部里「上野大夫、云云、自二但馬國三宅一越來、故號二越部村一」「一軒隣へおす」 (三)上ニ出ヅ。抽ンヅ。勝ル。マサル。(才學ナド) 超越‖ (四)到キテ、過グ。「水、膝ノ上ヲ越す」 (五)歷。過グ。經過「年ヲ越す」 (六)行ク。「北海道へ罷り越し候」

おす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 漉|濾 〔越すヲ、他動ニ用キル語カ〕 物ノ隙ヲ潜ラセ通シテ、滓ヲ留メ、精キヲ下ス。(羅斗、布、沙、ナドニテ、餡、酒、水、ナドヲ)

おす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 越 〔おおすノ上略、思ふ、もふ。おさなふ、さなふ〕 送來すニ同ジ。送り來ス。ヨコス。 送來‖ 筑後集「筑紫ヨリ來タル人ニ、スダレガハヲ乞フヲ、今今トテ、おさネバ」「其旨、御甲シ越し下サルベク候」先方ヨリ書狀、差シ越し候」(御越しなされト云ヘバ、來れノ敬語トナル、オイデナサレ)

〜**おす・スル・スレ・セ・セ・セヨ** (他動、下二) 希望 〔おおす(送來)ト同意、おおすハ、此語ニ、おノ添ハリタルモノナルベシ(奈良朝文法史)おノ略セラルルハ、おおおし、おおさし(嚴)、思ふ、もふナドアリ、此語、終止形、未然形、命令形ノ外ハ、見エザレド、下二段活用ナルコト、明ラケシ〕 希望フ意ヲ云フ語。 萬葉集、四四十「浪ヲト吾ヲ、人ゾ割クナル、イデ吾君、人ノ中言、聞超ナユメ」「ユメユメ聞クナユメ」 同、八七「霞立ツ、春日ノ里ノ、梅ノ花、アラシノ風ニ、散リ許須ナユメ」 同、十一二十「言疾クバ、中ハ淀マセ、水無川、絶ユト云フ事ヲ、有超ナユメ」 古事記、上二十(序)、長寧、庭津鳥、鶏ハ鳴ク、ウレタクモ、鳴クナル鳥カ、此鳥モ、打チ病メ許世ネ」記傳「おせね、ハ、望意ノ辭、云云、おす、おせ、皆、一辭ノ轉レルナリ、云云、ね

モ、乞望辭」萬葉集、九九「紀ノ國ニ、止マズ通ハム、妻ノ杜(序)、妻依シ來西ネ、妻ト云ヒナガラ」(寄セヨカシ) 聖德太子傳曆謠「相見社根」 萬葉集、五四十「梅ノ花、今咲ケル如、散リ過ギズ、我ガ家ノ園ニ、アリ己世ヌカモ」(アリおせヌモノカハ、おせカシノ意ト云フ)雅言考(橘守部)おせぬかも「乞望ノ辭ニテ、おす、おせト活用セリ」 萬葉集、十九廿「月カサネ、吾ガ思フ妹ニ、逢ヘル夜ハ、今シ七夜ノ、過ギ巨勢ヌカモ」 伊勢物語、四十五段「ユク螢、雲ノ上マデ、往ヌベクバ、秋風吹クト、雁ニ告ゲおせ」(おせよナリ、古言ニハ、よヲ添ヘズシテ、命令形ナリ)

こ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 鼓‖ 〔廣雅「鼓、鳴也」廣韻「擊ノ鼓也」字典「按、說文、鼓舞之鼓、从レ支、鐘鼓之鼓、从レ支、今概用レ支、不二復用一レ支」〕 (一)彈キ、鳴ラス。 詩經、小雅、鹿鳴之什、鹿鳴篇「鼓レ瑟吹レ笙」 名義抄、皮部「鼓琴、琴ヒカシム」 (二)フルヒ、オコス。古今注、中、魚蟲篇「鯨魚者、海魚也、大者長千里、小者數十丈、云云、鼓レ浪成レ雷、噴レ沫爲レ雨、水族懼畏、皆逃匿」「勇ヲ鼓す」

〜**おず** (動) 掘‖ 〔此語、連用形ノ外ニ、活用セサセタルヲ見ザレバ、上二段活用トモ、四段活用トモ決シガタシ〕 掘リ取ル。(樹ヲ)根グルミ掘リ取ルヲ、名詞形ニ、根おじト云フ、其條ヲ見ヨ。 景行紀、十二年九月「拔二取磯津山賢木一以上枝挂二八握劍一」 萬葉集、八四「去年ノ春、伊許自テ植エシ、我ガ宿ノ、若樹ノ梅ハ、花咲キニケリ」(伊ハ、接頭語ナリ)

おず (句) 不來‖ (一)く(來)ヲ打消シテ云フ語、其條ヲ見ヨ。來ラズ。 和泉式部集、二「君ハおず、タマタマ見ユル、ワラハヲバ、いけトモ今ハ、言ハジトゾ思フ」 (二)おずおずノ條ヲ見ヨ。

ごを (名) 呉須‖ 〔呉須燒釉ノ略ナルベシ、ごをやきノ條ヲ見ヨ〕 こばるど化合物ヲ含ム鑛物ノ名、多ク、支那ヨリ舶來ス、沙ノ如ク、黑クシテ、青綠ヲ帶ブ。黑藉石‖ コレヲ極細末トシテ、水ニ溶シ、文ヲ磁器ニ畫キ、上ニ釉ヲカケテ燒ケバ、藍色トナル、コレヲ、青繪釉ト云フ。畫燒青 其器上ニ藍文ヲ成シタルヲ、青繪、又ハ、染付ト云フ。 青花

ご・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 伍‖ マジハル。ナカマトナル。群衆ト、雜居ス。 史記、淮陰侯傳「生乃與二噲等一伍」

ご・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 期‖ 〔ごハ、期ノ呉音、碁、ご〕 預メ、其時ト定ム。待チ設ク。期ス。 徒然草、九十二段「道ヲ學スル人、タニハ、朝アラン事ヲ思ヒ、朝ニハ、タアラン事ヲ思ヒテ、重ネテ懇ニ修センコトヲ期せり」「何時ヲカ期すベキ」日ヲ期しテ」カネテ期しタル事ナレバ」

おをあう (名) 小素襖‖ をあう(素襖)ノ條ヲ見ヨ。

おす・い (形) 約‖ (一)約シイ。 俚言集覽、おすい「利、コマカナルヲ云フ、炭俵「年ノ暮、互ニおすき、錢遣ヒ」駿河ニテ、小サキ犬ヲ、おすい犬ト云フ。 (二)小利ヲ、セセクル。嗇 (三)轉ジテ、體ヲ、ヨクツクロヒテ、竊カニ、己ガ利ヲハカル。スコイ。黠

こ-そう (名) 箇數‖ 幾箇ヅツノ數。員數。 李益、賞二牡丹一詩「數レ人知二箇數一、留レ客賞二斯須一」

こ-そう (名) 戸數‖ 家數。 後漢書、百官志「各有二戸數一爲レ限」

こそう-わり (名) 戸數割‖ 地方稅ノ一、戸毎ニ割リ當テテ、課スルモノ。

〜**おすき** (名) 木鋤‖ 〔鐵鋤ニ對ス〕 全體、木ニテ作リテ、鑱ナキ鋤。 天治字鏡、十二廿「枚、己須支」 倭名抄、十五五農耕具「枚、鍬屬也、古須岐」 字類抄「枚、コスキ、亦作レ枒、耕具也、木鍬也」

おすぎはら (名) 小杉原‖ 紙ノ名、杉原ノ條ヲ見ヨ。

〜**おすげ** (名) 小菅‖ 〔小ハ、接頭語ナリ〕 菅ト云フニ同ジ。 萬葉集、十一四十「眞野ノ池ノ、小菅ヲ笠ニ、縫ハズシテ」 現存六帖「五月雨ノ、間ナクシ降レバ、笠ニ縫フ、眞野ノ小菅モ、萎レアヒニケリ」

おずおず (名) 鱸‖ 〔かずのおヲ、女房詞ニ、かずかずト云ヒシガ、轉ジテ、おずおずト云ヒシナルベシ(かきまぜて、おきまぜて。かがむ、おおむ)ソレガ、他ノ魚ノ鱠ニモ移リタルナラム、不來不來トト聞ユルニ因リテ、忌ミテ、くるくるト言ヒカヘタルナリ、女房詞ニハ、小糠(來ぬか)ヲ、待ちかねト云フナド、例、多シ)鯖ノ鱠ノ女房詞。 蜷川親元日記、一、寛正六年正月十日「齋藤越中入道、雁二、來來一折、云云、私云、鰡ノ賜ヲ、不來不來ト云テ、正月、用立ツ、不來不來ト云フハ、名詮アシキニヨリテ、中比ヨリ、來來ト書キタリ」(賜ハ、鰡ノコトナルベシ) 弘治板、節用集「來來、自二能州一出也、昔ハ、不來ト云フ也、今世祝而、曰二來來一也」 三好筑前守義長亭御成記「五獻、海老、くるくる、アツ物」 撮壤集(享德)魚名「來來」 林逸節用集(文明)「來來」 運歩色葉集(天文)「來來、クルクル」 易林節用集(慶長)「來來、鯵」

ごを-さま (名) 御所樣‖ 〔ごをハ、御所ノ轉、其條ノ(三)ヲ見ヨ、和尚さんヲおをさんト云フト、同趣〕 攝家、淸華、大臣家ナドノ子女ガ、其父ヲ呼ブ敬稱。又、ごをさん。以下、五位以上ノ家ニテハ、御出居さま、おでゐさんト云フ。以上、共ニ、母ヲバ、おたあさまト云フ。おもうさまノ條ヲ併セ見ヨ。

おすずり (名) 小硯‖ 硯ノ、小サキモノ、匣ニ入レ、懷中シテ携フルニ用キル。平

[illegible]、一、内[illegible]……好古小錄(寛政)卷「小說[illegible]、後三年記ノ[illegible]卷ニ[illegible]ヨリ小說ばお、たたふ紙、取リ出シテ、木台ノ[illegible]ニ[illegible]、小說ノ[illegible]ニ入レテ持チシ人アリシヨリ、或ハ出デキタリシトゾ」天保[illegible](天保)五「好古小錄ニ、小硯[illegible]ニ用ユルモノナリ、墨汁ヲ貯ヘテ、旅用ニセシナリ」

ごすで (名) 呉須手 〔呉須樣ノ義、高[illegible]手、南京手、[illegible]手、皆同ジ、描[illegible]云フハ、[illegible](元ノ名書家、趙子昂)ヲ附サニシテ、子昂手ノ義ナリト云フハ、附會モ甚シ〕呉須樣ノ[illegible]ヲ云フ語(呉須、及、呉須燒ノ條ヲ見ヨ) [illegible]……假作)二「御相伴ニハ五郎丸、赤繪呉洲手ノ錦皿、下シ繪ハッテ、是レテ喰フ」

こすな (名) こすゐ(湖水)ノ條ヲ見ヨ。

こすみ (名) [illegible] 〔[illegible]〕攝水。 源、廿一、少女「御ラハシ古イタルこすみ、湖[illegible]、茶ガチニ打チマゼテ」正徹千首「玉章ノ、こすみ湖[illegible]、書キツラネ、今ヲチコチニ、歸ル雁ガネ」

こずみ (名) 粉炭 炭ノ、碎ケテ、粉トナレルモノ。

こすみ (名) 小角 小隅 〔近キ隅角ノ意カ〕(一)圍碁ニ云フ語、碁子ヲ、斜ニ一路ヲ違メテ打ツコト、上下、左右、共ニ、同ジ。[illegible]すむ[illegible]ニ云フ[illegible]フ語メリ」[illegible]、小隅ノ[illegible]アリ、[illegible](二)將棋ニ、駒ノ在ル場所ノ角ニ接シタル區劃。

ごすんくぎ (名) 五寸釘 大工ノ語ニ、鐵釘ノ、長サ、正シク、曲尺ニテ五寸アルモノヲ、正五寸ト云フ。東京ノ大工ノ、普通ニ、五寸釘ト云フニ、二寸ナルヨ、大五寸ト云ヒ、一寸五分ナルヲ、中五寸ト云フ。又、四寸釘ト云フニ、正シク四寸ナルヲ、正四寸ト云ヒ、常ニ、四寸ト云フハ、一寸二分ナリ。又、一寸ナルヲ、三寸釘ト云フ。薄板ヲ打附クルニ用ヰル板附釘ト云フハ、六七分ナリ。以上、大サ、細サハ、寸ノ長短ニ從フ。從來ノ鐵釘ハ、皆、角釘ナルガ、今ハ、西洋製ニ倣ヒテ、丸釘トナリタレド、寸法ノ稱呼、長短ハ、モトノママナルガ如シ。

ごすん-つぼね (名) 五寸局 さんぜんつぼねノ條ヲ見ヨ。

コスメチック (名) 〔佛語、Cosmetique.[illegible]〕植物ノ油ト、白蠟トニ、香料ナドヲ加ヘテ製シタル、西洋風ノ化粧品、頭髮、又ハ、髭ニ塗ルニ用ヰルモノ。

コスモス (名) 〔羅甸語、Cosmos bipinnatus ノ略〕西洋種ノ一年草、春、種ヲ下シテ、一度、移植ス、莖ハ、長サ四五尺ニ達シ、多ク、枝ヲ分出ス、葉ハ、細ソク繁茂シ、秋、白色、又ハ、淡紅、淡紫ノ花ヲ開ク、菊花ニ似テ、大ナリ、中央ニ、黄色ノ蕊アリテ、美ナリ、觀賞用トシテ栽培セラル。

ごす-やき (名) 呉須燒 〔ごすハ、呉州ナルベシ、南京燒ノ一種ナルベク、支那ノ南京、即チ、呉國ノ磁器ト云フナラム(萬寶全書(享保)ニ、呉洲トアリ)呉須、及、呉須手ノ條ヲ併セ見ヨ〕足利時代ヨリ、支那ヨリ舶來セル染附、即チ、青繪ノ磁器ノ稱、略シテ、呉須、[illegible]、三十、[illegible]ニ、ごすト稱スル物アリ」

こすり (名) 錯 〔木摩ノ義ナルベシ〕(一)鑢ノ類、字鏡「錯、磨也、己[illegible]利」又「[illegible]也、古[illegible]利」倭名抄、五「[illegible]」(二)木片ニ、木賊ノ枯莖ヲ貼リツケタルモノナルベシ、物ヲ擦スルニ用ヰル。天治字鏡、十二「[illegible]」[illegible]細工具ニ、錯、木賊、椋葉ト、列擧シテアリ。

こすりめ (名) 擦目 こしほおむノ條ヲ見ヨ。

こす・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 擦 〔こハ、接頭語、小ノ條ヲ見ヨ〕擦ルト云フニ同ジ。「眠イ目ヲこする」擦デ、擦ヲこする」

こす・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下一) 擦 〔擦らるるノ約ナルベシ、知らる、まるる〕擦レ當ル。スレアフ。

こすゐ (名) 湖水 ミヅウミ。 朗詠集、下「江霞[illegible]、[illegible]水連、天[illegible]」[illegible]、廿八、[illegible]正竹生島參詣「カカル亂ノ中ニモ、心ヲ澄シツツ、湖水ニ見渡シ給フ」

こすゐ (名) 鼓吹 〔大鼓ヲタタキ、喇叭ナド吹きテ煽動スル意、くゐゐすゐ(鼓吹司)ノ條ヲ併セ見ヨ〕競ハスルコト。勢ヲツクルコト。 後漢書、百官志「將軍、賜二官騎三十人及鼓吹二」世說、言語、下、[illegible]俗耳鼓吹[illegible](大田南畝ノ著書ニ、俗耳鼓吹ト云フアリ)「武士道ヲ鼓吹ス」文學趣味ヲ鼓吹ス」

こすゐ (名) 胡荽 草ノ名 こにゐ、及、ゐえんどろノ條ヲ見ヨ。

ごすゐ (名) 午睡 ヒルネ。 [illegible]詩「[illegible]人午睡[illegible]」蘇軾、答二舒堯文一書「午寢昏昏」

ごすゐ (名) 五衰 天上界ノ天人ガ、果報ノ盡クル時ニアラハス、五種ノ衰滅ノ相。 法苑珠林「天ノ五衰、衣服垢穢、頭上華萎、腋下汗流、身體臭穢、不樂本座」寳物集(文治)上「天上ト申スハ、快樂無數也ト云ヘトモ、終ニ、五衰ヲ免レズ、五衰ト云フハ、一ニハ、頭ノ華鬘、萎ム、二ニ、脇ノ下ヨリ、汗出ヅ、三ニ、眼、マジロク、四ニ、天衣、垢ツキ、穢行、心ニ任セズ、五ニ、天女、皆離ニ捨テラレテ、園、林ノ中ニ仰ギ臥シテ、悲ム」平家物語、二、新大納言被流罪「時移リ、事去リテ、世ノ變リ行クアリサマハ、只、天人ノ五衰ニ異ナラズ」

こすゐ-ぎん (名) 小隨身 ぜゐぎんノ條ヲ見ヨ。

ごすゐ-もぢ (名) 御推文字 〔ごすゐハ、御推量ノ下略(御深切、おきんもぢ)文字ノ條ヲ見ヨ〕推量ノ、婦人詞。「私ノ心ノ内、御ぎゐもぢ下サルベク候」

こずゑ (名) 梢 〔木末ノ義〕(一)木ノ幹、又ハ、枝ノ先。木ノ末。 倭名抄、廿「木末[illegible]」[illegible]古今[illegible]」新六帖、二「秋山ノ、こずゑツタヒニ、啼ク鹿ノ、シヅマル時モ、ナキ心カナ」(二)年ノ暮。歲末。 堀河百首、歲暮「コトタマノ、オボツカナサニ、ヲカミスト、こずゑナガラモ、年ヲ越スカナ」(おとだまノ條ヲ見ヨ)字典「歲末曰杪」禮記、王制篇「[illegible]用ハ必於歲之杪ニ」(次條ヲ見ヨ)

こずゑ-の-あき (名) 梢秋 〔杪秋ノ訓讀、杪ハ、梢ナリ、末ナリ〕陰曆、九月ノ異稱。 八雲御抄、三「九月、ナガツキ、こずゑの秋」後葉集、六、冬「モミヂ葉ノ、散リシク色ハ、カハラネド、こずゑの秋ハ、ナホゾ戀シキ」雪玉集(三條西實隆)「名ニシ負ハバ、梢の秋ノ、今日ノ月、葉月ハ、薄キ、色ニヤアリケム」倭訓栞、こずゑ「こずゑの春、こずゑの秋ハ、杪春、杪秋ノ漢名ヨリ云ヘル詞也」魏徵詩「首夏別二京國、杪秋滯二三河一」李端詩「江上花開盡、南行見二杪春一」

こせ (名) こせがさ(雁瘡)ノ條ヲ見ヨ。

こ・せ (動) こす(希望)ノ條ヲ見ヨ。

ご-せ (名) [後世] ノチノヨ。(三世(サンゼ)ノ條ヲ見ヨ) 仙臺ニテ、腹立つヲ、後世を燒く、後世が燒ける、後世が燒けるト云フ、後世ノ業ヲ煮(ニヤ)ス意ナリ、燒(ヤ)くノ條ヲ見ヨ。俚言集覽「ごせやく 南部、及、北越後ニテ、立腹ノコト」同、ごせらやく「山迹語俗言解、奥羽、はらだちいかるヲ、ごせらやくト云フ、後世ヲ願フノ裏也」

ご-ぜ (名) [御前] 御前(ゴゼン)(ミサキバラヒ)ノ條ヲ見ヨ。

ご-ぜ (名) [御前] (御前(ゴゼン)ノ下略(精進(サウジン)、さうじ。合歡(ガフクワン)、がふかノ木)」 御前(ゴゼン)ニ同ジ。貴婦人ヲ敬稱スル語、其稱呼ノ下ニ添ヘテモ云フ、下略シテハ、伊勢の御(ゴ)、母(ハハ)御(ゴ)ナド云ヒ、上略シテ、尼御前(アマゴゼ)ヲあまぜ、母御前(ハハゴゼ)ヲはぜナドモ云フ。此語、後ニハ濫用セラレテ、めくら御前(ゴゼ)ナドトモ云ハル。今昔物語、三十一、第五語「其船ニ、云云、娘共ハヲ乘セテ出シ、云云、色色ニ裝束(サウゾク)キタル指貫姿ノ御前(ゴゼ)共、十餘人、云云、池ノ南ニ平張ヲ打テ、ソレニ、御前ドモヲ居エタリ」 同巻、同、宗岡高助ノ娘「諸司ノ尉ノ子ナド、聟ニ成ラムト云ハセケレドモ、云云、前追ハザラム人ヲバ、我ガ御前タチノ御アタリニハ、イカデカ寄セムナンド云テ、聟取モセザリケル程ニ」 義經記、二、伊勢三郎始めて義經の臣下に成る事「三郎、ヤごぜごぜト、押シ驚カセバ、シバシハ音モセズ、ハルカニシテ、寐覺メタル風情(フゼイ)シテ、云云、女、申シケルハ、云云」(三郎ノ妻ナリ) 盛衰記、四十七、髑髏尼御前事「念佛、結願シタマヒケレバ、尼御前(アマゴゼ)、上人ニ申サレケルハ、云云」 沙石集、二、上、第四條「是レゾ、我ガ伯母御前(ヲバゴゼ)ト申シテ候フナリ」「姫ごぜ」

ご-ぜ (名) [瞽女] めくらごぜノ條ヲ見ヨ。

こ-せい (名) [個性] (一)個體ノ性質。「物體ノ個性」 (二)個個ノ人ノ性質。個人ノ特性。「兒童ノ個性」

こ-せい (名) [古制] 古キ制度。趙孟頫詩「一稽二古制一」

こ-ぜい (名) [小勢] [大勢(オホゼイ)ニ對ス] (一)人數ノスクナキ軍勢。小軍 太平記、七、千劔破(チハヤ)城軍事「寄手八十萬騎、此勢ニモ恐レズシテ、纔ニ千人ニ足ラヌ小勢ニテ、云云、城中ニコラヘテ、防ギ戰ヒケル、楠ガ心ノ程コソ不敵ナレ」 (二)少數ノ人。小人數(コニンズ)。貞徳獨吟百韻「モノツケテ、ナラヌ座敷ノ、床憂、マハリ花ヲバ、小勢ニテサセ」

ご-せい (名) [御製] (漢音、御製(ギョセイ)ナレド、呉音ニ、ごせいト讀ムベシ、御物(ゴモツ)、御膳(ゴゼン)ナド云フモ、是レナリ) オホミウタ。天子ノ、製(ツク)ラセタマヘル和歌ニ申ス語。詩ニモ申ス。事物紀原「孔子家語、舜作二南風之詩一、此則御製之始也」 萬葉集、一、七「天皇御製歌」(雄略天皇) 保元物語、一、後白河院御即位事「近衞院、御惱オハシマシシガ、云云、御製ニ、カク「蟲ノ音ノ、弱ルノミカハ、過クル秋ヲ、惜シム我ガ身ゾ、マヅ消エヌベキ」 謡曲、大原御幸、二位尼「安徳天皇ノ御手ヲ取リ、舷(フナバタ)ニ臨ム、云云「今ゾ知ル、御裳濯川(ミモスソ)ノ、流レニハ、波ノ底ニモ、都アリトハ」ト、是ヲ最後ノ御製(ゴセイ)ニテ、千尋ノ底ニ入リタマフ」 安齋隨筆、十一「御製、ごせいト云フ、大方、呉音ナリ、用ヰル事、多シ」

ご-せい (名) [五世] 高祖父、曾祖父、祖父、父、吾。 繼嗣令「凡皇兄弟皇子、皆爲二親王一、云云、以外並爲二諸王一、自二親王一五世、雖レ得二王名一、不レ在二皇親之限一」 續紀、三、慶雲三年二月「准レ令、五世之王、雖レ有二王名一、不レ在二皇親之限一、今五世之王、雖レ有二王名一、已絶二皇親之籍一、遂入二諸臣之例一、顧二念親王之恩一、不レ勝二絶籍之痛一、自レ今以後、五世之王、在二皇親之限一、其承レ嫡者、相承爲レ王、自餘如レ令」

ご-せい (名) [五星] 水星、火星、木星、金星、土星、ノ總稱。 史記、天官書「天有二五星一、地有二五行一」 同、張耳陳餘傳「漢王之入レ關、五星聚二東井一、東井者秦分也、先至必覇」(東井ハ、星宿(ホシノヤドリ)ノ名) 宋史、竇儀傳「丁卯歳、五星聚レ奎、天下自レ此太平」(奎(ケイ)ノ條ヲ見ヨ)

ご-せい (名) [互生] 對生(タイセイ)ノ條ヲ見ヨ。

ご-せい (名) [碁聖] 古今ニ傑出シタル、圍碁ノ達人。

ご-せい (代) [吾儕] ワレラ。ワガトモガラ。吾曹。左傳、宣公十一年「對曰、可哉、吾儕小人、所謂取二諸其懷一、而與レ之也」

こ-せい-そう (名) [古生層] 次條ヲ見ヨ。

こ-せい-だい (名) [古生代] 化石ヲ産ズル、最モ古キ時代。此代ノ地層ヲ、古生層ト云ヒ、厚サ十萬尺ニモ達スル大層ニシテ、珪岩、石灰岩、粘板岩、沙岩、硬沙岩、礫岩、等アリテ、最下層ヲナスモノハ、片岩ノ性狀ヲ帶ブルモノアリ。猶、古生代ニハ、花崗岩、閃緑岩、輝緑岩、斑糲岩、等ノ、地層ニ突入セル所、多シ。

こ-せい-ぶつ (名) [古生物] 現代ノ地層ノ形成以前ニ、生殖セシ動物、今日ニテハ、全ク絶滅シテ、唯、遺骨、化石ニ因リテ知ルノミ。ますとどん、まんもすノ類ノ如シ。

ご-せい-ゆみ-ちから (名) [碁勢弓力] 碁ニハ別才アリ、弓ニハ別力アルコト。毛吹草(正保)「碁勢弓力」 野語述説(貞享)四「碁勢弓力「言(イフココロハ)、碁者、不レ係レ於二知之有無一、而別有二此知一也、弓、亦不レ關レ於二力之强弱一、而殊有二此力一也」

こ-せう (名) [湖沼] みづうみト、ぬまト。江淹賦「鏡帶二湖沼一、錦匝二池林一」「湖沼學」

こ-せう (名) [胡椒] 熱地ノ産ナル、蔓生ノ植物ノ實、舶來ス、形、圓ク、あをぎりノ實ヨリ小サク、生ナレバ、青シ、皆、蒸シ乾カシテ、來ル、色、赤黑クシテ、皺アリ、皮ノ中ニ、堅キ核アリ、内ニ、白キ仁(ニン)アリ、味、辛クシテ、香氣アリ、粉トシテ、物ノ味ヲ助ク。又、エノミゴセウ。倭名抄、十二、藥名類「胡椒丸、治二胸中冷氣一」 林逸節用集(文明)草木「胡椒(コセウ)」 艶狩劔本地(寶永、近松作)三「鼻息嗅ヲ胡椒ノ粉」

ご-せう (名) [護照] 支那ニテ、旅行免狀。旅券。支那時文「請二領護照一」

こせ-がさ (名) [雁瘡] 疥癬ノ一種。略シテ、こせ。倭訓栞「こせがさハ、風瘡也、一云、古瘡ト書リ、或ハ、小疥瘡ニヤ」 俚言集覽「こせ瘡「雁瘡トモ」 散木集、九、雜、上「田上ニ侍リシ比、カタヒナタニヰテ、手ノかさムシリテ、ヨメル「怪シサハ、ミナモトトコソ、思ヒツレ、瘡(ハヤヘ)ハこせノ、内ニゾアリケル」

こ-せがれ (名) [小悴] (せがれノ條ヲ見ヨ) (一)我ガ男ノ子ノ謙稱。賤息 豚兒 (二)人ヲ貶(オト)シメテ呼ブ語。豎子

こ-せき (名) [古昔] イニシヘ。ムカシ。杜甫詩「混混諸侯門、禮亦如二古昔一」

こ-せき (名) [古跡|故迹] フルキアト。昔シ、物アリテ、今、廢(スタ)レタル地。舊跡。漢書、溝洫志「常欲下求二案九河故迹一而穿上レ之」 狂言記、鈍根草「道スガラノ名所、古跡ガアラバ、語レ」

こ-せき (名) [戸籍] 戸(ヘ)ノ籍(フンダ)。ヘフンダ。戸籍(コシャク)。人別帳。戸數(カズ)、人口(ニンベツ)ヲ記シタル帳。今ハ、住地ノ市、區、町、村ノ役所、役場ノ戸籍役場ニ備ヘツケテオカル、戸籍簿ト云フ。魏志、崔琰傳「昨案二戸籍一、可レ得二三十萬衆一、故爲二大州一也」 孝徳紀、大化二年正月「初造二戸籍一」 戸令、民部省式、京職式「戸籍」 倭名抄、十三、六「戸籍、民戸之書」 字類抄「戸籍、コシャク」

こせ-こせ (副) [屑屑] (こせハ、小狹(コセ)ノ意カト云フ) (一)オホヤウナラヌ狀ニ云フ語。アクセク。カヤウニ振舞フヲ、こせつくト云フ。史記抄(文明)十四、「小節、

[illegible]ニハ、[illegible]
ニ、こせこせ、こせせ、こせつくナド云ヘリ、小狹ノ義ナルベ
[illegible](二)[illegible]所、住居ナ
[illegible]狹アル状ニ云フ語。こせ
こせシタ町並」

こせ・ざぶらひ(コセ・ザブライ) (名) 悴士 侍ノ、官アリテ、五位ノ衛府タルモノ。夏山雜談、五「悴士、近世ノ軍物語ナドニ、悴士(コセサブラヒ、又、カセザブライ)[illegible]ト云ノ名目アリ、苗字ヲ持チタルバカリニテ、輕キ武人ヲ云フヤウニ見エタリ、按ズルニ、こせ侍ハ、侍ノ、官アリテ、五位、衛府ナドヲ云フナリ、衣冠スル程ノモノナリト、雅亮裝束抄ニ見エタリ、サレバ、無位、無官ノ凡人ナドヲ、こせ侍トハ云フマジキニヤ」

ごせち (名) 五節 (一)五節の舞アルヨリ云フ、次次條ヲ見ヨ。(二)古ヘ朝廷ニテ、新嘗祭、大嘗祭ニ行ハレシ儀式ノ名、毎年十一月、中ノ丑ノ日ヨリ、辰ノ日ニ至リテ、アリキ、丑ノ日ニ、五節ノ舞姫ノ帳臺の試みアリ、寅ノ日ニ、殿上の淵醉アリ、其夜、舞姫ノ御前の試みアリ、卯ノ日ニ、五節ノ童女御覽アリ、(舞姫ニ附從ノ童女ナリ)辰ノ日ニ、豐明節會アリテ、五節ノ舞アリ。大嘗祭、及、豐明節會ヲ見ヨ」(二)五節の舞ノ略、次次條ヲ見ヨ。榮花物語、三、樣樣悦「今年ノ五節ノミコソハ、アリサマ、ケザヤカニ、御前ニモ御覽ジ、人モ思ヒタリ」「五節ノ帳臺の試み、五節ノ御前の試み」(三)五節の舞姫ヲ略シテ、亦、五節ト云ヘリ。枕草子、一、十三段「受領ノ、五せちナド出ス時」榮花物語、八、初花「ごせち、二十日、參ル」狹衣、三、[illegible]「[illegible]山殿ニモ、五節ノマネニ、童、下仕マデヲ、舞姫ニナサレケリ」

ごせちく (名) 五節供 五節供ノ條ヲ見ヨ。

ごせちのまひ(ゴセチ・ノ・マイ) (名) 五節舞 〔出典ヲ見ヨ〕少女ノ舞ノ名、昔ハ、常ニモ舞ハセラレシガ、後ニハ、專ラ、大嘗祭ノ舞トナレリ。其女ヲ、舞姫ト云フ、五人ニテ、三人ハ公卿ノ女、二人ハ國司ノ女、共ニ、未婚ノ者ヨリ採ラル、コレヲ選定スルヲ、五節定めト云フ、先ヅ、五節ノ丑ノ日ニ、主上、五節所、即チ、常寧殿ノ大師局ニ出御アリテ、五人ノ舞姫ヲ御覽ズルヲ、帳臺の試みト云ヒ、(大師トハ、舞ヲ敎フル女、其局、即チ、帳臺ナリ)寅ノ日ニ、舞姫ヲ、清涼殿ノ庇ニ召サレテ御覽ズルヲ、御前の試みト云フ、斯クテ、辰ノ日ノ豐明節會ニ、正式ノ五節の舞ヲ奏スルナリ。(五節ノ條ヲ見ヨ)近古以來、中絶セシガ、大正ノ御即位ニ、登極令ニ據レル大嘗祭大饗第一日行ハレテ、再興シタリ。年中行事秘抄(嘉曆)十一月五節舞姫ノ條ニ、本朝月令云トシテ、天武天皇、吉野ニテ琴ヲ彈キタマヒシニ、前山ノ下ニ、神女現ハレ、曲ニ應ジテ舞ヒ、袖ヲ飜ス、故謂之五節、云云、其歌日トシテ「少女ドモ、少女サビスモ、韓玉ヲ、袂ニ纏キテ、少女サビスモ」トアリ、〔出典〕ごせち 五節ノ名義ハ、左傳ニ見エタリ、云云、本朝月令ノ說ハ、心得ガタシ、其吉野ノ事ヲ云ヘルハ、古事記(雄略)ニ據リタルモノニシテ、其歌ハ、萬葉ノ長歌ヲ節略シテ、短歌トナセシモノ也、云云、西宮記ニ、舞有二五節一、別一通、合五通、等ト見ユ」左傳、昭公元年、先王之樂、所三以節二百事一也、故有二五節一、遲速本末、以相及、中聲以降、五降之後、不容彈矣、[illegible]先王之樂、[illegible]中聲[illegible]、聲成而[illegible]不容[illegible]作」古事記、下、雄略天皇 吉野ニテ琴ヲ彈キ、少女ニ舞ハシメ、好ク舞ヘルニ因リテ、御歌ヲ作ミタマフ 吳床ノ、神ノ御手持チ、彈ク琴ニ、舞スル女、常世ニモカモ、ト見エタリ。萬葉集、五、長歌「少女等ガ、少女サビスト、韓玉ヲ、袂ニ纏シ、白栲ノ、袖振リカハシ、云云」續紀、十五、天平十五年五月「宴ニ群臣於内裏、皇太子、親舞ニ五節、右大臣橘宿禰諸兄、奉レ詔、奏ニ太上天皇ニ日、云云、[illegible]聖乃天皇(天武)、云云、此舞乎始賜比、造賜比伎、云云」三代實錄、七、貞觀五年十一月十五日、天皇御ニ豐樂殿、宴ニ於群臣、奏ニ大歌五節舞ニ」古今集、十七、雜、上、五節ノ舞姫ヲ見テ「天津風、雲ノ通路、吹キトヂヨ、少女ノ姿、シバシ止メム」

こぜつ (名) 鼓舌 舌ヲ、鼓スコト。即チ、饒舌ルコト。莊子、盜跖篇「搖唇鼓舌、擅生是非」後漢書、袁紹傳、[illegible]口、小人鼓舌」

ごぜつ (名) 五絶 五言絶句ノ略、詩ト、絶句トノ條ヲ見ヨ。

こせ・つ・く (動) こせこせノ條ヲ見ヨ。

ごせっく (名) 五節供 〔節供ノ條ヲ見ヨ〕一年、五度ノ節句ヲ、總稱スル語。此儀式、明治六年一月、官ニテハ、廢セラレタレド、民間ニハ、尚、守ル所アリ、節供ノ名數ハ、元祿頃ノ俗、五節供、人日(正月七日)、上巳(三月三日)、端午(五月五日)、七夕(七月七日)、重陽(九月九日)」日本歲時記(貞享)五、九月「五節供ノ中、人日ヲ除テ、上巳、端午、七夕、重陽ハ、中華ニモ、賀スル所ノ俗節ナリ、其月日、皆、奇(奇數)ニシテ、陽數ニ當ルヲ取レリ、コレ、古人、陽ヲ尙ブノ意ナリト、草木子ニ見エタリ」

ごせっけ (名) 五攝家 攝家ノ條ヲ見ヨ。

こせっぱ (名) 小切羽 刀劍ノ金具ニテ、切羽ノ、小サキモノ。其大ナルヲ、大切羽ト云フ。宗五大雙紙 大せっぱ、小せっぱ、云云、かはノ文マデ、金ニテ作リタル太刀ヲハカレ候」

ごせっぽ・い (形) 〔後世多シノ急呼、後世(ごせ)、ぼい、愚痴(ばい)〕後世安樂多しノ意(骨、ぼい、愚痴、ばいノ)心安シ。サッパリシタリ。セイセイシタリ。(駿河、安房)洒然 俚言集覽、こせっぽい「駿河ニテ、清潔ヲ云フ」

こぜと (名) 古瀨戸 尾張ノ瀨戸燒ノ茶入、茶壺、類ノ、最モ古キモノ、古瀨戸トモ云フ、即チ、初代加藤四郎左衞門春慶ノ燒キシモノニテ、春慶燒ノ名モアリ、上釉ト、黑釉ト、茶褐色釉ト、マザリテ、斑文アリ、薄手ニ造リタルヲ、上品ナリトスト云フ。

こぜに (名) 小錢 高ノ、少ナキ錢。少額ノ錢。夕霧阿波鳴渡(正德、近松作)中「小錢タメテ、宿替、テ」財布ノ小錢」

こせぬ (句) こす(希望)ノ條ヲ見ヨ。

こせね (句) こす(希望)ノ條ヲ見ヨ。

ごぜのばう(ゴゼ・ノ・ボウ) (名) 瞽女坊 (ばう(坊)ノ條ヲ見ヨ) 瞽女ト云フニ同ジ。

こせは (名) 巨勢派 大和繪ノ最初ノモノ、清和天皇以後、五朝ニ歷仕シタル巨勢金岡ヲ祖トス、山水、人物、妙技ヲ以テ、世ニ稱セラル、金岡ノ子、相覽、昌泰二年、繪所預トセラレ、子孫、世業トス、佛畫、多シ。

ごぜぶし (名) 瞽女節 瞽女ノ、端歌ヲ唄フ節。

こせん (名) 古錢 前ニ鑄テ、發行シタル錢、舊錢。新ニ鑄テ發行セル、新錢ニ對ス。南史、宋、明帝紀「斷ニ新錢、專用ニ古錢ニ」續紀、廿二、天平寶字四年三月「新錢文、曰ニ萬年通寶ニ」同、三十五、寶龜十年八月、今聞、百姓徒[illegible]古錢[illegible]還棄無施、宜[illegible]新舊同價並行」

こせん (名) 古錢古泉 江戸時代ニ、寬永通寶錢ノ外ナル、古キ錢ノ稱、錢文ノ異ナルニ因リテ、かはり錢トモ云ヒキ、

王朝ノ錢、十二品ヲ初トシテ、支那ヨリ渡來ノ開元通寶錢、永樂通寶錢、其外、歷代ノ錢ドモ、マザリテ、通用シテ居タリ。考古學ノ一端トシテ、コレヲ弄ブコト、延寶、元祿ノ頃、越中、富山侯、前田氏(松平大藏大輔正甫)ニ始マリ、化蝶類苑ト云フ著書アリ、(けてふ(化蝶)ノ條ヲ併セ見ヨ)其後、古錢ヲ愛スル者、輩出シ、古錢家、古泉家ト云フ、但シ、度量ノ徵トシ、錢貨ヲ視テ、歷朝ノ盛衰ヲ考フル人ハ、學問ノ事トスレド、多クハ、世ニ多キ品ト、少ナキ品トヲ以テ、階級、價格ヲ稱シ、弄錢家ノ稱アリ。寬永錢ノ異品、外國西洋錢ニモ及べリ。 吹塵錄、十五、寬文十年六月廿八日、寬永新錢之內ヘ、古錢ヲ交ぜ、諸色不ㇾ可ㇾ賣ㇾ買之ニ 泉貨鑑、十九、說命「越中、富山ノ前田家ニ於テ、古錢ノ位階定メト云フ事アリ、是レハ、古錢ノ多少ヲ以テ、位ヲ定メ、上、中、下ノ、次第ヲワカツコトナリ」 武江年表、五、寶曆年間記事「好事ノ輩、古錢ヲ集ムルコト、行ハル」 世事見聞錄、五、諸町人の事「古錢ヲ好ム町人アリシガ、一錢ヲ、價五十兩、百兩、貳百兩、三百兩ナドアリ、半兩ト云ヘル錢等文ヲ、六百兩ニテ買ヒタルナド云ヘリ」

こ-せん (名) [姑洗] (一)十二律ノ一、其條ヲ見ヨ。 禮記、月令篇「季春之月、云云、律中ニ姑洗一」 (二)陰曆、三月ノ異稱。 白虎通「三月謂ニ之姑洗一、姑者故也、洗者鮮也、言、萬物皆去ㇾ故、就ニ其新一、莫ㇾ不ニ鮮明一也」

こ-せん (名) [弧線] 弓、鍋弦ノ如キ、半圓形ナル線。

こ-ぜん (名) [胡髯] アゴヒゲ。 史記、孝武紀「有ㇾ龍、垂ニ胡髯一下迎ニ黃帝一」 謠曲、江島「隆準ノ鼻、胡髯ノ腮」

ご-せん (名) [互選] 定レル人數ニテ、其中ノ人、互ニ、其中ノ人ヲ選擧スルコト。

〜ごぜん (名) [御前] (御前驅ノ下略、前驅ノ條ヲ見ヨ、ごぜトモ云フハ、婦人敬稱ノ御前ヲ、ごぜト云フニ同ジ) 御前驅ト云フニ同ジ。ミサキ。ミサキオヒ。略シテ、ごぜ。 宇津保物語、藏開、上「御隨身ドモ、ごぜんスベキ人、サラヌモ多カリ」 同、嵯峨院「二十一御供ニハ、御ぜん六人、御馬副六人、御ぜん二人ハ、四位、二人、五位、云云」 源、九、葵「十二院ヘ參リタマフ、御車差出デ、ごぜんナド參リアツマルホド、云云」 雅亮裝束抄、二「姬君ノぜんく(前驅)次ノ五位ナリ、云云、ごぜト云フ者ハ、侍ノツカサアル五位衞府ナドヲ云フナリ、衣冠スルホドノ者ナリ」 後松日記(松岡行義)十六「前驅ノ事ヲ、ごぜト云フ、コハ、上達部ノ召具セラルルナリ」

ご-ぜん (名) [御前] (御前ノ字ノ音讀) 御前。御前。御面前。天子ニ申シ、貴人ニ云フ。天子ニハ、「御前ノ試ミ」御前ノ內取」今モ、御前會議アリ。蔡邕ノ獨斷ニ「天子所在曰ニ御前一」トアリ、和漢、暗合ナリ。 西宮記、十一月、五節舞姬人人「頭、持ニ硯紙等一候ニ御前一定ㇾ之ニ(藏人頭ナリ)」 吾妻鏡、一、治承四年八月六日 召ニ邦道、昌長等於ニ御前一、有ニト筮一(源賴朝) 蜷川親元日記、文明十七年八月十五日「奉行衆出仕、飯尾大和入道、淸備中入道、云云、以上御前衆」足利義尙ニ御前公事一(德川)

ご-ぜん (名) [御前] (前條ノ語ノ、貴人、其人ヲ指シテ云フニ用キラレタルナリ) (一)身分アル男女ノ稱呼ノ下ニ添ヘテ用キル敬稱、某上、某君ト云フニ同ジ。 保元物語、三、義朝幼少の弟悉く誅せらるる事「西方極樂ニ往生シ、父御ぜんト、一ツ蓮ニ生レ合ヒ奉ラム」 平家物語、十二、六代事「小松ノ三位中將維盛卿ノ若君、六代御前トテ、云云、平家ノ嫡嫡ニテオハシケレバ」 吾妻鏡、三十三、延應元年十二月十三日「若君御前(將軍世子、賴嗣)御行始之間事、被ㇾ經ニ御沙汰一被ㇾ用ニ吉方一」 (二)女ナルニハ、下略シテ、ごぜ、又、御トノミモ云フ、(各條ヲ見ヨ)御前トシテ、上略シテ、玉藻の前、千手の前、和歌の前ナドモ云ヒ、スベテ濫用シテハ、白拍子ナドニモ用キラレタリ。 吾妻鏡、十七、正治三年五月十四日「坂額御前、雖ㇾ爲ニ女姓之身一、云云」 平家物語、一、妓王事、白拍子「名ヲ、ほとけトゾ申シケル、云云、或時、ほとけ御ぜん申シケルハ、云云」 淨瑠璃物語、第一段、まうし子「玉章ヲ取出シ、長者御ぜんノ左ノ袂ヘ、ウツサセタマヒ」 同、第三段、美人ぞろへ「主ハ淨瑠璃御ぜんトテ、藝能、ナサケ、ミメ、カタチ、當國、他國ニナラビナシ」「常盤御前」靜御前」巴御前」袈裟御前」 謠曲、殺生石「昔、鳥羽ノ院ノ上童ニ、玉藻の前ト申セシ人ノ執心ノ、石トナリタルナリ」 平家物語、十、千手前「アレハ、手越ノ長者ノ女ニテ候、云云、名ヲバ、千手の前ト申シ候」 (三)江戶時代ニ至リテハ、御前ハ、諸大名、高祿ノ旗本ナドノ臣下ヨリ、其主人ヲ敬稱スル語トナレリ。仙臺藩ニテハ、藩主ノ特稱ニハ、屋形樣ト云ヒ、コレニ對シテ、夫人ノ特稱ニハ、御前樣ト云ヒキ。今ニテモ、貴族ノ家ニテハ、主人ヲ稱シ、又、直チニ、主人ニ對シテ、代名詞ノ如クニモ用キラル。

ご-ぜん (名) [御前] (御前ノ字ノ音讀、御座所ノ前ヲ以テ稱ス、廣瀨祭祝詞「皇神ノ御前ニ、稱辭竟ヘ奉ラク」廣前、太前トモ云フ、神ヲ數フルニ、前ト云フ、其條ヲ見ヨ) 神ノ尊稱。 盛衰記、十八、文覺淸水狀天神金事「文覺、舟ノ舳頭ニ立踏テ、沖ノ方ヲ睨ヘテ、龍王ヤ候、龍王ヤ候、イカニ、海龍王ハナキカ、云云、舟中ノ者ドモ、云云、アサマシヤ、カカル折節ニハ、龍王御前トモ、カシヅキ申スベキ」 延喜式、神名帳、頭註、尾張、年魚市郡、熱田「源太夫御前、紀太夫御前」 二十二社註式、祇園社「西間、本御前、奇稻田媛、垂跡」 山城名勝志、十二、愛宕郡高野鄕總社「牛ノごぜん、按ニ緣起一云、牧御前、云云」

ご-ぜん (名) [御膳] 主上ノ御膳部。供御。 漢書、王莽傳「減ニ御膳一」 宋史、趙普傳「精ニ辦御膳一」 續古事談、一、王道后宮「供御ヲマヰラス、諸卿、御膳ヲオロシテ、各、コレヲ食フ」

ご-ぜん (名) [御膳] (膳トハ、臺盤ノ義、臺盤ヲ、御臺ト云ヒシガ、轉ジテ、御飯ノ意トナリシト、同意ナリ) 飯ヲ、丁寧ニ云フ語。御飯。 謠曲、阿漕「伊勢太神宮御降臨ヨリ以來、御膳調進ノ網ヲ引ク所ナリ」「御膳ヲ召シアガル」御膳米」御膳炊ノ下女」

ご-ぜん (名) [御膳] (御膳部ノ略ナラム、商フ食物ノ、上客ノ注文ニ應ズル意) 上品ナル意ヲ云フ語。御膳蕎麥、御膳餡、御膳汁粉ナド云フ。近年、最上等ト云フ意ニ、ごぜん上等ト云フコト、行ハル、此意ノ移レル語ナルベキカ。

ご-ぜん (名) [五善] 弓射ルニ、五ツノ善キ容儀。 論語、八佾篇「射不ㇾ主ㇾ皮」集解「射有ニ五善一焉、一日、和志、體和也、二日、和容、有ニ容儀一也、三日、主皮、能中ㇾ質也、四日和頌、合ニ雅頌一也、五日、興武、與ㇾ舞同也、云云、言ㇾ射者、不ニ但以ㇾ中ㇾ皮爲ㇾ善、亦兼取ニ和容一也」 太平記、十二、聖廟事、菅原道眞ノ、弓射ルニ「膚ヲ押シハダヌギ、打チアゲテ引キオロスヨリ、(一)固ラクシヲリテ固メタル體、(二)切テハナシタル、(三)矢色、弦音、(四)弓倒シ、(五)五善、何レモ、タクマシク、勢アリテ、矢所一寸モノカズ、五度ノ十ヲシタマヒケレバ」 雲州往來、企ニ射的一消息「五善之射、更無ㇾ所ㇾ遁、已有ニ獨步之氣一」

ご-ぜん (名) [午前] 〔午後ニ對ス〕 ヒルマヘ。(午、丼ニ、時ノ條ヲ見ヨ) 北齊書、薦放傳「自ㇾ午以前、圖壁飲啄、午後更不ㇾ下ㇾ樹」

ごぜん-うちどり (名) [御前內取] すまひ(相撲)ノ條ヲ見ヨ。

ごぜん-かう (名) [御前講] 高貴ノ方ノ御前ニテ、書物ノ講義ヲスルコト。

ごぜん-かご (名) [御膳籠] 料理屋ニテ、仕出ノ料理ヲ入レテ、注文客ノ家ニ送

ル具、竹ニテ、方形ニ編ミ造レル、大ナルハ、一尺、[illegible]ニ、一尺[illegible]、二寸[illegible] [illegible]

ごぜんくじ (名) 御前公事 [illegible] 公事ヲ聽キ、裁斷スルコト。兩足院本節用集 [illegible]

ごぜんくゎいぎ (名) 〔御前會議〕 [illegible] 陛下ノ御前ニテ、行ハセラルル會議。國家ノ大事ニ關シテ、元老、大臣、等、參集シ、審議ス。

ごせんげん (名) 〔五千言〕 〔史記、老莊申韓傳「老子乃著書上下篇、言道德之意五千餘言」言トハ、字ナリ〕 老子ノ道德經ノ異稱。[illegible]

ごぜんさらず (名) 〔御前不去〕 貴人ノ寵愛ノ侍臣、又ハ、最愛ノ妾ヲ稱スル語。又、御側去ラズ。[illegible]

こせんじ (名) 〔小宣旨〕 辨官、傳宣シ、史、之レヲ奉ジテ、在京諸司ニ下ス宣旨。[illegible]

こせんし (名) 〔濃染紙〕 濃ク染メタル紙。[illegible] クニ、云云、イタウカスメタルこせんしニ(歌)[illegible]

[illegible]

ごぜんじゃうとう (名) 〔御膳上等〕 御膳ノ第三語ノ條ヲ見ヨ。

ごぜんしるこ (名) 〔御膳汁粉〕 〔御膳ノ第三語ノ條ヲ見ヨ〕 汁粉ノ、漉餡ヲ用ヰルモノ。つぶし餡ノ、田舍汁粉ニ對ス。

ごぜんずし (名) 〔御膳鮨〕 〔御膳ノ第三語ノ條ヲ見ヨ〕 鮨ヲ、客ニ商フニツキテ云フ語。

こせんすゐ (名) 〔枯山水〕 こさんすゐニ同ジ。作庭記「池モナク、遣リ水モナキ所ニ、石ヲ立ツル、コレヲ、枯山水ト名ヅク、其枯山水ノヤウハ、片山ノ岸、或ヒハ、野筋ナドヲ作リ出デテ、ソレニ取リ附ケテ、石ヲ立ツルナリ」

ごぜんそう (名) 御前僧 禁中ノ御法事ヲ勤ムル僧、[illegible]

ごぜんそば (名) 〔御膳蕎麥〕 〔御膳ノ第三語ノ條ヲ見ヨ〕 蕎麥切ノ、上品ナルヲ云フ語。

ごぜんたき (名) 〔御膳炊〕 〔御膳ノ第二語ノ條ヲ見ヨ〕 飯炊ノ奴婢ヲ、品ヨク云フ語。ゴハンタキ。

ごぜんだな (名) 〔御膳棚〕 臺所ニ備ヘツケテ、御膳部ノ品品ヲ載セオク棚。

こせんぢゃう (名) 〔古戰場〕 古ヘノ戰場。[illegible]

ごぜんのこころみ (名) 御前試 [illegible] 五節ノ時、舞姫ヲ、清涼殿ニ召シテ、御覽ブルコト、(五節ノ舞ノ條ヲ見ヨ) [illegible]

ごぜんばし (名) 〔御膳箸〕 飯食フ箸ヲ、品ヨク云フ語。普通ノ杉箸ヲ云フナリ。(菜箸ナドニ對ス)

ごぜんばん (名) 〔御膳番〕 主君ノ御膳調菜ヲ勤ムル役。[illegible]

ごぜんひかう (名) 御前披講 歌御會ナドニ、主上ノ御前ニテ、其和歌ヲ披講スルコト。又、其職。

ごせんひら (名) 〔五泉平〕 精好織ノ一種、稍、劣リタルモノ、袴地トス、越後、中蒲原郡、五泉町ノ產ナリ。

ごぜんまい (名) 〔御膳米〕 〔御膳ノ第二語ノ條ヲ見ヨ〕 高貴ノ人ノ、飯ノ料ノ米、[illegible]

ごぜんむし (名) 御膳蒸 冷飯ヲ蒸ス具、薄キ銅板ナドニテ、圓ク深キ器ヲ造リ、底ニ、水ヲ滿ヘ、其上ニ、小穴ノ多キ簀ヲ置キ、其上ニ、飯ヲ入レ、蓋ヲシテ、火ニカクレバ、湯氣上リテ、蒸ス、ゴハンムシ。

ごぜめ (名) 〔後攻〕 うしろづめヲ見ヨ。

ごせや・く (動) 後世ノ條ヲ見ヨ。

こぜりあひ (名) 〔小競合〕 せりあひノ條ヲ見ヨ。

こそ (辭) 〔社乞〕 (此ハ其ナリ、ト指ス意ナリト云フ、社、乞、ノ字ヲ當ツルコトハ、第二項ヲ見ヨ) (一)他ニ對シテ、特ニ、其物、其事ヲ擇リワケテ、タシカニ云フ意ノ辭。ぞノ意ノ、更ニ強キモノ。古事記、下「仁德」[illegible] (二)請ト願フ意ヲ云フ辭。動詞ノ連用形ニ附キテ、言切ル、是レモ、其事ヲ、ト指ス意ナリ。[illegible]

こそ (接尾) 〔前條ノ語ノ(二)ノこひねがふノ意ノ、うやまふ意ニ移レルモノカ〕 (一)稱呼ノ下ニ添フル尊稱、何某樣ト云ハムガ如シ。[illegible]

タマハス」枕草子、六、五十一段「人間ニ寄リ來テ、我ガ君こそ、先ヅ、物聞エム」栄花物語、三、様々悦「御前ノカタソバヨリ、差出デサセタマヒテ、ヤ、大殿こそ、ト申サセタマヘバ」今昔物語、廿四、十五語「父こそト呼ベバ、忠行、何ゾ、ト云ヘバ、兒ノ曰ク」

(二)唯、人名ニ添ヘテ云フ語トナル。宇津保物語、忠社ニ「男ノ、イト、ヲカシゲナルヲ生ミタマヘリ、名ヲバ、ただこそト云フ」金葉集、八、雜、下「物ヘマカリケル道ニ、はした者ノ逢ヒタリケルヲ、問ハセ作リケレバ、上東門院ニ侍ル、すまひこそトナム申スト云ヒケルヲ聞キテ(歌)」宇治拾遺、一、第十條「花こそト云フ文字コソ、女童ナドノ名ニシツベケレ」

(三)尊稱ノこそハ、音ヲ轉ジテ、くそトナリ。(遠近、うちくちぶり。蹴ゆ、くゆ。此奴、くやつ)名詞ニモ用キ、人名ニ添ヘテモ用キ、單獨ニ、人名トシテモ用キラレタリ。宇津保物語、藤原君「面白キコト宣フ、[illegible]チウナ」同、同「此事ハ、京くそタチノシタマハムコト」源、五十二、手習「[illegible]イツラ、くそタチ、琴取リテマキレ」大和物語、中「小薬師久曾ト云ヒケル人、或人ヲヨバヒテ(歌)」古今集、十九、誹諧歌作者ニ、くそト云フアリ、抄ニ、[illegible]女、尿、ト、ユ。[illegible]こそ、竹取物語ニ、[illegible]ヲ、こそト云ヘリ、[illegible]こそト云フ童ノ名[illegible]ニ見エタリ、云云、藤原親道ノ妻、小忌古曾ノ名ハ、九代實録ニ見ユ、遊女記ニ見エタル[illegible]女ノ名ニ、孤蘇トアルモ、是レナルベシ、云云、源氏ノ箋ニ、こそトハ、官女ヲウヤマフテ云フ詞也ト云ヘリ、[illegible]語ニ、西こそト云ヘルハ、西殿ヲ云ヘリ、宇治拾遺ニ、地藏菩薩ヲ、地藏こそト云フガ如シ　同、くそ「源氏ノ抄ニ、[illegible]之ガ童名、内教坊ノ阿古屎ト見ユ」芭蕉句「あこくそノ、心ハ知ラズ、梅ノ花」

一こぞ (名) [去年] (去年、又、昨夜ヲ、こぞト云ヒ、昨日ヲ、きそ、又、きすト云フハ、來し年、來し日、來し夜(來方、來シち)ヲ下略シテ、連體形ヲ名詞ニ用キルナラム、し、す、そ、相、通ズ(こみじ、[illegible])、す、こぞ、[illegible])然シテ、こぞ、きそ、きす、共ニ、泛ク過去ヲ稱スル語ナルガ、去年ニモ、昨夜ニモ、用キラレシナルベシ、漢語ニ、前日ヲ、疇昔ト云フガ如キカ」(一)今年ノ前ノ年。去年。昨年。沖縄ニテ、くず。萬葉集、八、廿「去年ノ春、イコジテ植エシ、我ガ宿ノ、若木ノ梅ハ、花咲キニケリ」同、十八「[illegible]許序ノ秋、逢ヒ見シママニ、今日見レバ、面ヤ珍シ、都方人」(二)キスノヨ。ヨベ。昨夜　允恭紀、廿三年三月、木梨輕皇子、輕大郎皇女ト通ジタマヒテ、御長歌ノ下「泣キニ、我ガ泣ク妻、云云、去夜コソ、休ク肌觸レ」靈異記「私說曰、去夜、如、[illegible]古曾ニ」古事記、下(允恭)「許存コソハ、ヤスク波陀布禮」

ごそ (名) [鼯鼠] ムササビ。モミ。ノブスマ。

こゾウ (名) [小僧] (老僧、御僧ナド云ヘバ、小僧ト云ヒモスベケレド、小僧トテハ、湯桶讀ニテ、語ヲ成サズ、小、又ハ、子ニ、藏ヲツケテ、若藏、堅藏ナドノ例ノ語ニハアルマジキカ(沖縄ニテ丁稚ヲ、くずうト云フ)ソレガ、雛僧ニモ移リテ、小僧ト書クヤウニナリシナルベシ、試ミニ云フノミ」(一)寺院ノ、幼キ徒弟。雛僧　狂言記、成上物「小僧ガ、後ニハ、長老ニナリ上リマス」(二)小童、丁稚ナドノ稱。己ガ子女ヲモ稱ス。コゾッコ。(三)少壯者ヲ賤シメテ呼ブ語。コセガレ。豎子

ごそう (名) [護送] マモリ、オクルコト。監視シテ、送リトドクルコト。太平記、三十九、高麗人來朝事「凡[illegible]人物、往往依理護送ニ犯人ヲ護送ス」

ごソウ (名) [御僧] そう(僧)ノ敬稱。いろは字[illegible]、ごそうカナ」

こそく (名) [姑息] (姑く息むナリ、姑ハ、婦女ナリ、息ハ、小兒ナリト云フ說ハ、アラジ」假初ニ、事ヲスルコト。マニアハセ。苟且。禮記、檀弓、上篇「君子之愛レ人也以レ德、細人之愛レ人也以ニ姑息ニ」註「姑、且也、息、休也」揚子法言[illegible]「因循姑息」

一こそ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [刮] (きさぐ、きそぐノ轉、其條ヲ見ヨ、伐る、こる。きるもの、こるも) キサグ。キソグ。カキケヅル。殺ギ、ヘヅル。名義抄「刮、コソグ」宇治拾遺、三、十六條「小桶ニ入レテ、夜ハ收ム、明クレバ、米食ハセヨ、[illegible]ト云フニこそげテ、食ハセナトスレバ、[illegible]ナリ)杜甫詩、[illegible]ノ皮ヲこそげテ[illegible]オトス」

こぞく (名) [古俗故俗] 古クヨリノ風俗。フルキ、ナラハシ。漢書、[illegible]「其故俗、爲ニ[illegible]」「舊習故俗」

こぞくさ (名) [去年草] (前年冬、種ヲ下シテ、今年夏ニ實ル故ノ名ナルベシ) 麥ノ異名。俵詞葉、こぞ「こぞ草ハ、麥ヲ云フト云ヘリ「モミヂ葉ノ、散ルヤ散ラヌニ、種蒔キテ、卯月皐月ニ、刈ルハこぞくさ」(此歌、謎中抄ニアリト云フ)

こそぐッたい (形) [羞痒] (こそぐり甚しノ急呼轉) こそはゆしノ條ヲ見ヨ。クスグッタイ。コソバイ。

一こそ・ぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [擽擾] (こそハ、刮ぐノ語根(こそハユシ)くるハ、繰る(回轉ラス)カ、集韻「擽、音略、擊也」同「擽、音歷、擽也」同「擾、音歷、擊也、與擽同」) 指頭ニテ、腋下ナドヲ摩リメグラシテ、痒ク震フガ如キ感ヲ起サシム。クスグル。天治字鏡、十二「[illegible]已曾久留」名義抄「[illegible]、コソグル」[illegible]「人ハ含ニ心不ニ定也」狂言記、子盗人「アノ餘念ノナイ顔ハ、チトこそぐりマセウ」

こそ・げる (動) [刮] こそぐ(刮)ノ口語。

こぞこぞ (名) [擽] コソグルコト。クスグルコト。婦人語ナリ、小兒語ニハ、音ヲ轉ジテ、こちょこちょト云フ。「こそこそスル」

こそこそ (副) [狐鼠狐鼠] [擬聲語ナリ] (一)靜カニ、音ノスルニ云フ語。今昔物語、廿七、第十八語「格子ノ迫ノ、塵バカリアリケルヨリ、此板、こそこそトシテ入リヌ」宇治拾遺、六、第五條「蛇ノ行クママニ、引カレテ行ケバ、谷ヨリ、峯ノ上ザマニ、こそこそトノボリヌ」同、十、第十條「主人、手ヲ、こそこそトスリテ」(二)隱ビテ。ヒソヒソ。コッソリ。[illegible]抄、七「こそこそト失セヌ」[illegible]物語、上「こそこそトシテ、出デタマフ」宇治拾遺、九、第四條「法師、こそこそトシテ、入リ來ルママニ」

こぞこぞ (副) [擬聲語、前條ノこそこそヨリハ高ク、がさがさヨリハ低シ] 造紙ナドノ、摩レ合フ音ノスルニ云フ語。丹波與作(寶永、近松作)中「[illegible]色デモワルイカ、アンマリこぞこぞゴソツイテ、馬ハ追ハイデ、[illegible]ヤラゾヤ」

こそこそさんり (名) [密語三里] こそこそ話モ、忽チ、三里ノ外ニ聞ユト云フコト。ささやき千里ノ條ヲ併セ見ヨ。

こそこそどろばう (名) [竊盜] ミソカヌスビト。セコヌスビト。コヌスビト。

こそこそばなし (名) [密語] ヒソヒソバナシ。隱ビテ、竊カニ、話シ合フコト。私語。

こそだて (名) [子育] 子ヲ、育ツルコト。能ク、小兒ヲ生育セシムルコト。浮世風呂(文化、三編)二編、上「[illegible]モハ、[illegible]ニ、子育てガ

ナクテ、コマリマスヨ」「子育觀音」

おゾッお (名) 小僧子 小僧ト云フニ同ジ。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

おぞって (副) 擧 おぞりての急呼、おぞろノ條ヲモ見ヨ。

おそで (名) 小袖 (衣、袙、ナドノ、大袖ニ對スル語) (一)古ヘ、男女ノ下着ノ服、袖口狹ク、袖下ヲ丸ク縫ヒ作ル、無地ノ帛ヲ用キル、中世ハ、白小袖ハ、貴人ノ用トス。金葉集、九、雜、上「行蓮上人ガ許ヘ、小袖遣ハストテ詠メル「アハレマムト、思フ心ハ、廣ケレド、ハグクム袖ノ、狹クモアルカナ」 [illegible]記(天文)「白キ小袖ノ事、平人ハ不レ可ニ着用一候、公家ハ御用候」 故實拾要(元文)十四「小袖、御下着也、袖口、大袖ヨリ小サシ」(二)後世ハ、染色、縞織ニ關セズ、スベテ、絹布ノ綿入レノ稱、上衣ト云フ[illegible] (もめん綿入レヲ、ぬのおト云フニ對ス)

おそでだんぜ (名) 小袖簞笥 たんぜノ條ヲ見ヨ。

おそでぬぎ (名) 小袖脫 江戸時代中ニ、[illegible] 脫ギテ、能役者ドモニ被クルコト。御供[illegible] 何トナク可レ被レ遣候也」

おそでまく (名) 小袖幕 はなみおそでノ條ヲ見ヨ。

おそば・い (形) 痒 次條ヲ見ヨ。

おそはゆ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 痒 (おそハ、おそぐるノ語根、はゆしハ、堪ヘラレヌ意、はゆし(痒)ノ條ヲ見ヨ) 腋ノ下、足ノ裏ナド、コソグラレテ、堪ヘズ感ジヲ起ス、コソグッタイ。クスグッタイ。京都ニ、コソバイ。倭訓栞、おそばし「痒キノ、輕キヲ云ヘリ、モト、おそはゆしニテ、おそくりヲ身ニ受クル味ヲ云フ、云云、[illegible]ニ、思ヒ[illegible]遊遊ハ足心酸澁ト見エタリ」 著聞集、十六、興言利口、[illegible] [illegible]ヘスモノナリケルニヤ、[illegible]エテ、身ヲ振フ程ニ [illegible] おそばいヲ、おそ[illegible] [illegible]ぐ、たい [illegible] おそぐ、たい」 [illegible] クジトスイ、[illegible] 紅ノ[illegible]、少シ[illegible]テモ、[illegible]ノユフグヲ、おそぐ、たいノ木ト呼ベリ」

おそべやき (名) 古曾部燒 攝津國、三島郡、高槻町ノ古曾部ノ地ヨリ製出スル陶器。

こそん (名) 孤村 里離レノ村。陸游詩「[illegible]孤村[illegible]」 太平記、五、大塔宮[illegible]野落事「雨ヲ含メル孤村ノ樹」

こそん (名) [illegible] 異名。[illegible]

ごぞんぢ (名) 御存知 (ごぞんずノ條ヲ見ヨ) 知ルト云フコトヲ、丁寧ニ云フ語。徒然草、六十七段「己レ等ヨリハ、中中、御存ぢナドモコソサブラハメ」「ごぞんぢノ人」

おぞめ (名) 濃染 濃ク、染メナシタルコト [illegible]集、七、紅ノ、濃染ノ衣、下ニ着テ、上ニ取リ着バ、言ハサムカモ」 夫木抄、三十三、紫ノ、おぞめノ[illegible]ノ、カタムスビ、解ケテ寐レ夜ノ、カギリ[illegible]セヨ」 永久四年百首、元服、元結ノ、おぞめノ[illegible]ヲ、クリカヘシ、衣ノ色ニ、引キヤウツサム」

おそめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) おそさ[illegible]ト、音ス。 今昔物語、廿七、第三十八語 長キ香ノ[illegible]、おそめき行クニ」

おぞりて (副) 擧 悉ク。殘ラズ。急呼シテ、おぞって。[illegible]代紀、上「[illegible] 悉不平(ミャクサ)」伊勢物語、第九段「[illegible]おぞりて[illegible]キニケリ」

おぞりば (名) 小反刃 長刀ノ、小サキモノカト云フ。[illegible]記、六、判官[illegible]ハ、忍ビ出デあるき事[illegible]刀、差出セバ、フト切リ、[illegible]刀、おぞりはノ問ニ、四ツ、切落シタマヘリ」 [illegible]館草子、[illegible]「二尺八寸ノ打刀ヲ、十文字ニサスママニ、[illegible]刀、首搔刀、なぎなた、おぞりはト取リチガヘ、[illegible]ノ[illegible]ニシメツケテ」 [illegible]、八、八[illegible]「[illegible]用[illegible]長器財「小弓、小矢、小刀、小反刃」 倭訓栞、おぞりは「小反刃ノ義、高館草紙ニ、長刀、小反刃ト並ベ云ヘリ、元弘、建武ノコロホヒ、小長刀ト云フ、是レナルベシ」

おぞ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 擧 (搔進(カキソソ)るノ約ナラムカ、かきまず、おきまぜテ。かきなぐる、かきはべる」(一)悉ク、ワタル。殘ラズ。 崇峻卽位前紀「合レ軍(コゾリテイクサ)、悉被(クロギヌ)[illegible]皇[illegible]明紀、六年五月「[illegible]、故持、兵、ヰ[illegible]道[illegible]花物語、十五、[illegible]おぞり[illegible]ト云フコトノ、[illegible]ノヤウナリ」 名義抄、皿部「[illegible]、コゾル」 (二)皆、連レ立ツ。殘ラズ、ソロフ。[illegible]神代紀[illegible]、[illegible]宇治拾遺、十、第六條「ヨロヅノ人人、おぞり集リテ、迎ヘニノノシリ來テ」

こたい (名) 固體 固形體(コケイタイ)ノ條ヲ見ヨ。

こたい (名) 個體 〔英語、Individual.ノ譯語〕 個個ニ分レテ、存在スルモノ。單一存在ノ物體。

こたい (名) 故態 モトノアリサマ。舊態。 白氏文集、三十四 狂夫與[illegible]、我世相忘、故態[illegible]此[illegible]亦[illegible]、[illegible]詩 [illegible]故態[illegible]」

こだい (名) 古代 (一)フルキ時代。オホムカシ。古昔。(二)[昔メキタルコト。古風。[illegible]、六、[illegible]化[illegible]、[illegible]ノ、重リカニ、古代ナル、おぼキ、推シ出デタリ」 [illegible]花物語、四、見はてぬ夢「七日ノ程モ過ギヌ、イカデ、疾ク御覽ゼサセバヤ、昔ノ宮達ハ、五七ニテコソ、御對面ハアリケレナド、祖父オトド、イト古代ニ、思シノドメタマヘレド」同、廿七、衣の珠「カシコマリテ聞ユル氣色、イトアハレニこだいナリ」

こだい (名) 誇大 (こだいナルベシ、こたい(誇示)ノ語原ヲ見ヨ) 實際ヨリモ、大キク言ヒ誇ルコト。 [illegible]、[illegible]二石[illegible]、[illegible]名、更[illegible]忠告之實二 「誇大ノ言」

ごたい (名) 五體 (一)頭ト、兩手ト、兩足ト。[illegible]、[illegible]肘、[illegible]膝、頭頂、云云、云ニ五體一矣」(二)[總身。カラダ。全身。長崎ニテハ、今モ、五體(ゴテイ)ト云フ。 枕草子、六、五十一段「[illegible]ゴメニ寄リタマヘト云フヲ、ごたいゴメニ、トナム言ヒツル、ト云ヒテ、又、笑フ」 保元物語、一、[illegible]院[illegible]古[illegible]ノ山伏、八十[illegible]人、般若[illegible]ヲ[illegible]シテ、[illegible]、良久シ、[illegible]モ、[illegible]ヲ地ニ投ケ、肝膽ヲ碎キケレバ、諸人、目ヲ[illegible]、マシテ見ル[illegible]ニ 謠曲、卒都婆小町、地水火風空、五[illegible]、五[illegible]ハ、人ノ體、何シニ、隔テアルベキゾ」

ごだい (名) 五大 「五大種ト云フガ、成語ナリ、其體相、廣大ニシテ、宇宙法界ニ遍滿スルガ故ニ、大ト稱スト云フ」 佛敎ノ語、地、水、火、風、ヲ、四大、又、四大種ト云ヒ、空ヲ加ヘテ、五大トス 地ハ堅性、水ハ濕性、火ハ煖性、風ハ動性、空ハ無礙不障性ナリ、天竺ノ說ニテハ、此五大、宇宙ニ周遍シテ、一切萬物ノ生ズル原素ナリトス。(支那ニテ云フ、水火木金土ノ如シ)又、五輪ト云フ、其條ヲ見ヨ。 大藏法數 此五種性、遍(アマネク)ニ一切處一、故名曰大、[illegible]、故[illegible]五唯[illegible]生五大[illegible]

ごだい (名) 五代 支那ノ、唐朝ノ次ナル、後梁、後唐、後晉、後漢、後周、ノ五朝ノ稱。其間、五十三年ニシテ、十三主ノ更迭アリ、 宋史、太祖紀「[illegible]日、五代諸侯

證歴」

ごだい（名）［五内］ 五臟ニ同ジ。腹ノ内。三國志、蜀志、楊儀傳「歎咤之音、發〻於五内〻」石崇詩「哀傷〻五内〻」

ごたいぎ（名）［御大儀］ 人ノ骨折ヲ勞フニ云フ語。御苦勞。謠曲、葵上「唯今ノ御出テ、御大儀ニテ候」

こだいこ（名）［小太鼓］〔大太鼓ニ對ス〕 太鼓ノ條ヲ見ヨ。新田由良家傳記 成繁公御代ヨリ、使番ニ、小太鼓ヲ持タセ」

こだい-サラサ（名）［古代更紗］ 更紗ノ、古渡ナルモノ。希有ノ品トナリテ、珍重セラル。

こたい-し（名）［胡頽子］ 灌木ノ名。グミ。ナハシログミ。

ごだい-しう（名）［五大洲］ 亞細亞、歐羅巴、阿非利加、北亞米利加、南亞米利加、ノ五ツノ大洲。

ごたいそう（名）［御大層］〔たいそうヲ嘲リテ、御ヲ附ス〕 オホゲサ。ギヤウサン。俚言集覽、御大造「俗語、物事、大がさニ云フコト」「ごたいそうナ事ヲ云フ」

ごだい-そん（名）［五大尊］ ごだいみやうわう（五大明王）ニ同ジ。榮花物語、廿九、玉飾「從北殿ノ西ノ廂ニテ、五大尊造リタテマヰラセ給フ」

ごだい-だう（名）［五大堂］ 五大尊ヲ安置、供養スル堂。榮花物語、廿九、玉飾「殿ノ御前ハ、五大堂ノ辰巳ノ隅ノ方ニ、御簾カケテオハシマス」

ごたい-づけ（名）［五體附］〔周髮ヲ一ツニ寄スルヲ、頭、兩手、兩足ノ五體ヲ、寄セつくる意ニ言ヒナセルニテモアルカ、撫附髮ヲ、四方髮ト云フニ緣アル語ナリ、武士、農商ノ、前頂ノ髮ヲ剃落ス夜郎あたまニ對シテ云フナリ〕 頭髮ノ結ヒヤウノ名、髮ヲ、四邊ヨリ搔キ上ゲテ、總髮ニ結ヒ、髻ヲ、長ク高ク突出セシム、往時ノ公家衆、皆、此風ナリキ。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）一、ふはとのゐ「初メ鍛冶屋ナル者、鞠ヲ好ミ、殿上人ノ風ヲ學ビ、五體づけノ頭ヲシテ、人人、ソノあたまノ逸興ナルヲ見ツケ、不審シアヘリ（節文）トアリ。天和笑委集、八、上野花見「五たいづけ、丹前元結、四角髻」 原武太夫雜記（享保末）「合髮、流行ル、髻ノ下ニテ、髮ヲ合ハセ、太元結ニ、ごたいづけ、巾着髮トテ、髻ノ下ニ髮ヲ寄セ」（是レハ、夜郎あたまノ五體附ナリ）

ごたい-のみうら（名）［御體御卜］ 神祇官ニテ、主上ノ大御體ノ、御愼ミアルベキ日ヲ、龜トニテ、トヒ奉ルコト。六月ノ十日ニ、七月ヨリ十二月マデノ日ヲ、十二月ノ十日ニ、明年ノ一月ヨリ六月マデノ日ヲトヒマヰラス、中臣、卜部、等ヲ率ヰテ行フナリ、トヒ終ヘテ、其事ヲ奏スルヲ、御體御卜の奏ト云フ。儀式、五、奏御卜儀「御體御卜」「御體、詞曰、於保美麻ニ」西宮記、六、六月「御體御卜事」 名目抄、御體御卜、ゴタイノミウラ」 年中行事祕抄、十二月、御體御卜奏事」 公事根源、下、御體御卜「神祇官ノ官人、一日ヨリ、本官ニ籠リテ、コレヲトフ、上卿、今日參リテ、內侍ニ就キテ奏聞ス、是レハ、主上ノ玉體ニ、御ツツシミアラムコトヲトヒ奏スル義ナリ、白鳳四年ニ、始メテ行ハル」

ごたいふ（名）［五大夫］ （一）支那、秦ノ爵名。史記、秦紀「武王二年、初置丞相、爵、五大夫第九」（二）秦ノ始皇ノ故事（出典ノ）ニ因リテ、後ニ、專ラ、松ノ異名トス。松ニ、大夫トノミ云フコトモ、是レナリ。史記、始皇紀「始皇東行郡縣、云云、乃遂上泰山、立石封祠祀、下、風雨暴至、休於樹下、因封其樹爲五大夫」 藝文類聚、木部「漢官儀曰、泰始皇上封泰山、逢疾風暴雨、賴得松樹、因復其下、封爲五大夫」 五大夫ハ、爵名ナルヲ、後ニ誤リテ、五株ノ松ヲ、大夫ニ封ジタルコトトセリ。南朝、梁ノ庾信、終南山詩「水奠三川石、山封五株松」 唐ノ陸宣公詩「不羨五株封」（故事熟語大辭典）

こだいふがのこ（名）［小太夫鹿子］ 鹿子染ノ一種、匹田鹿子ニ似タルモノナリト云フ。近代世事談、一、衣服門、小太夫鹿子「貞享、元祿ノ初、伊藤小太夫ト云フカブキ者、江戸ニテ、コノかのこぞめヲ着タリ、江戸中ニ、此染鹿子流行ル、又、京、大坂ニハヤリテ、江戸がのこト云フ」

こだい-まうさうきやう（名）［誇大妄想狂］ 瘋癲ノ一種、誇大ナル妄想ヲ起スモノ。

ごだい-みやうわう（名）［五大明王］ 天竺ノ神ナル不動（中）、降三世（東）、大威德（西）、軍荼利夜叉（南）、金剛夜叉（北）、ノ五ツノ明王ノ稱。（各條ヲ見ヨ）又、五大尊トモ云フ。各、形態ハ異ナレド、何レモ、忿怒ノ相ヲ表ハス。眞言宗ニテ立ツル神ニテ、五壇ヲ設ケテ、各明王ヲ中央、四方ニ勸請シテ祈禱スルヲ、五大尊ノ修法、五壇ノ御修法、又、五壇ノ法ト云フ。盛衰記、三十二、惟喬惟仁位爭事「五大明王ノ隨一、又、東西守護ノ忿怒也」 榮花物語、八、初花「程近ウナラセ給フママニ、御イノリドモ、數ヲツクシタリ、五大尊ノ御修法ヲ行ハセタマフ」

こだい-むらさき（名）［古代紫］ 紫ノ染色ノ、黑ミ深キモノ。（江戸紫ニ對ス、むらさきノ條ヲ見ヨ）

こだい-もやう（名）［古代模様］ 染物、織物ナドノ模樣ノ、古風ナルモノ。

ごたいらう（名）［五大老］ 豐臣秀吉ノ任ジタル、五人ノ大老、輔佐ノ重職ナリキ。卽チ、德川家康、前田利家、毛利輝元、上杉景勝、浮田秀家ナ。〇其次ナルヲ、中老ト云フ、生駒親正、中村一氏、堀尾吉晴ナリ、軍務ニ參與セリ。又、其次ナルヲ、五奉行ト云フ、淺野長政、石田三成、增田長盛、長束正家、前田玄以ナリ、法令、訴訟、財務、等ヲ掌リキ。

ごだいりき（名）［五大力］〔佛家ニテ、五大力菩薩ヲ、道祖神ノ本地トスル故ニ、遠キニ送ル書信ノ、祕密ヲ保チ、滯リナク達ストノ迷信ニ因ルト云フ〕（一）婦人ノ文ノ封目ニ、五大力ト記ス、恙ナク屆クト云フ呪ナリ。春花五大力（享和）「スベテ、女ノ、人手ニ渡ス文ノ封目ニ、開カスマイトノコメル五大力」 鹽尻、六十一「世俗ノ文書封ニ、五大力菩薩ト書キテ、遠方ニツカハス事、云云、釋家、五大力菩薩ヲ以テ、道祖神ニ習合スル事アリ、南都、般若寺ヨリ出ヅル五大力井符章ニ習ヒ起リテ、書狀ノ封ニ書クト、云云」 寛政七年並木五瓶ノ作ノ、五大力戀緘ト云フ院本アリ。（二）船ノ名、荷足船ノ、大ナルモノ。類聚名物考、船車、一、平田舟「大平田ノ、甚大ナルヲ、五大力ト云ヘリ、貨積舟ニテ、重キヲ載スレバ、五大力菩薩ノ名ヲ取レリ」

ごだいりき-ぼさつ（名）［五大力菩薩］ 國ヲ守護スル、五人ノ菩薩。仁王般若波羅蜜經、卷下ノ受持品ニ「若シ、將來、三寶ヲ護持スル國王アラバ、金剛吼菩薩ハ、手ニ千寶相輪ヲ、龍王吼菩薩ハ金輪燈ヲ、無畏十力吼菩薩ハ金剛杵ヲ、雷電吼菩薩ハ千寶羅網ヲ、無量力吼菩薩ハ五千劍輪ヲ持チテ、往キテ、其國ヲ護ラシムヘシ」（節譯文）トアリ。榮花物語、十八、玉臺「アル所ヲ見レバ、五大力菩薩ヲカケ奉リテ、仁王經ヲ讀ジ奉ル」 江家次第、八、秋季仁王會「御座中、立三佛臺、懸三五大力菩薩像二」

こ-たう（名）［孤島］ ハナレジマ。王維詩「猿園接桑外、主人孤島中」 盛衰記、廿八、經正竹生

[illegible]
島ノ端トアヤマタル」

ごたう　○　胡桃　クルミ。

ごたう（名）古刀　刀劍鑑定家ノ語、慶長以前ノ作ヲ稱ス。其以後ナルヲ、新刀ト云ヒ、又、文化、文政、以後ノモノヲ、新新刀ト云フ。出羽ノ產ノ刀工、水心子正秀ノ作ヨリ後ノモノナリ。水心子、古法ノ鍛法ヲ[illegible]用シ、各流ノ長所ヲ集メテ、器用ノ作ナレド、外見ノ美ノミニテ、元暦時代ノ技術、皆無トナレリト云フ。[illegible]

ごだう（名）古道（一）フルミチ。舊道。（新道ニ對ス）杜甫詩、柴門古道傍」（二）イニシヘノ道。[illegible]

ごだう（名）五道　又、五趣。佛經ニ云フ地獄道、餓鬼道、畜生道、人間道、天上道ノ總稱。（コレニ、修羅道ヲ加ヘテ、六道ト云フ）冥界中ニアリテ、常ニ、五道ノ衆生ヲ照鑑スル神ヲ、五道の冥官ト云フ。[illegible]

ごだう（名）悟道　佛道ノ眞理ヲ、悟リ知ルコト。王維詩、悟道正三迷津二」狂言記、鈍根草、愚鈍ナ人デアッタ、然レドモ、人間ノ習ヒニテ、ツ[illegible]

ごだうぐ（名）小道具（一）小サキ什器。（二）古道具屋ノ語、刀劍ノ目貫、縁、頭、鍔、小柄、笄、ナドヲ云フ。（江戸）（三）

芝居ノ語、[illegible]道具方ノ條ヲ見ヨ。

ごたうくぢら（名）五島鯨（肥前國、五島ノ海ニ多キニ因リテ、名アリ）鯨ノ一種、海豚ニ似テ、色、黑ク、長サ一丈餘、口吻、尖レリ、數個ノ齒アリ、鰭ナシ、音便ニ、ごんだうくぢらトモ云フ。

ごたうけがく（名）御當家學　德川時代、專ラ、德川家ニ係ル系譜、史事、制度、故實、等ヲ考究スル學問ノ稱。

ごたうするめ（名）五島鯣　肥前ノ五島ヨリ產ズル鯣、尺八烏賊ニテ製ス、するめノ最上品トス。

ごだうのみやうくゎん（名）五道冥官　ごだう（五道）ノ條ヲ見ヨ。

こたか（名）小鷹（一）鷹ノ屬ノ、はいたか、このり、つみナドノ、小サキモノノ總稱　[illegible]（二）次次條ノ語ノ略　鷹狩ノ條ヲ見ヨ。徒然草、百七十四段「小鷹ニヨキ犬、大鷹ニツカヒヌレバ、小鷹ニワロクナルト云フ」

こだか（名）小高　小高檀紙ノ略、檀紙ノ條ヲ見ヨ。

こたかがり（名）小鷹狩　「大鷹狩ニ對ス」たかがりノ條ヲ見ヨ。源、五十二、手習「何トナク[illegible]、八月十日アマリノホドニ、小鷹狩ノツイデニ、オハシタリ」

こだか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）木高　木高シ、木深シ、ナド、同趣ノ語ナリ」[illegible]ドモ、許太加久テ、里ハアレドモ、ホトトギス、イマダ[illegible]

かく、ナリニケルカナ」源、十五、蓬生「松ノこだかく成リニケル、歲月ノ程モアハレニ

こだか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）小高　少シ、高シ。[illegible]コレニ、小高キ[illegible]コソ、昔ノ姨捨ノ、其ノナキ跡ニテ候ヘトヨ」「小高き[illegible]」

こだかだんし（名）小高檀紙　檀紙ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

こだから（名）子寶　子ヲ、大切ニ鍾愛スルニ云フ語。萬葉集、五（八）「銀モ、金モ玉モ、何セムニ、マサレル寶、子ニシカメヤモ」[illegible]何事モ、心ニアラヌ、身ナレドモ、子ノたからコソ、マヅハ欲シケレ」

こだか・り・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、良變）小高　小高クアリ。古事記、下（雄略）八三十長歌「ヤマトノ、コノタケチニ、古陀加流、市ノツカサ」

ごたく（名）御託　「御託宣ノ略、死ぬコトヲ、お陀佛ナド云フ例」鄙語ニ、我レハ顏ニ物ヲ言ヒ、又ハ、身分不相應ナル口ヲ利クコト。[illegible]ニ比シタル戯言也、ごたくトモ云フ[illegible]たくをいふ[illegible]ニテ、くどくど云フコト　浮世床（文化、三點）二編、下「三界萬靈ノ御託ヲ聽イテ、無緣法界ノ柳下シヲ悟リ、「ごたくヲナラベル　ごたくヲツク」

ごたくさ（副）紛擾〔ごたくたノ轉（段、きだ。ゆさぶる、ゆたぶる）めたくたノ條ヲ見ヨ」物事ノ、入リクミ、混雜スルニ云フ語　ゴタゴタ、[illegible]客ガ多クテ、ごたくさスル」名詞ニモ用キル。「仲間ノ内ニ、ごたくさガ起ル」

こだくさん（名）子澤山　子女ノ、多クサンアルコト。多子「律儀者ノこだくさん」

ごたくせん（名）御託宣（一）たくせん（託宣）ノ敬語、其條ヲ見ヨ。（二）略シテ、ごたく（御託）。其條ヲ見ヨ。

こだくみ（名）木工木匠〔こノたくみ（工匠）ノ條ヲ見ヨ〕コノミチノタクミ。木ヲ、切リ、削リ、ナドシテ、家屋、等ヲ作ル工人ノ稱。大工。雄略紀、十二年十月「命ニ木工闘鶏御田（始親ニ櫻閣ニ）」同、十三年九月「木工[illegible]」[illegible]

こだくみのつかさ（名）木工寮　もくれうニ同ジ。倭名抄、五　木工寮、古多久美乃加佐」

ごたごた（副）葎駁〔鎌倉時代ニ、來朝セシ宋ノ禪僧、兀庵ノ名ニ起ルト云フ。又、めたくたノ條ヲ見ヨ、ごちゃごちゃハ音轉ナリ、もみくた、もみくちゃ〕（一）物事ノ、入リ雜リタル狀ニ云フ語。ゴチャゴチャ。ゴタクサ　本朝三國志、二（享保、近松作）四、[illegible]ケテ亂レ[illegible]、小枕、笄、ごたごたニ、櫛ノ[illegible]亂ス如クナリ」（二）名詞ニモ用キテ、モツルルコト。イサカヒ。アラソヒ。モンチャク。ゴテゴテ。紛糾

こだし（名）小出　少シヅツ出シテ、用キルコト。「[illegible]ハ、こだしニセヨ」こだしノ錢」

こだち（名）子達　子供ノ（一）ニ同ジ。（京都）

こだち（名）木立　叢樹　樹ノ、群リテ生ヒ立チタルモノ。萬葉集、五　廿「島ノ木太知モ、神サビニケリ」同、十七　四十「[illegible]山、今日見レバ、許太知繁シモ、幾世神サビ」源、五、若紫「庭ノ木立、池ノ形」

こだち（名）小太刀　太刀ノ、小形ナルモノ、製、太刀ニ同ジ。輕ケレバ、老年ノ公卿、童形ナドノ料トセリ。平家物語、十一、[illegible]「[illegible]十郎、小太刀、大長刀ニ、叶ハジトヤ思ヒケム、貝吹キテ逃ゲケレバ、ヤガテ續キ

テ、追ヒカケタリ」校定本、平家物語、十二、行家最後ノ事「左ノ手ニハ、金作リノ小太刀ヲ持、右ノ手ニハ、野太刀ノ大ナルヲ持タリ、常陸房、太刀抜サセ給ヘト申セバ、藏人、大ニ笑ケリ」

〜**ごたち** (名) [御達] 御ニ、等ヲ添ヘタル語。御ハ、婦人ノ尊稱、其條ヲ見ヨ。伊勢物語、十九段「宮仕シケル女ノ方ニ、ごたちナリケル人ヲ、アヒ知リタリケリ」 源、二、帚木、十「遣フ人、古ごたちナド」河海抄「後漢書註、鄭玄曰、禮記云、后之言、後、言在二夫之後一、故以二女謂二後達一トシタルハ、聲音ノ誤ナリ。 よだれかけ(承應)「お山笠ニ、紅ノ鶯シメヤカナル、後達モアリ」(柳亭筆記、二)

コタツ (名) [火燵炬燵] [火榻子ノ宋音(行火、火鈴)禪家ヨリ起レル語、火爐ノ床ナリ、脚榻ノ語原ヲ見ヨ、慧琳一切經音義、十八「考聲云、土榻安レ火曰レ炕」是レ、朝鮮ニテ云フ、溫突ナリ、燵ハ、達ノ音ヲ借リテ、火偏ヲツケタル字ナリ] (一)床上ニ、爐ヲ置キ、其上ニシカケタル櫓ノ名、(後ニ云フ、こたつやぐらナリ)其上ニ衾ヲ被ヒ、足ヲ入レテ煖ム。又、高ごたつ。 爐棚 林逸節用集(文明)天地門「火闥」 運歩色葉集(天文)「火燵」 嫁迎記(義政時代)「小袖ノ盛ニハ、こたつノヤウナル物ニテ候、黑ク塗リ候テ、金物ナドアル物ニテ候」 犬筑波集(永正)冬「子供(格子ども二カク)ヤ思フ、ママニ狂ハム」生木ニテ、ケヅルこたつノ、火ハ強シ」宗長手記、下、大永六年十月「或夜、爐火シドロナル火榻シ、閑リカカリテ、紙子ニ火ノツクヲモ知ラズ、驚キテ、云云」同、七年十二月「此暁、火榻ニ、足差シナラベテ」ねずみ物語(寬永)宿書ノ事「冬ハ、置火ニ高ごたつ、段子ノ蒲團ヲ打チカケテ」(二刃京集、上編、中) 諸國盆踊唱歌(寬文)讃岐「みすじふろガ谷、朝サムゴザル、こたつヤリマショ、炭ソヘテ」 (二)後ニハ、小サキ地火爐ニ、櫓ヲ置キタルモノヲ總稱ス。 匱爐

ごだつ (名) [誤脫] 文章ノ上ニ、字句ノ、誤レル所、又、脫ケタル所。

こたつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [混雜] [つくハ、ソノヤウニナル意、秋づく、老づく、きらつく、がさつく] (一)ゴタゴタスル。混雜ス。「來客ガ多クテ、こたつく」 (二)モツルル。モンチャクスル。 紛糾 「相談ガこたつく」

コタツやぐら (名) [火燵櫓] [こたつ、即チ、やぐらナレバ、重言トナレル語ナリ、こたつノ條ノ(一)ヲ見ヨ] 火燵ノ上ニ置ク、框ノ如キモノ、立方形ニシテ、四柱アリ、被フ蒲團ヲ支フ。 爐架 爐棚 鳥花萬葉記(元祿)六、攝津、諸職商人買物所付、火燵櫓、道修町」 茂鄽出世靈德(正德、近松作)下「コレカラ大事ノ思案、火燵ノ櫓ヲ憑合柱」

こだて (名) [木楯] 楯ニ代ヘテ、身ヲ寄スル立樹。移リテハ、スベテ、身ヲ寄セ、身ヲ蔽フ頼ミトスルモノニモ云フ。 盛衰記、三十三、兼康板倉城戰事「前ニハ、柴垣ヲカキ、後ニハ、大木ヲこだてニシテ、敵ヲ待ツ所ニ」 太平記、十五、建武二年正月十六日合戰事「小松ノ蔭ヲ木楯ニ取テ、サシツメ、ヒキツメ、散散ニゾ射サセタリケル」 謠曲、熊坂「折妻戸ヲこだてニ取テ、彼小男ヲネラヒケリ」

〜**こたに** (名) [こたにわたり(草ノ名、次條ヲ見ヨ)ヲ下略シタル語ニモアラムカ、葉、堅ク、莖、長ク、花瓶ニモ插サル] 草ノ名、山中ノ蔭地ニ、苔、日蔭草、ナド共ニ生フルモノトオボシ。 枕草子、三、三十三段、草は「苔、こたに」 源、四十八、寄生、七十一「イト氣色アル深山木ニ、宿リタル蔦ノ色ゾ、マダ殘リタル、こたにナド、少シ引取ラセタマヒテ、宮ヘトオボシクテ、持タセタマフ」 中務集「粟田ノ右大殿、夜深ク歸リタマヒテ、こたに、日蔭ヲ包ミテ賜ハセタリシニ、聞エサセシ、包メドモ、こたに人目ノ、繁キ夜ニ、明ケバひかげノ、マバユカラマシ」

こたにわたり (名) [小谷渡] [谷渡トハ、葉、長クシテ、水ノ上ヲ越ユル意ニモアルカ] 草ノ名、羊齒ノ一種、葉ハ、ひとつばニ似テ、長サ一尺三四寸、幅一寸餘、裏星(子囊群)アリ、叢生ス、山中ノ蔭地ニアリ。同種ニテ、葉ノ長サ三尺ニ至ルヲ、谷渡、又、大谷渡ト云フ。

こだね (名) [子種] (一)子ニテアルモノ。子、孫ト、次次ニ生レテ、血統ノ續クモノ。 胤 淨瑠璃物語(室町時代)まうし子「南無藥師十二神、願ハクハ、ミヅカラニ、男子ニテモ、女子ニテモ、子だねヲ一人、授ケタマヘ」「こだねガ絕エル」 (二)精蟲。

〜**こだね** (名) [木種] 木ノ種。コノミ。クダモノ。 果 神代紀、上、十五「須レ噉八十木種、皆能播生」

こだね (名) [蠶種] [蠶ノ條ヲ見ヨ] 種紙ニヒリツケタル、蠶ノ卵。 蠶卵 東頭本草、下、二十七「蠶退、味、平、主二血風病一、和、己大於加美仁川久」

こだは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [障礙] [こハ、接頭語、小ノ條ヲ見ヨ、たはるハ、さはるノ轉、癈る、くたる。塞ぐ、ふたぐ。核、たね] (一)サハル。ツカヘル。 東海道中膝栗毛(享和、一九)七編、下「當座ノ鍔ガ、横腹ヘこだはッテ、痛エノダ」 (二)カカハル。カカヅラフ。カマフ。執着ス。 拘 「物言ヒニこだはッテ、揚足ヲ取ル」仲間遊ビニこだはッテ、仕事ヲナマケル」 (三)故障ヲ、言ヒタツル。 婦歌加留多(享保、近松作)二「タ、テ御暇ヲ貰ヒ給ヘドモ、郡司師高、こだはッテ埒明ケズ」

〜**こたび** (名) [此度] [こたみハ、音轉ナリ、蛇、へみ。秦、きび] コノタビ。又、こたみ。今度。今回 源、四十九、東屋、十二[illegible]

たびノ頭(藏人頭)ハ、疑ヒナク、帝ノ、御口ヅカラ、ゴテタマヘルナリ」 蜻蛉日記、上、上、三「イヅレトモ、ワカヌ心ハ、ソヘタレド、こたびハ、前ニ、見ヌ人ノ許」 古今集、九、羇旅「このたびハ、幣モ取リアヘズ、手向山、モミヂノ錦、神ノマニマニ」 源、四十九、東屋、六十「尼君、こたみハ、エ、參ラジ」 落窪物語、四「御四十九日ニナリヌ、云云、こたみコソ、ハテノコトナレバトテ、大將殿、イトイカメシク掟テタマヒケリ」

こだひ (名) [小鯛] 鯛ノ類ニテ、小サキモノ、長ジタルモノモ、一尺許ニ過ギズ、鯛ニ比ブレバ、體、高ク、頭、眼、稍、大ナリ、全身ニ、黃金色アリ。黃鯛、又、金鯛ノ名モアリ。

〜**こた・ふ**・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) [答] [對] [言合ふるノ約、傷思ふ、いさふ(厭ふ)] 他ノ言ニ向ヒテ、言ヲ返ス。應フ。返答ス。返辭ス。 神代紀、上、六「陰神乃先唱曰、云云、陽神後和之曰、云云」 萬葉集、十三、六、長歌「タマボコノ、道來ル人ノ、立留リ、如何ニト問ヘバ、答ヘ遣ル、タヅキヲ知ラニ」

こた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) [應] [前條ノ語ノ轉、問ハレテ答ふノ意ガ、ここナル事ノ、かしこニ響クト、移リタルナリ] (一)感ジ、ヒビク。通ズ。應ズ。反應ス。 續紀、九、神龜元年、二月、宣命「白鶴出現、御世ノ名(年號)ヲ改メテ、賜ヘ來リ、現ハレ來ルモノニアルラシ」 古今集、十一、戀、一「打チワビテ、呼バラム聲ニ、山びこノ、こたへヌ山ハ、アラジトゾ思フ」 千載集、十七、雜、中「曉ノ、山風ニタグフ、鐘ノ音ヲ、心ノ底ニ、こたへテゾ聞ク」 拾玉集、二「寢覺スル、心ノ底ノ、ワリナキニ、こたへテモ鳴ク、鶴ノ聲カナ」 (二)トホル。トドク。利ク。 徹 狂言記、あかがり「六魂へこたへて、ウヅキマスル」 肝ニこたふ 骨ニこたへテ 痛ミガこたへる」釘ガこたへる」

こた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [耐忍]

「俊訓栞、おたふ「容忍ノ意ニモ云ヘリ、事堪ふるノ義ニヤ」トアレド、堪ふハ、自動ニテ、[illegible]ハ、おらふ(栝)ノ音轉ナルベシ。[illegible]ゆらゆら、ゆたゆた」(二)栝ふニ同ジ。[illegible]カナカ、思ヒヲおたふる事ハ、アリモヤセムトオボエ[illegible]おたへ男ノ、ハタバリタル袴物ナリ」甲陽軍鑑、九、下、品第廿五「ヌルキ侍ニ入リツケタル人ハ、[illegible]、少シモおたゆるコトナラザル如クニ」(二)保ツ。持ツ。太閤記、七、大佛殿「佛ヲバ、木像ニシ、諸國ニテ金立テ候ヘバ、百年ハおたへ侍ル由ナリケレバ」「持チおたへる」

ごたぶん (名) 御多分　御多分に附く、ごたぶんに漏れぬト云フハ、衆議ノ、多數ノ方ニ靡クト云フ意、勢アル方ニおもねリ一ナリ。御都合主義ト云フト、略、同趣ナリ。

おたへ (名) 答　コタフルコト。イラヘ。[illegible]「[illegible]ヲ、言ヒヤラム、穏便ヲ知ラニト、立チテツマツク」

おたへ (名) 應　應フルコト。ムクイ。[illegible]

おた・へる (動) 答ふ、又、應ふ、又、耐ふノ口語。

おだま (名) 木靈　[illegible] 七、三十一語「木共モ、皆久シクナリテ、樹神モ住ミヌベシ」左傳、文公十八年、「[illegible]、山林異氣所、生、爲人害者」[illegible]天狗ノ類ノ妖怪ヲ云フト云フ。[illegible]天狗ノ類ニテ、木魅ヲ充ツルヲ近シトストアリ。[illegible]ハシ」同、五十二、手習五「タトヒ、マコトニ人ナリトモ、狐、おだまナドノ物ノ、欺キテ、取リモテ來ラムニコソ侍ラメ」同巻「鬼カ、神カ、狐カ、おだまカ、カバカリノ天ノ下ノ驗者ノオハシマスニハ、エ、隠レ奉ラジ」同、五十三、[illegible]ルニヤ」

おだま (名) 谺 谷響　[木魂ノ義ニテ、樹木ニ、精神アリテ應答ノ反響スルヲ、樹木ニ、山彦ハ、山神ト思ヒテ云フ語ナルカ、山彦ハ、山神ナリ、谺ノ字ハ、漢書、司馬相如傳「通谷、谽谺」字注「谽谺、谷中大空貌」トアリテ、當ラズ、説文「谺、谷中響也」トアル、是レナリ」山彦ノ異名。加茂保憲女集、冬「臥スト起クト、床喚ヒスル、歎キニハ、おだま[illegible]モノニゾアリケル」[illegible]「山谷、木玉ノ事也」津國女夫池(享保、近松作)四「聲バカリ[illegible]」

ごだま (名) 五珠　十呂盤ノ、桁ノ上ニアル、一顆ノ珠ノ名、一ツニテ、五ツノ數ニアタル。

おだまぎん (名) 小玉銀　(圓クシテ、玉ノ如シ)舊キ銀ノ貨幣。形、圓クシテ、厚ク、[illegible]、重長[illegible]ナルハ、[illegible]、六分強、[illegible]、五分、[illegible]、三匁五分、表ニ、寶ノ字、裏ニ、大黒天ノ像ノ極印アリ、(銀座ノ條ヲ見ヨ)其他、大小、齊シカラザルモノアリ、[illegible]用ヰキ、又、銀玉、豆板銀、豆板、豆銀、細銀ナドトモ、稱シ[illegible]碎銀[illegible]「[illegible]ニカケニケリ」

おたまぜ (名) 混淆　ゴタゴタト、雜ゼ[illegible]

おたみ (名) 此度　おたびノ條ヲ見ヨ。

こたん (名) 枯淡　書畫、文章ナドニ、活氣ト、興趣トノ、ナキコト。

ごだん (名) 後談　後日ノ物語。後ノ話。「其事ハ、後談ニ譲ル」

ごだん (名) 後段　(一)後ノ段。終リノ段。後編「[illegible]」(二)饗應ノ時、飯ノ後ニ、更ニ、種種ノ食物ヲ供スルコト。貞丈雜記、六、飲食「客ノモテナシニ、飯ノ後ニ、[illegible]ニモ何ニテモ、出スヲ、今ノ世ニハ、後段ト云フ、古ヘハ、[illegible]」[illegible](元祿、近松作)二「後段ノ吸物、ハヤ盃モ滿チ潮ノ」

ごだん (名) 五壇　(一)御修法ニ、五大尊ヲ安置スル、五ツノ壇。[illegible]「大聖不動明王、コンガラ、セイタカヲ、始メトシテ、五壇ノ上ニアラハレ給ヘバ」(二)ごだんのみずほふ(五壇御修法)ノ略。

こたんしやうらい (名) 巨旦將來　そみんしやうらい(蘇民將來)ノ條ヲ見ヨ。

ごだんのほふ (名) 五壇法　ごだいみやうわう(五大明王)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ごだんのみずほふ (名) 五壇御修法　ごだいみやうわう(五大明王)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

マス[illegible]ヲ伺ヒテ、例ノ、夢ノヤウニ覺エ給フ」

おた・ゆる (動) 答　答ふノ口語。狂言記、[illegible]「[illegible]答ゆるヂャ」

おだ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 木垂　樹、年歷テ、枝、垂リサガル。萬葉集、十三[illegible]「[illegible]ノ、市ノ植木ノ、木足マデ、逢ハズ久シミ、宜戀ヒニケリ」[illegible]

おだ・る・ル・レ・ル・レ・レ・レヨ (自動、下二) 傾　(前條ノ語ノ轉、垂リサガル意、ヨリ移ル、垂るニハ、四段活用ト、下二段活用トアリ」(一)傾キ、頽ル。シナダル。[illegible]ノ鬼、盃ヲ左ノ手ニ持チテ、笑ミおだれタルサマ、タダ、此世ノ人ノ如シ」辨内侍日記(建長)下「折レおだれ、[illegible]云云」(二)轉ジテ、痺ム。弱ル。室町殿日記、七、中島ヘ[illegible]云云」

おだ・れる (動) 前條ノ口語。

おち (名) 東風　[小風ノ義ニテハ(ち、疾風ナドノちナリ、風ノ條ヲ見ヨ)春風ノ、ヤハラカキ意ニ起リタルニモヤアルカ、おちの風ハ、童言ナレド、語原ハ忘レラレテ云フナリ、荒風の風ナドモ、同ジ」東ヨリ吹ク風。ヒガシカゼ。[illegible]ニテ、「くち」[illegible]、十、[illegible]春日野ノ、[illegible]ナバ[illegible]ノ、[illegible]ニ亂ヒテ、[illegible]」[illegible]、十六、[illegible]おち吹カバ、匂ヒオコセヨ、梅ノ花、主ナシトテ、春ヲ忘ルナ」[illegible]「おち風モ、ケヌルクナレバ、吾ガ宿ノ、梅ノ匂ヲ、ヲリヲリゾ見ル」[illegible]、沖ニおち[illegible]、[illegible]ノ子マタ[illegible]見ユ」[illegible]おち風ニ、氷トケナバ、[illegible]ノ、[illegible]ヲ告ゲナン」

こち (名) 【鯒】〔形、笏ニ似タリト云フ說アレド、イカガ〕魚ノ名、大ナルハ、一二尺、小サキモノモ、寸餘アリ、身、左右ニ扁ク、頭、大キク、口、橫ニ闊ク、下府、出デ、體ノ下部、尾ニ到ルニ隨ヒテ、細ソリテ、長シ、鱗、細カク、背、灰色ニシテ、腹、黃白ナリ。牛尾魚 莊尾集(南北朝、頓阿)魚ノ名、十「雨フリテ、川モ水マス、アヂこちニ、フナ人戀ヒシ、越サバサハラム」林逸節用集(文明)生類「鯒」

こち (名) 【故智】古キ智慧。古人ノ智謀。史記、韓世家「桑王必祖ニ張儀之故智ニ」(祖トストハ、倣フナリ)「先賢ノ故智ニ倣フ」

こち (代) 【此方】〔此路ノ義カ、彼路、其路、何路ニ對ス〕(一)〔最モ身ニ近キ方位ヲ指シテ云フ、代名詞。コノカタ。コナタ。コチラ。コッチ。萬葉集、四四十三「彼此兼ネテ、言ヒハ言ヘド」榮花物語、十一、若花「其頃、土御門殿ニ渡ラセタマヒヌ、云云、ソレモ、東三條院ニ出デサセタマヘリシヲ、其處ノ、燒ケニシカバ、こちニ渡ラセタマヘルナリケリ」宇治拾遺、十一、第九條「集ヒタル者ドモ、こち押シ、アチ押シ、ヒシメキアヒタリ」(二)〔此方へ。(來ヨ) 宇津保物語、俊蔭卷十「行ク膝ヲ解キテ、苔ノ上ニ敷キ、こちトテスヱ、我レモ坐タマヒテ」(三)我レヲ指シテ云フ、代名詞。コノハウ。狂言記、二人大名「其方ガ急ガバ、こちモイソグ」「こちノ人」

コーヂ (名) 【火箸】〔字ノ宋音(火鈴、火榻子)正韻「箸、治據切、音宁」ナレバ、こぢナリ〕禪家ノ語、火箸ニ同ジ。下學集、下、器財門「火箸」倭訓栞「こち、火筋ノ音轉也、ひばし也」(「火筋ハ、火筋ノ誤」)

ごち (名) 【五智】眞言宗ニテ云フ、五種ノ智ノ稱。法界體性智、大圓鏡智、平等性智、妙觀察智、成所作智、ト云フモノ、是レナリ。此五智ハ、大日如來ノ成就スル心相ナリト云フ、然レドモ、コレヲ別開スレバ、大日如來、阿閦如來、寶生如來、阿彌陀如來、不空成就如來トナリ、此五智所成ノ五如來ヲ、五智如來、又、五智五佛ト云フ。大日如來ノ戴ク冠ハ、五角形ニテ、五方面ニ、五佛ノ像アリ、コレヲ、五智ノ寶冠、又、五佛ノ寶冠ト云フ、是レ、大日如來ノ、五智、五佛ノ總體ナルコトヲ表示スルナリト云フ。榮花物語、十八、玉臺「戒香ノ匂ニ染ミ薰リテ、弘誓ノ瓔珞身ニ溜ツレバ、五智ノ光カガヤケリ」謠曲、安宅「頭巾トイッペ、五智ノ寶冠ナリ」

ごぢ (名) 【護持】マモリ、タモツコト。守護。唐書、劉禹錫傳「其詩在處、應有二神物護持一」禁祕御抄階梯、中「傳記云、貞觀八年、發建二持念壇于冷泉院一說ㇾ聖也、云云、已上三流、護持之元祖也、從ㇾ此以降、碩德明匠、奉ㇾ詔、致二聖躬之護持一」保元物語、一、將軍塚鳴動事「弘法大師ハ、高野山ヲ建立シテ、眞言ノ祕法ヲ修行シテ、專ラ、天下ノ護持ヲ致ス」「佛道ヲ護持ス」

こぢうはん (名) 【小晝飯】コビルメシ。あひだぐひ(間食)ノ條ヲ見ヨ。物類稱呼、四、衣食「東國ノ農家ニテ、午未ノ刻ノ間ニ食事スルヲ、こぢうはんト云フ、云云、小晝飯ナルベシ」

こちかぜ (名) 東風ノ條ヲ見ヨ。

こちく (名) 【胡竹】〔胡、卽チ、外國ニテ、漢竹ナドト同種ノモノヲ云フニヤ〕竹ノ一種、笛ニ造ルモノ。八雲御抄、三、下、雜物、笛「こちく、胡竹也」撮壤集(享德)中、竹「胡竹」倭訓栞「こちく「八雲御抄ニ、胡竹也ト見エ、律書樂圖ニ、橫笛、本出ㇾ於ㇾ羌ト見エタリ、又、周禮ニ、孤竹之管、注ニ、竹特生者ト見エタレバ、是レニヤ」六帖、五、笛「漢竹ノ、こちくノ聲モ、聞カセナム、アナ嬉シトモ、思ヒ知ルベク」後拾遺集、十九、雜、五「イツカ又、こちくナルベキ、鶯ノ、囀リソメシ、夜ノ笛竹」公任集「月影ニ、こちくノ聲ゾ、聞ユナル、舊リニシ妹ハ、待チヤカヌラム」(何レモ、此方來ニカケタリ)

ごちく (名) 【五畜】六畜ノ條ヲ見ヨ。素問「五穀爲ㇾ養、五果爲ㇾ助、五畜爲ㇾ益」拾芥抄、下、末「醫書云、五畜、牛(甘)、犬(酸)、猪(鹹)、羊(苦)、雞(辛)」

こちこち (代) 【此方此方】此方へ、此方へ。(來ヨ) 狹衣、三、下三「猫ヲ、こちこちト宣フニ、寄來テ、ラウタゲナル聲ニテ打チ鳴キツツ懷サフ」明月記、文曆元年八月六日「人人勞心樣、日來奉公之陰德被ㇾ召入ㇾ二人(爲家、資季)被ㇾ免ㇾ拜見ㇾ宮モ、こちこちト被ㇾ仰、聊無ㇾ御違例ㇾ御殿」(近ウ近ウ)

こちこち (副) 〔擬聲語ナリ〕堅キ物ニテ、堅キ物ヲ叩ク音ニ云フ語。コツコツ。「石鑿デ石ヲ、こちこちタタク」

こちごち (代) 【此方此方】此方、又、此方。多クアルモノヲ、こちらモ、こちらモト云フ意ナリ。古事記、下(雄略)三十長歌「日下部ノ、許知ノ山ト、タタミコモ、平群ノ山ノ、許知其知ノ、山ノ峽ニ」萬葉集、三廿七長歌「ナマヨミノ、甲斐ノ國、ウチヨスル、駿河ノ國ト、己知其知ノ、國ノ眞中ユ、出デ立テル、富士ノ高嶺ハ」同、九廿一長歌「嶺ノ上ノ、櫻ノ花ハ、咲キタルハ、散リ過ギニケリ、含メルハ、咲キツギヌラシ、許智期智ノ、花ノ盛リニ」同、二十九長歌「出立ノ、百枝槻ノ木、虛知期知ニ、枝差セル如」

こちごち・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【骨骨】〔骨なしヲ下略シ、重ネテ、活用セシメタル語(怠怠し、勞勞し)こちなしこちなしきナレバ、こちなしト同意義ナリ〕(一)コチナシ。無作法ナリ。ブシツケナリ。無禮 源、四十四、橋姬廿「舊物語ニカカヅラヒテ、夜ヲ明カシハテムモ、こちごちしかるべケレ」(二)無骨ナリ。粗笨 木強 源、廿二、玉鬘八廿「容ハ、イトカク、メデタク、淸ゲナガラ、田舍ビ、こちごちしうオハセマシカバ、イカニ、玉ノ瑕ナラマシ」同、廿、朝顏三「聲、ブツツカニ、こちごちしく思エタマヘルモ、サルカタナリ」土佐日記、二月七日「舟君ノ病者、モトヨリ、こちごちしき人ニテ、カウヤウノ事、サラニ知ラザリケリ」(歌詠ムコトモ知ラヌヲ云フ)

ごぢソウ (名) 【護持僧】僧職ノ名、淸涼殿中ノ二間ニ參仕シテ、主上ノ大御身ヲ、祈禱シ、護持シ奉ルモノナリ、夜居ノ僧トテ、宿直スルコトアリ。天台宗、延曆寺ノ最澄、延曆十六年ニ始メテ補セラレ、眞言宗、東寺ノ空海、弘仁元年ニ始メテ補セラレ、爾來、兩寺ヨリ、淸行拔萃ノ僧ヲ選ビテ、補セラレタリ、初ハ、定員三人ナリシガ、後ニハ、八九人ニ至レリ。大鏡、上、淸和「其御時ノ護持僧ハ、智證大師ニオハシマス」禁祕御抄、上「御持僧事、於ㇾ僧侶ㇾ無ㇾ雙精撰也」榮花物語、三十六、根合「御殿籠リ、御祈リセサセタマフニ、惡シキ御夢ヲノミ御覽ジテ、御持僧明快召シテ、仰セラレケルハ」

こちた・う (形) 次條ヲ見ヨ。

こちた・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【言痛】〔言甚しノ約〕(一)人言、甚ダ多シ。クチサガナシ。人ニ言ヒ騷ガレテ、ウルサキ意ニ云フ。萬葉集、十二六「人言ハ、誠言痛く、ナリヌトモ、其ニ障ラム、吾レナラナクニ」同、十一七「オホカタノ、ワザトハ思ハジ、我レ故ニ、人ニ事痛く、言ハレシモノヲ」(言痛ノ借字)同、十二廿七「人言ヲ、繁ミ言痛ミ、(人言ノ繁サニ、言痛サニ)吾妹子ニ、往ニシ月ヨリ、イマダ逢ハヌカモ」同、二十五「人言ヲ、繁ミ許知痛ミ」同、十二廿「人言ヲ、繁ミ毛人髮ミ、吾ガ夫子ヲ、目ニハ見レドモ、逢フ由モナシ」(毛人ハ、蝦夷ナリ、其人、毛深ク、ムクツケケレバ、戲書セシナリ、まうぢん(毛人)ノ條ヲ見ヨ、是レ等ノ義ヨリ、次ノ第二三四項ノ意ニ移ル)(二)轉ジテ、事繁シ。源、三十九、御法四「御方方、ココカシコニ、

調律、物ナドバカリノ事ヲ、打チシタマフ、云云、調度ヲ仕ウマツラヌ所ナケレバ、イトこちた[illegible]たうオキテ」紫式部日記「髪、ウルハシク、モトハ、イトこちたくテ、丈ニ、一尺バカリ餘リタリケルヲ」枕草子、八、九十一段「火桶ノ火、こちたく熾シテ」(四)甚シ。コトゴトシ。クダクダシ。[illegible]四、下、若菜、下「アマリニこちたく、物ヲコソ言ヒナシタマフベケレ」狭衣、一、上「戯レノロズサビモ、こちたう、ムツカシウサヘ思サルレバ」徒然草、[illegible]八[illegible]物ナリ、イトこちたくネヂケタリ」

こちと　(代)　[此方人]　(買人、かひと)　自分。ワレワレ。吾儕　丹波與作(寶永、近松作)中「ソリヤ誰、コチガ殺スハ、こちとハ、イカイ粟人ト、顔ヲ見アハセ、泣居タリ」

こちとら　(代)　[此方人等]　自分ラ。ワレワレラ。[illegible]備前ノ牛窓、アカリ見ヌ田舎者ユヱ、珍ラシキはや[illegible]

こちな・し・キ・ケレ・ク・ク　(形、二)　[無骨]　(こちハ、骨ノ呉音(質、質)作法ヲ、骨法ト云ヒ、略シテ、骨ト云フ」(一)[illegible]作法ナリ。ブシツケナリ。[illegible]骨なし[illegible]「弱ナド、ムツカシキコトドモヲ、モテハヤシテ、[illegible]ヒテ云フモ、イトこちなし」[illegible]記シオケルナナリ」類聚雜例、長元八年六月十八日[illegible]こちなしト思ヒ[illegible]

上人ナド、サルベキ人人、アマタ率リツドヒテ後ニ、[illegible]つた、オボシメサルレド、サリトテ、アルベキコトナラネバ、書キテ罷リ出タマフニ」(二)無骨ナリ。コチゴチシ。不風流ナリ。粗野ナリ。[illegible]侯之間、幽玄ノ趣ヲ、工夫ヒ候ハヌナリ」長門本、平家物語、十八、[illegible]平家方ヨリ「こちなくモ、見ユルモノカナ、櫻狩リ長季、過ギテ「生捕リ取ラム、タメト思ヘバ」

ごちにょらい　(名)　五智如來　五智ノ條ヲ見ヨ。[illegible]夜ノ雨ニ調セリ」

こちのかへし　(名)　[東風返]　東風ノ、向キヲカヘテ吹クコト。カヘシノカゼ。後拾遺集、十九、雜、五「吹キカヘス、こちのかへしハ、身ニシミキ、都ノ花ノ、シルベト思フニ」

こちのひと　(名)　此方人　妻ノ、夫ヲ稱スル語。我ガ夫。[illegible]こちの人ハ、留守デャニ因ッテ、宿借スコトハナラヌ」

ごちのほうくゎん　(名)　[五智寶冠]　五智ノ條ヲ見ヨ。

ごぢん　(名)　[後陣]　[前陣ニ對ス]　後ニ備ヘタル陣。アトゾナヘ。後軍　六韜、後陣[illegible]八、山[illegible]

ごぢん　(名)　[五塵]　[衆生ノ心ヲ汚スコト、塵ノ如シ]　佛教ノ語、色、聲、香、味、觸ノ稱、又、眼、耳、鼻、舌、身、意ノ、六根ノ欲情ヲ、六欲ト云フ。五塵ニ對スル六欲ノ盛ンナルコト、風ノ起ルガ如クナルヨリ、ナシテ、五塵六欲ノ風ト云

フ。[illegible]立ヌヌ時ナシ」

ごぢんろくよく　(名)　[五塵六欲]　前條ヲ見ヨ。

こぢもく　(名)　[小除目]　ぢもく(除目)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]六月三日、先ヅ小除目行ハル、平頼盛朝臣、從四位上ニ敍ス、[illegible]六月廿日[illegible]

こちゃ　(名)　[粉茶]　製茶ノ葉ノ、碎ケテ、粉トナレルモノ。

こちゃ　(句)　此方者　[こちはノ急呼、今日者、おんにった]　此方ハ。我レハ。自分ハ。國性爺合戰(正德、近松作)二「[illegible]トテモ女ニ生レルナラ、こちゃ、日本ノ女子ニナリタイ」こちゃ構ヤセヌ」こちゃ知ラヌ」

こちやう　(名)　[戸長]　明治ノ初年ニ、一町、又ハ、一村ノ事務ヲ統ブル吏員ノ稱。今ハ、町長、村長ト改メラル。

こちやう　(名)　[誇張]　[くっちゃうナルベキナリ、こふ(誇ホ)ノ語原ヲ見ヨ]　事實ヨリモ、大キク言ヒナスコト。誇大ニ、述ブルコト。[illegible]

こちやう　(名)　[枯腸]　飢エタル腹。[illegible]

こぢやう　(名)　[虎杖]　草ノ名、イタドリ。

ごちやう　(名)　[伍長]　(一)五人一組ノ長。(二)陸軍ノ下士、軍曹ノ次ニ位ス。

ごぢやう　(名)　[御定御諚]　[定ヲ、御定ト

[illegible]セシナリ、[illegible]字」貴人ノ[illegible]ヲ云フ敬語。[illegible]オコトバ。枕草子、二、[illegible]モミエズラフ、衣ヌ人、ゾナキ、ト云フ[illegible]ハ、[illegible]モミチノ錦、着ヌ人ゾナキ、ト直シテ可入之[illegible]御定ニ」吾妻鏡、六、文治二年三月十六日「[illegible]御定ニ下ニ宣旨ニ候」盛衰記、四十八、法皇大原入御事「一院ノ御諚トテ、大勢ニテ寄スル、ト申シシカバ」

ごちやうし　(名)　[御停止]　なりものちやうじノ條ヲ見ヨ。

ごちやうまち　(名)　[五丁町]　[郭内ニ、五町アリ]　江戸、新吉原町ノ一郭ノ稱。略シテ、五町、又、町トノミモ云フ。

こちゃく　(名)　[固着]　カタマリ、ツクコト。カタク、ツクコト。

ごちやくこ　(名)　[御着袴]　天皇、春宮ノ、袴着セサセラル稱。[illegible]

ごちやくこん　(名)　[御着袴]　前條ヲ見ヨ。

こちゃこちゃ　(副)　おたおたノ轉、其條ヲ見ヨ。[illegible]供ヤラ、主ヤラ、こちゃこちゃハ、面白カルガル飛ビオリテ」

こちゃまか・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　糊塗　[おたおた、おちゃおちゃ、おたた、たまかすノ約ナルベシ]　鄙語、物事ヲ、カキ亂シ、目クラマシテ、取リックロフ、マジクナフ。「不都合ナ仕事ヲこちゃまかす」

こちゅう　(名)　[古注古註]　支那ノ經書類ニ、漢、魏、晉、等ノ儒者ナル、孔安國、董仲舒、鄭玄、何晏、ナドノ、註シタルモノノ稱。後ニ、宋ノ儒者ノ、改メ釋キテ註シタルヲ、新註ト云フ。(古學、宋學、朱

子學ノ條ヲ併セ見ヨ）運歩色葉集「古中」

こちゅう (名) 壺中 (一)ツボノウチ。禮記、投壺篇「壺中實二小豆一焉」(二)小膽ナルモノ。

こちゅう (名) 箇中 個中 コノウチ。特ニ、學藝ナドノ、奥深キ道理、又ハ、趣味ノ範圍内。「個中ノ消息、人ノ知ルナシ」

こちゅう (名) 孤忠 唯獨リ、忠ヲ盡スコト。胡炳、拜二岳鄂王墓一詩「大義君臣重、孤忠天地知」(宋ノ忠臣、岳飛ナリ)

こちゅう (名) 孤注 博奕ヲナス者ガ、續ケテ負ケテ、最後ニ、所有金ノ總ベテヲ出シテ、勝敗ヲ、一擲ニ決スルコト。元史、伯顏傳「今日我宋天下、猶二賭一博孤注一、輸贏在二此一擲一耳」

ごぢゅう (名) 後住 寺ノ、後ノ住持。(先住ニ對ス) 薩摩歌(寶永、近松作)上「來迎院ト申ス知行寺へ、後住ノ約束」

ごぢゅうのたふ (名) 五重塔 〔卒塔婆、幷ニ、五輪ノ條ヲ併セ見ヨ〕木造ノ塔ノ、五ツノ層ヲ積ミアゲテ成レルモノ、即チ、五輪ノ塔ナリ。其構造ハ、固キ礎石ノ上ニ、先ヅ、一層ノ高サニ準ジタル四本ノ柱ヲ立テ、其上端ヲ、固ク井桁ニ組ム、又、其上ニ、四方稍狹ク、四柱ヲ立テ、上ニ井桁ヲ組ミ、次第ニ、其上ヘ、上ヘト、同ジヤウニ、五層ヲ造リアゲテ、次ニ、一本ノ大柱ヲ、最上層ヨリ、塔ノ中心ヲ通シテ釣リ下ゲ、其下端ハ、地ニツカズ、ふらふらシテアリ、コレヲ、心柱ト云フ、大風ニモ、大地震ニモ、此心柱ノ、重ミト、動搖トニテ、調子ヲ取リテ、倒レザルナリ。五層塔 又、三重、七重、九重、十三重ノ塔モアリ、構造ハ、皆、同ジ。舒明紀、十一年十二月「於二百濟川側一、建二九重塔一」扶桑略記、六、天平二年三月廿九日「始建二藥師寺東塔一」藥師寺緣起「寶塔二基、各三重、每レ重有二裳層一、高十一丈五尺、縱廣三丈五尺」續紀、十三、天平十三年六月「令三天下諸國、每國、云云、建二七重塔一」續本朝文粹、十二、願文「保安二年、云云、白河之傍、建二五重塔一基一」太平記、廿一、法勝寺塔炎上事「康永元年三月廿日、云云、八角九重ノ塔婆ハ、横竪共二八十四丈、云云」

こちゅうのてんち (名) 壺中天地 支那ニテ、壺公ト云フ仙人ノ住ミタル、別世界。後漢書、費長房傳「費長房者、汝南人也、曾爲二市掾一、市中有二老翁一賣レ藥、懸二一壺於肆頭一、及二市罷一、輒跳入二壺中一、市人莫二之見一、唯長房、於二樓上一覩レ之、異焉、因往再拜、云云、翁乃與俱入二壺中一、唯見、玉堂嚴麗、旨酒甘肴、盈二衍其中一、共飮畢而出」元稹、幽栖詩「壺中天地乾坤外、夢裏身名旦暮間」

こちょう (名) 古塚 古冢 フルヅカ。年經タル塚。水經注「獨頭山南有二古冢一、陵柏蔚然」榮花物語、十五、疑「墜詣二木幡墓所一、仰二三重一、鑿二四域一、古塚纍纍、幽墟寂寂」(大日本國語辭典)

ごぢょく (名) 五濁 イツツノニゴリ。佛敎ノ語、末法濁亂ノ、五種ノ相態。一ニハ劫濁トテ、天災、疫病ナド、起ルコト。二ニハ煩惱濁トテ、衆生ノ煩惱ノ、盛ンニナルコト。三ニハ衆生濁トテ、衆生ノ果報ノ、衰フルコト。四ニハ見濁トテ、衆生ノ、惡シキ見解ヲ起スコト。五ニハ命濁トテ、衆生ノ壽命ノ、短クナルコト。此五濁ノアル世ヲ、五濁惡世ト云フ。楞嚴經、六「譬如下清水投二之沙土一、土失二留礙一、水亡二清潔一、由二此五濁一、理水亡レ清」太平記、十二、文觀僧正奢侈事「身ハ雖レ交二五濁塵一、心ハ不レ犯二三毒霧一、任レ緣、歲月ヲワタリ、利レ生、山川ヲ抖擻シ給ヒケル」謠曲、田村「大慈大悲ノ春ノ花、十惡ノ里ニカウバシク、三十三身ノ秋ノ月、五濁ノ水ニ影淸シ」源、十五、蓬生「いつつのにごり深キ世ニ、ナドテ生レタマヒケム」法華經、方便品「舍利弗當知、諸佛、出二於五濁惡世一、所レ謂、劫濁、煩惱濁、衆生濁、見濁、命濁」狹衣、三、上「五十五ぢょくのあくせヲ、疾ク逃レテ、カノ契リタマヒシ、阿私仙人ニ仕ヘム」

ごぢょくあくせ (名) 五濁惡世 前條ヲ見ヨ。

こちよりて (副) 此方寄 今世ニ近ク。近代ニナリテ。大鏡、上、師尹「こちよりてハ、大納言ノ女ニテ、后ニ立ツ例ノナカリケレバ」榮花物語、一、月宴「此國ノ帝、六十餘代ニナラセタマヒニケレド、云云、こちよりてノ事ヲゾ、記スベキ」

こちら (代) 此方 〔らハ、添フル辭、其條ヲ見ヨ〕こち、こなたニ同ジ。狂言記、笛「ドコカラ刺サウゾ、ココカラ刺サウカ、こちらカラ刺サウカ」

こぢる ル・ル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 拗 〔さぢる(抉)ノ轉〕ワルクナル。惡シク、ユガム。「此ノ馬ハ、こぢれテ、手ニアハヌ」

こぢれる (動) 拗 前條ノ口語。

こつ (名) 骨 (一)ホネ。平家物語、六、入道逝去事「烟ニナシ奉リ、骨ヲバ、圓實法眼、頸ニカケ」(二)骸骨。シャリコツ。(三)こつぼふ(骨法)ノ略、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

こつ (名) 忽 度量ノ名目、がう(毫)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

こつ (名) 笏 さゃく(笏)ノ條ヲ見ヨ。

〜こつ (接尾) 〔おとすノ約、四段活用ノ動詞態ヲナス〕物事ヲナス意ヲアラハス語。源、四十四、橋姫六「何クレト、ツキヅキシク聞コエこつ事モ、類ニフレテ多カレド」同、二、帚木十一「哀レトモ、打チヒトリごたルルニ、何事ゾナド、アハツカニサシアフギ居タランハ」同、同九「賢シトテモ、一人二人、世ノ中ヲマツリごち、知ルベキナラネバ」

ごづ (名) 牛頭 (一)ごづめづ(牛頭馬頭)ノ條ヲ見ヨ。(二)ごづせんだんノ條ヲ見ヨ。

こつあげ (名) 骨揚 火葬ニシタル遺骨ヲ、拾ヒ上グルコト。コツヒロヒ。尺素往來「葬禮荼毘ノ儀式者、云云、拾骨、入骨、云云」

こつえんと (副) 忽焉 スミヤカナル狀ヲ云フ語。タチマチニ。俄カニ。不意ニ。論語、子罕篇「瞻レ之在レ前、忽焉在レ後」左傳、莊公十一年「桀紂罪レ人、其亡也忽焉」

こづか (名) 小柄 〔小刀柄ニテ、柄ニ彫刻アレバ、柄ヲ名トスルナルベシ〕ウラザシノコガタナ。脇差ノ刀ノ鞘ノ鯉口ノ兩面ニ、小室ヲ作リツケ、佩キテ、身ニ向フ方ノ室ニ刺シオク小刀ヲ、裏刺ノ小刀、又、小柄ト云ヒ、外ニ向フ室ニ刺シオクハ、表刺ノ笄ナリ、揃ヘテ、二所物ト云フ。小刀ニハ、別ニ、柄ヲツク、金銀銅ナドニテ作リ、魚子ヲ蒔クヲ正式トスレド、種種ナル彫刻、象嵌スルアリ。刀劍略說、小刀小柄「今、小刀、脇差等ヘ、笄ト等シク挾ミ加フ、云云、小柄ニ、祐乘、後藤ガ作レルモノアレバ、東山殿ノ頃ヨリ、ハヤ、此品ハアリケルナラム」裝劍奇賞、一、總論「家彫 又ハ、上代ノ作ナル小刀柄、笄ノ二所物ハ、必ズ、魚子ヲ蒔キテ、地トス」

こづか (名) 小腕ノ根。丹波與作(寶永、近松作)「五ニこづかヲ取ッテハ、投ゲツ、投ゲラレツ」

こつがい (名) 乞丐 〔正韻「丐、音蓋、乞也」〕コジキ。モノモラヒ。陳琳、爲二袁紹一檄二豫州一文「曹操父嵩、乞丐」平家物語、三、有王島下事「俊寛僧都「身ニ着タルモノハ、絹、布ノ別モ見エズ、云云、ヨロヨロトシテゾ出デ來ル、都ニテ、多

クノこつがい人ハ見シカドモ、カカルモノハ、イマダ[illegible]」

こつがい-にん (名) 乞丐人 前條ヲ見ヨ。

こつ-かう (名) [illegible] (一)魚ノ骨。[illegible] 「鯁、魚骨」字類抄「鯁、イヲノホネ」儀禮、公食大夫禮、註「乾魚近腴、多骨鯁」(二)魚ノ骨ノ、喉ニ刺リテ、喉ニ刺サリタルモノ。廣韻[illegible] (三)[illegible] 直ニシテ、直言スル者。直言ノ受ケ難キ[illegible]之臣」[illegible] (四)人體ヲ[illegible]人[illegible]

ごづ-かう (名) 牛頭香 ごづせんだんノ條ヲ見ヨ。

こつ-かく (名) 骨格 (一)人體ノ、ホネグミ。[illegible] (二)コツガラ。骨法。

こ-づかひ (名) 小使 雜事ニ遣ハルル下部。十訓抄、上、第一、廿八條「コトシ、孫ニテ候フ[illegible]」

こ-づかひ (名) 小遣 小買物ニ、支拂ヒ[illegible]、自由ニ遣フベキ錢。子供、[illegible]人ナドニ與フル小錢ヲモ云フ。盤費 好色一代女(貞享、西鶴)「小使錢クルル人アリ」浮[illegible]ダ」「小遣錢」「小遣料」 此支拂ヒヲ記シオク帳面ヲ、小遣帳ト云フ。 好色一代女「小使錢[illegible]

ニモ[illegible]ラレズ」

こづかひ-ぜに (名) 小遣錢 前條ヲ見ヨ。

こづかひ-ちやう (名) 小遣帳 前前條ヲ見ヨ。

ごつがふ-しゆぎ (名) 御都合主義 〔先方ノ都合ノ好キ方ニ從フ意〕己レヲ枉ゲテ、唯、人ノ意思ニ從フヲ、心トスルコト。人ノ心ニ、あどうつナリ。

こつ-がら (名) 骨柄 〔がらノ條ヲ見ヨ〕(一)カラダノスガタ。體格。骨相 骨法 日本振袖始(享保、近松作)一「馬ノ背モ撓ムバカリノ骨柄ニ[illegible]」(二)人品。ヒトガラ。[illegible]、三十三、[illegible]一人ノ頃アリ、云云、ミメ、こつがら、尋常ナリ」

こづき-まは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 小突廻 〔こづくヲ見ヨ〕小突キテ、マハス。擊チ、サイナム。「捕ヘテこづきまはす」

こつ-きり (名) 〔こ[illegible]きり(限ノ轉、かぎる、きぎる)〕コレヲ限リトスル意ヲ云フ語、[illegible]語ニ用ヰル。「一度こつきり」二[illegible]こっきり」

こつ-きり (副) 〔擬聲語〕鉢合シタル音ニ云フ語。コツリ。コツリ。コツリンコ。

コック (名) 〔英語、Cook〕 西洋料理ノ料理人。

こ-づ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 小突 〔こ(小)ハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕強ク、突ク。ドヤス。「こづきまはす」

こつ-くい (名) 極印 〔こくいんヲ、こくいト下略シテ、ソレヲ急呼スルナリ、玄番、げんば。玄關、げんか。小端、こっぱ。此方、こっち〕 極印ニ同ジ。 大坂佐(貞享)

大道[illegible]、常[illegible]こくい[illegible]云フ)

こつくり (名) 狐狗狸 〔こっくりこっくりト動キ躍ルナリ、西洋ノ卓上ノ遊戲ノ、傳ハリシモノナリト云フ〕明治ノ初年ニ、婦女子ノ間ニ行ハレタル、迷信ノ占事。三本ノ、一尺許ノ細竹ノ中ヲ束ネテ、上下端ヲ開キ、結ビテ臺ノ如クニ立テ、其上ニ、大キナル盆ナド載セ、數人、其周圍ニ坐シ、各、盆ノ上ニ、[illegible]ヲ輕ベ伏セ、指ト指トヲ相觸レシムレバ、三本ノ足ガ、動搖シ出シテ、あがりさがりスル、左ニアガレバ吉トカ、右ニアガレバ凶トカ定メテ、物事ヲ占フ、コレヲ、おこっくりさまナド云ヒキ。

こつくり (副) 〔こくりこくり居眠スルノ、こくノ轉、がくがく、がくり〕居眠シテ、頭ヲ垂ルル如ク、突然ト伏シ倒レテ死ヌルニ云フ語。頓死ノ狀態ナリ。「こっくり死ンダ」「こっくり往生」

こつくり (副) 〔こっくハ、濃くノ轉ニモアルカ、とくと、とっくり〕染色ナドノ、落チツキテ、品好ク見ユルニ云フ語。「此色合ハ、こっくりトシテ居ル」

こづくり (名) 木造 木造ルコト。木造建築ヲ始ムル儀式ヲ、木造始ト云フ、釿始ニ同ジ。 記略、後篇、四、天德四年十一月廿八日「內裏木作事也、先於[illegible]」長秋記、長承三年八月廿[illegible]日、鳥羽御[illegible]今日吉日、[illegible]所工安[illegible]可始木造之由[illegible]家成、安季、[illegible]衣[illegible]之」匠家[illegible]上、[illegible]初之式[illegible]ハ、所謂、木造初ナリ、是其造營、木匠ノ發端ナレバ、云云、所長、[illegible]ニ、別火、[illegible]シテ、[illegible]ムベシ」古事類苑。

こ-づくり (名) 小作 (一)造リ方ノ、餘リ廣カラヌコト。小造。コジンマリ。「小づくりナ住居」(二)體格ノ、短小ニ成立テルコト。コガラ。小兵。短軀 好色一代女(貞享、西鶴)「小づくりナル生レツキノ、德アリ」「小づくりナ男」

こつくり-こつくり (副) 居眠スルニ云フ語、こくりこくりノ語原ヲ見ヨ。

こづくり-はじめ (名) 木造初 こづくり(木造)ノ條ヲ見ヨ。

こ-づく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 木造 材ヲ、割リ、切リ、ナドシテ、用ニ供フ。木取ル。 宇津保物語、俊蔭「木ヲ取リ出デテ、割リこづくる[illegible]ニ」

こつ-くわい (名) 骨灰 〔英語、Bone-ash ノ譯語〕又、骨灰。動物ノ骨ヲ燒キテ、其有機分ヲ去レル、白色ノ殘塊。燐酸、及、燐ヲ製スル原料トス。

こ-づけ (名) 小附 重荷ニ添ヘテ附クル、小サキ荷。 後撰集、廿、賀「年ノ數、積マムトスナル、重荷ニハ、イトドこづけヲ、コリモ添ヘナム」

こ-づけ (名) 小漬 盛饌ニ對シテ、手輕キ食事ノコトナルベシ。 類聚名物考(明和、山岡浚明)飮食、一「小漬、こづけ「湯漬飯ノ事ナルベシ、云云、今ノ俗ニ、カリソメノ飯ヲ、小漬飯ト云フ、其事ニ同ジ」俗語考(橘守部)「小附飯」 二水記、永正十六年十一月五日、[illegible]御所、[illegible]小漬、御相伴也」[illegible]右記、永祿八年四月二日、結城山城、同三女房衆、上洛也、則[illegible]小づけ有之」時慶卿記、慶長八年二月十九日、[illegible]下向、云云、[illegible]舟衆、云云、[illegible]一折在之、酒、小漬等、在之」

こつ-けい (名) 滑稽 〔史記、滑稽傳、註林「姚察云、滑稽、猶俳諧也、滑、讀如字、稽、音計也、以言語滑稽巧利、

其知計疾出」其他、諸說アリ」(二)能辯ニシテ、談笑ノ間ニ、譬喩ヲ以テ諷諫ナドスルコト。史記、滑稽傳、淳于髡「滑稽多辯、數使諸侯、未嘗屈辱」同、評林、楊外「光縉曰、滑稽、言口給便利、應答若流、不窮以恢諧、爲滑稽」漢書、東方朔傳、贊「朔名過實者、以其詼達多端、不名一行、應諧似優、不窮似智、云云、其滑稽之雄乎」下學集、下、態藝門「滑稽、利口之義也」(三)戲言ヲ云フコト。カルクチ。ジャウダン。又、戲。オドケ。諧謔

こつけいぼん (名) 滑稽本 滑稽ヲ主トシテ作レル小說ヲ記シタル書。文化、文政ノ頃、十返舍一九ノ膝栗毛、式亭三馬ノ浮世風呂、浮世床、瀧亭鯉丈ノ八笑人ナド、是レナリ。材ヲ、世話ニ取リ、口語體ノ文ニテ記セリ。

こつけつこう (感) 鷄ノ鳴聲、こけ、こうニ同ジ。

こつこ (接尾) 競 [接尾語ノくらべ、くら、こくら、この條ヲ見ヨ] (一)競ヒ合フコト。コクラ。熟語ニ用ヰラル。「こっこ」戰こっこ」鬼こっこ」鬼こくら」(二)互ニ、モノスルコト。爲合フコト。「代りこ」こ(カハリアヒ)

こつこつ (副) [擬聲語] 堅キ物ノ、相當ル音ニ云フ語。「小石デ戶ヲ、こつこつ叩く」

こつこつ (副) 兀兀 [字典「兀兀、不動貌」] 心ヲ他へ動カサズシテ、一心不亂ニ勉學スル狀ニ云フ語。韓愈、進學解「恆兀兀以窮年」

こつこつ (副) 矻矻 [正韻「矻矻、勞極也」] 骨折リテ、勞ルル狀ニ云フ語。漢書、王褒傳「工人之用鈍器也、勞筋苦骨、終日矻矻」「こつこつ働く」

こつこつ (副) (一)角張リテ、滑カナラヌ狀、又、柔カナラヌ狀ニ云フ語。「藍ガこつこつスル」(二)咳嗽ヲ喘ク聲ナドニ云フ語。心中重井筒(寶永、近松作)中「こつこつ咳セイテ來ル音ス」

こつざ (名) 兀坐 [兀兀トシテ坐ス] 動カズ、坐リ居ルコト。蘇軾詩「兀坐如枯株」

こつさう (名) 骨相 人相。カラダノ姿。コツガラ。北史、趙綽傳「卿、骨相不當貴耳」

こつさうがく (名) 骨相學 [英語、Phrenology. ノ譯語] 頭蓋骨ノ形ヲ相テ、其人ノ精神、能力ノ如何ヲ判定スル術。

こつさくあふぢやう (名) 乞索壓狀 無理ニ乞ヒ索メテ、强ヒテ書カスル讓狀。あふぢやう(壓狀)ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、廿三、新院嚴島還御事「人ノ持テル物ヲ、心ノ外ニスカシ取リ、人ヲ威シテ、思フ樣ノ文ヲ書カセント仕ルヲバ、乞索壓狀ト申シテ」

こつざけ (名) 骨酒 煮魚、燒魚ノ殘骨ニ、熱酒ヲ注ギテ飮ムモノ。熱湯ヲ用ヰルヲ、骨湯ト云フ。

コッサック (名) 哥薩克 こさっくノ條ヲ見ヨ。

こつさみ (副) 黠 [こっさハ、黠い意] 俗ニ、甚ダワルガシコキ狀ニ云フ語。(東京)「こっさみスゴク立チマハル」

こつし (名) 骨子 物事ノ、要トスルトコロ。コツ。「論文ノ骨子」

ごつし (名) 兀子 [正韻「兀、五忽切」說文「兀、高而上平也」ごしトモ云フハ、約ムルナリ(乞食、こじき。潔齋、けさい)] 腰掛ノ一種。又、ごし。倭訓栞、ごし「兀子ト書ケリ、榻ノ類ナリ、俗ニ、腰かけト云フ、四角ニシテ、腳カ長ミアリテ、四腳也ト云ヘリ」江家次第、二十、七日節會裝束「親王、大臣、大中納言以上兀子、三位參議、散三位、褥床子、四位參議、著倚子敷床子」二字類抄「兀子、コッシ、公卿座也」名目抄「兀子、ゴッシ」

こつじき (名) 乞食 人ニ、食ヲ乞ヒテ、生活スル者。カタヰ。モノモラヒ。コジキ。乞兒 乞丐

こつじき・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 乞食ヲス。物貰ヲナス。盛衰記、四十二、屋島合戰事「辛キ命生キテ、乞食しテ、這フ這フ、京ニ上ボリケル者也」

こつじきてう (名) 乞食調 雅樂ノ調子ノ名、呂ニ屬ス。倭名抄、四、曲調類「乞食調曲、秦王破陣樂、還城樂、云云」字類抄「乞食調、コッシキテウ」龍鳴抄、上「乞食調、こじきてうト云フ」敎訓抄、八「十二調子者、壹越調、呂、云云、平調、律、云云、乞食調、呂、云云」

こつじきぶくろ (名) 乞食袋 (一)僧ノ、乞食シタル食物、其他ヲ容ルル袋。文德實錄、十、天安二年八月「內供奉十禪師、傳燈大法師位光定卒、云云、帝聞光定在山、資用絕乏、別賜乞食袋、貯山中之急」元亨釋書、三、光定傳「弘仁上皇、聞定之窮厨屢缺、賜一嚢、御書曰光定乞食袋、其後、嚢中無所容」(二)尋常ノ乞丐ノ、雜物ヲ入レテ携フル袋ヲ、こじき袋ト云フ。耳底記(寬永、烏丸光廣)上「學問ハ、乞食袋ノヤウナル、ヨキト、宗祇ヤラムガ書キタルモノニアリ、何ヲモ先ヅ、取入レテ、サテ、擇ルナリ」(松屋筆記、九十三、百四十七)

こつじく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 乞食 [こつじき(乞食)ヲ活用セシメタル語] 乞食ヲナス。コジク。發心集、二、第十四條「中頃、近江ノ國ニ、こつじきアリク翁アリケリ」

こつしや (名) 乞者 托鉢、乞食スル僧。著聞集、五、和歌「此乞者ハ、三形ノ沙彌ナリ」

ごつしやう (名) 業障 ごふしやう(業障)ノ條ヲ見ヨ。謠曲、源氏供養「松風ノ吹クトテモ、業障ノ薄雲ハ、晴ルル事、更ニナシ」

こつしよ (名) 忽諸 忽緒 [說文「忽、忘也」忽忽不省事也」韻會「諸、語助辭」] (一)忽チ、盡クルコト。消滅スルコト。左傳、文公五年「皐陶庭堅、不祀忽諸」(二)ユルガセニスルコト。オロソカニスルコト。江談抄、五「橘孝親ハ、常信之、敢以不忽諸、凡、反古ナドニモ、敢ヘテ异カマヌ人ナリ」盛衰記、一、一族官位昇進事「此入道ノ世ノ間ハ、聊モ忽緒ニ申ス者ナカリケリ」同、十三、高倉宮信連合戰事「誠ノ御使ト存ジ侍レバ、イカデカ忝クモ、宣旨ヲ忽緒シ奉ルベキ」

こつじよ (副) 忽如 忽然ニ同ジ。張協詩「人生瀛海內、忽如鳥過目」

こつずゐ (名) 骨髓 (一)骨ノ中ノ髓。史記、扁鵲傳「其在骨髓、雖司命無奈之何」(二)眞ノ精神。神髓。錦繡段(文明)序「淵明之詩、有達磨之骨髓」(三)ホネミ。心ノ底。思ノ極。戰國策、燕策「吾每念、常痛於骨髓」「怨、骨髓ニ徹ス」

こつせつ (名) 骨節 ホネブシ。ホネノツガヒ。骨ノ關節。史記、孔子世家「得骨節專車」

こつせつ (名) 骨折 人體ノ骨ノ、全部、又ハ、一部ノ、折レタル狀態ノ稱。

こつぜん (副) 忽然 タチマチ。ニハカニ。ハカラズ。忽如。史記、賈生傳「千變萬化兮、未始有極、忽然爲人兮、何足控摶」太平記、五、相摸入道弄田樂事「何處ヨリ來ルトモ知ラヌ、新座、本座ノ田樂ドモ、十餘人、忽然トシテ、座席ニツラナテツ、舞ヒ歌ヒケル」

ごづせんだん (名) 牛頭栴檀 [ごづ

ハ、牛頭ノ吳音、[illegible]ノ[illegible]山、峯ノ執、牛頭ノ[illegible]、[illegible]牛頭山トモ云フ」栴檀ノ、天竺ノ牛頭山ニ産スルモノ、[illegible]ト云フ時、牛[illegible]ト云フ、[illegible]香。[illegible]、牛頭[illegible]七「摩羅耶山、出ニ栴檀香、名曰ニ牛頭」若以塗レ身、設人ニ火坑、火不レ能レ燒」翻譯名義集、三「此山峯狀如ニ[illegible]牛頭[illegible]」[illegible]「[illegible]玉」品ナドニモ、取リワキテ宜ヘル、ごづせんだんトカヤ」倭名抄、十二「香名[illegible]牛頭香、俗云、五立、出ニ大秦國、氣似ニ麝香ニ」

こっそ（名）［骨疽］ 瘺骨疽ノ條ヲ見ヨ。

ごそり（[illegible]）［[illegible]］ ヒソカニ。コッソ。

ごそり（[illegible]）（一）[illegible]ヲスル状ニ云フ語。[illegible]云、去ル後家ヲ[illegible]メ申セバ、ごっそりト」（二）殘[illegible]、[illegible]。[illegible]ごそり。

こつたう（名）［骨堂］ 火葬ノ後、遺骨ヲ[illegible]ノ[illegible]堂。[illegible]八月[illegible]一[illegible]

ごったかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）［擾亂］〔おたおた騷すナリ〕俗語ニ、甚シク混雜ス、入リ亂レテ、騷グ。[illegible]

ごったに（名）［骨帶煮］ [illegible]、[illegible]ノ物ヲ、おたまぜニシテ煮タルモノ。[illegible]

こづたふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［木傳］ 木ノ、枝ヨリ枝ヘ、傳ヒ移ル。竹ニモ云ヘ[illegible]

こったん（名）［骨炭］〔英語、Bone-black.ノ譯語〕牛馬、等ノ骨ノ、脂肪分ヲ去リテ、[illegible]キタル炭。砂糖ノ精白、又ハ、物ノ汚色ヲ脱スルナドニ用キラル。又、獸炭。

こっち（代）［此方］〔おちノ急呼、木端、[illegible]〕此方ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

こづち（名）［壞］〔おまけしトアレバ、粉土ノ義ナルベシ〕肥エテ、柔カキ土。[illegible]

こづち（名）［小槌］ うちでのおづちノ條ヲ見ヨ。又、小サキつち。

こっちゃう（名）［骨張］〔骨張るノ字ノ音[illegible]、其條ヲ見ヨ、骨頂ナドト記スハ、當字ナリ〕（一）ホネバルコト。意地張ルコト。言ヒ張ルコト。主張 盛衰記、四、白山[illegible]山事[illegible]、比叡山ノ僧侶、白山神輿ヲ奉ジテ入洛セムトスルヲ、差止メラルルニ就キテノ[illegible]、[illegible]明ノ旅宿、[illegible]ノ[illegible]、心元ナシトテ、中宮ノ[illegible]ノ中ニ、[illegible]、[illegible]明、[illegible]光、[illegible]ノ骨張ノ[illegible]、六人、云云、[illegible]ヘ申ス間、云云」明月記、嘉應元年十一月十六日[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]之由、[illegible]、骨[illegible]

[illegible]、三十四、仁治二年十一月廿九日上[illegible]、[illegible]、三[illegible]中、[illegible]、[illegible]色[illegible]、[illegible]、可[illegible]出[illegible]之[illegible]、[illegible]ナリ）（二）無理ニ骨張スト云フ意ヨリ轉ジテ、張本、發頭ノ義トナリ、移リテハ、隨一、至極ノ義トナル、共ニ、惡シキニ云フ。[illegible]小[illegible]ノ[illegible]、一[illegible]、[illegible]ナト云ヒシ人ハ、[illegible]シク、[illegible]ナラヌ者ニテアリシカドモ、鎌倉ノ右大將、イトホシクセラレテ、日[illegible]ノ[illegible]モハカラヒ申シテ、今ノ世ニ、諸國ニ、地頭ナド置カレタルモ、[illegible]ノ申サレタルトゾ[illegible]リシ、[illegible]ヤウノ人ヲ尋出シテコソ、物好ミノ骨頂ニテモアルベケレ」「盜人ノこっちゃう」野暮ノこっちゃう」惡ノこっちゃう」馬鹿ノこっちゃう」

こづつ（名）［小筒］ てっぽう（鐵砲）ノ條ヲ見ヨ。

ごっつう（名）御馳走ノ急呼、饗應ヲ、丁寧ニ云フ語。ごつつうサマ」

こつつぼ（名）［骨壺］ 火葬シタル骨ヲ納メオク壺。檜桶ナルヲ、骨桶ト云フ。

こつづみ（名）［小鼓］ つづみ（腰鼓）ノ條ヲ見ヨ、[illegible]六、[illegible]八[illegible]殿上ニ名ヲ得タル、小鼓ノ上手ニテ候ナレ」

こづつみ（名）［小包］（一）小サキ包。狂言記、吃「十二ノ品デ縫ウタル小包み一ツ、持タセウテ」（二）小包郵便物ト云フハ、書狀、及、郵便ノ禁制品ヲ除キ、總ベテ、品物ヲ包裝シテ、發送スルヲ得ルモノ。

こづつみいうびんぶつ（名）［小包郵便物］ 前條ノ（二）ヲ見ヨ。

こって（名）［牡牛］ 次條ノ語ノ下略

こってい（名）［牡牛］ おとひうおノ條ヲ見ヨ。

ごづてんわう（名）［牛頭天王］〔ごづハ、牛頭ノ吳音、此神ノ梵名ハ、（Gavagriva）瞿摩揭利婆ナリ、瞿摩ハ、牛ト譯シ、揭利婆ハ、頂ト譯ス、國スル所ノ像、頂ニ、牛頭ヲ戴ケリ〕（一）天竺ノ神ノ名、忿怒鬼神ノ類ナリト云フ。天刑星祕密儀軌ニ「[illegible]、[illegible]、[illegible]ニトアリト云フ」（二）佛家ニテ、素戔嗚尊ヲ、牛頭天王ノ垂跡トス、蘇民將來（其條ヲ見ヨ）ニ、除疫ノ茅輪ヲ與ヘラレシ故事ニ因レルニヤ。京都ノ東山ナル祇園天王社（今、八坂神社）、是レナリ。[illegible]、上[illegible]牛頭天王、素戔嗚尊」

こってり（副）［濃厚］〔おってハ、おておて（其條ヲ見ヨ）ノおてノ急呼、りハ、添ヘタルモノ（[illegible]ノ條ヲ見ヨ）おとおと、おとり。どくと、どっくりと〕甚ダ、濃ヤカニ。濃ク、厚ク。（あっさりノ反）[illegible]出世[illegible]、元祿、近松作、上[illegible]、こってりト、味ナ事ニ[illegible]源氏色三居ニ享保、昔ノ女子ニ[illegible]ハ、アタマノ辻ニタテカク、おしろい、おてり、[illegible]ニ目[illegible]ツケテ」

ゴッド（名）［神］〔英語、God.〕西洋ニテ、神ノ稱。天帝。上帝。

こっとう（名）［骨董］〔諸說アレド、要スルニ、擬聲語ナリ、おとおと、おたおたト云フハムガ如シ〕古道具、古器物。[illegible]骨董、乃たい、初無ニ定字ニ、東坡詩作ニ骨董羹一、おったナリ[illegible]用ニ此二字ニ、晦庵先生語錄、只作ニ汩董ニ名物考、[illegible]州有ニ骨董羹ニ、則[illegible]突ニ[illegible]」[illegible]方以智云、古器也[illegible]之[illegible]、[illegible]、古器也、呼骨切、[illegible]日、今[illegible]骨董、[illegible]之說也」[illegible]、古董、小說語、古道具ノコト、古董行、古道具屋ヲ云フ」「骨董[illegible]」「骨董品」骨董店モ 古道具屋ナリ」

こっとつ（名）［糊塗鶻突］〔金壺字考「糊塗、昏忽突」通雅、三十九、渾沌、糊塗、鶻[illegible]

突、皆、聲轉」(一)ハキトセヌコト。分明ナラヌコト。曖昧。朱子語錄「儘㑹不分曉ノ事曰二鶻突一、卽、糊塗之音便也」字典、糊塗、不二分曉一也」宋史、呂端傳「太宗欲レ相二呂端一、或曰、端、爲レ人糊塗、帝曰、端、小事糊塗、大事不二糊塗一、決レ意相レ之」(二)糊塗ハ、今、世ニ、多クハ、こと卜讀ミテ、彌縫ノ意ニ用ヰラル。取リツクロヒオクコト。マジクナヒオクコト。「其場ヲ糊塗ス」

こつとひ (名) 牡牛 ことひうしヲ見ヨ。

こつなし (形) 無骨 こちなしヲ見ヨ。

こつにく (名) 骨肉 (一)骨ト、肉ト。ホネミ。禮記、檀弓、下篇「骨肉歸二復于土一、命也」(二)親子、兄弟ナドノ、血屬ノ者。呂氏春秋「父母之於レ子也、子之於二父母一也、此之謂二骨肉之親一」韓非子、姦劫篇「君臣非レ有二骨肉之親一」平家物語、十一、腰越事「こつにく同胞ノ義、既ニ絕エ、宿運極メテ空シキニ似タルカ」太平記、廿一、鹽冶判官讒死事「他人ハ云ニ不レ及、親類、骨肉ダニモ、欲心ニ、年來ノ好ヲ忘ケレバ」

こつの (名) 牛角鰓 (小角ノ義カ) 牛ノ角ノ尖ノ中ノ、堅キ骨。本草和名、下七「牛角鰓、角中骨也、字之乃古都乃」(倭名抄、同ジ) 本草、牛角鰓「李時珍曰、此、卽、角尖中堅骨也」

こつぱ (名) 木片 (木端ノ急呼、此方、こつち。極印、こつくい) 柿板ヲ、こば板トモ云フ、是レナリ」(一)コケラ。斧、手斧ナドニテ、ハツリタル、材ノ木屑。木柿 倭訓栞、こつぱ「柿ヲ讀メリ、木端ノ義、こけらニ同ジ」守貞漫稿、六、生業、はつり賣「江戶ニテ、木端賣、こつぱうりト訓ズ、京坂ニハ、はつりト云フ」(二)木屑ナルヨリシテ、用ヲ成サヌ、役ニ立タヌト云フ意ニ轉ジテ、俗ニ、罵ル語ニ用ヰラル。「こつぱ侍」こつぱ夜郎」

こつぱい (名) 骨牌 (骨ニテ造リタル牌」) かるたノコトニ用ヰラル。正字通、牌「牙牌、今戲具、俗傳、宋宣和二年、云云、高宗時、詔如二式頒一行天下一、今謂二之骨牌一、蓋、皆博塞格五之類」俚言集覽、骨牌「小說語、かるた、宋徽宗、始メテ製ス、共ニ、數、三十六枚アリ」

ごつぱうにん (名) 業報人 (ごつぱうハ、ごふはう(業報)ノ急呼(業障、ごつさう。合掌、がつさう)因果ノ業報ヲ受クベキ人ノ意) 人ヲ、罵リ呼ブ語。浮世床(文化、三馬)初編、上「トンチキ、ごつぽう人」

こつぱひ (名) 骨灰 (一)骨灰ノ條ヲ見ヨ。(二)こはひ(粉灰)ノ條ヲ見ヨ。

こつばん (名) 骨盤 身體ノ左右ノ髖骨ト、後方ノ薦骨、及、ソレニ續ク小サキ尾閭骨トガ、種種ノ靭帶ニ依リ、結合シテアルモノ。コシボネ。

こつぱる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 毆 〔搔毆る、かつぱる、こつぱるト轉ジタル語、奴語ナルベシ、かがむ、こごむ。一遍かぎり、一遍こつきり〕 俗ニ、力ヲ入レテ毆ル。ナグリツケル。「あたまヲこつぽる」

こつぴどい (形) 小酷 〔小ハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 ひどいト云フニ同ジ。稍、意ヲ强ムル心アリ。「こつぴどくハネツケル」「こつぴどい目ニ遭ハス」

こつひろひ (名) 骨拾 こつあげ(骨揚)ニ同ジ。

こつぶ (名) 小粒 (一)チヒサキツブ。粒ノ、小サキモノ。「山椒ハ、こつぶデモ辛イ」(二)往時、京都ニテ、豆板銀ノ異名。永松堂金譜「上方ニテハ、豆板銀ヲ、小粒トイヒ」(三)往時、關東ニテ、一分判金ノ異名。又、二朱金、一朱銀ヲモ云ヒキ。金銀圖錄、二「一分判、世ニ、短尺一步トモ云フ、俗ニ、小粒ト云フ」(四)身體ノ、小サキ人ヲ呼ブ語。小柄。小兵。小男。寫女五枚羽子板(寶永、近松作)中「昆布ニ山椒、小粒ナ男モ、陽氣ヲ受ケテ、舟歌ヲ嗩ル、一曲奏ル」「こつぶノ人」

コップ (名) 高脚杯 洋杯 〔葡語、Copo. 蘭語、Kop.(英語、Cup.)〕 (一)杯ノ、脚アリテ、高キモノ、多クハ、硝子製ナルニ云フ。(二)骨牌ノ象ノ稱。倭訓栞、こつふ「かるたニテ、朱ノ丸キヲ云フトゾ」

こつぶきん (名) 小粒金 いちぶきん(一分金)ノ異稱。金銀圖錄、七「關東ノ小粒金ヲバ、上方ニテ分判ト云フ」

こつぷん (名) 骨粉 獸骨ヲ脫脂シテ、粉トシタルモノ、肥料トス。燐酸肥料。

こつぶり (名) 小首 こくび(小首)ニ同ジ。國性爺後日合戰(享保、近松作)一「今日ノ大將、此ノ錦舍、日本ノアンダ辨慶、スッスッスト、小首振ッテ、勇ミケル」

こつぼ (名) 子宮 (子壺ノ義カ) 子宮ノ條ヲ見ヨ。

こつぽう (名) 骨蓬 水草ノ名、かうほねノ條ヲ見ヨ。

こつぽふ (名) 骨法 〔文心雕龍、書記篇「法者、象也」〕 (一)人ノ體格。コツガラ。史記、淮陰侯傳「相二人何如一、對曰、貴賤在二於骨法一」神代記、下廿七「有二一貴客一、骨法非常」(二)法。(法ノ如ク)法例。作法。略シテ、骨トノミモ云フ。骨なしト云フハ、不作法ナリノ意ナリ。盛衰記、十三、高倉宮信連合戰事「衞府ノ宮ヲケガス侍ニ、裝附ケム事、ムゲニ、骨法ヲ知ラザリケリ」平家物語、三、鼓判官「鼓ノ骨法忘レジトヤ、鞨ノ羽ニテハイダリケル的矢一手ゾ、差シ添ヘタル」校定、平家物語(山田孝雄)五、勸進帳事「御前ノ骨、內證ヲバ不レ知、只、申シノレヌゾト心得テ、是非ナク、御坪ノ內へ破リ入リ、大音聲ヲ揚ゲテ申シケルハ」ニ文覺、院ノ御所、法住寺殿へ推參セルナリ」(三)專ラ、藝術ノ骨法。神髓。常ニ、骨ト云フ。古事談、五、諸道「神樂、云云、藏人盛家、其骨ヲ得テ、人長ヲ仕リケリ、云云、忠方ハ、歌ノ骨アルニ因リテ、神樂ノ風俗ヲ歌ハシム」徒然草、百五十段「天性、其骨ナケレドモ、道ニナヅマズ、妄ニセズシテ、年ヲ送レバ、堪能ノ、嗜マザルヨリハ、終ニ、上手ノ位ニ至リ」藩翰譜、四、下、井伊氏ノ條、關ガ原ノ戰ニ、島津氏ノ兵ノ落行クヲ、井伊直政ガ、徒ラニ兵ヲ損ゼムヲ慮リ、身方ノ兵ゾト云ヒテ、見ヌ振リシテアリシヲ「直政ガ兵、元ト甲斐ノ武田ガ家ニアリシガ、頻リニ、敵ノ由ヲ云ヒシカバ、直政コラヘズ、追懸ケテ戰ヒシガ、果シテ、守殿モ、直政モ、手負レヌ、危カリシ事ナリ、直政ガ士、骨法ナシト、人皆、爪彈キシタリトナリ」此骨法ハ、戰術ノ意、守殿ハ、家康ノ第四子松平下野守忠吉、直政ガ婿) (四)今ハ、技術ノ妙所。又、其氣合。呼吸。祕訣。「相撲ノこつヲ知ル」三味線ノ甲乙ノこつヲオボエル」商賣ノ駈引ニこつガアル」

こつぽり (名) 木履 〔擬聲語、履キテ歩メバ、こつぽりト音ス、ぽっくりモ、同ジ〕 はきものノ名、京都ノ語、關東ニテぽっくりト云フモノ、其條ヲ見ヨ。

こづま (名) 小褄 褄ヲ、少シ、後ヘカラゲテ着ルコトナルベシ。目覺草(寬永)上「若法師、云云、裏紫ノ小袖着テ、こづま後へ引キマハシ」都風俗鑑(延寶)一「裾短カナル着物ヲ、こづま高ク着ナシ、足袋ハ、筒短カニ、云云」天和笑委集、八、上野花見ノ女「一尺五寸ノ大振袖、云云、一前ニ引合ハセ、小づまヲ揃ヘテ、着ルモアリ」

こつまく (名) 骨膜 骨ノ外面ヲ覆フ膜。

こつまくえん (名) 骨膜炎 骨膜ニ起ル炎症、患部、發熱シ、腫レ、烈シク痛ミ、膿ムモノアリ。

こづみ（名）[illegible]ノナリト云フ、或ハ云フ、木端ノ轉ト（假[illegible]）[illegible]屑芥ノ古[illegible]

[illegible]

こづむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［偏］〔偏語（カタヅ）むノ約、かづむ、こづむト轉ジタルニハ[illegible]〕[illegible]かたよめす、きこしめす」 カタヅム。カタヨル。[illegible]ノ先ヲ、ムヅト踏マヘケリ、踏マヘラレテ、搔きづみテ、ヤスヤスト止マリニケリ」正章千句（慶安）「ホトトギス、[illegible]メゲル、[illegible]きづみスル、九重ノ[illegible]」

こづめ（名）［小爪］ 手足ノ爪ノ、切屑。此ニ[illegible]小爪ヲ拾[illegible]

[illegible]ル端ナレバ、何ヲ尋ヌルゾ、ト問ヒタマヒシニ、御爪一ツ[illegible]ベ、爪一ツ落チタリ、信長公、御思アリテ、物毎ニ、カクコソ念ヲ入ルベキ事ナレトテ、御褒美アリケリ」

ごづめ（名）［五爪］ 龍ノ繪ニ、四足ノ爪ノ、五本ヅツアルモノ、蝦夷錦ノ織模様ナドニモ見ユ。

ごづめ（名）［後詰］ うしろづめノ條ヲ見ヨ。太平記、三、赤坂城軍事「城内ノ案内者ヲモニ[illegible]ク城ヲ責ムベキナント」

ごづめづ（名）牛頭馬頭〔同レモ、字ノ異音ナリ〕 地獄ニ居ル獄卒ノ、牛頭人身ナルモノ、馬頭人身ナルモノ。[illegible]ウト云フトモ、黄泉ノ旅ニ出デナム後ハ、ごづめづノ責ヲバ、免レタマハジモノヲ」

こつゆ（名）［骨湯］ 骨酒ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

こづら（名）［小面］〔チヒサキ面〕 建築ノ語、角石、又ハ、煉瓦ナドノこぐち。其六面中ニテ、最モ狭小ナル面ナリ。此面ヲ外部ニアラハシテ敷キナラベ、又ハ、積ミアグルナドニ云フ。

こづらにくい（形）［小面憎］〔小ハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 つらにくいト云フニ同ジ。稍、意ヲ強メテ云フ心アリ。[illegible]下河内通（享保、近松作）「[illegible]こづらにくい[illegible]」

こつりゃく（名）忽略 ユルガセニスルコト。ナホザリニスルコト。[illegible]

こつを（名）［許都魚乞魚］〔こつうをノ約（氷魚、ひを）こつ、詳カナラズ、乞ハ、字音ヲ當テタルナリ、鮠ハ、乞魚ノ合字、漢字ノ鮠ハ、魚名トノミアリテ、何魚ナルヲ知ラザレド、別物ナリ〕 魚ノ名、鯇ノ類、鼠色ニシテ、口ハ、頷下ニアリ、長サ二丈餘ニ至レルアリ、尾ハ、燕ノ尾ノ如シ、備後ノ鞆津ニテハ、今モ、こつト云フ。燕尾魚[illegible]

こつをけ（名）［骨桶］ 骨壺ノ條ヲ見ヨ。

こて（名）鏝 [illegible]ト云フ、或ハ、泥ニ因ミアル語カ〕（一）壁ニ、泥、漆喰ナドヲ塗リツクル具、鐵ニテ、扁ク作ル、柄アリ。[illegible]天」七十一番職人盡歌合、二番、壁塗「ヤレヤレ、ウバラヨ、家ニテ、こて富トリテコ、壁ノ大工マイリテ[illegible]」（二）やきごてノ條ヲ見ヨ。

こて（名）［小手］ 手ノ、腕頸ヨリ先。小手先。「小手返シ」「小手調べ」「小手投ゲ」コレニ對シテ、腕、肱ヲ、高手ト云フ。人ヲ、高手小手に縛るト云フハ、後手ニシテ、高手、小手、頸ニ、繩ヲカケテ、縛リアグルナリ。[illegible]引キスユル」

こて（名）［籠手小手］〔前條ノ語ヨリ移ル〕（一）鎧ノ具、肱、臂ノ全體ヲ覆フモノ、式正ノ鎧ニハ、左ニノミ用キタリト云フ、胴丸、腹卷ナドニハ、左右ニ用キル、布帛ニテ作リ、籠手の袋トモ云ヒ、手甲ノ表面ニ、座盤トテ、薄鐵ヲ黏附シ、肘鐵トテ、肘先ニモ當テ、是レ等ノ間ヲ、鎖ニテ綴ル、内面ニ、かがり緒ヲ設ケテ、手頸ニ括リツク。臂鎧 [illegible]合戰事「平一揆、三萬餘騎、小手の袋、四幅袴、笠符ニ至ルマデ、一色ニ皆、赤カリケレバ」（二）劍術道具ノ一、兩腕ヲ覆フモノ、先ヲ、手袋ノ如ク作リ、肘ニ及ブ、白布ニテ縫ヒ、手首ニハ、内ニ、獸毛ヲ入レ、其外ニハ、もめん綿ヲ入ル。腕ヲ擊ツヲ、こて參るト云フ。

こて（名）［射韝］〔倭訓栞「籠手ノ義ナリト云ヘリ」〕 手纏、手覆。弓射ル時、左臂ニ覆フモノ、今、弓籠手ト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

こで（句）［不來而］〔來ずてノ約、見ずてヲ見でト云フ、同ジ。佛足石歌「善キ人ノ、正目ニ見ケム、御足跡スラヲ、我レハエ見ズ、岩ニ彫リツク、石ニエリツク」〕 來ズシテ。キタラズシテ。枕草子、十、百三十二段「或人ノ、イミジウ時ニアヒタル人ノ聟ニナリテ、一月モ、ハカバカシウモこで、ヤミニシカバ、スベテ、イミジウ言ヒサワギ」

ごて（名）［碁手］〔碁ヲ打ツ術ノ優劣ニツキテ云フ語ナルベシ〕 圍碁ノ勝負ニ供スル賭物。西宮記、臨時、三、延喜十八年八月廿日、御庚申御遊[illegible]云云、[illegible]著聞集、十二、博奕「承平七年正月十一日、[illegible]碁手ハ、[illegible]ニテゾアリケル、昔ハ、ウヤウノ晴ノ儀ニモ、賭物ニ出デケルニコソ」

ごて（名）［後手］（一）碁、將棋ニ、敵手ヲ防グ手トナルコト。（先手ニ對ス）運歩色葉集「後手、ゴテ」「後手ヲヒク」（二）事ヲ爲ルニ、人ニ後ルルコト。テオクレ。落後。[illegible]云云、忠兵衞樣ハ、後手トイヒ」

ごて（名）後手〔て（隊）ノ條ヲ見ヨ、先手ニ對ス〕 アトゾナヘ。後陣。後軍。

曾我五人兄弟（元祿、近松作）三「六波羅勢、先手モ、後手モ、打チ亂レ」

ごて（名）【御亭】ごていしゅノ條ヲ見ヨ。

こてい（名）【小體】〔チヒサキ體裁〕住居、生計ノ、小サク、約ヤカナルコト。「小體ノ住居」「こていニ暮ラス」

こてい（名）【古體】古キスガタ。昔シノ風。古風。

こてい（名）【戸庭】門戸、家庭ノ內。易經、下經、節卦「不レ出二戸庭一、知二通塞一也」

こてい（名）【孤亭】一ツノ亭。ヒトツヤ。梅堯臣、會路院沃州亭詩「孤亭一入野氣深」

こてい（名）【固定】固ク、定マルコト。動カヌコト。「一處ニ固定ス」「固定資本」

こでい（名）【健兒】〔こんでいノ中略、（昆明池、こめいち）〕こんでいノ條ヲ見ヨ。盛衰記、三十三、木曾院參頑狼事「牛飼トハ、エ云ハテ、ヤレ小牛健兒ヨ、ヤレ小牛健兒ヨト云ケレバ、車ヲヤレト云ゾト心得テ」（八坂本）

ごてい（名）【五帝】支那上代ノ、五人ノ聖君、即チ、黃帝、顓頊、帝嚳、帝堯、帝舜、ノ稱。（史記、大戴禮、孔子家語）又、伏羲、神農、黃帝、堯、舜。（皇王大紀）尙、異說、多シ。平治物語、一、信賴信西不快事「惟レバ、三皇五帝ノ、國ヲ治メ、四岳八元ノ、民ヲ撫ヅ」

ごてい（名）【五鼎】五ツノ鼎ニ、五種ノ肉味ヲ盛リテ、祭ニ供フルコト。孟子、梁惠王、下篇「前以二三鼎一、而後以二五鼎一」注「三鼎、士祭禮、五鼎、大夫祭禮」漢書、五鼎食、注「牛、羊、豕、魚、麋」（異說、多シ）五鼎ニ食ふトハ、榮進、榮達スル意ナリ。漢書、主父偃傳「大丈夫生不二五鼎食一、死則五鼎烹耳」

ごてい（名）【御亭】（一）亭宅ノ尊稱。吾妻鏡、廿六、貞應二年二月廿七日「建二立伊籃井御亭一」（二）御亭主ノ略、次次條ヲ見ヨ。狂言記、萩大名「御てい、不案內ニオヂャル」

こていしほん（名）【固定資本】固定シタル資本。屋、生產、又ハ、收益ニ使用スレドモ、唯、其一部ノ效用ヲ減損スルノミニテ、長ク保存セラルルモノ、不動產、機械、器具、船舶ノ類、是レナリ。又、唯一回使用スレバ、其效力、全滅シ、其存在ヲ變ズルモノヲ、流動資本ト云フ、貨幣、薪炭、其他、諸種ノ原料、是レナリ。

ごていしゅ（名）【御亭主】〔下略シ、又、約ムルハ、御前ヲごぜ、又、ごト云フニ似タリ〕亭主ヲ、丁寧ニ云フ語。下略シテ、ごてい。又、約メテ、ごっさん。（おかみニ對ス）更ニ略シテ、ごて。狂言記、宗論「ナウ、御亭主、別ノ間ハ、オジャラヌカ」同、笠下「御ていニ尋ネタイ事ガゴザル」倭訓栞、ごて「伊勢ノ南方ニテ、父ノ事ヲ、ごてト云ヘリ、御亭主ノ略ニヤ」俚言集覽 ごて「處ニ因リ、人ノ夫ヲ指シテ、ごてさんト云フ、江戶、新吉原町デモ、サ云フ」

こていた（名）【鏝板】鏝ニテ、物ニ塗付クベキ泥土、漆喰、等ヲ、分チ盛ルニ用キル小板。

こでう（名）【枯條】カレエダ。枯枝。陸機、漢高祖功臣文「悴葉更輝、枯條以肄」

ごてう（名）【後朝】（一）明クルアサ。翌朝。盛衰記、十三、入道信二嚴島一事「後朝、藏人左衞門權佐定長、太政入道ノ宿所ニ參ジテ、云云」吉部秘訓抄、建久四年十一月五日「今日、仁和寺小宮、御灌頂、後朝也」（二）きぬぎぬノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ごてう（名）【五調】雅樂ノ、五ツノ調子、壹越、平調、雙調、黃鐘、盤涉、ナリ。魏書、樂志「若善二琴術一、則知二五調調音之體一」

ごてう（名）【五兆】とほかみえみためノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

ごでうのけさ（名）【五條袈裟】袈裟ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

ごてうのつかひ（名）【後朝使】〔きぬぎぬノ條ノ（二）ヲ見ヨ〕男女、相會シタル翌日、使ヲ以テ、女ノ許ヘ、文ヲ送ルコト。增鏡、第十三、今日の日影、御入內「後朝の御使ニハ、公貫中將ナリシ」

こてうはい（名）【小朝拜】てうはい（朝拜）ノ條ヲ見ヨ。江次第抄、一「小朝拜、朝拜者、於二大極殿一被レ行レ之、百官悉預焉、至二小朝拜一者、仙籍之外、不レ列レ之」

ごてがかり（名）【五手掛】江戶幕府ニテ、大事ノ訴訟ナドアル時、寺社奉行、勘定奉行、町奉行、大目附、目附、ヨリ、各、一人ヅツ出デ加ハリテ、其掛リトナルコト。

こてがへし（名）【小手返】〔小手ノ條ヲ見ヨ〕柔術ノ手ノ名、相手ノ隙ヲ見テ、我ガ兩手ニテ、相手ノ手ヲ捕ヘ、逆ニ捩ヂテ、其手頸ノ關節ヲ痛メテ倒スナリ。

こてこて（副）分量ノ多キ狀ヲ云フ語。澤山。コッテリ。コテト。俚言集覽、こてこて「物ノ、卓山アルノ俗語」「泥ヲ、こてこてト塗ル」「白粉ヲ、こってりツケル」白粉ヲ、こてト塗ル」

こてさき（名）【小手先】〔小手ノ條ヲ見ヨ〕手先ト云フニ同ジ。「こてさきデアシラフ」

こてしらべ（名）【小手調】〔小手ノ條ヲ見ヨ〕小手先ノシラベ。劍術ヲ鬪ハスル初ニ、試ミニ、一寸行フ技。試鬪

こてそで（名）【籠手袖】（一）素襖ノ袖ヲ、先細ニ縫ヒタルモノ。狩ノ時、又ハ、犬追物、笠懸ナドノ時ニ、着用ス、籠手トシテ用キルナリ。又、袖細。（有職故實辭典）（二）襦袢ノ袖ノ、筒袖ノ如キモノ。衣食住記（天明）「襦袢モ、色色ナリシ、元文頃、梅鼠黃ノ小手袖ナリシガ、寶曆ニハ、花色中形染、本袖、或ハ、筒袖、明和ニハ、五分長トテ、袖口ノ外ヘ出ヅルアリ」

ごてたまふ（動）〔宣ぶちたまふノ上略轉ナルベシ（あいだちなし、あいだてなし。長路、ながて）此語、下ノ東屋ノ外ニハ、所見ナキガ如シ〕宣リゴチタマフ。勅。源、四十九、東屋廿「今度ノ頭（藏人頭）ハ、疑ヒナク、帝ノ、御口ヅカラごてたまへるナリ」俗語考（橘守部）ごてた「武藏ノ葛飾郡、五箇村ト云ヘルアタリノ一郷ニテハ、いひごてたハ、いひごてた、しごてた、トヤウニ云フコトアリ、いひごてたハ、爲ごさせられた、ト云フ意ナリ、源氏、東屋ニ、ごてたまへり、云云」

こてつ（名）【故轍】（一）過ギ去レル、轍ノ跡。梁簡文帝、臨汝侯墓誌銘「草茂二故轍一、松插二新枝一」（二）先例。舊蹤。元史、陳祖仁傳「殿二天下之勢一、當レ論二其輕重、强弱、遠近、先後一、不レ宜下膠二手二一偏一、狃中手二故轍上」

ごてつく（動）ごたつくニ同ジ。

ごてと（副）ごてごてノ條ヲ見ヨ。

こてなげ（名）【小手投】相撲ノ投ノ手ノ一、相手ノ差シタル小手ヲ、上手ヨリ捲キテ、腰ノ力ニテ投グルコト。

こてのおほひ（名）【籠手覆】手ノ甲ヲ覆フ所。テカフ。平治物語、二、義朝落二着青墓一事「シレ者カナトテ、馬ノ口ニ取リツク處ヲ、同隊ニ斬リ給ヘバ、籠手の覆ヨリ打チテ、打落サレテ、ノキニケリ」

こてのふくろ (名) ［籠手袋］ こて(籠手)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こてふ (名) ［胡蝶］ (一)てふ(蝶)ト云フニ同ジ、其條ヲ見ヨ。(二)こてふらく(胡蝶樂)ノ條ヲ見ヨ。

こてふ (名) ［孤蝶］ 一ツノ蝶。 陸游詩、[illegible]

こてふ (句) 來よト云フノ約(おふニ云フノ條ヲ見ヨ)こトハ、來よト云フ命令形ナリ、古ハ、よヲ添ヘズシテ用ヰラレタリ、來レト云フ。古今集、十四、戀、四「月夜ヨシ、夜ヨシト人ニ、告ゲヤラバ、こてふニ似タリ、待タズシモアラズ」仲文集「春ノ訪フ、心づかひヲ、尋ヌレバ、花ノ匂ニ、こてふナリケリ」

こてふさう (名) ［胡蝶裝］ をりほんノ條ヲ見ヨ。

こてふのまひ (名) ［胡蝶舞］ 次條ヲ見ヨ。

こてふのゆめ (名) ［胡蝶之夢］ 物我ノ別ヲ忘レタル喩ニ云ヒ、又、人生ノ果敢ナキコトニモ云フ。支那ノ三代ノ周ノ時、莊周ト云フ者、夢ニ胡蝶トナリ、樂シミテ、花ニ戯レ、己レガ莊周ナルコトヲ知ラズ、夢覺メテ、我レニ復リテ、胡蝶ナルヲ知ラズト云フ故事ヨリ云フナリ。 莊子、齊物論「昔者莊周夢爲胡蝶、栩栩然胡蝶也、自喩適志與、不知周也、俄然覺、則蘧蘧然周也、不知周之夢爲胡蝶與、胡蝶之夢爲周與、周與胡蝶、則必有分矣、[illegible]」[illegible]一心一切心、[illegible]枝上月三更」 詞花集、十、雜、下「百年ノ、花ニ宿リテ、過シテキ、此世ハ蝶ノ、夢ニゾアリケル」小町露「[illegible]春ノ上散ル花ヤ、胡蝶の夢ノ、百年目ニ時暮レリト云フ意」

こてふらく (名) ［胡蝶樂］ 舞樂ノ曲ノ名。こてふのまひ。常ニ略シテ、胡蝶トモ云ヒ、蝶トノミモ云ヒ、迦陵頻伽ノ答舞ナレバ、連稱シテ、蝶鳥トモ云フ。童舞ニテ、四人ナリ、蝶ノ羽ヲ廣ゲタル形ノ衣ヲ負ヒ、天冠ニ、山吹ヲ插頭トシ、同ジ枝ヲ執リテ舞フ。 著聞集、十、相撲強力「[illegible]童舞ノ胡蝶樂ヲ舞シケリ」宇津保物語、藏開、上「四人ハ、こてふ、左右ニ立出デテ、イト、ヲカシウ舞フニ」 謠曲、關寺小町「百年ハ、花ニ宿リシ胡蝶の舞」(前條ヲ併セ見ヨ)

こでまり (名) ［小手毬］ 灌木ノ名、高サ四五尺、葉、狹ク長クシテ、やまぶきノ葉ニ似タリ、春、花ヲ開ク、形、繡毬花ニ似テ、白ク小サク、大キサ一寸半許ナリ。繡毬 生玉心中(正德、近松作)上「誰カ八重櫻ヤ、樒、櫨ヤ、緋、南天ニ、小手毬ニ、イトシ可愛ト鶯ノ、扇ノ形ニ末廣ノ」

こてん (名) ［古典］ (一)古代ノ典型、法則。 [illegible]式古典、[illegible]之容」云云」 (二)古代ノ典籍、經典。 [illegible]

こてん (名) ［古點］ 支那ノ經書ナドニ、古註ノ解釋ニ據リテ、訓點ヲ附ケタルモノ。新註ニ據リタルヲ、新點ト云フ。古註ノ條ノ(二)、井ニ、古學ノ條ヲ見ヨ。

こでん (名) ［古傳］ 古代ヨリノ言ヒツタヘ。 [illegible]

ごてん (名) ［御殿］ (一)高貴ノ人ノ住家ノ敬語。 謠曲、竹生島「[illegible]御殿ノ扉ヲ押シ開キ、[illegible]ニ入ラセ給ヒ」 (二)清涼殿ノ一名。 日中行事「藏人、御殿ノ格子ヲアグ」名目抄「御殿、清涼殿、又、中殿[illegible]清涼殿ハ、中殿トモ云フ、常ニ、御殿トノミ云フモ、清涼殿ノ事ナリ」

ごてん (名) ［午天］ 〔午時ノ天〕 ごご(午時)ニ同ジ。ヒルドキ。

ごてん (名) ［五天］ 五天竺ノ略、てんぢくノ條ヲ見ヨ。 釋迦如來誕生會(元祿、近松作)四「昔ハ、五天ノ御上、[illegible]ノ内ニシテ、月卿、雲客ニカシヅカレ給ヒシ身ノ」

ごてん (名) ［五典］ (一)五倫ノ條ヲ見ヨ。(二)支那、上代ノ書物ノ名。 [illegible]

ごでん (名) ［誤傳］ 誤リタル言ヒツタヘ。眞實ナラヌ、ウハサ。「誤傳ヲ蹈襲ス」

ごてんい (名) ［御殿醫］ 德川時代、幕府ニ仕ヘ居ル醫師、町醫者ナドニ對ス。

ごてんぢく (名) ［五天竺］ 天竺ノ條ヲ見ヨ。 神皇正統記、序說「靈山ノ南ハ、五天竺」

ごてんぢょちゅう (名) ［御殿女中］ 將軍家、大大名ナドノ奧向ニ仕ヘ居ル女中。

こデラぶくろ (名) ［小寺袋］ はなかみぶくろノ條ヲ見ヨ。

こてれうぢ (名) ［鏝療治］ 燒鏝ニテ、療治スルコトナルベシ。 [illegible]

こてゑ (名) ［鏝畫］ 匂ニ、漆喰ヲ塗リ、其上ニ、鏝ニテ、風景、肖像ナドヲ、塗リ作リタルモノ。

こと (名) ［言辭］ 〔小音ノ約ニモアルカ〕 (機の音、かぢのこと)物言フ聲。モノイヒ。常ニ多ク、ことばト云フ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。 神代紀、上[illegible] 古事記、上[illegible]「言を食む」ト云フハ、漢語、食言ノ訓讀。約束ニ背ク。違約ス。 [illegible]

こと (名) ［事］ 〔倭訓栞、こと「事ト、言ト、訓、同ジ、相須テ用ヲナセバ也」事ハ、皆、言ニ起ル〕 (一)ワザ。シワザ。仕事。所作。 神代紀、上[illegible] (二)世ニアラハルル現象。コトガラ。事件。 枕草子、七、六十八段「世ノ中ニ、事、出デ來、物、サワガシクナリテ」 竹取物語「家ノ人ドモニ、物ヲダニ言ハムトテ、言ヒカクレドモ、ことトモセズ」源、五十二、手習四十七「山ヨリ下リハベルコト、昔ハ、事トモ思ヒタマヘラレザリシヲ」 (三)常ニ變ハレル出來事。變事。大事。 萬葉集、十六「事シアラバ、小泊瀬山ノ、石城ニモ、隱ラバ共ニ、莫思ヒ吾背」[illegible]「事モナク、アリ來シモノヲ、老次ニ、カカル戀ニモ、吾ハ、遇ヘルカモ」[illegible]見シ無ケレバ、ことトアル時ハ、ナホ、寄リドコロナク、心細ゲナリ」「スハ、事、起レリ」 (四)チナミ。ユヱ。ワケ。緣故。事故。 古今集、序「春ノ花ノアシタ、秋ノ月ノ夜毎ニ、侍フ人人ヲ召シテ、事ニツケツツ、歌ヲ奉ラシメタマフ」同、十八、雜、下「田村ノ御時(文武天皇)ニ、事ニアタリテ、津ノ國ノ須磨ト云フ所ニ、籠リ侍リケルニ」 (五)動詞、形容詞、等ニ添ヘテ、名詞トスル語。

集、十四ノ十「中マナニ、浮キ居ル鶴ノ、漕ギ出ナバ、逢フ許等雖シ、今月ニシ有ラズハ」「降ルことこと、雨ノ如シ、深キことこと、靜カナルこと、美シキことこと」

こーと（名）【事】〔食事ヲ上略シテ、事ト云ヘルニカ、節供ヲ、節事トモ云ヘリ〕僧ノ夜食。雜談集（嘉元、無住）三「昔ハ、寺寺、只、一食ニテ、朝、一度シケリ、云云、後ニハ、山（比叡山）モ、奈良（南都興福寺）モ、三度、食ス、夕ノヲバ、事ト、山ニハ云ヘリ、云云、夕方、寄合テ、事ト名ヅケテ、我我、世事シテ食ス、ト云ヘリ」著聞集、十八、飲食「右京大夫顯輔卿ノ許ヘ、或人、ことヲシテ、贈リタリケルニ、云云、僧ドモ、オホラカニ食ヒケル」

こーと（名）【辭】〔漢書、揚雄傳「上天之縡」註「師古曰、縡、事也、讀、與ㇾ裁同」書經、舜典篇「熙ニ帝之載ㇾ」註「廣ニ帝堯之事ㇾ」〕（一）前前條ニ同ジ。百練抄、八、承安三年五月二日「於ニ上皇御所ㇾ有ニ鬪合事ㇾ云云、縡、起ニ兼日之儀ㇾ、爲ニ當日之壯觀ㇾ」關城書「雖ㇾ待ニ救兵之到ㇾ、縡、及ニ延引ㇾ、經ニ五箇月ㇾ」（二）いき、氣息、生命。「縡切る（死ヌ）」

こと（名）【骨】〔骨ノ音ヲ、ことト用キル〕ハ、乙ヲ、おとト用キルト、同ジ、倭名抄、五「山城國、乙訓郡、於止久邇」「乙姬」〕事ニ同ジ。事柄ヲ、骨柄トモ書ク、其條ヲ見ヨ。江家次第、九、九月、不堪佃田「坪付ノ文、申上骨」頭書「骨ハ、事之心也」同書、九「坪付ノ文、申上ト申セル事」倭訓栞、こと二「江次第、朝野群載ニ、骨ヲ、ことト讀メリ、云云、音ヲ取ルナルベシ」

こと（名）【琴】〔擬聲語ナリ、日本釋名（元祿）下、雜器「琴、ころいとナリ、中ヲ略ス、聲アル絃ナリ」東雅（享保）七、器用「琴ヲ、ことト云フモ、義ヲ、音ニ取リシモ知ルベカラズ」南留別志（享保）「こととト云フハ、琴ノ音ト云フ事ナリ」按ズルニ、絃ノ音ノ、ことことト聞ユルナリ、沖繩ニテ、くとト云フ（倭琴ハ、琴軋ト云フ撥ヲ用キ、彈くヲ、搔くト云フ）ふえ（笛）、つづみ（大鼓）、かね（鉦）、ささら（簓）、皆、音ヲ取リテ名トセルナリ（天詔ノことナリト云フハ、鑿ナリ、其條ヲ見ヨ）〕（一）〔樂器ノ名、一面ノ、長キ板ノ上ニ、絃ヲ張リワタシテ、彈キ鳴ラスモノ、多クハ、桐板ニテ、相合ハセテ、中ヲ空シク作リテ、絃ノ響キヲ成サシム。ことト云フハ、我ガ國ノ神代ヨリアル六絃ノモノナルニ、後ニ、唐琴ノ入リ來リシヨリ、ソレニ對シテ、倭ごと（倭琴）ト云フヤウニナレリ。（其條ヲ見ヨ）古事記、上（神代）二十七「天詔琴」應神紀、三十一年八月、長歌「枯野（船名）ヲ、鹽ニ燒キ、其ガ餘リ、琴ニ造リ」萬葉集、七十詠ニ和琴ニ「琴取レバ、歎キ先立ツ、蓋シクモ、琴ノ下樋ニ、妻ヤ籠レル」（下樋ハ、琴ノ腹ナリ）（二）〔唐琴ニ、琴ノこと、箏ノこと、琵琶ノこととアリ、くだらごとト稱スルハ、初、百濟國ヨリ傳ヘタレバナルベシ、倭名抄ニ、江湖ニ音ト云ヒ、享祿本類聚三代格ニハ、公午ト傍訓シ、伊呂波字類抄ニハ、こうこうト訓ジ、拾芥抄ニハ、こうこうト訓ズ、皆、箜篌ノ音ナリ、其器、長サ五尺、體、曲リテ、長ク、絃、廿三アリ、竪ニ懷キ、兩手ヲ用キテ、齊シク奏ス、コレヲ、擘箜篌、又、竪箜篌ト云フ、（信西入道古樂圖ヲ見ヨ）又、一器アリ、長サ二尺九寸、上、濶サ六寸、下、濶サ五寸一分、形、琴ニ似テ、小サシ、五絃ヲ施シ、左右ノ手ヲ以テ彈ズ、其柱ハ、琵琶ノ如シ、コレヲ、臥箜篌ト云フ、（體源抄、八ニ、圖アリ）又、別ニ、頸ニ、軫アル者、コレヲ、鳳首箜篌ト云フ。其、本邦ニ傳ヘシハ、何ノ時ニ在ルコトヲ詳カニセズ、書紀ニハ、欽明天皇ノ朝、百濟、初メテ樂人ヲ貢スト、蓋シ此時ニ在ルニヤ。箜篌師、箜篌生ノ職、格式ニ著ハレ、其名、寶龜十一年ニ勘錄スル所ノ、西大寺資財帳、及、拾芥抄ニ收ムル所ノ、承平四年ノ樂器目錄ニ見エ、東大寺正倉院ニ、今尙、竪箜篌ヲ傳ヘタレドモ、毀損ノ餘、其聲調ヲ知ルニ由ナク、且ツ、曲譜モ亦、亡佚シテ、傳ハラズト。又、新羅ごと、須磨ごと、八雲ごとナドアリ、製作モ、種種ニシテ、絃ノ數モ、各、異ナリ、各條ニ註ス。（三）今世ニ、專ラ、ことト云フハ、十三絃ノ筑紫琴ナリ、其條ヲ見ヨ。

こと（名）【異】〔異所ノ轉ナラムカ（心、けけれ。杭、けけら）〕（一）常ニ變ハレルコト。別ナルコト。後撰集、十、戀、二「世ノ常ノ、哭ヲシ泣カネバ、逢フコトノ、涙ノ色モ、ことニゾアリケル」源、一、桐壺四「此皇子、生レタマヒテ後ハ、イト、心、ことニ思ホシオキテケレバ」齋宮女御集「ソノカミハ、サシモ思ハデ、來シ事モ、思フコトコソ、ことニナリヌレ」（二）此語、多ク、接頭語ノ如ク用キラレテ、あだし、異なる、別なる、常ならぬ、ノ意ヲ成ス。竹取物語「こと物ノ皮ナリケリ」伊勢物語、第十段「父ハ、こと人ニアハセント云ヒケルヲ」「異心」「異事」「異國」「こと樣」（三）ことに（殊）ノ條ヲ見ヨ。

こーと（名）【古都】フルキ、ミヤコ。前カタノミヤコ。舊都。

こーと（名）【古渡】こわたりニ同ジ。（新渡ニ對ス）

こーと（名）【糊塗】こつとつト讀ムベキナリ、其條ヲ見ヨ。

ごと（副）【如】〔ごとくノ語根、此語、常ニ多ク、何ノごと、某ノごとくト、他語ノ下ニ用キラレ、連聲ニテ濁ル、サレド、獨立ナル時ハ、淸音ナルナリ（萬葉集古義、七）但シ、淸音ニテ、語尾ノ活用シタルヲ見ズ、古今集ノ歌ノ、ことならば、ヲ、顯注密勘ニ、かくの如くならば、ノ意ト釋セリ〕此ノ如ク。斯。カヤウニ。カヤウ。コノヤウ。允恭紀、八年二月、櫻ノ御製「花グハシ、櫻ノ愛、許等愛デバ、早クハ愛デズ、我ガ愛ヅル兒等」（斯ク愛デバ、早クヨリ愛ヅベカリシニナリ、衣通姬ニカケテ言ヒタマヘルナリ）萬葉集、十ノ十一「如是ナラバ、イカデ植ヱケム、山吹ノ、止む（止む）時モナク、戀フラク思ヘバ」古今集、一、春、下「ことならば、咲カズヤハアラヌ、櫻花、見ル我サヘニ、靜心ナシ」萬葉集、十五ノ十九「殊降ラバ、袖サヘ濡レテ、通ルベク、降リナム雪ノ、空ニ消ニツ」同、十三ノ三十四長歌「琴酒カバ、國ニ離カナム」（殊、琴、借字ナリ、ことさかばノ條ヲ見ヨ）

ごと（接尾）【如】〔如くノ語根〕ゴトク。ヤウニ。雄略紀、十三年九月「雷ノ語等、聞エシカド」源、十三、明石三十六「思ヒノごと、榮エタマハバ」

ごと（接尾）【毎】ごとにノ條ヲ見ヨ。

ごと（接尾）【共】〔悉ノ上略ナラム、故ニ濁ル〕共共ニ。イッショニ。グルミ。京阪ニテ、グチ。「餅ハ、重箱ごと進上スル」梨ノ實ヲ、皮ごと食フ」

ご-ど（名）【後度】ノチノタビ。後日。（先度ニ對ス）聖德太子繪傳記（享保、近松作）二「スグニ城ヲヤ乘ルベキ、陣ヲ堅メテ、後度ノ勝チヲヤ待ツベキ」後度ノ便ヲ待ツ

ことあげ（名）【言擧】言揚ニ、論ヒ言フコト。揚言。神代紀、上十一「乃興言曰」古事記、中（景行）五十三「爲言擧而詔」纒向紀、廿一年六月、筑紫國造磐井、近江毛野ニ對シテ、揚言曰、今爲使者、昔爲吾伴、摩肩觸肘、共器同食、云云」萬葉集、十八ノ三十一「我ガ欲リシ、雨ハ降リ來ヌ、斯

〜おとあげせぬくに (名) [illegible] シア [illegible] 不穏ナル [illegible] ニテ、[illegible] 事ナ [illegible] 不穏國、陰レドモ、新學ゾ沓ハスル、事宗ク、眞深ク [illegible] スル」(知ル人ノ、平安ナラムヲ思ヒテ、詠ゼシナル [illegible]

〜おとあ・ふ [illegible] 事、[illegible] モウレシウ、イミジト思ヒキコエタマヘルニ、拾「左 [illegible] 事也」

〜おとおやまり (名) [事誤] [illegible] ノ義〕事ノ、アヤマルコト。事ノ、ユキチガフコト。錯誤 源、四、夕顔「チヒサキ [illegible] 内内ノおとおやまりモ、世ニ漏リニタルベシ」後撰 [illegible]

〜おとありがほ (名) [事有顔] 仔細アリゲナル [illegible] 二近ク候ラハジト、サバカリノ忌ミヲダニ、心ノ児 [illegible] ルケシ、呼子鳥、おとありがほニ、人試皆メソ」

〜おとい・づ ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動、下二) [言出] (他動ノいづ(出)ノ條ヲ見ヨ、いでハ、常ニト略セラレテ、おとでトナル」 言ひ出づニ同ジ、言ひ出すナリ。約メテ、おとでト云ヒ、又、言ないでト

云フ。源、四十八、寄生「タハヤスクおといづべ [illegible] ムモノカラ、我レ、サカシラニ、おといでムモアイナ [illegible] ガ言ナルカ、小山田ノ、苗代水ノ、(序)中澱ニシテ」 古今 十七、雑、長歌「[illegible] 忌忌シミ」[illegible] 鈴六「イッシカトノミ、おといみでテハ宜ハネド」 源、五十一、蜻 [illegible] 果瀬川、下ニ通ヒテ、惜シキモノヲ」

〜おといみ (名) [事忌] 不吉ナル事ヲ、忌ミ慎ムコト 源、三十四、下、[illegible] サマサマニ物悲シキヲ、カツハ忌忌シト、おといみシテ」 [illegible] 正月一日、人人ノ、[illegible]」

ご-ど-いり (名) [五度入] 三度入ノ條ヲ見ヨ [illegible]

こ-とう (名) [古帝] 骨董ノ條ヲ見ヨ

こ-とう (名) [孤燈] 一ツノ燈火。 謝惠連詩 [illegible]

こ-とう (名) [弧燈] こくくわうでんとう (弧光燈) ニ同ジ。

お-どう (名) [小胴] 腰鼓ノ條ヲ見ヨ。

こ-どう (名) [古銅] 銅器ノ製作ノ、年代ヲ經タルモノ、多ク、支那ヨリ渡レルモノニ云フ。[illegible] コトウノクッピン」

こ-どう (名) [鼓動] 〔字典「鼓、振動也」〕 心臓ノ、どきどきト動クコト。心トキメキスルコト。〔烈シキ心臓ノ鼓動〕

ごとう (名) [御燈] 陰暦、三月三日、九月三日ニ、天子ノ、北斗星ニ供シタマフ御

燈明 [illegible] 江家次第、六、三月、三日御燈 [illegible] ニ、燈明ヲ奉リタマフナリ、昔ハ、北山靈岩寺ナド云 [illegible]

ごとう (名) [梧桐] [illegible]

ご-とう (名) [後堂] 〔[illegible]〕 禪寺ニテ、前住ノ次ニ住スル僧ノ稱。(多クハ、永平寺ナルニ云フ)

おと-うけ (名) [言承] イラヘ。答へ。ウケコタヘ。返答。 今昔物語、二十八 [illegible] 本「一人アル女アリト聞キテ、假借シケルニ、女、おとうけシケレバ、行キテ見ルニ」 徒然草、百四十一段「東人コソ、云ヒツル言ハ頼マルレ、都ノ人ハ、おとうけノミヨクテ、實ナシ」

ごとう-け-ぼり (名) [後藤家雕] 後藤雕ノ條ヲ見ヨ

ご-とう-しん (名) [五等親] 古代ノ制ニ、[illegible] 中ニテ、父母、養父母、夫、子、ヲ一等親トシ、祖父母、嫡母、繼母、伯叔父、姑、兄弟、姉妹、夫ノ父母、妻妾、姪、孫、子婦、ヲ二等親トス、其他、疎遠ナルニ從ヒテ、三等、四等、五等ニ、別々ニ [illegible] 今ノ親等ハ、少シク異ナリ 親族ノ條ヲ見ヨ。

おと-うた (名) [琴歌] 十三絃ノ筑紫琴ニ上セテ謡フ歌、組歌ト、外曲トアリ、組歌ハ、數首ノ小歌ヲ組ミ合ハセタルモノ、外曲ト云フニハ、長歌、端歌、手事物、等アリ、長歌ハ、長篇ヲ成セリ、何レモ、三味線ト合ハセテ、彈キ歌フ。(筑紫

琴、[illegible]、ノ條ノ(二)ヲモ見ヨ)

ごとう-てん (名) [後藤點] 後藤芝山ノ施セル、四書、五經ノ訓點、朱子學ノ新註ニ據リ、道春點ノ古キヲ、簡易ニ改メタリ、當時、大イニ行ハレ、今モ、書肆ニテ賣ル所ハ、他ノ諸點本ノ上ニアリ。芝山ハ、讃岐ノ高松藩ノ儒士ニテ、名ハ世鈞、字ハ守中、通稱ハ彌兵衛、芝山ト號ス、天明二年没ス、年六十二。

ごとう-ぼり (名) [後藤雕] 彫金工ノ一流ノ名、美濃ノ人、後藤四郎兵衛祐乘、足利將軍義政ニ仕ヘ、刀劍ノ金物ノ彫刻ニ名アリ、子孫、其技ヲ承ケテ、江戸時代ニ至レリ、後藤家雕、又、家彫ト云フ。

こ-とう-やき (名) [湖東燒] 〔琵琶湖ノ東ノ地ナリ〕 近江國、佐和山ノ麓ノ地ニテ製出スル燒物、文政十二年ニ、彦根ノ商人、開キ、天保十三年、彦根ノ藩業ニ移レリ、尾張、京都、加賀、等、諸國ノ陶工ヲ招キ作ル。土ハ、其地ヨリモ出デ、又、他所ヨリモ取寄ス、陶器、磁器、共ニアリ、赤繪、青繪、金襴手、樂燒ノ類アリ、藩主ヨリ、諸方ヘ進物ニシタルモノナリ。

〜おと-えり (名) [言擇] 言葉ヲ、擇ルコト。コトバエラビ。 源、二、帚木「文ヲ書ケド、おほどかに、おとえりヲシ、墨ツキすノカニ、心モトナク思ハセツツ」

おと-おほ (名) [事多] 用事ノ、繁多ナルコト。(おとすくなニ對ス) 多事 多端 「御事おほノ中」

おと-がき (名) [事書] 事ヲ、箇條ニ立テテ、書キ列ヌルモノ。箇條書。公書ニ

モ、私書ニモ云フ。吾妻鏡、八、文治四年二月二日「所所地頭等所領已下事、云云、御事書云、寶殿、越後國、奧山莊、地頭不當事、修理大夫家、尾張國、津島社、板垣冠者、不ㇾ辨ニ所當ㇾ之由事、云云」武家名目抄、文書、三、上「凡、箇條書ハ、一條每ニ、某事、某事ト記スガ故ニ、或ハ又、事書トモ云フナリ」庭訓往來、八月「奉行人令ㇾ取ニ落書ㇾ、於ㇾ引付ㇾ、猶ニ御評定異見ㇾ所ㇾ令ニ成敗ㇾ也」關城書考ニ戰スル、與國ニ年十二月、常陸ノ關城中ナル、北畠親房卿ヨリ、陸奧、白河ナル、結城親朝ニ贈ラレタル書翰ニ「以ニ此事書之趣ㇾ能能可ㇾ有ニ料簡ㇾ候也」トアリ。太平記、十五、三井寺合戰事、「彌勒ノ首ニ、血ノ付キタリケルヲ見テ「山法師ヤ仕タリケム、大札ヲ立テテ、一首ノ歌ニ、事書ヲ副ヘタリケリ」

おとがき (名) [言書] 詞書ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

おとか・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) [事缺] 物事、不足ス。不自由ス。(事足るノ反) 發心集(鴨長明)二、第六條「行德高キ人、多シ、云云、此法師、知リタマハズトモ、サラサラおとかくマジ」沙石集(弘安)四、下、第四條、此御病ニ、御着病ノ人モ疲レテ、おとかけタル由、傳ヘウケタマハリテ」

〔**おとかた** (名) [異方] 異ナル方。別ノ所。別處 枕草子、五、四十九段、あさましきもの「賭弓ニ、云云、矢ノ、モテハナレテ、おと方ヘユキタル」榮花物語、廿七、衣珠「おとかた二離テ袭リヌ」

ごど・カハラけ (名) [五度土器] 三度入ノ條ヲ見ヨ。

〔**おとがま・し・シキ・シケレ・シク・シク** (形、二) [言譁] (かまし(譁)ヲ見ヨ) 物言ヒ、カシマシ。口ヤカマシ。源、三十八、夕霧六十「サガナクおとがましきモ、シバシハ、ナマムツカシウ、煩ラハシキヤウニハ、憚ラルルコトアレド」(本妻ノ嫉妬ニ云フ)

おとがま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) (隔てがまし、無禮がまし、同趣ナリ。形容詞ヲ形作ルがましノ條ヲ見ヨ) 事アルラシ。コトゴトシ。曾我物語、九、館屋の前にて咎められし事「何者ゾ、コレホドニ、夜深ケテ通ルハ、殊ニ、其體、事がましく出立チタリ、怪シヤ、通スマジ、トゾ咎メケル」

〔**おとがみ** (名) [琴頭] 琴ノ、頭ノ方。末ノ方ヲ、琴尾ト云フ。神功攝政前紀「琴頭尾」(あめののりおと(天詔)ノ條ヲ見ヨ)

おとがら (名) [事柄] (がら(柄)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 事ノサマ。事ノヤウス。事體 右京大夫家集(建禮門院女房)「御庵ノサマ、御住ヒ、ことがら、スベテ、目モ見アゲラレズ」(女院、大原ノ御花住ナリ) 著聞集、十五、宿執「宗顯、成經朝臣、等、藏人頭ニ補セラレニケリ、其朝、西行、弟子ヲ、中將ノ許ヘヤリテ、モシヤトテ、事がらヲ見セケルニ、アヘテ、日來ニカハルコトナカリケレバ」

おとがら (名) [事柄] [骨柄ノ轉、おと(骨)ノ條ヲ見ヨ] 骨柄。體格。骨格 平治物語、一、源氏勢汰事「容儀、事柄、人ニ優レテゾ見エラレケル」太平記、廿二、篠塚勇力事「其勢、事柄、勇鋭タルノミナラズ、兼ネテ聞コエシ大力ナレバ」

〔**おとき** (名) [異木] 異ナル木。別ノ木。枕草子、三、廿一段、桐ノ花「おときドモト等シウ云フベキニアラズ」謠曲、鉢木「窓ノ梅ノ北面ハ、雪封ジテ寒キニモ、異木ヨリマヅ先立テバ」

〔**おど・き** (形) [如] おとしノ條ヲ見ヨ。

〔**おときみ** (名) [異君] 異ナル御方。他ノ主君。落窪物語、一「我ガ君ニ仕ウマツラムト思ヒテコソ、親シキ人ノ迎フルニモ、マカラザリツレ、何ノ由ニカ、おときみ取リハ爲奉ラムト、泣ケバ」(主取、聟取ノとりナリ)

おとき・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [斷言] 言ヒ切ル。論斷 長明無名抄、下、近代古體事「此爭ヒ、ヤスクおときるベキヤウアリ」同、上、貫之躬恒勝劣事「貫之ガ劣り侍ルカ、おとヲきりタマフベキナリト、責メラレケレバ」

おとき・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [事切] (一)事、キマル。事件、終結ス。十訓抄、下、第九、第十條「汝ガ訴ヘ申ス、東國ノ庄ノ事、今マデ、事切れネバ、口惜シトヤ思フ、云云、コレヲ思ヒテ、今マデ、事きらヌナリ」(二)命、終ハル。縡切ル。死ヌ。保元物語、二、左府御最後事「午ノ刻バカリニ、御事切れニケリ」

おときれ (名) [事切] (一)コトキルルコト。關係ノ、斷絕スルコト。「談判、おときれトナル」(二)死ヌルコト。縡切。

〔**こ-どく** (名) [孤獨] 〔禮記、王制篇「少而無ㇾ父者謂ニ之孤ㇾ、老而無ㇾ子者謂ニ之獨ㇾ」〕(一)幼クシテ親ナキ者ト、老イテ子ナキ者ト。禮記、樂記篇「老幼孤獨、不ㇾ得ニ其處ㇾ」持統稱制前紀「賜ニ京師孤獨高年布帛ㇾ各有ㇾ差」戶令、義解「十六以下而無ㇾ父爲ㇾ孤也、六十一以上而無ㇾ子爲ㇾ獨也」太平記、三十三、公家武家榮枯易ㇾ地事「窮民、孤獨ノ、飢エヲ資クルニモ非ズ」「隰冥孤獨」(二)ヒトリダチ。孤立。易林「孤獨特處、莫ニ依爲ㇾ輔」阮瑀詩「有ㇾ鳥孤獨、哀ニ鳴北林ㇾ」

ご-とく (名) [五德] (一)人ノ具スル、五ツノ德。中庸章句、第三十一章「聰明睿知、寬裕溫柔、發强剛毅、齊莊中正、文理密察」(四文)註「五者之德、充ニ積於ㇾ中、而以ㇾ時發見ㇾ於ㇾ外也」論語集註、學而篇「子禽問ㇾ於ニ子貢ㇾ曰、夫子至ㇾ於ニ是邦ㇾ也、必聞ニ其政ㇾ、求ㇾ之與、抑與ㇾ之與、子貢曰、夫子、溫、良、恭、儉、讓、以得ㇾ之」註「五者、夫子之盛德、光輝接ㇾ於ㇾ人者也」(二)木、火、土、金、水、ノ五行ノ類。小學紺珠「天地有ニ五德ㇾ、潤、暵、生、成、動」(三)七德の舞ノ條ヲ見ヨ。

ご-とく (名) [五德] (夏山雜談(寬保)二「火所ハ、くどおナリ、倒サマニシテ、おとくナリ」(火所トハ、竈ナルカ)按ズルニ、鐵輪ヲ、禪家ニテ、火床ト云ヒシニハアラヌカ(火燵ノ條ヲ見ヨ)茶道ハ、禪僧ニ起ル、倒サマニ用キルハ、茶湯者ニ始マレリト云フ、緣ナキニアラズ、戲レニ呼ビテ、五德ノ當字シタルガ、音轉シタルカ(高僧ヲ、大德ト云フ)丑時參ニハ、鐵輪ヲ倒サマニ戴ク」鐵輪ノ(二)ノ異名。鐵ノ輪ニ、三脚アリテ、其端、尖リテ曲ル、コレヲ、爪ト云フ、火ノ上ニ立テテ、釜、鐵瓶ナドノ底ヲ支フ。沖繩ニテ、グトク。又、輪ヲ灰中ニ埋メ、脚ヲ仰ケテ用キルコトモアリ。鐵脚子 俳諧懷子集(明曆)「爪サキマデモ、思フ足許」灰ノ底、取ラム五德ノ、我ガ心」 增補、下學集(寬文)下、器財門「五德」庭訓往來、五月九日「鐵輪」庭訓往來諸抄大成扶翼(安永、伊勢貞丈)「かなわト云フハ、今、江戶ニテ五德ト云フ物也、三足アリ、かなわノ足ト云フ、今世ハ、輪ヲ下ニ埋メテ、足ヲ上ニシテ、逆ニ置クナリ、或人ノ曰ク、是レハ、茶湯者ヨリ、逆ニ置キ始ムルト云フ」

〔**おど・く** (形) [如] おとしノ條ヲ見ヨ。

〔**おとぐさ** (名) [言種] (物言フ種ハヒ) コトノハグサ。イヒグサ。クチクセ。伊勢物語、百八段「歌、云云、ト、常ノおとぐさニ言ヒケルヲ、聞キ及ビケル男(歌)」宇津保物語、國讓、下「大將ハ、醉ヒニタルカ、ナド、斯ハ云フ」大將ノ答「醉ハヌ時モ、おとぐさナレバ、皆人、耳馴レニタラム」拾玉集、四、山家「山里ニ、訪ヒ來ル人ノ、おとぐさハ、此住ヒコソ、羨マシケレ」

こどく-ぢごく (名) [孤獨地獄] 佛經ニ云フ地獄ノ一、山間、曠野、樹下、空中ニ、忽然トシテ現ハルルモノナリト云フ。

おとくに (名) [異國] (一)異ナル國。コトドコロ。他國。他所。異鄉 宇治拾遺、四、第四條「土佐國、幡多ノ郡ニ、云云、己ガ國ニハアラデ、おと國ニ、田ヲ作リケルガ」(二)異國。外ツ國。外國。異邦 源、廿六、常夏八「大和琴ト、ハカナウ見セテ、際モナク爲置キタル事ナリ、

殊ク、ことくにノことヲ知ラヌ女ノタメトナムオボ[illegible]

〔ことくは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）言加　[illegible]ヰ[illegible]、助[illegible]ス、容喙 [illegible] [illegible]ニハアラズ、タダ、人ニ甚レテ、聞カスルゾ」 同卷、四十四 [illegible] ニ云フ）

ことくらく（名）[illegible]〔大日本史、[illegible]樂志、胡德樂、百濟官第七品曰胡德、八胡德、與胡德通、答、胡、當名樂也、樂[illegible]二、未輝、既ニ絕エタリシコト、[illegible]樂ヲ代用ス、トアリ〕舞樂ノ曲ノ名、[illegible]人舞ナリ、一人、[illegible]ニテ、[illegible]、勸[illegible]酒盃ト云フ、一人、笑面ニテ、瓶子、酒盃ヲ持ツ、瓶子取ト云フ、[illegible]、[illegible]ヲ舞者ニ勸ム、舞者、醉ヒテ舞ヒ、其間ニ、瓶子取、獨舞ニノ、[illegible]ム、[illegible]滑稽ナル曲ナリ。 [illegible]

ことくおん（名）〔孤獨園〕 きふこどくをん（給孤獨園）ノ略、祇陀林ノ條ヲ見ヨ。 榮花物語、十五、疑「竹シゲリテ、人ノ跡モ見エズ、孤獨園ノ昔ノ庭ニハ、[illegible]ウセテ人モ住マズナリ」

〔ことおもろ（名）〔異心〕（一）他事ヲ思フ心。他意　宇津保物語、藏開、中「二[illegible]アル所ヲバ[illegible]」（二）アダシゴコロ。フタゴコロ。貳心　[illegible]テ、カカルニヤアラム、ト思ヒ疑ヒテ」

〔ことおこ（名）〔異事〕 異ナル事。外ノ事。別事。 [illegible] ハ、ことおこ無ク、明クレバ言ヒ、暮ルレバ歎キテ」

〔ことおと（副）〔事事〕「此方此方ト、同語、コノ事モ、事事物物ノ意」（一）ソレゾレニ。皆皆。何レモ　萬葉[illegible] 長歌「今ノ世ノ、人モ許等期等、目ノ前ニ、見タリ知リタリ」 徒然草、百八十八段「目ノ前ノ事ノミニ紛レテ、月日ヲ送レバ、[illegible]、皆スコトナクシテ、身ハ老イヌ」（二）アルカギリ。アリタケ。コトゴトク。 神代紀、下[illegible]長歌「我ガ孳寐シ、妹ハ忘ラジ、[illegible]」 [illegible] ヲ、泣キツツアリテヤ」（終夜、終日） 貫之集、五「[illegible]」

〔ことおとく（副）〔悉盡〕〔前條ノ語ニ、くノ添ハリタルモノ、コノくハ、副詞ノ接尾語ノ如シ、幸、さきく　漸、やゝ、やく、若、もしく。蓋、けだしく、ナドアリ〕スベテ、ミナ、アルカギリ、殘ラズ。 名義抄「悉、盡、コトゴトク」 發心集、七、第二條、六[illegible]「[illegible]ヲナサレタレバ、ことおとくオ將チアリ」

〔ことおとし・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔事事〕〔物物し、故故し、ナドト、同趣、重ネテ云ヒテ、意味ヲ強ムルテリ〕事故アルラシ。コトガマシ。大事ラシ。[illegible]イサウ[illegible]シ。ギャウサンナリ。做大

[illegible]

〔ことおとみ（副）〔異異〕 マチマチニ。別別ニ。區區　[illegible] 古今集、六、冬「梅ガ香ノ、降リオケル雪ニ、マガヒセバ、誰レカことおこ、別キテ折ラマシ」 [illegible] ク濃クコソ、色ハ咲キケレ」 みヲ添ヘヌコトアリ。 [illegible]

ことおとみ（副）〔毎事〕 ことみ（毎）ノ條ヲ見ヨ。

ことおまかみ（副）〔事細〕 クハシク。ツマビラカニ。仔細 [illegible]

ことおろ（名）〔碁所〕〔繪所ナドモアリ〕徳川幕府ノ時、圍碁ノ技ヲ以テ仕ヘタリシ家ノ稱、本因坊氏ヲ初トシテ、林氏、安井氏、井上氏ナドアリキ。（本因坊ノ條ヲ見ヨ） [illegible]

〔ことざえ（名）〔異才〕 他ノ學問。 宇津保物語、俊蔭六十「コノ世ノ人ニモ似ズ、イトアリガタク、[illegible]キ師ドモ召シテ、笙、横笛モ、習ハセ給フ」

〔ことさか（名）〔事解〕〔言離ノ語根、さかる（離）、井ニ、ことど（絕妻之誓）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）言ヒ離ルコト。[illegible] 離緣 神代紀、上、[illegible] シテ、解決スルコト。 古事記、下「[illegible]言離之神、葛城之一言主之大神者也」

〔ことさかむ（副詞句）〔清音ノ副詞ノさと（如）ノ語原、井ニ、四段活用ノさく（離）ノ條ヲ見ヨ〕此ノ如ク、此カバ、斯ク、離スナラバ。 萬葉集、十三、長歌「琴酒者、國ニ放カナム、[illegible]」 同、[illegible]「[illegible]放者、沖ニ放カナム」

ことさき（名）〔琴軋〕〔琴割ニテ、掻ク意ナルカ、又ハ、琴尖ニテ、琴爪ノ意ナルカ〕大和琴ノ撥。 [illegible]

〔ことさけを（枕）〔琴酒〕 うまさけ（味酒）ノ條ヲ見ヨ。

〔ことさへく（枕）〔喧語佅離〕〔ことハ、言ナリ、さへくハ、四段活用ノ動詞ニテ（名詞形ニ、佐伯トナル）喧る、喧擾く、ト通ズ、ザワザワト物言フ義ニテ、外國人ノ言語ノ、聞キ分ケガタキ意トシテ、韓、百濟ニカカルナリ〕 敏達紀、十二年十月「韓婦用韓語言」萬葉集、十六

「佐比豆留ヤ、辛碓ニ舂キ」(韓ニカク)」韓、又ハ、百濟ノ國ノ枕詞。萬葉集、二、廿九長歌「ツヌサハフ、石見ノ海ノ、言佐敝久、辛ノ埼」(石見國ノ地名ナリ、韓ニカク) 同卷、十三長歌「言左敝久、百濟ノ原ユ」(大和國、廣瀨郡ノ地名)

おと-ざま (名) 〔異樣〕 異ナレル狀。コトヤウ。異樣。 源、廿一、少女三十「殿ハ、おとざまニ覺シナルコト、オハシマストモ」狹衣、四、上三十「おとざまノ心モ、添ヒタルベシ」

おと-ざまし (名) 〔事醒〕 興ヲ、醒マスコト。 源、八、花宴二十「擦カレ入リタマヘル御サマ、ゲニイト異ナリ、花ノ匂モ、ケオサレテ、ナカナカ、おとざましニナム」

おと-さ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 〔事醒〕 興、醒ム。殺風景トナル。 枕草子、五、五十段「歌ハ、ト問ハセタマフ、云云、ソノ聞キツラム所ニテ、不圖コソ詠ママシカ、アマリ儀式、事さめツラムゾ、アヤシキヤ」

おと-さら (副) 〔殊更、故〕 (殊ヲ更ヲノ義、說文「故、使レ爲レ之也」) (一)目ニ立テテスル意ヲ云フ語。ワザト。ワザワザ。故。 萬葉集、四、十三「出デテ往ナム、時シハアラムヲ、故ニ、妻戀シツツ、立チテ往ヌベシヤ」(夫ノ旅行ニ、妻ノ詠ナルベシト云フ) 躬恒集、下「おとさらニ、死ナム事コソ、難カラメ、生キテカヒナク、物思フ身ハ」 源、二、帚木八十「おとさらニ、ナサケナク、ツレナキサマヲ見セテ」 榮主帥訶集 或人ノ許ニ行キテ、酒ナド飲ムニ、カク來タルハ、おとさらニハアラジナド云ヒテ」 (二)取リワケテ。別シテ。別段ニ。 宇津保物語、樓上、上六「カクテ、多クモ彈キ習ヒタマヒヌベケレド、おとさらニ、タダ、日ニ、ニツ三ツヲ敎ヘ奉リタマヒツツ、過シタマフ」「我ガ誕生日ガ、祭日ニ當ル、おとさらメデタク」

おと-さら・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 〔殊更〕 〔おきなぶノ語原ヲ見ヨ〕 殊更ニスルヤウナリ。コトサラメク。ワザトメク。ワザトラシ。 源、四十四、橋姬五三十「直衣、指貫、縫ハセテ、おとさらび着タマヘリ」同、二、帚木五三十「サスガニ、シノビテ笑ヒナドスル氣色、おとさらびタリ」

おと-さら-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔殊更〕 コトサラナルヤウニ見ユ。ワザトラシクアリ。コトサラブ。 源、三十二、梅枝十六「歌ナドモ、おとさらめきテ、擇リ得キタリ」 榮花物語、八、初花「おとさらめきテ、可笑シウテ」

おと-し (名) 〔今年〕 〔此年ノ義、名義抄、不部「此年、コトシ」〕 今ノトシ。現在ノ年。今年。今茲。(去年、來年、ニ對ス) 萬葉集、十四、二十「上ツ毛野、佐野ノ莖立、折リハヤシ、我レハ待タムヱ、許登之來ズトモ」 古今集、一、春、上「年ノ内ニ、春ハ來ニケリ、一トセヲ、去年トヤイハン、おとしトヤイハン」

おと-ぢ (名) 〔琴師〕 (一)琴ヲ彈ズルヲ職トスル人。 頭聚雜要抄(大治)三、祿「琴師、一疋」 (二)琴ヲ製造スル工匠。 人倫訓蒙圖彙(元祿)六、「琴師、琵琶、琴、三味線、同職ナリ」 文政武鑑「御琴師、石村平兵衞」

おと-ぢ (名) 〔小刀自〕 古へ、造酒司ニ備ヘアリシ、酒壺ノ一種。 續古事談、一、王道后宮、造酒司ノ大刀自トイフ壺ハ、三十石入ナリ、云云、三條院御時、大風吹キテ、カノツカサ倒レニケルニ、大刀自、小刀自、次刀自、皆、ウチワリテケリ」

おと・し・キ・ク・ク (助動) 〔如若〕 〔同じ事ヲ上略シテ、活用セシメタル語ナルカ、齊しト云フ語モ、一しナリ(眞事し、功し)何事ヲ上略シテ、おとトノミモ云フコト、多シ(事と云へば、事ぞともなく)此語ノ活用、形容詞ニ似タレド、おとけれト用キタル例ヲ見ズ、又、おとくヲ、ト用キルモ、形容詞ニ、異例ナリ、又、他語ノ下ニノミ用キラルレバ、首音、濁レド、元ト、清音ナルナリ、清音ノ副詞ノおとさ(如)ノ條ヲ見ヨ〕 比ベテ、齊シ。ソノ樣ナリ。此語、奈良朝ノ頃ニハ、動詞、助動詞ノ連體形ニツケテ用キラレタレド、後ニハ、多クハ、の、が、ノ下ニ用キラル。 萬葉集、五、八長歌「年月ハ、流ルル其等斯」同卷、三十一長歌「纆繩ヲ、延ヘタル期等久」同、十五、十長歌「行ク水ノ、カヘラヌ其等久、吹ク風ノ、見エヌガ其登久」 古今集、十二、戀、二「我ガおとく、物ヤ悲シキ、ホトトギス、時ゾトモナク、夜タダ鳴クラム」同、十八、雜、下「己ガ思ヒハ、此雪ノおとくナム積レル」「山ノ如し」海ノ如く」聞クガおとき」アルガおとく」無キガおとし」

おとし-おひ (名) 〔今年生〕 今年、生ヒ出デタルモノ。 貫之集「おとしおひノ、新桑繭ノ、韓衣、千代ヲカケテゾ、祝ヒソメタル」元眞集、人ノ、子生ミタル七夜ニ「カネテヨリ、千歲ノ影ゾ、オモホユル、マダ二葉ナル、おとしおひノ松」 齋宮女御集「今年おひノ、みかはノ池ノ、菖蒲草、長キタメシニ、人モ引カナム」 堀河百首、雜「おとしおひノ、離ノ許ノ、吳竹モ、秋ハ夜長ク、ナリヤシヌラム」

おとし-も-あり-がほ (名) 〔事有顏〕 〔おとありがほニ、し、も、ヲ加ヘタル語〕 おとありがほヲ、稍、意ヲ強メテ云フ語。 源、四十九、東屋四十「おとしもありがほニ思スラムヲ、タダ、オホドカニテ見エ奉リタマヘ」

おと-ぢり (名) 〔事知〕 (一)物事ヲ、知リ居ルコト。又、其人。モノシリ。(二)男女間ノ事ヲ、能ク知リヲルコト。又、其人。ワケシリ。 好色一代女(貞享、西鶴)五「御肌燗カナル風情、アトニテおとぢりニ尋ネシニ、彼レハ、都ノワケアル大盡ト聞クニ」

おと-ぢり (名) 〔琴尾〕 おとがみ(琴頭)ノ條ヲ見ヨ。

おとぢり-がほ (名) 〔事知顏〕 事柄ヲ知リタル如キ氣采。物知り顏。 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)二「オノオノ詞ナキ所ニ、おと知り顏ニ、梶原平三景時、進ミ出デ」

おと-ずくな (副) 〔事少〕 〔おとばずくなト云フ語モアリ〕 用事、少ナク。手輕ク。(おとおほノ反) 簡

おと-ずくな (副) 〔言少〕 おとばずくなノ條ヲ見ヨ。 源、二、帚木四「おとずくなニテ、トカク紛ハシツツ、トリ隱シ給ヒツ」

おと-せかい (名) 〔異世界〕 異國。他國。異鄕 大和物語、上「世ノ中ノ、思ヒノ外ニアルコト、おとせかいニ物シタマフトモ、忘レデ、消息シタマヘ」

おと-そ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 〔事殺ぐノ義〕 省ク。簡略ニス。 源、十二、須磨四十「コトサラニ、裝ヒモナク、おとそぎテ」枕草子、五、五十段「田舍ダチ、おとそぎテ」 源、五十一、蜻蛉七「サラバ、ノドカニ參ラム、立チナガラ侍ルモ、イトおとそぎタルヤウナリ」 増鏡、第二、新島守「松ノ杜ニ、葺キケル島ナド、氣色バカリおとそぎタリ」

おと-ぞ-と-も-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔事もなしニ、ぞ、と、ヲ加ヘタル語、其條ヲ見ヨ、おとあり顏ヲ、おとしもあり顏トモ云フ、趣キ似タリ〕 (一)何事ゾト云フコトモナシ。 後撰集、六、秋、中「人ハイサ、おとぞともなき、眺ニゾ、我レハ露ケキ、秋モ知ラルル」 同、九、戀、一「見ル時ハ、おとぞともなく、見ヌ時ハ、事アリ顏ニ、戀シキヤナゾ」 長方集「秋立チテ、おとぞともなく、悲シキハ、荻ノ葉ソヨグ、夕暮ノ空」 源、七、紅葉賀八「シバシバモ候フベケレド、おとぞとも侍らぬホドハ、オノヅカラ怠リ侍ルヲ」 (二)轉ジテ、容易シ。 古今集、十三、戀、三「秋ノ夜モ、名ノミナリケリ、逢フト云ヘバ、おとぞともなく、明ケヌルモノヲ」 新古今集、十五、戀、五「逢フト見テ、おとぞともなく、明ケニケリ、ハカナノ夢ノ、忘レガタミヤ」

ことたい（名）［異對］異ナル對屋。字津[illegible]ニ、[illegible]ミタマフ、ことたいドモニ、云云、對一ツヲ、二人ニテ住ム」

ことたえて［illegible］［illegible］言語ニ絶シ[illegible]言ヒヤウナク[illegible]ニ、否レハ未ダ見ズ、花絶曲(花絶)、カクオモシロク、[illegible]（[illegible]ナリ）

ことだ・つ［illegible］[illegible]メタマフ、云云、此者、事立ツニアラズ、天ニ日月アル如、地ニ山川アル如、並ビ坐シテアルベシト云フコトハ、云云、臣タチ、明ラケク見知レルコトナリ、[illegible]ハサラニテ、人目稀レナル山里モ、ことだつコトト[illegible]

ことだ・つ［illegible］十八、長歌、大君ノ、ヘニコソ死ナメ、顧ミハ、セジト[illegible]仕ヘ來ル、祖ノ職ト、言立テテ、授ケタマヘル、子孫ノ、云云」（大伴氏ノ、世職ノ武官ナルヲ云フ）

ことだて［illegible］[illegible]ズ、云云」同卷、長歌、世ノ人ノ、立ツル言立」

ことたばかり［illegible］[illegible]

ことたへま［illegible］[illegible]

訓栞「殊勝ノ義ナルベシ」たふ（勝）ノ條ヲ見ヨ、ことつたへコトト云フ語モアリ」

コトサラニ。ワザト。允恭紀、四年九月「上[illegible]字[illegible]止夫戸」

ことたま（名）［言靈］〔我ガ國、上古ハ、文字ナク、言語ノミニテ、萬事ヲ傳ヘ來[illegible]ベシ、詠、辭、及、語部ノ條ヲ見ヨ〕我ガ國ノ言語ハ、久シキ事ヲ言傳ヘ、又ハ、微妙ニ事ヲ述ベ、自在ニ事ヲ相通ジタルコトヲ、特ニ、稱揚ヘタル語ナルベク、[illegible]萬葉集[illegible]國、言靈ノ、幸ハフ國ト、語リ繼ギ、言ヒ繼ギケリ、云云、同、十三「敷島ノ、日本ノ國ハ、事靈（言靈）ノ、佐クル國ゾ、眞幸クアリコソ」同、十一「言靈（言[illegible]）ハ、八十ノ衢ニ、夕占問フ、占正ニ[illegible]ハム由」加茂保憲女集（一條天皇ノ頃）序「難波の中つ國、ナマメカシク、タヲヤカナル言葉遺リ、サカシク賢キコトハ、唐ニ劣リ、云云、ナホ言キ葉メテ[illegible]

ことたま（名）「異樣ナル端緒ノ意ニテ、[illegible]ト云ヒシ語ナラムカ」生命、壽[illegible]意ノ語ナルベシ[illegible]日ノ[illegible]タジケナサヨ、露ヒツル、ことたまナラバ、百年ノ、[illegible]ラチネノ、神ノ賜ヒシ、ことたまハ、千代マデ守レ、[illegible]

[illegible]ノ夜、[illegible]レバ、明年アルベキ吉凶ノ事、見ユト也」）

ことた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［事足］萬事、備ハル。滿足ナリ。（事缺クノ反）[illegible]ラズ、ワロビタル事ドモ、出デ來ルワザナメレバ、[illegible]たる、山ノ井ノ水」作者未詳」

ことぢ（名）［琴柱］〔琵琶ノ柱ハ、ちゆうト云フ、ぢ、トナリ、ぢトナル、從、從一位、從者トナルガ如シ〕琴、箏ニ張レル絃ノ下ニ加ヘテ、立テテ、高ク擡ゲテ、張リテ强クスル具、木製、高サ一寸八分、雙脚、刳リテ、開ク、頂ニ刻ミアリテ、絃ヲ受ク、コレヲ、左右ニ移動セシメテ、音ニ、高低ヲ出サシム、上略シテ、柱トノミモ云フ。[illegible]琴柱ニ膠ストハ、漢語、膠柱ノ訓讀、膠着ニスレバ、動カズナリテ、高低ノ音ヲ變セシムルコト能ハズ、因リテ、物事ノ、運用、變通ヲ知ラズ、ト云フ意ニ云フ。[illegible]ハ、琴柱に膠さすやうにてこそ、里居シテ侍ルナレ」

ことぢくゎうう（名）［琴柱瓦燈］〔形、琴柱ノ兩脚ノ、開キタルガ如シ〕瓦燈口ノ、上方ノ形ノ、楕入ナルモノ。

ことぢぼう（名）［琴柱棒］〔形、琴柱ヲ[illegible]ニセルガ如シ〕刺股ノ、異名。

ことづか・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［被託］

〔ことづけらるノ約、あづかる（預）ノ語原ヲ見ヨ〕事附ケラル。頼マル。[illegible]ヲ、ことづかりシ儀」

ことつ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二）［言告］他ニ賴ミテ、言ヲ告ゲ、言ヒ次ガシメテ、音信ル。コトヅテス。傳言ス。寄語［傳語］萬葉集、八「古鄕ノ、奈良思ノ[illegible]、何如ニ告ケキヤ」同、十五「[illegible]奈良ノ都ニ、[illegible]宮、今ハ、ことつげヤリタマフベキトドコホリモナキヲト、オリタチ聞エタマヘド」貫方集「ホボツカナ、我ガ、ことつけシ、ホトトギス、はやみノ里ヲ、イカニ鳴クラム」

ことづ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［事附］事寄ス。託ク。託［illegible］夜ノ事ニことづけナコソ、マカリ絕エニシカ」同、十九「[illegible]ノ、不斷ノ御念佛ニことづけテ、渡リタマヘリ」宇治拾遺、九、第六條「何事ニツケテカ、コレヲ[illegible]ト思フニ、事づくべキ事ナシ」

ことつげ（名）［言告］言告グルコト。コトツテ。ツテゴト。傳言。寄語［illegible］帚木「如何ナルことつげゾヤト、言ヒモハテズ、走[illegible]御ことつげ聞エタマフ」枕草子、四、四十三段「聞ヘナム參ル、ことつげヤアル、何時カ參ル、ナド言フ」

ことづけ（名）［事附］事附クルコト。カコツケ。[illegible]日來、少シ、ナコタルサマナリツル心地ノ、僅カニ、イト苦シキニ侍ルヲ、云云、[illegible]ノことづけト思ヒタマフモノカラ」

ことづけ（名）［言附］コトヅテ。傳言。寄語「故鄕へことづけヲ頼ム」

ことづ・ける（他）［言附］コトヅテス。傳言ス。寄語

ことつたへ (名) ［言傳］ 言ヒ次ガシメテ、事ヲ、先方へ傳フルコト。コトツテ。コトツゲ。コトヅケ。傳言。傳語。檜垣嫗集「いと鳥ヲ、カケテ飛ブトハ、待テヤ鳥尾ニモ羽ニモ、ことつたへセム」 此語ヲ約メテ、ことつてト云フガ、下二段活用ノ動詞ナレド、未然形・連用形・命令形ノ外ハ、物ニ見エズ。名詞形アルハ、次條ヲ見ヨ。萬葉集、十三、三二長歌「思シキ、言傳ヤト、家問ヘド、家フモ告ゲズ」 同、十七、廿長歌「聞使モ、遣ル由モナシ、思シキ、許登都底遣フズ、戀フルニシ、心ハ燃エヌ」 古今集、三、夏「ヤヨヤ待テ、山ホトトギス、ことつてム、我レ世ノ中ニ、住ミワビヌトヨ」 同、一、春、上「春來レバ、雁歸ルナリ、白雲ノ、道ユキブリニ、ことやつてマシ」 貫之集、二「歸ル雁、我ガことつてヨ、草枕、旅ハ妹コソ、戀シカリケレ」

ことつて (名) ［言傳］ 〔前條ノ語ノ約、其條ヲ見ヨ〕 コトツタへ。ツテゴト。コトヅケ。傳言。傳語。寄語 古今集、十四、戀、四「山賤ノ、垣保ニ這ヘル、青葛、人ハクレドモ、ことつてモナシ」 源、三、空蟬 十「カノ人モ、イカニ思フラムト、イトホシケレド、カタガタ思シカヘシテ、御ことつてモナシ」 宋玉、高唐賦「傳言羽獵」 標文帶、與二鐘大理一書「傳二言玄寶一」

ことづて (名) ［言傳］ 〔前前條ノ語ノ、ことつたへノ約〕 人ノ言ヒ次ゲル話ニテ、傳へ聞クコト。傳聞

ことづま (名) ［異配偶］ (一)異ナリタルツレアヒ。アダシ男。(二)異ナリタル妻。新六、帖、五「紅ノ、コゾメノ衣、アクガレテ、マタことづまニ、何ウツルラン」

ことづめ (名) ［琴爪］ 箏、又、筑紫琴ヲ彈クニ用キル具、象牙ナドニテ、爪ノ形ニ作リ、革ノ輪ヲツケ、親指ト、人差指ト、中指トニ嵌ム。箏ニテハ、かけづめト云フ。又、ツクリヅメ。略シテ、つめ。

琴甲 假甲 古事談、一、下道后宮、相國御前、枇杷ノアリケルヲ、一フサ取リテ、ことづめニテ皮ヲムキテ」

ことで (動) ［言出］ ことといづ(言出)ノ條ヲ見ヨ。

ことど (名) ［絶妻之誓］ 〔言解ノ意(ことどけヲことどト云フハ、言離ヲことさかト云フニ同ジ、共ニ、其動詞ノ語根ナリ(事解ノ條ヲ見ヨ)夫婦ノ結縁ヲ、言結ト云フノ反ニテ、俗ニ、事切ト言フガ如シ〕 (一)夫妻ノ契リヲ絶ツ辭。離縁ノ詞。神代紀、上 十 諾、册、二尊、夫婦絶縁ノ時「伊弉諾尊、云云、與二伊弉冊尊一相向而立、建二絶妻之誓一時、云云」 同卷 廿七「絶妻之誓、此云二許等度一」(誓ヲ立ツル意) 古事記、上 十 同ジ事ニ「各對立而、度二事戸一之時、云云」(事ハ、言ノ借字、下、同ジ) 釋紀、六「私記曰、云云、度語、猶言 度 言 絶二斷夫妻之交一也」 舊事記、一、陰陽本紀「相對而立、遂建二絶妻之誓一、渡二其事戸一之時、云云」 (二)旅立チノ、別レノ辭。離別ノ詞。萬葉集、十九、三十八 越中國司大伴家持ガ、京ニ上ラムトスル時、餞別セシ人ノ歌ニ和フル歌「タマボコノ、道ニ出立チ、行ク吾レハ、君ガ事跡ヲ、負ヒテシ行カム」(事ハ、言ノ借字) 倭訓栞、ことど「離別ノ歌也」

ことといへど (副詞句) 何事と云へどノ上略。ナンゾト云へバ。源、四十五、椎本 五廿「心ヨリ外ニ、空ノ光、見侍ラムモ愼マシウテ、端近ウモ、エ、身ジロギ侍ラヌ、ト聞エタマヘレバ、ことといへど、限リナキ御心ノ深サニナム」 落窪物語、二「中納言殿ノ人人、喫立チテ、事といへど、大將殿ノヤウニ、中納言殿ノ御車ゾ、早ウ打テカシ、ト云フニ」

ことえがめ (名) ［言咎］ 言ヒ咎ムルコト。咎メ云フコト。萬葉集、十二、三十「人ノ見テ、言害目セヌ、夢ニダニ、止マズ見エコソ、我ガ戀ヒ息マム」

ことどあろ (名) ［異處］ (一)異ナル地。異郷 源、五、若紫 四「明石、云云、ことど所ニ似ズ、ユホビカナル所ニ侍ル」 (二)異國。外ツ國。外國。異邦 枕草子、三、廿五段「ことどあろノ物ナレド、鸚鵡、イト、アハレナリ」

ことどす スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) ［爲事］ 仕事トス。十訓抄、中、第五、第一條「我レ在世ノ時、殺生ヲ事とするニ因リテ、苦報ヲ受クル由、申サレケレバ」

ことどひ (名) ［言問］ 言問フコト。物言ヒカハスコト。萬葉集、十一、十三「直今夜、淫ヒタル兒等ニ、事問モ、未セズシテ、小夜ゾ明ケニケル」 同、廿七、三十長歌「相見ズバ、戀シクアルベシ、今日ダニモ、許等騰比セムト、惜シミツツ、カナシビ坐セ」

ことどふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) ［言問］ (一)物言ヒカク。言フ。語ル。 大祓詞「語問ひシ、磐根樹立、草ノ垣葉ヲモ、語止メテ」 萬葉集、七、十九「妹ガアタリ、今ゾ吾ガ行ク、目(容顏)ノミダニ、吾レニ見エコソ、事不レ問トモ」 同、十一、四十「敷栲ノ、枕ニ人ハ、事問哉、其枕ニハ、苔産シニタリ」(共二、事ハ、言ノ借字) 同、十二、三十四「カク戀ヒム、モノト知リセバ、吾妹兒ニ、言問はマシヲ、今シ悔シモ」 同、廿二、三十「天地ノ、何レノ神ヲ、祈ラバカ、愛シ母ニ、マタ己等刀波ム」(東國ノ防人ノ、九州ニ出役スル詠ナリ) (二)問フ。聞ク。タヅヌ。古今集、九、羈旅「名ニシ負ハバ、イザことどはム、都鳥、我ガ思フ人ハ、アリヤナシヤト」 拾遺集、六、別「昔見シ、いきノ松原、ことどはバ、忘レヌ人モ、アリト答ヘヨ」 (三)訪フ。オトヅル。トブラフ。萬葉集、十二、三十八「タタナヅク、青垣山ノ、隔ツレバ、シバシバ君ヲ、言不レ問カモ」 源、十三、明石 十三「都ノ方ヨリトテ、ことどひオコスル人モナシ」 拾玉集、五「ことどはデ、契リシ道モ、絶エニケリ、櫻ノ雪ニ、降リカハルマデ」

ことどほし キ・ケレ・ク・ク (形、一) ［事遠］ 何トナク、遠シ。トホドホシ。玉葉集、十二、戀、四「アハレニモ、ことど遠くノミ、ナリ行クヨ、人ノ憂ケレバ、我レモ恨ミテ」

ことども (名) ［言吃］ 次條ヲ見ヨ。

ことどもり (名) ［言吃］ 〔言止ノ轉(まつはる、もとほる。かもめ、かまめ)或ハ、言詰ナルカ〕 人ノ、物言フニ、習慣ノ癖トシテ、支へ、ツマルモノ。又、ことども。ママナキ。今、上略シテ、どもりト云ヒ、關西ニテ、どもトノミ云フ。倭訓栞、ことどもり「言吃ノ義也、云云、今、どもト云フニ吃ノ又平」 字鏡 十四「吃、言難也、重言也、己止止毛、又、萬萬奈支」 同 八十五「吃、去止止毛利」(倭名抄、同ジ) 枕草子、五、四十六段「少シことどもりスル人ノ、イミジウツクロヒ、メデタシト聞カセムト思ヒケレバ、エモ、言ヒ續ケズ」

ことどり (名) ［事執］ 〔約メテ、ことり(部領)トモナル〕 事務ヲ統べテ、取行フ人。執事 主宰 字類抄、人事「事取、コトトリ」

ことなかれ (句) ［勿事］ 人事ニ、難事アルナ。唯、何事モ、無事ナレ。「トカク世間ニことなかれニ「ことなかれ主義」

ことなぐし キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔なハ、之ノ轉(水之木、みなもと)ぐしハ、苦しノ意、おおろぐしノ語原ヲ見ヨ〕 言、告ラムモ、苦シ。おおろぐしハ、心苦しノ意。古事記、中(應神)七十五 漢人、須須許理、酒ヲ釀シテ獻ズ、大御歌「須須許理ガ、釀ミシ御酒ニ、我レ醉ヒニケリ、許登那具志、許具志ニ、我レ醉ヒニケリ」(疫威言別ノ五ニ、脫字トシテ補ヘルニ從フ、旋頭歌トナリテ、叶ヘリ)

ことなし キ・ケレ・ク・ク (形、二) ［殊無］ 此ノ上ナシ。特別ナリ。東三條院饗宴合「天ノ河、ミギハことなく、增サルカナ、イカニシツラン、鵲ノ橋」

〔おとな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔無事〕何[illegible]

〔おとなし・がほ（名）〔事成顔〕事ヲ、成シ[illegible]八十五[illegible]のもしげたきもの「[illegible]スル人ノ、サスガニ、人ノ事な[illegible]テ、其事ヲ成就セムトスルサマナリ」

〔おとなしぐさ（名）〔無事草〕[illegible]〈忍ぶニ寄セテ云フニヤ〉忍草ノ異名ナリト云フ。[illegible]タリケレバ「屋端ニ生フル、おとなし草ヲ、見ルカラニ、頼ム心ゾ、數マサリケル」枕草子、三、三十三段「おとなし草ハ、思フコトナキニヤアラムト思フモ、[illegible]」[illegible]謡曲、後撰、おとなしぐさ おのぶ草ナリト云ヘリ、[illegible]云ヘリ」

〔おとなしび（名）〔無事風〕コトナシブル コト。事ナキワ、ヨソホフコト。枕草子、[illegible]おとなしびニ[illegible]メテ書ク」狭衣、三、下「おさ[illegible]ノ世ノタメニハ、悪シウモ侍フサリケリ、ナド、おとなしびニハ、言ヒナシタマヘド」

〔おとなし・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）〔無事風〕〔[illegible]ノ語原[illegible]見ヨ〕事[illegible]知ラス[illegible]ぶトイフハ、事無キサマニ言ヒナス心ナリ」源、五[illegible]ド、おとなしびタマフヲ、強ヒテ言フモ、イト、コチナシ[illegible]ニ、おとなしぶトモ、神モユルスナ」

〔おとな・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）〔言成〕言ヒ[illegible]言ヒ騒グ。[illegible]集[illegible]秋ノ田ノ、[illegible]ノカバカ、カ寄リ合ハバ、ソコモカ人ノ、吾ヲ事将成」（それハ、それナリ、事ハ、言ノ借字）同、七[illegible]「ソコモカ人ノ、吾ヲ言将成」同巻十[illegible]「紅ノ、[illegible]ノ衣ノ、下ニ着テ、上ニ取リ着バ、言将成カモ」

おとなほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔事直〕〔なほるハ、許るノ意、其條ヲ見ヨ〕任、終ハル。官ヲ免ゼラル。千載集、十七、雑、[illegible]侍リケル時、[illegible]マナル者トモ、おとなほりテ上ルト聞コエケル時」同、同「心ノ外ナル[illegible]ニ籠リケルヲ、おとなほりテ、京ニ上リテ後」月詣集、九、雑、下「成範卿、オホヤケノ御カシコマリニテ、[illegible]籠リケルニ、おとなほりテ、[illegible]ニカヘリケルニ、云云」

〔おとならむ（[illegible]）如くならむノ義、清音ノ副詞ノおと（如）ノ語原ヲ見ヨ、おとえハ、此ノ語ノ略ナリ」此ノ如クナラバ。斯ルコトナラバ。コンナ事ナラ[illegible]。[illegible]「おとならむ、折リ盡シテム、梅ノ花、我ガ待ツ人ノ、[illegible]」大和物語、上、「おとならへ、晴レズモアラナム、[illegible]ノ、マギレニ見エヌ、君ト思ハム」

〔おとな・り・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、良變）〔異〕〔異ニあり ノ約〕變レリ。別ナリ。[illegible]ガフ。同ジノ反」源、三十五、柏木「[illegible]イトドシク、春霞カト見ユルマデ、軒ノ栗ニおとならズ」[illegible]物語、十九、[illegible]シマレ、[illegible]色ノ、おさなるハ、紅葉ヤスラム、月ノ桂モ」

〔おとに（副）〔殊、特〕〔異ニ、ノ約、おとニ（異）ノ條ヲ見ヨ〕コトノホカニ。トリワケテ。別シテ。ズット。ズンド。古今集、四、秋、上「山里ハ、秋コソおとに、ワビシケレ、鹿ノ鳴ク音ニ、目ヲサマシツツ」[illegible]「ホトトギス、待ツ[illegible]聞ケバ、山里ニ、常ヨリおとに、人ゾ待タルル」名義抄「殊、コトニ」

〔おとに（接尾）〔毎〕〔おとハ、事事（それぞれ）ノ上略、神代紀、下[illegible]有ニ一[illegible]鬮ニ[illegible]来、因乗而入レ海、[illegible]前鬮之数ニ」ノ毎ノ字ニ「コトコトクニ」ト旁訓シテアリ、上略ナレバ、首音ヲ濁ナリ、[illegible]ト、各也」〕物事ノ、各、然ル意ヲ云フ語。イツレモ。イツモ。度ニ。孝徳紀、大化五年三月「本薬等爾、花ハ咲ケドモ」（本トハ、樹ナリ）萬葉集、五[illegible]人[illegible]、折リカザシツツ、遊ベトモ[illegible]愛シキ、梅ノ花カモ」千載集、秋、五、下「事毎ニ、悲シカリケリ、宜シコソ、秋ノ心ヲ、愁ヘト云ヒケレ」（秋心ハ、愁）「春毎ニ逢フ」咲ク毎ニ見ル」おとトノミ用ヰラルルコトアリ。[illegible]河百首、雑、[illegible]「宿モ狭ニ、朝おと稲ヲ、乾スヨリハ、はてヲ結ヒテゾ、懲クベカリケル」新古今集、六、冬「朝おとノ、閼伽井ノ水ニ、年暮レテ、我ガ世ノホドノ、汲マレヌルカナ」月詣集、四、[illegible]ナリアリノ、心ニソメテ、年モ経ヌ、秋おとノ月、春おとノ花」

〔おとみいで（[illegible]）〔言出〕おといで（言出）ノ條ヲ見ヨ。

〔おとみしありけり（句）〔おとハ、言、口ニ云フニテ、即チ、名ノ意ナルベシ〕〔有名無實〕名バカリデアルヨ、ナア。萬葉集、七、[illegible]住吉ニ、[illegible]キニシ[illegible]ニ、[illegible]シ、[illegible]貝、事ニ[illegible]」同巻[illegible]、名草山、事[illegible]在家、吾ガ[illegible]フル、千重ノ一重モ、慰メナクニ」

おとみ・す・ス・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）〔異〕別ニス。[illegible]フ。[illegible]

〔おとみふれて（[illegible]）〔言事〕其事ニ[illegible]タリテ。其事ニ出會ヒテ。源、十、[illegible]「事おとふれて、ハシタナキ事ノミ、出デ來レバ」同、十四、澪標「心細ソクテトマリタマハムヲ、必ズ、事おとふれて[illegible]マヘキコエタマヘ」

〔おとねり（名）〔小舎人〕〔とねりノ條ヲ見ヨ〕（一）藏人所ニ屬シテ、殿上ノ使役ニ供セラル職。殿上童トモ云フ。[illegible]ノ宮ノ、チヒサ舎上[illegible]也、云云、下ナラバ、[illegible]、手ニ取リヤ、夜ハサ[illegible]テム」[illegible]中抄、下、禁中「藏人所、[illegible]小舎人六人、云云 殿ニ[illegible]、小舎人ト云フ」有職袖中抄、小舎人「昔ハ六人、近代十二人、云云、殿上、大臣ノ家司等、任ズト、云云、殿上ニシテ、殿上人ニツカハルル役也」（二）小舎人童ノ略。次條ヲ見ヨ。

おとねりわらは（名）〔小舎人童〕（一）〔近衛ノ中将、又ハ、少将ノ、召シ具スル童ノ略シテ、小舎人、牛車ノ先ナドニ立ツ、七歳ヨリ十五歳マデナリ、其以上ナルハ、車ノ後ニ立ツ〕源、三十四、下、若菜、下「馬副、随身、おとねりわらは、次次ノ舎人ナドマデ」枕草子、[illegible]、おとねりハ、小サクテ、髪ノウルハシキガ、裾サハラカニ、聲ヲカシウテ、カシコマリ、物ナド言ヒタルゾ、リャウリャウシキ」花鳥餘情「中、少将ノ、召シ具スルわらはヲ、小舎人ト云フナリ」物具装束抄、小舎人童「狩衣、云云、毛沓、云云、狩衣[illegible]、可レ隨二主人装束一也」（二）鎌倉、室町幕府ノ侍所ニテ、使役スル下部。童名ヲツケテ、何丸、何若ナド云ヒキ。江戸時代ニ、小人、小者ト云ヒシ、是レナリ。[illegible]八月七日「侍所者、云云、所司代、[illegible]、以二小舎人一、或、下部等[illegible]召出犯人於二侍所一」同、具注抄、小舎人、下部ハ、今ノ與力、同心ノ下司」

〔ことの（名）〔故殿〕〔故ハ、故人ノ義〕身マカラレタル殿。宇津保物語、國譲、上[illegible]「御[illegible]」

ニハ、ことのノ區カセタマヘル布、錢、ナドアリ」

ことのかず (名) [事數] 數ヘ立ツベキ事。モノノカズ。千載集、十二、戀、二「聞レテ後、ツラカラマシニ、比ブレバ、無キ名ハことの、かずナラヌカナ」新後撰集、十三、戀、三「逢フマデノ、思ヒハことの、數ナラデ、別レゾ戀ノ、初ナリケル」

ことのしうぎ (名) [五度祝儀] 三月三日、五月五日、九月九日、正月始、七月中旬ノ總稱。色道大鏡(延寶、寶山)時節門「五度の祝儀、俗ニ、五節供トイヘル時節ヲ云フ、正月初、七月中旬、是レ二度ハ、節供ナラザル故ニ、五度の祝儀ト云フ」

ことのまたひ (名) [琴下樋] 琴ノ腹部。またひノ條ヲ見ヨ。

ことのなぐさ (名) [言慰] 口サキバカリノ、ナグサメ。萬葉集、四、十四「吾レノミゾ、君ニハ戀フル、吾ガ夫子ガ、戀ヒ云フコトハ、言乃名具左ゾ」同、七、廿「默然アラヌト、事之名種ニ、云フ言ヲ、聞キ知レラクハ、少ナカリケリ」

ことのは (名) [言葉] 〔言の端ノ義ナルベシ、口の端トモ云フ、ことばノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)ことばト云フニ同ジ。クチノハ。後撰集、十、戀、二「人ノ、心カハリニケレバ「思ハムト、頼メシ人ハ、アリト聞ク、言ヒシことのは、イヅチ往ニケム」源、五、若紫「ことのはヲ盡シテ、聞エタマヘド」古今集、十四、戀、四「思フテフ、言のはノミゾ、秋ヲ經テ、色モカハラヌ、モノニゾアリケル」源順集「ことのはハ、强ク見ユレド、和漢草、露ニハ所謂ツル、モノニザリケル」(一、首共ニ、葉ニカケタリ) (二)大和歌。和歌。古今集、序「やまと歌ハ、人ノ心ヲ種トシテ、萬ノ言の葉トゾナレリケル」云云、「難波津ノ歌ハ、帝ノオホンハジメナリ、淺香山ノ言の葉(歌)ハ、采女ガ戲レヨリ詠ミテ、此二歌ハ、歌ノ父母ノヤウニテゾ、手習フ人ノ始ニモシケル」源、一、桐壺「此頃、伊勢、貫之ニ詠マセタマヘルやまとことのはヲモ、唐ノ歌ヲモ、云云」倭訓栞、ことのは「和歌ヲサシテ、言葉ト云フモノ、多シ、言の葉ノ道ハ、其道理ヲ云フナリ」

ことのはかぜ (名) [言葉風] 和歌ノ風體。夫木抄、十九、風「和歌ノ浦ヤ、ことのは風ニ、タツ波ヲ、心ニカケテ、習ルトヲ知レ」

ことのはぐさ (名) [言葉種] 言種ニ同ジ。イヒグサ。雅言集覽、續編(保田光則)出觀不知「限初ノ、ことのはぐさニ、風タチテ、露ノ此身ノ、置キ所ナキ」新續古今集、十八、雜、中、歌ヲ書ヒテ、判詞、記シツクベキ由、云云「ヨシアシヲ、君シ別カズバ、書キタムル、言の葉ぐさノ、カヒヤナカラム」(コレハ、和歌ヲ云フナリ)

ことのばら (名) [小殿儕] 〔ばら(儕)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)若キ殿儕。若年ノ侍タチ。甲陽軍鑑、四、品第十二「近習、小姓、小殿原、若衆、小人、中間衆」 (二)ごまめノ異名、其條ヲ見ヨ。俚言集覽、小殿原「ごまめニ、侍タチハ、小とのばら」

ことのほか (副) [殊外] 〔異の外ノ義〕 (一)思ヒノ外。案ノ外。意外。源、三十八、夕霧、廿「エ見ズ(文ヲ)トヲ云ヘ、トことのほかニテ、寄リ臥サセタマヒヌ」千五百番歌合「冬來ヌト、思フバカリノ、朝ボラケ、ことのほかニモ、カハル空カナ」 (二)取リワケテ。別シテ。ズット。ズンド。夫木抄、十八「與謝ノ海ノ、冬ノ朝風、雪ニ吹キテ、ことのほかナル、浪ノ音カナ」宇治拾遺、四、第四條「作リタル田ノ、好クテ、熟田ニ作リタルニモ、ことのほか勝リタリケレバ」徒然草、十九段「鳥ノ聲ナドモ、ことの外ニ春メキテ」

ことのもと (名) [事本] 事ノ起原。事ノ緒。神代紀、上、三十「夜忌、擲、梳、此其緣也」同卷、八十「此用、桃避、鬼之緣也」金葉集、九、雜、上「香椎ノ御社ニ詣リタリケルニ、神主、ことのもとト、杉ノ葉ヲ折リテ、朗ノ冠ニサストテ」後漢書、李燮傳、李氏ニ禍アリテ、文姬、具知ニ事本、默然國悲日、李氏滅矣」

ことのもと (名) [言本] 言語ノ起原。古事記、中(應神)三十八註「此者、神宇禮豆玖之言本也」

仁德即位前紀「諺日、有海人那、因己物以泣、其是之緣也」

ことのよし (名) [事由] 事ノワケ。事ノ仔細。源、五十一、蜻蛉、十「殿ニ、ことのよし、申サセタマヒテ」俗語錄、高麗元宗紀「問其事由」

ことのを (名) [琴緒] 琴ノ絃。琴絃 倭名抄、四、琴瑟類、琴「絃、古止乃乎」琴の緒を絕つト云フハ、漢語ノ絕絃ノ訓讀ニテ、心友を失ふト云フ意ナリ。蜻蛉日記、上、上、三十「亡キ人ハ、オトヅレモセデ、琴のをを、絕ちシ月日ゾ、還リキニケル」源、三十六、橫笛、九「ことのをを絕えニシ後ヨリ、昔ノ御遊ノ名殘リダニ、思出デ給ハズナムナリニテ侍ルメル」列子、湯問篇「伯牙善鼓琴、鍾子期善聽」呂氏春秋「鍾子期死、伯牙破琴絕絃、終身不復鼓琴、以爲無足爲鼓者」

ことゑ (接) 〔ことならだノ略〕 成ルベクハ。古今集、八、別「惜キクラシ、ことゑ隣ラナム、春雨ニ、濡衣着セテ、君ヲ止メム」和泉式部集、上「ことゑ齡、散ラデ千年ヲ、過サナム」

ことば (名) [言葉詞] 〔言端ノ義、口ニアラハルル意ナルベシ、ことのはトモ、くちのはトモ云フ、萬葉集、十八、五十三「黃葉ニ、置ク白露ノ、色葉ニモ、出デジト思ヘバ、(思フニ)言ノ繁ケク」トアルモ、黃葉ニカケテ、色葉ト云ヘド、顏色ニアラハサジノ意ナレバ、色端ナラム、言ハ、繁ク榮行クヲ以テ、葉ト云フトハ、葉ノ字ニ拘泥シタル說ナラム〕 (一)言。人ノ思想ノ、口ニ言出サルルモノ。人ノ聲ノ、意味アルモノ。コトノハ。クチノハ。モノイヒ。クチ。ハナシ。言語。言語。言 辭 言語 神代紀、下、四、武甕槌神「其辭氣慷慨」萬葉集、廿、廿一「父母ガ、頭搔キ撫デ、幸アレト、言ヒシ古度婆ゾ、忘レカネツル」(東國ノ防人ノ、筑紫ニ出役ノ詠) 名義抄、雜部「辭、詞、コトバ」ことばを飾るト云フハ、僞ヲ、眞ニ云フナリ。詐言 竹取物語「眞カト、聞キテ見ツレバ、ことの葉を、かされる玉ノ、枝ニゾアリケル」(蓬萊ノ玉ノ枝ノ僞物) 又、詞ヲ美麗ニスルニモ云フ。修飾 饒日抄「オホカタ、歌ノ、好キト云フハ、心ヲ先トシテ、珍シキ節ヲ求メ、詞をかざり詠ムベキナリ」ことばをかへすト云フハ、口答ヲスルナリ。ことばを盡すハ、委シク言フナリ。コレニ反スルヲ、ことばに餘るト云フ、言ヒ盡サレヌ意ナリ。ことばを濁すト云フハ、言ヒ紛ラカスナリ。(二)歌集ナドニ、集中ノ和歌ニ對シテ、常ノ物言ノヤウニ書キタル題ヲ、詞書、又、言書ト云フ、題詞、小序ナド云フ、是レナリ。又、謠曲ナドノ謠物ノ文中ニ、節ヲツケズ、話スルヤウニ語ルトコロヲ、ことばト云フ、地の詞ナド云フ、是レナリ。(三)大和歌。和歌ノ異稱。是レハ、唐の歌ニ對シテ、和歌ヲ、やまとことのはトモ、やまとことばトモ云フヲ、上略シテ、ことのはトモ、ことばトモ云フナリ、「ことばの園」ことばの林」ことばの花」ことばの露」ことばの泉」ことばの海」ナド云フハ、和歌ノ姿、アリサマヲ、種種ノ物ニ見立テテ云フナリ。

ことばあらそひ (名) [言葉爭] イサカヒ。クチアラソヒ。イヒアヒ。口論。論爭

ことばえらび (名) [言擇] ことえりニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

ことばがき (名) [詞書] (一)詞ヲ、文ニ書キ取レルモノ。說明ノ文。「繪卷物ノ詞書」 (二)歌集ニ、和歌ノ初ニ、詠ミタル趣意ヲ記セル文。題詞。小序。又、言書。徒然草、百三十八段「母屋ノ御簾ニ、葵ノカカリタル枯

葉ノ聞ゆル由、歌ノ様ニ言ケリ、古キ歌ノおとばおきニハ、枯レタル葉ニサシテ遣ハシケル、トモ侍リ」其次抄十、此歌ノ前言ニイハク「…」太平記、二十七、将軍御兵事「再手数件ノ御頭ケルニ、武蔵ノ事書ヲ載セラレテ、直僧ノ孫ニゾ被入ケル」(共ニ、事ハ、言ノ借字)

おとはかり (名) 〔事計〕 事ノハカラヒ。テダテ。手筈。術策。手段　萬葉集、四 五十「…事計モ、…」同、十二「…」(言ハ、事ノ借字)

おとばおち (名) 〔言質〕 他ノ言ヘル詞ヲ、後ノ證據ニ、トラヘオクコト。ゲンシチ。　言時長像、曖変ニ六「…取リナク、…ヲヤ、流スラム、逢フ譜ケゴゴヒノ、日切延スハ」

おとはじめ (名) 〔事始〕 (一)事納ノ條ヲ見ヨ。(二)スベテ、事ヲ始ムルコト。

おとばおり (名) 〔言葉尻〕 おとばおりを取るト云フハ、人ノ、言損ヒノ末ヲオサヘテ、詰ルヲ云フナリ。揚足ヲ取ル。

おとばずくな (副) 〔言少〕 コトバカズ少ナク。又、おとずくな。寡言　狭衣、四、「中々…思ヒノ外ニ取リナシテ、おとばずくなニ言ヘ…イトモ…メラレザリケレバ、言葉すくなニテ、立チテ、侍ドモノアリケル所ニ」

おとばたがへ (名) 〔言葉違〕 (言葉ヲ、違ヘタルコト。物言ヒノ、ユキチガヒ。違言

おとはたななり (句) 〔事柵也〕 (たハ、つ、なハ、ねノ音通ニテ、常ノ義) 事柄ハ、世ノ常ナリ。袖中抄、十「アシガキノ、スエカキワケテ、君コユト、人ニナツケソ、おとはたななり、顯昭云、おとはたたトハ、勝利ト言リ、たたなりトハ、つねなりト云フ歟、たト、つト、なト、ねト、同音也」又、おとはたたありト、書ケル本モアリ、其ナラバ、事は常に知ト可ゝ言也、催馬楽ノ呂ノ歌ニ、アシガキマガキ、カキワケテト、ウタフ心ヲ詠メル二通ヘリ、サテ、人ニたつけニ事将なしりトヨメリ、ナシリソトイフ心歟」

おとばだむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔詞訛〕 (たむ(訛)ノ條ヲ見ヨ) 言葉、訛リ、又、發音、濁リテ、ハキトセズ。　源、四十四、橋姫「…ヘ卑シク、おとばだみテ、骨ナゲニ、物馴レタル、イト、モノシクテ」

おとばづかひ (名) 〔詞遣〕 (一)物言フ樣。モノノ云ヒカタ。辭令　枕草子、六、五十一段「ゲニゾ、おとばづかひナドノ、アヤシキ」「丁寧ナルおとばづかひ」 (二)文章ニ、言語ノ用法。語法

おとばつき (名) 〔詞附〕 詞ノ樣子。モノイヒブリ。　東海道名所記、(萬治)六「ワッカニ、ニ里ノ山家ナレトモ、人ノカタテモ、おとばつきモ、京トハ、各別也」

おとばとがめ (名) 〔言葉咎〕 言葉尻ヲ取リテ、咎ムルコト。詰問　聖徳太子傳記(享保、近松作)三「…氣ノ取苦シイ女房、又、詞とがめニ會ヘバ、恐物、御免アレ」

おとはな (名) 〔異花〕 外ノ花。アダシ花。　源、五十二、手習「紅梅ノ、云云、おと花ヨリモ、コレニ心寄セノアルハ、飽カザリシ匂ノ、染ミニケルニヤ」

おとばのいづみ (名) 〔言葉泉〕 和歌ヲ詠ミ出ヅルヲ、泉ノ湧クニ譬ヘテ云フ語。　榮花物語、廿三、駒競「言葉の泉モ淺クナリユケレバ、人並ナラヌ水茎ヲ、哀レトオボシメシテ」

おとばのうみ (名) 〔言葉海〕 和歌ノ道ヲ、廣大ナリトシテ、海ニ譬ヘテ云フ語。　續古今集、序「露ハ、葉ノ…ヨリツモリテ、おとばの海トナル」同、廿、賀「…、やまとおとばの、海ニシテ、拾ヒシ玉ハ、磨カレニケリ」

おとばのその (名) 〔言葉園〕 (詞苑ノ訓讀ニハアラヌカ) 和歌ノ集レルヲ、園ノ草木ニ譬ヘテ云フ語。　新古今集、序「但シ、おとばのその二遊ビ、筆ノ海ヲ汲ミテモ、空飛ブ鳥ノ、網ヲモレ、水ニ棲ム魚ノ、鉤ヲノガレタルタグヒ、昔モナキニアラザレバ」(撰ニ漏レタル和歌ヲ云フ)　王士照、次二韻狀元按、寫韻二詩「詞苑恩波供二染翰、秋風霜氣借二鳴琴一」

おとばのちり (名) 〔言葉塵〕 和歌ノ環。　山家集、下「…サラバ、光ナクトモ、玉ト云ヒテ、おとばの塵ハ、…カナム」(…セヨト云ヒシナルベシ)

おとばのつゆ (名) 〔言葉露〕 和歌ノ言葉ヲ、葉ニ寄セ、露ニカケテ云フ語。　月清集、三「オホカタノ、今夜ノ月ハ、曇ナキニ、言葉の露ニ、五月雨ゾ降ル」拾遺愚草(定家)中「…外ノ重モ匂フ、菊ノ枝ニ、言葉の露モ、光添ヘツツ」

おとばのはな (名) 〔言葉花〕 (漢語、詞華ノ訓讀) 和歌ノ言葉ノ巧ミナルヲ、花ニヨソヘテ云フ語。詞華　白氏文集、廿八、哭二皇甫七郎中一詩「…」氏成朝臣岐記、後鳥羽院ノ御遺跡ヲ尋ネシ詠、世ノ中ニ、種ハ殘ルモ、色ハナシ、君ガ言葉の、花ニ遲シテ」沙石集、五、下、十四條「或ル僧房ノ兒、師ヲ恨ムル事アリテ、他ノ僧房へ行キテケリ、物ノ具足ヲ取落シタル中ニ、詞華集ヲ忘レタリケルヲ、云云「イカニシテ、詞の華ノ、殘リケム、移ヒハテシ、人ノ心ニ」

おとばのはやし (名) 〔言葉林〕 (詞林ノ訓讀) 文章、和歌ノ詞ノ、繁キヲ云フ語。詞林　古今集、眞字序、夫和歌者、託二其根於心地一、發二其花於詞林一者也」新續古今集序「詞の林、伐レバ、マスマス繁シ」

おとはふらなむ (句) カヤウニ、降ルナラン。おと(如)ノ條ヲ見ヨ。

おとはら (名) 〔異腹〕 ハラガハリ。ハラチガヒ。　天武紀、下、八年五月「吾兄弟、長幼、并十餘王、各出二于異腹一」源、廿八、野分「…はらからトモ、少シ立チノキテ、おとはらゾカシ」

おとはらから (名) 〔異兄弟〕 異腹ノ兄弟。又、異父兄弟。　源、五十三、夢浮橋「おとはらからドモヨリハ、容モ清ゲナルヲ、呼ビ出デタマヒ」

おとひ (名) 〔特牛〕 次條ヲ見ヨ。

おとひうし (名) 〔牡牛〕 (許多負牛ノ約略(次條ノ語ノ萬葉集古義ノ說)赤頬、あかがり。機織、はとり) 牡牛ノ、能ク重荷ヲ負フヲ稱シテ云フ語。又、おとひ。略シテ、おとひ。山城ノ鳥羽ノ荷車ヲ引ク大牛ヲ、おってひうしト云フ、又、地方ニ因リテ、コットヒ、コッテ、コテ。土佐ニテ、ゴッテ。　萬葉集、十六 廿「事負乃牛ノ、鞍ノ上」天治字鏡、五 五「特牛、己止比」(玉篇「特、牡牛也」) 倭名抄、十一 五 牛馬類「特牛、古度比」六帖、二「アシヒキノ、やまとおとひの、うしナレバ、オモシロクコソ、今日ハひきケレ」(倭琴ニカケタリ)

おとひうしの (枕) 〔牡牛〕 (前條ノ語原ヲ見ヨ、牡牛ノ、租米ヲ負ヒテ、屯倉ニ運ブ意ナルベシ(倭訓栞)其他ノ諸說、從ヒガタシ) 三宅ト云フ語ノ枕詞。　萬葉集、九 廿 長歌「牡牛乃、三宅ノ酒ニ、指向フ、鹿島ノ崎ニ」(牝ハ、牡ノ誤ナリ、酒ハ、滷ノ誤ナラムト云フ、倭名抄、六 廿 下總國、印幡郡、三宅郷」)

おとひき (名) 〔彈琴〕 (一)琴ヲ、彈クコト。彈琴　宇津保物語、藏開、下 五「靈ハ琴打、おとひきナド、コナタニテ、シタマヒツツ」 (二)琴ヲ彈ク人。琴ニ、歌ハズシテひくヲ、すがきト云フ。　歌式、十、歌儀「笛工調二…」(…御琴、空ニ擢御琴二三度」(…、樂器部子、三度」) 萬葉集、十六 三十 長歌「歌人ト、吾ヲ召スラメヤ、笛吹ト、吾ヲ召スラメヤ、琴引ト、吾ヲ召スラメヤ」 大嘗祭式「神祇官、伯以下、琴以上、十三人」

おとひきぐさ (名) 〔琴彈草〕（松聲ヲ、彈琴ノ音ト聞クコト、支那ノ思想ヨリ移レルナルベシ、木ヲ、草ト云フハ、松ノ又ノ異名ヲ常磐草、櫻ヲ曙草ト云フナドノ例ナリ）松ノ異名。 藻玉集(應永)「夜モスガラ、琴引草ニ、音スナリ、明石ノ浦ノ、ヨルベ吹ク風」 異竹集(足利時代)「松ノ異名、琴彈草」 郭祥正詩「絕宗風生松奏レ琴」

おとびと (名) 〔異人〕 異ナル人。其人ナラヌ人。餘人。 伊勢物語、第十段「男、云云、女ヲヨバヒケリ、父ハ、おと人ニアハセムト言ヒケルヲ」 源、二、帚木七「おと人ノ言ハムヤウニ、心得ズ仰セラルルトテ、中將、ニクム」

おとぶき (名) 〔壽〕〔壽ニ、長命ノ義アリ、祝賀ノ義アリ、長命ヲ、おとぶきトスルハ、訓ヲ誤リ移シテ云フナリ（奏舞ノ、奏樂ニ移レルガ如シ）壽ノ條ヲ見ヨ〕
(一)〔コトブクコト。コトホギ。壽詞。祝言。 源、廿三、初音三「イト、シタタカナル、ミツカラノ祝言ドモカナ、云云、我レおとぶきセム、ト打笑ヒタマヘル御アリサマヲ、年ノ初ノ榮エニ、見タテマツル」 河海抄「おとぶきハ、年始ノ祝おとばナリ」 同、四十三、竹川三十「盃ヲノミ勸ムレバ、おとぶきヲダニセムヤト、ハヅカシメラレテ、竹河ヲ、同ジ聲ニ出シテ、云云、歌フ」（催馬樂ノ竹河ヲ、同調ニ歌フナルベシ）細流抄「祝言ヲススメテ、歌ハセタルナリ」 同、廿三、初音八十「おとぶき」花鳥餘情「西宮抄云、踏歌立二御前一、奏二壽詞一」孟津抄「歌フ詞ノ終每ニ、萬歲樂ヲ唱フルナリ」 枕草子、四、四十二段、心地よげなるもの「卯杖ノおとぶき」（正月、卯杖ヲ擧ル時ノ祝言） (二)〔ナガイキ。長命。壽命。 加茂保憲女集、序「祇ヲバ保タズシテ、おとぶきヲ保テルサマドモ」 名義抄、雜部「壽、イノチ、イノチナガシ、コトブキ」 詩經、小雅、鹿鳴之什、天保篇「如二南山之壽一、不レ騫不レ崩」 塵袋(弘安)十「壽ノ字ハ、おとぶきト讀ム、云云、壽ハ、酒飲ム時ノいはひおと、ソレモ、命長キ心ニ通ズルニヤ」 (三)メデタキコト。イハヒ。ヨロコビ。賀 倭訓栞、おとぶき「壽ノ字ヲ讀メリ、言祝ノ義ナリ、云云、祝壽ノ義ナレバ、壽命ヲ、然讀ムハ、誤也」 俗語考（橘守部）おとぶき「壽ノ字ハ、タダ、祝賀ノ方ニ取テ用ヒタルナルヲ、後世ニハ、貴人ノ御壽幾ツ、ト云フナドハ、其理、カナヒガタシ」（節文）

おとぶく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔壽〕〔おとほぐノ轉（冠、かがほり。葵、あほひ）清濁ノ顚倒スルハ、いづつしノ語原ヲ見ヨ〕 コトホグ。ヨロコビヲ云フ。祝フ。祝ス。 源氏烏帽子折（元祿、近松作）烏帽子折名盡「榮エン君ガ御出世ヲ、千代、萬代トおとぶきテ」

おとふらむ (副詞句) カク、降ラバ。清音ノ副詞ノ、おと（如）ノ條ヲ見ヨ。

おとぶれ (名) 〔事觸〕 かおまのおとぶれノ條ヲ見ヨ。

ごとべい (名) 〔五斗米〕 僅少ノ米。少シノ扶持米。ワヅカノ俸祿。五斗米に腰を折るトハ、僅カノ祿ノタメニ、腰ヲ屈メテ、人ニ仕フルヲ云フ。 晉書、陶潛傳「陶潛、云云、爲二彭澤令一、云云、縣吏白、應三束帶見二之、潛歎曰、吾不レ能下爲二五斗米一折中腰、拳拳事二鄉里小人一邪、云云、解レ印去レ縣、乃賦二歸去來一」

ごとべう (名) 〔五斗俵〕 俵一ツニ、玄米五斗ヲ入レタルモノ。（四斗俵、三斗五升俵ナドニ對ス）仙臺米ハ、普通ニ、五斗俵ナリキ。 犬筑波集(永正)雜「四國ハ海ノ中ニコソアレ」「酒出ダス、船ニ俵ヲ、八ツ積ミテ」（四國ヲ、四石ニカケタリ、五斗俵、八俵ニテ、四石ナリ）

おとほぎ (名) 〔言壽〕 コトホグコト。祝フコト。コトブキ。賀 壽 大殿祭祝詞「天津璽ノ劍鏡ヲ捧ゲ持チタマヒテ、天言壽宜マハシク 註二古語、云二許止保企一、言壽詞、如二今壽觴之詞一」 持統紀、四年正月「壽詞」

おとほぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 〔言壽〕〔ほぐ(壽)ノ條ヲ見ヨ〕 詞ニテ、壽グ。ホガフ。イハフ。コトブク。賀 壽 古事記、中(仲哀)六十五「以二吾名一、欲レ易二御子之御名一、爾言壽白之、恐、隨レ命易奉二」 大殿祭祝詞、弱肩ニ、太襁取懸ケテ、言壽伎鎭メ奉ル事、云云」

ごとミソ (名) 〔五斗味噌〕 豆、糠、鹽、ニテ作レル食物。卽チ、糂粏味噌ナリト云フ。 嬉遊笑覽、九、下「五斗みそハ、糂粏ナリ、其法ハ、調味抄ニ、五斗鼓ハ、豆二斗、糠二斗、鹽一斗、搗キ合ハセ、年ヲ經テ用ユ」 女重寶記(元祿)「五斗みそハ、ささおん」（女詞ナリ）

おとみや (名) 〔異宮〕 ホカノミヤ。他ノ宮。 源、九、葵五「イト苦シウ思シタレド、別宮タチノサルベキ、オハセズ、儀式ナド、常ノ神事ナレド」

おとむく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔事向〕〔むく(平)ノ條ヲ見ヨ、事ハ、事依すナドノ、事ニ同ジ、此方ヘ向ハシム、ノ義ヨリ、歸服セシム、ノ意トナル〕 平ク。討チ平ゲテ、從ハシム。服從セシム。征平 古事記、上四十九「於二此國一道速振荒振國神等之多在、是使二何神一而將二言趣一」（言ハ、事ノ借字、强暴ナル土神ヲ征服セシメムトナリ） 萬葉集、廿二十五長歌「チハヤブル、神ヲ許等牟氣、服從ハヌ、人ヲモ和シ、掃キ消メ」

おとむけ (動) 前條ヲ見ヨ。

おとむすぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 〔言結〕〔言解、言離、ノ反〕 言ヲ番フ。口約束ヲス。口契 孝德紀、大化二年三月「有二侍レ勞之男一、浪要二他女一、而未レ納際、女自適レ人、其浪要者嗔、求二兩家財物一、爲二己利一」 後撰集、十九、離別「遠キ所ニマカルトテ、女ノ許ヘツカハシケル「忘レジト、おとニむすびテ、別ルレバ、逢ヒ見ムマデハ、思ヒ亂ルナ」

おども (名) 〔子等〕〔子供〕〔供ハ、借字〕 (一)〔己ガ設ケタル子等。兒輩 常ニハ、複數ニ云ヒ、又、單數ニモ云フ。京都ニテ、子等。 天武紀、下、八年五月「朕男等、各異腹而生」 萬葉集、廿二十七長歌「ワカクサノ、妻モ古騰母モ、ヲチコチニ、多ニ圍ミ居」 太平記、五、大塔宮熊野落事「竹原入道ガ子共サヘ、父ガ命ヲ背テ、宮ヲ討チ奉ラムトスル企アリ、ト聞キシカバ」 (二)〔幼キ者。童。童子。兒童 枕草子、二、十七段「アカラサマニ來タル子ども、童子ヲ、ラウタガリテ」 油糟(寬永)「木魅トモ、怖ヂヌ山家ノ、子供ドモ」 (三)歌舞伎役者ノ若衆。カゲマ。 江戶眞砂、六十帖(寬延中寫本)「某ト云フ商家ノ富人、竹之丞ガ座ノ金元ニ成リ、役者ヅキアヒシテ、面白クナリ、清水屋ニ階ニテ、名月ノ催シ、子供、大勢、呼集メテサワギ、云云」(大盤振舞、溫知叢書、十二)

おども (名) 〔子等〕〔親シミテ呼ブ語〕 (一)諸人。人人。 古事記、中(應神)七十「大御酒ヲ太子ニ賜フ御長歌、詠ミタマハク「イサ古杼母、野蒜摘ミニ、蒜摘ミニ、我ガ行ク道ノ、云云」 萬葉集、一六山上憶良、唐ニアリテ本國ヲ憶フ歌「イザ子等、早日本邊ニ、大伴ノ、御津ノ濱松、待チ戀ヒヌラム」 (二)泛ク、世ノ人人。國人、一同。世人 萬葉集、廿五十六「イザ子等毛、狂行莫爲ソ、天地ノ、固メシ國ゾ、倭島根ハ」(天地ノ神ノ固メシ日本ノ國、天平寶字元年、惡美押勝ノ歌ナリ、是歲、橘奈良麻呂等、謀反シテ、刑セラレタリ)

おどもあつかひ (名) 〔子供扱〕 (一)〔子ヲ育ツルワザ。子供ノ世話。育兒 源、五十、浮舟四十六「アマタノ子どもあつかひニ、オノヅカラ忘レグサ摘ミテム」 (二)人ヲ、無智ノ小兒ノ如クアツカフコト。兒童視

おどもおろかみ (副詞句) 〔事疎〕〔おほろか、おろかナリ〕 (一)事、オロソカニ。ナホザリニ。 散木集、三、秋「秋ノ田ニ、紅璣散リケル、山星ヲ、おどもおろかみ、思ヒケルカナ」 拾玉集、二、蓮ホニ、メデタク咲ケル、蓮カナ、おどもおろかみ、心ガクラム」 (二)言フニ及バズ。 宇治拾遺、十四、第六條、珠價無量、我ガ落シタルあおやノ珠ヲ、人ノ拾ヒタルヲ、取リテ示シテ、是レナル

カト聞フニ「おともおろかなり、イヅクゾ、其球持チ [illegible]」

おとも-おとろ (名) [子供心] ヲサナゴコロ。子供タル者ノ心。稚心。丹波與作(寶永、近松作)中「拍子木ノ、數モカツ、十二餘ルヤ、皆 [illegible] 子供心ノ [illegible]」

おとも-しばゐ (名) [子供芝居] 歌舞伎 [illegible] ノ [illegible] 演ズルモノ。

おとも-だまし (名) [子供騙] 小兒ヲダマスガ如キ、淺ハカナル手段。「子供だましノおどかし言」

おとも-なげ-み (副) [事無氣] 事モ無キヤウニ。コトナシゲニ。平氣ニ。

おとも-な-し ・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [事無] [おともなしハ、何事もノ上略、おとこなしとも] なしニ同ジ、おとし(如)ノ語原ヲ併セ見ヨ」 (一)何事モナシ。マッタシ。無難ナリ。安全。宇津保物語、俊蔭「打チ [illegible] おともなし」 [illegible] イカデ時メキタマフラム、ナホ、見タマフニハ、おともなき人トコソ、ト見タマヘツレ」同、吹上、上「アマタガ中ニ、おともなき小童、一ツナム侍リシ」源、二、帚木「手ツキ、ロツキ、皆、タドタドシカラズ、見聞キワタリ侍リキ、見ル目モ、おともなく侍リシカバ」同、廿四、胡蝶「西ノ對ノ姫君、おともなき御アリサマ」 (二)容易シ。何デモ無シ。源、五十二、手習「大尼ノ君ハ、碁ハ、碁婆婆ヲコソハ、おともなく強キ侍リシカド」

おとも-の (名) [異物] 異ナル物。別ノ物。枕草子、四、四十四段「おとものハ食ハテ、侍ノ御オロシヲノミ食フ」 源、五十二、手習「あづま(琴)ノ調ベヲ、爪サハヤカニ調フ、皆、おとものハ、聲止メツルん」

おと-やう (名) [異樣] 異ナレル狀。コトザマ。異樣。 源、四十六、[illegible] おとやうナル女東ノ狀シテ、[illegible]へ入リタマフ」徒然草、百三十九 [illegible] 八重櫻ハ、異樣ノ物ナリ」

おと-や-む ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [言止] 物言フコト、能ハザラシム。ダマラシム。合默 大祓詞「語問ヒシ磐根樹立、草ノ垣葉ヲモ語止メテ」云云、天降シ [illegible] 宇内 [illegible] 言ニナレル、[illegible] 天孫ノ降臨ノ事ナリ)

おと-ゆ-く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [事行] 事、成リユク。事、トトノフ。埒アク。事成 竹取物語 [illegible] ゆかぬモノ故、大納言ヲ謗リ合ヘリ」 源、十、賢木「ワリナキ御心惑ヒドモニ、ナカナカ、事モゆかヌニヤ」沙石集、六、下、十三條「度度、問答、往復シテ、事行かザリケレバ」

おと-ゆゑ (名) [事故] サシサハリ。故障。保元物語、三、爲朝鬼島渡事「事故ナク、歸リタマフ」

おと-よく (副) [言好] ロサキ、ウマク。巧言 源、四十九、東屋「媒ノ、カク、おとよくイミジキニ、女ハマシテ、賺サレタルニヤアラム」同、十五、蓬生「[illegible] 人ワロゲニハ、ヲモ、モテナシ聞コエジ、ナド、イトおとよく云ヘバ」宇治拾遺、十四、十一條「言ハムニ從ヒテ、鹿ニモ具セラレテ行カムナド、おとよ [illegible] 古今集、十四、戀、四「イデ人ハ、おとノミゾよき、月草ノ、ウツシ心ハ、色異ニシテ」

おと-よさ-す ・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [事寄] [よさすノ條ヲ見ヨ] 次次條ノ語ノ、事寄すノ敬語 委ネタマフ。任ジタマフ。任命 神代紀、上「伊弉諾尊、勅任二子一曰、天照 [illegible] 可 [illegible] 天原一也、云云」 同、下「[illegible] 以 [illegible] 凡以 [illegible] 任 [illegible]」 景行紀、四年二月「七十餘子、皆封 [illegible] 國郡、各如其國」 [illegible] 十年正月「任二大山守命 [illegible] 掌二山川林野一」 雄略紀、七年八月 [illegible] 吉備上道臣田狹 [illegible] 任 [illegible] 國司」 [illegible] 紀、大化二年四月 [illegible] 吾子 [illegible] 治 [illegible]」

おと-よさ-す ・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [言依] [よさすノ條ヲ見ヨ] 次次條ノ語ノ、言寄すノ敬語。宣フ。勅 大祓詞「神漏岐、神漏美ノ命以チテ、云云、我ガ皇御孫ノ命ハ、豐葦原ノ水穗ノ國ヲ、安國ト、平ケク知食セト、事依シ奉リキ」(事ハ、言ノ借字)

おと-よ-す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [事寄] (一)事ヲ、委ヌ。マカス。命ズ。任ズ。任命 神代紀、上「父母既任二其子一」 萬葉集、四「[illegible] 長歌、天地ノ神ノ事寄セシ」 云云、吾ガ妻ト、定メル今夜、秋ノ夜ノ、百夜ノ長ク、アリコセヌカモ」 同 [illegible] 事寄セテ、[illegible] 合ト云ハ [illegible] 同、廿一、少年 [illegible] 二、トおとよせテ、似ツカハシカルベクト、トリドリニ、思シアラソヒタレド」 (二)因ニ、引附ク。カコツク。コトソク。託 [illegible] 古今集、十一、戀、一「夜ノ [illegible] 萩ノ露ニ、おとよせツ、露ノ袂ヲ、イカガ隱バム」「事ヲ、左右ニ寄す」

おと-よ-す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) [言寄] 言付グ、コトヅケス。傳言ス。寄語 [illegible] 春、上 [illegible] 名ニシ負フ、花ノ便リニ、おとよせテ、[illegible] ヤセマシ、三吉野ノ山」

おと-よ-る ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [事寄] 偏寄ル。寄託 源、三十四、上、若菜、上「一方ナメレバ、ソレニおとよりテ、カタナ [illegible] マヒ、シタマフ方方コソハ、多カメルヲ」同卷廿「昔モ、カヤウナル還ヒニハ、何事モ、人ニ異ナ [illegible] エアルニ、おとよりテコソアリケレ」

お-とり (名) [小鳥] 雀、鶯、雲雀、鴫、鵙ナド、スベテ、形、小サキ鳥ノ總名。 源、十八、松風「野ニ泊リヌル君達、小鳥、シルシバカリヒキツケサセタル荻ノ枝ナド、ツトニシテ、參レリ」

お-とり (名) [部領] [事執(執事)ノ約(兄弟、おとうと)、おとことまるう)領ハ、頭領ノ意] (一)一部屬ノ長。 推古紀、十九年五月五日「藥獵 [illegible] 以 [illegible] 田部連 [illegible] 領二」云云、額田部比羅夫連、爲二後部領一」 [illegible] 左右 [illegible] 近衞 [illegible] 先生ノ下ニアリテ、帶刀陣ノ事務ヲ執ル官、左右衞門府ニテ、兼帶ス 多クハ、借字ニテ、木鳥、籠鳥、ナドト記シ、木鳥ナドトモ讀ム 宇津保 [illegible] 部領、コトリ、在二春宮坊帶刀二江 [illegible] 十四 [illegible] 坊官除目ニ長、木 [illegible] 春宮坊帶刀、云云、長二人、近衞一人、先生一 [illegible] 十人、此內、木鳥、左、右、各一人」 [illegible] 永二ノ頃二三、帶刀陣 右ノ下ニ、主 [illegible] トアリ、長ノナラビニ、 [illegible] トアリ」 左衞門尉ヲ兼スルヲ左木丁ト云ヒ、右衞門尉ヲ兼スルヲ右木丁ト云フ、貞丈雜記、四、官位ニハ、木大鳥、右木鳥トアリ。 (三)傀儡ノ長遊女ヲ率ヰル者、 枕草子、四、四十三段「[illegible] もてるもの「くぐつノおとり」一本「おととり」蔦蔓抄「くぐつノ小鳥」

お-とり (名) [木鳥] 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

お-とり (名) [籠鳥] 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

お-とり (名) [子取] 兒童ノ遊戲、コトロコトロ。數人ノ兒童中、一人ハ鬼トナリ、一人ハ親トナリ、他ハ皆、子トナリテ、初ノ子ハ、親ノ後ヲ採リ、次次、互ニ帶ヲ採ル、鬼、終リノ子ヲ捕ヘントスルヲ、親、兩手ヲ廣ゲテ、之レヲ妨ゲ、若シ捕ヘラルル時ハ、其子ヲ鬼トナシ、役目ヲ換フルナリ。

お-とり (名) [木取] [木ニ取リツク義カ] 猿ノ手足。 [illegible] 往來、五月「猿木取 [illegible] 手足事也」 [illegible] 色 [illegible] 集 木取、コトリ、猿木取」

おとり-あはせ (名) [小鳥合] 合物ノ一、小鳥ヲ出陳シテ、其啼聲、又ハ、羽色、等ヲ競ベテ、優劣ヲ判ズ。 [illegible] 記、寬治五年十月六日「今日有二殿上小鳥合事一」云云、「上 [illegible] 御格子、[illegible] 南面一云云、小鳥記、[illegible] 云云」 [illegible] 集、廿、魚蟲禽獸「寬治五年十月六日、殿上人、所衆、瀧口、小舍人、左右ヲ別チテ、小鳥合ノ事アリケ

り、云云、左、勝チテ、殿上ニトマリテ、朗詠、今様、猿樂ナドアリケリ」禁祕御抄、下「幼主時、小鳥合、蟲、鶏鬪、(常事也)」

こ-とりそ (名) [古鳥蘇] 舞樂ノ曲ノ名、新鳥蘇ト共ニ、高麗樂ニテ、共ニ、六人舞ナリ、古鳥蘇ハ、卷纓ノ冠ニテ、笏ヲ取リ、新鳥蘇ハ、鳥兜ノ如キ大帽ヲ被リテ、手ニ、拂子ノ如キモノヲ持ツ。

おとり-づかひ (名) [部領使] (一)東國ノ防人ノ、筑紫ノ守備ニ交替ノ時、國司ノ官人ノ、命ゼラレテ、コレヲ引率スル職。萬葉集、廿「防人部領使、遠江國史生、坂本朝臣人上」同卷「相摸國、防人部領使、守、從五位下、藤原朝臣宿奈麻呂」同卷「上總國、防人部領使、少目、從七位下、茨田連沙彌麻呂」(二)七月ノ相撲ノ節ノ相撲人ヲ召集ムルタメニ、諸國ニ遣ハサルル職。是レヨリ數月前ニ、左右衛府ノ官人中ヨリ、選拔セラレテ、補セラル、又、相撲使ト云フ。左府ノ領シタル相撲人ヲ左方トシ、右府ナルヲ右方トス。萬葉集、五「相撲部領使」同卷「相撲使、某國司、官、位、姓名」江家次第、八、七月、相撲召仰「先、二三月比、大將以下、於陣座、定相撲使云云、遣諸國七道、召相撲人也、萬葉、おとりづかひト云フ也」公事根源、七月、相撲「左右ノ近衛、方ヲ別ケテ、國國ヘ使ヲクダシテ、相撲ヲ召ス、是ヲ、萬葉ニモ、おとり使ト申スナリ」年中行事歌合(貞治)相撲「方別キテ、おとりづかひノ、急ギシハ、今日ノ拔手ノ、タメトナリケリ」塵添壒嚢抄(天文)七「字ニハ、相撲使ト書テ、おとりづかひト訓ム、口傳也」

おとり-とまらず (名) [小鳥不止] 〔ありどほしハ、蟻ノ不得ニ、刺アリ、たらの木ハ、幹ニ、刺、多シ、因リテ名ヅク〕(一)樹ノ名、虎刺ノ一名。(二)楤木ノ一名。

おとり-や (名) [小鳥屋] 小鳥ノ飼鳥ヲ商フ家。人倫訓蒙圖彙、四「小鳥や、諸ノ飼鳥ヲ商フ、其外、鶯、鷄、等ノ鳴鳥ヲ持テバ、諸方ノ鳥ニ音附ヲスルナリ」

おとわき (名) [辭別] 次條ヲ見ヨ。

おと-わ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [辭別] 〔わく(別)ノ條ヲ見ヨ〕祝詞ニ云フ語。言葉ヲ改ム。別段ニ申ス。新年祭祝詞、皇御孫命ノ宇豆ノ幣帛ヲ稱辭竟ヘ奉ラマクト宣リタマフ、辭別きテ、伊勢ニ坐ス、天照大御神ノ大前ニ申サク、皇大御神ノ見ハルカシマス、四方ノ國ハ、云云」祝詞ニ斯ク申ス詞ヲ、名詞トシテ、辭別ト云フ。禁祕御抄、上「加奉幣、有辭別、必奏、草」

おと-わざ (名) [事業] 爲ル事、爲ベキ業。シワザ。シゴト。續紀、廿、天平寶字元年七月、宣命「人ノ見咎ムベキ、事和射莫爲ソ」同、三十四、寶龜七年四月、詔「其人等ノ、和ミ安ミスベク相言ヘ、驚シキ事行ナセソ」古今集、序「世ノ中ニアル人、おとわざ繁キモノナレバ」源、廿、朝顏「思フサマニ、ハカナキおとわざヲ、シナシタマヒシハヤ」同、三十八、夕霧「おとわざ繁キ、己ガジシノ營ミニ、紛レツツ」大學「事有本末、行有終始」

おと-わざ (名) [言事] 言ト、事ト。履中紀、四年八月「始之於諸國置國史、記言事、達四方志」(國史ハ、國毎ニ任ゼラルル史ナリ) 漢書、天文志「左史記言、右史記事」

おと-わざ (名) [異業] 異ナリタル業。ホカノシゴト。餘事。宇津保物語、藏開、下ニ「琴ヲコソ敎ヘザラメ、おとわざモ、彼侍從ノスル事ハ、エアラヌヲヤ」

おと-わざ (名) [諺] 〔わざハ、神爲ノ義、童謠、わざはひノ、わざ、是レナリ(古事記傳、十三)說文「諺、傳言也」〕(一)神ノ心ニテ、世人ニ言ハシメテ、吉凶、其他ノ事ヲ諭シ示シタマフ詞、童謠ト云フモ、是レナリ。古事記、上五十「諺曰、雉之頓使、木足也」(使シテ殺サレ、還ラヌヲ云フ) 垂仁紀、八十七年二月「神庫雖高、我能爲神庫造梯、豈煩登庫乎、故諺曰、神之神庫隨樹梯之、此其緣也」(導ク者アラバ、到ルベシノ意)(二)轉ジテ、經驗ヨリシテ、可否ノ訓誡ナドヲ籠メタル語。又、只、何トナク、世ニ言ヒナラハシ來リテ、久シクナレル語。靈異記、中、第九緣「諺曰、現在甘露、未來鐵丸者、其斯謂之矣」訓釋「諺、去砥和佐」(恐ニ、寺ノ物ヲ借リテ、死シテ、牛ニ生レ變ハレルヲ云フ) 源、三十六、橫笛「夢ハ、思ヒアハセテナム聞ユベキ、夜、語ラズトカ」赤染衛門集「木ヲ離レタル、猿モ啼クナリ」今鏡、下、第七、堀川の流れ「朝夕ニ外ノ財ヲ數フル」沙石集(弘安)五、上、第四條「世間ノ諺ニモ、握レル拳、笑メル面ニアタラズトテ」「蒔カヌ種ハ殖エヌ」「敬ヘバ敬マル」「後悔ハ先ニ立タヌ」「勝ッテ兜ノ緒ヲシメヨ」「雨降リテ地固マル」「稼グニ追附ク貧乏ナシ」

おとわり (名) [理] 〔おとわる(理)ノ名詞形、次次條ヲ見ヨ〕(一)スヂミチ。ソノ筈ナルコト。道理。理由。神代紀、下「於義不可」神武紀「理實灼然」萬葉集、十五「世ノ中ノ、常ノ己等和利、如此樣ニ、成リ來ニケラシ、植エシ種因カラ」金葉集、八、戀、下「盜人ト、云フモおとわり、小夜中ニ、君ガ心ヲ、取リニ來タレバ」(二)禮儀。繼體紀、元年三月「宜備禮儀、奉迎手白髮皇女」欽明紀、十五年十二月、註「新羅葬理明王頭骨、以禮送餘骨於百濟」

おとわり (名) [斷] 〔おとわる(斷)ノ名詞形、次條ヲ見ヨ〕(一)告ゲオクコト。通告。生玉心中(正德、近松作)中「手形ノ銀子不埒ユヱ、明後日御願ヒ申スト、斷リニ越シタレバ」「斷狀」(二)辭退。退散。辭去。榮花物語、廿三、駒競「年頃ノ風病モ、おとわり申シテ、罷リ去リヌベカンメリ」(三)過失ヲ、詫ブルコト。アヤマルコト。陳謝。宇治拾遺、十一、第三條「吾ガ君、大キナルおとわり候、サリナガラ、只、數シタマハラムト詫ビケレバ」倭訓栞、おとわり「俗ニ、過失アッテ陳謝スルヲ、おとわりを云ふト云フ」(四)承諾セヌコト。拒ムコト。謝絶。拒絶。狂言記、若武者「其ノヤウナ事ハ、思ヒモ寄ラヌ事デゴザル、ヨイヤウニ、斷リヲ仰セラレ」

おと-わ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [理斷] 〔言割る義、理非ヲ言ヒ別クル意、萬葉集、十五「世ノ中ノ、常ノ己等和利」〕(一)言ヒ別ク。裁斷ス。判斷ス。(刑官ヲ、判事、大理ト云フ)武烈即位前紀「刑理斷獄」舒明即位前紀「天神地祇、共證之」枕草子、四、四十三段「仲忠ガ事ナド、御前ニモ、劣リ、優リタル事ナド仰セラレケル、マヅ、是レハイカニ、おとわれ」重之集、上「波の聲に夢さむるト云フ題ヲ、ためきよト、むねちかトニ詠マセテ、翁、おとわる」(翁、歌ノ優劣ヲ判斷ス) 名義抄「判、斷、コトハル」字類抄「裁、斷、決、理、コトハル」(二)言譯ヲス。陳情。陳謝。源、廿五、螢「ツラシト思ヒシヲリヲリ、イカデ、人ニモおとはらせ奉ラム、ト思ヒオキシコト、忘レガタク」(人トハ、内府ヲ指ス)

おと-わ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [斷] 〔前條ノ(二)ノ轉、常ニ、斷ノ字ヲ書クモ、ソレヨリ移レルナリ〕(一)告ゲオク。報告シオク。通告。通知。「病氣缺席ヲおとわる」(二)理ヲ云ヒテ、押シ戻ス。辭退ス。辭。謝絶。「推薦ヲおとわる」「贈物ヲおとわる」(三)拒ム。却クル。拒絶

おと-をさめ (名) [事納] 十二月八日ニ、一年ノ雜事ヲ終フルコト、之ヨリ歲暮年始ノ式ヲ始ム。又、其式果テテ、二月八日ニ一年ノ事ヲ始ムルヲ、事始ト云フ。

おな (名) [粉] 〔熟ノ語根〕粉ニ同ジ。

おな (名) [小名] 地名ニ云フ語、あざな(字)ノ條ヲ見ヨ。

おな (名) [小菜] 〔俗語考「あをな、おな、青菜小菜也、今モ、青菜小菜賣ト云フ」トアレバ、菜ヲ、アヤナシテ云ヒシナリ〕菜ノ異稱。堀河百首、春「クレバ、カタミヌキイレテ、賤ノ女ガ、垣根ノおなヲ、摘マヌ日ゾナキ」

ごない (名) [左内] 左内ニ同ジ、左内ノ條ヲ見ヨ。

ごないしょ (名) [御内書] (御教書ノ、公ノ手書ヲ云フニ對シ、内内ニ與フル書ノ意) 室町幕府以後、將軍ノ私書ノ稱、[illegible]

こないな (副) [如此] (このやうノ約轉、の、や、ノ約、なトナル、竟轉、いくち穴打、あないち) コノヤウニ、コンナニ。(關西) [illegible]

ごないはう (名) [御内方] ないはうノ敬語。[illegible]

ごなう (名) [御惱] オンナヤミ、病ノ敬語。御病氣。[illegible]

こなか (名) [子中] 子ヲデナシタル夫婦ノ間。[illegible]

こながき (名) [粉掻] (熟攪ノ義、かきこなしノ義、名義抄「攪、カキマナス」熟田、錬金モ、こなした、こなしがねナリ) 米粉ヲ、水ニ攪ゼテ、煮熟テタルモノ。

[illegible] 字、説文「糂、以米和羹也」 倭名抄、十六魚鳥類「[illegible]、古奈加木」[illegible] 文安[illegible]

こなかぐろ (名) [小中黑] たかぐろノ條ヲ見ヨ。長門本、平家物語、十六「[illegible]佐佐木四郎高綱、萌黃ノスズシノ鎧直垂ニ、小中黑ノ征矢ヲゾ負ヒタリケル」

こながね (名) [錬金] (熟金ナリ、前前條ノ語原ヲ見ヨ) 製錬シタル金。(あらがねニ對ス) 孝德卽位前紀、註「錬金」(コナカネ) [illegible] 字鏡[illegible]錬、[illegible]

こなから (名) [小半] (半分、卽チ、なかばナリ(其條ヲ見ヨ)半分ノ又半分ナレバ、小なかばナリ、物ノ四割一、又、四分一ノ稱ニテ、四半分トモ云フ、小半ノ字ヲ音讀シテ、小半ト云フ、半斤ノ半分ヲ、小半斤(四半斤)ト云フ、是レナリ、小半時、小半提、皆、同ジ) (一)米、二合五勺ノ稱。五合桝ヲ、なから桝ト云ヒ、二合五勺桝ヲ、こなから桝ト云フ。[illegible] (二)酒、二合五勺ノ稱。酒一升ヲ、一斤ト云フ、其小半斤ナリ。[illegible] 浮世風呂[illegible]「二合半ナリ」[illegible] 二合五勺ヲ極度トスベシトノ意ナリ。

こなからます (名) [小半桝] 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

こなぎ (名) [小水葱] 水葱ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、十四「上毛野、伊香保ノ沼ニ、植ヱ古奈宜、カク戀ヒムトヤ、種モトメケム」

こなごな (副) [粉粉] (粉ナナル義) 極メテ細カク碎ケタルニ云フ語。コナミヂンニ。コノパヒミヂンニ。粉碎。「[illegible]子ガ、こなごなニ碎ケタ」

こなさま (代) [此方樣] (こなハ、對稱ノ代名詞、こなたノ下略) アナタサマ。コナサン。[illegible]

こなさん (代) [此方樣] (こなたさまノ略訛) 前條ニ同ジ。

こなし (名) [熟] (一)コナスコト、消化。調節。(二)(爲こなし、着こなしノ略。) 「服こなし」[illegible] (三)歌舞伎ニ、藝ヲ演ズル仕打。シグサ。科。[illegible]

こなし (名) [小梨] こりんごニ同ジ。

こな・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [熟] (粉ニ成す義ナルベシ、粉ニスル意、自動ニ、こなるト云フ、こねるト云フ語モアリ) (一)碎キテ、細カニス。粉碎。欽明紀、五年十二月、[illegible]

[illegible] (二)土ヲ掘リオコシテ、碎キ熟レシム。タガヘス。(熟田ハ、熟シ田ナリ) コネル。耰。「田ノ土ヲこなす」 (三)胃ノ内ニテ、食物ヲトカス。消化。「飯ヲこなす」 (四)意ノ如ク、扱ヒ馴ラス。調節。「馬ヲ乗りこなす」「人ヲ使ヒこなす」「着物ヲ着こなす」「技ヲ、自在ニ爲こなす」 (五)言ヒ潰ス。貶ス。オロス。ケナス。貶。面折。「人ノ言ヲこなしツケル」「アタマこなし」

こなすび (名) [小茄] くさなすびニ同ジ。

こなずみ (名) [粉炭] 炭ノ、碎ケテ、粉トナリタルモノ。粉炭。炭團ナドニ作リナス。

こなた (名) [熟田] (熟田ノ義、錬モ、熟攪ナリ) 開墾シテ、二年目ノ田。あらきばりノ條ヲ見ヨ。畬。字鏡[illegible] 倭名抄、一五田園類「水田、古奈太」(陸田ニ對シテ、水田ヲ云フナリ)

こなた (名) [此方] (次條ノ意ニ同ジ) (一)未來ヨリ、現在ヘノ方。以前。皇極紀、元年九月[illegible] (二)過去ヨリ、現在ヘノ方。以後。源、十三、明石[illegible]

こなた (代) [此方] (このかたノ、の、か、約リテ、なトナル、そのかた、そなた。かのかた、かなた。あのかた、あなた。ど

のかた、どなた。皆、同ジ、このあたりノ約カトモ思ヘド、以前、以後ニ通ゼズ」

(一)〔最モ、身ニ近キ方位ニ云フ語。〕コチ。コチラ。(そなた、かなた、あなたニ對ス) 萬葉集、九二十六長歌「少女墓、中ニ造リオキ、壯士墓、此方彼方ニ、造リオケル、故緣聞キテ、云云」源、廿二、玉鬘「ナホ、こゝニオハシマセト、尋ネカハシテ、云云、こなたニ移シ率ル」(二)自稱ノ代名詞。我レ。我ガ身。謠曲、田村「イカニ、是レナル人ニ、尋ネ申スベキ事ノ候、こなたノ事ニテ候フカ、何事ニテ候フゾ」(三)對稱ノ代名詞。汝。ソナタ。アナタ。ソコモト。狂言記、宗論「聊爾ナ申事ナガラ、こなたハ、どれカラどれヘゴザルゾ」同、今道心「案内トハ、どなたデゴザル、ヤア、コレハコレハ、こなたカ」

〜**こなた-ざま** (名)〔さま(方)ノ條ヲ見ヨ〕此方ノ方。コチラノムキ。源、八、花宴五「朧月夜ニ、似ルモノゾナキ、ト打誦シテ、こなたざまニ來ルモノカ、(哉)イト、嬉シクテ、フト、袖ヲトラヘタマフ」枕草子、六、五十段「廂ノ柱ニ背ヲアテテ、こなたざまニ向キテオハシマス」

〜**こなた-づくり** (名)〔畬〕あらきばりノ條ヲ見ヨ。

こなた-づく・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)〔畬〕〔熟田作るノ義〕こなたづくりヲス。あらきばりノ條ヲ見ヨ。易經、上經、无妄卦「不耕穫不菑」不二耕稼一不二菑畬一(倭點本、こなたづくるト讀ム也)」

こ-なつめ (名)〔小棗〕〔樹、常ノ棗ヨリ、稍、小ナリ〕さねぶとなつめノ一名。

こ-なひだ (名)〔此間〕〔このあひだノ、の、あ、ノ約、な〕このあひだニ同ジ。サキゴロ。サキダッテ。「こなひだ、御目ニカカッタバカリ」

ご-なふ (名)〔誤納〕納金、納租ナドノ數、又ハ、高ヲ、マチガヘタルコト。

こ-なべ (名)〔小鍋〕鍋ノ、小サキモノ。此語、菁ト取合ハセテ、物欲シキ意ニ云フ。笠草子、四、幼兒ノ歌「菁ヨ、ナドサハ啼クゾ、乳ヤ欲シキ、小鍋ヤ欲シキ、母ヤ戀シキ」是レハ、繼母ノ許ニアリケルニ、小サキ土鍋ノアリケルヲ、我ガ繼ノ子ニハ取ラセテ、繼子ニハ取ラセザリケレバ、菁ノ啼クヲ聞キテ、詠メル歌ナリ」貫之ガ、娘ノ歌ナリト云フ。(俊頼口傳、女郎花物語、下) 西行和歌數抄(蓮阿)ニ、此歌ヲ、兒ノ、たえたえあゆみシタル歌ナリト云ヘリ。夫木抄、二「カカリケル、御法ノ花ゾ、菁ヨ、こなべヲ欲シト、何思ヒケム」

こなべ-だて (名)〔小鍋立〕〔たてハ、獻立、膳立ナドノ、たてナリ〕小鍋ニテ、煮物ヲ調菜スルコト。手輕ニ濟マス意、又ハ、二人、睦マジク食合フ意ニ云フ。「チンチン鴨ノ小鍋だて」

こ-なほし (名)〔小直衣〕狩衣ニ、襴ヲツケタルモノ。又、狩衣直衣。織物ニテ製シ、袖括アリ、指貫ニ、下括アリ。鎌倉時代以後、上皇、召サレ、公卿モ、着用セリ。名目抄「小直衣、或、狩衣直衣、古者被レ聽之後、院中等着レ之」

こ-なます (名)〔子鱠〕鮒ノ鱠ニ、其鮞ヲ雜ゼタルモノ。又、子齏。今昔物語、十五、四十二語「鮒ノ子鱠」易林節用集(慶長)食服門「子交、膾」

こ-なみ (名)〔嫡妻〕〔山彦冊子、三ニ、こなみハ、着馴妻ノ轉(着物、ころも。雀、すずみ)うはなりハ、上委積妻ノ略(なげかはし、なげかし)古ヘ、一妻ヲ、衣ヲ、二重着ルニ譬ヘタリ、トアリ(倭訓栞、こなみ「熟妻、或ハ、もさつめト讀メリ」うはなりうはハ、重ル義也、なりハ、並ノ

義、ら、び、ノ反、り」仁德紀、廿二年正月「天皇ニ納八田皇女一將レ爲レ妃、皇后御歌「夏蟲ノ、蟚務始(夏蠶)ノ衣、二重着テ、云云」萬葉集、七二十八オホヨソニ、吾レシ思ハバ、下ニ着テ、馴レニシ衣ヲ、取リテ着メヤモ」紅ノ、濃染ノ衣、下ニ着テ、上ニ取リ着バ、事成サムカモ」何レモ、二妻ノ事ヲ云ヘルナリト云フ」(一)〔先ニ娶レル妻。〕先ニ娶レル妻。本妻。ムカヒメ。モトツメ。うはなりト云フ。次妻 古ヘハ、妻、二人ヲ持チテ、二妻ト云ヒキ、本妻ノ、次妻ニ對スル嫉妬ヲ、うはなりねたみト云ヒ、打チタタクヲ、うはなりうちト云ヘリ。令集解、四十、喪葬、夫爲レ妻服三月、次妻无レ服」釋日本紀私記音義(奈良朝)ニ妻、妾、上、正妻也、下、第二妻也」古事記、中(神武)七十六御長歌「古那美ガ、魚乞ハサバ、云云、宇波奈利ガ、魚乞ハサバ、云云」檜垣嫗集「うはなり、こなみト、一日、一夜、ヨロヅノ事ヲ、言ヒカタラヒ」大和物語、中「本ノ妻ノ許ニ、筑紫ヨリ女ヲ率テ、スヱタリケリ、本ノ妻ハ、心ヨク語ラヒ居タリ、云云、此うはなり、こなみ、云云」十訓抄、下、八、第六條「呂后トキコエケル后ハ、戚夫人ト云ヒケルうはなりヲ四ヘテ」(漢高祖ノ后ト、妾トナリ) 字鏡廿五「嫡、介加比女、又、毛止豆女」嫉、宇波奈利」媸、古奈美」(兼女(二女兼有)、女君ノ合字ナリ、釋名、妾、謂三夫之嫡妻一曰二女君一」名義抄「嫡、ウハナリ」(二)後ニハ、こなみハ、死別、離別ノ妻ノ稱トナル。先妻。うはなりハ、後副ノ妻。後妻。箋注倭名抄、一百三十五前後妻 顏氏家訓云、後妻、多惡二前妻之子一和名、前妻、古奈美、後妻、宇波奈利、前妻之子、後妻所レ稱、前夫之子、後夫所レ稱、並、麻麻古也」(前夫ヲ下夫ト云ヒ、後夫ヲ上夫ト云フ) うはなりうちノ條ヲ併セ見ヨ。

こな-みぢん (名)〔粉微塵〕〔粉トナリ、微塵トナル〕コナゴナニナルコト。コッ

パヒミヂン。粉碎 博多小女郎波枕(享和、近松作)上「裱アル萬石デ、クサ頭ノ鉢骨ガ、粉微塵ニ打チ破レタ」「石ガ當ッテ、硝子ガこなみぢんトナ、タ」

ご-なん (名)〔五男〕(一)五人ノ男子。「五男、三女」(二)第五ニ生レタル男子。五番目ノ男。五郎。

ご-なん (名)〔御難〕(一)貴人ノ難儀、災難ニ就キテ云フ、敬語。(二)特ニ、日蓮宗ニテ、祖師日蓮ノ遭難ヲ稱スル語トス、日蓮、其宗旨ヲ、強ク主張セシガタメニ、文永八年九月十二日、鎌倉幕府ニ捕ヘラレテ、相模國、龍ノ口ニテ、斬ラレムトシタリ、辛ク助ケラレテ、佐渡ニ流サレシガ、後、三年ニシテ赦サレヌ、其龍ノ口ニ引カルル途上ニ、一老婆、餅ヲ、日蓮ニ供シタルコトアリト傳ヘラレ、其宗徒、毎年、九月十二日ニ、牡丹餅ヲ作リテ、日蓮ノ像ニ供スルヲ例トス、御難ノ餅ト云フ。(三)轉ジテ、俗ニ、戲レニ、迷惑ノ意ニ用キル。文化ノ川柳「牡丹餅ガ、出來タデ、親ノ御難ナリ」(醜キ娘ヲ持チテ、嫁入ニ、持參金ヲ要スルヲ云フ)

こ-なんど (名)〔小納戸〕〔なんどノ條ヲ見ヨ〕德川幕府ノ職名、小性ヨリハ稍卑ク、將軍ニ近侍シテ、髮月代、膳番ノ事ナドヲ掌ル。其長ヲ、小納戸頭取ト云フ。吏徵、上「御小納戸、若年寄支配」

こなんど-とうどり (名)〔小納戸頭取〕前條ヲ見ヨ。吏徵、上「御小納戸、云云、頭取四人、諸大夫、千五百石高、御役料無レ之」

こ-なや (名)〔粉屋〕うどんの粉、蕎麥粉ナド、アキナフ商家。厚假粧ヲ、こなやノ盜人ノヤウ、ナド云フ。

こ-なら (名)〔小楢〕楢ノ一種、山中ニ多

シ、高サ一二尺ニ過ギズ、葉ハ、ならニ同ジ、夏ノ初、若葉ヲ生ジテ、花アリ、實ハ、櫟ニ似テ、枝ノ梢ニ生ズ、別ニ、栗毬ノ如キモノヲ、枝ノ間ニ生ズ、實ハ、單生シ、毬ハ、攅生シ、甘刺、柔カニシテ、刺サズ、初、綠ニシテ、秋ニ至リテ、茶褐ナリ、コレヲ、ならおぶト云フ、蟲ノ巣ナリ、内ニ、堅キ核ノ如キモノアリ、綠ナルトキ破レバ、中ニ、白クシテ長キ一小蟲アリ、褐色ノトキ破レバ、一小蝶アリ。[illegible]

こな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 熟 [粉熟るノ義(こなすノ自動)] (一)熟レテ、ヨクマジル、碎ケテ、細カニナル。(二)胃ノ内ニテ、食物、消化セラル。(三)[illegible]ノ如ク、扱ヒ馴ルヽ、ヨク[illegible]セラル。(四)世事ニ、ヨク馴ル。物事ニ、角立タズ、ヤウニナル。(五)技ニ馴レテ、巧クナル。熟練

こなれ (名) 熟 (一)コナルルコト。熟レテ、和ルコト。(二)食物ノ、胃ノ中ニテ、トロクルコト。消化「固イモノハ、こなれガワルイ」

こな・れる (自動) 前前條ノ語ノ口語。

コニオル (名) 后 [illegible]次條ノ語原ヲ見ヨ」百濟ノ王后。[illegible]「王、及、太后、王子」太后ノ旁訓、后旅流、「コニオル」トアリ、[illegible]

コニ・キシ (名) [illegible] 「[illegible]ノ轉(牽牛子、けにごし。乙訓、おとくに。集韻、[illegible]、漢音、けん、[illegible])王后ヲ、こんおる、こにおる、太子ヲ、こんせしむ、こにせしむ、王城ヲ、こにさしト見ユ、こん(こに)ハ、大ノ義ト云フ。雄略紀、五年四月ニ、軍君、[illegible]也トモ見ユレバ、きしハ、君ノ義ナルガ如シ、こきしト云ヒ、こんきト云フハ、中略、下略ナルベシ、サラバ、かんきハ、こんきノ轉ナラム」(一)百濟王ノ稱號。又、コキシ。コンキ。[illegible] (二)他ノ、韓國各地ノ國王ヲモ、通ジテ、こきしト稱シタルガ如シ、又、かんき。[illegible] (三)後ニ、百濟王族ノ歸化人ニ賜ハル可婆禰トナル。[illegible]

こにくらし・い (形) 小憎 [こ(小)ハ、接頭語、其條ヲ見ヨ」古言、けにくしノ轉、にくらしト云フニ同ジ。「こにくらしい男ダ」

ごにくゎい (名) 五二會 [初、織物、陶磁器、漆器、金屬製品、紙製品、ノ同業者ノ大會ヲ、五種會ト稱セシニ、敷物、雜貨、ノ二種ヲ加ヘタルニ因リテ、五二會ト改稱シタリト云フ」我ガ國內ノ工藝品ノ改良、其作ヲ圖ルガ爲ニ立テタル會。明治廿七年、前田正名、發起シテ、會頭タリキ、本部ヲ東京ニ置キ、各地ニ支部ヲ設ケ、時時、共進會ヲ開キテ、出品ヲ審査シ、優劣ヲ判セリ。

こにさい (名) 小二歳 [小ハ、足ラヌ意、二歳ハ、若者ノ稱、各條ヲ見ヨ、けにさいト云フハ、音轉ナリ(こなす、けなす)」 若者ヲ罵リ呼ブ語。又、けにさい。アヲニサイ。豎子 嬉遊笑覽、十一「俗言ニ、若キ者ヲ罵リテ、毛二歳ト云フ」

コニ・サシ (名) 王城 [百濟語、こにきしト、さし(城)ト、ノ條ヲ見ヨ」百濟王ノ都。[illegible]

こにし (名) 胡荽 「香荽(コスヰ)ノ轉ナラム(牽牛子(ケンゴシ)、けにごし)次條ノ呉茱萸(コシュユ)ト同趣ノ語、こにしトハ、約メテ云フナリ(巾子(コンジ)、こじ。土師、はじ)」漢種ノ移植ナリ、支那前漢ノ張騫、胡國ヨリ得テ、胡荽ト呼ビ、晉ノ後趙ノ石勒ノ名ノ、胡ナルヲ避ケテ、改メテ、香荽トモ稱セシナリト云フ、陳藏器曰「石勒諱胡、幷汾人、呼爲香荽」也」 草ノ名、又、こえし。中世、此種、絶エテ、後ニ、阿蘭陀人、舶齎ス、今、こえんどろト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

こにしい (名) 呉茱萸 [呉茱萸(コシュユ)ノ轉ニテ、こにしト云フ類ナラムカ」 胡茱ヲ、こにしト云フ類ナラムカ、呉茱萸ノ古名、其條ヲ見ヨ。[illegible]

コニ・セシム (名) 太子 「こにきしノ語原ヲ見ヨ」百濟國ノ太子(ヨツギ)。[illegible]

こにだ (名) 小荷駄 [小ハ、接頭語ナルベク、荷ハ、駄荷ナリ」 戰場ニ、兵糧ナド運ブ駄馬隊ノ稱。常ニ、陣列ノ後ニ從フ。輜重 コレヲ統率スル職ヲ、小荷駄奉行、又、小荷駄押ト云フ。甲陽軍鑑、十一、上、品第三十五「總手ノ小荷駄、後(アト)ノ小田原勢ヲ氣ヅカヒ、云云、小荷駄奉行甘利殿、衆ニ被ニ仰付ニ云云、先年、北越ノ輝虎、小田原へ發向、云云、引時ニ敗軍スルハ、第一ニ、小荷駄ヲ切リクヅサレテ、敗軍ナレバ、云云」家忠日記、追加、十一、大神君、相州御進發ノ條「小荷駄押事、被而可ニ相觸候ニ條、[illegible]不ニ相叉ニ樣ニ、堅可ニ申付ニ」武家名目抄、職名、廿四、下「小荷駄トハ、云云、種種ノ物ヲ負ハスル駄馬ヲ云ヘルナレド、行軍ノ時ハ、兵粮ヲ以テ第一ノ用トスルガ故ニ、戰國ニテ小荷駄ト云ヘルハ、ナベテ、兵粮ノ資ハセタル馬ヲ云ヘルナリ、凡、此奉行タル輩ハ、陣列ノ最末ニ列ナリ、小荷駄ヲ守リテ、食時ニ至レバ、コレヲ分配スル有司ナリ、云云、小荷駄押トモ呼ベルハ、軍旅ノ後ニアリテ、其一隊ヲ監ハ、混亂ナサシメザル司ナレバナリ」

こにだ・おさへ (名) 小荷駄押 前條ヲ見ヨ。

こにだ・ぶぎゃう (名) 小荷駄奉行 前前條ヲ見ヨ。

ごにち (名) 後日 ノチノヒ。後ニ來ム日。後日。朝野群載、廿一、應德元年、永保三年、[illegible]「[illegible]乾坤門、後日、後日」

こには (名) 小庭 [築山、泉水、ナドヲ、クルメテハ、廣庭ト云フニ對ス」(一)寢殿ノ前、東西ノ廊ノ廻レル內ヲ、庭トシ、又、小庭、中庭、トモ云フ。(家屋雜考、二) 宇治拾遺、一、第五條「人ノ許ニ、云云、出臥ノ、コトゴトシゲナル、入リ來テ、侍ノ立部ノ內ノ小庭ニヤナケルヲ」(二)特ニ、清涼殿ノ小庭。(紫宸殿ノ大庭ニ對ス) 盛衰記、一、五節夜闇打事「忠盛、或ハ、相傳ノ郎等ト號シテ、布衣ノ兵ヲ、殿上ノ小庭ニ召置キ」(三)馬術ニ、狹キ場處ニテ、乘リ習フコト、馬上ノ太刀打

ニ要アリ。(長キ馬場ニテ乘ルニ對ス)

ごにん (名) [誤認] (一)アヤマリ、ミトムルコト。見チガヘ。司馬光、晩曜亭詩「蹉立三斜陽一頭似レ雪、往來誤認白公家」 (二)カンガヘアヤマルコト。勘チガヒ。誤解

ごにんがかり (名) [五人掛] 相撲ニ云フ語、一人ノ力士ニ、五人、續ケテカカリテ、勝負セシムルコト。ト寶相撲記、天保十四年閏九月廿五日、吹上御庭上覽、式番勝負、五人掛、御好」

ごにんぐみ (名) [五人組] (一)人家、五戸、組合ヒテ、相、檢察スルコト。戸令ニ「凡、戸、皆、五家相保、一人爲レ長、以相檢察」トアルハ、五人組ナリ。伍保 左傳、襄公三十年「子産使三廬井有二伍一」五家相保爲レ伍」 (二)德川時代、地方、町村ニ、人家、五戸ヅツ組合ヒタル、小團體ノ稱、其内、一戸ヲ組頭トシ、浮浪人、切支丹宗徒、盜人ナドヲ穿鑿シ、取締リ、其外、訴訟公事、火之番ナドヨリ、組合中ノ吉凶、災害、相救フ制ナリキ。隣リ合ヒノ人家ヲ組マシム、向三軒兩隣、ナド云フ語アリ。武家嚴制錄、三十一、寬永十四年十月、鄕中御條目「從レ此以前、被二仰出一候五人組、彌入レ念可二相改一之事」在在所所、惡黨無レ之様、堅切ニ申合、常常可レ改レ之、若不屆者有レ之バ、穿鑿之上、五人組ハ不レ及レ申、依二其品一一鄕之者、可レ爲二曲事一事」 續地方落穂集、十五、條條「五人組之儀ハ、屋並最寄次第、五軒ヅツ組合、云云、諸事吟味仕、惡事無レ之様可レ仕事」

こにんず (名) [小人數] 人數ノ、少ナキコト。小勢。(多人數、大勢ニ對ス)

ごにんばやし (名) [五人囃子] 雛祭ニ飾ル、五童子ノ人形。能樂ノ地謠、囃子方、ノ人物ヲ、摸シ作レルモノナリ。四方のあか、下、初雛賦「雛遊ビノ調度求メムト、十軒店ノ二箇、云云、近頃、囃子方ト云ヘルモノ、出デ來テ、切禿ノ、ぜんぶヲモテ、芝居ノ下座ニヤ移シケム、笛、小つづみ、おほつづみ、太鼓、地謠マデ、一ヲ欠キテハ、事足ラヌ心地ゾスル」(古事類苑、雛人形、雜戯)

ごにんばり (名) [五人張] 三人張ノ條ヲ見ヨ。保元物語、一、新院御所各門門固事「五人張ノ弓、長サ七尺五寸ニ、つく(鏃)打チタルニ」

ごにんをとこ (名) [五人男] 大阪ノ無頼漢、雁金文七、庵平兵衞、極印千右衞門、雷庄九郎、布袋市右衞門ノ五人ノ稱。元祿十五年八月、刑セラル。寬保二年、竹田出雲作「男作五雁金」ト外題シテ、大阪芝居ニ興行セリ。「好イタ御方ニャ夜モ日モ明カヌ、阿波座鴉ノ聲モロトモニ、渡ル雁金文七コソハ、淸川連レテ出小船」(阿波座ハ、大阪遊郭、新町中ノ地名、文七ハ、其地ノ紺屋ノ伜トアリ、淸川ハ、卑妓ナリ、あはざのからすノ條ヲ見ヨ)

こにもつ (名) [小荷物] 荷物ノ、小サク荷作リシタルモノ。「鐵道ノ小荷物」

ごにや (名) [五二屋] (五ト二トニテ、七ヲ、質ニ寄ス) 質屋ノ隱語。ナナツヤ。

〰こにやく (名) [蒟蒻] 今、こんにやくト云フ、其條ヲ見ヨ。本草和名、下五十四「蒟蒻、古爾也久」拾遺集、七、物名「野ヲ見レバ、春メキニケリ、靑葛籠、こにやくママシ、若菜摘ムベク」

こぬか (名) [小糠粉糠] (初糠ヲ、あらぬかト云フニ對ス) 糠ト云フニ同ジ。サクヂ。女房詞ニ、マチカネ。易林節用集(慶長)食服「糠」醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二、謂被レ謂物之由來「スベテ、上﨟方ニハ、さくぢト云フヲ、禁中ニハ、まちかねトカヤ、モニアツカヒタマフ者、こぬかト云フ、言葉ノ末ニヤ」

こぬかあめ (名) [小糠雨] コサメ。甚ダ細カク降ル雨。ヌカアメ。細雨 微雨

こぬかむし (名) [小糠蟲] (紛飛スルコト、小糠ノ如シ) うんか(浮塵子)ノ一名。除蝗錄、こぬか蟲「涌クガ如ク生ジテ、稻莖ノ根ヲ食ヒ、大ニ害ヲナス、其色、靑白ナリ」

こぬすびと (名) [小盜人] ミソカヌスビト。セコヌスビト。小盜スル者。コソコソドロバウ。竊盜 狗盜 狂言記、盜人連歌「ココニ一人、小盜人ガゴザリマス」

こぬすみ (名) [小盜] 人目ヲカスメテ、物、盜ムコト。(强盜ニ對ス) 竊盜

∴こぬる・い (形) [小溫] (一)湯ナド、少シヌルシ。(二)事物ヲナスニ、手ヌルシ。

〰こぬれ (名) [木末] (木のうれノ、の、う、ノ約、ぬ) 梢ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、五 六十「春サレバ、許奴禮隱リテ、鶯ゾ、鳴キテ往ヌナル、梅ガ下枝ニ」同、七 廿五「曉ト、夜鳥鳴ケド、此岡ノ、木末ノ上ハ、イマダ靜ケシ」同、十三 三 長歌「樹奴禮ガ下ニ、鶯鳴クモ」

こね (名) [小根] 樹ノ根ノ、横ニ延ビユクモノ。竪根ノ條ヲ見ヨ。

〰こね (句) [來] (ねハ、ぬ・ぬる・ぬれ・ね・ト活用スル助動詞ノ命令形ノ、ねナリ) 來レ。來テクレ。萬葉集、十三 廿一「春日野ノ、萩シ散リナバ、朝東風ノ、風ニ副ヒテ、此處ニ散リ來根」

こねかへ・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [捏返] (一)捏ネテ、カキマズ。コネマハス。攪亂「泥田ヲこねかへす」 (二)打チ亂ダス。紛冗セシム。紛擾 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「出ルノ、引クノト、ヤッサモッサガ發コッテ、家内中、こね返すハナ」「上ヲ下ヘト、こねかへす」

こねく・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [捏繰] (こねるノ一轉、せせる、せせくる。いじる、いじくる) 捏ルニ同ジ。コネマハス。「こねくりカヘス」

こねこ (名) [子猫] 猫ノ子。猫兒 宇治拾遺、三、十七條、片假名ノ子文字ヲ、十二、書カセ賜ヒテ、讀メト仰セラレケレバ「ネコノコノ、子ねこ、獅子ノ子ノ、子獅子ト讀ミタリケレバ、云云」

こねず (名) 水蠟樹ノ異名。

こねずみ (名) [子鼠] 鼠ノ子。コネラ。夫木抄、廿七「鼠ノ子ノ、子鼠イカガ、ナリヌラム、アナウツクシト、オモホユルカナ」

ごねつ (名) [午熱] 午時ノ暑サ。

こねどり (名) [捏取] ウスドリ。餅ヲ搗クトキ、杵ヲ下ス者ノ傍ニ居テ、水ヲ加ヘ、餅ヲ捏ネカヘスコト。「餅搗ノこねどり」

こねまき (名) [小寢卷] 又、コオンゾ。夜着テ寢ル用ノ服。近代世事談、一、夜着「昔ハ小寢卷トテ、常ノ衣服ノ、少シ大キナルヲ下ニ卷キテ、其上ニ蒲團ヲカケテ、上ツ方モ、コレヲ召シタリ」

こねまは・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [捏廻] コネカヘス。コネクル。カキマズ。攪亂

こねん (名) [顧念] カヘリミ、オモフコト。傍ニ、氣遣フコト。顧慮。

ごねん (名) [御念] (御念頭ノ下略) 念頭ニカクルト云フコトノ敬語。御配慮。「御申越ノ旨、御念ノ至リニ存ジ候」御念ニ及バズ」

ごねんごろ (名) [御懇] (一)志厚きノ敬語。御懇志。御深切。長町女腹切(元祿、近松作)下「後家ハ、才屋敷ノ御用モ仰セ附ケラレ、出入リサセト、御念比」、委細ノ趣キ、御懇ニ被二仰下一、難レ有存ジ候」 (二)交り親しきノ敬語。御懇意。「御懇ノ仲ナレバ、憚ラズ申上ゲ候」

こねんぞう (名) 古年童 (譜代、仕フル僮僕ノ義ト云フ、こんねんたうト云フ語アリ、倂セ見ヨ) 奈良ノ興福寺ニ、代代、仕ヘタリシ下部。安齋隨筆、十八、古年童

[illegible]、ヘリ　臣女」

こねら　(名)　子鼠　こねハ、子鼠ノ義、らハ、添ヘタル辭、其條ヲ見ヨ。子鼠ニ同ジ。狂歌咄(寛文)五「ヨメノ子ノ、こねらハイカニ、ナリヌラム、アナウツクシト、オモホコルカナ」(此歌、夫木抄ニアリテ、子鼠イカガ、トアリ、其條ヲ見ヨ)[illegible]こねら、小ねら、ハタ、二十日鼠ト名ノリ」

こねり　(名)　木練　次條ヲ見ヨ。

こねりがき　(名)　木練柿　〔木ニ置キテ練る意、さはし柿ニ對ス〕柿ノ一種、實ノ、枝ニ成レルママニテ、熟スルモノ。キザハシ。略シテ、こねり。大和ノ五所柿ヲ、最トス。雷柿(佐用鎌)　萬葉集、十八、紙質雷オケル、こねりノ柿ハ、すノ[illegible]、舎メバ消ユル、モノニゾアリケル」下學集、下、草木門「木練、木練、以上二、共、柿之異名也」合類節用集、六「木練、又、作二木醂一本名、方柿」(方柿ハ、五所柿ナリ)

こ・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ　(他動、下二)　捏　〔粉練るノ、口語調ニ成レル語ナルベシ、粉成す、粉熟れる、同意ノ語ナリ、集韻「捏、乃結切、音涅、增韻、捺也」正字通「捏、同レ捻」〕(一)水ト雜ゼテ、手ニテ、練リカヘス。ネヤス。(粉、土、ナドヲ)「泥ヲこねる」(二)難事ヲ言掛ケテ、困ラス。「不同意ノ言ヲ、テ、相手ヲこねる」

ご・ねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ　(自動、下二)　死　〔死ぬるヲ忌ミテ、四ヲ、五ニ言ヒカヘテ、五ぬる、ごねるトカト云フ、京都ニテ、てこねるト云ヒ、俚言集覽ニハ、加賀ニテ、ごねむくト云フ(御年貢の納め時ノ意カ)ト見ユ、考フベシ、又、同書ニ、御ねるハ死ヌ事ヲ云フ、御涅槃(釋迦ノ入滅)ヨリ轉ジテ云フ也」トモアリ、死ヲ、御陀佛ト云ヒ、御神託ヲ、御託ナヘ、ナド云フト、同趣ノ語カト思ハレザルニモアラズ〕死ぬノ卑語。クタバル。(東京)京都ニテ、てこねる。假名世說(文政、大田南畝)「四ノ字ヲ嫌ヘバ、五ノ字モ、これるトハ、バ、潔斷ハナラズ」(言家說林)「アノ爺モ、ごねヤァガッタ」

この　(連體)　此是斯　〔代名詞ノこ(此)ニ、辭ノのノ添ハリタルモノ、彼の、彼の、夫の、何の、皆、同ジ組立テナリ〕(一)最モ身ニ近キ物事ヲ指シテ云フ語。(その、かの、ニ對ス)これの。古事記、中(仲哀)長歌「許能御酒ヲ、醸ミケム人ハ」(二)轉ジテ、彼の、ノ意ニモ用キラル。萬葉集、十五、五十「[illegible]、名ニ負フ鳴門ノ、渦潮ニ、玉藻刈ルト、[illegible]、見レガ、彼の、[illegible]」伊勢物語、第十六段「コレヤこの、天ノ羽衣、宜シコソ、君ガ御衣ト、奉リケレ」(コレザかの)[illegible]、六十八段[illegible]、この時ハ、サモ言ヒツベカリケリ、トナム思フヲ」(數日前ノ歌ナリ)(三)コノカタノ。以來ノ。萬葉集、二、「[illegible]照ル、佐夫ノ岡邊ニ、鳴ク鳥ノ、夜哭變フ、此年己ロヲ」

このあひだ　(名)　此間　サキゴロ。サキツゴロ。數日前　[illegible]ッテ。約メテ、こなひだ。[illegible]

このいと　(名)　此糸　〔紫ノ字ヲ二分シテ、訓讀シタル語、米ヲ八木ト音讀シタルト、趣キヲ同ジウス〕藤ノ花ノ色ニ云フ語。蕪村句「北南、ソレトモ知ラズ、此糸ノ、ユカリベカリノ、末ノ藤原」

このうれ　(名)　木末　〔うれ(末)ノ條ヲ見ヨ、の、う、ヲ約メテ、こぬれトナル〕梢ノ(一)ニ同ジ。又、こぬれ。[illegible]のうれ下ニ、[illegible]夜ノ月」

このかうべ　(名)　兄部　〔兄部ノ音便、郎チ、首ナリ、其條ヲ見ヨ〕(一)頭立ツ者。長。字類抄「兄部、コノカウベ」[illegible]のかうべ「伊勢大宮司ニ、司中兄部アリ、司家驕官ノ一識ツ、兄部ト云フ、主典也ト云ヘリ、云云、伊勢年中行事ニ、物忌父兄部、見ユ」(二)禪家ニテ、力者ノ頭ノ稱トス。(力者ノ條ヲ見ヨ)武家ニテモ倣ヒテ、此稱ヲ用ヰタリ。庭訓往來、十月三日「兄部、云云、門守、火鈴[illegible]同書抄大成、四「兄部、下部也」下學集(文安)上、人倫門「兄部、力者頭也」運歩色葉集(天文)「兄部」鎌倉年中行事(享德)公方樣御發向「御力者、或十人、或八人、出張頭巾ヲ褫リ、兄部ハ、御長刀ヲ持チ、[illegible]御刀替、桁長[illegible]ヲ持チ、其跡ニ、小舍人、云云」(西文)

このかた　(名)　此方　〔たち方ニ對ス〕(一)此方ノ方。コチラガハ。萬葉集、十三、長歌「コモリクノ、泊瀬ノ川ノ、ヲチカタニ、妹等ハ立シ、己乃加多ニ、我レハ立チテ」(二)其時ヨリ、後。コナタ。以來。已來。神代紀、上「自二爾以來、世諱レ著二笠簑一以入二他人屋内一」古今集、序「コレヨリ先ノ歌ヲ集メテナム、萬葉集ト名ヅケラレタリケル、カノ御時ヨリこのかた、年ハ、百年アマリ、云云」(門氏文集、十二、婦人苦「去年來」)字類抄「以降、コノカタ、以來」

このかみ　(名)　長子長兄　〔子の上ノ義、かみハ、官司ノ長官、一ノ上ナドノかみニテ、長ノ意ナリ、三男、四男ヨリ、次男ヲサシテ、兄トハ云ヘ、このかみトハ云ハレズ〕(一)子ノ、第一ナルモノ。長男。總領。應神紀、廿二年九月「分二川島縣一封二長子稻速別一」(吉備國)清寧即位前紀「長子磐城皇子」(二)轉ジテ、汎ク、兄ヲ云フ。倭名抄、一、十一兄弟類「男子先生爲兄、古乃加美、母兄、同胞之義、同母兄也、波良加良古乃加美」字類抄「兄、コノカミ、阿兄、舍兄、母兄」(古今集、序、顯註「棠棣明輝ハ、天照大神ノこのかみナリ」ト アルハ、長子ニテハアルベカラズ、古事記ニ、吾者、天照大御神之伊呂勢者也トアルハ、弟ノ義ナルヲ、兄ト解シ違ヘテ、記セルナルベシ)(三)年上ナルコト。年長　源、三十五、柏木三十「夜居ハ、(夕霧ガ、柏木ニ、五六年ノ程ノこのかみナリシカド、ナホ、イト若ヤカニ、ナマメキ、アイダレテ物シタマヒシ」同、七、紅葉賀十「四歳バカリガこのかみニオハスレバ(葵トガ、源氏君ニ)」

このかみ　(名)　首魁　〔前條ノ語ノ轉〕(一)長立ツ者。頭。舒明即位前紀「栗下女王爲レ首、女孺鮪女等八人、并數十人、侍二於天皇之側一」持統紀、六年六月「郡國長吏」源、三十四、下、若菜、下七十「ソノこのかみト思ヘル上手ドモ、イクバク、エ學ビ取ラヌニヤアラム」(笛ニ云フ)和漢抄「このかみ、人ニマサリタルヲ云ヘリ、師兄ト云フガ如シ」(二)うぢのこのかみ(氏長)、ひとこのかみ(魁帥)ノ條ヲ見ヨ。

このかみ　(名)　小腹　〔小中身ノ轉カ(水の上、みなかみ)〕下腹ノ古言。コガミ。倭名抄、三、身體類「水腹、小腹、古乃加美」釋名、釋形體「自レ臍以下曰二水腹一水汋所レ聚也、又曰二少腹一少、小也、比二於臍以上一爲レ小也」倭訓栞、このかみ　倭名抄ニ、水腹ヲ讀メリ、今、こがみト云フ、又、ほがみトモ云フ」

このかみごころ　(名)　兄心　〔兄心ノ意〕人ニ、長立ツ心ダテ。源、三十五、柏木廿「心オキテノ、アマネク、人ノ、このかみ心ニ物シタマヒケレバ、右ノ大臣ノ北方モ、此君(柏木)ヲノミゾ睦ジキモノニ思ヒキコエ、云云」同、四十六、總角四十「このかみ心ニヤ、ノドカニ、ケダカキモノカラ、人ノタメ、アハレニ、ナサケナサケシウゾオハシケル」

このきみ　(名)　此君　〔竹ヲ愛敬シテ、君

ト云フ、出典ヲ見ヨ」竹ノ異名。 世說新語補、棲逸篇「王子猷常、暫、寄二人空宅一住、便令レ種レ竹、或問二暫住何煩爾一、王嘯詠良久、直指レ竹曰、何可二一日無二此君一耶一」 枕草子、七、六十四段「御簾ヲモタゲテ、ソヨロト差入ルルハ、呉竹ノ枝ナリケリ、オイ、このきみニコソ、ト言ヒタルヲ」云云」 新千載集、廿、慶賀「萬代モ、色ハカハラジ、此君ト、仰ゲバ高キ、園ノ呉竹」

このくらゐ (名) 【此位】 コレホド。コレクラキ。「此位ガ丁度良イ」

このくれ (名) 【木暗】 〔くる(暗)ノ條ヲ見ヨ〕 樹ノ、繁リテ、暗キコト。コグレ。コノクレヤミ。 萬葉集、三十七長歌「打靡ク、春去リ來レバ、櫻花、木晩茂ミ、松風ニ、池波立チ」 同、十九十七「木晩ノ、暮闇ナルニ、ホトトギス、イヅクヲ家ト、啼キワタルラム」 同、十九廿長歌「許能久禮(如キ)ノ、繁キ思ヒヲ、見アキラメ、心遣ラムト、二禮ノ下ニ、乃ヲ脫シタルナリト云フ） 同卷廿二長歌「マソカガミ、二上山ニ、許能久禮ノ、繁キ谷邊ヲ」

このくれやみ (枕) 【木暗闇】 〔前條ヲ見ヨ〕 卯月ニ言ヒカクルハ、初夏ニハ、木ノ、密ニ繁リ合ヒテ、闇トナレバナリ、萬葉集ノ罷ノ字ハ、能ノ誤ナリト云フ說アレド、このくれノ暮闇トモ云ヒ(前條ヲ見ヨ)木下闇ト云フ語モアレバ、罷ナリ」 卯月ノ枕詞。 萬葉集、十九十五長歌「許能久禮罷、四月シ立テバ、夜隱ニ、啼クホトトギス」

このごろ (名) 【此頃】 チカゴロ。コノホド。數日來。 神代紀、上廿八「天照大神「吾比閉二居石窟一」 萬葉集、十五三十六「己能許呂ハ、君ヲ思フト、便モナキ、戀ノミシツツ、哭ノミシゾ泣ク」 名義抄「頃來、頃者、コノゴロ」

このごろやう (名) 【此頃樣】 今樣ノ(一)ニ同ジ。當世風。 長明無名抄、下、近代古體「此頃ノ人ノ歌ノサマ、云云、中頃ノ人ノ歌ノ體、云云、ス、このごろやうヲ好ム人ハ、中頃ノ體ヲバ、俗ニ近シ、見所ナシ、トテ、嫌フ」

このした (名) 【木下】 木ノ枝ノ下。樹下。 拾遺集、六、別「アヅマヂノ、このした暗ク、ナリユカバ、都ノ月ヲ、戀ヒザラメヤハ」

このしたやみ (名) 【木下闇】 木下ノ、暗キコト。コノクレ。コノクレヤミ。 拾遺集、二、夏「五月山、木のしたやみニ、燈ス火ハ、鹿ノ立處ノ、シルベナリケリ」 榮花物語、九、岩蔭「月影ノ、このした闇ニ、惑フメル」

このしろ (名) 【利】 〔子の代ノ義、子タル料ノ意(人ノ子ヲ、子息ト云フ)元金ト、利子トヲ、元も子もト云フ〕 元金ノ生ム利子。利息。 持統紀、元年七月「凡負レ債者、自二乙酉年一以前物、莫レ收レ利也、若既役レ身者、不レ得レ役レ利」 通證「利、息也、故訓二子代一」 同紀、五年三月「貸レ倍」通證「謂二貸借之利倍一」

このしろ (名) 【鰶】 〔出典ヲ見ヨ〕 魚ノ名、當歲ナルヲ、こはだ(江鰶魚)ト云フ、鮓ニ用キルトキハ、上饍トス。京都ニテ、まうかり。其二歲ナルハ、卽チ、このしろナリ、大ナルハ、六七寸ニ至ル、背、蒼ク、腹、白シ、肉モ、白クシテ、小骨、多シ、全身、稍、扁ク、頭、小サク、睛ノ邊、紅ナリ、下民、炙リテ食トス。 孝德紀、大化二年三月「鹽屋連鯯魚」此、云二舉能之盧一」 出雲國風土記、島根郡、栗江埼「鰶、近志呂」 字鏡七十三「鰶、鯯、己乃志呂」(倭名抄、同ジ) 慈元抄(永正)上ニ、有馬ノ王子、下野國ニ下リタマヒ、富人ノ家ニ寓シ、其女ニ通ジテ懷姙ス、女ハ、カネテ、常陸國司ニ要メラレ、催促アリケレド、女ハ、死シタリトテ、喪葬ノ儀ヲナシ、棺ニ鰶ヲ入レテ燒ク、其臭、人ヲ燒クニ似タレバナリ、其心ヲ詠メル、東路ノ、室ノやしまニ、立ツ煙、誰ガ子のしろニ、鰶燒クラム「子ノ代ニ燒クト詠メリ、ソレヨリシテ、このしろト云フトナム」(節文)(有間皇子ハ、孝德天皇ノ御子ナリ、逆ヲ謀リテ、誅セラレタマフ、鹽屋連鯯魚、其謀ニ與レリ、コレニ因リテ、附會シタル記ナリ、皇子ノ、下野ニ下リタマヒシ事、均ニ見エズ、我ガ國ニテ、茶毘ト云フコトハ、文武天皇四年、僧道昭ニ始レレナリ） 物類稱呼(安永)二、鰶魚、このしろ「或人ノ云フ、云云、子ノ生マルル時、胞衣ト、鰶トヲ、一所ニ、地中ニ藏ムレバ、其子、成長ス、尤、其人、一生、このしろヲ食セザラシム、このしろハ、子の代ナリト言傳ヘタリ」(此記モ、固ヨリ信ズベカラズ)

このせ (名) 【此瀨】 此ノ折。コノタビ。コノ機會。 平家物語、三、足摺事「命ハ、如何ニモ、大切ノコトナレバ、假令、此瀨ニコソ洩レサセ給フトモ、云云」

このせつ (名) 【此節】 コノ節。今。現時。「このせつハ、流行ラヌ言葉ナリ」

このぢゆう (名) 【此中】 コノゴロ中。コノアヒダ。數日前。 狂言記、烏帽子折「この中、途ニヤッテゴザリマスル」「このちゅうハ、オ世話ニナリマシタ」

このてがしは (名) 【兒手柏】 〔葉ノ形、乳兒の、掌ヲ立テタルガ如クナレバ、名トスト云フ、このてハ、此面ノ約ニテ、裏ナキ義ナルベシト云フ說モアレド、義ヲ成サズ〕 (一)〔樹ノ名。ひのきノ類ニテ、葉ノ表、裏、共ニ、綠ナルモノ。卽チ、柏ナリト云フ。側柏。 萬葉集、十六十九誇三、佞人ノ歌「奈良山ノ、兒手柏ノ、兩面ニ、カニモカクニモ、佞人ノ徒」 同、廿三十「千葉ノ野ノ、古乃弖加之波ノ、含マレド」(下總國、千葉郡) 相撲集、箱根權現「フタカタニ、吾ガ氏神ヲ、祈ルカナ、このてがしはノ、平手タタキテ」 本草綱目啓蒙、廿三、香木類「柏ノ類、多シ、側柏、扁柏ヲ通ジテ云フ、藥用ニ、柏ト稱シ、柏葉、柏子仁ト稱スルハ、皆、側柏ナリ、側柏ハ、このてがしはナリ、葉、側チ生ジテ、掌ヲ立ツルガ如シ、故ニ云フ、其葉、面、背、共ニ綠色、故ニ、兩面ト云フ、萬葉集ニ、云云、扁柏ハ、ひのきナリ、葉、扁カニ布キテ生ズ、故ニ、扁柏ト云フ、其葉、面、綠色ニシテ、背ニ白暈アリ、側柏ノ一種、俗ニ、千手ト呼ブモノアリ、葉、多ク叢生シテ、手ヲ立ツルガ如シ、誤名、千頭柏ニ(節文) (二)後ニ、誤リテ、草ノ、をとこへしノ稱トス。 袖中抄、七、このてがしはノ條ニ「或ル萬葉抄ニ、鎌永朝臣、奈良坂ニテ、白キ花ノ咲キケルヲ見タルニ、友ナル人、ユユシク咲キタルこのてがしはカナ、ト云ヘルヲ聞ヒケレバ、コノ咲キタルハ、おほどちト申ス物ナリ、ソレハ、此國ニハ、このてがしはト申スナリト、云云、私曰、おほどちハ、女郎花ニ似テ、花ノ白キナリ、サレバ、男へしトモ云フ、云云、奈良山ノこのてがしはト云フ歌ニツキテ、作リ出デタル物語ナリ」(節文、尚、おほどちノ條ヲ見ヨ) 山家集、下「いはれ野ノ、萩ガタエマノ、ヒマヒマニ、このてがしはノ、花咲キニケリ」 倭訓栞、後編、このてがしは「萬葉集ニ、兒手柏ト書ケリ、云云、をとこへしヲ云フモ、大和ノ俗ナリ、おほどち、是也、「武藏野ノ、小萩ガ下ノ、サハヤカニ、このてがしはノ、花ノ上露」

このとのは (名) 【此殿者】 催馬樂ノ曲ノ名。 催馬樂、此殿者「己乃止乃波、宜モ富ミケリ、さきくさノ、三棟四棟ノ中ニ、殿造リセリヤ」

このぬし (名) 【此主】 藏書ノ首、又ハ、尾ニ書キテ、所藏ノ意ヲ示ス語、此主某ト記ス。

このね (名) 【木根】 木ノ根。樹根。 萬葉集、九廿二筑波山長歌「暑ケクニ、汗カキナゲキ、木根取リ、嘯キ登リ」

このねぬる (連體句) 【此寐】 寐タル、此夜ノ。 萬葉集、八三十「秋立チテ、幾日モアラネバ(アラヌニ)、此宿流、朝明ノ風ハ、袂寒シモ」 新古今集、四、秋、上「此寐ぬる、夜ノ間ニ秋ハ、來ニケラシ、朝明ノ風ノ、昨日ニモ似ヌ」

このは (名) 小鳥ノ名、雀ニ似テ、薄黑キモノ。 大和本草(貝原益軒)十五、小鳥、このは「其大、如レ雀、淡黑ナリ」 倭訓栞、このは「雀ニ似テ、淡黑ナル鳥ヲ、このはト稱セリ」

このは (名) 【木葉】 (一)〔樹ノ葉。 古事記、

山[illegible]被喧擾ギス、說吹カムトス」(二)木葉ノ、風ニ吹飛バサルニ因リテ、小サキモノ、輕輕ニ[illegible]、[illegible]力ナキモノニ云フ。[illegible]は天狗」

このは-いし (名) [木葉石] 化石ノ面ニ、木葉ノ[illegible]、諸國ヨリ出ヅ。[illegible]古[illegible]ノ[illegible]、[illegible]石ノ間ニ、植物ノ葉ノ入リ[illegible]、其形ノミ、印シ遺シタルモノナリ。

このは-う(コノハウ) (代) [此方] 自稱ノ代名詞、下輩ニ對シテ用ヰル。ワレラ。乃公

このは-がき (名) [木葉掻] おまざらひノ條ヲ見ヨ。竹杷

このは-がへし(コノハガエシ) (名) [木葉返] 木ノ葉ノ飜ルガ如キ、敏捷ナル技術ヲ稱フル語。[illegible]謠曲、四、長刀、柄長クオッ取リノベテ、四方ヲ掃フ八[illegible]

このは-がへり (名) [木葉返] [illegible]ノ、小サキモノノ稱ト云フ。

このは-がれひ(コノハガレイ) (名) [木葉鰈] (形、木葉ニ似タリ)かれひノ、小サクシテ、大キサ一二寸ナルヲ、頭、尾、腹、背、相重ネテ、乾シタルモノ、紀伊ノ産、名アリ。アシノハガレヒ。ササノハガレヒ [illegible]

このは-ぐつ (名) [木葉沓] [illegible]

このは-ごろも (名) [木葉衣] 落葉ヲ、身ニ被クヲ、衣ニ見立テテ云フ語。謠曲、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]云云、木の葉衣ノ、袖ノ上、云云、[illegible]、もみぢ葉ノ」

このは-ざむらひ(コノハザムライ) (名) [木葉侍] 「このはノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 ツマラヌ侍ヲ、卑シメテ云フ語。コッパザムラヒ。

このは-ざる (名) [木葉猿] (木葉ノ間ヲクグリテ、果(コノミ)ヲ取リ食フ故ノ名ナリ、猿ニ、果(コノミ)取(ドリ)ノ異名モアリ」猿ヲ、樹ニ登リテ、木傳フニ就キテ云フ語。[illegible]「コノ山ノ、木(コノミ)實守リ食ム、木のは猿、梢(コズエコヅタ)木傳フ、聲[illegible]ナリ」秋果アテ、山端ニ堪ヘヌ、木の葉猿、梢ヲ傳フ、聲ノミゾスル」 拾玉集、二「柴栗ノ、色ヅク秋ノ、山風(ヤマカゼ)ニ、梢ヲ散ラス、このはざるカナ」 [illegible]このはざる [illegible]ニ、秋猿守(アラン)栗林ト見エタリ」

このは-そぐ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [木葉漻] [こそぐる(漻)ノ條ヲ見ヨ」 木ノ葉、[illegible]ノ如ク、降リ落ツ。 新撰[illegible]集、十九、雜、四「忍山、木の葉そぐるる、下草ニ、アラハレニケル、露ノ色カナ」

このは-そぐれ (名) [木葉時雨] (前條ノ語ノ名詞形) 木葉ノ散リ落ツルガ、時雨ト紛ヒ聞ユルニ云フ語。 萬代集、六、冬「[illegible]モ、[illegible]ルモ、聲ハヌヲ、木の葉そぐれト、誰レ名ヅケケム」冬來テモ、幾日ニナリヌ、槇ノ屋ニ、木のはそぐれノ、絕ユル夜ゾナキ」

このは-せんべい (名) [木葉煎餠] 落葉ノ形ニ[illegible]煎餠。

このは-づく(コノハズク) (名) [木葉木菟] 〔このはノ條ノ(二)ヲ見ヨ、またはくト云フ、モアリ」 みみづくノ一種、形、小サキモノ。

このは-てふ(コノハチョウ) (名) [木葉蝶] 蟲ノ名、後翅ハ、尾ノ如ク延長シ、翅ノ裏面ハ、綠褐色ニシテ、枯葉狀ノ色ヲ呈シ、前翅ノ中央ニ、廣キ深黃色ノ條アリ、翅ヲ疊ミテ、木ノ枝ニトマル時ハ、殆ド、枯葉ト見マガフナリ。琉球ノ八重山島ニ、多ク産ズ。

このは-てんぐ (名) [木葉天狗] 「このはノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 天狗ノ、小サキモノ。大天狗ニ隨從ス。カラステング。(天狗ノ條ヲ見ヨ) 狂[illegible]、[illegible]ガ、[illegible]ニ山[illegible]ノ、吹キ落チテ、木の葉天狗ヤ、猿ンデ散ルラム」[illegible]、[illegible]、人毎ニ、自慢セザルハナシ」

このは-な (名) [木花] (木の葉、木の間、同趣) (一)木ニ咲ク花。樹花 神代紀、下「木花之開耶(コノハナノサクヤ)[illegible]之移(ウツロヒチチリオチム)落」 (二)特ニ、櫻花ノ稱。艶麗ナルコト、百花ノ最ナレバ、木花ノ名ヲ專有スルコトトナレルナリ、後ニハ、花トノミ云ヒテ、櫻花ノコトトナル、牡丹ニ、花王ノ名ヲ專稱スルガ如シ。 神代紀、下、木花之開耶(コノハナノサクヤ)姬、[illegible]火火出見尊ノ母、古事記、上、木花之佐久夜毘賣、如木花之榮(サカユルガ)榮坐」(記傳ニ、さくやハ、開映(サキハエ)ニテ、き、は、が、かト約リ、くト轉ジ、(若子(ワカゴ)、わくご、又、さくやト轉ジタルナリト云フ) 倭姬命世記、朝熊神社、櫻大刀自神、[illegible]、[illegible]、木[illegible]也、[illegible]、櫻樹、始[illegible]上[illegible]記、櫻大刀子神、[illegible]木[illegible]也[illegible]降居也、因以[illegible]」 古今集、序、そへ歌[illegible]、大[illegible]ノ御ヲそへタテマツレル歌、難波津ニ、咲クヤこのはな、冬ゴモリ、今ハ春ベト、咲クヤこの花、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]、難波津ニ、[illegible]ト[illegible]エケル[illegible]、[illegible]ヲ五ニ讓リテ、位ヲ繼ギタマハデ、三年ニナリケレバ、王仁ト云フ人ノ、イブカリ思ヒテ、[illegible]、奉レルナリ、このはなハ、梅ノ花ヲ云フナルベシト云フハ、臆測ナリ、木花ハ、櫻花ノ專稱ナリ、梅ハ、飛鳥、奈良朝ノ頃ノ外來種ナリ、(其條ヲ見ヨ)冬[illegible]リト云フニ、百花之魁ヲ聯想シテ云ヘルナルベケレド、ソレモ、[illegible]、何レノ樹カ、冬[illegible]セザル、然シテ、御世[illegible]ガセラルベキニ寄セテ、今は春方と咲くト云フ、櫻花ナラズハアルベカラズ) 萬葉集、廿[illegible]、私[illegible]、長歌(天平勝寶八年、幸[illegible]ノ詠其初ニ、仁德天皇ノ御事ヲ述ベタリ、其反歌、櫻花、今盛リナリ、難波ノ海、オシテル宮ニ、聞[illegible]スナベ」(櫻花トアリ)

このはな-の-あまひ(コノハナノアマイ) (名) あまひ(阿麻比)ノ條ヲ見ヨ。

このは-ぶね (名) [木葉舟] 水上ヲ漕ギ行ク小舟ヲ、木葉ニ見立テテ云フ語。 新拾遺集、十八、雜、上、[illegible]、[illegible]ノ上ヲ、漕ギツツ行ケバ、山近ミ、嵐ニ散レル、木葉トヤ見ム」 [illegible]このはぶね [illegible]行舟、[illegible]一樹葉こ

このは-むしゃ (名) [木葉武者] 「體ノ輕輕シキヲ云フ、このはノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 直チニ、逐ヒ散ラサルベキ武者。コッパムシャ。弱兵 [illegible] 宇治ノ網代ニ、タマッテル、木の葉武者」

このひとつげ (名) [一兒] 兒(コ)ノ一人(ヒトツ)兒ノ謂。兒一人ノ義。 神代紀、上「伊弉諾尊、火神ヲ生ミタマヒ、燒カレテ化去リマス「伊弉諾尊恨之曰、唯以一兒(コノヒトツゲ)、替我愛之妹者乎」云云、哭泣流涕焉」 古事記、上「謂下易子之一木乎上」 神代紀ノ一兒ハ、唯、ひとつぼト讀ムベキナリ(國史大系本ニモ、ひとつぼト訓ジタリ、一火、一松)このひとつげト訓セルハ、延喜ノ私記ニ、古事記ニ、子之一木トアルニ據リテ、讀ミタルナレド、きヲ、けト云フ其例、[illegible]ニシテ、更ニ、根據ナシ、稜威道別ニ、一木(ヒトツキ)ハ、一匹ノ借字ニテ、諸尊ノ根ミタマヘルアマリニ、子の一匹(イッピキ)ト罵ラセタマヘルナリ、匹(ヒキ)ヲ、きト云フコトハ、雄略紀ニ、馬ノ八疋(ヤツキ)(八匹)トアリト云ヘリ、尚、き(匹)ノ條ヲ見ヨ)

このほど (名) [此程] コノゴロ。チカゴロ。 [數日來] [illegible]、[illegible]「このほどハ、大殿ニノミ、オハシマス」

こ-の-ま（名）【木間】木木ノ間。樹間。萬葉集、十一、廿四「木間ヨリ、移フ月ノ、影ヲ惜シミ、タチモトホルニ、小夜深ケニケリ」

こ-の-ま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【好】〔好むノ未然形ノ、このまヲ活用セシム、サレバ、不確定ノ意アリ（うらやむ、うらやまし）〕（一）好ムベクアリ。コノモシ。源、一、桐壺三十「内住ノミ、このましうオボエタマフ」同、五、若紫廿五「目モアヤニ、このましう見ユ」（二）スキズキシ。好色ラシ。枕草子、六、六十二段「男ハ、云云、況シテ、情アリ、好ましき人ニ知ラレタルナドハ、疎カナリト（女ノ）思フベクモ、（男ハ）モテナサズカシ」源、七、紅葉賀廿七「好ましう若ヤギテ、モテナシタルウハベコソ、サテモアリケレ」

こ-の-まろ-どの（名）【木丸殿】きのまろどのノ條ヲ見ヨ。

こ-の-み（名）【木實】【果】樹ニ成ル實。キノミ。コダネ。クダモノ。ナリモノ。食フベキモノ、食ハレヌモノ、共ニ、云フ。神代紀、上三十一「可レ以一菓」倭名抄、十七、菓蓏「菓、古能美」

こ-の-み（名）【好】（一）コノムコト。好クコト。嗜好。竹取物語「色このみト云ハルル限リ、五人」（二）望ムコト。コヒネガフコト。アツラヘ。所望。注文。希望。源、二、帚木九「人ノアリサマヲ、アマタ見アハセムノこのみナラネド」

こ-の-みち（名）【木道】木工ノ學問。又、木工。源、二、帚木十五「木の道ノ工ノ、ヨロヅノ物ヲ、心ニマカセテ造リ出ス、モ」（徒然草、廿二、段「カノ木の道ノタクミノ作レル、美シキウツハモノモ、古代ノ形コソ、ヲカシト見ユレ」）庭訓往來、四月五日「番匠、木道ノ同書注「木道、仙人ノ頭領也、木ノ品ヲ言フ也、此木ニハ、板、何枚、柱、何、ナドアルベキナンド、見ル二達ハサルモノ也」

こ-の-みどり（名）【木菓鳥】〔果取ニテ、果ヲ取食フモノノ義ナラム、木葉猿ノ語原ヲ見ヨ〕猿ノ異名。吳竹集（室町時代力）木葉六「木葉鳥、猿ノ異名ナリ、莫傳」山ニ吹ク、深山ノ奥ノ、このみ鳥、呼ブ聲ノミ（雲ニサハリテ）」（莫傳抄ハ、源俊頼ノ作ト傳フ）藻鹽草、十一、ニモ載セタリ、俊頼集ニモ、吳竹集ヲ擧ゲテ、末句ヲ「雲に聞えて」トシテアリ。

こ-の・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）【好】〔戀祈ノ義、望ムコト切ナル意（言ひさかふ、いさかふ）〕（一）嗜ム。好ク。愛ヅ。字鏡六十「好、不介留、又、己乃牟、又、爾加不」同八十三「好也、好也、己乃牟」萬葉集、十五三十「サスタケノ、大宮人ハ、今モカモ、人ナブリノミ、許能美タルラム」（二）望ミテ、注文ス。所望ス。源、九、葵七「常ヨリモ、このみトトノヘタル車ドモノ」

こ-のん-で（副）【好】好ミテ。シバシバ。善ク。「好んで行フ」好んで爲ス」

こ-の-め（名）【木芽】（一）木木ニ、萌エ出ヅル芽。キノメ。古今集、一、春、上「霞立チ、このめモはるノ、雪降レバ、花ナキ里モ、花ゾ散リケル」源、廿三、初音「イツシカト、ケシキダツ霞ニ、木のめモ打チケブリ」（二）特ニ、茶ノ稱トス。俚言集覽、木の芽、茶ヲ、歌ニ、このめト詠ズ、近世ノ事」

ご-の-め（名）【碁目】〔め（目）、并ニ、もく（目）ノ條ヲ見ヨ〕黑漆ニテ、碁盤ノ面ニ盛リタル線。（碁盤ノ條ヲ見ヨ）合類節用集（元祿）八、器財門「罫、某局盤道日レ枰、線間方目ヲ曰レ罫」

こ-の-め-づけ（名）【木芽漬】きのめづけノ條ヲ見ヨ。

こ-の-も（名）【此面】「次條ノ語原ヲ見ヨ」コナタ。コチラ。萬葉集、十四三十三「足柄ノ、ヲテモ許乃母ニ、刺ス罠ノ、カナルマシヅミ、妹ロ吾レ紐解ク」

こ-の-も-か-の-も（名）【此面彼面】「この面、かの面ノ約（母屋、もや。思ふ、もふ）」コナタ、カナタ。コチラ、アチラ。古今集、廿、東歌「筑波嶺ノ、このもかのもニ、蔭ハアレド、君ガ御蔭ニ、増ス蔭ハナシ」袖中抄、十五「古里ニ、秋ゾ來ニケル、佐保山ノ、このもかのもモ、色ヅキニケリ」後撰集、二、春、中、春霞、立チマフ山ト、見エツルハ、このもかのもノ、櫻ナリケリ」大井川行幸和歌、序「我レ等ミジカキ心ノ、このもかのもニ惑ヒ、拙キ言ノ葉、吹ク風ノ空ニ亂レツツ」

こ-の-も・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）【好】〔このましト通ズ（うづまる、うづもる）〕このましニ同ジ。竹取物語「宜、かぐや姫ノこのもしガリタマフニコソアリケレ」枕草子、一、十三段「家は「蔵、山吹ナド、色色ニこのもしく、アマタ、小半蔀ノ簾ヨリ、押シ出デタル（出衣ヲ云フナリ）拾玉集、四「賤男ガ、更ケユク閨ノ、門涼ミ、このもしからヌ、圓居ナリケリ」

こ-の-もと（名）【木本】木蔭ノ下。コノシタ。樹下。古事記、上二十「於二御涙一所レ成神、坐二香山之畝尾木本一名、泣澤女神」古今集、五、秋、下「侘人ノ、ワキテ立寄ル、木のもとハ、頼ム蔭ナク、紅葉散リケリ」平家物語、四、還御事「登ルベキ、便リナキ身ハ、木のもとニ、椎ヲ拾ヒテ、世ヲワタルカナ」

こ-の-もと-まつり（名）【木本祭】大神宮ノ新造營ニ、山ニテ、正殿ノ心御柱ノ材ヲ伐リ出ス時ニ行ハル儀式。神宮雜例集、二、心御柱事「大神宮、二十年可レ被二造替一者、十七年孟冬、祭二山口、并、木本神等一、初採二正殿心柱一」

こ-の-よ（名）【此世】今ノ世。現在ノ世ノ中。現世。現代。（あの世ナドニ對ス、三世ノ條ヲ見ヨ）萬葉集、四廿三「現世ニハ、人言繁シ、來世ニモ、逢ハム吾ガ夫子、今ナラズトモ」

こ-の-よ-ら（名）【此夜】〔らノ條ヲ見ヨ〕此夜。今夜。萬葉集、十四廿三「此夜等ハ、小夜深ケヌラシ、カリガネノ、聞ユル空ユ、月タチ渡ル」

こ-の-り（名）【兄鷂】〔小鳥ニ乘り懸クル意ニモアルカ（賭事ハ、賭事ニテ、賭ハ、懸ナリ、乘算モ、是レナリ）〕此鷹ハ、雲雀、鶉ナドノ小鳥ニ懸クルニ使ハル、兄鷂ノ字ハ、せう（兄鷹）ノ語原ヲ見ヨ〕鷂ノ、體格ノ、小サキモノ、即チ、鷂ノ雄ナリ、其條ヲ見ヨ。倭名抄、十八、羽族名「兄鷂、古能里」夫木抄、十四「雲雀捕ル、このり手ニスヱ、駒並メテ、秋ノ刈田ニ、出デヌ日ゾナキ」

こ-の-わた（名）【海鼠腸】〔こ（海鼠）ノ條ヲ見ヨ〕なまこノ腸ヲ、取リテ、しほからトシタルモノ、腸ハ、三條アリテ、色、黃ナリ、今、參河ノ佐久ノ島ノ產、名アリ。主計寮式、諸國貢調「海鼠腸、十五斤十兩」内膳司式、供御月料「海鼠腸、四升五合」水左記、承保四年八月七日「海鼠腸、熱氣聞所、食也、仍、熱散後雖レ食、不レ可レ有二禁忌一」四條流庖丁書（長享）「このわたの事、頭から、少シ損ジタルヲバ、云云、大キナル物ニ、酒カ、水ニテモ入レ、箸ニテ挾ミアゲテ、振リススグベシ」

この-ゑ-しだん（名）【近衛師團】〔近衛府ヲ參見セヨ〕師團ノ一、東京、皇居ノ傍ニ置カル。其兵士ヲ、近衛兵ト云フ。

この-ゑ-づかさ（名）【近衛府】次次條ニ同ジ。其官人ヲモ云フ。伊勢物語、七十六段「このゑづかさニ侯ヒケル翁」榮花物語、八、初花「近衛ノつかさ、イトツキヅキシキ姿シテ、事ドモ行フ」

この-ゑ-の-みかど（名）【近衛御門】〔門内ノ左掖ニ、左近衛府アリ〕陽明門ノ異稱。陽明門ハ、大内裏ノ外郭ノ、東面ノ御門ナリ。神樂歌、早歌「古乃惠乃美加止ニ、巾子落イツ、髮ノ根ノ、ナケレバ」枕草子、一、十三段、

〔…衛ノ衛門一〕

このゑふ (名) [近衛府] 〔このゑハ、近衛ノ音便。出雲風土記、出雲郡、栗江崎「近江崎」。和名抄「近衛、こ(の)ゑのつかさ」〕チカキマモリノツカサ。コノエノツカサ。コンヱフ。内衛。親衛。羽林。古ヘ、禁中ヲ警衛シ、朝會ニ、儀仗ヲ整ヘ、威儀ヲ備ヘ、行幸ニ、供奉、警備スル武官ノ府。職員ニ、大將(長官)、中將、少將(次官)、將監(判官)、將曹(主典)、等アリ。府ハ、左右ニ分レテ、左近衛府、右近衛府ト云フ、略シテハ、左近、右近、トモ云フ。「職原抄、下、左近衛府、…羽林、又、云…」[illegible]儀衛宿衛儀衆ニ

このゑへい (名) [近衛兵] このゑだん(近衛師團)ノ條ヲ見ヨ。

このゑぼたん (名) [近衛牡丹] 紋所ノ名、かにぼたんノ條ヲ見ヨ。

このゑりう (名) [近衛流] 和様書法ノ一、關白、近衛信尹ノ創メタルモノ、(慶長十九年薨ズ、年五十)三藐ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

こは (感) [此者ノ義] 其物事ヲ指シ定メテ、驚クニ、發スル聲。[illegible]

こは (名) [木羽] 〔木端ノ義、さっぱ(木片)ノ義〕[illegible]ニ同ジ(仙臺、安房)[illegible]

こば (名) [胡馬] 〔こ(胡)ノ條ヲ見ヨ〕支那ノ北方ノ胡國産ノ馬。胡馬、北風ニ嘶エ、越鳥、南枝ニ巣ふトハ、故郷ヲ慕フ意ヲ云フ語ナリ。(越ハ、南國ナリ)「文選、古詩、胡馬依北風、越鳥巣南枝」「三、鎮倉遷達、胡馬、南枝に巣をかけ、胡馬、北風に嘶えケルモ、生土ヲ思フ故ゾカシ」

ごは (名) [五伯] [五霸] 〔正韻「伯、必駕切、同霸、云云、伯叔、伯長之義、後人恐下與二侯伯字一溷上、故借二霸字一別レ之」〕支那、三代ノ周ノ春秋ノ世ニ、諸侯ノ伯トシテ長タリシ、五人ノ稱。[illegible]「孟子、告子、下篇「五霸者、三王之罪人也」趙岐註「齊桓公、晉文公、秦穆公、宋襄公、楚莊王」」

ごば (名) [後場] 前場ノ條ヲ見ヨ。

こは・い (形) [疲勞] 〔こはし(強)ノ轉(其條ヲ見ヨ)體ノ撓メザタキ意ヨリ移ル〕カヒダユシ。カッタルイ。骨折リテ、疲レタリ。クタビレタリ。(伊豆、安房、上總、下總、仙臺)[illegible]

こばい (名) [故買] 〔知リテ、故ニ買ふ意〕ケエマカヒ。贓物ヲ、竊カニ買取ルコト。

ごはい (名) [向拜] かうばい(向拜)ノ條ヲ見ヨ。

こはいけん (名) [強意見] 手強キ意見。[illegible]

ごはいし (名) [五倍子] ふし(附子)ノ條ヲ見ヨ。

こばいた (名) [木羽板] 木羽ノ條ヲ見ヨ。

こはいひ (名) [強飯] 〔粥飯ニ對シテ、強キ義〕古ヘ、通常ノ飯ヲ、姫飯ニ對シテ云ヒシ語。下略ノ敬語ニ、おこは。硬飯。古代ハ、粳米ヲ甑ニ入レ、幾度モ水ヲカケ、蒸シカヘシテ炊ギタリ、故ニ、糯ラズ、筍、土器、椎ノ葉ニモ盛ラレ、箸ヲ刺立ツルヲ得タリ。後ニ、水炊ノ姫飯、專ラニ行ハレテ、遂ニ、ソレヲ飯トノミ稱スルニ至ル、今ノ通常ノ飯、是レナリ。[illegible] 後世、強飯ト云フハ、糯米ヲ蒸シタルモノ。又、飯ヲ、強ヒテ食ハシムルヲ、強飯ト云フ、各條ヲ見ヨ。

こはいものなし (名) [無恐者] 世ニ、恐ルル者ナシト云フコト。制シ誡シムル人ナキヲヨシトシテ、思フママニ振舞ヒ居ル者ナドニ云フ。驕矜。

こはう (名) [小袍] 袍ノ、袖、一幅ニテ、端袖ナキモノ。貴人ノ元服、其外ノ御結髪ニ參ル者ガ、常ノ裝束ノ上ニ着用ス、手ヲハタラカス爲ナリ。[illegible]

こばう (名) [顧望] (一)カヘリミルコト。[illegible] (二)カヘリミ望ミテ、決定セザルコト。躊躇スルコト。優遊不斷。[illegible]

ごはう (名) [午砲] 正午ノ時ヲ知ラスルニ放ツ大砲。號砲。ドン。

ごはう (名) [誤報] 報告ノ、誤レルモノ。マチガヒノ知ラセ。

ごばう (名) [牛蒡] 〔ごハ、牛ノ呉音〕古名、キタキス。ウマフブキ。蔬菜ノ名、春、又ハ秋、種ヲ下ス、莖、高サ二三尺、根ノ上、紫色ナリ、葉ハ、芋ニ似テ、長ク厚ク、鋸アリ、夏ノ初、淡紫ノ小花、簇リ開ク。根、長大ナルハ、長サ、二三尺、圍、六七寸ニモ至ルモノアリ、皮、黒クシテ、肉、白シ、品ニ作リテ、專ラ、食用トス。音便ニ、ごんばう。實ノ殼ニ、刺アリ、中ニ、數十子アリ、葡萄ノ核ニ似テ、赤黒シ、藥用トス。惡實。[illegible]

ごばう (名) [御坊] (一)僧坊ノ敬稱。[illegible] (二)僧ヲ、敬ヒ呼ブ語。[illegible] (三)眞宗ニテ、本山ノ別院ノ稱。[illegible]

こはうか (名) [古方家] 漢方醫學ノ一派、又、古醫道。支那ノ金、元、以後ノ醫説ヲ捨テテ、專ラ、晉、唐ノ醫方ニ據ルモノ、張仲景ヲ宗トス。德川時代ノ中世、後藤艮山、山脇東洋、香川修庵、吉益東洋、等、唱ヘ興シタリ。

ごばうじめ (名) [牛蒡注連] 〔形、牛蒡ノ

根ニ似タリ」大根注連ノ、細ソク、短キモノ。小サキ神棚ナドニ掲グ。

ごばうじり (名) 牛蒡尻 〔犬、猫ノ尾ノ短キハ、折傷ニ因ル、尾端ノ卷曲セヌコト、牛蒡ノ如シト云フ意カ、じりトハ、尻尾ナリ、牛蒡尻トモ云フ、ごんぼっちりト云フハ、急呼スルナリ(蘭次、らっちもない。痩法師、やせっぽち。みっじり、みっちり)五分尻ノ訛ト云フ說モアレド、五分トテハ、餘リニ短ク、無キニ等シ〕尾ノ、短クナレル猫。ごんぽっちり。物類稱呼、二、猫「尾ノ短キヲ、土佐國ニテハ、かぶねこト稱ス、關西ニテハ、牛房ト呼ブ、東國ニテハ、牛房尻ト云フ、東鑑「五分尻トアリ」倭訓栞、ねこ「尾ノ短キ猫ヲ、東鑑ニ、五分尻ト見ユ、今、東國ニ、牛房尻ト云フハ、其訛也」永正五年狂歌合(群書類從)七番「正月ハ、牛房バカリノ、尾ヲ振リテ、嫌ムトセシヲ、クルル大根」(何事カハ知ラネド、短キ尾ノコトナルベシ)

ごばうぬき (名) 牛蒡拔 〔畠ノ牛蒡ヲ採ルニ、土ヲ掘ラズ、莖ヲ握ミテ、根コジニ引拔ク、大根ハ、重ク、胡蘿蔔ハ、チギルニ因リテ、掘取ル〕他ニ從事シテアル人材ナドヲ、旁ヨリ、諾否ヲ言ハセズ、引キテ、採用スルナドニ云フ語。「管下ノ秀才ヲ、ごばうぬきニスル」

ごばうね (名) 牛蒡根 〔牛蒡ノ根ハ、畠ノ土中ニ直下ス〕草木ノ根ニ云フ語。堅根ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。ボウネ。萬紫千紅(蜀山人)「春ノ野ニ、鍋トリ公家モ、立チ出デテ、ヒクヤ子ノ日ノ、松ノ牛蒡根」

ごはうべん (名) 御方便 (一)佛ノ方便ヲ、敬ヒ云フ語。謠、四十八、寄生「十一佛ノ御はうべんニテ、云云、終ニ、聖ノ道ニモ入リ」(二)轉ジテ、自然ニ任セテ、幸福トナリ、手ヲオロサヌニ、成立ツ、ト云フ意ニ用キラル。方便ノ虛ガ、實トナル義ヨリ移リタルナルベシ、塞翁が馬ナド云フモ、此語ノ意トナル。「親ナクトモ、子ハ育ツ、ごはうべんナモノダ」醜女デモ、ソレゾレ緣ヅク、ごはうべんナモノダ」

こバカ (名) 小馬鹿 ウスバカ。ウスノロ。低能。「人ヲ、小馬鹿ニスル」

こバカ (名) 小馬鹿 〔ばかがひノ小サキモノノ意ナラム〕介ノ名、おほふきがひノ異名。

こバカくさ・い (形) 小馬鹿臭 〔接頭語ノこ(小)、幷ニ、臭しノ條ヲ見ヨ〕バカラシイ。アホラシイ。

こばかま (名) 小袴 (一)〔古ヘ、朝家ニテ云ヒシハ、指貫ノ袴ノ一稱。字鏡廿八「小袴、古波加万」榮花物語、十三、木綿四手「殿(攝中納言藤原顯光)ハ、小袴着テ、あしだハカセタマヒテ、杖ヲツキテ」安齋隨筆、七「小袴ハ、指貫ノ袴ナリ、コレハ、白衣ニテ、袴バカリ着タマヘルヲ云フナルベシ」(二)中世、武家ニテ云ヒシハ、一種ノ製ノ袴。二水記、大永七年正月七日「早旦、室町殿出仕令ニ見物ニ、道永以下、悉以片衣小袴也、當時、先、無爲之間、不レ可レ然之體也」(無爲之間、不レ可レ然トハ、治平ノ世ニ、不相當ノ意カ)玉かつま、三「今ノ世ノ、肩衣半袴ノ事ト聞ユ」貞丈雜記、五「古ヘハ、常ニハ、素襖ニ、小袴ヲ着シ、式正ノ時ハ、上下トテ、素襖、長袴、又、小素襖ヲ着スルナリ、云云、長サハ、足ノつぶ節邊マデトドキ候、括ヲ入レテ、犬追物ナドノ時ニ、ククリヲシメテ、其上ニ行縢ヲ履キ候ナリ、當時(室町時代)ハ、長袴ノ代ニ被レ用候」(三)德川時代ニ、小袴ト云ヒシハ、半袴ノ裾ニ、細ソク緣ヲツケタルモノノ稱。裾口ニ、紐ヲ通シ、遠足スル時ハ、袴ノ下ニ、脚絆ヲハキ、紐ヲ結ビオク。

こはがら・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 畏怖 コハガラシム。オソレシム。オビエシム。オドス。浮世床(文化、三馬)初編、上「化物語、云云、チト、こはがらせヨウカノ」

こはが・る ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 畏怖 恐シト思フ。オソロシガル。枕草子、五、四十七段、ねたき物「キヌ引キアグルニ、空寐シタルコソ、イト妬ケレ、猶コソこはがり給ハメ、ナド打チ云ヒタルヨ」

こはぎ (名) 小萩 〔木萩ノ義、冬モ、莖ノ枯レヌ意ト云フ說アリ、固ヨリ灌木ナレバ、イカガト思ヘド、姑ラク、從フ〕萩ト云フニ同ジ。古今集、十四、戀、四「宮城野ノ、本荒ノこ萩、露ヲ重ミ、風ヲ待ツゴト、君ヲコソ待テ」千載集、三、夏「小萩原、マダ花咲カヌ、宮城野ノ、鹿ヤ今宵ノ、月ニ鳴クラム」

こはく (名) 琥珀 (一)古名、アカダマ。又、くはく。前世界ノ松類ノ脂ノ、化セルモノ、土沙中ヨリ得、燒ケバ、松脂ノ香アリ、狀、色、種種ナリ、黄ニシテ透明ナルヲ上トスレド、橙黄、不透明ナルヲ常トス、磨レバ、最モ電氣ヲ興シ易ク、能ク、物ヲ吸フ、古來、寶石ノ類トシテ、裝飾ニ用キル。易經、上經、乾卦、文言、疏「磁石引レ針、琥珀拾レ芥」式部省式、下「以二水精三顆、琥碧三顆、靑玉五顆一交二居冠頂一」倭名抄、十一、九玉類「琥珀、久波久」名義抄「琥珀、クハク」(二)次次條ノ語ノ略。

ごはく (名) 五伯 五霸ノ條ヲ見ヨ。

こはくおり (名) 琥珀織 〔初渡ノモノハ、琥珀ノ如ク、黄色ナリシカ〕絹布ノ名、元ハ、舶來ニテ、唐ちやうト云ヘリ、天和年間、京都ノ西陣ニテ織リ始ム、織目、ななこニ似テ、光澤、多シ、專ラ、羽織地、帶地、ナドトス。

こばくぎ (名) 木羽釘 〔木羽ノ條ヲ見ヨ〕こば板(卽チ、柿板)ヲ打チツクル竹釘。

こはくきう (名) 狐白裘 狐ノ腋ノ下ノ、白キ毛ヲ以テ作レル皮衣。史記、孟嘗君傳「孟嘗君有二一狐白裘一、直千金、天下無レ雙、入レ秦、獻二之昭王一」

こはくご (名) 強供御 〔供御ノ條ヲ見ヨ〕こはいひ(強飯)ノ女房詞。

ごはこう (名) 御八講 法華八講會ノ條ヲ見ヨ。

こはごは (副) 恐恐 オソルオソル。恐レツツ。鑼丸(元祿、近松作)四「こはごは立チ寄ッテ、ソット覗ケバ」「こはごは覗ク」

ごはごは (副) 強強 〔背音ヲ濁ルハ、蟹、蛙ノ類ナルベシ〕強張リタル紙、革、ナドノ、摩レ合ヒテ鳴ル音ニ云フ語。

こはごは・し ・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 強強 〔重し、おもおもし。輕し、かるがるしノ例、意味ヲ強メテ云フ〕(一)甚ダ、強シ。甚ダ、柔カナラズ。コハバリタリ。硬 枕草子、六、五十八段「裳、唐衣ナド、こはごはしく裝束キタルモアリ」(強裝束ト云フ意ナリ)(二)甚ダ、木強シ。アラアラシ。ブコツナリ。木強 盛衰記、三、小松教訓事「田舍侍ノ、氣折ニ、こはごはしかりケルニ、上臈モ、下臈モ、ワキマヘズ、主ヨリ外ニハ、恐シキコトナシト思ヒテ、前後ヲ知ラザリケル」

こはさうぞく (名) 強裝束 〔萎裝束ニ對ス〕こはしやうぞくニ同ジ。

こはざれ (名) 強戲 〔強意見ナドト、同

趣」烈シキ戯。手ヒドキ、タハムレ。ワルジャレ。狂言記、六人僧「ソレハ敢シテクレイ、ナンノ、ユルセ、昔シカラ、おはざれハセヌコトヂャ [illegible]」

おはし (名) 壞 壞スコト。コハシタルモノ。「古家ノおはし」

おはし 〔名〕 乙 おはす(乙)ノ條ヲ見ヨ。

おは・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 強 〔凝り張ルノ義カ(凝凝し、おおし。強張る、おはる)〕 [illegible] 活用セサセタル語ナルベキ [illegible] (一) [illegible] 強シ。[illegible] 云云、出其不意、則破之必也」垂仁紀、七年七月「有一勇悍士、曰當麻蹶速、其爲人也、強力、[illegible] (二) [illegible] オゾシ。スルドシ。烈シ。強悍。竹取物語「クチヲシヤ、[illegible] 書ニテ、[illegible] 大鏡、下、[illegible] 二十八、[illegible] カク心ノはけれド、今ハ、セカレタマフベキナラネバ」榮花物語、廿七、衣珠「イトド、御物怪ハ、おはくナリマサケレバ」 (三) 〔強意見〕 嶮シ。險阻ナリ。大鏡、下、[illegible] 傍ニ供ニ、[illegible] 傍ル、[illegible] 作リ、[illegible] ザリシカバ、云云」 (四) 〔固〕 固シ。ヤハラカナラズ。硬 [illegible] 字 [illegible] 硬、コハシ。[illegible] ハヤハラカニ [illegible] 、[illegible] ハ、おはし、ヤハラカナルモノ [illegible] (五) おはい(疲勞)ノ條ヲ見ヨ。

おは・し・キ・ケレ・ク・ク 〔形、二〕 恐 〔前條ノ語意ノ轉ジタルナリ、強キモノハ、恐シキ意〕 オソロシ。恐ロシ。可畏 可怖 名義抄「淺、シノグ、ヲカス、シヘタグ、コハシ、オソロシ」枕草子、八、八十段「おはき物怪」太平記、二、[illegible] 「思切タル者共ガ、死狂ヒヲセムト引籠タルガおはサニ、内ヘ切リテ入ラムトスル者モナカリケル」(以上ノ二ハ、共ニ、強しト、恐しトノ過渡語ナリ) 狂言記、鬼瓦、六角堂ノ鬼瓦「アレハ、おはい面體ヂャナア」おそろしい面體デゴザリマスル」 三河物語(大[illegible]) [illegible] 云云、[illegible] 思ヒテ、サホド押ヘマスモノナリ 百物語 [illegible] 付ニテモ、百物語ヲスレバ、必ズ、おはき物、現ハレ出ヅルト [illegible] ハリシ、云云、唯今、新シヌマヒシ其中ニ、おはきモノ出デタリ、彼奴ガ着タリシ衣裳、云云、闘おはノ [illegible]、[illegible] はきモノナリ [illegible] 九、下)

こはじ (名) 鉤 〔鉤端ノ義〕 簾ヲ卷キテ、鉤リ上ゲオク鉤。 [illegible] 百首 打チナビク、コスノこはじニ、ワカレキテ、床ノ上ニモ、積ル雪カナ」

おばし (名) 小橋 橋ノ、小ナルモノ。

おはおとみ (名) 小半蔀 はおとみ(半蔀)ノ條ヲ見ヨ。

おは・しやうぞく (名) 強裝束 「糊、漆、ニテ、強クシタル意」衣、冠、裝束ニ、糊ヲ加ヘ、漆ヲ塗リテ、圭角、折目、ヲ立タシメ、威儀ヲ作リタルモノ。鳥羽天皇ト、花園左大臣源有仁公ト、仰合ハセラレ、始メラレタルコトニテ、コレニ對シテ、以前ノ常ノ裝束ヲ、萎裝束ト云フ、強裝束ハ、以後、七百餘年、永ク定制トナリテ、今ニ至ルマデ、祭服ニ用ヰラレテアリ。衣文ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。今鏡、下、第八、[illegible] 花園ノ大臣(源有仁)ハ、[illegible] ノ外ニ、衣紋ヲゾ好ミタマヒテ、云云、オホカタ、昔ハ、カヤウノ事モ知ラデ、[illegible] 烏帽子モ、強ク塗ルコトモナカリケルナルベシ、云云、白河院ハ、御裝束參ル人ナド、オノヅカラ、引キツクロヒナドシマヰラセケレバ、[illegible] 工侍リシ [illegible] 台記、久安三年十月二日「左大臣源有仁公卒、云云、[illegible] 好マセタマヒケルニデタクマシマシケレバ、[illegible] 好マセタマヒケルニ [illegible] 裝束ノ、[illegible] ナリ、[illegible] 云フコトモ、[illegible] ヨリ出デ來ニキ、[illegible] 大臣、又、[illegible] 儀アルハ、[illegible] 同ジ頃ニナリニケルトゾ、[illegible] 装束ノ衣紋、云云、[illegible] 御代ヨリ、[illegible] 裝束ヲ用ル故ニ、衣紋ノ沙汰、出來スルナルベシ、上代ハ皆、なへ裝束トテ、ふくさニテ、[illegible] 鳥羽院已前ノ人ノ影ヲ書クトテ、鳥羽院以後、始メタル強裝束ノ衣紋ヲ書キタルハ、[illegible] ノ不覺也」

おばしり (名) 小走 (一) 小股ノ急足。(二) 武家ノ下部ノ、驅使ニ供スル者。

おは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 乞 乞請 〔乞〕 乞ふヲ、敬語ニ、おはすト云フハ、思ふ、おもほす。聞く、きかす、きこしめす。知る、おろしめすノ例ナリ〕 乞ふノ敬語。乞ヒタマフ。神武紀 [illegible] 神代紀、[illegible] 云云、[illegible] 云云」允恭紀、十四年九月 [illegible] 名詞形ニ、おはしト云フ、神代紀、下 [illegible] 天智紀、三年四月 [illegible] 乞ニ十四町ニ

おは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 壞 壞毀 〔壞るるノ他動、隱るる、かくす。離るる、はなす〕 壞ルルヤウニス。コボツ。破ル 碎ク。頽ス。(堅キ物ニ) 毀損 [illegible] ヲおはす 玩具ヲおはす」

こはぜ (名) 鉤 〔こはじ(鉤端)ノ轉〕 こはじニ同ジ。

こはぜ (名) 鞐 〔前條ノ語原ニ同ジク、鉤端ノ轉ナリ、次條ノ語ノ(二)ヲ見ヨ、鞐ト云フ字ハ、足袋、古クハ、革製ノモノナリキ、其上前、下前ニ、ツケテ、結ビ合ハスル革紐ノ意ノ三合字ノ、遺リタルナリ、漢語ノ鈕鉗ヲ見ヨ〕 足袋、脚絆、ノ打交ニツクル具、製法、前條ノこはぜノ如シ、但シ、角、貝、鼈甲ナドニテ、爪ノ形ニ作リテ、懸ケ合ハス、用法、鈕鉗ト、略、同ジ、コレヲ、こはぜがけト云フ。牙籤 五元集 元禄 其角 「奇足袋ヤ、こはぜニ殘レ、初霜」 [illegible] 博多小女郎波枕(享保、近松作)下「[illegible] 鈕ニ身ヲカタメ」 我衣(天和)「寛永ヨリ、薄柿ノ脊足袋、ハヤル、筒アル足袋ハク人、稀ナリ、皆、こはぜおけナリ、正德ノ比、牡丹がけニスル」(牡丹ハ、當字、ぼたんがけハ、こはぜおけコリ前ナリ、ぼたん(鈕鉗)ノ條ヲ見ヨ」 八水隨筆(元文)「脊足袋ノ足袋ヲ、こはぜがけニスルコトハ、予ガ父ノ、大坂ニアリシ時、フト、指ヘサセテヨリ、其足袋屋ノ作ノヤウニ言ヒナシテ、夥シク仕込ミ、江戸ヘ廻ハシタルヨリ、一統ニ、ハヤリシナリ」

こはぜ・がけ (名) 鞐懸 (一) 鞐ニテ、懸ケ合ハスルコト。前條ヲ見ヨ。(二) 急勾配ノ屋根ヲ、銅板ナドニテ葺クニ、釘ヲ用ヰズシテ行フ法。板ニ、針金ヲ、鉤ノ如ク曲ゲタルモノヲ仕付ケテ、懸ケ合ハセ、裏板ニ打付ケテ、葺クナリ、鉤、即チ、鞐ナリ。

おはた (名) 小袖 〔袖ノ條ヲ見ヨ〕 小袖ノ(一)ニ同ジキモノナルベシ。 袋草子、四「おはた山 [illegible] 嵐、寒ケレバ、伏見ノ里モ、寢コソ寐ラレネ」コレハ、俊綱朝臣ノ、伏見ニ侍リケルニ、夜、タタズミアリキケルニ、アヤシノ宿直人ノ、地ニ臥セリテ、詠メケル歌也、聞キテ、小袖ヲヌギテ賜ヒケリトゾ、下臈ノ着ル、つづりト云フモノヲバ、おはたト云フト、云云」つづりト云フコト、背ハレズ、山城國ノ木幡山ヲ、小袖ニ言ヒカケ、伏見ノ里ヲ、臥シニ云ヘルナリ)

おはだ (名) 木皮 〔はだハ、皮ナリ、其

條ヲ見ヨ、檜皮、黄皮(黄蘗)、まいはだモ、眞木皮ナリ」樹ノ皮。倭名抄、廿三木具「下路云、樸、木皮也、字亦作朴、古波太」說文「朴、木皮也」

こはだ (名) 小鰭 江鰶魚 魚ノ名、このしろノ條ヲ見ヨ。

こばた (名) 小旗 (一)チヒサキ旗。(二)指小旗ノ條ヲ見ヨ。

こはちえふ (名) 小八葉 はちえふのくるまヲ見ヨ。太平記、廿四、天龍寺供養事「直義、卷纓、老懸、蒔繪ノ細太刀帶イテ、小八葉車ニ乘レリ」

ごはちのが (名) 五八賀 (四ト、死ト、通ズルヲ忌ミテ、五八ト云フナリ」人ノ、四十歳ニ滿チタル時ニ行フ賀。初老ノ賀。算賀、及、賀、祝ノ條ヲ見ヨ。懐風藻、五言、賀二五八年一宴「萬秋長貴戚、五八表二遐年一」云云」日次紀事(延寶)臨時、高貴年賀「凡、人壽、四十歳ニ滿ツル年ハ、老名ノ初ト稱シテ、始メテ、延ブルノ祝ナス、云云、世俗ニ、四十ト云フ聲ヲ忌ミ、是ヲ、五八之賀ト稱ス」

こはな (名) 啇 みこはなノ條ヲ見ヨ。顯宗即位前紀「大臣首建二利遁一、聞之歎息、彰二顯帝孫一見之啼泣」

こばな (名) 小鼻 鼻ノ端ノ左右、卽チ、兩孔ノ上ニ、小高クナレル處ノ稱。「小鼻ヲイカラス」

こはばる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 強張 強ク、固クナル。コハル。強直 「糊附物ガこはばる」

こはひ (名) 粉灰 (粉ノ如ク、灰ノ如クナル意、こっぱひハ、急呼スルナリ(木羽、こっぱ。此方、こっち)らりハ、亂離ノ略ニテモアルカ(懸念、けねん。饂飩、うどん」」(一)散散ニ、碎クルコト。粉微塵。又、こっぱひ、こっぱひみぢん、らりこっぱひナドモ云フ。粉碎 曾我物語、十一「鬼の子捕らるる事「修羅ノ大敵ヲ、こはひニ打碎ク」曾我會稽山(享保、近松作)三「微塵こはひニナレバトテ、敵ニ聲ヲカケラレ、スゴスゴ立ッテハ、骸ノ恥辱」聖德太子繪傳記(同上)二「己ガ頭ヲ、爪先マデ、微塵骨灰ニ引裂キ」貞享節用集「落巨灰」俚言集覽、らりこはひ」「こっぱみぢんニ打チ碎ク」(二)シタタカニ、タシナムルコト。散散ニ、言ヒコナスコト。東海道中膝栗毛(享和、一九)初編、上、彌次郎兵衛、女房ニ雜言ヲ言ハレテ「ヤイヤイ、此奴ガ、亭主ヲ、羅利骨灰ニシヤァガル」「親ニ叱ラレテ、こっぱひナ目ニ遭ッタ」

ごはふ (名) 語法 コトバヅカヒ。言語ヲ組立ツル法則。語格。

こばぶき (名) 木羽葺 (木羽ノ條ヲ見ヨ」こば板(卽チ、柿板)ヲ以テ、屋根ヲ葺クコト。

こはみ (名) 獸ノ名、狸ニ似テ、小サキモノト云フ。倭訓栞、こはみ「狸ニ似テ小サク、好ミテ人家ニ住メリ、其身ノ肉、至テ强キヲ以テ名ヅク、是レ、むじなナルベシ」

こはん (名) 小半 こなからノ條ヲ見ヨ。

こはん (名) 孤帆 帆ヲ懸ケタル、一艘ノ船。孤舟。李白詩「孤帆一片日邊來」

こはん (名) 枯礬 ヤキミャウバン。

コーハン (名) 火伴 (字ノ宋音、こ(火ノ條ヲ見ヨ、伴ハ、伴侶ノ意ナルベシ」コパン。又ハ、コバ。禪家ニテ、爐ノ事ヲ執ル者ナリト云フ。南畝燕語(南山和尚)下「火伴」

こばん (名) 小早 (小早ノ音便(逸見、へんみ。わやく、わんぱく)其條ヲ見ヨ」小舟ノ名。倭訓栞、こばん「渡舟ニ云フ」

こばん (名) 小判 (一)古キ金貨ノ名、形、薄ク、圓ク、長ク、卵ノ形シタリ、壹兩ニ當ツ。(大判ニ對ス) 心中萬年草(寶永、近松作)中「紅ノ花ノ様ナ小判、二百五十兩」(二)紙ナドノ判ノ、小サキモノ。(大判、中判ナドニ對ス)

こばん (名) 小番 こばんしゅう(小番衆)ニ同ジ。

こばん (名) 小鷭 鳥名、鷭ノ條ヲ見ヨ。

コーバン (名) 火番 (火伴ノ語ト同ジキカ、或ハ、火鈴振トナリテ、火災ヲ警ムル者カ」禪家ノ下男。俗家ニモ移リテ稱セリ。撮壤集(享德)上、諸宗部、禪僧「水頭、火番」林逸節用集(文明)「木守、火番」運歩色葉集(天文)「火番、禪家下男」倭訓栞、こばん「下部ヲ云ヘリ、火番也ト云ヘリ」

こばむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 拒 (強阻ノ約ニテモアルカ」支ヘ、防グ。抑ヘ止ム。阻ム。靈異記、下、第六緣「強令レ闘、不レ得二逆拒一」開、横、訓釋「拒、己皮年」

ごはん (名) 御判 書判ノ敬語。「御判御教書」「御判始」

ごはん (名) 御飯 飯ノ敬語。オダイ。ゴゼン。

ごはん (名) 午飯 ヒルゲ。ヒルメシ。蘇轍、狄玉亭詩「接レ竹齋廚午飯香」

ごばん (名) 碁盤 圍碁ニ用キル盤。今用キルモノハ、白木ニテ作ル、用材ハ、榧ヲ最良トシ、檜、コレニ次ギ、桂ヲ下トス、縱、一尺四寸、横、一尺三寸八分、厚サ、六寸、下ニ、四脚アリ。枰 碁局 上面ニ、黑漆ニテ、縱、横、各、十九線ノ罫ヲ引キテ、三百六十一ノ方形ノモノ成ル、方形ノ內、方、七分ナリ、其罫ノ、十文字ニナレル點ヲ、碁目、又、單ニ、めト云ヒ、又、目ト云フ、圍ム時、ソコニ、碁石ヲ置ク。枰線 碁路 倭名抄、四十九雜藝具「碁局、枰、俗云二五半一」後撰集、廿、賀「院ノ殿上ニテ、宮ノ御方ヨリ、碁盤出ダサセタマヒケル、碁石笥ノ蓋ニ(歌)」枕草子、七、六十八段「碁ヲ、ヤンゴトナキ人ノ、打ツトテ、云云、劣リタル人ノ、居ズマヒモ、カシコマリタルケシキニ、ごばんヨリハ少シ遠クテ、及ビッツ、袖ノ下、イマ片手ニテ、引キヤリツツ、打チタルモ、ヲカシ」碁盤ノ四脚ハ、各、梔子ノ實ノ形ノ如ク、六角ニシテ、上、下、窄マレルヤウニ作ル、くちなしあしト云フ、口無しニ寄セテ、助言ヲ戒ムル意ナリト云フ。宇治拾遺、三、第五條「ごばんノあしノ、イカリ、サシアガリタルニ」倭訓栞、後編、くちなし「碁盤ノ脚ヲ、梔子ノ形ニ象リ、盤面ヲ、梔子ニテ塗ルモ、助言ヲ戒メタルモノナリト云ヘリ、西土ニモ、觀レ棋不レ語眞君子ノ語也」說文「局、促也、从下口在二尺下一復局レ之」徐鍇曰、人之無レ涯者、唯、口、故、口在二尺下一則爲レ局」

ごばん (名) 御番 當番、當直、ノ敬語。宇津保物語、國讓、中五十八「宰相中將ノ君、ごばんノ夜、同ジ番ノ男女、參ノボリタリ」「御番醫師」

ごばんいし (名) 御番醫師 (前條ヲ見ヨ」德川幕府ノ職名、宿直ヲ勤ムル醫師。武鑑「表御番醫師、二百俵以下、御番料百俵」

こばんいただき (名) 小判戴 魚ノ名、こばんざめノ條ヲ見ヨ。

ごばんいり (名) 御番入 德川幕府ノ制ニ、臣下ノ、小普請(非役)ナリシ者ガ、召出サレテ、兩番、大番、新番、右筆ナドニ補ラセルルコト。夢燒盞記、上「三十五ノ歲、家督ヲ讓リ請ケテ、アクル年ノ春、大御番ヘ御番入シテ」

ごばん-がうし (名) [碁盤格子] ごばんじまヲ見ヨ。傾城歌(元祿、近松作)上「碁盤格子ノ公儀ヲ、碁盤縞ヒヤ、年配モ、二十二三四五六七」

こばん-がた (名) [小判形] こばんなりノ條ヲ見ヨ。

こはん-ぎん (名) [小半斤] [小半ノ語原ヲ見ヨ] 半斤ノ半分。四半斤。

ごはん-ざい (名) [御高盛] ごくわうノ條ヲ見ヨ。

こばん-ざめ (名) [小判鮫] 魚ノ名。長サ一二三尺、皮ニ、細沙アリ、形、圓ク、色、黃赤ニシテ、黑ミヲ帶ブ、頭上ニ吸盤アリ、頭、稍、扁ク、上、平ニシテ、二十二、乃至、二十六條ノ横紋相連ルコト二寸許、小判形シタリ、而シテ、細刺アリテ、能ク物ニ吸付キテ、離レズ、故ニ、此魚、多ク船底ニ粘着スレバ、舟、動カズシテ、害ヲナス、コレヲ、あやかしト云ヒテ、舟人ノ忌ム所ナリ、肉、食フベシ。一名、コバンイタダキ。印魚　鮣　吸盤魚

ごばん-じま (名) [碁盤縞] 織物ニ、碁盤ノ目ノ如ク、縱横ノ筋ヲ織リ出セルモノ。又、碁盤格子。格子縞。棋花

こばん-しゅう (名) [小番衆] 近習ノ備。室町時代ニ於テ、小番。(類聚名物考)「室町殿ニ云云、小番衆、近習ノ代、一番ヲ定メ、番帳ニ載セテ、小番ト云フ、番ニ当ル一番ニ、付ケタル小番衆、御供衆ニ一番ヲノ衆ナリ」

こはん-せき (名) [虎斑石] 近江國、高島郡ニ產ズル石ノ名、硯トス、質、黑クシテ、白キ斑アリ。

ごはん-たき (名) [御飯炊] ごぜんたきノ條ヲ見ヨ。

こはん-ちゃう (名) [小半挺] [小半ノ語原ヲ見ヨ] 一挺ノ、四分ノ一。

ごはん-で (名) [御判手] ごはんやきノ條ヲ見ヨ。

こはん-とき (名) [小判時] [小半ノ語原ヲ見ヨ] 往時ノ一時ノ、四分ノ一ノ稱。今ノ、三十分。

こはん-とし (名) [小半年] [小一年、小百圓ナドト、同趣ノ語、小(接頭)ノ(四)ヲ見ヨ] 半年足ラズ。半年弱。

こばん-なり (名) [小判形] 小判ノ如キ形、卽チ、圓クシテ、長ク、卵ノ如き形。コバンガタ。イビツナリ。楕圓

ごばん-にんぎゃう (名) [碁盤人形] 操人形ヲ、碁盤ノ上ニ載セテ舞ハスル技。五元集、其角「鶏ノ何合ヘ碁盤ヲモテ、イザ何合ヘ、碁三五「長右衛門ノ鶏ノコトヲ演ジタルガ如シ、人形遣、山本飛驒掾ト云フ者、碁盤ノ上ニ人形ヲ遣フ、六、中「ガイナ人形、云云、碁盤付ガ才づま人形、ごばんノ上ニ載セテ見セシコトアリシナリ、云云、正徳四年八月廿九日日記、(碁人ノ技ニ於テ、小山次郎三郎、ごばん人形見物致候」(小山ハ、人形遣ナリ)

ごばん-ぬひ (名) [碁盤縫] 布帛ニ、太キ絲ニテ、碁盤縞ノ如ク、刺縫シタルモノ、卽チ、上刺ニテ、背旗ノ四半ニスルコトナリ。

ごばん-のり (名) [碁盤乘] 馬術ノ技ニ、碁盤ニ乘リナガラ、四脚ヲ集メサセテ、碁盤ノ上ニ立ツルコト。小栗判官、行ヒタリト、傳說ス。檜山の非、筆文「〔曳〕馬モ、一日衆ヤ、碁ばんのり」

ごはん-はじめ (名) [御判始] はんはじめ

ごはん-みけうしょ (名) [御判御教書] みけうしょノ條ヲ見ヨ。

ごはん-むし (名) [御飯蒸] ごぜんむしノ條ヲ見ヨ。

ごはん-やき (名) [御判燒] [判ハ、印ナリ] 島津義弘ガ、大隅國、帖佐ノ地ニテ、燒キ成サシメタル陶器ノ稱。御判手トモ云フ、佳製ナルニハ、印ヲ押シテ燒カシメタリ、印文ハ、萬ノ字ナリ、茶碗ナルニハ、長方形ノ印ナレド、印文、分明ナラズ。陶工ハ、義弘ガ、征韓ヨリ歸國ノ時、伴ヒ來リシ朝鮮人、金海、等ナリ。

ごばん-わり (名) [碁盤割] 碁盤ノ目ノ如ク、縱横ノ直線ニテ、區域ヲ割リ作ルコト。市街ヲ開クニ云ヒ、又、書畫ヲ書ク紙上ニ施スニモ云フ、臨摸スル時、原本ヲ擴大シ、縮小スルニ、此法ヲ用キル。俚言集覽「碁盤わりノ町」

こはめし (名) [強飯] [普通ノ飯ニ對シテ強シ、こはいひ(強飯)ヲ參見セヨ] 糯米ヲ、蒸籠ニテ蒸シタルモノ。強飯トモ云ヒ、婦人ノ語ニ、おこはト云フ。常ニ、赤小豆ヲ雜ゼテ、赤クシテ、赤飯ト云ヒ、多ク、祝儀ニ用キル。雜ゼヌヲ、白蒸ト云ヒ、或ハ、黑大豆ヲ加ヘテ、佛供トス。

こはもて (名) [恐持] [もてるノ條ヲ見ヨ] 子供ク仕向ケテ、相手ガ恐レテ、好ク待遇スコト。浮世床(文化、三馬)初編、上「こはもてニ、モテル連中タハナ」

こはもの (名) [恐物] 恐キモノ。オソロシキモノ。狂言記、拔殼「其鬼ヲ見届ケタカト仰セラレタ、云云、こは物ナガラ、見届ケテ候フウ」

こばや (名) [小早] [和漢船用集(寶曆)三、小早「小早舟也、今、舟ノ字ヲ略シテ呼ブ」こばんト云フ小舟アリ、此語ノ轉ナリト云フ] 小早舟ノ略、關船ヨリ小サキ早舟、數挺ノ艪ニテ漕グ、江戸幕府ノ船手ニテハ、ちょろト云ヒキ。小舸　後訓栞、こばや「小早ノ義、萬葉集ニ、足早ノ小舟ト詠メル、是也」雜兵物語(天和、貞享)下、遊中間「むかし八十挺立ノ關船、其船へ、小ばやガク、ツイテ、云云」松の落葉(寶永)四、岡山通踊「岡山通ヒノ、六チョこばやニ、櫓ヲ八挺立テテ」

こばやい (形) [小早] [小半年ノ語原ヲ見ヨ] 稍、早シ。「正午ト云フ約束ダガ、こばやく出カケル」こばやくアルク」

こばやね (名) [木羽屋根] こばノ條ヲ見ヨ] こば板ニテ葺キタル屋根。コケラヤネ。

こはら (名) [木原] [原ハ、林ノ地ナリ] 松原、竹原、茨原、藪原] 林ニ同ジ。樹ノ、叢生チタル地。曾丹集「山里ノ、梅ノこはらニ、春バカリ、籠リテ居ラム、花モ見ガテラ」

こばら (名) [小腹] [小ハ、接頭語] 小腹ガ立つト云フハ、腹ガ立つト云フニ同ジ。心中天網島(享保、近松作)上「小腹ガ立つヤラ、可笑シイヤラ、胸ガ痛イト、齒ギシミシ」

こはらかに (副) [強] コハゴハシキ狀ヲ云フ語。平家物語、一、殿下乘合事「小松殿ニハ、カクトモノ給ヒモ合セズシテ、片田舍ノ侍ノ、極メテこはらかなるガ、入道ノ仰ヨリ外、世ニ又、恐シキ事ナシト思フ」

こはり (名) [小張] はくちゃう(白張)ニ同ジ。平治物語、一、主上六波羅行幸事「清盛郎等、伊藤武者景綱、黑糸威ノ腹卷ノ上ニ、小張着テ」

こ-はる (名) 【小春】 (漢語、小春ノ訓讀) 冬ノ初、日和ツヅキ、日ザシウララカニ、氣候、暖和ニシテ、春ニ似タル時ノ稱。陰暦十月ノ異名トモス。荊楚歳時記「十月、天氣和暖、似ㇾ春、故日二小春一」 徒然草、百五十五段「十月ハ、小春ノ天氣、草モ靑クナリ、梅モツボミヌ」

こは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【强】 (强しノ語根ヲ活用セシム、太る、重る、細る) こはばるニ同ジ。强クナル。 倭訓栞、こはる「腹ノ攣痛スルヲ云フ、云云、強フ固メルハ、不和柔ニ堅ト云ヘリ」

コバルト (名) (英語、Cobalt.) 硫黄ト砒素トノ化合物ニテ、稀ニ産ズル金屬元素。其須ハ、其元素ノ含有スル土(乃チ、こばると土)ナリ。

こはれ (名) 【壞】 壞レタルモノ。クダケ。カケラ。碎片「硝子ノこはれ」

こは・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 【壞毀】 (壞るるノ轉ナルベシ、屠る、はふるヲ倣はす、おほす(果)ヲ他動ニ、こはすト云フ) コボル。破レ、碎クル。頽ル。(堅キ物ニ)「箱ガこはれタ」「土瓶ガこはれタ」

こひ (名) 【鵠】 くくひノ條ヲ見ヨ。

こひ (名) 【乞請】 (一)〜コフ.コト。望ミ願フコト。 古今集、三、夏「隣ヨリ、常夏ノ花ヲ、こひニオコセタリケレバ「共ぬヲ容ル」(二)請ヒ招カルルコト。招待。招請。 千載集、十六、雜、上「西部花見、律師ノ講師ノ請ヲ申シケルヲ、タビタビ請レ、ケレバ」

こひ (名) 【戀】 (一)戀フルコト。慕ヒ、思フコト。 戀慕 萬葉集、十八、大嬢、坂上郎女、越中守、大伴家持ニ贈レル歌「常人ノ、故布ト云フヨリハ、餘リニテ、吾レハ死ヌベク、ナリニタラズヤ」 片思ヲ、馬ニ太馬ニ、負セモテ、越方ニ遣ラバ、人勾引ハムカモ 雜歌「アマザカル、鄙ノ奴ニ、天人シ、斯ク古非スラバ、生ケルシルシアリ」常ノ孤悲、イマダ息マヌニ、都ヨリ、馬ニ古非來バ、荷ヒアヘムカモ」(親族、相思フナリ) 後撰集、十、戀、二「人妻ニ、心アヤナク、カケハシノ、危キモノハ、戀ニゾアリケル」(男女ノ情交、戀愛ナリ) 戀は曲者ト云フハ、戀慕ノ情ハ、惡魔ナリノ意。 謡曲、花月「來シカタヨリ、今ノ世マデモ、絶エセヌモノハ、戀ト云ヘル曲物、實ニ、戀ハ曲物、曲物カナ」(二)歌集ノ類別ニ、戀歌ヲ集メタル部ノ稱。 「春、夏、秋、冬、戀、雜」 萬葉集ニハ、相聞トシテ、男女、夫婦、兄弟、朋友、相、思フ詠ヲ併載セリ。

こひ (名) 【鯉】 「戀ノ義ニテ、景行紀ニ、鯉ヲ池ニ放チテ、弟媛ヲ誘ヒタマヒシニ起ル、ト云フハ、附會ナリ」 魚ノ名、淡水ニ産ズ、大ナルハ、體長、三四尺ニ及ブ、力、强シ、背ノ色、蒼黑ニシテ、兩ノ鬚、口ヲ夾ミテ生ジ、眼、大キク、鰭、紫ナリ、其脇ノ鱗、一道、首ヨリ尾ニ至ルマデ、三十六片アリテ、鱗毎ニ、小黑點アリ、因リテ、六六魚ノ名モアリ。河魚ノ長ト稱シテ、供膳ノ最トシ、登龍門ノ意ニ因リテ、出世魚ト稱シテ、祝儀ニ用キラル、 靈異記、下、第十五縁「鯉、許比ニ訓釋「鯉、己比」 字鏡「鯉、古比」(倭名抄、同ジ) 景行紀、四年二月、美濃國ニ行幸ス、美人、弟媛、竹林ニ隱ル、天皇權、令ニ弟媛至ニ而居ニ于泳宮ニ鯉魚浮ㇾ池、朝夕臨視而戲遊、時、弟媛、欲ㇾ見ニ其鯉魚遊ニ而密來臨ㇾ池、天皇則留而通ㇾ之」 夫木抄、三十、故宮「イト嬉シ、泳ノ宮ノ、池ニ棲ム、こひ故人ニ、歎カレヌル」 倭訓栞、こひ「鯉モ、戀ヨリ出デシ名ナリ、景行紀ニ、其旨、見エタリ」

こひ (名) 【瘇】 病ノ名、おめあしノ條ヲ見ヨ、

こ-ひ (名) 【喉痺】 こうひ(喉痺)ノ條ヲ見ヨ。

こ-ひ (名) 【虎皮】 虎ノ毛皮、又、皐皮、褥トスルニ云ヒ、儒者ノ講席ノ意トセリ。虎皮下ト云ヒテ、學者ノ座下ノ意トシテ、文通ノ名宛ノ脇附ニ記シ、敬語トス。 名臣言行錄、外集、橫渠先生(張載)、昔在ㇾ京、坐ニ虎皮ニ說ㇾ易、聽從甚衆」

こ-ひ (名) 【古碑】 古キ石碑。 李群玉詩 野廟向ㇾ江春寂寂、古碑無ㇾ字草芊芊」

こび (名) 【媚】 コブルコト。ヘツラヒ。 名義抄「媚、嬌、コビ、コブル」「媚ヲ呈ス」「媚ヲ賣ル」

こ-び (名) 【狐媚】 〔狐ノ、人ヲたぶらかすガ如クスル意〕(一)コビ、ヘツラヒテ、タブラカスコト。 晉書、石勒傳「不ㇾ能ㇾ如ㇾ曹孟德、司馬仲達、欺ニ他孤兒寡婦ニ狐媚以取ㇾ天下ㇾ也」(二)狐ノ妖怪。 續本朝文粹、十一、狐媚記「康和三年、洛陽、大有ニ狐媚之妖ニ其異非ㇾ一、初於ニ朱雀門前ニ儲ニ羞饌饗ニ以ニ馬通ニ爲ㇾ飯、以ニ牛骨ニ爲ㇾ菜、云云、世謂ニ之狐大饗ニ」

ご-び (名) 【五美】 〔論語、堯曰篇「子張曰、何謂ニ五美ニ子曰、君子恵不ㇾ費、勞而不ㇾ怨、欲而不ㇾ貪、泰而不ㇾ驕、威而不ㇾ猛」〕 五ツノ、ウルハシキコト。 室町千疊敷(享保、近松作)二「國家ノ政道、四惡ヲ退ケ、洛淸ニ條室町二殿作リ、五美ヲ尊ミ給ヒタリ」

ご-び (名) 【語尾】 語學ノ語、一語ノ尾、即チ、末。 例ヘバ、動詞、形容詞、助動詞、ナレバ、あゆむ(步)、きたる(來)、ながし(長)、みじかし(短)、なり(也)、しむ(令)、ナドノ、む、る、し、し、り、む、ノ如シ、ソノあゆ、きた、なが、みじか、な、し、ナドハ、語根ニシテ、あゆみ、きたれ、ながき、みじかく、なる、しめ、ナドト、其末ノ變ハルヲ、語尾ノ變化、又ハ、はたらき、活用、ト云フ。

ご-び (名) 【寤寐】 寤むると、寐るト、目覺メテアルト、眠リテアルト。(ねてもさめてもノ意) 詩經、周南、關雎篇「窈窕淑女、寤寐求ㇾ之、求ㇾ之不ㇾ得、寤寐思服」(思懷ノ義) 盛衰記、三、一院女院嚴島御幸事「造次所ㇾ弄、天祚之無ㇾ窮也、寤寐所ㇾ思、帝業之繁昌也」「君恩、寤寐ニモ忘レズ」

こひ-あか・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 【戀明】 戀ヒツツ、夜ヲアカス、終夜、戀ヒ思フ。終日ナルヲ、戀ひ暮らすト云フ。 新千載集、十二、戀、二「浪ノ寄ル、岩根ニ立テル、磯馴松、マダねモいらデ、戀ひあかしツルニ根入るニ、寐入るヲカク」 萬葉集、十三ノ長歌、若草ノ(君ノ枕詞)、思ヒツキニシ、君ガ目ニ(容儀ヲ)、戀ヒ八將、明、長キ此夜ヲ」 同、十一「霞立ツ、春ノ長キ日、戀暮らし、夜ノ深ケユキテ、妹ニアヘルカモ」 同巻七「朝戶出ノ、君ガ姿ヲ、ヨクモ見ズテ、長キ春日ヲ、戀八九良三」

こひ-あし (名) 【瘇足】 おめあしヲ見ヨ。

ご-びう (名) 【誤謬】 アヤマチ。マチガヒ。 謬誤、吳志、某傳「慮ㇾ有ニ謬誤ニ數數省讀」

こひ-か (名) 【戀歌】 〔和歌ナドニ傚ヒテ、戀歌ノ湯桶讀〕 コヒノウタ。戀ノ意ヲ詠ミタル和歌。

こひ-か (名) 【虎皮下】 虎皮ノ條ヲ見ヨ、

こひ-かぜ (名) 【戀風】 戀ノ思ヒノ、身ニシミカカルヲ、風ニ吹カルルニ寄セテ云フ語 狂言記、金岡「こひかぜガ、來テハ、袂ニ、カイモトレ」 長町女腹切(元祿、近松作)道行「絹ノ目ニサヘ、戀風ガ溜マル」

こひ-かは (名) 【戀河】 戀ノ深キ心ヲ、河ノ深キニ譬ヘテ云フ語、 夫木抄、廿二、戀河ニ、沈ムニツケテ、思フカナ、我ガ身モ石ニ、ナルニ

ヤアルラン」

こ-びき (名) [木挽] 大木ヲ伐リテ、大鋸ニテ挽割ルヲ業トスル工人。鋸匠。

こひ-ぐさ (名) [戀草] 〔戀種ニテ、戀ノ種ナリ（思種、笑種）ソレヲ、草ニシテ云フナリ〕 戀ノ種ヲ、草ニ寄セテ云フ語。萬葉集、四「戀草ヲ、力車ニ、七車、積ミテ戀フラク、我ガ心カラ」千載集、十二、戀、二「世ト共ニ、ツレナキ人ヲ、戀草ノ、露コボレマス、秋ノ夕暮」

こひ-ぐち (名) [鯉口] 〔形、楕圓ニシテ、鯉ノ、口ヲ開キタルガ如クナレバ云フ〕 (一)鞘口ノ(一)ノ異名。桂川地藏記（弘治）「刀ノ[illegible]、云云、鯉口」 鯉口なく（一ろ）げる、鯉口ヲ切ルト云フハ、鍔ニ合ヘルトコロヲ開クナリ。(二)下女ナドノ着ル、筒袖ノ服。

こひ-くら・す (動) [戀暮] こひあかす（戀明）ノ條ヲ見ヨ。

こ-ひげ (名) [小髭] 古名、タツノヒゲ。草ノ名、藺ノ一種、ほそゐノ類ニテ、瓢ナシ。水田中ニ植ウ、葉ノ色、白ク緑ニシテ、固ク、莖、細ソクシテ、短シ、長サ二三尺、備後ニテ、植ヱ作リ、疊表ヲ織リ出ス、備後表ト云フ、莖、細ツキガ故ニ、密ニシテ、最上品ナリトス。石龍芻

こひ-こが・る (動) [戀焦] こがる（焦）ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こひ-こく (名) [鯉濃] こくしやう（濃汁）ノ條ヲ見ヨ。

こひ-こひて (副詞句) [戀戀而] 戀ヒ、又、戀ヒテ。ヒタスラ、戀ヒテ。萬葉集、十二八「戀戀テ、後モ逢ハムト、ナクサモル、心シナクバ、生キテアラメヤモ」

こひ-ごろも (名) [戀衣] 〔旅衣ノ類〕 戀スル人ノ、着テアル衣。萬葉集、十二廿七「戀衣、著楢ノ山ニ、鳴ク鳥ノ（序）、間ナク時ナク、吾ガ戀フラクハ」同、十一[illegible]「妹待ツト、山ノ[illegible]ニ、立チヌレテ、[illegible]ニケラシ、我ガ戀衣」

こ-ひざ (名) [小膝] 〔小ハ、接頭語、小肘、小額ナド、同趣〕 膝ト云フニ同ジ。平治物語、二、待賢門軍事「惡源太ノ乘リタマヘル馬、云云、右手ノ方ヘ、ケシ飛ビテ、小膝ヲ折リテ、ドウト伏ス」「小膝ヲ打ッテ賞賛ス」「小膝ヲ進メテ語ル」

こひ-ざめ (名) [戀覺] 〔見ざめ、聞きざめナドト、同趣〕 戀フル心ノ、覺ムルコト。隆信集、下、雜、一「心トキメキセラレテ、アケテ見ルニ、サセルコトナキ文ニテアリシカバ、戀ざめニオボエテ」中務内侍日記「少シ見ミレバ、こひざめニコソ、ナカリケレ、昔ニ聞キ來シ、玉ノ井ノ水」二條大皇太后宮大貳集「涙サヘ、タギリテ落ツル、夏ノ夜ノ、戀コソさむる、方ナカリケレ」

こひ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [戀] 〔戀ヲ活用セシム、忌じ、同趣、古ク、こほしトモ云ヒキ、音通ナルベシ〕 (一)愛シ、慕ハシ、こほし。萬葉集、十七廿「タマクシゲ、二上山ニ、鳴ク鳥ノ、聲ノ孤悲思吉、時ハ來ニケリ」名義抄「戀、コヒシ」 (二)戀ヒ慕フ心、ヒタスラナリ。戀慕ノ情、切ナリ。萬葉集、十七廿五「今ノゴト、古非之久君ガ、思エバ、イカニカモセム、スル便ノナサ」

こひしけく (副) [戀] 〔戀しくノ一轉、寒く、さむけく。悲しく、かなしけく。うれしく、うれしけく〕 戀しくト云フニ同ジ。萬葉集、十七二十長歌「妹モ吾レモ、心ハ同ジ、云云、古非之家口、千重ニ積リテ、云云」

こひしけば (副詞句) 〔戀しからばノ轉〕

戀シクアラバ 萬葉集、十四廿「古非思家婆、來マセ吾ガ夫子、垣ツ柳、末摘ミカラシ、吾レ立チ待タム」

こひ-し・ぬ・ヌル・ヌレ・ナ・ニ・ネ (自動、奈變) [戀死] 戀ヒセマリテ、死ヌ。焦レ死ス。萬葉集、十一廿六「戀死なバ、戀ヒモ死ねトヤ、我妹子ガ、吾家ノ門ヲ、過ギテ行クラム」同、十五三十四「他國ハ、住ミ惡シトゾ云フ、速ケク、早歸リマセ、古非之奈ヌ内ニ」（夫、配所ニアリ、妻、京ニテ悲傷スル詠）古今集、十一、戀、一「戀ひ死ねト、スルワザナラシ、ヌバタマノ、夜ハスガラニ、夢ニ見エツツ」

こひしらに (副詞句) [戀] 〔らハ、意味ナク添フル辭、其條ヲ見ヨ〕 戀しきニト云フニ同ジ。萬代集、十二、戀、四「[illegible]、ササデ幾夜ニ、ナリヌラム、君こひしらに、月ヲ眺メテ」同卷「玉簾ノ、小簾ノ隙洩ル、秋風ハ、妹こひしらに、身ニゾシミケル」

こ-ひじり (名) [小聖] ナミナミノ僧。凡僧。謠曲、葵上「葵ノ上ノ御モノノケ、イヨイヨ、以テノ外ニ御座候ホドニ、横川ノこひじりヲ請ジテ來タリ候ヘ」

こひ-すてふ (連體句) 〔何ノ、ちふノ語原ヲ見ヨ〕 戀ヲ爲ト云フ。拾遺集、十一、戀、一「戀すてふ、我ガ名ハマダキ、立チニケリ、人知レズコソ、思ヒソメシカ」金葉集、二、夏「戀すてふ、無キ名ヤ立タム、郭公、待ツニ寐ヌ夜ノ、數シ積レバ」

こひ-ずね (名) [腓腸] おめあしノ條ヲ見ヨ。

こひ-た・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [戀痛] 「戀ヒ甚ダ」ノ約〕 甚ダ、戀ヒ慕フ。イタク、戀フ。萬葉集、二十六「丹生ノ河、瀬ヲ渡ラズテ、ユクユクト、戀痛キ吾ガ弟、イデ通ヒ來ネ」

こひ-だち (名) [鯉性] 緋鯉ノ條ヲ見ヨ。

こ-びたひ (名) [小額] 〔小ハ、接頭語、小

膝ナド、同趣、次條ヲ併セ見ヨ〕 額ト云フニ同ジ。狂言記、那須與一、「[illegible]、羽官、餘リノウレシサニ、小額、ハッタト打テ、イトホシノ與一ヤ、ヨウ射サセタ」

こ-びたひ (名) [小額] 〔大額ニ對ス〕 女ノ髮際ノ額附ノ名、角前髮ノ體ノモノナルベシ。女重寶記、一、元祿「一、女ノ額附、額ノ作リヤウ、大びたひ、小びたひ、丸びたひ、云云、際墨ハ、成ルホド、薄薄ト、云云、小額ヨリ上ニテ、引捨テ消スベシ」物類稱呼、一、人倫、角前髮「上總ニテ、こびたひト云フ」

こびたひ-うま (名) [小額馬] 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕 ひたひぢろ、つきびたひニ同ジ。字類抄「騘尾馬、コビタヒムマ、白顛」

こびたる (連體) 〔松屋筆記、九十一、十、こびたるもの「才びたる者ヲ、約メテ云ヘルナリ、才アルモノヲ、かどある者ト云ヘリ」こびハ、上二段活用ノ動詞ナレド、連體形ノ外ハ、見當ラズ〕 才アル。才智スグレタル。カシコキ。十訓抄、上、第一、四十四條「史大夫朝親（五位ノ史官）ト云フ者アリケリ、學生（學者）ナリケレバ、ココカシコニ、文ノ師ニテ、アリキケリ、云云、世ノ常ナラズ、さいこびたる者ナリケリ」（板本、此ノ如シ、可笑びたるナリ、ト云フ說モアレド、片假名、平假名ノ雜リガキハ、アラジ）武道傳來記（延寶）七、岐阜城攻「西尾、又兵衞ハ、こびたる者ニテ候トテ、扇ニテ被レ招候ヘバ」東海道名所記（萬治）三、遠江、今切ノ渡舟ノ船頭ノ、委シキ故事ヲ說キタルヲ聞キテ「怪シキ船頭カナ、世ニハ、賢人アリテ、名ヲ隱シ、德ヲヒソムル事、ナキニアラズ、云云、こびた船頭カナ」

こ-ひぢ (名) [泥] 〔濘泥ノ義カト云フ〕 泥、ひぢりこノ條ヲ見ヨ。ヒヂリコ。ミドロ。今、どろト云フ。倭名抄、一、塵土類「泥、古比千」 源、九、葵廿「袖濡ルル、こひぢトカツハ、知リナガラ、下リタツ田子ノ、ミヅカラゾ憂キ」

(戀路ニカケタリ) 六帖、三「古川ノ、底ノこひぢニ、アリト聞ク、鶴ノこゑトモ、知ラセテシガナ」(戀路ニカケ、泥ヲ、墮ニカケタリ)

こ-ひぢ (名) 小肘 (小ハ、接頭語、小膝、小額、同趣) 肘ト云フニ同ジ。盛衰記、三十七、平家侍合戰事「眞谷小次郎直家、平家ノ侍共、散散ニ射ケル矢ニ、小肱ヲ射サセテ、引退ク」

〜**こひ-ぢ** (名) 戀路 コヒノミチ。後撰集、九、戀、一「今ゾ知ル、思カヌ別レノ、曉ハ、君ヲこひぢニ、濡ルルモノトハ」(泥ニ、カケタリ)「戀路ノ闇」

〜**こひ-ぢから** (名) 戀力 (力ハ、功勞ノ意) 戀シク思フ苦勞。萬葉集、十六、四「此來ノ、吾ガ戀力、記シ集メ、功ニ申サバ、五位ノ冠」(功勞トシテ、官ニ申立テバ、五位ヲ賜ハラム)

こひぢ-の-やみ (名) 戀路闇 戀路ニ迷フコト。戀路ニハ、人モ、愚カニナルコト。曾根崎心中(元祿、近松作)「初ハ白無垢、死出立、戀路の闇ヲ黑小袖、上ニ羽織、サシ足シ」

こび-ちや (名) 媚茶 (こびハ、濃帶ノ約カ、鄙ビ、昆布ビ) 染色ノ名、茶色ノ、濃クシテ、黑ミアルモノ。コイチヤ。

こ-ひつ (名) 古筆 (一)フルフデ。(二)古人ノ筆跡、書、畫、共ニ云フ。(三)古筆見ノ條ヲ見ヨ。

〜**こ-びつ** (名) 小櫃 櫃ノ、小サキモノ、座右ノ調度ナド、容ル。大安寺資財帳「小櫃」倭名抄、十六、木器類「長櫃、韓櫃、折櫃、小櫃」

ご-ひつ (名) 五筆 筆ヲ、口ニ銜ヘ、兩手ニ持チ、兩足ニ挾ミテ、一同ニ、文字ヲ書クコト。元亨釋書、一、釋空海「海、在唐則桂谷山寺、以、指頭、字、宮殿壁間、至闕處、帝品、字中、曰、比工帝、號、五筆一時、和漢三才圖會、七十六、紀伊、高野山金剛峯寺、弘法大師、在唐中(順宗皇帝)、宮中壁間、有二王義之真跡、而稍退暮、乃詔ニ空海ニ謂、補之、插筆於ニ口、及四支、一時下、壁面字成、帝感無所失、號賜、五筆和尚」著聞集、七、能書「弘法大師ハ、筆ヲ、口ニクハヘ、左右ノ手ニ持チ、左右ノ足ニハサミテ、一同ニ、眞、草ノ字ヲ書カレケリ、サテ、五筆和尚トモ申スナリ」吾妻鏡、十六、正治二年十二月三日、太宰府源性「無雙算術者也、云云、又、向高野大師跡、圖五筆之圖」桂林漫錄(寛政)「書法正傳ニ、韓方明ガ、執筆ノ五法ヲ敍ス、云云、空海、書ヲ、韓方明ニ學ベリト云傳フレバ、此執筆ノ五法ニ通曉シタル故、五筆和尚ノ名ヲ得タルナルベシ」甌北瑣語(寛政)五、五筆「唐類函ニ、幽明錄ヲ引キテ日、河東賈弼之、兩足手、口、各捉ニ一筆、俱書、辭意皆美トアリ、空海ノ五筆ト、同日ノ談ナリ」

こひつ-か (名) 古筆家 古筆見ノ條ヲ見ヨ。

こひ-づか (名) 戀塚 (一)戀ニ因リテ死シタル人ヲ、葬レル塚。山城國、紀伊郡、上鳥羽村ノ淨禪寺中ニアル戀塚ハ、渡邊渡ガ妻、袈裟ノ墓ナリト傳フ、コレハ、遠藤盛遠(文覺)ニ横戀慕セラレ、貞節ヲ守リテ殺サレタルナレバ、夫ヲ戀フル意ノ戀塚ナリ。謠曲、卒都婆小町「鳥羽ノ戀塚、秋ノ山、月ノカツラノ川瀨舟、漕行ク人ハ、誰レヤラム」(二)武藏國、荏原郡、目黑町ノ、不動堂ノ傍ニアル戀塚ナド云フモノハ、唯、男女相思ノ戀ニ因ルモノナリ。

〜**こび-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ** (自動、四) 媚附 媚ビテ、屬ク。オモネリ、シタガフ。阿附 古事記、上、卅「天菩比神者、媚附大國主神、至于三年、不復奏」古事記傳「今、俗言ニ、物ノ垢ナドノ染ミツキテ、去リ難キヲ、こびつくト云フモ、是レニヤ」

⁂**こびっ-ちょ** (名) 小女 「おびれる、ふとっちょノ語原、及、尼ノ條ノ(四)ヲ見ヨ」小女ヲ呼ブ卑語、罵リ云フ。(東京)

〜**こひ-づま** (名) 戀妻 戀ヒ思フ女。オモヒヅマ。萬葉集、十一、四「心ニハ、千重ニ思ヘド、人ニ言ハヌ、吾ガ戀妻ヲ、見ル由モガモ」

こひつ-み (名) 古筆見 古筆ノ眞僞ヲ、鑑定スルコト。古筆家。德川幕府ニ、古筆見ノ職アリ、古筆ヲ氏トスル家アリ、本氏ハ、平澤ナリ、初代、平澤了佐、豐臣秀吉ニ仕ヘテ、琴山ト云フ印文アル印ヲ賜ハレリト云フ、(百家說林、難波江、五、下)其家ニテ、極札ニ、此印ヲ押セリ。(極札ノ條ヲ見ヨ) 雍州府志、四、大德寺「有三洛人、平澤了佐者、修三大德寺之圖書、云云、天性得、辨三別古人筆跡之眞僞、也、世稱古筆見、又、謂三目利」

こ-びと (名) 小人 背長ノ、低キ人。小男。諺「小人ニ毒ナシ」(「大男、總身ニ智慧ガマハリカネ」ノ反)

こ-びと (名) 小人 (室町幕府ノ小舍人童ノ遺稱ナリ、其條ノ(二)ヲ見ヨ、小者ト云フモ、同ジ) 幕府ニテ、雜役ニ供スル下部ノ稱。又、小者。其長ヲ、小人頭ト云フ。大小名ノ家ニテモ、稱セリ。伊勢貞助雜記「御小者ヲ、人數ニ因リ、御小人トモ申ス哉、御小人トモ可申、云云、御下部ヲ、御下男ト申スモ、同前」貞丈雜記、四、役名「小者ト云フハ、中間ノ下ナリ、公方樣御成ノ時、云云、御草履ヲ持チ、又、御沓ヲモ進上申ス也」駿府政事錄、八、慶長廿年十二月九日「小人頭、稻垣權左衞門」吏徵、別錄、下、御目見以下「御小人、三組、合、五百八人」

こびと-がしら (名) 小人頭 前條ヲ見ヨ。

コビト-がは (名) 麞皮 (こびとハ、臺灣島ノ語ナラム、移リテハ、他國產ノ、同樣ノ皮ニモ云ヘルナルベシ、廣韻「麞、本作麕」說文「麕、麞屬」) 舶來ノ、鹿類ノ韋皮。柔カニシテ、革足袋ナドニ用キラレタリ。我衣(天和)「正德ノ比マデ、革足袋、兩樣アリ、小人皮、(薄シ)唐皮ナリ、肌、細カニシテ、革モ、ヤハラカナリ、云云、さ、む革足袋、渡革ナリ、小人ヨリ、厚ク、ヤハラカナリ、小人がは、踏足ニテハ、ツメタク覺ユ、云云、古クナルホド、光澤出デテ、垂リタル如シ、云云、享保ノ比ヨリ、右ノ渡革足袋、一切ナシ」合類節用集(元祿)五、氣形門「麞皮、大冤國土產」華夷通商考(寶永)三、大冤、或、臺灣、土產 鹿皮 註「山馬、麞皮、色色」同卷、東埔寨、土產「鹿皮」註「麞皮」

こびと-じま (名) 小人島 (大人國ト云フ、アリ) 身體ノ、甚ダ短小ナル人ノ住メリト云フ島ノ名、往時、遠キ海東ニアリト想像シテ語レリ。小人國 山海經「有小人國、名靖人」郭註「或作竫」三才圖會「東方有小人國、名曰竫、長九寸、海鶴遇而吞之、故出則群行」正章千句(慶安)五「鶴ノ巢ハ、ヨモ大カタデ、オロサレジ」小人ドモノ、袖ノアツマリ」

こびと-めつけ (名) 小人目付 德川幕府ニテ、徒目付ノ下ニ屬スル役。小人ノ內ヨリ選拔セラル。(大小名ノ家ニモ、稱セリ)諸變事ノ立合、牢屋敷ノ見廻リ、目付ノ遠國出張、等ニ隨從ス。長崎志、續編、一、上使御目付到着、天明、六、丙午年「御目付末吉善右衞門、御徒目付山本貞右衞門、御小人目付堀田藤四郎、云云」

こひ-なか (名) 戀中 男女、相戀フルナカラヒ。相思。井筒業平河內通(享保、近松作)四「君ト我レトハ戀中ナレド、增クヤ、井筒ガネサシテ」

〜**こひねがはくは** (副詞句) 冀庶幾 (いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ」こひねがはくは、こひねがふさと、こひねがはくはやうト云フ意ノ名詞ナリ、ソレニ、はノ辭ヲ添ヘタル語、(おそらくは、同ジ)ソレガ、ヤガテ、なにとぞト願フ意ノ副詞トナル、持統紀、五年六月「詔曰、云云、京、及、畿內諸寺、梵衆、亦當五日誦經、庶有補焉」天治字鏡、十二七「庶幾、尙、己比禰加波久波」名義抄、六、言部「冀、コヒネガハクハ」同、食部「尙冀、コ

ヒネガハクハ、ウケタマヘ」

おひねが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔冀希〕〔請ひ願ふノ義〕只管、願フ。切ニ望ム。[illegible]

おひのおもに（名）〔戀重荷〕戀ノ思ヒニ堪ヘカヌルヲ、重荷ニ寄セテ云フ語。謡曲、戀重荷 名モコトワリヤ、戀の重荷、實ニ持チ[illegible]

ガフ」同、又謡 希、コヒネガフ」

おひのけぶり（名）〔[illegible]〕戀ヒ焦ルル[illegible]「[illegible]火ニ、立チソフ戀の、けぶりコソ、世ニハ絶エセヌ、焔ナリケレ」永久四年百首、忍戀「人知レズ、晴レクルカタモ、ナキモノハ、忍ブル戀の、烟ナリケリ」

おひのせき（名）〔戀關〕戀フル中ヲ、妨グル[illegible]ハスレド、許サヌ戀の關ノ戸ヤ」

おひのせきもり（名）〔戀關守〕戀ノ關ヲ守ルモノ。戀ヲ妨グルモノ。狂言記、八句連歌「關守モ、セメテワカレハ、ノベテ鳴ケ、人目モラスナ、おひの關守」

おひのたきのぼり（名）〔鯉瀧登〕登龍門ノ義ヲ見ヨ。

おひのつま（名）〔戀妻〕〔つまハ、配偶ノ義〕戀ニ關フモノ。六帖、一「ツレヅレト、袖ノミ濡ヂテ、春ノ日ノ、霞ノ八重の、つまニザリケル」(ニゾアリケル)拾玉、一、下「[illegible]タ暮ノ、露吹キ[illegible]

おひのなぐさ（名）〔戀[illegible]〕[illegible]なぐさめノ語根（國栖、くにす）」戀フ

ル心ノ、ナグサメ。戀情ノ慰安[illegible]

おひのはうちゃう（名）〔鯉庖丁〕貴人ノ膳上ニ、庖丁ヲ以テ、鯉ヲ割キテ、饗ニ供スル技。法式アリ。[illegible]仕ウマツリケリ、群臣、興ニ入リテ、目ヲスマシケル[illegible]

おひのふきながし（名）〔鯉吹流〕鯉ノ形ヲ、厚紙、又ハ、布ニテ、吹流ニ作リタルモノ、口ヲ廣クシ、腹ヲ空ニシ、口ニ紐ヲツケ、長キ竿ノ頭ニ結ビツケテ、立ツ、ヨク、風ニ飄ル、小ナルハ、長サ四五尺、大ナルハ、一丈餘ニ作ルモアリ、五月幟ニ作フモノニテ、兒童ノ立身、出世ヲ願フ意ヲ表スルモノナリ。（登龍門ノ條ヲ見ヨ）[illegible]五月幟ノ吹流シニスト云フ、小サナル紙製ノ鯉ハ、今モ賣リアリ[illegible]五月ノ鯉の、ふきながし、口[illegible]

おひのみち（名）〔戀道〕おひぢ（戀路）[illegible]ハナシ」

ニ同ジ。心中天網島（享保、近松作）上「誰ガ文モ見ヌ戀の道、別レテコソハ歸リケレ」

おひの・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）〔請願〕〔のむ（祈）ノ條ヲ見ヨ〕請ヒ、祈ル。コヒネガフ。請願ス。萬葉集、十七 四十長歌「チハヤブル、[illegible]ニ、[illegible]、已ガ[illegible]テ、我ガ待ツ時ニ」

おひのやつこ（名）〔戀奴〕〔やつこハ「アノやつメ」ナド罵リ呼ブ意ト、同ジ〕戀ニ使役セラルル意ト說クハ、[illegible]ナリ」戀情ヲ擬人シテ、ソレヲ、賤シメ罵リ呼ブ語。萬葉集、十二 八「丈夫ノ、鋭利キ心モ、今ハ無シ、戀之奴ニ、我レハ死ヌベシ」（責メラレテ死ヌ）十六 十[illegible]ニアリシ、[illegible]シ、[illegible]ノ、攫ミカカリテ[illegible]シタルガ、[illegible]フナリ、同、四 五十「戀ハ今ハ、アラジト吾レハ、思ヘルヲ、何處ノ戀ゾ、攫ミカカレル」

おひのやま（名）〔戀山〕戀ノ思ヒノ積レルヲ、山ニ寄セテ云フ語。戀ノ道ナド云フニ同ジ。源、廿四、胡蝶 廿「右大将ノ、イトマメヤカニ、事事シキ狀シタル人ノ、おひの山ニハ孔子ノ仆[illegible]實法ナル人モ、[illegible]ノ道ニハ[illegible]アヤマル[illegible]ノたふれノ[illegible]上 四「ナド、アリガタキおひの山ニシモ、惑ヒ侍ラム」六帖、四「イカバカリ、おひテフ山ノ、深ケレバ、入リト入リヌル、人惑フラム」

おひのやまひ（名）〔戀病〕戀ヒ慕フ心ノ切ナルヨリシテ、起レル病。コヒワヅラヒ。コヒヤミ。相思病 花風病 [illegible]萬葉集、八、戀、下「カクバカリ、戀のやまひハ、重ケレド、目ニカケサケテ、逢ハヌ君カナ」續政集、下、戀「問ヘカシナ、憂キ世ノ中ニ、アリアリテ、心ト作ル、戀のやまひヲ」七十一番職人盡歌合（文安）廿四番、[illegible]シ物[illegible]、思ヒワビ、サテモイカガハ、セムジモノ[illegible]ジモノ）、戀のやまひノ、藥ナラネバ」倭訓栞、おひわづらひ、名醫類聚ニ、花風ト云ヘリ」

おひびと（名）〔戀人〕戀ヒ思フ人。オモヒビト。ケサウビト。情人 [illegible]（寶永、近松作）[illegible]

ル、身ヨリノ御スサミ」

おひひな（名）〔小雛〕小サキ雛人形。[illegible]二河物語（[illegible]）[illegible]下、おひひなノヤウニ出デ立チ而[illegible]ト云フ事ハ」

おひまく（副）〔將戀〕〔いはく（曰）ノ語原ヲ見ヨ〕戀ヒムニハ。戀ヒムヤウニ。萬葉集、七 [illegible]下、[illegible]善ケクモ、吾レハ無シ、（善クハナシ）京ニ行キテ、戀暮思ヘバ」同、十五 廿「君ヲ思ヒ、吾ガ古非萬久ハ、アラタマノ、立ツ月毎ニ、[illegible]モアラジ」

おひみづ（名）〔戀水〕戀ヒテ泣ク涙ノ異名。コヒノナミダ。[illegible]、おひみづ、戀水ノ[illegible]ト云ヘリ」

おびん（名）〔小鬢〕〔小ハ、接頭語、小額、小膝ノ類〕鬢ト云フニ同ジ。[illegible]九、[illegible]五番ニ、御所ノくろや五ト名乘リ、押寄セ、十郎ニ追 タテフレ、おびんナドモ、おびん斬ラレテ、引退ク」[illegible]シヲレタマヘルサマ」諸國盆踊唱歌（寛文）越前「相性見ヨヨリ、かいまう見ヤレ、おびん撫デウヨリ、脇撫デウ」

おービン（名）〔小瓶〕硝子ノ瓶ノ、小サキモノ。（大瓶ニ對ス）

ごびん（名）〔後便〕〔前便ニ對ス〕ノチノタヨリ。後便。俚言集覽、後便 俗語ナリ、以後ノ後便ハ、[illegible]」

おひむこ（名）〔戀聟〕戀人ヲ、聟養子ニ迎ヘタルモノ。[illegible]上「市之丞闇ナレテ、[illegible]、我ガ[illegible]、押出シテ好イ女房トイフニハ、限ノナイ事」

おひめ（名）〔乞目〕出デムヲ、コヒネガ

フ齋日ニ」聽書世話著(享保)二、雙六「雙六ノ、賽ニナリテモ、疊ノ角ノ、又(股)逢ハバヤノ、おひ目ナルラム」(二字ニカクル)　伊勢物語二(寛永)一、おひめ打ツ、カタヤイヅコゾ、サイ投ゲテ、ワレニ敎ヘヨ、ユキテ打タナン」

おひゃう (名) 小兵 〔兵ハ、兵器ノ義、弓矢ハ、調度ノ名ヲ專ラニセリ〕 (一)弓勢ノ、弱キコト。(精兵ニ對ス) 平家物語、十一、那須與一事「與一宗高コソ、小兵ニテハ候ヘドモ、手ハ利キテ候ト申ス、云云、小兵ト云フ條、十二束三伏、弓ハ强シ、云云、扇ノ要際、一寸ハガリ置キテ、ヒイ、フッドゾ射切ッタル」 (二)轉ジテ、身體ノ、短小ナルコト。コヅクリ。コガラ。(大兵ニ對ス) 短軀

こひゃう (名) 古兵 フルツハモノ。

こひゃう (名) 孤平 〔平字ノ、一ツナル意〕詩作ノ語、五言、又ハ、七言、ノ句ノ内ニ、仄字ト仄字トノ間ニ、平字、一字アルコト、聲調惡シトテ、禁ズ。但シ、轉句ノ下ノ三字ノ處ニテハ、妨ゲズトス。

コびゃう (名) 虎病 「ころほおむヲ、虎眼トスル類」虎列刺病ノ略、

ごひゃく-アラカン (名) 五百阿羅漢 五百羅漢ノ條ヲ見ヨ。

ごひゃく-しゃう (名) 五百生 「五百ハ、度數ノ多キヲ云フナリ」佛語ニ、人、五百回、生レカハルコト。幾度モ、六道ノ迷界ニ、生ヲ變フルコト。 平家物語、十、維盛入水事「一夜ノ此ヲナラブルモ、五百生ノ宿緣トウケタマハレバ、云云」 徒然草、百七十五段「酒ヲ取リテ、人ニ飮マセタル人、五百生ガ間、手ナキ者ニ生マルルトコソ、佛ハ說キ給フナレ」 梵網經、下 若佛子、故飮_レ酒、而生_二酒過失_一無量、若自身手過_二酒器_一與_二人飮_一酒者、五百世無_レ手、何況自飮」

ごひゃく-はちじふ (名) 五百八十 「下ノ出典ヲ見ヨ」行末長キヲ祝フニ云フ語。 古代記、下、天日隅宮、今當_レ供造_一、即以_二千尋栲繩_一、結爲_二百八十紐_一 ト記兼俱ノ神代記抄(寫本、黑川眞賴藏)地「百八十紐トハ、百ハ、數ノ極ナリ、八十ハ、神道ニ用ル數也、必ズ、百八十ニハアラズ、今、人ヲ祝シテ、五百八十年ト云フガ如シ、繩ヲ、多ク結ブヲ云フ、多ト云ハムタメナリ」 出雲國風土記、楯縫郡、天日栖宮「千尋栲繩持而、百結結、八十結結下而、云云」 古事記、上七十「日子穗穗手見命者、坐_二高千穗宮_一伍佰捌拾歲」 狂言記、謙讓「壽命長遠、行末繁昌ニ榮エウヤウニ、云云、吾御料ト、某トハ、五百八十年七廻デゴザル、一段トメデタイ」 同、子盜人「アブナイ目ニ逢ハセラレタ程ニ、御壽命長カラウ、イトホシノ若子樣ヤ、五百八十年七廻マデモ、生キ延ビサセラレウ」 烈公閑話「細川幽齋、千利休ニ問テ曰ク、貴老、五百八十年後、果テラレ候以後、天下ノ茶湯指南ハ、誰レニテアルベキ」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)八、若狹ノ武田殿、俗ニ、胡桃五百八十賜ル、俗ノ歌「下サルル、胡桃ノ數モ、君ガ代モ、メデタカリケリ、五百八十」 傾城反魂香(寶永、近松作)中「今日ハ五日目、五百八十ノ餅ヲ搗テ、里歸ト云フコト、緣邊ノ式法ナレドモ」(結婚後、三日目ニ、聟方、里方ヨリ、互ニ贈合フ行合ノ餅モ、其數ヲ、五百八十ト定メタリ、其條ヲ見ヨ)

ごひゃくはちじふ-ねん (名) 五百八十年 前條ヲ見ヨ。

ごひゃく-ラカン (名) 五百羅漢 「羅漢ハ、阿羅漢ノ上略、其條ヲ見ヨ」五百阿羅漢、釋迦ノ弟子ノ、五百人ノ羅漢。其像ヲ、木造、石造、ニシテ、諸所ニ安ンズ。俗ニハ、五百ノ中ニハ、我ガ親ノ顏ニ似タルモノアリナド云フ。 大藏經、紹映二「五百羅漢名號一卷アリ。 大藏法數、六十三「迦諾迦伐蹉尊者、此尊者、與_二五百阿羅漢_一、多分住_二在北方迦濕彌羅國_一 興起行經、序「崑崙山者、閻浮中心也、云云、如來將_二五百羅漢_一、常以_二月十五日_一、於_レ中說_レ戒」

燕堅稿(宿誓海)豐州、豐前)羅漢寺、舍利塔銘「延文五年春、釋昭覺、始入_二石室_一而居、云云、有_二宿老僧_一、頃_二昕山石_一、伏_二奇_一、手彫_二羅漢像五百軀_一、儀貌相好、崇拜蓉顯矣」 榮花物語、三十、鶴林、淨飯王、入滅度ノアシタ、悉達太子、白ガネノ棺ヲニナヒ、摩耶夫人、眞如ニカヘリ給ヒシタ、五百羅漢、紅ノ涙ヲ流シキ」

おひやみ (名) 戀病 おひのやまひニ同ジ。 壽門松(享保、近松作)上「オハモジ、戀病みニ煩ヒマス」

おびりつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 膠着 〔おびつくニ、りノ加ハリタルモノカ(けろけろ、けろり。ざぶざぶ、ざぶり) 或ハ、嚙りつくノ轉カ(かがむ、おおむ。)〕 粒、つぶ)」 コビック。固ク着ク。カブリック。 浮世床(文化、三馬)二編、下「丹ノ粕ハ、おびりつくシ」「飴ガ、着物ニおびりつく」子ガ、母ニおびりつく」

おびる (名) 小蒜 蒜ノ條ヲ見ヨ。メヒル。

おびる (動) 媚 媚ぶノ口語。

❖おびる・ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 〔小帶ぶノ約(都ぶ、鄙び)上二段活用ナルベキガ、田舍びるナドノ語調ニテ、口語ニ、上一段活用トシテ生レタル語〕 (一)小サク、細ル。伸ビズシテアリ。コビレル。 靜岡縣ニテ、小男ヲ、おびっちょト云フ、おびタ男ト云フ。(卑語ニ、小女ヲ、おびっちょト云フ、おび女ナリ、あま、ちょ、同ジ) 「ヒネおびる」 (二)コマシャクレル。ナマイキナリ。おびたるノ條ヲ見ヨ。 狂言記、腰セおびる」 禁野「我御料ハ、おびタ事ヲ云フガ、其ノ歌ハ、何ト言フ歌ヂャ」

おびるめし (名) 小晝飯 〔小晝ナル晝飯ノ意ナラム〕 晝飯ト、夕飯トノ間ニ食フ飯。小晝飯。(あひだぐひノ條ヲ見ヨ)

おび・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下一) 〔前前條ノ語ノ一轉、れるハ、おじる、おじれる。ねぢろ、ねぢる、ナドノ語調ヨリ移リタルナルベシ〕 成長セズシテアリ。コビル。生ヒコジレル。「蠶ガ、おびれタ」(出雲國ニテ、スラスラト成長セヌ小兒ヲ、おびれ子ト云フ)

おひわすれがひ (名) 戀忘貝 〔忘貝ノ條ヲ見ヨ〕 戀ノ思ヒツムヲ忘レムトスルヲ、忘貝ニ寄セテ云フ語。 萬葉集、七十八「手ニ取リシ、故ニ忘ルト、海人ガ云ヒシ、戀忘貝、言ニシアリケリ」(名バカリデア、タワイ) 同卷十一「住吉ニ、行キニシ路ニ、昨日見シ、戀忘貝、言ニシアリケリ」 拾遺集、十九、雜戀「吾ガ夫子ヲ、戀フルモ苦シ、暇アラバ、拾ヒテ行カム、戀忘貝」

おひわすれぐさ (名) 戀忘草 「萱草ノ忘草ナリ」 忘草ニ寄セテ云フコト、前條ノ意ニ同ジ。 萬葉集、十一、十「吾ガ宿ノ、軒ノ下草、生フレドモ、戀忘草、見レドイマダ生ヒズ」 古今集、廿、墨滅「路知ラバ、摘ミニモ行カム、住吉ノ、岸ニ生フテフ、戀忘草」

おひわた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 戀渡 戀ヒツツ、年月ヲワタル。 萬葉集、四、三十「朝霧ノ(如ク)、髣髴ニ逢ヒ見シ、人故ニ、(人ナルモノヲ)命死ヌベク、戀渡るカモ」 同卷三十「伊勢ノ海ノ、礒モ動ニ、寄スル浪(ノ如キ)、恐キ人ニ、戀渡るカモ」 古今集、十一、戀、一「逢フ事ハ、雲居ハルカニ、鳴雷ノ、音ニ聞キツツ、戀ひわたるカナ」

おひわづらひ (名) 戀煩 おひのやまひノ條ヲ見ヨ。

おひわづら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 戀煩 戀ニ惱ム。戀ヒ苦ム。

おひわ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二)

「戀侘」〔わぶ(侘)ノ條ヲ見ヨ〕 戀ヒ煩(ワヅラ)フコト。[illegible]「[illegible]ミ、[illegible]ケリ、マソ鏡、面影去ラズ、夢ニ見エコソ」

こひをしへどり（コイ・オシエ・ドリ） (名) 「戀教鳥」 〔「とつぎをしへどり」ノ語原ニ同ジ〕 鶺鴒(セキレイ)ノ異名。日本振袖始(享保、近松作)四「サテコソ、アノ鶺鴒ノ、[illegible]、たてた[illegible]、[illegible]トモ云フゾトヨ」

こふ（コウ） (名) 「鵠」 くぐひ(鵠)ノ條ヲ見ヨ。

こふ（コウ） (名) 「甲」 〔甲(カフ)ノ呉音ナリ、鎧(ヨロヒ)ノ甲(カフ)ト、通ズ〕 (一)龜、蟹ナドノ背ノ、膨(フク)ラミタル、堅キ殼(カラ)。カハラ。コフラ。龜の甲。[illegible] (二)手足ノ爪、膨ラミテ、堅シ。箏ノつめ。箏甲トモ云フ。[illegible] (三)[illegible] 鳥賊ノ背中ニアル、小舟ノ如キ骨(いかのこふノ條ヲ見ヨ) (四)樂器ノ胴ノ、膨ラミニアルトコロ。琵琶ニテハ、背ヲ云ヒ、箏ニテハ、面ヲ云ヒ、三味線ニテハ、[illegible] 胴ノ、膨ラミタルヲ云フ。[illegible]「[illegible]コウ」(琵琶ノ胴ナリ) 倭名抄「箏ノこうノ木」 (五)冠ノ磯ノ上ノ平面ノ、膨ラミタルトコロ。 (六)手ノ表ノ方ノ、膨ラメルトコロ。(手ノ甲、手ノ掌(タナウラ)ニ對ス) 手背。「手ノ甲」「足ノ甲」 足ノ表、膨ラメリ、アナヒラ(足裏(アナウラ))ニ對ス) 足背 脚面 [illegible]

こふ（コウ） (名) 「劫」 〔唐韻、劫、居怯切、漢音、けふ、呉音、こふ、業(ゲフ)、ごふ、說文「以力脅止曰劫」〕 圍碁ノ語、敵ヲ劫シテ、石ヲ下シ、敵、必ズコレニ應ゼザル能ハザルヤウニシテ、他處ヲ攻メ、又、守ルコト。[illegible] ソコハ、ちニコソアラメ、コノワタリノ劫ヲコソ、ナド云ヘド、云云」

こふ (名) 「孤負」「辜負」 〔集韻「孤、負也」孤(ソム)背〕 負ヲ、辜負トスルハ、非ナリト云フ」 背クコト。違フコト。[illegible]

こふ (名) 「胡粉」 〔こふんノ略(對面(タイメン)、たいめ、象眼、ざうがノ類)〕 胡粉ノ條ヲ見ヨ。

こふ（コウ） (名) 「國府」 〔國府(コクフ)ノ讀例(ヨミクセ)(樂府(ガクフ)、がふ、國忌、こき)〕下總國ノ鴻臺(コウノダイ)モ、國府臺(コフノダイ)ナリ、伊豆國ノ三島ノ傍ナル幸原(カウハラ)モ、國府原(コフハラ)ナリ」 クニノミヤケ。トホノミカド。ヒナノミヤコ。諸國ノ國衙(コクガ)ノ所在地ノ稱。府中。 倭名抄、五「山城國 國府 [illegible]」[illegible]「[illegible]ノ日、武生ノ己不ニ、我レアリト、[illegible]ニハ中シ[illegible]ベ、心合ヒノ[illegible]ノ道ノ口ニテ、[illegible]ナリ」 都の苞(觀應、宗久)「宮城野ノ木下露、云云、サテ、ソレヨリ、多賀ノこふニモナリヌ、[illegible]ノ國府ニテ、今、多賀城ノ遺址ト云フ、是レナリ」

コフ（コウ） (名) 「劫」 〔梵語、劫波(カルパ)(Kalpa. 長時、又、分別時節ト譯ス)ヲ下略シテ、字音ニ讀ム語、劫、呉音、こふ、又、ごふ〕 天竺ニテ、時ノ、極メテ長キヲ云フ語(極短ナル刹那(セツナ)ニ對ス) 世上ノ物ガ、年ヲ歷ル間程ニ云フ、又、ごふ こふのいし(劫石)ヲ併セ見ヨ。 俱舍論「時之極少名二刹那一、時之極長名レ劫」 李白集、註「劫、世也、儒、謂之世、道、謂之劫」[illegible]「[illegible]劫ヲ經テ、メグル浮木ニ、逢ヒニケルカナ」[illegible]「[illegible]山ノ、こふヲウツシテ、行ク水ニ、漕ギ來ル舟ハ、幾世經ヌラム」[illegible]「[illegible]川ノ、遠ナレバ、法ノ浮木ニ、逢ハヌナリケリ」(二首共ニ、劫ト、甲トヲ兼ネタリ)「未來永劫、萬劫末代」

こふ（コ・ウ） ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 「祈禱」 〔神ニ冥助ヲ請フ意ヨリ移ル〕 祈ル。ノム。 萬葉集、十三 廿三 長歌「天地ノ、神ヲゾ吾乞(ワガコフ)、イトモ便ナミ」[illegible] 同、十一 五十二「天地ノ、神ヲ許比ツツ、吾レ待タム、早來(ハヤキ)マセ君、待タバ苦シモ」 字鏡「禱[illegible]也、祈也、己不、又、伊乃留」

こふ（コ・ウ） ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 「乞」 (一)他ニ、物ヲ與ヘヨト、求ム。所望ス。欲求ス。 萬葉集、十八[illegible] 長歌[illegible]、乳汁(チ)布ガ如ク、天水、仰ギテゾ待ツ[illegible]」[illegible] 又ノ口、小君召シタレバ、[illegible]トテ、御文ヘ、見ルベキ人モナシ、ト聞コエヨ、ト宣ヘバ」 (二)事ヲ、何トゾト、賴ミノゾム。請。「安全ナラムコトヲ請ひ願フ」

こふ（コ・ウ） ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (他動、上二) 「戀」 〔乞ふニ通ズ、他ノ意中ヲ求ムル意〕 (一)慕(シタ)ヒ思フ。シノブ。思慕。 齊明紀、七年十月[illegible]天皇之喪、歸就于海、於是皇太子泊於一所、哀慕天皇、乃口號曰、君ガ目ノ、[illegible]シキカラニ、泊テテ居テ、斯クヤ戀ヒムモ、君ガ目ヲ欲リ」 萬葉集、二[illegible] 額田王御歌「古ヘニ、戀ラム鳥ハ、ホトトギス、蓋シヤ鳴キシ、吾ガ戀流ゴト」(御父天皇ヲ戀ヒタマフナリ) 古今集、十五、戀、五「又ノ年ノ春、梅ノ花盛リニ、月ノ面白カリケル夜、去年ヲこひテ、カノ西ノ對ニ行キテ」 (二)愛(メ)ヅ。愛(ウツクシ)ム。賞愛。 萬葉集、三 廿二「梓子ノ、其花ニモガ、朝ナサナ、手ニ取リ持チテ、不戀(コヒヌ)日無ケム」 同、十八[illegible]「梅ヲ[illegible]

[illegible]ひソ、アシビキノ、山偏就(カタツ)キテ、家居スル君」 (三)男女、相、慕ヒ思フ。戀慕。 萬葉集、十五 三十「吾妹子ニ、古布流ニアレバ、タマキハル、短キ命モ、惜シケクモナシ」 同、十一 廿「小墾田ノ、板田ノ橋ノ、壞レナバ、桁ヨリ行カム、莫戀ひソ吾妹」

こぶ (名) 「瘤」 〔拳(コブシ)ノ下略(格子(カウシ)、かう、と。足音(アシオト)、あおと)形、似タリ、此語、古クハ見エヌヤウナリ〕 (一)古言、フスベ。シヒネ。病ニ因リテ、皮膚ニ、肉ノ、圓ク堆(ウヅタカ)クナリ、塊(カタマリ)ヲナスモノ、大小、種種ナリ、痛マズ、痒カラズ、固定ス。 宇治拾遺、一、第三條「右ノ頰ニ、大ナルこぶアル翁アリケリ、云云、年比アリシこぶ、跡形ナク、拭ヒタルヤウニ、ツヤツヤ無カリケレバ、云云」 (二)頭ナドニ、打撲ニ因リテ、肉ノ、凸(ナカダカ)ニ脹レアガルモノ、時ヲ經テ、治ス。京都ニテ、デボ、デンボ。 (三)樹ノ幹枝ニ生ズル、瘤ノ如キモノ。 (四)俗ニ、子ヲ云フ、贅物、厄介物トスル意ナリ。連子(ツレコ)アル妻ヲ、こぶつきナド云フ。 (五)こぶやなぎノ略、其條ヲ見ヨ。

こぶ (名) 「鼓舞」 〔鼓ハ、動詞ニテ、鳴らすナリ、鼓すノ條ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)太鼓ヲ鳴ラシテ、舞ヲ舞ハシムルコト。 易經、繋辭、上傳「鼓之舞之、以盡神」 淮南子、本經訓「[illegible]而舞之」 (二)奮起セシムルコト。勵シムルコト。鼓吹。 揚子法言「鼓舞萬物者、其唯雷風乎」「士氣ヲ鼓舞ス」

こぶ (名) 「戸部」 こほう(戸部)ヲ見ヨ。

コブ (名) 「昆布」 こんぶ(昆布)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible](寶永、近松作)四「花ニ鶯、紅葉ニ鹿、こぶニ山椒」

こぶ（コ・ブ） ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 「媚」 〔戀(コヒ)ぶるノ約(言ひさかふ、いさかふ。哀(アハレ)ぶ、鄙(ヒナ)ぶ)〕 戀(コ)フル風(フリ)スル意、倭訓栞、こび

「媚ヲ諂メリ、戀ぶり也」」他ニ諂ヒテ、惚レシメムトフルマフ。阿リテ、己レヲ喜バシメムトス。機嫌取ス。追從ス。|阿諛| 靈異記、上、第二「遂其女媚、壯、國ニ師之ニ」詞林、媚、コビ一字、嬖、媚也、古夫」論語、八佾篇「與其媚於奧寧媚於竈」疏註、自、結、於、君、不ㇾ如、阿附權臣也」

ごふ（名）|業|〔業ノ呉音〕（一）佛經ノ語。人ノ爲ル業。殺生、偸盜、邪淫、妄語、貪欲、瞋恚、邪見、ナドノ如キヲ、惡業ト云ヒ、是レ等ヲ爲ザルヲ、善業ト云フ。此ノ業ガ、未來ニ、善惡ノ果ヲ感ズベキ因種トナルニ就キテハ、業因ト云フ。業因ガ、善惡ノ果ヲ感ズベクスルヲ、業力ト云ヒ、其感ジタル果ヲ、業果、又、業報、又、果報ト云フ。業果ハ、多ク、惡業ノ果報ニ云ヒ、其苦シキ果報ヲ受クルヲ、業苦ト云フ。いんえん(因緣)ノ條ヲ併セ見ヨ。九條右大臣集「斧ノ柄ノ、朽チケンカタモ、オモホエズ、ごふヲ盡サント、思ヒシホドニ」源重之女集「法ノ海ニ、ウカベル舟ノ、ごふヲ離テ、メグル沙木ニ、合ヒニケルカナ」（二）ごふくゎ(業火)ノ略、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

ゴフ（名）|劫| 佛語ノ、こふ(劫)ノ條ヲ見ヨ。

ごふ（名）|護符|「佛ノ加護ヲ受クト云フ、眞言ノ梵字ヲ書キタル祕符ヨリ起リタル語、ごふうト云フハ、韻ヲ引キテ云フナリ(工夫、くふう。御供、ごくう)」マモリフダ。常ニ、ごふうト云フ、ソレヲ、御符ト心得テ、敬稱ノ意ニ用キル。護身符 靈符

ごふ（名）|五分|（一）一寸ノ半分。「一寸ノ蟲ニ、五分ノタマシヒ」（二）一割ノ半分。(割ノ條ヲ見ヨ)「五分利ノ公債」（三）五分切ノ略、其條ヲ見ヨ。（四）五分五分ノ略、其條ヲ見ヨ。（五）僅カナルコト。「ごぶモ透カヌ手配」ごぶモ引カヌ」

ごふ-いん（名）|業因| ごふ(業)ノ條ヲ見ヨ。成實論「一切生法、皆屬業因」」盛衰記、八、法皇三井灌頂事「何ナル業因ノ者ナレバ、加樣ニ、佛法ヲ障碍シ侍ラン」

こ-ふう（名）|古風|（一）古ヘ風。昔ノスガタ。唐書、王仲舒傳「穆宗毎言、仲舒之文、云云、有古風、召爲中書舍人」」庭訓往來、二月「和歌者、雖仰二人丸赤人之古風」（二）古詩ノ一體。詩法入門「古風、稍異古詩、亦可用長短句也、不同排律拘平仄、律詩定對偶、云云、但要句法蒼老、意格高古、不落時徑」（三）俳句ノ、荒木田守武、山崎宗鑑、松永貞德、等ノ作ノ稱。(檀林風、蕉風、ナドニ對ス)

ご-ふう（名）|御符| 護符ノ條ヲ見ヨ。心中萬年草(寶永、近松作)中「日頃、思切迄バシテ、御守リヨ、御符ヨト、御恩ヲウケタ稻荷樣」

ご-ふう-じふう（名）|五風十雨|〔出典ヲ見ヨ〕時候ノ、極メテ順當ナルヲ云フ語。隨テ、天下太平ニシテ、世ノ中、靜謐ナル意ニ用キラル。王充、論衡「太平之世、五日一風、十日一雨、風不鳴條、雨不破塊、雨必至夜」善見毘婆沙律、十七「好王治化、五日一雨」

こぶか・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）|木深| 木立、繁シ。源、二、帚木卅「山ノ氣色、木ぶかく、世離レテ」同、十二、須磨廿「森ノ木立、こぶかく、心スゴシ」

こぶ-がはら（名）|古峯原| 下野國、上都賀郡、西大蘆村ノ山中ニアル神社ノ名、鹿沼驛ヨリ七里アリ、火除ノ靈驗アリトテ、信徒、盛ンナリ、大蘆鄕ニ、古峯原隼人ト云フ者アリテ、先祖ハ、役小角ニ仕ヘシ妙童鬼ニテ、其子孫ナリト傳ヘタリ、今ハ、日本武尊ヲ祀ル。

ごぶ-がり（名）|五分刈| 頭髮ヲ、長サ五分位ニ刈リ切ルコト。

ごぶ-ぎゃう（名）|五奉行| ごたいらう(五大老)ノ條ヲ見ヨ。

ごぶ-ぎり（名）|五分切| 物ヲ、長サ五分ホドニ切リ刻ムコト。我衣(天和)「タバコ刻ミヤウ、五分切りトテ、粗ク刻ムヲ伊達トス」「五分ぎりノ葱」(東京ノ牛肉店ナドニテハ、下略シテ、ごぶト云ヒ、又、ざくト云フ)

こ-ふく（名）|鼓腹| ハラツヅミ打ツコト。食足リテ、心身ヲ安ンズルコト。こふくげきじゃう(鼓腹擊壤)ノ條ヲ見ヨ。「萬民、鼓腹ス」鼓腹ノ民」

こ-ふく（名）|胡服| 夷ノ人ノ着ル服。

ご-ふく（名）|御服|（一）主上、上皇ノ御衣服。延喜式二、年中御服トシテ、春夏秋冬ノ年料ノ御衣服、絹、綾、布、絲、等ノ事ヲ記セリ」拾芥抄、中、末、院司「御服所、別當」山槐記、治承四年二月五日「初度御幸、直衣御裝束、自二何處一令ニ調進一哉、御服所未定之間、不審云云、今度攝關白殿、調進可ㇾ宜歟」（二）攝關、大臣ノ諸家ニテモ、御服所ヲ置キテ、服飾ノ事ヲ掌ラシメタリ。拾芥抄、中、末、院司「關白家、大臣家、大將、司ニ攝關云云、御服所、進物所」江戶城內ノ大奧ニモ、將軍、御臺所ノ服裝ノ事ヲ掌ル所ヲ、御服の間ト云ヒ、其掌ル女中ノ稱トモシタリ。(借字ニ、呉服ナド、記セリ)

ご-ふく（名）|御服|〔服セシムル義、供フル意、日服、月服ノ服ナリ〕佛ニ供フル煎茶ノ敬稱。東京、淺草ノ觀世音ノ茶ヲ、御服ノ茶ト云フ。

ご-ふく（名）|呉服|（一）呉服ノ字ノ音讀、其條ノ(二)ヲ見ヨ。（二）轉ジテ、絹、布類、凡ソ、織物ノ總稱。段物。キレルヰ。布帛 宇津保物語、田鶴村鳥上「長櫃ノ韓櫃一具ニ、藏司ノごふく、綾、錦、云云、入レテ」

ご-ふく（名）|五服| 支那ニテ、上古、王畿ヲ中心トシテ、其四方、周圍、五百里ヅツ距リタル、五ツノ地域ノ稱。王畿ノ周圍ナル五百里ノ地ヲ、甸服ト云ヒ、又、其外圍五百里ヲ、侯服ト云ヒ、其外圍ヲ綏服、其外圍ヲ要服、其外圍ヲ荒服ト云フ。甸服ノ地ハ、最モ、王城ニ接スルナリ、荒服ノ地ハ、最モ遠キナリ。書經、益稷篇「惟荒度土功、弼成五服、至于五千」(每服、五百里、四方相距ルコト、五千里ナリ)

ご-ふく（名）|五福| 人ニ取リテ、五ツノ幸福。出典ヲ見ヨ。書經、洪範篇「五福、一日壽、二日富、三日康寧、四日攸好德、五日考終命」註「康寧者、無患難也、攸好德者、樂其道也、考終命者、順受其正也」

ご-ふく（名）|御福|「御福田餅ノ下略ナリ(御光明、ごくゎう)御佛供ナリト云フハ、イカガ」（一）佛ニ奉ル供餅ヲ、敬稱スル語。多クハ、其撤去トナリタルニ云フ。(福別、福引ト云フ語モ、コレヨリ起リタルカトモ思ハル) 狂言記、連歌毘沙門「夜前ハ、多聞天ヨリ、御ふくヲ下サレテゴザル」武藏國、荏原郡、目黑町ニアル不動堂ノ門前ニテ、御福の餅トテ賣リシモ、不動尊ヘノ供餅ノおろしノ意ナルベシ、別ニ、粟花ヲモ賣リテ、亦、御福の餅ト云ヒキ 寶永只信物語「等ヲナマセシ、粟餅ヤ、木皿ニ花ノ、目黑もちニ尊靈元寶、十、上」 武江往記「目黑ノ粟餅、御福の餅トテ、曲物ノ器ニ入レ、參詣ノ貴賤、必ズ求メテ、大ニ賞ベキセケル」江戶砂子、拾遺(明和)「目黑不動ニテ、飯櫃ニ、白餅ヲ入レテ、ごふ

くの荷召セト讀ル」(二)京都ニテ、ごふくトモ云ヒシハ、[illegible]

ごふく(名)[業苦] ごふ(業)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

こふくげきじやう(句)[鼓腹撃壌]「壌、如雨切、説文、柔土也、一云、地曰壌」腹ヲ鼓チ、大地ヲ叩キテ、歌フコト。人民ノ、天下太平ヲ樂シミ喜ブ状ニ云フ。[illegible]

ごふくざし(名)[呉服差] ものさしノ條ヲ見ヨ。

ごふくし(名)[呉服師] 呉服ヲ取扱フ者。

こふくしや(名)[子福者] 子ヲ多ク持チテ、幸福ナル人。多子

ごふくじやく(名)[呉服尺] ものさしノ條ヲ見ヨ。

ごふくつぎ(名)[五服注]〔火皿大キク[illegible]〕小サキきせるノ煙草ノ五倍ヲ注ギ[illegible]長大ナル煙管ノ名。きせるごつノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ごふくどころ(名)[御服所] 御服ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ごふくのま(名)[御服間] 御服ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ごふくのもち(名)[御福餅] 御福ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こふくべ(名)[枇杷]〔小瓠ノ義ナルベシ〕枇杷ノ一名。倭訓栞、こふくべ「枇杷ノ和名也ト云ヘリ」本草綱目啓蒙、廿一、山果「枇杷、びは(京名)、こぶや、こふくべ(同上)」

ごふくや(名)[呉服屋] 呉服、即チ、織物ヲ賣買スル商家。呉服店。絹織舗 我衣(天明)「現金安賣、掛ケナシ、此元ハ、元禄年中、越後屋八郎右衛門ト云フ呉服屋、本町ニテ、仲間ハヅレノモノナリ」

ごふくわ(名)[業果] ごふ(業)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ごふくわ(名)[業火] (一)佛教ノ語、地獄ニテ罪人ニ迫ル火。惡業ノ報ノ火ノ意ナルカ。太平記、十五[illegible] (二)瞋恚ノ烈シキヲ云フ語。惡業ノ、正道ヲ滅スルヲ、火ノ、燒クニ譬ヘテ云フナリ。略シテ、業トノミモ云フ。憤懣。「業ガ煮エル」「業ガ沸ク」[illegible]

ゴフくわ(名)[劫火]〔劫、即チ、世ノ滅却セムトスル火災ノ意〕猛烈ナル火災。猛火。太平記、八、三月十二日合戰事「世界ハ、劫火ノタメニ燒ケ失スルカト疑ハル」

ごぶごぶ(名)[五分五分] 雙方、共ニ、優劣、勝負、可否、ナキコト。筆引、タガヒナキコト。キンダリ。平均、對等 略シテ、五分。浮世風呂[illegible]「五分五分ノコジツケダネ」[illegible]

こふこふと(副) [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

こぶさ(名)[小總] ふさおりかいノ條ヲ見ヨ。

ごぶさかやき(名)[五分月代] 月代ノ、長サ、五分ホドニ延ビタルモノ。(病人、又ハ、浪人ナドニ)

ごぶさた(名)[御無沙汰] 無沙汰、即チ、訪問セザリシコトヲ、丁寧ニ云フ語。「イツモ、御無沙汰バカリ致シテ居リマス」

ごふざらし(名)[業晒]〔身ノ罪業ヲ、世ニ暴露スト云フ意〕(一)恥ヲ、世間ニ顯ニスルコト。外聞晒。傾城反魂香[illegible] (二)人ヲ、罵リテ呼ブ語。[illegible]

こぶし(名)[拳]〔屈節ノ約轉カ[illegible]〕(一)五ツノ指ヲ、掌ノ中ヘ曲ゲテ握リタルモノ。ニギリコブシ。ゲンコ。(平手ニ對ス) 天治字鏡[illegible] (二)御拳ノ條ヲ見ヨ。

こぶし(名)[辛夷]〔こぶしはじかみノ下略、其條ヲ見ヨ〕古名、コブシハジカミ。ヤマアララギ。樹名、もくれんノ類、山中ニ自生アリ、樹、高大ニシテ、枝、茂ク、枝ノ梢毎ニ、春、葉ニ先ダチ、蕾ヲ生ズ、形、筆頭ノ如シ、因リテ、木筆ノ名アリ、長ジテ、六瓣ノ白花ヲ開ク、もくれんニ似テ小サク、白クシテ、香アリ。[illegible]「時シアレバ、こぶしノ花モ開ケタリ、君ガ握レル、手ニモキレカシ」一種、矮小ナルヲ、姫こぶしト云フ。又、一種、花ノ薄紅ナルヲ、紅こぶし、又、紫こぶしト云フ。紫木蘭 又、一種、花、白ク、八重ニシテ、婆娑トシテ、四手ノ如キヲ、しでこぶしト云フ。辛夷一種

ごぶじ(名)[御無事] (一)無事ヲ、丁寧ニ云フ語。「御無事御息災」(二)客氣ナキコト。鈍キコト。オヒトヨシ。[illegible]

こぶしあがり(名)[拳上] 小銃ナドヲ、兩手ニ握リテ構フル時、筒ヲ、水平ニセズ、左手ノ拳ニテ、少シ上ルヤウニ構フルコト。コレニ對シテ、少シ下グルヲ、こぶしさがりト云フ。

こぶしうち(名)[拳撃] 二人、相對シテ、拳ニテ撃チ合ヒテ、勝負スル技ナルベシ。[illegible]

こぶしさがり(名)[拳下] 前前條ヲ見ヨ。

こぶしはじかみ(名)[辛夷]〔蕾ノ形、拳ノ如ク、實ヲ、藥用、食用トスルニ、味、辛キコト、山椒ノ如キ義〕樹ノ名、多クハ下略シテ、こぶしトノミ云フ、其條ヲ見ヨ。倭名抄、十六[illegible]「辛夷、形如二橘子一小時、氣辛香」

こ-ブシン (名) [小普請] (普請ノ條ヲ見ヨ) (一)徳川幕府ニテ、官設ノ建物ノ小破損ノ修繕ヲ稱シタル語。コレヲ掌ル職ヲ、小普請奉行ト云ヒキ。(普請奉行、作事奉行ニ對ス) (二)幕府ノ旗本、并ニ、御家人ノ、祿高三千石以下、二百石以上ノ非役ノ者ノ稱。旗本ナルヲ、小普請支配ト稱シ、御家人ナルヲ、小普請組ト稱シタリ、小普請金ヲ出スニ因リテ、此稱アルナリ。此階級ノ者ハ、通常、幼少ノ者、老病ノ者ノ非役ナルニ、金ヲ課セラレタルナレド、職務ニ失行ナドアリタル者ヲ此階級トスルヲ、小普請入申附クト云ヒテ、罰トシタリ、小普請金、即チ、過代ナリ。小普請ヨリ就職スルヲ、御番入ト云フ、其條ヲ見ヨ。

ごぶ-しん (名) [五分心] 洋燈ノ布心ノ、幅ノ、五分ホドナルモノ。(丸心、三分心ナドニ對ス)

こ-ブシン-いり (名) [小普請入] 前前條ノ(二)ヲ見ヨ。

こ-ブシン-きん (名) [小普請金] 徳川幕府ニテ、小普請ノ費用トシテ、非役ノ小普請支配、小普請組ノ者ニ課シテ、出サシメタル金。昔ハ、城ナドノ小普請アル時、祿二百石ノ家ヨリ、高割ノ軍役トシテ、人夫一人ヅツ出シタルガ、元祿年中ヨリ、金納トナリ、百石以上、百石ニ付キ、毎年、金貳兩ヅツ、課セラルル事トナリキ。

こ-ブシン-ぐみ (名) [小普請組] 小普請ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こ-ブシン-しはい (名) [小普請支配] 小普請ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こ-ブシン-ぶぎゃう (名) [小普請奉行] 小普請ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ごふ-しゃう (名) [業障] 「ごふ、しゃうト云フハ、急呼ナリ(合掌、がっしゃう)」 佛敎ノ語、貪欲、瞋恚、愚痴ナドノ惡業ノ、正道ノ障トナルコト。又、ごっしゃう。 玉葉集、十九、釋敎「我ガ身ノ業障、重キ事ヲ恐レ思ヒテ」 源、三十八、夕霧九十「惡靈ハ、執念キヤウナレド、ごっしゃうニ紛ハレタル、ハカナモノナリ」 林逸節用集(文明)雜用「業障」

コフ-じゃく (名) [劫石] こふのいしノ條ヲ見ヨ。

ゴフ-しょ (名) [劫初] [こふ(劫)ハ、世ノ義ナリ、其條ヲ見ヨ] 世ノ始。天地開闢。 神皇正統記、序說「天竺ノ說ニハ、世ノ始マリヲ、劫初ト云フ」

ごぶ-しょ (名) [五部書] 神道ノ五部書ト云フハ、倭姬命世記、(一名、大神宮本記)寶基本記、御鎭座次第記、(阿羅波命記)御鎭座本紀、(飛鳥本紀)御鎭座傳記(太田命本紀、猿田彥命記)ノ總稱、伊勢神宮ノ祕書トセラレテアリシナリ。然レドモ、皆、鎌倉時代ノ僞書ニシテ、唯、倭姬命世記ノミハ、古傳說ノアリシヲ、取リマジヘタルモノナリト云フ。(伊勢貞丈ノ神道獨語、本居宣長ノ伊勢二宮さき竹の辨ニ委シ)

ごぶ-だいじょうきゃう (名) [五部大乘經] 天台宗ノ所說ノ、五部ノ經。一、大方廣佛華嚴經、二、大方等大集經、三、大品般若經、四、妙法蓮華經、五、大般涅槃經コレナリ。此五部ハ、究竟ノ大乘法ヲ說ケル經文ナリトス。

コブ-だし (名) [昆布出] 煮出汁ニ、鰹節ヲ用キズ、青板昆布ヲ用キルモノ。

こぶ-た・つ ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [瘤立] 瘤ノ如クニ、脹レダツ。フシクレダツ。「二ノ腕ガこぶたつ」

こぶ-だひ (名) [瘤鯛] 魚ノ名、額上、瘤ノ如ク隆起セルモノ、體長、二尺許、全身、紫灰色、或ハ、赤灰色、脊鰭ノ根ニ鱗ナク、腹鰭、長ク、尾ノ端、截チ切リタルガ如シ、蒲鉾ノ材料ナドニセラル。

コブ-たら (名) [昆布鱈] 總菜料理ノ名、鹽鱈ノ肉ト、刻昆布トヲ、煮出汁ニ、醬油ヲ加ヘテ煮タルモノ。タラコブ。 浮世風呂(文化)三編、上、「最ウ、昆布鱈ニ、鱈ノ甌漬ケトイフ、才定リデモアルメエ」

こぶち (名) [機] オシ。オトシ。 倭訓栞、こぶち、機ヲ讀メリ、古ヘ云フ、おし也、籠穽ノ義ナルベシ、籠ノ中ニ、穽ヲシカケタル也」 俗語考(橘守部)「おし、云云、今世ニハ、おとしト云ヘリ、機ヲ落スヲ以テ云フニテ、壓スト、同意ナリ、國ニヨリテハ、こぶちトモ云ヘリ、其形狀、壺チ落スガ如クナルヨリ云フカ」

こ-ぶつ (名) [古物] (一)フルキモノ。古ク傳ハリシ器。「古物ヲ愛ス」 (二)古物商ノ條ヲ見ヨ。

ご-ブツ (名) [五佛] 五智如來ニ同ジ。

ご-ブツ (名) [後佛] [前佛ニ對ス] 釋迦佛ノ後補トシテ、五十六億七千萬年ヲ過ギテ、此娑婆世界ニ出現スベシト傳ヘラルル佛。專ラ、彌勒佛ヲ云フトゾ。 沈約、千佛讚「前佛後佛、跡同、轉車」 謠曲、卒都婆小町「ソレ前佛ハ、既ニ去リ、後佛ハ、未ダ世ニ出デズ」

こぶ-つき (名) [瘤附] 瘤ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

⁘**ごふ-つくばり** (名) [業突張] [我意ヲ張ルハ、惡業ナル意] 強キ意地張ヲ、罵リ云フ卑語。業人。

ごぶ-づけ (名) [五分漬] みのぼしノ大根ヲ、五分ホドニ刻ミテ、醬油、味醂、砂糖ヲ混ジテ、薄ク煮タル汁ニ漬ケタルモノ。

こぶつ-しゃう (名) [古物商] 一度使用シタル物品、或ハ、其物品ニ、幾部ノ手入レシタル物ヲ、賣買、交換スルヲ、營業トスル商人。免許ヲ受クベキモノタリ。

こぶ-とり (名) [瘤取] 傳說ノ滑稽談ノ、御伽咄トナリヲルモノ。出典ヲ見ヨ。 宇治拾遺、一、第三條「右ノ頰ニ、大キナル瘤アル翁アリ、山ニ、木伐ニ行キシニ、大風雨ニ逢ヒテ、樹ノ洞ニ屈マリ居ル、人音アリ、窺ヘバ、鬼共、百人バカリ來テ、洞ノ前ニテ、酒盛シテ、舞ヒ踊ル、翁モ出デテ踊レルニ、踊ルコト巧ミナリケレバ、鬼ノ大將、褒メテ、又來レト云ヒ、必ズ來ルヤウニ、質ニ取リ置クトテ、瘤ヲネヂ取ル、翁、家ニ歸リテ、此事ヲ語ル、隣ニモ翁アリテ、左ノ頰ニ瘤アリ、此話ヲ聞キ、羨ミテ、山ニ行キケレバ、鬼ドモ、來リテ酒盛ス、翁、出デテ踊レルニ、甚ダ拙カリシカバ、鬼ドモ、前ニ取リタル瘤ヲカヘストテ、右ノ頰ニ投ゲツケタレバ、左右ノ頰ニ瘤ノツキタル翁トナレリ、物羨ミハスマジキ事ナリ」(摘記)

こ-ぶとり (名) [小肥] 人ノ體格ノ、少シ肥エテ居ルコト。「小ぶとりニ肥ッタ人」

ごふ-ない (名) [御府內] [府ノ條ヲ見ヨ] 江戸時代、江戸ノ四方、凡ソ、品川大木戸、四ツ谷大木戸、板橋、千住、本所、深川、以內ノ地ノ稱。

ごふあん（名）[illegible]不男　五[illegible]不男ノ條ヲ見ヨ。

〔こ-ふに（名）|胡粉|〔胡粉（コフン）ノ轉（白粉（ハクフン）、はふに。半挿（ハンザフ）、はにざふ）こふト云フハ、下略ナリ（[illegible]、さう[illegible]、山葵（サンイン）、[illegible]さん））〕（一）鉛ヲ燒キテ作レル、白キ粉。又、胡粉（コフン）[illegible]假[illegible]ノおしろいニ用ヰタル[illegible]ナルベシ。今、たうのつちト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]ノ[illegible]ノ白粉（ハクフン）ノ條ヲ作セ見ヨ〕[illegible]　（二）鉛製ノ胡粉ハ、古ヘ、繪具ニモ用ヰラレタリ、（濁音ノごふん、見ルハスベシ）[illegible]

ごふ-にん（名）|業人|〔惡業（アクゴフ）ヲ積ミタル者ノ義ニテ、兇狀持ナド云フト、同趣ノ語ナルベシ〕人ヲ罵リ呼ブ語。[illegible]「ヤイココナ、惡業盡キノ業人メ」

ごふ-にょ（名）|五不女|　五不男ヲ見ヨ。

こぶね（名）|小舟艇|　チヒサキ舟。[illegible]

コフ-の-いし（名）|劫石|〔こふ（劫）ノ條ヲ見ヨ〕劫ハ、卽チ、年月ノ、非常ニ悠久ナルヲ云フ語。天人、衣ヲ以テ、百年ニ、一度、大石ヲ撫デ、其石ハ磨滅ストモ、劫ハ、未ダ盡キズト云フナリ。又、劫石。[illegible]「[illegible]、君ガ代ハ、天ノ羽衣、稀ニ來テ、撫ヅトモ盡キヌ、巖（イハホ）ナルラム」

ごふ-の-はかり（名）|業秤|　惡業（アクゴフ）ノ輕重ヲ、秤ニカケテ云フ語。[illegible]、ごふのはかりノ、重サモ皆、心ニカケテ、思ヘカシ[illegible]「[illegible]中「[illegible]、ごふの秤ノ重ミニハ」

ごふ-はら（名）|業腹|〔業火（ゴフクワ）ノ、心ニ燃ユル意、伊豆ノ稻取ノ邊ニテハ、立腹ヲ、ごふはらがもえろト云フ、是レ、正シキナリ〕　憤リニ、堪ヘヌコト。イマイマシク思フコト。|憤懣|[illegible]（文化、三）[illegible]ノ[illegible]モ、目指ナ、タヨ」

ごふ-びゃう（名）|業病|　惡業（アクゴフ）ノ報（ムクイ）ニテ受ケタリト云フ病。　平家物語、三、[illegible]モ、豈ニ、先世ノ業病ヲ治セムヤ」

ごふ-ふう（名）|業風|（一）業力（ゴフリキ）ニ煽（アフ）ラレテ、衆生ノ、惡處ニ業苦ヲ受クルヲ、風ニ譬ヘテ云フ語。[illegible]（二）地獄ニ起ル暴風。[illegible]エケル」平家物語、三、[illegible]八、[illegible]ナリトモ、[illegible]ハ、[illegible]ジト見エシ」

ごふ-ほう（名）|業報|　ごふ（業）ノ條ヲ見ヨ。　太平記、廿七、[illegible]

コブ-まき（名）|昆布卷|　青板昆布ヲ洗ヒテ、湯ニ、酢ヲ入レテ茹（ユ）デ、三寸ホドニ切リテ、小サキ燒鮒、又ハ、燒鯊ナドヲ包ミ、乾瓢ニテ一筋、中結（ナカユヒ）ヲシ、煮出汁ニテ煮拔キテ後、醬油、砂糖ヲ注（サ）シテ、味ヲツケタルモノ。「[illegible]ノ昆布卷」

〔こ-ぶみ（名）〔小文ニテ、草字ニ對シテ、眞字ヲ、小字ニ書ケリト云フナルベシ、或ハ、古文ナリトノ說モアリ〕草字ニ對シテ、元（モト）ノ眞字ノ意ナルカ、湯桶讀ノ語、イカガト思ハル」眞字（マナ）ノコトナルベシ。　宇津保物語、藏開、中「[illegible]ノ主ノ父、式部大輔ノ集、草ニ書ケリ、[illegible]カラ、點ジ讀ミテ聞カセヨ、[illegible]ふみニ書ケリ、今一ツニハ、俊蔭ノ主ノ集、其手ニテ、こぶみ、文机ノ上ニゾ讀ム、云云、一度ハ訓ニ、一度ハ音ニ、讀マセタマヒテ、云云」

こぶみ（名）|小文|〔堅文（タテブミ）ノ長キニ對シテ云フ語ナルベシ〕　書狀ノ一式。一枚ノ紙ヲ半切（ハンキリ）ニシテ認ムル捻文（ヒネリブミ）。殘ル半分ヲ、[illegible]トシテ、上ニ卷ク。捻リカタハ、堅文ニ同ジ。（貞丈雜記）「小文ノ御內書」「小文ノ御教書」

こぶみ-の-ごないしょ（名）|小文御內書|　小文ニテ書キシ御內書。

こぶみ-の-みげうしょ（名）|小文御教書|　小文ニテ書キシ御教書。

こ-ふん（名）　胡粉　こふに（胡粉）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

こ-ふん（名）|古墳|　フルツカ。古墳（コフン）ト云フ語、近年、考古學家ニテハ、土ヲ高ク聳（モ）リテ築キタル、千年以上ノ墳墓ノ意ニ用ヰラル。圓塚、車塚、共ニ云フ。[illegible]

こ-ふん（名）|孤憤|　一人ニテ、世ヲ憤（イキドホ）リ居ルコト。[illegible]、寸心因[illegible]、孤憤[illegible]、年移」論詩「一[illegible]花對三古墳二[illegible]曲、[illegible]、古墳、多クハ少年ノ人」

こ-ぶん（名）|子分|　假ニ子トスルコト。子方。|乾兒|義子|假子（親分ニ對ス）[illegible]（文化、三[illegible]）中「子分、子方ヲ、兩方カラ引キ連レテ、[illegible]ヘニ[illegible]、ナラブト」

こ-ぶん（名）　古文　（一）漢字ノ書體（カキカタ）ノ、古キモノ、支那ノ周以前ノ科斗ノ文字、籀文、鐘鼎文ナドノ稱。（二）今ノ世ノ體ノ文章ニ對シテ、古ノ體ノ文章。　史記、儒林傳「孔氏有二古文尙書一、而安國以二今文一讀レ之」

〔ご-ふん（名）|胡粉|〔釋名、釋首飾「胡粉、胡、餬也、和レ脂以塗レ面也」〕繪具ノこふに（胡粉）ノ（二）ノ、移リテ、濁音トナレル語〕　繪具ノ名、蠣殼ノ外皮ヲ去リ、石臼ニ入レ、鐵杵ニテ搗キテ、細末トシ、水簸（スヰヒ）シテ、乾カシテ成ル、白ク柔カニシテ、光ナシ、[illegible]、[illegible]「[illegible]乃不レ信二黃丹及胡粉乃化[illegible]」

ご-ぶん（代）|御分|〔御自分ノ略カ〕　御身（オンミ）。御邊。ソコモト。　太平記、二十八、[illegible]、御分、[illegible]ニ[illegible]ナラバ、カカル不[illegible]ノ事ヲバ、ヨモ[illegible]マハジ」[illegible]、今度ハ、[illegible]ガ首ヲ落サルルカ、御分ガ首ヲ刎ルカ、二ツノ內ニ[illegible]アルベシ」（俚言集覽）

ご-ぶん（名）|誤聞|　聞キチガヒ。キキアヤマリ。「[illegible]ヲ誤聞ス」

こぶん-じがく（名）|古文辭學|　支那ノ明代ニ起レル、復古ノ文學ノ稱。其趣旨ハ、詩文ノ、當時ノ陋風ヲ捨テテ、唐代以上ノモノヲ宗トスルナリ。何景明、李夢陽、首唱ス、コレヲ、何李ト稱シ、後ニ、李攀龍（于鱗）、王世貞（元美）、出デテ、盛

ンナリ、コレヲ、李王ト稱ス。我ガ國ニテハ、荻生雙松(徂徠)、李王ノ學トテ、コレヲ奉ジテ、唱道セリ、其徒ニ、蘐園學派ノ名アリ。(其條ヲ參見セヨ)

こぶん-ぎん (名) 古文字銀 ぶんせいおばん(文政小判)ノ條ヲ見ヨ。

こぶん-しんぽう (名) 古文眞寶 〔支那ノ書名ナリ、漢以下、宋以上ノ傑作ノ詩文ヲ集メタルモノニテ、往時ハ、學者、專ラ研究シ、學生ニモ、教科書トシテ、學習セシメタリ、書名ヲ、固クルシキ意ニ用キルニ、延喜式ト云フ語アリ、經書ヲ、青表紙ト云フ類、是レナリ〕 固クルシク、眞面目クサリタル意ニ云フ語。卜養狂歌集、夏「或ル人、蓮ヲ繪ニカキテ、だてナル前書シテ、歌詠ミテクレト云フ、モトヨリ、だてハ白蓮ノ、マコトニ難キ古文眞寶ヲ、蓮ハ淤泥ノ中ヨリ出テ、泥ニ染マラズ、花ノ君子ナリト、云云」武道傳來記、四「限ナキ月ニ、夜モスガラノ大踊、餘念ナク眺メシ時、常ハ、古文眞寶ニ構ヘシ男モ、釣琵ニ樣カヘナガラ、ソレト知ラレテ、ヲカシ」本朝文鑑(享保、支考)「古文眞寶トハ、日本ノ俗語ニ、初心ニ、カタイ男ヲ云フ」

ごぶん-しゃう (名) 御文章 (一)文章ヲ、丁寧ニ云フ語。(二)西本願寺派ニテ云フ語、おふみノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ごふ-むね (名) 乞胸 〔町奉行ヘノ書上ニハ、常ニ、乞胸ト記シタリ、嬉遊笑覽、十一、乞士「乞胸ト云フハ、胸たたきノ名ニ似ツカハシケレド、是レハ、モト、乞旨ナドノ意ニヤ」行人ノ胸中、即チ、志ノ錢ヲ乞ふ意カトモ思ヘド、サラバ、おむねおひト云ハズハアルベカラズ、お濁ルモ、不審ナリ(合棟ト書キタルモ、見タリ)倘、熟考スベシ〕 江戸時代、江戸市中ノ路頭ニテ、遊藝ヲシテ、行人ニ錢ヲ乞ヒシ者ノ稱。辻咄、辻講釋、浪人ノ、編笠着テ、謠ヲウタヒ、鳥追ノ、三味線彈キテ、門附ヲシ、明地ナドニ葭簀張ヲシタル小見世物ナド、皆、是レナリ、乞胸頭、山本仁太夫ト云フ者アリ、鑑札ヲ渡シ、役錢ヲ取レリ。但シ、乞食、非人ニハアラズ、其業ヲ止ムレバ、其伴ヲ脱シテ、直チニ、素人ニナルヲ得タリ。

ご-ふんべつ (名) 碁分別 碁ヲ打ツニ、思慮、分別スルコト。俚言集覽「碁分別」犬子集(寛永)「分別ノ、アリゲナ人モ、碁ハ下手デ」

ごふん-ゑ (名) 胡粉繪 (一)紙ニ、胡粉ヲ塗リ、其上ニ、墨、丹、綠青、黄土ナドニテ書キタル繪。又、泥繪。寛永頃ノ草紙ノ插繪ニアリ。(二)又、一種、厚紙ニ、厚ク胡粉ヲ塗リ、胡粉ヲ混ジタル繪具ニテ、西洋畫ニ模シタル、遠景ノ山水ナド書ケルモノ、江戸、芝ノ神明前ニテ賣レリ。文化、文政頃ヨリ、明治ノ初年ニ至リテ、絶エタリ。

ごぶ-やなぎ (名) 瘤柳 〔根ニ、瘤ノ如キモノヲ生ズ〕 川楊ノ一種、ごぶトノミモ云フ。葉、粗ニシテ、毛アリ、色、白クシテ、赤ミアリ、花、小サシ、材ノ色、白ク、楊枝トス、又、枝ノ心ニテ、やなぎごりヲ作リ、皮ニテ、紙ヲモ作ル。 杞柳 筑波集(寛永)「氣カモヤ、アレバゾカ、ごぶ柳」色道大鑑(延寶、箕山)「楊枝ハ、ごぶニテ、直ナルガヨシ」

ゴフ-よ (名) 劫餘 〔劫火ノ餘ノ意〕 大火災ノ後。祖庭事苑「劫火、洞然トシテ、大千、倶ニ壞シ、須彌、巨海、磨滅シテ、餘ナシ」(原、漢文、今、和譯ス) 元好問詩「東崖劫火餘、絢爛開ニ錦綉ニ」

こふ-ら (名) 甲羅 〔らハ、意味ナク添フルモノ、其條ヲ見ヨ〕 甲ト云フニ同ジ。「鑑ノこふら」こふらヲ乾シテ居ル」

こぶ-ら (名) 腓 〔根莖ト通ズ(韮、おみら。日數、暦)おむらハ、音轉ナリ(蚖、あぶ。煙、けむり) 臂ノ裏ノ、稍、脹レタルヲ、手おむらト云ヘバ、足ナルモ、足おむらト云フベキナリ、共ニ、根莖ト同ジク、脹レタル所ノ意ナリ、古事記、下三十四「蛔咋ニ御腕ニ云云、大御長歌「多古牟良ニ、蚖カキツキ」(雄略紀ニハ、蚖、臂、陀倶符羅ニ作ル)倭名抄「陸詞云、腓、脚腓也」易經、下經、咸卦、疏「腓、足之腓腸也」又、おむら。〕 腓ノ背面。今、ふくらはぎト云フ、其條ヲ見ヨ。 字鏡三「胲、古夫良」(集韻「胲、牲後脛」) 同三「腨、古牟良」倭名抄、三七手足類「腓、古無良」正字通「腓、脛後肉」腨、俗曰ニ脚肚ニ」

コブラ (名) 眼鏡蛇 〔英語、Cobra.〕 印度產ノ蛇、體長、四五尺、背、褐色ニシテ、頸背ニ、眼鏡ノ如キ黑環紋アリ、頸部ヲ左右ニ脹ラカス特徵アリ、恐ルベキ毒蛇ナリ。

コプラ (名) 椰子實 〔英語、Copra.〕 椰子ノ實ノ仁ヲ、乾シタルモノ、椰子油ヲ作リ、又、石鹸製造ノ原料ナドトス。

ごふ-らく (副) 戀 〔いはく(日)ノ語原ヲ見ヨ〕 戀フルニハ。戀フルヤウ。萬葉集、十一 三十五「白細砂、三津ノ黄土ノ(如ク)、色ニ出デテ、言ハナクノミゾ、我ガ戀フラクハ」同、卷七 二十「大海ニ、立ツラム浪ハ、間モアラムニ、君ニ戀フラク、止ム時モナシ」 拾遺集、十五、戀、五「潮滿テバ、入リヌル磯ノ、草ナレヤ、見ラク少ナク、ごふらくノ多キ」弱牧集、下「濁江ニ、生フル玉藻ノ、水隱レテ、我ガごふらくヲ、知ル人ゾナキ」

ゴブラン-おり (名) 吳布蘭織 〔ごぶらんハ、佛語、Gobelins. 巴里ニテ織リ始メタル家ノ名、るい十四世ノ時〕 佛蘭西產ノ織物ノ名、種種ナル色絲ニテ、人物、山水ナド、平織ニ織リ成シタル、一種ノ綴錦ナリ、長、幅、甚ダ廣ク織リタルモノハ、壁張リナドトス、古渡ノ物ハ、京都ノ祇園祭ノ鷄ノ鉾ニ、見送トテ、背面ニ長ク懸ケ垂ルルモノ、有名ナリ。近江ノ大津、京町、毎年九月十五日ノ祭ノ山車ニカクルヲ、天竺織毛綴見送ト云フトゾ。

こ-ぶり (名) 小降 雨(雪ニモ)ノ、烈シカラズ降ルコト。(大降ニ對ス) 微雨

こ-ぶり (名) 小振 物ノ形ノ、他ニ比ベテ、稍、小サキコト。(大振ニ對ス) 小形

ごふ-りき (名) 業力 ごふ(業)ノ條ヲ見ヨ。神皇正統記、序說「コレラノ天ハ、小大ノ災ニ逢ストイヘドモ、業力ニ際限アリテ、報、盡キナバ、退没スベシ」

ごふ-りゃく (名) 劫掠 劫シ、掠ムルコト。左傳、襄公廿一年「周西鄙掠之」杜注「劫ニ掠財物ニ」太平記、十、龜壽殿令ニ落ニ信濃ニ事「關東ヲ劫略シテ、天下ノ大亂ヲ起シ」

こ-ぶるひ (名) 小慄 少シク、慄フコト。盛衰記、四十二、與一射ニ扇事「弓手ノ膝ヲ、砂ニ突カセテ侍シガ 灸治モ未ニ愈、小慄ひシテ、定ノ矢、仕リヌトモ存ゼズ」

コフ-ろ・へる ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 經劫臈 〔こふ(劫)ト、らふ(臈)トノ條ヲ見ヨ〕 許多ノ年ヲ經。年功ヲ積ム。「蝦蟇ガこふろヘテ、妖怪ヲナス」 貫之集「法ノ海

ニ、浮ベル船ノ、こふを經テ、メグル浮木ニ、逢ヒテケルカナ」

ごへい（名）［語弊］〔言葉ノ言過ナドニテ、弊害ヲ生ズルコト。「語弊ヲ指摘ス」

ご‐へい（名）［御幣］ 幣束ノ敬語。[illegible]取リ」

ごへいかつぎ（名）［御幣擔］ [illegible]ル意〕モノイマヒスルコト。人ノ性質ニ、迷信ニ因リテ、特ニ、不吉ヲ嫌フモノノ[illegible]、かつぐト云ヒ、名詞トシテ、かつ[illegible]ナド云フ。拘忌

こ‐へう（名）［虎豹］ 虎ト、豹ト。其毛ノ[illegible]フニ用ヰル語トナル。[illegible]

ご‐べう（名）［御廟］ 靈屋、神社、ノ敬稱。[illegible]

こ‐べつ（名）［戸別］〔國別、人別、ノ別ニ同ジ〕人家、一戸毎ニ、モノスルコト。軒別。毎戸。「戸別割」

こ‐べつ（名）［箇別］〔かべつナルベシ、か（箇）ノ條ヲ見ヨ〕物、一箇毎ニ、モノスルコト。一ツ一ツニ、區別スルコト。

ご‐べつ（名）［語別］〔英語、Part of speech.〕語學ノ語、多クノ言語ノ性質、種類ノ、名詞、動詞、形容詞、副詞、ナドノ區別。品詞ノ[illegible]

コペック（名）［哥］〔英語、Copeck. 露語、K[illegible]〕露西亞ノ貨幣ノ一、るーぶるノ百分ノ一、本邦ノ約一圓ニ當ルモノ。

こへつわり（名）［戸別割］ 地方税ノ一、市町村ノ、各戸ニ賦スルモノ。（府縣ノ[illegible]）

こ‐べん（名）［顧眄］ フリカヘリ、ミルコト。[illegible]

ご‐へん（代）［御邊］〔おんあたりニテ、座邊ヲ指シテ云ヒシ語ナルベシ〕對稱ノ代名詞、同輩、又ハ、父子ノ間ナドニ用ヰラル。御身。アナタ。[illegible]

ごほ（名）［伍保］ ごにんぐみノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

ごぼ（名）［五墓］ 八墓ノ條ヲ見ヨ。

こほう（名）［孤峯］ 獨立ノ峯。一ツノミネ。李白詩「道人制二猛虎一、振レ錫還二孤峯一」

こほう（名）［戸部］ 民部省ノ唐名。[illegible]ニ至リ、太宗ノ諱、世民ヲ避ケテ、戸部ト改メシナリ、[illegible]兵部、刑部、工部ナリ「戸部、掌二天下戸口一」トアリ、[illegible]山）ハ、戸部法印道祐ト署セリ、折焚柴の記ニ、新井白石ハ、上總、久留里侯、土屋民部少輔利直ヲ、戸部ト記セリ）

こほう‐じゃうしょ（名）［戸部尚書］ 前條ヲ見ヨ。

こほう‐じらう（名）［戸部侍郎］ 前前條ヲ見ヨ。

こ‐ぼく（名）［古木］ 老木。年舊リタル立樹。老樹。[illegible] 狂言記、萩大名「彼レハ、梅ノ古木サウニ御座ル」

こ‐ぼく（名）［枯木］ カレキ。立樹ノ、枯レタルモノ。[illegible]

ごぼく（名）［五木］ ごもく（五木）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

こほこほと（副）［籠籠］ 物ノ、鳴リ響キ、又ハ、音聲ノ、ニ云フ語。[illegible] 蜻蛉日記、中、下「[illegible]」

こほ・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［戀］〔戀しト通ズ（葵、あほひ）〕（一）戀シ。[illegible]（二）愛シ。愛ラシ。萬葉集、[illegible]

こぼし（名）［建水］ みづこぼしヲ見ヨ。

こぼ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［注、翻、零］〔こぼるノ他動（つぶるる、つぶす）〕（一）コボレシム。落シ、流ス。[illegible]十二年十月「顛二仆於庭一、覆二所レ擎饌一」伊勢物語、八十五段「雪、こぼすガ如ク降リテ、終日ニ止マズ」[illegible]空蟬ニ「涙ヲサヘこぼしテ、臥シタリ」（二）[illegible]ス、[illegible]モ、こぼし出デタル人ノ」（三）俗ニ、カコツ。[illegible]

こぼ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）［毀］〔毀るノ他動（離るる、放つ）〕毀レシム。打チクヅス。ヤブル。コハス。顯宗紀、二年八月[illegible]毀一也」榮花物語、三十四、晩待星「清涼殿、こぼたレテ、[illegible]ユルモ、イトアハレニテ「動キナキ、玉ノ臺ト、見シモノヲ、[illegible]ト共ニ、こぼれヌルカナ」

こ‐ぼとけ（名）［小佛］〔大佛ニ對シテ云フカ〕（一）小サキ佛像。（二）兒童ノ遊戲、江戸ニテハ、三四人、立チナガラ、手ニ手ヲ取リテ、環ヲ作リ、其中ニ、鬼ト云フ一人ノ童兒、手拭ニテ目隱シシテ、蹲ム、立テル者、足踏ミシナガラ、一同ニ、中ノ中ノ小佛ハ、ナゼ、背ガ低イ、親ノ日ニ、魚食テ、飯食テ、ソレデ背ガ低イ、ト、合唱シ終ハレバ、急ニ、烈シク、環狀ニ廻轉ス、鬼、立チテ、其一人ヲ捕ヘテ、名ヲ呼ブ、中レバ、其者、代リテ鬼トナリ、中ラザレバ、再ビ鬼トナリ、此ノ如ク、繰リカヘシ行フナリ。[illegible]

ごほにち（名）［五墓日］ ごむにちヲ見ヨ。

こほね (名) [溫菘] 〔小大根ノ約ナラム〕 蘿蔔ノ類。 倭名抄、十七「園菜類」崔禹錫食經云、溫菘、味、辛、大溫無毒者也、古保禰」 大和本草、五、野蘿蔔「救荒本草曰、生平隰、葉似菁、苔蔴蕨、蒸爲熟、云云」今案、西土(西國)ノ小大根、相州ノ波多野大根、是ナリ、西土ノ小大根ハ、小ナリ、根、細長、云云、野圃ニ生ズ、云云、園ニモ作ル、睢美ナリ」

こほね (名) [小骨] 極メテ、細ソキ骨。 大骨ニ對ス。 字鏡集「鯁、コボネ」 狂言記、秀句傘「小骨モ折ラズ」「小魚ニハ、小骨ガ多イ」

こほね (名) [子骨] 扇ノ中部ノ、地紙ヲ貼ル、細ソキ數本ノ竹骨。(兩端ノ太キ親骨ニ對シテ云フ)

ごほのし (名) [五步之詩] 七步之詩ノ條ヲ見ヨ。

こほのみやつこ (名) [郡領] こほりのみやつこノ條ヲ見ヨ。 西宮記、四月、郡司讀奏「大領(古保乃ミヤツコ)」

ごほのたく (名) [五畝之宅] 支那ニテ、昔、井田ノ法ニテ、一夫毎ニ、所有スル宅地ノ稱。 孟子、盡心、上篇「五畝之宅、樹之以桑、匹婦蠶之、則、老者、足以衣帛矣」

ごほふ (名) [護法] (一)佛法ヲ、守護スルコト。 其神ヲ、護法善神ト云フ、藥師佛ノ十二神將ノ如キ、是レナリ。其守護ノタメニ使役セラルル鬼神ノ類ヲモ、護法ト云ヒ、多クハ、童子ノ姿ヲナセバ、護法天童、又ハ、護法童子ナド云フ。 謠曲、谷行「山神、護法善神、殊ニハ、開山、役優婆塞、哀愍納受、垂レタマヒ、使者ノ鬼神ノ、伎樂、伎女ヲ遣ハシ、助ケオハシマセ」 十訓抄、上、第一「比叡山ノ天狗「信カニヨリテ、護法天童、下リタマヒテ、カバカリノ信者ヲ、ミダリニタブラカストテ、我等ヲサイナミタマヘル間、云云、法師バラモ、辛キ肝ツブシテ、逃ゲ去リヌ」 太平記、八、谷堂炎上事、義言秘密ノ庫

ノ中ニハ、總角ノ護法、手ヲ束ネテ奉仕シタマフ」 (二)護法ノ調伏ノ法力。 大鏡、中、伊尹「護法附キタル法師、オハシマス、屏風ノツラニ引キツケラレテ、ツブト、動キモセズ」 盛衰記、十八、文覺勸進事「院ノ御所ノ御坪ニ推參「疾ク疾ク、一分ノ慈悲ヲ垂レタマヘトテ、護法ノツキタル者ノヤウニ、踊リアガリ、ヲドリアガリテ、出デザリケリ」

こほふげん (名) [古法眼] 〔ほふげん(法眼)ノ條ヲ見ヨ〕 父、子、共ニ、法眼ニ補セラレタル時、其父ヲ稱スル語。足利幕府ノ臣、其宗、狩野元信(永仙)、法眼ニ敍セラレ、(永祿二年歿、年八十四)其子、宗信(祐清)、亦、法眼ニ敍セラル、因リテ、世ニ、元信ヲ、古法眼ト稱ス。

こぼふし (名) [小法師] 幼キ法師。小僧。 雛僧 枕草子、六、五十八段「小法師バラノ、モタグベクモアラヌ、屏風ナドノ高キ、イトヨク進退シ」「オキアガリ小法師」

ごほふぜんじん (名) [護法善神] ごほふ(護法)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ごほふてんどう (名) [護法天童] ごほふ(護法)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ごほふどうじ (名) [護法童子] 護法ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こほん (名) [小本] 〔大本ナドニ對ス〕 形、小サキ書物。 巾箱本

こほん (名) [古本] 〔新本ニ對ス〕 古キ書物。 古書。 見聞志「晉武帝所、得古本」

こほん (名) [虎賁] 〔虎賁衞ノ語原ヲ見ヨ〕 勇武ヲ以テ、君ニ事フル人。 書經、立政「綴衣虎賁」注「虎賁、以勇力事王」 太平記、三十一、笛吹峠軍事「虎賁、狼卒、替ル替ル、射手ヲ進メテ、戰フ處ニ」

こぼん (名) [鼓盆] 〔出典ヲ見ヨ〕 妻ヲ喪フコト。 莊子、至樂篇「莊子妻死、惠子弔之、莊子則方箕踞、鼓盆而歌」(ココノ盆ハ、ほとぎナリ)

ごほん (名) [五品] 〔品ノ條ヲ見ヨ〕 ごゐ(五位)ニ同ジ。 名目抄、五品「五位也」

ごほん (名) [御本] (一)書物ヲ、丁寧ニ云フ語。「拜借ノ御本」 (二)手本ノ條ヲ見ヨ。

ごほん (名) [御本] 〔ほんトハ、異樣ナラズ、普通ナルヲ、本ト云フヲ、音讀スルナリ(本ノ條ヲ見ヨ)高麗燒ハ、白釉ナルヲ本トス、ごほんでト云フハ、御本樣ノ義ニテ、御本ノ樣ニ倣ヒテ燒カセタルヲ云フナリ、棧留縞ナルモ、奧縞ヲ本トシ、繧繝ニ對シテ云フナリ、御ヲ冠ラスルハ、貴人ノ用ニ就キテ云フナラム〕 (一)高麗燒ノ一種、白釉ノ茶碗ノ稱。茶道ノ遠州流ノ祖、小堀宗甫ガ、將軍ノ命ヲ受ケテニヤ、對馬ノ宗氏ノ臣、玄悅、茂三、淸次郎、等ヲ、朝鮮ニ渡シテ、傳習セシメ、形狀、模樣ヲ註文シテ、燒成サシメタルモノト云フ、コレニ倣ヒテ燒ケルヲ、御本手ト云フ。 (二)棧留縞ノ奧縞ヲモ、御本手ト云フ。 嬉遊笑覽、二、下「御本手、云云、棧留島ニアリ、蓬萊袋(享保)ニ、赤糸入ノ立ジマヲ、俗ニ、奧島ト云ヘリ、是ヲ、御本手ト云フ、紺地ニ、淺黃色島ヲ、靑手ト云フナド云ヘリ、今モ、御本手ノ外ヲ、かはり島ト云フ」 好色一代男(天和、西鶴)六、「織出シノ島繻、本おく島ノ流行」

おほん-おほん (感) 〔こほこほノ音便〕 病人ノ、咳ヲセク聲ニ云フ語。 俚言集覽、おほおほ「ゴ、濁、ホ、清、病者ノ咳スル音」

ごほんだて (名) [五本立] 七五三膳ノ條ノ、初獻ヨリ五獻マデノ菜ノ數ヲ云フ

こほんちゅうらうしゃう (名) [虎賁中郎將] 虎賁衞ノ條ヲ見ヨ。

ごほんで (名) [御本手] 御本(高麗燒ノ)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こぼんなう (名) [子煩惱] 〔煩惱ノ條ヲ見ヨ〕 人ノ性質ニ、己ガ兒ヲ、特ニ愛スルコト。 愛シ過グルコト。 溺愛

こほんゑい (名) [虎賁衞] 〔集韻「賁、音奔」義モ亦、奔ナリ、猛虎ノ奔ルガ如キ勇士ノ稱〕 天平寶字二年、左右兵衞府ノ改稱。 同、八年、舊稱ニ復セラル。 近衞ノ中將ノ唐名ヲ、虎賁中郎將ト云フ。 續紀、廿一、天平寶字二年八月、藤原押勝等、勅ヲ奉ジテ、官號ヲ改易ス「左右兵衞府、折衝禦侮、是、虎奔宣威、故改爲左右虎賁衞」 職原抄、下、左右近衞府「中將、唐名、虎賁中郎將」 周禮、夏官篇、司馬、註疏「虎賁氏、云云、王在國、則守王宮、國有大故、則守王門」(天子ノ衞兵ナリ) 史記、周紀「虎賁、三千人」

こほめか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) コホメクヤウニスル。 枕草子、三、廿八段、にくきもの「沓ノ音、ソソメキ出ヅルニ、藏人ノ、イト高ク、踏ミこほめかして」

こほめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) コホコホト、音發ツ。 枕草子、二、十七段「惡シウ明クレバ、障子ナドモ、タヲメカシ、こほめくコソ著ケレ」 同、十一、百四十五段「甚ジウ寒キニ、夜中バカリナドニ、コホコホト、こほめき、沓スリキテ」 榮花物語、五、浦浦別「蔀ヲ毀チハラヒ、こほめきノノシリテ、持テ出デ、運ビ騷グヲ」

こほり (名) [氷|冰] 凍リタルモノ。水ノ、寒サニ、凝リ固リタルモノ。 氷。 ツララ。 倭名抄、一、七水泉類「氷、水寒凍結也、比、又、古保利」 仁德紀、六十二年五月「氷室、云云、穀、敷茅荻、取氷、以置其上」 古今集、一、春、上「谷風ニ、溶クルこほりノ、隙毎ニ、ウチ出ヅル浪ヤ、春ノ初花」

こほり (名) 郡 〔こほハ、凝るノ語根ニテ[illegible]る、集るノ意(横ほりふせる)即チ、さど[illegible]ト、同ジ)鄕ノ、數十、凝集シタル地ノ稱ナリ(釋名「郡、群也、人所ニ群聚ニ也」)里、及、村ノ語[illegible]見ユ〕孝德天皇ノ大化二年ニ[illegible]定メラレタル、地方行政區劃ノ稱、郡司ヲシテ治メシメラル。上ニハ、國アリテ、數郡ヲ統ベシメ、郡ノ中ハ[illegible]、又、村ト、次第ニ、小別セラレタリ。明治ノ制ニハ、國ノ下ニ、郡、市、區、町、村、ト別ケラル。音讀シテ、郡。[illegible] 大化ノ制ニハ、孝德紀、大化二年正月、詔「凡、郡、以四十里爲大郡、三十里以下、四里以上、爲中郡、三里爲小郡」(里ハ、鄕ニ同ジ)大寶ニ至リテ、改メラル、戶令、[illegible]「凡、郡、以廿里以下、十六里以上、爲大郡、十二里以上爲上郡、八里以上爲中郡、四里以上爲下郡、二里以下爲小郡」[illegible]不得過千戶[illegible](二十鄕)、鄕ハ、千戶ナリ、古ヘハ、一戶ノ人數、數十人ナルアリキ) 催馬樂、我門[illegible]ゾ榮エム、聖ゾ富セム」神武紀「菟田縣」(後ノ大[illegible]がた、こほり、ナド云ヒシハ、一地方ヲ、漠然ト稱呼シタル語ニテ、截然タル大小區域ノ別アラザリシガ如ク、漢字渡來シテヨリ、コレニ、國、郡、縣、等ノ字ヲ[illegible]ニ當テ用ヰタルガ如シ、[illegible]成務紀ニ「國郡ニ長、縣邑ニ首[illegible]諸國ニ以ニ國造[illegible]長、縣邑置ニ稻置」宣化紀ニ「諸 郡」郡 縣」ナド、見エタリ、(後ノコトナレド、土佐日記ニ、土佐國ヲ、あがた、ト云ヘリ、名義抄「縣、コホリ、アガタ、縣、コホリ、クニ」)大化ニ至リテ、支那ノ制ヲ採ラレ、戶數ノ多少ヲ以テ、大小ノ區域ヲ劃リ、こほりニハ郡ノ字、さとニハ鄕ノ字ヲ用キルコトト定メラレタルナリ。(座席ノ意ノくらゐト云フ語ノ、支那制ノ位階ニ移リタルガ如シ)[illegible] 然レドモ、暗合トコソハ言ハメ、こほりト云フ語ハ、韓國ト交通前ニアリシコト、前ニ記シタルガ如シ、國、縣、鄕、村、ナド、倭立ノ地區ノ名稱ノ間ニ、郡ニノミ、獨リ、韓語ヲ採リ用ヰラルル理アルベカラズ、他ニ、此ノ如キ例モ見エズ、尙、次條ヲ見ヨ。

こほり (名) 評 〔韓國ニテ、大野ヲ、坪ト云ヒシト云フ(正韻「坪、平也」)評、坪、ト通ジタルカ、梁書、新羅國傳「其邑在內日ニ啄評、在外日ニ邑勒ニ、亦、中國之言郡縣也」)中國トハ、支那ヲ云フ〕書紀、繼體紀、其他、上古ノ文牘ハ、率、歸化韓人ノ史人ノ手ニ成レリ、韓國ニテ、郡縣ヲこほるト云フ、我ガ國語ノこほりト、暗合セルニ因リテ、其國ノ用字ヲ採リテ記セルナリ、我ガ國ノ郡ニ、評ノ字ヲ用ヰシハ、大化以後ナリ、尙、前條ヲ見ヨ」郡ニ同ジ、前條、井ニ、こほりのみやつこノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]「石城 評 造」(孝德天皇ノ時ノ石城國造ニテ、即チ、[illegible])[illegible]

こほり-いし (名) 氷石 をゐきやう(水晶)ノ一名。

こほり-うめ (名) 氷梅 染模樣ノ名、氷ヲ、割目ニテアラハシ、梅花ヲ點綴シタルモノ。 蓮紫千紅(蜀山人)「こほりうめノカタアル、[illegible]女ノ[illegible]」

こほり-おろし (名) 氷卸 氷砂糖ヲ、細末ニシタルモノ、菓子ヲ製スルニ用キル、ザラメ。

こほり-がけ (名) 氷掛 金米糖ノ製造ニ云フ語、其條ヲ見ヨ。

こほり-がさね (名) 氷襲 (一)襲ノ色目ノ名。表ハ、白瑩、裏ハ、白ノ無文ノモノ、冬季ノ着用トス。[illegible] 色」 (二)紙ニ云フハ、鳥子紙ノ白キヲ、二枚合ハセタルモノナルベシ。 狹衣、二、下「[illegible]」

こほり-ぐゎし (名) 氷菓子 あいすくりいむノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

こほり-ごんにゃく (名) 氷蒟蒻 普通ニ製シタル蒟蒻ヲ、適宜ニ切リ、一週間、灰中ニ浸シ、冬日、深閑ノ田ナドニ、藁ヲ敷キテ、並ベ、一日、五六度、水ヲ注ギ、一週間、時時、裏返シテ、凍ラシメタルモノ、他物ト合ハセテ、煮テ食フ。靜岡縣ニテ、しみこんト云フ、しみどうふノ條ヲ見ヨ。

こほり-ざたう (名) 氷砂糖 砂糖ヲ、結晶セシメタルモノ。上品ノ白砂糖ヲ水ニ溶シ、煎ジテ、蒸發セシメ、鷄卵ノしろみヲ入ルレバ、滓、皆、浮ブヲ除キテ、青竹ヲ割リタルヲ、其中ニ入レテ成ル、純良ナルハ、潔白ニ固結リテ、氷ノ如クナレドモ、不純ナルハ、褐色ヲ帶ブ。是レハ、舊製法ナリ、今ハ、種種ナル新法、起レリ。 [illegible](享保、近松作)三、花紙[illegible]

こほり-すべり (名) 氷滑 氷ノ上ノ遊戲。仙臺ニテ、タッペエ。湖沼ナドノ、厚ク凍レル時、其氷ノ上ヲ、立チナガラ滑リ行クナリ。(こほりのはしヲ見ヨ)履クモノハ、下駄ノ、齒ナキモノ、或ハ、竹製ノモノアリ、近來ハ、西洋風ニ倣ヒテ、すけえとヲ履ク。スケエチング。

こほり-そば (名) 氷蕎麥 蕎麥切ヲ煮テ、水ニ漬ケ、嚴冬ニ、凍ラセテ、後ニ、乾シタルモノ、揚穴ニ入レ、熱湯中ニ浸シテ食フ。

こほり-だいこん (名) 氷大根 大根ヲ、

堅ニ、四割ニシ、茹デテ、水ニ漬ケオキ、縄ニテ結ヒテ、竿ニ吊シ、嚴寒ニ、三日程、日蔭ニテ凍ラセテ、後ニ乾シタルモノ、魚、芋ナドト、煮テ食フ。

こほり-づめ (名) 氷詰 魚、鳥、獸ノ肉ナドヲ、氷ヲ詰メテ包ムコト、數日、貯フルニ、腐敗ヲ防グガ爲ニスルコトナリ。

こほり-どうふ (名) 氷豆腐 豆腐ヲ切リテ、片トシ、笊ニ入レテ、熱湯ヲカケ、嚴寒ニ、一夜晒シテ、凍ラシメテ、後、又、日ニ乾シタルモノ、精進料理ニ、必用ノモノトス。コゴリドウフ。カウヤドウフ。シミドウフ。豆腐乾

こほり-の-くさび (名) 氷楔 〔楔ハ、打チ閉ヅルト云フ意ニ寄セテ云フナリ〕 氷ノ、凍リツキタルヲ云フ語。 後拾遺集、六、冬「岩間ニハ、氷のくさび、打チテケリ、溜集シ水モ、今ハ漏リ來ズ」 狹衣、三、上「一夜ノ程ニ、イトド閉ヂカサネテケル氷のくさびハ、足モ、イミジク堪ヘガタクテ、歩ミモヤラレタマハズ」 六百番歌合「山川ニ、氷のくさび、打チトケテ、岩ニ碎クル、水ノ白浪」

こほり-の-ころも (名) 氷衣 氷ノ如ク、透キ徹ル衣。 夫木抄、三十三、衣、夏ノ夜ノ、空近エワタル、月影ニ、氷の衣、着ヌ人ゾナキ」

こほり-の-つかさ (名) 郡司 郡司ニ同ジ。又、郡家。又、其大領。コホリノミヤツコ。 拾遺集、九、雜、下「郡のつかさ、頭白キ翁ノ侍リケルヲ、召シ勘ヘムトシ、云云」 宇治拾遺、九、第一條「郡の司ニ宿ヲ取レリ、云云、主ノ郡司」

こほり-の-つるぎ (名) 氷劒 こほりのやいば(氷刃)ノ條ヲ見ヨ。

こほり-の-なし (名) 凍梨 〔漢語、凍梨ノ訓讀、出典ヲ見ヨ〕 老人ノ面ノ皺ニ、垢アルヲ云フ語。 清輔倚齒倉記、序「膚ハ、こほりのなしニナリ」 詩經、大雅、行葦、傳「耇、凍梨也、賈云、凍梨色、似ニ老人面有ニ浮垢ニ」 說文「耇、老人面凍黎若ニ垢」

こほり-の-はし (名) 氷橋 信濃ノ諏訪ノ湖水ナド、厚ク凍レル時、人馬ノ、其氷ノ上ヲ渡リテ、行キ通フコト。今ハ、こほりすべりヲ行フ。 夫木抄、十七「駒トメテ、諏訪ノ門渡ル、旅人ノ、氷の橋ノ、音ノサヤケサ」 隆信集、日亙ユル、諏訪ノ水門ノ、徒渡リ、氷ノ上ニ、氷ヲゾ履ム(薄氷ヲ履ムガ如シニカク)

こほり-の-みやけ (名) 郡家 〔みやけノ條ヲ見ヨ〕 郡司ノ治所。音讀シテ、郡家トモ云フ、其條ヲ見ヨ。 天武紀、上、六「天皇、宿ニ于桑名郡家ニ」 同、下、十四年十一月「大角、小角、鼓吹、幡旗、云云、不ニ應ニ存ニ私家、咸收ニ于郡家ニ」

こほり-の-みやつこ (名) 郡造 〔常陸國風土記、多珂郡「評造」こほり(評)、并ニ、みやつこノ條ヲ見ヨ、こほのみやつこト云フハ、略ナリ(つくりだ、佃)」〕 コホリノツカサ。又、其大領。 雄略紀、廿三年八月「郡司」 孝徳紀、大化二年正月「郡、云云、大領、少領」 西宮記、四月「大領、古保乃ミヤツコ」 北山抄、三「領、古本ノミヤツコ」大領、大古本乃ミヤツコ」少領、須介ノミヤツコ」 催馬樂、我門「古保利ノ大領」

こほり-の-やいば (名) 氷刃 〔氷ノ如ク光ルニ云フ〕 磨ギスマシタル刀。氷の劒トモ云フ。 近松作ノ院本ニ、心中刃は氷の朔日ト云フ、アリ。

こほり-ぶぎやう (名) 郡奉行 (一)德川幕府ノ古キ職名。地方官ナリ、貞享ノ頃、郡代ト改稱シタルガ如シ。 延寶八年江戸鑑「御郡奉行、久永德兵衛(此職名、此後、見エズ)」 同書、御代官之頭、伊奈半十郎」 貞享五年武鑑「關東御代官伊奈半十郎」(郡代、初見) (二)仙臺藩ニテハ、郡部ヲ管スル職ヲ、明治前マデ、郡奉行ト云ヒ、代官ノ上ニアリキ。

こほり-みつ (名) 氷蜜 水ニテ溶シタル砂糖ヲ、適宜ノ火力ニテ煮ツメタルモノ。菓子製造ノ材料トシ、又、夏時、冷水ニ和シテ、飲料トス。甘露水。

こほり-みづ (名) 氷水 古言、氷水。水ニ、碎キ、又ハ、削リタル氷ヲ、加ヘタルモノ、夏日ノ飲料ナリ。

こほり-もち (名) 氷餅 餅ヲ、凍ラシメタルモノ。簡易ナル製法ハ、餅ヲ、方ニ切リ、水ニ漬ケテ、心マデ浸ミトホラセ、厚サ五分ホドニ切リ、寒夜ニ晒シテ、凍ラシメ、又、乾シテ成ル、茶碗ニ入レ、砂糖ヲ加ヘ、熱湯ヲ注ギナドシテ、食フ、淡泊ナル風味アリテ、病人ナドノ食料トモス。氷糕 歌林四季物語、六月「雪餅、氷餅ナド調ジテ、内藏ヅカサノカミ、奉ル」

こ-ほ-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 凍 氷 冰 〔こハ、凝ルノ語根(こごろノ語原ヲ見ヨ)ほるハ、集ル、止ル意(とどこほる、横ほり臥せる)〕 甚シキ寒サニ會ヒテ、凝リカタマル。(水、油ナドニ)凝固スルヲ、張ルト云フ、脹ルルナリ。凍ユ。凍ツ。凍ム。水ノ凍ルハ、寒暖計ニテ、華氏、三十二度、攝氏、列氏、零度ナリ。 允恭紀、元年十二月「所レ捧鋺水、溢而凝、不レ堪レ寒」 同、廿四年六月「御膳羹汁、凝以作レ氷」 萬葉集、一、廿九長歌「衾床ト、川ノ氷凝」 同、廿五「佐保河ニ、許保里ワタレル、薄氷ノ、序、薄キ心ヲ、我ガ思ハナクニ」 夫木抄、二「こほり垂シ、水ノ白波、立チカヘリ、春ノ宿訪フ、池ノ鶯鳥」 名義抄「凍、コホル、コル」同、水部「凝、コホル」

こ-ぼ-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 毀 壞 〔こはれるト通ズルナルベシ、他動ニハ、こぼつ〕 クヅル。アバル。ヤブル。コハレル。缺クル。 齊明紀、二年「作ニ石山丘、隨レ作自破」 萬葉集、十一、廿七「小墾田ノ、板田ノ橋ノ、壞者、桁ヨリ行カム、莫戀ヒソ吾妹」 土佐日記、二月十六日「家ニ入ルニ、云云、聞キシヨリモマサリテ、言フカヒナクゾこぼれヤブレタル」(數年ニシテ、舊宅ニ歸リタルナリ) 名義抄「毀、コボル、ツユ、クヅル」同「壞、コボル、ヤブル」「刀ノ刃、こぼる」

こ-ぼ-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 零 溢 翻 (一)落チ、流ル。溢レ出ヅ。 名義抄「溢、コボル」 源、二、帚木、十三「忍ブレド、涙、こぼれソメヌレバ」 新古今集、四、秋、上「アハレイカニ、草葉ノ露ノ、こぼるラム、秋風立チヌ、宮城野ノ原」 (二)落チ、散ル。 後撰集、一、春、上「梅ノ花、折レバこぼれヌ、我ガ袖ニ、匂カ移セ、家苞ニセム」 枕草子、九、九十八段「風ノ、イタウ吹クニ、黄ナル木ノ葉ドモノ、ホロホロトこぼれ落ツル、イトアハレナリ」 四段ニモ活用セシモノカ。 神樂歌、早歌「女子ノ財ハ、霜月極月ノ、搔キ古保里」(稻ノ落穗ヲ拾ヒテ、所得トスルナリ) (三)漏レ、出ヅ。 菅家萬葉集、上、春「淺緑、野邊ノ霞ハ、ツツメドモ、こぼれテ匂フ、花櫻カナ」 新古今集、二、春、下「誰ガタメニ、明日ハ殘サム、山櫻、こぼれテ匂へ、今日ノ形見ニ」 (四)餘リ、出ヅ。 源、七、紅葉賀、十八十九「愛敬、こぼるるヤウニテオハシナガラ」御櫛、イトメデタク、こぼれカカリタルヲ、搔撫デテ」 同、廿三、初音、廿七「イヅレモ、イヅレモ、劣ラヌ袖口ドモ、こぼれ出デタル」 孟津抄「所ノ所所ニ、兩方へ、袖口ヲ出スモノナリ」 宇治拾遺、十一、第八條「車ニ乗リこぼれテ、遣リ寄セテ見レバ」

こぼれ (名) [零] コボルルコト。落チ、散リタルコト。「米ノこぼれ」

こぼれ・うめ (名) 零梅 模様ノ名、梅花ノ、零レ散リタルヲ圖ス。梅ノ落花。大職冠雅物語(元祿、近松作)五「春風ヤ、花ノ盛リノ、コボレ梅ニ、こぼれ梅」

こぼれ・お・つ ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (自動、上二) (一)コボレテ、落ツ。溢レ落ツ。伊勢物語、八十七段「石ノ上ニ走リカカル水ハ、小柑子、栗ノ大キサニテ、こぼれ落つ」 (二)隕ヲ附ク。太平記、二十七、「南朝宮方ノ如ク、天下ノ武士、皆こぼれ落ちテ、附キ隨ヒ進ラセンズラン」

こぼれ・さいはひ コボレ・ザイワイ (名) [零幸] 圖ラザルニ遇フ、幸福。マグレザイハヒ。僥倖 「…こぼれさいはひ…見シ、日モトノシホノ、身ニシミテ」

こぼれ・まつば (名) 零松葉 松ノ落葉。模様ナドニ、松葉ニ落チタルサマナリタルヲ圖ス。

こぼれ・もの (名) [溢物] 水、酒ナド、溢レ零レヤスキモノ。液體物。

こぼ・れる (動) 零 こぼる(零)ノ口語。狂言記、鎧酒「イヤ大盃ヂャ、云云、オウ、アルハ、こぼれる、こぼれる」

こほろぎ コホロギ (名) 蟲ノ名、今ノきりぎりすニテ、其聲ノぎいすちト聞ユルモノ、きりぎりす(螽斯)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(古今、相反セリ) 螽斯

こほろぎ コホロギ (名) 蟲ノ名、古名、きりぎりす。長サ六七分、幅三四分、兩鬚、六足アリテ、足ト身トハ、油色ナリ、雄ハ、背ニ黑ク薄キ翅アリテ、長サ、身ニ同ジクシテ、紋脈アリ、飛ブコト能ハズ、只、後ノ長脚ニテ跳ネル、後ニ、二尾アリ、瓦石ノ間ノ土中ニ棲ミ、立秋ヨリ、夜、鳴ク、聲、高クシテ、りいりいト云フガ如シ、雌ハ、翅、短クシテ、鳴カズ、二尾ノ間ニ、褐色ナル一針アリ。京都ニ、イトド。[蟋蟀] 一種、京ニ、こほろぎト云ヒ、東京ニ、えんまこほろぎト云フハ、形、大キクシテ、雄ニモ三尾アリ、全身、深褐色ニシテ、原野ニアリテ、晝、鳴ク、聲、高ク、抑揚アリテ、聞クニ堪フ。油胡盧 萬葉集、八「タツクヨ、心モシヌニ、白露ノ、オク此ノ庭ニ、蟋蟀鳴クモ」(流布本ニハ、きりぎりすト讀ゼリ) 同、十「秋風ノ、寒ク吹クナベ、ワガ宿ノ、淺茅ガモトニ、蟋蟀鳴クモ」(流布本ニハ、きりぎりすト訓ゼリ)

こま (名) [駒] 〔子馬ノ義〕 (一)馬ノ子。倭名抄、十一、牛馬類「駒、馬子也、古名、小馬也」說文「馬、二歲曰レ駒」 馬術家ニテハ、馬ノ、丈ノ、四尺ニ足ラヌヲ、駒ト云フ。 (二)轉ジテ、尋常ノ馬。(「駒ハ、小馬ナレド、唯、うまト同ジク詠メリ」) 萬葉集、十二 三十五「イデ吾ガ駒、早ク行キコソ、眞土山、待ツラム妹ヲ、行キテ早見ム」 同、十三 三十六 長歌「赤駒ノ、廐ヲ立テ、黑駒ノ、廐ヲ立テテ、彼レヲ飼ヒ」 同、十九 長歌「西ノ廐、立テテ飼フ駒、東ノ廐、立テテ飼フ駒」

こま (名) [駒] 〔漢語ニ、棋馬、馬子ト云フニ因ル〕 (一)馬トモ云フ。將棋ノ盤ノ上ニテ用ヰル具、今、用ヰルハ、木ニテ、小サク作ル、方ニシテ、長ク、上、薄ク、下、厚ク、頭ノ中央、尖ル、將棋頭ト云フ、駒ニ、大、小、數十アリ、互ニ動カシテ、鬪ハシム。しやうぎ(將棋)ノ條ヲ見ヨ。棋馬 棋子 長秋記、大治四年五月廿日「新院御方、有二雙六御占一、賽具二將棊馬一、其數十二也」 御湯殿の上の日記、文明四年五月五日「太閤ヨリ、云云、將棋ノむま、王將ヲ改メテ、大將ニ直サレ候ヘノ由、申サルル御心バヘアリ」 合類節用集(元祿、七、器財門)「基子、將棊所、駒、借用二此字一」 (二)雙六ノ盤ノ上ニテ用ヰル具、古クハ、うまト云フ。(其條ノ(二)ヲ見ヨ)コレノ、賽ノ目ニ出ヅル數ニ因リテ、動カシ進ル、而シテ、象牙、水牛ノ角ナドニテ作リ、小サク圓クシテ、扁シ。

こま (名) [駒] 〔絃ノ乘ル物ノ意カ〕 三味線ノ柱。胴ノ皮ノ上ニ据エテ、絃ヲ承ケテ、張ラシムル具、象牙、水牛角、竹、ナドニテ作ル、形、極メテ小サキ欅枕ノ如シ、內ヲ透彫ニス。又、棹ノ糸倉ニ接スル所ニ設クルヲ、上駒ト云フ、金屬、竹ナドノ細小片ヲ、棹ニ膠附ニス、厚サ二厘バカリナリ、但シ、第二絃、第三絃ヲ承ケテ、棹ニ着クヲ支フルノミ、第一絃ハ、承ケズ。「かレナバ、うはきニナラム、三絃ノ、駒モのり地ニ、狂フ糸道」

こま (名) [小馬] 〔古名ハ、イバフミミノモノ(英語ニ云フ、Pony. ナリ)應神天皇ノ御代ニ、百濟國ヨリ大馬(約メテ、うま)ノ渡リタリシニ對シテ、小馬ト呼ビ、舊名ハ滅ビタリトオボシ、神代紀ノ駒、古事記ノ御馬ノ旁訓ハ、追記ナリ〕 我ガ國、神代ヨリアリシ、一種ノ、體格、矮小ナル馬、果下馬トモ云フ。(其條ヲ見ヨ) 神代紀、上 古事記、上 雄略紀 今モ、土佐ニ存セリト云フ。古事談 貞觀ノ小馬ニ乘リテ、午ニ騎馬ニ出入、云云、此ハ、馬ニハ候ハズ、足駄ニテ候ヘバ、可、云云、宇治殿合人ノ頭給ヒテ、云云」

こま (名) [小閒] 暫シノ閒。隙。アヒマ。少隙 新六帖、五「世ノ中ニ、稀ナル色ノ、高麗錦、アヒマこまニ、妹ヲアヒ見ム」 (序「イカナルこまニ」) 仙臺ニテ「イツノこまニ來タ」

こま (名) [小閒] 江戸時代ニ、江戸市民ニ課セタル役錢、貸地取上金、一箇月ニ付キ、一兩ヲ得べキ區域ノ稱、此小閒ノ數ニ應ジテ、種種ノ費用ヲ割付ケラレタリ、コレヲ、閒小閒、小閒割ナド云ヒキ。

こま (名) [木閒] 木の閒ニ同ジ。樹樹ノ閒。樹閒 萬葉集、廿 打チナビク、春トモ著ク、鶯ハ、植木ノ樹閒ヲ、鳴キワタラナム」 拾遺集、八、雜、上「夏月ノ、こまヨリ遲ク、出デツレバ、タドルタドルゾ、山ハ越エケル」(駒ニカケタリ、こまひきノ條ヲ見ヨ) 蜻蛉日記、中、中「上ゲタル簾ドモ、打チオロシテ見ヤレバ、こまヨリ、火、ニトモシ、三トモシ見エタリ」

こま (名) [猫] 猫ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

コマ (名) [高麗狛貊] 〔高麗ハ、百濟ト共ニ、貊ト云フ人種ヨリ出ヅ、後漢書、東夷傳「句驪、一名、貊耳」說文「貘、似レ熊而黄黑色」段注「貘、亦作レ貊、作レ狛」朝鮮語ニ、熊ヲ、こむト云フ、倭名抄、五「武藏國、高麗郡「古末」」〕 (一)古ヘ、今ノ朝鮮ノ西北ニアリシ國ノ號、又、高句麗。高麗、(三韓ノ條ヲ見ヨ)此國、古ク、來朝セシガ、天武天皇ノ御代ニ絶エタリ。其國ヨリ傳來セシ物事ニ冠シテ、狛劍、高麗錦、高麗樂、高麗笛、高麗人、狛犬、ナド稱ス、然レドモ、其國亡ビテ後ニモ、朝鮮全半島ノ稱呼トナレリ、奈良朝、平安

朝初世ノ頃、高麗ト稱セシハ、皆、然リ、源、三十二、梅枝「こまノ紙ノ薄様ダチタル」ナドアルモ、是レナリ、然ノミナラズ、續紀、三十七、寶龜七年十二月ヨリ、明年正月ニワタル、來朝渤海國ノ使ヲ、文德實錄、一、嘉祥三年五月ニ「寶龜八年、高麗國遣レ使修レ聘」トアリ。(渤海ヘ、古ヘ、高麗ノ北ニアリシ國ナリ)源、一、桐壺「其頃、高麗人ノ參レル」ナドアル、延喜ノ頃ナルモ、是レナリ。後世、豐臣氏ノ征韓ヲ、高麗入ト云ヒ、高麗烏、高麗燒ナド云フ、皆、朝鮮ヲ云フナリ。(二)こまぬりノ條ヲ見ヨ。

コマ (名) 獨樂 〔こまハ、高麗ノ軍兵歌舞興レ樂、樂ヲナス、此ノ樂ヲ、日本紀ニ、こまト訓ゼリ(外來語辭典)其技ノ廻轉スルヨリ轉ジテ、玩具ノ稱トナレリ、尚、こまつぶりノ條ヲ見ヨ〕 古名、コマツブリ。兒童ノ玩具ノ名、數種アリ、螺ノ殼ノ尻ノ尖レルトコロヲ、圓ク摩リ、紐ヲ卷キテ、地ニ立テテ、紐ヲ強ク引キテ廻ハシ、ナホ、紐ニテ鞭チテマハスヲ、貝ごまト云フ、是レ、原始ノモノナリ、下略シテ、ばいトノミモ云フ。 陀螺 又、白木ヲ、高サ二寸バカリニ、圓筒形ニ造ル、胴ト云フ、其底ヲ尖ラセ、貝ごまノ如クニ、打チテ廻ハスヲ、不精ごまト云フ、打タネバ廻ハラヌ故ノ名ナリ。又、小サク扁ク圓キ木ヲ胴トシ、中央ニ竪ニ、鐵ノ軸ヲ貫ク、心ト云フ、心ノ下端ニ紐ヲ卷キテ、強ク引ケバ、軸ニ立チテ廻ハルモノヲ、博多ごまト云フ、其創製地ノ名ナリ、今專ラ、こまトノミ云フ、是レナリ。 惜千千 又、唐ごまト云フアリ、竹筒ヲ二三寸ニ切リ、上下ヲ桐板ニテ塞ギタルヲ胴トシ、細ソキ竹ヲ心トシ、胴ノ側面ニ穴ヲ穿チオキ、紐ヲ心ノ上端ニ卷キ、紐ノ末端ヲ、別ニ、竹片ニ穴アルモノニ通シ、竹片ヲ心ニ當テテ、強ク紐ヲ引キテマハスニ、胴ノ穴、風ニ觸レテ、高キ音ヲ發ス、其形、相似タレバ、半鐘ごまトモ云ヒ、音ニ因リテ、ぶんぶんごまトモ云フ。 空鐘 名物六帖(正德)器財、三「陀螺(帝京景物略)」 和爾雅(元祿)五、嬉戲具「陀螺、バイゴマ、ブシャウゴマ」 尤の草紙(慶長)めぐる物「叩ケバメグルぶしやうごま」 好色一代男(天和、西鶴)五「ヨイ年ヲシテ、螺マハシ、云云、子供心ニナリテ、立チサワギ」 和漢三才圖會(正德)十七、嬉戲「海螺弄、云云、用二海螺空殼一、研二平頭尖一、實二圓凡尖一、卷二縧纏一、引二舞之席盆中一、近世、筑前博多閙樂、削レ木如二薄餅形一、大可レ拳、以二鐵釘一爲レ心」 通雅「惜千千、轉輪戲也」 南宋市肆記、兒戲、惜千千「形扁丸有レ臍、以レ繩卷而放レ之、其轉不レ已」 帝京景物略、空鐘「刳レ木中空、云云、卓レ地如二仰鐘一、云云、繩而疾轉、大者聲如レ鐘」 和爾雅、五「空鐘」 嬉遊笑覽、六、下、兒戲「漢土、空鐘ト云フモノハ、たうごまナリ、云云、其聲、ぶんト鳴ル故、江戸ノ小兒ハ、ぶんぶんごまト云フ、安齋云、藝目ノ音ハ、小兒ノ弄ブたうごまトテ、竹ニテ作リ候、コレト同ジ音ニテ候、漢土ニ、惜千千ト云フ物ハ、コレ今ノはかたごまナルベシ」 綴山の井(寛文)夏虫「たうごまノ、花ノウナルヤ、虻ノ聲」

こま (接頭) 細 コマカキ。ササヤカナル。「こま物」こま結ビ」こま使ヒ」

ご-ま (名) 胡麻 〔倭名抄「胡麻、本出二大宛一、故以名レ之」箋注倭名抄、九「胡麻、栽在二本草經一、恐非三本出二大宛一、蓋、胡之言、烏也、以二其色黑一、有二是名一」サラバ、うごまト云フハ、烏胡麻ナルカ、重言トナレド、胡麻ノ語原ハ、知ラレズ、又、忘レラレタルナリ、淡海の海、雁音の聲ノ類カ〕 (一)〔又、ウゴマ。穀ノ類。莖、方ニシテ、直上スルコト二三尺、葉、長クシテ、對生ス、三尖ニシテ、蕁ノ葉ノ如シ、夏、葉ノ間ニ花ヲ生ズ、地黃ノ花ノ如クニシテ、白色ニ、紫ヲ帶ブ、後、角ヲ結ブ、長サ八九分、子、熟スレバ、黑シ、六稜、八稜ナリ、類名ニ對シ、黑胡麻ト言ヒ別ツ。(次次條、幷ニ、ごまのあぶらノ條ヲ併セ見ヨ) 巨勝子 又、二稜、四稜ナルハ、白ごまナリ。 白油麻 又、子ノ色ノ黃ナルヲ、あぶらごまト云フ。 黃麻子 倭名抄、十七、麻類「胡麻、音、五萬、說云、宇古末」 醫心方、一六十「胡麻、宇古末」 宇津保物語、藤原君「うごまハ、油ニシボリテ賣ルニ、多クノ錢出デ、云云」 (二)胡麻點、幷ニ、節博士ノ條ヲ見ヨ。 (三)ごますりノ條ヲ見ヨ。

ゴマ (名) 護摩 〔梵語、護摩(Homa.)焚燒、又、火祭ト譯ス、希麟音義「護魔二字、或云二呼麼一、梵語也、唐云二火祭一」 一切煩惱ノ根本ヲ燒滅スル意〕 ケシヤキ。ケシタキ。眞言宗ニテ修スル行法。護摩ノ法ニ、息災、增益、降伏、鉤召、敬愛、ノ五種アリ、各、其目的ニ因リテ行フ、多クハ、不動尊ヲ本尊トシテ、安置シ、其前ニ、護摩壇ト云フヲ設ケ、中央ニ、火爐アリ、護摩木トテ、檀木、乳木(ぬるでノ木)ト云フ、長、短、二種ノ薪木ヲ焚キ、香、五穀、芥子、蘇油、等ノ供養物ヲ捧ゲテ、修法ス。 護摩ヲ修スルニ設ケタル建物ヲ、護摩堂ト云フ。 大日經疏、十五「護摩、是、燒義也、由二護摩一能燒二除諸業一」

ごま-あへ (名) 胡麻韲 胡麻和 茹デタル蔬菜ヲ、胡麻ニアヘタルモノ、茹デタル介肉、刻ミタル生魚肉ヲ加フルモアリ。ゴマヨゴシ。黑胡麻ノ子一合ヲ洗ヒ、炒リテ、胡桃四五粒ト共ニ擂リ、白砂糖十五匁ト、醬油三勺ヲ、少シヅツ入レテ、又、擂リ、裏漉ニシテ、用キル。 白胡麻ニテ作ルヲ、まらあへト云フ。「そぬきノこまあへ」

こ-まい (名) 古米 (一)フルゴメ。ヒネマイ。 陳米 (二)前年ニ穫リタル米。(今年ノ新米ニ對ス)

こま-い (形) 細 (一)コマカシ。コマコイ。 (二)チヒサシ。 細小

ごまい-がさね (名) 五枚襲 いつつきぬ(五衣)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

ごまい-かぶと (名) 五枚兜 錏ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 平治物語、一、源氏勢汰「左馬頭義朝ハ、赤地ノ錦ノ直垂ニ、黑絲縅ノ鎧ニ、鍬形打チタル五枚兜ノ緒ヲシメ、イカ物作ノ太刀ヲ帶キ」

ごまい-ざさ (名) 五枚笹 (一)竹ノ一種、丈、低クシテ、叢生シ、一莖ニ、五枚ヅツノ葉アリ。 (二)紋所ノ名、五枚ノ笹ノ葉ヲ描キタルモノ。

〔コマ-いぬ (名) 狛犬 〔支那ニテ兕ト云フ、蒼黑色、一角ノ獸ノコトナリ、其皮、堅ケレバ、甲ニ作リシト云フ(賢聖障子ノこまいぬニモ、一角アリ)左衞門府式「凡大儀之日、居二兕像於會昌門左右一、事畢、返二收本府一」註「右府居レ右ニ(大極殿正面南門)治部省式、祥瑞「兕」註「形如レ牛、蒼黑色、或、青色、有二一角一」爾雅、釋獸篇「兕、似レ牛」註「一角青色」疏「其皮、堅厚可レ制レ甲」周禮、冬官篇、考工記、函人、注「兕甲、壽二二百年一」倭訓栞ニ、狛犬、其初、高麗ヨリ渡リシモノノ由ヲ云ヒ、御卽位ノ時、承明門ノ左右ニ、銅犬ヲ

置カセラルルモ、是レナリトアリ(紫宸殿ノ[illegible]ノ國ヨリ傳ハリシヨリ、其國ノ犬ナリト見テ、狛犬ト[illegible]、[illegible]犬ト云フ、[illegible]曲アリ)兕ヲ、祥瑞ノモノトシ、皮ヲ、堅甲ニ作ルト云ヒ、犬ハ、善ク衞リ、魔物ヲ攘フト云フヨリ、[illegible]ノ具トスル[illegible]ベシ、獅子ハ、天竺ニテ、猛獸ヲ畏怖セシム[illegible]ニ入リ[illegible]ノ[illegible]ナリトシ、[illegible]ノ前ナドニ飾ラル、我ガ國ニテ、獅子ヲモ、[illegible]、又獅子ト、狛犬トヲ對セシムルハ、ソレニ傚ヘルナラム、平安朝以後ノ事トオボシ、紫宸殿ノ賢聖障子ハ、著聞集、十一ニ「寛平ノ御時、始メテ書カレケル也」トアリ、是レ等ゾ、[illegible]、獅子ノ中[illegible]、左ニ獅子、右ニ狛犬ヲ圖シテ、一角アリ(左右ノ別ハ、[illegible]、唐樂、高麗樂ヲ左右トスル例ナルカ)狛犬ノ[illegible]、猛猛シクテ、獅子ニ似タリ、是レ、相、對セシメ、邪魅ヲ[illegible]セシムベキ創意ナルベシ」(二)彫リ成セル、獸形ノモノ、一角アリ、[illegible]ニ作リテ、相[illegible]、[illegible]ノ儀式ノ時、[illegible]ノ正面[illegible]門ノ左右ニ居エ、或ハ、同形ノ[illegible]獅子ノ像ト、相向ハシメ、[illegible]、獅子トモ云ヒ、[illegible]人ト[illegible]、[illegible]獅子ト[illegible](獅子ノ條ヲ見ヨ)又、木石ノ獅子ノ一對ノモノアリ、東大寺、南大門ノ[illegible]ノ如キ、是レナリ、又、諸神社ノ前ナルニ、牝牡獅子狛犬ナルアリ、或ハ、獅子狛犬ナルアリ、俗ニ、[illegible]、こまいぬ、こまいぬト云フ。[illegible](狛犬也)」[illegible]圖ヲ見ルニ、一角アリテ、後ニ向ヘリ) 宇津保物語、[illegible] (大治)四「后宮御料、用二落床一時者、云云」註「左、師子、[illegible]色、口開、右、狛犬、[illegible]色白、不開口、在角」(白色ニスルハ、狛ノ字ノ、析キテ、白犬ト見タルニ因ルカ、口ノ開合ハ、仁王ノ阿吽ニ取レルナリ) [illegible]師子狛犬[illegible] 花物語、十、日蔭鬘「御帳ノソバノ、志志、こまいぬノ[illegible]モ、ナソロシゲナリ」[illegible]也[illegible] (二)高麗樂ノ樂曲ノ名。 倭名抄、四「高麗樂曲、狛犬」

こまう (名) 虛妄 〔虛ノ呉音、こ〕 佛教ノ語、ソラゴト。イツハリ。ウソ。 法華[illegible]

ごまう (名) 語孟 論語ト、孟子ト。經學ニ入ルニ、主要ナル書トセラル。[illegible]

コマ-うど (名) 高麗人 こまびとノ條ヲ見ヨ。 催馬樂、石川「石川ノ、古末宇止ニ、帶ヲ取ラレテ、辛キ悔イスル」

コマ-がく (名) 高麗樂 舞樂ノ一種、高麗國ヨリ傳ハリタルモノ、コレニハ、壹越調、平調、雙調、ノ三曲調アリ、唐樂ニ對シテ、右樂、又ハ、右方樂ト稱ス。[illegible]記、八年[illegible]「コマ」トアリ、高麗樂ナリ) 續紀、十一、天平三年[illegible]四人」

こまか-し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 細 〔細かみ、こまかし〕 (一)細カニテアリ。(粗しノ反)甚ダ、小サシ。コマイ。コマコイ。「[illegible]クコト、[illegible]、こまかし」「こまかく刻ム」 (二)勘定高シ。シハシ。

ゴマ-か・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 護摩化 〔ごまのはひノごまニ、まぎらかす、だまかすナドノ、かすヲ附ケアハセタルナドニハアルマジキカ〕人目ヲ紛ラカス意ヲ云フ、卑語、タブラカス、瞞着。「[illegible]ノ勘定ヲごまかす」

こまかた (名) 駒形 〔形ハ、繪ナリ〕馬ノ身ヲ畫ケルモノ。(馬形ヲ參見セヨ) [illegible] 東京、淺草、並木町ノ東、大川端ニ、駒形堂ト云フアリ、馬頭觀音ヲ安置ス、往時ハ、淺草寺總門ノ入口ノ繪馬堂ナリシト傳フ。[illegible]「此堂ハ、二間四面ニテ、南向ナリ、本尊ハ、馬頭觀音、今ハ、西向トナレリ」

こまかた (名) 駒形 舞樂ノ一種。[illegible]使、十、[illegible]シテ、[illegible]ヲ供シケリ、次ニ、羅陵王、駒形ヲ奏ス」

こまかた (名) 駒方 駒ヲ牽ク者。馬方。 宇津保物語、[illegible]

こまか-み (副) 細 〔こまハ、小間ニテモアルカ、みハ、副詞ヲ形作ル接尾語、此語調ニ起ルカ〕(一)甚ダ、小サク。(定かみ、静かみ)俗ニ、おほまかトニ云フ。[illegible] (二)精シク。詳カニ。コマヤカニ。 宇津保物語、[illegible] (三)懇切ニ。 伊勢物語、九十四段「子アル中ナリケレバ、こまかにコソアラネド、時時、物言ヒオコセケリ」(四)勘定高サニ、シハク、ケチナ

こまか-ねり (名) 細練 ねる(邌)ノ條ヲ見ヨ。 名目抄[illegible]「ねり上マル時ハ、右ノ足、こまかニ、左ノ足ヲアゲテ、ねりアユム」

こまがへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 若返 〔子めきかへるノ約ナル、こめかへるノ轉ニモアラムカ(天離る、あまさかる。爪つく、つまづく)俗ニ、二度幼稚ナドト云フ語モアリ〕若がへるニ同ジ。變若ル。若ユ。 宇津保物語、[illegible]「[illegible]」 玉葉、廿二「例ナラズ、ヤモメ人ノ、引キタガヘ、こまがへるヤウモアリカシ」 小町踊(寛文)[illegible]「[illegible]こまがへりテヤ、若エビス」

ゴマ-ぎ (名) 護摩木 乳木ノ條ヲ見ヨ。

こまく (名) ［鼓膜］ 〔鼓動ノ膜〕 耳ノ底ニアル、薄キ膜、物ノ響ヲ、空氣ノ振動ニ因リテ、コレニ傳フ。

ごま-ぐさ (名) ［胡麻草］ ごまのはぐさニ同ジ。

こま-くら (名) ［木枕］ 木枕ニ同ジ。萬葉集、二十四「家ニ來テ、吾ガ屋ヲ見レバ、玉床ノ、外ニ向キケリ、妹ガ木枕」同、十一五「結ヘル紐、解キシ日遠ミ、敷妙ノ、吾ガ木枕ニ、苔産シニケリ」

こま-くら (名) ［小枕］ くくり枕ノ、小サク、長キモノ、あづち枕ノ上、項ニアタル處ニ置キテ、紐ニテ結ヒツク。

こま-くら (名) ［小枕］ 〔髻ノ下ニ支フ小サキ枕ノ意ナルベシ〕 女ノ髻ノ中ニテ、髻ノ根ニカヒテ用キル具、木ニテ、高サ五分バカリニ、小サク、圓ク、扁ク、作ル。下女ナドハ、附木ヲ輪ニシテ用キタリ。栄花咄（貞享、西鶴）「長カモジ、小まくら、平元結」枕盃踊ノ唄「黒髪ノ、中ニ卷キコム、小枕ヤ、括枕ヤ、木枕ヲ、云云」（嬉遊笑覽、一、下）後世ハ、小枕附ト云ヒテ、髻ノ根ニ、作附ニス、今モ、然リ。

こまくら-づき (名) ［小枕附］ 前條ヲ見ヨ。

こま-くらべ (名) ［駒競］ 或ル區域間ヲ限リ、乘リタル馬ヲ馳驅セサセテ、着順ヲ爭ヒ、勝負ヲ決スルコト。競馬。栄花物語、廿三、こまくらべ「關白殿、高陽院殿ニテ、こまくらべセサセ給ヒテ」

こま-け (名) ［區分］ 〔細分ノ約〕 細カニ、分ケタルモノ、細別。源、廿一、少女五十「女房ノ曹司マチドモ、宛宛ノこまけゾ、大方ノ事ヨリモ、メデタカリケル」湖月抄「孟津抄、宛宛細分、節、メ、シメ、シノ、ナボシアテテ、こまやかニサセタマヒケルトナリ」宇津保物語、吹上、下四「此方ニハ、透箱ヨリ始メテ、ソコバクノこまけノ物、皆トラセタマフ」

こま-け・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) ［細］ 〔こまけハ、こまかト通ズ、速やか、すむやけし〕 コマカナリ。コマカシ。字鏡六三十「嬰、柔泥也、古萬介志」

こま-げた (名) ［駒下駄］ 〔下駄ニ、駒の爪ト云フアリ、其條ノ（一）ヲ見ヨ〕 臺、齒、共ニ、一木ニテ刳リ作レル下駄。壽門松（享保、近松作）中「御菊ガ見舞フ駒下駄ニ、飛石傳フ足音ノ、サア是レヂヤト」

こま-こ・い (形) ［細］ 〔こまかしノ轉、一遍かぎり、いッぺんさッきり〕 こまかしノ田舍詞。

こま-ごま-と (副) ［細細］ （一）甚ダ、細カニ。蜻蛉日記、上、下三「オボツカナキ事ナク、一卷ニ、こまごまと書キテアリ」宇治拾遺、三、第五條「薬ヲ、こまごまと切リ入レタリ」 （二）委シク。ツマビラカニ。詳細 竹取物語「カグヤ姫ヲ、エ、戰ヒトメズナリヌル事ヲ、こまごまと奏ス」狹衣、三、中三十九「宮ノ御前ニ、こまごまと語リ聞エサスレバ」

こま-ざくり (名) ［駒疏］ うまざくりノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

こま-ざらひ (名) ［竹杷］ 〔木間浚ニテ（木間ノ條ヲ見ヨ）樹間ノ木葉ヲ浚フ義、或ハ、細杷ニテ、木杷ヨリ、齒ノ、細カキ意カトモ云フ、さらひ、さらへ、共ニアリ、各條ヲ見ヨ〕 木杷ノ、竹製ナルモノ。枯レ落チタル木ノ葉ヲ、掻キ浚フニ用キル。コマザラヘ。コノハガキ。マツバガキ。 増補、下學集（寛文）下、器財門、木間攔、コマサラヒ」和漢三才圖會、三十五、農具「竹杷、古乃波加岐」東雅、九、新「木杷ヲ、さらひト云ヒ、竹杷ヲ、木間さらひトモ、木葉かきナド云フ」成形圖説（文化）十三、農事「木間佐良衣、木葉杷」松葉杷」東寺文書、八「三百廿文、こまざらへ代」（松屋筆記、三）

こま-ざらへ (名) ［竹杷］ 前條ヲ見ヨ。

ごま-しほ (名) ［胡麻鹽］ （一）炒リタル黑胡麻ノ子ニ、炒リタル鹽ヲ雜ゼ合ハセタルモノ、黑、白、相、混ズ、強飯ナドニ撒キテ食フ。俚言集覽、胡麻鹽「物ノ滑雜スルヲ云フ、又、棋石ノ白黑ヲ、笥ニ入ルルヲ云フ」 （二）黑髮ニ、白髮ノ、雜リテ生ヒタルヲ、嘲リテ、ごましほあたまナド云フ。シラガマジリ。斑白

ごましほ-あたま (名) ［胡麻鹽頭］ 前條ヲ見ヨ。

コマ-じゃく (名) ［高麗尺］ こじゃく（尺）ノ條ヲ見ヨ。

こま-じゃく・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔細さくじるノ轉ナラム〕 小賢シクフルマフ。オハジケル。（兒童ニ云フ） 娘敵討加留多（正德、近松作）二「經正殿モ、こまじゃくれテ、十四ノ春カラ、聲ガハリ」 名詞トシテ、こまじゃくれト云ヒ、急呼シテ、こまっちゃくれナド云フ。小慧

こま-じゃくれ (名) 前條ヲ見ヨ。

ごま-じる (名) ［胡麻汁］ 黑胡麻ノ子ノ、炒リテ擂リタルヲ、味噌汁ニ雜ゼタルモノ。「狸ノごまじる」

ごま-すり (名) ［胡麻擂］ 「擂鉢ノ内ニテ、炒レル胡麻ノ子ヲ擂リ潰スニ、鉢ノ四方ニツク、みそすりニ同ジ」 アチラニモ屬キ、コチラニモ屬キ、彼人ニ諂ヒ、此人ニ諂フ者ヲ呼ブ、俗語。ウチマタガウヤク。動詞トシテ、ごまヲするトモ云フ。

こま-せん (名) ［駒錢］ こまひきぜにノ條ヲ見ヨ。

こま-た (名) ［小股］ 〔狹キ股ノ義〕 狹ク跨ギ歩ムコト。（大股ニ對ス）「小股ニアルク」

こま-た (名) ［小股］ 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 股ト云フニ同ジ。狂言記、文相撲「右ヲモッテ左ヘ廻ハシ、左ヲモッテ右ヘ廻ハシ、小股ニカケテ、ズデイドウ」「こまたヲクグル」こまたヲ取ル」こまたヲスクフ」 こまたの切れあがッた、ト云フハ、女ノ背ノ、スラリト、高キヲ云フ。

こま-た (名) ［叏］ 〔片假名ノ「コ」ト「又」ノ字トノ意、叏ヲ「ル又」ト云フニ對ス〕 漢字ノ旁ニアル、叏ノ字ノ稱。假、蝦、瑕、ノ如シ。

ゴマ-だう (名) ［護摩堂］ 護摩ノ條ヲ見ヨ。

ごま-だけ (名) ［胡麻竹］ 〔皮ノ斑、黑胡麻ノ子ニ似タリ〕 淡竹ノ一種、幹ノ肌ニ、紫黑色ノ斑アルモノ。賤のをだまき（享和）「銀煙管ノ、タップリトシタルニ、ごま竹ノ白竹ノラウヲスゲ」

ゴマ-だん (名) ［護摩壇］ 護摩ノ條ヲ見ヨ。

こまち-あぶら (名) ［小町油］ 次次條ヲ見ヨ。

こまち-ばり (名) ［小町針］ めどノ無キ針。海錄（文政、天保、山崎美成）十二、六十八「小町針、みぞノナキ針ヲ云フ、例ノ、穴なしヨリ出デタル名ナリ、云云、人ノ閨ニ、彫ものヲスル時ニ用フル故ニ、今ハ禁制ニテ、晴レテハ、賣ラズ」

こまち-べに (名) ［小町紅］ 〔小野小町ハ

美人ナリトテ云フ、ニ因リテ云フナラム、小町紅ト云フモ、同意ナリ」 口紅ノ異名、其品唐ニテ作ルニテ云フナリ。すき油ニ、小町油ト云フモアリ。

こまちをどり (名) 〔小町踊〕 〔嬉遊笑覧、五、上「小町ハ、小サキまちめ(町女)ト云フ義ナリ、ソノウヘ、小野小町ナドノ美シキ意ヲカネテ云フナリ」〕 徳川時代ノ往時、七月七日ノ晝、市中ノ少女ドモ、町毎ニ、衣ニ着ラビテ、連リナガラ、太鼓ヲ叩キ、拍子ヲ取リテ、唄ヒ歩キシコト。七夕踊ノ類ナリ。 貞德俳諧(?)「(■イ■レ、小町をどりヤ、伊勢踊)」 石田未得(貞德門人)ノ狂歌「かけラレテ、踊返シノ、キタルコソ、小町をどりノ、歌ノサマナレ」 俳諧五節句(貞享)「踊ハ、云云、蔵ハ、花簾、云云、是レハ、昔ノ太鼓、■■ノ、■毎ニ開キ、■■ノ鉢巻、■ヲ、■ヨリブラサゲ、結びだすきト名付ケ、都ノ大路ヲ、日傘サシカケテ、踊ヲかけニ、近付ノ門ニテ踊ルナリ、是ヲ、小町踊ト云フ」 續江戸砂子(享保)七月、小町踊「十二三以下ノ少女、■■、■■ヤウノモノヲ、襟ニカケ、■トシ、團太鼓トテ、團扇ノ如クナル太鼓ニテ、拍子ヲ取リテ踊フ」 嬉遊氏色芝居(享保)「昔ノ女子「七夕ノかけ踊ニ、云云、緞子ノ鉢巻、緞子ノ手すき」中 古風俗志(明和)「昔ハ、七月六日頃ヨリ、小町踊ト云フ事、ハヤル」

こまつ (名) 〔小松〕 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 松ト云フニ同ジ。(歌ニ、藻ニ涼ムト詠メリ、小松原ヲ見ヨ) 萬葉集、一、十「吾ガ夫子ハ、假廬作ラス、草ナクバ、小松ガ下ノ、草ヲ刈ラサネ」 宇津保物語、吹上、上「長キ夜ノ、涼クルモ嬉シ、■■ヲ、■えまつノ、藤ニ濃クバ■ヲイタミ、露ダニ裏カヌ、小松ニハ、宮人涼ム、藤ヤナカラム」 ■■記、松■「■■■ヤ、小松原」

こまつ (名) 〔小松子松〕 小サキ松、若松。(子日遊ノ條ヲ併セ見ヨ) 稚松 萬葉集、二、四十「■サ名ハ、千代ニ流レム、姫島ノ、子松ガ末ニ、苔生スマデニ」 拾遺集、十八、雑賀「我レノミヤ、子持タルテヘバ、高砂ノ、尾上ニ立テル、松モ子持タリ」

こまついし (名) 〔小松石〕 〔此石ハ、相模國、足柄下郡、眞鶴村ノ小松山ニ産ズルヲ元トス〕 安山岩ノ、極メテ堅硬ニシテ、緻密ナルモノ、建築、墓碑、ナドニ用キテ、賞美セラル、色、黒褐、黄褐、灰、ナドナリ。

こまづかひ (名) 〔小間遣〕 〔細遣ノ義ナルベシ〕 (一)禁中ノ下役。又、徳川幕府ノ膳所、風呂屋、等ノ下役。 倭訓栞、小間使「禁中ノ雑事也、使番ニ隷属スル者也」 吏徴、下、御目見以下、表小間遣、百三十五人、十五俵、一人半扶持高」御膳所小間遣」御風呂屋小間遣」 (二)常人ノ家ニテ、小用ニ使フ下女ノ稱。

コマ-つぐり (名) 〔獨樂〕 こまつぶりノ條ヲ見ヨ。

こまっちゃくれ (名) こまぢゃくれるノ條ヲ見ヨ。

こまつな (名) 〔小松菜〕 「モト、武藏國、南葛飾郡、小松川村ノ産ヲ、江戸ニ出スヨリ、名トセシナリ」 あぶら菜ノ變種、葉、ヤハラカシ、煮、又ハ、漬物トシテ食フ、種ヲ蒔キテ、三四週間ニテ、採ルベシ、年中、植エカヘテ、作ル。

こまつなぎ (名) 〔狼牙〕 〔倭訓栞、後編、こまつなぎ「倭名抄ニ、狼牙ヲ訓ゼリ、云云、駒繋ノ義、駒ノ、好ミ喰フ草ナリ、根莖強クシテ、駒ヲツナグベシトモ云ヘリ」三木草トハ、三葉一帯ナレバ云フ」〕 多年生草ノ名。又、うまつなぎ。今、ミツモトサウ。日光山、足尾山ナドニ生ズ、莖、圓ク、高サ一二尺、葉ハ、互生シ、三葉、一帯ニシテ、へびいちごノ葉ニ似テ、毛アリ、夏ノ末、枝梢ニ、五瓣ノ黄花ヲ開ク、へびいちごノ花ニ似テ、小サシ、根、節リ尖リテ、獸ノ牙ニ似タリ。 字鏡 三十一「狼牙子、宇萬豆奈支」 本草和名、上、四十「牙子、一名、狼牙、一名、犬牙、陶景注云、狼牙、似獸之牙齒、字末都奈支」 ■■「■■、苗似蛇苺而厚大、深緑色」 倭名抄、廿、草類「狼牙、一名、犬牙、古末豆奈木」 名義抄「狼牙、コマツナギ草」 ■■■草、八「牙子、コマツナギ」 同巻、駒繋」 夫木抄、廿八「女郎花、■カル野邊ノ、駒つなぎ、落チケム人ヤ、引キトドメテム」

こまつなぎ (名) 〔駒繋〕 荳科ノ灌木、原野ニ生ズ、莖、高サ一二尺、葉ノ形、れんげさうノ葉ニ似テ、圓クシテ、黒ミアリ、夏、葉ノ間ニ、一寸許ノ穗ヲ出シテ、花ヲ垂ル、豆ノ花ニ似テ、紫、又、白ナリ、莢、五六分、細ソク圓クシテ、中ニ、十バカリノ種子アリ。馬棘

こまつばら (名) 〔小松原〕 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 松原ト云フニ同ジ。(出典、及、小松ノ條ヲ見ヨ) 萬葉集、十五、十二「我ガ命ヲ、(序)長門ノ島ノ、小松原、幾世ヲ經テカ、神サビワタル」 後撰集、十七、雑、三「白雲ノ、來宿ル峯ノ、小松原、枝繁ケレ(バニ)ヤ、日ノ光見ヌ」

こまつひき (名) 〔小松引〕 子日遊ノ條ヲ見ヨ。

コマ-つぶり (名) 〔獨樂〕 〔こまハ、獨樂ノ語原ヲ見ヨ、つぶりハ、螺ノ轉ニテ、蝸牛ノ語原ヲ見ヨ〕回轉螺ノ義、陀螺ヲ原始トスル語ト思ハル、こまつぐりト云フハ、つぶりノ轉ニテ(ふなどの神、くなどの神。含む、ふくむ)つんぐりハ、又、其轉ナリ(朝所、あいたんどころ。馬道、めんだう)沖縄ニテ、獨樂ヲ、くうるうト云フ、轉轉ノ意ナルベシ、漢語ニ、獨樂ト云フモ、自轉ノ義ナルカ」 玩具ノ名、廻ハシテ弄ブモノ。今、下略シテ、こまトノミ云フ、其條ヲ見ヨ。又、こまつぐり。つんぐり。陸中ニテハ、今モ、つんぐりト云フトゾ。 倭名抄、四、雜藝具「獨樂、立成云、獨樂、有孔者也、古末都玖利」 狩谷掖齋箋注本ニ、都毛ノ誤トモアリ。「有孔者トハ、獨樂ノ注ナルベシ、獨樂ハ、空鐘ナルベキカ」 大鏡、中、伊尹「帝(後一條天皇)幼クオハシマシテ、人人ニ、遊物奉ラセヨ、ト仰セラレケレバ、云云、此殿(大納言行成)ハ、こまつぶりニ、紫濃ノ緒ヲツケテ、奉リタマヘリケレバ、云云、南殿(紫宸殿)ニ出テサセタマヒテ、まはさせタマフニ、イト廣キ殿ノ内ニ、殘ラズくるべきアルケバ、イミジウ興ゼサセタマヒテ、云云」 散木集、十、雜「題、こまつぶり「春ノ野ニ、こまつぶりツム、(小松摘積)■ヲ、■■ズテ折リテ、家苞ニセム」 今昔物語、十九、第二語「寂照ガ前ナル鉢、獨樂ノ如ク、クルクルト轉キテ、前ノ鉢ドモヨリモ、疾ク飛ビ行キテ」 齊民要術「擦楸者、鏃作ニ獨樂及盞」(鏃ハ、ろくろがたナリ) 毘婆娑論「如ニ小兒弄ニ獨樂ニ旋速明見ニ如往ハ旋還則見ニ來去」 江家次第、八、七月、相撲抜出「散更、輪鼓、獨樂」

こまつり (名) 〔木祭〕 杣人ノ、杣木ヲ伐リ出ス時ニ、山ノ神ヲ祭ルコト。山口ノ祭。 夫木抄、廿一、杣「杣人ハ、斧ニ幣帛、取添ヘテ、こまつりスラシ、谷深ク入ル」

コマ-つるぎ (名) 〔高麗劒〕 高麗國ノ劒、其製、柄頭ニ鐶ヲツケタリト云フ、古墳ヨリ、環ノツキタル劒ヲ掘出スコトアリ。此語、わト云フ言ノ枕詞ニ用キラル。 萬葉集、十二、三十五長歌「狛劒、和射見ガ原」(美濃國)契沖云「高麗ノ劒ナリ、唐土ノ劒ニハ、鐔ノ頭ニ、鐶ヲツクレバ、高麗ニモ、ツクルナルベシ」 同、十二、三十二「高麗劒、我ガ心故、外ノミニ、見ツツヤ君ヲ、戀ヒワタリナム」 太神宮式、神寶「玉纏横刀一柄、云云、頭頂著ニ仆鐶一勾ハ徑一寸五分」 古樂府「山上復有ニ山、何當ニ大刀頭ニ」(山上山、言ニ出也、大刀頭、刀上

有レ錮、錮、借錮レ遝）

ごまてん（名）［胡麻點］〔點打チタル狀、黑胡麻ノ子ヲ撒キタルガ如シ〕ふしはかせノ俗稱。

ごまどうふ（名）［胡麻豆腐］〔角ニ切ルコト、奴豆腐ノ如シ〕胡麻ニテ製シタル食物、若干ノ白胡麻ノ子ヲ、皮ヲ去リ、炒リテ、善ク擂リ、水一升ニ溶キタルニ、葛粉五合、酒二合、砂糖一合五勺、鹽十匁ノ割合ニ加ヘテ、掻キマゼ、煮詰メテ、姫糊ホドノ固サニナリタルヲ、切溜ニ、布ヲ敷キタルニ流シコミ、冷シテ固マリタルヲ、奴豆腐ノ大サホドニ切リ、葛だまり、又ハ、生姜ノしぼり汁ナド注ギテ食フ。

ごまどうらん（名）［胡麻胴亂］〔内ノ空シキ形ニ因リテ、胴亂ト云フカ〕うどん粉ヲ水ニ溶キタルニ、黑胡麻ノ子ヲマゼテ、燒キ脹ラカシタル、内ノ空ナル駄菓子。容貌ノミ立派ニテ、愚ナル人ヲ稱スル語トス。ミカケダフシ。松屋筆記（高田與清）百九、廿七「俗ニ、見かけだほしトモ、胡麻どうらんトモ云フハ、容貌美麗ニシテ、何事モスル事能ハザル愚物ニ云ヘリ、胡麻どうらんトハ、小麥粉ヲトキテ、胡麻ヲマゼ、燒キ脹ラカシタルガ、見タル貌ハ、旨ゲニテ、イトマヅク、中ニ餡ノアリゲナレドモ、サモナクテ、空ナレバ、食フニタヘザル粗物也」

こまどり（名）［駒捕］野馬追ノ條ヲ見ヨ。

こまどり（名）［駒鳥］〔出典ヲ見ヨ〕鶯ニ似テ、大キク、頭、背、尾、共ニ、樺色ニシテ、頷、頰、赤ク、嘴、細ソク尖リ、腹、白ク、脚、細長クシテ、靑シ、深山ニ棲ミテ、冬、平原ニ下ル、多ク、籠鳥トシテ飼ヘレ、其聲ヲ愛セラル。知更鳥 林逸節用集（文明）生類「駒鳥」和漢三才圖會、四十三、林禽、駒鳥「其聲高而長滑、如ㇾ曰二必加羅加羅一、似二走馬之鳴聲一、其頭、毎振二左右一、亦如二走馬之形勢一、故名二駒鳥一矣、春夏能囀、畜ㇾ之甚愛ㇾ之」

こまどり（名）［細取］〔類聚名物考、第百九十、こまどり「組取ノ事ニテ、取組合ヲ云フ歟、俗ニモ、相撲ナドニ此言アリ、こまト、くみト、辭、通ヘリ」こまぬく（拱）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）技藝ヲ鬪ハスルニ、人數ヲ、左右ニ別ケテ、列セシムルニ云フ語。雙方ノ相手ノ座次ヲ、第一、左、第二、右、第三、左、第四、右、ノ如ク、次第ニ列スルニテ、卽チ、えびすがけ、ちどりがけ、ナリ。宇津保物語、菊宴十五「殿ノ君タチ、十所ヲ、五所ヅツ、こまどりニ取リテ」源、十、繪合四十「博士ドモ召シアツメテ、文作リ、韻掩ナドヤウノ遊ビワザヲシ、云云、殿上人モ、大學ノモ、イト多ウ集ヒテ、左右ニ、こまどりニ別タセタマヘリ、賭物ドモナド、イトニナクテ、挑ミアヘリ」孟津抄「かれこれヲ、對座ニ拔取リテ番フナリ」抄「細取駄」岷江入楚「三光院（内大臣三條實枝）ナド申サレシハ、勿論、左右ニ別ツ事也、其座ノ次第ナルハ、左右へ、一人ヅツ、雜ゼテ、別クルヲ云フヤウニ申サレシ也、タトヘバ、左、一、三、五、七、九、右、二、四、六、八、十、此ノ如シ」（二）兒童ノ遊戲。今、かあごめ、かごめ、かごめかごめト云フ。類聚名物考、言語部、こまどり「小兒ノ遊ビニ、こまどりト云フアリ、手ヲ組合ヒ、圓ク立並ビテ、かごめかごめト云フ童謠ヲウタフナリ」倭訓栞、こまどり「源氏ニ、左右ニこまどりニ、云云、今モ、小兒ノ戲ニモ、此事アリ」其俗（元祿、嵐雪）十歲ニナリケル年ノ、身マカリケルニ「駒どりノ、本ノ雫ヤ、末ノ露」長唄、面かぶり「トカク、子供タチヤ、イタイケガ、ヨイモノヂヤ、云云、駒取、雀ノ小躍、云云」俚言集覽「小間どり拍子ナド云フ、小兒ノ戲ニ「手の鳴る方へ」子どろ子どろ」天に一つ足もとに一つ」ナド云フ拍子ヲ、こまどりト云フ」「穴一、こまどり」

ごまなご（名）［五魔業］ごまのごふノ條ヲ見ヨ。

コマにしき（名）［高麗錦］高麗ノ國ヨリ渡セル錦。疊ニ、高麗緣トテ用キルモノ、コレヨリ移レルナルベシ。萬葉集、十三三十「狛錦、紐解キ交シ、遂星ノ、妻あフ夜ゾ、吾レモ偲バム」同、十二五十「高麗錦、紐ノ結ビモ、解キ放ケズ、齋ヒテ待テド、驗ナキカモ」同、十四廿一「巨麻爾思吉、紐解キ放ケテ、寐ルガ上ニ」織部司式「白地高麗錦」倭名抄、十二六十錦綺類「疊緣錦、高麗錦」宇津保物語、樓上、下十四「樓ノ天井ニハ、鏡形、雲形ヲ織リタルこまにしきヲ貼リタリ」源、十七、繪合廿六「打敷ハ、靑地ノこまのにしき」

こまぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［拱］〔說文「拱、斂ㇾ手也」禮記、玉藻篇「垂拱」疏「沓ㇾ手也、身俯則宜ニ手沓而下垂ㇾ也」支那風ノ禮ナル語ナレバ、拱ノ字ノ義ニ因リテ作レル訓語ニテ、組貫くノ音轉ナルベシト云フ（蹴ゆ、こゆ。圍む、かこむ。隈床、くみど。籠、かたみ）細取ト云フ語モ、組取ノ轉ナルベク、木舞モ、組結ノ約ナルベシ〕（一）兩手ヲ、腹ノ上ニテ、組ミ合ハス。（敬禮ナリ）孝德卽位前紀「天皇授ニ璽綬ㇾ禪ㇾ位、云云、古人大兄、避ㇾ座逡巡、拱ㇾ手辭曰、云云」（二）左右ノ手ヲ、胸ノ上ニテ、ヤリチガフル。タムダク。ウデグミヲス。名義抄「拱、コマヌク、ウダク、イダク、タムダク」新六帖、一、秋風「モシヤトテ、心靜ムル、夕暮ニ、こまぬく袖ヲ、秋風ゾ吹ク」

コマぬり（名）［高麗塗］〔茶道筌蹄（文化）「こまハ、高麗ト云フ事ナラム」トアリ、朝鮮器ヨリ出デタル語ナラム、獨樂ニモ、塗ルコトアレド、近代ノコトニテ、名詮ナリ〕挽物ノ香盒、椀ナドノ挽目ヲアラハシタルニ、薄ク漆ヲカケ、挽目ニ隨ヒテ、渦ノ如ク、赤、黃、黑ノ漆ニテ塗リワケタルモノ。博多獨樂ニモ、斯ク塗レルアリ、又、支那明代ノ漆器ノ丸盆、香盒ニモ、黃、又ハ、靑漆ニテ、渦ヲ塗リタルアリ。下略シテ、こまトノミモ云フ。

ごまのあぶら（名）［胡麻油］黑胡麻ノ子ヲ炒リテ、榨リ取レル油。あげものナド、種種ノ用トス。麻油 大膳職式「聖神寺、季料、胡麻油二合」又、白胡麻ノ子ヲ碎キテ、粉ニシテ榨ルヲ、白榨ト云フ、正白ナリ、婦人ノ髮ニ用キテ、好シ、炒ラズシテ、日ニ乾シテ榨ルガ故ニ、乾子トモ云フ。生油 其炒リテ榨ルヲ、炒子ト云フ。香油

ごまのごふ（名）［五魔業］〔五種ノ魔の業ノ義ト云フ、出典ヲ見ヨ、ごまなごハ、音ノ約轉ナリ（水の上、みなかみ）〕物忌スルコト。ごまなご。ゴヘイカツギ。佛教辭林、ま（魔）演義鈔「五蘊魔、煩惱魔、業魔、心魔、死魔、天魔、云云」類聚名物考、三百三十一、諺、ごまのごう、五魔業、法華經、五卷、五陰魔、煩惱魔、云云、此等ノ五魔ノ、障碍ヲナス業報アリテ、おとむつかしきヲ、五魔の業ト云ヘルニヤ」倭訓栞、ごまのごう「俗ニ、瑣碎ニ忌避スルヲ云ヘリ」俚言集覽、胡麻なこの人「御幣かつぎヲ云フ」「胡麻の劫」

こまのつめ（名）［駒爪］（一）木履ノ一種、頭、圓ク、馬ノ蹄ノ形シタルモノナルベシ。又、馬下駄、駒下駄、トモ云フ。庭下駄ニ用キタルガ如シ。今モ、駒下駄ト云フハ、此遺ニテ、女子用ナルハ、多クハ、前後、圓シ。鷹子俳諧集（明曆）八「訪ヒ訪ハルルヤ、長路次ノ内」庭ノ雪ニ、行ク馬下駄ノ、跡見エテ」嚔打、追加（寬文）「駒の爪ト云フ木履ヲ、今ハ、馬げたト云フ、卑シト、古老ノ申サレシナリ」俳諧うたたね（寶永）「将棊譯、庭ノ下駄マデ、駒の爪」

(梅花無尽蔵、二) [illegible]一句(天和)「[illegible]、[illegible]下[illegible]メ、つくし[illegible]ノ[illegible]ノ穂、形、外ニ顕レテ、[illegible]ニ似タリ」(三)か[illegible]ひノ異名。(四)菫草ノ一種、葉ノ形ノ、[illegible]モノ。すみれノ條ヲ併セ見ヨ。

ごまのはぐさ (名) 胡麻葉草 [葉ニ胡麻ノ葉ニ似タリ] 古名、オシクサ。今、又、ごまぐさ。春、苗ヲ生ズ、[illegible]、高サ二三尺、互生ス、長ク尖リテ、鋸歯アリ、淺緑ナリ、秋、枝ノ梢ニ、穂ヲ出スコト六七寸、花ハ[illegible]、淡黄ナリ、後ニ、小サキ實ヲ結ビ、黒キ子アリ、根、肥大ニシテ、數條アツマリテ、白シ、切レバ、黒ク變ズ。玄參。

ゴマ-のはひ (名) 護摩灰 (一)護摩ヲ修スルニ焚キタル、護摩木、其他ノ物ノ灰。[illegible]ツルモノハ、ウマキモノカハ」(二)俗ニ、旅人ノ装ヒシテ、他ノ旅人ノ物ヲ、掠メ取ル賊ノ稱。道中ノかたり。蒸難の記(文化、馬琴)前集、一「岩瀬伯父子(山東京傳)云、ごまのはへハ、護摩の灰ナリ、百年前、東西ノ道中ニ[illegible]、高野ニ[illegible]ナリトテ、強賣セシモノアリシヨリ、道中ノ小賊ニ、此名ヲ負ハシタリ、元祿前後ノ[illegible]ニモ、護摩の灰トアリ」或ハ、胡麻ノ上ノ蠅ニテ、良民ノ、見分ケガタキニ因ルカナド云フ説モアリ。[illegible](享保)十一「和漢俗語モ、古今不同、タトヘバ、昔、[illegible]ハ、ごまのはい[illegible]ベシ、云云、外術者ト云フモ、同ジ、此類ノ者、護摩の灰、胡麻のかいナドモ、言ヒ習ハセリト云ヘリ」

こまのひざ (名) 駒膝 草ノ名、ゐのこづちノ條ヲ見ヨ。

こまひ (名) 木舞 [組結ノ約轉ナラム(こまぬくノ語原ヲ見ヨ)古ヘノ枝吊ノ遺ナリ] (一)椽ノ垂木ノ端ニ亙ス、細長キ材。(やねおたぢノ條ヲ見ヨ) 欄。東大寺正倉院文書、史館本、七「屋板一間、云云、古麻比八枝、長三丈九尺、方六寸」新撰字鏡「[illegible]、こまいナド[illegible]ハ、虚空ニ散在シテ、ココカシコニ落チケルニ、云云」[illegible]「棍、木舞」合類節用集(元祿)一、乾坤門「棍、木舞」俚言集覧、京都ニテ、如今モ、木舞ト云フハ、杉ノ細キ二間木ノ板ヲ云フ」(二)今、東京ニテ、壁骨ヲ云フ。助枝 倭字通例書(元祿)「こまひ」「桟」注「又、棍、カベノこまひ、木舞」俚言集覧「壁ノこまひハ、木舞ノ[illegible]ニテ、延喜式ニ、桟ノ字、こまたちト訓ズルモノ也、云云、江戸ニテ云フ、こまい也」

こまひ (名) 小舞 [小諸舞ノ意、肴舞ヲ併セ見ヨ] (一)酒宴ノ肴ナドニトテスル、短キ舞、小謠ニ伴フ、今、狂言ニテ、仕舞トシテ舞フモノ、是レナリ 狂言記、棒縛「肴ニ何ゾ、小舞ヲ舞へ」同、鐵替勾當「アタリニ誰レモゴザラヌ程ニ、こまひヲ一ツ、舞ハセラレ」[illegible]七つになる子が、イタイケナ事云フタ、[illegible]レハ、[illegible]、云云」(二)能楽ニテ、舞ノ、短キモノ、其曲、十六アリ、小舞十六番ト云フ、唱歌ノ作者ハ、小野阿通ナリト傳フ。

こまひき (名) 駒牽 (一)中古、毎年八月、朝廷ニテ行ハセラレシ公事。諸國ノ牧ヨリ、馬ヲ、京都へ牽キ參リテ、貢進ス、國國ニ因リテ、某日、某日、ト定メラレテアリシガ、後ニハ、十六日ト一定セラレ、鎌倉時代ノ末頃ヨリ、信濃ノ望月ノ牧ノ馬ノミトナレリ。又、官人ノ、此駒ヲ、近江ノ逢坂ノ關マデ出迎ヘテ受取ルヲ、駒迎ト稱シ、禁中ニ牽キ入レテ、紫宸殿、又ハ、仁壽殿ニ臨御アリテ、御覧ゼラレ、御料馬ヲ定メラレ、其餘ヲ、親王、以下、公卿ニ賜ハレリ。 西宮記、八月、[illegible]十六日、信濃ノ駒ひき、甲斐ノ穂坂以下、アマタアレドモ、近頃ハ絶エタリ、云云、望月バカリハ、今マデ絶エズ」 貫之集、一「逢坂ノ、關ノ清水ニ、影見エテ、今ゾ引クラム、望月ノ駒」 堀河百首「關ノ門ニ、尾花[illegible]ノ、見ユルカナ、穂坂ノ駒ヲ、引くニヤアレラム」 源順集「武藏野ノ、駒むかへニヤ、關山ノ、[illegible]越エテ、今朝ハ來ツラム」 倭訓栞、こまむかへ「駒迎也、八月ノ儀式ニ、諸國ヨリ牽キ來ル馬ヲ、逢坂マデ迎ヘニ出ヅルヲ云フ也」(二)又、毎年四月ノ駒牽アリ、天皇、武徳殿ニ幸シ、馬寮ノ馬ヲ閲覧シタマフナリ。 儀式、八、四月廿八日[illegible]ナリ、八月ノモ、名ハ同ジケレドモ、心、カハレリ、天皇、武徳殿ニ幸ス、云云、馬頭、鐙ヲワタリ、[illegible]引キワタス、[illegible]月ノ騎射ノ馬、射手人ナドヲ、今日、御覧ゼラルルケシキナリ」(三)次條ヲ見ヨ。

こまひきぜに (名) 駒牽錢 繪錢ノ一、人ノ、駒ヲ牽キ行ク圖ヲ、鑄出シタルモノ、其圖様、種種ナリ。古ヘ、厭勝ニ用キタルモノト云フ、通用錢ニハアラズ。略シテ、こまひき、コマセン、[illegible](寶永、近松作)下「我レ又、其ノ駒ノ錢ヲ[illegible]ヘバ、駒引錢ヲ持テ、領内ヲ[illegible]ハシ申スベシ」

〔コマ-びと (名) 高麗人 [こまうどト云フハ、音便ナリ(旅人、たびうど。兄人、せうと)] 高麗ノ國ヨリ歸化セル人人。こまうど。 續紀、七、靈龜二年五月「以駿河甲斐、[illegible]、七國高麗人、千七百九十九人、遷于武藏國、置高麗郡焉」 催馬樂、石川「石川ノ、古末宇止ニ、帯ヲ取ラレテ、辛キ悔スル」(歸化シテ、河内國、石川郡ニ住メル者ナルベシ) 源、一、桐壺「其頃、こまうどノ參レルガ中ニ、カシコキ相人アリケルヲ、云云」同、三十二、梅枝「[illegible]ノ御代ノ初ツカタ、こまうどノ奉リケル綾、緋金錦ドモナド」 大鏡、下、道長「こまうどノ許ニ、二人、連レテ、マカリタリシカバ、二人、長命ト申シシカ、云云」(延喜ノ頃ニ來朝セルハ、渤海國使ヲ云フナリ、こま(高麗)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)

こまひ-ぬき (名) 木舞貫 やねおたぢノ條ヲ見ヨ。

コマ-ぶえ (名) 高麗笛 高麗樂ニ用キル横笛。後ニハ、東遊ニモ用キラル、徑ハ、尾端ニテ三分、歌口ヲ除キテ、指孔、六ツアリ。 [illegible]和名抄、六「高麗[illegible]、高麗笛、俗云、古末布江、[illegible]吹之、而六孔之笛也」[illegible]、六、管絃、今日ハ、元寶ニ、狛ぶえ吹カセンレウニ召レルナリ」

こまへ (名) 小前 [まへ(前)ノ條ヲ見ヨ] 賤シク、貧シキ民ノ稱。細民「こまへノ者」

コマ-べ (名) 狛部 [韓人ノ後ナルカ、ゐたノ條ヲ參見スベシ] 革ヲ作ルヲ職トスル者。 職員令、大藏省「狛部、掌雜革染作」

〔コマ-ほこ (名) 狛桙 [桙ト云フハ、船棹ナリ] 高麗ヨリノ朝貢船ハ、五彩ノ棹

ヲ用キテ、入津シタリ、其棹ノ操法ニ象リテ、此舞ヲ作リシト傳フ、其棹ハ、棹ノ狀ナリシヨリ、此稱、起レリト云フ」高麗樂ノ舞曲ノ名。四人舞ナリ、各、船棹ヲ取リテ、舞フ、其棹ハ、一丈二尺許ノ五色ノ段線ニ塗レリ、神泉苑、山城、大井川、等ノ御遊ニハ、龍頭鷁首ノ船ノ頭ニテ、童部、纈繒ノ裝束ニテ、棹ヲ取リテ、舞フ、故ニ、棹持ノ舞トモ云フ。倭名抄、四 廿二「高麗樂曲、狛鉾、古萬保古」口遊「狛桙」舞曲口傳「狛桙、執レ棹舞ト云フ」

こまほ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [欲來] (來まく欲しノ略、いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ) 來ムコトヲ欲ス。來ラムコト、望マシ。 夫木抄、廿「夕錦ハ、立ツヲ見マシヤ、瓜フ山、こまほしかりシ、ワタリナラズヤ」萬代集、十、戀、二「山城ノ、鳥羽ノ、ワタリノ、瓜ツクリ、こまほしト思フ、折ゾ多カル」(山城國、相樂郡、狛村ハ、瓜ノ產地ナリ)

コマ・まはし (名) [獨樂廻] (一)兒童ナドノ、獨樂ヲ廻シテ遊ブコト。陀螺ナルヲ、ばいまはしト云フ。 遊學往來(南北朝ノ頃、玄惠)上「少性之遊、獨樂廻」 好色一代男(天和、西鶴)五「ヨイ年ヲシテ、螺まはし、云云、子供心ニナリテ、立チサワギ、云云」 (二)江戶時代ニ、博多獨樂ヲ廻シツツ、種種ノ曲藝ヲナスヲ職業トスル者、起リテ、見世物トス、コレヲ、曲獨樂ト云フ、嘉永年間、江戶、兩國橋、西詰ニ小屋ヲ作リ、竹澤藤治ト云フ者、獨樂廻ヲ興行シ、同時ニ、松井源水ト云フ者モ、淺草觀音ノ境內ニ於テ興行シ、何レモ、妙手トシテ、名アリキ。(武江年表、九、江戶繁昌記、初篇) 享保集成絲綸錄、四十五、元祿十四年十一月、町觸「頃日、ハヤリ候こま、堺町、木挽町、見物所ニテハ各別、其外、こま廻し候者之分、云云、令二停止一候、云云」(古事類苑) 傾城色三味線(寶永、自笑)「頃日、九州ヨリ、獨樂廻しノ少人上リテ、四條河原ノ小芝居ニテ、サマザマノ曲ごまヲマハシ」

ごま・ミソ (名) [胡麻味噌] 黑胡麻ノ子ヲ炒リタルヲ、味噌ニ入レ、味醂ヲ加ヘテ、擂リ合ハセタルモノ。風呂吹大根ナドニツケテ食フ。

こま・むかへ (名) [駒迎] こまひきノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ごまんざい (名) [御萬歲] とくわかノ條ヲ見ヨ。

こま・むすび (名) [細結] 紐ヲ、眞結ニ、固ク結ビキリタルモノ。

〜**こまめ** (名) [鱓] (こまめ鰯(和漢三才圖會)ト云フガ、成語ナリ、こまめハ、細鼇ノ約ニテ、淸音ナルヲ、祝賀ノ供ニ、御健全ニ言寄セテ、濁音トナレルナラム、春盤ニ、小殿儕ト云フハ、小サクテ積ム事多キ子ノ意ナルベク、數子ヲ、賀肴トスルト、同意ナルベシ、田作ト云フハ、田ノ肥料トスルニ就キテノ名ニテ、亦、祝賀ノ意アリ、合類節用集(元祿)五、氣形門「鰯陽魚」(左訓「ゴマメ」)鰯陽魚ハ、海鰯魚ニテ、大、小、甚ダ異ナリ、箋注倭名抄、八 廿「鰯陽魚、古米、下總本、古下、有二萬字一」名義抄「鰯陽魚、コメ、コマメ」本草和名、下 八十「鱓、魚甲、古女、一名、衣比」常ニ、こまめニ、鱓ノ字ヲ用キルハ、此誤用ナリ」鯷ヲ、風乾ニシタルモノ。スボシ。煮、又、炙リテ食フ、賀儀ノ供トス。小殿儕。田作。 毛吹草(正保)三、攝津「干小鰯、世ニコレヲ、こまめ、又、ことのばらト云フ」和漢三才圖會(正德)四十九、鰯「五万米鰮、正字未レ詳、一名、田作、又云、古止乃波良、漁家、海邊石上、或、簀上、攤二乾小鰮一也、云云、煮食亦佳、常爲二嘉祝之供、與二鰒熨斗一並用」 物類稱呼(安永)二「こまめト云フモノアリ、是ハ、いわしニテハナシ、ひしこノ、干シタルモノナリ、云云、こまめトハ、常ノ稱呼ナリ、春ノ初ニ、小殿原、又、田作ナド唱ヘテ、祝シ侍ル也、是レ、稻粱ヲ植ウルモノ、干鰮、干鰯ヲ以テス、故ニ、田つくりノ名アリ、又、すぼしト云ヘルハ、簀ノ上ニテ干スヲ云フナリ」 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)上「裏白、ユヅリ葉、こまめデゴザンセノ春永ニ」 倭訓栞「こまめ、祝賀ニ用キルハ、まめノ詞ヲ取ルナリ」同「ことのばら、春盤ニ用キルハ、こまめヲモ稱セリ、數ノ多キヲモテ、稱トスルナリ」

こまめ・なます (名) [鱓膾] てりこまめノ條ヲ見ヨ。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「アイサ、田作膾ニ、鮭ノ燒タノデ、又、六パイト、オ目ニカケタ、鹽引ヂャア、飯ガススムヨ」

ごま・もち (名) [胡麻餠] 餠ニ、黑胡麻ノ子ヲ炒リテ、搗キマゼタルモノ。

こま・もの (名) [小間物] (細物ノ義) 商家ニ、婦人假粧ノ具、櫛、簪、油、紅、白粉ヲ始メ、楊枝、齒磨、其他、裝飾雜細ノ物ヲ商フモノ。星貨 コレヲ商ヒアルク者ヲ、こまもの屋ト云フ。貨郎兒 合類節用集(元祿)七、器財門「細物、本朝俗、謂二雜玩貨貨之類一爲二細物一」

こまもの・みせ (名) [小間物見世] 小間物ヲ賣ル商家。星貨鋪 淸水物語(寬永)上「こま物見世トテ、棚一ツニ、色色、樣樣ノ物ヲ取集メテオキ、人ノ用次第ニ賣ル者ノ候」(松屋筆記、九十二) 翰墨大全、市肆、貿易時次、其物繁密如レ星、故曰二星貨鋪一 こまものみせをならべるト云フハ、反吐ヲ吐キ散ラスヲ云フ。(酒ノ飲過ギ、又ハ、船醉ナドニ) 嘔吐 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「耳盥ノ中へ、エマシ交ニ、海苔ノ、ドロドロ交ッタノサ、云云、ソリャア、小間物店ニ見立テタノカ」

こまもの・や (名) [小間物屋] 前前條ヲ見ヨ。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「小間物やノチャラ、ポコガ、サウ云ッタッケ」

〜**こま・やか・に** (副) [細] (かそかに、かそやかに。靜かに、しづやかに。冷かに、ひややかに) (一)コマカニ。委シク。ツマビラカニ。精細 源、十三、明石 三十「例ヨリモ、御文、こまやかに書キタマヒテ」同、四、夕顏 五十「こまやかなる事ドモアレド、ウルサケレバ書カズ」 (二)甚ダ、濃ク。濃厚 源、四十、幻 三「墨染ノ、色こまやかにテ」同、三十九、御法 廿「海墨ト宣ヒシヨリハ、今少シこまやかにテ奉レリ」 (三)緊ク。密ニ。緻密 源、二十七、鈴蟲 三「阿彌陀佛、脇侍ノ菩薩、オノオノ、白檀シテ造リ奉リタル、こまやかに美シゲナリ」同、廿四、胡蝶 廿「身形、肌ツキノ、こまやかにウツクシゲナリ」 同、三十八、夕霧 六十五「イト、ヲカシキ狀ノミマサレバ、こまやかに笑ヒテ」 (四)情、篤ク。深切ニ。懇篤 源、十八、松風 十九「こまやかに語ラヒ、出デタマフ」同、四十一、匂宮 九「此君ヲバ、こまやかに、ヤンゴトナク、持テナシカシヅキ」

こま・やき (名) [駒燒] (野馬ノ奔走シタル圖ヲ燒キツケテアリ) さうまやき(相馬燒)ノ異名。

こま・よけ (名) [駒除] 次次條ノ語ノ(二)ニ同ジ。

ごま・よごし (名) [胡麻汚] (よごすノ條ヲ見ヨ) ごまあへニ同ジ。

こま・よせ (名) [駒寄] (古言、馬ノよせばしら(柳)ノ移レルカト思ヘド、寄するト、寄せとめぬトノ意、不審ナリ、駒除ト云フ方、通ズ、或ハ云フ、小間寄ノ義ニテ、竹木ヲ以テ、小間ヲオキテ組合ハスルナリト) (一)馬柵。戰國時代、城

室ノ前ナドニ、竹、木、葦、萱、ヲ以テ、籬[illegible]時ニ、苫ニ[illegible]設クル、虎落ノ類 人馬ノ侵入ヲ防グ、行馬 [illegible]許ヲ仕リタリケル」(大日本國語辭典) (二)人家ノ前ニ設クル、低キ垣、角材ヲ、縦ニ立テナラベテ、貫ヲ通ス、出入口アレド、常ニハ、多クハ閉ヂテ、用アレバ開ク、人畜ノ、濫ニ入ルヲ防グナリ。又、コマヨケ。 梐枑

こまり・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [困入] 窮ク困ル。困却「[illegible]ノワカフヌニこまりいる」

こまり・き・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [困切] コマリハテル。ヨワリキル「一算[illegible]ハレテ、こまりきる」

こまり・ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) [困貫] 打縋キテ、コマル。甚ダ、コマル。「仕事ガ出來ヌデ、こまりぬく」

こまり・は・てる・テル・テレ・テ・テ・テヨ(自動、下二) 困果 困ルニ至ル。コマリキル。「[illegible]ハ、マコトニこまりはてる」「[illegible]ガツヅイテ、こまりはてる」

こまり・もの (名) [困者] 取扱フニ困ル者。モテアマシモノ。

こま・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [困] (籠めらるノ約轉(棄てらる、すたる)あつかるノ語原ヲ見ヨ、籠メラレテ苦シム意) 難儀ニ逢ヒテ、艱ム。窘ム。困ズ。「貧[illegible]メラレルニこまる 貰ヒニこまる」

こま・わり (名) [小間割] 小間(第二語ノ一)ノ條ヲ見ヨ。

こみ (名) [込] [込むノ名詞形] (一)大小、精粗、打込ミナルコト。ウチマゼ。(商品ナドニ云フ) 混淆 (二)こみまいノ條ヲ見ヨ。

こみ (名) [澇] [澇むノ名詞形、其語原ヲ見ヨ] 水ノ、入リ浸ルコト、浸水。仁德紀、十一年十月「將防北河之澇、以築茨田堤」 天治字鏡、六十四「澇、水多、於保弥豆」 字鏡集「澇、ミヅノコミ」

こみ (名) [刀心] なかごニ同ジ、刀ノ莖ノ、柄ノ中ニ差込ミオク部。 由良家傳記「金井出雲守、一風流者ニテ、云云、刀ノ込みスタリ申ス故、惜シク存候」

こみ (名) [塵芥] [散込(塵積)ナド云フ語ノ上略ニテ(刀ノ中心モ、中込ノ略、林逸節用集(文明)天地部ニ「澇」ト、濁點アリ、河水ノ浸入ルコトナリ)濁音ナルナラム(水泥、どろ。紅、ほほべに)此語、古クハ、イラズ、萬葉集ニ云ヘル木積ノ中略ナリトノ說ハ、餘リニ時代懸隔セリ、濁音ナルニモ合ハズ」 チリ、アクタ、アクタ。クタ。ゴミクタ。仙臺ニテハ、ゴンモク。ゴンド。 享保集成絲綸錄、四十二「天和元年十月、[illegible]諸廻船之輩於御代官所、其外之浦モ、舟之塵芥、川ヘ捨候付而、川口埋候間、向後ハ、川ヘ捨不レ申、御馬船ニ而、永代島御定之こみ捨場ヘ、遣捨可レ申候」(古事類苑)

ごみ (名) [五味] 物ノ、五種ノ味。 老子、第十二章「五味令人口爽」 字類抄「五味、鹹、シホハユシ、酸、スシ、苦、ニガシ、甘、アマシ、辛、カラシ」 大平記、三十三、公家武家榮枯易レ地事「百種、五味ノ魚鳥」

こみ・あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ(自動、下二) [込上] 胃ヨリ物ヲセリアゲテ、嘔カムトス。嘔逆

❖こみ・あ・げる (動) [込上] 前條ノ口語。

こみあひ (名) [込合] コミアフコト。ヒトゴミ。 叢集。雜沓

こみ・あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [込合] [こむ(雜沓)ノ條ヲ見ヨ] 多人數、直ト叢ガル。雜リ、集マル。叢集ス。「見物人ガ、こみあふ」 [illegible]人ガこみあふ」

こみ・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) [込入] (一)押シ入ル。進入 國性爺合戰(正德、近松作)一「サシッタリト切リ拂ヒ、込み入れバ、ナグリ立テ、打チフセ」 (二)入リマジル。入リ組ム。混雜ス。複雜ス。錯雜

こみ・か (名) [樽] [木甕ノ義、木造ノ甕ノ意ナラム、みかノ條ヲ見ヨ] 樽ノ古言。タリ。樽。 字鏡、四十六「樽、桶也、己彌可」 天治字鏡七「罇、己彌加」

こみかづき (名) [塵芥潛ノ義] 石蠶ノ類、昆蟲ノ幼蟲ナリ。水中ノ石間ニ棲ミ、稍、成長シタルハ、水中ノ塵芥、沙粒ヲ集メテ、筒ノ如キ巣ヲ作ル。 本草綱目啓蒙、廿七、卵生蟲「石蠶、イサゴムシ、云云、一種、羽州方言、こみかづきト呼ブモノハ、蟲ノ長サ一寸許、細砂ヲ以テ細筒ヲ為シ、內ニ居ル、云云、土人、中ノ蟲ヲ取テ、釣魚ノ餌トス」

こ・みかど (名) [小御門] おほみかど(大御門)ノ(二)ヲ見ヨ。 宇治拾遺、三、第五條「ソノ車、率テ來トテ、小御門ヨリ出デント、仰セ事候ヒツレバ」

こみくた (名) [塵芥] [くたハ、塵芥ノくたナリ、其條ヲ見ヨ] こみト云フニ同ジ。チリアクタ。アクタ。

こみさき (名) [込先] 刀劍ノ名所。中心ノ端。 由良家傳記「金井出雲守、一風流者ニテ、云云、こみ先ヲ、三寸計リ出ダシ」

ごみし (名) [五味子] [本草和名、注「皮肉、甘酸、核中、辛苦、都有鹹味」] 草ノ名、春、舊キ蔓ヨリ、芽ヲ生ズ、葉ハ、五生シテ、杏子ノ葉ニ似タリ、又、またたびノ葉ニ似テ、鋸齒粗ク、皺アリ、夏ノ初ニ、花アリ、白クシテ、綠ヲ帶ブ、形ハ、蓮花ニ似テ、小サキコト、錢ノ如シ、八九瓣ナリ、實、熟スレバ、赤クシテ、ふんてんノ如ク、年ヲ歷レバ、黑シ、五味、備ハルトテ、名アリ、藥用トス。此種ハ、朝鮮ヨリ渡リ、漢名、北五味子ト云ヒ、さねかづらヲ、南五味子ト云フニ對ス。

こ・みぞ (名) [小御衣] 小サキ寢衣。 叔文記「小御衣ニハ、大略、織物ヲ用ヒ候」

こみ・たか (名) [込高] [こみまい(込米)ト云フ語アリ] 德川幕府時代、私領ノ田地ノ石高ニ云ヒシ語。私領、村替ヘナドノ時ニ、同ジ石高ニテモ、舊領ハ、收租四取ナルニ、新領ハ、三ツ五分ナル時ハ、其不足ヲ加增スルヲ云フ。 地方凡例錄、一、込高「私領村替等ノ節、假令バ、高五百石、四ツ取ノ村方、只今マデ知行致シ居ル處、此度、上リ代地ノ外ノ村村ニテ、高五百石渡ル、此村ハ、三ツ五分ノ村ニ付、五分ダケ、最初取來リタル村ヨリ、物成不足ニ付、五分ダケノ高ヲ、其村內ニテモ、又ハ、他村ニテモ、五百石ノ上ニ增シテ渡スヲ、込高ト云フ」

こみ・ため (名) [塵芥溜] 塵芥ヲ積ミ置ク所。アクタフ。チリヅカ。ハキダメ。

こ・みち (名) [小道] [大道ニ對ス] (一)幅ノ狹キ路。小路。徑 箋注倭名抄、三、四十九「徼道、小道也、古美知」 (二)六町ヲ一里トスル稱。(里ノ條ヲ見ヨ)

こみちキンザンじ (名) [徑山寺] か

ねきんざんこノ條ヲ見ヨ。

こみぢん (名) [粉微塵] 碎ケテ、粉トナリ、微塵トナレルコト。コナミヂン。粉碎。曾我兄弟、寶永、近松作、上「粉微塵ニセムト、云云、火鉢、煙草盆、當ル物ヲ、投ゲツクレバ」

こみづ (名) [濃漿] 〔濃水ノ義、こんづト云フハ、音便ナリ（髮刺、かんざし。神無月、かんなづき）〕 白米ヲ煮タル汁。又、こんづ。オモユ。オネバ。倭名抄、十六、水漿類「白飲、漿之名也、古美都」 華嚴經音義私記「漿、古美豆」 字類抄「饘、イヒ、コミヅ、フク」「飯漿、饘く」 齊民要術「浙米白煮取汁、爲白飲二」 說文「漿、水米汁、相將也」 名義抄「漿、コムヅ」 盛衰記、廿一、小道地藏堂事「面ニ水ヲソソギ、喉ニ漿ヲ入ケレバ、又、ヨミガヘリタリケリ」

コミック (名) 〔英語、Comic.〕 喜劇的。又、滑稽ナルコト。

こみつく・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [込附] ヤリコメル。キメツケル。 淸水物語（寬永）「人ニ口ヲアカセヌヤウニ、物ヲ言ヒ、人ヲこみつくる事ヲ好ミ、云云、何事ニヨラズ、拒ミソネミ、人ヲこみつけテ喜ビトシ、笑ヒヲ含ム」（俚言集覽）

こみとり (名) [塵芥取] 塵取ニ同ジ。

こみまい (名) [込米] 減分トシテ、餘分ニ、俵ニ差込ミオク米。さみ。[耗米] 倭訓栞、こみ「耗米ヲ、こみト云フ、こみ米トモ云へリ、類聚國史ニ、今或、所司、斛斗之外、更加二耗分一、隨、則一俵ニ二舛已上、穀、亦、斛別ニ五舛已上ト見ユ」 地方凡例錄、五「込米ト云フハ、三斗七舛入ニテモ、四斗二舛入ニテモ、計切リ入レテハ、御藏場ニテ、廻シヲ出シタル時、不足之儀有之故、壹俵ニ、壹舛餘ヅツモ餘計ニ入ル、云云、足レハ、舛目制定之外ニテ、全ク、百姓ノ損失也」（舛ハ、升ノ誤）

こみみ (名) [小耳] 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 耳ト云フニ同ジ。保元物語、二、白河殿攻落事「左ノ小耳ノ根へ、篦中バカリ射込マレタレバ」「小耳ニ聞ク」（チョット聞キテ記憶ス）

こみや (名) [小宮] 皇子ノ、童ニテマシマスホドヲ稱シ奉ル語。 吉部祕訓抄、建久四年十一月五日「今日、仁和寺小宮（註「高倉院御子」）御落頂後朝也」

こみや (名) [込矢] 繁ク射込ム矢。 太平記、十四、矢矧鷺坂手超河原鬪事「究竟ノ射手ヲスグッテ、云云、雨ノ降ル如ク、込矢ヲゾ射タリケル」

こみや (名) [込矢] 〔古クハ、矢竹ヲ用キタルカ〕 鳥銃ノ具、鐵ノ細長キ棒ニシテ、彈藥ヲ、筒ノ口ヨリ底マデ、込メ入ルルニ用キル。カルカ。カルコ。[槊杖]

ごみやう (名) [五明] 〔明ハ、其學術ノ理ヲあきらむるナリ〕 古代印度ノ佛敎ニアリテ、特ニ、教授、研究セシ、五種ノ學問、卽チ、因明、聲明、內明、醫方明、工巧明ナリ。因明ハ、論定推理ノ學ニシテ、事物ノ因ヲ明ラメテ、其結果ヲ判ズルナリ。（一種ノ論理法）聲明ハ、聲音ノ屈折、抑揚ノ法ニテ、諷誦ノ術ナリ。內明ハ、佛敎ノ正理ヲ究ムルナリ。醫方明ハ、醫術ニテ、藥石、針、艾、禁呪ナリ。工巧明ハ、工藝、陰陽、曆數ナリ。 持地經「菩薩求レ法、當於二何求一、當下於二一切五明處一求上」 西域記、二「七歲之後、漸授二五明大論一、一、聲明、云云、二、工巧明、云云、三、醫方明、云云、四、因明、云云、五、內明、云云」

こみら (名) [小韮] 〔おほみらニ對スル語〕 古クハ、かみら。今ハ、韮ト云フ、其條ヲ見ヨ。 倭名抄、十七、菜蔬類「韮、古美良」

こむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [籠込] 〔込ノ字ハ、吾妻鏡ニ見ユ、入ニ之繞カケタル造字〕 (一)繁ク入リ合フ。コモル。 催馬樂、大宮「大宮ノ、西ノ小路ニ、菖蒲己弃ダリ、菖蒲己弃ダリ」 榮花物語、一、月宴「式部、民部ノ官人、皆、參りこみタリ」「込み入ル」「入りこむ」 (二)手工ヲ盡ス。「手ノこみタル細工」 (三)他動詞ノ下ニ熟語トナレバ、他動ノ意味ヲナス。「積ミ込む」「押シ込む」「打チこむ」「注ギこむ」「思ヒこむ」

こむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [籠込] 〔前條ノ語ノ他動（痛む、いたむる。撓む、たわむる）〕 (一)籠ラシム。包ミ入ル。 古今集、二、春、下「花ノ色ハ、霞ニこめテ、見セズトモ、香ヲダニ盜メ、春ノ山風」 玉葉集、五、秋、下「朝日サス、伊駒ノ嶽ハ、顯ハレテ、霧立チこむる、秋篠ノ里」 (二)納ム。入ルル。詰ムル。「彈丸ヲ込む」「砂ヲ込む」 (三)含マス。有ス。トドム。「意味ヲ籠む」「心ヲ込む」

こむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [滂浸] 〔込むニ同ジ、込み入ル意、倭訓栞、こみ「日本紀ニ、浸字、滂字、ナドヲ訓メリ、水ノこむト云フ、是レナリ」 廣韻「滂、與レ潦同、淹也」 集韻「淹、漬也」〕 水、入リ浸ル。流レ込ム。但シ、專ラ、田地ノ浸水ニ就キテ云ヘル語ナルガ如シ。（滂ノ條ヲモ參見セヨ） 安閑紀、元年七月「此田者、天旱難レ漑、水潦易レ浸、費レ功極多、收穫甚少」 後紀、五、延曆十五年八月「筑後國、滂、詔、令三賑恤二」（滂ハ、こむト訓ズベシ） 應神紀、二年三月「滂來田皇女」

こむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [雜沓] 〔込むニ同ジ、込合フ意〕 多人數、聚リ合フ。コミアフ。群集ス。「參詣人ガこむ」「見物人ガこむ」

こん (名) [紺] 紫ト、靑ト、和シタル色。藍色ノ、微赤ミアルモノ。 異本、枕草子、九、「人の家につきづきしきもの「こんノ垂レヌノ」」

こん (名) [根] (一)ネ。モト。(二)佛經ノ語。人ノ天賦ノ性質、性能。根性。「利根」「鈍根」 (三)事ヲ行フニ、久シク堪ヘ忍ブ、精神ノ力。精力 氣力 「氣根」「根氣」「精根」「根ガヨイ」「根ガツヨイ」「根ガ盡キル」

こん (名) [坤] (一)易ノ卦ノ名。乾坤ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)方角ノ名。未申。西南ノ間。

こん (名) [鯤] 鯤鵬ノ條ヲ見ヨ。

こん (接頭) [今] 今ノ。（熟語ニ用キル）「今月」「今、十日」「今、昭和何年」

こん (接尾) [喉] 魚ヲ數フルニ云フ語。喉ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

こん (接尾) [獻] 〔獻ノ吳音、こん（權、ごん）たてまつるニテ、盃ヲさすノ敬語、獻酬〕 饗應ニ、盃、肴ヲ出シ、三杯飮マシメテ、膳ヲ下グルコト、コレヲ、一獻ト云ヒテ、此手數ヲ數フルニ云フ語。 四季草（伊勢貞丈）六、秋、下、獻數「肴、盃ヲ出シ、三盃勸メテ、膳、戾リ入ル、是レ、一こんナリ、幾こん勸ムルモ、皆、同ジコトナリ」（節文） 徒然草、二百十六段、最明寺入道、足利左馬入道ノ許へ入ル、饗應「一こんニ打鮑、二こんニ海老、三こんニ粥餠ニテ、止ミヌ」「初獻」「九獻」「數獻」

こむ (句) [將來] 〔來ノ未然形ノこノ、未來ノ助動詞ノむニ接シタルモノ〕 來ラムトス。 源、六、末摘花「客人ノ、こむト侍リツル」 連體詞ニ用キルハ。 古今集、四、秋、上「今日ヨリハ、今こむ年ノ、昨日ヲゾ、イツシカトノミ、待チワタルベキ」

ゴム (名) [護謨] 〔蘭語、Gom.〕 熱帶地方ノ、一種ノ喬木ノ幹皮ヲ切リ、流レ出ヅル樹液ヲ採リテ製スル物。柔靭ニシテ、彈性アリ、電氣ノ器具ニ用キテ、不

滑石ノモノトナリ、其外、管ニ作リ、車ノ輪ニ用ヰルナド、種種ノ用ニ供セラル。[illegible]ノ、印度產ノモノハ、葉ハ、楕圓形、平滑ニシテ、光澤アリ、南亞米利加洲ニ出ヅル、葉ナルハ、平滑ナル三出複葉ヲナス、何レモ、高サ、數丈ニ至ル。

ごん (名) 艮 (一)易ノ卦ノ名、卦ノ條ヲ見ヨ。(二)方角ノ名、丑寅ノ方、東北。

ごん (名) 權 ごんくゎん(權官)ノ條ヲ見ヨ。

ごん (名) 〔牛蒡ヲ、音便ニ、ごんばうト云ヒ、其下略ナリ〕牛蒡ノ、女房詞。大上臈御名之事(室町時代)「牛蒡、ごん」

こんあ (名) 昏鴉 ユフカラス。夕暮ノカラス。夕方、塒ニ歸ルカラス。晩鴉。[illegible]

こんい (名) 袞衣 こんりようのぎよい(袞龍御衣)ノ條ヲ見ヨ。

こんい (名) 懇意 (一)ネンゴロナル心。[illegible] (二)交際ノ、殊ニ親シキコト。入魂。懇親。「アノ人トハ、至懇ニシテ居ル」

こんいつ (名) 混一 混ジテ、一ツニスルコト。合一。[illegible]「[illegible]混一天下」[illegible]

こんいん (名) 婚姻 〔出典ヲ見ヨ〕(一)婚ノ家ト、姻ノ家ト。[illegible] (二)婚姻ノ契ヲ結ブコト。夫婦ノ縁組。[illegible]ラミ、婚姻セヨ」

ゴムいん (名) 護謨印 護謨ヲ、印材トシテ作レル印。

こんえう (名) 焜燿 光リ、カガヤクコト。[illegible]詩「[illegible]焜燿、可[illegible]」

〔コンオル〕 (名) 王后 こにきしノ語原ヲ見ヨ。

こんか (名) 渾家 〔字典「渾、齊同也」〕家族ノ全體、一家。全家。ウチヂュウ。[illegible]

こんか (名) 婚嫁 〔婚姻ノ條ヲ見ヨ〕ヨメイリスルコト。隋書、倭國傳「婚嫁不レ取二同姓一」

ごんか (名) 言下 げんか(言下)ニ同ジ。「言下ニ說キ伏ス」「言下ニ答フ」

こんかう (名) 混淆 入リマザルコト。ウチコミ、ゴタマゼ。宋史、[illegible]傳「賢不肖混淆」[illegible]

こんがう (名) 金剛 〔梵語、跋折羅(金剛石)ノ譯語、諸金屬中ノ最剛ナル物ノ義ナリ〕(一)金剛石ノ事ヲ云フ語。此語、佛經中ニテ、金剛ノ堅キハ、何物モ、コレヲ碎キ得ザル義ニ云ヒ、又、其堅キハ、何物ヲモ、碎キ得ル義ニ云フ、(跋折羅ノ條ヲ併セ見ヨ)此二義ヲ以テ、佛菩薩、其他、種種ノ佛語ニ冠シテ用キラル。(二)金剛杵、金剛界、金剛力士、ナドノ略、各條ヲ見ヨ。(三)金剛草履ノ略。

こんがうかい (名) 金剛界 〔金剛トハ、大日如來ノ智法身ニ名ヅケタルモノニシテ、其體、堅固ニシテ、一切、煩惱ヲ破摧スル妙用ニ喩ヘテ云フナリ、胎藏ハ、孩兒ガ、母胎中ニ育テラルル如ク、一切ノ萬法身ガ、佛教ノ理德ノ中ニ發育セラルルヲ示シ云フナリ〕佛說ヲ、曼陀羅ノ圖ニ現ハシタルヲ云フ語。胎藏界ト云フモノモ、同ジ意ナリ、二圖ニ別チテ、相、對セシメテ說ク、コレヲ、兩界曼陀羅ト云ヒ、略シテハ、金胎二部トモ云フ、委シクハ、曼陀羅ノ條ニ記セリ。太平記、十八、比叡山開闢事「大宮ノ寶殿ハ大日、聖眞子ノ寶殿ハ、金剛界ノ大日」

こんがうがう (名) 金剛號 くゎんぢゃうがう(灌頂號)ノ條ヲ見ヨ。

こんがうざうり (名) 金剛草履 〔金剛ノ堅固ナルニ比シテ、名トス、雍州府志(天和)七、土產門、草履「又、稱二金剛一云云、其製法堅密、而雖二行二遠方一不レ敗、故謂二金剛一云云」〕草履ノ、堅固ニ作レルモノ、略シテ、金剛トノミモ云フ。(げげノ條ヲ併セ見ヨ)藁ニテ作レルヲ、わらこんがうト云ヒ、藺ニテ作レルヲ、ゐこんがうト云フ。又、板金剛ト云フハ、長方形ニ編ミ作リテ、方板ノ如キモノ、或ハ云フ、草履ノ裏ニ、板ヲツケルモノト。法然上人行狀畫圖、三十四「上人ノ一期ノ威儀ハ、馬、車、輿ナドニ乘リタマハズ、金剛草履ニテ步行シタマヒキ」(法然、建曆二年寂ス) 圓光大師行狀畫圖、八貫、三十四「金剛草履ハ、世ニ常フ、安然和尚、イタク貴ミカリケレバ、草履ヲ作リテ、世ノイトナミトシタマヒケルヲ、人來テ、ソレハ何ニカ、ト問ヒ申セシニ、金剛ノ性體ト答ヘタマヘリ、サレバ、此時ヨリ、草履ヲバ、金剛トハ云ヘルトカヤ」 古實採要(享保)下 草履「[illegible]ハ、[illegible]名、たかはのト云ニモノ也、地下ニテ用ルハ、制、異ナリト云ヘドモ、こんがうト呼ブ、昔、比叡山ニ、安然僧正、貧窮シテ、草履ヲ求ムルニカナシ、依テ、金剛ヲ手ニ持タセタマヒテ、草履ヲ作リシヨリ、こんごうざうりト、世ニ言ヒ習ハシタリトナリ」(此金剛ハ、金剛杵、卽チ、獨鈷ヲ云ヘルナリ、獨鈷ヲ以テ、藁ヲ打チタリト云フニカ、然レドモ、安然ハ、陽成天皇ノ元慶年中ノ人ナリ、餘リニ古シ、スベテ、附會ノ說ナルベシ) 古口傳、法勝寺九重塔「正安二年五月五日記云、云云、法皇、新院、內內御[illegible]有二臨幸一九重塔壇上、法皇不レ被レ召二御金剛一、[illegible]有レ恐之由有二勅定一」古事類苑) 七十一番職人盡歌合(文安)廿一番、草履作ノ詞「おこうり、おうい、いたこんがう召セ」闕スル所ノ板金剛、長方形ノ草履ナリ) 奇異雜談集(天文)二「應仁亂中、云云、足輕一人アリ、云云、萌黃ノもちノ十德ニ、[illegible]金剛ニテ候ヒツル」同「[illegible]人、云云、急ニ走ルニ、闕金剛、ヤガテ敗レテ、跣ニ成リテ、鞠ニテ行ク」可笑記(寬永、如儡子)四「こんがうト中ス履物ハ、藁ニテ作レルモノナレバ」雍州府志(天和)七、土產門、草鞋、謂二草履一又、稱二金剛一 物類稱呼(安永三四)、草履「江戶ニテ、こんがう、駿、甲、共ニ、關ノ東ヲ以テ織リタル物ナリ」

こんがうさった (名) 金剛薩埵 〔薩埵ノ條ヲ見ヨ〕佛ノ名、眞言密教ニテ、祖トシテ崇ムルモノ。大日如來ノ賓弟ニシテ、龍樹大士ニ授戒灌頂シテ、金剛界、胎藏界、兩部ノ法ヲ授ケタル大士ナリト云フ。金剛頂略出經「一切衆生所有心、堅固菩提名二金剛薩埵一住二不動三摩地一」壒囊抄、三十二、[illegible]「昔、金剛薩埵、南天ノ鐵塔ヲ開キテ、大日如來ニ二部ノ灌頂ヲ値、祕密瑜伽ノ教法ヲ傳受シ給ヒシ」

こんがうさん (名) 金剛鑽 「鑽ハ、至堅ナル物ヲ鑽ル意」金剛石、又、金剛沙ノ漢名。正字通「金剛鑽、生二水底[illegible]一狀類二紫石英一」大和本草、三、金剛石「[illegible]日、一名、金剛鑽、出二西番深山高頂一云云、今人以レ之刻レ玉補レ瓷、故曰レ鑽」

こんがうざわう (名) 金剛藏王 〔藏トハ、胎藏界曼陀羅圖ノ中ニ、虛空藏院ト

云フ區畫アリ、其內ニ居ル故ノ名ナリトオボシ」智德ヲ表スル菩薩ノ名。大青色ニシテ、一百八臂ヲ有スト云フ。

こんがうじ (名) 〔金剛子〕〔金剛トハ、堅キ義ナリ、其條ヲ見ヨ〕熱帶地ノ樹ノ實ノ核。紬束ス、堅クシテ、圓ク、六稜アリテ、黑シ、數箇、絲ニ貫キテ、數珠トス、木槵子ノ類、是レモ、數珠トス。典籍便覽「金剛子出安南、六楞、遍身、花紋深細可愛、堅而實、故名、作數珠、冬月不冷、有一龍眼大者、有一榛子大者、有一稠子大者」慈悲大僧正消息「念珠、菩提子ニ、蓮、金剛子一連」同、五、苔紫ヰ「こんがうじノ數珠ノたまノ、サウゾクシタル、ヤガテ、其國ヨリ入レタル箱ノ、唐メイタルヲ、透キタル袋ニ入レテ」

こんがうしん (名) 〔金剛心〕金剛石ノ如ク、堅固ナル精神。少シモ疑念ヲサシハサマヌ信仰心。維摩經、佛國品「深信堅固、猶若金剛」大藏法數、金剛心者、謂菩薩之心、堅固不動、猶如金剛也」

こんがうじん (名) 〔金剛神〕こんがうりきし(金剛力士)ノ條ヲ見ヨ。

こんがうしや (名) 〔金剛沙〕〔金剛石、金剛山ニ、因メル名ナリ、金剛山、大和國ノ方ヨリハ、葛城山ト云フ、其東麓ヨリモ、西麓ヨリモ、產ズルナリ、續紀、十五、天平十五年九月「官奴斐太、始以大坂沙、治玉石之人也」トアルハ、大和ノ葛下郡、大坂ノ地ノ產ナリシナリ〕石榴石ノ、細末ナルモノ。河內國、金剛山ノ溪流ヨリ產ズ、沙ノ如クニシテ、赤黑シ、又、黃赤ナルモアリ、形、多クハ、稜アリ、玉石ヲ切リ、又、物ヲ粗磨スルニ用キル。アカズナ。

こんがうしやう (名) 〔金剛沙〕〔金剛沙ノ延、大和本草、三「金剛沙、俗ニ、アヤマリテ、こんがうしやうト云フ」蚊ヲかあト云ヒ、火ヲひいト云フ類カ〕前條ノ語ニ同ジ。七十一番職人盡歌合(文安)三十九番、硯士「瑩フコトハ、ナホ難ケレバ、砥石、金剛しやうモ、カナハサリケリ」本草綱目啓蒙、五、合玉石、コンゴウセウ」

こんがうしゆ (名) 〔金剛手〕こんがうりきしノ條ヲ見ヨ。

こんがうしよ (名) 〔金剛杵〕〔金剛ハ、能ク碎ク義、其條ヲ見ヨ、形、手杵ノ如シ、集韻「杵、音處」元來ハ、天竺ノ武器ナリ、大論「金剛寶者、帝釋所執、與阿修羅戰、碎破閻浮」鈷ハ、股ノ義、獨鈷ハ、一股杵ノ略、三鈷、五鈷、同ジ、合類節用集、七、器財門「三鈷杵、鈷、本字、股、蓋、三枝之義」〕眞言宗ニテ、修法ニ用キル具。銅ナドニテ作ル、大キサ、細長ク、手ニ握リ得ルホドニテ、中、括レテ、兩端、稍太クシテ、手杵ノ如シ、梵語ニ、跋折羅ト云フ。金剛智杵。其兩端、單獨ナルモノヲ、獨鈷ト云ヒ、各、三股ヲナスヲ、三鈷ト云ヒ、五股ヲナスヲ、五鈷ト云フ。煩惱ヲ破碎シ、菩提心ヲ表彰スルモノトス。諸部要目「金剛杵者、菩提心義也、云云、能摧二十種煩惱、成二十種眞如、便證三金剛三業、獲三金剛智二」無常經「金剛智杵、碎邪山、永斷無始纏縛二」傳敎大師將來目錄「五鈷跋折羅様一口、三鈷跋折羅一口」倭名抄、十三僧坊具「三鈷、大日經疏云、獨鈷、三鈷、五鈷」太平記、十八、高野與根來不和事「其ノ身、盤石ノ如クニシテ、那羅延ガカニテモ、動カシ難ク、金剛の杵モ、碎キ難クゾ見エタリケル」

こんがうずな (名) 〔金剛沙〕〔金剛ハ、強キ義、其條ヲ見ヨ」相撲人ノ、相撲取ルベキ前ニ、土俵ノ沙ヲ採リテ、兩掌ニテ揉ムモノ。相撲傳書、相撲敎へ方「相撲取ルベキ以前、砂ヲ取テ、兩掌へ揉込ミ、筋力ヲ助ケ出ス兩掌ノ砂ヲ、金剛砂ト云フ」(古事類苑)

こんがうせき (名) 〔金剛石〕〔こんがう(金剛)ノ條ヲ見ヨ〕鑛物ノ名。跋折羅。デアマンテ。ギヤマン。ダイヤモンド。金剛鑽。印度、又ハ南亞米利加洲ノ伯剌西爾、等ノ熱地ニ產ズ、水晶ノ如ク透明ニテ、色無キヲ常トス、又、黃、靑、綠ヲ帶ビタルモアリ、鑛物中ノ最モ堅ク、最モ貴キモノトス、裝飾トシ、又、水晶、硝子、及、諸ノ玉石ヲ切ル用トス。鑽石。起居注「金剛寶、生於金中、色如紫石英、百錬不消、可以切玉如泥」國史纂異「金剛石、至堅、物莫能敵」盛衰記、三十九、重衡關東下向事「石ハ、補陀落山ニシテハ、寶石ト名ヅク、或ハ、金剛石トイフ」

こんがうち (名) 〔金剛智〕〔金剛ノ、至堅、至利ナルガ如キ智ノ意〕佛ノ智ノ、百事ヲ看破セザルナキヲ稱スル語。金剛杵ヲ、金剛智杵トモ云フ。無常經「金剛智杵、碎邪山」諸部要目「金剛杵者、云云、能摧二十種煩惱、云云、獲三金剛智二」

こんがうちしよ (名) 〔金剛智杵〕前條、及、金剛杵ノ條ヲ見ヨ。

こんがうづゑ (名) 〔金剛杖〕〔行者ガ、金剛堅固ノ所作ノ表識トス〕修驗者ノ、山ニ登ルニ用キル杖。白木ニテ、八角、又ハ、四角ニ削リ、長サヲ、其身ト等シクス。隔掻錄、富士山上、二合目「此所ニテ、金剛杖ヲ賣ル、料、八文、云云、長キハ、六尺强、短キハ、四尺」(古事類苑)狂言記、蟹山伏「此ノこんがう杖デ、甲ヲ打チワッテクレウゾ」

こんがうどうじ (名) 〔金剛童子〕眞言宗ニテ祀ル、護法ノ神ノ名。童形ニシテ、立チテ、右手ニ金剛杵ヲ執リ、忿怒ノ相ヲナス。平家物語、二、康賴祝言「南無、權現金剛童子、願ハクハ、憐ヲ垂レサセオハシマセ」

こんがうぶつし (名) 〔金剛佛子〕眞言宗ノ行者ノ、金剛號ヲ受ケタル者ノ稱。くわんぢやうがう(灌頂號)ノ條ヲ見ヨ。

こんがうみつしやく (名) 〔金剛密迹〕こんがうりきしノ條ヲ見ヨ。

こんがうやしや (名) 〔金剛夜叉〕〔上生經「言金剛者、手中杵也、從所執爲名也」猶、夜叉ノ條ヲ見ヨ〕佛經ニ、五大明王ノ一。五百ノ夜叉ヲ領ス、三面、六臂、金剛杵、利劍、弓、矢、等ヲ執ル、北方ヲ護リ、一切ノ惡魔ヲ摧伏スト云フ。榮花物語、十八、玉臺「金剛夜叉ハ、釋迦佛ト聞キ奉ルニ、第十六我釋迦牟尼佛トノタマハセタル」此明王ヲ本尊トシテスル修法ヲ、金剛夜叉法ト云フ。盛衰記、廿七、源氏追討祈事「兵革ノ御祈リ、云云、公顯前大僧正ハ金剛夜叉、證空僧正ハ不動明王」

こんがうやしやほふ (名) 〔金剛夜叉法〕前條ヲ見ヨ。

こんがうりう (名) 〔金剛流〕能樂ノ一流、五流ノ一。坂戶三郎正明ヲ祖トス、入道シテ、善覺ト號ス、氏ヲ、金剛ト改ム、金春流ヨリ別レテ、一流ヲ開キタリ、其後孫、德川氏ニ仕ヘテ、幕府ノ能役者ノ一家ヲ成セリ。

こんがうりき (名) 〔金剛力〕佛經ノ語、何物ヲモ、破リ得ル力量。非常ニ強大ナ

ル力。佛法中ニ、菩薩ノ身力堅固ナルヲ喩ヘニ、那羅延金剛力ト云フコト、往往アリ。那羅延金剛ノ力ト云フカ、サラバ、金剛力士ノ如キ力ノ意ナラム。

こんがうりきし（名）【金剛力士】〔金剛ハ、堅強ノ義、手ニ金剛杵ヲモ持ツ、密迹トハ、如來一切ノ祕密事迹ニ識達スル意ト云フ、那羅延ハ、梵語ニテ、勝力、又、堅牢ノ義ナリ〕佛法ヲ守護スト云フ、二神ノ稱。其一ヲ、金剛密迹天ト云ヒ、其一ヲ、那羅延天、又、那羅延金剛ト云フ、共ニ、金剛神、又、金剛手トモ稱シ、其力最、非常ナリト云フ。此二神ヲ、二王尊トモ稱シ、巨大ナル立像ニ作リ、寺門ノ兩脇ニ安置シタルヲ、二王門ト云フ、各、裸體ニテ、腰ニ布ヲ纏ヒ、顏面、手足、勇猛ナル相ヲナス、門ニ向ヒテ、右方ニ金剛密迹ヲ置ク、金剛杵ヲ執リテ、口ヲ開ク、左方ニ那羅延ヲ置ク、口ヲ閉ヅ、開閉ハ、阿吽ノ二音ヲ表ス。正法念經、寶積經、金剛力士、……「門ノ扉ニ手ヲカケテ」

こんがうれい（名）【金剛鈴】眞言宗ニテ、修法ニ用ヰル振鈴ノ稱。金剛杵ノ一端ヲ、鈴トセルモノ。平家物語、八、法住寺合戰事……

こんかき（名）【紺掻】〔かくハ、染ムルナリ〕紺屋ノ二丸ニ見ユ、藍ニ、藍ヲ、穢レハ、二入レテ、底ニ沈澱マスヤウニ、掻キマハシテ染ムルナリ、こうかきト云フハ、

紺掻ノ音便（柑子、かうじ。勘事、かうじ）藍ヲ以テ、布帛ヲ染ムルヲ業トスル者。又、こうかき。盛衰記、十九、義朝首出事「獄門ノ前ニ、紺掻五郎ト云フ紺掻ノアリケルガ、……」七十一番職人盡歌合（文安）四番、紺掻ノ詞「タダ一入染メヨ、ト仰セラルル」下學集（文安）上、人倫門「紺掻」節用集（享德）中、術藝「紺掻」

こんかぎり（副）【根限】根氣ノ續クカギリ、精力ノ有ラムカギリ。假名文章娘節用「……オメエガサウ云フ心ナラ、ワタシモ、根かぎり……ダガ」、こんかぎり……」

ごんがく（名）【艮嶽】〔艮ハ、うしとら、即チ、東北ナリ〕都城ノ東北ニアル山。我ガ國ニテハ、近江ノ比叡山ノ別名。京都ノ東北ニアリ。……合類節用集（元祿）二、乾坤門「比叡山、天台山、台岳、艮嶽」

こんがすり（名）【紺絣】染模様、織模様ノ名。紺地ニ、白キ絣アルモノ。

こむかひ（名）【小向】〔次條ノ語ト、同趣ナリ、向、賤す、けなす。小二歳、けにさいナド云フ語モアリ〕東京商人ノ語。二人、カケムカヒ。一個人トシテ、サシムカヒナルコト。（公共ニ對ス）「こむかひノ……」

こむか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）【向】〔かけむかふノ、けむかふ、こむかふト轉ジタル語ナルカ（向州、苔。筒、寵）〕かけむかふノ意ナルベシ。サシムカフ。……

ニ、七夕ノ、彦星ト、織女星ノ、天河ノ會合ニ云フ、天ノ安ノ川ニ寄セタリ）

こんがふ（名）【混合】マザリアフコト。混和。杜牧詩、光明混合、……

ごんがふ（名）【五合】〔五合ノ音便（牛蒡、ごんばう）〕一合ノ五倍。「米、二升ご……」

こんがみ（名）【紺紙】あゐがみ（藍紙）ニ同ジ。

こんかん（名）【根幹】ねト、みきト。ネモト。……「根幹不レ萃、……」

こんがらか・る（動）【綿纏】こぐらかるニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

コンガラ・ぞうぢ（名）【矜羯羅童子】〔こんがらハ、梵語、Kimkara. 從僕ノ義ニテ、隨順ト譯セラル、制吒迦モ、梵語ニテ、息災、又、使者ト譯ス、尚、童子ノ條ヲ見ヨ〕不動明王ノ脇士ノ一。其左側ニ立ツ、身ハ、赤黄色ニテ、天衣、袈裟ヲ着テ、合掌シテ、獨鈷ヲ、横ニシテ、大指ニテ挾ミ持ツ。右側ニ立テル脇士ヲ、制吒迦童子ト云フ、身、紅色ニシテ、頭ニ五ツノ髻アリ、左手ニ三鈷ヲ執リ、右手ニ金剛杖ヲツク。平家物語、五、文覺荒行事「童子答ヘテ曰ハク、我レハ是レ、大聖不動明王ノ御使ニ、矜羯羅、制吒迦ト云フ二童子ナリ」

こんがり（副）〔こんがハ、焦るノ語根ノ音便轉（灰、ほんのり。柔、やんはり）〕物ノ、少シ焦ゲタル狀ニ云フ語……「こんがり燒ケタ」

こんき（名）【根氣】根ノ（三）ニ同ジ。

こんき（名）【根機】〔根性ノ機轉〕佛教ノ語。衆生ノ、教法ヲ受クベキ性能。又、機根。男、女、智、愚、賢、不肖ニテ、各、異ナリ、ソレゾレニ導ク、佛教ニ、無量ノ法門アルハ、コレガ爲メナリ。最勝王經、七「各隨二彼根機之所宜一」……大小ノ根機ヲ嫌ハズ、持戒、破戒ヲ選バズ、有無ノ二邊ニ落ツルコトナク、皆、成佛スルタメシアリ」眞俗佛事編、看經、勤行「時處軌日、四時（註、晨、午、昏、夜半）、三時（晨、午、昏）、二時（晨、昏）、一時（隨得暇）、無レ問二一切時一（行、住、坐、臥）ト說キタマヘリ、蓋シ、人ノ根機、各、異ナルヲ以テ、其機根ニ應ジテ、勸メシム」

こんき（名）【婚期】ヨメイリドキ。嫁期。

こんきゅう（名）【困窮】財産盡キテ、困難スルコト。窮乏。後漢書、第五倫傳、百姓困匱、以レ之困匱」

こむぎ（名）【小麥】むぎノ條ヲ見ヨ。

こんぎ（名）【坤儀】（一）大地。坤輿。……（二）皇后ノ御威德。

こんぎ（名）【婚儀】婚禮ニ同ジ。

こんぎく（名）【紺菊】〔莖、葉、花、共ニ、紺色ヲ呈ス、花ノ形、菊花ニ似タリ〕菊科ノ草、よめなノ類、春、舊キ根ヨリ叢生ス、高サ二三尺、葉ハ、よめなノ葉ニ似テ、莖ト共ニ、紺色ナリ、秋ノ末ニ、莖頭ニ深紫花ヲ開ク、よめなノ花ニ同ジクシテ、紫色ヲ帶ブ。馬蘭。

こむぎこ（名）【小麥粉】小麥ヲ碾キテ、粉トシタルモノ。饂飩、麩、索麪、饅頭、其他、菓子ナド製スルニ用ヰル。ムギコ。ウドンノコ。ウドンコ。麪粉

こんきち（名）【狐吉】〔啼聲ヲ、狐トシテ、

擬人シタル語（石部金吉、膝吉、臑吉）こんちきハ、戯レカ、語路滑ラカナラヌタメカ、吉ヲ、倒ニ云フナリ（縵ちき、鈍ちき、高慢ちき）」狐ノ異名。又、こんちき。吉原袖かがみ（寛文）三浦屋ノ遊女吉野、度度、子ヲ産ミシトテ「子ヲ易ク、タビタビ生メル、故ニコソ、こんきちサマト、人ハ云フナリ」（妓ヲ、狐ト云フ、篠田ノ森ノ狐、人ノ子ヲ生メリト云フ事アリ）端唄、紀伊國「こんこんちきヤ、こんちきヤ、篠田ノ森ノ狐、云云」

こんき-まけ （名）根氣負　張合ヒタル根氣ガ盡キテ、負ケテシマフコト。

ごん-ぎゃう （名）勤行　〔勤ノ呉音、ごん（金、こん）勤トハ、勇悍ニ勤むる義、精進ノ意、懈怠ノ反ナリ〕佛教ノ語。精進ノ意、通常ニハ、佛像ニ向ヒテ、定時ニ回向スル誦經、禮拜、燒香、等ノ儀式ヲ云フ。無量壽經「盡ㇾ樂ニ世事ニ勤行、求ニ道德ニ」盛衰記、十八、文覺清水狀天神金事「如何ニ殿原、自今以後ハ、知ルベシ、勤行、精進ノ在俗ヨリハ、無智、無行ノ比丘ハ勝リタリ」

こん-きゃく （名）困却　コマルコト。窘シムコト。

こん-きゅう （名）困窮　衣食住ニ乏シクシテ、苦シムコト。困苦、窮困、窮迫。書經、大禹謨篇「四海困窮、天祿永終」

コンキュウバイン （名）妾　〔英語、Concubine.〕ソバメ。テカケ。メカケ。

こん-きょ （名）根據　根トシテ、據ル所。漢書、霍光傳「黨親連體、根據於朝廷」「根據無キ論說」

こん-きょく （名）坤極　〔乾坤、並ニ、乾德ノ條ヲ見ヨ〕皇后ノ位。後漢書、順烈梁皇后紀「宜ㇾ配天祚、正ニ位坤極ニ」

こん-きょく （名）懇棘　ネンゴロナル心。懇切ナル誠心。太平記、廿三、就直義病惱上皇御願書事「抄身已抽祈謝之誠、懇棘忽酬ニ病根速消ニ者、點七日之光陰ニ」

コン-ぎょく （名）崑玉　崑崙山ノ條ヲ見ヨ。

ごん-ぎり （名）五寸切　海鰻ノ、小ニシテ、肉、薄キモノ。大和本草、十三、海魚「海鰻、唐音、ハモ、本草曰、海鰻鱺、似鰻鱺而大トイヘリ、日本ニ、アヤマリテ、鱧魚ヲ、ハモト訓ズ、長崎ニテ、中華人、ハモヲ海鰻ト云、ウナギヲ淡鰻ト云、國俗、ハモノ小ニシテ、肉ウスキヲ、ごんぎりト云」魚鑑、上、はも「小ニシテ、肉薄キモノヲ、ごんぎりト云フ、古ヘハ、割ラズニ、全ニテ煮燒シテ、食シヤト思ワル、ごんぎりハ、五寸切ナリ」

こん-く （名）困苦　辛苦ニ同ジ。戰國策、楚策「劫試死亡之主也、心之憂勞、形之困苦、必甚ニ於癘ニ矣」

〔こん-く （名）金鼓　〔金鼓ノ呉音、借字ニ、金口トモ書ク、こうくト云フハ、音便ナリ（柑子、かうじ）ひらがねト云フハ、扁鐘ノ義〕ひらがね。又、こうく。佛家ニ用キル樂器。銅製、正圓ニシテ、扁ク、中ノ、空ナルモノ、物ニ繫ケテ、桴ニテ撃チ鳴ラス。大ナルヲ、大金鼓ト云ヒ、寺門、又ハ、佛堂ノ楣ナドニ繫ケ、（鰐口ノ條ヲ參見セヨ）小ナルハ、胸間ニ繫ク。金光明最勝王經、二、夢見金鼓懺悔品、第四「妙幢菩薩、云云、夢中見ニ大金鼓、光明晃耀、猶如ニ日輪、云云、一婆羅門、桴擊ニ金鼓、出ニ大音聲ニ」倭名抄、十三「伽藍具、金鼓、比良加禰」字類抄、金鼓、コンク、タヒラカネ」小右記、正曆六年九月十八日「令ㇾ打ニ三百寺金鼓、云云、五十箇寺」尊勝寺供養記、康和四年七月廿一日「舞臺南去丈許、立ニ金鼓臺一基、懸ニ金鼓、有ㇾ損」太子傳玉林抄、十二、法隆寺「中門、在ニ金鼓二口、云云、嘉禎元年懸ㇾ之、云云、件金口者、云云、其聲深妙、徹ニ數里之外ニ」東大寺要錄、七、大佛殿「金鼓一口、亘三尺、在ニ南中門ニ」山門堂舍記、根本觀音堂「大金鼓一口、正面外陣懸ㇾ之」江家次第、十三、法勝寺御塔會「禮佛畢、云云、次打ニ金鼓、唄師發音」枕草子、六、五十八段「淸ゲナル男ドモ、云云、細ヤカナル物ナド具シテ、こんく打ツコソ、ヲカシケレ」撰野紀行（増基）「女ドモナド、笠ヲ着テ、こんく打チテ歩クヲ見ルニ」元輔集「極樂寺ワタリニ、こうく打チ侍リシニ」

こん-ぐ （名）金口　佛教ノ語。釋迦ノ說法。コガネノコトバ。金口。萬葉集、五八「釋迦如來金口正說等、思ニ衆生、如ニ羅睺羅ニ」

ごん-く （名）言句　一クサリノ言葉。一言半句。蟬丸（元祿、近松作）四「トカウノ言句モ出デバコソ、夢カト思フ氣色ナリ」「言ヒツメラレテ、言句モ出デズ」

こん-ぐう （名）坤宮　〔乾德ノ條ヲ見ヨ〕皇后宮ノ稱。續紀、廿二、天平寶字四年六月「勝寶元年、高野天皇受禪、改ニ皇后宮職、曰ニ紫微中臺、云云、寶字二年、云云、改ニ中臺、曰ニ坤宮官ニ」

こんぐう-くゎん （名）坤宮官　皇后宮職ノ稱、前條ヲ見ヨ。

ごん-ぐ-じゃうど （名）欣求淨土　厭離穢土ノ條ヲ見ヨ。平家物語、三、少將都還事「形見ヲ見給ヒテコソ、サスガ欣求淨土ノ望モ、オハシケリト」

こん-くらべ （名）根競　根氣ヲ、クラベアフコト。氣力ヲ競フコト。國性爺合戰（正德、近松作）二「振ッテ懸レバ、身ヲカハシ、挽メバ、ヒラリト乘移リ、上ニ成リ、下ニ成リ、命競べ、根競べ、聲ヲカニ、エイエイエイ」

コンクリイト （名）混凝土　〔英語、Concrete.〕普通ニハ、せめんと一、沙三、沙利四、ノ割合ニ混合シ、練リ合ハセ、硬化セシメタルモノ。突キ固メテ、土木工事ニ用キル。鐵筋ヲ插入シテ用キルヲ、鐵筋こんくりいとト云フ。

こん-くゎ （名）混和　雜リ合ヒテ、熟ルコト。混合。混和。

こん-くゎい （名）吼噦　〔狐ノ聲、古クハ、こうこうト云ヒ、今ハ、こんこんト云フ、聞キナシニ因リテ、こんくゎいトモナルナリ、吼ハ、ほゆ、玉篇「噦、鳥鳴也」噺ふハ、馬ノ鳴クナルニ、鷄ノ鳴クニモ云フ〕狐ノ鳴聲ニ云フ語。狂言ノ外題ナリ。狂言記、こんくゎい、狐ノ詞「此鼠（餌）ハ、親、祖父ノ敵ヂャ、一喫チ喫テ、食ハウ、喫タレテ鼠、哭ヲゾ泣ク、我レニハ晴ルル胸ノ烟、こんくゎいノ涙ナルゾ悲シキ、くゎい」堺鏡（天和）「大藏某（狂言師、家祖、大藏彌右衞門、道林ナラム）狂言ニテ、名ヲアゲ、家ヲ起セリ、永祿年中、泉州、堺、耕雲庵住僧、伯藏主、狐ヲ養育ス、此狐、靈アリテ、未前ノ凶ヲ告グ、大藏、此事ヲ狂言ニ作リ、こんくゎいト稱シ、又、釣狐トモ云フ、狐、老翁ト化シテ、野狐ノ所作、働キ、ヲロ傳シ、忽然トシテ去ル、コレヨリ、大藏、マスマス妙ヲ得テ、此狂言ヲ、家ノ大事トス」（節文）

こん-くゎい （名）今回　〔くゎい（回）ノ條ヲ見ヨ〕コノタビ。今度。今次。

こん-ぐゎい （名）閫外　〔次條ヲ見ヨ〕（一）閫ノ外。（二）都城ノ外。

こんぐゎい-の-しん （名）閫外之臣　〔閫ハ、門ノ閾ナリ、說文「閫、門限也」都城ノ外ノ事ハ、將軍ニ一任セラルル意〕大將軍ノ異稱。史記、馮唐傳「臣聞、上古、王者之遣ㇾ將也、跪而推ㇾ轂曰、閫以內者、寡人制ㇾ之、閫以外者、將軍制ㇾ之」

こん-くゎう-けう （名）金光教　〔神傳ヲ得テ、金光ト稱スト云フ〕神道教派ノ

一。備中國、淺口郡、三和村ノ人、川手文治郎、首唱ス、(明治十六年歿ス、年、七十)[illegible]愛國、死生安心ノ旨ヲ宣スルヲ教義トス、明治三十三年、神道本局ヨリ[illegible]シテ獨立ス、本部ハ同國金光町ニアリ。

こんくゎうみゃうきゃう (名) 金光明經 次條ヲ見ヨ。

こんくゎうみゃうさいしょうわうきゃう (名) 金光明最勝王經 〔[illegible]〕 略シテ、金光明經トモ云フ。經中ノ四天王護[illegible]品、大吉祥天女增長財物品、等ニハ、此經ヲ護持スル國土、人民ヲ守護シ、福德ヲ增長セシムトノ誓願アリ、古來、仁王經、法華經ト、共ニ、國家鎮護ノ三部經ト稱セラレ、奈良朝ニテ、日本諸國ニ、國分寺ヲ建テラレ、此經ヲ[illegible]セシメ、金光明四天王護國之寺ト稱セシメラレシモ、コレガ爲ナリ、[illegible]僧ヲ集メ、大極殿ニテ、金光明懺ヲ行ヘリ、我ガ國ニテモ、コレニ倣ヒタマヒシナルベシ。

こんくゎん (名) 悃款 ネンゴロ。親切。 屈原、卜居篇「吾寧悃悃款款、朴以忠乎」

こんぐゎん (名) 懇願 一向ニ、願ヒ望ムコト。[illegible]

ごんくゎん (名) 權官 〔權ノ呉音、ごん(漢、こん)權ニ任ズル意、職原「權字、唐始用レ之、[illegible]、權知國子博士」〕(一)正官ニ副ヘテ設クル、假稱ノ官。正員ノ外ノ官。正官ハ本役、權官ハ假役ナリ、權トノミ云フモ、是レナリ。 [illegible](二)次ノ位ノ人。 今昔物語、十一、第廿五語「[illegible]」

ごんげ (名) 權化 佛教ノ語、佛菩薩ガ、衆生ヲ濟度セムガ爲ニ、權ニ、人ト化リテ、人間ニ現ハルルコト。佛ノ化現。權現。觀世音菩薩ノ、三十三身ニ化身マストト云フガ如キモ、是レナリ。又、本地佛ノ垂迹スルニモ云フ、弘法大師ノ本地ハ、三位ノ菩薩ナリト云ヒ、親鸞聖人ハ、阿彌陀如來ノ化現ナリナド云フガ如シ。 [illegible] 平家物語、二、一行阿闍梨之沙汰「時ノ横災ヲバ、權化ノ人モ、遁レ給ハザリケルニヤ」

こんげう (名) 今曉 こんてう(今朝)ニ同ジ。 [illegible]

ごんけう (名) 權教 權實ノ條ヲ見ヨ。

こんげつ (名) 今月 今ノ月。此ノ月。 北史、周、[illegible]傳「便以二今月十三日一[illegible]天命一」

こんけつ‐じ (名) 混血兒 血混兒ニ同ジ。

こんげん (名) 根源 〔木ノ根、水ノ源、因リテ、物事ノ元ノ意トナル〕オホネ。オホモト。根本。 [illegible] 太平記、三十五、北野[illegible]、亂世ノ根源ハ、只、欲ヲ以テ爲レ本」

ごんげん (名) 權現 (一)權化ニ同ジ。 最勝王經、一「世尊金剛體、權現ニ於化身一」 盂蘭盆[illegible]「十地菩薩ノ人、權現ニ比丘ニ、在二[illegible]中一」(二)神號ニ云フ語。本地垂迹ノ說ヲ以テ、某神、某人ハ、某佛ノ權現ナリトスルヨリ起ル。 廿二社註式、石清水「清和天皇、貞觀元年、行教和尚、[illegible]宇佐宮ニ云云、到二男山之邊一云云、致レ誠祈請、將レ拜二見權現大神之垂迹本身一」 春日權現驗記、八、建保ノ頃、京ニアル尼、嵯峨ノ釋迦堂ニ參ル「夢ノ内ニ、大明神、ハシタフヤウ、我ハ、即チ、嵯峨ノ釋迦堂ニアリ、云云、ト宣ハルトヲル、コレニ因リテ、殊ニ信心シテ、祈請ヲ致スト云ヒケリ、權現御本地、釋迦ニテオハシマスト云フコト、既ニ符合シス、云云」 壬生家文書、元和三年二月廿一日、東照大權現宣命「故相[illegible]相國[illegible]臣ニ、云云、東照ノ大權現ト、上給ヒ、治賜フ」 神道名目類聚抄、四、神社「權現號、勅許ノ號ナリ、兩部ノ合ノ社ニ、此號アリ」「熊野三所權現」「箱根權現」「伊豆走湯權現」「白山權現」 江戸時代ニハ、德川家康ヲ、單ニ、ごんげんさまト云ヒキ、大師トノミ云ヒテ、弘法大師ノ特稱トシ、太閤ヲ、豐臣秀吉ノ專稱トスルト、同ジ。

ごんげん‐づくり (名) 權現造 〔日光ノ東照大權現ノ社ノ如キ、其模範ナリ〕神社ノ建築法ノ一種、今、云フ所ハ、本殿ト拜殿トヲ連ネテ、中間ニ、合間ヲ作リテ、三ツ、一棟ニ合ハセタルモノ。 神道名目類聚抄、一、宮社「權現造、此御殿ハ、組物、彫物、等アリ、或ハ、彩色ナドスルナリ」(圖ヲ見ルニ、建築法、古今、違ヒアルガ如シ)

こん‐ご (名) 今後 今ヨリ後。コノノチ。 [illegible]今後[illegible]古初一

ごん‐ご (名) 言語 コトバ。ハナシ。言語。「言語に絕す」ト云フハ、言語ニ述ブベキ道、絕ユノ意。「言語道斷ナリ」。 說文[illegible]、上[illegible]、注「由二此以[illegible]」[illegible]絕二乎言語一焉」

こん‐とく (名) 昏黑 (一)クラキコト。闇黑。(二)日、沒シテ、暗クナルコト。ヒグレ。黃昏。 白居易詩「[illegible]別[illegible]昏黑一」

こん‐ごしょ (名) 小御所 小御所ノ音便、其條ノ(一)ヲ見ヨ。

ごんご‐だう‐だん (句) 言語道斷 〔言語同斷ト書クハ、當字ナリ〕(一)言語ニ述ブベキ道、斷ユ。心、詞モ、及バズ。言ハムスベヲ知ラズ。「言語ニ絕ス」。極メテ、讃嘆スルニ云フ。 舊華嚴經、五「言語道斷、心行處滅」(心行ノ所滅スル意、妙法ヲ稱シタル語) 法華玄義、二、下「是妙亦妙、言語道斷故」 朱子語類、釋陸象山ニ「言語道斷、心思路絕」 萬葉集、三 詠二不盡山一長歌「言ヒモ不得、名ヅケモ知ラニ、奇靈シクモ、座ス神カモ」 契沖云「言語道斷、心行處滅、ト云フガ如ク、云云、其理ヲ云フコトモ能ハズ、何ト名ヅクベキ名ヲモ知ラズ、ト稱美スル詞ナリ」 平家物語、一、鵜川合戰事「三千ノ衆徒、踵ヲツギ、七社ノ神人、袖ヲ連ネテ、時時、刻刻ノ發[illegible]祈念、言語同斷ノ事ドモニテゾ候ヒケル」 昨日は今日の物語(年代未詳)「年頃二十バカリナル、ごんごだうだんノ美キ女房ヲ呼ビ出ス」 羽後國、雄勝郡ニ、ごんごだうだんト云フ地名アリテ、言語同斷ト書ク、コレモ、稱美ノ意ナリ、てならノ條ヲ見ヨ。 (二)轉ジテ、惡意ニ用キテ、アキレテ、口ガキカレズ。(言はうやうなき大惡人ナド云フ意) 沙汰ノ限リナリ。 東寺文書抄、四「東寺雜掌聖勝申、當寺領、備中國、新見庄、云云、押領人、多治部若[illegible]、福本小三郎等、號二本知行一亂二入庄家一、違二亂所務一之條、言語道斷之珍事也、云云、明德二年六月日」

こん‐こん (副) 懇懇 ネンゴロニ。深切ニ、繰返シテ。 司馬遷、報二任安一書「意氣勤勤懇懇」

雲ニ糢糊ト說ク」

こん-こん（副）〔混混渾渾滾滾〕水ナドノ、涌キ流レテ、盡キザル狀ニ云フ語。孟子、離婁、下篇「原泉混混、不舍晝夜、盈科而進、放于四海」荀子、富國篇「財貨渾渾如泉源」杜甫、登高詩「不盡長江滾滾來」太平記、十四、箱根竹下合戰事「五ヒニ討チツ討タレツ、馬ノ蹄ヲ浸ス血ハ、混混トシテ、洪河ノ流ルルガ如ク也」

こん-こん（感）（一）咳ヲ咳ク聲ノ、ハヅムニ云フ語。「咳ガ、こんこん出ル」（二）古クハ、こうこう。狐ノ啼ク聲ニ云フ語。狂言記、狐塚「狐モ燻ベテヤラウ、サアサア、啼ケ啼ケ、こんこんト云へ」（三）小兒語ニハ、名詞トシテ、直チニ、狐ノ稱。浮世風呂（文化、三馬）三編、下「取、附イテ離レネエナラ、狐サマ」狂言記、末廣がり「好イ紙ヲ以テ、好イ天氣ニ張ッタニ依ッテ、此ノ如ク、彈ケバ、こんこん致ス」

こん-こん（感）〔鏗鏗〕〔こつこつノ、餘韻アルモノ〕金屬ナド、堅キ物ヲ叩ク響ノ、鳴リワタルニ云フ語。鐘ノ音ナドニハ、濁音ニテ、ごんごんトモ云フ。狂言記、花子「寺寺ノ鐘撞ク奴ハ、憎イカナ、云云、マダ夜深キニ、こんこん、こここん、こうト撞クニ、又、殴ラレヌ」

〜**ごん-ごん**（名）〔金銀〕佛經ニ、金ト、銀トヲ、呉音ニテ讀ム語。法華經、信解品「多有金銀珍寶、倉庫盈溢」佛經ニ、金、銀、瑠璃、ト云フハ、三種ヲ云フガ如クナレド、瑠璃ハ、漢書ニ云ヘルハ、黄瑠璃ト、白瑠璃トノ二種ナルガ如クナレバ、總ベテ、四種ノ稱。本草綱目「李時珍曰、按、魏略云、大秦國、出金銀琉璃、有赤、白、黄、黑、青、綠、縹、紺、紅、紫、十種、此乃自然之物、潤光采、瑜於衆玉」宇津保物語、吹上、下「杏子ナド云フ木ドモフ、村木トシテ、こむこむ（金銀）、ルリ（瑠璃）、シャコ（硨磲）、メナウ（瑪瑙）ノオホ殿ヲツクリ」

こん-こん（感）鐘ノ聲ニ云フ語、前前條ヲ見ヨ。

ごんごん-ゴマ（名）獨樂ノ條ヲ見ヨ。

こんこん-ちき（名）こんきちノ條ヲ見ヨ。

〜**こんごん-ルリ**（名）〔金銀瑠璃〕金ト、銀ト、瑠璃ト。（七寶、丼ニ、金銀ノ條ヲ併セ見ヨ）此語、堂塔、宮殿ノ築造、莊嚴ノ美麗ナル意ニ用キラル。輪奐　阿彌陀經、樓閣「以金、銀、瑠璃、玻璃、硨磲、赤珠、瑪瑙、而嚴飾之」合類節用集（元祿）九、言辭門「金銀瑠璃、俚俗、斥莊嚴美麗所言」

コンサアト（名）〔英語、Concert.〕西洋音樂ノ合奏。又、演奏會。

ごん-さい（名）〔權妻〕〔明治以後ノ戲語ナリ、權の北方ヨリ思寄リタル語、權官ノ條ヲ見ヨ〕側妻。メカケ。テカケ。妾

〜**こん-ざう**（名）〔紺青〕こんぢやうノ條ヲ見ヨ。蜻蛉日記、中、下「遠山ヲ眺メヤレバ、こんざうヲ塗リタルトカヤ云フヤウニテ、霰降ルラシトモ見エタリ」

ごん-ざう（名）〔藁草履〕ごんづ（藁草履）ノ條ヲ見ヨ。

こん-ざつ（名）〔混雜〕入リ雜リテ、別ケ難キコト。イリクムコト。紛雜。錯雜。北魏書、韓顯宗傳「錯居混雜」曾我扇八景（寶永、近松作）上「主ハ家人ヲ見違へ、家臣ハ朋輩ヲ取リハヅス樣ニ、混雜シ」

こん-さつ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）〔根殺〕〔殺ハ、助辭ニテ、意ナシ、抹殺ナド、同ジ〕恨むト云フニ同ジ。

こん-さん（名）〔混散〕混雜シ、散亂シアルコト。太平記、廿五、醫師評定事「混散ノ中ニ於イテ致科病ケレドモ、更ニ、何レノ病共不見」

コン-ざん（名）〔崑山〕崑崙山ノ條ヲ見ヨ。

こん-し（名）〔紺紙〕紺色ニ染メタル紙。コンガミ。著聞集、二、釋敎「帝皇自染黄金於筆端、握紺紙於爪掌、奉寫般若心經一卷」「紺紙金泥」

こん-し（名）〔懇志〕ネンゴロナル心ザシ。深切ナル心。厚志。賈至文「宜遂其懇志、退守本官」平家物語、二、康頼咒事「我等ガ無二ノ丹精ヲ知見シテ、一一ノこんしヲ納受シ給へ」

こん-し（名）〔溷廁〕カハヤ。便所。急就篇「依溷汙染」注「依、近也、溷、廁也、言、近溷廁者、則被汙染」

こん-じ（名）〔巾子〕こじ（巾子）ノ條ヲ見ヨ。

こん-じ（名）〔根事〕ウラメシキコト。殘念ナルコト。劉禹錫詩「不恨有恨事、嬌甚却生愁」「終生ノ恨事」「千歲ノ恨事」

こん-じ（名）〔今茲〕〔公羊傳「茲、新生草也、一年、草生一番、以茲爲年」〕コトシ。今年。本年。「今茲昭和八年三月」

こん-じ（名）〔閙寺〕閙人ノ條ヲ見ヨ。

こん-じき（名）〔金色〕金色ヲ、呉音ニテ讀ム語。榮花物語、廿二、鳥舞「丈六ノ七佛藥師、皆金色ニオハシマス」平家物語、二、善光寺炎上事「阿彌陀佛ノ鑄像、難波ノ浦ニシテ、云云、常ニ、金色ノ光ヲ放タセタマフ」

こんじき-せかい（名）〔金色世界〕金色ヲナシタル世界。卽チ、極樂淨土。聖德太子繪傳記（享保、近松作）五「半身、丈六遠膂ノ像、眼ノ光ハ、射ル矢ニ等シク、金色世界ヲウツスガ如ク、照リ耀ケバ」

こんし-こんでい（名）〔紺紙金泥〕〔泥ノ條ヲ見ヨ〕紺紙ノ上ニ、金泥ニテ、書畫ヲ書キタルモノ。佛經ニ、多シ、歷代ノ貴人、僧侶、コレヲ以テ、經卷ナドヲ作リテ、佛寺ニ供シタリ。紙ニハ、紫紙、又ハ、白紙ナルモアリ、泥ニハ、銀泥ナルモアリ、或ハ、金泥ト、銀泥トヲ以テ、一行置キニ、交へテ書キタルモアリ。古經題跋、上、和州法隆寺藏、梵網經一卷「紺紙金字、上宮皇太子眞蹟」拾遺集、五、賀「天曆帝、四十ニナリオハシマシケル時、山階寺ニ、金泥壽命經四十八卷ヲ書キ、供養シ奉リテ」本朝文粹、十三、爲空也上人供養金字大般若經願文「紺瑠璃之紙、黃金之文、成行成字」古經題跋、下、奧州平泉中尊寺藏、金銀泥一切經　右經卷者、金字、銀字、挾一行而交、光、紺紙、玉軸、合衆寶而成、卷」

こん-しつ（名）〔金漆〕〔支那、金州產ノ漆、性、佳ナレバ、稱シタルニ起ル、本草綱目「以金州者爲佳、故世、稱金漆」トアリ、阿膠、川芎ノ例ナリ、こしあぶらトハ、漉油ニテ、精製、純粹ナル意カ、漆ノ液ハ、油ノ如シ、きんのうるしト云フハ、金漆ノ文字讀ナリ、龍馬ヲ、たつのうまト云フガ如シ〕漆ノ、精製シタルモノナルベシ。コシアブラ。キンノウルシ。倭名抄、十五、膠漆具「金漆、古之阿布良」字類抄「金漆、コシアブラ、コンシツ」賦役令「金漆三夕」兵庫寮式「金漆一合、塗前料」落松中納言物語、四「髮、搔キ出デタマヘレバ、頂ヨリ末マデ、ツユ隱レタル理ナク、マコトニ、きんのうるしナドノヤウニ、影見ユバカリ、ツヤツヤトシテ」榮花物語、八、初花「花山院ノ御車ハ、きんのうるしナド云フヤウニ、塗ラセタマヘリ」

ごん-しつ（名）〔言失〕イヒソコナヒ。失言　曾我物語、八、祐經が館へ行く事「醉狂ノアマリ、ごんしつ仕ルト覺エタリ」

ごん-じつ（名）〔權實〕佛敎ノ語。權敎ト、

實敎ト、權敎トハ、[illegible]、方便共ナルヲ以テ、小乘ノ敎、[illegible]、實敎トハ、眞實ノ敎、即チ、大乘ノ敎ニテ、深遠ナル究竟了義ヲ說クモノ、[illegible] 太平記、十七、[illegible]

こん-じ-てう（コン・ジ・チヨウ）(名) [金翅鳥] 梵語、迦樓羅ノ譯語。天竺ノ神話ニ存スル怪鳥ノ名。鳥類ノ王トシテ、迦樓羅王トモ云フ、其翅、金色ニシテ、兩端、相距ルコト三百三十六萬里ト云フ、其國スル所ハ、人體ニシテ、鳥首、兩翅アリ、我ガ國ニテ云フ、天狗ノ如シ、常ニ、須彌山ノ四海ヲ廻リ翔リテ、龍ヲ捕ヘテ食フ、常ニ、口ヨリ大火焰ヲ吐ク、迦樓羅炎ト云フ。密教ニテ、コレヲ本尊トシテ、病惱、風雨、落雷ヲ除ク修法ヲ、迦樓羅法ト云フ。[illegible]

こん-しん (名) [懇親] ネンゴロニ、シタシムコト。睦ムコト。懇意ヲ深ムルコト。此意ヲ以テ、人人ノ寄合フヲ、懇親會ト云フ。

こん-しん (名) [渾身] 渾身ノ語原ヲ見ヨ」カラダヂユウ。ソウミ。全身。「渾身ノカヲコメテ」

こん-しん (名) [今身] 今生ノ身。心中重井筒(寶永、近松作)中「互ヒニ合掌、心ヲ沈メ、今身ヨリ佛身ニ至ルマデ、能ク保チ奉ル、南無妙法蓮華經」

こん-じん (名) [閽人] 宮門ヲ守ルヲ職トスル者。宦官ナリ。又、閽者。閽寺。[illegible]

こん-じん (名) [金神] 「此神ハ、金性ナルヨリ云フトゾ」陰陽家ニテ云フ、神ノ名。兵戈、喪亂、水旱、瘟疫ヲ掌ルトシテ、惡神ナルガ如シ。某ノ干支ノ年ニハ、此神、某ノ方角ニ在リト、定メラレテ、陰曆ニ、其方角ニ向ヒテ、土木ヲ起シ、移轉シ、嫁娶スル、等ヲ戒シム、コレヲ犯スコトアレバ、神、七人ヲ殺ス、ト傳ヘ、金神七殺ノ方ト云ヘリ。[illegible]（安部晴明作ト傳フ）ニ「金神者、巨旦大王之精魂也」（此下ニ、某ノ年ハ、某ノ方角、ト詳記シテアリ）合[illegible]

こんしん-くわい（コンシン・カイ）(名) [懇親會] 懇親ノ條ヲ見ヨ。

こん-じや (名) [閽者] 閽人ノ條ヲ見ヨ。

こん-じや (名) [混沙] 玄米ヲ、白米ニ精グルニ、[illegible]ノ沙ヲ混ゼテ搗クモノ。（無沙ニ對ス）[illegible]

コン-シヤ (名) [工社] こぐしやノ條ヲ見ヨ。

ごん-じや (名) [權者] （權化者ノ略）權化ノ人。權者ノ、衆生ヲ化益セムガタメニ、假ニ示シタル作業ヲ、權者の化作ト云フ。[illegible] 藤ノ化身トナル「彼長者、女人好色ノタグヒナレバ、誰レカ、コレヲ、權者ノ化作ト知ラム」

こん-じやう（コン・ジヨウ）(名) [懇情] ネンゴロナル情愛。懇情。[illegible]「[illegible]ニ勅シテ、知識ノ宣ヲ、一天四海ニ下サレシカバ」

こん-じやう（コン・ジヨウ）(名) [今生] （今生ヲ併セ見ヨ）今ノ世ニ、生キ出デテアルコト。後生ニ對ス。（三世ノ條、見合ハスベシ）[illegible]

こん-じやう（コン・ジヨウ）(名) [根性] ココロネ。ココロダテ。性根。（根ト、性トノ條ヲ併セ見ヨ）[illegible]

こん-じやう（コン・ジヨウ）(名) [紺青] 〔金青ナリ、粉末ニ、微ニ、金屬光澤アリ、常ニ、紺青ト書ケド、當字ナリ〕又、こんじやう。鑛物ノ名、銅類ノ鑛石中ニ混ジテアリ、搗キ碎キテ、細末トシ、水飛シテ、藍貝ナドニ用キル、鮮美ニシテ、淺ク明キ藍色ヲ呈ス、人造ナルニ對シテ、石紺青ト云フ。金青 空青 又、人造ナルヲ、花紺青ト云フ、加工シタル硝子ヲ、粉碎、水簸シテ作ル、青クシテ光澤アレド、上品ニハ用キガタシ、陶磁器ニ畫クナドニ用キラル。[illegible]「空青、一名、金精」倭名抄、十三「本草皆疑云、金青、[illegible]、コンシヤウ」續紀、一、天武天皇二年九月「令近江國獻金青」竹取物語「皮衣ヲ見レバ、こんじやうノ色ナリ」更級日記「富士ノ山ハ、云云、サマコトナル山ノ姿ノ、こんじやうヲ塗リタルヤウナルニ」

ごん-じやう（ゴン・ジヨウ）(名) [言上] 上ニ、申シアグルコト。[illegible]上スル計リナリ」

こん-じやく (名) [今昔] いまト、むかしト。今昔。今昔物語ト云フ書アリ。「今昔ノ[illegible]」

ごん-じやく (名) [權迹] 〔權化ノ足迹〕佛ノ權化ノ印迹。[illegible]「神明垂權迹ニ名、七千餘座」（本地垂迹ノ神明ナリ）

こん-じゆ (名) [胡飲酒] 〔胡飲酒ノ約〕舞樂ノ曲ノ名、一人舞ナリ、胡國王ガ、酒ニ醉ヒテ舞フ狀ヲス、赤鼻、黃目ノ假面ヲカブリテ、裳髮、面ヲ覆フ、左ノ手ニ、桴ノ如キモノヲ持ツ、酒杓ナリト云フ。[illegible]

ごん-じゆ (名) [勤修] 佛敎ノ語。修行スルコト。勤ヲ修ムルコト。[illegible]

こん-じよう (名) [昏鐘] 夕暮ノ鐘。入相告グル鐘ノ聲。[illegible]

こん-しよく (名) [袞職] (一)天子ノ職。(二)三公ノ職。[illegible]

こん-じよく (名) [困辱] クルシメ、ハヅカシムルコト。史記、張儀傳「以二子之材能一乃自令二困辱一至二此一」

こん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) [混

マザル。マジリテ、一ツニナル。「大小、精粗、相混ず」

こん·ず·ズル·ズレ·ゼ·ジ·ゼヨ (他動、左變) [混] マズル。マゼアハス。「胡麻ニ鹽ヲ混ず」

ごん·す·スル·スレ·セ·シ·セヨ (自動、左變) (ござります、ござんす、ごあんす、ごんす、ト變轉シタル語、ござりますノ條ヲ見ヨ) 來る 又、あり、ヲ、稍、丁寧ニ云フ語 博多小女郎波枕(享保、近松作)上「總七殿ノ、乞食ニ成テごんしタ」京の四季、イサ見ニごんせ、東山」 腸取千兩幟 明和、近松半二等)二「ソリャ、樂シミデごんす」

ごんず (名) ごんずわらぢノ略。義經記、七、判官北國落事「袖ミジカナル淨衣ニ、カチンノハバキニ、ごんずハイテ」(一本ノごんずハ、ごんづノ誤)

ごんぜい (名) [權萃] 〔字鏡五十「呉茱萸、古爾須伊」トアリ、字音ノ轉カ(其字ヲ知ラズ)是レガ訛シテ、ごんぜいトナレルカ、樹モ、稍、相、似タリ〕 樹ノ名、高サ丈餘、樹ノ狀、接骨木(ニハトコ)ノ如ク、枝、四布ス、葉モ、相、似テ、枝アリ、莖、赤クシテ、臭氣アリ、夏、枝ノ端ニ、黄白色ノ細花、簇リ開ク、實ハ、ふんてんヨリ大キクシテ、扁ク、微尖アリ、秋ニ至リテ、赤ク美ナリ、二ツニ開キテ、小圓子、二三粒、殼ニ附ク、山椒ノ子ノ大キサニテ、黑ク光ル。一名、キツネノチャブクロ。スズメノチャブクロ。 [樗] [野鴉椿]

ごん-すけ (名) [權助] 普通ニ、權助ト云フ名ノ者、多キニ因リテ、呼ビシナラム、風呂場男ヲ、三助ト云ヒ、田舍人ヲ、權兵衛ト云ヒ、類ナリ」 メシタキヲトコ、下男ノ渾名。(江戸) 浮世風呂(文化、三馬)四編、下「タマテ居ロ、小僧、サアサア、權來ノサワギダ、權助モ來イ」

こ-むすび (名) [小結] 相撲人ニ云フ語。おほぜき(大關)、並、三役(サンヤク)ノ條ヲ見ヨ。

こ-むすめ (名) [小娘] 十三四五歳ホドノ少女(ヲトメ)ヲ稱スル語。少女 少艾 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「年ノコロ、十カ、十一バカリノ小娘、コマシャクレタ形(ナリ)ニテ」

ごんず-わらぢ (名) [藁草履] ごんづわらぢノ誤音、ごんづ(藁草履)ノ條ヲ見ヨ。浦島年代記(元祿、近松作)二「馬乘物モヨシナシト、ごんずわらぢノ旅衣」

こん-すゐ (名) [困睡] ツカレテ、ネムルコト。蘇季宣、詩「飽飯語詩書、倦臘時困睡」

こん-すゐ (名) [昏睡] 昏絶シテ、睡(ネム)ルコト。人事不省ニオチイルコト。重態ノ病人ナドニ云フ。南史、劉峻傳「富娛二麻炬、從レ夕達レ旦、時或昏睡、爇二其髮一」「昏睡狀態」

こん-すゐ (名) [昏醉] 醉(ヱ)ヒテ、前後ヲ喪失スルコト。晉書、劉曜載記「昏醉奔退、馬陷二石渠一」

こん-ずゐ (名) [跟隨] 〔前人ノ跟(クビス)ニ志たがふ〕 人ノ後ニツキテ行クコト。

こんせい (名) [今世] イマノヨノナカ。現時。現代。韓非子、外儲左、上篇「今世之談也、皆道二辯說文辭之言一」

こん-せい (名) [今生] 〔今生(コンジャウ)ヲ併セ見ヨ〕 現在、生キテ居ル此身。

こん-せい (名) [懇情] 〔情ノ漢音、せい〕(風情(フゼイ)ノ) ネンゴロナルナサケ。我レニ厚キ志 懇情(コンジャウ) 大磯虎稚物語(元祿、近松作)四「鬱町前ノ介抱ニアラズンバ、敵ヲ狙フ拙者ガ、老イタル母ヤ、妹ノ児、何處ニ身ヲ隱ス可キ、御懇情コソ忘ラレネ」「御こんせいニアヅカリ、辱奉レ存候」

こん-せい (名) [懇請] 懇(ネンゴロ)ニ、請願スルコト。ヒタスラ、願フコト。宋史、交趾傳「臣族本蠻酋、將吏晉襲、乃賜二子臣一懇請愈堅」

こん-せい (名) [混成] 混(マ)ぜ合ハセテ、作リ成スコト。老子、第廿五章「有レ物混成、先二天地一生」 混成酒(コンセイシュ)ト云フハ、諸種ノ原料ヲ混ゼテ作リタル酒ノ總稱ニテ、べるもと酒、規那葡萄酒、香竄葡萄酒、其他、種種アリ。カクテル。混成旅團ト云フハ、歩兵旅團ニ、騎兵、砲兵、工兵ノ一部隊ヲ附屬セシメテ、編成セル獨立軍隊ナリ。

こん-せい-しん (名) [金精神] 〔金精ハ、根精ニテ、男根ノ精靈ノ意ナルベキカ〕 木、石ノ陰莖ノ形ヲ、神トシテ祭ルモノ。日光山志二、湯元ヨリ西、上野國、利根郡ニ越ユル金精峠ニ、金精權現ト稱スル小祠アリ、銅ニ鍍金セシ男根ヲ、神體トス、トアリ、又、陸中、岩手郡、卷堀村ニ、金勢明神アリ、神體ハ、唐金ニテ作レル男根ナリト云フ、陰陽石神圖(天保)ニ、信濃國、小縣郡、根澤村、下總國、香取郡、松澤村、越後國、三島郡、石地村ナルハ、皆、形肖ノ石ナリトアリ。

こんせい-しゅ (名) [混成酒] 前前條ヲ見ヨ。

こんせい-りょだん (名) [混成旅團] こんせい(混成)ノ條ヲ見ヨ。

こん-せう (名) [今宵] コヨヒ。今夜。今夕。朗詠集、上「若使二韶光知二我意一、今宵旅宿在二詩家一」

こん-せき (名) [今夕] コヨヒ 今夜ニ 詩經、唐風、綢繆篇「三星在レ天、今夕何夕、見二此良人一」

こん-せき (名) [今昔] こんぢゃく(今昔)ニ同ジ。

こん-せき (名) [痕跡] アトカタ。物事ノアリタル印(シルシ)。「痕跡ダニ止メズ」

ごん-せき (名) [權蹟] 藤原行成(ギャウセイ)ノ筆蹟ノ稱。三蹟(サンセキ)ノ條ヲ見ヨ。

こん-ぜ-さく-ひ (句) [今是昨非] 今年ニ至リテ、前年ノ行爲ヲ非ナリトス。昨非今是。(今(イマ)ハ、是(ゼ)ナリ) 淮南子、原道訓「蘧伯玉、年五十、而知二四十九年非一」莊子、則陽篇「蘧伯玉、行年六十、而六十化、未三嘗不二始於レ是之、而卒詘一レ之以レ非也、未レ知三今之所レ謂是之、非二五十九非一也」 陶潛、歸去來辭「覺二今是而昨非一」

こん-せつ (名) [懇切] 懇(ネンゴロ)ニシテ、深切ナルコト。懇到。文心雕龍「劉頌殷二勤于時務一、溫嶠懇二切于費役一」

こん-ぜつ (名) [昏絶] 眼クラミテ、絶エ入ルコト。イットキ、絶息スルコト。

こん-ぜつ (名) [根絶] ネダヤシ。ネキリ。

ごん-ぜつ (名) [言舌] 口キクコト。モノイヒ。傾城反魂香(寶永、近松作)上「生レツイテ、口吃リ(ドモリ)、言舌アキラカナラザル上」

こん-せん (名) [混線] 電信、電話ナドノ線ニ、通信、通話ノ、混亂シテ聞ユルコト。

こん-せん (名) [混戰] 敵味方、互ニ、入リ混(マジ)リテ戰フコト。

こん-せん-くゎ (名) [金錢花] きんせんくゎノ條ヲ見ヨ。

こん-ぜん-と (副) [渾然] モノノ、區別ナキ狀ヲ云フ語。

こ-むソウ (名) [虛無僧] 薦僧(コモソウ)、幷ニ、ふけしゅう(普化宗)ノ條ヲ見ヨ。三十二番歌合、廿二番、虛無僧「サシ入モ、味噌屋酒屋ノ、柏法師、罷ヲカヘテモ、乞フハ茶ガハリ」

こんそん (名) [昆孫] 玄孫ノ孫。來孫ノ子。釋名「來孫之子曰二昆孫一、昆、貫也、恩情轉遠、以

[illegible]之首」

こんた (名) [惛忙] 精神ニクラクシテ、物ノ辨ヘナキコト。惛忲。[illegible]

「御史百、惛眥惛」

ごんた (名) [權太] (義經千本櫻ニ、惡者、出ナル[illegible]ノいがみノ權太ト云フ惡漢ニ寄セテ云フ語。[illegible]ハト云ヒ、同ナリ」) (一)ゆすりナドスル、無賴漢ノ渾名。(二)京阪ニテ、小兒ノやんちゃナル者ノ稱。權太郎。

こんたい (名) [金胎] 金剛界ト、胎藏界ト、こんがうかいノ條ヲ見ヨ。「金胎兩界」金胎兩部」

こんたい (名) [昏怠] こんだ(惛惰)ニ同ジ。「五代史、四[illegible]、北伐[illegible]」

こんたい (名) [困殆] クルシミ、ツカルルコト。困憊。困頓。[illegible]

こんだい (名) [今代] (一)イマノヨ。現代。(二)今ノ代。(位ニ居リ、又ハ、家ヲ繼ギ居ル間ニ云フ、代ノ條ヲ見ヨ)

こんたう (名) [昏倒] 眼クラミテ、倒ルルコト。[illegible]

こんたう (名) [懇到] 極メテ、ネンゴロナルコト。深切ノ、至リ盡セルコト。懇切。[illegible]懇到深切」「注意懇到」

こんだう (名) [坤道] (易經、繋辭、上傳「乾道成レ男、坤道成レ女」) 地ノ道。又、婦人ノ道。女ノ、守ルベキミチ。(乾道ニ對ス) [illegible]

こんだう (名) [金堂] (東寶記「金堂、亦名佛殿、佛稱金人、名異、體同、是故[illegible]」) 法相宗、眞言宗ノ寺院ニテ、本堂ノ稱。(ほんだうノ條ヲ見ヨ) [illegible]「金堂、云云、本尊ハ、藥師如來」(高野山) 盛衰記、十五「高倉宮ハ、云云、[illegible]、先ヅ、金堂ニ御入堂アリ」

こんだう (名) [混堂] (湯ノ混混々ル意ナルカ、若シクハ、數人混浴ノ意カ) 風呂場。浴場。[illegible]

ごんだう-くぢら (名) [五島鯨] ごたうくぢら(五島鯨)ノ條ヲ見ヨ。

こんだく (名) [混濁] 他物ノ混リテ、濁ルコト。[illegible]

こんだて (名) [獻立] (專ラ酒ヲ勸ムルニ就キテ、獻ト云フ、立ハ、膳立ト同意) 膳部ニ調ズル、汁、肴ノ次第。菜單。[illegible]「今日ノ馳走ノ獻立ヲ知ラズカ」

こんたん (名) [魂膽] (一)キモダマシヒ。ドギモ。ココチ。[illegible] (二)轉ジテ、オモンパカリ。カンガヘ。思慮。[illegible] (三)內證ノツケガラ。內情。「其事ニハ、色色ノ

こんたんガアル」

こんだん (名) [懇談] 互ニ打解ケテ、話シ合フコト。懇話。「一夕ノ懇談」

こんち (名) [今日] こんにちノ條ヲ見ヨ。

こんぢ (名) [小路] (小路ノ音便(濃緊、おんづ)) 小路、おうぢニ同ジ。[illegible]

こんぢ (名) [紺地] 織地ノ、紺絲ナルモノ。[illegible]

こんぢ (名) [根治] ネキリノ療治 病根ヲ根絕スル治療。

おんちき (名) おんきちニ見ヨ。

こんぢく (名) [地軸] 地軸ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

こんぢん (名) [根塵] 佛經ノ語。六根ノ六塵。[illegible]

こんぢゃう (名) [近仗] 近衞府ノ中將、少將ノ異稱 [illegible]

こんちゅう (名) [昆蟲] 「大戴禮、夏小正篇「昆者、衆也、小蟲動也」」 蟲 ムシケラ。[illegible]

こんちゅう (名) [昆蟲] (英語、Insect. ノ

譯語) 二對、六脚ノ蟲類ノ總稱 體ハ、堅キ皮殼ヲ被リ、若干ノ環節アリテ、並レテ、頭、胸、腹ノ、三部ヲ成スモノ。二對四翅ノモノ、一對二翅ノモノアリ、蟬、蝶、ばつた、きりぎりす、蠅、蚊、ナド、種類、極メテ多シ。

おんづ (名) [濃聚] (おみづノ音便(小路、おんおこ) おみつニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

おんづ (名) [藁草履] (小肘、小膝。藁沓、わらんづ)藁ノ音便(おハ、接頭語、お沓おぐつト云ヒシガ、連濁音便トナリテ、上略シタル語ナルベシ(鱧小切ガ、はもおんぎりトナリ、又、上略シテ、おんぎりト云フモ、同ジ)おんづ(づノ發音、訛リテ、ずトナリ、古來、使用、多シ)ノ語原ハ、忘レラレテ、又、おんずわらぢト云フニ石打、いんぢうち 赤肌、おかはだか)おんざうト云フハ、おんづ草履ノ約略ナリ(石楠草、さくふんさ。音頭、おんど)」 藁草履ノ異名 江戶時代ノ中世ニハ、此語、小兒ノ草履ノ名ニ移リ、又、おんづわらぢ、おんざうトモ云ヒキ(わらぢト云ヘド、草履ナリ) [illegible]七、判官北國落事「辨慶ハ、云云、褐ノ脛巾ニ、おんづハイテ、袴ノククリ、高ラカニ結ヒテ」 [illegible]下「おんずわらぢ、今ハ、小兒ノミ着ク物ノヤウニ聞ユレドモ、小兒ニ限ラズ、本ハ、大人ノ着クモノナリ、古ヘハ、武者モ着キタル故、武者わらぢトモ云フ、源平盛衰記ニ、おんずハキト、云フコト、見エタリ、又、義經記ニモ、云云」 [illegible]九州ニテ、むむわらぢ、又、むむざうりト云フ、小兒ノハクモノ也」 [illegible]「小兒ノ履キ習フわらぢ、コレヲ、[illegible]ト云フ、云云、元祿前ニ出ヅル」[illegible]、おんづ「今、江戶ニテ、小兒ノ草履ヲ、おんづト云ヘリ、お

んざうトモ云ヘリ」(伴信友ノ說)　俚言集覽(文化、文政ニ)こんざう「卽チ、こんすわらぢ也、今、江戸ノ俗、小兒ノ草履ヲ、こんざうト稱呼ス」

こむづかし・い (形) 【煩雜】 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 むづかしト云フニ同ジ。 孟子抄(文明)八、十九「是レカラ下ハ、小六借候」「小むづかしい理窟ヲ捏ル」

ごんづ-わらぢ (名) 【藁草履】 前前條ヲ見ヨ。(ごんずわらぢト云フハ、誤音)

こん-てい (名) 【昆弟】 〔詩經、王風、葛藟篇、傳「昆、兄也」〕 兄弟ニ同ジ。アニ、オトト。 禮記、檀弓、上篇「父母之仇、昆弟之仇」 書經、五子之歌篇「昆弟五人、須ニ于洛汭ニ作ニ五子之歌ニ」

こん-てい (名) 【根柢】【根蔕】 〔說文「柢、根也」根蔕ハ、こんたいト讀ムベキナリ、韻會「蔕、音帶、草木根也」〕 根。根本。據ルトコロ。根據。 老子、五十九章「深ニ根固ニ柢、長生久視之道」 陶潛詩「人生無ニ根蔕ニ、飄如ニ陌上塵ニ」

こん-でい (名) 【金泥】 金泥ノ呉音、泥ノ條ヲ見ヨ。 盛長記、十一、靜女與ニ入道ニ問答事「帝釋自筆ニ、金泥ヲ以テ、尸毘波彌ノ眞言ヲアソバシテ」「紺紙金泥」

こん-でい (名) 【健兒】 〔健兒ハ、支那ニテ兵卒ノ稱(其條ノ(二)ヲ見ヨ)我ガ國ニテ、こんでい、又、こんに、ト讀ム、こんハ、健ノ呉音(獻、こん)兒ノ字ノ漢音ハ、じ、ぜい、呉音ハ、にナリ、尼ノ字ノ漢音ハ、ぢ、でい、呉音、にナリ、相、通ジタルモノカ、倭訓栞、こんでい「健兒ノ轉音也」皇極紀ニ「命ニ健兒相撲」トアルハ、力者、卽チ、勇健ナル者ヲ云ヘルニテ(ちからびとヲ見ヨ)こんでいトハ、異ナリ、然レドモ、兵卒ノ勇健ナル者ノ意ハ、相、通ズ〕 (一)古ヘ、兵部省ノ所屬ニシテ、諸國ニ配置セラレタル衞士ノ稱。(唐國ノ制ニ據ラレタルモノナリ、健兒ノ條ノ(二)ヲ參見セヨ)後ニハ、專ラ、國司ノ廳ノ下級ノ職トナリシガ如シ。 續紀、十一、天平六年四月「免ニ諸道健兒、云云、田租幷雜徭之半ニ」 同、十三、天平十年五月「停ニ東海、東山、山陰、山陽、西海、等道諸國健兒ニ」 同、廿四、天平寶字六年二月「簡ニ點伊勢、近江、美濃、越前、等四國郡司子弟、及、百姓、年四十已下、二十已上、練ニ習弓馬ニ者ニ以爲ニ健兒ニ」 文德實錄、九、天安元年四月「始置ニ近江國、相坂、大石、龍花、等三處之關剗ニ、分ニ配國司健兒等ニ鎭ニ守之ニ」 三代實錄、三十九、元慶五年三月廿六日「出羽國司言、云云、承前國吏、以ニ健兒ニ爲レ戍、兵士、鎭兵、无レ置ニ一人ニ、仍令ニ諸郡進ニ勇敢者ニ」 兵部省式ニ、健兒、諸國ヲ通ジテ、三千九百六十四人ヲ載ス。新猿樂記(後冷泉天皇ノ頃)四郎君受領郎等「廳目代、若、諸所案主、健兒所、撿非違所、云云」(國司ノ附屬ナリ) 字類抄、人倫「健兒、コンニ、諸國健兒」 平家物語、一、鵜川合戰事「故少納言入道信西ノ許ニ召シツカハレケル師光、成景ト云フ者アリ、師光ハ、阿波ノ國ノ在廳、成景ハ、京ノ者、宿根賤シキ下﨟ナリ、こんでい童カ、若シクハ、格勤者ニテモヤアリケム」 (二)健兒ハ、諸官署ニテ驅使セラルル、下部ノ稱トモナレリ。 平家物語、八、猫間事、木曾義仲乘車「牛ハ飛ビテ出ヅレバ、木曾ハ、車ノ中ニテ、仰向ニ倒レヌ、云云、木曾、牛飼トハ、エ言ハデ、ヤレ小牛こでいヨ、ヤレ小牛こでいヨト言ヒケレバ、云云、木曾、手形ニ、ムヅト摑ミツキテ、アッパレ支度ヤ、牛こでいガハカラヒカ」(牛飼ヲ、牛健兒ト云ヘルナリ) 庭訓往來(南北朝)三月「四阿屋、棧敷、健兒所者、篝屋可ニ支度ニ也」 下學集(文安)上、家屋門「健兒所、中間之所居也」 合類節用集(元祿)四、人倫門「健兒、往古、奴僕之一稱、今世所レ謂、輕卒之類乎」

こんでい-しょ (名) 【健兒所】 前條ヲ見ヨ。

こんでい-どころ (名) 【健兒所】 前前條ヲ見ヨ。

こん-てう (名) 【今朝】 ケサ。ソノ日ノアサ。今曉。 詩經、小雅、祈父之什、白駒篇「皎皎白駒、食ニ我場苗ニ、縶レ之、維レ之、以永ニ今朝ニ」

こん-でん (名) 【墾田】 コナタ。耕シ來レル田地。又、新ニ開墾シタル田地。 國語、周語「道無ニ列樹ニ、墾田若レ爇」

ごん-でん (名) 【權殿】 假殿ノ條ヲ見ヨ。

こん-てん-ぎ (名) 【渾天儀】 〔太元元首都序「渾行無レ窮」注「渾、渾天之儀、渾淪而行也」字典「混淪、水流轉貌」詩經、大雅、蕩之什、烝民篇「我儀ニ圖之ニ」字典「儀、度也」〕 古ク、天文學ニ用キタル器。數箇ノ環ノ如キモノヲ組ミ合ハセ、圓球形ニ作リ、天體、日月、星辰ノ運行ヲ測ルモノ。 書經、舜典篇、疏「璇璣玉衡、玉者正ニ天文ニ之器、漢世以來、謂ニ之渾天儀ニ」 宋書、天文志「虞書稱レ在ニ璇璣玉衡ニ、則今渾天儀是也、渾儀、羲和氏之舊器、至ニ張衡ニ、乃鑄レ銅制レ範」 事物紀原「渾大儀、璇璣玉衡之遺法、宋饒樂作レ之、所ニ以象ニ天體之運轉ニ也」

コンデンス-ミルク (名) 【煉乳】 〔英語、Condensed milk.〕 牛乳ヲ貯藏セムガ爲ニ、砂糖ヲ加ヘ、其水分ヲ蒸發セシメテ、濃厚トナシタルモノ。專ラ、水ニ溶シテ、小兒ナドノ、滋養ノ飲料トス。

こん-ど (副) 【今度】 (一)コノタビ。今般。今回。 保元物語、一、後白河院御卽位事「重仁親王ハ一定、今度ハ、位ニ卽カセ給ハンズト、待チ請ケサセオハシマセリ」 (二)コノノチ。他日。「こんど來タラバ、會ハウ」ソノ話ハ、こんどノ事ニセウ」

こん-どう (名) 【金銅】 銅ニ、金ヲ鎔和シタルモノ、佛像ナド、鑄造スルニ用キル。 欽明紀、十三年十月「百濟聖明王、云云、獻ニ釋迦佛金銅像一軀ニ」 推古紀、十三年四月「始造ニ銅繡丈六佛像各一軀ニ、乃命ニ鞍作鳥ニ爲ニ造佛之工ニ、是時、高麗國大興王、聞ニ日本國天皇造ニ佛像ニ、貢ニ上黃金三百兩ニ」 拾遺記(永正)本元興寺緣起云、夏四月(推古十三年)「始造ニ銅繡釋迦、丈六佛、各一軀、幷、挾侍菩薩像、乃命ニ鞍作鳥ニ爲ニ造佛之工ニ、用銅二萬三千二百斤、黃金七百五十九兩」 藥師寺緣起、天武天皇八年十一月「發ニ奉レ鑄ニ丈六藥師佛像ニ之願ニ、云云、鑄ニ金銅之像ニ」

こん-どう (名) 【混同】 雜リテ、一ツニナルコト。 左思文「一ニ八方ニ而混同、極ニ風采之異觀ニ」

こん-とく (名) 【坤德】 〔乾坤ノ條ヲ見ヨ〕 (一)大地ガ、萬物ヲ載セテ居ルハタラキ。 易經、坤象傳「坤厚載レ物、德合ニ無疆ニ」 李尤、漏刻銘「仰ニ蓋七曜ニ、俯順ニ坤德ニ」 (二)皇后ノ御德。(乾德ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)

こん-とく (名) 【懇篤】 ネンゴロナルコト。深切。 十訓抄、中、第六、十四條「カネテ勘ヘ知リテ、先兒ノ危キ事ヲ告ゲ知ラセ奉ラレケルコトコソ、懇篤、ソノ忠ニアラハレ、賢慮、神ノ如クニ通ナリケレ」

こん-どさ (名) 【紺土佐】 〔土佐國ノ產ヲ上トス〕 紙ノ名。厚クシテ、紺色ニ染ム。其色ノ稍淡キヲ、青土佐ト云フ。又、黃ナルヲ、黃土佐ト云フ。

こん-とん (名) 【困敦】 子年ノ異稱。閼逢困敦ナド記シテアルハ、甲子ナリ。 爾雅、釋天篇「太歲、云云、在レ子曰ニ困敦ニ」

こん-とん (名) 【困頓】 〔左傳、襄公四年「甲兵不レ頓」正義「頓、謂ニ挫傷折壞ニ、今俗語、委頓、是也」〕 疲レ、挫クルコト。 晉書、皇甫謐傳「嬰レ疾彌レ紀、仍遭ニ喪難ニ、婦氣損劣、困頓數矣」 韓偓、馬上見詩「去帶懵騰醉、歸應ニ困頓眠ニ」 花蘂夫人詩「歸來困頓臥ニ紅帳ニ、一枕西風夢裏寒」

こん-とん (名) 【混沌】【渾沌】 物ノ、一沌ニマロガレテアル狀ニ云フ語。多クハ、開闢ノ初、天地、未ダ分レザル狀ニ云フ。 揚雄、太玄經「渾沌無レ端、莫レ見ニ其根ニ」 三五曆紀

[illegible]

こんとん (名) [餛飩] 〔支那製ヲ傳ヘタ[illegible]〕[illegible]ベシ」麵粉ヲ水ニ捏ネテ、餡ヲ包ミテ、[illegible]シタルモノ、形、團子ノ如シ。[illegible]

コントラスト (名) [對照] 〔英語、Contrast.〕 テリアヒ。テリアハセ。對比。

コンドル (名) [公佗兒] 〔英語、(Condor.)〕 猛禽類ニシテ、鳥類中ノ最大ナルモノノ一。南亞米利加洲ノあんでぇ山ノ高所ニ棲ム、頭部ニ羽毛ナシ、頸ニ白毛アリテ、襟卷シタルガ如シ、體ノ羽色ハ、暗黑色ヲ呈シ、性、極メテ獰猛ナリ。一名、大禿鷲トモ云フ。

こんな (連體) [此樣] 〔このやうなるノ略轉〕 コノヤウナル。カヤウナル。七偏人、[illegible]「こんな物」「こんな事」

こんふん (名) [困難] コマルコト。ナヤムコト。[illegible]

こんに (名) [健兒] 健兒ノ條ヲ見ヨ。

こんにち (名) [今日] ケフ。コノ日。[illegible]約メテ、こんちトモ云ヒテ、人家ヲ訪フ時ノ挨拶ニ云フ語トナル。

こむにち (名) [五墓日] 陰陽家ニテ、十二運ノ中ノ、墓ノ運ニ値ル日ト云フ。陰陽家ニ、特ニ揭ケテ忌ミセリ、[illegible]「十二運中、墓、忌一字、以深厭之」[illegible]五むにちハ、五行ノ墓ナリ、凡ソ、凶惡ハ、人ノ死[illegible]百事ニ用フルベカラズ、大ニ惡シ」[illegible]

こんにった (副詞句) [今日] 〔こんにちはノ急呼〕 [illegible]我は行かぬ、おちやつかぬ」今日ハ。狂言記、瓜盜人「當年ハ、瓜ヲ作テゴザルガ、身共ガ仕合テ、殊ノ外、ヨウ出來テゴザル、今日ハ、畠へ[illegible]テ、[illegible]ノ[illegible]シタヲ、少シ、取テ參ラウト存ズル」

こんにふ (名) [涵入][混入] ミダレ、入ルコト。濁リテ、混ルコト。

こんにゃく (名) [蒟蒻] 〔韻會「蒟、果羽切、音矩」ト云フハ、吳音ナリ、こんにゃくハ、音便轉(牛蒡、ごんばう。古年童、こんねんどう)ナ[illegible]〕 古名、こにゃく。草ノ名、多ク、畠ニ植ウ、形、天南星ニ似テ、莖、圓ク、綠ニシテ、紫黑ノ斑、多シ、葉ハ、枝ヲ分チテ、二三十葉、簇ビック、老根ノモノハ、夏ノ初、花苞ヲ生ズ、二三重、相、包ミテ、たけのかはノ如シ、夜ニ、頭、開キテ、中心ニ一柱アリ、外色、紫黑ナリ、根塊ヲ、蒟蒻玉ト云フ、大ナルハ、三四寸、芋魁ノ如クニシテ、[illegible]苦シ 秋ノ末、根塊ヲ煮テ、搗キマゼ、水ヲ加ヘ、蹈ミテ、糊トナリタルニ、石灰汁ヲ交ヘ、模ニ入レ、凝固セシメ、切リテ、種々形トナス、コレヲ、蒟蒻ト云フ 石灰汁ヲ加ヘタル水ニテ、煮テ食フ、是レ、舊法ナリ 新法ハ、根塊ヲ削リテ乾シ、搗キテ粉トス、コレヲ、蒟蒻粉ト云ヒ、糊トシテ、[illegible]ナドニ用ヰ、強シ、此粉ニ、水ヲ加ヘ、蹈ミテ糊トシ、餘ハ、舊法ノ如クシテ、食用トス。[illegible]

こんにゃくこ (名) [蒟蒻粉] 前條ヲ見ヨ。

こんにゃくだま (名) [蒟蒻玉] 前前條ヲ見ヨ。[illegible]

こんにゃくばん (名) [蒟蒻版] かんてんばん(寒天版)ニ同ジ

こんにゃくぼん (名) [蒟蒻本] 〔蒟蒻トハ、形、小方形ニテ、淺葱紙ノ如キ表紙ノ、薄黑ナルガ似タレバ、名ヅケシナルベシ〕 洒落本ノ、半紙摺ノ、小本ナルモノノ稱。[illegible]

こんにゃくもち (名) [蒟蒻餠] 蒟蒻ノ條ヲ見ヨ。

こんねん (名) [今年] コトシ。當年。本年。[illegible]「明年花開復誰在」

こんねんたう (名) [古年刀] 〔こねんたうノ音便、古年童ノ語原ヲ見ヨ、次條ノ語モ、同ジ(蒟蒻、こんにゃく。五調、がんでう)年久シク傳フル意〕 家ニ、重代傳フル太刀、刀。[傳家寶刀] 又、重代ノ譜ヲ、古年桐ト云フ。[illegible]

こんねんどう (名) [古年桐] 前條ヲ見ヨ。

ごんのきたのかた (名) [權北方] ごんくゎん(權官)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ゴムのり (名) [護謨糊] 亞刺比亞護謨ヲ溶カシテ作リタル糊。

こんぱい (名) [困憊] 〔韻會「憊、步拜切」〕 疲レ、困シムコト。[illegible]

こんばう (名) [昏耄] 年老イテ、心ノ、昏ク鈍ルコト。オイボレ。マウロク。又、其人。宋史、魏咸信傳「年已昏耄」

こんばう (名) [昏暴] 事理ニクラク、暴亂シキコト。[illegible]

ごんばう (名) [牛蒡] 〔ごばうノ音便(古

年刀、こんねんたう。五合、ごんがふ）」

ごばう ニ同ジ。梁塵秘抄(後白河院)二、雜「根芹、蓴菜、ごんばう、骨蓬」狂歌「大根ト、ツケベキモノヲ、ツケモセデ、要ラヌごんばう、茶ン袋カナ」

こんぱく (名) 魂魄 タマシヒ。支那ニテ、靈魂ヲ說クニ、人ノ神氣ヲ、魂ト云ヒ、形骸ヲ、魄ト云フ、死スレバ、魂ハ、天ニ發散シ、魄ハ、地ニ止マルトス。禮記、郊特牲篇「魂氣歸ニ于天、形魄歸ニ于地」左傳、昭公七年「匹夫匹婦强死、其魂魄猶能憑ニ依於人ニ」疏「魂魄、神靈之名、附レ形之靈爲レ魄、附レ氣之靈爲レ魂」太平記、廿一、先帝崩去事「玉骨ハ縦ヒ、南山ノ苔ニ埋モルトモ、魂魄ハ常ニ、北闕ノ天ヲ望マン」

コンパス (名) 混撥子 渾發子 〔蘭語、Kompas.〕 (一)こんぱつトモ云フ、ぶんまはしニ似タル具、金屬ニテ作ル、叉ヲナシ、末ニ釘シテ、開閉スベク、端、尖ル、倘、其製ニ、種種ナルアリ、測量、圖引ノ技ナド、其他、種種ノ用ヲナス。圓規 (二)羅針盤。(三)兩脚。又、股ノ長サ。

ごんぱち (名) 權八 〔天明八年、江戶、中村座ニテ、傾城吾妻鑑ノ狂言アリテ、白井權八ト云フ者ガ、幡隨院長兵衞ノ家ニ食客タリシ事ヲ演ズ、無賴漢ヲ、權太ト云フ例ナリ〕 カカリウド。キサフラフ。(東京職人仲間ノ語) 食客

コンパツ (名) 混發子 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

こんばん (名) 今晚 コヨヒ。今夜。今夕。白居易詩「今晚行レ香歸」狂言記、箕潜「今晚ハ、某ガ、頭ニ當タッテゴザル」今晚ハト云フハ、夜、人家ヲ訪ルル時ノ挨拶ニ發スル語。

こんぱん (副) 今般 〔爾雅、釋言篇「般、還也」疏「還反也」トアレバ、今回ト、同意ナルベシ、先般、這般、同ジ〕 今度。コノタビ。今回

コンパンヤ (名) 商會 〔葡語、Companhia. (組合會社)ノ遺語ナリト云フ、英語、Company.〕 往時、阿蘭陀、東印度會社ノ、爪哇島ノばたびあニアリテ、數商會ノ、聯合シタルモノ。國性爺合戰(正德、近松作)二「もろこし船、夥長、夥長、財副、アア胴慾ナこんぱんや」(華夷通商考(寶永)二、唐船役者ニ、夥長ハ、海上ノ乘方ヲ掌ル、財附ハ、荷物、商賣、諸事ノ日記、算用ヲ掌ル、トアリ) 華夷通商考、四、阿蘭陀「七州也、云云、七國ニ、國主、四人アリ、此四人ノ仲間ニ、商船ヲ、諸方ノ國國へ遣ハス也、此國主ヲ、こんはんやト號ス、云云、咬𠺕吧國(爪哇島)ニ代官ヲ置テ、日本諸方ノ國國へ遣ハス商船ノ下知ヲナサシム、此代官ヲ、ぜねらるト云フ、此ぜねらる、諸方ノ勘定ヲ留置テ、十五年ニ一度ヅツ、本國こんぱんやニ、總勘定ヲ致スト也」

こんぱるりう (名) 今春流 金春流 能樂ノ一派、五流ノ一。今春七郎氏信ト云フ者ヲ祖トス、初ハ、圓滿井氏ナリキ。足利將軍義滿ノ頃、觀世世阿彌ノ壻トナリ、能樂ニ巧ミナリシヲ以テ、別ニ、今春流ヲ興シ、入道シテ、禪竹ト號ス、後孫、氏ヲ、金春ノ字ニモ改メ、德川氏ニ仕ヘテ、能役者ノ一家ヲ成セリ。

コンヒサン (名) 混毘三 〔葡語、Confissão.〕 切支丹宗門ノ語。懺悔ト云フコト。告白。

ごんびん (名) 言便 〔倭訓栞、ごんびん「言便ナルベシ、音便ノ如シ」〕 言葉ノ、イヒマハシ。林逸節用集(文明)雜用「言便」三河物語(大久保彥左衞門)上「言便ヲ聞キ、色ヲ見テ、喧嘩ニモテナシテ、刺違ヘテ、死スベシ」

こんぴょく (名) 悃愊 〔玉篇「悃、志純一也」集韻「愊、拍逼切、誠志也」廣韻「逼、彼側切」〕 誠意、深キコト。至誠。漢書、劉向傳「發憤悃愊、信有レ憂ニ國之心ニ」後漢書、章帝、詔「安靜之吏、悃愊無レ華」

コンピラ (名) 金毘羅 〔梵語、Kumbhira. 翻譯名義集、二、鬼神「金毘羅、翻ニ威如王ニ」又、鰐魚トモ譯シ、魚身ニシテ、蛇形ヲナシ、尾ニ、寶玉ヲ藏ス、トセリ、我ガ國ニテ、海神トシテ崇ムルハ、此故ナルカ〕 (一)天竺ノ神ノ名。藥師ノ十二神將ノ一トシテハ、宮毘羅大將ト云フ、又、金毘羅童子トモ云フ、藥師佛ノ眷屬トシテノ稱ナルカ。我ガ國ニテ、金毘羅權現ト稱シテ、讃岐國、多度郡ノ象頭山(今、中多度郡、琴平山)ニ祀リシモノ、最モ名アリ、其像、天狗ノ如シ、金毘羅ノ、權現シ、垂迹セシモノト云フ、航海ノ安全ヲ守ル神トシテ、舟人、最モ尊崇シ、信徒、實ニ盛大ヲ極ム。藥師經「爾時、衆中、十二藥叉大將、俱在ニ會座ニ所レ謂宮毘羅大將、伐折羅大將、云云」金毘羅童子威德經ト云フ經文アリ。鹽尻(享保)七「讃州、象頭山ハ、毘比羅神ヲ祀ル、其像、座シテ、三尺餘、僧形ナリ、イト、スサマジキ面貌ニテ、今ノ修驗者ノ所レ戴ノ頭巾ヲ蒙リ、手ニ羽團ヲ取ル、藥師十二將ノ像トハ、甚ダ異ナリトカヤ、靈驗アルコト、響ノ如シ、云云、闇夜、船中、海路ニ迷フ時ハ、此神ヲ念ジテ、其着岸ヲ祈レバ、必、一團ノ火、現ズ、此方へ乘リ行ケバ、難船アルコトナシ」金毘羅名所圖會「大權現ハ、祭神、詳ナラズ、從堂ニ、金剛坊ト云フ法師ノ像ヲ安置ス、長、三尺五寸、山伏ノ姿ナリ、凡ソ、三百年以前ニ、院主寶盛ト云ヒシ、權化ノ人アリ、滅後、當山ノ守護神トナレリトカヤ」(サラバ、神體ハ、此法師ノ像ナラム) (二)明治元年、金毘羅大權現ヲ改メテ、金刀比羅宮トシ、祭神ヲ大己貴命トシ、崇德天皇ノ靈ヲ配祀セラレ、同、十八年、國幣小社ヨリ、同中社ニ昇格ス。

コンピラ-ごんげん (名) 金毘羅權現 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

コンピラ-だいしゃう (名) 金毘羅大將 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。平家物語、二、座主流罪「十二神將ノ內、金毘羅大將」

コンピラ-どうぢ (名) 金毘羅童子 金毘羅ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

コンブ (名) 昆布 〔蝦夷ノ語、Kombu. 夷布ト云フモ、ソレナリ、海藻類ニ、荒布、若布、搗布ナド、布ノ字ヲ用キルモ、昆布ヨリ移レルナラム、支那ノ本草ニ、昆布ヲ擧ゲタリ、然レドモ、東海ニ生ズ、トアレバ、此方ヨリ移リタルナルベシ、こぶト云フハ、こんぶノ約ナリ(勘解由、かげゆ。見參、げざん)廣布ト云フハ、海藻ノ中ニテ、葉ノ幅、最モ廣キガ故ニ、名トスルナリ〕 古名、ひろめ。又、えびすめ。又、約メテ、こぶトモ云フ。海藻ノ名、北海道ニ產ズ。根ハ、淺海ノ岩礁ニ着キテ生ジ、葉ノ大ナルハ、長サ、六七尺ヨリ、二三丈ニ及ビ、幅、一二尺、濃綠ナルヲ上トシ、黃褐ナルヲ下トス、乾シ晒セバ、柔韌ナルコト、なめしがはノ如シ、貯ヘテ、食用トス、廣メノ名ニ寄セテ、多ク、祝賀ニ用キル、此海藻、種類、多シ。續紀、七、靈龜元年十月「蝦夷、須賀君古麻比留等言、先祖以來、貢ニ獻昆布ニ常採ニ此地ニ年時不レ闕、云云、請於ニ閉村ニ便建ニ郡家ニ同レ於ニ百姓ニ共率ニ親族ニ永不レ闕レ貢ニ」熟蝦夷ナリ、陸奧、牡鹿郡邊ノ地ナラム、金華山以北ニハ、昆布アリ、今ノ陸中ノ閉伊郡トハ、懸隔セリ) 民部省式、交易雜物、陸奧國「昆布六百斤」 倭名抄、十七八海菜類「本草云、昆布、生ニ東海ニ和名、比呂米、一名、衣比須女」 字類抄、飲食「昆布、エビスメ、ヒロメ、コブ」 下學集(文安)下、草木門「昆布」

こんぷく (名) [烟富] こんひょくノ條ヲ見ヨ。

こんぷし (名) [渾不似] 〔出典ヲ見ヨ〕 琵琶ノ異名。三味線ノコトニ用ヰラル。 蜀東四時雜詞、文化、中島棕隱「琵琶ニ雨送ニ浮生流水落花非ニ我情ニ請看一張渾不似、去來嘗得自分明」 [illegible]渾不似、[illegible]今、訛爲ニ胡撥四、胡不思ニ」[illegible]云云、元史所ニ載火不思、全似ニ胡不見ニ而四絃」

コンプラドオル (名) [買辨] 〔葡語、Comprador. (販買人ノ義)ノ遺語ナリト云フ〕 長崎、出島ニテ、阿蘭陀貨物ノ仲買人。後ニハ、諸外國人ト、日本商人トノ仲買ヲ營ム者。

こんぺい (名) [困憊] 生活ニ困ミ、弊ルルコト。困憊。 [illegible]

コンペイトウ (名) [金米糖] 〔葡語、Confeito. 氷がけト云フハ、垂ラシかけ[illegible]〕 [illegible]菓子ノ名。氷砂糖ヲ、水ニテ煮ツメ、別ニ、平鍋鍋ニ、罌粟子ヲ科トシテ入レ、下火ヲ置キ、右ノ砂糖汁ヲ、匙ニテ垂ラシカケ、固マラヌホドニ、箒ニテ攪キマハセバ、粒有ニ垂レテ、衣ヲ被キ、乾キテハ垂レ、垂レテハ乾キシテ、次第ニ圓トナリテ、周ニ細カナル疣ヲ成ス、此製ナルヲ、氷掛ト云フ。又、下等ノ金米糖、又、あられ、きんふんまめナド云フ乾菓子ノ、掛物ト云フモノハ、[illegible]ニ浸シ、直チニ、蒸籠ニ[illegible]、コレヲ、火掛ト云フ、[illegible]記(寛永)「こんへいとう十斤、きせる二十本、たばこ十斤」(外來語の研究) 日本永代藏(元祿、西鶴)金餅糖[illegible]ヨリ渡リテ、仕掛、色色、穿鑿スレドモ、成リガタク、云云、近年、下直ナル事、長崎ニテ、女ノ手業ニ仕出シ、云云、[illegible]花、渾平糖」(此下ニ、委シク製造法ヲ記セリ、古今、少異アリ)

こんぺき (名) [紺碧] 黒ズミタル、青キ色。 [illegible]

こんぺん (名) [袞冕] 袞龍御衣ト、冕冠ト。各條ヲ見ヨ。 左傳、桓公二年「袞冕、黻珽、帶裳、幅舃、衡紞、紘綖、昭ニ其度ニ也」

ごんぺん (名) [言偏] 漢字ノ偏ニアル、言ノ字ノ稱、計、訓、記、詩、語、ナドノ如シ。言旁

ごんぺゑ (名) [權兵衞] 〔田舍人ニ、權兵衞ナド云フ名ノ多カリシニ因ル、太郎兵衞ト云フモ、同ジ、田舍兵衞ヲ急呼シテ、ゐなかっぺゑト云ヒ、又、在郷兵衞ナドトモ云フ、飯炊男ヲ、權助ト云ヒ、風呂場男ヲ、三助ト云フ類ナリ、名ノ知ラレヌ人ハ、權兵衞ト呼ブベシトテ、名無しの權兵衞ト云フモ、是レナリ〕 田舍人ノ異稱。太郎兵衞トモ云フ。「權兵衞が種蒔きゃ、鴉がほじくる、ト云フハ、骨折リテ仕事ヲシテモ、他人ガ、後ニマハリテ壞ス、ト云フ意。太郎兵衞が仕業ト云フハ、效果ノナキ仕事ヲ云フ。同様ナル人物ヲ、權兵衞、太郎兵衞ト云フ。張三李四。十圓賄リタルニ、十圓ノ價スル品ヲ返禮セラルルナドヲモ、權兵衞、太郎兵衞ト云フ、同ジ事ノ意ナリ。インダリ。 相殺

ごんぺゑ (名) [權兵衞] 〔初、何ト名ツクベキヤウナクテ、名無しの權兵衞ナド云ヒタル語ニテモアルベキカ(前條ノ語原ヲ見ヨ)ぢぢっけト云フハ、小兒ヨリシテ云フ語ナルベシ〕 往時、小兒ノ頭髮ヲ、悉ク剃落シ、頂ニ、芥子坊主ヲ殘スノ外ニ、盆窪ニ、一撮ノ毛ヲ剃リ殘シオクモノ。又、ヂヂノケ。京阪ニテ、ボンノクソ。

こんぼ (名) [昏暮] 日暮レテ、暗キ時。 孟子、盡心、上篇「昏暮叩ニ人之門戸ニ求ニ水火ニ」

こんぼう (名) [棍棒] 〔漢書、揚雄傳、注「棍、大束也」〕 (一)棒ニ同ジ。(二)體操ニ用ヰル具。木製、圓筒形ニテ、手許ヲ細ソクシテ、徳利ノ形シタルモノ、柄ヲ握リテ、振リマハス。

こんぼう (名) [鯤鵬] 鯤トハ、北海ニ棲メリト云フ大魚ノ名、鵬トハ、鯤ノ、化シテ成レルト云フ大鳥ノ名。各、其大キサ、數千里アリ、鵬ハ、天ニ上ルコト、九萬里ニシテ、南海ニ徙ルト云フ、共ニ、支那ニテ云フ、想像ノ物ナリ。 莊子、逍遙遊「北冥有ニ魚、其名爲ニ鯤、鯤之大、不ニ知ニ其幾千里ニ也、化而爲ニ鳥、其名爲ニ鵬、鵬之背、不ニ知ニ其幾千里ニ也、怒而飛、其翼若ニ垂天之雲ニ、摶ニ扶搖ニ而上者九萬里、然後、圖ニ南、且ニ適ニ南冥ニ也」(説文) コレニ因リテ、遠キ海外ノ里程ヲ、鵬程萬里ナド云ヒ、大事業ヲ企ツルヲ、圖南の翼ナド云フ。 沈佺期詩「昔陪ニ鸞鷟後、今羨ニ鯤鵬飛ニ」 呂定、望ニ東灘ニ詩「鵬程九萬扶搖近、世界三千指顧低」(遙ハ、搖ニ通ズ)

❖こんぼちこめ (名) ぼんぼちこめノ條ヲ見ヨ。

ごんぼっちり (名) ごぼうぢり(牛蒡尻)ノ條ヲ見ヨ。

こんぽん (名) [根本] ネモト。オホネ。 [illegible]「以ニ[illegible]ニ爲ニ根本ニ」 平家物語、一、殿下乘合事「世ノ、亂レ初メケル根本ハ」

ごむほん (名) [御謀叛] 謀叛ノ條ヲ見ヨ。 保元物語、一、新院御謀叛事」 平家物語、二、教訓事「當家ノ運命、未ダ盡キザルニ依テ、御謀叛、已ニ顯ハレサセ給ヒ候ヒヌ」

こんぽんか (名) [混本歌] 旋頭歌ノ條ヲ見ヨ。

こんぽん-しれう (名) [根本史料] 歴史ヲ調ブルニ、其根本トナル材料。

こんぽん-ちゅうだう (名) [根本中堂] 〔天台宗ニテハ、本堂ヲ、中堂ト云フ〕 近江國、天台宗、比叡山延暦寺ノ本堂ノ名。延暦七年ニ、僧最澄、創建ス。江戸、下谷、上野ノ天台宗寛永寺ニモ、中堂アリ。(今ハ、燒失セリ) 水鏡、下、桓武天皇「傳教大師、比叡ノ山ニ、根本中堂ヲ建テタマヒキ」 著聞集、二、釋教「御在寺、今ニ、叡山根本中堂ノ經藏ニアリ」 合類節用集(元祿)一、乾坤門「根本中堂、延暦七年、傳教大師、構ニ字於叡山ニ、安ニ藥師佛像ニ、名曰ニ一乘止觀院ニ」

コンマ (名) [,] 〔英語、Comma.〕 (一)歐文ノ句讀、又ハ、記數ノ位取ニ打ツ小點ノ「,」ノ稱。(二)こんま以下、ト云フハ、整數ノ一ニ足ラヌ、小數ノコト。轉ジテ、數ナラヌ人物ナドヲ、こんま以下の人ナド云フ。

こんまう (名) [懇望] ヒタスラ、請ヒ望ムコト。切望。懇請。 父子相迎(元亨、向阿)上「佛ノミ方ヨリススメテ、懇望シタマフコトナレバ」

コンマ-バチルス (名) 〔英語、Comma bacillus.〕 細菌ノ、極メテ微細ナルモ

ノ。其體、,ノ狀ヲナス。

ゴム-まり (名) [護謨毬] 護謨ニテ作リタル毬。

コンミッション (名) [手數料] 〔英語、Commission.〕 (一)手數料。口錢。周旋ノ報酬。(二)惡意ニ用キテ、役人ナドノ、賄賂。不正ノ役得。

こん-みやう (名) [今明] 今日ト、明日ト。今年ト、明年ト。 平家物語、五、都遷事「此日頃、都ウツリアルベシ、ト聞エシカドモ、忽ニ、今明ノ程トハ、思ハザリシモノヲ」「今明日」今明年」

こん-むらご (名) [紺叢濃] 紺色ニテ、むらごニ染メタルモノ。(むらごノ條ヲ見ヨ)「紺叢濃ノ直垂」 紺叢濃の鎧ト云フハ、全體ヲ、薄キ紺絲ニテ、所所ニ、濃キ紺絲ヲ雜ヘテ縅シタルモノ。 長門本、平家物語、十六、一谷合戰事「熊谷次郎直實ハ、褐衣ノ鎧直垂ニ、紺村濃の鎧ニ、紅ノ母衣カケテ」

こん-めい (名) [懇命] ネンゴロナルオホセ。親切ナル心ゾヘ。

こん-めい (名) [諢名] 〔あだなノ條ヲ見ヨ、集韻「諢、弄言也」諢諢ノ語ヲ、諢語ト云フ、諢ヲ、俗ニ渾ニ作ル〕 人ノアダナ。嘲リ呼ブ異名。綽名。 水滸傳「還武太郎、身不レ滿二五尺一、起二他一箇諢名一叫做二三寸釘一」

こん-めい (名) [昏迷] 事理ニクラク、心ノ迷フコト。昏惑。 書經、胤征篇「昏迷于天象、以干二先王之誅一」

こんめいちの-しやうじ (名) [昆明池障子] 〔昆明池ハ、支那ノ長安ノ西南ニアル池ノ名ナリ、漢ノ武帝、元狩年中ニ、掘リ作ラシメシモノ、こうめいちト云フハ、音便ナリ(困ず、こうず)こめいちト云フハ、中略ナリ(巾子、こじ)〕 又、こうめいちのしやうじ。こめいちのしやうじ。清涼殿ノ廣廂ニ立テ置カレシ衝立障子ノ名。高サ六尺、横九尺、絹張、緣、青地ノ錦、南面ニ、昆明池ノ景色、北面ニ、嵯峨野ノ小鷹狩ノ圖、極彩色ナリ。 禁祕御抄、上、清涼殿「弘廂、云云、二間與二上御局一之際、立二昆明池障子一」字類抄「昆明池障子」大鏡、中、兼通「龍口ノ陣ノ方ヨリ、御前へ參ラセタマヒテ、こうめいちのしやうじノ許ニ差出デサセタマヘルニ」辨内侍日記、上、寶治三年四月十五日「こめいちのしやうじノ許、御湯殿ノ長押ノ下ノ一間ニ」夏山閑話(寛保)一「昆明池の障子ハ、名目、こめい池ナリ、こんめい池ト云フハ、ワロシトナリ」漢書、西南夷傳「昆明國有二滇池一、方三百里、漢使求二身毒國一(印度)而爲二昆明一所レ閉、今(武帝ノ時)欲レ伐レ之、故作二昆明池一象レ之、以習二水戰一(在二長安西南一、周回四十里一)」

コンモン-センス (名) [常識] 〔英語、Common sense.〕 尋常ノ事理ノ理解。じやうしき(常識)ノ條ヲ見ヨ。

こんもり (副) [蓊然] 〔こもり、こもりかノ音便(こめり、こんめり。やはり、やんはり。こぶり、ざんぶり)〕 コモリカニ。暗ク籠リタル狀ニテ。「こんもりト繁ッタ山」

こん-や (名) [紺屋] 〔こんかき屋ノ略ナルベシ、こうやト云フハ、音便ナリ(柑子、かうじ)〕 (一)コンカキ。コウカキ。藍ニテ、布帛ニ、紺色ヲ染メツクルヲ業トスル者。又、こうや。 慶長見聞集、八、藍こつぼき「ソレガシ親、こんかきニテ、云云、家跡職ヲ取リ、こんやヲ仕候」 狂言記、姫爭「こうやニ足ラヌモノナラバ、こんご、きぬぼりノヤウナ物デハナカッタカ」 誹袖海(元祿)「かうやガ燒ケテ、鬼落ガフ コケテ、盃雉子ヲ、白デ着タ」 (二)こんやの明後日ト云フ語ハ、染物ノ期日ノ、天候ナドニテ、トカクニ延引スルニ云フ。隨ッテ、スベテ約束ノ、あてニナラヌ意ニ用キラル。 吾吟我集(慶安)六、寄二紺掻一戀「ツレモナキ、人ハこんやの、あすあさて、アヒソメム日ヲ、ノビノビニ云フ」 (三)後ニハ、染物屋ヲ、こんや、こうやト云ヒテ、何色ニテモ、染ムルヲ業トス。專ラ、紺ノミ染ムルヲ、駄染ト云フ。

こん-や (名) [今夜] コヨヒ。今日ノ夜。コンバン。今夕。今宵。 庾信、夜聽レ搗レ衣詩「今夜長門月、應レ如二晝日明一」 狂言記、子盜人「今夜、アレへ忍ビ入リ、何ナリ共、トッテ參リ」

こん-やく (名) [婚約] 結婚ノ約束。

こん-やく (名) [困厄] クルシムコト。困難。 漢書、王章傳「疾病困厄、不二自激昂一、乃部泣何哉」

こん-ゆ (名) [懇諭] ネンゴロニ、サトスコト。深切ニ、言ヒ聞カスルコト。

こん-ゆふ (名) [今夕] 〔今夕ノ湯桶讀〕 コヨヒ。今夜。コンバン。

こむ-よ (名) [來世] 〔來世ノ訓讀ノ語カ〕 來ラむトスル世。來世。後世。 古今集、十一、戀、一「こむ世ニモ、ハヤ成リナナム、目ノ前ニ、ツレナキ人ヲ、昔ト思ハム」 源、四、夕顏「世ニ優婆塞ガ、行フ道ヲ、シルベニテ、こむよモ深キ、契リタガフナ」

こん-よ (名) [坤輿] 〔坤ハ、地ナリ、乾坤ノ條ヲ見ヨ、大地ノ、萬物ヲ載スルコト、輿ノ如シ〕 大地ト云フニ同ジ、地球ノ事ナリ。 易經、說卦傳、大有「坤爲二大輿一」 疏注「大輿以載」

ご-むよう (感) [御無用] 薦僧ノ、尺八ヲ吹キ、門ニ立チテ錢ヲ乞フニ、施與セズシテ、コトワルニ云フ語。浪人ノ、謠ヲウタヒナドシテ來ルニ、通らっしゃいト云フ、共ニ、常ノ乞食ノ、錢ヲ乞フニ、なにとよト云フヨリハ、身分ニ對シテ、稍、敬意アリ。 謠曲、攝待「佐藤ガ館ニテ、山伏攝待ノ事へ、我等ガ留ム所ナレドモ、佐藤ノ館ノ、憚ニテ候フ程ニ、御通リアレカシト存ジ候」 松屋筆記、六十五、六十「大和國ニテハ、癩病ノ者ヲ、おさらおさト云ヘリ、御通りあらせられよト云フヲ、約メテ云フカ、奈良坂ニ住メル癩人、多ク、奈良ノ町、及ビ、在郷ニ物乞ヒアリクヲ、施與セサル時、おさらおしゃト言ヒケムヨリ、名ニ負ヘルニヤ」虛無僧ニハ、御無用ト云フコト、又、通例ナリ」 俚言集覽、御無用「虛無僧ヲ辭謝スル詞」

こん-よく (名) [混浴] 〔支那ニテ、風呂場ヲ、混堂ト云フモ、いりごみナルベキカ〕 イリゴミ。湯槽ニ、諸人、同浴スルコト。「男女混浴」

こむ-ら (名) [腓] 〔小叢肉ノ義カ〕 脛ノ背面ノ、脹レテ、肉ノ多キ處。體中、急所ノ一ナリ。フクラハギ。 字鏡「腨、古牟良」 倭名抄、三、手足類「腓、古無良、脚腓也」 手ナルヲ、手こむらト云フ、其條ヲ見ヨ。

こむ-ら (名) [木叢] 又、こむれ。樹ノ、ムラダチタル蔭。木蔭。樹陰。 萬葉集、三、廿八、長歌「御湯ノ(伊豫ノ溫泉)ノ上ノ、樹村ヲ見レバ」 字鏡、八、四十「柯、枝也、莖也、己牟良」 倭名抄、廿、木具「木枝相交下陰曰レ樹、古無良」 齊明紀、四年五月「今城(大和ノ地名)ナル、乎武例ガ上ニ」(乎ハ、呼ノ省字ナリト云フ、稜威言別、十)

こむ-ら (名) [小村] 〔大村ニ對ス〕 人家ノ、少ナキ村。廣カラヌ村。

こん-らう (名) [軒廊] 〔軒、呉音、こん(金、金輪)〕 紫宸殿前、南庭ノ東、南、西ニツヅク廻廊ノ稱。上屋アリ、下ハ、土間ニテ、通路トナル、白壁、丹柱ナリ。南廊ニ承明門ヲ開キ、東廊ニ日華門、西廊ニ

月華門アリ。大嘗祭ノ時、ココニテ、悠紀、主基ノ國司ヲ、龜トニテト定セラル、軒廊ノ御トト云ヒキ。名目抄、紫宸殿[illegible]、北行出自新嘗殿東二歩行也」中右記、嘉承二年四月廿八日「中ニ行軒廊御トニ」太平記、廿五、持明院殿御即位事「軒廊御卜、大嘗會ノ御占ヲ云フ」

こんらうのみうら（名）［軒廊御卜］前條ヲ見ヨ。

こむらがへり（名）［轉筋］（腓返ノ義、腓ノ筋ノ轉ズル意）カラミナヘリ。腓ノ筋肉ノ攣縮。多ク水泳中ニ起ル。倭名抄、三「轉筋、古牟良加閉利、一云、加良奈倍利」

こむらさき（名）［小紫］小サキ木、山ニ生ズ、枝、葉、南對ス、葉ハ、にしきぎ、ニ似テ、鋸齒アリ、夏、葉ノ間ニ、五瓣ノ小紫花、簇リ開ク、實、圓ク、大サ一分許、秋、冬、熟スレバ、紫ナリ、葉、落チテ後、愈、著ナリ、紫珠

こむらさき（名）［濃紫］紫ノ、甚ダ濃クシテ、黑キホドニナリタルモノ、三位以上ノ袍ノ色ナドニ云フ。上東門院集「[illegible]むらさき、ヤシホ染メタル、菊ノ花、ウツロフ色ト、誰レカ見ルラン」

こんらん（名）［混亂］混淆、錯亂ノ義、マザリ、ミダルルコト。ゴタマゼ。雜譬喩經「[illegible]混亂」

ごむりごもっとも（句）［御無理御尤］［雜有迷惑ナドト同趣］無理ナル言ヲモ、宜シト、承諾スル意ヲ云フ語。目上ノ人ノ言附ナドニ云フ、泣く子と地頭には勝たれぬナドノ意。

こんりふ（名）［建立］造リ、建ツルコト。（多ク、堂塔ナドニ云フ）保元物語、一、將軍塚鳴動事「弘法大師ハ、高野山ヲ建立シテ、眞言ノ密法ヲ修行シテ、專ラ、天下ノ護持ヲ致ス」

こんりん（名）［金輪］佛經ニ云フ、此世界ノ地層ノ名、其最下底ニアルモノハ風輪ナリ、其上ニ水輪アリ、水輪ノ上ニ金輪アリ。コレ卽チ地輪（大地）ナリ。其下、水輪ニ接スル所ヲ、金輪際ト云フ。俱舍論、十一「安立器世間、（世界）風輪居下、云云、次上水輪、云云、水輪凝結成金、云云、於金輪上、有九大山、妙高山王處中而住」（妙高山ハ、須彌山ノ譯名）

こんりんざい（名）［金輪際］（一）佛經ノ説ニ、此大地ノ最下底。（前條ヲ見ヨ）大寶積經「此大地、厚有二百六十萬由旬、而其最下依金輪際」太平記、三十一、武藏野合戰事「上ハ三十三天マデモ響キ、下ハ金輪際マデモ聞ユラン」（二）此語、副詞ノ如ク用キラレテ、底ノ底マデ。ドコドコマデモ。極度マデ。「こんりんざい言フマイ」こんりんざい意地ヲ張ル」

こんりんしやうだい（名）［金輪聖帝］金輪王ノ條ヲ見ヨ。

こんりんしやうわう（名）［金輪聖王］次條ヲ見ヨ。

こんりんぼう（名）［金輪寶］佛經ニ、金輪王ノ有スル、七寶ノ一。常ニ上晧シテ、輪寶ト云フ、其條ヲ見ヨ。神皇正統記、序論「先天ヨリ、金輪寶飛ビ降リテ、王ノ前ニ現在ス」

こんりんわう（名）［金輪王］又、金輪聖帝。金輪聖王。佛經ニ、須彌山ノ四洲ヲ統治スル帝王ノ稱。其三洲ヲ治ムルヲ、銀輪王ト云ヒ、其二洲ヲ治ムルヲ、銅輪王ト云ヒ、其一洲、卽チ南閻浮洲ヲ統治スルヲ、鐵輪王ト云フ。此、金、銀、銅、鐵ノ四輪王ヲ總稱シテ、轉輪王、又、轉輪聖帝ト云フ。神皇正統記、序論「八萬四千歳ノ時、金輪王出デテ、四天下ヲ統領ス」

ごんりんわう（名）［銀輪王］前條ヲ見ヨ。

ごんりやう（名）［今良］「賤民ヲ放チテ、良民トセラレタル者、今ハ良民ノ意ニテ、いまよしトモ云フナリ」いまよし。主殿寮ニ屬スル、男女ノ下部。掃除ノ事ニ勤ムル者。中務省式、時服「主殿寮、[illegible]百九十六人」注「頭一人、助一人、云云、今良男一百四十一人、今良女二百廿六人」儀式、一、賀茂祭儀「輦檔二荷、在其明」注「一荷淸器、一荷器器、以今良一爲二擔夫、並著紺衣」（淸器トハ、尿器ナリ）松屋筆記、八十四、五十三「齋宮寮式、齋院別當員、今良四人、云云、今良ノ事、禁秘抄階梯、下卷、九十八丁ニ、明ニ放賤從良也ト見エテ、奴婢、卑賤ノ身ヲ離レテ、新ニ良ニ從ヘル者ヲ云フ、云云、有職小説、下卷、三十三丁ニ、主殿寮官人、禁庭掃除ノ下部ヲ、男今良ト云フ、又、後宮掃除ノ婢ヲ、女今良ト云フトアリ」

こんりようのぎよい（名）［袞龍御衣］［袞ハ、卷ナリ、龍ノ首ノ曲レルヨリ云フ、周禮、春官篇、司服「袞冕」注「袞、卷龍衣也」説文「天子享先王、卷龍繡於下」此御衣ハ、支那ノ天子ノ服ナルヲ、採用セラレタルナリ］天皇ノ御禮服。御卽位、又ハ、朝賀、等ノ大儀ノ時ニ召サセラレキ、今ハ用キラレズ。此御衣ハ、上衣ト、裳トニテ成ル、上衣ハ、赤地ノ綾ニテ、兩袖、大キク、袖口、廣シ、故ニ、大袖トモ申ス、兩袖ニ、登龍、雙肩ニ、日、月、衣ノ前ニ、山、華蟲（雉）、火、宗彝（酒尊）、背ニ、星辰（七斗星）、合ハセテ、八章ヲ繡トス。裳モ、赤地ノ綾ニテ、前ニ、藻、粉米、黼（斧）、黻ノ四章ヲ加ヘテ、十二章トナル、（黻ハ、二ツノ己ノ字ノ、背合ハセニナレル形ニテ、兩己相背ト云フ）以上、袞衣トモ云ヒ、冕冠ヲ戴カルルニ因リテ、袞冕十二章トモ云フ、然シテ、玉佩ヲ垂レタマフ。周禮、天官篇、司服「享先王、則袞冕」注「袞龍、衣也、五章、裳、四章、凡、九、皆畫龍、而畫以爲袞」事物紀原、三、袞衣「事始曰、黃帝作盡、象日月星辰於衣上以似天、故有袞龍之頌、黃帝内傳曰、帝伐蚩尤、乃服袞衣、至舜始備十二章」紀略、前篇、十四、弘仁十一年二月、詔「元正受朝、則用袞冕十二章」西宮記、臨時、四、天皇禮服「赤大袖、繡日月山龍虎猿等形」（虎猿ハ、宗彝ノ模様ナリ）太平記、二、師賢登山事「師賢、法勝寺ノ前ヨリ、袞龍の御衣ヲ著テ」

こんるり（名）［紺瑠璃］瑠璃ノ、紺色ナルモノ。（金銀ノ條ヲ見ヨ）源、五、若紫「こんるりノ壺トモニ、御藥トモ入レテ」盛衰記、七、康頼造卒都婆事「サス潮、社壇ヲ浸ス時ハ、紺瑠璃ヲ瑞籬ニ敷クカト疑ハル」

こむれ（名）［木叢］こむら（木叢）ヲ見ヨ。

こんれい（名）［婚禮］［婚姻ノ條ヲ見ヨ］婚姻ヲ結ブ時ノ禮式。婚儀。今ノ中流人ノ婚儀ハ、先ヅ、男女、雙方ノ媒妁人ノ周旋ニ因リテ、緣談成リ立テバ、結納ノ進物ヲ取交ハシ、吉日ヲ擇ビテ、新婦ハ、新夫ノ家ニ入リテ、盃事、卽チ、盃ヲ執リテ酒ヲ飲ミ交ハシ、契ヲ結ブ證トス、上古ニ云ヘル、盞結ナリ、又、雙方ノ親戚トモ、盃事アリテ、酒宴トナル。後ニ、婦ノ家ニ、婿入アリ、婦ニ、里歸アルナド、慣例ノ儀アリ。禮記、郊特牲篇「天地合而后、萬物興焉、夫、昏禮、萬世之始也」同、曾子問篇「昏禮、既納幣、有吉日」太平記、三十七、揚國忠事「時ノ王侯貴人、公卿大夫、嫁娶ヲ求メ、婚禮ヲ厚クシテ、夫婦タラン事ヲ望ミシカドモ」

こんれい（名）［很戾］道理ニ、モトルコ

ト。左傳、襄公廿六年「大子痤美而很」杜注「痤美、而心很戾」

コンロ (名) 涼爐 〔宋音、火爐(コロ)ノ音便ナラム、こ(火)ノ條ヲ見ヨ(蒟蒻(コンニャク)、こんにゃく。古年刀(コネンタウ)、こんねんたう)禪家ヨリ出デタル語ナルベシ(火榻子(コタツ))〕床上ニ置ク爐。鐵製アリ、土製アリ、内、空ニシテ、中段ニ架(スカシ)アリ、前面ノ下ニ、横穴アリ、架ニ、炭火ヲ盛リ、下ノ穴ヨリ、風、通ジテ、火ヲ熾(サカン)ニス。焜爐。

こむろぶし (名) 小室節 〔武藏、北足立郡、小室(コムロ)村ヨリ起リ(信濃ノ小諸(コモロ)ニアラズ)同國ノ三河島村ノ者、傳ヘタリト云フ〕馬子唄ノ稱。往時、諸大名、江戸參府ノ時ノ葛籠(ツヅラ)馬ナド引キツツ、唄ヘリ。 吉原小歌そうまくり、附錄(天和)所所ヨリ吉門迄、駄賃附「日本橋ヨリ、大門迄、並駄賃二百文、馬奴、こむろぶし歌フ」人倫訓蒙圖彙(元祿、三)三「馬方節トテ、一ふしアリ、云云、當世ハ、辰巳あがりノ聲シテ、小室節ナリ、聲高ニシテ、云云」東海道中膝栗毛(文化、一九)岡部ヨリ藤枝ヘ「菜平ヲウタフ葛籠馬ノ小室節、タユカニ、宿場人足、其町場ヲ爭ハズ」

コンロン-ざん (名) 崑崙山 支那、新疆省ノ西南隅ニアル、高山ノ名、崑山トモ云フ。美麗ナル玉(ギョク)ヲ出スヲ以テ、名アリ、崑玉ト云フ。 水經注「山在二西北一云云、高、萬一千里」山海經「崑崙、云云、高、萬仞、而有二九井一以レ玉爲レ檻」湘山野錄「崑山出レ玉、雖二木牛、金一」後漢書、孔融傳「與二崑玉秋霜一比レ質可也」(人格ノ高尚ナルヲ云フ) 晉書、郤詵傳「崑山片玉」

コンロン-はっせん (名) 崑崙八仙 くろばせノ條ヲ見ヨ。

こんわ (名) 懇話 打解ケタル話。懇談。

こん-わく (名) 昏惑 道理ニクラク、惑(マド)フコト。昏迷。 張衡賦「通人闇二於好惡一兮、豈昏惑而能剖」

こん-ゑ-ふ (名) 近衞府 このゑふ(エ)ニ同ジ。 書言字考節用集「近衞、コンヱフ」「左近衞府」「右近衞府」

こん-ゑん (名) 渾圓 マルキコト。角(カド)ナキコト。マンマロ。マドカ。 元史、曆志「天體渾圓」沈作喆、寓簡「得二文當一存二氣質一氣質渾圓、意到辭達」

こ-め (名) 米 〔米實(ニコミ)ノ略轉ニテ(陸(クニガ)、くが。雀(スズメ)、すずめ)籾ヲ脱シタルニ云フカ(荒糠(アラヌカ)、あらぬか)沖繩ニテ、くみト云フ〕(一)稻ノ子。其殼(モミ)ヲ除ケバ、中ニ、粒子アリ、糠ニテ包ム、玄米ト云フ、搗キ精グレバ白シ、白米、又、精米ト云フ、炊ギテ飯トシテ、日常ノ食トシ、又、酒ヲモ釀ス。ヨネ。ボサツ。八木(ハチボク)。種類、多シ、稻(イネ)ノ條ヲ見ヨ。 皇極紀、二年十月「岩ノ上ニ、小猿米(コメ)燒ク」倭名抄、十七「米類「糯米、夜木古女」(二)粟、稗ノ實ニモ云フ、 宇津保物語、藤原君、十三「橘ヲ取リテナム、參リツルト申サムト云ヒツレバ、あは米ヲ包ミテナム、クレタルト云フ」 今昔物語、廿一「稗米ヲ、粥ニ煮テ、云云」(異本)

こ-め (名) 穀 こめのきぬノ條ヲ見ヨ。

こ-め (名) 䱌陽魚 〔肥肉(コエ)ノ轉カ、或ハ、鱉(カメ)ノ轉、ナドノ說アリ〕えひ(鱏)、あかえひノ一名、其條ヲ見ヨ。 本草和名、下十六「䱌陽魚、古女、一名、衣比」倭名抄、十九、龍魚類「䱌陽魚、似レ鱉無レ甲、口在二腹下一者也、古米」東雅、十九「今、俗ニ、えひト云フモノ、是レナリ」

こ-め (接尾) 籠 共ニ、籠メテ。引キクルメテ。グルミ。今、ゴト。グチ。 萬葉集、十七 三十九「我ガ宿ノ、花橘ヲ、花其米ニ、玉ニゾ吾ガ貫ク、待タバ苦シミ」(實ノ熟スル待チカネテ) 宇津保物語、初秋、九「みさご、池ヨリ立チテ、三寸バカリノ鮒ヲ咋(ク)ヒテ、ヲリケルヲ、云云、咋ヒタル魚(イヲ)こめニ、射落シテ」枕草子、九、九十八段「根こめニ吹折ラレタル前栽ナドヲ、取リアツメ、オコシタテナドスルヲ」

こめ-あげざる (名) 米揚笊 古名、シタミ。淅(ト)ギタル米ヲ、水ヨリ揚ゲテ、水ヲ瀝(シタ)ムニ用キル笊。淅籮

こ-めい (名) 古名 古キ名。昔シノ稱(トナヘ)。

こ-めい (名) 顧命 天子、臨終ノ命令。御遺言。御遺命。 書經、顧命篇、序「成王將レ崩、命二召公畢公一率二諸侯一相(タスケシメ)二康王一作二顧命一」鄭玄註「回レ首曰レ顧、臨レ死回顧、命也」神皇正統記、嵯峨天皇「桓武第二子、平城同母ノ弟ナリ、太弟ニ立チタマヘリ、云云、桓武ノ帝、鍾愛無雙ノ御子ニナムオハシケル、儲君ニ居タマヒケルモ、父ノ帝、遺體ノタメニ、顧命シマシマシケルニコソ」

ご-めい (名) 五明 (一)次條ノ語ノ略。(二)ごみやう(五明)ノ條ヲ見ヨ。

ごめい-せん (名) 五明扇 〔明ハ、視聽ヲ開ク意ナルベケレド、五ハ、五箇ノ明扇ノ意カ、詳カナラズ、扇ハ、團扇ナリ、然レドモ、我ガ國ニテハ、扇子ノ事ニ云フ〕 扇(アフギ)ノ異名。略シテ、五明トノミモ云フ。 古今注「五明扇、舜所レ作也、既受二堯禪一、廣開二視聽一、求二賢人一以自輔、故作二五明扇一焉」 下學集、下、器財門「五明、舜帝造二五明扇一、其形如二日本扇子一、後人呼レ之曰二旋風扇一也」

こめいち-の-しやうじ (名) 昆明池障子 こんめいちのしやうじノ條ヲ見ヨ。

こめ-いちば (名) 米市場 米ヲ賣買スル市場。米相場ヲ立ツル市場。

ごめう-の-おんがく (名) 五妙音樂 〔五音、宮、商、角、徵(チ)、羽〕五音ノ妙ヲ盡シタル音樂。 榮花物語、十六、本雫「寶見宮殿ニ遊戲スルニモマサリ、云云、五明の音樂ヲ聞クニ、三十二天ノ、微妙ノ天女ニ齊シクオハスル、云云」

こめか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 〔子めくノ未然形ノこめかヲ、形容詞ニ活用セシム〕子メキテアリ。兒童(コドモ)ラシク見ユ。 源、廿一、少女三十「十四ニナムオハシケル、イトこめかしう」 濱松中納言物語、二、上「手モ、こめかしう、ヲカシゲナルヲ」

こめかしをけ (名) 米淅桶 〔淅(カ)すノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕炊グベキ白米ヲ、水ニテ淅(カ)スニ用キル桶。コメトギヲケ。

こめ-かみ (名) 蟀谷 顳顬 〔米ヲ嚼(カ)めバ動ク義〕(一)灸穴ノ名。耳ノ上、髮際(カミギハ)ニ入ルコト一寸五分、物ヲ嚼メバ動ク處。 倭名抄、三、頭面類「針灸經云、耳以上入二髮際一一寸半、有レ穴、嚼而動、謂二之蟀谷一、古米加美」集韻「顳顬(セフジユ)、耳前動也」 平治物語、三、長田義朝を殺し六波羅に馳參る事「將門ハ、米かみヨリゾ、切ラレケル、タハラ藤太ガ、ハカリゴトニテ」(二)比丘尼ノ弟子ノ稱。 風俗文選(寶永、許六)師說「比丘尼ノ師タルモノヲ、御寮トイヒテ、其ノ弟子ヲ、米かみトハイフナリ」

こめ-きって (名) 米切手 米ノ豫約賣渡シ證書。大阪ノ關西諸大名ノ米藏屋敷ナドニテ出ス米切手ハ、翌年ノ廻米ヲ豫約シテ「高何千俵之内、何ノ何月幾日拂、何屋誰、買代銀濟也」ナド記シテ渡ス、此切手ヲ、米仲買ドモ、買ヒ受ケテ賣買ス、所持ノ者、時期ニ至リ、藏屋敷ニ到リ、切手ト取替ヘテ、正米ヲ受取ルナリ。(古事類苑、大阪米賣買之大意)

こ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 兒童(コドモ)ラシクアリ。(親めくニ對ス)オホラカナリ。大樣(オホヤウ)ナリ。 源、十九、薄雲十「タダ御心ザマノ、オイラカニ、こめきテ」 同、三十一、槇柱九「本性、イト靜カニ、心ヨク、こめきタマヘル人ノ」 同、三十三、藤裏葉十「アサマシトノタマフ狀、イトこめきタリ」

こめくひむし（名）［米喰蟲］（一）コメノムシ。コクザウ。（二）人ヲ、動物トシテ、嘲リ云フ語。コメノムシ。ゴクツブシ。

こめぐら（名）［米藏］米ヲ貯ヘ置クニ用ヰル藏。コメクラ。（今、藏ナドト書ス）

こめくゐむし 米喰蟲 次次條ノ（一）ヲ見ヨ。

こめこめ（名）［柞木］〔米米ノ意ニテ、小白花ノ狀ニ云フカ、小米櫻ナドモ、花形ニ因ル名ト聞ユ〕柞木ノ異名。夫木抄、廿九「[illegible]」松屋筆記、八十八、九十條「[illegible]」[illegible] 本草綱目啓蒙、三十二「[illegible]」[illegible]

こめさうば（名）［米相場］（一）米ノ價ノ、高下スル相場。米價。米商人、集リテ、相場ニ依リテ、正米ヲ賣買ス。（二）此事、後ニハ、期月ヲ定メテ、賣買ノ約束ヲ[illegible]ノ高下ノ差ニテ、損益ヲ計算シテ、金錢ノ[illegible]博奕ノ[illegible]ナリ。[illegible]空米取引ト云フ。

此事、享保年中ヨリ、大阪ノ堂島ニ行ハレシガ、文化年中、江戸ニモ建チテ、米會所ト云ヒキ、明治九年、米穀取引所ト改稱セラレテ、其規則ニ從ヒテ行ハル。[illegible] 是ハ、今ノ正米相場ノ初ナリ、寶永中、今ノ堂島ノ地ヘ[illegible] 立テ、免許セラレテ、今ニ至ルト云フ」（節文、温知叢書、七）享保撰成錄論錄、三十四、享保十年十一月、[illegible]（堂島ナリ）[illegible] 國國マデモ知ラストカヤ」寬天見聞記（寬政、天保）[illegible] 十郎ト云フ者ノ、取設ケタルナリ。

こめさき（名）［塙］〔米裂ノ義〕粉米ノ古名。又、コメノサキ。アラモト。箋注[illegible]

こめさし（名）［米刺］俵ニ刺シ込ミテ、中ノ米ノ少許ヲ拔キ出シテ檢ルニ用ヰルモノ。竹筒、長サ一尺八寸、尖ヲ、竹槍ノ如ク、斜ニソギテ尖ラス、小揚ナドノ

用ヰルモノナリ。上略シテ、さしトノミモ云フ。[illegible]今、米さしト云ヒテ、竹ニテ作リ、俵ニ刺シコミテ、米ヲ出ス器アリ」俵ニ刺シ[illegible]さし「俵子ニ云フ、探篇也」

こめだい（名）［籠題］題ノ詞ヲ、歌ノ中ニ言ヒコメテ詠ムコト。もののなニ同ジ。堀中納言定頼卿集、こめだい、もちひ「潛キケル、海人ノシワザも、ちひロナル、海松シナクバ、カヒアラジヤハ」

こめだはら（名）［米俵］米ヲ入ルル俵、藁ニテ作ル。米苞。[illegible] 松作ニ中ニ押シ込メ、乘リコメ、米俵、デカ[illegible]マヘタ大黑大黑」

こめつき（名）［米搗］イネツキ。玄米ヲ、搗キ精グルコト。舂米 又、其人。舂兒

こめつきばった（名）［米搗蝗蚸］（一）次條ヲ見ヨ。（二）頻リニ、叩頭、阿諛スル者ヲ、嘲リ呼ブ語。

こめつきむし（名）［米搗蟲］古名、ヌカヅキムシ。きくひむしノ羽化シタルモノ、形、たまむしニ似テ、大キナルハ、長サ一寸餘、茶褐色ニシテ、金光アリ、又、甲ニ、綠ト、黑トノ縱線アルモアリ、又、六分許ニシテ、黑褐色ニシテ、秋夜、燈火ニ集ルモアリ、其體ヲ抑フレバ、皆、頭ヲ上下シテ、聲アリ、舂ツク狀ノ如シ。又、コメフミ。コメツキバッタ。叩頭蟲

こめつび（名）［米粒］次條ヲ見ヨ。

こめつぶ（名）［米粒］古言、イナツビ。コメツビ。米、一ツ。[illegible]和名[illegible]粒、米部ニ「和手値ニ粒、イナツブ、コメツブ」

コメデイ（名）［喜劇］「英語、Comedy」西洋芝居ノ、滑稽ナル脚色ノモノ。道化

芝居。喜劇。

こめのきぬ（名）［穀］（こめハ、籠目ノ義ナルベシ、織目ノ緻密ナル狀ニ就キテ云フカト云フ）絹布ノ名。こめトノミモ云フ。羅、紗ノ類、今云フ、ゑちごちぢみノ如キモノカト云フ。天治字鏡、四「[illegible]穀、羅也、己女乃支奴」二「[illegible]、己女乃絹」同、十一「[illegible]穀、羅也、己女乃支奴」法隆寺資財帳「[illegible]」宇津保物語、國讓、下二十「コノこめハ、夏衣ニヤ」倭名抄、十二「錦綺類「穀、其形[illegible]親之如[illegible]也、古女」字類抄「穀、コメ、羅[illegible]」貞丈雜記、五、裝束「裝束ノ書ニ、穀ト云フモノアリ、是レハ、こめおりト云フモノナリ、羅、又、紗ノタグヒニテ、目ノスキタル、薄キ織物ナリ、生絹ニテ織ル也」

こめのざ（名）［米座］七座ノ條ヲ見ヨ。

こめのさき（名）［塙］こめさきヲ見ヨ。

こめのむし（名）［米蟲］（一）古名、ヨナムシ。昆蟲、色、黑シ、長サ二分許、二鬚、六足、米穀ノ中ニ生ジテ、コレヲ食フ。コクザウ。コクウザウ。蛄𧏮 米牛（二）人ノ異稱。米喰蟲ノ（二）ニ同ジ。

こめのめし（名）［米飯］米一品ヲ、飯ニ炊ギタルモノ。（麥、粟ノ糅飯ニ對シテ云フ）又、常ニ食ヒテ、厭カヌ意ヲ云フ語トモス。守貞漫稿、後集、一、食類「今、三都ドモハ、皆、各、精米ヲ釜中ニ炊ギ、更ニ他穀ヲ交ヘズ、云云、極一種ノ釜炊飯ヲ、俗ニ、こめのめし、又、こめのめしトモ云フ、赤飯ニ對スル言ナリ」蜀山人狂句「世ノ中ハ、イツモ月夜ニ、米の飯」

こめびつ（名）［米櫃］（一）炊グベキ精米ヲ、貯ヘ置ク櫃。カラト。（京都）ケシネビツ。（二）生活ノ基。米櫃に蜘蛛が巢を張るト云フハ、食糧無キ意ヲ云フ。

こめふみ（名）［米蹈］（一）蹈臼ヲ蹈ミ

テ、米ヲ精グルコト。(二)こめつきむしノ一名。

こめ-へん (名) 【米偏】 漢字ノ偏ニアル、米ノ字、粒、粗、精、糊、ノ如シ。ヨネヘン。米旁

こめ-まい (名) 【込米】 おみまいニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

こめん (名) 【顧眄】 〔集韻「眄、眠見切」字典「褒、視也」〕 回顧リテ、見ヤルコト。後漢書、馬援傳「援自請曰、臣尚能被レ甲上レ馬、帝令レ試レ之、援據レ鞍顧眄、以示レ可レ用、帝笑曰、矍鑠哉是翁也」 太平記、一、三位殿御局事「樂府ノ妓女ト云ヘドモ、天子、顧眄ノ御心ヲ附ケラレズ」

ご-めん (名) 【御免】 (一)免許ノ敬語。オユルシ。古事談、二、臣節、隆國卿、宇治殿ニ、小馬ニ乘リナガラ、出入シテ「是レハ、馬ニテハ候ハズ、足駄ニテ候ヘバ、可レ蒙ニ御免ニ」「御免ノ勸化」「御免ノ相撲興行」 (二)免官、免職ノ敬語。「御役御免」 (三)容赦、寛容、ノ敬語。「御免下サイ」

ご-めん-がは (名) 【御免革】 (一)にしきがは(錦革)ノ條ヲ見ヨ。 (二)てんびゃうがは(天平革)ノ條ヲ見ヨ。

ご-めん-げた (名) 【御免下駄】 〔禁中、雨天ノ節、高足ナラズトシテ、免サルレバ云フ〕 塗木履ノ、鼻緒ノ白キモノ。

ご-めん-の-くゎんけ (名) 【御免勸化】 官許ヲ得タル、堂塔造立ノ寄進勸化。享保集成絲綸錄、廿一、寛保二年五月、觸、諸國寺社、修復爲ニ助力、勸化御免、云云、私之勸化、相留候儀ハ、領主心次第ニ候、從ニ公儀ニ御免之上、諸國巡行之事ニ候條、寺社奉行連印之勸化狀持參候寺社之類ヘハ、志次第可レ致ニ勸化ニ云云」

ご-めん-の-すまふ-こうぎゃう (名) 【御免相撲興行】 官許ヲ得テ、相撲ヲ興行スルコト。寺社奉行一件書類「私共儀ニ渡世ニ來春勸進相撲興行仕度旨、奉ニ願上ニ候處、今日、願之通、晴天十日、御免被ニ成下ニ難レ有仕合奉レ存候」

こ-め-み-す ・スル・スレ・セ・セ・セヨ (自動、下二) 【小目見】 〔こハ、發語(こ肘、こ膝)酷キめヲ見するナリ、他動ノ意ハ、をニ收リテ、句ニテ、自動トナル〕 苦シムヤウニス。サイナム。呵責。異本、保元物語、二、白河殿攻落事、大場景義、爲朝ニ膝ヲ射ラレテ、弟ノ景親ガ助クル所「他人ハ誰レカ助ケ申サム、明暮、こめみせタマヒツルハ、イカガ、愆リタマフカ、ト云ヒケレバ」 甲陽軍鑑、十二、品第三十九「跡頭、弓箭ノ取様、諒虎ト無事ヲ仕リ候ヘ、謙信ハ、猛キ武士ナレバ、四郎、若キ者ニこめみするコト、アルマジク候」(武田四郎勝頼) 狂歌咄(寛文)「名ニ立テル、犬ト猿トノ、イサカヒモ、米みせラレテ、噛ミツキモセズ」(猿曳ガ、米ヲ食ニ與フルニ云フ)

こめ-や (名) 【米屋】 玄米、精米ヲ賣ル商家。米舖 玄米ヲ賣ルヲ、玄こめやト云ヒ、搗キ精ゲタルヲ小賣スルヲ、搗こめやト云フ。

こ-めらう (名) 【小女郎】 次條ノ語ノ音便。俚言集覽、こめらう「古寫本節用集、女孺、こめらう、京都ニテ、今、こめらうト云フ」 同、こめろ「小女郎、こむすめヲ云フ」

こ-めらは (名) 【小女童】 〔小女童ノ約轉〕 メノワラハ。コムスメ。小女 七十一番職人盡歌合、四十九番、放下「ヤブレ僧、烏帽子キタレバ、こめらはノ、男ト見テヤ、シリニックラン」

こ-める (動) 【籠】 籠む(下二段)ノ口語。

こ-めろ (名) 【小女郎】 こめらう(小女郎)ノ約。長町女腹切(元祿、近松作)中「ソモソモ、小女郎ノ時分カラ、手形ノ表、マル十年」

こも (名) 【菰蔣】 〔くみノ轉カ(拱くモ、くみぬくノ轉ナルベシ、黃泉、よもつ)組草ナド云フガ、成語ナルベク、葉ヲ組ミ作ル草ノ意、卽チ、薦トナル、菰ノ、籠ニ移レルガ如キカ(繭ヲ、こもくさトモ云フモ、組草、卽チ、薦草ナラム)まこもトモ云フヤウニナリシハ、海蓴ト別チテ、眞菰ト云フニカ、物類稱呼(安永)三「菰、海草ニ、こもト云フアリ、因リテ、まこもト云フ」〕 水草ノ名、專ラ、まこもト云フ、其條ヲ見ヨ。萬葉集、七 七十四「三島江ノ、玉江ノ薦ヲ、占メシヨリ、己ガトゾ思フ、未ダ刈ラネド」(菰ノ借字、寄レ草ノ戀ノ歌ナリ) 字鏡 五十四「蔣、己毛」 本草和名、上 四十六「菰根、一名、蔣、古毛乃禰」 倭名抄、廿 二十 草類「菰、古毛」

こも (名) 【薦】 〔菰席ノ下略(祝詞、のりと。辛夷、こぶし)菰ノ葉ニテ作レルガ、元ナリ、神事ニ用キル清薦、卽チ、菰席ナリ〕 (一)〔菰、又ハ、藁ニテ、粗ク編ミ作レル席。萬葉集、十三 十四 長歌「搔キ棄テム、破薦ヲ敷キテ」 倭名抄、十四 八 坐臥具「薦、席也、古毛」 安齋隨筆、前編、十二「薦、席、まこもト云フ草ヲ編ミテ、席ニシタル也、祭中神事ニ用レ之事アリ、云云、今、江戶ニテ、聖靈棚ニ薦ヲ敷クハ、遺風也」(蓆) (二)薦僧、又ハ、薦被ノ(二)ノ略、各條ヲ見ヨ。

こも (名) 【繭】 こもくさノ條ヲ見ヨ。

こも (名) 【海蓴】 〔小藻カ、籠藻カ〕 海藻ノ名、莖ノ長サ二、三寸、葉、細長シ、穗ヲナシ、小丸子、多ク着キテ、馬尾藻ノ如シ、涎滑ナリ、細ソク切リテ、羹トスベシ。石蓴。古事記、上 五十七「以ニ海蓴之柄ニ作ニ燧杵ニ」 大嘗祭式「紀伊國所レ獻、古毛六籠、云云、令ニ賣多醬 女十人、量レ程參備ニ」 本草和名、下 十四「石蓴、一名、海蓴、古毛」(倭名抄、同ジ)

コモ-ガイ (名) 【熊川】 〔朝鮮、慶尙道、熊川郡ヨリ製出シタル、ニ起レル名ナリ、倭訓栞、こもがい「朝鮮ノ熊川郡也、朝鮮語ニ、熊ヲくむト云ヒ、川ヲかいト云ヘリ、日本紀ニ、くまふれト訓ゼリ、ふれモ、川ノ韓語ナリ」繼體紀、廿三年四月「熊川」トアル、是レナリ、雄略紀、廿一年ニ「久麻那利」トアルハ、忠清道、公州ノ熊川ナレド、訓ハ、通ズ〕 高麗燒ノ、一種ノ茶碗ノ稱、茶家ニテ、珍重ス。端反形ノモノ多ク、土色、大抵ハ白クシテ、くゎんにゅうアリ、釉ハ、ねずみ、うすあさぎナドニテ、高臺ノ裏ニ、釉、染マズ。和漢三才圖會、三十一、庖廚具「茶盌、高麗窰爲ニ上品ニ云云、熊川、卽、朝鮮慶尙道地名、大抵、高臺裏不レ藥、云云所レ圖、昌反形也」(慶尙道ノ誤ナルベシ) 和漢茶誌、二、茶盞「熊川、高麗之産、其形無ニ苦窳ニ其色如ニ鷄卵殼ニ云云、有レ云ニ平熊川ニ其名以ニ形平ニ呼レ之、又有ニ鬼熊川ニ云云、以ニ其形剛堅而製粗ニ故也耶」

こも-かぶり (名) 【薦被】 (一)酒樽ノ、薦ニテ包メルモノ、多クハ、四斗樽ナルヲ云フ。(二)俗ニ、乞食ノ異名。婦女子ノ詞ニ、おこもト云フ。衣ナクテ、酒樽ノ薦ヲ被リ居ルヨリ云フ。駿臺雜話(享保)三、加賀ノ野田山ノ墓地、中元ニハ、家家ヨリ、墓ノ前ニ燈籠ヲ供フ、惡黨ドモ、燈燭ヲ盜ム「側ニ、乞食トオボシキ者、こもヲかぶりテ臥シ居タリケルガ、ソレヲ見テ、人ノ、祖考ノタメトテ、墓ニ勸メケル物ヲ、サヤウニ狼藉スルコト、アルベカラズ、ト制シケルニ、惡黨ドモ、諸共ニ罵リテ、こもヲかぶる身トシテ、イラヌ事ヲ云フ奴カナ、ト云ヒシニ、其乞食聞キテ、オノオノガ、今爲ルヤウナル事ヲセヌ故ニ、薦ヲかぶるト云ヒシトゾ」 物類稱呼(安永)一、人倫「乞人、モノモラヒ、江戶ニテ、乞食、菰かぶりト云フ」

ご-もく (名) 【五木】 槐、柳、桃、桑、楮、ノ稱。倭名抄、十二 十四 藥名類、湯藥「五木湯、煮ニ槐、柳、桃、桑、穀、五木ニ治ニ脚氣ニ」(說文「穀、楮也」) 珠囊隱訣「正月一日、取ニ五木ニ煎、湯以浴、令ニ人至レ老鬚

[illegible]（[illegible]）[illegible]十一月、五六、八[illegible]道」[illegible]、ごも、[illegible]ト云フハ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、十四、云云、[illegible]二八、[illegible]ト云ヘバ、外ノ[illegible]ノ如ク[illegible]スルニヤ[illegible]スルナリ）

〔おもくさ（名）［薦草］〔薦ニ組ミ作ル草ノ意、菰ノ語原ヲ見ヨ〕 蘭ノ一名。下略シテ、おも。天治字鏡、七[illegible]、[illegible]、[illegible]字鏡八、[illegible]、己も」

ごもくずし（名）［五目鮨］〔五目トハ、種種ノ物ノ意、數目ト云ハムガ如クナルベシ、五目飯ト云フモ、同ジ〕 飯鮨ノ一、生魚肉、味ヲツケテ煮タル蔬菜ナド、種種ノ物ヲ刻ミテ、マゼタルモノ。

ごもくならべ（名）［五目並］ イッツナラベ。碁盤ノ目ノ上ニ、碁石ヲ、縱ナリトモ、横ナリトモ、斜ナリトモ、五目、列ヲ成サシムルコト。互ニ打チ、互ニ防ギテ、早ク列ヲ成シタルヲ勝トス。聯珠 [illegible]

ごもくめし（名）［五目飯］〔前前條ノ語原ヲ見ヨ〕 味ツケテ煮タル、種種ノ蔬菜ヲマゼテ、炊ギタル飯。骨董飯 名物六帖（正徳）四、飲饌「骨董飯」秋苑日渉（寛政）八、[illegible]、云云、[illegible]云云、[illegible]」

〔おもおも（副）［交］〔此も此もノ義、コレモ、ソレモ、ノ意〕 互ニ、カハルガハル。[illegible]

おもを [illegible]〔[illegible]ト、文字トノ條ヲ見ヨ〕 [illegible]ノ、女房詞。[illegible]

[illegible]ヲ、ごもごも、[illegible]」

ごもじづけ（名）［五文字附］ まへくづけ（前句附）ノ條ヲ見ヨ。

おもじる（名）［菰汁］ 菰菜ヲ煮タル汁。俚言集覽「菰用集、菰汁、コモジル」

おもすだれ（名）［薦簾］ 薦ヲ、簾トシタルモノ。葦簾ナドニ對ス。夫木抄、三十、田家「田面ナル、[illegible]ノ、おもすだれ、コレヤおおたノ、[illegible]ナルラム」（[illegible]トハ、田舍地方ノコト）

おもソウ（名）［薦僧］〔野宿ノ時ナド、坐臥ノ具トスベク、腰ニ、薦ヲツケテ居ル故ノ名ナリ（後ニ、宿なしノ乞食ヲ、おもかぶりトモ、おもト云ヒシモ、同趣ナリ）後ニ、禪宗ノ普化宗ノ徒ノ稱トナリテモ、おもそうト呼ベリ、虛無僧ナド云フハ、薦ヲ嫌ヒテ、謂メカシテ云ヒシ遣語ナルベシ、閑田耕筆（寛政）二、薦僧「今ハ、云云、文字モ、虛無ト改メタルハ、此徒、普化禪師ヲ本所トナシ、禪宗ナレバ、後[illegible]テ[illegible]ナラムカシ」〕（一）乞食僧ノ[illegible]、有髮ニシテ、刀ヲ帶シ、常ニ、[illegible]ヲ携ヘテ、諸國ヲ廻リ、尺八ヲ吹キテ、米錢ヲ乞ヒアルキシ者ナリ、暮露ノ、變ジタルモノト云フ。略シテ、おもトノミモ云ヒキ。ぼろぼろの草子（明惠上人作ト傳フ）「[illegible]坊ト云フぼろ、云云、其後ニ、おもそうト云フ[illegible]トモ云エズ、俗トモ見エズ、[illegible]トモ見エズ、刀ヲサシ、尺八ヲ吹キ、背中ニ蓆ヲ負ヒ、道路ヲアリキ、人ノ門戸ニ立チテ、物ヲ乞ヒモラフ、是レ、ぼろぼろノ流ナリ、ト[illegible]ヘタリ」三十二番職人歌合（文安）六番、[illegible]「[illegible]、吹クトモ誰レカ、[illegible]フベキ、[illegible]ニハアラヌ、おもガ尺八」判詞「薦僧ノ、三昧紙衣、肩ニカケ、[illegible]ニツケ、[illegible]ノ門戸ニ[illegible]リテ、尺八吹ク外ニハ、別ノ業ナキモノニヤ」閑田耕筆（寛政）二「尺八ヲ吹テ、[illegible]ヲ乞フ、云云、[illegible]、上出ノ、三十二番職人歌合ノコト）ノ中ニハ、[illegible]ト[illegible]キテ、[illegible]ニモ、[illegible]ニテ、[illegible]ニツレテ、[illegible]吹ク[illegible]、云云、[illegible]ノタメノ[illegible]ニモヤアラム」[illegible]、不[illegible]、[illegible]、云云、中[illegible]也」（二）後ニ、普化宗ノ宗徒ヲ、おもそう、虛無僧、普化僧ナドト云ヒ、是レモ、尺八ヲ吹キツツ、人ノ門戸ニ立チテ、米錢ヲ乞ヘリ。江戸時代、元祿ノ頃マデ、其服裝ハ、白布ノ單ヲ上ニ着テ、[illegible]ヲ[illegible]ケ、散髮ニシテ、[illegible]ク[illegible]キタル編笠ヲカブリキ。後ニハ、衣服、伊達ニナリ、羞、又ハ、鼠色ノ[illegible]ヲ着テ、丸ぐけノ帶ヲ、前ニテ結ビ、帶ノ背ニ、尺八ノ空囊ヲ挾ミ垂レ、別ニ、袋入ノ尺八ヲ、刀ノ如ク腰ニサシ、黑漆ノ下駄ヲハキ、頭ニハ天蓋トテ、長ク深ク、面マデ被フ編笠ヲカブリ、人ノ取リテ、面ヲ合ハスルヲ禁ジタリ、明治ニ至リ、普化宗、廢セラレテ止メリ。普化宗ノ條ヲ參見セヨ。

おもソウがさ（名）［薦僧笠］ 編笠ノ一種、薦僧ノ、被ルモノ。薦僧ノ笠ハ、昔ハ、摺鉢ヲ伏セタル形シタリ、天蓋ヲ被ルハ、後ノコトナリ、前條ノ（二）ヲ見ヨ。昔昔物語「延寶ノ頃、熊谷笠、薦僧笠、ハヤル」賢女心化粧（延享）[illegible]、四「仮ニ、尺八ヲ稽古シテ、摺鉢ヲ見ルヤウナ、[illegible]ヲトトノヘ」

〔おもだたみ（枕）［薦疊］〔疊ハ、菰草ナドヲ、一重、三重ト、幾重モカサネテ、編ミ作ルモノナレバ、ソノ「ヘ」ノ音ヲ移シテ、用ヰルナリト云フ、天離る日ト云フヲ、あまさかる鄙ト用キルガ如シ〕 平群ト云フ語ノ枕詞。萬葉集、十六「[illegible]平群ノ阿曾」（氏ナリ） 同卷十三長歌「八重疊、平群ノ山ニ[illegible]ル[illegible]リ）

〔おもち（名）［子持］ 子ノ、アルコト。子ヲ生ミタルコト。有子 宇津保物語、[illegible]、上廿「おもちノ宮ノ、御ハラカラノ女宮一所、[illegible]」[illegible]「子もちノ君モ、月頃、物ヲノミ、思ヒシヅミテ」[illegible]石上ノ事）

ごもち（名）［御物］ 御物ノ條ヲ見ヨ。

おもちいし（名）［子持石］（一）はったいしニ同ジ。俚言集覽「おもちいし」伊勢ニテ、[illegible]ヲ云フ」（二）石ノ中ニ、小石ヲ抱ケルモノ。倭訓栞「おもちいし「石中ニ、小石ヲ懷抱スルヲ云ヘリ」

〔おもちがらす（名）［子持鴉］ 鴉ノ、子ヲ思ヒテ、夜中ニ鳴クヲ云フトゾ。六帖、六「夏ノ夜ノ、おもちがらすノ、性ゾカシ、夜深ク鳴キテ、君ヲ待リツル」[illegible]ノ、マダキニ鳴キテ、夫フヤリツル、ト[illegible]）北[illegible]富士谷御杖、子持烏「夜鳴ク鴉ノミナラズ、烏トテモ、夜ハ寢ブタカルベキヲ、鳴キテ飛ブハ、子ヲ思フ道ノ、ヤムゴトナキシレシ（六帖ノ歌ニツキテ云ヘルナリ）

おもちくぢら（名）［子持鯨］ 座頭鯨ノ條ヲ見ヨ。

おもちすぢ（名）［子持筋］〔新井君美ノ紳書ニ、古キ蒔繪師ノ談トテ、子持筋トハ、太キ筋二ツ引キテ、其間ニ、細ツキ一筋ヲ入ルルヲ云フ、父母ノ、子ヲ孕メルニ象ル、今世ニ云フハ、誤ナリ、トアリ〕 太キ線ニ、細ツキ線ヲ添ヘ、相並ベテ引ケル線。嫁入ノ衣服、器物ナドニ用キテ、祝フ。倭訓栞「おもちすぢ、嫁娶ノ衣服、器物ニ、小ノすぢ二ツヲ引キテ、[illegible]ノ事トス、コレヲ、子持[illegible]ト云フ」

おもちひじり（名）［子持聖］ 高僧ハ、行儀、正直ナレバ、子ヲ持ツマジキモノナルヲ、持ツハ、アルマジキワザナリ、故

ニ、世ニアルマジキ譬ヘニ云フ語。狹衣、二、下、四「モシ、唐國ノ中將ノヤウニ、子もちひぢりヤ、マウケントスラン」

ごもつ (名) 御物 〔物、吳音、もつ、もち(質、ぢち)〕 又、ごもち。皇室御所藏ノ物。御物。三代實錄、四十五、元慶八年二月廿三日、御卽位詔「天下給侍留、老人爾賜御物布」 著聞集、十六、興言利口「蒔繪師アリケリ、仰セラルベキ事アリテ、參殿セレト仰セラレタリケレバ、云云、御返事、只今、ごもちヲ蒔キカケテ候ヘバ、蒔キ果テ候テ、參リ候フベシ、ト書キタリ」

こもつち (名) 薦槌 〔薦編槌ノ中略ナルベシ〕 薦ヲ編ム絲ノ、端ニツクル錘。木製ニテ、形、分銅ノ如シ、二線ノ絲ノ端ニ、各、括リツケオク、先ヅ、横木ヲ架シ、菰ノ葉、又ハ、藁ヲ、横木ニ當テ、絲ノ錘ヲ、前、背ヘ、違ヘチガヘニ、モヂリツツ、横木ノ上ヲ、遣リ越シテ、編ミユクナリ。鷹狩ニ、鷹ガ、捕ルベキ鳥ヲ追ヒユクニ、峯ノ上ヲ、カナタコナタヘ、薦槌ヲ遣ル如ク飛ビ越ユルヲ、こもつち越ト云フ。後京極攝政、三百首、秋「スサマジキ、こもつちこえノ、峯ヨリゾ、鶴ノ野邊ニ、ワタル鷂」 萊景集(太田道灌)「武夫ノ、道ヤハカケム、鷂ノ、こもつちこえヲ、心ニモセバ」 俚言集覽、薦槌「薦ヲ編ム錘ナリ、俳諧ノ句ニ、高麗ヲ、薦槌こえノ、燕カナ」 淮南子、道應訓「秦皇帝、得二天下一恐レ不レ能レ守、發二邊戍一築二長城一脩二關梁一設二障塞一云云、然、劉氏奪レ之、若レ轉二閉錘一」注「閉錘、格也、上之錘所三以編二薄、帰ハ反二覆之一易」(格ハ、横木ナリト云フ)

こもつちこえ (名) 薦槌越 前條ヲ見ヨ。

こもづつみ (名) 薦包 薦ニテ包ミタルモノ。「綿、薦包、一荷」

ごもっとも (名) 御尤 〔もっともノ條ヲ見ヨ〕 人ノ言フコト、爲ルコトヲ、道理ナリト云フ敬語。「不審ト思ハルルハ、ごもっとものコトナガラ」「御無理御尤」

こもづの (名) 菰角 〔菰ノ、角グミタルモノ、葦角ト云フ語モアリ〕 秋、まこもノ根ノ上ニ生ズル、筍ノ如キモノ。一名、コモノコ。食フベシ。菰首 菰菜 熟スレバ、内ニ、灰ノ如キモノ、滿ツ、色、黑シ、まこもずみト云フ。古名、コモフツラ。コモフツロ。頭ノ禿ニ塗リ、又、油、蠟ヲ黑クスルニ、雜フ。茭鬱 本草和名、下、二十「菰首、出二七卷食經一、古毛都乃」(倭名抄、同ジ) 蜀本圖經「春亦生レ芽、甜美堪レ啖、卽、菰菜也」

こもどり (名) 小突 少シ、故ヘ返ルコト。狂言記、胸突「彼ノシテハ、こもどりシラレマスル程ニ、裏道ヘ、ハヅシマセウ」「米相場ガこもどりスル」

こもの (名) 小者 〔小舍人ノ遺名ナリ、第二語ノ小人ノ條ヲ見ヨ〕 (一)武家ノ下部ノ職名。中間、小者ト、連稱ス、雜役、驅使ニ從フ、室町幕府ノ頃ハ、素襖、脚半ナドニテ、將軍ノ供ヲシタリ。御成次第古實「御草履ヲ持チ、ス、御沓ヲモ差上ゲ申ス也」 宗吾大艸紙「御小者、股着、脚半ハ、十月五日、内野ノ御經ヘ御成ヨリ、三月三日マデ、被レ用候」 (二)後ニハ、下男、丁稚ナドノ稱。小厮 好色一代男(天和、西鶴)二、慶長元和ノ風俗「五服注ノ烟管、小者ニ、雛鏡、毛巾着、躁ビタル事ニゾアル」(從僕ニ持タセタルナリ、きせるづつノ條ヲ見ヨ)

こもの (名) 籠物 果物ヲ、籠ニ入レタルモノ。獻物ナドニスルモノナリ。源、一、桐壺「皇子、上達部、列ネテ、祿ドモ、品品ニ賜ハリタマフ、其日ノ御前ノ折櫃物、こ物、ナド、右大辨ナムウケタマハリテ、仕ウマツラセケル」河海抄「獻物也、云云、籠ヲ組ミテ、薄様ヲ敷キテ、五菓ヲ入レテ、木ノ枝、或ハ、松ニ付クル也、云云、五菓ハ、柑、橘、栗、柿、梨」 古事談、一、王道后宮、圓融院、子日御遊「侍臣等著レ座、執二籠物一」

こものこ (名) 菰子 〔竹の子、木の子、同趣〕 菰角ニ同ジ。菰ノ初生。食フベシ。菰菜 本草和名、下、五十「茭蒻、古毛乃古」(韻會「菰、乾レ之曰レ茭」) 廣雅「菰、正作レ苽」 說文「蔣、蒲子」 除日、根上初生」 著聞集、十八、飲食「左京大夫顯輔卿ノ許ニ、盃前アリケルニ、疊布ニ、こものこヲ、肴ニシタリケルヲ見テ、主人「たたみめニ、こく肴コソ、ナカリケレ」(敷くニ、如くヲカケタリ)前ニアリケル青侍ノ、附ケ侍ケル「こものこノミヤ、さしマサルラム」(疊ヲ刺すニカケタリ) 庭訓往來、十月「菰子、蘆物」(菰ノ借字)

こものなり (名) 小物成 武家時代、正シキ租稅ノ外ニ、更ニ、種種ノ名義ニテ課スル稅。雜稅 地方凡例錄、五「年貢ノ事ヲ、物成ト云フニ因リテ、小年貢ト云フ意ニテ、小物成ト云フ、田畑ヨリ納ムル年貢ハ、本途ト云ヒ、野錢、山錢、林永、漁獵役、池川海役、其外、品品之名目有レ之、古來ヨリ、郷帳ニ記シ、定納ニ成ル物ヲ、都ベテ、小物成ト云フ」

こもばり (名) 薦張 假小屋ナドニ、薦ヲ、壁トシテ張ルコト。

こもふつら (名) 茭鬱 〔茭ハ、菰ナリ〕 まこもずみノ古名。又、こもふつろ。本草和名、下、五十二「茭鬱、古毛布都良」 倭名抄、廿、草類「菰首、古毛布豆呂」 箋注「蘇頌說、菰首云、其臺有レ墨者、謂二之茭鬱一」(臺ハ、莖ニ同ジ)

こもふつろ (名) 茭鬱 前條ニ同ジ。

こもまくら (名) 薦枕 薦ヲ束ネテ、枕トスルモノ。旅寢ノ草枕ト、同意ナルベシ。後拾遺集、十九、雜、五「こもまくら、假リノ旅寢ニ、明カサバヤ、入江ノ蘆ノ、一夜バカリヲ」 宇佐託宣集、小山田社、養老四年、公家被レ祈二申當宮一之時、託宣「我、昔、此薦爲レ枕、發二百王守護之誓一云云」

こもまくら (枕) 薦枕 〔薦ヲ束ネテ枕ニ纏クヲ、高ニカケ、纏くニカク、こもづハ、枕ニ靜寢スル意〕 高、纏く、靜、ノ枕詞。武烈卽位前紀、長歌「舉摩矩羅、高橋過ギ」 常陸國風土記、多珂郡「薦枕、多珂之國」 神樂歌、小前張、薦枕「古毛萬久良、高瀬ノ淀ニヤ」 萬葉集、七、二十「薦枕、相卷きシ子モ、アラバコソ、夜ノ深クラクモ、我レ惜シミセメ」 出雲國風土記、出雲郡、漆沼郷「薦枕、志都沼値」(神名、靜寐靈ナリ)

こもん (名) 小紋 染模樣ノ名。古ヘ云ヘルハ、種種ノ紋樣ヲ、布帛ノ地一面ニ、細カク染メ出シタルモノナルベシ。後世ニ云フハ、布帛ノ地ノ種種ノ色ニ、星、或ハ、霰、其外ノ模樣ヲ、極メテ細密ニ、密着ニ、白ク染メ出スモノ、皆、型染ナリ。源、三十六、横笛五「白キ羅ニ、唐ノこもんノ紅梅ノ御衣」 榮花物語、十六、本雫「經函ハ、紫檀ヲモテ、色色ノ玉ヲ、蒔ノ紋ニ入レテ、黃金ノ筋ヲ置口ニセサセタマヘリ、唐ノ紺地ノ錦ノこもんナルヲ、折立ニセサセタマヘリ」 松下庇隨筆「鶴蔵小紋、九代目市村羽左衛門、初メ、鶴蔵ト呼ビシ頃、着タル、渦巻ノ模樣ナリ」 守貞漫稿、十九「小紋ハ、形染也、極細密ノモノニテ、三都トモニ、男子ハ、社祚、必ズ用レ之、夏ノ單羽織地、絽、絹、龍文、ノ類、用レ之」

こもん (名) 小門 大門ノ脇ニ添ヘテ設ケタル、小サキ門。平治物語、二、待賢門軍事「承明(門)、建禮(門)ノ脇ノ小門ヲモ、共ニ開キテ」(小御門ナリ)

こもん (名) 顧問 カヘリミ、トフコト。難義アル時、相談シカクルコト。唐書、段文昌傳「穆宗卽レ位、雖レ召入二思政殿一、字顧問至レ夕乃出」 宋史、文天祥傳「他日以二方外一備二顧問一可也」

ごもん (名) 御紋 (一)錦ノ御旗ニツクル、日月ノ御紋章。太平記、十四、節度使下向事「内裏ヨリ被レ下タル錦ノ御旗ヲ指上ゲタルニ、俄ニ、風烈シク吹テ、金銀ニテ打チツケタル月日ノ御紋、切レテ、地ニ落チタリケルコソ、不思議ナレ」「菊桐ノ御紋」 (二)紋所ノ敬稱。「葵ノ御紋」

こもんくゎん (名) 顧問官 天皇ノ顧問ニ備ヘ[illegible]

こもんじょ (名) 古文書 古キ文書、往代ノかきもの。近年、專ラ、古文書ヲ、根本史料トスルコト興リテ、其研究ヲ專門トスルヲ、古文書學ト云フ。俚言集覽[illegible]

こもんじょがく (名) 古文書學 前條ヲ見ヨ。

こもむしろ (名) 菰席 眞菰ノ葉ヲ編ミテ作レル席。神事ニ用ヰラレ、聖靈棚ニモ敷キ用ヰラル。薦ノ條ヲ併セ見ヨ。

ごもんぜき (名) 五門跡 (門跡、門徒、ノ條ヲ見ヨ) 門徒宗(眞宗)ノ本山、五箇寺ノ稱。又、五門徒。[illegible] 門跡「門跡ニ准ゼラレタル、眞宗ノ寺」(五箇寺、同上)

ごもんと (名) 五門徒 前條ヲ見ヨ。

ごもんどり (名) 五文取 (五文取の轉ト云フベキナリ、餅ヲ作リナスヲ、取ルト云フ(五合取、一升取ノ供餅)拳固ト云フハ、五指ニテ、五ノ數ヲ表スル語トナル) 一箇、錢、五文ニテ賣ルヤウニ作リナシタル餅ノ稱。又、拳固取。[illegible]「拳固取ヨリ、小サイ首、在地ヅクナラ、取テ往ケ」

こもら・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 隱 (隱る)ノ敬語、知る、しらす。作る、つくら

す」 隱ろヲ、丁寧ニ云フ語。[illegible]

こもり (名) 籠 佛堂ニ、籠リ居ルコト。參籠。敬語ニ、御こもりト云フ、籠堂ナリ。其條ヲ見ヨ。

こもり (名) 木守 (宮木守、山守、野守、同意) 宮木ナドヲ、守ル者。[illegible]「小舍人、木守、火番」

こもり (名) 子守 小兒ノ監護ヲスルコト。又、其者ナド。モリ。[illegible] 云フモノハ、子もりノ小女ラ、十五六ヨリ十七八歳マデ[illegible]

こもりうた (名) 子守歌 子守スル者ガ、小兒ヲ負ヒ、又ハ、抱キナガラ、歌フ歌。專ラ、小兒ヲシテ寢入ラシムル時ニ、節ヲ穩カニ、長ク引キ、眠氣ヲ催スヤウニ唱フ。[illegible] ハ「寐ンネンヨ、オコロリヨ、ねんねガおもりハ、ドコへ行タ、[illegible]」

こもりえ (名) 隱江 (一)風ノ隱リタル入江。萬葉集、三「[illegible]」(二)蘆ノ中ニ隱リ居ル入江。[illegible]

テ用ルベキ」(二)此語、次次條ノ枕詞ノ、隱國ト見違ヘラレテ、用ヰラル。[illegible] 集、五、秋、下、坂上郎女「こもり江ノ、初瀨ノ山ハ、色ヅキヌ、シグレノ雨ハ、降リニケラシモ」(萬葉集、一長歌「隱ロノ、泊瀨ノ山ハ」) [illegible] こもりタルヲ云フ、泊瀨ノ枕詞ニ詠メルハ、ロノ字ノ、江ノ字ニ似タレバ、[illegible]

こもりかみ (副) 隱 (かみハ、副詞ヲ形作ル接尾語、誇りかみ、速りかみ、同趣) 隱リタル狀ニテ。クマグマシク。コンモリト。「[illegible]」

こもりくの (枕) 隱國乃 (こもりくハ、隱國ノ下略(國栖、くず。陸、くが)國ハ、即チ、泊瀨國ナリ(第二語ノ國ノ(一)ノ條ヲ見ヨ)こもるハ、幽冥ニ隱ルル意、泊瀨ハ、埋葬ノ地ニテ、地名モ、果瀨(憂瀨ノ類)ノ轉ナリ(稜威言別、七)萬葉集、十六「事シアラバ、小泊瀨山ノ、石城(墓)ニモ、隱ラバ共ニ、莫思ヒソ吾ガセ(夫)」[illegible] 志多備之國(下部ハ、黃泉ナリ)」 大和國ノ地名、泊瀨ノ枕詞 (今、長谷ト云フ) [illegible]「隱國乃、長谷」[illegible]「隱國乃、泊瀨ノ山」 萬葉集、一「隱國乃、泊瀨ノ川」

こもりごえ (名) 籠聲 物ノ内ニ籠リテ發スルガ如キ聲。クグモリゴエ。ノドゴエ。[illegible] こもり聲ニゾ、鳴ハ鳴キケル」

こもりそう (名) 籠僧 人ノ死後、中陰ノ間、參籠シテ、讀經ナドスル僧。玉葉、文治四年二月廿八日「[illegible]」云云、[illegible] 太平記、三十九、[illegible]

[illegible] ニソ、[illegible]」

こもりだう (名) 籠堂 佛閣ノ傍ニアリテ、信者、行者ノ、參籠リテ、修行スルニ用ヰル建物。[illegible] 籠リテ、日日參籠スル者ヲ入ルル處ヲ云フ」

こもりづ (名) 隱水 (古事記傳ニ、許母理豆ハ、隱水ノ約ナリトアリ(海水、うなづ。埋水、うづ、渇)隱處ヲ、こもりづニ充テタルハ、誤ナリ、挑川、泉川、貧し、まづし)) 物ノ下ニ隱レテ、流ルル水。次次條ノ、隱沼ト、同意ナリ。古事記、下[illegible]「[illegible]下ヨ延ヘツツ、往クハ誰ガ夫」[illegible]「[illegible]」

こもりづま (名) 隱妻 隱リ居テ、逢ハレス女。萬葉集、十五「秋萩ノ、花野ノ薄(芒)、穗ニハ出デズ、吾ガ戀ヒワタル、隱妻ハモ」同、十一「[illegible]」[illegible]「[illegible] 隱妻カモ」(身モ消エ失セヌベク、戀ヒ思フ事モナリ)

こもりぬ (名) 隱沼 (沼ノ條ヲ見ヨ) 草ナド、生ヒ繁レル下ニ隱レテ、水ノ流ルル沼。萬葉集、[illegible]「[illegible] 隱沼ノ、行方ヲ知ラズ、舍人ハ惑フ」(主君タル、皇子ノ[illegible])同、十一「[illegible]」清輔集「こもりぬニ、沈ム河蝦ハ、山吹ノ、[illegible]」

こもる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 籠 (籠む)ノ自動(埋むる、うづもる)」(一)隱

ル。シヌプ。シノブ。蟄ム。隱 神代紀、上廿「入ㇾ于天石窟ニ閉ㇾ磐戸ニ而幽居焉」古今集、一、春、上「春日野ハ、今日ハ莫燒キソ、若草ノ、妻モこもれり、我レモこもれり」字類抄「蟄コモル、虫蟄ㇾ冬不ㇾ出也」 (二)物ノ内ニ、フクマレテアリ。源、三十四、下、若菜、下卄「ウハベハ、人ニナビキ、オイラカニ見エナガラ、打解ケヌ氣色、下ニこもりテ」「烟、家ノ内ニこもる」 (三)家ニ在リテ、出デズ。籠居ス。源、五、若紫八廿「内(禁内)ヘモ參ラデ、二三日こもりオハスレバ、マタ、イカナルニカト、御心(帝ノ)動カセタマフベカメルヲ」(四)佛閣ニ止宿シテ、祈念ス。參籠ス。枕草子、二、十五段、たゆまるるもの、寺ニ、久シクこもりタル」 (五)内ニ入リテ、守ル。籠城ス。衛城「城ニこもる」

こ-や (名) 小屋 (一)小サキ家。小サク、粗ナル家。陋屋 拾遺集、四、冬「蘆ノ葉ニ、隠レテ住ミシ、津ノ國ノ、こやモアラハニ、冬ハ來ニケリ」(地名ノ昆陽ニカケタリ) (二)住宅ノ傍ニ設ケテ、雜物ヲ納レ置ク、小サキ建物。モノオキ。(三)假初ニ、相撲、芝居、見世物、ナド興行スルニ、設ケタル建物。今ハ、立派ナル建物トナレリ。(四)小屋組ノ條ヲ見ヨ。

こ-や (名) 助舖 [小屋ノ義ナラム] 古ヘ、京都ノ街上ノ警衛所。火炬屋ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

こ-や (名) 木屋 造營ノ工事ノタメニ、假リニ設クル建物。廠 吾妻鏡、四、元暦二年三月十八日「於ニ南御堂ニ番匠一人、字號ニ船者ニ、課而曰ニ木屋上ニ落ㇾ地」合類節用集(元祿)一、乾坤門「木屋、木胡俗、俗ニ家屋營造ニ設ニ別屋ニ充ニ其用途ニ謂ニ之木屋ニ」

こ-や (名) 蠶屋 [こ(蠶)ノ條ヲ見ヨ] 養蠶スルニ設ケタル家。散木集、二、夏「山里ハ、こやノ飼蠶ニ、漏ル月ノ、影ニモ繭ノ、スヂハ見エツツ」詞花集、二、夏「吾妹子ガ、こやノ篠屋ノ、五月雨ニ、イカデ乾スラム、夏引ノ絲」

ご-や (名) 後夜 (一)夜半ヨリ、朝マデノ間。(初夜ノ條ヲ見ヨ) 朱熹詩「後夜子規號」大鏡、中、兼通「後夜ニ食ス、卯酒ノ御肴ニハ、云云」(コレハ、卯時(午前六時)ノ朝酒ナリ) (二)〔後夜のおこなひト云フハ、佛教ニテスル勤行ノ一、即チ、後夜ニスルモノ。サレド、多クハ、夜ノ明方ノ晨朝ノ勤行ニ云フ。略シテ、ごやトノミモ云フ。玉葉集、十八、雜、五「後夜のおこなひシ侍ラムトテ、手洗ヒニマカリタルニ」 枕草子、六、五十八段「夜一夜、イミジウノノシリ、オコナヒアカス、云云、ごやナド果テテ、少シ打チヤスミ殿ヌルガ耳ニ、其寺ノ佛經ヲ、イトアラアラシウ、高ク打出デテ誦ミタルニ」源、十八、松風七「入道、例ノごやヨリ、深ウ起キテ、鼻洟啜リ打チシテ、おこなひキマシタリ」 蜻蛉日記、中、中五「申ノ終リバカリニ、寺ノ中ニ着キヌ、云云、サテ、後夜行ひツレバ、下リヌ」狹衣、三、中廿「嵯峨ニハ、イト疾ク參リタレド、後夜起ノ御おこなひノママニ、御堂ニオハシマセバ」 濱松中納言物語、二「後夜おきシテ、行ヒ給フ折リハ」

ご-や (名) 五夜 午夜 〔五夜ハ、五更、戊夜ニ同ジ、かう(更)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ、午夜ハ、五夜ト同ジ、午ハ、五ト通ズ、周禮、壺涿氏、注「故書、午爲ㇾ五」〕 午前四時、五時ノ頃。アカツキ。ヨアケ。杜甫詩「五夜漏聲催ニ曉箭ニ」(漏刻ノ箭ナリ) 范成大詩、聞ㇾ鷄午夜猶能舞」 樊鑄、明光殿粉壁賦「月桂低ㇾ梢、失ニ蟾暉於ニ午夜ニ」(蟾暉ハ月光) 朗詠集、上「二星適逢未ㇾ敍ニ別緒依依之恨ニ五夜將ㇾ明頻驚ニ涼風颯颯之聲ニ」(牽牛星、織女星)

ご-や (名) 五夜 小兒、誕生シタル、五日目ノ祝ニ云フ語。七夜ノ條ヲ見ヨ。

こ-やうじ (名) 小楊枝 小サキヤウジ。又、ツマヤウジ。齒牙ノ間ヲホジルニ用キル、くろもじノ村ニテ作ル、形、太キ針ノ如シ。牙杖 小楊枝で重箱の隅をほじくるト云フハ、苛察ナルヲ云フ。

〔ご-や-おき (名) 後夜起 後夜ノ條ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。

こ-やがけ (名) 小屋掛 假リニ、小屋ヲ作リカクルコト。水野勝成記「岡田長門、尾州根本城主、云云、橋ノ下ニ、少シこやがけ仕リ候」

こ-やかず (名) 小矢數 矢數ノ條ヲ見ヨ。

こ-やかまし-い (形) 小喧 〔こハ、接頭語、こにくらしい、こはづかしい、ノ類〕 やかましト云フニ同ジ。嫗山姥(正德、近松作)二「エエ小喧しい、男ノ仕事ガ、モドカシサウダ」「こやかましい事ベカリ言フ」姑ガ、こやかましい」

こ-やく (名) 子役 芝居ニテ、少年役者ノ、子供ノ役ニ扮裝ツモノ。

こ-やく (名) 古役 古參ノ役人。先役。(新役ニ對ス)

ご-やく (名) 誤譯 アヤマレル翻譯。マチガヘタル翻譯。

こ-やぐみ (名) 小屋組 〔小屋、或ハ、木屋ナルカ〕 工匠ノ屋根組ニ云フ語。天井ト、屋根裏トノ間ノ、木材ノ組合ハセ。略シテ、小屋。

こ-やこや (副) 喧喧 混雜シテ、ヤカマシキ音ニ云フ語。ガヤガヤ。

こや-さん (名) 姑射山 はこやのやまノ條ヲ見ヨ。

こ-やし (名) 肥 地味ヲ肥ヤスモノ。糞、尿、干鰯、腐草、等ノ物ヲ用キル。こえ。肥料。

こ-やす (名) 子安 (一)子ヲ、安ラカニ産ムコト。安產。易產 「子安ノ守」子安ノ曼陀羅」 (二)幼兒ノ、安泰、息災ヲ護ルコト。「子安ノ觀音」子安ノ地藏」

〔こや・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 臥 〔臥る、ノ敬語(着る、けす。見る、みす。知る、しろす)〕 臥すヲ、敬ヒ、又ハ、丁寧ニ云フ古語。横ニナリタマフ。古事記、上八「伊邪那美命、病臥在」推古紀、廿一年十二月、長歌「シナテル、片岡山ニ、飯ニ饑テ、許夜勢ルソノ、旅人アハレ」 萬葉集、九、三十五長歌「奥津城(墓)ニ、妹ガ臥勢流」同、五、五長歌「心ユモ、思ハヌ間ニ、打靡キ、許夜斯ヌレ(ベ)、言ハムスベ、爲ムスベ知ラニ」(妻ノ死ヲ傷メル詠、打靡きハ、臥シタル狀)

こや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 凍 凍ルヤウニス。凍ラシム。(こよすヲ併セ見ヨ)

こや・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 肥 〔肥ゆノ他動(零ゆ、あやす。凍ゆ、こおやす)〕 (一)肥ユルヤウニス。太ラシム。岩淵夜話、別集、二、本多作左衛門重次「或ル時、旅宿ヨリ、女房ノ方ヘ、文ヲ差越ストテ「一筆申ス、火ノ用心、おせん痩サスナ、馬こやせ、カシク」ト書キタルト也」(おせんトハ、重次ガ男、仙千代成重ノ事ナリ) (二)地ニ肥ヲ下シテ、肥エシム。「田畠ヲこやす」 (三)養フ。樂シマシム。裕福ナラシム。太平記、三、主上御ニ沒落笠置ニ事「目ヲ悦バシメ、耳ヲこやす」「利ヲ貪ミテ、私腹ヲこやす」

〔こやす-がひ (名) 子安貝 〔婦人、所持スレバ、安產ノ效アリトス〕 にしきがひノ異名。契沖ノ河社ニ、竹取物語ニ、つばくらめノ持タルこやすがひトアルハ、燕ノ卵ノコトナリ、ト云ヘリ。

〔こやす-ぐさ (名) 鳶尾草 鳶尾草ノ古名。其葉ノ形、鳶ノ尾ニ似ル故ニ名トス。本草和名、上四十「鳶尾、古也須久佐」(倭名抄、同ジ)

こやす-のき (名) 子安木 樹ノ名。倭訓

榮、後編、こやす「子安の木ハ、筑前、宇彌ノ宮ニアリ、神功皇后ノ御産ノ時ニ、取リスガラセ玉フ木ナルニ、其木ハ、槐ナリ、[illegible]ノ槐樹ヲ手ニ把テ、産シ易シ、ト云ヘル本文ハ、子母祕錄ニ見エタリト云ヘリ、一種、花モ、葉モ、こさノ木ニ似タルヲモ稱セリ、保古昧拾ノ寄俗枝、一名、平常樹也、ト云ヘリ、[illegible]、花[illegible]、必平[illegible]ト見エタリ」筑前國、糟屋郡、宇美村ニ、宇美八幡宮アリ、神功皇后、御産ノ地ナレバ、宇美ト謂フト云フコト、古事記ニアリ、皇后、うみノ宮ノ槐ニ取リスガリテ、[illegible]ト云フコト、[illegible]ニ見ユ。

こやすのくゎんおん（コヤス・ノ・カンノン）(名) 子安觀音 幼兒ノ安全ヲ護ルト云フ觀世音菩薩。

こやすのぢざう（コヤス・ノ・ジソウ）(名) 子安地藏 姙兒ノ出生ヲ護ルト云フ地藏菩薩。

こやすのマンダラ (名) 子安曼陀羅 子ヲ、安ラカニ産マシムルト云フ曼陀羅。

こやすのまもり (名) 子安守 子ヲ、安ラカニ産マシムルト云フ守札。

こやすみ (名) 小休 少シ、休ムコト。暫時、休息スルコト。小憩

こやた (名) 古堂 〔後撰集、小屋堂ノ義ナルベシ、簡、[illegible]〕古堂ノ異稱。後撰集、[illegible]、こやたニ、[illegible]古キ堂ヲ、こやたト云ヘリ、[illegible]、片山陰ノ、こやたニハ、夜バカリゾ、火ハトモシケル」詞花抄、上「荒レタル古キ堂ヲ、こやた卜云フナリ」

こやつ (代) 此奴 〔こやつ（此奴）ノ語原ヲ見ヨ、くやつハ、音轉ナリ（黃金、くがね）〕人ヲ卑メテ呼ブ語。又、ハ、やつ。彼ニ、さいつ。古事記、上「[illegible]」[illegible]アメレ」同、三「年頃、イミジキ恥ヲノミ見セツルハ、くやつノスルナリケリ」狂言記、瓜盜人「案山子ガ、[illegible]こいつユニ、思ヒモヨラズ、[illegible]イタ」

こやで (名) 小枝 〔小枝ノ轉ト云フ、枝ハ、[illegible]ナリ、木花開耶姬ノ開耶モ、開咲ノ約轉ナリト云フ（このはなノ條ヲ見ヨ）又、橘守部ノ俗語考ニハ、東國ノ田舍ニテ、寄生、即チ、宿木ヲ、ごやてト云フ（土佐ニテハ、くつてト云フ）故ニ、夜提ヲ訛リテ傳ヘタルニハアラジカ、ト云ヘリ、參考ニ記ス〕小枝ノ東語。萬葉集、十四 廿四「[illegible]コソ待タメ、向ツ岡ノ、椎ノ故夜提ノ（如ク）、會ハ[illegible]」（小枝ハ、繁ク茂交ハセベ云フ、ト云フ）同、或本歌曰「オソハヤモ、君ヲシ待タム、向岡ノ、椎ノ小枝ノ、時ハ過グトモ」

こやど (名) 小宿 (一)カリソメナル宿。(二)江戸時代、男女、密會ヲナス宿。淨瑠璃、[illegible]、享保、近松作、四「ゲニ[illegible]、中戸、小宿デ、チヲキリチロット、[illegible]ヲ切ラルル」

ごやのおこなひ（ゴヤ・ノ・オコナイ）(名) 後夜勤行 後夜ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

こやま (名) 小山 チヒサキ山。岡。邱 枕草子、四、四十四段「[illegible]のあはれ知らせがほなるもの「[illegible]小山ウツクシウ作リテ、白キ紙ニ、歌イミジウ書キテ、マキラセント」

こやみ (名) 小止 雨雪ナドノ、暫時、降リ止ムコト。ヲヤミ。小歇 「雨ノこやみニ出向ク」雪、こやみナク降リ頻ル」

こやもの (名) 小屋者 非人、乞食ノ類ノ稱。

こやり (名) 小槍 手槍ニ同ジ。狂言記、[illegible]「[illegible]小槍ヲ[illegible]」

こやり (名) 凪 次條ヲ見ヨ。

こや・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 臥 〔次條ノ語原ヲ見ヨ〕臥ス、ノ古言。古事記、下「[illegible]、長谷ノ山ノ、[illegible]許夜流許夜流モ、梓弓、立テリ立テリモ」古事記傳「伏すヲ、許夜流ト云フハ、古言ナリ」云云、古今集ナル歌、よこほりふせる、佐夜ノ中山ト云フヲ、奥儀抄ニ、よこほりくやる、トアルホモアル由、見エタリ、久夜流、許夜流、同ジ」

こ・ゆ・ユル・ユレ・イ・イ・イヨ (自動、上二) 臥 〔老い、老ゆ。悔い、悔ゆ、ト同ジ活用ナリ、此語、活用ハ違ヘド、崩ゆ（下二段）ニ通ズト云フ（蹴ゆ、蹴ゆ）崩エ横ハル意ナリ、一轉シテ、こやるトモ、くやるトモナル（映ゆ、榮る）同義ニシテ、自動ナリ、崩ゆモ、くやすトナル、他動ナレド、同ジ趣キナリ（臥ゆモ、こやすトモナレド、是レハ、敬語ナリ）〕(一)臥すノ古言。臥シ横タハル。横ニナル。萬葉集、五 廿七長歌「[illegible]道ノ隈廻ニ、[illegible]打チ許伊布志テ、思ヒツツ、嘆キ臥セラク、云云」（行路ニテ病メルナリ）同、十二 三十「思フニシ、餘リニシカバ、門ニ出デテ、吾ガ反側ヲ、人見ケムカモ」同、十七 長歌「打チ靡キ、床ニ許伊布之、痛キクシ、日ニ異ニ増ル、云云」（打靡きハ、臥シタル狀ナリ、臥病ノ謂ナリ）(二)臥シマロブ、臥シコロガルヲ、こいまろぶト云フ。展轉反側 古事記、上 三十「蒲黃ヲ敷キ散ラシテ、其上ニ輾轉（コイマロビ）[illegible]」[illegible]萬葉集、[illegible]長歌「[illegible]」後訓栞、こいまろび「今云フ、こけまろぶ也」[illegible]古訓、コユ）註「臥不安席之意」（是レハ、思ヒ悶エテ、ねがへりスルナリ）

こ・ゆ・ユル・ユレ・イ・イ・イヨ (自動、上二) 凍 〔前條ノ活用ト、同趣ナリ、此語、活用ハ違ヘド、凝る（四段）ト通ズルナルベシ、寒サニ凝結スルナリ、名詞形ニ、こいト云ヒ、凍い凍ゆ、ト重リツツマレバ、こおゆトナル、各條ヲ見ヨ〕凍ゆノ古言。仁德紀、七年四月「古聖王者、一人飢寒、顧之責身」[illegible]倭名抄、十八「[illegible]」[illegible]名義抄「凍、コイタリ」字鏡抄「[illegible]、コイタリ」

こ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 越 踰 (一)物ノ上ヲ、過ギ行ク。雄略紀、四年十月「山古曳テ、海渡ルトモ」萬葉集、廿 五十「堀江故要、遠キ里マデ、送リケル、君ガ心ハ、忘ラユマジモ」字鏡 八「踰、越、古由」(二)經。過グ。經過 後撰集、十四 戀、六「[illegible]」(三)勝ル。マサル。ヌキンヅ。超越 後撰集、十一 戀、三「君ヲ思フ、心ハ人ニ、こゆるぎノ」「智略、人ニ超ゆ」(四)到キテ、過グ。超過 「水ノ深サ、膝ヲ超ゆ」「入費、千圓ヲ超ゆ」

こ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 肥 〔倭訓栞、こゆ「肥ヲ讀ムモ、常ニ越エタル意也」〕(一)身ノ肉、多クナル。太ル。字鏡 三「肥、古由」靈異記、下、第十六縁「有二太肤一（快）[illegible]」(二)地ニ、善ク、草木ヲ成長セシムル效アリ。肥腴 安閑紀、元年七月「[illegible]」

こゆ (他) 蹴 蹴ゆ、蹴る、ニ同ジ、各條ヲ見ヨ。字鏡 十九「蹋、万利古由」名義抄「蹴、コユ、クユ」

こゆき (名) 粉雪 粉ノヤウニテ、降ル雪。徒然草、百八十一段「降レ降レ、こ雪、丹波ノこ雪ト云フコト、米搗キ篩ヒタルニ似タレバ、粉雪ト云フ」

こゆひ（コ・ユイ）(名) 小結 髻ヲ、侍烏帽子ニ結ヒツクル、二筋ノ組絲ノ名。髻ニ結ヒテ、まねきヨリ外ニ出シ、頂後ニテ結ブ。少年ノ人ナルハ、其端ヲ、長ク出ス、長小結ト云フ。古今著聞集、三、[illegible]「こゆひ

えぼうしハ、云云、侍えぼうしニ限リテ、おゆひシタルナリ」元服法式「元服ノ時、始メテ被ル烏帽子ヲ、云云、長小結ノ烏帽子トモ云フ也、云云、其故ハ、大人ノ烏帽子ニモ、細キ小結ハアル故也」 當時裝束抄、下「長小結トハ、烏帽子ノ中ホドヨリ、元結ヲ引出シ、後ニテ結ヒ、餘リテ、長ク殘シタルナリ、此元結ヲ、白、紫、赤、ノ三色ニテ卷ク」 淳若、烏帽子折「御烏帽子タマハレ、小結ヲ結ウテ參ラセムト、はしげたヤウニ、醬居ニサット結ヒアゲ、云云」

おゆび (名) ［小指］ (一)古言、コオヨビ。手足ノ、最モ小サキ指。季指 太平記、廿六、藺相如事「藺相如將軍ノ小指ニダニモ及バジ、ト笑ヒ嘲キケル」 (二)俗ニ、家ノ妻ヲ云フ隱語。(亭主ヲ、おやゆびト云フ ニ對ス) 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「アノ人ハ、チャラッポコ者ダカラ、御新造サンニ、キット賣リツケルノサ、オメヘン所ノ小指モ、張手者ダノ」

おゆみ (名) ［小弓］ 〔雀小弓ト云フアリ、併セ見ヨ〕 遊戲ノ具。小サキ弓ニテ、楊弓ノ類、賭弓トシタリ。坐シテ、左膝ヲ立テテ、左ノ肘ヲ持シ、右手ヲ、右ノ頰ノ下、口脇ニ當テテ、引クナリ。(小弓肝要抄) 西宮記、正月、下、殿上賭弓、延喜二年「射場有小弓、左大臣取弓參入、侍臣射」 同、正月、下、延和二年七月九日「致平親王供小弓負態云云、獻物立小庭結緣」 紀略、後篇、二、承平六年三月十三日「於飛香舍有小弓結番事」 百錬抄、五、長治二年二月十三日「仙洞有小弓會」 源、三十四、上、若菜、上「彌生バカリノ空、ウララカナル日、云云、イト寂シキヲ、例ノおゆみ、射サセテ見ルベカリケリ」 今鏡、中、第五、濱千鳥「おゆみノ御遊ビニ、殿上人、方別チテ、賭物ナド出サレ侍リケルニ、云云」

おゆるぎ (名) ［小餘綾］ およろぎ(小餘綾)ノ條ヲ見ヨ。

おゆゑのやみ (名) ［子故闇］ 吾ガ子ヲ思フ、心ノ闇。 後撰集、十五、雜、一「人ノ親ノ、心ハ闇ニ、アラネドモ、子ヲ思フ道ニ、迷ヒヌルカナ」 小町踊(寛文)夏、若竹「盗人モ、竹ノ子ゆゑの、闇路カナ」 曾我會稽山(享保、近松作)三「見ゆゑの闇ノ病ニハ、唐、高麗ノ名醫ヲ寄セ、萬卷ノ醫書ヲサガシテモ、」 伽羅先代萩(天明、近松貫四)「子故の闇ゾ、ヤルセナキ」

およ (動) ［來］ 〔おい、おうハ、音轉ナリ〕 來ノ命令形。コ。來レ。コイ。コウ。「疾クおよ」明日おい」

およ (副) ［從此間］ 〔よハ、よりノ古言〕 此處ヨリ。 萬葉集、八$_{四}$「獨リ居テ、物思フ夜ニ、ホトトギス、從此間啼キワタル、心シアルラシ」 同、十八$_{十}$「ホトトギス、許欲啼キワタレ、燈火ヲ、月夜ニナゾヘ、其影モ見ム」

およう (名) ［小用］ 些細ナル用事。「小用ヲ足ス」

およう (名) ［小用］ 〔小用ノ湯桶讀、大用ニ對ス〕 ユバリ。小便。

こよう (名) ［雇傭］ ヤトフコト。ヤトヒ。

ごよう (名) ［御用］ 〔ごえう(御要)ノ條ヲ併セ見ヨ〕 (一)もちゐノ敬語。天子ノ、用ヰタマフコト。 元史、鐵哥傳、内府食用圜米、鐵哥奏曰「計其糠米一石、僅得圜米四斗、請、自今非御用、止給常米、帝善之」 太平記、二、阿新殿事「君ノ御用ニモ立チ、父ノ素志ヲモ達シタラムコソ、忠臣、孝子ノ儀ニテモアランズレ」「御用邸」 (二)公用、公務、ノ敬語。「御用始」御用掛」御用船」御用部屋」御用取次」御用金」 江戸時代、捕吏ノ、罪人ヲ召捕ル時、呼ビカクル聲ニ、御用だ、神妙にしろ、ナド云ヒシハ、官府ノ命令ノ意ナリ。 (三)常人ノ入用ノ敬語。 長州往來(延平、出雲守藤原明衡)下、宋「兼日約諾之數箇ノ其色黑、云云、若有御用、可輕御賢、云云、主計頭殿」 (四)酒屋ノ御用、ナド云フハ、御用聞ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ごよう (名) ［誤用］ 誤リテ、用キルコト。用法ヲ誤ルコト。「文字ノ誤用」

ごよう-がかり (名) ［御用掛］ 官府ヨリ命ゼラレテ、公務ヲ扱フモノ。「宮内省御用掛」

ごよう-きき (名) ［御用聞］ (一)商人ナドノ、官府ノ命令ヲ承ハリテ、公用ヲ辨ズル者。御用達。今云フ、御用商人ナリ。 (二)商人ガ、顧客ノ需要ヲ、敬語ニ、御用ト云フ、其家家ニ就キテ、需要ヲ聞キマハルコト。 七十一番職人盡歌合(文安)四十一番、牙儈ノ詞「御用ヤサフラフ」 酒商ノ丁稚ナドノ、御用アリヤ、ト聞キマハルヲ、下略シテ、酒屋ノ御用ト云フ、明樽ヲ集ムルニ就キテハ、樽拾ト云フ。 寛政ノ川柳「十五夜ノ、花立御用、取リニ來ル」(酒德利ニ芒ヲサシテ、月ニ供ヘタルヲ云フ)

ごよう-きん (名) ［御用金］ 〔御用ハ、公用ノ義、其條ノ(二)ヲ見ヨ〕 德川時代、政府ニ、非常ノ事件起リテ、國用ノ足ラザル時、江戸、大阪、等ノ豪商ニ課シテ、金錢ヲ上納セシメタルコト。寶曆ノ頃ヨリ以後、時時アリテ、其都度、數十百兩ニ到レリ、一定ノ時期ト、金利トヲ附シテ、返戻セシアリ、然ラザルモアリキ。

ごよう-しやうにん (名) ［御用商人］ 官府ノ買上品ナドヲ承ハル商人。御用達。

ごよう-しゆつやく (名) ［御用出役］ 德川幕府ニテ、本職アル役人ノ、臨時ニ、出デテ、他ノ役ニ就クモノ。小性番、書院番ヨリ出デテ、進物番ノ職ヲ執ルガ如キ、是レナリ。

ごよう-せん (名) ［御用船］ 私人ノ所有船ヲ、政府ガ徵發シテ、使用スルモノ。陸海軍ノ軍事、其外、種種ノ用途ニ供セラル。「御用船ニテ、陸兵ヲ運送ス」

ごよう-たし (名) ［御用達］ 〔たしハ、足すノ意〕 江戸時代、武家ニ出入シテ、買上品、拂下品ノ事、又ハ、金錢ノ調達ナド、承ハリタル商人。

ごよう-ぢやうちん (名) ［御用提燈］ 官府ノ紋章、徵號ヲ記シタル提燈。吏人ノ夜行ニ携フ。

およう-づつ (名) ［小用筒］ 小便ヲ受クル器。德川將軍、東帶參內ノ時ナド、用キキ、銅製ノ筒ナリ。 明良帯錄、公人朝夕人「君邊ニ侍シテ、御裝束ノ節、御着ノ節ニ、御筒ヲ持ツ也、俗竹ト云フ、云云、俗ニ、裝束筒ト云フ」 落田問答(源名貞雄、大田覃)公人朝夕人「此役向ハ、御上洛ノ節ナド、云云、御束帶ニテ、御小用難被遊、其小用筒ヲ持ツ役目ナリ」

ごよう-てい (名) ［御用邸］ 皇室ノ御別邸ノ稱。御避暑、御避寒、行幸、行啓、ノ時ノ御駐輦、御宿泊 等ニ用キタマフ。

ごよう-とりつぎ (名) ［御用取次］ 德川幕府ニテ、御側衆ノ內ニテ、特ニ命ゼラレテ、將軍ト、老中、其他、トノ間ノ用務ヲ通ジ、取扱フ職。 明良帯錄、御側「御用取次ハ、御側衆ノ中、三人、御用懸リト稱シテ、泊番ナシニ、毎日登城シ、云云、御前、并ニ、御用部屋トノ中間ニアリテ、諸事ヲ取扱フ故、俗ニ、御用御取次トモ申ス也」 明良帯錄、御側「御用御取次、君邊第一ノ重任ナリ、御政事向、御老中、諸大名、諸旗本、諸役人、人材ノ善惡ヲ辨ヘ知リテ、御尋アレバ、申上グル也、云云、骨折場也」 有德院殿御實紀、一、享保元年五月十六日「御側御用取次ノ職事ヲ…右兵衛、加納角兵衛久通、シテ、中次ノ事ヲツカサドラシメラル、今、御用取次ノ濫觴ナリ」

ごようにん (名) ［御用人］ ようにん(用

人」ノ條ヲ見ヨ。吾妻鏡、三十四、仁治二年九月七日「女子頻誕、中ニ子男ハ付ニ蔬菜ニ充給之、今又爲ニ御用人分ハ勿論」

ごようはじめ（名）〔御用始〕（一）新ニ官局ヲ開キ、始メテ公務ヲ執ルコト。（二）毎年一月ノ政始。マツリゴトハジメ。

ごようべや（名）〔御用部屋〕江戸城、殿中ノ、執政者ノ詰所ノ稱、即チ、内閣ナリ。老中ハ、上ノ部屋ニ詰メ、若年寄ハ、下ノ部屋ニ詰メタリ。

ごようめし（名）御用召　官府ヨリ發スル、出頭セヨトノ命令。多クハ、就職、敍位ナドニ云フ。

ごよく（名）〔五欲〕佛敎ニ、人ニ慾ズル、色、聲、香、味、觸、ノ稱、凡夫ノ欲情トシテ、斷チ難キモノトス。（大智度論、哀愛生、雷峰、試以仙、胡求之不已」竹取物語、六、山里にての事 五欲ノ樂ハ春ノ花、秋ノ月ハ限リノ宿リナリ」

こよしもの（名）〔凍凝〕〔こよしハ、次條ノ語ノ名詞形、次條ヲ見ヨ〕魚鳥ノ肉ナドヲ煮テ、凍ヤシタルモノ。煮凝。倭名抄、十六、飲食部「凍、古高之毛乃、師説、二云、名義抄、凍、コヨシモノ、ニコヨス」

こよ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔凍凝〕〔凍ゆノ他動ノ、おやすノ轉（おおゆ、おおやす。映ゆ、榮やす）又、おやす。煮テ、凍ヤス。煮凍ラス。（前條ノ併セ見ヨ）倭名抄、十六、飲食部「凍、新撰字鏡、十五「凍、ニコヤス、ニコラカス」

こよ・な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔拔群〕〔よハ、從ノ古言、是より無しノ意〕（一）是ヨリ無シ。格別ナリ。別段ナリ。獨特ナリ。源、十二、須磨「こよなうコソ、衰ヘニケレ」中務集「こよなくモ、今日ハ涼シキ、花ユエ、仰グ誰サヘ、二ナリツツ」枕草子、二、廿段「此頃ナル、云云、こよなきナゴリノ御朝顔カナ」同、九、百十三段「女ハ、鏡、硯コソ、心ノ程見ユルナメレ、おきぐちノはさめニ、霞集ナド、打チステタル状、こよなしカシ」徒然草、十三段「獨、燈火ノ下ニ、書ヲヒロゲテ、見ヌ世ノ人ヲ友トスルコソ、こよなうナグサムワザナレ」八雲御抄、四、世俗言「こよなく、源氏ニハ、多ク、事外也」雅言栞（陳守部）こよなし「物ト物トヲ比ベ見テ、おれよりよきはなし、ト取出デテ云フ語ナガラ、物ト物ト引比ベテ、かれよりは、これまされり、トヤウニ使ヘリ」（二）比ベテ、殊ノ外ニ、違ヘリ。カケ隔タレリ。懸隔　宇津保物語、藏開、中「二十年ハ我レニ、こよなく年長ニテゾオハセシ」同、下「十上限リナク、メデタク見エシ君タチ、此今見ユルニ合ハスレバ、こよなく見ユ」（劣リテ見ユ）源、五十、浮舟「五十「貴ナル所ハ、かれハ、イトこよなし、おれハ、タダ可愛ゲニ、コマカナル所ゾ、イトヲカシキ」中君ト、浮舟ト、ノ状ナリ）

こよひ（名）〔今宵今夜〕〔此夜ノ義、よひノ條ヲ見ヨ〕（一）今日ノ夜。今夜。今夕。允恭紀、八年二月「吾ガ夫子ガ、來ベキ夜ナリ、ササガネノ、蜘ノオコナヒ、是夕著シモ」顯宗紀、位前紀「顯宗、名ヨミ、吾ガ頭、今夜」萬葉集、二十今夜ノ月夜、清ク照リコソ」（二）夜明ケテモ云フ、即チ、前夜、昨夜、ナリ。播磨國風土記、揖保郡、十二「所以引號「明日、此地ニ北ヘ云、今夜、吾ガ背ニ、雨降リナケリ、ト見キ」和泉式部物語「イタク降リ明カシテ、ツトメテ、こよひノ雨ノ音ハ、云云」

こよみ（名）〔曆〕〔おハ、け（來經）ノ轉、かみハ、讀むニテ、數フルコト、酉ノ字ヲ、日讀のさりト云フモ、鷄ニ別チテ、曆用のさりト云フナリ、倭訓栞、こよみハ「日讀ノ義、二日、三日ト數ヘテ、其事ヲ考ヘ見ルモノナレバ、名トセルナリ」曆ハ、曆ノ義、說文ニ「曆、過也」トアリ、年、月、日、ヲ歷ル意、紀曆ト別チテ、下ヲ、日ニシタルナリ〕我ガ國、上代ニハ、曆ナカリキ、欽明天皇ノ朝ニ、百濟國ヨリ、其製作ノ學ヲ傳ヘタリ〕一年中ノ四時、月、日、等ヲ、表ニ掲ゲ記セル書。一年十二度ノ太陰ノ朔、望、晦、ヲ基トシテ、十二箇月ニ立テ、一箇月ノ日數ヲ、二十九日、或ハ、三十日トシ、全年ヲ、凡ソ三百六十日トスルヲ、太陰曆、又ハ、陰曆ト云フ、古來用キタルモノ　明治五年限リ、廢セラレヌ、舊曆ト云フ、是レナリ。コレニ、具注曆アリ、假名曆アリ、又、伊勢曆、三島曆、大宮曆、會津曆、等アリ、各條ヲ見ヨ。又、月ノ朔望ニ拘ハラズ、太陽ノ纏度ノ、天ノ或ル一點ヨリ、再ビ、此點ヘ復ルマデノ日數ヲ以テ、全年ヲ三百六十五日トシ、亦、十二箇月ニ割リ、一箇月ヲ、三十日、或ハ、三十一日（二月ハ、二十八日）ト立ツルヲ、太陽曆、又ハ、陽曆ト云フ、明治六年ヨリ用ヰラルルモノニテ、新曆ト云フ、コレナリ。曆ノ上ニハ、年ノ月、日、週、四時ノ氣候、日月ノ出入、月ノ盈虛、日蝕、月蝕、潮ノ干滿、祭日、祝日、等、（陰曆ニハ、日ノ吉凶等）凡ソ、月、日ニ起ルベキ事ヲ記ス。（年、及、閏ノ條、見合ハスベシ）倭名抄、十三「文書具、曆、漢書律曆志、黃帝造」暦、古與美」欽明紀、十五年二月、百濟國、貢二曆博士固德王保孫」政事要略、廿五、年中行事、十一月朔日、儀式云、以二小治田朝十二年正月朔一、始用二曆日一」（小治田朝ハ、推古天皇ナリ）

こよみこもん（名）〔曆小紋〕元祿頃流行セシ、曆ノ表ニ象リタル小紋。本朝若風俗（貞享、西鶴）八「イロホ形、曆小紋、袖ヲヒケル」

こよみで（名）〔曆手〕〔曆樣ノ義〕高麗燒ノ茶碗ノ模樣ニ云フ語。三島手ノ條ヲ見ヨ。

こよみのそう（名）〔曆奏〕御曆の奏ノ條ヲ見ヨ。

こよみのはかせ（名）〔曆博士〕れきはかせノ條ヲ見ヨ。欽明紀、十四年六月「勅云、醫博士、易博士、曆博士等、宜依番上下」

こより（名）〔紙縒〕〔紙縒、かうより、こよりト轉ズ（紙麻、かうぞ。行李、こり）〕又、かうより。紙ヲ、細ソク切リ裂キテ、縒リテ、絲トセルモノ。カミナハ。カミヒネリ。紙縷　紙撚　二筋合ハセテ縒レルヲ、くゎんぜこより、くゎんぜよりト云フ。江家次第、四、除目「折二寄文下方一爲レ臉、以二紙縒一結レ之、入レ筥」俗他齋草（元祿）二「木地ノ葛笠ニ、千筋こよりノ紙紐」

こよろぎ（名）〔小餘綾〕〔地名ナリ、出典ヲ見ヨ〕風俗歌ノ題目。風俗歌、小由流支「古與呂木ノ、磯立チナラシ、磯ナラシ、菜摘ム目刺、濡ラスナ、濡ラスナ、沖ニ折レ、折レ、波ヤ」古今集、廿、東歌、相模歌「こよろぎノ、磯立チナラシ、磯菜摘ム、目刺濡ラスナ、沖ニ折レ波」（めざしノ條ヲ見ヨ）萬葉集、十四「相模路ノ、余呂伎ノ濱」倭名抄、五「相模國、餘綾郡、與呂岐」宗祇ノ名所方角抄ニ據レバ、こよろぎハ、今ノ大磯、小磯、ノ海邊ヲ云フ由、云ヘリ、後撰集以下ニハ、皆、おゆるぎト云ヘリ。後撰集、十一、戀、三「君ヲ思フ、心ヲ人ニ、おゆるぎノ、磯ノ玉藻ヤ、今モ刈ラマシ」（おゆるニカケタリ）又、多ク、磯ニカケテ、急ぐノ序詞トス。拾遺集、十四、戀、四「イカニシテ、今日ヲ暮サム、おゆるぎノ、急ギ出デテモ、カヒナカリケリ」源、二、帚木、二十五「主人モ、肴求ムト、おゆるぎノ、急ギアリクホドニ」

一こら (名) 子等 兒等 〔ころトモ云フ、らモ、ろモ、添ヘタル辭、らノ條ヲ見ヨ〕男ヲモ、女ヲモ、互ニ、親シミテ呼ブ語。又、ころ。神武紀、十長歌「ミツミツシ、久米ノ固邇ガ」(道臣命ノ、久米部ノ兵ヲ呼ビカケシナリ) 允恭紀、八年二月、大御長歌「我ガ愛ヅル古邇」(衣通郎姫) 推古紀、廿年正月、大御長歌、宜シカモ、蘇我ノ古等ヲ、大君ノ、使ハスラシキ」(蘇我氏ノ族) 萬葉集、三 一廿「住吉ノ、得名津ニ立チテ、見渡セバ、武庫ノ泊ユ、出ヅル船人」(?)「墨吉ノ、遠里小野ノ、眞榛モチ、摺レル衣ノ」同、七 五「兒等ガ手ヲ、卷向山ハ」(女) 同、十四 八卅「鳥トフ、大虛言鳥ノ、眞實ニモ、來マサヌ君ヲ、許呂久トゾ鳴ク」(鳴聲ニ、子呂ニモ、來トカケタリ、女ヨリ、男ヲザス、夫子、夫ノ子) 同、廿 四十卷 廿一「吾ヲ偲ブラム、家ノ兒呂ハモ」(女) 同、廿「小竹ガ葉ノ、吻勁グ霜夜ニ、七重着ル、衣ニマセル、古侶ガ肌ハモ」(女)

二こら (名) 子良 子等 〔物忌の子等ノ上略、物忌みたる少女ノ義(出典ニ、物忌の子等、大物忌子良、見ユ)子ハ、御神の子ナドト、同趣、子等ハ、單數ニモ、複數ニモ云フ(子供ト云フモ、然リ)母良モ、同ジ(らハ、野ら、夜らナド云フ、らニテ、助辭ナリト云フハ、イカガ)子良の子ト云フハ、子良ノ語原ハ忘レラレテ、子良の職タル子ト云フ意ト聞ユ、物忌の父トハ、其眞ノ生父ナリ、母良ノおもハ、乳母ノ義ニテ、保母ノ意ナルベシ、大神宮儀式解、十七、母良ニ於毛羅ト云フヲ、云云、近キ世、於ヲ省キテ、毛羅ト云フヨリ、母良ノ字音ト思ヘド、然ニハアラジ〕女ノ神職名ナル物忌(其條ヲ見ヨ)ノ異稱。卽チ、物忌の子等(物忌ノ職タル子等)ナルベキヲ、特ニ伊勢神宮ニテ、上略シテ、稱スル語ナリ。神宮ニ仕ヘテ、御饌ノ調進、幷ニ、御神樂ノ事ニ從事ス、神官ノ女ノ、未婚ノ者ヲ選ビテ、任ゼラル、子良の館(齋館)ト云フニ詰メテ、物忌の父、又、母良(又、母良、館母)ト云フ老女、コレヲ介抱ス。又、物忌の子。子良の子。敬稱シテ、御子良。御子良子。大神宮儀式帳「御門田稻ヲ、物忌乃子等ニ、令舂炊奉ニ」神道名目類聚抄、五「子良子、伊勢神宮ニ仕フル女官ナリ、神樂、又、御饌調進ノ事ニアヅカル」倭訓栞、こら「神宮ニ、こらの館アリ、子良ト書ケリ、云云、俗ニ、神樂所ト呼ビ、お子良子ト云ヘリ、物忌ノ子也、館ハ、物忌父子、齋宿ノ館也」西宮記、臨時、七、伊勢使、參三大神宮一眺「物忌父十一人、館母一人、云云、子等三人」二十二社註式、伊勢、職掌人「內宮、子良十人、外宮、子良四人、館母、以上、館母、子良子、另殿供奉者也」神宮雜例集、一、二所大神宮、朝夕御饌事「大若子命ヲ、大神主ト定給テ、其女子、兄比女ヲ、物忌ト定給テ、云云、自レ爾以來、大神主ニ仕ヘ奉ル氏人等、以ニ女子乃未ニ夫婚ハ物忌ト爲テ、令ニ供奉ニ」皇大神宮年中行事、六月十六日「開三御稻御倉ニ云云、於三忌屋殿一奉レ春、大物忌子良(注、荒木田氏女)先奉仕、母良相具也」(おほものいみハ、ものいみノ條ヲ見ヨ) 元亨三年內宮遷宮記「おら十人、おもら、翻の笠ガ裝束、云云、おもらガ分、そいのうばガ分ニ(各、衣服ノ事ヲ記ス) 大神宮儀式解、十七「今世モ、母良一人、子良館ニ籠居シテ、子良ヲ介保ル事、古ノ如シ、荒木田氏人ノ女、年老、其器ニ堪ヘ、月事止ムノ後、コレヲツトメシム」

こら (感) 〔是ノ轉(これほど、こらほど)〕人ヲ呼ビカクルニ發スル聲。こらこらトモ云フ、もしもしニ比ブレバ、傲慢リタル聲ヅカヒナリ。「こら、待テ」「こら、何ヲスル」

こらい (副) 古來 古ヘヨリ、コノカタ。昔ヨリ、今マデ。杜甫、曲江詩「人生七十古來稀」

ごらいがう (名) 御來迎 (一)三尊ノ彌陀ナドノ、來迎スト云フヲ、敬ヒテ云フ語。二十六夜待ノ月ノ出ヲ見、富士山頂ノ日ノ出ヲ望ムナドニ、其光ヲ放ツヲ、彌陀ノ後光ヲカガヤカシテ來迎スト、見做シテ云フ。(二)玩具ノ名。佛ノ小サキ像ヲ、紙ノ張貫、又ハ、木、土、ニテ作リ、竹筒ノ中ニ收メ、絲ノ裝置アリテ、筒ヲ下レバ、紙ニテタタミタル後光開キテ、佛ト共ニアラハレ、筒ヲアグレバ、中ニ隱ル。コレヲ、江戶市中ニテ賣リアルク者ヲ、御來迎賣ト云ヒキ。博多露左衞門色傳授(元祿)「竹ノ中ヨリ光ヲ出ス、自慢、御來迎ハ、大坂ノ仕出シテゴザル、云云、京詞モ、メヅラシク、賣ラバ、召セ召セ、彌陀三尊ノ御來迎、召セニ(還魂紙料、上)

ごらいがううり (名) 御來迎賣 前條ヲ見ヨ。俳諧江戶名物鹿子、御來迎賣「若竹ヤ、誰レト孕ミテ、カグヤ姬」

こらう (名) 故老 古老 年、老イタル人。老成ノ人。(敬フ意ニ云フ) 詩經、小雅、祈父之什、正月篇「召ニ彼故老一、訊ニ之占夢ニ」書經、無逸篇、孔傳「小人之子、云云、輕ニ侮其父母ハ曰ニ古老之人無ヶ所ニ聞知ニ」保元物語、一、法皇熊野御參詣事「午ノ時マデオリサセ給ハネバ、古老ノ山伏八十餘人、般若妙典ヲ讀誦シテ、祈誓、良久シ」

こらう (名) 虎狼 (一)とらト、おほかみト。(二)猛クシテ、畏ルベキコト。苛クシテ、慘キコト。豺狼。史記、蘇秦傳「蘇秦說ニ楚威王ニ曰、夫秦、虎狼之國也、有ニ呑ニ天下一之心上」(蘇文) 史記、始皇紀「少レ恩而虎狼心」同、屈原傳「秦、虎狼之國也、不レ可レ信」朗詠集、下「呉娃宴兮無ニ虎狼ハ咸陽宮之烟片片」曾我物語、七、矢立杉事「一トセ、九州ニ、阿曾ノ平權ノ守トテ、こらうノゲキ臣アリ」

ごらう (名) 五郎 五番目ノ子。たらう(太郎)ノ條ヲ見ヨ。

ごらうず・る (動) 御覽 次條ノ語ノ口語。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)五「碁、始マレリ、云云、ソレソレ、寄テごろうぜらうト申サルル」(命令形、ごらうぜろノ延)

ごらう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 御覽 〔御覽ずノ音便(判官、はうぐゎん)口語ニ、ごらうぜるトナリ、又、ごろんぜる、トモ云フ、各條ヲ見ヨ〕見ルノ敬語。狂言記、拔殼「ソレ御らうぜラレイ」

ごらうぢゅう (名) 御老中 らうぢゅう(老中)ノ條ヲ見ヨ。

ごらうまるめの (名) 五郎丸布 〔越中國、西礪波郡、北蟹谷村、字、五郎丸ノ原產、今、同村、並ニ、福光町ヨリ出ス〕麻布ノ名、袴地トス、越中國ニ產ズ。安政武鑑、一、加賀中納言、時獻上、七月六日ニ黃金錢、五郎丸布、串海鼠」

こらく (名) 虎落 マガキ。モガリ。矢來。漢書、晁錯傳「城邑毋レ下ニ千家ニ爲中ニ周虎落ニ」註「以ニ竹篾一相連遮ニ落之一也」康熙字典、落「落籬曰ニ虎落ニ」湿庭筠詩「藍花釣ニ虎落ニ」

ごらく (名) 娛樂 〔說文「娛、樂也」〕樂シムコト。詩經、唐風、蟋蟀篇、序「以レ禮自娛樂」賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)五「天人、娛樂ノ管絃ハ、有難カリケル次第ナリ」「民衆ノ娛樂設備」

こらこら (感) こら(感)ノ條ヲ見ヨ。

こらしめ (名) 懲 〔懲らしめノ轉カ(ゆくら、ゆっくり。じ)懲りしめノ約カ(鰒、ほうすら、うっすり)〕懲リシムルコト。譴責、イマシムルコト。譴責。懲治。狂言記、樟薄「こらしめノタメニ、薄ラシムル」

一こら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 懲 〔懲る(上二段)ノ他動(降る(上二段)、おろす)〕他ヲ、懲ルルヤウニス。懲リサ

ス。過失ヲ咎メテ、後ヲ戒ム。 源、六、末摘花「[illegible]ヒ知ラヌヤウナル心ザマヲ、あらさむト思フゾカシ」

あら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［凝］〔凝るノ他動（鳴る、ならす）〕（一）凝ルヤウニナス。固ム。 [illegible]、自動ノ、云云、上津石根ニ、踏ミ固メ、下津石根ニ、踏ミ凝立」（立ハ、之ノ誤ナルベシ）（二）寄セアツム。集注「[illegible]あらす[illegible]あらす」

あらのお（名）［子良子］ 子良ノ條ヲ見ヨ。

あらのたち（名）［子良館］ 子良ノ條ヲ見ヨ。

あら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［拒］〔凝敢ふノ約ニテモアルカ（かかりあふ、かからふ）拒ハ、永心ノ合字、ホク心ニ包ム意ナルベシ〕 堪ヘ忍ブ。コタフ。我慢ス。［耐忍］ 天和字[illegible]、十二「[illegible]、古良不」 太平記、七、千劒破城軍事「千人ニ足ラヌ小勢ニテ、[illegible]、誰中ニテ[illegible]ヒケル、[illegible]ソ[illegible]ナレ」同、十、[illegible]レ、イカデカ、見ナガラ拒ふベキ、トテ、云云」

こらふく（名）［胡蘿蔔］ ニンジン（菜ノ）。

あらへあう（名）［拒情］〔凝性ナド、同趣〕 拒ヘ忍ブ意地。堪忍スル意氣。［耐忍力］「あらへあうガナイ」

あらへぶくろ（名）［拒袋］ 堪忍袋ノ條ヲ見ヨ。

あら・へる（動）［拒］ あらふ（拒）ノ口語。

あらほど（名）［是程］〔おれほどノ轉（群、むら。おれおれ、おらおら）〕 許多ほどナリト云フハ、謡、時代、[illegible]ス、堅ナリ」 おれほどノ轉。「おらほどノ大事、打拍テオク」トハ、何事ゾ」

ごらん（名）［御覧］（一）覧タマフコト。（天子ニ申 ミソナハスコト。ギョラン。ス） [illegible]、[illegible]「[illegible]」、六月十四日、[illegible]中ハ、異ナル事ナシ、云云、御覧ハナシ」（二）見ルコトヲ、丁寧ニ云フ語。（常人ニ云フ）、[illegible]（三）試みられよト云フ意ニモ用キラル、試るヲ、見るニ變ヘテ云フナリ。 太平記、三、[illegible]ヨリ、[illegible]ヲ一ツ抜出シテ、云云、一矢仕リ候ハム、受ケテ御覧候ヘ」（平語ニ云ヘバ、受ケテ試よ）「コレヲ見てごらん」（見テ試よ）

ごらん・ず・ズレ・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［御覧］〔音便ニ、ごうずトモナル〕 見タマフ。ミソナハス。（天子ニ申スヲ元トシテ、貴人ニモ申ス） 竹取物語「行幸シテ御覧ゼラレナムト[illegible]スレバ」 古今集、八、離別「仁和ノ帝、皇子ニオハシケル時ニ、ふるノ瀧、御覧じ（名詞）ニオハシマシテ、カヘリタマヒケルニ」 大鏡、中、伊尹「[illegible]榮、云云、[illegible]ハシテ御らんじオハシマセ」（後一條天皇ニ申ス） 源、一、桐壺「急ギ参ラセテごらんずるニ、[illegible]「皇子ハ、イト、ごらんぜマホシケレバ」 枕草子、六、五十段「御文取入レテ、殿、上、宮ナド、御覧じワタス」

ごらんばお（名）［御覧筥］ 上卿ヨリ、文書ヲ入レテ、主上ノ御覧ニ供フル筥。冠筥ノ條ヲ見ヨ。

あら・れ（動）［所噴］〔噴ばれノ略〕 噴ぶノ條ヲ見ヨ。

あり（名）［凝］ 物ノ、凝リ固マルコト。カタマリ。［凝結］ 萬葉集、十一、[illegible]「夕疊ノ、[illegible]キニケリ、[illegible]出ニ、[illegible]ミツケテ、人ニ知ラルナ」「[illegible]ノあり」肩ノあり」

あり（名）［香］〔馨ノ約（川下、垢離）〕 香ノ（一）ニ同ジ。 皇極紀、元年七月「蘇我大臣、手[illegible]」[illegible]（[illegible]ノ寺ニ、佛ニ[illegible]ヒヌルナリ、[illegible]ノ條ヲ併セ見ヨ） 萬葉集、十六「香塗レル、塔ニナ依リソ、川隅ノ、屎鮒ハメル、痛キ女奴」

あり（名）［垢離］〔垢離ハ、當字ナリ（佛教ニ、垢離ト云フコトナシト云フ）川降ノ約ニテ、川ニ降リテ禊スルコトナリ（沖縄ニテハ、生兒ノ初浴ヲ、かはおりト云フ）川おりト云フハ、語原ヲ知ラズ、重言ニ云フナリ、垢離ヲ行フヲ、かくト云フハ、當字ニ因リテ、垢ヲ掻く、ト云フナルベシ〕 修驗道ニテ、祈念ヲ凝ラス行トシテ、冷水ヲ浴ミテ、禊スルコト。身體ヲ浄ムトテ、スルコトナリ、水おりトモ云ヒ、屢、浴ムルヲ、千おりト云ヒ、寒中ノ行トテスルヲ、寒おりト云ヒ、コレヲ行フヲ、おりヲかく、おりヲ取ルト云フ。川水ニ入リテスル川おりト云フヲ元トシ、又、井水ニテスルコトモアリ。川施餓鬼ト云フコトモ、川おりヲ修飾シテスルコトナリト云フ。江戸時代、市中ノ若者ドモ集リテ、夏時ニ、相模國ノ大山参ニ出立ツ時、兩國橋ノ東詰ニ、垢離場ト云フガアリテ、川垢離シタリ、染半纏ニ、鉢巻シ、梵天ト、一丈餘ノ木太刀トヲ押立テ、山伏、法螺ヲ吹キテ、先達シ、口口ニ、懺悔懺悔、六根清浄、ナド唱ヘキ。 後鳥羽院熊野御幸記、建仁元年十月九日「還ニ今日御宿ニ云云、取ル垢、垢離かく、云云」 盛衰記、四十、維盛入道熊野詣事「岩田川ニ着キタマヒテ、一ノ瀬ニおりヲかきタマヒ」（岩田川ハ、紀伊ノ西牟婁郡ニアリ） 著聞集、一、神祇、[illegible]熊野詣、供ノ人夫「宿宿ニテハ、人モ捉テネドモ、諸人ガおりノ水ヲ、[illegible]ト浚ミケレバ、おりさをト名ヅケテ、人人モ、アハレミケリ」[illegible]、おり、傍ニ、スミそぎスルヲ、おりをかく、おりをとるナド云へり、川降ノ義ト云ヘリ、又、[illegible]ト書ケリ、[illegible]ニ、大祓詞ニ[illegible]エタリ」 古事記、上[illegible] 古事記傳「許理トテ、水浴ムルコトスルハ、皆、禊ノ意ベヘナリ、許理ハ、川降ノ約マリタルナリ、垢離ノ字ヲ書クハ、言フニモ足ラヌコトナリ」[illegible]、今時、垢離ト名ヅケテ、川ニ入リ、水浴シテ、佛ヲ拝シ、[illegible]一リトス、云云、[illegible]ノ中ニ、三時[illegible]スル等トハ云ヘドモ、遂ニ、河水ニ入テ身ヲ浄ムル、ト云フコトマリズ、云云」（佛教辭林）

こり（名）［行李］〔かうり（行李）ノ約、其條ヲ見ヨ（柳筥、こより）朝鮮語ニモ、こりト云フトゾ〕 梱リタルモノ。行李ノ（三）ニ同ジ。衣服ナド入ルル籠。［梱］「[illegible]こり」竹こり」

こり（名）［狐狸］ キツネ、タヌキ。 詩經、[illegible]、七月「[illegible]之日于貉、取彼狐狸、為公子裘」[illegible]「[illegible]天狗ノ[illegible]、狐狸ノ禍ヒ、天目山ノ變化、化物」「狐狸ノシワザ」狐狸、人ニ憑ク」

おり（名）［石伏］〔おハ、おおニテ、唱クルナルベシ（きぎノ類）りハ、添ヘタル、[illegible]らノ條ヲ見ヨ（かり（雁）、ひばり（雲雀））〕 魚ノ名、いしぶしノ一名。 易林節用集（慶長）氣形門「鮖」 玉かつま、七「いしぶしト云フ魚ハ、今ノ世ニ、おりト云フモノナルベシ、此おり、鴨川、桂川、ナドニモ、多ク有」

こりう（名）［古流］（一）茶道ノ一派、藪内流ノ一稱トス、千利休ノ正傳ナレバ、云フトゾ。千家流ハ、利休ノ孫、宗旦ヨリ始マル、利休ノ正傳ナラズト云フ。（二）花道ノ一派。一志軒、今井宗吾ト云フ者、相阿彌ノ餘風ヲ慕ヒ、一流ヲ起シ、元禄ノ初、京都ヨリ江戸ニ來リテ、傳ヘタルモノ。又、松應齋安藤[illegible]宇ト云フ者、草木ノ花葉ヲ、自然ノママニ用キル

一派ヲ考ヘ出シ、寶暦、明和ノ頃、江戸ニ出デテ、諸人ニ授ケタルモノ。

ごりう (名) [五柳] 支那、晉ノ陶淵明、宅邊ニ、五柳樹アリ、自ラ、五柳先生ト號セリ、コレヲ、五株柳ト讀ミテ、門邊ノ柳トシテ、和歌ニ詠メリ。 晉書、陶潛傳「陶潛字元亮、少懷二高尚一、嘗著二五柳先生傳一、以自況曰、先生不レ知二何許人一、不レ詳二姓字一、宅邊有二五柳樹一、因以爲レ號焉」(節文) 合類節用集(元祿)四、人倫門、五柳先生「陶淵明、潯陽、柴桑里人、其宅邊、有二五株柳一、故自稱云レ爾」 萬葉集、廿二十「我ガ門ノ、以都母等夜奈枳、イツモイツモ」

こりかたま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [凝固] (一) 凝リテ、固クナル。「糊ガこりかたまる」 (二) 一心、籠ム。一途ニ、思ヒ込ム。 固執 專念 「法華宗ニこりかたまる」

こりこう (名) [小利口] コザカシキコト。小才ノキクコト。 小慧 「こりこうナ男」

こりこり (副) 澤庵漬、五分漬ナド、嚙ム音ニ云ヒ、博多織ナドノ、厚ク強キガ、摩レ合フ音ニ云フ。其滯ル狀ナルニハ、濁音ニ、ごりごりト云フ。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「厚板ノ帶ノ、こりこりスル九寸幅」

こりこり (副) [懲懲] 深ク懲リタル狀ニ云フ語。「二度ヤリソコナッテ、こりこりシタ」

こりこり (副) 前前條ヲ見ヨ。

こりさ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [凝咲] [凝花舍ト、梅壺ト云フ、訓讀ノ語] 咲クト云フニ同ジ。 續千載集、一、春、上、凝花舍ノ梅盛リナルヲ見テ「色色ニ、こりさく庭ノ、梅ノ花、幾代ノ春ヲ、匂ヒキヌラム」 新葉集、廿、賀「色モ香モ、千代マデ匂ヘ、百敷ヤ、こりさく梅ハ、今盛リナリ」

こりしやう (名) [凝性] [依怙、同趣] 物事ニ、凝リカタマルウマレツキ。何事ニモ、熱心ニナル性質。(厭性ニ對ス)

こりずまに (副) [不懲] [こりずあるままノ意、あはずまに、幷ニ、まにノ語原ヲ見ヨ] 前ノ失敗ニモ懲リズ。シャウコリモナク。 古今集、十三、戀、三「こりずまに、又モ無キ名ハ、立チヌベシ、人憎カラヌ、世ニシ住ヘバ」 後撰集、十二、戀、四「風ヲイタミ、燻ユル烟ノ、立出デテ、猶こりずまノ、うらゾ戀ヒシキ」(須磨ノ浦ト、心トヲカケタリ) 詞花集、七、戀、上「イタヅラニ、千束朽チニシ、錦木ヲ、猶こりずまに、思立ツカナ」 萬代集、十、戀、二「こりずまに、幾タビ床ヲ、拂フラム、頼メテ來ヌハ、今宵ノミカハ」

こりたき (名) [香燃] [こり(香)ノ條ヲ見ヨ、神ニハ、香ヲ供フルコトナシ、特ニ、佛堂ニテハ、香ヲ焚キテ、佛ヲ禮拜スレバ云フ] 齋宮ノ忌詞ニ、堂ノ事ヲ云フ。又、こうたき。 佛堂 齋宮寮式、凡、忌詞、內、七言、云云、外、七言、云云、別忌詞「堂稱二香燃一」 伊勢勅使部類、長治二年八月「寺云二古利瓦一」 沙石集、一、上、第一條「佛ヲバ髮長、堂ヲバこりたき、ナンド言ヒテ、云云」 倭訓栞、こりたき「延喜式、忌詞ニ、堂稱二香燒一ト見エタリ、萬葉集ニモ、香塗流塔、ト詠メリ、(同書、十六(十八))云云、凡ソ、神ハ、花ヲモテ祭ルト云フ事ハアレド、香ノ事ハ、見エズ、因テ、佛堂ヲ、斯ク稱セリ」

こりつ (名) [孤立] [音ハ、こりふナルベキナリ] ヒトリダチニテ、援ナキコト。 史記、始皇紀「子嬰、孤立無レ親」 後漢書、竇融傳「武威太守馬期、云云、孤立無レ黨」

こりつ (名) [股栗] [栗ハ、慄ニテ、竦ミ縮ムナリ、戰栗ノ語原ヲ見ヨ] 脚ノ、竦ミテ、顫ヒワナナクコト。戰栗。 漢書、高五王傳「因退立、股戰而栗」 同、酷吏傳「誅二關氏首惡一、餘皆股栗」

ごりつ (名) [五律] 五言律詩ノ略、詩ト、律トノ條ヲ見ヨ。

こりつ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [樵集] [こる(樵)ノ條ヲ見ヨ、つむハ、集むノ上略(書集む、かきつむ。刈集む、かりつむ)] 木ノ枝ヲ、伐リ集ム。(薪ニ云フ) 蜻蛉日記、中、上六長歌「君モナゲきヲ、こりつみテ、鹽燒ク海人ト、ナリヌラム」

こりつ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [樵集] 前條ノ語ニ同ジ。 拾遺集、十七、雜秋「深山木ヲ、朝ナタナニ、こりつめテ、寒サヲ戀フル、小野ノ炭燒」

ごりにち (名) [五離日] 申酉ノ日。此日ハ、陰陽家ニテ、婚禮、旅行ヲ忌ムベキ日トス。 吾妻鏡、四十二、建長四年四月四日「自二戊辰一忌二遠行一、五離日也、就レ中被レ用二兵杖一、可レ有レ憚」

こりば (名) [垢離場] [垢離ノ條ヲ見ヨ] (一) 江戸、兩國橋、東詰ニテ、大山參ノ若者ナドノ、川垢離スル時ニ用キタル地。(二) 此地ニ、下等ノ芝居小屋アリテ、其稱トシタリ。

コーリン (名) [火鈴] [火鈴ノ宋音(下火、火伴、火桶子)] 禪家ニテ、夜、巡更シ、火ノ用心ヲ呼ブニ、振リ鳴ラス振鈴。此事ヲ勤ムル者ヲ、火鈴振ト云フ。 庭訓往來、十月三日「禪家者、堂頭和尚、云云、門守、火鈴振、等也」 俚言集覽、火鈴「古寫本、庭訓往來「火鈴振」注「戒二火之用一也」 倭訓栞、こりんふり「火鈴振ト書ケリ、火の用心ノ役也」

ごりん (名) [五倫] [五ツノ人倫ノ意ヲ以テ、孟子ノ文ニテ、我ガ國ニテ製セル語カト云フ、五倫ト云フ語、漢士ニハ見エズト云フ] 人ノ最モ相親シム、五ツノ倫、卽チ、父子、君臣、夫婦、長幼、朋友、是レニテ、卽チ、人倫ナリ。コノ人倫ノ間ノ道ヲ、五常、又ハ、五典、五敎トモ云フ。 孟子、滕文公、上篇「使二契爲一レ司徒一、敎以二人倫一、父子有レ親、君臣有レ義、夫婦有レ別、長幼有レ序、朋友有レ信」 大織冠(正德、近松作)一「儒道ヲ學ンデ、五倫ノ道ヲ守リ」

ごりん (名) [五輪] [五大ノ條ヲ見ヨ、輪トハ、法界ニ、圓輪、周遍シテ、廣大ナル作用アル意ト云フ] 佛敎ノ語。五大ノ、地、水、火、風、空、ヲ、方形(地)、圓形(水)、三角形(火)、半月形(風)、團形(空)、ノ五形ニテ標スルモノ。此五形相ヲ、石ニテ作リテ塔トスルヲ、五輪の塔ト云フ、地輪ヲ最下層トシ、水輪、火輪、風輪ト、次第ニ積ミアゲテ、最上ヲ、空輪トス。(五重の塔モ、是レナリ)多クハ、追福ノタメニ、コレヲ墓標トス、人ノ肉體モ、五大ノ原素ニテ成ルモノナレバ、死スレバ、原素ニ復歸スルヲ表ハシテ、此如キ塔ヲ形成スルナリト云フ。又、木ノ卒都婆ノ上部ニ、左右ヨリ缺キコミテ、五輪ノ形相ヲ作リテ、墓所ニ立ツルアリ、五輪卒都婆ト云フ。 太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「當家ノ父祖、代代、此地ニ墳墓ヲトメテ、五輪ヲ立テ、御經ヲ奉納シタル地ニテ候ヘバ」 盛衰記、三十四、明雲八條宮人人被レ討事「法橋行滿ガ、八條宮、明雲僧正ノ御首ヲ燒キ「高野山ニ登セ、奥院ニ納メ奉リ、五輪卒都婆ヲ彫立テ、我ガ身モ、云云」

ごりん (名) [五厘] (一) 錢、一文ノ半分。明治以後ハ、一錢ノ半額。(二) 東京ニテ、寄席ヘ、諸藝人ノ出席ヲ割當ツルヲ業トスル者ノ稱。往時、木戸錢、一人前ヨリ、錢、五厘ヅツノ割前ヲ得テ、給料トシタルヨリ、名アリト云フ。

こりんご (名) [小林檎] [柄ノ字ハ、木角ノ合字、柰ノ義ト云フ] 古名、カタナシ。

令、又、山梨。小梨、山ニ多シ、樹ハ、梨ニ似テ、小サク、高サ一二丈、葉ハ、林檎ニ似テ、白キ毛アリ、又、三叉、五叉ナルアリ、春、五瓣ノ白花ヲ開ク、林檎ノ花ニ似テ、小サク、多ク、簇リ生ズ、實ハ、櫻ノ實ニ似テ、秋、熟シテ、赤シ。棠梨ハ、一種、小木ニシテ、實ノ黄ナルヲ、揺ト云フ、材ヲ染料トス。棠梨一種

ごりん-ソトバ　(名)　[五輪卒都婆]　五輪ノ條ヲ見ヨ。

ごりん-たう　(名)　[小鈴糖]　金米糖ニ似テ、中空ナルモノ。後ニ云ヘルハ、霰餅ヲ、氷砂糖ニテ、火掛ニシタルモノ。　和漢三才圖會、百五、[illegible]花、云云、一種、有二小鈴糖一、[illegible]似二花ノ中中、[illegible]一、三才圖會ニ載セタル果子、云云、霰花、小鈴、云云、後ニ、小鈴ト云ヒシモノハ、霰餅ニ衣カケタルナリ、名ハ同ジクテ、實、カハレルニヤ」

ごり-むちゅう　(名)　[五里霧中]　深ク、霧ノコメタル處ヲ、五里霧ト云フ、其中ニ在ルコト。物事ノ、方向ヲ辨ジカヌル意ニ云フ。　[illegible]五里霧中ニ在ルガ如シ」

ごりんてん　(名)　[小輪轉]　りんてんノ條ヲ見ヨ。　江家次第、三、女敍位「小輪轉、園司、主水、直講子」

ごりん-の-タフ　(名)　[五輪塔]　五輪ノ條ヲ見ヨ。

コリン-ふり　(名)　[火輪振]　火鈴ノ條ヲ見ヨ。

ごりゃ　(感)　[是れよ、是れたノ約]　(一) 奴婢ナド、呼ビカクルニ發スル聲。　生玉心中(正德、近松作)中「ごりゃ長作、十六兩唯シラレ、夫ガゾモトニ、嘉平次ガ狼狽始メ、命沙汰ニ及ンダ」ごりゃ、誰レカ居ラヌカ」　(二) 不意ノ出來事ニ遇ヒテ、發スル聲。　信濃三重帷子(享保、近松作)上「ごりゃナラヌ、旦那ケラレテハ、後ノ祝儀」「ごりゃ何ンダ」ごりゃ迷イタ」　(三) ごりゃごりゃト重ネテ、小唄ノ囃シ聲ニ云フ語。「メデタメデタノ、若松サマヨ、ごりゃごりゃ、枝モ榮エテ、葉モ繁ル、ごりゃごりゃ」

ごりゃう　(名)　[御領]　領地ノ敬語。　庭訓往來、四月「御領[illegible]、中乙人命ニ書有ニ」

ごりゃう　(名)　[御靈]　ごりゃうゑ(御靈會)ノ條ヲ見ヨ。

ごりゃう-いち　(名)　[五兩一]　往時、貸金ノ、金、五兩ニツキ、月ニ、利息ノ金、一歩ナルモノ、貸金ノ、高利ナルモノトシテ云ヘリ。即チ、今ノ五圓ニ、廿五錢ニテ、年利、六割ニ當ル。

ごりゃう-でん　(名)　[後涼殿]　こうらうでんノ條ヲ見ヨ。

ごりゃう-どの　(名)　[御靈殿]　(御料殿カ)　御隠居。　實隆公記、文安五年正月十日「予參近衞殿、御隠居御出也」同、永享三年八月十八日「御前落居[illegible]、云云、御[illegible]」　康富記、五月「内覽代見殿御靈殿ヨリ、大ナル御菓玉參リ候」

ごりゃう-ばんきん　(名)　[五兩判金]　天保八年、德川幕府ノ、鑄造、發行セシ金貨。一枚ヲ以テ、金、五兩ニ當ツ、楕圓形ニシテ、量目九匁、大キサ、大判金、小判金ノ間ニアリ。

ごりゃう-まつり　(名)　[御靈祭]　(祇園會、祇園祭、同ジ)　次條ヲ見ヨ。

ごりゃう-ゑ　(名)　[御靈會]　(御靈ハ、疫神ノ神靈、又ハ、死者ノ怨靈(疫神トナリタルモノ)ノ敬稱、會ハ、齋會ノ上略)　官ニテ行ヒテ、死者ノ怨靈、又ハ、疫神ノ神靈ノ災ヲナスヲ、和メタマフ祭。又、御靈祭。略シテ、御靈。　三代實錄、七、貞觀五年五月廿日「於二神泉苑一修二御靈會一云云、所謂御靈者、崇道天皇、伊豫親王、藤原夫人、及、觀察使、橘逸勢、文室宮田麻呂、等、是也、並坐レ事被レ誅、冤魂成レ厲、近代以來、疫病繁發、死亡甚衆、天下以爲、此災御靈之所レ生也、云云、乃修二此會一以賽二宿禱一也」崇道天皇ハ、早良親王ナリ、藤原夫人ハ、伊豫親王ノ御母吉子ナリ、觀察使、詳カナラズ、藤原仲成ナラムト云ヒ、藤原廣嗣カト云フ、[illegible]、六位ナリシガ、後ニ、長屋王ノ妃吉備内親王、火雷天神(菅原道眞)ヲ加ヘテ、八所御靈ト稱ス、今モ、京都ノ上御靈社、下御靈社ニ祀レル、是レナリ)　明月記、建永元年八月廿一日「今日稱、御靈有二辻祭一云云、出二南小門外一見レ之、中御門西、[illegible]北、[illegible]兩方祭渡レ之」　吾妻鏡、三十二、嘉禎四年八月十八日「[illegible]日兩時、八所御靈祭、延引」　花營三代記、十、長保三年五月九日「於二紫野一祭二疫神一、號二御靈會一、依二天下疾疫一也」　公事根源、五月九日、紫野今宮祭「コレハ、疫癘ノ神ナリ、正暦五年、長保二年、天下靜ナラザリシ時、此神社ヲ祭ラル」

ごりゃう-ゑ　(名)　[御靈會]　(前條ト似テ、異ナリ、疫神ヲ遣ヒタマヘル祇園神(素戔嗚尊)ノ御齋會ヲ修シテ、疫神ヲ鎭ムル意(蘇民將來ノ條ヲ見ヨ)祇園御靈會ノ略ナリ)　京都、東山ナル祇園神社(今、八坂神社)ノ祭。正シクハ、祇園御靈會。又、祇園會。即チ、今ノ祇園祭ナリ。　中右記、大治五年六月十五日「祇園御靈會也」　公事根源、六月十四日、祇園御靈會「此祭ノ口、其中ニハ、異ナル事ナシ、云云、御靈會ノ時、四條京極ニテ、粟ノ御飯ヲ參ルハ、蘇民將來ノ由緒トゾ承ル」

ごりゃくのそう　(名)　[御曆奏]　又、ごよみの奏。古ヘ、陰陽寮ニテ、暦博士ノ作リシ、翌年ノ暦ヲ、奏進セシ儀式。毎年、十一月一日ニ、寮ヨリ、中務省ニ送リ、省ハ、寮ノ諸官ヲ率キテ、紫宸殿ニテ奏進セリ。　政事要略、廿五、年中行事、十一月朔日「中務省、奏二御暦一」　東宮年中行事、十一月一日「陰陽寮、ごりゃくヲ奉ルコト」

ごりゅう-さい　(名)　[五龍祭]　(八大龍王ノ中ニ、雨ヲ降ラスルアリ、水ヲ掌ルアリ)　天旱ニ、祈雨ノ祭。　時信朝臣記、大治五年七月「被レ行二五龍祭一云云、神泉苑五龍祭[illegible]等、進上先了」(京記ノ神泉苑ハ、祈雨ノ處ナリ)　三代實錄、廿七、貞觀十七年六月廿三日「神泉苑池中、有二神龍一、昔年炎旱、焦レ草爍レ石、決レ水乾レ池、發二鐘鼓一、[illegible]時有二甘雨一」　百練抄、十二、建曆元年六月廿一日「依二炎旱一被レ行二五龍祭一」　續古事談名義集、二、八大龍王[illegible]、云云、有二四種一、其二、興レ雲致レ雨、益二人間一者、云云」　金槐集、雜、建曆元年七月、洪水漫レ天、云云、聊致二祈念一「時ニヨリ、過グレバ民ノ、歎キナリ、八大龍王、雨ヤメタマヘ」

こ-りょ　(名)　[顧慮]　カヘリミ、思フコト。後メタシト、配慮スルコト。　曾我、[illegible]公記「不レ以二死生一爲二我意一[illegible]」

ゴリラ　(名)　[英語、Gorilla.]　猿ノ類ノ、大ナルモノ、亞非利加洲ニ産ズ、最大ナルハ、身長七尺ニ達スルモノアリ、毛、皮膚、黒シ、猛惡ニシテ、力モ強大ナリ。

ごりる　(動)　[懲]　懲るノ口語。

こる・ル・レ・ラ・リ・レ　(自動、四)　[凝]　(一) 寄リ、カタマル。一ツニアツマル。　神代紀、上五「鹽虎小嶋、皆是、潮沫凝成者矣」「雲凝る」油凝る」肩がこる」　(二) 凍ル。凍　名義抄「凍、コル、コイタリ」　(三) 一途ニ、思ヒ込ム。一心ニナル。耽ル。耽　熱中　「學問ニ凝る」遊ニ凝る」　(四) 工夫ヲ込ム。風ガハリノ意匠ヲコラス。「此細工ハ、こッテ居ル」こッテハ思案ニ能ハズ」

こ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [伐] 〔木ヲ、活用セサセタル語カ(雲る、宿る)或ハ、伐るノ轉カ(黄金、こがね)〕伐リ取ル。(薪ナド)樵ル。樵 萬葉集、十四、廿六「薪許流(鎌ノ序)、鎌倉山ノ、木垂木ヲ、(松ノ序)まつ(待つニカク)ト汝ガ言ハバ、戀ヒツツヤアラム」 後撰集、廿、賀、今上、梅壺ニオハシマシシ時、たき木こらセテ奉リタマヒケル「山人ノ、これル薪ハ、君ガタメ、多クノ年ヲ、積マムトゾ思フ」 宇治拾遺、一、第三條「木こらムコトモ忘レテ、家ニ歸リヌ」 同、十二、十七條「木こりテ、親ヲ養フ」

こ・る・ルル・レ・リ・リ・リヨ (自動、上二) [懲] 深ク、失敗ヲ悔ユ。 萬葉集、三、三十八「我ガ宿ニ、韓藍蒔キ生シ、枯レヌレド、不懲テ又モ、蒔カムトゾ思フ」 源、二、帚木「イカデ、こるバカリノワザシテ、云云、我レニ從フ心ナラバ、思ヒこりナムト思ヒ」

こ・る (動) [捆] かうる(捆)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

コルク (名) [栓] 〔蘭語、Kurk. きゅるくトモ發音シ、訛リテ、ころっぷト云フ、英語、こおく(Cork.) 栓ノ字ハ、康熙「栓、木釘也」トアル、きくぎヲ代用スルナリ〕 こるくト云フ樹ノ皮。多ク、瓶ノ口ノ栓トス。又、キュルク。コロップ。コオク。此樹ハ、山毛欅ノ類ニシテ、歐羅巴洲ノ南部、及、亞非利加洲ノ北部ニ産ズ、常綠ノ喬木ナリ、葉ハ、互生シテ、卵形ナリ、頂ハ尖リテ、基ハ圓シ、樹ノ皮ノ厚サ五六寸、外面ニ深キ溝アリ、表皮ノ下ノ部ハ、粗鬆ニシテ、堅キ海綿ノ如ク、彈性アリテ、液體、氣體ヲ透サズ、又、熱ノ不導體タリ、專ラ、栓ニ用キラレ、又、浮標、救命器、帽子ノ裏、靴ノ底、自轉車ノ把手、其外、諸機械ニ用キ、蒸燒ニシテ、黑色ノ染料ヲ製スル等、用途、甚ダ廣シ。一名、コルクガシ。

コルセット (名) 〔英語、Corset.〕 西洋婦人ノ胸衣。布帛ノ内ニ、鯨骨ヲ入レテ、胸ノ、張出ヅルヤウニ作レルモノ。コオセット。

コルネット (名) 〔英語、Cornet.〕 喇叭ニ類スル西洋ノ吹奏樂器。眞鍮、又ハ銀ニテ造リ、其管、中央ニテ屈曲シ、側ニ三箇ノ活塞アリテ、調子ノ高低ヲナス。

ゴルフ (名) 〔英語、Golf. 蘭語、Kolf. 棒ノ義〕 西洋遊技ノ名。棒ト球トニテ行ヒテ、競技トス、棒ノ尖ハ、匙ノ如ク、球ハ一種ノ護謨ニテ製セル實丸ナリ、競技場ノ地面ニ引キタル、大ナル圓線上ニ穿タレシ數穴アリ、二人、兩方ニ別レテ、仕合ヲス、球ヲ或ル一點ニ置キテ、棒ニテ球ヲ數穴ニ、一一、入ルヤウニ打チテ、順次ニ廻ハリ、打ツコト少ナクシテ、早ク最初ノ穴ニ復レル方ヲ勝トス。

こるもは (名) [凝海藻] 〔凝藻ノ義、もはノ條ヲ見ヨ〕 こころぶとニ同ジ、其條ヲ見ヨ。トコロテングサ。石花菜

こるり (名) [小瑠璃] 林禽類ノ一種、大るりノ若鳥ナリ、大キサ、鶯ニ似テ、總身、茶色ニ、淡黑シ、尾羽ニ、少シるりノ色アリ、(瑠璃鳥ノ條ヲ見ヨ)喉ヨリ腹マデ、白シ、囀リ、ヨシ、春ノ末ニ出ヅ、此鳥、寒氣ヲ痛ミ、飼ヒニクキ類ナリ。(喚子鳥、上) 娥歌加留多(享保、近松作)小鳥盡「大るり、小るり、ツバクラメ、袖ニムツレテ鳴ク聲ハ」

コルレスポンデンス (名) 〔英語、Correspondence. コレヲ下略シ、取引先ヲ上略シ、合シテ、これすざきト云フ〕 爲替取引先。これすざき。(銀行ノ語)

これ (代) [是此之] 〔これハ、此代名詞ノ本語ナリ(其條ヲ見ヨ)れハ、添ハリタル辭(らノ條ヲ見ヨ)彼れ、彼れ、其れ、誰れ、何れ、何れ、皆、同ジ組立ナリ〕 (一)最モ身ニ近キ物事ヲ指シテ云フ代名詞。(それ、あれ、かれナドニ對ス) 萬葉集、一、十八紀伊國、勢能山ニテ「此ヤ是ノ、大和ニシテハ、我ガ戀フル、紀路ニアリト云フ、名ニ負フ勢ノ山」 同、廿、「アシビキノ、山行キシカバ、山人ノ、我レニ得シメシ、山苞ゾ許禮」 佛足石歌「己禮ノ世ハ、移リ去ルトモ、常磐ニ、佐遺リイマセ、後世ノタメ、來世ノタメ」 場所ニ云フ。此處。 平家物語、二、教訓事「これへマレ、御幸ヲナシマヰラセム」 時ニ云フ。此時。今。「これマデノ事ハ、水ニ流ス」「これカラ後ハ、安心ナルベシ」 (二)人ヲ指シテ云フ代名詞ニモ用キラレ、妻子ニ云ヒ、夫ニ云フ。 平家物語、三、有王島下事、鬼界ガ島ニテ、俊寛ガ、都ヨリ下レル有王ヘノ詞「去年、少將ヤ、判官入道、迎ヘノ時モ、これラガ文ト云フコトモナシ、今、又、汝ガ便ニモ、斯トハ言ハザリケリ、ナド宣ヘバ、有王、涙ニ咽ビ、ウツブシテ、云云」(此次、都ノ妻子ノ事ヲ語ル) 狂言記、土產鏡「これノ人ノ留守ガスルガ、御歸ヤッタカ知ラヌ」(妾ガ、家ノ主人ヲ云フ) 俚言集覽、これの「夫ヲ云フ、堂あげの歌、これノ御殿ノ、大國柱」 他ノ者ガ、商店ノ雇人ナドニ對シテ、「今日ハ、これハ家ニ居ルカ」ナド、問フ、主人ヲ指スニハ、大指ヲ出シテ云ヒ、女房ヲ指スニハ、小指ヲ出ス、東京ニテハ、顚倒セシメテ、れこト云フ、竊カニ問フニ因リテ、隱語トシテ用キルナリ。人ヲ呼ビカクル聲ニ、これこれ、こらこら、ト云フモ、人代名詞ノ轉ナリ。

これ (接頭) [維惟] 漢文ニ用キル發語ノ辭、ソレヲ訓讀シテ、これト云フナリ。 書經、泰誓、中篇「吉人爲善、惟日不足」 詩經、周頌、臣工篇「維莫之春」 爾雅、釋詁篇「維伊、侯也」註「發語辭」 韻會「六經、惟、維、唯、三字、皆通作語辭也」 合類節用集(元祿)二、時候門「維歳、韻略、凡策書年月、必以維字發之、又、取紀年繫年之義歟、漢世、或用惟字、平帝策、興勝致仕、曰惟元始二年、是又有見惟之義二」「維歳、昭和八年」

これい (名) [古例] フルキタメシ。往時ノ典例。古格。舊規。 井筒業平河内通(享保、近松作)四「往昔、春日山、冬ノ日ニ藤咲キテ、朝家ノ吉事タリシ古例、聖運開クル瑞相」

これい (名) [古隸] 隸書ノ條ヲ見ヨ。

これい (名) [古禮] 古代ノ禮法、儀式。 史記、叔孫通傳「采古禮與秦儀雜就之」

ごれい (名) [後禮] 茶會ニ招カレタル時、後日ニ、再ビ往キテ、禮ヲ述ブルコト。 細川茶湯之書、下「宿ヘ歸リ、大略、自身、禮ニ行ク、然ラズバ、書中ニテ、御茶ノ禮、御道具拜見之禮、禮ヲ申スナリ」 茶道便蒙抄、二、客方「後ノ禮ノ事、主、客、共ニ、五之宅ヘ參リ、禮アルモノ也」

ごれい (名) [五嶺] 〔大庾嶺ヲ、たゆうれいト云フハ、いヲ略シ、ゆヲ延クナリ(太上、だぢゃう皇。亭子、てえノ院。叢濃、むらごう。衣架、いかう)〕 支那ノ江西省ト、廣東省トノ界ニアル山脈中ノ、五ツノ嶺ノ稱。其中ノ大庾嶺ト云フハ、梅、多ク、先發スルヲ以テ、名アリ、物語文ナドニハ、たゆうれいノ梅ト云フ。 史記、張耳傳「南有五嶺之戍」顏師古、注「嶺者、西自衡山之南、東窮於海、一山之限耳、而別標名則有五焉」裴氏廣州記云、大庾、始安、臨賀、桂陽、揭陽、是爲五嶺」 唐詩選、三、岑參詩「海晴三山雨、花明五嶺春」 同、六、孟浩然、洛陽訪袁拾遺不遇詩「洛陽訪才子、江嶺作流人、聞說梅花早、何如此地春」注「鄧確類書曰、大庾嶺、在南雄府城北、漢武擊南越、楊僕遣部將庾勝、屯兵於此、因名、上多梅、又名梅嶺」 南康記「大庾嶺多梅而先發」淨

[illegible]見ヘタリ、[illegible]紅梅ノ花、木末ノ梢ニ咲キミダレ、たゆふれいノ梅ノ花、紫ニミ[illegible]ラレタリ」

ごれう (名) [御料] 〔れう(料)ノ條ヲ見ヨ〕(一)料ノ敬語。用キタマフモノ。召シタマフモノ。御用。(衣服、器物、スベテ云フ)(二)飲食ニ云フハ、長門本、平家物語、十八、[illegible]内ニ引入奉リテ、先、御料參ラセヨヤトテ、白キ御れうノ、二階ニ作ケルヲ、水ニ洗ヒテ參ラセタリケレドモ、御胸セキテ、[illegible]モ參ラズ、[illegible]ノ御志ノ切ナル事ヲ見エ奉ラント、少バカリゾ箸ヲ入レ給ヒケル」[illegible]、木曾ノ御料ニ、[illegible]汁カケテ、只一口ニ、九郎義經」 酒食器(一條兼良)「[illegible]ニモ、マツハ御れうノ事ヲ、[illegible]云云、[illegible]御料ノ色濃キハ、女郎花ニゾ似タリケル」(三)所有地ニ云フハ、御用地ナリ。[illegible]御料地アリ、御料林アリ。(四)[illegible]御料人ノ略、次條ヲ見ヨ。

ごれうにん (名) [御料人] 〔倭訓栞、ごれうにんハ「御料人ノ稱、云云、古ヘ、何がねト稱スル如ク、其儲けノ意ナルニヤ」トアリ〕子息、息女ニ通ジテ云ヘバ、后がね、聟がねナド同意ニテ、何何ノ料ニナルベキ人(家督ノ料、内室ノ料)ノ義ナルベシ(御寮人ナド書クハ、當字ナリ)ごれんハ、音便(封ず、ふんず。かうばし、かんばし)(一)貴人ノ子息ノ敬稱。下略シテ、御料トモ云フ。[illegible]八、[illegible][illegible]事 カカリシ所ニ、[illegible]トハフムアリ、云云、[illegible]アマタアリ、[illegible]見シガ、[illegible]三人ガ外祖父ナリ、サレバ、人、重クシ恭リ、少將ノ御れうトゾ申ス」(御れうハ、子供ヲ指シテ云フナリ) [illegible]十、[illegible](北

[illegible]ノ子息ヲモ、[illegible]宗盛ガ、[illegible]シマキラセ候ヒツル」 康富記、文安四年十一月「滋野井[illegible]、[illegible]」(二)息女ノ敬稱。又、[illegible]。[illegible]、[illegible]九日、[illegible]主[illegible]ナル人ノ、[illegible]ノタメ、[illegible]入アリ一[illegible]、[illegible]一人御持チ候フガ、[illegible]、[illegible]心モ[illegible]ニヤサシク[illegible]入リ候」(娘ナリ) 甲陽軍鑑、十、下、[illegible]云云、信長[illegible]、内方ニ申[illegible]ケタシト仰セ越サル」(姫御料[illegible])京阪ニテハ、今モ、中流ノ人ノ娘ヲ、御料人ト云ヒ、轉ジテ、其妻ノ、年若キヲモ云フ、[illegible]、ごれうにん、[illegible]「京畿ニテ、娘ノ事ヲ、ごれうにんト云ヒ、薩摩ニテ、妻ヲ云フ、越後ニテ、人ノ妻女ヲ云フ、備前ナドモ、同ジ」(コレハ、重言トナル) 物類稱呼(安永)一、人倫[illegible]、云云、[illegible]、又、越後ワタリニテ、ごれうにんト云フ」 同、[illegible]、おごれん、[illegible]ニテ、娘ノりょんト云フ」

ごれうりん (名) [御料林] 〔前前條ノ(三)ヲ見ヨ〕皇室御所有ノ森林地。

これ-かれ (代) [此彼] これト、かれト。コノ事、カノ事。古今集、序「これかれ、得タルトコロ、得ヌトコロ、たがヒニナンアル」

これ-これ (代) [是是] 是ノ複數。[illegible](ヘバ、これこれナリ、[illegible]ヘバ、[illegible]ナリ」

これ-これ (感) 〔おらおら、同ジ、これ(是)ノ(二)ヲ見ヨ〕人ヲ呼ビカクルニ發スル聲。[illegible]八島[illegible]伏、猟ミタキ事、御ハヒリアレト呼ビ入レ」「これこれ、お侍ヤ」

これ-しき (名) [是式] 〔式ハ、當字ナリ、俚言集覽、しき「しきハ、底ナリ(式ノ條ヲ見ヨ)底ハ、其處ノ場ニテ、位ノ事ナレバ、これしきハ、是レ位ナリ、かれらしきハ、彼レ等位ナリ」(あれらしき、同ジ)〕コレクラヰ。コレホド。カホド。

コレバカリ。これしき、[illegible]、[illegible]、[illegible]ヤ、マ[illegible]、[illegible]ノ子[illegible]、[illegible]直[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ク、主人、大イニ怒ル、三人ノ御役、出デテ「何トテ、サヤウニ借シミタマフゾ、是式ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニモ、面面、所持ツカマツル、云云」(尋常器物ノ意、治平[illegible]ノ事、近古史談(文久三)ニシテアリ) [illegible]稱呼(安永)五、[illegible]是ほどト云フ詞ノカハリニ、西國ニテ、是きき、彼ききト云フ、云云、東國ニテ、是しき、あれしき、ト云フ」

これ-しし (名) 前條ヲ見ヨ。

コレス-ぎき (名) こるれきぼんでんきノ條ヲ見ヨ。

これ-てい (名) [是體] 〔あれていノ語原ヲ見ヨ〕コノヤウナル狀。カカル姿。太平記、五、大塔宮[illegible]、兵、佛殿ニ亂レ入リテ、佛壇ノ下、天井ノ上マデ、殘ル所ナク搜シケレガ、[illegible]リニ求メカネテ、[illegible]ノ物コソ怪シケレ、アノ大般若ノ櫃ヲ開テ見ヨトテ、云云」

これ-どし (名) [維歳] これ(維)ノ條ヲ見ヨ。

これ-の (代) [此是] これの(此)ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、三十「聞キシゴト、マコト貴ク、奇シクモ、神サビヲルカ、許禮能水島」

これ-え-これ-え (感) 見テ驚キタル時ニ發スル聲。[illegible]松永貞徳、門人、これはこれはトバカリ花ノ、吉野山」

これ-え-たり (感) 〔是れえ惡シキコトきたり〕アヤマリタル時ニ發スル聲。コレハ何トシタコトカ。浮世[illegible]文化、三馬)三編、上「是れえたり、ドナタカト存ジマシタ」「これえきたり、トンデモナイ事ヲシタ」

これ-ひ-も-たらず (句) [惟日不足] 〔惟ハ、發語ナリ、これ(維)ノ條ヲ見ヨ〕終日行ヘドモ、足ラズ。[illegible]、[illegible]、中[illegible]吉人

[illegible]、[illegible]不足、[illegible]人[illegible]、[illegible]子、[illegible]、[illegible]不[illegible]、[illegible]、[illegible]之、[illegible]」

これ-ほど (名) [是程] コレクラヰ。カホド。コレシキ。「是れ程ノ事ハ知ラム」

これ-み-よ-かし (句) 〔感動詞ノかしノ條ヲ見ヨ〕自慢シテ、人ニ示ス意ヲ云フ語。浮世[illegible](文化、三馬)三編、下「是れみよかしニ、イカイ事、尻ヲオナラベダ」「これみよかしニ披露スル」

ごれん-し (名) [五斂子] 〔爾雅、釋詁篇「斂、聚也」疏「斂、聚也」果實ニ、五稜アリ〕樹ノ名。熱地ノ產、高サ一二丈、葉ハ五生シテ、卵形ナリ、長サ一二寸、枝梢ニ、五瓣ノ小紫紅花ヲ開ク、果實ハ、黃色、長サ二三寸、殼ハ、鋭キ五角ヲナス、内ニ水漿多クシテ、甘シ。又、楊桃。本草綱目、五斂子、其[illegible]、云云、又可ニ以[illegible]之」蘇軾詩「恣傾ニ白蜜一收ニ五稜一」

ごれん-し (名) [御連枝] 〔一幹ヨリ、枝枝ノ、連リテ生フル意〕兄弟ノ敬語。保元物語、三、[illegible]事「主上、上皇、御連枝ナリ」[illegible]天皇、後白河天皇) 吾妻鏡、六、文治二年五月十四日「[illegible]、[illegible]御連枝」[illegible]文選、[illegible]詩[illegible]枝葉、[illegible]、四海皆兄弟、誰爲二行路人一、況我連枝樹、與レ子同二一身一」

ごれんぢゅう (名) [御簾中] 〔簾中ハ、居室ヲ云ヒテ、稱トス、玉海、安元二年七月八日、建春門院崩「自ニ作簾中一時忠卿、指ニ出首一」(門院ノ兄ナリ)〕公卿ノ妻室ノ敬稱。北の方。室町時代ニハ、大夫名ニモ云ヒキ、德川時代ニハ、公家ノ外ハ、將軍、三家、三卿、ニ限リテ、稱セリ。(武鑑ナドニ見ユ) 大友記、[illegible]御簾中、日夜ニ、[illegible]ヲ書シメタマヒ」 貞丈雜記、二、人品「貴人ノ妻ヲ、御簾中ト稱スル事ハ、古書ニハ見

エザル事ナリ」

これやこの (句) 〔やハ、疑フ辭ナルか〕ノ意、この(此)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 是レハ、彼ノ何何ナルカ、ト云フ意ヲ云フ語。 萬葉集、一 廿八 紀伊ノ勢能山ニテ「此也是能、大和ニシテハ、我ガ戀フル、紀路ニアリト云フ、名ニ負フ勢ノ山」(此山ガ、大和國ニ留リマス、彼ノ夫 君ナルカ) 後撰集、十五、雜、一「これやこの、行クモ歸ルモ、別レテハ、知ルモ知ラヌモ、逢坂ノ關」(是レガ彼ノ逢坂ト云フ關ナルカ)

コレラ (名) 虎列剌 〔蘭語、Cholera.〕 病ノ名、これら菌ト云フ黴菌、胃中ニ入リテ、發ス、極メテ烈シク吐瀉シ、傳染、甚シクシテ、多クハ、死ス。我ガ邦ニテハ、文政五年、始メテ、爪哇島ヨリ傳ヘ、其後、安政五年、文久二年、其後モ、度度、流行ス、初、原語ヲ、暴瀉病ト譯シ、又、ころり、三日ころりナド、云ヒキ。 時還讀我書、上「文政壬午ノ秋末、冬初、浪華ニ、三日ころりト稱スル病、流行セリ、初ハ鎭西ヨリ起リテ、中國ニ至リ、浪華ニ及ボシ、云云、其證、初起、卒ニ惡寒シ、濃テ、吐瀉甚シク、云云、急ナルハ、日ヲ出デズ、緩ナルハ、三日許ニシテ斃ル、ユヱ、斯ハ名ヅケシト」 桑韜須知、古呂利考「古呂利ハ、萬病回春、霍亂ノ一名、虎狼病ト云フヨリ出デタリト云フ、云云、古呂利ハ、本、皇國ノ俗語ニテ、卒倒ノ義ヲ云テ、古ヨリ、早ク、病ニ罹シ來ルコトナリ、元正間記云、元祿十二年ノ頃、江戸ニテ、古呂利ト云フ病、流行ス、云云」(以上二書、古事類苑、虎列剌)

これをようするに (副詞句) 要之 搔イツマンデ云ヘバ。手近ニ云ヘバ。畢竟。「佛ノ千萬言モ、要レ之、慈悲ノ二字ナルノミ」

ころ (名) 兩 りやう(兩)ノ古言。 推古紀、十三年四月「黃金三百兩」 持統紀、五年七月「白銀三斤八兩」

ころ (名) 轉 〔轉轉ノ轉(墳つ、うごもつ。輕輕、かろがろ)ころころト轉ぶ、ころばす、ころがる、トナル〕 (一)短ク、圓ク、細ソキ棒、又ハ、鐵管、木石ナド、重キ物ヲ動カストキ、下ニ敷キテ、轉バシ行クニ用キルモノ。(二)簺ノ異名。投ゲラレテ、ころがるモノ。

ころ (名) 子呂 子等ノ條ヲ見ヨ。

ころ (名) 自 〔こハ、此ノ義ニテ、己ノ意ナルベキカ(此身)ろハ、添ヘタル辭(らノ條ヲ見ヨ)後世、ころりト變ハル、是レ一ツころりト違ッテ居ル、長崎ニテ、目立つヲ、ころッとシトル、ナド云フハ、此語ノ遺ナリ〕 (一)みづから、ひとり、ノ意ヲ云フ、古言。自臥すヲ、自臥すト云ヒ、獨立するヲ、ころたつト云ヒ、孤立ノ旗ヲ、ころばたト云ヒ、鷹ニ、ころ捕ト云フ語モアリ。(各條ヲ見ヨ) 倭訓栞、ころ「萬葉集ニ、自ヲ讀メリ、今モ、自然ノ事ニ、ころりト云フ、此義ニヤ、源自明ヲ、ころあきらト讀メリ」 紀略、後篇、四、天德二年四月十七日「參議正四位下源朝臣自明卒、今上之兄也」 (二)樗蒲ニ用キル四箇ノ采ヲ、樗蒲采ト云フ、此采ヲ、盤上ニ投出セバ、或ハ、表ヲ顯ハシ、或ハ、裏ヲアラハス。 萬葉集、十三 三十八 長歌ニ、一伏三向ノ字ニ、ころト訓ジタルハ、四箇ノ采ノ現象ノ名ナリ、是レハ、一伏ニ就キテノ訓ニテ、四箇ノ中ニテ、一ツ伏シタルナレバ、ひとりノ意ナルベシ、倚、かり(樗蒲子)ノ條ヲ見ヨ。

ころ (名) 比頃 〔こハ、け(來歷ノ約)ノ轉ニテ(松の木、松のけ、木ノ葉)來しノ意ナルカ(年來、日來)ろハ、添ヘタル辭(らノ條ヲ見ヨ)沖繩ニテ、くる〕 (一)其時ノアタリ。コロホヒ。ヲリ。時分。時期 萬葉集、八 廿「世ノ中モ、常ニシアラネバ、宿ニアル、櫻ノ花ノ、散レル比日カモ」 同、十一 廿二「タマボコノ、路行觸ニ、思ハヌニ、妹ヲ相見テ、戀フル比日カモ」 古今集、十四、戀、四「敷島ノ、やまとニハアラヌ、唐衣(序)、ころモ經ズシテ、逢フ由モガナ」 枕草子、一、第二段「頃ハ、正月、三月、四月、五月」 山家集、上「頃ハクバ、花ノ下ニテ、春死ナム、其二月ノ、望月ノころ」 (二)接尾語ノ如ク用キラレテ、頃ほ、ノ意ヲナス。 源、三十七、鈴蟲「夏ごろ、蓮ノ花ノ盛リニ」 千載集、十七、雜、中「春ごろ、久我ニマカレリケルツイデニ」 詞花集、十、雜、下「其冬ごろ、云ヒツカハシケル」 (三)其時ヨリ、コノカタ。年來 日來 萬葉集、十二 三「八釣河、水底絶エズ、行ク水ノ、(序)續ギテゾ戀フル、是比歲ハ」 竹取物語「許多ノ日ごろ、思ヒワビ侍リツル心ハ、今日ナム、落居ヌル」 (四)物事ノ、程。ホドアヒ。程度 源、二、帚木 七「受領、云云、階級アリテ、中ノ品ノ、云云、撰リ出ヅベキごろほひナリ」「比合ノ年輩」可イころニシテオク」「二十歲ごろノ娘」 (五)古ク、ころト云ヒシハ、物事ノ、程の相如く意ノ語ナリ、比ノ字ヲ記ス、是レナリ。 詩經、小雅、彤弓之什、彤弓篇、註「比、校也、並也」 神代紀、下 廿「若ニ熛火一而喧響二」 萬葉集、九 三十六「如己男」(自己ノ如キ男)ノもころノ、ころナド、稀ニ見ユ、ころふ、ト、動詞ニ作リテ、等ころふ(等)、目ころふ(等)トモナル、各條ヲ見ヨ。

ころ (名) 洪武錢 ころぜにノ條ヲ見ヨ。

ころ (名) 葫蘆 瓠蘆 菰蘆 ユフガホ。ヒサゴ。フクベ。ヘウタン。 康熙字典、皿部「盧、與レ蘆通、瓠盧、胡盧、瓠面盧者」 廣韻「葫、葫瓜也」 漢書、司馬相如傳、子虛賦「蔣蘆菰盧」 史記ニ、菰盧ニ作ル、唐杜荀鶴、贈二漁夫一詩、七律二聯「養三一箔蠶一供二釣線一、種二千莖竹一作二漁竿一、葫蘆杓酌春濃酒、舴艋舟流夜漲灘」(瓠ノ杓ナリ、朗詠集ニハ、菰蘆ニ作ル) 依樣畫葫蘆 依レ樣畫二葫蘆一ト云フハ、其樣ニ據リテ、葫蘆ヲ畫クヲ云ヒ、唯、古人ノ所爲ニ倣ヒテ、少シモ、自身ノ新意ヲ出ス所ナシト云フ意ニ云フ。 東軒筆錄「陶穀、文翰爲二一時冠一、云云、人或レ薦レ之、太祖笑曰、頗聞二翰林草制、皆檢二前人舊本一、改二換詞語一、此俗所レ謂、依レ樣畫二葫蘆一耳、穀乃作レ詩曰、堪レ笑翰林陶學士、年年依レ樣畫二葫蘆一」 書言故事、十二「依レ樣畫二葫蘆一、蹈二襲舊本一也」

ころ (感) 胡盧 〔笑フ聲ナリ、ころころ ころころトモ發スレバ、ろこトモ聞キ取ラルルナリ(寒蟬ノ聲ヲ、くつくつぼふし、つくつくぼふしトモ云フガ如シ) 我ガ國ニテモ、からからト笑フ、ころころト笑フ、ト云フ、暗合ナリ〕 又、盧胡。笑フ聲ニ云フ語。名詞トシテ、ものわらひ、ひとわらはれノ意ニモ用キラル。 書言故事、七「掩レ口笑曰二胡盧一」 正字通「盧胡、笑在二喉間一聲」 孔叢子、抗志篇「衛君胡盧大笑」 後漢書、應劭傳「宋愚夫、寶二燕石一、緹緝十重、覩レ之者掩レ口盧胡而笑」 合類節用集(元祿)九、言辭門「胡盧」

ごろ (名) 破落戸 ごろつきノ下略。「羽織ごろ」支那ごろ」

ごろ (名) 啞 おしごらうノ條ヲ見ヨ。

ごろ (名) 語路 (一)言語、文章ノ、續キ行ク口調。(二)地口ノ一體、くちあひノ(三)ヲ見ヨ。

ゴロ (名) 吳羅 吳呂 吳羅服連ノ下略。

ごろあはせ (名) 語路合 くちあひノ(三)ヲ見ヨ。

ころあひ (名) 頃合 〔ころ(比)ノ(四)ヲ見ヨ〕 (一)ヨキヲリ。適當ナル時機。好機 狂言記、佛師「某ガ丈頃合ひニ拵ヘテ、オマサウ」「ころあひヲ見ハカラッテ行ク」 (二)ヨキホド。適當ナル程度。適度 「ころあひノ武器ヲ引提ゲ」

ころう (名) 鼓樓 太鼓ヲ懸ケオキテ、打チテ時刻ヲ知ラスル樓閣。

こ-ろう (名) [illegible] [illegible]ニテ、見[illegible]ノ低[illegible]コト、[illegible]ノ、[illegible]キニ[illegible]、[illegible]シキニ[illegible]スコト。[illegible]

こ-ろう [illegible] 陸上ヨリ離レテ、偏僻ナルコト。[illegible]

コロオプ (名) [格魯布] (英語、Croup.) 病ノ名。喉頭、又ハ、氣管ノ炎性病。咳[illegible]ト、呼吸[illegible]トヲ伴フ、小兒ニ多シ。

ごろ-がき (名) [轉柿] つるしがきノ一種、小サキ澁柿ニテ作レルモノ。[illegible]宇治土人、[illegible]之小[illegible]、[illegible]柿ト云ヘリ、乾柿、指頭ノ如キヲ云フ」

ごろ-が・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [轉] [illegible] 條ノごろがるノ他動(至る、いたす)。轉ルヤウニス。コロバス。亂[illegible]ロバス。 浮世風呂(文化、三四)初編、上「ホホ[illegible]ヲごろがす」丸太ヲごろがす」

ごろ-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [轉] [illegible]ノ條ヲ見ヨ(轉がる、轉がる) マロブ。 コロゲル [illegible]」

こ-ろく (名) [胡籙] 胡籙ノ字ノ音讀。

ごろく (感) 鷄ノ啼聲ニ云フ語。カウ。 [illegible]サヌ君ヲ、許呂久トゾ鳴ク」(子呂來、叩チ、夫來るニ[illegible]

ご-ろく (名) [語錄] 碩儒、高僧、ナドノ語[illegible]錄」聖一國師語錄」一遍上人語錄」

ご-ろく (名) [五六] (一)柚木ノ、五寸角、六寸角ノ、太キ材ノコトナラムト云フ。 [illegible]ごろ 「太平記ニ、大物ノ五六ニテ打付ケタル[illegible]トヒエタリ、云云、今、五寸角、六寸角ナド云フモノナルベシ」 [illegible]工隨筆(安永)「太平記ニ、云云、安部ヨリ出ヅル材木ナルベシ、今ノ木曾ノ尺一ナド云フガ如ケム」 太平記、九、六波羅攻事、「城ノ[illegible]セバ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ヨリ、東ハ、八條河[illegible]マデ、五六八九寸ノ琵琶甲、[illegible]、ナンドヲ[illegible]キ、シタタカニ[illegible]リ、前ニハ、亂杭、逆茂木ヲ引キカケテ」 同、廿七、田樂事「棧敷ヲ打チ、五六八九寸ノ安部ナドヲ[illegible]キテ、[illegible]、八十三間ニ、三重四重ニ組上ゲ、云云、大物ノ五六ニテ打付ケタル棧敷、傾キ立チテ、アレヤアレヤト云フ程コソアレ、上下二百四十九間、共ニ、將棋倒ヲスルガ如ク、一度ニ、同トゾ倒レケル」二びはのかふ、あんのおほり、材木ノ名ナリ、各條ヲ見ヨ) (二)又、工匠ノ語ニ、家ノ根繼ナドスルニ、柱ヲ擡グルニ用ヰル材ヲ、五六ト云フ、亦、五寸角、六寸角ノ大材ヨリ云フナルベシ。 俚言集覽、五六「今ノ工人、仕事師、ノ方言ニ、五六ヲ組ムト云フハ、家ノ根繼ヲスルニ、材木ヲ組ミテ、石ヲ重ニ掛ケテ、柱ノ中ニアルヤウニ仕掛クルヲ、五六ニ組むト云フ」 [illegible]ごろくに掛くる、ト云フトアリ」 [illegible]「[illegible]五六[illegible]木ノ五六」鎚打、追加(寛文)「石ノ竹ノ、露ハ重カ、五六月 [illegible]、五六)(石ノ竹ハ、石竹ナリ)

ごろく-がけ (名) [五六懸] 鐙ノ製ニ云フ語。鐙ハ頭ト、舌先ト、[illegible]曲ス、其上下、兩端ノ距離、五寸六分ナルヲ定法トス。[illegible]ハ、[illegible]、木製、共ニ、言ヒシガ、後ニハ、[illegible]ヲ、[illegible]ト云ヒ、木鐙ノミ、五六[illegible]の鐙ト云フコトトナレリト云フ。 [illegible]七、[illegible]、五六[illegible]之鐙」 [illegible]、ごろく鐙ノ制ニ、五六ト云フハ、五寸六分ニ作ルベキ定法アルヲ以テナリ、ト云ヘリ」

ごろくがけ-の-あぶみ (名) [五六懸鐙] 前條ヲ見ヨ。

ご-ろくぐわつ (名) [小六月] 陰曆、十月ノ異名。小春。 [illegible]正[illegible]、近松作)二「秋モ過ギユク十月ノ、小六月トテ、アタタカヤ」 [illegible]六帖(天保、服部宜)上、天部「十月、云云、今、俗、小六月ト云フ、又、小春トモ云フ」

ごろく-ぞめ (名) [小六染] 手綱染ノ一種、延享ノ頃、歌舞伎役者、嵐小六ト云フガ、(後ニ、三右衛門)舞臺ノ衣裝ニ用キシヨリ、名トス。 賤の小手卷(天明、寛政)「横ニ雨降リ、コレニ、色色ノ筋ヲ染メタルヲ、嵐小六ガ着タリトテ、小六染ト云ヘリ」

ごろく-の-はら (名) [五六破等] 〔第五ノ絃ト第六ノ絃トヲ、勢ヒヨク、一度ニ掃ひ彈ク意ナルベシ、はらハ、潑剌ノ字ト、暗合ス〕 琴ヲ彈ク手ノ名。 源、三十四、下、若菜、下「[illegible]ハ、五箇の調、アマタノ手ノ中ニ、心トドメテ、必ズ彈キタマフベキ、五六のはらヲ、イト面白ク、澄マシテ彈キタマフ」 [illegible]六の破等トアリ」花鳥抄「河内本ニ、五六のはらトアリ」 南留別志「源氏物語ニ、五六のはらト云ヘルハ、潑剌ト云ヘル琴ノ手ナリ、五六八、徽ノ名ナリ」 倭訓栞、はら「源氏ニ、五六のはらト云ヘルハ、撥刺ト云ヘル琴ノ手ナリ、五六八、絃ニテ、一絃ハ散聲、一[illegible]ハ撥聲、二絃、一聲ノ如ク彈ズルヲ云フナリトゾ」

ごろく-ぶし (名) [小六節] 小唄ノ名。慶長ノ頃、小六ト云フ馬追ノ、謠ヒ始メシモノト云フ。 [illegible]竹初心集(寛文)中、ごろ、ぶし「ごろく突イタル、竹ノ杖、ごろく、本ハ尺八、中ハ笛、ごろく、末ハ女郎衆ノ、筆ノ軸、ごろく」紫一本(天和、戸田茂睡)氷川大明神「小六ト云フハ、赤坂、一木[illegible]ナリ、[illegible]男ニテ、伊達者ナリ、[illegible]アル出立ニテ、馬ノ口ヲ取リ、京大坂マデ追ヒアリク「小六、生レハ、西ノ國、育ハ、關東ノ武藏野ニ住ム」ト、小歌ニマデ謠ハレシ、小六ナリ」 故郷歸江戸咄(貞享)「慶長ノ頃、關東ノ小六トテ、云云、小歌無雙ノ上手ニテ、[illegible]、[illegible]ヲ忘レテ、[illegible]レト カヤ、云云、小六ぶしトテ、貴賤共ニ歌フ」

※ごろ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲヨ (自動、下一) [轉] 〔ごろバるト云フ自動詞ノアリシ、其口語ナラムト思ハル(起くる、おきる)〕 ごろがるニ同ジ。マロブ。「石ガごろげる」滿園ノ中へごろげ込ム」

ごろ-ごろ (副) [轉轉] 〔轉ヲ重ネテ云フ語、其條ヲ見ヨ〕 轉リユク狀ニ云フ語。コロリ、コロリ。 狂言記、文藏「コロリコロリ、ごろごろト、コロブトコロハ」

ごろ-ごろ (感) (一)鈴ノ鳴ル音ニ云フ語。ガラガラ。 夫木抄、三十四、社、宮、八少女ノ、振ルテフ鈴ノ、ごろごろニ、七社ハ、宮居セリトゾ」 (二)笑フ聲ニ云フ語。(呵呵ト通ズ、漢語ノ胡盧ト、暗合ス) 犬筑波集(永正)二山ノ奥ニハ、何笑フラム」谷川ニ、小石流レテ、ごろごろト」(活版本) (三)猫ノ、喉ヲ鳴ラス聲ニ云フ語。

ごろ-ごろ (感) 〔犬ごろノ、ごろヲ重ネテ云フカ、或ハ、今、羽後、由利郡、龜田邊ニテ、來ノ命令形ノ來よ、おいヲ、ごろト云フ(爲よ、ごろ)一般ナリシ語ノ、遺レルモノカ、英語ノ Come. モ、來よノ意ナリ(今ハ、洋犬ヲ、かめト云フ)〕 犬ヲ呼ブニ發スル聲。 狂言記、子盗人「向[illegible]殿ノ犬のごろハ、マダ目ガアカヌ、ごろごろごろ」 一休咄(寛文)二[illegible]ノ[illegible]ヲ取出シ、犬ニ見セテ、ごろごろ ト云フ」

ごろ-ごろ (副) [轉轉] 〔ごろごろ(轉轉)ノ轉音、其振舞ヲ情ミテ、濁ル〕 空シク轉リ居テ、務ムル所ナキ狀ニ云フ語。 「每日、ごろごろ[illegible]居ル」ごろごろトシテ日ヲ暮ラス」

ごろ-ごろ (感) [轟轟] 〔聲ニ云フごろご

ろヲ、强ク云フニ因リテ、濁ル」(一)車ノ轟ク響ニ云フ語。ガラガラ。(二)雷ノ發スル聲ニ云フ語。殷殷 小兒語ニハ、名詞トシテ、直チニ、雷ノコトヲ云フ。「ころころ樣」

ころしも (接) 〔しハ、指ス意ノ辭、もハ、感動詞〕 時、正ニ。今昔物語、十四「頃しも、夏ノ頃ニテ、暑サ、堪ヘガタキニ」(異本)

ころ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) |殺| 〔倭訓栞、ころす「枯らす」ノ轉語ナリ」(可笑しき、をかしき。すめらぎ、すめろぎ)動物ノ生氣ヲ枯ラスナリ、活すノ反」 (一)死ナス。命ヲ斷ツ。息根ヲ止ム。 古事記、上三十「次國之人草、一日絞ニ殺 千頭ニ」 崇神紀、十年九月、畏城「大城戸ヨリ、窺ヒテ、許呂佐ムト、スラクヲ知ラニ」 夫木抄、三十六、寛平御時、后宮ノ歌合「限リナク、深キ思ヒヲ、忍ブレバ、身ヲころすニモ、劣ラザリケリ」 (二)壓シツケテ、小サクス。殺グ。「息ヲころす」烟管ヲころす」 (三)滅ラシテ、掠ム。「三十人ノ頭數ヲころしテ、廿人ト、帳面ニツケル」 (四)裕ニ、質ニ入レル。マゲル。 俗語考(橘守部)「畿内、又、江戸ニテモ、賤シキ若ノ隱語ニ、衣服ヲ質物ニヤルコトヲ、殺すト云ヘリ」

ころすけ (名) |五郎助| 〔ころハ、啼聲、擬人シテ、助ト云フ(ちょび助、やけ助)〕 ふくろふ(梟)ノ異名。 物類稱呼(安永)二、動物、「梟、ふくろふ、片田舍ノ人ハ、五郎七ほうこう、ト鳴クトモ云ヘリ」

ころぜに (名) |洪武錢| 〔洪武ヲ、ころぶト言ヒナシ、ころびぜに、ころぜに、トナリタル語カ、ころぶハ、潰るニテ、磨滅ノ意ニモアルカ〕 洪武通寶(其條ヲ見ヨ)ノ異名。下略シテ、ころトノミモ云フ、但シ、其磨滅レタルモノヲ云ヒシガ如シ。蓋シ、我ガ國ニテ、私鑄錢モ出來、錢質、惡シク、多年ノ通用ニテ、磨滅シタルヲ、新鑄ノ寛永通寶錢ニ對シテ、呼ビタル語ナルベシ。 俚言集覽、ころ錢「洪武通寶ヲ云ヘリ、犬子集(寛永)十五、雜、下「鐚ノ、ゆつほヘ入レル、ころ錢カナ」(湯壺ハ、坩堝ナリ) 似勢物語(寛永、烏丸光廣)「をかし男、錢擇リケル女ニ言ヘリケリ、云云「我レナラデ、異錢擇ルナ、形無シヤ、ころ缺取ラヌ、法度ナリトモ」 倭訓栞、ころぜに「ころ錢ト云フコト、寛永ノ令ニ見ユ、ころひ錢ナルベシ」 合類節用集(元祿)七、器財門「洪武錢、今、按、高麗王類所レ鑄之錢乎」

ころた (名) |五郎太| ころたいし(五郎太石)ノ略、次條ヲ見ヨ。

ころたいし (名) |五郎太石| 〔ころハ、ころころノころ(石ころトモ云ヘバ、元ハ、清音ナルベシ)轉太ニテ、擬人シタル語(番太郎、番太。丸太、賣太)彫琢セヌガ、轉太ニテ、削ラヌモノガ、丸太ナリ〕 流川ナドヨリ採ル、桃ノ實ノ大キサノ丸石ノ稱。土木ノ用トスルニ云フ。 犬筑波集(永正)「谷川ニ、小石流ルル、ころころト」 物類稱呼(安永)一、石、いし「畿内ニテ、ころたト云フハ、石ノ小ナルモノヲ云フ、東國ニテ、石ころト云フ」

コロタイプ (名) 〔英語、Collotype.〕 寫眞印刷版。硝子板ニ藥液ヲ塗リ、暗所ニテ乾シタルモノニ、寫眞ノ種板ヲ當テテ日光ニ曝シ、現像シテ印刷版トス。

〰**ころた・つ**・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) |自立| 〔ころ(自)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 ヒトリダツ。獨立シテ、威權ヲ擅ニス。 雄略紀、九年、紀小弓宿禰、小鹿火宿禰、等、大將ノ命ヲ受ケテ、新羅ヲ征ス、小弓、病ミテ薨ズ、五月「紀大磐宿禰、聞ニ父既薨ニ乃向ニ新羅ニ執ニ小鹿火宿禰所レ掌兵馬船官、及、諸小官ニ專用ニ威命ニ」

※**ころつき** (名) |破落戸| 〔次條ノころつくノ名詞形、ころハ、下略ナリ、ころんぼうハ、ころ坊ノ音便、破落戸ノ條ヲ見ヨ〕 定レル住居モ、職業モ無クテ、漂泊ヒ居テ、善カラヌコトスル惡漢ノ稱。又、ころ。ころんぼう。(東京卑語) 俚言集覽、ころつき「近年、江戸ノ流行ノ詞、無賴ノ少年ガ、人ノ許ニ寄宿セルヲ云フ」(文化、文政ノ頃ナリ) 續說郛、十八「撒潑無賴者、謂ニ之破落戸ニ」 近年、稍、品位アル者ノ惡漢ニ、羽織ころ、ナド云フ語、出來タリ、支那邊ヲ彷徨フ者ヲ、支那ころ、上海ころナド云フ。

ころつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) |轉轉| 〔ころころ(轉轉)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)處定メズ、コロガル。「古道具ガころつく」(二)サマヨフ。サスラフ。破落戸トナル。

ころつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) |雷鳴| 〔轟轟ノ條ヲ見ヨ〕 雷、聲ヲ發ス。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「オッニころつく、雷ノ臍天カラ、懸クイタブル、地震ノ尻ノ毛マデ」

コロッケ (名) 〔佛語、Croquette.〕 西洋料理ノ名、牛肉ヲ、細カク刻ミ、馬鈴薯ヲ茹デテ、裏漉ニシタルモノニ雜ゼ、鹽、胡椒ノ粉ヲ、適當ニ加ヘ、鷄卵ヲ割リ入レテ、丸トナシテ、麵包粉ニ塗シ、鍋ニ入レ、油ニテ揚ゲテ、成ル。

コロップ (名) |栓| ころく(栓)ノ條ヲ見ヨ。

ころどり (名) |自捕| 〔ころ(自)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 狩スルニ、鷹ノ、雁ナドヲ、一羽ヅツ、捕ルコトナリト云フ。 倭訓栞、後編、ころどり「鷹ノ、面面ニ、一羽ヅツ、雁ヲトルヲ云フト云ヘリ」

ころみ (副) |頃| ホドニ。クラキニ。

ころね (名) |轉寢| ころびねヲ見ヨ。

〰**ころばえ** (動) |所嘖| 嘖ぶノ條ヲ見ヨ。

ころばか・す (動) |轉| 〔威す、おどかす。だます、だまかす〕 次條ノ語ニ同ジ。コロガス。 季吟獨吟「所マダラ、雪ころばかし、下リ立チテ、作ル達磨モ、ソレト見ワカズ」(嬉遊笑覽、六、下)

ころば・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) |轉| 〔ころぶノ他動(狂ふ、くるはす。うつろふ、うつろはす)〕 (一)轉ブヤウニス。地上ニ、廻ラシテ遣ル。マロバス。コロパカス。 日本振袖始(享保、近松作)一「御身ノ長ケ八尺、力、千曳ノ岩ヲころばし」「玉ヲころばす」 (二)倒ス。倒 「相撲ヲ取ッテ、相手ヲころばす」

ころばた (名) |自旗| 〔ころ(自)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 孤立ノ旗。軍勢ノ駈引ノ一致セヌヲ云フ語。(一揆ノ旗ニ對ス) 鵯鶻合戰物語(文明、一條兼良)「寄手、以前モ、鳥ノ一類コソ、眞玄(鳥ノ名)ガオモムキニモ從ヘ、面面ニ、ころ幡ヲ立テテ、一味セズ、懸クルモ、引クモ、思ヒ思ヒナリ」(武家名目抄稿、三十四、旗幟部、一、下)

ごろはちぢゃわん (名) |五郎八茶碗| 〔五郎八ハ、創製シタル陶工ノ名ナリト云フ〕 飯茶碗ノ、粗製ニシテ、大ナルモノ。

〰**ころび** (名) |嘖讓| 〔嘖ぶノ名詞形〕 嘖ブコト。嘖ぶノ條ヲ見ヨ。

ころびあひ (名) |轉合| 〔ころびねシテ合ひタルナリ、催馬樂、總角「あげまきや、尋バカリ、離リテ寢タレドモ、まろびあひニケリ」(あげまきハ、少年男子ナリ)〕 男女、私ニ約シテ、夫婦トナレルコト。クッツキ夫婦。野合 俚言集覽、こ

[illegible]トナリタルモノ云フ、正章千句(慶安)「こてれ、ふたのデ、涼ム尾類サレ、蚊遣ヒモ、夏山住ノ、ころびあひ」

ころび-う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 〔轉打〕 〔[illegible]つ、門違〕 臥シマロブ。コロビウツ。ネガヘリヲウツ。展轉 [illegible]千句(承應)「サカレル猫ハ、ころびうつナリ」 堀川百首題狂歌[illegible]「[illegible]ころびヲ打ちテ、若鶏カナ」

ころび-がき (名) [illegible]牡蠣ノ一種、岩石ニ著カズ、海中ニ轉ビテアルモノ、殻、肉、大キクシテ、味、劣ル、夏、食フガ故ニ、なつがきノ名モアリ。[illegible]

ころび-キリシタン (名) 〔轉切支丹〕 ころぶ(轉)ノ條ヲ見ヨ。

ころび-げいしゃ (名) 〔轉藝者〕 ころぶ(轉)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

ころび-ね (名) 〔轉寢〕 〔ころぶハ、倒レ臥スナリ、其條ヲ見ヨ、ごろねハ、轉轉寢ルノ意〕 平常着タル衣服ノママニテ、臥シテ寢ルコト。マロネ。ごろね。 博多小女郎波枕、上「[illegible]」

ころ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔比〕 〔比ヲ活用セサセタル語(色、いろふ。歌、うたふ。轉、ころぶ)ころ(比)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ〕 類ふ、等しくあり、如くあり、ノ意ヲ云フ、古言。比擬ス。匹ニシテ、君ニ擬フヲ、等ころふ(借)ト云ヒ、彗星ノ光ノ、目ノ如クナルヲ、目ころふ(字)ト云フ、各條ヲ見ヨ。

ころ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 〔轉〕 〔轉ヲ活用セサセタル語(哀、あはれぶ。比、ころぶ)其條ヲ見ヨ、自伏すナリト云フハ、非ナリ、ころぶト云フ語ハ、見エズ〕 (一) 轉轉、廻リユク。マロブ。コロガル。コロゲル。展轉 宇治拾遺、十五、第八條「鼻、如ク、廣ノ中ヨリころび出デサセタマヒテ」 (二) 躓キ、倒ル。辷リ、タフル。コケル。顚蹶 狂言記、二千石「壺ノ縁ニ躓イテ、轉うデ御坐レバ」「[illegible]」 (三) 臥ス。横ニナル。臥 「ころび寢」 (四) 淫ヲ賣ル。ころび寢スル由ノ語。(江戸ノ町藝者ニ云フ) [illegible]「寛保元年、踊子、停止セラル、ころび藝者ノ鼻祖也」(踊子ハ、町藝者ノ前身ナリ、其條ヲ見ヨ) 川柳「三味線ノ、下手ハころぶガ、上手ナリ」

ころ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 〔轉〕 〔改宗、即チ、轉宗ノ轉ヲ、ころぶト讀ミタル語ナルベシ、倭訓栞、ころび「耶蘇ノ外道ニ入リタル者ノ、佛道ニ歸シタルヲモ云ヘリ、轉ノ義ナルベシ」ころばむト顚ヘバ、許シタリト云フハ、即チ、是レナリ、俵ニ入レタルガ、俵ノママニ轉ゲ出デテ、願ヒシニ因ツト云フハ、附會ナリ、偷、下ニ[illegible]出典ヲ見ヨ〕 切支丹宗門ニ入リシ者ガ、改宗ス。改宗シタル者ヲ、ころび切支丹ト云ヒキ。 南蠻寺興廢記「[illegible]所ノ官使、嚴シク糺明シテ、改宗セサル者共ヲ召捕ヘ、一人ヅツ俵ニ入レ、京都、三條河原、六條、[illegible]ノ馬場、[illegible]、七道ノ[illegible]、此三箇所ニ、五十俵ヅツ積上ゲル、改宗ノ願ヒアル者ハ、俵ノママころび出デテ、願ヒヲ遂ズ、願ノ所ノ宗門ヲ開キ、其寺ノ寺僧ヲ呼ビ、其寺ノ[illegible]ニ任ル旨、[illegible]ヘ差出ス、是レ、寺手形ノ始マル所ナリ、改宗スル者ヲ、ころぶト云フモ、是等ノ縁ニ始マルナルベシ」 [illegible]三年ヨリ、[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]、一人ヅツ俵ニ入レ、云云、五十俵ヅツ積重ネテ、云云、改宗スル輩ハ、ころぶト云フハ助クベクト、言[illegible]シアル故ニ、[illegible]リ、下積ミニナリシ者、[illegible]ニ、ころぶベクト云フニ、ころばむト云フ[illegible]ハ、コレヲ引キナロシ、云云、助[illegible]トナリ」 [illegible]大全、一「[illegible]記曰、[illegible]ニ[illegible]ハ、俵ニ入レテ、五條ノ橋ニ積重ネテ、鐵杖ヲ以テ、ころべ、ころべト責メケル、夫故、本宗ニ歸ルヲ、ころぶト云フ也」 狂歌ニ云フ、ころび吹ク、尺八竹ヲ、きりしたん、俵ニ巻カレ、[illegible]ニナル」 大才集「[illegible]ハ、ころびサウナリ」[illegible]ニ、ナス天主ニ、[illegible]見シテ」

ころ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 〔嘖〕 〔喉ヲ、ころころト鳴ラス意カ、ころろぐト、同趣ナルベシ〕 叱るノ古言。責メ言フ。[illegible] 名詞形ニ、ころびト云フ。[illegible] 仁徳紀、四十一年三月[illegible] [illegible]

ゴロフ-クレン (名) 〔吳羅服連 駝毛布〕 〔蘭語、Grof(粗)grein.(駝毛布))(英語、Grogram.)〕 西洋舶來ノ毛織物、駱駝ノ毛ニテ織ル、今、多クハ、羊毛、又ハ、綿麻ノ絲ヲ交ヘテ、固ク紡ギテ織ル。紺、黑、黃、赤、紫、ナドアリ。略シテ、吳羅。京都ニテ、鬼フクレン。 牛郎織 [illegible] 御觸書、廿一、寛文元年三月廿日、[illegible]「ごろふくりん」 好色一代男(天和、西鶴)七「羽織ハ、ごろふくれん、[illegible]」

ころ・ふ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 〔自臥〕 〔ころ(自)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 自ラ、臥ス。 萬葉集、二 三十 長歌「立タセレバ、玉藻ノ如ク、許呂臥者、川藻ノ如ク、靡キ合ヒシ、宜シキ君ノ、[illegible]」 [illegible]ラバ、住キニモ[illegible]ム、云云」

ころ-ぶね (名) 〔小艪舟〕 一挺立ノ小早舟。 夫木抄、三十三、船、太宰ノ任ニテ下リタルニ、[illegible]キテ、もたひト云フ[illegible]ニテ、太宰大貳高遠卿「ころ船ニ、醉フ人アリト、聞キツルハ、もたひニトマル、今日ニヤアルラム」(甕ニカケタルカ) 和漢船用集、[illegible]「ころぶね、小早舟ニテ、小艪舟也、[illegible]スベテ、[illegible]ト云テ、[illegible]ニ、大手ニ人カカリ[illegible]、[illegible]ノ四十挺立、小艪ニシテ、八十丁立也、二人漕ニ對シテ、常ノ早舟ヲ、小艪トモ云フ、[illegible]ナリ」

コロポックル (名) 〔蝦夷語、Koropok-guru. 下ニ住ム人(穴居人)ノ義。又、Koroko-ni.(蕗)、poko.(下)、guru.(人)、蕗ノ葉ニテ穴、居ヲ覆ヒ、其下ニ住ム人ノ義ニテ、其傳說、存セリト云フ、Toi-chisei-guru.モ、蝦夷語、Toi.(土)、chisei.(家)、guru.(人)ノ義ニテ、穴居人種ノ意ナリ〕 太古、北海道ニ住ミシ穴居ノ人種ノ名、極メテ矮小ナリシト傳フ。或地方ノ蝦夷ハ、之ヲといちせぐるト云フ。

ころ-ほひ (名) 〔比頃〕 〔比ふノ、延ビテ、ころほふトナシル動詞ノアリテ、其名詞形ノ遺レルナルベシ(裝ふ、よそほふ、よそほひ)〕 (一) 頃ト云フニ同ジ。ソノヲリ。コロアヒ。時期 [illegible]三年正月、中大兄皇子、中臣鎌子[illegible] [illegible]記、下、[illegible]十九[illegible]七八箇年比[illegible] 夫木抄、七、[illegible] [illegible]ノ、ころほひナレヤ、いそノ[illegible]ニ、[illegible]ノ、ヲルト思ヘバ」 (二) 程。ホドアヒ。程度 [illegible]ニモ、又、[illegible]アリテ、中ノ科ノ、ケシウハアラヌ、撰リ出ヅベキころほひナリ」

ごろん-ず・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔御覽〕

〔御覧ずるヲ、更ニ、敬語ニ、ごらうぜらるト云フヲ、約轉シテ云フナリ、狂言記、拔殼ニ「コレごろんぢやれマセイ」ト、下二段ノ活用ヲ存シテアリ、是レガ、四段活用ニ變ジタルハ、仰せらるるノ、おつしやる、入らせらるるノ、いらつしやるトナリシ例ナリ〕見るヲ、丁寧ニ云フ語。東海道中膝栗毛(享和、一九)初編、上「ワッチラガ所ノ生醉殿ヲ、御覧ぢやれ」「コレヲごろんぢやれ」

ごろんばう (名) 〔破落戸〕 破落戸ヲ見ヨ。

ころも (名) 〔衣〕 〔倭訓栞、ころも、「服物ノ義ナルベシ」(黄金、こがね。木實、このみ。主人、あるじ。惡し、わるし。作物所、つくもどころ。鑄物師、いもじ)沖縄ニテ、くるむ〕(一)〔衣。衣。着ル物。キモノ。織物ナドニテ、人ノ身ニ合ハセテ縫ヒ作リテ、着ル物ノ總名。衣服。衣裳。着類。皮衣(裘)ナドモアリ。古事記、上、四十長歌「染木ガ汁ニ、染許呂母ヲ」萬葉集、十九二十長歌「服之襴」天治字鏡、十二八廿「衣裳、己呂毛」(二)〔專ラ、僧ノ衣服。法衣。法服。衲衣 天武紀、上、一東宮(天武天皇)曰「臣、今日出家爲ニ陛下ニ(天智天皇)欲レ修ニ功德ヲ天皇聽レ之、卽日、出家法服」枕草子、四、四十四段「老イタル女ノ法師ノ、云云、帶ヨリ下、五寸バカリナル、ころもトカヤ云フベカラム、云云、ヲ着テ」海人藻芥(應永)上、僧俗裝束相當、鈍色ハ、俗ノ狩衣也、衣ハ、俗ノ直垂也」(三)食物ノ表面ニ、塗シツクルモノ。揚物、てんぷらノころも、金團ノころも、金米糖ノころもアリ、各條ヲ見ヨ。

ころもえ (名) 〔衣、又、衣ノ字ノ草書ナリ〕 平假名ノえノ字ノ稱。又、キヌエ。モトエ。(江ノ字ニ別チ云フナリ)

ころもがへ (名) 〔更衣〕 (一)着タル衣ヲ、別ノ衣ニ着更フルコト。源、九、葵三十一「鈍色ノ直衣、指貫、薄ラカニ衣がへシテ」(二)一定ノ季節ニ、一定ノ衣服ヲ改メテ、着用スルコト。中古ハ、陰暦四月朔日ヨリ、袷ヲ着ル、寒ケレバ、下ニ、白小袖ヲ用キル、コレヲ、白重ト云フ、五月五日ヨリ、帷子ナリ、涼シキ時ハ、下衣ヲ着ル、コレヲ、一重がさねト云フ、八月十五日ヨリ、生絹、九月九日ヨリ、綿入、十月朔日ヨリ、練衣ヲ着ルナリ。江戸時代ナルハ、稍、異ナリ。 源、十三、明石六十「四月ニナリヌ、衣がへノ御裝束、御帳ノ帷子ナド、由アルサマニ爲出ヅ」夫木抄、七、更衣「夏來レバ、衣がへシテ、山賤ノ、空木垣根モ、きらがさねナリ」永昌記、保安五年四月一日「今朝奉レ仕更衣御裝束こ 年中恆例記、五月五日「從二今日一帷子也」同、九月朔日「今日ヨリ九日マデ、あはせ也、九日、從二今日一小袖也」俚言集覽、衣かへ「更衣、四月朔日、十月朔日ヲ云フ、今、江戸ノ御定ハ、四月朔日ヨリ五月四日マデ、袷小袖、五月五日ヨリ八月晦日マデ、ひとへ帷子麻布ナリ、九月朔日ヨリ同八日マデ、袷小袖、九月九日ヨリ三月晦日マデヲ、綿入小袖ナリ」

ころもがへ (名) 〔衣替〕 男、女、互ニ、衣服ヲ交換へ、或ハ、借リテ着ルコト。古ヘハ、男女ノ服、其製、同ジクシテ、筒袖ニテ、丈ハ、膝マデノモノナリキ、交換スルハ、情交ノ上ノコトナリシガ如シ。催馬樂、更衣「己呂毛加戸セムヤ、サ公達ヤ、我ガ衣ハ、野原篠原、萩ノ花摺ヤ」(野原ヲ通ヒテ、花摺トナリ、麗シクナレリ) 萬葉集、一八廿「宇治間山、朝風寒シ、旅ニシテ、衣借すベキ、妹モアラナクニ」同、十四三「筑波嶺ノ、新桑繭ノ、衣ハアレド、君ガ御衣シ、アヤニ着欲シモ」

ころもかたしく (動) 〔衣片敷〕 衣ノ片袖ヲ、床ナドニ敷キテ、寢ル。ヒトリネス。伊勢物語、六十三段「サムシロニ、衣かたしき、今宵モヤ、戀シキ人ニ、アハデノミ寢ン」

ころもづつみ (名) 〔衣包〕 衣服ヲ包ムニ用キル、布帛製ノモノ。風呂敷ノ類。ヒラヅツミ。衣幞 倭名抄、十四九十行旅具「衣幞、古呂毛都都美」天治字鏡、十二八廿「衣幞、己呂毛乃豆豆彌」

ころもで (名) 〔衣手〕 〔衣ノ一部ノ、兩手ヲ覆フ所ノ義、袖ト云フモ、衣手ナリ〕 袖ニ同ジ。古ヘノ衣手ノ製ハ、男女、共ニ、筒袖ニテ、手先ヨリ、長ク餘ルヤウニ作リタルガ如シ、故ニ、作業スル時ナドハ、先ヲ反シ、又、折リ、或ハ、人ヲ招ク時ハ、先ヲ振リタリ。又、衣袖モ、妻モ、身ニ副フモノナレバ、妻ニ別ルルヲ、衣手の別れト言ヒ做シタルコト、多シ、衣衣の別れ、袖の別れノ意ナリ。萬葉集、九二十廿長歌「衣手、常陸國」常陸國風土記、倭武天皇、新治ノ縣ニテ、流泉ニテ手洗ヒタマフ「御衣之袖、垂レ泉而沾、便依ニ漬レ袖之義、以爲ニ此國之名、風俗諺、曰ニ衣袖漬國、是也」(消し、消ち。母父、阿母志志) 古今集、一、春、上「君ガタメ、春ノ野ニ出デテ、若菜摘ム、我ガころもでニ、雪ハ降リツツ」萬葉集、十三十六長歌「愛シ妻ト、物言ハズ、別レシ來レバ、早川ノ、行方モ知ラズ、衣袂ノ、反ルモ知ラズ」(歸ル路ヲモ覺エヌニカケタリ) 同、十七廿三長歌「ハシキヨシ、妻ノ命ハ、明ケ來レバ、門ニ寄リ立チ、己呂母泥ヲ、折リカヘシツツ、夕去レバ、床打拂ヒ、ヌバタマノ、黒髮敷キテ」(旅中ニ病ミテ、故郷ノ家ヲ思フ詠ナリ) 同、四五十「衣手ノ、別ル今夜ユ、妹モ吾レモ、イタク戀ヒムナ、逢フ由ヲ無ミ」(別るニカケテ、紀伊ノ和歌ノ浦ヲ云フ序トス) 同、十二三十六「衣袖ノ、眞若ノ浦」(眞熊野、御吉野、同趣)

ころもでの (枕) 〔衣手乃〕 〔前條ヲ見ヨ、衣手ノ先ノ、長ク餘レル手長ニカケ、ソノた、又ハ、ながノな、ヲ移シテ云フナリ、天離る日ナルヲ、あまざかる鄙ト用キルガ如シ〕 田上山、高屋、名木の川、ナドノ枕詞。萬葉集、一廿二長歌「磐走、淡海ノ國ノ、衣手能、田上山ノ、眞木サク、檜ノ嬬手ヲ」同、九廿二「ヌバタマノ、夜霧ゾ立テル、衣手の、高屋ノ上ニ、タナビクマデニ」(高屋ハ、大和國ノ地名ナルベシト云フ) 同卷十二「衣手乃、名木ノ河邊ヲ、春雨ニ、吾レ立チ濡ルト、家思フラムカ」(家ハ、家人ヲ指スト云フ)

ころものうらのたま (名) 〔衣裏珠〕 〔出典ヲ見ヨ〕 又、衣の珠。佛教ノ因種ヲ受ケタレド、無明ノタメニ忘レテ、後ニ、聞クニ及ビテ悟レル意ヲ云フ語。法華經ノ記事ニ因リテ、衣珠喩ト云フ。 法華經、五百弟子授記品ニ、或人、親友ノ家ニテ、酒ニ醉ヒテ臥ス、友、無價ノ寶珠ヲ、其人ノ衣裏ニ入レテ、他出ス、其人、コレヲ知ラズシテ、去リテ、流浪シ、貧苦ニ惱ム、後ニ、前ノ親友ニ遇ヒテ、衣裏ニ、寶珠ノ藏メテアルヲ知リテ、貧苦ヲ免カルト云フコトヲ記セリ。赤染衛門集、八講スル寺ニテ「今日聽クフ、衣のうらの、玉ニシテ、立離ルヲモ、香ヲバ尋ネム」(一本、立離ルトモ、數ハ尋ネム) 金葉集、十、雜、下「吹キカヘス、鷲ノ山風、ナカリセバ、衣のうらの、玉ヲ見マシヤ」後拾遺集、十七、雜、三「カケテダニ、衣のうらニ、玉アリト、知ラデ過ギケム、方ゾ悔シキ」思フニモ、言フニモマサル、事ナレヤ、衣の珠ノ、アラハルル日ハ」 新古今集、廿、釋教「玉カケシ、衣のうらヲ、カヘシテゾ、愚カナリケル、心ヲバ知ル」

ころものくび (名) 〔衣領|衿|襟〕 衣ノ一部、頸ヲ圍ム所。クビカミ。エリ。又、衣のくび。古事記、中(景行)四十七「衣(衿)」字鏡八廿「衿、己呂毛乃久比」倭名抄、十二七衣服具「衿、頸也、所ニ以擁レ頸也、古呂毛乃久比」(原書、袷ニ作ル、ハ誤ナリ、箋注倭名抄ニ、衿ニ作ル) 天武紀、上十「便取ニ其襟ニ」 枕草子、七、六十八段「冠、きぬのくびナド、ツクロヒテ」

ころものすそ (名) 〔衣裾〕 〔裳ノすそト、すそト言ヒ別ツ語ナルベシ〕(一)〔單ニ、すそト云フニ同ジ。萬葉集、十九十鷄飼ノ長歌「吾妹子ガ、記念ガテラト、紅ノ、八入ニ染メテ、オコセタル、服之襴モ、徹リテ濡レヌ」古今集、四、秋、上

「吾ガ夫子が、衣のすそヲ、吹キカヘシ、ウラメヅラシキ、[illegible]」(二)[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

おろものたま (名) [衣珠] おろものうらのたま ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「キガタキ、御法ノ花ニ、オク露ヤ、頓テ衣の、珠トナルラム」

〜**おろもばお** (名) [衣箱] 衣類ヲ入レ置ク[illegible]。衣箱。[illegible]、五十一、[illegible]一具」

おろもへん (名) 衣偏 漢字ノ偏ニアル、衣ノ字ノ稱。衽、袂、袍、補、袴、ナドノ如シ。衣旁

おろり (名) 虎列刺ノ條ヲ見ヨ。

おろりと (副) [卓然] [おろ(目)ノ語原[illegible]] (一)獨リ、他ニ異ナル意ヲ云フ語。「是レ一ツ、おろりと變ハッテ居ル」おろりと[illegible]」(二)轉ジテ、不意ナル意ニモ云フ。「おろりと忘レタ」おろりと死ヌ」

おろりと (副) [轉] 「おろりハ、轉ニ、りノ添ハリタル語(らノ條ヲ見ヨ)反轉ト通ズ」(一)轉ガリ、横タハル狀ニ云フ語。[illegible] ドガ、小兒ヲスカシテ寢ツカスル詞ニ、おねんねよ、おころりよ、ナド云フ。(二)身ヲ投ゲウチ、心ヲ寄スル意ニ云フ語。傾倒 (寶倉寛文四、非簡「まめ男ノ、おろりとナラセタマフ」東海道中膝栗毛(文政、一九十返舍)下、女中ナラヲ、おろおろと面白ガラセル」

おろりん・おゃん (副) 寬樂[illegible]ノ調子ヲ合ハスル音ニ云フ語。拇指ニテ、巾、爲、斗、ノ三絃ヲ、次第ニ連彈スル音ガ、おろりんニテ、又、ニ、拇指ト、中指トニテ、斗ノ絃ト、五ノ絃トヲ、一時ニ合彈スルガ、おゃんナリ。

〜**おろろ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ** (自動、四) [嘶嗌] 「おろおろヲ約メテ、活用セサセタル語」(連連ぐ、つらら ぐ。苛苛ぐ、いらら ぐ)おろおろハ、笑フ聲ニモ云ヒ、猫ノ喉ヲ鳴ラス聲ニモ云フ、其條ヲ見ヨ」病ニ因リテ、喉、喉ビテ、おろおろト鳴ル。[illegible]、古語拾久」[illegible]、コロロク」

コロロホルム (名) くろろほるむニ同ジ。

おろろん (名) [蟋蟀] [鳴ク聲] おほろぎ(蟋蟀)ノ一名。(大阪)

〜**おわ** (名) [聲] [おゑノ、おわト轉ズルハ、すゑ(据)、すわる。うゑ(植)、うわる。うへ(上)、うはまへ。なへ(苗)、なはおろトナルト、同ジ」聲ノ轉、熟語ニノミ用ヰル。竹取物語「おわだかニ、ナ、ノタマヒソ」字鏡「[illegible]、己和[illegible]、[illegible]、己和豆久利」天治字鏡、十一「[illegible]、己和世利」二[illegible]聲色」

おわいろ (名) [聲色] (一)聲ノ色。聲ノツヤ。コワザシ。コワツキ。コワネ。夫木抄、二十、[illegible]ノ、上毛ハ竹ニ、移ヘドモ、聲ノ色ニハ、似ルモノゾナキ」(二)次條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三篇)上「聲色ノ[illegible]サン」

おわいろつかひ (名) [聲色遣] [前條ヲ見ヨ」歌舞伎役者ノ賓白ノ口跡ヲ眞似テ言フコト。コワマネ。モノマネ。假聲 [illegible]、歌舞[illegible](元祿)ニ、芝居役者ノ聲色ヲつかふ、云云、今ノハ、役者ノ物まねヂャ、江[illegible]ニ、[illegible]、云云、あやめや平治トテ、大坂ヨリ來リ、云云、芳澤あやめ(女形)ノ聲色ヲマネケル」[illegible]、江戸ニテ聲色ト云ヒ、京坂ニテ物まねト云フ、俳優ノ聲ヲ擬スルノ小口技也」

ごわう (名) [牛王] 牛王寶印ノ略、其條ヲ見ヨ。

ごわう (名) [牛黄] [字ノ呉音] ウシノタマ。牛ノ膽、又、肝臟中ヨリ生ズル、一種ノ鮓荅ノ稱。大、小、均シカラズ、全體、黄ニシテ、碎ケバ、内ハ、重疊、片ヲナシテ、白點アリ、微香アリ、藥用トス。[illegible]、凡、官ノ牛死者、[illegible]牛黄一具、別[illegible]、[illegible]、文武二年正月、土佐國獻二牛黄二」合類節用集(元祿)三、神祇門「牛脾中、在二牛黄、[illegible]、[illegible]」[illegible]本草二」本草綱目啓蒙、三十三、獸、牛黄、ゴワウ」

ごわううり (名) [牛王賣] 牛王寶印ノ(二)ヲ賣ルコト。又、其人。我衣(天和)「牛王賣ノ比丘尼ハ、元、熊野牛王寶印ヲ賣リニ出ダス比丘尼ニ、文庫ニ入レテ持タセ」

こわうこんらい (副詞句) [古往今來] 往ニシ昔ヨリ、今ニ至ルマデ。潘岳、西征賦「古往今來、邈矣悠哉」

こわうべう (名) [狐王廟] 稻荷ノ神ノ社。故事成語大辭典「狐王廟、俗ニ云フ、稻荷ノ社ナリ、行露雜識ニ見ユ」

ごわうほういん (名) [牛王寶印] [ごハ、牛ノ呉音(牛蒡、牛頭)ほうモ、寶ノ呉音、牛王トハ、阿彌陀如來ノ一稱、寶印トハ、如來ノ[illegible](種子)ノ梵字、共ニ印ニ刻シテ押スニ因リテ云フ、此物、天竺、支那ニテハ聞カズ、我ガ國ニテ出ス佛寺ハ、華嚴宗、眞言宗ナルガ多シ、或ハ牛王寶命トモ記ス、生土寶印ノ字畫ノ、上下ニ離合シタルニテ、生土ノ神ノ寶命ナリナド云フ說ハ、論ズルニ足ラズ、又、牛黄ト混ジテ說クモ、謂レナシ」(一)諸佛寺ヨリ出ス、厄難除ノ護符ノ名、紙面ニ、牛王寶印ノ字、幷ニ、梵字ヲ印刷シタルモノ、後ニハ、諸神社ニテモ、倣ヒテ出セリ。下略シテ、牛王ト云ヒ、上略シテ、寶印トモ云フ。民家ニテ、コレヲ受ケテ、身ノ守トシ、又、門戸ノ上ニ貼ル、印文、寺、社、ニ因リテ、一樣ナラズ、佛寺ヨリ出スモノ、紀伊ノ高野山ナルハ、高野山御寶印ト印シ、其他ハ、大和ノ法隆寺、奈良ノ東大寺、京都ノ東寺、備前ノ西大寺、等ニテ、神社ノ主ナルハ、紀伊、熊野權現社、京都ノ祇園神社、奈良ノ手向山ノ八幡宮、駿河ノ淺間神社、等ナリキ。(二)特ニ、熊野神社ヨリ出スモノ、名高ク、熊野牛王ト稱シテ、牛王ノ名ヲ專ラニセリ。紙面ニ、熊野御寶印、幷ニ、梵字ヲバ、七十五隻ノ烏ノ象ヲ以テ、印ス、熊野比丘尼ナド、コレヲ諸方ニ賣リアルク、牛王賣ト云ヒキ。鎌倉幕府創立時代ノ前後ヨリ、起請ヲ立ツル時、神文ヲ、熊野牛王ノ紙ノ裏ニ記スコトトナレリ、熊野ノ神ハ、妄語ノ罪ニ殃ス、ト云フニ起レリト云フ。きおゃう(起請)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。合類節用集(元祿)三、神祇門「寶印、謂下如來種子梵字印上レ之、故名、蓋、据二十一面[illegible]呪一說」同「牛王、据二[illegible]氏說一、則牛王者、如來之一稱也、見二[illegible]經、智度論二」安照堂谷響集(元祿、[illegible])一「諸寺、諸社、牛王寶印者、西竺、中華、不レ聞二此事一云云、今謂、牛王者、佛之異名、故、[illegible]十七云、如來、名二大沙門、人中牛王、人中丈夫一云云、寶印者、謂二佛種子梵字一印レ之、云云、本由二十一面神呪經一而起、十一面中頂上佛面、即、阿彌陀也、彼佛種子、梵書紇哩字、有二讓レ災除レ役之功能一云云」和漢三才圖會(正德)十九、神祭「牛王、熊野之符札、皆用二烏字一、凡有二烏七十五隻一爲二熊野

生土寶印六字ハ烏以二熊野神使一也」 倭訓栞、ごわう「牛王ト書ケリ、云云、金剛頂經ニ、熊野三山ノ事ヲ述ベテ、此三神、映二妄語之罪一糺二破祭之穢一ト見エタリ、起レル事ナルベケレバ、役氏ヨリゾ始マリケム」(役氏トハ、役行者ノコトナリ) 吾妻鏡、四、元暦二年五月廿四日、源義經欵状「以二諸神、諸社、牛王寶印之裏一不レ插二野心一之旨、奉レ請二驚日本國中大小神祇冥道一雖レ書二進數通起請文一猶以無二御宥免一云云」 太平記、廿七、雲景未來記事、出羽國、羽黑山伏、雲景「希代ノ目ニ逢ヒタリトテ、熊野ノ牛王ノ裏ニ、告文ヲ書キテ出シタル、未來記アリ」

ごわうほうみやう (名) 牛王寶命 前條ヲ見ヨ。

をわかれ (名) 子別 親子、別レ別レニナルコト。演劇ナドニ云フ語。「三吉子わかれ」

をわき (名) 小脇 〔をハ、接頭語、其條ヲ見ヨ(小肘、小膝)〕 脇ト云フニ同ジ。平治物語、二、待賢門軍「弓ヲバ、小脇ニ搔イハサミ」

こわく (名) 蠱惑 〔まじものノ條ヲ見ヨ〕 タブラカシ、マドハスコト。左傳、莊公廿八年「楚令尹子元、欲レ蠱二文夫人一」杜註「文王夫人、息嬀也、子元、文王弟、蠱、惑以二淫事一」

をわけ (名) 小分 小サク、分クルコト。細カニ、區分シタルコト。小區分

をわざし (名) 聲差 コワザマ。コワヅカヒ。太平記、三十九、道譽大原野花會事「二宮信濃守、云云、アザワラヒタル聲ざしニテ申シケルハ、都ニテ、霜ヲセザリツルハ、敵ヲ恐ルルニアラズ、只、將軍ニ所ヲ置キ奉ル故ナリ、云云」

〜**をわざま** (名) 聲狀 物言フ狀。コワザシ。源、廿六、常夏廿「アハツケキをわざまニ、宣ヒ出ヅルコトハ」

をわし (名) 小鷲 鷲ノ條ヲ見ヨ。

〜**をわす・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 欸 次條ヲ見ヨ。

〜**をわせり** (名) 欸 〔聲迫ノ義ニテ、塞くナリ、意ナラムカ、欸くト云フモ、聲磨るニテ、同意ナルカ、己和須流ハ、終止形ナリ、新撰字鏡ニ、爲る ナドノ、連體形ニテ擧グル謂ナシ〕 欸ノ古言。シハブキ。動詞ニハ、をわする ト云フ。欸ク。天治字鏡、十一八十「欬、欸也、志波不支、己和世利」 同卷廿「欸、欬也、志波不支、己和世利」 字鏡八十一「欬、欸也、志波不支、己和須留」

をわだえ (名) 聲絕 聲ノ、絕ユルコト。堀河百首、春「答ヘヌニ、何ト終夜、呼子鳥、をわだえモセズ、鳴クニカアルラム」 宇治拾遺、二、第一條「千手陀羅尼ヲ、片時休ム時モナク、打寢ル事モセズ、物モ食ハズ、湯水モ飲マデ、をわだえモセズ、誦シ奉リテ」

〜**をわだかま** (副) 聲高 聲ヲ、高クアゲテ。高聲 遊仙窟「大語」 竹取物語「をわだかまニ、莫宜ヒソ、屋ノ上ニ居ル人ドモノ、聞クニ」 忠岑集「山里ノ、秋をわだかまニ、鳴クモノハ、妻惑ハセル、鹿ニゾアリケル」

こわたり (名) 古渡 舶來ノ布帛、器物、藥品ナドニ、古ク渡リシモノノ稱、質、良シトシテ、貴ブ。古渡。(新渡ニ對ス)

〜**をわづかひ** (名) 聲遣 物言フ狀。コワザマ。源、廿一、少女八「オモモチ、をわづかひ、宜シクモテナシツツ」 同卷十「をわづかひモノモノシク、神サビテ讀ミアゲタルホド」(詩ヲ誦ジタルナリ) 榮花物語、八、初花「言ヒハテムホドノをわづかひ、恥カシキヲゾ」 野守鏡、序「陀羅尼讀ミツルをわづかひ、少シ嗄色ニテ」

をわつき (名) 聲附 〔顏つき、口つき〕 コワザマ。コワザシ。榮花物語、一、月宴「御ケハヒ、アリサマ、御をわつきナド、マダ小サクオハシマス人ノ御ケハヒトモ、見エキコエズ」 狹衣、四、上九「カヘスガヘス申シアグルをわつきノ、イトタノモシゲナレド」

〜**をわづくり** (名) 聲作 コワヅクルコト。コワヅクロヒ。セキバラヒ。謦咳 字鏡八十一「欬、欸也、志波不支、又、己和豆久利」 宇津保物語、國譲、中五十九「御殿ゴモリナドスル程ニ、打チをわづくりシテ、孫王ノ君ハ此處ニカ、ト宣ヘバ」

〜**をわづく・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 聲作 殊更ニ、咳ヲス。セキバラヒヲス。コワヅクロフ。謦咳 宇津保物語、俊蔭五十二「立寄リテをわづくりタマヘバ、此ウツホノ人ハ、琴ヲ引キヤミテ、怪シガリテ見タマヘバ」 源、十、賢木廿「タダ、ココニシモ、殿居申シ候フ、トをわづくる」 同、十一、花散里三「をわづくり、氣色ドリテ、御消息聞ユ」 同、三十一、槇柱十五「サスガニ、直接ニハアラデ、ソノカシ聞エテ、をわづくりアヘリ」

をわづくろひ (名) 聲作 コワヅクロフコト。コワヅクリ。謦咳 古事談、六、亭宅諸道「有國、砌ニ候ヒケルガ、少シをわづくろひヲ申シタリケレバ、殿下、御覽ジヤリ」

をわづくろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 聲作 〔をわづくるノ延(うつる、うつろふ)〕 前前條ニ同ジ。

をわっぱ (名) 小童 〔小童ノ急呼〕 童子ヲ貶シメテ呼ブ語。曾我扇八景(寶永、近松作)下「小わっぱ風情ニトメラレシハ、母ガ勘當、氣ニカカリ、氣オクレタル故ゾカシ」

〜**をわなし** (名) 咆勃 〔聲做ノ義ナラムカ〕 怒リ叫ブコトナルベシ。字鏡八十五「咆休、奴聲、去和奈之」(奴ハ、怒ナラム) 天治字鏡、十二四廿「咆勃、勇猛貌、去和奈志、支可年」 左思 魏都賦「剋二翦方命一吞二滅咆咻一」(註、自矜健之貌) 倭訓栞、をわなし「新撰字鏡ニ、咆休、又、咆勃ヲ讀メリ、聲ノさまナリ」

〜**をわぶり** (名) 聲風 〔ふりハ、歌調ノコトナリ、近江振、水莖振〕 歌フ聲ノ調子。宇津保物語、祭使廿「大君マサバ、ト云フをわぶりニ、其ウ歌ヒタマフ、(歌)左大將ノ主、伊勢海ノをわぶりニ(歌)」 同、菊宴六十二「夕暮ノ、籬ニ招ク、袖見レバ、衣縫ヒ着セシ、妹カトゾ思フ、妹 門ノをわぶりニ、北の方、聞キタマヒテ」(伊勢海、妹門、共ニ、催馬樂ノ歌曲ノ名)

〜**をわまね** (名) 聲眞似 他ノ物言ヒヲ、眞似ルコト。クチマネビ。クチマネ。學舌 枕草子、一、第三段(一本)「女房ノツボネニ寄リテ、己ガ身ノカシコキ由ナド、心ヲヤリテ說キ聞カスルヲ、若キ人、をわまねヲシ、笑ヘド、云云」

をわらは (名) 小童 コドモ。大鏡、上、序「自ラハ、をわらはニテアリシ時、ぬしハ、二十五六バカリノ男ニテコソハ、イマセシカ」

をわり (名) 小割 材木ノ、小サク挽キ割リタルモノ。

をわわざ (名) 聲技 をゑわざノ條ヲ見ヨ。酒食論「をわわざ、骨ワザ、カワザ、益クサヌ事コソ無カリケレ」

をゐ (名) 木居 狩スル鷹ノ、木ノ枝ニ止リテアルコト。又、其木。夫木抄、十八、鷹狩「狩リワタル、ツカレノ鳥ニ、アハムトヤ、をゐスル鷹ノ、空ニ待ツラム」 新後拾遺集、十六、雜秋「鶚ノ、をゐノ下草、枯レシヨリ、隱レカネテヤ、雉子鳴クラム」 雅言集覽、をゐ「顯昭散木集註、をゐトハ、鷹ノ居木ヲ云フナリ、長能歌云、御狩スル、末野ニ立テル、ヒトツ松、手ガヘル鷹ノ、をゐニカモセム、云云、木居ヲ、人ノ歌ニソヘテ、詠ミナラハセリ、後拾遺ニ、我レガ身ハ、トカヘル鷹ト、成リニケリ、年ハ經レドモ、をひハ忘レズ」

こゐ (名) 虎威 虎ノ、羣獸ヲ畏レシムル威力。とらのゐノ條ヲ見ヨ。沈休、恩倖傳、論「鼠憑二社貴一、狐藉二虎威一」

ごゐ (名) 五位 くらゐ(位)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ごゐ（名）［語彙］〔[illegible]彙、類也〕言語ノ種類。コトバノアツマリ。辭書。

ごゐさぎ（名）［五位鷺］〔延喜ノ帝（醍醐天皇）ノ勅命ニ服從シタレバ、五位ヲ授ケラレタリトテ、稱スト云フ、出典ヲ見ヨ、或ハ、其時、五位ヲ授ケラレタルハ、第一頭ノ大鷺ナリシカモ知ラレズ〕（一）鷺ノ異名。平家物語、五、朝敵揃事「延喜ノ帝、[illegible]神泉苑ニ行幸ナテ、池ノ汀ニ、鷺ノ居タリケルヲ、六位ヲ召シテ、アノ鷺、捕ッテマヰレト仰セケレバ、イカンカ捕ラルベキト八思ヘドモ、綸言ナレバ、[illegible]ミ向フ、鷺、羽ヅクロヒシテ、立タムトス、宣旨ゾト仰スレバ、平ンデ、飛去ラズ、即チ、コレヲ捕リテ參リタリケレバ、[illegible]宣旨ニ從ヒテ參リタルコソ、神妙ナレ、ヤガテ、五位ニナセトテ、鷺ノ、五位ニゾナサレケル」（二）今、鷺ノ一種、殊ニ、夜ノミ飛遊スルモノノ稱。三種アリ、形、あをさぎニ似テ、小サク、背、蒼黒ニシテ、頂、翼、腹、黄白ニシテ、背、灰色ニ、脚、黄ニシテ、頂ニ、白キ冠毛、或ハアリ、或ハ無シ、背黒五位ト云フ［水鶏］其他、星ごゐ、溝ごゐアリ、各條ニ註ス [illegible] 俗ニ、夜遊スルコトヲ、ごゐかきふるトモ云フ。

こゐどり（名）［木居鳥］〔木居ノ條ヲ見ヨ〕待スル鷹ノ異名。[illegible] 二、鷹ヲ、こゐ鳥ト云ヘリ」

ごゐのくらうど（名）［五位藏人］藏人所ノ職員、藏人頭ノ次ニ位ス。[illegible] 藏人所、五位殿上人三人、五位藏人三人、名家儒弟、殊[illegible]辨官、此職至極之朝非ノ所」謂、三事兼帶、是也、[illegible]

ごゐのぜう（名）［五位尉］左衛門尉ノ、五位ニ昇レルモノ。左衛門大夫。

こゐん（名）［故院］〔故、並ニ、院ノ條ヲ見ヨ〕崩御マシマシシ太上天皇。保元物語、一、新院御謀反[illegible]事「故院、すハシマシツル程ハ、カナク、二年ノ春秋ヲ送レリ」（新院ハ、崇徳天皇、故院ハ、鳥羽天皇）

ごゐん（名）［後院］〔後世ニ云フ、御隱居御殿ノ意〕太上天皇ノ御居所。豫メ、御讓位後ノ御所トシテ、定メ置キタマフナリ。新儀式、四「後院事、代代、多有二後院一、先[illegible]定其地、又、定二補院司、別當二三人二」榮花物語、四、見はてぬ夢「一條ノ大臣ノ家ヲバ、女院、領ゼサセタマヒテ、イミジウ造ラセタマヒテ、帝ノ後院ニオボシメスナルベシ」神皇正統記、白河院「昔ハ、讓位ノ昔ハ、朱雀院ニマシマス、コレヲ後院ト云フ、又、冷泉院ニモオハシケル」

こゑ（名）［聲］〔言合ノ約轉ナドニテ（事合）、占合、うら（へ）發シテ、言語トナル意ニテモアルベキカ〕（一）人類ノ發聲器ヨリ出ヅル音。肺臟内ノ空氣、聲帶ニ觸レテ、喉、口ニ出ツ、音トモ云ヒ、又、言葉トナリテ、意味ヲ成シ、彼此ノ情ヲ通ズ、鳥獸蟲魚ノ發スルニモ、云フ。萬葉集、五、長歌 五十[illegible]長ガ[illegible] 字鏡[illegible]「[illegible]聲一也、人乃己惠」同[illegible]「[illegible]、世比乃己惠」[illegible]（二）言、言葉。モノイヒ。源、四十九、東屋「卑シキ東ごゑシタル者ドモバカリノミ、出入リ」太平記、廿一、天下時[illegible]ノ人人、イツシカ、いヒモナラハヌ坂東聲ヲツカヒ」聲をのむト云フハ、言葉ヲ出サズ、默スノ意。十訓抄、上、第四、十條、諸儒ノオ智、イカナリトモ、菅丞相ニ及ブベカラズ、早ク及第スベキ由、勅定ヲ下サレシカバ、其時、博士ドモ、聲ヲのみテ、止ミニケリ」[illegible]（三）漢字ノ音。[illegible]訓ニ對ス）即チ、支那ノ言葉ナリ。大學寮ニ、音博士アリ 漢音ヲ、かんごゑト云ヒ、吳音ヲやまとごゑト云ヒ、對馬音モアリ（漢音ノ條ヲ見ヨ）宇津保物語、[illegible]中、式部大輔、七八枚ノ書、一度ハくに（訓）、一度ハ、こゑニ讀マセタマヒテ」同卷[illegible]「少シ高ク讀ム、所所ハ、こゑニモ讀ム」（四）非情ノ物物、相、觸レテ發スル音、音。鳴。萬葉集、[illegible]、長歌「ととのふル、鼓ノ音ハ、雷ノ、聲ト聞クマデ」榮花物語、十八、玉臺「今日暮レテ、明日モアリトナ、賴ミソト、吹キ鳴カス、鐘ノ聲カナ」新古今集、十三、戀、三「イカガ吹ク、身ニ染ム色ノ、カハルカナ、頼ムル暮ノ、松風ノ聲」

ごゑい（名）［護衛］附添ヒテ、守ルコト。班固、奕旨文「或虚設豫置、以自護衛」

ごゑいかん（名）［護衛艦］陸兵大輸送ノ時ナドニ、其運送船隊ヲ、敵艦ノ攻擊セムヲ護衛スル軍艦。時トシテ、艦隊ヲ編成ス、コレヲ、護衛艦隊ト云フ。

こゑがかり（名）［聲掛］おほごゑがかり、及、くちぞへノ條ヲ見ヨ。

こゑがはり（名）［聲變］（一）人ノ音聲ノ、常ト變ハルコト。（二）人ノ、十五六歲ニ達シタル時、音聲ノ、大人ノ調トナルコト。「彼ノ子モ、聲がはりスル年頃トナリタ」

こゑごゑ（副）［聲聲］各、聲ヲ出シテ。[illegible]合「ヨソ人モ、秋ハ惜シキヲ、淺ヂフノ、宜モこゑごゑ、蟲ヤ鳴クラン」「聲聲ニ喚ハル」

こゑつ（名）［胡越］〔胡ノ條ヲ見ヨ、胡國ハ、支那ノ遙カナル北方ニアリ、越國ハ、南方ニアリ〕胡國ノ人ト、越國ノ人ト。其地、相、懸隔スルニ因リテ、疎遠ナル意ニモ用ヰラル。[illegible] 史記、魯仲連傳「意合、則胡越爲二昆弟一」[illegible]、同年ニ詩「自疑孤飛鳥、得レ接二鸞鳳翅一、永懷共濟レ心、莫レ起二胡越意一」同年トハ、同時ニ、進士ニ及第セシ人ヲ云フ）胡越一家ト云フハ、遠隔、異郷ノ人人ガ、一座ニ團欒スルコト。[illegible]太宗[illegible]「貞觀七年、帝宴二未央宮一、上命二頡利可汗一起舞、馮智戴詠レ詩、既而笑曰、胡越一家、古未レ有也」（頡利ハ胡國王、馮智戴ハ、越國人ナリ）

ごゑつ（名）［吳越］支那ノ古代ニアリシ、吳國ト、越國ト、揚子江ノ南ニ、境ヲ接シテアリキ。吳王ノ夫差ト、越王ノ勾踐ト、屢、戰ヒテ、互ニ、興亡セシコトアルニ因リテ、スベテ、兩者ノ仲ノ惡シキヲ、吳越之仇ナドモ云フ。會稽の恥ノ條ヲ見ヨ。國語、吳語「昔、楚靈王、云云、不レ修二方城之内一、踰二諸夏一而圖レ東國一、三年、於二沮汾一以服二吳越一」又、吳越同舟ナドト云フ語アリ。孫子、九地篇「夫、吳人與二越人一相惡也、當二其同レ舟濟而遇レ風、其相救也、如二左右手一」

こゑのはかせ（名）［音博士］おんぱかせ（音博士）ノ條ヲ見ヨ。

こゑん（名）［故園］フルサト。故鄉。王昌齡、別二李浦之一京詩「故園今在二灞陵西一、江畔逢レ君醉不レ迷、小弟鄰莊尙漁獵、一封書寄二數行啼一」

ごゑもんぶろ（名）［五右衛門風呂］〔豐臣太閤ガ、釜煎ニセシト云フ大盜、石川五右衛門ノ名ニ因ム〕居風呂桶ノ一種。下ニ、火焚場ヲ作リ、釜ヲ載セ、其上ニ桶ヲ取付ケテ、沸スモノ。木蓋ハ、ナクテ、底蓋ヲ兼用シテ、浮蓋トシ、踏ミ沈メテ、浴ス。盜賊ノ語ニ、釜ノコトヲ、五右衛門ト云フトゾ。東海道中膝栗毛（享和、一九）初編、下「スヰ風呂桶ハ、上方ニ流行ル、五右衛門風呂トイフ風呂ナリ」

〜こゑよび (名) 聲喚 聲立ツルコト。萬葉集、四、長歌「淡路島ヲ、背ニ見ツツ、朝凪ニ、水夫ノ聲喚、夕凪ニ、楫ノ音シツツ」同、十五「月讀ノ、光ヲ清ミ、夕凪ニ、水手ノ古惠欲妣、浦回漕グカモ」

こゑ-わざ (名) 聲技 音聲ヲツカフ技藝。こわわざ。諸物。音曲。著聞集、六、管絃歌舞「朗詠、催馬樂ナド、サマサマノこゑわざドモ、所習ニ隨ヒテ盡シケレバ、アサマシク、ウレシゲニ思ヒタリ」

こ-をけ (名) 小桶 桶ノ、小サキモノ。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「起上リ、直ニ小桶ヲ取ル」

こ-をとこ (名) 小男 (一)少年。ワカモノ。青年 千載集、十七、雜、中「マダ、小男ニ侍リケル時、始メテ、昇殿申サセ侍リケルヲ」 (二)生レナガラ、體格ノ小サキ男。チンチクリン。矮人 狂言記、飛越新發意「西ノ方屋カラ、チヒサキ小男ガ出デ」

こ-をどり (名) 小躍 〔こハ、接頭語、其條ヲ見ヨ〕 喜ビナドシテ、躍リ立ツコト。雀躍 太平記、十七、山門攻事「猪ノ目スカシタル鉞ノ歯ノ、亘リ一尺許リアルヲ、右ノ肩ニ振リカタゲテ、云云、小跳りシテ登ル」「こをどりシテ喜ブ」雀ノこをどり」

こ-をとろ-こ-とろ (名) 〔こをとろハ、子を捕らうノ約、古ヘノひふくめトハ、仕方ノ、變ハレルナルベシ、其條ヲ見ヨ〕 古言、ヒフクメ。小兒ノ戲、一兒、前頭ニ立ツヲ親トシ、數兒、其背後ニ魚貫キ、各、前兒ノ帶ノ結目ニスガル、其最後ナルヲ子トス、別ニ、一兒アリ、鬼トユフ、鬼、子ヲ捕ヘムトシ、親、コレヲ防ギテ、戲ル。京阪ニテ、チラリヤ取、テクリ。作庭記(後京極良經)立石口傳「凡ソ、石ヲ立ツル事ハ、迯ル石、一兩アレバ、追フ石ハ、七ツ八ツアルベシ、タトヘバ、童部ノ、とらうとらう、ひひくめ、ト云フ戲レヲシタルガ如シ」骨董集、上、下、後「今、童遊ビニ、子とろ子とろト云フコトヲスメリ、コレ、イト古キ事也、古ヘハ、比比丘女ト云ヘリ」

こを-ばい (名) 紅梅 〔拾遺集ニ、こをばいトアリ、又、古今集ニ、芭蕉ヲ、はせをトアリ、何レモ、物名ノ歌ナリ、こう、せうト云フ音ハ、國語トシテ、歌ニハ、詠ミ入レガタキニ因リテ、音ヲ轉ジテ用キタルニテ、倭訓栞ニ、さえ゛ずヲ、カクト云フハ、音ヲ轉ジテ、訓トスル例ナリ」ト云ヘル類ナルカ、或說ニ、豪、交、宵、蕭、ノ韻ハ、和行ノうナレバ、をト轉ズトモ云ヘリ、尙、研究スベシ、此類ニ、襖子、消息、簫笛、(各條ヲ見ヨ)紀長谷雄、發昭(相通名ノ條ヲ見ヨ)ナド、尙、アルベシ〕 紅梅ノ(一)ニ同ジ。拾遺集、七、物名、紅梅「鶯ノ、巢ツクル枝ヲ、折リツレバ、こをばいカデカ、生マムトスラム」

こ-をんな (名) 小女 (一)幼キ女。ムスメ。少女 (二)生レナガラ、體ノ小サキ女。(三)年ユカヌ下婢。小婢

〜こをろ-こをろに (副) 凝凝 〔倭訓栞、こをろこをろ「凝ノ義、をハ、こノ韻也」古語ナレバ、究メガタシ〕 水ノ、凝リユク狀ニ云フ語。古事記、上「伊邪那岐命、伊邪那美命「立天浮橋、而指下其沼矛以畫者、鹽、許袁呂許袁呂邇畫鳴而、引上時、自其矛末垂落之鹽、累積成島、是淤能碁呂島」(畫ハ、攪ナリ、鹽ハ、海潮、畫鳴ハ、攪成ナリ) 神代紀、上「以其矛鋒、滴瀝之潮、凝成一島、名之曰磤馭慮島」私記「自凝之島也、猶如言自凝也」

さ　ざ

さ　五十音圖、佐行第一ノ假名、此一行ノ假名、さ、し、す、せ、そ、ノ五音ハ、皆、熟音ニシテ、其發聲ハ、舌ノ尖、齒ニ觸レテ出デ、あ、い、う、え、お、ノ韻ト熟シテ成ル。さハ、う、又ハ、ふ(うノ如ク呼ブモノ)ニ連ナルトキハ、そノ如ク呼ブコトアリ、さうけだつ(寒氣立)、さふらふ(候)ノ如シ。

ざ　じ、ず、ぜ、ぞ、ト共ニ、五十音圖、佐行ノ濁音ノ假名。此五音ハ、同行ノ清音ナル、さ、し、す、せ、そ、ノ音ヲ重ク呼ブガ如クシテ出ヅ。コレニ、本濁ト、連濁トノ別アリ、篇尾ノ語法指南ノ濁音ノ條ニ委シ。ざハ、う、又ハ、ふ(うノ如ク呼ブモノ)ニ連ナルトキハ、ぞノ如クヒビクコトアリ、ざうげ(象牙)、ざふよう(雜用)ノ如シ。

〜さ (名) 箭 〔刺すノ語根ニテモアルベキカ、神武紀、御長歌「ミヅミヅシ、來目ノ子等ガ、云云、諸御謠、皆謂來目歌、此的取歌者、而名之也」或ハ、征箭ノ約カトモ云フ、イカガ、朝鮮語ニ、矢ヲ、さるト云フトゾ〕 箭ノ古言。綏靖卽位前紀「射手研耳命、一發中胸、再發中背、遂殺之」私記「一發、比止佐、再發、不太佐」天武紀、上「射中一箭」 萬葉集、十三「長歌「投左ノ、(序)遠ザカリ居テ、思フ空、安カラナクニ」投ぐるハ、射るナリト云フ」同、十九「長歌「投矢持チ、千尋射ワタシ」同、廿二「荒男ノ、伊乎佐手挾ミ、立チ向ヒ」伊モ、乎モ、發語ナリ)

さ (名) 梭 機織ノ具、くだヲ入レテ、緯ヲ通ハスモノ。ヒ。杼 晉書、陶侃傳「網得一梭、挂壁上、有雷雨自至、化龍而去」

さ (名) 左 〔右ニ對ス〕 左ノ方、卽チ、文章ノ上ニテ、次ニ來ル條。後漢書、杜篤傳「伏作書一篇、名曰論都、謹并封奏如左」「左之通申遣シ候」

さ (名) 差 (一)タガヒ。チガヒメ。差違。漢書、東方朔傳「失之毫釐、差以千里」「五里ト十里トノ差アリ」 (二)數學ノ語、一數ヨリ、或數ヲ減ジタル數。

〜さ (副) 然 〔然ノ約ナリト云フ、其ニモ通ズルカ(ささやく、そそやく)〕 上ノ語ノ意ヲ受ケテ、下ニ移ス語。然。ソノ如ク。サヤウニ。源、四、夕顏「さ思サレムハ、イカガセム」同、二、帚木「さ、カシ、何モ、思ミタマフカタナリ」大和物語、上「さモコソハ、峯ノ山風ハ、荒カラメ、ナビキシ枝ヲ、怨ミテゾコシ」「さハ言ヘ」さアラバ」さモナキ」さノミ」

〜さ (辭) 方 〔方ノ下略、古今集、八、離別「慕ハレテ、來ニシ心ノ、身ニシアレバ、歸ルさまニハ、道モ知ラレズ」長崎ニテ、さんト云フ、卽チ、さまノ音便ナリ(誰さま、だれさん)〕 方向ヲ示ス辭ノ、へニ同ジ。(東北諸縣) 萬葉集、十八「多多佐ニモ、カニモ與己佐モ、ヤツコトソ、アレハアリケル、主ノトノトニ」物類稱呼、五、言語「東ヘ、西ヘ、ト云フコトヲ、肥前ニテ、東さなへ、西さなへ、ト云フ、云云、東さまへノ轉ジタルナルベシ」「東さ行ク」(東へ行ク)前さ出ル」上さアガル」長崎ニテ、東京さん行ク」

〜さ (接尾) 樣狀 〔樣ト、同義〕 (一)名詞、又ハ、形容詞ノ語根ニ添ヒテ、名詞トシ、其狀態、程度ヲ示ス接尾語。源、四十八、寄生「サビシキ亂ノアハレさハ、故、異ナリケリ」經衛集「アハレさハ、マサリヤスラム、慰ザメツツ、聞

ケベ身ニシム、秋ノ葉風ヲ」狹久正物語、五「佛カノ不思[illegible]ニ任ズ[illegible]」[illegible]八、[illegible]
[illegible]
レケル[illegible]八十七[illegible]
さ[illegible]バカリ[illegible]
嵐ノ葉白ク、降リニケリ、コヤ小野山ノ、冬ノサビシさ[illegible]
遅さ」「遠シさ」「悲シさ」(二)和歌ナルハ、同ジ用法ニテ、末ヲ結ビ、詠歎ノ意ヲ云フ。[illegible]小[illegible]さやけきか[illegible]かなしきかも」[illegible]もノ意)同、十五「[illegible]數ニモアラヌ、我レ[illegible]」後撰集、三、春、下「[illegible]ニ、待チテゾ、花ノ散リナマシ、心ヅカラニ、ウツロフガ憂さ」(うきかた)同、十二、戀、四「夜ノ短クテ、明クル佗シさ」(わびしきかた)

さ (接尾) 時 〔時ノ約、其條ヲ見ヨ〕(朝、あさ。然、さ)或ハ、[illegible]瀬、こせむ」瀬ノ條ヲ見ヨ」ナド云フ、サニモ通ズルカ[illegible]時ト云[illegible]た、ノさな ニ同ジ。萬葉集、三五十「ゆく左ニ[illegible]心ボシモ」「逢フさ切ルさ」出ヅさ入ルさ」歸ルさ」行クさ來さ」[音條ヲ見ヨ]

さ (發語) 〔常ニ、小夜、狹衣、狹山ナドト書ケドモ、借字ニテ、ちひさき意ハナシ、せまき意ニモアラズ〕何ノ意味モナキ發語。伊行く、伊向ふ、加擣し、多走るナド云フ、伊、加、多、ニ同ジ。名詞ニ冠スルモノハ、萬葉集、十六[illegible]檜隈、檜隈川」「さ夜、さ衣、さ田、さ霧、さ牡鹿、さ寢、さ百合、さ小舟、さ[illegible]」動詞ニ冠スルモノハ、古事記、上「[illegible]ミニ嚙ミテ」佛足跡歌、佐擾り座セ」「さ迷フ」「さ隱ル」「さ走ル」「さ踊ル」「さ守フ」「さ躁ル」形容詞ニ冠スルモノハ、「佐習シ」「さ遠シ」[以上、各條ヲ見ヨ]

ざ (名) 座 〔古ヘハ、室中ハ、スベテ總板敷ニテ、坐スル所ニノミ、座ヲ敷ケリ、座敷ト云フ語モ、コレニ起ル〕(一)[坐ルベキ所ニ、敷キ設クル疊、圓座、褥ナドノ稱。源、一、桐壺「冠者ノ御座、引入レノ大臣ノ御座、御前ニアリ」同、四十八、寄生「下リタル座ニ、退リツキタマフ」(二)佛事、神事ヲ修行シ、又、學理ヲ講説スル場所。「百座ノ講[illegible]」「講座」(三)室中ニ居並ブ場所。席次 戰國策、齊策「刑到坐定、太子延入席」「座ニ就ク」(四)人ノ集レル室。集會ノ席。會席「一座ノ人人」「座上」「座中」「座ヲ持ツ」「座ガ白ケル」(五)物ヲ居ウル臺。「佛ノ座」「蓮物ノ座」又、佛ノ坐像ヲ數フル語ニ用キラル。「[illegible]六ノ彌陀像一座」(六)金具ノ下ニ添ヘテ、飾トスルモノ。「釘[illegible]ノ座」「菊座」(七)星ノ宿。「星座」

ざ (名) 座 〔演奏者、演技場ニ一揃ノ義ナラム、雍州府志、八、古蹟門、芝居、凡、自能太夫、脇太夫、狂言太夫-以下、至ニ笛、大小鼓、太鼓、地謠者-悉備、是謂ニ一座-、古ク、田樂ニ云ヒシモ、此意ナルベシ〕(一)田樂ノ演者ノ、一組ノ稱。太平記、五、相模入道弄ニ田樂-事「[illegible]新座、本座ノ田樂ヲ呼ドシテ、[illegible]」尺素往來(文明、一條兼良)「[illegible]新座之田樂、和州、江州之猿樂、各可ニ播ニ所能-候」(二)能樂ニ、演者、地謠、囃子ノ、備ハレルモノ。[語原ヲ見ヨ]「觀世、金剛、寶生、金春、四座ノ猿樂」歌舞伎、遊藝、ナドノ、演技ニ關スル人人ノ一組ヲ、一座ノ役者ト云フ。(三)歌舞伎芝居ノ興行場。「猿若座」中村座」「座元」「座頭」(四)里神樂ノ曲ヲ數フル語。「廿五座ノ神樂」「三十五座」

ざ (名) 座 〔市座(肆)ノ座ナルカ、或ハ、行商、立賣ニ對シテ、座ナガラ商フ義カ〕(一)鎌倉時代、室町時代、市町ニアリテ、或ル定リタル物品ヲ商フ家ノ稱。後ニ云フ、卸問屋ノ類ニテ、専賣權アリシモノノ如シ。庭訓往來、卯月十一日「七座之店、諸國商人、云云」同書、[illegible]、市毎ニ、七座ハアル也、座ト云フコトハ、物ヲ賣ル座也、一、絹ノ座、二、炭ノ座、三、米ノ座、四、檜物座、五、千朶積ノ座、六、相物ノ座、七、馬商フ座ナリ、其外、手買、振賣トテ、アリ、皆皆、此七座ニ與カスル賣物共、多シ」(千朶積、相物、各條ヲ見ヨ)室町殿日記、九、松永彈正京都之仕置改むる事「永祿八年七月ノ從ニ、洛中、洛外、諸商賣人等、座ノ輩、先規之通上、雖レ無ニ皆濟-被ニ免許-之條、云云」(二)江戸時代、幕府ニテ設ケテ、特ニ、貨幣ヲ鑄造セシメシ役所。「金座」「銀座」「錢座」「銅座」(三)同時代ニ、特許アリテ、或ル器具、物品ヲ專賣シ、又ハ、或ル商事ヲ行ヒシ商家ノ稱。「枡座」「秤座」「朱座」「人參座」「[illegible]座」

サア (名) 〔英語、Sir. 長者ノ義ナリト云フ〕英語ニテ、長者ヲ呼ブニ用キル敬語。同輩ニモ云フ。公式ニテハ、ふいと(Knight.)、又ハ、ばろねと(Baronet.)ノ爵アル人ノ名ニ冠シテ云フ稱號。"Sir John"

サアイ (名) 紗綾 紗綾ノ條ヲ見ヨ。

サアチ-ライト (名) 〔英語、Search-light.〕探海燈。探照燈。

サアベル (名) 洋刀 〔蘭語、Sabel. 英語、Sabre.〕西洋ノ刀。軍刀。劍。

さ-あめ (名) 小雨 〔さハ、發語〕雨ト云フニ同ジ。約メテ、さめト云フ。「春雨」「小雨」「村雨」暴雨ヲ、速さあめト云フ。字鏡、九「[illegible]、暴雨、波也佐女」

サアヤ (名) 紗綾 紗綾ノ條ヲ見ヨ。

さ-あ・り・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、良變) 然有 シカナリ。サヤウナリ。狂、記、通圓「さあらバ、其ノ時ノアリサマ、語リ申サン」

さい (名) 妻 メ。ツマ。女房。詩經、齊風、南山篇「取レ妻如レ之何、匪レ媒不レ得」宇津保物語、梅花笠「ミカド、さいナドモ、イヅレヲカ、キテモノスラン」

さい (名) 簺 采 〔說文「行レ棊相塞、謂ニ之簺-」韻會「簺、通作レ塞」莊子、博塞」さいヲ、さえト云フハ、さえ(才)ノ語原ヲ見ヨ、正韻「骰、音頭、骰子、博陸采具」出典ノ倭名抄ニ、頭子トアル、共ニ、投子ナリ、資暇錄「投子者、投ニ擲於盤筵-之義、今或、作ニ頭字-」春秋演繁露「今世通名ニ骰子-」常ニ、かり(樗蒱子)ノ采ヲ、簺ト混ジテ用キラル(各條ヲ見ヨ)是レ、其物ノ形ハ、全ク異ナレドモ、投ゲテ勝負ヲ定ムルハ、同ジク、且、同音ニモアレバ、通用スルナリ〕雙六ニ用キル具。象牙、又ハ、鹿角ナドニテ、凡ソ三分ノ立方形ノ物ヲ作リ、其六面ノ各面ニ、一ヨリ六マデノ點ヲツク、コレヲ、簺目ト云フ、(其條ヲ見ヨ)簺ヲ、二箇、筒ニ入レ、振リテ、雙六盤ノ上ニ投ゲ出シ、其二箇ノ各面ニ現ハレタル目ノ數ヲ併セ數ヘテ、其數ホド、馬子ヲ行ルナリ、目ノ出ヅルヲ、下ルト云フ。又、さえ。投子。頭子。骰子。播磨國風土記、揖保郡、桑原里「有ニ銅牙石-形似ニ雙六之綵-」萬葉集、十六「詠ニ雙六頭-(さえ)歌」雙六乃佐叡」催馬樂、大芹「[illegible]角ノ太伊」倭名抄、四「雜藝具、雙六子、頭子、雙六乃佐以」枕草子、七、六十八段、雙六「敵ノさいヲ乞ヒセ

メテ、或ニモ入レネバ、棋ヲ盤ノ上ニ立テテ待ツ」名義抄「簺、サイ」字類抄「采、サイ、雙六也、簺、頭子」下學集(文安)下、器財門「簺、采、二字、義同、博奕所レ投也」

さい (名) 【采】 〔采色ノ義、其具ノ面、或ハ白ク、或ハ黑ク、或ハ猥ヲ畫キ、或ハ雉ヲ畫ケバ、云フ〕 楞蒲ニ用キル具。卽チ、かり(楞蒲子)ナリ、形、烏賊ノ骨ノ如シ、四箇ヲ用キテ、盤上ニ擲チ、其現ハレタル色采ヲ見テ、勝負ヲ定ム、其用法、略、雙六ノ簺(前條)ノ如シ、委シクハ、楞蒲子ノ條ヲ見ヨ。 爾雅、釋「烏鰂、背上骨一骨、形如二楞蒲子一而長」圖經本草「鰂、子簺、似ニ楞蒲子ニ楞蒲書略「采、本、采色之采、指ニ其交一以言也、如ニ盧、白之以ニ色別、雉、犢之以ニ物別、皆、采也、投得ニ何色、其中レ程者勝、因遂名レ之爲レ采」

さい (名) 【菜】 〔調菜ノ略、な(魚菜)ノ條ヲ見ヨ、獻立ヲ、菜單ト云フ〕 (一)飯ニ添ヘテ食フ、菜、肴ノ總稱。ソヘ。メグリ。マハリ。アハセ。サイノモノ。オサイ。オカズ。副食物。 飣 下飯 大膳職式、下「菜料鹽、親王五十斛」合類節用集(元祿)六、服食門「菜、本朝俗、具レ食品數、稱曰レ菜、支那所レ謂、飣也」 (二)菜ヲ數フル語。「一汁三菜」

さい (名) 【才】 〔康熙字典「才、能也」〕 (一)心ノ、事ヲ爲ス機轉。賢シキコト。カシコキコト。才氣。 (二)賢キ人。 列子、仲尼篇「丘是多レ才」釋文「才有ニ治能、而學ニ國政一者」禮記、文王世子篇「必取レ賢斂レ才焉」

さい (名) 【才】 〔集韻「才、通作レ材」管子、五輔篇、注「材、謂ニ藝能一」〕 伺、ざえ(才)ノ條ヲ見ヨ」 學問。文學。才識。 唐書、百官志「擇レ人以ニ四才一」韻會「夫曰、才者、天之良質也、學者、所ニ以成ニ其才ニ也」 秀逸ナル學力ヲ、秀才ト云ヒ、學問アル婦人ヲ、才媛ト云ヒ、學者ヲ、才人ト云ヒ、又、漢學ヲ、漢才ト云フ。

さい (名) 【才】 〔抄ヲ省キテ、手偏ヲ、才トシ(才ノ字ハ、字書ニ、手部ニ收メラル)さいト讀ミタル語ナリ、記帳ナドニハ、簡略ヲ要スレバ、然ルナリ〕 桝目ノ名。勺(又、夕)ノ十分ノ一。又、抄。才ノ十分ノ一ヲ、撮ト云ヒ、撮ノ十分ノ一ヲ、圭ト云ヒ、圭ノ十分ノ一ヲ、粟ト云フ。 合類節用集(元祿)十、數量門「一勺、十抄也、一抄、十撮也、俗云ニ一才、一撮、十圭也」數學通軌「撮十圭、抄十撮、勺十抄」(大日本國語辭典) 古ヘハ、勺ノ十分ノ一ヲ、撮トシタリ。 主稅寮式「蟲、一勺五撮」字類抄「勺、シャク、十撮爲レ勺」

さい (名) 【財】 〔唐韻「財、昨哉切」說文「人所レ寶也」徐曰「可ニ入用一者也」〕 タカラ。カネ。金錢。財產。財寶。貨財。濁音ニ、財トモ云フ。ざえ。 顏氏家訓「諺云、積ニ財千萬、不レ如ニ薄藝在レ身」太平記、三十二、天竺震旦物語事「帝堯ヨリ、舜ニ賜ハリシ、財ドモヲ」「財ヲ散ズ」財ニ富ム」財、豐カナリ」金銀財寶」

さい (名) 【豺】 獸ノ名、山犬、狼ノ類、極メテ猛シト云フ、支那ニアリテ、日本ニナシ。 說文「豺、狼屬」正字通「豺、長尾、白頰、色黃、云云、陸佃云、豺瘦、猾瘦」

さい (名) 【最】 最モ、優レタルコト。第一ナルコト。 史記、周勃世家「攻ニ槐里好畤、最」太平記、十七、日吉神託事「是レハ、佛敵、神敵ノ最タレバニ」「全國ノ最タリ」之レヲ以テ最トス」

さい (名) 【債】 オヒメ。借金。負債。 漢書、鼂錯傳「賣ニ田宅、鬻ニ子孫、以償レ債」

さい (名) 【砦】 壘塞。トリデ。出城。城砦。

さい (名) 【犀】 獸ノ名、體、大キサ、象ニ亞ギ、形、略、牛ニ似テ、更ニ、肥大ナリ、長一丈、高サ五六尺、全身、蒼黑ニシテ、毛無ク、皮、甚ダ厚ク硬ケレド、頸、背、腰ニ、厚キひだアリテ、動クニ便ナリ、脚ハ三蹄ニシテ、黑シ、力、最モ强ク、常ニハ、溫順ナレド、怒レバ、甚ダ猛シ。印度產ノモノハ、鼻上ニ一角アリ、亞非利加產ノモノハ、二角アリ、犀角ノ條ニ注ス。 倭名抄、十八「毛群名「犀、昔西、此閒、音在」夫木抄、廿八「ウキ身ニハ、犀ノイキ角、得テシガナ、袖ノ淚モ、遠サカルヤト」

さい (名) 【際】 (一)キハ。アヒダ。サカヒ。「夏秋ノ際ニ、花ヲ開ク」 (二)ヲリ。トキ。際會。「集會ノ際」其際ニ約シタリ」 (三)カギリ。際限。「一望無レ際」

さい (名) 【閾】 〔際ノ音ニテモアルベカ〕 室中ノ敷居。 三議一統、上、法量門「さいヲ越ユルマデハ、輕キヤウニ、敷居ニ當テザルホドニ持テ」 同「座ニ入ル時ハ、さいノ際、一尺退ケテ、爪先ヲ立ツベシ、云云、さいヲ越ス事、左ヲ越スハ、又、常也、さいノ上、疊ノ緣、踏ムベカラズ」(貞丈雜記、七、敷居越事也) 同「白拍子ニハ、扇ノ褄トテ、さい際マデアルベシ」酌並記抄「さい越ノ酌、嫁フ事、云云、加ヘナド、狹クテ、這入ラレズバ、片手ヲ、さいノ內ヘ越シテ、加ヘベシ」抄「さいおしノ酌ハ、敷居おしノ酌也」

さい (名) 【齋】 〔齋戒ノ齋ナリ、其條ヲ見ヨ、廣雅「齋、敬也」身、口、意、ノ三業ヲ愼ム意〕 (一)ヲガミ。佛敎ニテ執行スル法會。僧侶、信者、身、心ヲツツシミテ行フ、コレヲ、齋會トモ云フ。 敏達紀、十三年二月「蘇我馬子、獨依ニ佛法、云云、經ニ營佛殿於ニ宅東方、安ニ置彌勒石像、屈ニ請三尼、大會設レ齋」推古紀、十四年四月「銅繡丈六佛像、並造竟、云云、卽日設レ齋」 (二)轉ジテ、專ラ、食時ヲツツシム意ニ云ヒ、非時食セザルコト。卽チ、禁戒ニ因リテ、正午ヲ過グレバ、食事セザルヲ、齋ト云ヒシガ、又、轉ジテ、佛事ノ時ノ食事ヲ、齋ト云フニ至レリ、此時ハ、訓ジテ、ときト云フ。寺院ニテモ、午時ニ食事スルヲ、齋食ト云ヒ、齋食スル堂舍ヲ、齋堂ト云フ。

さい (名) 【災】 (一)ワザハヒ。災難。災害。 (二)火事。火災。 左傳、宣公十六年「天火曰レ災」同、成公三年「甲子、新宮災、三日哭」

さい (名) 【差異】 タガヒ。チガヒメ。差違。 三國志、魏志、齊王紀「子童宜 有ニ差異一」

さい (接尾) 【歲・載】 〔爾雅、釋天篇「載、歲也」同「唐虞曰レ載、夏曰レ歲、商曰レ祀、周曰レ年」正韻「載、音宰、年也」又ト書クハ、歲ノ省字〕 年、又、年齡ヲ數フルニ云フ接尾語。トセ。 爾雅、釋天篇、注「歲星、云云、十二歲而周レ天」 書經、堯典篇「朕在レ位七十載」靈異記、上、第十八「年八歲、云云、至ニ于三廿有余戈一」宇津保物語、梅花笠「大人シモヅカヘ、二十歲ノウチワラハ、十五歲ノウチワラハ」

さい (接尾) 【齋】 住室ノ號ニ副ヘテ用キル語。 合類節用集(元祿)一、乾坤門「齋、韻會、燕居之室、日レ齋、文選、註、靜室也、臨機活法、李約建ニ一小室、號ニ蘊齋、齋之名始レ于レ此、今、按、本朝隱士所レ稱、或、自然齋、或、臨江齋、等、皆以爲ニ幽居之義一(宗祇、自然齋ト號シ(文龜二年歿、年八十二)紹巴、臨江齋ト號ス(慶長五年歿)共ニ、連歌師ナリ)「細川幽齋」

ざい (名) 【在】 在所ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

ざい (名) 【材】 (一)材木。木材。「材木ノ材」 (二)スベテ、物ヲ作ル基トナルモノ。料。材料。

ざい (名) 【財】 さい(財)ノ條ヲ見ヨ。

ざい (名) 【采】 采配ノ條ヲ見ヨ。

ざい (名) 【麾】 采配、及、座居ノ條ヲ見ヨ。

ざい (名) 【際】 〔分際ノ上略、故ニ、濁ル〕 分際。身ノホド。 狂言記、生捕鈴木「汝、譯ノ

ざい[illegible]テ、ケナシゲテハ、イラザルコト」 [illegible]ニ、女ノざい、ぎ、社ノコトトハ思ハヌ」 俚言集覽、ざい「女ノざいニ、出家ノざいニ、ナド云フ、云云、凡、ナスマジク、出マジキ[illegible]女ノざいニ、[illegible]ノざいニ、トムフ、云云」

ざい (名) 劑 〔劑ノ呉音、[illegible]分劑」〕 [illegible]調合スル藥ニ云フ、語 [illegible]

さい-あい (名) 最愛 (一)〔最モ愛シム〕コト。甚ダ、カハユガルコト。 [illegible]中ニ、人ノ國ニモ、さいあいノ妻持スル王ト、誘リ取リタルメル」 謠曲、安宅「勸進帳ノ文「ココニ中頃、帝オハシマス、御名ヲバ、聖武皇帝ト名ヅケ奉リ、最愛ノ夫人ニ別レ、戀慕ヤミガタク、云云」 (二)情シテ、夫婦。 盛衰記、九、「通盛、花山ノ[illegible]ガリテ、雙ニ取リ申シテケリ、云云、最愛ノ中ニナリテ、師家ト云フ子生ミテ、八歳ニテ中納言ニナシテ」

さい-あう (名) 災殃 ワザハヒ。災難。殃災。 盛衰記、四十五、内大臣京上狀「[illegible]當時之災殃、皆是レ、前世ノ業報ニ任カセタリ」

ざい-あく (名) 罪惡 ツミトガ。惡業。 [illegible]

さい-あん (名) 再案 再度ノ草案。

ざい-あん (名) 罪案 ツミノ目安。罪科ノ箇條書。

さい-い (名) 災異 〔天災、地異ノ略〕ワザハヒ。變事。災變。 漢書、京房傳「[illegible]災異者、[illegible]」

さい-いふ (名) 采邑 采地ニ同ジ。 左傳、昭公廿二年「劉子如劉」 杜注「歸二其采邑一」

さい-う (名) 細雨 コサメ。微雨。 文選詩「冷風雜二細雨一」「細雨霏霏」

さ-いう (名) 左右 (一)ひだりト、みぎト。左右。 孟子、梁惠王、下篇「[illegible]左右皆曰[illegible]」 (二)左右ニ居ル者。近侍ノ臣。 孟子、梁惠王、下篇「左右皆曰[illegible]」 (三)年齢ノ、其前後ニアルコト。アトサキ。オ、ツカ、ツ。左右。 [illegible]予在二十歳一 (四)かたかハノ條ヲ見ヨ。

さ-いう (名) 左右 〔佐佑ト通ズト云フ〕助クルコト。輔佐。 [illegible]

ざ-いう (名) 座右 (一)座席ノミギ。カタハラ。 宋史、呂大防傳「上之[illegible]於座右二」 (二)其人ヲ直接ニ斥スヲ憚リテノ語」 [illegible]、座右ニ呈ス」

さいう-さ (名) 左右左 ぶたふ(舞蹈)、及、九拜ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]推ノシヅエニ、折リソヘテ、さいうさマデヤ、フシマロブラン」

ざいうのめい (名) 座右銘 座右ニオキテ、身ノ戒トスル格言。座左銘。 [illegible]「[illegible]、何[illegible]座右銘」

さい-うり (名) 西瓜 すゐくゎ(水瓜)ノ異名。 [illegible]、さいうり、大坂ニテ、西瓜ヲ云フ」

さい-うん (名) 彩雲 彩リタル如ク、美シキ雲。 李白詩「[illegible]」 [illegible]、彩雲ノ、[illegible]ルガ如シ」

さい-えい (名) 細纓 ほそえいノ條ヲ見ヨ。

ざい-えい (名) 在營 軍人ノ、兵營ニアルコト。兵役ニ就キテ居ルコト。ざいきゃう(在郷)ニ對ス。

さい-えう (名) 細腰 コシボソ。ホソゴシ。女ノ腰ノ、細ヤカナルモノ。蜂腰。 後漢書、馬廖傳「楚王好二細腰一、宮中多二餓死一」 [illegible]淮南子、主術訓「靈王好二細腰一、而民有二[illegible]」

さい-えう-こ (名) 細腰鼓 オホツヅミ。 倭名抄、四「[illegible]鼓[illegible]細腰鼓、有二二三之名一」

さい-えう-ほう (名) 細腰蜂 スガル。ジガバチ。 下學集、上、氣形門「似我、云云、細腰蜂也」 [illegible]、すがる「日本紀ニ、[illegible]ヲ訓ゼリ、細腰蜂也、因テ、萬葉集ニ、腰細ノすがる娘子ト詠メリ」

ざい-えき (名) 在役 兵役ニ服シテ居ルコト。

さい-えん (名) 再縁 〔再縁組ノ略〕再ビ、縁組スルコト。再度ノヨメイリ。再婚。再嫁。(初縁ニ對ス) 再醮。 [illegible]集、三、[illegible]女、[illegible]シテ離縁ス「相互ニ、再縁取結候者、云云、[illegible]、何候、雙方共、再縁組致シ、不レ苦候ト存候」

さい-えんぐみ (名) 再縁組 前條ヲ見ヨ。

サイエンス (名) 科學 〔英語、Science.〕くゎがく(科學)ニ同ジ。

さい-おう (名) 再應 〔再往ノ借字、いちわう(一往)ノ條ヲ見ヨ〕フタタビ。二度。 室町二[illegible](享保、近松作)二「[illegible]昭公ノ御心底、一度モ、[illegible]モ、[illegible]ウテ上ノコト」

さい-おう-が-うま (名) 塞翁馬 〔翁ノ字音ノ假名遣ハ、翁ノ條ヲ見ヨ、塞ハ、北ナリ、邊塞ノ條ヲ見ヨ、塞翁ヲ、北の翁ト讀ムハ、此故ナリ〕 支那ノ諺、北境ノ一翁ノ飼馬、逃ゲタリシガ、數月ニシテ、駿馬ヲ伴ヒ歸レリ、ト云フ故事ニ因リテ、吉凶、禍福ハ、定リナシトテ、人間萬事塞翁ガ馬ト云ヒ、和歌ニハ、塞翁ヲ、北の翁ト詠メリ。 下學集、下、言辭門「人間萬事[illegible]」 [illegible]是、宋人晦菴[illegible]句也、云云、句意、人間萬事[illegible]、善不レ必善、惡不レ必惡、不レ可レ喜、不レ可レ悲也、淮南子云、塞上有二一翁一、失レ馬、人皆弔レ之、翁曰、[illegible]何必惡、數月、此馬、將二駿馬一而來、人皆賀レ之、翁曰、善何必善、其子、好レ騎、馬、墮而折レ臂、人皆弔レ之、翁曰、惡何必惡、一年、胡國大亂、壯年者戰死矣、此子獨、以二[illegible]一不レ出レ戰、而得レ全二[illegible]一矣」(此文、淮南子、人間訓ノ文ト、異ナリ、節略、意譯シテ、記セルナリ、然レドモ、前ニシテ要ヲ得タレバ、別ニ、人間訓ノ文ヲ掲ケズ) [illegible](享保、伊勢東[illegible])三、江湖風月集、首書、[illegible]、[illegible]、七律、末ノ句「人間萬事塞翁馬、推枕軒中聽二雨眠一」(人間トハ、世間ノ意、正字通「[illegible]、俗借爲二人間字省文一」晦巖ハ、元ノ僧、推枕軒ハ、其住持タリシ仰山ノ、方丈ノ額室ノ號ナリト云フ) [illegible]、[illegible]院御製、[illegible]ニテノ御製「イツトナク、北の翁ノ、如クセバ、コノコトワリヤ、思ヒ入レナム」 夫木抄、三十五、土御門院御製「心ヲバ、きたのおきなニ、ナラヘドモ、マタ立歸ル、駒ダニモナシ」 [illegible]、十二「世ノ中ハ、北の翁ノ、馬ナレヤ、善キモ惡シキモ、彼ヲ知ラネバ」 世の中ハ、人間ナリ)

さい-か (名) 最下 最モ下ナルコト。 易經、乾卦通解「最下曰レ初、最上曰レ上」

さい-か (名) 裁可 君主ガ、奏議ヲ親裁シ、許可シ給フコト。法律、命令、等、是ニ因リテ、決定シ、公布セラレテ、效力ヲ生ズ。 唐書、[illegible]「裁二可大事一、不レ關二[illegible]一」 「法令ノ御裁可ヲ仰グ」

さい-か (名) 細瑕 ササヤカナルキズ。小サキ缺點。細疵。微瑕。 漢書、[illegible]「[illegible]大功一者、不レ錄二小過一、擧二大美一者、不レ疵二細瑕一」

さい-か (名) 再嫁 再縁ニ同ジ。再婚。

ざいか (名) 在家 キナカノイへ。田舍。持統天皇歌軍法（享保、近松作）二五「飛鳥トイフ在家ハ、ココヨナ」

さいかい (名) 齋戒 〔禮記、祭統篇「齋之爲言、齊也」祭ラムトシテ、心ヲ齊フルナリ、轉ジテ、清潔、敬愼ノ意トナル、正韻「齋、潔也、莊也」廣雅「敬也」說文「戒、警也」〕イモヒ。モノイミ。キヨマハリ。身心ヲ淸メ、汚穢ニ觸ルルヲ忌ムコト。祭ヲ行フナドニ云フ。易經、繫辭、上傳「聖人以此齋戒、以神明其德夫」注「洗心曰齋、防患曰戒」「沐浴齋戒」

さいかい (名) 西海 (一)西ノ方ノ海。十洲記「西有瀛海、溟海」(二)西海道ノ略。

さいがい (名) 際涯 カギリ。ハテ。際限。范仲淹、岳陽樓記「浩浩湯湯、橫無際涯」

さいがい (名) 災害 風雨、地震、洪水ナドノワザハヒ。左傳、成公十六年「是以、神降之福、時無災害」盛衰記、四、山王垂跡事「人恨ミ、神怒レバ、災害必ズ成ルトイヘリ」

ざいかい (名) 財界 金融ノ仲間。經濟向キノ社會。「財界ノ巨頭」

さいかい-し (名) 西海子 さいかちノ條ヲ見ヨ。

さいかい-だう (名) 西海道 筑紫島。ニシノウミノミチ。ニシノミチ。我ガ邦ノ內地、八道ノ一、九州ト、壹岐ト、對馬トノ稱。鎭西。西宮記、四月、郡司讀奏「西海道、ニシノミチ、ニシノウミノミチ」

さい-かう (名) 再考 再ビ、考フルコト。思ヒカヘスコト。

さい-かう (名) 再校 再度ノ校正。初校、三校等ニ對ス。

さい-かう (名) 細行 些細ナル行爲。南史、張緒傳「諸子皆輕俠、中子、充、少時、又不護細行」

さい-かう (名) 菜羹 野菜ノアツモノ。論語、鄕黨篇「雖疏食菜羹瓜、祭必齋如也」

ざい-がう (名) 在鄕 〔在所ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕(一)在所ノ鄕。田舍ノ地方。鄕村。村里。村落。信州川中島合戰（享保、近松作）三「在鄕ニ引ッ込ミ、鋤鍬取ッテ、自ラ耕シ」「在鄕者」「在鄕馬」(二)ざいきやう(在鄕)ノ條ヲ見ヨ。

ざいがう-うま (名) 在鄕馬 田舍ノ駄馬。丹波與作（寶永、近松作）下「似合ウタ樣ニ、在鄕馬ノ口取縄デ、首ククレ」

さい-かう-がくふ (名) 最高學府 大學ノ異稱。

さい-かう-けん (名) 最高權 主權ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さい-かく (名) 犀角 犀ノ角。印度産ナルハ、鼻ノ上ニアリ、五寸許、コレヲ、犀のはなづのト云ヒ、(奴角 食角)コレヲ粉トシテ、藥用トス、諸毒ヲ解スト云フ、白キアリ、黑キアリ、黑白、雜ハルアリ、黑キヲ上トシ、烏犀角ト云フ、皆、角ノ尖ヲ用キル。又、亞非利加産ナルハ、頂ニ、更ニ、一角アルアリ。本草綱目、犀角「角上有一白縷、直上至端、夜露不濡、入藥、至神驗」倭名抄、十八、毛群體「奴角、犀鼻上角名也、犀乃波奈都能」夫木抄、廿七「憂キ身ニハ、さいノ生角、得テシガナ、袖ノ涙モ、遠サカルヤト」

さい-かく (名) 才覺 〔ざえ(才)ノ條ヲ見ヨ〕ザエノオボエ。學問ノサトリ。文學ノ力。神皇正統記、後醍醐「白河ノ御時、修理大夫顯季ト云ヒシ人、云云、學識ヲ申シケルニ、院ノ仰ニ、ソレモ、物書キテノ上ノ事トアリケレバ、理ニ伏シテ止ミヌ、云云、和漢ノ才覺ノ足ラヌニゾアリケム」

さい-かく (名) 才覺 〔前條ノ語ノ轉〕(一)才ノ機轉。機智。七十一番職人歌合（文安）五十七番、庖丁師、判詞「左歌、庖丁ニハ、魚モ、鳥モ、イクラモ寄セアリヌベキヲ、二首ナガラ、鯉ヲ詠メル、才覺ナキニ似タリ」鷹筑波集（寛永）「二道カクル、人ノさいかく」(二)工夫シテ、索ムルコト。工面。算段。經營。狂言記、鱸包丁「方方、さいかく致シテ、漸一番ノ鯉ヲ求メマシテ」西鶴織留（貞享）「損銀、仇銀、年年積リテ、才覺ノ花モ散リ」

さい-がく (名) 才學 才ト、學問ト。漢書、應奉傳「皆有才學」今鏡、下、第七、うたたね「堀河殿ハ、才學高クオハシテ、文作リタマフコト、スグレテ聞コエ給ヒキ」

ざい-がく (名) 在學 學校ニ、生徒トナリテ居ルコト。

さいがく-しき (名) 才學識 歷史ノ編纂ニ要スル、才ト、學ト、識ト、コレヲ、史ノ三長ト云フ。唐書、劉知幾傳「史有三長、才、學、識、世罕兼之」

さいかく-ぼん (名) 西鶴本 天和、貞享、元祿ノ頃、大阪ノ井原西鶴ノ著作、刊行セル小說ノ稱。好色本、多ク、好色一代男、好色一代女、ナド、名アリ、遊郭、其他ノ男女ノ情事ヲ記セリ。其他、著書、多シ。

さいか-し (名) 皂角子 次次條ヲ見ヨ。

ざい-かた (名) 在方 〔在所ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕在所、在鄕ノ地方。

さいか-ち (名) 皂角子 〔皂角子、さいかいし、さいかち、ト轉ジタル語（莢子、けいち）玉篇「皂、黑也」角ハ、莢ナリ（大角豆）皂莢ト記スニ同ジ、子ハ、實ナリ〕又、サイカイシ。さいかちの木ノ實。莢ニシテ、長サ一尺餘、幅一寸許、皆、ユガミテ、直カラズ、褐色ニシテ、內ニ子アリ、大豆ニ似テ、扁ク、褐色ニシテ光ル、實ヲ藥用トシ、莢ノ煎汁ヲ、物ヲ洗ヒ、垢ヲ去ル用トス。皂莢 此樹ハ、野生ノ喬木ニシテ、古名、かはらふぢノ木。高サ六七丈、幹ニ、刺、多シ、刺ヲ、藥トス、葉ハ、槐ニ似テ、小サク、刺、多シ、夏、葉ノ間ニ、細カキ穗ヲ出シ、黃白色ノ細花ヲ開ク、栗ノ花ニ似テ、細カク、小サシ。皂莢樹 本草和名、下三「皂莢、加波良布知乃岐」康頼本草、上四十「皂角、佐伊加知」撰集抄（西行）五、第十四條「瘡ノ生フベキ所ニハ、西海枝ノ葉ト、木槵ノ葉トヲ、灰ニ燒キテ、附ケテ侍リ」下學集（文安）下、草木門「西海子、子以可洗馬也」川角太閤記「本能寺ノ森、さいかちノ木、竹藪ヲ、雲透ニ目當ニセヨ」

さいかち-むし (名) 皂莢蟲 かぶとむしニ同ジ。（東京）

さい-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 再返 〔さえかへるヲ併セ見ヨ〕再ビ、起ル。ブリカヘス。（病ニ云フ）再起 再感 「病氣さいかへる」

さい-かん (名) 歲寒 寒キ季節。冬ノ時。歲寒松柏ノ條ヲ見ヨ。

さい-かん (名) 材幹 才幹 才能ニ同ジ。伎倆。史記、淮南王傳「騎上下山若蜚、材幹絕人」十訓抄、下、第十、七十四條「サセル才幹ハナカリケレドモ、偏ニ、奉公ヲ先トシテ、私ヲ顧ミヌ忠臣ナルニ因テ」

さい-かん (名) 再刊 さいはん(再版)ニ同ジ。

さい-かん (名) 再感 病ノ、再ビ發ルコト。サイカヘルコト。再發。ヤミカヘシ。ブリカヘシ。

ざい-かん (名) 在監 監獄ニ入レラレテ居ルコト。在獄。

さいかん-の-さん-いう (名) 歳寒三友 松竹梅ノ條ヲ見ヨ。

さいかん-の-しようはく (名) 歳寒松柏 松柏ノ、嚴冬ニモ、葉ノ色ヲ變ヘヌヲ云フ語、人ノ、逆境ニ逢ヒテモ、其節操ノ堅固ナルニ譬ヘテ云フ。「論語、子罕篇「歳寒、然後知松柏之後彫也」 [illegible]」

さい-き (名) 才氣 才智ノ、氣色ニアラハルルコト。「史記、項羽紀「籍長八尺餘、力能扛鼎、才氣過人」「才氣縱溢」

さい-き (名) 濟期 上納皆濟ノ日限。「庭訓往來、十一月 [illegible]」

さい-き (名) 債鬼 〔苛ク負債ヲ催スヲ、鬼トス〕借金トリ。カケトリ。

さい-き (名) 猜忌 ソネミ、イムコト。ソネミ、キラフコト。「後漢書、申屠剛傳 [illegible] 猜忌」

さい-ぎ (名) 猜疑 ウタグリ。猜嫌。「心ニ猜疑ヲ懷ク」「猜疑心」

さい-ぎは (名) 際 〔文選讀ナリ、時節ぎはせつ、片時へんじ、日にちは日ノ類〕きは(際)ト云フニ同ジ。マギハ。「俳、[illegible]、さいぎはニ、[illegible]、さいぎはト云フハ、[illegible]也」

さい-きん (名) 細菌 〔英語、Bacteria.ノ譯語〕最モ、微細ナル生物、塵埃ト共ニ、大氣中ニ飛散シ、又、地中、水中ニモ生存ス、體形ハ、球狀、絲狀、桿狀、螺旋狀、等ニシテ、自體ヲ分裂シ、又ハ、胞子ヲ生ジテ、迅速ニ繁殖シ、人體、其他ノ物ニ寄生シテ、之レヲ腐敗セシム。窒扶斯、結核ナドノ病源トナリ、又、醱酵、消化等ノ作用ヲ營ム有益ナルモノモアリ。バクテリア。黴菌。菌。

さい-きん (名) 細謹 細行ノ謹勅。小事ヲ謹ムコト。「史記、項羽紀「樊噲曰、大行不顧細謹、大禮不辭小讓」同書、李斯傳「大行不小謹、盛德不辭讓」[illegible]」

さい-きん (名) 細瑾 〔前條ノ誤字〕意義轉ジテ、瑣細ナル過失。僅カナルキズ。

さい-きん (名) 再勤 二度ノツトメ。再ビ、職務ニ就クコト。再任。

さい-ぎん (名) 碎銀 (一)小サキ銀貨。「容齋隨筆「便在身邊、取出碎銀、付與王生」(二)豆板銀。「經濟錄、五、食貨「碎銀ハ、大、小、[illegible]ラズ、俗、之ヲ、豆板ト云フ」

ざい-きん (名) 在勤 勤ニアルコト。在役。在職。「在勤中ノ功勞」

さい-ぎんみ (名) 再吟味 〔吟味ノ條ヲ見ヨ〕德川時代、訴訟ノ、再度ノ吟味。訴訟ノ、一旦、裁決セラレタルニ、訴人ヨリ、非分ノ義アリトテ、願ヒ出デ、事情ニ因リテ、再ビ取調ブルコト。再審。「公事訴訟取捌「再吟味之願、理分ニ相認メ候共、雙方對決之上ナラデハ、理分難ニ相決ニ候」

さい-きやう (名) 歳刑 八將神ノ一、地神ナリ、其年ノ、此方角ニ向ヒテ、土地ヲ動カシ、耕シ、種蒔クコトヲ忌ムトス。「簠簋內傳集、上、[illegible]歳刑ニ第十「今之[illegible]、[illegible]之歳刑者、[illegible]之刑ニ」

さい-きやう (名) 西京 京都市ノ異稱。東京、出デ來テ後ニ、呼ベル語ナリ。

ざい-きやう (名) 在京 京ニ、居ルコト。(在鄉、在國、ニ對ス)「文明道者、在京百司」「保元物語、一、新院御所各門門固事「去年ヨリ、在京シタリシヲ」

ざい-きやう (名) 在鄉 鄉里ニ、在ルコト。地方ノ、己ガ家ニ居ルコト。(前條ニ對ス)

ざいきやう-ぐんじん (名) 在鄉軍人 〔現役、罷ミテ、己ガ鄉里ニ居ル軍人ノ義ナリ〕豫備役、後備役、ナドノ將校、下士官、兵卒ノ稱。ザイガウグンジン。

さいぎやう-ざくら (名) 西行櫻 西行上人ガ、京都ノ西山ニ住ミケル、其庵室ノ櫻。謠曲ニ、西行櫻ト題シテ、一曲アリ、(金春氏信ノ作)下ノ出典ノ雲玉集ニ、古ク傳ヘタル記事ニテ、作リナセリ。「雲玉集(永正)西行、西山ニ山居ノ時、花ニ、人、數多、來ニケレバ「花見ムト、群レツツ人ノ、來ルノミゾ、アタラ櫻ノ、科ニハアリケル」斯ク詠ミシ暮ツカタ、花ノ下ニ、白髮ノ老人現ハレテ「罪科ハ、イカガ嵐ノ、山櫻、眺ムル人ノ、我ガ深山木ヲ」ト返シテ失セニケリ、花ノ精ナルベシ」

さい-きよ (名) 再擧 再ビ、事ヲ起スコト。シナホシ。「玉典、十五年再擧、始得ニ一[illegible]ニ」

さい-きよ (名) 裁許 裁決シテ、許スコト。「通鑑、[illegible]「唯陛下裁ニ許之ニ」[illegible]記、四、涌泉寺[illegible]事「佛神、威ヲ垂レ給ハバ、豈、裁許ナカランヤ」

さい-ぎる (動) 遮 さへぎるノ條ヲ見ヨ。「軌道ヲさいぎる」

さい-く (名) 細工 (一)〔工匠ノ、細小ナル器具ヲ造ルヲ職トスル者。(家ヲ建築スルナドニ對ス)〕貫之集「魚袋ヲ細工ハセムトテ、細工ニ給ヘルヲ、遲ク持テ來ル間ニ、日近クナリシカバ」宇津保物語、吹上、下「造物所、さいく、三十人バカリ居テ、沈、蘇芳、紫檀、ナドシテ、破子、折敷、机ドモナド、色色ニ造ル」源、四十八、寄生「沈、紫檀、銀、金ナド、道道ノさいくドモ、イト多ク召シサブラハセタマヘバ、我レ劣ラジト、サマザマノ事ドモ、爲出ヅメリ」(二)細カキ製作。手細工。榮花物語、十九、御裳着「昔、賀陽親王ト云フ人コソ、さいくハ、イミジカリケレ」徒然草、百廿二段「人ノ才能ハ、書アキラカニシテ、云云、次ニ、書、云云、次ニ、弓射、云云、次ニ、細工、ヨロヅニ、要多シ」「紙細工」「貝細工」「細工ハ流流、仕上ゲヲ御覽ジロ」(三)ゑたノ異名。竹細工、籐、茶筅ナド、造リ出シテ、生活ヲ營ムヨリ云フ。(四)ツクロヒゴト。タクラミゴト。人ノ行爲ニ云フ。術策 「話合ニさいくガアル」「証引ニさいくヲスル」

さい-ぐ (動) 喧 さやぐ(喧)ノ條ヲ見ヨ。

さいぐう (名) 齋宮 〔伊勢國、多氣郡ニアリシ御居所ノ名ナルヲ、直チニ、其御身ヲ申スコトトモナリシナリ、齋くノ條ヲ見ヨ〕伊勢大神宮ニ奉仕セラルル皇女ヲ申ス語。古ヘ、天皇、御即位アル毎ニ、未婚ノ內親王、或ハ、女王ヲト定シテ、充テラレ、伊勢ニ趣カセタマヒキ、いつきのみやトモ申シ、齋內親王、略シテ、齋王トモ申ス、天皇崩御、又ハ、御讓位アレバ、職ヲ解カレタリ。齋宮ハ、崇

神天皇、垂仁天皇ノ御世ニ始マリテ、後醍醐天皇ノ御世ニ廢絶トナレリ。八雲御抄、三、下、異名「齋宮、いつきのみや」太政官式「凡、天皇、初卽位者、定伊勢太神宮齋内親王一、簡二未レ嫁者ハ令二所司一卜一」註「若、内親王不レ足、食二者、簡二女王一」齋宮寮式「凡、天皇卽位者、定二伊勢大神宮齋王一」

さいぐうれう (名) 齋宮寮 イツキノミヤノツカサ。伊勢ノ齋宮ノ、一切ノ事務ヲ掌ル寮。倭名抄、五三「齋宮寮、伊豆岐乃美夜乃豆加佐」

さいぐさまつり (名) 三枝祭 さきくさ(三枝)ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。

さいく-ぎよ (名) 細工所 〔スベテ、幕府ノ諸官署ハ、宮譜ノ所ヲ用ヰタリ、昌平坂學問所、講武所ナド、是レナリ〕德川幕府ニ設ケタル役所。禁裏ヘノ獻物、公家衆ヘノ進物、其外、武器、諸道具ヲ製造セシメタリ。年寄支配ナリキ。有德院殿御實紀、四十、享保十九年九月廿五日「細工所頭ハ、二百俵ノ職祿ニ、故ノゴトク、官疑賜フベシト仰下サル」

さいくつ (名) 採掘 (一)地ヲ掘リ起シテ、物ヲ採ルコト。北史、食貨志「採二掘北芒、及、南山佳石一」(二)特ニ、地中ニアル金、銀、銅、鐵、石炭、等ヲ、掘リ採ルコト、コレヲ、鑛業ト云フ。官許ヲ得テ、採リテ所有スルヲ、採掘權ト云ヒ、其鑛物ノアル地域ヲ、採掘鑛區ト云フ。

さいくつ-くわうく (名) 採掘鑛區 前條ヲ見ヨ。

さいくつ-けん (名) 採掘權 前前條ヲ見ヨ。

さいく-どころ (名) 細工所 中古、院政ノ頃、院中ニ置カレ、諸種ノ御調度ヲ製造セシメラレタル所。禁中ニテ云ヒシ、造物所ナリ。さいく(細工)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さいく-にん (名) 細工人 細工ヲスル工。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)職人盡「縫ギ三味線ハ場ヲトラヌ、閨ニ嬉シキ細工人」

さいく-ば (名) 細工場 細工所。物ヲ製造ノタメニ設ケタル家。シゴトバ。工場

さいく-べに (名) 細工紅 假粧紅ニ對シテ、細工ニ用キル紅。製煉、異ナリ。

さいく・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 〔細工ヲ活用セシム、齒む(食)、腹む(孕)、力む、杓む、ノ例〕取リツクロフ。作爲無名抄、上、歌ヲイタクツクロヘバ、必ズ劣ルコト「餘りさいくみテ、トカクスレバ、云云、何ニテモナキ物ニナルナリ」

さいくん (名) 細君 〔小君ノ意、謙稱ナリ、禮記、曲禮、下篇「諸侯夫人、自稱レ於二諸侯一曰二寡小君一」〕(一)我ガ妻ヲ稱スル語。漢書、東方朔傳、從官ニ肉ヲ賜フ、朔、劒ヲ拔テ肉ヲ割ク「割レ之不レ多、又何廉也、歸遺二細君一、又、何仁也」顏注「細、小也、朔、自比二諸侯一、謂二其妻一曰二小君一」蘇軾、上元侍レ飲詩「歸來一點殘燈在、猶有レ傳柑遺二細君一」(二)又、人ノ妻ヲ稱スル語。俗ニハ、妻君ナドト當字シテ、敬稱トス。令閨。書言故事、一、夫婦類「謂二人妻一曰二細君一」王直方詩話ニ、七言絶句一首ヲ載セテ「此、趙德麟細君王氏所レ作也」

さいくわ (名) 災禍 ワザハヒ。災害。災患。史記、酷吏傳「災禍不レ生、所レ求不レ匱」

さいくわ (名) 載貨 船ノ積荷。

ざいくわ (名) 財貨 タカラ。金錢。財。貨財。史記、項羽紀「貪レ於二財貨一」

ざいくわ (名) 罪過 ツミトガ。史記、信陵君傳「自言二罪過一」

ざいくわ (名) 罪科 罪ノ科。咎。後漢書、郭躬傳「平二其罪科一」平治物語、三、忠致尾州逃下事「今、彼レヲ罪科セバ、自餘ノ凶徒ヲ、誰レカ誅戮セン」

さいくわい (名) 再會 再ビ、出會フコト。保元物語、二、左府薨逝事「賴長、一タビ去リテ、再會、何ノ時ヲカ待タン」

さいくわい (名) 際會 出會フコト。デクハスコト。杜甫詩「君臣已與レ時際會」「風雲ニ際會ス」

さいくわい (名) 崔嵬 石ノ多キ山。石山。詩經、國風、周南、卷耳篇「陟二彼崔嵬一」註「崔嵬、土山之戴レ石者」爾雅、釋山篇「石戴レ土、謂二之崔嵬一」

ざいくわい (名) 罪魁 罪ヲ犯セルモノドモノ張本人。罪人ノ首魁。

ざいぐわい (名) 在外 出デテ、外國ニ居ルコト。史記、魏世家「以二食祿千鍾一、什九在レ外、什一在レ內」「在外公使」在外領事」

さいくわう (名) 採光 日光ノ、室内ニ差込ムヤウニスルコト。「暗室ノ採光」

さいくわう (名) 採鑛 鑛物ヲ、掘リ採ルコト。蘇軾、徐州上二皇帝一書「採レ鑛伐レ炭」「採鑛冶金」

さいぐわつ (名) 齋月 〔齋ノ條ヲ見ヨ〕さうごぐわつ(正五九月)ノ條ヲ見ヨ。

さいくわん (名) 齋官 〔齋戒スル人〕神事ニ關係スル人。

さいくわん (名) 齋館 イミドノ。イミタチ。カンダチ。

さいくわん (名) 災患 ワザハヒ。災禍。左傳、成公十八年「匡二乏困一、救二災患一」太平記、三十、義詮朝門逝去事「災患、本種ナシ、悪事ヲ以テ種トストイヘリ」

ざいくわん (名) 在官 官ヲ勤メテアルコト。在勤。

ざいけ (名) 在家 〔在所ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕田舍家。村。村家 村落 新ニ建テタルヲ、新在家ト云フ。出村。愚昧記、保延元年(崇德天皇)注進、淀相撲猩御領「國利名、在家壹宇」盛衰記、廿五、小督局事、彈正少弼仲國、勅命ヲ受ケテ、小督局ノ住ヲ尋ヌ「嵯峨ノ在家、廣シトイヘドモ、思フニ、幾程カアルベキ」宇治拾遺、四、十五條、永超僧都「丈六堂ノ邊ニテ、破子食フニ、弟子一人、近邊ノ在家ニテ、魚ヲ乞ヒテ、勸メタリケリ」

ざいけ (名) 在家 在俗ノ人ノ家。〔出家ノ僧家ニ對ス〕釋氏要覽「瑜伽論云、在レ家若レ屈二臨字一出レ家閑曠、猶レ處二虛空一」佛本行經「令二三人出家、二人在ヲ家」法華經、安樂行品「有レ受二持法華經一者、於二在家、出家人中一、生二大慈悲心一」

ざいけ (名) 濟家 臨濟宗ノ寺。

さいけい (名) 歲計 一箇年ノ、歲入ト、歲出トノ計算。晉書、王導傳「雖レ無二日用之益一、而歲計有レ餘」

さいげい (名) 才藝 才ト、藝ト。後漢書、仲長統傳「表二德行一以厲二風俗一、覈二才藝一以敍二官宜一」

さいけい-こく (名) 最惠國 〔英語、Most-favoured-nation.ノ譯語、最惠國條款ハ、此末ニ、Clause.ヲ加フ〕通商條約ニテ、甲國ト通商スルニ、最モ利益アル取扱ヒヲ受クル、乙國ノ稱。乙國ニ限リテ、關稅ヲ免除セラルルナドヲ云フ。第三國ガ、乙國ト同ジ利益ヲ與ヘラレムコトヲ約束スルヲ、最惠國條款ト云フ。

さいけいこくでうくゎん（名）［最惠國條款］［最惠國ノ條ヲ見ヨ］

さいけいれい（名）［最敬禮］敬禮ノ條ヲ見ヨ。

さいげき（名）［歳下食］下食ノ條ヲ見ヨ。

さいけつ（名）［裁決］サバキ。裁判シテ、決定スルコト。訴願ニ對スル、行政ノ處分。裁斷。決裁。五代史、蘇逢吉傳「臨事裁決」

さいけつ（名）［採決］決ヲ採ルコト。議長ガ、議案ニ對スル、諸議員ノ可否ノ意見ヲ問ヒテ、決定スルコト。

さいげつ（名）［歳月］トシツキ。年月。［陶潜詩「盛年不重來、一日難再晨、及時當勉勵、歳月不待人」

さいけん（名）［債權］法律ノ語。債務者ニ對シテ、特定ノ給付ヲ請求スルコトヲ得ル權利。卽チ、貸金ヲ、其者ニ辨償セシムル權利ノ如シ。此權利ヲ有スル人ヲ、債權者ト云フ。其給付スベキ義務ヲ、債務ト云ヒ、其人ヲ、債務者ト云フ。

さいけん（名）［債券］〔英語、Debenture.ノ譯語〕債務ヲ證スル有價證券。國家、又ハ、公共團體、銀行、會社ナドガ、資金ノ必要アル時ニ、衆人ヨリ借入ルルタメニ、法律ノ規定ニ依リテ發行スルモノ、國庫債券、勸業債券、農工債券ナド、是レナリ。

さいけん（名）［細見］（一）精細シク見ルベク、作レルモノ。（多ク、地圖ノ製ナドニ云フ）「京都ノ細見圖」（二）新吉原細見記ト云フハ、江戸、新吉原町、遊郭ノ遊女屋、遊女ノ名、其外ヲ記シタル書ナリ、享保年中ニ起リ、五葉松ト題シ、年年、改正、板行シタリ。（温知叢書、五、作者部類、二）

さいけん（名）［細剱］ホソダチ。

さいけん（名）［猜嫌］ソネミ、キラフコト。猜忌。三國志、魏志、賈逵傳「嫌、見二猜嫌一」［門自守。李白、曲江漁父詩「嫌尺寸絲、羊竹、豈知浮世有二猜嫌一」

さいげん（名）［際限］カギリ。ハテ。［期。（甲陽軍鑑、五、品第十三）「南ト杉並北條家生起合戰ノ品事」大樹ニ知行取リ所フシク、際限ナキニヨリ、明政公、處所入、タダ、千貫ナラデ無シ」

ざいけん（名）［罪譴］ツミ。トガメ。罪過。［陸游詩「何時乞二骸骨一萬二罪譴一」

ざいげん（名）［財源］貨財ノ出ヅル源。［荀子、富國「時當渭濁、如二泉源一」「財源枯渇」

さいけんしゃ（名）［債權者］債權ノ條ヲ見ヨ

さいこ（名）［細故］些細ナル事故。小事。［史記、匈奴傳「細故謀分、何足以疑二」

さいこ（名）［柴胡］古名、ノゼリ。又、ハマアカナ。草ノ名、春、地ニ宿キテ叢生ス、高サ二三尺、葉、細長シ、秋、梢ノ葉ノ間ニ、枝ヲ分チテ、小黄花、簇リ開ク、花、實、茴香ニ似タリ、根ヲ藥トス。又、ホタルサウ。

さいご（名）［最期］〔最ハ、生命ノ最終ノ意、期、異音、ごご碁、ご〕命ノ、果ツル期。今際ノ時。シニギハ。臨終。末期。臨死［義經記、三、上ニ十六「此尼君ノさいごニ會ヒ侍ラムズレバ、還キ修行ナド、エ仕フマツルマジケレバ」平家物語、七、實盛最期事」同、九「忠度最期事」

さいご（名）［最後］最モ、後ナルコト。イチバト。最終。［漢書、張禹傳「最後出而尊貴」］副詞句ヲ形作ル接尾語ノ如ク、これを限りとして、ノ意ニ用キラル。「言ッタガさいご、打捨テオカヌ」期限ガ切レタガさいご、許サレヌ」尾張、美濃ニテハ、さいがト云フ、此意味ニテ、擬人シテ、最後之助ナドモ云フ（承知之助）

さいこう（名）［採工］炭鑛ナドニテ、採掘スル工夫。天工開物、採工篇、得途、從、施、鑽得、鑽方止」

さいこう（名）［再興］再ビ、興スコト。復タ、興ルコト。唐書、高祖傳「領三雨陵鑄、欲二今再興一」太平記、一、儲王業試二、下葉再興ノ運、福祚長久ノ基」家名再興」

さいこく（名）［催告］法律ノ語。相手方ノ行爲遂行ヲ、催促スルコト。

さいこく（名）西國（一）西ノ方ノ國。公羊傳「昔者周公、東征則西國怨、西征則東國怨」（二）九州ノ（一）ノ一名。「西國大名」西國郡代」

ざいこく（名）［在國］國許ニ、居ルコト。（在京ナドニ對ス）後漢書、皇后紀「如二在國諸侯禮一」盛衰記、三十三、緒方三郎攻二平家一事「其子孫經、國司代ニテ在國ノ間」

さいこくぐんだい（名）西國郡代 徳川幕府ノ職名。九州ニ於ケル豐前、豐後、肥前、肥後、日向、内ノ幕府領地十萬石ヲ總管スル郡代ナリ、豐後ノ日田ニ居テ、窪田氏ノ世襲ナリキ。

ざいこくしゅう（名）在國衆 室町時代、大名ノ、京都ニ參勤スルコトナクテ、常ニ領國ニ在リシ者ノ稱。（貞丈雜記、四）

さいこくじゅんれい（名）［西國巡禮］さんじふさんしょくゎんおん（三十三所觀音）ノ條ヲ見ヨ。

さいごつうてふ（名）［最後通牒］〔英語、Ultimatum. ノ譯語〕國際間ノ通牒ノ一種。國際ニ、紛擾起リ、談判ニテ決セザル時、最後ノ交涉トシテ、相手方ニ發送スルモノナリ、要求ヲ示シ、期限ヲ定メ、承諾ノ返答ナキ時ハ、他ノ關係ニ移ルベキ事ヲ申送ル。他ノ關係トハ、多クハ、開戰ノ事ヲ云フ。

さいごのすけ（名）［最後之助］最後ノ條ヲ見ヨ。

ざいごつぺゑ（名）在鄉兵衞　さいごべゑノ條ヲ見ヨ。

ざいごつぽう（名）［在鄉人］〔在鄉人ノ訛（薩摩ッぽう、水戸ッぽう）〕田舍人ノ稱。嘲リテ云フ意アリ。ザイゴベエ。キナカ・ボウ。

ざいごふ（名）［罪業］〔ごふ（業）ノ條ヲ見ヨ〕罪トナル業。狂言記、布施無經「今日ハ異ルル諸ヂャガ、何トシテ異レヌゾト思フ所ガ、罪シイ罪業テ御座ル」「罪業深シ」

さいごべ（名）［最後屁］狐、又ハ、鼬ノ、死ニ苦シム時ニ放ツ、甚シキ臭氣。文化ノ川柳「三國一ノ、最後屁ハ、那須野ナリ」（三國傳來ノ九尾ノ狐、那須野ニテ殺サレテ、殺生石トナリア、生物ヲ殺スト傳フ）

ざいごべゑ（名）［在鄉兵衞］〔權兵衞ノ語原ヲ見ヨ〕田舍人ノ異稱、急呼シテ、ざいごっぺゑ。

さいこん（名）［菜根］野菜ノ根、卽チ、大根ナルベシ。萬世統譜、汪革、性孝友、家貧好ム學、生平、淡泊不レ伐、嘗曰、咬二得菜根一、則百事可レ做」（淡泊ニ安ンジテ、心ヲ動カササレバ、何事ヲモ成ス

ベシノ意、革、字ハ信民、宋ノ臨川ノ人、此語、朱子ノ小學外篇ノ末ニモ、擧ゲラレタリ)「菜根譚」

さい-こん (名) 茜根 〔せんこんナルベキナリ、正韻「茜、倉甸切」〕 茜根ヲ、藥用トスル稱。本草和名、上「茜根、阿加禰」

さい-こん (名) 再建 再ビ、建ツルコト。再造。「本堂再建」

さい-さい (副) 再再 タビタビ。シバシバ。度度。著聞集、十八、飲食「酒殽ヲ設ケラレテ、さいさい二勸メラレケリ」狂言記、居杭「兎角、世間ヘ何ト云フトモ、構ハズ、さいさい見舞ウテクレイ」「再再起ル」再再來ル」

さい-さい (副) 細細 コマカナル狀ヲ云フ語。コマゴマ。微細。太平記、二、阿新殿事「本間ガ寢處ナド、細細ニ伺ウテ」

さい-さい (副) 濟濟 〔康熙字典「濟濟、衆盛之貌」〕 物事ノ多キヲ、形容シテ云フ語。詩經、大雅、文王之什、文王篇「濟濟多士」吾妻鏡、十七、元久二年正月八日「御所心經會、云云、御馬已下、施物濟濟焉」太平記、十四、三井寺效議事「阿闍梨眞飯、云云、同宿、濟濟ト引具シテ、僉議シテ」鹿苑院社參記、應安元年七月十一日「侍從殿(足利義詮)自三浦一通省ヘ入御、供奉青濟、齒、目了」

ざい-ざい (名) 在在 在所ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

さい-さい・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 騷騷 〔さわさわノ、さゐさゐト轉ジ、音便ニ、さいさいトナリタルガ、活用シタル語〕 さわさわ(騷騷)ニ同ジ。

ざいざい-しよしよ (名) 在在處處 〔在處在處ナリ(空寂空寂、空空寂寂。奇妙奇妙、奇奇妙妙)〕 アルトコロ、アルトコロ。ココ、カシコ。ソコ、ココ。劉禹錫詩「在在處處、御物護持」法華經、法師品「藥王、在在處處、云、若讀、若誦、若書」維摩經「在在處處城邑」

さい-さう (名) 宰相 さいしやう(宰相)ノ(二)ニ同ジ。今鏡、下、第七、夢通路「御夢ニ、採桑老ト云フ舞ヲシタマフト見テ、語リタマヘリケルヲ、物ニ心得ヌ人ノ、宰相ニテ、久シクヤオハシマサムズラム、ト合ハセタリケル」

盛衰記、四、涌泉寺喧嘩事「コレカレ參リ集リテ、御伴ノ人數九千餘人、ハ在所所ニ滿チミチタリ」

さい-さう (名) 才藻 〔才智、文藻ノ略〕 詩歌、文章ナドノ、思考ニ富メルコト。宋書、王誕傳「少有二才藻一」

さい-さう (名) 洒掃 塵ヲ掃ヒ、水ヲ洒グコト。ハキサウヂ、フキサウヂ。詩經、大雅、蕩之什、抑篇「夙興夜寢、洒二掃廷内一」

さい-さう (名) 西曹 だいがくれう(大學寮)ノ條ヲ見ヨ。

さい-ざう (名) 再造 (一)再ビ、造ルコト。建テナホスコト。再興。唐書、郭子儀傳「子儀破二安慶緒一收二東都一入朝、帝遣具二章容一迎二灞上一勞之曰、國家再造、卿力也」 (二)再生ニ同ジ。生キ回ルコト。回生。北齊書、杜弼傳「無情之草、尚得二還生一含靈之物、何妨二再造一」宋書、王僧達傳「天地之仁、施不レ期レ報、再造之恩、不レ可二妄屬一」小學、外篇、善行「荷二殿下再造之慈一」

さい-ざう (名) 才藏 〔萬歲ノ歲ヲ取リテ、歲藏ト擬人シタル語ニハアラヌカ、年若ヲ、若藏ト云フ類〕 正月、江戸ニ出デ來ル、三河萬歲ノ太夫ノ、連ヲ勤ムル男ノ通名。太夫ノ舞フ謠ニ伴ヒテ、小鼓打チツツ、滑稽ナル伎ヲナス、侍烏帽子ニ、素襖着テ、袴ナシ。此才藏役トナル者ハ、多クハ、下總邊ノ者ニテ、前年ノ年末ニ、江戸橋、四日市ニ來リ集ル、太夫、ソレゾレ擇ビテ、雇入ル、コレヲ、才藏市ト云ヒキ。俚言集覽、才藏「萬歲ノ伴ヲ云フ、又、舞ヲシテ、人ノあどうつヲ、才藏ト云フ」同、才藏市「江戸、日本橋邊、十二月、萬歲ガ下リ來リテ、才藏ヲ雇フヲ云フ」

さいざう-いち (名) 才藏市 前條ヲ見ヨ。

さいさう-らう (名) 採桑老 〔樂家錄ニ、百濟國ノ採桑ノ翁ノ、衰老ノ狀ヲ演ズルナリト云ヘリ〕 舞樂ノ曲ノ名。老人ガ帽ヲ被リ、帽後ニ笹ノ葉ヲ插シ、鳩杖ヲツキ、歩行ニ堪ヘザル狀シテ舞フ、一人舞ナリ。倭名抄、四、曲調類、盤渉調曲「採桑老、有レ詠」日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)一「採桑老ノ白衣ノ袖、カヘスガヘスモ殊勝ナリ」

さい-さき (名) 幸先 〔幸先ノ音便ナルカ(土掘串、ついふぐせ。挾杪、かいとり)〕 事ノ、キザシ。前表。エンギ。前兆。倭字通例書(元祿)「幸 表」俚言集覽「幸 向」丹波與作(寶永、近松作)上「雙六ノさいさきモ善シ、門出ヨシ」菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲)二「さいさき惡イ、訴訟モナラズ」

さい-さく (名) 細作 間者ニ同ジ。爾雅、釋言篇、諜「間俔也、今、細作也」通鑑、唐紀「同鶴、吐蕃、皆有二細作一古之諜者也」

さ-いさご (名) 眞沙子 〔さハ、發語〕 沙子ト云フニ同ジ。催馬樂、高砂「高砂ノ、左伊左古ノ、高砂ノ、尾上ニ立テル、白玉椿」

さい-さん (副) 再三 フタタビ、ミタビ。二度、三度。シバシバ。タビタビ。易經、上經、蒙卦「初筮告、再三瀆」白居易、贈二康叟一詩「再三佐レ汝非二他事一天寶遺民見漸稀」狂言記、布施無經「再三ノ御使デゴザルニヨッテ」「再三再四」

ざい-さん (名) 財産 人ノ所有ノ動產、不動產。ミノシロ。身代。身上。資財。家產。後漢書、齊武王縯傳「悉推二財產一與二諸弟一」太平記、十七、江州軍事「山門衆徒、財產ヲ盡クシテ」

ざいさん-か (名) 財産家 財産ヲ、多ク所有スル人。モノモチ。カネモチ。資產家。素封「町内第一ノ財產家」

ざいさん-けい (名) 財産刑 刑罰ノ一種、其犯罪人ノ財產ニ課スルモノ。罰金、科料、沒收、ノ類。(體刑ナドニ對ス)

ざいさん-さしおさへ (名) 財産差押 債權者ノ請求ニ因リテ、官ヨリ、債務者ノ財產ヲ差押ヘテ、移動セシメザルコト。納稅義務ヲ果サザル者モ、差押ヘヲ執行セラルルコトアリ。

ざいさん-ぜい (名) 財産稅 其人所有ノ財產ノ價額ヲ標準トシテ課スル稅。

さい-し (名) 才思 才智アル思想。盧照鄰詩「楊花廢爽無二才思一」

さい-し (名) 才子 オアル人。才智アル者。才物。潘岳、西征賦「賈生、洛陽之才子」「才子多病、美人薄命」

〔さい-し (名) 妻子 妻ト、子ト。ツマコ。ニョウボコ。妻兒。妻孥。禮記、哀公問篇「昔、三代明王之政、必敬二其妻子一也、有レ道」大集經、十四、偈頌「妻子、珍寶、及、王位、臨二命終一時、不レ隨者、唯戒及レ施(持戒ト、布施ト)不放逸、今世、後世、爲二伴侶一」宇津保物語、田鶴村鳥「老イタル親、小サキさいしノ、泣キ悲シブヲ見タマフルナム、紅ノ涙流レテ、悲シク侍ル」

〔さい-し (名) 妻子 〔子ハ、禹說ナリ、急ノコトヲ、緩急ト云ヒ、與フルコトヲ、與奪ト云フガ如シ、或ハ、又、吾子、佛子、ナド云フ類カ〕 妻ト云フニ同ジ。妻。杜甫、無家別「結髮爲二妻子一席不レ煖二君牀一」源、五、若紫「さ浜キ里ハ、人離レ、心スゴク、若キさいしノ、思ヒワビヌベキニ因リ、且ハ、心ヲヤレル住ヒニナム侍ル」盛衰記、十九、文覺發心事「十六七ニモアラムト見ユル女房、云云、世ニアリガタキ女ナリ、云云、イカナル人ノ妻子ナラムト、行末、見タク思ヒケ

レバ、常ニ著テ行ク程ニ」

さい-し (名) 釵子〔笄子〕 〔釵子ノ延〔詩〕[illegible]、さいた、家司、けいし、後世、おさし、さし〔御釵子〕ト云フハ、即テ、本音ニ復シタルガ如シ、類音「釵、初佳切、音叉」玉篇「釵、婦人岐笄也」子ハ、瓶子、冊子、帷子、ナドニ云フニ同ジ、釵子ト云フモノ、和語ナケレバ、支那傳來ノモノナルベシ」古ヘ、貴婦人、禮裝ノ時ノ髮飾ノ具、銀製ニテ、二本ヲ一具トシ、垂髮ノ頂ノ簪髻、蔽髮ニ添ヘテ插ス、簪ノ類ナリ。德川時代ニハ、武家ノ女房ノ式正ノ頭飾ニ、垂髮ノ寶髻ヲ、かぶト云ヒ、釵子ヲ、おさしト云ヒキ。 倭名抄、十二〔冠帽具〕「簪、[illegible]也、此間云ニ爾之ニ、上音、如レ字」 宇津保物語、初秋「假髮、蔽髮ヨリハジメ、さいし、元結、御櫛ドモナド」云云」枕草子、十一、百三十三段「御ひたひ、上ゲサセタマヘルさいしニ、御ワケメノ御髮ノ、イササカ寄リテ、[illegible]サセタマフナド、云云、宮ノ御[illegible]」紫式部日記、御[illegible]「[illegible]ノ裳衣、[illegible]、云云、さいし[illegible]、[illegible]中ノ女房ノ裝[illegible]さいしサセタマヘル元結ニ、御ひたひ髮ノ、ウチソヒテ」(齋院ノ御裝) [illegible]抄「釵、サイシ、カンザシ、笄子、サイシ」永仁御[illegible]記、女房裝束、四十具「内侍、云云、釵子、上[illegible]、長[illegible]寸五分、高六寸、[illegible]長[illegible]寸、[illegible]四[illegible]」安齋隨筆、廿七、釵子「是レハ、宮女ノ髮ノ[illegible]ナリ、云云、今世ノ詞ニ、おさしト云フハ、即チ、御釵子ナリ、云云、女房、式正ノ時ハ、垂髮ニシテ、頂ノ上ニ、髮ヲ、鵜ノ如ク束ネテ、是レヲ、かぶト名ツク、ソノかぶニ、釵子ヲ插スナリ」

さい-し (名) 祭祀 マツリ。祭典。 禮記、[illegible]「[illegible]祭祀ニ」

さい-し (名) 祭司 猶太教、又、耶蘇教ニテ、神ニ奉仕シテ、宗教上ノ儀式、典禮ヲ司ル職。

さい-し (名) 祭資 祭事ニ要スル資金。

さい-し (名) 祭粢 祭事ニ、神ニ奉ル供物。 禮記、曲禮、下篇「凡祭ニ宗廟ニ之禮、云云、稷曰ニ明粢ニ稻曰ニ嘉蔬ニ」 左傳、桓公六年「絜粢豐盛」

さい-し (名) 再思 再度、思案ヲメグラスコト。再考。 論語、公冶長篇「季文子三思、集疏、[illegible]其再思、則可矣」

さい-し (名) 細疵 さいか(細瑕)ニ同ジ。 抱朴子「[illegible]玖、則不下以ニ細疵ニ棄中巨美上」

さい-じ (名) 歲次 〔歲星ノ次ノ義、陸倕、石闕銘「歲次天紀」註「歲、歲星也」〕支那ノ天文學ニ、二十八宿ヲ分チテ、十二次トシ、歲星(木星)ハ、十二年ニシテ天ヲ周ル、即チ、年ニ、一次ヲ行クナリ、りょうしふ(龍集)ヲ併セ見ヨ」 年ヲ記スニ添フル語。年ノメグリ。歲序。 潘岳、西征賦「歲次玄枵」「明治元年歲次戊辰」

さい-じ (名) 歲時 一年中ノ月次、日次。 禮記、哀公問篇「歲時以敬ニ祭祀ニ」 歲時ニ行ハルベキ祭事、儀式、其外、百般ノ人事アル月日(年中行事)ヲ記シタル書ヲ、歲時記ト云フ。「荊楚歲時記、[illegible]歲時記」

さい-じ (名) 細字 細カニ書キタル文字。小字。 顏氏家訓「年七十餘、目看ニ細字ニ」 太平記、十一、書寫山御幸事「法華經一部八巻、並、開結ノ二經ヲ、細字ニ書キタルアリ」

さい-じ (名) 細事 小事ト云フニ同ジ。 南史、何遠傳「以ニ細事ニ受ニ財物ニ」「細事ニ拘泥セズ」

さい-じ (名) 祭事 マツリノコト。マツリ。神事。 禮記、曲禮、下篇「祭事不レ縣、大夫不レ食ニ粱」

さい-じ (名) 妻兒 妻子ニ同ジ。 白居易詩「歡娛接ニ賓客ニ、飽暖及ニ妻兒ニ」

さい-じ (副) 蕞爾 〔唐韻「蕞、才外切」說文「小貌」〕 小シト云フ意ヲ云フ語。 左傳、昭公七年「[illegible]蕞爾國、而、三世執ニ其政柄ニ」

さい-しう (名) 採收 さいしふ(採集)ノ條ヲ見ヨ。

ざい-しう (名) 罪囚 メシウド。ツミビト。囚人。

さい-しがく (名) 齋子學 安藝ノ人、齋文獻齋ノ首唱シタル學、訓詁ヲ旨トス。伊藤東涯ノ門人ニテ、京都ニ住シタリ、(墓ハ、等持院ニアリ)弟子ノ馬淵嵐山ハ、其學ヲ紹述ス。

さい-しき (名) 采色〔彩色〕 繪ニ、繪具ヲ用キテ、色取ルコト。エドリ。着色。設色。淡ク色取リタルヲ、薄彩色ト云フ。淡彩 濃厚、精密ナルヲ、極彩色ト云フ。濃彩 傾城反魂香(寶永、近松作)上、親「繪筆ノ彩色ニ、生マレツキタル美男ナリ」

さい-しき (名) 祭式 祭ノ儀式。祭禮。

さい-じき (名) 齋食 齋ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 義經記、七、三口關通給事「粟ノ齋料ナド尋ネテ、さいじきナドナリトモ、取リテ下ダルベク候ヒツルニ」

さい-じき (名) 歲時記 歲時ノ條ヲ見ヨ。

さいしき-ずり (名) 彩色摺 繪ヲ、刻板ニシテ、繪具ヲ塗リテ、摺出シタルモノ。錦繪ノ見當摺ナドモ、是レナリ。

さい-しく・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 彩色 〔彩色ノ下音ヲ活用セシメタル語、乞食、こつぢく。裝束、さうぞきての類〕 彩色ヲナス。色ドル。エドル。 榮花物語、十六、本雫「御顏ハ、色色ニさいしきタマヒテ、鏡ニ映レル影ヲ見タマヒテ」ト寶狂歌集(寛文)下「或人、笑容ヲ繪ニ畫キテ、花ナト、濃艶色ニさいしきテ、歌書キテクレヨ、トアリケレバ(歌)」

さい-しち (名) 齋七 又、累七。七七四十九日ノ中陰。(南山和尙ノ南屛燕語、下) 七七日ノ條ヲ見ヨ。

さい-しつ (名) 妻室 ツマ。妻。女房。内室。 平治物語、一、唐僧來朝事「紀伊ノ二位ト申スハ、云云、信西ガ妻室ト成リテ、不思議多キ中ニ、唐僧來リテ、生身觀音ナリトテ、拜スル事アリ」

さい-じつ (名) 祭日 マツリビ。祭典ヲ行フ日。皇室ニテ行ハセラルル、元始祭、紀元節、春季秋季皇靈祭、神武天皇祭、神嘗祭、新嘗祭、等アリ。

さい-しふ (名) 採集 トリ、アツムルコト。採收。 劉歆、與ニ揚雄ニ求ニ方言ニ書「采ニ集先代絕言、異國殊語ニ」「植物ノ採集」「古文書ノ採收」

さい-しん (名) 細心 コマカキ、ココロヅケ。綿密ニ、氣ヲツクルコト。「細心[illegible]」

さい-しん (名) 細辛 古名、ミラノネグサ。ヒキノヒタヒグサ。少辛。草ノ名、葉ハ、かもあふひニ似テ、長ミアリテ、毛ナシ、春、新葉ヲ生ズレバ、根ノ上ニ、三瓣、紫黑ノ小花ヲ開ク、根ヲ、藥用トス。

さい-しん (名) 采薪 タキギヲ、トルコト。 淮南子、說山訓「君子之于レ善也、猶下采レ薪者、見ニ一芥ニ掇レ之、見ニ青葱ニ則拔上レ之」

さい-しん (名) 再申 袖書ノ條ヲ見ヨ。

さい-しん (名) 再審 一旦、判決シタル訴訟ヲ、再ビ、審理スルコト。再吟味。

さい-しん (名) 再進 饗應ニ、飯、汁、ナドヲ、替ヘテ勸ムルコト。オカハリ。再進スベキ物ヲ盛ル器ヲ、再進鉢ト云フ。

讀書、蔭凉軒日錄、延德三年十月十二日「再進再屈」宗五大雙紙(室町時代)上、人の相伴する事「さいしんヲ受ケ候事、云云、飯ナドノさいしんハ、サノミ無クハ出デ候ハズ候、湯漬ハ、少シ無ク出デ候、又、再進鉢ヲ座敷ニ置ク事ハ、モトハ無ク候、云云、蔭ヘ取リ候テ、又、盛シ候テ、出デ候」下學集(文安)下、器財門「再進鉢、末挑鉢」易林節用集(慶長)器財「菜桶、再進鉢」

さい-じん (名) ｜祭神｜ 神社ニ祭ル所ノ神。

さい-じん (名) ｜才人｜ 〔才トハ、學問ノコト、其條、並ニ、ざえノ條ヲ見ヨ〕 (一)學者。 源、廿一、少女十「事果テテ、退出ル博士、さいじんドモ召シテ、又又、文作ラセタマフ」 宇津保物語、吹上、下「十「物ノ師、さい人、琴アリ、形アル者、擇ビタリ、云云、ソレラガ前毎ニ、案ドモ立テテ、イカメシキ饗ヲシタマフ」 平治物語、一、信西出家由來事「御邊ハ、諸道ノ才人カナ」 (二)支那ニテ、宮女ノ官職。歌舞ニ通達スルヲ以テ仕フルナルベシ。 曹植、七啓、八首「才人妙技」傍註「妙技、女樂也」 杜甫詩「詩酒休レ放出ニ佳麗ニ宮闈不レ擬選ニ才人ニ」 事物紀原「南史、晉武帝采三國魏之制ヲ、三夫人外、有ニ才人ニ」

さいしん-の-うれへ (名) ｜采薪之憂｜ 〔不レ能レ采レ薪ノ意ト云ヘド、一説ニ、薪ヲ采リ擔ヒテ、疲勞セル病ヲ云フナリトモ云ヘリ、負薪之憂ト云フモ、同意ナリ〕所勞、病氣ヲ云フ、謙稱。負薪之憂ト云フモ、同ジ。 孟子、公孫丑、下篇「王使ニ人問レ病、醫來ル、孟仲子對曰、昔者有ニ王命一、有ニ采薪之憂一、不レ能レ造レ朝、今病小愈、云云」集註「采薪之憂、言ニ病不一レ能レ采レ薪、謙辭也」禮記、曲禮、下篇「君使ニ士射一、不レ能則辭以レ病、言曰、某有ニ負薪之憂一」

さいしん-バチ (名) ｜再進鉢｜ 再進ノ條ヲ見ヨ。

さい-しやう (名) ｜歲星｜ 歲星ノ條ヲ見ヨ。

さい-しやう (名) ｜宰相｜ (一)支那ニテ、執政大臣ノ通稱。丞相。相國。 漢書、平當傳「漢興、唯韋平父子至ニ宰相ニ」 (二)〔我ガ朝廷ニテハ、參議ノ異稱。相公。さいさう。大臣以下、參議以上ハ、執政ニテ、皆、宰相ナルニ、專ラ、參議ヲ稱スルハ、參議ニ昇レルヲ規模トスルガ故ニ、特ニ、稱スルナリ、相公ト云フモ、同ジ。(年年隨筆、二) (三)五位以上ハ、皆、大夫ナルニ、專ラ、五位ヲ、大夫ト稱スルモ、五位ニ昇レルヲ規模トスレバナリ。 枕草子、二、十七段「殿上人、宰相、ナドヲ、タダ、名ノル名ヲ、イササカ憚ラシゲナラズ云フハ、イト、カタハナルヲ」

さい-しやう (名) ｜災祥｜ 〔周易、譯文「自レ外曰レ祥、害レ物曰レ災」〕 ワザハヒト、サイハヒト。禍福。 書經、咸有一德篇「惟天降ニ災祥一在レ德」

さい-じやう (名) ｜最上｜ 最モ、上ナルコト。第一ニ、勝レタルコト。 唐國史補「蘇州進レ藕、其最上者、名ニ傷荷藕一」 盛衰記、十八、文覺頭朝謀叛ニ進ムル事「最上ノ吉夢也」

ざい-しやう (名) ｜罪障｜ 佛說ニ、罪業ノ、往生ノ障トナルコト。 楞嚴經「是人罪障、應レ念消滅」 太平記、廿、結城入道墮ニ地獄一事「罪障深重ノ人多シトイヘ共」「罪障消滅」

ざい-じやう (名) ｜罪狀｜ 罪ノ事柄。 左傳、莊公廿三年「晉ニ厲子一而去レ之」杜注「以ニ罪狀一誣レ之」「罪狀、明白ナリ」

ざい-じやう (名) ｜在城｜ 城ニ住ミテ居ルコト。

さいしやう-ちゆうじやう (名) ｜宰相中將｜ 宰相(參議)ニシテ、近衞ノ中將ニ兼任セルモノ。 元輔集「宰相中將藤原朝臣、子、生マセテ侍リシ、云云(歌)」

さい-しゆ (名) ｜祭酒｜ 國子祭酒ノ條ヲ見ヨ。

さい-しゆ (名) ｜債主｜ 債權ヲ有スル人。貸主。カシテ。 後漢書、陳重傳「債主日至、詭求不レ已」

さい-しゆ (名) ｜採取｜ ヒロヒ、トルコト。エリトルコト。拾取。

さい-しゆ (名) ｜歲首｜ 年ノハジメ。年始。年頭。 史記、封禪書「秦以ニ冬十月一爲ニ歲首一」

さい-しゆう (名) ｜歲終｜ 年ノヲハリ。歲末。歲晚。 周禮、天官篇、冢宰「歲終則令ニ百官府ハ各正ニ其治一」

さい-しゆう (名) ｜最終｜ 最モ、ヲハリナルコト。イチアト。「行列ノ最終」

さい-じゆうけい (名) ｜再從兄｜ 次條ヲ見ヨ。

さい-じゆうけいてい (名) ｜再從兄弟｜ イヤイトコ。マタイトコ。年上ナルヲ、再從兄ト云ヒ、年下ナルヲ、再從弟ト云フ。

さい-じゆうてい (名) ｜再從弟｜ 前條ヲ見ヨ。

ざい-しゆく (名) ｜在宿｜ 己ガ宿ニ居ルコト。他出セヌコト。在宅。

さい-しゆつ (名) ｜歲出｜ さいにふ(歲入)ノ條ヲ見ヨ。

さい-しゆん (名) ｜才俊｜才儁｜ 才智ノ、優レタルコト。又、其人。俊才。 晉書、嵇康傳「君性烈而才儁、其能免乎」

さい-じゆん (名) ｜再閏｜ 陰曆ニ、三年目ニ閏月ヲ置キ、五年目ニ、再ビ、閏月ヲ置クコト。 漢書、張純傳「三年一閏、天氣小備、五年再閏、天氣大備」

さい-しよ (名) ｜最初｜ 最モ、初ナルコト。第一ニ、先ナルコト。さいそ。初手。イッチサキ。最始。 順正理論「最必最初」

さい-しよ (名) ｜稅所｜ 〔さいハ、稅ノ漢音(萬歲、萬歲)〕 古ヘ、國衙ニ屬シテ、租稅ノ事ヲ掌レル職。 庭訓往來、十二月「國過行之事、大介、稅所、留記文書、公文、田所、云云」庭訓抄、下「稅所」 新編常陸國誌(中山信名)九、官職、稅所「雜任ノ內ナリ、國府ニアリテ、一國ノ租稅、公田、私田ノ總數ヲ勘合スルノ職ナリ、云云、稅所ハ、さい所ナリ、常陸吉田社文書ニ、さいしよトアルヲ證トスベシ」

さい-しよ (名) ｜裁書｜ 誓ノカキツケ。誓文。誓書。 左傳、襄公九年「晉子莊子爲ニ載書一」

さい-しよ (名) ｜歲序｜ トシツキ。歲次。 杜牧詩「儲嫂歲序長」

ざい-しよ (名) ｜在所｜ (一)アルトコロ。アリカ。己ガ住ミツキテ居ル所。住所。 漢書、平帝紀「皆自出送ニ家在所一收レ事」註「各送ニ其家人ハ詣ニ本國縣邑ハ從ニ其役一耳」 平治物語、一、信賴信西不快事「信賴ハ、云云、出仕モセズ、伏見源中納言師仲ト相語ヒテ、彼ノ在所ニ籠リ居テ、云云、偏ヘニ武藝ヲゾ習古セラレケル、是レ、信西ヲ失ハムタメトゾ聞エケル」 (二)都會ニ出デテ、地方ノ住所ヲ云フヨリ轉ジテ、フルサト。故鄉。鄉里。 大館常興記、天文十一年五月十六日「奥山孫五郎、今日イトマヲ申シ、在所へ罷リ返ス」「在所ニ居ル父母ニ文遣ス」 (三)又、轉ジテ、都會ヲ離レタル地。田舍ノ地方。下略シテ、在ト云ヒ、重ネテハ、在在ト云フ。在方。在鄉。鄉村。村里。村落。 甲陽軍鑑、十二、品第三十九「源虎、信州、河中島へ馬ヲ出サル、サリナガラ、在在之儀、殘ク事モ無ク候」「在所者」「在所生居」在所育チノ少女「武藏國、品川在、某村」

さい-しよう (名) ｜濟勝｜ 「濟勝之具ノ語原

ヲ見ヨ」一時ノ境ヲ、サダムルコト。[illegible]

さい-しょう (名) 最勝 (一)最モ、マサレルコト。一番、スグレタルコト。[illegible] (二)金光明最勝王經ノ略。

ざい-しょう (名) 罪證 犯罪ニ關スル證據。[illegible]

さい-しょう-こう (名) 最勝講 古ヘ、毎年、清涼殿ニテ行ハレタル法會。五月ニ、五日間、日ヲ撰ビテ、東大寺、興福寺、延暦寺、園城寺、ノ高僧ヲ召シテ、最勝王經ヲ講ゼシメテ、天下太平ヲ祈ラル。此經、十卷アリ、毎日、朝、夕、二座、一卷ヅツ、講ジタリ。此講ハ、持統天皇ノ七年十月、宮中ニテ始メラレタリトモ云フ。[illegible]

さい-しょう-の-ぐ (名) 最勝之具 [illegible] 山河ノ[illegible]リ」健脚ト云フニ同ジ。山河ヲ跋渉スルニ、脚ノ達者ナルニ云フ。[illegible]

さい-しょう-わう-きょう (名) 最勝王經 金光明最勝王經ノ上略。其條ヲ見ヨ。更ニ略シテ、最勝トモ云フ。「[illegible]」

さい-しょう-ゑ (名) 最勝會 奈良ノ藥師寺ニテ、毎年三月、最勝王經ヲ講ズル法會。[illegible]

王經ヲ講ゼラル」

さい-しょく (名) 才色 才能ト、容色ト。(婦人ニ云フ) ハタラキト、キリヤウト。[illegible]「才色兼ネ備ハル」

さい-しょく (名) 采色 風采ト、顏色ト。[illegible]

さい-しょく (名) 菜色 [青菜ノ色、青ザメタル顏色] 人ノ、飢エタル顏色。饑色。[illegible]

さい-しょく (名) 菜食 野菜ノミヲ、常食トスルコト。(肉食ニ對ス) 漢書、王莽傳「[illegible]」

ざい-しょく (名) 在職 役ヲ勤メテ居ルコト。在勤。在任。在役。孟子、公孫丑、上「[illegible]」

さい-しり (名) 撥尻 [撥ノ形ニ似タリ] 象牙造リノ三味線ノ撥ノ、基ノ名。俚言[illegible]

さい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 際 出アフ。デクハス。際會ス。「爭亂ノ世ニ際シテ、能ク其身ヲ全ウス」

さい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 賽 神佛ニ、御禮マヰリス。報賽ス。

さい・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 殺 ヘラス。ソグ。[illegible]

さい-すり (名) 犀摺 [犀ハ、象牙、鹿角、ヲ磨リテ作ル] 犀ヲ作ル工人。七十一番職人歌合[illegible]さいすり「[illegible]」

ざい-せ (名) 在世 世ニ、生キテアル間。ナガラヘ居タル時。「其人、在世ノ功勞」

ざい-せ (名) 財施 布施ノ條ヲ見ヨ。大智度論「財施者、謂以二飲食衣服田宅珍寶等、一切自己所有資財之具[illegible]」

さい-せい (名) 歲星 [歲次ノ條ヲ見ヨ] 木星ノ一名。又、歲星。說文「歲、木星也」[illegible] 持統紀、六年七月壬午[illegible] 字類抄「歲星祭、サイシャウノマツリ」

さい-せい (名) 濟世 世ヲ、濟フコト。世人ヲ、安堵セシムルコト。易經、下經、蹇卦、疏「[illegible]」

さい-せい (名) 再生 死ヌベカリシガ、再ビ生クルコト。ヨミガヘルコト。イキカヘルコト。回生。太平記、四、吳越軍事「[illegible]再生ニ可報トテ」「再生ノ思ヒ」

さい-せい (名) 再製 フタタビ、ツクルコト。ツクリカヘスコト。

さい-せい (名) 災眚 ワザハヒ。災難。災厄。後漢書、安帝紀「[illegible]」

さい-せい (名) 祭政 祭祀ト、政治ト。政教。「祭政一致」

ざい-せい (名) 財政 國家、又ハ、公共團體ガ、其歲入、歲出ノ收支ヲ、種種ニ取扱フコト。「財政困難」

さいせい-いっち (名) 祭政一致 「祭祀モ、政治モ、一致ナルコト」我ガ國ノ上古ノ政府ノ組織ヲ云フ語。上代ハ、祭祀モ、政治モ、共ニ、まつりごと(奉事)ト云ヒキ、中臣氏ノ祖、天兒屋命、齋部氏ノ祖、太玉命、天孫ノ降臨ニ從ヒテ、國土ニ降リ、其子孫、相承ケテ、仕ヘ奉ル、祭祀ハ、實ニ、朝政ノ大節ヲ占メタリ。崇神天皇ノ御代ニ、神器ヲ、笠縫邑ニ奉遷セラレテ、神宮、皇居、相、別レ、履中天皇ノ御代ニ、齋藏ノ外ニ、內藏ヲ建テラレ、神物、官物、ト別レナドシテ、次第ニ、祭政一致ノ制ハ、廢ルルニ至レリ。神皇正統記、皇極「上古ハ、神ト、皇ト、一ニマシマシシカバ、祭ヲツカサドルハ、卽チ、政ヲ執レルナリ」同、神武「大和國、橿原ニ、京ヲ定メテ、宮造リス、其制度、天上ノ儀ノ如シ、天照大神ヨリ傳ヘタマヘル三種ノ神器ヲ、大殿ニ安置シ、床ヲ同ジクシマシマス、皇宮、神宮、一ツナリシカバ、國國ノ御調物ヲモ、齋藏ニ收メテ、官物、神物ノワイダメナカリキ、天兒屋根命ノ孫、天種子命、天太玉命ノ孫、天富命、專ラ、神事ヲツカサドル、神代ノ例ニ異ナラズ」

ざいせい-がく (名) 財政學 [英語、Science of finance.ノ譯語] 財政ニ關スル學。國家、又ハ、公共團體ガ、公共ノ目的ヲ達スルニ必要ナル經濟行爲ニ就キテ、其原理、及、政策ヲ論究スル學問。

さい-せう (名) 細小 コマカク、チヒサキコト。微小。吳越春秋「臣細小無力、迎[illegible]則[illegible]」

さい-せう (名) 最小 最モ、チヒサキコト。(最大ニ對ス)「最小公倍數」

さい-せう (名) 最少 最モ、スクナキコト。(最多ニ對ス)「最少限度ニ止ム」

さい-せう (名) 再醮 [禮記、昏義篇「父親醮子而命之迎、男先於女也」鄭註「酌而無酬酢曰醮」] 女子ノ、再ビ嫁グコト。再縁。再婚。孔子家語、本命解篇「禮無再醮之端、敎令不出於閨門」王肅、注「始嫁言醮」

さい-せき (名) 載籍 [書籍ニ書キ載す

ろコト」記錄。記載。又、直チニ、其書籍。史記、伯夷傳「學者、載籍極博」

さい-せき（名）［採摭］〔摭ハ、禮記、禮器篇「有順而摭也」疏「摭、猶拾取也」揚子方言「摭、取也」此字ヲ、せき、せきトト讀ムハ、誤ナリ〕ヒロヒ、トルコト。拾取。文心雕龍「採摭英華」

ざい-せき（名）［罪跡］犯セル罪ノ、アトカタ。「罪跡明白ナリ」罪跡ヲ晦マス」

ざい-せき（副）［在昔］ムカシ。アリシ、ムカシ。詩經、商頌、那篇「自古在昔、先民有作」班固、東都賦「蹈乘、乎在昔、事勤、乎三五」

さい-せつ（名）［歲殺］八將神ノ一。其年ノ此方角ニ向ヒテ、娵取ラズ、又、藝始メヲ忌ムトス。

さい-せん（名）［再選］（一）再度、選擧スルコト。（二）再度、當選スルコト。

さい-せん（名）賽錢。神佛ニ、祈願成就ノ報賽ニ、奉ル錢。轉ジテ、唯、神佛ニ參詣シテ、幣帛ニ代ヘテ奉ル錢。香花錢。コレヲ、散錢トモ云フハ、寶前ニ、錢ヲ撒キ散ラスニテ、散米（うちまき）ト、同趣ナルベシ。今ハ、神社、佛閣ノ前ニ、賽錢箱トテ、大ナル木箱ヲ据エオキテ、參詣人ヲシテ、錢ヲ、其中ニ投ゲ入レシム。松屋筆記、十六、四十八「聖福寺佛殿記ニ、錢幣之獻、村木之奉、云云、按ズルニ、コレ、今ノ賽錢也」入唐求法巡禮行記（圓仁）三「向佛坊撥、散錢如雨」合類節用集（元祿）七、器財門「散錢、賽錢」永正記、下、四月十一日、御內掃除事「當日、御前之散錢、刀禰等、井、祝給之」（伊勢神宮）出羽風土記（寶曆三）、湯殿山大權現「夏月、諸國ヨリ參詣ノ人、五色ノ幣ヲ納メ、散錢積テ、山ノ如シ」

さい-せん（名）［最先］イチサキ。イヤサキ。最初。最前。漢書、循吏傳「最先褒之」

さい-ぜん（名）［最前］（一）前條ニ同ジ。（二）イマガタ。今シガタ。サキホド。先刻。謠曲、鹽風「最前ノ客僧ハ、何處ニワタリ候フゾ」副詞ノ如ク用キラル。「最前、來ラレタ客人」

さい-ぜん（名）［最善］モットモ善キコト。一番、適當ナルコト。「最善ノ計ヲ取ル」

さい-ぜん（名）［細軟］〔軟ハ、俗ニ、軟ニ作ル〕コマカクシテ、ヤハラカナルコト。拾遺記「有草名濡奸、細軟可縈、海人織以爲席薦」

さい-せんきよ（名）［再選擧］フタタビ、選擧スルコト。選擧ノシナホシ。

さいせん-ばこ（名）［賽錢箱］賽錢ノ條ヲ見ヨ。

さい-そ（名）［再祚］ちようそ（重祚）ノ條ヲ見ヨ。

〔さい-そ（名）［最初］最初ニ同ジ。蜻蛉日記、下、中「小弓、云云、さいそニ出デテ、諸矢仕ツ」

さい-そ（名）［菜蔬］野菜。アヲモノ。蔬菜。南史、循吏傳、序「太官常膳、唯以菜蔬」

さい-そく（名）［細則］コマカキ事ニ就キノ規則。（總則ニ對ス）

さい-そく（名）［催促］モヨホシ、ウナガスコト。ハタルコト。セツクコト。督促。後漢書、楊倫傳「詔書勑司隷、催促發遣」白氏文集、三十三、閒居春靜「冬衣夏葛相催促、垂老光陰速似飛」太平記、三、笠置軍事「催促ヲモ不待、諸國ノ軍勢、夜晝、引キモ不切」

ざい-ぞく（名）［在俗］〔出家ニ對ス〕俗體ニテアルコト。僧トナラズシテアルコト。今昔物語、廿六、第十八語「觀硯聖人ト云フ者アリキ、ソレガ、若クシテ、在俗ナリケル時、祖ノ家ニアリケルニ、云云」

さいそく-ざとう（名）［催促座頭］往時、盲人ノ、貸金ノ催促ニ歩キメグルモノ、公許アリテ、强請シタリ。まうくわん（盲官）ノ條ヲ見ヨ。

さい-た（名）［最多］最モ、オホキコト。（最少ニ對ス）

サイダア（名）［林檎酒］〔英語、Cider.〕林檎ノ果實ヨリ取リタル、一種ノ飲料。

さい-たい（名）［妻帶］妻ヲ、持テルコト。多クハ、淸僧ニ對シテ、僧ニシテ、妻アルニ云フ、修驗道、山伏ナド、火宅僧ト云フ、是レナリ。「肉食妻帶」

さい-たい（名）［臍帶］ホゾノヲ。ヘソノヲ。

さい-だい（名）［菜代］飯ノ菜ノ代金。菜料。

さい-だい（名）［細大］コマカナルト、オホイナルト。細事、大事。巨細。史記、秦始皇紀「細大盡力、莫敢怠荒」「細大遺サズ」

さい-だい（名）［最大］最モ、オホイナルコト。（最小ニ對ス）「最大公約數」

さいだい-じ（名）［西大寺］〔寺ハ、大和國、生駒郡、伏見村ニアリ、奈良七大寺ノ一〕豐心丹ト云フ藥ノ異名。近代世事談（享保）一「豐心丹ハ、南都、西大寺ノ院中ヨリ出ヅル故ニ、世俗、西大寺ト云フ、院中、月月、順番ニ勤ム」

さいだい-でん（名）［最大殿］〔大內裏ノ建物中ニテ、最も大ナルモノ〕大極殿ノ一名。拾芥抄、中、末、宮城部「大極殿、云云、又、南之最大殿」有職抄、二、禁中殿門「大極殿、九間四面、朝堂院ノ正殿、八省院トイフ、是レナリ、又、中臺ノ最大殿トイフ」

さい-だう（名）［齋堂］齋ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

さい-だう（名）［西堂］禪宗ニテ、他寺ノ前住ノ稱。とうだう（東堂）ノ條ヲ見ヨ。

さい-たく（名）［採擇］エラビ、トルコト。エリドリスルコト。宋書、后妃傳、論「晉氏採擇」字類抄「採擇、サイチヤク」「優秀ナルモノヲ採擇ス」

さい-たく（名）［洒濯］洗ヒ、ススグコト。洗濯。左傳、襄公廿一年「紀也聞之、在上位者、洒濯其心、壹以待人」

ざい-たく（名）［在宅］他行セズシテ、己ガ家ニアルコト。在宿。在家。

さいだ-しほ（名）［齋田鹽］阿波國、板野郡、齋田、撫養、等ノ地ヨリ産ズル鹽ノ稱。

〔さい-だ-つ（動）［先立］さきだつノ條ヲ見ヨ。神代紀、下「十一汝將先我行乎」

さいだ-つま（名）［若草］〔先立つつまノ約（水つく、みづく。障、罪。故實つくる、こぢつくる）さいだつハ、さきだつノ音便（其條ヲ見ヨ）ニテ、初生ノ意ナリ、つまハ、配偶ノ義、初生ノ二葉、對生スル意、若草のト云ヒテ、配偶ノ枕詞トスルナリ、或ハ、先立つ葉ノ轉（三間四間ヲ、みつばよつばト云フ）カトモ思ヘド、アラジ〕春ノ若草ノ異名。狩語抄、下、植物部「さいだつまトハ、若ク生ヒ出デタル草ノ名ナリ」塵袋抄「春ノ若草ヲ云ヘリ」後拾遺集、一、春、下、三月バカリニ、野ノ草ヲ詠ミハベリケル「野邊見レバ、彌生ノ月ノ、ハツルマデ、マダウラ若キ、さいだつまカナ」（暮春ニアレバ、珍ラシキヲ云ヘルナルベシ）

夫木抄五、春「さいだつま、マダウラ若キ、三吉野ノ、[illegible]ナリ　[illegible]、春、上「春日野ニ、マダウラ若キ、さいだつま、妻ゴモルトモ、言フ人ヤナキ」

さいたん (名) 歳旦 元日ニ同ジ。一月一日。康會、呂元膺傳「明日歳旦」

さいたん (名) 菜單 料理ノ獻立。猶、菜ノ語原ヲモ見ヨ。

さいたん (名) 最短 〔最長ニ對ス〕最モ、短キコト。

さいだん (名) 裁斷 裁決ニ同ジ。サバキ。裁定。決斷。宋書、劉穆之傳「性亦機、有二裁斷一」 太平記、三十五、北野通夜物語事「王道仁政ノ裁斷、萬事ノ眞ニ暗カリシヲ、世、歎キシカ」

さいだん (名) 祭壇 祭事ヲ行フ壇。「祭壇ヲ設ケテ、天神地祇ヲ祀ル」

ざいだん (名) 財團 〔財産ノ團體〕法律ノ語。一定ノ事業ニ屬スル財産ヲ以テ組成シ、法律上、一箇ノ物ト見做サルルモノ。(社團ニ對ス)此財團ガ、法人ニ取扱ハルルヲ、財團法人ト云フ。はふじん(法人)ノ條ヲ見ヨ。

さいだんげん (名) 截斷言 [illegible]げん(終止言)ニ同ジ。直說法ノ條ヲ見ヨ。

ざいだんはふじん (名) 財團法人 前前條ヲ見ヨ。

さいたらばたけ (名) 才太郎畠 〔せいたら働きトモ云ヒ、せいたら畠に働く、トモ云フ、急いたる度ヲ失フ行爲ヲス、ト云フ意ニテ、せいたらガ、さいたらト轉ジ、矢嶋馬、やぶさめ。塞く、ふさぐ〕はたらきヲ、畠ニ言ヒ寄セタル語カト思ハル〕 又、せいたらばたけ。餘計ナル仕事。相應セザル行事。[illegible]「さいたら働き」 三養雜記(天保、山崎美成)二「イフサ[illegible]ル事ニ、世話ヲヤキテ、身力ヲ勞スルコトヲ、せいたら畠に働く、ナドト云フ諺アリ」 甲陽軍鑑、四、品第十二「サテ又、利根ノ過ギタル大將ハ、下劣ノ喩ニ、さいたら畠ト申ス如ク、本國ニテマシマサネバ、物ヲ習ヘドモ、未、通ゼズ、半分知リテハ、シカモ、開山ニナラムト思召シ、假名ノ本ヲ、眞名ニシ、眞名ニ書キタルヲ、假名ニナホシ、云云」 續山の井(寛文)雨中花「アマリ降ルハ、花ノさいたら、畠カナ」 俳諧染糸(元祿)「初心ノ人、氣ヲ高ク持チ過ギタラバ、俗ニ云フ、さいたらばたけヘ走ルベシ」 故事因緣集(元祿)三「神國ニ生ルル人ガ、現世ノ神明ヲ捨テテ、未來ノ佛ヲ信仰スルハ、才太郎畠ヘ走リ過ル」 松の葉(元祿)三、跨心中ノ歌「イザヤ、最期ヲイソガウト云ウテ、火屋ノ東ノさいたら畑、露カ、時雨カ、身ヲ知ル雨カ」(火屋ハ、火葬屋ナリ、筋道ノ違ヒタル方ニ走ル意ナルカ)

さいち (名) 才智 才ト、智慧ト。漢書、匡衡傳「才智有レ餘」

さいち (名) 細緻 コマカク、密ナルコト。緻密。綿密。[illegible]、木理緻、緻ハ[illegible]

さいち (名) 采地 〔下ノ出典ヲ見ヨ〕官人ノ領知スル地。采邑。食邑。 漢書、刑法志「卿大夫、采地之大者、是謂二百乘之家一」 合類節用集(元祿)二、地門「采地、今云二領知一、漢刑法志」 (宋、官也、因二官食一地、故曰二采地一、采邑、同上」

ざいち (名) 在地 在所。住ミテ居ル地。平治物語、二、待賢門軍事、齋藤別當、後藤兵衞「二條堀川マデ馳セ來リ、材木ノ上ニ、二ツノ首ヲ[illegible]キテ、[illegible]見ケル在地ノ者共ニ預ケテ、云云」

ざいぢん (名) 在陣 陣中ニアルコト。出陣中。太平記、三十六、畠山道誓事「此ノ軍勢、長途ニ疲レ、數月ノ在陣ニクタビレテ」

さいちやう (名) 最長 (一)最モ、長キコト。(最短ニ對ス) (二)最モ、優レタルコト。第一ノ長所。盛衰記、七、康頼造卒都婆事「孝養ハ、百行ノ最長、罪人、必ズ哀愍ス」

さいぢやう (名) 齋場 〔潔齋スル所〕 (一)大嘗祭ノ時、神供ノ物ヲ調ヘムガ爲ニ、設ケラルル建物。又、齋場所。大嘗祭式「凡、在京齋場者、預分設二兩處一悠紀在レ左、主基在レ右、云云、其齋場者、分爲二内外兩院一云云、八神殿一字、稲實屋一字、黒酒白酒屋各一字、云云」 御代始抄(文明、一條兼良)大嘗會事「悠紀、主基ノ齋場所、[illegible]門ヲ避リテ、北、八十一丈ヲ點ジテ、其所トス」(北野ノ地ナリ) 盛衰記、廿四、大嘗會事「大内ノ北野ニ、齋場所ヲ造テ、神服、神供ヲ調ヘ」 (二)京都、東山、神樂岡、吉田神社ニアル、吉田神道ノ神殿ノ稱。齋場所。文明十一年、吉田兼倶、造立シ、伊勢ノ内宮、外宮、以下、海内ノ名神、諸社ヲ勸請シタリ、本殿ヲ、太元宮ト云フ、足利義政ノ夫人ノ造營ニテ、八角ノ神殿ナリ、天正十八年、神祇官ノ八神殿ヲ、齋場所ニ遷シ、吉田兼見、コレニ奉仕シ、神祇官ニ擬シテ、神道一家ノ基本ヲ、コレニ託セリ。(此八神殿ハ、明治五年、東京ノ皇居中ノ神殿ニ遷サレタリ)吉田神道、吉田官ノ條ヲ併セ見ヨ。 卜部記「嵯峨天皇御宇、弘仁八年、仰二神祇伯卜部智治丸一被レ立二齋場於二如意峰一云云」 兼致朝臣記、文明十六年十月五日、神祇齋場ノ事「コノさいぢやう所ハ、人王ノ第一、神武天皇、此國土ニテ、始メテ神ヲ御祭アリシ根元ナリ」(古事類苑、共ニ、吉田家ノ齋場ノコトナリ)

さいぢやう (名) 齋場 今、葬儀ヲ執行スル場所ヲ云フ。東京ノ青山墓地、又、谷中墓地、等ニアリ、青山齋場、谷中齋場ナド云フ、青山ナルハ、明治十九年、大成教管長、平山成齋ノ創立ト云フ。

ざいちやう (名) 在廳 次條ヲ見ヨ。

ざいちやうくわんにん (名) 在廳官人 古ヘ、國司ノ廳ニ在勤シテ、事務ヲ執リ行ヘル官人、多クハ略シテ、在廳人、又、單ニ、在廳トモ云ヒキ。中古以來、國司ハ、京ニ居テ、赴任セズ、目代以下、在廳ノ官人ニ、國務ヲ執ラシメタリ、コレヲ、留守所トモ云ヒ、下僚ニ至ルマデ、多クハ、世襲シタリキ。(留守所ノ條ヲ見ヨ) 吾妻鏡、一、治承四年十月「武藏國諸雜事等、仰二在廳官人、幷、諸郡司等一可レ令二沙汰一」 同、十、文治六年十月「御目代不二下向一之間、隨二留守家景、幷、在廳之下知一可レ致二沙汰一」(此留守ハ、鎌倉幕府ノ留守職ナリ) 平家物語、一、鵜川合戰事「師光ハ、阿波ノ國ノ在廳、云云、宿根賤シキ下﨟ナリ」 太平記、十六、船坂合戰事「備前國、一宮ノ在廳ニ、美濃權介佐重ト云ヒケル者、云云」

さいぢやうしよ (名) 齋場所 齋場(熟語、第一)ノ條ヲ見ヨ。

ざいちやうにん (名 在廳人 前前條ヲ見ヨ。

さいぢやく (名) 綵着 〔廣韻「綵、咋哉切、繒也」彈正臺式「凡、衣袖、云云、其表衣、長綵着レ地」貞丈雜記、五、裝束類「綵着ノ欄外「さいヲバ、清ミテ讀ミ、ちやくヲバ、濁リテ讀ムナリ、名目ノ習ヒナリ」」〕 官服ヲ、身丈ニ着テ、裾ヲ、踵ト齊シクスルコト。武官ガ、大禮ニ、襖ヲ着ル時、下襲ノ裾ヲタタミアゲテ、地ニ引カヌヤウニスルナリ。 貞丈雜記、五「[illegible]裝束抄ニ、綵着、丈ト等シキ事ナリ」

さいちゆう (名) 細註 小書。細字ニテ記シタル註釋。

さいちゆう (名) 最中 〔最中ノ字ノ音

讃」モナカ。サナカ。マサカリ。事ノ、闌ナル時。「合戰最中」暑イ最中」

ざい-ちゅう（名）【在中】中ニ、入レテアルコト。「書状ニ、證書在中」

ざい-ぢゅう（名）【在住】ソコニ、住ミツキテ居ルコト。居住

さい-ぢょ（名）【歲除】〔歲末ノ除日ノ義、除夜ノ條ヲ見ヨ〕オホツゴモリ。大晦日。荊楚歲時記「歲除、三百六旬之盡」

さい-ぢょ（名）【妻女】妻ナル女。妻。義經記、六、靜若宮八幡宮參詣事「藤次ガ妻女、モロトモニ行キテゾ、モテナシケル」

さい-ぢょ（名）【才女】才智、文才アル婦人。才媛。閨秀。

さい-つ-おさへ-つ（副詞句）【指抑】さしつおさへつノ條ヲ見ヨ。

さい-づかひ（名）【先使】さきづかひニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

さい-つ-ごろ（名）【先頃】さきつごろノ條ヲ見ヨ。

さい-づち（名）【木槌】〔倭訓栞、さいづち（さゐノ列ニアリ）「倭名抄ニ、柊楑ヲ讀メリ、小椎之義、いハ、休メ字」トアリ、さいヲ、さノ延ト見タルニカ、サラバ、釵子、さいし。家司、けいし。詩歌、しいかノ類カ、尙、考フベシ、横槌ト云フハ、頭形ニ就キテ云フナリ、槌ノ條ヲ見ヨ〕木製ノ槌ノ、稍、小サキモノ。又、木槌。横槌。（鐵槌ニ對ス）畿内ニテ、番匠槌ト云フ。倭名抄、十五六工匠具「方椎、方槌、謂之柊楑、散伊都遲」字鏡集「槌、サイツチ、ヨコツチ」撮壤集（享德）中、術藝部、番匠「楑、柊楑、サイツチ、槌」合類節用集（元祿）七、器財門「柊 楑、木 椎」和漢三才圖會（正德）廿四、百工具「柊楑、散伊都遲、俗云、與古都遲」物類稱呼（安永）四、器用「柊楑、さいづち、畿内ニテ、ばんぢやうづち、西國、及ビ、四國ニテ、さいちづち、東國ニテ、さいづちト云フ」

さいづち-あたま（名）【木槌頭】次條ヲ見ヨ。

さいづち-がしら（名）【木槌頭】〔さいづちノ頭ニ似タリ、槌ノ條ヲ見ヨ〕人ノ頭ノ、上、平カニシテ、前額、後腦ノ、突キ出デタルモノ。今、さいづちあたまト云フ。太秦廣隆寺牛祭祭文「柊 楑 頭ニ、木冠ヲ戴キ」（惡心僧都ノ作ト云フ、寬仁元年寂ス）新撰樂記、八御許夫「手斧頭而爲三工之棟梁一也、柊槌頭而爲二道之首長一也」

さい-つ-とし（名）【先年】さきつとしノ條ヲ見ヨ。

さい-で（名）【裂帛】〔割出ノ音便、裁チテ、餘リノ出デタルモノ〕（一）布帛ノ裁片。後撰集、廿、哀傷「鈍色ノさいでニ書キテ、人ニ贈リ侍リケル」圓融院扇合、詞書「裾濃ノさいでニ包ミテ」枕草子、二、十九段「過ぎにし方戀しきもの、二藍、エビゾメ、ナドノさいでノ、壓シヘサレテ、草子ノ中ニアリケルヲ見付ケタル」新撰朗詠集、上「不レ知細葉誰 裁 出、二月春風是剪刀」字類抄「割出、サイデ、布切也」（二）此語、塗師ノ、漆ヲ拭フ、布切ノ名ニ存ス。居篇工隨筆（安永）「釣キ人ノ、さひで印ツケテ、遣ヒカカレルト、枕草子ニ書ケルハ、絹ノ端切ノヤウニ聞エタリ、云云、然シテ、其名、蒔繪師ニノミ殘リテ、鞘ノ地錆ヲ、磨キテ拭フ時ヲ、さいでト云フ」嬉遊笑覽、二、上、服飾「絹ニテモ、布ニテモ、裁端ヲ、さいでト云フ、今モ、塗師ガニテ、漆ヲ拭フ布きれヲ、さいでト云フナリ」

さい-てい（名）【再訂】再ビ、訂正スルコト。再度ノ改訂。

さい-てい（名）【裁定】キリモリシテ、定ムルコト。後漢書、盧植傳「裁二定聖典一」吾妻鏡、二、壽永元年五月廿五日「申二請鎌倉殿御裁定一」

さい-てい（名）【最低】最モ、ヒクキコト。（最高ニ對ス）「最低價額」

ざい-てい（名）【在廷】（一）朝廷ニ、仕ヘテアルコト。在朝。（二）法廷ニ、出頭シテアルコト。「在廷ノ證人」

ざい-てう（名）【在朝】朝廷ニ、アルコト。政府ノ官職ニ就キテアルコト。在廷。（在野ニ對ス）晉書、束晳傳「在レ朝者龍逸、在レ野者鳳集」「在朝ノ人」

さいでう-がき（名）【西條柿】柿ノ一種、安藝國ノ西條ヨリ出ヅルモノ。さはしがき、ころがきトシテ、最モ、甘美ナリ。

さいでう-まさ（名）【西條正】伊豫國ノ西條ニ產ズル、大判ノ正月紙。（いよまさノ條ヲ見ヨ）

さい-てがた（名）【再手形】〔英語、Re-exchange. ノ譯語〕爲替手形ガ、支拂ヲ拒絕セラレタル時、所持人ガ、手形義務者ニ宛テ、償還金額ヲ限リトシテ、再ビ振リ出ス爲替手形。逆爲替トモ云ヒ、戻爲替手形トモ云フ。逆手形。戻手形。

さい-てん（名）【祭典】祭ノ儀式。祭禮。禮記、月令篇「命二樂正一入レ學習レ舞、乃修二祭典一命二祀山林川澤一」

さい-てん（名）【祭奠】マツリノ、ソナヘモノ。又、マツリ。北史、隋高祖紀「旣宗祀廢絕、祭奠無レ主」

さい-てん（名）【采椽】【採椽】山ヨリ採リ出シタルママノ椽。韓非子、五蠹篇「堯之有二天下一也、茅茨不レ翦、采椽不レ斲」盛衰記、十六、圓滿院大輔登山事「大廈ノ棟梁、天ニ挾ミ、四面ノ採椽、雲ニ係ケタリ」

さい-てん（名）【採點】試驗ノ答案ナドニ、甲、乙、等ノ評點ヲ付スルコト。テントリ。「採點、酷シ」

さい-テン（名）【西天】西天竺ノ條ヲ見ヨ。

さい-でん（名）【齋殿】イミドノ。イミタチ。平治物語、一、叡山物語事「大菩薩、ミヅカラ齋殿ヲ開キ、手ヅカラ大師ニ授ケ給ヒ」

ざい-てん（名）【在天】天翔ルコト。天上ニ、アルコト。詩經、周頌、淸廟篇「濟濟多士、秉二文之德一、對二越在レ天、駿奔二走在レ廟一」「在天ノ靈」

さい-テンヂク（名）【西天竺】〔日本、支那ヨリハ、西ノ方ニアル故ニ、西ノ字ヲ冠スルナリ〕（一）天竺ト云フニ同ジ。下略シテ、西天ト云フ。佛祖統紀「西天求レ法、東土譯レ經」謠曲、弱法師「水上淸キさいてんノ、無熱池ノ池水」運要大師ヲ、西天ノ祖ト云フ。（二）五天竺ノ一、東、西、南、北、中、ノ内ノ、西天竺ヲモ云フ。又、西印度。

ざいてん-の-れい（名）【在天之靈】天翔リマス御靈。死者ヲ祭ル時ナドニ、其靈魂ヲ尊稱スル語。「在天之靈、尙 饗」

さい-ど（名）【妻孥】【妻帑】〔正韻「帑、音奴、與レ孥通」〕妻子ニ同ジ。妻兒。詩經、小雅、鹿鳴之什、常棣篇「宜二爾室家一、樂二爾妻帑一」傳「帑、子也」「妻孥ヲ率キテ、家ヲ移ス」

さい-ど（名）濟度「濟ハ、救ふナリ、度ハ、渡るナリ、佛菩薩ガ、衆生ヲ、苦海ニ沈沒セルヨリ濟ヒテ、悟ノ彼岸ニ渡ラシムル意」佛敎ノ語。衆生ノ、罪業ニ迷ヘルヲ諭シテ、佛果ヲ得ルニ導クコ

ト。在俗ノ男女ヲ出家セシムルヲ、單ニ、度ストモ云フ。[illegible]「只小[illegible]生ニコソ、師ノサキニカカルトモ、後生ハ定メテ、[illegible]道ノ[illegible]ニ預カラン」

さい-ど（副）［再度］フタタビ。二度。

さい-とう（名）［菜豆］イシゲンマメ。イシゲンササゲ。

さい-とう（名）［柴燈］柴ヲ焚キテ、神佛ノ燈明トスルモノ。著聞集、一、神祇「熊野ニ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ヲタキテ、眼ノ明ラカナラムコトヲイノルアリケリ、[illegible]年、[illegible]山[illegible]、火ヲ出デ来テ、御殿ニカカリ、八王子ノ宮、[illegible]、兩社ノ[illegible]、[illegible]、共ニ、燒ケニケリ」[illegible]燈明ハ、油火ナリ、云云、山深キ所ナドニテハ、油火得難クレバ、アルニマカセテ、柴ヲ焚キテ、燈明トシテ奉ル[illegible]云云、[illegible]ノ中[illegible]、ノ、[illegible]山ヨリ出ヅル[illegible]ノ[illegible]、オコセタルノ[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]、[illegible]、トモキタリ」[illegible]、さいとう「阿波[illegible]ニテ、[illegible]ハタク[illegible]、さいとうトイフ、柴[illegible]ノ字[illegible]」

さい-そく（名）［催促］[illegible]シク、[illegible]ムコト。[illegible]

さい-とゝし（名）［一昨昨年］さきさきとしノ條ヲ見ヨ。

さい-とり（名）［才取］［牙儈取ノ約、相場ト云フモ、牙儈場ノ約ナリ］スアヒ。賣買ヲ取持チテ、口錢ヲ得ルコト。又、其人。牙儈　牙保

さい-とり-さし（名）［刺鳥刺］さいとりざをニテ、鳥ヲ刺シ捕ル人。トリサシ。餌刺。俳諧[illegible]「見ソメタリシハ、菅笠ノ内」花ノ木ニ、さいとりさしノ、ネヂ寄リテ」後撰[illegible]「[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]寄リテ、[illegible]ノ、[illegible]、コレノ[illegible]ム」

さい-とり-ざを（名）［刺鳥竿］［さしとりさをノ音便］餌刺ガ、雀ナド刺シテ捕ル黐竿。又、さしざを。とりざを。黏竿　倭訓[illegible]七、[illegible]門「黏竿、刺鳥竿」倭訓栞、さいとり「黏竿也、刺捕ノ義也、今、さいとりさしト云フハ、延言也、さいとりざを、とりさし、ナドハ、ヨロシ」同、さしさを「指竿ノ義、[illegible]ニ、黏竿ト云へリ」

さい-とり-ぼう（名）［才取棒］［上下ニ才取スル意ナルベシ］壁塗ノ手傳スル者ノ用キル具。棒ノ先ニ、古椀ナドヲ附ケタルモノ、地ニアル壁土、又ハ、漆喰ヲ掬ヒ取リテ、足場ナドノ上ニ居ル壁塗ニ、差上ゲテ送ル。

さい-ない-しん-わう（名）［齋内親王］齋宮ノ條ヲ見ヨ。

さい-なふ（名）［採納］取リ上グルコト。受ケ入ルルコト。又、人ヲ引キ入レ用キルコト。後漢書、[illegible]傳「宜採[illegible]良臣、以助[illegible]化」

さい-な・む・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）［叱責呵責］［さきなむノ音便、其條ヲ見ヨ］さきなむ。叱ル。イサフ。强メテハ、苦シメ、ナヤマス。折檻ス。[illegible]、何[illegible]イカニセム、鴛鴦ノ鴨鳥（序ニ、出デテユケバ、親ハ出行クト、[illegible]米[illegible]、[illegible]ハ定メツヤ、サ公[illegible]ヤ」源、五、若紫「心無シノ、カカルワザヲシテ、さいなまルルコソ、イト心ヅキナケレ」（少女ガ、雀ノ子ヲ逃シタルニ）[illegible]、一、第四段「馬ノ命婦モ、さいなみテ、乳母、替ヘテム、イト後メタシ、ト仰セラルレバ、畏リテ、御前ニモ出デズ」名義抄「叱、イサフ、サイナム」十訓抄、中、第七、廿七條「過チヲモ、僻事ヲモ、爲出ヅルハ、云云、ソヲ、内ニテハ、言ヒモ數ヘナカデ、人前ニテ、[illegible]テテさいなみ、[illegible]ツコソ、人目見苦シク、云云、況シテ、我ガ使ハム人ノ、アヤシカラムタメニ、今、セガミさいなむコト、イト見苦シカルヘシ」

さい-なん（名）［細男］せいなう（細男）ノ條ヲ見ヨ。

さい-なん（名）［災難］ワザハヒ。災禍。災厄。晉書、劉喬傳「災難延ニ于宗子ニ狂[illegible]記、運歌兜沙門、降魔降伏、災難ヲ拂フ鉾ナ、次ニトラセケリ」「トンダ災難ニ遇フ」

さい-なら（感）別レヲ告グル時ニ云フ語、さやうならノ條ヲ見ヨ。

さい-にち（名）［齋日］六齋日ノ條ヲ見ヨ。太平記、八、千種殿京合戰事「時日コソ多カルニ、齋日ニ、合戰ヲ始メテ」

さい-にち（名）［賽日］［賽ノ日］佛ニ、參詣スル日。多クハ、一月十六日、七月十六日、ノ閻魔參ノ日ニ云フ。

さい-にふ（名）［歳入］國家、又ハ、公共團體ノ、一會計年度ニ於ケル、金錢ノ總收入。其經費ノ總支出ヲ、歳出ト云フ。五代史、[illegible]世家「馬殷令ニ民自造ニ茶、以通ニ商旅ニ、而收ニ其算、歳入萬計」

さい-にん（名）［再任］再ビ、官ニ任ズルコト。再勤。

さい-にん（名）［猜忍］［猜疑、殘忍ノ略］ネタミ深クシテ、ムゴキコト。ソネミテ、無慈悲ナルコト。史記、吳起傳「起之爲人也、猜忍人也」

ざい-にん（名）［罪人］罪ヲ犯シタル人。ツミビト。トガニン。晉書、[illegible]、中[illegible]「播[illegible]」

さい-ね（名）［齊尼］さきくさなノ條ヲ見ヨ。倭名抄、廿、草類「齊尼、佐木久佐奈」

さい-のう（名）［才能］［素書「應ㇾ變之謂ㇾ材、可ㇾ用之謂ㇾ能」］才アリ、能アルコト。才幹。後漢書、班固傳「性寬和容ㇾ衆、不ㇾ以ニ才能ニ高ㇾ人」

さい-の-かみ（名）［幸神］さへのかみ（道祖）ノ條ヲ見ヨ。

さい-の-はなづの（名）［犀鼻角］犀角ノ條ヲ見ヨ。

さい-の-め（名）［簺目采目］［簺ノ條ヲ見ヨ］（一）雙六ノ簺ノ六面ニ、刻リツケタル點ノ稱、各面ニ刻ルニ、一點ヨリ六點ニ至ル。筒ニ、二箇ノ簺ヲ入レ、振リテ投ゲ出スニ、二箇、共ニ、同ジ目ノ下リタルヲ、重目ト云フ、重ナル目ノ意ナリ。各箇、一點ヅツナルヲ、重一ト云フ、疊一トモ記ス（漢音、ちょういちノ急呼、疊一トモ記スハ、でふいち、調一トモ記スハ、てういちノ急呼）コレニ準ジテ、二、三、四、五、六、ノ、各、重ナルヲ、重二（吳音）、重三、重四（又、朱三、朱四）重五、重六（又、疊五、疊六）ト云フ。其外、二箇ノ、異點ナルニ、三一、三六、四一、四三、五一、五二、五三、五四、ナド云フ、稱呼アリ。萬葉集、十六「詠ニ雙六頭ニ歌（頭ハ、頭子ニテ、即チ、簺ナリ）「一二ノ、目ノミニアラズ、五六三四サヘアリ、雙六ノ簺」催馬樂、大芹「五六ガヘシノ、一二ノ簺ヤ、四三ノ簺ヤ」新猿樂記、大君夫ノ[illegible]目任[illegible]、云云、五四[illegible]利目、四三小切目」七十一番職人盡歌合、文安）十九番、簺[illegible]「一カ二カ、目モ消エハツル、遺レ簺、ソレダニ見ユル、秋ノ夜ノ月」下學集、下、[illegible]財門、簺、云「每ニ采、目ノ[illegible]用ニ重字ニ呼ㇾ之、云ニ重一、重二、朱三、朱四、重五、重六ノ云云、後一條院、與ニ臣下打ニ雙六ニ、採ニ簺、急呼ニ四三目ノ心中祈念、若四三目出來則、使ニ其目爲ニ五位ノ時、[illegible]之目、[illegible]而成ニ四三ノ院大悅、與ニ簺五位ノ而賜ニ朱衣ノ由ㇾ之、呼ニ四三目ニ曰ニ朱三朱四一也、朱色、五位之衣也」縉事始、明皇、

輿ニ書キ記シテ云ク、將、光、唯、重四可。勝、敗得。勝、上擲而連呼叱之、宛轉良久、而成二重四一、上大悦、命二高力士一、賜二四緋一、以前二四朱一也」（明皇ハ、唐ノ玄宗皇帝ナリ、緋ハ、朱衣ナリ、平治物語、一、叡山物語事ノ條ニ、信西ガ、白河法皇ニ、此事ヲ答ヘ奉リシ事ヲ載セタリ） 希望スル目ヲ、乞目ト云フ。(二)賽ホドノ大キサ。骰子大 (三)上、下、四方、皆、同ジ寸法ナル形。立方 浮世風呂（文化、三馬）三編、下「汁ガ、銀杏大根ニ、燒豆腐ノさいのめ」

さい-は (名) 歳破 八將神ノ一、水神ナリ、其年ノ、此方角ニ向ヒテハ、船乘初、又、移徙ヲ忌ムトス。王充、論衡、辨祟篇「宅有二盛衰一、若歳破直符、不レ知、避」曆林問答集、上、釋二歳破一「或問、歳破者何也、答曰、曆例云、歳破、土曜之精、太歳之所レ對衝二方也、一歳之中、與二太歳一見二衝破一、故云、破、子歳破者在レ午、丑歳破者在レ未、於二向皆凶一、於レ是、陰陽二避遁一故、寅申巳亥方破者、四孟皆二五行生一也、云云」

さい-は (名) 碎破 摧破 クダキ、ヤブルコト。後漢書、仕隆傳「自擬五校、莫、不二摧破一」

さい-は (名) 細波 コマカナルナミ。サザナミ。小波。 陰陵詩「時從二高浪一歇、乍逐二細波一移」

さい-は (名) 細馬 さいまノ條ヲ見ヨ。李白詩「胡姫十五細馬馱」天武紀、下、朱鳥元年四月「新羅進調、從二筑紫一貢上、細馬一疋、騾一頭」

さい-はい (名) 采配 〔さいはらひノ約（おまらふる、おさへる。そらまらぬ、そまらぬ）さいはひナルベキナリ、さきはらふ、さいはらひ、ノ條ヲ見ヨ、采配、采幣、采拜、再拜、ナド書ケルハ、皆、當字ナリ、但シ、采幣ハ、戰勝ヲ祈ル心ニテ、大將ノ采ル幣、即チ、玉串ニ寄セテ、當テタルニモアルベシ、柄ヲ、串ト云ヘリ、麾ト云フハ、陣開ノ座居ヨリ移レルナリ、采配ノ製作、全ク、其物ナリ、座居ノ條ヲ見ヨ〕(一)軍陣ニテ、大將ノ、執リテ打振リテ、士卒ノ進退ヲ指揮スル具。又、麾トモ云フ。麾 程村紙ヲ、幅五六分ニ裁チテ、本ヲ集メテ、柄ノ先ニ垂ル、白采配ト云フ。柄ヲ、串ト云ヒ、長サ一尺二三寸、勝軍木ニテ作リ、黑漆ニテ塗リ、上下ニ、金銀ノ金具ヲ着ク。又、紙ヲ、朱ニテ染メタルアリ、朱采配ト云ヒ、上將ノ用キルモノトス。又、紙ヲ、金銀箔ニシタルモアリ。又、紙ヲ用キズ、白熊ヲ用キルモアリ。白旄 淺井三代記、九、六角定頼「一戰遂グベシト、人數引取ラムトセシ所ヲ、宗滴、采拜ヲ取テ、馬煙ヲ立テテ馳向フ」（淺倉太郎左衞門宗滴） 大友興廢記、十七、立花道雪入道道雪「或時ハ、采配ヲアゲ、云云、麾引ノ下知ニ、勝利アリテ」 筑紫軍記、七、龍造寺隆信「攻口ヲ、一足モ引カズ、尚、眼ヲ怒ラカシ、金ノ采幣ヲ振上ゲ、只、討死セヨトゾ下知シケル」甲陽軍鑑、十、下、品第三十二、長尾景虎「赤きさいはいヲ取リテ、諸手ヘ采配リ、下知シ」 武者物語（寶曆）上「大身ハ、人數ヲアツカフ采拜ノ振リヤウヲ、ヨク心得古スベシ」 慶長記「大石ノ、數百人ニテ引キカヌルヲ、信長公、さいヲ取テ、タダ一聲、えいト、聲ヲ出シタマヘバ、鳥ノ飛ブ如ク行キケル」（築城ノ石ナリ） 常山紀談、十二「會津征伐、東照宮、下野ノ小山ニテ、我レ、麾ヲ忘レタリトテ、細竹ヲ切取ラセ、懷紙ヲ、鞍ノ前輪ニ押シアテテ、切裂キテ括リツケ、二ツ三ツ打振リタマヒ、最勝ナドヲ打破ラムニハ、是レニテ事足レリ、ト宣ヒス」（略文） 合類節用集（元祿）七、器財門「采幣、采配、再拜、並、同、白旄、麾」 後松日記（天保、松岡行義）十六「麾ヲフモノモ、古ヘハ無カリキ、甲越ノ比ヨリゾ、專ラ、コレヲモテ、諸軍ヲ指揮シタリト見エタリ、其製作ハ、柄ハ、勝軍木、黑塗、紙ハ、白紙、又ハ、金銀、朱塗ノ紙モアリ、又ハ、白熊モアリ、サレバ、麾ヲ、白旄トモ書キシモ見エニキ」 (二)麈拂。ハタキ。俚言集覽「さいはらひ、備後、福山アタリ、紙拂子ヲ云フ、江戸ニテ、さいはひト云フ、はら、反、はナリ」

さい-はい (名) 再拜 拜禮ニ、繰返シテ、二度、拜スルコト。書經、康王之誥篇「太保暨芮伯、咸進相揖、皆再拜稽首」

さい-はい (名) 儕輩 同ジナカマ。トモガラ。同輩。隋書、李文博傳「儕輩莫レ不二敬憚一焉」

さい-ばい (名) 栽培 〔中庸「栽者培レ之」〕栽エテ、ツチカフコト。植物ヲ、ウヱ育ツルコト。「甘藷ヲ栽培ス」

さい-はう (名) 西方 〔佛教ニテハ、極樂淨土ヲ、此娑婆世界ヨリ西ノ方ニアリトス、西天竺ノ條ヲ參照スベシ〕 (一)ニシノカタ。佛教ニテハ、極樂淨土ヲ指シテ云フ。 阿彌陀經「從レ是西方、過二十萬億佛土一有二世界一、名曰二極樂一」「西方淨土」「西方阿彌陀」 西方淨土ニ往生スル業因タル念佛ヲ、西方念佛ト云ヒ、其念佛ノ行者ヲ、西方の行者ト云フ。(二)西方淨土三部經ノ略。即チ、阿彌陀經、无量壽經、觀无量壽經。 謠曲、三笑、白蓮社「數百人、世ヲ若テ、巢ヲ忘レテ、共ニ、西方ヲ誦シ、六字ヲ稱シテ、此草庵ニ遊止ス」（南無阿彌陀佛ノ六字ヲ稱拜ス）

さい-はう (名) 裁報 裁斷ノ命令。 盛衰記、四、白山神輿登山事「雖レ差二專使一致二訴訟一、于レ今無二御裁報一」

さい-はう (名) 細胞 〔英語、Cell. ノ譯語〕 生物體ヲ構成スル、極メテ細小ナル球形ノモノ。肉眼ニハ認メガタク、顯微鏡ニテ知ラル、無色、透明、半流動性ニシテ、完全ナルモノハ、細胞膜、原形質、核、ノ三部ヨリ成リ、多數粒狀ニテ、集合シテ、組織ス。

ざい-はう (名) 財寶 財産ト、寶物ト。タカラモノ。漢書、儒玄傳「不レ得二贖以二財寶一」太平記、一、資朝俊基關東下向事「身ヲ賤サンズルニ、慮ナク、財寶ハ、大路ニ引キ散サレテ、馬蹄ノ塵トナリニケリ」「金銀財寶」

さいはう-アミダ (名) 西方阿彌陀 西方極樂淨土ニアリテ說法シタマフ阿彌陀如來。 神皇正統記、應神、八幡大菩薩「八方ニ、八色ノ幡ヲ立ツル事アリ、密教ノ習ヒ、西方阿彌陀ノ三昧耶形ナリ」

さいはう-ごくらく (名) 西方極樂 さいはう（西方）ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さいはう-じやうど (名) 西方淨土 さいはう（西方）ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さいはうじやうど-さんぶきやう (名) 西方淨土三部經 西方ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さいはう-ねんぶつ (名) 西方念佛 西方ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ざい-はく (名) 財帛 財貨ト、絹帛ト。諸葛亮、新書「得二其財帛一、不二自寶一」

さい-ばし (名) 菜箸 飯ノ菜ヲ取分クルニ用キル箸。（御膳箸ニ對ス） 浮世風呂（文化、三馬）四編、上「御免なさい箸、火吹竹」

さい-はじ・ける ・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二） 先彈 〔さきはじけるノ音便ニテ、さいまくるト同意ナルベシ、さきまくるノ條ヲ見ヨ〕 小賢シク、フルマフ。（多ク、少年、少女、ニ云フ）小悲 俚言集覽「さいまくる、大阪邊ニ、智慧ヲ立テ、說口ヲナスヲ云フ、今、さいはじけるト云フ」

さい-はて (名) 最果 最モ、後ナルコト。イヤアト。シッパラヒ。最後 枕草子、十、百三十三段「さいはてノ車ニ侍ラム人ハ、イカデカ、疾クハ參リ侍ラム」

さいはひ (名) 幸福 〔さきはふノ語原ヲ見ヨ〕(一)サイハフコト。サキハヒ。[illegible]コト。シアハセ善キコト。[illegible]「左以波比」皇極紀、三年七月「求_レ福」伊勢物語、百七段「雨ノ降リヌベキニナム、見ワヅラヒ侍ル、身、さいはひアラバ、此雨ハ降ラジ」源、十、賢木「西ノ對ノ姫君ノ御さいはひヲ、世ノ人モ、愛デキコユ」(二)さいはひヨト用ヰル時ハ、副詞トナリテ、幸あはせヨ、運よく、ノ意トナル。竹取物語「さいはひヨ、神ノ助ケアラバ、南海ニ吹カレオハシヌベシ」[illegible]一ソレヲ、さいはひヨテ、用ヰラレムモノゾ」白氏文集、三十一、池上[illegible]以上[illegible]」倭訓栞、さいはひ「幸ヲ、助字(副詞)ニ用ル時ハ、俗語ノ、あはせヨ、ト云フ意ナリ、云云、[illegible]トナル、云云、[illegible]モ、さいはひヨ、ト讀メリ、[illegible]トイヘリ」

さいはひだけ (名) 福茸 〔福草ノ語原ヲ見ヨ〕菌ノ一種、古ヘニ云ヒシ、福草ナルベシ。稀ニ、樹下、石間ナドニ生ズ、生ズレバ、人、採リテ、盆栽ナドトシテ、珍賞ス、極メニ似テ、革ノ色、紫ニシテ、光アリ、表ノ面ハ黒褐ニ、背ハ淺褐微白ニシテ、刺ミ無シ、大、小、長、短、一ナラズ、莖ハ、一莖ニ、枝ヲナシテ生ジ、扁平ナリテ、多クハ、三蓋ヲナス、皆、堅クシテ、食フベカラズ。マンネンダケ。イハヒダケ。靈芝、芝草 紫芝 倭[illegible]「紫芝、さいはひ茸、靈芝ノコトナリ」

さいはひのまもり (名) 幸守 〔懸守ノ識別ナルベシト云フ、懸守ハ、形角ナレバ、厘ヲ幸ニ寄セテ、幸守ナルヲ、さいはひト讀ミタルナラムト云フ〕昔シ、貴族ノ女、婦人ノ時、夫ノ家ニ持チユキタル具 有職[illegible]ニ云、唯、二カケアリ、其製、長サ二尺二寸、タケ六寸ニシテ、[illegible]ハ、總結ビニシテ、多クハ、菊ノ精花ヲ用フル[illegible]一リ、錦ノ白地ノ[illegible]ヲ用フ、紋ハ、錦紋ハ、松、竹、鶴、龜、ノタグヒヲ用フ、夫ノ御守ハ、母屋ノ簾柱ニ懸クル定ナリ、云云」按ズルニ、コレハ、懸角ノ遺制ナルベシ」倭訓栞、さいはひのまもり「武家ニ云フ、愛敬の守モ、同ジキニヤ」

さいはひびし (名) 幸菱 一貞丈雜記、三「さいはひびしハ、さきびし、さきおひびしナリ、菱ノ花ノ、さきたト、さきたト、寄合ひタルナリ」幸ニ寄セテ、祝トスルナリト云フ」織模様ノ名。數多ノ菱形ヲ、縱横ニ並ベ、其四ツノ尖ヲ、上、下、左、右、ニ、互ニ密ニ喰合ハセタルモノ、婚禮ニ、新婦ノ服ニ用ヰタリ。其中ノ四箇ヲ取リテ、紋所トモス、一箇ノ菱形ヲ、四割ニシタル象トナレバ、四割菱、又、四菱トモ云ヒ、甲斐國ノ武田氏、コレヲ紋トシテ名高ケレバ、武田菱トモ云フ」 [illegible]毛吹草、五、夏[illegible]「[illegible]テヤ見ム、さいはひ[illegible]ノ、水ノ紋」貞丈雜記、三「婚禮ノ時、姫君ノ衣裳ハ、上着ニ、さいはひびしヲ織リタル、白キ綾ヲ着ル也、婚入記ニ、衣裳ハ、上着ニ、さいはひびし、白キ綾、トアリ」信長川中[illegible]合戰(享保、近松作)二「[illegible]キワタル雲ノ白旗、幸菱、アレコソ父ヨ、武田ノ紋」甲陽軍鑑、十、下、品第三十三「信玄公、云云、武田ひしヲ、大キニ蒔繪ニシタル箱ノ、紅ニテ緒ヲ緒メタルニ」

さいはひびと (名) 幸人 〔幸ヲ、めすト讀ム、召人ノ意、玉篇「幸、御所親愛也」漢書、佞幸傳「但以婉媚貴幸」〕宮女ノ、寵幸ヲ蒙ル者。寵姫 平家物語、六、祇園女御事「永久ノ比、祇園女御トテ、幸人オハシマシキ、云云、白河院、常ニ、カシコヘ御幸ナル」源、五十、浮舟「女フナム、御シスヱサセタマヘル、云云、京ヨリモ、イト忍ビテ、サルベキコトナド、聞ハセタマフ、イカナルさいはひ人ノ、サスガニ、心細ソクテ居タマヘルナラム」女ハ、浮舟ニテ、宇治ノ寺ニ居ルナリ、是レモ、[illegible]味トナルカ 榮花物語、六、[illegible]藤壺「此御方(中宮)ニ召シ仕ハセタマヘヌ人ヲバ、云云、タマタマ召シ仕ハセタフヲバ、世ニ、メデタク[illegible]シウ思ヒテ、さいはひ人トゾ附ケタル」是レハ、賜物多キニ云ヘルヤウニ思ハル」神代紀、上、六十八「素戔嗚尊、欲幸奇稻田媛而乞之」倭訓栞、さいはひ「中古ノ物ニ、さいはひケルト書ケルハ、日本紀ニ、幸之ヲ、めすト讀メル意ナリ」

さいはふ (動) 幸 さきはふノ條ヲ見ヨ。

さいはん (名) 再版 或ル版木ヲ、再ビ、版木ニ刻ルコト。再刊 重刻

さいはん (名) 再犯 (一)再犯ノ條ヲ見ヨ。(二)懲役ノ刑期ヲ終ヘタル日ヨリ、五年以内ニ、再ビ、有期懲役ニ處セラルベキ罪ヲ犯スコト。再犯ノ刑ハ、其罪ニ就キテ定メラレタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス。(刑法第五十六條、五十七條)

さいばん (名) 歳晩 年ノクレ。歳暮。年末。陶潜[illegible]「今歳晩矣、子將奈何」

さいばん (名) 菜板 〔飯ノ菜ヲ切ル板ノ意ナルベシ〕まないたノ異名。〔安房、上總、下總、津輕〕物類稱呼、安永、四、器用、俎板「下總、或ハ、奥ノ津輕ニテ、さいばんト云フ」

さいばん (名) 裁判 (一)事ノ是非ヲ、裁チ判ツコト。サバキ。(二)官ニテ、訴訟ニ對シ、法ヲ適用シテ、其曲直ヲ判斷スル宣告。

ざいはん (名) 在判 古文書ノ寫シナドニ、奉行人ナドノ姓名ノ下ニ記シテアル語、本書ニハ、書判、花押アリト云フ意。書判ハ、本人ノ自筆ノモノニテ、多クハ、文字ヲ[illegible]ニ記スモノナリ、寫シガタケレバ、然[illegible]記シオクナリ、[illegible]レド、勅書ニ、御名、御璽、トアルト、同ジ意ナリ。平家女[illegible]、享保、近松作)二「[illegible]ガユルシ文、能登守教經ト、在判シテ[illegible]サル」

ざいばん (名) 在番 勤番ニ當リテ、職ヲ勤ムルコト。徳川幕府ノ時、毎年、大番組ノ、京都ノ二條城、又ハ、大阪城ニ、交替ニ勤番シ、書院番組ノ、駿府城ニ勤番シタルガ如キ、是レナリ。

さいばんくゎん (名) 裁判官 訴訟ヲ裁判スルヲ本務トスル官吏。

さいばんしょ (名) 裁判所 訴訟ノ裁判ノ事ヲ司ル官府。法衙 區裁判所、地方裁判所、控訴院、大審院、行政裁判所、等アリ。

さいばら (名) 催馬樂 〔催馬ト云フハ、律歌ノ第一曲ノ題ヲ、我駒ト云ヒ、其歌ニ「イデ我ガ駒、早ク行キコセ」(早ク行キテ得サセヨ)トアリテ、馬ヲ催す心ナルヲ取リテ、數曲ノ總名トシタルナリト云フ、其外ニモ、說アリ〕平安朝ノ頃行ハレタル歌謠ノ名。元來、路頭ノ俚謠ナリシヲ、貴人ノ、採リテ、管絃ノ諸物トセシモノ。(風俗歌ヲ參見セヨ)律、呂、數十曲アリ、神樂歌ト合ハセテ、曲譜ヲ成ス、樂器ハ、笏拍子、和琴、笛、篳篥、笙、箏、琵琶、等ニテ、唐樂ニ倣ヘリ。 倭名抄、四、[illegible]曲調類「雙調曲、催馬樂、律我駒曲、是也」(駒ハ、駒ノ誤字)催馬樂、我駒「イデ我ガ駒、早ク行キコセ、待乳山、待ツラム人ヲ、行キテハヤ見ム」萬葉集、十二、二十六ノ歌ナリ)[illegible]源抄(後柏原天皇御代)十、中「催馬樂ト云フハ、催馬樂ト云フ樂アリ、ソレ

ヨリ事起リ、此樂ノ唱歌ニ、おまをもよほすト云フ事ノアリケル、ヤガテ、歌ニナシテ、[illegible]ヨリ歌ヒ出シタリ、我駒ト云フ催馬樂、是レナリ、故ニ、馬ヲ催ス、ト書キタルナリ」 體源鈔、風俗要書「催馬樂、本、路頭巷里之謠謌也、然而後、好事之士女、取以爲三謳歌曲、故其歌因來、其有古代、有中世、云云、遂改之於宮中、已久矣」(催馬樂入綾、上) 三代實錄、三、貞觀元年十月廿三日、廣井女王「以能歌見稱、特善催馬樂」 諸太夫、及、少年好事者、多就而習之」 宇津保物語、祭使「御神樂ノ召人、さいばら仕ウマツルベキ、右近將監」 榮花物語、三十二、歌合「紫ノ裾濃 綾ニ、云云、伊勢ノ海ト云フさいばらヲ、葦手ニ縫ヒタリ」

さい-はらひ (名) 拂塵 〔さきはらひノ音便、さきはらふノ條ヲ見ヨ、采配ヲモ參見スベシ〕 塵拂。ハタキ。(京都) サイハイ。(江戸) 北邊隨筆(文化、富士谷御杖)「さいはらひ「今俗、さいはらひト云ヒテ、絹、紙ナドヲ裂キテ、小竹ニ結ヒツケ、塵ヲ拂フ具トス、此名、神樂歌ニ見ユ」云云」

さい-ばり (名) 前張 〔割榛ノ音便ト云フ、下ノ出典ヲ見ヨ〕 神樂歌ノ中ニ、別ニ、大前張、小前張トテ、十六曲アリ、前張トハ、大前張中ノ一曲ノ名ナルヲ、總ベテニ渉リテ名ツケタルナリト云フ。 神樂歌、前張「佐以波理ニ、衣ハ染メム、雨降レド、ウツロヒガタシ、深ク染メテバ」(割キタル榛木ノ皮ノ煮汁ニテ、衣ヲ染ムルナリ、榛 摺 衣ノ條ヲ見ヨ、神樂入綾、中)

さい-ばり (名) 前張 〔前張ノ音便、前張ノ意〕 袴ノ一種、前ハ大精好、後ハ小精好ニテ製ス、後世ノ前張の大口ノ如シ、半尻ノ下ニ用キル、親王ナドノ、召サレシモノナリ。(松屋筆記、二)

さい-ひ (名) 歲費 (一)一年間ノ入費。史記、平準書「是歲費凡百餘巨萬」 (二)貴族院、

及、衆議院ノ議員ガ、一年間ニ受クル、定額ノ手當金。(議員ハ、官吏ナラザレバ、俸給アラズ、唯、其體面、資格ヲ維持スルニ相應ノ費用ノ意ナリト云フ)

サイ-ヒ (名) 犀皮西皮 〔下ノ出典ヲ見ヨ〕 漆器ノ名。 堆朱、堆黑、ノ類ニシテ、地ヲ、色漆ニテ塗リ、彫目ニ、異ナル色漆ヲ塗リタルモノ。 元ハ、舶來セシモノナルヲ、我ガ國ニテモ模製シタルモノ、きんまでノ類ノ如キカ。 尺素往來(文明)「堆漆、犀皮」 槐記、十二、享保十九年正月七日「御棚、香合」註「犀皮塗ト云フ物ノ由、例ヘバ、靑皮ナドノ張リタル上ヲ、靑ク塗リタルヤウニテ、象眼ノ輪ノ模樣ナリ」 類聚名物考(山岡浚明)二百五十六、調度、十三、犀皮 盤「禪林小歌、注、上物、緣高、折敷、無三蠶處一見、犀皮盤、胡𥂝盤、建盞、多居」 嬉遊笑覽、二、下「同話錄ニ、俊器、稱ニ西皮一者、世人、誤以爲ニ犀角之犀一、非也、云云、秘苑日渉ニ、一種、以ニ彩漆、斑爛繪ニ圖花兒ニ而不レ別者、亦名ニ西皮一、同話錄所レ載、是也、云云、鳥上鳳談ニ、漆器、有ニ所レ謂犀皮者一、出ニ西毘國一、訛而爲ニ犀皮一」

さい-び (名) 歲尾 年ノ末。歲末。

さい-び (名) 細微 (一)コマカキコト。カスカナルコト。微小。微細。 (二)身分ノ、卑賤ナルコト。微賤。 崔顥詩「人生今日得ニ嬌貴一、誰許ニ盧姬身細微一」

さい-ひつ (名) 才筆 文章ヲ作ルニ、巧ミナルコト。又、其才能。 北史、裴延儁傳「涉ニ獵經史一、頗有ニ才筆一」

さい-ひつ (名) 載筆 〔禮記、曲禮、上篇「史載レ筆、士載レ言」〕 筆ヲ、トルコト。歷史ヲ書クコト。 南史、任昉傳「昉尤長ニ載筆一」

さい-ひやう (名) 細評 コマカニ、クハシキ批評。 林逋詩「爲在ニ閑中一閑拂ニ詩難ニ億細評一」

さい-ひょう (名) 碎氷 氷ヲ、碎クコト。

さいひょう-せん (名) 碎氷船 冬時、氷結スル港ナドニテ、氷ヲ碎キテ、船ノ通路ヲ開クニ用キル汽船。 船首ヲ、上向ニ造リ、氷ノ上ニ乘セアゲ、船體ノ重サニテ、氷ヲ破ル、船首ニモ、螺旋推進器ヲ備フルアリ、其外、種種ノ構造ナルアリ。

さい-ふ (名) 財布 錢金ヲ入ルル袋、布帛ニテ作ル。ヂンキチ。錢囊

さい-ふ (名) 細布 さよみのぬのノ條ヲ見ヨ。

ざい-ふ (名) 宰府 太宰府ヲ見ヨ。

ざい-ふ (名) 在府 〔府トハ、江戸ヲ云フ、府ノ條ヲ見ヨ〕 江戸時代、大名、又、其家臣ノ、江戸ニ在住シテ居ルコト。(在國ニ對ス)

さい-ふく (名) 祭服 神祭ノ時ニ、着用スル服。神職ナドノ用キルハ、白絹、又、白布ニテ製ス、縫腋ノ袍ノ如シ。 禮記、曲禮、下篇「無ニ田祿一者、不レ設ニ祭器一、有ニ田祿一者、先爲ニ祭服一」

さい-ふく (名) 摧伏 クジキ、平伏セシムルコト。 水經注「所レ往征伐、無レ不ニ摧伏一」 太平記、廿九、井原石窟事「摧伏ノ形ヲ現ジテ、專ラ勝軍ノ利ヲ施シ給フ」

さいふ-ぢり (名) 財布尻 〔尻ハ、底ノ意〕 財布ノ内ニ殘レル金錢。例ヘバ、十圓入レテ立出デ、種種ニ用ヲ足シテ、歸リ來レル後、殘レルヲ數ヘテ、ソノ遣ヒタル高ヲ知ルナドニ云フ語ナリ。財布尻をたたく、財布の底をたたく、ト云フハ、遣ヒ果シタルヲ云フ。財布尻をおさへるト云フハ、遣ハセヌヲ云フ。

さい-ぶつ (名) 才物 〔愚物ナドノ物ト、同ジ〕 才子ニ同ジ。

さい-ぶん (名) 祭文 祭ノ時ニ、其神靈ニ告グル文。(祭文ノ條ヲ併セ見ヨ) 文體明辯「按、祭文、祭ニ奠親友一辭、古之祭祀、止告饗耳、中世以還、兼讚ニ言行一以寓ニ哀傷之意一、蓋、祝文之變也」 本朝文粹、十三ニ、祭ニ鎭山神一祭文、アリ。

ざい-ふり (名) 采振 〔白花、簇生シテ、采ヲ振るガ如シ〕 樹ノ名、ざいふりの木、ノ條ヲ見ヨ。 (ほでやなぎ)

さい-へい (名) 歲幣 歲ゴトノ幣物。每年ノ幣帛。 宋史、鄭居中傳「歲幣五十萬」

さい-へう (名) 彩票 富籤ノ札。トミフダ。

さい-へん (名) 災變 〔天災、地變ノ略〕 ワザハヒ。災異。變災。 後漢書、和帝紀「詔「將ト何以匡ニ朕不逮一、以塞ニ災變上」 太平記、三十五、北野通夜物語事「百姓ヲ虐グレバ、民ノ憂、天ニ昇リテ災變ヲナス、災變起レバ、國土亂ル」

さい-べん (名) 才辯 勝レタル辯口。巧ミナル辯舌。 後漢書、禰衡傳「少有ニ才辯一而氣尙剛傲、好レ矯ニ時慢一物」

さい-ほ (名) 菜圃 ハタケ。アヲモノバタケ。菜園。 蘇軾詩「菜圃漸疎花漠漠」

さい-ほ (名) 宰輔 帝王ヲ輔佐シ、大政ヲ統治スルモノ。宰相。 後漢書、二十八將傳、論「宰輔五世、莫レ非ニ公侯一」

さい-ぼ (名) 歲暮 トシノクレ。歲晚。歲尾。又、其時ノ贈遺物。セイボ。 狂言記、米市「其方モ、當年ハ、仕舞ヒガヨイト見エテ、歲暮ニオリヤッタノ」

さい-ほう (名) 裁縫 タチヌヒ。布帛ヲ裁チテ、衣ニ縫ヒ作ルコト。今、多クハ、

女學校ノ一學科トシテ云フ。［illegible］

さい-ぼう (名) 〔尖棒(サキボウ)ノ音便ニテ、尖(トガ)レル棒ナルカ〕［illegible］ニ用ヰル、堅木ナドノ棒。鐵條ヲ貼リタルヲ、鐵(カナ)さいぼうト云フ。 ［illegible］、十二、［illegible］法師、物具ハセズ、［illegible］さいぼうバカリ持チテ、云云、太刀ニテ、［illegible］、法師、取リテアヘズ、さいぼうニテ合ハセテ」 義經記、二、伊勢三郎［illegible］ドニ成ル事「［illegible］、云云、［illegible］長刀、ヤリ、さいぼう、手ニ手ニ持チテ、只今、事ニ逢ヒタルケシキニテ」 壒嚢抄(文安)一、七十九「［illegible］棒、［illegible］ト云フ」

ざい-ほう (名) 財寶 さいはう(財寶)ニ同ジ。

さい-ほけん (名) 再保險 〔英語、Re-insurance ノ譯語〕 保險者ガ、其被保險者ニ對シテ保險金ヲ支拂フベキ責任ヲ、更ニ他ノ保險者ニ移シテ、保險セシムル契約。

さい-ほつ (名) 再發 再ビ、發ルコト。 盛衰記、廿二、衣笠合戰事「大介、云ヒケルハ、我ガ老名トシテ、［illegible］ノ折節、再發セリ」「［illegible］」

さい-ぼん (名) 再犯 再ビ、罪ヲ犯スコト。再犯。 太平記、二十、［illegible］「再犯、赦サザルハ、法令ノ定ムル所ナレバ、何ト陳ズルトモ、許サレジ」

さい-ま (名) 細馬 〔細馬ハ、唐ノ六典ニ見エタト云フ、漢語ナレドモ、細馬ノ意ト［illegible］良キ馬。良馬〕 ［illegible］上馬也、駑馬者、下馬也」

ざい-まい (名) 在米 アリマイ。現在セル米。現存米

さい-まき (名) 鞘卷 〔さやまきノ轉(月代、さかいき)〕 黄タルハ、赤クシテ、形、生車ノ海老ノ鞘卷ニ似タリ〕 車海老ノ異名。「［illegible］」 さいまきト云フハ、鞘卷ニテ、カノ魚ノ皮ノうねノ立チタルガ、件ノ鞘ニ似タルガ故ニ、名付ケタルカ」

さい-まき (名) 割薪 〔さきまきノ音便(割松、さいまつ)〕 割リタル薪。(江戸) 御觸書(天保、［illegible］)中「薪、割薪、云云、［illegible］ヲ割キテ、［illegible］ムルヲ云フ也、薪ヲ、さいト云フハ、割薪ヲ、さいまきト云フト、同例ナリ」

さい-まくる (動) 先捲 さきまくるノ條ヲ見ヨ。

さい-まつ (名) 割松 「さきまつノ音便(割榛、さいばり。割薪、さいまき)」 松明ニ同ジ。 宇津保物語、國讓、下、廿「御さいまつ［illegible］シテ」 ［illegible］「［illegible］ウナサムトテ、御さいまつモ暗ウナサセタマヘバ」 蜻蛉日記、下、上、卅「［illegible］二見エテ、御さい松ト云フ程ニゾ、歸ル」

さい-まつ (名) 歳末 年ノスエ。年末。 平治物語、一、後白河院仁和寺御幸事「年ハ既ニ暮レナントスレドモ、歳末、年始ノ禮ニモ及バズ、只、合戰ノ評定バカリナリ」

さい-まつ (名) 細末 (一)コマカキコト。(二)コナカキ粉。粉末。 ［illegible］詩「手［illegible］細末」

さい-まつ (名) 最末 最モ、末ナルコト。最尾。イ、チ、アト。 ［illegible］、一、［illegible］年十二月十六日、以下［illegible］最末ニ」

さい-み (名) 貲布 (一)麻布ノ名、さよみの約ヲ見ヨ。(二)太布ヲ、さいみト云フ。(太布ノ條ヲ見ヨ)

さい-みつ (名) 細密 甚ダ、コマカナルコト。クハシキコト。微細。緻密。 北史、［illegible］「［illegible］細密［illegible］百姓安レ之」

ざい-みやう (名) 在名 在鄕ノ名。住所ノ地名。 ［illegible］記、一、織田信長先祖事「平親實ト云フ人、云云、越前國、織田庄ニ移リ、織田大明神ノ神職トナル、云云、武衞(源高經)ノ末孫、［illegible］ノ時、其時ノ神職ノ子息某ト云フ、云云、武衞、是ヲ愛シ、武士ニシテ、召仕ハレケリ、即チ、在名ヲ稱シテ、織田氏トナシタマヘリ」(古文) 北條五代記、六、百姓［illegible］「此ノ度ノ勸賞ニ、百姓ヲ點ジ、侍トシ、在名ヲ用ヒ、岩井ヲ名ノリ、官ハ、兵庫助ニナシ下ダサル」

さい-みん (名) 細民 小前ノモノ。下民。 史記、孝文帝紀「細民之愚、無レ知、抵レ死」

さい-みん-じゅつ (名) 催眠術 〔英語、Mesmerism. ノ譯語、墺國ノ醫、Mesmer. ノ發明ニ因ル〕 人ヲ、睡眠、又ハ、喪心ノ狀態ニ入ラシムル術。

さい-む (名) 債務 債權ノ條ヲ見ヨ。

ざい-む (名) 財務 財政上ノ事務。「財務官」

さい-む-しゃ (名) 債務者 債權ノ條ヲ見ヨ。

さい-めい (名) 才名 才智アル評判。 隋書、［illegible］「才名［illegible］」 杜甫詩「才名四十年、坐客寒無レ氈」「才名、世ニ聞ユ」

ざい-めい (名) 在銘 刀劍、器物ナドニ、作者ノ名ヲ刻シ、又、記シテアルコト。(無銘ニ對ス)

さい-めん (名) 西面 北面ノ條ヲ見ヨ。

さい-もく (名) 細目 〔かうもく(綱目)ノ條ヲ見ヨ〕 細カキ條目。委シキ箇條。 晉書、［illegible］「［illegible］、不レ拘二細目一」

ざい-もく (名) 材木 建築、製作ノ料ニセムトテ、伐リ出セル木。木材。 ［illegible］「［illegible］時入二山林一、材木不レ可二勝用一也」 倭名抄、十五、造作具「材木、［illegible］」 宇治拾遺、十二、第四條「寂心トイフ人アリケリ、云云、堂ヲ造リ、塔ヲ建ツル、最上ノ善根ナリトテ、［illegible］セフレケリ、材木ヲバ、播磨國ニ行キテ、取ラレケリ」

ざい-もく-いは (名) 材木岩 岩ノ形ノ、材木ヲ並ベ立テタルガ如キモノ、長短、細大、種種ニシテ、多クハ、安山岩ナリ、諸國ノ山中、川岸ナドニ、露ハレテアリ。

ざい-もく-ぐら (名) 材木藏 材木ヲ貯ヘ置ク藏。 德川禁令考、十六、小普請奉行、寛文元年六月、條目「御材木藏ニ有レ之材木ハ、云云、［illegible］程、朽損、後ニ、御用ニ難レ立材木候ハバ、其段［illegible］、［illegible］相談ノ其上、［illegible］候樣ニ可レ然事」

ざい-もく-ごや (名) 材木小屋 材木ヲ納レオク小屋。木小屋。木廠

ざい-もく-や (名) 材木屋 材木ヲ賣ル商家。木屋。俗ニ、材木屋の鳶ト云フハ、高慢ニシテ、尊大ニ構ヘテ居ル人ノ渾名。(立テオク材木ノ上ニ、高くとまるト云フ謎ナリ)

さい-もつ (名) 賽物 神佛ナドニ、祈禱ノ節ニ供フル物。

ざい-もつ (名) 財物 貨財ト、器物ト。金錢、物品。財物。 史記、［illegible］「［illegible］財物」 法曹至要抄、中、雜事「家人、奴婢、及、財物」

さい-もん (名) 柴門 シバノト。隱者ノ居ナドニ云フ。 杜甫、南鄰詩「白沙［illegible］竹江村暮、相送柴門月色新」 ［illegible］「［illegible］」 同、［illegible］「［illegible］柴門」 ［illegible］自守、以符二其志一」 此ニ、ツノ柴ハ、［illegible］ニ通ジ、柴門ノ義トシ、閉ヅル意ト云フ」(故事熟語大辭典)

さい-もん (名) 祭文 (一)祭ノ時ニ讀ミテ、神ニ告ゲ申ス文。祭文。祝詞。佛家ニテモ、佛祭ニ就キテ、アリ。山城國、太秦ノ廣隆寺ノ牛祭ニ讀ム祭文ト云フモノ、文ノ奇ナルヲ以テ、名アリ。西宮記、二月、祈年祭「先一日、少納言、付ニ內侍ニ奏ニ祭文ニ」續紀、三十九、延曆六年十一月甲寅「祀ニ天神於交野ニ其祭文曰、云云」本朝文粹、十三「祭ニ鹽山神ニ祭文」枕草子、十、百廿五段、詞なめげなるもの「宮ノ女ノ祭文讀ム人」胡野群載「中臣祭文」(大祓詞)下學集、下、態藝門「祭文」註「法事」合類節用集(元祿)三、神祇門「祭文」 (二)せっきゃう(說經)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さいもん-かたり (名) 祭文語 せっきゃうがたり(說經語)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

さいもん-よみ (名) 祭文讀 前條ニ同ジ。

ざい-や (名) 在野 民間ニ在ルコト。(仕官シテ居ルヲ、在朝ト云フニ對ス) 孟子、萬章、下篇「在ㇾ野、曰ニ草莽之臣ニ」

さい-やう (名) 西洋 〔支那ヨリ西ノ方ノ洋中ノ國ナリ(陸ナルヲ、西域ト云フ)〕歐羅巴ヲ、西洋ト云フト、異ナリ〕足利時代ノ末ヨリ、德川時代ノ初ニ、今ノ、南洋ヲ稱セシ語。前田侯爵藏ノ古文書ニ、慶長八年七月廿九日、西洋渡海朱印狀アリ。和漢三才圖會(正德)十四、外夷人物「西洋、三才圖會云、西洋國、近ニ西南海ニ地ニ蘇木、胡椒、珊瑚、寶石、等物ニ」

さい-やく (名) 災厄 ワザワヒ。災難。災禍。范質、戒ニ從子ニ詩「苟不ㇾ愼ニ樞機ニ災厄從ㇾ此始」

さい-やく (名) 採藥 山野ニ入リテ、藥用ノ草木ヲ、搜リ採ルコト。ソレヲ職トスル人ヲ、採藥師ト云フ。江戶時代ニハ、享保五年、駒場藥園預植村左平治政勝、及、明年、京都ヨリ江戶ニ召サレシ本草家松岡玄達(恕庵)ニ始マル、植村ハ、台命ヲ受ケテ三十餘年、諸國ニ採藥シ、採藥使記九卷ヲ作リテ、寶曆五年ニ獻ジタリ。晉書、嵆康傳「嘗採ㇾ藥游ニ山澤ニ」三代實錄、十三、貞觀八年九月廿二日、紀夏井「閑ニ醫藥之道ニ」欽明紀、十五年二月、百濟「貢ニ採藥師ニ」配ニ土佐ニ之後、自往ニ山野ニ採ㇾ藥、合練以施ㇾ民」

ざい-やく (名) 在役 役目ヲ勤メテアルコト。ヤクヅキ。在職。

さいやく-し (名) 採藥師 前前條ヲ見ヨ。

さい-ゆしゅつ (名) 再輸出 輸出ノ條ヲ見ヨ。

さい-ゆにふ (名) 再輸入 輸出ノ條ヲ見ヨ。

さい-よ (名) 歲餘 ヒトトセアマリ。一年以上。史記、封禪書「居歲餘、其方益衰、神不ㇾ至」

さい-よう (名) 採用 採リ、用キルコト。擧用。登用。史記、封禪書「及ニ秦帝ニ而齊人奏ㇾ之、故始皇采ニ用之ニ」(采ハ採ニ同ジ)

ざい-よう (名) 財用 貨財ノ運用。大學「長ニ國家ニ而務ニ財用ニ者、必自ニ小人ニ矣」

さい-よく (名) 裁抑 〔制裁、抑止ノ略〕オサヘ、トドムルコト。抑制。梁書、王僧孺傳「僧孺每裁ニ抑之ニ」

さい-ら (名) 秋刀魚 〔鱵魚ノ轉(貲布、さいみ。まさりを、ますらを)さいろト云フハ、再轉ナリ〕海魚ノ名。秋刀魚ノ一名。(關西) 和漢三才圖會(正德)四十九、江海有魚「佐以良魚、狀似ニ馬鮫ニ而狹長、背似ニ鱵、大者八九寸、細鱗頭短、冬春、多出ニ於ニ紀、泉、及、西海ニ阿多、云云、魚中之下品也」重修本草綱目啓蒙(享和)廿九、鱵魚「さんまハ、勢州津ニテ、さいろト云ヒ、播州、讚州ニテ、さいらト云フ」俚言集覽、さいら「大坂詞、さんま魚ノコト」

さい-らい (名) 再來 フタタビ、來ルコト。再ビ、世ニ出デ來ルコト。

さい-らい (名) 西來 西ノ方ヨリ、來レルコト。高適詩「林色從ㇾ西來」禪宗ヲ、西來の宗旨ト云フ、達磨大師ノ、西方印度ヨリ、支那ニ來リテ、弘メタルニ因ル、祖師西來の宗旨ノ義ナリ。太平記、廿六、妙吉侍者事「達磨大師、二度、ワガ國ニ西來シテ」

ざい-らい (名) 在來 アリキタリ。從前。

さい-らう (名) 豺狼 (一)やまいぬト。おほかみト。戰國策、秦策「譬如ㇾ使ㇾ豺狼逐ニ群羊ニ也」 (二)慘キコト。極惡ノ徒。孟子、離婁、上篇「嫂、溺、不ㇾ援、是豺狼也」左傳、閔公元年「管敬仲言ニ於齊侯ニ曰、戎狄豺狼、不ㇾ可ㇾ厭也」太平記、十二、聖廟御事「誰知僞言巧似ㇾ簧、勸ㇾ君掩ㇾ鼻君莫ㇾ掩、使ㇾ君夫婦爲ニ參商ニ請君莫ㇾ掇ㇾ蜂君莫ㇾ掇、使ㇾ君母子成ニ材狼ニ(豺狼)サシモ可ㇾ昵夫婦、父子ノ中ヲダニ還クルハ、讒者ノ僞也、況、於ニ君臣間ニ乎」豺狼、路に當る、安んぞ狐狸を問はむ、ト云フハ、大奸、要路ニアリ、先ヅ、排斥スベシ、小人ハ、顧慮スルニ足ラズノ意。後漢書、張晧傳ニ、漢安元年、張綱等八人、州郡徇行ノ命アリ「綱獨埋ニ其車輪於ニ洛陽都亭ニ曰、豺狼當ㇾ路、安問ニ狐狸ニ」ト云ヒテ、遂ニ、大將軍梁冀ノ不法ヲ劾奏セリ、豺狼ハ、梁冀ヲ指シ、狐狸ハ、地方官ヲ云フ。

さい-らう (名) 宰老 家老。國家老。

さい-ら-ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 才アルラシク、フルマフ。サカシラダツ。紫式部日記「大學ノ博士、賢シダチ、さいらぎ居タリ」

さい-り (名) 宰吏 〔みこともちノ條ヲ見ヨ〕國司ノ異稱。保元物語、一、官軍召集事「諸國ノ宰吏、諸衛官人、六府判官」

さい-り (名) 犀利 〔集韻「犀、兵器堅也」〕刀刃ノ、銳利ナルコト。漢書、馮奉世傳「羌戎、弓矛之兵耳、器不ニ犀利ニ」

さい-りう (名) 細柳 若葉ノ柳。杜甫、哀江頭詩「少陵野老呑ㇾ聲哭、春日潛行曲江曲、江頭宮殿鎖ニ千門ニ細柳新蒲爲ㇾ誰綠」(唐ノ玄宗皇帝、楊貴妃ト、常ニ、曲江ニ遊ビシ跡ナリ)

さい-りう (名) 細流 ホソキナガレ。小川。史記、李斯傳「河海不ㇾ擇ニ細流ニ故能就ニ其深ニ」

ざい-りう (名) 在留 或ル地ニ、留リ居ルコト。多クハ、外國ニ住ムニ云フ。「英國在留ノ公使」

さい-りん (名) 細鱗 (一)コマカキ鱗。蘇軾、後赤壁賦「巨口細鱗、狀如ニ松江之鱸ニ」 (二)細鱗魚ト云フハ、鮎ノ異名。倭名抄、十九ニ龍魚類「鮎魚、阿由、一云、細鱗魚」

さいりん-ぎょ (名) 細鱗魚 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

さい-りゃう (名) 才量 才氣ト、度量ト。晉書、辛恭靖傳「少有ニ器幹ニ才量過ㇾ人」平家物語、八、猫間事「王者ノ才量ヲ、御心ニカケ、四海ノ安危ヲ掌ノ中ニ照シ」

さい-りゃう (名) 裁量 己ノ意見ヲ以テ、トリハカラフコト。稱量。後漢書、許劭傳「其多所ニ裁量ニ若ㇾ此」

さい-りゃう (名) 宰領 運送荷物ノ人夫ニ添ヒテ、支配シ行ク役。塵袋抄(文安)一、七十七條、荷ナドノ宰領「宰ハ、つかさどる、領ハ、うながすト讀ム、邊鄙、僻處モアラバ、促シヤラムタメニ、人夫ヲ宰ル心ナリ」林逸節用集(文明)人倫「宰領」嬉遊笑覽、二、下「正德三年六月廿七日、芝車町、此間、頸ニ付、牛車宰領、御免」

さい-りゃく (名) 才略 才智、謀略。チエ、フンベツ。〔……〕

さい-りょく (名) 才力 才ノ、ハタラキ。晉書、段灼王父傳「才力絶人、虚心下士」

ざい-りょく (名) 財力 カネノチカラ。金力。〔……〕「財力不足」……「イクソバクゾ」「財力、十分ナリ」

さい-れい (名) 祭禮 祭ノ儀式。マツリ。祭典。〔……〕

さい-れい (名) 淬礪 トギ、ミガクコト。砥礪。琢磨。研磨。〔……〕

ざい-れい (名) 罪戾 ツミ。トガ。罪過。〔……〕

さいれい-がさ (名) 祭禮笠 ざんざらがさノ條ヲ見ヨ。

さい-れう (名) 菜料 (一)菜ノ菜ニだツルモノ。大膳職式「菜料、國、親王、五十斛」(二)大學寮、陰陽寮、典藥寮ナドノ學生ニ給セラルル食料。菜代。

ざい-れう (名) 材料 スベテ、物ヲ作ル種トスルモノ。工匠ノ語ニ、諸式ト云フ。宋史、職官志「日、工作、日、營造、日、材料」「工部ノ材料」〔……〕

さい-れつ (名) 碎裂 サケ、クダクルコト。碎破。〔……〕

さい-れん (名) 細漣 サザナミ。細波。〔……〕

サイレン (名) 〔英語、Siren.〕音ノ振動數ヲ測定スル器械。〔……〕(人名)氏ノ發明セルハ、同心圓ニ沿ヒテ數多ノ小孔ヲ穿テル金屬圓板ト、小孔ノ前ニ保持セル細キ空氣流出管トヨリ成ル。鞴ニテ送氣スレバ、圓板回轉シテ、空氣ノ逸出ト、閉塞ト、交互、連續スルヲ以テ、遂ニ、音ヲ發ス。因リテ、或音ト同調ニナリタルトキ、一周ノ孔數ト、回轉數トニヨリ、其音ノ振動數ヲ知ル。マタ送氣ニ、もおたあヲ用ヰテ、特種ノ音響ヲ發セシメ、時報、警報、信號、ナドニ用ヰル。

さいろ (名) 秋刀魚 さいらノ條ヲ見ヨ。

さい-ろう (名) 菜籠 〔菜ヲ盛ル籠ヨリ移レルカ〕(一)籠作ノ炭斗。合類節用集(元祿)七、器財門「菜籠、註「菜盛、納、炭器、其心匠、〔……〕」〔……〕さいろう 炭斗ニ云ヘリ、〔……〕(二)籠作ノ花生。〔……〕云云、花ヲ入ルルト云フハ、船ナドニ生ケタル花ノ事ナリ、云云、花ヲ入ルルト云フハ、さいろうノヤウナル物ニ、花ヲ生ケタルヲ云フ、野山ニアル物ニ入ルルナリ、トアリ、さいろうハ、菜籠ナルベシ、籠花生ナリ」

さい-ろく (名) 採錄 採リテ、錄スコト。〔……〕「片言隻語採錄こ」

ざい-ろく (名) 才六 〔毛才六トモ云ヘバ、毛一歳ヲ上略シテ、採人シタル語(宿六、耄六)未熟者ノ意ナルベシ、けヲ略シテ云ヒ、ざいハ、濁音ニテ、遺ル」人ヲ貶メテ呼ブ語。毛才六トモ云フ。〔畿内〕江戸ノ人ノ、京阪ノ人ヲ貶シテ、ぜえろくト云ヘルハ、此語ノ江戸訛ナリ。〔……〕おゐりト云フ類、市川團十郎ニ、仇討ノ後見ヲ頼ム「門平、踊リ出デ、シバシシテ、カノ男ヲ引キズリ來リ、此才六デゴザルカト、頭ニ見スレバ、成程、アノ人ト堅頭キ、時ニ、市川、眼ニ角立テ、云云、ヤイサ、けざい六メ、云云」女殺油地獄〔……〕(近松作)「チョコザイナけざいろく」

さい-ろん (名) 細論 詳細ナル議論。(汎論ナドニ對ス)〔……〕

さい-わう (名) 再往 〔一往ノ條ヲ見ヨ〕再ビ、繰リカヘスコト。再度。二度。〔……〕

さい-わう (名) 齋王 齋宮ノ條ヲ見ヨ。

さい-わか (名) 幸若 かうわかまひ(幸若舞)ノ條ヲ見ヨ。

さい-わりびき (名) 再割引 わりびきノ條ヲ見ヨ。

ざい-ゐ (名) 在位 帝王ノ、位ニ在リテ、世ヲ治メタマフ間ノ稱。御代。治世。御宇。〔……〕「朕在位七十載」〔……〕紅葉山葵宿禰事「位スベラセ給テ後ハ、サルコトアリ共聞召、正シク在位ノ時、祐ナド云、スソモナキ、怪シキ振舞スル者ノ著」

さい-ゐき (名) 西域 〔西洋ノ語原ヲ見ヨ〕支那本部以西ノ、土耳其斯旦、及、印度地方ノ國國ノ總稱。西域。佛書ニ、西域記ト云フアリ、唐ノ玄奘三藏カ、西域百三十餘國ノ、佛教ノ古跡ヲ探檢シタル旅行記ナリ。

〜さい-ゐん (名) 齋院 〔紫野ニアル御居所ノ名ナルヲ、直チニ、其御身ヲ申スコトトモナリシナリ、齋〈ノ條ヲ見ヨ〉山城國、賀茂大神ニ奉仕セラルル皇女ヲ申ス語。天皇、御卽位ノ年、未嫁ノ内親王、又ハ、女王ノト定、又ハ、御解職ナド、伊勢ノ齋宮ニ同ジ、いつきのみやト申シ、齋王、又ハ、安禮乎止女ト申シ、又、賀茂のいつきトモ申スハ、伊勢ノいつきのみやト別チテナルベシ、其御居所ハ、山城國、愛宕郡、紫野、有栖川ノ側ニアルヲ以テ、有栖川ト申ス。齋院ハ、嵯峨天皇ノ御代ニ始リ、後鳥羽天皇ノ御世以後、廢絶シタリ。朝野群載、十二、内記「賀茂齋王、卜定」八雲御抄、三、下、異名「齋院、いつきのみや」ありす河」註「御所也、本、院名也、かものいつきトモ云ヘリ」源、十、賢木「さいゐんハ、御服ニテ、下居タマヒニシカバ、朝顔ノ姬君ハ、代リニ居タマヒニキ、かものいつきニハ、孫王ノ居タマフ例、多クモアラザリケレド、サルベキ女御子ヤ、オハセザリケム」(孫王ハ、皇孫女ナリ)

さいゐん-し (名) 齋院司 齋院ノ事務ヲ掌ル司。

さい-ゑ (名) 齋會 〔齋ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕(一)佛教ノ法會。玄蕃寮式「凡、公私齋會、講師以下平等行レ食」(二)御齋會ノ條ヲ見ヨ。

さい-ゑん (名) 菜園 ハタケ。菜圃。詩〔……〕「東方未明」箋「圃、菜園也」

さい-ゑん (名) 才媛 〔才ト八、學問ナリ、其條ヲ見ヨ〕學問アル婦人。

さう (名) 草 〔さうかう(草稿)ノ條ヲ見ヨ〕草稿、草案ノ略。シタガキ。漢書、淮南王傳「常召、司馬相如等、視レ草廼遣」註「謂ニ爲レ文之草書こ」「宣命ノ草」和歌ノ詠草ナドスフ語モ、是レナリ。

〜さう (名) 草 〔さうしょ(草書)ノ條ヲ見ヨ〕(一)草書ニ同ジ。三國志、魏志、衛覬傳

「調好二古文、隷、草一無レ所レ不レ善」宇津保物語、國讓、中、四十七「眞ニテ、春ノ詩、云云、さうニテ、夏ノ詩、赤キ色紙ニ書キテ」源、十七、繪合九十一「さうノ書ニ、かんなノ、所所ニ、書キマゼテ」「眞、行、草」草書ニ巧ミナル人ヲ、草聖ト云フ。（二）さうがな（草假名）ノ略、其條ヲ見ヨ。

〔さう（名）姓〕〔姓ノ吳音、さやう、さう〕姓ニ同ジ。ウヂ。宇津保物語、藤原君廿六「賤シキ人ノ腹ニ生レタマヘル帝ノ御子、三春ト云フさうヲ賜ハリテ」榮花物語、一、月宴「左大臣ニ、源氏ノ兼明ト聞コユル、ナリ給ヒヌ、コレハ、醍醐ノミカドノ御子ニオハシテ、姓得テ、タダビトニテオハシツルナリケリ」

〔さう（名）箏〕〔韻會「箏、古以レ竹爲レ之」〕此樂器、支那ヨリ傳來ノモノナリ、體源抄ニ、仁明天皇ノ時、遣唐史准判官藤原貞敏、傳ヘテ歸朝ス、トアリ〕樂器ノ名、倭琴ニ對シテ、唐琴トモ云フ。又、箏のこと。こと、ノ、十三絃ナルモノ。桐ノ板ヲ合ハセ、中ヲ空ニシテ作ル、長サ六尺餘、幅凡ソ八寸、高サ一寸餘、柱ニテ絃ヲ支ヘ、右ノ指頭ニ繫爪ヲハメテ彈ク、絃ノ、一ヨリ五マデヲ、大緒ト云ヒ、六ヨリ十マデヲ、中緒ト云ヒ、末ノ斗、爲、巾、ノ三絃ヲ、細緒ト云フトゾ、末ハ、彈ク人ノ前ニ接ス。專ラ、雅樂ニ用キテ、コレヲ、樂箏ト云フ、今ノ筑紫琴ハ、此ノ一轉セルモノナリ。史記、李斯傳「彈レ箏搏レ髀」倭名抄、四、廿琴瑟類「箏、象乃古止、有二十三絃一、箏譜云、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、斗、爲、巾、是十三絃名也」

〔さう（名）莊〕しやうゑん（莊園）ニ同ジ、しやう（莊）ノ條ヲ見ヨ。

さう（名）壯（一）壯ンナルコト。史記、淮陰侯傳「駿公奇二其言一、壯二其貌一」「其志ヲ壯ナリトス」（二）大ナルコト。壯大。雄大。沈佺期詩「滻宅規模壯」（三）人ノ齡ノ、三十歲ニ達シタルコト。壯年。禮記、曲禮、上篇「二十曰レ弱、冠、三十曰レ壯、有レ室」

さう（名）壯　灸ノ一灼。艾ノ分量ニ云フ。千金方、灸例「凡言二壯數一者、若丁壯遇レ病、病根深篤者、可レ倍二多於方數一、其人、老小羸弱者、可レ復減レ半」三餘贅筆（明ノ都印）「醫家用レ艾、一灼謂二之一壯一、沈存中言、以二壯人一爲レ法、其云二若干壯一、壯人當レ依二此數一、老幼羸弱、量レ力減レ之」「灸一壯、二壯」

さう（名）相〔爾雅、釋詁篇「相、視也」〕（一）名詞トシテ、見、貌、ノ意トナル〕（一）物ノ姿體。ソレヲ相究メテ、其物ノ禍福ヲ言ヒ定ムル術ニ云フ、道教、陰陽家、ナドニテスル事ナリ。人ニ就キテハ、人相ト云フ、其外、手相、地相、墓相、家相、ナドアリ、各條ヲ見ヨ。（二）〔專ラ、人相ヲ云フ。荀子、非相篇「相、古之人無レ有也、學者不レ道也」源、一、桐壺廿「帝王ノ上ナキ位ニ登ルベキ相、オハシマス」同、十、榊廿二「必ズ、世ノ中保ツベキ相アル人ナリ」

さう（名）想　オモヒ。カンガヘ。思想。後漢書、王霸傳「夢想二賢士一」孔稚圭、北山移文「蕭洒出塵之想」「感想」理想」妄想」無念、無想」

さう（名）嫂　アニヨメ。兄ノ妻。嫂　史記、陝丞相傳「平居レ家時、盜二其嫂一」後漢書、馬援傳「援敬二事寡嫂一、不レ冠不レ入レ廬」

さう（名）曹　トモガラ。ナカマ。史記、平準書「分レ曹、循二行郡國一」

さう（名）槽（一）桶。フネ。王安石詩「雲液渦二朝白醆一」「馬槽」（二）琵琶ノ胴。盛衰記、三十一、青山琵琶流泉啄木事「青山ト名ヲツケキ、此琵琶ノ造リヤウ、紫藤ノ槽ニ、拔ノ腹、花梨木ノ頭」

さう（名）喪　〔喪ノ字ノ音讀〕喪ニ同ジ。左傳、昭公廿七年「吳子欲下因二楚喪一而伐上レ之」拾遺集、十七、雜秋、親ノさうニアヒテ侍リケル法師ノ許ニツカハシケル「モミヂ葉ヤ、袂ナルラム、神無月、シグルルゴトニ、色ノマサレバ」

〔さう（名）左右〕〔うハ、右ノ吳音〕左右ノ（一）ニ同ジ。ミギ、ヒダリ。源、三十四、上、若菜、上七十九入道ノ夢語「山ノ左右ヨリ、月日ノ光、サヤカニ差出デテ、世ヲ照ラス」太平記、二、僧徒六波羅召捕事「朝夕、雜色、左右ニ立チナラビテ」淨瑠璃物語（足利時代）第二段「花ぞろへ「御曹司ハ、木ノ下ニ立チシノビ、散リユク花ヲ、さうノ袂ニ受ケトメテ、古キ詩歌ヲ詠メテ、立チタマフ」林逸節用集（文明）雜用「寄二事於二左右一」

さう（名）左右〔左右ノ字ノ音讀、其條ヲ見ヨ〕（一）トカク。トカウ。トヤカク言フコト。保元物語、一、新院御謀反思召立事「人柄モ、左右ニ及バヌ上、和、漢、共ニ、人ニ傑レ」名目抄「御幸、天皇、不レ能二左右一、女院御出、同レ之」（二）トカクノ命。サシヅ。指令　盛衰記、三十九、重衡請二法然房一事「御所ヘ申入テ、可レ依二其御左右一トテ、發聞アリ」武家諸法度「何處ニテ、雖レ行二刑罪一、役者之外不レ可二出向一、可レ任二檢使之左右一事」（三）トカクノ知ラセ。オトヅレ。タヨリ。沙汰。消息　太平記、八、三月十二日合戰事「其左右ヲ、今ヤ今ヤト、待チケル所ニ」（四）トカクノ容子。事ノ容體。情況　白河文書、康永二年六月十日、結城大藏少輔宛、沙彌狀「且載二請文一、可レ被レ申二左右一之件、如レ件」「御左右奉レ伺候」（五）さうなく（無左右）ノ條ヲ見ヨ。

さう（助）候　さうらふノ下略、其條ノ（二）ヲ見ヨ。

さう（副）然〔然ノ延、漸、やうやう〕シカ。ソノ如クニ。狂言記、鹿狩「イカホドさう言フトモ、鹿ヲ射タラバ、國ニナライデ、カナフマイ」「さうアル」さうスル」さうデゴザリマス」

さう（接尾）〔狀ノ音便、大樣、おほざう〕動詞、形容詞ニ添ヒテ、ソノ樣ニ思ハルト云フ意ヲ云フ語。氣ナ。史記抄（文明）七「牛酒ガ、足リさうモナイゾ」幸若、烏帽子折（足利時代）「何ヨリ安さうナル事ニテ候」「落チさうニナル」見エさうで見エヌ」眠さうナ顏」暑さう」寒さう」カハイさう」

さう（接尾）雙　二ツニテ具フモノヲ數フルニ云フ語。對。史記、項羽紀「白璧一雙」「屛風一雙」

さう（接尾）艘　舟ヲ數フルニ云フ語。王粲、從軍詩「連舫踰二萬艘一」內膳式「川船一艘」「軍艦三艘」小舟五艘」

ざう（名）象　キサ。獸ノ名、亞細亞、亞非利加ノ熱地ニ產ズ、其長大ナルコト、其知感敏キコト、獸中ノ長タリ、常ニ群ヲナシテ、河邊ノ林中ニ棲ム、長サ一丈許、體、脚、極メテ肥大ナリ、皮、硬ク厚ク、全身、灰白ナルヲ常トスレド、或ハ、純白ナルモアリ、眼、甚ダ小サク、面ニ、長キ肉肢出デテ、鼻ノ如ク、自在ノ働キヲナスコト、手ノ如シ、牙アリ、象牙（其條ヲ見ヨ）ト云ヒ、皮ヲ、象皮ト云ヒ、共ニ、用、多シ、力、最モ強ケレドモ、性、順良ニシテ、最モ怜悧ナリ、畜ヒテ、使用ニ供スベシ。史記、大宛傳「其人民、乘レ象以戰」倭名抄、十八、廿毛群名「象、岐佐、獸名、似二水牛一、大耳、長鼻、眼細、牙長者也」若狹國守護職次第、應永十五年六月廿二日「南蠻船着岸、云云、彼帝ヨリ、日本ノ國王ヘノ進物、生象、一疋」

ざう（名）像　カタ。神、佛、人、獸、ナドノ象ヲ、木、石、銅、ナドニテ、模シ作レ

ルモノ。又、繪ニ書キタルモノヲモ云フ。蘇軾、張益州畫像記「留公像於淨衆寺」「[illegible]ノ像」「木像」「石像」「銅像」

一ざう (名) 鏇 〔鏇ノ延カ(佐官、さうくわん)平安朝時代ノ音ナルベシ、集韻「鏇、[illegible]切、同[illegible]」[illegible]也」〕[illegible]ニ同ジ。[illegible]ニテ[illegible]リシ、鏇ニ鏇刻シ、鏇メテシ、鏇ノ奴ノ、鏇ミカカリテ」(鏇ト訓ムベシト云フ) 字類抄「鏇、サウ」

ざう (名) 藏 [illegible]藏メテ、有チ持ルコト。所藏。「此器ハ、某ノ藏ナリ」「家ニ萬卷ヲ藏ス」

ざう (名) 藏 [illegible]大藏經ノ條ヲ見ヨ。

ざう (名) [illegible] 〔玉篇「[illegible]、藏也」廣韻「納[illegible]」〕[illegible]、[illegible]ナドニテ、取リ[illegible] [illegible]任官」

さうあい (名) 草鞋 〔さうかいナリ、集韻、[illegible]佳切、[illegible]、さうかい、草鞋、[illegible]ニハ、[illegible]、あいノ音ニ讀メリ、[illegible]ノ[illegible]、弘[illegible]、宋音ナルカ、さうわいトモ云フハ、さうあいノ[illegible]ナリ」〕[illegible]ワラジ。[illegible]下[illegible]、[illegible]。[illegible]、さうわい(插鞋)ノ條ヲ見ヨ。

さうあいせん (名) 草鞋錢 [illegible] ワラヂセン。[illegible]

さうあいだいわう (名) 草鞋大王 支那ニテ、路上ノ樹枝ニ、人ノ、敗レタル草鞋ヲ掛ケタルヲ見テ、人人、次次ニ、打掛ケ、打掛ケシタルヲ、終ニ、草鞋大王トテ、祭レルニ、[illegible]ノ[illegible]アリシト云フ語ナリ、鰯ノ頭モ信心カラナドノ意トス。王楙、野客叢書、十五「[illegible]、[illegible]草鞋大王、[illegible]可笑、初因一人挂草鞋於樹枝、後來者傚之、[illegible]千百、[illegible]草鞋大王、[illegible]、大書二[illegible]」

さうアミ (名) 相阿彌 室町足利家ノ同朋、中尾眞相、相阿彌ト稱ス、能阿彌ノ孫ニシテ、藝阿彌ノ子ナリ、父子三世、將軍義政、義尚、ニ仕ヘテ、共ニ、同朋タリ、相阿彌、畫ヲ善クシ、茶道、造庭、香道ニ、名アリ、其香道ニ、相阿彌流ヲ創ス。[illegible]、[illegible]香道ニ、相阿彌流、志野流ノ二派アリ」

さうアミりう (名) 相阿彌流 前條ヲ見ヨ。

さうあん (名) 草庵 クサノイホリ。茅葺ノ小家。朱熹詩「寄接一草庵」盛衰記、四十七、中[illegible]ニ[illegible]、常ノ御[illegible]ニハ、[illegible]人ハ菊花ニ[illegible]ズ、草庵ニ、[illegible]、ト[illegible]セシ物ヲ」

さうあん (名) 草案 〔さうかう(草稿)ノ語原ヲ見ヨ、正字通「[illegible]書起ㇾ藁、曰ㇾ案」〕 シタガキ。下書、草稿。

さうい (名) 草衣 僧侶、道人、ナドノ衣服ノ稱。苫ノ衣。サウエ。張[illegible]詩「[illegible]」太平記、廿四、依山門嗷訴[illegible]公[illegible]「[illegible]ハ玉樓金殿ヲミガキ、[illegible]八木食草衣ナレバ」

さうい (名) 創痍 「說文「創、傷也」」キリキズ。キズ。史記、季布傳「[illegible]」

さうい (名) 創意 工夫シ始メタルコト。オモヒツキ。「[illegible]ノ創意」

ざうい (名) 造意 企ムコロ。タクラミ。晉書、刑法志「唱首先言、謂之造意」二人對議、[illegible]之[illegible]」盛衰記、二、主上上皇[illegible]ヲ[illegible]テ、內裏ニ籠リタリケレバ、子細ヲ召問ハレケリ、天下ヲ呪咀シ奉ルノ由、白狀シタリケリ、若シ、此人人ノ造意ナリケルニヤ」

さういう (名) 壯遊 サカンナルアソビ。勢ヨキ遊行。[illegible]詩「壯[illegible]」

さういう (名) 爭友 さうしん(爭臣)ノ條ヲ見ヨ。

さううん (名) 想蘊 佛敎ノ語、五蘊ノ一、其條ヲ見ヨ。想像、意識スルコト。

さうえ (名) 草衣 草衣ニ同ジ。

ざうえい (名) 造營 家ヲ、ツクリ、イトナムコト。建築。多クハ、大家、高樓、社堂、ナドニ云フ。盛衰記、十八、文覺[illegible]「自力造營ノ事ハ、爭可叶ナレバ」

ざうえつ (名) 造謁 身分高キ人ニ、面會スルコト。劉[illegible]「造謁多」

さうえふ (名) 霜葉 霜ノタメニ、紅黃色トナレル木ノ葉。即チ、モミヂバ、紅葉。杜牧、山行詩「遠上寒山石徑斜、白雲生處有人家、停車坐愛楓林晚、霜葉紅於二月花」

さうおう (名) 相應 アヒ、カナフコト。フサハシキコト。ツリアフコト。相當。因話、[illegible]式[illegible]以相應」盛衰記、廿四、南都合戰同[illegible]失事「我ガ身ハ小[illegible]ノ比丘也、[illegible]ノ[illegible]、更ニ相應セズ」

さうおく (名) 草屋 カヤヤ。茅葺ノ家。茅屋。[illegible]「[illegible]、[illegible]草屋」

さうおん (名) 相恩 相傳ノ恩澤。譜代ノメグミ。甲[illegible]、[illegible]、[illegible]五「[illegible]今ニ至ル迄、三代相恩ノ主君ニ、逆心イタシ」

さうか (名) 早歌 〔神樂歌ノ早歌ヲ、音讀セシ語ヨリ起レルナルベシ、下學集(文安)下、態藝門「早歌」註「催馬樂、神樂歌ニ南北朝、室町時代ニ行ハレタル、一種ノ謠物、後ノ小唄、端唄、ノ如キモノカト云フ。太平記、廿三、土岐[illegible]事「[illegible]中ニハ、[illegible]共、云云、早歌ヲ[illegible]リノ[illegible]シテ、馬上、二三十騎、六内野、云云、歩マセタリ」徒然草、百八十八段「法師ノ、無下ニ能ナキハ、檀那、スサマジク思フベシトテ、早歌ト云フコトヲ習ヒケリ」七十一番職人盡歌合(文安)六十六番、早歌うたひ「別路ニ、泣クカ歌フカ、喉聲ノ、シボリアゲタル、袖ノ名殘ハ」判「[illegible]袖ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]歌ノ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]カシ侍リ」

さうが (名) 爪牙 (一)つめト、きばト。(二)國君ノ警衞トナル人。國家ノ輔弼ナル臣。詩經、小雅、祈父之什、祈父篇「祈父、予王之爪牙」註「爪牙、鳥獸所用以爲威者」漢書、李廣傳「將軍者、國之爪牙、怒形則千里竦、威振則萬物伏」文選、七命八首「爪牙之[illegible]、[illegible]」

一さうが (名) 唱歌 しやうが(唱歌)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さうが (名) 雙蛾 美人ノ、左右ノ眉。柳眉。白居易詩「[illegible]秋[illegible]、宛[illegible]遠山色」

ざうが (名) 象眼 ざうがん(象眼)ノ條ヲ見ヨ。

さうかい (名) 滄海 蒼海 アヲウナバラ。オホウミ。大海。李商隱詩「滄海月明珠有淚」蘇軾、赤壁賦「渺滄海之一粟、哀吾生之須臾」

盛衰記、廿四、都返僉議事「後ヲ顧ミレバ、紫禁ノ雲ヲ挟ムアリ、暁ノ嵐ノ漠漠タルヲ比ク、前ヲ望メバ、蒼海ノ天ヲ浸セルアリ」「滄海ノ遺珠」滄海、變ジテ桑田」（さうさうのへん（桑滄變）ノ條ヲ見ヨ）

さうかい（名）［桑海］〔桑田、滄海ノ略〕桑田ノ、變ジテ、滄海トナルコト。滄桑ノ變。李商隱詩「人間桑海朝朝變」

さうかい（名）［掃海］〔英語、Sweeping. ノ譯語〕海軍ニテ云フ語。敵ノ、海中ニ敷設シタル水雷ヲ、掃除スル作業。汽艇二隻ニテ、長キ索ヲ、海中ニ曳キ、水雷ヲ捕捉シ、電氣ヲ通ジテ、爆發セシム。沈没ノ死體ヲ探ル、ナドニモスルコトアリ。

さうかい（名）［草鞋］さうあい（草鞋）、并ニ、さふかい（插鞋）ノ條ヲ見ヨ。古へ、主上ノ、常ニ召サレシ淺靴。裝束抄「插鞋、天子尋常ニ召ス、幼主ノ時ハ、絲鞋ヲ用ヒ給フ也」

さうかい（名）［草芥］くさト、ごみト。孟子、離婁、上篇「視ニ天下悦而歸ニ己、猶ニ草芥一也、惟舜爲レ然」太平記、七、吉野城軍事「血ハ草芥ヲ染メ、尸ハ路徑ニ横ハレリ」

さうかう（名）［草藁草稿］〔草ハ、略ノ義、篇海「荷簡曰ニ草草一」韻會「文稿曰レ草」字彙「文章曰レ稿」正字通「稿、同レ藁」〕シタガキ。草案。草。史記、屈原傳「懷王使ニ屈原造ニ爲憲令一、屈原屬ニ草藁一未レ定」漢書、孔光傳「削ニ草藁一」註「言已繕寫、輒削ニ壞其藁一」

さうかう（名）［霜降］にぶふぶき（二十四氣）ノ條ヲ見ヨ。禮記、月令篇「是月霜始降、則百工休」

さうかう（名）［爭衡］物ノ輕重ヲ、爭フコト。天下ノ權柄ヲ、爭ヒ合フコト。庾信、竹杖賦「楚漢爭レ衡、袁曹競逐」

さうかう（名）［糟糠］さかかすト、ぶめぬかト。粗食ノコトニ云ヒ、又、粗末ナル物ノ意ニ云フ。史記、伯夷傳「回也屢空、糟糠不レ厭」盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「清盛入道ハ、平氏ノ中ノ糟糠也、武家ニ取テハ、塵芥也」糟糠の妻ト云フハ、糟糠ヲ食ヒ、貧苦ヲ共ニシタル妻ヲ云フ。後漢書、宋弘傳「貧賤之交不レ可レ忘、糟糠之妻不レ下レ堂」

さうかう（名）［倉庚］（一）うぐひすノコトナリト云フ。禮記、月令篇「仲春之月、桃始華、倉庚鳴」（二）雲雀ノコトト云フ。萬葉集、十九四十八「遲遲ニ、照レル春日ニ、比婆利アガリ、心悲シモ、獨シ思ヘバ」左註「鶬鶊正啼、云云、仍作ニ此歌一」

さうかう（名）［操行］オコナヒ。ミモチ。行跡。品行。マタ、嚴肅ナル行狀。北史、長孫儉傳「儉、方正有ニ操行一、神彩嚴肅」同、盧思道傳「思道、才學兼著、然不レ持ニ操行一、好輕ニ侮人物一」

さうかう（副）［然斯］〔さうハ、然ノ延、かうハ、斯ノ音便〕トカク。カレコレ。「さうかうシテ居ル内ニ、時ガ來タ」

さうがう（名）［相好］カホカタチ。容貌。人相。無量壽經「身色紫金、相好殊特」榮花物語、十八、玉臺「微妙淨法ノ身ニ、イロイロノ相好ヲ具足シ給ヘリ」

さうかく（名）［騷客］さうじん（騷人）ノ條ヲ見ヨ。

さうがく（名）［相學］相ヲ觀ル學。退閑雜記、四「相學テフモノハ、古ヘヨリモアル事ニテ、モト、五行生尅ヨリシテ、コトワリ詰メタルモノナリ」

さうがく-しや（名）［相學者］觀相ニ熟達シタルモノ。蜘亭瑣「相學者ニ、神谷登トテ、京都ヨリ下リテ、殊ノ外、江府ニ鳴リタリ」

さうが-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［綷縩］〔喧擾ぐノ、さやがし、さうがしト轉ジタル語ナルベシ（さやめく、さうめく。さやまき、さうまき）いそぐ、いそがし。さわぐ、さわがしノ例、さいさいしノ條ヲ見ヨ〕絹摺ノ音ヲ立ツルニ云フ語。サイサイシ。枕草子、九、九十九段「打チタル絹ノ、アザヤカナルニ、さうがしうハアラデ、髮ノ振リヤラレタル」

さうがな（名）［草假名］〔かんな（假名）ノ條ヲ見ヨ〕かんな、即チ、ひらがなノ本名。下略シテ、さうトノミモ云フ。枕草子、九、九十一段「人ノ、さうがな書キタル册子、取出デテ、御覽ズ」源、九、葵四十「さうニモ、眞名ニモ、サマザマ、メヅラシキ狀ニ、書キマゼタマヘリ」

さうか-の-く（句）［喪家之狗］喪ニアル家ノ犬。或ハ云フ、家ヲ喪ヘル犬。共ニ、痩セタルヲ云フ。孔子家語、困誓篇、孔子、適レ鄭「儽然、如ニ喪家之狗一」春秋正義（孔穎達）序「虛歎ニ銜レ書之鳳一、乃似ニ喪レ家之狗一」

さうかふ（名）［草合］さうくゎう（草冠）ノ條ヲ見ヨ。

さうかふ-かん（名）［裝甲艦］〔英語、Armoured ship. ノ譯語〕軍艦ノ、水線部、司令塔、砲塔、等ヲ、甲鐵板ヲ以テ覆ヒ造レルモノ。

さうかふ-じどう-しや（名）［裝甲自動車］楕圓形ニテ、全部、鐵板ニテ覆ヒ造レル、大ナル自動車。四壁、及、屋根ニ、窓アリテ、大砲、機關銃ヲ發射ス、此車ニテ、敵中ニ突入シ、且ツ戰ヒ、且ツ敵狀ヲ視察ス。

さうかん（名）［早寒］秋末、冬初、時候ノ、常ヨリ早ク、寒クナルコト。晉書、郗超傳「北土早寒、三軍裘褐者少、恐不レ可ニ以涉一レ冬」

さうかん（名）［創刊］創メテ、刊行シ、發賣シタルモノ。多ク、新聞紙、雜誌ナドニ云フ。「某雜誌ノ創刊號」

さうかん（名）［藻翰］美文ノ書翰。ウツクシキ文章ノ書簡。杜甫詩「藻翰惟牽率」

さうがん（名）［雙眼］りやうがん（兩眼）ニ同ジ。孟郊詩「春芳役ニ雙眼一」

ざうがん（名）［象眼］〔倭名抄、十八、象「大耳、長鼻、眼細、牙長者也」トアリ、象ノ眼ノ細ソキヲ取リテ云ヘル語カ、尚、考フベシ、ざうがト云フハ、下略ナリ（合歡、がふかノ木。生飯、さば）〕絹帛ニ、細ソキ泥畫ヲ施シタルモノト云フ。紙ニ施シタルニモ云フ。又、ざうが。侍中群要、五、裝束「著ニ象眼下襲一、至レ于ニ冬時一、必不レ著」枕草子、十一、百三十三段「地摺ノ唐ノ羅ニ、ざうがん重ネタル御裳ナド、奉リタリ」春曙抄「細ソキ泥畫ナドシタルナリ」榮花物語、三十七、煙の後「浮線綾ノ裳、唐衣、ざうがん、羅ナド、かねシテ作リタルニ、菊ノ折枝、松ナド繡ヒタル、イト、ヲカシ、織物ノ上着ナレド、唐衣ナドハ、ざうがん、ウスモノナドヲシタリ、織物ハ、厚ク、繡物ハ、重クモ、ナカナカ、ワロケレバナルベシ」同、三十二、歌合「紫ノ浮線綾ニ、青キざうがんヲツケテ、伊勢海ト云フ催馬樂ヲ、蘆手ニ繡ヒタリ」同、三十一、殿上花見「繪所、作物所ニテ、女房ノ裳、唐衣ニ、繪カキ、作リ繪ナド、イミジクセサセタマフ」同、三十二、歌合「彫物ノ骨ニ、ざうがんノ紙ヲ貼リテ、題ノ心ヲ、サマザマニ書キタル扇」永承五年正子内親王繪合「打敷、二藍ノざうがニ、白キ文ヲ繡ヒタリ」狹衣、三、下「同ジ色ノざうがノ上衣」

ざうがん（名）［象眼象嵌］〔前條ノ語ヨ

リ付ル一種。鐵ナドノ器ノ面ニ、模様ヲ細ソク刻リ込ミテ、金、銀ナドヲ嵌メコミタル細工。[illegible] 他ノ面ト、象嵌ノ面ト、高低ナキヲ、平象嵌ト云ヒ、足利時代ヨリ、象嵌ヲ高クシテ作レルヲ、高象嵌ト云フ。[illegible] 名物六帖 [illegible] 日三鐵鐐、云云、嵌金、居家必備」[illegible]

さうがんきやう (名) ［雙眼鏡］ (英語、Opera-glass ノ譯語) 遠眼鏡(トホメガネ)ノ、小サク、短クシテ、二ツ、連レルモノ、兩眼ニ當テテ、共ニ、見ル。

さうかんぼくぢやうのいん (名) ［桑間濮上之音］ 淫靡ナル音樂。[illegible] 名、衞國ノ君、濮水ノ邊、桑林ノ間ニテ、琴ノ音ヲ聞キシナリ」

さうき (名) ［壯氣］ サカンナル元氣。[illegible]

さうき (名) ［爽氣］ サハヤカナル心地(ココチ)。爽快。[illegible]

さうき (名) ［早起］ 朝早ク、起クルコト。ハヤオキ。夙起。李白詩「早臥早行君早起」

さうぎ (名) ［葬儀］ 葬禮、葬式、ニ同ジ。

さうぎ (名) ［爭議］ 人ノ、互ニ、己レノ意見ヲ主張シテ、爭ヒ論ズルコト。[illegible]

[illegible]」

さうきふ (名) ［躁急］ (釋名「躁、燥也、物燥(カワケバ)乃動而飛揚也」) 騷ガシク、急クコト。宋史、李 [illegible] 躁急 [illegible]」

さうきやう (名) ［粧鏡］ 假粧ノ鏡。身ジマヒニ用ヰル鏡。平家物語、七 [illegible]

ざうきやう (名) ［藏經］ だいざうきやう(大藏經) ノ上略。一切經。

さうきやく (名) ［雙脚］ 雨方ノ脚。左右ノ足。兩足。[illegible]

さうきゆう (名) ［蒼穹］ アヲゾラ。大空。蒼天。蒼空。李白 [illegible]」

さうきよ (名) ［壯擧］ 壯擧 意氣壯(サカン)ナル、クハダテ。[illegible] 一擧ノ壯擧」

さうきよ (名) ［雙擧］ 梵語ト、漢語ト、雙(ナラ)ベナガラ擧ゲテ、一語ヲ形作ルコト。梵語ヲ譯スルニ云フ。例ヘバ、梵語ノ懺摩ハ、悔ノ義ナルニ、懺悔(サンゲ)トシ、禪(ゼン)ハ、定ノ義ナルニ、禪定(ゼンヂヤウ)トスルガ如シ、コレヲ、梵漢雙擧ト云フ。

さうぎよ (名) ［雙魚］ (出典ヲ見ヨ) (一) 手紙ノ異名。又、雙鯉。書簡。尺牘。[illegible] (二) 星ノ宿ノ名、ざふにきゆう(十二宮) ノ條ヲ見ヨ。

さうきよく (名) ［箏曲］ (さう(箏) ノ條ヲ見ヨ) コトウタ 筑紫琴ノ歌曲、琴曲。

さうぐ (名) ［草具］ 粗末ナル膳部。史記、[illegible]「更以 [illegible] 草具 [illegible]」

さうくう (名) ［蒼空］ アヲゾラ。蒼天。

さうぐう (名) ［遭遇］ ハカラズ、出會(デア)フコト。ウマク、デクハスコト。[illegible]

ざうぐうし (名) ［造宮使］ (一) 宮城造營ノ時ニ置カレシ官。[illegible] (二) 伊勢大神宮御改造ノ時ニ置カレシ官。[illegible] 新造」

ざうぐうしき (名) ［造宮職］ 古ヘ、宮城ノ造營ヲ掌リシ官司。後、木工寮ニ併セラレタリ。[illegible] 造宮職、併木工寮」

さうぐうせん (名) ［遭遇戰］ 戰場ニテ、敵、身方、運動中ニ、互ニ遭遇シテ、思ハヌニ起ル戰闘。

さうくつ (名) ［巢窟］ スミカ。カクレガ。南史 [illegible]「[illegible] 何處」「[illegible] 人ノ巢窟」

さうくわ (名) ［草花］ クサバナ。史記、李 [illegible]「秋霜降者、草花落」

さうぐわ (名) ［早臥］ ハヤク、フスコト。ハヤク、寢ルコト。ハヤネ。[illegible] 李白詩「早臥早行君早起」

ざうくわ (名) ［造化］ (萬物ヲ創造、化育スル意) (一) 天地ト云フニ同ジ。天地、運行シ、四時、變遷シ、萬物、始終シテ、窮マラザルヲ云フ。此萬物ヲ創造セシ神ノ如キモノアリトテ、造物者ト云フ。列子、周穆王篇「老聃日、造化之所始、陰陽之所變、謂之生、謂之死」[illegible] (二) 我ガ邦ニテ、天地開闢ノ天御中主神(アメノミナカヌシノカミ)、高皇産靈神(タカミムスビノカミ)、神皇産靈神ヲ、造化ノ三神ト申ス。古事記、序「乾坤初分、參神作造化之首」

ざうくわ (名) ［造花］ ツクリバナ。綵花。

さうくわい (名) ［爽快］ サハヤカニ、ココロヨキコト。サッパリトシテ、氣味ヨキコト。[illegible]

さうくわう (名) ［草冠］ (くわうハ、冠(クワン)ノ音便、(かうぶり、かうのとり)、草合(サウカフ)ハ、借字ナリ、(合歡木、がふかのき、合力)) クサカンムリ。草頭。[illegible]

さうくわう (名) ［裝潢］ (釋名「潢、染紙也」) へうぐ(表具) ニ同ジ。楊升庵集「唐六典、有裝潢匠、謂裝成而以潢染紙也、今製 [illegible]」[illegible] 造紙手四人」

さうくわう (副) ［倉皇］ ［蒼惶］ アワタダシキ状ニ云フ語。[illegible]

さうくゎう (副) 崢嶸 〔正韻「嶸、胡盲切、音橫」〕 (一)山ノ、嶮シキ狀ニ云フ語。 班固、西都賦「金石崢嶸」註「崢嶸、高峻貌」 (二)歲月ノ、積ミカサナル狀ニ云フ語。 鮑昭、舞鶴賦「歲崢嶸而愁暮、心惆悵而哀離」

さうくゎうしゃう (名) 裝潢匠 表具屋。 さうくゎう(裝潢)ノ條ヲ見ヨ。

さうくゎん (名) 佐官 〔佐官ノ延(然、さう。給ぶ、たうぶ)〕 フミビト。さくゎん(主典)ニ同ジ、かみ(長官)ノ條ヲ見ヨ。 古今集、序「前ノ甲斐ノさう官」 倭名抄、五、二「左右大史、於保伊佐宇官」

さうくゎん (名) 壯觀 盛ンナル觀モノ。盛ンナルコトガラ。 司馬相如、封禪文「皇皇哉斯事、天下之壯觀、王者之不業、不可貶也」 百練抄、八、承安三年五月二日「於上皇所有鬪合事、云云、諱是一條日之儀、爲當日之壯觀」

さうくゎん (名) 雙鬟 ツノガミ。アゲマキ。總角。 白居易詩「窈窕雙鬟女、容德俱如玉」 太平記、三十七、楊國忠事「雙鬟ノ童女、楊貴妃ハ未ダ、オホトノゴモリテ候」

さうくゎん (名) 相關 モノノ、互ニ、相、關ハルコト。 趙孟頫詩「禽魚雙語意相關」

さうくゎんはふ (名) 雙關法 漢文構造法ノ一、相、對スル文句ヲ相竝ベテ、一篇、一段ヲナスモノ。例ヘバ、韓愈ノ原毀ノ文ノ如シ。(雙關ハ兩開キノ戶)

ざうげ (名) 象牙 キサノキ。上略シテ、牙トノミモ云フ。象ノ門齒ナリ、唯、二本、上顎ニノミアリテ、左右ヨリ、口外ニ突出スルコト、牙ノ如ク、甚ダ長大ニシテ、上ヘ向フ、牡ナルハ、長サ六七尺、質、堅ク、油白色ニシテ、內ニ、文理アリテ、美シ、諸ノ器ニ作リテ、珍重ス。 天智紀、十年十月「是月天皇遣使、奉象牙於法興寺佛」 彈正臺式「凡、內命婦三位以上、聽用象牙笏」 倭名抄、十八、廿毛群體「牙、山海經云、象牙、大者長一丈」 字類抄「牙、ゲ、象牙」「牙ノ軸」牙彫」

さうけい (名) 草徑 草ノ繁茂シタル小路。 黃庭堅詩「親遣小童鉏草徑」

さうけい (名) 早計 早マリタル、ハカラヒ方。 莊子、齊物論「且汝亦太早計」「事、早計ニ失ス」

ざうけい (名) 造詣 〔正韻「造、進也」玉篇「詣、往也、到也」〕 學業ノ、深ク進ムコト。 正字通「學業深入日造詣」 唐書、崔咸傳「咸、造詣趣遐、間游終南山、乘月吟嘯」「造詣、深シ」

さうげき (名) 草屐 ザウリ。ワラグツ。 杜荀鶴、贈祖肩和尙詩「山衣草屐染苔」

さうけだ・つ (動) 寒氣立 寒氣立つノ音便。

さうけつ (名) 葬穴 ツカアナ。墓穴。壙

さうげつ (名) 壯月 ハヅキ。陰曆八月ノ異名。 爾雅、釋天篇「八月爲壯」

さうげふ (名) 創業 〔唐韻「創、始也」〕 事業ヲ、爲始ムルコト。成業ヲ保守スルヲ、守成ト云フ。 貞觀政要、及、唐書、房玄齡傳ニ、太宗ノ、房玄齡、魏徵ニ云ヘル語「創業之不易、旣往矣、守成之難、方與公等愼之」

さうけん (名) 雙肩 兩方ノ肩。左右ノ肩。 張華、遊獵篇「機發應弦倒、一縱連雙肩」

さうけん (名) 創建 〔前前條ノ語原ヲ見ヨ〕 始メテ、建テタルコト。サウコン。デキハジメ。

さうけん (名) 創見 ハジメテノ發見。新發見。 史記、司馬相如傳「應劭紹至、不特創見」

さうけん (名) 想見 オモヒ、ミルコト。思ヒヤルコト。 史記、屈賈傳、贊「觀屈原所自沈淵、未嘗不垂涕、想見其爲人」

さうけん (名) 壯健 身ノ、壯ニ、スコヤカナルコト。ヂャウブ。タッシャ。 漢書、匈奴傳「貴壯健、賤老弱」「身體、極メテ壯健ナリ」

さうげん (名) 莊嚴 しゃうごん(莊嚴)ノ條ヲ見ヨ。

ざうげん (名) 讒言 〔讒言ノ音便(三頭、さうづ)〕 讒言ニ同ジ。 源、三十五、柏木「世「如何ナルざうげんナドノ有リケルニカト、コレナム、此世ノ愁ニテ」細流抄「讒言ナリ」

ざうげん (名) 造言 オヨヅレゴト。虛言ヲ造リ設ケテ、衆人ヲ惑ハスコト。蜚語。 周禮、地官篇、司徒、大司徒「以鄉八刑糾萬民、云云、七日、造言之刑、八日、亂民之刑」鄭注「造言、訛言惑衆、亂民、亂名改作、執左道以亂政也」

さうこ (名) 倉庫 (一)クラ。 史記、石奮傳「城郭倉庫空虛、民多流亡」 太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「驕テ、數箇ノ倉庫ヲ開キ」 (二)倉庫ニ、自己ノ貨物ヲ貯フルニ供スルアリ、又、專ラ、他ニ貸シテ、其貨物ヲ保管シ、倉敷料ヲ取ルヲ營業トスルアリ、コレヲ、倉庫業、倉庫營業、ト云フ。

さうこ (名) 桑戶 〔桑ノ枝ヲ折リテ、戶ノ樞トスル意〕 クハノカド。貧乏ナル人ノ家。貧居。桑樞。 戰國策、秦策「蘇秦特窮巷掘門、桑戶棬樞之士耳」

さうこ (名) 桑弧 桑ノ木ニテ作リタル弓。 さうこほうし(桑弧蓬矢)ノ條ヲ見ヨ。 白居易詩「洞房門上掛桑弧」

さうこ (名) 操觚 〔觚ハ、方形ノ札ナリ、古ヘ、紙ナケレバ、コレヲ操リテ、文字ヲ書キタルナリ〕 作文スルコト。文筆。鉛槧。作文ニ從事スル人ヲ、操觚者、操觚之士ト云フ。 陸機、文賦「或操觚以率爾、或含毫而邈然」註「觚、木之方者、古人用之以書、猶今之簡也」 全唐詩話「欣然操觚染翰」

さうご (名) 相互 アヒタガヒ。交互。「相互ノ利益」

さうご (名) 壯語 意氣ノ壯ンナルコトバ。威張リタルモノイヒ。豪語。 文心雕龍「高談公館、壯語畋獵」「大言壯語」

ざうご (名) 造語 自己ニテ、造リ出シタルコトバ。 莊子、齊物論「爾作造語、妄稱文武」

さうこう (名) 雙勾雙鉤 筆ヲ執リテ字ヲ書クニ、筆ノ軸ヲ、大指ト、食指、中指トニテ挾ミテ、スルコト、運筆ニ、力アリト云フ。唯、大指ト、食指トノミニテ挾ムヲ、單勾ト云フ。 段玉裁、述筆法「其以大指與食指也、謂之單勾、其以大指與食指中指也、謂之雙勾、中指者、所以輔食指之力也」 黃山谷集「東坡不善雙鉤懸腕」(故事熟語大辭典)

さうこう (名) 雙鉤 カゴウツシ。カゴジ。フタヘガキ。フタヘモジ。

さうこう (名) 艙口 〔英語、Hatchway. ノ譯語、せんさう(船艙)ノ條ヲ見ヨ〕 船艙ノ上ノ甲板ニ穿チタル方形ノ穴。

館内ノ貨物ヲ、上下、出入セシム。

さうこう（名）［相工］さうにん（相人）ノ條ヲ見ヨ。

さうごう（名）［相好］〔好、呉音、こう〕佛身ニ云フ三十二相、八十種好ヲ、總稱シテ云フ語ナリ〕（一）佛身ノ形貌ノ處處ニ、微妙ナル特點アルヲ稱スル語。大智度論〔[illegible]〕云云、[illegible]云云、[illegible]云云、[illegible]相好ノ具足シタマヘリ」（二）カホカタチ。カホツキ。顔貌。〔相好ヲクヅシテ笑フ」[illegible]〕

ざうこう（名）［藏鉤］テウカ、ハカ。數人、拳ヲ出シ、其中ノ一人ノ、物ヲ握リテアルヲ中ツル遊戲。後世ノ、猜拳ノ類。〔[illegible]〕

さうこ-えいげふ（名）［倉庫營業］さうこ（倉庫）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

さうこく（名）［相剋］ごぎやう（五行）ノ條ヲ見ヨ。〔[illegible]〕

ざうこく（名）［造石］酒類、醤油、等ヲ釀造スル石數。上石、百石、千石ノ類ヲ云フ。此石數ニ應ジテ課セラルル稅ヲ、造石稅ト云フ。

ざうこく-ぜい（名）［造石稅］前條ヲ見ヨ。

ざうこく-ぬり（名）［象谷塗］〔高松ノ漆工、玉楮爲三、號ヲ象谷ト云ヒシ人ノ創製ナリ、明治二年歿、年六十四〕漆器ノ一種。讃岐國、高松ニテ製出セラル、木地ニ、下地ヲ施シ、極メテ細密ナル花草ナドヲ彫刻シ、其彫痕ニ、種種ナル色漆ヲ埋メテ、研ギ出ス。

さうご-くわいしや（名）［相互會社］〔英語、Mutual-company. ノ譯語〕又、相互保險會社。保險會社ノ一種。社員、組合ヒ、相互ヒニ救濟スル趣意ニテ設立シタルモノ、營利ヲ目的トスルニアラズ。

さうこ-げふ（名）［倉庫業］さうこ（倉庫）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

さうこ-しや（名）［操觚者］筆ヲ執ルモノ。文筆家。文章家。操觚ノ條ヲ見ヨ。

さうこしや-りう（名）［操觚者流］文筆家ノ類。文章家ノ仲間。

さうこ-ほうし（名）［桑弧蓬矢］クハノユミ、ヨモギノヤ。古ヘ、支那ニテ、男兒ノ生レタル時ニ、此弓矢ニテ四方ヲ射タリ、世ニ立タムコトヲ祝セシナリ。因リテ、男子ノ志ヲ立ツルコトヲ云フ語トナル。禮記、射義篇「男子生、桑弧蓬矢六、以射天地四方、天地四方者、男子之所有事也」[illegible]天地四方ヲ射サセラル」（安德天皇御誕生）

さうご-ほけんくわいしや（名）［相互保險會社］相互會社ヲ見ヨ。

さう-こん（名）［早婚］年少ニテ、結婚ス

ルコト。晚婚ニ對ス。〔[illegible]〕八、一條院ノ、十一ニテ御元服セサセタマヒシニ、十五ニテ參ラセタマヒケム、ヤガテ、其年ノ六月一日ニ、后ニ立タセタマフ」（大姬君ハ、道隆ノ女、定子）文中子、早婚少娉、教人以偷」

さう-こん（名）［草根］クサノネ。草根木皮ノ條ヲ見ヨ。

さう-こん（名）［創建］〔創業ノ語原ヲ見ヨ〕始メテ、建立シタルコト。創立。創造「高野山金剛峯寺ハ、弘仁年中ノ創建ナリ」

さう-ごん（名）［莊嚴］しやうごん（莊嚴）ノ條ヲ見ヨ。梁簡文帝文「多設莊嚴、盛修供具」[illegible]「百福莊嚴、萬德周備」

さうこん-ぼくひ（名）［草根木皮］くさのね、きのかはト。金史、食貨志「泗州被災、道殣相望、所食者草根木皮而已」漢方醫ノ藥ニハ、多ク、草根木皮ヲ用キルニ因リテ、其藥劑ノ稱。

さう-ざ（名）［草座］蒲ノ葉ナドニテ編ミ作レル敷物。圓座ノ類ナラン。僧侶ノ用キルモノナリ。倭名抄、十三「[illegible]草座」因果經云、[illegible]（故事要言）[illegible]大辭典）榮花物語、十七、音樂「小法師、云云、二三人具シテ、三衣匣、さう座、ナド云フ物ドモ、持タリ」

ざう-さ（名）［造作］〔集韻「作、子賀切、音佐」字典「今、方音、作、讀佐、俗用、做」〕作ノ字、去聲トナル時ハ、名詞トシテ、作業ノ意トナルカ（大藏法數、華道「謂下一切衆生、造作惡業、而生其處上、作用」）所作、動作、坐作進退、ナド云フ、皆、同ジ〕造作、製作ガ、ヤガテ、手間ノ意ニ移レルナリ〕（一）手間。手數。ざうさも

ない、ざうさないト云ヘバ、たやすし、容易ナリ、ノ意ニテ、無造作ト云ヘバ、心ヲ勞セズ、力ヲ費サズ、ノ意ナリ。孟子抄（文明）一[illegible]「ハ、はかりノおもし、衡ハ、はかりノさをゾ、ソレヲ以テ知レバ、ざうさもない」[illegible]「造作もない、文ノ上デ見エタリ」[illegible]（元和、安樂庵策傳）五、上戶「酒ヲ飲ム時、云云、口ヘ入レバ、ソノママ喉ヘ、造作もなく、走リコム」[illegible]中ニ、造作ナル事ニテ候」[illegible]ヘルコトヲ、造作ニ思ヒ」（二）饗應ヲ謂スルニ云フ語、調理、配膳ノ手數ニ云フナリ）「色色、御ざうさニアヅカリマシタ」

さう-さい（名）［葬祭］葬式ト、祭祀ト。左傳、昭公四年「[illegible]」[illegible]

さう-さい（名）［掃灑・掃洒］掃キテ、水ヲソソグコト。洒掃。掃除。後漢書、趙孝傳「[illegible]」[illegible]

さう-さい（名）［相殺］〔集韻「殺、所界切、減削也」互ニ殺ぐナリ、さうさつト云フハ、百姓讀ナリ〕（一）互ニ差引キテ、損得ナシニスルコト。インダリ。（二）法律ノ語ニ、金錢ノ遣取ナドニ、雙方、差引勘定ニテ濟マスコト。

さう-さい（名）［爭采］（一）彩色ヲ、アラソフコト。美麗ヲ競フコト。[illegible]「[illegible]爭采、[illegible]」（二）アラソヒ、采ルコト。[illegible]「[illegible]」

ざう-ざい（名）［贓罪］〔ざう（贓）ノ條ヲ見ヨ〕賄賂、强盜、竊盜、其外、不正ナル

手段ニテ、人ノ財ヲ取リタル罪。

さう-さう (名) 草創 〔篇海「荷簡曰ニ草草ニ」唐韻「創、始也、造也」〕（一）簡略ニ、造リ始ムルコト。創造。シハジメ。テハジメ。論語、憲問篇「為ニ命、裨諶草ニ創之一、世叔討ニ論之一」集註「草、略也、創、造也、謂ニ造為草藁一也」（命ハ、辭命ナリ）漢書、外戚恩澤侯表「高帝撥ニ亂誅ニ暴、庶事草創」太平記、一、關所停止事「草創雖レ并ニ一天一、守文不レ越ニ三載一」（後醍醐天皇ノ元弘ノ御業ヲ云フ）（二）社、寺、最初ノ建立。創建。盛衰記、十六、文覺頼朝勸ニ進謀叛一事「此寺ハ、和氣松名ガ草創ノ伽藍」（山城ノ高雄寺）自遊往來「是則東照宮之御建立也、云云、去寛永年中之御草創」

さう-さう (名) 滄桑 滄桑變ヲ見ヨ。

さう-さう (副) 〔然ヲ延ベテ、重ネ云フナルベシ、然斯、同ジ〕ソノヤウニハ。サヤウニハ。「待テト云フテモ、さうさうハ、待ッテ居ラレヌ」

さう-さう (副) 早早 ハヤハヤ、疾ク疾ク。急ギテ。怱怱。俗語考（冠文、野明子曰）古今女史「宜ニ早早還ニ」梅松論「露ト消エナム命ノ、イカデカ惜シク候フベキ、早早、害シタマヘ」

さう-さう (副) 草草 （一）イソガハシキ状ニ云フ語。怱怱。草卒。杜甫詩、聞官軍「草草曰取ニ別何草草」（二）簡略ナル状ニ云フ語。「委シクハ、後日ニ可ニ申上一候、草草」待遇ノ手薄ナリシヲ、おさうさうト云フ。

さう-さう (副) 錚錚 〔説文「錚、金聲也」〕（一）金鐵ノ鳴ル音ニ云フ語。歐陽修、秋聲賦「鏦鏦錚錚、金鐵皆鳴」後漢書、劉盆子傳「光武謂ニ徐宣一曰、卿所レ謂鐵中錚錚者」（器量ヲ稱メタルナリ）（二）又、琴、琵琶ノ絃ノ、鳴ル音ニモ云フ。孟郊詩「筑鳴ニ調一、琴ハ閑ニ林霊錚錚」盛衰記、三、「有ナ人、水驛ノ船ノ中ニ、琵琶ヲ彈ズル音ヲ聞ケバ、錚錚然トシテ、京都ノ聲アリ」

さう-さう (副) 蒼蒼 （一）天ノ色ノ、アヲアヲト見ユルニ云フ語。莊子、逍遙遊篇「天之蒼蒼、其正色耶」（二）草木ノ、綠色ニ繁リタルニモ云フ。曹植詩「山樹鬱蒼蒼」蘇軾詩「古寺竹蒼蒼」

さう-さう (副) 嘈嘈 カマビスシキ聲ニ云フ語。王延壽、魯靈光殿賦「耳嘈嘈以失レ聽」盛衰記、十二、師長熱田社琵琶事「嘈嘈、切切トシテ、錯リ雜リ彈クニ」

さう-ざう (名) 創造 〔草創ノ語原ヲ見ヨ〕始メテ、作リ出スコト。ツクリハジメ。創建。「天地創造」

さう-ざう (名) 想像 〔像ハ、象ニ通ズ、獸ノ象ヨリ起ル、出典ノ韓非子ヲ見ヨ（易經、繫辭、下傳「象也者、像ニ此者也」）〕心中ニ、想ヒ當ツルコト。アテズキリヤウ。韓非子、解老篇「人希レ見ニ生象一也、而得ニ死象之骨一、按ニ其圖一、以想ニ其生一也、故諸人之所ニ以意想一者、皆謂ニ之象一也」楚辭、遠遊篇「思ニ舊故一以想像兮」俚言集覽「想像「思ヒヤルコト也、想像臆度ト、四字連用スル處アリ、語類曰、只是想像說、正如ニ盲人看レ戲一般、見ニ前面人哄一他也、哄レ他、雖ニ眼不ニ曾見一、想ニ必好哄一便隨レ他哄」

さう-ざう (名) 想像 〔英語、Imagination. ノ譯語〕記憶ノ、多少、變化シテ、再現スルモノ。

さう-ざう・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 閑寂 〔さぶしヲ重ネテ、音便ニ云フ語ナリト云フ（頭上、かうべ）或ハ云フ、寂寂しノ音便ナリト（格子、かうし。拍子、はうし）〕閑寂シヲ強メテ云フ語。アルベキ物事ノ無クテ、足ハヌ意ニ云フ語ナリト云フ。宇津保物語、藏開、上「父ヲ參ラレヤスルト思ヒシニ、サモアラザリシカバ、イトさうざうしくナムアリシ」源、十、賢木「カウヤウノ時コソ、ヲカシキ歌ナド、出デ來ルヤウモアレ、さうざうシヤ」亭子院歌合、序「侍ハズト申セバ、さうざうしガラセタマフ」枕草子、四、四十三段「御齋戒ニコモリテ、サスガニ、さうざうしくコソアレ」徒然草、第三段「ヨロヅニ、イミジクトモ、色好マザラム男ハ、イトさうざうしく、玉ノ巵ノ、底ナキ心地ゾスベキ」（色トハ、愛情ノ義ナリ、ト云フ說アリ）

さう-ざう・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 騷騷 〔さうざうハ、騷騷ノ音便（さわづく、さうづく。さわがし、さうがし）〕サワガハシ。サワガシ。カマビスシ。ヤカマシイ。囂囂 三河物語（大久保彥左衞門）上「何トヤラン、世間之、騷騷敷きニ付キ而」

さう-さう-の-へん (名) 滄桑變 滄海ノ、變ジテ、桑田トナルコト。時勢ノ變遷ノ甚シキニ譬ヘテ云フ語。桑海。神仙傳、麻姑「麻姑自說曰、接待以來、已見ニ東海三爲ニ桑田一、向到ニ蓬萊一、水又淺ニ于往者一、會時略半也、豈將ニ復還爲ニ陵陸一乎」劉廷芝、代ニ悲ニ白頭一翁上詩「今年花落顏色改、明年花開復誰在、已見ニ松柏摧爲ニ薪、更聞桑田變成ニ海」

さう-さう-らう-らう (副) 蹌蹌踉踉 ヨロメキテ歩ム狀ニ云フ語。俚言集覽「蹌蹌踉踉去了去、小說語、ヨロヨロトシテアルキ行クコトナリ」

さう-さく (名) 創作 己ガ意匠ニテ、作リ出シタルモノ。著作、藝術品ナドニ云フ。「創作ニ從事ス」

ざう-さく (名) 造作 〔ざうさ（造作）、及、ざふさく（雜作）ヲ併セ見ヨ〕（一）造ルコト。コシラヘ作ルコト。製作。易經、繫辭、下傳、疏「包犧法ニ天地一造ニ作八卦一」（二）家ヲ、建ツルコト。家作。建築 工事 倭名抄、十五、五「造作具」（工匠ノ用具ヲ記セリ）明月記、天福元年八月五日、京中大火「自ニ翌日一皆造作」著聞集、十六、興言利口「或上達部、嵯峨邊ニ、ざうさくセムトテ、見アリキケルニ」下學集、下、態藝門「造作、造營」

さう-さつ (名) 相殺 さうさい（相殺）ノ誤、其條ヲ見ヨ。

ざう-さ-な・い (形) 無造作 ざうさ（造作）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

さう-し (名) 冊子 〔冊子ノ音便（蹴鞠、しうきく。格子、かうし）唐韻「冊、楚革切」玉篇「冊、簡也」次條ノ草子ヲ見合ハスベシ〕綴書。綴本。古ヘノ書ハ、皆、卷物ナリシニ、展ブルニ不便ナレバ、冊子トナリシナリ、サレバ、後モ、卷物ニ、冊子ノ名ハ、移レリ。冊子ニハ、色色ノ紙ニテ、綴ヂオキ、人人ニ、次次ニ、歌ナド書キ入レサセタルモアリシトオボシ。紀略、後篇、一、延喜十九年十一月二日、詔「以ニ眞言根本阿闍梨贈ニ僧正空海、入唐求法諸文冊子卅帖一、安ニ置經藏一」源、三十二、梅枝「マダ書カヌさうしドモ、作リ加ヘ、表紙、紐ナド、イミジウセサセタマフ」花鳥餘情「卷物ヲモ、双紙ト云フナリ」同、三十四、若菜、上「唐ノ綺ノ裝ニテ立チタマヘル人アリ、云云、紅梅ニヤアラム、濃キ、薄キ、スキズキニ、アマタ重ナリタルケヂメ、花ヤカニ、さうしノ端ノヤウニ見エテ」枕草子、四、三十九段、ありがたきもの「ヨキさうしナドハ、イミジク心シテ書ケドモ、必ズコソ、キタナゲニナルメレ」同、一、十三段「御前ニテ、さうしニ、歌一ツ書ケト、殿上人ニ仰セラレケルヲ」合類節用集（元祿）七、器財門「冊子、冊子」和漢三才圖會（正德、十五）五十二「冊子、止知本」松の落葉（藤井高尙）四「昔、本ト云ヒツルハ、皆、卷物ニテ、後ニ、綴ヂタルガ出來ツルヲ、さうしトゾ云ヒケル、云云、色色ノ紙シテ、美シクモ作レルナリ、云云、さうしニ

爲サセタマフハ、見ルニ、便リヨケレバナルベシ」

さうし（名）｜草子・草紙｜〔草ハ、草ノ義、さうかう（草稿）ノ語原ヲ見ヨ、又、冊子ヲモ此合ハスベシ、雙紙トモ書ク（冊子ナリ）〕（一）（何クレト、記シツケタル草案ノ）草稿。清少納言ノ記セル枕草子ト云フ書、コレニテ成レル隨筆ニテ、名アリ。枕草子、本文「さうしハ、目ニ見エ、心ニ思フ事ヲ、人ヤハ見ンズル、（人、見ンズルヤハ）ト思ヒテ、ツレヅレナル里居ノホドニ、書キアツメタルヲ、云云」枕草子春曙抄（北村季吟）卷首「題號ヲ、枕草紙ト云ヘル心ハ、云云、物ノシタガキ、草案、草稿、ナドト云ヘル、其心ニテ、イマダ、清書ヲモシアヘザル物トノ心ニヤ」（二）轉ジテ、隨筆ヲ始メ、スベテ、昔物語、小說、ナドノ稱トナル。さうしあはせ（草紙合）ノ條ヲ見ヨ。足利時代ニ至リテ、御伽草子トテ、何草子、某草紙、ト云フモノ、皆、作物語、小說ナリ。字書抄、本、書物「草子、サウシ、書名也」（三）又、轉ジテ、書籍ノ總名トナル。本。書物。草子挾ナド云フ、アリ。（天文）「草紙、雙紙」攝州府志（天和）七、土産門「倭俗、書冊、紙帖、以假字書之、謂之草子」（四）繪草紙、草雙紙、手習草紙ノ各條ヲ見ヨ。

さうし（名）冊子 さうしん（冊臣）ノ條ヲ見ヨ。

さうし（名）｜雙子｜ フタゴ。雙兒。雙生。

さうし（名）｜雙趾｜ 兩方ノ脚。兩足。張衡、西京賦「雙趾」

さうし（名）｜壯士｜（一）勇壯シキ士。勇氣アル男子。史記、項羽紀「壯士、賜之卮酒」史記、刺客傳、荊軻「壯士一去兮不復還」（二）近世、人ニ雇ハレテ、暴力ヲ以ヒ、他ヲ脅迫スル、一種ノ無賴漢ヲ、壯士ナドト稱ス。政黨起リテヨリ、議員選擧競爭ノ時ナドニ使ハル。（三）さうしばゐ（壯士芝居）ノ條ヲ見ヨ。

さうし（名）｜壯志｜ 勇壯ナルココロザシ。隋書、李子雄傳「少年懷有壯志」壯志、弱冠從軍、功有顯著」

さうし（名）｜桑梓｜〔詩經、小雅、小弁篇「維桑與梓、必恭敬止、靡瞻匪父、靡依匪母」註「桑梓二木、古者樹之墻下、以遺子孫、給蠶食、具器具也」父母ノ遺樹アルニ因リテ、家鄕ニ云フナリ〕生故鄕。フルサト。家鄕。張衡、南都賦「永世克孝、懷桑梓焉」舊唐書、韋堅傳「桑梓、故鄕也」舊唐書、題目、敬桑梓、以逃三年九月、老還鄕桑梓」

さうし（名）相思 男女互ニ、戀ヒ思フコト。長崎ニテ、相思。朗詠集、上、秋、「遠思中已斷、相思之字」戀病。さひわづらひヲ、相思病ト云フ。

さうし（名）｜藻思｜〔陸機、文賦、序、註「藻、水草之有文者、以喩文焉」〕詩文ノオ。唐詩紀事「泉長、藻思、雲蒸、霞蔚」

さうし（名）｜創始｜〔さうさう（草創）ノ語原ヲ見ヨ〕ハジメ。オコリ。

さうし（名）｜叢祠｜ ほこらノ條ヲ見ヨ。史記、陳涉世家「間令吳廣之次近所旁叢祠中」

さうじ（名）｜障子｜ しやうじ（障子）ノ條ヲ見ヨ。

さうじ（名）｜莊子｜ 支那哲學ノ書。春秋時代、宋ノ蒙邑（今ノ河南省、商丘縣）ノ人、莊周ト云フ者ノ著ナリ、蒙邑ノ漆園ノ吏タリ。其說ノ旨トスル所ハ、老子ニ基ヅキ、宇宙ヲ虛無ナリトス、文、皆、寓言ニシテ、汪洋、自恣ナリ、唐ノ天寶元年、封ゼラレテ、南華眞人ト云フ、道教ヨリシテ、此書ヲ、南華眞經ト稱ス。

さうじ（名）草字 草書ノ文字。サウモジ。唐書、隋豫傳「與子弟書、不作草字」

さうじ（名）｜壯兒｜ 元氣ノ壯ンナル小兒。杜甫詩「長安壯兒不敢騎」

さうじ（名）｜雙兒｜ さうし（雙子）ニ同ジ。

さうじ（名）｜相似｜ 相、似タルコト。互ニ、似寄リタルコト。類似。孟子、告子、上篇「凡同類者、擧相似也、何獨至於人而疑之、聖人與我同類者」

さうじ（名）｜精進｜ しやうじん（精進）ノ條ヲ見ヨ。

さうじ（動）｜請｜ しやうず（請）ヲ見ヨ。

ざうし（名）｜曹司｜（一）〔禁中ニ設ケラレタル部屋。局。官署ノ官人ノ用ナルアリ、後宮ノ女官ノ用ナルアリ。〕延喜式「先擧曹司」古今集、十六、哀傷「藤原利基朝臣ノ、右近中將ニテ住ミ侍リケルざうしノ、身マカリテ後、人モ住マズナリニケルニ（歌）」源、三十一、槇柱「大將ハ、官ノ御ざうしニゾオハシケル」落窪物語、一「我ガ叔父ナルガ、ココニ曹司シテ、典藥助ニテ、身貧シキガ、六十バカリナル、云云」源、一、桐壺「後涼殿ニ、モトヨリ侍ヒタマフ更衣ノざうしヲ、外ニ移サセタマヒテ」同、五、若紫「幼キ人、云云、後見ニワタシタテマツリテム、云云、乳母ハ、ざうしナトシテ侍ヒナム」（二）大學寮內ノ教室ノ稱。區劃シテ、東西ニアリテ、東曹、西曹、ノ稱アリ、菅原氏、大江氏ノ二家、分レテ、致ヘタリ。大學ノ南隣ナル勸學院ヲ、南曹ト稱シキ。本朝文粹、七、贈陂「菅家先祖、贈太政大臣、云云、江家先祖、音人卿、云云、皆是、東西曹司之鼻祖」西宮記、臨時、五、勸學院、云云、曾爲大學寮南曹司」神皇正統記、清和天皇條「大臣、云云、勸學院ヲ建立ス、大學寮ニ、東、西、ノ曹司アリ、菅、江、ノ二家、是ヲツカサドリテ、人ヲ教フル所ナリ、彼大學ノ南ニ、此院ヲタテラレシカバ、南曹トゾ申スメル」（三）おんざうし（御曹司）ノ條ヲ見ヨ。

ざうじ（名）｜造次｜〔出典ヲ見ヨ〕急遽ナル時。苟且ノ間。論語、里仁篇「君子無終食之間違仁、造次必於是、顚沛必於是」集註「造次、急遽苟且之時、顚沛、傾覆流離之際」名義抄「造次、シバラクモ、ニハカニ」

さうしあはせ（名）｜草紙合｜ 物合ノ一種。物語ナドノ草紙ノ繪、又ハ、歌、詞、表裝ナドノ巧拙ヲ議シ、判者アリテ、其優劣ヲ判ズルナリ、造紙合トモ記セリ。源、十七、繪合「權中納言、イトド心ヲ盡シテ、軸、表紙、紐ノ飾リ、イヨイヨ整ヘタマフ、云云、コナタ、カナタモ、サマザマ多カリ、物語繪ハ、細ヤカニ、ナツカシサ、マサルメルヲ、梅壺ノ御方ハ、古ヘノ物語、名高ク、故アルカギリ、云云、此人人、トリドリニ論ズルヲ聞コシメシテ、左右ニ、方、別カタセタマフ、云云、竹取ノ翁ニ、宇津保ノ俊蔭ヲ合ハセテ、爭フ、云云、繪ハ、巨勢相覽、書ハ、紀貫之、書ケリ、云云、伊勢物語ニ、正三位ヲ合ハセテ、マタ定メヤラズ、云云」（竹取、宇津保、正三位、皆、物語ナリ）金葉集、四、冬「從二位藤原親子ガ家ノ草紙合ニ、時雨ヲ詠メル（歌）」

さうしあらひ（名）｜草紙洗｜ 能樂ノ曲ノ名。內裏ノ歌合ニ、小野小町ガ、水邊の草ト云フ題ニテ「蒔カナクニ、何ヲ種トテ、浮草ノ、波ノウネウネ、生ヒ茂ルラム」ト詠ミ、前夜、家ニテ吟ジタルヲ、歌

合ノ相手ナル大伴黒主ガ立聞シテ、當日、清涼殿ノ判ニテ、小町ガ勝トナリシヲ、是レハ、古歌ナリ、己レノ持テル萬葉集ニアリトテ出セルヲ、君命アリテ、水ニテ洗ヒ落サレ、入集ナルコト、露顯セシコトヲ演ズ、固ヨリ、造語ナリ。

ソウジイモイ **さうじいもひ** (名) 精進齋 〔精進、卽チ、齋ナリ、同ジ事ヲ、音訓、雙擧スル文選讀ノ語ナリ、狹布の狹衣ノ類〕 いもひト云フニ同ジ。モノイミ。潔齋。大和物語、下「夜、晝、さうじいもひヲシテ、世間ノ神佛ニ願ヲ立テ恐ヘド、音ニモ聞エズ」

ソウシュウ **さうしう** (名) 早秋 初秋ノ(一)ニ同ジ。ハツアキ。庾肩吾詩「初弦値早秋」

ソウシュウ **さうしう** (名) 操舟 〔說文「操、把持也」〕 舟ヲ、アヤツルコト。漕グコト。列子、黃帝篇「津人操舟若神」

ソウシュウソウ **さうしうさう** (名) 掃愁帚 〔愁を掃ふ玉帚ナリ、尙、出典ヲ見ヨ〕 酒ノ異名。蘇軾、飲酒詩「應呼釣詩鉤、亦號掃愁帚」 下學集(文安)下、飲食門「掃愁帚、酒異名也」

ソウシュウノユメ **さうしうのゆめ** (名) 莊周之夢 こてふのゆめ(胡蝶之夢)ノ條ヲ見ヨ。

ソウシュウモノ **さうしうもの** (名) 相州物 〔相州トハ、相摸國ノ異稱ナリ〕 相摸國、鎌倉住ノ刀工、岡崎五郎正宗ノ鍛冶法ニ成レル刀劒ノ總名。正宗ハ、鎌倉時代ノ末期ノ人ニテ、此道ノ中興ノ祖ト稱セラル名工ナリ、(まさむねノ條ヲ見ヨ)其弟子ニ、兼光、行宗、貞宗、國次、義弘、ナド、名工、輩出セリ。

ソウシガミ **さうしがみ** (名) 草子紙 漉返紙ノ異名。嬉遊笑覽、二「江戸ニテ、すきがへしヲ、草紙がみト云フ、云云、昔、此紙ニ、鱗形屋ノ繪草紙、摺リタレバ、草子紙ト云フナリ」

ソウシキ **さうしき** (名) 相識 シリアヒ。シリビト。チカヅキ。晉書、陸機傳「入洛造太常張華、華素重其名、如舊相識」

ソウシキ **さうしき** (名) 葬式 さうれい(葬禮)ニ同ジ。葬儀。

ソウジグチ **さうじぐち** (名) 障子口 障子ノ出入口。源、四十六、總角「さうじ口マデ、送リ奉リタマヒテ」

ソウジコバン **さうじこばん** (名) 草字小判 文政小判ヲ見ヨ。

ソウシソウ **さうしさう** (名) 相思草 〔出典ヲ見ヨ〕 オモヒグサ。たばこノ異名。本草洞詮(明ノ沈穆)九「煙草、一名、相思草、言人食之、則時時思想不能離也」 合類節用集(元祿)六、生植門「烟草、本草洞詮、一名、相思草」

ゾウジシ **ざうじし** (名) 造寺司 造寺使 〔司ト云ヒ、使ト云フ、同ジキガ如シ〕 古ヘ、勅願寺ノ建立ノ時、臨時ニ置カレタル職。後ニハ、東大寺、興福寺ニノミ、置カレタリ。扶桑略記、四、舒明、十一年十二月「大安寺記云、施入百濟大寺封邑三百戶云云、此時始起京都造寺司等」 職官志(文化、蒲生秀實)四「造寺之官、古多有之、天武時、有造高市大寺司云云、並、臨時所置」 續紀、八、養老四年十月「始置造興福寺佛殿三司」 續修東大寺正倉院文書、三十六「造東大寺司、移内匠寮」 職原抄、下「造寺使、東大、興福、等兩寺外、無此號、長官、次官、判官、主典」

ソウシシバイ **さうししばゐ** (名) 壯士芝居 〔壯士トハ、書生ト云フガ如シ〕 從來ノ歌舞伎役者ナラヌ壯者ガ、新ニ組立テタル芝居。角藤定憲、又、川上音二郎ナド云フ者、明治二十三年ノ頃、始メタリ、專ラ、當世社會ノ出來事ナドヲ、現狀寫實ニ演ズルヲ旨トス。又、書生芝居。新派劇。

ゾウシズミ **ざうしずみ** (名) 曹司住 曹司ニ居ルコト。宇治拾遺、一、十六條「五位アリケリ、云云、ざうしずみニテアリケル所へ、利仁來テ云フヤウ」

ソウシジ **さうしぢ** (名) 草子地 ぢ(地)ノ條ノ(七)ヲ見ヨ。

ソウシツ **さうしつ** (名) 喪失 〔玉篇「喪、亡也」〕 ウシナフコト。ナクナルコト。「心神喪失」

ソウジツ **さうじつ** (名) 雙日 てうび(調日)ニ同ジ。偶數ノ日。半日ヲ、隻日ト云フニ對ス。唐書、穆宗紀、贊「唐制天子以隻日見朝、乃命、輟朝、放朝、皆用雙日」

ソウシテ **さうして** (接) 然而 〔然してノ延(佐官、さうくゎん)〕 然シテ。ソノ如クシタル後。孟子抄(文明)三十六「さうして、義ト、道トハ、此義ニ因テ行ハルルゾ」

ソウジネン **さうじねん** (名) 桒字年 〔正字通「桒、桑ノ俗字」桒ヲ、離合迷字ノ合迷字ト見テ、拆ケバ、十ノ字、四ツ、其下ニ八ノ字、一ツトナル、くゎかふし(華甲子)ノ語原ヲ見ヨ〕 人ノ、四十八歲ノ異稱。桒年。三國志、蜀志、楊洪傳、注「祗、字、君南、嘗夢井中生桒、以問占夢趙直、直曰、云云、桒字、四十、下、八、君壽恐不過此、祗、笑言、得此足矣、云云、年四十八、卒、如直所言」 俚言集覽、桒年「四十八ヲ云フ」

ソウシバサミ **さうしばさみ** (名) 草子挾 書册ヲ携フルニ便ニスル具。二枚ノ板ヲ、書册ノ表、裏ニ當テ、紐ニテ結ヒ、其餘リヲ長クシテ、肩ニ懸クルナリ、板ノ竪、橫、書册ノ大キサニ準ズ。安齋隨筆、十二「草子挾ト云フ物アリ、板二枚ヲ以テ、草子ノ上下ニアテテ、紫村濃ノ平組ノ緒ニテ結フナリ」

ソウシビョウ **さうしびゃう** (名) 相思病 さうし(相思)ノ條ヲ見ヨ。

ソウシュウ **さうしふ** (名) 燥濕 かわきト、うるほひト。左傳、襄公十七年「吾儕小人、皆有闔廬、以辟燥濕寒暑」

ソウシボン **さうしぼん** (名) 草子本 〔さうしハ、册子ナリ、其條ヲ見ヨ〕 綴本ニ同ジ。

ゾウシマチ **ざうしまち** (名) 曹司町 禁中ノ後宮ニ、曹司ノ、アマタ連リタル所。ツボネマチ。新猿樂記「寢殿、渡殿、曹司町」

ソウジミ **さうじみ** (名) 正身 〔正身ノ、さうじに、さうじみ、ト轉ジタルナリ(調半、てうばみ)にト、みト、通ズ(鳰、にほ。韮、にら。蜷、にな)正しき其身ノ義ナリ〕 ムザネ。ソノヒト。當人。本人。萬葉集、十六 三十一「兩時、夫君、更娶他妻、正身不來、徒贈裹物」 三代實錄、十三、貞觀八年九月廿五日、深草御陵告文「正身固爭、不承伏」(正身ハ、伴善男ヲ指シタマヒシニテ、應天門ヲ燒キシ罪ノ糾問ナリ) 宮衞令「凡、兵衞、衞士、上番、皆須檢點正身、然後發遣」 式部省式「當番人、正身參着」 宇津保物語、藤原君 十九「父大將ニ請ヒ、さうじみニ請フニ、女モ、大將モ、聽引カズ」 落窪物語、四「イカガ宣フト、さうじみニ聞カセ奉リタマヘ」

ソウシン **さうしん** (名) 雙親 フタオヤ。兩親。丁廙詩「公子奉雙親」

ソウシン **さうしん** (名) 爭臣 君ニ非行アレバ、直言、諫爭スル臣。父ヲ諫爭スル子ヲ、爭子ト云ヒ、友ニ對シテ忠告スル友ヲ、

爭友ト云フ。孝經、諫諍章「天子有二爭臣七人一、雖レ無レ道不レ失二其國一、云云、士有二爭友一、則身不レ離二於令名一、父有二爭子一、則身不レ陷二於不義一」

さうしん (名) 壯心 壯烈ナルココロ。世說、豪爽篇「烈士暮年、壯心不レ已」

さうしん (名) 喪心 (一)本心ヲ喪ヘルコト。常識ナキコト。左傳、昭公二十五年「哀樂而樂哀、皆喪レ心也」(二)氣ヌケスルコト。失心。人事不省。

さうしん (名) 躁進 〔禮記、月令篇「掩レ身毋レ躁」註「躁、猶レ動也」〕アセリ、ススムコト。〔[illegible]〕

さうじん (名) 騷人 〔「離騷ト云フ詩集ノ名ニ出ヅル、出典ヲ見ヨ」〕詩人ト云フニ同ジ。又、騷客。詩客。正字通、屈原作二離騷一、[illegible]

さうじん (名) 霜刃 冰ノヤイバ。鋭キヤイバ。賈島詩「十年磨二一劍一、霜刃未二曾試一」

さうじん (名) 精進 さうじん(精進)ヲ見ヨ。

ざうしん (名) 造進 作リテ、タテマツルコト。[illegible]

ざうじんぐうし (名) 造神宮使 次條ヲ見ヨ。

ざうじんぐうしちやう (名) 造神宮使廳 伊勢ノ神宮ノ造營、及、神寶、裝束、ノ調進ヲ掌ル官廳。コレニ長タルハ、即チ、造神宮使ナリ、神宮ノ祭主、兼任シ、内務大臣ノ監督ニ屬ス。

さうじんぼく (名) 草人木 さうにんぼくヲ見ヨ。

さうじもの (名) 精進物 〔さうじんノ條ヲ見ヨ〕さうじんもの(精進物)ニ同ジ。野菜物。源、三十四、上若菜、上「御饗ノ事、さうじものニテ、ウルハシカラズ、ナマメカシクセサセタマヘリ」枕草子、一、第四段「思ハム子ヲ、法師ニナシタラムコソ、イト心苦シケレ、云云、さうじ物ノ惡シキヲ食ヒ」

さうしや (名) 壯者 ワカモノ。ワカザカリノ人。孟子、梁惠王、上篇「壯者以二暇日一修二其孝悌忠信一」「老人、[illegible]トシテ、壯者ヲ凌グ」

さうしや (名) 相者 さうにん(相人)ニ同ジ。隋書、煬帝紀「善相者」

さうしや (名) 繰車 イトクリグルマ。イトトリグルマ。蘇軾詩「此身如二繰白繭一、[illegible]」

さうしやう (名) 創傷 キズ。身體ニ、キズツキ、ソコナヘルコト。

さうじやう (名) 相生 ごぎやう(五行)ノ條ヲ見ヨ。(相剋ニ對ス)

ざうしやう (名) 藏相 大藏大臣ノ異稱。

さうしゆ (名) 喪主 〔喪主ト讀ムハ、湯桶讀ナリ、喪服ナドモ、然リ〕葬式ヲイトナム主人トナル者。又、喪主。今ノ俗、施主トモ云フ。死者ノ後ヲ繼グベキ者、コレニ立ツ、子ナキ時ハ、近親ノ者、立ツ。左傳、隱公元年「改二葬惠公一、公弗レ臨」杜預、注「以二桓公爲二太子一、故隱公讓、而不下敢爲中喪主上」

さうしゆ (名) 操守 ミサヲ。志ヲ、固ク操リ守ルコト。心ヲ動サザルコト。節操。唐書、裴度傳「神觀邁爽、操守堅正」

さうしゆ (名) 搔首 クビヲ、搔クコト。詩經、邶風、靜女篇「靜女其姝、俟二我於城隅一、愛而不レ見、搔レ首踟蹰」

さうしゆ (名) 雙手 モロテ。兩手。王建詩「雙手向レ空如二鳥翼一」「雙手ヲ擧ゲテ、賛成ス」

さうじゆ (名) 雙樹 〔雙ハ、呉音、さう〕(一)一對ノ樹。二本ノ木。戴叔倫、少林寺詩「雙樹含二秋色一、孤峰起二夕陰一」(二)さらさうじゆ(娑羅雙樹)ノ略。娑羅雙樹ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。王融、法門頌啓「鶴林雙樹」

ざうしゆ (名) 造酒 サカヅクリ。酒ヲ釀シツクルコト。作酒。釀酒。酒造。

さうじゆう (名) 操縱 〔說文「操、把持也」縱、呉音、じゆう、廣韻「縱、子用切」玉篇「放也」引キツ、縱メツ、スル意〕アヤツルコト。ウマク、アツカフコト。上手ニ、ヒキマハスコト。「巧ミニ人ヲ操縱ス」「飛行機ノ操縱」

さうじゆく (名) 早熟 (一)植物ノ實ノ、普通ヨリ早ク、熟スルコト。北史、高昌傳「江南七熟、水田早熟」(二)ネビタルコト。マセタルコト。夙慧。「早熟ノ少年」「早熟早老」

ざうしゆし (名) 造酒司 ミキノツカサ。サケノツカサ。

さうじゆつ (名) 槍術 武藝ニ、槍ヲ用フル術。槍法。

さうしゆん (名) 早春 初春ノ(一)ニ同ジ。ハツハル。

さうしよ (名) 草書 〔篇海「荀爽曰、草書ハ簡略ノ義ナリ」〕漢字ノ書體、草トノミモ云フ。行書ヲ、更ニクヅシテ、曲線ヲ多クシテ、書クモノ、急ニ便ニシ、日常ニ用キル。晉書、索靖傳「篤以レ善二草書一知レ名」東坡志林「[illegible]生レ行、行生レ草、眞如レ立、行如レ行、草如レ走」太平記、三十七、新將軍京落事「書院ニハ、羲之ガ草書ノ偈、韓愈ガ文集」

ざうしよ (名) 藏書 官署、社、寺、學校、文庫、圖書館、又ハ、個人、ナドニ、所藏スル書籍。藏本。其所藏ナルヲ證スルタメニ、其書籍ニ押シオク印ヲ、藏書印ト云フ、其藏書ノ名ノ下ニ、藏、藏書、圖書、ナドト刻ルヲ、普通トス、個人ナルハ、姓名、又ハ、號ナド、刻ルモアリ。唐書、藝文志「藏書之盛、莫レ過二于開元一」

ざうしよいん (名) 藏書印 前條ヲ見ヨ。

さうしよう (名) 蒼松 アヲアヲト、生ヒタル松。碧松。青松。張說詩「蒼松[illegible]」

さうしよう (名) 爭訟 アラソヒ、ウッタフルコト。謝靈運詩「虛館絕二爭訟一、空庭來二鳥雀一」

さうしよく (名) 裝飾 (一)ヨソホヒ、カザルコト。假粧。着附。晉書、皇后傳「聞二蒂聲一、早起裝飾」字典「中原雅音、裝、扮也、今俗曰二裝飾一、[illegible]打扮」(二)カザリ。カザリタテ。カザリツケ。莊嚴。「建築物ノ裝飾」

さうしよくじゆう (名) 草食獸 草ノミ食ヒテ、生活スル獸、牛、馬、羊、鹿、ノ類ナリ。(肉食獸ニ對ス)

さうす・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 相 〔さう(相)ノ條ヲ見ヨ〕人相、家相、地

相、手相、ナドノ、禍福ヲ視ル。 左傳、文公元年「内史叔服、能相レ人」盛衰記、四十七、六代御、宛上洛事「維盛卿息ヲバ、頼朝ヲ相シ給ヒシ様ニ、見給フ處アリテ」

〔さう・ず〕(動) 【請】 しやうず(請)ノ條ヲ見ヨ。 源、四十四、竹河「阿闍梨モ、さうじオロシテキ、ナド、云ハセ給フ」

ざう・す (名) 【藏主藏司】 〔藏主ノ居所ヲ、藏司ト云フ、ヤガテ、藏主ヲモ、藏司ト云フ〕 (一)禪家ニテ、經藏ヲ掌ル僧ノ役名。知藏。 敕修百丈清規、下、兩序「知藏、職、掌二經藏一、兼二通義學一、凡看レ經者、初入二經堂一、先白二堂主一、同到二藏主一相看、云云」 朝野群載、十七、寛治二年十月廿一日「大法師珍賢、件僧、宜レ補二平等院經藏司一」 塵添壒囊抄(文安)二、第十三條「經藏ヲ預ルヲ、藏主ト云フ」 攝陽集、享徳上、諸宗「藏主」註「知藏、典藏」 (二)此語、僧位ノ階級ノ稱トナリ、首座ノ次、沙彌ノ上ニ居ル、又、僧名ニ添ヘテモ云フ。 太平記、十六、小式與二菊池一合戰事「小貳ガ最末ノ子ニ、宗應藏主ト云フ僧、云云」 堺鏡(天和)鉤弧「永祿中、泉州、堺、錦繡庵住僧、伯藏主、狐ヲ畜育ス」 (三)無意味ニ、法體ノ者ノ稱トモナル。 明良洪範、十、秀吉自筆辭世「尼、孝藏主ニ命ジ、深ク納メオクベシ、云云、預ケオキシ歌ヤアル、云云、藏主尼、ヤガテ、取リ出シ奉ル、云云」(太閤秀吉ノ侍女ノ尼ナリ)

ざう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 【藏】 藏メオク。己ガ物トシテ、所持ス。所藏ス。 論語、子罕篇「有二美玉於斯一、韞レ匵而藏レ諸」「萬卷ノ書ヲ藏ス」

さう・そう (名) 【桑樞】 〔桑の木ノとぼそノ義〕 貧乏人ノ住居。賤人ノ家。桑戶。 莊子、讓王篇「原憲居レ魯、環堵之室、茨以二生草一、蓬戶不レ完、桑以爲レ樞、而甕牖二室、褐以爲レ塞、上漏下濕、匡坐而弦」

〔さう・ぞく〕 (名、動) 【裝束】 裝束(名、動)ノ條ヲ見ヨ。

さう・すゐ (名) 【蒼翠】 樹木ナドノ、アヲアヲト、ミドリナルコト。 揮塵後錄「北岸萬竹、蒼翠蓊鬱、仰不レ見レ明」

さう・せい (名) 【蒼生】 アヲヒトグサ。國民。萬民。 晉書、謝安傳「桓溫、請爲二司馬一、朝士咸送、中丞高崧曰、安石不レ出、將レ如二天下蒼生一何」(謝安、字、安石) 神代紀、上「稗、麥、粟、豆、是物者、則顯見蒼生、可二食而活一之也」

さう・せい (名) 【相生】 さうじやう(相生)ニ同ジ、ごぎやう(五行)ノ條ヲ見ヨ。

さう・せい (名) 【雙生】 雙子。二兒ヲ、生ムコト。 左傳、昭公十一年「使レ字二敬叔一」杜注「字、孳也、似二雙生一」 神代紀、上「次雙二生隱岐洲與二佐度洲一、世人、或有二雙生一者、象レ此也」 景行紀、二年三月「大碓皇子、小碓尊、一日同胞而雙生」

さう・せい (名) 【雙聲】 詩作ニ用キル漢字ノ音韻ニ云フ語。二字ノ熟語ニ就キテ、首位ノ子音ノ、共ニ、同ジキモノ。かうがい(慷慨)、はうふつ(彷彿)、しんし(參差)、らいらく(磊落)、りんれつ(凜烈)、ト云フガ如キ、是レナリ。又、二字、共ニ、其末ノ韻ノ同ジキモノヲ、でふゐん(疊韻)ト云フ。あいたい(靉靆)、えうてう(窈窕)、しやくやく(綽約)、せんけん(嬋娟)ノ如キ、是レナリ。 南史、謝莊傳「玄護爲二雙聲一、磝碻爲二疊韻一」

さう・せい (名) 【草聖】 〔草ノ名人ヲ、草聖ト云フガ如シ〕 草書ノ名人。我ガ邦ニテハ、弘法大師ナドヲ云フ。 晉書、衛恆傳「弘農張伯英、云云、臨レ池學レ書、池水盡黑、韋仲將謂二之草聖一」 唐書、賀知章傳「張旭善二草書一而好レ酒、云云」 杜甫、飲中八仙歌「張旭三杯草聖傳」

さう・せい (名) 【早世】 〔在世ヲ早く辭スル義〕 ワカジニ。年ユカズニ、死ヌルコト。夭死。蚤世。夭折。 左傳、昭公三年「早世隕レ命、寡人失レ望」 東坡文集「不幸、早世」 下學集、下、態藝門「早世」註「早死」 吾妻鏡、十六、建久十年八月十九日「爲下霧御之後、不レ歷二幾程一、姫君亦早世」 陰德太平記、五、毛利元就家督「大永三年七月十六日、幸松丸、早世シタマヒケリ」

さう・せい (名) 【藻井】 〔風俗通「宮室象二東井一、刻二荷蓤水草一、所二以厭レ火」藻ヲ畫ク、同意ナリ、てんじやう(天井)ノ條ヲ見ヨ〕 てんじやう(天井)ニ同ジ。 韻會「今、屋上覆、橑、謂二之藻井一」 楊愼、新曲古意「結レ網蜘蛛垂二藻井一」

さう・せい (名) 【創製】 始メテ、造リ出シタルコト。創造。

さう・せい・き (名) 【創世記】 舊約全書中ノ、第一經ノ名。天地、人類、等ノ創造ノ事ヲ記ス。

さう・せい・ぢやう (名) 【掃晴娘】 てるてるばうずノ類。 陸啓泓、歲時記「吳俗、久雨後、閨閣中、有下翦二紙爲二女形一、手持二一帚一、懸二簷下一、以祈上レ晴、謂二之掃晴娘一」

さう・ぜう (名) 【騷擾】 騷ギ、擾ルルコト。騷動。多人數ニテ、暴動、脅迫スルヲ、騷擾罪ト云フ。 國語、晉語「唯有二諸侯一、故騷擾焉」

さう・ぜう・ざい (名) 【騷擾罪】 前條ヲ見ヨ。

さう・せち (名) 【相折】 (一)供御米ノ定數ノ中ヲ折ギテ、御菜ナドニ充ツルコト。 厨事類記、東宮供御「御飯大炊寮仕女所レ進、刀自請取供レ之、或比目試二御相折一下二行之一刀自請レ之」
(二)御菜ノ異稱。 著聞集、十二、偸盜「カタノ如ク、さうせちナド、トラセテ」

さう・せつ (名) 【霜雪】 (一)霜トゆきト。 漢書、淮南王傳「蒙二霜雪一、沐二風雨一」 (二)意思ノ潔白ナルコト。 後漢書、禰衡傳「志懷二霜雪一」

さう・せつ (名) 【草竊】 〔草野、竊盜ノ略〕 小スビト。オヒハギ。草賊。 書經、微子篇「殷罔レ不三小大好二草竊姦宄一」

さう・せつ (名) 【剿說】 〔玉篇「剿、與レ讓同」集韻「讓、代レ人說也」〕 他人ノ說ヲ竊ミテ、我ガ說トスルコト。 禮記、曲禮、上篇「毋二剿說一、毋二雷同一」

さう・ぜつ (名) 【壯絕】 最モ、壯ンナルコト。スグレテ、壯大、壯烈ナルコト。「壯絕快絕」

さう・ぜん (名) 【霜髯】 白髮トナリタル口ヒゲ。白髯。 蘇軾詩「霜髯三老如二松柏一、閱レ世誰知二誰翠ニ」

さう・ぜん (副) 【蒼然】 (一)アヲアヲトシタル狀ヲ云フ語。 白居易詩「秋陰和二暝色一、蒼木蒼蒼然」 (二)夕暮ノ、薄暗キ狀ヲ云フ語。 柳子厚、西山宴遊記「蒼然暮色自レ遠而至」
(三)古ビタル狀ヲ云フ語。「古色蒼然」

さう・ぜん (副) 【騷然】 騷ガシキ狀ニ云フ語。ザワザワ。ガヤガヤ。「物情、騷然タリ」

さう・せんぐん (名) 【掃千軍】 〔其勢、千人軍ヲ掃ふ意ト云フ〕 書。文字ヲ書くコト。 燕居雜話(天保、日尾荊山)一「杜詩ニ不レ云乎、筆陣獨掃千人軍、又不レ云乎、詔謂將軍拂二絹素一云云、蓋中華語ニ、瑯琊語ヲ引テ云、淡掃二蛾眉一朝二至尊一、掃破寒潭一幅烟、掃、言調、書之二云云」(陳ハ、陣ニ同ジ)

さうそう (名) [葬送] 死者ヲ葬ル(ハウムル)ニ、墓所へ送ルコト。ハフリ。ノベオクリ。 [illegible] 榮花物語、九、岩蔭「さうそうハ、七月八日トラメ」 [illegible]

さうぞきた・つ (ツ・テ・タ・チ・テ) (自動、四) [裝束立] (動詞ノさうぞく(裝束)ヲ見ヨ、たつハ、いでたつ、おもひたつ、ナドノたつナリ) 着裝(キヨソ)ヒ出デ立ツ。 [illegible] 此語、下二段ニモ活用ス。 枕草子、八、七十四段「大キニハアラヌ殿上童(ワウ)ノ、さうぞきたてラレテ歩(アリ)クモ、ウツクシ」(裝束シタテラレテ)

さうぞく (名) [相續] (一)アヒ、ツグコト。受ケツグコト。 [illegible] (二)民法ニハ、戸主、死亡シ、又ハ、隱居シタル時、其家ニアル直系卑屬ノ者、其家ノ權利、義務ヲ承ケ繼ギテ、戸主トナルコト。コレヲ、家督相續ト云フ。又、家族、配偶者死亡シタル時、其直系卑屬、又ハ、配偶者或ハ、直系尊屬、又ハ、戸主ガ、死亡者ノ財產ヲ承ケ繼グヲ、遺產相續ト云フ。

さうぞく (名) 草賊 (一)亂民、盗賊一揆。(二)コソヌスビト。草竊。

さうぞく (名) [裝束] (しやうぞく(裝束)ノ條ヲ見ヨ、漢音、裝、呉音、さうナリ、さうぞくト云フハ、音轉ナリ(強悍(オゾ)し、おずし」) (一)衣服。キモノ。さうぞく。シャウゾク。服裝。 伊勢物語、四十四段「[illegible]サセテ、女ノさうぞく、被ケムトス」 竹取物語「[illegible]ル人ドモハ、さうぞくノ清ラナルコト、物ニモ似ズ」 [illegible]、さうぞくナドモ、セサセタマフ」(小君ノ服飾、御裝束ヲ調ズル所) 躬恒集、下「女一宮(ニョイチノミヤ)ノ御裳着(モギ)ニ奉ラセタマフ御さうぞくノ裳ノ形(カタ)ニ(歌)」 (二)シツラフコト。支度ヲスルコト。設備。 [illegible]、三十二、梅枝ハ「御琴ドモノさうぞくナドシテ、(絃ヲカケ、拭フツケ)殿上人ナド、アマタ參リテ、ヲカシキ[illegible]モ聞ユ」 同、四十七、早蕨「内へ參リタマハムトテ、御車ノさうぞくシテ」

さうぞ・く (ク・ケ・カ・キ・ケ) (自動、四) [裝束] (裝束ノ本音ヲ、活用ニ作リテ、動詞トシタルナリ(彩色(サイシキ)、さいしく。乞食(コツジキ)、こつじく)さうぞくモ、同ジ、さうぞくト云フハ、音轉ナリ、スベテ、前條ノ語原ヲ見ヨ」 (一)裝束ヲス。衣服ヲ着裝フ。 [illegible] 源、九、葵「イト清ゲニさうぞきテ」 同、同「[illegible]、我レモ我レモト、さうぞき[illegible]シタルヲ見ルニツケテモ」 榮花物語、[illegible]、女房、エモいハズさうぞきテ」 宇津保物語、樓上、下「若君ヘ、イト清ゲニ、さうぞかシテ」 宇治拾遺、十五、第四條「賭弓(ノリユミ)ノ時、着タリケル裝束取出シテ、ウルハシクさうぞきテ」 平家物語、[illegible]「今日ヲ晴ト、さうぞいタルヲ」 (二)シツラフ。支度ヲス。 宇津保物語、俊蔭「さうぞき並カレタル琴ドモヲ、取出サセテ」(絃ヲカケ、柱ヲツケテ) 源、廿四、胡蝶「唐メイタル舟、造ラセタマヒケル、イソギさうぞかセタマヒテ」

さうぞく・ぜい (名) [相續稅] (英語、Succession duty. ノ譯語) 相續シタル時、其相續シタル財產ニ課セラルル稅。さうぞく(相續)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さうそつ (副) [倉卒][草卒] (字典「倉卒、怱遽(アワタダシキ)貌」) イソガハシク、アワタダシキ狀ニ云フ語。草草。 薛稷、功臣寺詩「是非[illegible]、[illegible]倉卒」

さうぞめ・く (ク・ケ・カ・キ・ケ) (自動、四) [沈寂] (さうぞハ、閑し(サウザウ)ノ語根ノ約(眞[illegible])) シヅマリカヘル。一向ニ言動ナクテ、居ル。 紫式部日記「上臈、中臈ノ程ゾ、アマリ引入リ、さうぞめきテノミ侍ル」

さうたい (名) [相對] 相對(アヒタイ)。他ト、向ヒ合フコト。 [illegible]「相對義疏」

さうたい (名) [草體] 草書ノ體。 [illegible]

さうたい (名) [霜臺] (集韻「隕霜殺(カラス)レ物」) 嚴霜烈日ノ意ナルカ) だんじやうだい(彈正臺)ノ唐名。 [illegible]

さうだい (名) [壯大] イカメシク、オホイナルコト。立派。 [illegible]「壯大ナル建築」

さうたう (名) [早稻] ワセ。

さうたう (名) 相當 アヒ、アタルコト。フサハシキコト。程善ク、釣合フコト。理ニ適フコト。相應(サウオウ)。 [illegible]

さうたう (名) 想到 オモヒ、イタルコト。考ヘツクコト。 劉禹錫詩「想到金門[illegible]」

さうたう (名) [掃蕩] (釋名「蕩、排ニ盪去(オシノケアラヒサル)穢垢一也」) 掃(ハラ)ヒ去ルコト。押シ退クルコト。 [illegible]

さうだう (名) [草堂] (一)草葺(クサブキ)ノ家。クサヤ。クズヤ。草廬。 孔稚珪、北山移文「[illegible]」 (二)イホリ。草庵。 [illegible] アノ御坊ノ、さうだうへ、スワラウトオッシャル」

さうたうくゎん (名) 相當官 某ノ等級ノ官ノ他ノ某ノ官ニ相當スルモノ。對等ノ官。「大將、中將、及、其相當官」

さうだつ (名) 爭奪 アラソヒ、ウバフコト。 [illegible]

さうたん (名) 爭端 アラソヒノハシ。イサカヒノオコリ。 [illegible]

さうたん (名) [早旦] さうてう(早朝)ニ同ジ。 [illegible] 太平記、三十六、[illegible]「二十三日ノ早旦ニ、[illegible]ヲサシテ、[illegible]」

さうだん (名) [相談] カタラフコト。互ニ、意見ヲ話シ合フコト。談合。評議。商議。 太平記、四、[illegible]

さうだん (名) 騷壇 (騷ハ、騷人ノ條ヲ見ヨ) 文人ノナカマ。文壇。 [illegible]「騷壇ノ老將」

さうち (名) [裝置] ツクリタテ。仕掛(シカケ)。

さうぢ (名) [掃除] (ぢハ、除ノ轉音(除目(ヂモク))) (一)キヨメ。塵埃(チリホコリ)ヲ、掃(ハラ)ヒ除クコ

ト。掃除。盛衰記、四十三、知盛船掃除事「手ヅカラ、船ノ掃除シテ、見苦シキ物ドモ、海ニ取リ入レ」

(二)志もさうぢ(下掃除)ヲ見ヨ。

さうぢ (名)【雙峙】 ナラビ、ソバダツコト。ナラビタツコト。潘岳、西征賦「昔豫章之名字、披二玄流一而特起、儀二景星於天漢一、列二牛女一以雙峙一」

さうぢだい (名)【掃除代】 志もさうぢ(下掃除)ノ條ヲ見ヨ。

さうぢばう (名)【掃除坊】〔ばう(坊)ノ條ヲ見ヨ〕好ミテ、掃除スル癖アル人。キレイズキ。潔癖。空林風葉集(天和)煤掃「煤染ニ、衣ハ朽チヌ、掃除坊」(足薪翁記、一)

さうちん (名)【霜砧】 霜夜ニ擣ツ、キヌタノ聲。馬戴詩「燕山超水偶侵レ客、慣聽霜砧擣二月明一」

さうぢや (名)【掃除屋】〔屋ノ條ヲ見ヨ〕志もさうぢ(下掃除)ノ條ヲ見ヨ。

さうちやう (名)【曹長】 陸軍下士官ノ上級ノ官。特務曹長ノ下、軍曹ノ上ニ位ス。

さうぢやうでん (名)【喪場殿】 天皇ノ御葬儀ヲ行フ假殿。喪場殿ト云フヲ、讀例トス。葬場殿。名目抄「喪場殿」和長卿記、明應九年九月廿八日、泉涌寺「喪(又、葬)場殿、檜皮葺也、云云、殿舍、一間四面也、棟、寶形也」

さうぢゅつ (名)【蒼朮】 古名、ヲケラ。ウケラ。藥草ノ名、山野ニ、自生、多シ、春、舊根ヨリ、數莖ヲ生ズ、高サ二三尺、嫩芽ニ、白キ毛、多シ、葉ノ形、橢圓ニシテ、厚ク堅ク、深綠ニシテ、邊ニ、細カキ刺アリ、互生ス、秋、枝ノ頂ニ、花ヲ開ク、薊ニ似テ、白シ、稀ニ、紅ナルモアリ。朮根塊ヲ藥用トシ、其色ノ蒼キハ、さうぢゅつ(蒼朮)ナリ、コレヲ、通名トス。其色白キヲ、びゃくぢゅつ(白朮)ト云フ。范成大詩「地爐火軟蒼朮香」倭名抄、廿草類「朮、乎介良」

さうぢょ (名)【掃除】 さうぢ(掃除)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。周禮、夏官篇「隸僕、掌二五寢之埽除、糞灑之事一」(埽ハ掃ニ同ジ。糞ハ、掃除ナリ)禮記、曲禮、上篇「凡爲二長者一糞之禮、必加二帚於箕上一」史記、信陵君傳「趙王、掃除自迎」

ざうちょ (名)【象箸】 象牙ニテ造レル箸。史記、宋世家「紂始爲二象箸一」

さうちょう (名)【莊重】 オモオモシキコト。「言語、態度、莊重」

さうづ (名)【三頭】 三頭ノ條ヲ見ヨ。

さうづ (名)【澡豆】 澡豆ニ同ジ。

さうつう (名)【相通】 互ニ、通フコト。彼レガ是レトナリ、是レガ彼レトナリ得ルコト。五音相通ナド云フハ、あいうえお、かきくけこナドガ、互ニ代ルヲ云フ。愛、うつくしむ。榮螺、さざい。屈む、くぐむ。倒、さかさま。父、てて、とと。水門、みなと、ナド、是レナリ。

さうつうみやう (名)【相通名】 人名ノ文字ヲ、其音ト相通ズル、他ノ字ニ書キカヘテ用ヰルモノ。推古紀ニ、小野妹子ガ、蘇因高ト號ストアリ、(蘇ハ、小カト云フ)其外、田口忠臣、字、達音、三善清行、居逸、紀長谷雄、一名、發昭(共ニ、本朝文粹)ナドノ類ナリ。推古紀、十六年四月「小野臣妹子、至レ自二大唐一、唐國號二妹子臣一曰二蘇因高一」江談抄、二、古人名、唐名、相通名等事「三善清行、居逸、云云、紀長谷雄、發昭、云云(返名ノ條、見合ハスベシ) 唐名トアレバ、學者ガ、支那ノ人名メカシテ、改書セシナルベシ、江戸時代ノ儒學者ニモ、此類ノ事セシモノ、多カリキ。

さうづがは (名)【三途河】 さんづのかは(三途河)ノ條ヲ見ヨ。

ざうづせん (名)【象頭山】 中印度ノ迦耶市ノ西方ニアル山ノ名。其山ノ姿、象ノ頭ニ似タリト云フ、釋迦ノ、修行シ、又、無常遷流、三界無安ノ說法シタル所トテ、名アリ。我ガ讚岐國ノ象頭山モ、山形、象ノ頭ニ似タレバ、名ヅケタリト云フ、金毘羅神ノ社アルヲ以テ、名アリ。三代物語「象頭山、山形如レ象、而宮殿當二其頭一、故名焉、天竺有二象頭一、金毘羅神所レ宅、因取二其名一、奉二金毘羅神一」(大日本地名辭書)

さうてい (名)【壯丁】〔よぼろ、及、ちやう(丁)ノ條ヲ見ヨ〕壯年ノ丁。成年以上ノ男子。(夫役、軍役ニ、充テラルルニ就キテ云フ)

さうてい (名)【草亭】 (一)草葺ノ家。草廬。顧非熊詩「鹿跡入二柴戸一、樹身穿二草亭一」(二)己レガ家ノ謙稱。茅屋。庭訓往來、五月「折節草亭見苦敷、賓具亦散散式也」

さうてい (名)【草定】〔起草、制定ノ略〕草稿ヲ作リ、又ハ、其レヲ定ムルコト。晉書、張華傳「當時詔誥、皆所二草定一」

さうてい (名)【裝釘】 書物ニ、表紙ヲツケ、綴ヂツクルコト。「裝釘、美ナリ」

さうてう (名)【早朝】 朝ニ、早キコト。早天。早旦。書經、武成篇、王朝步自周、疏「君子學レ事、貴二早朝一」五燈會元「金果早朝猿摘去」

〔さうでう (名)【雙調】 志ふにりつ(十二律)ノ一、其條ヲ見ヨ。源、廿四、胡蝶「物ノ師共、殊ニ勝レタル限リ、さうでう吹立テテ」

さうてん (名)【早天】 アケノソラ。早朝。儲光羲詩「明霞散二早天一」井筒業平河內通(享保、近松作)三「明十八日ノ早天ニ、違ヒナク渡サルベシ」

さうてん (名)【蒼天】 アヲゾラ。蒼空。詩經、王風、黍離篇「悠悠蒼天、此何人哉」蟬丸(元祿、近松作)三「蒼天ニ月日ノ光ナク、闇夜ニ燈火影暗キ、盲目ノ御容體」

さうてん (名)【霜天】 霜ノ降リタル、冬ノ明方ノ空。王昌齡、宿二京江口一詩「霜天起二長望一、殘月生二海門一」

さうてん (名)【裝塡】 中ヘ、ウメコムコト。銃砲ニ、彈藥ヲツメコムコト。

さうてん (名)【勦殄】 ホロボシ、ツクスコト。根ダヤシニスルコト。掃滅。柳宗元、沛國漢原廟銘「勦二殄遂荒一、神州」

さうでん (名)【桑田】 クハバタケ。神仙傳「已見二東海三爲二桑田一」「桑田變ジテ、滄海トナル」

さうでん (名)【相傳】 アヒ、ツタフルコト。代代、承ケ續グコト。晉子「鏡鏡相照、影影相傳」平家物語、一、殿上闇討事「家貞、云云、相傳ノ主、備前守殿ノ、今夜、闇討チニセラレ可レ給由、承ッテ」徒然草、八十八段「御相傳うけること」

さうと (名)【壯圖】 壯ンナル、クハダテ。雄圖。羅隱詩「爲レ文憐二壯圖一」

さうとう (名)【蒼頭】〔漢書、陳勝傳「蒼頭」註「士卒、青帛巾」正字通「漢、僕隷爲二蒼頭一、以二蒼巾一爲レ飾」〕(一)支那ニテ、兵卒、足輕ノ異稱。戰國策、魏策「蘇秦曰、竊聞、大王之卒、武力二十餘萬、蒼頭二十萬、奮擊二十

萬、既徒十萬」漢書、陳勝傳「呂臣爲二蒼頭軍一」(二)又、僕隷ノ異稱。[illegible]

さうとう (名) 雙頭 頭ノ、二ツ、相雙ビテ付キタルコト。兩頭。[illegible]

さうとう (名) 爭鬪 イサカヒ。ウチアヒ。鬪爭。[illegible]

さうとう (名) 澡豆 〔澡ハ、手ヲ洗フナリ、さうよく(澡浴)ノ條ヲ見ヨ、豆ハ、小豆ニテ作レバ、云フ(あらひこノ條ヲ見ヨ)〕 倭名抄、六「澡豆ノ條ニ「榮花物語、有二左字多宇一、蓋此トアリ、さくづト云フハ、小豆ノ義ニモアラムカ、倘、考フベシ、東雅、七、器用、浴餅ノ條ニ「今、俗ニ、澡豆ヲ、さくづト云フ、其音ノ轉訛セルナリ」トアレド、澡豆トハ讀ムベケレド、さうハ、さくト轉ズベクモアラズ」手ナドノ垢ヲ洗フニ用ヰルモノ。又、さくづ。今、あらひこ(洗粉)ト云フ、是レナリ。[illegible]サクヅ」さくづノ名ハ、後ニ、移リテ、小糠ノコトトナル、是レモ、垢ヲ洗フニ用ヰラル。[illegible]さくちト云フヲ、禁中ニハ、まちかねトカヤ、モテアツカヒタマフ事、まちかねト云フ言葉ノ縁ニヤ」(さくちハ、訛ナリ、小糠ハ、不ㇾ及二遠敗一ニ通ズ)仙臺ニテハ、今モ、小糠ヲ、さくづト云フ。

さうどう (名) 騷動 (一)多人數ノ騷ギ立ツコト。世ノ中ノ亂レ。騷擾。[illegible] (二)おいへさうどう(御家騷動)ノ條ヲ見ヨ。

さうとうしゅう (名) 曹洞宗 〔支那ノ禪宗ノ祖師、曹溪ノ地ニテ、法ヲ傳ヘ、其六世ノ法孫、良价大師、洞山ニアリテ、道ヲ弘メタルヨリ、此名アリ、曹洞禪ト云フ〕佛教、禪宗ノ一派、鎌倉時代、貞應二年、僧、道元、入宋シテ、天童山ノ如淨禪師ニ禪法ヲ受ケ、安貞元年、歸朝シテ弘メ、越前國、吉田郡、志比谷村ニ、永平寺ヲ建ツ、又、道元ノ四世ノ法孫、紹瑾、能登國、鳳至郡、櫛比村ニ、總持寺ヲ建ツ、是レヲ、此宗ノ二本山トス、然ルニ、總持寺ハ、火災ニカカリ、明治ノ末年、武藏國、橘樹郡、鶴見村ニ移レリ。

さうとうせん (名) 曹洞禪 前條ノ語原ヲ見ヨ。

さうどく (名) 瘡毒 カサ。(黴毒ノ條ヲ見ヨ)

さうど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 騷就 「騷就くノ轉、秋就く、老就く、同意」今、ざわつくト云フ)さわヲ、さうト云フハ、さわがし、さうがし、ノ例、づくヲ、どくト云フハ、鴨着くヲ、かもどく。手着、たどきノ如シ。騷ギ立ツ。ザワツク。[illegible]

さうどく (名) 蔵匿 カクスコト。カクマフコト。隱匿。史記、[illegible]

さうとつ (名) 竈突 クド。竈ノ烟突。[illegible]

さうとん (名) 草墩 腰掛ノ一種、藁ヲ心トシテ、高サ一尺三寸ニ作ル、形、醬油樽ノ如シ、上面、四面、錦ニテ包ム、今、支那産ノ陶製ノ、橔ト云フモノ、是レナリ、公卿ノ、節會饗宴ノ尊盤ニ就ク時ナド、用ヰラレタリ。[illegible]

さうな (名) 草名 花押ノ條ヲ見ヨ。

さうなき (連體) 無左右 次條ヲ見ヨ。

さうなく (副) 無左右 〔さうハ、左右ノ字ノ音讀ナリ、其條、幷ニ、さう(左右)ノ條ヲ見ヨ、さうなくハ、左右の論なくニテ、たやすく、言ふまでもなきノ意トナルナリ、此語ハ、形容詞ナレド、さうなく、さうなきトノミ用ヰラレテ、さうなし、さうなけれノ形ハ、見エヌヤウナリ〕躊躇ハズ。子細ナク。タヤスク。容易ニ。さうなきト云フハ、言ふまでもなきノ意ナリ。[illegible]

さうな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 無雙 ナラビナシ。比類ナシ。無雙ナリ。大鏡、[illegible]

さうなん (名) 遭難 災難ニ、出遭フコト。遭厄。[illegible]

さうにん (名) 相人 人相ヲ觀ルヲ業トスル人。人相見。相者。相工。[illegible]

さうにんぼく (名) 草人木 〔離合迷字ノ、離迷字ナリ、米ヲ、八木トスルガ如シ〕茶ノ木ノ異名。[illegible]

さうねん (名) 壯年 〔禮記、曲禮、上篇「人生三十日ㇾ壯」〕ワカザカリ、人ノ齡ノ、最モ壯ンナル頃、凡ソ、三十歳前後

ノ稱。壯齒。曲禮、張子傳「壯」、云云、致仕ハ猶克ニ壯年ニ

さうねん (名) [宋年] さうねん(宋字年)ヲ見ヨ。

さうのこと (名) [箏] さう(箏)ノ條ヲ見ヨ。

さうのふえ (名) [笙] しやう(笙)ノ條ヲ見ヨ。

さうは (名) [蒼波] アヲキ、ナミ。碧浪。 王筠、灼法師碑「觀ニ蒼波之無ニ極」」

さうば (名) [相場] 市場ニテ取引キセラル物品ノ値段。市價。

さうばい (名) [早梅] 早咲ノ梅。 邵氏聞見錄「呂文穆、大雪莊梅、香、早梅也、香甚烈而大、云、從ニ廢圃ニ移ニ其本ハ至レ此」

さうばい (名) [霜梅] [鹽ノ浮キデタルヲ霜ト見テ云フカ] ウメボシ、烏梅。 合類節用集(元祿)六、飲食門「霜梅、又、白梅」

さうはう (名) [雙方] カナタ、コナタ。兩方。相手ト、相手ト。 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「雙方一度ニ拔キ合ハセ、云云、切り結ビテハ、切りホドキ」「雙方、負ケズ劣ラズ」

さうばう (名) [相貌] カホカタチ。ミメカタチ。容貌。相好。

さうばう (名) [想望] オモヒ、アフグコト。オモヒ慕フコト。思慕。 後漢書、趙壹傳「士大夫想ニ望其風采ニ」

さうばう (名) [草茅] (一)くさト、かやト。(二)草深キ田舍。田野。 戰國策、趙策「一旦苦ニ草茅之中ニ席ニ隴畝ニ而蔭ニ庇桑ニ」

さうばう (名) [蒼茫] 際限ナク、廣廣ト

シテ、アヲキ狀ヲ云フ語。 潘岳、哀ニ永逝ニ文「視ニ天日ニ兮蒼茫、面ニ邑里ニ兮蕭散」

さうはく (名) [蒼白] (一)青きト、白きト。(二)アヲジロキコト。アヲザメタルコト。「顏色蒼白」

さうはく (名) [糟粕] [孝經、序、疏「酒滓曰レ糟、浮米曰レ粕」] (一)サカカス。滓。(二)棄ツベキモノ。價値ナキモノ。(古人之糟粕ノ條ヲ併セ見ヨ) 晉書、潘尼傳「名位爲ニ糟粕ハ、勢利爲ニ埃塵ニ」 太平記、一、玄恵文談事「悲シムラクハ、公ノ、只、古人ノ糟粕ニ甘ナッテ、空シク一生ヲ、區區ノ中ニ誤ル事ヲ」

さうばし (名) [相場師] 取引所ニテ行ハルル相場ノ變動ヲ豫測シ、期限ヲ定メテ、物品ノ賣買ヲ空約シ、其高低ノ差金ノ利益ヲ收得スルヲ業トスル者。(米相場ノ條ノ(二)ヲ併セ見ヨ)

さうはつ (名) [霜髮] 白髮トナリタル頭ノ毛。皓髮。頭ノ霜。 李咸用詩「年華逐レ浪催ニ霜髮ハ、旅恨如レ波撲ニ苧衣ニ」

さうばどの (名) [喪場殿] さうぢやうでん(喪場殿)ヲ見ヨ。

さうばん (名) [雙盤] (一)寺院ニテ、開帳ナドノアルニ當リ、打チ鳴ラス盤。(二)寺院ニテ法會ノ際、鉦、鼓、相雙ビテ打チ鳴ラスニ擬シテ、劇場ノ囃子ノ稱。

さうばん (名) [早晩] 早朝ト、晩景ト。アサユフ。朝夕。 淵鑑類函、碑文「宮廟皆有レ碑、以識ニ日影ハ以知ニ早晩ニ」

さうばん (副) [早晩] (一)ハヤカレ、オソカレ。イツカ。 名義抄、日部「早晩、イツカ」 合類節用集(元祿)二、時候門「早晩」 杜律、早晩到ニ星離ハ活法、早晩更看吳苑月」 (二)オッツケ。マ

モナク。 杜甫詩「孔璋才素健、早晩檄書成」

ざうはん (名) [藏版] 己ガ所藏ノ版木。

さうび (名) [薔薇] (一)しやうび(薔薇)ニ同ジ。バラ。 源、廿一、少女五「二花橘、撫子、さうび、云云、ナドヤウノ、花ノクサグサヲ植ヱテ」 榮花物語、十八、玉臺「其下ニ、さうび、牡丹、カラナデシコ」 (二)襲ノ色目ノ名、表ハ紅、裏ハ紫、陰暦四月、着用ノモノトシタリ。

さうび (名) [霜眉] 白髮トナリタル眉毛。 薛能詩「何處霜眉碧眼客、結爲ニ三友ニ呂相尋」

ざうひ (名) [臧否] [爾雅、釋詁篇「臧、善也」] 善惡ニ同ジ。淑慝。 詩經、大雅、蕩之什、抑篇「於乎小子、未レ知ニ臧否ニ」

ざうひ (名) [象皮] 象ノ皮。製シテ、種種ノ用トシ、珍重ス。 桂海虞衡志「象皮可ニ以爲レ甲」

ざうひびやう (名) [象皮病] [英語、Elephantiasis ノ譯語] 皮膚、及、皮下組織ノ、肥厚トナル病。脚、殊ニ、腫レタル如ク、太ル、沖繩縣ニ多シ。馬ナドハ、四肢ニ發ス。

さうびん (名) [霜鬢] [霜ノ如ク白キ意] 白髮ノ鬢髮。 杜甫詩「春日垂ニ霜鬢ニ」 又「艱難苦恨繁ニ霜鬢ニ」

さうふ (名) [孀婦] [正韻「嫠婦曰レ孀」] 寡婦ニ同ジ。ヤモメ。 鮑照詩「寡孀思ニ嫠婦ハ秋堂泣ニ征客ニ」

さうふ (名) [壯夫] マスラヲ。壯年ノ男子。 李白、擬恨賦「僕本壯夫、慷慨不レ歇」 韓愈詩「君爲ニ壯夫ニ我少年」

さうふ (名) [傖父] [正韻「傖、鄙賤之稱

也」字典「父、老叟之稱、又、野老通稱」戰國策「田父見レ之」] 田舍老爺。田舍漢。 字典、晉陽秋、吳人謂ニ中國人ニ爲ニ傖父ニ、宋孝武、比ニ顏臣ハ目ニ王玄謨ニ爲ニ老傖ニ」 世說、雅量、上編、褚公、云云、有ニ一傖父ハ來寄ニ亭中ハ有ニ尊貴客ハ稍移レ之」

さうぶ (名) [菖蒲] (一)しやうぶ(菖蒲)ノ(一)ニ同ジ。アヤメ。 枕草子、九、百十三段「五日ノさうぶノ輿ナド、持テマヰリ、藥玉マヰラセ」 後水尾院年中行事、五月五日「今日ハ、さうぶノ御湯マヰル」 (二)襲ノ色目ノ名。表ハ青、裏ハ紅梅。(桃華蘂葉)

ざうふ (名) [臟腑] [臟モ、府モ、くらニテ、肉(月)ヲ添ヘタル字、腹內ニアル物ノ意ナリ(說文)] (一)體ノ中ノ機關ノ名。漢方醫ノ說ニ、心、肝、腎、肺、脾、ヲ、五臟ト云ヒ、胃、膽、膀胱、大腸、小腸、三焦、ヲ、六腑ト云フ。 箋注倭名抄、二「三十葉路類「中黃子云、五藏、肝、心、脾、肺、腎、也、云云、六府、大腸、小腸、膽、胃、三膲、膀胱也」 (二)俗ニ、はらわたヲ云フ。

さうぶあはせ (名) [菖蒲合] 物合ノ一種、菖蒲ノ根ヲ出サシメ、其長短ニヨリテ、勝負ヲ決スル遊戲、多ク、五月端午ノ日ニ行ヘリ。菖蒲の根合。略シテ、單ニ、根合トモ云フ。 扶桑略記、廿九、後冷泉、永承六年五月五日、殿上侍臣、左右相分、有ニ菖蒲合事ニ 榮花物語、卅六、根合「內裏ニ、菖蒲の根合有ケリ、云云、殿上人ヲ取テ、良基朝臣ニ授ケテ、南ノ庭ニ延ベオカシム、右、又、カクノ如シ、其長短ヲ爭フ、左ノ根一丈一尺、右ノ根一丈二尺ニテ、右、勝ニケリ」

さうぶかは (名) [菖蒲革] しやうぶかは(菖蒲革)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。 新山家(貞享)「短クト、輕衫好ム、さうぶ革」

さうふく (名) [喪服] 喪ニ籠ル時ニ着ル

衣服。上古ハ、麻布、又ハ、葛布ニテ、白ナリシガ、後ニハ、薄墨色ニ染メタルニテ作リ、常ノ衣服ノ上ニ着タリ。あさぎぬモノ條ノ(二)ヲ見ヨ。又、フヂノコロモ。喪服。[illegible]

さうふく（名）［雙幅］ つゐふく(對幅)ニ同ジ。幅ノ條ヲ見ヨ。

ざうぶつ（名）［贓物］ ざうもつ(贓物)ニ同ジ。

ざうぶつ-しゃ（名）［造物者］ ざうくゎ(造化)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。[illegible]

さうぶん-こばん（名）［草文小判］ 文政小判ノ條ヲ見ヨ。

さうぶ-れん（名）［相府蓮(想夫戀)］ 雅樂ノ曲ノ名。平調曲ニテ、舞ナシ。[illegible]

さう-へい（名）［操兵］ 兵隊ヲ、操練スルコト。質兵ノ調練。練兵。

さう-べい（名）［倉米］ クラマイ。倉庫ニ貯フル米。廩米。[illegible]

ざう-へい（名）［造兵］ 兵器ヲ、造ルコト。

ざう-へい（名）［造幣］ 貨幣ヲ、造ルコト。[illegible]

さう-ほう（名）［霜蓬］ 白霜ノ如ク亂蓬ノ如キ頭髮。[illegible]

さう-ぼう（名）［雙眸］ 兩方ノ、ヒトミ。兩眼。[illegible]

さう-ほう-の-こころざし（名）［桑蓬之志］ 男子ノ、四方ニ遠遊スル志。さうこほうし(桑弧蓬矢)ノ條ヲ見ヨ。

ざう-ぼく（名）［造木］ みやつこぎノ條ヲ見ヨ。

さう-ほん（名）［草本］ (一)シタガキ。草稿。[illegible] (二)草本。

ざう-ほん（名）［藏本］ ざうしよ(藏書)ニ同ジ。[illegible]

さう-ほん-か（名）［雙本歌］ 〔下ノ句ヲ、上ノ句ニ、卽チ、本句ヲ、本句ニ雙ぶる歌ノ義〕旋頭歌ニ同ジ。[illegible]

[illegible]

さう-まい（名）［草昧］ 〔「出典ヲ見ヨ」〕世ノ開闢ノ、物事ノ、未ダ分明ナラヌ時。[illegible]

さう-まう（名）［草莽］ 次條ヲ見ヨ。[illegible]

さう-まう-の-しん（名）［草莽之臣］ 〔莽モ、草ナリ、草莽ハ、草叢ノ意〕仕官セズシテ、民間ニ居ル人(朝廷ニ對シテ稱ス)[illegible]

さう-まき（名）［左右卷］ さやまき(鞘卷)ノ音便。其條ヲ見ヨ。[illegible]

さう-ま-くげ（名）［相馬公家］ さうまだいりノ條ヲ見ヨ。

さう-ま-ごしょ（名）［相馬御所］ さうまだいりノ條ヲ見ヨ。

さう-ま-こまやき（名）［相馬駒燒］ さうまやきノ條ヲ見ヨ。

さう-ま-すなやき（名）［相馬砂燒］ 次次條ヲ見ヨ。

さう-ま-だいり（名）［相馬内裏］ 演劇ニ、相馬ノ將門ノ住家、僭稱シテ云フナリ。又、相馬御所、公家衆ニ扮裝チテ、ココニ列スルヲ、相馬公家ト云フ。

さう-ま-やき（名）［相馬燒］ 〔中村ハ、相馬氏ノ居城地ナリキ〕磐城國、宇多郡(今、相馬郡)、中村ノ地ヨリ製出スル、陶器ノ稱、土、釉、共ニ、粗糙ニシテ、相馬砂燒ト云フ、京都ノ陶工、野野村仁清ノ技ヲ傳ヘタルモノニテ、樂燒ニ類シテ、雅致アリ、釉ハ、暗白ナリ、燒青ヲ以テ、相馬ノ雲雀野ノ野馬ノ、走ル形ヲ畫ク、故ニ、相馬駒燒トモ云フ。[illegible]

さう-めい（名）［滄溟］ アヲウナバラ。オホウミ。大海。[illegible]

さう-め-く（動）［萃蔡］ さやめくノ條ヲ見ヨ。

さう-めつ（名）［掃滅］ さうてん(勦殄)ニ同ジ。[illegible]

さう-めん（名）［草綿］ 〔繭ノ綿ニ對ス〕キワタ。

さう-めん（名）［索麪］ 〔索麪ノ音便(格子、かうし、册子、さうし)素麪ナドト書クハ、當字ナリ〕又、ホソモノ。小麥ノ粉ヲ、水ト、鹽トニ捏ネテ、胡麻ノ油ヲツケテ、昔ハ、麪板ニ展セ、麪棒ニテ押シ伸バシタレド、今ハ、器械ニテ伸べ、細ソク切リテ、索トシテ、乾シタルモノ、煮デテ、食フ。又、醬油ヲ加へ、煮テ食フヲ、煮麪ト云ヒ、或ハ、ひやむぎノ如ク、冷水ニ滌シ、汁ニテモ食フ。[illegible]

十一番職人盡歌合（文安）三十七番、さうめん賣「我ガ戀ハ、建仁寺ナル、さうめんノ、心太クモ、思ヒヨルカナ」

ざうめん（ソウ・メン）（名）［藏面］〔藏ハ、覆面ノ覆ト、同意、祭事ニ、覆面ヲ用キルナリ、蘇利古ニ用キルヲ、本據トスベシ、蘇利古、一名ヲ、竈祭舞ト云フ、或ハ、造面、雜面、象面ナドトモ記ス、皆、當字ナリト云フ〕舞樂ノ蘇利古、又ハ、案摩ナドノ舞面ニ用キル、覆面ノ名。長方形ノ紙ニ、異形ナル鼻、目ソ象ヲ畫ク。歌舞品目、十、假面「造面、又、雜面ニ作ル、厚キ白紙ノ、竪長ニシテ、方ナルヲ以テ製ス、眉モテ、鼻、口ヲ畫キ、目ノ所ニハ、三隅形ノモノヲ畫イテ、其中ヲ切リヌク也、上ニ、褶ヲ施シテ、コレヲ結ブ」

さうめんのり（ソウメン・ノリ）（名）［索麪海苔］うみさうめんニ同ジ。

さうもく（ソウ・モク）（名）［草木］くさト、きト。クサキ。禮記、月令篇、季秋之月「是月也、草木黄落」論語、陽貨篇「多識於鳥獸草木之名二」

ざうもつ（ゾウ・モツ）（名）［贜物］ヌスミモノ。又、賄賂物。ざう（贜）ノ條ノ語原ヲ見ヨ。下學集、下、態藝門「贜物（サウモツ）盜物也」

ざうもつ（ゾウ・モツ）（名）［臟物］臟腑ニ同ジ。今モ、牛肉店ナドニテ、牛、鳥、等ノ臟腑ヲ云フ、略シテ、もつトモ云フ。

サウモン（ソウ・モン）（名）［桑門］〔梵語ナリ、沙門ノ條ヲ見ヨ、文字讀ニ、くはのかどト云フ〕沙門ニ同ジ。僧。ヨステビト。魏書、釋老志「治心修淨、行乞以自給、謂之沙門、或曰二桑門、浮圖正號曰二……」字類抄「桑門、ヨステビト」

〔一〕**さうもん**（ソウ・モン）（名）［相聞］次條ノ語ノ略。悦目抄「萬葉ニ、さうもんト云フハ、戀ノ歌ナリ」

〔一〕**さうもんか**（ソウモン・カ）（名）［相聞歌］〔音讀スベキ語ナリ（萬葉集中ノ反歌、挽歌、ナド、同ジ）あひきこえナド、文字讀ニスルハ、非ナリ、尚、出典ヲ見ヨ〕萬葉集中ノ歌ノ部類ノ稱。親族、兄弟、朋友、ナドノ中ニ、互ニ、起居ヲ相問ヒ交ハス歌ドモナリ、中ニ、男女、互ニ戀情ヲ交ハシタルモ入レレバ、後世ノ歌集ニ、戀ノ部トテ別チタルモノ、コレニ基ヅケルナルベシ。萬葉集古義、總論、六部「文選、曹植ガ呉季重ニ贈レル書ニ「適對二嘉賓、口授不レ悉、往來數相聞」呂向、注「聞、問也」萬葉集、第十一卷、第十二卷ヲ「古今相聞往來歌類」トシテ、上篇、下篇ニ別テリ、相聞往來ノ四字、文選ニ出デタルコト、知ルベシ」（文選ハ、昔時、學校ノ教科書ナリキ）萬葉集、四、三十九相聞、大伴宿禰駿河麻呂歌「相見ズテ、氣長ク成リヌ、コノ頃ハ、如何ニ平安ヤ、イブカシ吾妹」大伴坂上郎女歌「夏葛ノ、絶エヌ使ノ、通ハネバ、事故シモアル如、思ヒツルカモ」右、坂上郎女者、佐保大納言卿女也、駿河麻呂、此、高市大卿之孫也、兩卿兄弟之家、女孫、姑姪之族、是以題、歌送答、相二問起居一（大納言ハ、大伴安麻呂ナリ、高市大卿ハ、安麻呂ノ兄、大伴御行ニテ、駿河麻呂ノ祖父ナリ、郎女ハ、駿河麻呂ノ父ノ從妹ナリ）合類節用集（元祿）九、言辭門「相聞歌」

ざうももひき（ゾウ・モモヒキ）（名）［象股引］〔太キコト、象ノ脚ノ如シ〕股引ヲ、懷、廣ク、筒ノ如クニ製シタルモノ。享保十四年、交趾國ヨリ、生象ノ舶來セシ頃、流行シタリ。江戸名所識、象股引、股引モ、懷廣シ、年ノ市」（嬉遊笑覽、二、上）

さうや（ソウ・ヤ）（名）［草野］（一）イヤシク、禮文ナキコト。史記、韓非傳「草野而倨侮」（二）田舍ノ土地。民間。在野。杜預、學二賢良方正一表「布二衣於草野一、著二徳於閭閻一」（三）クサハラ　嵇康、與二山巨源一絶交書「弋二釣草野二」

〔一〕**さうやく**（ソウ・ヤク）（名）［草藥］草根ノ藥。源、二、帚木「三月頃、風病重キニ堪ヘカネテ、極熱ノさうやくヲ服シテ、イト臭キニ因リナム、エ、對面給ハラヌ」細流抄「土用ノ蒜ナド云ヒテ、藥ニ用ルコトアルナリ」（岷江二、蒜ヲ、極メテ熱ク煎ジテ飮メルヲ云ヒシナルベシ）

さうやく（ソウ・ヤク）（名）［裝藥］クスリヲ、コムルコト。彈藥ヲ、銃砲ニ裝塡スルコト。

さうやく（ソウ・ヤク）（名）［澡浴］澡浴ノ條ヲ見ヨ。

さうやく（ソウ・ヤク）（名）［遭厄］厄難ニ、遭フコト。遭難。王逸、九思「悼二屈子兮遭レ厄」

さうゆ（ソウ・ユ）（名）［桑楡］〔桑木ト、楡木ト、唯、樹木ト云フ意ニ用キルナルベシ〕（一）西日ノ景ノ、樹木ノ上ニアルコト。杜甫詩「響響桑楡日、照二我征衣裳一」後漢書、馮異傳「失二之東隅一、收二之桑楡一」（是レハ、西の方ノ意ニ用キテ、前ニ失敗セシ事ヲ、後ニ恢復シタル意ニ云ヘルナリ）初學記、天部、上「淮南子云、日西垂、景在二樹端一、謂二之桑楡一」（二）又、日暮前ノ意ニ用キテ、人ノ、老年トナレルヲ云フ。劉鑠、擬古詩「願垂二薄暮景一、照二妾桑楡時一」李善、注「日在二桑楡一、以喩二人之將一レ老」舊唐書、太宗紀「筋骨將レ盡、桑楡且迫」合類節用集（元祿）二、時候門「人年老云二桑楡一、言如二日晡則反景上照二於桑楡一、事見二淮南子、晉書故事一」

さうよう（ソウ・ヨウ）（名）［蒼蠅］（一）アヲバヘ。青蠅。詩經、齊風、雞鳴篇「匪二雞則鳴一、蒼蠅之聲」後漢書、張敞傳「蒼蠅之飛、不レ過二十歩一、自託二騏驥之尾一、乃騰二千里之路一」（二）讒人ニ比シテ云フ語。詩經、小雅、桑扈之什、青蠅篇「營營、青蠅、止レ于レ樊、豈弟君子、無レ信二讒言一」（豈弟ハ、樂易ノ義）段村古曰、蒼蠅群蟻、陸農師曰、蒼蠅聲雜壯、云云、其聲皆在レ翼」陸農云云、故、詩以刺レ讒」

さうよう（ソウ・ヨウ）（名）［蒼鷹］（一）シラタカ。戰國策、魏策「蒼鷹擊二于殿上一」（二）酷吏ニ喩ヘテ云フ語。史記、酷吏傳「郅都用レ法嚴酷、尤不レ避二貴戚一、列侯宗室見レ之、側レ目而視、號曰二蒼鷹一」

さうよく（ソウ・ヨク）（名）［澡浴］〔出典ヲ見ヨ〕身體ノ垢ヲ、洗ヒ去ルコト。ユアミ。入浴。入湯。訛リテ、さうやく。晉書、倭人傳「初喪、哭泣不レ食、已葬、擧家入レ水澡浴」倭名抄、十四二十澡浴具「澡、洒レ手也、浴、洒レ身也」箋注「說文、澡、洒レ手也、浴、洒レ身也、廣韻、洗、洒、上同」東雅、七、器用、浴斛「今、俗ニ、澡浴ヲ云ヒテ、さうやくトシ、云、トスルガ如キハ、其音ノ轉訛セルナリ」倭訓栞、さうやく「澡浴ノ音ヲ訛ル也、ト云ヘリ」

さうらい（ソウ・ライ）（名）［草萊］〔周禮、地官篇、縣師「田萊」註「萊、休不レ耕者」〕（一）荒地。開墾セヌ地。莊子、徐無鬼篇「農夫無二草萊之事一不レ比」註「草萊、耕種之事也、比、和樂也」（二）情ニ通ゼス、又、物ニ疎キ人。諺草（元祿）二俗間、人情ニ通ゼサル者ヲ、草萊子ト云フ、田父野人ト云フガ如シ、文選注云、草萊、謂二山野採樵之人一」倭訓栞、さうらい「俗ニ、時宜ニウトキ人ヲサシテ、草萊子ト云フ」

さうらいし（ソウライ・シ）（名）［草萊子］前條ヲ見ヨ。

さうらう（ソウ・ロウ）（名）［早老］〔早熟ニ對ス〕年齡ヨリハ、早ク、老ユルコト。年ニ似合ハズ、老イコムコト。「早熟早老」

さうらうと（ソウ・ロウ・ト）（副）［蹌踉］さうさうらうう（蹌蹌踉踉）ノ條ヲ見ヨ。

さうらうのみづ（ソウロウノ・ミズ）（名）［滄浪之水］支那ニアル、滄浪ト云フ川ノ流。楚辭、漁父篇、漁父ガ、屈原ト問答シテ後ノ歌「滄浪之水、淸兮可二以濯二吾纓一、滄浪之水、濁兮可三以濯二吾足一」（人間ノ事ハ、スベテ自然ニ任スヘシトノ意）

さうらふ（ソ・ウロ・ウ）［候］（自動、四）〔さもらふ、さむらふ、さぶらふノ轉、さもらふノ語原ヲ見ヨ、さうト云フハ、下略

ナリ〔いと細ニモ、いとど物申シテ、ものまう〕そろト云フハ、甚シク約メタルナリ〔ささまおたまれ、さたまれ、古事記、上〕「三國相 侍」〔佐羅良布、中昔ヨリハ、佐牟良布ト云ヒ、又、カノ添ヘテ云フ辭ノ侍ハヨハ訛リテ、佐宇良布ト云ヒ、又、約メテ、候ヲト云フハ、イヨイヨ俗シ」此語、多ク、候ノ字ニテ書キテアレバ、さぶらふノ、さうらふト變ジタル時代、知ラレズ、姑ク、鎌倉時代ノ初頃ヨリト見ル〕(一)あり(有)ノ敬語。サブラフ。平家物語、四、小松殿事「山ノ法師ガ子ニテ候ひシガ、イササカ、思ヒ候ふ二依テ、跡トコロニアヤシ候テ」同、七、[illegible]ユル心ハ、候ふ也」義經記、二、鬼一法眼事「貞女、兩夫ニマミエズト申ス事ノ候ヘバ、[illegible]セヌル也」

(二)他語ノ下ニ添ヘテ、唯、敬意ヲ表スル語トシテ用キラル、(讀ミ侍り、聞キます、ナド云フ、はべり、ます、ニ同ジ、今ノ普通ノ書翰文ニモ、皆、此語ヲ用キルニ因リ、さうらふ文ナド云フ)語、生ジタリ、又、さう。又、そろ。[illegible]ノ條ハ、不思議ノ物ニテ候ふ也、ヤト、打見ルニ、面白ク、聽シカラズ、オボエ候ヘドモ、次ノ日、又々、見候ヘバ、ユユシク見醒ノシ候ふ、コレヲ、ヨシト思ヒケルコソ、不思議ニ候ヘナド、オボユルモノニテ候ふ、云云」(隠守部、俗語考) 盛衰記、廿一、小坪合戰事「馬ノ太腹ノ射ラレ[illegible]ハネナトシテ、立チアガラムトスル所ノ、追物射ニモスル候ふ」平家物語、九、宇治川事「佐佐木、誦綱ノ[illegible]御秘藏ノ生唼、頼朝ノ秘藏ノ馬ノ名)ノ腹ニマシテ上リさうハ、イカニ、梶原殿、云云、佐佐木、イカニ梶原殿、云云、腹帶ノ、伸ビテ見エさうゾ、締メタマヘト言ヒケレバ」史記抄(文明)十一大十「ワルイ金デさう、錫石デさう、銅デさう、ナンド云フハ」同、十二「身ガ弟デさうモノヲ、將ニ御成シさうへ(さうらへ)ト云フ、將軍ニ成イタゾ」七十一番職人歌合(明應)六番、銅細工「賈ハシマセ、言モさうらふゾ、欲シガル人アラバ、仰セラレヨ、鑄テモカケテさう」「候、ソロ」[illegible]「ト、様ニ、鳥ガ棲ムサテウ、花ガ咲リ候、イササラバ、鳴子ヲカケテ、花ノ鳥逐ハウ」諸國盆踊唱歌(寛文)山家「私ハ小池ノ、鯉鮒ナレド、鯰ノ男ハ、イヤデそろ」

さうらふ-ぶん（ソウロウ-ブン） (名) 〔候文〕 敬語ノ候ノ語ヲ用キテ記ス文、卽チ、普通ノ書狀ノ文體。古語ニテ記ス文、又ハ、口語文ト、別チテ稱スルニテ、近年、用キ始メタル語ナリ。「云云ニて候間、如此ニて候」御機嫌よく候哉」申上げまゐらせ候」

さう-らん（ソウ-ラン） (名) 〔騒亂〕 騒ギタチ、入リミダルルコト。騒動。

さう-り（ソウ-リ） (名) 〔笊籬〕 〔笊ハ、いざる(其條ヲ見ヨ)ノ上略、笊籬ノ音ニアラズ〕 ムギスクヒ。イカキ。イザル。ザル。下學集(文安)下、器財門「笊籬(左訓、サウリ)」註「味噌漉也」合類節用集(元祿)七、器財門「[illegible]、笊籬」「[illegible]」註「[illegible]、竹器」

さう-り（ソウ-リ） (名) 〔[illegible]〕 さうぎょ([illegible]魚)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ざう-り（ゾウ-リ） (名) 〔草履〕 藁、又ハ、藺ナドニテ編ミ作レル履、緒ヲスゲテ、足ノ先ニ懸ケテ用キル。ジャウリ。コンガウ。其外、福草履、藤倉草履、麻裏草履、竹皮草履ナド種類、多シ。白氏文集、廿八、行香歸「履前雙草履、衣下一殺經」倭名抄、十二、履襪類「草履、佐宇利」名義抄「草履、ワラクツ、サウリ」七十一番職人歌合(文安)廿一番、ざうり賣ノ詞「ざうり、ざうり、ぬこんがう召せ」

ざうり-がけ（ゾウリ-ガケ） (名) 〔草履掛〕 〔あしだがけノ語原ヲ見ヨ〕 草履穿キテ歩ムコト。

ざうり-げた（ゾウリ-ゲタ） (名) 〔草履下駄〕 下駄ノ一種、臺ヲ、杉村、又ハ、松村ニテ、高サ五六分ニ作リ、底ノ中央ヲ、横ニ刳リクボメ、上面ニ、草履ヲ、釘ニテ打チツケ、木綿眞田ノ鼻緒ヲスゲタルモノ。專ラ、男童ノ用トシタリ。江戸八百韻「一日ニモ、廻ハリ盡クサジ、庭ノ春」山アリ川アリ、草履下駄アリ」

さう-りつ（ソウ-リツ） (名) 〔創立〕 〔さうりふナルベキナリ、建立、造立ノ例〕 始メテ、作リ立ツルコト。創建。南史、孫瑒傳「軍國器械、多所二創立一」

ざうり-とり（ゾウリ-トリ） (名) 〔草履取〕 主ニ從ヒテ、ソノ履ヲ持ツ奴。履奚。甲陽軍鑑、三、品第十一「武田勘介ハ、牢人ニテ、草履取サヘ、一人ツレネバ、譏ル人コソ多ケレドモ」

ざう-りふ（ゾウ-リュウ） (名) 〔造立〕 造リ立ツルコト。建設。南史、竟陵王誕傳「造二立第舍一、窮二極工巧一、園池之美、冠二於一時一」平治物語、三、頼朝遠流に定めらるる事「宗清感ジ奉リテ、小キ率都婆百本、作リテ參ル、自ラモ、造立、書寫シテ」

さう-りん（ソウ-リン） (名) 〔倉廩〕 〔出典ヲ見ヨ〕 米、穀類ヲ納メオク藏。禮記、月令篇「命二有司一、發二倉廩一、賜二貧窮一」疏「穀藏曰レ倉、米藏曰レ廩」太平記、十五、俵藤太事「是ハ產業ノ財ナレバトテ、是ヲ倉廩ニ收ム」

さう-りん（ソウ-リン） (名) 〔相輪〕 相輪塔ノ條ヲ見ヨ。

さう-りん（ソウ-リン） (名) 〔雙林〕 〔雙ハ、呉音、そう〕 沙羅雙樹ノ林。傳燈錄「佛滅後、第一祖迦葉王、至二雙林樹間一哭泣」盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「昔、鶴林ノ西ヲ唱ヘシニ、雙林風痛ンデ、其色忽チニ變ズ」

ざう-りん（ゾウ-リン） (名) 〔造林〕 林ヲ、仕立ツルコト。

さうりん-たふ（ソウリン-トウ） (名) 〔相輪塔〕 〔相輪ハ、九輪ニ同ジ、輪相トモアリ〕 塔ノ一種。九輪、卽チ、九層ノ露盤ノ下ニ、柱ヲ纏ギテ、建テタルモノ、高サ、四五丈ニ及ブ。又、相輪橖 相輪幢 比叡山、高野山、日光山ニアルモノ、最モ名アリ。言字考節用集、二、乾坤門「相輪橖 注、在二台、西塔一、是指要也、相輪、俗云、空輪也、橖、柱也」寂照堂谷響集、一「相輪橖 有客曰、叡山有二相輪橖一、普問二人所一以名二相輪橖一、少有レ知レ之者一、相輪者、何義耶、答、塔、當レ作レ橖、傳教大師銘作二相輪橖一、橖者、柱也、相輪者、是乃俗間所レ謂九輪也」日光山志、五「相輪橖、御宮御築地外ノ山腹ニテ、新宮ノ馬場ノ方ニ有リ」

さう-れい（ソウ-レイ） (名) 〔葬禮〕 死者ヲ葬ルニ行フ儀式。葬式。葬儀。左傳、隱公十一年「不レ書レ葬、不レ成レ喪也」杜注「桓弑レ隱篡立、故喪禮不レ成也」太平記、二、阿新殿事「未ダ幼ナンドシ給ヒケル僧、來テ、葬禮ヲ取營ミ、空シキ骨ヲ拾テ」

さう-れい（ソウ-レイ） (名) 〔壯麗〕 イカメシク、ウツクシキコト。壯大ニシテ、美麗ナルコト。立派。後漢書、東海恭王彊傳「與二恭王好宮室一、起二[illegible]光殿一、甚壯麗」

さう-れい（ソウ-レイ） (名) 〔壯齡〕 壯年ニ同ジ。謝靈運詩「壯齡緩二前期一、頹年迫二暮齒一」

さう-れい（ソウ-レイ） (名) 〔早冷〕 秋ノ末ノ時候ニ、普通ヨリハ、早ク、冷氣トナルコト。早寒。

さう-れき（ソウ-レキ） (名) 〔槽櫪〕 馬ノ飼桶ト、厩ノ踏板ト。又、馬ノカヒヲケ。韓愈、雜說、四「祇辱二於奴隸人之手一、駢二死於槽櫪之間一」

さう-れつ（ソウ-レツ） (名) 〔壯烈〕 勇壯ニシテ、激烈ナルコト。ヲヲシキコト。魏書、刁冲傳「冲雖二儒生一而執心壯烈、不レ畏二強禦一」

さう-れつ（ソウ-レツ） (名) 〔葬列〕 葬送ノ行列。「葬列ガ通ル」

さうれん (名) [操練] 練兵ニ同ジ。調練。

さうろ (名) [草廬] クサノイホリ。クサヤ。己ガ住居ヲ謙稱シテ云フ。三國志、蜀志、諸葛亮傳「亮、上疏曰、云云、先帝不以臣卑賤、猥自枉屈、三顧臣於草廬之中、諮臣以當世之事」

さうろ (名) [草露] クサバノツユ。ハカナキコト、勢ノ長久ナラヌコトニ譬ヘテ云フ。陸游詩「水風吹葛衣、草露濕芒履」杜甫詩「富貴何如草頭露」

さうろく (名) [雙六] すごろくヲ見ヨ。

ざうろく (名) [藏六] [龜ガ、頭、尾、四脚ヲ、甲ノ内ヘ縮メ入レテ藏スナリ] 龜ノ異名。欲ヲ愼ム意ニ云フ。祖庭事苑、雜阿含經云、有龜、被野干所得、龜藏六不出、野干怒而捨去、佛告諸比丘曰、汝等、當如龜藏六、自藏六根、魔亦不得便」合類節用集(元祿)九、言辭門、藏六「廣弘明集、龜藏頭尾四脚、藏於甲中」

さうろん (名) [爭論] 言ヒアラソフコト。イサカヒ。史記、儒林傳「爭論於上前」 盛衰記、八、法皇三井寺灌頂事「縱ヒ、和合海ニコソ入ラザラメ、諍論ヲ專ラニシ」(諍ハ爭ニ同ジ)

さうわい (名) [草鞋] さうあい(草鞋)ノ條ヲ見ヨ。

さうゐ (名) [瘡痏] ウチキズ。瘡痍。張衡、西京賦「所惡成瘡痏」 太平記、十、新田義貞謀叛事「伍子胥ガ、呉王夫差ヲ諫メシニ、晉ハ瘡痏ニシテ、越ハ腹心ノ病也ト云ヒシ」

さうゐ (名) [相違] 彼レト、此レト、違フコト。クヒチガフコト。漢書、王嘉傳「前後相違」

さうゑん (名) [莊園] しやうゑん(莊園)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さえ (名) [財] [次次條ノ、ざえ(才)ノ語原ヲ見ヨ] 財ニ同ジ。エモノ。得分。神樂歌、早歌「女子ノ左衣ハ、霜月極月ノ、搔キ溢チ」(稻ヲ收ムル時、女子ノ、其落穗ヲ拾ヒテ、得分トスルヲ云ヘルナリ)

さえ (名) [簺] [次條ノざえ(才)ノ語原、幷ニ、さいのめヲ見ヨ] 雙六ノ具、簺ニ同ジ。萬葉集、十六 廿七 詠雙六頭歌「一二ノ、目ノミニアラズ、五 六、三 四サヘアリ、雙六ノ佐叡」(頭トハ、頭子ニテ、卽チ、簺ノコトナリ)

ざえ (名) [才] [材] [集韻「才、通作材」(コレニ因リテ、濁音トナル)管子、五輔篇、注「材、謂藝能」張衡、西京賦、注「材、伎能也」字典「才、能也」我ガ國ニテハ、專ラ漢學ノ伎能ヲ云フ、漢才ト云フ、是レナリ(才ノ條ヲ見ヨ)倭訓栞、さえ「才ヲ、カク云フハ、音ヲ轉ジテ、訓トスルノ例ナリ、云云、萬葉集ニ、采ヲ、さえト云フモ、同ジ」紅梅ヲ、こをばい、芭蕉ヲ、はせをト云フモ、是レカ、然レドモ、襖、紅ノうハ、和行ノうナレバ、をト轉ズルナリト云フ說モアレバ(こをばいノ條ヲ見ヨ)才ノいモ、也行ニテ、えト轉ズルニモアラムカ、尙、考フベシ、此類ニ、財、さえ。簺、さえ(各條ヲ見ヨ)名義抄、八部「弟、テエ」同、玉部「珮、ハエ」ナド、尙、アルベシ」 (一)學問。專ラ、漢學ニ云フ。源、二、帚木 八廿「ざえノ際、ナマナマノ博士、恥カシク、スベテ、ロアカスベクナム侍ラザリシ、ソレハ、或ル博士ノ許ニ、學問ナドシ侍ルトテ、罷リ通ヒシホドニ、云云」細流抄「才學アル女ナリ」 同、廿一、少女 六「ナホ、ざえヲ元トシテコソ、やまとだましひノ、世ニ用ヒラルル方モ、强ウ侍ラメ」同、同 十「マメヤカニ、ざえ深キ師ニ、アヅケキコエタマウテゾ、學問セサセ奉リタマウケル」 同、廿五、螢 八十「人ノ朝ノざえ作リヤウ變ハレル」(唐、宋ノ朝ヲ指ス) 源氏物語玉小櫛、一「スベテ、物語ニハ、學問ノ事ヲ、ざえト云ヘリ、つくりやうハ、詩ノ作リザマナリ、かはれるトハ、ざえノカハレルト、つくりやうノカハレルトヲ、一ツニ云ヘルナリ」 (二)藝能。伎能。源、十七、繪合 廿「琴、彈カセタマフ事ナム、一ノざえニテ」 宇津保物語、藏開、下 三十「ざえ(伎能ノ人)ドモニ、心心ニ細長、一重、袴、一ツヅツ、被ケ、云云、何ノざえカ侍ル、云云、箏結ノざえナム侍ル、云云、和歌ノざえナム侍ル」 (三)ざえのをのこノ條ヲ見ヨ。

さえかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [冱反] (一)[かへる(反)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ] (一)甚シク、冱ユ。新後拾遺集、六、冬「時雨レツル、宵ノ霧雲、さえかへり、更ケ行ク風ニ、霰降ルナリ」 (二)春ノ餘寒、甚シ。料峭 合類節用集(元祿)二、乾坤門「料峭、春寒也、冱寒」

ざえが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [才] [前條ヲ見ヨ] 學問アリゲニ、フルマフ。紫式部日記「男ダニ、ざえがりヌル人ハ、イカニゾヤ、花ヤカナラズノミ侍ルメルヨ」

さえざえ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [冱冱] 殊ニ、冱エタリ。(冬ノ月影ナド)

ざえざえ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [才才] [才ヲ重ヌ、其條ヲ見ヨ] 學問アリト見ユ。源、三十四、下、若菜、下 四十「タダ走リ書キタル趣ノ、ざえざえしく、ハカバカシク、佛神モ聞キ入レタマフベキ言ノ葉、明ラカナリ」

さえさえて (副) [冱冱而] 冱エタル上ニ、冱エテ。月詣集、十、十月「冬深ミ、おふノ浦風、さえさえて、霜枯レニケリ、伊勢ノ濱荻」 金槐集、上、冬「更ケニケリ、外山ノ嵐、さえさえて、とほちノ里ニ、澄メル月影」

さえだ (名) [小枝] [さハ、發語(さ山、さ牡鹿)] 枝ト云フニ同ジ。萬葉集、十四 四廿「遲速モ、君ヲシ待タム、向峯ノ、椎ノ佐要太ノ(序)、時ハ過グトモ」(枝ノサス時節) 同、廿 廿六「八千種ノ、花ハウツロフ、常葉ナル、松ノ佐要太ヲ、我レハ結バナ」(契ヲ結ビタシ)

ざえのおぼえ (名) [才覺] [ざえ(才)ノ條ヲ見ヨ] 學藝ノ心得。才覺ノ條ヲ併セ見ヨ。倭訓栞、ざえのおぼえ「源氏ニ見エタリ、才覺ノ義也、正統記ニ、和漢ノ才覺ト見ユ」

ざえのをのこ (名) [才男] [ざえハ、伎藝ノ義、ざえノ條ヲ見ヨ] 內侍所ノ御神樂ナドニ、歌ヲウタフ人。下略シテ、ざえトノミモ云フ。枕草子、七、六十八段「ざえのをのこドモ召シテ、飛ビキタルモ、人長ノ心ヨゲサナドコソ、イミジケレ」 舂曙抄「雲圖抄、御神樂要害、歌神 時、人長立舞、次、勸盃、次、人長、遣召才男」 宇津保物語、藏開、下 五廿「神樂、云云、ざえドモ、聲ヨロシカラムナド撰ビテ、モノセラレヨ」 同、同 六廿「御神樂ノ事、ざえドモ、響ノ事、又、祿ドモ、物節、舍人モ、此祿賜フベキ布ノ事ナド、定メタマフ」 倭訓栞、さえのをのこ「江次第ニ、才男ト見ユ、御神樂ノ歌人也」

さ・える (動) [冱] 冱ゆノ口語。

さえわた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [冱渡] 遍ク、冱ユ。萬葉集、十三 七十 長歌「立チ待ツニ、吾ガ衣手ニ、置ク霜モ、氷ニ左叡渡リ、降ル雪モ、凍リ渡リヌ」

さおり (名) [狹織] [さハ、狹しト云フ形容詞ノ語根] 幅狹ク織レル倭文布ニテ、卽チ、帶ニ用キル料ノモノナルベシト云フ。武烈卽位前紀「大君ノ、御帶ノ倭文布、結ビ垂レ、誰レヤシ人モ、相思ハナクニ」 萬葉集、十一 五廿「古ヘノ、狹織ノ帶ヲ、結ビ垂レ、誰レシノ人モ、君ニハ益サジ」(何レモ、結び垂れハ、誰れト云フ語ノ序トシタルナリ) 尾張國、海東郡、勝幡村、佐折ノ地ハ、「昔ヨリ、織物ヲ產出ス、萬葉集ニ云ヘル狹織ナルベキカト云フ」(尾張名所圖會)

さおりのたうた (名) [さつき(五月)ノ

[illegible]條ヲ見ヨ[illegible]太宰臣)ハ「さハ、ろ云時ヲ云フコーナル由、古本記傳ニ云ヘリ、サレバ、捕附ニ下リタチテ、田歌ウタフヲ云フナルベシ」俚言集覽、さおり「上總ノ方言、五月[illegible]さおりト云フ[illegible]」

さか (名) [illegible] 〔[illegible]ノ義ニテ、赤キヲ云フニモアルカ〕 雞、雉ノ頂ニアル、肉冠。[illegible]

さか (名) 倒逆 下ノ、上トナルコト。サカサマ。サカサ。[illegible]

さか (名) 酒 〔さけノ轉(竹、たかやぶ。)〕 [illegible]さけニ同ジ。[illegible]

さか (名) 境界 〔[illegible]處ナリ(招鳥、をとり。引網、ひはぎ)此語ニ活用ヲツケテ、境フ、境ヒトモ云フ〕 物事ノ區劃。サカヒ。 神代紀、下「超二樹[illegible]」[illegible]四ニ見ユル限リノ水平線ナルベシ」字鏡[illegible]

さか (名) 坂 〔鐵處ノ約ト云フ(然、[illegible]

さ)」 山岡ニ、登リ降リスル路。坂路。[illegible]生坂) 字鏡六十「坂、佐加」(倭名抄、同ジ)

さか (名) 斛 〔石ノ呉音、しゃく、次音、さくノ轉ナラム(美作、安積、朱雀)石ト、斛ト、通ズ、こく(石)ノ條ヲ見ヨ〕 量ノ名、石ノ(一)ニ同ジ。[illegible]

サカ (名) [illegible]邊 [illegible]邊ニ同ジ。[illegible]「古ヘノ、虎ノタグヒニ、身ヲ投ゲバ、さかトバカリハ、言ハムトゾ思フ」夫木抄、三十二「元ノ師ノ、さかノ[illegible]」

さが (名) 性 〔然ノ轉ニテ(其[illegible]、さがかみ、[illegible]、さかしま、手節、たぶさ)然アルモノノ意ニモアラムカ、古事記、上[illegible]女人[illegible]不良ノ條ニ、古事記傳ニ性ヲ、佐賀ト訓メリ、云云、自然ニ然アルコトヲ云フ言ナリ〕 (一)ウマレツキ。ナリタチ。生得。性。 神代紀、上[illegible]サマハ、カヤウニナリヌル人ノさがニコソ」 (二)サトシ。シルシ。キザシ。前兆。前表。 (成立ノ意ヨリ轉ジテ、本性ノ意)[illegible] シクセ。ナラヒ。ナラハシ。習慣。 六帖、六「夏ノ夜ノ、子持鳥ノ、さがゾカシ、夜深ク鳴キテ、君ヲ遇リツル」後撰集、十、戀、二「鶯ノ、雲居ニワビテ[illegible]」

[illegible]世ノさがニシテ」

さが (名) 嵯峨 〔説文、嵯峨、山高也[illegible]〕 山ノ、[illegible]エ立テル状ニ云フ語。[illegible]

さが (副) 槎枒 木ノ枝ノ、角立チテ入リ雜ル状ヲ云フ語。

ざか (名) 座下 文通ニ、名宛ノ脇附ニ記ス語。敬意ヲ示ス。座前。机下。

さかあぶら (名) 酒膏 〔酒ノ異名ヲ、あぶらトモ云フ、古ヘニ、酒トさとシハ、後ニ云フ、濁酒ナリ〕 濁酒ノ上ニ浮ベル滓ナルベシ。[illegible]レナルベシ」

さかいき (名) 逆息 息ゼハシキコト。イキセクコト。 著聞集、十六、興言利口「さかいき二成テ、[illegible]」

さかいき (名) 月代 さかやきノ條ヲ見ヨ。

さかいた (名) 逆板 〔鎧ノ板(札)ハ、スベテ、下ヨリ上ニ重ヌルニ、コレハ、垂ルルニ因リテ、名アリ〕 式正ノ鎧ノ背ノ、押附ノ板ノ直下ニ設クル板ノ名。押附ノ板ノ下ハ、小札ナク、唯、毛引ニスレバ、(屈伸ニ便ゼムタメニ)其隙間ヲ掩フヤウニ設クルモノナリ、此板ニハ、鐶ヲ打チテ、揚卷ノ總ヲツクレバ、揚卷附の

板トモ云フ [illegible]ヲシツケノ板ノ下ニアル板ヲ云フ、凡、鎧ノ札ヲバ、下ノカタノ、上ニ重ナレルヤウニスルニ、此板バカリ、上下トノ、上ニナルヤウニシタル物ナレバ、サテコソ、逆板トハ名付タレ」

さかいり (名) 酒煎 〔酢煎ト云フモアリ〕 肉、菜ノ汁ニ、酒ヲ加ヘテ煎ルコト。サカビテ、サカシホ、[illegible]十月[illegible]」

さかう (名) 鎖港 ミナトヲ、トザスコト。外國トノ交リヲ絶チテ、其船ヲ、港ニ入レシメヌコト。

さかう (名) 左降 左遷ノ條ヲ見ヨ、[illegible]

ざかう (名) 麝香 ざかう(麝香)ノ條ヲ見ヨ、[illegible]さかう二分」

さかうち (名) 逆討 敵ヲ討タントシテ、却テ、敵ヨリ討タルルコト。カヘリウチ。[illegible]所望シテ上ルニコソト[illegible]テ逆討ちニ討タレヌト覺エ候」

さかえ (名) 榮 サカユルコト。サカリ。繁昌。[illegible]初音「我レ壽セムト、打笑ヒタマヘル御アリサマヲ、年ノ初ノさかえニ、見奉ル」

さかえる (動) 榮 榮ゆノ口語。

さかおとし (名) 逆落 〔さくなだりナドト同意カ〕 懸崖ナドヲ、落チ下ルコト。或ハ、城ヲ、逆手ヨリナラズ、逆ニ、搦手ヨリ攻陷スコトトモ云フ。源九郎義經ガ、平家ノ一谷城ノ後山、鵯越ガ嶺ヨリ、さか

おとしニ落シ入リシト云フコト、人口ニ膾炙セリ。

さかおもだか (名) 〔逆澤瀉〕 おもだかをどしノ條ヲ見ヨ。

さかかす (名) 〔酒粕〕 清酒ノ醪ノ、醱酵ヲ終ヘタルモノヲ、袋ニ入レ、搾リテ、殘レルモノ。蒸溜シテ、燒酒ヲ作ルベク、又、魚菜ノ粕漬ノ材料ニ用キラル。

さかがみ (名) 〔逆髮〕 化物ノ名。頭髮ノ、散亂シタルモノナルベキカ。嬉遊笑覽、三、雜畫「化物繪、云云、其ノ大略ハ、目一坊、拔首、さかがみ、身毛立、云云」(句、數種ヲ舉ゲタリ) 毛吹草(正保)五「さか髮ト、見ユルハ風ノ、柳カナ」(化物ヲ云ヘルナルベキカ)

さがかみ (名) 〔其髮〕 〔其が髮ノ轉ト云フ(かりさま、かりそめ。ささやく、そそやく)さが尻モ、同ジ。さがハ、しがトモ云フ、連體詞ノ、しが(其)ノ條ヲ見ヨ」 其者ノ髮。其者ノ尻ト云フヲ、さがしりトモ云フ。竹取物語「御迎ヘニ來ム人ヲバ、云云、さが髮ヲ取リテ、カナグリ落サム、さが尻ヲ掻キ出デテ、許多ノ官人ニ見セテ、恥見セム」(天人ノ、かぐや姫ヲ迎ヘニ、天降リ來ムト云フニ就キテ、竹取ノ翁ノ、憤慨シテ云フ詞ナリ)

さかがめ (名) 〔酒甕〕 酒ヲ貯ヘ置ク甕。

さかがり (名) 〔酣〕 〔酒怒ノ約ト云フ(と云ふ、とふ。きぬいた、きぬた)〕 醉ヒテ、怒ルコト。倭名抄ニ、病類ニ入レタレバ、酒癖ノはらだち上戸ノ類ナルベシ。酒狂。天治字鏡、四廿「酣、佐加加利」倭名抄、三廿病類「酣、醉怒也、一曰、酒狂、佐加加理」

さかき (名) 〔神樹〕 〔境木ノ義、磐境(其條ヲ見ヨ)ノ木ノ意、萬葉集抄(仙覺)五「さかきト云ヘルハ、彼木、常葉ニシテ、枝葉、繁ケレバ、さかきトハ、さかえタル木ト云フ也」是レハ、後世ノ榊ニ就キテ考ヘタルニテ、古書ニ、坂樹、賢木ナド、借字ニ記シタルハアレド、榮、又ハ、常緑ノ意ノ字ニ記シタルヲ見ズ、賢ノ字ヲ宛テタルハ、さかしき、すぐれたる意モアルベク、又、畏き意モアルベシ(畏所、賢所)〕 神ノ鎭リマセル地ノ區域ノ木。神籬、同ジ。常緑木ニモアレ、落葉木ニモアレ、種種ノ樹木ノ、神境ニ植リテアルニ就キテ稱スル語ナリ。磯城嚴橿、輕社齋槻、石上振神杉ナド云フモ、皆、是レニテ、後世、神社ノ地ニ、種種ノ木ヲ、神木トシテ齋ヒ居ルモ、其遺ナリ。神代紀、上廿八「眞坂樹」釋紀引ニ私記ニ「坂樹、刺ニ立於レ地、以爲ニ祭レ神之木ニ」古事記、上廿五「眞賢木」萬葉集、四十八「神樹ニモ、手ハ觸ルト云フヲ、ウツタヘニ、人妻ト云ヘバ、觸レヌモノカモ」字鏡四十五「杜、毛利、又、佐加木」(杜ハ、社木ノ合字ニテ、神樹ナリ、萬葉集、十二廿八「卯名手乃杜」同、七三十三「卯名手之神社」)

さかき (名) 〔榊〕 〔前條ノ語ガ、一木ノ名トナリシニテ、此樹、常緑ニシテ、葉ガ、霜ニ遇ヘドモ、枯レヌホドナレバ、專ラ、祭神ノ用トナレルナラム、榊ハ、神木ノ合字ナリ、倭名抄、序「祭樹爲レ榊」堅魚ヲ鰹トシ、交木ヲ校倉トスル類〕 樹ノ名。常緑木ニシテ、高サ二三丈、枝、葉、繁ク、葉ハ、楕圓ニシテ、尖端アリ、厚ク、深緑ニシテ、光澤アリ、香ナシ、夏、黃白色ノ小花ヲ開ク、子、熟スレバ紅ナリ。此枝葉、專ラ、神祭ニ用キラル、サレド、今多クハ、ひさかきヲ代用ス。楊桐。萬葉集、三廿七長歌「奧山ノ、賢木ノ枝ニ、シラガツク、木綿取リツケテ」後紀、十六、弘仁十四年十一月「大嘗祭、云云、標者、以レ榊造レ之」字鏡十五「榊、椥、佐加木」(祀木ノ合字) 倭名抄、十三三祭祀具「榊、佐加岐」寶基本紀「持ニ受自然之正氣、冬夏常青、故衆木之中、以ニ賢木一號ニ榊木一也」神樂歌、採物、榊「神垣ノ、三室ノ山ノ、佐加木葉ハ、神ノ御前ニ、繁リアヒニケリ」「佐加木葉ニ、木綿取リ垂デテ、誰ガ世ニカ、神ノ御前ニ、齋ヒソメケム」「霜八度、置ケドモ枯レヌ、佐加木葉ノ、立榮ユベキ、神ノ木根カモ」(根ニ、意ナシ) 「佐加木葉ノ、加ヲカグハシミ、覓メ來レバ、八十氏人ゾ、圓居セリケル」(各首、皆、葉ヲ詠ズ、其光澤ヲ賞スルコト、知ルベシ、かぐはしハ、萬葉集、十九六十二「香吉、親ノ御言」ナドアリテ、愛ヅベしノ意モアレバ、加モ、匂ニ、香氣ト、光澤トノ二義アルガ如ク、光澤ヲ云フナリ、榊ノ葉ニ、香氣ナシ、後ノ歌ニ、榊ニ就キテ、香氣ヲ詠ジタルハ、皆、神樂歌ノ誤解ニ基ヅケルナリト云フ)

さかき (名) 〔龍眼木〕 〔酒木ノ義カ、其實ノ乾シタルモノ、微ニ、酒臭アルガ如シ、龍眼ト云フ語原ハ、其條ヲ見ヨ〕 龍眼ト云フ樹ノ實ノ古言。此樹ハ、支那種ニテ、我ガ國ニハ、其ノ實ノ乾シタルモノノミヲ舶來ス。りゅうがんノ條ヲ見ヨ。字鏡五十二「龍眼、佐加木」本草和名、上五十五「龍眼、佐加岐乃美」倭名抄、十三三祭祀具「龍眼木、佐加岐、今按、龍眼者、其子名也」

さかき (名) 〔倒木〕 材ノ木理ヲ、倒マニ用キルコト。次次條ノ逆木柱ノ條ヲ併セ見ヨ。

さかきささ (名) 〔酒蟣〕 酒ノ上ニ浮ブ、萍ノ如キモノト云フ。黴ノコトナルベシ。倭名抄、十六三十酒醴類「文選注云、浮蟻、佐加岐散散、酒蟻在レ上、汎汎然如レ萍者也」(箋注本、二ツノ蟻ノ字、共ニ、蟣ニ作ル) 塵袋(弘安)四「文選ニハ、浮蟻、さかきささト讀メリ、酒ノ上ニ、物ノ、白ク浮キタルガ、しらみノ子ノ如クナル心ナルベシ、云云、蟻ガ和名ニモ、蟣ハ、岐佐佐、虱子也ト云ヘリ」

さかきばしら (名) 〔逆木柱〕 逆木ノ柱。柱ノ木ノ、本ヲ上ニシテ立テタルモノ。木目ヲ見別ケズ、心ツカズシテ、シタルガ、多シ、家鳴ナドスト傳フ。逆柱トモ云フ。閑田次筆、四「京、云云、伊勢屋、云云、家ノ、造作セシヨリ、病者、多ク出來シカバ、卜者ヲタノミ、筮サセシニ、コレハ、逆木柱ノ祟ナリト、云云」[illegible]綛輪(享保)いろは五十韻「殘ル手跡ハ、床ノ掛物、オソロシヤ、枕返シヲ、逆柱」倭訓栞、さかばしら「俗ニ、倒木ノ柱ハ、屋鳴ノ怪アリト云ヘリ、造宅經ニ、防レ有ニ倒木作レ柱、令ニ人家不吉ト見ユ」

さがぎれ (名) 〔嵯峨切〕 〔山城國、嵯峨ノ清涼寺ノ釋迦如來ノ戶帳ノ金襴ナリシヨリ名トスト云フ、大內義隆ガ、明國ヨリ舶載セシモノト傳フ〕 名物切ノ名。金襴ナリ、赤地、紺地ニシテ、入子菱角違ノ地紋ノ上ニ、桐唐草ヲ織リ出セリ。

さがく (名) 〔左樂〕 〔左方ニ用キル樂ノ義〕 唐樂ノ一名。(右方ニ用キル樂、即チ、高麗樂ニ對ス) 儀式、五、正月八日講最勝王經儀「于レ時雅樂寮獻レ座、各奏ニ樂一曲ニ」注「左唐樂、右高麗、諒闇之時撤レ樂」吉野樂書「舞人、モトハ一ニテ有ケルガ、大神公持ガ時ヨリ、左右ノ舞ヲ分テリ」

さかくさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔酒臭〕 酒ノ臭アリ。醺 字類抄「醺、サカクサシ」「生醉ガ、さかくさい息ヲ吐ク」

さかくせ (名) 〔酒癖〕 酒ニ醉フ毎ニ起ス癖。酒癖。泣上戶、腹立上戶、ノ類。「酒癖ノワルイ人」

さかぐら (名) 〔酒藏〕 〔米藏ナドニ對ス〕 酒ヲ納メ置クニ用キル藏。京都御役所向大概覺書、五「寶蓮院御佛殿、井、坊舍、云云、酒殿(東間半、五間)」

さかぐるひ (名) 〔酒狂〕 酒ニ醉ヒテ、心ノ狂フコト。酒狂。酗。義經記、三、書寫山炎上事「修行者ノさかぐるひハ、大衆鎭メ、衆徒ノさ

かぐろひヲバ、修行者ニ縮メヨ」

さかけ (名) 酒氣 酒ノニホヒ。酒ノ味。 [illegible]

さがげんじ (名) 嵯峨源氏 〔清和源氏ナドニ別チテ云フナリ〕 嵯峨天皇ノ諸皇子ノ、臣籍ニ列セラレ、源朝臣ノ姓ヲ賜ハリシ方方ノ稱。是レ、源氏ノ始ナリ、此後裔、多ク、一字名ヲ稱ス。 [illegible]

さかご (名) 逆子 逆産ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

さかごし (名) 坂輿 輿ノ一種、山坂ヲ行ク時ニ用ヰルモノ。四方輿ノ屋形ヲ除キテ、傍ノミニシタルモノナリ。 [illegible] ナンドニ、柱ナドアリテハ、障リ多カレバ、カクシテ用ウ、故ニ、カクハ名ヅケシナルベシ」和長卿記、明應七年六月朔日 [illegible] 坂輿六人、昇也、登山路次、同前」

さかごも (名) 酒薦 四斗樽ノ酒樽ヲ包ムニ用ヰル薦、酒ノ銘ナド、記ス。

さかさ (名) 倒 〔さかさまノ下略、さかしま、さかし〕 さかさまニ同ジ。 [illegible]

さかさか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 賢賢 〔賢しヲ重ネテ、意ヲ強ム(重重し、輕輕し)〕 甚ダ、賢シ。甚ダ、カシコシ。 盛衰記、三、實定嚴島詣事「事ニ臨レテ、さかさかしき事モ [illegible] ケレバ」同、廿六、平家東國發向事「下﨟ナレドモ、賢賢しき者カナト、思召シテ」

さかさことば (名) 倒語 一語ヲ中斷シテ、下ヲ、上ニスルコト。語路ノ便ニ起ルモノアリ、滑稽、たけっこう。山茶花、さざんくゎ。つごもり、つもごりナド、戯レニスルモノアリ、蛤、ぐりはま。逐電浪人、でんちく浪人。隱語ニ用ヰルモノアリ、千秋樂、くら。是れ、れさ。素人、[illegible]四郎ノ類ナリ。

さかさづの (名) 逆角 逆角ヲ見ヨ。

さかさばっつけ (名) 逆磔 さかばりつけノ條ヲ見ヨ。

さかさま (名) 倒 〔逆方ノ義、逆ナル向〕 (一)下ノ、上ニナリ、後ノ、前ニナル如キコト。サカシマ。サカサ。 古事記、上「其矢自[illegible]而、逆射上」 名義抄「倒、サカサマ」字類抄「逆、サカサマ」 (二)ウラウヘ。カヒサマ。ウラハラ。逆。 古今集、十七、雜、上「さかさまニ、年モ行カナム、取リモアヘズ、過グル齢ヤ、共ニ返ルト」 齋宮女御集「さかさまニ、言フトモ何カ、ツラカラム、カヘスガヘスモ、身ヲゾ恨ムル」

さかさまごと (名) 倒事 サカサマナル事。順序ノ、逆ヘル事。親ガ、子ノ葬儀・追善ヲ營ムナド云フ。 蜻蛉日記、下、上「ハテハ、云ハンコトノ無サニヤアラン、さかさまごとゾアル」

さかさまつげ (名) 倒睫 倒睫ニ同ジ。

さかし (名) 倒 〔さかしまノ下略、さかさま、さかさ〕 (一)サカシマ。サカサマ。「刀ヲさかしニ持ツ」 (二)逆子。逆産。

さか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 盛 〔盛ろ、榮ゆノ語根ヲ活用セシム(勞しき、穢しき、碎碎しき)興榮昇るナドノ意〕 (一)盛ンナリ。榮エタリ。 日本紀竟宴和歌、得二聖德太子一「斑鳩ノ、ナミキノ宮ニ、立テシ法、今ノ散加之支、御代ニ逢フカナ」 源、十九、藤裏葉「功德ノ方トテモ、勸ムルニ因リタマヒテ、イカメシウ、メヅラシウ、爲タマフ人ナド、昔ノさかしき世ニモ、皆アリケルフ」 著聞集、五、和歌「右大將賴朝、守山ニテ、狩セラレケル供ニ、北條四郎時政、候ヒケルガ、苺ノ盛リニナリタルヲ見テ、時政、連歌シケル「守山ノ、苺さかしく、ナリニケリ」大將、取リアヘズ「ムバラガ如何ニ、嬉シカルラム」 (二)勇シ。氣強シ。剛 竹取物語「弓矢ヲ取立テムトスレドモ、手ニ、カモナクナリテ、萎ヘカガマリタル中ニ、心さかしき者、念ジテ射ムトスレドモ、外ザマヘ行キケレバ」 源、一、桐壺「空シキ御軀ヲ見ル見ル、云云、今ハ亡キ人ト、ヒタブルニ思ヒナリナムト、さかしう宣ヒツレド、車ヨリ落チヌベウ、惑ヒタマヘバ」 同、十四、澪標「病ニ因リテ、位モ避リテシフ、イヨイヨ、老ノ積リソヒテ、さかしき事侍ラジ、ト承ケヒキ申シタマハズ」

さか・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 賢 〔割くヲ、形容詞ニシタル語ナルカ、理解スル意(なげく、なげかし。いつく、いつかし。なつく、なつかし)〕 (一)智、深シ。聰シ。カシコシ。愚ナラズ。 崇神紀、十年九月「聰明叡智、能識二未然一」 仁德紀、十二年八月「賢、此云二左河之一」 推古紀、三十二年四月、百濟觀勒僧、表上以言「我王、聞二日本天皇賢哲一而、貢二上佛像一」 字鏡七「慧、佐加志」 古今集、序「心ヲ見タマヒテ、さかし、愚ナリト知シメシケム」 (二)好シ。 土佐日記、十二月廿五日「倭歌、主モ、客モ、言ヒアヘリケリ、云云、異人人ノモアリケレド、さかしきモ無カルベシ」 榮花物語、十、日蔭蔓「御心ノ、醉マセタマヘレバ、物ノアハレ、アリサマヲ知ラセタマハヌト、さかしうゾ聞エサセケル」 (三)サカシラナリ。カシコダテナリ。コザカシ。 萬葉集、三ノ三十「賢シト、物言ハムヨリハ、酒飲ミテ、醉泣スルシ、マサリタルラシ」 字鏡七「[illegible]、佐[illegible]志」 源、三十四、下、若菜、下「さかしきヤウニ思サレムト、憚マレテ、ハカバカシクモ、エ聞エタマハズ」 發心集、八、第十三條、僧、近江國ニテ、網ニカカレル鯉ヲ、憐ミ買ヒテ放ツ、鯉、僧ノ夢ニ、翁トナリテ現レ、鯉ノ身ヲ受ケテ、得脱ノ期ヲ知ラズ、云云、タマタマ、賀茂ノ供祭ニナリテ、云云、苦患ヲ免レムト、ツカマツリツルヲ、さかしき事ヲシタマヒテ、又、畜生ノ業ヲ延ベタマヘルナリ、ト云フトナム、見タリケル」

さかし (句) 然 〔然ニ、感動詞ノかしヲ添ヘテ云フ、さやうごかしノ意〕 諾フニ發スル語。然リ。ソノトホリ。サヤウ。 宇津保物語、菊宴七「春宮ヨリハ、ナホ聞エタマフヤ、さかし、サレド、ヤンゴトナキ人、多ク侯ヒタマフ」 源、五十、浮舟「イカデカ知リ侍ラムト申ス、さかし、昔モ、一タビ、二タビ、通ヒシ道ナリ」

さが・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 嶮 險 〔倭訓栞、さがし「險ヲ云フ、坂ヨリ出デタルニヤ」(功しき、寶しき、鬼しき)字鏡ニ、佐加志ト、清音ヲモ載セタリ、倘、研究スベシ、漢語ノ嵯峨ト、暗合ス〕 坂路、嶮シ。嶮岨ナリ。 嵯峨 仁德紀、四十年三月「梯立ノ、佐餓始[illegible]山モ、我妹子ト、二人越ユレバ、安蓆カモ」 字鏡十「嶮也、峻也、峨也、佐我志」

さかしが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 賢 〔賢し、及、賢良ノ條ヲ見ヨ〕 賢シキ狀態ヲス。又、さかしらがる。カシコガル。利口ブル。 源、三十四、上、若菜、上「[illegible]レニモ、カヤウニ賢ガマシキ事、蔑さかしがり聞エサセタマヒソ」 同、四十六、總角「ケヤケカニ大人ビテモ、イカデカハ、さかしがりタマハム」 同、四十二、紅梅「母君ゾ、タマサカニ、さかしがり聞エタマフ」 同、五十、浮舟「カカル御アリサマヲ、御覽ジ知ラヌヨ、ナド、さかしがる人モアレド」

〔さかしだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 賢立 〔たつハ、いでたつ、おもひたつ、ナドノたつナリ〕 賢シ氣ニ、フルマフ。カシコダツ。カシコブル。 紫式部日記「大學ノ博士、さかしだち、サイラギ居タリ」 十訓抄、上、第四、第三條「佐實ト云フ人、さかしだちケル本性ニテ、イナヤ、武士モ、女ノ方ニハ、云云、仲政、イカニ諷ルトモ、ソレ障ラジ」

〔さかし-びと (名) 賢人 〔細し矛、空し車、惡し樣ナドト、同用法ナリ、賢女、同ジ〕 賢シキ人。賢人。 天智紀、八年十月「時賢聞而歎曰、此之一言、竊比於往哲之善言矣」 源、二、帚木廿「此さかし人、ハタ、輕輕シキ物怨ジスベキニアラズ」 同、四十六、總角四十「我レさかし人ニテ聞エムモ、イトツマシケレバ」

さか-しほ (名) 酒鹽 〔しほハ、入ノ義〕 物ヲ煮ルニ、味ヲ添ヘムトテ、酒ヲ加フルコト。 尤草子(慶長)さす物の品品「魚鳥ノ汁ヘハ、さかしほヲサス」

さか-しほ (名) 逆潮 大洋中ノ大潮流ノ方向ニ對シテ、其反對ノ方向ニ流ルル潮流。 其逆潮ニ對シテ、大潮流ヲ、眞潮ト云フ。日本東海中ニ、東北ニ流ルル暖流ノ黑潮ニ反對シテ、北方ヨリ流レ來ル寒流ノ親潮ナド、逆潮ナリ。

〔さか-しま (名) 倒 〔逆方ノ轉(よこさま、よこしま)〕 (一)下ナルガ、上ニナルコト。サカサマ。サカサ。 神代紀、下四「拔十握劍、倒植於地」 字類抄「倒、サカシマニ」 (二)理ニ、反ルコト。逆 背 宇津保物語、嵯峨院十六「此宮一人ニ因リテナム、數多ノ親ニモ怨ミラレ奉リヌルシタイハ、さかしまナリヤ」

〔さかしま-ごと (名) 倒語 さかさごとばニテ、軍中ニ用キテ、合詞トセシモノナルベシト云フ。或ハ、倒語ト讀ムベク、敵ヲ滅ス語ニテ、諷歌、卽チ、倒語ナリト云フ。 神武紀「道臣命、帥大來目部、奉承密策、能以諷歌倒語、掃蕩妖氣、倒語之用、始起乎茲」 私記「左加志末古止」(諷歌ハ、此紀中ニアル、數首ノ大御歌ナリ、そへうたノ條ヲ見ヨ) 日本書紀通證「謂下攜顚倒其言、而欺中彼敵上、喩我卒、此軍中之用也、故、古事紀亦曰、能爲方便誘欺防拒、而令治平」 方術源論(伴信友全集、五)「倒語ハ、たふしごとト讀ムベシ、古訓、さかしまごとトアレド、タダ、字ニナヅミタル訓ミザマニテ、心得ガタシ、大祓詞ニ、畜仆志、云云、此倒語モ、虜ヲ倒シ滅ス語ノ由ニテ、此時ノ諷歌、卽チ、其倒語ナリ、上ニ、以諷歌倒語ト記シテ、下ニ、倒語ノ用、云云、ト結メラレタルヲ思フベシ」

〔さかし-め (名) 賢女 〔賢人ノ語原ヲ見ヨ〕 賢シキ女。賢女。 古事記、上、八十長歌「遠遠シ、越ノ國ニ、佐加志賣ヲ、アリト聞カシテ」 古言譯通(鹿持雅澄)「夏、さかし「肥前國風土記ニ、此婦如是賢女、故以欲爲國名、因曰賢女郡、今、謂佐嘉郡訛也」

さかし-ら (名) 賢良 〔賢しトノミ云ヒテ、さかしらナリ(賢しノ條ヲ見ヨ)さかしがるヲ、さかしがるトモ云フ、らハ、意味ナク添ヘタル辭ナリ、其條ヲ見ヨ、わびしら、悲しら、淋しら(寧きろ、畏きろ)ナド、同ジ〕 (一)〔サカシダツコト。コザカシキコト。利口ブルコト。カシコダテ。 萬葉集、三、三十「默然居リテ、賢良スルハ、酒飲ミテ、醉泣スルニ、ナホ若カズケリ」 伊勢物語、四十段「昔、若キ男、異シウハアラヌ女ヲ思ヒケリ、さかしらスル親アリテ、思ヒモゾ附クトテ、此女ヲ、外ヘ追ヒヤラムトス」 六帖拾遺、河海抄、關屋「秋ノ野ニ、行キテ見ルベキ、花ノ色ヲ、誰ガさかしらニ、折リテ來ツラム」 (二)差出口。 著聞集、十六、興言利口「或人ト、雙六ヲ打チケルニ、越前房ト云フ僧、來リテ、見證ストテ、サマザマノさかしらヲシケルヲ」 禮記、曲禮、上篇「長者不及、毋儳言」

ざ-がしら (名) 座頭 歌舞伎芝居、一座ノ役者ノ長。 劇場新話(文化)下、座頭之事「座頭ハ、至テ重ク取扱フ事ニシテ、樂屋一式、總役者ノ支配役故、藝道ノ功ヲ積テ、自然ト、此役ニ至ル也、云云、年功ナクシテ、座頭ニ至ル者ハ、江戶、市川團十郎一人ナリ、云云、近來、初代中村仲藏ハ、勘三郎秀鶴ノ弟子ニテ、藝術執行ノカヲ以テ、中役者ヨリ、其名ノ盛ニテ、座頭ニナリシハ、當代、一人也」

〔さかしら-が・る (動) 賢 さかしがるノ條ヲ見ヨ。

〔さ-がしり (名) 其尻 さがかみヲ見ヨ。

さか-しろ (名) 酒代 酒ヲ買フ代ニトテ、與フル錢。(雇夫ナドニ)酒代。酒手。 酒錢 酒價

〔さか・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 咲 〔咲くノ未然形ノさかニ、使役ノ助動詞ノすノ添ハリタルナレド、姑ク、一成語ト見ル〕 咲クヤウニス。咲カシム。 後拾遺集、一、春、上「梅ガ香ヲ、櫻ノ花ニ、匂ハセテ、柳ガ枝ニ、さかせテシガナ」 源、十三、明石十「入道ノ領ジ占メタル所所、海ノ面ニモ、山隱レニモ、時時ニツケテ、興ヲさかすベキ渚ノ苫屋」 細流抄「可催興ノ心モアリ、コレ、榮やかすナリ、花ノさくト云フモ、是レナリ」

〔さが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 搜 〔さぐるノ他動、にぐる、にがす〕 サグリ、求ム。タヅヌ。アサル。 宇津保物語、忠杜十六「流人、入リマウデ來テ、云云、裝束ナドモ、皆、さがし取リテ、云云、イササカナル調度ナド、皆、あさり取リテ、マカリニシカバ」 枕草子、十、百三十三段「萬ノ物ヲ、カヘスガヘス見タルニ、さがし出デタル、イト嬉シ」 紫式部日記「古キ反古、引キさがし」 榮花物語、五、浦浦別「疑ハシキ所ヲモ、さがさセタマフニ」

さか-ずり (名) 逆剃 次條ヲ見ヨ。

さかぞり (名) 逆剃 〔さかずりトモ云フハ、音轉ナリ(髮剃、かみすり。遊ぶ、あすぶ)剃るノ條ヲ見ヨ〕 剃刀ニテ、月代、髭ヲ剃ルニ、毛ノ生並ナラデ、逆ニ剃ルコト。サカズリ。 嫗山姥(正德、近松作)二「中剃、逆剃、コソゲ剃」

さか-だい (名) 酒代 さかしろニ同ジ。 酒價 酒錢

さかだち (名) 逆立 サカダツコト。サカサマニ立ツコト。倒立 「さかだちヲシテモ、追ヒツカヌ」

さかだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 逆立 垂ルルモノナド、逆ニ、上ヘ聳エ立ツ。 倒立 孕常盤(正德、近松作)二「天ノ逆鉾、さか立ツタル一滴ガ、凝リ固マッテ」「髮、さかだつ」

さか-だな (名) 酒店 酒ヲ賣ル商家。酒店。酒屋。 酒肆 酒鋪

さか-だる (名) 酒樽 酒ヲ貯フル樽。 太平記、廿九、松岡城周章事「大イナル酒樽ニ、酒ヲ湛ヘ」 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)四「イヤ、ソレハ人デハ無イ、酒樽ヂャ」

サ-かつ (名) 沙喝 〔沙彌ハ、喝食ノ服ヲ着ルヨリ、稱スト云フ、各條ヲ見ヨ〕 禪寺ノ語。雛僧ノ、喝食ヨリ稍長ジテ、十二三歲以上ノ者。(喝食ハ、八九歲以上) 空華日工集(應安、義堂)四「佛誕日、云云、每至佛生之辰、修命沙喝、以雜花、裝飾浴佛之亭」

さか-づき (名) 杯 盃 巵 盞 〔酒坏ノ義〕 (一)盞。酒ヲ盛リテ飮ムニ用キル、淺クシテ小サキ器。古ヘハ、かはらけヲ用キキ、今モ、神供、儀式ニハ、用キル。今、常ニハ、專ラ、木製、漆塗ナルヲ云フ。 古事記、上、四十一「大御酒坏」 萬葉集、五、十八「佐加豆岐」 倭名抄、十六、二十瓦器類「盃、杯、巵、盞、佐賀都木」 (二)

月ノ異名。倭訓栞、さかづきノ後拾遺集ニ「メヅラシキ[illegible]ニハ、[illegible]コソ、千代モメグラメ」[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ツ、ウツリユク、白ヒノ[illegible]ニ、[illegible]さかづき[illegible]、十六、[illegible]「影落二杯中一五老峰」ノ意ナリ」（三）次次條ノ（二）ヲ見ヨ。

さかづきあらひ（名）[杯洗] 獻酬ノ時ニ、杯ヲ洗フ[illegible]器。杯洗。

さかづきごと（名）[杯事] （一）事ハ、所行ナリ」（一）二人、互ニ、杯ヲ取交シテ、酒ヲ飲ム儀式。約束ヲ固ムルニスル事ナリ。（二）特ニ、結婚ニ、新夫、新婦、杯ヲ取交ハス式。婚禮。略シテ、さかづき。[illegible]合巹　[illegible]ノさかづき　さかづきごと[illegible]」

さかづきだい（名）[杯臺] 古名、サカヅキノサラ。杯ヲ載セテ、客ニ勸ムルニ用ヰル器。圓クシテ、底ニ、高臺ヲツケタルガ、多シ、又、方形ニシテ、掛盤ノ如キモアリ。

さかづきながし（名）[杯流] 川水ニ木杯ヲ流シテ、興ヲヤルコト、曲水ノ宴ニ擬ヘツキシモノカト云フ。江戸ニテハ、元祿ノ頃、紀伊國屋文左衞門、隅田川ニテ行ヘリト傳フ。[illegible]

さかづきのさら（名）[杯盤] 〔後盤ノ條ヲ見ヨ〕前前條ノ、杯臺ノ古名。伊勢物語、六十九段「女ノ方ヨリ出ス盃のさらニ、歌ヲ書キテ出シタリ、[illegible]レバ、[illegible]ノ、[illegible]レ[illegible]レ、[illegible]、江ニシアレバ[illegible]ト書キテ、末ハ無シ、其盃のさらニ、續松ノ炭シテ、歌ノ末ヲ書キツク「マタ[illegible]ノ、[illegible]」[illegible]」

さかづく（名）[酒造] 〔造ノ條ヲ見ヨ〕酒ヲ醸ケテ、時貢事スルコト。侍ケタル者ハ、飲マシメラル。諸酒　遊仙窟「[illegible]ニ[illegible]一[illegible]、[illegible]ニ[illegible]酒」

さかつこ（名）[造酒兒] 大嘗祭ノ時、齋場ニテ、神饌ノ御酒ヲ釀ミ成スヲ掌ル少女。齋田地ノ者ヲト定シテ、用ヰラル。踐祚大嘗祭式「ト二定田、及、齋場雜色人等、造酒兒一人、禰宜卜部ハ、以二當郡大少領女、未レ嫁ト、卜食者ニ充レ之」[illegible]儀式「造酒童女、先[illegible]御飯稻二」

さかづの（名）[逆角] さかさづのニ同ジ。常留ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

さかつぼ（名）[酒壺] 酒ヲ貯フル壺。萬葉集、三ニ十「ナカナカニ、人トアラズハ、(アラムヨリハ)、酒壺ニ、成リニテシガモ、酒ニ染ミナム」

さかつぼせん（名）[酒壺錢] 足利時代、酒造ニ課シタル稅金。大乘院寺社雜事記、[illegible]年六月廿六日、[illegible]不[illegible]依二[illegible]之[illegible]、[illegible]年不[illegible]、六[illegible]貫文分、七月上旬、可[illegible]二[illegible]上[illegible]」(古[illegible])

さかつら（名）[酒面] 〔さかつらノ急呼、さかづらがんノ語原ヲ見ヨ〕酒ヲ飲ミテ、顔ノ赤クナレルモノ。

さかつら（名）[逆頰] 〔つらトハ、頰ノ古言ナリ〕（一）頰鬚ノ、逆立チタルモノナルベシ。もみあげノ條、參見スベシ。[illegible]下、第九[illegible]「[illegible]人、[illegible]生逆頰ハ下著[illegible]掛、上著[illegible]」[illegible]、廿九、大森合戰事「逆頰ノ赤キニ、一尺計リノ白髪ヲ[illegible]エテ」（二）次條ヲ見ヨ。

さかつらえびら（名）[逆頰箙] 〔前條ヲ見ヨ〕箙ノ一種。熊、又ハ、猪ノ毛皮ニテ包ミタルモノ、其毛並ヲ、逆ニ、上ヘ向ハシム、熊、猪ハ、猛ク強キ獸ナル故ニ、軍陣ニ用ヰル、式正ノ物トシテ、大將ノ用トス。（貞丈雜記、十二）略シテ、さかつら。庭訓往來(元弘)六月「逆頰箙、胡籙、石打征矢」[illegible]記、五、忠信吉野山合戰事「丈、六尺許ナル法師、云云、さかつらえびら、矢、[illegible]、尋常ナルニ、云云」易林本節用集(慶長)下、器財「逆頰箙」[illegible]念[illegible]抄(群書類從)「執柄家、自二小隨身一用二逆頰一云云、殿上人ノ[illegible]ハ、葛、公卿以後、逆頰也」七十一番職人歌合(文安)五十四番、箙細工「[illegible]ノ内ニ、[illegible]ケ、[illegible]レバ、さかつらニコソ、月モ見エケレ」

さかづらがん（名）[酒面雁] 〔さかづらハ、酒面ナリ、顔ニ赤ミアレバ云フ〕雁ノ一種。大キサ、及、羽色、鴻ニ似タレバ、さかづらひしくひトモ云フ。但シ、嘴、黒ク、頭上ヨリ頸後ハ、茶褐色ニテ、正中ニ、黑條ヲ通ジ、顔部ハ、赤ミヲ帶ブ、おべりあ東部ヲ生産地トス、云フ、冬時、我ガ國ニ來ル。倭訓栞、さかつらノ雁ニ云フハ、云云、鴻ニ似タリ、東國ニアリト云ヘリ」

さかづらひしくひ（名）[酒面鴻] 前條ヲ見ヨ、

さかづる（名）[坂弦] 〔松坂弦ノ略〕弓弦ノ、伊勢國、松坂ノ地ヨリ作リ出シタルモノ。尺素往來(文明)「塗籠籐、十所籐、丼、側白木等、作二懸于坂弦、簡弦二」七十一番職人盡歌合(文安)十六番、弦賣「夕暮ノ、山ノ端見レバ、まつ坂ヤ、つるつるトコソ、月ハ出デケレ」同「つる召シ候ヘ、ふせづるモ候、せきづるモ候」

さかて（名）[酒手] 〔酒直ノ約、あてハ、あたひナリ、酒直ト云フ語モアリ〕酒代ニ同ジ。酒價　新撰樂記「酒直」武功雜記「荒木又右衞門、酒ヲ買テ飲テ、上ニ著タル羽織ヲ脱テ、別ニ酒手無シトテ、酒屋ニ取ラセ、云云」

さかて（名）[逆手] （一）刀ナド、逆ニ持ツコト。宇治拾遺、二、十一條「刀ヲ、さかてニ拔キモチテ」（二）〔あまのさかてノ條ヲ見ヨ。（三）次條ヲ見ヨ。

さかてなげ（名）[逆手投] 相撲ノ手ノ名。相手ヲ突キ立テ、相手ノ堪ヘテ突キカヘス手ヲ、逆ニ取リテ、背負フヤウニシテ投グルナリ。略シテ、さかて。新撰樂記、[illegible]「六君夫、高名[illegible]也、云云、内搦、外掃、云云、逆手[illegible]上手也」

さかどうじ（名）[酒杜氏] サケツクリ。とうじノ條ヲ見ヨ、

さかどげ（名）[逆刺] 刺ノ、上向ニ刺サリタルモノ。

さかどの（名）[酒殿] 供御ノ御酒ヲ釀ス所、造酒司ノ内ニアリキ（さかみかのかみノ條ヲ併セ見ヨ）又、神社ニモ設ケラレテアリキ。又、新嘗祭ノ時ニモ建テラレタリ、[illegible]名式、上、造酒司、酒殿神社、二座」造酒司式、[illegible]、白、黒、二[illegible]ニ木工寮造ニ酒殿一字、臼殿一字、並二[illegible]」[illegible]、酒殿「佐加止乃ハ、今朝ハ莫掃キソ、舍人女ノ、裳引キ裾引キ、今朝ハ掃キテキ、今朝莫掃キキ」

さかとんぼ（名）[逆蜻蛉] さんぼがへりニ同ジ、かへりうち(反打)ノ條ヲ見ヨ。

さかどり（名）[坂鳥] 鳥ノ、朝ニ、棲ヲ出デテ、餌ヲ求食ルナドニ、山ノ坂路ヲ飛越ユルヲ云フ語。萬葉集、一、[illegible]皇子宿二于安[illegible]野一時、柿本朝臣人麻呂作歌、長歌「[illegible]朝、フス、日ノ皇子、云云、眞木立ツ、荒山道ヲ、云云、坂鳥ノ(如ク)、朝越エ座シテ、云云」

さかな（名）[肴] 〔さかハ、酒ナリ、なハ、食用トスル魚菜ノ總稱。其條ヲ見ヨ、國語、晉語「飲而無レ殽」注「殽、俎實也」廣韻「凡非レ穀而食者曰レ肴、通作レ殽」〕（一）酒ヲ飲ム時、副食トスルモノ。魚、

菜ノ、調理シタルモノ、其外、スベテヲ云フ。今、專ラ、魚ヲ、さかなト云フニ別チテ、酒ノさかなトモ云フ。下物 蘇軾、後赤壁賦「有酒無肴」倭名抄、十六、酒器類「肴、佐加奈」伊勢物語、六十段「瓦器取リテ、出シタリケルニ、さかなナリケル橘ヲ取リテ」催馬樂、我家「御左可奈ニ、何善ケム、鰒、榮螺カ、甲贏善ケム」 大和物語、下「堅イ鰹、さかなニシテ、酒ヲ飲マセテ」 夫木抄、廿二「篠原ヤ、佐野ノ莖立、さかなニテ、旅行ク人ヲ、強ヒ止メバヤ」 (二)魚ノ別名。魚肉ハ、肴ニシテ、最モ美味ナレバ、其名ヲ專ラニスルナリ、獸ノ猪ハ、其肉、最モ美ナレバ、志志ノ名ヲ占メタルガ如シ。魚 「魚市」「魚屋」 (三)さかな舞ノ條ヲ見ヨ。

〜さがな (形) [不良] さがなしノ條ヲ見ヨ。

さかないち (名) [魚市] うをいち(魚市)ニ同ジ。

さかなうり (名) [魚賣] 魚賣ニ同ジ。イヲウリ。

〜さがな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [不良] [性無しノ義(さがノ條ヲ見ヨ)然アルベキニ背ク心・性、惡ノ意ナリ」 良カラズ。マサナシ。ワロシ。 垂仁紀、三十二年七月「君王陵墓、埋立生人、是不良」 推古紀、十六年六月「其大國客等聞之、亦不良」 神代紀、上十「性惡、常好哭恚」 鎭火祭祝詞「心惡子」 神代紀、上四「如何、婦人反先言乎、事既不祥」 神功稱制前紀「人白晝晦、殺之不祥」 宇津保物語、藏開、下五十四「世ノ中ニ、ユユシクさがなき事ヲシツツ、己ガ狀ノ賤シキヲバ知ラデ、泣キ恨ミ」 大和物語、下「叔母ノ御心ノ、さがなく、惡シキ事ヲ言ヒ聞カセケレバ」 終止形ヲ、語根ノミニテ用キラル。(アナ鈍、アナ喧ノ類) 源、五十二、手習六「アナ、さがなノ木魂ノ鬼ヤ」 宇津保物語、藏開、上十九「アナさがな、顯ナルニ、ト宣ヘバ」

さかなだな (名) [魚店] 魚店ニ同ジ。魚ノ棚。サカナヤ。

さかなまひ (名) [肴舞] [酒饗ニハ、一獻シテ、肴ヲ勸メ、二獻シテ、又、肴ヲ勸メ、三獻以上モ、同ジ、其肴ヲ代表シテ、小舞ヲ舞フナリ」 小舞ノ(一)ニ同ジ。(其條ヲ見ヨ)酒宴ノ勸杯ニ、立チテ舞フニ云フ。略シテ、さかな。又、酒盛舞。 狂言記、笠下「酒盛シテ遊ビマセウ、云云、一ツ、さかなヲ致サウ」(註、何ニテモ、小舞ヲ舞フ) 同、棒縛「肴ニ、何ゾ、小舞ヲ舞ヘ」 同、二千石「謠ヒ、舞ヒ、酒もり舞、遊バッセル」 古今夷曲集(寛文)一、春「さかな舞ノ、扇子ノ風モ、イヤデ候、今ヲ盛リノ、花見酒ニハ」

さかなみ (名) [逆浪] 逆卷ク波。流レニ逆ヒテ打ツ浪。逆風ニ起ル浪。逆浪。 太平記、八、三月十二日合戰事「駿馬ニ鞭ヲ進メ、張ッテ流ルル瀬枕ニ、逆波ヲ立テテゾ游ガセケル」

さがなめ (名) 不良眼 [さがなき眼] 智ノ足ラヌ眼力。 大鏡、下、道長「翁等ガさがなめニモ、常人トハ、見エサセタマハザメリ」

〜さがなもの (名) [不良者] 不良キ者。善カラヌ者。 源、二、帚木二十「此さがなものヲ、打解ケタル方ニテ、時時、隱ヘ見侍リシ程ハ」 同、三十八、夕霧三十六「イト、鬼鬼シウ侍ルさがなものヲトテ」

ざがなもの (名) [座金物] 鎧ノ胸板、冠板、菱縫板ナドニ、打チツケタル金物。花、葉、蝶、鳥、龍の丸、ナドヲ、透彫ニス。

さかなや (名) [魚屋] 魚店、魚賣ニ同ジ。魚戸

さがにく・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [性憎] [さがハ、世ノならはしナリ、さが(性)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ」 ロサガナシ。クチヤカマシ。 拾遺集、十七、雜秋「ココニシモ、何匂フラム、女郎花、人ノ物言ヒ、さがにくき世ニ」 源、二、帚木三「物言ヒさがなサヨ」

さがにしき (名) [佐賀錦] 肥前ノ佐賀藩士ノ家ノ婦女ノ、手織ニシタル錦。五彩ノ絲ヲ用キ、精巧、華麗ナルヲ以テ、名アリ、袱紗、袋袱、半襟、帶締、手柄ナド、種種、織出セリ。

さがにんぎゃう (名) [嵯峨人形] [山城國、嵯峨ニ、名人アリシヨリ名トス、ト云フ] 木彫ノ人形ニ、美麗ニ彩色シタルモノ。惠比須、大黑、布袋、唐子、ナド、多シ。

ざがね (名) [座金] 調度、器具、長押、妻戸、ナドノ飾リニ打テル、突出シタル金物ノ座トスル金物。丸座、菊座、六葉、ノ類アリ。

さかねぢ (名) [逆捩] 詰リカケラレタルヲ、逆寄セニ、此方ヨリ、詰リカクルコト。逆襲「さかねぢヲ喰フ」

さかのぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [溯] [遡] [泝] [逆上るノ義] (一)流レニ逆ヒテ、行ク。源ノ方へ、ノボル。(舟ニ、魚ニ) 神武紀、三「遡流而上、徑至河內國草香邑、靑雲白肩之津」 萬葉集、廿四十「堀江ヨリ、水脈左可能保流、楫ノ音ノ(序)、間無クゾ奈良ハ、戀シカリケル」 (二)既往、又ハ、根本ニ、モドル。「最初ニさかのぼッテ說ク」

さかば (名) [逆羽] モヂレタル羽。 月詣集、六、戀、下「鵰鷹ノ、さかばノワカレ、搔キナホシ、アリシカサネニ、ナス由モガナ」

さかば (名) [酒葉] さかばやしヲ見ヨ。

さかばうき (名) [酒帚] [酒ノ異名、さうしうさう(掃愁帚)ニ因メルカ(其條ヲ見ヨ)酒屋ノ看板ニ、酒林ト云フモ、アリ」 酒屋ノ軒ニ、帚ヲ釣リオキテ、看板トセルモノナルベシ。 奇異雜談集(天文)一、客僧、女ニナリシ條「一僧、同道シテ、他所ニ行ク、路次ノ小屋ニ、酒帚アリ、二人寄リテ、濁酹ヲ飲ム」

〜さかばえ (名) [榮映] サカバユルコト。 萬葉集、十八、橘長歌「霜置ケド、其葉モ枯レズ、常磐如、彌佐加婆延ニ、然レコソ、神ノ御代ヨリ、云云」

〜さかはぎ (名) [逆剝] いきはぎノ條ヲ見ヨ。

さかばしら (名) [倒柱] 倒木柱ヲ見ヨ。

さかばす (名) [逆蓮] 蓮花ヲ、倒サマニシタル形ノ彫刻物。寺院ナドノ勾欄ノ親柱ノ頭ナドニ、裝飾トシテ用キラル。

さかばた (名) [酒旗] 酒店ニテ、看板ニ立テ置ク旗。酒帘 和漢三才圖會(正德)三十二、家飾具「帘、音廉、左加波太、酒家望子也」(節文)

さかはたもの (名) [逆機物] [はたものノ條ヲ見ヨ] 逆磔ニ同ジ。 甲陽軍鑑、十七、品第四十七、むかさ與一郎公事之事「むかさハ、侍道ノ穿鑿モ知ラズ、云云、信玄ガ家ニ、アノヤウナル者アリヤト、他所ノ批判ニ乘テモ、是非ナシ、所詮、見懲ノタメニ、上ノ城戸ニ、逆機物ニアゲヨトテ、武かさ與一郎、武士道無穿鑿故、機ニアガルナリ」 增城源八、家ヲ闕所仕リ、云云、搦メ捕リ、諸侍ヘノタメニ、逆機ニアゲヨトアル」

さかばっつけ (名) [逆磔] さかばりつけノ條ヲ見ヨ。

さかはづれ (名) [酒外] 酒宴ノ列席ニ、漏ルルコト。 男作五雁金(寛保、竹田出雲)「酒はづれセヌヤウニ、二人モアガレ、ササ、爰へ」

〜さかばへ (名) [酒蠅] さけのはへノ條ヲ見ヨ。

さかばん (名) [酒番] [茶番ナド、同趣]

酒宴ノ時ナドニ、厨ニ居テ、酒ノ燗ヲ勤ムル者。燗番(カンバン)。

さかばん (名) 嵯峨版 山城國、嵯峨ノ臨川寺ニテ出版セシ書物ノ稱。足利時代ナルガ、多シ。又、嵯峨本トモ稱シタルガ如シ。蔭涼軒日錄、永享七年十月十五日「法華經御版、嵯峨本、開板之事、以上中下三箏、以備之」

さかばやし (名) 酒林 〔三輪ノ枕詞ニ、味酒(ウマザケ)ト云フ、大和國ノ三輪神社ハ、酒ノ神ニテ、其社地ニ、神杉、志るしの杉、ト云フ、アリ、味酒ノ標トシタルナリ、漢語、酒望子ニ就キテ、東雅、一、神祇、神酒ノ條ニ「今モ、酒家ノ望子ニ、杉ノ葉ヲ用ユル如キ、云云、ソレヲ、さかばやしト云フ、はやしハ、望子(バウ)ノ訛レルナリ」ト云ヘルハ、學者說ナリ、又、酒屋ノ看板ニ、さかばた、さかばうきモ、アリ〕 酒店ニ、杉ノ葉ヲ束(ツカ)ネテ、大キナル毬ニ作リ、檐(ノキ)ニ繫ケテ、看板トスルモノ。又、酒葉(サカバ)。酒望子。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)五「下戶一人、まりより、さかばやしノ前ニ當リ、云云、内ニ入リ、酒ニカヘ、ヨキ燗ニアツラヘ、云云」本朝武家評林、享保七、六升門ノ酒當(サカバヤシ)ニハ、往來ノ人ノ喉ヲ引クゾカシ、俗ニ、酒はやし、酒店ノ軒ニ、杉ノ葉ヲ、丸カニ束ネテ、ソレヲ、酒はやしトモ、酒葉トモ云フ、一休和尚ガ家集ニ「極樂ヲ、イヅコニアリト、思ヒシニ、酒葉立テタル、よあ作ガ門」トアル、是レナリ、コハ、モト、三輪ノ杉ヨリ出デタリト云フ、昔ハ、酒店ノ門毎ニアリシヲ、今ハ、田舍ニテモ、マレマレナラデハ、アラヌナリ」一本「極樂ハ、イヅクノ里ト、タヅヌレバ、杉ノ葉立テル、又六ガ門」

さかばゆ ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 榮映 榮エ、映(ハ)ユ。サカユク。續日本紀、十三年九月、段歌「紅顏(アカラ)レル少女、イザ佐伽(サカ)バエ(?)ナ」(たハ、希望ノ意ヲ云フ感動詞)

さかばり (名) 逆鉤 つりばりノ條ヲ見ヨ。

さかばりつけ (名) 逆磔 〔ばりつけヲ、ばっつけトモ云フハ、急呼スルナリ〕 サカハタモノ。磔ヲ逆(サカシマ)ニシテ行フ磔(ハリツケ)。サカバッツケ。サカサバッツケ。太閤記、五、山路將監謀反露顯ノ事「山路ガ母、妻、子、共ニ七人、云云、逆張付ニカケテ、山路、コレヲ見ヨト、高聲ニヨバハリ」良將達德抄、八、小田原陣ニ、秀吉、花房助兵衞ノ惡口ヲ怒リテ「早早、召捕リ、逆磔ニアゲヨ」切支丹宗門來朝實記、寬永三年「改宗ノ者ハ御助被レ成、轉バヌ者ハ、嶋山ニテ市屋七郎兵衞、逆はりつけニ」(古事類苑) 國性爺後日合戰(正德、近松作)三「其後、彼奴(キャツ)ハ、逆さ磔け」

さかひ (名) 境界 堺疆 〔境ふノ名詞形、此語、坂合(サカアヒ)ノ約ナリト云フ說モアレド、境界ハ、山ニ限ラズ、平地ニモアリ〕 (一)土地ノ區劃(クギリ)。シキリ。境(サカヒ)。境界(キヤウカイ)。天武紀、下、十二年十二月「諸國之境堺(サカヒ)」……上、松浦渇、唐土カケテ、見渡セバ、さかひハ八重ノ、霞ナリケリ」 (二)物事ノ、ワカレメ。キハ。際。……さかひニ、春ノさかひニ、……ユレバ」……ケラム、夏ノさかひニ、隔テテ、暮レユク春ヲ、止メテシガナ」……上、……上「今ナム、此世ノさかひヲ、心安ク行キ離ルベキ」「生死ノさかひ」 (三)其土地ノ內。境土。……四十「何カ、都ノさかひヲ、マタ見ムト」莊子、山木篇「入二其竟一從二其俗一」集韻「竟、與レ境同、界也」

さかひ (接) 〔境ノ義ニテ、書狀文ニ、何何ニ候間(アヒダ)ト用キルト、同ジカルベシ〕 ニ、因リテ。ガ、故ニ。デ、アルカラ。(關西ノ口語) 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「さかひトハナサ、物ノ境目ヂャ、ハ、物ノ限ル所ガ、境ヂャニヨッテ、サウヂャさかひニ、カウシタさかひト云フ」是非ニトフさかひ、許シタ」

さかひぎ (名) 境木 境界(サカヒ)ノ標(シルシ)トスル樹木。倭訓栞「……國ノ境ニ、木ヲ植エ置キテ、兩國ノ標トス、時境ト、下野トノ境、下野、白河ト、陸奧、白川トノ中ニ、境木明神ト云フ小社アリ」大日本地名辭書、武藏國、橘樹郡、保土谷驛ノ西ナル權太坂山ハ、武、相ノ州界ニシテ、云云、其楔木ノ地ヲ、境木ト呼ベリ、新風土記ニ、云云、道ノ左右ニ、松ノ老木、イクラトモナク、並ビ立テリ」

さかびたし (名) 酒浸 酒ノ中ニ、浸(ヒタ)スコト。「死骸ヲ酒びたしニス」

さかびたり (名) 酒浸 (一)酒ノ中ニ、浸(ヒタ)ルコト。(二)絕エズ、酒、飲ミテアルコト。沈湎。「朝カラ晚マテ、酒びたりダ」

さかびて (名) 酒浸 魚鳥ノ肉ヲ煮ルニ、酒ヲ加フルモノ。酒煎(サカイリ)。サカシホ。大草家料理書「酒びてトハ、何魚ニテモ、出シ、酒バカリニテ、鹽ヲ入レテ、酢ヲ少シ加フル也」三好義長亭御成記、永祿四年三月三十日「……獻立次第、……酒びて」貝鮑、鯛……」合類日用料理抄(元祿)六、……門、酒浸」

さかひでんじゅ (名) 堺傳授 古今傳授(コキンデンジュ)ノ條ヲ見ヨ。

さかひぶぎゃう (名) 堺奉行 德川幕府ノ職名。和泉國ノ堺ノ地ノ市政ヲ管理シ、訴訟ヲ裁斷シ、津港ノ事ヲ掌ル、老中ノ支配ニテ、役料ハ、現米六百石ナリキ。東武記聞、一「堺奉行一人、住堺、……役地一切事之職也、與力十人、同心五十人也」

さかひめ (名) 境目 (一)境(サカヒ)ノ所。境ノ際。境界「隣家トノさかひめ」(二)事ノ、ワカレメ。際。際(キハ)「生死ノさかひめ」

さかひりう (名) 堺流 和樣書風ノ一。和泉國、堺ノ住、牡丹花肖柏ノ創メシモノ。(近代世事談、四)

さかひろん (名) 境論 國境、村境、ナドニ就キテ、兩國、兩村ノ爭論。境界論。

さかふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 逆 〔逆(サカ)ヲ活用ス(歌ふ、畝(ウネ)ふ)〕 (一)順ナラズ。從ハズ。ソムク。モトル。サカラフ。欽明紀、廿三年六月、新羅……云云、逆天(アキ)狀」「命令ニ逆ひテ、行ハズ」 (二)爭フ。ハムカフ。敵對ス。萬葉集、十、相撲「今一度、さかふへシトテ、歩ミ寄ルニ」

さかふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 逆 忤 〔前條ノ四段活用ノ一轉(流離(サスラ)ふ、さすらふる、淺ふ、さらふる)〕 前條ノ語ニ同ジ。神武紀、七「兄猾(エウカシ)不レ來、云云、遣二道臣命一察二其逆狀(サカフルカタチ)一」舒明即位前紀「勿レ起二逆(サカヘタル)心一」天武紀、下、八年五月「兄弟長幼、云云、相扶無レ忤(サカフルコト)」

さかふ フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 境界 〔境(サカ)ヲ見ヨ〕ヲ活用ス(色ふ、歌ふ、顎(アギト)ふ)〕 境(サカヒ)ス。限ル。クギル。シキル。成務紀、五年九月「隔二山河一而分二國縣一」天武紀、下、十二年十二月「巡二行天下一而限二分諸國之境堺一」玉葉集、八、旅「日ニカケテ、幾日ニナリヌ、東路ヤ、三國ヲさかふ、不二ノ芝山」

さかふ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (自動、下二) 榮 〔さかゆノ轉(報ゆ、むくふ。用ゐる、用ふ)〕 さかゆ(榮)ニ同ジ。玉葉集、七、賀「近江ナル、朝日ノ里ハ、今日ヨリゾ、世ノさかふべキ、光見エケル」新後拾遺集、廿、慶賀「治マレル、御代ノシルシモ、更ニ今、見エテさかふる、敷島ノ道」

❖**さかぶ** (動) 叫 叫(サケ)ぶノ口語。(田舍詞)

さかぶく ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 逆葺 茅(チガヤ)ノ穗ヲ、下ニ向ケテ、屋(ヤネ)ヲ葺ク。萬葉集、八 四五「……鹿鳴、尾花逆葺(サカフキ)、黑木持チ、造レル宿ハ、萬代マデニ」古義「尾花ノ秘ノ方ヲ下ニシテ葺クヲ云フ」

さかぶとり (名) 酒太 多ク酒飲ムニ因

リテ、身ノ肥ユルコト。多飲ノ肥滿。

さかぶね (名) 酒槽 〔船ノ條ヲ見ヨ〕 (一)酒ヲ湛ヘ置クニ用キル、大キナル、木製ノ器。古事記、上廿九「設二酒船一而毎レ船、盛二其八鹽折酒一」 倭名抄、十六十木器類「酒槽、佐賀布禰」 (二)酒造家ニテ用キル、木製、長方形ノ器。醪ヲ袋ニ入レ、壓シテ、清酒ト、酒粕トヲ分離セシムルニ用キル、槽ニ、押蓋ヲ載セ、機ヲ以テ、袋ヲ壓シ搾ル、槽ノ底ニ、溝アリテ、清酒ノ液ハ、ソレヨリ流レ出ツ。

さかべ (名) 酒部 古ヘ、造酒司ニ屬シテ、節會ノ時ナド、酒ノ事ヲ掌ル職。職員令「造酒司、酒部六十人、掌レ供二行觴一」

さかほがひ (名) 酒壽 〔ほがひハ、壽ぐノ延ビタル、壽ふノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕 酒宴シテ、祝スルコト。神功紀、十三年二月「太子至レ自二角鹿一、皇太后宴二太子於大殿一、皇太后擧レ觴以壽二于太子一、因以歌曰、此御酒者、云云」 古事記、中(仲哀)六十「御祖(神功皇后)御歌曰、此御酒者、云云、此者、酒樂之歌也」(樂ノ字ヲ書ケルハ、宴樂ノ時、歌フ歌ナル故ナリト云フ) 萬葉集、六八廿湯原王打酒歌「燒太刀ノ、稜打放チ、丈夫ノ、壽グ豐御酒ニ、吾レ醉ヒニケリ」(古義、酒讌ノ壽詞ニ、横刀ヲ、歌ヒ舞ヒシナルベシト云フ) 新撰樂記「酒 祝」

さかほこ (名) 逆矛 逆桙 あまのさかほこノ條ヲ見ヨ。

さがぼん (名) 嵯峨本 〔角倉氏、山城國、嵯峨ニ住ミキ〕 (一)角倉與一玄之(寛永九年歿)ノ出板セシ書物ノ稱、角倉本トモ云フ。伊勢物語、源氏物語(以上、自筆版下)平家物語、謠曲本、史記評林、其外、數種アリ。大和事始、四、文教、印板「角倉與市、太秦ノ傍ニ、史記、及、諸ノ本ヲ開板セシム、嵯峨本ト云フ、是也」 賣買書目録、中、嵯峨本書目「謠本、觀世流百番本、此書ヲ以テ、角倉本ト云フ、云云、表紙ニ、染色、多シ、則、雲母ヲ以テ、草花、鳥、獸、蟲ノ模樣ヲ摺込ム」 (二)嵯峨版ノ條ヲ見ヨ。

さかま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 逆卷 流レニ逆ヒテ、波、立ツ。(激流ノ水、逆風ノ浪ナド) 逆流 萬葉集、十一八「此川ノ、水泡逆卷、行ク水ノ(如ク)、事反ヘサズゾ、思ヒ始メテシ」(事かへさずハ、思案ヲメグラサヌ意ナリト云フ) 山家集、上「涙川、さかまく水瀬ノ、底深ミ、漲リアヘヌ、我ガ心カナ」 名詞形ニテハ、字鏡十四「水回、佐加萬支」 同八十「流水轉廻、佐加萬支」

さかまくら (名) 坂枕 〔枕ノ方、高クテ、床ノ上、斜ナレバ、名アリト云フ〕 踐祚、大嘗、新嘗、等ノ祭ニ、神座ノ八重疊ニ設ケテ、神ニ奉ツル枕。貞觀儀式、三「踐祚大嘗祭儀中、掃部寮、以二白端御疊一加二席上一、以二坂枕一施二疊上一」 掃部寮式「御坂枕一枚(註、長三尺、廣四尺)析薦一枚、藺席一枚、端料曝布一尺七寸五分、廳二兩、木綿一兩三分」

さかます (名) 酒枡 酒ヲ量ルニ用キル枡。底ノ外部ニ、對角線ニ沿ヒテ、長キ柄ヲツク、故ニ、柄附枡トモ云フ、流動體ヲハカルニ因リテ、柄ヲツクルナリ。成形圖説(文化)酒量「一名、柄附量、是伐星ノ形、是ニ似タリ、故ニ、酒量星ノ名アリ、此器、酒、醋、油、等ヲ料ル」

さかまた (名) 逆叉 海獸ノ名。我ガ國、西南海ニテ、稀ニ見ル、形、いるかニ似テ、長サ二丈許、脊鰭、叉ヲナシテ、逆立ツ、齒、堅ク鋭シ、性、兇猛ニシテ、群ヲナシテ、鯨ヲモ襲フ、肉、美ナラザレド、脂、多シ。一名、鯱。倒戟

さかまつげ (名) 倒睫 睫ノ、内ニ向ヒテ、眼球ヲ刺スヤウニ生エタルモノ、サカサマツゲ。睫毛亂生症。

さがまるた (名) 嵯峨丸太 〔山城國、大井川ノ東岸ノ嵯峨ノ地ニテ陸揚ゲシテ、京都ニ入ルヨリノ名ナルベシ、四谷丸太、同趣〕 丹波國ヨリ伐リ出ス丸太ノ稱。俚言集覽、嵯峨丸太「嵯峨集、丸太、奥丹波ヨリ、筏ニシテ、大井川ヘ下スヲ、さが丸太ト云フ」

さかみかのかみ (名) 酒甕神 〔甕ノ條ヲ見ヨ〕 供御ノ御酒ヲ釀スニ用キル瓶ヲ、神トシテ祭ラルルモノ。造酒司ノ酒殿ニアリキ。大刀自神・小刀自神・次刀自神、三座ナリ。文德實錄、八、齊衡三年九月「造酒司、酒甕神、從五位下、大邑刀自、小邑刀自、等、並預二春秋祭一」 三代實錄、二、貞觀元年正月廿七日「奉レ授二造酒司從五位下大刀自神、從五位上一」 續古事談、一、王道后宮「造酒司大刀自ト云フ壺ハ、三十石入也、土ニ深ク掘リスヱテ、綿二、二尺バカリ出デタルニ、云云、三條院御時、大風吹キテ、彼司、倒レニケルニ、大刀自、小刀自、次刀自、皆、打割リテケリ」

さかみせ (名) 酒店 さかだなニ同ジ。サカヤ。

さかみづ (名) 逆水 水ノ、逆流スルモノ。洪水ナドニモ云フ。洚水 太平記、八、三月十二日合戰事、桂川「三千餘騎、一度ニ颯ト打入テ、馬筏ニ流レヲ塞キアゲタレバ、逆水、岸ニ餘リ流レ、十方ニ分レテ、元ノ淵瀬ハ、ナカナカニ、陸地ヲ行クガ如クナリ」 書經、大禹謨篇「洚水儆レ予」 孟子、告子、下篇「水逆行謂二之洚水一、洚水者、洪水也」

さかみづ (名) 酒水 〔酒ノコトヲ、汁トモ、水トモ云フ〕 酒ト云フニ同ジ。神名式「造酒司坐神、三座、酒彌豆男神、酒彌豆女神」 姓氏錄、五、右京皇別、下、酒部公「大鷦鷯天皇(仁德)御代、從二韓國一參來人、兄曾曾保利、弟曾曾保利、二人、天皇勅有二何才一、白、有二造レ酒之才一、令レ造二御酒一、於レ是、賜二麻呂、號二酒看都子一、賜二山鹿比咩一、號二酒看都女一、因以二酒看都一爲レ氏」

さかみづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 宴飲 〔前條ノ酒水ヲ、動詞ニ活用セシム(鬘く、枕く)前條ヲ見ヨ、酒水漬くナラムト云フ説ハ、アラジ、酒ノ、さかトナルハ、名詞ニ冠スル時ナルガ如シ〕 酒盛ス。酒宴ス。古事記、下(雄略)九三十長歌「今日モカモ、佐加美豆久ラシ、高光ル、日ノ宮人」 萬葉集、十八十「處ノ、下照ル庭ニ、殿建テテ、佐加彌豆伎座ス、我ガ大君カモ」 同、十九三十長歌「酒見附、榮ユル今日ノ、アヤニ貴サ」

さがみにかむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 咀嚼 〔さハ、發語、嚼みに嚼むナリ、聞きに聞き、語りに語る、ノ類〕 嚥、嚼ム。神代紀、上廿二「天照大神、乃索二取素戔嗚尊十握劍一、打折爲二三段一、云云、齰然咀嚼、云云」此云二佐我彌爾加武一 (齰然ハ、噛キヲ齰ム聲ナリ)

さがん (名) 鎖龕 起龕ノ條ヲ見ヨ。太平記、三十三、將軍御逝去事「衣笠山ノ麓、等持院ニ葬シ奉ル、鎖龕ハ、天龍寺ノ竺山和尚」

ざかん (名) 座間 座中、席上、ニ同ジ。祖詠詩「夜氣侵レ壇冷、松陰覆二座間一」

さかむかへ (名) 境迎 〔さか(境)ノ條ヲ見ヨ、坂ト記セルハ、借字ナリ〕 (一)平安朝時代ニ、新任ノ國守ノ、京都ヲ出發シテ、任地ノ國境ニ到レル時、國府ノ官人ノ、出迎ヘテ、饗應スル儀式。朝野群載、廿二、諸國雜事「國務條條事、境迎事、官人雜仕等、任レ例來向、或、國境ニ參向、或、國引ニ率官人雜仕等ニ參會、其儀式、隨二國土一而已」(國トハ、スベテ、國府ノ事ナリ) 字類抄「境迎、サカヘムカヘ」 今昔物語、廿八、三十九語「漸ク長ニ成テ、冠ナドシテ、後、官得テ、遂ニ、信濃守ニ成リニケリ、始メテ其國ニ下リケルニ、坂向ヘノ饗ヲシタリケレバ、守、其饗ニ着テ居タリケルニ、守ノ郎等モ、多ク着キタリ」 (二)轉ジテ、スベテ、到着ノ人ヲ、路ニ出向キテ、迎フルコト。郊迎 史記抄(文明)十廿「郊迎ハ、路マデ出デテ、さかむかへヲシタゾ」

[illegible]尾張ノ、御酒迎ヘニ、[illegible]ヲシテ御出デアルト中シ[illegible]元親記、下、初而上洛之事「八幡ニテ、御日親、上坊、御[illegible]

さかむかへ (名) 坂迎 〔逢坂マデ出迎ヘナリ、平安朝時代ニ云ヒシ逢坂ノ關迎ノ云ナリ、其條ヲ見ヨ、畢竟スルニ、前條ノ境迎ト同意ニナル故ニ、相混ズ、酒迎ト云フモ、酒飲ムニ因リテ、皆ヲ移シタルナリ〕京都ノ人人、伊勢參宮シテ歸レル時、親族、朋人、近江國、逢坂マデ出迎ヘテ、祝宴スルコト。[illegible]

[illegible]

さかむけ (名) 逆剝 手ノ爪際ノ皮ノ、逆ニ剝クルコト。ササクレ。逆臚

さかんみ (副) 盛 さかりみノ條ヲ見ヨ。

さかもがり (名) 逆虎落 〔もがりノ條ヲ見ヨ、多クハ、約メテ、逆茂木ト云フ、[illegible]〕

さかもぎ (名) 逆茂木 〔前條ノ逆虎落ノ約〕棘木ノ枝ノ、鹿角ノ如クナルヲ、逆立テテ、垣ニ結ヒテ、敵ノ兵馬ヲ障フルモノ。モガリ。虎落 鹿砦 鹿角砦

夫木抄、三十六「山深ク、八重ノさかもぎ、ヒクトテモ、世ノ憂キ事ハ、障ゾ通ハン」長秋詠藻、上「世ノ中ハ、關戸ニ伏セル、さかも木ノ、モガレハテヌル、身ニコソアリケレ」平家物語、九、樋口被討罰事「北ノ山際ヨリ、南ノ海ノ遠淺マデ、大石ヲ重ネ上ゲ、大木ヲ伐ッテ、さかも木ニヒキ」

さかもどし (名) 酒戾 酒戾しはせぬものト云フ諺ハ、酒ヲ、逆ニカケテ云フ意ナルカ。[illegible]目觸[illegible]トシテ、[illegible]シタ、酒もどしはせぬものね、マア、請取ッテ頂イタノヂャ」

さかもり (名) 酒盛 〔昔ハ、杯ヲ勸ムルニ、自ラ、杯ニ酒ヲ盛りテ、サスナリ(倭訓栞)〕サカミヅクコト。人人、集リテ、互ニ酒ヲ飲ミテ、興ジ樂シムコト。酒宴。宴飲。[illegible]「[illegible]今日ノ御さかもりハ、カネテ、座敷ノ御定メアルベシ」運歩色葉集「酒盛」

さかもりまひ (名) 酒盛舞 さかなまひノ條ヲ見ヨ。

さかや (名) 酒屋 酒店ニ同ジ。「酒屋ノ御用聞」

さがやう (名) 嵯峨様 〔唐様ナドノ、様ナリ、角倉玄之、山城國、嵯峨ノ地ニ住メリキ〕和様ノ一種ノ書法。近衛流、ヨリ出ヅ、角倉與一玄之、始ム、三藐院近衛信尹ノ門人ナリ。又、角倉流。

さかやかす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 榮 〔さかゆノ他動(聳ゆ、そびやかす)〕榮ユルヤウニス。榮エシム。小右記、寛弘九年五月十一日「大和名、[illegible]、云伊勢守佐加也加寸也」[illegible]十三、明石「山水「時時ニツケテ、額ヲさかすべキ、云云」類聚抄「榮やかすナリ、花ノ咲クト云フモ、是レナリ」

さかやき (名) 月額 月代 〔逆明ノ轉ニテ(打合、うちやひ)髮ヲ拔キアゲテ、明キタル意ニテモアラムカ、さかいきト云フハ、後世ノ音轉ナリ、コレヲ、逆息ノ義トシ、逆上ノ氣ナリト云フ說ハ、後世ニ云フさかやきニハ云ヘ、額月ノ語原トハナラズ、又、月代ノ字ハ、つきしろニテ、異義ナルヲ、因襲シテ用キルナリ〕(一)又、額月。男子ノ額髮ノ生際ヲ、半月形ニ拔キアゲオクモノ。古、烏帽子ヲ被リテ、髮際ノ見エヌヤウニスルナ。後ニ、額髮ニ角ヲ入ルト云フモ、是レナリ。京師本、平治物語、三、牛若奥州下向事「[illegible]、云云、近江ノ鏡ノ宿ニ着テ、夜半許ニ、髮ヲ、我レト、剃リ上ゲ、云云、烏帽子ノホコリ、押拔ヒテ着タリ」沙石集、六、上、第一條「泣ク泣ク申ケレバ、此僧モ、神ヲ剃リテ去リヌ、サテ、次ノ日ノ夕方、さかやきアル入道、此房ニ來テ、窓ニ中シ入ケルハ、昨夜ノ强盜、入道ニナリテ參リテ候」太平記、五、大塔宮熊野落事「片岡八郎、矢田彦七、アラ暑ヤトテ、頭巾ヲ脫ギテ、側ニ指置ク、實ノ山伏ナラネバ、さかやきノ跡、隱レナシ」[illegible]、さかやき、太平記ニ、月額ヲ謂メリ、云云、今ノ、額ニ角入ル事ニテ、今云フさかやきニハアラズトモ云ヘリ」犬筑波集(永正)「番匠ノ、[illegible]世シタル、容ヲ見ヨ、額ニ顯ル、手斧さかやき」(さかやきノ根ノ形ヲ云ヘルナルベシ)(二)足利時代ノ末世ニ至リ、さかやきハ、廣ガリテ、一種ノ頭髮風ノ稱トナリテ、額髮ヨリ、頂ノ中央ニカケテ、悉ク剃リ去ルコトトナレリ、元龜、天正ノ戰國ノ世、打チツヅク合戰ニ、將士、常ニ、兜ヲ被リ、逆上スルニ堪ヘヌニ因リテ、然スルヤウニナレルナリト云フ、初ハ、剃ルコト狹カリシニ、廣大ニ剃ルコトハ、織田信長ニ始マレリト云フ、德川時代、太平ノ世トナリテモ、武士ノミナラズ、武勇ノ風トテ、全國一般、人民男子

ノ髮風トナリテ、さかいきト云フヤウニナリテ、幕末マデ、然リシナリ。明治ノ御代トナリテ、西洋ノ髮風ニ移リテ、上下、皆、斷髮トナレリ。治平室記(木村許[illegible])「上杉景勝ハ、小男ニテ、月代ノ髮、櫛形ニ剃リ、[illegible]云云」[illegible]、つきしろ[illegible]足利義昭公、[illegible]ニ到リ、[illegible]ニ擬リ、信長、上洛ヲ催シ、合シテ曰、信長ニ同ジセム者ハ、月代、皆大ニシテ、半髮ヲ剃リ、下髮ヲスベシト、是ニ於テ、俗ヲナセリ、時ニ、永祿十一年也、[illegible]記、[illegible]ニつきしろニアラズ、さかやきナリ」[illegible]雜記(近衛、[illegible]川玄邊)「さかやきハ、さかやきハ、榮時分ノ稽ニハ、ナシ、狩野古右近トテ、[illegible]ナドノ畫ニハ、さかやきアリ」(桑[illegible]八、狩野永德ノ[illegible]ナリ、織田信長ニ仕ヘタリ)[illegible]二十[illegible]、支體「月代、俗云[illegible]近世、武士、及、庶人、[illegible]以後、[illegible]也、云云、[illegible]、士[illegible]不便、[illegible]以代冠、故、其[illegible]、[illegible]而不[illegible]」[illegible]通商考(寶永)三、交趾「男子「百官ニ、さかやきヲ剃リタリ」(是レハ、中剃ヲ云ヘリ)

さかやまひ (名) 酒病 其條ヲ見ヨ。

さかやもひ (名) 酒病 〔やもひハ、やもふ(病)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕甚シク酒ニ醉ヒテ、病ムコト、又、さかやまひ。萬葉集、四 五「古ヘノ、人ノ飲マセル、吉備ノ酒、病者[illegible]便無、貫簀賜ラム」(末ノ句ハ、醒時ノ用意ニ云フトテ云フ、ぬきすノ條ヲ見ヨ)名義抄「醒、酲酒、サカヤモヒ」遊仙窟「[illegible]移レ醒[illegible]」詩經、小雅、節南山篇「憂心如レ酲」毛傳「病レ酒日レ酲」集傳「酒病日レ醒」

さかややく (名) 酒屋役 〔酒壺錢ト云フモ、アリ〕足利時代、酒商ニ課シタル稅。建武以來追加、洛中、邊土、散在、土倉、并、酒屋役、條條、云云、政所方年中行事要脚、內、六千貫、八支配事、云云、明德四年十一月廿六日」(古事類苑)

さかゆ (名) 酒湯 酒湯ノ條ヲ見ヨ。

さか・ゆ ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 榮

〔咲映ゆノ約、古事記、上二六「木花之佐久夜毘賣、名、如二木花之榮一」〕勢ヒ、盛リナリ。映映シクアリ。サカフ。サカル。サカユク。繁昌ス。 古事記、上九、長歌「朝日ノ、咲ミ佐加延來テ」 仁徳紀、三十年九月、長歌「河隈ニ、立チ榮ユル、百足ラズ、八十葉ノ樹」 萬葉集、六十三「御民我レ、生ケル驗アリ、天地ノ、榮ユル時ニ、會ヘラク思ヘバ」

さか-ゆ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 榮行 榮エニ榮ユ。マスマス、榮ユ。 古今集、十七、雜、上「今コソアレ、我レモ昔ハ、男山、さかゆく時モ、アリ來シモノヲ」（壯男ニカケ、坂行くニカク） 源、八、花宴十「さかゆく春ニ、立出デサセタマヘラマシカバ、世ノ面目ニヤ侍ラマシ」 蜻蛉日記、上、下九「神垣ヲ、登リ降リハ、ワブレドモ、マダさかゆかヌ、心地コソスレ」

さか-ゆめ (名) 逆夢 〔正夢ノ反〕 死ヌト見タル夢ハ、却ッテ、長命ナル兆ナリ、ナド云フヲ、夢は逆夢ト云フ。 榮花物語、廿九、玉飾「タダ死設ケヲセヨト、夢ニ見エタマヒケレバ、云云、僧正、ナドテカ、夢ハ、然見ユレバ、命長シトコソ申セ」 天神記(正徳、近松作)三「廿日バカリ以前ニ、ソナタガ死ンダト云フ夢ヲ見テ、ナンボウ、氣ニ懸ケタヲ、夢は逆夢ト、心デ祝ヒ、マジナウタレド」 倭訓栞、ゆめちがへ「今、凶夢ヲ、さか夢ナド云フ」 俚言集覽「代醉雜抄云、夢ヲ、反夢ト云フアリ、吾、昨夜、夢ニ身死、命不レ久矣、討吾云、陰陽相反、夢死反得レ生ト、絶纓三笑ニ出デタリ」

さか-よせ (名) 逆寄 攻メ來ル敵ニ、却ッテ、我ガ方ヨリ攻メカカルコト。逆襲。 太平記、六、楠出二張天王寺一事「京ヨリ宇都宮公綱下著「和田孫三郎、云云、今夜、逆寄ニシテ、打散ラシテ捨テ候ハバヤ、ト云ヒケルヲ」 太閤記、五、山路將監被レ殺顛末「山路將監、心ヲ變ジ、云云、本山岐ヘ、柴田ガ勢ヲ引入レムトノ事ニ、相談タル由、云ヒケレバ、只今、逆寄ニセヨ、討果スベシ、トアリシヲ」

さから-ちゃ (名) 相良茶 肥後國、山鹿郡(今、鹿本郡)、相良ノ地ヨリ産ジタル茶。 俚言集覽、相良茶「肥後ノ名産、焙ゼズニ、煎ジテヨシ」

さから-め (名) 相良布 海藻ノ名、かちめノ條ヲ見ヨ。 本朝食鑑(元祿)三、水菜「佐加良布、俗稱、本出二於遠州相良之海濱一」

さかり (名) 盛 〔さかる(盛)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕 (一)〔サカルコト。勢ヒノ、タケナハナルコト。マサカリ。隆盛。 萬葉集、五十五「梅ノ花、今佐加利ナリ、思フ共、插頭ニシテナ、今佐可利ナリ」 同、三三十「青ニヨシ、奈良ノ都ハ、咲ク花ノ、匂フガ如ク、今盛ナリ」 (二)〔ワカザカリ。ヲトコザカリ。壯年。 源、九、葵廿「カカル齡ノ末ニ、若ク、さかりノ子ニ後レ奉リテ」 同、四十八、寄生七「マシテ、タダ人ノ、さかり過ギナムモ、アイナシ」 (三) ニギハヒ。繁昌。ハヤリ。「さかり場」

さかり (名) 遊牝 〔さかる(遊牝)ノ條ヲ見ヨ〕 サカルコト。獸類ノ、情慾ヲ發スルコト。「犬、猫、さかりガック」

さがり (名) 下 (一)サガルコト。クダルコト。降ルコト。(あがりニ對ス) 「相場ノアガリさがり」 (二)物ニ懸リテ、垂ルルコト。下垂。 永久百首、雜「さがり絲ヲ、見ルゾ嬉シキ、ササガニノ、クル人告グル、モノト思ヘバ」「さがり蜘」「簾ノ前さがり」 (三)罷リ退クコト。退出。「役所、午後四時さがり」 (四)時、夕暮ニ近ヅクコト。 太平記、三十一、武藏野合戰事「日已ニ、西ノさがりニ成ッテ、河ノ淵瀬モ不レ見分一」「七ツさがり」「四時さがり」 (五)勢ヒノ、衰フルコト。衰微。頽勢。 「身代ノさがり際」

さが-りう (名) 嵯峨流 造庭技ノ一流。山城國、嵯峨ノ天龍寺開祖、夢窓國師ヨリ起レリト云フ。同寺ノ後庭ハ、龜山、嵐山ヲ、借景トシテ、泉池、飛瀑、島嶼、ヲ築キ、珍樹、奇石ヲ裝點シタルモノニテ、此借景園ヲ模範トシテ、流派ノ基トナセルガ如シ、然レドモ、此庭園、數度ノ火災ニ遇ヒテ、舊態ヲ失ヘリト云フ。

さがり-ぐも (名) 下蜘蛛 くもノ一種、床、又ハ、棚ノ下ナドニ網ヲカケテ、蟲、コレニ觸ルレバ、絲ヲ引キ上ゲテ、縛リ捕ル、形、圓ク、腹、大キクシテ、足、長シ、色、黑褐ニシテ、白キ斑アリ、春暖ノ時、軒ナドヨリ、長ク絲ヲ引キテ、垂ル、故ニ、名アリ。蕃母。 俳諧歳子集(明暦)「蚊柱ノ、直入ヲ見ルヤ、さがり蜘」(たてりノ條ヲ見ヨ)

さがり-ごけ (名) 下苔 さるをがせニ同ジ。松蘿。 古今集、十、物名、さがりごけ「花ノ色ハ、只一さかり、こけレドモ、カヘスガヘスゾ、露ハ染メケル」(古今傳授ノ、三草ノ一トス)

さがり-しほ (名) 下汐 うしほ(潮)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さかり-に (副) 盛 〔さかんにトモ云フハ、音便ナリ(殘の雪、のこんのゆき。歸りなむ、かへんなむ)〕 映映シク。イキホヒヨク。タケナハニ。又、さかんに。 神武紀十「盛設二宴饗一、誘レ虜而取レ之」 萬葉集、五十九「我ガ宿ニ、左加利爾咲ケル、梅ノ花、散ルベクナリヌ、見ム人モガモ」 天治字鏡、十二廿「雨盛降而不レ止日、沛然、阿女佐加利爾不留」 源、廿一、少女六「官、位、心ニカナヒ、世ノ中さかりに、驕リナラヒヌレバ」 字類抄「昌、隆、サカムナリ」 寶物集、上「嗔恚、さかんにシテ、惡心、サムルコトナシ」

さかり-ば (名) 盛場 〔さかる(盛)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 人ノ、賑ヒ集マル處。群集ノ處(神佛ノ緣日ナドニ云フ) 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「盛場ノ小兒ダトテ、鳴物ニオビエヌモアレバ、オビエル子モアラウシ」

さがり-は (名) 下破 〔はハ、序破急ノ、破ニテモアルカ〕 (一)能樂ノ囃子ノ名。笛、太鼓、小鼓、大鼓、ノ合奏ナリ。仕手、又ハ、連ノ、舞臺ニ出ヅル時ニ用キル。猩猩、西王母、嵐山、ナドナリ。(二)歌舞伎芝居ニモアリ、下羽、下葉ナド、記ス、太鼓、小鼓、大鼓、三味線ニテ合奏ス、公家衆ノ出入ノ場ナドニ用キル。

さがり-ば (名) 下端 〔わらは(被髪)ノ條ヲ併セ見ヨ〕 貴婦人ノ垂髪ノ額髪ノ、顔ニ垂リサガリタルヲ云フ語。(ひたひがみノ條ヲ見ヨ) 後世、大鬢ト云フ。 枕草子、八、八十一段、うらやましきもの「髪、長ク、ウルハシウ、さがりばナド、メデタキ人」 源、三、空蟬四「髪ヘ、イト、フサヤカニテ、長クハアラネド、さがりば、肩ノホド、イト清ゲニ、スベテ、イト、ネヂケタル所ナク、ヲカシゲナル人ト見エタリ」 同、廿一、少女八十「御髪ノさがりば、髪状、ナドノ、貴ニ、ナマメカシキヲ」

さがり-ば (名) 下葉 垂レタル葉。 還暦御歌合、萩露「秋萩ノ、露ノヨスガノ、さがりばモ、風吹キ立ツル、色ゾ身ニ染ム」

さがり-ふすべ (名) 懸疣 ふすべノ條ヲ見ヨ。

さがり-ふぢ (名) 下藤 紋所ノ名。藤ノ花ヲ、二房、左右ニ垂ラシテ、輪ニシタル象ヲ畫ク。内藤氏ノ紋トス。コレニ反シテ、上ゲタルヲ、あがり藤ト云フ、大久保氏ノ紋トス。

さがり-め (名) 下眼 あがりめ(上眼)ノ條ヲ見ヨ。

さか-る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 離放 〔放くるノ自動(懸くる、かかる。任くる、罷る)〕 離ル。間遠クナル。疎ブ。 萬葉集、

[illegible]シ、[illegible]ノ[illegible]夜ハ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]シ[illegible]ハ、[illegible]上毛野、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]故シ(〔怪〕)、[illegible]ハ左久曙ド、[illegible]ハ左可[illegible]ガヘ」催馬樂、[illegible]テ、[illegible]タレ[illegible]モ[illegible]ヒ合ヒニケリ、カヨリアヒニケリ」(總角ハ、少年ナリ)「天さかる」[illegible]さかる」遠ざかる」

〔さか・る・ル・レ・ラ・リ・レ〕(自動、四)【逆・悖】〔逆ヲ活用ス。[illegible]、いかる(怒)〕〔薄、うする〕逆フ。モトル。[illegible]記、[illegible]日狂[illegible]、此逆ニ天道ニ」名義抄「悖、サカル」大學「言悖而出者、亦悖而入、貨悖而入者、亦悖而出」

さか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【榮】〔榮ゆト通ズ〕(一)映ユ、映シク、盛リススム。勢ヒ、タケナハニナリユク。サカユク。(衰フノ反)【旺・隆盛】宇津保物語、[illegible]院、「御盛さかりテ、大將、中納言ナドニ、[illegible]ノ[illegible]給ハリテ、皆皆モ、物ノ音、仕ウマツリ合ハセテ」後撰集、二、春、中「時シモアレ、花ノさかりニ、ツラケレバ、思ハヌ山ニ、入リヤシナマシ」返シ「我ガタメニ、思ハ[illegible]ノ、[illegible]ノミ、花さかりユク、[illegible]ノ[illegible]ミム、[illegible]るニ、盛るヲカケタリ)(二)ニギハフ。ハヤル。繁昌ス。繁榮。[illegible]ノ[illegible]ガさかる[illegible]ノ[illegible]さかる」[illegible]さかる」

さか・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【遊牝】〔盛るノ義、情慾ノ發スルヲ云フ、牝ニ、情慾、發セザレバ、交尾スルコト能ハズ、故ニ專ラ、牝ニ就キテ、遊牝ト云フ、遊牝ヲ、つるむコトニ用ホルハ、意ノ、一轉シタルナリ〕獸類、交尾ノ情慾ヲ發スコレヲ、さかりガツクト云フ。獸類ハ、一定ノ年齡ニ達スレバ、情慾ヲ發ス、然シテ、牡ハ、常ニ發スレドモ、牝ハ、一年ニ、一定ノ時期アリテ、發ス。其交尾スルヲ、つるぶ、又、つるむト云フ。交尾【[illegible]尾】[illegible]名抄、十八[illegible]、遊牝、[illegible]、[illegible]、[illegible]令、六、[illegible]月、[illegible]牝」

さが・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四)【下】〔下ぐるノ自動(上ぐ、あがる。曲ぐ、まがる)〕上るノ反」(一)上ヨリ、下ヘ行ク。高キヨリ、低キヘ行ク。下ル。降ル。(二)〔物ニ懸リテ、垂ル。下垂　古事記、中(垂仁)[illegible]「取リ[illegible]、樹枝ニ而縊レ死ス」萬葉集、十六[illegible]心[illegible]歌「[illegible]ガ、[illegible]ニ[illegible]ル、[illegible]、[illegible]石ノ、吉野ノ山ニ、氷魚ゾ[illegible]有[illegible]、[illegible]佐[illegible]ニ」(鈴[illegible]ヲ詠メル歌ナリ)(三)南ヘ行ク。(京都市中ニテ)あがる(上)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。「寺町、三條さがる」(四)低クナル。安クナル。「直段ガさがる」相場ガさがる」(五)退キ出ヅ。罷ル。退出ス。「役所ヲ四時ニさがる」小學校ヲ二時ニさがる」(六)退ク。「後ヘさがる」さがり居ラウ」(七)後ル。太平記、五、大塔宮熊野落事「村上彦四郎義光、[illegible]ノ路ニさがり、宮ニ追ヒツキマヰラセムト、急ギケルニ」(八)降ツ。時、夕暮ニ近ツク。(太陽ノ西ニ下るニ就キテ云フ)狂言記、鬼瓦子「此邊ハ、七ツさがれバ、鬼ガ出テ、人ヲ取ルト申スガ」、午後四時さがる」(九)劣ル。衰フ。惡シクナル。「位ガさがる」品ガさがる」[illegible]ガさがる」(十)魚、餒ル。ウテル。　合類節用集、元祿二六、眼食門「餒、餡館、魚敗也」倭字[illegible]、[illegible]「サガリイヲ、敗魚」倭訓栞「さがる[illegible]魚ノ、自死スルヲ(漢字アルカ)、水ニ浮ム、日ヲ經レバ、沈ム、因テ、あざれタルヲ、さがるト云フト云ヘリ」浮ムニ因リテ、魚ノ死スヲ、あがるト云フ」

さか・ろ(名)【逆艪】〔漁船ナドノ雨[illegible]ノ艪ドモハ、舳ヲ進ムルヤウニ仕掛ケテアルモノナルヲ、逆ニ、艫ヲ進ムルヤウニモ仕掛クルコト。船ハ、艫ノ方ヲ以テ、陸ニ押上グルナレバ、荒波ノ時ナド、陸近クニテ、船ノ方向ヲ回轉スレバ、轉覆スルコトアリ、因リテ、沖合ニテ回轉シ、逆艪ニテ、押上グルナリ。　夫木抄、廿六「さかろ押ス、立石崎ノ、白波ハ、荒キ潮ニモ、カカリケルカナ」盛衰記、四十一、梶原逆艪事、義經、大物浦船揃「梶原平三景時、申シケルハ、船ニ、逆櫓ト申ス物ヲ立テ候テ、船ノ自在ヲ得ルヤウニシ候ハバヤ、ト申シケリ、云云、逆櫓トハ、船艫ニ、舳ヘ向テ、櫓ヲ立テ候、云云、敵、強ラバ、舳ノ方ノ櫓ヲ以テ押戻シ、敵弱ラバ、元ノ如ク、艫ノ櫓ヲ以テ押渡シ侍ラハバヤ、ト申シタリケレハ、云云」能島家傳、四、船中心得「[illegible]逆櫓トヱフハ、櫓ヲ逆立テ直スニハ、アラズ、櫓ぐひヲ、艫押ノ者ニ、別ニ拵ヘ置クベキナリ」(古事類苑)

さか・わに(名)【逆鰐】〔逆鰐口ノ略、彫刻ノ形、鰐ノ口ヲ逆立テタルニ似タリ〕小刀ノ柄、其外、器ノ柄ナドヲ包ム金物ノ名。ソノ内ニ向キタル一端ヲ、兜ノ鍬形ノ雨ノ角ヲ、中ニ寄セタルガ如キ象ニ彫ル。

さか・わにぐち(名)【逆鰐口】前條ヲ見ヨ。

さき(名)【前・先】(一)最モ、前ナル處。先頭。(後ニ對ス)　古事記、中(神武)[illegible]「伊須氣余理比賣、立ニ其媛女等之前ニ」神樂歌、早歌「[illegible]ムナ、後ナルチ、我レモ目ハアリ、佐キナルチ」(二)第一。最先。「何ヲ以テ、さきトセム」さきヲ爭フ」(三)サキガケ。先登　奥州後三年記「四郎さきれ弘「今日、我ガ命ハ定マルベシ、ト云ヒテ、云云、さきヲカクル間ニ、鏑矢、頭ノ骨ニ中リテ、死ス」承久軍物語、三「一人拔ケ出デテ、さきヲカケ、高名セムト思フガ、本意也」(四)行手。路ノ、行クベキ方。前路「さきヲ急グ旅」水先案内」(五)〔前追〕前拂ノ略(其條ヲ見ヨ)前驅　大鏡、上、時平「御アリキノ折ハ、オボロゲニテ、御さきマヰラズ」「さきヲ拂フ」(六)サキカタ。先方。相手。對手「さきノ人」さきノ心」さきハ、サホドニハ思ハヌ」當ハ、さきカラ外レル」(七)〔既往。來シカタ。マヘカタ。(後ニ對ス)　以前　曩　嚮　土佐日記、十二月廿六日「さきノ守ノ詠メル」「[illegible]、行天皇」前關白」前ノ世」先年」(八)〔以往、(道行クさきナレバ、畢竟ハ、前ナリ)ユクスヱ。後。以後後來　前途　後拾遺集、七、賀「思ヒヤレ、マダ鶴ノ子ノ、生ヒさきヲ、千代モ[illegible]ル、[illegible]」[illegible]義抄、イ部、以往、サキ[illegible]さき[illegible]身」さきヲ見越ス」さきガ案ジラレル」

さき(名)【先尖】(一)〔[illegible]、スヱ。トガリ。尖端　神代紀、上[illegible]子[illegible]鋒[illegible]垂血」「筆ノさき」鼻ノさき」(二)〔矢鏃。ヤジリ　字鏡[illegible]「鏃、佐支」(三)〔耒ノ端ニツケタル、尖レル鐵。　倭名抄、十五四農耕具「耒鍤、佐岐」(四)出端。「話ノさきヲ折ル」

〔さき(名)【岬・碕・埼・崎】〔先ノ義、崎ハ、碕ト通ズ〕(一)山、又ハ、岡ノ端。ヲカザキ。ハナハ。山ノハナ。　神武紀十六「居富縣、波哆丘岬　此云[illegible]佐[illegible]」萬葉集、十四[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]ノ佐吉」字鏡、十二「碕、曲岸頭也、石之出太[illegible]佐支」[illegible]、[illegible]、[illegible]」(二)陸ノ、海中ニ突キ出テタル處。ミサキ。　古事記、上、[illegible]「打見ル、島ノ佐岐佐岐、搔キ見ル、[illegible]ノ佐岐[illegible]ズ」萬葉集、十九[illegible]長歌「[illegible]寄ラム、[illegible]ノ埼埼、[illegible]泊テム、泊泊ニ」

〔さき(名)【幸福】〔倭訓栞「さき「幸、又、福ヲ訓ムモ、先ノ字ニ通ヘリ」第一ト云フ意ナルカ、倚、考フベシ、幸はふ、さきはひ、さいはひ、トモナル〕吉キコト。サキハフコト。サキハヒ。サイハヒ。　萬葉集、十八[illegible]長歌、思ヒシマサル、大[illegible]ノ、御[illegible]ノ佐吉ノ、[illegible]クシアレバ」〔幸ヘタマフコト〕「幸御靈」福草」幸田」副詞ニ、幸くト用ホラル。

〔さ・き(形)【狹】さし(狹)ノ條ヲ見ヨ。

〔さぎ(名)【鷺】〔白羽ノ、鮮明き意ニ通ズルカ、倚、考フベシ、いさぎよき意トノ說モアレド、いさト、きよしト合シタル語ナレバ、背ケガハレズ〕鳥ノ名、晝ハ

水ニ居テ、魚ヲ食トシ、夜ハ樹ニ棲ム、鶺、頸、脚、共ニ長ク、頂ニ、長毛、數莖アリ、身ノ毛、散リ垂レテ、簑ノ如シ、全身白ケレバ、白鷺ノ名アリ、但シ、鶺ト、脚トハ、黑シ、大、小、二種アリ。其他、へらさぎ、だいさぎ、あをさぎ、みとさぎ、ごゐさぎ、いっぱいさぎ、煩惱さぎ、等アリ、各條ニ注ス。 萬葉集、十六廿「白鷺」 字鏡六十「鷺、佐義」 倭名抄、同ジ） 六帖、六「高島ヤ、ユルギノ森ノ、鷺スラモ、一人ハ寢ジト、爭フモノヲ」

さぎ (名) 詐僞詐欺 イツハリ、アザムクコト。ダマシ。 禮記、樂記注「怯逆詐僞之心」 韓非子、八說注「智者不レ得レ詐欺」 衆議院議員選擧法「第八十六條、詐僞ノ方法ヲ以テ、選擧人名簿ニ登錄セラレタル者」「詐欺取財」

さぎあし (名) 鷺足 (一)器ノ臺、又ハ、机ナドノ脚ノ、彎曲シテ、高ク、長キモノ。 安齋隨筆、十二「古書ニ、鷺足ト云フ、今、猫足ト云フハ、誤也、鷺ハ、足長キ故、長キ足ノ名也」 (二)鷺ガ、水中ニ、泥滑ヲ踏ミユクヤウナル歩ミツキ。ヌキアシ、サシアシ。 俚言集覽「鷺足、闇室ニテ、うかがひ足ニ、足ヲアグルヲ、鷺足ト云フ」 同「鷺足ヲつかふ、鷺ノヤウニ足ヲ踏ムヲ云フ」

さぎあし (名) 鷺足 〔拔ガ、足長キ鷺ノ、歩ムガ如クナレバ、名トス〕 (一)田樂ノ藝ノ名。一木ノ棒ヲ立テ、棒ノ上ト、中トニ、横木アリ、兩手ニテ、上ノ横木ヲ握リ、兩足ヲ、中ノ横木ニ踏ミカケテ、前へ飛ビ歩ムナリ。又、高足トモ云フ。(其條ヲ併セ見ヨ) 日次紀事(延寶)四月「田樂法師、藝、鷺脚ト云云、杖壹本、其本、末、横、横、以ニ兩手ニ持テ杖頭、横、兩脚踏ニ杖末、横上ニ而行、其狀、似ニ鷺之行ニ故」 (二)兒童ノ玩トシテ、二本ノ竹ヲ用キルモノ。後ニ、竹馬ト云フ。たけうまノ條ノ(二)ヲ見ヨ。梅園日記(弘化、北評畫)一「運步色葉集ニ、鷺足、小兒所レ乘之物トアルハ、今モ、遠江、駿河、常陸、上野、豐後ニテ、鷺足ト云ヒ、云云、竹二本ニ、足踏ミカクベキ木ヲ、横ニ結ビツケテ、小兒ノ、戲レニ乘ル物ナリ、京、江戶、大坂ニテハ、竹馬ト云フ」

さき・い・づ・ツル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動、下二) 咲出 花、咲キハジム。サキソム。約メテ、さきづ。 萬葉集、十四五十三「ミヤシロノ、岡邊ニ立テル、貌ガ花、ナ佐吉伊低ソネ、隱メテ偲バム」

さきうち (名) 先打 〔打つハ、馬ニ乘ルコト〕一騎打ナドモ云フ〕 騎馬武者ノ、陣ノ眞先ニ進ム者。 平治物語、二、六波羅合戰事「足立右馬允、御邊ガ名ワガ優キニトテ、先ヲ打たセタル郎等ノ太刀ヲ取テ、金子十郎ニゾ與ヘケル」 太平記、三十六、頓宮心替事「先ヅ、敦賀ニ、朝倉某ガ先打ニテ、陣ヲ取リタルヲ」

さきうま (名) 先馬 馬ニ乘リテ、列ノ前ニ進ムコト。サキウチ。サキノリ。前騎 宇津保物語、藤原君「空 車ニ、齋串ヲ積ミテ、陰陽師、さきうまニ出デタリ」

さきおひ (名) 前追 〔次條ノさきおふノ名詞形、次條ヲ見ヨ〕 貴人ノ通行ノ時、前ニ路行ク人人ヲ制シテ、追拂フコト。隨從ノ者、一町ニ、二所、聲ヲ發ス。又、前拂ト云ヒ、略シテ、さきトノミモ云フ。(行幸、御幸ニハ、御前追ト云フ、其條ヲ見ヨ) 喝道 清道 門室有職抄、警蹕ノ事「院、親王、關白、大中納言、大將、在レ之、以上、車副唱レ之、一町、三所、可レ追レ之」 山田の落穗「公卿ニハ、おおやあおト唱フ、コレヲ、おやや前トモ云フ、殿上人ハ、おおやあおト唱フ、コレヲ、おおやさきト云フ」 二有職故實辭典」 後世、武家ニテ、下ニ居ろうナドト云ヒシモ、是レナリ。 神代紀、下十二「先驅」 名義抄、馬部「前驅、サキオヒ、サキバラヒ」 源、廿一、少女、十「殿、御出タマフケハヒ、コチタク追ヒノノシル御さきノ聲」 枕草子、四、三十九段「近衞ノ御門ヨリ、左衞門ノ陣ニ入リタマフ、上達部ノさきドモ、殿上人ノハ、短ケレバ、大さき、少さきト、聞キツケテ、騷グ」(大さきハ上達部、小さきハ殿上人)

さき・お・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 前追 サキオヒヲス。サキバラヒヲス。前條ヲ見ヨ。 喝道 枕草子、二、十四段「耳立テテ聞ケバ、さきおふ聲聲シテ、上達部ナド、皆、出デタマフ」 同、十一、百四十六段「きらきらしき物、大將ノ、御さきおひタル」 源、四、夕顏「御車モ、イタウヤツシタマヘリ、さきモおはセタマハズ」 同卷十二「一日、さきおひテワタル車ノ、侍リシヲ」

さきかうがい (名) 割笄 女ノ髮ニ刺ス笄ノ、本ハ、一本ニテ、末ハ、割キタル如ク、二本トナレルモノ。

さきがけ (名) 先驅 〔戰ニ進ムヲ、驅くト云ヒ、退クヲ、引くト云フ、驅引、拔驅ナドモ云フ〕 戰ニ、最モ先ニ、敵ニ打掛カルコト。先登 吾妻鏡、二、養和二年六月五日「熊谷直實、勝ニ萬人ニ前ニ驅ニ一陣ニ、驅 壞、一人當千、頭ニ高名ニ」 同、九、文治五年七月八日「兵本意者、先登也、進ニ先登ニ之時、云云」 承久軍物語、三「一人拔ケ出デテ、さきヲかけ、高名セムト思フガ、本意也」

さきがけ (名) 魁 〔前條ノ語ヨリ移ル〕 萬事ニ、他ノ先ニナルコト。先ンズルコト。抽ンヅルコト。「梅ハ、百花ノさきがけ」

さきがし (名) 先貸 まへがし(前貸)ニ同ジ。

さきかた (名) 先方 相手ノ人。先方。對手

さきかた (名) 先肩 駕籠、長持ナド、二人シテ擔グルモノニ、其棒ノ前ノ方ヲカタグル者ノ稱。又、先棒。前竿 其棒ノ後ノ方ヲ擔フ者ヲ、あとかたト云フ。又、後棒。後竿 吉野都女楠(正德、近松作)五「コレ、ソコナ衆、前肩デモ、後肩デモ、イヅレモ寄ッテ、片ハナナサレ」

さきがね (名) 前金 まへきん(前金)ニ同ジ。マヘバラヒ。 倭訓栞、さきがね「入レ銀トモ云フ、正字通ニ、賖ハ、買、物先入レ直也、ト見エタリ」 高野道年草(寶永、近松作)中「前モ見エヌ秋買ヒニ、十五貫目ノ前金取リ」

さきがり (名) 前借 まへがり(前借)ニ同ジ。ゼンシャク。

さきく (副) 幸 〔幸ニ、くノ添ハリタル語、おとおとく(悉)ノ語原ヲ見ヨ、まさきくノまハ、接頭語、まノ條ヲ見ヨ、さきくトノミ云フハ、中略ナルベシ(一昨年、さきとし、つきおもり、つおもり)〕 又、まさきく。さく。幸ニ。ツツガナク。無事ニ。息災ニ。平安 無恙 此語ニ、多ク、行矣、又ハ、好去ノ字ヲ充テタルハ、行矣、好去ノ意ニテ、旅行ヲ送ルニ、途中ノ無事ナラムコトヲ祝スルニ云フナルガ、ソレヲ、さきくト讀ミ馴レテ、サラヌ所ニモ、充テ用キルニ至リシナラムト云フ。 神代紀、上十四「謂、姊、照臨天國ハ自可ニ平安ニ」 齊明紀、五年七月、注、唐國使人「天子問曰、執、事卿等、好在以不」 使人謹答、天皇憐重、亦得ニ好在」 萬葉集、四四十一「相見ズテ、氣長クナリヌ、此頃ハ、如何ニ好去哉、イブカシ吾妹」 同、十三十一長歌「言擧ゾ、吾ガスル、事幸、眞福座セト(上ノ句ニ反ル)、恙無ク、福座サバ、荒礒波(序)、在リテモ見ムト」(アリナガラヘテ會ハム) 同、廿十八長歌「波ノ間ヲ、イユキサグクミ、麻佐吉久モ、早ク到リテ」 行路ヲ祝スルニ云ヘルハ、神代紀、下十二瑞穗國「宜ニ爾皇孫、就而治ニ焉、行矣」 續言「行矣者、送ニ行之詞」 漢書、外戚傳「行矣、强飯勉レ之」 師古曰「行矣、猶レ今言ニ好去ニ」 萬葉集、五三十一「好去好來長歌「障無ク、佐伎久往シテ、速歸リ坐セ」(遣唐使ヲ送レル歌ナリ、好去好來ハ、幸ク去キテ、

常ク家ヨノ事ニ、同、十七、（?）世行クサヲ、佐佐久アレト、斎瓮居エツ、吾ガ床ノ上ニ」同、廿「父母ガ、殿ノ後ノ、百代草、百代出デマセ、吾ガ来ルマデ」（防人ガ、出役ノ歌ナリ）

さき-くぐり (名) 先潜 人ヨリ先ニ潜リ出デテ、事ヲ為スコト。サキマハリ。ヌケガケ。 俚言集覧、先潜「人ヨリ先ニナスコト、又、抜ケシテ競フコト」

{さき-くさ (名) 福草三枝 〔さき(幸、福)ノ條ヲ見ヨ、福ニ生ジテ、珍奇ナルモノナレバ、福草ト云フナリ、現今モ、珍重シテ、福草ト云ヒ、漢名ハ、芝草ニテ、瑞芝トモ云フハ、瑞祥ナル芝草ノ意ナルベシ、三枝トモ記スハ、一茎ニ三枝ヲナシテ、茎ヲ生ズルニ因ル、尚、次條ヲモ参見セヨ〕 菌ノ類。今、さいはひだけ(福茸)ト云フ。其條ヲ見ヨ。霊芝。芝草 瑞芝 …………

{さき-くさ (名) 三枝 〔芽、芒ハ、一名、三葉トモ云フ、其葉、三枚ノ小葉ヨリ成レレバ、三枝ト書キ、前條ノ福草モ、三枝トモ書クニ因リテ、其名ヲ移シシナルベシ（此說ノ諸說、限シガタシ）さいぐさトモ云フハ、音便ナリ（后、きさいノ宮）此語ヲ、中、又、三、ノ枕語トスルハ、三葉トモ云フニ因ルナリ〕 (一)草ノ名。次次條ノさきくさな（菁莪）ニ同ジ。又、さいぐさ。今、釣鐘草ト云フ、各條ヲ見ヨ。 …………

さぎ-ぐさ (名) 鷺草 〔白花ノ形、鷺ノ飛ブガ如シ〕 草ノ名。春、苗ヲ生ズ、葉ハ、麥ノ若苗ニ似テ、高サ一尺許、夏、茎ヲ出シテ、唇形ノ白花ヲ開ク。サギゴケ。サギサウ。通泉草

{さきくさ-な (名) 菁莪 〔三枝菜ノ義、菁ナレド、嫩苗ハ、食フベキニ因リテ、なト云フナラムト云フ〕、 曾丹集ノ歌ニ、正月ノ若菜トシテ摘ム由ヲ詠メレバ、食用トセシナリ、委シクハ、前前條ヲ見ヨ〕 又、さいね。草ノ名。釣鐘草ノ異名、其條ヲ見ヨ。 本草和名、上「薺苨、佐以久佐奈、一名、美乃波」倭名抄、同ジ（薺苨ノ和名、正シク、さきくさなニ當ルヤ、否ヤ、知ラズ） …………

さき-おけ (名) 鷺苔 前前條ニ同ジ。

さき-おし (名) 先輿 輿ノ轅ノ、前ノ方ヲ舁クコト。後ナルヲ舁クヲ、あとおしト云フ、駕籠ノ先肩、後肩、ヲモ云フ、 …………

さき-おろ (名) 先頃 サキツコロ。コノアヒダ。サキダッテ。先頃、先度 過日

さぎ-さう (名) 鷺草 さぎぐさニ同ジ

{さき-ざき (名) 前前 マヘマヘ。過ギシ時時。先前。 …………

さき-ざき (名) 先先 (一)行ク方ノ處處 …………「行クさきざき待侍レ」 (二)行末、又、行末。「さきざきノ事ヲ案ジテ」

ざき-ざき (副) ざくざくノ條ヲ見ヨ。

さぎ-し (名) 詐偽師 〔しハ、師ノ義〕 詐偽ヲ常習トスル者。人ヲダマクラカス者。イカモノシ。ペテンシ。

さぎ-しゅざい (名) 詐欺取財 〔詐欺ノ條ヲ見ヨ〕 詐欺シテ、財物、財産ヲ騙シ取ルコト。 …………

さぎしゅざい-ざい (名) 詐欺取財罪 詐欺取財ニ因リテ成立スル罪、前條、参照。

{さき-すさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 咲荒 〔すさぶ(荒)ヲ見ヨ〕 咲キ亂ル。撩亂 …………

さき-ぜい (名) 先勢 〔勢ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 第一ニ進ム軍勢。先手。先陣。前軍。 …………

さき-ぞなへ (名) 先備 眞先ニ備フル陣。マヘゾナヘ。先手。先陣。前隊。 …………

{さき-そ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 咲初 咲キ始ム。咲キダス。咲キ出ヅ。 古今集、十七「春雨ニ、争ヒカネテ、吾ガ宿ノ、櫻ノ花ハ、咲キ初メニケリ」 古今集、十七、雑、上「紫ノ、色ナル花ヲヨメル「咲き初めシ、時ヨリ後ハ、ウチハヘテ、世ハ春ナレヤ、色ノ常ナル」（常ナレバ、散ルコトナシ）

{さき-だ (名) 幸田 〔齋串ニ、木綿垂ヲ附ケテ、田ノ畔ニ立テテ、收穫ヲ、神ニ祈ルコトアルナリ〕 神ノ、幸ヘタマフ田。 …………

稲穂ハ、垂ヅルモノナリ)

さき-だけ-の (枕) [辟竹之] 〔さきだけハ、裂竹ノ義、割リタル竹ナリ、其竹ノ後向ナルガ如ク、面ヲ合ハセヌ意ヨリ、背向ニツヅク(萬葉集枕詞解)又、割竹ハ、撓ムニ因リテ、撓ニツヅク(古事記傳)〕背向、又、撓ト云フ語ノ枕詞。 萬葉集、七 十四「吾ガ夫子ヲ、何處行カメト、辟竹之、背向ニ寢シク、今シ悔シモ」(夫ノ死ヲ傷メル挽歌ナリ、行かめハ、行くまじノ意、寢しくハ、寢しさとナリ) 古事記、上 五十七 歌八玉神「打竹之、登遠遠登遠遠邇、獻」 天之眞魚咋一也」(古事記傳ニ「打ノ字、古事記ニ、折トアリ、拆竹ノ誤ナラム、又、魚ヲ積ム案ノ撓ムマデニ、ノ意ナルベシ」(節文)尚、とをゝノ條ヲ見ヨ)

さきだち (名) [先立] 先頭 サキダツコト。人ノ前ニ行クコト。 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「十バカリヨリ、六ツグラヰマデノ小兒ヲ、さきだちニナラベ」

さき-だ・つ (動) [秀起] さく(秀起)ノ條ヲ見ヨ。

さき-だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [先立] 〔さいだつトモ云フハ、音便ナリ(先使、さいづかひ)〕 (一)前ニ立ツ。先ニナル。 さいだつ。 古事記、中(神武)「伊那佐余理比賣立」於二最前一「カツガツモ、イヤ佐岐陀多流、賣ヲシ纏カム」(賣トハ、可愛媛女ナリ) 神代紀、下「一書日、天鈿女命、問日、汝將二我先一行乎、將二抑我先一汝行乎」 枕草子、六、五十八段「イト近ク差歩ミ、さいだつ者ナドヲ、シバシ、人ノオハシマスニ、カクハマジラスワサナリ、ナド云フヲ、ゲニトテ、少シ立チオクルルモアリ」 (二)第一トナル。初トナル。 萬葉集、七 十 詠和琴「琴取レバ、嘆先立つ、蓋クモ、琴ノ下樋ニ、妻ヤ隱レル」 古今集、十六、哀傷、さきだたぬ、悔ノ八千度、悲シキハ、流ルル水ノ、反リ來ヌナリ」 (三)他ニ先立チテ、死ヌ。 源、九、葵廿「鈍メル御衣タテマツレルモ、夢ノ心地シテ、我レ、さきだたマシカバ、深ク染メタマハマシ、ト思スサヘ、云云」細流抄「源ノ、我レ、先立チタラバ、葵 上ハ、重服ナルベキモノヲト也」令云、夫者、准二父母一暇、五十日、服、一年」

さき-だ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) [先立] 〔前條ノ語ノ他動(そばだつ、そばだつる)前條ノ語原ヲ見ヨ〕 前ヘ行カシム。サキダタス。さいだつる。 萬葉集、廿 十五 長歌「大久米ノ、マスラタケヲヲ、佐吉ニ多弖、云云、山河ヲ、岩根サクミテ、蹈ミ通リ」 源、五十、浮舟 三十六「時方ニタバカラセタマヒテ、さきだて遣ハシタリケル」 神代紀、上 四「如何、婦人、反先レ言乎」

さき-だって (副) [先達] 〔前立ちてノ急呼〕 サキゴロ。センダッテ。過日 「さきだって差出シ候フ書狀ハ」

さき-たま (名) [幸魂] あらみたまヲ見ヨ。

さぎ-ちゃう (名) [三毬杖左義長] 〔三毬杖ノ略(南殿、なでん。本尊、ほぞん)初ハ、毬杖ヲ三本立テタレバ、名トスト云フ、ぎちゃうハ、又、ぎっちゃうトモ云フ、其條ヲ見ヨ、左義長ト書ケルハ、借字ナリ、三木張ナドトモ書ケル、同ジ〕 (一)禁中ニテ、正月十五日ノ朝ニ、主上ノ御吉書ヲ燒カセラレシ儀式、十八日ニモ行ハセラレタリ。 清涼殿ノ東庭ニ、青竹ヲ束ネテ立テテ、御吉書、扇子、短册ヲ結ビツケ、陰陽師ヲシテ燒カシメラル、燃エアガレバ、どうどやト囃ス、主上、出御アリテ御覽ズ。 燒くヲ、ほさらすト云フ、燒くト云フ事ヲ忌ミテナルベシ、此事、鎌倉時代ノ初期ヨリ、物ニ見ユ。 四季物語(鴨長明作ト云ヒ傳フ)第一、正月十五日「左義長ノ具モ、兒ダツ人ノ、サレバミ玩弄物トナリ、燒ケ殘リタル扇ニ、赤キ絲ツケタル、云云」 辨内侍日記、下、建長三年正月十六日「さぎ丁、燒カレシニ、誰レ誰レモ參リシカドモ、云云」 徒然草、百八十段「さぎちゃうハ、正月ニ打チタルぎちゃうヲ、眞言院ヨリ、神泉苑ヘ出シテ、燒キアグル也、法成就ノ池ニコソ、ト囃スハ、神泉苑ノ池ヲ云フナリ」北村季吟云「昔ハ、毬打、三ヲ立テテ作レリ、今ノ爆竹ノ竹ノ、三本ヲ以テ足ニ用ルモ、其義ナリ」 看聞日記、應永廿三年正月十五日「燒二三毬杖一如レ例、云云、十八日、三毬杖、少少燒レ之」 後水尾院年中行事、正月十五日「清涼殿ノ東庭ニテ、御吉書之三毬打アリ」 女房私記、正月十五日「左義長ヲほさらす也」 合類節用集(元祿)二、時候門「爆竹、左義長、三毬杖、初春有二此義一」 (二)民間ニテモ、同樣ニ行ハレ、長キ竹、數本ヲ立テ、書始ノ淸書、又、門松、注連繩ノ、撤シタルモノヲ添ヘテ燒ケリ、コレヲ、どんどノ火ナド云ヒ、其火ニテ餅ヲ燒キテ食ヒナドシタリ。 江戸ニテハ、火災ヲ警ムルニ因リテ、早ク、萬治、寛文ノ頃ニ、禁制セラレヌ。 日次紀事(延寶)正月十五日、洛中家家左義長、今曉爆レ之、以二其火一燒レ餅食レ之、煮二今朝赤小豆粥一、然則其家無レ疫云」(節文) 諸國圖會年中行事大成、正月十五日「爆竹、並、吉書揚「洛中家家、今曉、竹ヲ立テ、昨日マデ飾リタル注連飾ヲ焚キ、吉書ヲ燒ク、其紙ノ灰、空ニ飄ル時ハ、手蹟上達スト云フ、此時、口口ニ、どんど、左義長、ト拍ス、此火ヲ以テ、今朝ノ小豆粥ヲ煮、又、餅ヲ燒キ食フ、是ヲ、菱 葩ほさらすト云フ」(古事類苑)

さき-ち・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [咲散] 咲キ、又、散ル。 開落 萬葉集、十 十九「ホトトギス、鳴ク聲聞クヤ、卯ノ花ノ、開落岡ニ、田草引ク妹」 同卷 五十一「秋萩ノ、開散野邊ノ、夕露ニ、濡レツツ來座セ、夜ハ深ケヌトモ」 同卷 五十六「藤原ノ、移リニシ都ノ、秋萩ハ、開而落去キ、君待チカネテ」 古今集、十、物名、いかがさき「識ニアタル、波ノシヅクヲ、春ナレバ、イカガさきちる、花ト見サラム」(是レハ、咲散ノ意ヲカネタリ、波ノ立ツヲ、さくト云フ)

さき-・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動、下二) [咲出] 〔咲出づノ約(漕出づ、こぎづ)〕 づ(出)ノ條ヲ見ヨ〕 咲き出づニ同ジ。 孝德紀、大化五年三月「本毎ニ、花ハ咲ケドモ、何トカモ、愛シ妹ガ、マダ佐枳涅來ヌ」(本トハ、木ノコト、皇太子妃ノ逝去ヲ傷メル詠ナリ) 萬葉集、廿 十六「時時ノ、花ハ咲ケドモ、何スレゾ、母云フ花ノ、佐吉低來ズケム」(旅ニ居ル者ノ、家ノ母ヲ思ヘル詠ナリ) 字鏡 五十「英、佐支豆」

さき-づかひ (名) [先使前使] 〔さいづかひトモ云フハ、音便ナリ(先立つ、さいだつ)〕 官人ナド、某地ヘ出向クベク、先觸ノ使。又、新任國司ノ、宣ヲ帶シテ、先ヅ其國廳ヘ差遣ハサル使。 又、さいづかひ。 西宮記、臨時、九、齋宮一、度禊「遣二五畿七道近江伊勢一使ハ、本宮遣二先使判官二」 朝野群載、廿二、國務條條事「前使立二吏幹勇堪郎等一兩人一、令レ觸二定夕宿二」 人車記、久壽三年三月十三日「伊豫先使、守時(原註、着二白襖一、正二平禮一、有二文筥持一、從類、又、宿濟惡)入二中門一立二前庭一、今日於レ淀乘レ船」 平家物語、一、殿下乘合事(藤原基房)「御車副ニハ、因幡ノさいづかひ、鳥羽ノ國久丸ト云フ男、下郎ナレドモ、サカサカシキ者ニテ、云云」 吾妻鏡、十四、建久五年十二月十五日「御堂供養導師、近日可レ令二下着一之由、先使到來」 同、廿五、承久三年八月廿三日「中將親雅朝臣、去月廿八日、發國之間、今日有二着岐國廳宮吉始一、例以二先使雜色一、書二下國務五箇條一、民部大夫行盛奉二行之一」 錦所談(山田以文、天保中成)二「先使ト云フハ、國司交替ノ時、新任ノ國司ノ宣ヲ帶テ、先ヅ國廳ニアル所ノ官人等ヘ使スルヲ云フナリ、今モ、藤還ノ遊行上人ノ前使ト稱スルモノ、是レニ類セリ」

さき-つ-ころ (名) [先頃] 〔先之頃ノ義、先の日ノ意、次條ノ先 年、同趣、さいつころトモ云フハ、音便ナリ(先使、さいづかひ)〕 さきおろニ同ジ。又、さいつころ。サキダッテ。 曩日 往日 枕草子、

十、廿九段「さいつころ、賀茂ニ詣ヅトテ」大鏡、上、「さいつころ、[illegible]ノ講説ニ詣デテ侍リシカバ」名義抄「近、サイツコロ、コノゴロ」字類抄「近曾、頃曾、サイツコロ」

さきつとし（名）|先年|〔先之年ノ義、前條ノ語原ヲ見ヨ、さいつとしハ、音便ナリ〕前ニ過ギ去リシ年。又、さいつとし。前年。萬葉集、四、十「前年ノ先年ヨリ、今年マデ、戀フレドナ、[illegible]、妹ニ逢ヒガタキ」夫木抄、三十六「去ヌル年ヲトトシノ、さいつとしヨリ、今年マデ、戀フレドナソモ、妹ニアヒガタキ」

さきつひ（名）先日〔先之日ノ義〕過ギシ日。先日。過日。往日。曩日。

さきて（名）|先手|〔て(隊)ノ條ヲ見ヨ〕軍勢ノ、眞先ニ進ムモノ。サキゾナヘ。先陣。先鋒。續日本紀、廿三年七月、[illegible]

さきで（動）|咲出| さきづ(咲出)ノ條ヲ見ヨ。

さきてがしら（名）|先手頭| 次條ヲ見ヨ。

さきてぐみ（名）|先手組| 徳川幕府ノ職名。先手弓組、先手鐵砲組ノ二組アリ、與力、同心ニテ組立ツ、合ハセテ數十組、組毎ニ、長、一人ヲ置ク、先手頭ト稱シ、若年寄ノ支配ナリ、江戸城ノ諸門ニ、交替、勤番シ、又、火附盜賊改ヲモ勤メ、其外、將軍ノ出行ニ從ヒ、其地ヲ警固セリ。有司勤仕録、御先手「御弓九組、御鐵砲二十組アリ、與力同心之數、不同ナリ」(古事類苑)

さきども（名）|先供| 行列ナドニ、眞先ニ立チテ行ク供人。後ニ立ツ供人ニ對シテ云フ。[illegible]「且那ノ才踊リ、先供走ル黑羽織」

さきどり（名）|先取| 人ヨリ先ニ、物ヲ取ルコト。我レ第一ニ、所得トスルコト。

さきなむ・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）|叱責|〔前否むノ約轉ニモアルカ(塞ぐ、ふさぐ。矢馳馬、やぶさめ)〕叱るノ古言。コロブ。イサフ。此語、常ニ、音便ニ、さいなむト云フ、其條ヲ見ヨ。字鏡「[illegible]、謂也、訓也、伊佐不、又、佐支奈牟」(いさふモ、叱るノ古言) 名義抄「嘖、サキナム、セム」叱、イサフ、サイナム」

さきみ（副）|曩| 過ギシ頃ニ。マヘカタ。以前。神代紀、上、十五「往時、吾兒誓ニ八尋少女ニ[illegible]」[illegible]

さきにほふ・フ・ヘ・ヘ・ヒ・ヘ（自動、四）|咲匂| 美麗ニ、咲キ亂ル。萬葉集、廿、二十六「池水ニ、影サヘ見エテ、佐伎仁保布、アシビノ花ヲ、袖ニ扱キレナ」

さぎのしりさし（名）|鷺尻刺| 古ク、[illegible]ノ異名、其條ヲ見ヨ。

さきのすめらみこと（名）|大行天皇| 太上天皇ニ同ジ。〔たいかうてんわうヲ見ヨ〕持統紀、三年五月「詔ニ新羅ニ云云、遣ニ田中朝臣法麻呂等、相告大行天皇喪ニ」

さぎのはし（名）|鷺箸| 農具ノ一、作物ノ根ニ肥スルニ、小溝ヲ引ク具。農具便利論、上、「鷺の嘴ハ、砂地ニ專ラ用ユ、綿作ノ中ニ水ヲ灌グ時、地ニ浸ムヤウニ、鷺のはしヲモテ、作物ノ根際ヘ筋ヲ引テ、夫ヘ、水肥ヲ注ギイレ、又ヘ、水ヲ流セバ、地ニ、水、シミ込、水氣ヲ保ツモノナリ」

さきのよ（名）|前世| 前世ニ同ジ、三世ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。源、一、桐壺「さきのよニモ、御契リヤ、深カリケム」新古撰集、十二、戀、二「さきの世ニ、我レニむヤ、盛シケム、報イナラデヘ、カカラマシヤヘ」

さきのり（名）|先乘| 行列ノ眞先ニ乘リ行ク騎馬。サキウマ。サキウチ。前騎。導騎 其最後ニ行クヲ、後乘ト云フ。

さきバオリ（名）|割羽織| さざきばおりノ條ヲ見ヨ。

さきばこ（名）|先箱|〔先挾箱ノ略(挾箱ノ條ヲ見ヨ)殿後ニ擔ハシムル後箱モアリ〕徳川時代、大名ナドノ供勢行列ノ先頭ニ、擔ヒ行カシムル挾箱。中ニ、正服ヲ入レオケルナリ、多クハ、一對ニシテ、家格ニ因リテ、箱ノ覆革ニ、金ニテ、家ノ定紋ヲ蒔ケルヲ、金紋先箱ト云ヒ、太キ組緒ヲ懸クルヲ、覆緒ト云ヒキ。コレヲ先頭ニ立ツルハ、人ニ、何某ノ行進ナルコトヲ、表示スルタメナリシナルベシ。熊本侯細川家ニテハ、覆緒ナクシテ、紫革ヲ棒ニカク、佐賀侯鍋島家、久留米侯有馬家ノ覆緒ハ唐糸打、萩侯毛利家ノ覆革ハ黄、岡山侯池田家ハ黄紋、米澤侯上杉家、喜連川家ノ覆緒ハ紫、長門府中侯毛利家ハ赤革、朱紋、彦根侯井伊家ハ、箱一箇、槍一本。其外、尚、種種ナリ。(甲子夜話、四十一)

さきはじむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（自動、下二）|咲始| 始メテ、咲ク。咲キダス。咲キイヅ。古今集、一、春、上「人ノ家ニ植ヱタリケル櫻ノ、花咲きはじめタリケルヲ見テ、ヨメル」

さきばしり（名）|先走| (一)サキバシルコト。先ニ立チテ、走ルコト。俚言集覽、先走「犬子集(寛永)「足疾キ、雲ヤ時雨ノ、先ばしり」小町踊(寛文)春、上、鶯「新玉ヤ、アラレバシリノ、先ばしり」(二)サキクグリ。サキマハリ。

さきばしる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|先走| 人ヨリ先ニ、走リ出ヅ。

さきはひ（名）|幸|〔さきはふノ名詞形、次條ヲ見ヨ〕サキハフコト。常ニ、音便ニテ、さいはひト云フ、其條ヲ見ヨ。佛足石歌「佐伎波比ノ、阿都伎止毛加良、麻佐米ニ見ケム、足跡ノ乏シサ、羨シクモアルカ」萬葉集、七、四十一「福ノ、イカナル人カ、黑髪ノ、白クナルマテ、妹ガ聲ヲ聞ク」(聲ハ、物言ナリ、偕老ノ夫婦ヲ云フ)

さきはふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）|幸|〔倭訓栞、さきはふ、「さきはふくに」萬葉集ニ見エタリ、幸延國ノ義ナルベシ」幸ノ動ク意ナリ、幸、并ニ、はふ(延)ノ條ヲ見ヨ(幸はふ、饒はふモアリ)さいはふトモ云フハ、音便ナリ(幸神、さいのかみ)〕幸ナル運ガ、メグル。榮エ行ク。ハヤル。サチハフ。音便ニ、さいはふ。榮達 萬葉集、五、三十「長歌「ソラミツ、日本ノ國ハ、云云、言靈ノ、佐吉播布國ト、語リツギ、言ヒツガヒケリ」平家物語、一、我身榮華事「御娘八人オハシキ、皆、トリドリニさいはひタマヘリ」同卷、清水炎上事「楊貴妃ガさいはひシ時、陳鴻忠、榮エシガ如シ」

さきはふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）|幸|〔前條ノ語ノ他動、類ふ、たぐふる。息ふ、いきふる。色ふ、いろふる〕幸アラシム。榮エシム。サカヤカス。續紀、四、和銅元年正月、武藏國ヨリ和銅ヲ獻ル詔「此物ハ、天ニマス神、國ニマス神ノ、相宇豆奈比奉リ、福ハヘ奉ル事ニ依リテ、顯シク出デタル寶ニアルラシ」出雲國造神賀詞「天ノ穗比命ハ、天ノ下知シメス、皇御孫ノ命ノ手長ノ大御世ヲ、堅磐ニ、常磐ニ、齋ヒ奉リ、伊賀シノ御世ニ、佐伎波閇奉レト仰セタマヒ」

さきはらひ（名）|前拂| さきおひ(前追)ノ條ヲ見ヨ。

さきばらひ (名) 前拂 まへばらひニ同ジ。

さきばらひ (名) 先拂 荷物、書狀ナドノ送賃、郵稅ナドヲ、屆先ノ方ニテ、支拂ハシムルコト。サキワタシ。「運賃さきばらひノ荷物」

〜さきはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 裂拂 〔はらふハ、祓ふ意ヲ兼ヌ、塵ヲ拂フ具ヲ、さいはらひト云フハ、此語ノ名詞形ノ音便ナリ、塵ヲ、さいはいト云フ、又、其轉ナリ〕 菅ヲ裂キテ、祓串トシテ祓フ。神樂歌、酒殿「中臣ノ、天ノ小菅ヲ、佐紀波良比、祈リシコトハ、今日ノ日ノタメ」 大祓詞「大中臣、云云、天津菅曾ヲ、本苅リ斷チ、末苅リ切リテ、八針ニ取辟キテ、天津祝詞ノ太祝詞事ヲ宣レ」 萬葉集、三 四十六 長歌「七相菅、手ニ取持チテ、云云、潔身ギテマシヲ」同、六 九 長歌「菅ノ根取リテ、云云、解除ヘテマシヲ」(清 淸シキニ取リテ、祓ニ用ヰルナリ)

さきぶと (名) 先太 棒ナドノ、尖ノ方ノ、太クナリタルモノ。細ソクナリタルヲ、さきぼそト云フ。

さきぶれ (名) 先觸 〔ふる(徇)ノ條ヲ見ヨ〕 預メ事ヲ示シテ、知ラセオクコト。多クハ、役人ナドノ旅行スル時、其筋ヨリ、宿驛ニ、人馬繼立ノ用意ノ命令書ヲ發スルニ云フ。 吾妻鏡、十五、建久六年二月八日「雜色足立新三郎淸經、爲二御使一上洛、是、近日、依レ可レ有二御上洛一、海道驛家等雜事、渡船橋用意等、先爲レ令二相觸一之也」 五駅便覽、寶曆八年七月「五海道宿宿、人馬遣方之儀、云云、諸大名、又ハ、在番、其外、御用ニ而往來共ニ、ニ同、人馬先觸、宿宿ヘ差出、云云」(古事類苑)

さきぼう (名) 先棒 〔後棒ニ對ス〕 (一)駕籠ノ先肩ニ同ジ。(二)俗ニ、人ノ魁トナリテ事ヲ行フヲ、さきぼうを振るト云フ。又、人ニソソノカサルルヲ、さきぼうに使はれるト云フ。

さきほこ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 咲誇 盛リニ咲ク。爛漫 四季物語(鴨長明)第三「コヽラノ野ヲアサルニ、桃ノ、打笑フバカリ、艷ニさきほこりテ、路ノ傍ハ、春ノ草、生ヒ茂レリ」

さきぼそ (名) 先細 さきぶとヲ見ヨ。

さきほど (名) 先程 暫シ前。イマガタ。先刻。適間

〜さきまく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 先捲 〔まくるハ、追ひまくる、言ひまくる、ノまくるナリ、さいまくるトモ云フハ、音便ナリ(先立つ、さいだつ。前使、さいづかひ)〕 (一)行キ過グ。 爲忠百首、十三夜月「さきまくり、今二夜ヲバ、滿テズシテ、限ナキモノハ、長月ノ月」(今二夜ハ、十五夜ナリ) 假名遣及假名字誤沿革史料(大矢透)ニ、平安朝上期ノ傍訓アル金剛般若集驗記ニ、前非便利トアリ、トアリ。(二)音便ニ、さいまくるト云フ。差出ヅ。サクジル。デスギル。サシデグチス。 枕草子、二、十七段、憎きもの「物語ナドスルニ、差出デテ、我レ獨リさいまくる者、スベテ、差出ハ、童モ、大人モ、イト憎シ」 名義抄、禾部「私行、サイマクル」 濱松中納言物語(丹鶴本)二「サスガナル、サカシラ心ノ、際高ウ、さいまくれタルヤウナル、却リテハ、ウタテアリヤ」

さきまはり (名) 先廻 人ヲ出シヌキテ、先ニ出ヅルコト。サキクグリ。ヌケガケ。

さきみず (名) 先不見 行先ノ成行ヲ、見透カシ得ヌコト。先見ノ明、ナキコト。オサキマックラ。ムカフ見ズ。 俚言集覽、先見ず「將棊、不可得物語、さきみずハ、おさきまッくらト云フ、むかふみずニ同ジ」

〜さきみたま (名) 幸御魂 あらみたまノ條ヲ見ヨ。

さきみだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 咲亂 サキスサブ。サキホコル。盛リニ咲ク。滿開ス。爛漫 繚亂

さきん (名) 沙金 きやきん(沙金)ノ條ヲ見ヨ。

さきん (名) 差金 〔さハ、差ひテ成レル意、數學ノ語〕 或ル金高ヨリ、若干ノ高ヲ引キテ、殘リタル高。殘金。

さきんご (名) 左金吾 左衞門督ノ唐名。(金吾ノ條ヲ見ヨ) 吾妻鏡、十七、正治三年正月四日「江馬四郎主、爲二左金吾御使一、參二幣鶴岳宮一給、被レ牽二神馬三疋一」(此左金吾ハ、源賴家ナリ) 職原抄、下、左右衞門府「督唐名、金吾將軍、云云、源賴家朝臣任二左衞門督一云云」

さきん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 先 〔先にすノ音便(綺、かんはた。掃部、かんもり)〕 先ニ出デテ、事ヲ爲ス。サキダツ。 史記、項羽紀「會稽守殷通、謂二項梁一曰、江西皆反、此亦、天亡レ秦之時也、先 則制レ人、後則爲レ人所レ制」註「先擧レ兵、則能制二得人一」「先んじテ事ヲ行フ」人ニ先んぜラル」

さぎむすめ (名) 鷺娘 〔思フ男ヘ嫁入ノ夜、惡人ニ害セラレ、怨靈、鷺トナル、ト云フ脚色ナリ〕 歌舞伎ノ所作事ノ名、本外題ハ、柳雛諸鳥囀 ナリ、長唄ニ合ハセテ演ズ。雪天ニ、娘、一人ノ所作ニテ、衣裳ハ、總白色ノ振袖、白キ手拭ノ如キモノヲ被リ、白キ傘ヲ持ツ、唄ニ「チラチラ雪ニ、濡鷺ノ、云云」ノ文句アリ。

〜さきんだち (名) 公達 〔さハ、拍子詞ナレド、公達ニ問ヒカクル狀ニ唄ヘルナリト云フ(催馬樂入綾)〕 きんだちト云フニ同ジ。 催馬樂、淺水「淺水ノ、云云、誰リニシ吾レヲ、誰レゾコノ、中人立テテ、御許ノカタチ、消息シ、訪ヒニ來ルヤ、沙、支牟太知ヤ」(さヲ、さやノ如ク唱フト云フ)

さきもの (名) 先物 (一)商人ノ語。行先ノ一定ノ時期ニ、受渡シスベキ約束ニテ、賣買スル商品。(現物ニ對ス)橫濱商人ノ、本年三月ニ、米國ニ注文シ、九月ニ收穫セラルベキ棉花ヲ、金何圓ニテ買入ルル、所レ謂、見越輸入ノ如キ、是レナリ。又、米穀ノ豐凶ヲ豫測シテ、投機ニ行フニモ云フ。(二)又、取引所ニテ、定期取引ノ、今ヨリ、翌翌月限リ、受渡シスベキ物ヲモ云フ。(今月限リ、翌月限リ、ナルニ對ス)

〜さきもり (名) 防人 〔崎守ノ義、海ノ崎ヲ守る人ノ意ト云フ、島守ト記セルハ、移シテ、壹岐島、對馬島ヲ守ルニ云ヘルカ〕 古ヘ、諸國ノ軍團ノ兵中ヨリ取リテ、筑紫ノ諸地、壹岐、對馬、等ノ守備タラシメシ兵卒。諸國ノ官人、防人部領使トナリ、コレヲ率キテ、送ル、三年ニシテ、交替ス、太宰府ノ被管ニ、防人司アリテ、コレヲ監セリ。(東國ノ兵ナルガ、多ク、勇壯ナルニ、名アリキ、萬葉集、卷十四、卷廿ニ、東國ノ防人就役ノ歌ヲ、數多、載セタリ) 孝德紀、大化二年正月「詔「置二畿內、國司、郡司、關塞斥候、防人、驛馬、傳馬一」 天智紀、三年「是歲、於二對馬島、壹岐島、筑紫國等一、置二防人與レ烽」 同紀、十年十一月「唐國使人、云云、泊二於比智島一、相謂之曰、今、吾輩、人船數衆、忽然到レ彼、恐二彼防人驚駭射戰一、云云」(對馬ニテノ事ナリ) 萬葉集、十四 四十三「佐伎母理ニ、立チシ朝明ノ、

[illegible]第二、[illegible]ミ、[illegible]キシ[illegible]ハモ」[illegible]十六[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ハ、[illegible]早ク告ケコソ」(也良ハ、筑前國、早良郡ノ島ノ名)[illegible]ハ、佐ノマニマニ、[illegible]ハ、[illegible]兵士[illegible]、名[illegible]防人ニ[illegible]一年、防人三年」[illegible]六典「邊要置二防人一以爲二鎭守一」

さきもり さごりづかひ (名) 防人部領使 [illegible]人ノ[illegible]人ヲ[illegible]テ、[illegible]ヘ下向スルモノ。前條、參照。東大寺正倉院文書[illegible]史[illegible]八位上[illegible]」

さきもり・づかさ (名) ［防人司］ 前前條ヲ見ヨ。

さきやう (名) ［左京］ 古ヘ、京都、即チ、平安京ノ大内裏ハ、北方ノ正中ニアリ、其南面ノ正門ヲ、朱雀門ト云ヒ、此御門ヨリ、京ノ中央ヲ斷シ、正南ニ通ジテ、[illegible]條ノ羅城門ニ至ル大路ヲ、朱雀大路ト云フ、此大路ノ、大内裏ヨリシテ左ノ方、即チ、東ノ方ヲ、左京、又、東ノ京、又、洛陽トモ云ヒ、右ノ方、即チ、西ノ方ヲ、右京、又、西の京、又、長安ト云ヒ、此左京、右京、ノ東西ノ極ノ通街ヲ、京極ト云ヒキ、右京ハ、風ク廢セラレテ、左京ノミ、殘ル、是レ、今ノ京都ナリ[illegible]中、[illegible]右、[illegible]小[illegible]北、七條[illegible]西、左京、堀川東、右京)」

さきやう (名) 作行 五十音圖ノ第三ノ行ノ名 さ、し、す、せ、そ。

さきやう・しき (名) ［左京職］ きやうしき(京職)ノ條ヲ見ヨ。

さきやう・てう (名) 左京兆 左京職ノ唐名 當ニ、左京大夫ノ唐稱トス。[illegible]、

下、[illegible]名、京兆、大夫、唐名、京兆尹」

さきやう・の・すけ (名) 左京亮 きやうしき(京職)ノ條ヲ見ヨ。

さきやう・の・だいぶ (名) ［左京大夫］ きやうしき(京職)ノ條ヲ見ヨ。

さぎやう・へんかく (名) 左行變格 文法ノ語、動詞ノ活用ノ、變體ナルモノ、爲ト云フ一語ナリ、即チ、佐行ノ音ニテ、す・する・すれ・せ・し・せよ、ト爲リ、獨リ、他ノ佐行ニ活用スル動詞ト、異ナリ。此語、他ノ語ニ附キテ、動詞ヲ形作ル。名詞ニハ、罪す、心す、重みす、おもんず、甘みす、ふまんず、漢語ニハ、感ず、禁ず、感心す、進上す、贊成す。

さぎよ (名) ［沙魚］ カマツカ。

さぎよ (名) ［鯊魚］ サメ、鮫。

ざきやう (名) ［座興］ 酒宴ナドノ、座上ノ興[illegible]上手ナ[illegible]近松作[illegible]アヒ[illegible]ナク[illegible]モ[illegible]ラメ」

さきら (名) ［先］ 〔さきハ、鋭氣ノ顯ハル意ナルベシ、らハ、添ヘタル辭、其條ヲ見ヨ〕 (一)才學ノ、ハタラキ。筆ノさきらト云フハ、書キタル文字ノハタラキ。[illegible]集抄、一[illegible]ヲ所ク[illegible]ニモ一同、二、第四[illegible]ニシテ、心モ賢ク、さきらアラム人ノ、ナジカハ、心モ[illegible]マデ作ルベキ」同、五、第八條「習書ノさきらイミジク[illegible]物語、一「底ノ薄紫ノ紙ニ書ケル、文字ノツクリ、筆ノさきら、イト賢ク、オモシロキ」 とりかへばや、山の宮「書キ出デタマヘル書ノサマ、筆ノさきら、實ニ、イミジキ人ヲモ見ルカナ」 (二)〔くちさきらノ條ヲ見ヨ、

〔さぎり (名) ［狹霧］ 〔さハ、發語(さ夜、さ衣、さ牡鹿)〕 霧ト云フニ同ジ。古事記、上[illegible]上三吹、棄[illegible]吹之狹霧」[illegible]長[illegible]朗[illegible]ノ佐霧理ニ立タムゾ」

さぎりう (名) 鷺流 〔大藏流、泉流、ニ對ス〕 能ノ狂言ノ一流、長命權之丞ヲ祖トス。權之丞ト云フ者、狂言上手ナリ、豐臣太閤、肥前ノ名護屋ニアリシ時、水邊ニ遊ビシニ、權之丞、川中ニ入リ、鷺ノ泥鰌ヲ踏ム眞似シテ、竈ニ入ル、太閤、鷺、鷺、ト呼バレ、遂ニ、鷺ヲ、氏トセシメタリト云フ、(或ハ云フ、權之丞、頸、長カリシト)子孫、德川幕府ニ仕ヘテ、狂言一流ノ家元ナリシガ、其家、絶エテ、今ハ、流ノミ殘レリ。

さき・わ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 咲分 一樹ノ中ニ、紅、白、其他ノ色ノ花、雜リテ咲ク。

さきわけ (名) ［咲分］ 一株ノ草木ニテ、花ノ色ノ、種種ニ雜リテ咲クモノ。間色ニ色 咲分桃、源平桃、ナドアリ。鶯宿梅ヲ、さきわけの梅ト云フ、赤、紅花、白花、雜リ咲ケバナリ。

さきわけ・の・うめ (名) ［咲分梅］ あうしゆくばい(鶯宿梅)ノ(二)ヲ見ヨ。

さきわけ・もも (名) ［咲分桃］ げんぺいももニ同ジ。

さきわたし (名) ［先渡］ 屆先ニテ、貨ヲ渡スコト。さきばらひノ條ヲ見ヨ。

〔さき・わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) ［咲渡］ 咲キツヅク。萬葉集、五[illegible]萬世ニ、年ハ來經トモ、梅ノ花、絶ユルコトナク、佐吉和多流ベシ」

さきをととし (名) ［一昨昨年］ をととしノ條ヲ見ヨ、さをととしト云フハ、中略ナリ(幸く、さく、晦日、つごもり)さいとぞしト云フハ、さきつとしノ音便轉(前使、さいづかひ。一昨日、をとつひ)前年ハ、泛ク、過ギ去レル年ヲ云フナルヲ、狹ク、さきをととしヲ云ヘルナルベシ」 一昨年ノ前ノ年。又、さをととし。さいとし。萬葉集、四[illegible]「前年ノ先年ヨリ、今年マデ、戀フレドナツモ、[illegible]ニ會ヒガタキ」竹取物語「さをとしノ、[illegible]月ノ十日頃ニ、[illegible]ヨリ、舟ニ乘リテ」[illegible]一、廿九條「去去年ノ前ヲ、さいととしト云フハ、正字、如何、先年ト書キテ、さきつとしト讀ムベシ、さいとヽハ、訛也、云云、つヲ、とト云ヒナセリ、去去年ヲ、をとこしト云フ義、誤歟、云云、先年ヲ、昔ニ讀ム時ハ、必ズシモ、去去年ノ前ノ年ニモ限ラズ、云云」

さきをとつひ (名) ［一昨昨日］ 〔をとつひ、をとつひ、ノ條ヲ見ヨ〕 一昨日ノ前ノ日。一昨昨日。老大前日

〔さき・な・す・る (動) ［咲撓］ をなるノ條ヲ見ヨ、

さく (名) ［畦］ 〔さくり(決)ノ下略(煙、けむ。藥煉、くすね)其ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 畠ノ中ノうね。鍬ヲ以テ、コレヲ鋤リオコスヲ、さくをきる、又、さくきりト云ヒ、堅ざく、横ざく、ナドトモ云フ、

さく (名) ［作］ (一)作ルコト。ツクリ。コシラヘ。デキ。製作。狂言記、福宜山伏「某ノ作ノ大黑ヲ持チマシタ」「詩作」「作歌」「狂言ノ作」「正宗ノ作」「左甚五郎ノ作」 (二)神作ノ略、其條ヲ見ヨ 「作ノ袋」「作ノ鎧」 (三)耕作ノ略。稼穡 「作場」「稲作」「畑作」「小作」「入作」 (四)耕作ノ實、稔 「今年ノ作ハ良イ」「上作」「豐作」

さく (名) 昨 キノフ。昨日。今年ノ前ノ年ニモ冠ラセテ云フ。「昨十五日到着」「昨年」「昨春」「昨冬」

さく (名) 策 〔說文「策者、謀也」〕 (一)ハカリゴト。計策。計略。工夫。 宋史、張詠傳「以ㇾ布衣ㇾ獻ㇾ策」 (二)古ヘ紙ニ用ヰシ竹簡。轉ジテ、書冊。 孟子、盡心、下篇「吾於ニ武成ニ取ニ二三策ニ而已」「善後ノ策」 (三)馬ヲ鞭ウツ、むち。馬箠 禮記、曲禮、上篇「君車將ㇾ駕、則僕執ㇾ策、立ニ於馬前ニ」 (四)官吏ノ試驗ナドニ、政化ノ得失、時事ニ關スル問題ナドニ就キテ、コレニ處スベキ考ヘヲ述ブル文。コレヲ、策文ト云ヒ、其試問ニ就キテハ、策問ト云ヒ、コレニ對フルニ就キテハ、對策ト云フ。 經國集、本朝文粹、菅家文草、都氏文集、等ノ諸書ニ、策文、策問、對策ノ文、數篇ヲ載セテアリ。

さく (名) 朔 〔說文、朔「月一日、始蘇也」白虎通「朔之言、蘇也、明消更生、故言ㇾ朔」〕 ツキタチ。ツイタチ。 萬葉集、三五十六「移ㇾ朔而後悲ㇾ嘆秋風ㇾ家持作歌」

さく (名) 杓 まゃく(杓)ノ條ヲ見ヨ。

さく (名) 索 〔索ハ、繩ナリ、小爾雅「大者、謂ニ之索ニ小者謂ニ之繩ニ」さっくト云フハ、急呼スルナリ(鎭甲、きっこふ)〕 (一)太キ繩。 書經、五子之歌篇「若ニ朽索之馭ニ六馬ニ」 (二)不動明王ノ持テル、縛の索。(其條ヲ見ヨ)又、さっく。 合類節用集(元祿)九、言辭門「羂索」 羂ニ不動索ニ羂ニ大悲索ニ 謠曲、船辨慶「數珠、サラサラト押揉ンデ、云云、中央、大聖不動明下ノさくニカケテ、祈リ祈ラレ、惡靈、次第ニ遠ザカレバ」(平知盛ノ幽靈ヲ云フ)

さく (名) 柵 (一)木材ヲ疎ニ立テテ、貫ヲ互シタル垣。 倭名抄、十五 墻壁類「說文云、柵、音策、編ニ竪木ニ也」 箋注「類名抄、柵、下音篇日、編ニ木爲ㇾ垣、謂ニ之柵ニ」 (二)柵ノ音讀、其條ヲ見ヨ。

さく (名) 簀 (一)スノコ。 (二)簀。簀を易ふト云フハ、賢人ノ死ぬヲ云ヒ、轉ジテハ、唯、臨終、病死、ノ意ニ用ヰル。禮記ノ檀弓ノ上篇ニ、曾子ガ病ミテアリシ時、大夫ノ季孫ヨリ賜ハリシ、美シキ簀ヲ敷キテアリシガ、憚ルトテ、危篤ナルニ、強ヒテ、他ノ簀ト易ヘシメテ、卽チ、死セシコトアル故事ヨリ起ル。

さく (名) 幘 御幘ノ條ヲ見ヨ。 江家次第、十、新嘗祭「縫司供ニ神部御服ニ內藏司供ㇾ幘」

さく (名) 爵 まゃく(爵)ノ條ヲ見ヨ。

さく (名) 鑿 〔鑿ハ、穿つナリ、穿鑿ナリ〕 イリホガナルコト。理窟ニテ、穿チ過グルコト。 正字通「恣ㇾ意不ㇾ求ニ合ニ義理ニ謂ニ之鑿ニ」「其論理、頗ル鑿ナリ」「鑿說」

さ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 咲 〔さハ、發語、さ明くノ約ナラムカ(朝明、あさけ)盛る、榮ゆト、意、通ズ〕 花ノ蕾、開ク。開花ス。ヒラク。開 孝德紀、大化五年三月「本每ニ、花ハ左該ドモ、何トカモ、愛シ妹ガ、マダ左枳出來ヌ」(本トハ、木ノコト)

さ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 秀起 〔前條ノ語ト、意、同ジト云フ〕 起ツ。發ル。 神代紀、下 廿一「秀起浪穗上」秀起、此云ニ左岐陀豆屢ニ」(通釋「豆、信友校本ニ一古本、豆トアルニ據ルベシ」) 古事記、上 六十「猨田毘古神沈ニ溺海鹽ニ「其海水之阿和佐久時名、謂ニ阿和佐久御魂ニ」(沫起つナリ) 萬葉集、六 十五 長歌「白波ノ、伊開メグレル、住吉ノ濱」 同、十四 三十二「阿遲可麻(地名)ノ、潟ニ左久波」 同、廿 九十「今替ル、新防人ガ、船出スル、海原ノ上ニ、浪莫佐伎ソネ」

さ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 放離 〔裂くト通ズルカ〕 放ツ。見放くト云フハ、見遣ル心ニテ、振放見るト、同意ナリ。 萬葉集、十三 三十四 長歌「天地ノ、神シ恨メシ、草枕、此旅ノ時ニ、夫隱ㇾ哉」(旅中ニ、夫、死シテ、妻ノ歸ルサニ詠メル歌ナルベシト云フ) 同、三 五十二「行クサニハ、二人我ガ見シ、此崎ヲ、獨リ過グレバ、見モ左可ズ來ヌ」(太宰帥大伴旅人ガ、往ク時伴ヒシ郎女ハ亡セテ、歸ルサニ、攝津國、武庫郡、敏馬ノ崎ヲ過グル時ノ詠ナリ) 同、一 二十三 長歌「委曲ニモ、見ツツ行カムヲ、屢モ、見放かム山ヲ、心無ク雲ノ、隱フベシヤ」(古義「見放カム山ナルモノヲノ意ナリ」行カムト、見放カム、ト相對ス)

さ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 放離 〔前條ノ語ノ活用ノ一轉(被く、かづくる)〕 (一)放ツ。 萬葉集、五 三十二「難波津ニ、御船泊テムト、聞エ來バ、紐解キ佐氣テ、立走リセム」(紐ヲ結ブマデモナク、ノ意ト云フ、遣唐使ノ歸朝ニ就キテノ詠ナリ) 同、十九 四十三 長歌「紐解放テ、千年壽ギ」(宴會ニ、打解ケタル狀ニ云フ)「見さくる」 (二)隔ツル。 萬葉集、四 四十一「汝ヲト吾ヲ、人ゾ離クナル、イデ吾君、人ノ中言、聞越スナユメ」 同、十四 四十「上毛野、佐野ノ船橋、取放シ(序)、親ハ左久禮ド、吾ハ離ルガヘ」

さ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 裂 〔放くト通ズルカ〕 (一)引キ破ル。引キテ、分ツ。「紙ヲさく」「衣ヲさく」 (二)〔切リハナス。割ル。割 神代紀、上 三十五 八岐大蛇「割ニ裂其尾ニ視ㇾ之、中有ニ一劍ニ」 (三)隔ツル。 竊政集、下「マドロマバ、驚カスナヨ、會フト見ム、夢ニモ中ヲ、さくト思ハム」(驚カスハ、覺スナリ)

さ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 裂 〔前條ノ語ノ自動(燒く、やくる。碎く、くだくる)〕 破レ、ハナル。切レテ、分ル。「紙、さくる」「衣、さくる」

さ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 避 〔離るト通ズルカ〕 物事ニ觸レジト、其處ヲ離ル。避ク。 古事記、中(應神)七十五「遠日ニ堅石避ニ醉人ニ也」 源、二、帚木 四十九「人人さけズ、すさへサセテナン聞エサセヨ」

さ・く (形) 狹 狹しノ條ヲ見ヨ。

さく (副) 幸 さきくノ條ヲ見ヨ。

さく (名) 谷 東國ニテ、谷ノ異名。さこ(谷)ノ條ヲ見ヨ。

さ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 下 〔さがるノ他動(上る、あぐる)〕 (一)〔上ヨリ、下ヘヤル。クダス。オロス。(上ぐノ反) 竹取物語「鼎ノ上ヨリ、手トリ、足トリシテ、さげオロシ奉ル」 (二)〔縣ケテ、垂ラス。垂 神樂歌、採物、劍「白銀ノ、目貫ノ太刀ヲ、左介佩キテ、奈良ノ都ヲ、遶ルハ誰ガ子ゾ」 催馬樂、庭生「庭ニ生フル、加良齊ハ、佳キ菜ナリ、宮人ノ、左久留袋ヲ、己レ懸ケタリ」(袋ハ、魚袋ナリ、齊ノ實ハ、極メテ小サキ袋ノ如シ、今、雀の巾着ト云フ) (三)調子ヲ、低クス。「聲ヲさぐ」「音ヲさぐ」 (四)低クス。劣ラス。オトス。降等 「位ヲさぐ」「價ヲさぐ」 (五)退クル。卻 「後へさぐ」 以上、スベテ、さげるト、見合ハスベシ。

さ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 提 〔下ぐノ義〕 手ニ持チテ、下グ。ヒキサグ。ヒッサグ。携フ。「提刀」「鞄ヲさげテ行ク」

ざ・ぐ (名) 座具 僧ノ、坐シテ禮拜スル時ニ用ヰル敷物。布帛ニテ、長サ四尺、廣サ三尺ニ作リ、四邊ニ緣ヲツク、行ク時ハ、疊ミテ、袈裟ノ下ニ携フ。 五分律「爲ㇾ護ㇾ身、護ㇾ衣、護ニ僧牀褥ニ故、蓄ニ坐具ニ」 倭名抄、十三「三僧坊具、座具」 金玉義林云、僧六物、其三曰ニ座具ニ 東大寺要錄(嘉承)九、授戒方規「自餘十師、自手敷ニ座具ニ同時起居三拜、卽起ニ帖座具ニ了」

さく-い (名) 作意 心ニテ、創作スルコト。 法苑珠林「當須ニ作ニ不ㇾ起ニ染想ニ」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三「作意アル人ノ、飼フ犬アリ、名ヲ、廿四ト附ケタリ、何トシタル子細ニヤト問フ、まろ

くノ[illegible]ノ一種ニテ、[illegible]セル、[illegible]ノ作者モ、[illegible]ノ[illegible]ナリ」

さくい (名) 精細ナキナ、さくさハト云フ、其條ヲ見ヨ」(一)解ケヤスシ。ワカレヤスシ。精シノ反。[illegible] (二)心、打解ケタル状ナリ。氣輕ナリ。氣サクナリ。洒脱。[illegible]

さくいん (名) 索引 (索めて引出スコト)(一)サガシ、イダスコト。見出スコト。[illegible] (二)書籍ノ中ニアル、物事ノ名稱ノミヲ抜キテ、五十音順、いろは順、又ハ畫數順ナドニ並ベタル表、其名稱ノ所在ヲ、容易ニ見出スニ便ニスルタメノモノナリ。

さくいん (名) 索隱 (易經、疏「索、謂求索、隱、謂隱藏」)(一)隱レタル理ヲ、探シ求ムルコト。[illegible] (二)史記ノ注ノ名稱。唐ノ司馬貞、著。

さくえふかさう (名)「昨葉何草」 カハラマツ、ツメレンゲ。

さくか (名) 作家 (家ノ條ヲ見ヨ) 作者タル人。文章、詩歌、小說、美術品ナドヲ、創作スル人。[illegible]

さくか (名) 作歌 (一)歌ヲ、作ルコト。(二)作リタル歌。[illegible]

さくかう (名) 錯行 (一)斜ニ、ユクコト。(二)互ニ、交々、[illegible]ル、メグルコト。(中庸、第三十章)「辟ヘバ如四時之錯行、如日月之代明」

さくかく (名) 錯覺 (英語、Illusion.ノ譯語。[illegible]「錯、誤也」) 心理學ノ語。物事ヲ、實物ドホリニ知覺セズ、誤リテ、知覺スルコト。朧月夜ニ、柳ヲ、幽靈ト見ルガ如キ、是レナリ。[illegible]

さくがく (名) 錯愕 (さが、ノ音ナルベシ。出典ヲ見ヨ、字典「錯、亂也」) アワテ、フタメクコト。[illegible]

さくがく (名) 作噩 酉ノ異稱。干支ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

さくかん (名) 錯簡 (玉篇「錯、雜也」) 支那ノ古ヘノ書籍ハ、字ヲ、簡ニ書キテ、編ミタリ、ソレガ亂シテ、前後ニ入リ錯リ、編違ヘトナルコトアリシヨリ、遺レル語ナリ。書籍中ノ章句ノ、前後、入違ヒニ錯亂シタルコト。[illegible]

さくがら (名) 作柄 (柄ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 農作物ノ實ノ良否。「今年ハ、作柄ガ良イ」

さくぎ (名) [illegible] (傍ニ遺ルベキ樹、傍ノ條ヲ見ヨ) 水松ノ異名ナルベシ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

さくきう (名) 索求 サガシモトムルコト。探求。[illegible]

さくきよ (名) 索居 散リ離レテ、居ルコト。[illegible]

さくきよく (名) 作曲 フシヅケ。歌ヲ、音樂ニノボセテ、音律ニ協ヘシメ、歌ノヤウニ、曲節ヲ作ルコト。「苦心ノ作曲」

さくきり (名) 雕切 さく(雕)ノ條ヲ見ヨ。

さくくう (名) 鑿空 (いりあがナルナリ) [illegible]

さくくう (名) 鑿空 (出典ヲ見ヨ) 新タニ、道路ヲ開通スルコト。[illegible]

さくくしろ (枕) 拆釧 「拆ノ字ハ、拆鈴ノ例ニ據リテ記セリ。此語、大神宮儀式帳、舊事紀ナドニ、佐古久志呂トモアリ、何レモ、拆釧ノ音轉ナラム(月夜、つくよ、蒼々、くくたちナド、熟語トナレバ、轉ズルナリ、又、黄金、こがね、くがね、許多、ここだく、ナドモアリ)幸御魂、幸田、幸草、ナドモ云フ、吉キ鈴ノ義ニテ、賛メタル語ナルベシ、釧ニハ、鈴ヲツケタルガ多ケレバ(鈴釧ト云フ語モアリ)五十鈴ト續クナリ(いハ、發語ナリ、いすずはノ條ヲ見ヨ)拆鈴ト云フ語モ、同趣ナリ」 五十鈴ノ枕詞。拆鈴ノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]

さくくむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 間闚時 (さハ、發語、くくむハ、屈むニテ、潜潜ヲ潜潜スルナリ(いつくしノ條ノ語原ヲ見ヨ)さくむト云フハ、中略ナリ)(横む、い、ぶ)」 高低ヲ、上リツ、下リツ、經ワタル。難處ヲ、ゆきキツツ行ク。又、さくむ。[illegible]

さくぐら (名) [illegible] 神作ヲ見ヨ。

さくげ (名) 作毛 「毛ノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 稲作ノ實。作毛。[illegible]

さくげふ (名) 作業 仕事ヲ、ツトムルコト。作業。[illegible]

さくげん (名) 削減 ケヅリ、ヘラスコト。[illegible]

さくげんち (名) 策源地 (策源ハ、兵ノ謀策ノ根源ノ意ナルベシ)(一)作戰スル軍隊ガ、其需用ヲ仰グ背後ノ地點。(二)海軍ノ根據地。

さくこ (名) 柵戸 キノヘ。キヘ。

さくご (名) 錯誤 (玉篇「錯、雜也」字典「亂也」) アヤマリ。マチガヒ。認識ト、對象トノ不一致。(錯覺ノ條ヲ見ヨ)

さくこん (名) 昨今 キノフ、ケフ。今日コノゴロ、チカゴロ。[illegible]「昨今ノ寒サ」[illegible]

さくさく (副) (精氣ナキモノヲ切ル音

ヨリ云フ〕 物ヲ、容易ク噛ミ、又ハ、切ル音ナドニ云フ語。「澤庵ヲさくさく噛ム」大根ヲさくさく切ル」

さく-さく (副) |嘖嘖| 〔廣韻「嘖嘖、叫也」韻會「嘖嘖、爭言貌」〕 口口ニ、言ヒサワグ狀ニ云フ語。「名聲、嘖嘖タリ」

さく-さく (副) |索索| (一)オソルル狀ニ云フ語。 易經、上經、震卦「震索索」疏「心不レ安之貌」 (二)聲ノ、響ク狀ニ云フ語。 白居易詩、第一第二絃索索、秋風拂松疏韻落」

ざく-ざく (副) 物ノ、多ク集リテ、觸レ合フ音ニ云フ語。ザキザキ。「沙ガざくざくスル」黄金ヲざくざく持ツ」

さく-さく・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) |寂寂| 〔寂(セキ)ノ、呉ノ原音、じゃく、次音、ざくナリ、音便ニ、さうざうしトモ云フ〕 サブシ。淋(サビ)シ。さうざうし。 字鏡八十五「心中不レ樂貌、坐歎貌、佐久佐久之」

ざくざく-じる (名) 味噌汁ニ、菜ヲ、ざくざくト刻ミテ、入レテ、煮タルモノ。 鈴鹿家記(京都吉田神官)光嚴院、延元元年二月七日、聖護院村溝掘人夫「貳百五拾貳人、夕飯出ル、汁、さくさく、鹽物、漬物(アヘモノ)、香物、大椀五荷」(古事類苑) 嬉遊笑覽、十、上、飲食、ざくざく汁「世話盡(承應)四「天台宗ヘ參リ侍リテ、菜汁ヲ振舞ハレテ、寺デ食フ、くうじゃくじゃくノ、菜汁カナ」菜ヲ、麁相ニ切テセシムルヲ、世人詞ニ、さくさく汁ト云ヘリ、又、彼宗ノ根本、空空寂寂ノ法ヲ以テ、肝要トス」 海錄(文政、山崎美成)十二、四十二條「江戸ニテ、ざくざく汁、(註、豆腐ヲ、小サク四角ニ切リテ、菜ヲ細カニシテ入レタル也)ト云フモノヲ、因州ニテハ、さくさくみせん汁ト云ヘル由」

さく-ざつ (名) |錯雜| 〔玉篇「錯、雜也」〕 入リマジルコト。複雜。 王褒、洞簫賦「錯雜」

さく-さん (名) |柞蠶| 〔支那種ナレバ、漢語ナルベシ〕 蠶ノ一種。楢(ナラ)、又ハ、櫟(クヌギ)ノ葉ヲ食ヒテ、成長スルモノ。體モ、繭モ、常ノ蠶ヨリ大キクシテ、褐色ナリ、絲モ、褐色ニテ、光澤アリ、絹絲ノ代用トセラル、支那ノ北方、及、滿洲地方ニテ、多量ニ產ジ、明治ノ初年ニ、我ガ國ニ、其種ヲ移セリ。

さく-さん (名) |醋酸| 〔英語、Acetic acid.ノ譯語〕 有機酸類、醋(ス)ノ主成分、無色ノ液ニシテ、刺戟性ノ香氣アリ、種種ノ用ヲ成ス。

さくさめ-の-とし (名) 〔諸說、紛紛タリ、定家ノ僻案抄ニ、後撰集ノ歌ニ就キテ、讃岐入道頼綱ノ說トテ「さくさめのとしト云フハ、早蕨、早苗ノ早、若草、初草ノ草、云云、若草女の年ニテ「待ツニ消(ケ)ヌベシ」ト詠(ヨ)メルカ」トアリ、顯昭ノ袖中抄、八ニ「さくさめのとし、行成卿ノ書カレタリケル後撰ニハ、此歌ノ終ノ七文字ヲ、丁年トゾ書カレタリケル、ト或物ニハ書ケリ」早草女(サクサメ)ト云フ語、アリヤ無シヤ、知ラザレド、何レニモ、若草ナドノ意ニテ、青年女子トスル說、意義アリト聞ユ(とし(トジ)ハ、刀自ナリト云フ說アレド、母モ、娘モ、自ラ、刀自トハ稱スベカラザルガ如シ)尚、八雲御抄ニ、「さきさめトアリ、名義抄ニ「嫛、サクサム」夫木抄、十三、秋、月「水脈(ミヲ)淀ム、天ノ川岸、波立チテ、月ヲバ見ルヤ、さくさみノ神」ナドヲ參照シテ、考究スベキナリ〕 青年女子ノ年齡ト云フコトナルベシ。 後撰集、十八、雜、四、人ノ娘ノ、今、參出來(マウデコ)ムト言ヒテ、罷(マカ)リニケルガ、文オコスル人(アダシビト)アリ、(他人ヨリ文(フミ)ヲ通ハス)ト聞キテ、久シク參出來(マウデコ)ザリケレバ、あどうがたりノ心ヲ取リテ、カクナム申シケルト言ヒツカハシケル、女ノ母「今來ムト、言ヒシバカリヲ、命ニテ、待ツニ消(ケ)ヌベシ、さくさめのとし」(青年ニテ、失セヌベシノ意カ、あどうがたりハ、あどがたりノ延、あひづちヲ打ツコトナリ、其條ヲ見ヨ)返し、拾遺「數ナラヌ、身ノミ物ウク、オモホエテ、(待タレモスマジト、行クモ物ウク思ハレツルニ)待タルルマデニ、ナリニケルカナ」 夫木抄、三十五、女「吾ガ夫子(セコ)ニ、年ノ數ヲモ、アラハサデ、ナホ若ユテフ、さくさめのとし」(是レ等ハ、直チニ、女子ノコトトシタリ)

さく-し (名) |昨紙| (一)昨日ノ手紙。「昨紙ニテ申上候通リ、云云」(二)昨日ノ新聞紙。「昨紙、報ズル如ク」

さく-し (名) |策士| ハカリゴトヲ、メグラス人。策略アル人。謀士。 史記、樗里甘茂列傳、贊「雖レ非二篤行之君子一、然亦戰國之策士也」 柳宗元、沛國漢原廟銘「是猶二策士一、輔二成帝圖一」

さく・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) (一)モロシ。破レヤスシ。(二)氣ノ輕キ狀ヲ云フ。 浮世床(文化、三馬)初編、上「ドウモ、さくくテ能イ」

さく-じ (名) |作事| 家ヲ作ル事(ワザ)。家作。普請(フシン)。造營。土木建築。 宗長日記(大永)「眞珠院假屋、作事奇麗」(但、古集覽)「作事奉行」

さぐ-じ (名) |三狐神| 〔稻荷ノ神ナリ、御食津(ミケツ)神ノ條ヲ見ヨ〕 農家ニ祭ル、田ノ神。 倭訓栞、さぐじ「三狐神ハ、みけつの神(御食津神)ノ借字ナルヲ、音ニテ呼ベルナリ、農家、祭リテ、田ノ神トスル、是也」

さく-じつ (名) |朔日| 陰曆ニテ、月ノ第一ノ日。ツイタチ。 詩經、小雅、祈父之什、十月之交「十月之交、朔日辛卯、日有レ食レ之」

さく-じつ (名) |昨日| キノフ。一昨。 許渾詩「宮一曲滿二明鏡一、昨日少年今白頭」

さくじ-ぶぎゃう (名) |作事奉行| 德川幕府ノ職名。殿舍等ノ作事、即チ、土木建築ノ事ヲ掌ル(諸大名ニモアリキ)又、切支丹改ヲモ兼掌ス、老中支配ナリ。別ニ、普請奉行モアリ、其條ヲ見ヨ。 明良帶錄、後篇「御作事奉行、二千石高、老中支配、專、木工之事ヲ司ル」 東職記聞、一「作事奉行、掌二城郭、及、神社佛閣、以下、總大儀造營一之職也、云云、帶二吉利支丹改之事一」(古事類苑)

さく-しゃ (名) |作者| (一)詩、歌、文章、著書、ナドヲ作ル人。撰者。(二)特ニ。和歌ヲ作ル人。讀人(ヨミビト)。 八雲御抄、二、作法、撰集「卿相ナドハ、雖レ非二殊作者一入レ之」 (三)又、特ニ、其和歌ノ撰集ニ入リタル人ノ稱。撰集ニ入レル人名ノミヲ集錄シタルニ、作者部類ト云フ書アリ。 袋草紙(藤原清輔)二、雜談「業意ハ、紀伊守重經也、號二紀伊入道一云云、騎馬ニテ、楠葉ノ御牧ノ政所前ヘ過ルニ、下人、出來テ咎レ之云、無二止事一御牧ヲ、不二下馬一テ過ルハ何者ゾ、入道云、紀伊入道業意、後拾遺ノ作者ニハアラズヤト、云云、下人、無レ答シテ令レ過レ之」 新葉集、十七、雜、中「續後拾遺集、撰バレシ時ハ、云云、作者ニ漏レ侍リシナ、云云、後、風雅集ナトトテ、撰集ノ事アル由、聞エシヲ、今ハ、マシテ、作者ニ加ハルベキニテモアラヌ事ナド、思ヒツヅケテ、云云」(宗良親王) (四)狂言作者ノ條ヲ見ヨ。

さく-しょ (名) |策書| 策命(サクメイ)ノ條ヲ見ヨ。 左傳、莊公廿六年「晉人殺レ晉」杜注「或策書雖レ存、而簡牘散落」

さくじり (名) |小慧| 〔次條ヲ見ヨ〕 サクジルコト。コマジャクレ。 落窪物語、一「イヅラ、楠ノ宮ノアリツルハ、あこぎト云フさくじり、居リテ、早(ハヤ)ウ取リ隠シテゲリ」(あこぎハ、侍女ノ名ナリ)

さくじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) |小慧| 〔倭訓栞、さくじり「小抉ノ義ニヤ」抉(クジ)ル、ニ、さノ發語ヲ冠ラセタル語、決(サク)るモ、さ剜(ク)る、吐(タグ)るモ、た剜(ク)るナラム(さ走る、

……守ニ小[illegible]ヲ[illegible]出デテ、[illegible]サイマクル。コマジャクレル。[illegible]、廿一、少女ニ「宮ニアヅケ奉リタル、從安ケレド、イトさくじりおズケタル人、立チマジリテ、オノヅカラ、氣近キモ、アヒナキ程ニ成リニケレバナムト聞エタマヒ[illegible]、[illegible]、さくじり、[illegible]ク[illegible]ギタル心也、夕霧ヲ云ヘリ」花鳥餘情[illegible]ノ字ヲ、さくじり、[illegible]四、上[illegible]キタル對、イツクヘゾ、給ベ、見ムトハ宣ハスレド、打チさくじり、引キ[illegible]ヒナ［ハ、シタマハズ」[illegible]物語、一「[illegible]さくじりゾ」

さくぜれう（名）作事料　家ノ作事ノ料金。建築費。[illegible]、[illegible]、是年、[illegible]守正次ニ、於三[illegible]屋敷地ヲ給ハリ、[illegible]作事料、黄金三百兩ヲ給フ」（古事類苑）

〜さくすずの（枕）[拆鈴]〔さくすずハ、幸鈴ノ轉ニテ、吉キ鈴ノ義ナルベシ、拆鈴ノ語原ヲ見ヨ〕此語、拆ノ借字ニ因リテ、口ノ拆ケタル鈴ノ義トスル説、多ケレド、サラバ、拆くる鈴、又ハ、さけ鈴ナラズハアルベカラズ、鈴ハ、素ヨリ、口ノ拆ケタルモノナレバ、今更ニ云フベクモアラズ、サテ、五十鈴トツヾク意ハ、拆鈴ノ五十鈴ニ[illegible]カ[illegible]」五十鈴ノ枕詞　拆鈴ノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]

さくせい（名）[作成]　作リ、成スコト。[illegible]デカスコト[illegible]

さくせき（名）[昨夕]　昨日ノユフ。昨晩。[illegible]

さくせつ（名）[臘說]　[illegible]

さくせつ（名）[錯簡]　[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

さくせん（副）[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]散也」「(一)鈍キノ[illegible]狀ニ云フ語。「眼味、安然タリ」(二)散ル狀ヲ云フ語。[illegible]

ざくせん（名）[鐵錢]〔ざくハ、音ナリ、ざくざく錢ノ意、ざくざくノ條ヲ見ヨ、或ハ、銑錢ノ轉カ、月薬金ヲ、めくされがねナド云フ、後世ノ語、假名遣ナドニ闕セズ〕鐵ニテ鑄タル錢。テッセン。

さくせんけいくわく（名）[作戰計畫]〔さくせんハ、作戰ト讀ムベキカ、戰ヒヲ作ス義、佛事ノ作善ハ、追善ヲ作スナリ、備、造作ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕兵學上ノ語。軍隊ノ、敵ト戰フベキハカリゴト。軍略。戰爭ノ支度。

さくそう（名）[錯綜]〔出典ヲ見ヨ〕交ヘ、統ブルコト。組ミ合ハスルコト。易[illegible]

さくだつ（名）[削奪]　ケヅリ、ウバフコト。[illegible]

サクタフ（名）[鮓荅]　へいさらばさら、並ニ、馬玉ノ條ヲ見ヨ。

さくたん（名）[朔旦]〔朔日ノ朝ナルヲ、其日トスルナリ、吉日ヲ、吉旦トモ云フ〕朔日ニ同ジ。五代史、四夷附錄「毎月朔旦、[illegible]日」

さくたんのしゅん（名）朔旦旬　次條ヲ見ヨ。

さくたんのとうぢ（名）[朔旦冬至]　陰暦十一月ノ朔日ノ、冬至ノ節ニ當ルコト。コレヲ祥瑞ナリトシテ、此日、朝廷ニテ、群臣、賀表ヲ奉リ、主上、紫宸殿ニ出御アリテ、朔旦旬トテ、賜宴アリ、又、敍位、免租、赦、ナド、行ハルルコトアリキ。（旬トハ、宴會ノコトナリ、其條ヲ見ヨ）[illegible]、[illegible]公五年「正月辛亥、朔、日南至、公既視朔、遂登觀臺、以望、而書、禮也」周ノ正月ハ、後ノ十一月ナリ。續紀、九、神龜二年十一月己丑十日「天皇[illegible]大安殿、受冬至賀辭、親王及侍臣等、奉持奇翫珍寶、進之」云云、[illegible]日」同、三十八、延暦三年十一月[illegible]、十一月朔旦冬至者、是[illegible]代之[illegible]遇、而[illegible]之休祥也、云云、公卿已下、宜加賞賜、京畿當年田租並免之」江家次第、十、十一月「朔旦旬、云云、朔旦冬至宴會」[illegible]代要記「永仁六年十一月、朔旦冬至」是也、被行旬儀」公事根源、十一月、朔旦冬至「是レハ、十一月一日ノ、冬至ニアタルヲ云フナリ、二十年ニ一度マハル事トテ、メデタキ祥瑞ナルニ因テ、其年ハ、主上、南殿ニ出御ナリテ、旬ヲ行ハル、公卿、賀表ヲ奉ル事ナドアリ」

さくぢ（名）[澡豆]　さくづニ同ジ、さうとう（澡豆）ノ條ヲ見ヨ。

〜さくぢゃう（名）[錫杖]　しゃくぢゃう（錫杖）ヲ見ヨ。

さくぢゃう（名）[槲杖]　さみやノ條ヲ見ヨ。

さくぢょ（名）[削除]　ケヅリ、ノゾクコト。「條目ノ箇條ヲ削除ス」

さくづ（名）[澡豆]　アラヒコ。さうとう（澡豆）及、さくづばこノ條ヲ見ヨ。

さくづ（名）[作圖]　圖ヲ、ツクルコト。製圖。又、其圖。

さくつう（名）[鑿通]　ホリ、トホスコト。ホリヌクコト。「隧道ヲ鑿通ス」

さくづけ（名）[作附]　稲作ノ仕附ヲスルコト。「作づけ段別」

さくづばこ（名）[澡豆匣]〔さうとう（澡豆）ノ條ヲ見ヨ〕茶家ニテ用ヰル、一種ノ炭斗。[illegible]、安永）「さくづ箱ノ事ハ、專受ノヤウニ云フ者アレド、あらひこぬかヲ入ルル箱ナリ、ぬか袋ヲ、さくづ袋ト、我ガ母ナドハ言ヒシ」[illegible]名抄、六「[illegible]、[illegible]、茶家有炭斗名ニ佐久豆箱ニ者、蓋借古盛澡豆之器爲炭斗之也」

さくてう（名）[昨朝]　昨日ノアサ。[illegible]

さくてう（名）蚱蟬　アブラゼミ。[illegible]

さくてん（名）[釋奠]　釋奠ヲ見ヨ。

さくでんかんもん（名）[作田勘文]　田籍ノ類、其條ヲ見ヨ。

さくとう（名）[昨冬]　去年ノ冬。客冬。

さくとく（名）作得　耕作ノ上ニテ、納租ノ後ノ得分。

さくどり（名）[作取]　耕作ノ收入ヲ、竊カニ、全部、取入レテ、納租ヲ脫スルコト。德川時代、曲事トシテ、嚴禁セラレタル事ナリ。

〜さくなだりみ（副）「佐久那太理爾」〔さくなだりハ、決潰ノ約（宣りたまふ、のたまふ。渡座、わたまし）潰る、古クハ、四段ニモ活用セシナラム、即チ、なだるるノたるるモ、垂るるニテ、古キ四段活用ノ、垂るノ一轉ナリ、其外、隱る、亂るナドニ、二活用アル例アリ、立板ニ水ヲ流ス、ト云フハ、ムガ如キ語ト思ハル〕山水ノ、懸垂ニ流レ落ツル狀ニ云フ語。大祓詞「高山末、短山之末ヨリ、佐久那太理爾、落チ

激ギツ、速川ノ瀬ニ、云云（末ハ、頂ナリ、短山ハ、低キ山ナリ）　廣瀬祭祝詞「山山ノ口ヨリ、狹久那多利爾、下シタマフ水ヲ、云云」

〜さく-あん-さ　(名)　石南草　〔石南草ノ下略（承和菊、そがきく。還昇、げんざう）〕　又、トビラノキ。今、石南花ト云フ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。本草「石南」典藥寮式、諸國進年料、雜藥「美濃國、王不留行、云云、石南草各廿斤」倭名抄、廿九木類「本草云、石楠草、止比良乃木、佐久奈無佐」　清愼公集、横川ニテ、さくたんさヲ見テ「紫ノ、色ニハさくた、むさシ野ノ、草ノユカリト、人モコソ見レ」返し「櫻花、山ニさくなむ、さトノニハ、マサルト聞クヲ、見ヌガワビシサ」

さく-あん-さう　(名)　石南草　前條ヲ見ヨ。

さく-にん　(名)　作人　(一)田ヲ、耕作スル人。冥祥記「在レ田作人」(二)器ナド、作リタル人。製造者。「佛像ノ作人」

さく-ねん　(名)　昨年　コゾ。去年。客年

さく-の-あぶみ　(名)　作鐙　神作ノ條ヲ見ヨ。

さく-の-くら　(名)　作鞍　神作ノ條ヲ見ヨ。

さく-ば　(名)　作場　耕作スル處。即チ、田畠。耕地。「作場路」

さく-はう　(名)　朔方　〔出典ヲ見ヨ〕　北ノ方。キタ。朔北。書經、堯典篇「宅二朔方一」蔡傳「朔、北方也、舍人曰、朔、蘇也、北方、萬物盡、故二之朔也」（書經、牧誓稿「惟家之索」孔傳「索、盡也」朔、索、通ズルカ）　李陵、與二蘇武一書「幾死二朔北之野一」

さく-ばう　(名)　朔望　每月ノ朔日ト、十五日ト。後漢書、岑彭傳「以二朔望一問二大夫人起居一」

〜さく-はうし　(名)　笏拍子　はうし(拍子)ノ條ヲ見ヨ。天德四年內裡歌合「笏拍子トレリ」

さく-ばく　(副)　索莫　(一)物サビシキ狀ニ云フ語。詩經、詩「塞上詩懷允索莫」(二)精神ノ、沮喪スル狀ニ云フ語。王安詩「索莫無レ言面如レ土」

さく-はち　(名)　尺八　しゃくはち(尺八)ノ條ヲ見ヨ。

さく-はつ　(名)　削髮　剃髮ニ同ジ。名物六帖、白子西詩「削髮遨遊數十年」

さく-はつ　(名)　炸發　〔炸ノ字、古キ漢字書ニ見エズ、窄火ノ合字ナルカ、或ハ、日本外史ニ、銃炸ノ語アリトモ云フ、未ダ見ズ、辭源ニ「讀如レ詐、火力爆發也」トアリ〕　火藥ノ、發火スルコト。炸裂。大砲ノ發火藥ヲ、炸藥ト云フ。

さく-ばん　(名)　昨晚　昨日ノクレ。昨夕。昨夜。王維、宿二鄭州一詩「昨晚猶金谷」

さく-びう　(名)　錯謬　アヤマリ、タガフコト。錯誤。誤謬。漢書、元帝紀「陰陽錯謬、氣充塞」

さく-ひ-こん-ぜ　(名)　昨非今是　今是昨非ノ條ヲ見ヨ。

さく-びゃう　(名)　作病　〔作　病ノ字ノ音讀〕　ツクリヤマヒ。假病。狂言記、二人大名、右京「シテ、コナタハ、人ヲ連レサッシャレヌカ」左京「作病ヲ起シ居ッテ、供ニウセナンテゴザル」

さく-ふう　(名)　朔風　〔さくはう(朔方)ノ條ヲ見ヨ〕　北風。冬ノ季節ノ風。夏侯湛、雜詩「朔風動二秋草一、邊馬有二歸心一」杜甫詩「黃葉從二山樹一、呼兒問二朔風一」

さく-ぶん　(名)　策文　策ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

さく-ぶん　(名)　作文　(一)文章ヲ、作ルコト。又、作リタル文。(二)詩ヲ、作ルコト。詩作。水左記、承保三年九月九日「於二內御書所一有二作文一云云、題云、菊爲二花貴種一」註「以レ芳爲レ韻」著聞集、四、文學「治承二年六月十七日、延久ノ古キ跡ヲ尋ネテ、中殿ニテ、御作文アリケリ、云云、御製、禁庭月下齡遊成、有レ客有レ絃有二宿盛一宴席愁追二延久跡一、詞花猶異二昔風情一ナ」

さく-へい　(名)　朔幣　每月朔日、國司、其國內ノ神社ニ奉幣スルコト。釋日本紀ニ引ケル淡路國例式「正月元日、國內諸神、奉二朔幣一其、每月朔日、准レ之」玉葉、壽永二年閏十月一日「依二春日朔幣一、神事如レ常」

さく-べい　(名)　索餠　むぎなはヲ見ヨ。

さく-べゑ　(名)　作兵衞　〔作病ヲ、作兵衞トシテ、擬人シタル語。呑兵衞、類〕　ツクリヤマヒ。假病。川柳「かけとりガ、來ルト作兵衞、ウナリダシ」

さく-ぼう　(名)　策謀　ハカリゴトヲ、メグラスコト。謀策。荀悅、漢紀、序「有二常道一、有二權變一、有二策謀一」

さく-ほう-し　(名)　冊封使　〔冊封ハ、冊立、封爵ノ義〕　支那ニテ、天子ヨリ命ジテ、內附ノ蕃國ニ趣キ、其國王ニ、王爵ヲ授ケシムル使節。朝鮮國、琉球國、等ニアリキ。琉球國志略（淸ノ周煌）首卷、康熙五十八年「冊封琉球國正使、翰林院檢討海寶、副使、翰林院編修徐葆光」詔「中山王世子曾孫尙敬、云云、特遣二正使副使一賚レ詔、往封爲二琉球國中山王一」

さく-ほく　(名)　朔北　さくはう(朔方)ノ條ヲ見ヨ。

さく-まう　(名)　作毛　さくげノ條ヲ見ヨ。

さく-ま-りう　(名)　佐久間流　軍學ノ一流、佐久間莊左衞門ノ始メシモノ。名ハ健、立齋ト稱ス、山鹿流ヨリ出ヅ、水戶ニ仕フ、享保年中ノ人ナリ。

さくみ　(名)　〔杓むノ條ヲ見ヨ〕　能樂ニ用キル假面ノ名。中凹ナルモノ。倭訓栞、後編、さくみ「能ノ面ニ、さくみト云フアリ、人ノ面ノ高卑アルヲ、しゃくみづらト云フニ同ジ」俚言集覽、さくみ「俗ニ、しゃくみト云フ、又、假面ニアリ」

さく-みゃう　(名)　策命　〔策命ヲ見ヨ〕　贈位、贈官、ノ時ノ宣命。其文書ヲ、墓前ニテ讀ミテ、後ハ、燒キ棄ツルヲ例トス。(夏山雜談、二)三位以上ナリト云フ。

さく-む　(名)　昨夢　昨夜ノ夢。往時ノ、ハカナキ經過。陸游詩「化蝶飛時噬二昨夢一」(莊周ノ化蝶ノ夢ヲ云ヘルナリ)

〜さく-む　(動)　さぐくむノ略、其條ヲ見ヨ。

さく-めい　(名)　策命　〔出典、及、さくみゃう(策命)ヲ併セ見ヨ〕　支那ニテ、天子ガ、諸侯、卿 大夫ニ、下命スルコト。其文書ヲ、策書ト云フ。周禮、天官篇、內史「凡命二諸侯、及、孤卿、大夫一、則策二命之一」蔡邕、獨斷「策書、策者、簡也、云云、其制、長二尺、短者、半レ之、云云、起二年月日一、稱二皇帝一曰、以レ命二諸侯王三公一、其諸侯王三公之薨レ于レ位者、以二策書一誄」

さく-もつ　(名)　作物　耕作ノモノ。田畠ノ農作物。俚言集覽「作物、田畠ニ作ル植物ノ總名」

さく-もの　(名)　作物　名作ノ物。名工ノ、作レルモノ。(刀、劍、器具ニ)神作ナド云フモ、是レナリ。

さく-もん　(名)　作文　作文ニ同ジ。左經記、寬仁四年二月十七日「今夜有二作文事一」大鏡、中、兼家「帥宮、一條院ノ御時ノ御作文ニ、マキラセ給ヒシ」同、道隆「學生ドモ召シアツメテ、作文シ遊バセ給ヒケル」

さく-もん　(名)　策文　策ノ條ノ(四)ヲ見

ヨ。

さく-もん (名) [策問] 策ノ條ノ(口)ヲ見ヨ。

さく-や (名) 昨夜 コヨヒ。昨晩。 朗詠集、上、[illegible]

さく-やく (名) 炸藥 炸發ノ條ヲ見ヨ。

さく-ゆふ (名) [昨夕] 〔昨夕ノ湯桶讀〕 昨日ノユフ。昨晩。昨夜。

さくら (名) [櫻] 〔咲麗ノ約ト云フ、或ハ、木花開耶姫ノ、さくやノ轉(あざやか、あざらか)木花ノ條ノ(二)ヲ見ヨ、櫻ノ字ハ、櫻桃ノ事ニテ、さくらニハアラネド、慣用セラレテアルナリ、然レドモ、支那ニテモ、日本ノ用字ニ引入レラレタルガ如シ、出典ノ詩ヲ見ヨ〕 (一)古名、又、木花。樹ノ名、山中ニ多シ、高サ、二三丈ヨリ、數丈ノ大木アリ、幹ノ皮ニ、横理アリ、[illegible]色ニテ、點文アリ、葉ハ、深青ニシテ、鋸齒アリ、清明ノ節前後ニ、滿樹、一齊ニ花ヲ開ク、一蔕ニテ、五瓣、白色ニ淡紅ヲ帶ブ、櫻色ト云フ、其艶美ナルコト、花中ノ第一トシテ、單ニ、花トノミ云ヒテ、花ノ名ヲ專ラニセリ、木花ト云フモ、是レナリ、又、花王トモ云フ。此樹、日本ノ特産ニシテ、諸外國ニアルヲ見ズ、實ニ、國華ナリ。實ヲ結ブ、さくらんばうト云フ。材ノ質、密ニシテ、硬[illegible]、用ヲ得、版木トシテ、最モ良シ、又、皮ヲ剝キテ、わげものヲ綴ツ。此種ヲ、類名ニ對シテ、山櫻ト云フ、彼岸櫻、八重櫻、[illegible]、[illegible]、千島櫻、等、種類、甚ダ多シ。[illegible]

サレド、ママ、清香、蓮ニ似タルアリ」 允恭紀、八年二月、「花細シ、櫻ノ愛デ」 萬葉集、八「春雨ノ、シクシク降ルニ、高圓ノ、山ノ櫻ハ、イカニカアルラム」 同、十三、長歌「作櫻花」 天治字鏡、七五「櫻、佐久良ニ傳名ジ」 拾遺集、十六、雜、春「日ノ本ニ、咲ケル櫻ノ、色見レバ、人ノ國ニモ、アラジトゾ思フ」 宋景濂、櫻詩「賞櫻日本盛、於唐如牡丹」 [illegible] 枕草子、六、五十六段、「繪にかきておとるもの、さくら」 (二)琵琶法師ガ、平家物語ヲ語ル時、最初ニ必ズ語ル一句ノ曲ノ名、櫻町中納言ガ、泰山府君ニ祈リテ、櫻花ノ盛リヲ延ベタル事ナリ。又、終ニ語ルヲ、上日ト云フ。高倉院ノ、林間煖酒焚紅葉ノ句意ニテ、仕丁ノ罪ヲ赦シタマヒシ事ナリ。(三)〔さくらがさね〕ノ下略、其條ヲ見ヨ。

さくら-あさ (名) [櫻麻] 〔萬葉集古義、十一、中「櫻麻ハ、櫻ノ咲ク頃、蒔クモノナル故ニ云フ、ト云ヘリ」(櫻鯛、櫻肉、ノ類ナルベシ) 麻ノ種ハ、陰曆三月ノ頃ニ蒔ク(他ノ書説、皆ケラレズ)〕 又、さくらを。雄麻ノ一名、今モ、さくらあさト云フ。 萬葉集、十一「櫻麻ノ、苧原ノ下草、露シアレバ、明カシテ往マセ、母ハ知ルトモ」(苧生ハ、麻畑ナリ、朝露繁ケレバ、夜ヲ明カシテト、男ヲ留ムル、女ノ詠ナリ) 同、十二「櫻麻ノ、麻原ノ下草、早生ヒバ」 六帖、六、下草「さくらをノ、をふノ下草、露シアラバ、明シテ行カム、親ハ知ルトモ」

さくら-あめ (名) [櫻雨] 櫻ノ花咲ク頃ニ降ル雨。花曇ノ雨。 俳諧、季、[illegible]、さくらあめ、櫻花ノ又ヲ云フ、櫻花ノ時ニ降ルヲ云ヘリ」

さくら-いし (名) [櫻石] 御影石ニ接シタル花崗岩中ニ生ズル鑛物。色、白ク、外形、六角柱ニシテ、斷面、櫻花ニ似タリ。 新編[illegible]、中山寺名ニ十三、土產「櫻石、多珂郡、名古曾關ノ邊ヨリ出ヅ、櫻ノ化石ナリ」

さくら-いり (名) [櫻煎] 〔いるハ、煮るナリ、此料理ノ物ヲ盛ル皿ニ、櫻花ヲ添フト云フ、出典ヲ見ヨ、後ニ云フさくらにハ、コレノ發達シタルナリ〕 料理ノ名、さくらにヲ併セ見ヨ。 易林節用集(慶長)「直賦、櫻煎」 大草殿相傳之聞書(元和)「さくらいりノ事、すましみそ一杯ニ、すゐみそ、スエノ蓋、一ツヅツ合ハセテ、烏賊、章魚、川鱒、コレヲ用ル也、すりやう、口傳、云云、又、櫻ノ花ヲ、皿ノサキニカケテ置クナリ」(節文、古事類苑、飲食部、さくらいり「大諸禮ニ、章魚ヲ小口切ニシテ、醬油ヲ以テ煮タルナリ、ト見エタリ」 料理物語(寛永)「櫻煎ハ、章魚ノ手バカリ、イカニモ薄ク切リ、だしだまりニテ、ザット煮中スナリ」

さくら-いろ (名) [櫻色] 櫻ノ花ノ如キ色、ウスクレナヰ。櫻ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。粉紅色。 古今集、一、春、上「さくらいろニ、衣ハ深ク、染メテ着ム、花ノ散ラナム、後ノ形見ニ」 夫木抄、四、花「櫻色ニ、四方ノ山風、染メテケリ、衣ノ關ノ、春ノアケボノ」「目許ポンノリ、櫻色」

さくら-うを (名) [櫻魚] わかさぎノ條ヲ見ヨ。 俳曲、櫻川「櫻魚ト聞クモ、ナツカシヤ」

さくら-えび (名) [櫻蝦] 〔體、櫻色ナリト云フカ〕 體、長サ一二三寸、形、常ノ蝦ニ同ジク、色、淡褐ニシテ、脚、尾、淡紅ナリ、關西地方ノ沿海ニ産ズ、又、駿河灣中ノ深處ニ多シ、夜間、群リ來ル、乾蝦トシ、又、釣魚ノ餌トス。

さくら-がさね (名) [櫻襲] 略シテ、さくら。襲ノ色目ニ、表ハ白、裏ハ葡萄染、春季、着用ノモノ。 西三條裝束抄、下、襲、櫻「表白、裏葡萄染」 飾抄、上、下襲色之事、櫻「三月、晴ニ多著ニ用之、云云、永久三年二月十一日、朝覲行幸、新大納言(藤原忠通)櫻下襲、(櫻花表)」 [illegible]、第二段「さくらノ直衣ニ、出シ袿シテ」

さくら-がひ (名) [櫻貝] (一)貝ノ、色ノ、紅ナルモノ。 公任集「夜散リケル花ノ、遣水ノ波ニ寄セラレテ、殊ニ寄貝ノサマナルニ、櫻がひトハ、コレヲヤ、ナド言ヒテ(歌)」 (二)貝ノ、淡紅色ニシテ、美麗ナルモノ。殼ハ、薄ク横ニ伸ビ、後方ハ、次第ニ狹シ。花貝トモ云フ、多ク、貝細工ニ用キラル。

さくら-がみ (名) [櫻紙] 紙ノ一種。反古紙ヲ漉返シテ作ル、小形ニテ、薄シ、鼻紙ニ用キラル。

さくら-カン (名) [櫻羹] 〔羹ノ條ヲ見ヨ〕 料理物ノ名。かんてんヲ、水ニ浸シ、砂糖ヲ加ヘテ煮タルヲ、裏漉ニシテ、又、葛粉ヲ水ニ溶キタルヲマゼテ、煮立テタルヲ、[illegible]ニ流シコミ、其冷エタルヲ、櫻ノ花形ノ金屬製ノ拔模ニテ拔キ取ル。

さくら-がり (名) [櫻狩] 〔かるハ、尋ネ求ムル意、狩るノ條ノ(二)ヲ見ヨ、紅葉狩、茸狩モアリ〕 山野ニ、櫻ヲ尋ネテ、花ヲ見歩クコト、即チ、花見ナリ。前櫻、鷹狩ニ就キテ云フハ、河内國ノ鷹場ナル禁野ノ交野ニテ、櫻狩スルヲ云フナルベシ。(眞ノ鷹狩ハ、冬ニスルコトナルガ如シ) 拾遺集、一、春「さくらがり、雨ハ降リ來ヌ、同ジクハ、濡ルトモ花ノ、蔭ニ隱レム」 奥儀抄、中、拾遺抄ノ條ニ「さくらがりトハ、櫻ヲ尋ネホムル也」 續拾遺集、七、雜春「歸ルサハ、遠里小野ノ、櫻狩、花ニヤ今宵、宿リ借ラマシ」 和泉式部集、一「同ジ道ナル寺ニ入リテ見レバ、ココノ花ハ、咲カザリケレバ、知リタリシ僧ノアリシヲ、訪ハスルモ、ナケレバ「咲キヌテム、櫻狩リトテ、來ツレドモ、此モトノ許ニ、主人ダニナシ」(櫻 許ニカケタリ) 新古今集、二、春、

下「又ヤ見ム、交野ノ御野ノ、櫻狩、花ノ雪散ル、春ノ曙」續古今集、二、春、下「鶉鳴ヲ、すゑ野ノ原ノ、櫻狩、白斑ニ花ノ、色ヲ紛ヘテ」尺素往來「去比、兩御所、爲二櫻狩一御ノ出于二森野片野邊一候、當道相傳練習之家家、羽中將、坊門少將、云云」(兩家、坊門家ハ、鷹道家業ノ家ナリ)

さくら-ぎ　(名)　[櫻木]　(一)櫻ノ木。赤人集「アノ山ノ、櫻木ノ花、今日モカモ、散亂ルラム、見ル人ナシニ」(二)櫻ノ木ノ材。木版。支那ニテハ、梓ヲ云ヒ、我ガ國ニテハ、櫻ナリ。「書ヲ、櫻木ニ鏤ム」

さくら-ぎん　(名)　[櫻銀]　徳川時代ノ銀貨ノ一。櫻花ノ形ヲ、刻印ニテ打チ、又ハ、鑄出シタルモノ、一歩銀ナドヲ云フ。

さくら-く　(名)　[錯落]　〔錯雜、錯亂ナドト、同趣〕入リマジルコト。班固、西都賦「隨侯明月錯二落其閒一」(隨侯、明月ハ、皆、名珠ノ名)

さくら-さう　(名)　[櫻草]　草ノ名。山野ニ生ズ、好ミテ生育スルハ、川邊ナドノ濕地ナリ、高サ七八寸、葉ハ長橢圓ニシテ、莖ノ基部ニツク、邊ニ鋸齒アリ、春季ニ長柄ヲ出シテ、頂ニ小花ヲ簇生ス、一重ニシテ、紅色ナリ、略、櫻花ニ似テ、美シ、又、白色、淡紫色、其外、種種ナルモアリ、人家ニモ移シ植ウ。[蓮馨花]　一茶ノ句「我ガ國ハ、草モ櫻ヲ、咲キニケリ」

さくら-しゅ　(名)　[櫻酒]　酒ノ一種。熟シタル櫻ノ實ヲ碎キテ、汁ヲ搾リ、其汁一合ニ、燒酒五升、舍利別五升ヲ混ジ、コレニ、紅花ノ搾汁ヲ加ヘテ、色ヲツケテ、製成ス。

さくら-ずみ　(名)　[佐倉炭]　くぬぎニテ燒キナシタル炭、いけだずみニ同ジ、下總ノ印旛、千葉、埴生(今、長生郡)ノ三郡ニ產ジ、佐倉ヨリ、諸方ヘ出ダス。[櫻炭]

さくら-だ　(名)　[櫻田]　櫻ノアタリノ田。夫木抄、五、苗代「山風ノ、色吹キオロス、さくら田ノ、苗代水ヲ、花ニ塞キツツ」

さくら-だひ　(名)　[櫻鯛]　(一)鯛ノ、櫻ノ花盛ノ頃ニ、捕ラレタルモノノ稱。產卵期ニシテ、內海ノ淺キ處ニ群集シ、多ク獲ラルルニ因リテ、名アルナリ。夫木抄、廿七、鯛「さくら鯛、花ノ名ナレバ、青柳ノ、絲ヲ垂レテヤ、人ノ釣リケム」同、廿五「行ク春ノ、堺ノ浦ノ、さくら鯛、アカヌ形見ニ、今日ヤ引クラム」山家集、下「霞敷ク、波ノ初花、ヲリカケテ、さくら鯛釣ル、沖ノ海人舟」東雅(享保)十九、鯛「櫻鯛ナド云ヒテ、櫻花開キヌベキ程ヨリ、此物、多ク寄リ來ルナリ」物類稱呼(安永)二、棘鬣魚「櫻鯛、堺鑑ニ、泉州堺ノ名產ナル由、見エタリ、東武ニテモ、櫻ノ花盛ノ頃、此名アリ」(二)浮鯛ノ條ヲ見ヨ。

さくら-だま　(名)　[櫻玉]　淡青色ノ硝子玉ニ、櫻花ノ如キ繪ヲカケルモノ。阿蘭陀人ノ衣服ノ鈕釦トスルモノヲ渡セルナリ。(嬉遊笑覽、二、中)

さくら-づき　(名)　[櫻月]　陰曆、三月ノ異稱。䕃玉集(應永)十二月異名「三月、櫻月」　倭訓栞、さくらづき「櫻月ノ義、三月ヲ云ヘリ」

さくら-づくし　(名)　[櫻盡]　種種ノ櫻ノ花ヲ、並ブルコト。染模樣ナドニモ云ヒ、文句ニモ云フ。賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)二「櫻づくしノ歌祭文、一錢トコソ申シケレ」

さくら-づけ　(名)　[櫻漬]　櫻ノ花ヲ、鹽漬ニシタルモノ、熱湯ヲ注ギカケテ、飲料トス。

さくら-ど　(名)　[櫻戶]　〔板戶、槇の戶、杉の戶ノ類〕(一)櫻木ニテ作リタル戶。又、山櫻戶。八雲御抄、三、上、居處「戶、山櫻、櫻木ニテ造リタル也」定家卿藤川百首「色ニ出デテ、言ヒナシホリソ、櫻戶ノ、明ケナガラナル、春ノ袂ヲ」萬葉集、十一、廿四「アシビキノ、山櫻戶ヲ、開置キテ、吾ガ待ツ君ヲ、誰レカトドムル」夫木抄、三十一「アシビキノ、山櫻戶ノ、あけたてハ、錦織リハヘ、鶯ゾ鳴ク」(二)櫻門。(門ハ、家ノ入口ナリ)櫻ノアタリノ家。夫木抄、三十一、戶「御狩スル、狩場ノ小野ニ、今日暮レヌ、山櫻戶ニ、宿ヤ借ラマシ」

さくら-どうろう　(名)　[櫻燈籠]　燈籠ノ一種、銅ノ薄板ニテ、圓ク作リ、一面ニ、櫻ノ花形ヲ透彫ニシテ、內ヨリ紙ヲ貼リ、明リヲ引クヤウニシタルモノ。嬉遊笑覽、十、下、火燭「茶人ノ用ル櫻どう籠ハ、銅、煮ぐるめニシテ張り、圓ク作リ、惣體、櫻花ヲ彫透シタリ、思フニ、風雨ヲ避クル爲ト見ユ」

さくら-に　(名)　[櫻煮]　〔櫻煎ノ調理法ノ、江戶ニテ進步シタルモノ、江戶煮トモ云フ、是レナリ、寬永中、江戶、日本橋ノ櫻屋ニテ、始メタルモノト云フ、料理ヨリ取リテ、屋號トシタルナラム、さくらいりノ條ヲ併セ見ヨ〕章魚ノ料理法ノ名。又、江戶煮。やはらかに。調味抄(享保)「櫻煮、蛸ヲ薄ク切リ、サハサハト煮ル、江戶煮ハ、一寸バカリニ切リ、煮、酒、等分ニシテ、久シク煮ル、半ニ、醬油、酢ヲ加フレバ、やはらかニナル」今、又、生章魚ノ脚ヲ、鹽ニテ揉ミ、ぬめりヲ取リ、一寸ホドニ小口切ニシテ、水ニ、番茶ノ汁ヲ加ヘ、三十分間、煮テ、又、酒、砂糖ヲ加ヘテ煮詰メ、次ニ、醬油ヲ少シ注シ、五分間、煮テ成ル。(醬油ヲ入レテヨリ、長ク煮レバ、固クナル)肉、極メテ柔カナリ。

さくら-の-おのう　(名)　[櫻御能]　往時、禁裏ニテ、陰曆三月、櫻ノ咲ク頃ニ催シタル能樂。光臺一覽、一「當月ノ中、御能アリ、俗ニ、櫻の御能ト云ヘリ、時ニ應ジテノ事ナルベシ」(大日本國語辭典)

さくら-のり　(名)　[櫻海苔]　海藻ノ名、壹岐ニ產ズルモノ。大和本草(寶永)附錄、一、草、櫻苔「壹岐ノ島海岸ニ產ズ、其色紅白、似二櫻花ノ片片相闘一、浸二酢鼓一而食レ之、脆軟而香清、味亦佳」

〔**さくら-ばな**〕　(名)　[櫻花]　櫻ノ花。櫻花。萬葉集、十八、六「吾ガ夫子ガ、舊キ垣內ノ、佐具良波奈、イマダ含メリ、一目見ニ來ネ」同、十三、三長歌「櫻花(ノ如ク)、盛少女」

さくら-ばり　(名)　[櫻張]　煙管ノ張方ノ一種、京都ヨリ製出スルモノ。嬉遊笑覽、二、中「人倫訓蒙圖彙(元祿)幾世留張、今、二條通、富小路ニ、櫻屋ト云フ者アリ、其先祖、コレヲ始ムトカヤ、云云、思フニ、今、櫻ばりト云フきせるハ、此櫻屋ガ元祖ノ、造リタルナルベシ、烟草、始メテ、長崎ノ櫻ノ馬場ニ植シナレバ、此櫻ニヨリシ家名ナラム」

さくら-びと　(名)　[櫻人]　〔さくらハ、地名ニテ、難波人、須磨人、ナドノ類、萬葉集、三、廿九「櫻田ヘ、田鶴鳴キワタル、愛智潟、汐干ニケラシ、田鶴鳴キワタル」倭名抄、尾張國、愛智郡、作良鄕トアリ、是レナラムト云フ、今モ、郡中ノ、笠寺ノ北ニ、櫻ト云フ部落アリ〕(一)催馬樂ノ曲ノ名。雅樂ノ地久樂ニ、櫻人ノ曲ト云フアリ、此催馬樂ヲ謠ヒシナラム。催馬樂、櫻人「佐久良比止、其船止メ、島津田ヲ、十町作レル、見テ歸リ來ム」著聞集、六、管絃歌舞「大宮右大臣(藤原俊家)、殿上人ノ頃、云云、伊勢ノ海ニテ、蜀、花子ニ打テ、櫻人ノ曲ヲ、數反歌ハレケルニ、多政方ガ、陣直勤メテ候ヒケルガ、歌ノ聲ヲ聞テ、花ノ本ニ進ミ出デ、地久ノ破ヲ仕ウマツリタリケリ」(二)連歌ニテハ、櫻ノアタリニ住ム人トシテ詠ズト云フ、櫻門、櫻田ノ類カ。

さくら-まさむね　(名)　[櫻正宗]　酒ノ銘。

まさむねノ條ヲ見ヨ。

さくらミソ (名) 櫻味噌 なめものノ一種、製法、[illegible]ニ同ジク、[illegible]、飴、[illegible]砂糖ヲ、多ク加フ。

さくらん (名) 錯亂 〔字典「錯、亂也」〕入リミダルルコト。[illegible]

さくらんばう (名) 櫻坊 〔擬人シタル語〕[illegible]ニ[illegible]セテモ云フカ、吉野山ノ櫻本坊ヲ、さくらんばうト云フトゾ(酸模、すかんぼう、木通、あめんばう)〕櫻ノ實、花ノ一重ナルニ、アリ、正シク圓クシテ、[illegible]分許、蒂、長ク垂ル、熟スレバ、赤黑シ、小兒玩トス、[illegible]トスレバ、食フベシ。

さくらめし (名) 櫻飯 白米一升ヲ、煮出汁一升五勺、醬油一合、酒八勺、砂糖[illegible]ニテ炊ギタルモノ。

サクラメント (名) 〔葡語、Sacramen-〕[illegible]ノ祭式ノ名。

さくらもち (名) 櫻餅 餅菓子ノ名。葛粉ニ砂糖ヲ加ヘ、水ニテ溶キ、[illegible]ニ流シ、薄ク燒キ成シタルニテ、赤小豆餡ヲ包ミ、其表裏ヲ、又、[illegible]ノ櫻ノ葉ニ[illegible]ヲ注ギタルモノニ一枚ニテ包ミ、蒸籠ニテ蒸シテ成ル、葉ニ、香氣アリ、文政年中、江戸、向島、隅田川堤、長命寺門内、山本屋新六、始メテ賣出セリ、[illegible]

[illegible]、不[illegible]、天保八年十一月、櫻餅賣出ノ婆、死ス、村田了阿「寺ノ名ノ、長キ命モ、[illegible]」

さくらゆ (名) 櫻湯 鹽漬ノ櫻花ニ、熱湯ヲ注ギタルモノ、煎茶ニ代ヘテ、飲料トス。

さくらん (名) 櫻蘭 熱帶地ノ蔓草。葉ハ、厚ク長橢圓ニシテ、長サ二三寸、對生ス、夏ノ末ニ、淡紅ノ小花ヲ開ク、櫻花ノ如ク簇リ咲キテ、毬ノ如シ、香氣アリ。我ガ國ニハ、沖繩ヨリ移植セリト傳ヘテ、觀賞セラル。

さくらゑ (名) 櫻會 山城國、山科ノ醍醐寺ニテ、毎年、櫻花ノ盛時ニ、法會ヲ營ミ、終ヘタル後ニ催シシ、觀櫻ノ宴。寺内ニ、清瀧宮ト云フアリ、其所ニテ行ヘリ、因リテ、清瀧會トモ云フ、上皇、法皇ナド、屢、臨幸モアリテ、盛大ヲ極メタリ、鳥羽天皇ノ元永元年ニ始リ、鎌倉時代ノ末マデ行ハレタリト云フ、慶長年中ノ豐臣太閤ノ醍醐ノ花見モ、思ヒアハセラル。櫻會ト云フハ、此外ノ諸寺ニテモ行ヘルアリ、賀茂神社ニモアリキ。[illegible]元永元年三月十六日、清瀧會[illegible]、古事談[illegible]、十六、[illegible]見物ヲバセズシテ、[illegible]堂ノ前ノ櫻ノ下ニテ、[illegible]ケル、云云」

さくらを (名) 櫻麻 さくらあさノ條ヲ見ヨ。

さくらをどし (名) 櫻縅 小櫻縅ニ同ジカルベシ。[illegible]五、文治元年十一月三日「前[illegible]守行家(著、櫻威甲)伊[illegible]守義經(著、萌黄威甲)[illegible]、赴西海」

さくり (名) 歔欷 引泣 〔歔欷るノ名詞形〕泣ク間ニ、烈シク呼吸シテ、引入ルガ如キ聲ヲ發スルコト。シャクリ泣スルコト 字彙「歔欷、出氣也、[illegible]」[illegible]物語、五、[illegible]「イトトシキニ、さくり[illegible]モヨヨナリ」同、七、[illegible]野「上ハ、更ニ、御聲モ惜シマセタマハズ、兒ドモノヤウニ、さくりモヨヨト、泣カセタマフ」

さくり (名) 吃逆 〔吃逆るノ名詞形〕嘔氣ヲ、せぐりト云ヒ、又、反吐ヲ、たぐりト云フ、相、類スルカ、正字通「有レ聲無レ物曰レ噦、有レ物有レ聲曰レ嘔」醫心方、七「嘔噦」 呼吸運動ノ一變態、横隔膜ノ收縮ヲ急發シ、一種ノ吸息ヲ發ス、今、さっくり、又、さっくりト云フ。倭名抄、三、病類[illegible]、[illegible]也、佐久利」醫心方、九「[illegible]」

さくり (名) 決 〔さくる(決)ノ名詞形、其條ヲ見ヨ、畠ノさくヲ切ルト云フ語、コレニ起ル〕(一)土ヲ、細長ク決リ起シテ、作レル溝。又、其畦。行宗集「山里ノ、さくりノ上ニ、[illegible]テ、小[illegible]ク、雨ゾ降リミル」下學集(文安)上、家屋門「[illegible]、決」(二)[illegible]くり、又、いぬざくりノ上略、各條ヲ見ヨ。

さぐり (名) 探 (一)サグルコト。サガスコト。探索。(二)間諜。「[illegible]ノ陣所ニ、さぐりヲ入ル」(三)醫術ノ具、創、瘡、ノ深サヲ探ラムガ爲ニ、差入ルルモノ。

さぐり (名) 探 〔指先ニテ摸索リ當テテ、箸ヲハムル意カ〕弓弦ノ名所。又、箸、溜、矢ノ箸ヲ番ヒテ、塡ムル所、麻ニテ卷キテ、少シ太クシテアリ、さぐりの定トモ云フ、探リテ、ソコト定マリタル所ノ意ナリ、弦心[illegible]字「定、摸」易林節用集(慶長)器財「探」註「弓」武用[illegible]、弓矢、弦、[illegible]、[illegible]ニ同ジ、[illegible]ニアリ、矢筈ヲ嚙ル所也、故ニ、筈溜ト云フ也」今川大雙子(今川了俊)犬追物「さぐりの定ヲバ、大ニ卷クナリ」弓法[illegible]、[illegible]弓作ノ事、云云、さ、ぐりト云フハ、夜ノ詞ハ、ちやうト云フベシ」

ざぐり (名) 坐繰 〔坐リテ、繰リ取ルコトヲ得〕絲筐ヲ、手ニテ廻ハシテ、繭ヨリ、生糸ヲ繰リ取ルコト。卽チ、從來ノ製絲法ナリ、器械ニテ取ルニ對ス。此生絲ヲ、ざぐり絲ト云フ、器械製絲ヨリ、品質ハ劣レドモ、緯絲ノ用トシテ、歡迎セラル。

さくり-あ-ぐ (動) 歔欷上 歔欷るノ條ヲ見ヨ。

さぐりあし (名) 探足 闇ノ夜、又ハ、盲人ナド、路ノ行手ヲ、足ニテ探リツツ、進ムコト。ウカガヒアシ。[illegible]年記[illegible](享保、竹田出雲)四、フ、ト吹キ消ス鳥羽玉ノ、闇ハ[illegible]ナシ、さぐりあし」

さぐり-あ-つ ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 探中 探リテ、得。枕草子、二、十七段「扇、懷紙、求ムトテ、暗ケレバ、さぐりあてム、さぐりあてムト、云云、求メ出デテ」

ざぐり-いと (名) 坐繰絲 ざぐりノ條ヲ見ヨ。

さぐりだい (名) 探題 歌ノ會ナドニテ、人人、各別ノ題ヲ分ケ取リテ、詠ムコト。 後撰集、十八、雜、四「左大臣ノ家ニテ、カレコレ、題ヲさぐりテ、歌ヨミケルニ、露ト云フ文字ヲ得侍リテ、藤原ただくに(歌)」袋草紙(淸輔)一「探題和歌、探題、各別題、各分取詠也、若以札子取之時、以探取短冊、押紙書和歌、詠不書題目」大子集(寬永)「歸ノ歌ヤ、木下闇ハ、さぐり題」

さぐりのぢやう (名) 〔探定〕 さぐり(二)(弓ノ)ノ條ヲ見ヨ。

さくりばしり (名) 〔決走〕 馬ノ歩ミ方ノ名稱。笠懸日記「馬ノ事ハ、さくり走りナリ、常ノ稽古ニハ、だく足ニテモヨシ」

さくりばみ (名) 〔決食〕 〔さくりハ、さくるナリ、さくる(決)ノ條ノ(五)、さね(實)ノ條ノ(五)ヲ見ヨ〕 木材ヲ刳リテ、他ノ材ヲ食込マシムルコト。庭訓往來(元弘)三月十二日「遣戸、續戸、決入」諺解「決入、古抄云、板ヲハグ時、兩ノ合目ヲ云フト云ヘリ」倭訓栞、さくりばみ、木ヲクリメキテ、他ノ木ヲ入レハムルヲ云フ」

さくりふ (名) 〔冊立〕 〔說文「冊、符命也、諸侯、進受於王者也」勅命ノ文書ニテ立つるナリ〕 支那ニテハ、天子、諸侯ヲ封ズルコト、我ガ國ニテハ、キサキダチ。立后。立太子。立坊。新儀式、五、臨時、下、冊命皇后事ニ、其儀式ヲ載セテアリ。

さくりやく (名) 策略 ハカリゴト。計略。後漢書、實融傳「將府監ニ英俊ニ策、聖賢用、故遂與、操、慕三咨誓略ニ」

さくる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔歔欷引泣〕 〔決るナリ、聲ヲ發スルコト、決るガ如キ意ニテ、自動トナル、歔欷ノ條ヲ見ヨ〕 歔欷ヲス。シャクリアゲル。宇治拾遺、一、十三條「田舍ノ兒ノ、云云、さくりアゲテ、ヨヨト泣キケル」撰集抄、九、第八條「ツレナクテ、ヤミヌルニシサヨトテ、さくりモアヘズ、泣クメリ」

〔**さくる** ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔吃逆噦〕 〔前條ノ語原ト同ジ、氣息ヲ發スルコト、決るガ如キナリ、吃逆ノ條ヲ見ヨ〕 吃逆ヲス、シヤクリヲスル。名義抄「噦、ムセブ、サクル」

さくる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔鑿決疏〕 〔刳るニ、さノ發語ヲ冠ラセタル語ナルベシ、さくじるノ語原ヲ見ヨ、字典「決、行流也」說文「疏、通也」〕 (一)刳リ、穿ツ。掘ル。文選、馬汧督誄「鑿ニ四面ニ雨」射ニ城中ハ城中 鑿穴而處、負戸而汲」 (二)地面ヲ、横ニ掘リテ、水ヲ流シヤル。疏通 仁德紀、十一年四月「決ニ横源ニ而通海」天智紀、元年十二月「決渠」名義抄「決、サクル」「渫、サクル、ホル」此語ニ、自動詞ナルモアリ。類聚三代格、八、貞觀十三年閏八月十四日、太政官符「積土築堤、尤爲遏水、堤絕河決、其害難防」 (三)馬ざくりヲ作ル。其條ヲ見ヨ。(四)畠ノ中ノうねヲ、掘リ作ル。サクヲキル。 (五)木材ノ一部ヲ、鑿リ取ル。今、さくる。刳 (さくりばみノ條ヲ見ヨ)

さぐる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔探搜〕 〔倭訓栞、さぐる「狹繰ノ義ナルベシ」さハ、發語(さ迷ふ、さ障る、さ摩る)〕 (一)〔手ヲ、アチコチト動カシテ、其感覺ニテ、求ム。摸索ス。萬葉集、四五「夢ノ逢ハ、苦シカリケリ、覺キテ、搔探れドモ、手ニモ觸レネバ」(覺くトハ、目ヲ覺スコトナリ) 同、十二九「愛シト、思フ吾妹ヲ、夢ニ見テ、起キテ探るニ、無キガ淋シサ」 (二)〔サガス。アナグル。タヅネ、求ム。搜索 名義抄「搜、サグル、アサル、アナグル、モトム」「編輯ニ、出典ヲさぐる」 (三)オシハカル。推量ス。推測 「人ノ心ヲさぐる」痛クナキ腹ヲさぐらレル」

さくれい (名) 〔作例〕 舊キ作文、作歌、ナドノ、倣フベキモノ。

さくれう (名) 作料 物ヲ作ル賃。手間賃。吾妻鏡、十、文治六年二月十日「材木、檜皮、井、作料已下、雜雜用途米等、任ニ損也」

さくれつ (名) 炸裂 炸發ノ條ヲ見ヨ。

〔**ざくろ** (名) 〔石榴柘榴〕 〔字ノ音〕 又、ジャクロ。樹ノ名、高サ丈餘、枝、廣ク茂リテ、幹ニ、節、多シ、古木ノ幹ハ、異形ニナリテ、さるすべりノ如シ、葉、細長クシテ、兩對ス、梅雨中ニ、深紅ノ花ヲ開ク、或ハ、白色、淡紅色、黃赤色ナルモアリ。花ノ一重ナルニ、實アリ、實石榴ト云フ、秋、熟シテ、自ラ、口ヲ開ク、內ニ、數百ノ紅子アリ、甘キアリ、酸キアリ。色玉。果石榴 又、實ノ色ノ白キヲ、白石榴ト云フ。水晶石榴 花ノ八重ナルハ、實、無シ、花石榴ト云フ。花石榴 本草和名、下ニ「安石榴、佐久呂」倭名抄、十七、菓類「石榴、佐久路」天神記(正德、近松作)四「柘榴、忽チ火焰トナッテ、三尺計リ燃エ上ガル」

ざくろいし (名) 〔石榴石〕 石榴珠ト云フ寶石ノ、色、赤クシテ、透明リタルモノノ稱。其細カキハ、卽チ、金剛沙ナリ。本草綱目啓蒙、元、寶石「寶石ノ一種ニ、ざくろ石ト云フ、アリ、又、ざくろ砂トモ云フ、コレハ、紅毛ヨリ來ル、其形、安石榴ノ子ノ如ク、色、赤シ、云云、盆玩ニ用ヒテ、最モ美麗ナリ」倭訓栞、後編、ざくろ「ざくろ石ハ、西土ニモ、石榴子ト云ヘリ、蠻名、ろべいんでやまん、寶石ノ一也」

ざくろぐち (名) 〔石榴口〕 ざくろぶろ(石榴風呂)ノ條ヲ見ヨ。浮世風呂(文化、三馬)初編、上「石榴口ノ冷物、フルヒ聲ニアラハレ」

ざくろだま (名) 〔石榴彈〕 〔石榴ノ實ノ如シ〕 大砲ノ彈丸ニ、中ヲ空シクシテ、小丸ヲ數多籠メタルモノ、破裂彈ニ用キル。榴散彈。

ざくろばな (名) 〔石榴鼻〕 〔倭訓栞、ざくろばな「酒齇鼻ヲ云フ、石榴鼻ノ義、形色ヲ以テ呼ベリ」にきびばな、あかばなノ條ヲ見ヨ〕 古言、ニキミバナ。アカバナ。人ノ鼻頭ノ、粒立チテ、赤クナレルモノ、酒ヲ多量ニ飲ム人ニ起ル。鼻頭ノ血管、擴張シテ、充血スルナリ。皶鼻 酒皶鼻 醫科說錄、五「酒皶鼻、酒客ニ多キ病ユヱ、名ヅク、又、酒皶トモ、皶鼻トモ云フ、本邦ニテハ、ざくろばなト稱ス、云云、初ハ、準頭、小疹ヲ生ジテ、赤ク、甚シキモノハ、疙瘩トシテ、兩頰マデモ蔓延シテ、紫黑色ニ變ジ、鼻モ腫レテ、一倍、長大トナル」

ざくろぶろ (名) 〔石榴風呂〕 〔屈入るヲ、鏡要るニカケタル謎ナリ、鏡磨ニハ、石榴ノ酢ヲ要シタリ〕 浴場ノ構造ニ、內ニ湯槽ヲスヱ、入口ニ開閉ノ戸ナク、落掛ヲ低ク作リ、浴スル者、屈ミテ入ルヤウニ造リタルモノ。此入口ヲ、ざくろロト云フ、江戸市中ノ錢湯ハ、皆、此ノ如クナリキ。醒睡笑(元和、安樂庵策傳)二「常ニ共クラバ、風呂ト云ヒ、たてあけノ戸ナキヲ、柘榴風呂トハ、何ゾ、かがみいるトノ心ナリ」腰筑波集(寬永)四「入ル人ノ、身モヤ赤ラム、ざくろ風呂」

ざぐわ (名) 〔坐臥〕 坐ルト、臥スト。オキフシ。起居。起伏。史記、越世家「苦身焦思、置膽於坐、坐臥卽仰膽、飮食亦嘗膽也」佛家ニ、行、住、坐、臥トテ、四威儀トス。倭名抄、十四廿二、坐臥具トシテ、几、倚子、茵、筵、枕、ナドヲ載セタリ。

さくわん (名) 〔佐官〕 〔長官以下ノ員ヲ佐くる義ニモアルカ〕 (一)フミビト。フンビト。フビト。さうくわん。古ヘ、諸官署ノ四等ノ官ノ、最下ノモノ。(長官ノ條ヲ見ヨ)文案ヲ考ヘ、稽失ヲ檢出シ、公文ヲ讀申スルヲ職トス、官、省、職、寮、司、其他、皆、然リ。續紀、十二、天平九年七月「四品官乃佐官以上、云云」倭名抄、五ニ史、錄、主典、屬、目、等「皆、佐官」 (二)僧官ノ一。僧綱ノ錄事。僧尼令「佐官以上及三綱、爲ニ衆事若

功役六㝍」醫ニ官司一者、並設ニ床席こ

さくゎん（名）[illegible]官 [illegible]ノ制定ニ、武官ノ[illegible]、中佐、少佐ノ[illegible]。[illegible]官、尉官ニ對ス。

さくゎん（名）｜泥工｜〔常ニ、左官ト記ス、王宮ノ式[illegible]ナル時、[illegible]ノ修理ナドニ、無官ノ者、入ルコト能ハズ、因リテ假リニ、木工寮ノ屬（サクワン）トシテ、入ラシメラレシニ起ルト云フ、能、[illegible]、等ノ藝技ノ者ニ[illegible]ケル、大夫ノ稱ノ如キカ〕泥工ノ異稱。シャカン。墁匠。 和蘭雅（元祿）七、[illegible]「[illegible]、今俗云ニ[illegible]官こ」[illegible]、さくゎん、[illegible]

ざぐん（名）笮樁 [illegible]ノ[illegible]ヲ笮セシメテ[illegible]ルベク造レルモノ（[illegible]樁ニ對ス）

さくゐ（名）作爲 作リ、ナスコト。コシラヘ、設クルコト。 [illegible]

さくをとこ（名）｜作男｜ 雇ハレテ、耕作スル者。小作人。佃戸 佃僕

〔さけ（名）酒 〔[illegible]ニ別ツ、ニ、汁ノ[illegible]ナリト云ヘリ、さゝけガ、すけト約マリ、さけト轉ジタルナラム（進む、すさむ、さかさま、さかさき、丈夫モ、ますらを）ノ[illegible]ナラム〕酒ヲ、汁トモ云フ（其條ノ（二）ヲ見ヨ）上代ニ、酒ト云フハ、[illegible]ナレバ、[illegible]ヲ、[illegible]ナリ、[illegible]集、二[illegible]「御食向フ、木[illegible]宮」ハ、酒の瓮ナリト云フ、土佐日記ニハ、酒ヲ飲ムヲ、酒ヲ食フト云ヘリ、今モ、酒くらひノ語アリ、或ハ、さハ、發語ニテ、さ酒（キ）ノ轉（[illegible]、[illegible]山、清けうら、木（キ）ヲ、けトモ云フ）即チ、[illegible]食ト通ズルカ、沖繩ニテハ、さきト云フ（[illegible]ノ約トスル說ハ、理窟ニ落チテ、迂遠ナリ）古言、又、酒。ミキ。ミワ。シル。ミツ。アブラ。飮物ノ名、上代ニ、さけト云ヒシハ、濁酒（ニゴリザケ）ナリ、（其條ヲ見ヨ）今、單ニ、さけト云フハ、卽チ、清酒ニテ、後世ノ製法ノモノナリ、白米ヲ蒸シテ、麴ト、水トヲ加ヘ、攪キマゼテ、醞（カモ）フルコト數日ナレバ、醱酵シテ、泡ノ盛リ上グ、以上ヲ、元（モト）ト云フ、酒母 [illegible]母 又、日ヲ定メテ、白米ノ蒸飯ト、麴ト、水トヲ加フルコト、三度ナリ、以上ヲ、添（ソヘ）ト云フ、[illegible]、其間、常ニ攪キマゼテ、熟セシメ、コレヲ袋ニ入レテ、酒槽ニ入レ、搾レバ成ル、其手續、日限、等、極メテ繁[illegible]ナリ。凡ソ、酒ヲ作ルヲ、釀すト云フ、成レルモノハ、澄ミテ、淡黃色ナル水トナリテ、人、コレヲ飮メバ、醉フ。以上ハ、從來ノ釀法ノ大略ヲ述ベタルニテ、此外ニモ、數法アリキ、殊ニ、近年ニ至リテハ、又、種種ニ變ジタルモアリ。異名、九獻（クコン）。ササ。狂（キチガヒ）水。百藥ノ長。天之美祿。竹葉（チクエフ）。杜康。下若。般若湯。大乘水。玄水（ゲンスイ）。歡伯。 古事記、上[illegible]「釀ニ八鹽折之酒こ」 萬葉集、三[illegible]「[illegible]寶ト云フトモ、一坏ノ濁レル酒ニ、豈ニ益（マサ）ラメヤ」代[illegible]、アタヒナキ寶ハ、[illegible]、以[illegible]寶[illegible]、廿六「[illegible]酒、佐介」[illegible]行ノ外、酒精ヲ含ム飮料ニ、[illegible]、[illegible]酒ト云フモノ、極メテ多シ、果實ニテ造ルモノ、蒸溜シテ造ルモノモアリ。

〔さけ（名）｜梟｜〔倭訓栞、さけ「梟ヲ、さけト訓ぜリ、さけぶノ義ナルベシ」〕ふくろふノ一名。 倭名抄、十八「[illegible]梟、[illegible]、佐計」

〔さけ（名）｜鮭｜〔かたおと（慶安、安原貞室）「此魚、子ヲ生マントテ、腹ノさけヘベル、トヤラムト云ヘリ」倭訓栞、さけ「鮭ノ字ヲ讀ムハ、云云、裂ノ義、其肉、片片、裂ケヤスシ、ト云ヘリ」共ニ、イカガ、古語ニ、此魚ノ大ナルヲ、すけト云ヘリ（其條ヲ見ヨ）參考スベシ、鮭（ケイ）ハ、河豚ナリ、鮭ハ、魚臭ナリ、共ニ、當ラズ〕魚ノ名、東北ノ海ニ産ズ、河海ノ間ニアリテ、秋、河ヲ溯リテ、子ヲ生ム、鱒ニ似テ、[illegible]クシテ圓エ、大ナルハ二三尺、鱗、細カク、色、赤青クシテ、腹、薄白シ、肉、紅ニシテ、細刺（コバネ）アリ、脂、多クシテ、厚美ナリ、多ク、鹽引、又ハ、乾鮭トシテ、遠キニ送ル。子ヲ、すぢこト云フ。シャケ。秋味（アキアヂ）。｜松魚｜ 字鏡、七「鮭、佐介」 本草和名、下廿五「鮭、一名、[illegible]魚、出ニ[illegible]經ニ和名、佐介」倭名抄、同ジ、[illegible]「說文云、鮭、魚臭也、云云、[illegible]、佐介、有ニ一種鮭氣、[illegible]魚ニ不ニ同、故亦名[illegible]魚ニ云云、[illegible]義、松魚、亦可ニ以充レ之」 加[illegible]保[illegible]女集「さけト云フ魚ノ、多ク出テ來レバ、云云」

さげ（名）｜下｜〔上げニ對ス〕（一）下グルコト。低クスルコト。（二）價ヲ、安クスルコト。下直（ゲヂキ）。「相場ノあげ、さげ」（三）落噺（オトシバナシ）ノおち。落すヲ、おちヲ取ル、又、さげるト云フ、おとしばなしノ條ヲ見ヨ。

〔ざけ（名）｜邪氣｜〔邪氣（ジャキ）ノ呉音〕邪祟（モノノケ）。ジャケ 宇津保物語、[illegible]上六十「コレカレニ物聞ハセ侍レバ、ざけナド申ス、作善ナド行ハセ侍レド、ナホ、心モトナキヲ」 源、五十、浮舟五十二「例ノ御ざけノ、久シク起ラセタマハザリツルヲ、恐ロシキワザナリヤ、山ノ座主、只今、請ジニ遣ハサムト、急ガシゲニテ、立チタマヒヌ」 古事談、二、臣節「御堂令[illegible]邪氣ニ給之時、小野宮右府、[illegible]、[illegible]、防合、[illegible]、邪氣[illegible]前聲[illegible]人云、賢人ノ前聲コソ聞コユレ、此人ニハ居合ハジト思フモノヲ、トテ、云云」（御堂ハ、關白道長、右府ハ、右大臣實資）

さけあ𛁈（名）鮭網代 〔さけあ𛁈ろノ下略、あ𛁈ろぎヲ參見セヨ〕下總國、利根川ニテ、鮭ヲ捕ル方法。銚子川口ヨリ、川上五六里ノ間ニテ、秋ノ彼岸ノ頃、川中ノ、魚ノ登ルベキ瀨ニ、杙ヲ多ク打チメグラシ、水中三四尺ノ底ニ、橫手ヲ結ビ、ソレニ、目ノ粗キ繩網ヲ張リ、又、其前ニ、大イナル袋網ヲ張リ、魚ノ、繩網ニ行キアタリテ、袋網ニ入ルヲ捕ル。（碩鼠漫筆、一）

さげあし（名）｜下足｜ 次條ノ語ノ略。

さげあしどり（名）｜下足取｜〔足取ハ、進行ノ義〕 取引所ノ語。略シテ、さげあしトノミモ云フ。相場ノ、下落ニ向フコト。

さげアマ（名）｜垂尼｜〔垂髮（サゲガミ）ノ尼削（アマソギ）ノ義、あまそぎハ、垂尼ノ深削（フカソギ）ナリ〕婦人ノ、受戒シテ、尼トナレルガ、額髮（ヒタヒガミ）ヲ切リ、垂髮ノ先ヲ、肩、頸ノアタリニテ削（ソ）ギ揃ヘタルモノ、コレヲ、尼びたひ、又、尼そぎトモ云フ、今云フ、切禿（キリカブロ）、散切（ザンギリ）ノ撫附ナリ。稚女ノ髮ヲ、此狀ニスルヲ、尼ニそぐト云フ。垂尼、全ク剃髮スレバ、尼ナリ。 源、廿一、少女廿「[illegible]宮モ、云云、御あまびたひ引キツクロヒ、ウルハシキ御小[illegible]ナド奉

リソヘテ」細流抄「あまびたひ、さげあまノ事ナリ」同、四十六、總角「忌む事ナム、イト驗アリテ、命延ブル事ト聞キシヲ」花月草紙「いむなるハ、受戒ナリ、女ノ戒ヲ受クルト云フハ、ひたひノ髮ヲはやして、さげ尼ト云フモノニナルナリ」(はやすハ、切るナリ、其條ヲ見ヨ) 同、五十二、手習「髮ハ、五重ノ扇ヲヒロゲタルヤウニ、コチタキ末ツキナリ」(浮舟ノ垂尼ノ狀ナリ) 女院記、皇嘉門院「保元元年十月十二日、法性寺別業ニテ爲レ尼、年三十五、垂尼」女院小傳、皇嘉門院「保元元年十月十一日、垂尼、長寬元年十二月廿六日、爲レ尼、四十二」源、十九、薄雲「此春ヨリ生ス御髮、あまそぎノ程ニテ、ユラユラト、メデタク」(垂髮ノ髮ナリ) 同、九、葵「女兒ノ姿、云云、髮ノすそ、ハナヤカニそぎワタシテ、云云、袴ニカカレルホド、ケザヤカニ見ユ」枕草子、八、七十四段「うつくしきもの「あまにそぎタル兒ノ、目ニ髮ノ覆ヒタルヲ、掻キハヤラデ、打チカタブキテ、物ナド見ル、イトウツクシ」榮花物語、廿七、衣珠「イミジウ美シゲニ、あまそぎタル兒ドモノヤウニ、オハシマス」

さけい (名) 左契 〔契モ、券モ、割符ナリ〕 割符ヲ、二分シタル、半片。コレヲ、己レニ留メ、他ノ半片ヲ、右契ト云ヒ、ソレヲ、約セシ人ニ渡シオクナリ。又、左券。 老子、七十九章「是以、聖人執二左契一、而不レ責二於人一」史記、田敬仲完世家「蘇代謂二田軫一曰、云云、公常執二左券一、以責二于秦韓一、此其責二於公一、而懸二張子多資一矣」

さげおび (名) 提帶 〔前ニテ結ビ下グる義〕 (一)又、附帶。室町時代、禁裏女房ノ用ヰタル帶。金絲、繡模樣、幅、七寸、前ニテ結ビ垂ル。 貞丈雜記、三、小袖「さげ帶ハ、ひごへまはり也、中ニ、鳥ノ子紙ヲ入ル、上臈ハ、物模樣、金みがき也、前ニテ結ビサゲル也、帶地ハ、厚板、薄板ナルベシ、さげ帶、本名ハ、附帶ト云フ也」[illegible]中年中行事、五月朔日「今日ヨリ、女房、上、下、帷子ヲ、色色ニ染メテ着ル、附帶ナリ、云云、俗ニ、提白帷子さげ帶ト云フナリ」後水尾院年中行事、下「帶ハ、繡樣ノ帶ヲ用、或ハ、薄ノさげ帶也、近年、唐物、染物、縫箔、等ノくけ帶ヲモ用、本式ニアラズ」(二)德川時代ノ中期以後ニ至リテ、提帶ハ、大イニ其製ヲ異ニシ、御殿女中ノ夏ノ用トシ、兩端ニ厚紙ヲ入レ、一重まはりニテ、背後ニテ結ビ、兩端ヲ、烏ノ翼ヲ張リタル如クシタリ。 女鏡(慶安)女帶「捌ノコハキハ、宜シカラズ、さげ帶ナドハ、格別ナリ」春臺獨語(享保)「往時ノ婦女ノ帶、四月ヨリ八月マデ、婦女ノ禮服ニ、綿ニテ、廣サ、鯨尺ノ八歩バカリナルヲ、後ニ結ビテ垂ルルヲ、つけ帶ト云フ」金薇葉袋(享保)「提帶地ハ、厚板ノ帶ト云フ、上臈ハ、六寸幅ニ、織切ニシテアリ」俚言集覽、つけ帶「女中ノ、平常、うしろニテ結ブ帶ノ事也、かいどり下ハ、前ニテ結ブ」守貞漫稿、十六、女服「御殿女中ハ、云云、袷、及ビ、帷子ノ時、禮服ニハ、付帶ヲ用フ、云云、一名、下げ帶ト云フ、綿ノ心ナシ、平絎ニテ、兩端、結ビ餘ル所ニハ、厚紙ノ心ヲ納レテ、筒ニスル也、背ニ結ビ、付帶ニハ、裲ヲ着ズ、今世、兩端ノ垂レザルヲ良シトス、下げ帶ノ名、虛名ナレドモ、今ハ、專ラ、一名、下げ帶ト云フ」文政ノ川柳「提げ帶ト、イヘドモびんト、ナッテ居ル」 (三)京阪ニテ、商家ノ娘、下女、舞子ナドノ帶ノ結樣ノ名。又、むすびさげ。いとさんむすび。(東京ニテ、ねこぢゃらし)掛ト、垂ト、同ジ長サニ、二度結ビテ、垂ル、今ハ、廢レタルヤウナリ。

さげがたな (名) 提刀 刀ヲ、手ニ提ゲ行クコト。(帶ニ佩キタルニ對ス)

さげがみ (名) 垂髮 スベシモトドリ。スベラカシ。婦人ノ髮風。全髮ヲ、頂ニ束ネテ、末ヲ、背ニ垂ゲ置クモノ。昔ハ、貴賤共ニ、此ノ如シ、後ニハ、貴婦人ノ儀式ノ時ノ裝ヒトナレリ。喧髻 貞丈雜記、二、人物「古ヘノ女房衆ノ髮ハ、ワグル事ナシ、入元結ニテ結ヒ、下げ髮也、今、すべらかしナドト云フ類也」浮世風呂(文化、三馬)三編、下「オ下髮ハ、五節句ナドノ、オ規式デゴザイマスノサ」

さげがみ (名) 下紙 官府ノ文書ニ、上官ヨリ、別ニ、紙ヲ貼リ下ゲテ指合スルモノ。附紙。附箋。 罫紙

さげぎり (名) 提斬 (一)童子ナドヲ、左手ニテ宙ニ提ゲ、右手ニテ斬ルコト。 太平記、九、六波羅攻事「十六歲ノ河野七郎、大高重成ト組ム「大高、河野七郎ガ總角ヲ掴ミテ、中ニ提ゲ、云云、片手打ノ下切ニ、諸膝懸ケズ、切テ落シ、弓丈、三杖バカリ投ゲタリケル」(二)死刑ニモ、用ヰラレタリ。 翁草、百五十、源氏坊天一等事「慶安ノ由井正雪ガ事蹟、云云、大將分ノ內、加藤市右衛門、云云、鈴森ニ於テ、提斬ノ其一人也、幼兒モ、兩人歟、同所ニテ、提斬ニナル」

〜さけ・く (副) 幸 さきく(幸)ニ同ジ。東國ノ古言。 萬葉集、廿、長歌「アレハ祝ハン、モロモロハ、佐部久ト申ス、歸リクマデニ」

さけくらひ (名) 酒食 〔酒ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)さけのみ(酒飲)ニ同ジ。(稍、賤シメテ云フ) 酒客 土佐日記、十二月廿七日「楫取、物ノ哀レヲ知ラズ、己レシ、酒ヲくらひツレバ、早ク往ナムトス」(二)魚市ノ語、金鯛ノ異名。又、金時鯛。全身赤ケレバ、さけくらひノ名アルナリ。

さげごし (名) 下輿 輿ノ轅ヲ、手ニテ、腰ノホトリニ提ゲ行クモノ。

さけさかな (名) 酒肴 さけト、さかなト。酒肴。 太平記、廿一、佐渡判官入道流刑事「道道ニ酒肴ヲ設ケテ、宿宿ニ傾城ヲ弄ブ」

さげざや (名) 提鞘 (一)僧侶ノ携フル小刀、戒刀ノ類。鞘ニ納レテ、腰ニ提ゲ懸クレバ、又、懸鞘トモ云フ、柄モ、鞘モ、木ニテ作リ、合口ノ如クニテ、鞘ノ方、頗ル太シ、舞樂ノ採桑老、七十一番職人盡歌合、八番、隼結法師ノ圖ニ、提ゲタル、見ユ、採桑老ナルハ、燧袋ヲ添ヘタリ。 新六帖、五、稍「見ルモ憂シ、彌陀ヲ賴ムト、云フ人ノ、萬ノ法ヲ、思ヒかけざや」太平記、廿九、師冬自害事「執事兄弟、カクテモ、モシ命ヤ助カルト、心モ發ラヌ出家シテ、師直入道道常、師泰入道道勝トテ、裳なしごろもニ提鞘サゲテ、降人ニナリテ出デケレバ」 (二)茶人ノ携フル小刀。 海錄、十、第七十四條「利休茶道具圖繪ニアル疑袱、丼、指柄圖ト云フモノモ、さげざやナリ」嬉遊笑覽、二、中、刀、劍差「竹ノ筒ニ、小刀ヲサシテ、其筒袋ヲ、巾着ノヤウニ下ゲテ用ルモ、茶人ノスル事ナリ」

さげぢきろう (名) 提食籠 提ゲテ持チ行ク辨當箱。 似勢物語(寬永)下「人人、さげ食籠モテキタリ、モテキ集メタル食物、千千バカリアリ」

さげしたぢ (名) 垂下地 〔垂髮ノ下地ノ意、かたはづし、むさうりう、かうがいわげヲ參見セヨ〕 江戶時代、貴婦人ノ髮風。片はづしノ如クニテ、髻ノ笄ヲ拔ケバ、垂髮トナルモノ。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「さげ下地ニオ結ヒ遊バスオ屋敷モ、ゴザリマスノサ」

さげしほ (名) 下汐 ひきしほニ同ジ。うしほ(潮)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。退潮

さげしまだ (名) 下島田 島田髷ノ髻ヲ、頂後ニ下ゲテ結フモノ。ナゲシマダ。 好色一代女(貞享、西鶴)二「イツトナク、人ノ形振ヲ見習ヒ、當世ノ下島田、縮鉤ト云フコトヲ結ヒ出シ」

さげしむ (動) 蔑視 さげすむヲ見ヨ。

さけぢゃう (名) 避狀 さけわたす(避渡)ノ條ヲ見ヨ。

さけずき (名) 酒好 飲酒ヲ好ム人。サケノミ。酒客

さげすみ (名) 下墨 〔下墨繩ノ下略、さ

[illegible]ヲ[illegible]見セヨ」(一)工匠ノ、墨縄ヲ直ニ下ゲテ、柱ナドノ、直ナリヤ、傾キアリヤノ、垂直ヲ見定ムルコト。イトミ。墨準 [illegible] (二)物事ノ情實ヲ、推シ量ルコト。觀察 計畫 [illegible]「[illegible]」 (元祿)九、[illegible]「[illegible]」

さげすみ (名) [illegible] 〔蔑視むノ名詞形、次條ヲ見ヨ〕サゲスムコト。見クダスコト。甲陽軍鑑、九、上、品第廿三「父ノ御さげすみニアヅカル事モ、[illegible]ナレバ、[illegible]ノ儀ハ、ナカナカ思ヒモ寄ラヌ事ニテ候」 [illegible]、二「[illegible]公ノ御下知ニ可レ逼、必矣」

さげす・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 下墨 〔前條ノ下墨ノ字音ヲ活用セシム(碍、ひさる。爪、抓むノ類)〕物事ノ情實ヲ、推シ量ル。ツモル。觀察 計畫 七十[illegible]「[illegible]モイサヤ、すみがねニ、さげすむ月ノ、傾キニケリ」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)七「大工ノ、能ヲ見テ、高砂ノ謠ヲ一見せばやト云フヲ聞キテ、我レハ、高砂ノ謠ヲ、腐イトバカリ思ヒタルニ、聲聞鉄い、ト云フタヘ、面白イ、何ニモ、餘分ヲオキテ、さげすむベキモノナリ」 太閤記、十、九州出勢提要、城ノ南北ヲ、下[illegible]「山中ノ程ヲ、能ク下操ヒツツ、云云、出丸ヘハ、一町許アルベキカト、下操仕ヒシ處」

さげす・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 蔑視 〔前條ノ語ノ轉、さげト云フヨリ、貶スル意ニ移ル、さげすむハ、音轉ナリ(すさる、すざる)〕見下グ。見クダス。サミス。侮ル。見クビル。さげすむ。甲陽軍鑑、十、下、品第三十二「北條家ノ松田大道寺ヲ始メ、信玄公ノ、氏政ヲさげすみタマフト、笑止笑止、存ズルナリ」 俟訓栞、さげすむ「人ヲ賤ンズル事ヲ云ヘり、下墨ノ轉ナルベシ」 井筒業平河内通(享保、近松作)三「人ニさげすみ疑ヘルルモ、生レ種姓ノサモシキ故」

さけぢ (名) 裂痔 肛門ノ粘膜ニ、龜裂ノ生ジタルモノ。肛門裂傷。切痔 [illegible]痔ナドニ對ス。

さげぢゆう (名) 提重 次條ヲ見ヨ。

さげぢゆうばこ (名) 提重箱 (一)組重箱ヲ、手提臺ニ載セタルモノ。食物ヲ入レテ行クニ携フ、辨當箱ト同ジ用ナリ。下略シテ、提重。提盒 御伽物語(寛永)天王寺ノ[illegible]人、提重箱ヲ持テ來タリ、云云、ソコバクノさげ重箱ヲ、木ノ枝ニツケテ、堂ノ前ニ立テタレバ、山モ此ニ、常ノ[illegible]ニ光リ出デタルヤウニナム、見エケル」 狂[illegible]記、[illegible]「此提重ヲ、遊客ヲ相手ニナサレマシテ、開カシャレマセイ」 和漢三才圖會(正德)二十一、庖厨具、提[illegible]、俗云佐介知宇波古、[illegible]、舟遊、[illegible]必用之器」 (二)明和、安永ノ頃、江戸ニテ、隱賣女ノ異名。其頃ノ川柳「提重ハ、胡粉下地ノ、ヤウニ塗リ」 蜘蛛の絲卷(弘化、山東京山)隱賣女、提重 切賣女ト號シテ、色ヲ賣ル」 守貞漫稿、廿二、娼家、提重、さげちうト云フ賣女ハ、云云、提重箱ニ食物ヲ納レ、賣リアルキテ、賣色セシナリ」

さけづくり (名) 酒造 酒ヲ釀シ作ル者。トウジ。酒造人。七十一番職人盡歌合(文安)六番、酒作、先、酒召セカシ、ハヤリテ候、薄濃モ候」

さげづつ (名) 提筒 小銃ノ舊稱。(大筒ニ對ス) 細井日記、[illegible]「[illegible]手一ツニナリ、提筒ヲモ捨テ、切テ入ル」

さけのつかさ (名) 造酒司 造酒司ヲ見ヨ。

さけのはへ (名) 酒蠅 好ミテ酒ノ上ニツク、微小ナル飛蟲。又、さかばへ、今、ぢやうぢやうト云フモノナルベシ。字鏡 六十七「蝶、酒乃波戸」 名義抄「蜹、サカバヘ」

さけのみ (名) 酒宴 〔歌讌ト、同趣〕酒ヲ、飲ムコト。サカモリ。允恭紀、五年七月「集男女而酒宴焉」 伊勢物語、六十九段「夜一夜、酒のみシケレバ、モハラ會フコトモエセデ」 宇津保物語、田鶴村鳥、廿「[illegible]ツクリ、酒のみシテ、曉ニ歸ル」

さけのみ (名) 酒飲 酒ヲ、好キテ飲ム人。サケズキ。上戸。酒客 狂言記、法師物狂「身ドモノツレヤヒハ、殊ノ外ノ酒のみデゴサル」 酒好同志ノ友達ヲ、酒飲仲間ト云フ、大工ノ語ニ、けづりともだちト云フ。(酒ノ條ヲ見ヨ) 酒徒

さげばり (名) 下針 絲ニテ、吊リサゲタル針。的トシテ、射中ツルニ、極メテ微小ナルモノトシテ、云フ。著聞集、九、弓箭「賴光朝臣ノ郎等、云云、季武、第一ノ手利ニテ、さげばりヲモ外サズ、射ケル者ナリケリ」 梅園日記(嘉永、北靜廬)一、下針「京師本保元物語云、爲朝ハ、空ヲ翔ル鳥、地ヲ走ル獸、さげ針ヲモ、ハヅスト云フ事ナシ、又云、雖行、弓ハ三人張、矢束ハ八十三束、さげ針ヲモ射ムト思フ者ナリケルガ」 五代史、唐莊宗紀「射[illegible]、或挂二針於木、或立二馬鞭、百歩射レ之、[illegible]中」

さけびと (名) 酒人 神供ノ御酒ノ釀造ヲ掌ル人。崇神紀、八年四月「以二高橋邑人活日、爲二大神之掌酒一」 掌酒、此云二佐介弭苦二」

さけ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 叫號 高ク烈シク、聲ヲ出ス。ヨバフ。オラブ。崇神紀、十年九月「倭迹迹姬命、云云、見二於筒中遂有二美麗小蛇一云云、驚之叫啼」 萬葉集、五 十四長歌「立チ跳リ、足スリ佐家婢」 古今集、十九、誹諧「猿、山ノ峽ニさけぶ、ト云フ事ヲ題ニテ」 後拾遺集、四、秋、上「宮城野ニ、妻ヨフ鹿ゾ、さけぶナル、本荒ノ萩ニ、露ヤ寒ケキ」

さげふ (名) 作業 ワザヲ、ナスコト。仕事ヲスルコト。作業。

さけぶぎやう (名) 酒奉行 德川幕府ノ職名。酒ノ事ヲ掌ル、賄方ニ屬ス。教令類纂、初集、廿、萬治二年九月五日「御賄組頭、壹人宛、一日一夜可二相勤一、御酒奉行、御肴奉行ヘ、二人宛」

さげふだ (名) 下札 (一)札ニ、其名ヲ書キテ、其物ニ下ゲオクモノ。(二)年貢割符ニ同ジ。地方凡例錄、七「下札ト云フハ、御料所ニハ無キ事ナレ共、遠國之私領等ニ而、下げ札ト唱フル所モアル由、其ノ謂不二解セ一、按ズルニ、御料之割付狀之樣ニ、高反別田畑之分等、巨細ニ不レ記、可レ納米銀辻ヲ記シ、[illegible]計リヲ附ケ、村村ヘ渡ス所モ有リ、下げ札之樣ナル端書ユヱ、下げ札ト唱フルナルベシ」

さげぶみ (名) 避文 去文 さけわたす(避渡)ノ條ヲ見ヨ。

さげふり (名) 下振 (一)掛時計ノ機械。金屬製ノ圓ク扁キ錘ヲ、太キはりがねノ如キモノニテ吊リサゲ、左、右、同ジ距離ニ、振リ動カシム。振子。(二)柱ナド、直立スベキモノノ、垂直ノ正シキカヲ檢スル具。眞鍮製ノ圓錐形ノモノヲ倒サマニ、絲ニテ吊リ、振リ動キノ止ムトキ、錐ノ下端ノ尖ト、絲ノ下端トノ垂直ヲ準トシテ、合ヘバ、正シトス、大工ノ、正直ト云フモノモ、是レナリ。懸錘

さけん (名) 差遣 サシ、ツカハスコト。派遣スルコト。律書、手測[illegible]「可レ爲二差遣一」「較使差遣」

さけん (名) 左驗 證據ノ條ヲ見ヨ。 漢

書、趙宋傳「延宗守國寺問、左璇明白」

さ-けん (名) [左券] 左契ノ條ヲ見ヨ。

さ-げん (名) [左舷] ヒダリノ、フナバタ。右舷ニ對ス。

さけ-め (名) [裂目] 裂ケタルトコロ。ヒワレ。ワレメ。罅 坼 字鏡六十「坼、裂也、壁也、佐介女、又、比波留」

さけ-め (名) [裂目] 馬ノ口ノ、裂ケタル所、口脇。弓張記「手綱ノ高サ低サノ事、マヅ、さけめニアテテ」

さげ-もど・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [下戻] 官府ヨリ、人民ノ願ナドヲ、還ス。却下ス。「願書ヲさげもどす」

さげ-もの (名) [提物] 印籠、巾着ナド、腰ニ提ゲ携フル物ノ總名。携帶品。

さ・ける (動) [避裂] 避く、又ハ、裂く(下二段活用)ノ口語。

さ・げる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [下] (一)下ぐ、又ハ、提ぐ、ノ口語。(二)退クル。オロス。下ヘ送ル。撤退「供物ヲさげる」(三)貶ス。ケナス。サゲスム。貶「人ヲ評シテ、あげタリさげタリ」(四)自動トナリテ、汐ガ、退ク。(あげるニ對ス)退潮「汐ガさげる」さげ汐」

さけ-わた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [避渡] [一]レ、身ヲ避ケテ、他ニ與ふる意ナルベシ] 所領ノ地ヲ、他ニ渡ス。其證券書ヲ、避文、又、避状ト云フ。古事類苑、一、玉道后宮、六條代理ヒ御局、同道祐光ト相論シタル領地ヲ、義光ニ與フ不日ニ避文ヲ次、與父契ヲ與ニ義光了」十訓抄、下、第九ニ、同ジ事ヲ記シテ「去文ヲ書キテ取ラセケレバ、云云トアリ、吾妻鏡、六、文治二年六月七日「武士押領ノ桑原五箇庄、云云、令進去文給」徵古文府、一、文永七年十一月廿六日「右件、戶田者、外祖父故昇蓮遺財內也、云云、永所レ避ニ渡僧寂祐ニ也、云云、仍爲ニ後代ノ避文之狀、如レ件」香取神宮古文書纂、四、應安七年十月十四日「避渡條條、云云、右於ニ國行事職ニ者、避ニ渡中村家ニ者、云云、仍避狀如レ件」倭訓栞、さけふみ「東鑑ニ、去文ヲ讀メリ、所領ヲ他ニ遣ハス券書也、二條爲氏ヨリ、冷泉爲相ノ許ヘ、播磨國、越部ノ庄ヲ渡サルル時ノ證文ニハ、去狀トアリ」

さげ-わた・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [下渡] 官府ヨリ、人民ヘ與フ。下付ス。「救助米ヲさげわたす」

さげ-を (名) [下緒] 刀ノ鞘ノ栗形ノ穴ヲ通シテ、下ゲオク組紐。帶ニ結ビツクル用トス。刀緒 彈正臺式「衛府舍人刀緒、云云」吾妻鏡、三十五、寬元二年四月廿一日「將軍若宮、云云、御刀銷卷在ニ下緒ニ」宗吾大雙紙「公方樣ノ御腰物、云云、からくれなゐノ御さげをハ、見申シ候ハズ候」

さ-こ (名) [谷迫] [狹處ノ義カト云フ、さくト云フハ、音轉ナラム(何處、いづく)伊勢ノ山田ニテ、小路ヲ、せこト云フモ、狹處カト云フ」谷ノ異名。東國ニテハ、さくト云フ。神名帳ノ出雲國、楯縫郡、宇美神社ハ、二百年以前マデハ、迫ノ奧ト云フ、谷ノ奧ニアリテ、迫大明神ト稱シ、今モ、然云フ。倭訓栞、さこ「大和、吉野郡ニ、さこ村アリ、迫ノ字ヲ讀メリ、又、大迫アリ」同、さくしいりそう「上總國、山邊郡、大豆谷村」俚言集覽、さこ「美作ニテ、山ノ尾ト尾トノ間ヲ、さこト云フ、其間ニ、小水アリテ、田アルヲ、さこ田ト云フ、方俗、谷ノ字ヲ用ウト云ヘリ、さこハ、狹處ノ義カ、豐後ノ郡名ニ、上迫ヲ、おさこト呼べり、陰德太平記ニ、細迫ト云フ苗字アリ」同、さく「上總ノ方言、窪クテ長ク平ラカナル所ヲ、さくト云フ、此國ニ、小櫃ノさく、養老ノさく、小糸ノさく、トテアルヲ、三さくト云ヘリ、此ハ、美作ニテ、さこト云フニ同ジ」

さ-こ (名) [左顧] (一)左ノ方ニ、顧ルコト。左傳、昭公廿四年「左顧而欸」(二)年長者、年少者ヲ憐ミ助クルコト。漢書、淮陽王傳「幸左顧存恤」顏師古要「謝二人訪及、曰二辱ノ賜ニ左顧之罷ニ」註「古、長者居レ右、少者居レ左、故、長者顧ニ少者ニ謂ニ左顧、猶ニ枉顧ニ」

サゴ (名) [沙菰] さごべいノ條ヲ見ヨ。

ざ-こ (名) [雜喉] [雜喉、ざっこ、ざこ(鬱金、うこん。音頭、おんど)魚ヲ數フルヲ、喉ト云フ、其條ヲ見ヨ、或ハ、こハ、魚ノ呉音(居、居士)] 種種、雜多ナル小魚。ザッコ。梁塵秘抄(後白河院)二、雜「イザタマヘ、惡殿、大津ノ西ノ浦ヘ、ざこスキニ、此江ニ蝦ナシ、彼江ヘ往マセ、蝦マジリ、ざこヤ」看聞日記、永享六年十月十二日「生鯉三、雜喉五十、室町殿進レ之、御池ニ被レ放」下學集(文安)上、氣形門「雜喉」撮壤集(享德)中、魚部「雜喉」ざこの魚まじりト云フハ、微弱ナルモノノ、強大ナルモノノ中ニ列スルニ喩ヘテ云フ語。

さ-こく (名) [鎖國] クニヲ、トザスコト。外國ト、一切、交際ヲセヌコト。(開國ニ對ス)我ガ國ニテハ、德川三代將軍家光ノ時、寬永十六年、全ク鎖國シテ、(南蠻記)唯、支那船ト、阿蘭陀船トヲ、長崎一港ニ出入スルヲ許シ來リシガ、(此間、二百十五年)十三代將軍家定ノ時、安政元年ニ至リテ、再ビ、開國シタリ。

さ-ごく (名) [左獄] 古ヘ、京都ノ左京ニ設ケラレテアリシ獄舍。東ノ京ナレバ、東獄トモ云ヒキ。拾芥抄、中、末「左獄、近衞南、西洞院西」(今ノ出水西洞院西南) 平治物語、三、大路渡被レ掛ニ獄門ニ事「尾張國住人、長田四郎忠宗、上洛シ、前左馬頭義朝ガ首ヲ持參シテ、云云、檢非違使八人、行向テ、西洞院ヲ上リニ渡シ、左ノ獄門ノ樗ノ木ニゾ、掛ケタリケル」百練抄、七、永曆元年正月九日「前左馬頭義朝等首、廷尉請取、懸ニ東獄門前樹ニ」吾妻鏡、六、文治二年九月十五日「召ニ賜盜賊本平庄司ハ被レ禁ニ遣左獄ニ」

ざ-こく (名) [雜穀] ざつこく(雜穀)ニ同ジ。

さ-こく-し-かん (名) [左國史漢] 支那四部ノ古書、左傳、國語、史記、漢書ノ略。我ガ國ニテ、平安朝以來、久シク、學校ノ教科書タリキ。

さ-ござい (名) 辻寶引ノ條ヲ見ヨ。

さ-こし (名) [青箭魚] [倭訓栞、後編、さはら「馬鮫魚、狹腹ノ義也、ト云ヘリ、小ヲ、さごしト云フ、狹腰ノ義也」さはら(鰆)ノ條ヲ見ヨ] 魚ノ名。鰆ノ、小サキモノ。和爾雅(元祿)六、龍魚「馬鮫、云云、青箭、馬鮫小者」本朝食鑑(元祿)九、江海無鱗「鰆、云云、小曰ニ佐古之ハ云云、色最鮮靑、如レ箭、俗、稱ニ靑箭ニ」

ざこ-おる (名) [雜喉汁] 味噌汁ニテ、雜喉ヲ煮タルモノ。鈴鹿家記(京都吉田神官)應永六年六月三日「御さんざう樣ヨリ治部、私、呼ニ參リ、ざこ汁被レ下旨、夕飯給ハル」料理物語(寬永)「雜喉汁ハ、小鮒、鰕マジリニテモ、加減ハ、右ノ如ク、妻牛蒡、大根、竹ノ子、何ニテモ、作リ次第ニ入ル」

さ-おそ (副) [副詞ノ然ト、助詞ノおそト、熟合シタル語] サヤウゾ。サウゾ。伊勢物語「さおそ云ヘ、マダ追ヒヤラズ」

さ-こつ (名) 鎖骨 人體ノ肩ヲ構成スル、S字形ノ骨。前方ハ、胸骨ニ接シ、後方ハ、肩胛骨ニ接ス、左右ニアリ。

ざ-こつ (名) [坐骨] [坐ル時、椅子ニ凭ル時、體ヲ支フルモノ] 人ノ臀ノ骨。

ざ-こ-ね (名) [雜喉寐] [雜居寐ノ義ト云フ、居ノ呉音、こ(居士)] 男、女、打雜リテ、寐ルコト。合類節用集(元祿)三、油器門「雜

…[illegible]…聲…夜、男女…、…さこ さこ…アリ…モ、同ジ、雜居貌ノ義ニシテ、甚シキ淫風也、嬥歌(カガヒ)トハ異レリ」

さこ-ば (名) [雜魚場] 雜魚(ザコ)ノ條ヲ見ヨ。魚市ノ古キ稱。大阪ニテ、魚河岸(ウヲガシ)。魚市場。[illegible] 雜俳世話總(寶永、近松作)上「茨木屋ノ大盃、鯉ニハアラデ、雜喉(ザツコ)場ノ[illegible]」

サゴ-べい (名) [沙菰米] 〔さごハ、馬來(マレイ)語、Sago.〕 東印度諸島ニ產ズル、椶櫚類ノ樹ヨリ採ル食物。枝幹ヲ搗キ碎キテ、水ニ浸シ、其汁ノ澱ミタル白粉ヲ、篩シ乾シテ、細末トス、粟粒ノ如シ、粥ニ煮レバ、透ルシテ、滑カナリ、病人ノ食ナドトシ、又、糊トス。 合類節用集(元祿)六、[illegible] …ル物ナリ」

さ-こん (名) [左近] 左近衛ノ略、このゑふノ條ヲ見ヨ。

さこん-の-さくら (名) [左近櫻] 〔左近陣ノ前ニ接シテアレバ、名トス、右近橘モ、右近陣ノ前ナリ〕 南殿、即チ、紫宸殿南面ノ御階ノ左、即チ、東ニアル櫻樹。白木ノ欄ヲメグラス、四方、各、八尺七寸、高サ五尺一寸餘。南殿櫻、御階櫻、トモ云フ。コレニ對シテ、御階ノ右ニ、右近橘ト云フアリ、柵、櫻ト同ジ。 著聞集、十九、草木「南殿ノ櫻ハ、云云、代代ノ帝、此花ヲ賞セサセタマヒテ、花ノ宴ヲ行ハル」 徒然草、百三十九段「吉野ノ花、左近の櫻ハ、皆、一重ニテコソアレ」 新後拾遺集、二、春、下「セメテ我ガ、近キ衞(マモリ)ノ、ホドダニモ、御階の櫻、散ラサズモガナ」 [illegible]「[illegible]レスヨ、右ノツカサノ、[illegible]レシ、もたちばなヤ、[illegible]ラム」

さこん-の-ぢん (名) [左近陣] 〔正シクハ、左近陣座ナリ、右近陣、同ジ、仗ハ、兵仗(ヒャウヂャウ)ナリ〕 紫宸殿前、南庭ノ、殿ヨリハ左ノ方、即チ、東南ノ廊ノ稱。儀式ヲ行ハル時、左近衞府ノ將官ノ、位置ニ就ク所、即チ、陣座ナリ、又、左仗ト云フ(公卿以下モ、此レニ列ス) コレニ對ヒテ、西南ノ廊ヲ、右近陣ト云フ。 西宮記、臨時、三、上、[illegible]、南殿東、日華門內、右近、月華門內」 江家次第、一「諸卿着ニ左仗ニ」列ニ立左右仗南ニ」內辨以下、下殿、列ニ左仗南頭ニ」

さこん-ゑ (名) 左近衞 このゑふノ條ヲ見ヨ。

さ-ごろも (名) [狹衣] 〔さハ、發語(さ夜、さ牡鹿)〕 衣ト云フニ同シ。 催馬樂、夏引「夏引ノ白絲、七量(ナナハカリ)アリ、左己呂毛ニ、織リテモ着セム、汝妻(マシメ)離レヨ」(女ヨリ、男ニ云フナリ) 新古今集、五、秋、下「マドロマデ、眺メヨトテノ、スサビカナ、麻ノさ衣、月ニ打ツ聲」

さごろも-の (枕) 狹衣之 〔前條ヲ見ヨ、緒、紐ハ、衣ニツキテアルモノナリ〕 緒(ヲ)、紐(ヒモ)、又、紐ノ枕詞。 萬葉集、十二、[illegible]「[illegible]」 同、十四、[illegible]「[illegible]、さノ音ニ借リタルナリ) 其呂毛能、小筑波嶺ノ、山ノ岬(サキ)」(小ヲ、緒ニ寄セタリ)

さ-さ (名) [小竹] 細竹 〔細小竹(ササタケ)ノ下略、或ハ云フ、葉ノ、風ニ吹カレテ相觸ルル音ヲ名トシ、竹ノ異名トシタルナリト〕 小サキ竹。ササタケ。又、竹ノ異名。 古事記、上、[illegible]「天香山之小竹葉、訓ニ小竹ニ云ニ佐佐ニ」 垂仁紀、廿五年[illegible]月「[illegible]佐佐[illegible]」 萬葉集、廿[illegible]「佐佐ガ葉ノ、サヤケ[illegible]夜ニ[illegible]」 [illegible]小竹[illegible]佐佐[illegible]、廿[illegible]「さ さ竹ノ、幾よノ霜カ、幾代ノ、岡ノ草根ニ、ムスボホルラム」 續古今集、十九、雜、下「ささ竹ノ、我ガよノ程ノ、思出ニ、隱バレマベキ、一[illegible]モガナ」

さ-さ (名) [笹] 〔前條ノ語ノ、一種ノ竹ノ名ニ移リシナリ、神樹(サカキ)ノ、榊トナリ、薄(ススキ)ノ、芒トナリシ類)細小(ササ)ハ、自ラ低キヲ云フコトトナル、笹ノ字ハ、和字ナリ(節(ヨ)ノ、世ニ寄セテ作レルカ)〕 竹ノ一種、幹、甚ダ低ク細ソクシテ、葉ハ、常ノ竹ヨリ長クシテ、幅、廣キモノ。くまざさナド、此類ノモノナリ。箬 和漢三才圖會(正德)八十五、寓木類、附、苞木類「篠、佐佐、箬牛如レ草、俗用ニ笹字、出處未レ詳」

さ-さ (名) [酒] 〔倭訓栞、ささ「小兒詞ニテ、さけヲ重ネタルニヤ」小兒語ヨリ、婦女ノ語ニモ移リタルナリ(愛し、[illegible]。鷄、とと。淺漬、あさあさ。數子、かずかず)酒ノ異名ノ、竹葉(チクエフ)ニ起ルト云フハ、鑿ナリ〕 酒ノ、婦人語。酒渴(サカユ)ヲ、ささゆナド云フ。 播磨國風土記、揖保郡、[illegible]「作ニ酒[illegible]屋於ニ佐佐山ニ」(此佐佐ハ、酒ナルベキカ、[illegible]フヘシ) 天治字鏡、四、[illegible]「釃、佐佐加利」 字鏡[illegible]「醼、佐佐加利」 壬生大念佛 元祿、近松作、上「何シニ腹ガ立マセフゾ、母様モ、叔父様モ、奥ハ御入ナサレ、ささデモアガリマセト」「ささノ機嫌」

さ-さ (副) 此此 僅カナル意ニ云フ語。イササカ。些細。 白居易詩「此此[illegible]」 「此些タル入費」「此些タル事件」

さ-さ (副) [瑣瑣] (一)疲勞セル狀ヲ云フ語。 易[illegible]、上經、旅卦、初六「旅瑣瑣、斯其所ニ取ニ災」 (二)細小ナル狀ヲ云フ語。 詩經、小雅、節南山之什、節南山篇「瑣瑣姻亞、則無ニ膴仕ニ」 (三)玉ノ、接觸スル狀ニ云フ語。 說文「瑣、玉聲」

[illegible]日「[illegible]多、云二下[illegible]」

さ-さ (名) 神樂聲 神樂歌(カグラウタ)ヲ歌フ時ニ、和セテ囃ス聲。民間ノ小唄ナドノ囃聲ニ、さんさ、又、さっさト云フコトアルモ、是レナリ。 古事記、上、廿五「訓ニ小竹ニ云ニ佐佐ニ」 古事記傳ニ「神樂歌古本、韓神、總角、大宮、湊田、ナドノ歌ニ、本方、阿以、佐佐、佐佐、末方、阿以、佐佐、佐佐ト云フコトアリ、是ニ和セタル聲ナリ(本末ノ音ヲ[illegible]) 萬葉集、七、[illegible]、細浪ニ、神樂聲浪ノ四字ヲ書テテ書キタルアルモ、神樂ノ聲ノ佐佐ナリ、其外、集中ニ、神樂浪(ササナミ)、一、樂浪(ササナミ)、九、樂浪ナド記セルアリ、文字ヲ省略シタルナリ」 仙臺ノ謠、さんさしぐれ「さんさ時雨(シグレ)カ、萱野ノ雨カ、音モセデ來テ、濡レカカル」 松の落葉(寶永)ささら踊「ヤンラメデタヤ、ヤンラ樂シヤ、さ、さ、千町ヤ萬町(マンチョ)ノ、鳥追モ[illegible]タ」

さ-さ (感) [佐佐] 〔いざ(去來)ヲ重ネタル語、其條ノ語原ヲ見ヨ〕 誘フ聲。催シ勸ムル聲。さあさあ。 崇神紀、八年四月「高橋邑人活日(イクヒ)、獻ニ神酒ニ天皇、仍歌、之曰、此御酒ハ、我ガ御酒ナラズ、倭成ス、大物主ノ、釀ミシ神酒、伊句臂佐、伊句臂佐」(己ガ名ノ活日ヲ重ネ、佐佐ト勸メ奉ルナリ、古事記傳、三十一) 古事記、中、神功(六)「長壽(トコヨ)、少御神ノ、云云、奉リ來シ御酒ソ、餘サズ飮セ、佐佐」 榮花物語、十八、玉臺「ささ、今ナム出デ作リツル、シバシオハセヨ」

さ-さ (接頭) 細小 〔形容詞ノ狹(サ)しノ語根ヲ重ネタル語、孝德紀、大化二年正月ノ詔ニ「近江ノ狹狹波(ササナミ)」トアルハ、細波(ササナミ)ナリ、神代紀、下、六ニ、狹狹貧鉤トアリ、又、陵墓ヲ、狹狹城(ササキ)ト云フモ、同ジ、いささかノささモ、是レナリ、さトノミモ云フ、狹衣、狹布(サフ)の狹布、細波、さなみ、又、ささやか、ささめく、ささやく、ナド云フモ、同ジ〕 ササヤカナル。イササカナル。小サキ。細カキ。 「ささ波」「ささ水」「ささ竹」「ささ栗」「ささ蟹」

さざ (擬) 水聲 〔水ノ音ナリ、さざらぐ、さざろ、さざら波、さざれ波ナド、コレヨリ出ヅ、萬葉集ニ、沙邪禮浪、トアレバ、第二ノさハ、濁ル、水ヲ、ざ、とカケルト云フモ、是レナリ〕水ノ、碎ケテ、走ル音ニ云フ語。ザアザア。榮花物語、五、浦浦別「水ノミ、さざト流レ出ヅレバ」 盛衰記、三十七、景時秀句事、相撲聞、韓子川ヲ渉ル時「鎌倉殿ニ、水ヲさざト蹴カケ參ル」 徒然草、百十四段「水、前板マデ、さざトカカリケルヲ」

さざ (感) (一)さと(颯)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。風聲。(二)さと(颯)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。笑聲。

さ-さい (名) 些細 瑣細 イササカナルコト。僅カナルコト。此些。瑣末。 薛蕙、種松詩「初移二寸根、瑣細如插秧」

さざい (名) 榮螺 さざえノ條ヲ見ヨ。

さざい-だう (名) 榮螺堂 三匝堂 佛堂ノ構造ニ、内部ニ、階段ヲ、榮螺梯子ノ如ク造レルモノ。江戸、本所、五ツ目、五百羅漢寺ニアリテ、百觀音ヲ陳列セシモノ、名アリキ。

さざい-はしご (名) 榮螺梯子 梯子段ヲ、螺旋ノ如ク、曲リ旋リテ、昇ルベク造レルモノ。螺旋狀ノ階段。

さざい-び (名) 榮螺火 〔形ノ、榮螺ノ殻ニ似タル故ノ名ナルカ〕 金堀ナドノ、坑ノ中ニ持チテ入ル燈。(俚言集覽)

ささ-いろ (名) 笹色 濃キ紅ノ、乾キテ、光澤ノ青キ色。 貞丈雜記「紅ヲ濃ク、ささいろナル程ニ」

さざい-わり (名) 虎頭鯊 〔能ク、榮螺ノ殻ヲモ噛ミ割ルト云フ、山陰道ニテハ、鮫ヲ、鰐ト云ヒ、此魚ヲ、さざいわにト云フトゾ〕鮫ノ類、大ナルハ、身長五尺ニ及ブモノアリ、背ハ薄茶色ニテ、赤ミアリ、腹ハ白ク、體側ニ紅斑點アリ、頭ハ、鐵鎚ノ如ク、方形ニシテ、猫ノ面ノ如クナレバ、東京ニテハ、ねこざめト云フ、齒、極メテ硬ク、強シ、背ノ兩鰭ニ、大キクシテ尖レル刺アリ。 和漢三才圖會、四十九、江海有鱗魚「榮螺破魚、其齒如河豚魚齒、能咬榮螺、故名之」

ざ-ざう (名) 坐像 坐リテ居ル像。(立像ニ對ス) 冥報記「畫坐像於寺西壁」

ささ-うを (名) 笹魚 飛驒國ノ高山、日光山ノ赤沼ガ原ニ多クアル、一種ノ竹ノ節ニ生ズル蟲癭ノ名。其形、魚ノ如シ、蟲ノ侵害ニ、刺戟ヲ受ケテ生ズルモノト云フ。又、ささのうを。 重修本草綱目啓蒙(享和)廿六、苞木、竹「ささうをハ、百品考ノ魚尾竹ナリ、云云、枝葉ハ、チマキザサニ似テ、山白竹ヨリ大ナリ、幹ノ高サ四五尺、梢ニ、七八葉、五生シ、節ノ處ニ、魚形ノモノヲ生ズ、或ハ一、或ハ二三、相對シテ生ズ、大サ、拇指ノ如シ、小蘖、相重リテ、末細ソク、先曲レリ、長サ三四寸」 兼葭堂雜錄、二「飛驒ノ國ノ山中ニ生ズル篠アリテ、春ノ下旬、節ヨリ筍ヲ生ズ、其形、恰モ魚ノ如シ、五月雨降リツヅク頃、自ラ落テ、溪ニ入リ、化シテ魚トナリ、水中ヲ游グ、是ヲ、篠魚ト云フ」 俚言集覽、ささの魚「飛驒國、笹ヨリ生ズル魚ノ由」

ささ-え (名) 榮螺 〔日本釋名(元祿)中、介「榮螺、ささハ、小也、えハ、家ナリ」東雅(享保)十九、鱗介「榮螺子、ささハ、小也、えハ、家ナリ、蝸牛ノ殻ヲ、かたつぶりのいへト云ヒ、蜘蛛ノ巣ヲ、くものいト云フガ如ク、其殻ノ少シキナルヲ云フ」(次條ノ竹筒ノ語原ヲ併セ見ヨ)倭訓栞、後編、ささえ「少シキ柄ノ如キモノ、多クツケル貝也」さだえ、さざいハ、音轉ナリ(塞ぐ、ふたぐ。腐る、くたる。吉し、美し)榮螺ノ字、漢語ニ見エズ、本朝食鑑(元祿)十、介「榮螺、佐佐伊、殻背尖角、如枝芽之向榮、故名之乎」〕螺ノ類ニテ、海産ナリ、殻、大キクシテ厚ク、拳ノ如クニテ、暗蒼色ナリ、外面ノ螺級ニ、太ク尖起シタル刺、許多、周リテ附ケリ、殻口モ、大キクシテ圓ク、内面ハ、平滑ニテ、眞珠色ナリ、蓋アリ、圓クシテ、裏面ニ渦卷アリ、肉ハ、多クハ、壺燒ニシテ食フ。又、さだえ。今、專ラ、さざいト云フ。靜岡ニテハ、今モ、さだいト云フ。 拳螺 倭名抄、十九、龜貝類「榮螺子、佐佐江」(天文本、佐太江) 催馬樂、我家「御肴ニ、何善ケム、鮑、左多乎カ、甲羸善ケム」(佐太乎ヲトアル本ハ、誤寫ナリト云フ) 津守國基集「賀茂ノ禰宜成助ガ許ヘ、貝津物遣ルトテ、細螺モ、鮑さだえモ、蛤モ、搔キアツメタリ、皆ナガラ見ヨ」 山家集、下「牛窓ノ瀬戸、海人ノ出デ入リテ、さだえト申スモノヲ取リテ、舟ニ入レ入レシケルヲ見テ「さだえ棲ム、瀨戸ノ岩ツボ、求メ出デテ、急ギシ海人ノ、氣色ナルカナ」(牛窓ハ、備前ノ地名ナリ) 下學集(文安)上、氣形門「榮螺」 林逸節用集(文明)生類「榮螺」

ささ-え (名) 小竹筒 竹筒 〔小竹匣、又、酒匜ノ約(竹筒ノ匣、鏡ノ匳、共ニ、納ルル箱ナリ)前條ノ榮螺ノ語原ヲ併セ見ヨ、或ハ云フ、酒入ノ約(出典ノ小町踊ヲ見ヨ)サレド、ささいれナラバ、さされト、約マルベクオボユ〕 酒ヲ、行クニ携フル器、青竹ヲ切リテ、筒トシ、酒ヲ入レ、口ニ栓ヲサシ、紙ニテ頭ヲ包ム、其日限リニ用ヰテ、かけたがしニ棄ツルモノナリ (安齋隨筆、十四) 吾妻鏡、廿一、建曆三年五月三日「向後可斷酒之由被仰出、而度度相觸之後、猶潤喉、尋衣之處、葛西六郎取小筒與盞勸之、臨其期以前之過怠、用之」 庭訓往來、二月「破籠、小竹筒等者、從是可隨身」 易林節用集(慶長)器用「竹筒」 小町踊(寛文)「ささいれニ、竹ヤ用ヒテ、ヒトヨ酒」

ささえ-わり (名) 虎頭鯊 さざいわりニ同ジ。

ささ-がき (名) 笹垣 竹ノ、をりかけノ垣。 散木集、五、羇旅「草枕、ささがき薄キ、庵ノ屋ハ、所狹キマデ、袖ゾ露ケキ」

ささ-がき (名) 笹搔 〔倭訓栞、ささがき「料理ニ云フハ、篠葉ノ如ク、薄クかくヲ云ヘリ」〕 牛蒡、大根、鰹節ナドヲ、薄ク細ク削ルコト。又、ささがし。其、ごばうナルハ、泥鰌鍋ナドニ用ヰル。だいこんナルハ、酢、醬油ニ浸シテ、ささがき膾ト云ヒ、節日ナドノ食トス。

ささがき-なます (名) 笹搔膾 前條ヲ見ヨ。

ささがし (名) 前前條ヲ見ヨ。

ささが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 捧 〔捧ぐノ敬語(うらぐる、うらがす。閉くる、あかす)〕 捧ぐヲ、丁寧ニ云フ語。 古事記、下(雄略)三十八 長歌「三重ノ子ガ、佐佐賀世ル、瑞玉盞ニ」(伊勢ノ三重郡ノ釆女ナリ)

ささが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔ささがき(笹搔)ノ語根ヲ、佐行ニ活用セシム、さはやか(爽)、さはす(醂)〕 笹搔ヲス。「牛蒡ヲささがしテ煮ル」

ささ-がに (名) 細小蟹 〔允恭紀ノ歌ニ、佐瑳餓泥(山名)ノ區茂(雲)トアルヲ、ささがにト讀ミタガヘテ、古今集ノ歌ニ、雲ヲ、蜘蛛ト解シ、ささがにヲ、小サ

ト為ト為シ、ソレヨリ蜘蛛ノ枕詞ノヤウニ用ヰ來リテハ、直チニ蜘蛛ノ事トシ、又、花ノ名ノ歌題ニ、[illegible]ノ蟲ナル、[illegible]ノ意ヲモ取リ成シテ、意中ノ人ノ來ルコトニモ云フヤウニモナリシ語ナリ、又、女子ノ條ノ、ささがねノ條ヲ見テ、思ヘ合ハスベシ。蜘蛛ノ異名 [illegible]、ささがにノ、[illegible]ノフルマヒ、カネテ著シモ」後撰集、九、戀、一「語エハツル、物トハ見ツツ、ささがにノ、絲ヲ頼メル、心細サヨ」小大君集「君ガ來ベキ夜トヤ、ささがにノ、[illegible]」古今集、十五、戀、五「今シハト、佗ビニシモノヲ、ささがにノ、衣ニカカリ、我レヲタノムル」(今ハ、ハヤ、來マジト、佗ビテ居タルモノヲ、蜘蛛ガ、衣ニカカリタルハ、又、頼ミアルヤウニ思ハスル) 永久四年百首「サガリ絲ヲ、[illegible]、ささがにノ、[illegible]、モノ[illegible]」

ささがにひめ (名) [illegible] 〔ささがにハ、蜘蛛ナリ、前條ヲ見ヨ〕 蜘蛛ノ、[illegible]。織女ニ擬セテ、[illegible]。乞巧奠ノ[illegible]ナリ」四季物語(鴨長明)七、七夕ノ御祭ハ、云云、何クレノ風情有リ、色色ノ蟲ヲ捕ヘルニ、云云、[illegible]ニ、絲ヲ引キヌルヲ[illegible]トシテ、私ノ願、カナヘリトスル事ナルベシ」

ささがね (名) [illegible] 〔細竹ノ嶺ナルベキカ〕 萬葉集、十四ニ「[illegible]」トアルハ、篠ガ嶺ナリト云フ、泥ノ[illegible]、[illegible]ナリ、[illegible]淸エヤラズ、小笹ガ嶺ノ、露ワケテ、[illegible]色ニ、[illegible]ホトトギス」山ノ名。[illegible]八年

[illegible]ニ月、天皇、[illegible]、[illegible]ガ、[illegible]ヘキ夜ナリ、[illegible]、今[illegible]、廿六、[illegible]山名也、[illegible]於岸奈比、[illegible]乃於支天也」(御歌ハ、山ノ端ニたなびくニヨリテ、君ノ來マスベキ徴兆トシタマヒシナリ、雲ノ動靜ニ因リテ、事ノ徴兆トセシコト、[illegible]ノ、御子ノ危難アラムヲ暗示シタマヒシ御歌「佐韋河ヨ、雲立チワタリ、畝傍山、木ノ葉サヤギヌ、風吹カムトス」天武紀、上「[illegible]廣十餘丈、經、天、時、天皇異之、則擧燭親秉、式、占曰、天下兩分之祥也」

ささがは (名) 小竹葉 〔梅ガ枝ナド、同趣ナリ〕 小竹ノ葉。ササバ。 萬葉集、廿「[illegible]ノ、[illegible]夜床ニ、[illegible]マセル、子等ガ[illegible]ハモ」 古今集、十九、誹諧「サカシラニ、夏ハ人マネ、ささの葉ノ、サヤグ霜夜ヲ、吾ガ獨リ寢ル」

ささき (名) 狹狹城 〔ささハ、細小ノ義、きハ、奥津城ナド云フ、きニテ(各條ヲ見ヨ)、小陵ノ意ナルベシ〕 常ニ、御ヲ冠シテ、御陵ト云フ、是レナリ。 雄略即位前紀「[illegible]」[illegible]ナリ、狹狹城モ、同地ノ地名ナリ、後ニハ、佐佐木ト記ス)

ささぎ (名) 豇豆 ささげノ條ヲ見ヨ。

ささき (名) 鷦鷯 〔小竹湍ノ約ニテ(矮人(ひきひと)かやくきト同趣ナルベシ、其條ヲ見ヨ)〕 字鏡「[illegible]、鳥也、佐佐支、又、佐佐岐」 小鳥ノ名、今、みそさざいト云フ、其條ヲ見ヨ。 神代紀、上「鷦鷯、此云[illegible]」[illegible]娶[illegible]仁德紀、四十年三月「隼(ハヤブサ)ハ、天ニ昇リ、飛ビ翔リ、五十鳥ガ上ノ、さざき取ラサネ」古事記、下、仁德ニ「佐佐紀」倭名抄、十八、羽族名「[illegible]、佐佐木」

ささきげん (名) 酒機嫌 酒ニ醉ヒタル心持。一杯機嫌。一醉酣暢 「ささきげんノ良イ人」

ささ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 躁進 〔すすく、いすすく、そそくト通ズ(進む、すさむ、ささやく、そそやく)〕 スヌロギ、進ム。ゾメク。 萬葉集、十六、長歌「往ニシカノ、狹狹サシ我レヤ、ハシキヤシ、今日ヤモ子等ニ、不知ニトヤ、思ハレテアル」(老翁ノ、娘子ニ云ヘル詠ナリ、若カリシ頃ハ、少女ニマジリテ、サワギテアリシニ、今ハ、諸ハズ思ハルノ意)

ささ・ぐ・グル・ノ・レ・ゲ・ゲ・ケヨ (他動、下二) 捧 〔指擧ぐノ約(搔擧ぐ、かかぐ。捧擧ぐ、もたぐ)〕 (一) 兩手ニテ、高ク擧グ。 古事記、上「其后取大御酒坏立依指擧而歌曰云云」萬葉集、十九、長歌「指擧有、旗ノナビキハ」同、十九「吾ガ大子ガ、捧而持タル、ホホガシハ、[illegible]似ルカ、青キ蓋」 (二) 兩手ヲ伸べテ、頭上ニ擧グ。サス。擎 古事記、上「[illegible]千引石擎手末而來[illegible]」[illegible]等ガ、私ノ君ト思ヒマウシテ、頂ニナムささげタテマツルベキ」 (三) 奉ル。獻上ス。獻 源、[illegible]「桐壺」「イミジキ贈物ドモヲ、ささげタテマツル」

ささ・ぐも (名) 笹蜘蛛 くもノ一種、草木、枝葉ノ間、殊ニ、芝ノ上ニ、棚ノ如キ平網ヲ張リ、片隅ニ穴アリテ、其中ニ隱レ、昆蟲、誤リテ網ニカカレバ、躍リ出デテ、コレヲ捕ル。腹、稍、長ク、二ツノ短キ尾アリ。クサグモ。草蜘蛛

ささぐり (名) 小栗 〔ささ(細小)ノ條ヲ見ヨ〕 しばぐりニ同ジ。 倭名抄、十七「[illegible]、一名[illegible]、[illegible]小者也、佐佐久利」夫木抄、廿九、山家ニ、「冬ノささぐり、ハフハフト、裏ニ落チ散ル、大原ノ里」大和本草(元祿)十、菓「ささ栗トハ、小ナル栗ヲ云フ、小栗ナリ、又、芝栗ト云フ、云云、筑紫ニ多シ、[illegible]ト云フ、是也」

ささくれ (名) 蓬起 〔次條ノささくれるノ名詞形〕 さかむけ ニ同ジ。逆臚

ささくれ・る・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下一) 蓬起 〔そそくるノ轉(きさぐ、きそぐ。ささやく、そそやく)〕 ソソクル。ワワクル。 先端、細カク、裂ケワカル。「筆ノ尖ガ、ささくれる」

ささげ (名) 大角豆 「大和本草(元祿)四、豇豆「莢ノ短キハ、上ニ捧グ、ささぐるヲ以テ、ささげト名ヅケタリ」正シクハ、ささげ豆ト云フベキカ、ささぎト云フハ、音轉ナリ(きささげ、きささぎ。けどす、きざす)〕 荳科ノ草、葉ハ、三枚ニテ成リ、末、廣ク、末、尖ル、夏ノ季、枝頭ニ、三花、又ハ、六花ヲ開ク、黃色、又ハ、紅色ナリ、後ニ、莢ヲ結ブ、其若キハ、煮テ食フベシ、成熟スレバ、細長クシテ、内ニ、十粒、乃至、廿粒ノ豆アリ、此種ニ、蔓生ノモノト、特生ノモノトアリ、種類、尙、多シ。今、ささぎ。又、フラウ。豇豆 [illegible]紀、元年二月[illegible]大角豆ノ例ナルベシト云フ」民部省式、下、交易雜物、山城國「大角豆六石」倭名抄、十七、豆類「大角豆、佐佐介」

ささげもの (名) 捧物 〔上代ハ、神、佛、貴人ニ、物ヲ獻ズルニハ、木ノ枝ニ附ケテ、差擧ゲテ呈シタレバ、捧ぐト云フナリ、神代紀、上「日神、天磐戸ニ籠リタマヒシ時、諸神、集リテ、賢木ヲ根掘ニシテ、上、中、下、ノ枝ニ、玉、鏡、和幣、ヲ懸ケテ、磐戸ニ供ヘタル、是レナリ」物

ヲ、木ノ枝ニ附ケ、サシアゲテ獻ルヲ云フ。轉ジテハ、獻上物。佛ニ供フルハ、捧物ト云フ。獻品　古事記、下(雄略)三十六「御刀、弓、矢、等ヲ奉ル「一言主大神、手打受二其捧物一」伊勢物語、七十七段「失セタマヒテ、後ノ御佛事、安祥寺ニテシケリ、人人、ささげもの奉リケリ、奉リ集メタルモノ、千ささげバカリアリケリ、ソコバクノささげものヲ、木ノ枝ニツケテ、塔ノ前ニ立テタレバ、云云」大和物語、上、亭子院御賀「ささげもの、一枝、二枝、セサセタマヘト、聞コエタマヒケレバ」

ささ・げる（動）捧　ささぐノ口語。

ささ-ゑん（名）酒糟　〔昔ノ糠味噌ニハ、酒糟ヲ加ヘタリトオボシ、ささハ、米ノコトニテ、米糠ヲ云フトノ說ハ、迂遠ナルヲ免レズ、米ヲ、ぼさつト八言ヘ、ささト八言ハルマジ〕糂粏味噌、又、五斗味噌、卽チ、糠味噌ノ、婦人語。　女重寶記(元祿)「五斗みそハ、ささゑん、小糠ハ、マチカネ一束雅、享保)十三、饌「俗間ニ、糠味噌ト云フ物ノ、糠ト鹽トヲ和シテ造レルヲ名ツケテ、ささゑんト云フ、井菩薩、云云、米ヲ、菩薩ト云フ、ちんハ、鹽ノ音ナリ」(節文)　俊訓栞、ささ「婦女ノ詞ニ、酒ヲ、ささト云フ、云云、糠ヲサラシタルヲ、酒ニ和スルヲ、ささゑんト云フモ、酒糟ノ義ナルベシ」俚言集覽「糠味噌ヲ、ささゑん、酒鹽ト書ク、糂汰ヲ云ヘバ、ささ糂カ、然ラバ、ゑんノ假名ナリ」

ざ-さ-ゑんたい（名）坐作進退　タチキ、フルマヒ。坐リ、又ハ、起チ、又ハ、進ミ、退クコト。　周禮、夏官篇「大司馬之職、云云、教二坐作進退、疾徐、疏數之節一」

ささ-たけ（名）小竹　小竹ノ條ヲ見ヨ。

ささ-たけ（名）笹茸　竹林ニ生ズル、一種ノ茸。　俊訓栞、後編、ささたけ「竹林ニ生ズル茸ヲ云ヘリ、食フベシ」

ささたけ-の（枕）篠竹乃　さすだけの（刺竹乃）ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ささ-ちまき（名）笹粽　〔ちまきハ、茅卷ニテ、古ヘハ、茅ノ葉ニテ卷けるナリ、ソレヲ、笹ニテ卷クコトモアリシト思ハル、今ハ、眞菰ニテ卷クナリ〕粽ノ、笹ノ葉ニテ卷ケルモノ。　宗長手記(享祿)人ノ許ヨリ、篠粽、煎餅、二色ヲ贈ラレシニ「志、深山ノ繁キ、笹ちまき、數ハ千秋、せんべいニシテ」

ささッ-ぱたき（名）笹叩　ささばたき(笹叩)ノ急呼音。　浮世風呂(文化、三馬)初編、上「お彌宜ドノノ占ヒモ、市女ノ笹ノぼたきモ、イラネエ」

ささ-てん-ボダイ（名）卄點菩提　さぼさつノ條ヲ見ヨ。

ささ-ど（名）笹戶　笹ニテ作リタル戶。又、笹ノ生ヒタル門戶。ササノト。　本朝苔風俗(貞享、西鶴)一「亂レ姿ニテ、ささどノ陰ニ忍ビシニ」

ささ-なみ（名）細波　沺　洦　漣　漪　〔さなみトモ云フ、細小ノ語原ヲ見ヨ、正韻「風行二水上一成レ文曰レ漣」漪、水波也」さざれなみ、さざらなみヲ併セ見ヨ〕(一)水ノ、風ニ動キテ、細カニ立ツ波。又、さなみ。　萬葉集、十二、卅「左佐浪ノ、波越ス畔ニ、降ル小雨(ノ如ク)、間モ置キテ、吾ガ思ハナクニ」字鏡、八十「大日ニ波瀦、小日ニ泊、沺、佐佐奈彌」文選、六臣注本、海賦「沺洦」曾丹集「川上ニ、夕立スラシ、水屑塞ク、瀨瀨ノさ波、立チサワグナリ」夫木抄、二「雪氷、水上山ニ、融ケニケリ、小川ノさ波、サザレコエユク」(二)近江國ノ一名。(枕詞ニハアラズ)但シ、專ラ、湖水ノ西南、沿湖ノ地ヲ稱シタルガ如シ。　稜威言別、四「昆山石ノ、卷六七ニ、淺井家記錄ヲ引キテ、近江國風土記云、淡海國者、以二淡海一爲二國號一、故、一名謂二細波國一、所以向二淡湖上之漣漪一也」古事記、中(神功)六十忍熊王、建振熊命ト戰ヒ「逃二退逢坂一、對立亦戰、爾追迫、敗出二沙沙那美一、悉斬二其軍一」孝德紀、大化二年正月、詔「北自二近江狹狹波合坂山一以來、爲二畿內國一」天武紀、上廿七「諸將軍等、悉會二於篠浪一」(近江ノ大津ナリ)　萬葉集、一十七長歌「淡海國ノ、樂浪ノ、大津宮ニ」樂浪ノ、志賀ノ辛崎」樂浪ノ、國津御神ノ」同、九十三「樂浪ノ、平山風ノ、湖吹ケバ、釣スル海人ノ、袂カヘル見ユ」(近江ノ比良山ナリ、樂浪、樂波ノ字ノ事ハ、ささ(神樂聲)ノ條ヲ見ヨ)

さざ-なみ（名）長尾鷄　ながをどりノ條ヲ見ヨ。

ささ-にごり（名）小濁　水ノ、少シク濁ルニ、竹ノ枝ニテ、臺ヲハタクコトカ。　鳥籠物語「ホトトギス、鳴クヤ湖水ノ、ささにごり」

ささ-の-うを（名）笹魚　ささうをノ條ヲ見ヨ。

ささ-の-と（名）笹戶　竹ニテ、疎ニ組ミ作レル戶。ササド。　夫木抄、三十一「咲キ陰ス、野守ガ庵ノ、ささの戶モ、アラハニ置ケル、萩ノ朝露」

ささ-の-は-がれひ（名）笹葉鰈　さのはがれひニ同ジ。

ざ-さ-の-めい（名）座左銘　ざいうのめい(座右銘)ニ同ジ。　本朝文粹、十二、銘「座左銘」

ささの-ゆき（名）笹雪　〔笹ニ積レル雪ノ如シトノ意ナルベシ〕きぬごし豆腐ノ雅名。(あはゆき豆腐ヲ參見セヨ)東京、下谷、根岸ノ地ノ、堰ノ傍ノ家ニテ賣レリ、煎テ、葛餡ヲカケテ供ス、文化、文政ノ頃、新吉原ノ朝歸リノ客、多ク、立寄リテ食ヒシモノト云フ。古キ商票ニ、中央ニ、御膳笹乃雪、肩書ニ、きぬごしトアリ、右ニ、根岸新田二軒茶屋、左ニ、玉忠ト記セリ。　文化ノ川柳「吉原雀、チョ・チョット、笹の雪」文政ノ川柳「曉ノ傘ヲ、借リテ來テ、笹の雪」近年、道路改正ニ因リテ、一町バカリ、南ノ方ニ移レリ。

ささ-ば（名）小竹葉　小竹ノ葉。ササガハ。　古事記、下(允恭)廿七長歌「佐佐婆」

ささ-はぎ（名）笹矧　篠竹ニテ、作リタル的矢。　盛衰記、廿、石橋合戰事「五六歲ニナリ給ヒシカバ、竹ノ小弓ニ、小竹矧ノ矢」

ささ-はそらし（名）藁本　そらしノ條ヲ見ヨ。

ささ-ばたき（名）笹叩　市巫ノ、口寄スルニ、竹ノ枝ニテ、臺ヲハタクコトカ。急呼シテ、ささっぱたき。　嬉遊笑覽、八、口寄、新猿樂記、覡女、口寄「口寄ハ、彼寄人ヲ立テテ、ソレガ口走ル、まさごと、そらごとヲ聞クナルベシ、コレ、今、ささばたきナド云フ類ナリ」

ささ-はら（名）笹原　小竹生、笹ノ、生ヒテアル地。　太平記、二、阿新殿事「返ス太刀ニ、喉ブエ指シ切ッテ、心閑カニ、後ノ笹原ノ中ニゾ隱レケル」「鎧ニ疵持チ、笹原走ル」

ささ-はり（名）障　ササハルコト。サハリ。サマタゲ。サシアヒ。邪魔。故障。障礙　狂言記、那須與一「源氏方ノ氏神ニ、ささはりヲ爲サン事、必定ナリ」

さ-さは・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）障　〔さハ、發語(さ迷ふ、さ走る)支ふノ自動ナリ、次次條ノ語原ヲ見ヨ(加ふ、くははる。纏ふ、まとはる)〕障ルト云フニ同ジ。サマタゲトナル。サシアフ。邪魔ニナル。　合類節用集(元祿)九、言辭門「障」

ささ-ふ（名）小竹生　〔蓬生、淺茅生ノ類、ふ(生)ノ條ヲ見ヨ〕小竹ノ、生ヒタル地。ササハラ。　萬代集、十六、雜、三「舍人コガ、袖モ露ケシ、篠岡ノ、繁キささふノ、行クサ來ルサニ」

さ-さ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）支

〔ささハ、發語、さふハ、障フナリ（ささふ）〕前條ノ、ささふノ語原ヲ併セ見ヨ〕ニ、支ヘ障ナテ、保ツ。モチコラフ。ササユル。ツッパル。ツッカフ。　字類抄「支、ササフ」白氏文集、廿一、勸酒「身後推金柱ニ北斗、不如生前一樽酒」後撰集、三、十八、詞、身ノ後ニ、ソノ流シテ、北斗ヲささふトモ、ノたくニゾ、ワヅノハルベキ、[illegible]書ニ出テ、書ヲニ、人ザ替出アル無ナホ、一日ザラヲささふるニダニ及バズ　ニ　ニサヘギル。沮ム。沮止。「他ノ[illegible]ヲささふ」

ささぶき (名) 笹吹 〔水中ニ笹葉ヲ入レ、銀ヲ流シコミ、製シタルニ因リテ、此名アリ、又、灰吹銅トモ云ヘリ（日本百科大辭典）〕 銀座ニテ、銀銅ヲ混合、精錬シテ、通用銀、丁銀、小玉銀ヲ鑄ル時、品位ヲ正スニ[illegible]メニ、[illegible]目ノ秤合ニ用キル差銅。此方法ニ因リテ鑄タルヲ、笹吹銀ト云フ。　作法ハ、一[illegible]、長刀リ、七棕ノ鍋ニテハ、此[illegible]ノ民トモ、私ニ金銀ヲ吹テ、鍋ニ様ヘタルコト、前ニ云ヘルガ如シ、此時ノ銀ヲ、笹吹銀ナド云フ也」

ささぶきぎん (名) 笹吹銀 前條ヲ見ヨ。

ささぶね (名) 竹葉舟 竹ノ葉ニテ、舟ノ形ニ造リテ、水ニ流スモノ。兒童ノ玩ナリ。　[illegible]十七、水ウキテ[illegible]ガ、流レニ浮ケル、ささ舟ノ、トマリハ冬ノ、氷ナリケリ」[illegible]不思議ヤナ、苫ノ下ニ、竹ノ葉、一枚アリ、云云、此竹ノ葉ヲ[illegible]ニ、一枚ヅツ入レサセタマヒテ、海上ニ浮ベサセタマヒテ、御祈念アリケレバ、程ナク、海上、靜マリヌ」[illegible]江湖後集ニ、[illegible]、竹[illegible]アリ、[illegible]

ささへ (名) 支 (一)ササフルコト。ササフルモノ。ツッカヒ。(二)次條ノ語ノ略。　新[illegible]、舟逢[illegible]行、云云」

ささへぐち (名) 支口 次條ノ語ニ同ジ。略シテ、ささへ。　俳諧[illegible]月紅葉、寶永、[illegible]作、上「[illegible]中ハ、ささへ口、立ッテハフスベ、居テハ讒リ」

ささへごと (名) 支言 ササヘグチ。シコツコト。ヨコスコト。讒言。中傷。　倭訓栞、ささへ「ささへごとハ、讒言ヲ云ヘリ」

ささへり (名) 笹縁 〔細縁ノ義カ、又ハ、篠色ノ布帛ヲ用キルニ因リテ、隈笹ノ葉ニ寄セテ名トシタルカ〕 衣ノ縁、袋ノ端ナドニ、伏セテ縫ヒクルムル、扁キ組紐ノ名。

ささ・へる (動) 支 支ふノ口語。

ささほ (名) 笹帆 竹ニテ編ミ作レル帆。又、アジロ帆。長崎港ニ渡來セル唐船ニテ用ヰタリ。　華夷通商考、寶永二、六、南京船「本帆ハ、大方、木綿ナリ、弥帆ハ、笹帆ナリ、福州船、本帆、弥帆、共ニ、網代ノ笹帆ナリ」

ささほうさ (名) ささらさっぼうノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

ささほさ (名) ささらさっぼうノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

ささ-ボサツ (名) 𦬇 〔菩薩ノ字ノ草冠ヲ、二ツ合ハセタル字〕 菩薩ノ二字ヲ代表セシムル字。クサボサツ。又、此字ノ右下ニ、點ヲ打チテ、𦬇ト書クハ、菩提ノ代表字ニテ、ささてんぼだいト云フ、共ニ、僧侶ノ用キル、せうもつがき(抄物書)ノ字ニテ、(其條ヲ見ヨ)此二字ハ、支那ニテモ用キタルニ倣ヘルナリ。　[illegible]記、下、第十七[illegible]、[illegible]佛ノ、[illegible]「合[illegible]安二[illegible]以[illegible]十[illegible]、法言[illegible]雅、十三、[illegible]、佛書ヲ書寫スルニ、菩薩ノ字畫ヲ省キテ、𦬇ト記スコトアリ」嬉遊笑覽、九、下、言語「菩薩ノ略書ハ、𦬇、片假字ノサ文字ヲ重ネタルガ如シ、コノヤウノ字ヲ略シテ、扶菩提、井菩薩、云云、ト云ヘリ、云云、扶、井ハ、龍龕手鑑ニ出デテ、ココニテ作リタルニハアラズ」

ささまくしばゐ (名) 笹幕芝居 〔幕ニ、簾ナド、用キシモノナルベシ〕 寺社境内ニテ興行セシ小芝居。　寛文二年正月、町觸「凡寺社境内、ささ幕芝居ハ、興行百日ヲ限リテ、又、可[illegible]也」嬉遊笑覽、五、下

ざ-さまさ-ず-の-み-しほ (名) 座不冷御修法 〔ざさまさずハ、席不レ暖ノ反〕 不斷專念ノ修法。座冷さぬ祕法。　太平記、三十四、住吉楠折事「住吉四所ノ明神、日吉七社權現ヲ勸請シ奉テ、座さまさずの御修法ヲ、百日ノ間、行ハセラル」增鏡、第五、内野の雪「御堂ヲ建テテ、名ノバ、西園寺トイフメリ、云云、五大堂、成就心院ト云フハ、[illegible]王ノ座さまさぬ祕法、取行ハセラル」住吉家集、座不冷「[illegible]八幡宮御祈禱座ヲ云ヘリ」

ざ-さまさ-ぬ-ひほふ (名) 座不冷祕法 前條ニ同ジ。

ささみづ (名) 細小水 〔細小ノ條ヲ見ヨ〕 イササカナル水。少シノ水。サザレミヅ。　[illegible]古今集、三、夏「五月雨ハ、田井ニ溜リシ、ささ水ノ、[illegible]スバカリ、ナリニケルカナ」([illegible]集、十二[illegible]「左佐浪ノ、波越ス畔ニ、降ル小雨」)

ささみどり (名) 笹綠 竹ノ實、おねんおニ同ジ。　倭訓栞、後編、ささみどり「竹ノ實ヲ云フ、荒年ニ喰フヘシ、因テ、竹米トモ、おねん[illegible]トモ云ヘリ」

ささみの (名) 細小妻蓑 蓑ノ一種、さよみノ條ヲ見ヨ。

ざ-さん (名) 坐參 禪宗ニテ、大衆ノ、住持ニ參禪スル前ニ、僧堂ニテ坐禪シテ、心ヲ澄マシ、工夫、純熟セシムルコト。然ル後ニ、參禪シテ、所見ヲ提ス。　禪林象器箋、九、[illegible]「坐參者、坐禪於參前也、住持晩參已前、大衆集[illegible]僧堂坐禪候之、以待參」

さ-ざん-くわ (名) 茶梅 〔倭訓栞、後編、さざんくわ「山茶花ニ誤リ、茶山花ト誤レルナリ」烏骨鶏ヲ、をけっこうト云ヒ、晦日ヲ、つもおりト云フ類、語ノ便好キニ隨ヒテ、轉ゼシムルナリ〕 山茶ノ類ニテ、葉モ、花モ、小サシ、葉ハ、茶ノ葉ニ似テ、花ハ、冬ニ開ク、淡紅、又ハ、白、單瓣アリ、重瓣アリ、種類、多シ、實ハ、梅ノ實ニ似テ、小サク、微毛アリ、油ヲ搾リ採ルベシ。　合類節用集（元祿）六、生植門「山茶花」左訓「サザンクハ」

ざざん-ざ (感) 〔神樂聲ノ條ヲ見ヨ、さざめく、ざんざめく〕 小唄ノ拍子ノ囃聲。　狂言記、茶壺「ささんざ、濱松ノ音ハざざんざ、アア、イカウ醉ウタコトカナ」竹齋物語（寛永）二「三味線、鼓弓ニ、綾竹ヤ、調ヘ謡ハタル其中ニ、石村検校、參ラレテ、歌ノ調子ヲアゲニケリ、云云、又、ざざんざナドト謡フモアリ」好色一代男（天和、西鶴）三、越後寺泊「此頃、上方ヨリ、ざざんざト申ス小歌ガ、ハヤリ來リ、云云」合類節用集（元祿）九、言辭門「颯颯（サンサ）」一中節、松風（元祿）「松モ[illegible]子ノ、ざざんざ、濱松風ノ音ハ、ざざんざ」

ささむしろ (名) 細小妻席 次條ヲ見ヨ。

ささめ (名) 細小妻 〔細小葦ノ約ニテモアラムカ（雀、つばくらめ、中略シテ、つばめナドノめモ、葦ノ約）ささみのト

云フハ、ささめみのノ中略ナリ、倭訓栞、後編、ささむしろ「ささめむしろナルベシ、新六帖ニ詠メリ」」草ノ名。茅ノ類、専ラ、葉ヲ枯ラシ、水ニ浸シテ、太筋ヲ捨テテ、蓑、又、席ニ編ミ作ル、枯レテモ、強靱ニシテ、折レズ、ささみの、ささむしろト云フ。月詣集、五、五月雨遠行「サミダレニ、ささめノ蓑モ、朽チハテテ、ヌレヌレゾ行ク、野原篠原」夫木抄、廿八、小小婁「山賤ノ、結ビテ被ク、ささめコソ、衣ノ關ノ、雨モ透サネ」字類抄「簑、ササメ、草名、可ㇾ爲雨衣ニ」新六帖、二「風通フ、野守ノ宿ノ、ささむしろ、木蔭ナラネド、夕涼ミセリ」大和本草（元祿）九、小小婁「山野ニ生ズ、賤民、ささみのトフ簑ヲ結ブ草也、茅ノ類ナリ、又、編ミテ筵トス、かやむしろト云フ」

さざめ　（名）［白蜆］〔ざらざら目ニテ、殼ノ、刻ミテ、粗キニ云フニテモアルカ〕蜆ノ一種、海中ニ産ズ、殼、粗クシテ、色、白シ。俚言集覽、さざめ「蜆ノ一種ニテ、海中ニ産ズ」

さざめか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［諠語］〔さざめくノ他動（くるべく、くるべかす。いろめく、いろめかす）〕ざわざわト、音ヲ立ツ。盛衰記、二、額打論事「大荒目ノ鎧、草摺長ニさざめかし、三尺五寸ノ大刀、前垂レニ佩キ」承久軍物語、三、宇治川ニテ武田小五郎「元來、敵ニ目ヲカケテ、思切ノタル上ニ、父ガ教訓ノ烈シケレバ、面モフラズ、さざめかいテ渡シケリ」（水音ニ云フ）

ささめき　（名）［私語］ササメクコト。又、其言葉。

さざめき　（名）［諠語］サザメクコト。又、其音。

〜**ささめき-おと**　（名）［私語］〔次條ノささめくヲ見ヨ、ささめおとトハ、語根ノミヲ云フナリ（さざらぎ川、さざら川。幹言、

ちかおと）〕ササメキテ言フ話。ヒソヒソバナシ。ささめおと。源、三十四、上、若菜、上「内内ニ宣ハスル御ささめきおとドモノ、オノヅカラ、弘ゴリテ」同、廿一、少女「カカルささめきおとヲスルニ、アヤシウナリタマヒテ、御耳止メタマヘバ、云云」爲忠集「ウラヤマシ、今夜ハ會ハム、織女星ノ、ささめおとセム、積ル言葉」名義抄、禾部「私語、ササメコト」（字類抄、下學集、同ジ）白居易、長恨歌「七月七日長生殿、夜半無ㇾ人私語時」同、琵琶行「小絃切切如ニ私語ニ」

〜**ささ-め・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［私語耳語］〔細小ノ語原ヲ見ヨ、ささやく、同ジ〕ササヤク。小聲ニテ、話ス。耳おすりヲス。萬葉集、七　三十四「向峯ニ、立テル桃ノ木（序）、成リヌヤト、人ゾ耳語シ、汝ガ心ユメ」枕草子、十二、百五十六段「小舎人童ノツキヅキシキヲ、身近ク呼寄セテ、打チささめきテ、往ヌル後モ、久シク眺メテ」榮花物語、一、月宴「世語ニモシツベキ宮ノ御言葉カナト、ささめき、忍ビモアヘズ、笑ヒノノシレバ」

〜**さざ-め・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［諠語］〔さざト笑フノ、さざナリ（颯ノ條ヲ見ヨ）さんざめくト云フモ、此語ヨリ起ル〕（一）聲立テテ、言ヒサワグ。言ヒノノシル。源、三十一、槇柱　四十「さざめき騒グ聲、イト著シ」榮花物語、四、見はてぬ夢「コレヲ大事ト、さざめきサワグ」宇治拾遺、二、十二條「其事トモナク、さざめきノノシリ合ヒタリ」（二）騒ガシク音ス。小大君集「竹ノアル所ニテ、風ノ吹クニ、イミジクさざめきケレバ」枕草子、五、四十六段「戸ヲ押シアケテ、さざめき入レバ」

〜**ささめ-おと**　（名）［私語］ささめきおとノ條ヲ見ヨ。

ささ-も　（名）［笹藻］〔葉ノ形、笹ノ葉ニ似タリ〕水草、溝ナドノ、流水ノ中ニ多シ、水底ニ生ジテ、水ニ靡キテ流ルルコト、數尺ナリ、葉ノ長サ二三寸、幅一二分、對生ス。又、ヤナギモ。馬藻

ささ-もち　（名）［笹餅］糝粉餅ヲ、笹ノ葉ノ如ク作リタルモノ。料理物語（寛永）菓子、ささ餅「粳ノ米、上白ニシテ、ヨク粉ニ搗碎キ、云云、水ニテ捏ネ、小サク玉ニシテ、鍋ニ入レ煮ル、云云、上ゲ候テ、臼ニテヨク搗キテ、色色ニチギル、黄ニハ、梔子、青ハ、艾ノ汁、入レテヨシ」本朝食鑑（元祿）二、餅、粳米粉餅「有ニ志牟古、佐佐餅之名ニ云云、有ㇾ以ニ生艾汁ニ而染者ㇳ其色香可ㇾ愛」和漢三才圖會（正德）百五、餌「一種、形作ニ笹葉ニ者、名ニ笹餅ニ云云、褒ㇾ餡、或以ニ梔子汁ニ染ニ黄色ニ、以ニ紅花汁蘇芳汁ニ染ニ紅色ニ」

ささ-もどき　（名）［藎草］〔笹擬ノ義カ〕刈安草ノ異名。（東京、植木師ノ語）

ささ-や　（名）［笹屋］笹ノ葉ニテ葺キタル小屋。續後撰集、十九、羇旅「山風吹ク、峯ノささやノ、草枕、假寢ノ夢ヘ、結ブトモナシ」續拾遺集、五、秋、下「ナベテ吹ク、賤ガささやノ、秋風ヲ、己ガ夜寒ト、打ツ衣カナ」

ささやかし　（名）（一）搖リ動カスコト。（二）コマカクスルコト。ササヤカスコト。七十一番職人歌合、十九番、かみすき「ささやかしガ、足ラヌゲナ」

ささ-やか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）（一）搖リ、動カス。ユラユラサスル。（二）コマカクス。

〜**ささ-やか-に**　（副）［細小］〔ささ（細小）ノ條ヲ見ヨ、やかハ、副詞ヲ形作ル接尾語〕小ヤカニ。細ヤカニ。宇津保物語、樓上、下四十「小サキ几帳立テテ、シツラヒタマヘリ、小サキ人人、ささやかなる碁盤ニ、碁、打チ居タリ」源、十一、花散里ニ「ささやかなる家ノ、木立ナド、由バメルニ」徒然草、四十五段「ささやかなる童、一人ヲ具シタリ」遊仙窟「婀娜腰支、細細許」名義抄「細細、ササヤカナリ、ホソヤカナリ」

ささやき　（名）［私語］ササヤクコト。ササメキ。耳語

ささ-やき-ぐさ　（名）［薄落廻］〔しほやきぐさトモ云ヘバ、ささハ、しほノ轉カ（石子、いさご。さかしま、さかさま）狼仆ノ名モアレバ、しほハ、獸ニテ、やくハ、毒シテ斃ス意ナルカ、占城菊ノ語原ヲモ見ヨ〕草ノ名。山谷ノ陰地ニアリ、春、舊根ヨリ苗ヲ生ズ、莖、高サ五六尺、圓クシテ、中、空シク、白綠粉アリ、葉ノ大キサ、尺ニ近ク、互生シ、圓クシテ、周リニ淺キ岐アリテ、雪輪ノ如シ、莖、葉ヲ切レバ、黄ナル汁、出ヅ、毒アリ、秋、莖ノ頭ニ、長キ穗ヲ出シ、枝、多ク、小白花ヲ開ク、後ニ、長サ六七分ノ莢ヲ結ブ、中ニ、小黑子アリ、根、黄ニシテ、黄芩ニ似タリ、古ヘ、やまひらぎト云ヒシハ、此草ナルベシト云フ。又、しほやきぐさ。チャンパギク。狼仆。和黄芩。倭訓栞、後編、ささやきぐさ「占城菊トモ云フ、和黄芩ト俗稱スルモノナリ、毒アリト云ヘリ、又、しほやき草トモ云フ、（薄落廻也ト云ヘリ）」

ささやき-おと　（名）［私語］ささめきおと（私語）ニ同ジ。

ささやき-せんり　（名）［私語千里］内證話モ、忽チ、遠クマデ聞ユト云フコト。祕事モ漏レヤスキ意ナリ、ささやき八町、又、おそおそ三里トモ云フ。淮南子、説林訓「附ㇾ耳之言、聞ㇾ於三千里ニ也」毛吹草（正保）「ささやくモ、八町ヒビケ、時鳥」右大將鎌倉實記（享保、竹田出雲）「ささやき八町、最時、聞取リ」

ささやき-はっちょう　（名）［私語八町］前條ヲ見ヨ。

〜**ささ-や・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［私語耳語］〔細小ノ語原ヲ見ヨ（かがやく、つ

ぶやく)ささめくト、同ジ、ささやくハ、音轉ナリ(ひさめく、ひそめく、きさぐ、きさ[illegible])又、ささやく小聲ニテ、ヒソヒソ、話ス。サヽメク。耳コスリヲス。竹取物語「ナホ物語スコトアルベシナド、ささやけド、親ヲハジメテ、何事モ知ラズ」後撰集、十二、戀、四「夜明ケテ歸リケルヲ、人、見テ、ささやきケレバ」名義抄「[illegible]、耳語、サヽヤク」色葉字類抄(元祿)九、[illegible]

ささやけ-びと (名) |小人| [ささやけハ、ささやかノ轉、すみやか、すみやけし、あざやか、あざけしノ類]ササヤカナル人。ヒキビト。小詰ノ人。[illegible]ノ[illegible]ハ、ささやけ人ノ、イト[illegible]ヤカニソビエテ、[illegible]ス[illegible]、コマヤカニ、[illegible]ニテ」

ささ-やぶ (名) |笹藪| たかやぶニ同ジ。

ささ-ゆ (名) |酒湯| [ささハ、酒ノ、婦人語(其條ヲ見ヨ)酒湯ナルベキヲ、專ラ、さかゆト云フハ、[illegible]ノ語ノ、行ハレタルナル(一シ)]小兒、痘瘡、疱瘡ノ愈エタル十數日ノ後、酒ヲ加ヘタル湯ニテ、浴セサスルコト。又、酒湯、酒浴 [illegible]小言、六、疱瘡、[illegible]「酒湯ハ、本邦、何レノ時ヨリ行ハルルヤ、未[illegible]、唐土ノ、無キ所ナリ、云云、十二歳ヲ[illegible]十[illegible]、[illegible]、云云」[illegible]心得草、[illegible]ノ心得「四五日前ヨリ、米ノかし水ヲ取置キテ、能クネサセ置キ、其上澄ヲ、湯ニ焚クベシ、云云、手拭ヲヒタシ、搾リテ、カセタル痘ノ跡ヲ、シカシカト押ヘ、湯ノ氣ヲアツ、云云」[illegible]、酒湯[illegible]ノ[illegible]云フ」同、ささゆハ、[illegible]ナリ、女中詞ニ、酒ヲささト云フ故ニ、カク云ヘル敷」

ささ-ゆり (名) |笹百合| [葉ノ形、竹葉ニ似タレバ云フ、[illegible]ト、同趣ナリ」百合ノ異名。其條ヲ見ヨ。

⁂**ささ・ゆる** (自) |支| 支ふノ口語。(九州)

さ-さら (名) |簓編竹編木| [擦ル音ノ、さらさらノ約(うらうら、うらら。きらきら、きらら)琴モ、笛モ、音ヲ名トスルコト、同ジ)諸曲、花月「心、亂ルル此ささら、さらさら、さらさらト、擦ッテハ歌ヒ、舞ウテハ數ヘ」ささら竹ト云フガ、成語ナルベシ、出典ニ、ささらノ竹ト見エ、編竹ト書クハ、竹ヲ編ム意ナルベク、編木ト書クハ、びんざさらナルベキニ、上略シテ言ヒテ、相、混ズ、簓ノ字ハ、彫竹ノ合字ナリ」(一)田樂舞ノ樂器。一尺許ノ竹ヲ、細カニ割リテ、束ネタルモノ。又、別ニ、刻ミアル細ソキ棒アリ、ささらのこ、又ハ、ささらのこト云フ、(其條ヲ見ヨ)コレヲ、左手ニ持チ、右手ニ、ささらヲ取リテ、刻ミヲ擦リテ、音ヲ立タシム、擦ろヲ、つくトモ云フ。支那ノ古キ樂器ノ敔ト云フモノヲ學ビタルナルベシ。(爾雅、釋樂篇、註「敔如伏虎、背上有二十七鉏鋙、以木長尺、擽之也」正韻「敔、如木、長尺、以鼓敔、所以止樂也」)日光山東照宮ノ寶物ニ、此器、存ス、朝鮮獻上ナリト云フ)びんざさら、并ニ、ささらすりノ條ヲ參見スベシ。[illegible]十九、[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ「何技ヲシテ[illegible]ゼサセムト、ナボシメシテ、云云、田樂トムヒテ、アヤシキ様ナル[illegible]、腰ニ結ヒツケテ、笛吹キ、ささらト云フ物ツキ、サマザマノ舞シテ、アヤシノ男ドモ、[illegible]、云云」[illegible]、廿八、第七語「或ハ、笛ヲ吹キ、高拍子ヲ突キ、ささらヲ突キ、杁ヲ差シテ、[illegible]、云云、[illegible]、[illegible]、限リナシ」[illegible]、三十九、[illegible]、[illegible](三[illegible])、[illegible]ニ、云云、命ヲ惜ムベキニアラズトテ、如[illegible]木子ニ叩キナシタル太刀ノ刃本ヲ、小刀ニテ削リナホシ、打振テ、[illegible]ヲ出シタマヘバ、左右ノ兵、云云」[illegible]、[illegible]士(傳木[illegible])[illegible]左條ハ、云云、籠中ニ、竹ガ條ハメヨ、云云、ささらのこニハ、百八ノ數珠、ささらノ竹ニハ、[illegible]、[illegible]合ハセ、コレヲ擦ル」[illegible](文安)一、五十二條「小兒ノ[illegible]ノ中ニ、云云、ささらトハ、[illegible]竹ト書キ、[illegible]ハ、編木ト書ク」(二)臺所道具ノ一。前項ノ簓ヲ、長サ五寸バカリニ、小サク細ソク作リタルモノ。小帚トシ、物ノ汚物ヲ擦リ洗フニ用キル。筅帚 (三)臺所ノささらハ、其尖端ノ禿ビヤスキニ因リテ、轉ジテ、物ヲ擦リ減ラシタル意ニ云フ。(ささら・さっぽうノ條ヲ參見セヨ)耗盡「身代ヲささらニスル」

ささ・ら (接頭) |鮮美| [ささハ、細小ノ義、らハ、添ヘタル辭、らノ條ヲ見ヨ](一)物ノ、細シク、鮮ヤカナル意ヨリ、何ニテモ、美メテ云フ語ナリト云フ。「ささら可愛男」ささら形」ささら荻」(二)ささらがた(美文)ノ下略、其條ヲ見ヨ。

ささら-いし (名) |細石| さざれいしノ條ヲ見ヨ。

ささら-えをとこ (名) |月| [えをとこハ、美好男ノ意、月中ニ、男子ノ形、見ユ、ト云フ、前前條、及、好男、月讀男、ノ各條ヲ見ヨ] 月ノ異名。ツキヨミヲトコ。ツキヒトヲトコ。カツラヲトコ。萬葉集、六、廿二「山ノ端ノ、ささら良壯子、天ノ原、門渡ル光、見ラクシ好シモ」註「月別名、曰佐散良衣壯士也」

ささら-がた (名) |美文| [ささら(鮮美)ノ條ヲ見ヨ、形ハ、織文ナリ] 美シキ小形ノ織文ノ、一種ノ織物。下略シテ、ささら。允恭紀、八年二月、天皇御製「佐瑳羅餓多、錦ノ紐ヲ、解キサケテ」[illegible]紀、七年九月、[illegible]子妃春日皇女ノ御[illegible]、云ガ、[illegible]エノ、[illegible]セル、[illegible]ノ御帯、[illegible]」

ざざら-がは (名) |潺湲河| ザザラギ流ルル河。

ざざら・ぐ・ゲ・ゲ・ガ・ギ・グ (自動、四) |潺湲| [水ノ音ノざざヲ活用セシム(譫らぐ、蓋らぐ)ざざらヲ見ヨ] 水、ざざト音シテ、流ル。水、碎ケテ流ル。サザル。セセラグ。[illegible]日記[illegible]「心地ヨゲニ、ざざらぎ流レシ水モ、[illegible]ニ埋モレテ、[illegible]バカリ見ユ」

ささら-こ (名) |簓子| [子ハ、稲穂子、蒲穂子、賽の子ノ、子ノ如シ、瓶子、杓子、ノ子モ、是レナリ] (一)又、ささらのこ。田樂舞ニテ、簓ヲ擦ルニ用キル、細ソキ棒、刻ヲ附ケテアリ、コレヲ左手ニ持チテ、右手ノ簓ニテ、刻ヲ擦ル。出典ハ、ささらノ條ニ載セタリ。(二)簓子壁板ト云フハ、古ク云ヘルきりかけニテ、上等ノ壁板ノ作方ナリ。横板ヲ羽重ニシテ、一尺間置キノ押緣ノ小割ノ竪木ニ、板ノ重目毎ニ、刻ヲツケテ、嵌メテ、打チツク。(押緣ガ、即チ、簓子ナリ)

ささらこ-すだれ (名) |簓子壁板| 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

ささら-さっぽう (名) |簓先穂| [さっぽうハ、さきほノ音轉(よきほど、よほど。いぼさり、いぼうさり)さちら、さっぽうト云フハ、音轉ナリ(さっさと、ちゃっちゃと)](一)簓ノ尖。其形ノ、サヽクレタルヲ云フ。蓮起「小楊枝ノ先ヲ齧ンデ、ささらさっぽうニスル」(二)痲王樹ノ異名。棒狀ノ莖、簇生シ、莖毎ニ、刺毛、簇生シテ、簓ノ如クナレバ、云フ。又、サヽラサッポウ。[illegible]、ささらさっぽう「さぼてんニ同ジ」

（二）財産ヲ耗リ減ラシテ、だいなしニスルコト。臺所ノ簓ノ穗ハ、禿ビテ減ルニ因リテ云フ。耗盡「身代ヲささらニスル」「身上ヲささらさつぼうニシタ」（四）轉ジテ、散散、めちやくちや、めちやめちやノ意トナル。支離滅裂　此語、地方ニ因リテ、種種ニ音ヲ轉訛ス。ササホウサ。ササホサ。チヤチヤホウチヤ。武藏國、川越、青梅地方ニテ、ササラホウサラ。駿河國ニテ、さつちらさつぼう。（尙、アルベシ）浮世風呂（文化、十三）三編、上「イケツ倍クシテ溜メタ金ハ、ささほうさニサレルノヨ」

ささら-さんすけ-やど（名）［簓三助宿］次條ヲ見ヨ。

ささら-さんぱち-やど（名）［簓三八宿］［ささらさんぱちハ、簓ヲ擬人シタル語、ささらノ、さノ口調ヨリ、さんぱちトモ、さんすけトモ云フナリ（やけノやんぱち、からすノかんざゑもん）簓ハ、擦リテ厄ヲ祓フモノノ意ナルベシ、鎭西八郎爲朝宿ト云フモ、鬼ガ島ノ疫鬼ヲ拂フ意ナラム］疱瘡除、疫病除ニ、板、又ハ、紙ニ記シテ、門戶ニ貼リツケ、呪禁トスル語。又、ささら三助宿。鎭西八郎爲朝御宿。俳諧破邪顯正（延寶）「疫病ノまじなひノ、ささら三助殿宿札、打々レタカ」五元集（元祿）「竹ニ蜂ノ巢書ケル繪ニ、其角、たよ竹ヨ、ささら三八、宿トコソ」さへづり草　竹ニ蜂ニ八ヲカケタリ」俚言集覽、ささら三八「ささら三八孫トモ、又、ささら三八宿トモ、札ニ書テ、門戶ニ貼ス、疫病、疱瘡ノ呪也」

ささら-すり（名）［簓摺］田樂舞ヲ眞似テ、簓ヲ擦リテ、遊戲スルコト。謠曲ノ自然居士ナド、簓ヲスリテ、舞ヘルコトヲ云ヘリ。（ささらノ條ノ（一）ヲ見ヨ）

又、說法スル者、簓ヲ用キ、ソレヨリ、和讚ノ如キ諸物ニ合ハセ、果ハ、淨瑠璃說經ノ門附ナドニ、三味線、胡弓ニ合ハセ語リテ、錢ヲ乞ヒ歩キケルコトアリ。さささらをどりト云フモ、アリ。異制庭訓往來（貞治）大簇七日、遊戲ノ内ニ「礫打、竹馬馳、編木摺」　筠庭雜考（百家說林）三「融通念佛緣起、應永年間、ささら摺」慶長年中ノ繪、ささら摺說經、人ノ門戶ニ立テ語ルヲ、門說經ト云フ」（共ニ、繪アリ）貞德文集（寬永）六月一日、祇園會「踊子、放下、彫子摺」

〜**さざら-なみ**（名）［泊洦］［さざらハ、さざらぐ（潺湲）ノ語根（さざら水モ、同ジ）さざれなみノ語原ヲ併セ見ヨ］サザラギテ流ルル波。音立テテ流ルル波。サザレナミ。天治字鏡、十二廿「泊洦、大日ニ波瀾ハ小曰ニ泊洦ハ佐佐良奈彌」　字鏡八ニ「泊白、同文、佐佐奈彌」良ナ貯シタルカ」倭名抄、一七水泉類「泊洦、淺水貌也、佐佐良奈三」　六帖、四「さざら波、寄スル汀ニ、棲ム田鶴ハ、君ガ經ム世ノ、シルベナリケリ」

ささら-の-こ（名）［簓子］ささらこノ（一）ニ同ジ。

さざら-みづ（名）［潺湲水］［前前條ノ語原ヲ見ヨ］サザラギテ、流ルル水。音立テテ流ルル水。サザレミズ。萬代集、三、夏「鷺鴒ノ居ル、夏山蔭ノ、さざらみづ、岩波高シ、五月雨ノ頃」

〜**ささら-をぎ**（名）［美荻］［ささら（鮮美）ノ條ヲ見ヨ］鮮カナル荻。萬葉集、十四八十「河律ノ、佐左良乎疑」

ささら-をどり（名）［簓踊］簓摺ヲシテ、拍子ヲ取リ、歌ヒテスル踊。乞食ノ類ナリ。松の葉（寶永）ささら踊「ヤンラ、メデタヤ、樂シヤ、サノサ、千町ヤ、萬町ノ、鳥追ガ祭ッター

ささり-ばち（名）［蝶蠃蟲］さそりノ條ヲ見ヨ。

ささ-リンダウ（名）［笹龍膽］［葉ノ形、笹ニ似タレバ云フナリ、笹百合ト、同趣ナリ］（一）りんだうノ別名、其條ヲ見ヨ。和漢三才圖會（正德）九十二、龍膽「有ニ正白花者ハ名ニ笹龍膽ハ形狀小」　重修本草綱目啓蒙（享和）八、龍膽「葉ハ、竹葉ノ如クニシテ、短シ、故ニ、ささりんだうト云フ」（二）紋所ノ名。龍膽ノ葉ノ、笹ノ葉ノ如キヲ、五枚、竝ベ垂ラシテ、上ニ、其花ヲ三ツ竝ベタル象ヲ圖ス、粗、五三桐ノ如シ。世ニ、源家ノ紋ト云ヘド、淸和源氏ノ紋ハ、引兩ト、五七桐ナルヲ、ささりんだうト誤認シテナルベシ。但シ、村上源氏ノ家紋ハ、ささりんだうナリ。

ささ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［刺］［刺すノ未然形ノささニ、受身ノ助動詞ノるノ附キテ、四段活用、自動ニ綫ジタル語（抱く、だかる。省く、はぶかる）あづかるノ語原ヲ見ヨ］尖キ立ツ。刺立「針ガささる」「火箸ガ、灰ニささる」

さざ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［潺湲］［水聲ノさざヲ活用セシム（長るる、熱るる）さざらぐノ條ヲ併セ見ヨ］さざらぐニ同ジ。夫木抄、二「雪氷、水上山ニ、融ケニケリ、小川ノさ波、さざれ越エユク」（さなみハ、細波ナリ）

さざ・れ（動）［差］差すノ受身、其條ヲ見ヨ。

〜**さざれ**（名）［細石］次條ヲ見ヨ。

〜**さざれ-いし**（名）［細石小石］［細小ノ條ノ語原ヲ見ヨ、さざれ、さざらノ、れ、らハ、添ヘタル辭（らノ條ヲ見ヨ）さざれしハ、約メテ云フナリ（乾飯、かれひ）さざれトノミ云フハ、下略ナリ（ささらがた、ささら、野兒鷹、のせ）沙利ト云フハ、此語ノ轉ナリ、又、或ハ、さざれ波、さざら波ト、同語原ニモ落ツベキカ、倚、考フベシ］ササヤカナル石。小サキ石。小石。又、さざらいし。さざれし。さざれ。萬葉集、十四三十「佐射禮伊思ニ、駒ヲ馳サセテ、心傷ミ、吾ガ思フ妹ガ、家ノアタリカモ」同卷十「信濃ナル、千隈ノ川ノ、左射禮思モ、君シ蹈ミテバ、玉ト拾ハム」同、四十九「狭穗河ノ、小石蹈ミワタリ」古今集、七、賀「我ガ君ハ、千代ニ八千代ニ、さざれ石ノ、巖ト成リテ、苔ノ蒸スマデ」字鏡六十「小石、佐佐良石」倭名抄、一五巖石類「細石、佐佐禮以之」

さざれ-ごなみ（名）［細小波］さざなみ（細波）ノ（一）ニ同ジ。國性爺後日合戰（享保、近松作）錦吾夢路道行「琴ノ調ベカ、松吹ク風カ、松風ノ音デナイヨノ、さざれ小波カノ」

〜**さざれ-し**（名）［細石］前前條ヲ見ヨ。

〜**さざれ-なみ**（名）［潺湲波］［さざれハ、さざる（潺湲）ノ名詞形（さざれ水モ、同ジ）小浪、細浪、ナド書ケルアルハ、細波トモ相似テ、畢竟ハ、同ジケレバナリ、サレドモ、語原ハ、異ナリ、さざらなみノ語原ヲ併セ見ヨ］サザレテ、流ルル波。音立テテ流ルル波。サザラナミ。萬葉集、十三三「沙邪禮浪、浮キテ流ルル、長谷川、寄ルベキ磯ノ、無キガ淋シサ」同、四十九「千鳥喧ク、佐保ノ河瀨ノ、小浪、止ム時モナシ、吾ガ戀フラクハ」同、十二九「トノ曇リ、雨降ル川ノ、左射禮浪、間ナクモ君ハ、オモホユルカモ」同、十三「阿胡ノ海ノ、荒礒ノ上ノ、小浪、吾ガ戀ラクハ、息ム時モナシ」同、十七三十長歌「渚ニハ、アヂカモ騷サワキ、佐射禮奈美、立チテモ居テモ」（以上、四首ハ、さざれなみノ下ニ、の如くヲ加ヘテ、解スベシ）

さざれ-みづ（名）［潺湲水］［前條ノ語原ヲ見ヨ］サザレテ、流ルル水。音立テ

テ流ルル水。サザラミゾ。[illegible]細流川、[illegible]すみワタルカナ」夫木抄、廿六「底澄ミテ、波コマカナル、さされみづ、渡リヤラレヌ、山川ノ影」拾遺集、十一、戀、二「鳴鳥ノ、隠レモハテヌ、さざれ水(序)、下ニ通ハム、踏ダニモナシ」

ささ-わ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 笹分 笹生ノ篠ノ中ヲ、踏ミ分ケテ行ク。伊勢物語、廿五段「秋ノ野ニ、ささわけシ朝ノ、袖ヨリモ、逢ハデ寝ル夜ゾ、ひぢまさリケル」源氏、七、紅葉賀「笹分ケバ、人ヤ咎メム、イツトナク、駒ナツクメル、森ノ木隠」

ささわけ (名) |笹分| 笹分クルコト。笹原ヲ、別ケ行クコト。夫木抄、十一「秋ノ野ノ、女郎花取ル、ささわけニ、濡レニシ袖ヤ、花ト見ユラム」

ささわけ-ごろも (名) |笹分衣| 笹原ヲ別ケ行クニ着タル衣。寶治二年百首「山風吹ク、佐野ノ岡邊ノ、露深ミ、ささわけごろも、濡レツツゾ行ク」

ささ-をり (名) 笹折 〔ささハ、細小ノ義、折ハ、折櫃ノ下略(提重箱、さげをり、折櫃ニ對シテ、小サキナリ)〕 檜ヲ薄ク剝ギテ、薄キ板ニテ作レル小箱、食物ヲ入レテ、行クニ携フ、古ヘニ云ヘル、割籠ニテ、今云フ、經木箱ト、同ジ用ノモノ。但シ、其時ダケニ用ヰテ、かけながしニス。又、上略シテ、をりトノミモ云フ。[illegible]

さし (名) |差| (一)差荷ノ下略。「さしテ擔ゲ」(二)差閒ノ下略。「さしテ指ス」(三)差合ノ下略。「案客ノさしテ、會ハレヌ」(四)差替ノ下略、さしうばノ條ヲ見ヨ。

さし (名) 尺 ものさしノ上略、其條ヲ見ヨ。俚言集覧、さし「曲尺ヲ云フハ、指渡ルノ義、物さしトモ云ヘリ、云云、曲尺ヲ、かねざしト云フ」「鯨ざし」呉服さし」

さし (名) |緡| ぜにさしノ上略、其條ヲ見ヨ。狂言記、河原新市「[illegible]テ、さしヲ持テ來タ」

さし (名) |刺| 俵ニ刺シ込ミ、米ヲ出シ檢ル具。こめさしノ上略ナリ、其條ヲ見ヨ。

さ-し (名) |蠛子| 〔小蟲ノ中略カ(東、ひがし。背向、そがひ)〕 酒、醋、ナドノ上ニ飛ブ蠛蠓。サケノハヘ。サカバヘ。个、シャウジャウ。[illegible] 倭名抄、十九、蟲豸類「蔣魴切韻云、蠛子、酒醋上小飛虫也、佐之」七十一番職人盡歌合、十八番、法論味噌賣「夏マデハ、さし出デザリシ、法論味噌、ソレサヘ月ノ、秋ヲ知ルカナ」

さ-し (名) |蛆| 〔小蛆ノ中略カ(水魚、ひを)〕 倭訓栞、さし「魚ニ、蟲ノワクヲ云フハ、小蛆ノ義ナルベシ」鰹ナドノ肉中ニ生ズル、蛆ノ如キモノ、色、白シ。

サシ (名) 城 〔朝鮮ノ古語〕城。城(キ)。[illegible]推古紀、八年二月、到于新羅、攻五城而拔」

さ・し (動) |差| 遣るノ意ナル差すノ連用形。他ノ動詞ノ上ニ用ヰルコト、甚ダ多ク、次次ニ列擧スルガ如シ、一一、説カズ、差すノ條ニ記シタレバ、就キテ見ルベシ。又、差しヲ、指す、擊す、刺す、ナド、同段活用ノ動詞ニ、當字ニ用ヰルコトモ、多シ、其條條ヲ見ヨ。

さ・し (動) |中止殘| さす(中止)ノ條ヲ見ヨ。「物ヲ言ヒさしテ、[illegible]ミさしツ」

さ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |狹| 〔細小(ササ)ノ語原ヲ見ヨ、狹しト通ズ(ふせぐ、ふさぐ。さざらぐ、せぜらぐ)〕 狹シ。セマシ。神代紀、上「其路狹嶮、人不得行」萬葉集、五、廿七長歌「天地ハ、廣シトイヘド、我ガタメハ、狹クヤナリヌル」廣瀬大忌祭、祝詞「青海原ニ住ム物ハ、鰭ノ廣キ物、鰭ノ狹支物、云云」(大小ノ魚) 名義抄「狹、サシ、セバシ」窄、サシ、セバシ、スボシ」

さし (接尾) |注| 〔注すノ名詞形、注ぐノ名詞形ノ、醬油つぎ、同ジ〕 水、油ナド盛リオキテ、外ノ器ニ注シ入ルルニ用ヰル小器ニ云フ語、多クハ、側ニ、差出デタル注口アリ。注子「水さし」油さし」

さし (接尾) |刺| 〔刺すノ名詞形、刺立ツル意〕 物ヲ刺シオクニ用ヰル具ニ云フ語。「針さし」簪さし」煙管さし」狀さし」

さし (接尾) |差| 〔差すノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕前ヘ遣ル意、舞ニ云フハ、さす手ひく手、ノさしナリ〕 舞ノ演技ヲ數フルニ云フ語。小舞ナドニ、一(ヒト)さし、御舞ヒ候ヘ、ナド云フ、是レナリ。

さ-じ (名) |匕匙| 〔茶匙ノ字音、匕、匙ハ、同ジクシテ、飯杓子ナリ、其形ヲ、小サク作リタルモノトオボシク、茶錄ニ、茶匙、見エテアレバ、元來ハ、末茶ノ用ノ物ナリシヲ、種種ノ物ニモ用ヰルコトトナレルナラム〕 匙。卽チ、飯杓子ノ如クニシテ、小サキモノ、眞鍮、銀、木、竹、水牛角、ナドニテ作ル、頭ハ、小サキ皿ニ似テ、細ツキ柄ヲツク、長キハ五寸、以下、大小、長短アリ、細カキモノ、粉、又ハ、水類ヲ掬フニ用ヰ、ちりれんげト、用ヲ同ジウス。漢法醫ハ、藥劑ヲ盛リ分クルニ、專ラ、匙ヲ用ヰタレバ、主君ノ侍醫ヲ、御匙(オサジ)ト稱シタリ。治療ノ望ミ絕ユト云フコトヲ、匙を投げるト云ヒキ。此語、救濟ノ手段盡キテ、斷念ス、ノ意ニモ用ヰラル。茶譜、茶錄「茶匙、要二堅重有力」蔗石雜話(天保、白家ノ林、著)「當世茶匙ニ、用[illegible]茶匙ハ、送ニ煎汁ヲ入ニ喉中ニナドアリ」下學集(文安)下、器財門「香匙(キヤウジ)、茶匙(サジ)」宇津保物語、嵯峨院卅「金鋺(カナマリ)、匙、さじ、銚子」

さ-じ (名) |瑣事| 瑣細ナル事。小事。「瑣事ニハ關セズ」

ざし (接尾) |狀| 〔氣狀(キザシ)ノ意〕 物ノ氣色(ケハヒ)、容子(ヨウス)ヲ云フ語。枕草子、三、廿四段「枝ざしナドノ、イト手フレニクゲニ、荒荒シケレド、何ノ心アリテ、あすはひの木ト附ケケン」「髮ざし」面ざし」色ざし」息(イキ)ざし」

ざ-し (名) |坐視| [illegible]坐(ヰ)ナガラ、視テ居ルコト。(勞力ヲ添ヘヌ意)「坐視傍觀」坐視スルニ忍ビズ」

ざ-じ (名) |座次| 諸官人ナドノ、立場ノ順序、次第。ザナミ。席順。[illegible]「行久得坐次二」[illegible]、公務、京職進、內膳奉膳、云云、其座次、以[illegible]上官、公式令云、文武職事、散官、朝參行立次第、各依位次[illegible]、序、五位已上、[illegible]授位先後、六位以下、以齒」

さし-あ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) |差上| 〔頭上ニ擧グルヲ、さすト云フ〕 (一)兩手ヲ、天ニ擎(サ)シテ、擧グ。擎(カカ)グ。「石(イシ)ヲさしあぐ」小兒ヲさしあぐ」(二)高ク呼ブ。|抗聲| 宇治拾遺、九、第七條「聲ヲさしあげテ、泣ク泣ク飲ム」(三)差出すノ敬語、捧グ。タテマツル。マヰラス。|奉呈| 「願書ヲさしあぐ」(四)與(アタ)ふノ敬語。進上ス。呈上ス。|獻上| 「産物ヲさしあぐ」

さし-あ・げる (動) |差上| 前條ノ語ノ口語。

さし-あし (名) 〔差足〕 ぬきあしノ條ヲ見ヨ。 太平記、三十一、武藏野合戰事「コハ何事ナラント、胸打チ騷ギ、恐シク思ヒケレバ、忍ビツツ、指足シテ立チ聞キケレバ」

〜さしあたり (副) 〔差當〕 〔次條ノ語ノ名詞形〕 今、マノアタリ。サシムキ。目下。現在 「さしあたり入用ナリ」さしあたり困ル」

〜さし-あた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔差當〕 〔さしハ、遣る義、事ニ突キあたる意〕 (一)マノアタリ、其事ニ出會フ。合會 源、二、帚木「さしあたりテ見ムニハ、ワヅラハシク」 (二)光、サス。太陽ノ光線、アタル。 枕草子、一、第四段、猫「日ノさしあたり直射ス。タルニ、打眠リテ居タルヲ」

〜さし-あ・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 〔差當〕 押シ當ツ。ウチツケニ、モノス。 源、四、夕顔廿「キリギリス、御耳ニさしあてタルヤウニ、鳴キ亂ルルヲ」 同、五十、浮舟七「アノワタリニ領ジ給フ所所ノ人、皆、仰セニテ參リツカウマツル、宿直ニさしあてナドシツツ」 同、五十一、蜻蛉九三十「頭ニ打チオキ(氷ヲ)、胸ニさしあてナド、サマ惡シウスル人モアルベシ」

⁂さし-あ・てる (動) 〔差當〕 前條ノ語ノ口語。

〜さし-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 〔差合〕 俱ニ、アハス。ヒトツニス。 源、廿九、行幸七「御心ヲさし合セテ、ノ給ハン事ト、思ヒヨリ給フニ」

さし-あはせ (名) 〔差合〕 差荷ニ同ジ、輿界ノ條ヲモ見ヨ。

さしあひ (名) 〔指合差合〕 (一)サシアフコト。 (二)ササハリ。サシツカヘ。故障。今、下略シテ、さしトノミモ云フ。 支拒 吾妻鏡(文治)「闘官之日、云云、早且罷ニ會所ニ可ニ相待其期一也、不レ然者、自然指合、又有レ之歟」 海人藻芥(應永)中「橋上座於、有ニ指合一者、次第次第、次人可ニ與奪一」「今日ハ、さしデ會ハレナイ」 (三)連歌ニ云フ語。さりきらひノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 狂言記、盜人連歌「一段ト出來タ、サリナガラ、少シさし合ひガアル」 (四)婦女ノ、月經アルコト。又、其モノ。 大上臈御名之事「女房詞、不淨ニナル事ヲ、さしあひト云フ」

さし-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔差合〕 押シ合フ。差支フ。ササハル。支捂 榮花物語、三、様様悦「大宮ノ御支度ゾアルベキ、東宮ノ御元服、十月トアリツレド、カヤウニさしあひタル御イソギドモニテ」 明月記、文曆二年二月十八日「今、明、自身、毎日有ニ指合事一、廿、日、來遊由、示レ之仍止了」 新古今集、十六、雜、上「東山ニ、花見ニマカリハベルトテ、コレカレ誘ヒケルヲ、さしあふコトアリテ、止マリテ」

〜さし-あ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔差會〕 〔さしならぶ、さしむかふノ、さしナリ〕 互ニ、相、會フ。デクハス。出會ス。邂逅 檜垣嫗集「椅ヲ引キサゲテ出ヅルニシモ、國守、シバシ神拜ニ出デラルル路ニさしあひテ、目敛ナル者、見ツケテ」 落窪物語、一「先追ヒテ、數多火トモサセテ、小路切リニ辻ニさしあひヌ」 榮花物語、廿七、衣珠「サマザマ御讀經ノ聲聲、さしあひノシレド」

さし-あふぎ (名) 〔指扇〕 (一)貴婦人ナドノ、檜扇ナド、翳シテ、顏ヲ隱スコト。〔翳ノ、さしナリ〕 新六帖、五「面影ヲ、半隱セル、さしあふぎ、サテモ光ゾ、添フ心地スル」 (二)能樂ノ舞ノ手ノ名、扇ノ先ニテ指シテ、物ヲ見ルヤウニスル手ナリ。

さし-あぶら (名) 〔注油〕 (一)〔油皿ニ、とぼしあぶらヲ注スコト。 枕草子、六、五十一段「除目ノ中ノ夜、さし油スルニ」 (二)トボシアブラ。 落窪波集(文和)「油器ヲ、さしあぶらニシタリケルニ、イト、カウバシク匂ヒケレバ、云云」

さし-あみ (名) 〔刺網〕 〔刺すトハ、魚ガ、其首ヲ刺入ルル意ニテモアルカ、或ハ、當字ナルカ〕 魚網ノ一種、縱、短ク、橫、極メテ長クシテ、垣ノ如ク、海中ニ張ル、上ニ、浮子、下ニ、沈子ヲ垃ベツク、魚道ニ因リテ、水ノ上層、又、中層ニ張ルアリ、(コレヲ、流網ト云フ)又、水底ニ張ルモアリ、網ノ目ノ廣狹ハ、魚ノ大小ニ從ヒテ、差アリ、スベテ、魚ノ泳ギ來リテ、首ヲ網ノ目ニ突キコミテ、動カレヌヲ捕ルヤウニシタルモノナリ。

さ-いうご (名) 左支右捂 「韻會」「捂、斜相牴觸也」止字通、支吾、與ニ枝捂一通」 宋史、李師傳「臣度、敵人、他年入寇、云云、由ニ登萊一泛ニ海窺ニ莫趙一、以出ニ吾左一、由ニ武昌一渡ニ江窺ニ江埘一、以出ニ吾右一、一處不レ支、則大事去矣、願預講ニ左支右吾之策一」 右ニ、左ニ、支ヘ止ムルコト。

さ-いうし (名) 〔左史右史〕 支那ニテ、君主ノ左右ニアル史官。其左史ハ、君主ノ言語ヲ記シ、右史ハ、行爲ヲ記ス。 漢書、藝文志「左史記レ言、右史記レ事、事爲ニ春秋一、言爲ニ尚書一」

さし-いそ・ぐ (動) 〔差急〕 いそぐト云フニ同ジ。 狂言記、末ひろがり「此ノ度ハ、さし急ぎマスルニヨッテ、五百疋ニ求メマセウ」

さし-いだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔差出〕 「擎出すナリ、擎すノ條ヲ見ヨ」 (一)捧ゲ出ス。モチダス。サシダス。サシアグ。提出 「役所へ願書ヲ差出す」 (二)出シ遣ル。送リ出ス、差立ツル。發送 「昨日、手紙差出し申候」

〜さし-い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動、下二) 差出 (一)押シ出ヅ、前ヘ、出ヅ。高ク出ヅ。突出 伊勢物語、八十七段「圓座ノ大キサシテ、さしいでタル石アリ」 枕草子、三、廿四段「濃キ紅葉ノ、艷メキテ、思ヒカケヌ靑葉ノ中ヨリさしいでタル、メヅラシ」 (二)分ヲ越エテ、サシデル。デスギル。僭越 枕草子、二、十七段「物語ナドスルニ、さしいでテ、我レヒトリオマクル者、スベテ、さしいでハ、童モ、大人モ、イト憎シ」

〜さし-い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ (自動、下二) 〔映出〕 〔さす(映)ノ條ヲ見ヨ〕 映リ出ヅ。映發 源、三、空蟬九「曉ノ月、隈ナクさしいでテ」 同、廿四、胡蝶廿「花ヤカニさしいでタル月影」

〜さし-いらへ (名) 〔差答〕 いらへ(答)ト云フニ同ジ。 源、十七、繪合十「時時さしいらへ給フ」 同、四、夕顔十七「ヒトリゴチ給へド、さしいらへモ聞エズ」

さし-いり (名) 差シ入ルコト。入リ込ムコト 又、其處。 草根集九「松ノ戸ノ、さし入リニ立テル、杉叢ニ、山奥深キ、住處ヲゾ知ル」

さし-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔映入〕 〔さす(映)ノ條ヲ見ヨ〕 映リ入ル。照臨 續後撰集、十、釋教「何故カ、宿ヲアクガレ、出デニケム、さし入る月ノ、光ヲモ見テ」 風雅集、六、秋、中「隈モ無ク、閨ノ奥マデ、さしいりヌ、向ヒノ山ヲ、昇ル月影」

さし-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔差入〕 中ニ入ル。入リ込ム。

〜さし-い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 〔插入〕 中ニ、入レコム。挾ミコム。插入ス。 枕草子、二、十七段「檀紙、云云、懷ニさしいれテ」 玉葉集、一、春、上「軒近キ梅ヲ折リテ、さし入るトテ、詠メル」(花錢十トニ) 宇津保物語、藏開、上三「人ニナ見セソトアレバ、トテ見セ給ハネバ、ワガ君ハオボシ隔テタルコソ、トテ手ヲさしいれテ、取リツ」

さし-い・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (他動、下二) 〔差入〕 中ヘ、入レ込ムル

さしいれ (名) 差入 (一)サシイルルコト。(二)次條ノ語ノ略。「在監者ニさしいれヲナス」

さしいれもの (名) 差入物 在監者ニ、親[illegible]

さしうつむく (動) 差俯 うつむく(自動、四)ト云フニ同ジ。「物ヲモ言ハズ、さしうつむき居タリ」

さしうば (名) 差乳母 乳母ノ、差替トナル女。副乳母。下略シテ、さしトノミ[illegible]ゐノ義也」

さしうり (名) 緡賣 江戸時代、武家屋敷ノ仲間ナドノ、銭緡ヲ作リ、商家ノ店[illegible]押賣スルコト[illegible]其[illegible]「大明ノ川柳「取ッテオキネエニ、要ラヌさしヲ買ヒ」

さしおき (名) 差置 サシオクコト。使ノ者ノ、手紙、品物ヲ、先方ヘ届ケタル[illegible]

さしおく ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 差置 (一)[illegible] (二)押シオク[illegible]ソノ儘ニ[illegible]捨テオク。措[illegible]閣[illegible]シキハ、さしおかレテ」名義抄「閣、サシオク」[illegible]後漢書[illegible]「後漢東觀、大秦[illegible]而答述、無主、[illegible]」

さしおくる ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 差送 [illegible]送リ候」

さしおさふ サシ・オサ・ウ フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [illegible]押[illegible]抑制[illegible]さしおさへ[illegible]

さしおさへ サシ・オサ・ヘ (名) 差押 (一)差押フルコト。オサヘテ、動カサシメザルコト。(二)法律ノ語 官府ヨリ、人民ノ財産、[illegible]權利ノ、使用、處分ヲ禁止スルコト[illegible]

さしおさへる サシ・オサ・エル (動) 差押 前前條ノ語ノ口語。

さしおもだか (名) 毘澤瀉 〔葉ノ形、毘ニ似タリ〕おもだかヲ併セ見ヨ」 草ノ名、[illegible]水澤中ニ生ズ、叢生シテ、[illegible]長キ葉ア[illegible]夏ノ末、花莖ヲ出スコト三四尺、節毎ニ、三枝ヲ分チ、枝毎ニ、三叉ヲ分チ、叉毎ニ、一花ヲ開ク、三瓣、白色ニシテ、大キサ三分許アリ、實ハ、圓ク小サク、根ハ、くわゐノ如シ。澤瀉

さしかかり (副) 差掛 其場ニ當リテ。サシアタリ。サシムキ。

さしかかる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 差掛 (一)押シカカル。上ヨリ被フ。カブサル。「さしかかりタル松ノ枝」 (二)ソノ場ニ臨ム、眞際ニナル。臨[illegible]「[illegible]さしかかり、[illegible]」「大[illegible]ニさしかかる」講義ノ時間ニさしかかる」

さしかく クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔さす(擎)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ〕 差掛 上ニ、翳ス。翳[illegible]アソコヘさしかけ、ココヘさしかけ、御傘召サレヨ、傘召サレヨト叫ベドモ」「傘ヲさしかく」(さしかけ傘アリ)

さしかくす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 差隱 〔さす(擎)ノ條ヲ見ヨ〕 翳シ、隱ス。翳[illegible]

十六、横笛六「我ガ顔ハ隠サム、ナホナホトテ、御袖シテさしかくしタマヘバ」同、七、紅葉賀廿二「扇ノ、エナラズ繪ガキタルヲ、さしかくしテ、見返リタル眉目」

さしかけ (名) 差掛 (一)サシカクルコト。(二)[illegible]屋ニ掛ケテ、庇ノ如ク作リナセル家。搭庇 (三)古ヘ、四位已下ノ人ノ笠ヶ者[illegible]云フ物ヲ覆クコトアリ、ソレハ、さしかけトテ、祭ノ使ナドノ、カヘサノ日、ハク」

さしかけがさ (名) 差掛傘 「從者ガ、主人ノ後ヨリ、其頭上ニ差掛くるナリ」 長柄ノ傘[illegible]

さしかけん (名) 匙加減 〔加減ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 (一)漢法醫ノ、藥匙ヲ取リテ、藥劑ヲ處方スル程度。(二)スベテ、事ヲ處分スル、輕重ノ程度 手加減。

さしかける (動) 差掛 さしかく(差掛)ノ口語。

さしがさ (名) 傘 〔擎笠ノ義、被笠ニ對シテ云フナリ〕テガサ。カラカサ 笠ノ一種、大キクシテ、柄アリ、手ニテ擎シテ行クモノ、細竹ヲ骨トシ、紙ヲ貼リ、轆轤ノ機アリテ、開キ、又、窄ムベシ。雨傘ト、日傘トノ別アリ、各條ヲ見ヨ。[illegible]

さしかざす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 差翳 〔さす(擎)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ、重言ナリ〕 翳すニ同ジ。狂言記、文藏「太刀ヌキ放シ、眞向ニさしかざし」

さしがたな (名) 刺刀 〔太刀打ノ打刀ニ對シテ、組討スル時、敵ノ鎧ノ透間ヲ刺す刀ノ意〕 腰刀ニ同ジ。短刀ナリ。[illegible]刺刀拔テ、[illegible]

さしかたむ ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 刺固 鎖シ、カタム。サシコム。閉鎖[illegible]

さしかためる (動) 刺固 前條ノ口語。

さしがね (名) 曲尺 まがりがねノ條ヲ見ヨ[illegible]

さしがね (名) 差鐵 〔差出鐵ノ意ナルベシ、らおかりヲ、さしだート云ノ、參見セヨ〕 芝居ニテ用ヰル具。黑ク塗リタル、細ソキ竿ノ先ニ、針鐵ヲツケ、擬フヤウニシ、其末ニ、造物ノ小鳥、蝶、又ハ、狐火、鬼火ナドヲツケテ、舞臺ニ差出シ、竿ノ末ヲ取リテ、動カス。黑坊ト云フ者、身ヲ隱シテ、使フナリ。

さしがね (名) 插鐵 (一)操人形ニ云フ語、人形ノ腕ノ中ニ插シ入レオク、細ソキ鐵ノ棒ナリ、人形ノ指先ニ、絲ヲツケ、棒ニ通ヒ、蔭ニ居ル人形遣ガ、コレニテ、指先ノ働キヲナサシム。(二)スベテ、蔭ニ居テ、人ヲアヤツリ嗾カシテ、使フコト、人形芝居ノ隱語ノ、普通語トナリシナリ。入智慧。使嗾。教唆

さしかはす サシ・カワ・ス ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 差交 〔差し入レかはすノ意〕 入レチガヘニス。サシチガフ。サシカフ。交ス 集、一、春「此春ハ、長閑ニ匂ヘ、櫻花、枝さしかはす、松ノシルシニ」

さしかは・る ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［差代］〔差すニ、意ナシ〕代るニ同ジ。交替「さしかはりマシテ、かはりバエモ致シマセヌ」

〜**さしか・ふ** ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［差替］替ヘテ、插ス。トリカヘニス。源、七、紅葉賀「似ツカハシカラヌ扇ノ狀カナ、ト見タマヒテ、我ガ持タマヘルニさしかへテ、見給ヘバ」

さしがへ（名）［差替］〔插替ノ意〕差替フル物。（刀ナドニ云フ）五十年忌歌念佛（寶永、近松作）「提物、さしがへ、取リ出セバ」

さしかへし（名）［差返］〔酒ヲ土器ニ覆す意ナルカ〕天盃頂戴ノ時ノ作法ニ云フ語。倭訓栞、さしかへし「源氏ニ見ユ、花鳥餘情ニ、天盃ヲ賜フ時、土器ヲ召シテ、天盃ノ酒ヲ移シテ飲ムナリ、其土器ヲ、さしかへしト云フ、ト見エタリ」弓法盃之書別傳「天盃頂戴之法ハ、別ニ土器ニ取リカヘテ、滴リヲ移シ、御盃ヲ懷中シテ退出スル、ソレヲ、さしかへしト云フ」（大日本國語辭典、天盃）

〜**さしかへ・る** ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［差歸］〔差交すノさしカ、或ハ、棹ヲさすカ〕船ニテ、水上ヲ往來ス。（渡船ニ云フ）源、四十四、橋姫「さしかへる、宇治ノ川長、朝夕ノ、雫ヤ袖ヲ、朽シハツラム」うたたねの記（阿佛尼）「往來ノ人、集リテ、船ヲヤスメズ、さしかへるホド、イトド騒ウ、カシカマシ」十六夜日記（阿佛尼）廿三日「クミアハセタル船、タダ一ツニテ、多クノ人ノ往來ニ、さしかへる暇モナシ」

さしか・へる ・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［指替］替ヘテ、插ス。「刀ヲさしかへる」扇子ヲさしかへる」

✣**さしか・へる**（動）［差替］差替ふノ口語。入レカヘル。「役割ヲさしかへる」番附ヲさしかへる」

さしかまひ（名）［差構］サシ構フコト。抑ヘ止ムルコト。制止「免許ノ上ハ、さしかまひナシ」

さしかま・ふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［差構］かまふ（構、他動、四）ト云フニ同ジ。曾我會稽山（享保、近松作）二「我マッテお受ケ申ス所、榛谷ノ四郎差し構ひ、云云、押サヘ爭ヒシヨリ、心ヅキ」

さしがみ（名）［差紙］〔名指ニテ召ス意〕德川時代、官府ヨリ、臣民ヲ呼出ス狀。召狀。召喚狀。丹波與作（寶永、近松作）中「小まんニ付テ、代官所ノお差紙」

さしからかさ（名）［指傘］からかさト云フニ同ジ。狂言記、末ひろがり「是レハ、さしからかさヂヤゲナモノヲ」

さしかり（名）［指狩］袴ノ一種。指貫ニ似ヨリタルモノ。（僧侶ノ着用）法體裝束抄「指狩事、白薄墨、地、綾色、又、平絹」

さしき（名）［插木］草木ノ枝ヲ切リ、地ニ插シ込ミテ、根ヲ生ゼシムルコト。（つぎきニ對ス）

さじき（名）［棧敷］〔狹敷ノ義（古言ニ、假床ト云フ、其語原ヲ見ヨ）狹敷屋トアルガ、本語ナルベク、初ハ、假リニ、ササヤカニ作リシモノナルベシ、玉かつま、八「小右記ニハ、狹敷ト書カレタリ」後ニ、盛大ニ構フルヤウニナリテモ、舊稱ヲ遺シタルナリ、さんじきト云フハ、借字ノ棧ノ字ヲ、音讀シタルナリ〕（一）〔見物場ニ、物ヲ觀ル席トシテ、假リニ造リ設クル建物。造るヲ、打つトモ云フ。又、棧敷屋。さんじき。看棚　其大規模ナルヲ、棧敷殿ト云フ。宇津保物語、藤原君「七月七日ニナリヌ、賀茂川ニ御髮すましニ、大宮ヨリ始メ奉リテ、小君タチマデ出テタマヘリ、賀茂川ノ邊ニ、さじき打チテ、男君達、オハシマサフス、云云」榮花物語、八、初花「殿ハ、一條ノ御さじきノ屋、長長ト造ラセタマヒテ、檜皮葺、高欄ナド、イミジウヲカシウ、セサセタマヒテ」同、三、樣悦「東三條、北面ノ築地、崩シテ、御さじきニセサセ給ヒテ、宮タチモ御覽ズ」同、十八、玉臺「大炊御門、燒ケニシ後ハ、此さじき殿ニ、中納言殿、住ミ給フニ」宇治拾遺、十二、廿四條「一條さじき屋ニ、或ル男、泊リテ、云云」字類抄、地儀「棧敷、サンジキ」海人藻芥（應永）下「勸進ノ田樂、猿樂、棧敷、云云、一年、田樂棧敷多ク崩レテ、見物ノ道俗殞命」（二）後世ノ江戸、東京ノ芝居座ノ内ニハ、舞臺ノ前ニ、見物ノ平場ヲ、廣ク方形ニ取リ、其左右ノ兩側ニ、棧敷ヲ、二階ニ造リ連ネ、上さじき、下さじきト云フ、舞臺ノ正面ニ向ヘルさじきハ、二階ノミニテ、向さじきト云ヒ、其後部ヲ、大向ト云フ、下さじきノ異名ヲ、鶉ト云フ、うづらノ條ノ（二）ヲ見ヨ。還海、十二、江戸芝居「棧敷ハ、皆、三階ニテアリシ也、江島殿沙汰ヨリ、三階ハ、停止ニナル」（江島ハ、江戸城大奥ノ女中ナリ、俳優生島新五郎ト醜交アリ、正德四年罪セラル）守貞漫稿、廿四、雜劇、道頓堀芝居「東西棧敷ハ、二階アリテ、二階ヲ、上わさじきト云ヒ、下ヲ、おたさじきト云フ、江戸ニテハ、うづらト云フ也」歌舞妓事始、一、棧敷「舞臺ノ正面ニカケルさじきヲ、かけ出しト云フ、今、芝居ノむかふさじきト云フ」

ざしき（名）［座敷］〔古ヘノ家作ノ室中ハ、ナベテ、總板敷ニテ、客アレバ、寢殿、客殿、書院、出居ナドノ、其坐ル所ニ、上疊、御座筵、圓座ナド、敷キ設ケタリ、是レ、座敷ナリ、室町時代ヨリ後ハ、室中一面ニ、疊ヲ敷キツムルヤウニナリテ、ナホ、舊稱ヲ唱フ〕（一）室中ノ、坐ルベキ處ニ、座ヲ敷キ設クルコト。中右記、嘉保元年四月十日「左近陣座敷」註「其儀、如二公卿座一、北横切敷、茵、南北行二行、南横切座」江家次第、七、六月晦日「依二勅定一改二直御座敷一」太平記、廿七、雲景未來記事「本堂ノ後、座主ノ坊トオボシキ所ヘ行キタレバ、云云、人、多ク坐シタマヘリ、云云、御坐ヲ二帖、敷キタルニ、云云、左ノ一ノ座ニハ、云云、如何ナル御座敷候ゾト問ヘバ、云云」（二）後ニ、家ノ内ノ一室ノ稱トナル、專ラ、客ヲ延キ請ズルニ用キルモノ。客間。客房　（三）又、轉ジテ、客ノ會談。宴席。「座敷ガ濟ム」座敷ヲ持ツ」座敷ヲ勸メル」

ざしき（名）［座敷］居所。アリドコロ。長門本平家物語、十八、扇的事「扇ハ風ニフケテ、座敷ニタマラズ、クルリクルリトゾ廻リケル、云云、祈念シテ目ヲ見アケタレバ、扇ノ座敷ゾ、定マリケル」

ざしきかざり（名）［座敷飾］〔室ヲ、座敷トハ、後ヨリ云フナリ〕座敷ノ床間ニ、幅ヲ懸ケ、棚ニ、置物ナドヲ居ウルコト。貞丈雜記、十四、座鋪飾「眞ノ飾トテ、床ニ佛像ノ畫ヲカケ、鶴龜ノ燭臺、香爐、花瓶ナドヲ、卓ニスヱオキ、押板ニ、硯、硯屏、墨、筆ヲ置ク、云云、尊氏公ヘ、夢窓國師ヲ師トシテ、禪法ニ歸依シタマヒシニ因リテ、座敷飾モ、禪家ノ書院ノ體ヲ學ビタル也」

ざしきこじき（名）［座敷乞食］〔座敷ニ居テ、稍、品位ハアルヤウナレド、心ニハ、錢ヲ欲シガル、ナド云フ意ナルベシ、羽織ごろつき、白無垢でっかノ類〕連歌師、俳諧師ヲ、賤シメテ稱シタル語。嬉遊笑覽、三「世ノ諺ニ、俳諧師ヲ、座敷乞食ト賤シムコト、モト、連歌師ヲ云ヘリ、武林雜話ニ、紹巴ガ事ヲ云フ處、古今ハ、近衞殿ヨリ御傳ヘアリ、爲名院殿ハ、彼ハ、乞食ノ客ナレバトテ、御許シナキナリ」（古今傳授ヲ云フ）

ざしきじゃうるり（名）［座敷淨瑠璃］〔床淨瑠璃ニ對ス〕座席ニテ、興趣ヲ添フルニ語ル淨瑠璃節。浮世床（文化、三馬）初編、上「アレハ座敷淨瑠璃サ、組太夫ニ鶴鳳ダカラ、タモ、百バカリ這入ヤシタ」

ざしきすずめ（名）［座敷雀］うちすずめ

ニ同ジ。

さしきやう（サシキヤウ）（名）[illegible]ハ、[illegible]テ行[illegible]ノ[illegible]、古ヘ、[illegible]人ノ[illegible]ノ従者ニ[illegible]ヲ持テ行クモノナリ[illegible]ト[illegible]ナリ。[illegible]

さじきどの（名）棧敷殿　棧敷ノ條ノ[illegible]

さじきのう（名）棧敷能[illegible]

（二）ヲ見ヨ。

さじきのぼり（名）棧敷戯　五月幟（ゴグワツノボリ）ノ、小サク作リテ、棧敷ノ内ニ飾リ得ラルルモノ。ウチノボリ。

さしきん（名）差金　（一）代金ノ内ノ若干ヲ、預ケ差入レ置クモノ。内金。（二）不足ノ補ヒニ差加フル金。増金。

さじきや（名）棧敷屋　棧敷ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

さじきらう（サシキラウ）（名）座敷牢　座敷ヲ鎖シ固メテ、人ヲ閉ヂ籠メ置クモノ、囚禁ノ、稍、輕キ刑トシ、又、狂人ナド、籠メオク。[illegible]

さしぐ・む・ム・ム・メ・ミ・ミ・メ（自動、四）[illegible]、むナリ、[illegible]キケレバ、さし[illegible]テレバ」

さしぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）差潜　[illegible]（二）トイフニ同ジ。[illegible]四十三、[illegible]さしくゞりテ[illegible]ニツバカリナル程ノ船ヘ、ツト飛ビ移ル」

さしぐし（名）挿櫛　專ラ、髪ニ插シオキテ、飾リトスルモノ」（一）古クハ、婦人ノ裝束ヲ着タル時、頭髪ノ飾リニ、右ノ方ニ挿スト[illegible]十三[illegible]八、[illegible]

[illegible]八、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]バカリ、云云、[illegible]三、廿三段、節は五月「若キ人ハ、[illegible]ノさし、しめシ、物ニツケナドシテニコトシハ[illegible]同、十、百三十三段、うれしきもの「さしぐし結バセテ、ヲカシゲ[illegible]しぐし」江戸時代ニ至リテハ、解櫛、水櫛、ナドノ外ニ、專ラ、髪飾トシテ用ヰル櫛、象牙、白檀、玳瑁、鼈甲、ナドニ作リ、蒔繪ナドシテ、美麗ニ作レ[illegible]さしぐし[illegible]官位ナケレバ、角ノさし櫛ヲ用ヰズ、[illegible]ハ、[illegible]、好色[illegible]代男[illegible]さしぐし[illegible]

さしぐすり（名）注藥　目ニ注シ込ミテ、用ヰル水藥。（飲藥、塗藥ナドニ對ス）點眼藥水。

さしぐち（名）差口　他ヨリ差入ルル言葉。徳川時代ノ刑法ノ語トシテハ、傍人ノ申告[illegible]

さしくつろ・ぐ・グル・グレ・ゲ・ケ・ゲヨ（他動、下二）差寛　くつろぐ（寛、他動）ト云フニ同ジ。[illegible]、[illegible]ヲ、差しくつろげタル[illegible]ニシテ」

さしくは・す（サシクワス）・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）指食［食はするナリ］（サグリ）弦心ニツガフ。[illegible]四十一、[illegible]時、云云、矢、さしくはせテ、判官ニ向ヒ、子息、[illegible]、最茂、續テ進ム」

さしくは・ふ（サシクハウ）・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）差加　押シ加フ。加ヘ入ルル。添加[illegible]二、一人、ヲ加ヘテ、五人トス」

さしくみ（名）差含［次條ヲ見ヨ］サシクムコト。サシカカリ。[illegible]、四十四、[illegible]「さしくみニ、[illegible]ニカカヅラヒテ、夜ノ[illegible]カシハテムモ、コチゴチシカルベケレバ[illegible]「さしよりまナリ」同、五、若紫[illegible]「さしくみニ、袖濡ラシケル、山水ニ、澄メル心ハ、騒ギヤハマル」[illegible]同、四十八、[illegible]「アナガチニ、[illegible]ヘキニハアラネト、さしくみハ、猶、イトホシキヲ」

さしく・む・ム・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）差含［さしくぐむノ約ナラム（さぐくむ、さ

くむ）芽ぐむ、みつはぐむノ、ぐむナリ、[illegible]ぐむ、同ジ］（一）サシカカル。サシ[illegible]ヨル。（前條ヲ併セ見ヨ）[illegible]日記、上、上[illegible]「[illegible]人、[illegible]ハ、イトアハレナレ程ナリ、云云、さださしぐめルニノミアリ、イトムツク、[illegible]、[illegible]同、中、上[illegible]人ノ家ノ前近キ泉ニ、八月十五夜、月ノ影映リタルヲ、女[illegible]ニ、[illegible]ニ、[illegible]キテ行クリアリ[illegible]ヲ、[illegible]クナヘニ、さしくむハカリ[illegible]ニカケタリ）（二）專ラ、[illegible]ニ云フ　ナミダグム　[illegible]十二、[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]ルカフニ、さしくむモノハ、[illegible]ナリケリ[illegible]ニカケタリ」

さしくも・る・ル・レ・フ・リ・レ（自動、四）差曇　「さす（發）ノ條ヲ見ヨ」曇リ始ム。萬葉集、十一[illegible]「[illegible]、シバシ[illegible]ミテ、[illegible]、雨モ降レヤト、君ヲトドメム」「天、俄カニさしくもる」

さしくら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（他動、下二）差比［さしすがふ、さしそふ、ノさし ニ同ジ］並ベ、比ブ（クラ）　宇津保物語[illegible]、中[illegible]「イトヨク、宮ノ御手ニ似タリカシトテ、さしくらヘテ見ル」

さしくり（名）差繰　サシクルコト。クリアハセ。「仕事ノさしくりガ附カヌ」

さしく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）差繰［差し交はすノ、さしナリ］　クリアハス。クリマハス。ヤリクル。「用事、差繰リ、參上可致候」

さしげ（名）插毛　（一）馬ノ毛色ナドニ、異ナル毛ノ、雜（マジ）レルモノ。（二）鄕（カハウ）ナドノ、常ノ毛ノ間ニ雜リテ生ズル、粗大ナル毛。其毛皮ヲ、衣服ナドニスル時ハ、差毛ヲ拔取リテ、用ヰル。

さしゐ（名）指子　平絹ノ指貫（サシヌキ）ノ稱。後世ハ、無文ノ指貫ヲ云フ。貞丈雜記、五「指

子ト云フハ、平絹ノ指貫也、さしこトハ、指貫ノ小袴トモ云フナルナリ、今ニ、有文ナレヲ指貫ト云ヒ、無文ナルヲバ指子ト云ヒテ、差別ヲ立ツル也」光悦一讃、三ノ五、禁家方、云云、指貫ノ事ハ、指貫バカリヲ召ス、云云、指貫トハ、指貫ノ如クニテ、裾短ク、袴ノ如クナル物ナリ」(古今要覧)

さし-こ (名) 刺子 〔こハ、布子、紙子ヨリ移ル、切子、振子、撥子ナド、同趣〕綿布ヲ、表裏ニ合ハセ、綿絲ニテ、一面ニ、密ニ、上刺シタルモノ。甚ダ堅厚ニシテ、多クハ、火消用ノ服トシ、刺子半纏ト稱シテ、消防夫、着ル、短キ廣袖ニテ、丈、腰ニ至ル。

さし-こ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 差越 (一)越エテ、前へ出ヅ。差出ヅ。夫木抄、十一、女郎花「さしこしテ、薄ハ外ニ、招ケドモ、女郎花ヲゾ、手折リニモ來ル」(二)順序ヲ越ユ。「さしこしテ物ヲ言フ」

さし-こ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 差越 遣スニ同ジ。來ス。ヨコス。「今日、手紙ヲ差越し申候」

さし-こばた (名) 指小旗 鎧ノ指物ニ用キル小旗。(さしものノ條ヲ見ヨ)

さし-こばんてん (名) 刺子半纏 さしこ(刺子)ノ條ヲ見ヨ。

さしこみ (名) 差込 (一)サシコムコト。刺シ入ルルコト。(二)往時、急飛脚アル時、託シテ、其便ニ差込ミテ遣ル手紙 守貞漫稿、五、飛脚屋、京坂ヨリ、江戸ニ往來スルヲ、第一トス、云云、四日限仕立飛脚ト云フアリ、云云、差込ト云フアリ、右ノ仕立アル時、其便ニ付スルヲ云フ、云云、得意ノ者アレバ、幸之、云云、差込ト賃、大略、金二三分也」(三)笄ノ花ノ飾物ヲ、別ニ造リテ、ソレヲ、足ノ方ヨリ差込ミ上ゲテ附クルヤウニシタルモノ、守貞漫稿、十二、女扮「武家ノ室息、以下婢、御殿風ニ結ブ者、或ハ、此花笄ヲ用ヒ、云云、笄ノミ、鼈ノ甲、花ハ、銀物アリ、云云、此花ノ如ク(圖略)差貫クヲ、京坂ニテ、さしこみト云フ也、差込トモ書ク」

さしこみ (名) 楚痛 〔突キ入ルヤウニ痛ム意〕胃痛ナドノ、強ク烈シク發ルコト。

さしこみ-おび (名) 差込帶 (一)はさみ帶、つきこみ帶ニ同ジ。好色ノ句「昔シ遊女、さしこみ帶ヤ、雲ノ峰」(大日本國語辭典)(二)芝居ノ女形ノ用キル帶。結目ノミヲ、實物ニ作リ、差込ムヤウニシタルモノ。

さし-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 刺込 刺スヤウニ、痛ム。癪、胃痛ナドニ云フ。楚痛 狂言記、胸突「又、何トヤラ、腹狀程ノ邊ガ、鳩尾ヘさしこむワ」

さし-こ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 刺込 (一)突キ入ルル。刺 (二)サシハサム。插「花瓶ニ、花ヲさしこむ」

さし-こ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 鎖籠 固ク、鎖ス サシカタム。固鎖 竹取物語「さしこめテ守リ、戰フベキ下組ヲシタリトモ」

さし-こも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 鎖籠 戸鎖シテ、内ニコモル。トヂコモル。籠居 古事記、上「天照大御神、見畏、閉天石屋戸而、刺許母里坐也」源、四十六、總角「さしこもり隔ヘタマフベキ、物ノ隈ダニナキ、御住ヒナレバ」

さし-こ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 差越 越ゆト云フニ同ジ。枕草子、二、十七段「今マヰリノ、さしこえテ、物知リ顔ニ、教ヘヤウナルコト云ヒ」

さしころ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 刺殺 刀、槍ニテ、刺シ貫キテ、殺ス 狂言記、磁石「命ヲ取ラウガ爲メニ、是レ迄追ヒ掛ケテ來タ、錆ニサイテ刺し殺すゾ」

さし-ごゑ (名) 指聲 聲ヲ、サスコト。字ニ、音、訓ノ振假名ヲ、ツクルコト。こゑ(聲)ノ條ヲ見ヨ。

さし-さば (名) 刺鯖 鯖ヲ、鹽漬ニシテ、刺シツラネタルモノ。俚言集覽、刺鯖「生鯖ヲ、背ひらきニシテ、鹽ニ漬ケタルモノ、二隻ヲ刺シ連ネテ、一刺ト云フ」平家女護島(享保、近松作)三「盛ヤ、さし鯖、カハ鯨」

さし-さはり (名) 差障 サハリ。ササハリ。サマタゲ。障礙「旅行ノ差障トナル」

さし-ざを (名) 刺竿 さいとりざをノ條ヲ見ヨ。

さし-しほ (名) 差潮 あげしほニ同ジ、うしほ(潮)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。曾我五人兄弟(元祿、近松作)三「阿波ノ鳴門ノ滿潮ヲ、乘リ伏セテ漕グ帆揚船」

さし-すが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 差次 〔すがふノ條ヲ見ヨ〕スガフ。サシスグ。差シ次グ。並ブ。榮花物語、三十一、殿上花見「二宮、マタ、イト美シウテ、さしすがひオハシマス」

さし-す・ぐ (動) 差次 欠グノ條ヲ見ヨ。

さし-す・ぐ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ (自動、上二) 差過 出過グ。度ヲ、超ユ。サシスグス。源、二、帚木三十「コレハ、足ラズ、又、さしすぎタルコトナク、物シタマヒケルカナ」

さし-すぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) 差過 前條ニ同ジ。源、五、若紫廿「乳母ノ、イトさしすぐしタル心バセノ誤リ」同、二、帚木廿「さしすぐいタリト、心オカレテ」

さし-すす・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 差進 すすむ(進)ト云フニ同ジ。榮花物語、十七、音樂「院ハ仰セラレタルヨリモ、さしすすみ、エモ云ハズメデタウシテ、拜テ參リタリ」

さし-せま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 差迫 押シ迫ル。眞際ニナル。サシツマル。切迫ス。窮迫「用事、さしせまる」年ノ暮レニさしせまる」

さしぞひ (名) 差添 他ヲ助ケムガ爲ニ、附添フ人。(老人、小兒、婦人ナドニ)保

さし-そ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 差添 マシ、加ハル。ソハル。新後撰集、廿、賀「春ノ野ノ、初子ノ松ノ、若葉ヨリ、さしそふ千代ノ、陰ハ見エケリ」

さし-そ・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、四) 差添 「前條ノ語ノ他動」ツケ加フ。ツケ足ス。ソハス。千載集、五、秋、下「モミヂ葉ニ、月ノ光ヲ、さしそへテ、コレヤ赤地ノ、錦ナルラン」

さしぞへ (名) 差副 打刀ニ差シ副ヘテ佩ク、短キ刀。即チ、脇差ナリ。副刀 御伽草子、酒呑童子(室町時代)「賴光ハ、御佩刀ジテ、某、コシラヘ給ラムト、腰ノさしぞへ、スルリト拔キ、肉四五寸押切テ、舌打シテコソマヰリケレ」

さし-ぞめ (名) 差初 男子、人トナリテ、初テ、刀ヲ腰ニ帶クコト。狂言記、鐘音「目出タイ事デ御座ル、若子様ノ御差初ヲ、何時カ、何時カト存ジテ御座レバ」

さしだし (名) 差出 芝居ノ用語、つらあかりノ條ヲ見ヨ。

さしだ・す (動) 差出 さしいだすノ約、其條ヲ見ヨ。

さし-た・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 差立 「擎立」ノ條ヲ見ヨ」建ツ。ササグ。カカグ。擎出「旗ヲさしたつ」

さし-た・つ ·ツル·ツレ·テ·テ·テヨ（他動、下二）[差立] 遣リ出ス。遣リ遣ル。差遣ル。發遣 差遣「[illegible]」

さしたて（名）[差立] サシタツルコト。遣リ出スコト。發遣

さし-たび（名）[刺足袋] 足袋ヲ、絲ニテ刺シ縫フコト。又、其足袋。[illegible]「[illegible]下[illegible]八[illegible]、下女ハさしたび[illegible]」

さし-たる（連體）[爲指]〔指したりノ連體形（さしてあり、さしたり）指せり、させること〕（一）心ザシタル。サセル。宇治拾遺、十四、第六條「[illegible]女ノ、さしたる[illegible]ナムト思フ、今ノホト、時カハサズ[illegible]、トホヒクレバ」[illegible]、六、[illegible]「何事ニテカ、さしたる御祭ミ深カリケルコト侍リケリ、云云、さしたる御祭ミナドノアリケルニハ、ミヅカラ行ハセタマヒケリ」（二）指シテ、言フベキホドノ。サホドノ。宇治拾遺、十二、第三條「是程ノ大事、日ノ定マリタル事ヲ、今トナリテ、さしたる障モ無キニ、延引セシメタマフ事」徒然草、百七十一段「さしたる事ナクテ、人ノ許行クハ、ヨカラヌ事ナリ」

さし-だる（名）[指樽]〔さしハ、注すノ義、注ギ[illegible]、[illegible]或ハ、[illegible]ニ指シテ作レルモノト云フハ、イカガ、酒ヲ盛ルニ因リテ、意ト云フ〕酒ヲ入レテ、他ノ器ニ注ツギニ用ヰル具、[illegible]クシテ、方形ナル箱ナリ。立テタル上部ノ一方ニ偏シテ、突出シタル注口アリ、[illegible]ニテ、板ノ小口ナル所ヲ、朱漆ニ、塗レリ、大、小、[illegible]ナリ。[illegible]「[illegible]稲荷祭禮[illegible]一個、[illegible]三、[illegible]子、[illegible]可[illegible]」[illegible]の[illegible]、六十二[illegible]ハ、其[illegible]ヨリ、小出シニ、酒ヲ分ケ入レ置キテ、飲ム人ニツギアタフル具ナリ、

云云、さし鍋ヲ以テ、酒ヲツグト同ジ義ニテ、付ケタル名ナリ」（古[illegible]苑）晴右記、永[illegible]八年五月九日「[illegible]、指樽一荷、[illegible]」和漢三才圖會[illegible]三十一、[illegible]具、[illegible]「[illegible]」[illegible]三「[illegible]ニハ、云云、[illegible]スルニ、指樽ヲ用ル所モアリ、古風ナル事ナリ」貞丈雜記（明和）七、酒盃「さし樽ノ事、云云、箱ヲさしテ、樽ニスル也、云云、大ナルモ、小キモアリ、今ハ、[illegible]上ニ、[illegible]ニハナシ」

～さし-ちが・ふ ·フル·フレ·ヘ·ヘ·ヘヨ（他動、下二）差交〔ちがふ（交）ノ條ヲ見ヨ〕遣リ交ス。サシカハス。交ス。枕草子、十一、百三十三段「三尺ノ御几帳一具ヲ、さしちがへテ、コナタノ隔ニハシテ」

さし-ちが・ふ ·フル·フレ·ヘ·ヘ·ヘヨ（他動、下二）[刺交] 二人互ニ、刀ニテ相刺ス。（各、自殺スルニ云フ）交刺 太平記、一、賴員回忠事「[illegible]人ノ者共、互ニ、差違ヘ、[illegible]違ヘ、算ヲ散ラセル如ク臥シタリケリ」

⁂さし-ちが・へる（動）[差交][刺交] 前前條、及、[illegible]條ノ口語。

さし-ぢゑ（名）[注智慧] 他ヨリ注シ加ヘタル智慧。イレヂエ。

さし-づ（名）[指圖]〔尺ニテ、廣狹、長短ヲ指シ測リテ作ル義〕（一）地圖。[illegible]要抄（二條良基）「民部省圖帳トテ、日本國ノ指圖、境ナドヲ定メタル文ノ數百卷、此省ニハ、昔ヨリ傳ハリテ、日本國ノ[illegible]ニテ侍リシナリ」太平記、廿、奥州下[illegible]事「國ノ指圖ヲ見ルニ、奥州五十四郡、恰モ、日本ノ半國ニ及ベリ」[illegible]記、十七、[illegible]「[illegible]ノ指圖、[illegible]」[illegible]（二）家屋、[illegible]ノ造作ノ指圖、[illegible]七月廿二日「[illegible]所事、云云、指圖、少少有[illegible]」太閤記、十六、[illegible]「[illegible]中門[illegible]、云云」

御成之事「千宗易ニ、[illegible]、指圖ナド、[illegible]セラレ、云云」（三）圖案ヲ設計ノ意ヨリ轉ジテ、物事ノ方法ヲ、指示スコト。イヒツケ。指揮「[illegible]ノ指圖ニ從フ」

さし-つ-おさへ-つ（副詞句）[指抑]〔指すノ（六）、及、抑ふノ（五）ノ條ヲ見ヨ、さいつハ、さしつノ音便〕屢、杯ヲ取リ交シテ。さいつおさへつ。獻酬「さしつおさへつ、酒[illegible]ミ交ハス」「さいつおさへつ、杯ノ度重ナレバ」

さし-つか・ふ ·フル·フレ·ヘ·ヘ·ヘヨ（自動、下二）差支 間 押シ支フ、差シ合フ。障ハル。防ゲトナル。支捂「用事差支ヘ、參上難レ致候」

さしつかへ（名）[差支] サシツカフルコト。ササハリ。サシアヒ。サマタゲ。故障。さしトノミモ云フ。障碍 支捂

さし-づ-がま・しい（形）「[illegible]之出[illegible]不[illegible]候」差出デテ、指圖スルラシイ。「若者ノ癖ニ、さしづがましいコトヲ言フ」

さしつぎ（名）[差次]（一）〔サシツグコト。次ニ、續グコト。源、七、紅葉賀[illegible]「マダ[illegible]ニテ、[illegible]ヒタマヘルナム、さしつぎノ見物ナリケル」[illegible]花物語[illegible]、花[illegible]クテ、[illegible]ニハ、マタ、此大殿ノ御さしつぎノ九條殿ノ御二郎、内大臣[illegible]ノ[illegible]リタマヒヌ」（二）六位藏人ノ條ヲ見ヨ

さし-つ・く ·クル·クレ·ケ·ケ·ケヨ（他動、下二）「差附」（一）〔差當テテ、著ク。枕草子、四、三十九段、ありがたきもの「主殿ノ官人ナドノ、長キ[illegible]ヲ[illegible]シテ、首ハ、ヒキ入レテ行ケバ、尖ハ、さしつけツベカリナルト」（二）眼ノ前ニ、示ス。アテツクル。「證據ヲ、目ノ前ニさしつけテ、責ム」

～さし-つ・ぐ ·グ·ゲ·ガ·ギ·ゲ（自動、四）[差次] 次ニ繼グ。後ニ續ク。〔差並ぶ、同趣〕源、五十、浮舟三十「彼ノ岸ニ、さしつぎ下リタマフ」同、三十四、下、若菜、下七「コノ院、大殿ニさしつぎ奉リテハ、人モ參リツカウマツリ」

さ-しッ-たり（句）〔然知りたりノ急呼〕（一）心得タリ。オット、承知シタ。國性爺合戰（正德、近松作）二「[illegible]ノ聲、一度ニどつと亂入ル、さしッたりト切拂ヒ」（二）轉ジテ、心得テ居タルニ、油斷シタリ、ト云フ意ノ、感動詞ノ如ク用ヰラル。エエ、失敗ッタ。「さしッたり、[illegible]ヲ[illegible]シテシマッタ」

～さし-つど・ふ ·フ·ヘ·ハ·ヒ·ヘ（自動、四）[差集] 集フト云フニ同ジ。源、四、夕顔廿「物オソロシウ、凄ゲニ思ヒタレバ、カノさしつどひタル住ヒノ心ナラヒナラム、ト可笑シクオボス」

さし-づな（名）[差綱] さしなは（差繩）ノ條ヲ見ヨ。

さし-つま・る（動）[差詰] おしつまるニ同ジ。サシセマル。切迫ス。窮迫 曾我[illegible]（[illegible]、近松作）三「此ノ詞ニ、兄弟、差し詰まッタル氣ヲ開キ」「大晦日ニさしつまる」

さし-づめ（名）[差詰] サシツマリタルコト。ドンヅマリ。究處 心中重井筒（寶永、近松作）「死ナデカナハヌ、身ノさしづめト、成リ行ク果ゾ、アハレナル」

さし-づめ（副）[差詰] マノアタリ。サシアタリ。サシムキ。究竟 曾我虎磨（寶永、近松作）下「祐成、初太刀、時致、二ノ太刀、三ノ太刀ヘ、さしづめ、聟ノ二宮」

さし-つらぬ・く ·ク·ケ·カ·キ·ケ（他動、四）[刺貫] 刀ヲ刺シ入レテ、貫ク。サシトホス。貫洞「敵ノ首ヲ、刀ニ刺しつらぬき」

さしーて（副）［指而］（一）【コレゾト、指シテ。源、三十五、柏木「心ノ内ニ、思ヒ合ハスル事ドモアレドモ、さして、慥カニハ、エシモ推シハカラズ」發心集、一、第二條「今日ハ、さして申スベキ事アリテナム」（二）別段ニ。格別ニ。「さして善クモアラズ」「さして惡クモ思ハヌ」「さして、急グ事デモナイ」

さしーで（名）［差手］相撲ノ手ノ名、我ガ手ヲ、相手ノ脇ノ下ニ差入ルルナリ。諸手ヲ入ルルニ就キテハ、諸差ト云フ。

さしーで（名）［差出］（一）サシイヅルコト。（二）次條ノ語ノ略。　曾我會稽山（享保、近松作）三「言ハレヌ差出カ、知ラネドモ」

さしでーぐち（名）［差出口］分際ヲ越エテ、物言フコト。サシグチ。略シテ、さしで。容喙。插嘴。　生玉心中（正德、近松作）上「兄貴ヤト、目ヲ抱エテ泣キケレバ、供ノ竹ガ、差出口」

さしでのーいそ（名）［差出磯］湖、海ナドニ、差出デタル磯。　玉葉集、六、冬「沖津棚、さしでの磯ノ、濱千鳥、風寒カラシ、夜ニ友呼ブ」

さしーでーん（名）［左氏傳］左傳ノ條ヲ見ヨ。

さしでーもの（名）［差出者］分ヲ越エテ、モノスル人。デスギモノ。僭越者。　浮世風呂（文化、三馬）三編、上「大ノ差出ものデ、ロヲキケバ、手モトガ、御留守ニナリマス」

❖さし・でる（動）［差出］さしいづノ口語。

さしーとほ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［刺通］刺シ入レテ、裏ヘ出ス。ツラヌク。貫洞。「魚ヲ、串ニさしとほす」

さしーと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［差止］抑ヘ止ム。サシオサフ。禁制ス。制止。「興行ヲさしとむ」

さしとめ（名）［差止］サシトムルコト。サシオサヘ。禁制。制止

❖さし・と・める（動）［差止］前前條ノ口語。

さじーとり（名）［匙執］匙ヲ、手ニ執ルコト。藥ヲ盛ルコト。調劑。又、其人。　源氏冷泉節（貞享、近松作）下「毒藥ノ匙執りハ、此ノ春甫」

〔さしーながら（副）〔しハ、指ス意ノ辭〕さながらノ（一）（二）ニ同ジ。　拾遺集、五、賀「大空ニ、群レタル田鶴ノ、さしながら、思フ心ノ、アリゲナル哉」宇津保物語、初秋五十一「左大將殿ノ大君、スベテ此御族、公達、女タチ、さしながら、御形、イト清ラナリ」　金葉集、二、夏「水無月ノ、照ル日ノ影ハ、さしながら（映しニカク）、風ノミ秋ノ、ケシキナルカナ」

さしーなは（名）［差繩］乘馬ノロニツケテ曳ク繩。又、差綱。古クハ、調布ヲ縒合ハセテ用キタリ。後世ナルハ、麻布二筋ヲ絢ヒテ作ル、太サ、大指ノホドナリ。馬鞚　飾抄（鎌倉時代）下「差綱、祭使、種種絨村濃、或、打交、云云、公卿、師差繩、四位以下、片差繩」今昔物語、廿五、第五語「馬、云云、鞍モ下シ、轡モ放チタレバ、指繩バカリヲ付ケテ、飼フ」　著聞集、十、馬醫「轡ヲハゲテ、さしなはヲ取ラセタリケル」　庭訓往來（元弘）六月十一日「泥障、鞭、差繩、等、爲二御館一參送之」

〔さしーなべ（名）［銚子］さすなべノ條ヲ見ヨ。

〔さしーなほ・す・ス（動）［差直］なほすト云フニ同ジ。改ム。　源、二、帚木四十「我ガ心、過チナクテ見過サバ、さしなほしテモ、ナドカ見ザラムトオボエタレド、ゾレ、サシモアラジ」

〔さしーなら・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）［差竝］〔さしハ、差向ふ、差次ぐノ、さしニ同ジ〕竝ビ、ツヅク。隣ル。比隣　萬葉集、九廿七長歌「指竝ぶ、隣ノ君ハ」

さしーなら・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）［差竝］番ヒ、竝ブ。　源、廿四、胡蝶十四「親ト聞エムニハ、似氣ナウ、若クオハシマスメリ、さしならびタマヘラムハシモ、間、メデタシカシ」

〔さしーなら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ（他動、下二）［差竝］前條ノ語ノ他動。ナラバシム。　源、四十九、東屋廿三「我ガ娘モ、カヤウニテ、さしならべタラムニ、不倫ナラジ」

さしーに（名）［差荷］差荷ノ荷物。　夫木抄、三十三、船「懸シサヲ、さし荷ニ積メル、舟ナレバ、櫂モミトロシ、心セヨ波」

さしーになひ（名）［差荷］〔差すハ、番ふ意〕駕籠、長持ナド、前肩、後肩、唯、二人ニテ擔ゲ行クコト。又、サシアハセ。二枚肩。略シテ、さしトノミモ云フ。　世間息子氣質（正德、其磧）二「料理人、下男、濡レタル道具ヲ、さしになひニシテ」「さしデ擔ク」

さしーぬき（名）［指貫］次條ヲ見ヨ。

さしぬきのーはかま（名）［指貫袴］［袴奴］〔裾ニ緒ヲ刺貫くニ因リテ、名トス、狩衣、狩袴、奴袴、ノ條ヲ併セ見ヨ〕（一）〔古名、括緒袴。下略シテ、指貫トノミモ云フ。裾廻ニ、組緒ヲ刺シトホシテ、穿ク時ハ、緒ヲシボリテ、足ノ踝ノ上ニテ括ルモノ。狩衣ノ下ニ着ルモノナレバ、狩袴トモ云ヒ、狩獵ニ便ニセシモノナルベシ。古クハ、布ニテ製セシモノナリト云フ、サレバ、布袴ノ名モアリ。　倭名抄、十二十九衣服類「奴袴、作師奴袴乃波賀萬二(奴袴ハ、袴奴ノ誤倒ナリ)　名義抄、衣部「袴奴、サシヌキノハカマ」（二）中古以後、五位以上ノ人、狩衣、直衣、ノ下ニ穿ク袴トナリテ、綾織物ニテ製スルコトトナリ、浮織、固織、又、織紋、染色モ、官位、年齡ニ因リテ、種種ナリ、極老ノ人ハ、白ノ練ナリトゾ。（裝束圖式ニ委シ）キヌノカリバカマ。　倭名抄、十二十九衣服類「絹狩袴、岐奴乃加利八可萬」　字類抄、雜物「袴奴、サシヌキノハカマ、絹狩袴、同、本朝式、用二絹狩袴之字、指貫」　西宮記、臨時、八「指貫、王者以下、衆人可レ用也、古時有レ制、臣下不レ用、近代、五位已上、昇殿六位、皆用レ之」狹衣、二、上四十「龍膽ノ織物ノ御さしぬきノ、枝サシ、花ノ匂ヒ、只今折リテ見ルヤウニ織リ浮カサレタル、目モカガヤクバカリ見ユルハ」　增鏡、第六、煙の末末「左兵衞佐親朝ハ、むすびかりぎぬニ、菊ヲオキモノニシテ、紫裾濃ノさしぬき、菊ヲ繡ヒタリ」

さしーね（名）［指直］〔指定メタル直段〕入札賣買、取引所賣買ナドニ、賣ル者ノ指定シタル限度ノ直段。

さしーの・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［差退］シリゾク。タチノク。去ル。「其處カラさしのく」

さしーの・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［差除］のぞく（除）ト云フニ同ジ。　宇治拾遺、三、第五條「ウチさしのきタル人ニモ、オハシマサズ」

〔さしーの・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［差除］除ケ遣ル。退クル。去ラシム。　源、九、葵六「ヨキ女房車多クテ、雜雜ノ人ナキ隙ヲ思ヒ定メテ、皆、さしのけサスル中ニ」「人ヲさしのけテ、前ヘ出ル」

〔さしーのぞ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［差覗］のぞく（覗）ト云フニ同ジ。　源、三十五、柏木廿「夜ナドモ、此方ニハ大殿ゴモラズ、盡ツ方ナドゾ、さしのぞき給フ」

〔さしーば（名）［翳］〔さしハ、擊すノ義（其條ヲ見ヨ）はハ、羽ノ義、元ハ、鷲ノ羽ニテ造レルナルベシ、サレバ、羽トノミモ云フ〕急就篇、註「翳、謂下凡鳥羽之可二隱

[illegible]ナレバ、[illegible]シ、[illegible]ニテ[illegible]、軍配團扇ノ如キモノニ、長キ柄ヲツケタルモノ。古ヘ、御即位、朝賀、等ノ大禮ニ、[illegible]ノ、高御座ニ出御[illegible]マフ時、御帳ヲ褰ゲタル前ニ、女孺、左右ヨリ差シカザシテ、[illegible]ニ用ヰル、女孺ハ左、右、各、九人ナリ、コレヲ、執翳女嬬ト云フ。 萬葉集、十六、廿[illegible]旋頭歌「[illegible]ノ、二上[illegible]」[illegible]

さしば (名) 〔翳〕 鷹ノ一種、鷂(ハシタカ)ニ似テ、青黃ナリ、[illegible]ニシテ、嘴、曲ガル、風ニ向ヒテ、翅ヲ搖カシ、風ノ急ナルニ憑リテ、[illegible]翔リ、[illegible]ナドヲ擊チテ食フ、[illegible] [illegible]さしばモ、[illegible]レバ、野邊ノ花ニヤ、亂レアヒナン」

〔さし-はさ・む〕・ム・メ・マ・ミ・メ(他動、四) 〔刺挾〕 物事ノ間ニ、刺シ入ルル。サス。サシコム。 挿 源、三十四、下、若菜、下「御茵(シトネ)ノ下ニさしはさみタマヒツ」「[illegible]ヲさしはさむ」

サシ・ハズ・ス
〔さし-はづ・す〕・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔差外〕 はづす(外)ト云フニ同ジ。 源、五十、浮舟「サイツ比、渡守ガ孫ノワラハ、棹さしはづシテ、落チイリ侍リニケル」

〔さし-はな・つ〕・ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四) 〔差放〕 はなつ(放)ト云フニ同ジ。 源、一、桐壺「イミジキ武士(モノノフ)、仇敵ナリトモ、見テハ、打チ笑マレヌベキ狀(サマ)ノシ給ヘレバ、エさしはなち給ハズ」

〔さし-はな・る〕・ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 〔差離〕 [illegible]ナル、[illegible] 源、[illegible]「御容(カタチ)ハ、さしはなれテ見シヨリモ、イミジウ淸ラニテ」 同、廿一、少女「さしはなれ、キラキラシウ、メヅラシゲアルアタリニ」

サシ・ハ・ウ
さし-は・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 〔指延〕 (必ノ指し延ふる義、下一段活用ノはふ(延)ノ條ヲ見ヨ、おおろざす意ナリ) ワザワザ、ソレト目指ス。フリハヘテ、モノス。 拾遺集、十一、戀、一「玉江漕グ、蘆刈舟ノ、さしはヘテ、浪間モアラバ、寄ラムトゾ思フ」 [illegible]藤原[illegible]「ソレヲ、さしはヘテ[illegible]ハムトテ、あて宮ニ御文アリ」 源、三、空蟬「さしはヘタル御文ニハアラデ、疊紙(タタウガミ)ニ、手習ノヤウニ」

サシ・ハ・エ
〔さし-は・へ〕(副) 〔指延〕 前條ヲ見ヨ。

さし-はや・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔差囃〕 はやす(囃)ト云フニ同ジ。 濱松中納言物語、二「君ニヨリ、ヲチノ早舟、さしはやし、風間モ待タズ、コザレヤルカナ」

サシ・ヒカ・ウ
さし-ひか・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 〔差控〕 押シテ、控(ヒカ)フ。止(トド)リテ、進マズニアリ。抑制。 「勝手元ニさしひかへテ居ル」

サシヒカエ
さしひかへ (名) 〔差控〕 (一)サシヒカフルコト (二)武家ノ罰名、職務ニ、過失(アヤマチ)ナドアリテ、暫シ、出勤ヲ控ヘシメ、家ニ屏居セシムルナリ、

サシ・ヒカ・エル
✣さし-ひか・へる (動) 〔差控〕 前前條ノ口語。

さしひき (名) 〔差引〕 (一)差入レ、又、引去ルコト。 [illegible](元祿、近松作)三「[illegible]さし引キシ、不足ハ、[illegible]ノ[illegible]デモ」 (二)有餘ト、不足トヲ、入レ合ハスルコト、兼除 (三)潮ノ、滿ツルト、干ルト。ミチヒ。干滿 盈虛 (四)瘧ナドニ、熱ノ、發(オコ)ルト、消(サ)ムルト、往來 [illegible] (元祿[illegible]、[illegible]門往來、[illegible]所[illegible]」

さし-ひ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 〔差引〕 引ク。引キ去ル。減ス。 減 「千圓ヨリ、五十圓、差引く」

さしひびき (名) 〔差響〕 サシヒビクコト。カカハリアヒ。影響 「さしひびきガ無イ」

さし-ひび・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 〔差響〕 他ニ、關係(カカハリ)ヲナス、妨ゲヲ引起ス。影響。

〔さし-ひろお・る〕・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 〔差廣〕 ひろおる(廣)ト云フニ同ジ。 枕草子、三、廿四段「カヘデノ木、ササヤカナルニモ、萠エ出デタル木末ノ、赤ミテ、同ジ方ニさしひろおりタル葉ノサマ」

〔さしぶ〕(名) 〔烏草樹〕 次次條ヲ見ヨ。

さし-ぶた (名) 〔插蓋〕 箱ノ、横ヲ口ニシタルモノニ、口ノ左右ニ、竪ニ溝ヲツケテ、蓋ヲ、上ヨリ插シオロスヤウニ作リタルモノ。落蓋(オトシブタ)。

〔さしぶ-の-き〕(名) 〔烏草樹〕 今、させぼのきト云フ。柃(ヒサカキ)ニ似テ、小サキ實ヲ結ブ、熟スレバ、紫黑色ナリ、兒童ナド、取リ食フ。略シテ、さしぶ。 古事記、下(仁德)六長歌「川ノ邊ニ、生ヒ立テル、佐斯夫ヲ、佐斯夫能紀」 字鏡[illegible]「烏草樹、[illegible]之夫」 倭名抄、廿[illegible]「烏草樹、佐之夫乃紀」 [illegible]、さしぶのき「倭名抄ニ、烏草樹ヲ[illegible]メリ、云云、今、山中ノ者、させにのきト云フ、土佐ニモ、さしさしぶト云フ、云云、實、食フベシ、神宮ノ邊ニテモ、さしさしぶト云フ」

さしぶみ (名) 〔差文〕 使者ニ立チ、又、公事ニ參會スベキ人ヲ、誰レト定メテ、書キ附ケタルモノ。 江家次第、五、春日祭「先十[illegible]」

さし-ふるし (名) 〔差舊〕 手廻道具ナドノ、久シク用キテ、舊クナリタルコト。又、其物。 [illegible]記、入[illegible]「此ノ扇子ハ、京ニテモナシ、又、オさし古しモナサレヌ物ヲ」

〔さし-へだ・つ〕・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ(他動、下二) 〔差隔〕 へだつ(隔)ト云フニ同ジ。 源、四十六、總角廿「御カタハラナル短キ木帳ヲ、佛ノ御カタニさしへだてテ、カリソメニ添ヒフシ給ヘリ」

さし-ほおらか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔指誇〕 〔さしほらすハ、略シテ云フナリ〕(横川(ヨコカハ))よかは。おおじらかす、おおじらかす) ホコラカシテ、插ス。ホコリカニサス。 盛衰記、一、五節夜闇討「[illegible]、大ナル黑鞘巻ヲ、隱シタル氣モナク、指しほおらかしヌリケルガ」 平家物語、四、大衆揃「大ナル打刀、前垂レニ指しほらし」

さしほら・す (動) 〔指誇〕 前條ヲ見ヨ。

さし-ま・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 〔差纏〕 互ニ、刺手(サシテ)ヲ、差シ交ス。 古事記、上、長歌「玉手(タマデ)佐斯麻岐(サシマキ)、股長ニ、寢ハナサムヲ」

さしまくら (名) 〔差枕〕 (一)二人、枕ヲ並ベテ、寢ルコト。 賀古教信七墓廻(元祿、近松作)三「河船ヲ、トメテ逢フ瀬ノ波枕、揚ゲテ逢フ夜ノさし枕」 (二)はおまくら(箱枕)ニ同ジ。

さし-ま・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔差增〕 增シ加フ。 榮花物語、五、浦浦別「ヨロヅさしましツツ、イミジウアハレニ發スレバ」

さし-まね・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 〔麾揮〕 手ヲ指シテ、招ク。指揮ス。 「軍勢ヲさしまねく」

サシマワ・ス
さしまは・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 〔差廻〕 まはす(廻)ト云フニ同ジ。 新古今集、七、

管、若キ人人ゝ喚ヒイデテ、池ノ舟ニ乘セテ、中島ノ松カゲさしまはすホド、ヲカシク見エ侍リケレバ」「公卿ニ、車ヲさしまはす」

さしまへ（名）［指前］〔まへ（前）ノ條ヲ見ヨ〕 さしれう（指料）ニ同ジ、刀ニ云フ。 狂言記、武悪「身ドモガさしまへへ、オボエガ御座ラス、御前ノ御太刀ヲ、貸サシャレマセウ」

さしみ（名）［刺身］〔切るヲ忌ミテ、刺すト云フカ、作るト云フモ、同ジカルベシ、みハ、肉ナリ〕 鯛、鯉、鰹、まぐろナドノ生肉ヲ、長方形ニ、薄ク切リタルモノ。酢、醤油ナドニ浸シテ、食フ。關西ニテ、ツクリミ、ツクリ。魚軒 他ノ物ヲ、同形ニ切リ作リタルニモ云フ。 康富記、文安五年八月十五日「二獻、冷麪居之、鯛、指身居之」 四條流庖丁書「差味ノ事、鯉ハ山葵酢、王餘魚、山葵酢、生姜酢、蓼酢」「蒟蒻ノさしみ」

さしみづ（名）［注水］（一）湯、水ニ、注シ入ルル水。「藥湯ノさし水」（二）井ノ中ノ水ニ、他ヨリ注シコム、惡水ナドノ稱。客水 「井戸ニ、さし水ガスル」

さしみばうちやう（名）［刺身庖丁］〔菜切庖丁ナドニ對ス〕 庖丁ノ一種、刃ノ幅、甚ダ狹ク、長キモノ、專ラ、刺身ヲ作ルニ用キル。膾刀 鑓田兵衛ガ所望（志賀、近松作）上「庖丁ノクミ手ヲ定メ、引ク組ンデ刺身庖丁」

さじん（名）［左衽］〔衽ハ、おくみナリ〕 衣服ヲ、ひだりまへニ着ルコト。支那ニテ、夷狄ノ風俗トシテ、云フ。 論語、憲問篇「微管仲、吾其被髮左衽矣」

さしむかひ（名）［差向］ サシムカフコト。向キ合フコト、只、二人、相、向フコト。カケムカヒ。下略シテ、さしトノミモ云フ。當面 源、四、夕顔廿「何心モナキさしむかひヲ、アハレト思ス」 小町踊（寛文）「月、入ル月ニ、さしむかひナリ、朝日山」「さしデ話シ合フ」

さしむか・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［差向］〔差すハ、番ふノ意、差向くモ、同ジ、差並ぶナド、同趣〕 向ヒ合フ。相、向フ。當面 萬葉集、九廿長歌「牡牛ノ（枕）、三宅ノ酒ト、指向、鹿島ノ崎ニ」（酒ハ、浦ノ誤ナラム、三宅ハ、下總ノ地名、常陸ノ鹿島ノ地ト、向ヒ合フナリ） 源、廿二、玉鬘五「二人、さしむかひテ泣キケリ」

さしむき（副）［差向］ さしあたりニ同ジ。「用事ハ、さしむき無イ」

さしむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［差向］〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕 向キ合フ。其方へ、向ク。「東ノ方ニさしむきテ」

さしむ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［差向］〔前條ノ語ノ他動〕 向クル。其方へ遣ル。「使者ヲさしむけテ催促ス」

さしむしろ（名）［差筵指筵］ 疊ノ上ニ、更ニ重ネタル表疊ノ稱、貴人ノ、着座スルモノ。 台記、保延二年十二月廿五日「今日與福寺差賀也、云云、東對南庇四ケ間、敷差莚ニ」 中右記、嘉承元年十一月七日「今日春日祭使出立、云云、寢殿母屋三間、并、西南庇、令敷指莚ニ」

さしも（副）［然］〔然もノ間ニ、指ス意ノ辭ノしヲ加ヘタルナリ〕（一）さもト云フヲ、強メテ云フ語。 源、二、帚木廿「さし直シテモ、ナドカ見ザラム、トオボエタレド、ソレ、さしもアラジ」 同、廿、朝顔六「さしもアラヌ際ノ事ヲダニ」（二）さしもありつるナド云フベキヲ、略シテモ云フ。 平治物語、二、義朝六波羅寄事「さしもノ兵ヲ、敵ニ、首ヲ取ラスナ」「さしも榮エタル一族ノ」

さしもぐさ（名）［指燒草］〔夫木抄、廿八、題「指燒草」注燒草ノ義、注すトハ、點火クルコト（灸ヲスウルヲ、灸ヲさすト云フ、注すノ條ノ（五）ヲ見ヨ）もハ、燃すノ語根、燃すノ、もすナリ、此もぐさハ、即チ艾ニテ、灸治スル料トス、させもぐさト云フハ、音轉ナリ（現身、うつせみ） させもトノミ云フハ、下略ナリ（菰席、薦）〕（一）艾ノ異名。其葉ニテ、もぐさヲ製シテ、灸治ノ料トスル名ナリ、古ク、下野國ノ標地ガ原、伊吹山ノ産、名アリ。又、させもぐさ。させも。 六帖、六「下野ヤ、しめぢが原ノ、さしも草、己ガ思ひニ、身ヲヤ燒クラム」 同、六「アヂキナヤ、いぶきノ山ノ、さしもぐさ、己ガ思ひニ、身ヲ焦シツツ」（共ニ、おもひニ、火ヲカケタリ） 枕草子、十二、百四十八段「マコトヤ、下野ニ下ルト云ヒケル人ニ「おもひダニ、カカヌ山ノ、させもぐさ、誰レカいぶきの、さトハ告ゲシゾ」（思ひモカケヌニ、火ヲカケ、いぶきニ、言ふヲカケ、さとハ、里ト、然トニカケタリ、標地ガ原ハ、都賀郡、栃木町ノ北方、部野ノ名、伊吹山ハ、其地ノ吹上村ノ城山ナリ、云フ、コレヲ、近江國ノ膽吹山ノ文トスル說ハ、非ナリ、膽吹山ナルハ、永祿年中、切支丹宗ノ葡萄牙人ガ、南蠻種ヲ移植シタルナルコト、天敎雜話ニ見ユ、ト云フ）（二）觀世音菩薩ノ佛力ニ就キテ云フ語 新古今集、廿、釋敎「ナホ頼メ、しめぢが原ノ、さしも草、我レ世ノ中ニ、アラムカギリハ」此歌ハ、淸水觀音ノ御歌トナム、言傳ヘタル」 千載集、十六、雜、上「契リオキシ、させもガ露ヲ、命ニテ、アハレ今年ノ、秋モ往ヌメリ」（度度、請フコトアリシニ、しめぢが原、ト答ヘテレタルニ、詠メル歌ナリ） 倭訓栞、さしもぐさ「俗言ニ、一切衆生ヲ救訓セシハ、新古今ノしめぢが原のさしも草ト云フ歌ヲ、觀音ノ示ト云ヘルヨリノ謬說、取ルニ足ラズ、此歌ハ、日本ニテハ、もぐさホドノ貫ハナシ、因テ、喩ヘ詠ミタマフナリト、招月庵ノ說ナリ」 易林節用集（慶長）、言辭「一切衆生」 合類節用集（元祿）四、人倫門「一切衆生」（コレハ、觀世音ハ、一切衆生ノ火宅ノ苦患ヲ救フト云フヲ、灸ニ寄セテ云ヘルナリ、法華經、普門品「若有持是觀世音菩薩名者、設入大火、火不能燒」 倭俗訓、三、害急「推落大火坑、念彼觀音力、火坑變成池」）

さしもつれ（名）［差縺］ サシモツレルコト。アラソヒ。不和。葛藤

✣**さしもつ・れる**・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下一）［差縺］〔もつれるハ、もつるるノ口語、差すニ、意ナシ、其條ヲ見ヨ〕 モツルル。入リ組ム。爭ヒトナル。「相談ガさしもつれる」

さしもど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［差抵］ もどく（抵牾）ト云フニ同ジ。 平治物語、一、光賴卿參内事「昔ヨリ今ニ至ルマデ、人ニさしもどかルル程ノ事ハ、ナカリシ」

さしもの（名）［指物］ 小サキ旗、又ハ、種種ノ飾物ヲ、鎧ノ背ノ受筒ニ插シテ、戰場ニ、目標トスルモノ。背旗 義經記、十、田邊湛増ノ事「敵ノ男ハ、栗毛ナル駒ニ乘リテ、二ツ引兩ニ、昇龍ノ紋ツケタルさしものナリケリ」 合類節用集（元祿）七、器財門「指物」兵器、元龜天正以來、爲所用」 倭訓栞「さしもの「鎧ノ指物ハ、天正以前ハ見エズ、モト、馬印ニ因レリ」

さしもの（名）［指物］〔指すノ條ノ（五）ヲ見ヨ〕 匣、机、木箱、椅子ナド作ル工事。其工事ヲスル人ヲ、指物師ト云フ。 雍州府志（天和）七、土産門、倭俗、以板造器、總謂指造之家、謂指物屋」 人倫訓蒙圖彙（元祿）六、指物師「桐、檜、杉、等ヲ以テ、箱ノ箱ヲ造ル也、長持、櫃、等ニハ、杉、檜ヲ以テ造ル」

さしもの（名）［插物］ 婦人ノ、髮ニ插スモノ。（櫛、簪ナド） 浮世風呂（文化）三編、下「指しものハ、オット來タリデ、自由ザンメエニ取リ替ヘ、買ヒ立テルシ」

さしものし（名）［指物師］ 前前條ヲ見ヨ。

さしものや（名）［指物屋］ さしもの（指物）ノ條ヲ見ヨ。（工事ヲスル家）

さしや (名) 差矢 〔差すハ、遣るノ意、其條ヲ見ヨ〕(一)矢ツギバヤニ、射ルコト。平家物語、十一、八嶋事「大將軍[illegible]、或ハ、遠矢ニ射ル船モアリ、或ハ、差矢ニ射ル船モアリ」 (二)後ニハ、矢數ノ通矢ニ用ヰル矢ヲ云フ。貞丈雜記、十、弓矢「差矢ト云フハ、[illegible]ニシテ、羽ハ、鷹ノ第二ノ羽ニテ矧グ、根ハ、木ニテ造ル、矢數、三十三間堂ノ通矢ナドニ用フルモノナリ、近代ノモノナリ」

さしやう (名) [illegible] 〔[illegible]〕嘆數シテ、褒ムルコト。宋史、王質傳「見二其所一爲文一咨二賞之一」

ざしよう (名) 挫傷 骨ヲ、挫キタルコト(金創ナドニ對ス)

ざしやう (名) 座上 寄合ノ席ノ上。席上。座中。唐書、孔融傳「座上客常滿、樽中酒不空」

ざしやう (名) 座上 上座ニ同ジ。上席。首席。[illegible]云云、信頼卿ノ上ニ、むずト着キタマフ、云云、右衛門督殿(信頼)ノ座上ニ着ク人、一人モオハシマサザリツルニ、仕出シタルコトヨ」

さちやく (名) 茶杓 ちやちやく(茶杓)ニ同ジ。[illegible]御道具之事、一、御ちやわん、同臺、一、御さちやく」

さしやど (名) 指宿 〔指し示ス意〕 旅店ニテ、客ニ案内スル、行先ノ旅店。

さしやひ (名) 差合 さしあひ(差合)ノ口語。浮世風呂(文化、三馬)三編、下「夫カラハヤ、さし合構ハズノ女バナシテ、起テ居ラレネヘ」

〜**さし・や・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 差遣 [illegible]ト云フニ同ジ。[illegible]、さしやり給ヘレバ、云云、小[illegible]、イトウツクシケレバ」

さしゆ (名) 叉手 〔正韻「叉、初加切、音差」正韻「指相交也」増韻「俗呼二拱レ手、曰二叉手一」〕 兩手ノ、指ト指トヲ組合ハスルコト。拱クコト。人ニ會ヘル時ノ禮儀トス。さしゆ(叉手)ヲ併セ見ヨ。[illegible]「叉手」 又、事ヲ思考スルニ、スルコトアリ。ウデグミ。事文類聚[illegible]、凡、八叉手、八韻成」

さしゆつ (名) 詐術 イツハリノ、手ダテ。タバカリ。ダマシ。僞計。

さし・ゆる・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 差許 許シ遣ル。許可。「願之趣、差許す」

ざしよ (名) 座所 ヰドコロ。坐ル所。「座所ヲ定ム」

さしよう (名) 左證 證左ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

さしよう (名) 査證 調査シテ、證明ヲ與フルコト。

さしよう (名) 詐稱 國籍、身分、氏名、年齢、職業ナド、詐リ、稱スルコト。[illegible]詐稱[illegible]、氏名詐稱」

ざじよう (名) 坐乘 軍艦ニ乘リテ、其指揮ヲ司ルコト。「司令長官ノ坐乘」

さしやうじやう (名) 左丞相 左大臣ノ唐名。職原抄、上、太政官「左大臣、唐名、左丞相」

ざしよく (名) 坐食 キグヒ。勞働セズシテ、徒食スルコト。[illegible]「後宮之中、坐食者萬有餘人」

ざしよく (名) 坐職 ゐしよく(居職)ニ同ジ。

さし・よ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 差寄 押シテ、寄ス。保元物語、二、[illegible]最期「御迎ニ參ラセラレ候トテ、車、差寄セヌレバ」

〜**さし・よ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 差寄 進ミ、寄ル。近ヨル。萬葉集、十九、長歌「佐之與良ム、礒ノ埼埼」 源、六、末摘花「カタハラ痛シト思ヒテ、さしよりテキコユ」

さしらへ (名) 差應 〔さしいらへノ約〕 應フルコト。答フルコト。應答。大鏡、序「イサタマヘ、昔ノ物語シテ、云云、聞カセ奉ラム、云云、サルベキ事ノさしらへ、滋樹モ、打覺エ侍ラムカト云ヒテ」

さしれう (名) 差料 〔插料ノ義〕 刀劍ノ、自ラ、佩ブルニ供フルモノ。サシマヘ。槍權三重帷子(享保、近松作)上「市之進殿ノ指シ料ニ極マレ、殿ヲ往還ニ睨ス法モアレ」

〜**さし・わ・き** (動) 差別 次條ヲ見ヨ。

〜**さし・わ・く**・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 差別 〔四段活用ノわく(別)ヲ見ヨ〕 取リ別クル。宇津保物語、藏開、中「さしわきテ、心ヲカラヌ事コソ侍レ」 源、十、榊三十六「殊ニ、さしわきタルサマニモ、何事ヲカハトテ」

〜**さし・わ・く**・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 差別 〔前條ノ、四段活用ト同意ナルハ、生く、いくるナドノ例〕 前條ノ語意ニ同ジ。後撰集、十八、雜、四「玉江漕ぐ、蘆刈小舟、さしわけテ、誰レヲ誰レトカ、我レハ定メム」

さしわたし (名) 差渡 此ヨリ彼ヘノ、直ナル距離。ワタリ。徑。直徑。「兩岸ノさしわたし、五町」「杯ノさしわたし、三寸五分」

〜**さし・わた・す**・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 刺渡 〔小網ヲ使フヲ、特ニ、刺すト云フ〕 水中ニテ使フ設ケヲス。小網ニ云フ、其條ヲ見ヨ。萬葉集、一九、長歌「上瀨ニ、鵜川ヲ立テ、下瀨ニ、小網刺渡し」 同、十九、長歌「平瀨ニハ、小網刺渡し、早瀨ニハ、鵜ヲ潛ケツツ」 同、九「左提ニ、刺す二、[illegible]手備レヌ」

さしゑ (名) 插繪 書物ノ中ノ處處ニ、插シ加フル繪。插畫

さしゆ (名) 叉手 手ヲ、コマヌクコト。拱手。叉手。ウデグミスルコト。太平記、十、鎌倉入道自害事「叉手シテ、頸ヲ伸テ、子息四郎ニ、其レ討ト、下知シケレバ」

さす (名) 叉手 杈首 〔前條ノ語ニ同ジ、指ヲ交フル形、相、似タレバ云フ、今、合掌ト云フモ、同意ナリ〕 (一)〔切妻造リノ家根ノ左右ノ端ニ、合掌形ニ交叉シテ立ツル木。二木ノ上下、兩端、上ハ空ヲ指シテ、下ハ開キ、千木ト、搏風トノ形ヲナス、其叉ノ上ニ、棟木ヲ承ク、農家ノ茅葺ノ丸太合掌ヲ、今モ、さすト云フ、轉ジテ、殿宅ノ搏風ノ名トナル、今モ、神社ノ妻飾ノ搏風ヲ、杈首棹ト云ヒ、其中央ノ束柱ヲ、杈首束ト云フ。續修東大寺正倉院文書、四十五帙、三、寶字六年正月十九日「黑木榑八十五枝、柱三十四根、古萬比廿八枝、佐須二十六枝」 天治字鏡、十二、舍宅章「叉手、佐須」(栭、梲ナドト、併載セリ) 倭名抄、十四、居宅具「杈首、佐須」(杆、栟、鴟栖、ナドト、列擧セリ) 同、箋注、三「說文云、手指相錯謂之叉、樹枝相錯謂之杈、其義一也、今、俗語、猶謂二樹枝錯出者一曰二杈頭一、按、杈首、謂下柱上有二岐枝一可三以架二橫木一者上也、又按、張彥遠、歷代名畫記、大雲寺塔東叉手下、畫二辟邪一」辟邪ハ、獸ノ名、其條ヲ見ヨ) 盛衰記、五、山門奏狀事「前座主明雲僧正ヲバ、藤原松枝ト、名ヲ改メテ、伊豆國ヘ流罪ト定ラル、山門騷動シ、西坂本ノ坂口、松ノ木ヲ切テ、逆木ニコソ引キタリケレ、(節文)、松枝ハ、皆逆茂木ニ、切リハテテ、山ニハさすニ、スルモノモナシ」座主ニカケタリ」 庭訓往來諸抄大成扶翼、乾「杈首、貞云、木ヲ、×ノ字形ニシテ、棟木ヲ承クルヲ云フ」 (二)狼藉者ヲ捕フル武器ノさ

ヌヘト云フハ、扠首枝ナリ、木ノ枝ヲ用キテ、物ヲ高キニ懸クルモノヲ、さノまた（又）ト云フハ、其音便ナリ、各條ヲ見ヨ。

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）｜發｜〔發つト音通（八雲立つ、八雲刺す。腐る、くさろ。塞バ、ふさぐ）〕（一）〔立チ、騰ル。萬葉集、三四「八雲刺す、出雲ノ子等ガ、黑髮ハ、吉野ノ川ノ、沖ニナヅサフ」（出雲娘子ト云フ女ノ溺死ヲ詠ジタル歌ナリ、古事記、上「八雲多都、出雲八重垣、妻ゴミニ」八雲立つノ條ヲ見ヨ）（二）〔生ユ。生ヒ出ヅ。萌ユ。萌生　萬葉集、六十長歌「瑞枝指し、繁ニ生ヒタル、栂ノ木ノ、彌繼嗣ニ」式子内親王集「下さす、宿ニモ秋ノ、尋ネキテ、月ニ誘フハ、今年ノミカハ」　源、三十四、上、若菜、上三十五「若葉さす、野邊ノ小松ヲ、引キツレテ、モトノ岩根ヲ、祈ル今日カナ」「根ざす」「瑞齒さす」「芽ガさす」「氣ガさす」（三）潮、高クナル。サシシホニナル。（うしほ（潮）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ）｜潮長｜　新後拾遺集、五、秋、下「夕汐ノ、さすニ外レシ、影ナガラ、下ニ殘ル、秋ノ夜ノ月」（四）浸ミ入ル。｜浸入｜「井ノ水ガ滲ジテ、汚水ガさす」さし水）」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）｜映｜〔前條ノ發すト、同義ノ語ナリ〕光ヲ放ツ。映ル。萬葉集、一、十五「渡津海ノ、豐旗雲ニ、入日沙之、今夜ノ月、明ラケクコソ」　源、七、紅葉賀二「入方ノ日影、サヤカニさしタル」　金葉集、三、秋「月影ノ、さすニマカセテ、行ク舟ハ、明石ノ浦ヤ、泊リナルラム」　新古今集、四、秋、上「叡島ヤ、高島山ノ、雲間ヨリ、光さしソフ、弓張ノ月」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜指｜（一）人指指ヲ向ケテ、其方ヲ示ス。ユビザス。｜指點｜「鹿ヲ指シテ、馬ナリト云フ」（二）〔其方へ、向フ。ココロザス。｜向｜　古今集、十五、戀、五「蘆邊ヨリ、雲居ヲさシテ、行ク雁ノ、イヤ遠ザカル、我ガ身悲シモ」土佐日記、十二月廿七日「大津ヨリ、浦戸ヲさシテ、漕ギ出ヅ」　司馬相如、上林賦「乎出向」注「指、行也」（三）〔ソレト定ム。決ムル。｜指定｜　神武紀五「謂之來目歌、此的取歌者而名之也」「名ヲさす」「日ヲさす」「指し定ムル」「指し招ク」（四）尺ニテ、測ル。（長短ヲ指し示スナリ）｜度｜「着物ノ丈ヲさす」（五）匣、机ナド、作ル。（尺ニテ、さしテ作ルナリ）　雍州府志（天和）七、土産門「倭俗、以板造器、總謂指、造之家、號指物屋」「本箱ヲさす」（さし物師）（六）指シ狙ヒテ、突キ捕ル。「黐竿ニテ、雀ヲさす」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜擎｜〔上へ指して擧グル意〕（一）兩手ヲ、頭上ニ張リテ、擧グ。サシアグ。ササグ。「力石ヲ中天ニさす」（二）〔捧グ。揭グ。古今集、十九、旋頭歌「君ガさす、三笠ノ山ノ、紅葉ノ色、神無月、時雨ノ雨ノ、染メルナリケリ」枕草子、十、百廿七段「からさをヲさしタルニ、風ノ、イタク吹キテ、横ザマニ雪ヲ吹キカクレバ、少シ傾ケテ歩ミ來ル」「旗ヲさし立ツ」（三）〔カザス。サシカク。｜翳｜　萬葉集、三十六三十「雨フレバ、將蓋ト思ヘル、かさノ山、人ニ合ナ、濡レハ沾ヅトモ」「翳ヲさす」（四）カタグ。カツギアゲル。｜舁｜「輿ヲさす」「駕籠ヲさす」「さし荷フ」（五）〔張ル。ヒキハル。萬葉集、十四五「足柄ノ、彼面此面ニ、佐須和奈ノ」同、十七二「ホトトギス、夜聲ナツカシ、網指者、花ハ過グトモ、離レズカ鳴カム」「橘ノ、匂ヘル園ニ、ホトトギス、鳴クト人告グ、網佐散マシヲ」（外へ遁サヌ意ナリ、清家萬葉集「春霞、網ニ張リコメ、花散ラバ、移ヒヌベキ、鶯止メム」）（六）作ル。イトナム。結ブ。　新千載集、十八、雜、下「足引ノ、山田ニさセル、笹ノ庵、夜ヲ重ヌレバ、臥シ劉レニケリ」新後拾遺集、四、秋、上「假リニさす、庵マデコソ、ナビキケレ、野分ニ堪ヘヌ、小野ノ篠原」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜注｜〔他ノ物ヲ指しテ入ルルナリ〕（一）注グ。注グ。加へ入ル。　倭名抄、十六七金器類「銚子、佐須奈閉、注ニ注湯ナリ、其條ヲ見ヨ）「水ヲさす」「油ヲさす」「目藥ヲさす」「智慧ヲさす」「價ヲさす」（さし金）（二）入レテ、雜ズ。萬葉集、十二廿九「紫ハ、灰指スモノゾ（序）、海石榴市ノ、八十ノ街ニ、逢ヒシ子ヤ誰」（紫ヲ染ムルニハ、椿ノ灰ヲ加フ）「紅ヲさす」「朱ヲさす」（三）押ス。｜捺印｜　内藏寮式「捺三寮印二」（古本訓點）　水鏡、下、大炊天皇、惠美大臣「私ニ、太政官ノ印ヲさシテ、事ヲ行フ」（四）定メツク。加ヘツク。｜點｜　靈異記、下、第廿二縁「點レ地作レ家、殖以置レ之」訓釋「點、シ女天」同卷、第三緣「點レ地」訓釋「點、左シ豆」「訓點ヲさす」「墨ヲさす」（五）燈ス。（火ヲ附クルナリ）｜點火｜　萬葉集、十七四十九「婦負川ノ、早キ瀨毎ニ、篝佐之、八十伴ノ男ハ、鵜川立チケリ」（越中國、婦負郡）源、四、夕顏廿「紙燭さしテ參レ」俚言集覽「さす、炙ヲ居ルヲ、さすト云フ、火ヲさすト云フニ同ジ」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜刺｜〔指しテ突ク意〕（一）〔突キコム。萬葉集、三十「久方ノ、天行ク月ヲ、綱ニ刺し、我ガ大王ハ、蓋ニセリ」（蓋ヲ、月ト見做シタリ、蓋ニ、綱ヲ刺シ入ルルナリ）「針ニテさす」「槍ニテさす」（二）〔毒蟲ガ、螫ニテ、毒ヲ入ル。｜螫｜　字鏡六十七「螫、佐須」狂言記、苞山伏「アッタラケタヲ、蜂ガさす」（三）縫ヒツヅル。（針ニテ刺す）｜繡刺｜「繡ヲさす」（四）結ヒツヅル。（網針ニテ刺す意）「網ヲさす」（五）〔疊ヲ作ル。（針ニテ刺し締ム）　萬葉集、十六廿九長歌「韓國ノ、虎、云云、其皮ヲ、多多彌ニ刺しテ」（皮疊ハ、絲ニテ刺貫キテ作ル）（六）貫ク。（穴ニ刺しトホス意）｜貫｜「緡ヲ、錢ニさす」（七）〔佩ブ。ワキバサム。（帶ノ閒ニ刺し入ルル意）　六帖、五「七子ノ、鞘ノロロ、ツドヒツツ、我レヲ刀ニ、さしテ行クナリ」（八）〔ハサム。サシハサム。｜插｜　古事記、中（景行）五十五長歌「隱摑ガ葉ヲ、髻華ニ佐勢」「櫛ヲさす」「簪ヲさす」「花ノ枝ヲ、瓶ニさす」（九）〔締ム。結ブ。（插しコム意ナラム）　宇津保物語、藏開、中二十「帶、云云、調ゼサセテ、さし侍ラム」源、七、紅葉賀廿三「御帶、云云、さささせ奉リタマフ」同、九、葵三十「シドケナク、打亂レタマヘルサマナガラ、紐バカリヲ、さしナホシタマフ」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜鎖｜〔棧ヲ刺して閉ヅル意（鎖ノ字音ト、和漢、暗合ス）日中行事（後醍醐天皇）「鬼ノ間ヨリ入リテ、次第ニさし木ヲハヅシテ、格子ヲ明ク」〕閉ヅ。トザス。シメル。　萬葉集、十一廿三「往カヌ吾ヲ、來ムトカ夜モ、門不閉、アハレ吾妹子、待チツツアラム」同、十二二十「門立テ、戸モ閉シタルヲ、何處ユカ、妹ガ入リ來テ、夢ニ見エツル」源、三、空蟬三「此入リツル格子ハ、マダささネバ、隙見ユルニ因リテ」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）｜差｜〔其職務ヲ指しテ遣ハス意ナラム、此語、さされト、未然形ニ用キラレテアレバ、差ノ字音ニハアラズ、和漢、暗合ナリ、倭訓栞、さす「使ヲさしツカハス、人足ヲさすナド云フハ、差ノ字ナリ、匡謬正俗ニ、科發士馬、謂之爲差ト見ユ、官府語也、日本紀ニ、差良家子爲使者、軍防令ニ、凡差兵士ト見エタル、是也」陔餘叢考「官府遣役曰差」品字箋「差遣、役使也」〕（一）〔充テテ、遣ル。ツカハス。欽明紀、廿一年九月「請差良家子爲使者、不可以卑賤爲使」　萬葉集、十六五廿「官コソ、指しテモ遣ラメ」同、廿廿三「フタホガミ、惡氣人ナリ、痾、我ガスル時ニ、防人ニ佐須」竹取物語「勅使ニハ、中將高野大國ト云フ人ヲさしテ、六衞府、合ハセテ、二千人ノ人ヲ、竹取ガ家ニ遣ハス」源、三十三、藤葉五「ワザト使、さされタリケルヲ、早ウ物シタマヘト、許シタマフ」同、五十、浮舟「人、皆、仰セニテ參リツカウマツル、宿直ニさしアテナドシツツ」大和物語、上「野大武、純友ガ騷ギノ時、討手使ニさされテ、少將ニテ下リケリ」（野大武ハ、小野好古ナリ、天慶三年、藤原純友ガ南海ノ亂ナリ）　落窪物語、一、下「俄カニ、臨時ノ祭ノ舞人ニささレタマヒケレバ」（二）〔押シ遣ル。又、行ル。オコナフ。推進「差し迫ル」「差し出ス」「差し入ル」「差し交ハス」

差し迫ル」「差し加フ」自動詞ニ、「差し懸カル」差し當タル」「差し急グ」「差し出ヅ」「差し合フ」慣用ン、慣用シテ、意味ナク用ヰラル、「差し當ル」「差し覗ク」「差し擡ル」「差し擡フ」、打ち置ぐ、掻き鳴る、ノうち、かき、ノ如シ）此差ノ字ハ、他ノ、さすト云フ四段活用ノ動詞ニ、借字トシテ、多ク用ヰラル。（三）前ヘ、延バス、伸 [illegible]、さす臨ニハ、[illegible]ノ臂ヒ、致ムル手ニハ、[illegible]ヲ抱キ」「さす手、引ク手」（四）[illegible] 棹 [illegible] 長歌 [illegible]ノ川ノ、[illegible]（五）将棋ヲ行フ。（駒ヲ前ヘ進ルナリ）（六）向クル。勸ム。勸盃 伊勢物語、八十二、[illegible]、天ノ川ノホトリニ到ル、ノ題ニテ、[illegible]ミテ杯さセト言ウケレバ」

さ・す・ス・セ・サ・シ・セ （他動、四）［殘 中止］［措］ノ、途ニモアルベキカ」殘ス。半途ニ止ム。此語、敬語トシテノミ用ヰ[illegible]、獨立シテ現ハレタルヲ見ズ。[illegible] 二十八、[illegible]、六[illegible]ニ、[illegible]乘リさしタル[illegible]作リシホトニ[illegible]、[illegible]バカリ、[illegible]キさしテ」枕草子、二、廿段「爲さすマジキ事ノ、今日、過スマジキヲ、打チオキテ」 自動詞トモナル。[illegible] 伊勢物語、下 イトマダキ[illegible]ルル、ノ、形見ニテ、枝ニ紅葉ゾ、散リさしニケル」 [illegible] 等、さすガ[illegible]、さすト云ヒ、[illegible]、いひさすト云ヒ、云云、源氏ニ、尾花ノコトヲ云フニ、また[illegible]ニ出でさしたるト見エタリ、伊勢物語ノ、見さす、言ひさす等、[illegible]ニ、殘ノ字ヲ填タリ」 [illegible]「さす、中止ノ意」

さ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ （助動）［令］ （一）他ヲ使役シテ、動作ヲ起サシムル意ノ助動詞。令ム。上二段、下二段、上一段、下一段、加變、佐變、ノ活用ノ動詞ノ未然形ニツク。す（令）ノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]、[illegible]、守ル山ノ、[illegible]八

リテ、月ノ都ノ人、參デ來バ、捕ヘさせムト申ス」（二）此語ノ連用形ノさせハ、使役ノ意ハ失セテ、唯、敬語トシテ用ヰラル、尊長ノ動作ヲ、勢アルヤウニ、[illegible]、移リタルナリト云フ。枕草子、四、四十四段「必ズ、見せさせタマヘ、[illegible]八、八十一段「御覧ずロシテ、書カセさせタマフ」[illegible]、十四、上、若菜、上[illegible]「御身ノ心ニ、エ任カセさせタマフマジク」 金葉集、九、雜、上、[illegible]、サクレさせすハ、シマシニ[illegible]」

さ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ （助動）［令爲］［爲ス］ノ未然形ノサニ、前條ノ語ノ附キテ、せさすナルベキヲ、上略シタル語（いざせさせたまへ、いざさせたまへ）爲サス。セシム。今、口語ニ、させるト云フハ、此語ノ轉ナリ。宇津保物語、[illegible]、[illegible]御前ノ朽木ニ付ヒタル草ドモ[illegible]ニさせ」 枕草子、二、十八段「ヨキ男ノ、車止メテ、物言ヒ、[illegible]内さセさせヌル」同、四、四十三段「神ナドラヘテ、[illegible]ヲさせズ、言ヒ[illegible]リ、モ[illegible]スバ、[illegible]シ[illegible]レ」[illegible]、[illegible]「サリナガラ、玉命デヤ、參ラズバナルマイ、誠ニ、採チニ[illegible]ヘテ、さすマイモノハ、宮仕ヘヂャ」

さす （名）［黄顙魚］ さすガノ條ヲ見ヨ。

ざ‐す （名）［座主］ （一座ノ主ノ義ニテ、學識ノ高僧ノ私稱ナリシガ、僧職ニ移リシナリ。釋氏要覽、上、稱謂、座主「摭言曰、有司謂之座主、今、釋氏取學解優贍穎拔者名座主、謂一座之主、古、高僧呼講者爲高座、或是高座之主」）（二）一山ノ寺務ヲ綜理スル、首座ノ僧職ノ稱。始メテ、僧職ト定メラレテ補セラレタルハ、文徳ノ嘉祥ノ仁壽四年、比叡山延暦寺ノ圓仁（慈覺大師）ナリ、歴代、相承ケテ、天台座主、又、山ノ座主、貫首、トモ云フ。[illegible]、十六、[illegible]、天台座主」[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]月

三日」源、九、葵「山のざす、何クレト、ヤンゴトナキ[illegible]モ、[illegible]、急ギマカデヌ」[illegible]、第一、おざうの下「此僧正、世ニモ、イト重ク、山ノ座主ニテ物シタマフ」（二）延暦寺ニ準ギテ、超昇寺、貞觀寺、醍醐寺、法性寺、極樂寺等ノ諸寺ニモ、座主職アリシガ、次第ニ廢絶シテ、後ニハ、獨リ、天台座主ノ專稱トナリヌ。三代實録、十一、貞觀七年十月十六日「超昇寺座主」[illegible]、廿九、貞觀十八年八月廿九日「以貞觀寺座主」[illegible]、[illegible]、[illegible]、延喜十九年[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]月[illegible]日「法性寺座主[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]二、[illegible]寺ノ座主、[illegible]日ニ、御[illegible]、授ケ奉ラセタマフ」

ざ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ （自動、左變）［坐］ （一）スワル。ヰル。[illegible]、十一、[illegible]坐不[illegible]」（二）連坐ノ罪ニ當テラル。連坐ス。[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]大臣[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]年十月、[illegible]、[illegible]、[illegible]

さすえ （名）［棰］ （插柄ノ義（注鍋）ト插ト同趣）薄板ヲ曲ゲテ作レル器、即チ、曲物ニ、柄アルモノ。杓ニ似タルモノナルベシト云フ。酒ヲ酌ムニ用ヰタルカ。倭名抄、十六「[illegible]、[illegible]、杓ト、[illegible]」名義抄「棰、サスエ」東雅（享保）十一、器用、棰、さすえ「さすえハ、插也、えハ、柄也、[illegible]之ト云フハ、今、俗ニ、まげものト云フ物、云云、猶、今モ、東國ノ民間ニハ、此物ヲ以テ、酒器トスル也」

さすが （名）［刺刀］ （さすかたなノ下略、安齋隨筆、前編、十三、さすが「五六七八寸計ノ腰刀ヲ、さすがト云フ、是レハ、さすかたなノ略語也、さすかたなハ、刺刀ニテ、敵ヲ刺殺ス刀也」下略ノ例ハ、刺

鐵、さすが、明服、あかぎ、ノ如シ）（一）古クハ、腰刀ノ稱。短刀ナリ。後撰集、十九、離別、陸奥國ヘマカリケル人ニ、火打ヲツカハストテ、書キツケ侍リケル「アリナリニ、打チテ[illegible]ク火ノ、煙アラバ、心さすがヲ、偲ベトゾ思フ」（忘すニカケタリ）藤原[illegible]抄、さすがハ、腰刀ナリ、[illegible]ヲツケタリ[illegible]昔ハ、腰刀ニ、[illegible]ツケタリ」[illegible]物語、五、五郎女に情かけし事「腰ノ刀ヲ忘レテ出デケルヲ、云云「急グトテ、さすが刀ヲ、忘ルルハ、おなしものトヤ、人ノ見ルラム」（遊君ノ詠ナリ、御腰物ヲ、可[illegible]ニカケタリ）竹斎物語、[illegible]、首、[illegible]ヲ、さすがノ下緒ニ括リツケ」武具要説、坤、五「脇指ハ、昔ハ、刀ニテ働カレヌ所ヲ、働ク也、然ルニ、さすがナドト申シテ、尺ニモ足ラヌ物ヲ、[illegible]中仕ル者モ有、之候、云云、刀、脇指サヘ、用ニ立チ得ヌ不覚人ガ、云云、さすがナド以テ、敵ヲ仕留メ可申トノ所存、覺束ナク存ゼラレ候」（二）後世、小刀ヲ、さすがト云ヘリ、腰刀ヲ、さすがトモ、鞘卷トモ云ヒキ、其鞘ノ裏ざしニ插シオク小刀、小柄ニ、名ノ、移リタルナリ [illegible]門松[illegible]上「腰ノ小刀ヲ引拔テ、既ニ、小指ニ押シアツレバ、云云」

さ‐すが （名）［刺鐵］ （刺鐵ノ下略、前條ノ語原ヲ見ヨ（國柄、くにす。莎苞、くぐつ））鐙ノ鉸具ノ中ニ作リツケテ、釘ノ如クニテ、迴轉スルモノ。力革ノ穴ニ刺シテ止ムル用トス。即チ、ミヅヲガネ。ビヂヲガネ。伊勢物語、十三段「武藏鐙、さすがニカケテ、頼ムニハ、訪ハヌモツラシ、訪フモウルサシ」（かれニモカケ、されニモカク）文永四年歌合、六帖題「打チワタス、宮瀧川ノ、瀬ヲ早ミ、武藏鐙ハ、さすが濡レッツ」

さ‐すが （副） 次條ノ（二）ヲ見ヨ。

さ‐すが‐に （副）［然爾］ （さかすがにノ約（其條ヲ見ヨ）然ヲ、さト云フ、伊勢物語ニ「さすがに、アハレトヤ思ヒケム」トアリ、眞名本ニ「然衛憐哉」ト記セ

り、然るまノ意、通俗ニ、流石ノ字ヲ當ツ、是レハ、小石ハ、急流ニ流レハスレド、淀ミ淀ミシテ流ルル義ニテ、躊躇フ意ナルベシ(孫楚ガ、漱」石枕」流ノ説ハ、附會、甚シ)有繫ノ字ヲ當テタルアルハ、繫ル所ある義ニテ、關心ノ意ニテモアルカ、道ノ字ヲ書キタルハ、偵ト通ジテ、埤蒼「道、膝 視也」トアレバ、熟視、熟慮ノ意ニモアラムカ」 (一)然ハ、思フモノノ。サハ、サリナガラ。シカシナガラ。 伊勢物語、十四段、陸奥國ノ女、男ニ戀ヒテ、ニ歌サヘゾ、鄙ビタリケル、さすがま哀レトヤ思ヒケム、往キテ寐ニケリ」 竹取物語「是レヤ、我ガ求ムル山ナラム、ト思ヘド、さすがま、恐シクオボエテ」 宇津保物語、藏開、上六十「常ニモ、訪ハムトスレド、さすがま、物サワガシクテノミナム」 源、廿六、常夏四「上方ハ、イト好キ御中ノ、昔ヨリ、さすがま隙ハアリケル」 同、三十一、槇柱十五「侍ニ、人人、騷シテ、云云、夜ハ、深ケヌラムカシナド、さすがま、直接ニハアラデ、ソソノカシ聞エテ、聲ヅクリアヘリ」 (二)サリナガラ、本ヲ失ハズト、美メテ云フ意ニモ云フ。本分ニソムカズ。ヤハリ。ヤッパリ。 夫木集、五、秋、上「秋風ノ、吹ケバさすがま、侘シキハ、世ノコトワリト、思フモノカラ」 土佐日記、正月七日「此、童、さすがま恥ヂテ言ハズ」 源、五、若紫四十「若君ハ、イトムクツケウ、如何ニスルコトナラムト、フルハレタマヘド、さすがま、聲立テテモ、エ泣キタマハズ」 大和物語、中「さすがま、下衆ニモアラネバ、人ニ雇ハレ使ハレモセズ、イト侘シカリケルママニ」 さすがトノミモ、云フ。 保元物語、一、新院御評定事「夜討ナド云フ事、汝等ガ同士軍、十騎、廿騎ノ私事ナリ、流石、主上、上皇ノ御國爭ニ、源平、數ヲ盡シテ、兩方ニアリテ、勝負ヲ決セムニ、無下ニ、然ルベカラズ」 盛衰記、三十四、木曾内裏守護事「木曾モ、流石、木石ナラネバ、理ト思ヒテ、云云」「さすがハ武士ノ娶ホドアリテ」「さすがノ惡者モ誤レリ」「さすがハエライ」

〔さすがね (名) 刺鐵 かけがねノ(一)ノ一名。 源、三十八、夕霧十 障子「コナタヨリコソ、さすがねナドモアレド」 河海抄「かけがねノ事」 藻鹽草(室町時代)六、居處「さすがね、カキガネ也」

さすかひな (名) 差肱 〔肱ヲ差出スナリ〕 舞樂ノ舞ノ手。差手。 體源抄(永正、伶人、豐原統秋)九、舞譜名目、指肘「左、右、手ヒロゲテ、手ノサキヲハヌルヲ云フ」 謠曲、高砂「さすかひなニハ、惡魔ヲ拂ヒ、收ムル手ニハ、壽福ヲ懷キ」

さすがみ (名) 指神 (一)陰陽家ノ語。天一神。ヒトヒメグリ。 合類節用集(元祿)三、神祇門「指神、本名、阿律智神、陰陽家有」説」 倭訓栞、さすがみ「天一神ナリト云ヘリ、ふさがりノ神ナリ、梵ニ、阿律智ト云フ、今ノ俗、何事ニモ、さし出る者ヲ、斯ク云ヘリ」 (二)さすのみこノ條ヲ見ヨ。

さすがり (名) やさすがりノ條ヲ見ヨ。

〔さずき (名) 假庪 〔東雅、八、宮室部、壁「假庪、狹敷ノ轉(鹿尾藻、ひずき)敷ハ、敷地ナドノ、敷ナリ(百敷ノ語原ヲ見ヨ)ササヤカニ構ヘタル意ニテ、さずき棚ト云フガ、成語ナルベシ、後ニ轉ジテ、狹敷屋トナル(棧敷ノ語原ヲ見ヨ)説文「庪、木作」庪」集韻「庪閣、藏」食物」也」 禮記、内則篇、註「閣、以」板爲」之、庪」食物」也」〕 (一)假リニ作レル棚。 神代紀、上三十五「釀」八醞酒」、幷作」假庪八間」、各置」一口槽」而盛」酒」 假庪、此云」佐受岐」」 古事記、上廿九「作」八門」、毎」門結」八佐受岐」、毎」其佐受岐」置」酒船」」 (二)轉ジテ、假リニ構ヘタル床。假床トモ書ケリ。(棧敷ノ(一)ヲ併セ見ヨ) 神功紀、攝政元年「麛坂王、忍熊王「二王、各居」假庪」、赤猪忽出之、登」假庪」咋」麛坂王」而殺焉」 雄略紀、二年七月、「百濟池津媛、縛」於」石河楯」「使」夫婦四支於木」、置」假庪上」、以」火燒死」 天文本、倭名抄、三、居宅「假床、顯宗紀云、假床、此云」佐受岐」、今案、假構」屋內」床之名也」國史八、神祇部、一ナリ」

さすおと (名) 指事 〔コレヲ、完了ニ云ヘバ、させる事トナル〕 ココロザスコト。 沙石集、二、下、第八條「或ル僧、眞言ノ志侍ルニ、さすおとアリテ、關東ヘ下向シ侍リ」

さそざを (名) 杈首棹 さそ(杈首)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さすだけの (枕) 刺竹乃 〔根ざし、枝ざし、葉ざし繁れる竹の如きノ意(倭訓栞、稜威言別、十)さす(發)ノ條ヲ見ヨ(萬葉集、十一 十四「刺楊、根張ル梓ヲ」)同、十三 廿八「刺竹、葉隱リニタリ」同、繁榮ヲ以テ、君(天皇)、皇子ヲ稱ヘ、皇子ノ宮ナルヲ、言馴レテハ、略シテ、さすだけの大宮ト云ヒ、又、大宮ヲ略シテ、さすだけの舍人トカカルナリ、あしびきの山ヲ略シテ、あしびきの(山ノ)木間、ト云ヒ、ぬばたまの夜ナルヲ、ぬばたまの(夜ノ)夢、ト云フガ如シ〕 (一)〔君、皇子、大宮、舍人、ナドノ枕詞。 推古紀、廿一年十二月、聖德太子ノ御長歌「佐須陀氣能、枳彌ハヤ無キ」 萬葉集、二 廿八 長歌、一本「刺竹之、皇子ノ宮人」 同巻五 三十 長歌、一本「刺竹、皇子御門ヲ」 同、十五 三十一「佐須太氣能、大宮人」 同、十六、長歌「刺竹之、舍人男モ」 倭訓栞、さすたけ「萬葉集ニ、多ク、大宮ノ枕辭ニ云ヘリ、舍人トモツヾケルハ、大宮ヲ省キタルナリ、聖德太子ノ御歌ニ、さす竹の君、トツヾケサセタマヘリ、千尋ノ藤ヲ祝ヒ、千年ノ齡ヲヨソヘタル詞ナルベシ、儀式帳ニ、五百枝刺、竹田ノ國、トモ見エタリ、サレバ、刺竹モ、枝葉ノ、さし茂リタル意ニヤ」 (二)此枕詞ヲ、後ニハ、ささ竹の、ト、轉ジテ、歌ニ詠メリ。 新勅撰集、七、賀、清水臨時祭「散リモセジ、衣ニ摺レル、ささ竹の、大宮人ノ、カザス櫻ハ」 續古今集、一、春、上、百千鳥「今朝コソ來鳴ケ、ささ竹の、大宮人ニ、初音待タレテ」 續千載集、五、秋、下、竹間月「ささ竹の、大宮人ハ、訪ヒモ來デ、葉分ノ月ノ、影ノミゾ見レ」 倭訓栞、後編、ささたけ「笹竹也、大宮トツヾケルハ、モト、さすたけナルヲ、仙覺、ささ竹ト誤メリ、是レハ、萬葉集、十二 廿八「左檜隈檜、隈河」トアルヲ、古今集、廿、大歌所ニ「ささのくま、ヒノクマ川」トシタルニ、同ジカルベシ」

さそづか (名) 杈首束 さそ(杈首)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さすて (名) 差手 さすかひな(差肱)ニ同ジ。(次條ヲモ見ヨ)

さすてひくて (名) 指手引手 舞ノ手振ニ云フ語。伸ブル手ト、收ムル手ト。サスカヒナ、ヲサムルカヒナ。 俚言集覽「指す手引く手、「森寺玉山書、實録「タダワ、サリト、踊扇ノ、さす手引く手モ、慈ノ中ダチ」

〔さすなべ (名) 銚子 〔注す鍋ノ義〕又、さしなべ。鍋ノ類、提梁アリ、注口アリテ、汁ナド煮テ、他ノ器ニ注グモノ、今云フ、鉉鍋、燗鍋ナルベシ。後ニ、酒ヲ盛リテ、杯ニ注グ銚子ト云フモノ、用ヲ變ジタルナラム。 萬葉集、十六 十七「刺名倍ニ、湯沸カセ、子等、櫟津ノ、檜橋ヨリ來ム、狐ニ浴ムサム」 字鏡 四十「鍋、左須奈戸」 倭名抄、十六、金器類「銚子、上有」鐶也、温器也、佐之奈閉、俗云、佐須奈閉」(鍋文)」

さすのみこ (名) 指神子 〔倭訓栞、さすのみこ「さす神ヨリ出デタル詞ニヤ、或ハ、掌ヲ指スガ如キノ意ニヤ、花鳥物語ニ見ユ」みこハ、巫ナルカ〕 陰陽道、卜筮ナドニテ、事ヲ、未然ニ指示スコト、神ノ如キヲ稱スル語。又、指神。 盛衰記、四、盲、事「大炊御門堀川ニ、盲ノ、占スル入道アリ、占ヒ云フ時日ヲ違ヘズ、人、皆、さすのみこト思ヘリ」 同、十二、一院鳥羽殿ニ移給事、陰陽頭泰親、云云、晴明六代ノ跡ヲ傳ヘテ、天文ノ淵ヲ究シ、占文ノ秘術ニ極ハメタリ、推條ハ、掌ヲ指スガ如ク、卜筮ハ、眼ニ見ルニ似タリ、一事モ違フコトナケレバ、異名ニハ、

[illegible]如シ、人、呼ビテ、指樽ト云フ」

さす・ふ [illegible] ノ條ヲ見ヨ、

さすまた（名）指股 [illegible]義[illegible]ノ(二)及、さんまたノ條ヲ併セ見ヨ）さつまたト云フハ、音轉ナリ（消つ、けす。[illegible] 江戸時代[illegible]云ヘリ。指股ハ、さつまたトモ云フ、其[illegible]ノ如シ、故ニ直チニ、撞木トモ云フ、敵ヲ突キテ、刃物ナド、鉤シテ取ル。袖搦ハ、[illegible]、其中央ヨリ、又、上下ニ[illegible]、敵ノ袖、又ハ、[illegible]、故ニ、[illegible]アリク」

さすやなぎ（名）刺楊（楊ハ、枝ヲ切リテ、插木トスルニ、能ク根ざすモノナリ[illegible]」

ノナレバ、根張るニカケタリ、韓衣、若紫ナド云フ[illegible]ノ、さし柳、[illegible]クモ今年、生エニケルカナ」

さすらは・す・ス・セ・サ・シ・セ（[illegible]）流離 [illegible]ノさすらふ（四段活用）ノ敬語、[illegible]サスラヒタマフ。[illegible]カリノ程ヲ、引キハナチテ、モテさすらはしタマヒケムホドノ悲シサ、恨メシサモ、言ヒ知ラズ、オボサル」

さすら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）流離（さハ、避るノ語根、すらふハ、志らふ(合)ノ轉(其條ヲ見ヨ)さりあらふ、さすらふ、さそらふト轉ジタル語ナルベシ（[illegible]、あどる、すざる。[illegible]）あぢらふ。誘ふ、さすふ。現身、うつそみ）彷徨ふノ語根ヲ併セ見ヨ」 家ヲ避リテ、サマヨフ。寄邊ナクテ、ソコハカトナク、迷ヒアルク。又、さそらふ。[illegible] 四十六、總角廿五「人ハ、高キモ、クダレルモ、心ノ外ニ、アルマジキサマニさすらふ[illegible]ニコソ[illegible]ルメレ」 狭衣、二、下廿九「深キ山里ナドニ、モテさすらはふモ、アルカヒ無カルベシ」 金葉集、八、[illegible]、下「送リテハ、返レト思ヒシ、魂ノ、行キさすらひテ、今朝ハナキカナ」 新千載集、十七、雑、中「捨テヌ世ハ、[illegible]トモノトカツ、[illegible]リナガラ、何ニさすらふ、我ガ身ナルラム」 [illegible]賢、云云、丹波國、村雲ト云フ所ニゾ、暫シ、さすらひタマヒケル」 倭訓栞、さすらふ「日本紀ニ、流離、流浪、[illegible]云、日本[illegible]ニさそらひ、トリトリニ」

さすら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（自動、下二）流離（前條ヲ見ヨ、四段活用ヲ、下二段ニ轉ジテ、同意義ナルカ、[illegible]ふる[illegible]）前條ノ語意ニ同ジ、[illegible] 六年「[illegible]」[illegible]ジリさすらへテ」 玉葉集、十八、雑、五「嶺ミ來シ、我ガ心ニモ、捨テラレテ、世ニさすらふる、身ヲ厭フカナ」 撰集抄、五、第一條「アチコチさそらへ行キケルニ、越路ノ方ニ、落チトドマリテ」

さすりぎ（名）摩木 さるすべりヲ見ヨ。

さす・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）摩（さハ、發語、摩るナリ（さ迷ふ、さ障ふ）あ摩る、同趣、倭訓栞、さする「摩ヲ訓メリ、爽摩ノ義也」） 手ニテ、輕ク摩ル（痛ム處ナドヲ）[illegible]ロシさすれ、ト宣ヘバ、ソノママニ、フクラカナル手シテ、アケナロシさすり[illegible]ヲさす[illegible]、予日カナ」[illegible]「[illegible]」 撰アツ、さすりツ」

ざすゐ（名）坐睡 キネムリ [illegible]

さすを（名）黄顙魚（[illegible]魚ノ約、腮下ノ鰭ニ、鋸刺アリテ、刺す、ざすト云フハ、略訛ナリ」 河魚、ぎぎノ一名。加賀ニテ、ざす。[illegible]ノ江ニ、[illegible]さすを舟[illegible]ガクレ」[illegible]二、黄顙魚、ぎぎ「加賀ニテ、ざす」

させ（名）蟋蟀 きりぎりす（蟋蟀）ノ異名。 後拾遺集、序「秋ノ蟲ノ、させ[illegible]ナク、[illegible]ノ府ノ、サハト多カレド」[illegible]させ 古[illegible]ニ、「[illegible]ノ名ハ、させト云フ、ソレニ、つづりさせ、ト添ヘタルナリ、後拾遺ノ序ニ、云云」 重修本草綱目啓蒙、廿八、[illegible]、させ、[illegible]ノドノキリギリス、共ニ、古歌、つづりさせ、[illegible]」

さ・せ（助動）令 さす(一)さす(二)ノ條ヲ見ヨ。

させい・ほう・せい（感）（倭訓栞、させへ[illegible]牛ヲ使フニ、左スルヲ、させト云ヒ、右スルヲ、へうせト云ヘリ、左せ表せノ義ニヤ、云云、又、へうせヲ、ほうせトモ云フ也」） 牛ヲ進マシムルニ、發スル聲。 狂言記、牛馬「コレヘ出ヨ、牛モ、コレヘ出ヨ、サア驅ケイ、馬、ドウドウ、牛、させいほうせい、させいほうせい、サア勝ッタゾ、勝ッタゾ」 ト叢[illegible]牛ノ[illegible]牛モマタ、二月ノ雪カ、梅花ヲバ、折リテ頭ニ、させいへうせい」

させう（名）些少 少シナルコト。イササカナルコト。「些少ノ違ヒアリ」

ざせう（名）坐礁 のりあげノ條ヲ見ヨ

させうしやう（名）左少將 左近衛少將ノ略 近衛府ノ條ヲ見ヨ。

させうべん（名）左少辨 官名、スナイオホトモヒ 辨ノ條ヲ見ヨ。

させき（名）嗟惜 ナゲキ、ヲシムコト。 宋史、[illegible]

させき（名）佐蹟 藤原佐理ノ筆蹟ノ稱、三蹟ノ條ヲ見ヨ。

ざせき（名）座席坐席 坐ルトコロ、座所。 [illegible] 平治物語、一、光頼卿參内事「今日ノ座席コソ、ヨニ、シドケナウ見エ候ヘ」「座席ヲ定ム」

ざせつ（名）挫折 挫ケ、折ルルコト。 後漢書[illegible]「[illegible]」「[illegible]、挫折入」

サゼッション（名）（英語、Suggestion）(一)提出。提起。(二)暗示。諷示。

させほせからかさ (句) 〔緊干傘〕 傘ヲ扱フニ云フ語。保存法ニ云フカ。 俚言集覽「させほせ傘、雨ニ立テナ傘、人ニ貸スナ傘」阿蘭陀丸二番船、延寶、西山宗因)「袋ぬデ見タ瓢、一郎、唯今、喝、物ヲ云フ句ニ「御法ノ雨ニ、させほせ傘」 博多小女郎浪枕(享保、近松作)長者經「させほせ傘、人ニ貸スナ關係」

させぼのき (名) 〔烏草樹〕 さしぶのきノ條ヲ見ヨ。

させん (名) 〔左遷〕 〔史記正義「秦漢以前、用レ右爲レ上」漢書音義「人道尙レ右、捨二天子一仕二諸侯一、爲二左官一也」〕 ナガレギ。朝廷ノ內官ノ官人ノ、罪アリテ、外官ニ貶シ任ゼラルルコト。因リテ、或ハ、其人ヲ、流人ト云ヒ、其所ヲ、配所ト云フ。又、左降。 史記、張丞相傳「高祖曰、吾極知二其左遷一、然吾私憂二趙王一、念非レ公無二可者一」 續紀、廿二、天平寶字四年五月、右大舍人大允、大伴宿禰上足、坐下記二災事十條一、傳中行人間上、左二遷多褹島掾一」 東原抄、下、太宰府掃師「爲二大臣之人、左遷之時任二擢師一、然而不レ可レ知二府務一也」 太平記、一、玄蕃文談事「一聯之句ハ、汝、我ニ預、左遷ノ愁ヲ告ゲ知セルナリ」 北夢瑣言「李德裕、左降至二朱崖一」 續紀、廿、天平寶字元年七月、勅「右大臣豐成者、事レ君不忠、爲レ臣不義、云云、宜下停二右大臣任一、左降中太宰員外帥上」

さぜん (名) 〔作善〕 〔身、口、意、ノ三業ヲ捨テテ、善キ行爲ヲ作ス義ヨリ、云フ〕 佛教ニテ、佛像ヲ造リ、堂塔ヲ建テ、寫經スルナド、一切ノ善事ヲスルコト。法會ヲ營ミ、追善、供養スルヲモ云フ。 徒然草、七十二段「願文ニ、作善多ク書キ載セタル」 太平記、四、笠置囚人死刑流罪事「入道、泣ク泣ク、其遺骨ヲ頸ニ懸ケ、樣樣ノ作善ヲ致シテゾ、菩提ヲ弔ヒ奉リケル」 康富記、寶德三年七月五日「細川奥州內相父壽氏之百年忌、今日被レ修二作善一」

ざぜん (名) 〔座前〕 書狀ノ名宛ノ脇附ニ記ス敬語。座下。

ざゼン (名) 〔坐禪〕 〔禪ノ條ヲ見ヨ〕 禪家ノ行ニ、坐ヲ組ミテ、靜慮、冥想シ、見性成佛ノ工夫ヲ凝ラスコト。結跏趺坐。 濟北集、十二、通言「坐者、心之見二儀容一者也、禪者、見二思想一者也、云云、名二心之行相一曰二坐禪一也」 四部錄、坐禪儀「欲二坐禪一時、於二閑靜處一厚敷二坐物一寬掛二衣帶一、令二威儀齊整一、然後、結跏趺坐、云云」 平治物語、一、叡山物語事「帽ヲ懸ケテ、塗リタルモノアリ、大師、坐禪ニ、御胸痛ム時、是ヲ以テ押フ」

ざゼン-ゴマ (名) 〔坐禪獨樂〕 ヨク廻ル獨樂ノ、立チテ、動ク狀ノ見エザルモノノ稱。 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)當世獨樂盡「搖ギモセヌハ、釋教ノ觀念獨樂ヤ、坐禪獨樂」

ざゼン-さう (名) 〔坐禪草〕 〔俚言集覽、ざぜんさう「一名、だるまさう、云云、花ノ形、達磨ノ坐禪ノ狀ニ似タリ」〕 草。葉ハ、闊大ニシテ、葉柄、長シ、春ノ末、花莖ヲ出ス、短クシテ、直立ス、肉質ノ花苞、厚クシテ、先端、尖リ、花軸ヲ包ム。又、ダルマサウ。

ざゼン-あッとう (名) 〔坐禪納豆〕 〔坐禪スル僧、コレヲ食ヘバ、小便ヲ止ムト云フ、法論味噌モ、然リ〕 後ニ云フ、濱名納豆、是レナルベシト云フ。 桂川地藏記(弘治)「坐禪納豆、法論味噌」

ざゼン-ぶすま (名) 〔坐禪衾〕 坐禪ヲ行フ時、着スル衣。 狂言記、花子「汝ハ、此ノ坐禪衾ヲカブッテ、某ガ歸ルマデ、坐禪ヲシテクレイ」

ざゼン-まめ (名) 〔坐禪豆〕 (一)前前條ノ語ニ同ジカルベシ。 犬子集、一千句(元和)「坐禪ノ床ニ、アルカヒモナキ」犬子集「酒盛ニモ、ナラサル豆ノ、コマカニテ」 昨日は今日の物語(寬永)「長老サマへ、與六大夫殿ノ御方、御見舞ニ、ざぜん豆ヲ持テ、御越シアリ」(御方ハ、妻ヲ云フ) (二)今、東京ニテ、黑大豆ヲ煮デテ、砂糖、醬油ニテ、甘ク煮染メタルモノヲ云フ。 江戶名物詩「玉木煮來坐禪豆、千瓢銀杏小梅新、主人貫初知何歲、定是九年面壁春」(玉木屋ハ、江戶時代ヨリノ煮豆屋ニテ、芝口町ニアリテ、名代ナリ)

させ-も (名) 次條ノ語ノ下略、さしもぐさノ條ヲ見ヨ。

〜させも-ぐさ (名) 〔指燒草〕 さしもぐさノ條ヲ見ヨ。

させる (連體) 〔指せりノ連體形、指すノ完了ナリ〕 (一)さしたるノ(一)ニ同ジ。 和泉式部集、二「我レモサゾ、思ヒヤリツル、夜モスガラ、させるツマナキ、宿ハ如何ニト」 (二)さしたるノ(二)ニ同ジ。「させる才學ハ無ケレドモ、德望アル人ナリ」

⁂さ・せる (助動) 〔令〕 令すノ口語。

〜さ-ぞ (副) 〔嗻〕 〔然ニ、ぞヲ添ヘタル語、漢書、韓信傳「諸將、皆、嗻然、陽應曰、諾」註「嗻、音撫、不二精明一也」〕 然ゾ。サヤウニゾ。ソノ如クニ。領承スル意ニ云フ。 源、十二、須磨「げニ、さぞ思サルラム」 拾玉集(慈鎭)一「さぞト言ハバ、マコトニさぞト、アドウチテ、否ヤ諾ヤト言フ、人ダニモ無シ」

さ-ぞ (副) 〔嗻〕 〔前條ノ語、然ぞアラムト推シ量ルヨリ轉ジテ、他ヲ思ヒヤル意ニ移レル語ナリ〕 他ノ上ヲ推シ量ルニ云フ語。推量スルニ、サダメシ。サゾカシ。 萬代集、六、冬「網代守、さぞ寒カラシ、衣手ノ、田上ノ川モ、凍ル霜夜ハ」 拾玉集(慈鎭)一「秋ハタダ、さぞヤ悲シキ、宜シコソ、鹿モ聲ナバ、惜シマザラナム」「さぞ案ジテ居ルデアラウ」

さぞ-かし (副) 〔然〕 〔前前條ノ然ぞニ、感動詞ノかしヲ添ヘタル語〕 (一)然ぞト云フヲ、一段、強メテ云フ語。 盛衰記、十七、藏人取レ鷲事「入道、少シ色ナホリテ、さぞかし、さぞかしトテ、イササカ、心安クゾオハシケル」 (二)ツラツラ、推シハカルニ。サダメシ。「さぞかし難儀シテ居ルデアラウ」

さ-そく (名) 〔早速〕 〔早速ノ約、通夜、つや〕 事ノ眞際ニ臨ミテ、速クモノスルコト。卽座。臨機。 謠曲、烏帽子折「熊坂モ、大太刀使ノ曲者ナレバ、さそくヲツカッテ、十方切、八方拂ヤ、蜘車」「さそくノ智慧」さそくノ返答」

さそひ (名) 〔誘〕 サソフコト。イザナフコト。誘引。 貞德文集(寬永)「昨日壬生之念佛へ無二御誘一、出シ拔カレ候事、遺恨千萬」「さそひヲカク」さそひニ往ク」

〜さ・そ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 〔誘〕 〔ささ(誘フ意)、そそ(動キ立ツ意)ヲ活用セシム(各條ヲ見ヨ)さすふハ、音轉ナリ(襲、おすひ。薄、そそき)〕 又、さすふ。勸メテ、共ニ行ク。イザナフ。誘引ス。モヨホス。 字鏡九「勸、於レ人、伊佐奈不、又、佐曾不」 名義抄「誘、サソフ」 古今集、十八、雜、下「侘ビヌレバ、身ヲ浮草ノ、根ヲタエテ、さそふ水アラバ、往ナムトゾ思フ」 後撰集、一、春、上「鶯ノ、鳴キツル聲ニ、さそはレテ、花ノ下ニゾ、我レハ來ニケル」 萬葉集、十六廿八旋頭歌、佐須比立テ、率テ來ナマシヲ」

サソラ (名) 〔採蘇羅〕 〔倭訓栞、さそら「伽羅ニ云フ、蘇國ノ名也ト云ヘリ」〕 六國香ノ一。 かうあはせ(香合)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さ-そら・ふ (動) 〔流離〕 さすらふ(流離、四段、下二段)ノ條ヲ見ヨ。

〜さそり (名) 〔蜾蠃〕 〔螫針蜂ト云フガ成語ナルベシ、さすはりガ、さそりト約マリ、さそりト轉ズ(多蠅、さばへ。ひさめく、ひそめく)字鏡「螫、佐曾利」〕 似我蜂ノ古名。スガル。コシボソバチ。

サザリバチ、[illegible]字[illegible]、又、佐佐[illegible]」[illegible]治字[illegible]ハ、[illegible]一名、[illegible]一[illegible]ジ」[illegible]「ササリハチ」字鏡集「蜾蠃、ササリ」

さそり（名）【蠍】〔前條ノ語ヨリ移ル、倭名抄、[illegible]さそり「[illegible]」[illegible]人、蝎ヲ[illegible]スルハ、[illegible]ナルベシ、[illegible]、人ヲ[illegible]シテ蟄スルコトアルカ〕蜘蛛類ノ蟲蟲ノ名。[illegible]ノ産、[illegible]、體ハ、扁平ニシテ、七環節アリ、尾ハ、細長クシテ、六環節アリ、こんばうノ尾ノ如シ、[illegible]長サ五寸許、全身、色、青シ、[illegible]ニ、四對ノ脚アリ、頭ノ方ニ、大ナル兩手ノ如キモノアリテ、其端、蟹ノはさみニ似タリ、尾端ニ、毒針アリテ、生キタルモノ、螫サバ、往往、人命ヲ斃ス、漢方醫、此蟲ヲ藥用トシタリ、全身ナルヲ、全蝎ト云ヒ、尾ヲ、蝎梢ト云フ。

さた（名）【沙汰】〔[illegible]〕沙ヲ、水ニテ淘リテ、沙金ヲ擇リ取ルコト、物ノ、精粗ヲ擇リ分クルコト。淘汰。[illegible]

さた（名）【沙汰】〔前條ノ語ヨリ、理非ヲ擇別スル意ニ移ル、或ハ、沙汰ハ、借字ニテ、定ノ義ナリ、トノ說モアレド、清濁ノ差モアリ、妥當ナラズ〕（一）政務ヲ、裁斷、處分スルコト。其職ニ在ル人ヲ、沙汰人ト云フ。名義抄「沙汰、タダス」[illegible]四年[illegible]月九日「武藏國諸雜事等、仰在[illegible]」[illegible]五年七月三日「可レ召二進武藏國、淺草、大工、字郷司一之旨、被レ下二御書於彼所沙汰人等中一[illegible]」[illegible]元年十月五日「下二[illegible]奥國諸[illegible]所一云云、御目代不レ下向之間、[illegible]云云、可レ致二沙汰一」[illegible]往來（元弘三年三月）「[illegible]領入部云云、[illegible]之境、[illegible]不レ可レ被[illegible]所、[illegible]致二[illegible]之沙汰一之條、[illegible]云云、[illegible]沙汰人等、地下目錄、云云、可レ被二召進一也」「公事沙汰」[illegible]（二）官府ノ指令、命令。官命[illegible]治承五年七月三日「[illegible]事、有二[illegible]沙汰一[illegible]」同、[illegible]元年十一月十六日[illegible]毎月[illegible]之條、[illegible]也」（三）君ノ命。御諚。君命[illegible]元年十月廿日「件[illegible]可レ被[illegible]事、同月十六日、於二京都一有二御沙汰一」（四）知ラセ。オトヅレ。左右。通知。報道　宇治拾遺、一、第三條「今日ヨリ、此翁、カヤウノ御遊ビニ、必ズ參レ、ト云フ、翁、申スヤウ、さたニ及ビ候ハバ、參リ候フベシ」「沙汰無シ」無沙汰」（五）ウハサ。風說。評判。評議。流言　宇治拾遺、一、[illegible]、何ノカ取ルベキト、各云ヒさたスルニ、横坐ノ鬼ノ云フヤウ」「世上ノ取沙汰」

さだ（名）時　さだすぐノ條ヲ見ヨ。

さだ（名）【處分】〔定むノ語根、定物、定むノ條ヲ併セ見ヨ〕（一）取リ扱フコト。處分スルコト。[illegible]祭ハ進二官經一處分ハ然後行レ之」（官ハ、太政官ナリ、[illegible]）[illegible]竹取物語[illegible]上ナルさだシテ、[illegible]上セサス二（かぐや姫ノ[illegible]上ナリ[illegible]）[illegible]三、十四條「國司、下リテ、國ノさだドモアルニ」同、七、[illegible]（二）[illegible]人ノ、言と定ムルコト。萬葉集、十一廿「人間守リ、蘆垣越シニ、吾妹子ヲ、相見シカラニ（相見シモノヲ）、事ゾ左大多キ」[illegible]「色[illegible]ニ言ヒ定ムル人言ノ、多キヲ云ヘリ」

さだ（名）【狹田】〔狹ハ、借字、眞田ノ義ニテ、稱ヘタル語ナリト云フ、眞田ト云フモ、同意、狹名田ハ、狹田、長田ニ準ヘテ號ケタルニテ、名ハ、長ノ借字ナリト云フ〕天上ナル大御神ノ御營田ノ名。又、狹名田。神代紀、上[illegible]「以二其稻中一始[illegible]天狹田、及、長田一、其秋、垂穎、八握[illegible]也」同、下[illegible]「以下定田號曰二狹名田一以二其田稻一[illegible]天甜酒二」倭姫命世記「[illegible]」

さだ（副）【蹉跎】（一）ツマヅキテ、進ミ得ヌ狀ニ云フ語。（土佐國、幡多郡ニ、蹉跎崎ト云フ、アリ）[illegible]（二）人ノ、世ニ不遇ニシテ、志ヲ遂ゲ得ヌコト。[illegible]

さだいし（名）左大史　官名。史ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

さだいじん（名）【左大臣】〔上ニ、太政大臣アレド、別ニ職掌ナク、則闕ノ官ナレバ、左大臣ガ、長官ナリ、いちのかみト云フハ、第一の長官ノ義ナリ、攝關ヲ、一の人、一の所ト云フト、同趣〕ヒダリノオホキマウチギミ。一上。一大臣。太政官ノ長官、職事官ノ、最高ナルモノ。一切ノ朝廷ノ政務ヲ綜理ス。左丞相。左相國。左相。左相府。左府。左僕射。次位ニ、右大臣アリ、左大臣、攝關トナル時ハ、政務ヲ、右大臣ニ讓ル　[illegible]

さだいじん（名）【左大神】隨身門ヲ見ヨ。

さだいしやう（名）【左大將】左近衛大將ノ略。近衛府ノ條ヲ見ヨ。

さだいべん（名）【左大辨】官名、オホイオホトモヒ。辨ノ條ヲ見ヨ。

さたう（名）茶湯　ちゃたう（茶湯）ヲ見ヨ。

さたう（名）左纛　支那ニテ、天子ノ車輿ノ、左方ノ上ニ樹ツル、羽毛ニテ飾レル幟。史記、項羽紀「乘二黃屋車一傅二左纛一」

サたう（名）【蔗糖|沙糖|砂糖】〔梵語、Sarkara.（甘蔗、沙糖）佛語、Sucre. 獨語、Zucker. 英語、Sugar. 甘精、Saccharine.）ノ首音ヲ取リテ、支那ニテ、蔗ト音譯シ、味ノ甘キヲ以テ、漢語ノ糖ノ字ヲ添ヘテ、蔗糖ト、熟語ニシタル、梵漢雙擧ノ語ナリ（閑部疏ニ、餡蔗ト見エ、又、甘蔗ト云フ、共ニ、雙擧ナリ）後ニ、草ナルニ因リテ、蔗トシ、其形ノ、沙ノ如クナル意ニ寄セテ、沙糖トシ、又、沙ノ俗字ナル、砂ト記スナリ、今、習慣ニヨリ、俗字ヲ用ヰル〕甘蔗ノ莖ヨリ取レル、沙ノ如キモノ。味、甚ダ甘シ、食物ノ味ヲ助ク。白砂糖ノ製法ハ、甘蔗ノ、冬ニ至リテ熟シタル莖ヲ刈リ、搾リテ、汁ヲ取リ、蠣灰ヲ加ヘテ煎煉ス、其液ヲ、白下糖ト云フ、（此儘ニテモ、用ヲナス）コレヲ壓搾リ、精ヲ取リテ、再ビ製煉シテ、固マラス、色、赭黃ナリ。白糖　現今ニテハ、白糖ニ、亞硫酸[illegible]、骨炭濾過漂白法ナドアリ。又、其粗製ニシテ、色ノ紫黑ナルヲ、黑砂糖ト云フ　紫糖　此外ニ、太白、三盆、氷砂糖ナドアリ、各條ニ

注ス。砂糖ハ、他ノ植物ヨリモ、採ル、甜菜糖、蘆粟糖ナドモ、アリ。本草和名「蔗」(延喜)下三十「沙糖、甘蔗汁作之、唐」 事物異名「蔗草」 說文「糖、飴也」 曆袋(弘安)九「沙糖ハ、唐ノあめ也」 廣韻「砂、俗沙字」 本草綱目、三十三、沙糖「笋ニ甘蔗汁ヘ煎成紫色、李時珍云、法出西域、唐太宗、始遣人傳其法入中國」 鑑眞東征傳(群書類從)ニ、奈良朝、天平勝寶六年、唐僧鑑眞、來朝ス、其本國ヲ發スル時、船舶ノ數百品ヲ載ス、其中ニ「蔗餹等五百餘斤、甘蔗八十束」(太宗ヨリ、百餘年後ナリ) 庭訓往來(元弘)十月「笋羊羹、砂糖羊羹」 砂糖ハ、スベテ舶來ナリシニ、享保年中、甘蔗、始メテ、琉球ヨリ渡リテ、諸國ニ栽培スト、重修本草綱目啓蒙、廿二、甘蔗ノ條ニ見ユ。

さ-だう (名) 左道 〔出典ヲ見ヨ〕 不正ノ道。常ニ違フ術。 類聚「人道僞、右狩、貴、故非正之術、曰左道」(左遷ノ語原ヲ見ヨ) 禮記、王制篇、疏「左道、謂邪道」 顏師古、注「僻、左之道、謂不正也」 漢書、杜欽傳「背經術、惑左道」 庭訓往來(元弘)二月「近隣之名花、以步行之儀、思立事候、雖有左道之樣、以異體之形、明後日御同心候者、本望也」

さ-だう (名) 茶道 (一)茶湯ノ技。茶道ノ條ヲ見ヨ。 (二)武家時代、茶道ノ事ヲ司ル役目、御茶道ト云フ。江戸城ナルハ、剃髮、僧衣ニテ勤メタリ、大名ノ登城スルヲ案内シ、辨當、茶ナドノ世話ヲシ、其衣服、刀劍ヲ扱ヘリ。 蜷川親基日記、寬正七年二月廿五日「[illegible]御成、云云」 [illegible] 信長公記、天正三年十月廿八日「京[illegible]云云、[illegible]下候、茶道名[illegible]也」

サたう-きび (名) 砂糖黍 〔さたう(砂糖)ノ條ヲ見ヨ〕 形、蜀黍ノ如クニシテ、葉、梢、狹シ、苗ノ高サ、丈餘ニシテ、葉、互生ス、莖、太クシテ、竹ノ如ク、內、實チテ、皮、堅ク、穰、柔カニシテ、たうきびノからノ如シ、節ハ、下ノ方、密ニシテ、梢ニ至リテ、漸ク長シ、熱地ニテハ、穗ヲナシテ、花アレドモ、日本內地ニテハ、花無シ、冬、根ヲ去リ、莖ヲ土中ニ貯ヘテ、春、莖ヲ切リテ植ウレバ、芽ヲ生ズ、專ラ、莖ヲ採リテ、砂糖ヲ製ス、品類、多シ、生ニテ食フベクシテ、砂糖トナラザルモアリ。サタウノキ。サタウダケ。甘蔗

さだう-ぐち (名) 茶道口 茶室ノ勝手口ニ設ケタル、低キ瓦燈口。

サたう-だいこん (名) 砂糖大根 草ノ莖ノ高サ二三尺、葉ハ、卵形ニシテ、缺刻多シ、夏ノ末、黃綠ナル小花、穗ヲ成シテ開ク、根ハ、紡錘ノ形シテ、液ヨリ、砂糖ヲ製スベシ。歐羅巴洲、地中海沿岸ノ原產ノモノナリ。甜菜。

サたう-だけ (名) 砂糖竹 〔其莖、竹ニ似タレバ云フ〕 砂糖黍ノ一名。

サたう-づけ (名) 砂糖漬 果、瓜、ナド、砂糖ニ漬ケテ、菓子トシタルモノ、煤デテ、白砂糖ニテ煮ツメテ、貯フ。沙果 和漢三才圖會(正德)百五、釀造「沙糖漬菓子「蜜柑、佛手柑、天門冬、生薑、冬瓜之類、皆漬砂糖、以爲菓子」

サたう-のき (名) 砂糖木 さたうきびニ同ジ。

サたう-まんぢゅう (名) 砂糖饅頭 さたうやうかん(砂糖羊羹)ノ條ヲ見ヨ。

サたう-まめ (名) 砂糖豆 大豆ヲ炒リテ、熱ニ乘ジ、麪糊ヲ用ヰ、砂糖ヲ塗シタルモノ。糖豆

サたう-みつ (名) 砂糖蜜 砂糖ニ、酒ヲ加ヘテ、煮タルモノ。 重修本草綱目啓蒙、廿七、蜂蜜「砂糖蜜アリ、白キモノハ、白糖ニ、老酒ヲ雜ヘ、煮造ル、黑キモノハ、黑糖ニ、酒ヲ雜ヘテ、製ス」

サたう-みづ (名) 砂糖水 冷水ニ、砂糖ヲ加ヘタルモノ。盛夏ノ飲料ナドトス。

サたう-もち (名) 砂糖餅 餅ニ、砂糖ヲ搗キマゼタルモノ。糖餅

サたう-もろこし (名) 蘆粟 〔砂糖唐黍ノ義〕 蜀黍ノ類。莖、葉、相、似タリ、秋ノ末、小穗ヲナシテ、花ヲ開キ、後ニ、赤褐色ノ果ヲ結ブ、莖ヨリ、砂糖ヲ取ルベシ。

サたう-ヤウカン (名) 砂糖羊羹 〔砂糖ハ、我ガ國、往古以來、享保以前マデハ、スベテ、舶來ノモノニテ、普通ニ、甘味ヲ取ルハ、飴、又ハ、甘葛煎ナリキ、其稀珍ノ物ヲ加ヘタルニ因リテ、特ニ、砂糖羊羹ト云フナリ、砂糖饅頭ト云フモ、同ジ〕 砂糖ヲ加ヘテ製シタル羊羹。砂糖饅頭ト云フモ、同ジ。 庭訓往來(元弘)十月「笋羊羹、砂糖羊羹」 七十一番職人盡歌合(文安)五十七番、調菜「さたう饅頭、菜饅頭」

〔さだえ〕 (名) 榮螺 さざえノ條ヲ見ヨ。

〔さだか-に〕 (副) 定 〔かにハ、副詞ヲ形作ル接尾語(靜かに、淸かに)〕 確ト。タシカニ。ハッキリト。確定 分明 倭訓栞、さだか「日本紀ニ、定ヲ訓メリ、不貞ヲ、さだかならずトヨミ、不欺ヲ、さだかなるトヨミ、菅家萬葉ニ、眞ヲヨミ、白氏文集ニ、安定ノ二字ヲヨメリ」 古今集、十一、戀、一「涙川、枕流ルル、浮寢ニハ、夢モさだかに、見エズゾアリケル」 宇津保物語、國讓、中三十「人人、アマタ物シ給ヘラム、源宰相ニ、さだかに委レトテ、賜ヘバ」 源、四十四、橋姬三十八「佛ニモ、此事ヲ、さだかに知ラセタマヘト、念ジツル、云云」 新後撰集、三、夏「別キテ先ヅ、誰レニ語ラム、時鳥、さだかなりツル、夜ノ一聲」

〔さだ-さだ-と〕 (副) 定定 イト、定カニ。タシカニ。確ト。分明 確實 源、十九、薄雲廿六「イト斯ク、さださだと聞シ召シタラムトハ、思サザリケリ」 とりかへばや、四「思寄ラザリツルヲ、さださだと聞キツルモ、アサマシウ、夢ノ心地シテ」

〔さだ-す・ぐ〕 ・グル・グレ・ギ・ギ・ギヨ (自動、上二) 時過 〔さだハ、時ノ轉ト云フ(其條ヲ見ヨ、よこさま、よこしま。石子、いさご)〕 (一)時、過グ。 萬葉集、十一三十六「沖津浪、邊浪ノ來寄ル、左太ノ浦ノ、此左太過而、後戀ヒムカモ」 宇津保物語、藏開、中三十四「何事ニカアラム、大將、さだすぎタル事ニナム」(梨壺ノ、孕ミタマヘルコト) 和泉式部集、三「木幡僧都ノ家、燒ケタル、人傳ニ言ヒヤル端ニ「出デニケル、門ノ外ヲシ、知ラヌ身ハ、問フベキ程モ、さだすぎニケリ」 (二)人ノ年齡、盛リノ程ヲ過グ。フケル。 枕草子、四、四十三段「イトさだすぎ、フルブルシキ人ノ、髮ナドモ、我レニハアラネバヤ、所所、ワナナキ散リボヒテ」 源、五、若紫四十「年頃モ、痛シク、さだすぎタマヘル人ニ、添ヒタマヘルヨリ」 同、四十四、橋姬五廿「さだすぎタル人ノ、涙脆ナルモノトハ、見聞キタマヘド」

さ-だ・つ ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 騷立 〔騷立ツノ約(細別、おまけ) 倭訓栞、さだつ「俗語也、小立ノ義ナルベシ」〕 騷ギ立ツ。騷動ス。騷擾 甲陽軍鑑、八、品第十七「天文廿一年、近江ノ國、佐佐木殿ノ家ノ破レタルハ、めかたト申スおさな、云云、佐佐木殿ト、別別ニ成リ、家中ノさだつヲ見テ、淺井備前ト云フ者、佐佐木殿ヲ押破ル、云云」

〔さだ-てう〕 (名) 沙陀調 雅樂ノ十二調子

ノ[illegible]云云」教訓抄(天福)八、十二調子「盤渉調、呂、平調、[illegible]

さたなし [illegible] 沙汰ノ條ヲ見[illegible]セヌコト、通用[illegible]コト。ブサタ。「一向、さたなしデアルに」

さたにん (名) 沙汰人 評定人。沙汰ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さたのかぎり (名) [illegible]沙汰之限 沙汰ノ[illegible]分際、[illegible]、ソレ以外ナ、沙汰之外ト云フ。[illegible]下[illegible]古[illegible]ク西ニ云ヘル事ハ、偏ニ思ヒ捨ツベカラザルカ」盛[illegible]ガ身一人ノ責キ所ナシ、家人ノ思マデハ、沙汰の外ナリ」(二)沙汰の外ヲ誤リテ、沙汰の限ト云フ。[illegible]語(長歌)「コレヲダニ、心得タマハザラムハ、さたの限りニアラズヤ」

さたのほか (名) 沙汰之外 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

さたふ (名) [illegible] へいさらださら、並ニ、馬玉ノ條ヲ見ヨ。

さだまり (名) 定 (一)サダマルコト。キマリ。「物價、さだまりナシ」(二)鎭マリ、治マルコト。鎭定

さだまりぶと (名) 定班 當然ナルコト。[illegible]

さだま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 定 〔定む〕ノ自動(治む、おさまる)[illegible]、きはまる」(一)[illegible]、移ラヌヤウニナル。[illegible]ナサムヨ」(二)治マル。鎭マル。治定[illegible]「[illegible]さだまる[illegible]、さだまる」

さたん (名) 左袒 〔出典ヲ見ヨ、袒ハ、肩脱ぐナリ〕 衣服ノ左ノ片肌ヲ、脱グコト。[illegible]人ニ同意スルニ云フ語。衆人ノ中ニテ、贊成者ト、不贊成者ト、區別セムトスルニ、今、起立セヨ、擧手セヨ、ト云フガ如シ。史記、[illegible]呂亂、太尉周勃入二軍門一行令二軍中一曰、爲二呂氏一右袒、爲二劉氏一左袒、軍中皆左袒爲二劉氏一[illegible]ハ、誰ノ朝家ナリ」(節文)「何某ノ說ニ左袒ス」

さたん (名) [illegible] 感ジ、歎クコト。[illegible]書、[illegible]

さだむ (名) 定 陰曆ノ中段ニ記ス語、中段ノ條ヲ見ヨ。さだん。

さだん (名) 定 前條ノ音便。

さだ・む・ム・ル・ム・レ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 定 〔さハ、差すノ語根、差し回むるノ義ナラム、回むノ條ヲ見ヨ(差並ぶ、さならぶ、押し陣ふる、押ふる)言ヒ曲グル意ナルベシ」(一)〔アゲツラフ。論ズ。(品定ノ條ヲ見ヨ)〕 論定 [illegible]上毛野佐野ノ舟ノ、[illegible]、今ハ如何ニ[illegible]」[illegible]、待取リテ、此品品ヲ、ワキマヘ、さだめ爭フ」玉のをぐし「スベテ、さだむトハ、物語ニテハ、物ヲ論ズルヲ云ヘリ、[illegible]品定トモ、女ノ品品ヲ論ズル由ナリ、[illegible]ニ、一方ニ決定スルヲノミ云フ、ト八異ナリ」源、四十三、竹川十「[illegible]所ニテハ、もぎ木ナリトヤ、さだむラム、下ニ句ヘル、梅ノ初花」[illegible]「[illegible]シトモ、[illegible]シトモ、さだめ切リテ、止ミナムカシ」[illegible]上、下セ「ココニテ[illegible]三日、サブラヒタマフ事、イト便ナシナド、さだむるヲ、[illegible]キテ、[illegible]リヌレバ」(二)〔[illegible]チ、決ム〕 決定 [illegible]ニ長[illegible]ミャムカフ、[illegible]ノ宮ヲ、[illegible]宮ト、[illegible]タマヒテ」(三)鎭メ、治ム。鎭定「亂ヲ定む」

ざだん (名) 坐談 對坐ノ談話。坐リテ、話シ合フコト。[illegible]

さだめ (名) 定 (一)サダムルコト。決定。(二)〔オキメ。オキテ。決ムルコト〕 法度(應分ノ條ヲ併セ見ヨ) 規定[illegible]十二、[illegible]キワサニ、云云、[illegible]クトチツカハスベキさだめナドモ侍ルナルハ、[illegible]ナル罪ニ[illegible]ルベキニコソ侍ルナレ」 倭訓栞、さだめ「續日本紀ニ、賜祿之額、ト見エテ、額ヲ、さだめト訓メリ、定額ノ義ナレバ、今云フ、おきて、さだめナド、此字ナルベシ」(三)次條ヲ見ヨ。

さだめがき (名) 定書 〔前條ヲ見ヨ〕 法制ノ箇條ヲ、書キ記シタルモノ。德川幕府ノ訴訟、刑罰ノ法制、百三箇條ヲ記シタル書ヲ、御定書百箇條ト云ヒテ、祕シタリキ。或ル法制ノ箇條ヲ、制札ナドニ記シテ、人民ニ揭示シタルモノモ、定書ト云ヒキ、揭示ノ袖ニ、定書、又ハ、定ノ一字ヲ書キタルモ、アリ、質屋ニテ、公定ノ利息高、流質ノ期限ナド、紙ニ記シテ、店頭ニ貼出スモ、然リキ。[illegible]ハ「定書事、云云、於二市町一米錢等ノ定、於二郷里一稻田[illegible]以下之定、可レ書レ之、是ハ、板ニモ書キ、紙ニモ書レ之、云云、押紙云、定、一、不レ可二押買狼藉一事、一、[illegible]、所質、禁制事、一、不レ可レ有二諍論口論一事、右、條條、定置訖、諸商人等、守二此旨一於二當市場一可レ致二商賣一云云、應永七年三月十日」古事類苑)浮世風呂、二文化、三編)大尾、兎角、鼠傷ノ火ノ用心ハ、湯屋ノ定書ニ似タリ」

さだめし (副) 定 〔次條ノ定めすノ活用カ〕 次次條ノ語ニ同ジ。キット。狂言記、末廣がり「ソナタハ、さだめし、主持デ御座ロ、人ノ主ハ、[illegible]ノヨイ[illegible]モアリ、又、[illegible]イ[illegible]モアル」

さだめ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 定 さだむ(定)ニ同ジ。

さだめて (副) 定 カナラズ。キット。サダメシ。必定。[illegible]、[illegible]コノ兒、[illegible]ロカナ[illegible]ラムト、[illegible]ルニ」「明日ハ、さだめて晴天ナルベシ」

さだ・める (動) 定 定むノ口語。

さだもの (名) 定物 〔定ハ、處分ノ義、其條ヲ見ヨ〕 禁制。後世、掟、禁制ヲ、定ト云ヒ、制札ニ、定、書ト云フモ、是レナリ。倭名抄、大芹「大芹ハ、國ノ左大毛乃、小芹コソ、[illegible]テモ旨シ」催馬樂人[illegible]、中「[illegible]ヲ、大[illegible]ト云ヒ、雙六ヲ、小[illegible]ト云ヒナセルナリ、云云、塵袋抄ニモ、雙六ノ事ヲ、アマタ書ケルニ、乞出ヲ、古キ點ニ、せりト[illegible]、云云、今世ノ俗言ニモ、せりあふ、せり賣、ナド云フコト、遺レリ、國ノさだものハ、國禁ナリ、御制禁ヲ、御定ト云フ、故ニ、定ものトハ云ヘルニコソ、云云、[illegible]六ノ味、忘レガタシト云フ心ヲ、芹ノ縁ニ、湯でてもうまし、トハ云ヘルナリ」

さたやみ (名) 沙汰止 沙汰シタル事ノ、行ハズナリシコト。オナガレ。無期延期。ノ、止ムコト。行ハムトシタル事ノ、「芝居見ハ、沙汰やみトナル」

さだを (名) 榮螺 さざえノ條ヲ見ヨ。

さち (名) 幸 〔幸取ノ約略、幸ハ、吉キ事ナリ、漁獵シ物ヲ取リ得ルハ、身ノ爲メニ吉ケレバナリ(古事記傳ノ說、倘、幸ノ條ヲ見ヨ、媒鳥、をさり。月隱、つごもり。鉤ヲ、ちト云フモ、鉤ノ約、項後、うなじ。ゐやまり、ゐやぢ)さちヲ、さつト云フハ、音轉ナリ(頭鎚、かぶつつ。口輪、くつわ)〕 上古、山ニ獵シテ、獸ヲ取リ得ル弓ノ稱。又、幸弓ト云ヒ、其業

ヲ、山幸ト云ヒキ。又、海ニ漁シテ、魚ヲ釣リ得ル鉤(釣鉤)ヲモ、幸ト云ヒ、又、幸鉤トモ云ヒ、其業ヲ、海幸ト云ヒキ。神代ニ、火遠理命、幸弓ヲ持チタマヘルニ因リテ、山幸彦ト申シ、(彦火火出見尊ノ御事ナリ)其兄、火照命、幸鉤ヲ持チタマヘルニ因リテ、海幸彦ト申シキ。(山幸彦ヨリ移リテ、獵人ヲ、獵人、又、獵夫ト云ヒ、其弓矢ヲ、獵弓、獵矢ト云ヒ、後ニハ、獵用ナラヌニモ云ヘリ) 古事記、上四十「火照命者、爲海佐知毘古而取鰭廣物、鰭狹物、火遠理命者、爲山佐知毘古而、取毛麤物、毛柔物」云云「相易佐知欲用」云云「各謂、返佐知之時」云云」 神代紀、下五十「兄、火酢芹命、能得海幸、弟彦火火出見尊、能得山幸、時兄弟欲互易其幸、故、兄持弟之幸弓、入山覓獸」云云「弟持兄之幸鉤、入海釣魚」 萬葉集、十五「カギロヒノ、タサリ來レバ、佐豆人ノ、弓月ガ嶽ニ、霞タナビク (コノさつひとハ、弓ノ枕詞ニ用ヰラレタリ、づハ、びとノ濁音ヲ頭倒セルナリ、里人ヲ、佐度人ナド云フ例ナリト云ヘリ) 同卷四「山邊ニハ、獵雄ノ狙ヒ、恐ケド、牡鹿鳴クナリ、妻ガ眼ヲ欲リ」 同、五九長歌「劍太刀、腰ニ取リ佩キ、佐都由美ヲ、手握リ持チテ」 同、六十四「アシビキノ、山ニモ野ニモ、御獵人、得物矢手挾ミ、騷ギタリ見ユ」(得物トハ、物ヲ射取リ得ル義ニテ書ケルナリ) 同、廿四「天地ノ、神ニ祈リテ、佐都夜賀キ、筑紫ノ島ヲ、指シテ行ク我レハ」

〔さち (名) |幸福| (前條ノ語ノ轉、漁獵ノ獲物アルヲ、さいはひトスルヨリ移ル、幸はふト云フ語モアリ、ちはふ(遞)ト云フ語モ、さちはふノ上略ナルベシ、各條ヲ見ヨ」 幸。サイハヒ。シアハセ。吉キコト。 常陸風土記、多珂郡「倭武天皇、巡遊「陂興、白后、各就野海、同爭祥福」註「俗語、日佐知」(漁獵ノ獲物ノ、祥福ノ義ニ移レル過渡ナリ) [illegible]「幸魂、サチミタマ、サキタマ」 同、立部「數奇、サチナシ」

さちがへ (名) |幸替| 互ニ、獲物ヲ取リ替フルコト。(前前條ノ出典、記紀ノ故事ヨリ云フ) 源氏冷泉節(正德、近松作)上「彼ノ山海ノ幸がへセシ、神代ヲ今ニ見ルコトハ」

〔さちぢ (名) |幸鉤| さち(幸)ノ條ヲ見ヨ。

〔さちな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) |無幸| (さち(幸)ノ條ヲ見ヨ」 幸、無シ。フシアハセナリ。不幸 名義抄、立部「數奇、サチナシ」 字類抄、畳字「數奇、サチナシ」

〔さちは・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) |幸| (上略シテ、ちはふトモ云フ、其條、幷ニ、さち(幸)、さきはふ(幸)ノ條ヲ見ヨ」 さきはふ(下二段)ニ同ジ。幸アラシム。 廣瀬祭祝詞「御稻ヲ、惡シキ風、荒キ水ニ、相ハセタマハズ、汝命ノ、成シ幸波閉タマハバ」(祝詞考ノ訓)

さちほこ (名) |鯱| しゃちほこヲ見ヨ。

〔さちみたま (名) |幸魂| さきみたま(幸魂)ニ同ジ。名義抄「幸魂、サチミタマ、サキタマ」

さぢん (名) |沙塵| スナ、ホコリ。ゴミ。チリ。 宋書、樂志「秋風揚沙塵、寒露霑衣裳」 杜甫詩「回風吹飛沙塵」

さちや (名) |幸矢| 獵ニ用ヰル矢。サツヤ。さち(幸)ノ條ヲ見ヨ。

さぢやう (名) |左仗| 左近陣ヲ見ヨ。

ざちゅう (名) |座中| 集會ノ座敷ノ中。 史記、樊噲傳「令項莊拔劍舞坐中、欲擊沛公」 鄭谷詩「座中亦有江南客」「座中、客十人」

ざちゅう (名) |座中| 芝居、遊藝ナド、興行一座ノ連中。

さちゅうぐうご (名) |沙中偶語| (爾雅、釋詁篇「偶、合也」註「謂對合也」二人、相、對シテ語ルナリ) 臣下ノ者ノ、路上ニ坐シテ、密事ヲ語リ合フコト。政府ノ政治ニ不平ヲ懷ク意ヲ云フ語トス。 史記、留侯世家「上既封大功臣二十餘人、其餘、日夜爭功不決、未得行封、上在洛陽南宮、從複道望見諸將、往往、相與坐沙中語、上曰、此何語、留侯曰、此謀反耳」 漢書、張良傳「望見諸將往往數人偶語」(留侯、張良、同人ナリ)

さちゅうじゃう (名) |左中將| 左近衛中將ノ略、近衛府ノ條ヲ見ヨ。

さちゅうべん (名) |左中辨| 官名。ナカノオホトモヒ。辨ノ條ヲ見ヨ。

〔さちゆみ (名) |幸弓| 獵ニ用ヰル弓ノ稱。サツユミ。さち(幸)ノ條ヲ見ヨ。

さちらさっぽう (名) |薩王樹| (さきらさっぽうノ(二)ヲ見ヨ」 さぼてんノ異名。

さつ (名) |札| (一)フダ。「制札、高札」 (二)劵、證文、ナド、一通ヲ云フ語。「證文一札、如件」「一札ヲ差入ル」 (三)札。其條ヲ見ヨ。

さつ (名) |札| (一)厚キ紙札ニ、金錢ノ高ノミ記シテ、金錢ニ引替フベキ切手トシテ、民間ニ通用セシメシモノ。金銀貨ナルヲ、金札、銀札ト云ヒ、錢ナルヲ、錢札ト云フ、札ハ、長方形ニテ、大小、種種ナリ。德川時代ニ、諸藩ニテ、幕府ノ許可ヲ得テ、金壹兩、銀五拾匁、錢拾貫文、ナドト記シテ、各、其封內限リニ行ヒシモノナリ、コレヲ用ヰルヲ、札遣ト云ヒキ。仙臺藩ニテハ、札ニ「江戶ヨリ、金銀到着次第、引替可相渡候事」ナド、附記セリ、各藩國ニ、銀札役所、札會所、ナド云フモノアリテ、引替ヘタリ。(德川幕府ニテハ、其一代、竟ニ、札ヲ發行セザリキ) 紙幣 楮幣 紙錢 交鈔 又、羽書、ト云フ、アリ、其條ヲ見ヨ。 細細要記、建武元年二月三日「紙錢通用ノ儀、仰出サレ、諸國ノ地頭、御家人、ノ所領ニ、課役ヲカケラル、先例、未ダ無キ所ナリ」 建武年間記、改錢事、建武元年三月廿八日、詔「始造官錢、須頒天下」云云、又曰「乾坤通寶、銅、楮並用、交易無滯」 天保集成絲綸錄、九十一、天保七年十二月、御勘定奉行ヘ「銀、札遣之儀、前前ヨリ、札遣致來候場所、並、享保十五年以後、新規相願濟候分ハ格別、右之外、向後、新規之場所、札遣之儀吉難、成、金、錢、札遣之儀者、前前通用致來候分モ、向後願難、成旨、寶曆九年相觸、云云」 經濟錄、五、食貨「異國ニテハ、天下ニ銅錢乏シキ故、紙札ヲ造テ、錢ノ代ニ用ルコト多シ、之ヲ、寶鈔ト云フ、吾國ニハ、古ヨリ此事無カリシニ、元祿中ヨリ、諸侯ノ國ニテ、用度乏シキニ依テ、寶鈔ヲ造テ、其國內計ニ是ヲ用ルコトアリ、其頃ノ俗、之ヲ銀札ト云ヒ、是ヲ用ルヲ、札遣ひト云フ」 (二)明治ノ初、政府ノ發行セラレシ金札アリ、元年五月發行ノ太政官札ハ、十兩札、五兩札、一兩札、一分札、一朱札ニシテ、十一年八月、回收セラル、二年十月發行ノ民部省札ハ、一分札、二朱札、一朱札ニテ、十二年十月、回收、終ハル。今、兌換劵ト云フモノ、コノ變ジタルモノト見ルベシ。

さつ (名) |撮| 枡目ノ名、才ノ條ヲ見ヨ。

さつ (名) |擦| 塔婆ノ中心トナル柱。 倭名抄、十三、佛塔具「擦、心乃波之良、佛塔中心柱也」

さつ (接尾) |冊| (冊子ノ條ヲ見ヨ」 書物ヲ數フルニ云フ語。「書物三十冊」冊數

〔さつ (名) 幸 さち(幸)ノ條ヲ見ヨ。

サツ (名) |刹| 〔梵語、Ksetra.〕 (一)寺、寺院。「古刹」 (二)たふ。佛塔。

ざつ (名) |雜| (ざふノ轉(廣韻「雜、徂合切」韻會「昨合切」颯颯ノ語原ヲ見ヨ」 マジリタルコト。マジリタルモノ。雜、

さつい (名) [殺意] 人ヲ、殺サムトスル心。害心。「竊カニ殺意ヲ懷ク」

さつう (名) 茶桶 [illegible]茶道ニ、濃茶ヲ納レナツモノ、桶ノ箱アリ、棗子、叉ハ、棚ニ飾リオク、點茶スル扱方アリ。倭訓栞、さつう「茶桶ノ音ナリ、茶道ニ、つうとモアリ」

さつえい (名) 撮影 [illegible]撮、拃也、[illegible]顧「姪聚而捎二取之一也」〕 人物ノ影ヲ、映シ取ルコト。即チ、寫眞。「撮影所」

ざつえい (名) 雜詠 詠歌、詠詩ノ、種種ナルモノ。

さつえう (名) [撮要] 〔撮ハ、つまむナリ〕 摘要ニ同ジ。史記、太史公自序「撮二名法之要一」

ざつえう (名) 雜徭 古へ、定役ノ外ニ、諸國ニテ、人民ヲ使役スルコト。元史、[illegible]

ざつえき (名) 雜役 諸役ノ意 種種ノ用ニ、役フコト。ざふやく、ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「解二雜役一」

ざつか (名) 雜家 支那、古代ノ學派、儒家、墨家、名家、法家、等ヲ綜合スルモノ。子類ヲ、折衷スル學ナリ。漢書、藝文志ニ、[illegible]トアリテ、尸子廿篇、呂氏春秋廿六篇、淮南子、內、外、五十四篇、等ヲ載セタリ。

ざつかう (名) [雜考] クサグサノ、カンガヘ。種種ナル考案、考證。雜考ヲ集メタル書名ナドニ用ヰラルル語。[illegible]

ざつがく (名) [雜學] 雜多ナル學問ニ涉リテ、考究スルコト。雜駁ナル學問。〔專門學ニ對ス〕 [illegible]

ざつがく (名) 雜樂 [illegible]

さつかり (名) [所授] サヅカルコト。

サッカリン (名) 甘精 〔英語、saccharine〕 さたう(砂糖)ノ語原ヲ併セ見ヨ〕 白色、半透明ノ結晶體、さおるたおるノ一分ヲ原料トシテ製ス、甘味、非常ニシテ、砂糖ニ五百倍ス、醫藥ノ用トス。

さづかりもの (名) 授物 〔反對ナレド、申子ナド云フ例〕 神佛ノ冥加ニテ、授ケラレタル物。天ヨリ賦與セラレタル物。天賦。浮世風呂、文化、二、上「アレモ、貴かり物[illegible]、イクラ欲シガッテモ、無イ子ハ出來ネエ」「子供ハ、さづかり物」

さづか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [所授] 〔授けるノ約ニテ、活用ヲ轉ズ、あづかるノ語原ヲ見ヨ〕 授ケラル。賜ハル。「神樣カラ、運ヲさづかる」

さつき (名) [五月] 〔早月トモ記ス、奥儀抄ニ「早苗月ノ略」(卯花月、卯月 かみなし月、かみな月 おれつく少女、おれかこめ 播頓子、うまだ)即チ、五月ヲ、早苗月トモ云フ、早苗ヲ植ウル月ノ義ナリ、さ(稻)、むつき(正月)ノ條ヲ併セ見ヨ、早苗ヲ下略スル語ニ、早少女、早開、早上、早下、ナドアリ、又、コノさヲ、五月ノ事ニ用ヰラル、五月蠅、五月雨、五月夜ナド、是レナリ〕 (一) 陰暦、五月ノ稱。早苗月。仲夏。皐月。[illegible]臥生與ハ割二其腹一而、種二稻其血一仍、一夜之間生レ苗、云云、[illegible]、五月[illegible] 萬葉集、十七「[illegible]ナバ、ホトトギス、鳴カム佐都奇ハ、寂シケムカモ」 夫木抄、八、五月雨「早苗月、サミダレソムル、[illegible]ヤ、[illegible]ノ山[illegible]、[illegible]リユクラム」 (二) さつきつつじノ下略、其條ヲ見ヨ。

さっき (名) 殺氣 〔殺ハ、枯らすナリ、左傳、僖公三十三年「隕霜不レ殺レ草」〕 (一) 秋、冬ノ、寒氣。禮記、月令篇「仲秋之月、殺氣浸盛」史記、匈奴傳「北邊[illegible]、殺氣早降」 (二) 殺伐ノ氣。モノスゴキ氣。史記、律書「武王伐レ紂、吹レ律聽レ聲、推二孟春一以至二于季冬一殺氣相并、而音尚レ宮、同聲相從、物之自然、何足レ怪哉」 (三) 殺伐ノ條ノ(三)ヲ併セ見ヨ「內亂、起ラムトシテ、殺氣、既ニ滿ツ」

さっき (副) [先] 〔さきノ急呼(是非、ぜっぴ。鼈甲、きっこふ)〕 サキニ。サキホド。今シガタ。先刻。娥歌加留多(享保、近松作)二「今中將、召シマスル、さっきニカラ、才手ガ鳴ル」「さっき來タ、さっき歸ッタ」

ざつき (名) 座附 能役者、囃子方ノ、五座ノ能樂中ノ、其ノ座ニ附屬シテアル者ノ稱。「[illegible]座附」歌舞伎芝居ニテモ、中村座、市村座ナドノ座ニ附屬シテ居ル者ヲ云フ。「座附ノ役者」「座附ノ狂言作者」

ざつき (名) 座附 宴會ノ座ナドニツキテ、最初ニ演ズル、祝言ノ絃歌、專ラ、藝妓ニ云フ、唱歌ハ、多クハ、長唄ノ一節ニテ、三下ナルヲ用ヰル。御座附

ざっき (名) 雜器 種種ナル器什。雜具。魏書、高祖紀「太官雜器」

ざつき (名) 雜器 〔歳ノ市ニテ、御酒德利ノ口、杯、柄杓、ナドト共ニ 雜器ヲ賣ル、ソレガ、一物ノ名トナリシモノカ〕 神棚ノ供物ニ用ヰル、木製ノ小盆。木ニテ、方圓ニ刳リ作レルモノ。

ざっき (名) 雜記 種種ノ事ヲ、次第ナク、記シ付ケタル書物。雜錄。雜筆。

ざつぎ (名) [雜伎] ざふぎ(雜伎)ヲ見ヨ。晉書、成帝紀「[illegible]雜伎」

さつきあめ (名) [五月雨] 〔五月ニ降リツヅク雨ノ義〕 梅雨ニ同ジ。サミダレ。心中宵庚申(享保、近松作)中「五月雨ホド[illegible]ハレテ、今ハ秋田ノ落シ水」

さつきつつじ (名) [杜鵑花] 〔陰暦ノ五月ノ頃ニ、花ヲ開ク〕 躑躅ノ屬、高サ四五尺、きりしまつつじニ次ギテ、仲夏ニ花ヲ開ク、赤、白、紫、紅、等アリ、赤、白、雜レルモアリ。略シテ、さつきトノミ云フ。大和本草(元祿)十二、花木「杜鵑花 倭名、さつき、五月「杜鵑花ヲ云フハ、さつきつつじノ略ナリ、此月ニ、咲キ立ツ故ニ名ヅクルナリ、云云、蜀國ノ事ニ「鳴ク鳥ノ、[illegible]ノ色ノ、紅ニ、深クモ染ムル、岩つつじカナ」是レモ、杜鵑花ノ名ニ因レリ、蜀[illegible]ニ「蜀魂千年[illegible]、[illegible]血滿花枝」ト見エタリ、杜鵑、一名、蜀魂、ホトトギスナリ」

さつきのこひ (名) [五月鯉] のぼり(幟)ノ條ヲ見ヨ。

さつきのせち (名) [五月節] 五月五日ノ端午ノ節。枕草子、五、四十六段「なまめかしきもの「さつきのせちノ菖蒲ノ藏人」」倭訓栞、さつき「源氏ニ、さつきのせちト云フハ、五日ヲ指セリ」

さつきのたま (名) [五月玉] 古へ、橘ノ實ノ、五月ノ頃ニ、大豆ノ大キサホドニナレルガ、落チタルヲ取リアゲテ、絲ニ貫キテ、緒トシ、輪トシ、頸ニ懸ケナドシテ、玩トセシモノナルベシ。(香氣アル

モノナリ)上古ノ頸玉、手玉、足玉、ノ遺風ナラムト云フ (武川、萬葉考、眞玉ナドニテハ無シ) 萬葉集、八廿「ホトトギス、痛ク莫鳴キソ、汝ガ聲ヲ、五月ノ玉ニ、相貫クマデニ」五月ニ鳴クヲ主トスルニ、四月ニ繁ク鳴クヲ云ヘルナルベシ、聲ヲ玉ニ貫クトハ、賞翫スル餘リニ、ハカナキコトヲ詠メルナリト云フ) 同、十八「霍公、汝ガ初聲ハ、我レニガモ、五月之珠ニ、交ヘテ貫カム」同、八「吾ガ宿ノ、花橘ハ、散リ過ギテ、珠ニ貫クベク、實ニ成リニケリ」同卷、十長歌「百枝刺シ、生フル橘、玉ニ貫ク、五月ヲ近ミ、云云、花ラニ、地ニ散ラセバ、スベナミ、攀ヂテ手折リツ、見マセ吾妹子」同、十九長歌「ホトトギス、鳴ク初聲ヲ、橘ノ、珠ニ合ヘ貫キ、鬘キテ、遊バク良シモ」續千載集、三、夏「夏草ノ、花ノ枝毎ニ、すく露ヲ、五月の玉ニ、貫キゾトトメムニ」

さっ-きふ (名) 早急 (早急ノ急呼(早速、さっそく 毬杖、ぎっちゃう)) 極メテ、急グコト。至急「早急ノ使、早急ニハ出來ヌ」

さっ-きん (名) 殺菌 藥ノ力、又ハ熱力ニテ、黴菌ヲ殺スコト。「殺菌力、殺菌劑」

さつき-やま (名) 五月山 仲夏ノ頃ノ山。夏山。 萬葉集、十廿「五月山、卯花月夜、ホトトギス、聞ケドモ飽カズ、又鳴カヌカモ」 古今集、十二、戀、二「さつき山、梢ヲ高ミ、ホトトギス、鳴ク音ソラナル、戀モスルカナ」

さつき-やみ (名) 五月闇 五月雨降リシキリテ、空ノ、暗キコト。 拾遺集、二、夏「さつきやみ(序、暗ニカク)、倉橋山ノ、杜鵑、オボツカナクモ、鳴キ渡ルカナ」 千載集、三、夏「五月闇、狭山ノ峯ニ、トモス火ハ、雲ノ絶間ノ、星カトゾ見ル」

ざっ-きょ (名) 雜居 (一)異ナル物ノ、雜リテアルコト 易、注「雜亂」、下繫「剛柔雜居、而吉凶可レ見矣」 (二)種種ノ人ノ、打雜リテ住ムコト。外國人ノ、内國人ト雜居スルコトニモ云フ 太平記、廿七、雲景未來記事「(日)物ノ晋ト云フハ、洛中ノ地下人、商賈ノ輩ドモナリ、其レニ、日本一州ヲ治メ給フ貴人達、交リ雜居シ給ヘバ」「内地雜居」

さっ-く (名) 索 さく(索)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

サック (名) 〔英語、Sack.〕 西洋製ノ袋。嚢。包。俵。

さ-づ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 授 〔さハ、下ぐノ語根、下げ附くナルベシ(搔附け花、かきつばた。石投げ取、いしなどり)〕 (一)下ゲ、與フ。與ル。取ラス。授與ス。 萬葉集、廿五長歌「皇方ニ、極メ盡シテ、仕ヘ來ル、祖ノ任官ト、言立テテ、佐豆氣タマヘル、子孫ノ、彌繼繼ニ、云云」(大伴氏ノ、世襲ノ武官ナルヲ云フ) 同、四「玉主ニ、珠ハ授ケテ、カツガツモ、枕ト吾レハ、イザ二人寢ム」(母ガ娘ヲ、壻ニ與ヘタル詠ナリ) (二)傳フ。教フ。傳授。教授 源、五十三、夢浮橋五「御弟子ニナリテ、忌ムコトナド、さづけタマヒテケリ」(授戒ナリ)「祕傳ヲ授く」

ざつ-ぐ (名) 雜具 種種ノ家具、調度。雜具。 保元物語、一、新院御謀反思召立事「何樣、事ノ出來ルベキニコソトテ、京中ノ貴賤、上下、資財、雜具ヲ、西東ヘ運ビカクス」

さっ-くゎ (名) 擦過 カスルコト。少シ、擦ルコト。かすりきずヲ、擦過傷ト云フ。

ざっ-くゎ (名) 雜貨 (一)雜多ノ商貨物。「雜貨商、雜貨店」 (二)專ラ、小間物。

さっくゎ-しゃう (名) 擦過傷 前前條ヲ見ヨ。擦傷。

ざつ-げい (名) 雜藝 ざふげい(雜藝)ヲ見ヨ。 南史、朱异傳「少遊文史、兼通雜藝」

さっ-けう (名) 撒嬌 〔嬌態ヲ撒きチラス、韻會「撒、音薩、散之也」〕 アマエカカルコト。 俚言集覽、撒嬌撒痴「小說語、女ノ、夫ナドヘアマヘルコト」

ざつ-げき (名) 雜劇 〔劇ノ條ヲ見ヨ〕 芝居、狂言。 輟耕錄(元末ノ陶宗儀)廿「院本、雜劇、球蹴、要容錄民、雜劇、當今盛行」 同、廿七「稗官廢而傳奇作、傳奇作而戲曲繼、云云、傳奇猶宋戲曲之變、世傳謂之雜劇」

ざつ-げふ (名) 雜業 職業ノ、商業、工業ナドノ外、雜多ナルモノ。 史記、貨殖傳「佗雜業不レ中二什二、則非二吾財一也」

さっ-けん (名) 察見 監察シテ、見ルコト。推量スルコト。 後漢書、延篤傳「近取二諸身、則耳有二聽受之用、目有二察見之明一」

ざっ-けん (名) 雜件 雜多ナル事件。

さづ・ける (動) 授 さづくノ口語。

ざっ-こ (名) 雜喉 〔ざこノ急呼、先、さっき〕 雜喉ニ同ジ。

ざっ-こく (名) 雜穀 米ノ外ノ、穀物。麥、豆、粟ノ類。 職員令「大炊寮、頭一人、掌二諸國舂米雜穀分給、諸司食料事一」

さつ-ざ (名) 札座 德川時代、諸藩ニテ、紙幣ヲ發行スル役所。 赤穗義臣傳、二「民ノ心ヲ安ゼント、札座ノ奉行、岡島八十右衛門常樹ニ命ジ」

さっ-さう (副) 颯爽 〔颯颯ノ語原ヲ見ヨ、康煕字典「颯沓、衆盛貌」〕 キビキビトシテ、心地ヨキ意ヲ云フ語 杜甫詩「[illegible]颯爽動二秋骨一」 同「英姿颯爽來酣戰」

ざっ-さう (名) 雜草 種種ノ草。 江淹、杉木頌「草木繁、雜草不レ殖」「雜草繁茂」

さっ-さだて (名) 左左立 〔分クル度ニ、さあさあト聲ヲカク、立つる、、始むるナリ、磐ヲ立つ、飾り立つ〕 遊戲ノ名。盤ノ上ニテ、碁石ヲ以テスルモノ、 遊學往來(玄惠法印)改年初月、遊宴「左左立」 異制庭訓往來(貞治、虎關禪師)七箇七日(正月)「於二戲之遊一者、圍碁、雙六也、云云、左左立、是於二局上之遊一、先容易者也、可レ被レ張二行之一」 勘者御伽雙紙、上、さゝさ立「假令ヘバ、錢、三十文渡シテ、一文ノ方ヘト、二文ノ方ヘト、一度、一度ニ、さあさあト聲ヲカケテ分クル時、其聲數ヲ、四五間モ隔ニ居テ聞クニ、十八聲ナラバ、一文ノ方ニ、六文アルベシト答フル也」(古事類苑、俚言集覽ニ委シ、就キテ見ルベシ)

さっ-さつ (副) 颯颯 〔颯ノ字ノ音ハ、さふナリ(唐韻「蘇合切」韻會「悉合切」)颯爽、ナド、熟語ナル時、音便ニ急呼シテ、さ、さうト云フガ、移リテ、さ、さつト云フニ至レルナリ、建立ノ、立身トナリ、獨立トナルガ如シ(冊子ノ語原、參見スベシ)字彙「颯、風聲也」〕 風ノ、輕ク物ヲ吹キテ起ル聲ニ云フ語。又、颯然。 杜甫詩「四山多レ風溪水急、寒雨颯颯枯樹濕」 朗詠集、上「五夜將レ明、頻驚二涼風颯颯之聲一」 謠曲、錦木「松風颯颯タル朝ノ原ノ」 宋玉、風賦「有二風颯然而至一」

さっ-さつ (副) 察察 微細ニ立入リテ、察シ知ルニ云フ語。苛察。 老子、五十八章「其政察察、其民缺缺」

さっ-さっ-と (副) 忽忽 〔さと(颯)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)手輕ク、早ク。工夫ヲ費サズ。 桐火桶(藤原定家作ト云フ)百首歌ノ體「百首ニハ、マヅ地歌ヲ、メヅラシゲナク、さッさッと詠ミワタシテ、其所所ニ、秀逸メキタル歌ヲ、詠ミマジフルナリ」 (二)急ギテ。ハヤク。さっさと。チャッチャト。敏速 「さゝさと仕事ヲカタヅケル」「さっさと歩行ク」

さっ-さと (副) 敏速 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

ざっ-さん (名) 雜纂 雜多ナル編纂物。 唐ノ李商隱(義山)ノ著書ニ、雜纂ト云フ、アリ、

さっ-し (名) 冊子 〔冊ノ字ノ音ハ、さく

ナリ(書經「冊、簡策也」)冊子ヲ、音便ニ、さうしトモ云ヒ(格子、かうし)、又、急呼シテ、さつしトモ云フ(冊立、冊封)ソレガ、熟語ナラズニモ移リテ、書籍ニ冊トモナル(颯颯ノ語原ヲ參見スベシ)玉篇「冊、簡也」爾雅「書、古者、竹簡也」、古未レ有レ紙、載ニ文字ト簡、謂ニ之簡札ニ」冊ハ、即チ、書籍ノコトナリ、子ハ、瓶子、箱子、帽子ノ、子ニ同ジ〕綴本。書。書物。書籍。又、さうし。 [illegible]
「讀狀在二倚宗朝一所レ上章、倚宗以二一旋風冊子一手自 [illegible]
[illegible]

さっし (名) 刷子 (一)はけ(刷毛)ノ條ヲ見ヨ。(二)發電機、幷ニ、電動機構成ノ一部分。通常、銅、或ハ、炭ニテ作ラレ、摺動接觸ニヨリテ、整流子、或ハ、滑環ニ連絡シ、以テ、發電子、或ハ、回轉子ヨリ、外部ニ、或ハ、外部ヨリ、電動子、或ハ、界磁[illegible]ニ、電流ヲ通ゼシムルノ用ヲナスモノ(日本百科大辭典)

さっし (名) 察 察スルコト。推シ量ルコト。思ヒ遣ルコト。「御察しノ通リ」

さつし (副) 蕞爾 〔さいしナルベキナリ、唐韻「蕞、才外切」集韻、祖外切、說文「小貌也」〕さいし(蕞爾)ニ同ジ。 左傳、昭公七年「蕞爾國而、三世執二其政柄一」

ざっし (名) 雜紙 ざふし(雜紙)ヲ見ヨ。

ざっし (名) 雜誌 種種ノ記事、論說、小說、等ヲ載セタル印刷物、多クハ、期日ヲ定メ、續物トシテ發行スルモノニ云フ。雜誌ト、雜記ト、同意ノ語ナリ、明治六年、學者、會合シ、明六社ト云フヲ起シ、各、事理ノ論說、學業ノ研究、異聞ノ談話、等ヲ集シテ、同七年ニ、明六雜誌ト題シテ、定期刊行書トシテ發行セシニ始マル、同八年ニ、洋洋社談ト云フ論說、考證ノ雜誌、發刊セラレキ。

ざつじ (名) 雜事 (一)些細ナル、種種ノ事柄。 李邕、嶽岳寺碑「今昔紛擾、雜事繁多」(二)ざふじ(雜事)ノ(一)、及、ざふじせん(雜事錢)ヲ見ヨ。 吾妻鏡、十七、[illegible]「[illegible]武家被官家頁ニ仰テ、衣裳、帽布ノ類ヲ送進スルノミニ非ズ、每月ニ、雜料、雜事ヲ運入ル」

さつしうごよみ (名) 薩州暦 薩摩暦ヲ見ヨ。

ざつしうにふ (名) 雜收入 會計ニ云フ語。雜多ナル收入ノ金錢。

さっしけいば (名) 撒紙競馬 〔韻會「撒、音薩、散也、放也」〕競馬ノ一種、數十人ノ參列員ヲ定メ、一騎者ヲシテ、紙片ヲ散布シツツ、難路ヲ經テ遁走セシム、參列ノ騎者、コレヲ追跡シテ、所在ヲ搜索シ、コレニ追及シ得タル者ノ、到着ノ順序ヲ以テ、優劣ヲ判決ス。

さっしん (名) 刷新 〔爾雅、釋詁篇「刷、清也」註「掃刷、所三以爲二清潔一也」〕舊態ヲ改メテ、一新スルコト。改新。革新。「弊習ヲ刷新ス」

さつじん (名) 殺人 人ヲ、殺スコト。ヒトゴロシ。 左傳、襄公五年「己則無レ信、而殺レ人以逞」「殺人罪」

さつじんざい (名) 殺人罪 ヒトゴロシノ罪。人ヲ殺シタルモノハ、死刑、又ハ、無期懲役、若シクハ、三年以上ノ懲役ニ處セラル。(刑法第百九十九條)

さつじんしょ (名) 殺人書 ひじんしょ(肥人書)ノ條ヲ見ヨ。

さつじんたう (名) 殺人刀 人ヲ殺ス刀、之レニ對シテ、人ヲ活カス物トナルヲ、活人劍ト云フ。 別所長治記、平山合戰「小八郎聞キモアヘズ、殺人刀、活人劍ト云ヒ捨テ」

さっしゃう (名) 殺傷 人ヲ殺シ、又ハ、傷ツクルコト。 漢書、衛青傳「殺傷大當」

ざっしゃう (名) 雜掌 雜務ヲ掌ル職。此名ヲ稱スルモノ、種種ナリ、延喜式ニ、諸國司ニ、朝集稅帳雜掌アリ、故實拾要ニ、攝家、清華家ノ家老ヲ、雜掌ト稱シ、重代ノ侍ヲ以テ補ス、トアリ、武家名目抄ニ、京家ノ人ノ莊園ヲ管スル者ヲ稱スト見エ、又、京都在住ノ武士ノ、其在國中、其一族、又ハ、家臣ヲ留メテ、家務ヲ掌ラシメシヲ、雜掌ト稱セリ、又、吾妻鏡ニ、鎌倉幕府ノ頃、營中ノ廚事ヲ掌ル者、又、修造、營作ヲ掌ル者ヲ、雜掌、又ハ、雜掌人ト稱シ、室町幕府ニテモ、饗宴、饌事ヲ掌ル者ヲ稱シ、轉ジテ、其用度ヲモ、雜掌ト云ヒ、コレヲ總ブル職ヲ、雜掌奉行ト稱シタリ。

ざっしゃうにん (名) 雜掌人 前條ヲ見ヨ。

ざっしゃうぶぎゃう (名) 雜掌奉行 前前條ヲ見ヨ。

さっしゃ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 被爲 〔爲させらる、させらるノ、壞レタル語、天正ノ頃ハ、狂言記、吟聟「物ニ心得さっしゃれ」同、薩摩守「末代ヲ忘レさっしゃれ」ナド、下二段活用ナリキ、後ニ、四段活用ニ變ジタリ(入らせらる、いらしゃる。仰せらる、おしゃるノ例ノ如シ、然シテ、敬意ハ、甚シク薄クナレリ)〕爲ノ、稍、敬意アル語。成サル。 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「オマハン、何ノマネヲさっしゃるノダエ」「イツモ氣遣ヒさっしゃる」ソンナ事ヲさっしゃるナ」得心さっしゃれ」

ざっしゅ (名) 雜種 (一)雜多ノ種類。(二)雜多ノ人種、種族。 [illegible] (三)畜類ノ、土產種ト、異國種トノ交尾ニ因リテ生レタルモノ。アヒノコ。

ざっしゅぜい (名) 雜種稅 地方稅ノ一種、雜業ニ課スルモノ。即チ、商業、工業以外ノ、種種、雜多ナル職業ナリ。雜稅。

ざっしょ (名) 雜書 書籍ノ部類別ケニ、經、史、子類、詩文集、其他、專門部ニ入レ得ザル、種種ノ書。

ざっしょく (名) 雜色 (一)五色、紫、紺、ナド、サマザマノ色。(二)雜リテ純ナラザル色。 (三)ざふしき(雜色)ヲ見ヨ。

✣さっ・しる・シル・シレ・シ・シ・シヨ (他動、上二) 察 〔大條ノ察すノ口語、案じる、煎じるノ類〕サコソト、感ズ。思ヒヤル。「他人ノ苦勞ヲ察しる」「人ノ難儀ヲ察しナイ」

さっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 察 推シ量リテ、諦メ知ル。 孟子、離婁、下篇「舜明二於庶物一、察二於人倫一」「眞理ヲ察す」

さっすい (名) 撒水 ミヅマキ。マキミヅ。「撒水車」

さっせい (名) 殺靑 支那ノ昔、紙ナク、竹ニ字ヲ書キタル頃、ソノ竹ヲ、火ニ炙リテ、靑ミヲ殺グコト。 後漢書、吳祐傳「欲下殺二靑簡一以寫中經書上」

ざつ-ぜい (名) 雜税 雜種税ノ略、其條ヲ見ヨ。 南史、宋武帝紀「東境去歳不ㇾ稔、云云、遝近暇ニ蠲米粟一者、可ㇾ停ニ道中雜税一」

ざッ-せう (名) 雜抄 種種ノ事ヲ、抜キガキスルコト。又、其物。 宋史、趙了翁傳「所ㇾ著、有ニ經史雜抄一」

ざッ-せつ (名) 雜說 種種ナル論說。 漢書、藝文志「取ニ春秋一、采ニ雜說一、咸非ニ其本義一」

さつ-ぜん (副) 颯然 さッさつ(颯颯)ノ條ヲ見ヨ。

ざつ-ぜん (副) 雜然 物事ノ、入リマジリタル狀ニ云フ語。 文天祥、正氣歌「天地有ニ正氣一、雜然賦ニ流形一」「公私ノ用作、雜然トシテ來ル」

ざッ-そ (名) 雜訴 ざふそ(雜訴)ヲ見ヨ。

さッ-そく (副) 早速 〔早速ノ急呼(早急、さッきふ)〕 ハヤク。スミヤカニ。急ニ。敏速。 古今夷曲集(寛文)八「白雨ノ、降リカカルトモ、早速ニ、受ケ流スベキ、袖合羽カナ」

ざッ-そく (名) 雜則 箇條以外ノ、雜多、些細ナル規則。

ざッそけつだん-しよ (名) 雜訴決斷所 「ざそハ、ざふそナルベキカト思ヘド、暫ク、太平記ノ振假名ニ從フ」 後醍醐天皇ノ御代、鎌倉幕府討滅ノ後、元弘三年、特ニ設ケラレテ、種種ノ訴訟ヲ決斷セシメラレシ官署。 太平記、十二、公家一統政道事「雜訴ノ沙汰ノ爲ニトテ、郁芳門ノ左右ノ脇ニ、決斷所ヲ造ラレ、其議定ノ人數ニハ、才學優長ノ[illegible]、三番ニ分ケテ、一月ニ六箇度ノ、沙汰ノ日ヲゾ定メラレケル」 同、一、三位殿御局事 [illegible]

さッ-た (名) 雜多 〔濁音字ヲ、淸音ニ云フコト、多シ、前、前栽。羣、羣集。合、合力。道、藝道〕 種種、入リ雜リタルコト。「種種雜多」

サッタ (名) 薩埵 〔梵語、薩多婆(Sattva)ノ下略、覺有情トモ、大心衆生トモ譯ス〕 佛ノ階級ノ稱號。上ニハ無上佛果ヲ求メ、下ニハ一切衆生ヲ救ハムトスル大誓願ヲ有スル佛道修行者。菩薩ノ條ヲ併セ見ヨ。 翻譯名義集、一、三乘通號「薩埵、秦ニハ言ニ大心衆生一、有ニ大心一入ニ佛道一、名ニ菩提薩埵一云云、菩提名ニ佛道一、薩埵名ニ成衆生一云云、薩埵此日ニ衆生一以ニ智上求ニ菩提一、用ニ悲下救ニ衆生一」 (秦トハ、支那ナリ)

さッ-たう (名) 察當 〔察度ノ轉訛ナラムカト云フ、大戴禮ニ、察ニ度情僞一トアルハ、詳カニ校ヘハカルナリ、然レドモ、音ハ、さッたくナリ、擦當ニハアラヌカ、尚、考フベシ〕 法ニ違フトテ、咎ムルコト、譴責。 政談祕書「文段間違多、難ニ取用一事ニ御座候間、察當仕候處無ㇾ之、云云」 間訟祕鑑「村指出明細帳之事、云云、村方、勝手ヲ以テ、差置候帳面ニ付、察當申聞ケ、取遣候而モ不ㇾ苦事」(日本百科大辭典) 俚言集覽、察當「法度ニ違ヒ、咎メラルルコト」 同、さッた「俗、察度ノ字ヲ用ウ、御察度受ケ候ヒテハ、一言ノ申開無ニ御座一ナド云フ、是レハ、本、拶ノ字ナリ、禪家ニテ、問答ニ批難スルヲ、拶ト云フ(挨拶ノ條ヲ見ヨ)拶ヲ入ル、拶ヲ受クル、ナド云フヲ、普便ニ、さッと受クルト、口語、を文字ヲ、とニ呼ベルヨリ、察度ノ字ヲ充ツルナリ(コレハ、拶をヲ、さッさトヲムト云ヘルカ、謠曲、安宅ノ勸進帳ノ文ニ、盧遮那佛を建立す、ノ佛をヲ、ぶッとト發音スル例カ)拶ハ、擠ニ、つめるコトヲ云フ、玄玄棊經ニ、拶、逼也、以ニ子他逼ㇾ之日ㇾ拶」(此說、善ヘ得タルヤウニハアレド、尚、甚ナルニハアラジカ)

さッ-たう (名) 殺到 〔さいたうナルベキナリ、韻會「殺、所界切」字典「殺、疾也」白居易、半開花詩「東風莫ニ殺吹一」〕 勢ヒ疾ク、寄セ來ルコト。 演義三國志「混戰透迤、殺ニ到神亭嶺下一」「注文殺到」

ざッ-たふ (名) 雜沓 〔字典「沓、重也」〕 人ト人ト、入リ雜ルコト。コミアヒ。ヒトゴミ。 左思、蜀都賦「輿輦雜沓、冠帶混幷」

ざッ-たふ (名) 雜遝 人ノ、マジハリ、カサナルコト。 潘岳、籍田賦「長幼雜遝、以交集」

ざつ-だん (名) 雜談 ざふだん(雜談)ニ同ジ。

ざつ-ぢう (名) 雜糅 〔韻會「糅、女救切」博雅「糅、雜也」〕 入リマジルコト。混淆。 國語、楚語「民神雜糅、不ㇾ可ニ方物一」 晉書、譙王休之傳「大軍相臨、交ㇾ鋒接ㇾ刃、蘭艾雜糅」

さッ-ちゆう-ざい (名) 殺蟲劑 物ニ集ル小蟲ヲ殺ス藥。

ざッ-ちよ (名) 雜著 雜記ノ著書。 文體明辯「按、雜著者、詞人所ㇾ著之雜文也」

さつ-づかひ (名) 札遣 札ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ざッ-つ-の-ばう (名) 座頭坊 座頭ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さッて-も (感) 扨 さても(感動詞ノ)ノ條ヲ見ヨ。

さッ-と (名) 察度 さッたう(察當)ノ條ヲ見ヨ。

さッ-と (感) 颯 さと(颯)ノ條ヲ見ヨ。

ざッ-と (副) 輕粗 〔さざとノ上略、急呼、サレバ、濁ル、さッさッと(忽忽)、竝ニ、さと(颯)ノ語原ヲ見ヨ〕 輕ク、疾ク。精シクナク。大概ニ。 狂言記、料理聟、增入ノ次第「ソレナラ、女房衆ニ頼ウデモラウテ、コノ書イタ通リニスレバ、聟入ガざッと濟ムゾ」 料理物語(寛永)鯛「鯛ノ手バカリ、イカニモ薄ク切リ、だしたまりニテ、ざッと煮中スナリ」 同、ささ餅「粳ノ米、上白ニシテ、ヨク粉ニハタキ、三段ニ粉ヲ取ル也、一番ハ、ざッとハタキ、先ヅ篩ヒ、其粉ハ除ケ申シ候」 博多小女郎波枕(享保、近松作)下「ざッと淺黄ニ染メウモノ」「ざッと見トホス」ざッと書取ル」

ざッ-と (感) 水聲 〔さざとノ上略、急呼、故ニ、濁音ナリ、さざ(水聲)ノ條ヲ見ヨ〕 水ヲ沃カクル音ニ云フ語。 「手桶ノ水ヲ、ざッとアビセル」

ざッ-と-の-ばう (名) 座頭坊 座頭ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ざつ-ぱ (副) 粗 「ざつハ、ざッと(粗)ノ下略(場都合、ばつヲアハセル。狼狽、あわヲクフ)」 手數ヲ省クニ云フ語。粗末ニ。「ざつぱ作ル」ざつぱな出來」

さッ-ぱ (名) 〔味ヒノ、さのまろニ比シテ、爽シタル意ニモアルカ〕 魚ノ名。さはだ、さのまろノ類、但シ、成長シテ、長サ四五寸ニテ、形モ、稍、異ナリ、味モ、至ッテ淡ク、炙リ食フニ、頭骨ニ至ルマデ軟カクシテ、カウバシ。ツナシ。ママカリ。マウカリ。 物類稱呼(安永)二「さのまろ「此魚ノ小ナル物ヲ、京都ニテまうかりト云ヒ、中國、九州、共ニ、つなしト云フ、云云、駿河ニテ、つなしト呼ブハ、さはだナリ、此國ニテ、さはだト云フモノハ、江戸ニテ、さッぱト云フ魚ナリ」 俚言集覽、さッぱ「魚名、さはだ、さのまろノ類、干物ニシテ、味ヒヨシ」

さッ-ぱ (副) 淸爽 さッぱりノ條ヲ見ヨ。

サッパア (名) 晩餐 〔英語、Supper.〕 晩ノ洋食。夕飯。

ざッ-ぱい (名) 雜俳 〔俳諧以外ノ雜體

ノ意、一[illegible]
の語[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]
ニ、獨立ノモノトナレリ)

ざっぽう　[illegible]　[雜袍]　[illegible]ノ袍、[illegible]
ノ[illegible]、位袍ノ如クニ、當色ノ色ニカカハラズ、種種ノ色ヲ用キレバ、云フ」[illegible]官衣ノ別名。[illegible]七史記五記云、延長八年八月廿九日、云云、六位雜[illegible]

ざっぱう　(名)　[雜報]　種多ナル出來事ヲ、[illegible]ノ報告。

ざっぱく　(名)　雜駁　[駁ハ、ぶちナリ、駁[illegible]]　[illegible]マジリタルコト。ゴタマゼ。「雜駁ノ著述」「雜駁ノ物品」

さつばつ　(名)　[殺伐]　(一)人ヲ、殺スコト。殺生。[illegible]　(二)[illegible]　(三)モノスゴキコト。(殺氣ノ條ノ(二)ヲ併セ見ヨ)　[illegible]
[illegible]賢ノ聞エツルコソ、遠マシク覺エ侍リケレバ、云云、殺害ナクシテ、大納言殿、此所刑ニ逢ヒタマフ」

さ,はり　[illegible]　清爽　[さっぱハ、爽ノ語根ノ轉呼(爽、さっく。先、さっき)古クハ、さっぱトノミ云ヘリ(出典ノ史記抄ヲ見ヨ、今モ[illegible])]　云フ)さばさばと云フ語モアリ、末ノ[illegible]ハ[illegible](註[illegible])[illegible]ノ條ヲ見ヨ。[illegible]ト云フ語、コレヨリ轉ジタルナリ」(一)サハヤカニ。サバサバト。痕ヲトドメズ。奇麗ニ。　史記抄(文明)十四「詩人ノ心モさっぱト別ナラウゾ」狂言記、腹笑「夫レナラバ、[illegible]助語也、尾州ニ、さっぱりト云フ」「さっぱりトシタ天[illegible]ヲ拂フ」　(二)イヤミナク。俗氣ナク。[illegible]　瀟灑　[illegible]　「さっぱりシタ性ノ[illegible]」　(三)痕ヲトドメヌ意ヨリ轉ジテ、更ニ　サラサラニ　一向ニ。(多クハ、下ヲ打消ニ結ブ)　更ニ[illegible]「さっぱり[illegible]」

ざっぴ　(名)　[雜費]　雜多ノ入費。雜用。

さっぴつ　(名)　擦筆　西洋畫ニ用ヰル、一種ノ筆。[illegible]ヲ、[illegible]ニテ作レルモノ。擦筆畫ト云ヒテ、鉛筆、又ハ、[illegible]ヲ以テ、畫紙ノ上ニ、描ケル物體ヲ[illegible]此筆ノ尖ニテ擦リテ、明暗、種種ノ色調ヲ取ル。

ざっぴつ　(名)　雜筆　[筆ハ、書クコト]　雜記。雜録。ニ同ジ。　北史、[illegible]「[illegible]三十[illegible]」[illegible]

さっぴつぐゎ　(名)　擦筆畫　前前條ヲ見ヨ。

さつびと　(名)　[獵人]　獵スル人　さち(幸)ノ條ヲ見ヨ。

さっぷ　(名)　撒布　マキ、シクコト。マキ散ラスコト。[illegible]

ざっぷ　[illegible]　[illegible]　[illegible](水[illegible])ノ條ヲ見[illegible]

さっぷうけい　(名)　殺風景　[illegible]ぐ意ナルベク、さいふうけいト訓ムベキカ[illegible]所[illegible]　其場ノ景色ヲ[illegible]スルコト。興ヲ醒スコト。[illegible]花山ノ前ニ、[illegible]ヲ立テ、祝宴ノ席ニテ、凶事ヲ談ズルナドヲ云フ。　唐ノ李商隱(義山)雜纂、殺風景ニ就キ、[illegible]

ざつぶつ　(名)　[雜物]　(一)雜多、些細ノ物。雜物。雜具。　呉志、[illegible]　(二)粗末ナル物　ガラクタ物。

ざっぷり　(感)　水聲　ざぶ(水聲)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]ざぶ[illegible]」

さっぺい　(名)　[撒兵]　[翻譯語ナルベシ、散兵ト同意ナル語カ]　德川幕府ノ末期、文久年間ニ創設セシ兵隊。佛蘭西人ヲ教師トシテ、教練セシメタリ、持小筒組ノ改稱ナリ、其長ニ、撒兵奉行、撒兵頭アリ　江戸城ノ諸門ナドニ置ケリ。

さっぺいがしら　(名)　撒兵頭　前條ヲ見ヨ。

さっぺいぶぎゃう　(名)　[撒兵奉行]　前前條ヲ見ヨ。

さっぽうし　(名)　册封使　さくほうしノ條ヲ見ヨ。

ざつぼく　(名)　[雜木]　ざふき(雜木)ニ同ジ。雜木。　宋史、李昭遘傳「桂林之下無二雜木一」

さつま　(名)　[薩摩]　(一)[illegible]ノ略　(二)さつまやき(薩摩燒)ノ略。

さつまあげ　(名)　薩摩揚　調理物ノ名。魚肉ヲ[illegible]、[illegible]豆腐、片栗粉、トヲ、煮出汁ニテ摺リマゼ、茄デタル胡蘿蔔ヲ細ソク刻ミタルヲ加ヘテ、[illegible]寸許ニ[illegible]ク團メ、胡麻ノ油ニテ揚ゲタルモノ。沖縄ノ製法ヲ、薩摩ニ傳ヘタルモノカ、沖縄ニテハ、何物ニテモ、豚ノ脂ニテアゲタルヲ、てんぷらト云フ。

さつまいも　(名)　[薩摩薯]　[明ノ萬暦年中、南蕃ヨリ支那ニ入リテ、蕃薯ト云ヒ、琉球ニ入リテ、唐薯ト云ヒ、薩摩ニ渡リテ、琉球薯ト云ヒ、元文年中、全國ニ殖シテ、薩摩薯ト云フ」　植物ノ名、ひるがほノ屬、瘦地ニモ繁殖ス、莖ハ、細長クシテ、地上ニ匍匐シ、葉ハ、卵狀ニシテ、鋸齒ナク、一尖、又ハ、三尖ニシテ、質、厚ク、深緑ナリ、新葉ハ、紫ヲ帶ブ、花ノ形、色、ひるがほニ似テ、大ナリ、根、塊ヲ成ス、圓ク長ク、兩頭、尖ル、皮ノ、黄赤ナルアリ、紫ナルアリ、ふかしいも、やきいもトスレバ、肉、黄ナリ、味、甚ダ甘シ、賤民、多ク、糧トス。甘諸　蕃薯

さつまいり　(名)　[薩摩煎]　[薩摩薯煎ノ略]　調理物ノ名。赤小豆ヲ、[illegible]ニテ煮テ、ヨキホドニ煮エタル頃、さつまいもヲ骰目ニ切リタルヲ入レ、砂糖、醬油ヲ加ヘテ、煮立タセオキ、ソレニ、炒リタル糯米ヲ加ヘ、ヨク攪キマゼテ、火ヨリ

オロシ、蓋ヲシテ、暫ク蒸ラシテ成ル。〔伊世貞丈雑記、八化、三鳥ノ初、上ニ、以サマガ上ニ揚ゲタカラ、薩摩いりト云フ、茶ノ粉ヲ拵ヘルバカリ〕

さつま-がすり（名）〔薩摩絣〕〔琉球ヨリ、薩摩ヲ經テ、內地ニ賣出シタレバ、名アリ（薩摩上布ノ名モ、同ジ）薩摩ニテハ、琉球がすりト云フトゾ〕 琉球ニ產ズル、紺地ニ白絣ノ綿布。山藍ニテ染ム、洗ヘドモ、色、久シク衰ヘズトテ、賞翫セラル。又、白地ニ紺絣ナルヲ、白さつまト云フ。幅九寸五分、長三丈ナルヲ、普通トス、今ハ、薩摩、其他、各地ニテ、模造ス。薩摩風土記、二「琉球產物「木綿こんがすり」守貞漫稿、十九、かすり「薩摩製ニハ、麻布モ、木綿モアリ、云云、木綿ヲ、唯ニ、薩摩がすりト云フ也、紺地多ク、白地モ稀ニ有ㇾ之」

さつま-けん（名）〔薩摩拳〕 拳ノ條ヲ見ヨ。

さつま-ごよみ（名）〔薩摩暦〕 暦ノ一種。德川時代、安永ノ頃ヨリ、鹿兒島藩ニテ製作、板行シ、領主、及、重役ノ者ノミ用キシモノ、藩主島津綱貴、嘗ツテ、家臣ヲシテ、江戶ノ澁川春海ニ就キテ暦法ヲ學バシメタリト云フ。薩州暦。

さつま-じやうふ（名）〔薩摩上布〕〔薩摩がすりノ語原ヲ見ヨ〕 琉球ヨリ產出スル上布、上品ナリトス、生麻ニテ織リ、山藍ニテ染ム。白絣アリ、紺絣アリ、其細上布ト稱スルモノ、極メテ精好ナリ。

さつま-じる（名）〔薩摩汁〕〔薩摩人ノ調理ニ始マル〕 料理ノ名。鷄、又ハ、豚ノ切肉ヲ、鍋ニ、水ト共ニ十分ニ煮テ、更ニ、大根、牛蒡、胡蘿蔔、里芋、葱、ナドヲ刻ミタルヲ雜ゼテ煮テ、野菜ノ柔カニナリタル頃、味噌ヲ擂リ、普通ヨリ濃ク溶キタルヲ加ヘ、ヨク煮込ミ、鍋ノオロシ際ニ、又、酒ヲ少シ加ヘテ、成ル。

さつま-すぎ（名）〔薩摩杉〕〔大隅國、屋久島ハ、舊、薩摩領中ナリ〕 屋久杉ニ同ジ。

さつま-た（名）〔刺股〕 さすまた（指股）ニ同ジ。

さつまっ-ぽう（名）〔薩摩人〕〔さつま人ノ音便（あさびらき、あさぼらけ。たかびく、でさぼさ。商人、あきうど）みとっぽう（水戶人）、ざいごっぽう（在鄕人）、同ジ〕 薩摩國ノ人ヲ呼ブ語。稍、嘲リ云フ意アリ。

さつま-の-かみ（名）〔薩摩守〕〔薩摩守平忠度ヲ、只乘ニ寄セタル謎詞ナリ、然レドモ、忠度ノ故鄕の花ノ歌、一首、俊成ニ採ラレテ、讀人不知ニテ、千載集ニ載リタレバ、忠度モ、只載カト云フ、呵呵〕 能樂ノ狂言ノ題名。狂言記、さつまのかみ二、旅僧、茶屋ニ呼バレテ、茶ヲ出サル、茶代ヲ持タヌト云フ、亭主、僧ニ、コレカラ、何處ヘ行クカト問フ、天王寺ヘ參ルト答フ、亭主、神崎ノ渡アリ、船賃ガ入ルト云ヒ、渡守ハ、秀句好ナレバ、船賃ヲ請ヒタラバ、平家ノ公達薩摩守忠度ト云ハバ、只ニテ乘スベシト敎ヘタリト云フコトヲ演ズ。今、渡船、又ハ、汽車ナドニ、無錢ニテ乘ル語トシテ、俗間ニ、專ラ用キラル。

さつま-びは（名）〔薩摩琵琶〕 平家琵琶ノ、轉ジタルモノ、薩摩國ニテ行ハル。普通ノ琵琶ヨリ、胴、稍、小サク、細長ク、撥ハ、甚ク大ナルモノヲ用キル、語ル詞章、從來、數十アリテ、聲調、悲壯ナルモノ、多ク、武士ノ士氣ヲ鼓舞セシム、日清、日露ノ戰役ノ後ハ、其戰事ヲ材料トシタル新曲モ、多シ。西遊記（天明、橘南谿）一、琵琶の妙た「平家物語ヲウタフニ、云云、此二州（薩摩、大隅）ナルハ、他國トハ、大ニ異ナリ、云云、平若キ武士、皆、琵琶ヲ弄ブ、彼二州ハ、名ダタル勇猛ノ風アルニ、云云、荒男ノ、夜夜、琵琶ヲ彈キアリク、其風情、想フベシ、云云、寶生ト云ヘル法師、遠近、五倫、花の香、小町、玉章、似我、蟬始、老曾の森、鴛鴦の夢ナド云フ歌、數數、彈ケリ、云云、又、崩ト云フモノアリ、是ハ、薩州ノ昔、伊東、大友ナドト合戰ノ事ヲ語ルニテ、其聲、烈シク、琵琶ノ手モ、繁手ナリ」

さつま-ぶし（名）〔薩摩節〕 鰹節ノ、薩摩國ヨリ製出セラルルモノ。土佐節ト、名ヲ齊シウス。

さつま-ふぢ（名）〔薩摩藤〕 古名、かにひ。今、又、ちげんぢ。灌木ノ名、高サ、二三尺、枝、對生シ、春、節每ニ、密ニ四瓣ノ紫花ヲ着ク、筒子樣、丁子形ナリ、花、落チテ、新枝葉ヲ生ズ、葉ハ、いぼたニ似テ、小サク厚ク、毛アリ、長サ八九分、對生ス。フヂモドキ。芫花

さつま-やき（名）〔薩摩燒〕 薩摩國、日置郡、下伊集院村、苗代川ヨリ製出スル陶器。慶長三年、征韓ノ役ニ、島津義弘、韓人、數十人ヲ率テ歸レルガ、製作セシニテ、其子孫ガ、業ヲ繼グモノナリ、素地、多クハ、象牙色ニテ、細カキ碎文アリ、鮮麗ナル花鳥ノ上繪ヲ施シ、纖巧ナル透彫シタルモアリ、美術ヲ極ム、粟田燒ハ、コレニ倣ヒタルモノナリ。寬政年中、更ニ、金襴手ヲ製出シ、マスマス鮮美ナリ。此陶窯、今ハ、鹿兒島市內ニ盛ンニシテ、苗代川ナルハ、衰微ニ傾ケリト云フ。

さつま-らふそく（名）〔薩摩蠟燭〕 松脂ニ魚燈油ヲ加ヘテ煉リ作ル、極メテ下等ナル蠟燭、魚蠟トモ云フ。東京ノ街路ノ、夜ノ露店ナドニテ用キル。俚言集覽、薩摩蠟燭「鹿兒島製、上品ノモノヲ云フ、又、魚油ニテ煉リ作リタル、下等品ノ名」 經濟要錄、五、脂膏、第十一「松脂ノ用モ、亦、少カラズ、コレヲ、圓ク長ク、一尺許ノ棒ノ如ク調製ヘテ、笹ノ葉ニ包ミ、燈火ノ代リニ用ヒ、或ハ、魚油ヲ和シ、俗ニ云フ、薩摩蠟燭ナルモノニ造ル」（古事類苑） 武江年表、八、天保八年八月「薩摩蠟燭、商ヒ始ム、魚蠟ト號ス」

ざつ-む（名）〔雜務〕 雜多、些細ナル仕事。雜務。

さつ-や（名）〔獵矢〕 獵ニ用キル矢。さち（幸）ノ條ヲ見ヨ。

さつ-ゆみ（名）〔獵弓〕 さちゆみニ同ジ、さち（幸）ノ條ヲ見ヨ。

ざつ-よう（名）〔雜用〕 ざふよう（雜用）ニ同ジ。唐書、穆宗紀「充二軍府雜用一」

ざつ-らん（名）〔雜亂〕 入リ、ミダルルコト。マジリ、ミダルルコト。混亂。史記、孫子傳「解二雜亂紛糾一者、不レ控捲一」

さつ-りく（名）〔殺戮〕〔說文「戮、殺也」〕 人ヲ、殺スコト。書經、呂刑篇「殺二戮無辜一」金史、僕散忠義傳「狂寇取レ暴、殺二戮無辜一」

さつ-りゃく（名）〔殺略〕〔博雅「略、取也」〕 人ヲ殺シ、又、物ヲ奪フコト。殺掠 史記、匈奴傳「歲入レ邊、殺二略人民一甚衆」晉書、武帝紀「泰始九年、鮮卑寇レ邊、殺二略五千人一」

さつ-りよ（名）〔殺虜〕 殺スコトト、擒ニスルコトト。史記、匈奴傳「左賢王圍二李將軍一、卒可二四千人一、且レ盡、殺虜亦過當」

ざつ-ろく（名）〔雜錄〕 雜記ニ同ジ。雜筆。

ざつ-わ（名）〔雜話〕 ざふだん（雜談）ニ同ジ。ムダバナシ。

さつを (名) [獵夫] さつをニ同ジ。獵スル人。さち(幸)ノ條ヲ見ヨ。

さて (副) [然而] (然アリてノ意) ソノ如クニテ。ソノママニテ。ソレニテ。[illegible]コト得ズシテ、惡ケレドモ、御冠獻ル事ヲ、恐ミ[illegible]子安貝ハ、惡シクタバカリテ、取ラセタマフナリ、さてハ、エ、取ラセタマハジ」

さて (接) [扨] (前條ノ語ヲ、接續詞ニ用キルモノ、上ノ心ヲ承ケテ、下ニ移ス意、[illegible]「俗ニ、扨ト書ケルハ、叉手ヲ一ニ合シタルナリ」) 然シテ。而ウシテ。サウシテ。 竹取物語「ソレヨリナム、少シ憂シキ事ヲバ、カヒアリトハ言ヒケル、さて、かぐや姫、形、世ニ似ズ、メデタキ事ヲ、帝、聞召シテ」 伊勢物語、第五段「行ケドモ、エ逢ハデ歸リケリ、さて詠メル」 同、六十三段「來テ寢ニケリ、さて、後、男、見エザリケレバ」

さで (名) [小網] [illegible] 四手網ト云フモノ、此類[illegible] (一)[illegible]魚ノ入ルヲ窺ヒ、掬ヒアゲテ捕ル[illegible] 京都内、[illegible]川ノ下流ニテ、春季ニ、白魚ヲ捕ルニ用キル網、此類ナリ。[illegible]神樂歌、薦枕「コモマクラ、[illegible]」 三「加茂川ノ、後瀬シヅケミ、さでさしテ、鮎伏ス瀬[illegible]」 [illegible]シ、手ニ持テ、魚ヲ捕ルモノナリ、梁塵秘抄ニ、小網ナリト云ヘリ」 俚言集覽「さであみ、さでニ同ジ」 (二)叉、細ソキ木、叉ハ、竹ヲ縮ネテ、輪ヲ作リ、其中ニ、綱ヲ平ラニ張リ、長キ柄ヲツケタルモノ。生簀ノ金魚ナドヲ掬ヒアゲテ取ルニ用キル。スクヒアミ。スクヒダマ。ダモ。

さであみ (名) [小手網] 前條ヲ見ヨ。

さてい (名) [査定] 調査シテ、決定スルコト。調ベテ、決ムルコト。査定シタル議案ヲ、査定案ナドト云フ。

さていあん (名) [査定案] 前條ヲ見ヨ。

さていうけつ (句) [左提右挈] 左ト、右トニ、提挈ス。提挈ノ條ヲ見ヨ。

さておく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [措] (然而置くノ義) ソノ儘ニシテオク。サシオク。ステオク。 [illegible]

さてさて (感) (然而ヲ、重ネテ云フ) 然アルカト、心ニ承クルニ云フ聲。サテ[illegible] 宇治拾遺、[illegible]ヲカシカリケル女カナト、思ヒタマフ」 [illegible]七、第二條「アリノママノ事ヲ語リケレバ、さてさてト言ヒテ、笑フモノモアリ」

さてつ (名) [蹉跌] (蹉ハ、字典「過也」跌ハ、揚子方言「蹷也」) (一)ツマヅクコト。[illegible] (二)シクジルコト。失策。[illegible]

さては (接) [然而者] (然而ニ、感動詞ノはノ、添ハリタル語ナルカ) 而ウシテ。ソシテ。及ビ。 源、廿二、玉鬘「弓矢持チタル人、二人、さては、下ナル者、童ナド、三四人」 同、四、夕顔「[illegible]シルベセシ隨身バカリ、さては、顏ムゲニ知ルマジキ童一人バカリゾ、將テオハシケル」

さては (感) [然而者] 然アルカト思ヒツキテ發スル聲。 保元物語、二、白河殿攻落事「[illegible]義朝、一陣ヲ承ハリテ固メタリ、トゾ言ヘケル、義朝、重ネテ、さては、逆ノ弟、ゴサンナレ、汝、兄ニ向ヒテ、弓引カムコト、冥加ナキニアラズヤ」

さてん (名) [茶店] チャミセ。

さでん (名) [左傳] 書名。正シクハ、春秋左氏傳ナリ、支那ノ春秋ト云フ歴史(其條ノ(四)ヲ見ヨ)ヲ、左丘明ト云フ人ノ、解釋シタルモノ。平安朝以來、久シク、學校ノ教科書ナリキ。

さてんきう (名) [左典廐] [illegible](左馬寮)ノ唐名、てんきうノ條ヲ見ヨ。

さても (副) (然而ニ、感動詞ノもノ添ハリタル語) (一)然アリテ。ソノママニテ。[illegible] 宇津保物語、國讓、中三「禄ノ物セラレツル時コソ、さてもアリツレ、イカニ心細ク、侘シカラム」 源、五、若紫「[illegible]さても紛ラハシタマフヲ、夕暮トナレバ、イミジウ屈シタマヘバ、カクテハ、イカデカ過シタマハムト、慰メワビテ」 (二)然ルホドニ。斯クテ。[illegible]

さても (感) [扨] (前條ノ語ノ轉) 然ルカト感ジテ、發スル聲、サテサテ。後世、さてもトモ云フ。 源、五、若紫「さても、イト愛クシカリツル兒カナ、何人ナラム」 同、三十五、柏木上「さても怪シヤ、我ガ世ト共ニ、恐ロシト思ヒシ事ノ報ナメリ」「さても勇シキ振舞」 雪女五枚羽子板、[illegible]「さても[illegible]笛吹ト、ト、ト響メテ、通シタ」[illegible]

さと (名) [里] (多處ノ約(多場、さばニ(ヘ)) 多居ノ義、人ノ集マリ住ミテ、聚落ヲナセル地ノ意、合類節用集(元祿)一、乾坤門「郷、活法、郷之爲言、向也、衆所ㇾ向也、里、活法、里之爲ㇾ言、止也、衆所ㇾ止也」(圓機活法)) (一)山ニ對シテ、平野ノ、人家アル地。人里。邑里。 萬葉集、六[illegible]夫ガ、高圓山ニ、迫メタレバ、里ニ下リケル、鼯鼠ゾ是レ」(獵師ニ捕ヘタルヲ云フ) 同、七[illegible]山守ノ、里ヘ通ヒシ、山道ゾ、繁クナリケル、忘レケラシモ」(通ハザレバ、草ノ繁クナレルヲ云フ) 天武紀、下、八年十月[illegible] (二)其人ノ住ム地。家郷。[illegible] 輕(地名)ノ路ハ、吾妹子ガ、里ニシアレバ、懃ニ、見マク欲シケド」 (三)田舍。在鄉。村里。[illegible]ニ、涼ム里ノ子ニ、さとノ童(さとビタル童)」 (四)小兒ヲ農家ニ預クルヲ、里にやるト云フ。(里子ノ條ヲ見ヨ) (五)遊里ノ略、其條ヲ見ヨ。

さと (名) [里] [郷] (前條ノ語原ニ同ジ) 古へ、地方行政區劃ノ稱、郡ノ内ヲ分チテ、人家、五十戸アル一區ヲ云フ。(古ヘノ一戸内ノ人口ハ、四五十人、乃至、七

八十人)初、里ノ字ナリシガ、郷ノ字ニ改メラレ、後ニハ、音讀シテ、がう(郷)ト云フ、其條ノ(一)ヲ見ヨ。其長ヲ、郷長ト云ヒ、郷長トモ云フ。出雲國風土記、意宇郡、舍拾「舍、云云、右件郷字者、依二靈龜元年式一改二里爲一レ郷」萬葉集、五、長歌、貧窮問答歌「笞取ル、五十戸良(長ノ誤)ガ聲ハ、寢屋床マデ、來立チ叫ビヌ」(田租、賦役ヲ徵ルナリ)同、十五十「櫨ヲ、(序)守部(地名)ノ五十戸ノ、門田早稻、刈ル時過ギヌ、來ジトスラシモ」

さと (名) |京里| 〔前前條ノ語ノ、住處ノ義ヨリ、大聚落ノ意トナレル語〕 (一)〔京都ノ市街地。御里。 倭名抄、五三「左京職、比多利乃美佐止豆加佐、右京職、美岐乃美佐止豆加佐ニ御里司)」 萬葉集、十五十「吾ガ宿ノ、萩咲キニケリ、散ラヌ間ニ、早來テ見ベシ、平城ノ里人」古今集、二、春、下、平城天皇御歌「古里(舊都)ト、成リニシ奈良ノ、都ニモ、色ハカハラズ、花ハ咲キケリ」 (二)〔內裏ノ外ノ、市街地ノ居所。里內裏ト云フモ、是レナリ。宮仕ヘスル者ノ、我ガ家ヲ、さとト云ヒ、里住ナド云フモ、然リ。 倭訓栞、さと「宮づかへニ對シテ、我家ヲモ、さとト云フ、物語ニ多シ、里第、里亭ノ稱、是レナリ」 伊勢物語、六十五段「此女、思ヒワビテ、里ヘ行ク」眞名伊勢物語「京江行」(宮女ノ私宅ヲ云フ) 宇津保物語、忠社廿「帝ハ、さとニアラムト思シテ、父大殿ハ、內ニ內ニ侍ハムトオボシテ、二十日バカリニナリメル時ニ、云云」 源、一、桐壺三「其夜、大殿ノ御里ニ、源氏ノ君、マカデサセタマフ」 榮花物語、廿四、若ばえ「枇杷殿ノ宮ニハ、云云、里ノ人人、參リコム、云云、食物トモ、里ヨリ持テ來テ、食フ」ニ是レハ、三條院皇后ニ就キテ云ヘリ) (三)奉公人、下婢ノ、實家。宿許。 (四)轉ジテ、嫁、壻、養子、養女ノ、實家。親里。生家 「里ガヘリ」 (五)又、轉ジテ、人ノ素性。 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「江戸詞ノおさとノ知レル事アリ」 [illegible]、ひデ、御里ガ知レル」

さと (名) |里| 〔路程ノ里ノ字ヲ、文字讀ニシタル語ナルベシ〕 六町一區劃ノ路程ノ名。里ト云フニ同ジ。 履中卽位前紀「出ニ山行數里、兵衆多蹇、不レ得ニ進行一」通證「里、謂ニ路程一、非ニ村里之里一」 天武紀、上三「鉦鼓之聲、聞ニ數十里一」 六帖、五「遙遙ト、千里ノ程ヲ、隔テテハ、稀ノ使モ、ウレシカリケリ」 是則集「幾千里、アル道ナレヤ、秋每ニ、雲居ノ旅ヲ、雁ノ鳴クラム」

さと (感) |颯風聲| 〔さハ、風ノ、輕ク吹キテ、物ニ觸ルル音、重ネテ、さざトモ云フ、字彙「颯、風聲也」和漢、暗合ス(颯ヲ、さつト云フコトハ、颯颯ノ語原ヲ見ヨ) 急呼シテ、さっトモ云フ、輕キ笑聲ニ、さと笑ふ、さざと笑ふナド云フハ、音ヨリ、聲ニ、意ノ轉ジタルナリ(さざめく、ざんざめくナド云フ語モアリ)又、輕ク疾キ意ニ、さと光る、さと匂ふ、さっと立つナド云フハ、更ニ轉ジタルナリ(さっと讀みわたす、又、濁音ニ、ざっと染めるト云フ語モ、此一轉ナリ、各條ヲ見ヨ)〕 (一)俄カニ、ヒトシキリ吹來ル風ノ、物ニ觸ルル音ニ云フ語。又、さざと。さっと。 枕草子、九、九十八段「曉、格子、妻戸ナド、押シアケタルニ、嵐ノ、さと吹キワタリテ、顏ニシミタルコソ、イミジウヲカシケレ」 源、四十、幻卄六「オドロオドロシウ降リクル雨ニソヒテ、さと吹ク風ニ、燈籠モ吹キマドハシテ」 盛衰記、三、齋德祈レ雨事「扇ヲ廣ゲテ、殿上ヲ、さざと扇ギチラシテ」「さっと吹キ入ル風」 (二)輕ク、サザメク笑聲ニ云フ語。又、さざと。 宇津保物語、祭使三十「エ念ゼズ、一度ニ、さと笑フ聲ノ、ス」 榮花物語、一、月宴「女房タチ、何トナク、さと笑フ」 大鏡、下、道長、犬ノ法事「聽聞ノ衆ドモ、さざと笑ヒテ、罷リ歸リニキ」 榮花物語、一、月宴「さざと、笑ヒノシリテ」 (三)輕ク疾キ意ニ云フ語。又、さっと。 紫式部日記、上「時雨、さと搔曇フセバ」 源、六、末摘花廿「松ノ木ノ、己レ起キカヘリテ、さと零ルル雪モ」 同、廿五、螢六「御几帳ノ帷子ヲ、一重打チカケタマフニアハセテ、さと光ルモノ、紙燭ヲサシ出デタルカトアキレタリ」 同、五十、浮舟五十「殿ハ、物ノケシキ、御覽ジタルベシト云フニ、面、さと赤ミテ、物モ宣ハズ」 同、四十一、匂宮廿六「梅ノ、イトイタク綻ビ零レタル匂ヒノ、さと打散り渡レルニ」 同、三十一、槇柱五十「火取ヲ取寄セテ、殿ノ後ニ寄リテ、さと沃カケ給フ、云云、細カナル灰ノ、目鼻ニモ入リテ」 盛衰記(參考本)四、鹿谷酒宴事、平家亡スベキ謀「唯今、洩レ聞エテ、天下ノ御大事ニ及ビ候ヒナンズト申サレケレバ、成親、氣色變ハリテ、さっと立タレケルガ、云云、瓶子ヲ、狩衣ノ袖ニカケテ、引倒サレケル」

さと-いも (名) |里芋| 〔山薯ニ對スル語〕 古名、イヘツイモ。芋ノ屬、苗、小サク、莖、青シ、春、いものおノ大ナルヲ、種ニ下シ、一根ヨリ、數葉ヲ生ズ、莖、高サ三四尺、太クシテ、液、多シ、然レドモ、蘞シ、乾シタルヲ、いもがら、ずいきト云フ、食フベシ、上ニ一葉アリ、闊大ニシテ、徑、尺ニ至ル。又、はたけいも、又ハ、單ニ、いもトノミモ云フ。 靑芋 秋ノ末、根、大ナル塊トナル、拳ノ如シ、いもがおらト云フ。 芋魁 其周圍ニ、多ク、新根ノ小塊ヲ生ズ、いものおト云フ、秋ノ半ニ、食用トス。 芋子 本朝食鑑(元祿)三「芋、和名、以閉都以毛、今訓ニ以毛、或稱ニ里以毛一」

さと-いり (名) |里入| さとがへり(里歸)ノ條ヲ見ヨ。

さ-とう (名) |差等| ケヂメ。科。差別。等級。 孟子、滕文公、上篇「之則以爲、愛無ニ差等一、施由レ親始」「人物ニ差等アリ」

さ-とう (名) |沙頭| スナノ在ル、ホトリ。スナノアル所。 平家物語、三、有王島下事「海ノ邊ニツキテ尋ヌルニ、沙頭ニ印ヲ刻ム鷗、沖ノ白洲ニスダク濱千鳥」

ざ-とう (名) |座頭| 〔琵琶法師ノ首席ノ者ニ起リシ稱ナルガ如シ、まうくゎん(盲官)ノ條ヲ見ヨ、因話錄「今日局席、兩箇坐頭、總是李益」(故事熟語大辭典)〕 (一)盲人ノ、剃髮シテ、平家琵琶、箏ナド、後ニハ、三味線、鼓弓ナドニテ、歌曲ヲナシ、又、按摩、鍼治ヲ業トスル者ノ稱。 瞽師 歌曲ヲ以テ、人ノ門戸ニ立チテ、錢ヲ乞フ者ナドヲモ、稱ス。又、座頭坊ト云ヒ、又、急呼シテ、ざ、との坊、ざ、つの坊トモ云フ。 長曾我部元親百箇條、慶長二年三月廿四日「男留主之時、其家へ、座頭、商人、舞舞、猿樂、猿遣、諸勸進、此類、或輕レ爲二親類一、男一切立入停止也」 和漢三才圖會(正德)十、人倫之用、盲人「盲、有二數品一云云、自レ幼就ニ瞽師一、習ニ歌曲管絃一、皆剃髮、總名ニ座頭坊一、每列ニ宴席一爲レ業」 俳諧集覽、ざ、つの坊「奴詞也、追善清十郎奴俳諧「三味線ノ、べんつれつつノ、音聞テ、ト云フ句ニ、ざ、つの坊ノ、伽ニ來タ宿」 (二)轉ジテ、盲目。又、盲人。 尤之草紙(慶長)見苦しきもの「座頭ノ索麪喰」 俳諧世話盡(承應)「座頭ノ緣入ルト、月夜ノ明ケルハ、人知ラズ」「座頭ノ杖ヲ失ウタヤウ」(俗語錄「別去惘然、如ニ盲者之失レ杖一」)「座頭ノ垣覗」(めくらノ垣覗)

ざとう-がね (名) |座頭金| 座頭ノ貸金。盲金。非常ニ高利ニシテ、期限モ短ク、返金、聊カニテモ怠レバ、嚴シク催促シタルモノニテ、コレヲ促スニ巡リアルクヲ、催促座頭ナド云ヒキ。座頭ノ、盲官昇進ノ事ハ、京都ノ公家衆ノ久我家ニテ掌リ、屢、獻金シテ、次第ニ進ムナリ、コレニ因リテ、高利ノ貸金ヲ公許セラレタリ。

ざとう-くぢら (名) |座頭鯨| 〔眼、小サクシテ、アレドモ無キガ如ク、盲ニ似タリ

トハ、名トナトス、[illegible]「眼、極メテ細ソク、首ニ類ス」鯨ノ一[illegible]ク、脂、甚ダ佳良ナリ、必ズ、子ヲ伴フニ因リテ、子持鯨ノ名モアリ、[illegible]

さとうつり (名) [illegible] 庭ガヘ。宴移。 [illegible]つりシヌ」

さと-おや (名) 里親 里子ノ條ヲ見ヨ。

さと-かぐら (名) 里神樂 〔内侍所ノ御神樂ニ對シテ、其以外ノ地ニ行ハルル神樂ノ義、里内裏ノ語原ヲ併セ見ヨ〕 (一)石清水八幡宮、春日、祇園、大原野、吉田、北野、住吉、等ノ諸社ニテ行ハレシ神樂、其式、内侍所ノ御神樂ト、サシテ異ナルコト無カリシモノノ如シ、其他、村里ナドノ神社ニテ行ヒシモノハ、笛、鼓、銅拍子ニテ、巫女、舞ヒタリトナリ、[illegible]

[illegible]ヌ、里かぐら、發スル社ハ、宮居ナルベシ」永久四年百首、笛「此里ニ、神樂ヤスラム、笛ノ音ノ、小夜深ケ[illegible]コユナリ」[illegible]キアハセタル、笛竹モ、冴ミマサル、里かぐらカナ」 (二)後ニ、諸地方ノ神祭日ニ、[illegible]ニテ行フ里神樂ト云フハ、[illegible]者アリテ、神樂師ト云ヒ、流派ヲナシ、[illegible]明神ニ屬スルヲ神田流、[illegible]ナル根津流、品川ノ天王社ナル品川流ナドアリ。戲曲ニ、天岩戸、熱田神劒、熊襲征伐、[illegible]ナド、數十曲アリ、十二座、十八座、二十五座、三十五座ナドトテ、演ズ、笛、大拍子、大太鼓、ノ三樂器ヲ用ヰ、ソレゾレ、裝束シテ、スベテ、假面ヲカブリ、無言ニテ、身振、手眞似ノミヲ以テ演ズルヲ、特色トス、果ハ、馬鹿囃、外道、ナドト云フ者ニ扮チテ、滑稽ノ技ヲナス、童男ナドハ、おかめ、ひよつとこト稱シテ、喜ブ、明治、大正ノ御代ニモ行ハルレド、今ハ、古風ヲ破リテ、演者、皆、口ヲ利ク。 東都歳事記、二、五月十日「小石川氷川神社、廿五座神樂、云云、元飯田町世繼稻荷社、十八座神樂」

さと-かた (名) 里方 〔親里の方ノ義、さとノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕 妻、又ハ、養子ナドノ實家。外家

さとがち (名) [illegible] 多クハ、里住シテアルコト。 源、一、桐壺「桐壺ノ更衣「物心細ソゲニ、里がちナルヲ、(帝)イヨイヨ厭カズ、アハレナルモノニ思シテ」

さと-がへり (名) 里歸 〔親里へ歸る〕

新婦ノ、嫁ギタル後、始メテ、其實家へ、新郎ト共ニ至ル儀式、饗宴アリ。又、里入トモ云フ、昔ハ、其日、定マラズ、五日目ニ至ルヲ、五日歸ト云ヘリ、後ニハ、大抵、三日目ヲ通例トシ、三日歸ト云フヲ忌ミテ、里開キト云フ、此頃ヨリ、[illegible]答ス、[illegible]ト云ヒキ。 [illegible] 式、上、婚迎之事「御料人、里入ノ事、幾日目ト定リタル事無シ、[illegible]行クヲ、[illegible]ト云フ」

さと-がらす (名) 里鴉 からすノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 慈烏

さと-くに (名) 里國 其土地。住地。 [illegible]ヒテ過グル程ニ」

さと-ご (名) 里子 〔村里ニ預クル子ノ義ニテ、ソレガ元ナル語ナルベシ、里ニ遣る(送るノ義、與ふるニアラズ)ト云フ、是レナリ、[illegible]ノ婦ナドハ、[illegible]健ニシテ、乳モ、豐富ナリ、さとご、さとっ子ト云フハ、急呼スルナリ(人子、ひとっこ。酒瓶、とっくり)〕 母ノ、乳、不足ナドニテ、小兒ヲ、他ニ預ケテ養ハシムルモノ。常ニ、とっ子ト云ヒ、あづくるヲ、遣るト云フ、

其養育料ヲ、里扶持ト云フ、子ニ對シテ、あづかる者ヲ、里親ト云ヒ、子ガ、歸リ戻サレズ、ソノママ、里親ノ養子女トナルヲ、里流ト云フ。(流産、同趣) [illegible]筆記(小山田與清)百四、一「今世、乳、不足シテ、小兒ヲ他ニ預ケテ、養ハシムルヲ、里ニやるトモ、里兒トモ、預け兒トモ云ヘリ、下ザマノ風俗、里扶持トテ、一ヶ月[illegible]也、云云、[illegible]上人[illegible]記、拾遺、下卷二、御子達ハ、ミナミナ、里ヘヤシナヒニ、アナタコナタヘ預ケマヰラセ候、ト見エタルハ、里兒ノ事也」

さと-ごころ (名) 里心 外ニアリテ、我ガ實家ヲ慕ヒ思フ心。望郷心。 昨日は今日の物語(寛永)「小兒ノ間ハ、未ダ、里心ノ候フ故」 俚言集覧、里心「俳諧毛吹草(正保)「里心、ツケカシ山ノ、ホトトギス」

さと-ことば (名) 里言葉 (一)郭言葉ニ同ジ。(二)田舍ノことば。クニコトバ。

さとし (名) 諭 (一)サトスコト。ノミコマシムルコト。(二)神託ナドノ前表。前兆 萬葉集、四[illegible]「[illegible]夢ニ見ツ、何ノ怪ゾモ、君ニ逢ハムタメ」 源、十三、明石三「京ニモ、此雨風、イト怪シキ物ノさとしナリトテ、仁王會ナド、行ハルベシトナム、聞エ侍リシ」 榮花物語、二、花山「世ノ中、正月ヨリ、心ノドカナラズ、怪シキモノノさとしナドシゲクテ、内ニモ、御物忌ガチニテオハシマス」 倭訓栞、さとし「萬葉集ニ、怪ヲ、さとしトヨメリ、云云、怪異ヲ以テ、人ヲ[illegible]スノ[illegible]ニヤ」

さ-と・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 聰 〔さハ、發語、としハ、敏しナリ(さ遍し)崇神紀「識性聰敏」此語ノ語根ヲ自動詞ニ活用セサセテ、覺るトシ、ソレヲ、又、他動詞ニシテ、諭すトス〕 (一)理ヲ知リ得ルコト、敏シ。サカシ。發明ナリ。 [illegible]、十年九月、[illegible] 日記「智、サトシ、サカシ」 源、七、紅葉賀「イトさとくテ、[illegible]モヲ、ワヅカニ、聞キ取リタマフ」 (二)耐シ。スルドシ、 萬葉集、十二、八

「丈夫ノ、聰き心モ、今ハナシ、醜ノ奴ニ、我レハ死ヌベシ」

さと・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）諭 〔覺るノ他動、前條ノ語原ヲ見ヨ〕 覺ルヤウニナス。敎ヘテ、解セシム。ノミコマシム。字類抄、人事「諭、サトス」

さとすがた（名）里姿 里居シテアル服裝。宇津保物語、初秋七十「斯ク候ハスベカリケルヲ、ケシキニモ出サデ侍リツレバ、何トモナク、里姿モ引キカヘズ、急ギマカデツル」

さとすずめ（名）里雀 （一）里ニ棲ム、スズメ。（二）遊里ニ通ヒ馴レタル人ニ譬ヘテ云フ語。冥途飛脚（正德、近松作）上「籠ノ鳥ナル梅川ニ、コガレテ通フ里雀」

さとずみ（名）里住 〔次次條ノ里内裏ヲ見ヨ〕女官ナドノ、内裏ヲ罷リテ、自宅ニ住ムコト。又、里居。源、一、桐壺七「源氏の君ハ、上（帝）ノ、常ニ召シマツハセバ、心安ク里ずみモ、エ、シタマハズ」（源氏の君トハ、桐壺ノ更衣ノコトナリ）榮花物語、四、見はてぬ夢「御封ナド奉ラセタマヘバ、イトド御里住、心安ク、ヒタブルニ思サレテ、東ノ院ノ北ナル所ニ、オハシマシ所、造ラセタマフ」（コレハ、齋院ナリ、村上天皇皇女）枕草子、十二、百五十七段「徒然ナルさとゐノホドニ、書キ集メタル」（即チ、枕草子ナリ）源、廿二、玉鬘廿九「ナドカ、さとゐハ、久シクシツル」狹衣、二、上四十「イト心細ソク、カスカナル御さとゐノホドニ」

さとだい（名）里内 次條ヲ見ヨ。

さとだいり（名）里内裏 〔里トハ、内裏以外ナル、京中ノ市街地ノ事ナリ、京ノ條ノ（二）ヲ見ヨ、内侍所以外ナル神樂ヲ、里神樂ト云ヒ、女官ノ、内裏ヲ罷リテ、私宅ニ居ルヲ、里住、里居ト云フモ、同ジ、今内裏トハ、新内裏、現今ノ内裏ノ意〕内裏ノ外ニ、一時、假リニ設ケラレタル御所ノ稱。下略シテ、里内。又、今内裏。今鏡、上、第三、大内わたり「保元元年十月ニ、大内、造リ出シテ、ワタラセタマフ、云云、近キ世ニハ、里内裏ニテノミアリシ」 建武年中行事「里内裏」同書略解、一「里内裏、非ニ大内、以ニ里第、爲ニ御在所ニ之名也」 園太曆、貞和四年九月三日、就ニ彼ニ等ニ下先例等ニ注ニ進之ニ「里内、同所罹還例、花山院、永觀二年八月廿七日、堀河院、惟、新主、當日、自ニ閑院ニ入御、其儀並、即、入ニ御大内ニ」（堀河院トアルガ、里内裏ナリ） 續後紀、十一、承和九年四月「遷ニ御冷然院、以修ニ理内裏ニ也」 皇居年表、一「貞治四年、關白良基公意見、以ニ此時、爲ニ里内之始ニ」 榮花物語、二、花山「堀河殿ヲ、イミジウ造リミガキタマヒテ、内裏ノヤウニ造リナシテ、云云、ほりかはの院ヲ、いま内裏ト云ヒテ、世ニメデタウ、ノノシリタリ」（圓融天皇ノ御代ノ事ナリ）枕草子、二、十七段「小一條院ヲバ、今内裏トゾ云フ、御座シマス殿ハ、淸涼殿ニテ、（主上、一條院）其北ナル殿ニオハシマス（中宮、定子）」（スベテ、本内裏ノ稱ヲ用ヰラル）

さとづき（名）里附 娵入ノ時、里方ヨリ附添ヒ行ク下婢。媵婢 露殿譚、四、上、井伊「直政ノ室ハ、松平周防守康親ガ娘ナリ、ソレニ隨來リシ女ノ、直孝ヲバ生メルナリ」 曉のを花卷（享和、森山孝盛）「家ガ娘ノ緣談定リテ、里附ノ女ヲ抱ユルトテ、云云、給金三兩ト云フコトナリ」

さとつこ（名）里子 里子ノ條ヲ見ヨ。

さとどなり（名）里隣 人里ニ、隣リ合フ家家。隣里 近隣 比隣 推古紀、十二年四月、憲法「一日、云云、或不ニ順ニ君父ニ、乍違ニ于隣里ニ」 宇治拾遺、十、第一條「コノイサカヒヲ見ルトテ、里どなりノ人、市ヲナシテ聞ケレバ」

さとながれ（名）里流 里子ノ條ヲ見ヨ。

さとな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）里馴 人里ニ、馴ル。 拾遺集、十六、雜春「足引ノ、山時鳥、里なれテ、タソガレ時ニ、名ノリスラシモ」

さとのこ（名）里子 村里ノ兒童。大木抄、三十五、里子「淀川ノ、入江ノ岸ノ、柳蔭、繫グ小舟ニ、涼ム里の子」

さとのとね（名）里刀禰 さとをさ（里長）ニ同ジ、刀禰ノ條ヲ見ヨ。

さとばう（名）里坊 山寺ノ僧ナドノ、別ニ、人里ニ構ヘ置ク住家。近江ノ比叡山僧ノ里坊ナドハ、多クハ、山麓ノ坂本ニアリ。盛衰記、四十七、六代被ニ召上ニ洛事「文覺上人ノ、二條猪隈ノさとばうニ、落チツキタマヒ」（高雄山神護寺ノ里坊ナリ） 慶長四年紹巴詠草「愛宕山大善院里坊ニテ」 續虛栗（元祿、芭蕉）「里坊ニ、碓聞クヤ、梅ノ花」

さどは・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）惑 〔さどふノ轉ナリト云フ、さどふト云フ動詞、見當ラザレド、四段活用ノ語アリシナラム、惑ふト音通ニテ（眞中、さなか）其敬語形ナリ（乞ふ、おはす。流離ふ、さすらはす）萬葉集、二、廿二「秋山ノ、モミヂヲ繁ミ、迷流、妹ヲ求メム、山路知ラズモ」〕惑ふヲ、丁寧ニ云フ語。萬葉集、十八、卅長歌「左夫流其兒ニ、云云、左度波世流、君ガ心ノ、便モスベナサ」注「言ニ佐夫流ニ者、遊行女婦之字也」 同卷、卅「里人ノ、見ル目恥シ、左夫流兒ニ、佐度波須君ガ、宮出後風」（二首、共ニ、尾張少咋ト云フ人ガ、遊女ニ惑溺レタルヲ云ヘルナリ）

さとはづ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）里外 人里ヲ、行キ離ル。サトバナル。源、十六、關屋「關屋ヨリ、さとはづれ出デタル」

さとはづれ（名）里外 サトハヅルルコト。又、人里ヲ離レタル處。郊外

さとばな・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）里離 人里ヨリ、離ル。サトハヅル。源、十八、松風廿「ココニモ、イトさとばなれテ、ワタラムコトモ、難キヲ」

さとばなれ（名）里離 人里ヨリ離ルルコト。サトハヅレ。又、其所。

さとび（動）俚 さとぶノ條ヲ見ヨ。

さとびうた（名）俚歌 サトビタル歌。賤シキウタ。俗謠。

さとびごころ（名）俚心地 サトビタル心持。優美ナラヌ心。枕草子、九、九十一段「限リナクメデタシト、見知ラヌさとび心ちニハ、イカガハ、カカル人コソ、世ニオハシマシケレ」

さとびごとば（名）俚言 サトビタルコトバ。其土地限リニ行ハルル、訛リタル語。俚言。

さとびと（名）里人 其里ニ住メル人。在地ノ人。萬葉集、十八、廿「左刀妣等ノ、見ル目恥シ、左夫流兒ニ、惑ハス君ガ、宮出後風」（さどはすノ條ヲ見ヨ） 拾遺集、一、春「山吹ノ、花ノ盛リヲ、井手ニ來テ、此里人ニ、成リヌベキカナ」（山城國、井手ノ里） 枕草子、一、第三段「白馬見ムトテ、里人ハ、車淸ゲニシタテテ、見ニ行ク」

さとびらき（名）里開 さとがへりノ條ヲ見ヨ。 浮世床（文化、三馬）二編、下「相應ナ所ガゴザイマシテ、カタヅケマシテ、今日ガ、里開きデゴザイマスカラ」

さと・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）俚 〔里帶ぶノ約（貧乏、まどひ。機織、はとり）〕里風ヲ帶ブル意、都ぶ、鄙ぶ、同ジ〕田舍ノ風シタリ。鄙ブ。（都ぶニ對ス） 源、四十九、東屋六「さとびタル聲シテ、方ニ、居タマヘリ」同、四十五、椎本三「山里びタル網代屛風」 榮花物語、十一、若花「御乳母ハ、イタクさとび、物恥ヲシテ、エ侍ラザメリ」 玉葉集、十六、雜三「さとびタル、犬ノ聲ニゾ、知ラレケル、竹ヨリ奥ノ、人ノ家居ハ」

さどぶぎやう（名）佐渡奉行 德川幕府

ノ[illegible]、[illegible]奉行ノ[illegible]佐渡國ニ[illegible]、幕府ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ト[illegible]國[illegible]ノ銀山ノ事ヲ掌ル、其中ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]千石[illegible]百人扶持、與力三十人、同心七十人ヲ附屬セシメラル、奉行、二人ナリシコトアリ、一人ナリシコトアリ、同國ノ相川ヲ[illegible]トシタリ。[illegible]

さとぶち（名）[illegible]　[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

さとへん（名）|里偏|　漢字ノ偏ニアル、[illegible]ノ字ノ稱、即チ、野、量、[illegible]等ノ如シ。[illegible]ニ、[illegible]ノ小里トテ、人ノ嫌フヌ米倉ナルガ」

さとまはり（名）|里廻|〔山棲ノ蛇ナラズ、村里ノ家ニ棲ミテ出動スル意ナルベシ、さとめぐりト云フモ、同意ナリ〕蛇ノ一種、人家ノ屋根ナドニ棲ミテ、鼠ノ子、雀ノ卵ナド、捕リ食フモノ、[illegible]、[illegible]ノ斑文アリ、長サ五六尺ニ至ルモノアリ、人ニハ害ヲナサズ、又、さとめぐり。[illegible][illegible]「[illegible]」[illegible]、[illegible]不[illegible]（[illegible]）物類稱呼（安永）[illegible]、[illegible]ト云ヘルハ、[illegible]江戸ニテ、さとまはりト云ヒ、越後ニテ、ねずみとりト云フ」重修本草綱目啓蒙（享和）廿八、蛇「黄頷蛇、ねずみとり（[illegible]）、さとまはり（江州）、やくぐり（日[illegible]）、[illegible]六尺ナルモアリ、[illegible]ニシテ、黒[illegible]ノ[illegible]アリ、[illegible]、黄頷蛇ト[illegible]、[illegible]ニ[illegible]シテ、[illegible]、人ニハ害ヲナサズ」

さとみ（名）|里曲|里廻|　里ノホトリ。サトワ。[illegible]「[illegible]」[illegible]、[illegible]トカリ、今ゾ我ガ戀シ、ヒレ振リシ野ニ」

さとみこ（名）|里巫|〔御神子ニ對シテ、村里ノ巫ノ意、縣巫ト同義〕　村里ノ神社ニ奉仕スル巫。[illegible]ナガ、[illegible]ノ、ソヨソコニ、[illegible]ヤ世ノ中」撰察錄（元祿）一「於諸社[illegible]鼓及[illegible]之里神子[illegible]也」

さとめぐり（名）|里巡|　蛇ノ名、さとまはりノ條ヲ見ヨ。

さとり（名）|覺|（一）｛サトルコト。知ルコト。理解。智慧。智　神代紀、上[illegible]、仁徳紀、五十五年、田道歿ス[illegible]「[illegible]」[illegible]、[illegible]、[illegible]、時人云、田道雖既亡、[illegible]、[illegible]死人之無知也」（二）妄執ヲ脫シテ、眞如ノ道ヲ會得スルコト。開悟　[illegible]イカナラム、此世ノ夢ノ、[illegible]レテ、さとり開カム、山ノ端ノ月」[illegible]クナル、さとりノ花ハ、世ノ中ノ濁リニ染マヌ、蓮ナリケリ」（三）察シテ、知ルコト。カンガヘツキ。知覺「さとりガ早イ」「さとりガワルイ」

さとりゑ（名）|覺繪|　詞ノ心ヲ、繪ニテ書取リテ、人ヲシテ、其趣意ヲ覺ラシムルモノ。判物ノ繪ナリ。[illegible]花（文政、山崎美成、[illegible]）上、さとり繪[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ下ニ曰、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ヲツキテ、[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]テオキ、[illegible]ヲ片手ニ持チテ、[illegible]ニ、[illegible]アツリタル[illegible]、[illegible]ガ[illegible]ナリ、コレハ、信長公、御好ミニテ、[illegible]ニ、すきヲ[illegible]テ[illegible]ゲバ、身ヲ持ツ、ト云フヲ、さとり繪ニ被仰付、珍敷[illegible]ナリ」女用訓蒙圖彙（貞享）「[illegible]ニ、[illegible]ノ内ニ[illegible]、御はんじもの（婦人ノ衣服ノ模樣ナリ）此圖ハ、[illegible]ト、[illegible]ト、[illegible]ヲカキテ、よきことをきくト云ヘルコトニ通ハセタリ」

さとる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）|覺|曉|〔さとし（聰）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）｛聰ク、知ル。見トホス。字鏡七十七「[illegible]、[illegible]也、佐止留」字類抄、人事「吾了、サトル」（二）｛心ヅキテ、眞理ヲ解ス。會得スル。悟　[illegible]「[illegible]ノ心ヲ知リ、[illegible]シカヌ、行クサキノ事、打チナホエ、トヤカクト、ハカバカシクさとる人モナシ」（三）思ヒツク。察シテ、知ル。カンヅク。知覺「[illegible]ヲさとる」

ざとる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）|座取|〔座ハ、座金ノ形ニ見立テテ云フ〕　腫物ナドノ周圍、腫ラミ、赤クナル。

さとわ（名）|里曲|里廻|　さとみニ同ジ。

さとわく・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）|里分|〔野分ノ風ノ、わくニ同ジカルベシ〕　人里ニ、渉ル。里ニ通フ。草庵集（頓阿）初冬時雨「冬來ヌト、誰レニ告ゲテカ、神無月、里わく今朝ノ、時雨ナルラム」新後拾遺集、三、夏「ナベテ世ニ、ツレナキヨリモ、ホトトギス、里わく峰ノ、音コソツラケレ」新續古今集、一、春、上「鄙ノ屋ノ、籬ノ隈ニ、立ツ煙、さとわく春ノ、夕霞カナ」新葉集、五、秋、下「オシナベテ、夜寒ニ秋ヤ、ナリヌラム、里々もわかズ、打ツ衣カナ」（コレハ、何處モノ意ナルカ）

さとゐ（名）　里居。里住ノ條ヲ見ヨ。

さとをさ（名）|鄕長|　里、及、がうちやう（鄕長）ノ條ヲ見ヨ。

さな（副）|然莫|〔然莫言ひそ、な行きそナドノ下略ナリ、副詞ノな（莫）ノ條ヲ見ヨ〕然樣ニ、何何スル莫、ト云フベキヲ、略シテ云フ語。源、九、葵「サバカリニテハ、さな言ハセソ、大將殿ヲゾ、高家ニハ思ヒ聞ユラム」（高家ハ、權門ノ意、其條ヲ見ヨ）榮花物語、五、浦浦別「サレド、さなト聞シタマフベキニモアラズ」[illegible]、下、第七、うたたね「さな、さな、[illegible]リ退キネ、ト云ヒケレバ」

さあいぶし（名）|左内節|　江戸淨瑠璃節ノ一派。[illegible]ノ[illegible]、左内ト云フ者、始ム。[illegible]、一[illegible]、[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]ニヤ、[illegible]ガ[illegible]ナリ、[illegible]等ト同ジク、江戶ヨリ上リシ名ナルベシ、[illegible]節トテ、行ハレ、土佐節ナドノ節付ニモ、左内節ノ名、ホボ見エタリ」

さなか（名）|最中|〔眞中ニ通ズ（惑ふ、さどふ）〕　モナカ。最中。「合戰ノさなか」

さなかづら（名）|佐那葛|〔さハ、發語（さ衣、さ牡鹿）なハ、滑ノな、滑葛ノ意（古事記傳）滑多キモノナリ、さねかづらト云フハ、音轉ナリ（偏拗、かたくな。神嘗、かんなぎ）〕　草ノ名、又、さねかづら。今ハ、專ニ、美男葛ト云フ、其條ヲ見ヨ。五味　古事記、中（應神）[illegible]「[illegible]佐那葛之根、取其汁滑而[illegible]中之[illegible]作」萬葉集、二[illegible]「玉クシゲ、三室ノ山ノ、狹名葛」（同書ノ序　佐不寐バ遂ニ、アリガテマシモ」同、十三[illegible]「ユフダタミ、田上山ノ狹名葛」同、二[illegible]長歌「狹[illegible]葛」同、十一[illegible]「[illegible]葛」本草和名、上[illegible]「五味、佐[illegible]」[illegible]、[illegible]、後撰集、十一、戀、三、女ノ許ニツカハシケル「名ニシ負ハバ、逢坂山ノ、さねかづら、人ニ知ラレデ、くる由モガナ」（さねヲ、同寢ニ、來るヲ、繰るニカケタリ）

さなかづら（枕）|佐奈葛|〔前條ヲ見ヨ、葛ノ、延ヒワタリテ絕えず、末、又、延ヒ合ふヨリ、カカルト云フ〕　會ふ、又、絕えずト云フ語ノ枕詞。又、さねかづら。萬葉集、十五[illegible]「アシビキノ、山佐奈葛、黃葉ツマデ、妹ニ不相ヤ、吾ガ戀ヒ居ラム」同、十三[illegible]「丹波路ノ、大江ノ山ノ、眞玉葛、絕えムノ心、我レハ思ハズ」「ユフダタミ、田上山ノ、佐奈葛、路絕ト妹ヲ、吾ガ思ハナクニ」同、二[illegible]長歌「[illegible]、後モ相ト」同、十一[illegible]「[illegible]、後モ相はムト」

さながら（副）|依然|〔然ながらノ義（隨ノ條ヲ見ヨ）然あるままノ意、さしなが

らト云フハ、指ス意ノ辭ノしヲ加ヘテ、強メテ云フナリ。(一)ソノママニ。ソレナリニ。又、さしながら。源、三十八、夕霧「格子モ、さながら、入方ノ月ノ、山ノ端近キホド、トメガタウ、モノアハレナリ」(格子ヲ明ケタルママ、閉サズシテアルナリ)玉葉集、十五、雜、二「ママドロマデ、さながら明カス、夜モアルヲ、寐覺トナレバ、ナドカ悲シキ」拾遺集、五、賀「櫻花、今夜插頭ニ、さしながら、カクテ千年ノ、春ヲコソ經メ」(刺すニカケタリ)金葉集、二、夏「水無月ノ、照ル日ノ影ハ、さしながら、風ノミ秋ノ、ケシキナルカナ」(映すニカケタリ) (二)ソノママ、コトゴトク。皆ガラ。スベテ。さしながら。全然 宇津保物語、吹上、下「カシコキ琴ノ上手、云云、迎ヘ取リテ、さながら習ヒ取リナドシテ」同、藏開、中「奉レタマヘル物ドモヲ、さながら取集メテ、返シ奉リタマフ」太平記、廿四、朝儀年中行事「朝儀、悉ク廢シテ、政道、さながら、塗炭ニ墜チニケル」(三)ソノママ、ソックリ。アタカモ。宛然 名義抄「純、サナガラ」狂言記、姫糊「赤檗イクラモ、イクラモ、立テナラベ、天地ヒルガヘス有樣ハ、さながら錦ヲ張ッタルガ如ク」「其像、さながら生ケルガ如シ」

さ-なき (名) 鐸 〔さハ、鏘鏘ノさニテ、音ナリ、なきハ、鳴ニテ、音ノ立ツ意、即チ、鏘鳴ノ約(齋場、さにはト云フモ、鳴手ノ轉(其條ヲ見ヨ)鈴ヲ、すずト云フモ、音ナリ〕 鐵製ノ、大ナル鈴。ヌリテ。ヌテ。古語拾遺、令ニ天目一箇神、作ニ雜刀、斧、及、鐵鐸ニ」註「古語、佐那伎」鎭魂祭式「鈴二十口、佐奈伎二十口」倭名抄、十三、佛塔具「寶鐸、鐸、大鈴也」同、十四、服玩具、鈴「鐸、今之鈴、其匡、以□□也」名義抄「鐸、すホステ、ヌリテ、亦、サナキ」

さ-なぎ (名) 蛹 〔前條ノ鐸ヲ移シテ、名トス、繭ノ中ニテ固マリテ、振レバ音スルヨリ云フト云フ、說文「蛹、蠶蟲也」正韻「蠶化爲ㇾ蛹、蛹化爲ㇾ蛾」〕 蠶ガ、繭ヲ造リ畢ヘテ、其中ニ蟄居シテ、變體スルモノ。形、小サキ俵ノ如ク、復蜻ニ似テ、赤褐色ナリ、即チ、幼蟲ヨリ、成蟲ニ化スル間ノモノ、ヤガテ羽化シテ、蛾トナル。他ノ昆蟲モ、大抵、此ノ如シ。蠶ノ蛹ハ、脂肪、多シ、養魚ノ餌料トシ、又、榨リテ、蛹油ヲ採リ、絹練、石鹼ノ用トシ、其後ヲ肥料トスベシ。天保十五年、寐覺さなぎ油、製造ヲ願出デタル者アルコト、古事類苑ニ見ユ。

さなぎ-あぶら (名) 蛹油 前條ヲ見ヨ。

さ-なき-だ-に (副詞句) さらぬだにノ條ヲ見ヨ。凱陣八島(貞享、近松作)二「さなきだに、憂キヲ重ヌル旅衣」

さな-ご (名) 核子 〔實子ノ轉(さねかづら、さなかづら。眞、眞田。稻、いなぼ)〕 (一)瓜ノ核。ウリザネ。瓜瓣 倭訓栞、さなご「瓜瓣ヲ云ヘリ、實子ノ義ニヤ」(二)白米ヲ粉ニ碾クニ、固クシテ、殘レル滓。俚言集覽、さなご「米ノ粉ヲヒキタル後ノカス」

さ-な・す (動) 鳴 鳴ラス。なす(鳴)ノ條ヲ見ヨ。

さ-な-だ (名) 狹名田 狹田ノ條ヲ見ヨ。

さなだ (名) 眞田 次次條、及、さなだひもノ條ヲ見ヨ。

さなだ-うち (名) 眞田打 次次條ヲ見ヨ。

さなだ-おび (名) 眞田帶 〔眞田紐ノ如ク織レル意、或ハ、さなだハ、狹之緒ノ約ニテ、古ニ云ヘル狹織帶ノ遺ナリナド云フ說モアレド、語ノ時代、遙カニ懸隔セリ〕 太キ木綿絲ニテ織レル男帶。守貞漫稿、十五、男子帶「中以下、男子、蕩男トモニ、夏帶ニハ、平打ノ眞田帶ヲ用フ、幅、曲尺、寸バカリ、色、種種トイヘドモ、茶地ニ紺島ヲ、專トス、木綿糸ノ平一種也」

さなだ-ひも (名) 眞田紐 〔眞田昌幸、此紐ニテ、刀ノ柄ヲ卷キシヨリ、名トストテ云フ、尙、出典ヲ見ヨ〕 啄木ノ紐ノ、木綿ニテ編ミタルモノ。太キ木綿絲ニテ、扁ク、粗ク、厚ク、組ミ作ル、多クハ、赤絲ナド、雜フ。又、さなだうち。略シテ、さなだ。近年、經木、又ハ、麥藁ニテ、此組方ニテ、帽子ナド編ミ作リ、きゃうぎさなだ、むぎわらさなだ、ナド云フ。安齋隨筆、十七「麿腐集云、啄木ノ組、云云、永祿ノ頃、木綿度リテ後、木綿ニテオドシタリ、然ルニ、信濃上田城主、眞田安房守昌幸、慶長五年、關ケ原合戰以後、高野ノ九度山ニ、其子、左衞門幸村ト共ニ、牢人ノ時ニ、正宗ノ刀、貞宗ノ脇差ヲ、段ト綿ノ啄木ニテ、柄ヲ卷キタルヲ、世人、眞田絲ト唱ヘシヨリ、さなだノ俗唱トナレリ」近代世事談(享保)一ニモ、此事ヲ記シテ、「大小ノ柄ヲ、木綿ノ打絲ニテ卷キタリ、云云、世人、其木綿ノ紐ヲ呼テ、眞田打ト云フ」トアリ。

さなだ-むし (名) 眞田蟲 〔細長キ體ニ、節節アリテ、眞田紐ノ如クナレバ、名アリ〕 人、獸ノ腸中ニ寄生スル蟲、形、平タクシテ、細ソク、長サ、五六尺ヨリ、一二丈ニ至リ、幅、二三分、全體ニ、分分、節アリ、白色、又、褐色ナリ、頭、小サクシテ、一口アリ。條蟲。一名、寸白蟲トモ云フ。俚言集覽、さなだ蟲「人ノ小腸ニ生ズル、長サ五六尺以上ノ、紐ノ如キ蟲ヲ云フ、又、寸白蟲トモ云フ」

さ-なぶり (名) 早苗振 さのぼりノ條ヲ見ヨ。

さ-なへ (名) 早苗 〔さハ、發すノ語根(其條ヲ見ヨ)根ざす、芽ざすノ、さすニテ、發芽、又、初生ノ意ナリ(さす竹、さす柳)早蕨ト云フ語モ、同意ナリ、稍、轉ジテ、常ニ生ズル時候ヨリ早ク生ズル植物ニ、早桃、早松茸ナド云フモ、是レナリ〕 稻ノ若苗ヲ、苗代ヨリ田ニ移シ植ウル時ノ稱。秧 コレヲ植ウルヲ、さなへとるト云フ。插秧 古今集、四、秋、上「昨日コソ、さなへとりシカ、イツノマニ、稻葉ソヨギテ、秋風ゾ吹ク」爲忠集「遠近ノ、里ノ少女子、早苗とる、手許ノ暮レテ、日影サスナリ」夫木抄、七「早苗とる、御田ノ植女モ、色色ノ、袖フツラネテ、祝フ今日カナ」名義抄「早苗、サナヘ」

さなへ-づき (名) 早苗月 〔早苗植ウル月〕 五月ノ異稱、其條ノ(一)ヲ見ヨ。排諧柵卯月紅葉(寶永、近松作)廿二、社廻「錏卜穿ノ挨拶ノ、中ニ節ダツ早苗月、皐月ノ雨ハ神心」

さ-なぼり (名) 早上 さのぼりノ條ヲ見ヨ。

さ-なみ (名) 細波 さざなみノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

ざ-なみ (名) 座竝 座席ノ次第。席順。座次 著聞集、四、文學「年齡、座次ヲモ言ハズ、オノ次第ニ、座ニハ着クベシ、ト定メケリ」

さ-なら・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 竝 〔さハ、發語(さ走る、さ躍る、さ渡る)〕 竝ぶト云フニ同ジ。萬葉集、十七 四十五 思ニ放逸鷹一長歌「家形尾ノ、我ガ大黑ニ、(鷹ノ名)云云、左奈良弊流、鷹ハ無ケムト、心ニハ、思ヒ誇リテ」(比肩スルモノナシ)

さ-なり (句) 〔然なりノ約〕 然ルベクアリ。サヤウナリ。サウダ。源、四十六、總角 五十九「さなりト、中納言モ聞給ヒテ」

ざ-なり (名) 座成 おざなりヲ見ヨ。

さ-に (名) 左丹 〔さハ、發語(さ霧、さ衣)〕 丹ト云フニ同ジ。赤色。萬葉集、七 三十七「大和ノ、宇陀ノ眞赤土ノ、左丹著カバ、ソコモカ人ノ、吾ヲ言成サム」(次次條ヲ併セ見ヨ)

さにつらふ（枕）〔狹丹頰相〕〔さにハ、前條ノ[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ナレバ、[illegible]ニ[illegible]ハ、色ノ[illegible]、其條ヲ見ヨ、[illegible]モノニカカリ、又、顏ノ紅ニ[illegible]ルヲ貫ク、顏色、[illegible]ニカカル、又、[illegible]色、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]〕[illegible]ツ居レバ」（赤キ頰ナリ）同、六四十長歌「又[illegible]時雨ヲ痛ミ、狹丹頰匪、黄葉散リツツ」同、十一 五十二「微頰相、色ニハ出デジ、少ナクモ、心ノ中ニ、吾ガ思ハナクニ」（顏色ナリ）同、十十九「左丹頰經、妹ヲ思フト、[illegible]ツ、春日モ暮ニ、[illegible]、[illegible]長歌「名湯竹ノ、トヲヨル皇子、狹丹頰相、吾ガ大王ハ」同、十[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]ノミヤ、カク戀ヒスラム、カキツバタ、丹頰合妹ハ、イカニカアラム」

さにぬり（名）〔左丹塗〕〔前條ヲ見ヨ、さにハ、[illegible]ナレバ、にぬりトモ云フ〕又、丹塗。赤塗。（にぬりヲ併セ見ヨ）萬葉集、[illegible]ハ、[illegible]、小[illegible]、[illegible]、[illegible]モガモ」同、九長歌「左丹塗ノ、大橋ノ上ユ」

さには（名）〔齋場〕〔淸場ノ約（古事記傳）祭ひと、[illegible]、[illegible]モ、[illegible]ノ約〕（一）淸メタル場、神靈ヲ請ジ降シマツリ、和琴ヲ彈キテ、神ノ託宣ヲ承ケタマハル所ナリ、（神依板ノ條ヲ併セ見ヨ）[illegible]（二）〔さにはびと〕ノ略。齋場ニ侯ヒテ、琴ヲ彈ク者。[illegible]（三）[illegible]ハ、御神樂ニ和琴ヲ彈ズル人[illegible]於二御前一人長云、召可レ挙二仕御琴一之男ト、今按、謂二[illegible]、[illegible]、今以[illegible]所、稱也[illegible]、[illegible]ヲ上ニ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]シ、[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]レリ、今、[illegible]、[illegible]以テ改メツ）

さにはびと（名）〔齋場人〕前條ノ（二）ヲ見ヨ。

ざにん（名）〔座人〕德川幕府ノ金座ニ屬シタル世襲役員二十戸ノ總稱、勘定奉行ノ配下ニシテ、金座ノ年寄役、勘定役、等ハ、座人ノ内ヨリ任用スル定メナリキ、年寄役ハ、役員ノ長ナリ。

さ・ぬ・ヌル・ヌレ・ネ・ネ・ネヨ（自動、下二）〔同寢〕〔さハ、差すノ語根、差違ノ義（差竝ぶ、さならぶ）貽ヲ差交シ寐ル意、古事記、上卷、白キ腎、云云、眞玉手、玉手差纏キ」トアル、同義ナリト云フ〕（一）男、女、同寢ス。古事記、中[illegible]比賣、長歌「手弱腕ヲ、枕カムトハ、我レハスレド、佐泥ムトハ、我レハ思ヘド」記傳「眞寐ニテ、多ク、男女、舉テ寐ルヲ云ヘリ」同、下（允恭）廿長歌「愛人ト、佐泥シ佐泥テバ」萬葉集、二十長歌「[illegible]ハ、[illegible]モアラズ」同、三、長歌「吾妹子ト、[illegible]ニ」同、十[illegible]、[illegible]夜ハ、千夜モアリトモ、我ガ[illegible]ガ、思ヒ[illegible]ユベキ、心ハ持タジ」（二）寐、寢ヌ〔同寢シ得ヌ意ヨリ云ヒテ、獨寢ノ意トナル〕萬葉集、十五廿二「田鶴ガ鳴キ、蘆邊ヲサシテ、飛ビワタル（序、たづニカケタリ）、アナタヅタヅシ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ハ、[illegible]ニモ[illegible]、[illegible]ヲ[illegible]ニ[illegible]、後世ハ、多ク、獨寢ノ意ニ用ヰラル、[illegible]、[illegible]、島ノ、山ノ岩ガ根、片敷キテ、さぬる今宵ノ、月ノサヤケサ」[illegible]、八、[illegible]、[illegible]二、今宵ハさねム、旅衣、山オロシ吹キテ、袖ハ冴ユトモ」

さぬきわらざ（名）〔讃岐藁座〕次條ヲ見ヨ。

さぬきわらふだ（名）〔讃岐圓座〕〔わらふだノ條ヲ見ヨ〕圓座ノ、讃岐國ヨリ製出スルモノ、特ニ、名アリ。又、讃岐藁座。サヌキエンザ。民部省式、交易雜物、「讃岐國、[illegible]座三十枚」新猿樂記「讃岐[illegible]座」著聞集、十六、興言利口「讃岐わらざ、[illegible]枚持チテ、云云、木ノ上ヨリ、さぬきわらざヲ投ゲオトシタリケレバ」拾芥[illegible]工集、四、至[illegible]二年三月[illegible]日、[illegible]ノ詩「[illegible]、宜、[illegible]、[illegible]（天和）七、土産門、圓座「元出ニ自二讃岐國一依レ之或稱二讃岐座一」和漢三才圖會（正德）二十[illegible]、[illegible]「有二[illegible]座、有二[illegible]座、出二於讃州一者、美」

さぬきゑんざ（名）〔讃岐圓座〕前條ヲ見ヨ。

さぬつどり（枕）〔狹野津鳥〕ぬつどりノ條ヲ見ヨ。

さぬはり（名）〔狹野榛〕ぬはりノ條ヲ見ヨ。

さぬらく（動）〔同寢〕〔さぬ、井ニ、いはく（曰）ノ語原ヲ見ヨ〕夫、妻、同寢ス。萬葉集、十[illegible]カラ、[illegible]モノカラ、[illegible]ニ云フ佐宿ハ、年ノ[illegible]ニ、唯[illegible]夜ノミニ[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ、唯、[illegible]スルヲ云ヘリ」同、十四[illegible]良久ハ、[illegible]バカリ（[illegible]）、[illegible]ハ、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノゴト」（ノ如ク、鳴リサワグ）

さね（名）〔札甲〕〔重ねノ上略カ、類聚名物考（山岡明阿彌）武藝、五、札ヲ、さねト訓メル意ハ、かさねノ上略ニシテ、重ネテ威セバ、サ云ヘルニヤ」出典ノ歌ニ「古語、さねさねテコソ、別レハテヌレ」ト見ユ、萬葉集ニ、おむかひト云フ語アルハ、かさむかひノ上略ナルベク、さねさむトモ語モ、かさね束むナラムトモ思ハル〕鎧ヲ製スル材料ノ名。鐵、又ハ、革ニテ作レル、小サキ板ノ如キモノ、アマタ、鱗ノ如ク重ネテ、絲ニテ綴ル、多クハ、黒漆塗ナリ、金箔、渡金ナルモアリ。又、小札トモ云フ。兵庫寮式「挂甲一領、札、八百枚」下學集（文安）下、器財門「札、鎧札也」太平記、三十三、菊池合戰事「菊池ガ著タル鎧ハ、此合戰ノタメニ、三人張ノ精兵ニ、草摺ヲ一枚ヅツ射サセテ、通ラヌ札ヲ、一枚マゼニ拵ヘテ威シタレバ、如何ナル強弓ガ射ケレドモ、裏カク矢、一ツモ無カリケリ」（一枚まぜトハ、鐵札ト、革札トヲ、一枚置キニ綴レルナリ）七十一番職人歌合「[illegible]」文安[illegible]、[illegible]、シカヘシヲ、ムクヒハイサヤ、古鎧、さねさねテコソ、別レハテヌレ」詞「シカヘシノ箙ハ、さね[illegible]ガ揃ハデ[illegible]」[illegible]（足利時代）[illegible]「[illegible]ニ、[illegible]ヲ[illegible]ラスルトテ、[illegible]、黄金ざねノ鎧ヲ[illegible]テ、[illegible]ニ[illegible]ラセケリ」[illegible]、四、[illegible]、[illegible]、長門守[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニハ、金銀一枚[illegible]ノ小札ノ鎧、云云」左傳、成公十六年、「潘尫之黨、與二養由基一蹲レ甲而射レ之、徹二七札一」[illegible]、札、甲葉也、一[illegible]二一札一」[illegible]、[illegible]片、謂二之札一」

さね（名）〔同寢〕〔さぬノ名詞形、其條ヲ見ヨ〕同寢ルコト。男、女、共寐スルコト。萬葉集、十四「上野〔國〕伊香保呂ノ、八坂ノ井手ニ、立ツ虹ノ（序）顯ロマデモ、佐禰ヲ同寢テバ」

さね（名）〔核實〕〔眞根ノ義（故ニ、實、又、根本ノ義トモナル）倭訓栞、さね「核ヲ訓ムハ、小根ノ義ナルベシ」芽ヲ生ズル原ノ意ナリ（種モ、田根ノ義、稻モ、飯根ノ約）實ハ、身ニテ、核ナリ、斑要ヲ〕（一）果ノ中ニアル、堅キモノ。多クハ、橢圓ナリ、其中ノ肉ヲ、仁ト云フ、地ニ培ヘバ、其植物ノ芽ヲ生ズ。[illegible]、核。倭名抄、十七 九菓具「[illegible]、[illegible]中之骨也、佐[illegible]、[illegible]、名、桃奴、[illegible]毛乃佐禰（人ハ、仁ナリ、[illegible]、さね[illegible]ノ字ヲ[illegible]ムハ、人嫌親王ノ如シ、子仁ノ[illegible]ニ因レルナリ）」名義抄「實、ミ、サネ」字治拾遺、四、十七條「柚ノさねノ、タ

ダイマ擂リ出シタルフ、云云」（二）瓜ノ核。ウリザネ。サナゴ。瓣 倭名抄、十七 菓蓏類「瓣、宇利乃佐禰」（三）骨。髒下地。 字鏡集「骸、サネ、ホネ」 續詞花集、十九、聯歌「内ノ大垣ノ破レタルヲ見テ「大垣ハ、さねバカリコソ、殘リケレ、方ナシトテモ、家ハアラジナ」（大神ニカケタリ）（四）吉舌。（五）工匠ノ語。材ニ、凸出ヲ造ルモノ。板ト板トヲ矧合ハスル時、決喰ニスルニ、一方ニ、細長キ凸起ヲ作ルヲ、さねト云ヒ、一方ニ、細長キ溝ヲ作リテ、喰ヒ合ハセ、糊ニテ附着セシムルナリ、隙アラセジトテ、スルコトナリ、コレヲ、さねはぎ、又ハ、さねつぎト云フ。又、雨戸ノたてつけナドニ、框ノ一方ニ、凸形ヲ作リ、一方ニ、凹形ヲ作ルヲ、さねじゃくりト云ヒ、雙方、半分ヅツ決リ取ルヲ、相じゃくりト云フ。

‖**さ-ね**（名）實 （前條ノ語原ヲ見ヨ」（一）熟語トシテ用キラルル語。マコトノモノ。根本ノモノ。原物。 古事記、上廿葉裏「鳴尊、天照大御神ノ珠ヲ乞ヒテ、嚙ミテ吹キテ、五男神ナル「天照大御神告速須佐之男命、是後所生五柱男子者、物實因我物所成、故、自吾子也」 神代紀、上「同ジ事ヲ記シテ「天照大神勅曰、原其物根（私記、毛乃左禰）云云、是吾物也、故、彼五男神、悉是吾兒」（二）正シキ、其身。正身。 景行紀、四十年十月「近江膽吹山、有荒神」云云、山神化二大蛇一當レ道、爰、日本武尊、不レ知二主神化一レ蛇之、謂二是大蛇必荒神之使一也」（神實ナリ、主ノ字ハ、使ニ對シテ記セルナリ） 古事記、中（景行）五十二、同ジ事ヲ記シテ「其神之正身」トアリ。（三）同衆ノ中ノ、主トアル人。 伊勢物語、六十九段「男、伊勢國ニ、狩ノ使ニ行キケルニ、云云、使實トアル人ナレバ、遠クモ宿サズ」（正使） 同、百一段「右中將藤原良近ト云フヲナム、まらうどざねニテ、其日ノ饗應シタリケル」（客實、上客） 大和物語、中「本院（時平）ノ北ノ方、マダ、帥ノ大納言（國經）ノ妻ニテイマスカリケル時ニ、平仲ガ詠ミテ聞エケル「春ノ野ニ、緑ニ延ヘル、さね葛、（さねノ序）吾ガ君ざねト、賴ムイカニゾ」（正妻）

‖**さ・ね**（動）同寢 さぬ（同寢）ノ條ヲ見ヨ。

‖**さ-ね**（副）實 （さね（核、實）ノ語原ヲ見ヨ」 マコトニ。實ニ。 萬葉集、九 三十「立チカハリ、月重リテ、會ハネドモ、核忘ラエズ、面影ニシテ」 同、十五 三十四「天地ノ、底ノウラニ、我ガ如ク、君ニ戀フラム、人ハ左禰アラジ」 同卷 三十五「サヌル夜ハ、多クアレドモ、物思ハズ、安ク寐ル夜ハ、佐禰無キモノヲ」

‖**さ-ね**（感） 動詞ノ語尾ニ連續シテ、希望ノ意ヲ表ハス語。 萬葉集、一 一長歌「コノ岡ニ、菜摘マス子、家告ラヘ、名ノラ沙根」「開カさね」刈ラさね 問ハさね」

さね-おひ（名）核生 植物ノ、核ヲ培ヒテ、生ヒ出デタルモノ。實生。 新犬筑波集（北村季吟）春「法師還ト、人ヤ見ルラム」此梅ハ、さねおひニテハ、ナキモノヲ」

‖**さ-ね-かづら**（名）佐那葛 さなかづら（名詞）ノ條ヲ見ヨ。

‖**さ-ね-かづら**（枕）佐那葛 さなかづら（枕詞）ノ條ヲ見ヨ。

‖**さ-ねこ・じ**（動）佐根掘 根掘ずノ條ヲ見ヨ。

‖**さね-こ-じ**（句）實不來 次條ヲ見ヨ。

‖**さね-こ-む**（句）實將來 （さねハ、副詞、まさごまナリ（其條ヲ見ヨ）又、或ハ、重來むノ上略ニハ、アラジカトモ思ハル、わだかまる、わだかまる、わたまる（蟠）、鎧ノ札モ、重ノ上略ナルベシ」 眞實ニ、來ラム。又、再ビ、來ラム。打消ニハ、さね來じト云フ。 源、十九、薄雲 二十「行キテミテ、明日モさねこむ、ナカナカニ、遠方人ハ、心オクトモ」 吳竹集、八「さねこむト、知ラヌ行方ノ、旅ノ空、其船止メヨ、殘ル言ノ葉」 催馬樂、櫻人「言ヲコソ、明日トモ云ハメ、遠方ニ、妻避ル夫ナレバ、明日モ左禰己之ヤ、明後日モ左禰己之ヤ」

‖**さね-さし**（枕）佐泥佐斯 （詳カナラズ、諸說アレド、項衝カルルハ、無シ、且、歌ノ意モ、駿河國ニテノ事ト思ハル、サレバ佐賀牟モ、相摸ニハアラデ、別語ナラムモ知ルベカラズ、姑ク、普通ニ云フ所ニ從ヒオキテ、後考ヲ待ツ、稜威言別ニ異說アレド、尚、徹底セズ」 相摸國ノ枕詞トスル語。 古事記、中（景行）五十一后、弟橘比賣命ノ御歌「佐泥佐斯、佐賀牟ノ小野ニ、燃ユル火ノ、火中ニ立チテ、問ヒシ君ハモ」（日本武尊ノ、駿河國ノ燒津ニテ、野火ニ攻メラレタマヒシ時、隨從ノ后ノ、安否ヲ問ハレタルヲ云ヒタマヒシナリト云フ）

さね-じゃくり（名）核決 工匠ノ語。決喰ニ云フ、さね（核）ノ條ノ（五）ヲ見ヨ。

さね-つぎ（名）核繼 さね（核）ノ條ノ（五）ヲ見ヨ。

‖**さね-ど**（名）同寢床 次條ヲ見ヨ。

‖**さね-どこ**（名）同寢床 （さぬ（同寢）ノ語原ヲ見ヨ」 男女、同衾スル寢床。又、さねど。 神代紀、下 卅四「吾田津姬、皇孫ヲ恨ミテ、相言ハズ、皇孫、歌ヒタマフ「沖津藻ハ、邊ニハ寄レドモ、佐禰耐據茂、能ハヌカモヨ、濱津千鳥ヨ」 萬葉集、十四 卅「アヅサ弓、欲良ノ山邊ノ、繁クニ、妹等ヲ立テテ、左禰度波布拂フモ」

さね-はぎ（名）核矧 さね（核）ノ條ノ（五）ヲ見ヨ。

さね-ぶと（名）核太 （一）核ノ、常ノモノヨリ、大ナルコト。又、其物。（二）次條ノ語ノ略。

さねぶと-なつめ（名）核太棗 （核、常ノ棗ヨリ大ナリ」 棗ノ一種、樹、稍、小サクシテ、實ノ形、圓ク、味、酸シ、秋ノ後、赤ク熟スレバ、食フベシ、核、大ナリ、仁ヲ藥用トス。コナツメ。カラナツメ。酸棗 本草和名、上 五十四「酸棗、須岐奈都女、一名、佐禰布止」（倭名抄、同ジ） 重修本草綱目啓蒙、廿五、灌木、酸棗「サネブト、サネブトナツメ」

さね-もり（名）實盛 次條ノ語ノ略。

さねもり-むし（名）實盛蟲 （永井別當齋藤實盛ニ因メル語ナリト云フ、遂へども去らざる永井別當ト云フ語アル由ナレド、其出處ヲ見出サズ」 蝗ノ（一）ノ異名。 大和本草（正德）十四、蟲、蝗「倭俗ニ、實盛蟲ト稱スルアリ、いなごニ似テ、小也、青色也、首ハ、兜ヲ着タルガ如シ、稻葉ヲ食テ、大ニ害ス、夜、松明ヲトモシ、鐘鼓ヲ鳴ラシテ逐之」 除蝗錄「實盛蟲、莖葉ノ氣ヲ吸テ、害ヲナス也」 用捨箱（天保、柳亭種彥）下、別當「靑色ノ蟲ヲ、夕顏別當ト云フモ、夕顏ノ花ノ中へ潛リ入リ、我物顏ニフルマフ故ノ名ナリ、云云、蝗ヲ、實盛ト云フモ、原ハ、稻別當ナド云ヒシヲ、坂東ノ農民、長井別當ノ名高キヨリ、誤レニ、實盛ト、隱語ノヤウニ言ヒタルガ、遂ニ、諸國へワタリシニハアラズヤ」

さのく（名）車匿 （翻譯名義集、卷二「西域記云、舊曰車匿、訛也、亦釋種、太子出家、令車匿牽犍陟、犍陟、馬名、正云建他歌、譯云納、經音義云、車匿、本是、守馬奴名」 又、シャノク。釋迦ニ隨從シタル馬丁ノ名。轉ジテ、馬丁。ベツタウ。 榮花物語、十六、音樂「御殿ノ御馬ヲ、イタヅラニ、さのくが牽キテ歸リタレバ」

‖**さ-の-こ・る**（動）殘 （さハ、發語（さ遍し、さ渡る）」 殘るニ同ジ。 佛足石歌「是ノ世ハ、遷リ去ルトモ、永久ニ、佐乃己利イマセ、後ノ世ノタメ、マタノ世ノタメ」

さの-さ（感） 小唄ナドノ文句ノ中間、又

ハ、[illegible]、さき、又、さ[illegible]ハさノ條ヲ見ヨ。

さのぼり (名) [早上] 〔さのぼるノ名詞形、次條ヲ見ヨ、さなぼり、さなぶりハ、[illegible]〕 [illegible] 早苗ノ田植ノ終ハリタルコト。農家ニテ、餅搗キナドシテ、祝フ。又、さなぼり。さなぶり。合類節用集(元祿)一、時候門「早苗饗、農家所[illegible]」 [illegible]、さのぼる「田ヲ植エハテシコトヲ、さのぼりト云フ」俚言集覧、さなぶり「祝ヒノ餅」

さのぼり (名) 鱵魚ノ條ヲ見ヨ。

さのぼる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [早上] 早苗ノ田植、終ハル。前條ヲ見ヨ。

さのみ [illegible] 〔[illegible]〕 (一)[illegible]、然リトバ、[illegible] (二)ソノホドニモ。サホド。サシテ。

さは [illegible] 〔[illegible]、名字ハ、云云、生物[illegible]也、故曰佐和[illegible]、云云、[illegible]多ノ義、[illegible]ノ意也」[illegible]アルベキ」〕 地ノ、低クシテ、水ト、草ト、交レル處。谷地。[illegible]、ソノ邊ノ澤ノ木ノ蔭ニオリ居テ、鴨クヒケリ」

さは [illegible] 〔[illegible]、ほどろ、はだれ〕〕 多ク。アマタ。[illegible]

[illegible] 長歌「[illegible]二、入リ[illegible]、[illegible]二、入リ[illegible]トモ[illegible]ハアレドモ」同、十九「梅ノ花、散ラス春雨、多ニ降ル」

さえ (副) [然者] 然ハ。ソノヤウニハ。[illegible] 大侍ラヌカ、ト云ヘバ」同、四、夕顔云「例ノウルサキ御心トハ思ヘド、さえ申サデ」

さば (名) [鯖] 〔小齒ノ義、[illegible]ノ魚ト云フガ、成語ナリ、其齒、細小ナリ(鮫モ、小鯊、鮹モ、小腹)日本釋名(元祿)中、鯖[illegible]さばハ、小齒也、さハ、ササヤカノ意、小也、此魚、他魚ニ變リテ、齒、小也」あをさばト云フハ、色、青ケレバナリ、鯖ハ、青魚ノ合字、さばのうを。あをさば。〕 海魚ノ名、夏ヲ[illegible]リトス。形、紡錘ノ狀ニシテ、長シ。鱗、甚ダ細カク、色、青シ、背、最青ニシテ、中ニ、蒼黑キ虎斑アリ、齒ハ、細小ニシテ、密生ス、身長、五七寸ヨリ、一尺四五寸ニ至ル、尾ハ、扠首ノ形ヲナス、尾ノ邊ニ、相對シテ、刺ノ如キ鰭アリ。青花魚 [illegible]、北海[illegible]「鯖、佐波」本草和名、下「青魚、佐波乃宇乎」[illegible] 倭名抄、十九「[illegible]」さばよみノ條ヲ見ヨ。

さば (名) [生飯] 〔生飯ノ約(えぶ。)本尊、[illegible]十三「宋朝ニハ、生飯ト書キテ、さんはト讀ム、云云、人ヲ罵ル詞ニ、ちくしやうト云フハ、畜生ト書キテ讀ム也、云云、さばト云フハ、和ゲテ云フ詞ナルベシ」(散飯、三飯、三把ナド記スハ、皆、借字ナリ)涅槃經ノ出衆生食ト云ヘルニ基ヅキタル語、因リテ、出生トモ云フナリ、衆生ノ飯ノ義ナリ〕 僧家ニテ、食時ニ、飯粒ヲ分チテ、鬼界ノ衆生ニ施與スルモノ。右手ノ拇指ト、中指トニテ、飯、七粒ヲ撮ミ、左掌ニ受ケテ、一定ノ處ニ置キテ供ヘテ、後ニ、鳥、魚ナドニ與フルナリ。佛教崇敬ノ[illegible]ナル時、供御、又、神供ニモ行ハレテ、飯ヲ器ニ盛リタル上ニ、少分ノ飯粒ヲ丸メテ置クコトナレバ、又、散飯、三飯、三把トモシバ、サンバ、出生。[illegible]

サバ (名) [婆婆] さば(婆婆)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

さば (接) [然則] 〔然らばノ約、[illegible]〕 然ラバ。ソレナラバ。サラバ。[illegible] 人ノ、住ム里ハ、さばコノ見ユル、山ノアナタカニ、今、[illegible] 五、[illegible]、五「忘ルルカ、イザさえ我レモ、忘レナム、人ニ從フ、心トナラバ」枕草子、六、五十段「御迎へニ、女房、東宮ノナドモ參リテ、[illegible](皇后ノ御詞)マヅ、さえ、故君、渡シ聞エタマヒテ、ト宣ハスレバ」新古今集、九、別「コレヤさえ、雲ノはたてニ、織ルト聞ク、裁ツコト知ラヌ、天ノ羽衣」

さはあららぎ (名) [澤蘭] 〔漢名、澤蘭ノ訓讀、蘭蒿草ノ類ニアラズ、蘭ノ屬ナリ、さはふぢばかまトコソ讀ムベケレ〕 蘭草ノ類、水澤、等ノ濕地ニアリ、春ノ半ニ生ズ、高サ一二尺、莖、方ニシテ、節、紫赤ナリ、四葉、枝節ノ間ニ對生ス、薄荷ノ如クニシテ、微香アリ、秋ノ初、花ヲ開ク、紫白ニシテ、亦、薄荷ノ花ニ似タリ、根、紫黑ナリ。アカマグサ、サハヒヨドリ。本草和名、上、三十「澤蘭、佐波阿良良[illegible]、[illegible]名、阿加末久佐」倭名抄、廿、草類「澤蘭、[illegible]」

さはい (名) [差配] 〔廣韻「差、舛也」韻會「差、錯之義」玉篇「配當也」〕 (一)事務ヲ、ソレゾレニ分ケテ、扱フコト。金史、食貨志「[illegible]差配」 (二)トリアツカヒ。トリナシ。心中二枚繪草紙(寶永、近松作)「ソチガ差配デ、二三日、ドウゾ頼ム」 (三)東京ニテ、貸地、貸家ノ事務ヲ取扱フ者ヲ、差配人ト云フ。

ざはい (名) [座配] (一)座クバリ。席ノ順序。坐次 (二)一座ノ、トリマハシ。應接 甲陽軍鑑、十三、品第四十、上「第二二、座配ヨク、大身、小身ニ打チアヒ」武者物語「小笠原大膳事ハ、云云、座配ヨクテ、武田信玄公ノ内ナル、曲淵庄左衛門如クノ侍ナルト聞エシ」(俚言集覽)

ざはい (名) [座牌] 名ヲ記セル札。禪家ニ云フ。[illegible](文安)七、第三條、[illegible]名目「座牌、名札」 合類節用集(元祿)七、器財門「座牌、禪家名籍」 倭訓栞、ざはい「座牌ハ、[illegible]位也」

ざはい (名) [坐拜] 坐リテ、拜スルコト。

(跪拜、立拜ナドニ對ス)呂氏春秋、愼大覽、報更「[illegible]之禮、坐拜之禮、雖レ得必薄矣」

〜さはいづみ (名) 澤泉 澤ニ涌キ出ヅル水。萬葉集、十一 九「隱處ノ、澤泉ナル、石根ヲモ、通シテ思フ、吾ガ戀フラクハ」同、卷十四「隱津ノ、澤出見ナル、石根ユモ、達シテ思フ、君ニ會ハマクハ」

さはいたん (名) 差配人 差配ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

〜さゑいへど (副詞句) 雖然言 然ハ言ヘドモ。何ト言ヒテモ。源、二、帚木 六「成リノボレドモ、モトヨリ、サルベキ筋ナラヌハ、世ノ人ノ思ヘルコトモ、さゑいへど、ナホ異ナリ」玉のをぐし「さゑいへど、此詞ハ、イッコニテモ、俗言ニ、何といふても、ト云フ意ナリ」宇津保物語、俊蔭 三十三「一人隱レ居ルバカリノ屛風、几帳、宥ル物バカリ、さゑいへども、賤カリシ所ノナゴリニ、ナクナリヌト見レド、猶、シツラヒテアリ」取りかへばや、一「御アリサマナド、さゑいへど、イミジキコトノ、八君タチニハ似サセタマハズ」

さはう (名) 左方 左樂ノ條ヲ見ヨ。

さはうるし (名) 澤漆 野漆ノ異名。

さはかせ (名) 茶博士 茶博士ヲ見ヨ。茶博、同ジ。

〜さばかり (副) 然許 然アルホド。サホド。竹取物語「竹取ノ翁、さばかり語ラヒツルガ、サスガニオボエテ、睡リヲリ」源、五十、浮舟 十五「左ノ大殿、さばかりメデタキ御勢ヒニテ、イカメシウ、ノノシリタマヒヌレド」

さばき (名) 捌 (一)サバクコト。解キ分ケ、扱フコト。區處 新六帖、三「鶺鴒ノさばき」「事務ノさばき」「茶道ノ袱紗さばき」(二)理非ヲ、別チ定ムルコト。裁決 浦島年代記(元祿、近松作)二「天下ノさばきモ、證文次第」「大岡さばき」

さばきがみ (名) 捌髪 解キ散ラシタル髮。チラシガミ。被髮 小町踊(寛文)春、上、梅「梅ガ香ヤ、止メム柳ノ、さばき髮」倭訓栞、さばく「さばき髮ナド云フハ、披髮ナリ」

さはぎきやう (名) 澤桔梗 〔濕地ニ生ジテ、紫花、桔梗ニ似タリ〕草ノ名、春、舊根ヨリ生ズ、莖、高サ二三尺、直ニ聳ユ、葉ハ、柳ニ似テ、厚クシテ、鋸齒アリ、夏秋ノ交、葉ノ間、莖ノ頂ニ、翠碧ノ花ヲ開ク。山梗菜 和漢三才圖會(正德)九十四、末、濕草、澤桔梗「高近二三尺、葉似二山丹草葉一而短、云云、花形似二桔梗一而小、紫色、云云、多生二濕地一」

さはく (名) 茶博 茶博士ヲ見ヨ。

さばく (名) 沙漠 〔說文「漠、北方流沙也」程大昌、北邊備對「言下沙磧廣莫、望レ之漠漠然上也」〕亞非利加洲、亞細亞洲ノ內地、處處ニアリテ、地、沙ノミニシテ、流水モ、草木モナキ、廣大ナル野原ノ稱。內ニ、一定ノ通路アリテ、駱駝ヲ牽キテ、隊商、往來ス。三國志、魏志、任城王彰傳「將二千萬騎一馳二沙漠一驅二戎狄一」李陵詩「徑二萬里一兮度二沙漠一、爲二君將一兮奮二匈奴一」

さばく (名) 佐幕 〔幕府ヲ佐くる義〕(一)將軍ノ營中ニ居テ、輔佐スルコト。周行先、爲二盛中丞一請二朝覲一表「佐二幕在二湖南一」(二)幕府ニ、身方スルコト。德川幕府ノ末ニ唱ヘシ語ナリ、尊王攘夷ニ對ス。

さば・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 捌 〔さハ、發語、はくハ、分くノ轉カ(走る、わしる。總、わづか。さばめく、ざわめく)自動ノさばくるガ、口語トナレルさばけるニ遺リ、ソレヲ、又、はけるトノミモ云フハ、發語ヲ脫ギタルナリ、正韻「捌、分也」〕(一)分くト云フニ同ジ。解キ分ツ。夫木抄、八「鵜飼舟、交フ手繩ヲ、さばくトテ、燈シゾカヌル、夜ノ篝火」吉野拾遺、吉野川鵜飼御覽「左衞門尉やすかた、云云、綱、ヨカルベケレト云ヒケルニ、云云、汝、綱、さばきナンヤ、ト宣ハスニ、イトさばきナン、ト云ヒテ、綱ヲ持チテ出ヅルニ」(二)言ヒ分クル。イヒワケス。分疏 後撰集、十七、雜、三「女ノ、男ニ名立チテ、カカル事ナムアル、人人、言ヒさばけト言ヒ侍リケレバ「カサストモ、立チト立チナム、浮名ヲバ、おとなし草ノ、カヒヤナカラム」(三)理非ヲ、別チ決ス。裁斷 倭訓栞、さばく「區處ト見ユ、淸律集解ニ、又、裁斷分二別事情一曰レ區、決二斷其罪一曰レ處ト見ユ、又、曰レ分トアリ」「訴訟ヲさばく」(四)混雜シタルヲ、解キホドク。處分 倭訓栞、さばく「處分ヲ云フ、朝野群載、中ノ策試ニ、仍勘二事狀一評二處分一ナド見ユ、貞觀政要ノ注ニ、區處曰レ處、分別曰レ分トアリ」「事務ヲさばく」(五)商品ヲ、賣リコナス。「在荷ヲさばく」

さばく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 捋 〔前條ノ捌くノ一轉、せせく、せせくる。ゑぐる、ゑぐる。ねぢる、ねぢくるノ例、說文「捋、取易也」詩經、周南篇「捋レ之」詩詁「以レ指歷取也」〕 手マサグル。セセクリ、アツカフ。白氏文集、三十七ニ、古詩二、料二撤鹽澱一捋二白鬚一トアリト云フ。三國志、吳志、注「朱桓奉レ觴曰、臣當二遠去一、願一捋二陛下鬚一、權(孫權)憑レ几前レ席、桓、進捋レ鬚曰、臣、今日、可レ謂レ捋二虎鬚一也、權、大笑」平家物語、十二、六代事「唐瓶子、菓子ナド、取りさばくり、銚子ドモ以テ、酒勸メムトス」沙石集、三、下、第三條「修行者多ク、給仕奉事シテ、云云、齋、非時さばくり、給仕スルニ、湯ノ、熱キモ、ヌルキモ、叱リ、云云」西要抄「明ケ暮レ、此三心ヲノミさばくれドモ、未ダ、ソノカヒアリテ、思ヒ得タル事モ侍ラヌガ數カシキ、ト云ヘバ」(淸水宰臣ノ語林類葉)

さはぐるみ (名) 澤胡桃 〔水邊ニ多ク生ズ、果、小サケレバ、小胡桃トモ云フナリ〕胡桃ノ類。幹、高サ六七丈、周、七八尺ニ及ブアリ、葉、互生シ、長サ一尺許、夏ノ初、新葉ノ間ニ花ヲ開ク、淡黃綠色ナリ、秋ノ末ニ、徑三分許ノ堅果、成熟シ、二枚ノ翅アリ、材、黃白色、緻密ニシテ、輕鬆ナリ、山桐ト稱シテ、下駄ヲ作ル、桐ノ材ニ次グ、又、燐寸ノ軸木ニ用キル。又、小胡桃。壽光木。

さばけ (名) 捌 (一)サバケルコト。解ケ分カルルコト。(二)賣レコナレルコト。ハケルコト。「商品ノさばけ」

さばけくち (名) 捌口 商品ノ、賣レクチ。ウレサキ。

※さば・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 捌 〔さばく(捌)ノ自動、さばくるナルベキノ口語〕(一)分レ、裂クル。割ル。釋迦如來誕生會(元祿、近松作)二「頭ノ鉢、西瓜ヲ割ッタル如クニテ、クッットさばけテ、死シテケリ」(二)混雜シタルガ、解ケル。離解「難議ガさばける」(三)賣レ、コナレル。ハケル。(商品ニ)「在荷ガさばける」(四)頑固ナラズ。打開ケタリ。(人ノ氣性ニ)快闊「さばけタ氣性」

さはさは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 爽爽 〔次條ノさはさはヲ活用セシメタル語〕爽ナリ。潔白ナリ。約シ。季康、運命論「不レ如二顏回、原憲之約一二其身一」塵袋(弘安)十「さはさはしト云フハ、儉約ナル心ナリ」

さはさはと (副) 爽爽 〔さはやか(爽)ノ條ヲ見ヨ〕(一)サハヤカニ。サッパリト。爽快 源、四十六、總角 四「知ラサリシ狀ヲモ、さはさはとハ、エ明ラメタマハデ」讃岐典侍日記(堀河院女房)一「御口ヨリ、さはさはと仰セラレ出スヲ聞クハ」著聞集、十、馬藝「馬ノ前ニハ、草

一把モ洗カズ、さはさはと、編カセテゾアリケル」[illegible]ヤト、[illegible]さはさはと[illegible]リカヘムト思ヘドモ、今日バカリハ、ワザト、カクテアルベキナリ」(紙障子ノコトナリ)（二）今、さばさばとト云フ、意、同ジ。「汗ヲ洗ッテ、身體ガさばさばとシタ」

さばさばと（副）［爽爽］前條ヲ見ヨ。

さはし（名）［醂］（一）サハスコト。（二）前條ノ語ノ略。

さはしがき（名）［醂柿］〔さはすノ條ヲ見ヨ〕澁柿ヲ醂シテ、澁味ヲ去リタルモノ。肉、柔カニシテ、皮、堅シ、冬ノ初、出ヅ。さはす(醂)ノ條ヲ見ヨ。アハシガキ。醂シ、さはし、醂柿　易林節用集[illegible]サハシガキ

さはしの（名）［澀篦］〔さはす(淡)ノ條ヲ見ヨ〕矢ノ篦ニ云フ語。白篦ヲ、黒漆ニテ、[illegible]塗リタルモノ。又、澀篦。[illegible]（足利義政ノ臣、中原高忠）「篦頭ノコシラヘヤウノ事、篦ハ、さはしのタルベシ」貞丈雜記、十、弓矢「矢ニ、さはし[illegible]ト云フハ[illegible]ト云フ[illegible]薄ク塗リタルベシ、云云、さび篦ト云フハ、さはし篦ノ事也、云云、漆ニテ薄ク塗ル故ニ、さびサセタル心ナリ[illegible]さはす[illegible]ハヤカニスルヲ云ヘリ、云云、さはしのヲ、澀篦ト書ケルモ、右ノ義ニ因レリ」(サレド、澀色ノ篦ナルベシ、澀土ト云フモアリ)

さばしる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［狹走］〔さハ、發語(さ迷ふ、さ隱る)〕走る、ト云フ、二同ジ。[illegible]長歌[illegible]二八、花咲キヲヲリ、河瀬ニハ、鮎子狹走り」同、五[illegible]「河門ニヘ、鮎子佐婆斯留」

さはしをん（名）［澤紫菀］草ノ名、春、水邊ニ生ズ、莖、直上スルコト二三尺、葉ノ形、細長ク、みぞはぎニ似テ、對生ス、夏、莖ノ頭ニ穗ヲ生ジ、五瓣ノ紫花ヲ綴リ開ク、大キサ三分許、實、相連リテ、蛸ノ足ニ似タリ、故ニ、たこのてノ名モアリ。扯根菜

さはす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［醂］「爽ヲ活用セシメタル語(熟す、腐す)倭訓栞、さはす「醂ノ字ヲ訓メリ、物ノ澁味ヲ去リテ、さはやかニスルヲ云ヘリ」集韻「醂、藏柿也」）又、淡す。柿ノ實ノ澁味ヲ除ク。除くヲ、抜くト云フ。今ノ製法ハ、樽ニ、澁柿ヲ詰メテ、藁灰ヲ掛ケ、其上ヨリ、攝氏四十度ホドノ温湯ヲ注ギ、蓋ヲ密閉シテ、一晝夜ニシテ成ル。コレヲ、さはし柿ト云フ。又、樽抜ト云フハ、明樽ノ、マダ酒氣アルニ、澁柿ヲ詰メ込ミ、固ク蓋ヲシタル上ニ、密封ヲ施シ、一週間ニシテ成ル、コレヲ樽柿ト云フ。又、木ざはしがきアリ、其條ヲ見ヨ。

さはす・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［淡］〔前條ノ澁味ノさはすヲ、淡すトモ云フ、濃黑ヲ淡クスル意ナルベシ〕黒漆ヲ、光澤ナク、淡ク塗ル。[illegible]烏帽子、云云、四十歳以後、ヤウヤウさはすベシ」(さはし篦ノ條ヲ併セ見ヨ)

さはそらし（名）［蘭本］そらしヲ見ヨ。

さはだ（名）［澤田］〔櫻田ナド云フ類〕澤邊ノ田。[illegible]催馬樂、[illegible]「[illegible]ノ澤田ニ、すりタチテ、衣ノ裾ノ、濡レヌ日ゾナキ」

さはだつ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）［爽立］〔さはやかノ語原ヲ見ヨ〕心氣、サハヤカニ成リ立ツ。サハヤグ。爽快　宇津保物語[illegible]上[illegible]二八、御心地モ、今ハさはだちスマヒニタレ」

さはたる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［觸當］〔さはハ、觸るノ語根、觸當るノ約ナリト思フ〕行キ觸ル。狂言記、佛師「罷出デタルハ、心モ直ニナイ者デゴサル、云云、何者ニモさはたり、仕合ハセヲ直サウト存ズル、田舍者ガ、佛ヲ買フト申ス、ドウゾ、彼ニさはたッテ見マセウズ」同、目近大名「田舍者ト見エ、何ヤラ尋ヌル、少シ、彼ニあたッテ見ヨウ」

さハチ（名）［沙鉢］〔淺鉢ノ上略ト云フ(淺笥、さらけ)倭訓栞、さはち「磁盆ヲ云フ、沙鉢ノ義ナルベシ、スベテ、淺ラナルモノヲ、沙ト云フ、沙羅、沙鍋、沙鉢ノ、淺キモノ、是レナリト云へり」〕磁器ノ船、ノ類、淺キモノ。[illegible]節用集　文明[illegible]砂鉢」[illegible]節用集[illegible]七、器財門「砂鉢、[illegible]和漢三才圖會[illegible]十一、庖廚具、小碟[illegible]皿、[illegible]鉢、[illegible]淺鉢、佐波知、上略、鉢、磁器也」明良洪範、十七、紀伊賴宣卿、忠勝卿ヲ饗ス、忠勝卿、云云、興ニ乘ジテ、傍ニアリアハセシ大砂鉢ヲ取ラセテ、酒ヲナミナミト注ガセ、兩度マデモ飲ミタマフトゾ」好色二代男、貞享、西鶴[illegible]五[illegible]ノ銚子ニ、金[illegible]ノ砂鉢持テ、女郎モ、娘モ、引請ケ、引請ケ、飲ミシガ」

さはとび（名）［澤飛］〔とびハ、飛石ノ略〕造庭ニ云フ語、いそとびノ條ヲ見ヨ、

さばのうを（名）［鯖魚］さば(鯖)ノ條ヲ見ヨ。

さはのぢやうぼうし（名）［澤之丞帽子］おもりづきんノ條ヲ見ヨ。

さばのを（名）［鯖尾］鯖ノ尾ノ如ク、杈首ノ形シタルモノノ稱、[illegible]ノ形ニ云ヒ、木柑ノ端ノ[illegible]ナドニ云フ。[illegible]ノ形ニ、[illegible]十[illegible]西[illegible]シテ[illegible]ハ[illegible]、尾[illegible]、[illegible]アルベシ」

さはひよどり（名）澤蘭ノ一名、其條ヲ見ヨ。

さはべ（名）［澤邊］澤ノホトリ。後撰集、十一、戀、三[illegible]田[illegible]ノ、さはべニ[illegible]ハ、[illegible]レトモ、心ハ[illegible]ノ、上ニノミコソ」

さばへ（名）［狹蠅］［五月蠅］（一）［早月ノ頃、群リサワグ蠅ノ稱(次條ヲ參考セヨ)（二）轉ジテ、荒ビ、サワグコト。五[illegible]、[illegible]ミル、[illegible]ノ[illegible]チエノ、[illegible]ニギテ、さばへノ神モ、[illegible]ケトゾ思フ」

さばへなす（枕）［如狹蠅］［如五月蠅］〔さばへハ、多蠅ノ約ナルベシ(河原、かはら)或ハ、喧擾めくノ、さば蠅ナラムカ、なすハ、似たる、の如く、ノ意、なす(似)ノ條ヲ見ヨ、五月ト書クコトハ、さつき(五月)ノ語原ニ記セリ(蠅ノ群ルハ、夏ノ五月ニハ限ラズ)群蠅ノ、涌キ出デ、聲立テテ飛ビ騷グトカカリ、煩ハシキ意ニ云フ、うるさしト云フ語ニ、五月蠅ノ字ヲ宛ツルコトアルモ、此意ナリ、八雲御抄、三、下、蟲、蠅、さはへなす、五月のはへト書ケリ、惡キ物也」此語、群蠅の如く騒ぐ、ニテ、副詞句ナルベキコト、刈蔬の(如ク)亂る、ナドト同趣ナラムカトモ思ハルレド、今ハ、從來ノ説ニ從ヒテ、枕詞トス〕涌く、騷ぐ、音ふ、荒ぶ、ナド云フ語ノ枕詞。古事記、上[illegible]天照大神、天石屋戸ニ籠リタマフ「高原中國、悉闇、云云、萬神之聲者、狹蠅那須皆滿」[illegible]萬神之聲、如二狹蠅一

鳴ル、常陸國風土記、香島郡、注「荒振神達、云云、狹蠅音聲、」神代紀、下、廿「葦原中國者、磐根、木株、草葉、猶能言語、云云、如五月蠅而沸騰之」同卷廿「五月蠅、此云左魔隂二」萬葉集、三 五十九 長歌「惡メリシ、皇子ノ御門ノ、五月蠅成、騷ぐ舍人ハ」同、五三十段、長歌「五月蠅奈周、騷ぐ兒等ヲ、棄而ハ、死ハ知ラズ、云云」神代紀、下「蠅聲邪神」倭姫命世記「五月蠅聲邪神荒振鬼神等乎、神撥撥給比」拾遺集、二、夏「さばへなす、あらぶる神モ、オシナベテ、今日ハ夏越ノ、祓ナリケリ」

さは-みづ (名) 澤水 澤ニ溜レル水。枕草子、九、百十段「澤水モ、ゲニタダ、イト靑ク見エワタルニ」平兼盛集「サザレ石ノ、上モ隱レヌ、さはみづノ、(序、淺キニカク)淺マシクノミ、見ユル君カナ」

さばめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 喧擾 〔さばハ、騷ト、音、相通ズ、後世、ざわめくトモ云フ、捌くモ、別くニ、發語ヲ冠シタル語ナルベシ〕騷ギ立ツ。サヤグ。應神紀、三年十一月「處處海人、訕哤之(註、此云佐麼賣玖)不從命、則遣阿曇連祖大濱宿禰、平其訕哤、因爲海人之宰、故、俗人諺曰佐麼阿摩者、其是緣也」(說文「訕、謗也」小爾雅「雜言曰哤」)

さは-やか-に (副) 爽 分明 〔さはハ、淸亮ト通ズ(障る、さはる)さはさはトモ云ヒ、今、さばさばト云ヒ、さっぱりとするナド云フハ、此轉ナリ、やかハ、副詞ヲ形作ル辭(鮮やか、冷やか)さはやけくト云フハ、速、すむやけく。明、あきらけし、ナドノ例ナリ、さはノ假名遣ヲ、さわトスルハ、非ナリ、さはだつ、さはやぐ、モ同ジ、出典ノ字鏡ヲ見ヨ、尙、さわさわノ條ヲモ見ヨ、說文「爽、明也」〕(一)又、さはやけく。アキラカニ。ハキト。ハッキリト。分明ニ。明亮ニ。字鏡(一本)八十二「了了、分明也、佐波也介久」遊仙窟「近來患嗽、聲音不徹」名義抄、大部「爽、サハヤカナリ」源、四十六、總角ニ思シ別クラム狀ナドヲ、さはやかに承ハリニシガナ」同、三十一、眞木柱四十「聲、イトさはやかにテ」狹衣、三、中廿「さはやかに、物モエ宣ハセネバ」拾玉集(慈鎭)三「思フ事、何ゾト問ハム、人モガナ、イトさはやかに、言ヒアラハサム」同、四、詠諧「月モ日モ、さはやかにコソ、照ラスメレ、イトケギタナキ、人ノ心ヲ」「辯舌さはやかに、滔滔ト述べタテテ」(二)障リナキ意ヨリ移リテ、淸淸ト。ココロヨク。サハサハト。サバサバト。サッパリト 爽快 源、三十五、柏木廿七「御心地ハ、さはやかに成リタマヒニタリヤ」蜻蛉日記、中、上七「イミジウ悲シク、我ガ心地ノ、さはやかにモナラネバ、ツクヅクト臥シテ、思ヒアツムルコトゾ、アイナキマデ多カルヲ」宇治拾遺、十二、第五條「御心地、イトさはやかに、殘リナク、ヨクナリタマヒヌ」增韻「爽、淸快也」

さはや・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) 爽 〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕(一)サハヤカニナル。淸ラカニナル。淸爽 本朝俚諺(正德)さはやぐ「知顯抄云、二條ヨリ上ヲバ、淸ラカニ、さはやぎテ、塵ヲダニ浮カベズ」(二)〔病氣、快クナル。サハダツ。爽快 源、三十八、夕霧八十「物怪ニ煩ヒタマフ人ハ、重シト見レド、さはやぎタマフ暇モアリテ」榮花物語、一、月宴「御心地、さはやがセタマヒナドスレバ」

さはやけ (名) 黃菜 〔さはやけく生ヒタル意カ、倭訓栞、さはやけ、黃菜「さはやかナル意ナルベシ」〕大根ノもやし。黃菜。倭名抄、十六 十七 菜蔬類「黃菜、佐波夜介」內膳司式、漬春菜料「蔓菁、黃菜五斗、料、鹽三升、粟三升」宇津保物語、祭使 四三十「廚女、云云、さはやけノ汁シテ、持テ來タリ」

さはや-けく (副) 爽 さはやかに(爽)ノ條ヲ見ヨ。

さは-やま (名) 澤山 やまさはびとノ條ヲ見ヨ。

さばや-もんと (名) 鯖江門徒 〔えト、やト、音、通ズ、出雲國風土記、神門郡、鹽冶鄕「云云、止屋、神龜三年、改字鹽冶」〕眞宗ノ一派。越前國、今立郡、鯖江ナル、誠照寺ニ屬スルモノ、開基如覺ハ、親鸞ノ孫ナリ。誠照寺派。一向宗源脈「誠照寺、在鯖江、俗云佐波夜門徒、是也、開基、如覺上人」

さば-よみ (名) 鯖讀 〔當字ナリ、さばハ、魚市ノ上略(磯魚取、すなどり。茨、ばら。彌立つ、よだつ)讀むトハ、數フルナリ、魚市ニテ、鯖ナド賣ルニ、急速ニ數ヘテ、ひとよ、ふたよ、み、ちょう、よっちょうナドト、早口ニ云フ、コレヲ、魚市よみト云ヘルナルベク、其急呼スル際ニ、マヤカスコトモアルベキナリ〕物ヲ數フルニ、其數ヲ、マヤカスコト。さばをよむトモ云フ。本朝俗諺(貞享、西鶴)五「外ヘハ、年ヲ隱シ、節分ノ豆モ、さばよみニシテ」(豆ヲ、年ノ數ホド、紙ニ包ミテ、厄拂ニ與フルヲ云フ)

さ-はら (名) 鰆 〔日本釋名(元祿)中「馬鮫魚、さハ、狹ナリ、セバキ也、はらハ、腹也、此魚、長大ナレドモ、腹、狹ク小也」倭訓栞、後編、さはら「馬鮫魚也、云云、小ヲ、さごしト云フ、狹腰ノ義ナリ」俚言集覽、さはら「春多キ魚ナレバ、鰆ノ字ヲ書ク」〕魚ノ名、形、狹ク長クシテ、全身、細鱗ニ被ハレ、背ハ、蒼靑ニシテ、蒼黑ノ斑アリ、腹、白ク、尾ニ、肢ヲナスコト、杈首ノ如シ、尾ノ前、兩側ニ、三角ノ鰭アリテ、鋸ノ齒ノ如シ、肉、白ク、春期、脂、多ク、味、美シ、大ナルハ、三尺ニ至ル、鮞ハ、からすみニ製スベシ。馬鮫魚 大ナルヲ、沖さはらト云フ、長サ六七尺、小ナルヲ、さごしト云フ。名義抄「鰆、サハラ」下學集(文安)上、氣形門「鰆」本朝食鑑(元祿)九「鰆、訓佐波羅、小曰佐古之」卓庵集、魚名「雨フリテ、河モたマス、アチコチニ、船人騷シ、コサバさはらン」(障らヲ、鰆ニカク)

さはら (名) 椹 さはらぎヲ見ヨ。

さはら-か-に (副) 鬆 〔さはらハ、爽散(サハハララ)(被髮)ノ約ナルベシ(散散、はらら。河原、かはら)かにハ、副詞ヲ形作ル辭(淸かに、遲遲かに)湖月抄、倭訓栞ニハ、さばらかト、濁點ヲ指シテアリ(椹ヲ、弱檜ト書クモ、村、弱セクシテ、さはらかナル意ナルベシ)王珪詩「十三垂髻碧螺鬆」廬仝贊、酴醾詩「柳花倉眠鬟雲鬆」廣韻「鬖鬆、髮亂貌」〕垂髮ノ、分明ニ筋目立チテ、ハラハラト、ウスラギタル狀ニ云フ語。輕鬆 源、廿三、初音六「物思ヒニ沈ミタマヘル程ノシワザニヤ、髮ノ末、少シ細リテ、さはらかに懸レルシモ、イト物淸ゲニ、云云」細流抄「アラアラトカカリタル也」同卷八「ケサヤカナル髮ノカカリノ、少シさはらかなるホドニ薄ラギニケルモ、イトド、ナマメカシサ添ヒテ」同、四十五、椎本四十「髮、さはらかなるホドニ、落チタルナルベシ、末、少シ細ソリテ」孟津抄「髮ノ、薄クナリタルナリ」

さは-らか-に (副) 爽 〔さはらかハ、さはやか(爽)ニ同ジ(鮮らか、あざやか。高らか、たかやか)〕サハヤカニ。淸ラカニ。アキラカニ。源、四十九、東屋十八「住居ノ狀「目易キサマニ、さはらかに、遊遊、アルベキ限リ爲タル所ヲ、サカシラニ、屛風ドモ持テ來テ、イブセキマデ立テアツメテ」(湖月抄、さはらか、傍記「淸ラニ、爽ヤカナル心ナリ」)加茂保憲女集「春ノ長閑ケキ池ノホトリ、花ノ陰ト、心ノホド、さはらかに、松ノ立テザマ、ヨナレタルニ、藤延ヒカカリ」遊仙窟「兒、今、正慤密」字類抄「正、サハラカナリ」

さはら-ぎ (名) 弱檜 椹 〔檜ニ似テ、輕鬆

ナル木ノ義ナルベシ、篇檜ノ字ハコレニ當ル、椹ハ、玉篇「椹、木實也」又、椹、桑實也」トアリテ、當ラズ、甚ダ檜ニ似タリト云フ、當字ニモアルカ。樹ノ名、略シテ、さはらトノミモ云フ。山中ノ幽谷ニ生ズ、高サ十餘丈、周圍丈餘ニ及ブモノアリ、枝、葉、甚ダひのきニ似テ、稍、ヤハラカニシテ、稍、密ナリ、葉ノ裏、白シ、材モ、ヤハラカニシテ、能ク水濕ニ堪フルヲ以テ、桶類ニ作ル、サレバ、をけさはらトモ云フ。花柏　易林節用集(慶長)下、草木「弱檜」合類節用集(元祿)六、竹植門「弱檜、椹」大和本草、九、園木十一「國俗、さはらぎ、檜ノ類ナリ」和漢三才圖會(正德)八十二、香木「椹、乃柏之屬」

さはら-で-ひやせ (句) 〔ひやす(冷)ノ條ヲ見ヨ〕 障ラバ、障レ、町奴ノ、街路ヲ横行スルニ言ヘル奴詞ナルベシ。俳言集覽、さはらでひやせ「サハッタラ、断テシマヘト云フ事」 七部集、[illegible] ノ、さはらでひやせ、神祭」(障ニ、冷スヲ寄セタリ) 江戸名所記(寛文)「淺草ニ、さはらでひやせ、山王ノ、祭ハひえノ、山ノ手ノ宮」(比叡ト、冷トカケタリ)

さはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 障 〔障ふノ延(守る、まもらふ。かかる、かからふ。まじる、まじらふ)〕 障リツ、障リツス　萬葉集、四、「一瀬ニハ、千度障ヒ、行ク水ノ(如ク)、後ニモ逢ハム、今ナラズトモ」

さは-らん (名) 澤蘭 〔山野ノ濕地ニ生ズ〕 蘭ノ類。唯、一葉、一花莖ノモノナリ、葉、長サ四五寸、幅二三分、莖端ハ、花葉ヲ擁ス、花莖ハ、高サ五寸、乃至、一尺、夏、頭ニ、一花ヲ開ク、紫紅色ナリ。

さはり (名) 障 (一)〔サハルコト。ササハリ。故障。 萬葉集、十一、廿「波人リノ、逢別

小舟、障多ミ、序、吾ガ思フ君ニ、逢ハヌ頃カモ」同、十五、廿「草苅クト、妹ガ袖ハバ、沖津波、千重ニ立ツトモ、佐波里アラメヤモ」[illegible]使ニ就キテノ意ナリ」 (二)外氣ニ感ジテ、身ノ、病ムコト。「寒サノさはり」 (三)〔つきのさはりノ條ヲ見ヨ。 宇津保物語、國讓、上、廿「タチヌル月ヨリハ、さはりモシ給ハズ」

さはり (名) 觸 (一)サハルコト。手ヲ觸ルルコト。接觸　夕霧阿波鳴渡(正德)、近松作、上「紙衣さはりが、荒ライ荒ライ」「手ざはり」 (二)或ル淨瑠璃節ノ節附ノ、他ノ淨瑠璃節ノ節ニ、觸ルルコト。卽チ、此節ノ中ニ、他ノ節ノ一句、一章ヲ加フルコト。義太夫節ノ中ニ、外記節ヲ加ヘ、一中節ノ中ニ、文彌節ヲ入レテ語ルナドヲ云フ　聲曲類纂、弘化、齋藤月岑)三「淨瑠璃ノ節付ニ、少シニテモ、外ノ節ニカカルヲ、さはりト云フ、文彌、土佐、外記、半太夫、河東、其外、義太夫、繁太夫、何ニテモ、加ヘタルヲ云フ」(節文)

サハリ (名) 鈔鑼 〔さふら(鈔鑼)ノ轉ナリ、其條ヲ見ヨ、今ノ朝鮮語ニ、鉢ヲ、さあばるト云フトゾ、梵語ヲ傳ヘタルナリ〕 (一)古名、サフラ。佛具。磬ノ類、響銅ニテ造ル、讀經ノ時、初中終ニ、打鳴ラスニ用ヰルモノ。椀ノ形シテ、扁平ナリ、直徑、三四寸ヨリ、尺餘ニ及ブ、深サ、三四寸、厚サ一分、其音響、殊ニ冴エテ聞ユ (佛教大辭彙) (二)移リテ、皿鉢形ヲナセル、一種ノ古銅器ノ名トス、高麗さはり、朝鮮さはり、南蠻さはり、ナド云フ、茶室ニテ、建水ナドニ用ヰル。東雅(享保)十一、器用、十一「鈔鑼、云云、即今モ、俗ニヨリ、書籍ニ見エ、俗ニ、さはりト云フハ、さふらノ音ノ轉ジタルナリ」 箋注倭名抄、四ニ「鈔鑼、[illegible]佐波利[illegible]、又、

朝鮮佐波利ニ」

サハリ (名) 響銅 〔又、沙張ナドト記ス、前條ノ器ヲ造ルヨリ、其名ノ、移レルナリ、響銅トハ、鳴ルひびきノ徹ルモノナレバ云フナリ〕 合金ノ名。銅一斤、鉛五分ノ一、錫十分ノ一ヲ鎔化シタルモノ。今ハ、銅、十ニ、鉛、錫、各、二ヲ合ハセテ、鈔鑼、鐘、樂器ナド、造ル、其音響、勝レテ冴エテ聞ユ、又、銅、十、鉛、三、錫、一ニテ、金剛鈴、又、鉢、皿ナドノ器具ニ用ヰル、 倭訓栞、さはり「響銅也ト云ヘリ」同、さふら「白銅ヲ、さはりト云フモ、鈔鑼ハ、白銅ヲ以テ造レバナルベシ、音ノヨキモノナレバ、響銅トモ云ヘルナリ」重修本草綱目啓蒙、四、赤銅「物理小識ニ、雜錫爲響銅トアリ、響銅ト云フハ、さはり也、云云、和ノさはりハ、銅一斤、鉛五分ノ一、錫十分ノ一ヲ以テ製ス」

サハリ (名) 弦響 〔前前條ノ鈔鑼ノ響キヨリ移ル、但シ、はヲ、わト、發音ス〕 三味線ノ絃ノ響キニ云フ語。卽チ、數絃ノ調子ノ、全ク整ヒテ、親和音ノ、正シク相發シテ、びりびりんト響クニ云フ、二ノ絃ハ壹越ニテ、一ノ絃ト、三ノ絃トハ、黄鐘ニテ相合フナドニ云フナリ。 [illegible]、延寶、[illegible]三味線ニ、金ノ[illegible]、アルカ無キカニ忍バセ、下調ノ絲ノ、さはりガナナル音輪ニ、氣ノかせ掛ケ、撥音ハ、ダカク響キ鳴ラシ」(節文、[illegible]、二)

さはり-さんびゃく (名) 觸三百 〔三百トハ、錢三百文ノ義、さんびゃくノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 諺ニ云フ語。チョト物ニ觸レテモ、若干ノ損亡ヲ招クトノ意 ホザリ三百　[illegible]、正保「言ヒ、テキ、さはり三百、木竹ノ塚」 世間胸算用、元祿、西鶴「此茶木、[illegible]テ、朝日ノ用ニモ足ラズ、ト云ヘバ、キヒ、コレニ

碓、アリトテ、貸シテ遣マシテ歸リケル、コレゾ、世ニ云フさはり三百ナルベシ」

さは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 障 〔障ふノ自動(終ふ、かはる。易ふ、かはる。加ふ、くはは(る))さふ、さはるト云フハ、此語ガ、さノ發語ヲ冠スルナリ〕 (一)〔ササハル。サシツカヘル。 萬葉集、四、四十「イソノカミ、降ルトモ雨ニ、將闘哉、妹ニ會ハムト、言ヒテシモノヲ」 同、十二、廿「人言ハ、マコト言痛ク、ナリヌトモ、其ニ將障、吾レナラナクニ」同、十七、廿「長歌「大君ノ、命畏ミ、足引ノ、山野佐婆良ズ、アマサカル、鄙モ治ムル、丈夫ヤ、云云」(越中國守ノ歌ナリ、峻阻モトドコホラズ、踏越エ下レルヲ云フ) 宇津保物語、嵯峨院、三十「花盛リニモ、トカクさはりテ、物セズナリニシヲ」 源、十五、蓬生廿「初モ、イタウ垂枝リテ、築地モさはらネバ、亂レ伏シタリ」 大和物語、上「こし子、雨ノ降リケル夜、千歳ヲ待チケリ、雨ニヤさはりケム、來ザリケリ」 (二)害トナル。アタル。「人氣ニさはる」(アタリさはり) (三)感ジテ、病ム。「寒サニさはる」時候ニさはる」

さは・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 觸 〔前條ノ語意ノ轉、土佐日記、正月十七日「水底ノ、月ノ上ヨリ、漕グ舟ノ、棹ニさはるハ、かつらナルベシ」是レ等、過渡ノモノナルベシ〕 (一)〔手ニ觸ル。手ニテ、アタル。 竹取物語「手ヲ擎ケテ探リ給フニ、手ニ、ヒラメルモノさはる時ニ」 吾妻[illegible](慶安)「カマハシナ、コレモさはるニ、機嫌ノ、大ハ況シク、人ニ叩エツク」 (二)カカハル。寄リツク。「さはらヌ神ニ祟リナシ」 (三)感情ヲ害ス、喜怒ニ觸ル、「人ノ氣ニさはる」

さはれ (句) 遮莫 さもあらばあれノ條ヲ見ヨ。

さば-をり (名) 鯖折 相撲ノ手ノ名。さしくじきノ條ヲ見ヨ。

さひ (名) 鋤|鉏|小刀 〔佐比の劍ト云フガ、成語ナルベシ、稜威言別、十、推古紀、呉眞差比、齊明紀、膽振鉏「さひ、さへ、ハ、副・副ノ轉、身ノ守トシテ、副ヘ佩ク刀ノ義、鋤ノ字ハ、身ノ助トナル意ヲ以テ、金偏ヲ添ヘ、鉏ノ字ハ、助ノ、力ヲ省ケルナリ」(節文)辭ノさへモ、副ノ轉ナリ(其髮、さがかみ。ささめく、そそめく)萬葉集、十一 廿六「劍刀、身ニ佩キ副ふる、丈夫ヤ」韓鋤ト云フハ、明佐比ノ上略(識る、ざる。淺笥、さらけ)稱フル語、呉眞鋤ハ、呉國傳來ノ刀ナルベシ、農耕具ノ鋤杖モ、柄ニ、小刀ヲ附ケタル意ナラム〕身ニ副ヘ持タル刀。護身刀 神代紀、上 三十「素戔嗚尊、乃以二蛇韓鋤之劍一、斬二頭斷一レ腹」(八岐大蛇ニ云フ) 古事記、上 六十九 火遠理命(火火出見尊)海宮ヨリ、和邇ニ乘リ還リタマフ「其和邇、將レ返之時、解二所レ佩之紐小刀一、著二其頸一而返、故、其一尋和邇者、於レ今謂二佐比持神一也」(和邇ハ、鮫ナリ) 神武紀「稻飯命、拔レ劍入レ海、化二爲鋤持神一」 推古紀、廿年正月、長歌「馬ナラバ、日向ノ小馬、太刀ナラバ、句禮能摩差比」私記「呉眞鋤、良劍之名也」 齊明紀、五年三月「鉏、此云二娑翳一」 續紀、十、神龜五年五月「紀朝臣佐比物」 類聚國史、九十九「玉作佐比毛知」(神功紀、五年三月ニ、鉏海水門トアルハ、同紀、四十七年四月ニ、沙比ト見エテ、新羅國ノ地名ニ、鉏ノ字ヲ當テタルナリ)

さび (名) 皺 〔さぶ(荒)ノ名詞形ニテ(出典ノ歌ニ、月ノ光モ、さびえぼえトアリ)平面ノ、荒ビタル意ナラム、きらめきえぼえニ對ス〕烏帽子ノ表面ニアラハレタル皺文ノ名。又、シボ。其文ノ狀ニ、氷ノ裂ケタルガ如ク、龜甲形ノ崩レタルガ如キヲ、大さびト云フ、立烏帽子、風折烏帽子ナドノ用ナリ、横ニ萬筋ナルヲ、横さびト云フ、素襖烏帽子ノ用ナリ、横ニ柳行李ノ目ノ如キヲ、柳さびト云フ、白張烏帽子ノ用ナリ、文ハ、スベテ、型ニ刻リテ、紙ニ打込ミテ作リ、其上ヲ、黑漆ニテ塗ルナリ。さび無ク、滑ラカニ塗リテ、光澤アルヲ、きらめき烏帽子ト云フヨリ、さびアルヲ、さび烏帽子ト、別チテ云フ、きらめきえぼえハ、後ニ、廢レタリ。(貞丈雜記、三、烏帽子、安齋隨筆、後編、十二) 今鏡、下、第八、花のあるじ「此大將殿ハ、殊ノ外ニ、衣紋ヲゾ好ミタマヒテ、苦ハ、烏帽子モ、強ク塗ルコトモナカリケルナルベシ、此頃コソ、さびえぼうし、きらめきえぼうしナド、時時、變ハリテ侍ルメレ」(節文、大將トハ、花園左大臣有仁ノコトニテ、鳥羽天皇ノ御代) 七十一番職人盡歌合(文安)十三番、烏帽子折「秋ヤ深キ、月ノ光モ、さびえぼし、頭ノ上ニ、影ノ成リヌル」

さび (名) 寂 〔さぶる、さびる(寂)ノ名詞形〕 (一)サビタルコト。古ビテ、趣致アルコト。茶道ナドニ云フ語。古雅 「古高麗茶碗ノさび」 (二)幽靜ニシテ、趣味アルコト。蕉風ノ俳諧ナドニ云フ。閑寂 芭蕉ノ句「古池ヤ、蛙飛ビコム、水ノ音」 (三)謠物、語物ニ、聲帶ヲ、強ク顫動ハセテ、調子低ク聲ヲ發スルコト、嗄レタル如ク聞ユ。又、尺八ニテ、鶴巢籠ナドニ、脣ヲツカヒ、息ヲ強ク吹キコミ、ぉろぉろヲ、ぉろぉろト響カスルナドヲモ云フ。

さび (名) 銹 〔銹ぶノ名詞形、さみハ、音通ナリ(蛇、へび。黍、きび)銹ハ、金青ノ合字ナルベシ〕 又、さみ。銅、鐵、等ノ、空氣ニ酸化シ、腐蝕セラレテ、其面ニ生ズルモノ。粉ノ如クニシテ、固結リック、銅ナルハ綠ナリ、鐵ナルハ褐色ナリ、鐵鏽 本草和名、上 七「鐵精、加爾乃佐比」(倭名抄、同ジ) 字鏡 四十「鉎、加爾乃佐美」

さ-び (名) 䶩鼻|皻鼻 〔玉篇「䶩、鼻上皰也」皻ハ、䶩ニ同ジ〕 ニキミ、バナ。アカバナ。ジャクロバナ。酒䶩鼻

さ・び (動) 荒 荒ぶノ條ヲ見ヨ。

さ-び (副) 瑣尾 〔出典ヲ見ヨ〕微弱ナル意ヲ云フ語。 詩經、邶風、旄丘篇「瑣兮尾兮、流離之子」註「瑣細、尾末也」

さび-あゆ (名) 宿鮎 〔宿ぶノ條ヲ見ヨ、宿浪人ナド云フ語アリ〕 鮎ノ、秋ノ末ニ至リ、鰤ヲ生ミテ、老イ衰ヘタルモノ。オチアユ。クダリアユ。 過三ノ句「銹鮎ノ、幾瀬幾瀬ニ、ソノ瘦ゾ」

さび-いろ (名) 銹色 鐵銹ノ赭キガ如キ色。 漆塗ナドニ云フ。

さび-うるし (名) 銹漆 砥粉ヲ、水ニテ固ク煉リ、生漆ヲマゼテ、更ニ煉リタルモノ、鐵銹色ナリ。コレニテ塗リタルヲ、銹塗ト云ヒ、漆器ノ下地ニ塗リタルヲ、銹地ト云フ。

さびえ (名) 佐比江 〔宿びタル江ナリ、倭訓栞、後編、さびえ「水ノ赤銹ビタル江ノ義也」云云、俗ニ、さび田ナドモ云ヘリ〕 水ノ、濁リタル江。 後撰集、十五、雜、一、攝津新司治方ガ、屏風ノ佐比江ノ繪ノ詠「年ヲ經テ、濁リダニセヌ、さび江ニハ、玉モカヘリテ、今ゾスムベキ」 攝津名所圖會「佐比江ハ、兵庫北ノ入口ニシテ、青樓、多シ、佐比江トハ、濁カラヌ入江ノ名ナリ」 開港史「俚諺ニ、兵庫鑑、紅おしろいノ、花ノ都、さび江トイヘド、日日ニアタラシ」

さび-えぼし (名) 皺烏帽子 さび(皺)ノ條ヲ見ヨ。

さび-がたな (名) 銹刀 刀ノ刃ノ、銹ビタルモノ 新六帖、五、かたな「七和歌ノ、賤ハナレタル、さび刀、サモ世ニタタス、キラモ無キカナ」

さび-かべ (名) 銹壁 壁ノ上塗土ニ、鐵粉、又ハ、古釘ノ煎汁ヲマゼテ、塗レルモノ。鐵銹色ニテ、座敷ノ壁ナドニ用キル、古雅ニ見ユルモノナリ。

さび-ごろも (名) 宿衣 〔さぶ(宿)ノ條ヲ見ヨ〕 宿ビタル衣。 續古今集、五、秋、下、山家擣衣「山陰ノ、應フル宿ノ、さび衣、我ガ打ツ音ヤ、外ニ聞クラム」

さび・し (形) 不樂 さぶし(不樂)ノ條ヲ見ヨ。

さび・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 淋 〔不樂しノ轉、其語原ヲ見ヨ、常ニ、淋ノ字ヲ宛テテ、記ス、說文「淋、以レ水沃也」淋漓ハ、水ニ淺ル貌、ナドトアリテ、其故ヲ知ラズ〕 靜カニシテ、心細シ。(にぎやかノ反)サミシイ。サムシイ。寂寥 寂莫 源、二、帚木 八「さびしく荒廢レタラム、葎ノ門」 山家集(西行)下「松風ノ、音アハレナル、山里ニ、さびしサ添フル、ヒグラシノ聲」

さびし-ら-に (副) 淋良 〔さかしらノ語原ヲ見ヨ〕 淋氣ニ。サビシサウニ。 萬葉集、十六、雜、三「山菅ヤ、裾野ヲカケテ、住ム庇ノ、物さびしらに、鴨鳴クナリ」

さび-だけ (名) 銹竹 竹ノ、立枯レテ、鐵銹色ニ斑點ヲ生ジタルモノ。眞竹、淡竹ナドニ、多シ、書院窓、下地窓、ナドニ用キル、風致アリ。 澀竹 范成大、桂海草木志「澀竹、膚麤 澀 如二砂紙一」

さび-ぢ (名) 銹地 さびうるしノ條ヲ見ヨ。

さ-ひつ (名) 左筆 〔書ヲ、右筆ト云ヒ、繪ヲ、左筆ト云ヒシカ、ト云フ說アリ(出

[illegible]ヲ見ヨ。其[illegible]所ヲ知ラズ、又、左衛ニ、竹皮、字ヲ當ツルハ、虎ハ、竹林ニ棲ムト云ヒ傳ヘニ因リテ、虎皮ノ意ナリト云フ[illegible]カナシ、尚、考フベシ。虎ノ斑文ヲ、竹ニ書キタルモノ、又、竹皮。移鞍ノ下鞍ニ云ヒ、又、虎皮ノ尻鞘ニ云ヒ、闕腋ニモ云フ。下鞍ハ、延喜ノ頃ニハ、三位以上ハ豹皮、五位以上ハ虎皮ノ制ニテ、眞ノ毛皮ヲ用ヰタリ。後ニ、虎皮ナルニハ、斑文ヲ書キテ代用シタルモノノ如ク、尻鞘モ、然リシナルベシ。[illegible]四、鞍、下鞍、切付、[illegible]上ハ位已上ハ虎皮、[illegible]正式、六位ハ[illegible]リ[illegible]下鞍ハ、[illegible]竹皮、さ[illegible]、竹皮トハ、虎ノ皮ト[illegible]ハ、[illegible]竹林[illegible]良[illegible]ノ[illegible]セル中ニ、[illegible]ト云フ[illegible]ハ、虎文ヲ書ガケル下鞍ニテ、眞ノ皮ヲ云ヘルニハ、直ニ、虎、[illegible]ハ、[illegible]、トアリテ、[illegible]ハ、見エズ、或[illegible]ニ、[illegible]ハ、[illegible]ト云ヒ、[illegible]ト呼ビタルナラム、云云」(語文)

さび-つきげ (名) 〔宿鴾毛〕 〔さぶ(宿)ノ條ヲ見ヨ〕馬ノ毛色ニ、鴾毛ニ、赭ミアルモノ。桃花馬 平家物語、九、一二懸事「旗紫ヘ、云云、宿月毛ナル馬ニゾ乘リタリケル」(平山季重ノ旗紫ナリ) 下學集(文安)下、彩色門「宿鴾毛」 [illegible]集、文明[illegible]宿鴾毛、馬」

さび-つち (名) 錆土 銹土 〔(鐵錆色ナリ)〕 代赭色ナル土。紫室ノ壁土ナドニ用ヰル。遊行土。 俳諧毛吹草(正保)三、山城「遊行[illegible]土[illegible]之、盛法、生玉遊土」 雍州府志(貞[illegible]六、土産門、遊行寺土 東山、清水山之麓、法國寺[illegible]其土[illegible]、則其色[illegible]、[illegible]之[illegible]、遊行土ニ

さひ-づる (動) 〔囀〕 さへづるノ條ヲ見ヨ

さひ-づゑ (名) 〔鏄〕 〔柄ノ頭ニ、鉏ヲツケタルモノノ意ナルベシ、鉏ハ、小刀ナリ、其條ヲ見ヨ、朝鮮語ニ、鐵ヲ、さっぷト云フ〕 鏃ノ類。草ヲ刈リ去ルニ用ヰルモノ。 倭名抄、十五、農耕具「鏄、[illegible]也、佐比都恵」 [illegible]宇津保物語、藤原君「[illegible]サイラヒノ人トモ、[illegible]作ルトテ、[illegible]リアケテ、[illegible]ハキテ、さいづゑツキテ、布ノ直垂着テ、立チタマヘリ」 宇治拾遺、一、第五條「取ル物モ取リアヘズ、逃ゲテ西ヘ走ル、云云、追ヒツメラレテ、さいづゑシテ、頭ヲ打割ラレタリシソカシ」 和漢三才圖會(正徳)三十五、農具[illegible]「鏄、和名、佐比都恵、今云、[illegible]、云云、鏄、小鍬、形、微似[illegible]、故名二[illegible]」 多識編(寛永、林道春)五「鏄、久佐岐利久波」

さび-どめ (名) 〔錆止〕 鐵材ナドノ、錆ブルヲ止ムル塗料。光明丹、こおるたあるナド、用ヰル。

さひ-ぬり (名) 〔錆塗〕 さびうるしノ條ヲ見ヨ

さび-の (名) 〔澀篦〕 さはしのノ條ヲ見ヨ。

さひ-の-かはら (名) 〔賽河原〕 〔佐比の河原ナリ、平安朝時代ニ、山城國ノ佐比ノ里ノ河原ヲ、人民ノ共葬墓地ト定メラレテアリキ、此地名ヲ、法華經ニ、童子、戯レニ、沙ヲ聚メテ塔ヲ造リ、佛道ヲ成ズ、トアルニ取合ハセテ、小兒ノ亡者ノ、石ヲ積ムコトヲ作リ成シタル説ナリト云フ、出典ヲ見ヨ、賽ノ河原トテハ、義ヲ成サズ、小石ヲ積ムガ、雙六ノ賽ノ上ノ籌ノ如シナド、其外、種種ノ説アレド、皆、附會ナリ〕 俗説ニ、冥途ニアル、河原ノ地。小兒ノ亡者、此處ニ集マリテ、小石ヲ拾ヒ、一ツ積ミテハ、父戀ヒシ、二ツ積ミテハ、母戀ヒシトテ、父母ノ供養ノ爲ニ塔ヲ作ル、作リ終レバ、獄卒來リテ、コレヲ碎キ散ラス、地藏菩薩、出デテ、コレヲ救フト傳説ス。此傳説、室町時代ノ小説、富士人穴草子ニ委シク云ヘレバ、古キ事ナリ。(文、長ケレバ、記サズ、松屋筆記、七十七ノ二ニアリ)相摸國、箱根驛ノ湖邊ニ、さいの河原トテ、地藏堂アル地、名高ク、其外、諸國、山中ノ湖沼、水邊ノ地ニ、さいの河原トテ、處處ニアリ、皆、傳説ニ因リテ設ケタルモノナリ。 三代實録、廿、貞觀十三年閏八月廿八日、制定百姓葬送放牧之地、云云、[illegible]在山城國、[illegible]伊郡、佐比里、[illegible]件等河原、是、百姓葬送之地、放牧之地也、云云、[illegible] (此地ハ、桂川ト、加茂川ト、合流スル所ニテ、佐比寺アリ、地藏堂ナリシナルベシト云フ) 法華經、方便品「乃至童子、戲聚沙爲佛塔、如是諸人等、皆、已成佛道」 [illegible](享保)九「俗間ニ、さひの川原トテ、冥途ノ事ヲ云フ、石塔ヲ積ミ、水ヲ注ギナントシテ、靈魂ニ[illegible]ル、云云、山城國、紀伊郡ニ、佐比ノ里アリ、三代實録、貞觀十三年閏八月、制シテ、百姓葬送ノ地ヲ定メタマヒシ事アリ、中ニ、佐比ノ里アリ、云云、又、佐比寺(延喜式所謂、七ケ寺之一也)九條葬送之[illegible]、更[illegible]於[illegible]ナンド可[illegible]見、昔ハ亡人ヲ送ル所ナル故ニ、さひの河原[illegible]ト呼ビシヨリ、末ハ、幽冥ノ事トシ侍ルヤラム」(古事類苑、禮式(葬))

さひ-め (名) 〔境目〕 〔際目ノ轉ニモアルカ(囀る、さひづる)〕 境目ノ(一)ニ同ジ。 倭訓栞、さひめ「俗ニ、堺目ヲ云ヘリ、出雲風土記ニ、石見國與出雲國之堺、有佐比賣山ト見エタリ」 正[illegible]千句(文安)さひめノ[illegible]ハ、[illegible] 小町踊(寛文)春、卯花「春夏ノ、さい目ノ杭ヤ、空木垣」(打つニカケタリ)

さひ-もち-の-かみ (名) 〔鉏持神〕 刀ヲ、持ニ副ヘ持ツ神。さひ(鉏)ノ條ヲ見ヨ。

さ-ひやうゑ (名) 〔左兵衛〕 ひやうゑふ(兵衛府)ノ條ヲ見ヨ。

さび-らうにん (名) 〔宿浪人〕 〔宿ぶ、又、次次條ノさびるヲ見ヨ〕 古ビタル浪人。零落シタル浪人。 曾我會稽山(享保、近松作)二「木領ハ、其昔ノ秣刈場ト成リハテテ、昔ノ錦、錆浪人」 倭訓栞、さび「宿ノ字ヲヨメリ、浪人ノさびタルナド云フ、是レナリ」

さ-びらき (名) 〔早開〕 〔さハ、早苗ノ下略、五月ノ語原ヲ見ヨ〕 早苗ノ田植ヲ、始ムルコト (さのぼりノ條ヲ併セ見ヨ) 倭訓栞、さびらき「小苗開也、植エ初ムル日ヲ云ヘリ」 俚言集覧、さ「伊勢邊ニテ、田ヲ植始ムルヲ、さびらきト云フ、暦ニモ、さびらきよしト云フ日アリ」 [illegible]同、さびらき[illegible]ニアリ、四月ノ節」

さ・びる ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上一) 〔宿〕 〔老〕 〔上一段活用ノ宿ぶノ口語(其條ヲ見ヨ)〕 (一)古ビテ、趣キアリ。古色ヲ帶ブ。物舊ル。古雅 茶話指月集(元祿)二中「[illegible]ニ、古キ狐ヲ釣リタリ、宗安、さびテ、面白ク候トアレバ、云云」(嬉遊笑覽、一) (二)幽靜ニシテ、趣致アリ。俳諧ナドニ云フハ、宿ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 閑寂 倭訓栞、さび、宿ノ字ヲ訓メルハ、云云、さびタル壞ノ聲ナド云フ、是レナリ。

さ・びる (動) 〔錆〕 錆ぶノ口語。 狂言記、連[illegible]「見レハ、ナンバノ鉾ト云ウテ、錆びる鉾テハオリナイ」

さびれ (名) 〔衰微〕 サビレルコト。オトロヘ、「店ノさびれ」

✤さび・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）衰微「荒びゆく意、草臥るる、わびるるナド、同調ノ語ノ口語ナリ、きたなびるノ語原ヲ見ヨ」オトロフ。衰微ス。「商賣ガさびれる」

さふ（名）左府　左大臣ノ唐名。拾芥抄（文安）中、本、官位唐名、左大臣「左府」丁歩色葉集（天文）左大臣、唐名、左府」保元物語、一、新院御所各門門固事「新院ハ、齋院ノ御所ヨリ、北殿へ遷ラセタマフ、左府ハ、車ニテ參リタマフ」（左大臣藤原頼長）

さふ（名）左輔　輔弼ノ臣ヲ、左右ニ分チタル、左ノ側。易林「左輔、右弼」

〜さ・ふ・フル・フレ・へ・へ・ヘヨ（自動、下二）障塞　ササハル。サヘギラル。枕草子、五、四十九段、あさましきもの「サシ櫛磨クホト、物ニさへテ折リタル」

〜さ・ふ・フル・フレ・へ・へ・ヘヨ（他動、下二）障塞（發語ヲ冠シテ、ささふトモ云フ、遮ルモ、塞へ限るナリ、自動ニ、さはる（障）ト云フ）塞キ止ム。ササフ。サヘギル。隔テ、フサグ。天治字鏡、十一、廿「遮闌、佐不」名義抄「障、サフ、サヘ」「隔、サフ、フサグ」萬葉集、四、二十「長哉「空蟬ノ（枕）人カ禁ふラム、通ハシシ、君モ來座サズ」同、十一、五「ハシキヤシ、誰ガ障ふれカモ、タマボコノ、（枕）道見忘レテ、君ガ來マサヌ」同、十三、二十二「アシヒキノ、山路ハ行カム、風吹ケバ、浪ノ塞ヘヌル、海路ハ行カジ」伊勢物語（古本）四十段「親、此女ヲ、遂ニ逐ヒヤル、男、血ノ涙ヲ流セド、さふる由モナシ」六帖、四「手ヲさへテ、吉野ノ瀧ハ、塞キツトモ、人ノ心ヲ、イカガ頼マム」夫木抄、九、納涼「日ヲさふる、夕山松ノ、木ノ下ニ、淸水流レテ、夏ゾスクナキ」

さぶ（名）左武　右文左武ノ條ヲ見ヨ。

さぶ（名）左舞　左樂、舞樂ノ條ヲ見ヨ。

〜さ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）荒（活用ハ異ナレド、冷むト通ズルナルベシ、不樂しき義（萬葉集、二、二十九長歌「心不樂」暮シ」）殺風景ニナル意ナリ、後世ノさびれる（衰微）ト云フ語ハ、此遺ナリ」變リユキテ、スサマジクナル。スサブ。萬葉集、一、廿七「樂浪ノ、國津御神ノ、心佐備テ、荒レタル都、見レバ悲シモ」（近江國、大津ノ舊都）同卷十三「心佐夫流、心遣シ、ヒサカタノ、天ノ時雨ノ、流フ見レバ」（ながらふハ、降るナリ）同、四、廿八「マソ鏡、見飽カヌ君ニ、後レテヤ、朝タニ、佐備ツツ居ラム」玉葉集、五、秋、下「タヅク日、色さびマサル、草ノ下ニ、アルトシモナク、弱ル蟲ノ音」

さ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）宿老（前條ノ荒ぶノ轉、倭訓栞、さび「宿ノ字ヲ訓メルハ、老宿ノ意」）（一）舊ル。古ブ。年ヲ歷テ、フルビル。神樂歌、採物、杓「我ガ門ノ、板井ノ淸水、里遠ミ、人シ汲マネバ、水佐比ニケリ」伊勢大輔集「塵積リ、床ノ枕モ、さびニケリ、戀スル人ノ、寐ル夜ナケレバ」平家物語、十二、小原入御事「岩ニ苔蒸シテ、さびタル所ナレバ、住ママ欲シクゾオボシメス」（茶道ナドニ云フ閑寂、是レナリ）（二）宿びる（上一段活用）ヲ見ヨ。

〜さ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）錆（前條ノ荒ぶノ意）錆ヲ生ズ。銹、鏽　源、廿、朝顏二十二「鎖ノ、イタクさびニケレバ」小大君集「研ギオキシ、鞘ノ刀モ、さびニケリ、刺シテ久シク、程ヤ經ヌラム」

〜さ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（自動、上二）然（然帶ぶノ約ナルベシ（稻置、いなぎ。馬置、うまき）都び、鄙ぶモ、都帶び、鄙帶ぶノ約ナリト思フ、翁さぶ、少女さぶハ、翁然、少女然（學者然、君子然）ノ意）他語ノ下ニ、熟語トナリテ、其氣色ありノ意ヲ成ス語。めくト云フニ同ジ。神さぶ、翁さぶ、貴人さぶ、少女さぶ、ナド、皆、神めく、翁めくナドノ意ナリ。萬葉集、二十「宇眞人佐備テ、否ト言ハムカモ」同、廿廿九「難波門ヲ、漕ギ出テ見レバ、神佐夫流、伊駒高嶺ニ、雲ソタナビク」

〜ざふ（名）雜　歌集ニテ、ざふか（雜歌）ヲ集メタルヲ、雜の部ト云ヒ、俳句ニテハ、季ノ無キヲ、雜の句ト云フ。「春、夏、秋、冬、雜ノ歌」

ざぶ（感）水聲　〔水聲、さざノ轉ナリ〕水ヲ動カス音ニ云フ語。サザ。ザブザブ。ジャブジャブ。ザブリ。ザブン。ザンブ。ザンブリ。ザ、ブ。ザ、ブリ。盛衰記、廿八、北國所所合戰事「水ノ上ニ、ざぶト落ツ」今昔物語、廿七、四十三語、平季武、馬ニ乘リ、河ヲ「ざぶりざぶりト渉ルナリ」宇治拾遺、十一、第九條「西ニ向ヒテ、川ニざぶりト入ルホドニ」狂言記、那須與一「馬ノ太腹ノ浸ル程ニ、海ニざっぷト乘入ルル」「ざゃぶざゃぶ洗濯スル」「水ニ、ざんぶト飛ビコム」「水ヲ、ざっぷりト浴セル」

さふ-あう（名）插秧　早苗ノ、ウヱツケ。田植。高適詩「溪水堪二垂釣一江田耐二插秧一」

✤さぶ・い（形）寒〔さむしノ音通（煙し、けぶい）〕寒しノ口語。

さふ-か（名）插架〔書架ニ插しオク意〕ざうしょ（藏書）ノ異稱。所藏ノ書籍。難波江（百家說林、續、下、一、岡本保孝）二、書籍沿革「聽雨記談（說郛、十五）鄴侯家多レ書、插架三萬軸」「古寫本一部、我ガ插架ニ歸ス」

ざふ-か（名）雜歌　クサグサノウタ。歌集中ノ部分ニ、春、夏、秋、冬、戀、賀、哀傷、羇旅、ナドノ部ニ入ラヌ歌ドモヲ集メタル部。略シテ、雜の部ナドモ云フ。萬葉集ニテハ、相聞歌、譬喩歌、挽歌、ナドノ外ノ歌ヲ云フ。古今集、序「春夏秋冬ニモ入ラヌ、くさぐさの歌ヲナム、選バセタマヒケル」

さふ-かい（名）插鞋　「廣韻「鞋、戸佳切」草鞋ト書ケルアルハ、借字ナリ、わらぐつニハアラズ、新野問答（正德、野野宮定基）「插鞋ニ、草ノ字ヲ用候ハ、例ノ、音ヲ借リタルニ候」」沓ノ一種。形、常ノ淺沓ノ如キ木履ニテ、內外ニ、綾、錦ヲ貼レルモノ。西宮記、臨時、八、插鞋「主上、及、僧家、貴女、等之所レ用」深窓祕抄「草鞋、鞋ヲ、かいト云フ習ヒ也、天子之外不レ用レ之、僧道ノ用レ之」內藏寮式「月別縫造御靴一兩、插鞋一兩、已上御新」兵範記、仁平二年三月七日、太上法皇五十賓算、唐織物、御插鞋」業顯王記、正安三年三月廿四日、御卽位「如二插鞋一以布張レ之、面紫小文綾、以二銀薄一押二菱形文一、裏敷、同文白綾」僧官僧服圖文、草鞋　門跡僧正、赤地、樹和、他色可レ隨レ用レ之」雅亮裝束抄（治承）一、五節所「さうかいヲ、柳筥ノ蓋ニ置キテ、云云、姬君ノ料ナリ」庭訓往來（元弘）七月、草鞋「註「以二木作一、以二錦張一」

ざふ-き（名）雜木　（一）大小、種種ノ樹。ザフボク。ザッボク。「雜木林」雜木山」（二）楢、櫟ノ外ノ木ノ稱。炭、薪ニ云フ。「雜木炭」雜木薪」

ざふ-ぎ（名）雜伎　弄丸、弄槍、刀玉ナド、クサグサノ遊伎。雜藝。三代實錄、三十八、元慶四年七月廿九日「奏二音樂一散樂雜伎、盡二其能一」

ざふ-きん（名）雜巾　板間、敷居ナドノ塵埃ヲ拭キ去ルニ用キル布。抹布　拭く、ヲ、かけるト云ヒ、拭くさとヲ、雜巾がけト云フ。合類節用集（元祿）六、服食門「雜巾」信州川中島合戰（享保、近松作）三「手ン手ニ、雜巾トリノ羽帚、云云、掃イツ、拭ヒツ、立チ騷ギ」

ざふきん-がけ（名）雜巾掛　前條ヲ見ヨ。

ざふきん-ばり（名）雜巾針　雜巾ノ上刺スルニ用キル針。特ニ稍、太ク作ル。

さふく (名) 作福 極樂往生ニ便利トナルベキ、善事ヲ作スコト。追福。作善。[illegible]記(京畔、慶保胤作)ニ、[illegible]中ノ勤メテ修法ニテ、追善作福アリト聞ク」

ざふぐ (名) 雜具 種種ノ家具、調度。ザツグ。

ざふぐるま (名) 雜車 雜役・條ノ(一)ヲ見ヨ。

ざふくゎ (名) 插花 (一)カザスコト。挿ザリスコト [illegible] (二)イケバナ。生花。

ざふぐゎ (名) 插畫 サシヱ。挿圖。

ざふげい (名) 雜藝 種種ノ藝術。雜伎。[illegible] 百錬抄、八、承安二年七月廿三日「行幸三條殿、翌日[illegible]ニ至ルマデ、書キタル次第ヲ、歌ヒ謡ス時モアリキ」(後白河院ノ御文ナリ)

ざふこう (名) 雜口 次條ノ(二)ニ同ジ。陽性類合戰(享保、近松作)「女ニ絆サレ、慾ニ引カレ、腰ガ脱ケテ、弓矢ノ義ヲ忘レシト、親類人ノ雜口ニカケラレンハ」

ざふごん (名) 雜言 (一)ヨモヤマノ話。雜談。[illegible] (二)何ノワケモナク、物言フコト。物狂ヒノ、ウハコト。[illegible] 惡語 [illegible]月廿八日[illegible]、御氣色忽變、種種雜言、大略如例歟、御惱不[illegible]安、不實事、外聞云云」(藤原賴實ノ、物怪ニ惱ムヲ云フ) (三)雜談ノ事ヲ、言ヒ掛ケテ、[illegible]コトアクタイ。雜口。惡罵。「惡口雜言」

ざふさく (名) 雜作 〔當字ニ、造作ト書ク〕(一)家ヲ建テタル後ニ、床間、戸棚、梯子段ナド、種種、造リ添フルモノ。「造作附貸家」(二)俗ニ、人ノ顔面ノ、眉、目、鼻、口。相好。「顔ノ造作ガ大イニ宜ヲ」ヲ、ざふさくなくつけたト云フ。

ざふざふ (名) 雜雜 クサグサ。サマザマ。萬、九、長歌「ざうざうノ人ナキ事ヲ、思ヒ定メヌ」(ざうハ、音便ナリ)

ざぶざぶ (感) 水聲 ざぶノ條ヲ見ヨ。

さぶ・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 不樂 〔荒ぶヲ、形容詞ニ活用セサセタル語、さびしトモ云フ(荒ぶ、荒び、忌む、忌み、いみじ)萬葉集、三、廿「無クテ不樂モ」同、十二「心不樂春シ」意、移リテ、寂寞シトナル、寂し。さぶしモ、又、一轉セシナルベシ〕心、樂シカラズ。さびし。荒涼 萬葉集、十八、廿五「櫻花、今ゾ盛リト、人ハ言ヘド、我レハ佐夫之モ、君トシ在ラネバ」續紀、三十一、寶龜二年二月、[illegible]日月累リ行クマニマニ、[illegible]シキ事ノミシ、彌遠ルベキカモ、歳時積リ行クマニマニ、佐夫之岐事ノミシ、彌益ルベキカモ」萬葉集、二、十「ササナミノ、滋賀津ノ兒等ガ、行ク路ノ、川瀬ノ道ヲ、見レバ不怜シモ」近江ノ滋賀ナル女ノ死セシ時ナリ、[illegible]云ヘルカ」同、十、長歌「遣ル情ニハ、[illegible]モ、[illegible]クテ不樂シモ、遇フ人ナシニ」同、十五「[illegible]キ由、[illegible]モ越エ來ヌ、今更ニ、逢フベキ由ノ、無キガ佐夫之サ」(一云、左必之)

ざふし (名) 雜仕 ざふしめ(雜仕女)ノ條ヲ見ヨ。

ざふし (名) 雜紙 (一)粗製ノ紙。[illegible]ヨ、云云、トテ、投返ス」(二)鼻紙。[illegible]紙ハなぎ紙ノ事、女中詞ニ、おざ、ナド云フ」

ざふじ (名) 雜事 (一)種多ノ事柄。雜事。[illegible]「サレベカラム雜事ラハ、承ハラムト」同、五十、浮舟「[illegible]云、雜事ドモ、仰セラレツルツイデニ」(二)ざふじせんヲ見ヨ。

ざふしき (名) 雜色 雜式 〔安齋隨筆、九「雜色ノ色ノ字ハ、品ノ字ノ意ニテ、雜品ト云フガ如シ、雜役ヲ勤ムル人品ヲ云フナリ」北史、齊文宣紀「免諸伎作屯牧雜色徒隷之徒、爲白戸」〕(一)小者。下男。僕隷 枕草子、五、五十段「供ニ、侍、ざうしき、三人バカリ、物モ履カデ、走ルメル」宇治拾遺、三、第五條「供ニ具シタルざうしきヲ呼ビケレバ、出デ來タルニ、沓持テ來ト云ヒケレバ、持テ來タルヲ、履キテ、云云」保元物語、一、新院召二義[illegible]、其[illegible]、[illegible]ト、[illegible]丸トハ、[illegible]ニ出フル物ナレバ、ざうしき化粧シテ、下野守ノ[illegible]ハシケル」(二)武家時代トナリテハ、鎌倉幕府、室町幕府ヲ通ジテ、小舍人、走衆、ノ類ニテ、賤役ニ仕ハルル職名。てうざくざふしき(朝夕雜色)ノ條ヲ併セ見ヨ。吾妻鏡、二、治承五年三月廿七日「片岡次郎常春、依有二謀叛之聞、遣雜色於彼領所[illegible]、召之、云云」同、十、文治六年二月五日「被遣雜色[illegible]常諸、[illegible]、於[illegible]、是於二方[illegible]、可[illegible]合戰、爲[illegible]也」松田貞秀記、永享十二年七月廿五日「大將足利義教)御拜賀、供奉行列、云云、雜色四人、淨衣」條條聞書「武家ニ、雜色ト申スハ、中間ヨリ下リ、[illegible]ヨリ上リ也」(貞丈雜記、四)

ざふしき (名) 雜色 次次條ヲ見ヨ。

ざふしきどころ (名) 雜色所 雜色ノ、詰ムル所。次條ヲ見ヨ。[illegible]物語、二、サフラヒノ入ルベキ所、ざふしき所ナド、サマザマニ構ヘヱトシテ、構ヘテ拵ヘ」

ざふしきにん (名) 雜色人 〔雜色トハ、衣服ノ染色ヲ云フニテ、位袍、當色ナケレバ、色ニ定メナキ義ニテ、雜色ノ服ヲ着ル職ノ意ナルベシ、直衣ヲ、雜袍ト云フト、同趣ナリト思ハル〕諸官署ニ召仕ハレテ、雜務ニ從事スル職。常ニ、下略シテ、雜色トノミ云フ。東宮、諸司、ニアリ、藏人所、等ニモ置カル、所の雜色ト云フ、又、攝關諸家ニモ置キテ、別當、長、ナドヲ定メテ、其詰所ヲ、雜色所ト稱シタリ。春宮坊式「雜色人、百五十人」式部省式、[illegible]日「諸司雜色人、[illegible]四度使、[illegible]、及入京職司、[illegible]朝拜二[illegible]」[illegible]八年二月「雜色、十人、充諸司、[illegible]支雜事也」[illegible]抄、上「藏人所雜色、[illegible]八人、代代[illegible]藏人、仍、公卿子孫、又、可[illegible]諸大夫、多補之」枕草子、十、百廿七段「ざうしきノ、藏人ニ成リタル、メデタシ、去年ノ霜月ノ臨時ノ祭ニ、御琴持タリシ人トモ見エズ」今鏡、下、第九、あしたづ「其家ノ主ノ[illegible]ノ男、所の雜色ナリケルガ、藏人ニ望ミヲカケケル」台記、久安四年十一月十日「以[illegible]以[illegible]爲中將雜色所別當(中將ハ、藤原兼長ナリ)兵範記、久安五年十月十九日「左府若宮元服(藤原賴長子、師長)云云、雜色所[illegible]、右近番長、中臣重文、云云」

ざふじせん (名) 雜事錢 雜事ニ要スル錢。雜費。又、小遣。雜用。略シテ、雜事。吾妻鏡、五、文治元年九月十日「[illegible]師事、被[illegible]中[illegible]止公卿、云云、下向之間、宿次雜事以下、今日、被[illegible]能御家人等」盛衰記、三十三、康定關東下向事「院宣御使、左史生康定歸京京上ノ雜事トテ、[illegible]ヨリ、宿宿ニ、五石、五石、[illegible]ニ至ルマデ、宿宿マデ、送リ積ミテ侍リツル、云云」同、十七、「[illegible]、云云、六[illegible]ナル所ニ、靜カナルアリサマニテ侍ルト申ス、サテハ、イトホシキ事ヤトテ、筑後守家貞ニ仰セテ、云云、毎月ニ、時料、雜事ヲ進セレ、云云、[illegible]十二送エテ、云云」十訓抄、上、第一、四十六條「源經兼、下野守ニテ在國ノ時、或者、便書ヲ以テ、雜事ナドヒフニ、大方便リナキ由ナ

ドイヒテ、ハカバカシキ事モセネバ」宗長手記(享祿)「召使フ者ノ、油斷シテ、雜事鍋ナド、取ラレ」

ざふしめ (名) 雜仕女 (一)略シテ、雜仕トノミモ云フ。雜役、驅使ニ奉仕スル女ノ稱。宮中ニ仕フルハ、下級ノ女官ニシテ、特ニ、上雜仕トモ云ヒ、行幸、行啓ニモ、供奉シタリ。 西宮記、三、五節、「上雜仕裝束、袙二重打衣唯代、禮裝如常」宇津保物語、吹上、下「御厨子所ノざうしめ」枕草子、十、百三十三段「里ニアル頃、云云、臺盤所ノざうしヅ、御使ニハ來ル」(一條中宮ノ御使ナリ)著聞集、十三、哀傷「後中書王(具平親王)、雜仕ヲ、最愛セサセタマヒテ、土御門右大臣(師房)ヲバ、マウケタマヒケルナリ」小右記、治安四年八月九日「御膳所雜仕女、落入後町井、死去」今鏡、中、第四、宇治の川瀨「皇后宮治行啓「女房ノ車、云云、ざうしナドモ、皆、車ニ乘リテナム侍リシ、サキザキ、白河院ノ御時ハ、ざうしハ、皆、馬ニ乘リテ、云云、イクラトモナクコソ、續キテ侍リシカ、コレ、女車ニテ、コレゾ始メテ侍リシ」平治物語、三、常盤說、落事「九條院ノ雜仕、常盤」(近衞天皇ノ后ノ雜仕、後ニ、源義朝ノ妾) (二)又、三位以上ノ家家ノ侍所ノ雜役ニ供スルヲモ、云ヒキ、鎌倉幕府ノ公文所ニモ、雜仕女三人ヲ置キタリ。著聞集、十一、博奕「イト賤シキ雜仕女一人アリ、云云、大納言定能卿ノ家ノ雜仕ヲ妻ニテ、夜夜ハ、仁和寺へ通ヒケリ」同、十六、興言利口「坊門院ノ侍長ニ、兵庫允則宗ト云フ者アリケリ、云云、侍ノ雜仕ニ、小松トテ、六十バカリナル老女ヲ、最愛シケリ」

ざふしや (名) 雜舍 寢殿造ノ正殿ノ、後方ニ設ケタル建物。雜具ヲ置キ、又、雜事ヲ執リ行フ所ニテ、後世ニ云フ、勝手方ナリ。

ざふず (名) 雜漿 〔ざふづノ假名ニテ、漿ナド雜ゼタル水ナルベキカ、米ヲ煮タル汁ヲ、漿(こんづ)、さんつト云フ〕飼牛ノ飲料。 倭言集覽、雜漿「運歩色葉集(天文)雜漿、ざふず、飼、牛之物、按ズルニ、今モ、ざふずト云フ」

ざふすゐ (名) 雜炊 大根、葱ナド、刻ミテ、雜ヘテ煮タル粥。或ハ、味噌ナド、加フ。雜菜粥。

ざふそ (名) 雜訴 種種ナル、訴ヘゴト。急呼シテ、ざっそ。

ざふだい (名) 雜題 サマザマナル、和歌ノ題。雜歌ノ題。ザツダイ。

ざふだん (名) 雜談 種種ノ、要用ナラヌ話。ムダバナシ。雜話。雜談。(用談ニ對ス) 太平記、十八、瓜生擧旗事「宇都宮美濃將監ト、天野民部大輔ト寄合ヒシテ、四方山ノ雜談」「終日、雜談ニ耽ル」

ざふづ (名) 插圖 書籍ニ插シ入レタル圖。插畫。插畫。

ざブトン (名) 座蒲團 スワリブトン。坐褥。

ざふに (名) 雜煮 ざふにもち(雜煮餅)ノ條ヲ見ヨ。

ざふにばし (名) 雜煮箸 新年ノ雜煮餅ヲ食フニ用キル箸。特ニ、柳ノ材ノ白木ニテ、稍太ク造ル、糊入紙ニテ作レル箸包ミニ插シ入レ、表ニ、其使用者ノ、旦那樣、誰樣ナド、記シ、紅白ノ水引ニテ結ヒ、田作、二尾ヲ挾ムヲ、例トス。 鳩山の井(寬文)春「雜煮イハフ、ふとばし」

ざふにふ (名) 插入 物ニ、插シコムコト。「記文ニ、語ヲ插入ス」

ざふにふぶん (名) 插入文 他ノ一文、一句ヲ採リ來リテ、他ノ文中ニ插シ入ルルモノ。 新葉集、六、冬「影凍ル、霜夜ノ月ゾ、「秋ヲ置キテ、時コソアレ」ト、サヤケカリケル」古今集、五、秋、下「秋ヲオキテ、時コソアリケレ、菊ノ花、移ロフカラニ、色ノマサレバ」

ざふにん (名) 雜人 奴婢ノ類。下賤ノモノドモ。 吾妻鏡、四十二、建長五年十月一日「奴婢雜人事、被定法、付田地、召仕百姓子息所從事、雖經年序、宜任彼輩之意」太平記、十、新田義貞謀叛事「我ガ館ノアタリヲ、雜人ノ馬ノ蹄ニカケサセツルコトコソ、カヘスガヘスモ無念ナレ」俗語錄(寬文)「鄙言、諸州雜人」

ざふにん (名) 雜任 諸官署ノ、主典以下ノ屬官人ノ稱。賦役令、義解「雜任 史生、舍人、兵衞、資人、衞士、仕丁」選敍令、義解「官人、年七十以上、聽致仕」注「謂主典以上、即、雜任、亦准、此也」

ざふにもち (名) 雜煮餅 〔餅ニ、菜、肉ヲ雜ヘテ、煮ルナリ、梁、高僧傳「蜜以半合米、雜煮也」羹ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕切餅ヲ燒キテ、種種ノ蔬菜ナドヲマゼテ、煎出汁ニテ、羹トシタルモノ。常ニ、多クハ略シテ、雜煮トノミモ云フ、足利時代ニハ、烹雜トモ云ヒキ。今、東京ニテハ、通例、燒豆腐、里芋、小松菜ヲ用キル、古今、諸地方ニテ、雜フルモノ、區區ナリ。コレヲ、專ラ、元日ヨリ三日ノ間、每朝、祝賀ノ膳トス。畿内ニテハ、羹の餅、又、おかんト云フ、コレヲ、食ふト云ハズシテ、雜煮を祝ふ、羹を祝ふ、ト云フ。餅ヲ、祝賀ニ用キルコト、我ガ國、古來ノ風習ニテ、元日ノ鏡餅、上巳ノ草餅、端午ノ粽、十月ノ亥子餅ナド、年中行事トスルコト、多シ、神供ニモ、供餅ヲ用キル。 若露門院御内書記、寬政八年正月一日「三獻御雜煮餅二」(若露門院ハ、桃園天皇ノ皇后ナリ) 鹽尻拾、ざふに「親合記ニ、尹良親王ノ御子、良王、賊ノタメニ危ブメラレ、津島ニ移リタマヒシ時、永享八年正月元日ノ雜煮ヲ學ル、云云」(津島ハ、尾張國ナリ) 伊勢家傳式雜書、七、伊勢守貞孝相傳條條「雜煮、モチ、丸アハビ、煎海鼠、燒栗、山ノイモ、大豆、汁、タレミソ、以上七色」易林節用集(慶長)食服「雜煮、羹」鳩山の井(寬文)春「雜煮いはふ、かんをいはふ」庖丁聞書「雜煮、串蚫、串海鼠、大根、青菜、花鰹、右之五種ヲ上置ニスル也、口傳、下盛ニ、里芋、其上ニ、餅ヲ置ク也」料理物語(寬永)「雜煮ハ、中みそ、又、すましニテモ仕立テ候、餅、豆腐、芋、大根、いりこ、くしあわび、ひしおつほ、くきたちナド、入ルル、可シ」皇都午睡(嘉永)三編、上「江戶ニテ、云云、正月ノ雜煮モ、上方ノ菜立ニテ、菜ヲ入レタルすましナリ、云云、大方、切餅ニテ、味噌雜煮ヲ、大坂雜煮ト云フ」

ざふのく (名) 雜句 ざふ(雜)ノ條ヲ見ヨ。

ざふのぶ (名) 雜部 ざふ(雜)ノ條ヲ見ヨ。

ざふはう (名) 雜袍 ざつぱう(雜袍)ニ同ジ。 盛衰記、一、平家一門繁昌事「今ハ禁色、雜袍ヲユリ、關職、進官ヲ經テ」

ざふひつ (名) 雜筆 (一)種種ノ文。諸體ノ文章。 愚管抄、二、高倉天皇「漢才好シ、御學文アリテ、詩作リ、雜筆ナド好ミテ、女房ノ甲文ナド、書キテ遊バシタルモノ、多カリケリ」 (二)雜筆ノ條ヲ見ヨ。

ざふひやう (名) 雜兵 卑シキ兵卒。歩卒。卒 曾我物語、一、拌白羅蹬事「吾レ自害ノ後、ざふひやうノ手ニ懸カリテ、命ヲ空シクセン事、口惜シケレバ」

ざふぼく (名) 雜木 雜木ニ同ジ。

ざふまい (名) 雜米 別納ノ租穀、及、春米ノ稱 民部省式「諸國所、送雜米者、省、送印收」

さふん（名）左文　[illegible]左文ノ條ヲ見ヨ。

さふむ（名）雜務　種種ノ仕事。ザツム。

さふもつ（名）〔雜物〕（一）種種ナル物。雜具。ザツブツ。盛衰記、廿六、尾張目代早馬[illegible]失ヒテ、怖ムカナシ」（二）鳥料理ニテ、肉、臓腑、ナドヲ呼ブ稱。今、略シテ、もつト云フ。「もつ燒」

さふやく（名）〔雜役〕（一）雜用ニ、役ハルルコト。雜役。多クハ、下使ニ、ざうやくト記ス。字津保物語、國讓、下五「男ドモ侍ラム、御身ノ代ハリニハ、ざうやくモセサセタマヘ」[illegible]モ、ざうや[illegible]ニトテ、[illegible]ス、疎カラズ召シ使ハセタマヘ」江家次第、八、乞巧[illegible]倍寄ノ兵ドモ、雜車二三百輛、取集メテ」（二）次條ヲ見ヨ。

さふやくうし（名）雜役牛　次條ヲ見ヨ。

さふやくうま（名）雜役馬　雜役ニ用ヰル牛馬ノ稱。略シテ、雜役トノミモ云フ。牝牛モ、駄リ、雜役牛ト云ヒ、[illegible]ヒテ、奥州ヘ下ル「イマダ習ハヌ、竹ノ鞭ヲ拔キ持チタマヒツ、四十二疋ノざふやく[illegible]ニ打チマジハリテ、御下リアルコソ、アハレナレ」（駄トハ、牝馬ナリ[illegible]）[illegible]テ、一期、病ニナルモアリ、或ノ馬ヲ賣買スレバ、利分モアレド、ざうやくヲ飼フモノハ、皆、斃ルル也」[illegible]只ナルフ事ハ、[illegible]云云」駱尻（天野信長）十七「古事談、雜役牛、云云、倍ニ、[illegible]、ざうや、ト云フ、[illegible]ニ用ヰズ、雜事ニ役スルノ力カ、牛モママ、乘車ニ用ヒズ、雜事ニ遣フ故ナルベシ」近代世事談（享保）五、雜役馬、牝馬ヲ[illegible]シテ、[illegible]ト云フハ、云云、古事談ニ、雜役牛トアリ、牝牛ハ、乘車ニ用ヒズ、云云」常語藪（寛政）雜役馬ハ、[illegible]

さふやくぐるま（名）雜役車　ざふやく（雜役）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

さふよう（名）雜用　（一）種種ナル事ニ用ヰルコト。諸用。[illegible]（二）雜用ニ供スル費。雜費。

サフラ（名）沙羅〔銅鑼〕〔鈔鑼〕　梵語、Thalah.（鐃鈸）ヲ移シテ云ヘルカト云フ、今、佛具ニ、さはりト云フモノ、是レナリ、佛書ニ、多ク、沙羅ト記ス、コレニ、金偏ヲ添ヘテ、鈔鑼ト記シ、又、沙ノ三水ヲ省キテ、鈔鑼ト記ス。鈔ニハ、ブラズ）持統紀ニ、鈔羅トアリ、龍涎手鑑[illegible]、音ス似テ、大ナルモノ、讀經ノ時、打鳴ラスニ用ヰル。今、さはりト云フ。持統紀、[illegible]

さぶらう（名）三郎　「三ノ字ノ音ハ、唇内音ニテ、さむノ轉（烟、けむり）雙六ノ賽目ニ、三六ト云フ語アリ」三番目ノ男子。たらう（太郎）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]伊勢物語、六十三段、[illegible]云云、夢語ヲ、[illegible]三人ヲ呼ビテ語リケリ「二人ノ子ハ、ナサケナク應ヘテ、ヤミヌ、さぶらうナリケル子ナム、ヨキ御男ゾ、來テ來ム、ト、アハスルニ」（夢合ナリ）

さぶらひ（名）〔侍〕（侍人ノ下略、其條ヲ見ヨ）（一）侍人ニ同ジ、君側ニ仕フル者ノ稱。侍者　古今集、廿、東歌「御さぶらひ、御笠ト申セ、宮城野ノ、木ノ下露ハ、雨ニマサレリ」源、四十九、東屋、五十「翌朝、睦ジクオボス下臈ノさぶらひ一人、顔知ラヌ牛飼、ツクリ出デテ、遣ハス」枕草子、二、廿段「車止メテ下ルル人、云云、狩衣姿ニテ、云云、二三人四人ハカリ、さぶらひノ者」（二）轉ジテ、専ラ、君側警衛ノ武人ノ稱。禁中、瀧口ノ侍、上皇御所ノ下北面ノ侍、東宮ノ帶刀ナド、皆、侍ノ官ナリ。倭訓栞、さぶらひ「禁中ノ瀧口、院ノ下北面、東宮ノ帶刀ナド、皆、侍ノ官也ト云ヘリ」（三）中世以後、親王、攝家、大臣以下ノ家人ヲモ、稱セリ。恪勤。五位、六位ニ敍セラレ、補セラルル例ナリシカバ、後ニハ、公家ニテハ、諸大夫ニ次ギタル家格トナルニ到レリ。夏山雜談（寛保）一「侍ト云フハ、多クハ、五位六位ナリ、功ニ因リテ、四位ニモナル[illegible]、諸大夫ヨリ、一等下リタルモノナリ」倭訓栞、さぶらひ「職原抄ニ、親王、大臣以下諸家、恪勤之名也ト見ユ、五位六位ノ侍ナト云ヘリ、云云、戸令ニ、侍丁[illegible]トアルハ、年八十以上、及、篤疾ノ者ニ、介抱人ヲ給ハルナリ、中世、家の子ト云フ、是也ト云ヘリ」玉海、治承三年十一月八日、近衛大將藤原良通拜賀「職事二人、侍十七人、[illegible]侍所[illegible]」[illegible]一、有持[illegible]、云云、侍、樋口刑部[illegible]、云云、前公、諸大夫、進藤刑部少輔、云云、侍、松本主計少允」（四）武家ニテハ、其家人、家の子、ノ稱トシタリ、後世、武士ヲ、スベテ、さむらひト云フハ、此遺ナリ。盛衰記、廿一、[illegible]合戰事「三浦大介ノ下知「家の子モ、侍モ、舍人、草刈ニ至ルマデ、汝ヘ、弓ハ、一人シテ、二張、三張、矢ハ、四腰、五腰モ用意セヨ」[illegible]八、[illegible]ぶらひの事、さぶらひノ詞ハ、[illegible]ニモ[illegible]汗ノ如シ」倭訓栞、さぶらひ「太平記ニ、四品以下ノ平侍、ト見ユ、今、平士ナド云フメリ」（五）特ニ、鎌倉將軍ノ家人ハ、武士ノ上級ノモノトシテ、陪臣ノ郎等ト、別チタリ。吾妻鏡、一、元暦元年七月廿五日、故井上太郎光盛侍、保科太郎、小河原雲藤三等、爲[illegible]人上、仍可爲御家人之由、被仰下」同、十、建久元年十一月九日、將軍仙洞參內行列、布衣侍六人、宇都宮朝綱、八田知家、工藤[illegible]、畠山重忠、梶原景時、三浦義連」

さぶらひだいしやう（名）侍大將　「侍ハ、副ノ意ニモ解セラル」（一）其身、侍ニシテ、一軍ヲ率キル者。大將軍ノ下ニ副フ　平家物語、四、[illegible]合戰事「大將軍ニハ、左兵衛督知盛、頭中將重衡、薩摩守忠度、侍大將ニハ、上總守忠清、云云、飛驒守景家、云云、ヲ先トシテ」盛衰記、三十六、[illegible]平三ハ、侍大將軍ニテ、九郎義經ニ付キ、土肥[illegible]郎ハ、侍大將軍ニテ、蒲冠者ニ相從フベシ」武家名目抄、職名、三「侍大將トハ、其身、侍ニシテ、一軍ノ將トナレル者ヲ云ヘルナリ、平家物語、太平記ナドニ見エタルハ、是レナリ、事アルニ臨ミテ、侍ノ中ヨリ、然ルベキ者ヲ選ビテ、其臨ニ從ハセシナリ」（鄙文）（二）足利時代ノ末ヨリハ、侍一組ヲ率キル者ノ稱。さむらひ大將ノ條ヲ見ヨ。

さぶらひどころ（名）〔侍所〕（家臣ノ侍ひ居ル所）（一）院、親王家、攝政、關白、三位以上ノ家家ニテ、家臣等ノ、其家ノ事務ヲ扱フ所。さぶらひトノミ云フコトアリ、別當、所司、勾當、年預ナドノ職ヲ設ケタリ。拾芥抄（文安）中、末、院司「關白家、大臣家、大略同之、職關、侍所、[illegible]」中右記、大治四年十月廿三日、親王宣下、大盤ノ饗「昇居大盤於侍所」兵範記、久安五年十月十九日、左府若宮元服（左大臣藤原頼長、子、師長）家司、職事、下家司、云云、參、仰退出、侍所着集、云云、侍所別當、云云」

(二)鎌倉幕府、建ツニ及ビ、將軍ノ館ノ内ニ、攝關大臣家ノ例ニ傚ヒ、侍所ヲ設ケ、武士ノ、宿直、侍衞ノ詰所トシタリ、内侍、遠侍、等ノ別アリ、侍ト云フハ、侍所ノ下略ナリ、内侍トハ、遠侍ニ對スル稱、卽チ、侍所ノコトニテ、遠侍トハ、別棟ニ作リ、建具モ無ク、板敷ニテ、詰居ル武士共、其武器ヲ飾リ置ク、保元、平治物語、盛衰記ナドニ、外侍ト書キテ「トホザムラヒ」ト假名ヲツケタル、所所ニアリ、(家屋雜考、四)其外、東侍、西侍ナド云フアルハ、其方向、位置ニ因ル稱ナリ。 平家物語、八、征夷將軍院宣事「鎌倉、兵衞佐ノ館ノ内外ニ侍アリ、共ニ、十六間マデアリケリ、外侍ニハ、家ノ子、郎等、肩ヲナラベ、膝ヲ組ミテ、並ミ居タリ、内侍ニハ、一門ノ源氏、上座シテ、末座ニハ、八箇國ノ大名、小名、居流レタリ」 吾妻鏡、一、治承四年十二月十二日「侍所」註「十八箇間」 [illegible]長記、三十四、裁判官知康事「先ツ、鼓ヲ取テ、初ニハ、居ナガラ打チケルガ、云云、結句ハ、座ヲ起テ、十六間ノ侍ヲ打廻リテ」 合類節用集(元祿)二、乾坤門「侍所、關白家諸侍伺候處、關東於鎌倉建之焉」 貞丈雜記、十四、家作「侍、云云、上臈ノ内、奧ヲ取キタル外廻リノ、廣ク長キ板敷ヲ云フ也、家臣ノ、祗候シテ侍ラフ所ト云フ意ナリ」

さぶらひどころ (名) [侍所] (組織ハ、前條ノ侍所ノ擴張ナレド、語義ハ、侍人、卽チ、家人、武士管理ノ義ト變ジタルナラム)(一)鎌倉幕府ノ職名。守護、地頭ヲ支配シ、將士ヲ進止シ、宿衞、扈從ノ武士ヲ選擧シ、檢斷、決罰ノ事ヲ掌リ、戰時ニハ、軍事ヲ監ス、政所、問注所ト併立シテ、樞要ノ職タリ、其長ヲ、別當ト稱シ、次ニ、所司、開闔、寄人、等ノ職員アリ、治承四年、和田義盛、始メテ別當ニ補シタリシガ、建保元年、執權北條義時、別當ヲ兼ヌル事トナリテ後ハ、執權ノ兼職トナリテ、北條氏ノ世襲トナリヌ。 吾妻鏡、一、治承四年十一月十七日「和田小太郎義盛、補ニ侍所別當ニ」 同、十二月十二日「入ニ御于新殿ニ之後、御共輩、參ニ侍所ニ二行對座、義盛候ニ其中央ニ」(二)室町幕府モ亦、侍所ヲ設ケ、別當ヲ置カズ、所司ヲ長トス、其他、職員、職掌、鎌倉ノ侍所ニ同ジケレド、更ニ、朝廷、及、寺社領、等ノ事ヲモ管セリ、所司ノ家人ノ、代ハリテ勤ムルヲ、所司代ト云フ。所司ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。又、さむらひどころ。 下學集(文安)下、態藝門「侍所」 撮壤集(享德)下、武職「侍所、開闔、所司代」

さぶらひな (名) [候名] (禁中ニ候ひ勤仕スル間ノ稱) 禁中ノ下﨟ノ女房ノ稱スル名。 禁祕御抄、下、女房「上臈、禁中無ニ小路名一、仍雖ニ最上一號ニ大納言一云云、下﨟、諸侍、賀茂、日吉社司等女也、皆稱ニ候名一也、不ニ及ニ國名ニ」 禁祕御抄階梯、下、女房「ひさしき、うれしき、ゆりはな、久、龜、鶴、ナドヤウ、皆、候名也、國名、按、陸奧、常陸、等之類也」 倭訓栞、さぶらひな「禁裡女房ニ、候名アリ、國名アリ」

さぶらひびと (名) [侍人] [候人] (候人ト云フ職ハ、字ヲ音讀スルナリ) 君側ニ侍ヒ仕フル人。祗候ノ臣。侍者。略シテ、さぶらひ、其條ヲ見ヨ。 景行紀、四十年十月「侍者」私記「左不良比比止」 齊明紀、元年正月「天皇、云云、踞ニ坐胡床ニ齋ニ列陪臣ニ」 枕草子、六、五十八段「七ツ、八ツバカリナル男子ノ、云云、さぶらひ人、呼ビツケ、物ナド言ヒタルケハヒモ、イトヲカシ」 宇津保物語、藤原君二十「さぶらひノ人ドモ、畠作ル、殿、云云、布ノ直垂着テ、立チ給ヘリ」

さぶらひみやうり (名) [武士冥利] 武士ハ、信義ヲ重ンズルヨリ、暗暗裏ニ、神佛ヨリ加護ヲ蒙ルコト。又、實踐躬行スル、武士ノ道義。 大磯虎稚物語(元祿、近松作)三「武士冥利、僞リナシ」

さぶらひわらは (名) [侍童] 貴人ノ側ニ侍フ童子。 源、四、夕顏二十「オカシゲナルさぶらひわらはノ、姿、好マシウ、殊更メキタル、指貫ノ裾、露ケゲニ、花ノ中ニマジリテ」 倭訓栞、さぶらひ「源氏ニ、さぶらひわらはアリ、童子ヲ云フ也」

さ・ぶら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [候侍] 次條ノ語ニ同ジ。音便ニ、さうらふ。 謠曲、高砂「此ノ度思ヒ立チ、都ニ上リ候」

さ・ぶら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [候侍] [さもらふノ轉、其條ノ語原ヲ見ヨ、さむらふトモ云フ、も、む、ぶ、音、通ズ(悲ぶ、かなしむ。否ぶ、いなむ)塵袋(弘安)十「候ノ字ヲ、さぶらふト讀ム、云云、本體ハ、さもらふト云フベキ也」](一)尊長ノ側ニ、侍チ候ヒテ、守リ居ル。サモラフ。サムラフ。侍ル。ハンベル。伺候ス。 景行紀、五十一年正月「侍ニ門下ニ備ニ非常ニ」 雄略紀、元年三月「天皇御ニ大殿ニ物部目大連侍焉」 皇極紀、四年六月「入鹿臣咲而解レ劍、入侍ニ于座ニ」 宇津保物語、祭使四十「博士タチ、カシコマリテさぶらふ」 源、十四、澪標三十「イトド淋シク、心細キ事ノミ增サルニ、さぶらふ人人モ、ヤウヤウ離散レ行キナドシテ」 同、五十三、夢浮橋十四「悉ニハ、ミヅカラさぶらひテ、申シ侍ラム」 (二)あり(有)ノ敬語。ハベリ。 源、五十、浮舟十二「荒キ山越ニナム侍レド、殊ニ程遠クハさぶらはズ」 同六十二「非常ノ事ノさぶらはムヲバ、イカデカ、承ハラヌヤウハ侍ラム」 枕草子、十二、百四十八段「鐵ク侍ル所ノ、燒ケ侍リニシカバ、日頃ハ、寄居蟲ノヤウニ、人ノ家ニ、尻ヲ差入レテナムさぶらふ」 (三)他ノ語ニ添ヘテ、唯、敬ヒ云フ意ヲ表スル語 サウラフ。 竹取物語「姫ノ、迯ケテ入ル袖ヲ取リテ、面ヲ塞ギテさぶらへド、初メヨク御覽ジツレバ」 枕草子、十二、百四十八段「辛臼ヲ見さぶらひツル、誰レニカハ、愁ヘ申シさぶらはム」

さうらふぶん (名) [候文] 候ノ語ヲ交ヘテ書ク文。書翰文。 さうらふ文。

サフラン (名) [咱夫藍] (蘭語、Safraan.) 草ノ名、舶來種ニテ、鳶尾科ノ宿根草ナリ、莖、高サ五寸許、葉ハ、細長ク、叢生ス、秋季、藍紫色ノ花ヲ開ク、蘂ヲ採リテ乾セバ、紅黄トナル、藥用トス、辛クシテ、苦ミアリ、又、染料トス。 [番紅花]

ざぶり (感) [水聲] ざぶノ條ヲ見ヨ。

さぶりりう (名) [佐分利流] 槍術ノ一派。佐分利重隆ヲ祖トス。 武藝小傳、七「佐分利猪之助平重隆者、從ニ富田牛生ニ悟ニ富田流妙旨ニ、猶加ニ工夫ニ、潛ニ號ニ佐夫利流ニ云云、仕ニ池田三左衞門輝政ニ、大鳴」

さぶるこ (名) [遊行女婦] (侍る子ノ轉ナラム、さもらふ(侍)ト云フ語アリ(さぶらふトモ云フ)さハ、發語ニテ、もらふハ、守るノ延ビタルナリ、其條ノ語原ヲ見ヨ、宇津保物語、菊宴七十「左大將ヌシ、五節出ダシタマヒテ、内ヨリ參リノ夜「百敷ニ、さふる少女ノ、袖ノ色モ、君シ染メネバ、如何ニトゾ見ル」トアルモ、五節ノ舞姬ノ、禁中ニ侍ふノ意ナラム、さぶる子モ、貴人ノ傍、又ハ、宴席ニ侍フ女ノ意ナルベシ) 遊女ノ古稱。ウカレメ。タハレメ。 萬葉集、十八、廿六長歌「射水河、流ル水沫ノ、縁モ無ミ、左夫流其兒ニ、紐ノ緒ノ(如ク)、謹ミリ合ヒテ、鳰鳥ノ、二人並ビ居、云云」註「言ニ佐夫流ニ者、遊行女婦之字也」又、仝「里人ノ、見ル目恥シ、左夫流兒ニ、惑ス君ガ、宮出後風ニ(尻振ノ作)ト云フ者ノ、迷ナニ溺レタルニ就キテノ言ナリ)

さぶろく (名) [三六] (さぶらう(三郎)

ノ[illegible]ニ見ユ[illegible]

さいのめノ條ヲ見ヨ。「五一三六」折羽ニテ、此食日ヲ振ル時ノ口ずさび「さぶろくサッテノ、猿眼」此語、飯ヲタク時、トロトロ火ニ、チョロチョロ火、[illegible]ト云フノ[illegible]

ざふゑ (名) 菅[illegible] [illegible]

さへ (名) 鉏 さひ(鋤)ノ條ヲ見ヨ。

さへ (名) 陘 〔塞ナリ、塞ふノ名詞形〕山谷ニ、禽獸ヲ遮ル閑。 史記、司馬相如[illegible]へ云フ也、音義ノ末ニ[illegible]閑陣也ト見エタリ」

さ・へ (動) 障 障ふノ條ヲ見ヨ。

さへ (副) 剛 〔剛ノ轉、あささ子、あそそ[illegible]〕 [illegible]

サヘイ (名) 佐平 百濟國ノ官名。 [illegible]

さべい [illegible] 可然 さべきノ條ヲ見ヨ。

さ・べう (副) 可然 〔然可くノ音便〕 然ルベク。サヤウ。 榮花物語、二、花山「スベテさべうオハシマスト見エサセタマフモ、悲シウ、イミジウ思サルレド」

さへき (名) 佐伯 〔喧語くノ名詞形(さとさへくノ條ヲ見ヨ)喧嘩、叫呼スルニ因リテ、名ヅク、倭名抄、五「安藝國、佐伯郡、佐倍木」伯、ハ、蕃ト通ズ〕 蝦夷ノ異稱。後ニハ、專ラ、蝦夷ノ、俘囚トナリテ、諸國ニ分置セラレタルモノノ稱トナリテ、佐伯部ト云ヒ、コレヲ統監スル人、佐伯氏ヲ稱ス。 常陸國風土記、茨城郡「昔在、國巣、山之佐伯、野之佐伯、普置[illegible]」[illegible]云云」景行紀、四十年十月、日本武尊、蝦夷ヲ征シテ還リタマフ「俘ニ 其首帥、而令從身也」同、五十一年八月、所獻神宮[illegible]云云、仍令安置御諸山傍[illegible]云云、[illegible]是、今[illegible] [illegible]

さべき (連語) 可然 〔然るべきノ略(可かるめり、べかめり)〕 然ルベキ。音便ニ、さべいトモ云フ。 榮花物語、十一、若花「さべき贈物ナド、イトオドロオドロシウ、思シ掟テサセタマヒテ」同、三、[illegible]「やもめニナハスレバ、さべき頼持タマヘル殿原ナド、ケシキダチ、聞エタマヘド」同、八、初花「白粉ナド、さべい狀ニ入レナシテ」

さへきべ (名) 佐伯部 前前條ヲ見ヨ。

さへ・ぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 遮 〔倭訓栞、さへぎる「遮、又、邀ヲ訓メリ、支へ斷るノ義也」さいぎるトモ云フハ、音通ナルカ(塞の神、さいのかみ)或ハ、先斷るノ音便カ〕 隔テ、支フ。塞キ止ム。又、さいぎる。 神武紀「[illegible]云云、欲東[illegible]、駒山而入中洲、時、長髓彦聞之、云云、起軍兵、邀之於孔舍衞坂、與之會戰」沙石集、五、上、十一條「眼ニさいぎり、耳ニ滿テレドモ」 [illegible]「外邀海路」云云、內[illegible]「遮、邀」[illegible]欽明紀、十五年十二月、新羅、任那ノ明王ノ、親シク來ルト聞キテ、悉發國中兵、[illegible]道邀破」 名義抄「遮、サイギル、サマタグ」字類抄「遮、サイギル」 林逸節用集(文明)「遮」

さへ・く (動) 喧語 さとさへくノ條ヲ見ヨ。

さ・べつ (名) 差別 さゃべつ(差別)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

さへづり (名) 囀 〔スベテ、次次條ノさへづるト合ハセ見ヨ〕 (一)〔サヘヅルコト。(鳥ニ云フ)〕 枕草子、九、百八段「[illegible]」 (二)舞樂ニ云フ語、次條ヲ見ヨ。(三)喧シク、物言フコト。シャベルコト。賤民ナルニ云フ。 源、十八、下蔓「今日ハ、ナホ、桂殿ニトテ、ソナタザマニオハシマシヌ、俄カナル御饗、爲騷ギテ、鵜飼ドモ召シタルニ、(山城國、大井川)海人ノさえづり思シ出デラル」(明石ノ浦ノ海人ヲ思出デタルナリ) (四)聞キワケガタク、物言フコト。異國人ナルニ云フ。 侏離 敏達紀、十[illegible]

さへづり (名) 詠 〔[illegible]〕 舞樂ノ舞ノ中ニ、舞人ノ、漢文ノ詞句ヲ朗詠スルモノ。詠トモ云フ(其條ノ(二)ヲ併セ見ヨ)サレド、近代ハ、此事、スベテ絶エタルガ如シ。 [illegible](文永二)「舞詠之、云云、其心ヲ口ニノフル故ニ、轉トモ云ヘリ」 蘭陵王ノ舞樂ノ轉ノ詞ハ、其一「吾罰胡人、古見如來、我國守護、翻日爲樂」其二「吾等胡兒、吐氣如雷、我採頂雷、蹈石如泥」ナリ、然シテ、右ノ吾罰胡人、云云、ハ、皆、字ヲ音讀ス、謠曲ノ白樂天ニ、初陽毎朝來、不遭還本栖ト云フ句ヲ、音讀シテアルガ如シ、此詠ハ、案摩、其他ノ舞樂ニモアリテ、皆、然リキ。

さへ・づ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 囀 〔さへハ、喧語くノ語根(さとさへくノ條ノ語原ヲ見ヨ)つるハ、あげつらふ(論)、引つらふノ、つらふト通ズ(つらふノ條ヲ見ヨ)佐比豆留トアル比ハ、閇ノ音ニ用ヰタルナリ、うれふ(愁)ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)聲ヲツヅケテ、鳴ク。(鳥ニ云フ) 字鏡「[illegible]囀、佐比豆留」 倭名抄、十八「羽族體」[illegible]「囀、鳥吟也、佐閉都流」 續後紀、十六、嘉祥二年三月庚辰(廿六日)、長歌「鶯ハ、枝ニ遊ビテ、飛ビ舞ヒテ、囀リ歌ヒ」云云 古今集、一、春、上「百千鳥、さへづる春ハ、物每ニ、改マレドモ、我レゾ舊リユク」 枕草子、六(異本)五十九段、心づきなき物「ホトトギスノ、アマタさへづるニヤ、ト聞ユル」 (二)節ヲツケテ、諷フ、前條、幷ニ、詠ノ條ノ(二)ヲ併セ見ヨ。 詠 字類抄「歌、サヘヅル」字鏡集「詠、サヘヅル、ウタフ」 土佐日記、十二月廿七日「此時ニ、或人人、ヲリフシニツケテ、詩ドモさへづり歌フ」 源、十八、松風「御形見ノ琴ヲ搔鳴ラス、云云 古里ニ、見シ世ノ友ヲ、戀ヒ侘ビテ、さえづるさとヲ、誰

レカ分クラム」孟津抄「さへづるなどニ、琴ヲソヘタリ」 古事談、三、僧行「講說之間、梵語ヲ囀リケリ」

(三)喧シク、物言フ。シャベル。多ク、賤民ノ言語ニ云フ、鳥聲ニ比シテ云フナリ。喋喋 名義抄「言語、サヘヅル、カマビスシ」源、廿二、玉鬘十「年、三十バカリナル男、云云、荒ラカナル鄙者、云云、聲、イタウ嗄レテ、さえづり居タリケリ」湖月抄「言葉多ク物言フ狀ナリ」 同、五十、浮舟廿「迎ヘノ人、來タリ、車、二ツ、馬ナル人人ノ、例ノ荒ラカナル七八人、男ドモ多ク、云云、さえづりツツ、入リ來レバ」同、十三、明石六「アヤシキ海人ドモナドノ、云云、集リ參リテ、聞キモ知リタマハヌ事ドモヲ、さへづりアヘルモ、イト珍カナレド」 紫式部日記、五日ノ夜「アヤシキ賤男ノ、さへづり步クケシキマデ」 うたたねの記(阿佛尼)「蓑笠ナド着テ、さへづり來ル女アリ、云云、何處ヨリ、何國ヲサシテオハスルゾ、アヤシ、アヤシトさへづる」 (四)聞キワケガタク、物言フ。外國人ノ言語ニ云フ。侏離鴃舌 萬葉集、十六、二十長歌「佐比豆留ヤ、辛碓ニ舂キ」(コレハ、枕詞ナリ、韓、漢、ニカケタリ、比ノ字ノ事ハ、上ノ語原ヲ見ヨ) 華嚴經私記音義(奈良朝時代)「語、佐比豆利」 宇治拾遺、十四、第六條、筑前、博多ニ渡來ノ下種唐人「唐人、云云、船頭ガ許ニ來テ、其事トモナクさへづりケレバ、云云、コノさへづる唐人、走リ出デテ、云云」同、十五、第二條、蝦夷地ヨリ、胡國ニ渡ル「胡人、云云、數知ラズ出デ來ニケリ、云云、聞キモ知ラヌ事ヲさへづり合ヒテ、河ニ、ハラハラト打入リテ、渡リケル程ニ」

さへ-にん (名) [支人] 取支ニ立ツ人。仲裁人。 生玉心中(正德、近松作)上「さへ人蹈ンダハ、堪忍セヌ」「喧嘩ノさへ人」

〜さへ-の-かみ (名) [道祖] [神代紀ニ、伊弉諾尊ノ投ゲ給ヘル杖ニ成レル神、黃泉醜女ヲ支ヘ留メタルヨリ云フ、卽チ、路ニ邪魅ヲ遮ル神ノ意] 道ノ神。久那止ノ神、布那止ノ神、手向ノ神、皆、同ジ。今、訛シテ、幸の神、又、道祖神。訛シテ、

ダウロクジン。障神、 倭名抄、二十四神部「道祖、佐倍乃加美」 宇治拾遺、十、第七條「何事云ヒヲル古大君ゾ、さへの神祭リテ、狂フニコソアメレ」

さ-べんくゎん (名) [左辨官] 太政官中ノ官ノ名。辨ノ條ヲ見ヨ。

さ-ぼう (名) [詐謀] イツハリノ、ハカリゴト。 史記、淮陰侯傳「常稱二善兵一、不レ用二詐謀奇計一」

〜さほ-かぜ (名) [佐保風] [佐保山ハ、奈良ノ京ノ東ニアリ、其地ヨリ吹キ來ル風ナリ、飛鳥風、泊瀨風ナド云フ類ナリ、東ヲ、春トス、故ニ、春風ノ意トナル、尙、さほひめ(佐保姬)ノ語原ヲ見ヨ] 春寒、料峭ル風。 萬葉集、六、廿七「吾ガ背子ガ、着タル衣薄シ、佐保風ハ、イタク莫吹キソ、家ニ到ルマデ」 曾丹集「我ガ家ハ、行ク程遠シ、さほ風ノ、シバシハ小止メ、妹モ待ツラム」 新三十六人撰「故鄕ノ、河原ノ千鳥、ウラブレテ、佐保風寒シ、アリアケノ月」

さ-ぼくや (名) [左僕射] 僕射ノ條ヲ見ヨ。

さ-ぼし (名) [甲斐ノ石和宿ノ三星屋ト云フ密賣淫セシ家名ヨリ起レル語ト云フ] 隱賣女ノ方言。甲斐ヨリ、信濃ノ諏訪、駿河ノ北部ニテ、云フ。

さ-ぼ・す ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [曝] [さハ、發語、ほすハ、干す、倭訓栞、さほす「小乾すノ義ナルベシ」さはす、同意カ、或ハ、曬乾すノ意カトモ云フ] 干ス。風ニ曝ス。 曾丹集、三月「山姬ノ、染メテハさほす、衣カト、見ルマデニホフ、岩つつじカナ」同、七月「田子ノ浦ニ、着ツツ馴レケム、少女子ガ、天ノ羽衣、さほすラムヤゾ」 夫木抄、十四、擣衣「玉川ヤ、遠ノ砧ニ、ナラスナリ、コヤさほしケル、手作ノ布」

サボタアジュ (名) [怠業] [佛語、Sabotage. Sabot. ハ、木靴ノ意、age. ハ其動作ナリ、乃チ木靴ノ如ク、ノロノロシタ

ル仕事振リ、ト云フ意ヨリ轉ジテ、スベテ、妨業ノ意トナリ、ソレヨリ怠業ノ意ニ移リタルナラムト云フ] 近年、使用セラルル新語。工業ノ勞働者ナドガ、或期間ニ成就セラルベキ事業ヲ、故意ニ、長時間ヲ費シテ、生產力ヲ後ラセ、傭主ニ迷惑ヲ蒙ラシムルナドノ行爲ヲ云フ。隨ッテ、首音ヲ、良行四段活用ノ自動詞ニ用キテ、さぼるト作リ、怠る意ナドトス。

サボ-てん (名) [霸王樹] [仙人掌草] [又、さんぼていト云ヘバ、石鹼體ノ轉ニモアルカ(心太、ところてん)切リタル小口ニテ、疊ナドノ、油ヅキタルヲ摩レバ、落ツルガ故ニ、名ヅクト云フ說アリ、熱帶地產ナレバ、外來移植ノモノナリ] 植物ノ名。熱帶地ノ種ニシテ、我ガ國ノ暖地ニ、多ク植ウ、性、甚ダ寒ヲ畏ル、莖ハ、直立シテ、全體、黃瓜ヲ壓シヒラメタルガ如クニシテ、長ク、多節ニシテ、層ヲ成シ、數莖、密着シテ生ズ、高サ、丈餘ニ及ブアリ、莖ニ枝ヲサスアリ、體、スベテ、深綠ニシテ、一面ニ、刺、多クシテ、葉ナシ、夏、花ヲ開ク、頂生、又ハ、側生ニシテ、直徑二三寸、重瓣ニテ、黃赤色ナリ、暖地ニテハ、實ヲ結ブ、稍、五稜ニテ、兩端、細ソル、熟スレバ、食フベシ。又、さゃぼてん。ササラサ、ボウ。 合類節用集(元祿)六、生植門「覇王樹、左訓、サチラ」 重修本草綱目啓蒙(享和)十六、石草「仙人掌草、サンボテイ、サボテン、サンボテ(伊豫)、イロヘロ、サチラサッボウ、ニョロリ(伊豫)、一名、覇王樹(八種畫譜)、仙人掌(祕傳花鏡)」(覇ハ、慣習字、霸ヲ正字トス)

さ-ほど (副) [然程] ソノホドニ。サバカ

リ。ソレホド。「さほど寒カラズ」さほど欲シクバ」さほどニ思ハヌ」

〜さほ-ひめ (名) [佐保姬] [佐保山ハ、奈良ノ京ノ東ニアリ、東ヲ春トス、又、立田山ハ、西ニアリ、西ヲ秋トス、秋ヲ司ル女神ヲ、立田姬ト云フ、此對ナリ、共ニ、奈良朝時代ニ、春風ヲ、佐保風ト云ヘル、夫レ等ノ遺レル語ナルベシ] (一)春ヲツカサドル女神。 岷江入楚(慶長、中院通勝)「春ハ、佐保山ノ神ヨリ、事起リテ、佐保山ノ霞ノ色ニ寄セテ、春ヲ染ムル神ト云フ」 倭訓栞、さほ「佐保姬ヲ、春ノ事トシ、龍田姬ヲ、秋トスルハ、奈良ノ京ノ時ノ事也、佐保ハ、奈良ノ東ニテ、陽氣ヲ受クル始ナリ、龍田ハ、櫻ノ紅葉ニヨリ、秋景、他ノ及バザル所ナリ、姬ハ、功化ヲ比シテ云ヘリ」 六帖、五「さほ姬ノ、織リカケ晒ラス、薄絹ノ、霞タチキル、春ノ野邊カナ」 詞花集、一、春「佐保姬ノ、絲染メカクル、青柳ヲ、吹キナ亂リソ、春ノ山風」 新後拾遺集、一、春、上「佐保姬ノ、霞ノ衣、織リカケテ、乾ス空高キ、天ノ香具山」 合類節用集(元祿)三、神祇門「佐保姬、歲德、一名」(歲德神ハ、新春ノ吉方ノ神) (二)次次條ヲ見ヨ。

さほひめ-がへり (名) [佐保姬鴘] [かへる(鴘)ノ條ヲ見ヨ、佐保姬ハ、春ト云フコト、前條ヲ見ヨ] 初春ニ捕リタル鷹ノ稱。 鷹百首「鷂鷹ノ、さほひめがへり、小山がへり、春ハ色色ノ、名ニヤ立ツラム」節分越エテ、春、打チオトシタル鷹ハ、さほひめがへりトモ、春のあら鷹ヲ云フ也」 貞丈雜記、十五、鷹類「さほ姬がへりトハ、あがけノ鷹、正月廿日已後ニ打落シタルヲ云フ」(あがけハ、網懸ニテ、網ニカケテ捕リタルヲ云フカ)

〜さほひめ-ぐさ (名) [佐保姬草] [前前條ノ語原ヲ見ヨ、春、花ヲ開キ、艷色、愛スベケレバ、名トスルナルベシ] ぢわう(地黃)ノ古名。略シテ、さほひめ。 典藥寮式、諸月御藥「生地黃、五兩」雜給料「生地黃、十五

瑚」亜性本草綱目啓蒙(享和)十一、濕草「地黄、サホヒメ(延喜式)日本古名ニ記ス、さほひめ(古名)ハ、通名ヲ、おわうト云ヒ、大同類聚方ニ、差保比免ト云ヒ、延喜式ニハ、さほひめ、さト云ヘリ」

さ-ほふ (名) 作法 「作ヲ、さノ音ニ讀ムコト、ざうさ(造作)ノ語原ヲ見ヨ、法ノ呉音ハ、ほふナリ、ほふト書クハ、音便ナリ」(一)所作ノ方法。事ヲ行フ仕方。シツケ 徒然草、百三十七段「...」賢作法之源「...」 源、一、桐壺「...作法世ニメヅラシキマデ、モテカシヅキタマヘリ」 源、一、桐壺「...例ノ作法ナレバ、イトイカメシウテ」 (二)佛事ヲ行フ法式。葬禮ノ式ヲ云ヒ、又、受戒ノ法式ヲ、戒法授戒ノ作法ト云フ。 源、二、帚木「...さほうニ...法ト云フ」 ...ルヲ、云云、愛宕ト云フ所ニ、イトイカメシウ、さほうシタルニ」同、三十九、御法六十「イカメシキさほうナレド、イトハカナキ煙ニテ」(葬式ナリ) 宇治拾遺、十五、九「...野へ出デ遣メ、サテ、例ノさほうニ、トカクセムトテ、車ヨリ取リオロス」(死者ノ棺ヲ...) ...ヲ唱ヘ、神呪ヲ誦スル間ニ、現供養ノ作法ヲ以テ、行法アリケリ」

サボン (名) 石鹸 さぼんヲ見ヨ、

ザボン (名) 朱欒 〔葡語、Zamboa (西語、同ジ)其國人ノ、渡シタルモノナルベシ〕又、ざぼん、筑前ニテ、ザンボ。土佐ニテ、ジャボ。京都ニテ、ジ、ガタラミカン。柑橘類ノ常緑喬木。熱帯地ノ産、暖地ニ栽培ス。葉ハ、長楕圓形ニテ、長サ七八寸、五瓣ノ大白花ヲ開ク、果實ノ大キサ、まくはうりノ如ク、形、橢槞ニ似タリ、末、狭ク、本、廣ク、色、黄白ニシテ、肌、粗キコト、柚ノ如シ、皮ノ厚サ六七分、色、白ク、瓤モ、白ク、皮ト共ニ、甚ダ、苦シ、瓤ノ中ノ長粒、酸シ、砂糖ヲ加ヘテ、菓トス。

ザボン (名) 香欒 〔前條ノ語原ニ同ジ〕 前條ノ朱欒ノ變種。九州ニテ、ザンボ。伊豫ニテ、ザンボウ。日向ニテ、唐クネンボ。筑前ニテ、ウチムラサキ。九州ニテ、又、文旦。臺灣ニテ、文旦(ぶんたんノ條ヲ見ヨ)四國、九州ノ暖地ニノミ、植ウ、寒地ニハ、生育シガタシ、果實ノ形、甚ダ大キクシテ、圓ク、扁ク、高サ四五寸、徑五六寸ニ至ルモノアリ、肌、細カク、黄ニシテ、緑ヲ帶ビ、皮ノ厚サ六七分ニシテ、白シ、瓤ノ色、淡紫ナルアリ、暗紅ナルアリ、香氣、多シ、味、甘酸ニシテ、白砂糖ニ塗シテ、生食ス。

サボンだまうり (名) 石鹸玉賣 石鹸玉ノ液汁ヲ賣ル人。 守貞漫稿「石鹸玉賣、三都トモニ、夏月、専ラ賣之、大阪ハ特ニ、土神祭祀ノ日、專ラ賣リ來タル、小児ノ弄物也、さぼん粉ヲ水ニ浸シ、細管ヲ以テ吹ケ之時ニ、泡ヲ生ズ、京阪ハ、詞ニ、フキ玉ヤ、サボン玉、吹ケバ五色ノ玉ガ出ル、云云、江戸ハ、詞ニ、玉ヤ玉ヤ、玉ヤ玉ヤ」

サボ・る (動) 怠 さぼたあぢュヲ見ヨ、

さ-ま (名) 方 〔其面ノ約、そも、さまト轉ジタル語ナルカ(其が髪、さだかみ。鴎、かまめ。羚羊、かまきぢ)〕 (一)其方。向。(多クハ、當字ニ、様ト書ク) 宇津保物語、藏開、下五十「世ノ中ニ、ユユシク、サガナキ事ヲシツツ、己ガさまノアヤシキヲバ知ラテ、泣キ惱ミタテマツレド」 蜻蛉日記、中、下十四「臨デツキテ、常ノ常サマリテ、初瀬ざまニ踊ク」 増鏡、第二、新島守「東ざまニモ、ソノ心ヅカヒスベカメリ」(關東方) 中務内侍日記、弘安「中將、久シク内裏ざまへモ参ラズ」 著聞集、十五、宿執「ツギヤルルガ、御所様ニ參レ闘エニケリ」太平記、七、先帝船上臨幸事「上様ニハ、イマダ知シメサレ候ハズヤ」同、三十五、北野通夜物語事「ナド、關東様ヘハ、御歎キ候ハヌヤラム」(以上、皆、運漏ナリ、是レ等ガ、清音トナリテ、次條ノ徴髙ニ移ル徑路トナレルナリ)「横さま」「縦さま」外さま」逆さま」上ざま」下ざま」アフノケさま」 (二)差向ノ時。ヲリ。コロ。(行キぢな、歸りがけノ意) 古今集、八、離別「藝ハレテ、來ニシ心ノ、身ニシアレバ、歸ルさまニハ、路モ知ラレズ」(歸りぢな) 拾玉集、五「神無月、木ノ下蔭モ、ナキ空ヲ、有明ざまニ、眺メ入りメル」(明方) 下葉集、十四、雜、一「次ノ年ノ秋ざまヨリ」「行キチガヒさま」

さ-ま (名) 様 〔様ハ、當字ナリ、前條ノ方、即チ、方ノ義(其條ノ出典ヲ見ヨ)直チニ、ソレヲ打付ケテ云フヲ憚リテ、其居ル方ヲ以テ、云フナリ、何某御方ナド云フ、此意ナリ(殿下、閣下ナド、居所ヲ指シテ云フト、同趣)サレバ、公方ハ、おほやけざまナレバ、公方様ト云フハ、重言トナルナレド、語原ハ、忘レラレテ、用キシナリ、其方様、御方様、何方様、ナド云フモ、然リ〕 (一)人ノ稱號、又、其居所、ノ下ニ添ヘテ云フ、敬語。此用語ハ、足利時代ノ初期ヨリ、物ニ見ユ、徳川時代ニ至リテハ、殿ハ、多ク、儀式ニ用ヰ、様ハ、平生ニ用キタリ 又、殿ト同ジク、字ノ書體ヲ以テ、貴賤ヲ分チ、楷書ニテ様ト書クヲ、至貴トシテ、永ざまト云ヒ、次第ニ下リ、様ト書クヲ、美ざまト云ヒ、様ナド書クヲ、つくばひざまト云ヒキ。 義経記、八、判官御自害事「若君さま、御館ノ御子ト生マレサセタマフ、云云」鈴鹿家記録(京都、吉田社神官)應永六年六月三日「御さんざう様ヨリ、治部、私、呼ビニ來ル」 富士御覧記、永享四年九月「公方様、富士御覧ニ足利義教」 齋藤日記、嘉吉三年九月廿三日「御所様(後花園天皇)未ダ成ニ御覧ニ」 康富記、寶徳、二年八月廿二日「是日、室町殿有ニ御受衣ニ云云、禁裏様、今日、同有ニ御受衣事ニ」狂言記、花子「様へ、御出デナサレテゴザル」同、鹿狩「何ガサテ、おまへさまサヘモッテ、ナラシャレテ下サルナラバ」皇國神代記(文政)「蒲の花かつみ、入朝ノ琉球使人ノ談「皇國ハ、誠ニ、文アリ、武アリ、云云、殊ニ心得ガタキコトハ、様ト云フ字ニ、三體アリテ、尊卑ノ科ヲ分ケフルルニ、或ハ、永さま、或ハ、美さま、つくばひ様ト云フ由ハ、如何ナル義理ノアルヤラム、ト言ハレシ、云云」 (二)物事ヲ、丁寧ニ云フトテ、添ヘテ云フ語 御待遠さま、御馳走さま」御苦勞さま」御氣ノ毒さま」 (三)きみさまノ略、其條ヲ見ヨ。

さ-ま (名) 狀 様 態 〔然任(任ノ條ヲ見ヨ)ノ義ニテ、然あるままノ意カ、或ハ、然見ノ、さめ、さまト轉ジタルニテ、似寄ノ意カ(大御身、おほみま。眞中、みなか。みさかり、まさかり)〕 (一)事ノ、ナリタチ。アリサマ。様。様子。容體。 萬葉集、十八 廿九 長歌「ウツセミノ、世ノコトワリト、カクサマニ、言ヒケルモノヲ」古今集、十九、誹諧「花ト見テ、折ラムトスレバ、女郎花、ウタテアルさまノ、名ニコソアリケレ」 拾遺集、三、秋「小夜更ケテ、天ノ川ヲゾ、出デテ見ル、思フさまナル、雲ヤワタルト」 土佐日記、正月廿日「男文字ニ、さまヲ書キ出シテ」 源、一、帚木「今夜バカリト、待チケルさまナリ」 (二)スガタ。カタチ。ナリフリ。ヨソホヒ。 源、一、桐壺「さま、カタチナドノ、メデタカリシコト」千載集、十七、雜、中「九月バカリニ、さまカヘテ、山寺ニ侍リケルヲ」(さまヲ變フルハ、入道シテ、僧形ニナルナリ)

さ-ま (名) 法 〔前條ノ狀ヨリ移ル、爲法ナリ、文心雕龍「法者、象也」法ノ如ク執リ行フ」 法。仕方。法式。 神代紀、下二十「進二歩蒲坂、雅樂坂、二種寶物、仍教二用レ壇之法二」源、三十四、上、若菜、上「二沈ノ折敷四ツシテ、御若菜、さまハカリ参レリ」紹月記「氣色バカリ也」

さ-ま (名) 狹間 〔さハ、形容詞ノ狹しノ

語根、狹ノ條ヲ見ヨ」狹キ間。ハサマ。スキマ。空間 新猿樂記、相撲「狹間内取、大庭ノ投手」俚言集覽、さま「三方ノ穴ヲ、さまト云フ」(三方ノ意)

さ-ま (名) 狹間 〔前條ノ語ニ同ジ、矢間トモ記シテ、さまト讀ムハ、矢狹間ノ意ナリ(コレヲ、古言ノ箭ナリト云フハ、時代ノ懸隔ヲ知ラヌ附會ナリ)〕矢間。又、小間。城ノ櫓、又、垣ナドニ設ケオク隙間。外ヲ望ミ、又、矢ヲ射出ダス。後世ノ築城ニテハ、櫓ノ壁、又、姫垣ナドニ、小窓ノ如ク、切リヌキ作ル、鳥銃、傳來シテ、ソレヲ放チ出ダスニモ用キルニ因リテ、鐵砲狹間ノ稱、起リテ、矢ナルヲ、矢狹間ト云ヒ、別テリ。矢ノ狹間ナルハ、長方形ニ切ル。箭眼 鐵砲ナルハ、圓形、又ハ、三角形ニ切ル。銃眼 盛衰記、三十六、熊谷向ニ大手ニ事「櫓ヲ二重ニ構テ、狹間ヲ開キタリ」(一谷城ノ構ヘナリ) 太平記、十五、建武二年正月廿七日合戰事「上差一筋拔出シテ、櫓ノ小間ヲ、手突ニソ突キタリケル、此矢、誤タズ、矢間ノ蔭ニ立チタリケル鎧武者ノ、栴檀ノ板ヲ徹リテ、其兵、櫓ヨリ落チテ、死ニケリ」(節文) 築城記(室町時代)「矢くらノさまハ、三尺バカリ、口、六寸ニ、さまノ下、八寸許、云云、櫓ハ、一町ノ面ニ、三十ト申ス」合類節用集(元祿二)、乾坤門「箭眼、字彙、樓上開ニ設之小所、以發ニ矢石下一也、狹間、一、作ニ小間一」武家名目抄(塙保己一)居所、廿七、狹間「矢倉、塀、等、矢石ノ道ヲ明ケタルヲ、さまト云フ、小間、狹間、矢間ナド書キテ、さまト讀メリ、中頃ヨリ、又、やさまト云ヒ、やま(矢間)トモ云フナリ」

ざ-ま (名) 態 〔濁音ニ云フハ、盛衰記、三、資盛乘會狼藉事「平家ノ事様、御目ザマシク思召サルニナドノ上略ヨリ移レルカ、又ハ、唯、罵ルニ因リテ濁ラセ云フナルカ〕人ノ容體、行爲ナドヲ、罵リ云フ卑語。醜態 俚言集覽、さまを見ろ「ざま字、濁、俗、其言辭也」狂言記、右近左近「扨モ扨モ、氣ノ毒ナざまカナ」「ソノざまハ何事ダ」

さま-くぐり (名) 狹間潛 〔落城ノ時ナド、狹間ヨリ脫出スル意ナラム〕城中ヨリ逃ゲ出デタル者。倭訓栞、さま「軍陣ニ、さまくぐりト云フ詞ハ、落武者ノ體ヲ云フナルベシ」俚言集覽、狹間くぐり「城中ヨリ亡命スル者ヲ云フ、因テ常ノ亡命ヲモ云フ、北條(氏直)時分諺留、さまくぐりノ武邊咄」(敗軍ノ將、兵ヲ語ラズノ反)

さま-ことば (名) 狀詞 〔物事ノ狀ヲ云フ〕形容詞ニ同ジ。形狀言。

さま-ざま (名) 樣樣 類、多キコト。クサグサ。イロイロ。樣樣。種種 源、一、帚木九「さまざまノ人ノ上ドモヲ、語リ合ハセツツ」同、廿七「さまざまノヨキ限リヲ、取リ具シ」千載集、四、秋、上「さまざまニ、心ゾトマル、宮城野ノ、花ノイロイロ、蟲ノコヱゴヱ」

さま-ざま (副) 樣樣 樣、多ク。イロイロニ。種種 後撰集、十、戀、二「チハヤブル、神モ耳コソ、馴レメラシ、さまざま祈ル、年モ經ヌレバ」源、四十六、總角九十「マシテ、イカニ思ヒツラムト、さまざまアハレニ思シ知ラル」枕草子、六、五十八段「一心ニ、ヲカシキ事モ、さまざま言ヒ合ハセツベキ人」

さまし-みづ (名) 冷水 古言、ツクリミヅ。ニオモヒ。水ヲ沸シテ、冷シタルモノ。飲用スルニ就キテ云フ。ニザマシ。

さま・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 覺 〔覺むノ他動〕(一)覺ムルヤウニナス。眠レルヨリ、起ス。源、五、若紫四十六「マダ驚イタマハジナ、イデ、御目さまし聞エム」(驚くハ、覺むる意)「眠ヲさます 夢ヲさます」(二)物思ヒヲ、晴ラス。迷ヒヲ解ク。消 源、四十五、椎本五十「思ヒナグサムヤアリテコソ、悲シサヲモさますモノナメレ」榮花物語、三十五、蜘蛛振舞「日ニソヘテモ、思召シさまさセタマフコトナシ」

さま・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 冷 〔冷むノ他動〕(一)冷ムルヤウニナス。冷シム。「湯ヲさます」(二)熱ヲ、散ラス。醒 「醉ヲさます」(三)消ス。衰ヘシム。消 「興ヲさます」

ざま・す (動) ございますノ約訛、江戸時代、江戸、新吉原ノ遊女ノ使ヒタル詞。

さ-また (名) 小股 〔さハ、發語(さ夜、さ霧)〕(一)股ト云フニ同ジ。コマタ。倭訓栞、さまた「小股ノ義ニヤ、さまたヲクグルナド云ヘリ」浦島年代記(元祿、近松作)四「熊ノ父股ヘ、片足カケ、ドウト引キ伏セ」(二)相撲ノ手ノ名。相手ノ股ぐらへ、我ガ足ヲ蹈ミコミ、相手ノ右カ、左カノ股ノ下ヨリ手ヲカケ、其體ヲ搖リアゲテ投グルコト。狂言記、飛越新發意「さまたニカケ、ズデイドウト、取ッテ投ゲタ」

さ-また (名) 三股 さんまたヲ見ヨ。

さま-た・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 妨 〔さまハ、障るノ語根、障挐ノ轉ナルベキカ(閒、あまひ、斑、まだら)尚、まへたぐ(虐)ノ語原ヲ見ヨ〕障ヲ起シテ、止ム。邪魔ヲスル。妨害ス。持統紀、六年二月「妨ニ於農時一」源、九、葵十一「アルマジキ事ナドモ、さまたげ聞エタマハズ」此語、四段ニモ活用セシモノカ。續紀、廿五、天平寶字八年十月、詔「カニカクニト、思ヒ佐末多久事ナクシテ、敎ヘタマヘノマニマニ、仕ヘマツレ」

さまたげ (名) 妨 サマタグルコト。サハリ。故障。邪魔。拾遺集、十六、雜春「思フコト、アリテコソ行ケ、春霞、道ノさまたげニ、立チナ隱シソ」源、三十四、下、若菜、下九十一「疾ク思シタチニシ事ナレト、此御さまたげニカカヅラヒテ」

さま-だ・る ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 慢 〔態垂るノ義、さだるト云フ語モアリ、倭訓栞、さまだる「樣亂るる義ナルベシ」〕姿態、頽ル。取リ亂ス。字鏡三十二「酩酊、惠比佐萬太古留」(古ハ、衍ナリ) 天治字鏡、四廿二「酩酊、惠比佐万太留」名義抄「慢、サマダレタリ、ミダリガマシ」同「醒、サマダル」武烈紀、八年三月「日夜常與ニ宮人一沈ニ湎于酒一」撰集抄、九、第九條「道師、頭ミアゲラルルヨリ、雨シヅクト泣キさまだれ侍リ」今昔物語、廿八、第四語「此君達、云云、醉ヒ樣垂れテ」

さ-まつ (名) 早松 さまつだけノ下略、其條ヲ見ヨ。

さ-まつ (名) 瑣末 些細ニ同ジ。「瑣末ノ事ニカカハリテ」

さま-づけ (名) 樣附 人名ナドノ敬稱ニ、樣ト云フ語ヲツケテ云フコト。(殿づけ、さんづけナドニ對シテ云フ)

さ-まつだけ (名) 早松茸 〔さなへ(早苗)ノ語原ヲ見ヨ〕松茸ノ一種、早ク、梅雨ノ頃ニ生ズルモノ、蓋ノ表面、赭褐色ニテ、細カキ鱗アリ、粘氣ナク、香、劣ル。下略シテ、さまつトモ云フ。俚言集覽、さ松「松茸ノ、五月頃出ヅルヲ云フ」

さ-まで (副) 然迄 サヤウニマデ。ソレホドマデ。源、廿二、玉鬘三十一「謹レバカリトカオボユ、此君ト宣ヘバ、イカデカさまでハ、ト聞ユレバ」同、四、夕顏六十「さまで、心トドムベキ事ノサマニモアラズ」

さ-まね・し (形) 數多 〔さハ、發語、さ利(聰)、同趣〕まねし(數多)ニ同ジ、次條ノさまねみト共ニ、其條ヲ見ヨ。

さまね-み (名) 數多 まねし(數多)ノ條ヲ見ヨ。

さ-まの-かみ (名) 左馬頭 めれう(馬寮)ノ條ヲ見ヨ。

サマヤ (名) 三摩耶　さんまやノ條ヲ見ヨ。

さまよ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ハ (自動、四) 彷徨 〔さハ、避るノ語根、避り迷ふニテ、行き迷ふノ義ナラム(避りつらふ、諂ふ)さすらふ(流離)ノ語原ヲ併セ見ヨ、或ハ、さハ、發語ナリト云フ説アレド、唯、迷ふトノミ云ヒテハ、此語ノ意、成立セズ〕 (一)隔定メズ、動キ歩ク。サスラフ。 萬葉集、四 [illegible] 年十月 [illegible] 作 [illegible] 待 [illegible] 日ニ [illegible] 比賣子ニ、廿日 [illegible] ニモ [illegible] マラズ、ココカシコニ、立チ [illegible] さまよひ [illegible] タルモ イトツカシ 徒然草、廿一段「人遠ク、水草、清キ所ニ、さまよひアリキタルバカリ、心慰ムコトハアラジ」 (二)漂フ。漂 失セ 抄 [illegible] 遠ノ川、吉野ノ瀧ヲ、ワクユケバ、氷ソ [illegible] トサムキ [illegible] さまよふ (三)心、動キ移ル。 [illegible] 大國ノ御國ノ [illegible] メカシウ、さまよふ心サヘ添ヒテ、モテワヅラヒタマフ」

さまよ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 呻吟 〔迫呼ぶノ轉ナルベシ(狹し、さし。塞ぐ、ふさぐ)呻吟ぶノ語原ヲ併セ見ヨ、説文「吟、呻也」廣韻「歎也」愁ヘ迫リテ、呼ブ〕 歎キ呼ブ。 [illegible] 代紀、下 [illegible] 吟在 [illegible] 吟ニ [illegible] 萬葉集、二十 長歌「春鳥ノ、(如ク)佐麻欲比ヌレバ、歎キモ、未ダ [illegible] 天治字鏡、二十「呻、吟也 [illegible] 名義抄「吟、サマヨブ、ニヨブ」[illegible] 吟 [illegible] 手ニ遊野ニ」

さまらはれ (句) 遮莫　さもあらえあれ ノ條ヲ見ヨ。

さまれう (名) 左馬寮　めれう(馬寮) ノ條ヲ見ヨ。

さまれうごけん (名) 左馬寮御監　めれうのごけん(馬寮御監)ノ條ヲ見ヨ。

さみ (名) 錆　さび(錆)ノ條ヲ見ヨ。

サミ (名) 沙彌　沙彌ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

ざみ (名) 酒、酢ナドノ上ニ、浮キタダヨヘルモノ。 「以長 [illegible] 物語 [illegible] 頃 中 上ニ さみナドハルナリ、皆、濾シトリテ、ヨシ」

さみ・しい (形) 淋 〔さびしノ轉、又、轉ジテ、さむしい(大禍、おくみ、蛇、へみ、身代、むかはり)〕 (一)さびしノ口語。賑カナラズ。寂寥 「人通りガ無クテ、さみしい」 (二)女ノ顏色ノ、ニコヤカナラヌナドニモ云フ。(三)さもしいヲ見ヨ。

さみ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 狹 褊 〔さみハ、形容詞ノ狹しノ語根ヲ、名詞ニ形作レルモノ、無しヲ、無みす(蔑)トスルニ同ジ、孟子、梁惠王、上篇「齊國雖褊小」康熙字典「褊、狹也」又、我レヲ廣シトシ、他ヲ狹しトスルヨリ、第二義ノ、他ヲ非トシ輕侮スル意トナル〕 (一)狹クス。狹シトス。 名義抄「褊、サミス、サシ、セバシ」字鏡集「狹、サミス」張衡、西京賦「狹百堵之侈制、[illegible] 九達之 [illegible]」[illegible] 則「褊於惡」曹子建、七啓「狹三六合而 [illegible] 九州」 (二)侮ル。カロンズ。サゲスム。輕侮ス。 字類抄「褊、サミス [illegible] 也」[illegible] 鎌倉 [illegible] 文永 [illegible]「無自廣以狹人」吾妻鏡、廿三、建保六年八月廿日「所存之企、似褊 [illegible] 東二」太平記、十三「[illegible] 朝家ヲ褊シ申ス事アラバ」

さみ・せん (名) 三線 三味線 〔元祿ノ合類節用集ニハ「三線、三絃、琉球弦」トアリ(天明ノ江戸節根元記ニハ、織田信長「三筋ノ絲故、三線ト名ツク」ナドアリ) 現ニ琉球ニテ、さんしん(三線)ト云フ、三ノ字ハ、脣内音ニテ、さむナルヲ、さみト轉呼スルナリ(三位、さむみ、三一、さむみち三十一、燈心、とうしみ、檢す、けみす)味ノ字ハ、加ヘテ書クナリ、線ハ、絃ナリ、近代世事談(享保)ニ「三線ト號クルハ、三ノ線アル故ナリ、さみト云フハ、閉口ノ音ニテ、はねがなヲ、みト云フ也」又、或ハ云フ、蛇皮線ノ轉、じゃみせんトモ云フ、是レナリト、世事百談(山崎美成)ニ「三味線ハ、云云、琉球ニテ、專ラ翫ビ、海蛇皮モテ張リタレバ、世俗ハ、じゃびせんト云ヘリ」〕 俗曲ニ用キル樂器ノ名、又、じゃみせん、略シテ、しゃみ。又、三絃。ペンペン。木製、胴、撫角ニシテ、竪六寸四分、幅五寸八分、厚サ三寸一分、兩面ニ、猫皮ヲ張ル、棹、長サ二尺五分、細棹、中棹、太棹、等ノ別アリ、轉手ノ長サ五寸二分、尚、乳眼、絲倉、海老尾、猿尾、根緒懸、等ノ名目アリ、各條ニ注ス、絃、三條ヲ張リ、胴ノ上ニテ、駒ニテ支ヘテ、撥ニテ彈ズ。 三弦 嬉遊笑覽、六、上、室町殿日記、十九「遊女二人ヲ、中ニ置テ、何心ナク、三味線ヲ彈テ、遊ビ居ケル」(註、天文、永祿ノ日記ナリ)狂言記、外、五十番ノ内、昆布賣、口ボ、みせんニテ、淨瑠璃節ニ、昆布賣ルコトアリ、尤之草紙(慶長)下「小唄ニノセテハ、さみせんヲヒク、平家ニ合ハセテ、琵琶ヲヒク」 恨みの介草子、上、慶長九年「今様ノ三尾線、云云」 當代記、慶長十五年八月廿五日、琉球人衆ニ江戸ニ [illegible] 年十七八ノ小性、云云、じゃみせんヲ引ク」 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)六「男、三味線ヲヒク、歸京ノ頃ニナリヌ、女、名殘ヲ惜シム、一種ノさみせんヲツカハシ、立別ル」(節文) 雅筵酔狂集(享保)ニ「ささ一ツ、歌一節ニ、三味ノ絲、ひく手アマタノ、身ヲヤナグサム」 三味線ノ事、琉球年代記ニハ、梅津少將、琉球ニ渡リ、月琴ヲ學ビテ、永祿五年ニ歸リ、其子、石應門、盲トナリ、父ヨリ、月琴ノ秘曲ヲ承ケ、其形ヲ物好シテ、丸胴ヲ、角胴ニ製シ、八乳ノ猫ノ皮ヲ以テ、兩面ニハル、後ニ、石村檢校トナル、ナドアリ、絲竹初心集(寛文)ニハ、文祿ノ頃、石村檢校、琉球ニ渡リケルニ、小弓ト云ヒテ、絲、二筋ニテ鳴ラス物アリ、琵琶ヲヤツシタルモノナリ、石村、京都ニ歸リテ、同ジク琵琶ヲヤツシテ、三味線ヲ作リ出ストアリ、大ぬさ(貞享)ニハ、三味線ハ、永祿年中、琉球ヨリ渡ス、蛇尾ニテハリテ、二絃ナル物ナリ、泉州、堺ノ琵琶法師仲小路ト云フ者、一絃ヲ加ヘテ、三絃トストアリ、(二絃説ハ、妄ナリ)以上、所傳、區區ナレド、今モ、琉球ニテ、さんしん(三線)ト稱スル三絃ノ樂器アリ、ソレヲ改造セシモノナルコトハ、確タリ、尚、蛇皮線、及、らべいかノ條ヲ併セ見ヨ。

さみだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 亂 〔さハ、發語(さ走る、さ迷ふ)〕 亂ルト云フニ同ジ。多クハ、次條ノ語ニ言ヒカク。 敦忠集「イツトナク、靜心ナキ、我ガ戀ノ、さみだれニシモ、みだれ初ムラム」 和泉式部日記「オホカタニ、さみだるるトヤ、思フラム、君戀ヒワタル、今日ノながめニ」(思ヒ亂ルルナリ) 拾玉集、五「夏引ノ、絲さみだれテ、結ボレ、逢ヒ見シ人ニ、離レエゾセヌ」

さみだ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 早水垂 〔さハ、さつき(五月)ノ條ヲ見ヨ、水垂るハ、雨降ルコト、其條ヲ見ヨ、即チ、五月雨、降る義ナリ〕 五月雨、降ル。 曾丹集「さみだれテ、物思フ時ハ、我ガ宿ノ、鳴ク蟬サヘニ、心細シヤ」 金葉集、二、夏「同ジクハ、堅ヘテ葺ケ、菖蒲草、さみだれタラバ、漏リモコソス

レ、さみだれヲ、亂れニ寄セ、整ふニ呼喚セシム」 萬代集、三、夏「菖蒲生フル、沼ノ岩垣、カキクモリ、サモさみだるる、昨日今日カナ」 夫木抄、八、五月雨「早苗月、さみだれソムル、始トヤ、四面ノ雨雲、曇リユクラム」

さみだれ (名) 五月雨 〔前條ノ語ノ名詞形〕 梅雨。五月雨。梅雨ノ條ヲ見ヨ。 菅家萬葉集、夏「沙亂ニ、物思ヒ居レバ、郭公鳥、夜深ク鳴キテ、イヅチ行クラム」 金葉集、二、夏「さみだれニ、沼ノ岩垣、水越エテ、眞菰刈ルベキ、カタモ知ラレズ」 名義抄、雨部「五月雨、サミダレ」

さみだれがみ (名) 亂髮 〔さみだる(亂)ヲ見ヨ〕 亂れがみ ニ同ジ。 源、廿五、螢六十「知カハシキさみだれ髮ノ、みだるるモ知ラデ」 夫木抄、八、五月雨「ツレヅレニ、蘆屋ノ海人ノ、小櫛サス、さみだれ髮ヤ、乾サデ寐ルラム」

さみづ (名) 素水 〔眞水ト通ズ(眞中、さなか)素水、同ジ〕 眞水。混淆物ナキ水。生水。 俚言集覽、さ水「さみづノさハ、さゆノさト同ジク、素ト同義」

さみゃうねん (名) 再明年 さらいねん ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

サミャク・サボダイ (名) 三藐三菩提 さんみゃくさんぼだいノ條ヲ見ヨ。

さ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 覺 醒 (一)現ニ、カヘル。人事不省ノモノガ、正氣ニナル。ヨミガヘル。 景行紀、四十年十月、日本武尊至二膽吹山一「山神化二大蛇一當レ道、云云、踏レ蛇猶行、云云、失意如レ醉、因居二山下之泉側一、乃飮二其水一而醒之、故、號二其泉一曰二居醒泉一也」 靈異記、中、第十六、撫而試、呼喚不レ甘、良久蘇起」 □□、サメテ、覺醒、□、惺也、醒、覺同」 (二)眠リタルヨリ、起ク。メザム。ネザム。 拾遺集、十二、戀二「夢ヨりめ、戀シキ人ニ、逢ヒ見スナ、さめテノ後ハ、ワビシカリケリ」 伊勢物語、六十九段「君ヤ來シ、我レヤ行キケム、オモホエズ、夢カ現カ、寐テカさめテカ」 (三)物思ヒ、晴ル。迷ヒ、失ス。 拾遺集、十二、戀、二「逢ヒ見テモ、ナホ慰マヌ、心カナ、幾千夜寐テカ、戀ノさむベキ」 源、十三、明石六十四「人知レヌ物思ヒ、さめヌル心地シテ」 同、廿、朝顏三「今日ハ、老モ忘レ、憂キ世ノ歎キ、皆、さめヌル心地ナム」

さ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 冷 〔寒ノ活用シタル語カ(暮るモ、闇ノ活用ナラム)尙、考フベシ〕 (一)熱、漸ク失ス。次第ニ、冷ユ。 永久四年百首、溫泉「夜ト共ニ、下ニ焚ク火ハ、ナケレドモ、さまねノ御湯ハ、さむるヨモナシ」 (二)〔酒ニ醉ヒタル熱、消ユ。醒 大和物語、中「文ヲ遣ラムト、醉ヒさめテ思ヒケルニ」 (三)〔勢ヒ、衰フ。興、薄ル。消 宇津保物語、嵯峨院一九十「御筵 讚ノ景況」大宮ノ御時、面白カリシヲ、此度ハ、さめタリヤ」 狹衣、三、下四十七「面白ウ、メデタカリツル物ノ音、皆、さめテ、聞ク限リノ人人、月ヲ見カハシテ、物モ言ハレズ、アキレタリ」「興さむ」

さ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 褪 〔前條ノ冷むノ意ヨリ移ル、或ハ、活用ハ異ナレド、荒ぶト通ズルガ如クニモ思ハル〕 薄レテ、變ハル。アス。變色ス。褪色ス。 夫木抄、十五、紅葉「モミヂ葉ハ、クレナヰ深ク、ナリユケド、ヒトリさめタル、松ノ色カナ」 風雅集、四、夏「風ワタル、田ノ面ノ早苗、色さめテ、入日殘レル、岡ノ松原」

さん (名) 贊 讚 〔易經、說卦、疏「贊者、佐而助成」釋名「稱二人之美一曰レ讚」〕 (一)漢文ノ文體ノ一種。人物、書畫ナド、稱メテ記スモノ。多クハ、四字句ニテ、數句ヲ聯ヌ、平字、仄字ノ定メナク、但シ、韻字ヲ履ム。或ハ、五言絕句、七言絕句ナドナルモアリ。 文體明辯「按、字書云、贊、稱美也、字、本作レ讚、云云、人物、文章、書畫、諸贊、云云、詞、而、貴贊賦ハ、若二史記贊讚、東漢、晉書諸贊一是也、云云、若言二於四字之句一、盤桓乎二數韻之辭一、其頌家之細條乎、可レ謂レ得二之矣」 續本朝文粹、十一、百讚「米泉遺味、杜康藍觴、香台二晚往一、盛落二秋桑一、眼界花發、研家葉張、醺醺乘レ興、携入二醉鄕一」 (二)我ガ國文ナルモアリ、和歌ナルモアリ。 蜀山人、芭蕉庵桃青翁贊「身ハ、芭蕉葉ノ靡キニ居テ、風流ノ細ソキニタドリ、心ハ、風雲ノ思ヲタチテ、花鳥ノ情ニウカル、俗カ、俗カ、ハタ、隱者カ、コレコノ、一個ノ俳諧師」(四方のあか、新百家說林) (三)又、佛德ヲ贊スル梵讚、漢讚、和讚アリ、わさんノ條ヲ見ヨ。 榮花物語、廿二、鳥舞「諸僧、梵音、錫杖ノ聲ヲ唱ヘテ、讚ヲ誦シテ、ワタル」

さん (名) 筭 算 下 〔集韻「筭、算、亦作レ算、通作レ筭」千祿字書「筭、算、上、俗、下、正」〕 (一)古キ支那傳來ノ算術ニテ、數ヲカゾフルニ用キル具。竹製ニテ、徑一分、長サ六寸、數百枚アリ、別ニ、板、又ハ、紙ニ、縱橫ノ線ヲ引ク、コレヲ、算盤ト云フ、其格中、各箇ニ、算ヲ置キナラベテ、一二三四五、等ノ數ヲ計ル、コレヲ用キルヲ、算を置くト云フ。後ニハ、長方形ノ木ニテ製シタリ、長サ、一寸二分五厘、其方面、二分五厘ナリ、コレヲ算木ト云フ、用法、同ジ。古算術、スベテ廢レテ、算木ハ、唯、卜筮ノ用ニノミ供セラレ、後世、十呂盤、起リテ、專ラ、算術ニ用キラル。 倭名抄、十三ノ文畫具「筭、說文云、筭、長六寸、以計二曆數一、俗云、殘、漢書注「呂平本、籌、作二三一」 字彙抄「筭、漢書、律曆志曰、筭法用レ竹、徑一分、長六寸、數二百七十一枚、而成二六觚一爲二一握一」 筭、經日、學レ筭、心情隆長、先明二九九一、坐必正方、先從二右膝一而起、一縱十橫、百立千彊、從レ右就レ左、似二雁行一、云云」(經トハ、算經ナリ) 下學集(文安)下、數量門「筭、小木而四方也、上下、九九八十一之極數ニ吾也」 合類節用集(元祿)七、器財門「算木、本名、算籌」 算法天元術、上、天「算盤ハ、板ニテ製ス、云云、程村ナドト云フ紙ニテ製スルモ、可ナリ、算木製法、其長一寸二分五厘、其方面二分五厘ニ製スル也」 塵劫算式「唐算、和算、ノ二品アリ、唐算ト云フハ、和漢共ニ、中古マデ、用ヒ來ル算法ナリ、紙ニ、竪橫ノ筋ヲ畫シ、其內ニ、橫ニ、大小數ヲ列ネ書シ、竪ニ、方、廉、隅、及ビ、三乘、四乘、五乘ノ位次ヲ書キテ、算盤トシ、其上ニ、算木ヲ布キ、一ヨリ五、五ヨリ九、各、竪橫ノ列ネヤウアリテ、不レ紛如クシ、皆、九九ノ數ヲ以テス、云云、然レドモ、其事、重クシテ、急用ヲ辨ジ難ク、算盤、大ニシテ、事多キニ依テ、日用ニハ、和算ヲ用ル也、和算ト云フハ、珠盤ノコトナリ、是モ、日本ノ法ニハアラズ、明ノ算法統宗ニ、其圖、出デタリ」 宇治拾遺、十四、十一條「唐人ノ、算、イミジク置クアリ」「算ヲ、サラサラト置キ居タリ」 愚管抄(倍慈鎭)五、後白河院「信西ガ、云云、終夜、算ヲ置キケル、後夜方ニハ、算ノ音、鳴リケル聲、澄ミテ、算カリケル」 發心集(鴨長明)二、第二條「客人ノ、詣デ來タリケルニ、算ヲ、イクラトモナク、置キヒロゲテ、云云、何ノ御用ゾト問ヒケレバ、年頃、申シアツメタル念佛ノ數ノ、オボツカナクテトゾ答ヘラレケル」 盛衰記、三十六、一谷城構事「海ニハ、兵船數萬艘ヲ浮カベテ、算ヲ散ラセルガ如ク」 太平記、三十五、尾張小河東池田事「蹄ノ下ニ切ッテ落シタル敵兵、算ヲ散シテゾ臥シタリケル」 (二)算術。算術ノ學ヲ、算道ト云ヒ、算術ノ博士ヲ、算博士ト云フ。 狂言記、算勘聟「某程、算ノ達シタ者ハ御座ルマイ」 (三)算術ニテ、數ヲ計ルコト。計算 「算ガ當ル」名算」 (四)事情ヲ、計ルコト。ハカリゴト。籌量 孫子、始計篇「多レ算勝、少レ算不レ勝、而況於二無レ算乎一」 舊唐書、桓玄傳「運二籌略指授一、算無二遺策一」 (五)算木ニテ、占フコト。卜筮 狂言記、居杭「失物、云云、一算、置カズバナリマスマイ」(以上、今ハ算ノ俗字ヲ用キル)

さん (名) 棧 〔當字ナリ、前條ノ算、算木ノ、移リタルナリ〕 (一)楯ノ裏、又ハ、板、蓋、ナドノ裏ニ、打着ケオク、細長キ木村。板ノ反ルヲ防ガムタメニスルモノ。 倭訓栞、さん「器ノ蓋ナドニ、小木ヲ打ツヲ云フ、算木ヨリ出デタル語ナルベシ、或ハ、棧ヲ用ウ」 太平記、三十、住吉松折事、京都合戰「南方兵、一枚楯

ノ返ニ、葬ヲ堅ク打テ、階ノ如ク拾ヘタリケレバ、在家ノ無ニ打堅ケ、打堅ケ、究竟ノ射手三百餘人、家ノ上ニ[illegible]三十四、平石殿霰「切岸高ケレバ、先ナル人ノ楯ノ[illegible]リ、云云、我レ先ニト、込ミ入リケル」(二)戸、又ハ、紙障子ノ骨。格。「障子ノさんガ折レタ」(三)雨戸ノさる。「さんヲサス」さんヲオロス」

さん (名) [illegible] 其地ノウマレ。出生。孟子、滕文公、上篇「陳良楚産也」(楚國ノ出生)「某ハ、九州ノ産」

さん (名) 産 (一)土地、製造、ヨリ生ズル物。產物。「昆布ハ北海ノ産」陶器ハ瀬戸ノ[illegible](二)生業[illegible](三)[illegible]資、穴眼、器具、等、ノ總稱。財産。身代。身上。[illegible]

さん [illegible] 餐 飲食スルコト。又、飲食物。[illegible]佐介貞俊事「僅カニ、一日ノ餐ヲ求メ兼ネテ」[illegible]

さん (名) 三 (一)第三。三番目。[illegible](二)第三絃。三味線ノ絃ノ、最モ細ソク、最モ下ニアルモノ。「三下」三ノ絃」

さん (名) 酸 〔英語、Acids. ノ譯語、味、酸シ〕化學ノ語。容易ニ金屬元素ニ置換セラルベキ水素ヲ含ム和合物、味、酸ク、水ニ溶ケ易ク、[illegible]中和ス[illegible]硝酸、硫酸、[illegible]等、ニ[illegible]

さん (名) 參 犂星ノ條ヲ見ヨ。

さん (數) 三參 〔參ノ字ニ就キテハ、大字ノ條ヲ見ヨ〕ミ。ミツ。

さん (接尾) 様 〔様ノ音便、催馬楽、我門[illegible]さんトアリ(蒲原、かんばら)〕人ノ稱呼ニ添ヘテ敬稱トス。様ヨリハ、輕キニ用ヰル。「鈴木さん」お姐さん」お梅さん」

さん [illegible] 散 散薬ノ名ニ添ヘテ云フ語「伏苓散 參蘇散」

ざん (名) 殘 「說文「賊也」釋名「殘、踐也、踐使殘壞也」」シヘタゲ、ソコナフコト。殘害。[illegible]

ざん (名) 殘 殘高、殘金ノ略、其條ヲ見ヨ。[illegible]

ざん (名) 讒 〔莊子、漁父篇「好言人之惡、謂之讒」〕讒言ニ同ジ。[illegible]シテ、先ヅ、心ニ任セタル事ヲ搆ミ、讒言ニ著テハ、吹毛ノ咎ヲ挙テ、[illegible]

ざん (名) 斬 刑ノ名。ウチクビ。死罪ノ條ヲ見ヨ。史記、張蒼傳「蒼坐法當斬」平治物語、[illegible]「斬ニ處ス」

さん-あい (名) 山靄 山ヲ蔽フ、モヤ。[illegible]

ざん-あう (名) 殘鶯 「殘雁、殘菊、同趣」春夜ニ殘リテ、鳴キ居ル鶯 すイウグヒス[illegible]

さん-あく (名) 三惡 〔惡ヲ、音便ニ、あく

ト訓ムベキヲ、通音ニ轉ジテ、まくト訓ムヲ習トナス」佛經ノ語、次條ノ語ノ略。平家物語、三、有王島下事「修羅ノ三惡、四趣ハ、[illegible]」

さん-あく-だう (名) 三惡道 佛經ノ語、地獄、餓鬼、畜生、ノ三ツノ惡シキ道ノ稱。[illegible]障ヲ消除スルハ、已ニ、三惡道ノ苦患ヲハタシテ、早ク、[illegible]

さむ-い (形) 寒 寒しノ口語 [illegible]

さん-い (名) 蠶衣 ウブギ

さん-い (名) 産醫 産科ノ醫者。産家。退閑雜記、十「蛭田玄仙トナン云フモノハ、國倉場ノ[illegible]」

ざん-い (名) 慚恚 ハヂ、イカルコト。

慚愧 [illegible]

さん-いう (名) 三友 (一)まつたけうめノ條ヲ見ヨ。(二)三種類ノ友。[illegible](三)詩ト、酒ト、琴ト、ノ稱。[illegible]

さん-いちゐ (名) 散一位 さんゐ(散位)ノ條ヲ見ヨ。

さん-いつ (名) 散逸 散佚 〔佚ハ、失ト通ズ〕(一)散リ、失スルコト。紛失。北史、[illegible](二)世事ニ關係セズシテ、閑散ニテ居ルコト。南史、[illegible]

さん-いん (名) 山陰 (一)ソトモ。山ノ北山。蔭(かげとものノ條ヲ見ヨ)(二)次條ノ語ノ略。

さん-いん-だう (名) 山陰道 〔そとものノ條ヲ見ヨ〕ソトモノミチ。我ガ邦、内地ノ、八道ノ一、丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐、ノ八國ノ稱。天武紀、下、十四年九月「山陰使者」北山抄、三、拾遺雜抄、[illegible]「山陰道、但止毛乃道」

さん-う (名) 山雨 山ヨリ降リ來ル雨。「山雨來らむとして、風、樓に滿つトハ、事ノ起ル前ニハ、必ズ、其徴候アル、物凄キ意ニ譬ヘテ云フ語」唐、許渾、[illegible]

さん-う (名) 三有 〔有トハ、有ツ義、迷ノ因果ノ存在スル意〕佛數ノ語、欲有、色有、無色有、ノ併稱、三界ノ(一)ニ同ジ。大智度論、三「有三種有、欲有、色有、無色有也」

さん-え (名) 三衣 僧衣ノ、僧伽梨、鬱多羅僧、安陀會ノ稱 袈裟ノ條ノ(一)ヲ併セ見ヨ

さん-えう (名) 山腰 ヤマノスソ。山麓。

さんえばこ (名) 三衣匣 三衣ヲ容ルル匣。深サ五寸、長サ一尺三四寸、幅八九寸、外側ハ、多ク、眞鍮ノ薄板張トス、法會ノ時、導師、コレヲ用キル。袈裟ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。倭名抄、十三、僧坊具「三衣匣、[illegible]」榮花物語、十七、音樂「さんえばこ」

さん-えん (名) 三縁 佛數ノ語。親緣、近緣、增上緣、ノ併稱。共ニ、阿彌陀佛

ノ光明攝取ノ利益ニ就キテ云フ。衆生、常ニ佛ヲ憶念スレバ、佛モ亦、衆生ヲ憶念ス、コレヲ親緣トス。衆生、佛ヲ見ムト願ヘバ、佛、卽チ、念ニ應ジテ、眼前ニ現ハル、コレヲ近緣トス。衆生、稱念スレバ、罪ヲ除キ、命終ラムトスル時、佛ト、聖衆ト、自ラ來迎シ、諸業、障フルコトナシ、コレヲ增上緣トス。(觀經疏定善義)東京ノ芝區ニ、三緣山增上寺アリ、淨土宗ノ本山ナリ。

ざん-えん (名) 殘炎 殘暑ニ同ジ。韓維、湖上過雨詩「殘炎一洗盡、薄景開林西」

さん-おき (名) 算置 〔算ヲ用キルヲ、置くト云フ、算木ヲ以テ占フナリ、算、及、算木ノ條ヲ見ヨ、うらやさんハ、占算ノ轉(占ふノ條ヲ見ヨ、耕す、たがやす)出典ノ合類節用集ニ、占算トアリ、其業ヲ以テ、其人ノ稱トス〕又、占置。ウラヤサン。錢ヲ取リテ、うらなひスルヲ業トスル者。古クハ、算木ヲ用キテ、唯、數ヲカゾヘテ、吉凶ヲ考ヘタリ、後ニハ、卜筮ニテ、易ノ卦ヲ作リテ考ヘタリ、故ニ、八卦置ノ稱モアリ。(卜筮ノ條ヲ見ヨ)此業ハ、家ニ居テスル者アリ、街路ニ出デテ、行人ヲ要シテスルアリ、(昔ハ、うらやさん、うらやさんト、呼ビ歩キタルガ如シ)現今云フ、うらなひ者、是レナリ。賣卜者 本朝文粹、詩序、白箸翁「貞觀之末、云云、市樓下有賣卜者、年可八十」 三十二番職人歌合(文安)六番、さんおき「輿ホドノ、假屋ノ內ニ、身ヲおける、さん所ノ者ノ、恨メシノ世ヤ」判云 算おきノ述懷、輿ホドノ假屋ノ內、サコソト押シハカラレ侍リ、云云、五尺ノ身、三尺ノ假屋ニテ、終日、問フ人ヲ待居タル、一生涯ノ果報ヲモ、自身ニカンガヘヌラムニ(嬉遊笑覽、八) 狂言記、居杭「うらやさん、占ノ御用、シカモ、上手ナリ、うらやさん、うらやさん」 日本風土記(明侯繼高、全淅兵制、附錄)二、九流「占卜士、云云、名曰三和吉、云云、有庵家出帖者、有等手執算盤、帶從者、偕行、口呼胡來也算」 合類節用集(元祿)四、人倫門「日者、卜人、今云占算」文選註、日者、掌日月曆數之任者、卜祝、主卜筮、祭祀之辭也」

さん-か (名) 山河 やまト、かはト。山川。晉書、姚襄載記「洛陽雖小、山河四塞之固、亦是用武之地」

さん-か (名) 山歌 田舍歌。白氏文集、十二、琵琶行「豈莫山歌與村笛、嘔啞嘲哳難爲聽」 姑蘇志、風俗篇「山歌野唱亦成音節、其俗可謂美矣」

さん-か (名) 山家 ヤマガ。ヤマザト。山村。曹鄴詩「山家草木寒、石上有殘雪」

さん-か (名) 產家 〔家ノ條ヲ見ヨ〕 產科ノ醫者。產醫。

さん-か (名) 三夏 三春ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。李顒詩「炎光爍南溟、溽暑融三夏」

さん-か (名) 參加 參リ、加ハルコト。仲間入リスルコト。盛衰記、十四、南都山門牒狀等事「先ヅ、同心參加ノ由、憑モシク申シタリ」「評議ニ參加ス」

さん-か (名) 餐霞 霞ヲ餐トシテ居ルコト。仙人ノ生涯ニ云フ。南史、褚伯玉傳「卻粒之士、餐霞之人、乃可暫致、不宜久羈」 太平記、三十九、神木入洛事「南都ノ所領河口ヲ以テ、朝三ノ資ケヲ得テ、僅ニ、餐霞ノ飢エヲ止メ」

さん-が (名) 算賀 〔算ハ、廣韻ニ「物數也」トアリ、年數ノ義、年齡ノ意、年賀トモ云フ、是レナリ、至尊ノ御年齡ヲ、御算、寶算、ト申ス、顏延之、赭白馬賦「齒算延長、聲價隆振」注「言長命而聲價盛振」〕人ノ長命ヲ、賀フコト。後世、賀祝ト云フ、其條ヲ見ヨ。四十歲トナレルヲ、初老トシテ、五八賀ト云ヒ、ソレヨリ、以上、十年每ニ、行フ。又、年賀。合類節用集(元祿)二、時候門「年算賀、人、四十歲、古來稱始仕、故賀焉、相承逐年到百歲、猶修此式」 日次紀事(延寶)臨時、高貴年賀「凡、人壽、四十歲ニ滿ツル年ハ、老者ノ初ト稱シテ、始メテ、延ブル祝ナス事、是レ、往末ノ壽算ヲ數ヘ、老ヲ延ブルノ祝ナリ、云云」 新儀式、四、臨時「奉賀天皇御算事」 續後紀、十九、嘉祥二年三月「興福寺大法師等、奉賀天皇寶算滿于四十」(仁明天皇) 紀略、前篇、一、醍醐「延喜六年十月廿三日、法皇四十御算賀」(宇多天皇)

さん-が (名) 參賀 參リテ、賀ヲ申スコト。宋史、職官志「皇太子爲姻、不受官僚參賀」 扶桑略記、廿二、元慶八年二月、光孝天皇卽位前、入移東宮「僧都已下、云云、奉參東宮、慶賀天皇」 知音卿記、寶曆十二年七月廿七日「參長橋奏者所、踐祚中御賀、女院、親王、准后、攝政、等、此節御事故、參賀無之由、云云」(後櫻町院御踐祚)「宮中ニ參賀ス」

さん-が (名) 蠶蛾 カヒコノ、ヒヒル。カヒコノ蝶。

さん-かい (名) 山海 やまト、うみト。ウミヤマ。海陸。史記、平準書「通輕重之權、徼山海之業」 犬子集(寬永)「山海ノ、珍物ナレヤ、紅葉鮒」「山海ノ利」

さん-かい (名) 散開 (一)チリ、ヒラクコト。(二)密集セル團體ガ、各箇、相當ノ間隔ヲトリテ、隊形ヲツクルコト。

さんがい (名) 三界 〔三界ハ、措字ナリ、是レハ、境ノ音便ニテ、さんがひナルベシ(んト云フニ因リテ、濁ル)「北海道くんだりマデ、旅烏シテ」ナド云フモ、下りノ音便ナリ〕遠方ノ地。遠ク旅シテアルクニ云フ。增補、松の落葉(寶永)五「江戶三界へ往カシャンシテ、イツ戾ラムス事ヂャヤラ」 唐船噺今國性爺(享保、近松作)「イカニ、イタヅラスレバトテ、イツノ便宜ニ、唐三界、餘リナ稼ギヂャ」

さん-がい (名) 三繫 〔かいハ、面繫、胸繫、尻繫ノ、かきノ音便(搔數、かいしき。割出、さいで)〕羈ト、鞅ト、鞦トノ總稱。各條ヲ見ヨ。合類節用集(元祿)十、數量門「馬具三階、羈、靷、鞦」 大磯虎稚物語(元祿、近松作)御狩馬揃「雲雀毛ノ、夕日イサヨフ紅ノ、濃染メノ三鞅、熊野打チ」

さん-がい (名) 三階 二階ノ上ニ、又、一層、家アル家。三重ノ家。三層樓 「三階造」「三階屋」「三階藏」

さん-がい (名) 三蓋 三重。サンヂュウ。三層 「三蓋松」「三蓋笠」「三蓋菱」

さん-がい (名) 三界 (一)佛敎ノ語。欲界、色界、無色界、ノ併稱。又、三有。欲界トハ、貪欲、淫欲、睡眠欲、ヲ求ムル衆生ノ住メル世界ヲ云フ。色界トハ、貪欲薄ク、欲界ニハ優レドモ、未ダ、五蘊ノ色心、亡ビザレバ、名ヅク。無色界トハ、更ニ進メル境界ニシテ、色身ヲ有セザル、心靈ノ世界ナリ。此三界、高下アレドモ、ナホ、有漏ノ迷界ナレバ、平安ナラズ、故ニ、三界無安ノ語アリ。火焰ノ燃ユルニ譬ヘテ、三界火宅ナドトモ云フ。世ノ一事、一物、皆、三界ノ衆生ノ心性ニ出デザルハ無シ、因リテ、三界唯一心、三界唯心、三界一心、ノ語アリ。三界中ニ、又、各、忉利天、兜率天、何天、某天、ナド、數多ノ天アリ、コレヲ、三界諸天ト云フ。又、佛ノ智德ノ具足シタル讃稱ヲ、三界の獨尊ト云フ。(報恩記) 法華經、比喩品「三界無安、猶如火宅」 八十華嚴經「三界所有、唯是一心」 十地論「三界唯一心、心外無別法」 唯識論 三界唯心、萬法唯識」 盛衰記、九、中宮御懷姙事「三界一心ト知リヌレバ、地獄、天宮、外ニ無シ」 下學集、下、數量門「三界諸天、云云」 沙石集、三、上、

第一條「闍梨ノ三界の闍梨タル、已ニ、其跡ヲ示ス」 [illegible] 三千世界 全世界 [illegible] シトイヘトモ、身ノ [illegible] 男ノ首かせ [illegible] モおりカネテ、[illegible] 三界ノ首棚」 [illegible] 從ノ條ヲ見ヨ」

さんがい (名) 慘害 慘酷ナル災害。イタマシキ損害。[illegible]

ざんがい (名) 殘害 ソコナヒ、ヤブルコト。[illegible]

さんがい-いっしん (名) 三界一心 三界ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さんがい-がさ (名) 三蓋笠 隱笠ノ如キモノヲ、三蓋ニシタルモノ。町標ニ作リ、又、紋所ナドニ用ヰル。[illegible]「寶永近松作)二「三階笠ノ印立テタル纛、ウチアゲテ」

さんがい-くゎたく (名) 三界火宅 三界ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さんかい-げん (名) 三改元 往時、三箇ノ定例トシテ、年號ヲ改ムベキ年ノ稱。即チ、天皇御繼位ノ初ト、辛酉ノ年ト、甲子ノ年トナリ。改元ノ條ヲ見ヨ。[illegible] ハ、定マリタル事也」

さんがい-しょてん (名) 三界諸天 三界ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さん-かいだん (名) 三戒壇 戒壇ノ條ヲ見ヨ。

さん-が-いち (名) 三一 三ノ一。ミツニヒトツ。三分ノ一。

さんがい-ぞくそん (名) 三界獨尊 三界ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さんがい-ばう (名) 三界坊 世ノ中ヲ、サマヨヒアルクモノ。天竺浪人。流浪人。津國女夫池(享保、近松作)二「我レハ是レヨリ三界坊、ヤイ海上、倶ニ發心、御供ナドトテ、云云」

さんがい-ばんれいはい (名) 三界萬靈牌 禪寺ニテ、佛殿ニ安置スル位牌ノ一。文ニ、三界萬靈、十方至聖、六親眷屬、七世父母、ト記ス、廣ク、無縁ノ有情ニ對シテ、冥福ヲ蒙ラシメムトテ、供養スルモノ。施餓鬼ナドニモ用ヰル。

さんがい-びし (名) 三蓋菱 紋所ノ名。菱形ヲ、三ツ、重ネタル象。〈〉此ノ如シ、小笠原氏ノ人、此紋ヲ用ヰル、又、小笠原菱トモ云フ。[illegible]

さんがい-まつ (名) 三蓋松 松ノ枝、葉ヲ、笠ヲ、側面ヨリ見タル如ク畫キテ、三ツ、重ネタル象。紋所ナドニ云フ。[illegible] 反魂香(寶永、近松作)上「天津乙女ノカタグマ枝ヤ、[illegible]ノ三がいまつ」

さんがい-むあん (名) 三界無安 三界ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さんがい-ゆゐいっしん (名) 三界唯一心 三界ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さんがい-ゆゐしん (名) 三界唯心 三界ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さん-かう (名) 山行 山中ニ、入リ行クコト。[illegible]

さん-かう (名) 三孝 三ツノ孝行。(下ノ出典ヲ見ヨ) 禮記、祭義篇「孝有三、大孝尊親、其次弗辱、其下能養」

さん-かう (名) 三綱 〔出典ヲ見ヨ〕 君臣ト、父子ト、夫婦トノ道ノ稱。白虎通、三綱六紀篇「謂君臣、父子、夫婦也、故君爲臣之綱、父爲子之綱、夫爲妻之綱」呂東萊文集、三綱「學三其綱、萬目自張、人君既正於上、則下官北姓、皆舉於下、父既正於上、則嫡庶皆舉於下、云云」太平記、一、「後醍醐天皇御治世事、内ニハ三綱、五常ノ儀ヲ正シウシテ、周公、孔子ノ道ニ順ヒ」

さん-かう (名) 三更 かう(更)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さん-かう (名) 參考 マジヘ、カンガフルコト。種種ノ物事ヲ、見合ハセ、聞キ合ハセテ、考ヘ正スコト。後漢書、班超傳「顧下三臣策八參考行事、誠有萬分死復何恨」「撰書ノ參考ニ供ス」

さん-かう (名) 參向 マヰリ、ムカフコト。マヰルコト。參上。太平記、十一、正成「[illegible]兵庫ニ參[illegible]兵衛正成、七千餘騎ニテ參向ス」

さん-がう (名) 散樂 さるがくヲ見ヨ。

さん-がう (名) 三樂 〔出典ヲ見ヨ、三樂、益樂スベシ〕 孔子ノ教ニ、人人、好ム所ニ因リテ、損益スルコト、三ツアリトイフコト。論語、季氏篇「孔子曰、益者三樂、損者三樂、樂節禮樂、樂道人之善、樂多賢友、益矣、樂驕樂、樂佚遊、樂宴樂、損矣」集註「節、謂辨其制度聲容之節」 [illegible] 五教反」「樂トハ、制裁シテ、過不及ナカラシムルナリ」同、雍也篇「知者樂水、仁者樂山」集註「樂、五教反、喜好也」

さん-がう (名) 三綱 〔そうがう(僧綱)ノ、綱ニ同ジ(其條ヲ見ヨ)〕已講、内供、阿闍梨ヲ、正三綱ト云ヒ、ココニ云フハ、權三綱ナレド、普通ニハ、唯、三綱ト云フ」僧官ノ、上座ト、寺主ト、都維那トノ併稱。僧綱ノ次ナリ、延暦寺、其他、諸大寺ニ置カレタリ。上座トハ、衆徒ノ上ニ坐スル義、宿德ノ僧ヲ以テ任ゼラル、法事、等ノ事ヲ掌ル。寺主トハ、寺司ノ義、堂宇造營管理ノ役。都維那ハ、梵語ナリ、羯摩陀那ト云フ、說衆ト譯ス、衆僧ニ法義ヲ示シ、又、寺規ニ依リテ、日常ノ諸事ヲ指揮スル役。天武紀、下、朱鳥元年正月「請三綱、律師、及、大官大寺、知事、佐官、並、九僧、以俗供養養之」僧尼令、義解「三綱者、上座、寺主、都維那也」

さん-がう (名) 山號 〔寺ハ、山ニ據リテ建ツルヲ、本トス(開山ノ條ヲ見ヨ)某山ナル某寺ト稱スルナリ(別ニ、佳字ヲ採レルモアリ)慣用シテハ、平地、市中ニアルニモ、稱ス、門ヲ、山門ト云ヒ、境内ヲ、山内ト云フモ、是レナリ〕 寺院ノ名ノ上ニ冠ラスル稱號。比叡山延暦寺、高野山金剛峯寺、高雄山神護寺、東山建仁寺(京都ノ東山)、靈龜山天龍寺(山城、嵯峨ノ龜山)、巨福山建長寺(鎌倉、巨福路坂)、吉祥山永平寺、瑞龍山南禪寺、ナドナリ。

さん-がう (名) 算勘 〔さんかんノ音便(勘事、かうじ)〕 算勘ノ條ノ(二)ニ同ジ。[illegible] 算草、算共、俗ニ、物ヲ計リ考フルヲ、さんかうスルト云フ」

ざん-かう (名) 殘更 夜ノ明ケ方。五更。[illegible] 殘更二」

ざん-がう (名) 塹壕・塹濠 〔廣韻「壕、城

下池也」康熙字典「濠、城下池也、通作レ壕」 要塞ノ周圍ナドニ設ケタル塹。多クハ、洞堀ナルニ云フ。唐書、裴行儉傳

さんがうざっし（名）［三號雜誌］ 雜誌ノ、發刊シテ、第三號頃ニ至リテ、廢刊スルモノ。永續シ得ザルヲ、嘲リ云フナリ。

「次第于北岳」「立皆坐塹壕」

さんかがみ（名）［三鏡］ 書名。水鏡、大鏡、増鏡、ノ併稱。何レモ、歷史ナリ。

さんかきんたい（句）［山河襟帶］（襟ノ如ク圍ミ、帶ノ如ク繞ル）山、又、川ガ、四方ヲ取リマキテアリ。景勝ノ地、要害ノ地ニ云フ。白氏文集、十三、敍（唐書、靖、四十韻、上宣歙崔中丞）「山河埋襟帶、宗藩猶翰維」王勃、滕王閣序「襟三江而帶五湖」

さんかく（名）［三關］ 人道ヲ守リテハ、富ヲ成サズト云フ惡諺。訓蒙俗語「邦俗ニ、恥ヲカケ、義理ヲカケ、用ヲカケ、ト云フ所ナリ、トテモ、世間的ノ了見ニテハ、並持ニナレヌ」（論語十辭典）荀子、大略篇「民語曰、欲富乎、忍恥矣、傾絶矣、絶故舊矣、與義分背矣、上好富、則人民之行如此、安得不亂」ニ傾絶ハ、傾絶ノ誤ナルベク、空施ノ意カト云フ）

さんかく（名）［三角］ 三ツ角アル形。三稜

さんかく（名）［山客］ 山住居ノ人。山人。王維詩「花落家僮未掃、鳥啼山客猶眠」 陸游詩「日暮人歸盡、禪子南山客」

さんかく（名）［山閣］ 山上ノ樓閣。丁鶴年詩「衣被寥寥竹方床、山閣雲深山鶴鳴」

さんがく（名）［山嶽］［山岳］ ヤマ。タケ。高大ナル意ニ云フ。山岳 ……

……

ル」ニ山嶽重疊」

さんがく（名）［山壑］ やまト、たにト。山谷。沈約、謝高士傳「孤芳隱山壑、共遊」

さんがく（名）［散樂］（散位、散官ノ散）（一）支那、古ヘニテハ、雅樂、官樂ニアラザル樂ノ稱。俗間ノ舞樂。周禮、春官篇、宗伯、下「旄人掌レ教二舞散樂一舞夷樂一」注「散樂、野人爲レ樂之善者」疏「以二其不一レ在二官之員内一謂二之爲一レ散」（二）唐ノ代ニ至リテハ、轉ジテ、百戲ノ弄丸、弄刀、綱渡、ノ類。唐會要、三十三「散樂、歷代有レ之、其名不レ一、非二部伍之聲一俳優、歌舞、雜奏、總謂二之百戲一跳鈴、擲劍、透梯、戲繩、緣竿、弄枕、云云」（三）散樂ハ、我ガ邦ニモ傳ハレリ、卽チ、雜藝ナリ。職員令、集解、四、雅樂寮「高麗儛師一人、散樂師人一人」三代實錄、五、貞觀三年六月廿八日「天皇御二前殿一覽二雜相撲一云云、左右互奏二音樂一種種雜伎、散樂、透擲、呪擲、弄丸、等之戲、皆如二相撲節儀一」（四）散樂ノ字ハ、猿樂ノ事ニ充テ用キラル。三代實錄、三十八、元慶四年七月廿九日「右近衛、內藏富繼、長尾末繼、伎善二散樂一令二人大咲一所レ謂滑稽人近レ之矣」雲州消息（出雲守藤原明衡）上、本、四月「稻荷祭、云云、有二散樂之態一假成二夫婦之體一云云、始發二艷言一後及二交接一都人士女之見者、莫レ不二解レ頤斷一レ腸二是レ等ハ、全ク猿樂ノ猿ナリ、猶、猿樂ノ條ヲ見ヨ、或ハ、さんヲ、さるト發音スルニテ、駿河、するが、敦賀、つるが、ノ例ナラムト云フハ、鑿ナルベシ）字類抄「散樂、サルガク、サンガク」

さんがく（名）［算學］ 算術ノ學。數學。周邦彥、汴都賦「算學以窮二九九一」

さんがく（名）［參學］ 學習ニ、參ルコト。學問ニ、參加スルコト。黄庭堅、送二楊泉上人歸二梅山一詩「自到二無生一學二學界一、還レ入二達摩之二輪迴一」上平記、廿六、楠吉仲合戰「左兵衞督、日夜ノ學學、絹タノ參禪、缺ケレバ」

さんがく（名）［產額］ 產物、製造物ノ、出ヅル高。

ざんがく（名）［殘額］ ノコリダカ。殘餘

ノ數量。殘高。「差引殘額一千圓」

ざんがく（名）［殘樂］ 管絃樂ノ一演法。樂ノ終ラムトスルニ隨ヒテ、合奏數人ノ內、先ヅ、一人止メ、暫クシテ、又、二人止メ、次第ニ止メ、次第ニスガレテ、遂ニ、唯一人トナリテ、全ク終ハルモノ、其餘音、嫋嫋トシテ、優美ナリ。貞氏新錄、二「殘樂ノ事ハ、三反ノ時ハ、初反ニテ、助音ノ絃、管、太鼓、鉦鼓、マデ、悉ク退キ候テ、音頭ノ笙、笛、篳篥、三管バカリ殘リ、打物ハ、羯鼓バカリ殘リ、云云、二反目、云云、三反目、云云、末ニ至リ、止マル事ニテ、其內、琵琶止マリテ、箏、和琴バカリ、始終彈レ之、樂相濟事也」

さんかくさう（名）［三角草］ 草。春ノ初、花アリテ、紅ト、白トアリ、蔓、三葉ニ出ヅルヨリ、名トスト云フ。

さんかくしう（名）［三角洲］（英語、Delta ノ譯語、大體ハ、三角ノ形ヲ成ス）地文學ノ語。河口ニ成レル、土沙ノ洲。河水ノ流シ來レル土沙ノ、河口ノ水流ノ緩カニナレル處ニ沈積シテ、成ルモノナリ、地勢ニ因リテ、其形、一樣ナラズ。

さんかくじゅつ（名）［三角術］ 幾何學ノ一分科。三角形ノ三ツノ邊、及、三ツノ角ノ內、三ツヲ知リテ、餘ノ三ツヲ算出スル術。又、三角法。廣大ナル地積ヲ測量スル時、此術ヲ以テ行フヲ、三角測量ト云フ。

さんかくそくりゃう（名）［三角測量］ 前條ヲ見ヨ。

さんかくはふ（名）［三角法］ 前前條ノ語ニ同ジ。

さんがにち（名）［三箇日］ 正月ノ元日、二日、三日、ノ稱、年始ノ祝日トス。

さんがのだいじ（名）［三箇大事］（古今傳授ノ類ナリ）源氏物語ヲ講義スル者ノ稱スル語。夕顏ノ卷ノ「揚名介」葵ノ卷ノ「ねのこのもちひ」榊ノ卷ノ「さのゐものの袋」ヲ云フ、難解、祕密ノ事トスルナリ、各條ヲ見ヨ。

さんがのぢゅうじ（名）［三箇重事］ 御卽位、御禊、大嘗會ノ、三大儀式ノ稱。夏山雜談（寛保、小野高尙）一「三箇の重事トハ、卽位、御禊（十一、河原ノ祓ナリ）、大嘗會也」

さんがのつ（名）［三箇津］ 三津ノ條ヲ見ヨ。

さんがのと（名）［三箇都］（都ノ吳音、つ）江戶時代、京都、江戶、大坂、ノ併稱。三都。三府。俵詞葉「みつのつ「世ニ、京、大坂、江戶ノ三都ヲ、三箇の津ト云フ」

さんかん（名）［三竿］（竿、三本、繼ギタル程ノ高サ、三丈ト云ハムガ如シ、ト云フ）朝ニ、日ノ、高ク昇リタルコト。蒹葭雜話（天保、日尾荊山）三、「三竿之義「青梧園漫筆ニ、陶二晉論日月燈一曰、南齊志、謂、永明五年十一月丁亥、日出三竿、朱黃色、量也、云云、太祖有レ詩、云、星臣未レ息肱先起、宰臣已睡睽未レ醒、不レ知江南宮足翁、日高五丈猶披被」劉禹錫、竹枝詞「日出三竿春霧消、江頭蜀客駐二蘭橈一」蘇軾詩「酒醒門外三竿日、臥看溪南十畝陰」雜書集覽、みさを、靈元院御製「山ノ端モ、見エズゾ晴レヌ、春ノ霧、三竿バカリハ、昇ル初日ニ」

さんかん（名）［三韓］（韓ノ條ヲ見ヨ）朝鮮半島南部ノ古國ナル、馬韓、辰韓、弁韓、ノ三國ノ併稱。後ニ、此地方ニ、分合アリテ、新羅國、百濟國トナリ、別ニ、

北部ニ、高麗國アリシヲ、亦、併セテ、三韓ト稱シキ。[illegible] 所謂之三韓也」

さんかん (名) 算勘 「算、及、算木ノ條ヲ見ヨ」(一)占ヒ、勘フルコト。[illegible] (二)算勘。勘定。[illegible]

さんかん (名) 參看 (一)見クラブルコト。參照シテ、見ルコト。[illegible] (二)さんくゎん(參觀)ノ意ニ用キルコトアリ。「名人叢、學校ヲ參看ス」

ざんかん (名) 慚汗 ヒヤアセ。甚シク慚ヂテ、汗ヲカクコト。[illegible]

ざんかん (名) 讒陷 讒ヲ構ヘテ、人ヲ、罪ニ陷ルルコト。[illegible]

さんかん (名) 讒間 讒言ヲ設ケテ、人ト人トノ間ヲ、離隔スルコト。[illegible]

さんかん (名) 巉岸 キリギシ。ガケ。[illegible]

ざんがん (名) 巉巖 ケハシク聳チタルイハホ。[illegible]

ざんがん (名) 殘雁 (殘ハ、時候後レノ意、殘鶯、殘菊、ノ類) 後レテ來レル雁。[illegible]

[illegible]

ざんかんじやう (名) 斬奸狀 奸人ヲ斬殺スベキ趣意書。

さんかんせいばつ (名) 三韓征伐 「三韓ノ條ヲ見ヨ」神功皇后ノ征韓ノ役。仲哀天皇ノ九年十月、皇后、舟師ヲ率キテ、新羅國ヲ征シタマヒ、國王、降伏シ、次ギテ、百濟國、高麗國モ、降伏セリ。[illegible]

さむがりばう (名) 畏寒坊 (擬人語、狼狽坊、悔坊、ノ類) 性、寒氣ヲ畏ルル者。

さむ-が・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 畏寒 寒ク思フ。寒サヲ、畏ル。[illegible]

さんき (名) 山氣 山間ノ、靄ナド。山嵐。[illegible]

さんき (名) 山氣 山氣ノ字ノ音讀。投機心。「さんきノアル人」

さんき (名) 三歸 佛教ノ語、三寶歸依ノ略。卽チ、佛、法、僧ニ、歸依スルコト。佛ニ依リテ師トスルヲ、歸依佛ト云ヒ、法ニ憑リテ教トスルヲ、歸依法ト云ヒ、僧ニ依リテ友トスルヲ、歸依僧ト云フ。三歸戒ト云フハ、三寶歸依戒ニテ、佛道ニ入レル者ノ、最初ニ受クル戒ナリ。[illegible]

オトシタリケレバ、云云、倒レフタメキテ、逃ゲニケリ [illegible] ノ句ヲ唱ヘタルナルベシ)

さんぎ (名) 算木 (一)易ニ用キル具、小サク方ナル木ニテ、六箇アリ、三箇ニハ、中ニ、一刻アリ、他ノ三箇ニハ、無シ、コレヲ交ヘ、筮竹ニテ數ヘ出シテ、三箇ヅツノ象ヲ作ル、コレヲ、卦ト云フ、卦ノ象ニ因リテ占フナリ。(卦ノ條、見合ハスベシ) 算子 [illegible] (二)算ノ條ノ(一)ヲ見ヨ

さんぎ (名) 參議 (一)朝廷ノ政事ニ參リテ、其得失ヲ議ルコト。[illegible] (二)聖武天皇ノ朝ニ、太政官中ニ置カレタル官名。おほいまつりおとびと、まつりおとまうちぎみト云フ、其職、朝政ニ參議ス、大中納言ニ次ゲル重職ナリ、四位以上ニシテ、有才ナル人、コレニ任ゼラル、四位ナリトモ、公卿ナリ。一名、宰相、又ハ、相公ト云フ、定員、八人ナレバ、又、八座、又ハ、やくらのつかさトモ稱ス、臨時ノモノニ、權參議、准參議アリ、又、非參議アリ、其條ヲ見ヨ。[illegible]

[illegible] (三)明治二年七月、太政官中ニ置カレタル官名。大臣ノ下ニアリテ、大政ニ參與ス、同十八年十二月、廢セラル。

ざんき (名) 慚悸 慚ヂテ、恐レヲノノクコト。[illegible]

ざんき (名) 殘毀 ソコナヒ、ヤブルコト。[illegible]

ざんぎ (名) 慚愧 (一)心ニ、恥ヂ思フコト。ハヂイルコト。[illegible] (二)佛經ノ用語ニテ、自、他、心、身、ニ別チテ云フ、自ラ恥ヅルヲ、慚トシ、人ニ向ヒテコレヲ發露スルヲ、愧トス。慚愧懺悔ト、熟語トシテモ用キラル。[illegible] 七十一番職人盡歌合(文安)六十一番、山伏「先達ノ、ざんぎさむげハ、我レヤセム、腰ノ目ニック、肩ノ下カナ」訛シテ、さんげさんげ六根清淨ナド云フ。

さんぎうばくみあひ (名) 產牛馬組合 牛馬ノ生產、改良ヲ謀ル、共同ノ組合。郡市以上ノ區域ヲ定メ、其區域内ノ牛馬ノ事ニ從事スル者ノ、設置スルモノ。

さんきかい (名) 三歸戒 さんき(三歸)ノ條ヲ見ヨ。

ざんぎく (名) 殘菊 秋、深ケテ、咲キ殘リタル、菊ノ花。陳羽詩「節過二重陽一人病起、一枝殘菊不レ勝レ愁」「殘菊ノ宴」

ざんぎくのえん (名) 殘菊宴 きくのえ

んノ條ヲ見ヨ。

さんきじん (名) 【三奇人】 高山彦九郎正之、林子平友直、蒲生君平秀實、コレヲ、寛政ノ三奇人ト云フ。

さんぎちゃくゎ (名) 【算木茶果】 さんぎもち(算木餅)ノ條ヲ見ヨ。

さんきん (名) 【參勤・參覲】 マキリ、ツトムルコト。出勤。出仕。 吾妻鏡、四十一、「建長三年八月廿三日、評定衆中、所勞於ト不㆓參勤㆒之輩ハ不ㇾ可ㇾ乘㆓著到㆒之由、有㆓其沙汰㆒」 建武式目追加、正長二年八月廿日、出仕事「各守㆓結番之次第㆒可ㇾ令㆓參勤㆒」 御當家令條、十四、慶安三年九月十八日「御番請取渡之儀、并、參勤刻限、明番時刻、御本丸可ㇾ爲㆓同前㆒事」

さんきん (名) 【散禁】 〔公羊傳、莊公十二年「散舍㆓諸宮中㆒」註「散、放也」韻會「不㆓自檢束㆒爲ㇾ散」〕 令ノ制ニ規定セル、罪人囚禁ノ一法。枷杻ナドヲ、身ニ加ヘズシテ、唯、囚禁メオクモノ。 萬葉集、六、廿「神龜四年正月、數王子、及諸臣子等、集㆓於春日野㆒而作㆓打毬之樂㆒、其日忽天陰雨雷電、此時、宮中無㆓侍從、及、侍衞㆒、勅行㆓刑罰㆒、皆散㆓禁於授刀寮㆒、而妄不ㇾ得ㇾ出㆓道路㆒」萬葉集代匠記、六、上「今ノ世ニ禁足ト云ヘルハ、散禁ニ當ルベシ」 獄令、義解「凡、禁ㇾ四、死罪枷杻、云云、杖罪散禁」註「謂ト不ㇾ關㆓木索㆒、唯禁㆓其出入㆒也」

ざんきん (名) 【殘金】 金錢ノ勘定ノ殘高。

さんきんかうたい (名) 【參勤交替・參覲交代】 德川時代ニ、大名、小名ノ、一年代ハリニ、領地ヨリ出デテ、江戸ニ在勤シ、又、領地ニ歸ルコト、一箇年、江戸ニ居リ、一箇年、領地ニ居ルナリ。幕府旗本ノ中ニテモ、萬石以下ニテ、交替寄合ト稱スル家格ノモノ、亦、此ノ如シ、是レ、小名ト云フモノニ當ルカ。菅沼氏、岩松氏、平野氏、山名氏、最上氏、生駒氏、金森氏、本堂氏、等、廿家バカリアリキ、此中ニ、舊大名ノ裔ナルモ、アリ。 俚言集覽、參勤「德川時代ニ、大名ノ、一年代リニ、江戸屋敷ニツトメルヲ云フ、參勤交代トモ云フ、參勤ハ、江戸ニ居ルコト、交代ハ、國ヘ歸ルコト」 憲教類典、四、一、武家諸法度、寛永十二年六月廿一日「大名小名在㆓江戸㆒交替所㆓相定㆒也、每年夏四月中、可ㇾ致㆓參勤㆒、從者之員數、近來甚多、且國郡之費、且人民之勞也、向後、以㆓其相應㆒可ㇾ減㆓少之㆒」 當用一覽、二「交替之寄合、是ハ、每月參府御暇、如㆓諸大名㆒仍云ㇾ爾」(以上、古事類苑)

さんぎもち (名) 【算木餅】 餅ヲ、ト筮ノ算木ノ形ニ作レルモノナルカ。 鹽尻、六十一二、「伊勢ノ宇治ノ邊ニテハ、年禮ノ客ニ、さんぎちゃかトテ、二寸バカリノ割リタル木ヲ出ストアリ。(算木茶果カト云フ) 合類節用集(元祿)六、服食門「算木餅」 嬉遊笑覽、十、上、飲食「花摘集、元祿三年七月十七日「算木餅ヲ、文字ニカサヌル、灯呂哉」東順、是ハ、其角ガ父ノ發句ナリ、燈籠ノ組子ヲ云フナリ」

さんきゃう (名) 【三卿】 〔官稱、諸省ノ卿ニ任ゼラルルヲ例トス〕 德川將軍ノ庶子ノ、三支家ノ稱。田安、一橋、清水、ト云フ。享保十五年、八代將軍吉宗、其第二子右衞門督宗武ヲシテ、江戸城、田安門ノ傍ノ邸ニ居ラシメ、(其子、治察、大藏卿タリ)又、第四子刑部卿宗尹ヲ、一橋門傍ニ居ラシメテ、兩卿ト稱シ、後、九代將軍家重、其次子宮內卿重好ヲ、清水門傍ニ居ラシメテ、合シテ、三卿ト稱シキ。 三家、各、十萬石ノ封ヲ給セラレテ、賄料トシ、略、大名ノ如シ、家事ハ、幕府ノ吏員、務メタリ、尾張、紀伊、水戸、ノ三家ノ次席ナレド、將軍ノ近親ナレバ、宗家ニ親シキ事ハ、三家ニ優リ、宗家ニ嗣ナキ時ハ、先ヅ入リテ、其後ヲ繼ゲリ。 武家要覽、御三卿「田安中納言、德川兵部卿、稱㆓一橋㆒、德川式部卿、稱㆓清水㆒」

さんぎゃう (名) 【鑽仰】 〔論語、子罕篇「顏淵喟然歎曰、仰ㇾ之彌高、鑽ㇾ之彌堅」〕 他人ノ威德ヲ、仰ギ慕フコト。 保元物語、二、左府御最期事「內外ノ鑽仰、只、一心ノ爲メナリ」

さんきゃく (名) 【山脚】 ふもと(麓)ノ條ヲ見ヨ。ヤマシタ。 張耒詩「扁舟橫ㇾ江來、山脚緊㆓吾覽㆒」

さんきゃく (名) 【三脚】 三本足。三足。 「三脚ノ香爐」「三脚ノ鐵架」

ざんぎゃく (名) 【殘虐】 ムゴク、シヘタグルコト。 唐書、安祿山傳「殘性得ㇾ所ㇾ欲、則肆爲㆓殘虐㆒」

さんきゃくか (名) 【三脚架】 三本足ノ臺。其足ヲ、隨意ニ、開キ、又ハ、スボムルコトヲ得ルヤウニ作ラル。經緯儀、望遠鏡、等ヲ截スルニ用キル。

さんきょ (名) 【山居】 ヤマズマヒ。山中ノ住居。 史記、滑稽傳、優孟歌「山居耕ㇾ田、苦難ㇾ以得ㇾ食」

さんきょく (名) 【三局】 太政官中ノ少納言局、左辨官局、右辨官局ノ稱。後ニハ、左辨官局、右辨官局、外記局ヲ云フ。 職員令、義解「太政官內、總有㆓三局㆒、少納言局、左辨官局、右辨官局、是也」 職原抄、上「太政官、有㆓三局㆒、左右辨官、外記、是也」

さんきょく (名) 【三曲】 (一)琵琶ニ云フハ、流泉、啄木、楊眞操、ト云フ、三ツノ祕曲ノ稱。 平家物語、十、東下事「蟬丸ノ、關ノ嵐ニ心ヲ澄マシ、琵琶ヲ彈キタマヒシニ、博雅ノ三位ト云ヒシ人、云云、歩ミヲハコビ、立聞キテ、彼三曲ヲ傳ヘケム、云云」 (二)筑紫琴ト、胡弓ト、三味線トヲ、合奏スルコト。「三曲合奏」

さんきらい (名) 【山歸來】 〔和方醫ノ記ス稱、山奇粮ノ音轉ナリト云フ、出典ヲ見ヨ、和漢三才圖會、九十六ニ、土茯苓、俗ニ、山歸來ト云フ、楊梅瘡ヲ病ミテ、眼、鼻ノ腐爛セル者ヲ、山野ニ棄ツ、土茯苓ヲ服シタレバ、癒エテ、山ヨリ歸リ來レリトシタルハ、借字ニ因リテノ附會ナリ〕 蔓草ノ名、春、宿根ヨリ嫩蔓ヲ生ズ、葉ハ、粗、竹ノ葉ニ似テ、廣サ一寸、長サ七八寸、冬モ凋マズ、葉每ニ二鬚アリ、葉ノ間ヨリ一莖ヲ出シテ、二三十花、簇リ開ク、色、紫黄ナリ、實ハ、さるとりいばらニ似テ、小サク、熟スレバ黑シ、根ヲ藥用トス。カテクサ。土茯苓 多識篇(寛永、林羅山)二「土茯苓、俗云、山歸來」 重修本草綱目啓蒙(享和)十五「土茯苓、山歸來、和方書、山奇粮ノ音、新修餘姚縣志、奇粮、祕方集驗、奇良、漢種、享保年中ニ傳フ、福州ノ產ト云フ」

ざんぎり (名) 【散切】 次條ノ語ノ略。

ざんぎりがみ (名) 【散切髮】 〔散髮、散髮ノ、散ナリ、嫌ハシク思フヨリシテ、濁ラスルナルベシ〕 (一)男子ノ、頭髮ヲ、剃ラズ、結ハズ、其端ヲ切リテ、被リ居ルモノ。ナデツケ。總髮。多クハ、略シテ、ざんぎり。(散髮ノ條ヲ併セ見ヨ) 結髮スルヲ、一般ノ風習トシタル時代ノ語ナリ。 被髮 松屋筆記(高田與清)六十六、四十四、散切髮「散切ト云ヘルハ、寛永ノ比ノ書ニ見エテ、今モ然云ヘリ」 合類節用集(元祿)五、肢體門「殘髮」 本朝若風俗(貞享、西鶴)三「髮、散切ニ、夢元坊ト、名ヲ替ヘ」 傾城色三味線(元祿、自笑)大坂「鼻紙入ハ、サモシキトテ、連レタル散切ノ禿ニ入レサセ」(是レハ、きりかぶろナリ) (二)江戸時代、非人ハ、皆、髮ヲ散切ニスベキ制ナリキ。因リテ、ざんぎりヲ、非人ノ稱トモ

シタリ」〔二〕散髪ノ條ヲ見ヨ。〔三〕[illegible]散切(ザンギリ)[illegible]ヲ[illegible]セシヲ云フ、云云、[illegible]フ人ヲ、ざんぎりトイフ 俳[illegible]、ざんぎり今、[illegible]ノ[illegible]ハ、皆、[illegible]ナルベシ」〔三〕髪ヲ、[illegible]結ハズ、散ラシテアルコト。チラシガミ。 關八州繋馬(享保、近松作)四「ざんぎり髪ニテ、近ケ出デ」

さんぐ (名) 散供 〔散米ノ供物ノ義〕 打撒(ウチマキ)ノ(二)ニ同ジ。散米ニ代ヘテ、錢[illegible]ナル物ノ、神前ニ散ラシ奉ルニモ云フ。 江家次第、七、大殿祭「次、南殿御膳宿、散供」 [illegible]祭文ヲ讀ミアゲテ、一時、祝ヲ申シケリ」 七十一番職人歌合(文安)三十五番[illegible]さんぐノ米ノ、打撒フカト[illegible]物語(室町時代)[illegible]明神道「左ノ袂ヨリ、黄金ノさんぐ取出シ、社壇ヘ光レト、蒔キタマフ」

さんぐう (名) 參宮 伊勢ノ兩大神宮ニ、參拜スルコト。古ヘハ、臣民ノ參宮ヲ禁ゼラレシカド、三后、皇太子ハ、奏聞ヲ經テ、參宮シタマヒシ事アリ、後世ハ、全國ノ庶民、一生ニ一度ハ、必ズ、參宮スベキコトトス、コレヲ、伊勢參ト云フ。 [illegible]四十年十月、日本武尊[illegible]伊勢神宮ニ[illegible]伊勢大神宮式「凡、王臣以下、不レ得ニ輙供[illegible]」[illegible]代記[illegible]月「皇太子向ニ伊勢ニ云云、親拜ニ神宮ニ」(桓武天皇)[illegible]宮人十歳、不レ[illegible]恐役逃ニ心神ニ云云」[illegible]さんぐう[illegible]伊勢大神宮[illegible]トイフ事ヲ[illegible]「伊勢參宮」

さんぐう (名) 三宮 太皇太后宮ト、皇太后宮ト、皇后宮ト、ノ併稱。又、三后(サンコウ)ニ

さんぐう (名) 三隅 〔論語、述而篇「擧ニ一隅ニ不下以ニ三隅ニ反上、則不ニ復也」〕 三方ノ隅。四方ノウチ、一方ヲ除キテ、他ノスベテノ方。 太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚事「[illegible]三隅ノ高峯モ候ハン歟」

さんくづし (名) 算崩 〔算木崩ノ意、算木(サンギ)ノ條ヲ見ヨ〕 縞(シマ)、又、染模様ニ、縱横ノ筋ヲ、いしだたみニシタル象(カタ)。アジログミ。 伊呂波[illegible]算崩し、[illegible]唐棧さめ、ナドノ縞文ニアリ」

さんぐん (名) 三軍 (一)支那ノ三代ノ周ノ制ニ、大國ノ諸侯ノ設備スル軍數、一軍ハ、一萬二千五百人ヅツナリ。六軍(リクグン)ノ條ヲ見ヨ。(二)轉ジテ、唯、大軍ノ意ニ用ヰラル。 論語、子罕篇「三軍可レ奪レ帥也、匹夫不レ可レ奪レ志也」[illegible]軍勢ノ盛ンナルモノモ、破リテ、其將ヲ奪フベシ、一人ノ志ハ、守ル所、堅固ナレバ、奪フコト能ハズ」

さんぐん (名) 參軍 支那ニテ、軍府ノ事務ニ參與スル官。 事物紀原[illegible]云、參軍[illegible]後漢末[illegible]云云[illegible]州刺史[illegible]此其始也」[illegible]職官志「[illegible]參軍、爲ニ六人ニ」

さんくゎ (名) 産科 醫術ノ一科、專ラ、婦人ノ産(サン)ニ關(カカ)ルモノ。

さんくゎ (名) 山果 〔野生ノ果ノ意カ、五果ト云フハ、其上等果ナルガ如シ〕 本草綱目ニ、果類ヲ分類スル語、棗、木瓜、柿、枇杷、楊梅、銀杏、胡桃、ノ類ヲ云フ。(五果ニ對ス) [illegible]山果[illegible]正月對花[illegible]

さんくゎ (名) 酸化 化學ノ語。酸素ト、化合スルコト。

ざんくゎ (名) 殘花 咲キ殘レル花。ノコンノ花。 杜甫、送ニ辛員外ニ詩「細草留ニ連坐ニ、殘花悵ニ望近ニ人開ニ」

さんくゎい (名) 三槐 〔支那、三代ノ周ノ世ニ、外朝ニ槐(ヱンジュ)ヲ三株、植エタルニ、三公ハ、コレニ向ヒテ班列シタルヨリ云フ、三公ヲ、槐門トモ云ヒ、大臣ニ任ズルヲ、任槐ト云フ、九棘(キウキョク)ノ條、見合ハスベシ〕 三公ノ唐名(カラナ)。又、槐門。 周禮、秋官篇、朝士「面ニ三槐ニ、三公、位焉」 後漢書、袁紹傳、上書「使ニ三槐九棘、議ニ臣罪戾ニ」(三公九卿ナリ) [illegible]朝士掌ニ朝之法、左、九棘、孤、卿、大夫位也、群臣在ニ其後ニ、右、九棘、公、侯、伯、子、男之位也、群吏在ニ其後ニ、面ニ三槐、三公之位也、州長衆庶在ニ其後ニ」 拾芥抄、中、本、官位唐名「大臣、槐門、三槐」

さんくゎい (名) 參會 マキリ、アフコト。寄合ニ、出會フコト。 李尤、德陽殿賦「[illegible]」 保元物語、一、[illegible]「[illegible]」「六道ノ辻ニテ、必ズ參會奉ルベク候」

さんくゎい (名) 散會 集會(ツドヒ)ノ、散(チ)クルコト。寄合、果テテ、人人ノ、歸リ去ルコト。

ざんくゎい (名) 慚悔 過失(アヤマチ)ナドヲ、慚(ハ)ヂ悔ユルコト。 後漢書、曾恭傳「亭長乃慚悔還ニ牛ニ」

さんくゎいき (名) 三回忌 くゎいき(回忌)ノ條ヲ見ヨ。大祥

さんくゎう (名) 三皇 〔くゎうてい(皇帝)ノ語原ヲ見ヨ〕 支那、上代ノ、三人ノ帝王、伏羲、神農、黄帝、ノ稱(孔安國、尚書序) コレニ次ゲル、少昊、顓頊、高辛、唐堯、虞舜ヲ、五帝ト云フ、(三皇、五帝ニハ、尚、異說アリ)皆、神聖ナル人トス。秦ノ始皇ハ、三皇、五帝ヲ兼ネタリトテ、自ラ、皇帝ト稱セリ、皇帝ノ稱、此ニ起ル。 周禮、春官篇、外史「掌ニ三皇五帝之書ニ」

さんくゎう (名) 三光 (一)ミツノヒカリ。日ト、月ト、星ト、ノ稱。 白虎通「天有ニ三光、日月星」 (二)參(カラスキボシ)宿ノ中ノ、三ツノ星ノ名。 物類稱呼(安永)一「參、さん、カラスキボシ、中星ノ横ニツラナリタル、三ノ星ヲ、江戸ニテ、三光ト云ヒ、又、三ツ星ト云フ」 (三)飼鶯ノ鳴聲ニ云フ語。 正章千句(慶安)「鶯モ、三光ノ御代ヲ、初音カナ」(前條ノ語ノ、三皇ニカケタリ) 雅筵醉狂集(享保)「鶯ノ、月日星ト鳴クヲ、三光ト稱スルナリ」 雲山雜談(寛保、三十輯)「三鶯ノ雛ニ、笛ヲ聞カシテ、三光ヲ囀リ、猿ヲ教フレバ、舞ヲマフ、人ノ子ニ、教ヘザル理アラムヤ」

さんくゎうせき (名) 三光石 造庭ノ組石ニ云フ語。石ヲ、日、月、星ニ、象リ、三箇、組合ハセテ、居(ス)ヱツケタルモノ。小樹木ナドヲ、根締(ネジメ)トス。

さんくゎうてう (名) 三光鳥 (一)鳥ノ名、深山ニ棲ム、其聲、月日星(ツキヒホシ)(三光)ト云フガ如シ、形、鵯(ヒヨドリ)ヨリ小サク、頭、白ク、額ヨリ、頬ノ下、喉ニ至ルマデ、黒キ毛アリ、腹、白ク、背ハ、淡紫色ニシテ、翅ハ、淡藍色ニ、白斑ヲ雜フ、尾ハ、二羽、甚ダ長ク、一尺餘アリ、淺藍色ニシテ、端ハ、白シ、嘴、尖リテ、赤ク、目ハ、黄赤ニシテ、邊、薄赤ク、脚、赤ク、爪、黄ナリ。 山鵲 本朝食鑑(元祿)六、林禽「三光鳥、狀似ニ山鵲ニ而小、云云、其聲[illegible]如ニ言ニ日月星ニ、故里俗謂ニ三光鳥ニ」 重修本草綱目啓蒙(享和)三十三、山禽「山鵲、サンジャク(通名)、三光テウ(伯州)、深山ニ棲ミ、[illegible]其聲、月日星ト云フガ如シ、云云」 (二)桑鳫(マメマハシ)ハ、月星トノミ鳴

ケドモ、亦、三光鳥ノ異名アリ。（嬉遊笑覧、十二、上）

さん-くゎく（名）【參畫】參與シテ、計畫スルコト。元稹詩「參二畫戎旃一」

さん-ぐゎつ（名）【三月】年ノ、第三ニアタル月。彌生。季春。

さんぐゎつ-しばゐ（名）【三月芝居】古ヘ、三月ニ興行スル芝居ノ稱。又、三の替りトモ云フ。守貞漫稿、後集、二「三月興行、俗ニ、三月芝居ト云フ、蓋、京阪ニテハ、三の替りト云フ、江戸ニテ、三月芝居ト云フ」劇場新話、上「芝居年中行事、三月三日、新狂言ニ替ハル、尤モ、曾我狂言ニ、番目也、是レヲ、三の替りト云フ、顔見セ狂言ヲ始メトシテ、春狂言ハ、二ノ替リ也、夫レ故、此ノ替リヲ、三の替りト云フ也」

さんぐゎつ-じん（名）【三月盡】三月ノ、終リノ日、陰暦ニテ、春ノ極ナリ。小三月盡ト云フハ、三月ニ晦日アルガ故ニ、廿九日ヲ指ス、小ノ月ナラバ、廿八日ヲ云フベシ。（松屋筆記、九、廿七）白氏文集、廿二、三月三十日作、今朝三月盡、寂莫春事畢、黃鳥漸無聲、朱櫻新結實、云云」林葉集（俊頼ノ子、俊惠）一、春、小三月盡ノ心ヲ「誰ガタメニ、カタミニ明日ヲ、トドメオキテ、今夜ハ春ノ、立チカヘルラム」

さんぐゎつ-だいこん（名）【三月大根】（陰暦ノ三月ナリ）大根ノ一種、秋ノ末ニ、種ヲ下シテ、春ノ末ニ、根ヲ取ルモノ、專ラ、春ノ末ノ食用トス、根、小サク、細長ク、白クシテ、皮、厚シ。楊花蘿蔔

さんぐゎつ-ていきん（名）【三月庭訓】學習ニ倦ミヤスキヲ云フ語。庭訓往來ノ十二箇月ノ往復書狀ヲ手本トシテ、手習スル者ノ、三月ノ文ノアタリニ至リテ、止ムルヲ云フ。又、三月庭訓公冶長ト云フハ、論語、廿篇ノ講義ヲ聽ク者ノ、第五ノ公冶長篇ニテ、止ムルヲ云フ。又、須磨源氏ト云フハ、源氏物語五十四帖ノ第十二ノ須磨ノ巻ニテ止ムルヲ云フ。春秋左氏傳三十卷ヲ、隱公、桓公、莊公、閔公、僖公（次ニ、尚、七公アリ）ニ至リテ止ムルヲ、左傳僖公ト云フモ、此類ナリ。俚言集覽、三月庭訓公冶長「コレハ、倦ミヤスキ人ノ、庭訓往來ヲ手習フニ、三月ノアタリニヤメ、論語ハ、公冶長ノ篇ニテ止メルヲ云フ、又、三月庭訓須磨源氏トモ云フ」

ざんくゎ-の-ちゃくゎい（名）【殘火茶會】茶會ノ一、此茶事ハ、茶會ノ設ケアリシ事ヲ聞キテ、客ノ、來リテ、其火ノ殘リニテ、一服ト、望ムナリ、火コソ、殘火ナレ、此客ニハ、前ノ茶會ニ出シタル諸道具ヲ、改メ變ヘテ出ス。南方錄、二、殘火會「誰レニテモ、會スルヲ問合セ、功者ノ亭主ヘ、殘火所望ノ事アリ、口傳、多シ、未熟ノ人、成リガタキ事也（古事類苑）

さん-くゎん（名）【三觀】三諦三觀ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、三、一院女院嚴島御幸事「今世拂二友氣於三觀之窓一、來世證二妙果於一佛之土一」

さん-くゎん（名）【三管】（竹ニテ造レバ、云フ）雅樂ニ用キル樂器ノ、笙、篳篥、笛、ノ總稱。又、倭琴、琵琶、箏ヲ、三絃ト云ヒ、太鼓、羯鼓、鉦鼓ヲ、三鼓ト云フ。（樂家錄、廿五）

さん-くゎん（名）【三關】（關ノ條ヲ見ヨ）上古、伊勢國、鈴鹿關、美濃國、不破關、越前國、愛發關、ノ稱。後、帝都ノ、山城國ニ移ルニ及ビ、愛發ヲ除キテ、近江國、逢坂關ヲ加ヘラル。皆、兵士ヲシテ、非常ヲ守ラシメ、國司、コレヲ監シ、固關、開關、等ノ事アリキ。軍防令、義解、三關者、謂二伊勢鈴鹿、美濃不破、越前愛發等一是也」名目抄「三關、今坂、鈴鹿、不破、固關之時、此三關也」

さん-くゎん（名）【三澣三浣】（韻會「澣、音緩、濯二衣垢一也」集韻「浣、音換、濯二衣垢一也」三澣ハ、三度、洗濯スルナリ、唐書、柳公權傳「文宗帝稱二漢文帝恭儉一、因舉レ袂曰、此三澣、學士皆賀」又、髮ヲ洗フ意ニモ云ヒ、支那ノ唐ノ世ニ、官吏ニハ、十日ニ、一日、休暇ヲ賜ハリテ、沐ス、因リテ、十日間ノ稱トナル、康熙字典「俗以二上澣、中澣、下澣一、爲二上旬、中旬、下旬一、楊愼曰、本、唐官制、十日一休沐、今襲二用之一、或省作レ浣」）月ノ初一日ヨリ十日ニ至ルヲ、上澣ト云ヒ、十一日ヨリ廿日ニ至ルヲ、中澣ト云ヒ、廿一日ヨリ三十日ニ至ルヲ、下澣ト云ヒ、コレヲ統べテ、三澣ト云フナリ。又、上浣、中浣、下浣トモ云フ、上旬、中旬、下旬ト云フニ、同ジ。

さん-くゎん（名）【散官】（散ハ、閑散ノ散、散位、見合ハスベシ）掌ル所ノ職務ナキ官ノ稱。（職事官ニ對ス）通鑑、唐玄宗紀、注「散官無二職掌一」公式令、義解「凡、內外諸司、有二執掌一者、爲二職事官一、无二執掌一者、爲二散官一」

さん-くゎん（名）【山館】山中ノ旅館。韋應物詩「山館夜聽ㇾ雨」太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚事「道スガラノ山館、野亭ヲ御覽ゼラルルニモ」

さん-くゎん（名）【參館】訪問ノ敬語。參堂。「明日、參館可レ仕候」

さん-くゎん（名）【參觀】マキリテ、ミルコト。參看。「學校ノ授業ヲ參觀ス」

さんくゎん-あめ（名）【三官飴】「支那ノ陳三官ト云フ者ノ傳ヘタルモノト云フ、明人ナリトゾ、三官ハ、支那ノ俗語ニテ、三男ノコトナリト云フ、九官鳥ノ類ナリ」飴ノ名。支那人ヨリ、製法ヲ傳ヘタルモノ。紫一本（天和）下、菓子「芝ノ、陳三官ノ唐飴」江戸總鹿子（貞享）六「唐飴、芝、田町三町目、陳三官」

さんくゎん-りゃう（名）【三管領】次條ノ語ニ同ジ。

さんくゎん-れい（名）【三管領】足利時代、幕府ノ管領ノ職ヲ、世襲スル家ノ稱、卽チ、斯波氏、細川氏、畠山氏、ナリ、管領ノ條ヲ見ヨ。南朝紀傳、下「應永五年、義滿公、定二武家三職一云云、所レ謂三職、斯波、細川、畠山、號二三管領一」合類節用集（元祿）十、數量門 室町三管領、武衛、畠山、細川」（武衛ハ、斯波氏ナリ）

さむ-け（名）【寒氣】（一）寒キホド。サムサ。（二）寒サニ、身ヲ侵サルルコト。風邪ニ感ズルコト。惡感「風邪ヲ引イタカ、さむけガスル」

さん-け（名）【產氣】胎兒ノ、生マルベキケハヒ。產ノ氣。陣痛 盛衰記、四十三、神功皇后攻二新羅一事「異賊ヲ從ヘ、本朝ニ歸テ、誕生シ給ヘト宣命シ給ケレバ、御產氣止テ、異國ヘ渡リ給シニ」「產氣ヅク」

さん-け（名）【山家】比叡山、延曆寺ノ別稱。又、山門。（三井寺ヲ、寺門ト云フニ對ス）延曆寺ノ開基、傳教大師ヲ、山家大師ト稱シ、其忌日ノ法會ヲ、山家會ト云フ。（每年六月四日）

さん-け（名）【三家】（一）公家ノ、中院家、閑院家、花山院家ノ稱。太政大臣マデ

昇ルベキ家筋ナリキ。[illegible]一、常ト[illegible]三[illegible]門、堀川、中[illegible]、三[illegible]ナドナル也)、花山、大炊御門ナドノ一流ノ人人、賢才ニヨリ、宿老ノ後ナル也、人臣ノ極官ニテアル也、中院、閑院、花山ノ三家ト云フ[illegible]ハ、三家ノ人ハナ云フ也」[illegible]、閑門、英雄三家、閑院、久我、花山院」(二)徳川幕府ニテハ、其近親ナル支家ノ、尾張、紀伊、水戸ノ三徳川氏ノ稱、皆、宗家ノ子ヨリ出デ、尾張家ハ義直、紀伊家ハ頼宣、水戸家ハ頼房ヲ祖ト[illegible]、宗家ニ次ギ、テ、大名中ノ首位ニ居タリ[illegible]、尾州、紀州、水戸「右、稱ニ御三家ハ長子タル人ハ、[illegible]」

さんげ (名) ［散華］ 佛教ノ法會ニ行フ儀式ノ一、[illegible]ニテ作レル、五色ノ[illegible]ヲ、散杖、華籠ニ盛リ、[illegible]、行道シツツ、蒔キ散ラスナリ [illegible]

サンげ (名) ［懺悔］ 〔さんハ、梵語 Ksa-ma ヲ上略シ音譯シタル懺摩ヲ、又、下略シタル語、漢語ニテ、悔過ト譯ス、懺悔ト云フハ、梵漢、雙擧ナルコト、禪定ノ如シ、げハ、悔ノ呉音〕 佛教ノ語。過去ノ罪[illegible]、佛、菩薩、師長、衆人ニ對シテ、顯ニ陳述スルコト。佛教道德ノ上ニ、重要ナルコトトセラレ、罪障ノ消滅ハ、コレニ依リテ得ラルルコトトセリ。訛リテ、ざんげ。コレニ因リテ、罪[illegible]ヲ後悔シ、打チアケテ人ニ告グル

ヲ、懺悔話ナド云フ。僧家ニテ讀誦スル懺悔文アリ [illegible]所生一切我今皆懺悔」觀無量壽經、一「今向三世尊」五體投レ地、求レ哀懺悔」 金槐集、下「塔ヲクミ、堂ヲ造ルモ、人ナゲキ、さんげニマサル、功德ヤハアル」

ザンげ (名) ［懺悔］ 前條ノ語ノ訛。「ざんげニ罪ガ消エル」

さんけい (名) ［三景］ 日本三景。日本ノ中ニテ、最モ勝レタル、三所ノ景色。即チ、陸前國ノ松島、安藝國ノ嚴島、丹後國ノ天橋立ノ稱。 合類節用集(元祿)十、數量門 [illegible]

さんけい (名) ［三徑］ 支那、晉ノ陶淵明ガ庭園中ニアリシ、三筋ノ徑ニ就キテ云フ語 淵明ガ、他所ニテ官ヲ辭シテ、家ニ歸レル時ノ歸去來辭ニ「三徑就レ荒、松菊猶存」トアルヨリ、隱逭、又ハ、推近セシ人ノ居ニ云フ。 合類節用集(元祿)十、數[illegible]

さんけい (名) ［山徑］ 山中ノ、コミチ。[illegible]

さんけい (名) ［山系］ 一ツノ山脈ノ系統。「富士山系」北上山系」

さんけい (名) ［山鷄］ ヤマドリ。 倭名抄、十八羽族名、山鷄、夜萬土利」

さんけい (名) ［參詣］ モノマウデ。神佛ヲ拜ミニ行クコト [illegible]

さんけい (名) ［慘刑］ ムゴタラシキ、シキ[illegible]慘酷ナル刑罰。

さんげい (名) ［狻猊］ 〔韻會「狻、蘇官切、音狻」〕獅子ニ同ジ。カラシシ [illegible]狻猊、日走五百里」

ざんけい (名) ［斬刑］ ウチクビ。斬首ノ刑罰。斬罪。 保元物語[illegible]花山院ヲ射奉リシカバ、罪、既ニ斬刑ニ當ルヨシ、法家ノ輩、[illegible]

さんけう (名) ［三教］ (一)支那ニテ、儒教、道教、佛教ノ稱。 文中子[illegible]俗[illegible]道[illegible]三教、所レ謂、儒、老、釋、「儒、老、釋」(老ハ、老子、即チ、道教、釋ハ、佛教) 孔、之敎也」(孔ハ、孔子、儒教) (二)我ガ國ニテハ、神道、儒教、佛教ヲ云フ。

さんけう (名) ［棧橋］ カケハシ。棧道。

さむけ・き (形) ［寒］ さむけしヲ見ヨ。

さむけ・く (形) ［寒］ 次次條ヲ見ヨ

さんげ・サンげ (名) 慚愧懺悔ノ訛、慚愧ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さむけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 寒 「寒氣」寒氣ヲ活用セシム(清氣し、靜氣し)」 寒氣ナリ。寒キ狀セリ [illegible]三吉野ノ、山下風ノ、寒久ニ、ハタヤ今夜モ、我レ獨寐ム」拾遺集、廿、哀傷、思ヒキヤ、秋ノ夜風ノ、寒けきニ、妹ナキ床ニ、獨寐ムトハ」 詞花集、八、戀、下「淺茅生ニ、今朝置ク露ノ、寒けくニ、離レニシ人ノ、ナゾヤ戀シキ」千五百番歌合、千十五番「さむけしヤ、晉ハヌ鶴ノ、夜ヲ重ネ、霜ニ片敷ク、鶴ノ毛衣」

さむけ・だ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) ［寒氣立］ 身ニ、甚シク寒氣ヲ感ズ、サウケダツ 「さむけ立つホド、物凄シ」

さんけつ (名) ［參決］ 決議ニ、參與スルコト [illegible]

さんけつ (名) ［三傑］ 三人ノ、傑レタル者 支那ノ前漢ノ高祖ノ臣、張良、蕭何、韓信、三人ノ併稱 史記、高祖紀「此三者、皆、人傑也、吾能用レ之、此吾所三以取二天下一也」又、支那ノ三國ノ蜀ノ昭烈帝ノ臣、諸葛亮、關羽、張飛、ヲモ云フ。合類節用集(元祿)十、數量[illegible]

さんげつ (名) ［三月］ 三月ニ同ジ。年ノ第三ノ月 [illegible]

さんげつ (名) ［三月］ ミツキ。三箇月。 [illegible]

さんげつ (名) ［產月］ ウミガツキ。ウミヅキ。臨月。

ざんけつ (名) ［殘缺］ 〔康熙字典「殘、缺也」〕 損ジ、缺ケタルコト。 [illegible]

ざんげつ (名) ［殘月］ 「殘菊、殘霞ノ類」 曉ニ、入リ殘リタル月。殘ンノ月。有明ノ月。 [illegible]

サンげばなし (名) ［懺悔話］ 懺悔ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

さんけふ (名) ［三峽］ 〔峽、呉音、けふ〕 支那ノ蜀ノ地ニ、江水、山間ヲ經流シテ、三處ノ峽アルヲ云フ、幽邃、奇絶ニシテ、詩ニ賦セラル 左思、蜀都賦「經三三峽之崢嶸」」

注「三峡、在二巴東永安縣一、謂二西陵峡、歸郷峡、巫峡一也」錦字箋「巫峡、瞿唐峡、歸峡、世稱二三峡一、連亙七百里、重巖疊嶂、隱二蔽天日一、非二亭午夜分一、不レ見二日月一」李白、峨眉山月歌「峨眉山月半輪秋、影入二平羌江水一流、夜發二清溪一向二三峡一、思レ君不レ見下二渝州一」杜甫詩「五更鼓角聲悲壯、三峡星河影動搖」水經注、漁者歌「巴東三峡巫峡長、猿鳴三聲淚沾レ裳」合類節用集(元祿)十、數量門「三峡、巴峡、巫峡、明月峡」

さんげふ (名) 〔蠶業〕 養蠶ノ事業。「蠶業講習所」

さんげふ (名) 〔産業〕 ナリハヒ。渡世ノ仕事。人民ノ生産事業。農業、牧畜、漁獵、森林、鑛業、工業、商業、等ナリ。韓非子、解老篇「外不レ事レ利二其産業一」續紀、二、大寶元年九月「遣レ使諸國一、巡二省産業一、賑二恤百姓一」靈異記、中、第十六縁「飢彼之者、不レ能レ營レ農、令レ保二産業一」訓釋「産業、ナリハヒ」太平記、十五、俵藤太事「産業ノ財ナレバトテ、是ヲ倉ニ收ム」「産業組合」

さんげふ-くみあひ (名) 〔産業組合〕 生産組合、販賣組合、購買組合、信用組合ナドノ總稱。數人、組合ヒテ、官ノ許可ヲ得テ、設立ス。

さんけん (名) 〔散見〕 アチラコチラニ、見ユルコト。往往、見ルコト。「其事蹟、諸書ニ散見ス」

さんけん (名) 〔鑽研〕 研鑽ニ同ジ。後漢書、郎顗傳「君子之道、鑽研勿レ替、敬二愼威儀一、以近二有德一」

さんけん (名) 〔三賢〕 三蹟ノ條ヲ見ヨ。

さんげん (名) 〔三元〕 (一)正月元日ノ異稱。三始ノ條ヲ見ヨ。(二)上元ト、中元ト、下元ト。ぢやうげん(上元)ノ條ヲ併セ見ヨ。

さんげん (名) 〔三絃〕 〔三種ノ絃器〕倭琴、琵琶、箏、ノ總稱。さんくゎん(三管)ノ條ヲ併セ見ヨ。

さんげん (名) 〔三絃〕 (一)支那ノ樂器。其製、詳カナラズ、琵琶ノ如キモノナルベシ、渾不似ノ條ヲ見ヨ。又、三絃子。絃、三筋ノモノ。敎坊記(唐崔令欽)「平人女、以二容色一選入レ内者、敎二習琵琶三絃一」楊升庵外集、廿一「今之三絃、始レ於元時一、小山詞云、三絃玉指、雙鉤草字、題贈玉娘兒一」俚言集覽、三味線「淸沈純中、西湖竹枝詞、抱レ得三絃一馬上彈、餘音飛繞碧雲端」事物異名「三絃子、胡不兒」(二)三味線ノ條ヲ見ヨ。

ざんげん (名) 〔讒言〕 〔讒口ハ、讒言ニ同ジ、口ハ、詞ナリ、言ナリ〕 シコヅルコト。ヨコスコト。ササヘゴト。人ノ善ヲ、惡トシテ、他ニ告グルコト。ザウゲン。又、讒口。書經、盤庚、下篇「爾無二共怒協比、讒二言予一人一」詩經、小雅、祈父之什、十月之交篇「黽勉從レ事、不二敢告一レ勞、無レ罪無レ辜、讒口囂囂」下學集(文安)下、態藝門「讒言」合類節用集(元祿)九、言辭門「讒言、讒口」盛衰記、十九、文覺發心事「何人ガ、如何ニト讒言シタレバ、カク憂キ振舞ヲバシ給フゾ」

さんげんは (名) 〔山元派〕 〔初ハ、同國、山元村ニアリキ、山元山證誠寺ノ勅號ヲ得タリト云フ〕佛敎、眞宗ノ一派。越前國、今立郡、新横江村、横越ノ證誠寺ヲ、本山トスルモノ。

さんげん-みづ (名) 〔三閒水〕 〔閒トハ、柱ト柱トノアヒダヲ云フ〕ミツマノミヅ。山城國ノ宇治橋ノ下ニテ、汲取ル川水、淸クシテ、點茶ニ佳シト云フ。行嚢抄(元祿)南遊、一、宇治橋「世ニ、三閒水ト稱スルハ、此橋ノ西ノ方ヨリ、第三ノ橋柱ノ閒ニテ汲ムヲ云フ、其流水、至テ淸シ、點茶ノ人、必ズ汲ム」

サンげもん (名) 〔懺悔文〕 懺悔ノ條ヲ見ヨ。

さんけゑ (名) 〔山家會〕 山家ノ條ヲ見ヨ。

さんこ (名) 〔山呼〕 〔支那ノ嵩山ニテ、始メテ呼ビシナリ〕 萬歳ト呼ビテ、天子ヲ賀スルコト。事物紀原「後人以レ呼二萬歳一爲二山呼一者、蓋起レ於二漢武時一、按、前漢武帝本紀曰、元封元年正月登二嵩高一、御史乘屬在二廟傍一、吏卒咸聞レ呼二萬歳一者三一、迄レ今、三呼以爲レ式、而號二山呼一也」合類節用集(元祿)八、言辭門「呼二萬歳一、秦世以來例、書言故事、臣民呼二萬歳一曰二山呼一、出二漢書一」朗詠集、下「萬代ト、三笠ノ山ゾ、呼ブナル、天ガ下コソ、樂シカルラシ」

さんこ (名) 〔三顧〕 高貴ヲ屈シテ、屢、親シク、偉人ヲ訪問スル意ニ云フ語。諸葛亮、前出師表「臣本布衣、躬耕二於南陽一云云、先帝不下以二臣卑鄙一、猥自枉屈、三二顧臣於草廬之中一、諮二臣以當世之事一、由レ是感激、遂許二先帝以驅馳一」

さんこ (名) 〔三鈷〕 こんがうしよ(金剛杵)ノ條ヲ見ヨ。

さんこ (名) 〔三鼓〕 (一)さんくゎん(三管)ノ條ヲ見ヨ。(二)さんのつづみニ同ジ、つづみ(腰鼓)ノ條ヲ見ヨ。

さんご (名) 〔三五〕 〔三五の十五ナリ〕 (一)陰暦ノ一箇月中ノ、十五日。月ノ盈虧ニ云ヒ、十五夜ノ滿月ニ云フ。禮記、禮運篇「和而后月生也、是以、三五而盈、三五而闕」文選、古詩「三五明月滿」劉孝綽詩「明明三五月」萬葉集、二三十長歌「鏡ナス、見レドモ飽カズ、三五月ノ、彌珍シミ」同、十三八廿長歌「十五月、湛シケムト」(二)特ニ、陰暦八月十五日。其夜ノ月、卽チ、中秋ノ月ニ云フ。白氏文集、八月十五日夜、禁中獨直、對レ月憶二元九一(元稹、微之)「銀臺金闕夕沈沈、獨直相思在二翰林一、三五夜中新月色、二千里外故人心」云云(新月ハ、鮮月ノ義、三日月ニハアラズ)

謝靈運詩「與レ我別所レ期、期在二三五夕一」

さんご (名) 〔三五〕 〔ココニ三つ、カシコニ五つノ意、三三五五ハ、三五三五ト、重ネテ云フナリ、奇妙奇妙ヲ、奇奇妙妙ト云フガ如シ〕 マバラナルコト。チラバリテアルコト。又、三三五五。詩經、國風、召南、小星篇「嘒彼小星、三五在レ東」傳「嘒、微貌」李白詩「岸上誰家遊冶郎、三三五五映二垂楊一」黃庭堅詩「白白紅紅相間開、三三五五踏レ靑來」

さんご (名) 〔珊瑚〕 海中ニ棲ム珊瑚蟲ト稱スル小蟲ノ羣體ノ作レル、中軸骨格ノ名。海底ノ石ニ着キテアリ、其狀、枯木ノ幹枝ノ如シ、大ナルハ二三尺許、幹ニテ、玉ヲ作ルヲ、珊瑚珠(其條ヲ見ヨ)、又、珊瑚トノミモ云フニ因リテ、幹枝ナガラナルヲ、珊瑚樹、又、枝珊瑚ト云ヒテ、別ツ。史記、司馬相如傳「玫瑰碧琳、珊瑚叢生」文選、司馬長卿、上林賦、郭璞、注「珊瑚、生二水底石邊一、大者樹高三尺餘、枝格交錯、無レ有レ葉」世說、汰侈篇「石崇與二王愷一爭レ豪、武帝、愷之甥也、嘗以二一珊瑚樹高二尺許一賜レ愷、愷以示レ崇、崇命二左右一悉取下珊瑚樹有二三尺四尺一者六七枚上、如二愷比一甚衆」(節文)太平記、廿五、自二伊勢一進二寶劔一事「海底ニ生フルナル、珊瑚樹ノ枝カナンド思ヒテ」

さんご (名) 〔産後〕 産前ヲ見ヨ。

さんこう (名) 〔參候〕 (一)マヰリ、ウカガフコト。參向シ、伺候スルコト。後漢書、郎顗傳「遣レ人參候、果如二其言一」(二)宮内省、御歌所、奏任官待遇ノ職員、寄人ノ次ナリ、歌詠ノ事ヲ掌ル。

さんこう (名) 〔三公〕 〔三公九卿ノ條ヲ見ヨ〕 太政大臣、左大臣、右大臣ノ稱。又、三台。三槐。槐門。職原抄、上、太政官「太政大臣、左大臣、右大臣、已上、謂二之三公一」

さんごう (名) 〔三后〕 三宮ヲ見ヨ。

ざんこう (名) 讒口 讒言ノ條ヲ見ヨ。

ざんこう (名) [illegible] [illegible]ヲ、カマフルコト。[illegible]

さんこうきうけい (名) 三公九卿 (一)支那ノ三代ノ周ノ世ノ官ニ、太師、太傅、太保ヲ、三公ト云ヒ、少師、少傅、少保、ヲ三孤、又ハ、三少ト云ヒ、冢宰、司徒、宗伯、司馬、司寇、司空、ヲ六卿ト云ヒ、三孤ト合ハセテ、九卿ト云フ。秦ニハ、丞相、太尉、御史大夫、ノ三職アリ、前漢ニハ、大司徒、大司馬、大司空、ヲ三公トス、後漢ニハ、太尉、司徒、司空、ナリ唐モ亦、同ジ。 書經、周官篇「立二太師、太傅、太保一 [illegible]」 禮記、王制篇「天子三公九卿、二十七大夫、八十一元士」 (二)我ガ國ニテ、三公ト云フハ、太政大臣、左右大臣ニテ、九卿トハ、三公ノ外、參議三位以上ヲ云フ、各條ヲ見ヨ。公卿ト云フ語ハ、三公九卿ヨリ起レリ。 [illegible] 八年九月、[illegible]セラレタリ。

さんこく (名) 慘酷 〔廣韻「酷、虐也」「慘、毒也」〕 ムゴク、手ヒドキコト。強ク、シヘタグルコト。殘酷 [illegible]

さんごく (名) 三國 (一)日本ト、唐土ト、天竺トノ稱。[illegible]「三國傳來シテ」「三國傳來金毛九尾ノ狐」「三國相傳」「三國一」 (二)支那ニテ、後漢ノ世ノ後、國内、三分シ、北ニ魏國(曹操)、西ニ蜀國(劉備)、南ニ呉國(孫權)ト、併立シタル、四十餘年間ノ世ノ稱。(我ガ神功皇后ノ御代ニ當ル)晉ノ陳壽ノ、此間ノ事ヲ記シタル歷史ヲ、三國志ト云フ。(三)三箇國。[illegible]

ざんこく (名) 殘酷 苛酷ニシテ、慈悲無キコト。慘酷 [illegible]

さんごくいち (名) 三國一 〔世一、天下一、日本一ナド、同趣ノ語〕 (一)日本、唐土、天竺ニ亙リテ、第一ナルコト。義經記、八、「判官兄弟御中事「三國一ノ剛ノ者ト云ハレシゾカシ」 [illegible] 吉田村渓口ニ、三國第一ノ山ト、勅額カカリアル也、鳥居ノ高サ四丈三尺也」 狂言記、花子「花子ノ美貌ナルコト「唐土、天竺、我ガ朝、三國一ヂャヨノ」 寛永發句帳「[illegible] 三國一ヤ、雲ノ月」 小町踊(寛文、ちらし、九月十三夜 月ハ誰レ、三國一ノ、いもト妹」(芋名月ニカケタルカ) 俚言集覽「三國一トテ、婚儀ノ時ノ謠アリ」 (二)甘酒ノ異名 昔敗ニ、富士山ヲ畫キテ、三國一ト記ス、富士山ハ、一夜ニテ成レリト云フ傳說ヲ、甘酒ノ、一夜作リナルニ寄セタル謎ナリ。 [illegible]

さんごくざむらひ (名) 三石侍 さんぴん(三一)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さんごくし (名) 三國司 足利時代ニ、公家ヨリ出デテ、地方ノ主トナリ、國司ト稱シ居タリシ三家。伊勢國ノ北畠氏、飛驒國ノ姉小路氏、土佐國ノ一條氏ナリ。[illegible]

さんごじゅ (名) 珊瑚珠 珊瑚ノ枝幹ヲ磨キテ珠トシタルモノ、[illegible]トシ、簪ニツケ、其他、種種ノ形ニ作レルモノ、裝飾品トシテ、珍重セラル。往時、珊瑚ハ、地中海ノ特產トシテ、伊太利國ニテ彫刻シテ、輸出セリ、我ガ國ニテ、古渡ト云ヒ、支那ノ亞媽港ヲ經テ來レバ、あまかはナド稱シタル、色、淺紅黃ニシテ、光アルモノ、貴重セラレキ、地中海ナルハ、今ハ、濫獲ト、海底地震ノタメニ、質モ劣リ、獲量モ減ジタリ 明治十年頃ヨリ、我ガ國ノ土佐ノ海、肥前ノ五島、其他、南海、處處ノ沖合ニテ採ルコト、盛ンニナリ、六十尋、乃至、百尋ノ海底ニ、網ヲ曳キテ、得ルナリ、今ハ、上等ナル珊瑚ヲ産ズルハ、世界中、我ガ國ニ限ルヤウニナリ、原料ハ、悉ク、伊太利ヘ送ラレ、加工セラレテ、再ビ輸入ス。珠ノ理ノ輪ガ、伊太利ノ原産ナルハ、横ニアルニ、我ガ産ナルハ、上下ナリ、色ニハ、桃色珊瑚、赤珊瑚アリ、(深赤ナルハ、血玉ト云ヒテ、下品トス)白珊瑚モアリ。 [illegible] 赤玉、出二於海底山中一也」

さんごじゅ (名) 珊瑚樹 エダサンゴ。珊瑚ノ條ヲ見ヨ。

さんごじゅ (名) 珊瑚樹 〔珊瑚珠の木ト云フ、實、赤クシテ、珊瑚珠ノ如シ〕 喬木ノ名。高サ三丈餘、圍三尺ニ及ブ、暖地ノ種ナリ、葉ハ、橢圓ニシテ、長サ三四寸、厚クシテ、深綠ナリ、夏、枝頭ニ、細小白花、簇リ開ク、實ハ、橢圓ニシテ、長サ三分許、色、赤シ。又、木珊瑚。 [illegible] 漢三才圖會、八十四「珊瑚樹、[illegible] 冬青子一而赤」

さんごじゅな (名) 珊瑚樹菜 〔朝鮮大根ノ名モアレバ、外來種ナルベシ〕 たうぢさノ一種ニシテ、莖ト、葉脈トハ、紅紫ナリ、花、實モ、たうぢさニ異ナラズ、根ハ、小サキだいこんノ如ク、外、紅ニシテ、切レバ、紅白ノ渦アリ、故ニ、うづだいこんトモ云フ、食用トス。一名、アカヂサ、火焔菜 [illegible]さんごじゅな、[illegible]ニテ、あかぢさト云ヒ、江戸ニテ、たうぢさト云フ(東京ニテハ、赤カラズシテ、[illegible])アルヲ、唐ぢさト云ヒ、赤キヲ、あかぢさト云フ)

さんごせう (名) 珊瑚礁 〔英語、(Coral reef)ノ譯語〕 珊瑚ノ石灰質骨格ニテ成レル、海中ノ岩礁、他ノ動物ノ介殼ヲ混ズ、島ノ岸ニ沿ヒテ成レルヲ、岸礁ト云ヒ、海中ニ、大ナル輪ヲ成シタルヲ、環礁ト云フ。

さんこつ (名) 山骨 山ノ、土沙、落チテ、骨ノ、露出スルコト。又、其所 [illegible]

さんごのつき (名) 三五月 三五ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さんこのまつ (名) 三鈷松 〔弘法大師、入唐ノ時、其持テル三鈷、自ラ飛行シテ、高野山ニ落ツ、三鈷の松ハ、其落チタル地ナリト云フ俗傳アリ〕 松ノ一種。一蔕ニ、葉ノ、三ツヅツナルモノ、紀伊國、高野山ニアリト云フ。三針松 三鬣松

さんごのゆふべ (名) 三五夕 三五ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さん-ごふ (名) 三業 佛說ニ、身業ト、口業ト、意業ト。身、口、意、ニテ作ル業果。齋東俗談、加持「佛氏、身口意爲二三業一」太平記、廿、結城入道墮二地獄一事「三業ヲ靜メテ、此ノ經ヲ讀誦候ベシ」 三業、潛むト云フハ、身、心、共ニ、靜寂ニナル意。俚言集覽「俗ニ、さんごうひそむト云フハ、潛二三業一也」 倭訓栞ニ、さんごまづまるトモアリ。

サンゴ-べい (名) 沙菰米 さごべいノ條ヲ見ヨ。

さん-こん (名) 三獻 獻ノ條ヲ見ヨ。

ざん-こん (名) 殘痕 ノコレル、アト。殘留セル痕跡。陸游詩「漲餘野水有二殘痕一」

さんご-やちゅう (名) 三五夜中 三五ノ條ノ(二)ノ出典ヲ見ヨ。

(**さむ-さ** (名) 寒氣 寒キ氣候ノ、身ニ染ムコト。サムケ。寒氣。土佐日記、二月九日「千代經タル、松ニハアレド、古ヘノ、聲ノさむさハ、カハラサリケリ」

さん-さ (名) 三叉 ミツマタ。道路ナドニ云フ。蘇軾、縱筆詩「深巷古路三叉口、獨立二斜陽一數二過人一」俚言集覽「三叉路口「小說語、みつまたノコト」」

さん-さ (名) 鑛沙 鑛ノ屎。コクソ。本草和名、下、五十「鑛沙、加比古乃久曾」

さん-さ (感) 〔囃シ聲、神樂聲ノ音便、其條ヲ見ヨ(さざめく、ざんざめく)〕 俗謠ノ囃シ聲。ササ。サ、サ。サノサ。さんさしぐれノ條ヲ併セ見ヨ。 松の葉、元祿、三、さんさぶし「宵ハ月ニモ、紛レテスムガ、深クル鐘ニハ、さんさ、袖シボル、ヨシナノ思ヒ」

(**さん-ざ** (名) 參座 マトキニ、入ルコト。會合ノ座ニ、參列スルコト。源、廿三、初音「御方方ノ、さむざシタマハムトテ、心殊ニ引キツクロヒ」

さん-ざ (名) 三座 三芝居ヲ見ヨ。

さん-ざ (副) 散散 さんざんばらノ條ヲ見ヨ。

さん-さい (名) 三才 〔才ハ、裁ニテ、萬物ヲ制裁スル義、功用ヲ爲ス意ト云フ〕 天ト、地ト、人トヲ、竝ベ云フ稱。易經、繫辭、下傳「有二天道一焉、有二人道一焉、有二地道一焉、兼二三才一而兩レ之、故六、六者、非レ他也、三才之道也」 允恭紀、四年九月、詔「三才顯分以來、多歷二萬歲一、是以、一氏蕃息、更爲二萬姓一」 支那ノ明ノ萬曆年中ニ、王圻ノ著ハセル三才圖會ト云フ書アリ、天地間萬物ノ百科辭書ノ如キモノナリ。

さん-さい (名) 三災 水、火、風ノ、三ツノ災。又、水、火、兵ノ、三ツノ災。盛衰記、四十三、安德天皇不吉瑞事「三災、七難、殘ルコトナシ」

さん-さい (名) 山妻 我ガ妻ヲ云フ、謙稱。荊妻。杜甫詩「理レ生那免レ俗、方法報二山妻一」

さん-さい (名) 山寨 山ニ據リテ構ヘタル寨。多クハ、山賊ナドノ住處ニ云フ。岑參詩「山寨多二離憂一」

さん-さい (名) 散齋 アライミ。(致齋ニ對ス) 禮記、祭義篇「致二齋於內一、散二齋於外一」

さん-ざい (名) 散財 (一)タカラヲ、チラスコト。金錢ヲ出シテ、與フルコト。梁書、王珍國傳「發レ米散レ財、以拯二窮乏一」 (二)東京ニテ、酒宴、纏頭ナドニ、金錢ノ、費ユルコト。散錢。冗費

さん-ざい (名) 散在 チラパリテ、アルコト。盛衰記、十一、旋風事「上ハ、桁、梁、垂木、コマイナドハ、虛空ニ散在シテ」「人家、山野ニ散在ス」

ざん-ざい (名) 斬罪 死罪ノ條ヲ見ヨ。

さんさい-バオリ (名) 三齋羽織 〔細川三齋忠興ノ作リ始メタルモノト云フ〕 陣羽織ノ、筒袖ナルモノ。脊割ナリ。

さんざい-ぶくろ (名) 散財袋 〔散財ハ、散錢ノ意〕 纏頭ノ金ヲ入ルルタメニ、特ニ作レル紙袋。封筒ノ如クニテ、短シ。祝儀袋。(東京)

さんさい-りう (名) 三齋流 茶道ノ一派。細川三齋忠興ニ始マレルモノ。千利休ノ弟子ナリ。 茶傳集、附錄、三齋翁物語「茶ハ、流アリテ、無キモノ也、予、休ノ門下ニシテ、休ノ旨要ヲ、其儘守ルトイヘドモ、人、皆、利休流トハ云ハズシテ、三齋流ト云ヘリ、云云」(古事類苑)

さん-さう (名) 酸棗 サネブトナツメ。

さん-さう (名) 三草 (一)麻ト、藍ト、紅花トノ併稱。 大和本草(元祿)二、數目「三草、麻、藍、紅花」 合類節用集(元祿)十、數量門「三草、麻、藍、紅花、木綿、麻、花」 (二)古今傳授ニ云フ語、さんてう(三鳥)ノ條ヲ見ヨ。

さん-さう (名) 山相 〔さう(相)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 鑛山ノ、鑛物含有多寡ノ山容。 山相祕錄(享保、佐藤信景)上、總論「凡ソ、諸金含有ノ山ハ、皆、必ズ、岩石ヲ負フモノナリ、而シテ、其岩石ヲ負フ正面、首後、云云、左擔ノ山ヲ以テ、第一ノ福相トシ、正面、此ニ次ギ、東北ノ二面ヲ、第三トシ、云云、山相ハ、必ズ、北方ヨリ觀ル者ナルガ故ニ、正面ハ、北向ナリ、云云、左擔トハ、東ノ方ニ岩ヲ負ヒタルナリ、云云、此モ、又、山相家ノ、古來、精究シタル說ナリ」 草木六部耕種法(佐藤信淵)序「曾祖父、云云、元祿中、開二出羽國、松岡山金鑛、及、阿尼銅山一云云、享保中、開二豐後國、竹田鉛山一云云、著二山相祕錄一云云、至レ今、奧羽兩州、有レ唱二山相學一者、大抵以二我曾祖翁一爲二開山手一焉」

さん-さう (名) 山莊 山地ナドニ構ヘタル別莊。別業。別墅。 續後紀、十七、承和十四年十月「雙丘、下有二大池一云云、左大臣源朝臣常山莊、在二丘南一」 桐鴫曉筆(一條兼良作ト傳フ)「京極黃門、昔今ノ歌仙、一百人、云云、彼人ノ詠歌、一首ヅツ、色紙形ニ書キテ、小倉ノ山莊ノ障子ニ押サレタリ」

さん-ざう (名) 三藏 〔藏トハ、一切ノ諸法ヲ包藏スル義ト云フ〕 (一)佛敎ニ用キル經典ヲ分類シタル語。即チ、經藏ト、律藏ト、論藏トノ稱ナリ、經藏トハ、佛ノ所說ノ法門、律藏トハ、佛徒ノ所持ノ戒法、論藏トハ、菩薩ノ所造ノ論釋ヲ集メテ云フナリ。三藏ノ經籍ハ、大乘經、小乘經、大乘論、小乘論、小乘律ヲ合ハセテ、宋版ニテ五千九百十八卷アリト云フ。 阿毘達磨集論「何故如來、建二立三藏一」 (二)轉ジテ、三藏ニ通達シタル高僧ヲ呼ブ敬語トス。「玄奘三藏」「羅什三藏」「法顯三藏」

ざん-ざう (名) 殘像 心理學ノ語。或ル色ヲ視テ、後、瞑目セバ、其色ノ、暫時、猶、視界ニ殘ルモノ。

さん-ざうらふ (句) 然候 〔然に候ふノ音便(先に出づ、さきんづ)〕 然りノ敬語。サヤウニ御座リマス。 平治物語、二、義朝寄二六波羅一事「兵庫頭頼政ハ、三百餘騎ニテ、六條河原ニ控ヘタリ、惡源太、鎌田ヲ召シテ、アレニ控ヘタルハ、頼政カ、さん候ふ、憎イ振舞カナ、我等、打負ケバ、平家ニ與セムト、時宜ヲ計ルト覺ユルゾ」 平家物語、十一、那須與一事、判官義經、後藤實基ニ問答「那須與一宗高コソ、小兵ニテハ候ヘドモ、手ハ利キテ候フ、ト申ス、判官、證據ガアルカ、さん候ふ、賭鳥ナドヲ爭ヒテ、三ツニ二ツハ、必ズ、射落シ候フ」

さん-さがり (名) 三下 三味線ノ調子ノ、本調子ヨリハ、三ノ絲ノ音ノ、低キモノ。ほんてうし(本調子)ノ條ヲ見ヨ。 ト養狂歌集(寬文)上、三味線ノ、ちりてれてんヲ、過ストモ、地ニさんさがり、鳴ケホトトギス」

さん-さく (名) 三朔 さんついたちノ條

ヲ見ヨ。

さん-さく　(名)　散策〔策ハ、杖ナリ〕ソゾロアルキ。ブラブラアルキ。散歩。遊歩。　蘇軾詩「散策塵外遊、臨レ賞此世二」

さん-さく　(名)　參錯　イリマジルコト。　史記、秦楚之際月表、註「時天下未レ定、參錯變易」

さん-ざく　(名)　三尺、三三九　〔さくハ、尺ノ音ニテ、三三九ハ、借字ナリ、貞丈雜記、十二、武藝、東鑑ニ、三尺、云云、同書ニ、三三九トモアリ、云云、三尺モ、さんざく也〕　的串ノ高サ、三尺ナルナリ〕　流鏑馬ノ的ノ名　新猿樂記「中君夫、天下第一武者也、云云、八的、三三九、手挾、等、上手也」吾妻鏡、十、文治六年八月十六日「馬場之儀也、云云、河村三郎義秀、又篤、其後、始終敢無最違失、三尺、手挾、八的、皆也、觀者不レ感」同、廿七、安貞三年十月廿一日「有流鏑馬、相模四郎、云云、以下、的射手三的之後、三三九、四六三、以下作物等、各射之」騎馬流鏑馬次第「三三九ノ的ノ寸、九寸、小串ノ長サ、三尺」

さん-ざ-し　(名)　山査子　薔薇科ノ落葉灌木　高サ四五尺、叢生ス、枝又、多ク茂リテ、刺アリ、春、葉ヲ生ズ、互生シテ、長サ一寸許、五七岐ニシテ、鋸齒アリ、春ノ末ニ、枝ノ梢ニ、白花、簇リ生ズ、梅花ニ似テ、瓣、皆、上ニ向フ、實、秋、熟ス、林檎ニ似テ、六七分、赤、又、黄ナリ、核ハ、牽牛子ノ如シ、肉ヲ、藥用トス、又、大さんざしト云フハ、落葉喬木ニシテ、高サ、二三丈ニ至ル、葉、大キクシテ、梨ノ葉ノ如ク、七岐、或ハ、九岐ニシテ、互生ス、花、傘ノ狀ヲナス、花、實、形、色、さんざしニ似テ、大ナリ　羊仇子　和漢三才圖會、八十七、山果「山樝子、山裏紅、山査子、生山中、而似樝子、故名之、云云、小者如指頭、九月熟、小兒採而賣レ之」

さんさ-しぐれ　(名)　〔さんさ(囃聲)ノ條ヲ見ヨ〕　俚歌ノ名、仙臺ニテ、貴賤共ニ、祝宴、興ニ入レバ、座客、合唱ス、其聲、莊重ニシテ、緩ナリ、手拍子ヲ加フルノミ、天正、慶長頃ノ調ト聞ユ、近年ハ、三味線ニノセテ、急調トナリ、踊ナドモ、作レリ　其詞「さんさ時雨カ、茅野ノ雨カ、音モセデ來テ、濡レカカル、ションガイナ」(さんさヲ、笹ニカケタリト思ハル)出雲國、松江藩ノ船手水夫ノ船唄、切「擽ハ茅野ノ、雨デハナイカ、サ、音モセデ來テ、降リココロンヤ、懸ニ、ハイ、ヤレ、エイ、身生キテ由ナヤ、此己エ」

さむさ-しのぎ　(名)　寒凌　(一)寒氣ニ、堪ヘトホスコト。　消寒　さむさしのぎニ、酒ヲ飲ム　(二)寒氣ヲ、避クルコト。　避寒　「さむさしのぎニ、暖地ニ旅行ス」

さんさ-しんけい　(名)　三叉神經　頭腦ノ神經。三枝ニ分レテ、第一枝ハ眼神經、第二枝ハ上顎神經、第三枝ハ下顎神經トナリ、眼、耳、鼻、口ノ諸機關ノ、知覺、運動、等ヲ掌ル。

ざん-さつ　(名)　殘殺　ソコナヒ、コロスコト。　孟雲卿詩「殘殺非レ不レ痛、古來良有レ由」

さんざっ-ぱら　(副)　さんざんはらヲ見ヨ。

さんさ-ぶし　(名)　さんさ(囃聲)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

さん-さん　(副)　燦燦　粲粲　鮮明ニテ、美麗ナル狀ヲ云フ語。キラキラ　詩經、小雅、小旻之什、大東篇「東人之子、職勞不レ來、西人之子、粲粲衣服」毛傳「粲粲、鮮盛貌」

さん-さん　(副)　珊珊　玉ナドノ、鳴ル聲ニ云フ語。　杜甫詩「時聞雜佩聲珊珊」

さん-さん　(副)　潸潸　(一)サメザメ。淚ノ、流ルル狀ニ云フ語。潸焉、　元稹、獄中詠懷詩「開元觀舊事」詩「分司別兄弟、各各淚潸潸」　詩經、小雅、小旻之什、大東篇「潸焉出レ涕」集傳「潸、涕下貌」音山」　(二)雨ノ、降ル狀ニ云フ語、　賈至詩「珠林日暮雨潸潸」

さん-ざん　(名)　三山　(一)大和國ノ、畝傍山ト、耳梨山ト、香山ト。平地ニ、三山、鼎立セリ。　萬葉集、一、十三山長歌「高山ハ、雲根火ヲ愛シト、耳梨ト、相爭ヒキ、云云」播磨國風土記、揖保郡「大倭國畝火、香山、耳梨、三山相闘」　(二)熊野三所權現ノ條ヲ見ヨ

さん-ざん　(副)　散散　〔散散(チリヂリ)、散散(ハラハラ)、ノ字ヲ、音讀シタル語〕　(一)チリヂリニ。ハラハラニ。　續古事談、三、臣節「書ノオロシヲバ、女房、云云、反渡殿ニテ、踏ミスベリテ、サカサマニ倒レテ、さんざんニ打チ散ラシテケリ」　著聞集、十二、偸盜「熟柿ノ落チケルガ、云云、潰レテ、さんざんニ散リヌ」同、十六、興言利口「美シキ裝束、さんざんニナリニケリ」　沙石集、九、下、第六條「僧正ノ牛飼、御室ノ御車ト、車立論シテ、御室ノ御車ヲ、さんざんトシタリ」　(二)轉ジテ、シタタカニ。甚シク。ヒドク。(惡シキ方ニ云フ)　平治物語、一、信頼信西不快事「信西、信頼ガ驕侈ノ、君ニ申ス、信頼卿ハ、通憲入道ガ、散散ニ申シケル事ヲ、漏レ聞キテ、安カラヌ事ニ思ヒケレバ、常ニ、所勞ト號シ、出仕モセズ」　庭訓往來(元弘)五月九日「高家之人人、以路次便、可打寄之由、云云、草亭見苦敷、資具、又、散散式候、云云、屏風、几帳、翠簾、被思借者、以人夫可送賜之」「敵ヲさんざんニ討破ル」「さんざんナ目ニ逢ッタ」

さん-さん-く　(名)　三三九　三尺(サンザク)ノ條ヲ見ヨ。

さん-さん-くこん　(名)　三三九獻　饗應ニ、肴、杯ヲ出シ、酒、三杯ヲ獻メテ、膳ヲ撤キ、更ニ、同ジ事ヲ重ネテ、三度スルコト。(獻ノ條ヲ見ヨ)又、三度三獻。後世モ、婚禮ニハ、此ノ如クシテ、杯ノ獻酬スレバ、三三九度トモ云ヒテ、婚禮ニ限リテ云フ語ノヤウニナレリ。　狂言記、吟聟「一ツ參レ、聟殿、さんさん九こん重ナレバ」俚言集覽「三三九度、婚禮盃事ノ次第」　松の落葉(文政、藤井高尚)四、酒飲む作法、三度三獻の事「一杯ノ酒飲ムヲ、一度ト云ヒ、三度飲ムヲ、一獻ト云ヒキ、並ミ居タル座ニテ、杯ヲ、一タビ巡ラシ飲ムヲ、一巡ト云ヘリ、サテ、物ノ儀式ニ、ウルハシク飲ムハ、三度ト、三獻トニゾアリケル」

さん-さん-くど　(名)　三三九度　前條ヲ見ヨ。　門松(享保、近松作)下「手拍子ニ口拍子、仕合セ拍子ノ三三九度」

さんざん-くゎん　(名)　三山冠　唐冠ノ一種、巾子、三峯、並ビ立テルガ如ク、中、高クシテ、左右、稍低シ、黑漆ニテ塗ル。朝賀、御即位ナドノ大禮ノ時、贊者、圖書、主殿、等ノ官人ノ禮冠ナリ。　深窓秘抄「三山、唐冠之時、用レ之」　御即位次第抄、御即位冠服之事「贊者ハ、圖書、主殿ノ冠服ニ等シ、一人ハ、三山冠ニ、赤袍、黑裳、青綠ノ褶、袈裟、淺沓ヲハケリ」

さん-さん-ごご　(副)　三三五五　三五(サンゴ)ノ條ヲ見ヨ。

ざん-ざん-じょう-すゐ　(名)　殘山剩水　〔剩ハ、餘ナリ〕　山水ノアマリ。山水ノ末。賞スルニ足ラヌ意ナドニモ云フ。　范成大詩「殘山剩水一人心」　杜甫詩「剩水滄江破、殘山碣石開」

✣さんざん-ぱら　(副)　散散腹　〔さんざんハ、甚しきノ意、其條ノ(二)ヲ見ヨ、腹ハ、思ひナリ、さんざト云フハ、下略ナリ(大根、だいこ。極隨一、ごくゐる)〕　思フ存分ニト云フ意ノ、卑語、シタタカニ。さんざ、はらっ。又、さんざ。　俚言集覽「さんざ下ノさ、濁ル、饜足ル意ニ云フ」「さんざんぱら、人ヲコキツカヒ」「さんざっぱら、飲ミ食ヒシ

テ さんさ、聲ク言ノテオイテ」

さん-さんゐ（サン-サンヰ） (名) 【散三位】 三位ニシテ、散位タルモノ。散位ノ條ヲ見ヨ。

ざんざ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 【騷然】 〔さざめくノ音便(かがみる、かんがみる、囃聲ノささモ、さんさトナル)音、高ク立ツヲ云フニ因リテ、濁ラス、ぞめくト云フ語モ、同ジ、ざんざらめくハ、音調ナリ(段段筋、だんだらすぢ)〕衆人、同音ニ、言ヒハヤス。共鳴ス。又、ざんざらめく。「酒宴ノ唱歌、ざんざめく」國性爺後日合戰(正德、近松作)「明石ノ瀨戸ニ、ざんざらめくハ、琴ノ調ベカ、松吹ク風カ」

さむさ-よけ (名) 【寒除】 寒氣ヲ、防グコト。防寒 「さむさよけニ、屛風ヲ立テマハス」

ざんざら-がさ (名) 〔ざんざらハ、菅ノ末ノ動キテ、さらさらト、相、觸ルル音ニテモアルカ〕 菅笠ノ一種、粗製ナルモノ。編ミタル菅ノ末ヲ、頂ニ出シオク、驛路ノ馬子、駕籠昇ナド、用キタリ。又、江戶ノ祭禮ノ行列ノ者ナド、頂ニ造花ヲ插シテ、冠レリ、祭禮笠トモ云ヒキ。守貞漫稿、廿九、笠「ざんざら笠、菅笠ノ一種、驛舍ノ馬士、昇夫、等、此菅笠ヲ用フ、菅本ノ赤キ、下品ナリ、菅末ヲ切ラズ、上ニ出ス、切リテ截ルモアリ、專ラ、切ラズシテ用フルモノ、多シ」

ざんざら-め・く (動) ざんざめくヲ見ヨ。

さむ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【寒】 〔冷む、不樂しニ通ズ〕 (一)〔空氣中ノ溫度、極メテ低シ 寒サ、强シ、(暑しノ反)〕 萬葉集、一「出-」難波行ク、鴨ノ羽交ニ、霜降リテ、寒キタハ、大和シオモホユ」 (二)〔冷カナリ。ツメタイ。冷 景行紀、十八年四月、「天皇、泊二於葦北小島一而 進食、云云、令レ進二冷 水一」(水 ハ、御飲水ナリ) 萬葉集、十六「世長歌「寒 水一催馬樂、飛鳥井

「飛鳥井ニ、宿リハスベシ、蔭モヨシ、水モ左牟之、御秣モヨシ」 倭姬命世記「御水乎飲止詔豆、云云、其老公、以二寒御水一、御饗奉支」其河之水、寒、名二寒河一 赤染衞門集 小舟ニ、男二人バカリ乘リテ、漕ギワタル、云云、ひややかなるおもひ汲ミニ、沖ヘマカル」 (三)貧シ。貧乏ナリ。 菅原傳授手習鑑(延享、竹田出雲)「さむい暮シヲ菜浪人」

さん-し (名) 【三始】 〔年ノ始、月ノ始、日ノ始ノ義(時ノ始ヲ加ヘテ、四始トモ云フ)三元、元三ノ元モ、始ノ義、三朝ト云フモ、意、同ジ、スベテ、三ト云フハ、年、月、日、ヲ云フ、ぐゎんざんノ條ヲモ見ヨ〕 正月元日ノ異稱。又、三元。元三。三朝。漢書、鮑宣傳、「今、日蝕レ於三三始一、誠可二畏懼一」(元日ノ日蝕)註「正月爲二歲之朝、月之朝、日之朝一、始猶レ朝」 同、孔光傳「歲之朝、日三朝一」 史記、天官書「四始」註「謂二正月且一、歲之始、時之始、月之始、日之始、故日二四始一」 玉燭寶典「正月爲二端月一、其一日爲二上日一、亦曰二三元一、歲之元、時之元、月之元也」

さん-し (名) 【三子】 (一)三人ノ子。「三子アリ、男二人、女一人」 (二)第三ノ子。三男。三郎。「某ノ三子、某」

さん-し (名) 【三子】 老子、莊子、列子、ノ三書。

さん-し (名) 【三尸】 三尸蟲（サンシチユウ）ノ條ヲ見ヨ。雲笈七籤「除二穢惡一、滅二三尸一」

さん-し (名) 【三史】 支那ノ史書ノ、史記ト、漢書ト、後漢書ト。昔、各學校ノ教科書ナリキ。 十七史商榷、三國、吳志、呂蒙傳、注「唐宋以來、學者恆言、乃皆曰二五經三史一、則專指二馬、班、范一矣」(司馬遷ノ史記、班固ノ漢書、范曄ノ後漢書) 續紀、三十、神護景雲三年十月「太宰府言、云云、子弟之徒、學者稍衆、而府庫但蓄二五經一、未レ有二三史正本一、云云、詔、賜二史記、漢書、後漢書一」 源、二、帚木「三十「三史、五經ノ、道道シキ方ヲ、明ラカニ覺リアカサムコトコソ、アイギャウ無カラメ」 二中歷(應永十一、經史「三史、史記、漢書、後漢書」

さん-し (名) 【散史】 〔散ハ、散人ノ散、史ハ、外史ノ史、各條ヲ見ヨ〕 在野ノ文士ノ、其雅號ナドニ添ヘテ稱スル語。散人。

さん-し (名) 【山積】 〔正韻「積、資四切、音恣、聚也」〕 山ノ如ク、積（ソモ）レルコト。衆多ナルコト。 邊讓、章華臺賦「酒肴山積、椒酒淵流」

さん-し (名) 【山觜】 山ノハシ。ヤマノハナ。 楊萬里詩「山觜前頭別一村」

さん-し (名) 【算師】 主稅寮、又、主計寮ニ置カレタル官人。租、調、庸、及、用度ノ勘計ヲ掌ル。 職員令、主計寮「算師二人、掌レ勘二計調庸及用度一」 同卷、主稅寮「算師二人、掌レ勘二計租稅一」

さん-し (名) 【算子】 算術ニ用キル算木（サンギ）。(算ノ條ノ(一)ヲ見ヨ) 五代史、王章傳「章、尤不レ喜二文士一、嘗語レ人曰、此輩與二一把算子一、未レ知二顚倒一、何益レ於レ國邪」

さん-し (名) 【蠶絲】 生絲（キイト）。キヌイト。

さん-し (名) 【蠶紙】 蠶（カヒコ）ノ、タネガミ。たねがみノ條ヲ見ヨ。

さん-し (名) 【慘死】 ムゴタラシク、死ヌルコト。「震災ノタメニ慘死ス」

さん-じ (名) 【山寺】 ヤマデラ。 孟浩然詩「松門山寺深」「山寺ノ鐘」山寺ノ櫻」

さん-じ (名) 【三時】 時（トキ）ノ條ヲ見ヨ。

さん-じ (名) 【三事】 三事兼帶ノ條ヲ見ヨ。

さん-じ (名) 【散事】 有位ニシテ、職掌ナキ官。散官。散位。(職事（シキジ）ニ對ス) 後宮職員令、內侍司、尙侍二人、典侍四人、掌侍四人、女孺一百人、云云、右、諸司、掌以上、皆爲二職事一、自餘、爲二散事一」 類聚國史、百八十七、佛道、弘仁八年八月「散事從三位橘朝臣常子、薨」

さん-じ (名) 【蠶兒】 カヒコ。 蘇舜欽詩「蠶兒尙卵恰」

さん-じ (名) 【讚辭】 ホメコトバ。「讚辭ヲ呈ス」

ざん-じ (副) 【暫時】 シバシ。シバラク。少シノ間。少時。 明高啓、逢二吳秀才一復送歸二江上一詩「江上停レ舟問二客蹤一、亂前相別亂餘逢、暫時握レ手還分レ手、暮雨南陵水寺鐘」

さむ・しい (形) 【淋】 さみしいノ(一)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

さん-しう（サン-シユウ） (名) 【纂修】 〔類篇「纂、集也」〕 記事ノ材料ヲ纂（アツ）メテ、書册ヲ編修スルコト。郭覔詩「前朝圖史已全收、詔起二丘園一重纂修」

さん-しう（サン-シユウ） (名) 【三秋】 三春（サンシユン）ノ條ヲ見ヨ。

さんしう-の-おもひ（サンシユウ-ノ-オモイ） (名) 【三秋思】 三春（サンシユン）ノ條ヲ見ヨ。

さんしう-ミソ（サンシユウ-ミソ） (名) 【三州味噌】 三河國、岡崎ヨリ製出スル味噌。製シテ、桶ニ收藏スルコト、一年ニシテ、用キル。岡崎八丁味噌。 江戶流行料理通大全、二編、四季味噌吸物「夏、三州みそ、尾張ミソ、秋、仙臺ミソ」

さんし-がく (名) 【山子學】 〔山ハ、片山ノ山ナリ、子ハ、門人ヨリノ尊稱ナリ、孔子、孟子ノ如シ〕 江戶ノ儒者、片山兼山ガ、經書ニ附キテノ、獨特ノ見解、卽チ、折衷學ナリ。(其條ヲ見ヨ) 其經書ニ附ケタル訓點ヲ、山子點ト云フ。(訓點ノ條ヲ併セ見ヨ) 片山世璠、字ハ叔瑟、通稱ハ東造、兼山ト號ス、天明二年歿、年五十三。 先哲叢談、續、十、山兼山「兼山、表章學記一篇於二戴記中一、併二學、庸、孝經一謂二之家塾之四書一、云云、其他、易、書、詩、三禮、論、孟、孝經、千字文、文選、皆符二譯於二正文一刊行、坊間呼曰二山子點一」

さん-じき (名) [棧敷] さじきノ音便、其條ヲ見ヨ。

さん-じ-きやう (名) 三字經 書名、支那、明代ノ初期ノ作ナラムト云フ、三字ヅツニテ、一句ヲ成シ、韻ヲ押セリ、人之初、性本善、性相近、習相遠、ニ始マリ、我教子、… 三百數十句、…ノ語ヲ列ネ、修身、學習ノ要ヲ述ベタリ、江戸時代、學校、寺子屋ノ教科書トセシモノナリ。

さん-じ-ぎれ (名) [三字切] 切字ヲ見ヨ。

さん-じ-くゎい (名) 參事會 府會、縣會ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決スル機關。其會員ハ、府縣官二人、及、府縣會ノ選擧シタル者ヲ以テ、組織ス、其數ハ、普通、十人、特例ニヨル所ハ十一人トナリ

さん-じ-くゎん (名) 參事官 モト各省、法制局、及、臺灣總督府、關東都督府、等ノ奏任官 長官ノ命ヲ受ケテ、審議、立案、等ノ事ヲ掌ル。今ハ、宮内省、大使館、法制局ナドニアルノミ

さん-じ-けいば (名) 撒紙競馬 さじけいばノ條ヲ見ヨ。

さん-じ-けう (名) 三時教 佛教ノ語、釋迦一世ノ說教ヲ、三期ニ別チタル、有教(阿含時)ト、空教(般若時)ト、中道教(深密時)トノ總稱 「盛衰記、四十四、…「大小乘ノ奧義ヲ究メ、有、空、中ノ三時教ヲゾ立テタリケル」

さん-じ-けんたい (名) 三事兼帶 衞門佐ニシテ、五位藏人ト、辨官トヲ兼帶スルモノ、榮選トシタリ 略シテ、三事トノミモ云フ 職原抄、下、藏人所、五位藏人、云云、自…佐…兼…、兼…辨官、此…所…三事兼帶、是也、顯、遂中之選也」職事補任、五位藏人、…佐…門權佐藤原…房、兼左少辨」…盛衰記、四十六、吉田…房…云、…第ノ…ヲ兼帶シ、云云、終ニ、正二位大納言ニ至リケリ」

さん-じこ (名) [山慈姑] 草ノ名。アマナ。

さん-し-すい-めい (句) 山紫水明 「紫トハ、山ノ翠色ノ、夕月ニ映ジテ、紫色ニ見ユル意」山水ノ景色、明美ナリ。 頼山陽、京都ノ…川ノ西岸ニテ、東山ニ面シテ、住居ヲ占メ、山紫水明處ト號シタリ、其詩、黄樹…對…小關「最住山紫水明處」王勃、滕王閣序、潦水盡而寒潭清、煙光凝而暮山紫」

さん-した (名) [三下] 次條ノ語ノ略。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「アホラシウテ、對手ニナラレンワイナンゾト、三下ニ見テキルハナ」

さん-した-やっこ (名) [三下奴] 博徒ノ中ニテ、最モ下劣ナルモノ。さんした。

さん-しち (名) 三七 次條ヲ見ヨ。

さん-しち-さう (名) [山漆草][三七草] 「合類節用集(元祿)六、生植門「三七、時珍云、其葉、左三、右四、故名、蓋恐不レ然、本名、山漆、謂下其能合二金瘡一、如中漆粘上レ物」倭訓栞、後篇、さんしち「山漆ノ音ナリ、和方書ニ、三七草ト書ケリ、三七モ、漢名ナリ、駿府政事錄ニ、慶長十六年、金瘡可重、初獻二山漆草一ト見エタリ」本草綱目啓蒙、七、山草ノ條ニ、別ニ、支那產ノ藥草ニ、三七ト云フヲ載セテ、廣東人參ノ類ニテ、昔年、舶來セリ、血止ノ藥トシタリトアリ」菊科ノ宿根草。常ニ略シテ、さんしちト云フ。莖、高サ二三尺、葉ハ、莖上ニ互生シ、卵形ニシテ、光澤アリ、面、綠、背、紫、裂片、四五對アリ、夏秋ノ交ニ、莖梢ニ、枝ヲ分チテ、黄花、簇リ開キ、圓錐花序ヲナス、根ヲ、血止ノ藥トス。出雲ニテ、チドメ。肥前ニテ、オランダグサ。 和漢三才圖會(正德)九十二、末、山草「三七、山漆、云云、凡分ニ…、云云、又、…金瘡、如神、…採山漆葉、入…汁於…、…無名瘡…搽レ之」

さん-しち-にち (名) [三七日] (一)二十一日間 ミマハリ、三週間 「三七日ノ斷食(ダンジキ)」(二)人ノ死後、二十一日目ノ日。ミナノカ 佛事ナド、修ス。

さん-し-ちゅう (名) [三尸蟲] 人ノ體中ニ居ルト云フ、三疋ノ蟲、支那ノ道家ニ起リテ、陰陽家ニテ唱ヘタル說。此蟲、其人ノ隱微ナル罪咎ヲ知リ、庚申ノ夜ニ、人ノ眠ルヲ窺ヒテ、出デテ、天帝ニ讒スト云フ、又、三尸トノミモ云フ。庚申待ト云フ事、コレニ起ル、其條ヲ併セ見ヨ。 柳文、罵尸蟲文、序「有道士言、人皆有二尸蟲三、處腹中、伺人隱微失誤、輒籍記、日庚申、…其人之昏睡、出讒於帝、以求饗、以是、人多謫過疾癘夭死」「柳宗元ノ文ナリ」醫心方、永觀、丹波康頼)廿六、去三尸法、七、潘經、曰、三尸、其形、類似人、長三寸許、上尸名彭倨、黑色、居頭、云云、中尸名彭質、青色、居背、云云、下尸名彭矯、白色、居腹、云云、每至庚申日、乘人睡而呼其名、三尸、即永絕去 瑯琊代醉編、五、姹名賜、人身中有三尸、上尸彭倨、中尸白姑、下尸血姑、云云、一曰、三尸、謂之三彭、上尸彭踞、中尸彭瓚、下尸彭蹻」年中重寶記、五、雜、一年、六度、庚申ヲ祭リ、其夜ハ、眠ラズト云フハ、人、生レテ、腹中ニ、三尸蟲アリテ、身ヲ離レズ、人ヲ害セムトス、此蟲、庚申ノ夜、人ノ罪咎ヲ天ニ告グ」

さん-しつ (名) [產室] ウブヤ。產所。

さん-しつ (名) [蠶室] (一)蠶屋。蠶飼(コガヒ)ヲスル建物。…「…宮、…三尺、…外開…」(二)宮刑ニ處セラレタルモノヲ、蠶居ス

ル室。 漢書、武帝紀、李…、…司馬遷…宮刑…蠶室…、後漢書、…史記、帝…任中書令」

さん-しつ (名) [散失] 散リ、失スルコト。紛失、散逸。「書籍ノ散失ヲ防グ」

さん-じつ (名) 三日 德川幕府時代、每月朔日、十五日、廿八日ヲ、式日トシタル稱。俗間ニテ、御三日(サンニチ)ト云ヒキ。諸大名、旗本、以下、麻上下ニテ登城ス、コレヲ、三日ノ禮ト稱シタリ。 守貞漫稿、廿七「朔日、十五日、廿八日、コレヲ、三日ト云ヒ、さんじつト訓ジ、式日トモ云フ、云云、幕府ニテハ、諸大名、旗本、御家人ニ至ルマデ、總登城ニ、大名、旗本ハ、熨斗目、麻上下ヲ着ス」明良洪範、一、家康、惺窩ニ、朔望ノ禮ヲ問フ「朔日ハ、日ノ始ヲ祝ヒ、十五日ハ、月ノ滿ツルヲ壽グヨリ起レリ、ト答ヘ申サル、然ラバ、日月並ニ、皐ヲ祝フベキ義ナリ、トアリシニ、サレバコソ、廿八日ヲ、廿八宿ニ値テテ、星ノ終リトテ、漢土ニテモ、祝ヒ申ス事ノ由、申サレシカバ、以後、我ガ家ノ禮ヲモ定メラルベシ、ト仰セラレシ由」合類節用集(元祿)二、時候門「廿八日、近世準二朔望一、是日、謁禮、祝、蓋、據二宿數之盡一者乎」倭訓栞、ついたち「每月ノ朔望ヲ祝フハ、通例ニテ、內內行事ニ、每月朔日、廿八日、御昆布祝、ト見エタリ、サレバ、廿八日ハ、神君(家康)ノ時ニ始ルト云フ說ハ、心得ガタシ」安齋隨筆、三十二ハ、每月廿八日ノ禮ハ、家康、在三河ノ頃、家人ハ、皆、門徒宗ニテ、親鸞ノ忌日ナル廿八日ニ、寺詣シテ、上下着タルツイデニ、主君ノ機嫌ヲ伺ヒシニ始マルト云ヘリ、海録ノ二ニ、此事、赤鳥、卷十二ニ見エタリ、俗語、取ルベカラズトアリ。東都歳事記、一、正月「每月、朔日、十五日、廿八日ノ三日ニハ、貴賤、生土神ニ詣ス」

ざん-しつ (名) [讒嫉] ネタミテ、讒言スルコト。 宋史、陳東傳「讒嫉無レ所レ不レ至」

さん-じっ-とう (名) [三十講] 法華經二十

八品ニ、開經ノ無量義經ト、結經ノ普賢觀經トヲ加ヘテ、三十卷トシテ、三十日間ニ講ズルコト。 法成寺攝政記「寬弘四年五月九日甲辰、三十講初、閏五月八日癸酉、三十講結願」 紀略、後篇、十一、一條、寬弘五年五月五日甲子「左大臣家、法華三十講、相ニ當五卷ニ云云、廿二日辛巳、左大臣家三十講竟」

さん-ぢッ-こく-ぶね（名）［三十石船］ 荷物、三十石積ノ川船ノ名。往時、山城國、伏見ト、大阪トノ間ヲ、淀川ヲ上下シテ、荷物、旅人ヲ載セテ運送シタルモノ、名高カリキ、晝船モアリ、夜航スルヲ、淀川夜船ト云フ。くゎしよぶね（過書船）ノ(二)并ニ、くらはんかぶねノ條ヲ見ヨ。 和漢船用集（寶曆）五「三十石船、積石數ヲ呼デ、名トス、云云、攝州浪花ヨリ、城州伏見ニ至ルニ、此舟ヲ用ユ、其流、十里、淀川ヲ往來ス、云云、夕ニ乘テ、朝ニ至ル、是ヲ、夜船ト云フ、云云、漢ニ云フ、夜航船也」

さん-ぢッ-ぷく（名）［三十幅］〔幅ハ、輻ノ借字〕車ノ、三十ノ輻。悉ク、一ツノ轂ニ集ル。老子ニ、轂ノ中心ハ、空ナリ、此空ナル中心アルニ因リテ、車ノ用ヲ成ストテ、人君ハ、空虛、無爲ナルベキ意ヲ云ヘリ。 老子、第十一章「三十輻共ニ一轂ニ、當ニ其無ニ有ニ車之用ニ」 大田覃（南畝）ガ作レル三十輻ト云フ書アリ、其享和三年ノ自序ニ「武藏野ノ草ノ、始メテ開ケソメシヨリ、家家ノ書、クサグサノ卷、三十部ヲモテ、一集トシ、云云、三十輻ト名ツク、コレナム、李の下の翁ガ、みそのやハひとつのおきさきヲ共ニス、ト云ヘル轂ヲ韜メルモノナラシ」（李下翁ハ、老子ナリ）

さん-ぢ-てん（名）［山子點］ 山子學ノ條ヲ見ヨ。

さん-ぢ-の-れい（名）［三枝禮］ 鳩ハ、親鳥ノトマレル枝ヨリ下、三本目ノ枝ニトマルト云フコト。 海森（山崎美成）十、三十八、鳩に三枝の禮あり「學友抄（註、此書ハ、康應ノ撰ナルベシト思ハルル事アリ）ニ、鳥有ニ返報之鵠有ニ三枝禮ニ云云、又、慈元抄、云（註、永正七年撰）ニ、鳩ニ三枝の禮アリ、烏ニ反哺ノ孝アリ、云云、ト見エタリ、猶、本據アリヤ、尋ヌベシ」

さん-ぢ-ばゐ（名）［三芝居］ 江戸時代、江戸ノ大芝居、中村座、市村座、森田座、ノ總稱。芝居ト云フモノノ興行權ハ、此三座ニ限ラレタリ。

さん-ぢ-ふ（名）［參集］ ヨリ、アツマルコト。ヨリアヒ。集會。

さん-ぢ-ふ（名）［三十］ 三十歲。 禮記、内則篇「三十而有ㇾ室、始理ニ男事ニ」 論語、爲政篇「子曰、吾、十有五、而志ㇾ于ㇾ學、三十而立（集註）有ニ以自立ㇾ則守ㇾ之固、而無ㇾ所ㇾ事ㇾ志」

さん-ぢ-ふ（數）［三十］ 十ヲ、三倍ニセル數。ミソ。ミソヂ。

さん-ぢふ-いち-もぢ（名）［三十一文字］ みそひともぢヲ見ヨ。

さん-ぢふ-ご-にち（名）［三十五日］ 人、死シテ、三十五日目ノ日、佛事ヲ修ス。又、五七日トモ云フ。 尺素往來（一條兼良）「三十五日、謂ニ之小練忌ニ四十九日、謂ニ之大練忌ニ」 後成恩寺關白諒闇記、寬弘五七日依ニ復日ニ、翌日被ㇾ立ㇾ之、建久依ニ御衰日ニ、止ニ五七日法事ニ」 榮花物語、廿九、玉飾「ハカナク、五七日ニモナラセタマヒヌレバ」 玉葉集、十七、雜、四「前大納言爲家、身マカリテ、五七日ノ佛事シ侍リケル」

さん-ぢふ-さん-くゎんおん（名）［三十三觀音］〔次次條ヲ見ヨ〕 觀世音菩薩ガ、種種ニ化身シテ顯ハルルコトヲ、ホサムガ爲ニ、ソレヲ、三十三樣ニ圖像スルモノ、楊柳觀音、龍頭觀音、白衣觀音、一葉觀音、瑠璃觀音、六時觀音、合掌觀音、魚籃觀音、延命觀音、何觀音、某觀音、トテ、三十三アリ。巡禮ノ三十三所觀音ト云フモ、コレニ因メルナリ。

さん-ぢふ-さん-げん-だう（名）［三十三間堂］〔三十三トセラレタルハ、三十三身、三十三觀音ニ因ミタマヒシナルベシ〕 (一)京都、東山ノ蓮華王院ノ本堂ノ俗稱。桁行三十三間、梁間五間、古ヘ、柱ト柱トノアヒダヲ、間ト云ヒキ、此堂、一丈二尺毎ニ柱ヲ立テタレバ、六尺一間ニテ、六十六間アリ、東面シテ、横長キ建築ナリ、後白河法皇ノ御建立ニシテ、堂内ニ、木像ノ千手觀音一千體ヲ安置セサセタマヘリ、現存シテ、京都見物ノ者ノ、拜スベキモノトシテ、名高シ。 國花萬葉記（元祿）二、上、山城、三十三間堂「蓮華王院ト號ス、云云、後白河法皇、本願トシテ、千手、千體ヲ造ル」 德川時代、此本堂ノ六十六間ノ裏緣側ニテ、武士ガ、射術ヲ行ヒ、競ヒテ、弓勢ノ程ヲ試ミタリ、矢數ノ條ヲ見ヨ。 (二)寬永十九年、江戸、淺草ニモ、三十三間堂ヲ模造シテ、武士ノ、矢數ヲ試ミル所トセリ、今ノ松葉町ノ地ナリ、此邊ノ地ヲ、堂前ト稱ス、元祿十一年、燒失シテ、翌年、深川ノ八幡宮ノ東ニ、再建シタルニ、再三、燒ケ、又、倒レ、修理ナドシタリシカド、天保四年ニ、暴風雨ニテ倒壞セリ。

さん-ぢふ-さん-しん（名）［三十三身］ 觀世音菩薩ガ、六道ノ衆生ヲ敎化セムガタメニ、各種ノ機ニ應ジテ、三十三樣ニ化身シテ顯ハルルコト。佛身、梵王身、毘沙門身、帝釋身、阿修羅身、婆羅門身、夜叉身、長者身、居士身、比丘身、優婆塞身、童男身、童女身、ナド、三十三種アリ、法華經、觀世音菩薩普門品ニ委シ。三十三觀音、巡禮ノ三十三所觀音、又、三十三間堂ナド云フ、皆、コレヨリ起レリ。

さん-ぢふ-さん-しょ-くゎんおん（名）［三十三所觀音］〔三十三所ト定メタルハ、三十三觀音ニ起ル、其條、并ニ、前條ヲ見ヨ〕 近畿ノ國國ニアル、三十三箇所ノ寺院ニ安置セル觀世音菩薩ノ像ノ稱。現今、稱スルハ、第一番ヲ、紀伊國、東牟婁郡、那智山、青岸渡寺トシ、二番ヲ、同國、海草郡、名草山、金剛寶寺（紀三井寺）トシ、三番ヲ、同國、那賀郡、粉河町、施音寺（粉河寺）トシ、其外、和泉、河内、攝津、播磨、大和、山城、丹波、丹後、近江、等ノ處處ニアリテ、最後ノ三十三番ヲ、美濃ノ揖斐郡、谷汲山、華嚴寺トス、（此順序ニ、古今、異同アリ）此三十三所ヲ禮拜スレバ、功德ヲ受ケ、冥福ヲ得ト云ヒテ、同國シテ詣ヅル者アリ、コレヲ、巡禮ト云フ。（其條、并ニ、御詠歌ノ條ヲ參見セヨ） 新拾遺集、十七、釋敎、花山院御製「修行セサセタマフケル時、粉河ノ觀音ニテ、御札ニ書カセタマフケル御歌、云云」 寺門高僧記、三井寺長吏行尊傳ニ、觀音靈所三十三所巡禮記アリ。（行尊、崇德天皇、保延元年、寂ス） 千載集、十九、釋敎、前大僧正覺忠「三十三所ノ觀音拜ミ奉ラムトテ、所所、參リ侍リケル時、美濃ノ谷汲ニテ、云云」 壒囊抄、十二、三十三所觀音、久安六年、長谷僧正（覺忠）參詣之次第、云云、一度參詣ノ輩ハ、滅罪、造十惡五逆、遠ニ消滅シ、永離ニ惡道ニト、云云」 江戸時代ニ至リテ、近畿ナルヲ、西國三十三所ト稱シ、其巡禮ヲ、西國巡禮ト云フ、是レハ、坂東三十三所、秩父三十三所ナド、起リシ

ヨリ、別チテ云フナリ、其外、洛陽三十三所、江戸三十三所ナドモアリ。

さんじふさんてん（名）「三十三天」（天…） ノ條ヲ見ヨ」帝釋天ニ、須彌山ノ頂ニ、四隅アリ、各峰ニ、八天アリ、其中央ニ、善見城アリ、帝釋、ソコニ住シテ、四峰ノ天ヲ統ブ、此内外ノ三十三天ヲ總稱シテ、忉利天トモ云フ、云云。 [illegible]山、云云、其山頂有二四峰一、毎峰八天、共三十二天、帝釋居中、[illegible]、中夜入道人水邪、從ヒ、人アリテ、七寶ノ塔ヲ立テンコト、高[illegible]ニテアルトモ、[illegible]ニハ、[illegible]、及ヒ[illegible]」

さんじふにさう（名）「三十二相」「相トハ、著シク見ユルコト」釋迦如來ノ身體ニ具ハリタル、異常ナル表徴。身端直相、身金色相、皮膚細滑相、手足柔軟相、頂成肉髻相、眉間白毫相、四牙白淨相、廣長舌相、梵音深遠相、足下平滿相、足下千輻輪相（佛足石ノ圖ニ、車輪ヲ現ズ）、其他、何相、某相、ナド、三十二樣アリ、三十二相、八十種好ト併稱ス。 [illegible]一切衆生化之身、其[illegible]三十二相、以表[illegible]、[illegible]中、人之中將、[illegible]、[illegible]足利時代中期ノ人ナリ、[illegible]、[illegible]目、カタチ、[illegible]、[illegible]四二[illegible]ナシ、六ハ、[illegible]八、三十二相ノ容トハ申セドモ、[illegible]トハ、四十二相ノ容ナリ」

さんじふばんじん（名）三十番神「番トハ、數等ニ就キテ云フナリト云フ」常ニ云ハル所ハ、法華經ヲ守護スト云フ神祇ノ稱、伊勢大神宮、石清水八幡宮、賀茂、春日、鹿島、北野、稻荷、住吉、祇園、八王子、等、三十ノ神神ナリ、コレヲ、毎月ノ三十日ニ配シテ、守護ノ任ニ當ル、ト說ケリ、天台宗ニ始マリテ、日蓮宗ニテ、盛ンニ信仰セラレタリ、本地垂迹ノ說ニ據レルナリ。 諸神記二、七種ノ番神トテ、天地擁護、内侍所、王城守護、禁闕守護、法華守護、如法經守護ノ、各、三十番神ヲ載セ[illegible]、[illegible]開守護ノ番神ト云フモノ、最、右ニ擧ケタルガ如シ。 保元物語、一、[illegible]、吾ガ國ハ、邊地粟散ノ界トイヘドモ、神國タルニ依リテ、總ジテハ、七千餘座ノ神、殊ニハ、三十番神、朝家ヲ守リ奉リタマフ」（是レハ、禁闕守護ノ番神ナリ）

さんじふりつ さんじふふりそで（名）「三十振袖」 老婦ノ、若づくりスルニ云フ語。四十島田、サノ類。 松の落葉（寶永）三「三十振袖、四十島田、サ、ヨイヤサ、伊達ナ振袖、ユカシ、ナツカシ」

さんじふぼう（名）三十棒 禪僧ガ、棒ニテ、弟子ヲ打チテ、敎ヘ導クニ云フ語。 [illegible]集、六十五則、「棒下分ニ好醜一」 三十棒ニ二分好醜トニ云フハ、非ナリ、トシテ云ヘルナリ）

さんじふろくかせん（名）「三十六歌仙」 歌仙ノ條ヲ見ヨ、三十六人ノ、六歌仙ヲ六倍シタルモノカ、一條天皇ノ頃、藤原公任ガ、定メタル所ナリト傳フ」三十六人ノ、和歌ノ名人。下ノ出典ヲ見ヨ。 拾芥抄（洞院實熙）上、末、和歌家「歌人三十六人、柿本人麿、大伴家持、在原業平、紀貫之、壬生忠岑、素性法師、坂上是則、藤原興風、源重之、大中臣頼基、源公忠、藤原朝忠、源順、平兼盛、小大君、中務、藤原元眞、山邊赤人、遍昭僧正、小野小町、紀友則、凡河内躬恒、伊勢、藤原敏行、藤原敦忠、源宗于、齋宮女御、藤原敦忠、藤原仲文、藤原清正、壬生忠見」

さんじふろくきん（名）「三十六禽」 三十六種ノ動物。コレヲ、東西南北ノ方位ニ配ス、諸書ニ記セルモノ、同異、相、異ナレド、萬山字考ニ載スル所、左ノ如シ、東方、魚、蛟、龍、貉、兎、狐、虎、豹、狸、南方、雉、鷹、羊、獐、馬、鹿、蛇、蚓、蟬、西方、豺、狼、狗、雉、鷄、烏、猴、猿、猫、北方、鼈、蟹、牛、狄、鼠、燕、猪、豬、獺 [illegible]代醉篇「古著術數又有三十六禽、[illegible]毎辰而三」佛經、大集經ニハ、十二獸ト說キ、摩訶止觀ニハ、開十二テ三十六トス、代醉篇ニ云フ所ハ、晝夜十二時ニ別チ、時每ニ三トシテ、三十六ニ配ストナリ、十二支ノ子、丑、寅、卯、等ノ十二時ニ配シテ知ルヘシ、佛經ニハ、種種ノ說アレド、略ス。

さんじふろくきう（名）三十六宮 支那ノ前漢ノ宮廷ニ、三十六ノ宮殿アリシヲ云フ語。轉ジテハ、唯、帝王ノ宮殿ノ、數多キヲ云フ。 班固、西都賦「離宮別館、三十六所」 花蕊夫人詩「三十六宮連二內苑一、太平天子住二崑山一」

さんじふろくけい（名）「三十六計」 三十六計走るを上計とすトハ、作戰ノ計畫ニ、種種アレド、逃ゲテ、身ヲ全ウスルヲ、最上トス、トノ意、臆病者ヲ嘲リテ云ヒ、又、卑怯者ノ遁辭トス。 晉書、王敬則傳「敬則曰、檀公三十六策、走爲上計、汝父子、唯應急走耳」盍、[illegible]道濟避魏事也 [illegible]在兵法、何如、三十六計、走爲上計」

さんじふろくりん（名）「三十六鱗」 鯉ニ云フ語。其脇ニ、一行ニ、三十六枚ノ鱗、並ビテアリ。六六鱗 [illegible] 鯉魚脅、一行、三十六鱗、鱗有二黒文一、如十字一、故謂二之鯉一、文ニ[illegible]」 鯉、三十六鱗、六六之數也」

さんじふろくぼう（名）「三十六峯」 連山ニ、三十六ノ峯アルモノ。支那ノ嵩山ニ云ヒ、我ガ京都ノ東山ヲ、詩人、三十六峯ナドト詠ズ。 大明一統志「嵩山、三十六峯、云云、週去七十里、又、其總名也」

さんしん（名）「三辰」 日ト、月ト、北斗星トノ稱。三光。 左傳、桓公二年「三辰旂旗、昭ニ其明一也」註「三辰、日月星也」

さんしん（名）「三親」 三ツノ、至ッテ親シキモノ、即チ、父子、夫婦、兄弟、ノ稱。 小學紺珠「三親、夫婦、父子、兄弟」

さんしん（名）「三身」 佛敎ノ語。法身ト、報身ト、應身ト、佛ノ一體ニ具備スル所ヲ、三相ニ別チテ云フナリ、法身トハ、眞如ノ理體、如來自證ノ妙理ニシテ、諸法ノ本體、萬法ノ所依トナル佛身ナリ。報身トハ、福德、智慧ノ勝因ニ酬報シテ、佛ノ感得スル相好圓滿ナル色身ナリ。應身トハ、衆生ノ機類ニ隨應シテ、三業ノ化用ヲ施ス化身ナリ。 字類抄、諸寺、三身、法身、報身、應身」 [illegible]集（享德）上、佛名 毘盧遮那佛、法身、盧舍那佛、報身、釋迦牟尼佛、應身」 [illegible]記、八、法花三井[illegible]事、六部轉讀ノ法水、三身佛性ノ玉ヲ磨キ」

さんしん（名）「三津」 さんつ（三津）ノ條ヲ見ヨ、

さんしん（名）「三神」 三柱ノ神。造化ノ三神、和歌ノ三神アリ、造化ノ（二）、及、和歌ノ條ヲ見ヨ。

さんじん（名）「三仁」 支那、殷末ノ、三人ノ忠臣。即チ、微子、箕子、比干、ヲ云フ。 論語、微子篇「微子去レ之、箕子爲二之奴一、比干諫而死、孔子曰、殷有二三仁一焉」

さんじん（名）「散人」 「韻會「不二自檢束一爲二散人一」莊子、人間世篇「幾ニ死之散人、又惡知二散木一」註「不レ在二可レ用之數一」（世ノ用ヲ成サヌ人物ノ義、倚、散木ノ條ヲ見ヨ）」 文學ニ從事スル人ノ、其著書、詩文ナドニ、其雅號ノ下ニ添ヘテ署スル語。散史、 [illegible]言故事、四、漁釣類、[illegible]

書、以レ丹漆ニ荼捫耳床釣具ニ、注ニ來江湖ニ、號ニ江湖散人ニ」合類節用集(元祿)四、人倫門「散人、謂ニ無用散棄之人ニ云、隱上之謙稱ー」

さん-じん (名) [山人] 〔山ニ隱遁セル由ニ云フナリ〕隱士、文人ノ、其雅號ノ下ニ添ヘテ稱スル語。 隱士、石川丈山、六六山人、又、四明山人ト號セリ。

ざん-しん (名) [斬新] 〔斬ハ、斬焉ニテ、形容詞ナリト云フ、杜詩、注「斬新、唐人方言」嶄新ト書クハ、誤ナリ〕 別段ニ、新ナルニ云フ語。 杜甫詩「斬新花蘂未レ應レ飛」 歐陽詹詩「芍藥斬新栽、當レ庭數朶開」 洛浦禪師偈「斬新日月、特地乾坤」 蘇軾詩「斬新一朶含ニ風露ニ」

ざん-しん (名) [讒臣] 讒言スル臣下。 史記、趙世家「吾聞ニ之也、姦臣在レ朝、國之殘也、讒臣在レ中、主之蠹也」 鹽鐵論、五、山門治事「讒臣亂レ國、妬婦破レ家」 謠曲、安宅「直カル人ハ、苦シミテ、讒臣ハ、イヤマシニ、世ニアリテ」

ざん-じん (名) [讒人] 讒者ノ條ヲ見ヨ。

さん-しん-ざん (名) [三神山] 支那人ノ傳說ニ、東方絕海ノ中央ニアリト云フ、三ツノ島山ノ稱。卽チ、蓬萊ト、方丈ト、瀛洲トナリ、仙人ノ住ム所トス。(搜神記)又、三島。 史記、封禪書「蓬萊、方丈、瀛洲、此三神山者、其傳在ニ渤海中ニ云云、諸僊人、及不死之藥、皆在焉、云云、金銀爲ニ宮闕ニ」 神仙傳「海中有ニ三神山ニ、曰ニ蓬萊ニ、曰ニ方丈ニ、曰ニ瀛洲ニ、謂ニ之三島ニ」

さん-しゃ (名) [山車] だしぐるまノ條ヲ見ヨ。 通鑑、唐玄宗「以ニ山車、陸船ニ、載レ樂往來」

さん-しゃ (名) [三車] 法華經ニ云フ所ノ、羊車ト、鹿車ト、牛車ト。長者ノ宅ニ、火災アリ、小兒等、遊戲ニ興ジテ、出デズ、父、方便ヲ設ケテ、門外ニ、美麗ナル羊車、鹿車、牛車、アリ、出デテ乘レト云フ、小兒等、因リテ乘リテ、火宅ヲ逃レタリト云フ、羊、鹿、牛、皆、教旨ニ因リテ、譬喩アリ、三界ノ火宅ニ彷徨キ居ル衆生ヲ、涅槃ノ樂都ニ導ク意ナリ。委シクハ、法華經ノ譬喩品、方便品、ニ見ユ。

さん-しゃ (名) [三舍] 〔舍ハ、宿ナリ、三宿ノ義〕 支那軍隊ノ路程、三日路。行程、一日ニ、三十里ノ制トスレバ、三舍ハ、九十里。(六町一里) 左傳、僖公廿三年「楚子謂ニ重耳ニ云云、對曰、云云、晉楚治レ兵、遇ニ于中原ニ、其避ニ君三舍ニ」 三舍を避くト云フ語ハ、轉ジテ、謙退す、讓る、又ハ、辟易すノ意ニ用ヰラル。 通俗編、廿四「退、避ニ三舍ニ」

さん-しゃ (名) [贊者] 〔典儀ヲ贊くる者ノ義〕 中古、御卽位、又、朝賀ノ儀式ノ時、典儀(少納言)ヲ補助スル職。 內裏式、上、元正受ニ羣臣朝賀ニ式「去ニ中階南十二丈ニ西折、與ニ發賀位ニ相對、置ニ典儀位ニ差西南退、置ニ贊者位ニ」 實躬卿記、永仁六年十月十三日、後伏見天皇御卽位、職掌人事、內辨、外辨、云云、典儀、少納言藤原朝臣通名、贊者、彈正疏秦助依、勘解由主典和氣行守」(古事類苑) 字類抄「贊者、サンシャ、御卽位之時」

さん-しゃ (名) [三社] 伊勢大神宮、石淸水八幡宮、賀茂神社、ノ稱。 本朝世紀、康治元年十一月三日「權大納言藤原宗輔卿、參ニ仗座ニ、被レ立ニ三社奉幣使ニ云、被レ告ニ大嘗會由ニ也」註「伊勢、石淸水、賀茂、當日有レ定」「三社祭リ」

ざん-しゃ (名) [讒者] 讒言スル者。又、讒人。 史記、屈原傳「忠而見レ放、讒者益章」 詩經、小雅、桑扈之什、青蠅篇「讒人罔レ極、交亂ニ四國ニ」 太平記、廿七、園ニ御所ニ事「讒者ノ眞僞ニ事ヲ寄セテ、國家ヲ傾ハントノ企テナラバ」

さん-しゃう (名) [山上] ヤマノウヘ。イタダキ。山巓。

さん-しゃう (名) [三生] 佛教ノ語、前生ト、今生ト、後生ト。 圖北瑣語(三十輯、忌田宜充)四、三生石佛「齊永明四年、沙門僧護於ニ剡縣石城山ニ云云、鐫レ石爲ニ彌勒佛ニ、鐫成ニ面像ニ云云、沙門僧淑、來繼ニ其功ニ云云、定林寺僧祐因ニ竟功ニ、像入五丈、至ニ大監十五年ニ畢レ功、像身光蔭、通高十丈、云云、故世稱爲ニ三生石佛ニ云、佛祖統紀ニ、南史、及ビ、劉勰石像碑、天人咸通傳ヲ引クコト、上ノ如シ」

さん-しゃう (名) [三殤] 長殤ト、中殤ト、下殤ト。 出典ヲ見ヨ。 居家必用、十六「三殤、說文云、未ニ成人ニ而死、曰レ殤、長殤、十九歲至ニ十六歲ニ、中殤、十五歲至ニ十二歲ニ、下殤、十一歲至ニ八歲ニ」 無服之殤ヲ見ヨ。

さん-しゃう (名) [酸漿] 草ノ名。カタバミ。

さん-じゃう (名) [山上] 山ニ、ノボルコト。登山。 謠曲、女郎花「イマダ八幡宮ヘ參ラズ候フ、此尉コソ、只今、山上スル者ニテ候ヘ、八幡ヘノ御道シルベ、申シ候フベシ」(石淸水八幡宮ナリ)

さん-じゃう (名) [參上] マウ、ノボルコト。參向。拜趨。 保元物語、一、官軍方方手分事「弓箭ヲ帶セン輩ヲバ、一一ニ召捕ッテ、參上スベキ由、仰セ下ダサル」

さん-じゃう (名) [散狀] 〔交名ノ人人ノ許ニ散らす意ニテモアルカ(散米ノ、散)〕 朝廷ニテハ、諸人ノ姓名ヲ、一紙ニ列載シテ、廻達スル文書。武家ニテハ、多クハ、將軍出行ノ供奉人ノ人員ヲ定メテ、廻達セシムルナドニ云ヘリ。 江家次第、十二、間ニ奉幣使ト申ニ儀「上卿著ニ仗座ニ、召ニ外記ニ、被レ問ニ使等散狀ニ(奉幣使等ノ姓名ヲ、一紙ニ連書セシナリ)」 吾妻鏡、四十二、建長四年七月十四日「來月放生會、御參宮供奉人、散狀調レ之、云云」 同、四十三、建長五年正月二日「明日依レ可レ有ニ御行始于ニ相州御亭ニ(北條時頼邸)今夕被レ催ニ供奉人ニ、是以ニ元日著庭衆ニ所レ被レ撰也、云云、令ニ朝夕雜色等、廻ニ其散狀ニ」 官位相當雜抄「散狀、記ニ人交色ニ、得ニ下知ニ、以ニ其中人ニ定ニ其事ニ也、記ニ其交名狀ニ、謂ニ之散狀ニ」(古事類苑、散狀)

さん-じゃう (名) [慘狀] イタマシキ、アリサマ。「水害後ノ慘狀、見ルニ忍ビズ」

さん-じゃう-こう (名) [山上講] 次次條ヲ見ヨ。

さん-しゃう-せき-ぶつ (名) [三生石佛] さんしゃう(三生)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

さん-じゃう-まゐり (名) [山上參] 〔山上トハ、山ニ上ルコト、其條ヲ見ヨ、山上シテ詣ヅルヨリ、山ノ名トモナル〕 大和國、吉野郡、大峯ノ奥院ナル山上ガ嶽ニ上リ、藏王權現ヘ參詣スルコト。峯入ノ山伏行者ヲ始メトシテ、常人モ、山上講ナド云ヒテ、講中ヲ作リテ、參ル、夏期ニ、信徒ノ上ル者、殊ニ多シ、吉野ヨリ、登路五里餘、山ノ標高、六千二百尺アリ。 女殺油地獄(享保、近松作)中「油屋仲間ノ山上講、俗體ナガラ、數度ノ御山」山上參りノ、行者講ノト、今年モ、身共ノ手カラ、四貫六百」

さん-しゃく (名) [參酌] 參ヘテ、斟酌スルコト。見ハカラフコト。 後漢書、曹褒傳「叔孫通、頗採ニ禮經ニ、參ニ酌秦法ニ」「數書ヲ參酌シテ記ス」

さん-じゃく (名) [三尺] (一)一尺ノ、三倍。(二)三尺の法ノ略、其條ヲ見ヨ。(三)三尺の秋水ノ略。(四)次次條ノ略。(五)さんざく(三尺)ノ條ヲ見ヨ。

さん-じゃく (名) [山鵲] さんくゎうてう(三光鳥)ノ(一)ニ同ジ。 重修本草綱目啓蒙(享和)三十三「山鵲、通名、サンジャク、三光鳥」

さん-じゃく-おび (名) [三尺帶] 手綱染、

柳絞リ、剝身絞リ、ナドノ絹布ノ、鯨尺三尺[illegible]ナルヲ、[illegible]ニ裁チテ、帶トスルモノ、下民ノ用ナリ。略シテ、三尺。[illegible]左、或ハ、右ノ前ニテ結ブ」(諺文)

さんじゃくてぬぐひ（名）三尺手拭 てぬぐひノ條ヲ見ヨ。[illegible]松作)上、鬮籤ノ衆ノ仲間カラ、三尺手拭、抱帶トテ、[illegible]

さんじゃくのしうすい（名）三尺秋水 三尺ハ、劍ノ長サ、秋水ハ、劍ノ光清ノ形容、[illegible]大[illegible]劍ノ名劍ニ[illegible]水ニ、トギリ[illegible]劍銘「先帝匣中三尺水、曾入吳潭斬龍子」」

さんじゃくのどうじ（名）三尺童子 [illegible]

さんじゃくのはふ（名）三尺法〔支那、三代ノ國ノ世ニ、周尺長三尺ノ竹簡ニ、法律ヲ記シキ」明文ニ、制定セラレタル法律。略シテ、三尺トモ云フ。[illegible]

さんじゃくふりそで（名）三尺振袖 ふりそでノ條ヲ見ヨ。

さんしゃたくせん（名）三社託宣 天照大神、八幡神、春日神ノ託宣ナリト記シタル文、足利時代、廣ク世ニ信ゼラレ、某人、掲ゲテ、尊崇シタルモノ、其託宣ニ就キテハ、諸記、諸說、多シトイヘドモ、皆、荒唐無稽ナリ、文モ、拙劣ニシテ、[illegible]傳ノ[illegible]偽作ナラムコト、言フマデモナシ。[illegible]

八幡大菩薩 [illegible]

春日大明神 [illegible]

天照皇大神宮 [illegible]

鎮石集(弘安)六、下、第九條「聖德太子ノ御詞ニハ、[illegible]且依怙ノ必雖三日月之哀、誠ナルカナ、心アラム人、深ク、此心ヲ存ズベキ也」 東寺百合文書、寶德三年十月七日、雜具目錄「三社たくせん一幅」(史學雜誌、[illegible])[illegible]之」

さんしゅ（名）蠶種 蠶種、蠶ノ卵。[illegible]紙ニ、ヒリツケタルモノ。天明集成録稿録、四十六、安永二年十月「此度蠶種仕出候本場、村村札之上」

ざんしゅ（名）斬首 クビキリ、ウチクビ。[illegible]

さんじゅう（名）三從 支那ニテ、女子ノ[illegible]ハ、父ニ從ヒ、嫁ギテハ、夫ニ從ヒ、夫死スレバ、子ニ從フベシト、我ガ國ニテモ、德川時代ニハ、女大學ナドニ、此教ヲ説ケリ。佛書ニテハ、さんしょうト發音セシム、義ハ、同ジ。[illegible]

さんじゅうけいてい（名）三從兄弟 イヤイトコ。マタイトコ。倭名抄、二十八兄弟「[illegible]萬太伊止古」[illegible]

さんじゅじゅ（名）三珠樹 (一)珍奇ナル樹ノ名。山海經「三珠樹[illegible]」(二)上ノ樹木ニ因リテ、唐ノ王勃、王勮、王勔、兄弟三人、才名アリテ、三珠樹ト稱セラル、轉ジテ、スベテ、兄弟三人、共ニ、俊才ナル者ノ稱トス。[illegible]

さんしゅつ（名）産出 産物ノ、出ヅルコト。又、出來ルコト。

さんじゅつ（名）算術 數ヲ計ル術。古キ算術ハ、算木(算ト)、算盤トヲ用ヰテ、行フ、コレヲ、唐算ト云ヒ、古算術、發レテ、室町時代ノ末ヨリ、十露盤ヲ用ヰテ行フ、コレヲ、和算、又、珠算ト云フ(算ノ條ヲ見ヨ)和算ニハ、八算、見一、相場割ヲ初トシ、又、點竄、天元術ナド、數多ノ科目アリ。幕末、安政ノ頃ヨリ、西洋ノ算術ヲ傳ヘ、亞刺比亞數字ニ書キ出シテ、行フ、コレヲ、洋算、又、筆算ト云ヒ、四則、分數、比例、開平、開立、等、多クノ科目アリ。[illegible]

さんしゅのじんぎ（名）三種神器 ミツノタカラ。ミクサノカンダカラ。又、三種の神寶。八咫ノ鏡ト、天叢雲ノ劍(後ニ、草薙ノ劍)ト、八尺瓊ノ曲玉トノ稱、天照大神ヨリ、皇孫、瓊瓊杵尊ノ天降リマス時ニ授ケタマヒシ神寶ニシテ、次第ニ、神武天皇以後、御歷代ニ傳ヘサセラレテ、天皇ノ、天日嗣ヲ知シメス御璽(玉璽)トス。神皇正統記、神代「[illegible]世ニ傳フルコト、日、月、星ノ、天ニアルニ同ジ」新葉集、[illegible]しるしトテ、三のたからヲ、身ニゾ傳フル」玉葉集、[illegible]

さんしゅのしんぽう（名）三種神寶 [illegible]條ヲ見ヨ。

さんじゅはぢんらく（名）散手破陣樂 「散手ハ、散樂ノ意、其條ヲ見ヨ」樂家錄ニ「陽瑞子、破敵陣ノ形也、中天竺、阿羅國樂也」トアリ、神功皇后征韓ノ時、率川明神ノ、軍士ヲ指揮セシ舞トスルハ、アラジ、胡國ノ服裝セリ」舞樂ノ一、一人舞ナリ、寶冠、龍冑ヲ冠リ、假面、裲襠ヲカケ、劍ヲ佩ビ、鉾ヲ執ル。常ニ、散手トノミ云フ。[illegible]

被レ陣喚三字一也」三代實錄、四十九、仁和二年正月廿一日「勅使、賫數曲王舞、散手、云云、時年十二歲」

さん-しゅん (名) 〔三春〕 (一)陰暦ノ、孟春、仲春、季春ノ、三箇月ノ稱。孟夏、仲夏、季夏ヲ、三夏(サンカ)ト云ヒ、孟秋、仲秋、季秋ヲ、三秋(サンシウ)ト云ヒ、孟冬、仲冬、季冬ヲ、三冬(サントウ)ト云フ。稽康、琴賦「三春之初、麗服以時、乃攜二友生一、以遨以嬉」岑參、七言「紅芳三春樹、流年一擲梭」李頎詩「謝暑由三夏二、悲元帝草樂、秋日三秋二」王融、策秀才文「四境無レ虞、三秋式稔」杜甫詩「繁霜三冬臥」(二)三春ハ、三箇年ノ意トシテ、一別三春ナド云フ、三秋モ、同ジ、一日三秋ナド云フ、三度、春、又ハ、秋ヲ歷ル意ナリ。杜甫、贈二王侍郎一詩「一別星橋夜、三移斗柄春」詩經、王風、采葛篇「一日不レ見、如二三秋一兮」注「日二三秋一、不レ止二三月一矣」此詩經ノ句ヨリシテ、思慕ノ切ナルコトヲ、三秋の思ひナド云フ。

さん-じゅん (名) 〔三旬〕 (一)一箇月中ノ、上旬、中旬、下旬、ノ併稱。三澣、三浣。(二)三十日間。「著書一篇、三旬ニシテ成レリ」

ざん-しゅん (名) 〔殘春〕 ノコリズクナニナレル春。春ノ末、暮日間。李嘉祐詩「江花鋪二淺水一、山木暗二殘春一」朗詠集、上、竹院君閑銷二永日一、花亭我醉送二殘春一」

さん-しゅゆ (名) 山茱萸 樹名、高サ、一二丈、枝、葉、共ニ、對生ス、葉ハ、楕圓ニシテ、頂、尖ル、春、葉ニ先立チテ、枝ノ節毎ニ、四瓣ノ黄花、簇リ開ク、花ノ大キサ、三分バカリ、秋冬ノ交ニ、實、熟ス、長橢圓、朱紅色ニテ、味、甘酸ナリ、藥用トス。此實ヲ、茱萸トノミ云ヒテ、支那ニテ、重陽(陰暦、九月九日)ニ佩ブルモノトシタリ、我ガ國ニテハ、茱萸ノ字ヲ、胡頹子ニ充ツ、各條ヲ見ヨ　重修本草綱目啓蒙、廿五、灌木、山茱萸、通名、享保年中ニ、漢種、渡リ、今世ニ、多ク栽ユ」トアリ、然レドモ、延喜年中ノ本草和名、上五十六ニ、山茱萸、見ユ、中絕シタルモノカ。

さん-しょ (名) 〔山椒〕 〔さんせうノ約、雜喉(ザツコウ)、ざっこ〕 さんせう(山椒)ニ同ジ。「さんしょノ實」さんしょノ魚」

さん-しょ (名) 〔山墅〕 山中ニアル別莊。楊萬里、九日自序「余山墅遠二城邑一、復不レ近二墟市一」

さん-じょ (名) 〔產所〕 ウブヤ。產室。產屋。戊氏年中行事「若君、姬御所樣、御誕生之時、云云、御產所ヘ可レ有二御渡一刻、有二御出一也、御產所ハ、新造也」

さん-じょ (名) 〔散所〕 職アル者ノ、其本署ニ候セズシテ、他ノ大臣、大將ナドニ附屬シ居ルヲ云フ語。小右記、長和二年正月四日、中將朝臣(雅通)消息、白馬(アヲウマノセチヱ)節、近衞、稱二散所隨身一、不レ勤二其事一、前例不レ然之事也」勘記、永仁二年二月二日「散所雜色不レ足、被レ召二御舍人如木(ジコボク)一」

さん-じょ (名) 〔贊助〕 同意シテ、贊(タス)クルコト。助成。贊助スル會員ヲ、贊助員ナド云フ。李清臣、德壽皇后冊文「贊助倍益」

さん-じょ (名) 〔芟鋤〕 カリ、取ルコト。鋤(ス)キ取ルコト。曾鞏詩「何嘗不レ欲三親芟二鋤之一」

ざん-しょ (名) 〔殘暑〕 ノコルアツサ。秋ニナルニ、暑氣ノ、ナホ、續キ居ルコト。殘炎。陸游詩「八月殘暑退、秋聲滿二庭樹一」孝經樓詩話(山本北山)「此方ノ俗、七月明ケテ後、三十日ノ內ノ暑ヲ、殘暑ト云フ」

さん-しょう (名) 〔三從〕 さんじゅう(三從)ノ條ヲ見ヨ。

さん-じょう (名) 〔三乘〕 次條ノ略。

さん-じょう-きょう (名) 〔三乘教〕 乘トハ、車駕ノ如キ乘物ノ義ニテ、衆生ヲ運載スル意ナリト云フ」佛教ニ、聲聞乘(シヤウモンジョウ)、緣覺乘、菩薩乘ヲ、三乘ト云ヒ、教法ニ、三種アルヲ云フ。聲聞乘トハ、法門ヲ說ク聲ヲ聞カセテ、解脫セシムルヲ云ヒ、緣覺乘トハ、法門ノ十二因緣ヲ觀ジテ、自ラ覺悟セシムルヲ云ヒ、此法門ニ因リテ、菩薩ガ、行ヲ修シテ、遂ニ佛果ヲ成ズルガ、菩薩乘ナリ、衆生ノ根性、不同ナレバ、ソレニ應ジテ、數樣ノ教法ヲ以テ、彼岸ニ到ラシムルナリ。宋沙門契嵩、原教篇「聲聞乘、緣覺乘、菩薩乘、導二其徒一出レ世也」

さん-しょく (名) 〔三職〕 (一)さんくゎん(三管領)ヲ見ヨ。(二)慶應三年十二月ニ設置セラレタル、總裁、議定、參與ノ、三ツノ稱。(三)明治四年八月ニ制定セラレタル、太政大臣ト、左右大臣ト、參議トノ稱。

さん-しょく (名) 〔山色〕 山ノ氣色(ケハヒ)。山ノ景色。郎士元詩「山色知二殘雨一、蝸陰覺二暮天一」杜甫詩「山色遠寂寞、江光夕滋漫」

さん-しょく (名) 〔蠶食〕 〔史記、趙世家、註「蠶之食レ桑、漸進必盡」〕人ノ國、又ハ、他ノ區域ナドヲ、次第次第ニ、侵シ取ルコト。戰國策、魏策「秦、貪戾之國而無レ親、蠶二食魏一、盡二晉國一」史記、秦始皇紀「至二周之衰一、秦興、邑二于西陲一、自二穆公一以來、稍蠶二食諸侯一、竟成二始皇一」「某ノ選擧區ヲ蠶食ス」

さん-しょく (名) 〔蠶織〕 蠶(コガヒ)ト、機織ト。詩經、大雅、蕩之什、瞻卬篇「婦無二公事一、休二其蠶織一」註「公事、朝廷之事、蠶織、婦人之業」

さん-じょく (名) 〔產褥・產蓐〕 〔褥(シキモノ)、卽チ、臥床(ネドコ)ナリ、褥、蓐、同ジ〕產婦ノ寢床。出產シタル後、寢床ニ居テ、生殖器ノ變化ノ、平常ニ復スル時期ノ稱トス、大抵、六七週間ナリ。此時間ニ、生殖器ニ、創傷ヲ生シ、病原菌、侵入シテ起ル發熱性ノ病ヲ、產褥熱ト云フ。避暑錄話「婦人疾、莫レ大二於產蓐一、倉卒、爲二庸醫一所レ殺者多矣」

ざん-しょく (名) 〔殘燭〕 トボリノコリノ蠟燭火。燃エサシノ燭。蘇軾詩「照レ佛靑熒有二殘燭一」(殘モ、燭ナリ)

さん-しょく-しゃしん-ばん (名) 〔三色寫眞版〕 赤ト、靑ト、黃トノ三色ヲ刷(ス)リアハセテ、天然色ノ繪ヲ作ル技(ワザ)。原色ヲ赤、靑、黃ノ三色ニ分解シテ、三種ノ寫眞版ヲ造リ、コレヲ三色いんきニテ刷リ合セテ、原色ヲナス。又、三色版。

さん-じょく-ねつ (名) 〔產褥熱〕 產褥、條ヲ見ヨ。

さん-しょく-ばん (名) 〔三色版〕 前前條ヲ見ヨ。

さん-しょ-ごんげん (名) 〔三所權現〕 熊野三所權現ヲ見ヨ。傾城反魂香(寶永、近松作)中「南無、日本第一大靈驗、三所權現ト、伏シ拜ミ」

さん-じょ-ざうしき (名) 〔散所雜色〕 攝政、關白家ニ奉仕スル雜色。勘記、永仁二年二月二日「散所雜色不レ足、被レ召二御舍人如木一」

さん-しょ-さま (名) 羽子板ノ條ヲ見ヨ。

さん-じょ-ずいじん (名) 〔散所隨身〕 本府ニ伺候セズ、他ニ附屬スル隨身。小右記、長和二年正月四日、中將朝臣(雅通)消息、白馬節、近衞、稱二散所隨身一、不レ勤二其事一、前例不レ然之事也」

さん-しょ-の-うを (名) 〔山椒魚〕 さんせううを(一)ニ同ジ。

さん-じょ-いん (名) 〔贊助員〕 贊助(サンジョ)ノ條ヲ見ヨ。

さんしらう（名）|三四郎| 三味線ノ異名。（江戸、遊藝人ノ語）

さむしろ（名）|狹席|〔さハ、形容詞ノ狹シノ語根〕幅ノ狹キ席。〔[illegible]式、[illegible]、[illegible]六枚、[illegible]八枚、[illegible]枚、云云〕

さむしろ（名）狹筵〔倭訓栞、さむしろ〕「歌ニ詠ムハ、多クハ、發語ノ辭ニ、さ ト云ヘルナリ」さ夜、さ沙子、さ牡鹿」|筵| ト云フニ同ジ。古今集、十四、戀、四「さむしろニ、衣片敷キ、今夜モヤ、我レヲ待ツラム、宇治ノ橋姫」千載集、十四、戀、四「一夜トテ、夜離レシ床ノ、さむしろニ、ヤガテモ塵ノ、積リヌルカナ」新古今集、五、秋、下「キリギリス、啼クヤ霜夜ノ、さむしろニ、衣片敷キ、獨リカモ寐ム」字類抄「狹筵、サムシロ」

さん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（自動、左變）|參| 〔增韻「參、干與也」〕マジハル。アヅカル。タヅサハル。「朝儀ニ參す」「設計ニ參す」

さん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（自動、左變）|產| ウマル。出生ス。誕生ス。

さん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（他動、左變）|産| ウム。出産ス。分娩ス。[illegible]、[illegible]集、十八、[illegible]ノ、[illegible]シテ作リケル七夜」

さん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（他動、左變）|贊| 〔易經、說卦、疏「贊者、佐而助成也」〕タスク。助成ス。贊成ス。贊助ス 孔子家語、[illegible]、[illegible]、不、能、贊一辭」子路ト、子夏トナリ）「其計畫ヲ贊す」

さん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（他動、左變）|讃| 〔釋名「稱人之美曰讃」〕讃ハ稱フ。稱讃ス。後漢書、[illegible]傳「進不一蠱以讃已」「其功勞ヲ讃す」

さん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（他動、左變）|算| 數ノ〈計ル。計算ス。[illegible]、[illegible]、[illegible]

之人、何足算也」

さん・ず（ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ）（自動、左變）|參|〔參ノ字ノ音讀〕上官ニ參ル。相謁也〕マヰル。マウノボル。參上ス。枕草子、八、八十三段「[illegible]ニキテ、ナコセタレヲ見レバ」さんぜムトスルヲ、今日ハ、御物忌ニテナム」（消息ノ文ナリ）「只今參じマス」

さん・ず（ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ）（自動、左變）|散| 散ル。チラバル。散リテ、失ス。禮記、曲禮、上篇「積而能散、安、安而能遷」太平記、八、持明院殿、[illegible]六波羅、事「軍、散じテ、翌日ニ、鳥羽、高橋、京中ヲ驅セ廻リテ 人、散ず」「[illegible]、散ず」

さん・ず（ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ）（他動、左變）|散|（一）チラス。散ヤス。史記、主父偃傳「召見[illegible]、散五百金予之」「財ヲ散ず」（二）晴ラス。拂フ。遣ル。太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「加樣ノ不審ヲモ、此ノ次イデニ、散じタクコソ候へ」「鬱憤ヲ散ず」

さん・ず（ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ）（他動、左變）|產| 作リ出ス。產出ス。「米ヲ産ず」「生絲ヲ産ず」

ざん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（他動、左變）|讒| シコヅ。ヨコス。善ナルヲ、惡ナリト告グ。讒言ス。枕草子、二、十七段、「すきもの」「[illegible]人、云云、イササカモ、此御事ニ違フ者ヲバざんし、人々、人トモ思ヒタラズ、御方トハ、若君ノコト）

ざん・す（スル・スレ・セ・シ・セヨ）（他動、左變）|竄| 流ス。ハナツ。流罪ニ處ス。[illegible]、[illegible]典篇「[illegible]三苗于三危二」

さんすくみ（名）三竦〔詩經、商頌、長發篇、註「竦、懼也」〕（一）蛇ハ、蛇ニ怖ヂ、蛇ハ、蛞蝓ニ怖ヂ、蛞蝓ハ、蛙ニ怖ヂテ、相、竦ムコト。三蟲、互ニ怖ヅルモノ、ト言ヒ傳フ。關尹子、三極篇「[illegible]、蛞蝓[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]也」（合類節用集、元祿）九、[illegible]門、三蟲相、[illegible]、[illegible]、三物相食、皆不

[illegible]、[illegible]、此、畏食、也、[illegible]、[illegible]ニ、（二）三蟲ノ象ヲ作リ、相、對シテ、互ニ、指先ニテ、右ノ三蟲ノ象ヲ作リ、相、制スル戲レヲ、蟲拳ト云ヒ、移リテハ、指、拳、掌、ニテ、石ト、紙ト、鋏トノ象ヲ作リテスルヲ、石拳ト云ヒ、又、兩手ヲ以テ、狐ト、庄屋ト、獵人トノ態ヲナシテスルヲ、狐拳ト云ヒ、又、轉ジテ、三人シテ、身振ニテ、虎ト、和藤内ト、其老母トノ態ヲスルヲ、虎拳ト云フ。何レモ、三竦ニテ、酒席ナドニテ行ヒ、制セラレタル者ニ、酒ヲ飲マス、コレヲ、拳酒ト云フ、委シクハ、各條ヲ見ヨ。俚言集覽、三すくみ「蛇、蛙、蛞蝓ヲ云フ、俗、三竦ノ字ヲ用ル、近世ノ狂句「三すくみ、姿、殿樣、國家老」

サンスクリット（名）梵語、梵語、Sanskrit. 神聖語ノ義ナリト云フ」天竺、即チ、印度ノ古語。即チ、梵語ナリ。

さんすけ（名）|三介|（一）千葉介、上總介、三浦介ノ併稱。合類節用集（元祿）十、數量門、[illegible]三介、千葉、上總、三浦」（二）寬政ノさんすけト云フハ、寬政年中、德川幕府、江戸、昌平坂學問所（聖堂）ノ學政ヲ作新スル時、徵シタル、三人ノ儒官ノ稱、即チ、柴野彥輔（栗山）、岡田清介（寒泉）、尾藤良佐（二洲）、ナリ。寬政三博士トモ云フ。岡田、辭シテ後、古賀彌助（精里）ヲ徵シタレバ、四すけトナレリ。

さんすけ（名）三助〔垢掻男ニ、三助ト云フ名ノ者、多カリシガ故ニ、呼ビシナラム、飯炊ヲ權助、田舍人ヲ權兵衞、丁稚ヲ三太ト呼ブ例ナリ〕江戸市中ノ錢湯ノ、垢掻下男ノ渾名。湯屋男。浮世風呂（文化、三馬）二編、上「オイネエ三助ダノウ」

さんずん（名）|三寸|（一）一寸ノ三倍。（二）三寸ノ舌ノ條ヲ見ヨ。（三）たいだうあきんどノ條ヲ見ヨ。（四）次次條ノ語ノ略。

さんずんくぎ（名）|三寸釘| 五寸釘ノ條ヲ見ヨ。

さんずんつぼね（名）|三寸局|〔或書ニ「寸トハ、切ヲ賣ル心ナリ」トアリ、或ハ、線香ノトボル長サヲ云ヘルカ〕揚代、銀、三匁ナル局女郎ノ稱。五匁ナルヲ、五寸局ト云フ。共ニ略シテ、三寸、五寸トノミモ云フ。女郎評判（元祿）「せいてんトハ、散茶ノコト、まぐれトハ、並つぼねノコト、半領トハ、三匁、どほし領トハ、五匁つぼねナリ」傾城色三味線（元祿、其磧）五寸、三寸、新町河岸ノ柿暖簾」

さんずんなは（名）|三寸繩| 罪人ヲ、繩ニテ縛ルニ、繩ヲ、密ニカクルヲ云フナルベシ。俚言集覽、三寸繩「罪人ヲ縛ル繩ノ法」[illegible]女五枚羽子板（寶永、近松作）中「三寸繩ニ括リアゲ」

さんずんのした（名）|三寸舌|〔舌ノ長サニ就キテ云フ〕（一）クチサキラ。モノイヒ。辯舌。史記、張良傳「以三寸舌、爲帝者師」「[illegible]、[illegible]、[illegible]弟子」「重以三寸舌、遊三行千里路、人以三寸舌、破三損五尺身」（二）三寸、息、絶ゆ、ト云フハ、口中、息ノ通ゼズナリシヲ云フ。（三寸の舌ニ就キテ云フ）「三寸息絶ゆれバ、萬事休ス」

さんずんのふりつ（名）三寸不律〔爾雅、釋器篇「不律、謂之筆」〕不律ヲ約ムレバ、筆トナル、三寸ハ、細小ナル意〕唯、一本ノ筆。「三寸の不律ヲ以テ、堂堂タル論說ヲ作成ス」

さんすゐ（名）|山水| 山アリ、水アル地ノ

景色。畫山水ニモ云フ。庭ニ造レルニハ、山水ト云フ、其條ヲ見ヨ。南史、下弘之傳「始寧沃川、有二佳山水一、弘之、又、依レ岩築レ室、謝靈運、顔延之、並相欽重一」合類節用集(元祿)二、乾坤門「山水、鶴林玉露、夫子亦喘二山水一、如二智者樂一レ水、仁者樂レ山」東大寺獻物帳「山水畫屏風、一具」山槐記、治承四年十月九日「南殿、山水障子」

さんすゐ (名) 爨炊 飯ヲ炊グコト。メシタキ。炊事。炊爨。陸游詩「客主同二爨炊一」

さんすゐ (名) 寒酸 「次條ノ語ト同ジ、落(零落)ノ字ノ偏ノ三水ヲ取リテ云ヘルナリトゾ(出典ノ文ニ、落ちてトアリ)遊里ノ隱語ノ、弘マリタルナリ」零落レタルコト。又、サビシキコト。俚言集覽、山水「色道大鏡(延寶、箕山)言辭門、山水「物ノさびタル事ニ云フ、少分ナル事ニモ云フ」倭訓栞、さんすゐ「俗ニ、寒酸ナル模樣ヲ云フ」傾城禁短氣(寶永、其磧)「初ハ、金銀アリマ山、云云、此女郎ニ、坂落シニセラレテ、今ハ、山モ、芸モ見落サレテ、さんすいナルアリサマ」コレホド落チテモ、九軒町ヲ、去アルク」(大阪ノ遊里ナリ)諸分店颪「ヨイ男デモアルコトカ、見タクデモナイ、さんすいナ奴ニ、物語シテ居ヤルケナ」傾城反魂香(寶永、近松作)上「身コソ襤褸ノ山水男、紙衣具ノ體ナリトモ、朽チテ朽チセヌ金砂子」(紙衣着タルヲ云ヘルナルベシ)曾我扇八景(寶永、近松作)中「夏冬ナシニ、涼シサウナ、さんすいナ作家」

さんずゐ (名) 三水 「冫」ヲ、二水ト云フニ對ス」(一)漢字ノ偏ノ「氵」ノ字ノ稱 字書ニテ、水ノ部首ニ屬ス、汀、汁、汗、江、汐、河、深、ナドノ如シ。ミヅヘン。散水 水旁 合類節用集(元祿)九、言辭門「氵、翰譜名流、謂二之散水一、字从二此偏一者、以屬二水部一也」國性爺合戰(享保、近松作)二「軍法ノ法ノ字ハ、三水ニ、去ルト書ク」 (二)酒ノ隱語。(偏ヲ取リテ、云フ)西水。水鳥、

さんすゐをとこ (名) 山水男 モノサビシキサマナル男。零落レタル人。前前條ノ出典ヲ見ヨ。

さんせ (名) 三施 佛教ノ語、三種類ノ布施。卽チ、財施、法施、无畏施、ノ稱。ふせ(布施)ノ條ヲ見ヨ。

さんぜ (名) 三世 〔世トハ、隔別ノ義、時間ハ、遷流ヒテ、三ツニ別ルルガ故ニ云フト云フ〕(一)佛教ニテ、時間ヲ別ツニ云フ語。現在世ト、過去世ト、未來世トナリ、法ガ生ジテ、作用ヲナシツツアルヲ、現在トシ、法ガ滅シ、又ハ、作用ヲ止メタルヲ、過去トシ、未ダ生ゼズ、作用ヲナサザルヲ、未來トスト云フ。觀无量壽經「三世諸佛、淨業正因」法華經科注「三世利益、未二會暫廢一」平家物語、三、少將都還事「三世、十方ノ彌陀ノ聖主モ、悲ミタマヒ、亡魂、存靈モ、如何ニ嬉シト思シケム」(十方ハ、四方、四維、上下ナリ)(二)三世ヲ、因果業感ニテ說キテ、過去世ノ善惡業ニ因リテ、現在世ノ苦樂ノ果ヲ感ジ、現在世ノ善惡業ニ因リテ、未來世ノ苦樂ヲ感ズルヲ云フ。「三世ノ因果」(三)普通ニ、三世ト云フハ、前世、現世、後世、ニテ、前生ハ、まへのよニテ、生前ノ世トシ、現世ハ、今生トモ云ヒテ、生死ノ間トシ、後世ハ、のちのよニテ、來世、後生トモ云ヒ、死後ノ世トシ、三世ノ機緣、遷移、流轉シテ、因、緣、果ヲナストス。(さんぜさう(三世相)ヲ併セ見ヨ)又、現世ト、來世トヲ、二世、又、當來ト云フ、其條ヲ見ヨ。

さんせい (名) 山勢 山ノ、タタズマヒ。山ノ姿。揭傒斯詩「山勢遙連レ蜀、江聲不レ入レ吳」太平記、七、千劍破城軍事「大手ノ近ツク處ニハ、山勢、是レガ爲メニ動キ」

さんせい (名) 山精 山ノ精靈。ヤマビコ。抱朴子「山精、一日レ歧、一日二超空一、一日レ猱、一日二飛龍一」

さんせい (名) 三省 三度、我ガ身ヲカヘリミルコト。幾度モ戒メテ、我ガ身ヲ修ムルコト。論語、學而篇「曾子日、吾日三二省吾身一、爲レ人謀而不レ忠乎、與二朋友一交而不レ信乎、傳不レ習乎」(集註ニ、曾子以二此三者一日省二其身一ト解キ、三つながら、省みるト訓ズルハ、誤レリ)荀子、勸學篇「君子博學、而日參二省乎己一、則知明而行無レ過矣」

さんせい (名) 三正 支那ノ曆ノ上ノ、三樣ノ正月。三代ノ夏ノ世ニハ、建寅ノ月ヲ、正月ト建テタリ(卽チ、後ノ陰曆ノ正月ナリ)、次ノ殷ノ世ニハ、建丑ノ月(後ノ十二月)、次ノ周ノ世ニハ、建子ノ月(後ノ十一月)ヲ、正月トセリ、此三樣ノ正月、卽チ、三正ナリ。次ノ秦ノ世ニハ、建亥ノ月(後ノ十月)ヲ、正月トシ、次ノ漢ノ景帝ノ世マデ、然リキ、武帝ノ時、夏ノ世ノ制ニ改メテ、後ハ、變ハルコトナシ。我ガ國モ、陽曆ニ改マリシ以前ハ、スベテ、此如クナリキ。書經、甘誓篇「有扈氏威二侮五行一怠二棄三正一」註「三正、子丑寅之正也、夏正建レ寅、怠棄者、不レ用二正朔一也」

さんせい (名) 三姓 古へ、祭主トナルベキ、三ツノ族姓。卽チ、大中臣、卜部、齋部、ノ稱。

さんせい (名) 三牲 三ツノ犠牲。支那ニテハ、牛、羊、豕ヲ用キテ、宗廟ノ供物トシ、太牢ト云フ、最上ノ厚味トス。我ガ朝ニテハ、支那ノ制ニ據リテ、孔子ノ釋典ニ供ヘラレタリ、但シ、大鹿、小鹿、豕、ナリ。禮記、祭統篇「三牲之俎、八簋之實、美物備矣」大學寮式、釋典「三牲、大鹿、小鹿、豕、各、加二五臟一」

さんせい (名) 三聖 (一)老子ト、孔子ト、釋迦ト。畫人、畫題トシテ、三聖、相、會シタル所ヲ畫キ、三聖圖、又、三敎圖ト云フ、虎溪三笑ノ類ナリ、さんけう(三敎)ノ條ノ(一)ヲ併セ見ヨ。齊東野語「馬遠畫三三敎圖一、黃面老子、則跏趺中坐、云云、吾夫子、乃作二禮於前一、云云、江子還賛レ之曰、釋氏跌坐、老聃傍睨、惟吾夫子、絕倒在レ地」(孔子ガ、禮ヲ、老子ニ問ヒタルコトアルヲ、畫キタルナラム)(二)書道ニテ、空海、菅原道眞、小野道風、ノ稱。夜鶴庭訓抄(世尊寺伊行)能書人人「弘法、天神、道風、三聖之由、見二世事要略一」(三)歌道ニテハ、衣通姫、柿本人麻呂、山部赤人、ヲ稱ス。(和歌三神ノ條ヲ見ヨ)諸神記、中「和歌兩神事、云云、三聖、人丸、赤人、衣通姫」(四)俳諧ニテハ、荒木田守武、山崎宗鑑、飯尾宗祇ヲ稱スト云フ。(馬琴ノ羇旅漫錄、下)(五)酢吸三聖ノ條ヲ見ヨ。(六)近年、孔子、釋迦、耶蘇、ヲ稱スル者アリ。

さんせい (名) 散聖 〔散人ノ散ナリ、其語原ヲ見ヨ〕世捨人ノ尊稱。布袋和尚ヲ、散聖ト云フ。合類節用集(元祿)四、人倫門「散聖、道人也」太平記、三十九、光嚴院法皇行脚御事「今ハ、散聖ノ道人ト成ラセタマヒテ、玉體ヲ、麻衣、草鞋ニヤツシ」

さんせい (名) 贊成 (一)タスケ、ナスコト。助成。贊助。書經、皐陶謨篇「贊二贊 襄一哉」疏「思日贊二贊上古行事一、因贊二成其辭一而言レ之也」易經、說卦、疏「贊者、佐而助成也」(二)同意。荷擔。「某ノ提議ニ贊成ス」

さんせい (名) 參政 政事ノ議ニ、參ハルコト。又、其職。德川時代ニ、儒者ガ、幕府ノ老中ノ次ナル若年寄、大名ノ家老ノ次ナル用人、若老ナドヲ、文筆ノ上

ニ、[illegible]トシタリ、明治ノ初、藩ヲ建テラレタル時、一時、諸藩ノ職名トシテ、[illegible]

ざんせい（名）〔殘星〕 夜明ケニ、殘リテ、[illegible]有明ノ星。[illegible]「[illegible]不ㇾ記ドモ、殘星光ヲ發ハルル習ナレバ」

さんせいけん（名）〔參政權〕 一般國民ガ、[illegible]國ノ大政ニ參與シ得ル權利ナドヲ云フ。市、區、町、村ノ[illegible]議員ニ於ケル如キモ、然リ。

さんせいづ（名）〔三聖圖〕 三聖ノ條ノ[illegible]ヲ見ヨ。

さんせう（名）〔山椒〕〔正韻「椒、玆消切、音焦」〕 古名、ハジカミ。樹ノ名、山地ニ生ズ、自生シテ、高サ丈餘、樹皮、[illegible]、葉[illegible]、小葉、[illegible]ニ似テ、[illegible]シテ、[illegible]ニ及ブ、春、芽ヲ採リテ、食ノ助ケトシテ、食フ、きのめト云フ、佳香アリ。雄ハ、夏ノ初、黃緑色ノ小花ヲ開ク、はなさんせうト云フ、花ノミナリ、[illegible]みさんせうト云フ、實ノミナリ、實、甚ダ小サク、圓ク、[illegible]、共ニ、採リテ、食ノ味ヲ助ク、熟スレバ赤ク、辛クシテ、香アリ、[illegible]ノ內皮モ、赤ク、[illegible]、食用トス、辛シ、[illegible]ト云フ、[illegible]「山椒ハ、小粒デモ辛イ」（物、小ナレド、侮リガタキ[illegible]）[illegible]

さんせう（名）〔三笑〕 虎溪の三笑ヲ見ヨ。

さんせう（名）〔三膲〕 古名、ミノワタ。漢ノ醫書ニ、六腑ノ一トス、上膲ト、中膲ト、下膲トアリト云フ。食物消化、二便排泄ノ機關トスルガ如シ、[illegible]
[illegible]上焦、[illegible]中焦、[illegible]下焦、[illegible]主ㇾ分ニ別清濁ㇾ、主ㇾ出而不ㇾ內、以傳導也」（增補、下學集、上、二、支體門）

さんせう（名）〔參照〕 參ヘテ、テラシアハスルコト。諸物、諸事ヲ、見合ハスルコト。[illegible]

ざんせう（名）〔殘照〕 夕日ノヒカリ。入日ノカゲ。[illegible]

ざんせう（副）〔巉峭〕 岩石ノ、ケハシク聳ユル状ヲ云フ語。[illegible]

さんせううを（名）〔山椒魚〕〔本朝食鑑、七「山椒魚、魚如ㇾ被二山椒樹皮一、故名乎」大和本草、十三「鯢魚、或云、椒氣ア[illegible]」本草綱目啓蒙、三十「鯢魚、山椒樹皮ヲ食フル故ニ名ヅクト」〕（一）古名、ハジカミイヲ。今、又、サンショノウヲ。ハンザキ。爬行ノ動物、山中ノ溪澗ニ生ジテ、水、陸、共ニ生ク、大ナルハ四五尺、[illegible]ニ似テ、[illegible]、頭、圓ク扁ク、眼、甚ダ小サク、四足ノ前足ハ、四指ニシテ、後足ハ、五指ナリ、背ノ皮ハ、いもりヘるノ背ノ如クニシテ、黑キ斑アリ、頂ノ邊ニ、疣多[illegible]

ク、腹ハ、黃ナリ、聲、嬰兒ノ泣クガ如ク、肉味、美ナリト云フ。鯢魚 [illegible]（二）又、一種、箱根ノ湖水ニ產ズルモノ、はこねさんせうをトモ云フ。形、小サク、とかげニ似テ、頭、圓ク、扁ク、頸、長シ、背、黑褐ニ、腹、赤クシテ、細カキ紋アリ、故ニ、[illegible]ノ名モアリ、小兒ノ藥トス。黑魚 [illegible]
[illegible]箱根ノさんせううをアリ、物理小識ニ、蒋子[illegible]

さんせうだいふ（名）〔山椒大夫〕〔山庄大夫〕「山椒ヲ鬻グヲ業トシテ、家、甚ダ富メル者トモ云フ、太夫トハ、長者ト云フガ如キカ、淨瑠璃ニ、由良湊千軒長者トシタリ、又、或ハ、山椒ハ、[illegible]シト云フニ寄セテ、名ヅケタルニハアラジカ」（一）山椒大夫ト云フ者ト、津志王ト云フ者トノ傳說。說經節、淨瑠璃節、小說、等ニ仕組マレテ、世ニ唱ヘラル。[illegible]

ニ、[illegible]ト云フ者アリ、[illegible]、奥州[illegible]人ニ讒セラレテ、西海ニ流サル、正氏ニ、二子アリ、姉ヲ安壽ト云ヒ、弟ヲ津志王ト云フ、父ヲ尋ネムトテ、[illegible]ナリシニ、[illegible]ニ引カサレテ、丹後國ノ由良湊ナル、山椒大夫ニ賣ラレテ、奴婢トナル、山椒大夫、强欲非道ニシテ、二人ヲ酷使スルコト、極メテ甚シク、安壽ハ、終ニ責メ殺サレ、津志王ハ、逃レテ、攝津ノ天王寺ニ居リシヲ、梅津某ニ養ヒテ子トシ、正氏ガ冤ヲ癸聞ス、正氏ニ本領ヲ賜ヒ、津志王ハ、丹後ノ地ヲ賜ハリテ、山椒大夫ノ首ヲ、鋸ニテ斬ル、陸奥ノ[illegible]
[illegible]

[illegible]ノ隱語ニ、[illegible]ヲ云フ。[illegible]ヲ見ヨ。

さんせうひ（名）〔山椒皮〕 山椒ノ條ヲ見ヨ。

さんせうびやう（名）〔山椒鋲〕〔形、山椒ノ實ノ如シ、[illegible]ト云フモ、其形ノ似タルヲ以テ、云フナリ」 鋲ノ頭ヲ、極メテ小サク、正圓ニ作レルモノ。湯殿ノ腰羽目板、又、戶袋ノ板ヲ張ルナドニ、打ツ、[illegible]用ノモノナリ。又、[illegible]釘。

さんせうみそ（名）〔山椒味噌〕 味噌ニ、山椒ノ木芽、又ハ、辛皮ヲ擂リマゼタルモノ。豆腐ノでんがく、茄子ノぎやきニ塗リ、其外、諸物ニ用ヰル。[illegible]

さんせき（名）〔三蹟〕 本朝ノ能書家、三人ノ筆蹟ノ稱。又、三賢。（三筆ノ條ヲ併セ見ヨ）卽チ、小野道風、藤原佐理、藤原行成ナリ、共ニ、平安朝時代中期ノ人ニテ、道風ハ、支那ノ晉、唐ノ書風ヨリ出デテ、別ニ、一風ヲ起シ、和樣ノ端ヲ開キ、後ニ、佐理、行成、出デテ、倶ク、和樣ノ體ヲ成立セリ。世ニ、道風ノ筆蹟ヲ、野蹟ト稱シ、佐理ナルヲ佐蹟ト云ヒ、行成ナルヲ權蹟ト云フ（權中納言、權大納言ニ歷任シタレバナリ）入木抄、一「聖廟（菅原道眞）以後、野道風、相續ス、筆體、相、似タリ、佐理、行成、[illegible]、此三賢ヲ、末代ノ今ニ至ルマデ、此道ノ規模トシテ[illegible]

ト、道風トノ筆跡ノ卷物ヲ獻ゼラレシガ、今一卷ヲ、行成ニ書カセテ、梅ノえもどニ付ケテ上ラレシヨリ、世ニコレヲ、三跡ト云ヒシコト、御記錄ニアリ、行成ノ手柄、世ニ面目ト云フベシ」(御堂殿ハ、關白道長ナリ)

さん-せき (名) 三夕 さんせきのわか(三夕和歌)ノ略、其條ヲ見ヨ。

さん-せき (名) 三席 詩、和歌、管絃ノ集會ノ席。三艘ノ船ニ分レテ乘ル時ハ、三船ト云フ。海人藻芥(應永)上「三席者、詩、歌、管絃、此三御會也、池ナドノ御舟ヲ浮ベラルル時ハ、三船ト申スベキ也」名目抄「三席、詩、歌、樂」大鏡、上、賴忠「入道殿ノ、大井川ノ逍遙セサセタマヒシニ、作文船、管絃船、和歌船ニ別タセタマヒ、云云、此大納言殿、云云、和歌の船ニ乘リ侍ラムト宣ヒテ、詠ミタマヘルゾカシ」(作文トハ、詩作ノ事ナリ、其條ノ(二)ヲ見ヨ、入道ハ、關白道長、大納言ハ、藤原公任)著聞集、五、和歌「白河院、西河ニ行幸ノ時、詩、歌、管絃ノ、三ノ舟ヲ浮ベテ、其道ノ人人ヲ別チテ、乘セラレケルニ、經信卿、云云、管絃ノ舟ニ乘リテ、詩歌ヲ獻ゼラレタリケリ、三舟ニ乘ルトハ、是也」

さん-せき (名) 山積 山積ノ條ヲ見ヨ。

さん-せき (名) 鑽石 こんがうせき(金剛石)ニ同ジ。

さんせき-の-わか (名) 三夕和歌 新古今集中ノ、秋の夕暮ト結ビタル、下ノ三首ノ和歌ノ稱。織錦舍隨筆、上ニ、論アリ。(百家說林、續編、上) 新古今集、四、秋、上、寂蓮「淋シサハ、ソノ色トシモ、ナカリケリ、槇立山ノ、秋のゆふぐれ」西行「心ナキ、身ニモアハレハ、知ラレケリ、鴫立澤ノ、秋の夕暮」定家「見ワタセバ、花モ紅葉モ、ナカリケリ、浦ノ苫屋ノ、あきのゆふぐれ」俚言集覽「三夕の和歌」合類節用集(元祿)十、數量門「詠歌三夕、浦苫屋、鴫立澤、槇立山」

さんぜ-さう (名) 三世相 佛教ノ因緣說ニ、陰陽道ノ五行、相生、相剋說ヲ交ヘ、人人ノ生年月日ノ干支ナドニ因リテ、其三世ノ因、果、吉凶ヲ判斷スルモノ。俚言集覽「三世相「俗册ニ、人ノ相生、相剋ナドヲ見テ、三世ノ因果、吉凶ヲ知ルヲ云フ、又、物事ヲ前知スルヤウノ事ヲ言ヘバ、三世相ナリ、ト云フ諺アリ」生玉心中(正德、近松作)中「此ノ前、サル人ニ、三世相見テ貰ヒシニ、前生デ、佛前ノ茶ノ湯ノ茶碗、打チ割リシ報イアリ」

さん-せちゑ (名) 三節會 元日ノ節會、白馬ノ節會、踏歌ノ節會ノ併稱。

さん-ぜつ (名) 三絕 三種ノ技藝ノ、卓絕セルモノ。唐書、鄭虔傳「鄭虔、嘗書山水、嘗自寫其詩并畫以獻、帝、大署其尾曰鄭虔三絕」注「畫好、一絕也、詩好、二絕也、字好、三絕也」(帝ハ、玄宗皇帝ナリ) 古京遺文(狩谷棭齋)「神護寺鐘銘、橘贊相詞、菅原是善銘、藤原敏行書、神護寺在山城國葛野郡高雄山云云、贊相、是善、敏行、並是顯人、俗稱三絕鐘銘非虛也」

ざん-せつ (名) 殘雪 (一)ノコンノユキ。消エ殘リタル雪。殷堯藩、除夕旅懷詩「半𣏓愁眠殘雪夜、不知明日是新年」(二)春ニナリテ、冬ノ雪ノ、消エズシテアルモノ。鄧伯羔詩「隴頭消息遲誰寄、殘雪寒梅未吐花」朗詠集、上、賦「庭前紅梅有色易分殘雪底、無情難辨夕陽中」

さん-せん (名) 三船 ミツノフネ。三席ノ條ヲ見ヨ。

さん-せん (名) 三遷 さんせんのをしへ(三遷敎)ノ略、其條ヲ見ヨ。

さん-せん (名) 散錢 神佛ノ前ニ奉ル錢。散物。賽錢。「散米、散供ト、同趣」神社啓蒙、或問「問、散米、散錢、何義、答、蓋、解除也」狂言記、仁王「仁王ガ、云云、ココニ立タセラレテゴサル、先ヅ、散錢ヲ上ゲサセラレイ、云云、嬉シヤ、嬉シヤ、コレハ、夥シイ散物デ御座ル」はなひ草(寬永)「散米、さん錢、皆、神祇トス、其頃マテ、神弁ニ、米ヲ持行キタルコトニコソ「コナタカナタ、かへり申しヲ、賴マレテ、數數ニシモ、包ム散米」ナド云フ句モアリ、今ハ、便利ニマカセテ、皆、錢ノミ用ヒテ、江戶ニハ、下ザマニ、米ヲ用ルコト、カ、テナシ、散錢モ、今ハ、散米ト云フコトナケレバニヤ、賽錢トノミ云フ、其旨、違ヒダリ」(歌ノ中ノ、かへりまうしノ語、卽チ、賽ナリ)

さん-ぜん (名) 產前 子ヲ孕ミテ、產ムベキ前。產ミタル後ハ、產後ナリ。本朝若風俗(貞享、西鶴)四「產前、產後ノ名人、銀鍋ニ早メ藥ヲ仕カケ置キヌ」「產前產後、血道ノ藥」

さん-ゼン (名) 參禪 (一)禪道ニ入リテ、學ブコト。坐禪スルコト。坐禪儀「夫學禪者、靜室宜焉、飮食節焉、放捨諸緣、休息萬事」枕過節用集、雜用「參禪、參學」(二)智識ニ參見シテ、禪道ヲ究ムルコト。永平廣錄「永嘉云、遊江海涉山川、尋師訪道、爲參禪、是乃吾出家兒、參禪之樣子也」

さん-ぜん (副) 粲然 (一)鮮明ナル狀ニ云フ語。漢書、董仲舒傳「周道粲然復興」(二)笑フ狀ニ云フ語。(口ヲ開キテ、齒ノ、鮮明ニ見ユル意) 穀梁傳、昭公四年「軍人粲然皆笑」註「盛笑貌」

ざん-ぜん (名) 殘喘 「說文「喘、疾息也」」餘命ニ同ジ。都穆、示夢詩「何時結茅屋、老時寄殘喘」宗无、老牛詩「草繩穿鼻繫柴扉、殘喘無人問是非」

ざん-ぜん (副) 嶄然 「集韻「嶄、鋤咸切、同嶃、巉巖、山尖銳貌、亦作嶃」」人ニ抽デテ、秀デタル狀ニ云フ語。韓愈、柳子厚墓誌銘「子厚、少精敏、無不通達、逮其父時、雖少年已自成人、能取進士第、嶄然見頭角」

さん-ぜん-せかい (名) 三千世界 「出典ノ釋氏要覽ヲ見ヨ」佛敎ニテ、廣漠タル一切世界ヲ稱スル語。三千大千世界ノ略ナリ。又、大千世界。釋氏要覽、名數「山有八山、遶外有大鐵圍山、周迴圍繞、共、一日月、晝夜回轉、照四天下、名一國土、積一千國土名小千世界、積千箇小界名中千世界、積一千中千世界名大千世界、以三積千、故名三千大千世界」白氏文集、三十四、春日題乾元寺上方最高峯亭詩「危亭絕頂四無鄰、見盡三千世界春」江談抄、四「三千世界眼前盡、十二因緣心裏空(註、晩夏遊竹生島述懷、都良香)故老傳云、下七字、作者難思得、島主辨才天、告敎之」

〔さん-ぜん-だいせん-せかい〕(名) 三千大千世界 前條ヲ見ヨ。宇津保物語、菊宴 十三「宮アコギミノ御舞、君ノ御箏ハ、三千大千世界ニ、カタキハアラジカシ」

さん-ぜん-の-ちようあい (名) 三千寵愛 支那ノ唐ノ玄宗帝ガ、其侍姬、楊貴妃ニ對スル寵愛ヲ、誇張シタル語。白居易、長恨歌「後宮佳麗三千人、三千寵愛在一身」傾城酒呑童子(享保、近松作)一「比翼連理ノ御語ヒ、三千の寵愛、只一人」

さんせん-の-をしへ (名) 三遷敎 支那ノ孟子ガ、幼少ナリシ頃、其母、墓地ノ傍ニ住ミシニ、孟子、常ニ戲レニ埋葬ノ事ヲシタリ、其母、子ヲ置ク所ニアラズトテ、市中ニ遷リタレバ、孟子、戲レニ商賈ノ事ヲス、母、此所モ不可ナリトテ、學校ノ傍ニ遷ル、孟子、乃チ、戲レニ俎豆ヲ設ケ、揖讓、進退ス、母、此所、眞ニ子ヲ置クベシトテ、住居ヲ定メタリト云フ。(劉向ノ列女傳)孟子、終ニ大賢人トナレリ、世ニ、此育兒ノ苦心ヲ、孟母の三遷の敎ヘトテ、稱ス。又、孟母三徙。趙岐、孟子題詞「孟子、生有淑質、夙喪其父、幼被慈母三遷之敎」潘岳、閒居賦「此、里仁所以爲美、孟母所以三徙也」

さん-そ (名) 蠶蛆 蠶ノ蛆。一種ノ蠅ノ幼蟲ニシテ、蠶ニ寄生スルモノ。害ヲナ

スコト、甚シ、故ニ、春夏ニ、多クシテ、秋冬ニハ、稀ナリ。

さん-そ (名) [酸素] 元素ノ名、氣體元素中、最モ重要ナルモノ、無色、無臭、無味ニシテ、空氣ハ窒素ト酸素トノ混合ヨリ成リ、水ハ水素二、酸素一ノ化合體ナリ。

さん-そ (名) 三蘇 支那、宋ノ人、蘇洵ト、蘇軾ト、蘇轍ト、共ニ、文章ニ卓絶シテ、一世ニ名アリ、洵、字ハ明允、老泉ト號ス、蜀ノ眉山ノ人ナリ、軾ハ、洵ノ長子、字ハ子瞻、東坡ト號ス、轍ハ、洵ノ次子、字ハ子由、潁濱ト號ス、世ニ、眉山ノ三蘇ト稱ス。[illegible]

ざん-そ (名) [讒訴] シコツルコト。人ノ善ヲ毀トシテ、讒ノ告グルコト。[illegible]

さん-そう (名) [山莊] [illegible]

さん-そう (名) [山藪] やまト、さはト。山澤。[illegible]

さん-ソウ (名) [山僧] (一)山寺ノ僧。[illegible] (二)僧ノ自稱、謙稱ナリ、野僧ト云ハムガ如シ、多クハ、禪僧ニ用ヰラル　サンゾウ

ざん-そう (名) 讒奏 天子ニ、讒言スルコト。讒シテ奏聞スルコト。[illegible] 太平記、五、山門奏状事、[illegible] 西光法師ガ無實ノ讒奏[illegible]

ざん-ぞう (名) 讒訴 (讒訴ノ延、讒ノ轉) 人ノ事ヲ、言ヒケナスコト。[illegible]

さん-そう-ろう (名) 三層樓 三階家。[illegible]

さん-ぞく (名) 三足 サンボンアシ。三脚。[illegible]

さん-ぞく (名) [三族] 諸説アレド、我ガ朝ニテハ、支那ノ漢ノ制ニ倣ハレテ、父族、母族、妻族、トセラレタルガ如シ、九族ノ條ヲ參見セヨ。[illegible]

さん-ぞく (名) [山賊] ヤマダチ。山中ナドニ棲ミテ、行劫ナドスル者。[illegible]

ざん-ぞく (名) [殘賊] 孟子、梁惠王、下篇「賊仁者謂之賊、賊義者謂之殘」(一)ソコナヒ、ヤブルコト。又、其人。[illegible] (二)仁義ヲ、ソコナヒ傷ツクルコト。又、其人。孟子、梁惠王、下 (三)ノコレル賊。打チモラサレシ賊。

さん-ぞく-の-からす (名) [三足烏] (一)三本足ノ烏。[illegible] (二)日ノ中ニ棲メリト云フ鳥。金烏。[illegible] 名ニ云云、太陽火中、暗有二黑氣一如レ烏者上而已、何能得レ見二眼、嘴、羽翼、三足、等之全體一」

さん-そつ (名) 散卒 散ケタル軍卒。逃ゲ散リタル兵卒。[illegible] 一所ニ誘二聚散卒一[illegible]

さん-そん (名) [山村] 山里ノ村。ヤマガ。山家。[illegible]

さん-そん (名) 三尊 父ト、師ト、君トノ稱。[illegible] 故曰三尊也」

さん-ぞん (名) [三尊] 佛家ニテ、中尊ト、左右ノ二挾侍トノ稱。阿彌陀如來ト、觀音、勢至ノ二菩薩ト、釋迦如來ト、文珠、普賢ノ二菩薩ト、藥師如來ト、日光天、月光天トノ如キ、是レナリ。[illegible] 入道左大臣記、正應六年六月七日[illegible] 淨土ヘ導カムト、三尊ノ、身ヲ現ジテ來リ迎フルヲ云フ。富士山頂ニテ、日出ヲ見、二十六夜待ニ、月出ヲ見ルヲ、三尊の御來迎ナドト云フ。[illegible] 迎ヒタマヘリ」

さむ-ぞら (名) [寒空] 冬ノ、寒キ氣色ノ空。寒天。

さん-た (名) 三太 [丁稚ニ、三太郎ト云フ名ノ者、多カリシニ因ルナルベシ、長松ト云フナド、同ジ、湯屋男ヲ三助ト云ヒ、下女ヲおさんト云フガ如シ、あわわの三太郎ヲ併セ見ヨ」(一)丁稚ノ異名。(二)丁稚ノセサスル、狆犬ノ藝ニ、丁稚ハ善ク、犬ニ戯ルルモノ、其狀、犬、後ニ脚ヲ折リテ直立シ、前二脚ヲアゲテ、其先ヲ垂ル、食物ヲ與ヘムトシテ、高ク揭ゲテ、馴ラシ仕込ムナリ、今、洋犬ニ、ちんちん、おあづけ、ナド云フ、同ジ。[illegible]

さん-た (名) 三多 作文ニ就キテ、三ツノ仕用ノ稱。下ノ出典ヲ見ヨ。後山詩話 [illegible]

さん-たい (名) [三體] (一)三樣ノ書體。即チ、楷書ト、行書ト、草書ト。(二)三體詩ノ條ヲ見ヨ。

さん-たい (名) 三台 三台星ノ條ヲ見ヨ。

さん-だい (名) 三代 支那ノ上古ニ、相繼ギタル、夏ト、殷ト、周トノ、三朝ノ稱 (夏、殷、周トモ云フ) [illegible]

さん-だい (名) [三代] (一)人ノ家ノ、三度ノ代替。三世。[illegible] (二)第三世ノ世繼、三代目。第三世「德川三代將軍家光」

さん-だい (名) 三諦 三諦三觀ノ條ヲ見ヨ。

さん-だい (名) [參內] ミカドマキリ。内裏ヘ、マヰルコト。朝廷ニ、出仕スルコト。朝參 參朝 北山抄、七、外記政「不レ就二南所一先參内」[illegible]

さん-だいが (名) [三大河] 日本ノ、三ツ

ノ大河。倭訓栞、かは「刀禰川、吉野川、筑後川ヲ、三大河トス」利根川圖志(安政)總論「利根川ハ本朝一ノ大河ナレバトテ、坂東太郎ト云フ、次ギタルヲ四國次郎、(阿波ノ吉野川)筑紫三郎、(筑後ノ筑後川)コレヲ、日本三大河ト云ヘリ」四神地名錄(寬政)七「利根川ハ、坂東太郎ト稱シ、古ヨリ、海內七大河ノ其一河ニシテ、云云、七大河ト稱セルハ、筑後川、四萬十川、(土州)犀川、(信州)淀川、(山城)阿武隈川、(奧州)北上川、(奧州)ト云ヘリ」

さんだい-がさ (名) 【參內傘】〔公卿ノ、參內スル時ニ用ヰルモノ〕(一)公卿ノ、儀式ノ時、行列ニ持タスル差掛傘。爪折ニテ、紙ハ朱ニテ、柄ハ籐卷ナリ、疊メバ、白麻ノ袋ヲ覆フ、少將以上ノ人、用ヰル、又、大名ニテモ、十萬石以上ハ、用ヰルコトヲ得ト云フ。貞丈雜記、八、調度「裝束の傘、裝束ヲ著スル時、持タスル也、白袋ニ入ル、廣サ八尺ヲ本トスル也、此事、鎌倉年中行事ニ見エタリ」我衣(文化)「參內傘ハ、常ニハ無シ、御規式ノ節、用レ之、少將以上用レ之、然レドモ、家柄ニ因リテ、持ツ、十萬石以上ノ物ナリ」守貞漫稿、三十二、袋入傘、俗ニ、參內傘ト云フ、トシテ、袋入ノ圖ヲ出シ、傘ハ、白張、或ハ、朱、爪折傘也、朱ヲ貴用トス、袋ハ、白晒麻布、下ヲ、平絎ノ紐ニテ結ビ、上ニ、革ノ露、三枚ヅツ、垂ル、柄ハ、總籐卷トアリ。(二)草ノ名、つるぼ(綿棗兒)ノ異名、花穗ノ形、參內傘ニ似タリ。

さんだい-けう (名) 【三大橋】山城國ノ山崎橋、宇治橋、近江國ノ勢田橋ノ稱。山崎橋、斷絕ノ後ハ、淀橋ヲ加フ。其他、各地ニテモ、稱ス、出典ヲ見ヨ。字類抄「三大橋、山崎(山城)勢田(近江)宇治」京羽二重(元祿)四「三大橋、宇治橋、山城宇治川ノ流ニ渡ス、淀大橋、山城木津川ノ流ニ渡ス、勢田橋、江州湖水ニ渡ス」江戸鹿子(貞享)五「三大橋、兩國橋、武藏下總堺ニ架ケタル橋ナリ、千手橋、淺草川上ニ渡ル、六鄕橋、川崎村」和漢名數(元祿)地理「大坂大橋三、天滿橋、天神橋、難波橋」

さんだい-さんくゎん (名) 【三諦三觀】〔說文「諦、審也」諦、呉音、たい(帝、諦)〕空諦ト、假諦ト、中諦トヲ、三諦トス、天台宗ニテ、諸法本然ノ實相ニ就キテ云フ語ナリ、諦トハ、審實ノ義、諸法ノ眞理、眞體、眞相ヲ云ヒ、觀トハ、分別、觀察スルナリ。諸法、一切、萬無ナリト觀ズルヲ、空諦トシ、一切、萬有ナリト觀ズルヲ、假諦(假有)トシ、一切、非空、非有ナリト觀ズルヲ、中諦(中道諦)トス。空ハ、卽チ是レ、假ニシテ、空ト、假トハ、卽チ是レ、中ナレバ、三諦卽是ト云フ、一ニシテ三、三ニシテ一ナリ。譬ヘバ、明鏡ノ明ハ空、像ハ假、鏡ハ中ナルガ如ク、三諦ハ、身體ノ如ク、三觀ハ、動作ノ如シ。諦理ヲ、靜寂ナルニ就キテ、「止」トシ、其雙照スルニ就キテ、「觀」トス、三諦ノ妙理ヲ寂然、圓明ナル月ニ譬ヘテ、三諦止觀の月ト云フ。又、三諦修學者ナド云フハ、天台宗ノ修學者ヲ云フナリ。大藏法數「諦、則審實之義」法華經玄義「卽空、卽假、卽中、卽空、是、眞諦、卽假、是、俗諦、卽中、卽、中諦、此三隔歷、卽是、次第三諦」大藏法數「觀、則照了之義、觀達一念之心、卽具三諦之法也、云云、此三觀、全由性發、實匪修成、故於一心、宛有三用、所謂、一心三觀也」摩訶止觀「法性寂然名止、寂而常照名觀」太平記、一、儲王御事「第三宮(尊良親王)梨本門跡御入室、御器量、世ニ又、類モナカリシカバ、云云、三諦卽是ノ月ノ光ヲ、玉泉ノ流レニ澄セリ」同、十七、山門牒送南都事「誰レカ、稽古ノ窓ニ向ヒテ、三諦止觀ノ月ヲ弄ビ、讀仰ノ窓ニ攀ヂテ、一色一香ノ花ヲ折ラム」淨瑠璃物語、きのぼの段「義經コソ、都ニテ、三だいきうがくきやナリシガ、カカル東ノ遠國ニモ、カヤウニ、ヤサシキ女モアルヤラムト」(義經、鞍馬寺ニ學ブ、天台宗ナリ)

さんたい-し (名) 【三體詩】書名。通俗ニ、三體詩ト云ヘド、三體唐詩ト云フベキナリ、支那ノ唐人ノ七言絕句ト、七言律詩ト、五言律詩トノ、三樣ノ佳調ナルモノヲ集メタルモノ、六卷ナリ、初學ノ資トシタルモノノ如シ、宋ノ周弼ノ編ナリ。此書、南北朝時代、禪僧、支那ヨリ傳ヘテ、講義シテ、次第ニ傳ヘテ、德川時代ノ末マデ、唐詩選ト共ニ長ク學校、寺院ニ於テ、教科書トシテ、大イニ用ヰラレタリ。日本名僧傳「觀中、諱中諦、相國寺普廣院開山、夢窓弟子、又、學二絕海一入レ明、初受二三體詩一」空華日工集、應安二年九月二日「爲二二三子一講二三體詩法一」羅山文集、廿六「本朝之泥二于文字一者、學レ詩則專以二三體唐詩一學レ文則專以二古文眞寶一」

さんだい-しくゎん (名) 【三諦止觀】前前條ヲ見ヨ。

さんだい-しふ (名) 【三代集】醍醐天皇ノ朝ニ勅撰セラレタル和歌集ノ、古今和歌集ヲ始トシテ、次ギテ成レル後撰集、拾遺集ヲ、三代集ト云ヒ、其後、御歷代ニ成レル後拾遺集、金葉集、詞花集、千載集、新古今集ヲ加ヘテ、八代集ト云ヒ、又、コレニ、新勅撰集、續後撰集、續古今集、續拾遺集、新後撰集ヲ加ヘテ、十三代集ト云ヒ、更ニ、玉葉集、續千載集、續後拾遺集、風雅集、新千載集、新拾遺集、新後拾遺集、新續古今集(後花園天皇ノ朝ニ成ル)ヲ加ヘテ、二十一代集ト云フ、此後、撰集ナシ。又、後龜山天皇ノ朝ニ、南朝君臣ノ和歌ヲ集メラレタル新葉和歌集アリ、勅撰ニ准ゼラレタレド、二十一代集ノ外ナリ。

さんたい-しゅ (名) 【三太守】古ヘ、親王ノ任ゼラレタル、三ツノ國守。卽チ、上總守、上野守、常陸守、ノ稱。

さんだい-しゅがく-しゃ (名) 【三諦修學者】三諦三觀ノ條ヲ見ヨ。

さんたい-せい (名) 【三台星】(一)支那ノ天文學ニ、紫微星(卽チ、天帝)ノ左右ヲ守ル、三ツノ星。上台ヲ虛精ト號シ、司命ニテ、太尉トシ、中台ヲ陸淳ト號シ、司中ニテ、司徒トシ、下台ヲ曲順ト號シ、司錄ニテ、司空トス。(二)三公ヲ、三台星ニ比シテ、三台、又、台輔、台位、ナド云フ。晉書、天文志「在レ人曰二三公一在レ天曰二三台一」張九齡、送二尙書燕國公赴二朔方一詩「天與二三台座一人當二萬里城一」職原抄、上、太政官「太政大臣、左大臣、右大臣、已上謂二之三公一云云、三公者、象二天之三台星一也」盛衰記、十一、大臣所勞事「重盛、九卿ニ列シ、三台ニ昇ル」後漢書、桓帝紀「詢二謀台輔一稽二之兆占一」

さん-だい-せつ (名) 【三大節】四方拜、紀元節、天長節、ノ併稱。今ハ、コレニ明治節ヲ加ヘテ、四大節ト云フ。

さんだい-そうおん (名) 【三代承恩】〔承ニ、そう、しょうノ二音アリ、しそう(祇承)アリ、古今集ノ作者、承均法師ヲ、假名ニ、そうくトアリ、相恩ト書ケルアルハ、借字ナリ〕三代、引續キテ、恩顧ヲ承ケタルコト。三代重恩トモ云フハ、三代、重ネテ恩澤ヲウケタルナリ。「三代承恩ノ主君」

さんだい-そくぜ (名) 【三諦卽是】三諦三觀ノ條ヲ見ヨ。

さんだい-ぢゅうおん (名) 【三代重恩】前前條ヲ見ヨ。

さんだい-でん (名) 【參內殿】安政御造營

以後、京都ノ皇居内ニ設ケラレタル殿。[illegible]

さんたいばなし（名）三題噺 寄席ノ一種。客ヨリ三題ヲ出サセ、即席ニ、一ツニマトメテ、噺トシ、落ヲ作ルモノ。文化ノ頃、三笑亭可樂ノ始メタル技ト云フ。[illegible]人（文久、山山亭有人）「三題ばなしト云ヘル事ハ、文化ノ[illegible]云云、[illegible]アリシニ、云云、[illegible]三ツノ題ヲ得テ、頓作ス、云云、實ニ可樂ハ、捷才、頓[illegible]ノ話ヲ作ル、誰レカ、其オワ賞セザラムヤ、可樂ガ一口話、今ハ昔、ヤゴトナキ御方、三浦ノ高尾ガ許ニ通ハセタマヒ[illegible]ヨ、ソチハ、何トテ、此里ニ身ヲ沈メシゾ、父ハ、血ヲ分ケシ親カ、母ハ、ソチヲ生ミタル親カ、トアリケレバ、おみお、顔ヲ赤メツツ、イイエ、直閉デオザリイ[illegible]話ヲ、三題話ノ濫觴トシタリト云フ」

さんたいふ（名）三太夫 〔往時ノ大名ノ側用人ナドニ、多カリシ名ナリ〕華族ノ家令、家扶ノ渾名。近年、呼ビ做セル戲語ナリ。

さんたいブツ（名）三大佛 （一）古ヘハ、奈良ノ東大寺、河内國ノ知識寺、近江國ノ關寺ノ大佛ノ稱。[illegible]

[illegible]（二）後ニハ、東大寺ト、鎌倉ノ高德院ト、京都ノ方廣寺トニアル大佛ヲ云フ。

さんたいゑ（名）三大會 さんゑ（三會）ノ（二）ヲ見ヨ。

さんたう（名）三島 三神山ヲ見ヨ。

さんたう（名）三黨 〔たう（黨）ノ條ヲ見ヨ〕三好ノ三黨ト云フハ、三好康長、三好政康、岩佐左通ナリ。（足利時代ノ末世）

さんたう（名）三到 〔到ハ、專一ノ義〕讀書法ニ必要ナル、三ツノ事。即チ、心、眼、口ノ三ツヲ、並ベ働カスコト。（朱子ノ語）「讀書有三到、謂心到、眼到、口到、三到之中、心到最急」

さんたう（名）算當 算ヘ、當ツルコト。算用。勘定。ツモリ。計算

さんだう（名）算道 古ヘ、大學寮ニ、明經道、紀傳道ナドト共ニ、設ケラレタル學科ノ一。即チ、算術、算法ナリ、算博士ノ條ヲ見ヨ、

さんだう（名）山道 （一）ヤマミチ。ヤマヂ。（二）せんだう（山道）ノ條ヲ見ヨ、

さんだう（名）三道 （一）父祖ニ事フル、三ツノ道。即チ、養ト、喪ト、祭トノ稱、[illegible]（二）兵法家ニハ、正兵、奇兵、伏兵、ノ稱、

さんだう（名）棧道 〔[illegible]〕[illegible]山ノ絶壁ニ、棚ノ如ク作レル路、[illegible]

さんだう（名）參堂 （一）人ノ家ヲ訪フコトノ敬語。參館。（二）佛寺ニ、參詣スルコト。[illegible]

ざんたう（名）殘黨 討チ漏ラサレタル、徒黨ノ者。餘黨。餘類。[illegible]

ざんだか（名）殘高 勘定シテ、殘レル高。殘額。殘金。

さんたく（名）山澤 やまト、さはト。[illegible]イヘリ」

サンタクロオス（名）〔英語、Santa Claus〕歐米ノ俗說ニ、耶蘇降誕祭ノ前夜、煙突ヨリ下リ來リテ、兒女ノ沓、又ハ、沓下ノ中ニ、種種ノ贈物ヲ入レテ去ルト云フ、不思議ナル老人ノ稱。

さんだつ（名）簒奪 〔簒ハ、逆而奪取曰簒〕帝王ヲ排シテ、其位ヲ奪フコト、

さんたつそん（名）三達尊 達尊ノ條ヲ見ヨ。

さんたつとく（名）三達德 達德ノ條ヲ見ヨ、

さんだな（名）三棚 御廚子棚、厨子棚、書棚ノ併稱。往時、武家ノ女子ノ、嫁入スル時ニ、必要ナル物トシテ、携フルニ稱セシ語ナリ。

さんだはら（名）棧俵 〔狭俵ノ音便ナルベシ〕さんだらぼっちノ、ぼっちハ、端ノ急呼、仙臺ニテハ、俵端ト云フ、或ハ、法師ノ轉カ（瘦法師、やせぼっち）法師ノ條ヲ見ヨ、靜岡縣ニテハ、たあらんぼうト云フ、法師ノ略ナルベシ〕米俵ノ兩端ノ蓋ニ用キル、藁作リノ、圓ク扁キモノ、東京ニテ、さんだらぼっち。[illegible]

さんたふ（名）三塔 近江國、比叡山（延暦寺）ノ東塔ト、西塔ト、橫川トノ併稱。東塔ハ、東塔院ノ義ニシテ、一山ノ中央（山頂、四明ガ嶽ノ東）ニ位シ、根本中堂、戒壇院、大講堂、等アリ、總稱シテ、本院、又ハ、止觀院ト云フ、西塔ハ、西塔院ノ義ニシテ、東塔ノ西北、十餘町ノ西嶺ニアリ、轉法輪堂（釋迦堂）、法華堂、相輪橖、等アリ、總稱シテ、寶幢院ト云フ、橫川ハ、東塔ノ北、一里、橫川谷ノ嶺上ニアリ、楞嚴院、四季講堂、等アリ、總稱シテ、楞嚴院ト云フ、三塔ノ諸刹ヲ、順次ニ禮拜スルヲ、三塔巡禮ト云フ、三塔ノ僧徒、悉ク、東塔ノ大講堂ノ廣庭ニ聚リテ、事ヲ議スルヲ、三塔の僉議、又、三塔の會合ト云フ。又、西塔ノ武藏坊辨慶ヲ、謠曲ノ安宅ニ、「辨慶ハ三塔ノ遊僧」ナド云ヘルハ、三塔中ノ意ナリ。[illegible]「人、アマタ伴ヒテ、三塔巡禮ノ事侍リシ、云云」[illegible]

會議仕ル、云云」碧山日錄、寬正二年三月廿日「叡山之二僧、相聚議レ事、謂ニ之三塔會合、是日有レ之、著ニ甲冑ニ執ニ干戈ニ會聚者三萬餘人云」

さんタフ-じゅんれい (名) ｜三塔順禮｜ 前條ヲ見ヨ。

さんタフ-の-せんぎ (名) ｜三塔僉議｜ 前條ヲ見ヨ。

サンタ-マリヤ (名) ｜聖母｜ 〔葡語、Santa Maria. 神聖ナル摩利耶ノ義〕耶蘇ノ生母ノ名。松の葉(元祿)一、長崎ト云フ小唄「昔ヨリ、今ニ渡リ來ル黑船、縁ガ盡クレバ、蠟ノ角トナル、さんたまりや」

さん-たん (名) ｜山丹｜ ヒメユリ。

さん-たん (名) ｜三端｜ 文士ノ筆端ト、武士ノ鋒端ト、辯士ノ舌端トノ、三ツノ稱。韓詩外傳「君子宜レ避ニ三端ニ、文士筆端、武士鋒端、辯士舌端」

さん-たん (名) ｜讃嘆｜ 感ジ、ホムルコト。

さん-たん (副) ｜慘澹｜慘憺｜ 思ヒナヤム狀ニ云フ語。杜甫、丹青引贈曹將軍霸詩「詔謂ニ將軍ニ拂ニ絹素ニ、意匠慘澹經營中」蘇軾詩「慘憺ニ猶存」「苦心慘澹」

さん-たん (句) ｜三歎｜ 一唱三歎ヲ見ヨ。

さん-だん (名) ｜讚歎｜讚嘆｜ 佛敎ニ云フ語。偈頌ヲ以テ、佛德ヲ稱揚スルコト。大智度論、三十、讚歎「美ニ其功德ニ爲レ讚、讚レ之不レ足、則又稱ニ揚之ニ故曰レ歎」往生要集、下「讚、讚揚也、歎、讚歎也」古キ和讚。魚山蠆芥集、法華讚嘆「法花經ヲ、我ガ得シコトハ、薪伐リ、菜摘ミ、水汲ミ、事ヘテゾ得シ、事ヘテゾ得シ」(法華經、提婆品ニ、採ニ薪及菓蓏ニ隨レ時恭敬與トアリ、此讚嘆ハ、行基菩薩ノ作、魚山ハ、山城國、大原村ノ來迎院ナリ) 源、三十九、御法「薪伐ルホド、さんだんノ聲モ、ソコラ集ヒタルヒビキ、オドロオドロシキヲ」(法華八講ノ五卷ノ日ノ、薪ノ行道ニ、行基ノ歌ヲ聲明ニシテ、行道スルヲ云ヘルナリ) 盛衰記、三十二、福原管絃講事「安養世界ノ玉ノ砌ニハ、如來讚嘆ノ曲ヲ奏シ、云云、苦空無我ノ音、妙ニシテ、更ニ妙ナレバ」

さん-だん (名) ｜算段｜ 〔算勘手段ノ略カ(倹約饂飩、倹飩。工夫面倒、工面。約束手形、約手)〕謀リテ、手段ヲ求ムルコト。工夫。才覺。心計。松の葉(元祿)一、本手、うきよぐみ「寐ズトモ、明日ハ寐タト、さんだんシヨ」

さん-だん (名) ｜霰彈｜ 〔霰ノ如ク飛散ス〕近距離ニ於ケル、敵ノ襲擊ニ對シテ、白兵ニ代用スル彈丸。亞鉛製ノ筒ニ、多數ノ彈子ヲ籠メタルモノ、炸藥ヲ用キズ、筒ハ、發射ノ激突ニ因リテ、裂ケテ、砲口ヨリ飛散ス。

サンタン-ぎれ (名) ｜山丹切｜山靼切｜ 〔山丹ハ、西比利亞ナル黑龍江ノ下流ノ地、山丹人ハ、樺太島ニモ來リ住セリ〕往時、山丹人ノ、唐太島(樺太)ヲ經テ、齎シ來リシ交易品ノ布帛、支那ノ江南地方ノ織物ナリ。切地ノママナルニハ、五爪ノ龍ヲ織リ出セル蝦夷錦ナド、是ナレリ。滿洲官人ノ古着ナルヲ、十能切ナド云ヒキ、唐太玉モ、共ニ、來レリ。

さん-だん-ぎれ (名) ｜三段切｜ 俳諧、發句ニ云フ語、切字ノ條ヲ見ヨ。

さん-たん-くゎ (名) ｜山丹花｜ 〔花ノ色ヲ以テ、名ヅク〕暖地ノ產、琉球ヨリ來ル、高サ三四尺、枝、葉、對生ス、葉ハ、くちなしニ似テ、淺綠ナリ、初夏ニ、深紅ノ花、簇リ開ク、丁子ノ花ノ如ク、細筒ノ上ニ、四瓣、分ル。仙遊志「山丹花、一蘂百蕊、狀如ニ繡毬ニ」倭訓栞、後編、さんたんくゎ「山丹花ト書ケリ、琉球ヨリ、正保年中ニ來リ、中絕シテ、又、來ル、云云、花ノ色ヲ以テ名ヅクル也」重修本草綱目啓蒙(享和)廿、灌木「賣木子、サンダンクヽハ(註、即、山丹花ノ聲ニシテ、通名ナリ)和名抄ニ、かはちさのきト訓ジ、多識篇ニ、ちしゃのきト訓ズ、皆、非ナリ」

さん-だん-ろんぱふ (名) ｜三段論法｜ ゐろんしき(推論式)ノ條ヲ見ヨ。

さんだ-やき (名) ｜三田燒｜ 攝津國、八部郡(今、有馬郡)、三田町ニ產ズル磁器ノ稱、靑磁ヲ上トス。

さん-たらう (名) ｜三太郎｜ あわわのさんたらうノ略、其條ヲ見ヨ。

さんだら-ぼっち (名) ｜棧俵｜ さんだはらノ條ヲ見ヨ。

さん-ち (名) ｜三知｜ 人ノ天賦ニヨリテ、道ヲ知ルニ、三ツ階段アルコト。即チ、生レナガラニシテ知ルモノト、學ビテ後ニ知ルモノト、困シミテ後ニ知ルモノトノ、三ツノ稱。中庸、廿章「或生而知レ之、或學而知レ之、或困而知レ之、及ニ其知レ之、一也」

さん-ち (名) ｜三遲｜ (一)酒宴ニ、遲刻シタル者ニ、罰杯ヲ課スルニ云フ語。西宮記、臨時、八、後到「五巡後到者者、可レ行ニ三盃ニ、七巡後到者、可レ行ニ五盃ニ、十巡以上到者、可レ行ニ七盃ニ、一遲、不レ得ニ通風ニ、二遲、酒用架勺、三遲、非ニ錄事ニ指ニ手籌ニ云云」(巡トハ、列坐ノ人人ニ、杯ノ、一タビ巡ルヲ云フ) (二)轉ジテ、唯、酒宴ノ事ニモ言ハル。本朝文粹、十一、詩序、九日侍レ宴觀レ賜ニ群臣菊花ニ應製「恩深レ於ニ一束ニ、歡洽レ於ニ群臣ニ、先三遲ニ而吹ニ其花ニ」(筍文) 類聚名物考、政治、三遲「闕巡三遲ハ、諸御宴ノ時、罰盃ヲ行フ時ノ名目ト見ユ、云云、轉轉シテ、酒宴ノ事ト見ユ」(三遲ニハ、尙、種種ノ說アリ、安齋隨筆、廿八ニ見ユ)

さん-ち (名) ｜產地｜ (一)產物ノ、出ヅル土地。產土。「織物ノ產地」(二)其人ノ、出生ノ地。生地「友ノ產地」

さん-ち (名) ｜散地｜ (一)權勢ナキ、閑散ナル地位。俗務外ノ境涯。唐書、李聽傳「退處ニ散地ニ不レ怨」杜甫詩「散地逾ニ高枕、生涯脫ニ要津ニ」(二)兵法ニ、自國ノ領內ヲ戰地トスル場合ノ稱。孫子、九地篇「自戰ニ其地ニ者、爲ニ散地ニ」

サンチ (名) ｜珊｜ さんちめえとるノ略。多ク、大砲ノ口徑ニ云フ。「十五さんち砲」

サンチイム (名) ｜參｜ 〔佛語、Centime.〕佛蘭西ノ貨幣計算ノ名。法ノ、百分ノ一、我ガ、三厘九毛ニ當ル。

サンチ-グラム (名) ｜甅｜ 〔佛語、Centi-gramme. 甅ハ、瓦厘ノ合字〕量ノ、瓦ノ、百分ノ一。センチグラム。我ガ國ノ二毛六六六七ニ當ル。

サンチ-メエトル (名) ｜糎｜ 〔佛語、Centi-metre. 糎ハ、米突厘ノ合字〕長サノ、米突ノ、百分ノ一。センチメエトル。我ガ國ノ三分三釐ニ等シ。略シテ、さんち、又、せんち。

さん-ちゃ (名) ｜山茶｜ ツバキ。

さん-ちゃ (名) ｜散茶｜ 〔葉茶ノ、形アルニ對シテ、粉トシテ、湯ノ中ニ散らす茶ノ意ナルベシ、異本洞房語園考異(天明)下「茶ハ、袋ニ入レテ振リ出スニ、散茶ハ、粉ニ挽キタル茶ナレバ、湯ニ放シ入ルルノミ」〕(一)磨茶。湯ニ立テテ、飲ムモノ。又、ちらしトモ云フハ、風呂屋ノ湯女ノ語ナルガ如シ。文獻通考「茗、有レ片有レ散」風俗文選(寶永、許六)煎茶店銘「茶ヲ召セ、煎茶、散茶、御用次第ニ召サルベシ」(煎茶モ、散茶ナリト云フ) 五元集、拾遺(寶永、其角)「ワビニ絕エテ、一爐ノ散茶、氣味深シ」好色一代男(天

和、西鶴)一、風呂屋者、上リ湯ノクレヤウ、おちしヲ飲マセ、浴衣ヲ取リサバキ、火入ニ氣ヲツケ」好色一代女 [illegible]

(二)散茶女郎ノ條ヲ見ヨ。

さんちやう（名）［山頂］山ノ、イタダキ。[illegible]「[illegible]山頂[illegible]」

さんちやう（名）［三長］〔三箇ノ長所〕史ヲ編スル人ニ、備ハルベキ、才ト、學ト、識ト。[illegible]「[illegible]故、史才少」

さんぢやう（名）散杖〔水ヲ散ずる意ナルカ〕眞言宗ニテ、香水加持ニ用キル具。閼伽桶ノ香水ニ浸シテ、注グ、柳、又ハ、梅ノ材ニテ作レル棒ナリ、又、茅草四五本ヲ一束トシテ、五箇處ヲ結ビテモ、用キル。長サハ、一尺二寸、乃至、一尺八寸、壇ノ脇机ノ廣狹ニ因リテ定ム。[illegible]

さんちやく（名）［參着］マヰリ、ツクコト。其所ニ、到リツクコト。到着。[illegible]

さんちやくばらひ（名）［參着拂］一覽拂、又ハ、直見拂トモ云ヒ、爲替手形ヲ提示サレタルトキ、銀行ガ直チニ其手形ノ金額ヲ支拂フコトヲ云フ。

さんちやぢよらう（名）散茶女郎 [illegible]湯女

ハ、湯上リノ客ニ、散茶ヲ立テテ供シタルヨリ、渾名トセラレタルナリ（さんちやノ條ヲ見ヨ）嬉遊笑覽、九、上ニ、説アリ、「此語原ニ、種種ノ記アレド、皆、附會ナリ」江戸、新吉原ノ遊女ノ、太夫格子ノ次位ノモノ、略シテ、散茶トノミモ云フ、市中ニアリシ風呂屋ノ湯女ノ、移リ入リタルモノナリ。此女郎屋ノ家作リ、風呂屋作リナレバ、其家ヲモ、直チニ、散茶ト云ヒキ。後ニハ、太夫格子ノ稱呼、廢レ、散茶モ廢レテ、晝三ト呼ブヤウニナリテ、コレガ、終ニ、最上ノ遊女ノ稱トナリ、おいらんナドト呼バレタリ。[illegible]

さんちゆう（名）［山中］ヤマノナカ。ヤマヽヒ。[illegible] 山中、曆日無しトハ、閑寂ニシテ、歳月ヲ忘ルル意ニ云フ。[illegible]

さんぢゆう（名）［三重］(一)平家琵琶ヲ語ルニ云フ語。語ル聲ニ、初重、中音、三重ノ、三音階アリ、中音ヨリ、一律低キヲ、初重ト云ヒ、一律高キヲ、三重ト云ヒ、更ニ、一律高キヲ、甲の三重ト云フ。平家ヲ習フ小官ガ、苦シキコトヨ、河原三重、蜆汁、ト云フ、三重ノ聲ヲアグル苦シサヲ、石河原ヲ歩クト、蜆汁ヲ食フト、ニ比シテ、此語アリト云フ。太平記、[illegible] (二)三重ト云フ語、浄瑠璃ノ語物ノ江戸節ナドニモ移リテ、聲高ク揺リテ發スルヲ云フ。長唄ノ謡物ニモ云フハ、義太夫節ヨリ取リ入レタルナリ。江戸節根元記（天明、文化、温知叢書、十）下ニ、[illegible]フ、三ツ宛、三三九ゆりナリ、三人ノ上リ、下リ、二ツ合ハセテ、二九十八ゆりヲ、本三重ト唱ヘ、ソレヨリ、[illegible] (三)義太夫節ニモ、種種ノ三重アリ、文ノ段落ニ用キルニ、何某ノ地ニ「着きにけり」ナド、五音ヲ長ク引クヲ、送り三重ト云フ。

さんぢゆうだな（名）［三重棚］茶室ニ用キル棚物ノ一。圓柱ニテ、二重ノ棚ヲ設ク、底ト共ニ、三重トナル、茶器ヲ置ク、天井ノ上ニハ、何モ飾ラヌヲ法トス、但シ、濃茶器ノ袋ハ、置クコトアリ、[illegible]

さんぢゆうのたふ（名）［三重塔］塔ノ、三重ナルモノ、五重の塔ノ條ヲ見ヨ。

さんちゆうらう（名）［三中老］〔ごたいらう（五大老）ヲ併セ見ヨ〕豐臣秀吉ノ臣下、三人ノ中老、中村一氏、生駒親正、堀尾吉晴。

さんぢよ（名）［三女］(一)三人ノ女。三女。[illegible] (二)第三ノ女。

さんぢよ（名）［山女］〔霞ノ形、拆ケテ、女陰ニ似タリ〕通草ノ異名。[illegible]女也、阿介比」

さんぢよ（名）［芟除］さんぢよ（芟鋤）ニ同ジ。

さんちよだち（名）［三挺立］猪牙舟ノ條ヲ見ヨ。

サンチリットル（名）〔佛語、Centi-litre.〕佛蘭西ノ容量ノ名。りっとるノ、百分ノ一、我ガ〇、五五四三五勺ニ當ル。

さんつ（名）［三津］〔津ハ、港ノ義〕ミツノツ。サンガノツ。薩摩國ノ坊津、筑前國ノ博多津、伊勢國ノ安濃津ノ併稱。（安濃津、今、津トノミ云フ、此港、明應七年ノ大地震ニ浸シテ、遠淺トナリヌ）武備志（明ノ天啓、我ガ元和）二百三十一、日本考「國有三津、皆、商船所聚、云云、西海道有坊津、薩摩州所轄、花旭塔津、筑前州所轄、洞津、伊勢州所轄[illegible]

津ハ、安濃津ナリ）　和漢名數（元祿）三津、日本三津［坊津、薩摩、博多津、筑前、阿濃津、伊勢］　合類節用集（元祿）十、數量門「三津、攝州坊津、筑前博多、勢州安濃」倭訓栞、みつのつ「武備志、日本考ニ、有三津、云云、阿濃津ハ、伊勢ノ、此地ヨリ出船シ、熊野ニ至リシ事、平家物語ニ見ユ、明應中ノ地震ヨリ、湮淺ニナリテ、大船ハ入リガタシ」

さんづ（名）［三頭］〔倭訓栞、さんづ「馬ニ云フハ、三途ノ義、骨相ノ、三行ナルヲ以テナリ、相馬經ニ、三封ト見エタリ」頭トハ、高マリタルヲ云フカ、漢語ニ、三封ト云フ封ハ、塚ナリ、盛リアガル意ナルベシ、さうづト云フハ、三頭ノ音便ナリ（雙六ノ篸目ニ、四三ト云ヒ、三途河、さうづがは。梶原平三、へいざう）頭、途、圖、吳音ハ、づナリ、三頭ヲ、三圖、草頭ナド、書ケルアルハ、借字ナリ」馬ノ體中ノ名所。脊梁ノ尻ノ方、左右、少シ下リテ、骨ノ、高クナレル處。後脚ノ上部ノ骨ナリ。又、さうづ。平家物語、四、橋合戰事「宇治川ヲ渡ル、足利又太郎忠綱、大音聲ヲアゲテ、強キ馬ヲバ、下手ニ立テヨ、弱キ馬ヲバ、上手ニナセ、云云、鞍壺ニヨク乘定メテ、鐙ヲ强ク踏メ、水、シトマバ、三頭ノ上ニ乘リカカレ、川中ニテ、弓引クナ、云云」盛衰記、三十五、高綱渡宇治川事「馬ノ足ノ立タム程ハ、手綱スクヘ、馬ノ足、ハヅマバ、手綱ヲクレテ泳ガセヨ、水、シトマバ、さうづニ乘リサガリ、鞍壺ヲ去テ、水ヲトホセ、云云」太平記、廿五、住吉合戰事「山名伊豆守ハ、[illegible]手ヲ負フノミナラズ、馬ノ三頭ヲ、二太刀切ラレテ、馬ハ弱リヌ」倭名抄、十一、牛馬體「三封、李緒相馬經[illegible]」

さんづ（名）［三途］［途ニテ、道路ノ義トスル說アリ、途ニテ、塗炭ノ義、苛酷ノ苦患ノ意トスル說アリ、途、塗ノ吳音、づ、前條ノ語原ヲ見ヨ］（一）佛教ニ云フ語。火途ト、刀途ト、血途トナリ。火途トハ、受苦ノ衆生ノ、鑊湯、爐炭ノ熱苦ヲ受クルニテ、卽チ、地獄道ヲ云ヒ、刀途トハ、刀杖、驅迫ノ苦ヲ受クルニテ、餓鬼道ヲ云ヒ、血途トハ、强者、弱者、相、吞噬シテ、血ヲ飮ミ、肉ヲ食フニテ、畜生道ヲ云フト云フ。合シテ、三惡道、三惡趣ト云フニ同ジ。翻譯名義集「有三惡道、亦名三途」維摩經[illegible]「地獄、畜生、餓鬼、三塗也」（二）次次條ノ語ノ略。

さん-ついたち（名）［三朔日］　德川幕府ニテ、元日ト、六月朔日ト、八朔トヲ、式日トシテ、合ハセ稱シタル語。三朔。

さんづ-の-かは（名）［三途河］〔十王經ノ說ク所ニ據レバ、三途ハ、三路ノ義ニテ、河ニ、三所ノ渡アルヲ云ヘリトオボユ、出典ニ、渡河、又、三瀨河トアル、是レナリ、火途、刀途、血途ノ三途トハ、異ナルガ如シ、途ノ吳音、づ、さうづト云フハ、三ノ音便ナリ、三頭ノ語原ヲ見ヨ、葬頭河ト書ケルハ、借字ナリ〕又、三途河。略シテ、三途トノミモ云フ。僞經ノ十王經ニ說ケル事ナリ、冥途ニ、河アリ、人、死シテ、冥土ヘ行ク時、死出ノ山ヲ越エテ、此河ニ到ル、河ニ、渡ル所、三所アリ、善人ハ、橋アルヲ渡リ、淺罪人ハ、淺水瀨ヲ渡ル、惡人ハ、强深瀨ト云フヲ渡ル、對岸ニ、奪衣婆アリ、罪人ノ衣ヲ剝グ、コレヲ、三途河ノ婆（急呼シテ、さうづかのばば）ト云フ、亡者ハ、裸體ニテ迷ヒ行クト云フ。十王經「葬頭河、曲、云云、有二大鬼、名奪衣婆、懸衣翁[illegible]」古今集、十六、哀傷[illegible]ノ身マカリケル時、詠ミケル「泣ク淚、雨ト降ラナム、渡リ河、水マサリナバ、歸リ來ルガニ」　源、三十一、眞木柱「三つ瀨川、渡ラヌ先ニ、イカデナホ、淚ノ水沫ノ、消エ消エナム」盛衰記、十五、宇治合戰事「七十餘騎、川ヘ落チテ、流レケリ、三位入道（賴政）コレヲ見テ、世ヲ宇治川ノ瀨下ササヘ、落入リヌレバ、憂キヘガタシ、況ヤ、冥途ノ三途川コソ、思ヒヤラルレトテ（思ヒヤレ、闇キ暗路ノ、三瀨川、瀨瀨ノ白浪、拂ヒアヘジヲ」（以上ノ渡河、三瀨河、共ニ、三途河ヲ詠メルナリ）保元物語、三、義朝幼少の弟悉く誅せらるる事「侍者、內記平太「死出山、三途河ヲバ、誰カハ介錯スベキ、云云、主ノ御供仕ラムト、云云、腹掻切テ、失セニケル」俳諧世話盡（寶曆）「三途の瀨踏」（三途河ノ案內）

さん-てい（名）［刪定］　惡シキ所ヲ刪リテ、良キニ定ムルコト。漢書、刑法志「若開後[illegible]刪定律令」

さん-てい（名）［棧梯］　崖ナドニ、懸ケワタシタル梯子。盛衰記、廿六、木曾謀反事[illegible]數千萬騎ヲ以テモ、攻落スベキ樣ナシ、況[illegible]棧梯引落シテ、楯籠ラバ」

ざん-てい（名）［殘丁］　身體ニ疾病アル壯丁、調ヲ輸スノミニテ、庸、雜徭ヲ免ゼラルルモノ。東大寺正倉院文書、廿六[illegible]戶籍[illegible]年廿六、殘丁、和銅元年、死」

ざん-てい-でうやく（名）［暫定條約］　正式ノ條約ヲ締結スルマデノ、一時、間ニ合ハセノ條約。

さん-てう（名）［參朝］　ミカドマキリ。朝廷ヘ、マキルコト。參內。[illegible]太宗紀[illegible]「參朝之日、宜在本品見任之上」[illegible]（近松作）「一后、御迎ヒノタメ、參朝トコソ奏シケレ」

さん-てう（名）［三朝］　「歲ノ朝、月ノ朝、日ノ朝ノ意、三始ノ條ヲ併セ見ヨ」元日ノ朝。元日。漢書、谷永傳[illegible]注、師古曰、歲、月、日、三者之始、故曰三朝」

さん-てう（名）［三鳥］　古今傳授（其條ヲ見ヨ）ニ云フ語。三木、三草ト共ニ、古今集中ノ和歌ニ詠ミ入レラレテ、難解ノモノトシタルモノ、東常緣ガ、宗祇ニ傳ヘタル書ニ據レバ、百千鳥（春、上）、呼子鳥（同上）、稻負鳥（秋、上）。三木ハ、をがたまの木、やまがきの木、かには櫻。三草ハ、かはな草、さがり苔、めど（以上、共ニ、卷十ノ物名ニアリ）ナリ、何レモ、難解ノモノニアラズ、各條ヲ見ヨ。

さん-てう-は（名）［三鳥派］　日蓮宗、富士派ノ異義。寬文年中、三鳥院日秀ノ唱ヘ出シタルモノ、嚴刑ニ處セラレタレド、其後、度度、唱フル者、出デ、其度每ニ、刑セラレタリ。德川禁令考、後聚、廿三、三鳥派[illegible]

さん-でう-りう（名）［三條流］　書風ノ一派、三條西實隆（內大臣、天文六年薨、年八十三）ニ始マル。和漢三才圖會、十五、本朝能書「三條殿流」

ざん-てき（名）［殘滴］　殘レル、シタダリ。餘滴。[illegible]

さん-てん（名）［山巓］　山ノ、イタダキ。山頂。山上。[illegible]

さん-てん [illegible] 天ト、地ト、人ト、[illegible]大黒、[illegible]、共ニ、民間、[illegible]セラルルモノ。

さん-でん (名) 三傳 孔子ノ作レル春秋(書名)ノ傳ヲ記シタル、左氏傳ト、公羊傳ト、穀梁傳ト、[illegible]

ざん-てん (名) 慙靦 慙愧ノ、顔面ニ表ハ[illegible]

さん-わう (名) 山王 比叡山ヲ、單ニ、山トノミ云フ、比叡山延暦寺ノ祭社 山法師。

さん-と (名) 山斗 泰山北斗ノ條ヲ見ヨ。泰斗。

さん-と (名) 三都 (一)日本、三所ノ大都會、京都、江戸、大坂ノ併稱。(二)支那ニテハ、晉ノ左思ノ作レル文章ノ、[illegible]三都賦ト云フ、文選ニ載セラレテアリ。[illegible]、宋ノ時ニハ、開封、[illegible]、河南、ノ三[illegible]ヲ、三都ト云ヒキ。

さん-ど (名) 三度 (一)ミタビ。三遍。[illegible]シ、ヤハラカシ、思フままニハ、成ラヌ世ノ中ニ[illegible] (二)三度飛脚ノ條ヲ見ヨ。

さんど-いり (名) 三度入 〔貞丈雜記、七「酒ハ、盃ニ、三度ヅツ入ルル故ニ、盃ニ[illegible]三度入ト云フ、[illegible]丸盃ナリ、小盃トテ、三度入ノ内ニ、[illegible]小サキ土器ナル故ナリ、大重ハ、[illegible]大ナル故ニ、大重ト云フ(スベテ、最小ヨリ、最大ニ、重ネテ[illegible]入レタルナリ、三度入、五度入ハ、三杯入、五杯入ト云フコトニハアラズ、段段、大キクナル故ニ、三度入ト云フニ[illegible]名ヲケタル名ナリ」三度入ノ[illegible]〕 土器ノ、小サキモノヲ、小重(又、へそかはらけ)ト云フ、ソレヨリ大ナルヲ、三度入(又、ゴドイリかはらけ)ト云フ、ソレヨリ大ナルヲ、大重ト云フ、是レ、普通ニ、盃ニ用キルモノナリ、ソレヨリ大ナルヲ、五度入(又、五度かはらけ)ト云フ、ソレヨリ次第ニ大ナルニ、七度入、九度入、十度入、十一度入、十三度入、十五度入アリ、ソレヨリ大ナルハ、ナシ、五度入ヨリ、段段、大ナルハ、肴ヲ盛ルニ用キラル、肴ニ、かはらけ物ト云フコトアルハ、是レナリ。(貞丈雜記、七)然レドモ、大イニ酒ヲ飲ム時ハ、十度入マデ、杯ニ用キラレシコトアリ。[illegible]

さん-とう (名) 三冬 三作ノ(一)ヲ見ヨ。

さん-とう (名) 三頭 三頭ノ條ヲ見ヨ。

さん-とう (名) 蠶豆 ソラマメ。

さん-とう (名) 山東 (一)坂東ノ一稱、其條ヲ見ヨ。(二)支那、十八省ノ一、東方沿海ノ地ニシテ、其東方一帶、半島ノ形ヲ成ス、山東半島ト云フ、北西、南ハ、河北省、河南省、江蘇省ニ接ス、内ニ、五嶽ノ一ナル、泰山アリ、春秋ノ時ニ、齊國、魯國、此内ニアリ、孔子、孟子、皆、此地ニ出ヅ、近年開ケタル膠州灣青島ハ、海岸ニアリ、山東菜、近頃、我ガ邦ニ移植セラル。[illegible]

さん-ざう (名) 山童 山家ソダチノ兒。[illegible]

さん-ざう (名) 贊同 同意シテ、贊クルコト。贊助。贊成。助成。「贊同ヲ得タリ」

ざん-とう (名) 殘燈 消エ殘レル燈火。[illegible]

サンドウィッチ (名) 〔英語、Sandwich. 創製者、英國ノさんどうぃち伯ノ名ニヨル〕 一西洋風食品ノ名、多クハ、辨當ナドニ用キル、麵包ヲ薄ク切リテ、二片ニ、ばたヲ塗リ、其間ニ、種種ノ物ヲ挾ム、通常ハ、牛肉ノ蒸燒、又ハ、燻肉ヲ、薄ク切リテ挾ムモノヲ云フ、其外、色色アリ。

さんとう-さい (名) 山東菜 〔嘉永年中、支那ノ山東省ノ種ヲ、移植シタルモノト云フ〕 菜蔬ノ一種。形狀、相、似テ、葉、短闊ニシテ、縮ミ、深緑ナリ、味、甚ダ美ナリ。

さん-とう-しん (名) 三等親 親族ノ條ヲ見ヨ。

さんとう-せいぢ (名) 三頭政治 〔英語、Triumvirate. ノ譯語〕 西暦、紀元前六十年、及、四十三年ノ兩度、羅馬ニ立チタル政治組織、三人ノ首領ニテ、政權ヲ執行セシモノ。

さんとう-はんたう (名) 山東半島 山東ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さんど-がさ (名) 三度笠 菅笠ノ一種、形、饅頭笠ニ似テ、頂、高シ、旅商人ノ、用キタルモノ、猶、三度飛脚ノ條ヲモ見ヨ。[illegible]三度飛脚、用キル故ニ、名トス、深クスルコトハ、落馬スルコトアル時、面部ヲ疵セサル備ヘカ、此笠、貞享年中、始メテ出ス、文化以前ハ、旅商人、専ラ用ヒ、其[illegible]三度笠ヲ用フ[illegible]江戸ヘモ上下、三度笠」

さん-とく (名) 三德 (一)智ト、仁ト、勇トノ稱、又、三達德。〔中庸[illegible]「知、仁、勇、三者、天下之達德也」〕 (二)正直ト、剛克ト、柔克トノ稱。〔書經、洪範「三德、一曰、正直、二曰、剛克、三曰、柔克」〕

さん-とく (名) 三德 〔鼻紙、書附、楊枝、ヲ入ル、三得用ノ意ニテモアルカ〕 鼻紙袋ニ、別口ヲ附ケテ、書附、楊枝刺、ナドヲ入ルルヤウニ作リタルモノ。賤のをだ巻(享和)「安永ノ頃、鼻紙袋、云云、三德ト云フモノ、流行リ出デ、片方ハ、脇入ナシニ、口付ケテ、薄クシテ、書付、楊枝刺ナンドヲ入レ、中ニ、鼻紙ヲ挾ムヤウニシタルモノナリ、今モ、ナホ、コレヲ用ユ」

さん-どく (名) 三毒 〔三ノ煩惱ハ、善心ヲ毒スル意〕 (一)佛經ノ語。貪欲ト、瞋恚ト、愚癡ト、[illegible] (二)三毒ヲ、大蛇ノ毒ニ喩ヘテ云フコトアリ。太平記、三十三[illegible]三途ノ大河トハ思ヒ寄ラヌゾ、アハレナル、云云、無常ノ虎ニ追ハレテ、煩惱ノ大河ヲ渡

レバ、三春ノ大蛇、浮ビ出テ、コレヲ呑マムト、舌ヲ操ベ、云云」

さん-ざく (名) 【慘毒】 慘タラシキ、害虐。 漢書、陳湯傳「郅支單于、慘毒於民二」

ざん-とく (名) 【竄匿】 遁レ、隱ルルコト。逃ゲ、潜ムコト。 陳造詩「田廬有二笑歌一魑魅亦竄匿」

さん-どくゎい (名) 【三讀會】 讀會ノ條ヲ見ヨ。

サンド-グラス (名) 【沙時計】 〔英語、Sand glass.〕 スナドケイ。

さんど-ぐり (名) 【三度栗】 まばぐりノ類ニシテ、一年ニ、三度、實ルモノ。 茅栗一種 年ニ七度實ル、七度栗ト云フモアリ。 合類節用集(元祿)六、生植門「三度栗、上總、山邊郡所出、杭子」 倭訓栞、くり「七度栗ハ、伊豫ニ出デテ、年ニ七度、ミノルト云フ、三度栗ト云フハ、年ニ三度、ミノル、常陸、茨城郡、稻田村、又、野州、及、越後ニアリ」 北越奇談、二「越後ニ、古ヨリ、七不思議ト云ヘルコトアリ、燃土、燃水、三度栗、八房梅、云云」

さんど-さん-とん (名) 【三度三獻】 三三九獻ノ條ヲ見ヨ。

さん-としより (名) 【三年寄】 江戸市中ノ、三人ノ町年寄、奈良屋氏(後ニ、館ト改ム)、樽屋氏(後ニ、樽ト改ム)、喜多村氏ノ稱。 明良帶錄(文化)世職篇「三年寄、江戸町年寄ト云フ、奈良屋市右衛門、樽屋三右衛門、喜多村彦右衛門」

サントニイネ (名) 【珊篤寧】 〔葡語、Santonina. 英語、Santonine.〕 蛔蟲下シナドニ用ヰル藥。せめんしいなノ條ヲ見ヨ。

さんど-のかみ (名) 三度神 三度の神、正直、ト云フハ、三回、重ネテ占ヒシ事、違ハザレバ、確實ナリトノ意ナリ。 俚言集覽「三度の神正直」

さんど-びきゃく (名) 【三度飛脚】 德川時代、江戸ト、京都、大阪ノ定番トノ通信ニ設ケタル、定期ノ飛脚ノ稱。毎月、三度、日數、八日ニテ、東海道ヲ往復セリ、元和元年、定番ノ諸士、東海道各驛ノ長ト議シテ、其家來ヲ、飛脚ニ宛ツル事トシタルニ始マル、後ニハ、請負人ニ勤メシメ、隨ッテ、商人共、コレニ、荷物、手紙ナドヲ依託スルコト、多カリキ、官權ニ因リテ、急著スレバナリ。略シテ、三度。此飛脚ノ被ル菅笠ガ、三度笠ナリ。 享保集成絲綸錄、廿二、正德二年三月「京、大坂、駿府、三度飛脚、近年ハ、貫目重キ荷物等有レ之、其上、猥ニ夜中モ相通リ、云云、向後ハ、在番ノ面面、荷物ノ外、商人等之荷物、堅ク雜エサルヤウニ仕リ、無レ據子細有レ之、夜通シノ飛脚差出候ハバ、番頭之證文ヲ以テ通スベキ由、相定メ候、此旨、所所ノ飛脚請負人ニ申渡シ、晝夜共ニ、人馬、賃錢、等、定之通、無二相違一相拂候樣ニ可レ有レ之候、云云」(駿府ニモ、定番アリキ)

サントメ (名) 【棧留】 次條、又ハ、次次條ノ語ノ略。

サントメ-がは (名) 【棧留革】 〔次條ヲ見ヨ〕 印度ヨリ渡セルなめしがは、縮文アリ、色モ、種種ナリ、今ハ、和製ニ多シ。 和漢三才圖會(正德)十四、外夷人物「聖多默、佐牟止女、印、南天竺二、云云、土產、云云、鹿革」

サントメ-じま (名) 【棧留縞】 〔葡萄牙人ガ、印度東岸ノ地、聖多默(葡語、São Thomé. 英語、Saint Thomas.) ヨリ渡シシガ故ニ、名トス、縞ト云フコトハ、其條ヲ見ヨ〕 縞織ノ綿布ノ名、赤絲入リノ竪縞ヲ、奧縞ト云ヒ、紺ニ淺縹ノ縞ナルヲ、青手ト云フ。後ニ、京都ニテ織リ出シタルヲ、和ざんとめ、又ハ、京奧縞ト云ヒ、舶來ナルヲ、唐ざんとめト云ヒ、又、略シテ、唐棧トノミモ云フ。 【間道】【緞布】 大猷院殿御實紀、三十八、寛永十五年四月五日「入貢ノ蘭人、參上リ、云云、方物ヲ奉ル、算留縞、二十卷、云云」 色音論草子(寛永)「さんとめだまノ羽織コソ、夏冬カケテ、ハヤリケリ」 增補、華夷通商考(寶永)四「さんとめ、聖多默、西天竺ノ内ニテ、暖國也、云云、土產、木綿島類」 萬金產業袋(享保)四、唐物類「棧留嶋、聖多默、幅、同斷、丈、三丈武三尺、模樣、赤絲入ノ竪島ヲ、俗ニ、奧島ト云ヘリ、コレ、御本手ト云フ、紺地ニ淺黃色島ヲ、靑手ト云フ」 守貞漫稿、十九「聖多默、さんとめ、是亦、異國ノ名也、云云、又、日本製ノ木綿ニ、さんとめ縞ト云フアリ、云云、江戸ニテハ、黑染木綿ヲ、黑ざんとめト云フナリ」

さん-あい (名) 【山內】 (一)ヤマノウチ。 唐書、高僧傳「充二塞山內一」 (二)寺院ノ境內ノ稱、平地ニテモ、云フ、寺ノ山號ニ因リテ、稱スルナルベシ。東京、芝區、三緣山、增上寺ノ廣大ナル平地ノ境內ヲ、芝山內ト云ヒテ、名アリ。(今ハ、大半、芝公園トナレリ) 寺疆

ざん-な・い (形) 【無慚】 〔倭訓栞、ざんない「俗語也、無レ慚ノ意、今、むざんト云フニ同ジキニヤ」(骨なしヲ、無骨ト云フ、同趣)終止形、連體形ノミ、用キラル〕 無慚ナリ。(京畿ノ語) 百合若大臣野守鏡(寶永、近松作)四「亭主ハ、御前ヘ丸裸テ、ざんない形ヤ」 傾城島原蛙合戰(享保、近松作)二「木葉ヲ着タル荒法師、雲ニ乘ジ、口ヨリ虹ヲ吹ク繪像、オオ、ざんない佛樣ヤ」

さん-なき-ぐるま (名) 【三泣車】 〔丁稚、勞シテ泣き、仲仕、職ヲ奪ハレテ泣き、車、軋リテ鳴く意ナリト云フ〕 荷車ノ、小サク低キモノ、商家ノ丁稚ナド、曳ク。明治以後、出來タルモノ。

さん-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【無算】 〔類篇「算、數也」〕 無數ナリ。數、限リナシ。 淮南子、泰族訓「日計無レ算、歲計有レ餘」二死傷無レ算」

さん-なん (名) 【三男】 (一)三人ノ男子。 後漢書、折像傳「君三男兩女、孫息盈レ前」 (二)第三ノ男子。三郎。 江濃記「道三ハ、子息新九郎ガ爲メニ討タレケル、云云、三男、喜平次ト云フ、是レハ、當腹ナリ」

さん-に (名) 【散位】 さんゐ(散位)ヲ見ヨ。

さん-にち (名) 【散日】 〔散ハ、解散ノ意ナルカ〕 佛事法會ノ、結願ノ日。 合類節用集(元祿)二、乾坤門「散日、法會結願之日、曰二散日一、又、謂二之滿散一」

さん-にち (名) 【三日】 三日ノ條ヲ見ヨ。

さん-にふ (名) 【參入】 參リ、入ルコト。マウノボルコト。參上。 江家次第、一、元日節會「具二笏紙一參入」 盛衰記、三十九、長光寺事「來詣、參入之類、散レ花、合レ掌之輩」

ざん-にふ (名) 【攙入】 〔集韻「攙、仕懺切、傍擊也」漢書、天文志、集注、引二韋昭一云「攙、音、參差之參」〕 他人ガ、傍ニ、書キ添ヘタル字、又ハ、註ノ字ナドガ、本文ニ、參リ入ルコト。紛レコムコト。「註脚之字、本文ニ攙入ス」

さん-にん (名) 【三人】 ミタリ。三箇ノ人。三人寄れば、文珠の智慧ト云フ諺ハ、凡人モ、三人集リテ語ラヘバ、善キ工夫ヲ考ヘ出スト云フナリ。(文珠ノ條ヲ見ヨ) 聖德太子傳記(享保、近松作)「何事ウト、三人寄れど、無イ時ハ、文珠ノ智惠モ、イタヅラニ、頭ヲ見合ハスバカリナリ」 五燈會元、楊岐方會禪師「三人同行、必有二一智一」

ざん-にん (名) 【殘忍】 苛ク、暴キコト。ナサケナキコト、慈悲ノ、絕エテ無キコ

ト[illegible]」

さんにんばり [illegible]三人張[illegible]弓ノ[illegible]ヲ引キシボリタルホド、弦ノ弘ガルヲ、三人張ト云フトゾ。二人張、四人張、五人張ナド云フモ、コレニ準ズ。人ノ力量ニ、一人力ト云フハ、錢、一貫五百文ヲ懸ケテ、ソノ如ク弘ガルヲ云フト云フ。[illegible]云フ說モアリ、古ヘハ、四人張、五人張、ト云フ名目ハナキ[illegible]願忠、足利義政ノ臣)上ニ二人張ト云フハ、二人シテ張ル弓ヲ云フ也、三人張トハ、三人シテ張ル弓ヲ云フ也、一張ヲ、四人、五人シテ張ルト云フコト、ア[illegible]メ、一人、弦ヲ懸クルナリ、トモ云フ」保元物語、一、[illegible]五人張、矢束ハ、弓ニ似タル事ナレバ、十四束、十五[illegible]事、賀茂目射候フ者ハ、八幡関ニハ、イクラモ候フ、大[illegible]事、弓ノ、九尺バカリアリケル、四人張ヲ杖ニツキ」

さんにょ (名) 三女 三女ノ條ヲ見ヨ。

さんにょう (名) [illegible] 管用ノ條ヲ見ヨ。

さんにょらい (名) 三如來 [illegible]光[illegible]製ニテ、支那ヲ歷テ、渡來シタルモノトテ、三國傳來ノ三如來ト稱シテ、古來、[illegible]

さんぬる (形容) [去] さりぬるノ條ヲ見ヨ。

ざんねい (名) 讒佞 [illegible]以[illegible]人ニ[illegible]シテ、ヘツラフコト。又、其人。[illegible]

さんねつ (名) 三熱 佛經ノ語、龍蛇ノ受クルト云フ、三ツノ熱キ患[illegible]一ニハ、熱風、熱沙、身ニ著キ、其皮肉、骨髓ヲ焼キ、苦惱ヲナス。二ニハ、惡風吹キ起リテ、龍蛇ノ居所、及、衣、飾ヲ失ハシメ、龍身ヲ苦惱セシム。三ニハ、諸龍、娛樂ノ時、金翅鳥アリ、龍ノ居所ニ入リテ、生メル所ノ龍子ヲ摶奪シテ、コレヲ食ヒ、龍ヲシテ憂惱セシム。(法華文句)[illegible]シメテ、偕、三熱ノ苦シミアリ」大織冠(正德、近松)[illegible]

ざんねつ (名) [殘熱] ノコリノアツサ。殘暑[illegible]

さんねん (名) [三年] (一)ミトセ。三箇年。[illegible](二)多クノ年月。久シキ期間。三年三月。史記、滑稽[illegible]三年モコラヘル」

ざんねん (名) [illegible]

ざんねん (名) [殘念] (一)念ノ殘ルコト。ノコリ多キコト。遺憾 狂言記、萩大名「ハテ、是レ程マデニ思召シ立タセラレテ、御出デナサレヌト申スハ、殘念ナ事デゴサル」(二)イマイマシク、クヤシキコト、クチヲシキコト。無念。遺恨

さんねんざけ (名) [三年酒] [illegible]三年[illegible]貯藏シタル酒ナルベシ[illegible]

さんねんだけ (名) 三年竹 矢竹ノ、生ヒタチテ、三年經テ、堅クナレルモノ。[illegible]云、トテ、三年竹ノ、節近ナルヲ、少シ押シミガキテ、[illegible]

さんねんのも (名) [三年之喪] 支那ニテ、父母ノ喪、喪ニ服スル、三年間ヲ期トス。[illegible]

さんねんふさがり (名) 三年塞 陰陽ノ上ニ云フ語、たいしゃうぐん(大將軍)ノ條ヲ見ヨ。

さんねんみつき (名) [三年三月] (三年ノ條ノ(二)ヲ見ヨ)久シキ年月。[illegible]

さんのいた (名) 三ノ板 鎧ノ、袖ノ冠板ヨリ、第三ノ板、[illegible]袖ノ三の板、切り落トサレ」

さんのう (名) 三王 さんわう(三王)ノ條ヲ見ヨ。

さんのう (名) [山王] さんわうごんげん(山王權現)ノ條ヲ見ヨ。

さんのかはり (名) [三替] 芝居ノ語、さんぐゎつきばゐ(三月芝居)ノ條ヲ見ヨ。

さんのきり (名) 三ノ切 義太夫節ノ淨瑠璃ニテ、三段目ノ終ノ場。古淨瑠璃ハ、スベテ、六段ニ作ラレタリ、近松門左衞門ヨリ、五段トナレリ、其三段目ノ終ハ、通例トシテ、全篇中ノ、最モ悲哀ニシテ、聞キ所ナル段落トス。[illegible](寶暦)淨瑠璃五段續「其内、第一、太夫ノ重ンズル所ノ役ト云フハ、大序ト、三段目の切、第二ハ、云云」

さんのけ (名) 產氣 產氣ヲ見ヨ。

さんのぜん (名) 三膳 本膳ノ條ヲ見ヨ。

さんのつづみ (名) 三鼓 つづみ(鞭鼓)ノ條ヲ見ヨ。倭名抄[illegible]

さんのとり (名) [三酉] 酉待ヲ見ヨ。

さんのひも (名) [產紐] 岩田帶、腹帶。產の紐を解くト云フハ、子ヲ生ムヲ云フ。[illegible]ヲ經ルホドニ、三年三月ニテ、產の紐ヲ解キタマフ」

さんのま (名) 三間 貴族ノ邸ノ奥向ニテ、下婢ノ居ル所。オサンノマ。(下婢ノ事ヲ、おさんト云フハ、コレニ起ルナド云フ說アリ)

さんのまる (名) 三丸 丸ノ條ヲ見ヨ。

さんば (名) [三番] さんばそうノ略。

さんば (名) [生飯] 生飯ノ條ヲ見ヨ。

さんば (名) [產婆] 「老婦人ノ業トシタ

レバ、婆ト云フ」（一）さりあげばばノ條ヲ見ヨ。穩母、穩婆、〔令四大與〕産婆、〔産婆規則〕給ヒ〕（二）今ハ、産婦ノ分娩ヲ助ケ、胎兒、生兒ヲ看護シ、其衞生上ニ就キテ、注意ヲ與フルヲ業トスル女。試驗ヲ受ケ、許可セラレタル者ノ稱トス。助産婦。〔産婆規則、第一條、産婆ハ、年齢、滿二十歳以上ノ女子ニシテ、産婆試驗ニ合格シ、産婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ限リテ、コレヲ營ムコトヲ得〕

さんば（名）【驂馬】軍事上ノ語　砲車ヲ輓ク馬ノ中ニテ馭者ノ乘ラザルモノ。

さんば（名）【三巴】〔譙周ノ三巴記「閬苑白水東南流、曲折三廻如巴字、故、名ニ三巴」〕支那ノ蜀ノ地名。詩ニ詠ゼラル。〔華陽國志「改永寧爲巴郡、以固陵爲巴東、安漢爲巴西、是爲三巴」〕同、駱賓王詩「山形類ニ九折、水勢急三巴」同、鄭谷詩「地是三巴俗、人非百里才」盧僎詩「去國三巴遠、登樓萬里春」〕

ざんば（名）【殘葩】散リ殘リノ花。殘英。〔傳宗元詩「貯愁聽夜雨、隔涙數殘葩」〕

さんぱい（名）【參拜】マヰリテ、拜スルコト。〔戰國策、秦策「蘇秦曰、臣之義、不參拜」〕〔「神宮ニ參拜ス」〕

さんぱい（名）【三拜】〔九拜ノ條ヲ併セ見ヨ〕（一）支那ノ拜禮、三度、拜スルコト。文書ノ上ニ、三拜、九拜ナド記スハ、敬拜ノ意ニテ、厚ク敬意ヲ表スル語。〔儀禮、鄕飮酒禮「主人、西南面、三拜衆賓、衆賓皆答一拜」周書、宣帝紀、宣政元年九月「封皇弟元爲荊王、詔總、拜者、皆以三拜成禮」〕（二）我ガ國ニテ拜禮スルハ、再拜、兩段兩拜ナドニテ、三拜ハ、佛敎ニテ、天竺ノ禮ニ倣ヒテスルコトナリ。〔釋氏要覽、中、禮數、三拜「今、釋氏以三拜者、蓋表三業歸敬也、智論云、内式禮拜、大約、身口業也、佛法、以心爲本、以身口爲末、故、三拜爲禮數也」持統紀、元年九月「筑紫太宰、便告天皇崩於新羅金霜林等、卽日、霜林等、皆著喪服、東向三拜、三發哭焉」（霜林ハ、新羅皇子）儀式、五、正月八日講最勝王經儀「講師三拜、左右相分、就高座」西宮記、臨時、五、敍位「於寺中拜僧家者、撤笏舉手三拜」江家次第、三、正月、御齋會「公卿以下、置笏三拜」槐記、享保十三年十一月廿七日「入道ノ拜ニハ、笏ナシ、天竺ノ禮ナレバナリ、拜モ、三度スル、三度ノ儀、是亦、竺土ノ禮也」〕

さんぱい（名）【三牌】禪寺ニテ、佛殿ニ奉安シ、皇帝、皇后、太子ノ寶算ヲ祝スル木牌。

さんぱい（名）【酸敗】人ノ胃ノ中ニ、食物、停滯シ、腐敗シテ、酸味ヲ生ズルコト。其汁ヲ酸敗液ト云フ、卽チ、留飮ナリ。

ざんぱい（名）【殘杯】ざんぱいれいしやノ條ヲ見ヨ。（殘杯冷炙）

さんばいず（名）【三杯酢】酢ト、酒ト、醬油トヲ、一杯ヅツ合ハセテ、煮カヘシテ、冷シタルモノ、魚ノ刺身、又ハ、蔬菜ヲ、浸スニ用キル。食物ニ因リテ、三分量ヲ種種ニ增減スルコトアリ、芋莖ナドニハ、酢二杯、砂糖一杯、醬油半杯。

ざんぱいれいしや（名）【殘杯冷炙】飮殘ノ酒ト、燒冷ノ炙ト。饗膳ノ冷遇ニ、恥辱ヲ受クル意ニ云フ。〔顏氏家訓、雜藝篇「人不可見役、動貲、處之下座、取殘杯冷炙之辱」杜甫詩「殘杯與冷炙、到處潛悲辛」〕

さんばう（名）【三房】中納言藤原伊房、參議藤原爲房、中納言大江匡房ノ稱。共ニ、學問、和歌ヲ以テ、名アリ。〔臥雲日件錄、寛正六年六月十二日「後三條院代、伊房、爲房、匡房、又、稱三房」〕

さんばう（名）【三方】〔三方刳形の衝重ノ略、四方ト云フモ、同ジ、懸盤ト同ジ構造ノモノナリ〕食盤ノ名。神供ヲ載セ、又、貴人ニ供スルニ、用キル。檜ノ白木ニテ造レル方形ノ折敷ヲ、方形ノ筒ノ如キ臺ニ、築重ネテ、作附ニシタルヲ、衝重ト云フ、其臺ノ三面ニ、眼象（刳形ノ穴）ヲ穿チタルモノガ、三方ナリ。四面ニ穿チタルヲ、四方ト云フ。共ニ、コレヲ、公卿衝重ト云フ（略シテ、公卿）卽チ、四方ハ、大臣以上ニ供シ、大納言以下ハ、三方ナリ。其折敷ノ緣ノ低キヲ、細緣ト云ヒ、六位藏人ニ用キル、コレヲ、薄盤ト云フ。（貞丈雜記、七、四季草）又、小四方ト云フ、アリ、其條ヲ見ヨ。後世ハ、平人モ、儀式ノ時ニハ、三方ヲ杯臺トシ、其外、種種ノ物ヲ載スルニ用キ、春慶塗ニスルモアリ、形モ、上、廣ク、臺、狹クナリ、穴モ、寶珠形ノ如クナレリ。〔俊成卿九十賀記、建仁三年十一月廿三日「於上皇二條御所、被賀入道正三位釋阿九十算、云云、次賜釋阿前物、云云、次居公卿衝重、云云、塗胡粉、有畫圖」（藤原俊成入道釋阿）宣胤卿記、永正十四年十月五日「公卿前、衝重、諸大夫、殿上人前、足付一中右記、寛治八年三月十一日、朱器大盤物數等「朱大盤廿七、此中、八尺長二、四方六、小大盤十九」（是レ、後世ニモ云フ、四方ナルカ）三内口訣（永正）盤、四方、三方事「大臣以上ハ四方、大納言以下ハ三方也、云云、細緣ノ三方ハ、六位藏人ニ用之候、云云、殿上人、四位、五位、公界會之時、三方、勿論也」玉函叢說（安永、田安宗武）三「大三方、面一尺一寸五分、筒ノ高サ八寸二分八厘、中三方、面一尺一寸、小三方、面九寸五分」（略文）神道名目類聚抄、三、祭器「四方、三方、御饌ヲ供ズル御膳ナリ」〕

さんばう（名）【訕謗】ソシルコト。誹謗。惡シザマニ、云フコト。〔北史、賈彝傳「坐訕謗獄」〕

さんぱう（名）【三彭】三尸蟲ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

さんぱう（名）【山砲】大砲ノ一種、山地戰ニテ、使用スルモノ。（野砲ニ對ス）砲身、砲架、等ヲ、別別ニ取外シ、馬背ニ載セテ、運搬スルコトヲ得。

ざんばう（名）【讒謗】ソシルコト。ワルク云フコト。誹謗。訕謗。ザンゾウ。〔三國志、魏志、王烈傳、注「朋黨之人、互相讒謗」〕

さんばうぎん（名）【三寶銀】寶永七年、德川幕府ノ鑄テ發行セル銀貨。丁銀、及、豆板銀ナリ、各、寶ノ字ノ極印、三ツヅツアリ。品位ハ、銀、三十二、銅、六十八ナリ。〔貨幣祕錄「寶永七年七月、永字銀ヲ改ム、寶字ノ極印、三ツアリ、コレヲ、三寶銀ト云フ、享保六年十二月、通用止ム」〕

さんはかせ（名）【算博士】〔博士ノ條ヲ見ヨ〕古ヘノ大學寮ノ官。學生ニ、算術ヲ教フルヲ掌ル、コノ學ヲ、又、算道ト云フ、後世ハ、三善氏ト、小槻氏トノ世襲トナレリ。〔職員令、大學寮「算博士、二人、掌教算術」職原抄、上、大學寮「算博士、二人、算道之極官也、算道者、三善氏傳之、云云、今一人、小槻氏任之」〕

さんはかせ（名）【三博士】寛政年間ノ幕府ノ聖堂ノ儒者、柴野栗山、岡田寒泉、尾藤二洲、三人ヲ、世人、寛政ノ三博士ト云フ。（さんすけノ條ノ（二）ヲ見ヨ）

さんばがらす（名）【三羽鴉】三人ノ、揃ヒテ、離レザル者ナドヲ云フ、俗語。一人ノ主タル人ニ、何處ニモ附屬シ、助力スルナドニ云フ。「明智ノ三羽烏」

さんぱく（名）【三白】〔四脚、皆、白キ四白

ニ對シテ、みつぱトモ云フハキナリ」

馬ノ四脚ノ中ニ、三脚ノ下部ノ、被毛、皮膚ノ、白キモノ。蹄ノ一部モ、同ジク、白キアリ、洋馬、又ハ、雜種馬ニ、多シ。

さんばくさう (名) [三白草] カタシログサ。

ざんばけん (名) [斬馬劍] 支那ノ前漢ノ世ニアリシ、名劍ノ稱、馬ヲモ斬ルホド、鋭利ナリトノ名ナリ。コレヲ以テ、奸臣ヲ誅戮セムノ意ニ用ヰラルル語トス。 前漢書、朱雲傳「臣願賜二尚方斬馬劍一、斷二佞臣一人頭一、以厲二其餘一」[illegible]ル所) 事物紀原「斬馬刀之名、已見レ於二漢代一矣、宋[illegible]中、又、有二斬馬刀一、[illegible]亦取二漢氏爲名一、稱也」

さんばし (名) [棧橋] (棧橋ノ湯桶讀) (一)岸ヨリ、水ノ上ニ突キ出シテ作レル、木造ノ階。船ヨリ、人ノアガリオリ、又、積荷ノアゲオロシノ路トス。(二)今ハ、開港場ナドニ、埠頭ノ如ク、木材、又、鐵材ヲ以テ、壯大ニ、數町ノ長サニ構造シ、大船、巨舶ヲ、横附ケニスベク設ケタル、船舶ノ積荷ヲ、棧橋ニ於イテ受取渡シスルニ特約スルヲ、棧橋渡シト云フ。

さんばしわたし (名) 棧橋渡 前條ヲ見ヨ。

さんばそう (名) [三番叟] 〔式三番ハ、舞ヲ三番アル義ニテ、三番叟ハ、其三番目ニ舞フ叟ノ義ナリ、語原、自ラ異ナリ、三番三トモ記シタル、アルモ、三番目ノ三番叟ノ意ナルベシ、尉ト云フモ、老人ノコトナリ、其條ヲ見ヨ、三番ヲ、さんばト云ヒ、三ヲ、さうト云フハ、式三番ノ條、并ニ、山頭ノ條ノ語原ヲ見ヨ」(一)能樂ノ祝言ノ式三番ノ曲ニ、第一ニ、千歳ガ舞ヒ、第二ニ、翁ガ舞ヒ、第三番ニ出デテ舞フ者、卽チ、三番叟ニテ、老人ナリ(式三番ノ條ヲ見ヨ)略シテ、三番トモ云ヒ、又、尉トモ云フ。舞フ時、鋼先烏帽子ヲカブリ、于聰于聰、喜ビアリヤ、我レ、此所ヨリ外ヘハ、遣ラジト思フ」ト謡ヒツツ、走リ出デテ、囃子ニ連レテ、扇ニテ舞フ、コレヲ、揉之段ト云フ。次ニ、黒キ假面ヲツケ、扇ト、神樂鈴トヲ持チテ、足蹈ミ鳴ラシテ舞フ、コレヲ、鈴之段ト云フ。翁ハ、白キ假面ヲカブルニ、三番叟ハ、黒キヲ用ヰル、コレヲ、白尉、黒尉ナドト云フ。此舞、惡魔ヲ拂フトテ云ヒ、地ヲ蹈ミ鳴ラスハ、陰陽家ニテスル反閇ヲ傳ヘタルモノカト云フ。 猿樂傳記(享保)上「翁渡シノ[illegible]ハ、云云、翁一尉ハ、今、式三番ニ舞フ叟ニテ、云云、面箱持、千歳ヲ勸ムル、云云、翁、千歳ノ役、畢テ、色黑キ尉ノ、面ナシニ立テ、舞アリ、此段、過ギテ、風流ノ所作アリ、色黑キ尉ハ、狂言師ヨリ勤ル、云云、鈴ノ段、此時、黑キ面ヲ掛ル」 十寸見要集、[illegible]ノ式三番翁、三番叟ハ、狂言ノ文句ニテ作リタルモノ、其中ニ此色ノ黒イ尉ガ、今日ノ三番叟、サラバ鈴ヲ參ラセウ、惡魔ヲ拂ヒテ、御壽命長ク、云云」 夏山雜談(寛保、平直方)三「反閇、今ノ能ノ翁三番三ハ、反閇ナリ、舞蹈ヲ蹈ミ鎭ムルコトノ由ナリ、モト、陰陽家ヨリ傳ヲ得タルモノナリト云ヘリ、是眞リニ、ナラヒアリト云フハ、是ホナリ」(へんばいノ條ヲ見ヨ) (二)芝居ニテモ、顔見世、初春ノ仕初ノ式三番ニテ、三番叟ヲ舞ヒ、其外、常ノ興行中ニテモ、序幕前ニ、稻荷町ノ若衆、舞ヘリ。又、淨瑠璃、長唄ニ、何三番叟、某三番叟ト云フ外題ノモノ、多シ。 劇場新話(文化)仕初春狂言「正月朔日仕初、壽狂言、三番叟アリ、大夫元、若大夫、勤ル也、顔見世ノ如シ」(三)轉ジテ、何事ニ寄ラズ、行事ノ、最初ニスルコト。 文化ノ川柳「お茶壺ハ、詰メルハ宇治ノ、三番叟」(茶壺詰ニ奉ル一番茶ノ茶ノ意、おちゃつぼノ條ノ(二)ヲ見ヨ)

さんぱち (名) [三八] 一六ノ條ヲ見ヨ。

さんぱつ (名) [散髮] 〔チラシ髮、ザンギリ髮〕(一)男子ノ、頭髮ヲ結ハズ、其端ヲ切リテ、被リ居ルモノ、日本、支那、共ニ、古來、結髮スルヲ、一般ノ風習トシタル時代ノ語ナリ。 後漢書、袁閎傳「延熹末、黨事將レ作、[illegible]遂散レ髮絕レ世」(延熹ハ、桓帝ノ年號ナリ) 通鑑綱目、四十三、唐玄宗、開元廿七年「悉收二散髮之民一云云」 (二)明治ノ初年ヨリ、西洋ノ風習ニ倣ヒ、頭髮ヲ、五六分、七八分ニ刈ル者、起リ、同四年五月、斷髮、脫刀、適宜ニ從フベシ、トノ布令出デシヨリ、今ハ、全國一般ニ行ハレテ、散髮トナリ、髮結床ハ、變ジテ、散髮床、理髮店トナレリ。

ざんばつ (名) [斬伐] (一)キルコト。キリタフスコト。 禮記、月令篇「入レ山行レ木、毋レ有二斬伐一」 (二)キリ、殺スコト。殺伐。 漢書、尹翁傳「斬伐不レ避二豪彊一」

ざんぱつ (名) [斬髮] ざんぎり髮ニ同ジ。 半日閑話、二「非人已來取結方之書付 非人共儀ハ、髮ヲ束ネ候儀、一向不二相成一、斬髮ニテ、手拭之儀、寒氣、雨中之節、夜之節、被リ候共、天窓ヘ巻付ケ、斬髮ヲ不レ隱樣、丈八寸ヲ限リ、手拭持チ候事」(古事類苑、斬髮)

さんぱつどこ (名) [散髮床] 散髮ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さんぱふ (名) [算法] 算術ニ同ジ。 北史、[illegible]

さんばん (名) [三番] 第三。一番(名詞ノ)ノ條ヲ見ヨ。

さんばん (名) [算盤] (一)古キ算術ニ用キタル具。筭ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)十露盤。 輟耕錄(元末、陶宗儀)廿九「凡納二婢僕一、初來時曰二擂盤珠一、言不レ撥自動、稍久曰二算盤珠一、言撥レ之則動、既久曰二佛頂珠一、言終日凝然、雖レ撥亦不レ動」(算盤珠ハ、そろばん珠ナリ)

さんばん (名) [生飯] 生飯ノ條ヲ見ヨ。

さんばん (名) [餐飯] 飯ヲ、食フコト。餐飯ヲ加ヘよトハ、勉メテ食ヲ勸メテ、身體ヲ養ヘ、ト云フナリ。 古詩「棄捐勿二復道一、努力加二餐飯一」(棄捐ハ、病死ヲ云フ、說文「捐、棄也」康熙字典「病死曰二捐瘠一」列子、楊朱篇「生、相憐、死、相捐」)

さんぱん (名) [散班] 〔左傳、文公六年、「註」班、位也」〕散位ニ同ジ。 古文零聚、六、世俗諺文「散班胡散大夫源爲憲撰」(寛治四年八月)

さんぱん (名) 散判 奉公人口入業者ニアラズシテ、多數ノ奉公人ノ受判ヲ捺スモノ。 撰要集、法度「近來惡角、番組人宿共ノ外、散判、請判ト唱ヘ、組合等ニモ無レ之、多人數奉公人之受ケニ立チ、人宿ニ紛敷キ、自儘之渡世致シ候モノ有レ之、不埒之事ニ候」

さんぱん (名) [山礬] 沈丁花ニ同ジ。 楊萬里、詩「梅與二山礬一伯仲間」

サンパン (名) [三板][杉板] 「和漢船用集(寶曆)五、三枚艇「武備志(明ノ天啓元年)ニ、三板船ト云フ者、舟側二枚、底一枚也」或ハ、馬來語ニテ、小舟ノ義ナリトモ云フ」支那ニテ、大船ニ添ヘテアル、小船ノ名。ハシケ舟。 增補、華夷通商考(寶永)二、唐船役者「杉板工、杉板ヲ主トル者ナリ、さんぱんトハ、はしけ舟ヲ云フ」

さんばんがしら (名) [三番頭] 徳川幕府

ノ職名。大番頭、書院番頭、小性組番頭ノ併稱。書院番衆ト、小性組衆トヲ、兩番ト云フ。番頭ハ、組組ノ組頭、組衆ヲ率キテ、江戸ノ城郭ヲ警衛セリ。 東鑑記聞、二「大番、書院、扈從、之三番頭者、侍衛第一之職、而武略之重任也、歷代中、擢二其器一而被レ補レ之也、云云、昇進之次第、先補二扈從組番頭一轉二書院番頭一至二大番頭一也、又、以二扈從組番頭與二書院番頭一稱二兩番頭一稱二其組一亦云二兩番組一也」

さん-ばん-て (名) 三番手 一番手ヲ見ヨ。

さん-ばん-どり (名) 三番鷄 鷄ガ夜明ケ近クニ、ツグル最後ノトキ。

サンバラ-サンバラ (名) 撐拾撐拾 〔三跋羅ト云フ梵語ヲ、繰返シテ云フナリ、字體、解スベカラズ、集韻「拾、同レ沓、擊也」又俗、作レ搭」ナドアル字ニハアラズ〕修驗ノ徒ノ、神祕メカシテ、作爲セシ字ナルコト、論ヲ待タズ「ジャクカウ、ジャクカク」或ハ「カンタイカンキ」ト讀ムナド云フハ、三跋羅ニ關セズ、唯、四字ノ音ヲ云フナレド、スベテ、無稽ナリ」 災難除ノ符字 佛經語ニ、戒體ト云フハ、授戒ノ時、持戒者ガ得ル所ノ、恆存勢力ノコトニシテ、能ク、防非、止惡ノ作用ヲ現ハス、梵語ニハ、三跋羅ト云ヒ、倶舍論ニ、意譯シテ「護」トス、ト云フ、(佛教辭林、戒)修驗僧ナドガ、此三跋羅ニ作字シテ、符字ニ用キシナリ。 神皇正統記、嵯峨「弘仁、云云、中古ヨリコノ方、其名バカリニテ、戒體ヲ守ル者ダニ、絶エニケルヲ」 海錄(文政、天保、山崎美成)六、六、世ニ、怪我除ノ符字トテ、撐拾撐拾ノ四字ヲカケシテ持テバ、災難ナキ由、傳フ、此符字、出羽ノ仙人、字ト云フヨリ出ツル也、ソコニテハ、此文字ヲ、さんばらさんばらト讀メルト也 三養 江、岡本保孝 百家說林、續編、下、(一)六ト、[illegible]遺書「撐拾撐拾、或人云、此文字、讀ミヤウ、さんばら、さんばら云云、同人云、淺間山ノ仙人ニ仕へ候寅吉ニ承リ候ヘバ、云云、此符ノ文字、ジャクカウ、ジャクカク」ト讀ミ申シ候由、又云、明人陳元贇ガ傳ヘシ、柔術ノ流ヲ汲メル人ノ、傳來シテ、カンタイカンキ」ト讀ム由、云ヘルニ因レバ、唐土傳來ニテアルベキカ」(寅吉ト云フハ、童子ニテ、文政三年十月、天狗ニサソハレテ、其天狗、杉山僧正ノ弟子トナリシ者ト云傳フ) 扁額軌範(文政)二編、下「淡路ノ一梵刹ニ、齋藤賞盤ガ牌ヲ安ズ、牌陰ニ、撐拾撐拾ノ四字アリ」 江城年錄、寬永二年三月晦日「公方樣、葛西へ御成、其日、無雙ノ大雁一羽、御鷹、取リ候、右之雁ノ胸ニ、文字形、四ツアリ、其文字ハ、稽稽稽稽、如レ斯之文字アリ」 耳袋(根岸肥前守)一ニ、天明二年、御小姓新見愛之助、九段坂ノ牛ケ淵ニ落チタルニ、人馬、共ニ、怪我ナシ、撐拾撐拾ノ護符ヲ持チ居タリ、ト記セリ。 兎種錄(寬政、岡田挺之)下「筑前 福岡ノ封内ニテ、鶴ヲ捕リシニ、其翅ニ小牌アリ、撐拾撐拾ノ四字アリ」

さん-び (名) 讚美 褒ムルコト。稱讚。

さん-び (名) 酸鼻 〔正字通「悲痛曰レ酸」釋名「鼻、嘒也、出レ氣嘒嘒也」廣韻「嘒、聲急也」〕 甚シク、慘ミ、悲シムコト。 漢書、鮑宣傳「父子夫婦、不レ能二相保一、誠可レ爲二酸鼻一」 宋玉、高唐賦「孤子寡婦、寒心酸鼻」

さん-ぴ (名) 三碑 上野國ノ三碑ト云フハ、多胡郡、池村、多胡ノ碑、(和銅四年)綠野郡、山名村、辛巳歲ノ碑、(天武天皇十年ナリト云フ)同郡、金井澤、神龜三年ノ碑ナリ。二郡、今ハ合シテ、多野郡トナル。

さん-ぴ (名) 賛否 賛成ト不賛成ト。又、賛成カ不賛成カ。「賛否同數」賛否ヲ票決ニ問フ」

ざん-ぴ (名) 殘碑 「釋名「殘、踐也、踐使二殘壞一也」」 碑ノ損ハレタルモノ。 高啓詩「風雨沙蝕蔽殘碑二」

さん-び-か (名) 讚美歌 〔英語、Hymn.ノ譯語〕 耶蘇教ニテ、神、又ハ、基督ノ德ヲ讚美スル歌。おるがんヲ伴奏ス。又、聖歌。

さん-びき-ざる (名) 三疋猿 三疋ノ猿ヲ圖シテ、中ナルハ、兩手シテ口ヲ掩ヒ、左右ナルハ、兩眼ヲ掩ヒ、又、兩耳ヲ掩ヘル狀ヲナスモノ。言はざる、見ざる、聞かざるト云フさるヲ、猿ニ寄セテ表セルモノナリト云フ、庚申塚ノ石ニ刻リツケナドス。又、三猿。三猿。又、庚申ノさるニ寄セテ、コレヲ、庚申待ニモ祭ル。 尤草子(慶長)物言はぬもの、部、粟田口ニ、三猿堂ト云ヘル、アリ、中尊ハ、いはざるトテ、口ヲフサギテアリ、脇立ハ、みざる、きかざるナリ、傳教大師ノ御作ナリ、公事沙汰ニカカッラフ者、此お猿ヲ迎ヘテ、我ガ家ニ置キ、對決ノ場へ出ヅレバ、必ズ、其公事、勝ニナル由、言傳へ侍リヌ一 遠碧軒隨筆(延寶、黑川玄逸)「天台大師、三大部ノ中、止觀ノ空、假、中、ノ三諦ヲ、不見、不聽、不言、ニ比シタマフコトアリ、ソレヲ、猿ニ表シテ、傳教大師、三ツノ猿ヲ刻ム」 慈惠大師、山王七猿和歌七首ノ一「みずきかず、いはざる三ツノ、猿ヨリモ、思はざるコソ、まさるナリケレ」 省心詮要「耳不レ聞二人之非一、目不レ視二人之非一、口不レ言二人之過一、庶幾爲二君子一」(日本百科大辭典)

さん-ぴつ (名) 三筆 三人ノ名筆。嵯峨天皇、僧空海(弘法大師)、橘逸勢ニ(三蹟ヲ併セ見ヨ)後ノ三筆、尚アリ。出典ヲ見ヨ。 〈合類節用集(元祿)十、數量門、本朝三筆「嵯峨帝、橘逸勢、釋空海 世尊寺三筆、行成、行能、行尹」 近代世事談(享保)四「近衛流、近衛關白信尹公(一名、信尹)號三藐院大山、其頃、京都三筆ト稱スルハ、大山公、光悅、昭乘ナリ」(本阿彌光悅、瀧本坊松花堂昭乘) 大和繪ノ土佐氏ノ三筆ト云フハ、光長、光信、光起。

さん-ぴつ (名) 算筆 算術ト、筆蹟ト。ヨミカキ、ソロバン。 浮世床(文化、三馬)初編、下「算筆モヨシ、何一ツ、如在ネエト云ハレル人ガ」「算筆ニ達ス」

さん-ピン (名) 三一 〔ぴん(一)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)雙六ノ語。二箇ノ骰目ニ、三ト、一ト、竝ビ出デタルモノ。(二)江戸時代ノ鄙語ニ、江戸ノ武家ニ、渡奉公スル若黨侍ヲ、さんぴんざむらひナド呼ビキ、一箇年ノ給料、金、三兩一分ナリシナリ。又、三兩侍。京都ノ公家衆ニ、三石ざむらひナド云ヒシモノ、同趣ナリ。 塵塚談(文化)上、下女下男給金の事「寶暦年間マデハ、若黨、金三兩也、主人ノ壁月代ニテモ致ス者ハ、三兩一分モ遣シタリ、故ニ、若人、三兩侍ト云ヒ、又、見苦シキ侍ヲ見テハ、三ぴんノ侍ダト云ヘリ」 俚言集覽、三ぴん「若黨ノ、最陋ナル者ヲ云フ、或云、堂上方ノ輕キ侍奉公スル者ヲ、三ぴんトモ、三石さんトモ云フ」

さん-ピン-ざむらひ (名) 三一侍 前條ノ(二)ヲ見ヨ。

さん-ピン-やっこ (名) 三一奴 徳川時代、祿ノ少ナキ若黨、侍ナドヲ、卑シメテ呼ブ語。サンピン。

さん-びゃうし (名) 三拍子 (一)蹴鞠ニ、三度、足蹈ミスルコト。音樂ニモ、三拍子ニ、調子ヲ取ルヲ云ヘルガ如シ。 遊庭秘抄、中、足踏事「三拍子、云云、鞠ニ向ル足ノ外ニ、三度動カシテ、土ヲ踏ム也、云云、皆、右ヨリ踏ミ始ム、云云、鞠ヲ蹴テ、其足ヲバ土ニ置キテ、左足、一踏ミ、又、右足、一踏ミ、又、左足、一フミテ、此度、蹴ル也、三拍子ノ本ナリ、云云、順德院ノ、云云、鞠ノ三拍子ニ、三臺急ナドノ早拍子物ヲ、きゃうかヲセサセマヒテ、社鼓拍子ニ、御足踏ミヲ踏ミテ、大鼓ノつほニ、御鞠ヲ蹴ハシケム、云云、ヤンコトナク奉レ存侍リシ也」 (二)轉ジテ、スベテ、三事、

[illegible]三[illegible]撲子擲[illegible]ト云[illegible](酒)、打つ(賭博)、買ふ(女郎買)ノ三惡[illegible]撲子擲[illegible]

さんびやく (数) ［三百］ (一)百ノ三倍。(二)名詞ト[illegible]錢[illegible]百文ノ錢[illegible]クシテ、價値低キモノノ意ニ用ヰラレ[illegible]サンモン[illegible]文ノ錢ノ[illegible]貨ノ極メテ安キ[illegible]百[illegible]トモ[illegible]育、ハ「三百安」居ざり三百」「三百面」ナド云フ、明治以後ニ、三百代言、ナド云フ語ハ、此遺ナリ

さんびやくだいげん (名) 三百代言 ［前條ノ(二)ヲ見ヨ］ 代言人ヲ、卑シメテ[illegible]語[illegible]

さんびやくだな (名) 三百店 ［前條ノ(二)ヲ見ヨ。了阿彌世ハヤスキ、法ノ道トテ、[illegible]］

さんびやくづら (名) 三百面 ［三百、條ノ(二)ヲ見ヨ］ 卑シ[illegible]、[illegible]

さんびやくやす (名) 三百安 ［三百ノ條ノ(二)ヲ見ヨ］ [illegible]價[illegible]、[illegible]、[illegible]ハ、其人[illegible]、當人ニ[illegible]ト[illegible]コト[illegible]ガママニテ、克己、檢束ナキヲ云フナリ。[illegible]三百やす、[illegible]三百やす、[illegible]八倍ニ、孫ノ、わやくニ育ツヲ云フ］

さんぷ (名) ［三封］ 馬ノ體中ノ名所、[illegible]

さんぷ [illegible]

さんぷ (名) ［三府］ ［府ノ條ヲ見ヨ］ (一)[illegible]京都、江戶、大阪ノ三都[illegible]サンン[illegible](二)東京府、京都府、大阪府［三府、四十餘縣］

さんぷ (名) 參府 ［府ノ條ヲ見ヨ］ 德川時代ニ、小名ノ、國許ヨリ、江戶ニ參勤スルコト。出府。

さんぷ (名) 散布 チラシ、シクコト。撒キチラスコト。[illegible]

さんぷ (名) 產婦 ウブメ 子ヲ生ミテ、[illegible]

さんぷ (名) 蠶婦 [illegible]事ヲスル婦人 メ[illegible]

ざんぷ (名) 讒誣 ソシリ、シフルコト。[illegible]

さんぷいち (名) ［三分一］ 銀一、あるみにうむ二ノ割合ノ合金。三分一銀。

さんぷいちぎんのう (名) 三分一銀納 德川時代、年貢ノ一法 田畑[illegible]收米ノ三分ノ一ヲ、銀ニテ、上納セシムルモノ、關西地方ニ行ハル 關東地方ノ畑永ト、同樣ナレドモ、其率、關東ニ比スレバ、十分ノ一二ヲ減ヘタリ。[illegible]云云、三分一銀納ニ定メタルナルベシ］

さんぷきやう (名) ［三部經］ 普通ニ云フハ、无量壽經、觀无量壽經、阿彌陀經ナ

[illegible]、コレヲ[illegible]ノ三部經トス 其他[illegible]宗旨ニ[illegible]

さんぶぎやう (名) ［三奉行］ (一)德川家康ノ[illegible]ノ三奉行ト云ヒシハ、高力清長、本多重次、天野康景、ノ三人ノ奉行ナリ。(どちへんなしノ條ヲ見ヨ) [illegible](二)江戶時代ニ、幕府ノ三奉行ト云ヒシハ、寺社奉行、勘定奉行、町奉行ノ併稱ナリ、作事奉行、普請奉行、小普請奉行ヲ、下三奉行ト云ヒキ。

さんふきよ (名) 三不去 妻ヲ離別スベカラザル、三條ノ[illegible]、歸ルトコロ無キモノ、父母ノ喪ヲ勤メタルモノ、始メ、貧賤ニシテ、後、富貴ニナリタルモノノ稱。[illegible]

さんぷく (名) ［三伏］ ［伏トハ、金ハ、火ヲ畏ル、庚ノ金氣、夏火ノ爲ニ、伏藏スル日ナリト云フ］ 夏至ヨリ、立秋ニワタル、極暑ノ候ノ名、[illegible]

さんぷく (名) 三復 ［[illegible]］ 度度、繰リカヘスコト、「三復[illegible]」 白圭ハ、白キ玉ナリ、詩經、大雅、蕩之什、抑篇ニ「白圭之玷[illegible]

[illegible]語ヲ謹マムトスル意ナリ。孔子家語、弟子[illegible]

さんぷく (名) ［山腹］ 山ノ中腹。頂ト、麓トノ間。[illegible]

ざんぷく (名) 竄伏 逃ゲカクレテ、出デヌコト 竄匿。[illegible]

さんぷくいつゐ (名) ［三幅一對］ 次條ノ語ニ同ジ。狂言記、見物左衞門「融首ノ達磨、[illegible]三幅一對、[illegible]モ[illegible]

さんぷくつゐ (名) ［三幅對］ ［幅ノ條ヲ見ヨ、一對ヲモ見ヨ］ 掛物ノ、三幅ヲ以テ、一對トスルモノ。中ニ掛クルヲ、中尊ト云ヒ、左右ニ掛クルヲ、脇詣ト云フ、佛像畫ナルヲ、元トス、本尊ト、挾侍トノ體ナリ、常ナルモ、多クハ、中ヲ、人物詣トシ、左右ニ、花鳥ナドヲ掛ク、太[illegible]落チケル時、六間ノ會所(客殿)ニ、本尊、脇繪、花瓶、香爐[illegible]ヘテ、云云 [illegible]蜷川親元日記、文明十三年七月十一日 大內殿ヨリ御目ニカケラルル[illegible]中、[illegible]三幅一對[illegible]「三幅對」

さんぷくでん (名) ［三福田］ 佛經ニ云フ、敬田、恩田、悲田ノ併稱。福田ノ條ヲ見ヨ。

さん-ぶゐん (名) ［三婦人］〔三老女モ、アリ〕能樂ニテ、楊貴妃、定家、大原御幸ノ三番ノ稱。定家ニハ、式子內親王、大原御幸ニハ、建禮門院ノ御事アリ。俚言集覽、三婦人「能樂ニ、三婦人ハ、楊貴妃、定家、大原御幸ノ三番ヲ指ス、能樂抄物ニ、楊貴妃ハ、無雙ノ美人ノ、シカモ、霓裳羽衣ノ曲ヲ得タルサマ、又、定家ハ、式子內親王ナレバ、御姿、嗜ヘテ申スベキ方ナシ、大原御幸モ、女院罪染ノ御姿、是又、尋常、爲シ得ベキ能ナラズ、云云」

さん-ぶ-志んたう (名) ［三部神道］　神道ニテ、唯一神道、兩部神道、本迹緣起、ノ稱。

さん-ぶつ (名) ［産物］　其土地ヨリ産ズル、天然、并ニ、人造ノ物。物産。曹植、文帝誄「中二和產物、啓二有人倫二」

さん-ブツ (名) ［讃佛］　佛ノ功德ヲ、稱揚、讃嘆スルコト。佛果ニ達スル乘物タル、佛法ノ妙理ヲ讃嘆スルヲ、讃佛乘ト云フ。眞宗ニテ、春秋ノ彼岸會ヲ、讃佛會ト云フ。釋氏要覽、佛一、昔、人以二四句偈一用二讃言心一讃二嘆如來所得功德一過レ於二上聲一（讃嘆ノ條ヲ見ヨ）著聞集、六、管絃歌舞「宮商角徵羽ノ五音アリ、云云、讃佛、敬神ノ庭、禮儀、宴飮ノ筵モ、此聲ナケレバ、其儀ヲ調ヘズ」白氏文集、七十一、洛中集記「願、以二今世世俗文字之業、狂言綺語之誤、飜爲二當來世世、讃佛乘之因、轉法輪之緣一二（白樂天ガ、詩、八百首ヲ錄シテ、香山寺ノ經藏ニ納ムル時ノ記ナリ）榮花物語、十五、疑「當來世世ノ讃佛乘ノ因、轉法輪ノ緣ト、誦シタマフ」

ざん-ぶつ (名) ［殘物］　ノコリモノ。アマリモノ。クヅ。カス。

さんブツ-ぎゃう (名) ［讃佛乘］　前前條ヲ見ヨ。

さんブツ-ゑ (名) ［讃佛會］　讃佛ノ條ヲ見ヨ。

さん-ぶん (名) ［散文］〔廣韻「散、誕也」〕(一)常ノ漢文ヲ、四六文ニ對シテ云フ語。四六文ハ、句ニ、字數ノ定メアリ、又、押韻アルニ、夫レ等ノ拘束ナケレバ、散文ト云フナリ。支那ニ、六朝已來、四六文、盛ンニ行ハレテ、文ト云ヘバ、四六文ナリ、我ガ邦ニテモ、平安朝ノ頃ハ、詔勅、表、奏、賦、贊、牒狀、願文、其他、皆、四六文ナリキ、唐ノ韓愈ガ、上代ノ體ヲ書キ始メテ、文起二八代之衰一ト稱美セラル、秦、漢ノ古文、卽チ、散文ナリ、是ニ於イテ、四六文ハ廢レタリ。(四六文ノ條ヲ見ヨ)。操觚字訣(伊藤東涯)一、文章四體の辨「散文ト云フハ、字數不レ定、平仄、韻章モ、固ヨリ、構ヒナシ、云云、散文ニ書ケバ、古ノ法ナル故ニ、コレヲ、古文ト云フ、秦漢ノ文ハ、皆、古文ニテ、散文ナリ二(尙、本書ニ委シ) (二)今、文士ト云フ輩ノ中ニハ、散文ト云フ語ヲ、詩歌ニモ適用シテ、散文詩、律文詩ナドノ語ヲ用サル。

さん-ぷん (名) ［三墳］　次次條ヲ見ヨ。

ざん-ぷん (名) ［慚憤］　ハヂ、イキドホルコト。ハヂ、イカルコト。慚恚。柳宗元、乞レ討二黃賊一狀「過二成功之辰一慚憤盈積」

さんぷん-ごてん (名) ［三墳五典］　支那ノ上古ノ、三皇、五帝ノ書。左傳、昭公十二年「左史倚相趨過、王曰、是良史也、子善視レ之、是能讀二三墳五典八索九丘一」同、箋「孔安國尙書序云、伏羲、神農、黃帝之書、謂二之三墳一云云、少昊、顓頊、高辛、唐、虞之書、謂二之五典一」

さん-ぶん-ていそく (名) ［三分鼎足］　鼎足ノ條ヲ見ヨ。

ざんぶ-り (感) ［水聲］　ざぶ(水聲)ノ條ヲ見ヨ。

さん-ふわく (名) ［三不惑］　酒ト、色ト、財トノ三ツニ、惑ハザルコト。後漢書、楊秉傳「我有二三不惑一酒色財也」　萬紫千紅(蜀山人)「三不惑ハ、ロギレイナル唐人ノ寢ゴトモ、心モトナシ」

さん-ぺい (名) ［三平］　藤原基經ノ三男子、時平、仲平、忠平ノ稱。大鏡、上、基經「此男子、四人オハシマシキ、太郞、左大臣時平、次郞、左大臣仲平、四郞、太政大臣忠平ト云フ、云云、(三郞兼平、失セタリ)此三人ノ大臣タチヲ、世ノ人、三平ト申シキ」

さん-ぺい (名) ［三兵］　(一)步兵、砲兵、騎兵ノ倂稱。(二)三種ノ兵器。卽チ、弓、劍、槍ノ稱。穀梁傳、莊公廿五年「陳二五鼓三兵一」

さん-ぺい (名) ［散兵］　(一)散亂シタル兵士。史記、夏侯嬰傳「漢王既至二滎陽一收二散兵一復振」(二)兵隊ヲ、密集セシメズ、間ヲ隔テテ、散布シタルモノ。其散布シタル位地ヲ、散兵線ト云フ。(三)勤務ノナキ兵士。隋書、禮儀志「安營之制、馬步隊與二軍中散兵一交爲二兩番一五日而代」

ざん-ぺい (名) ［殘兵］　敗北、死傷ニ、殘レル兵卒。敗殘ノ兵士。「殘兵ヲ收集ス」

さん-ぺい-ぢまん (名) ［三平二滿］　(一)平ハ、平安ノ義、滿ハ、滿足ノ義、二、三ハ、十分ヲ求メザル意ト云フ。(嬉遊笑覽、六、下、橘窓茶話)　山谷集(黃庭堅)四休居士詩、序「大醫、孫君昉、云云、號二四休居士一山谷問二其故一四休笑曰、麤茶淡飯飽卽休、補レ破遮レ寒暖卽休、三平二滿過卽休、不レ貪不レ妒老卽休、山谷曰、此安樂法也、夫少レ欲者、不伐之家也、知レ足者、極樂之國也」(二)俗ニハ、乙御前、おたふくノ面貌ヲ云フ語トス、何ノ據ル所アルヲ知ラズ。俚言集覽、三平二滿「田澤氏云、云云、古說ニハ、醜婦ヲ云フ、三平トハ、額ト、鼻ト、腮ト、三所、平ラカナルヲ云フ、二滿トハ、兩頰ノ、フクラカナルヲ云フ、是レハ、一休ガ說ナリト云ヘリ」傾城反魂香(寶永、近松作)上「三平二滿ノ口紅、シナダレカカル會釋顏」

さんぺい-せん (名) ［散兵線］　さんぺい(散兵)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さんぺい-てん (名) ［三平點］　京都ノ儒者、宇野三平(鼎)ノサシタル、論語、等ノ訓點。(宇野鼎、字、士新、號、明霞、延享二年歿、年四十八)　問合早學問、上「訓點ニ、堂上點、道春點、道乙點、金平點、嘉點、三平點ナドノ品アリ、大ニ同ジウシテ、少シク異ナリ」授業編、三、訓點「往年、宇士新、訓點ニ心ヲ勞シ、ソレマデニハ例ナキ、新奇ナル訓譯ヲ、多ク下セリ二(宇士新ハ、宇野三平ナリ)

さん-べう (名) ［三苗］　べうぞく(苗族)ノ條ヲ見ヨ。

さん-べん (名) ［三遍］　ミタビ、三度。三回「三遍廻テ、煙草ニシヨウ」

ざん-ぺん (名) ［殘片］　ノコリノ一片。楊濺、殘花詩「殘片逐レ風廻」

ざん-ぺん (名) ［竄貶］　官ヲ貶シテ、遠キ地ニ流スコト。宋史、徽宗紀「爲二王黼所一レ劾、竄貶」

さん-ぼ (名) ［三譜］　二典三譜ヲ見ヨ。

さん-ぽ (名) ［散步］〔せうえう(逍遙)ノ條ヲ見ヨ〕ソゾロアルキ。ブラブラアルキ。遊步。逍遙。散策。金史、太祖紀「散二步門外一南望二高阜一」　瑯環記「古之老人、飯後必散步」

ザンボ (名) ［朱欒］　ざぼんヲ見ヨ。

さん-ぼう (名) ［參謀］　(一)軍陣ノ謀議ニ、參與スル職。(二)軍事上ノ機務ニ參畫シ、上官ヲ輔佐スル職。陸軍ニアリテハ、參謀本部、師團司令部、要塞司令部、等ニ置キ、海軍ニアリテハ、海軍軍令部、

各[illegible]守府、[illegible]部、等ニ置ク。

さん-ぼう（[illegible]）三寶 [illegible]、[illegible]、尊ブベキモノナレバ、寶ト云フ」（一）佛、法、僧、ノ稱。佛寶、法寶、僧寶ト云フ。[illegible]（二）佛ノ異稱。天武紀、下、六年八月、大設齋於飛鳥寺、以讀一切經[illegible]寶ノ太前ニ、恐ミ恐ミモ、奏シ賜ハクト奏ス」同、廿六、天平神護元年十一月、詔「上ツ方ハ、三寶ニ仕ヘ[illegible]、五十二、手習[illegible]トマレカクマレ、思シタチテ宮フヲ、三寶ノ、イトカシコク、褒メタマフ事ナリ」

さんぼう-いん（名）三寶印 〔佛、法、僧、ヲ、三寶ト云フ、前條ノ（一）ヲ見ヨ〕佛法僧寶ノ四字ヲ、篆書ニテ刻シタル印[illegible]寺院ノ[illegible]、[illegible]、ナドニ押シ用ヰル。

さんぼう-きちにち（名）三寶吉日 「三寶トハ、佛ノ事、前前條ノ（二）ヲ見ヨ」陰曆ノ上ニ云フ語、萬事ニ吉ナリト云フ日ナリ、（多クハ、佛事ニ就キテ云ハル）十干、十二支ヲ配合シ、[illegible]未、云云、トシテ、上吉、中吉、下吉ナドト別ツ、陰陽家ノ云フ所ナリ。[illegible]

さんぼう-くゎうじん（名）三寶荒神 〔三寶トハ、佛ノコトナリ、其條ノ（二）ヲ見ヨ、荒神トハ、あらぶる神ノ音讀ト思ハル、神佛、混淆ニテ、卽チ、兩部神道ニ成レル稱ナリ〕（一）修驗道ニテ祀ル神ノ名、此神、大和國、葛城山ニテ、役小角ニ示現シタリト云フ、其立像ヲ圖シタル相好ハ、三面アリテ、各、忿怒ノ相ヲナシ、髮ハ、逆サニ天ニ朝シ、六臂ヲ具足シ、獨鈷、蓮華、鈴、寶塔、寶珠、等ヲ持ツ、歸敬三寶ノ徒ヲ守護シ、不信放逸ノ者ハ嚴シク罰スト云フ、障礙神ト稱ス。噴、荒神トノミモ云フ、其ノ祭ヲ、荒神供ト云ヒ、聖武天皇、東大寺御造營ノ時、同寺ノ東南ニ、荒神ヲ祀ラセタマフ、今ノ葛岡荒神ナリト云フ、是レ、最モ古キモノナルベシ。[illegible] 俗ニ、相手ニ對シテ「コッチニモ、荒神様ガ附イテ居ル」ナドト云フハ、保護ノ神ノ意ナリ。（二）驛路ノ馬ニ、方形ナル框ヲ、三ツ、背ノ上ト、左右トニツケテ、中ナルニ、大人、乘ル、中乘ト云ヒ、左右ニ、子供ナド載セテ、旅シタリ、コレヲ、三寶荒神ト云ヒキ、荒神ノ三面ナルニモ寄セ、三方ニモ移シテ云ヘルナルベシ。[illegible]（三）荒神（竈神）ノ條ヲ見ヨ。

さんぼう-ぜん（名）三峰饍 〔說文、饍、具レ食也」玉篇「與レ膳同」〕三神山ヲ併セ見ヨ」饗膳ニ供スル、臺ノ名、[illegible]

さんぼう-そうちゃう（名）參謀總長 次條ヲ見ヨ。

さんぼう-てう（名）三寶鳥 ぶっぽふそうてう（佛法僧鳥）ノ條ヲ見ヨ。

さんぼう-ほんぶ（名）參謀本部 國防、及、用兵ノ事ヲ總掌スル官衙。參謀總長、參謀次長、參謀本部部長、等ノ職ヲ置ク、參謀總長ハ、陸軍ノ將、若シクハ、中將ヲ親補シ、天皇ニ直隸シ、帷幄ノ軍務ニ參畫ス。

さんぼう-ゑ（名）三寶繪 佛法僧ノ三寶ニ就キテ、其功德ヲ圖解セル書。三卷アリ、冷泉院ノ皇女、尊子内親王ノ爲メニ、源爲憲ノ、作リテ奉リシモノ。詞書ハ、漢文ニテ、永觀二年仲冬也トアリ、古ク存シタル因果經繪ニ倣ヒテ、作レルモノナルベク、後世ノ繪卷物ノ起原ナリ。（佛經大辭彙）[illegible]ラレケルナリ」

さん-ぼく（名）散木 〔散位、散官ノ散、散人ト云フ語モ、是レナリ〕（一）用ニ適セザル木。役ニ立タヌ村。[illegible]（二）轉ジテ、不才、無用ノ人。太平記、十四、新田足利確執奏狀事「[illegible]」

さん-ぼく（名）三木 古今傳授ニ云フ語、さんてう（三鳥）ノ條ヲ見ヨ。

さんぼく-いっさう（名）三木一草 後醍醐天皇、天下御統一ノ頃、民間ニテ、楠木正成、千種忠顯、名和長年、結城宗廣ヲ併稱シタル語。太平記、十七、山門牒送南都事「此頃、天下ニ、結城、伯耆、楠、千種頭中將、三木一草ト云ハレテ、飽クマデ、朝恩ニ誇リタル人人ナリシガ」（伯耆ハ、名和長年）

さん-ボダイ（名）三菩提 〔倘、種種ノ三菩提アリ〕眞性菩提ト、實智菩提ト、方便菩提ト、菩提トハ、佛道、佛智ノ稱。（其條ヲ見ヨ）[illegible]

師ノ説、阿耨多羅三藐三菩提ノ佛タチ、我ガ立ツ杣ニ、冥加アラセタマヘ」

サンボテイイ（名）［菩提樹］　さぼてんニ同ジ。

さんぼん（名）［三品］　品ノ條ヲ見ヨ。

さんぼん（名）［三盆］　〔始メテ齎セル支那人ノ官ノ、三品ナリシヨリ呼ベリト云フ〕　砂糖ノ一種、色、純白ニシテ、上等ナルモノ、初メ、支那ヨリ渡レリ、後ニハ、和製、出來テ、唐三盆、和三盆、ナド、分チテ、呼ブ、ぶろたたヲ壓シテ、滓ヲ滴ラセ、手ニテ煉リ、貯ヘテ、成ル、今ハ、製法モ、變ジタリ。糖霜　重修本草綱目啓蒙（享和、廿二、沙糖）「砂糖ノ上品ヲ、三盆白ト云フ」尾張名所圖會（天保）前編、六、知多郡「三盆砂糖、享保ノ末、岡田某、造リ始メシ由」天保十三年物價書上「上唐三盆砂糖、云云、和三盆上砂糖、云云」

ざんぽん（名）［槧本］〔集韻「槧、在敢切」玉篇「削板牘也」〕刻本、板本ニ同ジ。通俗編、文學「云云、余按三字在呉、今行槧本小異」（字源大辭典）

さんぼん-だうぐ（名）［三本道具］　にほんだうぐ（二本道具）ヲ見ヨ。

さんぼん-だて（名）［三本立］　七五三ノ膳ノ時ニ、第三ノ膳ニ、菜、三ツ、附クルコト。四季草、六、七五三ノ膳ト云フヲ、今世、知ラヌ人ハ、本膳ニ菜七ツ、二ノ膳ニ菜五ツ、三ノ膳ニ菜三ツ、クミ付ルナドトオモヘリ、ソレハ七本立、五本立、三本立トテ、本ノ膳ノ事ナリ、七五三ノ膳部ニハアラズ」

さん-ま（名）［秋刀魚］［秋光魚］〔三馬ナドトモ記ス、狹眞魚ノ音便約ナルベシ（狹依、さんだにし）鰶魚モ、狹針魚ノ略轉ナルベク、鰆モ、狹腹ナリ、イヅレモ、體ノ狹長ナルニ云フ、さんま、狹長ニシテ、其腹、銀白色、秋冬ノ候ノ魚ナレバ、秋刀、秋光ノ字ヲ充ツルナルベシ〕　海魚ノ名。形、さよりニ似テ、細長ク、圓ク、身長、尺餘ニ及ブ、背ノ色、藍色ニシテ、腹ハ、銀白色ナリ、脂肪、多シ、秋冬ノ候ニ、近海ニ來ル、安房、伊豆、瀬戸内海、九州、越後、ノ海ニ多シ、多クハ、淡ク鹽ニ漬ケテ、食用トス。東京魚商ニテハ、單ニ、馬トモ云フ、京都ニテ、さより、大阪ニテ、さいら。（さいらノ條ヲ併セ見ヨ）重修本草綱目啓蒙（享和）廿九、鱗魚「さんまハ、云云、播州、讃州ニテ、さいらト云フ」俚言集覽「さんま（三馬、魚ノ名、さよりニ似タリ、鹽漬ニシテ、江戸ニ送ル、一時、初物ト稱シテ、先ヲ爭テ、噉ヒ賞フ」魚鑑（天保）下「さんま、漢名、知レズ、秋冬ノ交、房總海、多シ、淡鹽シテ遠ク、又、鮮ナルモノ、炙食スルニヨシ、上饌ニ充ラズ、病者ニヨカラズ、京都ニテハ、さよりト稱フ」

さん-ま（名）［樣］〔さまノ音便（さざめく、ざんざめく、江戸界、えどさんだい）へ行カンシテ」〕樣ト云フニ同ジ。手毬唄「御師匠さんまノ、御誕日」

さん-まい（名）［散米］　ウチマキ。クマシネ。神供。貞丈雜記、一、祝儀「治承二年十一月十二日、中宮御産氣、此間、内外周章、散米當障子壁、云云、末二點、皇子降誕」（安徳天皇御事）寛永發句帳「散ル花ハ、散米ナレヤ、伊勢櫻」はなひ草（寛永）「コナタカナタ、かへりまうしヲ、稠マレテ、數數ニシモ、包ム散米」

さん-まい（名）［三枚］〔骨附ノ肉ト共ニ、三枚トナル、おろすトハ、切るヲ忌ミテ、言ヒカヘテ云フナルベシ〕（一）魚ヲ割クニ、頭ヲ去リテ、脊骨ヲ中心ニ、左、右、二片ニ切リハナスコト。切ルヲ、おろすト云フ。狂言記、鱸庖丁「是レハ、三枚ニおろすト申ス」其一片ヲ、片肉ト云フ。（二）三枚肩ノ略、二枚肩ヲ見ヨ。賀古教信七墓廻（元祿、近松作）三「古ヘ乘リシ三枚モ、身ハ一枚ノ夏衣」

サンマイ（名）［三昧］〔梵語、三摩提、三摩地、Samâdhi. ノ略、定、正定、止息、寂靜、正受ナドト譯ス、祖庭事苑、三昧「亦云三正受、謂三正定不レ亂、能受二諸法一」〕（一）〔又、三摩提、三摩地〕佛教ノ語、心ヲ、一所ニ住メテ、動カザルコト。妄念ヲ離レテ、心ヲ寂靜ニシ、我ガ心鏡ニ映ジ來ル諸法ノ實相ヲ、諦觀スルコト。禪定ト云フ、同ジ。法華經ヲ讀誦シテ、專心ニ、其妙理ヲ觀念スルヲ、法華三昧ト云フ。（三昧僧ノ條ヲ見ヨ）大智度論、廿三「三摩提、秦謂二正心行處一」（秦トハ、支那ナリ）菩提心論「即身成佛、故、是說二三摩地法一」楊升菴外集、十三、遠法師云、夫、稱二三昧一者、何、專思寂レ想之謂也、思專則志一不レ分、想寂則氣虛神朗、云云、則無レ幽不レ徹二、語、五、若紫「十曉方ニナリニケレバ、法華三昧行フ堂ノ懺法ノ聲、山オロシニツキテ聞エ來ル、イトタフトク」（二）事物ノ、妙處ヲ得ルコト。三昧ノ譯語ナル、正受ノ義ヨリ云フナリ、（上ノ語原ヲ見ヨ）蘇軾、題二老誰三詩一「鴻渇得ニ茶三昧一、覓レ句近窺ニ詩一斑一」陸游詩「病眠得二三昧一、夢レ亡已忘レ門」註解、書言故事、六、評論類「得二妙處一曰レ得二三昧一、柳子厚詩、共傾二三昧酒一（註「三昧、唐言、正受」）東坡詩、多用二三昧字一、大凡物皆有二三昧一、謂二其妙處一也、國史著曰、（註「李壁作」）長沙僧懷素、自言、得二草聖三昧一（註「懷素、善レ於二草書一自言レ得二其中正受之妙處一二」（三）俗ニ、他念ナク、其事ヲノミ行フコト。一途ニ、其事ニ心ヲ傾クルヲ、一三昧ト云フ。專心　俗語考（橘守部）三昧「歌三昧、佛三昧ナド、平語ニモ云ヘリ」俚言集覽、三昧「俗、常ニ、他念ナキ事ヲ云ヘリ、云云、又、俗ニ、何三昧ト云フ意アリ、酒狂ニテ、刃物ヲ抜キタルヲ、刃物三昧ト云フ類ナリ」（是レハ、ややもすれぞ行フ意ナリ）「婆サンハ、念佛ざんまい二（一心）（四）心ノママナルコト。勝手。放題。女殺油地獄（享保、近松作）下「紙子着テ川ヘ嵌ラウガ、油塗テ火ニ燒ラウガ、己ガさんまい」（五）三昧場ノ略、其條ヲ見ヨ。

さんまい-がた（名）［三枚肩］　二枚肩ノ條ヲ見ヨ。淀鯉出世瀧徳（正徳、近松作）上「駕籠ノ衆、頼ム、合點ト、北ヘ走レバ、新七夫婦、南無三枚肩、見送リテ、口ヲ明イテゾ、惘レタリ」

さんまい-かぶと（名）［三枚兜］　錏ノ條ヲ見ヨ。

さんまい-ざさ（名）［三枚笹］　紋所ノ名、笹ノ葉、三枚、葉柄ヲ上ニ集メテ、下垂セシメタル象ヲ成ス。

サンマイ-ソウ（名）［三昧僧］〔三昧ノ條ノ（一）ヲ見ヨ〕法華三昧堂ニ常住シテ、法華三昧ヲ修スル僧。東大寺要錄、四、三昧堂「治安三年、仁仙大法師與二助慶聖人一同心所二創建一也、同造二僧坊一、令レ住二六口三昧僧一、修二法華三昧之行一」徒然草、百三十四段「高倉院ノ法華堂ノ三昧僧、某ノ律師トカヤト云フ者、云云」

サンマイ-だう（名）［三昧堂］〔三昧ノ條ノ（一）ヲ見ヨ〕三昧ヲ修スル堂。念佛三昧ヲ修スル常行三昧堂モ、アレド、三昧堂トノミ云フ時ハ、多クハ、法華三昧堂ナリ、常住ノ三昧僧アリテ、不斷ノ法華三昧ヲ修ス。此堂ニ燈ス常夜燈ヲ、三昧の燈火ト云フ。大鏡、下、道長「三昧堂建テムト、御心ノ内ニ思召シ企テケル」源、十三、明石「十嚴シキ堂ヲ建テテ、三昧、行ヒ」榮花物語、十六、疑「三昧堂ヲ建テサセタマフ、云云、法華經百部、云云、佛ノ御前ニテ、三昧の火ヲ打タセタマフ、云云、三昧の燈火ヲ、消タズ揭ゲ繼グベクバ、此火、疾ク出ヅベシト、宣ハセテ、打タセタマヒシニ、此火、一度ニ出デテ、此二十餘年、未ダ、消エズ」

さんまい-だな（名）［三枚棚］　肘ノ名、一

[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

サンマイ-のともしび (名) 三昧燈火 前前條ヲ見ヨ。

サンマイ-ば (名) 三昧場 〔三昧所ノ意、三昧トハ、梵語ニテ、定ノ義、三昧ノ條ノ(一)ヲ見ヨ、入定(入滅)、火定(茶毘)ナドヨリ云フ語ナルベシト云フ〕 墓地、葬場所ノ稱。卽チ、三昧トノミモ云フ。[illegible] さんまいハ俗ニ、墓所ヲ云フ、佛家ノ三昧ヨリ出デタリ、[illegible] 三昧ト云フ」

さんまいめ (名) 三枚目 二枚目ノ條ヲ見ヨ。

さんまた (名) 三股 〔叉首叉ノ音便、(下略ナリ)〕 [illegible] さまたトモ云フハ、略ナリ。[illegible] タフリ。細ソキ木ノ頭ニ、枝ノ、叉ヲナセルモノ。ソレヲ、左右、距離ヲオキテ、地上ニ立テテ、其上ニ、竿ヲ架シ、物ヲ懸ケテ乾スニ用ヰル、又、其木ノ叉ニ、物ヲ掲ゲテ、高キニ擧シテ、懸クルニ用ヰルヲモ云フ。又、さまた。マタザヲ。[illegible]

サンマダイ (名) 三摩提 三昧ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

サンマヂ (名) 三摩地 三昧ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さんまん (副) 散漫 〔水ナドノ散バルガ、元ナリ〕 (一)漠然トシテ、緊束ナキ狀ニ云フ語。「思慮散漫」 (二)チラバル狀ヲ云フ語。「[illegible]」

サンマヤ (名) 三摩耶 〔さまやトモ云フ、梵語、Samaya. 本誓ト譯ス(三摩耶ニハ、尙、種種ノ義アルナリ)〕 眞言宗ニテ、佛ノ、衆生濟度ノ本誓ヲ云フ。佛、菩薩、明王、諸天、等ガ、各、其手ニ持テル三鈷、五鈷、輪寶、劍、索、ナドヲ、三摩耶曼陀羅ト云フ、各、其本誓ヲ示スナリ。其持物ヲ、其本尊ノ代表トシテ標示シタル時ハ、其本尊ノ三摩耶形、略シテハ、三形ト云フ、大日如來ノ卒塔婆、寶生如來ノ寶珠、不動明王ノ劍、ノ如キヲ、各、其本尊ノ三摩耶形ト云ヒ、蓮華ハ、觀音菩薩ノ三形、ナド云フガ如シ。[illegible] 「卒塔婆ト申スハ、大日如來ノ三摩耶形」

サンマヤ-ぎやう (名) 三摩耶形 前條ヲ見ヨ。

サンマヤ-マンダラ (名) 三摩耶曼陀羅 前前條ヲ見ヨ。

さんみ (名) 三位 〔三ハ、唐内音ニテ、さむナレバ、(三郎)む、ゐ、か、連聲ニテ、ゐト約マル(陰陽師、おんみやうぢ)〕

(一)くらゐ(位)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。「三位中將」 (二)寺院ノ兒ノ稱名、後ニハ、小僧ノ稱トモシタリトオボシ。[illegible]

さんみ-ちゆうじやう (名) 三位中將 〔前條ノ(一)ヲ見ヨ〕 近衞ノ中將ニシテ、三位ニ昇リタル人ノ稱。中將ノ相當ノ位ハ、四位ナレバ、規模ナリトテ、特ニ、稱スルナリ。五位ノ藏人ナド云フ、同例ナリ。[illegible]

さんみつ (名) 三密 〔祕密ノ義ニテ、如來ノ三業ハ、人ノ思議スル所ニアラザレバ、云フト云フ〕 眞言宗ニテ云フ語。如來ノ身、口、意、ノ三業ヲ云フナリ。密教ノ修行ヲ、三密行法ト云フ、手ニ印相ヲ結ビ(身密)、口ニ眞言ヲ誦シ(口密)、心ニ本尊ヲ觀ズ(意密)、三密瑜伽ト云フハ、瑜伽ハ、相應ノ義、行者ノ身、口、意ノ三密ガ、能ク、如來ノ三密ト相應シテ、離レヌ義、ソレガ、卽身成佛ノ義ヲ成ズル事ニ云フ。三密瑜伽の道場トハ、三密相應ノ行ヲ修スル道場、又ハ、境涯ヲ云フ。平家物語、六、小督事「一乘妙典ノ御讀誦モ、三密ノ行法ノ[illegible]モ、功、積ラセオハシマス」太平記、十五、園城寺戒壇事「智證大師[illegible]道場ヲ構ヘ、一代說教ノ法門ヲ展ベタマヒケリ」同、十二、[illegible]「一旦、名利ノ境界ヲ離レ、既ニ、三密瑜伽ノ道場ニ入リタマヒシカヒモナク、只、[illegible]ニノミ[illegible]キテ」

さんみつ-ぎやうほふ (名) 三密行法 前

條ヲ見ヨ。

さんみつ-ユガ (名) 三密瑜伽 前前條ヲ見ヨ。

さんみやう (名) 三明 佛經ノ語。宿命通ト、天眼通ト、漏盡通トノ、三ツノ稱。雜阿含經「世尊告諸比丘、有三無學三明、何等爲三、無學宿命智證通、無學天眼智證通、無學漏盡智證通」榮花物語、十八、玉臺「三十二相、[illegible]、六通、三明、ソナヘタリ」

さん-みやく (名) 山脈 〔ヤマツヅキノスヂ〕 山山ノ、連リテ、數十百里ニモ亙レルモノ。[illegible]「山脈自[illegible]中來」 甲斐國ニテハ、嶺、蔓ト云ヒ、駿河國邊ニテハ、をづね(峯蔓嶺)ト云フ。信濃國、白馬山邊ニテハ、山脈ヲ渡リユクヲ、たねつたひ(峯嶺傳)ト云フ。

サンミャク-サンボダイ (名) 三藐三菩提 阿耨多羅三藐三菩提ノ條ヲ見ヨ。

ざん-む (名) 殘務 仕殘リノ事務。「殘務ヲ處理ス」

ざん-む (名) 殘夢 夢ノ、ナゴリ。[illegible]「馬上續殘夢、不知朝日升」「殘夢、猶、覺メズ」

さん-めん (名) 三面 (一)三方ノ側面。「[illegible]ノ三面ニ、文字ヲ刻ル」 (二)一體ニシテ、頭部ノ三面ニ、顏ノアルモノ。狂言記、蛭子大黑「此ノ大黑殿、三面、六臂トアラハレケレバ」「三面大黑」 (三)新聞紙ノ、第三ノ頁。ココニハ、多ク、社會ノ雜事、民間日日ノ出來事ナドヲ載ス、三面記事、三面種ト云フ。其記事ヲ請ケ持ツ人ヲ、三面記者ト云フ。

さんめん-きじ (名) 三面記事 前條ノ

(三)ヲ見ヨ。

さんめんきしゃ (名) [三面記者] 前前條ノ(三)ヲ見ヨ。

さんめんだいこく (名) [三面大黑] 三ツノ顏アル大黑天。三面ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 狂言記、蛭子大黑「西ノ宮ノ蛭子三郎殿ト、比叡山ノ三面ノ大黑殿ヘト、祈誓ヲカケテ御座レバ」

さんめんだね (名) [三面種] 三面ノ(三)ヲ見ヨ。

さんもつ (名) [散物] 散錢ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

さんもつ (名) [散物] 金物ニ、箔ヲ押シタルモノ。 御禊行幸服飾部類「信範記云、內舍人、散物太刀」 服飾管見、七「金物ニ箔ヲ押シタルヲ、散物ノ劒ト云ヘリ」(古事類苑) 松屋筆記、六十六、廿七「信範記ニ、移鞍ノ具、散物鞍、散物鞍トモ見エ、飾抄、移鞍ノ條ニ、或ハ平文、或ハ金物トモ見ユ、散物ハ、金物ノ上ニ、漆シテ、箔押シタルヲ云ヘルナリ、サレバ、文アルヲバ、平文ト云ヒ、タダ、だみタルヲバ、散物ト云ヘルナリ」同卷、三十九 物具裝束抄ニ、黃金物、大臣用之、散物、大將用之、黑金物、納言已下公卿用之トアリ、黃金物トハ、眞鍮ナリ、散物トハ、黑金物ノ上ニ、箔ヲ押シタルナリ、黑金物トハ、黑漆ニテ塗リタルナリ」

さんもん (名) [山門] [寺院ノさんがう(山號)ニ因リテ云フ語ナリ、其條、幷ニ、開山ノ條ヲ見ヨ、山門ハ、鎌倉時代、禪宗、渡來後ノ稱ニシテ、其以前、寺ノ門ハ、大門、中門、南大門、東大門ナド、稱シタルナリ] 禪寺ノ門。禪刹七堂伽藍ノ一、又、三門トモ云フ、樓門ニシテ、總門ノ內、本堂ノ前ニ建テラル、左右ニ、金剛力士(仁王)ヲ置キ、樓上ニハ、中ニ、寶冠ノ釋迦如來、月蓋長者、善財童子ノ脇侍ヲ安置シ、其左右ニ、十六羅漢ノ像

ヲ列スルヲ、通規トス、山門ノ左右ニ、山廊ト稱スル平家ヲ設ケ、其內ニ階アリテ、樓上ニ昇降セシム。山門ハ、淨土宗、日蓮宗ノ寺ニモ、設ケラル、他ノ諸宗ニテハ、大門ト云フ。 通俗編、廿四、居處「高僧傳、支遁、于石城山、立棲光寺、宴坐山門、遊心禪苑」 天下南禪寺記「文和天子、新立山門、日瑞龍山太平興國南禪禪寺(後光嚴院天皇ナリ)」 天龍寺供養記「於總門前下車、云云、入山門」 撮壤集(享德)上、寺院部、諸堂、總門、山門、脇門」

さんもん (名) [山門] [叡山ヲ、山門ト云フハ、前條ノ語ノ、專用トナリタルナルベク、三井寺ヲ、寺門ト云フハ、叡山ノ山門ヨリ移リタルナルベシ] (一)寺ノアル、一山ノ總稱。 宋史、眞宗紀「法駕臨山門、黃雲覆輦道」 入唐求法巡禮行記(慈覺大師)三「西國僧、佛陀波利、來リテ、山門ニ到ル、文殊老人ノ、身ヲ現ジテ、山ニ入ルヲ許サズ」 勅修百丈淸規 寺院ノ開祖ヲ、開山ト稱シ、他ノ諸寺ヲ、諸山ト云ヒ、或ハ、一寺、一山、ノ稱呼トシテ、山門ノ語ヲ用ヰタリ(佛敎大辭彙) (二)近江國、比叡山、延曆寺ノ稱。同寺ヨリ分派シタル寺院ヲ、山門派ト云フ。(三井寺ヲ、寺門、又、寺門派ト云フニ對ス)叡山ヲ、單ニ、やまトノミモ云ヒ、山法師ナド云フ語モアリ。 保元記、四、山門御輿振事「治承元年四月十三日、山門大衆、日吉七社ノ神輿ヲ莊リ奉リ、根本中堂ヘ振上ゲ奉リ、云云、神輿、下洛アリ」同、九、山門堂塔事「近來、行人トテ、山門ノ威ニ募リ、云云、山門ニ、事出來ヌレバ、必ズ、世ノ亂レアリ、一年、天下ノ騷ギモ、山門ヨリ亂レ初メタリト聞ユ」 合類節用集(元祿)二、乾坤門「山門、京都土俗、斥比叡山云、爾」

さんもん (名) [三門] (一)門ノ建築ニ、左、右、中、ノ三ツノ門ヲ並列シテ、一門ニ造レルモノ。支那ニテ、天子ノ門トス、 後漢書、ざんもん云三門、門ニ三門、門三途、天王取象、然ト、ナレト、唐ニ宗ヨリ、宮闕、天下ニ悉ク

シテ、道敎ヲ崇尙セラレシヨリ、道觀ニアリ」(二)三門ハ、寺院ノ本堂ノ前ニモ、設ケラル、又、山門トモ云フ、前前條ヲ併セ見ヨ。 釋氏要覽、上、住處、寺院三門「凡、寺院、有開三門者、只有一門、亦呼爲三門者、何也、佛地論云、大宮殿三解脫門、爲所入處、大宮殿喩法空涅槃也、三解脫門、謂空門、無相門、無作門、今寺院、是、持戒修道、求至涅槃、人居之、故、由三門入也」 法苑珠林、三十九、荊州河東寺「寺開三門、兩重七間」 入唐求法巡禮行記(慈覺大師)大華嚴寺「院內ノ大衆、相送リテ、三門外ニ到リ、淚ヲ捫ミ、手ヲ執リテ別ル」

さんもん (名) [三文] (一)一文ノ錢、三枚。(二)錢、三文ノ價ナルモノ。極メテ價値ノ低キモノ、劣リタルモノ、ノ意ニ云フ。(三百ノ條ノ(二)ヲ併セ見ヨ)「三文判」「三文奴」「三文ノ値打モナイ」 今、三文文士ナド、嘲リ呼ブコトアルモ、此遺ナリ。

さんもんぐゎし (名) [三文菓子] 駄菓子ノ、一箇、錢、三文ノ價セシモノ。

さん-モンジュ (名) [三文珠] 大和國、磯城郡、安部村、知足院崇敬寺ト、丹後國、與謝郡、吉津村、切戶ノ知恩寺ト、京都、黑谷ノ金戒光明寺ト、ニ安置スル文珠菩薩ノ像ノ稱。 合類節用集(元祿)十、數量門「三文珠、城州新黑谷、和州安部、丹州切戶」

さんもんは (名) [山門派] 山門ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さんもんばな (名) [三文花] 花賣ノ持テ來ル、一花枝ノ、錢、三文ノ價ノモノ。佛壇ノ花瓶ナドニ供ヘタリ。

さんもんばん (名) [三文判] 出來合ノ、粗糙ナル、木刻ノ印形。錢、三文ニテ賣ル。賤人ノ、印形持タヌ者ナド、急用ニ

臨ミテ、買ヒテ、押シタリ。 俚言集覽「三文判」

さんもんぶぎゃう (名) [山門奉行] 「山門ノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 室町幕府ノ職名。比叡山、延曆寺ノ事ヲ掌リキ。 武家名目抄、職名十九、二「比叡山ハ、本朝第一ノ伽藍ナレバ、云云、足利殿ノ世トナリテ、云云、叡山ニモ、奉行人ヲ附ケラレテ、何事トナク沙汰セシム、コレヲ、山門奉行ト稱セリ」 蔭涼軒日錄、寬正三年六月十一日「天龍寺領、江州、建部庄內、自山門、被懸段錢之事、停止之御奉書、被成之事伺之、卽、命于山門奉行布施下野守也」

さんもんぶんし (名) [三文文士] 三文ノ(二)ヲ見ヨ。

さんもんやっこ (名) [三文奴] [三文ノ條ノ(二)ヲ見ヨ] 直打ナキ、役ニ立タヌ者ヲ、罵リテ呼ブ語。三百面ナド云フニ同ジ。 俚言集覽「三文奴」

さんや (名) [山野] (一)やまト、のト。 南史、侯景傳「每使、掠奪山野」 平家物語、十二、六道沙汰事「山野廣シトイヘドモ、立チヨリ宿ルベキ所モナシ」 (二)田舍。田野。 三國志、蜀志、杜微傳「怪君未有相誨、便欲、求、還於山野」

ざんや (名) [殘夜] 夜ノ、ナゴリ。夜ノ明方。 范成大、虎牙灘詩「埠頭可喚船、安穩雞三殘夜」 太平記、廿七、雲景未來記事「サレバ、此神器無カラム代ハ、月入リテ後ノ殘夜ノ如シ」

さんやう (名) [山羊] ヤギ。

さんやう (名) [山陽] (一)カゲトモ。山ノ南。卽チ、日影ヲ受クル處。山ノ北ヲ、山陰ト云フ、ソトモ。(かげともノ條ヲ見ヨ) (二)次條ノ語ノ略。

さんやうだう (名) [山陽道] 我ガ邦、內地ノ、七道ノ一、卽チ、播磨、美作、備前、

山中、山陰、安藝、周防、長門、ノ八ヶ國ノ稱、カゲトモノミチ。略シテ、山陽。[illegible]

さんやく (名) 三役 (一)相撲ニテ、大關、關脇、小結ノ、三ツノ稱。(二)江戸時代、[illegible]傳馬宿入用米ト、六尺給米ト、御藏前入用トノ、三ツノ稱。地方凡例錄、五、三役「三役ト名目附ケ、定納ニ成リタルハ、御當代ニテ始メシ事ト見エタリ、御料村村御傳馬宿入用米、六尺給米、御藏前入用、是レヲ三役トイフ[illegible]」

さんやく (名) 三譯 重譯ノ條ヲ見ヨ。

さんやく (名) 山藥 〔本草衍義「薯蕷、[illegible]」〕 [illegible] 用トスル時ノ名。救荒本草「野山藥、家山藥」(やまのいもトモ、ながいもトモナリ) 假名[illegible]山藥

さんやく (名) 散藥 コグスリ。[illegible]

さむやみ (名) 寒病 〔寒冷スルニ因リテ、云フ〕(一)ワラハヤミ。オコリ。(二)寒ゲル[illegible]ヲ云ヘリ」

ざんゆ (名) 讒諛 諂ヒテ、人ヲ讒言スルコト。[illegible]

さんよ (名) 參與 政事ニ、參リ與カルコト。[illegible]

さんよ (名) 山輿 山ニ登ルニ用ヰル[illegible]山記「以二山輿一登」」

さんよ (名) 三餘 [illegible]渴無レ日、過雷、當レ以二三餘一、冬者歲之餘、夜者日之餘、陰雨者時之餘」、董遇ノ語ニ」勉學スベキ、三ツノ餘暇、即チ、冬ト、夜ト、陰雨ト、ノ稱。[illegible]記スル處ヲ看ルニ」

ざんよ (名) 殘餘 ノコリ。アマリ。[illegible]

さんよう (名) 山容 ヤマノカタチ。ヤマノスガタ。[illegible]

さんよう (名) 算用 〔算木ニテ、計ルナリ〕 數ヘ、ツモルコト。サンニョウ。計算。勘定。[illegible]「計、[illegible]用」算也」

さんようあひ (名) 算用合 算用シテ、數ヲ合ハセタル、デキバエ。心中天網島(享保、近松作)下「最前ノ金デ、ソナタノ算用合ひモ仕マヒ」

さんようすうじ (名) 算用數字 筆算ニ用ヰル數字。あらびあ數字ニ同ジ。

さんよく (名) 贊翼 力ヲソヘテ、助クルコト。贊助。[illegible]三國志、[illegible]

さむら (名) 寒等 〔ら、ハ、添ヘタル辭、其條ヲ見ヨ〕 寒氣。サムサウ。[illegible]九、長歌、[illegible]キヤ、[illegible]ノ御坂ニ、[illegible]ニ、メバタマノ、髮ハ亂レテ」(相撲ノ足柄坂ニテ、死人ヲ見タル詠ナリ、神トハ、峻シクテ、登リ難ムニ云フ)

さんらい (名) 山籟 〔籟ハ、穴ヨリ發スル響ニテ、音ノ義、人籟、松籟ナドニ對ス」 山風ノ音。鮑照詩「野風振二山籟一」

さんらい (名) 三禮 (一)支那ノ、三ツノ禮書。即チ、周禮、儀禮、禮記、ノ稱。南史、儒林傳「特精二三禮一」(二)支那ニテ、天神、地祇、人鬼、ノ三ツヲ祭ル禮。[illegible]

さむらう (名) 三郎 〔三ハ、唇内音ニテ、さむナリ」 さぶらう(三郎)ニ同ジ、たらう(太郎)ノ條ヲ見ヨ。

さんらう (名) 山廊 山門ノ條ヲ見ヨ。

さんらう (名) 三老 (一)年老イテ、一村邑ノ教化ヲ掌ル三人ノ稱。[illegible]「食三老五更於大學」(二)上壽(百歲)、中壽(八十歲)、下壽(六十歲)ノ三ツノ老年。

さんらうぢょ (名) 三老女 三婦人モアリ」 能樂ニテ、老女ヲ仕手ニ仕組メル、檜垣、姨捨、關寺小町ノ、三番ノ稱。

さんらく (名) 三樂 (一)君子ノ、三ツノタノシミ。孟子、盡心、上「[illegible]」(二)人生ノ、三ツノタノシミ。孔子家語、六本篇「[illegible]」

さんらく (名) 參洛 洛陽ヘ、參着スルコト。上洛。保元物語、一、新院御所各門門固事「[illegible]ナホ參洛セザリケレバ」

さむらひ (名) 侍 〔さぶらひノ轉、其條ヲ見ヨ、其轉ジタル時代、知ラレズ、足利時代以後ナルガ如シ〕 (一)公家ニ仕ヘテ、雜務ヲ執リシ者、帶刀シタリ。「公家ざむらひ」(二)モノノフ。武士。士。武術、文學ヲ習ヒ、武家ニ仕ヘテ、帶刀シ、警衛、兵役、等ニ任ズル者。四民ノ、士農工商ノ、上ニ居ルモノトシタリ。證百首和歌、さむらひ不レ食高楊枝「侘シトテ、色ニ出デメヤ、燕エヌレド、毬啄マヌ鷹ノ、例コソアレ」[illegible]

さむらひえぼし (名) 侍烏帽子 〔古ヘ、絹製ノ立烏帽子ノ頂ヲ、折リタタミタルモノ、故ニ、折居ノ名アリ、立チ働クニ便ニシタルモノカ、まねきノ三角ナルハ、頂端ナリ」 烏帽子ノ一種、昔ハ、士農工商ノ、日常用ノモノナリシニ、後ニハ、侍ノ、素襖ヲ着タル時ニ被ルモノトナレリ、厚紙製、黑漆塗、扁平ニシテ、頂ニ、まねきト云ヒテ、三角ナルモノヲツク、全體、横皺ナレバ、よさびノ折烏帽子トモ云ヒ、形ニ因リテ、折居烏帽子、又、納豆烏帽子トモ云フ。小結ノ組絲ヲ、譬ニ結ビ、其先ヲ、烏帽子ノ外ヘトホシテ、結ビオクナリ。(貞丈雜記、三、烏帽子之部)

さむらひだいしゃう (名) 侍大將 〔さぶらひ大將ノ轉、其條ノ(二)ヲ見ヨ〕 足利時代ノ末ヨリ、武家ニテ、侍、一組ヲ率ヰル職ノ稱。(足輕大將ナドニ對ス) 後ニ云フ、番頭ニ當ル。

さむらひどころ (名) 侍所 〔さぶらひどころヲ參照セヨ〕 (一)關白家ニテ、侍ノ伺候スル所。[illegible] (二)鎌倉將軍ノ代ノ役所ノ名。武士ノ、職務ナキヲ、侍ト云ヒ、其

伺候スル所ナリ。其長ヲ別當ト云ヒ、守護、地頭、及、軍役ノ事ヲ支配ス。(三)室町將軍ノ時ニ至リ、其長ヲ、侍の司ト、又ハ、所司ト稱シ、山名、赤松、一色、京極ノ四氏、互ニ代ハリテ、補ス、コレヲ、四職ト云ヒ、刑罰ヲモ掌ル。事アレバ、家臣ヲシテ代理セシム、之レヲ、所司代ト云フ。(所司代ノ(一)見合ハスベシ)

さむらひのつかさ (名) 侍司 前條ノ(三)ヲ見ヨ。

さむらひほふし (名) 侍法師 門跡ニ仕フル侍。坊官ノ下位ニアリ、薙髮、妻帶シテ、尋常ノ侍ナレド、法橋、法眼ニ敍セラレ、備中法眼ナド、稱シテ居タリ。 貞丈雜記、四、官位「侍法師ト云フモ、門跡ニ奉公スル者也、コレハ、髮ヲ剃ラズ、常ノ侍ナリ、古ヘハ、俗ナリ、法橋、法眼ニナル也」

さむらひみゃうが (名) 侍冥加 侍トシテノ幸福。侍冥利。 (日本居八景 寛永、近松作)十番斬屋形踊「十郎ニ出合ヒシハ、侍冥加、有リ難シト」

さむらひみゃうり (名) 侍冥利 前條ノ語ニ同ジ。 心中天網島(享保、近松作)上「最前ハ武士冥利、今ハ紙屋ノ治右衞門、商ヒ冥利、女房限ッテ、此文ハ見セズ」

さむらふ (動) 候 さもらふニ同ジ。

さんらん (名) 山巒 さんがく(山嶽)ニ同ジ。 下學集、上、天地門「山巒、山嶺謂也」

さんらん (名) 散亂 (一)散リ、亂ルルコト。チリヂリニナルコト。 圓覺經、上「新俳、鶉毛ガ散亂」「七年、散亂ス」 (二)佛敎ニテハ、貪、瞋、痴、ナドノ煩惱ノタメニ、心、一處ニ住セズ、散漫、亂雜トナルコト。 徒然草、百五十七段「佛前ニアリテ、數珠ヲ取リ、經ヲ取ラバ、怠ル中ニモ、善業オノヅカラ修セラレ、散亂ノ心ナガラモ、繩床ニ坐セバ、覺エズシテ、禪定ナルベシ」

さんらん (副) 燦爛 キラビヤカナル狀ニ云フ語。燦然。 詩經、唐風、葛生篇「角枕粲兮、錦衾爛兮、予美亡ㇾ此、誰與、獨旦」

さんらんし (名) 蠶卵紙 種紙。蠶紙。

さんり (名) 三里 灸穴ノ名、膝頭ノ下ノ外傍ノ、稍、凹ミタル處。 徒然草、百四十八段「四十以後ノ人、身ニ灸ヲ加ヘテ、三里ヲ燒カザレバ、上氣ノ事アリ、必ズ、灸スベシ」 合類節用集(元祿)五、肢體門「三里、灸穴」 和漢三才圖會(正德)十一、經絡「足陽明胃經、三里在膝眼下三寸、胻骨外廉、大筋內宛宛中」

さんり (名) 散離 チリヂリニ、ハナルルコト。ハナレバナレニナルコト。離散。 左傳、成公十三年「散離我兄弟、撓亂我同盟」

さんりがみ (名) 三里紙 〔前前條ヲ見ヨ、畫語錄(喜多村信節)ニ「灸ノイボヘル爲ノモノナレドモ、風流ニ、足ノ飾トシタルナリ」トアレド、然ニハアラジ、附クル所、三里ニアタルヨリ云フナルベシ〕 武家奴ノ、尻カラゲテ、兩膝ノ直下ノ處ニ當テテ結ヒオク、三角形ノ白紙。土下座スル時ノ用ナルベシ。又、力紙。 末若葉 跋「立ニ、毛ノナイ足ノ、三里紙」

さんりく (名) 三陸 陸前國、陸中國、陸奧國、ノ併稱。「三陸ノ海嘯」

さんりつ (名) 簒立 君ノ位ヲ簒ヒテ、其位ニ卽クコト。 左傳、隱公四年、杜註「衞簒立晉、衞侯既與之會、則不ㇾ復討ㇾ」

さんりつ (名) 攢立 〔攢ハ、正韻「聚也」〕 簇リ、タツコト。集マリ、タツコト。 司

馬相如、上林賦「攢立叢倚」

さんりつ (名) 慘慄 慘酷ニシテ、身慄スルコト。イタミ、オソルルコト。 楮少孫、楚辭「悲三子志、兮慘慄、心愴愴兮自悼」

さんりん (名) 三輪 〔佛經ニ說ケル三輪ニ、六、七種アリ、今、一二ヲ擧グ〕 (一)佛敎ノ語。自性輪、正法輪、敎令輪、ノ併稱。自性輪トハ、自然無作ノ法性ヲ云ヒ、正法輪トハ、外道ニ對シテ、佛陀ノ法敎ヲ云ヒ、敎令輪トハ、衆生ノ邪習、我見ヲ、摧伏スル法門ヲ云フ。(二)又、世界ノ下ニアリテ、世界ヲ捧ゲ持ツ、風輪、水輪、金輪、ヲモ云フ。

さんりん (名) 山林 (一)山ニ植エツケタル林。 孟子、梁惠王、上篇「斧斤以ㇾ時入ㇾ山林、材木不ㇾ可ㇾ勝ㇾ用也」(不可勝用トハ、多キヲ云フ) 地方凡例錄、二ニ、山林竹木仕立方ノ事トアリテ、培養、採伐ノ事ヲ記セリ。 武家ニ、山林ノ育立、又、伐出ヲ掌ル職ヲ、山林奉行ト云ヒキ。(二)都會ノ外ノ、山野ノ地。 漢書、王吉傳、贊「山林之士、往而不ㇾ能ㇾ反、朝廷之士、入而不ㇾ能ㇾ出、二者、各有ㇾ所ㇾ短」 歐陽修、釋祕演詩集序「山林、屠販、必有ㇾ老死而莫ㇾ見者ㇾ」(山林、又ハ、市井ノ間ニ伏在セル豪傑ヲ云フ、屠販トハ、獸ヲ屠リ、布帛ヲ販グ賤役ニ甘ンジ居ルヲ云フナリ) 盛衰記、十八、龍神守三種心事「文覺上人、閑林出家ト言ヒタレバ、十八歲ニシテ入道シテ、再ビ、在家ニ歸ラズ、云云、ナホ、山林流浪ノ行人也」

さんりんがく (名) 山林學 林學ヲ見ヨ。

さんりんぶぎゃう (名) 山林奉行 前前條ノ(一)ヲ見ヨ。

さんりんぼう (名) 三隣亡 曆日ノ一、八龍日ノ稱。卽チ、亥、寅、午、ノ日ヲ云フ、此日ニ、家ヲ建ツレバ、火災ニ逢遇ストゾ。 東齋要日集成、一「八龍日「八龍日ハ、三

隣亡(長暦、作三隣亡)也、亥寅午ノ日ヲ、三隣亡ト云、俗、此日、屋ヲ結ブト、火災アリト云フ」

さんりゃう (名) 山梁 〔論語ノ文ニ據リテ、異名トスルナリ、出典ヲ見ヨ〕 雉子ノ異名。 論語、鄉黨篇「山梁雌雉、時哉、時哉、子路共ㇾ之」(梁ハ、橋ナリ、子路ト云フ人、雉ヲ時節物ト見テ、師ノ孔子ニ供シタルナリ) 枚乘、七發「山梁之餐、豢豹之胎」 字類抄「山梁、サンリャウ、キジノ名」 下學集(文安)上、氣形門「山梁、雉異名也、見論語」

さんりゃうざむらひ (名) 三兩侍 三一ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

さんりゃく (名) 三略 支那ノ兵書、上略、中略、下略ノ併稱。りくたう(六韜)ノ條ヲ見ヨ。 謝靈運、撰征賦「法奇於三略、義秘於六韜」

さんりゃく (名) 刪略 ケヅリ、ハブクコト。省略。 荀悅、漢紀、序「省、要刪略」

ざんりゃく (名) 殘掠 殘略 ソコナヒ、カスムルコト。 唐書、張建封傳「殘ㇾ掠淮縣ㇾ」

さんりょう (名) 三稜 ミツカド。三角。 「三稜錐、三稜鏡」

さんりょう (名) 山陵 (一)ミササギ。 喪葬令、義解「帝王墳墓、如ㇾ山如ㇾ陵、故謂之山陵」 (二)山ト、陵ト。山陵崩ルトハ、帝王ノ死スルヲ云フ。崩ズルナリ。崩ルヲ省キテ、山陵トノミモ云フ。 戰國策、秦策「王之春秋高、一日、山陵崩、太子用ㇾ事」(春秋高ハ、年老ナリ) 舊唐書「自ㇾ山陵ㇾ已後、…在ㇾ殿」(左右使射トハ、左右大臣ナリ)

さんりょうし (名) 山陵使 御卽位、立太子、等ノ時、其事ヲ、山陵ニ告ゲ奉ラセタマフ御使。 江家次第、六、安和二年九月廿二日、被ㇾ發ㇾ遣山陵使ㇾ、告ㇾ御卽位、井、立太子之由ㇾ」

[illegible]

さんりうさん (名) [illegible] 三稜鏡 [illegible] 三稜プリズム [illegible] 時ナドニ用ヰラル。

さんりうすゐ (名) 三稜錐 [illegible]

さんりうせき (名) [illegible] 稜ヲ成セルモノ。紀伊續風土記、物産、二三 [illegible]

さんりうハリ (名) 三稜玻璃 三角柱ノ玻璃 プリズム

さんりうぶぎやう (名) 山陵奉行 [illegible] 德川時代ノ山陵ノ修理、[illegible] 一切ノ事ヲ掌ル、文久二年、[illegible] 置キ、戸田大和守、コレニ補セラル。[illegible]

分地、諸侯ノ列ニ入ル」

さんる (名) 三流 [illegible] ノ條ヲ見ヨ。

さんるゐ (名) 酸類 化學ノ語。酸性ノモノ、即チ、硝酸、硫酸、鹽酸、酒石酸、等ノ總稱。

ざんるゐ (名) 殘淚 [illegible] ナミダノ痕 [illegible]

さんれい (名) 山靈 山ノ神。山神。[illegible]

さんれいごさん (名) 三令五申 三たび令して、五たび申ぬるナリ」幾度モ繰リカヘシテ、命令スルコト。[illegible]

ざんれき (名) 殘瀝 ノコリノシヅク、餘滴 [illegible]

さんれつ (名) 參列 參加シテ、列席スルコト。マジハリ、ツラナルコト。南唐書 [illegible]

さんれつ (名) 慘烈 甚シク、ムゴキコト。キビシキコト。酷烈。[illegible]「雨雪霰霙、氷霜慘烈」

さんれつけん (名) 參列權 國際會議ニ、代表者ヲ出シテ、參列セシムル權利。現今、獨立國ニシテ、其會議ノ目的タル事件ニ關係アルモノハ、皆、此權利アリ。參列セシメザル決議ハ、無效トナル。

さんれん (名) 三連 〔アトト云フハ、下ノ宋音(下火ト云フ語モアリ)禪僧ノ讀ミツケタル語ナリ〕又、下三連トモ云フ、詩ノ句ノ下ノ三字ヲ、平字ノミ、仄ハ、仄字ノミニテ、連ネタルモノ、平三連、仄三連トモ云フ。[illegible] 連、孤平トテ、禁アリ、云云、孤平トハ、仄字ト仄字トノ間ニ、平字、一字アルヲ云フ」

さんろう (名) 參籠 マヰリ、コモルコト。神社、佛閣ニ、祈念ノ爲ニ、數日夜、籠ルコト。通夜シテ、祈ルコト [illegible]

さんろがふえ (名) 山路笛 「山路ヲ見ヨ、或ハ、山路ヲ、三弄ナド記シ、又ハ、三郎トシテ、唐ノ玄宗皇帝玄宗ハ、睿宗ノ第三子」ノ事ニ云ヘルアルハ、皆、附會ナリ」牧童騎牛圖ノ草刈笛ノ名。幸若舞ノ詞章ノ、烏帽子折ニ記セル傳說ニ起ル。幸若、烏帽子折ニアル文ヲ摘記ス、用明 [illegible] タマフ、長者、云フ [illegible] シ候、さんろトハ、山の路、人ノ名ニハ、始メテ聞イ [illegible] 申スナリ」故アリテ、至尊ナルコト、知ラレ、長者ハ [illegible] セシナラム、ト云ヘルモ、附會ナリ」朗詠集、下、暮 [illegible] コレニ因ルト、嬉遊笑覽ニ云ヘリ」嬉遊笑覽、六、上、[illegible] 云、烏帽子折ニ、大和竹ニ目ヲアケタル草刈笛ニテ [illegible] 證ニナリタマフモ、然故ニテハアラザルヤ」

さんろく (名) 山麓 フモト。山ノスソ。山脚。[illegible]

さんろん (名) 三論 次條ノ語ヲ見ヨ。

さんろんしゅう (名) 三論宗 佛教八宗ノ一。一ニ、空宗ト云フ。龍樹菩薩ノ中論、十二門論ト、提婆菩薩ノ百論トヲ所依トス、宗義ハ、小乘、外道、ノ說ヲ破シテ、大乘ノ深義ヲ顯ハスヲ旨トス、破邪顯正ト云フ、空宗ノ稱ハ、諸法皆空ノ理ニ本ヅク。[illegible] 盛ンニ唱ヘテ、是レヨリ、三論宗、弘通セシガ、後、衰ヘテ、今ハ、僅カニ、大和國ノ東大寺、法隆寺ニ學問トシテ存スルノミ。[illegible]

さんわう (名) 三王 支那ノ上代ノ、夏ノ禹王、殷ノ湯王、周ノ文王、武王ノ併稱。[illegible]

さんわう (名) 山王 次條ヲ見ヨ。

さんわうごんげん (名) 山王權現 日吉山王權現ノ略。單ニ、山王トノミモ云フ、比叡山ノ守護神トシテ、延曆寺ノ祀ル所ナリキ、近江國、滋賀郡、坂本村ノ西、比叡山ノ麓ニアリ、猿ヲ、宦者トシテ、社傍ニ養フ、七社アリ、一、大宮權現、大己貴命ヲ祀リ、本地ヲ釋迦如來トス、二、二宮小比叡、三、聖眞子、四、八王子、五、客人權現、六、十禪師、七、三宮、ソレゾレ、神名、本地、佛名アリ、此七社ヲ、上ノ七社トシ、又、中ノ七社、下ノ七社アリ、合シテ、山王二十一社ト稱シ、例祭ヲ、日吉祭、山王祭ト云ヒキ、叡山ノ大衆、嗷訴セムトスル時、山王ノ神輿ヲ先

ニ立テテ、入洛スルコトアリキ、コレヲ、御輿振ト云フ、其條ヲ見ヨ。今ハ、神佛分離ノ結果トシテ、山王權現ノ稱ヲ廢シテ、官幣大社日吉神社トナル。

さんわう-とりゐ (名) 山王鳥居 鳥居ノ一種、笠木ノ上ノ中央ニ、棟柱ヲ立テ、ソレニ、合掌形ヲ架シ、其頂ニ、烏頭トテ、反ノアル木ヲ置キタルモノ。此鳥居ハ、比叡山、坂本ナル山王七社ノ總入口ニ立ツ、故ニ、總合の鳥居トモ云フ。 類聚名物考(安永)神祇、十一、總合鳥居「近江國、比叡山、山王ノ社ノ鳥居ハ、笠木ノ上ニ、又、三角ニ立チタル笠木アリ、是ヲ、總合の鳥居ト云フ」 匠家必用記、下「山王鳥居」

さんわう-まつり (名) 山王祭 (一)山王權現ノ例祭。比叡山ノナルハ、陰曆四月、中ノ申ノ日ナリキ。(山王權現ノ條ヲ見ヨ、此神ノ官者ヲ、猿トス) 狂言記、祢宜「只辞狂ヤ、顔ハ朱塗ノ、赤キハ、猿ノ山王祭カ」 (二)江戶、赤坂、永田町ナル山王權現(今ハ、官幣大社日枝神社)ナルハ、陰曆、六月十五日ナリキ、當社ハ、德川將軍ノ産土神ナルガ故ニ、代代ノ崇敬、殊ニ厚ク、南ハ芝、西ハ麴町、東ハ靈岸島、小網町、堺町ヲ限リ、北ハ神田ニ到ル、百六十餘箇町、皆、氏子ナレバ、江戶第一ノ大祭トシテ、將軍ノ産土神ナレバトテ、天下祭ナド稱シテ、神輿通過ノ行列ヲ始メトシテ、各町ノ山車、造物、大傳馬町ノ諫鼓ノ鷄、南傳馬町ノ猿、其外アリ、附祭ノ屋臺ナド、相、競ヒテ、美飾ヲ盡シ、壯觀ナルコト、京都ノ祇園祭ヲ淩ギタリ、神田祭ト、隔年ニ行ヘリ。(山王祭ハ、子、寅、辰、午、申、戌、ノ年ナリキ)

其角ノ句「我レ等マデ、天下祭ヤ、土車」

さん-ゐ (名) 山彙 〔彙ノ義ハ、ゐ(字彙)ノ語原ヲ見ヨ〕 山嶽ノ、不規則ニ、相、集合セルモノ。多クハ、火山ニアリ、又、山群トモ云フ。

さん-ゐ (名) 三畏 君子ノ畏ルベキ、三ツノモノ。卽チ、天命ト、大人ト、聖人ノ言トノ稱。 論語、季氏篇「孔子曰、君子有三畏、畏天命、畏大人、畏聖人之言」

さん-ゐ (名) 三位 さんみ(三位)、並ニ、くらゐ(位)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さん-ゐ (名) 簒位 臣トシテ、君ヲ排シ、其ノ位ヲ簒フコト。 左傳、僖公十一年、杜注「召戎、欲因以簒位也」

さん-ゐ (名) 散位 〔さんにト發音スルヲ、讀例トスト云フ、散ハ、舌內音ニテ、さぬナリ、ぬ、ゐ、ガ、連聲ニテ約マリテ、にトナル(算用、さんにょう)散ハ、閑散ノ義〕 官職ヲ辭シテ、位ノミ有ツ者ノ稱、又、散班トモ云フ、前大納言、前陸奥守ナド、現職ナクシテ、位ノミ存ス。散二位、散三位ナド云フモ、是レナリ。 續紀、八、養老二年四月「內外散位、仍宛二雜徭一」 倭名抄、五、位階「一位、二位、三位、已上位階、若非二參議一以上、從二此位一者、世謂二之散三位一」 新野問答(正德、新井君美、野宮定基)散三位「家柄ヨキ人ノ上バカリノ事ニテ候、云云、三位ノ中納言ニモ可レ成人、中納言ノ官、明キ無レ之故、先ヅ、三位ニ成シタマヒテ、官ノ明クマデ待ツ內、其人ヲ慰ムルタメ、位ヲ設ケテ、官ヲ待ツ、ト心得候ヘバ、濟ミ申シ候」

さんゐ-れう (名) 散位寮 トネノツカサ。サンニレウ。古ヘ、式部省ノ被管ノ寮。文武官ノ散位ノ事ヲ總掌シ、又、諸國ノ朝集使ノ上日ヲ判ス、後、本省ニ併セラル。 職員令「散位寮、頭、一人、掌二散位名帳、朝集事一」 官職祕抄、後附「式部省被官、散位寮、寬平八年、併二式部省一」

さん-ゑ (名) 三會 (一)奈良ノ興福寺ノ維摩會ト、藥師寺ノ最勝會ト、禁中ノ御齋會ト。共ニ、勅會ナリ。三大會トモ云フ。 塵袋抄、十、三十一條「三會トハ何ゾ、興福寺維摩會、藥師寺最勝會、大極殿御齋會也」 (二)天台ノ三會ト云フハ、圓宗寺ノ法華會、最勝會ト、法勝寺ノ大乘會ト。 二中歷、四、法場、天台宗三會「延久四年、圓宗寺始置二法華、最勝二會一、承曆元年十月、法勝寺始置二大乘會一、爲二三會一」

さん-ゑ (名) 産穢 〔血ニ觸ルルニ因リテ、穢れトナルナリ〕 出産アリタル時、其父母ノ身ニカカル、穢ノ稱。德川時代ニテハ、父、七日、母、三十五日トシタリ、出産ノ時ニ、同室シタル者ニモ、及ブ。觸穢ノ條、見合ハスベシ。 續古事談、四、神社佛事「兵庫頭知定ト云フ陪從アリケリ、産穢ニ入リテ、二十餘日ヲ經テ、八幡ノ御神樂ニ參勤シ、云云、舞殿ニテ、鼻血零エタリケレバ、云云、此産穢ノ外ニ、不淨ノ事ナシ、此祟ニヤト疑フ程ニ、知定ガ娘ノ、十三歲バカリナルガ、俄ニ氣色變リテ、云云、我ハ八幡ノ御使ナリ、イカデ、産婦ト抱キ寐テ、大菩薩寶前ヘハ參ルゾ、云云、知定申スヤウ、産穢ヲバ、幾日バカリ忌ムベキゾヤ、女子曰、三十三日忌ムベシ、云云」

さん-ゑん (名) 三猿 さんびきざるノ條ヲ見ヨ。

さ-め (名) 小雨 〔さあめノ約、さハ、發語ナリ、はやさあめノ條ヲ見ヨ〕 雨ト云フニ同ジ、熟語ニノミ用キラル。 「春さめ」「小さめ」「叢さめ」「氷さめ」

さ-め (名) 白眼 さめうゑ、さめうまノ條ヲ見ヨ。

さ-め (名) 鮫 鯊 〔狹目ノ義、さめの魚ト云フガ、成語ナリ、康賴本草、下「鮫魚、左女乃宇乎」(鯖モ、成語ハ、狹齒の魚ナリ)東雅(新井白石)十九「鮫、さめ、古語ニ、さト云ヒシハ、狹也、小也、其眼ノ小シキナルヲ云フニ似タリ」倭訓栞、さめ「鮫魚ヲ云フ、云云、狹眼ノ義ナリ、體ヨリハ、眼ノ、至テ細ツキモノナリ」沖縄ニテ、さみ、山陰道ニテハ、鮫ヲ、和爾ト云フ、神代紀ニ、鰐トアルハ、鮫ナルベシト云フ〕 海魚ノ名。 體、延長ニシテ、圓筒狀ヲナシ、頭、スボル、大ナルモノハ、長サ丈餘ニ及ブ、鱗ナク、皮、厚ク、背、黑ク、腹、白シ、兩脇ノ鰭ハ、翅ノ如ク、背上ノ鰭ハ、鬣ノ如シ、口ハ、頷下ニアリ、眼、靑ク、腮、五ツニ切レタリ、肉味、美ナラズ、かまぼこニ作ラル。鰭モ、食用トス、鮫氷ノ條ヲ見ヨ、類中ニ、胎生ノモノアリ、出入子ノ條ヲ見ヨ。此魚ノ皮ニ、沙粒ノ如キモノ、附キテアリ、鮫皮ト云フ、種種ノ用ヲナス、其條ヲ見ヨ。鮫ノ、更ニ大ニシテ、數丈ナルモノヲ、鱶トス。鮫ニ、猫ざめ、蟠ざめ、蝶ざめ、撞木ざめ、姥ざめ、小判ざめ、星ざめ、ナド、種類、甚、多シ、各條ニ註ス。 萬葉集、十六、長歌「名具鮫魚天」(突メテ) 字鏡七十「鮫、佐女」 本草和名、下廿「鮫魚、一名、鯊魚、佐女」(倭名抄、同ジ)

さ-め (動) 覺 冷 褪 覺む、冷む、褪むノ條ヲ見ヨ。

さめい-の-し (名) 佐命之士 〔君王ハ、天命ヲ受ケタルモノ〕 君王ヲ輔佐シテ、業ヲ成サシメタル士。 李陵、答蘇武書「其餘、佐命立功之士、賈誼、亞夫之徒、皆、信命世

[illegible]佐命之士二」

さめ-うし (名) 〔白眼牛〕 〔次條ノ語原ヲ見ヨ〕 白眼馬ト同ジク、毛ノ色ノ、赤白[illegible]牛ナルハ、[illegible]京[illegible]ノ六條南、室町西ニ、佐女牛ト云フ地名アリ、牛ニ[illegible]ル稱カ。枕草子、八、七十六段、名おそろしきもの「牛ハ、さめ」

さめ-うま (名) 〔白眼馬〕 〔白瑒ト云フ語アリ、素水ノすニ通ズ、論語、八佾篇「素[illegible]〕 [illegible]ノ毛ノ色[illegible]、白キ馬ト云フ[illegible]ヲ名、佐目ナル馬ニ乗リタルガ」

さめ-かは (名) 〔鮫皮〕 鮫ノ皮ニ、沙ノ如キ、米粒ノ如キモノノ附キタルヲ採リテ[illegible]刀ノ柄、又ハ、鞘ニ用ヰル大粒ナルハ、[illegible]大、小、順ヲナシ、一列、直下シテアリ、コレヲ[illegible]ト云フ、形色、[illegible]ノ粒ノ如ミ、光澤アリ、コレハ、[illegible]ソノママナリ、鮫柄ト云フ。又、鞘ヲ包ムニ用ヰルヲ、鞘皮ト云フ、黒漆ニテ塗リ込メテ、[illegible]ヲ、皮ト云ヒテ、[illegible]。特ニ、又、梅花ノ形ヲ見ハスヲ、梅花皮ト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible]師ニ刀鞘、其師ニ刀柄ニ者、別ニ稱乎」左思、呉都賦[illegible]以鮫皮[illegible]刀也」[illegible]トス」

さ-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔颯〕 〔さハ、颯ト吹ク風、さト笑フ、ナドノ、さナリ〕 (一)颯ト、吹ク。(風ナドニ) 天治字鏡、十一九「颯、疾也、佐女久」 (二)サザト、流ル。サザラグ。(水ニ) 天治字鏡、六廿三「濁、水聲也、佐女久、保女久、止止呂久」滅、水流勢、佐女久、保女久」 (三)ザザメク。騒ガシク音立ツ。(濁リテ)[illegible]

ざ-め・く (動) 〔颯〕 前條ヲ見ヨ

さめ-ざめ と (副) 〔潸潸〕 〔小雨ノ其條ヲ見ヨ〕ヲ重ヌ、後訓某、さめさめ「俗ニ、雨ヤさめト泣ク、トモ云ヘバ、小雨ノ如ナルニヤ、沙石集ニ、「さめほろト泣キ泣キスル、トモ見エタリ」とハ、のやうすノ意、涙ヲ、雨ニ比ベテ云フ、小兒ノ泣クヲ、雨が降ルト云フ、拾玉集、一「カキクラシ、晴レヌ思ヒノ、隙ナサニ、雨零トモ、泣カレヌルカナ」玄玉集、三「世ノ中ヲ、思ヒハ入レジ、袖ノ雨ニ、比ハバ月ノ、曇リモゾスル」或ハ、さめざめノ轉トスル説モアレド、アラジ」 涙ヲ流シテ、深ク泣キ入ル狀ニ云フ語。 [illegible]「さめざめと[illegible]、今日ノ春ハ[illegible]タ、濡レヤマサラム」更級日記「此鏡ヲ、コナタニ映レル影ヲ見ヨ、コレヲ見レバ、アハレニ悲シキソト、さめざめと泣キタマフ」 山家集、上「鶯ノ、春さめざめと、ナキキタル、竹ノ雫ヤ、涙ナルラム」義經記、八、[illegible]ニアテテ、さめざめと泣キケレバ」

さめ-ざや (名) 鮫鞘 さめかは(鮫皮)ノ條ヲ見ヨ。夕霧阿波鳴渡(正徳、近松作)上「ハッパノ鮫鞘[illegible]」

さめ-すが (名) 鮫氷 〔陸前ニテハ、氷ヲ、すが、又、ざがト云フ、氷頭ノ、氷、是レナリ〕 鱶、鰭ノ類。陸前國ニテハ、鱶車魚ノ鰭ノ軟骨ヲ、薄ク削リ、淡水ニテ晒ラシ、接ギアハセテ、乾シ、華紙ノ如ク製ス、純白ニシテ、光澤アリテ、透明ナルヲ佳品トス、水ニ浸シ、三杯酢ニテ食ヒ、又、煮テモ食フ。(日本百科大辭典)

さめ-づか (名) 〔鮫柄〕 さめかは(鮫皮)ヲ見ヨ。

さめ-はだ (名) 〔鮫膚〕 〔鮫皮ナリ(檜皮)ト云フナリ〕 人ノ膚ノ、生得ニテ、粗糙スルモノ。醫語ニ、魚鱗癬ト云フ。[illegible]鮫膚ナリ」

さめはだ-やき (名) 〔鮫膚燒〕 〔前條ヲ見ヨ〕 薩摩燒ノ陶器ノ一種、釉藥ノ濃淡ニ因リテ、鮫皮ノ如ク、大粒、小粒ノ、面ニ現ハレタルモノ。白、黒、褐色、灰色ナドアリ。他ノ各地ヨリモ、製出ス。

さめ-やすり (名) 〔鮫鑢〕 鮫ノ皮ヲ、板ニ貼リツケテ、鑢トシテ用ヰルモノ。鮫皮ノ條ヲモ見ヨ。 本草和名、下廿「鮫魚、一名、錯魚[illegible]」

さ・める (動) 〔覺〕〔冷〕〔褪〕 覺む、冷む、褪む、ノ口語。

さ-も (副) 〔然ニ、感動詞ノもヲ添ヘタル語〕 (一)〔ソノ如ク。コノヤウニ。 六帖、五、下「吹ク風ノ、下ノ鹽ニモ、アラナクニ、さも立チヤスキ、我ガ無キ名カナ」宇津保物語、俊蔭六十「男君、さも思サルベキ事ナレド」源、三十四、上、若菜、上五十四「シメジメト、人目少ナキ宮ノ内ノアリサマニ、さも移リユク世カナ、ト思シツヅクルニ」古今集、十三、戀、三「現ニハ、さもコソアラメ、夢ニサヘ、人目ヲ守ルト、見ルガワビシサ」さテ、さト云フニ同ジ) 重之集、下「さもコソハ、人ニ劣レル、我レナラメ、己ガ子ニサヘ、後レヌルカナ」 (二)〔實ニモ。ヨクモ。マコトニ、 宇津保物語、藤原君七「カク小サキ女童ヲノミ、遣ハセタマフコト、見苦シキコトナリ、ト聞ユレバ、さも言ハレタリトテ、人ノ、然ルベキ、遣ハセタマフ」玉葉集、一、春、上「獨リノミ、眺ムル宿ノ、春ノ日ハ、さも暮レガタキ、モノニゾアリケル」「其人ニ、さも似タリ」さもサウズ、然モアラム」 (三)ソノ容子ニ適ヒテ。イカニモ。「さも嬉シサウナ顏ヲシテ」さも面白サウニ見テ居ル」

〔さもあらばあれ〕（句）〔遮莫　任他〕〔然も有らば有れノ義、命令形ニテ、打任カスル心（とまれかうまれ、遅かれ早かれナドノ同語調）さまらばれハ、約メテ云フニテ、さばれハ、更ニ約メテ云フナリ（いざさらば、いざさば。しかするからに、しかすがに、さすがに）鶴林玉露「詩家用ニ遮莫字ニ蓋、今俗語、所レ謂儘教者、是也」字彙「儘、同レ盡」玉篇「致、令也」令しむる意カ、任他ハ、他に任する意〕然アラバ、ソレニ任セム。トマレ、カクマレ。ソレハ、サウトシテオク。ヨシヤ、ママヨ。さまらばれ。さばれ。伊勢物語、六十五段「思フニハ、忍ブルコトゾ、負ケニケル、會フニシ易ヘバ、死ヌル命モ、さもあらばあれ」（惜シカラズ）拾遺集、十五、戀、五「ヒタブルニ、死ナバ何カハ、さもあらばあれ、生キテカヒナキ、物思フ身ハ」高光集　さもあらばあれ、人ノ聞クラム、コトモイサ、手ノ限リナル、物思フ身ハ」新古今集、十六、雜、上　さもあらばあれ、暮レユク春モ、雲ノ上ニ、散ルコト知ラヌ、花シ匂ハバ」名義抄「遮莫、サモアラバアレ、サマラバレ」岑参詩「別レ君止有ニ相思夢一遮莫千山與ニ萬山一」常山紀談（元文）四、越後上杉謙信詩「霜滿ニ軍營ニ秋氣清、數行過雁月三更、越山併得能州景、遮莫家郷憶ニ遠征ニ（出征シテ、能登國ノ七尾城ヲ陷レテ、九月十三夜ニ、將士ヲ會シテ、月ヲ賞セシ詠ナリ）和泉式部日記、御心ニモ、イトムツカシウ思召ス、さばれ苦シウモ無シ」蜻蛉日記、中、上「晦日ヨリ、何心地ニカアラム、ソコハカトナク、イト苦シケレド、さばれトノミ思フ、命惜シムト、人ニ見エズモアリニシガナ、トノミ念ズレド」宇治拾遺、三、十六條「雀、飼ハルトテ、憎ミ笑ヘドモ、さばれ、愛シケレバトテ、飼フホドニ」

さもさうず（句）〔實然〕〔さもハ、實にノ意（其條ノ（二）ヲ見ヨ）さうハ、さうらふ（候）ノ下略（其條ヲ見ヨ）さうずハ、候はむとすノ音便略、可からむとすヲ、べからんず、行かむとすヲ、ゆかんずト云フガ如シ、尾張邊ノ人ハ、轉ジテ、ゆかあずト云ヒ、甲斐ノ人ハ、ソレヲ約メテ、ゆかずト云フ、倭訓栞、さもさうず「然もせん也、今、さうもせうずト云ヘリ」少シ、違ヘリ〕實ニ、然ラム。ソノトホリナラム。堀川夜討（正德、近松作）二「オオ、さもさうず、然モアラム」

さも・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔鄙劣〕〔東雅（新井白石）總論、末「さもしき、ひんしナド云フガ如キハ、僧家、自ラ稱シテ、貧道ト云フガ如シ、さもハ、沙門也、ひんハ、苾蒭也、古ヘノ時、僧家ニ相謂ヒシ所ノ、俗間ニモ、其語ヲ傳ヘシ、猶、今モ殘レルナルベシ」（沙門、苾蒭、共ニ、僧ノコトナリ、各條ヲ見ヨ）乞食スルハ、僧ノ生涯ナリ、因リテ、鄙シキ意ニ云ヒ、物ヲ欲シガル意ニ移リシナリ、沙門、苾蒭ヲ、さもし、ひんし、ト活用セシムルハ、執念ヲ、しふねし、乞食ヲ、こつぢく、ト活用セシムルニ同ジク、實ニ、自在ナリト云フベシ、サルニテモ、梵語、佛語ノ、斯マデ普通セシコト、往時、佛教ノ盛ンナリシコト、知ルベシ〕（一）鄙劣ナリ。卑怯ナリ。謠曲、景清（應永、觀世世阿彌）「源氏ノ兵、云云、四方ヘ、バットゾ逃ゲニケル、遁サジト、さもうしヤ、方方ヨ、（さもしヲ、謠フニ因リテ、延ク）源平、互ニ見ル目モ恥カシ、云云、惡七兵衛景清ト、名ノリカケ、名ノリカケ、手取ニセムトテ、追ウテ行ク」（二）見苦シ。狂言記、箕被、仕手「ココニ、ソナタガ、朝夕手馴レタ、箕ガアル、コレヲ遣ルゾ」女「路次デ、人ニモ逢ヒマセウニ、コノヤウナさもしい物ガ、持ッテハ行カレマスマイ」傾城色三味線（寶永、其磧）二「巻奇反古包ニ、名木厚刻、厚紙入ハ、さもしきトテ、連レタル、散切ノ禿ニ入レサセ」（名木トハ、伽羅ナリ）古寛俗用集、世話詞「作陰突、さもしい」（俚言集覽）（三）心、キタナシ。ケチナリ。物欲シガルニ云フ。鄙吝　生玉心中（正德、近松作）上「エエさもしい騙奴、ヤイ、金ガ欲シクバ、穢イ言ヒカケセウヨリ、キレイニ、家尻切レイヤイ」倭訓栞、さもし「俗ニ、食物ヲ乞フ事ヲ云フナドハ、沙門らしきノ義ナリト云ヘリ」俚言集覽、さもしい「心ノキタナキ事ニ云ヘリ」

さもじ（名）〔左文字〕刀劍ノ作名。鎌倉時代ノ末期、筑前、博多、沖濱住ノ刀鍛冶、左衛門三郎慶源ノ鍛ヘタル刀、中心ノ銘ニ、左ノ一字、裏ニ、筑州住ト切ル。鎌倉ノ岡崎五郎正宗ニ、教ヲ受ケ、其門下、十哲ノ首位ニ推サル。（文和五年歿、年八十）末流モ、左ト切ル者、多ケレド、裏銘ナシ、初代慶源ヲ、大左ト云フ。合類節用集（元祿）四、人倫門「左文字、筑前刀工、姓源、名左」傾城反魂香（寶永、近松作）中「コレハ重代ノ左文字、二千五百貫ノ折紙アリ」

さも・しい（形）〔鄙劣〕前前條ヲ見ヨ。

ざもと（名）〔座元〕芝居座、見世物、ナドノ興行主。江戸時代ニハ、大芝居ノ座元ヲ、太夫元トモ云ヒキ。皇都午睡（嘉永）三、中「三座ノ太夫元ヲ、且那ト稱シテ、京攝ノ座本ト違ヒ、至極、尊敬スル事也、年首ニハ、大公儀へ拜禮ニ出デ、顏見世霜月朔日ト、正月元日仕初ニハ、翁ヲ勤ムルコト、例格ナリ、太夫元ハ、代代、座主興行人ニテ、別ニ、役者ナラズ」古今役者大全、一「近年、太夫元ト云フハ、名ノミニシテ、名題ヲアグルバカリ、是レモ同ジク、芝居師ニ抱ヘラレ、太夫元ト云フ役ヲ勤ムルヤウニ成リタリ」

さも-と-ら-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）〔さもとハ、然も其人ありとノ意ナルベシ、然つ可らしト云フ語ニ似タリ〕然ルベキ人、何ノ某ト云ハルベキ人、ナド云フ意ニ云フ語。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）五、人はそだち「山中ニ、殿アリ、國中ニテ、さもとらしき武家ヨリ、嫁ヲ呼ブニ」倭訓栞、さも「大雙紙ニ、さもとある人ト見ユ、今、さもとらしきト云フモ、是レ也」著聞集、廿、漁獵「因ノ中ニ、さもとある者ノ、殘リナク、軍ニ出デテ、皆、死ニケリ」

さも-に-たり（句）〔髣髴　彷彿〕〔倭訓栞、さもにたり「彷彿ヲ訓メリ、然も似たりノ義ナリ、髣髴モ、同ジ」說文「髴、若似也」〕ココノさもハ、實にノ意ヲナス、さもノ條ノ（二）ヲ見ヨ〕仄ニ、似タリ。殆ド、同ジ。國性爺合戰（正德、近松作）三「目モト、口モト、ソノママニ、我ガ影ニモ、さも似たり」諸葛亮、出師表「曹操智計、殊絕ニ於人一、其用レ兵也、彷ニ彿孫吳一」

さ-もん（名）〔左門〕（一）さゑもん（左衛門）ノ略。右衛門ヲ、右門ト云フ。倭訓栞、後編、さもん「台記ニ、左衛門、右衛門ヲ、左門、右門ト云ヘル事アリ、コハ、記錄ノ省キ書キト云フモノナリ」（二）東百官ニ、左門、右門、アリ。

サモン（名）〔沙門〕沙門ヲ見ヨ。

〔**さ-もも**〕（名）〔早桃〕〔さわらびト、語原、同ジ、其條ヲ見ヨ、或ハ云フ、五月桃ノ意、さつきノ條ヲ見ヨ〕桃ノ一種、夏ノ半ニ、實ノ、熟スルモノ。小サクシテ、溝アリ。麥李　字鏡十「李、佐狄」倭名抄、十七、五果蓏類「麥李、麥秀時熟、佐毛毛」

〔**さ-もら-ふ**〕・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔候侍〕〔さハ、發語、もらふハ、守るノ延、出典ノ萬葉集ノ歌ニ、佐守布トアリ（遣る、やらふ）或ハ、まもらふ（守）ト通ズルカ（惑す、まどはす）或ハ、さハ、側ノ約カ（多蠅、さばへ）側ニ居テ、目ヲ離サズ候ヒ侍ル意ナリ、此語、音ヲ轉ジテ、さぶらふ、さむらふ、さうらふトナル、神代紀、上「狹漏彦（漏ノ字ハ、通釋ニ、正應本ニハ、もるト訓メリ）大己貴命ノ一名ナリ」ト云

[illegible]侍從供ニ、佐守倫
[illegible]、其守ノ
[illegible]、日[illegible]二、佐
ト殺ヲ取レルモ、是レナリ」 (一)君側ニ侍[illegible]ヒ侍ツ」
(さぶらふノ(一)ヲ併セ見ヨ) 伺候 古事
[illegible]
濵市皇子擬宮長歌「大殿ヲ、振放見ツツ、云云、雖侍
[illegible]
[illegible]見合ハス[illegible]何レ
ノ[illegible] (三)風聞、何時ヲ、
[illegible]
待チ居ル。(此意ナルハ、他動ノヤウニ
思ハル。[illegible]
[illegible]
ル時ニ」 (四)ありノ敬語。(さぶらふノ(二)ヲ併セ見ヨ) 古事記、上[illegible]「[illegible]者於吾不足八十坰手ニ隱而侍」 (五)意ナク[illegible](二)ヲ併セ見ヨ) 古事記、中(垂仁)[illegible]田道間守「常世國ヨリ[illegible]ヲ[illegible]上侍」

さや (名) 鞘 〔鞘屋ノ略ト云フ(舍[illegible])一(名) 脉不[illegible]挿」或ハ、さハ、插すノ語根ト云フ、日本釋名(元祿)下、武具「鞘、[illegible]刀ヲサス室也」又、或ハ、鞘ノ音、[illegible]房ナドノ、すノ轉カ(丈夫、ますらを。[illegible]かたみの家トモ云フ) 刀室ト、同意、下學集、下、器財門「鞘、刀子室也」〕 (一)〔刀ノ刃ヲ、插シ

入レオク、筒ノ如キモノ、厚朴木ノ材ノ、[illegible]ク[illegible]用ヰ、大小[illegible]刀ニ合ハセテ造ル、木地ナルヲ、白鞘ト云フ、多クハ、黑漆ニテ塗ル、黑鞘ト云フ、朱漆ナルヲ、朱鞘ト云ヒ、鮫皮ニテ包ミタルヲ、鮫鞘ト云フ。 神功紀、五十二年九月「[illegible]七枝刀一口[illegible]」 天治字鏡、九[illegible]刀ノ室、佐也」 [illegible]刀室也 佐夜 (二)牢屋ノ、外圍、一堂、[illegible]織ナドニモ) (三)取引所ノ語。さやびらき(鞘開)ノ略、(其條ノ(二)ヲ見ヨ) 其差額ノ僅少ナルヲ、薄鞘ト云フ。

〔**さや** (名) 莢 〔鞘ト同義〕 豆類ノ實ヲ包ミテ生ズル殼[illegible]ト花人[illegible]、一さや[illegible]ニ[illegible]五ツナリ」

さや (名) 笧幘 〔毛ノ鞘ノ義、笠トモ云フ〕 幘ノ頭ニ冠ラセテ、毛ノ尖ヲ保護スルモノ。多クハ、細小ナル竹筒ヲ用キル。カサ。 倭訓栞、さや「笧ノさやハ、幘ナリ、[illegible]云ヘリ、笧ノ義ナリ」

サヤ (名) 紗綾 〔葡語、Saia. 西語、Saya. ナルカ、支那語ニテ、紗綾ナリ、此字ヲ、湯桶讀ニシテ、さあやト云ヒ、約メテ、さやト云ヒ、終ニ、西語ト暗合セリ、さあいト云フハ、蘭語、Sai. ナリ、元來、洋人ノ舶齎、支那渡來ノモノナリシカ、我ガ京都ノ西陣ニテ、模製スルコトトナレリ〕 又、さあや、さあい。光澤アル絹織物ノ名、稲妻、菱垣ナドノ文ヲ、浮織ニス、地合、綸子ヨリ薄シ、飛ざやト云フハ、間ヲ隔テテ文アルモノ、[illegible]文ナキモノアリ、消ざや、又、文なしざやト云フ。 異國日記、慶長十四年七月、坊津ニ到レル唐船舶[illegible]さや、[illegible]さや二[illegible](大和)七、

[illegible]
い」 [illegible]三十[illegible]會(正德)廿七、紗綾 [illegible]佐夜、似[illegible]
[illegible]
記「京紗綾、紋柄、稲妻ニ限ル也」

〔**さや** (副) 清 〔沍ゆト通ズ〕 サヤカニ。ハキト。分明ニ。沍エテ 萬葉集、二[illegible]「モミヂ葉ノ、散リノ亂レニ、妹ガ袖、清ニモ見エズ」 同、十四廿「日ノ暮レニ、碓日ノ山ヲ、越ユル日ハ、夫ノガ袖モ、佐夜ニ振ラシツ」 古今集、廿、東歌「甲斐ガ嶺ヲ、さやニモ見シガ、心ナク、横ホリ臥セル、佐夜ノ中山」 詞花集、十、雜、下「雲ノ上ハ、月コソさやニ、沍エワタレ、マタトドコホル、物ヤ何ナル」 金槐集、冬「[illegible]ノ葉ハ、[illegible]モさやニ、[illegible]ク[illegible]ノ、[illegible]キ夜ナ夜ナ、氷シニケリ」

〔**さや** (副) 喧 さやさや(喧喧)ノ條ヲ見ヨ。

さやあて (名) 鞘當 (一)武士二人、路ニテ、行キチガヒザマニ、雙方ノ帶シタル刀ノ鞘ヲ、當テ合フコト。過チテ、スルコトアリ、喧嘩買ヒニ、スルコトアリ、其無禮ヲ詰ルヲ、鞘咎めト云ヒ、鐺ヲ當テタルニハ、鐺咎めト云フ。 伊[illegible]、鞘當「さやあてハ、けんくゎを買テ、シカクルモアルベシ、[illegible]小見ごがめノ、喧嘩出來タリ」 [illegible]ノ、りんきヤ[illegible]ノ、[illegible]心[illegible]」 [illegible]、下、古キ[illegible]ガヒチガカヒニ、ダガヒチガヒニ 鞘當ニ、[illegible]道ナレバ、胸ニ持」 (二)俗ニ、色敵ノコト 是レハ、芝居ニテ、不破伴左衞門、名古屋山三郎ト云フ、二人ノ浪人ノ、葛

城ト云フ遊女ヲ爭ヒテ、吉原、仲町ニテ、不破ガ、名古屋ニ、鞘當シテ、喧嘩ヲ買ヘルコトヲ演ズ、ソレヨリ、劇通ノ言出デシ、謎詞ナリ。 劇場新話(文化)上、芝居ものかくし言葉「さやあて、さしノアルコト」

さやいんげん (名) 莢隱元 いんげんささげノ條ヲ見ヨ。

さやう (副) 然樣 〔然樣ナリ、湯桶讀トナル〕 (一)〔ソノ如ク。ソノヤウ。 伊[illegible]、十五段、「サデフ事ナキ人ノ妻ニ通ヒケルニ、アヤシウ、さやうニテアルベキ女トモアラズ見エケレバ」 源、一、桐壺三十「さやうナラム人ヲコソ見メ、似ルモノナクモ、オハシケルカナ」 (二)然リ。ソノトホリ。背フニ發スル感動詞ノ如シ。 [illegible]ナサレ[illegible]カ、さやう」

さやうしからば (句) 然樣然者 〔武士、互ノ挨拶ナドニ云フ語ナリ〕 然ツベラシキ物言ヒト云フ意ノ語。 俚言集覽 さやう然れえ、さやう乃又、トモ云フ、[illegible]ヲ云フ」

さやうなら (感) 〔然らばト、同意ナリ、說、終ハリテ、然樣ならバ、暇申スナドノ意、さよならハ、約メテ云フナリ、さいならハ、さよならノ音轉(貲布、さいみ)〕 人ト別ルル時、互ニ發スル聲。 さらば、さよなら、さいなら。 「さやうたら、[illegible]、御目ニカカリマセウ、さよなら、[illegible]ヨウ」

サヤがた (名) 紗綾形 紗綾ノ織文、卍チ、卍ノ字ヲ崩シテ、綴リ連ネタル象。

〔**さやかに** (副) 分明 〔さやハ、清ナリ、かにハ、副詞ヲ形作ル辭(靜かに、定かに)字鏡八十「分明、佐也介之」〕 (一)アキラカニ。ハッキリト。ハキト。 字鏡「晧、日明也、佐也加爾」 古今集、四、秋、上「秋來ヌト、眼

ニハさやかニ見エネドモ、風ノ音ニゾ、オドロカレヌル」源、七、紅葉賀「入方ノ日影、さやかニ映シタルニ」(二)明白ニ。慥カニ。萬葉集、十二「新治ノ、今作ル路、(序)清、聞キニケルカモ、妹ガ上ノ事ヲ」同、廿七「群鳥ノ、(枕)朝立チ往ニシ、君ガ上ハ、左夜加ニ聞キツ、思ヒシ如ク」弱後集、下「五月雨ノ、夜ハ暗クトモ、ホトトギス、さやかニダニモ、鳴キテ來ヌカナ」東齋隨筆「一條兼良」人事類「伊理ハ、夫俊綱ト聞エシハ、宇治關白殿ノ御子ト申シ侍レトモ、さやかならぬコトナレバ、讃岐守橘俊遠ガ子ニ成リテ、橘ノ姓ヲ名乘リシガ、云云」

さやかみ (副) |爽亮| 〔さやハ、喧ナリ、音ニ云フ、其他ハ、前條ノ語原ニ同ジ、契沖ノ說「日本紀ニ、爽亮ヲ、さやかト訓メリ、萬葉集ニ、清ノ字ヲ書ケリ、鏗鏘ヲ、さやかト訓ムハ、金珠ナドノ、サハヤカナル聲ニテ、別義ナリ」〕 爽亮ク、音立チテ。應神紀、三十一年八月「琴、其音鏗鏘而遠聆」(船材ノ焦殘ニテ造レル琴ナリ) 夫木抄、三十二、琴「彈キ鳴フス、聲ソさやかニ、聞ユナル、朽チニシ船ノ、御琴ナラネド」仁德紀、三十八年七月「每夜、自菟餓野、聞鹿鳴、其聲寥亮而悲之」

サヤ・ガワ
さやがは (名) |鞘皮| さめかは(鮫皮)ノ條ヲ見ヨ。

さやく (名) |鎖鑰| (一)錠ト、かぎト。トザシ。トジマリ。「鎖鑰ヲ固ム」(二)往來、出入ノ要所。守禦スベキ地。世說、言語篇、下「寇萊公鎭大名、北使至、語寇曰、相公望重、何故不在中書、寇曰、主上以朝廷無事、北門鎖鑰、非準不可」大名ハ、府ノ名、汴京ノ北ニアリ、準ハ、寇萊公ノ名)(三)陸軍ニテ、作戰ノ利否、勝敗ノ如何ニ關スベキ、特別要害ノ地域ヲ、鎖鑰地ト云フ。

さや・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) |喧| 〔さや(喧)、さやさや(喧喧)ヲ活用セシメタル語(騷騷、さわぐ、剝剝、きさぐ)華蔡く、

同趣ナリ、喧語ベトモ通ズ、さいぐト云フハ、音轉ナリ(驛馬、はゆま、はいま)そよぐト云フモ、此語ノ轉ナリ、其條ヲ見ヨ」(一)喧喧ト、音立ツ。騷騷ト、鳴ル。さいぐ。ソヨグ。古事記、上四十八「豐葦原水穗國ハ、イタク佐夜藝テアリケリ」神武紀二「聞喧擾之響焉」(此云佐揶霓利奈離)古事記、中(神武)二十「畝傍山、木葉佐夜藝ヌ、風吹カムトス」萬葉集、廿四十二「小竹ガ葉ノ、佐也久霜夜ニ」金槐集、上「小竹ノ葉ニ、霰さやぎテ、深山方ノ、峯ノ木枯、頻リテ吹キヌ」字鏡廿「諵、佐伊久」(二)サヤメク。衣摺ノ音ス。萃蔡 古事記、上四十二長歌「栲衾、佐夜具ガ下ニ」

ざやく (名) |坐藥| 〔英語、Suppository.ノ譯語〕 直腸、肛門、尿道、等ニ差入レオク藥。一種ノ脂ニ、收斂藥、防腐藥、痲醉藥、等ヲ煉リアハセテ、作ル。

さやくち (名) |鎖鑰地| 鎖鑰ノ條ヲ見ヨ。

さやぐち (名) |鞘口| (一)〔刀ノ鞘ノ上端ノ、刀ヲ插入ルル所。コヒグチ。琫 東大寺獻物帳「陸寶莊、鞘口、帶執、及、鞘尾、皆、用純金莊」六帖、五、鞘「七子ノ、さやくちぐち、集ヒツツ、我レヲかたなニ、サシテ行クナリ」新六帖、五「且ハマタ、刺ス鞘口ニ、葵、鐔、心アリケル、カナヅクリカナ」(二)胸中ヲ祕シタル、表面ノミノ口上。雪女五枚羽子板(寶永、近松作)中「貞觀ノ時貸セン、待テ居レ我拾ト、上ハ立波ナ鞘口ニ、箆ヲ遣フテ、別レケル」

さやけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |分明| 〔分明ノ、音ノ轉ジテ、活用セル語ナリ(速、すむやけし。明、あきらけし。靜、しづけし)(一)サヤカナリ。アキラケシ。ハキトシタリ。分明ナリ。字鏡八十六「分明、佐也介之、明介志」萬葉集、一廿六「射ル的形ハ、見ルニ清潔し」源、六、末摘花四十一「待タルル月ノ、心モトナキ

ニ、星ノ光バカリ、さやけく」續後拾遺集、五、秋、下「秋ノ色ハ、千種ナガラニ、さやけきヲ、誰レカをぐらノ、山ト云フラム」(二)明白ニ立チテ、高シ。(名聲揚ガル意ナリ) 萬葉集、十七四十長歌「行クホノ、(如ク)音モ佐夜氣久、萬代ニ、言ヒ繼ギ行カム」(古義、人ノ音ナヒ、言傳フルコトノ、慥カナル意ナリ) 同、廿五十「劍太刀、イヨヨ研グベシ、古ヘユ、佐夜氣久負ヒテ、來ニシ其名ゾ」(大伴氏ノ歷世ノ家名ヲ云フ)

さやけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) |寥亮| 〔寥亮ヨリ轉ズ、前條ノ語原ニ同ジ〕 音立チテ、寥亮ナリ。響キ、冱エタリ。古語拾遺「嗟佐夜憩」註「竹葉之聲也」(天鈿女命ノ、竹葉ヲ振ヒタル聲ヲ云フ) 應神紀、三十一年八月「琴、其音鏗鏘而遠聆」日本紀竟宴歌「年經タル、古キ船ヲ、捨テネバゾ、散耶計起響キ、遠ク聞ユル」(枯野ト云フ船ノ焦殘ニテ、造レル琴ナリ) 萬葉集、三廿六「小浪、礒越道ナル、能登瀨河、音ノ清サ、激流瀨每ニ」同、九五十「見マク欲リ、來シクモ著ク、吉野川、音ノ清サ、見ルニ欣感シキ」(清ノ字ハ、共ニ、借字ナリ) 同、十七四十長歌「行ク水ノ、音モ佐夜氣久」續紀、三十、寶龜元年三月、歌垣ノ歌「淵モ瀨モ、清ク佐夜氣志、博多川、千歲ヲ待チテ、澄メル川カモ」

さやさや (副) |清清| 〔さや(清)ヲ重ネタル語、其條ヲ見ヨ〕 光ノ、冱エタル意ヲ云フ語。古事記、中(應神)七十三長歌「品陀日皇子、(應神天皇)云云、佩セル太刀、本鋤、末振、冬木如ス、幹ガ下樹ノ(如ク)、佐夜佐夜」(劔ノ、キラメクヲ、冬木ノ、霜氷ニ冱エタルニ比ス)

さやさや (副) |喧喧| 〔さやトノミモ云フ、重ネタル語、物ノ、相、觸ルル音ニテ、喧ぐノ語根ナリ、神武紀ニ、喧擾ノ字ヲ充ツ」 又、さや。ザワザワト、音、立チテ。應神紀、三十一年八月、長歌「枯野(船)ヲ、云云、琴ニ造リ、搔キ彈クヤ、由良ノ門ノ、門中ノ海石ニ、振レ立ツ、浸漬ノ木ノ、(如ク)佐椰佐椰」(琴ノ音、木ノ枝ノ動ク音) 書陵集、十四、述懷「人ノ、さ

やさやトシテ、參ル音シケレバ」(是レハ、衣摺ノ音ナリ、さやめくノ條ヲ見ヨ) 萬葉集、二十九「小竹ガ葉ハ、深山モ清ニ、亂レドモ、吾レハ妹思フ、別レ來ヌレバ」同、六十二長歌「アシビキノ、深山モ清ニ、落チタギツ、吉野ノ川ノ、云云」(清ハ、何レモ借字ナリ)

さやし (名) |鞘師| 〔しハ、爲ナリ〕 刀ノ鞘ヲ作ルヲ業トスル者。サヤヌリシ。豐臣太閤ノ寵ヲ得タル曾呂利新左衞門ハ、和泉、堺ノ鞘師ナリキ。國花萬葉記(元祿)一、上、山城、京名誉師「鞘師、喜左衞門、鞘家師、鞘屋七兵衞」

さやじり (名) |鞘尻| 刀ノ鞘ノ、下ノ端。(柄頭ニ對ス)又、鐺。|鞘尾| 盛衰記、廿、石橋合戰事「鞘尻衛ヘテ、拔カム、拔カムトシケレドモ」安齋隨筆、前編、一「刀ノ小尻、古キ書ニハ、刀ノ鞘尻トアリ、盛衰記、長門本平家物語、等ニ見エタリ」

サヤ・ドウ
さやだう (名) |鞘堂| 堂ノ上ニ、更ニ、覆ヒ作レル堂。著名ナル建築ヲ保存セムタメナドニ、設ク。覆堂

サヤ・ズキ・ドリ
さやづきどり (名) |獨舂鳥| 〔さやづきハ、喧舂ノ義ト云フ、倭訓栞、後編、さやつきどり「倭名抄、云云、さやハ、さわぐ意、つきハ、舂ノ義也、サレド、イマダ、此鳥アルコトヲ聞カズ」〕 鳥ノ名。詳カナラズ。倭名抄、十八五十羽族名「四聲字苑云、鶣、漢語抄云、獨舂鳥、佐夜ホ土七里、黃色、聲、似舂者相杵也」和漢三才圖會(正德)四十二、原禽類「鶣、云云、蒿說未詳、恐是俗云、鷽五位 鶯矣」

サヤ・ズマリ
さやづまり (名) |鞘詰| 刀劍ノ、鞘ノ內ニテ、銹附キタルコトナルベシ。守武千句(天文、荒木田守武)「今更ニ、ナド寶劍ノ、さやづまり せズバスナガラ、抜キラバヤ」

さやとがめ (名) |鞘咎| さやあて(鞘當)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

さやどり (名) 〔鞘取〕 鞘ヲ、利スルコト。[illegible]人[illegible]ノ條[illegible]見ヨ。

さやぬりし (名) 〔鞘塗師〕 鞘師ニ同ジ。

さやのなかやま (名) 〔佐夜中山〕 〔掛川志[illegible] 佐夜中山、其道、南山ニ挾マレテ、左右ノ谷間、甚ダ狹シ、佐夜ハ、狹谷ナルベシ、其中間ノ山ナレバ、狹谷の中山ト名ヅケタルナルベシ、[illegible]名ト、先後、[illegible]〕 東海道、遠江國、佐[illegible]、今、小笠郡ニテ、日坂驛ノ東ナル坂路ノ名。古今、和歌ニ詠ゼラレテ、名アリ、往古ハ、日坂ヨリ、山ヲ登リ、菊川ニ降リ、ソレヨリ、牧野原、[illegible]ニ出デタリ、足利時代ノ中世ヨリ、新道、出來テ、金谷驛ニ出デ、[illegible]、新道、更ニ成リ、菊川ヲ通[illegible]セズシテ、金谷ニ出ヅ。[illegible]さやの中山、ナカナカ[illegible] 中山」新古今集、十、羈旅、西行「年長ケテ、又越ユベシト、思ヒキヤ、命ナリケリ、さやの中山」建保三年名所百首「旅人ノ、草ノ枕ニ、置ク太刀ノ、さやの中山、今日ヤ越エナム」 癸未紀行(林羅山)「遠州四郡臥、佐野一山長」 後ニハ、小夜の中山トモ云ヘリ、音通ナリ、[illegible] ナリヌ、ココヲ、さよの中山、さやの中山ト云フ、両說アリ、中納言師長公、當國ノ任ニテ、下リタマヒケル時、土民ハ、さよの中山ト申シ侍リケルトテ、中古ノ先達ナドモ、サヤウニ詠マレテ侍ル、又、[illegible]三位[illegible]

さやばしり (名) 〔鞘走〕 サヤバシルコト。[illegible]、最モ危險ナルヲ云フ語ナリ)

さやばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔鞘走〕 刀ノ刃、鞘ヨリ、自ラ拔ケ出ヅ。さきばしる、行きすぎる意ニモ云フ。刀[illegible] 大子集 夏木「夕立ハ、さやばしりタル、アシタクナ[illegible]ナルベシ」

さやびらき (名) 〔鞘開〕 (一)商業上ニテ、價格、又ハ、利率ノ差違ノ稱。(二)取引所ニテ、定期賣買受渡シノ限月ノ差違ヨリ生ズル、相場ノ差額ノ稱。さや。

さやぶくろ (名) 〔鞘袋〕 太刀ノ鞘ヲ包ム袋。旅行、又ハ、雨天ノ用トス。大内問答「御劒ハ、イヅレモ、さや袋ニ入ル」 貞丈雜記、十二「[illegible]トハ、鞘ニ鍔ヲカケテ、[illegible]ヒククムヲ云フ」

さやま (名) 〔狹山〕 〔さハ、發語(小夜、狹衣、狹山田)〕 山ト云フニ同ジ。千載集、三、夏「五月闇、さやまガ峯ニ、トモス火ハ、雲ノ絶間ノ、星カトゾ見ル」

さやまき (名) 〔鞘卷〕 〔下緒ヲ、鞘ニ卷キテ、帶ニ留ムル刀ノ意ナリ、さうまきト云フハ、音便ナリ(さやめく、さうめく) 左右ト書クハ、當字ナリ、貞丈雜記、十二ニ、一說トシテ、上古ハ、劒ノ鞘ヲ、葛ニテ卷キシナリ、其ヲ學ビテ、鞘ニ刻目アリト云ヘリ、此說ハ、崇神紀六十年ノ紀ニ、八雲立ツ、出雲梟帥ガ、佩ケル太刀、[illegible]眞身ナシニアハレ」トアルニ因レルナルベケレド、鞘卷ノ刀ト云フモノ、平安朝末期ヨリ、武士ガ用キ始メシ小刀ナリ、時代モ、非常ニ[illegible]セリ、刻目ハ、脱出ヲ阻メムタメノ意匠ト思ハル〕 又、さうまき。武士ノ所用ノ腰刀ノ一種。長サ八九寸、放目貫ニテ、柄ヲ卷カズ、鍔ナシ、刻鞘ニテ、[illegible]曲ス、刻目ハ、間違ニシテ、針ナリ、革紐ノ長キ下緒ヲツケ、腰ニ刺ス時ハ、下緒ヲ、鞘尻ニアル犬招ヲ通シテ、一卷キ卷キテ、其末ヲ、帶ニ留メオク、刃ヲ拔ク時、鞘ナガラ拔ケザラムガタメナリ。(貞丈雜記、十二「鞘卷ヲ造ル職人ヲ、鞘卷切ト云フ、刻目ニ就キテ云フナルベシ。總體、銀ノ覆輪ニシタルヲ、白鞘卷ト云ヒ、海老ノ殼ノ如ク、刻ミ目ヲツケテ、總體、朱漆ニテ塗レルヲ、海老鞘卷ト云ヒ、鞘ニ、刻目ナク、黑漆ナルヲ、黑鞘卷ト云フ。[illegible]「與一、刀ヲ拔キテ、俣野ガ首ヲ掻ク、掻ケドモ、カケドモ不レ切、刺セドモ、サセドモ、透ラズ、與一、刀ヲ拔チアケテ、[illegible]見レバ、さやまきノ[illegible]ケテ、鞘ナガラ拔ケタリケリ」 平家物語、四、信連合戰事「信連、云云、[illegible]フムト、[illegible]探レトモ、鞘卷、[illegible]チテ、無カリケレバ、力、及バズ」 徒然草、[illegible]段「通憲入道、舞ノ手ノ中ニ、興アル事ドモヲ撰ビテ、磯の禪師ト云ヒケル女ニ敎ヘテ、舞ハセケリ、白キ水干ニ、さうまきヲ刺サセ、烏帽子ヲ引入レタリケレバ、男舞トゾ云ヒケル」 庭訓往來(元弘)六月「左右卷、白柄長刀一本、[illegible]「鞘卷之太刀、左右卷ノ太刀トモ云、[illegible]ノ太刀トモ云」 平家物語、一、祇王事「白拍子、云云、水干ニ、立烏帽子、白鞘卷ヲ刺イテ舞ヒケレバ、男舞トゾ申シケル」 刀劒問答「白鞘卷、云云、白ト申スハ、銀作リノ事ニテ候、云云、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]ナル鞘卷也 [illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニ、一、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、中ハ、太刀ニ[illegible]、云云、七十一番[illegible](文安)四十五番 鞘卷きり「一刀[illegible]、鞘卷切トハ、鞘卷ヲ作ル職人ノ事也」

さやまききり (名) 〔鞘卷切〕 前條ヲ見ヨ。

さやまちゃ (名) 狹山茶 武藏國、入間郡、元狹山村附近ノ地ヨリ產出スル製茶。綠茶ノ色澤、香味ヲ以テ、名アリ。

さやまはり (名) 〔佐屋廻〕 東海道、伊勢國、桑名驛ト、尾張國、熱田驛トノ間ハ、海上七里、船ニテ渡ル、烈風、連日ナル時ハ、桑名ヨリ、船ニテ、木曾川筋ヲ、北ヘ三里サカノボリ、尾張ノ海東郡、佐屋ノ地ニ上陸シテ、陸路、六里、熱田ニ至ル、コレヲ、佐屋まはりト云フ。

さやまめ (名) 〔莢豆〕 豆ノ、莢ニ入リタルママノモノ。大豆、又、豌豆ニ云フ。えだまめ、ゑんどうノ條ヲ見ヨ。

さや・む・ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔清〕 〔さや(清)ヲ活用ス(清むる、淡むる)〕 清むノ(一)ニ同ジ。天武紀、下、二年四月「欲[illegible]宮、[illegible]之所也」[illegible]、さやか、萬葉集ニ、清ヲ、さやけしトモ、さやかトモ訓ミ、日本紀ニ、淨ヲ、さやめてト訓メル、皆、同ジ」

さやめ (名) 〔菖蒲〕 〔眞菖蒲ノ約ト云フ、さハ、發語ナリ(小雨、さめ)〕 菖蒲ニ同ジ。催馬樂、大宮「大宮ノ、西ノ小路ニ、安也女己牟太利、安也女己牟太利」 安也女ハ、菖蒲ナリ、[illegible]、中、東ニ、西京ニ、菖蒲小路、見ユ、ソレヲ、菖女ニ寄セテ、己牟太利ハ、子産みたりノ音便ナリト云フ、仁德紀、五十年ニ、鴈利古武トアルハ、卵子産ナリ。[illegible]年ノ[illegible]、産みたりノ音便ナドト云フ說ハ、受取ラレズ)

さやめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔萃蔡〕 〔さやハ、さやさや(喧喧)ノ、さやナリ、其條ヲ見ヨ(さざ、さざめく、ふたふた、ふためく)さやむ、さやぐト、同趣成立ノ語ナリ、尚、さいさいし、并ニ、さうがしノ條ヲモ見ヨ、さうめくト云フハ、音便ナリ(鞘卷、さうまき)〕 衣摺ノ音、さやさやト立ッ。サヤグ。又、さうめく。司馬相如、子虛賦「萃蔡」注「衣聲也」 平家物語、二、

徒然草、小松殿(重盛)烏帽子、直衣ニ、大紋ノ指貫ノ裾、高ク取テ、さやめき入リタマヘバ」同卷、烽火事「數千騎アリケル兵ドモ、入道(清盛)ニハ、カウトモ申シモ入レズ、さやめき連レテ、皆、小松殿ヘゾ、馳セタリケル」著聞集、十四、遊覧「白河院、云云、鐘ノ音シケレバ、後夜カナト、仰セラレテ、シバシアリケルホドニ、さうめきタル人ノ、さやさやトシテ、參ル音ノシケレバ、云云、淡路守盛長、殿下ノ御使トシテ參リテ候、云云」

さやよせ (名) 鞘寄 懸隔セル鞘開ノ、相近ヅクコト。其條ノ(二)ヲ見ヨ。

さや・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 塞 (一)塞ル。塞支フ。神代紀、上廿「於泉津平坂、所塞磐石、是謂泉門塞之大神」古事記、上十七「所塞其黄泉坂之石者、號道反之大神、亦謂塞坐黄泉戸大神」萬葉集、五廿「百日シモ、行カヌ松浦路、今日行キテ、明日ハ來ナムヲ、何カ佐夜禮ル」同卷二十八「方便モナク、苦シクアレバ、出デ走リ、往ナナト思ヘド、子等ニ佐夜利ヌ」(二)障ル。觸レテ、罹ル。神武紀、長歌「宇田ノ高城ニ、鴫羂張ル、云云、鴫ハ佐夜良ズ、勇妙、鯨佐夜離」

さやゑ (名) 鞘繪 人物、鳥獸ナドヲ、繪ニ、何物トモ辨ジ得ヌヤウニ、甚シク、縮メユガメテ書キタルヲ、其傍ニ、黒鑞塗ノ刀ノ鞘ヲ立テテ映セバ、竪ニ伸ビテ、眞體ニ見ユルモノ。阿蘭陀人ノ傳ヘシモノナリ。寐惚先生文集(明和、蜀山人)初編、一、詠鞘繪「一人來以鞘畫、背曲未甲畜之物料、茫此一枚京十面、皆皆映鞘更招號」[illegible](寛政三、西洋今、有初不鮮、何状、以光茫刀鞘照之、即、人物鳥獸、宛然如生者、俗、謂之鞘畫ニ」

さやゑんどう (名) 莢豌豆 ゑんどうノ條ヲ見ヨ。

さゆ (名) 白湯 〔素湯ノ轉カ、素水ハ、眞水ナリ、白眼ト云フ語モアリ〕湯ノ、物ヲ雜ヘヌモノ。(茶湯、鹽湯ナドニ對ス) 古今夷曲集(寛文)六「旅衣、タチヌル寺ニ、茶ハ無ウテ、飲ミテコソ行ケ、さゆノ中山」「粉藥ヲ、さゆデ飲ム」

さ・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 冱 浮 (一)冷ユ。凍ル。字類抄「冱、サユ、凍、サユ」萬葉集、一廿九長歌「夜ノ霜降リ、磐床ト、川ノ氷凍リ、冷ユル夜ヲ」同、十三廿七長歌「吾ガ衣手ニ、置ク霜モ、氷ニ冱エワタリ、降ル雪モ、凍リワタリヌ」拾遺集、四、冬「飛ビカヨフ、鴛鴦ノ羽風ノ、寒ケレバ、池ノ氷ゾ、さえマサリケル」新後拾遺集、六、冬「シグレツル、宵ノ雲雲、さえカヘリ、深ケ行ク風ニ、霰降ルナリ」(二)寒氣ニ、澄ム。寒ク感ズ。凜凜 長秋詠藻(俊成)下「秋ノ月、霜トハ見エテ、さえ寒シ、雪ト思フハ、庭ノ白露」新古今集、五、秋、下「大江山、傾ク月ノ、影さえテ、鳥羽田ノ面ニ、落ツル雁ガネ」「深ケニケリ、山ノ端近ク、月さえテ、十市ノ里ニ、衣打ツ聲」(三)清ク、澄ム。澄ミテ、明カナリ。澄明 千載集、三、夏「五月雨ノ、雲ノ絶間ニ、月さえテ、山時鳥、空ニ鳴クナリ」同、四、秋、上「照ル月ノ、影さえヌレバ、淺茅原、雪ノ下ニモ、蟲ハ鳴クナリ」夫木抄、十三、露「夜ヲ重ネ、擇織ル蟲ノ、急グカナ、草ノ袂ニ、露ヤさゆラム」(四)音、澄ミトホル。サヤカニ聞ユ。寥亮 千載集、三、夏「山蔭ヤ、岩漏ル清水、音さえテ、夏ノ外ナル、ヒグラシノ聲」同、四、秋、上「岩間行ク、御手洗川ノ、音さえテ、月ヤ結バヌ、氷ナルラム」萬代集、三、夏「さきた川、下ス鵜舟ニ、サス棹ノ、音さゆるマデ、夜ハ深ケニケリ」(五)色、サヤカナリ。鮮ナリ。映ユ。鮮明「染色ガさえテ居ル」(六)氣、澄ミテ、スルドナリ。過敏「寢覺ニ、眼ガさえテ眠ラレヌ」(七)手際、鋭クアリ。鋭「劍術ノ腕ガさえテ居ル」

さゆどこ (名) 小夜床 さよどこヲ見ヨ。

さゆり (名) 早百合 〔さハ、發語、或ハ、五月百合ナリト云フ説モアリ、さつきノ條ヲ見ヨ、さゆるト云フハ、音通ナリ(白膠木、ぬるで)さゐ(佐韋)ノ條ヲ併セ見ヨ〕百合ト云フニ同ジ。又、さゆる。萬葉集、八廿九「吾妹子ガ、家ノ垣内ノ、佐由理花」同、十八十七「佐由利ノ花ノ、笑マハシキカモ」同卷廿九長歌「夏ノ野ノ、佐由利引植エテ」同、廿廿七「筑波嶺ノ、佐由流ノ花ノ」(東歌ナリ)

さゆる (名) 早百合 前條ヲ見ヨ。

さよ (名) 小夜 〔さハ、發語ナリ〕夜ト云フニ同ジ。多ク、和歌ニ云フ語ナリ。萬葉集、三廿九「吾ガ船ハ、比良ノ湊ニ、漕ギ泊テム、沖ヘ莫離リ、左夜深ケニケリ」古今集、四、秋、上「萩ガ花、散ルラム小野ノ、露霜ニ、濡レテヲ行カム、小夜ハ深クトモ」

さよう (名) 作用 〔ざうさ(造作)ノ語原ヲ見ヨ〕ハタラキ。シワザ。「水車ノ作用ニテ、米ヲ搗ク」「團扇ノ作用ニテ、風ヲ起ス」

さようげん (名) 作用言 〔作用ヲ云フ語〕語學ノ語、動詞ニ同ジ、動作言。

さよく (名) 左翼 右翼ノ條ヲ見ヨ。

さよく (名) 沙浴 〔英語、Sand bath.ノ譯語〕(一)醫療ノ方法。沙風呂ナリ、細沙ヲ清洗シ、火力、蒸氣、等ニテ熱セシメ、後ニ、冷沙ヲ加ヘテ、適宜ニ冷却セシメ、木槽中ニ入レ、患者ヲ臥サシメテ、身體ニ沙ヲ被フ、病症ニ應ジテ、溫度、時間ニ、ソレゾレ差アリ。健康ノ者ノ、盛夏ニ、海水浴スル時、汀ノ熱沙ニ、身體ヲ埋メテ遊ブモ、沙浴ナリ。(二)鷄ナドノ、羽蟲ヲ防ガムガタメニ、地ヲ掘リ、體ヲ土沙ニ擦リツクルヲモ云フ、鷄舍ニハ、沙ヲ布キオクヲ可シトス。

ざよく (名) 坐浴 〔英語、Sitz bath; Hip bath.ノ譯語〕醫療ノ方法。腰湯ナリ、湯槽ニ、患者ヲ坐セシメ、湯ノ量ハ、臍部ニ達セシム、又、冷水ヲ用キルアリ、病症ニ因リテ、溫度、時間、ソレゾレアリ。

さよごろも (名) 小夜衣 夜、着ル衾。夜着。夜衾 新古今集、廿、釋教、不邪婬戒「サラヌダニ、重キガ上ノ、さよごろも、我ガ夫ナラヌ、夫ナ重ネソ」

さよしぐれ (名) 小夜時雨 夜中ノ時雨。新續古今集、六、冬「聞キワブル、寢覺ノ床ノ、さよしぐれ、降ル程ヨリモ、濡ルル袖カナ」

さよすがら (副) 小夜終 〔さよト、すがらトノ條ヲ見ヨ〕よもすがらニ同ジ。ヨドホシ。終夜 小侍從集「さよすがら、君ト吾ガスル、睦言ニ、埋火ヲサヘ、熾シツルカナ」

さよちどり (名) 小夜千鳥 夜中ノ千鳥。千載集、八、羇旅「旅寢スル、須磨ノ浦路ノ、さよ千鳥、聲コソ袖ノ、波ハカケケレ」

さよどこ (名) 小夜床 〔さゆどこハ、音轉ナリ(足結、あよひ、歩ぶ、あよぶ)〕夜床ト云フニ同ジ。又、さゆどこ。寢床。仁德紀、廿二年正月「衣コソ、二重モ善キ、狭夜床ヲ、並ベム君ハ、恐キロカモ」本書ノ傍書ニ、由ヲ、用ニ作ル。

さよなか (名) 小夜中 夜中ト云フニ同ジ。夜半。萬葉集、九十八「佐宵中ト、夜ハ深ケヌラシ、雁ガ音ノ、聞ユル空ニ、月渡ル見ユ」金葉集、八、戀、下「盜人ト、云フモコトワリ、さよ中ニ、君ガ心ヲ、取リニ來タレバ」

さよなら (感) さやうならノ條ヲ見ヨ。

さよのなかやま (名) 小夜中山 佐夜の中山ノ條ヲ見ヨ。

さよのねざめ (名) 小夜寢覺 夜中ノ寢覺。盛衰記、三十、[illegible]「日頃、小夜の寢覺ノ睦言モ、皆、僞リニ成リハテヌ」

〜さよばひ (名) 小喚 よばひノ條ヲ見ヨ。

さよふけがた (名) 小夜深方 夜ノ、深ケタル[illegible]。「[illegible]ラム、笛ノ音ノ、さよふけがたニ、聞コユナリ」

さよまくら (名) 小夜枕 夜中ニ寢ルニ用ヰル枕。新古今集、十、羈旅「松ガ根ノ、ヲジマガ磯ノ、小夜枕、イタクナ濕レソ、蜑ノ袖カハ」

さよみ (名) 貲布 次條ヲ見ヨ。

〜さよみのぬの (名) 貲布 紵布 〔東雅、さハ、細也、井白石〕[illegible]布、貲布、紵布[illegible]、細布ナリト見エタリ、よみハ、[illegible]ナリ」[illegible]「[illegible]ノ[illegible]ナリ、[illegible]ノ[illegible]ヲ、今モ、[illegible]ト云フ、是也」(甲斐國ニテ、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ヲ引通スニ、四[illegible]ヲ、一よみト云ヒ、一よみ二よみト數フト云フ)さいみト云フハ、音轉ナリ(老いづく、およづく)類篇「[illegible]、布名」急就篇、註「[illegible]、[illegible]布之[illegible]也、貲布ト書クハ、唐制トスルニ[illegible]ニ云ヘリ、[illegible]貲、財也、貨也」說文「貲、小罰以財自贖也、漢律、民不[illegible]貲錢二十二」徐曰「即今[illegible]」又、按ズルニ、さよみハ、麻績ノ上略トモ考ヘラル、[illegible]シテ、[illegible]ニ供ス(浅[illegible]、さらけ。戯る、ざるる)」麻布ノ名。極メテ細ソク績ミテ、織レルモノナルベシ、[illegible]布トシテ[illegible]セラル[illegible]、さよみトノミモ云ヒ、又、さいみトモ云フ。[illegible]

[illegible]

さより (名) [illegible]魚 「さハ、狹長ナルヲ云フ(秋刀魚モ、狹眞魚ナリ)よりハ、古名、よりと魚ノ下略(青[illegible]、おかざ)越前ニテ、さいよりト云フ、漢名、又、箴魚ト云フ、箴ハ、針ナリ」(一)海魚ノ名。古名、針魚。ヨリド。ヨロゾ。形、きすニ似テ、長キコト一尺餘、身、圓ク、頭、小サク、眼、大ナリ、上喙ハ、短ク尖リテ、劍ノ如シ、下喙ハ、長ク黑クシテ、鐵針ノ如ク、端ニ赤ミアリ、鱗、極メテ細カク、全體、淡靑ニシテ、銀色ノ縱線アリ、腹ハ、白シ、肉、潔白ニシテ、味、淡泊ナリ、春ヲ節トシ、膾トシテ、佳ナリ。關西ニテ、サイラ。又、沖ざよりアリ、たつノ條ヲ見ヨ。[illegible]

(二)秋刀魚ノ一名。(京都)

さら (名) 新 〔倭訓栞、さら「更ヲ訓ム、新ニ通ズ、今モ、あらたニスルコトヲ、さらト云ヘリ」新湯、さらゆ」新シキコト。アラ。新規。[illegible]

さら (名) 盤 皿 〔淺瓮ノ語原ヲ見ヨ〕(一)開キテ、淺キ器、陶製ナルアリ、金屬製ナルアリ、漆塗モアリ、食物ヲ載セ、又、他ノ食器ノ臺トスルアリ。仁賢紀、二年九月「皇太子、取ㇾ瓜將ㇾ喫、無ニ刀子ニ、大人[illegible]刀子於瓜盤ニ」(同文) 倭名抄、十六、[illegible]「盤、佐良」同卷[illegible]「[illegible]子、宇流之沼利乃佐良」酒盞子、志利佐良[illegible]、[illegible]盤ニテ、杯臺ナリ、酒盞子ハ、酒瓶ノ臺ナリ) 伊勢物語、六十九段「盃ノさらニ、續松ノ炭シテ、歌ノ末ヲ書キツク」齋院司式、齋王膳器「銀盤二口」宇津保物語、吹上、上三十「男共集リテ、俎立テテ、魚鳥、作ル、かねノさらニ、北方ノ御料トテ、盛ル」紫式部日記「沈ノ懸盤、しろかねノ御さら」[illegible]抄、一「[illegible]佐良」江家次第、十、新嘗會[illegible]「[illegible]以ニ七寸朱漆盤ニ盛ニ菓子ニ」(二)後世ニ云フハ、專ラ、陶磁器ニテ、肴、菓子ナド盛ルニ用キル、大皿アリ、小皿アリ。撮壤集(享德)中、家具「皿」林逸節用集(文明)器財部「小皿」(三)膳部ノ獻立ニ、皿ニ盛レル肴ノ稱。[illegible]記、享保十二年[illegible]月十日「御菜、皿、[illegible]、[illegible]、七ツ」同、十四年二月廿六日、大德寺龍光院ヘ御渡「皿、コンニャク」(四)秤ノ皿アリ、秤ノ條ヲ見ヨ。(五)人體中ノ骨ノ、皿ヲ伏セタル如キ形シタルモノ。博多小女郎波枕(享保、近松作)上「角ノアル[illegible]石デ、クサ頭ノ頭骨ガ、粉微塵ニ打破レタ」「頭ノさら、カシラノカハラ」頭蓋骨 傾城島原蛙合戰(享和、近松作)二「下部ガ腰ボネ、膝ノ皿」「膝ノさら、ヒザノカハラ」膝骨

さら (名) 𣗳欏 樹ノ名。ヘゴ。

サラ (名) 娑羅 娑羅樹ノ條ヲ見ヨ。

〜さら (副) 更 さらまノ條ヲ見ヨ。

ざら (名) ざらめ糖ノ略。

ざら (副) ざらざらノ條ヲ見ヨ。

サラアサ (名) 更紗 さらさぞめ(更紗染)ノ條ヲ見ヨ。

ざらい (副) 往來 〔來ハ、助辭、歸去來、嗟來之食ノ、來ノ如シ〕 往ナザラニシテ。[illegible]江聲暗結ㇾ愁、半夜燈前十年事、一時和ㇾ雨到ニ心頭ニ」太平記、廿七、足利[illegible]時[illegible]リ、[illegible]リテ、人物、古ニアラザル事ヲ感ジ、[illegible]、草屋ノ[illegible]ニ往來シテ、[illegible]卷ヲ[illegible]モナカリケリ」名詞ノ如クニ用ヰタリ)

さらいげつ (名) 再來月 〔さをととしノ語原ヲ見ヨ〕 來月ノ次ノ月。一月隔テテ、後ノ月。

さらいねん (名) 再來年 〔さをととしノ語原ヲ見ヨ〕 來年ノ來年。一年置キテ、後ノ年。再明年。明明年。明後年。[illegible]近松作[illegible]中、七段作ルお百姓、明年八八段ヂャ、さ明年八十六段」

さらいのしょく (名) 嗟來之食 〔嗟食ナリ、來ノ字ハ、助辭ナリ、歸去來ノ、來ノ如シ〕 恩ニ被セ、人ヲ見下シテ與フル飲食。見レテヤルノ意ナリ。禮記、檀弓、下篇「齊大饑、黔敖爲ニ食於路ニ、以待ニ餓者ニ而食ㇾ之、有ニ餓者ニ蒙ㇾ袂輯ㇾ屨、貿貿然來、黔敖、左奉ㇾ食、右執ㇾ飲曰、嗟來食、揚ニ其目ニ而視ㇾ之、曰、予、唯不ㇾ食ニ嗟來之食ニ以至ㇾ於ㇾ斯也、從而謝焉、終不ㇾ食而死」(黔敖ガ無禮ヲ謝シタルナリ)

〜さらがへる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 更返 〔俗ニ、更改めるト云フ語アリ〕 更ニ、元ニ立チカヘル。 源、廿一、少女「今ナドテカハ、サヤウニテオハセマシモ、殊シカラマシト、打チオボエ侍ルニモ、さらがへりテ、カク器ニ聞コエタマフモ、然ルベキニモアラム」河海抄「さらヨ昔ニ立チかへりテナリ」 同、廿、朝顏「工止ムマジク覺サルレバ、さらがへりテ、マメヤカニ聞エタマフ」

ざらがみ (名) 糙紙 西洋紙ノ一種、[illegible]ノ、粗糙キタルモノ。

さらけ (名) 淺甕 〔東雅(新井白石)十七「さハ、淺ノ上略(戯るる、ざるる。跡絕ゆ、そだゆ)らハ、添ヘタル辭、けハ、甕ト通ズ」(各條ヲ見ヨ、香、氣。食湯、粥)駿河國ノ方言ニ、淺キ皿ヲ、さらい皿ト云フ、盤、皿、ト云フ語モ、コノさらナリ〕淺キ甕、底、深カラヌ瓶。 顯宗紀位前紀、稱之穗、於淺甕釀酒」倭名抄、十六十五器「本朝式云、匙、佐良介、今案、所出未詳(六朝ノ古字ナルベシ)淺甕、和名同上」主計寮式「匙、一口、受三一石二斗」

さらげ (名) 皿毛 〔形、皿ノ如シ〕 芥子坊主ノ(二)ノ異名。(上總) 物類稱呼、一、人倫「すずゑろ、江戶ニテ、けしぼうずト云ヒ、上總ニテ、さらけト云フ」

さらけだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 曝出 〔さらハ、曝すノ語根、曝明出すノ約、あけすけノ語原ヲ見ヨ〕 曝す、暴露す(秘事ヲ)ノ卑語。ブチマケル。暴露 倭訓栞、さらけ「俗ニ、さらけだすト云フハ、さらへ出すノ轉語也」俚言集覽、さらけ出す「俗ニテ、簸ルヤウノ意也、播ノ字ノ義也、播ハ、パットまけ出す事ナリ」

サラサ (名) 更紗 (一)次條ヲ見ヨ。(二)うめびしほノ條ヲ見ヨ。

サラサ-ぞめ (名) 更紗染 〔さらさハ、蘭語、Sarasa. 西語、Zaraza. 印度ノ Surat. ヨリ產ジタリ、紅毛雜話(天明)二「皿紗ハ、南應帝亞ノ地、そらたト云フ國ヨリ出スト、云云、譯家ノ說ニ聞ケリ」しゃむろ染トハ、暹羅國ヨリモ出シタレバ、云フ〕 常ニハ單ニ、さらさトモ云フ。又、さらさしゃむろ染。染物ノ名。金巾、又、絹布ノ片面ニ、五彩ニテ、種種ナル模樣ヲ押シ染メタルモノ。西洋人ノ舶齎ノモノアリ、支那製ノモノアリ、唐ざらさト云フ、古ク渡來シタルヲ、古渡ト稱シテ、珍重ス。又、我ガ邦ニテ模製スルモアリ、和染、又、和ざらさト云フ。印華布 花布 又、金粉、銀粉ヲ、雜彩ニ合ハセ用キタルヲ、金ざらさ、銀ざらさト云フ。描金花布 俳諧毛吹草(正保)「紗羅染」合類節用集(元祿)六、服食門「印華布」倭訓栞、さらさ「常ニ、紗羅紗ト書ケリ、蠻國ノ名、正ニハ、さらあさト云フ、阿蘭陀ノ商人、行キテ、交易ス、云云、又、金ざらさアリ」和漢三才圖會(正德)廿七、絹布類「華布、印華布、佐良佐、暹羅染、之也牟呂染、華布、卽、西洋布、用茜染花文、初、出於天竺、暹羅、今、出於中華者、爲唐華布、今、本朝、多染出者、花則華文易消耳」守貞漫稿、十九、暹羅染、華布、更紗トモ書ク、來舶ノ物、多シ、云云、唐ざらさハ、從來ノ物、紋樣、種種アリトイヘドモ、多クハ、數彩ヲ交ヘタル、多シ、云云、和更紗ト云テ、云云、皇國ニテ模造ノ物ニハ、從來染之トイヘドモ、甚ダ美ナラズ、近年、漸ク美シ、云云、唐、和トモニ、華布ハ、片面也」

さら-さら (副) 更更 〔更にノ語原ヲ見ヨ〕 (一)更ニ、更ニ。カサネガサネ。 萬葉集、十一「石上、振ノ神杉、神サビテ、吾レヤ更更、戀ニ逢ヒニケル」(老年ノ戀ナリ) 同、十四「多摩川ニ、曝ラス手作、さらさらニ、何ゾ此兒ノ、許多可愛シキ」(女ヲ、イヨイヨ戀ヒシク思フ) (二)決シテ。(再とはナドノ意ヨリ移レルカ) 古今集、廿、大歌所「美作ヤ、久米ノさら山、(さらさらノ序)さらさらニ、我ガ名ハ立テジ、萬世マデニ」源、三十八、夕霧三十「御許シアラデハ、さらにさらにト、イトケザヤカニ、聞エタマフ」

さら-さら (副) 更更 絕えてノ意ナル更にヲ重ネテ、意ヲ強メテ云フ語。 萬代集、十五、雜、二「古里ハ、夜ノあらしノ、音ナラデ、イトさらさらニ、訪フ人ゾナキ」謠曲、花月「戀ハ曲物、曲者カナ、身ハ、さらさらさら、さらさら、さらさら、さらさらニ、戀コソ寐ラレネ」丹波與作(寶永、近松作)上「淺マシウ、成リサガッタヲ、嫌フテ云フテハ、さらさらナイ」「サヤウナ事ハ、さらさら知ラヌ」

さら-さら (副) 流暢 〔すらすら、するする、ト通ズ、さらりトモ云フハ、浮浮、うかり。そろそろ、そろりノ例、さらさらハ、滯ラヌ意ナルニ、濁ラセテ、ざらざら、ざらり、ざらつく、ナド云ヘバ、滯ル意トナル〕 物事ノ、障リナク、滯リナク、成リ行ク意ニ云フ語。 太平記、三、陶山小見山夜討事「屛風ヲ立テタル如クナル岩石、云云、陶山藤三、岩ノ上ヲ、さらさらト走リ登リテ」「手紙ヲ、さらさらト書キ流ス」「橋桁ヲ、さらさらト渡ル」

さら-さら (感) (一)物ノ、觸レ合ヒテ、發スル音ニ云フ語。簾ニ云フハ、 枕草子、二、十七段「伊豫簾ナド懸ケタルヲ、打チカヅキテ、さらさらト鳴ラシタルモ、イト憎シ」 (二)水ニ云フハ、 蜻蛉日記、中、中「雨、打吹キテ、海ノ面、イト騷ガシウ、さらさらト騷ギタリ」宇治拾遺、一、十八條「さらさらト、カヘラカシテ、(煮カヘラカス)芋粥、出デマウデ來ニタリト云フ」「谷水、さらさらト流ル」茶漬ヲ、さらさらト掻キコム」 (三)雨風ニ云フハ、 久安六年百首「さらさらニ、寢ヤハ寐ラルル、山里ノ、蘆葺ク宿ニ、時雨スル夜ハ」(更更ニカケタリ) 萬代集、十五、雜、二「古里ハ、夜ノあらしノ、音ナラデ、イトさらさらニ、訪フ人ゾナキ」(コレモ、同ジ) (四)數珠ニ云フハ、 盛衰記、十、中宮御產事「御念珠、さらさらト、押揉マセオハシケレバ」 (五)簓ニ云フハ、 謠曲、花月「心亂ルル此簓、さらさら、さらさらト、擦ツテハ歌ヒ、舞フテハ數ヘ」

ざら-ざら (副) 粗糙 〔前前條ノ流暢ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)手觸ノ、滑カナラヌ狀ニ云フ語。又、ざらり。 「鮫膚ハ、ざらざらスル」灰ガ、手ニざらりト附イタ」 (二)ざらざらスル物ノ、觸レ合フ音ニモ云フ。ザクザク。 「財布ノ錢ヲ、ざらざらサセル」沙利ヲ、ざらざらト撒ク」 (三)緡ニ括ラヌ、零亂ノ錢ヲ、ざら錢ト云ヒ、錢ヲ、ざらニテ渡スナド云フ。金錢をざらに遣ふトハ、濫費スルナリ、粗末ニ費スナリ。(四)そんな物は、ざらにあるナド云フハ、粗末ナルモノト見做スナリ。有リフレタル意、幾ラモアル意ニ云フ。

さらし (名) 晒 〔衆人ノ目ニ曝す〕 德川幕府ノ刑ノ名。罪人ヲ、道路ニ露坐セシメ、諸人ニ見セシムルコト。磔、獄門、等ノ重罪ノ、附加刑ナリ。(單ニ、此刑ノミニ處スルハ、僧侶ノ、女犯ナドノ罪ニ限ル) 其刑場ハ、江戶、日本橋ノ南詰ニ、苫小屋ヲ作リ、罪人ヲ、其內ニ坐セシメ、側ニ、罪狀ヲ書キタル捨札ヲ立テ置ク、晒スコト、三日間ナリキ、其人ヲ、晒者ト云フ。 御定書百箇條、御仕置仕形之事「晒、於日本橋三日晒」憲教類典、四、五「晒者有之節ハ、日本橋御高札場之向、東之方、明キ地ニ、笘小屋ヲ懸ケ、內ニ筵ヲ敷キ、四人並ベ置キ、後ニ、扣杭打チ、縛リツケ、晒シ置申候、尤、前ノ方ニ、繩ヲ張リ申シ候、捨札ハ、四人ノ前ヘ、建置キ申候」

さらし (名) 晒 さらし布、さらし木綿ノ略、各條ヲ見ヨ。

さらし-アン (名) 晒餡 〔天日ニ晒らし乾ス〕 又、乾餡。普通製ノ小豆餡ヲ、乾燥セシメタルモノ。器ニ入レオキ、用キル時、熱湯ヲ注ゲバ、卽チ、常ノ汁餡トナル。

さらし-あめ (名) 晒飴 水飴ノ、水氣ヲ去リテ、固マラシメタルモノ。色、白シ。

さらし-うり (名) 晒賣 奈良晒布ヲ荷ヒテ、其名ヲ呼ビテ、賣リアルキタル商人。呼聲、長長トシテ、寬カニ歩ムニテ、名アリ、延寶ノ頃ヨリ、享保ノ頃マデ、江戶市中ニテ行ハレタリ。江戶雀(延寶)

[illegible]（元曉）ニ呼ブ聲ノ、中ヤ發足、額首ニ（[illegible]筆記、二）

さらしがき [illegible] 晒柿 [illegible]日ニ晒ラシテ、澁味ヲ去ル」つるしがきニ同ジ。

さらしくび (名) 晒首 〔さらすノ條ノ(四)ヲ見ヨ〕 罪人ナドノ斬首ヲ、衆人ニ示シテ、觀シムルコト。けうしゅ(梟首)及、ごくもん(獄門)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。 梟首

さらしこ (名) 晒粉 (一)米ノ礫粉ヲ、水ニサラシテ、乾シタルモノ。(二)綿布、[illegible]ニ用ヰル、白色ノ粉料。漂白粉。

さらしなそば (名) 更級蕎麥 信濃國、更級郡中ヨリ產ズル蕎麥ノ稱、名品ナリ。

さらしぬの (名) 晒布 〔[illegible]、瀑布ト云フ[illegible]さらしぬのノ白キ、[illegible]ヘテ云フ[illegible]〕 [illegible]色ヲ白クシタルモノ。(さらすノ條ノ(三)ヲ見ヨ) 曝布 略シテ、さらしトノミモ云ヒ、奈良ノ產ナルヲ、奈良ざらし、近江ナルヲ、近江ざらしナド云フ。[illegible]二丈五尺」 字類抄「曝布、サラシヌノ」 合類節用集[illegible]

さらしば (名) 晒場 晒ノ刑ニ處スル場所。刑場。晒ノ條ヲ見ヨ。

さらしもの (名) 晒者 晒ノ刑ニ處セラレタル罪人。晒ノ條ヲ見ヨ。 五十年忌歌念佛(寶永、近松作)下「發人ノ科、イマダ分明ナラヌ故、晒者トシテ、成敗ノ日ヲ延バシ」

さらしもめん (名) 晒木綿 〔さらすノ(三)ヲ見ヨ〕 晒シタル綿布、色、純白ナリ。略シテ、さらし。 漂布 [illegible](三馬)二編、下「船頭ニ、晒し三尺、買ッテ」「さらしノ[illegible]」

さらしや (名) 晒屋 麻布、綿布ヲ、晒スヲ業トスル工。漂工。 [illegible](寶永、近松作)上「五ヒ二因果ヲ晒屋ノ、白カラ枠トハ、此ノ事」

サラじゅ (名) 娑羅樹 沙羅樹 〔さらハ、梵語、Sāla. 高遠ノ義、じゅハ、樹ナリ(普通ニ、堅固ト譯スル梵語ハ、Sāra. ニテ、樹名ニアラズ、誤譯ナリト、高楠順次郎說)〕 (一)印度ノ樹名。佛經ニ見ユ、喬木ニシテ、高ク餘樹ヲ凌グ、皮ハ、青白ニ、葉ハ、橢圓ニシテ、光澤アリ、花ハ、白色ナリト云フ。此樹ノ林ヲ、娑羅林ト云フ。釋迦ノ入滅セムトスル時、娑羅樹、二株ノ間ニ、臨終臥床ヲ敷ケリ、入滅シタル時、二樹、時ナラヌ白花ヲ開キテ、臥床ヲ垂レ覆ヒ、暫クシテ、枯レタリト云フ、娑羅雙樹ノ花ノ色、盛者必衰ノ理ヲ表ス、ト云フ、是レナリ、此白花ノ、白鶴ノ如クナリシニ因リテ、釋迦ノ入滅ヲ、鶴林ト云ヒ、鶴の林ナド云フ。 [illegible] 平家物語、一、[illegible]「祇園精舍ノ鐘ノ聲、諸行無常ノ響アリ、娑羅雙樹ノ花ノ色、盛者必衰ノ理ヲ顯ハス」 [illegible]花物語、三十、鶴林「鶴林ニ、雪降リシケル、鳥邊野ハ、鶴のはやしノ、心地コソスレ」トナムアリケル、カノ娑羅林ノ涅槃ノホドヲ、詠ミタルナルベシ」 (二)しゃらじゅ(娑羅樹)ノ(一)ヲ見ヨ、

さらしゐ (名) 曝井 〔次條、及、ゐ(井)ノ條ヲ見ヨ〕 泉ノ、布ヲ洗ヒ曝スニ用ヰルモノ。 常陸風土記、那珂郡「[illegible]曝井[illegible]泉所、居村[illegible]女、夏月會集、[illegible]布曝乾」 倭名抄、六、常陸國、那珂郡「曝井、[illegible]」 萬葉集、九 那賀郡、曝井歌「三栗ノ、那賀ニ向ヘル、曝井ノ、(如ク)絶エズ通ハム、ソコニ妻モガ」 [illegible]中ハ、[illegible]ナリ、向ハ、同ノ[illegible]ト云フ」 散木集、[illegible]「[illegible]さらし井ノ、木ノ下蔭ニ、行キフレバ、衣手寒シ、蟬ハ鳴ケドモ」

さらす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 晒 〔曝サルの他動(凝る、こらす。鳴る、ならす。晴る、はらす)康熙字典補遺「晒、字彙補、與曬同」集韻「曬、俗曝字」小爾雅「曝、曬也」玉篇「曬、暴乾物也」〕 (一)日ニアテテ、乾ス。露天ニ置キテ、日光、風雨ノアタルママニナシオクニモ云フ。サハス。 曝 天治字鏡、[illegible]「曬、乾物也、[illegible]」又、保[illegible]」 古今集、十七、雜、上、吉野ノ瀧「誰ガタメニ、引キテさらせル、布ナレヤ、世ヲ經テ見レド、取ル人モナキ」 元輔集「櫻の花の散れる所にて「花ノ蔭、立タマク惜シキ、今夜カナ、錦ノさらす、庭ト見エツツ」 今昔物語、十、廿五語「妻、隣家ニ行キテ、麥ヲ求メテ、持來テ、夕去ノ食ニ宛テムトシテ、庭ニ曬す」 布ニさらす」 (二)洗フ。 酒 正韻「酒、與洗同」 萬葉集、七 詩「大伴ノ、(枕)御津ノ濱邊ヲ、打曝し、寄セ來ル浪ノ、行方知ラズモ」 同巻「[illegible]住吉ノ、岸ノ[illegible]ガ根、打曝し、寄セ來ル浪ノ、音ノ清ケサ」 (三)布ヲさらすト云フハ、洗ヒテハ乾シ、搗キテハ乾シスルナリ、終ニ、純白トナル 漂白 萬葉集、十四 [illegible]多摩川ニ、左良須調作、サラサラニ」 韻會「漂、水中擊」絮也」 [illegible]名物[illegible]「晒布、織リ候ハバ、ふのり[illegible]中シ候、晒しヤウ、初メ、桑水ニテ、右ノ布苔ヲ洗ヒ落シ、日ニ乾シ候テ、一番灰汁ト申スニ、一兩日漬ケ、釜ヘ入レ、灰汁ニテ一日煮キ、其夜ハ釜ニ入レオキ、[illegible]シ候、ソレヨリ、川邊ニテ、臼ニ入レ搗キ出シ、[illegible]ニテ三[illegible]度モ洗ヒ、何遍モ搗キ、又又、日ニ乾シ、[illegible]上リ候ヲ、灰汁ヲ、又、何遍モ掛ケ候、右ノ通リ、灰汁ニテ晒シアゲ申シ候[illegible]」是レハ、後世ノ方法ナリ、サテ、今ノ方法ハ、曹達水ニテ煮テ、漂白粉水ニ漬ケ、絞リ出シテ、稀薄ナル[illegible]酸、醋酸液ニ漬ケ、水洗ヒシテ、乾燥セシムルナリ、木綿ニモ、行ハル、スベテ、其物ヲ純白ナラシメムトテ、スルコトナリ。 (四)〔風雨ニ曝らす意ヨリ轉ジテ〕屍ヲ、衆人ノ見物トス。 肆 竹取物語「ツユモ、物、空ニ翔ラバ、フト射殺シタマヘ」云云、「蝙蝠一ツダニアラバ、先ヅ射殺シテ、外ニさらさム」、さらし首、禮記、月令、註「肆、謂、死刑、暴尸也」 (五)晒ノ刑ニ行フ。刑ノさらしノ條ヲ見ヨ。 (六)諸人ノ見聞ノ恥トナル意ニモ云フ。 狂言記、花物狂「狭ニモ出デサセタマフナラバ、カヤウニ恥ヲバさらさジモノヲ、アアラ、[illegible]メシ」人中ニ[illegible]ヲさらす」

さらず (副詞句) 不避 (一)避クルコト、出來ズ。留メ難ク、逃レラレヌ。 伊勢物語、四十六段「ウルハシキ友アリケリ、片時さらず、アヒ思ヒケルヲ」 (二)去ラシメズ。離サズ。 源、一、桐壺「アナガチニ、御前さらずモテナサセ給ヒシホドニ」

さらずば (副詞句) 不然 然アラヌ時ハ。 伊勢物語、六十段「此男、云云、國ノ祗承ノ官人ノ妻ナリト聞キテ、女主ニ、瓦盃取ラセヨ、さらずば、飲マジト云ヒケレバ、云云」

ざらせん (名) ざらざらノ(三)ヲ見ヨ。

サラそうじゅ (名) 娑羅雙樹 〔雙、呉音、そう〕 (一)さらじゅ(娑羅樹)ノ(一)ヲ見ヨ。(二)しゃらじゅ(娑羅樹)ノ(一)ヲ見ヨ。

サラダ (名) 生菜料理 〔英語、Salad.〕 西洋料理ノ名。生ノ萵苣、玉菜、赤茄子、ナドノ刻ミタルニ、冷肉、茹玉子ノ輪切

ナドヲ添ヘ、一種ノ食油ヲ注ケタルモノ、獻立ノ最終ニ出ス。「野菜さらだ」

※さらた・める・メル・メレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 改 〔更改めるノ義、古ク、更がへるト云フ語アリ〕改むるニ同ジ。倭訓栞、さらためる 俗語也、更ニ改めるノ義也」

さらち (名) 更地 〔さら(新)ノ條ヲ見ヨ、新地ヨリ轉ジタル語ナルベシ〕家モ、樹木モナキ、空ナル土地。明地。空地。赤地

ざらつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 粗糙 手障ガ、ざらざらスル。「灰ガコボレテ、疊ガざらつく」

さらでだに (副詞句) さらぬだにノ條ヲ見ヨ。

さらでも (副詞句) 不然而 然アラズシテモ。サウデナクテモ。 枕草子、一、初段「霜ナドノ、イト白ク、又、さらでも、イト寒キニ、火ナド、急ギ熾シテ」 風雅集、十七、雜、下「思ヘカシ、さらでも曉キ、袖ノ上ニ、露置キアマル、秋ノ心ヲ」

さらなり (句) 更也 〔更にも言はずノ、さらナリ、此語、未然形ハ用キラレザルガ如シ〕言フマデモナシ。勿論ノ事ナリ。言フニヤ及ブ。 枕草子、一、初段「夏ハ、夜、月ノ頃ハ、さらなり、闇モ、ナホ、螢、飛ビチガヒタル」同、七、六十四段「何事ヲカ思ヒ出ニセム、ト宜ヘバ、さらなり、難カルベキ事ニモアラヌヲ」 宇津保物語、樓上、下三十「コレコソハ、一生ノ大キナル大事ニ思ヒ侍レ、云云、更なる事ナリ」 落窪物語、二「今ハ、世ニ亡クナリニタレバ、我レコソ領ゼメ、ト宜ヘバ、北方、さらなる事、世ニ生キタリトモ、サバカリノ家、領ズバカリニハアラザラマシ」

さらに (副) 更 〔倭訓栞、さら「更ヲ訓ムハ、あらト通ズ、新ノ義ナルベシ、今モ、あらたニスルコトヲ、さらト云ヘリ、又、愈ノ意ナリ」(遍し、さまねし)說文「更、改也」玉篇「復也」增韻「再也」〕 (一)改メテ。別ニ。 古事記、上六「既生」國竟、更生」神」 古今集、五、秋、下「踏ミワケテ、さらにヤ訪ハム、モミヂ葉ノ、降リ隱シテシ、路ト見ナガラ」 (二)カサネテ。フタタビ。マタ。復 古事記、上四「故爾反降、更往」廻其天之御柱」如」先」 萬葉集、十一「石上、振ノ神杉、神サビテ、戀ヲモ我レハ、更ニスルカモ」(老年ノ戀ナリ) 續紀、廿六、天平神護元年三月、宣命「淡路ニ侍リマス人ヲ率テ來テ、佐良仁、帝ト立テテ」(弘文天皇) 拾遺記「仙人宿封食二飛魚一而死、二百年更生」 (三)イヨイヨ。マスマス。愈 後撰集、三、春、下「昨日見シ、花ノ顏トテ、今朝見レバ、寐テコソさらに、色マサリケレ」

さらに (副) 更 〔前條ノ語ノいよいよノ意ノ、一轉ニモアラムカ〕絕エテ。一向ニ。フッニ。 貫之集、五「菊ノ花、下行ク水ニ、影見レバ、さらに浪ナク、老セザリケリ」 竹取物語「其山ヲ見ルニ、さらに登ルベキヤウナシ」 宇津保物語、俊蔭三「俊蔭ガ、容ノ清ラニ、オノカシコキコト、さらに言フベキカタナシ」 源、五、若紫廿「さらに、カカル人ノ御アリサマヲ見ザリツレバ」 拾遺集、十一、戀、一「戀思シ侍リケル女ノ、さらに、返言シ侍ラザリケレバ」 白氏文集、廿四、宿靈巖寺上院詩「更無俗物當人眼、但有泉聲洗我心」

さらにもいはず (副詞句) 更不言 改メテ言フマデモナク。言フモサラナリ、ノ意ナリ。 萬葉集、四、五十八「現ニハ、更毛不得言、夢ニダニ、妹ガ袂ヲ、纏キヌトシ見バ」 源、十三、明石三十七「哀レト思シテ、云云、思シ亂ル、女ハ、さらにもいはず、思ヒ沈ミタリ」 續後撰集、十三、戀、三「逢フコトハ、さらにもいはず、命サヘ、タダ此度ヤ、限リナルラム」

さらぬがほ (名) 不然顏 然アラヌ面持。何事ナキ氣色。サラヌ體。 源、九、葵八「さらぬ顏ナレド、ホホエミツツ、尻目ニトドメタマフモアリ」 同、五十、浮舟六十「思シヌベキ事ヲモ、さらぬがほニノミ、長閑ニ見エサセ給ヘルヲ」

さらぬだに (副詞句) 然アラヌダニ。サウナクテサヘ。又、さらでだに。然無きだにト云フモ、同ジケレド、俗ナリ。 行宗集 さらぬだに、歸ル空ナキ、夕サレニ、結ビトドムル、神垣ノ藤」 金葉集、三、秋「さらぬだに、玉ニ紛ヒテ、置ク露ヲ、イトド研ケル、秋ノ夜ノ月」 拾玉集(慈鎭)一、雜「さらぬだに、心細ソキヲ、蜘蛛ノ、軒ニ絲引ク、夕暮ノ空」 後拾遺集、四、秋、上「さらでだに、心ノトマル、秋ノ野ニ、イトドモ招ク、花薄カナ」 凱陣八島(元祿、近松作)「さなきだに、憂キヲ重ヌル、旅衣」

さらぬてい (名) 不然體 然アラヌ體。サラヌ顏。何事ナキ氣色。「さらぬていニモテナシ」

さらぬわかれ (名) 不避別 〔さる(避)、さらず(不避)ノ條ヲ見ヨ〕逃レラレヌ別レ。死別 伊勢物語、八十四段「老イヌレバ、さらぬわかれノ、アリト云ヘバ、イヨイヨ見マク、欲シキ君カナ」 續後撰集、十八、雜、下「皆人ノ、遂ニハさらぬ、別路ヲ、定メナキ世ト、誰レカ言ヒケム」

さらば (接) 然則 〔名義抄、火部「然者、サラバ」然あらばノ約、さばト云フハ、さらばノ約略ナリ(竝べて、なべて)〕 然アラバ。ソレナラバ。サウナラ。約メテ、さばトモ云フ。 源、四十九、東屋九十一「モハラ本意ナシ、云云、さらば御心ト許シ申シツル」 狹衣、二、上四廿「心ナガラ、斯ウ逃レ難カリケリトテモ、ヒトヘニ、さらばト、世ニ從ヒテ定メムコトハ、ナホ、イト口惜シカリヌベシ」 拾遺集、十五、戀、五「忘ルルカ、イザさらば我レモ、忘レナム、人ニ從フ、心トナラバ」 源、五十、浮舟六十一「文ヲバ御覽ゼム、云云、さらば見ムヨ」落窪抄「さらばナリ」 枕草子、二、廿段「さらば參リナムトテ、歸リ侍ル」 同、十二、百五十七段「此ニコソハ侍ラメト申シシカバ、さらば得ヨトテ、賜ハセタリ」

さらば (感) 〔告別ノ談、終ハリテ、然ラバ別レムト云フヲ、略シテ云フナリ、小兒ノ語ニ、あだよト云フモ、さあらばよノ約轉ナリ、前條ノ語原ヲ見ヨ(新湯、さらゆ)奴婢ノ、放逐セラルルヲ、おさらばニナルト云フモ、是レナリ〕 人ニ別レムトスル時、發スル聲。サヤウナラ。サヨナラ。 珍重 後撰集、十九、離別「さらばヨト、別レシ時ニ、言ハマセバ、我レモ涙ニ、オボホレナマシ」 源、五十、浮舟六十三「歸リタマフホド、云云、(歌)さらばヤトテ、此人ヲ歸シタマフ」 同、五十三、夢浮橋九「打チツケニ入ラレムモ、狀惡シケレバ、さらばトテ、歸リタマフ」 [illegible]草子(足利時代)清水坂「ニテ、討手ノ者ニ暇申シテ、さらばトテ、天井ニアガリ」 狂言記、佛師「さらばさらば、明日ゴザレ」

ざらば (名) 株式取引所ノ短期取引市場ニテ、別ニ、私ニ、或種ノ株式ニ就キテ、賣買ヲナスコト。固ヨリ、實物ノ受渡シスルニテハ無ク、其相場ノ高低ノミヲ取合フ。政府ノ認可以外ノ事ナリ。

さらばかり (名) 皿秤 秤ノ一種。又、銀秤。れいてんぐニ同ジ。 合類節用集(元祿)七、器財門「盤秤、又、云銀秤」

さらばち (名) 皿鉢 陶製ノ鉢ノ、稍淺キモノ。丼ノ類。

さらひ (名) 浚 (一)サラフコト。搔キ除クルコト。浚渫。(二)掃除。 散木集、四、年の暮「さらひスル、室ノ八島ノ、コトコヒニ、身ノ成リハテム、程ヲ知ルカナ」顯昭云「さらひスルトハ、掃除スル事ナリ、むろのやしまトハ、竈戸ヲ云フ、(其條ヲ見ヨ)除夜ニ、民ノ竈戸ヲさらひテ、來ンズル年ノ内ノ、事ノ吉凶、皆、見ユル、ト云ヘリ」

さらひ (名) 木杷 竹杷 〔次次條ノ四段活用ノ浚ふノ名詞形、さらへト云フハ、

下二段活用ノ名詞形ナリ」今ハ、多ク、[illegible]さらへト云フ。農具ノ名。柄、長ク、頭ニ、[illegible]ラスナドニ用ヰル、竹製ナルハ、穀物、落葉ヲ搔キ集ムルナドニ用ヰル、おまざらひトモ云フ。(其條ヲ見ヨ)[illegible]農具便利論、上「木ざらへ、地ナラシノ類、鐵、齒トモ、[illegible]仕手ナドノ持ツ松葉がきモ、さらへト云フ。

さらひ (名) |復習| (一)復習フコト。繰返シ、學ブコト (二)遊藝ノ同門ノ弟子ナド、一席ニ集リテ、各、學ビタル藝ヲ演ジ合フコト。東京ニテハ、おさらひト云ヒ、大阪ニテハ、さらへ[illegible]

さら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |浚|渫| (更ヲ活用セシム、改ムル意(息、いおふ。飮ふ、うなふ。頷ふ、連ふ)字鏡「杈、佐良比」(一)埋リタル物ヲ、掘リ除ク。浚|渫| 左傳、莊公九年「冬浚洙」(洙ハ、川ノ名)「井ヲさらふ」「溝ヲさらふ」(二)塵ヲ、掃ヒ除ク。掃除ヲス。(浚ノ條ノ(二)ヲ見ヨ、竹杷モブリ」掠[illegible]サラフ」(三)集メ取ル。取リ除クル。取リ去ル。奪ヒ去ル。掠「引キさらふ」「搔キさらふ」「足ヲさらふ」「子ヲさらふ」小盜スルヲ「カッさらふ」

さら・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) |浚| (前條ノ語ノ、下二段ニモ活用スルナリ、[illegible]活用ノ如ク、[illegible]ニモ、下二段活用アリテ、共ニ、他動ナリ」前條ノ浚ふニ同ジ。[illegible]可用浚二(コノさらへハ、濁音點ナリ)倭訓栞、さらへる[illegible]云ヘリ、云云、井ヲさらへるハ、浚ナリ」

さら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) |復習|溫習| (未熟、未通ヲ浚ふ意)更ニスル。繰返シテ、學ビ習フ。[illegible]さらへる 溫習、[illegible]さらふ」

さらへ (名) |竹杷| さらひ(竹杷)ヲ見ヨ。

さらへ・よみ (名) |復讀| 學ビタル書ヲ、繰返シテ、復習ヒ讀ムコト。素讀ニ云フ。

さら・へる・ヘル・ヘレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下一) 浚 此語、終止形ノ外ハ、用ヰラレズ、ガ如シ、但シ、名詞形ニ、古ク、木杷ト云フ語見ユレバ、下二段活用モアリシモノカ」同段活用ノ、浚ふニ同ジ。[illegible]さらひ[illegible]云ヘリ、木杷トモ云ヘリ、さらへるヲ、俗ニ云フナリ」

∵**さら・へる** (動) |浚| 下二段活用ノさらふ(浚)ノ口語、

∵**さら・へる** (動) |復習| さらふ(復習)ノ口語。俚言集覽、さらへる「溫習」

さらぼ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) |曝| (さらハ、曝ノ轉(賓客、まらびと。何、いづら)ぼふハ、形狀ヲ云フ語(散りぼふ、よろぼふ)(一)雨露ニ曝レテ、骨ノミトナル。[illegible] (二)痩セ衰フ。枯槁 憔悴 [illegible]セタマヒケルコト、イトホシゲニ、さらぼひテ、肩ノ程ナドハ、痛ゲナルマデ、衣ノ上マデ見ユ」濱松中納言物語、三[illegible]さらぼひテ[illegible]さらぼへる[illegible]今昔物語、廿七、廿二、[illegible]さらぼひタル人ノ手ニテアリ」徒然草、百五十二段「犬ノ、アサマシク老イさらぼひテ」

さら・まはし (名) |皿廻| 遊藝ノ名。皿ヲ、細ソキ棒ニテ、[illegible]シテ、種種ニ廻ハシテ興ズ。

さらんだ (名) (告別ノ語ノさらだノ音便ニテモアルカ、[illegible]文、らんもん、[illegible]「さらんかんせき」奴輩ノ放逐セラルルヲ、おさらだニナルト云フ」物ヲ割リタルヲ云フ語。(長崎)次條ヲ併セ見ヨ。俚言[illegible]さらんだ「長崎ニテ、物ノ打チ割ルヲ云フ」

サランパン (句) (佛語、Ce-la-ne-pas.(無クナレリ)ナリト云フ說アリ、然レドモ、前條ノ語ノ移リテ轉シタルモノカ、トモ思ハル、文政ノ頃、佛蘭西人、未ダ我ガ國ニ來ラズ、橫濱ナドニテモ、此語、開港ノ初ヨリ、行ハレタルガ如シ、其頃、佛人、多クハ來リ居ラズ、疑問トスベシ」物、毀レタリ。約束、破レタリ。(開港場ノ語) 破壞 破毀

ざらめ (名) |粗目| ざらめ糖ヲ見ヨ。

さらめか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) サラメクヤウニナス。さらさらト、音ヲ立ツ。宇治拾遺、二、第七條「湯ニ入リテ、さらめかし沸カスニ」

さらめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) さらさらト、音ヲ立ツ。

ざらめ・たう (名) |粗目糖| (粉ノ如キ砂糖ニ對シテ、粗糙ナル意カ、或ハ、南洋語ナラムモ知ルベカラズ」砂糖ノ結晶粒ノ、大ナルモノ。略シテ、ざらめ。ざらめ。[illegible]

さら・ゆ (名) |新湯| (さら(新)ノ條ヲ見ヨ)新湯ニ同ジ。沸キテ、マダ、誰レモ入ラヌ湯風呂。新湯 [illegible]

さら・ゆる (動) |浚| (係ふ、さらゆるノ類) さらふ(浚)ノ轉訛。[illegible]ヲさらゆるマデ」

ざらり (副) ざらざらノ條ヲ見ヨ。

サラリイ (名) |俸給| (英語、Salary.)俸給。給料。「さらりいマン」(俸給ヲ取ル人)

さらり・と (副) [illegible] (一)滯リナク。ササハリナク。スラリト。「世ノ中ノ事ヲ、さらりと捨テテ」[illegible]定ヲ、さらりと拂フ」(二)サハヤカニ。サッパリト。アッサリト。クドクドシカラズ。白地ノ屆、すましノ吸物、靑竹ノ簾、洗ヒテ干シタル浴衣ナドニ云フ。瀟洒 淡泊

サラ・りん (名) |娑羅林| (一)娑羅樹ノ林 其條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)風俗歌ノ類。[illegible]林、早歌」(郢文)

さられん・ばう (名) |被去坊| (去られヲ、撰人シタル語、遊女ニ、金ヲ取ラルル客ヲ、取られノ坊ト云フ、相、似タリ」夫ニ、去ラレタル女。離緣セラレタル妻。東海道名所記(萬治)二、神原、山ニ、社アリ、別ノ明神ト云フ「世ニハ、結ぶ神サヘオハシマスニ、別宮ハ、ヨロシカラヌ御神ノ名ナリ、若シ、[illegible]明神ヨリ、さ

られん房ノ、戻神カト間ヘバ、云云」

さらゐ・つき（名）［更居突］舞樂ニテ、舞ヒナガラ、御前ヲ通ル時、跪クコトアル振。 難波別錄、賀殿「さらゐつき、云云、ひざをつくヲ云フ、賀殿ト、太平樂急トニ、此手アリ、云云、更居突、さらにゐつくト書キタルナリ」同、太平樂「此舞ニ、云云、太刀ヲ拔キツレバ、ヤガテ廻ルヲ、輪ト云フ、云云、御前通ル時、膝ツクヲ、さらゐつきノ手トハ云フナリ」（古事類苑、更居突）教訓抄（天福）三、武將太平樂、拔二太刀一云云、次、大輪一返」註「如レ常、謂二之太刀輪一、此間、有二更居突手一」

サリ（名）［舍利］舍利ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

さ・り・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、良變）［然］〔然有〕ソノ如クナリ。シカリ。 伊勢物語、廿三段「心憂ガリテ、行カズナリニケリ、さりケレバ、カノ女、大和ノ方ヲ見遣リテ、云云」源、十九、薄雲三「御心ニカカルベキニコソアメレ、さりトナラバ、云云、譲リ聞エマシト思フ」宇治拾遺、一、第十條「兼久コソ、カウカウ申シテ出デヌレ、ト語リケレバ、治部卿、打チウナヅキテ、さりケリさりケリ、物莫言ヒソ、トゾ云ハレケル」「さらヌ顏」「さらバ」「さりトテ」「さりトモ」さりナガラ「さりヌベキ人」「さるべキ事」

さ・り（動）［避］さる（避）ノ條ヲ見ヨ。

ざり（名）［礫］〔細石ノ語原ヲ見ヨ、さざれ、上略セラレテ、ざれト、濁音ヲ遺シ（蜊蛄、ざりがに）又、轉ジテ、ざりトナルナリ（皀皮、くれかは。塊石、くりいし）後、又、轉ジテ、ぢやり（沙利）トナリ」又、ざれ。石川ノ小石。今、沙利ト云フ。 字鏡集「磊、サレイシ、コイシ」日本釋名（元祿）中、細石「細石ヲ、ざれト云フモ、此語ヨリ出ヅ」倭訓栞、さざれいし「筑紫人ハ、ざれト云フモ、是也」年年蔵草（文政）三「俗間ニ、小石ヲ、ざりト云フ、歌ニ、さざれト讀ムト、同言ナルベシ」松の葉（元祿）二、小唄、月見「通ヒシ路ノ邊、ざり取ル池ノ水鏡」（江戶、淺草、吉原土手ノ邊ノ沙利場ヲ云ヘリ）

ざ・り・ル・レ・ラ・リ・レ（助動）［付］助動詞ノずト、動詞ノありト、約レル語。 萬葉集、十一八「大船ノ、香取ノ海ニ、碇オロシ、（序）如何ナル人カ、物不念有」「打タざり」「受ケざる」「着ざれバ」

ざ・り・ル・レ・ラ・リ・レ（助動）助辭ノぞト、動詞ノありト、約レル語。 古今集、四、秋、上「茅蜩ノ、鳴キツル並ニ、日ハ暮レヌト、思フハ山ノ、蔭ニざりケリ」貫之集、三「山深キ、宿ニシアレバ、（アレド）年毎ニ、花ノ心ハ、淺クざりケル」同、四「降ル雪ニ、色シ紛ヘバ、打チツケニ、梅ヲ見ルサヘ、寒クざりケル」同、八「幾多ニハ、縫ヒ重ネネド、唐衣、思フ心ハ、千重ニざりケル」

さり-あへ-ず（句）［不敢避］〔さる（避）ノ條ヲ見ヨ〕避クルコトヲ得ズ。避ケラレズ。古今集、二、春、下「梓弓、春ノ山ベヲ、越エクレバ、路モさりあへず、花ゾ散リケル」顯輔集「貢物、運ブ丁シ、多ケレバ、路モさりあへず、逢坂ノ關」

さり-がた・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［難避］〔避るノ條ヲ見ヨ〕避ケ難シ。棄テガタシ。 源、三十四、下、若菜、下九十「思システツルモ、さりがたき御回向ノ内ニハ、マヅコソハト、哀レニナム」同、五十三、夢浮橋十「顏氣ナキ身ヒトツヲ、便ニ思シタルガ、さりがたき絆ニ覺エ侍リテ」取りかへばや、一「玉光ル男君サヘ生マレタマヒニシカバ、ヌナクさりがたき者ニ思ヒキコエタマヘリ」「さりがたき要用アリテ」

ざり-がに（名）［蜊蛄］〔「御行蟹ノ上略、故ニ、ざりト、濁音ヲ遺ス（細石、ざれ、ざり、ぢやり）」〕蝦ノ一種。北海道、津輕、等ノ溪流ニ產ズ、身長、一寸、乃至、二寸、大イナル螯アルコト、蟹ノ如クニシテ、全身ノ形、蝦ニ異ナラズ、味モ、蝦ニ似タリ、故ニ、えびがにトモ云フ、後方ヘ退リ行ク性アリ。體中ニ、白片アリ、おくりかんきりト云フ、其條ヲ見ヨ。 俚言集覽、さりかに「津輕松前等ノ溪間ニ生ズ、後方ヘ退ク蟹ヲ云フ」

さり-きらひ（名）［去嫌］〔さりハ、避るノ名詞形ニテ、避クル意ナルベク、去るニテ、去ツルノ意ニハアラジ、句ヲ隔ツル意トシテ、義ヲ成サズ〕（一）連歌ニ云フ語。用語、用字ノ禁忌ニテ、前ニ幾句ニ、同ジ物事、似タル物事ヲ詠ミ入ルルヲ嫌フナリ。前ノ句ニ、冠ヲ云ヘバ、次ノ句ニ、烏帽子ヲ忌ミ、夕立ニ雲、雨ニ笠、鷹ニ狩ヲ忌ム、ノ如シ、連句ノ、單調ニ傾キ、變化ノ妙ヲ缺クヲ避クルナリト云フ、助辭ニモ、音ノ清濁ニモ、アリ、然シテ、二句隔ツレバ、嫌ハズトスルアリ、三句置ケバ、忌マズト云フアリ、二句去、三句去、五句去、七句去、ナド云フ、繁縟ヲ極ムル規定アリ。 爲緋抄、指合、去嫌「草木、鳥獸ハ、言フニ及バズ、器財、食服ノ事、同字、列吟ノ取リサバキモ、用ト、不用トノ道理ヲサバクベシ、譬ヘバ、野飼ノ牛ト、咄ノ尻馬ノ如キ、其句ニ因リテ、用捨スベケレバ、二句以下ハ、咎ムベカラズ、指合ト云フハ、てにをはノ同字也、ソレモ、てト、でトノ清濁ハ、咎メズ、鈴鹿ト、鹿ノ如キ、屏風ニ松風ノ如キ、偏カ、旁カノ字形ヲ變ヘ、眞名カ、假名ノ差引アラバ、用捨ノアツカヒアラム、指合モ、去嫌モ、サシテ、新式ノ法ニナツマズ、其座ニ、其事ハ明ラカナラム」（雍文、古事類苑）犬子集（寛永）「今日ノ連歌ニ、多キさしあひ、親子居ル、アタリデ物ハ、莫召サレソ」（二）轉ジテ、普通語トナリテ、唯、すききらひ、えりおのみ、けぎらひノ意ニ用キラレタリ、連歌ノ、一時、盛ンニ行ハレタルヲ思フベシ。 狂言記、箕被「惡女ノさりきらひモナイ、某ナレバコソ、今マデ副フテ居タレ、常ニ、氣ニ入ラヌ女ヂヤト、腹句ニ思フテ居タニ懐句トハ、連歌ニテ、宿突ノ句ヲ云フナリ）

さり-げ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［無然氣］然ル氣色ナシ。事ナキ狀ナリ。 源、三、空蟬三「イカナラムト思セド、云云、さりげなき姿ニテ、門ナド刺サヌサキニト、急ギオハス」讃岐典侍日記レテ」新古今集、三、夏「庭ノ面ハ、マダ乾カヌニ、夕立ノ、空さりげなく、澄メル月カナ」十訓抄、上、第一、十五條「上ヨリ、人ノ音ノ、アマタシテ來タリケレバ、さりげなく、引キ隱レテ、窺キケルニ」（堀河院女房）「さりげなくモテナシツツ、欠ヲセラ

さり-ぢやう（名）［去狀］〔他動ノ去るノ條ノ（二）ヲ見ヨ〕（一）離別狀、離緣狀ニ同ジ。休書 永正記、上、夫婦假服有無事、假令、夫沈二病席一之時、爲レ道二假服一乞二去狀之手書一、太不レ可レ然、但、雖レ得二病席一丘点一芳契一與二手書一含二離別一絕二音信一者、不レ可レ受二服假一」（二）避狀ニ同ジ、さけわたすノ條ヲ見ヨ。

サリチイル-さん（名）［撒里矢爾酸］〔羅甸語、Acidum Salicylicum.〕白色ノ絹紙狀結晶粉。輕クシテ、光澤アリ、臭氣ナク、甘酸味アリ、強キ殺菌、防腐ノ效力アリ、田蟲、陰金ナドノ醫療ニ用キ、酒類ノ防腐藥ナドトス。サルチルサン。

さり-とて（接）［然迚］然アリトテ。サヤウナレドモ。 古今集、十一、戀、一「戀スレバ、吾ガ身ハ影ト、ナリニケリ、さりとて人ニ、添ハヌモノ故」新古今集、十四、戀、四「我ガ涙、求メテ袖ニ、宿レ月、さりとて人ノ、影ハ見エネド」

さり-とも（接）［雖然］（一）然アリトモ。ソレデモ。 源、四十九、東屋、五「物モ得チマバカリ、思ヒツヅケラレテ、云云、さりとも、人ニハ劣リタマハジトハ、思ヒナグサム」（二）ヨモヤ。マサカ。 源、一、桐壺七「限リアラム道ニモ、後レ先ダタジト、契ラセタマヒケルヲ、さりとも、打チステテハ、エ行キヤラジト宣ハスルヲ」千載集、廿、神

[illegible]哀レ知ルラム」

さりながら [illegible]〔然りながらノ約〕然レドモ。シカシナガラ。雖然 源、四十七、早蕨「聞ヒナシ給フゾ、ワリナキ御心ナラヒナメルカシ、さりながらモ、物ニ心得給ヒテ」

さりぬる (連體) 〔去〕〔過ギ去りぬるノ略〕[illegible]ト云フハ、[illegible]ぬ、なはんぬ。殘雪、のさんのゆき)」[illegible]年、發微麗見、水早並錄」(いにしトミムベキナリト[illegible]る保元三年、云云」 倭訓栞、さんぬる「去ヲ訓メリ、[illegible]

さりぶみ (名) 〔去文〕 さけぶみト讀ムナリ、さけわたすノ條ヲ見ヨ。

サーリン [illegible] 紗綾「此頃ニ、さりんト稱スルモ、紗綾ノ昔」綸子ニ似テ、地合ノ、薄キモノ。 和漢三才圖會、廿七、綾子、綸綸、俗云左里年、似綾子[illegible]綾子ニ似テ、地合、薄ク、光澤ハ、綾子ヨリモ強シ」

〔**さりや** (感) 〔然りやニテ、やハ、疑ヒノや、然ルカ、ノ意ナラム、さり(然)ノ條ヲ見ヨ〕 さやうか、さうか、ナド云フホドノ意ニ發スル聲ナルベシ。 源、廿二、玉[illegible]宜ヘバ、人人、忍ビテ笑フ、さりや、誰レカ、ソノ遣ヒ[illegible]ヒタマハム[illegible]ラム[illegible]、さりやハ、それよナド云フ心ナリ、源氏君ノ、遣ヒ聞ラシタマハム[illegible]「イミジウ泣ケバ、さりや、アナ苦シト思シテ」同巻[illegible]さりや、アナ[illegible]

さりやく (名) 作略 [illegible]レカ心ニテ、好キ程ニ、取リハカラフコト。斟酌 [illegible]

さる (名) 猿 〔能ク戲るる故ノ名、[illegible]〕(平田篤胤)[illegible]ハ、彼モ、[illegible]リ」終止形ノ、名詞トナレルハ、御統、調の舟、ナド、アリ、嬰孩モ、頭間ふナリ、猿ト云フハ、手長ざるニテ、猿ハ、猨ノ俗字ナルガ、常ニ、さるニ用キラル」(一)〔マシ[illegible]マシラ、マシコ、マサル、サル[illegible]獸ノ名、深山ノ茂林中ニ棲ム、丈、二尺四五寸ナルヲ、常トス、狀、粗、人ニ似テ、能ク坐リ、能ク立チテ行ク、四肢、皆、手ニシテ、各、五指アリ、全身ノ毛色、[illegible]色ニシテ、臀ニ、毛ナク、尾、短ク、面、臀、甚ダ赤シ、果實ヲ食トス、食ヲ[illegible]ヘ、漸ク出シテ食フ、聲、咳スルガ如シ、性、怜悧、狡猾ニシテ、模倣スル性アリ、[illegible]ヒテ、猿舞ナド、種種ノ伎藝ヲ教フベシ、猿猴、野猿 エテ、エテモノ、[illegible] 猢猻、大、小、種類、多シ、手長猿、尾長猿、四國猿、豆猿、ナド、尚、[illegible]アリ、各條ニ注ス、[illegible] (二)[illegible]人ヲ、狡猾ナリト、嘲リ罵ルニ云フ語 [illegible]「酒飲マヌ、人ヲ熟見バ、猿ニカモ似ル」(猿ハ、さかしらナリ) [illegible]ルホドニ、男法師ナド、打群レテ入リ來リケレバ、云云、[illegible]連歌ヲシカケタリケレバ、トリアヘズ「里守ル、犬ノ吼ユルニ、[illegible]キテ トツケタリケリ、人人、興ジテ、[illegible]ケニケリ」 (三)風呂屋ノ湯女ノ渾名、猿ハ、爪ニテ物ヲ搔ク性アリ、垢ヲかくト云フ謎詞ナリ [illegible]ヲ抱ヘ置、云云、吉原ヲ衰微スル人ハ、風呂屋女ニ、仇名ツケテ、猿ト云ヒケル也、垢をかくト云フ心カ」 (四)岡引ノ渾名、(大阪)東京ニテ、犬ト云フ。探偵 [illegible]、猿「江戸ニテ、目あかし、又、[illegible]か引ト云フヲ、大坂ニテ、猿ト云フ」 (五)紙ニテ作リ、凧ノ絲ニ通シテ、凧ノ絲目マデ上ラシムルモノ。幟猿ニ見立テテ云フナルベシ。 嬉遊笑覽、六、下、紙鳶「何ノ凧ニテモ、ヨクアゲ、又、小サク、凧ノヤウニ拵ヘタルモノアリテ、上セタル凧ノ絲ニ通シ、絲ヲシャクリ上グレバ、凧ノ絲目ノ處マテ、ノボリユクナリ、コレヲ、猿をやるト云フ」

さる (名) 猿 〔猿繫ノ語原ヲ見ヨ〕 (一)戸ニ設クル樞機ノ名、戸ノ內面ニ、橫木ヲ取リツケオキ、柱ニ、穴ヲ穿チオキ、戸ヲ閉ヅラバ、橫木ヲ、穴ニ刺シコミテ、動カシメズ、此設ケアル戸ヲ、猿戸ト云フ、又、竪木ヲ取リツケ、敷居ノ穴ニオロスモアリ。(二)自在鉤ニモ、猿ト云フアリ、其條ヲ見ヨ。

さる (名) 申 〔猿ノ義〕 (一)えとノ名、其條ヲ見ヨ。(二)時ノ名、其條ヲ見ヨ。(三)方角ノ名、えとノ條ヲ見ヨ。

〔**さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 避 〔去るト通ズルカ〕 避ク。避ク、[illegible] 雖[illegible]何[illegible] [illegible]ハムトて、[illegible]如何[illegible]而避之」 古今集、二、春、下「梓弓、春ノ山邊ヲ、越エ來レバ、路モさりアヘズ、花ゾ散リケル」 源、五十三、夢浮橋「さりガタキ絆ニ、オボエハベリテ」「居さる[illegible]さる」 此語、打消ニ用キテ、避けられず、逃れられず、ノ意ヲ成ス。竹取物語「此月ノ十五日ニ、カノ舊ノ國ヨリ、迎ヘニ、人人、罷デ來ンズ、さらず[illegible]リヌベケレバ」 古今集、十七、雜、上「老イヌレバ、さらぬ別レノ、アリトイヘバ、イヨイヨ[illegible]シキ君カナ」 新古今集、廿、釋教「さらずトテ、幾世モアラジ、イザヤサハ、法ニカヘツル、命ト思ハム」

さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 去 (一)〔在リ離レテ、行ク、立チ退ク。 [illegible]、白雉四年七月「天皇恨欲捨於國位」 源、三十四、下、若菜、下「人ノ、[illegible]ルニ、イト苦シクテ、御几帳引寄セテ、さりヌ」 (二)〔色、褪ス。サム。褪 貫之集、六「降レバ、色さりヤスキ、櫻花、(ノ如キ)薄キ心モ、我ガ思ハナクニ」 (三)離ル。ハナル。ヘダタル。離 距「相距三里」 (四)過グ。歷。經過「今ヲ距ルコト、十年」 (五)失ス。消ユ。消「[illegible]、さる」痛ミ、さる」

〔**さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 去 〔去ノ字ハ、借字ニテ、春されだト云フハ、春になれえノ意、春しあれだノ約レルニテ、しハ、強ク指シテ云フ辭ナリ、ト云フガ、舊來、普通ノ說ナリ、萬葉集、十「春之在者」同卷廿「春之在者」是レ等ハ、春之在者ト訓スベキカ、同、十七「阿里佐利底」(ありしありて)同、廿「大君ノ、御言爾作例波」(御言にしあれば) 春去來

者、春去往、春去にけりナド、春しありくれば、春しありゆく、春しありにけりトテハ、委ナラヌヤウナレド、さりヲ、なりノ意ニ言馴レテ、語原ハ忘レラレテ言ヘルニカ、又、或ハ、しなれだノ約ナリトノ說モアリ(坂モ、級處ノ約)又、或ハ、になれだノ約、なれだトナリテ、されだト轉ジタルカ、トノ說モアリ(否、不知)萬葉集、五六十七「春奈例婆、宜モ咲キタル、梅ノ花」然ルニ、山彥冊子(橘守部)三ニハ「去ト書ケルハ、正字ニテ、來るヲ、去るトモ云ヒシナリ、萬葉集、六九十長歌「打靡ク、春去往ト、山ノ上ニ、霞タナビキ」來リ至ルナリ、同卷五四十「時之往者、京師トナリヌ」時ノ來レバナリ(節文)トモ云ヘリ、類聚名物考ニモ、此說アリ、コレニ據レバ、來ヲ、行くノ意ニモ用キタリシガ、時間ノ經過ニ移リタルモノカ、尙、考フベシ」來ル。到ル。熟語ニ用キラレテハ、に成りゆくノ意トナル。萬葉集ニ、春去れだ、春佐良だ、ナドアルハ、春になれだ、春にならだ、ノ意ナリ、秋去れだ、秋佐良だ、夕去れだ、夕去らだナド云フモ、同ジ。古事記、中(神武)三十「夕佐禮バ、風吹カムトゾ、木ノ葉サヤゲル」萬葉集、十三二長歌「春去れバ、春霞立チ、秋往ケバ、紅ニホフ」同、三十七長歌「打靡キ、春去來レバ、櫻花、木暮繁ミ」同、十六「冬隱、春去來ラシ、アシビキノ、山ニモ野ニモ、鶯鳴クモ」同、十七「風マジリ、雪ハ降リツツ、シカスガニ、霞タナビキ、春去りニケリ」同、十七八「長歌」秋佐良バ、紅葉ノ時ニ、春佐良バ、花ノ盛リニ」同、十四「秋去れバ、置ク白露ニ、吾ガ門ノ、淺茅ガ末葉、色ヅキニケリ」同、二十五「長歌」夕去酉、召シタマフラシ」同、十九「夕去らバ、君ニ會ハムト、思ヘコソ、日ノ暮ルラクモ、嬉シカリケレ」同、十五二十長歌「朝散禮バ、妹ガ手ニ纏ク、鏡ナス」

さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）|去|〔字典「去、棄也」ノ意ヨリ、他動ノ語トナリシナルベシ」（一）除ク。退クル。除去 榮花物語、十二、玉村菊「御物怪、云云、コレ、去りヌレバ、搔キサマシ、音モセズ」「不淨ヲさる」垢ヲさる」（二）逐ヒ遣ル。離緣ス。離別ス。（七去ノ條ヲ參見セヨ）拾遺集、十四、戀、四「くにもちガ娘ヲ、どもみつ、罷りさりテ後、云云」宇治拾遺、四、第七條「本ノ妻ヲバさりツツ、若ク、容好キ女ニ思ヒツキテ、ソレヲ妻ニテ、云云」同卷、同條「美キ裝束着タル女ノ居タルヲ見ケレバ、我ガさりニシ、舊キ妻ナリケリ」

さ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）|曝|〔風雨ニ暴露シ、風化、水化シテ、性ヲ失フナリ、他動ニハ、曝すトナル」久シク雨風ニアタリテ、舊リ壞ル。シャレル。源、四、夕顏二「押シ明ケタル門、云云、されタル遣戶口ニ」玉の小櫛「俗言ニ、しゃれたるト云フト、同言ナリ」同卷十九「庭ニ、されタル吳竹、前栽ノ露ハ、云云」同、五十、浮舟三十七「橘ノ小島「大キヤカナル岩ノ狀シテ、されタル常磐木ノ蔭、茂レリ」散木集、九、雜、上「カネテヨリ、思ヘバ悲シ、陸奥ノ、たてふ二骨ノ、されムトスラム」（曝骸）此語、四段ニモ活用シタルカ、靈異記、下、第一縁「髑髏」久日曝、其舌不爛」訓釋「曝、サリテ」

さ・る（動）|戲|〔前條ノ曝るト通ズ、世剛レタルガ本ナル語ナルベシ、清音ニ云フ語ニテ、戲女(猿女)、戲樂(猿樂)ナド云フ、發語ヲ冠シテ、あざる(戲)ト濁リ、又、發語ヲ脫シ、濁音ヲ存シテ、ざるト云フ(さざれ石、ざれ)後世、洒落る、ぢゃれる、ぢゃらナド云フ、此遺ナリ、平安朝ノ頃、淸、濁、竝ビ行ハレタルナルベシ、區別シ難ケレバ、スベテ、戲るノ條ニ解ケリ」戲るニ同ジ。

さる（連體）|然|〔然りノ連體形、其條ヲ見ヨ」（一）〔ソノ如クニテアル。ソノヤウナル。源、二、帚木四十八「女モ、さる御消息アリケルニ」同、四、夕顏廿七「聞エアリテ、便ナカルベキ事ナリトモ、さるべキニコソハ」「さる事ハアラジ」（二）〔然ルベキ。其價直アル。源、一、桐壺十七「今日始ムベキ祈リドモ、さるべキ人人、承ハレル」同、二、帚木六「成リノボレドモ、モトヨリさるべキ筋ナラヌハ」十訓抄、上、第四、二條「兼房、さるモノニテ、殊ノ外ニ、ウケル事ハアラジ」曉月坊歌「曉月ニ、毛ノムクムクト、生エヨカシ、さる歌よみト、人ニ言ハレム」「彼レモ、さる勇士ナレバ」（三）或ル。某ノ。|或| |某|「さる人ノ言ヒシニハ」さる御方、さる處、さる頃」

さる（連體）|去|〔來る幾日ナド云フニ對ス」さりぬるノ條ヲ見ヨ。「去る明治十五年、去る五月五日」

ざる（名）|笊|〔古言、いざるノ上略(其條ノ語原ヲ見ヨ)故ニ、濁音ヲ存ス、笊籬ノ音轉ナリト云フハ、淸濁、違フ」（一）古名、いざる。シタミ。サウリ。今、又、イカキ。竹ヲ、薄ク細ソク削リ、圓ク窪ク編ミ造レル器。笊籬 掬網ニ似タルヲ、掬笊ト云ヒ、芋、大根、人參、牛蒡、ノ刻ミタルヲ、茹デテ掬ヒアグルナドニ用キル。更ニ、大キニシテ、開キタルヲ、龜甲笊ト云フ、掬笊ヨリ移シテ、湯ヲ滑ムニ用キル。又、圓徑、五寸許ニ、目ヲ粗ク造レルヲ、目笊ト云フ、靑菜、芹、三葉ノ類ヲ、小鍋ニテ茹デタルヲ受ケテ、滑ムニ用キル、又、水ニテ淅シタル米ヲアゲテ、水ヲ滑ムニ用キルヲ、米揚笊ト云フ、大キク、深シ。（二）笊蕎麥ノ略。

ざ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）|戲|〔戲るノ語原ヲ見ヨ」戲ル。氣輕ニ、フルマフ。ジャレル。宇津保物語、樓上、下十四「イトざれテ、クチヲシキ事カナ」源、十九、薄雲十二「何事トモ聞キワカデ、ざれアリキタマフ人ヲ二姬君ノ事」同、廿三、初音八「手習、云云、草ガチニナドニモざれ書カズ、目ヤスク書キスサビタリ」枕草子、五、四十八段、かたはらいたきもの「近キ所ナドニテ、下衆ドモノ、ざれ交シタル」仲文集「ざれタル所ノ、若キ人人」夫木抄、三十五、傀儡「アハレナキ、おにをそ鳥ノ、心スラ、月夜トナレバ、ざれアリクナリ」

さる-うた（名）|猿唄|狂言ノ靭猿ニ、猿廻ノウタフ唄。狂言記、唄ノ初頭「エイエイ、猿ガ參リテ、御知行マサル、メデタウ、ヨウ仕ル、踊ルヤ手元、小腰ユリアハセテ、舞フタル風情ノ、面白サ」

サルカ（名）|秦吉了|〔南洋邊ノ語ナルベシ」鸜鵒ノ類、きうくゎんてう(九官鳥)ニ同ジ。和蘭譯(元祿)六「秦吉了、李白詩云、安得秦吉了、爲人道寸心」注「秦吉了、出二邕、及、占城二」大和本草(正德)十五「秦吉了、唐音要曰、能言鳥」十二鸚鵡、云云、白樂天、有二秦吉了詞二」

さる-がう（名）|戲謔|〔猿樂ノ音便(帽額、もかう。格子、かうし)其戲事スルヨリ、移ル」タハムレ。オドケ。ジャウダン。宇津保物語、嵯峨院五「皆、人人、物音仕リ合ハセテ、順ノ舞、歌ウタヒ、さるがうセヌハ無シ」同、藏開、上三十一「さるがうスル人ニテ、かめ舞ヲス、上、下、一度ニ、ホホト笑フ」枕草子、七、六十八段「右ノ人、ヲコ許ニ思ヒテ、打笑ヒ、ヤヤ、更ニ知ラズト、口引垂レテ、さるがう爲カクルニ」同、六、五十段「日一日、さるがう事ヲシタマフホドニ」道ノ程モ、殿ノ御さるがう言ニ、イミジク笑ヒテ」

さる-かき（名）|猿驚|灌木ノ名、さるとりいばらノ條ヲ見ヨ。

さる-がき（名）|猿柿|まだのがきノ一名。

さる-がく（名）|猿樂|〔戲樂ノ義ナルベシ、戲る、并ニ、猿女ノ語原ヲ見ヨ(此語ノ語原說、種種アレド、皆、徹底セズ)樂トハ、演技ヲ云フ、田樂ナド云フモ、是

ヒナリ、[illegible]、散樂ノ字ヲ充テ用ヰラル（其條ヲ見ヨ）後世ノ能樂ヲ、申樂ト書クモ、[illegible]、申樂ノ代リナレバ、神ノ字ノ旁ヲ取レルナリ、ナド云フハ、[illegible]モ是ノ[illegible]ナリ。又、猿樂ハ、[illegible]猿女ニ[illegible]ト云フ[illegible]、往往見ユレド、[illegible]、猿ナハ、[illegible]ノ事ハ、[illegible]代トモ、[illegible]セリ」（二）〔相撲御覧ノ時、又、内侍所御神樂ノ夜ナド、[illegible]時ニ、思ヒ々々ミテ演ズル戲技。[illegible]、後世ニ云フ、[illegible]ノ[illegible]ノ如キモノ。[illegible] [illegible]ニ、少々[illegible] 骨格「猿樂ハ、物ノ眞似ヲシテ、心ニ思入リヌル事ヲモ、ブルマヒムフモノナリ、[illegible]、三十八、[illegible]四年七月廿九日御[illegible]、[illegible]ラル」 本朝文粹、三、辨二散樂一（村上帝御製）[illegible] [illegible]ノ夜、仰セニテ、今宵、メヅラシカラム事、仕レ、ト仰セアリケレバ、云云、行綱、云云、膝ヲ、股マデ掻キアゲ、[illegible]、ヨリニヨリニ、夜ノ深ケテ、サリニサリニ、寒キニ、フリチフ陰囊ヲ、アリチフ炙ラム、ト言ヒテ、庭火ヲ、十マハリバカリ、走リマハリタルニ、上ヨリ、下サマニ、[illegible]（三）後ニハ、諧謔ノ事ヲ演ズル、一種ノ技藝トナリテ、演劇ノ如キモノトナレリ。 新猿樂[illegible] [illegible]シキ事ヲ言ヒツヅケテ、人ヲ笑ハカシ侍ルゾカシ」

宇治[illegible] トアルハ、さるがくヲシタマフカ、ソレハ、物語ヨリハ、マサル事ニテコソアラメト、マダシキニ笑ヒケレバ、[illegible]トスル者 [illegible]八月一日[illegible]中六丸、[illegible]凡、[illegible]與、限六位藏人、下臈女房ニ有」雜言、云云、況、如ニ猿樂[illegible] 「閑司師顯放」下時、山林房覺遊ト云フ猿樂、供ニ下レリケリ」（四）後ニ、猿樂ハ、延年舞ノ如キモノトナレリトオボシク、コレヨリ、次項ノ能樂ニ移リテ、（延年舞ノ手、能ノ安宅ナドニ殘レリ）舊ノ猿樂ノ諧謔ハ、狂言ニ移レリト見ユ、狂言ハ、能樂ヨリハ、古シ、後ニ、狂言ヨリ、又、猿若ヲ生ジタリ、[illegible]廿三、[illegible]猿樂ハ、是レ、[illegible]七八、[illegible]川ノ戰ニ、楠木氏ノ軍ヲ破リシ者ナリ）同、廿七、田樂事、四條河原ニ桟敷ヲ打チ、田樂アリ「斯テ、立合[illegible]、日吉[illegible]、利生ノ奇ナル猿樂ヲ、肝ニ染ミテゾ出シタル、云云、八九歲ノ小童ニ、[illegible]（五）後、又、猿樂ハ、能樂トナレリ、申樂トモ記ス、足利將軍義滿ノ時代、應永年中ニ起レリ、是レハ、史事ナドノ演技ナリ、德川時代ニ至リテモ、觀世、金春、寶生、金剛ヲ四座ノ申樂ト稱シタリ、スベテ、能樂ノ條ヲ見ヨ [illegible]三月[illegible]五日夜ニ入テ、[illegible]、內內[illegible]ナル、云云、さるがくモ、ワサトセサセラレテ、[illegible]アレバ、道ノ者共、ココハト、己ガ能ノアル限リヲ盡シタル」（猿樂ノ能）

さる-がしこ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔猿賢〕（猿ノ如ク賢シノ意）サカシラナリ。コザカシ。悲黠 吾吟我集（慶安）七「立寄ラバ、

大木ノ落ト、落椎ノ、數ヲ拾ヘル、猿ノかしこさき」

さる-かに-かっせん（名）〔猿蟹合戰〕童話ノ一。猿ト、蟹ト、アリ。猿ハ、柿ノ核ヲ拾ヒ、蟹ハ、握飯ヲ拾ヘリ。猿ハ、取替ヘムト云ヒテ、飯ヲ食ヒテケリ。蟹ハ、核ヲ植ヱテ懇ニ培ヒタレバ、柿、生長シテ、實アマタ成リヌ。猿、柿ヲ見テ、又、來レリ。蟹、背、低クテ、採ラレズ、猿ニ請ヒテ、實ヲ採ラス。猿、樹ニ登リテ、赤クテ甘キヲバ、自ラ食ヒ、澁クテ堅キヲバ、取リテ投ゲツクレバ、蟹、甲ヲ潰ラレテ、死ニキ。猿ハ、逃ゲヌ。蟹ノ子、イタク歎ク。栗ニ、蟹ノ友ニ、石臼アリ、來リテ、仇ヲ討チテヤラムトテ、其友ノ栗ト、蜂トヲ集ヘ語ラヒテ、謀セムト云ヒテ、猿ヲ呼ビタレバ、來レリ。栗ハ、火鉢ノ中ニ隱レテ居テ、俄カニ爆ヌ。猿、驚キテ、巧ミニ避ケムトス。蜂、飛ビ出デテ、猿ノ頰ヲ螫ス。又、驚キテ、急ニ逃ゲムトスル時、石臼、屋ノ上ヨリ、轉ビ落チカカリ、終ニ、猿ヲ押殺シテケリ、ト云フ趣向ナリ。惡ガシコキヲ戒ムル訓話ナルベシ。

さる-かは-うつぼ（名）〔猿皮靭〕靭ニ、猿ノ毛皮ヲ覆ヒタルモノ。[illegible]三十六、[illegible]尾[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]ノ弓ニ、猿皮靭、鹿矢、アマタ刺シテ」（鷲尾三郎經春ノ裝）[illegible]、毛[illegible]ニセカト思フ、其猿ノ皮ヲ、靭ニ掛ケタイ」（[illegible]）

さる-かひ（名）〔猿飼〕さるまはし（猿廻）ニ同ジ。[illegible]、五十、[illegible]、長夫、[illegible]、云云、[illegible]ハ不[illegible]、云ム、諸御[illegible]、御馬之御祈念仕、[illegible]ヲ見ヨ）又ハ、猿ヲ舞ハセ、御鳥目等頂戴仕、其外、手下猿

[illegible]ハ、[illegible]ナキ、[illegible]

さる-が・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔戲謔〕「猿樂ヲ、音便ニ、さるがうト云フヨリ、自ラ、波行四段活用ノ語ヲ生ジタルナリ、裝束、乞食、長音ヲ、波行四段ニ活用セシムルト、同趣ナリ、問答、敵對ノ長音ヲ、波行下二段活用トスルモ、同ジ」タハムル。オドケル。フザケル。 [illegible]六十六段、つれづれなる[illegible]ルニ、[illegible]ノ、おちさるがひ、[illegible]ニ、[illegible]十レド、入レツフシ一[illegible]五[illegible]ナド云フさるがう[illegible]十ト、ニギニギト言シツカヒテ」

さる-がへり（名）〔猿返〕（猿ノ如ク敏捷ニかへるノ意）人體ヲ躍ラセテ、左右、前後、自在ニ、打チ覆ルコト。（反打ノ條ヲ見ヨ） 犬子集（寛永）一、春、上「申がへり、見テヤ立ナ東ル、酉ノ年」

さる-がま（名）〔猿釜〕茶湯ニ用ヰル、釜ノ一種。利久ノ好ミト云フ、小形、裹形ニテ、鐶附ノ左右ト、蓋ノつまみトニ、庚申ノ三疋猿ヲ象リ作ルタルモノ。

さる-から-に（副詞句）〔然故〕〔から（故）ノ條ヲ見ヨ〕然アル故ニ。サウデアルカラ。さるかから[illegible]引カレズ」

さる-き（名）〔猿木〕厩ニテ、馬ヲ繫ギスク木。又、往時ハ、新年ニ、猿飼ヲシテ、厩ニテ猿ヲ舞ハシムル事アリキ、猿飼ノ條ヲ見ヨ。 合類節用集（元祿）二、乾坤門「走[illegible]、又、作[illegible]、さるき、[illegible]ニテ馬ヲ繫ク木ヲ呼ベリ、猿木ノ義也、猿ヲ、馬ノ祈禱ニスルハ、[illegible]ニ[illegible]、又、[illegible]ト云ヘリ、云云、馬經ニモ、厩ニ、母猴ヲ飼ヘバ、馬ノ疫疾ヲ除ク由、見エタリ」 [illegible]十一[illegible]、卷上ニ曰ク、[illegible]、將軍[illegible]、所、乘馬、厩卒、云云、[illegible]

レ門語曰、余能活ニ此馬一、云云、搖ニ一獣一如レ猿、持歸至ニ馬前一、獣以レ鼻吸レ馬、馬已斃、如今、以獼猴ニ三四一馬賤ハ此其義也」(鶡冠志、猴ガ列子ニ稗海之中ニ)

さる-ぐつわ (名) ‖猿轡‖ 〔止ムル意カ、樞(サル)(第二語ノ猿)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ〕 人ノ、聲ヲ出サシメヌ爲ニ、口ニ食マセ、頸ニ約ムル具。銜‖ 倭訓栞、さるぐつわ「猿鏁ノ義也、人ヲ略賣スル者ノ、さるぐつわヲハマス、ト云フコトアリ、物言ハムトテハ、舌切ルルト云ヘリ、唐音ニ云フ、た丸ナリ、トモ云ヘリ、水滸傳ニ、口裏、都塞ニ了此廝レ桃ニト見エタリ」

さる-ぐま (名) ‖猿隈‖ 隈取(クマドリ)ノ一種。額ヨリ眼ノ廻リヲ、紅ニ彩リテ、猿ノ面ノ如クナシタルモノ。サルボホ。

さる-こ (名) 猿子」 〔猿廻(サルマハシ)ノ、猿ニ着セタルガ、元ナルベシ、猿股引モアリ、子トハ、綿子(ワタコ)、刺子(サシコ)ノ類、紙子ノ語原ヲ見ヨ〕 袖無羽織ニ、綿ヲ入レタルモノ、小兒ノ用トシ、又、女ノ胴着トス。 俚言集覽、さる子「袖なし羽織ノ、綿入レタルモノ」守貞漫稿、十六、女服「無袖ノ胴着、云云、江戸ニテ、さるつこト云フ、猿兒也」

ざる-ご (名) ‖笊碁‖ 賤人ノ圍碁ニ、笊(ザル)造(ツクリ)ノ碁笥(ゴケ)ニ、十造ノ白石、黑石ヲ用ヰルモノ。拙碁ノ意ニ云ハル。拙碁 俚言集覽、ざる棋「拙棋ヲ云フ」

さる-ざけ (名) ‖猿酒‖ 猿ガ、樹ノ洞(ウツロ)ナドニ、果實(コノミ)ヲ貯ヘテ、自然ニ成レル、酒ノ如キモノ。 俚言集覽、猿酒「猿ノ甘酒トモ云フ、奧州、南部邊ニアリト云フ、猿ガ、木ノ洞ヘ、木ノ實ヲ入レオキテ、製シテオクヲ、人、見ツケテ、コレヲ取ルト云ヘリ」 倭訓栞、さる「蓬櫃夜話ニ、黄山多ニ猿猱ハ春夏採ニ花菓於ニ石窪中ハ醞釀成レ酒、香氣聞ニ數百步ハト見エタリ、みさおずしノ類ナリ」 撈海一得(明和、鈴木煥卿)「猿酒、みさお鮓」 酒石ノ句「路ニ迷ウテ、猿酒飲ム、ユクリナク」

さる-ぢっこう (名) ‖百日紅‖ 〔さるすべりト、百日紅(ヒャクジッコウ)トヲ混ジタル訛語、毛布(ケット)ト、布團(フトン)トヲ混ジテ、けさんナド云フ、同例ナリ〕 次次條ノ語ニ同ジ、東京、植木師ノ語。

さる-しばゐ (名) ‖猿芝居‖ 猿ニ、衣裳、鬘ナド、着セテ、芝居ノ眞似ヲセシムルモノ。猴戯

さる-すべり (名) ‖猿滑‖ 〔幹、滑(ナメ)カニシテ、猿モ、すべりテ、攀ヂガタシ、故ニ、猿なめりトモ云フ、幹ヲ摩(サス)レバ、枝葉、皆、動ク、故ニ、さすり木トモ名ヅク、花時、久シケレバ、百日紅ノ名アリ、紫薇花トハ、支那ノ禁中ニ多ケレバ、云フ〕 樹ノ名。又、サルナメリ。サスリギ。ヒャクジッコウ。サルジッコウ。高サ、丈餘ニ及ブ、枝、幹、甚ダ屈曲シ、皮、薄ク滑(ナメ)カナリ、葉ハ、楕圓ニシテ、對生シ、小花、樹梢ニ簇リテ開ク、瓣、皺ミテ、色、紫紅ナリ、爛漫愛スベシ、花時、甚ダ長ク、夏ノ半ヨリ、秋ノ半ニワタル。紫薇(カケチ)花 ‖百日紅‖ 夫木抄、廿九、猿滑「足引ノ、山ノ崖路ノ、さるなめり、スベラカニテモ、世ヲ渡ラバヤ」和漢三才圖會(正德)八十四、百日紅(サルスベリ)、紫薇花「七月初至ニ九月ニ有レ花、故、名ニ百日紅ハ云云、俗云、左留須倍利、云云、此樹、無レ皮甚滑、而猴猿亦不レ得レ登、故、呼名ニ猴滑ニ」 格物總論「紫薇花、樹身光滑、俗因號ニ猴脫ニ」 大和本草(正德)十二「百日紅、紫薇花トモ云フ、唐土(モロコシ)ノ禁中ニ、多ク、此花ヲ植ウル由、三才圖會ニ見エタリ、云云、樹ノ本ヲ、久シク搖ケバ、枝、皆、動ク、故ニ、本草ニ、異名ヲ、怕痒樹ト云フ」

サルゼ (名) 〔葡語、Sarja.〕 往時、舶來セシ毛織物ノ名。 博多小女郎波枕(天明、近松作)上「海賊毛剃九右衞門、朔平次、云云、衣裳附、各、さるぜ、らしゃ、ゐためん、云云、下着、上着モ、渡リ物」

ざる-そば (名) ‖笊蕎麥‖ 蕎麥尾ニテ、盛(モリ)そばヲ、扁平(ヒラタ)キ笊ニ盛リテ、供スルモノ。略シテ、ざるトモ云フ。

さるだひこ-の-かみ (名) ‖猿田彦神‖ (一) 〔神代ニ、天孫降臨ノ時、衢(チマタ)ニ迎ヘ奉リテ、導キマヰラセタル神。コレヲ、衢神(チマタノカミ)、又、道祖神(サヘノカミ)ト云フ、さへのかみ(道祖)ノ條ヲ見ヨ。 神代紀、下「有ニ一神、居ニ天八達之衢ハ、其鼻長七咫、云云、問ニ天照大神之子、今當ニ降行ハ故奉レ迎相待、吾名、是猿田彦大神」 (二) 後世、神社ノ祭禮行列ノ、先導ニ立ツモノ、王鼻(ワウノハナ)トモ云フ。其扮裝ハ、鼻ノ突出シタル赤塗面ヲカブリ、烏兜ニ、裲襠、直垂、奴袴(スバカマ)ナリ。 狂歌咄(寛文)二「神社ノ祭禮ニ、神輿ノ前ニ掛クル面ノ名ヲ、王の鼻ト云フ、極メテ鼻高ク、色、赤キモノナリ」

サルタン (名) 回回敎國ノ君主。そるたんノ條ヲ見ヨ。

サルチル-さん (名) さりちいるさんノ條ヲ見ヨ。

さる-ぢゑ (名) ‖猿智慧‖ 〔猿ノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕 サルガシコキコト。コザカシキ智。サルリコウ。黠智

さる-つかひ (名) ‖猿遣‖ さるまはしニ同ジ。 太閤記、十五、秀吉公御遊興事「狂僧、鉢叩、猿つかひ、種種サマザマノ出立アリシナリ」

さるつなぎ (名) ‖猿繫‖ 〔猿ハ、物ヲ取レバ、止(トド)メテ放サズ、猿つなぎノかけがねハ、細ソキ鐵ノ端、鍵手ニ曲リテ、コレヲつぼがねニ引懸ケ、止メテ動カサヌナリ、猿戸ノ猿、自在鉤ノ猿ト云フモノ、皆、是レヨリ移レル名ナリ、遊藝人ナドハ、容ガ、金錢ヲ惜シミ、纏頭ナドノ出シギタナキニ思寄セテ、猿ト云フコトヲ嫌フナリ〕 妻戸ノ緣(エン)ニ設ケオク壺鐵(ツボガネ)。扉(トビラ)ヲ開キタル時、ソレニ仕附ケタル懸(カケ)鐵(ガネ)ヲ、コレニ引懸ケテ、繫ギオクナリ、コレヲ、今ハ、あふりどめ(煽止)ト云フ。 武雜記「貴人ナド、御出デ候フ時、云云、緣ノ猿繫ぎニ、ヨクヨク戸ヲ開キ、御通リ候時、風ナド吹キ立テザルヤウニ、可レ有ニ氣遣ニ候」 貞丈雜記、十四、家作「緣ノさるつなぎト云フ事、武雜記ニアリ、妻戸ノ下ノ端ニ、かけがねヲ打チオキ、緣ニハ、つぼがねヲ打チオキテ、妻戸ヲ開キタル時、かけがねヲ、つぼがねニカケテ、繫ギ置ク也」(節文)

さる-つなぎ (名) ‖猿繫‖ 〔猿廻(サルマハシ)ノ、猿ヲ括ルヨリ、移リタル語ナラム〕 人ヲ縛リテ、其繩ヲ、柱ナドニ繫ギオクコト。 曾我會稽山(享保、近松作)一「取テハ締メツケ、捻ヂ倒シ、一人モ洩ラサズ、猿繫ぎ」 俚言集覽、猿つなぎ「罪人ヲつなぎタルナドヲ云フ」

さる-で (名) ‖猿手‖ 〔嬉遊笑覽、一、上、居處「太刀ノ金物ノ猿手ト云フモ、手長猿ノ手ヲ組合セタル形ヲ思ヒテ、呼ベルニカ」〕 太刀ニ、腕貫(ウデヌキ)ノ緖ヲ附ケムガタメニ、柄頭(ツカガシラ)ニ設ケタル金具。

さる-ど (名) ‖猿戸‖ 〔猿繫(サルノナギ)(第一語)ノ語原ヲ見ヨ、嬉遊笑覽、一、上、居處「樞(クルル)ツキタル戸ヲ、さる戸ト云フ、云云、くるるヲ、さるト云フ」〕 (一) 猿(サル)ノ、設ケテアル戸。(第二語ノ猿ノ條ノ(一)ヲ見ヨ) 犬子集、一、春、上「押シアケテ、今朝くる年ノ、さる戸カナ」(寛永九年壬申ノ句ナリ、戸ヲ明くるト、年ノ明くト、戸ヲ繰るト、年ノ來るトヲカケタリ) (二) 猿戸ヲツケタル、庭園ノ露地門ノ名。兩開キノ扉、各、高サ四尺餘、幅二尺餘、横板ヲ框、及、竪棧ニ取附ケ、竹ノ押緣ヲ打ツ、兩柱ハ、掘立(ホツタテ)ニテ、栗村ノなぐりナドナリ 茶道筌蹄、一、庭之部「角戸、猿戸トモ云フ、利休形、大小アリ、掘コミ、栗ノなくり、柱ノ根

[illegible]（…ケ）」

〔さる-どり　(名)　[猿捕]　次條ヲ見ヨ。

さるとりいばら　(名)　[菝葜]　〔猿捕茨（サルトリイバラ）ノ義、[illegible]下略シテ、さるとりト云フナリ、刺アリテ、猿モ登ラレズ、人ニ捕ヘラルレバ、名トスト云フ、さるかきトハ、[illegible]ニテ、刺ニテ止ムル意ナラム（繫く（カ）ノ條ヲ見ヨ）〕　灌木ノ名。又、さるとり。サルカキ。山野ニ多シ、幹ハ、節毎ニ、ヱガミテ、屈曲シテ光リ、堅キ刺アリ、大ナルハ、蔓トシ、小ナルハ、楊枝トス、春、舊キ幹ヨリ芽ヲ生ズ、葉ハ、互生シテ、葉毎ニ二鬚アリテ、物ニ絡フ、形、圓ク厚ク、滑カニシテ、縱線アリ、初夏ニ、新葉ノ間ニ、一寸餘ノ穗ヲ出シ、六瓣ノ花、簇リ開ク、大キサ二三分、淺黃綠色ナリ、實ハ、正シク圓ク、大キサむくろじノ如ク、熟スレバ、赤シ、根ハ、ところニ似テ、大キクシテ、硬シ、[illegible]多シ　藥用トス、藥舖ニ、和の山歸來トス云フ。[illegible] 十五、菝葜、京都、サルトリイバラ、越後、サルカキバラ、越前、サルカケイバラ、讃岐、ガラタチバラ、伊勢、ガンタチイバラ」

さる-なし　(名)　[猿梨]　〔さるのさしかけナドノ轉語〕　獼猴桃ノ異名。

さる-なめり　(名)　猿滑　木ノ名、さるすべりノ條ヲ見ヨ。[illegible]、さるなめりス、ヘラカニテモ、[illegible]バヤ」

さる-に　(名)　猿似　[illegible]猿ト云フハ、犬[illegible]、犬ナドノ、犬ト同ジク、似テ非ナル意ナルベシ、他人ノ空似（ソラニ）ト云フ語、參考スベシ、犬時者（イヌジモノ）ノ時（トキ）ハ、齋ノ意カ〕　似テ、眞ナラヌコト。[illegible]

〔さる-み　(接)　[然見]　然（サ）アルニ。シカルニ。[illegible]ノ設ケ、セサセタマフ、さるみ、彼大將出デテ、タバカリタマフヤウ、云云」

〔さる-までも　(接)　[雖然]　然（サ）アリトモ。[illegible]、少女[illegible]ケガマシキ狀ニテ、大殿モ、聞キオボス所侍リナム、さるまでも、カカル事ナムト知ラセタマヒテ、殊更ニモテナシ」

さる-の-きば　(名)　[猿牙]　〔猿の齒牙ハ、殊ニ白シ〕　精白米ノ異名。[illegible]

さる-の-こしかけ　(名)　[猿腰掛]　朽木ノ幹枝ニ、[illegible]生ズル寄生菌、馬蹄形、半圓形ニシテ、前ヘ突出ル、上面ハ、茶褐色ニテ、下面ハ白色ヲ帶ブ、大ナルハ、直徑數尺ニ及ブモノアリ。胡孫眼　[illegible]さるのこしかけ「西陽雜俎ニ、胡孫眼ト見エタリ、胡孫ハ、さる也」[illegible]リニハケツ[illegible]、猿の腰掛ニシテクレン」

さる-の-こ-とり　(名)　[猿木取]　〔木取ハ、木ノ枝ニ取附ク意ナルベシ、鳥ノ、木ノ枝ニ止マルヲ、くさとるト云フ、其條ヲ見ヨ〕　猿ノ兩手ノ掌。[illegible]

さる-の-しり-わらひ　(名)　[猿尻笑]　猿の面わらひトモ云フ、猿ノ、己レガ面、尻ヲ思ハズ、他ノ猿ノ面、尻ノ赤キヲ笑フト云フコト[illegible]同意ニテ、他ノ裸ナルヲ笑フ[illegible]、己ガ拙キヲ措キテ、他ノ拙キヲ云フ意ニテ、人の振り見て我が振りなほせノ反ナリ。[illegible]「思ヒナガラモ、藝ヲ務メヌ」人事ハ、言ハジヤ、猿の尻わらひ[illegible]

さる-の-つら-わらひ　(名)　[猿面笑]　前條ヲ見ヨ。

さる-の-まくら　(名)　[猿枕]　介（カヒ）ノ名、たかのまくらノ一種、大キクシテ、徑、五六寸ニ至ル、面、稍、高ク、腹、平ニシテ、邊ニ、五ツノ長キ孔（アナ）アリテ、面ニ通（トホ）ル。海燕一種　[illegible]らノ一種ナリ」

さる-の-みさけび　(名)　[猿三叫]　猿ノ、三聲、啼クコト。物悲シキ意ニ云フ。[illegible]レナリ」同、さるのみさけび「猿の三叫也、詩ニ、三聲ナト云ヘルハ、猿猴ノ、物悲シキヲ述ベタリ、[illegible]啼猿數行涙、ナドモ云ヘルニ因レル也」[illegible]「心アラバ、三タビテフ度、啼ク聲ヲ、イトド物思フ、[illegible]」

〔さる-ゑ　(接)　[然者]　然（サ）アルハ。シカルハ。[illegible]

さる-ばかま　(名)　[猿袴]　裾細ノ袴ニテモアルカ。明月記、建久十年十二月十一日「三名[illegible]

さる-はし　(名)　猿橋　甲斐國、北都留郡、大原村ノ桂川兩岸ノ斷崖、相、逼ル所ニ架セル橋、長サ十七間、水際マデ百五十尺、奇構ナルヲ以テ、名アリ。昔、猿アリ、斷崖ノ藤蔓ヲ抱キ、向ヒノ岸ニ跳ネテ渡リシヲ見テ、作レリト傳フ。今ハ、昔ニ、猿橋ト稱ス。甲斐國志、五十四、駒橋道行[illegible]、此橋ヲ見ル時ノ歌「猿橋ヲ、渡リテ見レバ、駒橋ヤ、躍リハネツツ、カケテオクラム」(鎌倉時代)　廻國雜記（文明、聖護院道興准后）「カクテ、甲州ニ到リヌ、云云、猿橋トテ、川ノ底、千尋ニ及ビ侍ル上ニ、三十餘丈ノ橋ヲワタシ侍リケリ、昔、猿ノワタシケルナド、里人ノ申シ侍リキ、云云「名ノミシテ、叫ブモ聞カズ、さるはしノ、下ニ音フル、山川ノ音、谷深キ、崖ノ巖ノ、猿橋ハ、人モ梢ヲ、ワタルトゾ見ル」　徂徠集[illegible]

さる-び　(名)　[申日]　〔子日（ネノヒ）ナド云フニ同ジ、奈良ノ春日祭ハ、陰曆二月十一日ノ上ノ申ノ日ナリキ〕　十二支ノ申ノ日。林葉集、俊惠ノ子、俊惠ニ、春日祭「スベラギノ、イタダキマツル、春日山、今日ハさる日ト、神モ知ルラム」（然（サ）る日トカケタリ）

さる-ひき　(名)　[猿引・猿曳・猿牽]　猿ヲ牽キテ、猿舞（サルマヒ）ヲナサシムルヲ業トスル者。サルカヒ。サルマハシ。サルツカヒ。狙公　往時、新年ニ、內裏ニテ、舞ハシメタマヒキ、大名諸家ニテハ、廐ニテ舞ハシメタリ、馬ノ疫ヲ除クト云ヘリ。（猿（サル）木ノ條ヲ見ヨ）　三十二番職人歌合（文安）十八番、猿引[illegible]モ、[illegible]入ルレバ、ナカナカニ、我レニハましノ、[illegible]」

ソツカフニ、逃ゲ去リテ、犬ニ用心、スルハ猿鬼」俚言集覽、猿引　狙公ヲ云フ、俳諧季立ニ、猿引ト云ヘバ、春季也、猿廻シト云ヘバ、雜也、還碧軒隨筆云、猿舞ハ、京ニ、六人アリ、所所ニアリテ、外ノハ不レ入、云云、京ノハ、内裏方ヘ行ク時、急度、裝束ス、正月五日ニ、内裏ヘ行ク、云云、常モ、町ヲアリキテ、云云、此六人ノ者、猿ヲ、六疋ツカフ」

さるぶえ　(名)　猿笛　くちぶえニ同ジ。カハブエ。ウソブキ。　言塵集(應永、今川了俊)三「くち笛トハ、うその事也」同、四「かは笛トハ、一說ニハ、うその事ト、云云」　體源抄(永正)八、本「猿笛ハ、嘯ナリ」

さるぼ　(名)　猿頰　次次條ノ(四)ヲ見ヨ。

さるほどに　(接)　去程　(一)然アル程ニ。然アルアヒダニ。(前文ノ意ヲ受ケテ)　宇治拾遺、四、第四條、舟ニ、子供ヲ乘セテ、父母ハ、陸ニアガル「風吹キマサリケレバ、云云、吹カレテ行キニケリ、さるほどに、父母、云云、來テ見ルニ、舟ナシ」　(二)唯、發語ノヤウニ用キラル。　淨瑠璃物語(足利時代)第一段、まうし子ノ聞卷ノ文首ニ「さる程に、御曹司ハ、イカナル人ノ住家ヤラムト、心ヲトメテ見タマヘバ、云云」

さるぼほ　(名)　猿頰　(一)猿ノ頰ノ内ニアリテ、食物ヲ貯フル處。猿嗛　倭名抄、十八「毛群體、猿嗛、猿頰内、藏食處也、佐留保保」　(二)鐵面ノ、頰ト、頸トノミ覆フモノ、鐵面ノ條ヲモ見ヨ。　貞丈雜記、十一、武具「猿頰、云云、面頰ノ如クニテ、鼻モナク、云云、頰ト、頤トバカリ覆フモノ也」軍用記、二「猿頰ヲシテ、上ニ、半首ヲカブレバ、其面ノ體、猿ノ面ニ似タリ」　(三)水汲ム片手桶ノ異稱。　一面、圓クシテ、手アリ、一面、稍尖ニシテ、形、猿ノ面ノ如シ。　浮世風呂(文化)三、四編、上、ソノ餘、夏ハ、さるぼうヲツケテ、留桶ニ汲マセル」　(四)赤貝ノ一種。殼、大ナルモ、一二寸、圓ク厚クシテ、線、深ク、甚ダ粗シ、肉味、赤貝ヨリ劣ル、サルボ。　瓦蠣子　本朝食鑑(元祿)十、蚶「一種、有二小蚶、圓二三寸者、江都流俗、呼稱二猿頰、以二色赤而名、之乎、味不レ及二太蚶、但、民間之食耳」　倭訓栞、さるぼほ「赤貝ノ小ナル物ヲ云フハ、肉色ノ、猿頰ニ似タル也、即チ、小蚶子也」　大和本草(正德)十四、朗光「さるぼハ、あかがひニ似テ、味、劣レリ、江戸ニ多シ」物類稱呼、二、動物「朗光、サルボ」　(五)限取ノ一種、猿隈ニ同ジ。(六)次次條ヲ見ヨ。

さるぼほてんぢやう　(名)　猿頰天井　次條ヲ見ヨ。

さるぼほめん　(名)　猿頰面　〔面ハ、面取ナリ、斷面ガ、隅切角ヲ半截シタルガ如ク、猿頰ニ似タレバ、云フ〕　天井ノ竿縁、又ハ、戸障子ノ棧ナド、方形ノ材ノ角ヲ、削リ取レルモノ。此竿縁ニテ張リタル天井ヲ、さるぼほてんぢやうト云フ。

さるまた　(名)　猿股　〔猿股引ノ、股ヲ、股ト讀ミタルナリ〕　さるももひきニ同ジ。專ラ、褌ニスルニ云フ。「毛絲ノ猿股」

さるまち　(名)　申待　かうしんまちニ同ジ。　三河物語(大久保彥左衞門)上「猿マチノ歌ノ如クニ、寢タルゾ、寢ヌゾニシテ」

さるまつ　(名)　猿松　〔猿ノ狡猾ヲ、擬人シタル語、丁稚ヲ、長松ト呼ビ、厭キヤスキ者ヲ、半途松ト呼ブ類ナリ〕　ワルガコシキ者ノ渾名。　俚言集覽、猿松「狡童ヲ云フ」倭訓栞、さるまつ「猿松ハ、俗ニ、善クロヲ鼓ク者ノ諢名也」

さるまつぶえ　(名)　猿松笛　〔前條ヲ見ヨ〕　童子ノ玩弄スル笛ナルベシ。　嬉遊笑覽、六、下、さるまつ笛「名物六帖ニ、夢溪筆談ノ竹叫子ヲ、さるまつ笛ト云ヘリ、永代藏ニ、竟部すかしノ猿松ノ風車トアレバ、笛ノミニハ、アラズ、猿松ハ、賢ク、子供ノ名ニ云フニヤ」

さるまなこ　(名)　猿眼　猿ノ眼ノ如ク、大キクテ、凹ミテ、瞰ムガ如キ眼。　長門本、平家物語、八、猿眼赤髭男事「光長ガ下部ニ、七郎頭淸トテ、丈、七尺許ナル男ノ、大力ノ者ノ、十餘人ガ力持チタリト聞エシ、さるまなこノ赤髭ナルガ」　嬉遊笑覽、十二、上「猿まなこ、蚤とり眼ハ、同ジ事ナリ、守武千句(天文)ニ「梢ヨリ、來テコソ吼ユレ、犬櫻」さるまなこニテ、花ヲ見ル頃「丹前能ニ、好物ヲ云ヘバ、猿ガのみ取眼、云云、今、のみとり眼トノミ云フハ、省キタルコト見ユ」　犬子集(寬永)二、春、下「犬櫻、見テ逢クヤ、猴眼」

さるまはし　(名)　猿廻　猿ニ、種種ノ技ヲ教ヘテ、舞ハシメテ、錢ヲ乞ヒアルク者。サルヒキ。サルカヒ。サルツカヒ。狙公　鷺流、狂言記、靱猿、猿引「コレハ、此邊ニ住居致ス猿廻デゴザル、今日モ、猿廻リヲ致サウト存ズル」　醒草(正保)「世ノ中ニイラヌモノ、猿廻しノ長刀」　合類節用集(元祿)四、人倫門「狙公」

さるまひ　(名)　猿舞　猿ヲ馴ラシテ、舞ハスル舞。猴戲　直立ハ出來ズ、腰ヲ前ヘ曲グ、猿舞腰ト云フ。　吾妻鏡、三十六、寬元三年四月廿一日「左馬頭入道正義、自ニ美作國領所一稱ニ將來之由一、獻ニ猿於ニ御所一、彼猿、舞踏如ニ人倫一、大殿、並、將軍家、召ニ覽于御前一、殆ニ希有事一」　本朝食鑑(元祿)十一、狖「狙公馴教作レ戲、著ニ烏帽子一、被ニ彩衣一、舒ニ扇上一竿、以爲ニ舞曲之容一、呼稱ニ猿舞一」　俚言集覽、猿舞腰「京童(明歷)嵐山「防ギカネタル、嵐山ノ猿舞腰」伸ビヌ形ヲ云フトゾ」

さるまひごし　(名)　猿舞腰　前條ヲ見ヨ。

さるまろ　(名)　猿丸　〔麻呂ノ條ヲ見ヨ〕　猿ト云フニ同ジ。　宇治拾遺、十、第六條「犬ノ、イミジキナルニ、云云、ソレニ、生キタル猿丸ヲ捕ヘテ、明暮、役ト食殺サセテ、習ハス、サラヌダニ、猿丸ト、犬トハ、敵ナルニ、イト斯ウノミ習ハセバ、猿ヲ見テ、躍リカカリテ、食殺スコト、限リナシ」

さるめ　(名)　猿女猿女　〔戲女ノ義ナルベシ(戲ろ、淸音ナリ、其條ノ語原ヲ見ヨ)終止形ノ、連體形トナレルナリ(垂づろ枝、ゐづえ。出つる水、いづみ)天鈿女命ノ、俳優ヲナセルヨリ、戲ルル名ヲ負ヘルナラム、鈿女命ハ、古事記、上五廿「掛ニ出胸乳一、裳緒忍ニ垂於番登一也、爾、高天原動而、八百萬神、共咲」(神代紀、下十二モ、同ジ事アリ)ナドアリテ、諧謔スル神ナリ、猿女ハ、猿田彥ノ名ヲ負ヘリト云ヘルハ、猿ノ字ニ就キテノ誤辭ナラム、猿田ハ、狹田ニテ、伊勢、度會郡ノ地名ナリト云フ〕　大嘗祭、鎭魂祭、等ノ祭祀ニ、舞ノ職ニ奉仕スル女。神代ニ、天鈿女命、天岩屋戸ノ前ニテ、俳優ヲシタリ、猿女ノ號ヲ賜ハル、後ニ、世世、然ルベキ者ノ女ヲ徵サレテ、其職ヲ勤メシメラル、縫殿寮ニ屬セリ。　神代紀、上八廿「猿女君遠祖天鈿女命、云云、立ニ於天石窟戸之前一、巧作ニ俳優一」同、下廿二「天鈿女命、賜ニ猿女君之號一」　古語拾遺、神武天皇、鎭ニ祭鳥見山中時ノ祭祀「猿女君氏、供ニ神樂之事一」儀式、三、踐祚大嘗祭「大臣一人、率ニ中臣、忌部、御巫、猿女、前行一」四時祭式、鎭魂祭「令ニ猿女等入一云云、神部於ニ堂上一依ニ拍手一、御巫、及、猿女等、依ニ例舞一」　西宮記、臨時、一、裏書、貢ニ猿女一事、弘仁四年十月廿八日、公氏之女一人、進ニ縫殿寮一」

さるめんくわんじや　(名)　猿面冠者　木下藤吉郎ノ渾名。　太閤記、一、秀吉公素生事「木下藤吉郎、云云、願ハクハ、御蔭ヲ仰ギ奉レ存旨、申上ゲシカバ、信長公、云云、仰セケルニハ、輔車ハ、猿ニモ似タリ、心モ、賢ク見エシガ、氣モ、ヨク侍ラムトテ、被ニ召出一ケリ」

さるもの　(名)　然者　名ノ、然、聞エタル者。　源、三十一、槇柱四十「尚侍、宮ミシ君モ、さるものノ舞ナレバ、色メカシウ、サマヨフ心サヘ添ヒテ」　新撰狂歌集(元和)「曉月(人名)ニ、毛ノムクムクト、生エヨカシ、さるものノ子ト、人ニ言ハレム」

(猿ニカケタリ)ニ、さる者アリト聞エタル」猿レモ、さ[illegible]

さるもの [illegible]

〔さるものみて (副詞句) 然アルモノトシテ。言フモ更ナレバ。ソレハ、ソレトシテ。[illegible]場間ハ、さるものみて、[illegible]ノ音ニモ、雲居ヲ驚カシ」同、十七、胎合「文オヲバ、さるものみて、[illegible]中心ニモ入レテ、[illegible]さるもの[illegible]

さるももひき (名) [猿股引] [illegible]ノ、猿[illegible]ニ着カセタルヨリノ名、袖なし羽織ノ[illegible]猿袴ノ條ヲ見セヨ」[illegible]

さるりこう (名) [猿利口] [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

さるりこん (名) [猿利根] (猿、並ニ、利根ノ音轉ナリ) さるぢゑニ同ジ。猿利口。俚言集覽「猿利口、猿利根トモ、猿智慧トモ、猿賢トモ、猿トバカリモ云フ、[illegible]」

さるわか (名) 猿若 芝居ニテ、[illegible]ノ[illegible]

[illegible]ニテ、[illegible]、名護屋三左衛門、所ニ[illegible]之[illegible]云、取分ケ、猿若出デテ、色色サマザマノ物眞似スルコソ、[illegible]トヤフム、コトナ[illegible]

ざるわたし (名) [笊渡] 籠渡ヲ見ヨ。

さるを (名) [猿尾] (頭ノ海老尾ニ對ス) 三味線ノ名所、棹ノ[illegible]猿ノ尾ノ如シ。[illegible]

〔さるをかせ (名) [猿麻桛] (猿の腰掛ノ[illegible]) [illegible]ノ名。[illegible]ニ着キテ生ズ、皮ニ着ケル處ハ、一條ニシテ、太ク、末ハ、多ク岐ヲ分チテ、長ク垂レドルコト、[illegible]ノ如シ、白クシテ、[illegible]ヲ帯ブ、[illegible]キハ、[illegible]ノ如ク、二三寸、大キハ二三尺ニ至ル。松蘿。女蘿。[illegible]」

〔さ・れ (動) [曝] さる(曝)ノ條ヲ見ヨ。

ざれ (名) [戯] (戯るノ條ヲ見ヨ) 戯ルルコト。タハムレ。ジャレ。ジャウダン。[illegible]されがれズレバ、喧嘩ニナル」

ざれ (名) 礫 [illegible]礫ノ條ヲ見ヨ。

ざれ・あり・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [戯飛] (戯アヨ見ヨ」 浮カレテ、飛ブ、[illegible]

[illegible]ナレバ、ざれありくナリ」(おほをそ鳥ノ説)

されい (名) [茶禮] (足利義政以前、文安年間ノ語ナリ、茶湯ニハアルベカラズ) 人ニ、茶湯ヲ供スル禮ナルベシ。下學集(文安)[illegible]

ざれ・いし (名) [礫石] 礫ノ條ヲ見ヨ。

ざれ・うた (名) [戯歌] 戯言ヲ詠ミタル和歌。俳諧歌。狂歌ノ類。タハレウタ。狂歌詠方初心式「狂歌、佐禮歌、戯歌、如此、名稱、異ナリトイヘドモ、其意、大抵、同ジ事也」

されかうべ (名) [髑髏] ヒトガシラ。野ニ晒。首ノ、風雨ニ曝レテ、骨ノミトナレルモノ。シャリカウベ。シャリッコツ。髑髏[illegible]一休咄(寛文)「一休、正月ニ、されかうべヲ抱キアリク」

されき (名) [沙礫] 沙ト、礫ト。[illegible]

〔ざれ・くつがへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [戯覆] (戯るト、くつがへるトノ條ノ(二)ヲ見ヨ) イタク戯ル。甚シク、タハムル。源、六、末摘花廿六「されくつがへる今様ノ由バミヨリハ、ココナウ臭ユカシト思シワタルニ」

〔ざれ・ごころ (名) [戯心] ザレバミタルココロ。源、四十九、東屋六十「田舎ビタルされごころ、モテツケテ、シナシナシカラズ」

ざれ・ごと (名) [戯事] (戯るノ條ヲ見ヨ) 戯ルル事。イタヅラコト。[illegible]サヤウナラム[illegible]止ムベシ」

ざれ・ごと (名) [戯言] 戯レバミタル言。

[illegible]ざれごとト云フニ同ジ」

ざれ・ごうた (名) [戯歌] 俳諧歌ノ[illegible]、コレ、[illegible]ト云フ也、[illegible]

ざれつ (名) [坐列] 居ナラブコト、列坐。[illegible]

〔されど (接) [雖然] 然、アレドモ。サリナガラ。源、二、帚木九「眞ノウツハモノト成ルベキヲ、取出サムニハ、難カルベシカシ、されど、賢シトテモ、一人、二人、世ノ中ヲ政リゴチ知ルベキナラネバ」

されば (接) [然則] 然、アレバ。シカレバ。さ月清集、四「清ク澄ム、水ノ心ノ、空シキニ、されバト宿ル、月ノ影カナ」

〔されぞ・よ・そ (句) [然者社] 「されだよノ[illegible]」 然アルニ因リテ、思ヒ合ハセタル意ニ云フ語。又、さよハ、念ヲ推ス感動詞] れだよ。竹取物語、火鼠ノ皮衣「賓ノ皮ナリケリト云フ」月清集、一「されぞよ、[illegible]」伊勢物語、廿二段「云云、ト言ヘリケレバ、されよト云ヒテ」拾遺集、十二、戀、二「片[illegible]ノ、松ノうき根ト、忍ビシハ、されぞよ終ニ、アラハレニケリ」[illegible]ネテヨリ、思ヒシコトゾ、人ノツラサハ」

〔され・ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [曝] (曝るノ條ヲ見ヨ、さらぼふ、同ジ」 曝レカ

カル。古クナル。堤本、枕草子、さささろにくきもの「されぱみタル家ノ門ニ向ヒタル立蔀、引キ破リテ、只今、車ノ出デタル氣色」云云」源、四十九、東屋「小サキ家、設ケタリケリ、三條ワタリニ、されぱみタルガ、マダ、作リ止シタル所ナレバ」

ざれ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) [戲] 〔戲ルノ條ヲ見ヨ、ばむハ、容子ヲ云フ語、おいばむ(老)、きばむ(黄)ト同趣〕戲ルル狀ヲス。上邊ハ、風流メキテ、實ナキ意ヲ云フ語。源、二、帚木「臨時ノモテアソビモノノ、ソノ物ト、跡モ定マラヌハ、側付キ、ざればみタルモ、實ニ、斯ウシモ、シツベカリケリ」玉のをぐし「俗言ニ、ぉしゃれたるト云フコトナリ」同、四、夕顏「手ハ、惡氣ナルヲ、紛ラハシ、ざればみテ書イタル狀、品ナシ(惡筆ヲ繕ヒテ書キタルガ、卑シ)」同、三十四、上、若菜、上「若ヤカナル容、人ノ、ヒタブルニ、打チハナヤギ、ざればめルハ、イト多ク、數知ラヌマデ、集ヒサブラヒツツ」

されだよ (句) されださそノ條ヲ見ヨ。

され-まつ (名) [曝松] 松ノ一種、低クシテ、古木ノ曝レタル如キモノ、鉢植トシテ、弄ブ。天目松

ざれ-もの (名) [戲者] 好ミテ、戲ルル人。オドケモノ。狹衣、一、上「サヤウノ者ノ、來集リタル時ノシワザニヤ、云云、ざれものニヤナド、思シヤラルル」

✤**さ・れる** (動) [曝] 曝るノ口語。

✤**ざ・れる** (動) [戲] 戲るノ口語。ジャレル。

ざれ-ゑ (名) [戲繪] 戲レテ書キタル繪。可笑繪、鳥羽繪、オドケヱ、漫畫。戲畫 狂言記、末廣がり「繪ハ、ざれゑトシテゴザル」

さ-ろう (名) [沙漏] 〔沙ノ漏刻ノ義〕スナドケイ。

ざ-ろく (名) [坐彔] 〔倭訓栞、ざろく「坐彔ナルベシ、曲彔ヨリ出デタル名ニヤ」〕椅子ノ類、背ヲ凭スルモノ。木ノ匡ニ、籐ヲ編ミツケテ、作ル。ヨリカカリ。欹床 靠背 合類節用集(元祿)七、器財門「座彔、椅子之類」

サロン (名) 〔佛語、Salon.〕(一)客座敷。客間。客室 (二)名士、淑女ノ集會。(三)美術ノ展覽會場。

ざ-ろん (名) [坐論] 坐ナガラニシテ、論ズルコト。座上ノ論。人物志、聰、能謀始、而明、不見、援、乃可以坐論、而不可以處事」

ざろん-ばい (名) [坐論梅] 〔坐論、解セラレズ、一花ニ、三四實アルヲ怪シミテ、人ノ、坐論シタルコトナドアリシニヤ、櫻ニ、車返ト云フ、アルノ類カ(八房梅ヲ、越後ノ七不思議ノ中ニ加ヘテアリ)但シ、コレハ、試ミニ云フナリ〕梅ノ一種。一花ニ、雌蕊、二箇、乃至、八箇アリテ、一花、三四實ヲ結ブ、大抵、三實ノモノ、多シ。品字梅 又、一朶ニ、數花、集リテ開クモノヲ、花ざろんト云フ、八房梅ヲ、實ざろんト云フニ對ス。犬子集(寛永)一、春、上「落チユクハ、負カ座論ノ、梅ノ花」(實ノ、熟セズシテ落ツルヲ云ヘルカ、坐論ニ負クルニ寄セテ云フ)

ざ-わう (名) [藏王] 藏王菩薩。金剛藏王。天竺ノ神、忿怒、降魔ノ相ヲナシ、右ニ三鈷ヲ持シ、右足ヲ擧ゲタル貌ヲナス。大和ノ金峯山ニ祀リテ、藏王權現ト云フ。今昔物語、十二、三十六語「答ヘテイハク、此レハ、金峯山ノ藏王、熊野ノ權現」

ざわう-ごんけん (名) [藏王權現] 前條ヲ見ヨ。

ざわう-ぼさつ (名) [藏王菩薩] 前前條ヲ見ヨ。

さわが・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [騷然] 〔さわぐノ未然形ヲ活用ス(なつく、なつかし。いさむ、いさまし)〕(一)サワガハシ。カマビスシ。騷騷シ。枕草子、九、九十八段「雨ノ脚、横サマニ、さわがしう吹キタル」大和物語、下「おりずまノ、浦ニ潛カム、浮海松ハ、浪さわがしく、アリコソハセメ」字類抄「閙、サハガシ」(二)イソガハシ。イソガシ。セハシ。忽忙 源、廿九、行幸「イデ、此返事ハ、さわがしくトモ、我レセム」

さわが・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [騷] 〔さわぐノ他動(動く、うごかす。驚く、おどろかす)出典ニ、さわがいトアルハ、さわがしノ音便ナリ(況して、まいて。さしつおさへつ、さいつおさへつ)〕騷グヤウニナス。擾 源、廿二、野分「サバカリノ御心ドモヲ、さわがしテ」同、三十四、下、若菜、下「雷ヲさわがしタルタメシ」同、廿九、行幸「怪シキマデ思ヒアツカヒ、心ヲさわがいタマフヲ見侍ルニ」同、四十三、竹川「ナダラカニ宣ヒテ、心モさわがいタマハズ」

さわがは・し (形) [騷] 〔いそがし、いそがはしノ類〕前前條ノ語ニ同ジ。字鏡「擾、躁也、亂也、佐和加波志」天治字鏡、十二「亂語、多言、佐和加波志」

さわぎ (名) [騷] (一)サワグコト。混雜。騷擾 宇津保物語、俊蔭「親タチノ、亡クナリニケルさわぎニ、取リカヘノカタニシテ、皆失セハテニケリ」源、十四、澪標「我ガ心ノ、若ク、イワケナキニ任セテ、サルさわぎヲサヘ、引出デ」同、四、夕顏「天ノ下ノ人ノさわぎナリ」大和物語、上「純友ガさわぎノ時、討手使ニ差サレテ、少將ニテ、下リケリ」(二)次條ヲ見ヨ。

さわぎ-うた (名) [騷唄] 元祿ノ頃、流行セシ、一種ノ小唄。高聲ニテ、陽氣ニウタヒタルモノ。略シテ、さわぎ。後著昔物語(享和)「今モ、騷ギト云フ唄ハ、江戸ニモ、上方ニモアリテ、忠臣藏ノ七段目ノ茶屋ノ類、云云」

さわ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) [騷] 〔さわさわノ、さわヲ活用ス、音ナリ(さやさや、さやぐ)〕(一)動キテ、音、立ツ。喧シク、聲ヲアグ。騷動ス。萬葉集、五、廿八長歌「五月蠅ナス、佐和久兒等ヲ」字鏡「聒、讙語也、左和久、乃乃志留」(二)勤ミテ、立チハタラク。勤勞 勞動 萬葉集、一、廿二藤原宮之役民作長歌「眞木サク、檜ノ嬬手ヲ、云云、ソヲ取ルト、散和久御民モ、云云、百足ラズ、筏ニ作リ、泝スラム、勤ク見レバ、神ナガラナラシ」同、三、五十九安積皇子薨時作歌(長歌)「憑メリシ、皇子ノ御門ノ、サバヘナス、騷ぐ舍人ハ、云云、暮日異ニ、變フ見レバ、悲シキロカモ」(三)騷キ畏レナドシテ、落チツカズ。鎭マラズ。擾亂 字鏡「躁、擾也、動也、佐和久」伊勢物語、三十四段「言ヘバエニ、言ハネバ胸ニ、さわがレテ、心一ツニ、歎ク頃カナ」源、二、帚木「人ノ、アマタ知ラムハ、イカガアラム、心モさわぎテ、慕ヒ來タレト」

さわ-さわ (副) [騷騷] 〔音ヲ云フ語ナリ(喧喧ト、同趣)さわヲ活用シテ、さわぐトナル、さゐさゐ(潮さゐ)、さゑさゑトモ云フハ、音轉ナリ(聲、こゑ。さわだか。揺、すゑ)さいさいしノ條ヲモ見ヨ〕騷シク聲立テ、又、喧シク音立ツニ云フ語。サキサキ。サヱサヱ。ザワザワ。騷然 古事記、上「栲繩ノ千尋繩、打チ延ヘテ、釣ラセル海人ガ、口大ノ尾翼鱸、佐和佐和ニ、引寄セ上ゲテ」記傳「海人ガ、騷ギテ、引寄スルナリ」仁德紀、三十年十一月、大后歌「木鍬持チ、打チシ大根(序)、佐和佐和ニ、汝ガ言ヘセコソ」(言はせればこそナリ、大根ヲ嚙メバ、音ノ立ツヲ、皇后ノ嫉言ニ比シテ云ヒタマヒシナリ)釋紀、廿九「佐和佐和爾、私記曰、左

澤也加留也、[illegible]之根、[illegible]時、左和也加奈利こ左[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]加トスルハ、非ナリ、倘、さはやかノ語原ヲ見ヨ）萬[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ミ、[illegible]ノ妹ニ、物言ハ[illegible]、[illegible]ニカネツモ[illegible]ノ[illegible]ノ、サヤクニカケテ、夫ノ旅立ニ妻ノ、歎キテ、騒ギアヘル鳴ヲ鎮ムル意ナリト云フ）同、十四廿「アリギヌノ、佐恵佐恵沈ミ、家ノ妹ニ、物言ハズ來ニテ、思ヒ苦シモ」

ざわざわ [illegible] 騒騒 前條ノ語ニ同ジ、[illegible]、[illegible]ル[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]作[illegible]アア、[illegible]、さわさわ[illegible]ヤルソイ」「人聲ガ、さわさわスル」

さわだ・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）**騒立** サワサワト、音立ツ。サワガシクナル。[illegible]、[illegible]、ザワメク[illegible] 騒然 「人氣がさわだつ」

〔**さわたり**（名）[illegible]渡〔さはわたりノ約〕（多蠅、さばへ。河原、かはら〕）川瀬ノ、[illegible]ニ[illegible]渡[illegible]ル處 石橋 [illegible]ニ云フ澤とび、磯とび（飛石）ト、同意ナリ。萬葉集、十四、二十「左和多里ノ、手兒ニイ行キアヒテ、赤駒ガ、[illegible]ハヤ、[illegible]八[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ナリト[illegible]フ、[illegible]、安八郡[illegible]、[illegible]ノ[illegible]アルシトムフ、[illegible]、變遷セリ）

さわたり（名）[illegible]渡〔持へ得ズ、借字ナ[illegible]、[illegible]ハ、次條ノさわたるノ名詞形、渡りハ、歩みニテ、足ノ意トモナルカ、倘、[illegible]ベシ〕（一）鰆ノさわたりト云フハ、足ノ事ナリト云フ、調理シテ食ヒシモノノ如シ、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]味、美ナリ、[illegible]（二）料理ノ名 [illegible]

[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]六、[illegible]門 [illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]」

〔**さわた・る**・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）**狹渡**〔さハ、發語（さ守ふ、さ廻る、さ隔る）〕」渡ルト云フニ同ジ。過ギ行ク。行キ到ル。[illegible]、[illegible]、谷[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ル[illegible]、天ノ[illegible]、[illegible]、[illegible]、十[illegible]ノ花ノ、[illegible]ル間ニ、ホトトギス、鳴キテ[illegible]ル、君ハ聞キツヤ」同、十一、廿「雲間ヨリ、狹徑る月ノ（如ク、[illegible]ホシク、[illegible]、見ル由モカモ [illegible]、小車「月ノ面ヲ、佐和太流雲ノ、マサヤケク見ル」

ざわつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）**騒就**〔つくハ、秋就く、老就くノ、つくナリ、清音ニ、さわづくモ、アリシナルベシ、さごくト云フ語ハ、其音便轉ナリ〕 さわだつニ同ジ。ザワメク。ザワザワスル 騒然 「世間ガさわつく、見物人ガさわつく」

ざわめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）**騒然** さわだつニ同ジ、ザワザワスル。ザワツク [illegible]、[illegible]、近松作 ざわざわ、ざわめきワタ[illegible]見エタルハ、[illegible]ノ[illegible]兵、ゴサンナレ」

さわらび（名）**早蕨**〔さなへ（早苗）ノ語原ヲ見ヨ〕（一）蕨ヲ、芽出ノ時ニ云フ語。萬葉集、八「石走ル、垂水ノ上ノ、左和良[illegible]ノ、[illegible]出ヅル春ニ、成リニケルカモ」[illegible]、[illegible]早蕨「さわらびモ、萌エヤシヌラム、山人ノ、野燒ク烟ハ、タナビキニケリ」四方の赤良「早蕨ガ、握拳ヲ、振上ゲテ、山ノ横面、はる風ゾ吹ク」（二）襲ノ色目ノ名。表ハ、紫ニ、裏ハ青ナルモノ。春季ノ着用トス。

〔**さゐ**（名）**佐韋**〔さハ、發語。ゐハ、百合ノ約（早百合、小夜、狹衣）地震モ、根搖ノ約轉ト云フ、倭訓栞、さゐ「さゆりノ義、ゆ、り、反、いナレバ、同韻通ニテ、さ

ゐト云フナルベシ」〕山百合ノ古名。古[illegible]、中[illegible]「山由理草之本名、云佐韋也」

さゐ（名）**作爲** 爲タルコト。シワザ。行爲 法律ノ語ニ、犯罪構成上ニ、作爲、不作爲ト云フコトアリ。

さゐ（名）**差違** タガヒ。チガヒメ。[illegible]尺ト、[illegible]尺トハ、二寸五分ノ差違アリ」

ざゐ（名）**座居**〔鷹ヲ腕ニ居うる意ノ、音讀ノ語ナルカ〕鷹飼ノ、鷹ヲ操縦スルニ用キル具。柄、長サ三尺、上下ニ紫ヲツケ、別ニ、厚紙ヲ細ソク切リタル具ヲ聚メテ、其中心ニ、五寸許ノ紐ヲツケテ、柄ノ頂ニック。（好古叢誌、二篇、一）磨軍勢ヲ指揮スルさいはい（采配）ト云フモノハ、卽チ、コレヲ轉用セルモノナリ。[illegible]、[illegible]、新井白石）ニ、[illegible]、[illegible]ト云フ[illegible]ハ、山[illegible]トテ、[illegible]ナトツカフ時ニ、紙ヲ細ソク裁チタルヲ、竿ノ頭ニ結テ、手ニスル事アリ、[illegible]ノ[illegible]ク[illegible]タルハ、其左以ノ指麾スルママニ、諸鳥ヲ下リ聚ツ、將帥ノ、軍ニ令スルコト、コレニ似テ、其物ノ制モ、相似タレバ、其名ヲ取テ、カク名ヅケシナルベシ、鷹ヲツカフ左以ハ、麾ト書ク」倭訓栞、ざゐ、麾ヲ、ざゐト云フ、云云、鷹ヲツカフ時ノざゐモ、同義ナルベシ」

ざゐ（名）**座位** 座席ノ次第。座次。史記、[illegible]、列[illegible]、[illegible]官[illegible]位[illegible]」座位ヲ[illegible]

〔**さゐさゐ**（副）**騒騒** さわさわノ條ヲ見ヨ。

さゐん（名）**左院** 明治四年、太政官ニ設ケラレタル官署。議長、議員、等ヲ置カレ、諸立法ヲ議セシメラル、沿革アリテ、同八年、廢セラル。

〔**さゑさゑ**（副）さわさわノ條ヲ見ヨ。

さゑふ（名）**左衞士府** ゑじふ（衞士府）ノ條ヲ見ヨ。

さゑん（名）**菜園**〔さいゑんノ約（榮耀、ええう。景色、けしき）〕ハタ。ハタケ。野菜物ヲ[illegible]ル園 倭訓栞、さゑん「菜園也、今對馬ニテ、さいえんト云ヘリ」

さゑんもの（名）**菜園物** 前條ヲ見ヨ。

さゑもん（名）**左衞門** ゑもんふ（衞門府）ノ條ヲ見ヨ。

〔**さゑもんだいふ**（名）**左衞門大夫**〔大夫ハ、五位ノ稱ナリ〕五位ノ左衞門尉ノ稱。相當ハ、六位ナルガ、特ニ、五位ニ敍セラレタルニ、相模トシテ、稱スルナリ。[illegible]、下、左右衞門府「大尉、相當、從六位上」枕草子、八、九十一段、大夫は「左衞門ノ大夫」[illegible]左衞門大夫正則」

さゑもんふ（名）**左衞門府** ゑもんふ（衞門府）ノ條ヲ見ヨ。

〔**さを**（名）**佐青**〔さハ、發語、さ青ノ約（朝明、あさけ）佐丹塗ノ類、眞青ト云フ語モ、アリ〕青ト云フニ同ジ。色ノ、極メテ白キハ、青ミアリ。萬葉集、十六、三十「人魂ノ、佐青ナル君ガ、タダ獨リ、會ヘリシ雨夜ハ、久シトゾ思フ」源、六、末摘花九廿 色ハ、雪ハヅカシク、白ウテ、さをニ、[illegible]人ノ顏色、[illegible]湖月抄）餘リニ白キモノハ、青ク見ユルナリ」同、三十四、下、若菜、下七十「青ミ衰ヘタマヘルシモ、色ハ、さをニ白ク、美シケニ」

さを（名）**篙棹**〔さハ、刺すノ語根、をハ、水脈ノ、をニテモアルベキカ、倘、考フベシ〕（一）舟ヲ遣ルニ用キル、細長

キ具、竹、叉ハ、木ナリ。舟子、背向ニ、舟ノ上ニテ、コレヲ、水底ニ突キ張リテ歩メバ、舟、前ヘ進ム。叉、水棹。水馴棹。字鏡五十「檣、佐乎」倭名抄、十一、舟具「檣、…、棹竿也、刺レ船也、佐乎」神武紀「有二一漁人一、乗レ艇而至、云云、天皇勅、授二漁人椎、橋末一、令レ執而牽二納於皇舟一、以爲二海導者一」夫木抄、八、鵜河「舟端ニ、さを打チナラシ、篝火ノ、イカナル瀬ヲ、行キカヘルラム」(二)細ソキ竹ノ幹ヲ、種種ノ用トスルモノ。サヲダケ。タケザヲ。物干ざを、鳥ざを、釣ざをノ類、各條ヲ見ヨ。竿 (三)簞笥、長持ナドノ上ニ附ケテ、擔グルニ用キル、木ノ棒。ソレラヲ數フルニ、幾棹ト云フ。(四)雁行ノ、一列トナレルモノ。琴柱ノ股ノ形ニナレルヲ、鉤ト云フ。子供ノ、雁行ヲ見テ、興ジテ叫ブ口遊ニ「竿ニナレ、鉤ニナレ」又「琴柱ニナアレ」ナド云フ。犬子集(寛永)一、春「上ゲ舟ニ乗レ、棹ニナリツツ、歸ル雁」卜養狂歌集(寛文)春「春ノ頃、雁ノ、雁ヲ、多クさほニ懸ケ遊ルヲ見テ「雲路ヤ、ウ、カリガネト、鈎ニ、捕ラレテ後モ、棹ニナレナレ」永久四年百首、箏「空ノ色ニ、ヨソヘル箏ノ、柱ヲバ、列ナル雁ト、思ヒケルカナ」(五)秤竿、間竿、竿金、棹物、等ノ各條ヲ見ヨ。

さを (名) 〔棹〕 〔前條ノ語ニ同ジ〕 三味線ノ胴ト、轉手トノ間ノ、細長キ木。上等ナルハ、赤木、紫檀、ナドニテ造ル、下等ナルハ、赤樫、柞、ナリ、今ノ製ハ、全長二尺六分、表面ハ平カニシテ、背ハ圓シ、此面上ニ、絃ヲ張ル。一木ニテ造ルヲ、音ヲ發スルニ佳シトス、サレド、攜フルニ便ニセムガ爲ニ、繼棹トテ、取放シテ、繼グベク造レルアリ、二折、三折ナドアリテ、小匣ニ入ル、八折トテ、悉ク、胴ノ中ニ容ルベク造レルモ、アリ。棹ノ太サニ、三種アリ、細棹ト云フハ、其面、上ノ方ニテ、七分、下ノ方ニテ、七分五厘、長唄、琴唄、ナドニ用キル、唄三味線ト云フ。中棹ハ、上、七分五厘、下、八分、常盤津節、富本節、清元節、ニテ用キ、豐後三味線ト云フ。太棹ハ、上、八分、下、九分、義太夫節ニ用キテ、義太夫三味線ト云フ。女重寶記(元祿)四、三味線、所所ノ名「だう(胴)、さを」

さをいれ (名) 〔竿入〕 次次條ヲ見ヨ。

さをうた (名) 〔棹歌〕 〔舟子、棹サシナガラ歌フ〕 舟歌ニ同ジ。夫木抄、三十三、船「淡路舟、[illegible]レ漕ク、さをうたノ、聲バカリコソ、瀬門渡リケレ」

さをうち (名) 〔竿打〕 〔竿ハ、間竿ナリ〕 檢地ニ、間竿ヲ以テ、地積ノ坪數ヲ測量スルコト。檢地打。量土 古檢地ヲ改メテ檢スルヲ、竿入ト云ヒ、新檢ニ因リテ打チ出デタル出歩ヲ、竿延ト云フ。地方落穂集(寶曆)七「竿打著、云云、田ト、畑、或ハ、穂ノ上、刈田、荒畑、等ノ打樣、云云」地方凡例錄(寬延)二「竿延ハ、古檢ノ村、新檢ニナレバ、間竿ノ寸尺、違フニ付、打出ノ出歩アリ、之ヲ、竿延トモ云フ」倭訓栞、後編、さをいれ「量土ヲ云フ、備前檢地ト云フハ、伊奈備前守忠次ノ檢地也、其前ニ、石見檢地ト云フアリ、是レ、大久保石見守ガ竿入レシ地ナリ」俚言集覽、竿入「檢地ニ、田地ヲ測量スルヲ云フ」

さをかぢ (名) 〔棹舵〕 船ノ棹ト、舵ト。萬葉集、三廿「行キ出テテ、漕ギニシ舟ハ、竿梶モ、無クテ寂シモ、漕ガムト思ヘド」棹舵、干さずト云フハ、乾カサズ、即チ、休ミナク航行スルヲ云フ。祈年祭祝詞「青海原ハ、棹柁不干、舟艫ノ至リ留マル極ミ、大海ニ、舟滿チツヾケテ」古事記、中(神功)ニ「新羅王、毎年雙レ船不レ乾二船腹一」

さをがね (名) 〔竿金〕 金銀ヲ鎔シテ、竹筒ニ流シ込ミ、竿ノ如ク鑄タルモノ、中世、入用ノ程ヅツ切リテ、貨幣ニ用キタリ。(たけながしヲ參見セヨ) 續近世畸人傳(寛政)四、小萬女「銀ノ竹流、云云、針がねヨリハ、ヤヤ平メニシテ、長モ定マラズ、通稱ハ、さをがねト云フ、云云、心ニマカセテ、切用トナス」俚言集覽、竿金「金銀ヲ鎔シテ、竹筒ニ流シ入レタルヲ云フ」

さをさす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔棹刺〕 棹ヲ、水底ニ突キ張リテ、舟ヲ遣ル。(篙ノ條ノ(一)ヲ見ヨ) 棹 萬葉集、十三七長歌「泉ノ河ノ、速キ瀨ヲ、竿刺渡リ」同、十八三十「夏ノ夜ハ、路タヅタヅシ、舟ニ乘リ、河ノ瀨毎ニ、佐乎左指上レ」

さをしか (名) 〔小牡鹿〕 〔さハ、發語〕 牡鹿ト云フニ同ジ。牡鹿 顯宗卽位前紀「牡鹿、此云二左嗚子加一」萬葉集、十四「秋萩ノ、咲キタル野邊ニ、左牡鹿ハ、散ラマク惜シミ、鳴キヌルモノヲ」

さをだけ (名) 〔竿竹〕 さを(竿)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。鑓權三重帷子(享保、近松作)上「中ムスコ忠次郎、竿竹擔タヘ」

さをだち (名) 〔棹立〕 駻馬ニ云フ語、前脚ヲ擧ゲテ、體ヲ、直立セシムルコト。棒立。曾我會稽山(享保、近松作)三「婆羅門栗毛ノロニ寄レバ、跳ネアガリ、棹立、尻込、アタリヲ蹴立ツル馬烟」

さをてら (名) 〔蠟燭〕 〔竿照ノ義、てらノ條ヲ見ヨ〕 らふそく(蠟燭)ノ異名。(江戸、職人ノ語)

さをとし (名) 〔前前年〕 〔さハ、前ノ下略(月晦、つごもり。招鳥、をとり(囮))。先明年ヲ、さみやうねんトモ云フ〕 さきをととしニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

さをとめ (名) 〔早少女〕 〔さハ、早苗ノ下略(五月ノ條ノ語原ヲ見ヨ)〕合類節用集(元祿)四、人倫門「植女、又、作二早苗乙女一」倭訓栞、さをとめ「小苗少女ノ義ナルベシ」 陰曆五月ニ、農家ノ婦女ノ、早苗ヲ田植スルモノ。植うるヲ、取るト云フ、一齊ニ、田植歌ヲウタヒナドス。ウエメ。 插秧婦 顯季集「蒔キシ、早苗ノ稻ヤ、生ヒスラム、靜心ナク、見ユルさをとめ」[illegible]集「遠近ノ、里ノ少女子、早苗取ル、手許ノ暮レテ、日影サスナリ」八雲御抄、三、上、地儀「さなへとる、云云、植うるヲバ、とるトハ云フ」本朝食鑑(元祿)一、稻「本邦種レ苗者、大略、農夫、及、娘子、此稱二早乙女一、云云、選二早乙女之俊者一而令レ種レ之、其俗謂、不レ足者、不レ利レ田、此是、上田宜レ速、下田宜レ密之類也」東海道名所記(萬治)三、吉田御油「田ノ中ニハ、早乙女ドモ下リタチ、田簑、肘笠、著テ、思フコトナゲニ、田歌ヲウタヒテ、早苗ヲ植ユ」山家集(西行)下「磯菜摘ム、海人ノさをとめ、心セヨ、沖吹ク風ニ、波高クナル」(コレハ、タダ少女ニテ、さハ、發語ナルカ)

さをとめむし (名) 〔沙挼子〕 〔早少女ハ、早苗ヲ、卻行シテ植ウ、此蟲、卻行ノ性アリ、卽チ、異名ニ、あとびさりトモ、田植蟲トモ云フ〕 すりばちむしノ異名。(備後、南部) 俚言集覽、さをとめ「蟲ニ、沙挼子ト云フモノアリ、云云、三備、コレヲ、早苗女ト云フ、挼、挼ト、音、通ズ、退也、コノ蟲、好ミテ卻行スルヲ以テ、沙挼ノ名アリ、早苗女ト名ヅクルハ、苗ヲ種ル女ノ、卻行スルヲ以テ也」

さをとり (名) 〔竿取〕 檢地ノ竿打ニ、間竿ヲ取リテ、坪ヲ量ル者。地方落穂集、七、檢地致方「竿取一人ニ、百姓一人ヅツ附ケ、云云、何十何間、何尺、何寸ト、竿取、呼ビ候、云云」[illegible]、下 檢地仕樣「竿取ハ、年二十ヨリ、三十マデ、[illegible]ナル者、吉」(古事類苑)

さをど・る 〔[illegible]〕 小[illegible] 〔さハ、發語、[illegible]〕 [illegible]
(ノ如ク)、灼[illegible]、哭ニシモ泣カム、[illegible]カモ」夫木抄、五、[illegible] 即打スル、人ヤ聞クラム、杉ノ野ニ、さを[illegible]、[illegible]ナリ」

さをなぐるま (名) 〔擲梭間〕 〔下ノ出典ノ詩ノ流年一擲梭ト云フ句ヲ取リテ云ヘル語ナリ、梭ト[illegible]ハ、ズ、梭ト云フハ、[illegible]ナドノ、一擲梭ト[illegible]ハ、[illegible]、萬葉集、十三[illegible]ニ「投左ノ、遠ザカリ居テ、[illegible]ナリト云ヘリ、光陰、矢ノ如し、ナド云フニ思合ハセテ、面白キ考ヘトモ思ハルレド、なぐるさト云フ語、見目時代ヨリ、物ニ見エ、奈良朝時代ト[illegible]、左右ヘ投ゲヤル間。光陰ノ、瞬ク間ニ移ルニ譬ヘ[illegible]。[illegible]流年一擲梭」[illegible]「片叙送」「丹如擲梭」[illegible] [illegible] ぐるま、梭ヲ擲ル梭ト云フ約ヲ、兩方へたけトホス [illegible] 常)海錄(文政、山崎美成)十四、さをなぐるま「歌人落[illegible] 夏日易」明ヲ「擲梭ノ、月ノミフネヲ、漕ギアヘズ、梭たぐるまニ、明ケワタル空」道済院殿判、さをなぐるまトハ、織ルをさト云フ約ヲ、彼方此方へなぐる[illegible] 作レルニヤ、ソレヲ、船ノ棹ニ取リナサムハ、大ニ事チガヒテヤ侍ラム」二道済院ハ、三條西實隆、天文六[illegible] トハ、サリトハ、ホンニエ、さをなぐるまノ、ヨルベナキ」

さをのび (名) 〔竿延〕 さをごちノ條ヲ見ヨ。

さをぶち (名) 〔竿[illegible]〕 [illegible]、天井ノ面ニ、[illegible]長キ[illegible]、凡ソ、一尺五寸間ニ並ベテ、打附ケオクモノ。

さをぶね (名) 〔竿小舟〕 〔さハ、發語〕小[illegible]「[illegible]」たぶねト云フニ同ジ。眞小舟[illegible]

さをもちのまひ (名) 〔棹持舞〕 狛桙ノ條ヲ見ヨ。

さをもの (名) 〔棹物〕 〔細長ク造レバ、棹ト云フ〕(一)餅菓子ノ名。糝粉ト、沙糖トヲ、水ニテ[illegible]、蒸シテ搗キ、[illegible]用ノ染料ニテ、種種、模様ヲ作リテ、細長ク巻込ミ、小口切ニスレバ、花形、[illegible]、[illegible]ノ紋ナド、[illegible]ハルルモノ。(二)其外、細長キ菓子、又ハ、羊羹ヲ細長ク切リタルモノナド、折ニ入レタルヲ數フルニ、棹ト云フ。「[illegible]」

さをを (名) 〔小山峯〕 〔さハ、發語〕小峯ト云フニ同ジ。小サキ峯。大峯ニ對ス。古事記、下(允恭)長歌「隱國ノ、泊瀬山ノ、大峯ニハ、旗張リタテ、佐袁袁ニハ、旗張リタテ」

し　じ

志 五十音圖、佐行、第二ノ假名(さノ條ヲ見ヨ)志ノ音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキ、其發聲ヲ失ヒテ、韻ノいトナルコトアリ、まして(況)、ながし(長)、さしつおさへつ(差抑)ナドノ、まいて、ながい、さいつおさへつ、トナルガ如シ。

じ 志ノ濁音ノ假名。(ざノ條ヲ見ヨ)此音ハ、他ノ音ノ下ニアルトキハ、發聲ヲ失ヒテ、韻ノいトナルコトアリ、あるまじノ、あるまいトナリ、おなじどしノ、おないどしトナルガ如シ。

志 (名) 〔風〕 かぜ(風)ノ古名。神代紀、上[illegible]「[illegible]之氣、化爲[illegible]、[illegible]級長戸邊命(シナトベノミコト)」[illegible] 又、轉ジテ、ち。「東風(コチ)」「速風(ハヤチ)」「疾風(ハヤテ)」

志 (名) 〔爲〕 爲ルコト。伊勢物語、八十三段「[illegible]ノ御子、[illegible]ニナハシマス供ニ」

志 (名) 〔[illegible]〕 〔爲ノ義、常ニ、師ノ字ヲ假ル〕諸ノ工匠ノ稱。(熟語ニノミ)工 「塗師」「染師」「弓師」「矢師」「蒔繪師」

志 (名) 〔師〕 〔大人ノ略、或ハ、云フ、爲ノ義、師ノ字音ト、暗合ス〕工人ノ長タル、其技ヲ爲ル者。垂仁紀、三十二年七月「土師連」倭名抄、六[illegible]「[illegible]」「[illegible]師」

志 (名) 〔大人〕 〔うし(大人)ノ義〕人ヲ敬フ語。「群大人(ムラウシ)」「宮大人(ミヤシ)」「戸大人(トシ)」「何大人(ナニガシ)」「某大人(ソレガシ)」

志 (名) 〔主〕 〔ぬしノ略〕ヌシ。ノシ。陸前、名取郡、田植歌「今日ノ田植ノ、田主樣(タノシサマ)ハ、大米[illegible]ダ」たうゑうた[illegible]ヨ。宮主(ミヤスシ)[illegible]、宮主(ミヤノシ)

志 (名) 〔死〕 〔過ぎノ約、死ノ音ト暗合ス〕(一)[illegible]、命數ノ、盡クルコト。壽命ノ、ナクナルコト。萬葉集、五[illegible] (二)刑ノ名。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

志 (名) 〔尻〕 〔後ノ義、志付、志所、志切れ、ノ類〕物ノ、後ノ方。

志 (名) 〔尿〕 〔志志ノ略〕シト。ユバリ。小便。倭名抄、十四[illegible]「[illegible]」

志 (名) 〔下〕 人名ノ下ニ用キラレテ、熟語トナル語。神武紀[illegible]、高倉下「私記[illegible]、太加久良志」

志 (名) 〔石〕 〔穴石(アナシ)、明石(アカシ)、出石(イツシ)ノ類ノ、志ナリ、熟語トナル時ニ用キラル〕イシ。イソ。萬葉集、六[illegible]「咲ク花ノ、色ハ易ハラズ、百石城(モモシキ)ノ、大宮人ゾ、立チカハリヌル」神武紀[illegible] [illegible] 八十八年七月「赤石玉一箇」萬葉集、十四[illegible]「信濃ナル、[illegible]ノ川ノ、さされ思モ、君シ踏ミテバ、玉ト拾ハム」

志 (名) 〔羊蹄菜〕 草ノ名、志のねノ條ヲ見ヨ。シブクサ。備前ニテ、今モ、志いト云フ。倭名抄、十七[illegible]野菜類「羊蹄菜、之布久佐、[illegible]」[illegible]ノ、世ノ人君羊蹄、春ナカリケリ」(指ス助辭ノ志ニ、借字シタリ)

志 (名) 〔子〕 (一)コ。コドモ。(二)爵ノ名、其條ヲ見ヨ。(三)師ヲ尊稱スル語。夫子。先生。「子ノ曰ク」「孔子」「孟子」

志 (名) 〔士〕 (一)學藝ナドアリ、又、仕官ナドシテ、人民ノ上流ニ居ル人ノ稱。國語、[illegible]「[illegible]士、農、工、商[illegible]」[illegible]

「日中不₂暇食₁以待₂士、士以₂此歸₁之」(二)サムラヒ。武士。(三)〔男子ノ通稱、淮南子、原道訓、士有₂一定之論₁、女有₂不易之行₁」枕草子、三、廿八段「士ハ、己ヲ知レル人ノ爲メニ、死ヌ」

志 (名) 氏 (一)〔ウヂ。一族。氏族。伊勢物語、百一段「藤氏ノ、殊ニ榮ユルヲ思ヒテ」(二)苗字ノ下ニ添ヘテ、敬フ語。「加藤氏」

志 (名) 市 (一)イチ。マチ。市街。(二)物品ノ交易機關。イチバ。易經、繫辭、下傳「日中爲ㇾ市、致₂天下之民₁、聚₂天下之貨₁、交易而退」(三)行政區劃ノ一、府縣ト町トノ中間ニ位スル地方自治團體。「東京市」

志 (名) 水 〔水ノ音ノ約、水良玉、水長鳥、志ガラミ、志ヅク、志タタル、志ムノ類例〕ミヅ。

志 (名) 史 (一)昔ヨリ、世世ニ起リシ、種種ノ事柄ヲ記シタル書物。歴史。(二)事ヲ記ス官。唐書、劉知幾傳「史有₂三長₁」(三)古ヘノ太政官ノ主典、左、右、大、少、アリ、一切、官中ノ文書ヲ知リ、諸司、諸國ノ庶務ヲ記錄ス。職原抄、上「史、八人、左右大史、各二人、云云、左右少史、各二人、已上、謂₂之八史₁」(四)神祇官ノ主典。職員令、神祇官、云云、大史一人(掌下受ㇾ事上抄、勘₂署文案₁、檢₂出稽失₁、讀₂申公文₁上)少史一人(掌、同₂大史₁)」

志 (名) 使 古ヘ、使ヲ奉ジテ巡行スル官、又、事アルニ臨ミテ、一時、設ケラルルモ、アリ、四等ノ官ヲ、長官、次官、判官、主典、トス、觀察使、按察使、防鴨河使、修理宮城使、防城使、造寺使、等アリ。

志 (名) 志 紀傳體ノ歴史ニ、本紀、列傳ノ外ニ、天文、地理、禮樂、政刑、等ノ事ヲ、別ニ、一部トシテ、記シテ添フルモノ。

志 (名) 司 古ノ官ノ名、省ノ被管ニシテ、寮ノ次タリ、四等ノ官ハ、正、佑、令史ニテ、次官ヲ缺ク、主水司、主膳司、等、コレナリ。

志 (名) 祠 (一)ヤシロ。ホコラ。神社。正字通「祠、斯時切、音詞、廟也」倭玉篇、上「祠、ヤシロ、マツル、マツリ」垂仁紀、廿五年三月「倭姬命、求₂鎭₁坐大神₁之處₁云云、故隨₂大神教₁、其祠立₂於伊勢國₁」神功紀、九年十二月「穴門直之祖踐立、津守連之祖田裳見宿禰、啓₂于皇后₁曰、神欲ㇾ居之地、必宜ㇾ奉ㇾ定、則以₂踐立₁爲₂祭₂荒魂₁之主₁、仍祠立₂於穴門山田邑₁」(二)祭ルコト。マツリ。

志 (名) 詞 コトバ。(下ノ出典ヲ見ヨ)塡詞圖譜、下「凡ソ、唐ヨリ以前ハ、樂府ノ詞ヨリ外ニ、譜アリテ、管絃ニ被ラシムルナリ、本邦、天王寺ニ傳ル所ノ樂、及ビ、猿樂ノ笛太鼓ニ、譜アルガ如シ、詩餘ニ至テ、始テ其詞ヲ唱ヘテ、直ニ管絃ニカケ、別ニ譜ヲ用サルナリ、是レ、古ノ樂ト異ナル所以ニシテ、今ノ雜謠ニ似タルナリ」作詩志穀「詩餘ハ、歌詞ナリ、樂府聲詩ノ變ニシテ、徐陵ガ玉臺、韓偓ガ香奩ノ遺響ナリ、宋ノ柳永、蘇軾ノ變ジテ、新聲ヲ作リシヨリ創レリ、モト、閨閣ノ情ヲ言フ艷詞ニシテ、滿紅紅念奴嬌ナド云フ、一定ノ節曲アリ、假令バ、詠雨ノ詩餘ヲ、滿紅紅ノ節曲ニテ作レバ、詠雨ノ題ナレドモ、命ズルニ、滿紅紅ヲ以テス」性靈集、一「羅皮函詞」本朝文粹、十二、辭「髮落詞」

志 (名) 肢 身體ノエダ。手足。肢體。

志 (名) 私 (一)一身、一家ニ關係スルコト。ワタクシ。(公ニ對ス)書經、周官篇「以ㇾ公滅ㇾ私、民其允懷」(二)女子ノ、其姉妹ノ夫ヲ呼ブ語。倭名抄、二、婚姻類「私、爾雅云、女子謂₂姉妹之夫₁爲ㇾ私、公私私字也、注「和名、與ㇾ壻同」字類抄「私、シ、ムコ、姉妹夫爲ㇾ私」

志 (名) 屍尸 シカバネ。死骸。史記、伍子胥傳「出₂其尸₁鞭ㇾ之三百」字類抄「尸、カバネ」

志 (名) 絲 (一)度量ノ名。毛ノ十分ノ一。(二)がう(毫)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。(二)いと(絲)ニ同ジ。

志 (名) 咫 尺度ノ名。八寸。字類抄「咫、八寸」「咫尺」

志 (名) 祀 マツルコト。マツリ。祭祀。書經、五子之歌篇「荒₂墜厥緒₁、覆ㇾ宗絕ㇾ祀」

志 (名) 師 (一)〔人ヲ教フルニ、才藝ノ道ヲ以テスルモノノ稱。師匠。教師。論語、述而篇「三人行、必有₂我師₁」禮記、學記篇「擇ㇾ師、不ㇾ可ㇾ不ㇾ慎也」枕草子、五、四十五段、サルベキ事ナド問ハセ給フ御文ノ師ニテ、サブラフ」(二)〔法師ノ略。萬葉集、八五₁十「嗤₂咲師₁詞」佐馬樂、老鼠「法師ニ申サム、師ニ申セ、重ネタレバ、略ス、東屋ノまやト、同趣」(三)軍隊。イクサ。左傳、莊公八年「齊師何罪」

志 (名) 詩 唐詩。やまとうたニ對シテ、からうたトモ云フ。一句ハ、常ニハ、五字、或ハ、七字ナリ、コレヲ、五言、又ハ、七言ト云フ。又、四言、六言、九言、モアリ、句毎ニ、末ニ、同ジ韻ノ字ヲ履ミテ、歌フニ便ニス。(轉句ト云フハ、履マズ)又、句中ノ字ハ、三句毎ニ、互ニ、平、仄、ヲ用キ、或ハ、同類ノ語ヲ相對セシムルモアリ、句ノ多少等ニテ、古詩、律、排律、絕句、等ノ體アリテ、種種ナリ、各條ニ注ス。文安百首、定家「秋ニタヘヌ、言ノ葉ノミゾ、色ニ出ヅル、大和ノ歌モ、唐ノ詩モ」

志 (名) 刺 〔正字通「古無ㇾ紙、竹木書₂姓名₁曰ㇾ刺」〕ナフダ。名刺。翼苑「通ㇾ刺、字不ㇾ可ㇾ識」「刺ヲ通ズ」

志 (名) 巵 (一)さかづき(杯)ニ同ジ。四升(我ガ國ノ三四合)ヲ容ルル大キサノモノ。史記、高祖紀「奉₂玉巵₁起爲₂太上皇壽₁」(二)ベニ。臙脂。史記、貨殖傳「巴蜀亦沃野、地饒ㇾ巵」

志 (名) 姿 スガタ。カタチ。ナリ。容姿。後漢書、李固傳「胡粉飾ㇾ貌、搔ㇾ頭弄ㇾ姿」

志 (名) 瓷 志のうつはもの。釉ノカカリタル陶器。

志 (名) 資 (一)モトデ。資本。「資ヲ借ル」(二)ウマレツキ。性質。資性。「剛毅ノ資」(三)タスケ。助力スルコト。戰國策、秦策「王資₂臣萬金₁」

志 (名) 贄 タテマツルモノ。進物。國語、晉語「委ㇾ質爲ㇾ臣」韋注「質、贄也」

志 (名) 枝 數量ノ名。錢、百文。書言字考節用集、七、數量門「一枝」注「又一指、同、錢百文曰₂一枝₁」

志 (名) 齒 (一)は(齒)ニ同ジ。(二)ヨハヒ。年齡。(三)列ブコト。仲間ニ、ナルコト。ヨハヒスルコト。禮記、王制篇「出ㇾ鄉不ㇾ與ㇾ士齒₁」

志 (名) 梓 あづさ(梓)ノ木ヲ彫刻シテ、書籍ヲ板行スルコト。出版。字典「俗謂ㇾ上₂文書於板₁曰ㇾ梓」

志 (名) 弑 長上ヲ、殺害スルコト。シイスルコト。左傳、宣公十八年「凡自ㇾ內虐₂其君₁曰ㇾ弑、自ㇾ外曰ㇾ戕」「弑虐」

志 (名) 翅 鳥、又ハ、昆蟲類ノツバサ。翼。漢書、翟方進傳「見₂不善者₁誅ㇾ之、若₂鷹鸇之逐₁ㇾ鳥爵₁也、翅翼雖ㇾ傷、不ㇾ避也」

志 (名) 屣 くつ(沓)ニ同ジ。魏志、王粲傳「倒ㇾ屣迎ㇾ之」「脫ㇾ屣」

志 (名) 諡 オクリナ。死者ニ贈ル名。(生前ノ行迹ニ因リテ、命ズト)周禮、春官篇、大史、疏「賜ㇾ諡之制、實始₂於周₁也」

志 (名) 駟 四匹ノ馬。又、四頭立ノ馬車。駟も舌に及ばずト云フハ、人、一度、言ヲ出シテ過リナバ、之レヲ取消サントスルモ、駟馬ヲシテ之レヲ追フトモ及バズトノ意。論語、顏淵篇「棘子成曰、君子質而

[illegible]、何ハ[illegible]二[illegible]事[illegible]君子[illegible]
[illegible]ニ[illegible]云フ[illegible]ハ、
[illegible]。[illegible]シナルヲ云フ語[illegible]史記[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]の、[illegible]過ハ[illegible]
[illegible]ト云フハ、[illegible]馬ノ、[illegible]過グル
[illegible]ノ[illegible]スルコトノ、[illegible]メテ
[illegible]云フ[illegible]三

志 [illegible] 鷙 [illegible] 二同ジ[illegible]
[illegible]ト云フ鳥ハ、小サケレドモ、虎ヲ害スルカアリ」

シ (名) [師獅] 獅子ノ條ヲ見ヨ。

志 (代) 〔其ノ轉〕ソレ。萬葉集、十八[illegible]長歌「老人モ、女ノ童兒モ、之ガ願フ、心足ヒニ、撫デタマヒ」同、十九[illegible]長歌、偲ビニセヨト、黄楊小櫛、之ガ[illegible]

志 (代) [汝己] ナンヂ。オノレ。イマシ。
[illegible]
[illegible]ムヨ、アタラ[illegible]」落窪物語、二「アナ、若若シノ[illegible]ヤ、志ガ身ノ程知ラヌコソ、イト心憂ケレトテ、打チアザ笑ヒ給フ」

志 (代) [子] (一)人代名詞ノ自稱ニ用キルモノ。[illegible]、曲禮、下篇「小侯入天子之國、曰某人、於外曰子」(二)人代名詞ノ對稱ニ用キルモノ。[illegible]
[illegible]

志 (數) [四] (一)ヨ。ヨツ。(二)四方。
(熟語ニ)「四海」「四隣」(三)四號。四番。
(順次ニ)「第四」「四子」

志 [illegible]ト云フ[illegible]動詞ノ第五變化、[illegible]ノ條ヲ見ヨ

し (自動) 過去ノ意ヲ云フ助動詞ノきノ第一變化、きノ條ヲ見ヨ。「行キし時アリし世」

し (副) 〔事ヲ、一筋ニ重ク思ハシムル意〕[illegible]指シテ云フ[illegible]萬葉集[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]、事之終ラバ、障ハズ、歸リ來マセト」

し (副) 〔夫ニ通ズルナルベシ〕第二類ノ天爾波、指ス意アリテ、ぞニ似タリ、常ニ、休メ詞ト云フ、サレド、自ラ、上ノ語ヲ強ムル意味アルナリ、[illegible]
[illegible]へベし生キトし生ケルモノ」

志 (感) 〔おしノ條ヲ見ヨ〕(一)禮儀ノ時、[illegible]高キヲ警ムル聲、貴人ノ通行ノ際、先追ノ聲。先キニ居ル人ヲ呼ビカクル聲、延ベテ、しい。[illegible]
[illegible]ト鳴フ」(二)馬、又ハ、鳥獸ナドヲ追フ聲。しい。萬葉集[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]そニ[illegible]タリ」

志 [接尾] [子] (一)或ル語ニ添ヘテ、男子ヲ表ハス語。「才子 遊子」(二)人名ノ下ニ添ヘテ、親シム意ヲ表ハス語。[illegible]
(文化、三馬)四編、上「ヤ、驛兵衞子、ドウナスッタ」

志 [接尾] 枝 細長キモノヲ數フル語。[illegible]

志 (名) 兒 〔說文「兒、孩子也、象形小兒頭囟未合」〕ヲサナゴ。ワラベ。コドモ。小兒。兒童。[illegible]

志 (名) [字] (一)言語ヲ、文書ニ寫スニ用キル標、各國相異ナリ、假名、諺文、梵字、洋字、等、皆、コレナリ。文字。モンジ。[illegible]
[illegible]ヅカシク人ヤ思フラン」(二)假名ニ對シテ、專ラ、漢字ノ稱。[illegible](三)錢ヲ、紅白ノ紙ニ包ミ、賭ニ用キルモノノ稱。[illegible]
[illegible]負ニ賭クル、おあしナラントアリケレバ、司ノ前、[illegible]キ給ヒ、イヤイヤ、字ニテ候ハズ」(四)錢、一文ノ稱。冥途飛脚(正德、近松作)上「如何樣トモ仕[illegible]テ、一錢、一志、損ヲケマジ」

志 (名) [寺] 寺。(熟語ニノミ用キル)「延曆寺」「東大寺」

志 (名) [侍] 王朝時代、其官雜務ヲ兼ジテ、篤實者、又ハ、高齡者ニ命ハリテ、用ヲ便ゼシメシ人。[illegible]
[illegible]「一人ニ義解、謂、其給、侍者、不レ限ニ貴賤、皆普給レ之、[illegible]人、年亦八十者、[illegible]二人ニ」

志 (名) [時] (一)トキ。時刻。源、三十八、夕霧「今宵、此ノワタリニ宿リテ、初夜ノ志果テム程ニ、[illegible]ノ程ニ[illegible]十六段、いひにくきもの「暫シ候フベキヲ、志ノ程ニモナリ侍リヌベケレバト、マカリ申シテ出ヅルヲ」(二)時ヲ稱フルニ、熟語トシテ用キル語(ときノ條ヲ見ヨ)[illegible]

志 [illegible] 慈 情深キコト。慈悲。[illegible]

志 (名) [璽] 〔玉ヲ以テ製シタル印、支那ニテ、秦以來、天子ノ用トス、諸侯王以下ニハ、金銀ナルアリ〕(一)あまつしるし(天津璽)ノ條ヲ見ヨ。(二)おしで(押手)ノ條ヲ見ヨ。

志 (名) [事] (一)コトバ、[illegible](二)王朝時代、內外ノ雜任以下ノモノガ、事ヲ記シテ、諸司ニ申牒スルコト。(其式ハ、[illegible]出典ヲ見ヨ)[illegible]

志 (助動) 不 〔此語、語尾ノ變化ナシ〕ずノ假定ニテ、動作ヲ[illegible]シテ、打消ス助動詞。古事記、上[illegible]ヤツ鳥、[illegible]ニ、吾ガキネシ、妹ハ忘レ志、世ノコトゴトニ」[illegible]

志あ (名) [四阿] 〔阿ハ、簷ナリ〕アヅマヤ。(東屋ノ第一語)ノ條ヲ見ヨ)[illegible]

志あい (名) [至愛] 至ッテ、愛スルコト。[illegible]

志あい (名) [私愛] ヒソカニ、愛スルコト。[illegible]

志あい (名) [自愛] (一)自ラ、其身ヲ、大切ニスルコト。老子、七十二章「聖人自知不自見、自愛不自貴」(二)行狀ヲ、愼ムコト。自重。史記[illegible]「人人自愛、而重犯法」[illegible]卽位前紀「慎以自愛矣」(三)物ヲ、重ク愛スルコト。珍重。太平記、廿八、漢楚合戰事「項王、自[illegible]愛シテ、[illegible]

志あい (名) 慈愛 イツクシミ。[illegible]

志あがり (名) [仕上] シテアゲルコト。爲シテ、成ルコト。落成 成功

志あが・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [仕上]

爲テ、成ル。爲シ果ツ。デキアガル。落成 成功 甲陽軍鑑、九、上「品第廿四「東ニ八、被官、仕あがり、主ノ名字ヲ申ウクル事ハ、アレ共」

しあき (名) ［爲飽］ シアクコト。日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)四「一家ノ果報、榮耀ノしあき」

⁂**しあきる** (動) ［爲飽］ 次次條ノ、しあくノ口語。

しあく (名) ［四惡］ 人ノ避クベキ、虐、暴、賊、有司ノ、四ツノ稱。(下ノ出典ヲ見ヨ) 論語、堯曰篇「子曰、不教而殺謂之虐、不戒視成謂之暴、慢令致期謂之賊、猶之與人也、出納之吝、謂之有司」 室町千疊敷(享保、近松作)一「義祖尊氏公ノ箕裘ヲ繼キ、國家ノ政道、四惡ヲ退ケ」

しあく・く・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) ［爲飽］ 事ヲナシテ、倦ム。シアキル。

しあぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) ［仕上］ 爲テ、終フ。爲シ遂グ。デカス。成功 出世景清(元祿、近松作)「御身モ、ズンド、女房ヲ仕上げタリ」

しあくしゅ (名) ［四惡趣］ (惡趣トハ、造惡ノ者ノ趣向スル所ノ義) 佛教ノ語。六道中ノ、四惡道。即チ、地獄、餓鬼、畜生、修羅、ノ稱。五十年忌歌念佛(寶永、近松作)下「コノ四惡趣ノ苦患ヲ解脱シ」

しあげ (名) ［仕上］ (一)シアグルコト。デカシタルコト。成功 「細工物ノしあげ」 (二)事ヲ、ナシ終ヘタル結果。 鶉衣(安永、也有)刈萱辭「カリソメナガラ、生涯ノ仕上げナレバ、一大事ノ分別ニハアリケリ」 (三)葬送。喪ノ事ヲ、シテ、靈ヲ、天ニ送リ上グルコト。 言國記、文明六年八月十三日、伏見殿(貞常親王)御しあげ也、御經供養有之、二尊院沙汰也」

しあげかんな (名) ［仕上鉋］ 材木ヲ削ル、最終ニ用キル、薄刃ノ鉋。

しあげもの (名) ［仕上者］ 賤シキ身分ヨリ起リテ、富貴ノ人トナリタルモノ。 初井家日記、丹波守七頭七組「我ガ家ノ仕上者」

⁂**しあげる** (動) ［仕上］ しあぐ(仕上)ノ口語。

しあさって (名) ［明明後日］ (重明後日ノ意) しあすノ、去リテ、後ノ日。明後日ノ次ノ日。隔明後日。(燕石雜志、四)

しあす (名) ［明後日］ (重明日ノ略) あさて(明後日)ニ同ジ。 催馬樂、櫻人「明日モ、サネコ實來ジヤ、ソヨヤ之安須モ、實來ジヤ」

しあつかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) ［爲扱］ 事物ヲ、種種ニ取扱フ。モテアツカフ。 宇治拾遺、七、第五條「遙ニ後レタリトテ、見エズ、ホトホトシキサマニ見ユレバ、マコトニ騷ギマドヒテ、しあつかふヲ見テ」

しあはす・ス・セ・サシ・セ (他動、四) ［爲合］ ナシ合フヤウニス。ナシ行フ。

しあはせ (名) ［仕合］ (一)仕合ハセタルコト。運ニ當リ、不運ニ當ルコト。命運 狂言記、末廣がり「ハテサテ、仕合せナ事デ御座ル」「しあはせ善シ」しあはせ惡シ」 (二)時ニ會ヒタル場合。幸福。幸運。 鳩巢小說、中、田中孫兵衞「(稻葉式部)近ク寄リ候ハバ、討捨ツル、云云、(孫兵衞)脇差ヲ二三間投ゲ捨テ、丸腰ニナリテ、進寄ル、此仕合故、式部モ少シ、寛ヤカニ成ラレ候」

しあひ (名) ［仕合試合］ シアフコト。互ニ、爲ルコト。武藝ナド、雙方立會ヒ、鬪ヒテ、技ヲ比ブルコト。試技 大友興廢記、矢部刑部丞御勘氣ノ事「肥前國ニ來リテ、刑部丞ニ、仕合ヲ望ム」

しあふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) ［仕合］ 互ニ、爲ス。共ニ、行フ。

〔**しあふる・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ** (他動、下二) ［爲敢］ シオホス。シトグ。 源、十三、明石四十「人人、下ノ品マデ、旅ノ裝束、珍ラシキサマナリ、イツノマニカ、しあへケント見エタリ」

しあまり (名) ［字餘］ 歌ノ句ハ、句每ニ、五音、或ハ、七音ナルヲ常トスルヲ、六音、或ハ、八音ナドニ詠ムコト。字餘ニ入ルベキ音ハ、あ、い、う、お、四ツノ音ニ限ルト云フ、或ハ、わヲモ詠ミ入ル、蓋シ、母韻、半母韻ナレバ、善ク約マリテ、障ラズ聞ユルナリ。又、「御垣守ル、衞士ノ燒ク火ノ、夜ハ燃えテ」ナドモアレバ、えモ、詠ミ入ルベキガ如シ。 三十六音ノ歌「ワタツ海ノ、波間搖キワケテ、潛ク蜑ノ、息モツキアヘズ、物ヲコソ思ヘ」(讚岐)「忘レヌラム、恨メシト思ヒ、思フトテモ、待ツベキニアラズ、言ハムトモ言ハジ」(定家) 後拾遺集、廿、誹諧「サモアラバアレ、大和心シ、賢クバ、ホソヂニツケテ、アラス計リゾ」 風雅集、十六、雜、中「白ミマサル、空ノ綠ハ、薄ク見エテ、明ケ殘ル星ノ、數ゾ消エ行ク」 信明集「ホノボノト、有明ノ月ノ、月影ニ、紅葉吹オロス、山颪ノ風」

しあん (名) ［思案］ 思ヒ、メグラスコト。カンガヘ。分別。思考 思慮 保元物語、三、爲朝渡鬼島并最期事「矢一ツ射テコソ、腹ヲモ切ラメトテ、立向ヒ給フガ、最期ノ矢ヲ、手淺ク射タランモ無念ナリ、ト思案シ給フ」 思案に餘るトハ、分別ガ出來ズ。思案に盡きるトハ、途方ニ暮ルル。思案投首トハ、考ヘコミテ、首ヲ傾ケ居ルコト。

しあんがほ (名) ［思案顏］ 思案スル顏ツキ。 心中天網島(享保、近松作)上「死ナズニ、事ノ濟ムヤウニ、ドウゾ、ドウゾ、頼ヤスト、語レバ點頭ク、思案顏」

しあんどころ (名) ［思案所］ 思案スル場所。思案スベキ點。 源氏烏帽子折(元祿、近松作)二「一生ノ思案所」

しあやまち (名) ［爲過］ シアヤマツコト。シソコナヒ。過失ノ所行。

しあやまつ・ツ・テ・タ・チ・テ (他動、四) ［爲過］ シソコナフ。ヤリソコナフ。 榮花物語、一、月宴「胸塞ガル心地シテ、物ヲダニモ食ハズナリニケリ、イトイミジク淺マシキ事ヲモ、しあやまちツルカナト」

〔**しありく・ク・ケ・カ・キ・ケ** (他動、四) ［爲步］ 物ヲナシツツ、步ク。物ヲ行ヒツツ、日ヲ送ル。 伊勢物語、六十五段「男ハ、女シ遁ハネバ、カクしありきツツ、人ノ國ニアリキテ、カク歌フ」

しい (名) ［尿］ (尿ノ略ナル、しノ延、小便器ノ虎子ヲ、しの匣ト云フ) し(尿)ニ同ジ。小便。小兒ノ語ニ、しっし。 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「チョット、お山ヲ見セナガラ、小便ヲヤリマセウ」 古キ三下リノ文句「蓮ノ葉ニ、コボレシ露ハ、釋迦ノ涙カ、アリガタヤ、所ヘ蛙ガ、ヒョコト出テ、ソレハ私ノ、しいデ候」

しい (名) ［紫衣］ 紫衣ニ同ジ。

しい (名) ［緇衣］ 僧服ノ稱。墨染ノ衣。緇衣。 論語、鄉黨篇「緇衣羔裘、素衣麑裘、黃衣狐裘」

しい (名) ［四夷］ (一)古ヘ支那ニテ、四方ノえびすヲ呼ブ稱。即チ、東夷、南蠻、北狄、西戎、ヲ云フ。 禮記、王制篇「中國戎夷五方之民、皆有性也、不可推移、東方曰夷、被髮文身、有不火食者矣、南方曰蠻、彫題交趾、有不火食者矣、西方曰戎、被髮衣皮、有不粒食者矣、北方曰狄、衣羽毛穴居、有不粒食者矣」 爾雅「九夷、八狄、七戎、六蠻、謂之四夷」 (二)四方ノ、不逞ノ徒。 書經、大禹謨篇「無怠無荒、四夷來王」 盛衰記、十七、源中納言侍夢事「太政入道、日比ハ、四夷ヲ退ケシ大將軍ナリシカ共、今ハ、勅宣ヲ背ニ依テ、神明、節刀ヲ召返サレケリ」

しい (名) ［私意］ (一)ワタクシヲ計ル心。

私情ヲ雜ヘタル心。「私ヲサシハサム」(二)自己ノ意見。[illegible] 私見

しい (名) 私意 [illegible]

シイ (名) [illegible] 〔[illegible]ノ字ノ唐音〕怪獸ノ名、詳カナラズ、往年、吉野山ニ出デタルモノ、狼ニ似テ、大キク、斑毛アリ、走ルコト、飛ブガ如ク、[illegible] 人、首、手足、[illegible] ヲ害スルモノト。黑眚 [illegible]

しい (感) 〔しい(感)ノ延音〕(一)嘲笑ノ聲。[illegible] 近ト云フ戲奇ノ者ガ、云云、ト詠ミタリケレバ、しいト笑ヒケルナリ」(二)しいノ(一)ニ同ジ。狂 [illegible] 未生以前デ、今ハ拔掛キリギリス、しいト云フ馬追蟲モ聞ヌハイノ」

しい (名) 侍醫 [illegible] サモトクスシ。古ヘ、[illegible] ル、今ノ、又、宮内省ノ官 [illegible] 同ジ、[illegible] 毛追」

しい (名) 辭意 (一)言ノココロ。言辭ノ意味。[illegible] (二)コトバ [illegible] ル意志。辭セントスル心バセ。[illegible]

しいう (名) 師友 (一)師ト、友人ト。(二)師ト仰グベキ友。後漢書、李膺傳「唯以同郡荀淑陳寔為師友」

しいう (名) 四友 (一)文房具ノ稱、筆、墨、硯、紙ノ四ツノ稱。(二)雪中ノ候ニ咲ク、玉梅、臘梅、水仙、山茶ノ四ツノ稱。

しいう (名) 私有 其人、自己ノ所持。(官有、共有ナドニ對ス)「私有品」

じいう (名) 事由 事ノ、ワケ。物事ノ理由。[illegible]

じいう (名) 自由 (一)己ガ心ノママニテ、他ニ關ラスコト。爲レコトノ、思ヒノママニテ、障リナキコト。[illegible] (二)他ノ束縛ヲ受ケザルコト。「個人ノ自由」

しいか (名) 詩歌 「字ノ音ノ延」詩ト、和歌ト。詩歌。[illegible]

しいかあはせ (名) 詩歌合 物合ハセノ一、詩ト歌トヲ合ハセテ、優劣ヲ判定スルモノ。[illegible]

しいかう (名) 至孝 至孝ノ延。

しいぎゃく (名) 弑虐 〔弑すノ語原ヲ見ヨ〕君父ヲ弑シテ、至虐、無道ナルコト。

じいく (名) 慈育 イツクシミ、ソダツルコト。[illegible] ル者モ、譜代、相傳ノ田地ヲ棄テ、恩愛、慈育ノ子孫ニ別レ、家ヲ出デ」

しいし (名) [illegible] ズ、或ハ、しいしトモアリト云ヘバ、音便ニテ、しいナルベシ、又、しひし、しゐしナドトモアリ」絹ヲ張ル具、今、しいしト云フ、其條ヲ見ヨ。[illegible] 張[illegible]、「三日ノ月」定家假名遣「しいし、簇」字鏡五十「椅、志比之」字鏡集「簇、小竹、シヒシ」拾玉集(慈鎭)四「ソレモイザ、爪ニ藍染ム、言ノ葉ノ、しひし取リオク、[illegible] 葉、一、梓弓之抄、奈加弭、注「張殿ノしゐしナレド」

しいし (名) 四時 四時ノ延。

じいじ (名) 字 小兒ノ語、文字ヲ云フ。「しいじヲ書ク」

しいしい (名) 尿尿 〔尿ヲ重ネタルモノ〕小兒ノ語、小便。シッコ。

しいしい (感) 〔警蹕ノしいヲ重ネタルモノ〕[illegible]

しいしゅ (名) 旨趣 〔しいしゅノ延〕しいしゅ(旨趣)ニ同ジ。[illegible]

しい・す [illegible] 〔しいハ、字ノ音ノ延ニテ、弑虐ナドトモ云ヘド、此語、しノ一音ニ、死ノ意アリ、[illegible] 弑ノ字音ニテラズ、いハ、しノ [illegible] 字類抄「弑、コロス」

シイソオ (名) 〔英語、Seesaw.〕體操ノ一種。[illegible]ノ條ヲ見ヨ。

しいだ・す [illegible] (他動、四) 爲出 (一)行ヒ起ス。シイヅ。[illegible] (二)シデカス。成シ遂グ。太平記、[illegible]

しいち (名) 四一 次條ノ語ノ略。

しいちはん (名) 四一半 又、四一半錢。略シテ、四一。[illegible] ニハ、[illegible] 勝ナドノ名アリ、共ニ、幕府ノ禁ズル所ニシテ、[illegible] 者、此罪ヲ犯シタル時ハ、所領ヲ召上ゲ、所帶アル者ハ、之レヲ奪ヒ、下賤ノ者ハ、指ヲ截リ、家ヲ毀チ、流刑ニ處セリ、足利氏ニ至リテハ、其制、漸ク弛ミ、殆ド其禁ナキガ如シ、(古事類苑、法律部)其ノ仕方ニ就キテハ、考フベキ由ナシ、但シ、采ヲ戲トスルハ、疑フコトナシト、[illegible] 三十六、寛元二年十月十三日「四一半錢、目勝以下、[illegible] (是マタ、今ノちょぼ一、重半ノ類ナルベシ)今ノ事ダニ知ラサレバ、古ヘノサマ、諾フベキ由ナシ、サ

レドモ、釆ヲ戯トスルハ、ミナ、雙六ノ變ジタル物ト知ラル」

しいちはん-うち（名）［四一半打］［博奕（バクチ）打（ウト）ト云フ類ノ語］四一半ヲスル人。吾妻鏡、三十七、寛元四年十二月十七日「鎌倉中諸惡黨並四一半打、所領可被召事」

しいちはん-せん（名）［四一半錢］前前條ヲ見ヨ。

シイツ（名）［英語、Sheet.］敷布。シキモノ。

し-い・づ（シ・イ・ズ）・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（他動、下二）［爲出］しいだすニ同ジ。源、二、帚木五「オノヅカラ、一ツ故ヅケテ、しいづるコトモアリ」同、同巻八「ハカナクしいでタルコトワサモ、故ナカラズ見エタラン」

しい-とく（名）［至德］至德（シトク）ノ延。

しい-ね（名）［羊蹄］ぎしぎし（羊蹄）ノ異名。

しい-いん（名）［子音］發聲（ハッセイ）ノ條ヲ見ヨ。

しい-いん（名）［資蔭］父祖ノ功德ノ蔭（ナカゲ）ニテ、其ノ子孫ノ、登庸セラルルコト。蔭補。通鑑、胡三省、注「資蔭、謂下藉二資品一得中蔭二其子若孫及曾孫上」

しい-いん（名）［私印］〔官印、公印ナドニ對ス〕私人ノ印章。私ニ用キル印章。印史「古人私印、有曰二某氏圖書一、或曰二某氏圖書之記一、蓋惟以二記二圖書籍一、而其他則否」

しいら（名）［鱰］魚ノ名、多ク、南海ニ産ズ、大キサ三尺ニ近シ、頭、方（カク）ニシテ、身、扁ク、色、青黑シ、鱗、細カク、皮、厚ク、肉、白ク、腹ノ下ニ、堅キ刺アリ、數萬、群ル、故ニ、九萬疋（クマビキ）ノ名モアリ、多ク、乾魚トス、ネコヅラ。トウヤク。長崎ニ、ヒイラ。勒魚

し-い・る・ルル・ルル・レ・レ・レヨ（他動、下二）［仕入］商品ナドヲ、買ヒ込ム。シコム。「資本（モトデ）ノアリタケ、しいれテ來ル」

しいれ（名）［仕入］シイルルコト。買ヒ入レ置キテ、賣ルニ供（ソナ）フルコト。シコミ。「河岸へ、しいれニ行く」

⁂**し-い・れる**（動）［仕入］前前條ノ口語。

しう（シュウ）（名）［州］（一）シマ。舊事紀、陰陽本紀「淡路州（シマ）、對馬州、佐渡州」（二）モト支那ニテ國中ノ區分（ワカチ）ノ稱、其中ニ、又、郡、縣、等アリ、我ガ國ニテハ、國（クニ）ニ同ジ、卽チ大和國ヲ和（ワ）州ト云ヒ、武藏國ヲ武（ブ）州ト云フ類ナリ、郡、亦、其中ニアリ。天書「成務帝四年、詔二國縣一、立二長吾一、擇二當國幹了者一任之、卽令二諸州一、定二長吏一、記二言事一」續日本紀、元年二月「毎州、安二置三拜白髮部一」天慶六年日本紀竟宴歌、序「阿州別駕」好色伊勢物語（年代不詳）「住ミワビヌ、今ハ限リト、山州ニ、身ヲワタルベキ、茶屋求メテム」後世、州ヲ、陽ト用ヰルハ、漢詩文ヲ書ク時ニ、官名ニ、唐名（カラナ）ヲ使フガ如シ。例ヘバ、甲州ヲ甲陽、尾州ヲ尾陽、信州ヲ信陽ト云フ類ナリ、コレハ、支那ノ地ニ、山ノ南、川ノ北ニアル所ヲ、洛陽、咸陽、漢陽ナド云フヲ、誤用セシナルベシ。

しう（シュウ）（名）［洲］（一）洲（ス）。スハマ。（浦洲、濱洲、中洲ナドヨリ、移ル）（二）地理學ニ、地球ノ上ノ陸地ノ、續キテ、廣大ナル部ノ稱。地球ノ上ノ地ヲ、亞細亞洲、歐羅巴洲、亞非利加洲、北亞米利加洲、南亞米利加洲ノ、五ツニ分ツ、コレヲ、五大洲ト云フ。近年、亞細亞ノ東南洋ヨリ、太平洋中ニ散在セル、大小數多ノ島地ヲ合ハセテ、一洲トシ、阿西亞尼亞（オセアニア）洲（大洋洲）ト稱シテ、六大洲トス。或ハ、又、南北亞米利加洲ヲ一洲ト見テ、尙、五大洲トスルモアリ。又大ナル國土ヲモイフ。滿洲、濠洲ノ類。

しう（シュウ）（名）［主］しゅう（主）ノ條ヲ見ヨ。

しう（シュウ）（名）［囚］（一）トラハルコト。史記、殷紀「紂囚二西伯羑里一」（二）しうじん（囚人）ニ同ジ。書經、多方篇「要レ囚、殄二戮多罪一」

しう（シュウ）（名）［臭］（一）カヲリ。ニホヒ。カウバシキコト。易經、繫辭、上篇「同心之言、其臭如レ蘭」（二）惡シキ、ニホヒ。ワルキ名。戰國策、楚策「其似レ惡レ聞二君王之臭一」

しう（シュウ）（名）［衆］トモガラ。モノドモ。人數。「沖津磯ニ、アサリスルマニ、潮滿チテ、舟（トモ）ホシゲナル、アマノしうカナ」（三十輻、一）「衆ト偕ニ樂シム」「若イ衆」「女中衆」

しう（シュウ）（名）［週］ヒトマハリ。ヒトナヌカ。七日ノ間ノ稱。週期。「二週」「三週」

しう（シュウ）（名）［醜］（一）見ニクキコト。ミメ惡シキ人。後漢書、梁鴻傳「狀肥、醜而黑」「形貌、醜ナリ」（二）恥（ハヂ）。醜聞　呂覽、愼人篇「羞二君子之所レ醜也一」「醜ヲ萬世ニ遺ス」

し-う（名）［絲雨］絲ノ如ク、細ソキ雨。キリアメ。細雨。周彥暉詩「絲雨帶レ風斜」

し・う・ウル・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）［爲得］ナシ、ウ。シトグ。成就ス。竹取物語「吾レ、物、握リタリ、今ハ、オロシテヨ、翁、しえタリト宣ヒテ」

じう（ジュウ）（名）［柔］〔剛ニ對ス〕ヤハラカキコト。オトナシキコト。又、其物。詩經、大雅、蕩之什、烝民篇「柔亦不レ茹、剛亦不レ吐」「柔、能ク、剛ヲ制ス」

じう（ジュウ）（名）［獸］ケモノ。ケダモノ。淮南子、說林訓「逐レ獸者、目不レ見二太山一」「人面獸心」

じ-う（名）［時雨］〔時時（コロ）、降ル雨ノ意〕（一）ソノ時節ノ雨。禮記、孔子閒居篇「天降二時雨一、山川出レ雲」（二）シグレ。

じ-う（名）［滋雨］程ヨク、物ヲウルホス雨。甘雨。膏雨。

しう-あい（シュウアイ）（名）［湫隘］土地低クシテ、隘（セバ）キコト。左傳、昭公三年「子之宅近レ市、湫隘囂塵、不レ可二以居一」

しう-あく（シュウアク）（名）［醜惡］ミニクキコト。見苦シキコト。漢書、五行志「形貌醜惡」

しう-い（シュウイ）（名）［秋意］秋ノ風情（フゼイ）。秋情。韋應物詩「河漢有二秋意一」

しう-い（シュウイ）（名）［愁意］ウレフル心。憂心。溫庭筠詩「平明花木有二愁意一」

しう-い（シュウイ）（名）［繡衣］刺繡シテアル衣服。左傳、閔公二年「與二夫人繡衣一曰、聽二於二子一」

じう-い（ジュウイ）（名）［獸醫］獸ノ病ヲ療スル醫。周禮、天官篇「獸醫、掌レ療二獸病一、療二獸瘍一」

しう-いう（シュウユウ）（名）［舟遊］舟ニ乘リテ、アソブコト。フナアソビ。フナユサン。

しう-いう（シュウユウ）（名）［周遊］處處ヲ、メグリアソブコト。遍歷。楊炯詩「俠客重二周遊一、金鞭控二紫騮一」「天下ヲ周遊ス」

しう-いつ（シュウイツ）（名）［秀逸］秀デ、スグレタルコト。（多ク、詩歌ナドニ云フ）晉書、陸機傳「天才秀逸」盛衰記、三十二、忠度自淀歸謁ニ俊成一事「御詠一卷、預置候畢、是、次代、秀逸ノ御形見、未來、歌仙ノ指南ノ爲メカ」

しういん（シュウイン）（名）秋陰　秋ノ曇。[illegible]

シヴィリゼーション（名）〔英語、(Civilization.)〕文明。開化。教化。

しうう（シュウウ）（名）驟雨　ニハカアメ。ユフダチ。[illegible]

しうう（シュウウ）（名）秋雨　秋、降ル雨。アキサメ。[illegible]

しううん（シュウウン）（名）秋雲　秋空ノ雲。[illegible]

しううん（シュウウン）（名）愁雲　憂愁ノ氣ノ、籠ルコト。ウレヘノクモ。[illegible]

しうえい（シュウエイ）（名）秀英　スグレテ、ヒイデタルコト。王褒賦「其秀其英、拔ニ類萃一名」

しうえき（シュウエキ）（名）周易　〔支那、周ノ文王、作リタレバ、云フ〕易ノ書。易經。[illegible]

しうえき（シュウエキ）（名）收益　利益ヲ、ヲサメ取ルコト。又、ヲサメ取ル利益。

しうえき（シュウエキ）（名）就役　エダチニ、ツクコト。又ハ、兵役ニツクコト。[illegible]

しうえき（ジュウエキ）（名）獸疫　牛、馬、羊、豚、ナドノ疾病。

しうえん（シュウエン）（名）[illegible]　[illegible]ノ總エテ、ウセルコト。

しうえん（ジュウエン）（名）[illegible]　ヤハラカク、アテヤカナルコト。[illegible]

しうか（シュウカ）（名）秀歌　秀逸ナル和歌。[illegible]

しうか（シュウカ）（名）秋稼　アキヲサメ。アキノ取リイレ。秋穫。[illegible]

しうかいだう（シュウカイドウ）（名）秋海棠　〔寛永中、支那ヨリ渡リシト（近代世事談）〕草ノ名、陰濕ノ地ニ生ズ、莖、葉、啼、蕾ニ似テ、小サク、柔カニシテ、光澤アリ、赤ミヲ帶ブ、莖ヲ出シテ、秋ノ初ヨリ末ニ互リテ、花ヲ開ク、蘭、又ハ、ぎばうしゅノ花ニ似テ、淡紅ニシテ、愛スベシ、枝葉ノ間ニ、子ヲ結ブ、形、色、むかごノ如ク、大キサ、ゑんどうノ如シ。[illegible]「秋海棠、西施ノ色ニ、咲キニケリ」

しうかう（シュウコウ）（名）醜行　恥ヅベキ所行。「醜[illegible]」

しうかう（シュウコウ）（名）酒肴　しゅかう（酒肴）ノ訛。[illegible]

しうかう（シュウコウ）（名）修好　脩好　ヨシミヲ、ヲサムルコト。國ト國ト、善ク音信スルコト。[illegible]

しうかう（シュウコウ）（名）修行　脩行　ヲサメ、オコナフコト。[illegible]

しうかう（シュウコウ）（名）舟行　舟ニ乗リテ、行クコト。フナタビ。（陸行ニ對ス）[illegible]

しうかう（シュウコウ）（名）秋郊　秋ノ野ハ、秋ノ郊野。

しうがう（シュウゴウ）（名）秋毫　〔毫ハ、獸ノ毛、秋ニ入リテ、ソノ末、極メテ細ソクナル、ソノ毛ノサキノ義〕秋ノ、兎ノ毛。極メテ少シナルコト。イササカ。毫末。[illegible]

しうがう（ジュウゴウ）（名）柔剛　ヤハラカキト、コハキト。剛柔。[illegible]

しうがく（シュウガク）（名）就學　學問ヲ、始ムルコト。學校ニ入リテ、學生、生徒トナルコト。[illegible]

しうがく（シュウガク）（名）修學　學問ヲ、ヲサメ習フコト。[illegible]

しうがふ（シュウゴウ）（名）收合　ヲサメ、アハスルコト。[illegible]

しうかん（シュウカン）（名）週間　ヒトメグリノ間。即チ、一週間。七日ノ間。

しうかん（シュウカン）（名）週刊　毎週、刊行スルコト。（日刊、月刊ナドニ對ス）

しうかん（シュウカン）（名）收監　監獄ニ、拘禁スルコト。牢入。

しうかん（シュウカン）（名）醜漢　ミニクキ男。恥ヅベキ行ヒアル男。[illegible]

しうがん（シュウガン）（名）秋雁　秋季、鳴キワタル雁。[illegible]

しうがんじ（シュウガンジ）（名）繡眼兒　〔眼ノ縁、繡ヘルガ如シ〕メジロ。

しうき（シュウキ）（名）秋季　（一）秋ノ季。秋杪（二）[illegible]リテ、秋ノ時。秋時。[illegible]

しうき（シュウキ）（名）秋氣　秋ノ氣。秋ノケハヒ。秋色。[illegible]

しうき（シュウキ）（名）臭氣　クサキ臭。クサミ。[illegible]

しうき（シュウキ）（名）周忌　一周忌ニ同ジ、くゎいき（回忌）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]周忌ノハテニ、墓所ニマカリテ」

しうき（シュウキ）（名）週期　（一）一マハリノ時期。（二）振動體ノ、一振動ニ要スル時間。

しうぎ（シュウギ）（名）祝儀　（一）祝ヒノ儀式。賀儀。[illegible]「祝儀ノ御使」（二）俗ニ、祝儀トシテ與フル金錢、物品。ヒキデモノ。（三）ハナ。ポチ。（畿内）纏頭

しうきく（シュウキク）（名）蹴鞠　〔しゅくきく（蹴鞠）ノ音便、ろくさむ（緑衫）ヲろうさうトスフ、同趣〕けまり（蹴鞠）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しうきくゎうれいさい（シュウキ・コウレイサイ）（名）秋季皇靈祭　大祭ノ一、朝廷ニテ、皇靈ヲ祭ルタメ、秋分ノ日、皇靈殿ニテ行ハセラルルモノ。

しうきふでん（名）【賙急田】〔賙、玉篇「給也、贍也」救フ義〕王朝時代ニ、凶荒ニ際シ、貧人ヲ贍ハスタメ、諸國ニ設ケ置キシ田。主税寮式、上「賙急田、云云、並、爲二不輸租田一」

しうきん（名）【繡衾】錦ノフスマ。薩都剌、楊花曲「繡衾不ㇾ暖錦鴛夢」

しうきん（名）【就擒】縛ニ就クコト。トラヘラルルコト。劉晝、新論「猊猊鳴而就ㇾ擒」

しうぎん（名）【秀吟】秀逸ナル詩歌。

しうぎん（名）【愁吟】ウレヘ、ウメクコト。顧復古詩「此志無二人共一愁吟兩鬢絲」

じうぎゃうのもかう（名）【獸形帽額】〔帽額ハ、水引幕ノ類ナリ〕王朝時代、卽位式ニ用キル調度ノ一、此幕ノ中央ニ、金色ノ日象ヲ現ハス。（南齊書、天文志ニ、「日出三竿、黃色赤暉」トアルヲ象ル）左右ニ、天獸、種種ノ形ヲ繡ニス、緣ハ紫小葵ノ綾ニ、白絲ヲ以テ繡ヲナス。之レヲ、大極殿（近古以來、紫宸殿）ノ南榮トテ、南簷下ニカケ渡ストゾ。獸形幔。（有職故實辭典）

じうぎゃうまん（名）【獸形幔】前條ニ同ジ。

しうきゅう（名）【秋宮】ちゃうきゅう（長秋宮）ノ略、其條ヲ見ヨ。秋ノ宮。

しうきょう（名）【秋興】〔興ハ、詩ノ一體〕秋ノ風物ニ興ジテ、作ル詩歌。又、秋ノココロモチ。潘岳、秋興賦、序「於ㇾ時秋也、故以二秋興一命ㇾ篇」

しうきょく（名）【終局】〔局ハ、碁盤ナリ〕（一）碁ヲ、打チ終フルコト。（二）事ノヲハリ。トヂメ。結局。

しうく（名）【秀句】（一）詩歌ナドノ中ノ、秀逸ナル句。杜甫詩「最傳二秀句一寰區滿」（二）和歌、文章、物言ヒナドニ、いひかけノ、巧ミナルモノ。（いひかけノ條ヲ見ヨ）徒然草、八十六段「坊主ニアヒテ、御坊ヲバ、寺法師トコソ申シツレド、寺ナケレバ、今ヨリハ、法師トコソ申サメト云ハレケリ、イミジキ秀句ナリケリ」太平記、十五、將軍都落事「是ハにた首也、まさきげニモ書ケル狂事哉ト、秀句ヲシテ」（三）後ニ、輕口、地口、語路、ノ稱。醒睡笑（元和、安樂庵策傳）六「田樂豆腐ヲ、秀句ヲ云ヒテ食フベシ「大兒、ヤガテ、我ハ、佛ノつぶりト申サムト、三くし取リテ退ク、又、一人ハ、八日ノ佛トテ、やくし取リタリ」

しうく（名）【愁苦】ウレヘ、クルシムコト。李陵、答二蘇武一書「身之窮困、獨坐愁苦」

しうくゎい（名）【周回】（一）メグリ。マハリ。漢書、劉向傳「周回五里有餘」（二）取リ圍ムコト。謝靈運、山居賦「四山周回、雙流逶迤」

しうくゎうぎょ（名）【秋光魚】さんま（秋刀魚）ノ條ヲ見ヨ。

しうくゎく（名）【秋穫】しうか（秋稼）ニ同ジ。李商隱詩「自悲二秋穫少一」

しうくゎく（名）【收穫】〔穫ハ、說文「刈穀也、草曰ㇾ刈、穀曰ㇾ穫」〕トリイレ。收納。書經、禹貢篇、疏「收穫有二多少一」

じうくゎつ（名）【柔滑】柔カニシテ、ナメラカナルコト。西京雜記「肌膚柔滑如ㇾ脂」

しうくゎん（名）【秋官】〔秋ハ、肅殺ヲ主ドル故ニ、云フ〕司法官ノ稱。周禮、天官篇「秋官、其屬六十、掌二邦刑一」文德實錄、九、天安元年七月「不堪佃田依ㇾ不ㇾ撿ㇾ實、下二秋官一而斷ㇾ罪也」

しうけい（名）【秋刑】〔秋ハ、草木ノ凋落スル時ナレバ、刑ニ譬ヘテ云フ〕刑罰。策問「緩二秋刑收斂一」太平記、十一、金剛山寄手等被ㇾ誅事「秋刑ヲ待ツ程ニ、禁錮ノ裏ニ起伏シテ」

しうけい（名）【囚繫】トラハレ、ツナガルルコト。左傳、僖公三十三年「以二僇臣一」杜注「僇、囚繫也」

しうけつ（名）【周闋】〔闋ハ、玉篇「終也」博雅「訖也」〕一周年ノ終リ。一回忌。壓添囊鈔、二、三十四條、周忌事「周忌ヲ、周闋トモ書クハ、如何、イヅレモ共ニ、コレヲ用ユ、周忌ハ、一メグリノ忌也、周闋ト書クハ、一メグリノ終リナリ」中右記、天曆八年十二月「本院周闋御法事定也」

しうげつ（名）【秋月】秋ノ夜ノ月。陶潛詩「秋月揚二明輝一、冬嶺秀二孤松一」

しうげふ（名）【修業】しゅげふ（修業）ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

しうげふ（名）【就業】業務ニ、ツクコト。大戴禮「日旦就ㇾ業、夕而自省、以役二其身一」

しうげん（名）【祝言】（一）祝ヒノ詞。賀詞。字類抄「祝言、シウゲン」庭訓往來、三月「御祝言、於二于今一雖二事舊候一、猶以珍重珍重」（二）轉ジテ、直チニ、イハヒ。祝儀。賀儀。（三）又、專ラ、婚禮。婚儀。嫁入記「御マチ女房、御マヰリ候ヒテ、御祝言ノ御座敷へ、ナシ申サレ候」「祝言ノ盃」（四）舞曲、謠曲、物語物ナドノ、終リノ曲。ホギゴト。（舞樂ニテハ長慶子、淨瑠璃ニテハ梵天國、長唄ニテハ菊慈童ノ類）

しうこう（名）【收公】所領地ナドヲ、官ニ取リ上グルコト。官沒。沒收。盛衰記、十六、三井僧綱被ㇾ召事「末寺庄園、及、彼寺僧等私領、仰二諸國之宰吏一、早可ㇾ令二收公一」

しうこう（名）【周孔】支那ニテ、周ノ世ノ、周公ト、孔子ト。晉書、江逌傳「仰味二義農一、俯尋二周孔一」周孔之敎トハ、聖賢ノ道ヲ云フ。儒敎。

しうごく（名）【囚獄】ヒトヤ。牢。囹圄。

しうごくし（名）【囚獄司】ヒトヤノツカサ。古へ、刑部省ニ屬セル司、禁囚、罪人、徒役、功程、及、配決ノ事ヲ掌ル。廷尉。職員令「囚獄司、正一人」

しうさい（名）【周歲】マル、一年。滿、一年。周年。全唐詩話「未二周歲一而爲二奸人一所ㇾ殺」

しうさい（名）【秀才】（一）學才ノ、秀デタルコト。又、其人。史記、賈誼傳「聞二其秀才一、召置二門下一」（二）及第、第一等ノ人。（支那ニ云フハ、科擧ノ條ヲ見ヨ）（三）文章得業生ノ稱。選敍令「凡、秀才、取二博學高才者一」

しうさう（名）【秋草】アキクサ。秋ノ、種種ノ草。李白詩「棣華傷不ㇾ接、甘與二秋草一同」

しうさう（名）【秋霜】（一）秋ノしも。史記、李斯傳「秋霜降者、草花落」「秋霜、烈日ノ如シ」（二）たうけん（刀劍）ノ異名。（刀ノ、霜ノ如ク光リ輝クヲ以テ）秋水。太平記、八、山徒寄二京都一事「忽帶二魔障降伏之秋霜一」（三）秋の霜ハ、草木ヲ肅殺セシムル故ニ、權勢ノ盛大、又ハ、志操ノ剛厲ナルナドニ譬フル語。晉書、范弘之傳「志陋二秋霜一、誠貫二一時一」申鑒（漢、荀悅）「喜如二春陽一、怒如二秋霜一」

しうざう（名）【繡像】刺繡シタル佛像。

[illegible]

シユウゾウ 志うざう (名) [修造] ツクロヒ、ツクルコト。修理。作事。[illegible]造不得已而修之」平治物語、一、信頼信西不快事「大内ハ、久シク修造セラレザリシカバ」

シユウ・サウ・レツ・ジツ 志うさうれつじつ (名) [秋霜烈日] 秋ノ寒キ霜ト、夏ノ烈シキ暑キ日ト。刑罰ノ嚴肅、又ハ、威權ノ猛盛、志操ノ剛遒ナドニ譬フル語。

シユウサク 志うさく (名) [繡錯] (一)色絲ヲ交ヘテ、刺繡スルコト。(二)[illegible]シテ、[illegible]ナルコト。[illegible]

シユウサン 志うさん (名) [聚散] 聚マルト、散ルト。[illegible]

シユウシ 志うし (名) [祝詞] イハヒノコトバ。祝ヒ[illegible]

シユウ・シ 志うし (名) [舟子] フナコ。カコ。船頭。舟人。詩經、邶風、匏有苦葉篇「招招舟子、人涉卬否」

シユウ・シ 志うし (名) [illegible] [illegible]

シユウ・シ 志うし (名) [收支] 收入ト、支出ト。[illegible]

シユウ・シ 志うし (名) [illegible] 秋ノ、[illegible]

シユウ・シ 志うし (名) [愁思] ウレヘ、オモフコト。[illegible]

シユウシ 志うし (名) [修史] 歴史ヲ、作リナホスコト。隋唐嘉話「不得修國史」「修史局」

シユウ・ジ 志うじ (名) [修辭] (一)文章ノ辭句ヲ、修飾シ、巧妙ニスルコト。[illegible] (二)修辭學ノ略。

シユウシユウ 志うしう (名) [聚收] アツメ、取入ルルコト。管子、水地篇、四時「秋聚收、冬閉藏」

シユウ・シユウ 志うしう (名) [秋收] 秋、穀物ヲ取リ入ルルコト。秋ノ收穫。史記、太史公自序「夫[illegible]」

シユウ・シユウト 志うしうと (副) [啾啾] 小聲ニテ、鳴ク[illegible]

シユウジガク 志うじがく (名) [修辭學] 文學ノ一部、[illegible]著作スルコトヲ教フル學問。

シユウシユウ 志うしふ (名) [illegible] [illegible]ト、オサムト。

シユウシユウ 志うしふ (名) [蒐輯] ヨセ、アツムルコト。

シユウシユウ 志うしふ (名) [收輯] ヲサメ、アツムルコト。[illegible]

シユウ・シユウ 志うしふ (名) [收集] ヲサメ、アツムルコト。[illegible]

シユウ・シユウ 志うしふ (名) [收拾] ヒロヒ、アツムルコト。[illegible]

シユウ・シン 志うしん (名) [修身] 身ヲ、ヲサムルコト。人ト人トノ交リト、コレニ就キテ起ル[illegible]、正シク行フコト、人倫道德ノ道。大學「自天子以至於庶人、壹是皆以修身爲本」

シユウジン 志うじん (名) [舟人] フナビト。船頭。舟子。詩經、小雅、小旻之什、大東篇「舟人之子、[illegible]」

シユウジン 志うじん (名) [囚人] メシウド。トラハレビト。太平記、四、[illegible]サヘ、マタ、楚ノ囚人ト成リ給ヘバ」

ジユウ・シン 志うしん (名) [獸心] ケダモノノ如キ心。不仁、不義ノ心。史記、[illegible]「人、被髮左衽、人面獸心」

ジユウジン 志うじん (名) [柔[illegible]] シンネリヅヨキコト。シナヤカナレドモ、強キコト。

シユウシンガク 志うしんがく (名) [修身學] 哲學ノ一部、修身ノ事ヲ教フル學。倫理學。

シユウシヤウ 志うしやう (名) [周章] アワツルコト。ウロタヘ、騷グコト。[illegible]耶合戰事「六波羅ノ勢、僅ニ千騎ニダニモ足ラデ、引キ返シケレバ、京中、六波羅ノ周章、斜ナラズ」

シユウ・シヤウ 志うしやう (名) [愁傷] ウレヘ、イタムコト。ナゲキ。カナシミ。(多ク、死ニ云フ) 悲傷。愁痛。「御愁傷樣」

シユウジヤウ 志うじやう (名) [秋情] 秋意ニ同ジ。

シユウ・シヤク 志うしやく (名) [周尺] 支那ノ周代ノ尺。其一尺ハ、曲尺ノ六寸六分五釐弱ニ當ル。

ジユウ・ジヤク 志うじやく (名) [柔弱] にうじやくニ同ジ。文中子[illegible]

シユウシユ 志うしゆ (名) [袖手] 手ヲ、袖ニ入レテアルコト。コトロデ (骨折ラマ意ニ云フ) [illegible]無道」「袖手傍觀」

シユウシユク 志うしゆく (名) [收縮] チヂマルコト。チヂムコト。[illegible]

ジユウジユツ 志うじゆつ (名) [柔術] やはらノ條ヲ見ヨ。[illegible]

シユウシユバウクワン 志うしゆばうくわん (名) [袖手傍觀] 手ヲ袖ニシテ、傍ヨリ觀ルコト。手出シヲセヌコト。[illegible]

ジユウ・ジユン 志うじゆん (名) [柔順] スナホナルコト。オトナシキコト。[illegible]

シユウシヨ 志うしよ (名) [洲渚] 洲ノ、ナギサ。杜甫詩[illegible]

シユウ・シヨク 志うしよく (名) [秋色] 秋ノ景色。秋ノ氣。[illegible]ノ秋色」

シユウ・シヨク 志うしよく (名) [修飾] ツクロヒ、カザルコト。論語、憲問篇「行人子羽修飾之」

シユウ・シヨク 志うしよく (名) [就職] 職ニ、ツクコト。[illegible]「就職」

シユウジヨク 志うじよく (名) [就蓐] 蓐ニ、ツクコト。

シユウ・スイ 志うすゐ (名) [秋水] (一)秋ノ頃ノ、澄ミワタリタル水。王勃、滕王閣序「秋水共長天一色」(二)秋ノ出水。莊子、秋水篇「秋水時至、百川灌河」(三)光リカガヤキタル、鋭キ刀ノ異名。利劍。利刀。秋霜。[illegible]

シユウ・セイ 志うせい (名) [秋聲] 秋風ノ音。[illegible]

秋聲賦、「歐陽子方夜讀レ書、聞下有二聲自二西南一來上者上、云云、予曰、噫嘻悲哉、此秋聲也」

シユウ‐セイ
しう‐せい (名) 【醜聲】 恥トナル、ウハサ。醜聞。「醜聲、外ニ聞ユ」

シユウ‐セイ
しう‐せい (名) 【修正】 ヲサメ、タダスコト。ナホシ。晉書、樂志「荀勗既以二新律一造二二舞一、次更修二正鐘磬一」「原案ヲ修正ス」

シユウ‐ゼイ
しう‐ぜい (名) 【收稅】 稅ヲ、取立ツルコト。唐書、食貨志「服德二年、定二天下門戶一、以レ月收レ稅」「收稅吏」

ジユウ‐ゼイ
じう‐ぜい (名) 【柔脆】 ヤハラカク、モロキコト。老子、七十六章「草木之生也柔脆」

シユウセイ‐アン
しうせい‐あん (名) 【修正案】 原案ニ、修正ヲ加ヘタル議案。

シユウ‐セキ
しう‐せき (名) 【秋夕】 秋ノユフベ。秋ノ夜。駱賓王詩「陪二潘宴於秋夕一」

シユウ‐セツ
しう‐せつ (名) 【醜褻】 見ニクク、汚ラハシキコト。

シユウ‐ゼツ
しう‐ぜつ (名) 【愁絕】 悲シミニ堪ヘザルコト。極メテ、愁ヘ悲シムコト。李賀、阻風雨詩「行人客子兩愁絕」

シユウ‐セン
しう‐せん (名) 【秋扇】 秋涼ニ至リテ、團扇ノ、用ヰラレズナルニ云フ語。はんぢよせん(班女扇)ノ條ヲ見ヨ。アキノアフギ。劉孝綽詩「妾身似二秋扇一、君恩絕二履綦一」

シユウ‐セン
しう‐せん (名) 【舟船】 フネ。船舶。後漢書、袁紹傳「益作二舟船一、修二器械一」

シユウ‐セン
しう‐せん (名) 【周旋】 (一)事ヲ行フニ、アチコチト、立チマハルコト。奔走。左傳、僖公廿三年「左執二鞭弭一、右屬二橐鞬一、以與二君周旋一」 (二)世話スルコト。トリモチ。キモイリ。朱熹文「周二旋人一過二一生一」

シユウ‐セン
しう‐せん (名) 【鞦韆】 支那ニテ、繩ニ縋リテスル戲レ、輕趫ヲ習フモノ。蘇軾詩「鞦韆院落夜沈沈」

シユウ‐ゼン
しう‐ぜん (名) 【修繕】 家作ナドノ、ツクロヒ。修復。漢書、食貨志「皆豫治レ道、修二繕故宮一」

ジユウ‐セン
じう‐せん (名) 【蹂踐】 フミ、ニジルコト。蹂躪。史記、項羽紀「餘騎相蹂踐、爭二項王一」

シユウゼン‐ト
しうぜん‐と (副) 【愀然】 (一)顏貌ヲ變フル狀ニ云フ語。禮記、哀公問篇「愀然作レ色」 (二)憂ヘ歎ク狀ニ云フ語。蘇軾、赤壁賦「愀然正レ襟危坐」

シユウセン‐ブギヤウ
しうせん‐ぶぎやう (名) 【舟船奉行】 鎌倉時代、船舶ノ事ヲ掌ル職。吾妻鏡、四、元曆二年三月廿一日「船所五郎正利、依レ爲二當國舟船奉行一、獻二數十艘一」

シユウ‐ソ
しう‐そ (名) 【溲疏】 うつぎ(空木)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

シユウ‐ソ
しう‐そ (名) 【愁訴】 ウレヘ、ウッタフルコト。歎キ、告グルコト。楊萬里詩「江山愁訴問爲泣」 吾妻鏡、十七、建仁二年三月八日「依レ有二愁訴之旨一、發二山河一參向」

シユウ‐ソ
しう‐そ (名) 【臭素】 元素ノ一、赤褐色ノ液體、揮發シ易ク、烈シキ臭氣アリ。

シユウ‐ソ
しう‐そ (名) 【酬酢】 〔倉頡篇「主答レ客曰レ酬、客報レ主曰レ酢」〕 (一)杯ナドヲ、互ニ、取リカハスコト。獻酬。 (二)轉ジテ、應對。易經、繫辭、上傳「是故可二與酬酢一、可二與祐レ神矣一」

シユウ‐ゾク
しう‐ぞく (名) 【州俗】 一國ノ風俗。國ノナラハシ。國俗。

ジユウ‐ダ
じう‐だ (名) 【柔懦】 〔優柔懦弱ノ略〕 心、弱ク、氣、小サキコト。弱クシテ、臆病ナルコト。國史、補「李吉甫任二相國一八年、多智柔懦」

シユウ‐タイ
しう‐たい (名) 【醜體】 恥ヅベキ爲體。見ニクキ、アリサマ。「醜體ヲ暴露ス」

シユウ‐トウ
しう‐たう (名) 【周到】 周ク、到キワタルコト。落チ無ク、行キトドクコト。周密。「用意周到」

ジユウ‐ドウ
じう‐だう (名) 【柔道】 じうじゅつ(柔術)ニ同ジ、やはらノ條ヲ見ヨ。

シユウ‐タン
しう‐たん (名) 【愁歎】 ウレヘ、ナゲクコト。沈佺期詩「妾心君未レ察、愁歎劇二繁星一」 盛長記、四十五、重衡向二南都一被レ斬事「五逆伴篤輕シ、外ヲ求ムベカラズ、衆徒多別亡シ、君臣大ニ愁歎ス」

ジユウ‐タン
じう‐たん (名) 【獸炭】 〔英語、Animal charcoal.ノ譯語〕 こったん(骨炭)ニ同ジ。

しうち (名) 【仕打】 シカタ。フルマヒノ狀。又、歌舞伎ニ、コナシ。思ヒイレ。擧動。東海道中膝栗毛(享和、一九)四編、下「半日ガハリニ、旦那ト、家來ノしうちハ、ドウダラウ」

シユウ‐チ
しう‐ち (名) 【羞恥】 ハヅルコト。ハヂ。歐陽修、與二高司諫一書「是足下不三復知二人間有二羞恥事一爾」

シユウ‐ジ
しう‐ぢ (名) 【修治】 ヲサメ、ツクロフコト。修理。漢書、宣帝紀「宮館勿二復修治一」

シユウ‐チク
しう‐ちく (名) 【修築】 ヲサメ、キヅクコト。家作ナドノ、ツクロヒ。宋史、樊知古傳「有下修二築河堤一之役上」

シユウ‐チン
しう‐ちん (名) 【袖珍】 〔袖ニ入ルベキ義〕 次次條ノ語ノ略。「袖珍英和辭書」

シユウ‐チン‐バン
しう‐ちん‐ばん (名) 【聚珍版】 くゎつぢばん(活字版)ニ同ジ、活字ノ條ヲ見ヨ。

シユウチン‐ボン
しうちん‐ぼん (名) 【袖珍本】 携フルニ便ニセムトテ、甚ダ小サク製セル書物ノ稱。巾箱本。寸珍本。略シテ、袖珍。

シユウ‐チヤウ
しう‐ちやう (名) 【酋長】 魁帥。蠻民ナドノ長。酋領。漢書、張敞傳「求二問長安父老、偷盜酋長數人一」 貞觀政要、「酋長悉授二大官一、祿厚位尊」

シユウ‐チヤウ
しう‐ちやう (名) 【愁腸】 ウレヘ悲シム心中。ウレフル心。劉禹錫詩「愁腸正遇斷猿時」 朗詠集、下「愁腸欲レ斷、閑窗有レ月之時」

シユウ‐チヤウ
しう‐ちやう (名) 【繡腸】 錦ノ心。美シキ文才ニ富メルヲ云フ語。錦繡腸。蘇軾詩「平生錦繡腸、早歲藜莧腹」「錦心繡腸」

シユウ‐チヤク
しう‐ちやく (名) 【祝着】 祝ヒ、思フコト。ヨロコブコト。慶賀。謠曲、粉川寺「只今ノ御登山、祝着中シ候」「御健勝之段、祝着至極」

シユウ‐ヂヨ
しう‐ぢよ (名) 【醜女】 シコメ。ミニクキ女。ミメ惡キ婦人。醜婦。惡女。ブヲンナ。范成大詩「錦使二鄉山多二醜女一」

シユウ‐チヨク
しう‐ちよく (名) 【修飭】 ヲサメ、トトノフルコト。ヲサメ、イマシムルコト。漢書、楚元王紀「向既冠、以レ行二修飭一、擢爲二諫大夫一」

シユウ‐ツウ
しう‐つう (名) 【愁痛】 ウレヘ、イタムコト。愁傷。左傳「夫人愁痛、不レ知レ所レ庇」(西府)

シユウ‐テイ
しう‐てい (名) 【修定】 修正シテ、考定スルコト。唐書、千志寧傳「修二定本草一并圖合五十四篇一」

ジユウ‐チヨウ
じう‐てう (名) 【柔兆】 十干ノ、丙ノ異名。

……「大鏡、右內臣ナキ二」

しうてき 〔名〕 讎敵 アダカタキ。

しうてん 〔名〕 周天 行星ノ、軌道ヲ、一周シテ、元ノ所ニ還ルコト。メグリ、メグルコト。「……、日行一度、一歲一周天、月行十三度、一月一周天」

しうと 〔名〕 舅 〔しひと、ノ音便〕 (一)又、しひと。夫ノ父。シウトヲ。倭名抄、「舅、夫之父曰舅、漢語抄云、之宇止」 (二)妻ノ父。外舅。婿翁。岳父。倭名抄、二「妻父爲外舅、爾雅釋親云、妻之父爲外舅、與夫之父同、一云、……」字治拾遺物語、四、上、「むこも、しうとも、心……」枕草子、四、三十九段、「ありがたきもの、しうとにほめらるる婿」

しうと 〔名〕 囚徒 メシウド。囚人。

しうとう 〔名〕 鬼燈 かぶすノ條ヲ見ヨ。

しうとく 〔名〕 宿德 (一)身ニ、德ヲ積ミタル人。……、四十四、「……しうとくノ相應……」宇治拾遺物語、……「……ノ山ニ、云云、しうとくニテマシマシケル大德ノ、……ニケル者ノ前ニ」……(二)代替キテ、……「……」……うとくニ、猶ゲニモナリニタルカナ」

しうとこ 〔名〕 宿德 前條ノ語ノ訛。

しうとご 〔名〕 姑御 姑ヲ、敬ヒテ云フ語。シウトメゴ。「……姑御ト、稱スルニ仕ヘテモノト」

しうとめ 〔名〕 姑 〔しひとめノ音便〕 (一)又、しひとめ。夫ノ母。倭名抄、二「……夫之母曰姑……」 (二)又、妻ノ母。外姑。倭名抄、二「夫妻……、妻之母爲外姑……」名義抄「姑、外姑、シウトメ」土佐日記、正月九日「……キルキレ、……ヤ宿ルラン、姑ヤ宿フラン、カヘラヤ」

しうとめご 〔名〕 姑御 前前條ニ同ジ。……「……姑御ガ休ンデヰヤヽ」

しうとを 〔名〕 舅 しうと(舅)ニ同ジ。靈異記、下、第四縁、訓釋「舅、シフトヲ」

しうなふ 〔名〕 收納 しゅふなふ(收納)ニ同ジ。「……收納……」

しうなん 〔名〕 柔軟柔輭 (輭ハ、軟ノ正字) シナヤカナルコト。ヤハラカナルコト。南史、姚察傳「……柔軟……顏色如レ……」

しうなんたいさう 〔名〕 柔軟體操 兵式體操ノ一、徒手ニテ行フモノ。器械體操ナドニ對ス。

しうにふ 〔名〕 收入 ヲサメ、イルルコト。トリイレ。左傳、襄公三十年「子產請二其田里一、……反二其田里及入一……田里所レ收入二」

しうにふいんし 〔名〕 收入印紙 證券、訴狀、登記願書、骨牌ナドニ、規則ニ從ヒテ貼用スル印紙。

しうにん 〔名〕 就任 任務ニ、ツクコト。「就任ノ挨拶」

しうねかす 〔名〕 荏粕 荏の油ノ粕。

しうね・し 〔形〕 執念 しふねしノ音便、其條ヲ見ヨ。枕草子、十二、百五十六段、いひにくきもの「イトしうねき御モノノケニ侍ルメルヲ、タユマセ給ハサラナン、ヨク侍ルヘキ」

しうねん 〔名〕 周年 丸一年。一周年。「……周年……」

しうは 〔名〕 秋波 (一)アキノナミ。秋季ニ立ツ波。白居易詩「秋波……」(二)横目ツカヒ。イロメ。ナガシメ。蘇軾詩「佳人未レ肯回二秋波一」……「……媚眼若二秋波一」「秋波ヲ送ル」

しうはう 〔名〕 酬報 ムクヒ、コタフルコト。酬答。報酬。晉書、……「……不レ同、……酬報之禮二」

しうばく 〔名〕 就縛 縛ニ、ツクコト。繩目ニカカルコト。晉書、……傳「……身就レ縛、……不……」

しうばく 〔名〕 收縛 トラヘ、シバルコト。……「……收縛……」

しうばつ 〔名〕 舟筏 ふねト、いかだト。又、船。唐書、食貨志「……」法日……「……有二以レ舟……江中一……」

しうばつ 〔名〕 秀拔 人ヨリスグレテ、拔ケ出ヅルコト。三國志、蜀志、……傳「……秀拔、主公相待……」

しうばん 〔名〕 週番 一週間ノ勤番。「週番士官」

しうばんしくゎん 〔名〕 週番士官 週番ノ勤務ニ服スル士官。

しうひ 〔名〕 周比 〔論語、爲政篇、集解「忠信爲レ周、阿黨爲レ比」〕 アマネク、ワタクシナキト、カタビイキト。

しうび 〔名〕 周備 アマネク、ソナハルコト。……文心雕龍「……周備……亦云周備」 太平記、廿一、「……山中ノ……ノ事、可……周備ニアラサレバ」

しうび 〔名〕 秀美 スグレテ、ウルハシキコト。又、ソノモノ。「眉目秀美」

しうび 〔名〕 醜美 ミニクキコトト、ウツクシキコトト。醜麗。美醜。後漢書、……傳「傳曰、人心不レ同、譬若二其面一、……大小……醜美之形、……不レ……也」

しうび 〔名〕 愁眉 ウレヘノマユ。愁フル面持。後漢書、五行志「京都婦女、作二愁眉啼粧……」「……愁眉ヲ開ク」

じうび 〔名〕 柔媚 タヲヤカナルコト。ヤハラカニテ、コビ諂フコト。唐書、……「……柔媚……」

じうびだん 〔名〕 柔鼻彈 だむだむ彈。

しうふ 〔名〕 囚俘 イケドリ。トリコ。メシウド。左傳、昭公十三年「平子怒、令レ見二……人一……以爲二囚俘一」

しうふ 〔名〕 醜夫 容貌ノ、見ニクキ男。ブヲトコ。潘岳、射雉賦「醜夫……之改レ貌」

しうふ 〔名〕 醜婦 醜女ニ同ジ。三國志、吳志、……傳「……醜婦……必無二醜婦一」

しうふく 〔名〕 修復 しゅふく(修復)ニ同ジ。後漢書、光武帝紀「……修……西京……」

しうぶん 〔名〕 秋分 二十四氣ノ一、秋ノ中ニシテ、春分ト、同ジク、晝夜、平分ノ時ナリ。今、大抵、九月ノ二十三日ニアタル。晉書、天文志「老人星……南極……以二秋分之夕一見二於丙一」

しうぶん 〔名〕 醜聞 ケガラハシキ、キコエ。恥トナルベキ、聞キニクキ噂。

醜名、惡評。「醜聲ヲ流ス」

しうへん シユウヘン (名) 【周邊】 メグリノフチ。マハリ。「國ノ周邊」

しうほ シユウホ (名) 【修補】 ツクロヒ、オギナフコト。修理。後漢書、曹褒傳「修二補舊文一」

しうぼつ シユウボツ (名) 【收沒】 ぼっしう (沒收)ニ同ジ。南史、東昏侯紀「復加二收沒一」

しうボツ シユウボツ (名) 【臭剝】 臭化かりうむノ一稱、無色、骰子形ノ、水ニ溶ケヤスキ、晶體ヲナスモノ、醫療ニ鎭靜藥トス。

しうみ シユウミ (名) 【臭味】 (一)ニホヒ。カ。クサミ。臭氣。(二)草木類ヲ、同ジク置カバ、臭味モ、同ジカルベシ、故ニ、同氣、同類ノ義ニ云フ語。左傳、襄公八年「今譬二於草木一、寡君在レ君、君之臭味也」

しうみつ シユウミツ (名) 【周密】 アマネク、ユキワタルコト。ヌカリナク、行キトドキタルコト。周到。漢書、張安世傳「以二謹愼周密一自著、外内無レ間」

しうみん シユウミン (名) 【就眠】 ネムリニツクコト。

しうむ シユウム (名) 【愁夢】 ウレヘノ際、見ル夢。心配ノ時、見ル夢。岑參詩「邊城夜夜愁夢多」

しうん シウン (名) 【時運】 トキノ、メグリアハセ。時ノ運命。班彪、北征賦「諒時運之所レ爲兮、永伊鬱其誰愬」

しうめい シユウメイ (名) 【醜名】 恥トナル外聞。ミニクキコエ。醜聞

しうもん シユウモン (名) 【愁悶】 ウレヘ、モダユルコト。煩悶。姚合詩「愁悶欲二何如一」

しうやう シユウヨウ (名) 【修養】 精神ヲ研キヲサメテ、品性ヲ養成スルコト。學業ヲ修得シ、德性ヲ涵養スルコト。張養浩、牧民忠告(?)「維人之心、匪レ惡伊善、由レ弗二修養一、道乃遐叛」

しうやう シユウヨウ (名) 【收養】 取リ入レテ、ヤシナフコト。漢書、張安世傳「宣帝以二皇曾孫一收二養掖庭一」

しうやく シユウヤク (名) 【聚葯】 植物學ノ語、互ニ連絡シテ、一ツノ筒狀ヲナセル葯。

しうよう シユウヨウ (名) 【收用】 (一)取リイレテ、用キルコト。蘇軾詩「一時偶收用」(二)公用ノタメ、或ル所有權ヲ、強制徵收シテ、國家、若シクハ、第三者ノ所有ニ移スコト。

しうよう シユウヨウ (名) 【收容】 ヲサメ、イルルコト。受ケコミ、入ルルコト。「收容力」

じうよく ジユウヨク (名) 【獸慾】 色情ノ慾。色慾。(動物性ノ慾トシテ、卑シメテ云フ語)

しうらく シユウラク (名) 【聚落】 ジュラク。郊外ノ、人家ノ聚レル所。村。ムラザト。(村落ノ條ノ語原ヲ見ヨ)

しうらん シユウラン (名) 【秋蘭】 らん(蘭)ノ條ヲ見ヨ。屈原、離騷「紉二秋蘭一以爲レ佩」

しうらん シユウラン (名) 【周覽】 歷巡リテ、覽ルコト。アマネク、見ルコト。史記、秦始皇紀「登二茲泰山一、周二覽東極一」

しうらん シユウラン (名) 【收攬】 ヲサメ、トルコト。己レノ方ヘ、取込ムコト。晉書、周嵩傳「收二攬英奇一、遂有二漢業一」「人心ヲ收攬ス」

しうり シユウリ (名) 【修理】 ツクロヒ、ナホスコト。ヲサメ、整フルコト。修治。後漢書、光武紀「修二理長安高廟一」

しうりう シユウリユウ (名) 【周流】 (一)メグリ、ナガルルコト。名義抄「周流、メグル」「大川、周流ス」(二)ヘメグルコト。周遊。史記、貨殖傳「是以富商大賈、周二流天下一」

じうりん ジユウリン (名) 【蹂躪】 フミ、ニジルコト。蹂踐。班固、西都賦「蹂二躪其十二三一、乃拗怒而少息」

しうりやう シユウリヨウ (名) 【酋領】 しうちやう(酋長)ニ同ジ。宋史、趙思忠傳「得二腹心酋領十餘人一」

しうりよ シユウリヨ (名) 【醜虜】 (一)ミニクキ、エビス。敵國人ヲ、卑シメテ云フ語。胡銓、上二高宗一封事「劉豫臣二事醜虜一」(二)俘虜ヲ、卑シメテ云フ語。

しうるゐ シユウルイ (名) 【醜類】 (一)惡人ノナカマ。ワルモノノ黨類。左傳、文公十八年「醜類惡物、頑嚚不レ友」(二)タグヒ。トモガラ。左傳、定公四年「將二其醜類一」杜注「醜、衆也」

じうるゐ ジユウルイ (名) 【獸類】 ケダモノノタグヒ。

しうれい シユウレイ (名) 【秋冷】 秋ノ、ヒヤヤカサ。「時下、秋冷ノ候」

しうれい シユウレイ (名) 【秀麗】 スグレテ、ウックシキコト。秀デ、スグレタルコト。南史、陳武帝紀「山川秀麗、當レ有二王者興一焉」「眉目秀麗」

しうれい シユウレイ (名) 【醜麗】 ミニクキト、ウルハシキト。醜美。高適詩「良レ世同二醜麗一」

しうれふ シユウリヨウ (名) 【狩獵】 しゅれふ(狩獵)ニ同ジ。

しうれん シユウレン (名) 【修錬・修煉】 ネリ、ヲサムルコト。學ビタルコト、能クネルコト。宋史、韓通傳「今聖上、聰明秀異、博通二古今一、深究二治亂一云云、勤行修煉、無レ出二於此一」

しうれん シユウレン (名) 【聚斂】 (一)アツメ、ヲサムルコト。詩經、周頌、維天之命箋「我其聚二斂之一、以制二法度一」(二)人民ヨリ、苛ク、租稅ヲ取立ツルコト。大學「與二其有一聚斂之臣一、寧有二盜臣一」

しうれん シユウレン (名) 【收斂】 (一)穀物、果實ナドヲ、取リヲサムルコト。陸游詩「霜晴收斂少レ在レ家」(二)租稅ヲ、取リタツルコト。禮記、月令篇「命二百官一始收斂」

しうれんざい シユウレンザイ (名) 【收斂劑】 胃腸ヲヒキシメテ、下痢ヲトメ、又ハ、皮膚ヲヒキシメテ、腫ヲトムル藥。

しうろ シユウロ (名) 【袖爐】 ソデガウロ。

しうろく シユウロク (名) 【收錄】 聚收シテ、記錄スルコト。後漢書、侯霸傳「收二錄遺文一」

しうわい シユウワイ (名) 【收賄】 (賄ハ、正音、くゎい) 賄賂ヲ、受クルコト。マヒナヒヲ、取ルコト。「收賄罪」

じうわう ジユウオウ (名) 【獸王】 獅子ノ異名、獸類ノ王ト云フ。獅子ノ條ヲ見ヨ。

しうゐ シユウイ (名) 【周圍】 マハリ。メグリ。四面ノアタリ。范大成詩「汙萊一稜水周圍、歲歲蝸廬沒二半扉一」

しうゑ シユウエ (名) 【臭穢】 クサク、キタナキコト。梁文帝、與二湘東王一書「心如不レ安、何異三臭穢下レ飯」

じうゑん ジユウエン (名) 【柔婉】 柔順ニシテ、婉曲ナルコト。ヤサシクテ、スナホナルコト。北史、蕭宣皇后傳「后性柔婉、不二妬忌一、嬪御等、

［illegible］之」

ジユウエン
しうゑん　名　［［illegible］］　深門、人民ヲ、手ナヅケ從ハシムルコト。「［illegible］」

シユウヲ
しうを　名　［羞惡］　己レノ不善ヲハヂ、人ノ不善ヲニクムコト。ハヅカシク思フコト。「孟子、告子、上篇、羞惡之心、人皆有之」

しえ　名　［紫衣］　（衣ハ、漢音、い、呉音、え ナリ）僧衣ノ、紫色ナルモノ、許サレテ、服ス、妄リニ用キルコト能ハズ。（五山ノ僧ナドハ、宿德ニ因リテ許サル）「［illegible］史略「按、唐書、則天朝、有僧法朗等九人、重譯大雲經、［illegible］、賜紫袈裟、［illegible］、此、賜衣之始也」

しえ　名　［緇衣］　（一）黑キ衣。黑衣。「詩、鄭風、緇衣篇、緇衣之宜兮、敝予又改爲兮」（二）黑染ノ衣。僧ノ衣。僧侶。

しえい　（名）　［市營］　市ノ事業トシテ、營ムコト。（官營、私營ナドニ對ス）

しえい　（名）　［私營］　官營ニ對ス」私人ニテ、營ムコト。「私營ノ市場」

しえい　（名）　［自營］　自立シテ、事業ヲイトナムコト。獨立シテ、生計ヲイトナムコト。「［illegible］」「自營ノ道」

シヨウ
しえう　名　［至要］　至ツテ、大切ナルコト。切要。「三國志、吳志、吳範傳［illegible］」

しえき　（名）　［使役］　人ヲ逐ヒ使フコト。「［illegible］使役ニ」

しえき　（名）　［時疫］　トキノケ。其時ニ流行スル病。ハヤリヤマヒ。

しえき　（名）　［滋液］　滋味アルシル。甘味アル液。「［illegible］滋液［illegible］、何所不行」

しえつ　名　［私謁］　私事ヲ以テ、見ユルコト。ワタクシノ請謁。「史記、中尉［illegible］爲人廉直、門不受私謁」

シエフ
しえふ　（名）　［枝葉］　（一）エダハ。樹ノ、えだ ト、は ト。「枝葉、繁茂ス」（二）事件ノ、末ノ部分。「保元記、六、入道院宣奉事「成親卿ノ謀叛ハ、事ノ枝葉也」「談、枝葉ニ渉ル」

シヨウ
しえふ　名　［子葉］　植物學ノ語。種ノ胚ノ一部ニシテ、種子發芽ノ時、最初ノ葉トナル部分。

しえん　名　［紫煙］　（一）紫色ノ靄。「［illegible］」（二）煙草ノ煙。「［illegible］「日、香爐ヲ照シテ紫煙ヲナス」

しえん　（名）　［紙鳶］　イカノボリ。タコ。「獨異志、宋、李元［illegible］梁武帝［illegible］」

しえん　名　［試演］　ココロミニ、ノブルコト。タメシニ、演ズルコト。「音樂ノ試演」

しえん　（名）　［詞筵］　文人ノ會合ノ席。風雅ノ會席。

しえん　（名）　［資緣］　タスケ。手ガカリ。「盛衰記、十八、仙洞管絃事「笛ハ、今生一旦ノ翫物、經ハ、當來得脫ノ資緣也」

シエリイ　名　「英語、Sherry.」葡萄酒ノ一種、西班牙ノ Jerez. 地方ニテ釀造スルモノ。

しおき　（名）　［仕置］　（一）仕置クコト。「室町殿日記、九、松永彈正京都ノ仕置、改ル事」（二）警メ、取締ルコト。「新撰、信長記、三、稻葉一揆退治事「信長卿、先ヅ歸坂アルベキトテ、畿内、隣國ノ仕置等、大形、被仰置ニ」（三）惡シキヲ、懲ラスコト。刑罰。刑

しおきば　（名）　［仕置場］　仕置スル所。刑罰ヲ行フ地。刑場。法場。「鈴ケ森ノしおき場」

しお・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）　［仕置］　爲シ遺ス。處置ス。處分ス。「［illegible］、十五、蓬生「見ヨト思ヒ給ヒテコソ、しおかせ給ヒケメ」同、五、若紫「國ノ司ニテ、しおきケル事ナレバ」同、四十、幻「ミヅカラしおき給ヒケル事ナレド」

しおくり　（名）　［仕送］　シオクルコト。金品ナドヲ、送リヤルコト。「浮世風呂（文化、三馬）四編、中「年中ハ、御本家カラ仕送りノ」

しおく・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）　［仕送］　金品ナドヲ、ミツギ送ル。「七偏人（安政、梅亭金鵞）三編、下「仕送らレテ稼ラ、身ヲ、仕送るト見フレチニア、情ネエネ」

シクヰン
しおくゐん　（名）　［紙屋院］　かみや（紙屋）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しおち　（名）　［爲落］　爲ベキコトヲ、忘レテ、爲ザルアヤマチ。爲漏ラスコト。テヌケ。テオチ。ヲチド。遺錯

シオホス
しおほ・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（他動、下二）　［爲果］　爲テ、果ス。爲遂グ。竣功　「宇治拾遺、五、第八條「侍、しおほせツト思ヒテ、眠リ居タル程ニ」平家物語、一、鹿川合戰事「此ノ事、しおほせツル物ナラバ、國ヲモ、庄ヲモ、所望ニヨルベシ」

シオホセル
しおほ・せる　（動）　［爲果］　前條ノ語ノ口語。

しおん　（名）　［四恩］　佛經ノ說ニ、天地（或云、三寶）、國王、父母、衆生ノ、四ツノ恩。「心地觀經、佛言、世出世恩、有其四種、一、父母恩、二、衆生恩、三、國王恩、四、三寶恩、如是四恩、一切衆生、平等荷負」平家物語、二、教訓狀「心ノ底ニ、旨趣ヲ殘スベキニモ候ハズ、先ヅ、世ニ、四恩、候フ、天地ノ恩、國王ノ恩、父母ノ恩、衆生ノ恩、是ナリ」

しおん　（名）　［至恩］　至極ナル恩。此ノ上ナキ恩。「後漢書、桓榮傳、君臣大義、母子至恩」

しおん　（名）　［私恩］　私ニ施ス恩。私ノ心ヨリ施ス恩。「後漢書、［illegible］、今乃［illegible］人臣、［illegible］」「私恩ヲ賣ル」

しおん　（名）　［師恩］　師ノ恩。

しおん　（名）　［子音］　しいん（子音）ニ同ジ、はッせい（發聲）ノ條ヲ見ヨ。

しおん　（名）　［字音］　「漢字音ノ略」かんおん（漢音）ノ條ヲ見ヨ。

じおん　（名）　［慈恩］　アハレミ。メグミ。慈惠。「宋之問詩、［illegible］慈恩［illegible］」

ジオラマ　（名）　「英語、Diorama.」見世物ノ一種、長大ナル畫布ニ、連續セル光景ヲ畫キ、暗室内ヨリ觀テ、實景ニ接スルガ如ク感ゼシムル裝置ノモノ。

しか　（名）　［牡鹿］　（夫鹿ノ轉、女鹿ニ對ス、かせぎトモ云フ、鹿夫君ナリト云フ、一說ニ、其角、桛木ニ似タレバ名トストモ云フ、せうが、めうが ト、同趣（か、をしか、さをしか、見合ハスベシ））獸ノ名、本名、鹿ナリ、しかト云フハ、古クハ牡ノ名ニテ、牝ヲ めか ト云ヘリ、後世ハ牝、牡ニ通ジテ、しかト云フ。山ニ棲ム、牡ハ形、馬ヨリ小サク、犬ヨリ大ナリ、背ノ毛色、赤クシテ、黃ヲ帶ビ、小サク白キ斑アリテ、美シ、四時ニ、毛色ヲ變フ、雙角アリテ、枝、多ク、年年、夏ニ落チテ、再ビ生ズ、上齒ナシ、牝ハ、形、牡ヨリ小サク、角ナク、斑ナクシテ、白毛、雜リテ、上齒アリ、角、皮、皆用、多ク、肉モ食フベシ。カ、カセギ、カノシシ。「仁德紀、三十八年七月、自菟餓野、有鹿鳴、云云、天皇命膳夫以問曰、其鹿不鳴、其何由焉、云云、當是夕、［illegible］其何物也、對言、牡鹿也」萬葉集、十四「ナニ牡鹿ノ、

ワレ鳴キスナル、茂シクモ、秋野ノ萩ヤ、繁ク散ルラシ」同、四十四「夏野行ク、小牡鹿ノ角ノ、ツカノ間モ、妹ガ心ヲ、忘レテ思ヘヤ」同、十三十「コノ頃ノ、秋ノ朝ケニ、霧ガクレ、妻ヨブ雄鹿ノ、音ノハルケサ」同、同二十「奥山ニ、住ムテフ鹿ノ、初夜サラズ、妻トフ萩ノ、散ラマク惜シモ」歌ニ詠ムハ、鳴ク聲ヲ愛デテノ事ニテ、スベテ皆、牡鹿ノ事ヲ云ヘリ。(牝鹿ハ、鳴カズ) 萬葉集、八 四十「宇陀ノ野ノ、秋萩シヌギ、鳴ク鹿モ、妻ニ戀フラク、我レニハマサジ」同巻四十九「秋ノ野ヲ、朝ユク鹿ノ、跡モナク、思ヒシ君ニ、アヘル今夜カ」同、十二 卅八「紫草ヲ、草トワケワケ、伏ス鹿ノ、野ハ異ニシテ、心ハ同ジ」同、八 三十一「暮サレバ、小倉ノ山ニ、鳴ク鹿ノ、今夜ハ鳴カズ、イネニケラシモ」同巻八 二十「秋萩ノ、散リノマガヒニ、呼ビタテテ、鳴クナル鹿ノ、音ノハルケサ」同九 三十「フナハリノ、猪發ノ山ニ、伏ス鹿ノ、嬬呼ブ音ヲ、聞クガトモシサ」鹿を爭ふト云フハ、天下ヲ爭フ、或ハ、位地ヲ獲ムト競爭スル意。魏徵、述懷詩「中原還逐レ鹿」鹿を逐ふものは山を見ずト云フハ、一ノ利ヲ逐フニ目暗ミテ、念、他ニ及バザル意。淮南子、說林訓「逐レ獸者、目不レ見ニ太山一、嗜欲有レ外、則明所レ蔽矣」

しか (名) [詩歌] (一)詩ト、歌ト。漢詩ト、和歌ト。詩歌。狂言記、雁かりがね「何レノ詩歌ニモ、ヤハカ、雁トハ候マイ」(二)詩ニ同ジ。(散文ニ對ス) 漢書、禮樂志「發ニ文子詩歌一」

しか (名) [師家] 師匠ノ家。教師ノ家。世說、政事篇「從ニ師家一受レ書還」

しか (名) [市價] 市場ニテ、賣買スル相場。孟子、滕文公、上篇「市價不レ二」「米ヲ、市價ニテ買上グ」

しか (名) [紙價] カミノアタヒ。紙ノ直段。白居易詩「從レ此南中紙價高」「洛陽ノ紙價」

しか (名) [賜暇][賜假] 休暇ヲ、コフルサルルコト。イトマヲ、タマハルコト。晉書、王國寶傳「詔特賜レ假」

しか (名) [疵瑕] (疵ハ、正韻「毀也」瑕ハ、博雅「裂也」) キズ。缺ケタルトコロ。史記、韓王信傳、贊「疵瑕頗起、禍及レ身」

シカ (名) [知客] (字ノ唐音) 禪家ニテ、客ヲ接待スル役僧。運歩色葉集「知客、シカ、禪家官」庭訓往來、十月「知客、燒香」

しか (副) [然] (其氣ノ轉) 前ノ物事ヲ指シテ、ソノ如クト云フ意ヲ云フ語。ソノヤウニ。サヤウニ。然。しかく。源、六、末摘花 九十「内ヨリカトノ給ヘバ、しか、マカリテ侍ルママナリ」續後紀、六、承和四年十二月、上表「今毛又、志賀奈毛思行須」

しが (名) [齒牙] (一)は、きば。又、單ニ、は。左傳、隱公五年「皮革齒牙、骨角毛羽、不レ登ニ於器一、則公不レ射」(二)轉ジテ、口ノ端。口先。論議。史記、叔孫通傳「此特群盜鼠竊狗盜耳、何足レ置ニ之齒牙間一」「齒牙ニカクルニ足ラズ」

しが (連體) [其] (しハ、其ノ轉) (一)其ノ。其レガ。古事記、下(仁德)六長歌「椿、斯賀花ノ、照リイマシ、芝賀葉ノ、弘リイマス」同巻三十長歌「枯野(船名)ヲ、鹽ニ燒キ、斯賀餘リ、琴ニ造リ」萬葉集、十九 廿七長歌「彌遠ニ、忍ビニセヨト、黃楊小櫛、之賀刺シケラシ、生ヒテ靡ケリ」同巻九 三十長歌「吾ガ大皇ハ、秋ノ花、之我色色ニ、見シ賜ヒ、明メタマヒ」(二)己レガ。萬葉集、十三 六長歌「己之母ヲ、取ラクヲ知ラズ、己之父ヲ、取ラクヲ知ラニ」同、十八 廿一長歌「老人モ、女童兒モ、之我願フ、心タラヒニ、撫デタマヒ、治メタマヘバ」(三)汝ガ。イマシガ。雄略紀、十三年九月、長歌「旨我無ケバ、誰カ懸ケムヨ、アタラ墨繩」萬葉集、五 三十九長歌「三枝ノ、中ニヲ寐ムト、愛クシク、志我語ラヘバ、何時シカモ」落窪物語、一「アナ若若シノ蠢蠢ヤ、しが身ノ程知ラヌコソ、イト心憂ケレトテ、打チアザワラヒ給フ」

しか (名) [時下] イマ。タダイマ。刻下。目下。俗語藪「時下無ニ討頭處一」

しか (名) [時價] 當時ノ相場。唐書、權德輿傳「時價不レ踊、而蓄藏者出矣」「古錢ヲ、時價ニ換算ス」

しか (名) [自家] オノレ。自身。「自家撞着」

しが (名) [自我] 自意識ニテ意識スル我レ。己レノ一切ノ心的現象ノ主觀ニシテ、己レノ一切ノ活動ノ能作者タルモノ。又、我トノミモ云フ。

シガア (名) (英語、Cigar.) 葉卷煙草。

しかい (名) [四海] (一)四方ノ海。平治物語、一、信賴信西不快事「四海ニ、風波ノ恐レナク」(二)天下。世界。書經、禹貢篇「四海會同」同、說命、下篇「四海之內、咸仰ニ朕德一」「富、四海ヲ保ツ」

しかい (名) [詞海] コトバノウミ。詩文ノ豐富ナルヲ、海ニ譬ヘテ云フ語。朗詠集、上、九月盡「文峯案レ轡白駒景、詞海艤レ舟紅葉聲」

しがい (名) [市街] (一)人家、軒ヲ比ベタル土地。マチ、街衢。白居易詩「市街塵不レ到、宮樹影相連」(二)町ノ通路。チマタ。

しがい (名) [死骸] カバネ。シカバネ。屍。法苑珠林「無レ有ニ屍骸一」保元物語、一、義朝幼少弟悉失事「三人ノ死骸ノ中ヘ、分ケ入リテ」

しがい (名) [絲鞋] 絲ニテ作リタル鞋。古ヘ、雅樂ノ舞人ナドノ用キシモノ。イトノクツ。倭名抄、十二 廿履襪類「絲鞋、辨色立成云、絲鞋、伊止乃久都、今按、俗云、之賀伊」名目抄「絲鞋、幼主之時著レ之、又、樂人舞人、著レ舞時著レ之」太平記、三十九、神木御歸座事「時ノ關白良基公ハ、柳ノ下重ニ、絲鞋ヲ召シテ」

しがい (名) [紫蓋] 紫色ノキヌガサ。山氣ヲ喩ヘテ云フ語。宋書、符瑞志「黃旗紫蓋、見ニ於斗牛之間一」朗詠集、下、嶺「紫蓋之嶺嵐疏、雲收ニ七百里之外一」

しかい (名) [字解] 文字ノ解釋。字ノ意義ノ說明。

しがい (名) [自害] 自ラ、ソコナフコト。己レ傷ツケテ、死ヌルコト。(多ク、婦人ノ、喉ヲ刺スニ云フ) 自刃。北越軍記、謙信傳「憾レ不レ免、仍亦自害」保元物語、一、親治等生捕事「親治、猛ク思ヘドモ、カナク、自害ニモ及バズ、生捕ラレニケリ」

しがいせん (名) [市街戰] 市中ニテノ戰爭。

しかいのまつり (名) [四界祭] 古ヘ、平安京ノ四方ノ境界ニマシマス神ヲ祀ルコト。西宮記、十六、臨時、四「四界祭、隨ニ宣旨向ニ四界一祭、以ニ藏人所人一爲レ使、天下有レ疾之時、隨ニ宣旨一支度ニ」

しかいふ (句) [云爾] 漢文ノ末ニ用キル助辭ノ、云爾ヲ訓ム語ニテ、然言ふノ義。サレド、云爾ハ、云云、爾爾、ノ省語ナリト云ヒ、共ニ、如レ此如レ此、ノ意ニテ、古クハ、しかしかト訓メリ、ソレヲ正シトスベシト云フ。名義抄「云爾、シカイフ」論語、述而篇「不レ知ニ老之將一レ至云爾」孟子、離婁、下篇「日、惡乎云爾」古事記、中(崇神)八十「宇麻久玖云爾(いふト訓ミテ、爾ハ、捨ツ)」

しかう (名) [至孝] 延ベテ、しいかう。至極ノ孝行。禮記、祭義篇「至孝近ニ乎王一、至弟近ニ乎霸一」「親ニ事ヘテ、至孝ナリ」

しかう (名) [至交] 至極ノ交際。此上モナキ、親シキマジハリ。又、其友。南史、孔逭傳「好ニ典墳一、與ニ王僉一至交」

しかう (名) [至姣] 極メテ、美シキコト。又、其者。孟子「毛嬙西施、天下至姣者也」

しかう (名) [四更] かう(更)ノ條ヲ見ヨ。代悲白頭翁詩「四更山吐レ月、殘夜水明レ樓」

しかう (名) 四行 (一)人ノ行フベキ、四ツノ道。即チ、孝、悌(一ニ弟)、忠、信(二二順)(小學紺珠)(二)女子ノ守ルベキ四ツノ行爲。即チ、婦徳、婦言、婦容、婦功。「後漢書、曹世叔妻傳」

しかう (名) 四皓 〔皓ハ、鬚眉ノ白キ義〕漢ノ高祖ノ時、商山ニ隱レシ、四人ノ老人。即チ、東園公、綺里季、夏黄公、甪里先生。「史記、留侯世家、索隱」

しかう (名) 思考 カンガヘ。思案。

しかう (名) 私行 (一)私人トシテノ、オコナヒ。(二)ワタクシノ、オコナヒ。内内ノ行爲。「私行ヲ發ク」

しかう (名) 梓行 梓ノ木ヲ刻リテ、書ヲ版行スルコト。圖書ノ出版。上木。

しかう (名) 施行 トリ、オコナフコト。「史記、齊悼惠王世家、使宣施行」、「法律ノ施行ス」

しかう (名) 施行 執事(役ノ管領)ヨリ、守護ヘ下サルル文書ヲ、執事ノ施行ト云ヒシ。(庭訓往來)

しかう (名) 嗜好 スキ、コノミ。「[illegible]所嗜好ニ」

しかう (名) 史稿 歴史ノ草稿。

しかう (名) 詩稿 詩ノ草稿。

しがう (名) 詩豪 詩人中ノ、秀デタルモノ。詩ノ大家。「唐書、劉禹錫傳、居易以詩[illegible]」

しがう (名) 試毫 書キゾメ。試筆。

しかう (名) 紙毫 筆ノ一稱。

しがう (名) 諡號 オクリナ。「晉書、禮志「封泰山者、七十有四家、其諡號可知者、十有四」」

しがう (名) 侈傲 オゴルコト。奢侈、驕傲。「史記、周本紀、行[illegible]侈傲、國人謗王」

しがう (名) 至剛 極メテ、ツヨクカタキコト。「孟子、公孫丑、上篇「其爲氣也、至大至剛」」

じかう (名) 事項 箇條。コトガラ。

じかう (名) 侍講 君側ニ侍リテ、書ヲ講ズル職。「後漢書、和帝紀「侍講」」

じかう (名) 時好 トキノコノミ。ハヤリ。「漢書、貨殖傳「士設反道之行、以追時好」」

じかう (名) 時效 〔英語、Prescription. ノ譯語〕法律ノ語、時間ノ經過ニヨリテ、權利ノ、生ジ、又ハ、消滅スルコト。

じがう (名) 寺號 寺ノ名。山號。「盛衰記、九、善光寺炎上事「信濃國水内郡住人、本田善光ト云者、難ニ負ヒテ、我家ヲ寺トシ、我名ヲ寺號ニ附ツツ、安置シ奉リテ」」

しかうきん (名) 紙腔琴 一種ノ樂器。樂譜ヲ切リ抜キタル紙ヲ、函ノ中央部ニ嵌込ミテ、ソノ機械ヲ廻轉スル時ハ、管音ヲ自發シテ奏樂スルモノ。

しかうさく (名) 視告朔 かうさく(告朔)ノ條ヲ見ヨ。

しかうして (接) 而 然シテノ延。ソノ如クアリテ。サウシテ。「天智即位前紀、注「春秋之志、正在于高麗、而先聲百濟」」

しかうら (名) 鹿占 古へ、鹿ノ肩ノ骨ヲ燒キテ、其裂紋ニヨリテ、吉凶ヲ判定セシうらなひ。

しかかり (名) 仕懸 (一)シカカルコト。爲始ムルコト。(二)爲テ、中途ナルコト。シサシタルコト。

しかか・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 仕懸 (一)爲始ム。シカク。(二)爲テ、中途ナリ。シサス。

しかき (名) 鹿木 獵人ノ、山中ニテ、猪、鹿ヲ獲ムガ爲ニ、岩ニ高ク、棚ノ如キモノヲ作リ置クモノ。猪、鹿ノ、其下ヲ過グル時、狙ヒテ射ル、又、待木ト云ヒ、略シテ、待トノミモ云フ。「夫木抄、十三、秋「マスラヲノ、鹿木ノ陰モ、アラハレテ、忍ブ隈無キ、秋ノ夜ノ月」爲忠、堀百首「山賤ガ、しかきノ陰ヤ、暗モナキ、居待ノ月ノ、出テズサリケル マスラヲノ、待木ノ下ニ、立ツ鹿ノ、マダフニ見スル、夜半ノ月カナ」今昔物語、廿七、廿二語「待ツト云フ事ヲナム、シケル、其レハ、高キ木ノ股ニ、横様ニ木ヲ結テ、其レニ居テ、鹿ノ來テ、其ノ下ニ有ルヲ待テ、射ル也ケリ」」

しかく (名) 四角 (一)周圍ニ、角ノ、四ツアル形。方形。四稜 (二)四方ノスミ。四隅。「二中歷、公家被行三四角四堺之祭二」

しかく (名) 視角 物理學ノ語、物體ヲ視ル際、眼ヨリ引キタル二直線ガ、物體ヲ挾ミテナス角。

しかく (名) 視覺 (一)眼ニテ、物ヲ知覺スルコト。眼ノ知覺。(二)眼ニテ、物ヲ知覺スル力。

しかく (名) 詞客 詞曲ヲ作ル人。文人ニ同ジ。「文人詞客」

しかく (名) 刺客 〔せきかくノ誤讀〕暗殺ヲ行フ者。「史記、袁盎傳「梁刺客後曹輩、果遮刺殺盎安陵郭門外二」」

しかく (名) 詩客 しじん(詩人)ニ同ジ。「姜夔詩「城南詩客今安在」」

しかく (名) 詩格 (一)詩ヲ作ル規定。(二)詩ノ品格。「捫蝨新話、宋、陳[illegible]出、然後詩格極于高古二」

しかく (名) 資格 (一)身分。地位。「唐書、選擧志「用例資格、無聞能否、[illegible]」」(二)其事ニ當ルベキ、相當ノ實力、理由。格式。「候補者ノ資格」「受驗者ノ資格」

しか・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 仕掛 (一)爲始ム。シカカル。(二)仕向ク。我レヨリ、スル。「榮花物語、三十八、松のしづえ「イツシカ、ヤタナキワザヲ、しかけテ給ヘレバ」」「議論ヲしかく」「夜討ヲしかく」(三)裝置ヲ、ナス。「狂言記、水掛聟「マンマト、水ヲしかけテオイタガ」」

しかく (副) 然 しか(然)ニ同ジ。

しがく (名) 仕覺 才覺ノ仕方。用意シテ、蓄フルコト。「浮世風呂、文化、三編、上「三年越シノ長煩ヒダカラ、しがくガネエト思ヒナセエ」」

しがく (名) 四岳 (一)支那ニテ、堯ノ代ノ、四方諸侯ノ長官。「書經、舜典篇「帝曰、咨四岳」」(二)次條ニ同ジ。

しがく (名) 四嶽 支那ニテ、四方ニ峙立スル大山。即チ、泰山(東嶽)華山(西嶽)、衡山(南嶽)、恆山(北嶽)ノ稱。

しがく (名) 試樂 音樂ヲ、先ヅ試ミルコト。笛ノ音取、箏ノ爪調、琵琶ノ撥合セ、等、コレナリトゾ。「源、六、末摘花「行幸ナドアリテ、しがくナド、ノノシル頃」花鳥餘情「御賀ニハ、試樂、調樂ナド云ヒテ、舞樂ノ試ミドモアリ」字類抄「試樂、シガク」」

しがく (名) 史學 歷史ノ學問。歷史學。宋史、楊億傳「長ニ于史學ニ」

しがく (名) 私學 (官學、公學ニ對ス) 私ニ立テタル學校。私立學校。

しがく (名) 志學 (一)學問ニ、志スコト。馬戴詩「平生空志レ學」 (二)十五歲ノ異稱。(出典ニ起レル語) 論語、爲政篇「吾十有五、而志二于學一」

しがく (名) 視學 (一)學事ノ視察。禮記、王制篇「天子視レ學」 (二)學事ノ視察ヲツカサドル役人。「縣視學」

じかく (名) 自覺 (一)自我ヲ、認ムルコト。自我ノ意識。自意識。(二)ミヅカラ、己レガ分際ヲ知ルコト。內ニ省ミテ、自身ノ事ヲ覺ルコト。唐書、魏徵傳「人苦不二自覺一爾」

じかく (名) 寺格 寺院ノ階級。寺ノ位。

じがく (名) 字學 支那ノ文字ノ象ノ學。說文學。王建詩「書齋三八分二通二字學二」

じがく (名) 耳學 只、人ヨリ聞キテ、辨フルコト。ミミガクモン。キキオボエ。南史、沈慶之傳「慶之謂レ羣臣、衆人雖レ見二古今一、不レ如二下官耳學一也」

しかくアンドン (名) 四角行燈 かくあんどんニ同ジ、行燈ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。「學八卦柱暦(正德、近松作)上「臺所ニハ、有明ノ四角行燈」

✣しかく・い (形、二) 四角 方形ノ。眞四角ノ。「しかくい箱」

しがくくゎん (名) 視學官 文部省ノ高等官、學事ノ視察ヲ掌リ、兼ネテ、省內ノ各局ニ分屬シテ、事務ヲ掌ル者。大正二年、督學官ト改ム。

しかくだけ (名) 四角竹 竹ノ一種、幹ノ徑、七八分ニシテ、四稜ニテ、稜、銳カラズ、肌ニ、ザラツキアリ、根ノ上ノ三五節ノ周ニ、小根、連リ出デテ、刺ノ如シ、切リテ、多クハ、杖トス。四方竹。方竹

しかくのまつり (名) 四角祭 皇居ノ四隅ニマシマス神ヲ祀ルコト。西宮記、十六、臨時、四「四角祭、陰陽寮、宮城四角祭、有レ使所人、天下有レ疾之時、陰陽寮進二支度一」

✣しかくば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 四角張 四角ノ形トナル。カドバル。カクバル。「イヤニ、四角ばッテ居ル」

しかけ (名) 仕掛 (一)シカクルコト。爲始メテ、最中ナルコト。(二)物事ヲ爲ルニ供フル方法。カラクリ。裝置 國性爺合戰(正德、近松作)五「火藥ヲ筒ニサシツクルト等シク、飛ンダル亂火ノ仕掛」 (三)婦人ノ服。ウチカケ。カイドリ。褠

しかけはなび (名) 仕掛花火 仕掛ヲ爲シテ、種種ノ形ノ現ハルルヤウニ作リタル花火。(打上花火ニ對ス)

✣しか・ける (動) 仕掛 しかくノ口語。

しかし (接) 併 接續詞ノ、しかしながらノ略。

しかしか (句) 云云 (然り然りノ義) 他ノ書ニ讓リテ、言ヲ略スルニ云フ語。彼ノ如ク、此ノ如ク。カヤウカヤウ。云云。神代紀、上「一書以二平忍一相容焉、云云」 皇極紀、三年正月「中大兄曰、云云」 源、二、帚木四十「しかしかナント聞ユ」 同、五、若紫四十「しかしかノ事アリテ」 宇治拾遺、一、第三條「しかしかノ事アリテ」

しかしながら (副) 併 (說文「併、兼也、合也、皆也、列也」然ながらニ、天爾波ノ強メ詞ト云フ、しヲ加ヘタル語ニテ、さしながらナドト、同用法ノ語カ) シカナガラ。サナガラ。ソレナガラ。コトゴトク。悉皆。一切 靈異記、下、第十條「殘レ火、燒家皆悉燒滅」 訓注「惣家、シカシナガラ」 名義抄「併、ナラブ、シカシナガラ」又「並、シカシナガラ」 欽明紀、六年九月「普天之下、一切衆生、皆蒙二解脫一」 平家物語、二、烽火事「重盛、始メ、敍爵ヨリ、今、大臣ノ大將ニ至ル迄、併しながら、君ノ御恩ナラズト云フ事ナシ」 著聞集、二、釋教「此事ハ、モト我思寄リタルニアラズ、仰セラレシ旨ヲ聞キテ、オノヅカラ發願シテ、大功ヲナシタル、しかしながら、御恩ナリ」 同、三、政道忠臣、末條「殿下、故ナク流サレサセ給ヒシ事ハ、しかしながら、平太政入道ノ強行ニテ侍リケルニ」 沙石集、一、下、第八條「ソノ神ハ、只、古キ祭ナリ、云云、靈、何ノ所ニカ有ト云テ、しかしたがら、打クダキテケリ」 庭訓往來、二月「併期二參會之次二」 伊達政宗感狀之文「敵數輩討捕、得二勝利一、一段感悅候、併、忠節無レ比類一事、至二子孫一可二申傳一候」 平家物語、三、行隆事「謀叛ノ企、候ヒシ事、全ク私ノ計略ニアラズ、併、君、御許容アルニ依テナリ」 字鏡八十「傾城、學レ城也、城、志加志奈加良」

しかしながら (接) 乍併、乍然 (前條ノ語ノ轉、併ノ字ヲ用キルハ、其遺意ナリト云フ) 然リトイヘドモ。サレドモ。サリナガラ。略シテ、しかし。雖然 平治物語、三、頼朝遠流事「其ハ、思ヒモ寄ラズ、志ハ、サル事ナレドモ、汝ガ母ノ歎カン事、併ながら、我ガ僻事ナルベシトテ」 源義經腰越狀「甲冑弓箭之本意、併、欲レ奉レ休二亡魂憤一之外、無二他事二」

しかず (句) 不如 しく(如)ヲ見ヨ。萬葉集、三、三十「默シ井テ、小賢スルハ、酒飲ミテ、醉ヒナキスルニ、ナホ不如ケリ」

しかすがに (副) (然するからにノ約略ト云フ(車持、くらもち。蛙手、かへで。いざさらだ、いざさだ)) シカシナガラニ。サスガニ。然ハ云フモノノ。然ハアレドモ。萬葉集、十「山ノ際ニ、雪ハ降リツツ、然爲我ニ、コノ河楊ハ、萌エニケルカモ」 同、同七「風マゼニ、雪ハ降リツツ、然爲我、霞タナビキ、春去リニケリ」 同、十八六十「三島野ニ、霞タナビキ、之可須我爾、昨日モ今日モ、雪ハ降リツツ」 同、十九「雪見レバ、未ダ冬ナリ、然爲我、春霞立ツ、梅ハ散リツツ」 後拾遺集、九、旅「思フ人、アリト無ケレド、故鄉ハ、しかすがにコソ、戀シカリケレ」

じかせん (名) 耳下腺 唾腺ノ一、唾液ノ分泌ヲ營ム三唾腺(耳下、頸下、舌下)中、最モ大ナルモノ、其腺體ハ、扁形、三角形ニシテ、外聽道ノ前下方ニ在リテ、下顎、後窩ヲ充塡ス、外面ハ、強厚ノ筋膜ニ被ハレ、顏面神經、コレヲ穿通ス。

しかた (名) 仕方 爲ベキ手段。ヤリカタ。仕樣。仕法。方法 狂言記、對馬祭「トテモノ事ニ、其ノ樣子ヲシテ見セマショカ、ソレハ、ヨカロ、仕形デ、シテ見シャレ」

しかたけ (名) 鹿茸 菌ノ名、傘ヲ張リテ、生ズ、白クシテ、毛刺アリ。一名、針茸。ウシノシタ。蜀格

しかたな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 仕方無 センカタナシ。シヤウナシ。已ムヲ得ズ。傾城買二筋道(寬政、梅暮里谷峨)「しかたなしニ、前ノヤウニツキアッテ居リイス」

しかたばなし (名) 仕形話 手ナドニテ、種種ノ狀態ヲ示シナガラ、物語ルコト。身ブリ、手ブリヲシテノ話。手語 小町踊、冬「オモシロキ、しかたばなしヤ、八士ノ雪」 江戶鹿子(貞享)「しかた咄、長谷川町、鹿野武左衞門」

しかたまひ (名) 仕形舞 所作ヲ加ヘタル舞。 嬉遊笑覽、五、下「寬文、年、正月廿日中渡ノ內、仕形舞、仕形說經、狂言盡シノ分、屋敷方ハ不レ及レ申、町方ニテモ、一切、停アリキ仕間敷候事(仕

[illegible]トハ、バ[illegible]アラ[illegible]ハシ」

しかち [illegible] 靜ヲナシ[illegible] [illegible]、[illegible]、[illegible] ハしかちノ、第ノ[illegible]」

しかつき (名) 鹿付 鹿ノ、寄リアツマ[illegible] [illegible] ノ山ヲバ、獵師、知リ」

しかつべらし (形) [illegible] (然リ一べくあらしノ略) (一)ウベウベシ。モ、トモラシ。道理アル如シ。(二)[illegible]ブル。矜持

しかつめらし (形) 前條ノ語ニ同ジ。

しかと (副) 緊 (しかハ、たしかノ略、音便ニ、しっかと) 固ク決スル狀ニ云フ語。シッカリト。「しかと[illegible]」

しかと (副) 聢 (しかハ、然ト同意カ) (一)シッカト。シッカリト。シャント。タシカニ。必ズト。カタク。確 狂言記、花子「しかと、サウカ、中中、何ノ偽ガゴザリマセウ」「しかと住ムル」(二)分明ニ。チガヒナク。分明 「しかと分ル」

しがとき (名) 己時 己レノ、榮ユル時。萬葉集、七 廿八「山代ノ、久世ノ社ニ、草ナ手折リソ、己時、立榮ユトモ、草ナ手折リソ」

しかのへい (名) 四箇度幣 新年、例幣ト、六月、十二月ノ兩度ノ月次トノ四度ニ、神ニ獻ル幣帛。[illegible]

しがな [illegible] (終助詞ノ[illegible]) [illegible]

しかながほ (名) 然無顏 サモ無キ顏。ツキ、ソ知ラヌ顏。[illegible]上[illegible]、しかなかほニテ、イナ、其ノ[illegible]ハなぜメ」

しかながら [illegible] 併 しかしながら(併)ニ同ジ。[illegible]、しかながら、運ビカヘシテ」

しかながら (接) 乍併 しかしながら(乍併)ニ同ジ

しがなし (形) [illegible] 貧シ、物、乏シ。「しがない暮ラシ」

しがね (名) 昆布(松前)

しかのくるま (名) 鹿車 のりのくるま(法車)ノ條ヲ見ヨ。

しかのしがらみ (名) 鹿柵 (鹿ハ、萩ヲ折リシキテ、柵ノ如クニシテ臥セバ云フ) 萩ノ異名。シカノハナヅマ。[illegible]、秋、[illegible]、しからみ、カケテケリ、[illegible]レヌ、萩[illegible]ノ花」

しかのその (名) 鹿苑 天竺、波羅奈國ノ、[illegible]ノ、[illegible]ヲ說キシ地名ノ鹿苑ヲ、文字讀ニシタル語。シカノソノフ。ろくやをん(鹿野苑)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]カツカツ[illegible]リノ、世ヲバ出デニキ」

しかのそのふ (名) 鹿苑生 前條ニ同ジ。續千載集、七、長歌「しかの園生ノ、風ノ音、吹[illegible]、シヨリ、[illegible]ノ[illegible]、八千ノ秋ヲ、過ヘテモ」

しかのたま (名) 鹿玉 [illegible] 山ノ朽木アル邊ニ生ジ、花紋アルアリ、食フベシトモ云フ。

しかのはなづま (名) 鹿花妻 しかのしがらみ(鹿柵)ノ條ヲ見ヨ。

しかのみ (接) 加之 (次條ノ語原ヲ見ヨ) 次條ノ[illegible]。

しかのみならず (接) 加之 (然而已ならずノ義) 然アルノミニアラズシテ。ソノ上ニ。アマッサヘ。オマケニ。名義[illegible]

しかはあれど (接) 然在 シカアレド。シカレドモ [illegible]

しかばかり (副) 然許 サバカリ。サホドマデニ。[illegible]、五十一、[illegible]「しかばかりオボシ歎ク人ノ、アラマシカバト」千載集、十五、戀、五「しかばかり、契リシ中モ、カハリケリ、コノ世ニ人ヲ、[illegible]ミケルカナ」

しかばち (名) 蠮 (しかばちハ、古名、すがるノ轉ニテ、其ニ、鳴ク聲ニテ呼ベルナラム、似我ノ字ノ音ナリナドトモ云フハ、附會ナルベシ) 古名、スガル。サソリ。ササリ。ササリバチ。又、コシボソバチ。蜂ノ一種、長サ八分許、幅一分許、腰、甚ダ細ソク、全身、深黑ナリ、夏、人家ニ入リ、[illegible]、又ハ、筆管ノ中ナドニ巢ヲ作ル、其子ノ卵、栗粒ノ如シ、螟蛉ノ子、又ハ、蜘蛛ナド取リ來リテ、中ニ入レ、其子ニ餌トスルナリ、更ニ、泥ニテ隔テヲナスコト、數重ナリ、其子、[illegible]ヲ食ヒ、數日ニシテ羽化ス、其聲、しがばちしがばちト聞ユ、[illegible]ニ飛去ル。(支那ニテハ、螟蛉有子、蜾蠃負之トテ、此蜂、雌ナク、螟蛉ノ子ヲ養ヒ、似我似我トテ、化セシムトテ、養子ノ譬トス) 蜾蠃 蠮螉 土蜂

綱目、又、一種、長サ一寸許、[illegible]シテ、梁、柱、等ノ蛀孔ニ巢ヲツクルアリ、まなばちト云フ。青蜂 又、三分許、やまばちニ似テ、小サク、柱、孔ニ巢ヲツクルモアリ。[illegible]、五、六十一 [illegible] 我子トスル也」下[illegible] [illegible] 日而化爲其子」

しかばね (名) 屍 「かばね(骨)ノ條ヲ見ヨ」カバネ。シニカバネ。カラ。ナキガラ。屍骸 「しかばね[illegible]ル」

しかふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 仕替 替ヘテ爲ス。改メテ、爲ル。シナホス。改作

しがふ・ウ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) (結ふト通ズ) 草ヲ刈リ束ネテ、其末ヲ結ビ合ハス。[illegible] 山家集(西行)上「ミマクサニ、原ノヲススキ、しがふトテ」[illegible]ユクカナ、[illegible]ク、カタ野ノ[illegible]ノ、[illegible] 三、秋、朝タニ、捨テツツ、フス[illegible] しがへテ君ガ、ミマクサニシツ」顯昭ノ注「草ヲ刈リテ、束ネテ、末ヲ結ヒ合ハスルヲ云フ」續詞花集、十六、雜、上「山賤ノ、野飼ノ駒モ、カヘルメリ、裸背ニ草ヲ、しがひカケツツ」

しかぶえ (名) 鹿笛 獵人ノ用キル笛。

牝鹿ノ聲ニ擬シテ、牡鹿ヲ誘フ、其聲、鹿ノ、友ヲ呼ブニ似ルト。其笛ハ、鹿ノ角ニテ作リ、鹿ノ胎子ノ皮ヲ張ルト云フ。徒然草、第九段「女ノ穿ケル足駄ニテ作レル笛ニハ、秋ノ鹿、必ズ寄ルトゾ云ヒ傳ヘ侍ル」 閑田次筆、四「淡海八幡ニ、伽房ト云ヘル俳諧師、鹿笛ヲモテリシ、形、凸、如レ此シ、總體、木ニテ造リ、底ハ、皮ニテ張リ、黒漆ニテ塗レリ、吹時ハ、左右ノ中指ニテ、此底ヲ按クヤウニスレバ、自由ニ音ヲ出ス、是ハ、信樂ノ俳師、幸助ト云フ者ノ與ヘシト云ヘリ、此幸助、此笛ヲ吹コト上手ニテ、妻鹿ノ音ヲ吹ケバ、眞ニ追リテ、寄來ラサル鹿、稀ナリ、サレドモ若、思フガ如ク寄リ來ラサル時、子鹿ノ音ヲ吹クニハ、必、寄ルト語レリトゾ」 [illegible](延寶)「イザ取リテ、鹿ノ音聞カム、塗履」

しかぶかひ（シカブカイ） (名) 咳欬 〔拾穗本、しはぶかひ、亦、然リ、而シテ、しはぶかひハ、しはぶきノ延音〕 シハブクコト。セキ。 萬葉集、五廿九長歌「糟湯酒、打チ啜ロヒテ、之可夫可比、鼻ビシビシニ」

しかへ（シカエ） (名) 仕替 シカフルコト。改メナホスコト。改作スルコト。

しかへし（シカエシ） (名) 仕返 (一)シカヘスコト。再ビ、爲ルコト。シナホシ。改作 七十一番職人盡歌合、廿番、鎧細工「しかへしノ物ハ、札頭ガ揃ハデ」 (二)仇ヲ、報ユルコト。イシュガヘシ。返報。復讎 報復 「イサカヒノしかへし」「喧嘩ノしかへし」

✤**しか-へ・す**（シ・カ・エ・ス） ・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 仕返 再ビ、爲ル。シナホス。改作

しか-へ・る（シ・カ・エ・ル） (動) 仕替 しかふノ口語。

しかま-ごう (名) 飾磨紺 次條ノ語ニ同ジ。

しかま-の-かち (名) 飾磨褐 播磨國、飾磨ノ里ニテ、布ヲ、褐色ニ染メテ産出スルモノ。かちいろ(褐色)ノ條ヲ見ヨ。シカマゴウ。藍染。 夫木抄、廿二「播磨ナル、しかまニ造ル、藍留、イツアナがちノ、濃染ヲカ見ム」 同、三十三「布ノ、しかまナル、市女ガ持テル、かち布ノ、色深クノミ、人ヲ戀ヒツツ」

しかみ (名) 顰 模樣、細工物ニ、鬼ノ面、獅子ノ面ナドノ、顰ミタル像。「しかみ火鉢」

しかみ-せん (名) 嚬錢 〔嚬ハ、甓ニ同ジ〕 粗惡ノぜに。 御當家令條「下總國、佐倉ヨリ東ニオイテ、しかみせん、取遣仕ルベシ」

しがみ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 力ヲ込メテ、取リツク。強ク、攫ミカカル。 著聞集、十五、闘爭「ヤガテ、敵ニしがみつきテ、刀ヲ奪ヒ取リテ」 薩摩歌(寶永、近松作)下「斷ラレナガラニ、刀ノ刃ニしがみつけバ」

しかみ-つら (名) 顰面 顰ミタル顏。

しかみ-ひばち (名) 獅嚙火鉢 〔獅子ノ面ノ、顰みタルヲ云フ〕 眞鍮、銅、鐵ナドノ圓形ノ火鉢ニ、三脚アリテ、ソレニ、獅子ノ面(鬼狀ノモノ)ヲ鑄ツケタルモノ。 太平記、廿卷「北條時政ガ臥病ノ時、枕許ニ立テナキタル太刀ノ、倒レカカリテ、火鉢ノ足ノ小鬼ヲ切ル」 八笑人(文政、鯉丈)二編、下「鹿相ダトッテ、しかみ火鉢ト間違ヒハシメエシ」

しか・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 顰 蹙 〔縮み屈むノ約略〕 縮ミテ、皺ヲナス。シワム。「面、しかむ」

しか・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 顰 蹙 縮メテ、皺ヲ生ズ。シワムル。 浮世風呂(文化、三馬)初編、上「顏ヲしかめナガラ」

し-かん (名) 支干 十二支ト、十干ト。

干支。(えとノ條ヲ見ヨ) 最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)上「若公ノ本卦、支干、御誕生ノ年月、刻限」

し-かん (名) 私憾 私ノウラミ。私怨。 左傳、宣公二年「君子謂、羊斟非レ人也、以二其私憾一敗レ國殄レ民」

し-がん (名) 詩眼 詩ヲ案ズル眼識。 范成大詩「道眼已空詩眼在、梅花欲レ動雪花稀」

じ-かん (名) 時間 年、月、日、ノ、經ルアヒダ。トキノマ。トキノアヒ。トキ。空間ニ對ス。

じ-がん (名) 字眼 句ノ中ニテ、最モ主要ナル字。主眼ノ字。 滄浪詩話「詩用レ工有レ三、曰二起結一、曰二句法一、曰二字眼一」

✤**し-か・める** (動) 顰 しかむ(下二段)ノ口語。 浦島年代記(元祿、近松作)一「怒リノ血色、火ノ如ク、目鼻ヲ一ツニしかめる顏」

し-か-も (副) 〔然ニ、感動詞ノもヲ添ヘタル語〕 (一)證ヲアゲテ、慥カナル意ヲ云フ語。サウナリ。ソノヤウニ。ソノ上ニモ。 著聞集、十六、興言利口「慥カナル小マラノ、しかも包莖シタルヲ、カキ出シタリケレバ」 史記抄(文明)三「河ト云フハ、黃河ゾ、云云、しかも、其水ノ色、イツモ濁テ、黃ナリ」 稱家卿家歌合「歌詞、心ヨク、姿、歌メカシクシテ、しかもヤサシク、ヤスラカニ聞エ侍ル」「人ニモ聞キ、しかも、我レ見タリ」「雨ノ降ルニ、しかも、風モ吹キテ」 (二)然レドモ。「敵ハ大軍ナリ、しかも、我レハ、コレヲ擊退セリ」

しがやま-りう（シガヤマ・リユウ） (名) 志賀山流 江戸踊振事ノ一流ノ名、元祿ノ志賀山萬作ヲ祖トス。 俗耳鼓吹「中村ノ、踊師ハきねや、江戸藝者、ふりハ志賀山、顏ハ中山」又「志賀山ノ、江戸一流ハ、雨座ニテ、中村生島、ふりノ三ケ所」志賀山ノ家ハ、身ぶりノ家也、元祿二年ノ板ニテ、舞子式正稽古ホト云ヘル物アリテ、予ハ、家ニ藏メ置リ、志賀山萬作(舞子ノ師匠)ガ弟子ノ名、幷、唱歌ヲ載セタリ」

しがらき (名) 信樂 次次條ノ語ノ略。 茶道筌蹄、四「信樂、至テ上作ハ、新三郎作ニテ、新ノ字ノ彫銘アリ」

しがらき-ちゃ (名) 信樂茶 近江、甲賀郡、信樂ノ地ニ産スル茶ノ稱。

しがらき-やき (名) 信樂燒 近江、甲賀郡、信樂ニテ製シ出ス陶器。色、濁黃ニシテ、釉ハ、うすがきいろ、又ハ、ねずみナリ、質、稍、粗ニシテ、沙ヲ含ミテ、固シ。 茶道全書、七「信樂燒物、茶入、茶壺、水コボシ、花生、等ノ類ニ、ヨキ物アリ」

しから-ば (接) 然 然アラムニハ。サラバ。ソレナラバ。然則。 萬葉集、十四廿「人妻ト、アゼカ其ヲ云ハム、志可良婆カ、隣ノ衣ヲ、借リテ着ナハモ」

しがらみ (名) 柵 〔繫絡ノ約ト云フ〕 シガラムコト。河中ニ、杙ヲ打チ、ソレニ、柴、竹ナドヲ絡ミツケテ、水ヲ塞クモノ。水柵 萬葉集、二三十「明日香川、四我良美渡シ、塞カマセバ、流ルル水モ、舒ニカアラマシ」「水ノしがらみ」「波ノしがらみ」 和歌ニ、袖の柵、風の柵、苔の柵、花の柵、ナド云フハ、塞キ止ムル意ニ借リ譬ヘテ云フナリ。

しがら・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 〔蹈ミ伏セテ、繫ク絡む意〕 (一)絡ミツクル。 古今集、四、秋、上「秋萩ヲ、しがらみ伏セテ、鳴ク鹿ノ」 玉葉集、四、秋、上「秋萩ヲ、しがらむ鹿ノ」 (二)竹木ヲカラミテ、柵ヲ作ル。 狹衣、二、下「吉川、流ルル跡ハ、ソレナガラ、しがらみ止ムル、面影ゾナキ」

しかり (名) 呵 (一)呵ルコト。(二)德川氏ノ刑ニ、庶人ノ閏刑ノ、最モ輕キモノ、其罪ヲ呵リテ、免ス。 御定書百箇條「人之仕置ト不レ相見レ效輕キ仕ヲ不レ差出レ分ハ、呵リ」

しか・り・[illegible] [然]
[illegible]リノ如クニテアリ。タダヒ[illegible]
[illegible]ハ、マツ[illegible]カレズ、アナ[illegible]ノ中」
然[illegible]ト云フハ、相當ナルノ意。

しか・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [叱呵] (叱呵ノ音カト云フハ、イカガ) 聲ヲ[illegible] [illegible]、神ヲヒカヘテ、云云、トモ[illegible]シキ、イトホシケレバ、[illegible]姓王事、斯様ニ、しからレ奉ラセンヨリハト云ヘバ」

しかるに (接) [然] 然アルニ。サルニ。「竹[illegible]リ[illegible]シタルコト、少ナカラズ、しかるに、[illegible]、イマダ賜ハラズ」

しかるべく (副) [可然] サヤウナラ。ナラウ事ナラ。ヨロシク。ヨシナニ。適當ニ。「[illegible]ノ事件ハ、[illegible]、しかるべく[illegible]ヒマス」

しかる・べ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [可然] シカアルベシ。サウデアラウ。サルベシ。「[illegible]、一[illegible]、しかるべし、[illegible]、しかるべくテ、オノレニハ見エサセ給ヘルナリ」

シガレット (名) [英語、Cigarette.] 紙巻煙草。

しかれども (接) [然] ソノ如ツニハアレドモ。シカシナガラ。シカモ。[雖然] [illegible]キナリケリ」

しかれば (接) [然] (一)然アル時ハ。サレバ。然[illegible] (二)サテ。ソコデ。(手紙ノ文ニ)

しき (名) [醜] しこ(醜)ニ同ジ。「[illegible]集、十三[illegible]、サシ[illegible]カム、小屋ノ四[illegible]屋ニ、[illegible]テム、[illegible]ヲ[illegible]キテ」

しき (名) [敷] [[illegible]敷ノ略、或ハ、底ノ轉] (一)器ノ底ニ敷クモノ。今モ、足袋ノ底ヲ、しきト云フ (踏ミ敷ク、轄ノ義ナリ) 催馬樂、貫河「[illegible]綻ノ保衣之支」(女ノ用ナリ) [illegible]十二[illegible]、久[illegible]乃之[illegible]中[illegible]也一本[illegible]上[illegible]故[illegible]、[illegible]手久[illegible]乃之[illegible] [illegible]物語、十六、本[illegible]、姫君ノ御[illegible]ノ箱、云云、[illegible]ノ、しきニ、大納言殿、書カセ給フ」 今物語「御沓ノしきニ、千鳥ヲ書カレタリケルヲ見テ」(二)船ノ底板。カハラ (龍骨ノ條ヲ見ヨ) (三)しきがね(敷金)ノ略。

しき (名) 敷 「多ク、熟語ニ用ヰル」 (一)占ムル所。「百しき」屋しき」川しき」路しき[illegible]」 (二)敷地ノ略。

しき (名) しきみ(閾)ノ略。 天治字鏡、七「梱、門具、止自支」

しき (名) [榻] 牛車ノ具、乗降ニ用ヰル梯子。

しき (名) (一)坑夫ノ語ニ、鑛山ニ掘入ル坑。マブ。鏈坑 (二)博打場。

しき (名) [式] (一)萬事ノ禮ヲ行フニ就キテ、定マレル則。儀式。法式。「御即位ノ式」見參ノ式「婚禮ノ式「式作法」 (二)りつりやうきやくしき(律令格式)ノ條ヲ見ヨ。(三)數學ノ語、數量、又ハ、其關係ヲ、文字ト、符號トニテ、書キ表ハシタルモノ。

しき (名) しきがみ(式神)ノ條ヲ見ヨ。

しき (名) [識] (一)物ノ道理ヲ、識リテアルコト。「[illegible]、少ナシ」 (二)物事ニ、見トホシノ、ツクコト。見識。「識、高シ」[illegible]ナ、[illegible]識」

しき (名) [職] 官ノ名、中宮職(中ニ、大皇太后宮職、皇太后宮職、皇后宮職アリ)、又、大膳職、左京職、右京職、修理職(以上ヲ、四職ト云フ)等、尚アリ、各條ニ注ス。四等ノ官ハ、皆、大夫、亮、進、屬、ナリ。 枕草子、七、六十四段、はしたなきもの「しきノ御曹司ノ、辰巳ノ隅ノ」同「頭ノ辨ノ、しきニ參リテ」同「しきへナム參ル、コトヅケヤアル」

シキ (名) [城] (朝鮮語) シロ。琉球ニテ、御[illegible]ト云フ。 欽明紀、九年十月「遣三百七十人於百濟、助ニ築城於得爾辛ニ」

しき (名) [四氣] しじ(四時)ニ同ジ。

しき (名) [四季] [四時ノ轉ナリ] 春秋、又ハ、寒暑ヲ經、葛裘ヲ易フナド云ヒテ、一年ノ事ニ云ヘバ、四季ニ、四孟、四仲ヲコメテ云フ語カト云フ、季ノ條ヲ見ヨ」 春、夏、秋、冬、ノ四時 [illegible]詩、唐[illegible]五律[illegible]三川[illegible]四季花」 [illegible]四十、[illegible]大[illegible]ノ[illegible]ヲ上レバ、四季ノ花、一時ニ開キテ、[illegible]ナリ」字類抄「[illegible]字 四季、四節」

しき (名) [士氣] 士ノ元氣。兵士ノ意氣。[illegible]天[illegible]文[illegible]、[illegible]士[illegible]、士[illegible]ヲ[illegible]舞ス」

しき (名) [志氣] 事ヲナサムトスル意氣込、ココロザシ。氣性 [illegible]孔子[illegible]

しき (名) [指揮] サシヅ。下知。 黄庭[illegible]「林間李父頤指揮」「指揮宜シキヲ得」

しき (名) [子規] ホトトギス。 杜甫詩「[illegible]

しき (名) [死期] 死スル時期。死期。 史[illegible]「[illegible]」

し・き (動) [頻] しく(頻)ノ條ヲ見ヨ。

しき (接尾) [敷] 敷キタル疊ノ數ニテ、座敷ノ大キサヲ云フ語。「六[illegible]敷」

しき (接尾) [式] [式ハ、底ノ借字] ノ、如キモノ。ホド。バカリ。グラキ。「是レしきノ[illegible]、我レしきノ知ル所ニアラズ」 しきノ、きヲ轉呼シテ、しきトモ用ヰル、(だけノ意) 「是レしきしき」ドカニモ、アレしきしき」

しぎ (名) [鴫] 田鳥 [繁ノ轉、羽音ノ繁キ意ト云フ、字ハ、倭名抄ニ、一云、田鳥トアル、合字ナリ] 鳥ノ名、曉、又ハ、夕ニ、群リテ、イミジキ羽音シテ、舞ヒアガリ、舞ヒオリス、夏、秋、田澤ニ集リ、冬ニ至リテ、去ル、形、くひなニ似テ、小サク、背、長ク、頭ヨリ尾マデ、茶褐色ナリ、背ハ、灰黒ニシテ、小サキ白斑點アリ、胸、腹、白シ、形、色、種類、多シ、(田ニ居ルヲ田鴫ト云ヒテ、山鴫ニ分ツ) 神武紀[illegible]宇陀[illegible]大和地名)ノ高城ニ、[illegible]張ル」 萬葉集、十九[illegible]ケテ、[illegible]シキニ、小夜フケテ、羽振キ鳴ク[illegible]、[illegible]ガ田ニカ住ム」 倭名抄、十八、羽族「[illegible]、一云、田鳥」 天治字鏡、八[illegible]、志支」 林[illegible] 鴫、シギ」

しぎ (名) [旨義] オモムキ。意味。旨趣。 唐書、[illegible]、以[illegible]字[illegible]通[illegible]不[illegible]窮ニ旨義[illegible]

しぎ (名) [仕儀] [趣義ノ轉カ、時宜ノ轉カ] 事ノサマ。ナリユキ。次第ガラ。 謠曲、自然居士「其ノ時ノ仕[illegible]ニヨテ[illegible]ラセ候ヘ」「カカル仕儀トナル」

しぎ (名) [四儀] [四威儀ノ略] 行、住、坐、臥、ノ、四ツノ作法。 [illegible]三十九、重衡[illegible]法[illegible]行住坐臥ヲ[illegible]ハネバ、四儀ノ[illegible]ニ類ヒナク」

しぎ (名) [私議] (一)ワタクシニ、批評スルコト。ワタクシニ、談論スルコト。 禮記、曲禮、下篇「公事不私議」 (二)一己ノ意

見。私見。

しぎ (名) [諸議] 諸詢シテ、評議スルコト。北史、竇式傳「下**諸**[illegible]」

しき (名) [食] クヒモノ。食物。宇津保物語、俊蔭「阿修羅ノ食トセヨト、宛テラレタリ」

しき (名) [磁器] [支那、河南ノ磁州ノ窯器、製出、甚ダ多カリシヨリ、名トス、東阿縣ノ膠ヲ、阿膠ト云フ類] (一)ヤキモノ。セトモノ。(陶器ナドニ對ス) 五雜組、物部、四「今俗語、窯器謂之磁器者、蓋河内磁州窯、最多、故相沿名之」(二)イシヤキ。

しき (名) [磁氣] 自然力ノ一、磁石ノ起スガ如キ、現象ヲ起スモノ。

しき (名) [辭氣] コトバヅカヒ。物イヒブリ。戰國策、齊策「顏色不變、而辭氣不悖」

しき (名) [兒嬉] 小兒ノ嬉戲。蘇軾詩「樂ニ去嬉、學從二兒嬉二」

しき (名) [自棄] 自暴自棄ノ條ヲ見ヨ。

しき (名) [次規] 的ノ名所。三重ノ黑圈ノ、中間ニアルモノ。内裏式「次規二尋」

しき (名) [侍姬] オソバ女中。コシモト。

しき (名) [時機] 時ノホド。ヲリ。コロ。晉書、江統傳「積議ニ時機、遠ニ幽究ニ微」「時機ヲ失ハズ」「時機ヲ窺フ」

しぎ (名) [時宜] [三議一統、上ニ本座ヘナホラバ、我下ニナホル人ニ、時宜スベシ、禮從ニ宜ト云フヨリ、時宜ニ隨テ、禮ヲ行フ由ナリ] 時ノ宜シキニ從フコト。程好キ頃。晉書、百官表「隨ニ時宜也」平治物語、二、義朝敗、落ニ六波羅二事「我レ等、打チ負ケバ、平家ニ與ミセント、時宜ヲ計ルト覺ユルゾ」「時宜ニ因リテ行フ」時宜ヲ見計フ」

しぎ (名) [時儀] (一)應對ニ、先ヅ、時候ノ挨拶ヲ述ブルコト。「時儀ヲ述ブ」(二)轉ジテ、頭ヲ低レテ、禮スルコト。拜スルコト。ヌカヅクコト。エシャク。叩頭「お時儀ヲスル」

しぎ (名) [辭義] コトバノ意味。詞ノスヂミチ。釋名「文者、會ニ集衆字ニ以成ニ辭義ニ如ニ文繡ニ然也」

しぎ (名) [辭宜] 謙リテ、辭ムコト。辭退。遠慮。辭謙「辭宜ニ及ブ」辭宜作法」

しぎ (名) [兒戲] 小兒ノ、タハムレ。淺ハカナル措置ニ譬ヘ云フ。史記、絳侯世家「覆者霸上棘門軍、若ニ兒戲ニ耳」「兒戲ニ類ス」

しきあみ (名) [敷網] 水中ニ敷キ設ケテ、魚ヲ捕フル網。山家集、下「白鷺ニ、小鮎引カレテ、下ル瀨ニ、待チマウケタル、小目ノしきあみ」

しきいし (名) [敷石] 平カナル石ヲ、地ニ敷キ竝ベタルモノ、人ノ、蹈ミ行クニ供フ。イシダタミ。甃石「門内ノ敷石」

しきいた (名) [敷板] (一)下ニ敷キタル板。下敷ノ板。(二)[廐ノ蹈板。馬寮式「馬底板」倭名抄、十五「鞍馬具、𤗼、之岐以太、𤗼ハ、馬寮式ニ、𤗼トアリ、馬槽ナリ」著聞集、廿、魚蟲禽獸「車ヲ打チカヘサントシテ、敷板モ、牛ノ角ニアタリテ、破レニケリ」

しきう (名) [鳲鳩] フフドリ。ツツドリ。カッコウドリ。詩經、曹風、鳲鳩篇「鳲鳩在レ桑」

しきうつし (名) [敷寫] すきうつし(透寫)ニ同ジ。摸寫 臨寫 影寫

しきかい (名) [色界] 佛經ノ語、三界ノ一、其語ノ(一)ノ條ヲ見ヨ。護命經「十四天爲ニ色界ニ」盛衰記、四十五、内大臣京上被レ斬事「色界ノ天衆、猶遇ニ退沒之愁ニ」

しきがは (名) [敷皮] 毛皮ノ敷物。皮ノシトネ。古へ、軍陣中ニテ、將士ノ、地上ニ敷キタル毛皮ヲモ云フ。皮褥 軍用記「敷皮ハ、鹿ノ皮ナリ、秋ニ毛トテ、星ノ、所所ニアルガ、良シ、長サ三尺許、幅二尺アマリ、見ハカラヒ、能キ程ニスベシ、但シ、二尺二寸程ニテ可レ然、裏ハ、白布ニ[illegible]ノリヲツケテ、白クスベシ、布ノツギ目ハ、フセ[illegible]ヒ也、云云、豹虎ノ皮、將軍家、並ニ、三職ノ御衆、被レ用レ之、熊ノ皮、彈正官ノ人、用レ之、何モ、平人ハ、斟酌アルベシ」平治物語、二、信頼降參事「六條河原ニシテ、既ニ、敷皮ノ上ニ引居エタレドモ」平家物語、十二、六代事「千本松原トイフ所ニ、御輿、舁キ据エサセ、若君、下リサセ給ヘトテ、敷皮敷キテ、据エ參ル」

しきガハラ (名) [敷瓦] 地ニ、いしだたみニ敷キ竝ベタル瓦。方磚 甃

しきがみ (名) [式神 識神] 陰陽道ニテ行フ、呪詛ノ妖術。又、しきノ神。式神。又、しきトノミモ云ヘリ。宇治拾遺、二、第八條「晴明、キト見テ、云云、しきニウテケルニカ、此烏ハ、しきがみニコソアリケレ」同「陰陽師ヲ語フヒテ、しきヲ伏セタリケルナリ」同「仰ヲ背カジトテ、しき、伏セテ、既ニ、しき神カヘリテ、已レ只今、しきニウテテ、死ニ侍リヌ」新猿樂記、十君夫「推ニ物怪ニ者如レ指レ掌、進ニ退十二神將ニ前ニ後三十六禽ニ仕ニ式神ニ造ニ府法ニ」

しきがみ (名) [敷紙] (一)物ノ下ニ、敷キタル紙。詞花集、一、春「硯ノ蓋ニ、雪ヲ入レテ出サレタリケルしきがみニ、書キツケ侍リケル」(二)紙製ノ敷物、糊ニテ、厚ク貼リ、澁ナド、延ク。

しきかん (名) [識鑒] 事物ノ良否ヲ、明カニ見ワクルコト。鑒識。陳書、徐陵成傳「結ニ交文義之士ニ以ニ識鑒ニ知レ名」

しききん (名) [敷金] 借家ノ家賃ノ、滯ラム時ノ保證トシテ、豫メ、家主ニ預ケ置ク、若干ノ金錢。略シテ、しききトノミモ云フ。「敷金ノ請取」

しきくゎん (名) [指揮官] 海陸軍ニテ、艦船、軍隊ヲ指揮スル官。

しきげ (名) [式外] 式社ノ條ヲ見ヨ。

しきけん (名) [識見] 物事ニ、見トホシノックコト。物事ヲ見トホシテ立ツル意見。見識。梁溪漫志(費袞)「滿腹都是識見」

しきさい (名) [色彩] (一)イロツヤ。色。光澤。(二)色ドリ。色アヒ。彩色。

しきざき (名) [四季咲] 草木ノ、四時ニ花ヲ開ク種類ノ稱。(薔薇ノ、ちゃうしゅんナド) 長春花

しきさんば (名) [式三番] 三人ニテ舞フ三番叟。コレヲ、翁三番叟式ト云ヒ、其レヲ壽グヲ、翁渡ト云フ。歌舞妓事始、二「顏見世初日、未明ニシテ、式三番ヲコトブキ、大夫子ドモ、コレヲ勤ムルハ、天照大神ノ故事ヲ引イテ、コレヲナス」劇場新話、上「式三番、十一月朔日曉也、是ヲ翁渡シト云フ、大夫元若大夫、三ケ日ノ間、別火物忌シテ勤ル」

しきし (名) [色紙] (一)[種種ノ色ノ紙。イロガミ。倭名抄、十三「文書具「紙有ニ色紙、檀紙、穀紙、尾紙、阿苔紙、斐滿紙等名ニ」四時祭式、上、散祭料「白紙卄張、色紙卄張」圖書寮式、紙料「凡造レ紙者、調布大一斤、斐皮五兩、造ニ色紙卄張ニ」枕草子、七、六十三段、むとくなるもの「縮ナドヤウナル物ヲ、白キしきしニ包ミテ、梅ノ花ノ、イミジク咲キタルニ附ケテ」小大君集「たちふト云フ瓜ヲ、黄ナル色紙ニ包ミテ、大舍人ナリケル翁ニ、取リテヤリタリケレバ」(二)[和歌ヲ記スニ用キル紙。厚キ紙ヲ、方形ニ裁チテ、多クハ、五彩ノ模様、金銀箔、ナド、施ス。其大ナルモノハ、長サ六寸四分、幅五寸六分ナリ、常ノモノハ、長サ六寸、幅五寸一分

ナリ、三光院殿ハ、定法ヲ用キサセ給ヒ[illegible]（二）色紙ニテ、歌、一首、書クバカリニ作レルヲ、色紙形ト云フ、略シテ、色紙トノミモ云フ。コレハ、衝立障子、屛風ナドノ[illegible]ノタマハスルヲ」小右記、長徳五年十月三十日「[illegible]近世多書二[illegible]」（引首ハ、色紙形ナリ）（四）[illegible]ナル衣服ニ、直打スル布帛。

しき-し（名）[職士] [illegible]

しき-じ（名）職事（一）職務アル官。（散官ニ[illegible]）文ナキハ、散官ナリ。（二）禁中ニテ、某ノ公事ニ、其日ノ[illegible]ノ一稱。[illegible]「[illegible]下「四位侍臣中、蔵人頭、五位中、又選…補三人、六位中、又選…補四人[illegible]」[illegible]ナドモナリ」

しき-じ [illegible] 式事 儀式ノ行事。

しき-じ-がた [illegible] 色紙形 [illegible]

しき-じ-くわん [illegible] 職事官 官員ノ、ソレゾレ、司ル所アルモノ。職事ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しき-じつ（名）式日（一）儀式ノアル日。[illegible]（二）[illegible]祭日。

しき-しの-ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ（自動、四）頻偲 頻リニ、思ヒ出ス。[illegible]「[illegible]東少女ヲ、忘レタマフナ」

しき-しま [illegible] 磯城島「欽明天皇ノ、大和國、磯城郡、磯城島ニ、宮居シタマヘル[illegible]」（一）大和ノ國ノ[illegible]名。上[illegible]又、大和ヲ略シテモ云フ。萬葉集、十九「之奇島ノ、人ハ我レジク」（二）轉ジテ、日本ノ總名。[illegible]國ハ、[illegible]ノ、所佐國ゾ」[illegible]又、日本ヲ略シテ、[illegible]榮花物語、廿、御賀「狀カハリタル、イミジウメデタシ、敷島ヤ、コマモロコシ[illegible]コノ事トハ見エズ、高麗、唐ニヤトマデ、見エケル」（三）轉ジテハ、磯城島ノ道ト續ケテ、和歌ノ道ノ事トス。即チ、磯城島ノ和歌ノ道ノ事ナリ（[illegible]トモ、書ク）千載集、[illegible]「コレノミゾ、人ノ國ヨリ、傳ハラデ、神代ヲ承ケシ、[illegible]道ナム、スグレサセ給ヒケル」行誠上人「[illegible]」

しきしまのみち（名）磯城島道 前條ノ（三）ノ條ヲ見ヨ。

しき-じん（名）色身 佛經ノ語。肉眼ニテ見ユル形體。[illegible]「父母所生、肉眼所見」

しき-じん（名）式神 識神 しきがみ（式神）ニ同ジ。盛衰記、十、中宮御産事「昔、安部晴明ガ、天文ノ淵源ヲ極メテ、十二神將ヲ仕ヒケルガ、其ノ妻、[illegible]ニ畏レケレバ」

しき-しゃ（名）式社 延喜、神名式ノ内ニ載リタル神社ノ稱。コレヲ、式内ト云ヒ、其載ラザルヲ、式外ト云フ。

しき-しゃ（名）識者 識量アル人。「識者ノ笑ヲ買フ勿レ」

しき-しょう（名）職掌（一）大嘗會、[illegible]京職、等ノ職ノ雜任ニテ、官掌ノ種類ノモノ。[illegible]（二）神社ノ、神樂ヲ奉仕スル人ノ、等ニ仕フル下部。[illegible]

しき-しゃう（名）飾裝 式正 正シキ儀式。[illegible]「十一月廿八日、公方樣御歌、御會之御人數、式正也」

しき-じゃう（名）式状 貞永式目ト、今川状ト。[illegible]

しき-じゃう（名）色情 色ゴノミノココロ。イロケ。春情。

しき-じゅ-さう-ぎゃう-しき（名）色受想行識 ごうん（五蘊）ノ條ヲ見ヨ。

しき-せ（名）四季施（四時ニ、衣服ヲ與フル義ナリト云ヘド、爲着ノ義）臣下、奴婢ナドニ、時候ニ應ズル衣服ヲ、主人ヨリ作リ與ヘテ、着スルコト。又、春秋兩度、召使ニ、衣服ヲ與フルコト、給金ニ代フルアリ、給金ニ添ヘテ與フルアリ。京阪ニテ、オソウブツ[illegible]

しき-せん（名）敷錢 保證金トシテ、前納スル錢、[illegible]ヲ以テ、請ケ取ルベシ」

しき-ぜめ（名）食攻 ひゃうらうぜめ（兵糧攻）ニ同ジ。太平記、廿四[illegible]食攻ニシケル間」

しき-そ（名）色素 生物ノ皮ノ下ニアリテ、其色ヲ爲ス素トナル、極メテ微小ナル球體。

しき-そく-ぜ-くう（名）色即是空 佛教ノ語。總ベテ、有形ノ萬物ヲ、色ト云フ、コノ萬物ハ、因縁所生ノモノニテ、本來、實有ノモノニアラズ、故ニ、ソノ儘、空ナリト云フヲ得ベシ、コレヲ、即是（ソノ儘ヲ指ス語）空ト云フナリ。空即是色ハ、色即是空ノ語ト相排ビテ、一雙ノ語ト見ルベシ。榮花物語、十八、玉臺「色即是空ナルガ故ニ、コレ眞如實相ト云フ、空即是色ナルガ故ニ、コレヲ相好光明ト云フ」

しき-たい（名）式體（式法ノ體ヲスル義）頭ヲ垂レテ、禮スルコト。ジギ。今[illegible]

しき-だい（名）色代（顏色ヲ改メテ禮スル意カ）（一）人ニ、禮スルコト。挨拶スルコト。禮容。會釋。揖禮。[illegible]（二）轉ジテ、口ニ、追從ヲ言フコト。世辭。諛言。沙石集、七、上、第三條「色代

ニモ、御年ヨリモ遙カニ若ク見エ給フ、ト云フハ、嬉シク、殊ノ外ニモテコソ見エ給ヘ、ト言ヘバ、心得ク」同、七、下、第六條「或ハ、妻ヲ迎リケルガ、雨ノ降リケレバ、色代ニ、今日ハ雨降レバ、留リ給ヘト云フヲ」平家物語、十一、八島院宣事「コヲバ何處ト云フソト問ヒ給ヘバ、時盛ト申候、判官、笑テ、色代ナト宣ヘバ、一定、時盛候、云云、ト申ス」（三）他ノ品物ヲ以テ、其ノ代用トスルコト。江家次第、十一、十二月、荷前使「次作代、銭、近代、師、大臣、中二色代、准三百兩、代錢一匹、代織、望卿、佩帶一人也」（四）江戸時代以前、絹、布、麻、綿ナドノ類ヲ以テ、租米ニ代ヘシコト。

しきだい（名）〔式臺〕〔送迎ノ式ヲ行フ臺ノ義カ、或ハ、送迎シ、色代スル處ノ意カトモ云フ〕玄關ノ前ニ設ケタル、板敷ノ處。松屋夜話、上「主人云云、夫ヨリ大手、常盤等ト一手ニナラント、客殿ヨリ廣間ヘ、討テ出タリケレバ、大手ノ者ドモハ、式臺ノ邊ニテ、當番ノ若黨ト、討チアヒタル最中ナリ」書言字考節用集、二、乾坤門「式臺、式、又、作〔敷〕」

しきだう（名）〔食堂〕しょくだう（食堂）ニ同ジ、寺ニ云フ。法隆寺伽藍緣起并流記資財帳「堂一口〈一口、金堂、一口、食堂〉」字類抄「食堂、在〔寺〕家、安〔置〕文殊聖僧〔二〕」拾補、下學集、上、二、家屋門「食堂」

しきたへ（名）〔敷栲・敷妙〕床ノ上ニ敷キテ寢ル衣。猶、次條ヲ見ヨ。

しきたへの（枕）〔敷栲乃・敷妙乃〕〔しきたへハ、前條ヲ見ヨ〕夜ノ衣ヲ初トシテ、袖、袂、轉ジテハ、床、枕、家、ナドノ枕詞。萬葉集、二、長、歌「敷栲乃衣、袖ハ、通リテ濡レヌ」同、十七、長「敷栲之家ヲ信頼、袖カヘシツツ、寢ル夜ナクテ、故ニハ見レド」同、二、十、長「敷栲乃衣、枕ノ邊ヲ、一夜ニ下襲ヲ、シ、袖ヘハ濡カジ、敷妙之、枕ノアタリ、忘レカネツモ」

しきたり（名）〔仕來〕（一）シキタリクルコト。ナラハシ。先例。習慣。因習。慣例。慣行「村ノしきたり」（二）ノリ。カタ。テホン。

しきたる・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）〔仕來〕古クヨリ爲ツツ、今ニ至ル。因襲。

しきち（名）〔敷地〕〔屋敷地ノ義〕占キタル面積。占用ノ地。桃華蘂葉「一條室町敷地、應仁之亂、皆失二吾是談一、治承四年九月十一日〔勝〕荘所中之衞御昇進事、以二御敷地一、去平治元年六月一日、寄二伊勢太神宮一給」同卷、同年十月廿一日「伊豆國御園、河原谷、長崎、可二早奉一免二敷地三嶋大明神一」「屋敷地」路敷地「川敷地」學校ノ敷地」

しきって（副）〔頻りてノ音便〕屢、繰リ返シテ。切ニ。「頻ッテ頼ム」

しきて（名）〔醜手〕見ニクキ手。萬葉集、十三、長歌「搔折ラム、醜ノ四忌手ヲ、サシカヘテ、寢ナム君故」

しきてい（名）〔色體〕顏色、容子。庭訓往來、八月「依二吉色體疑一亂二明兆香一之時」

しきでん（名）〔職田〕〔功田、位田ニ對ス〕又、職分田。職封。王朝時代、官職ニ就キテ給セラルル田ノ稱、太政大臣ニ四十町、左右大臣ニ三十町、大中納言ニ二十町、等、等級アリ、又、太宰府ノ官、國司、郡司ニモ、アリ。（田令）

しきど（名）〔識度〕見識ト、度量ト。識量。南史、陸玠傳「弘雅有二識度一、好二學善屬一文」

しきない（名）〔式内〕式社ノ條ヲ見ヨ。

しきなみ（名）〔頻浪〕頻リニ寄セ來ル波。及ク及ク、寄セ來ル浪。字鏡「二「波浪相重、志支奈美」」垂仁紀、廿五年三月「常世之浪、重浪歸國」萬葉集、七、賀「ワタツ海ニ、寄セテハ返ル、しき波ノ、數限リナキ、君ガ御代哉」

しきなみぐさ（名）〔頻浪草〕すすき（芒）ノ（二）ノ異名。藻目抄「水ハナシ、風コソハ起テ、波ハタテ、しきなみぐさニ、露ゾコボルル」

しきなみ-よ（副）〔頻並〕頻リニ。シバシバ。枕草子、二、廿段「しきなみよ集ヒタル車ノ奥ニナム居タレバ、出ヅベキ方モナシ」平治物語、一、信西子息同官事「內裏ヨリ、頻並ニ召サレケレバ」

しきにん（名）〔識認〕知リ、見トムルコト。認知。認識。三國志、吳志、孫堅傳「権稻二十餘畝、臨熟、縣民有二識認之一、牧日、本以二田荒一故墾之耳、遂以二稻與二縣人一」

しきねん（名）〔式年〕歷代ノ天皇、又ハ、皇后ノ、式年祭ヲ行フ年。皇室祭祀令、第十條「式年ハ崩御ノ日ヨリ三年、五年、十年、二十年、三十年、四十年、五十年、及爾後、每百年トス」

しきねんさい（名）〔式年祭〕式年ニ相當スル御方ヲ、祀ラルル祭典。（前條ヲ見ヨ）

しきはふ（名）〔式法〕ノリ。儀式、作法。甲陽軍鑑、五、品第十三「右大將ヨリ以後、公方家、代代ノ式法ヲ取リ立テ、政ヲ能ク行ヒ給フ」

しきび（名）〔樒〕しきみ（樒）ニ同ジ。

しきび（名）〔式微〕〔又、しょくび。式ハ、助字、それおとろふノ義〕オトロフルコト。衰微。詩經、邶風、式微篇「式微式微、胡不レ歸」註「式、發語辭」「皇室ノ式微ヲ慨ス」

しきふ（名）〔敷布〕寢ヌルトキ、敷蒲團ノ上ニ敷ク布。

しきふ（名）〔支給〕アテガフコト。ワタスコト。「食料ヲ支給ス」

しきふ（副）〔至急〕極メテ、急ギテ。オホイソギニテ。「至急、返事ヲ俟ツ」

しきふ（名）〔職封〕職田ニ同ジ。

しきふ（名）〔食封〕皇室、諸王、諸臣ノ、勳功（功封）、位階（位封）、職分（職封）アルモノニ給ハル課戶。封戶。ヘビト。天武紀、下、五年八月「親王以下、小錦以上大夫、及皇女姬王內命婦等、給二食封一各有レ差」

しきぶくゎん（名）〔式部官〕式部職ノ職員ニシテ、儀式ノ事ヲ掌ル高等官。

しきぶしき（名）〔式部職〕宮內省ノ一局、帝室ノ祭典、儀式、及、雅樂ノ事ヲ管理スル所。

しきぶしゃう（名）〔式部省〕ノリノツカサ。古ノ八省ノ第二、卿ヲ、親王ノ任トス、國家ノ典章、禮儀ヲ統べ、六位以下ノ文官ノ奏任、奏授ノ事ヲ掌リ、貢擧考課ヲ知ル。

しきぶすま（名）〔敷衾〕下ニ敷ク布團。六子集、五、醍醐ノ、琵琶ヤ當ノ、敷衾」小町踊、冬、衾「上八下ニ、助ケラレケリ、敷ぶすま」

しきブトン（名）〔敷蒲團〕ふとんノ條ヲ見ヨ。

しきぶぶし（名）〔式部節〕淨瑠璃節ノ一派、廣瀨式部太夫ノ語リ出セルモノニテ、貞享、元祿ノ頃、大イニ世ニ行ハル。聲曲類纂、三「廣瀨式部大夫、土佐掾門人、始メ、萬太郎ト號シ、後、式部大夫ト改メ、一派ヲナシ、貞享、元祿ノ頃、式部節トテ、世ニ行ハル」

しきぶん（名）〔職分〕次條ノ語ノ略。

しきぶんでん（名）〔職分田〕しきでん（職田）ニ同ジ。田令「凡、職分田、太政大臣卅町、左右大臣卅町、大納言廿町」

しきべつ（名）〔識別〕ミワケ。ミキハメ。鑑別。三國志、魏志、夏侯玄傳、注「李豐、云云、識別人物、海內翕然、莫レ不レ注レ意」

しきま（名）〔色魔〕色慾ノタメニ、魔魅

スルコト。色情ノタメニ、呆然トナルコト。イロキチガヒ。

しきさう（名）［色相］眼ノ病、スベテノ色彩、見分ケラレズシテ、一ツノ灰色ニ見ユルモノ、或ハ、二種、又ハ、三種ノ色ノ區別力ヲ失ヒテアルモノ。

しきまき（名）［重蒔］穀物ノ種ヲ、蒔クコト、多キニ過ギテ、實ラズ。（素戔嗚尊ノ、シタマヒシ罪）大祓祝詞［illegible］

しきま・す（［illegible］）［敷座］知シメス（知す）［illegible］

しきまつば（名）［敷松葉］松ノ落葉ノ枯レタルヲ、庭、路地ニ敷クモノ、地上ノ霜除トス、

しきみ（名）［閾］〔しきハ、敷ノ義ニテ、みハ、限リノ意カ、或ハ云フ、敷持ノ約ニテ、下ニ敷キテ戸ヲ持ツ意ナリト〕門戸ノ下ニ設ケテ、内外ノ限リトスル横木。トジキミ。シキミ。シキ。今、門ナルヲ、地覆ト云フ。倭名抄、十［illegible］

しきみ（名）［樒］〔［illegible］ノ義、實、［illegible］〕［illegible］ニ故ト云フ、神武紀ノ御歌、イチサカキ、ミノ多ケク（しきみナリト）」ト見エタリ、字モ、木蜜ヲ一、合シテ作レリ、多ク佛ニ供スレバ、木佛ノ二合字モ、アリ」樹ノ名、山中ニ多シ、樹、甚ダ高カラズ、葉ハ、互生シテ、さかきノ葉ヨリ狹ク、長クシテ厚ク、肌、美ハシ、冬、凋マズ、香氣アリ、春ノ末、葉ノ腋ニ、數花ヲ開ク、大キサ一寸許、大抵、十四瓣ニシテ、小蓮花ノ如ク、白クシテ、黄ヲ帶ブ、實ハ、八莢アリテ、車輪ノ如シ、核ヲ嘗トス、枝、葉、根、實、皆、毒アリ、枝葉ヲ切リテ、花ト稱シテ、專ラ、佛前、墓前ニ供ヘ、葉ヲ、抹香ニ製ス。しきみのき。［illegible］莽草　倭名抄、廿［illegible］名、下「莽草、之岐美乃木」康頼本草、上［illegible］之岐美之岐」［illegible］枕草子、六、五十八段「アハレ、ココ（寺）ナルモノニ、［illegible］ウ［illegible］フト云ヒテ、しきみノ枝ヲ折リテ、持テ來タル」

しきみのき（名）［樒］前條ノ語ニ同ジ。

しきん（名）［資金］モトデ。資本金、［illegible］

しきん（名）［紫金］しゃくどう（赤銅）ノ異名。梁武帝詩「七寶紫金柱」

しきん（名）［賜金］政府、或ハ、君主ヨリ、金員ヲ、下賜セラルルコト。又、其金。杜甫詩、諸侯數賜金」「一時賜金」

しきん（名）［試金］地金、合金、又ハ、鑛石ヲ試驗シテ、其品質ヲ識別スルコト。

しきんぎゃう（名）［紫金牛］やぶかうじニ同ジ。

しきんこ（名）［支金庫］〔本金庫ニ對ス〕地方ニ分置シタル金庫（金庫ノ條ノ（三）見合ハスベシ）

しきんせき（名）［試金石］（一）カネツケイシ。珪質岩ノ、純黑、緻密ナルモノ。（二）物事ノ價値ヲ判定スル、試驗ニ用キラルルモノ。又、其レニ譬フル語。

しきんぢゃう（名）［紫金錠］藥ノ名、麝香、龍腦ナドニテ製シ、方形ニ切リ、金銀箔ヲ塗シタル錠劑。

しきも（名）［敷裳］敷キ用キル菌ノ類。萬葉集、二十、長歌［illegible］朝手作ヲ、信巾裳成ス」大嘗祭式［illegible］

しきもく（名）［式目］制度ノ箇條書。太平記、三十五、北野通夜物語事「貞永二、五十一箇條ノ式目ヲ定メテ」［illegible］式目」

しきもし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［扶疎］〔頻繁しノ義〕甚ダ、繁シ。（もしノ條ヲ見ヨ）［illegible］

しきもつ（名）［食物］しょくもつ（食物）ニ同ジ。保元物語、三［illegible］

しきもの（名）［敷物］スベテ、敷キテ坐リ、又、寢ル物、ござ、蒲團、しとね、敷皮、毛氈、ナド、皆、コレナリ。鋪藉　鋪設　薦席　地衣

しきや（名）［醜屋］見ニクキ家。イブセキ家。萬葉集、十三、長歌［illegible］サシ燒カム、小屋ノ醜屋ニ、［illegible］テム、破薦ヲ敷キテ」

しきゃう（名）［詩經］支那ノ經書、殷代ヨリ、春秋時代マデノ詩、數千首ヲ輯メタルモノヲ、孔子ノ刪定シタル、三百五篇ヲ藏ス、現存ノ書ハ、魯ノ人、毛公ノ傳ヘタルモノトテ、毛詩トモ云フ。詩ハ、人情ニ通ジ、世態ヲ語ンズルニ、修身、治國ノ上ニ、益ヲ得ルコト少ナカラズトテ、經書トスト云フ。

しきゃう（名）［四境］四方ノサカヒ。マハリ。孟子、梁惠王、下篇「四境之内不治、則如之何」太平記、一、關所停止事「夫、四境、七道ノ關所ハ、國ノ大禁ヲ知ラシメ、時ノ非常ヲ誡メンガタメナリ」

しきゃう（名）［市況］マチノ商賣ノ景況。市中ノ景氣。

しぎゃう（名）［執行］諸寺ニテ、寺務ヲ執リ行フ僧官。［illegible］抄、下、僧官「執行」平家物語、三、有王島下事「是ニ、都ヨリ流サレサセ給ヒタル、法勝寺ノ執行、俊寛僧都ト申ス人」

じきゃう（名）［自彊］［自強］ミヅカラ、ツトムルコト。易經、上經、乾卦「天行健、君子以自彊不息」

しきゃうのまつり（名）［四境祭］王朝時代、世ノ中、騷ガシキ時ニ、京都ノ四方ニテ行ハルル祭。此時、鷄ニ、木綿ヲツケテ放タルトゾ。（夏山雜談、五）

しぎやき（名）［鴫燒］〔元ハ、鴫ノ肉ナリシナルベシ、雉汁ノ、蒟蒻トナリシガ如シ〕茄子ノ鴫燒トハ、茄子ノ皮ヲ剝キ、竪二ツニ割リ、庖丁ニテ刻目ヲ入レ、串ヲ横ニ貫キテ、火ニざっト炙リ、向ケタル兩面へ、胡麻ノ油ヲ塗リテ燒キ、山椒ヲ加業ニ、味ヲツケタル、播味噌ヲ塗リテ、更ニ又、燒キテ成ル、コレニ、オロシ柚子ノ汁ヲ掛クトゾ。京都ニ、茄子田樂ト云フ。［illegible］料理物語［illegible］鴫やき　茄子ヲ［illegible］テ、ヨ

キ比ニ切リ、串ニサシ、山椒味噌付ケテ、燒クナリ」

〔しき-やみ (名) 〔敷闇〕 甚シキ、クラヤミ。眞ノ闇。人丸集、上「しきやみノ、道ノ堤ノ、隱レヌノ、行方モ知ラズ、采女惑ヒヌ」

し-きゅう (名) 〔梓宮〕 主君ノ遺骸ヲ納メタル棺。陳思王、文帝誄「濟二菲體於梓宮一兮、馮二正殿一以居レ靈」

し-きゅう (名) 〔子宮〕 女人、陰部ノ内部ニテ、膀胱ト、直腸トノ間ニアル腔、胎卵ヲ受ケ、胎兒ノ成形ニ遂スルマデヲ、此ニ養フ。コツボ。

しきゅう-びゃう (名) 〔子宮病〕 常ニ、子宮内膜炎ノ稱。

し-きょ (名) 〔死去〕 死ヌルコト。逝去。死。盛衰記、廿六、慈心坊得二閻魔請一事「尊惠、閻魔、披見ノ後、領狀ノ返事シテ、偏ニ、死去ノ思ヲナシ、口ニ、彌陀ノ名號ヲ唱ヘ」

し-ぎょ (名) 〔紙魚〕 シミ。

じ-ぎょ (名) 〔侍御〕 主君ノ側ニ近ク侍ルコト。又、其人。オモトビト。書經、冏命「其侍御僕從、罔レ匪二正人一」

し-きょう (名) 〔詩興〕 詩情ヲ催ス興味。「名勝ニ遊ビテ、漫ニ詩興ヲ催ス」

しき-よく (名) 〔色欲〕 (一)女色ト、欲心ト。いろト、慾ト。(二)男女間ノ情慾。色情ノ欲。情欲。性慾。佛祖三經「愛欲莫レ甚二於色一、色之爲レ慾、其大無レ外」

し-きょく (名) 〔私曲〕 ヨコシマナルコト。己レガ利ヲ、計ルコト。韓非子、有度篇「能去二私曲一就二公法一者、民安而國治」南史、何遠傳「性耿介、無二私曲一」

し-きょく (名) 〔支局〕 本局ヨリ分離シテ、ソノ管理ヲ受ケナガラ、事務ヲ取扱フ局。「煙草專賣支局」

じ-きょく (名) 〔時局〕 (一)當時ノ局面。時事ノアリサマ。時勢ノナリユキ。「時局ヲ慨ス」(二)時節ガラ。時分ガラ。

し-きり (名) 履物。しきれノ(一)ニ同ジ。

しきり (名) 〔仕切〕 (一)シキルコト。閒ヲ、隔ツルモノ。ヘダテ。隔障「線ノしきり」垣ノしきり」(二)商家ニ、帳面ノ勘定ヲ締切ルコト。「大晦日ノしきり」(三)次條ノ語ノ略。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「川岸ノ問屋ヘ、仕切ヲ取リニ出ル筈ダガ」

しきり-きん (名) 〔仕切金〕 商業者ガ、賣主ノ、買主ヨリ受ケ取ルベキ代金。

しきり-じゃう (名) 〔仕切狀〕 商業者ガ、賣リ渡シタル商品ノ數量、番號、代價、等ヲ、委細ニ記入シ、其ノ貨物ニ添ヘテ送ル書狀。送リ狀。

〔しきり-に (副) 〔頻〕〔荐〕 繁ク。續ケテ。タビタビ。シバシバ。シクシクニ。字類抄「頻、シキリ」靈異記、中、第廿五緣「楗 往召二山田郡衣女一云云、荐召二山田郡衣女一」訓釋「荐、シキリニ」

しきり-のとし (名) 〔頻年〕 近來、引キ續キテノ年。重ネタル年。比年。連年。平家物語、七、木曾願書事「爰ニ、しきりの年以來、平相國トイフ者アリ、四海管領、萬民ヲ惱亂セシム」

しきり-ば (名) 〔仕切羽〕 矢ノ羽ヲ、仕切ニシタルモノ、肅愼羽ト云フハ、是レナリトゾ。夫木抄、七「しきりばノ、ヤサシキモノハ、菖蒲草、今日ヒキソムル、眞弓ナリケリ」字類抄「肅愼羽、シクシニハ、シキリハ」

しきり-ば (名) 〔仕切場〕 (一)江戸ノ芝居ニ、鼠木戸ノ側ニテ、入場ノ札ヲ賣ル所。其外、萬事ノ取締ヲナス。劇場新話「仕切場ノ事」(二)座元ノ手代ノ稱。

しきり-はぎ (名) 〔仕切矧〕 矢羽ノ、黑ト、白トヲ繼ギ合ハセテ、中黑、或ハ、中白ノ如クニ矧ギタルモノ。

しき-りゃう (名) 〔識量〕 智力ノ、理ノ判斷ニ聰キコト。物事ニ、大キク高ク、見極ノツクコト。識度。晉書、裴楷傳「明悟有二識量一、弱冠知レ名」

〔しき・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔頻〕 〔頻くノ名詞形ナル、頻きヲ活用ス〕 繁クナル。度重ナル。續キ至ル。頻ク。壬二集、中「雪折レノ、聲しきるナリ、高圓ノ、宮ノ楢ヤ、荒レマサルラム」源、五、若紫九廿「疾ク參リ給フベキ御使、しきれド、思ホシモ立タズ」蜻蛉日記、上、下「中將ニヤ、三位ニヤナド、ヨロコビヲしきりタル人ハ」榮花物語、一、月宴「内ヨリノ御使、夜、晝、ワカズ、しきりテ參リツヅキタリ」中務集「しきりツツ、涙ノカカル、袖ノ浦ニ、忘貝ヲバ、拾ハザリケリ」「雨、降リしきる」

し-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔仕切〕 〔せぎるノ轉〕 (一)閒ヲ、隔ツ。限リヲナス。限隔「座敷ヲしきる」(二)帳面ノ勘定ヲ締切リテ、數フ。(商家ニ) (三)相撲ニ、體ヲ構ヘテ、技ニカカル。

〔し-きれ (名) 〔尻切〕 〔しりきれノ略〕 (一)草履ノ底ヲ、革ニテ包メルモノ。(革ヲ附クルハ、後ノコトト云フ)しきり。後ノ雪踏ハ、此製ニ起ル。盛衰記、五、成親已下被レ召捕一事「相國ハ、素絹ノ衣ヲ着、尻切ハキ、長念珠、後手ニ取テ」遠老物語、永祿已來出來初る事「信長公、信忠卿、昵近ノ士、しきれハク事」(二)次條ノ語ノ略。全浙兵制、日本風土記「女鞋、十吉利公俄」(金剛ハ、草履ノ名) 東海道名所記(萬治)六「尻切草履、片足片足、ハキテ」

しきれ-ざうり (名) 〔尻切草履〕 藁ニテ作リタル尻切。略シテ、しきれ。

じき-ろう (名) 〔食籠〕 食物ヲ盛ル漆器、多クハ重(圓キアリ、六角ナルアリ)ニ作レリ、贈物スルナドニ用キル。饌盒 下學集(文安)下、器財門「茶匙、印籠、食籠」

〔しき-ゐ (名) 〔坐席〕 〔敷居ノ義〕 地ニ敷キテ、坐ルモノ、ござ、むしろノ類。字類抄「藉、シキヰ、以二蘭茅一藉レ地也」顯宗卽位前紀「小楯大驚、離レ席、悵然再拜」武烈紀、八年三月「以二錦一爲レ席」天智紀、三年十二月「床席」持統紀、四年七月「朝堂座上見二親王一云云、動レ坐而跪」

しき-ゐ (名) 〔敷居〕 〔閾ノ轉〕 引戸、障子、等ノ下ニアル横木。下檻 上ニアルヲ、鴨栭、又、鴨居ト云フ。上檻 共ニ、細ソキ溝(檻槽)ヲ彫リテ、戸障子ヲ嵌メテ、左右ニ引キテ、開閉ス。

しきゐ-ん (名) 〔敷居〕 〔敷居ノ音便〕 下ニ居レト云フコト。(跪くヲ、をりしくト云フ) 御元服部類「内辨宣二敷尹一」元日宴儀式「大臣宣二侍座一」北山抄「之支尹」江次第抄、一、元日宴會「宣侍、座、謂下可レ昇二著堂上一所上敷之座上引レ群召レ之時、曰二敷尹一」

しく (名) 〔宿〕 しゅく(宿)ノ條ヲ見ヨ。

し-く (名) 〔市區〕 市街ノ地ノ限リ。「市區改正」

し-く (名) 〔四苦〕 佛經ノ語、人間ノ免レザル、四ツノ苦シミ。卽チ、生、老、病、死、ノ稱。法華經科註「生老病死、四苦也」

し-く (名) 〔四句〕 げ(偈)ノ條ヲ見ヨ。

し-く (名) 〔尸倶〕 〔夙、宿、トモ記ス、語原、詳カナラズ、種種ノ說アレド、守戸(陵戸ノ條ヲ見ヨ)ノ訛ト云フ說、得タルガ如シ、醜ノ轉ト云フ、イカガ〕 (一)又、シュクノモノ。シュク。賤民(其條ノ(二)

ヲ見ヨ)ノ一。嬉遊笑覽、十、下「大黒ト云ル者、[illegible]、[illegible]モ云ヘリ、[illegible]ト稱スルハ、福神ノ名ヲ取テ祝シタルコトト聞ユ、ヨリテ、しゅくの者トモ云ヘリ」(二)歳始ノ萬歳、獅子舞、等ヲモ、亦、稱ス。

しく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 頻重 動作ガ、屢、繰リカヘサルル。繼ギ、重ナル。シキル。名義抄「連、シク、シキリ」古今集、十八、雜、下「シリニケン、聞キテモ厭ヘ、世ノ中ハ、波ノサワギニ、風ゾしくメル」後撰集、六、秋、中「白露ニ、風ノ吹キしく、秋ノ野ハ、ツラヌキトメヌ、玉ゾ散リケル」萬葉集、九[廿六]「アカトキノ、イメニ見エツツ、カヂ島ノ、イソ越ス波ノ、敷テシ思ホユ」續拾遺集、六、冬、[illegible]カル、[illegible]ヤ[illegible]エナン、山[illegible]ノ、[illegible]降レル、夜ノ白雪」

しく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 若如及 (一)及ブ。トドク。肩ヲ比ブ。新古今集、一、春、上「照リモセズ、曇リモハテヌ、春ノ夜ノ、朧月夜ニ、しくモノゾナキ」[illegible]、十三年三月「[illegible]ノ、甲斐ノ[illegible]、[illegible]セバ、伊[illegible]村ズアラマシ、甲斐ノ[illegible]」古事記、下(仁德)[illegible]「山城ニ、伊斯祁(命令形、伊ハ、發語)鳥山(人名)、伊斯祁伊斯祁、吾ガ愛妻ニ、伊[illegible]ハムカモ」[illegible]代[illegible]、上「[illegible]、伊[illegible]、[illegible]追伊[illegible]、[illegible]於黄泉而、及之共語」(二)似テヰル物ニ、追ヒツク。後ヨリ續キテ、重ナル。[illegible]、四十年三月「天皇、[illegible]、[illegible]備品[illegible]、[illegible]佐伯[illegible]、[illegible]、追之[illegible]、[illegible]」[illegible]、「夜レ居ア、[illegible]ヒツアラズハ、追及ム、道ノ[illegible]ニ、標結ヘ吾ガ夫」古事記、上「以、其[illegible]」[illegible]、[illegible]太神」

しく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔播延布〕四方ニ、延ブ。遍ク、及ブ。ヒロマル。流布ス。「號令、天下ニしく」名聲、世ニしく」

しく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 敷鋪舗 (一)地ニ、延ブル。平ニ、ヒログル。[illegible]「[illegible]ノ[illegible]」(二)〔遍ク、及ボス。[illegible]レホス。ヒロメル。布[illegible]

しく・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔知ろト通ズ〕四年十月「世間[illegible]功、時[illegible]至[illegible]「[illegible]ヲしく」知ス。領ス。占[illegible] 萬葉集、二[十五]長歌「瑞穗ノ國ト、神[illegible]、太[illegible]座シテ」同、六[四十]長歌「日本ノ國ハ、皇祖ノ、神ノ御代ヨリ、敷座セル、國ニシアレバ」

しぐ (名) 至愚 至ッテ、愚ナルコト。大愚。オホバカ [illegible]、[illegible]、「[illegible]以[illegible]、[illegible]」[illegible]以[illegible]至愚」也」

しぐ (名) 資具 家庭ニテ使用スル道具。資財。家具 庭訓往來、五月「資具又[illegible]散式候也」

しぐ (名) 枳椇 ケンポナシ。

しく (名) 墊 しゅく(墊)ノ條ヲ見ヨ。

しく (名) 字句 文字ト、語句ト。文心雕龍、聲律篇「吟詠滋味、流于字句、氣力窮于和韻」「字句ノ修正」

しぐう (名) 四隅 ヨスミ。淮南子、原道訓「[illegible]四隅二」[illegible]記、廿四、[illegible]失[illegible]二足レ四隅、四行ノ[illegible]」

しく-ゲ (名) 四句偈 和讃ノ條ヲ見ヨ。常ニ云フハ、涅槃經ノ、「諸行無常、是生滅法、生滅滅已、寂滅爲樂」ナリ。「[illegible]四句ノ偈」

しぐさ (名) 仕種 テダテ。シカタ。シウチ。

しぐさ (名) 科 〔仕種ノ義〕ミブリ。所作。「踊ノしぐさ」俳優ノしぐさ」

しくしく (副) 〔頻く頻くノ義〕頻リニ、打續キテ。頻頻ト。シクシクニ 萬葉集、廿[四十九]「奥山ノ、[illegible]ガ花ノ、名ノ如ヤ、しく之久之久君ニ、戀ヒワタリナム」拾遺集、[illegible]、上、春雨ノ、しくしく降レバ」「しくしく泣く」しくしく痛ム」

しくしく (副) 重重 〔及く及くノ義〕追追ニ、引キモキラズ、寄セ來ル狀ヲ云フ語 萬葉集、十七[十三]「ウルハシト、吾ガ思フ君ハ、思久思久オモホユ」

しくしく (副) 水氣ヲ含メルモノヲ、押シ蹈ミナドシテ、水ノ出ヅル狀ニ云フ語。

しくしくみ (副) 頻頻 しくしく(頻頻)ニ同ジ。萬葉集、二[三十七]「サザナミノ、志賀サザレ浪、敷布爾、常ニト君ガ、思ホセリケル」同、四[四十六]「春日野ニ、朝居ル雲ノ、敷布二、吾ハ戀ヒマサル、月ニ日ニケニ」

しくじり (名) シクジルコト。シソコナヒ。ヤリソコナヒ。失敗 失錯

しくじ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔爲挫くるノ略カ〕しそこなふニ同ジ。ヤリソコネル。古言、シコル。失敗 失錯

しく・す (動) 祝 しゅくす(祝)ノ條ヲ見ヨ。

しくち (名) 朱口 しゅくち(朱口)ノ條ヲ見ヨ。永久四年百首、しくち引ク、鯛子ノ[illegible]ニ、年フリテ」

しくち (名) 紫口 鯔ノ一種。(下ノ出典ヲ見ヨ)大和本草、十三、河魚「しくち、河鯔(しくちトハ別ナリ、海鯔ヨリ圓ク、色、少赤シ、不レ腥、海鯔ヨリ味美シ、河魚ノ佳品トス)ニ似タリ、大河ニアリ、又、其形頗、海鯔ノ如シ、頭ハ、海ぼらヨリ薄ク、身モ、海鯔ヨリ狹シ、鱗、大ナリ、長、四尺ニ至ル、目、紅シ、四時、捕、病人食之無傷、河魚ノ上品ナリ、小ナルハ、ゑぶなト云ヒ、又、あかめト云フ、一尺餘ナルヲ、やすみト云フ、地ニヨリテ、形、味、カハル」

しくつ (名) 試掘 地中ニ埋モルル鑛物ナドノ、發掘ヲ試ミルコト。「炭坑ノ試掘」

しくづ (名) 酎 三度、重ネテ、釀シタル酒。コキサケ。天治字鏡、四[三十]「酎、志久豆」禮記、月令篇「孟夏之月、天子飮酎」

シグナル (名) 〔英語、Signal.〕信號。隔離セル彼我ニ、一定ノ符號ヲ約シ置キ、色彩、音響、形象、光輝、等ニヨリ、此符號ヲ表ハシテ、相互ノ意志ヲ通ズル法。無線電信、電話、等ヨリ、汽車、汽船、電車、等ニ至ルマデ、旗、燈火、形象、等ニテナスモノ。

しく-のしゅ (名) 慈救呪 不動明王ノ眞言。不動明王ノ呪文。不動明王ニ對シ、此呪文ヲ誦スレバ、災ヲ避ケシムトゾ。

しくは・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 爲交 〔下二段活用ノくはす(交)ノ、四段ニ變ジタルモノ、くはす、でくはすヲ併セ見ヨ〕互ニ、同時ニ爲ス。

しくはっく (名) 四苦八苦 生、老、病、死、ヲ四苦トシ、之レニ、愛別離苦、怨憎會苦、求不得苦、五陰盛苦ヲ合シテ、八苦トス。苦シミノ、甚シキコトヲ云フ語。

しくばり (名) 字配 文字ノ、配リカタ。文字ノ排列。字行 浮世風呂(文化、三馬)四編、中「堀ノ内サマノ納[illegible]ト云フ字行デ、銘ガ御座イマシタゼ」

しぐ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) シマリヨク、組ミアフ。クヒアフ。クッツク。萬葉集、十六[廿六]「ウマシモノ、イヅク飽カヌヲ、サカトラガ、角ノフクレニ、四具比相ニケリ」

しくぼく (副) しくしく(頻頻)ニ同ジ。浮世床(文化、三馬)二編、下「蟲氣デ、久シウしくぼく致シテ居リマシタガ」

しぐま (名) 羆 〔白熊ノ義ト云フ、をろがむ、をがむト、同趣〕熊ニ似テ、更ニ大キク、頭、長ク、脚、高ク、色、黄白ニシテ、月輪ナク、極メテ多力ナルモノト云フ。北海道ニ產ズ、あかぐまナリ、訛リテ、ひ

ぐま。 字鏡七「羆、志久万」倭名抄、十八毛群名「羆、之久万」 齊明紀、四年「阿部比羅夫討二肅愼一云云、獻二羆皮一」天武紀、下、十四年九月「羆皮」

しぐま (名) 狸ノ類、毛、黒クシテ、爪、熊ノ如キモノト云フ。

しくみ (名) 仕組 (一)シクムコト。工夫シテ、スルコト。クハダテ。(二)芝居ニ、狂言ノ趣向。脚色

しく・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 仕組 工夫シテ、爲ス。企ツ。

しくん (名) 嗣君 アトツギノ君主。又、嗣子ノ敬稱。 左傳、成公十八年「公如レ晉、朝二嗣君一」

しくん (名) 師君 師匠ノ敬語。師ノ君。 王建詩「我愛二古人道一、師君直且溫」

しくん (名) 此君 しのきみ(此君)ノ條ヲ見ヨ。

しぐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 頻リニ吹ク。吹キシク。 古今集、十八、雜、下「知リニケン、聞キテモ厭へ、世ノ中ハ、浪ノ騷ギニ、風ゾしぐめる」

しくんし (名) 士君子 學問、德行アル人。 韓愈、諍臣論「士君子立レ言行レ事」

しくんし (名) 四君子 蘭、竹、梅、菊、ノ稱。畫ニカクニ云フ、此四種、高潔ナルコト、君子ノ如シトノ意。

しぐら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 密集 密集シテ居ル。集マル。 平家物語、九、木曾最後事「アレニ、しぐらうテ見ユルハ、誰ガ手ヤラム、甲斐ノ一條次郎殿ノ御手トコソ承リ候ヘ」同、十一、八島軍事(大阪越)「源氏ノ兵共、直甲七八十騎、惣門ノ前ノ汀ニ、ツットゾ出來タル、云云、嶺上グル潮ノ霞ト共ニ、しぐらうタル中ヨリ、白旗、サト差上ケタレバ」

しぐ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) シャクリタルガ如ク、クボム。シャクレル。 宇治拾遺、一、十五條「頂禿ゲタル大童子ノ、マミしぐれテ、物ムヅカシウ、重ラカニモ見エヌガ」

しぐ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 時雨 「しハ、風雨、くるハ、暮る、時雨ト書クハ、時降ル雨ノ意、時鳥ノ例ノ如シ」 (一)雨、雪ナド、降ラムトシテ、晴レガタシ。深 古今集、十九、雜體「神無月、しぐれしぐれテ、冬ノ夜ノ、庭モハダレニ、降ル雪ノ」 元眞集「カリガネハ、霜トトモニヤ、起キテクル、しぐるる空ニ、鳴ク聲ノスル」 三十六人歌合(弘長二年)「モミヂ葉ヲ、染メテしぐるる、秋山ニ、晩稻ノヲシネ、乾シヤワブラム」 大江匡衡集「月影ヲ、カケナガラニテ、しぐるれバ、落ツル紅葉ノ、色ニヌル袖」 續後撰集、八、冬「しぐれツツ、時フリニケル、花ナレド、雲居ニウツル、色ハカハラズ」 (二)涙ヲ催ス。 源、三十四、上、若菜、上「マミノアタリ、ウチしぐれテ、嚬ミヰタリ」

しぐれ (名) 時雨 〔しぐれの雨ノ略〕 シグルルコト。秋冬ノ際ニ、且ツ降リ、且ツ晴ルル、小雨ノ名。深 液雨 字鏡五「霖、霂、志久禮」 名義抄「霂、シクレ」 倭名抄、一、雲雨類「液雨、小雨也、之久禮」 萬葉集、一、十三「久方ノ、天ノ四具禮ノ、流ラフ見レバ」 同、三、四十六長歌「長月ノ、四具禮ノ時ハ、黄葉ヲ」 同、十五、十三「九月ノ、四具禮ノ雨ノ、山霧ノ」 後撰集、八、冬「神無月、降リミ降ラズミ、定メナキ、時雨ゾ冬ノ、初ナリケル」

しぐれづき (名) 時雨月 陰曆、十月(神無月)ノ異名。 藏玉抄、時雨月「散リハテシ、木ノ葉ノ後ノ、しぐれ月、冬ノ初メニ、何ヲ染メマシ」

しぐれに (名) 時雨煮 次條ヲ見ヨ。

しぐれはまぐり (名) 時雨蛤 蛤ノむきみヲ洗ヒ、古根生薑ヲ薄ク刻ミ、別ニ、裏漉シシタル鹹味噌ト、味醂トヲ、鍋ニ程ヨク入レ、蛤ト、生薑ト、共ニ投ジテ、火ヲ通シタレバ、其材料ヲ、目笊ニ上ゲ、鍋ノ汁ヲ煮ツメテ、笊ノ材料ヲ、再ビ鍋ニ入レ、汁ノ煮ツマリタルヲ度トシ、青山椒ヲ細カク刻ミテ、混ジテ成ル。伊勢國、桑名ノ蛤、大ニシテ、陰曆十月頃、味、美ナリ、故ニ、時雨蛤ノ名アリ。淺蜊貝ノ時雨煮、亦、略、同ジ。

しぐ・れる (動) 時雨 しぐるノ口語。

しぐろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 密集 しぐらふ(密集)ニ同ジ。 平家物語、九、木曾最後事「アレニしぐろうテ見ユルハ、誰ガ手ヤラム」(異本、しぐろふハ、しぐらふノ誤)

しくゎ (名) 止戈 武ノ一字ヲ分解シタル離合迷字。 海錄、十九、六十八條「漁仲言、武从レ亡、弋以レ亡爲レ聲、亡甫切、左氏曰、止レ戈爲レ武、鄭夾際曰、武非レ从レ止、乃亡聲也」

しくゎ (名) 四科 季節ニ應ジテ、客ヲ待遇スル、四ツノ物品。即チ、花(春季)、瓜(夏季)、菓(秋季)、火(冬季)ノ稱。 諸禮筆記「客ヲ請ゼント思ハバ、云云、四くゎトテ、春花、夏瓜、秋菓、冬火、此四ツヲ、四季ニ應ズルハ、古來ノ禮也」

しくゎ (名) 齒科 醫ノ一科、專ラ、齒ヲ療スルモノ。齒醫者。

しくゎ (名) 詞華 詞ノ、華美ナルモノ。コトバノハナ。 杜甫詩「詞華傾二後輩一」

しくゎ (名) 翅果 果實ノ一種、果皮、扁タク延ビテ、翅狀ヲ爲スモノ。翼果。

しくゎ (名) 紙花 紙ノ、造リ花。カミバナ。 圖書寮式「凡、國忌齋會、云云、向二寺率二諸司史生四人一行レ事、冬月用二紙花一、餘月採二時花一供レ之」

じくゎ (名) 時花 ハヤリ。

じくゎ (名) 自火 (一)己ガ家ヨリ發シタル火災。(類燒ニ對ス) 德川禁令考、後聚、廿八「自火無二相違一、怪敷儀モ不二相聞一」 (二)己ガ心ヨリ起シタル苦惱。 盛衰記、一、五節夜闇討事「臆病ノ自火ニ攻メラレテ、絶エ入リタリケルニヤ」

しくゎい (名) 死灰 火ノ氣ノ、ナクナリタル灰。 莊子、齊物論篇「心固可レ使レ如二死灰一乎」「枯木死灰」 面色、死灰の如しトハ、面ニ、血色ナクナリテ、灰色ニナルコト。アサマシキコトニ臆シタルナドニ譬フ。

しくゎい (名) 詩會 詩ヲ作ラムトテ、寄合フコト。又、其寄合。吟社 孟郊詩「昔遊詩會滿、今遊詩會空」 著聞集、五、文學「スベテ、尙齒會、多クハ、詩會ニコソ侍ルニ、和歌ハ、メヅラシキ事ナリ」

しくゎい (名) 市會 市ノ自治ノ權限内ニ屬スル、一切ノ事ヲ議決スル議決機關。市會議員ヲ以テ、組織ス。

じくゎい (名) 自晦 自ラ、跡ヲ晦スコト。 舊唐書、韓滉傳「以二綺事一、非二急務一、自晦二其能一」

しくゎう (名) 四荒 四方ノ夷國。四夷。 漢書、文帝紀「四荒之外」 盛衰記、十九、開性検二八員一事「穆王八、八匹ノ天馬ニ乘リテ、四荒、八極ニ到リ」

しくゎく (名) 指畫 〔指示、畫策ノ義〕 指ニテ、エガキ示スコト。 後漢書、馬援傳「聚レ米爲二山谷一、指二畫形勢一」

じくゎく (名) 字畫 漢字ノ點畫。 書苑「字畫交錯者、欲二其疎密長短、大小勻停一」

しくゎざん (名) 死火山 くゎざん(火山)ノ條ヲ見ヨ。

じぐゎさん (名) 自畫讃 己ガ作レル畫ニ、己レ、讃ヲ記スコト。自畫自讚。

しくゎし (名) [私窠子] 隠ニ賣女、密賣淫。

しぐゎしさん (名) [自畫自讚] (一)前條ニ同ジ。(二)己レヲ褒ムルコト

しくゎちてい (名) [紫花地丁] スミレ。

しくゎつ (名) [死活] しぬるト、いくるト。イキシニ。生死。存亡。「死活ノ問題」

しぐゎつ (名) [四月] 年ノ、第四ノ月。卯月。仲呂。

じくゎつ (名) [自活] 獨立シテ、生活スルコト。「自活ノ道ヲ講ズ」

しくゎん (名) [仕官] 官ニ、仕フルコト。仕ヘテ、官職ニアルコト。史記、李斯傳「市井之子得ㇾ以仕官爲ㇾ吏」

しくゎん (名) [士官] 武官ノ、兵ヲ指揮スルモノ。今ニテハ、陸海軍ノ大中少尉、及、其相當官ノ稱。

しくゎん (名) [祠官] 神社ニ事アル人。カンヌシ。史記、封禪書「泰山卑小、不ㇾ稱其聲、乃令祠官禮ㇾ之」太平記、廿八、「彼兄常陸守ハ聖廟ノ祠官トシテ、文道ノ大祖タリ」

しくゎん (名) [史官] 記録ノ事ヲ掌ル官。史記、秦始皇紀「臣請、史官非秦記皆燒ㇾ之」

しくゎん (名) [視官] 視覺ヲ、ツカサドル機關。眼。視器。

しくゎん (名) [師管] 陸軍ノ管轄區域、內地ヲ十四區ニ分チ、各師團長ヲシテ、之レヲ管轄セシム。其區域內ニ、旅管、及、聯隊區ヲ設置ス。

しくゎん (名) [止觀] 佛經ノ語、天台宗ニテ、散亂ヲ止メ、明了ノ心ヲ以テ、法ヲ察スルコト。禪定ヲ修メテ、萬有ヲ達觀スルコト。盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「止觀、圓頓ノ修觀アリ」

しぐゎん (名) [志願] ココロザシ、ネガフコト。眞實ノネガヒ。心願。稽康、絶交書「濁酒一杯、彈琴一曲、志願畢矣」「海軍ヲ志願ス」「一年志願兵」

しぐゎん (名) [至願] 至ッテ、願フコト。切ニ、願フコト。至極ノネガヒ。漢書、王莽傳「不ㇾ勝至願、願諸章下ㇾ群公、皆戮力」上」

しぐゎん (名) [私願] ヒソカニ、願フコト。ワタクシノネガヒ。漢書、貢禹傳「不ㇾ勝私願、願乞骸骨」

じくゎん (名) [次官] 長官ノ條ヲ見ヨ。

じくゎん (名) [寺觀] 寺ト、道場(道士ノ、道ヲ修ムル處)ト。又、轉ジテ、寺。歸田錄、「佛骨ニ設、「不ㇾ許ㇾ創立寺觀」」

しくゎんちゃう (名) [四灌頂] 四ツノ灌頂所。即チ、東寺ノ灌頂、觀音院ノ灌頂、尊勝寺ノ灌頂、最勝寺ノ灌頂ノ稱。拾芥抄、下、本、「諸寺四灌頂」

しけ (名) [絓] (一)繭ノ外面ヨリ繰リ取リタル、絹絲ノ、粗ナルモノ。シケイト。「しけ絲」「しけ絹」(二)しけぎぬノ略。

しけ (名) [陰] (風雨氣ノ義)(一)水氣ノ、多キコト。シメリケ。(濕地ナドニ) 神武紀「天陰雨氷」(二)風雨ノ、續クコト。(舟人ノ語) 連陰「しけデ、渡海ガ無イ」(三)轉ジテ、海、荒レテ、魚ナドノ、捕ラレヌコト。(漁夫ノ語) 不漁「しけテ、魚河岸ハ淋シイ」

しけ (名) [四華] 色ノ、白、青、紅、黄、ノ四ツノ蓮華。[illegible]ノ時ヲ[illegible]キ給フニ、天ヨリ四華降リ、大地、六種モ震動シ」

じけ (名) [寺家] 寺ニ屬キ從ヘル家。寺戸。孝德紀、大化元年七月「若寺家仕丁之子者、如良人法」

じげ (名) [寺家] 寺ノ部屬ノ民、僧ナリ。

しけい (名) [私計] 自己ノ考案ヲ、謙遜スル語。ワタクシノ、ハカリゴト。戰國策、燕策「竊以爲私計、雖得天下之賢士」

しけい (名) [死刑] しざい(死罪)ニ同ジ。左傳、襄公十九年「雖ㇾ有ㇾ刑、不ㇾ在ㇾ朝市」注「謂、犯死刑者、猶不ㇾ暴ㇾ尸」

しけい (名) [紙型] 紙ニ取リタル、活字版ノイガタ。すてれおたいぷノ原型。

じけい (名) [慈惠] メグミ。ホドコシ。恩惠。左傳、成公十二年「享以訓共儉、宴以示慈惠」太平記、四、呉越軍事「已ニ罰セラルヘカリシヲ、今ニ、命助ケ置カレテ、天下ノ赦ヲ待ツ事、偏ニ、君王、慈惠ノ厚恩ナリ」

じけい (名) [慈兄] 慈愛深キ兄。後漢書、光武帝紀「慈兄仲弟」

じけい (名) [自剄] ミヅカラ、首ヲハヌルコト。自刎。史記、白起傳「武安君引ㇾ劍將ㇾ自剄曰、我何罪于天而至ㇾ此哉」

しげいさ (名) [淑景舍] 禁中殿舍ノ名。桐壺。枕草子、五、四十六段、なまめかしきもの「しげいさナド渡リタマヒテ、御物語ノツイデニ」

しげいしゃ (名) [淑景舍] 前條ニ同ジ。

しけいと (名) [絓絲] しけ(絓)ノ(一)ニ同ジ。倭名抄、十四、「纊絲具 絓、之介以止、[illegible]絲也」天治字鏡、四「纊、志介糸」金葉集、八、戀、下「我ガ戀ハ、賤ノしけいと、スヂ弱ミ、絶間ハ多ク、來ルハ少ナシ」新六帖、五、絲「我ガ戀ハ、賤ノしけいと

こ、繰リカヘテ、イツナルふしニ[illegible]」

しけう (名) [四教] 詩、書、禮、樂、ノ四ツノ教。禮記、王制「樂正、崇四術、立四教」

しけう (名) [示教] シメシ、ヲシフルコト。教示。「示教ヲ乞フ」

しけう (名) [司教] 天主教、希臘教、等ニテ、高等ノ教師ノ稱。

しけう (名) [鴟鴞] (一)フクロフ。詩經、豳風、鴟鴞篇「鴟鴞鴟鴞、既取我子、無毀我室」(二)奸惡ナル者ニ譬ヘテ云フ。賈誼、弔屈原文「鸞鳳伏竄兮、鴟梟翱翔」

しげうち (名) [繁打] 紐ナドノ、繁ク打チタルモノ。好色一代女(貞享、西鶴)五「しげうちノ下ゲ緒」

しげき (名) [繁木] 繁リタル木。茂林。源、四十四、橋姫「路モ見エヌ、しげきノ中ヲワケ給フニ」六帖、三「コトナラバ、山下水ト、ナリナナム、人目しげきノ、中モ行クベク」

しげき (名) [刺激] ツキ、オコスコト。ハゲマスコト。「社會ノ刺激」

しげき (名) [刺擊] 刺シ、擊ツコト。

しげき (名) [史劇] 歷史上ノ事實ヲ仕組ミタル演劇。

しけぎぬ (名) [絓絹] しけいとニテ織リタル絹布ノ稱。細しけ、太しけナドノ別アリ、多ク、裱具ナドニ用キル。略シテ、しけ。萬金產業袋、四、京織物類「しけ絹、幅壹尺五寸、或ヒハ壹尺貳寸、色、イロイロニ染メテ置ク也」

しげけ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [繁] 「しげくノ延(いはく(曰)ノ語原ヲ見ヨ)さむく、さむけしノ類」しげし(繁)ニ同ジ。萬葉集、二十、長歌「思フマテ、聞ノ惑コク、引キ放ツ、[illegible]久、[illegible]ノ亂レテ」六帖、六二、此頃ノ、[illegible]ノ

しげけく、夏草ノ、刈リソクレドモ、生ヒシクガゴト」

〔しけ・ゐ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔濕濃〕 濕氣、多シ。 古事記、中（神武）二十「葦原ノ、志祁去岐小家ニ、菅疊、彌清敷キテ、我ガ二人寢シ」

⁂しけ・ゐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）（一）入込ム。「惡塲塲へしけゐむ」（二）男女、共寐ス。閨中ニ長居スル。

〔しげ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔繁〕〔重〕〔滋〕〔茂〕〔蕃〕（一）繁リテアリ。（草木ナドニ） 源、十五、蓬生五「しげき草、蓬ヲダニ、カキ拂ハン物トモ、思ヒヨリタマハズ」（二）細カニテ、多シ。頻リナリ。密ナリ。（事ニ） 源、四、夕顏三十「隣りしげく、皆ムル里人、多ク侍ランニ」（三）屢ナリ。重ナル。 源、一、桐壺二十五「しげく渡ラセ給フ」同、四、夕顏四十二「内ヨリ、御使、雨ノ足ヨリモしげし」

しけし（名）〔字消〕 白墨ヲ、水ニ研リテ、書損ナドノ文字ヲ、白ク塗リ消スニ用キルモノ。又、護謨ナドヲモ稱ス。

しけ-しけ（副）〔頻く頻くノ轉カ〕 ツクヅク。ヨクヨク。 浮世風呂（文化、三馬）三編、下「倒デしけしけト見ラレルカラ、見サメガシテ、穢ラシイネエ」 琴唄、雪晨「面影ヲ、しけしけト、ミジカ夜ニ」

しげ-しげ（副）〔繁繁〕〔頻頻〕 甚ダ繁ク。シバシバ。タビタビ。頻數 「しげしげ來ル」

しけ-ぞら（名）〔陰空〕 しけヲ催ス空合。風雨ノ、來ラントスル空模樣。 菅原傳授手習鑑（延享、竹田出雲）二「時氣空モ、吹キ晴レテ、下ダリ日和ニ直ル、タ」

しげたいふ-ぶし（名）〔繁太夫節〕 淨瑠璃ノ一派、宮古路豐後ノ門人、宮古路繁太夫ト云フモノノ創メタル一派。京阪ニ行ハレキ。 聲曲類纂、一「宮古路繁太夫、豐後掾ガ門人ナリ、繁大夫節トテ、一派ヲナシ、大阪、島ノ内ニ行ハレタリ」

しけつ（名）〔辭訣〕 別レノ辭ヲ、述ブルコト。イトマゴヒ。訣別 後漢書、公孫瓚傳「與二士卒一辭訣、各分散還」

しげ-どう（名）〔重籐〕〔滋籐〕 弓ノ幹ヲ、籐ニテ、幅、一寸許、間、五分許ヅツ隔テテ、繁ク卷キタルモノ、大將ノ持弓トス。五所、或ハ、七所ナルヲ、村重籐ト云フ。重籐ヲ、全體、黑漆ニテ塗レルヲ、塗込籐ト云ヒ、幹ヲ黑漆ニ、籐ヲ朱漆ニテ塗レルヲ、追重籐ト云ヒ、幹ヲ黑漆ニテ塗リ、其上ヲ白キ籐ニテ卷キタルヲ、白重籐ト云フ。 平治物語、一、源氏勢汰事「惡源太義平ハ、生年、十九歲、云云、石打ノ矢、負、重籐ノ弓、持テ、云云、父（義朝）ノ馬ト、同頭ニ引立タリ」

しげふ（名）〔志業〕 學業ニ、ココロザスコト。志學。 左傳、昭公十三年「使下二諸侯一歲聘以志レ業、間朝以講レ禮、云云、以顯中昭明上」

しげふ（名）〔試業〕（一）習ヒ得タル學藝ヲ、試ミルコト。（二）都鄙ノ學校ヨリ出デテ、試業ニ預ル、秀才（方略策ヲ試ム）、進士（時務策ヲ試ム）ノ學生ノ稱。

じげふ（名）〔事業〕〔易經、上經、疏「所レ營謂二之事一、事成謂二之業一」〕 ワザ。シゴト。 易經、文言傳「暢二於四支一、發二於事業一、美之至也」

しげみ（名） 草木ノ、殊ニ繁リタル處。 蘇着 續後拾遺集、三、夏「八重ムグラ、しげみガ下ニ、結ブテフ、オボロノ淸水、夏モ知ラレズ」

しけん（名）〔試驗〕（一）ココロミ、タメスコト。 劉迎詩、神農嘗二草木一詩「世以二仁愛一云云、中云莖服根、試驗限將レ大」（二）學校ナドニテ、時ヲ定メテ、問題ヲ出シテ、答ヘシメ、ナドシテ、生徒ノ、學ビ得タリヤ、得ズヤヲ、タメスコト。考試。「學年末ノ試驗」「辯護士ノ試驗」

しけん（名）〔私見〕 自家、一己ノ意見。自分ノ意見ノ謙稱。「私見ヲ披瀝ス」

しけん（名）〔至健〕 至ッテ、健勁ナルコト。極メテ、剛健ナルコト。 易經、繫辭、下傳「夫乾、天下之至健也」

しげん（名）〔至言〕 道ニカナヘル、極メテヨキ言。至極、適當ナル言語。 後漢書、蔡邕傳「臣聞、聞之將レ興、至言數聞」

しげん（名）〔始原〕 モト。ハジメ。原始。

しけん（名）〔事件〕 事ノ、クダリ。コトガラ。「或ル事件」

しけん（名）〔辭見〕 使者ノ、出發、來還ノ時ノ目見。 儀制令「凡、文武官、三位以上、假使者、去者、皆奉レ辭、還皆奉レ見、其五位以上、奉レ勅差レ使者、辭見亦如レ之」

しげん（名）〔慈眼〕 佛經ノ語、慈悲ノマナコ。慈悲ノ心ヲ以テ衆生ヲ見ル佛眼。 盛衰記、廿九、白山權現垂跡事「觀世音、金冠ヲ動カシ、慈眼ヲ瞬キシ給ヒテ、妙體、速カニ隱レ給フ」

じげん（名）〔示現〕 神佛ノ靈ノ、奇異ヲ示シアラハスコト。又、佛菩薩ノ、衆生ヲ濟度セムトテ、變化身ヲ示シテ、娑婆ニアラハルルコト。 太平記、五、時政參二籠榎島一事「辨才天ノ御示現ニ任セテ、國國ノ靈地ヘ人ヲ遣シテ、法華經奉納ノ所ヲ見セケルニ」

しげん（名）〔時限〕〔門限ナドノ類〕 トキノ、カギリ。「時限ハ、午前十一時前トス」

しげんかう（名）〔四元行〕 古キ西洋說ニ、氣、濕、火、土、ノ四ツノ稱。

しげん-きん（名）〔四絃琴〕 一種ノ樂器、形、三味線ニ似、棹ノ長サ三尺二寸、絃、四筋ノモノ。

しけん-くゎん（名）〔試驗管〕〔英語、Test-tube.ノ譯語〕 理化學ノ實驗ニ用キル硝子管。

しけん-し（名）〔試驗紙〕 化學ニテ、溶液、又ハ、瓦斯ノ酸性ト、鹽基性トヲ、試驗スルニ用キル紙、普通ハ、りとまゝ液ヲ塗リタルモノ。其青色ナルヲ、赤色ニ變ズルハ、酸性ニシテ、赤色ナルヲ、青色ニ變ズルハ、鹽基性ナリ。

しげん-じ（名）〔紫荊樹（はなずはう）ノ音ノ訛リ〕 さつまふぢニ同ジ。

しげめゆひ（名）〔滋目結〕 鹿子しぼりノ一種、目ノ、繁キモノ。 保元物語、二、白河殿攻落事「金子十郎ハ、滋目結ノ直垂ニ、緋縅ノ鎧、着テ」 盛衰記、十一、靜憲與二入道一問答事「滋目結ノ直垂ニ、菊綴シテ」

しげもん（名）〔繁文〕 冠ニ云フ語、羅ニ、小菱ノ繡ノ文ヲ、繁ク縫ヒタルモノ。 後松日記、十八「有文冠考トテ、今ノ小菱ノ繡ノ繁文ノ冠ハ、近衞内前公ノ造リ出サセ給ヘル」

しげやま（名）〔繁山〕 樹木ノ、繁レル山。 拾遺集、十九、雜戀「世ノ中ハ、イカガハセマシ、しげやまノ、靑葉ノ杉ノ、シルシダニ無シ」 新古今集、十一、戀、一「筑波山、ハヤマ繁山、繁ケレド」

しげり（名）〔繁〕 繁ルコト。シゲミ。 中務集「夏山ノ、しげりヲワケテ、鳴ク鹿ヲ」 萬代集、三、夏「川邊ナル、松ノしげりハ」

しけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔濕氣〕〔濕氣ノ音ヲ活用ス〕 濕氣ヲオコス。水氣ニ浸サル。シメル。（濕地ノ物ナドニ）

しけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔陰〕〔風雨しけノ活用語〕 雨風、續ク。（舟人ノ語） 「毎

日志けテ、魚ガ捕レス」

✤✤志・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ(自動、下二) [濕氣] 前前條ノ語ニ同ジ。

〽志げ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [繁][茂][滋] 多ク、生ヒ重ナル。カサナリ延ブ。盛ンニ延フ。殖ユ。(草木ノ枝葉ナドニ) 伊勢物語、第九段「宇津ノ山ニ至リテ、我ガ入ラントスル道ハ、イト暗ウ細ソキニ、蔦カヘデハ志げり、物心ボソク、スズロナルメヲ見ルコトト」

志げ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [寐] 吉原遊郭ノ語。ネル。ヤスム。三絃、組唄、下總ほそり「打觸ケテ、ユラユラオコレ、マダ夜ハ夜中ヨ、志けれ、トント」

〽志こ (名) [醜] (又、志きトモ云フ) (一) 醜惡キモノヲ、咲ミ罵ル語。孝徳紀、大化五年三月「高田醜比、云二之梁ニ雌」 萬葉集、一、十五「丈夫ヤ、片戀セムト、歎ケドモ、鬼ノ益卜雄、ナホ戀ヒニケリ」 同、八「長歌「吾ガ守ルモノヲ、ウレタキヤ、志許霍公鳥、曉ノ、心悲シキニ」 同、十二「萱草、垣モ繁ニ、植エタレド、鬼(醜)ノ志許草、猶戀ヒニケリ」 同、十七「長歌「息ヒ誇リテ、笑マヒツツ、渡ルアヒダニ、タフレタル、之許ツ翁ノ、コトダニモ」 「志こ男、志こ女、志こノ翁、等」 (二) 又、自ラ謙リテ、稱スル語。萬葉集、廿「今日ヨリハ、顧ミナクテ、大君ノ、之許ノ御楯ト、出立ツ我レハ」

志こ (名) 魚ノ名、ひ志こヲ、志こ志こト訛レル語ノ約。(東京) 「志こ志こノ佃煮」

志こ (名) (一)工合。風。「顧ンデ洗ツカズ、ヨイ志こデアッタ」(出雲方言) (二)程。(長崎ニテ) 「アレ志こ、コレ志こ」

志こ (名) [尻籠][矢籠] (矢壺ノ字音ニテ、つぼやなぐひノ類ナラムカトモ云フ) (一)古クハ、矢ヲ盛ルモノノ總名。庭訓往來、六月「尻籠、靫、胡簶」 義經記、五「義經落ニ給吉野一事」「志この矢、蕎サガリニ負ヒナシテ」 (二)後ニハ、一種、やなぐひニ似テ、粗略ナルモノノ稱。下ニ、鏃ヲ受クル、壺ノ如キモノアリテ、棒ヲ添ヘテ立テ、上ニ、腕木ノ如キモノアリ、木、又、竹ニテ作ル。

志こ (名) [四股] (肉凝る意、志かこノ、聢ト通ズ) 相撲ノ語、相撲取ノ、角觝ハムトスル前ニ、掌ニテ、膝上ヲ擊チテ、地ヲ蹈ムコト。筋骨ヲ固ムルナリ、コレヲ、四股を踏むト云フ。傾城酒呑童子(享保、近松作) 一「尻、引ッ裂ケテ、志こを踏み」

志こ (名) [四顧] 四方ヲ、カヘリミルコト。又、四邊。李白詩「四顧心茫然」

志こ (名) [指顧] (一)ユビザシテ、カヘリミルコト。指揮スルコト。唐書、李晟傳「毎二與レ賊戰一、必錦裘繡帽自表、指二顧陣前一」 (二)指シテ呼ベバ、直チニ應フル程ノ、僅少ノ距離。呼ベバ應フル程ナルコト。「指顧ノ中ニ見ユ」

志こ (名) [市賈] 市場ノ、賈人。左傳、昭公十三年「宣子曰、同惡相求、如二市賈一焉」

志ご (名) [死期] 死ヌル時。死ヌベキ際。今昔物語、十七「下野國僧、依二地藏山一知二死期一語」「頭メ、死期ヲ知ル」

志ご (名) [死後] 死シタル後。歿後。(生前ニ對ス) 太平記、七、先帝船上山臨幸事「尸ヲ軍門ニ曝ラストモ、名ヲ後代ニ殘サン事、生前ノ思出、死後ノ名譽タルベシ」

志ご (名) [枝梧][支吾] (漢書、陳勝項籍傳、注「小柱爲レ枝、邪柱爲レ梧」) 相、逆フコト。クヒチガフコト。齟齬。史記、項羽紀「諸將皆慴服、莫二敢枝梧一」

志ご (名) [私語] ササヤクコト。ヒソヒソバナシ。ササメゴト。密語。後漢書、光武紀「難レ交二私語一」

志゙こ (名) [自己] オノレ、ミヅカラナルコト。自身。六祖壇經、行由篇、明上座曰「慧明雖レ在二黄梅一、實未レ著二自己面目一」

志゙こ (名) [事故] コトノユヱ。ワケガラ。子細。韓愈、上二張僕射一書「非レ有二疾病事故一、輒不レ許レ出」「事故缺席」「電車、事故頻發ス」

志゙こ (名) [慈姑] クワヰ。

志゙ご (名) [耳語] ミミウチ。ミミコスリ。史記、灌夫傳「臨汝侯、方與二程不識一耳語一」

志゙ご (接) [爾後] 然アリテ、後。ソノノチ。コノノチ。詩經、小雅、白華之什、南山有臺篇「樂只君子、遐不二黄耈一、樂只君子、保二艾爾後一」

志こう (名) [至公] 至ッテ、オホヤケナルコト。聊カモ、偏頗ナキコト。仲長統、昌言「人主臨レ之以二至公一、行レ之以二至仁一」「至公ノ論」

志こう (名) [司寇] 古ヘ支那ニテ、警察ノ事務ヲ掌リシ官。書經、周官篇「司寇、掌二邦禁一、詰二姦慝一、刑二暴亂一」

志こう (名) [伺候] サブラフコト。侍リ居ルコト。韓愈、送二李愿歸二盤谷一序「伺二候於公卿之門一」 太平記、二、助光事「是レハ、右少辨殿ノ伺候ノ者ニテ候ガ」

志こう (名) [祗候] 敬ミテ、侍フコト。[祠候] 魏書、劉休賓傳「聞二王臨境、故來祗候」 白氏文集、廿七「祗候二高情一」 名義抄「祗候、ツツシミサブラフ、ツツシミウカガフ」 太平記、廿一、義助攻二落黒丸城一事「如何ニモシテ、一戰ニ利ヲ得、南方祗候ノ人人ノ機ヲモ扶ケバヤ」

志こう (名) [時候] 空氣ノ、四時ニ互リ、寒、暑、晴、雨、等ニ因リテ、變化シ、移リユクコト。氣候。ヤウキ。李頻詩「時候復蹉レ跎」

志゙こう (名) [事功] (孟子、滕文公、下篇、疏「所レ作未レ成則謂二之事一、事之成則謂二之功一」) 成スコト。テガラ。物事ノ成功。周禮、大司馬篇、司勳「事功曰レ勞」

志こう-みん (名) [市公民] 地方自治團體タル市ノ、公民。

志゙こう-りう (名) 志゙こりう(自己流)ノ延。

志こう-ろく-みん (名) [四公六民] くさだか(草高)ノ條ヲ見ヨ。

志こき (名) [扱] (一)シゴクコト。(二)次次條ノ、志こきおびノ略。

志こ-ぎ (名) [子午儀] (英語、Meridian transit instrument.ノ譯語) 天文學上、重要ナル器械ノ一、子午線經過ノ時刻ノミヲ測ルニ要スルモノ。

志こき-おび (名) [扱帶] カカヘオビ。帶シタル上ヘ、又、締ムルモノ、一幅ノ布帛ヲ、若干ノ長サニ切リ、ソノママニ扱キテ、帶トスルナリ。(おびどめノ紐ノ如シ) 元祿曾我物語、三「唐模樣ノ地白ニ、菜緞子ノ志こき帶」

志こき-もとゆひ (名) [扱元結] 水引ノ元結。元結ノ條ヲ見ヨ。

志こく (名) [至極] 上ナク、極マリタルコト。キハミ。ゴクゴク。ゴクズキ。最上。究竟。略シテ、ごく。莊子、逍遙遊篇「無レ所レ至レ極邪」 盛衰記、六、小松殿教二訓父一事「君ノ思召シ立ツ處、道理、尤モ至極セリ」

志こ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) [扱] 締メテ、扱ク。履、扱ク。「縄ヲ志こく」「搯ヲ志こく」

志こく (副) [至極] 最モ。極メテ。コノ上ナク。沙石集、三、下、第八條「貪者ナレバ、云云、食後ノ菓子迄、至極セメ食ヒテ」「至極、尤ナル仰せ」

志゙こく (名) [自國] 己ガ國。他國ニ對ス。

じ-こく (名) |時刻| トキ。ヲリ。コロ。時期 唐書、百官志「晝題二時刻一、夜題二更籌一」狂言記、鏡男「餘念モナウ鏡ニ見入ッテ居テ、時刻ガ移ル」

し-ごく-いろ (名) |至極色| 極官ノ服色。卽チ、濃キ紫。

しこ-ぐさ (名) |醜草| 見ニクキ草。ワルキ草。萬葉集、四十二「忘草、我ガ下紐ニ、ツケタレド、シコノ志許草、コトニシアリケリ」夫木抄、廿二、野「眞熊野ニ、雨ソボ降リテ、木陰レノ、ツカヤニ立テル、鬼ノしこぐさ」

しこく-ざる (名) |四國猿| 猿ノ屬、最モ小サクシテ、畜ヒテ、善ク馴ルルモノナレバ、多ク、伎藝ナド、敎フ、多ク、四國ニ産ズレバ、名アリ、紀伊ノ粉川ヨリモ出ヅレバ、伊勢ニテハ、粉川猿トモ云フ。ソノ、三寸バカリナルヲ、木の葉猿、又、|豆猿|ト云フ。拳猴(廣東新語)

しこく-じろう (名) |四國二郎| ばんどうたらう(坂東太郎)ノ條ヲ見ヨ。

しこく-へんど (名) |四國邊土| (今昔物語ニ、四國邊地ヲ修行シマハル僧ノコトアリ、徒然草ニ、難波ヲ、邊土ト云フ、田舍ヲ巡ル意ナリ、故ニ、遍路ハ、非ナリト云フ)眞言宗ノ信者、四國ニ於ケル弘法大師ノ遺迹、八十八箇所ヲ、遍歷スルコト。又、順禮スル者ノ、四國ニアル、八十八箇所ノ弘法大師ノ靈場ヲ、巡拜スルコト。四國遍禮。四國遍路。(八十八箇所ノ條ヲ併ハセ見ヨ)

しこく-へんれい (名) |四國遍禮| 前條ノ語ニ同ジ。國花萬葉記、十四、上、阿波「四國遍禮八十八箇寺之靈地、當國之分、凡、二十三箇之次第、道法、云云」同、土佐「四國遍禮八十八ケ寺之內、當國ニ有レ之十六ケ寺之次第、云云」同、伊豫「四國遍禮八十八ケ所之內、當國ニ有レ之廿六箇寺之次第、云云」同、讚岐「四國遍禮(路)八十八ケ所之內、當國ニ有レ之廿三個寺之次第、云云」寶曆ノ頃、江戸ニモ、八十八箇所ヲ移シテ、設ケタリ。東都歲事記、一、下、三月「十日、廿一日迄、四國八十八箇所ノ寫、弘法大師巡拜、云云、大進夜話ト云ヘル草紙ニ、江戸八十八箇所ハ、寶曆ノ頃、淺間山ノ上人、本願ニヨッテ移ス所也ト云リ」

しこく-へんろ (名) |四國遍路| 前前條ヲ見ヨ。鹽尻、七十六「西國三十三所、四國遍路四十八ケ所ニ、六十六部ヲ一ツニシテ回ル者、多シ」嬉遊笑覽、七、四國廻「高野大師ヲ念ズル輩ハ、四國邊路ヲ廻リ、一向門徒ハ、廿四輩ト云フコトニ出ヅ」

じこ-しゅぎ (名) |自己主義| (英語、Ego-ism. ノ譯語)自身ノ利益ノミヲ欲シテ、他人、若シクハ、國家ノ損失ヲ顧ミザル主義。利己主義。

じご-しょうだく (名) |事後承諾| 承諾ヲ得ベカリシ行爲ヲ、承諾ヲ得ズシテナシタル後、承諾權ヲ有スルモノノ、其行爲ヲ是認スルコト。

しこ-じら-か-す (動) 次條ノ語ニ同ジ。

しこ-じら-す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 病ヲ、シコジルヤウニナス。癒シ損フ。シシコラカス。シコジラカス。

しこ-じ-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 病、癒エ損フ。シコル。

し-ごせん (名) |子午線| 天文學、地理學ノ語、其地ノ天頂、及、南北兩極ニ通ジテ引ケル、想像ノ大圈線、赤道ト打違ヘニ、天球ヲ、東西ニ分ツ。

しこ-たま (副) 澤山。ドッサリ。ドシドシ。ドシコ。(遠江ニテ、しこだくたま)東海道中膝栗毛(文化、一九)六編、上「一文モ入ラズ、しこたま馳走ニナッテ、拜マレル」「しこたまタマル」しこたまマウケル」

し-こつ (名) |死骨| 死シタル人ノ骨。漢書、趙元國傳「死骨不レ朽」太平記、廿、結城入道墮二地獄一事「彼レガ、暫シモ居タルアタリハ、死骨、滿チテ、屠所ノ如ク、尸骸、積ンデ、九原ノ如シ」

しこ・つ・ツル・ツレ・チ・チ・チヨ (他動、上二) |誣| (誣言ヲ活用セシムト云フ、告言ヲ、のりごつト云フ類)誹リ告グ。讒ス。ヨコス。字鏡十五「嘱、志己豆」同卅「譖、毀也、讒也、志己豆」名義抄「譖、シコツ」讒、シコツ、ソシル」孝德紀、大化五年三月「我見レ譖二身刺一」續紀、廿五、天平寶字八年九月、宣命「詐テ讒チ奏」詩經、小雅、小旻之什、巷伯篇「緝緝翩翩、謀欲レ譖レ人」

しこつ-おきな (名) |醜翁| 見ニクキ老翁。しこ(醜)ノ條ノ(一)ノ出典ヲ見ヨ。

しごと (名) |仕事| (一)爲ル事。爲スベキ業。事業 作業 操作 (二)はりしごとノ略。「しごとノ上手ナ婦人」

しごと-し (名) |仕事師| (消防夫ノ、平時、町內ノ足場懸、門松、家屋修繕、普請、等ノ雜務ヲ引受クルヨリ、云フ)土木ノ雜役ヲ業トスルモノ。トビノモノ(東京)。畿內ニテ、テッダヒ。土工夫

しごと-ば (名) |仕事場| 工作、製造スル所。製造場。サイクバ。工場。工場

しこ-な (名) |醜名| (醜つる名ノ意カ)戲レ謗リテ、名ヅクル名。アダナ。(長崎等ニ、今モ云ヘリ)諢名 渾名 名義抄「諢、シコナ、イミナ」慶安四年七月、町觸「しこ名ノ異ヲ付候者有レ之候ハバ、早早可レ申上レ候、古ヘヨリ相撲取候モノ、異名仕候共、向後ハ、其名堅可レ爲ニ無用レ事」續紀、三十、神護景雲三年九月、和氣淸麻呂ヲ、穢麻呂ト名ヲ賜ヒシナドハ、醜名ト謂フベシ。

しこ-なし (名) シコナスコト。フルマヒ。コナシ。吉野忠信(寶永、近松作)一「サリトテハ、御客樣、ドウシタ粹ナしこなしゾ」

しこ-な・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 爲べキ方法ニ、善ク合ハセテスル。程好ク、フルマフ。

しこ-の-き (名) 荒削リニシタル材木。出世景淸(元祿、近松作)四「上三尺ノ詰牢ニ、しこの木ヲモッテ、蜘手格子ニ切り組ンデ」

し-こう (名) |四劫| 佛敎ニテ、世界ノ成立ヨリ、破滅ニ至ル四大時期、卽チ、世界、成リテ、人畜、草木、生ズルヲ成劫、人類ノ安住スルヲ住劫、世界ノ破滅スルヲ壞劫、世界ノ空虛トナルヲ空劫ト云フ。

じごう-じとく (句) |自業自得| 佛敎ノ語、自ラ爲セル業ニテ、自ラ、其果ヲ得。己ガシタル事ニテ、己レ、其報イニ當ル。自業自縛。(多クハ、惡業ニ云フ) 盛衰記、四十五、重衡向二南都一被レ斬事「大衆、高名ニアラズ、就中、修學、利生之窓中ニシテ、邪見、不善科ヲ行、菩薩、大悲ニ背キ、僧徒ノ威儀ニアラジ、誠ニ、自業自得ノ催ス所、彼卿、死罪、遁レガタキカ」十訓抄、下、第十、七十五條「神主、其ノ旨ヲ申サシムル間、ハタシテ、中納言ニ任ジ畢リヌ、此ノ如ノ、自業自得ノ類ハ、マコトニ、燐愍ノ及ブ所ニアラザルベシ」

じごう-じばく (句) |自業自縛| 前條ノ語ニ同ジ。艶狩釼本地(寶永、近松作)三「自業自縛ノ因果、歷然」

しこ-ぶち (名) |剛者| (醜太ノ轉ナルしこぶつノ、又、轉ジタルナラムカ)タケキモノ。恐ロシゲニ、逞シキコト。賤シゲニ、無骨ナルコト。宇津保物語、祭使廿九「しこぶちニ箱メキタル箱二ツニ、東絹一箱」

しこ-ぶつ (名) |剛者| 前條ヲ見ヨ。節用

ジゴマ（名）[illegible] 探偵小説ノ主人公ノ名ヨリ起ル」出没自在、[illegible]甚シキ[illegible]

しこみ（名）仕込 （一）仕込ムコト。シイレ。「清酒ノしこみ」小間物ノしこみ」（二）芝居ノ[illegible]

しこみづゑ（名）仕込杖 杖ノ竿ノ中ニ、刀槍ノ刃ヲ、作リ込ミタルモノ。提[illegible]

しこみもの（名）仕込物 商家ニ、注文ニ因ラズ、カネテ、買入レ、又ハ、造リ蓄ヘオキテ、賣ルモノ。

しこむ・ム・メ・マ・ミ・メ（他動、四）仕込（一）漸クニ、教ヘ馴ラス。教ヘコム。馴致「弟子ヲしこむ」「[illegible]ヲしこむ」（二）作リテ、貯フ。備ヘトシテ、作ル。（三）買ヒ入レ置ク。仕入レル。（商品ヲ）「市デ、註文品ヲしこむ」（四）中ニ込メテ、作ル。ツクリコム。「杖ニ、刀ヲしこむ」

しこむ・ム・レ・メ・メ・ヨ（他動、下二）籠込 取リ囲ミテ、構ヘナス。[illegible]

しこん（名）紫根 むらさきノ條ヲ見ヨ。

しこん（名）私恨 ワタクシノウラミ。私怨。[illegible]

しこん（副）自今 イマヨリ後。コノノチ。[illegible]

しこんでん（名）私墾田 墾田ノ一。人民ニ、[illegible]地ヲ賜ヒ、ソレヲ開墾シテ、私有ノ田トナサシメタルモノ。[illegible]

しこめ（名）醜女 黄泉國ニ居ル、醜キ鬼。恐ロシゲナル女。ココメ。[illegible]

しこめかへし（名）内目反 アカンベイ。伊豆ノ伊東ニテモ、云フ。

しこめ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）醜 （醜シコヲ活用セシム）ミニクキ狀ナリ。[illegible]

しこり（名）癇 シコルモノ。病ニ因リテ、肉中ニ、塊ノ如キモノノ起ルコト。癇[illegible]「乳ロノ明クお藥ガ御座イマシタッケ」

じこりう（名）自己流 學藝ナドニ、師ノ流義ヲ傳ヘタルニハアラデ、自己ノ勞ヘツキニテ行フ、一ノ流義ト、蔑レ呼ブ語。ジコウリウ。我流。

しこる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）謏 ソコナフ。アヤマツ。シコジル。シクジル。[illegible]「[illegible]メヤモ」（誤リテ來ラムヤハ）

しこる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）癇（肉凝シシコるノ略）案シカト、ナル。締ムルガ如ク、強ク凝ル。「肩ガしこる」

しころ（名）錏 （一）後衣シリヨロヒノ意カト云フ）（一）兜ノ後ニ、半輪ニシテ、絲ニテ綴リ、重ネ垂ルルモノ。之レヲ、上ヨリ數ヘテ、鉢付の板、一の板、二の板、三の板、菱縫の板ト云フ、コレヲ、五枚兜ト云ヒ、其三枚ナルヲ、三枚兜ト云フ 保元物語、一「白河殿攻落事」兜ノ錏ニ射附ケタリ」（二）土藏ニ葺シカケテ、錏ノ如ク作レル土藏、[illegible]「[illegible]ニしころヲツケテ」

しころいた（名）錏板 よろひいた（鎧板）ノ一名。

しころづきん（名）錏頭巾 （一）大黒頭巾ニ、布ノ錏ヲ附ケタルモノ。五元集「[illegible]ニハ、しころづきんヤ、蝶鵆ヒ」（二）宗十郎頭巾ノ異名。

しころど（名）錏戸 よろひど（鎧戸）ノ一名。

しころやき（名）志戸呂燒 しどろやき（志戸呂燒）ニ同ジ。[illegible]「志戸呂燒、遠州七窯ノ内、瀬戸ヲ寫ス、薄作ナリ、呂宋ノ作振ヲ寫ス物モアリ」

しこを（名）醜男 醜キ男。又、男ヲ罵リ云フ語。古事記、上「[illegible]色許男」

しさ（名）咨嗟 太息タメイキヲツキテ、嘆クコト。咨歎。晉書、[illegible]「咨嗟良久」

しさ（名）時差 平均太陽時。即チ、通常ノ時計ガ示ス時刻ト、眞太陽時トノ差ニテ、平均太陽時ヲ得ムガタメ、眞太陽ニ加フベキ補正數ヲ云フ。

しざ（名）侍坐 侍リテ、スワリアルコト。[illegible]

しさい（名）私祭 （一）ワタクシノ祭ヲナスコト。[illegible]（二）神社ニテ、公式以外ニ行フ、祭祀。

しさい（名）子細 〔又、仔細トモ書ク、正字通「俗作 仔細」〕細カナル、コトワケ。ユエヨシ。コトガラ。イヘレ。事由[illegible]「[illegible]ムトテ」保元物語、一、[illegible]藤原光貞、井ニ、武士二人、召捕リテ、子細ヲ問ハル」[illegible]テ、罷リ出デ候ハン事ハ、子細有ルマジキニテ候ト申セバ」「仔細無シ」子細ニ及ばず、子細ニや及ぶト、ハ、役レコレト、事柄ヲ申シ立ツルマデモ無シ。平家物語、七、[illegible]「身、朝敵トナリヌル上ハ、子細ニ不及ト作」云、[illegible]メシカリシ事共ナリ」同、二、西光被斬事「[illegible]ヲバ、法皇モ知ロシメサレタルカ、子細ニや及び候、[illegible]ノ、[illegible]サレ候ヒシニモ、院宣トテコソ、召サレシカ」

しさい（名）詞彩 言葉ノ、アヤアルコト。言詞ノ、麗シキコト。詞藻。宋書、[illegible]

しさい（名）司宰 ツカサドルコト。宰領スルコト。又、其人。主宰。「說教ノ司宰」

しさい（名）紫菜 あまのり（甘海苔）ノ條ヲ見ヨ。下學集、下、草木門「紫菜、アマノリ」

しさい（名）詩才 詩作ノ才。詩ヲ作ル才能。

しざい（名）詩材 詩作ノ材料。詩料。

唐子西語錄「收ニ拾詩材一以備レ用」 陸游詩「詩材滿レ路無ニ人取一」

しざい (名) 資財 (一)タカラ。財。資産。史記、平準書、贊「古者、嘗竭ニ天下之資財一以奉ニ其上一」平家物語、一、禿童事「除黨ニフレマハシ、カノ家ニ亂入シ、資財、雜具ヲ追捕シ」(二)寺院ニテハ、什物。續後紀、十八、嘉祥元年十一月「下野國言、藥師寺者、天武天皇所ニ建立一也、體製巍巍、宛如ニ七大寺一、資財亦巨多」

しざい (名) 私財 ワタクシノ、タカラ。自分一己ノ財産。私有財産。禮記、曲禮、上篇「父母存、不レ許ニ友以レ死、不レ有ニ私財一」

しざい (名) 私罪 (一)直接ニ、一私人ヲ害スル罪。之レニ對シテ、直接ニ、國家ノ公益ヲ害スルモノヲ、公罪ト云フ。(二)官吏ノ、賄賂ヲ受ケテ、非道ヲ行ヒタル罪。律疏、名例「凡犯ニ私罪一以ニ官當一徒者」政事要略、三十「犯ニ私罪一以ニ官當一徒者、五位以上以ニ一官一當ニ徒二年一」

しざい (名) 死罪 刑ノ、最モ重キモノ、其命ヲ斷ツ。絞罪(ケウザイ)、斬罪(ザンザイ)ノ二等アリ、絞ハ、喉ヲ絞(シ)メテ殺シ、身首ヲワカタズ、斬ハ、首ヲ切リ放ス。又、斬罪ニ加フルニ、梟首(ケウシュ)ノ刑アリ、卽チ、日ヲ期シテ、其首ヲ獄門ニ晒ラシテ、衆ニ示スナリ。德川氏ノ制ニハ、死罪ト、斬罪トヲ分チ稱シテ、死ヲ輕トシ、斬ヲ重トス。(絞ハ、無シ)又、其他ニ、火炙、獄門、磔、鋸引、等アリ、各條ニ注ス。左傳、昭公二年「有ニ死罪三一、何以堪レ之、不ニ速死一、大刑將レ至」 西宮記、臨時、十「口傳云、可レ入ニ死罪一之円者、減ニ贓布數一、縱雖レ及ニ百千反一、不足十五反、猶處ニ流刑一、是舊例也」 續古事談、三、臣節「コノ人(經成)、納言ヲ望ミケル時、八幡ニ詣デテ祈ケリ、獄ヲ治ムルアヒダ、死罪ニ行フ者、オボユルトコロ三十人、コレ君ノ爲ナリ」書翰ノ末ニ、死罪死罪トアルハ、秦ノ法ニ制定スル所ナリ、之レヲ犯シテ用キル意ト云フ。上表ノ文ナドノ末ニ、臣某、誠惶誠恐、頓首頓首、死罪死罪ナドアリ。

しさい (名) 時祭 〔四時祭ノ略〕古ヘ、儒祭トテ、儒禮ヲ以テ、其祖先等ヲ祭ルコトアリ、其祭日ハ、四時(春夏秋冬)ノ仲月(春分、夏至、秋分、冬至)ヲ用キ、或ハ、家事ノ繁閑ニ依リテ、春分、秋分ノ二時ニ行フコトアリトスルコトノ稱。喪祭式 祭ノ禮、時祭ヲ重シトス」日本歲時記、三、二月「祭日、一年ニ五日アリ、四時ト、忌日ナリ、四時ノ祭ハ、仲月ヲ用ユベシ、春分、夏至、秋分、冬至、ナリ、春秋二時祀ルモ、可ナリ、忌日ハ、死日ナリ、一年ニ、只、一日ナリ、和俗、コレヲ、祥月ト云フ、毎月ノ月忌ハ、古禮ニアラズ、云云、春秋ノ祭ト、忌日ノ祭ニハ、豫ジメ齋戒シ、平生、饗ヲ設クルガ如ク、早朝、饌具ヲ備フベシ、日本ニ居テ、モロコシノ簠簋、籩豆ノ類ノ器ヲ用ユベカラズ」

しさい (名) 自裁 ハラキリ。自殺。自刃。史記、白起傳「秦王賜ニ之劍一自裁」

しざい (名) 自在 (一)心ノママナルコト。意ニ隨ヒテ、イカヤウニモナルコト。自由。勝手。漢書、王嘉傳「大臣舉錯、恣レ心自在」 盛衰記、四十一、梶原逆櫓事「船ニ、逆櫓ト申ス物ヲ立テ候ウテ、軍ノ自在ヲ得ル樣ニシ候ハバヤ」 名義抄「自在、ワガマンマナリ」「自由自在」(二)次條ノ語ノ略。

しざい-かぎ (名) 自在鉤 爐、竈、ナドノ上ニ、鐵瓶、釜、ナドヲ、梁ヨリ釣リ懸クルニ用キル鉤(カギ)、其細、又、竿ニ、機(シカケ)(又、さるトモ云フ)アリテ、自在ニ低昂(アゲサゲ)スベシ。略シテ、しざい。活套 飛州志、七、自在鉤「民間ノ圍爐裏ニ下テ、鍋釜ヲカケル鉤也、其上ノ鉤ハ、榎ノ曲リヲ用イ、中ノ竿ハ、朴ヲ用イ、下ノ鉤ハ、桑ノ曲リヲ以テ作ルヲ、古法トスト云ヘリ」 鶉衣(也有)後編、拾遺、自在鍵頌「世ニ、自在鍵ト呼ブ物アリ、夫ハ、爐上ニ下ゲテ、茶釜、藥鑵ヲツルスニ、延縮ヲ、心ニ任スル物トゾ」 室町殿日記、廿「イザ酒ノ、カンセウジョウト、云フママニ、鍋ヲゾカクル、自在天神」 本朝三國誌(享保、近松作)四「風情ヲ盡ス茶ノ設ケ、自在ノ竹ニ、節コメテ、鑵子ノタギリしんしん」 嬉遊笑覽、一、上、居處、猿戸「樞(クルル)ヲ、さるト云フ、云云、釜ナドヲ釣ル自在竹ノさるト云フ物モ、同義ナリ」

しさい-がほ (名) 子細顏 子細アリゲナ顏色(オモモチ)。シサイヅラ。日本振袖始(享保、近松作)三「鼻ニ皺寄セ、仔細顏」

しざい-ちやう (名) 資財帳 王朝時代、寺院ノ資財、卽チ、什物ヲ記入シタル帳簿。住持、檀越、等、相、連署シテ、其保管ノ責任ヲ明カニシ、政府、亦、常ニ之レニ干涉シテ、其賣買、質入、等ヲ禁止シタリ。類聚三代格、三「太政官符、應レ停ニ定額寺資財帳進ニ官事一」 法隆寺伽藍緣起幷流記資財帳「法隆寺伽藍緣起幷流記資財事」

しさい-づら (名) 子細面 前前條ノ語ニ同ジ。持統天皇歌軍法(享保、近松作)三「弟、照房メガ、物ヲモ言ハヌ子細づらハ、心得ズ」

しさい-に (副) 子細 コマカニ。クハシク。「子細ニ見ル」

しざい-もち (名) 自在餅 〔善哉餅ノ轉カ〕餅ニ、赤小豆ノ餡ヲツケタルモノ。餡ころ餅ノ、大キナルモノ。嬉遊笑覽、十、上「江戸ニテ今、自在餅トイフハ、餡ヲ餅ノ上ニ付タレバ、あんころ餅ノ、大キナルナリ」

✤しさい-ら・しい (形) 子細 (一)イハレアルラシ。故アリゲナリ。寶悟記(天正)拾遺、上「別シテ、子細らしきコトハ候ハズ」(二)モッタイラシ。「子細らしい顏ツキ」

しさう (名) 志操 心ニ、操(ト)リ守リテ、變ラヌ志。固キ志。ミサヲ。南史、陸瑜傳「幼孤、好レ學有ニ志操一」

しさう (名) 詞藻 (一)詞(コトバ)ノアヤ。文藻。詞彩。陸機、文賦、序「故作ニ文賦一以述ニ先士之盛藻一」註「藻、水草之有レ文者、以喩ニ文詞一」(二)詩歌、又ハ、文章。

しさう (名) 思想 心ニ、思ヒウカブルコト。カンガヘ。傳燈錄「能斷ニ百思想一」王朗、與ニ文休一書「託ニ舊情於思想一」

しさう (名) 思想 〔英語、Thought. 獨語、Gedanke.ノ譯語〕知識作用ノ一形式。思惟、又ハ、思考トモ云フ。コレニ、二用法アリ、廣義ニハ、直觀ヲ除キテ、其他ノ認識作用ヲ總稱シ、再現作用ニヨル意識現象中、純粹ナル情意作用ヲ除ケル、一切ノ作用ヲ包含ス。狹義ニハ、悟性作用ト同義ニ用キラレ、其内ニ、概念、斷定、推理、ノ三作用ヲ包含ストゾ。

しさう (名) 死相 死ヌベキ相。死ニ迫リタル人相。「顏ニ、死相ガ現ハレル」

しさう (名) 四相 佛經ノ語、生、老、病、死ヲ、一期ノ四相ト云ヒ、生、住、異、滅ヲ、有爲(ウヰ)ノ四相ト云ヒ、又、我相、人相、衆生相、壽者相ヲ、識境ノ四相ト云フ。卽チ、我相トハ、自己ノ我ノ實在スルヲ執スルモノ。人相トハ、他人ノ我ノ實在ヲ妄執スルモノ。衆生相トハ、衆生界、又、自己心識ノ作出スルモノナルヲ知ラズシテ、以前ヨリ實在スルモノト信ズルモノ。壽者相トハ、自己ノ、此世ニ住スル時間ノ長短ニ執着スルモノ。曾我物語、十二、母二宮行別事「ツクヅクト思ヘバ、[illegible]

物、國體ノ理リ、ノさう、深淺ノナラヒ」

しさう（名）【四葬】佛經ノ語、四葬法、卽チ、水葬（屍體ヲ、江河ニ投ジテ、魚鼈ニ食ハシムルモノ）、火葬（薪ヲ積ミテ、屍體ヲ燒クモノ）、土葬（土中ニ埋メテ、早ク屍體ヲ腐朽セシムルモノ）、林葬（森林ニ露（サラ）シテ、屍體ヲ、禽獸ニ食ハシムルモノ）ノ稱。

しさう（名）【四三】〔さうハ、三（サム）ノ音便〕雙六ノ語、二箇ノ采ノ目ニ、四ト、三トノ、出ヅルコト。下學集、雙六采、畳半、重五、重四、重三、朱四等」運歩色葉集「四一、一六、五二、四三（シサウ）」

しさう（名）【芝草】（一）シバクサ。シバ。（二）サイハヒダケ。瑞草。靈草。 續後紀、四十八、法皇大原入御事「香煙出レ窗、芝草盛無レ人」【靈芝】 王充、論衡「土氣和、故芝草生」治部省式、祥瑞、芝草、註「形似二珊瑚一、枝葉連結、或丹、或紫、或黑、或金色、或隨二四時一變色、一云、一年三華、食レ之令二眉壽一」天武紀、下、八年、是年、紀伊國、伊刀郡、貢二芝草一、其狀似レ菌、莖長一尺、其蓋二圍」續紀、四、承和二年二月「天皇御二紫宸殿一、右大臣從二位淸原眞人夏野、獻二芝草一莖有二兩枝一者、其色、紫相雜、每二苗之末一有レ兩、而辭二于大臣山莊雙岳之下一」

しさう（名）【辭藻】しさう（詞藻）ニ同ジ。 南史、顏延之傳「擅二辭藻一、當時遵以爲二宮商一」

しさう（名）【兒曹】〔詩經、大雅、生民之什、公劉傳、毛傳「曹、羣也」史記、平準書、註「曹、輩也」〕兒童ノ、トモガラ。兒儕。 高啓、登二西山一詩「但見諸山樹在レ下、兒曹齊問寶兒曹」

しさう（名）【自葬】自己ノ信ズル所ニヨリテ行フ葬式。江戸時代、神、儒、二式ニ在リテハ、共ニ、自葬ナレバ、喪主以下ノ人人、柩ヲ奉ジテ、直チニ墓所ニ至リ、先ヅ、其葬地ノ神ヲ祭リ、次ニ、棺前ニテ祝詞ヲ讀ミ、香ヲ燒キ、或ハ、玉串ヲ獻ジテ、拜禮ヲ行ヒ、死者ノ魂ヲバ神主ニ遷シテ、家ニ歸シ、其魄ヲバ、墓所ニ葬ルヲ例トス。 川村雜記、水戸自葬式御觸書「自葬式ノ後ハ、往古ヨリ掟ニテ、貴賤ト無ク、各、祭ル式ニテ候所、近頃、佛門ノ法ニナヅミ、父母先祖ヲ祭ル迄、破戒不如法ノ僧ヲ迎、經文ヲ爲レ讀、戒名迄モ、金銀ヲ出シテ買ヒ受、自分祭ノ誠ナルヲ取失ヒ、父母、先祖ニ事ヘズ、金銀ヲ費シ、奢侈ヲ極メ候儀ノミ致、葬式祭ノ禮ハ、心得候者モアラズ、云云」

しさうかい（名）【思想界】（一）思想ノ動ク範圍。（學術、宗教ナドノ）「思想界ノ動搖」（二）思想ヲ動カス學者、宗教家ナドノ仲間。「思想界ノ泰斗」

しさうほふ（名）【四葬法】四葬ノ條ヲ見ヨ。

しさく（名）【史策】事柄ヲ記シシ文書。記錄。 李康、運命論「著二於史策一、與二學流一于千載一」

しさく（名）【思索】カンガヘ、モトムルコト。（理由、方法、等ヲ） 管子、內業篇「思索生レ知、慢易生レ憂」

しさく（名）【詩作】詩ヲ、ツクルコト。作詩。又、其作リタル詩。作文。詩篇。 宇津保物語、祭使、五十「オホヤケノ、しさく聞コシメサストテ、博士、文人、八十餘人、仁壽殿ニ參ルベキヲ」同、三十七「例ヨリ興アルしさくナルヲ、エ見過スマジクオモホエツルヲ」

しさく（名）【試作】ココロミニ、作ルコト。タメシニ、作ルコト。又、其作リタルモノ。

しさく（名）【自作】ミヅカラ、ツクルコト。手製。手作。 詩經、鄘風、載馳、疏「載馳一篇序云、許穆夫人作也、云云、或是自二作之一也」

しさく（名）【時策】其ノ時ニ處スベキ企策。時ニ取リテノ謀（ハカリゴト）。 後漢書、獻帝伏皇后紀「寶將、帝、典二書時策一」

しさし（名）【爲止】シサスコト。シカケテ、中止スルコト。ナシカケ。 釋迦如來誕生會（元祿、近松作）四「明日ハ、朝、疾ウカラ、叩キ起サレ、昨日ノ仕さしヲ仕舞ハウトスル」

しさし（名）【字指】書ヲ習ヒ讀ムトキ、書中ノ字ヲ指スニ用キル具、木、竹ニテ作ル、箸ノ如シ。字突（ジツキ）。角筆。代指。 文教溫故、上「點圖ト同ジク、講進スル所ノ角筆ト云フ物ハ、今俗ニ云、字指（ジサシ）（或ハ、字つきトモ云フ）ノコトナリ、云云、菅家、清家、ソノ制、同ジカラズ、思フニ、角筆ト云フ名ニヨル時ハ、蓋シ、象牙ヲモテ造レルモノ、古制ナルベシ」油糟（貞德）「頭部ハ、字指ト袖ヲ、目ニアテテ」

しさ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【爲止】爲（シ）テ、半途ニ止ム。シノコス。 源、五十、浮舟、六十「しさしタルモノドモ、取リ具シテ、木丁ニ打チカケナドシテ」宇治拾遺、十二、第四條「陰陽師、心得ズ仰天シテ、祓ヲしさしテ、コレハ如何ニト云フ」

しさつ（名）【使札】使者ニ携持セサセテ遣ル書狀。 大友興廢記、小原鑑元御誅罰事「高森、使札ヲ內通有リ、其ノ狀ニ云ハク、態以二使札一令二啓上一候」

しさつ（名）【視察】ミトドケ。「學事ノ視察」

しさつ（名）【刺殺】サシ、コロスコト。 史記、刺客傳「聶政、直入上レ階、刺二殺俠累一」

じさつ（名）【自殺】自ラ、身ヲ殺シテ、死ヌルコト。 史記、魯仲連傳「與二人刃一我、寧自刃、乃自殺」三宅土佐守家來渡邊吉成、三州、田原表オキテ自殺致シ候節使一件「石田儀右衞門儀、堀田相模守領分、下總國佐倉城下ニ而、自殺致シ候」

しざのさるがく（名）【四座猿樂】のう（能）ノ條ヲ見ヨ。

しざま（名）【爲樣】（一）ナシタル、サマ。シカタ。（二）〔衣ノ縫ヒザマ。シタテカタ。 源、廿二、玉鬘、三十一「色アヒ、しざまナド、殊ナルヲト、撰（エ）ラセ給ヘレバ」同、四十八、寄生、五十三「物ノしざまナドヲゾ、淸ラヲ盡シ給ヘリケル」

しさん（名）【四散】四方（ヨモ）ニ、散（チ）ルコト。チリヂリニナルコト。 鮑照、詩「風起花四散」「兵亂ニ遭遇シ、父子兄弟、四散ス」

しさん（名）【資產貲產】一家ノ財產。ミノシロ。シンダイ。家產。 後漢書、馮巴傳「小人常破二貲產一以祈禱」 晉書、祖逖傳「逖、己務施、不レ畜二資產一」

しさん（名）【私產】私有ノ財產。一個人トシテノ資產。官有財產ナドニ對ス。 晉書、李重傳「奴婢、私產」

しざん（名）【雌山】物ヲ、數多、產出スル山。之レニ對シテ、物ヲ產ゼヌヲ、雄山ト云フ。 松屋筆記、八十一「山ニ、雄山アリ、雌山アリ、福山アリ、貧山アリ、盛山アリ、衰山アリ、佛祖統記、四十二ノ卷、法運通塞志、八、唐代宗大曆三年、詔二慧忠國師一入內、引二太白山人一見レ之、師曰、汝蘊二何能一、山人曰、識レ山、識レ地、識レ字、善レ算、師曰、山人所レ居、是雄山、雌山、茫然不レ知レ對、云云、與清曰、富士山ハ、雄山也、物ヲ產セズ、伊豆ノ天城山ハ、雌山也、物ヲ產スル事、多シ」

じさん（名）【自讚自贊】己レ自ラ、褒ムルコト。ミボメ。テボメ。ワレボメ。ヒトリヨガリ。 漢書、東方朔傳「朔自贊曰、臣嘗受レ易、請射レ之」著聞集、十六、興言利口「餘リニ學問ヲシテ、四季ヲダニ知ラヌ優美（ヤサ）シサト云フ沙汰ニコソ乘リテ候ヘト、自讚シケレバ、聞クモノ、嘲哢スルコト、限リナカリケリ」枕草子、五、五十段、口をしき物「斯ル雨ニノボリ侍ラバ、足形附キ、イト不便ニ、穢ゲニナリ侍リナン、ト云ヘバ、ナド、洗足料ニコソハナラメ、ト云フヲ、コレハ御前ニ、カシコウ仰セラ

ルルニハアラズ、信經ガ足形ノ事ヲ申サザラマシカバ、エ宜ハザラマシ、トテ、カヘスガヘス云ヒシコソ、ヲカシカリシカ、餘リナル御身ほめカナト、カタハラ痛シ」天治字鏡、三十「自言、長、自嘆、竊保女須」「自讚自譽」

し-ざや (名) 【尻鞘】 しりざや(尻鞘)ノ條ヲ見ヨ。

しさら-か・す (動) シサルヤウニス。オメラカス。

し-さ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔後去るノ略カト云フ〕退ク。スザル。アトシザリスル。(歩、坐、共ニ) 郤行 名義抄「赴趄、シサル」狂言記、福渡「しさりヲロ、憎イ奴ノ、オノレモソレニ臥セリヲロ」

しし (名) 【肉宍】 にく(肉)ニ同ジ。倭名抄、三 六「肌肉類「肉、之之」孝德紀、大化二年三月「衣衿、足以朽完而已」(完、水本、宍ニ作ル)

しし (名) 【獸】 〔獵リテ、肉ヲ取ル意カ〕(一)〔ケダモノ。ケモノ。獸類。雄略紀、二年十月「毎獵、大獲鳥獸」「猪ノしし」鹿ノしし」鹿しし、しし狩」(二)〔轉ジテ、直チニ、猪、又ハ、鹿ノ稱。萬葉集、六 十四 長歌「朝狩ニ、十六ミオコシ、夕狩ニ、鳥踏ミタテ」(三)ししがり(猪狩)ノ略。曾我物語、四、箱王通祐經事「馬ノ上、徒立チ、雙ブ人ナシ、殊ニ、しししノ上手ニテ」

しし (名) 【猪】 〔猪の獸ノ略〕 ゐのししノ條ヲ見ヨ。

し-し (名) 【尿】 〔しとヲ略シテ、重ネ云フ語〕ユバリ。小便。(小兒ニ) 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「此ノ頃ハ、立居モ獨デ出來ネエカラ、尿、尿モ、溺器デ取ル」

し-し (名) 【嗣子】 家ヲ嗣グベキ子。家督スベキ子。(嫡子、長子ナラズシテ、次三男ナドヲ、家督ニ定メタルニ云フ) アトトリ。アトツギ。禮記、曲禮、下篇「大夫士之子、不敢自稱曰嗣子某」 過庭紀談、四「世上ノ墓表ヲ見ルニ、孝子某建ト書クベキ所ヲ、孝子ノ二字ヲ憚リテ、嗣子某建ト書キシ墓、幾ラモ有リ、是レ、大ナル非禮ナリ、ヤハリ、孝子某建ト書クベシ、云云、凡、ソノ事ニ、自ラ嗣子ト稱スルハ、諸侯ノ稱スル詞ニテ、士大夫ノ稱スベキ詞ニアラズ、俗語ニハ、養子ノ事ヲ、脇ヨリ稱シテ、嗣子ト稱スルコトアリ、是ハ、格別ナリ」

し-し (名) 【四子】 (一)四人ノ子。「四子アリ」(二)第四ノ子。四男。四郎。「某ノ四子」

し-し (名) 【四至】 四方ノ界目。境內。庭訓往來、三月「四至傍示境」

し-し (名) 【四始】 (一)正月元旦ノ稱。史記、天官書、注「四始、謂正月旦、歲之始、時之始、日之始、月之始」(二)〔始トハ、王道興衰ノ由ル所ノ義〕詩ノ、四體ノ稱。詩經、關雎序「是謂四始、詩之至也」疏「四始者、風也、小雅也、大雅也、頌也」

し-し (名) 【四肢】 兩手、兩足。四ツアシ。韓詩外傳、卷二、子賤治單父「佚四肢、全耳目、平心氣、而百官理」

し-し (名) 【志士】 國事ニ、身ヲ棄テテ盡サントスル志アル人。孟子、滕文公、下篇「志士不忘在溝壑、勇士不忘喪其元」 太平記、四、備後三郎高德事「志士、仁人、無求生以害仁、有殺身以爲仁ト云ヘリ」

し-し (名) 【死士】 決死ノ士。命ガケノ士。史記、春申君傳「伏死士於蘇門之內」

し-し (名) 【死屍】 シカバネ。死骸。

し-し (名) 【刺史】 (一)國ノ守ノ唐名。拾芥抄、中、本、國守、註「刺史、使君、今號太守」(二)支那ニハ、州ノ長官。漢書、百官志「孝武帝始、置刺史十三人」

し-し (名) 【指示】 指シ、示スコト。指シテ、數フルコト。サシヅ。史記、蘭相如傳「璧有瑕、請指示王」漢書、蕭何傳「發蹤指示獸處者、人也」「指示代名詞」

し-し (名) 【師資】 師トシテ、賴ムコト。師匠。舊唐書、韋述傳「探賾與言、如遇師資」 太平記、十二、聖廟事「僧正曰、貴方與愚僧、師資之儀雖不淺、君與臣、上下禮尙深」 字類抄「師範、師資、師匠」

し-し (名) 【私資】 自分一己ノ資產。私財。私產。

し-し (名) 【市肆】 イチクラ。町ノ店。市廛。漢書、食貨志「開市肆以通之」

し-し (名) 【恣肆】 ホシイママナルコト。放縱。唐書、張巡傳「樹威恣肆」

し-し (名) 【粢食】 神ニ供進スル飯米。神供。左傳、桓公二年「粢食不鑿、昭其儉也」

シ-し (名) 【師子獅子】 〔梵語、しむば(Simha.)ノ首音ヲ取リテ、師ト音譯シ(さたう(砂糖)ト、同趣、其條ノ語原ヲ見ヨ)けもの偏ヲ附ケテ、獅トシ、又、子ヲ附ケテ、獅子トシタル語(接尾語ノ子ノ條ノ(一)ヲ見ヨ)〕(一)カラシシ。熱地產ノ獸、極メテ強ク、猛クシテ、獸中ノ王ト稱ス。形、黃狗ノ如ク、高サ三尺、長六尺ヨリ九尺ニ至ル、頭、大キク、腰、細ソク、毛色、蒼黃ナリ、眼、圓ク、尾、長クシテ、端ニ、毛毬アリ、牡ニハ鬣アリ、牝ニハ無シ。獅 漢書、西域傳「烏弋國、有師子、似虎正黃、尾端毛、大如斗」 倭名抄、十八 廿 毛群名「師子、一名、狻猊」 本草綱目譯義、五十一「獅、カラシシ、獅子トモ、云云、集解、西域諸國ニ出ヅトアリ」 獅子身中の蟲トハ、我ガ方ニ在リナガラ、我ガ方ヲ害スル者ノ喩。梵網經ニ「如獅子身中蟲、自食獅子肉、非餘外蟲上」トアルニ本ヅキテ云フ。(二)獅子頭ノ略。「獅子ヲ舞フ」(三)獅子舞ノ略。「獅子ヲ舞フ」

し-し (副) 【孜孜】 勤ムル狀ニ云フ語。書經、泰誓、下篇「祝降時喪、爾其孜孜、奉予一人、恭行天罰」「孜孜汲汲」

し-し (副) 【偲偲】 (一)勤メ勵ム狀ニ云フ語。論語、子路篇「朋友切切偲偲、兄弟怡怡如也」(二)身ヲ責ムル狀ニ云フ語。天神記(正德、近松作)四「偲ミノ念力、切切、偲偲トシテ、切ルガ如ク、刺スガ如シ」

し-し (感) (一)警蹕ノ聲。オシ。シッシ。(二)鎮メ禁ムルニ發スル聲。鳴リ高キヲ制ムル聲。(三)鳥獸ヲ追フ聲。

しじ (名) 【朘屡】 〔縮むノ語根ナルカ、集韻「朘、荷緣切、縮也」同「朘、祖回切」說文「赤子陰也」同「屡、祖回切、赤子陰也」伊豆ニテ、陰門ヲ、しじト云フ〕(一)縮ムコト。痩スルコト。漢書、董仲舒傳「民日削月朘」(二)赤子ノ陰部。(轉ジテハ、大人ノ男女ノ陰ニモ云フ) 新撰狂歌集、下「女院ノ、御マヘノ腐ク、ナル事ハ、数月坊ガ、しじノ入ル故」

し-じ (名) 【四時】 延ベテ、しいじトモ云フ。春、夏、秋、冬、ノ稱、卽チ、一年ヲ四分セルモノ。四氣。四季。訓讀シテ、ヨツノトキ。易經、文言傳「與日月合其明、與四時合其序」 書言字考節用集、二、時候門「四時」注「四序、四節、並同、說文、春夏曰發、秋冬曰斂」 古今集、序「今スベラギノ、天ノ下シロシメス事、よつのとき、九ノカヘリニナン、ナリヌル」

し-じ (名) 【師事】 師匠トシテ、事フルコト。史記、燕世家「昭王爲隗築宮而師事之」

し-じ (名) 【私事】 (一)自家一己ノ事。(公事ニ對ス) 孟子、滕文公、下篇「公事畢、然後敢治私事」(二)ナイショウゴト。カクシゴト。ワタクシゴト。韓詩外傳、卷六、賞勉罰

しし (名) 象事 漢字ノ六書ノ一、其字ノ形ヲ、直チニ、其意義ヲアラハスモノ、例ヘバ、一、二、三、丄(上)、丅(下)、ナド [illegible]

しし 名 進士 しんし(進士)ニ同ジ。[illegible]「[illegible]ヨリ出タル人、廿人、殿生モ、召シタリ」

しし (名) 次子 じなん(次男)ニ同ジ。

しし 名 侍史 (一)右筆。モノカキ [illegible] (二)書狀ノ宛名ノ側ニ書ク語。[illegible]

しし (名) 貳志 フタゴコロ。貳心。[illegible]

しし 名 自恣 自己ノ欲スルママニ、ナスコト。ワガママ。自肆。[illegible]

しし 名 自肆 前條ニ同ジ。[illegible]

しし 名 自營 自活ノ道ヲ立ツルコト。[illegible]

しし 名 時事 當時ニ起レル、世上ノ事柄。[illegible]

しし (副) 時時 トキドキ。シバシバ。[illegible]「時時、現ハル」

ししあひ (名) 肉合 にくあひ(肉合)ニ同ジ。太平記、[illegible]「[illegible]」

しし-いでん 名 紫宸殿ノ[illegible] 其條ヲ見ヨ。

しじう (名) 死囚 死罪ニ處セラルベキ囚人。[illegible]

しじう 名 私讐 ワタクシノアダ。[illegible]

しじう 名 刺繡 ヌヒトリ。ヌヒ。[illegible]

じじう (名) 時羞 其時節ノ食物ヲ、薦ムルコト。[illegible]

じしう (名) 自修 自ラ、身ヲヲサムルコト。又、學ヲ、勉メ修ムルコト。[illegible]

ししうど 名 土當歸ノ類、莖、葉、大抵、相似テ、[illegible]甚ダ多クシテ、ザラツク、食フベカラズ、夏ノ後、莖ヲ出シ、葉、互生ス、秋ニ至リ、高サ六七尺、枝ノ端毎ニ、小白花、簇リ開ク、根、白クシテ、[illegible]烈シ、藥用トス。イヌウド。ウマウド。獨活

ししおき (名) 肉置 ニクツキ。肉ノ具合。[illegible]

ししかがまる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 蹙 [illegible]十七、變化「コノ法師、怖レヲノノキタル狀ニテ、[illegible]」

ししがき 名 鹿垣 枝ツキノ木ニテ構ヘタル[illegible]。鹿砦。鹿柴 太平記、[illegible]

[illegible]

しがしら (名) 獅子頭 木ニテ、獅子ノ頭ヲ刻リ作レルモノ、布ヲ添ヘテ體トシ、獅子舞ニ用キル。略シテ、しし。[illegible]

しがしらのかぶと (名) 獅子頭兜 獅子ノ頭ノ形ヲ、兜ノ前立トナシタルモノ、(龍頭の兜ナドノ類) 太平記、十四、[illegible]

ししかまる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 蹙 ししこまる、ちぢまるニ同ジ。[illegible]「此時、蛇、ししかまりタリケリ」

ししかむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 蹙 ちぢむニ同ジ。[illegible]

ししがり (名) 猪狩 (獸狩ノ意ナルベシ) 多人數、山ニ入リテ、猪、鹿、[illegible]、猿、等ノ獸ヲ、狩リ取ルコト。略シテ、しし。山獵 [illegible]

しく (名) 獅子吼 師子吼 佛經ノ語、邪道、異學ヲ排擊シテ、正道ヲ宣揚スルコト。佛ノ說法ハ、獅子ノ、咆吼シテ、衆獸ヲ恐懼セシムルガ如ク威勢アリト云フ譬ニ云フ語 [illegible]ズト云フ事ナシ」

ししくはず (名) 猪不食 (一)おにあはノ(一)ノ一名。(二)おほあはノ一名。(三)やぶかうじノ一名。

ししこらかす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 病ヲ、癒シ損フ。シコジラス。源、五、若紫「ししこらかしツル時ハ、ウタテ侍ルヲ、疾クコソ、試ミサセ給ハメ」(瘧二) 梁塵秘抄、口傳、十「瘧心地ニワヅラヒテ、ししこらかしテアリケルニ」

しざ (名) 獅子座 佛座。又、轉ジテ、高僧、大德ノ座。佛ハ、人中ニ於イテ、最尊ナルコト、猶、獅子ノ、百獸中ニ於イテ、最勇ナルガ如シト云フニ譬ヘテ云フ語。獅子ノ座。獅子ノ牀。大智度論、[illegible]

ししさい (名) 四時祭 古ヘ、儒者ノ禮ニ、四時(春、夏、秋、冬)ノ仲月ニ、祖先ノ靈ヲ祭ルコト。略シテ、時祭。(其條ヲ見ヨ)

ししじもの (副) 鹿自物 鹿ノ如ク [illegible]

ししじゅう (名) 大侍從 じじゅう(侍從)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

しじす ス・ル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 師事 師匠ト崇メテ、仕フ。左傳、昭公七年「[illegible]」

しし-そん-そん (名) 子子孫孫 子孫ヲ、重ネテ云フ語。孫子ノ末。 書經、梓材篇「欲レ至ニ于萬年一惟王子子孫孫、永保レ民」 狂言記、牛馬「子子孫孫モ、榮樂ト暮ラサルル事デ御座ル」

しし-だ (名) 猪田 獸ノ荒ス田。 萬葉集、十二廿七「小山田ノ、鹿猪田守ルゴト」 同、十六廿二「アラキ田ノ、子師田ノ稻ヲ、倉ニ積ミ」

しし-だいめいし (名) 指示代名詞 文法ノ語。代名詞ノ一種ニテ、事物、場所、方向、等ヲ示ス詞。委シクハ、篇尾ノ語法指南ヲ見ヨ。

しし-たけ (名) 猪茸 菌ノ一種、原野ノ濕地ニ、列リテ生ズ、蓋、小サク、莖、高ク、肥エテ、形、漏斗ノ如ク、莖ノ中、空シ、背ハ、鹿ノ毛ノ如ク、蓋、莖、共ニ、鱗ノ如キ刺アリテ、暗褐色ナリ、乾セバ黑ク、味、甚ダ佳ナリ。一名、革茸。茅蕈

しし-つ (名) 資質 ウマレツキ。モチマヘ。天質。 後漢書、吳良傳「資質敦固、公方廉恪」

しし-つ (名) 紙質 紙ノ質。

し-じつ (名) 至日 夏至、又ハ、冬至ノ日。 易經、上經、復卦「先王以ニ至日一閉レ關」

じ-しつ (名) 自失 氣拔ケスルコト。

じ-じつ (名) 時日 ときト、ひト。光陰。 禮記、表記篇「大事有ニ時日一、小事無ニ時日一」「時日ヲ移サズ」假スニ、時日ヲ以テス」

じ-じつ (名) 事實 コトノマコト。コトノ心。コトワケ。 史記、莊周傳「率皆虛語、無ニ事實一」「事實ヲ糺ス」事實ヲ曲ゲズ」

しし-つき (名) 鹿付 鹿ノ、棲ミ居ルコト。 盛衰記、三十六、清章射レ鹿事「平山、云フ樣ハ、鹿付ノ山ヲバ、獵師知リ、鳥付ノ原ヲバ、鷹師知リ」

しし-づく (名) 肉豆蔻 にくづくニ同ジ。

じ-しつ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 自失 ボンヤリト、氣ヌケス。 列子、仲尼篇「子貢、茫然自失」 史記、屈原賈生傳、贊「讀ニ鵩鳥賦一、同ニ死生一、輕ニ去就一、又、爽然自失矣」

シしっ-ぱな (名) 獅子鼻 獅子鼻ノ急呼。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「道理デ、獅子鼻ダ」

しじ-に (副) 繁ク。 萬葉集、四十六長歌「荒磯ノ上ニ、打靡キ、四時ニ生ヒタル、莫告ガ」 同、十七三十九長歌「山ハシモ、之自爾アレドモ、川ハシモ、多ニ往ケドモ」

しじ-ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 繁貫 繁ク、ツラヌク。 萬葉集、九八「白崎ハ、幸クアリ待テ、大船ニ、眞梶繁貫、又カヘリ見ム」

しし-の-ひたひ-ぐさ (名) 田枯ニ同ジ。

シし-ばな (名) 獅子鼻 獅子頭ノ鼻ノ如キ鼻。低クシテ、小鼻ノ開キタル鼻。アマウケバナ。急呼シテ、ししっぱな。 東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、上「色ガ黑ウテ、鼻ハ、獅子鼻トヤラデ」

しし-びしほ (名) 肉醬醢 肉ニテ作レル醬。シホカラ。醢。 太平記、四、笠置囚人死罪流刑事「縱ヒ、骨ヲ醢ニセラレ、身ヲ車裂ニセラルトモ」 禮記、曲禮、上篇「毋レ刺レ齒、毋レ歠レ醢」疏、「醢、肉醬也」 呂覽、過理篇「殺ニ梅伯一而遺ニ文王其醢一」

しし-びと (名) 宍人 魚肉ヲ割烹スル者ノ稱。 神代紀、下「以レ鳥爲ニ宍人者一」釋紀、八、述義「宍人」註「包丁之類也」

しし-ふ (名) 詩集 詩ヲ集メ記シタル書物。 隋書、經籍志「詩集五十卷」 日本詩紀、別集「縉紳家詩集、三帖」

し-じふ (名) 詩什 〔什ハ、十ニテ、詩經ノ雅ト頌トノ卷ノ名〕 詩、十篇ツヅ集メタルモノ。轉ジテ、詩篇。玉什。

し-じふ (數) 四十 十ヲ、四倍ニシタル數。ヨソ。ヨソヂ。

じ-しふ (名) 時習 時時、復習ヲナスコト。 論語、學而篇「學而時習レ之、不ニ亦說一乎」

しし-ぶえ (名) 鹿笛 獵夫ノ鹿ヲ誘フ爲ニ、吹キ用キル笛。鹿ノ耳皮、或ハ腹籠リノ皮ヲ用キルト云フ。 高忠聞書「鹿笛ノ事、カリ人ノ申ハ、ハヤル傾城ノ足駄ニテ造リタルガ、ヨク寄ルト申ナリ、又、始メテ人ノ造リタルモ、能寄ルト云也」 徒然草、第九段「女ノ履ケル足駄ニテ造レル笛ニハ、秋ノ鹿、必、寄ルトゾ云ヒ傳ヘ侍ル」

しじふ-から (名) 四十雀 〔雀、四十ヲ、其一鳥ニ代フル意ト云フ、或ハ云フ、四十ハ、羣ル意ナリト、或ハ云フ、鳴ク聲ヲ、名トセルナリト〕 やまがらノ屬、秋ノ末、羣ヲナシテ來ル、頭、黑ク、兩頰、白ク、黑白ノ圈、頸ニ至ル、胸、背、灰青色、翅、黑クシテ、灰白ナル縱紋アリ、腹、白ク、胸ヨリ尾マデ、黑キ雲紋アリ、聲、淸滑ニシテ、善ク囀ル。白頰鳥

しじふ-く-にち (名) 四十九日 佛法ニ、人、死シテ、七七日ニ、法事ヲ修スルコト。七七日。 著聞集、十三、哀傷「後鳥羽院カクレサセ給テ、四十九日ノ御導師ニ、聖覺法印參リケルニ」 朝忠集「八月十五夜、朱雀院ミカド、カクレサセ給テ、御四十九日コモリ侯ケル殿上ノ人人」

しじふ-はって (名) 四十八手 相撲ニ云フ語、古法ニ、四手アリ、頭ニテスルヲ反ト云ヒ、手ニテスルヲ捻ト云ヒ、腰ニテスルヲ投ト云ヒ、足ニテスルヲ掛ト云フ、此四手ニ、各、十二手ノ變化アリ、コレヲ四十八手ト云フトゾ。又各手ニ裏表アリト云ヘバ、九十六手トナル。 異制、庭訓往來「相撲有ニ四十八之取手一、所レ謂、入相撲、懸相撲、踏相撲、內絡、外絡、等也」 節用集「相撲ハ、肩、洗、負、扻、反、退、落、蛙、投、搦、爪取、突出、跳、搦、無手、骨法、張、抔申候、四十八手ト申候ヘドモ、百手計モ御座候」

シし-ふん-じん (句) 獅子奮迅 刺擊ノ法ニ云フ語、獅子ノ、怒リ奮フガ如ク、疾クシテ、烈シ。 法華經「諸佛師子奮迅之力」 大般若經「如ニ師子王自在奮迅一」

しじま (名) 無言 〔口ノ蹙まる間ノ意ト云フ〕 物、言フコトヲ、止ムルコト。無言。默 拾玉集(慈鎭)一「憂キ身ニハ、しじまヲダニモ、エコソセネ、思ヒ餘レバ、獨言タレテ」 源、六、末摘花廿七「幾ソタビ、君ガしじまニ、負ケヌラム、物ナ言ヒソト、言ハヌ頼ミニ」 八講ナドノ論議ノ時ニ、證義者、かねト云ヘバ、威儀師、磬ヲ打鳴ラシテ、其後、論議ヲ止ム、コレヲしじまノかねト云ヒ、又、人ヲ制シテ、靜カニセシメンタメニ打ツ鐘ヲモ云フ。 枕草子(院長)しづめるものの品「踊ノ音頭、しじまのかね」

シし-まひ (名) 獅子舞 大イナル獅子頭ヲ被リテ行フ舞、太神樂ニ行ヒテ、惡魔ヲ祓フトス、神前ノ獅子、狛犬ヲ舞ハスルモノナルベシ。略シテ、獅子。 庭訓往來、四月「可ニ招居一猿樂、云云、獅子舞、傀儡師一者」 看聞日記、應永廿三年九月十日「獅子舞參施レ藝、祿物賜等、被レ下之」 三十二番職人歌合、十八番、獅子舞「我レナガラ、オボツカナシヤ、何ナシノ、何ヲカニ、世ヲ渡ルラン」 人倫訓蒙圖會、七「獅子舞、惡魔ヲ拂フト云フナリ、云云、日吉ノ神事ニ、田樂坊師ト云フモノ、獅子ノ頭ヲカヅキテ、ネリワタル也、今ノ獅子舞ハ、是ヲウツシタル也」

しじま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔蹙まるノ意カ〕 進ミ得ズ、又、退キ得ズ。進退

維谷」 神武紀「[illegible]」 [illegible]「不知所爲、遑遑」 [illegible]「進退而泣」

しじまる ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 【縮】 ちぢまるニ同ジ。 太平記、十七、北國下向事「凍死スル士卒、寒谷ニ道ヲ失ヒ、岩ノ陰ニ、しじまり臥ス」 名義抄「縮、シジマル」

しじみ (名) 【蜆】 〔縮貝ノ義カ〕 介ノ名、淡水、鹹水、共ニ産ズ、しぶなひノ屬ニシテ、殼、圓ク小サク、紋ミ多シ、泥中ニアルハ黑ク、沙中ニアルハ黃ナリ、大ナルモノハ、八九分アリ、久シキモノハ、紫ビテ、白キモアリ、肉、味、美ニシテ、多ク、味噌汁トス。 字鏡「蜆、之自彌」 名義抄「蜆、蛤、シシミカヒ」 字類抄「蜆貝、シシミカヒ」 萬葉集、六「住吉ノ、粉濱ノしじみ、開ケモ見ズ、隱リノミヤモ、戀ヒワタリナム」 續千首和歌、寄貝「しじみトル、瀬田ノ浦ノ、海士人ヨ、コマカニイハベ、カヒゾアルベキ」

しじみかひ (名) 【蜆貝】 前條ノ語ニ同ジ。 倭名抄、十九、龜貝類「蜆貝、之之美加比」

しじみばな (名) 【蜆花】 さざれざくら。

ししん (名) 【紫宸】 〔紫ハ、紫微星ニテ、天帝ノ居所、宸ハ、說文「屋宇也」 賈逵曰「室之奧者、後人稱帝居曰宸」〕 天皇ノ御殿、禁中。 [illegible]「紫宸殿」 太平記、[illegible]「主上御[illegible]、紫宸北極ノ高キニ坐シテ、百司、禮儀ノ數ヲ刷ヒシニ」

ししん (名) 【使臣】 君主ノ命ヲ受ケテ、派遣セラレタル者。公使、大使ナドノ稱。 [illegible]、隱公元年「[illegible]使臣[illegible]」

ししん (名) 【至心】 極メテ誠實ナル心。 [illegible]「[illegible]至心[illegible]、自ラ、其病ヲ助ルベシト教給フ」

ししん (名) 【私心】 (一)ワタクシノココロ。自己、一人ノ心。 漢書、李陵傳「[illegible]私心」 (二)私慾ノ心。利己心。 管子、任法篇「人臣釋公而以其私心舉措」

ししん (名) 【私信】 私ニ用キル通信。自己、一人ノ通信。公ノ通信ナドニ對ス。

ししん (名) 【仕進】 官ニ仕ヘテ、出世スルコト。又、官途ニ就クコト。ミヤヅカヘ。 後漢書、[illegible]傳「常以[illegible]仕進之事二」

ししん (名) 【始審】 訴訟ノ、第一ノ審判。第一審 (控訴ニ對ス)

ししん (名) 【指針】 (一)羅針盤ノ磁針。磁石ノハリ。又、スベテ、物事ヲ指シ示ス爲ニ裝置シタル針。 (二)譬喩語ニ、しるべ、手びきヲ云フ。

しじむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【縮】 ちぢむ(四段)ニ同ジ。

しじむ ム・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【縮】 ちぢむる(下二段)ニ同ジ。 榮花物語、四、見はてぬ夢「[illegible]しじめ給ヒケルヲ」

しじん (名) 【四神】 四方ノ稱。東ヲ青龍ト云ヒ、西ヲ白虎ト云ヒ、南ヲ朱雀ト云ヒ、北ヲ玄武(龜ノ象ヲ圖ス)ト云フ、天ノ四方ノ星象、各、其形ヲナセリトテ、名ヅクルナリ。又、地相ノ、此天象ニ相應スルヲ、四神相應ト云フ、左ニ流水アルヲ青龍、右ニ長道アルヲ白虎、前ニ汙池アルヲ朱雀、後ニ丘陵アルヲ玄武トシ、コレヲ、最貴ノ地トスト云フ。 平家物語、五、都遷「[illegible]、此地ノ體ヲ見候フニ、左、青龍、右、白虎、前、朱雀、後、玄武、四神相應ノ地ナリ」

しじん (名) 【資人】 王朝時代、防衛、驅使ニ供スル人。古ヘ、五位以上ノ王臣ニ、位階ニ依リテ賜フヲ、位分資人ト云ヒ、大臣、納言、等ノ官職ニ依リテ賜フヲ、職分資人ト云フ。而シテ、資人ニ採用スルニハ、位分資人ハ、外八位以下ノ子、及、庶人ヲ取リ、職分資人ハ、內八位以上ヲ取ルトゾ。 式部省式「凡[illegible]、陸奧、出羽、及、太宰府所管諸國人、皆不得補職內[illegible]分位分資人二」 持統紀、十年十月「假賜正廣參位右大臣丹比眞人、資人一百二十人二」

しじん (名) 【詩人】 詩ヲ、好ミテ作ル人。詩作ニ、巧ミナル人。詩客。 宋玉、九辯「竊慕詩人之遺風兮」 太平記、一、三位殿御局事「關雎ハ樂而不淫、哀而不傷、詩人採リテ、后妃ノ德トス」

しじん (名) 【私人】 國家、又ハ、社會ニ對シテ、一個人ノ稱。(公人ニ對ス)

しじん (名) 【至人】 道德ノ極致ニ達シタル人。至德ノ人。 莊子、逍遙遊篇「至人無已、神人無功」

しじん (名) 【市人】 マチノ人。商人。イチビト。 史記、信陵君傳「市人皆觀公子執轡、從騎皆竊罵侯生二」

じしん (名) 【自身】 オノレ、ミヅカラナルコト。自分。自己。躬 唐書、[illegible]傳「皆自身[illegible]之數二」 太平記、三十六、頼宮心苦事「今度ハ、一人モ、敵ト云フ者ヲ、生ケテ通ルマジケレバ、自身、向カハデハ叶フマジ」

じしん (名) 【自信】 ミヅカラ、信ズルコト。己ノ價値、能力、等ヲ、疑ハザルコト。 韓愈詩「奈何不自信、反欲從物遷二」

じしん (名) 【侍臣】 側勤ノ臣。君側ニ奉侍スル臣。侍人。 元稹詩「衆推賈誼爲才子、帝喜相如作侍臣二」

じしん (名) 【貳心】 貳志ニ同ジ。 左傳、宣公十二年「[illegible]之從、社稷之故也、未有貳心二」

じしん (名) 【慈親】 イツクシミ深キ、オヤ。 胡宿詩「天中[illegible]明主、海外憶慈親二」

じしん (名) 【磁針】 磁石ノはり。

じじむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) にじむノ訛。

じじん (名) 【慈仁】 メグミ。イツクシミ。 [illegible]「天子神聖、威武慈仁」

じじん (名) 【自刃】 我ト我ガ身ニ刃シテ死スルコト。自殺。自害 左傳、襄公廿五年「請盟弗許、請自刃於廟弗許」

じじん (名) 【自盡】 自ラ、己レノ命ヲ斷ツコト。自害。自殺。 續紀、十、天平元年二月「左大臣正二位長屋王、私學左道欲傾國家云云、令王自盡二」

じじん (名) 【侍人】 君側ニ侍ル人。オソバツキ。侍臣。 左傳、襄公廿五年「公鞭侍人賈擧而又近之」 [illegible]東大寺正倉院文書、四十四帙、四、越前國、江沼郡、山背鄕計帳「江沼臣族牛麿、年肆拾、正丁、侍人、左目[illegible]」

しじんき (名) 【四神旗】 青龍、白虎、朱雀、玄武ノ、四ツノ像アル、四本ノ旗。猶、四神ノ條ヲ見ヨ。 卽位次第抄、御卽位庭上幡鉾圖「四神旗、青龍、朱雀ハ、日像ノ幢ノ東ニ並ビ立チ、白虎、玄武ハ、月像ノ幢ノ西ニ並ビ立テリ、白キ絹ノ、[illegible]端取タルニ、其中ニ、四神像ヲ畫ケリ、幢ハ、各、四節也、白キ絹ニ、赤キ端ヲ取タリ、上ニ、片刃ノ戟ヲ加ヘタリ、此上、七本ノ幢ハ、紫宸殿ノ南階ヨリ十一丈バカリ、南方ノ庭上ニ並ビ立テリ、高サ、各、五十尺バカリニテ、相、去コト、十尺バカリ」

じしんぎ (名) 【時辰儀】 時計。

ししんけい (名) 【視神經】 眼ニアリテ、物ヲ視ルヲ主ル神經。聽神經、嗅神經

ナドニ對ス。

しじん-さうおう（名）〔四神相應〕 四神ノ條ヲ見ヨ。

しし-むし（名） 蜥蜴ノ類ニシテ、草中ニ居リ、甚ダ人ヲ畏レテ、走ル、やもりニ似テ、瘦セ、長サ六寸許、灰色、或ハ、褐色ニシテ、背ニ、黑キ條、一道アリ、脇ニ、黑キ斑アリ、五指ナリ。蛇醫

ししん-でん（名）〔紫宸殿〕 故實讀ニ、ししいでんト讀ム、禁中ノ正殿ノ名、大禮、正式ヲ行ハルル處。一名、南殿。前殿。正殿。 有職抄、二、紫宸殿「南殿ト云フ、七間四面、朝賀、卽位、節會、旬、朔旦、已下之諸ノ公事、幷、二季御讀經、仁王會ナド、行ハルル也」 下學集、上、家屋門「紫宸殿、シシンデン」 書言字考節用集、二、乾坤門「紫宸殿、シシンデン」 拾芥抄、中、末「南殿、云二紫宸殿一」 類聚國史、七十三、弘仁十四年五月「御二紫宸殿一、宴二侍臣一」 續紀、十二、天平八年正月「天皇宴二群臣於南殿一、賜レ祿有レ差」

じしん-ばん（名）〔自身番〕〔市人ノ、自ラ警戒スル意カ〕 江戶時代、町方ニテ設置シ、公用、火番、其他、町內ノ雜務ヲ處理スル所。江戶、幷ニ、京都、大阪、等ニ在リテ、其組織ハ、市中ヲ、數十組ニ分チ、每組ニ、若干ノ番所ヲ置キ、町人ヲシテ、其費用ヲ分擔セシム、初ハ、町人、各自、交替シテ、其番ニ出ヅルノ主旨ナリシモ、遂ニ行ハレズシテ、家主、及、雇番人ニテ、之レヲ勤メ、地主ハ、其費用ヲ分擔セリ。 德川禁令考、四十七、元祿十一年十一月「町中自身番之儀、不作法無レ之、夜ニ入、番所戶障子立候儀、無用仕、行儀能番可二相勤一候、尤自身番所ニ而寄合咄候事、無用可レ仕候」 町奉行町年寄覺書「町方自身番之義、先年差免候得共、御留守中ハ、晝夜、自身番中番相勤、町方之木戶、五ツ時ヲ限リ、〆候而、往來之モノ、拍子木ニ而送リ、疑敷體之者、是又召捕、奉行所エ可レ訴事」 心中重井筒（寳永、近松作）中「遁レヌカタノ自身番、見舞ヒタウ存ズレ共、是レデハ、御返シナサレマイ」

〜**しし-むら**（名）〔肉叢ノ義〕 截レル肉ノ塊。肉塊。 臠 字鏡七十九「臠、大臠也、志之牟良」 名義抄「臠、シシムラ」 宇治拾遺、十、第六條「ワ、汝レガ、人ノ命ヲ絕チ、ソノ肉むらヲ食ヒ」

⁂**しじめ**（名）〔蜆〕 しじみノ口語。

しじめ（名） すずめ（雀）ノ訛。 散木集、九、雜、上「畑生ニ、黍食ムしじめ、シシメキテ、囂シキマデ、世ヲゾ恨ムル」

しし-め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四） ししト云フ聲ヲ發ス。ヤカマシク、聲ヲ發ス。 散木集、九、雜、上「畑生ニ、黍食ム雀、ししめきテ、囂シキマデ、世ヲゾ恨ムル」 御伽草子（室町時代）鉢かづき「人人、見テ、笑ハントゾししめきケル」

⁂**しじめ-ばな**（名）〔蜆花〕 しじみばなノ口語、おおめざくらノ條ヲ見ヨ。

〜**しし-や**（名）〔獵矢〕 獵ニ用キル矢。ノヤ。サツヤ。 敏達紀、十四年八月「如下中二獵箭一之雀鳥上焉」 曾我物語、一、河津被レ討事「鶴ノ本白ニテ矧ギタル、白搭ヘノししや、笛高ニ負ヒナシ」

し-しや（名）〔仕者〕 神ノ使。ツカハシメ。 盛衰記、三、成親望二大將一事「山鳩二羽、出デ來リテ、食ヒ合ヒ、落チテ死ニケリ、大菩薩ノ第一ノ仕者也」

し-しや（名）〔使者〕 ツカヒノモノ。君命ヲ受ケテ、使ニ行ク役。 史記、信陵君傳「平原君使者、冠蓋相二屬於魏一」 平家物語、一、妓王事「入道相國、妓王ガ許へ使者ヲ立テテ、イカニ妓王、ソノ後ハ、何事カアル」

し-しや（名）〔輜車〕 輜重ノ（一）ヲ見ヨ。 史記、淮南王傳「乃遣二淮南王一、載以二輜車一」

し-しや（名）〔侈奢〕 しやし（奢侈）ニ同ジ。 南史、齊高帝紀「以下長二侈奢一之源上、命打二破之一」

じ-しや（名）〔寺社〕 てらト、やしろト。神社ト、佛閣ト。社寺。「寺社奉行」寺社方」

じ-しや（名）〔侍者〕 （一）貴人ニ侍シテ、其使役ニ充ツルモノ。ソバヅカヘノモノ。 左傳、襄公七年「子駟相、又不レ禮焉、侍者諫不レ聽、又諫、殺レ之」 西宮記、臨時、五「上皇脫屣之後、云云、五位藏人爲二侍者一」 （二）僧家ニテ、和尙ノ傍ニ付添ヒテ、用ヲ承ハル役僧。 庭訓往來、九月「近日執二行佛事大法會一之事候、拜二請貴寺長老一、定二申當日唱導師一度候、被レ召二具侍者、聽叫、行者、請客、頭首許一」

じ-しや（名）〔轜車・輀車〕 キグルマ。柩ヲ載セ運ブ車。ヒツギグルマ。 漢書、王莽傳「百官竊言、此似二輀車一、非二䟫物一也」顏注「輀車、載レ喪車」 喪葬令「凡親王一品、方相轜車各一具」 令集解、四十、喪葬「或云、轜、謂二葬屋一也、車、謂レ載レ之」 孝德紀、大化二年三月「王以上之墓者、云云、其葬時帷帳等用二白布一、有二轜車一」 釋紀、十四、述義「轜車」 日本書紀通證、三十、孝德「轜車」注「轜、謂レ棺也、云云、字書、轜、又作レ輀、喪車也」

じ-しや（名）〔辭謝〕 じたい（辭退）ニ同ジ。 史記、呂后紀「使三人召二代王一、代王使二人辭謝一」

し-しやう（名）〔師匠〕〔師ニ、匠成ノ能アリ〕 し（師）ノ條ノ（一）ニ同ジ。師傅。

し-しやう（名）〔死傷〕 死ニタルト、創ツキタルト。死人ト、手負ト。 史記、高祖紀「今足下盡日止攻、士死傷者必多」「死傷、算、無シ」

し-しやう（名）〔祠掌〕 神人ノ、卑キモノ。 明治十二年十一月太政官達、第四十五號「府縣社以下祠官祠掌ノ等級ヲ廢シ、身分取扱ハ一寺住職同樣タルベシ」

し-しやう（名）〔詞章〕 詩歌、文章ノ稱。 韓愈、柳子厚墓誌銘「務二記覽一爲二詞章一」

し-しやう（名）〔支障〕 ササハリ。サシツカヘ。故障。障碍。「支障無ク行ハル」

し-しやう（名）〔四生〕 佛經ノ語、胎生、卵生、濕生、化生ノ稱。 平家物語、五、勸進帳事「痛マシキカナ、再ビ三途ノ火坑ニ歸リテ、永ク四生ノ苦輪ヲ廻ランコトヲ」 太平記、廿三、大森彦七事「御邊ハ六道四生ノ間、如何ナル所ニ生レテ、オハシマスゾト」

し-しやう（名）〔四姓〕 古代印度ノ、四種ノ階級。卽チ婆羅門、刹帝利、吠舍、戍陀羅（首陀羅）ノ稱。

〜**し-じやう**（名）〔史生〕 古ヘノ官名、太政官八省、及、彈正臺ニ置キ、主典ノ下ニアリテ、公文ヲ書クコトヲ掌ルモノ。 式部省式「凡、雜色叢、頗有下耐二書算一者上、省課試補二任諸司史生一」 枕草子、八、七十九段、餌袋の所得る折の事「節會御配膳ノ釆女、大饗ノ日ノ史生」 名目抄、人體「史生、シジャウ」

し-じやう（名）〔市上〕 マチナカ。市中。

し-じやう（名）〔至上〕 極上、最上、最善。

し-じやう（名）〔至情〕 至極ノ情。マコトノ心。赤心。 揚雄、答二劉歆一書「誠雄心所二絕極一、至情之所レ想遊也」「至情ヲ披瀝ス」

し-じやう（名）〔私情〕 （一）己ノ便ヲ希フココロ。私心。（二）私ノ情愛。 晉書、后妃傳、論「明不レ逮レ遠、愛溺二私情一」

し-じやう（名）〔支狀〕 しょちんじやう（初陳狀）ニ同ジ。

じ-しやう（名）〔時正〕 陰曆二月、及、八月ノ、彼岸ノ中日ノ稱。春分、及、秋分。 謠曲、弱法師「頃ハ、キサラギ時正ノ日」

じ-しやう（名）〔自性〕 本來ノ、生レツキ。マコトノ形。 謠曲、山姥「假リニ自性ヲ變化シ

テ、一名化生ノ鬼女トナッテ」

じ-じゃう (名) [辭章] 辭賦、文章ナドノ[illegible]

じ-じゃう (名) [事情] コトノココロ。コトノワケ。コトガラ。[illegible]

じ-じゃう (名) [辭讓] 讓リ、讓ルコト。[illegible]

じしゃ-がた (名) [寺社方] 寺社奉行ニ同ジ。[illegible]

ししやきぐさ (名) ささやき草ノ條ヲ見ヨ。

し-しゃく (名) [子爵] 五等爵ノ、第四位。

じ-しゃく (名) [磁石] (一) ハリスヒイシ。鑛物ノ名、[illegible]色、黒ク、或ハ、褐色ヲ帶ブ、外面ニ細カキ孔アリ、毛ノ如キモノアリ、孔ノ中ノ色、鐵鏽ノ如シ、天性アリテ、能ク鐵ヲ吸ヒ、又、南北極ヲ指ス。韓詩外傳「磁石引鐵、於今不運」倭名抄、[illegible] 俗名ナリ、じしゃくト稱ス、又、ハリスイイシトモ云」 (二) 次ノ條ノ語ノ略。

じ-じゃく (副) [自若] ソノママニテ、變ハラズ、物事ニ遇ヒテ、動ゼヌ狀ニ云フ語。自如。史記、甘茂傳「[illegible]人、其母織自若」「自若トシテ動カズ」泰然、自若タリ」

じしゃく-ばん (名) [磁石盤] 方角ヲ測リ知ル器ノ名、鋼ノ針ヲ、磁石ニ磨リテ、其性ヲ移シ、小盤ノ中央ニ立チタル針ノ上ニ、橫ニ浮カセテ置ク、盤ヲ水平ニ保テバ、針ノ一端ハ、常ニ必ズ、北ヲ指ス、盤ノ周圍ニ、東西南北ノ字ヲ盛リ、又、周天、百二十ニ分チ、十二支ニ配ス。西洋製ナルハ、四方、四隅ノ間ヲ、更ニ細カク分チテ、三十二方トス。磁針。羅經盤。羅針盤

し-しゃ-ごにふ (名) [四捨五入] 省略算ニ於イテ、端數ノ、四、以下ナルトキハ、之レヲ切捨テ、五以上ナルトキハ、之レヲ十トシテ、上ノ桁ニ繰入ルルコト。

じしゃ-ぶぎゃう (名) [寺社奉行] 德川氏ノ政府ニ、全國ノ神社、佛寺、神官、僧侶ノ訴訟、戸籍、等、寺社ニ關スル一切ノ事ヲ統ベ掌ル職。寺社方 [illegible]

じしゃ-りゃう (名) [寺社領] 神社、又ハ、佛寺ノ領地。式目新編、追加、寺社領事」

し-しゅ (名) [死守] 命ガケニテ、守ルコト。「[illegible]ヲ死守ス」

し-しゅ (名) [巵酒] 巵ニ注ギタル酒。杯酒 [illegible]

し-しゅ (名) [旨酒] ウマザケ。ウマキ酒。美酒。[illegible]

し-しゅ (名) [旨趣] [延ベテ、しいしゅトモ云フ] (一) 事ノ、オモムキ。ワケガラ。[illegible] (二) 心中ノ所存。[illegible]

し-しゅ (名) [四趣] 佛經ノ語、[illegible]畜生、修羅ノ、四ツノ稱。四惡趣。[illegible]

し-しゅ (名) [錙銖] [錙モ、銖モ、量目、銖ハ、兩ノ廿四分ノ一、錙ハ、六銖、一説ニ、八銖、何レモ、僅カノ量目] (一) 僅カノハカリメ。(二) 極メテ、些細ノ物事ニ云フ語。ワヅカ。少シバカリ。[illegible]

し-しゅ (副) [斯須] シバラク。シバシ。禮記、祭義篇「禮樂、不可斯須去身」

じ-しゅ (名) [自首] じそ(自訴)ニ同ジ。[illegible]

じ-しゅ (名) [自主] (一) 獨立シテ事ヲ行ヒ他人ノ干涉ヲ受ケズ、賴マヌコト。自立。(二) 自己ヲ權力ノ本體トナスコト。

じ-しゅ (名) [寺主] 「僧侶官位志 寺主之訓、山門ニハ、寺主ト、二字共ニ、字音ノ如クニ訓ジ、御室ニハ、天良需ト訓ズルナリ」 三綱ノ一、寺中ノ庶事ヲ掌リ、法會ノ際、執蓋ノ役ヲ勤ムル僧官ナラジュ。[illegible]

じ-しゅ (名) [辭趣] 辭意ノ趣旨。文辭ノ意趣。[illegible]

じ-しゅ (名) [illegible] 印度ニ創ル組紐。[illegible]

し-しゅう (名) [四衆] 佛經ノ語、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷ノ、四ツノ稱。四部。太平記、八、[illegible] 比丘尼ヨリ、優婆塞ヨリ、優婆夷ハ劣レリ」

し-じゅう (名) [始終] ハジメ、ヲハリ。終始。本末。史記、[illegible]「先王見始終之變、知存亡之機」

し-じゅう (副) [始終] (一) 初ヨリ、終リマデ、絶エズ。常ニ。ショチュウ。始終。「しじゅう、容子ヲ窺ヒ居ル」 (二) 終リニ。結局ハ。太平記、廿九、光明寺合戰事「寄手ハ大勢ナリ、敵ノ[illegible]ヘズ、始終、如何アルベカラン」

じ-しゅう (名) [時宗、時衆] 佛敎ノ一派、淨土宗ヨリ分ル、建治二年、伊豫ノ僧、一遍、創ム、常ニ、諸國ヲ遊行シテ、弘法ス、故ニ、遊行上人、遊行派、等ノ稱アリ。相模國、藤澤町ノ清淨光寺ヲ總本山トス。諸宗祖師略傳、下「時宗トハ、小經曰、[illegible]」

じ-じゅう (名) 侍從 (一)天子ニ近侍スル官。古ヘハ、中務省ニ屬シ、正侍從、八人、常侍、規諫、拾遺、補闕ノ任ナリ、次侍從ハ、九十二人、諸官ヨリ擇バレテ、昇殿ヲ聽サレ、御前ノ雜事ニ給仕ス。此官、多クハ、他官ヨリ兼ヌ。曹唐詩「侍從皆騎白鳳凰」職員令、中務省「侍從八人、掌ト常侍、規諫、拾レ遺補レ闕」 (二)侍從職ノ職員。(三)薫物ノ名。源、廿三、初音「侍從ヲ薫カシテ、物ゴトニ染メタルニ」

じじゅう-しょく (名) 侍從職 宮内省ノ一局、常侍奉仕ノ事ヲ掌リ、且、典式、交際、及、雅樂、等ヲ管掌スル所。

じ-しゅかう (名) 十種香 梅檀、沈水、蘇合、薫陸、鬱金、白膠、青木、零陵、甘松、鷄舌、ノ十香ナリト云フ。後ノ十炷香モ、コレニ本ヅク。

し-しゅく (名) 止宿 トマリ、ヤドルコト。假リニ、數日月ヲ期シテ、他ノ家ニ宿リ居ルコト。假寓。漢書、王尊傳「因止宿」

し-じゅく (名) 私塾 私ニ設クル塾。(公立ノ學校ナドニ對シテ云フ)

し-しゅく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 私淑 (私ハ、竊、淑ハ、善ノ義) 親シク其人ニ就カズ、ヒソカニ之レヲ模範トシテ、己レノ身ヲ善クスル。孟子、離婁、下篇「予未レ得レ爲二孔子徒一也、予私二淑諸人一」

し-しゅつ (名) 支出 支拂ヒ。ツカヒハラヒ。仕出シ。(收入ニ對ス)

し-じゅつ (名) 四術 詩、書、禮、樂ノ、四ツノ術。禮記、王制篇「樂正崇二四術一立二四敎一順二先王詩書禮樂一以造レ士」

し-じゅつ (名) 施術 醫師ノ、手術ヲ行フコト。

し-しゅつ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 四出 四方ニ、出ヅ。漢書、董錮傳「使者四出、相二望于道一」「潰裂、四出す」

じ-じゅ-ほふらく (名) 自受法樂 (佛陀、自ラ受用スル法樂、卽チ、理想ノヤウナ快樂ノ意) 佛敎ノ語、絕對ノ悟界ニ入レル佛陀ノ、自ラ實驗シ得ル、無限、絕勝ノ法味樂ノ稱。太平記、十二、千種殿并文觀僧正著侈事「伊勢太神宮ニ參リテ、內外宮ヲ巡禮シテ、潛ニ、自受法樂ノ法施ヲゾ奉ラレケル」同、十三、藤房卿遁世事「大菩薩ノ御前ニシテ、潛ニ、自受法樂ノ法施ヲ獻リテモ、道心堅固、速證菩提ト祈リ給ヘバ」野守鏡、下「別傳ノ義ヲ云ハバ、密宗ニ過グベカラズ、イカニトナラバ、尺尊、自受法樂ノ爲メ、一切經ノ外ニ、コレヲ說キ給ヒテ」

し-じゅん (名) 視準 理科ノ語、望遠鏡ノ軸ヲ、之レニ依リテ、物ヲ望マントスル方位ニ、平行ナラシムルコト。

し-じゅん (名) 諮詢咨詢 問ヒ、ハカルコト。相談。諮問。(上ヨリ、下ニ) 詩經、小雅、鹿鳴之什、皇皇者華篇「載馳載驅、周爰咨詢」大日本帝國憲法、第五十六條「天皇ノ諮詢ニ應ヘ」

じ-じゅん (名) 耳順 (論語、爲政篇ニ「六十而耳順」トアルニ本ヅキテ云フ) 六十歲ノ異稱。漢書、叢望之傳「至二於耳順之年一履二折衝之位一」

し-しょ (名) 四書 けいしょ(經書)ノ條ヲ見ヨ。堀河波鼓(寶永、近松作)中「此ノ嗜ミガ惡シケレバ、四書、五經ヲ宙デ讀ム女子デモ、役ニ立タヌゾヤ」

し-しょ (名) 史書 歷史ノ書籍。史籍。漢書、元帝紀、贊「多二材藝一善二史書一」太平記、三十五、北野通夜物語「先ヅ、儒業ノ人カト見ツル雲客、サテモ、史書ノ載スル所、世ノ治亂ヲ勘フルニ」

し-しょ (名) 司書 (一)書籍ヲ司ル職。周禮、天官篇「司書、掌二邦之六典、云云、土地之圖一」 (二)官公立ノ圖書館ノ職員。

し-しょ (名) 私書 (一)一私人ノ書狀、又ハ、書類。(官、公文書ニ對ス) (二)ナイショウノ手紙。

し-しょ (名) 支庶 支族ノ系統。枝葉ノ血筋。潘岳、楊荊州誄「昭穆繁昌、支庶分流」

し-しょ (名) 死所 死ヌベキ場所。シニバショ。左傳、文公二年「瞫曰、吾未レ獲二死所一」「死所ヲ得タリ」

し-じょ (名) 絲絮 いと、わた。孟子、滕文公、上篇「麻縷絲絮、輕重同、則賈相若」

じ-しょ (名) 自處 (一)自分ノ身ノ、置キコドロ。史記、李斯傳「人之賢不肖、譬如レ鼠矣、在レ所二自處一耳」 (二)自分ニテ、己レノ事ヲ處置スルコト。

じ-しょ (名) 自署 ミヅカラ、己レノ姓名、又、華押ヲ、書キ記スコト。北史、綦連猛傳「自二署名于背一」

じ-しょ (名) 自書 じひつ(自筆)ニ同ジ。

じ-しょ (名) 事書 古へ、奉行人ガ、訴訟ノ曲直ヲ勘ヘ定メテ、評定所ニ出ス、個條書キノ草案。コトガキ。

じ-しょ (名) 璽書 御璽ノ、捺シテアル御書。左傳、襄公廿九年「公還及二方城一季武子取レ卞、使二公冶問一璽書追而與レ之」

じ-しょ (名) 字書 じびき(字引)ノ條ヲ見ヨ。魏書、江式傳「式撰二集字書一號二古今文字一」

じ-しょ (名) 辭書 じびき(字引)ノ條ヲ見ヨ。

じ-じょ (名) 次序 ツイヅルコト。次第、順序。禮記、明堂位篇、注「序者、次レ序王事一也」

じ-じょ (名) 自序 己ガ著述ニ、自ラ、序文ヲ作ルコト。史記「太史公自序」

じ-じょ (名) 自助 (一)自分ニテ、己レノ身ヲタスクルコト。卽チ、他人ノ力ニ頼ラズ、自ラ、己レヲ助ケテ、事ヲ行ヒ、渡世ヲスルコト。(二)自分ノ輔助トスルコト。劉向、新序「人君莫レ不レ欲レ求レ賢自助、近レ賢以自輔」

じ-じょ (副) 自如 じじゃく(自若)ニ同ジ。漢書、李廣傳「吏士無二人色一而廣意氣自如」

し-しょう (名) 支證 爭論ノ時ニ、提供スル證據。牛希濟、刑論「證取二支證一假擒二眞與一」平治物語、二、官軍除目事「姉小路東洞院ニ隱シ置キ進ラセテ候ヘバ、朝敵ニ與セサル支證、今明ニ候」

し-しょう (名) 恣縱 ホシイママナルコト。ワガママナルコト。恣肆。放縱。元稹詩「謝公恣縱顚狂掾、觸處閑行許自由」

し-しょう (名) 刺衝 サシ、ツクコト。「言論ノ刺衝、甚シ」

し-じょう (名) 史乘 歷史ノ書。史書。

し-じょう (名) 仕承 (一)ツカヘ、シャガフコト。太平記、十二、兵部卿親王流刑事「弓射ル者、大太刀仕フ者トダニ申セバ、忠ナキニ、厚恩ヲ下サレ、左右、前後ニ仕承ス」 (二)ミチシルベ。案內者。嚮導。吾妻鏡、一、治承四年八月廿四日「以二永實一爲二仕承一密密到二箱根山一給」

じ-しょう (名) 自稱 (一)自ラ、稱フルコト。禮記、曲禮、上篇「適二四方一臣二安息一自稱曰二老夫一」 (二)自己ヲ、タタフルコト、自身ヲ褒ムルコト。ワレボメ。三國志、吳志、吳範傳「範爲レ人剛直、頗好二自稱一」盛長記、廿七、信濃國田川水軍ノ先陣、如何見給ヘルト云ケレハ 貴

永ハ、修チノ自稱、今ノ拙者、貴ニ、一人稱下トゾ噂タリケル」　(三)語學ノ語、代名詞ノ、自ラ、己ガ名ニ代ヘテ用ヰルモノノ稱、我、僕、余、ナドノ如シ。

し-しよう　(名)　自乘　算術ノ語、其數字ホドノ數ヲ、掛クルコト。例ヘバ、五ニ五ヲ掛クルヲ、五ヲ自乘スト云ヒ、二十五ヲ五ノ自乘數トイフ、ガ如シ。

し-しよう-じ-ばく　(名)　自縄自縛　佛教ノ語、己レノ縄ニテ、己レヲシバルコト。己レノ煩惱ノ爲ニ、己レヲ苦シムルコト。「自縄自縛ニ陥ル」

し-しよ-かいだん　(名)　四所戒壇　京ノ延暦寺、奈良ノ東大寺、下野ノ藥師寺、筑紫ノ觀音寺ノ、四ケ寺ノ戒壇。

し-しよく　(名)　四職　(一)左京職、右京職、大膳職、修理職、ノ稱　(二)足利時代ノ、山名、赤松、一色、京極ノ、四家ノ稱　武家名目抄、職名、下、上「侍所頭人ハ、云云、初ハ、其家ヲ定メラレズ、今川、細川、畠山、山名、土岐、佐竹ナド云フ名家ノ輩、カハルガハル任用セラレシニ、中頃ヨリ、其家族、ヤヤ定マリシ如ク成テ、山名、赤松、一色、京極ノ四家、互ニ、此職ヲ掘スルコトトナレリ」

し-しよく　(名)　紙燭　しそく(紙燭)ニ同ジ。曾我物語八段(寶永、近松作)下「一心三觀ノ燭殿ニハ、無明ノ紙燭ヲ照ラシ」

し-しよく　(名)　姿色　ミメ、カタチ。容色ノ、美シキコト。後漢書、皇后紀「姿色端麗」

し-しよく　(名)　辭色　ことばト、顏いろト、言葉ト、容色ト。晉書、劉曜傳「辭色壯烈」

し-しよく　(名)　辭職　職ヲ罷メラレムコトヲ、願フコト。辭任　宋書、羊欣傳「出補…州治中、…此官、…辭職、高祖不許」

し-しよく-す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ　(自動、左變)　侍食　ハンベリテ、食事ス。陪食ス。論語、鄉黨篇「侍食於君、君祭先飯」

し-しよ-でん　(名)　自敍傳　自己ノ經歷ヲ、自ラ述ベタル文。「みるノ自敍傳」

しじら　(名)　縮羅　ねりぬきノ條ヲ見ヨ。…非、忌惡良…面餞、用之」

しじらぎ　(名)　縮綺　綺ノ縮タル文。倭名抄、十二、布帛部「綺、之々良岐」

しじらぢ　(名)　縮羅地　布帛地ノ、しぢれタルモノ、即チ、縮、線綾ノ類。

しじら-ふぢ　(名)　木防己　つづらふぢ(木防己)ニ同ジ。徒然草、六十六段「枝ノ牛ニ、見ヅック、ツクル枝、縮マスル枝アリ、…所、ツクベシ」

しじる　・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二)　縮　ちぢるニ同ジ。

し-しわう　(名)　獅子王　獅子ヲ、稱ヘテ云フ語。國性爺合戰(享保、近松作)二「…母ヲ…ウテ立タルハ、西天ノ獅子王モ、恐レツベウ見エテケリ」「獅子王ノ…レタル如ク」

しじわき　(名)　膸　[肉分ノ義ナラム]　肌理、膸理、倭名抄、三「…肌肉…膸、之之和岐」

し-す　・スル・スレ・セ・セ・セヨ　(他動、下二)　殺　死ナス、殺ス。古事記、中、神武「…」…前中即位

し-す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ　(自動、左變)　死　死ヌ、ミマカル。…、矢先ニ中タ、テ死セバ」

し-す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ　(自動、左變)　侍　ハンベル。サブラフ。「君側ニ侍す」

し-す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ　(自動、左變)　次　(一)トドマル。トマル。(二)ヤドル。宿ス、書經、泰誓、中篇「王次于河朔」…「師」　(三)ツイヅ、次第ス　劉向、戰國策序「…」

し-す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ　(自動、左變)　辭　挨拶ス。會釋ス。禮記、曲禮、上篇「主人辭…客…」

し-す　・スル・スレ・セ・シ・セヨ　(他動、左變)　辭　(一)イナム。辭退ス、返ス。禮記、曲禮、上篇「客…主…辭不能」宇津保物語、…「…御前ニテ、…アル御手ナトニ、御手ヅカラ…ヘテ給フダニ、しし奏シテ、ツカウマツラヌヲ」榮花物語、十二、玉村菊「大殿、左大臣ヲ辭せサセ給ヒケレバ」(二)暇、申ス　罷ル。枕草子、一、第四段「御局ニサブラハント、辭しテ往ヌレバ」

し-すう　・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ　(他動、下二)　爲居　据うト云フニ同ジ。源、五、若紫「只、畫ニ書キタル姫君ノヤウニ、しすゑラレテ、打チ身ジロキ給フ事モ、難ク」同、四十九、東屋「…尼ニナシテ、深キ山ニヤしすゑテ」

し-すま-す　・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　爲濟　爲テ、遂グ。爲シテ、果ツ。シオホス。盛衰記、三十九、千手伊王事「サテモ、…ガ…コソ、しすましテ見ユレバ」

し-すゐ　(名)　死水　止水　流レヌ水。タマリミヅ。(流水ニ對ス)　莊子、德充符篇「仲尼曰、人莫鑑於流水、而鑑於止水」

し-すゐ　(名)　四陲　四垂　四方ノハテ。四方ノ邊境。四隅　漢書、谷永傳「方今、四垂晏然」…「陲、垂也」…「四垂也」

し-ずゐ　(名)　雌蘂　(雄蘂ニ對ス)　メシべ。しべ(蘂)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

じ-すゐ　(名)　自水　自ラ、水ニ身ヲ投ゲテ、死ヌルコト。入水。ミナゲ。投身

じ-すゐ　(名)　自炊　自ラ、飯ヲ炊グコト。(奴婢ナドニセサスルニ對ス)　高啓詩「山妻自炊稚子沽」沈約詩「長枝屢已擢、…胡方自炊」「苦學生ノ自炊生活」

し-すゑ　(名)　尻居　土器ノ下ニ敷クモノ。青瓷ノ碗ノ臺。轚子。盞轚子ノ條ヲ見ヨ。

し-せい　(名)　市井　(市ハ、交易ノ處、井ハ、共ニ汲ム所、井ニ因リテ、市ヲ成ス、故ニ、市井ト云フ、一說ニ、市中ノ道、四達、井ノ如シ、故ニ、市井ト云フト)　イチ。マチ。史記、平準書「市井之子孫、亦不得仕宦爲吏」同、刺客傳「嗟乎、政乃市井之人」

し-せい　(名)　市制　市ノ構成、機關、權限、等ニ關スル規定。「市制ヲ施行ス」

し-せい　(名)　死生　死ぬるト、生くるト。イキ、シニ。生死。詩經、邶風、擊鼓篇「死生契闊、與子成說」漢書、鄧通傳「趙氏信君、不知通不肖、使人候問其死生」「死生、命アリ」

し-せい　(名)　資性　ウマレツキ。天資。天性。天稟。漢書、霍光傳「止進有常處、郎僕射竊識視之、不失尺寸、其資性端正、如此」

し-せい　(名)　四姓　源氏、平氏、藤原氏、橘氏、ノ稱。源平藤橘ノ條ヲ參照セヨ。壒嚢鈔、下學集、上、一、人倫門「源氏、平家、藤原、橘」注「是、日ニ四姓ニ」多多良問答、一、臣下姓事「源平橘、此四姓ヲ、高貴ノ姓トシテ、候也」式目抄、六「日本四姓ハ、源平藤橘、分レテ、百姓トナル」

し-せい　(名)　四聲　ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。

し-せい　(名)　四聖　(一)佛教者ノ語　聖武天皇、波羅門僧正、行基、良辨、ノ稱。神皇正統記、聖武天皇「コノ國ニモ、行基菩薩、朗辨…

僧正ナド、權化ノ人ナリ、天皇、波羅門僧正、行基、朗辨ヲバ、四聖トゾ申傳ヘタル」。(二)近世、文學者ノ語、孔子、釋迦、そくらてす、耶蘇、ノ稱。世界ノ四聖。

し-せい (名) 詩聖 極メテ、スグレタル詩人。古今ニ傑出シタル詩人。詩仙。「定家卿ハ、詩聖ナリ」

し-せい (名) 至聖 極メテ、智德ノスグレタルコト。又、其人。中庸、三十一章「唯天下至聖、爲二能聰明睿知、足一以有一臨也」

し-せい (名) 至誠 マゴコロ。赤誠。書經、大禹謨篇「至誠感レ神、矧茲有苗」

し-せい (名) 至精 イタッテ、クハシキコト。極メテ、精巧ナルコト。王褒、洞簫賦「吸二至精之淑熙一兮」

し-せい (名) 施政 マツリゴトヲ、ホドコスコト。政治。「樞密院ハ、施政ニ干與スルコトナシ」現内閣ノ施政方針」

し-せい (名) 姿勢 スガタ。カタチ。ナリ。カラダツキ。姿容。「姿勢美シキ婦人」姿勢、正シ」

し-せい (名) 粢盛 神ニ獻進スル飯米。左傳、莊公十一年「天作二淫雨一害二於粢盛一若レ之何不レ弔」

し-せい (名) 熾盛 火ノ、盛ンニ熾ルガ如ク、サカンナルコト。漢書、匈奴傳「人民熾盛、牛馬布レ野」

し-ぜい (名) 蓍筮 〔蓍ハ、めどきナリ、此ノ莖ヲうらなひニ用キルヨリ、占ノ義ニ轉ズ〕 ウラナヒ。卜筮。三國志、魏志、賴共傳、注「蓍筮常陳二于前一巫祝不レ去二于側一」太平記、十一、諸將被レ遣二早馬於船上一事「自ラ周易ヲ披カセ給ヒテ、運幸ノ吉凶ヲ、蓍筮ニ就ケテゾ、御覽ゼラル」

じ-せい (名) 辭世 〔世ヲ罷る意〕 死ヌル際ニ、作リテ遺ス詩歌。絕命詞 書言字考節用集、九、言辭門「辭世頌」注「臨終之作」太平記、二、阿新殿事「暮程ニ、資朝卿、云云、少モ臆シタル氣色モナク、敷皮ノ上ニ居直テ、辭世ノ頌ヲ書給フ」

じ-せい (名) 時世 トキヨ。時代。史記、孫叔通傳「禮者因二時世人情一爲二之節文一者也」

じ-せい (名) 時勢 トキノ、イキホヒ。世ノナリユキ。戰國策、齊策「時勢者、百事之長也、故無二權藉一倍二時勢一而能事成者寡矣」「時勢ニ從フ」

じ-せい (名) 自生 オノヅカラ、生ユルコト。(人ノ、植ヱ作ルニ對ス) 「雜草、山野ニ自生ス」

じ-せい (名) 自制 自己ノ欲望ヲ、制スルコト。自ラ、心ヲ、抑ヘ制ムルコト。

じ-せい (名) 自製 自ラ、製ルコト。自作。手製。陳書、謝貞傳「問レ碓日、卿表自製耶、對日、臣表、謝貞所レ作」

じ-せいおん (名) 次淸音 はんだくおん(半濁音)ニ同ジ。

し-せい-じ (名) 私生兒 公然タラザル夫婦ノ間ニ生レタル兒。テテナシゴ。ナイショウゴ。

し-せう (名) 私消 ワタクシニ、消費スルコト。公ノ物ヲ、私ニ費スコト。「官物ヲ私消ス」

し-せう (名) 嗤笑 アザケリ、ワラフコト。嘲笑。南史、王琨傳「莫レ不レ撫レ掌嗤笑二」

じ-せう (名) 事抄 公事ヲ、ヌキガキシタルモノ。「事抄、九卷」次事抄、五卷」

し-せき (名) 矢石 やト、いしト。ヤダマ。轉ジテ、戰場。史記、晉世家「矢石之難、汗馬之勞」同、貨殖傳「士赴二矢石一如レ渴得レ飲」

し-せき (名) 指石 いしはじき(石彈)ニ同ジ。

し-せき (名) 指斥 〔後漢書、孔融傳、注「斥、指也」〕 ソレト名ザスコト。摭言(唐、何晦)「指二斥貴倖一不レ顧二忌二」

し-せき (名) 咫尺 〔咫ハ、八寸〕 相、向ヒテ、甚ダ距離無キコト。戰國策、趙策「爲レ無二咫尺之地一以有二天下一」太平記、二、僧徒六波羅召捕事「先ヅ近日、殊ニ、龍顏ニ咫尺シ奉リテ」「接近スルコト、咫尺ノ間」

し-せき (名) 士籍 サムラヒノ籍。サムラヒノ分限。「士籍ヲ脫ス」

し-せき (名) 史籍 歷史ノ書物。又、書籍。史書。後漢書、班彪傳「彪才高而好二述作一遂專二心史籍之間一」「史籍集覽」

し-せき (名) 史蹟 史上ニ殘リタル事蹟。許翰、祭二黃伯思一文「秦生二小篆一史蹟既亡」「史蹟名勝」

じ-せき (名) 事蹟事迹 事ノ、アトカタ。史記、秦始皇紀「羣臣誦レ功、本二原事迹一追二首高明一」

し-せきえい (名) 紫石英 (一)色ノ、紫ナル石ノ名、石英ヨリハ、碎ケヤスシ。六面ニ結晶セルモノアリ、碎ケバ、八面トナル。(二)又、ムラサキズヰシャウ。(水晶ノ條ヲ見ヨ)

し-せつ (名) 士節 武士トシテノ節義。司馬遷、報二任安一書「此言二士節不レ可レ不レ厲也」

し-せつ (名) 使節 〔節ハ、國使ノ持スル標識〕 國君、又ハ、政府ノ命ヲ奉ジテ、他國ニ使スル官人。周禮、掌節篇「凡、邦國之使節、山國用二虎節一土國用二人節一澤國用二龍節一」易林節用集「使節、シセツ」

し-せつ (名) 師說 師匠ノ說。「師說ヲ奉ズ」

し-せつ (名) 施設 コシラヘ、マウクルコト。設備。史記、孫子吳起傳、論「吳起兵法世多有、故弗レ論、論二其行事所一施設一者」

し-せつ (名) 私設 私ニ、マウクルコト。官設ナドニ對ス。「私設鐵道」

じ-せつ (名) 時節 (一)時候。「昭和ノ時節」淸明ノ時節」 (二)トキヨ。トキ。時代。ヲリ。時機。國語、晉語「夫德廣遠而有二時節一」凱陣八島(貞享、近松作)二「先ヅ、奧州ニ下ダリ、秀衡ヲ賴ミ、時節ヲ伺ヒ見ン」「時節到來」時世時節」

し-せん (名) 詩仙 卓絕セル、天才ノ詩人。大詩人。詩聖。白居易、與二元九一書「知レ我者以爲二詩仙一」「詩仙堂(石川丈山、洛東、一乘寺村)」

し-せん (名) 詩箋 詩ヲ記スニ用キル紙。多クハ、種種ノ色ニ染ム。

し-せん (名) 紙錢 (一)しへい(紙幣)ニ同ジ。太平記、十二、大內裏造營事「大內裏作ラルベシトテ、自レ昔至レ今、我朝ニハ未レ用作二紙錢一諸國ノ地頭、御家人ノ所領ニ、被レ懸二課役一條、神慮ニモ違ヒ、驕誇ノ端トモナリヌ」 (二)送葬ノ時、紙ニテ、錢形ヲ作リ、棺中ニ入ルルモノ。六道錢。唐書、王璵傳「漢以來、葬喪、皆有二瘞錢一後世里俗、稍以レ紙寓レ錢爲二鬼事一」

し-せん (名) 支線 本線ヨリ分レ出デタル、エダ路ノ線。(電線、又ハ、鐵道線路ナド、幹線ニ對ス)

し-せん (名) 指尖 指サキ。指頭。摭言(唐、何晦)「髣髴還應レ露二指尖一」

し-せん (名) 死戰 死物狂ノタタカヒ。決死ノ戰鬪。國性爺合戰(享保、近松作)五「小むつヲ後陣ノ大將ニテ、今日ヲ死戰ト、押寄セタリ」

し-ぜん (名) 自然 (一)オノヅカラ、然ルコト。天然。老子、廿五章「人法レ地、地法レ天、天法レ道、道法二自然一」 (二)人力ヲ以テ

生存スル能ハザル者ハ、劣ノ、滅ク所。[illegible]
[illegible]（二）[illegible]性。本性。天賦。[illegible]
二依リテ、學問ノ道ヲ止メケル」（四）萬一ノ事
ノ、[illegible]一旦、緩急アル時。[illegible]
[illegible]發露セ、種色ノ裝束ニ出立タセ、自然ノ事モアラ
バ、[illegible]」

しぜん（名）【至善】至極ノ善。最善。無
上善。[illegible]

しぜん（名）【四善】古ヘ、官吏、勤務ノ功
績ヲ[illegible]スル、四ツノ標準。即チ、德義
有聞、清慎顯著、公平可稱、恪勤匪懈
ノ稱。[illegible]
[illegible]「有二四善一爲二上上一」

しぜん（名）【[illegible]】メグミ。イツクシミ。
[illegible]

しぜんかい（名）【自然界】（英語、Nature.
ノ譯語）吾人以外ニ存スル
外界。自然物、自然力ノ世界。

しぜんくゎがく（名）【自然科學】（英語、
Natural science. ノ譯語）科學ノ一、自
然ノ現象ニ對シテ、研究スルモノ。即
チ、天文學、物理學、ノ類ナリ。（精神科
學ニ對ス）

しぜんたうた（名）【自然淘汰】（英語、
Natural selection. ノ譯語）進化論上、
自然ガ、生物ノ適否ヲ選擇シテ、コレヲ、
生存セシムルコト。此世ニ、動物、植物
ノ生ズル子孫ノ數ハ、莫大ナルモノナ
レバ、コレガ悉ク、成育スルコトハ、到
底、出來得ベキニアラズ、因リテ、生物
ハ、同種間ニ於イテモ、異種間ニ於イテ
モ、絶エズ、激烈ナル競爭ノ行ハルル
モノナリ、此競爭ニ、勝ヲ制シ、永ク生存ス
ルモノハ、其棲息スル境遇ニ、最モ適當
ナル形質ヲ有スルモノニシテ、最モ不
適當ナルモノヨリ、次第ニ滅亡ス、コレ
ヲ、自然淘汰ト云フ（日本百科大辭典）

しぜんち（名）【自然智】天然ニ具ヘタル
智識。[illegible]
ドモ、顯朝ノ、凡慮ノ及バヌ自然智ヲ」

しぜんに（副）【自然】オノヅカラ。天然
ニ。[illegible]
ヅカヘドコロニモ、[illegible]ハラカラノ中ニテモ、思ハル
ル、思ハレヌガアルゾ、イトワビシキヤ」

しぜんぶつ（名）【自然物】（一）自然界ニ
現出スル有形物。（二）（英語、Gratui-
tous ノ譯語）經濟學ノ語、自然ノ一、生
産ノ材料ヲ供給スルモノ、即チ、禽獸、
草木ナドノ類。

しぜんりょく（名）【自然力】（一）自然界
ノ能力。（二）（英語、Natural agent. ノ
譯語）經濟學ノ語、自然ノ一、人類ノ勞
力ヲ助クル力、即チ、水力、風力、光力、
電氣力ナドノ類。

しそ（名）【始祖】せんぞ（先祖）、ぐゎんそ
（元祖）ニ同ジ。[illegible]「始祖」

しそ（名）【紫蘇】古名、ノラエ。草ノ名、
春、苗ヲ生ズ、莖、方ナリ、葉ハ、圓クシ
テ、尖リ、邊ニ、大鋸齒アリテ、皺、多シ、
鋸齒ノ深キハ、兩面、紫ナリ、コレヲ、花
紫蘇、縮緬紫蘇、唐紫蘇、ナド云フ、上品
ナリ、（鷄蘇）裏、紫ニ、表、綠ナルヲ、片
面紫蘇ト云フ、下品ナリ、葉、苗、香氣ア
リ、食用トシ、又、梅漬ナドニ用ヰル、紫
汁ヲ取ル、秋、長キ穗ヲ成シ、細紫花ヲ
開ク、子、細カク、芥子ノ如シ、亦、食用
トス。本草「紫蘇、一名、赤蘇」

しそ（名）【緇素】（說文「緇、帛黑色也」）急
就篇、註「素、謂二絹之精白者一」（一）く
ろきト、しろきト。黑白。[illegible]
[illegible]」（二）轉ジテ、僧侶ト、俗人ト。僧俗（黑
衣ハ、僧侶ノ衣、白衣ハ、俗人ノ衣）[illegible]
[illegible]
緇素、靡無爲ノ化ヲウタヒ」

しそ（名）【私訴】犯罪行爲ニ伴ヒテ起リ
タル損害ノ賠償、又ハ、[illegible]物ノ返還ヲ求
ムル爲ニ、公訴ニ附帶シテ起ス訴訟。

しそ（名）【自訴】己レガ罪ヲ、己レ自ラ
悔イテ、訴ヘ出ヅルコト。自首。[illegible]
アルニヨリ、十四年[illegible]」

しそ（名）【自疏】自ラ、辯疏スルコト。自
分デ、言ヒワケスルコト。[illegible]
爲レ之紛紛乎、急ニ於自疏其非ニ益也」

しそ（名）【辭書】辭職ノ上書。辭表。[illegible]
花物語、十六、本ノ雫「[illegible]ル程ニ、[illegible]スビタビ
奉リ給ヘバ」同、十二、玉村菊「[illegible]ゾモトイフモ
ノ、オホヤケニ奉リタリケレバ」

しそう（名）【詩宗】詩ノ宗匠ト尊敬セラ
ルル人。詩伯。[illegible]「博士江公、世爲二
儒詩宗一」

しそう（名）【指嗾】【使嗾】（玉篇「使犬曰
レ嗾」）トアリテ、使嗾ハ、指嗾ノ誤用」指
圖シテ、或事ヲ爲サシムルコト。ソソノ
カスコト。ケシカクルコト。[illegible]
詩「北伐二大戎一隨二指嗾一」

しソウ（名）【師僧】師匠ノ僧。[illegible]
[illegible]
ニヤトテ」

しぞう（名）【祇承】王朝時代、地方ニア
リテ、勅使ヲ待遇、饗應スル役。[illegible]
[illegible]伊勢物語、六十段「[illegible]、宇
佐ノ使ニテ、行キケルニ、或國ノ、しぞうノ官人ノ妻
ニテナンアルト聞キテ」

しソウ（名）【寺僧】佛寺ニ居ル僧。唐
書、[illegible]「寺僧[illegible]」

しそく（名）【紙燭】【脂燭】禁中ナドニテ、
席中ニ、松明ノ如ク用キルモノ、松ノ細
ソキ材ノ、一尺五寸許ナルガ、端ヲ焦シ、
油ヲ塗リテ、火ヲ點ス、本ヲ、青紙ニテ
卷クトゾ。又、紙縒ニ油ヲ浸シテ、點ス
モアリ。倭名抄、十二「[illegible]紙燭、俗云、之曾
[illegible]」[illegible]
ズレバ、同、同[illegible]シテ、[illegible]サシテ差レ
ト云ヘ、ト宣ヘバ」宇治拾遺、九、第八條「[illegible]
ガナリタルラントテ、脂燭ヲサシテ、人人、見レバ」
紙燭ノ歌、脂燭ノ詩、ナド云フハ、幾寸
點ル間ニ、ト、限リヲ立テテ、歌ヲ詠ミ、
詩ヲ作ルヲ云フ。

しそく（名）【子息】ムスコ。（敬語トス）
[illegible]、一、[illegible]四年五
月廿六日[illegible]」

しそく（名）【四足】（一）ヨツアシ。足ノ、
四ツアルコト。（獸ニ云フ）四脚（二）
轉ジテ、直チニ、ケダモノ。ケモノ。獸
「四足ヲ食フ」

しそく（名）【四塞】四方、山河ニ塞ガレ

テ、要害堅固ナルコト。戰國策、齊策「齊、南有₂太山₁、東有₂瑯琊₁、西有₂西河₁、北有₂渤海₁、此所謂四塞之國也」

し-そく（名）【四則】數學ノ語、算術ノ、加法、減法、乘法、除法、ノ稱。

し-そく（名）【親族】しんぞく（親族）ニ同ジ。血スヂノモノ。大和物語、下「此ノ大徳ノしぞくナリケル人ノ娘ノ」後撰集、十七、雜、三「しぞくニ侍リケル女ノ」宇津保物語、國讓、中四十六「藤壺ノ御方ノしぞくタチノ」

し-ぞく（名）【氏族】氏ノ中ノ、モノドモ。ウカラ。ヤカラ。班彪、王命論「劉氏承₂堯之祚₁、氏族之世、著₂于春秋₁」太平記、廿四、天龍寺供養事「吉良、澁河ヲ始トシテ、宗徒ノ氏族、外樣ノ大名、打出ニ」

し-ぞく（名）【士族】往時ノ、宮方、將軍、公家衆、大名、等ノ家臣ヲ併セテ、一族トシタルモノノ身分ノ稱、華族ト、平民トノ間ニアリ。

し-ぞ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）【退】しりぞく（自動）ニ同ジ。土佐日記、二月五日「漕ゲドモ漕ゲドモ、後ヘシゾキニしぞきテ」源、廿一、少女五十六「サシしぞきテ、花ノ陰ニ立チ隱レテ」

しそく-いろ（名）【脂燭色】織色ノ名、經、紫、緯、紅ナルモノ。火色。

し-そく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）【止息】トドマリ、ヤスム。トマリヤム。休止。休息。史記、孟嘗君傳「未₂知所₁₂止息₁也」

しそこなひ（名）【爲損】シソコナフコト。シ損ジ。ヤリソコナヒ。シクジリ。失錯。

し-そこな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）【爲損】爲アヤマツ。シ損ズ。ヤリソコナフ。シクジル。失錯。榮花物語、十六、本雫「顯光モ、云云、心ウキコトニ思ヘリ、若キ人ニ、笑ヒ給ヘリト知

リナガラ、アハセ奉リテ、心カラ、我ガ娘ヲしそこなひツル歎キヲシケリ」枕草子、二、廿段「三位中將、疾ク云ヘ、餘リ有心過ギテ、しそこなふナ、ト宣フニ」

し-そ・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）爲損ずニ同ジ。シソコナフ。落窪物語、一「如何ニシテ、斯ク、恥ヲ見スコトハ、シツルゾ、云云、しそじテ侍リシ、ナド聞ユ」源、四十六、總角八十「老人ドモハ、しそじツト思ヒテ」

し-そつ（名）【士卒】士分ト、雜兵ト。ツハモノ。戰國策、齊策「復整₂其士卒₁、以與₂王遇₁」信州川中島合戰（享保、近松作）三「備、陣取、士卒ノ驅引」

し-そなは-か・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【爲損】シソコナフ。撰集抄、九、第三條「誰レモ、サル程ノイミジキ人ヲ、親シキ方ニ持チタラバ、何シカ、後世ヲモしそなはかすベキト覺エ侍レドモ」

しそ-まき（名）【紫蘇卷】梅干、たうがらしノ實ナドヲ、紫蘇ノ葉ニ卷キテ、鹽漬トシタルモノ。

し-そ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）【爲初】爲始ム。源、五十二、手習三十九「ムツカシキ事モ、しそめテケルカナト」

し-そん（名）【至尊】至リテ、尊キコト。即チ、天子ノ稱。史記、武帝紀「朕以₂眇眇之身₁、承₂至尊₁」公式令、義解「御、謂、斥₂至尊₁」小右記、長和四年四月七日「今日、中宮女親王著袴、云云、此間、至尊（一條）渡御」「至尊ニ近侍ス」

し-そん（名）【子孫】ハツコ。祖ヨリ、子、孫、曾孫ト、代代、打續キテ生レ來レル人人。後胤。後裔。末孫。左傳、僖公廿六年「股₂肱周室₁、夾₂輔成王₁、成王勞₂之、而賜₂之命₁曰、世世子孫、無₂相害₁也」古事記、上廿六「故、阿曇連等者、其綿津見神之子、宇都志日金拆命之子孫也」神代紀、下十一「火酢芹命、云云、乃伏罪曰、吾已過矣、從₂今以往、吾子孫八十連屬、恆當爲₂汝俳人₁」

じ-そん（名）【耳孫】〔耳ハ、正音、ジョウ〕玄孫ノ子。遠キ、マゴ。遠孫。釋親考「漢惠帝紀、內外公孫耳孫、應劭曰、耳孫者、玄孫之子也」

じ-そん（名）【自尊】（一）自ラ、タフトシトスルコト。自ラ、尊大ナルコト。「自我自尊」（二）己レノ品位ヲ損セザルヤウニスルコト。自重。史記、楚世家「王不₂加₂我位₁、我自尊耳、乃自立爲₂武王₁」「獨立自尊」

じ-そん（名）【慈尊】みろく（彌勒）ノ敬稱。書言字考節用集、三、神祇門「慈尊、注、彌勒佛也、慈氏者、其姓也」本朝法華驗記、上「相應和尚、內心有₂一願₁、現身昇₂都率內院₁、親見₂慈尊₁」太平記、一、儲王事「聖護院二品親王ノ御附弟ニテオハセシカバ、法水ヲ三井ノ流ニ汲ミ、菩薊ヲ慈尊ノ曉ニ期シ給フ」謠曲、弱法師「夫レ、佛日、西天ノ雲ニ隱レ、慈尊ノ出世ハルカニ、三會ノ曉イマダナリ」

しそんじ（名）【爲損】シソンズルコト。シソコナヒ。ヤリソコナヒ。失錯。

し-そん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）【爲損】しそず。シソコナフ。ヤリソコナフ。失錯。義經記、三、辨慶洛中にて人の太刀を取る事「太刀取ッテ、押シ直シ、御曹子ノ方ナ、ツラゲニ見ヤリテ、云云、今宵コソ、しそんずるトモ」

しぞめ（名）【爲初】シソムルコト。シハジメ。テハジメ。

し-そ・める（動）しそむ（爲初）ノ口語。

した（名）【下】（一）〔上ノ反對〕シモ。萬葉集「八重ナガラ、アダナル見レバ、山吹ノ、したニコソ鳴ケ、井手ノ蛙ハ」敎忠集「したニノミ、流レワタルハ、冬川ノ、氷レル水ト、我レトナリケリ」下ニ居ルトハ。ウヅクマル。ヒザマヅク。蹲踞（二）〔表ノ反對〕ウラ。萬葉集、十五「別レナバ、ウラ悲シケム、アガ衣、之多ニヲ着マセ、タダニ逢フマテニ」（三）低キコト。劣リタルコト。卑シキコト。後ニナル

コト。下流「した役」支配した」した働キ」した手」した手ニ付ク」（四）〔先ヅ、試ミニスルコト。竹取物語「鎖シ籠メテ、守リ戰フベキしたくみヲ爲シタリトモ、アノ國ノ人ヲ、エ戰ハヌナリ」「した書キ」した讀ミ」したゴシラヘ」（五）用キ舊シタル後。「殿樣ノ御したヲ戴ク」（六）人家ニ用キ舊シタル品物ヲ、賣拂フコト。浮世風呂（文化、三馬）三編、三「アレヲ下ニ遣ッテ、挿込ミノアル櫛ト、取ッ替ヘタガノ」「したニ取ル」

した（名）【心】〔胸ノ下ノ義カ〕心ノ底。ウラ。心中。心裏。古今集、十三、戀、三「したニノミ、戀フレバ苦シ」同、同「戀シクバ、したニヲ思ヘ」源、十二、須磨廿「アリガタキ御顧ミノ、したナリツルヲ」同、六、末摘花七「歸リヤ出テ給フト、した待ツナリケリ」「したノ思ヒ」したノ歎キ」した苦シ」した戀シ」した安シ」

した（名）【舌】動物ノ口中ノ機關、喉ヨリ長ク出デ、物ヲ味フ用ヲナス。人ニアリテハ、兼ネテ、物言フ用ヲナス。倭名抄、三、鼻口類「舌、之多」舌をふるふトハ、背ハズ、又、驚キ恐ル。掉舌　保元物語、二、白河殿義朝夜討事「此ノ矢ヲ見ル兵共、皆、舌を振ッテゾ恐レケル」舌を卷くトハ、驚キテ、物言ヒ得ズ。卷舌　太平記、一、御告文事「告文讀ミタリシ利行、俄ニ血ヲ吐イテ死シタリケルニ、諸人皆、舌を卷き、口ヲ閉ヅ」舌の先トハ、（一）舌ノハシ。舌端（二）クチマヘ。舌の劍トハ、害意ヲ含ミタル詞ニ云フ語。毒舌　十訓抄、上、第四、第一條「口ノ虎ハ身ヲ破ル、舌の劍ハ命ヲタツ」

した（名）【簧】〔舌ノ義〕笙ノ管頭每ニ、橫ニ、其中ニ着クルモノ、吹ケバ、鼓動シテ、音ヲ起ス、元ハ、竹、鐵、或ハ、金葉ニテ作レリト云フ、今、常ニハ、響銅ニテ作リ、あうむせき（又、笙石）ヲ塗ル。倭名抄、四、卄「笙簧、簧、俗云₂之太₁」名義抄「簧、シ

タ、舌ハ、字鏡…舌、シタ、中舌也、於…舌頭…其中也」

した (名)【盧舌】(舌ノ義) 篳篥ノ上端ニ挿ミ、含ミテ、吹キテ、音ヲ發セシムルモノ、形、猪ノ如シ、蘆ニテ作ル、鵜殿蘆ヲ用ヰル。

しだ (名) 時ノ意ニテ、今、行キしだ、歸リしだ、起キしだナド云フしだ、コレナリト云フ。萬葉集、十四「逢シトフ、コナノ白繩ニ、…ハ思ヘドモ、汝ニコソ寄サレ」同、廿「…ヒヽグモリ、碓氷ノ坂ヲ、越エしだ二、妹ガ戀シク、忘ラエヌカモ」

しだ (名)【羊齒】(垂ル意カト云フ) 草ノ名、苗ハ、ぜんまいノ如ク、長ズレバ、形、雉尾ノ如シ、葉、兩兩、相、對スレバ、諸向ノ名モアリ、大、小、二種アリ、單ニ、齒朶ト云フハ、大齒朶ナリ、一名、穗長(京都)、又、裏白(東國)。新年ノ飾リニ用ヰル、小齒朶ハ、形、小サシ、松葺ノ下敷ナドトシ、又、活花ニモ用ヰル、【羊齒】 齒朶 正德、宝永作 追加「稿咲ル…ニ、しだノ葉カツキ、持リ歡キテ」

じた (名)【自他】 (一)己レト、他人ト。我レト、人ト。彼我。太平記、三十九、諸大名…ガ…共ノ、國ニ聞ハルカ、其ニノ卿ニ、自他ノ…ヲ定メ候ハバヤト」「自他不…自他、但ニ」(二)あれト、おれト。彼レト、此レト。保元物語、一、新院御謀反事「和漢共ニ、人ニ勝レ、儒…ヲ嗜ヘ、自他ノ記録ニ暗カラズ」(三)語學ノ語、自動詞ト、他動詞トノ略。

じだ (名)【耳朶】 ミミタブ。ミミ。五燈會元「…耳朶」 耳朶に觸るトハ、耳ニ入ル。キコユ。

したい (名)【四體】【肢體】 頭ト、身ト、手ト、足ト。孟子、離婁、上篇「士庶人不レ仁、不レ保ニ四體ニ」倭名抄、三「身體類 肢體、肢、四體也、體、猶レ形也、有形之總稱也」

したい (名)【死體】 人、或ハ、禽獸ノ、死シタルカラダ。シカバネ。死骸。保元物語、三、左府死骸實檢事「南都ニ赴キ、左府ノ死體ニ一本、作レ體ヲ實檢ス」

したい (名)【姿態】【姿體】 スガタ。ナリフリ。カタチ。姿勢。容姿。唐書、李義琰傳「義琰…姿體…有ニ智識ニ」…姿態…」

したい (名)【枝隊】【支隊】 本隊ヨリ分レテ、獨立ノ行動ヲナス部隊。

しだい (名)【進退】 しんだい(進退)ニ同ジ。源、三十一、槇柱「トモカクモ、モトヨリしだいナラヌ人ノ御事ナレバトゾ、聞エ給ヒケル」

しだい (名)【至大】 至リテ、大ナルコト。「至大、至廣」

しだい (名)【四大】 正シクハ、四大種ト云フ、天竺ニテ、地、水、火、風、ノ稱、支那ニ云フ、五行ノ如シ。智度論「先世…善…因縁、故…得ニ妙四大ニ」太平記、二、阿新殿事「…世ノ…ヲ書キタマフ、資朝卿ノ五蘊假成形、四大今歸レ空、將ニ首當ニ白刃ニ截斷一陣風」

しだい (名)【四諦】 佛經ノ語、苦、集、滅、道、ノ稱。即チ、苦ハ、人ハ、苦ノ果報ニヨリテ生レタルコト。集ハ、苦果ヲ招キ集ムル、過去ノ煩惱ノ惡業。滅ハ、迷ヒノ苦果ヲ滅シタル果。道ハ、戒、定、慧、等ノ法門ヲ修メ悟リテ、滅ニ至ル因、ナリトゾ。

しだい (名)【次第】 (一)ツイデ。前後ノナラビ。順。後漢書、第五倫傳「以ニ次第ニ爲レ氏」枕草子、十、百三十三段「うれしきもの、出テサセ給ヒシ夜、車ノ次第モナク、マヅマヅト、乘リ騷グガ、惜ケレバ」「次第ヲ正ス」「次第ニ從フ」(二)テツヅキ。ナリキタリ。來由。保元物語、一、新院御謀反事「過ギヌ次第ヲ、辨ヘ申セバ」「此ノ次第ニ因リテ」「如何ナル次第ニテ」

しだい 接尾 【次第】 次第ニ。ニ、任セテ。霜降狀 元祿、近松作 中「お墓ノ花モ、枯レ次第、持佛ノ香モ、消エ次第」「出來次第、送ルベシ」

じたい (名)【辭退】 讓リ、辭ムコト。辭宜。辭謝。謙退。晉書、華譚傳「年向七十、志力日衰、榮辱無レ寄、實宜ニ辭退ニ」太平記、十二、聖廟事「的矢ニ、弓ヲ取リ副ヘテ、菅少將、御前ニサシオキ、春ノ始ニテ候フニ、一度、遊バシ候ヘトゾ、請ハレケル、菅少將、サシモ辭退シ給ハズ」「辭退セズニ、頂戴スル」

じたい (名)【事體】 事ノ、體裁。事ノ狀。コトガラ。史記、司馬相如傳「余尙恐レ聞ニ若說ハ、然斯事體大、固非ニ觀者之所ニ覩也」「事體、容易ナラズ」

じたい (名)【字體】 文字ノ、カタチ。書體。韓愈詩「辭嚴義密讀難レ曉、字體不レ類ニ隸與レ科」

じたい (名)【自體】 己ガ體。

じたい (副)【自體】 モトヨリ。ゼンタイ。狂言記、宗論「愚僧ハ自體、都ノ者デゴサル」「自體アルモノ」

じだい (名)【時代】 (一)トキヨ。ソノ頃ノ世。年代。宋書、禮志「歷ニ晉至レ宋、時代移改」保元物語、二、白河殿義朝夜討事「平家ハ、柏原天皇ノ御末ナレドモ、時代、久シク成リ下ガレリ」「鎌倉時代」「足利時代」(二)年數ヲ經テ、古色ヲ帶ビタルモノ。(三)じだいもの(時代物)ノ(二)ノ略。雲錦隨筆(嘉延頃、曉鐘成)三「往古ノ歌舞伎狂言ニハ、作者タル者、ナク、一座集マリテ、何何ノ世界ト定ム、云云、二ニハ、時代ト云フ、是レハ、北條、足利、菊池、大友ノ軍記ニモトヅキ、武將、歷代ノ名ヲ假ル也」

しだいかい (名)【四大海】 佛敎ノ語、須彌山ノ四方ニアル海。榮花物語、十六、本雫「御志、須彌山ヨリモ高ク、四大海ヨリモ深シ」

しだいがき (名)【次第書】 理由、又ハ、顛末ナドヲ書キタル文書。賀古敎信七墓廻(元祿、近松作)三「讚對揚ノ次第書、懺法、回向ノ祕密ノ書帖」

じだいきやうげん (名)【時代狂言】 (世話狂言ニ對ス) 芝居ニテ、時代物ヲ演ズル狂言。守貞漫稿、後集、二、遊戯、追補「時代狂言トテフハ、軍記、及、近世ノ事ニテモ、武家等ノ事ヲ綴リタルヲ云フ、太閤記、忠臣藏、等ハ、時代狂言也」

しだいし (名)【次第司】 王朝時代、儀式ノ次第ヲ正スコトヲ掌リシ役。新古今集、十五、戀、五「昔見ケル人、賀茂祭ノしだいしニ出デタチテナン罷リワタルト云ヒテ」

じだいしてう (名)【時代思潮】 或ル時代ニ於ケル、一般ノ思想ノ潮流。「時代思潮ノ反映」

じだいじやうるり (名)【時代淨瑠璃】 時代物ヲ脚色シタル淨瑠璃。世話淨瑠璃ニ對ス。諸事問書往來、上「用明天皇職人鑑、五段續、夫ヨリ、時代淨瑠璃、世話淨瑠璃、サマサマ、新物ヲ作セラレシニ、丹波與作ト云フ淨るり、寶永四年丁亥六月廿四日、初日ニテ、大入セシヲ、マタママタ正德二年壬辰ノトシ三月四日、二度クリ返シ」

しだいしゆ (名)【四大種】 四大ヲ見ヨ。

しだいせつ (名)【四大節】 四ツノ節會ノ日、即チ、新年節(一般ニ、四方拜ト云フ)、紀元節、天長節、明治節、ノ稱。(但シ、新年節ハ、古クハ、一月一日ノ御儀式ヲ稱ヘ奉リシガ、後ニハ、元三ノ間ノ御儀式ヲ行ハセラルル稱號トナレリ)

しだいてんわう (名)【四大天王】 佛經ノ

語、志てんわうノ(二)ニ同ジ。

志だい-み (副) [次第] 次第ヲ追ヒテ。順ニ。ヤウヤウニ。段段ニ。 太平記、三、主上御ニ沒落笠置ニ事「風雨烈シク、道、闇ウシテ、敵ノ時ノ聲、此レ彼レニ聞コエケレバ、次第ミ、別別ニ成ツテ」「次第ミ進ム」次第ミ上ル」

志だい-み (接尾) [次第] ニ、任セテ。ノ、ママニ。「心付キ次第ミ申サム」心次第ミスル」

志-たい-の-ぢん (名) [四堆陣] 陣法ノ一、陣ヲ、四方ニヒロゲ、敵、一方ヲ攻メ破リテ、中ニ入ラバ、四方ヨリ取リ圍ミテ、打タムトスルモノ。 明德記、上「御所樣(足利義滿)ニハ、十二月(明德二年)廿五日ノ夜、御合戰ノ御評定アルベシトテ、諸大名ヲゾ召サレケル、云云、諸軍勢ハ、皆、直甲ニテ、一勢一勢、打出、內野ニ陣ヲゾ取リタリケル、云云、加樣ニ、陣ヲ四方ヘ取弘ゲテ、態ト、內野ノ中ヲ廣クアケテ、若、敵、一方ヲ責破テ、裏ヘ切テ入ラバ、諸方ノ陣ヨリ、眞中ニオッ取籠テ、一人モ洩サズ打トノ巧ナリ、張子房ガ祕セシ、四堆の陣トハ、是ナルベシ」

志だい-もの (名) [時代物] (一)古キ時代ノ物。久シク、世ヲ歷タル物事。年數物。(二)昔ノ傳說、又ハ、歷史上ノ事蹟ヲ脚色シタル院本、又ハ、小說。(世話物ニ對ス)

志た-いろ (名) [下色] (一)下地ノ色。(二)序次ニ衰フルサマ。クダリザカ。

志だい-をとこ (名) [時代男] 老イテ、多クノ時代ヲ經タル人。老夫。 本朝若風俗(貞享、西鶴)五「此ノ主人、時代男ニテ、七十餘歲マデ、風ヲモヒカズ」

志-たう (名) [至當] 至極、相當セルコト。極メテ、適當ナルコト。 孝經、序(唐、玄宗)「至當歸ㇾ一、精義無ㇾ二」「至當ノ論」

志-たう (名) [私黨] 一私人ノ爲ニ設クル黨與。 漢書、薛宣傳「宣、無ニ私黨游說之助ニ」

志-だう (名) [四道] (一)大學寮ノ條ヲ見ヨ。(二)四道將軍ノ條ヲ見ヨ。

志-だう (名) [至道] 至極ノ道。此ノ上モナキ道。マコトノ道。 禮記、學記篇「雖ㇾ有ニ至道ㇾ弗ㇾ學、不ㇾ知ニ其善ㇾ也」

志-だう (名) [斯道] コノミチ。人ノ人タル道。學ビノミチ。當道。又、其人ノ從事スル道。 孟子、萬章、上篇「予將ト以ニ斯道ㇾ覺ニ斯民ㇾ也」「斯道ノ爲ニ盡力ス」斯道ノ大家」

志-だう (名) [私道] [公道ニ對ス] (一)ワタクシノ道。公明ニアラザル道。 管子、君臣、上篇「公道不ㇾ違、則是私道不ㇾ違者也」(二)私設ノ道路。私用ニ供スル道。

志-だう (名) [指導・指道] ユビザシ、ミチビクコト。手引シテ、導クコト。敎へ導クコト。敎導。 漢書、路溫舒傳「吏治者利ニ其然ㇾ、則指道以明ㇾ之」「先輩ノ指導、宜シキヲ得」

志-だう (名) [祠堂] (一)家ノ中ニ、祖先ノ靈位ヲ祀ル所。持佛堂。靈堂。 漢書、龔勝傳「勿ト隨ㇾ俗動ニ吾冢ㇾ種ㇾ柏作ㇾ祠堂ㇾ」 和漢三才圖會、八十一、家宅「祠堂、靈堂」注「今云、太末夜」祠、廟也、家禮云、君子將ㇾ營ニ宮室ㇾ先立ニ祠堂於正寢之東ㇾ」 新編、相摸國風土記稿、八十、圓覺寺「佛日庵、北條家ノ祠堂ナリ」(二)ホコラ。ヤシロ。 晉書、石勒傳「禁ト州郡諸祠堂、非ニ正典ㇾ者ㇾ皆除ㇾ之」

志-だう-きん (名) [祠堂金] 菩提寺ニ設ケタル、己ガ祠堂ノ祀ニ供フル金、卽チ、寺ニ寄附スル、先祖代代ノ供養料。祠堂銀。祠堂錢。 寶暦集成綜綸錄、十九、寶暦八寅年五月「泉涌寺祠堂金ト申、貸出候者有ㇾ之候共」

志-だう-ぎん (名) [祠堂銀] 前條ニ同ジ。 眞俗佛事編、六「祠堂銀」 高野萬年草(寶永、近松作)上「富山ニ石碑ヲ建テ、日牌ヲ供へ申スニ付キ、祠堂銀五百枚、奉納致サレ候」

志た-うけ (名) [下請] 次條ノ語ノ略。

志た-うけ-おひ (名) [下請負] 人ノ請負ヒタル仕事ヲ、更ニ、其人ヨリ、請負フコト。マタウケ。

志た-うけ-にん (名) [下請人] 下請負ヲスル人。 享保集成綜綸錄、四十、寬文五巳年十月「人請ニ立候者、慥成人主、并、下請人ヲ撰、手形取置、請ニ立可ㇾ申候、若、慥成人主、下受人ヲ不ㇾ取、受ニ立候モノ有ㇾ之候ハバ、可ㇾ爲ニ曲事ㇾ事」

志-だう-志やうぐん (名) [四道將軍] 崇神天皇ノ御宇、北陸、東海、西海、丹波ノ四道ニ遣ハサレシ將軍。 崇神紀、十年九月「以ニ大彥命ㇾ遣ニ北陸ㇾ、武渟川別遣ニ東海ㇾ、吉備津彥遣ニ西道ㇾ、丹波道主命遣ニ丹波ㇾ、因以詔之曰、若有ニ不ㇾ受ㇾ敎者ㇾ、乃擧ㇾ兵伐ㇾ之、既而共授ニ印綬ㇾ、爲ニ將軍ㇾ」 同、十一年四月「四道將軍、以ト平ニ戎夷ㇾ之狀ㇾ奏焉」

志-たう-せん (名) [四當錢] 四文錢ニ同ジ、寬永錢ノ條ヲ見ヨ。 新寬永錢譜「四當錢、明和五年、江戶、龜井戶所ㇾ鑄、六月十一日初発、此錢、二樣而各二種、一、徑九分強、重一匁四分、一、徑九分半、重一匁四分、幕文面平地、有ニ水波紋ㇾ一種、徑一寸強者、疑、擧ニ官樣錢ㇾ」

志-だう-せん (名) [祠堂錢] 志だうきん(祠堂金)ニ同ジ。 諸寺文書纂、九「大樹寺祠堂方永代買得相傳之田畠之事、井、年起地等、縱雖ㇾ有ニ天下一統之德政入ㇾ、特ニ地起、於ニ此祠堂錢井田畠ㇾ者、至ニ子子孫孫ㇾ努努不ㇾ可ㇾ有ニ違亂煩ㇾ者也」

志た-うち (名) [舌打] シタウツコト。舌ニテ、上齶ヲ撫デ彈キテ、鳴ラスコト、物ヲ味フトキ、又ハ、意ノ如クナラズ、イマイマシク思フトキ、又ハ、犬猫ヲ呼ブトキ、ナドニスルコトナリ。クチツヅミ。シタツヅミ。咜 鼓舌 宇治拾遺、一、十八條「オロシ米ノ座ニテ、芋粥吸リテ、舌打ヲシテ、アハレ、イカデ、芋粥ニ飽カム」

志-だう-ち (名) [祠堂地] 菩提寺ニ寄附シ、其收入ニヨリテ、祖先以來ノ供養ニ充ツル土地。 大樹寺事書「奉ニ寄進ㇾ祠堂田地之事、合一貫三百文者、右爲ニ亡母滿樹淸林公靈供米ㇾ而、永代奉ニ寄進ㇾ之所、實正也、不ㇾ可ㇾ有ニ永損ㇾ子子孫孫不ㇾ可ㇾ有ニ違亂煩ㇾ者也」

志た-う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) [舌打] 舌打ヲナス。咜 鼓舌 禮記、曲禮、上篇「毋ㇾ咜ㇾ食」 字鏡、三十「咜、志太宇豆」

志た-うづ (名) [襪] 志たぐつノ音便、其條ヲ見ヨ。 名義抄「襪、シタウツ」 名目抄、衣服「襪、シタウツ」 枕草子、六、五十段「燈臺ハ倒レヌ、志たうづハ、打敷ニ附キテ行クニ」

志-だう-は (名) [師堂派] 琵琶法師ノ一流タル、一方ノ派、疋田仙一ヲ流祖トスルモノ。 松屋筆記、四、當道考「師堂派」注、以ニ疋田仙一ㇾ爲ㇾ祖、一方」 嬉官紀談、中「一方、四派有、師堂派、名官派、渡島派、元性派」

志た-うへ (名) [舌上] クチサキ。 十訓抄、上、第一、天德歌合ニ、博雅三位「或ル歌ヲ讀ミ過リテ、色、變ジ、聲、フルヒケル由、云云、カヤウノ事、舌上ノヨキ人モ、力、及バヌ事ナリ」

志た-おび (名) [下帶] はだのおびニ同ジ。 盛衰記、十八、龍神守ニ三種心ㇾ事「サラヌダニ寒キニ、褌 計リニ、裸ナリ」

志た-がき (名) [下書] 文章、畫圖ナド、先ヅ試ミニ書クコト。草稿。下書。草案(淨書ニ對ス) 高野萬年草(寶永、近松作)上「國許ノ狀ヲモ、人頼ミスルナト、下書、書イテ渡セシガ」

志た-がさね (名) [下襲] 又、カサネ。束帶ノ時、袍ノ下着ニスル衣ノ名、小袖ノ

上ニ着ル。其背後ノすそヲ、裾トス。[illegible]廿八[illegible]ナリ、ナカシク、ヨキ宿[illegible]タレドモ、下襲ノシリ短クテ、隨身ナキゾ、イトワロキヤ」

したかた (名) 下方 (一)シモザマノ人。シタジタ。(上つ方ニ對ス) (二)能樂、長唄、芝居等ニ用ヰル、音樂ノ稱。はやし(囃子)ノ條ヲ見ヨ。

したがた (名) 下形ノ義 (一)下地。[illegible]したがた、[illegible]将モ、サル世ノオモシトナリ給フベキ、したがたナレバ」(二)かたぎ(模)ノ(一)ニ同ジ。名[illegible]、シタカタ、

したがって (接) 隨 (したがひてノ急呼) 夫レニ就キテ。ソレユエニ。就イテ。因リテ。(手紙ノ語)

したがね (名) 下金 (用ヰ舊シタル物ヲ、賣拂フヲ、したト云フ」人家ノふるかねヲ買受クル商。「したがね買」

したかは (名) 下側 物ノ側ノ、下ニナリタル方。上側ニ對ス。裏面。底面。

したがひ (名) 〔下交ノ義ナラムト云フ〕衣ノ下前トラムカ。したがへ。縫、上交、及、上前、ノ條ヲ見ヨ。[illegible]キタリケル「唐衣、馴レニシ褄ヲ、打返シ、我ガしたがひニ、ナ[illegible]モガナ」

したがひて (接) 隨 したがってニ同ジ。

したが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 從 隨 〔下ニ活用ス〕(一)後ニ附キテ、行ク。伴ハル。[illegible]秋ノ夜ニ、[illegible]コエテ、

降ルモノハ、國ニしたがふ、紅葉ナリケリ」(二)倣フ。眞似ル。遵 (三)〔ソノ意ノ如クニナル〕同意ス。順 竹取物語「己ガナサヌ子ナレバ、心ニモしたがはズナンアル」(四)ソノママニナル。隨 (五)〔服從ス〕降參ス。マツロフ。服從 雄略紀、廿三年七月「方[illegible]安、四夷賓服」

したが・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 從 他ヲ、我レニ從フヤウニナス。服從セサス。[illegible]したがふ」

したがへ (名) 下交 したがひニ同ジ。狹衣、三、下卅「魂ノ、通フアタリニ、アラズトモ、結ビヤセマシ、したがへノ褄」傾城酒呑童子(享保、近松作)三「[illegible]千代セ、下がへニ手ヲ入レテ、太腹ヲ拍チ上ゲ、擦リ上ゲ」

したが・へる (動) 前前條ノ語ノ口語。

したがまへ (名) 下構 カネテノ用意。カネテノ支度。シタグミ。準備。

したぎ (名) 下着 上衣ノ下、肌着ノ上ニ着ル衣。シタゴロモ。中單。吉野都女楠(正徳、近松作)四「名、下着ノ小袖ヲ脫イデ」

したぎき (名) 下聞 アラカジメ、聞キ置クコト。

したく (名) 支度 (一)支那唐代ノ出納官ニ[illegible] (二)〔物事ヲ、用意シ、調へ設クルコト。準備スルコト。イソギ。竹取物語「石作ノ皇子ハ、心ノしたくアル人ニテ」續古事談、二、臣節「重家、側ヨリ「ヲリヘノカミニ、コレヲナサバヤト[illegible]ルニ、[illegible]、コハイカニト、[illegible]テ、何トナクオビエテ、躍リアガリタリ」(三)衣服ヲ、着調ルコト。結束「身したく」(四)食事ヲ、調フルコト。餐

したく (名) 私宅 ワタクシノ家。己ガ

家(官宅ニ對ス) 北條九代記[illegible]「彼レガ私宅へ立チコエ、折檻ノ加ヘウト存ズル」

しだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 荒ル。亂ル。夫木抄、十一「ヲノ山ヤ、野風ニしだく、刈萱ノ、シドロニノミモ、亂レ散ルカナ」

しだ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 〔前條ノ語ノ他動〕碎キ折ル。拉グ。荒ラス。源、四十四、竹河「ソコハカトナキ木ノ下草モ、[illegible]しだく[illegible]」六帖、六、下、[illegible]ノ、しだかム中ニ、梅ノ花、散リ殘ラナム、春ノ形見ニ」拾玉抄、四「イソノカミ、フル野ノ小笹、蹈ミしだき、鹿コソハ鳴ケ、三輪ノ山モト」萬代集、一、春、上「春駒ハ、淺香ノ沼ニ、求食シテ、カツミノ眞菰、蹈ミしだくナリ」

じたく (名) 自宅 己ガ家。我ガ家。「人ヲ、自宅へ招ク」自宅へ歸ル」

したくさ (名) 下草 木ノ下ノ草。木蔭ニ生フル草。後撰集、九、戀、一「木枯シノ、森ノしたくさ、風早ミ、人ノナゲキハ、生ヒソヒニケリ」千載集、一、春、上「淺マシ、雪ノ下草、カキワケテ、誰レヲ訪フ日ノ、若菜ナルラン」

したぐつ (名) 襪 〔下履ノ義〕音便ニ、したうづ。束帶ノ時ニ、靴ノ下ニ用ヰル、足袋ノ如キモノ、帛ニテ作ル。倭名抄、十二「履襪類「襪、之太久豆」

したくづ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 心崩 心、折レテ、從フ。和泉式部集、五「人ニ、したくづれタルト云ヒタルニ、其方ナン疑ハシキト云ヒタルニ」狹衣、四、中三十五「イトド此御物語ドモニ、したくづれタル心地シ侍ル」

したくび (名) 胡 〔下頸ノ義ナラム〕顋ノ下。倭名抄、三「頭面類 胡、之太久比」

したぐみ (名) 下組 兼ネテノ用意。支度。シタガマヘ。準備 竹取物語「サシコメテ、守リ、戰フベキしたぐみヲシタリトモ、アノ國ノ

人ハ、エ、戰ハヌナリ、弓矢シテ、射ラレジ」

したぐら (名) 下鞍 又、したづくら。馬具ノ名。鞍ノ下ニテ、馬ノ脊ニ當ツルモノ。革ニテ作リ、革ニテ面ヲ被フ。今、切付。韉 倭名抄、十五「鞍馬具 韉、之太久良」拾遺集、六、別「貫方朝臣、ミチノ國へ下リ侍リケルニ、したぐら遣ハストテ「東路ノ、木ノしたくらク、ナリユカバ、都ノ月ヲ、戀ヒサラメヤハ」

したぐる・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 心苦 心中ニ、苦シミ思フ。心グルシ。曾丹集「鴛鴦馬ノ、見ナルル程ハ、ツレナキヲ、下ぐるしトハ、知ルラメヤ人」

したぐるま (名) 舌車 辯舌ヲ弄スルコト。喋リタツルコト。口車。聖德太子繪傳記(享保、近松作)二「自慢ノ舌車、口ニマハセト」

したげいこ (名) 下稽古 相撲、其他ノ演藝ナドニ、本場所ニ出ヅル前、練習ニ、稽古スルコト。豫習。狂言記、ごぶか、ちり「近近ニハ、下稽古ヲシテ取ラセウゾ」

したこが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 心焦 心中ニ、戀ヒコガル。續後撰集、十二、戀、二「ワビ人ノ、心ノ内ヲ、比ブルニ、富士ノ山トゾ、したこがれケル」

したこがれ (名) 心焦 シタコガルルコト。心ノ中ニテ、思ヒコガルルコト。萬葉集、十一「アシビキノ、山田守ル翁ガ、置ク蚊火ノ、下粉枯ノミ、我ガ戀ヒ居ラク」千載集、十一、戀、一「難波女ノ、スクモ焚ク火ノ、したこがれ、上ハツレナキ、ワガ身ナリケリ」

したごころ (名) 下心 心ニ、預メ期スルコト。ココロガマヘ。狂言記、六地藏「下心ガアッテ申シタ事デ御座ル」

したごしらへ (名) 下拵 豫メ、取リ設クルコト。準備 「相談ノしたごしらへ」

したごは・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［舌強］ 舌、コハバル。盛衰記、廿七、資水中風死去事「大中風シテ、病ニ臥シ、腕スクミテ、思フ狀ヲモ書キ置カズ、舌ごはくシテ、思フ事ヲモ云ヒ置カズ」

したごひ（名）［心戀］ ウラコフコト。心ノ中ニテ、戀フルコト。萬葉集、十七、廿二長歌「大舟ノ、ユクラユクラニ、思多呉非ニ、イツカモ來ムト、待タスラム」

したごろも（名）［下衣］ シタニ着ル衣。シタギ。萬葉集、十五、三十四「白妙ノ、アガ之多其呂母、失ハズ、持テレ吾ガセコ、タダニ逢フマデニ」

したざいく（名）［下細工］ 下拵ノ細工ヲスルコト。又、其人。五十年忌歌念佛（寶永、近松作）上「彼ノ仁カラ、一筆取ッテ置クナラバ、我レモ、日那ノ手前ガ立ツ、其方モ、下細工ヘ、手間遣ライデモ、大事ナシ」

したさく（名）［下作］ おさく（小作）ニ同ジ。冥途飛脚（正德、近松作）下「此ノ藥師ハ、忠三郎トテ、下作アテタ小百姓」

した・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［親］ （一）血緣、近シ。（二）交ハリニ、隔テナシ。疎カラズ。ムツマジ。ネンゴロナリ。心ヤスシ。金葉集、十、雜、下「したしき人ニ後レテ、佛事ノ事、果テテ、歸リ侍リケルニ、ヨメル」源、一、桐壺三十四「内侍ノスケハ、先帝ノ御時ノ人ニテ、カノ宮ニモ、したしう參リ馴レタリケレバ」「親しき中ニモ禮儀アリ」

しだし（名）［仕出］ （一）シダスコト。作リ出スコト。曾我五人兄弟（元祿、近松作）二「虎ガ仕出しノ濃島田」（二）調ヘテ、送ルコト。調進。（料理ナドニ）今宮心中（寶永、近松作）上「何ノ料理ニ遣ウテモ、仕出しガ甘イワ」「仕出し家」

したじき（名）［下敷］ 物ノ下ニ敷ク物。「手習草紙ノしたじき」

したしく（副）［親］ ミヅカラ。マノアタリニ。「親しく行フ」親しく見タリ」親しく敎ヲ受ク」

したした（名）［下下］ 官ニ對シテ、世ノ民ドモ。人民。シモジモ。「下下ノ禮儀」

したした（副） 水ノ滴ル狀ニ云フ語。ジトジト。

したした・と（副） 萎エテ、シナダルル狀ニ云フ語。宇治拾遺、十二、第七條「練絹ノヤウニ、したしたとナリタル」

したしば（名）［下柴］ 木ノ下ノ柴。木蔭ノ柴。新後撰集、五、秋、下「立寄ラン、紅葉ノ陰ノ、道モ無シ、下柴深キ、秋ノ山モト」

したしみ（名）［親］ シタシムコト。交ハリニ、隔テナキコト。昵懇。平治物語、一、源氏勢汰事「別當惟方ハ、元來、信頼卿ノ親しみニテ、約契、深カリシカドモ」

したし・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［親］〔心染むノ義〕 親シクス。心ニ、隔テナク交ハル。ムツム。睦マジクス。ネンゴロニス。懇意ニス。心ヤスクス。昵懇ナリ。神代紀、下二十三「海神則以其子豐玉姬妻之、遂纏綿篤愛、已經三年」

したしん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）［親］〔したしみすノ音便〕 前條ノ語ニ同ジ。

したしもの（名） ひたしものノ訛。

しだ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［仕出］ （一）作リテ、出ダス。（二）調ジテ、送ル。調進ス。（料理ナドニ） （三）營ミテ、大イニナス。發展セサス。平治物語、一、光頼卿參内事「アハレ、此ノ殿ハ、大剛ノ人カナ、云云、右衞門督ノ座上ニ着ク人、一人モオハシマササリツルニ、仕出しタルコトヨ」「身代ヲしだす」

したすがた（名）［下姿］ 冠モ、袍モ、着セヌ姿。寶石類書、九十二「御湯殿の上の日記中ニ、御したすがたトアリ、御冠モ、御袍モ、召サヌ事ナリ」親長卿記、文明十四年三月廿三日「雨下、依召參内」注「下姿可參之由、有仰」

したすだれ（名）［車帷］〔下簾ノ義〕 車ノ簾ノ内ニ懸クル帷ニテ、白絹ニテ、裾濃ナドナリト云フ。上簾ニ對ス。枕草子、十一、百三十三段「尼ノ車、シリロヨリ、水晶ノ數珠、薄墨ノ裳、袈裟、衣ナド、イミジクテ、簾ハ上ゲズ、下すだれモ、薄色ノ、裾、少シ濃キ」同、同段「スダレ打上ゲ、したすだれ引上ゲテ、敷セ給フ」

したずり（名）［下摺］ 版ヲ、試ミニ摺ルコト。試刷。「錦繪ノ下ずり」

したたか（副）［健］ （一）シタタカニ。甚ダシク。「したたか打タル」（二）次條ノ（二）ニ同ジ。「したたかアル」

したたかに（副）［健］ （一）嚴ク。甚ダシク。甚ダ強ク。宇津保物語、祭使「御佩刀ノ緒ヲ、したたかに結ビ垂レ」源、廿三、初音三「イトしたたかなる、ミヅカラノ祝ヒ事ドモカナ」同、四十四、橋姬廿四「若キ人ハ、物ノ程知ラヌヤウニ作ルコソ、ナドしたたかに言フ聲ノ」著聞集、六、管絃歌舞、福天神ノ不思議「走リ出デムトシケレバ、したたかなる者ドモ六人シテ、取リ止メケルニ、其力ノ強キコト、言フバカリナシ」（二）多ク。アマタ。大鏡、上、師尹「モトヨリモ、イトしたたかに領ジタマフ」同、中「御祿ヲ、コレハイトしたたかに、御肩ニ掛ケサセ給ヒテ」

したたかもの（名）［健者］ シタタカナル人。剛ノ者。ケナゲナルモノ。勇士。（前條ヲ見ヨ）平家物語、九、盛俊最期事「猪俣ハ、八箇國ニ聞エタルしたたか者ナリ」

したたに（副） 忍ビ忍ビニ。ヒソカニ。古事記、下（允恭）二廿長歌「アマダム、輕少女、志多多爾モ、寄リ寢テ通レ」

したたま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［認］〔次次條ノ語ノしたたむノ自動〕 トトノフ。ヲサマル。大鏡、中、道隆「コノ殿、御後見モシ給ハバ、天ノ下ノマツリゴトハ、したたまりナントゾ、思ヒ申シタリシカドモ」

しただみ（名）［小蠃子］［細螺］ 介ノ名、きさごノ古名。倭名抄、十九、龜貝體「小蠃子、之太太美乃布多」神武紀十長歌「之多太彌能、吾子ヨ」古事記、中（神武）九長歌「志多陀美ノ、イ這ヒモトホリ」

したた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［認］〔下認むノ轉カ〕 見留ム。見極ム。

したた・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二） （一）取リ調フル。取リマカナフ。支度ス。調治。源、廿二、玉鬘廿二「御燈ノ事ドモ、したため出デ、イソガセバ」増鏡、第十、あすか川「昔コソ、受領ドモモ、任ノ程、其國ヲしたためシガ、此頃ハ、名バカリニテ、イツクニモ、守護ト云フモノ、云云」十六夜日記「歌ノ雙紙ドモ、擇リしたため」落窪物語、一「打散ラシ給ヘル物ドモ、取リしたたむ」狹衣、二、下九「御門ナドモ、ワザト、したたむる人モ無キニヤ、入リテ見出シ給フニ」宇治拾遺、九、第六條「國ノ政ヲ、したため行ヒ」同、十三、第八條「異魚ナドしたためテ、桶ニ入レテ」同、一、第八條「物食ヒしたためテ、出デ行クヲ」著聞集、十八、飲食「最勝ノ條、寄合ヒテ、大雁ヲ食ハムトテ、したためケル所ヘ」（二）調ヘ、食フ。喫「晝飯ヲしたたむ」（三）書キ、調フル。（常ニ、認ノ字ヲ假借ス）記「手紙ヲしたたむ」

しただ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［舌訛］ 物言ヒ訛ム。ナマル。拾遺集、七、物名「東國ニテ、舌ハレタル、人ノ子ハ、舌だみテコソ、物ハ言ヒケレ」

したため（名） （一）シタタムルコト。取リ調フルコト。源、五十一、蜻蛉十「後ノしたためナドモ、イトハカナクシテケルヲ」（二）食事

スルコト。宇治拾遺、三、四「…事…、實ニハ、したためシケルニ、ドノトノ所ニアリテ、諸氏冷泉院、近松作上「六尺共ト呼バハレトモ、賓、認めニ隠ッテ」

∴しただめる (動) したたむノ口語。

しただらず (名) 〔舌不足〕 古語、シタツキ。舌ニ、不具ナル所アリテ、言語ノ、自在ナラヌコト。

しただり (名) 〔滴〕 シタタルコト。シタタルモノ。シヅク。滴瀝

しただる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔滴〕 (下垂ルノ義) 垂リテ、落ツ。雫トナリテ、落ツ 神代紀、上「其矛鋒滴瀝之潮、凝成一島」「水したたる」「雨したたる」「酒したたる」

しただる・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 物言ヒ、アマエタレタリ。曾根崎心中(元祿、近松作)「今ハ手代ト埋レ木ノ、生醬油ノ袖したたるき、戀ノ奴ニ荷ハセテ」 高野山女人堂(寶永、近松作)「思ヒ奮フセ候ヘク候、御見ノ如ク二世、三世、隱レ隱レト、自傍ノ擬エタ、小高たるい女子文」

したぢ (名) 〔下地〕 (一)物事ヲスルニ、預メ、備ヘ設クルモノ。物事ノ起ル基トナルモノ。シタガタ。素地。(二)醬油ノ一名 (吸物ヲ作ル下地ノ義) (三)本來ノ性質、 狂言記、金岡「紅ヤ、白粉、スリ磨リタレド、下地ハ黑キ山鳥」 假名手本忠臣藏(寬延、竹田出雲)三「下地ハ好ナリ、御意ハ善シ」

しただぢ (名) 〔助枝〕 壁ノ骨トスル木舞。(かべしたぢノ條ヲ見ヨ) 倭名抄、十五、墻壁具、助枝、之太知」 七十一番職人歌合、二番、壁塗「壁ノ大工、塗リテ候、したぢ抜クシテ候ハバヤ」

したぢまど (名) 〔助枝窗〕 壁ノ一部ヲ塗リ殘シ、助枝(木舞)ヲ、ソノママニ、格子トシタル窗 大工雛形、坤「下地窗、但、座敷之…」

入口、謂之窗也」

したつ (名) 〔四達〕 道路ノ、四方ニ達スルコト。四方ニ通ズルコト。四通 戰國策、燕策、趙、四達之國也」

したつ (名) 〔禁闈〕 禁中。禁裏。王宮ノ門。 陳書、高祖紀、「氣沴、清宮、神飛、禁闈」

したつ・ツ・テ・タ・チ・テ (自動、四) 〔爲立仕立〕 作リ終ハル。拵ヘハタス。 枕草子、五、四十六段「宮、裝束したちテ、暗ウナリタル程ニ、モテ來テ、着ス」

したつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 〔爲立仕立〕 (一)作リナス。拵ヘタツル。 紫式部日記「ツクロヒ假粧シ、劣ラジトしたてタル、女ノヲカシキニ、イト善ウ似テ」 (二)衣ヲ、裁チ縫フ。裁縫 源、廿一、少女四十「睦月ノ御裝束ナド、云云、イト淸ラニ、したて給ヘルヲ」 (三)敎ヘコム。育テアグル。シコム。養成育成 源、五、若紫四十七「舞習ハシナドハ、里ニテ、イト善ウしたてテ」同、廿五、螢十「御子モ、腹腹、イト多カルヲ、云云、又ナク、したてサセ給フ」「弟子ヲ、一人前ニしたつ」 (四)別段ニ支度シテ、送ル。差遣「飛脚ヲしたつ」「馬ヲしたつ」

したつ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 〔滴〕 滴瀝(しただるノ使役相ナル、したたらすノ約カ) シタタラス、 太平記、廿、結城入道墮地獄事「血ノ流ルルコト、油ヲしたつるガ如シ」

したづかさ (名) 〔下司〕 (一)卑シキ官人。ゲシ。ゲス。下官。(二)下ノ官吏。シタヤク。 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)一「四道將軍ノ下司」

したつき (名) 〔齟齬〕 物言ヒノ、明カナラヌコト。シタタラズ。 倭名抄、三十、病類「齟齬、之多都岐」 新撰樂記「齟齬、齟齬」 源、廿、朝

顏四「イトウ禁ミニタルロツキ思ヒヤラルル聲、使ノ、サスガニ、したつきニテ、打チ戲レントハ、痛思ヘリ」

したつくに (名) 〔下國〕 下ノ方ニ在リト云フ國、卽チ、根ノ國、底ノ國、夜見ノ國、黃泉ナドノ稱。コレニ對シテ、此世ニ存生スル國ヲ、上つ國ト云フ、 鎭火祭祝詞「吾名妹能命波、上津國乎所知食倍志、吾波、下津國乎所知牟止申氐」 神代紀、下廿八「上國、此云羽播豆知俱爾」

したつづみ (名) 〔舌鼓〕 したうちニ同ジ。 犬子集「諸公英ノ、物食テヤ、舌鼓」

したづみ (名) 〔下積〕 積荷ナドノ、下層ニ積マレタルモノ。上積ニ對ス。 釋迦如來誕生會(元祿、近松作)四「先ヅ兩舌ノ婆將軍、汝們ガ死骸ノ下積み」

したつみち (名) 〔下道〕 地下ヲ穿鑿シタル道。地下道。 雄略紀、八年二月「夜鑿地道、悉過而轎車」 倭名抄、十八、道路類「地道、志太都美知」

したて (名) 〔仕立〕 (一)爲立ツルコト。作リナスコト。(二)衣ヲ、裁チ縫フコト。裁縫「したて物」「したてカタ」「したて屋」 (三)敎ヘコムコト。育テアグルコト。シコミ。養成育成「弟子ノしたて」 (四)別段ニ支度シテ、送ルコト。「したてノ飛脚」「したてノ舟」

したで (名) 〔下手〕 (上手ニ對ス) (一)相手ノ、次ニ付クコト。次位。「下手ニナル」「下手ニ出ル」 (二)相撲ニテ、相手ニ組ムニ、手ヲ、下ニ差スコト。又、其手。 平家女護島(享保、近松作)一「下手、上手ニ押シ合ヒテ、勝負ハ五角ト見エタル所ニ」

したてがほ (名) 〔仕立顏〕 殊更メキタル

顏ツキ。ワザトガホ 源、四十八、寄生五十「心シラヒノ狀モ、侮ルトハ無ケレト、何カハ、事事シク、したてがほナランモ、ナカナカ、オボエナク、見咎ムル人ヤアラント思スナリケリ」

したてなげ (名) 〔下手投〕 相撲ノ手ノ一、四ツニ組ミ、下手ニテ、敵ノ褌ヲ取リテ、投ゲカクルコト。其、上手ニテ、褌ヲ取リテ爲スヲ、上手投ト云フ。

したてゆばり (名) 〔臨瀝〕 (したてハ、滴ル意) 痳病ナドニ因リテ、小便ノ、少シヅツ、滴ルコト。淋瀝 倭名抄、三十病類「臨瀝、之太天由波利、小便滴瀝也」

したてる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔下照〕 下葉、赤ク照ル。 萬葉集、十八十「橘ノ、之多泥流庭ニ、殿立テテ」 同、十九二「春ノ苑、クレナヰ匂フ、桃ノ花、下照る道ニ、出デ立ツ少女」

∴したてる (動) 〔仕立〕 したつ(爲立、下二)ノ口語。

したとぎ (名) 〔舌柔〕 舌ニ、柔ノ如キモノ、生ズルコト。小兒ニアリ。鵞口瘡

したど・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔舌疾〕 物言ヒ、速シ。口バヤナリ。疾語 源、廿六、常夏十九「セウサイ、セウサイ、ト云フ聲ゾ、イトしたどきヤ」

したどみ (副) 〔舌疾〕 (したどハ、前條ノ語ノ語根) 物言ヒ、速ク。口バヤニ。疾語 源、十、榊十五「宜フケハヒノ、したどみ、アワツケキヲ」

したどひ (名) 〔下聘〕 忍ビテ、女ノ許ニ通フコト。シタヨバフコト。 古事記、下(允恭)廿長歌「アシビキノ、山田ヲ作リ、山高ミ、下樋ヲ走シセ、志多杼比ニ、ワガ訪フ妹ヲ、心泣キニ、ワガ泣クツマヲ」

したなが (名) 〔舌長〕 (次條ノ語ノ語根)

過言スルコト。誇リテ、言フコト。廣言。聖德太子繪傳記(享保、近松作)三「返忠トハ舌たが、普天ノ下、天子ノ味方デナイモノ、誰レカアル」

したなが・し キ・ケレ・ク・ク(形、一)［舌長］遠慮ナキ、物言ヒブリナリ。過言ナリ。大言ナリ。國性爺合戰(享保、近松作)二「身ガ生國ハ、大日本、風來トハ、舌長し」

したなき (名)〔心泣ノ義〕隱ビテ、泣クコト。古事記、下(允恭)廿長歌「下聰ニ、我ガ訪フ妹ヲ、斯多那岐ニ、ワガ泣クツマヲ」今昔物語、八「マメヤカニ六借ラセ給ヒケレバ、殿上人共皆、舌哭ヲシテ」

したなめずり (名)［舌嘗摩］舌ニテ、脣ヲ嘗ムルコトカ。宇治拾遺、八、第四條「逢ヒタリツル鼠ドモ、目ヲ怒ラカシ、舌なめづりヲシテ、我レヲ見付ケテ、疾ク率テ來カシト思ヒタル氣色ニテ、立チサマヨフヲ見ルニ」字鏡集「括、シタナメズリ」

したならし (名)［下馴］豫メ、慣ハシ置クコト。シタゲイコ。豫習。

したぬひ (名)［下縫］本縫ノ準備ニ、縫フコト。又、其モノ。カリヌヒ。(洋服ニ云フ語)

したぬり (名)［下塗］上塗、又ハ、中塗ヲスル前ニ、下地ヲ塗ルコト。(壁塗、漆塗ナドニ云フ、上塗、中塗、ニ對ス)

したねぎ (名)［下禰宜］地位ノ、卑シキ禰宜。浦島年代記(元祿、近松作)五「長谷部ノ國長ト申シテ、我レ等ノ下禰宜」

したのおび (名)［下帶］裝束ノ下ニ着ルモノノ帶ナリト云フ、束帶ニハ、上、下ニ帶スレバ云フトゾ。古今集、八、別「したのおびノ、道ハカタカタ、ワカルトモ、行キメグリテモ、逢ハムトゾ思フ」

したば (名)［下葉］枝ノ、下ノ方ノ葉。萬葉集、廿十三「萩ノ之多婆ハ、紅葉アヘムカモ」

したば (名)［下端］下ノ方。下ノ部。急呼シテ、したっぱ。

したば (名)［下齒］下ノ齦ニアル齒。(上齒ニ對ス)

したばかま (名)［下袴］(一)あかおほくち(赤大口)ニ同ジ、大口袴ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(二)ふどし(犢鼻褌)ニ同ジ。

したは・し シキ・シケレ・シク・シク(形、二)［慕］慕フベクアリ。ナツカシ。風雅集、三、春、下「何トナク、見ルニモ春ゾ、したはしき、芝生ニマジル、花ノ色色」徒然草、廿二段「何事モ、古キ世ノミゾ、したはしき」

したばたらき (名)［下働］他ノ手下ニ屬キテ、其指圖ニテ、ハタラクコト。又、其人。シタマハリ。

したば・ふ フル・フレ・へ・へ・へヨ(自動、下二)［下延］下ニ、延フ。心、其方へ向ク。思ヲカク。萬葉集、九十三長歌「隱沼ノ、下延オキテ」同、廿四十「住吉ノ、濱松ガ根ノ、之多婆倍テ、我ガ見ル小野ノ、草ナ刈リソネ」

したばへ (名)［下延］シタバフルコト。心ノ、向クコト。萬葉集、十四七「足柄ノ、ミ坂畏ミ、曇リ夜ノ、我ガ志多婆倍ヲ、言出ツルカモ」

したはら (名)［下腹］(一)古名、コノカミ。腹ノ、臍ノ下ノ部。又、コガミ。ホガミ。小腹「下腹ガ痛ム」「下腹ニカヲ入ル」(二)馬ノ太腹。吾妻鏡、三十三、曆仁元年二月六日「供奉人所從等者、不能渡浮橋云云、水僅、及馬下腹」

したひ (名)［下樋］(一)箏ノ腹ノ、空ナル所。萬葉集、七十「琴取レバ、咲キ先立ツ、益シクモ、琴ノ下樋ニ、嬬ヤ籠レル」(二)地中ニ埋ムル樋。暗渠。古事記、下(允恭)廿長歌「山田ヲ作リ、山高ミ、斯多備ヲ走シセ」萬葉集、十一三十四「水鳥ノ、鴨ノ住ム池ノ、下樋無ミ、イブセキ君ヲ、今日見ツルカモ」

したび (名)シタブルコト。紅葉。萬葉集、十五十「秋山ノ、舌日ガ下ニ、鳴ク鳥ノ、聲ダニ聞カバ、何カ歎カム」古事記、上八十「秋山之下氷壯夫」

したび (名)［下火］(一)火災ノ、勢、衰ヘテ、消エムトスルコト。(二)事物ノ、勢ノ衰フルコトニ云フ語。「喧嘩ガ下火ニナル」「風カガ下火ニナル」

したひげ (名)［下鬚］下ノ脣ノ鬚。(上髭ニ對ス)

したひば (名)〔慕葉ノ義ト云フ〕草木ノ葉ノ下ニ着ケル、小サキ葉。托葉。

したひも (名)［下紐］下裳ノ紐ナリト云フ。人ニ戀ヒラルル時ハ、下紐、解クルコトアリト言ヒナラハシテ、歌ニハ多ク、其意ニ云ヘリ。源、四、夕顏五十「泣ク泣クモ、今日ハ吾ガ結フ、下紐ヲ、イヅレノ世ニカ、解ケテ見ルベキ」後撰集、十一、戀、三「戀シトハ、更ニモ言ハジ、下ひもノ、解ケムヲ人ハ、ソレト知ラナム」

したびらめ (名)［舌平目］鰈ノ類、形、狹ク長ク薄キコト、牛ノ舌ノ如ク、草鞋ノ底ノ如シ、故ニ、牛の舌鰈、くつぞこナドノ名モアリ、大ナルハ、一尺四五寸ニ至ル、左、黑クシテ、右、白キコト、鰈ニ同ジク、但シ、口ハ、下ノ方ニ偏リテ、少シ曲レリ。ウシノシタ。鞋底魚

したふ フ・へ・ハ・ヒ・へ(他動、四)［慕］(一)懷カシク思フ。戀ヒ思フ。續後拾遺集、十二、戀、二「言ノハニ、過ギテモ猶ゾ、顯マルル、厭フヲダニモ、したふ身ナレバ」新葉集、十三、戀、三「憂キニタヘテ、したへバコソハ、アヒ見ツレ、永カルベキハ、心ナリケリ」玉葉集、十二、戀、四「ツラカラバ、したはジトコソ、思ヒシガ、我レサヘ變ル、心ナリケリ」(二)〔追ヒツカムト、行ク。追及カムトス。追蹤　萬葉集、五五長歌「啼ク兒ナス、斯多比來マシテ」源、一、桐壺八「御送リノ女房ノ車ニ、したひ乘リ給フ」同、二、帚木四「心モ騷ギテ、したひ來タレド」「後ヲしたふ」

したぶ ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二)葉、萎ぶノ意ニテ、ヤガテ、紅葉スルヲ云フ。萬葉集、二十四長歌「秋山ノ、下部留妹、ナユ竹ノ、トヲヨル子等」

したぶし (名)［下臥］〔上臥ニ對ス〕物ノ下ニ、臥スコト。夫木抄、七「シハツ山、卯ノ花蔭ノ、假庵ヤ、夜床モ冴エヌ、雪ノ下ぶし」同、十一「小牡鹿ノ、聲ゾ悲シキ、露結ブ、イハダノ小野ノ、荻ノ下ぶし」

したぶところ (名)［下懷］うちぶところ(內懷)ニ同ジ、ふところノ條ヲ見ヨ。心中二枚繪草紙(寶永、近松作)上「二包ノ白銀ヲ、したぶところへ押シ込ンデ」

したぶり (名)［舌風］モノ云ヒブリ。物ノ、言ヒザマ。ロブリ。源、廿九、行幸十三「したぶり、イト物サワヤカナリ」

したぶるひ (名)［舌振］舌ヲ、振フコト。舌ノ條ヲ見ヨ。恐懼スルサマ。掉舌　盛衰記、三十五、高綱渡宇治川事「東國ノ兵、是レヲ見テ、舌振ひシテ、進マザリケレバ」

したべ (名)［下方］〔下つ方ノ義〕ヨミノクニ。根ノ國。シタツクニ。黃泉。萬葉集、五十四「若ケレバ、道ユキ知ラジ、幣ハセム、之多幣ノ使、負ヒテ通ラセ」

したま・つ ツ・テ・タ・チ・テ(他動、四)［心待］心ニ、待チ受ク。心マチニ待ツ。大和物語、上「女御、云云、オハシマシヤスルト、したまち給ウケルニ、オハシマサザリケレバ」源、六、末摘花七

「歸リヤ出デ給フト、したまち居リケリ」

したまはり (名) [下廻] (一)人ノ下ニ屬ツキテ、雜事ヲ掌ル役。又、其人。シタバタラキ (二)いなりまち(稲荷町)ノ條ヲ見ヨ。「下まはりノ俳優」

したまへ (名) [下前] 上前ウハマヘノ條ヲ見ヨ。

したみ (名) [滑] したみざけ(滑酒)ノ略。

したみ (名) [篩] [滑みノ義ナラムト云フ] 底ハ方ニシテ、上ハ圓キ筐、トアリ、今ノ米揚笊ノ類カト云フ。二十巻本倭名抄、十六、竹器「篩、[illegible]」字鏡「[illegible]」志太美

したみ (名) [下見] 窺メ、目ヲ通スコト。シタヨミ。

したみ (名) [下見] [部シトミノ轉ナルベシ] 家ノ四面ノ壁ヲ、板ニテ積ヒテ、風雨ヲ防グモノ。羽目板。

したみざけ (名) [滑酒] 滴汁、又ハ、搾ドドヨリ滴リテ、溜リタル酒。略シテ、したみ。「[illegible]、したみ酒ヲ買フ」

したむ・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) [滑] [下ヲ活用ス] 液ヲ、シタタラス。山家集、下「見ルモ憂キハ、鵜繩ニ逃ル、イヲノ、ノガレフクサナモ、たわむモ我[illegible]」「[illegible]、酒ノ、たむ」「水ヲしたむ」

したむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [滑] 前條ノ語ニ同ジ。

したん (名) [紫檀] 熱國產ノ樹、材ヲ用ヰル。[illegible]、色、紫黑ニシテ、老木、嫩木ニ因リテ、色ニ、濃淡アリ、質、堅實ニシテ美シケレバ、種種ノ器ニ作リテ、貴ブ。[illegible]、七、緒合セ「左ハ、したんノ箱ニ、蘇芳ノ華足」

したん (名) [指彈] ツマハジキ。誹謗スルコト。義經記、三、熊野別當亂行事「我レガスル事ハ、官員、院宣ニモ從ハベコソト、したんシテ、イヨイヨ、代ヲ世トモセザリケリ」

したん (名) [咨嗟] ナゲクコト。嗟嘆。唐書、[illegible]「[illegible]」

したん (名) [師團] 陸軍ノ編制上ノ名、步兵二旅團、騎兵、野砲兵、各、一聯隊、工兵、輜重兵、彈藥縱列、各、一大隊、及、軍樂隊トヨリ成リ、戰時ニハ、大小架橋縱列、各、一大隊、及、野戰衞生部、之レニ屬ス。

しダン (名) [師檀] 寺僧ト、檀那ト。[illegible]「[illegible]、出ヅル子、事、汝ハ、師檀ノ契リ深シ、[illegible]向カノテ、[illegible]ヘ宿メヨ」

しだん (名) [事端] 事件ノ小口。事柄ノ端緒。「事端ヲ構フ」

したん (名) [示談] 雙方ノ爭ヲ、訴訟ナドニセズシテ、相對ノ話合ヒニテ治ムルコト。熟談。和談。「示談、調フ」

したむき (名) [下向] (一)下方ニ、向クコト。ウツムクコト。(上向ウハムキニ對ス) 「器ヲ、下むきニ置ク」 (二)衰退ニ赴クコト。「下むきノ相場」 (三)部下ニ對スル有樣。

したんまへ (名) したまへノ音便。

したため (名) [下目] 貶シメテ、見ルコト。侮ルコト。蔑視。「下目ニ見ル」

したため (名) 下締ヒ。下地。[illegible]、安久、平久知行率事能志太米止、御總神賀乎祭持氏」

しだめ (名) 櫛ノ歯。

したも (名) [下裳] 女ノ裳。衣ノ下ニ着ル裳。[illegible]「[illegible]」レバ云フトゾ。猶、濡ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]、人別ルヤ、下裳ノ紐ヲ、結キソメテ[illegible]ト契ヲ、結ブ夜トハ」

したもの (名) [下物] 價値ノ、安キモノ。安直。大坂聞書[illegible]、近松作、二、[illegible]町「賣ルナラバ、五百兩ハ、したものゾ」

したもゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) [下萌] 地ヨリ、萌エ出ヅ。下ヨリ、芽ザス。續拾遺集、一、春、上「今ヨリハ、春ニナリヌト、陽炎カゲロフノ、下もえ急グ、野邊ノ若草」 又、燃ゆるニ掛ケテ、續後拾遺集、一、春、上「春日野ノ、草ハ燒クト、見エナクニ、したもえワタル、春ノ早蕨」 又、心焦るるニ掛ケテ、新千載集、十一、戀、一「藻鹽燒ク、蜑アマノ焚ク火ノ、下ニノミ、もえツツカラキ、我レニヤハアラヌ」

したや (名) [下家] 上屋ニ對ス」 母屋ニ附屬スル、小サキ家。曾根崎心中(元祿、近松作)「一階ノ口ヨリサシ覗ケバ、男ハ、したやニ顏出シ」

したやかた (名) [下館] シモヤシキ。好色一代女(貞享、西鶴)「淺草ノ御したやかたへ、御前樣ノ御供」(したもやかたノ誤讀)

したやく (名) [下役] 支配下ノ、小役人、下僚。上役ウハヤクニ對ス。

したやしき (名) [下屋敷] しもやしきニ同ジ。かみやしきノ條ヲ見ヨ。

したやす・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [心安] 心安シ。ウラヤスナリ。安心アンシンナリ。源、四十八、[illegible]「打ナナケキテ、斗[illegible]結フホドモ、ケニソ、たやすからぬ」拾遺集、[illegible]、[illegible]ノ、たやすからぬ、思ヒニハ、アタリノ水モ、氷ラサリケリ」

したゆひ (名) [下結] 化粧元結ノ下ニ、髪ヲ結ブコト。又、ソノ元結。[illegible]「したゆひハ、解ケザルヤウ、結ブベシ」

したよば・ぶ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) [下婚] 忍ビテ、女ヲ訪フ。忍ビテ、ツマドヒス。シタドヒス。古事記、下(仁德)四「大和ヘニ、行クハ誰ガツマ、隱コモリヅノ、志多用[illegible]ツ、行クハ誰ガツマ」

したよみ (名) [下讀] 人ノ前ニテ、書ヲ讀ミ、又ハ、講ズベキ前ニ、先ヅ自ラ、讀ミ解キオクコト。下見。豫習。覆案。案講。狂言記、萩大名「アタリノ若衆ノ、萩ヲ見ニ行クトアッテ、歌ノ下讀ヲシテ置カレタヲ、私ガ承ッテ、覺エテ居リマスル」

しだら (名) (一)手ヲ、拍ツコト。[illegible]「[illegible]、荒山開天、志太良打天止、[illegible]」(二)小兒ノ、手ヲ拍チテ遊ブ戲レ。遊學往來「[illegible]、[illegible]」

シダラ (名) [次條ヲ見ヨ] 行事シワザノ、檢束トリシマリ。始末。(多ク、反語ヲ添フ) 博多小女郎浪枕(享保、近松作)中「コリャ宿替ト見エタ、何トシタ仕だらデ、何方へ立退ャル」

シダラ・う・つ (動) [したらハ、梵語、修多羅シュタラナルカ、秩序、紀律ノ義(轉ジテ、經典ノ事トモナル)] 調子ヲ整ヘテ打ツ意ニテ、ソレヲ、烈シク打ツニ云フナルベシ したらでん(震動雷電)ト云フ語ハ、したら打ノ略轉ナルベク、しだらがない、不しだらト云フハ、紀律ナキ義ニ云フナリ。

しだらく (名) [自墮落] 志ノ、堅固ナラヌコト。身持ノ、取締リナキコト。フシダラ。放縱。[illegible]「[illegible]」

致セシ」

シダラ-でん（名）〔震動雷電〕〔前前條ヲ見ヨ〕大風雨。又、動搖キ、喋グコト。假名手本忠臣藏（竹田出雲）五「秩マデ、鐵砲雨ノしだらでん」毀草（正保）「五月雨ヤ、山鳥ノ尾ノ、しだらでん」

シダラ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）身ノ、シマリナシ。行狀ニ、秩序ナシ。今、倒サニシテ、だらしなし。

し-たり（感）（一）爲シ得タリ。爲スマシタリ。狂言記、枕物狂「祖父御ヨ、此コソ御事ノ尋ヌル乙御前ヨ、ヨクヨク寄ッテ見給ヘトヨ、オウ、したり、したり、疾ク出デサセ給フナラバ」（二）失敗シタル時ニ、發スル語。シマッタリ。「コレハしたり」

〜**しだり**（名）〔垂〕シダルコト。枝ノ、下ニ垂ルルモノ。シダレ。〔垂條〕〔垂枝〕萬葉集、十九「百敷ノ、大宮人ノ、蘰ケル、垂柳ハ、見レド飽カヌカモ」「しだり櫻」

〜**しだり-がほ**（名）〔爲たり顏ノ義ナラム〕爲スマシタリト誇ル顏色。得色。枕草子、十、百三十三段、うれしきもの「イミジウ、我レハト思ヒテ、したりがほナル人、謀リ得タル」源、三十四、上、若菜、上「大將ノ、したりがほニテ、カカル御ナカラヒニ、ウケバリテ」榮花物語、廿四、若枝「色ユルサレナドシタル人ハ、したりがほニ思ヒテ」和泉式部物語「今朝、したりがほニ思シタリツルモ」

しだり-ざくら（名）〔垂櫻〕彼岸櫻ト同種ニシテ、枝ノ、垂ルモノ、殊ニ、大木トナル、花ノ形モ、全ク同ジクシテ、亦、同時ニ開ク、但シ、色、薄シ。シダレザクラ。イトザクラ。散木集、春、櫻稍交、枝「明日モ來ン、しだり櫻ノ、枝細ソミ、柳ノ絲ニ、ムスボホレケリ」

しだり-は（名）〔垂葉〕シダル葉。下垂セル葉　夫木抄、廿九「ミワ注ゲ、ミツノ柏ノ、しだり葉ノ、永永シ夜ヲ、祝ヒ來ニケリ」

〜**しだり-やなぎ**（名）〔垂柳〕やなぎノ條ヲ見ヨ。

〜**しだり-を**（名）〔垂尾〕長ク垂ル尾。萬葉集、十一 三十四「山鳥ノ尾ノ、四垂尾ノ」

しだり-を-やなぎ（名）〔垂小柳〕前前條ノ語ニ同ジ。夫木抄、三「イッシカト、春ノ胡ケノ、空ノ色ニ、見エコソ渡レ、しだりをやなぎ」

〜**し-だ・る・ル・レ・ラ・リ・レ**（自動、四）〔垂〕〔下垂〕垂ル。下ル。枕草子、十一、百四十六段、きらきらしきもの「垂氷ノ、イミジウ、しだり」源、三十四、下、若菜、下「青柳ノ、僅カニしだり初メタラム心地シテ」金槐集、冬「三熊野ノ、ナギノ葉しだり、降ル雪ハ」散木集、四、冬「雪ヲ重ミ、しだれルミサノ、枝ナレバ」

し-だ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔垂〕前條ノ語ニ同ジ。

〜**し-たる・し・キ・ケレ・ク・ク**（形、一）したしたトナル。シナダレタリ。夫木抄、三十六「賤ノ女モ、大路井筒ニ、夕涼ミ、したるき膝ノ、衣スズキテ」

しだれ（名）〔垂〕シダルルコト。シダリ。

しだれ-ざくら（名）しだりざくらニ同ジ。

しだれ-やなぎ（名）しだりやなぎニ同ジ。嫗山姥（正德、近松作）三「枝垂櫻ヤ、絲櫻」

⁂**しだ・れる**（動）〔垂〕しだる（下二段）ノ口語。

〜**した-わらび**（名）〔下蕨〕春ニ、草ナドノ下ニ萌エ出デタル早蕨。枕草子、五、五十段「此下わらびハ、手ヅカラ摘ミタル」千載集、一、春、上「深山木ノ、陰野ノ下ノ、した蕨、萌出ヅレドモ、知ル人モナシ」

した-ゑ（名）〔下繪〕〔上繪ニ對ス〕（一）下書ノ畫。試圖（二）紙、又、絹ナドニ、繪ヲ描キテ、其上ニ、詩文ナドヲ書ク料トスルモノ。榮花物語、廿七、衣珠、御屛風トモニハ、黄ナル唐綾ヲ張ラセ給ヘリ、下繪シテ、サルベキ心バヘアルコトドモヲ、大納言、サマザマニ書キ給ヘリ」

〜**した-ゑ・む・ム・メ・マ・ミ・メ**（自動、四）〔下笑〕心中ニ、ヲカシク思フ。心ノ中ニテ、笑マシク考フ。萬葉集、六 十七「明石潟、潮干ノ道ヲ、明日ヨリハ、下咲シケム、家近ヅカバ」

〜**した-を**（名）〔前夫〕前ノ夫。（後夫ニ對ス）倭名抄、二 十九 夫妻類「前夫、之太乎」

〜**した-をぎ**（名）〔下荻〕他ノ草ナドノ下ニナリタル荻。源、四、夕顏 四十九「ホノメカス、風ニツケテモ、したをぎノ、半ハ霜ニ、ムスボホレツツ」狹衣、三、中 十九「折レカヘリ、起キフシワブル、下をぎノ、末越ス風ヲ、人ノ訪ヘカシ」

した-を・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）〔下折〕折レ、俯ス。千載集、四、秋、上「オシナベテ、草葉ノ上ヲ、吹ク風ニ、先ヅしたをるゝ、野邊ノ刈萱」同、同「イカナレバ、上葉ヲ渡ル、秋風ニ、下をれヌラム、野邊ノ苅萱」

したをれ（名）〔下折〕シタヲルルコト。折レ俯スコト。續後撰集、八、冬「下折れノ、音ノミ杉ノ、シルシニテ、雪ノ底ナル、三輪ノ山本」

しち（名）〔質〕〔字ノ音ハ、ちナルベシ〕（一）約束ヲ守ルベキ證トシテ、他ニ渡シオクモノ。違フレバ、其物ヲ償ヒトスル意ナリ。竹取物語「昔シ、黄金賜ハヌモノナラバ、彼ノしち、返シタベ」信長記、六、室町殿重御謀叛事「人質ヲサシ出ダシ、赤手ヲスッテ、降參セラル間」（二）物ヲ質トシテ、金錢ヲ貸借スルコト。カタ。「質ヲオク」「質屋」「質物」

し-ち（名）〔四知〕〔支那、後漢ノ楊震ノ故事ニ起因ス、下ノ出典ヲ見ヨ〕二人ノ間ノミ、密事ヲ知リテ、他人ハ知ラズト云フハ、アラズ、天、知リ、神、知リ、我レ、知リ、子、知ル、ト、云フコト。後漢書、楊震傳「遷東萊太守、當之、郡道經昌邑、故所學茂才王密、爲昌邑令、謁見、懷金十斤、以遺震、震曰、故人知君、君不知故人、何也、密曰、暮夜無知者、震曰、天知、神知、我知、子知、何謂無知、密愧而出、贊曰、楊氏載德、仍世柱國、震畏四知、秉去三惑」（秉ハ、震ノ子ナリ）

し-ち（名）〔至智〕〔至知〕至極ノ智識。コヨ無キ知慧。莊子、外物篇「雖有至知、萬人謀之」越絕書（漢、袁康）「有至智之明者、必破庶衆之議」

し-ち（名）〔至治〕極メテヨク、ヲサマルコト。泰平。書經、周書、君陳篇「至治馨香、感于神明」

し-ち（名）〔死地〕（一）ノガレ、生キ難キ場處。極メテ危キ地。九死一生ノ地。孫子、九地篇「投之亡地然後存、陷之死地然後生」（二）死ヌベキ場所。シニバショ。孟子、梁惠王、上篇「吾不忍其觳觫、若無罪而就死地」

し-ち（名）〔詞致〕言語ノ、オモムキ。文章ノ趣致。隋書、蘇威傳「詞學與諸儒論議詞致」

しち（數）〔七〕ナナ。ナナツ。詩經、召南、摽有梅篇「摽有梅、其實七兮」

〜**しぢ**（名）〔榻〕車輿ノ轅ノ臺。蹈臺、腰掛ノ類。倭名抄、十一 四 車具「榻、之知」戀歌ニ、多ク、榻の端書ト詠メルハ、昔シ、男、女ニ懸想シテ、九十九夜マデ通ヒテ、車ノ榻ニ、其數ヲ記シタリシニ、百夜ニ滿ツル夜、障ル事アリテ、逢ハズナリシ故事ナリト云フ。續古今集、十一、戀、二「百夜マデ、逢ハデ生クベキ、命カハ、書キモ始メジ、しぢのはしがき」新千載集、十三、戀、三「ツラカリシ、百夜ノ數ハ、忘ラレテ、猶頼マルル、しぢのはしがき」

しち（名）［支持］ ササヘ、モツコト。支ヘテ、維持スルコト。杜甫詩「形容［illegible］」

しち（名）［質］ 實ト云フニ同ジ。マコト。源、四十七、早蕨「サレド、しちノ御心バヘハ、イトアレニ、［illegible］クゾ、思ヒキコエ給ヒケレ」同、三十四、上、若菜、上「［illegible］しちノ御有ヨリモ、［illegible］ナバ、［illegible］ジキモノニ［illegible］」［illegible］「［illegible］ハ、ヨウセズバ、しちノ御子ニモアラジカシ」

しち（名）自治 （一）自分ニテ、自身ノ事ヲ處分スルコト。自己ニテ、身ヲ治ムルコト。［illegible］（二）自然ニ、治マルコト。尹文子「道用、則無爲而自治」（三）人民、自ラ、其分内ノ政治ヲナスコト。（政府ノ治ニ對ス）「自治制ヲ施ク」「［illegible］ノ自治」

しちえう（名）［七曜］ （一）支那ノ天文説ニ、日、月ト、水、火、木、金、土、ノ五星トヲ併セ云フ稱。［illegible］（二）一週、七日ノ日付ニアル稱。第一日ヲ日曜日トシ、順ヲ追ヒテ、月曜日、火曜日、水曜日、木曜日、金曜日、トシ、第七日ヲ土曜日トス。

しちがふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［仕違］ シソコナフ。ナシ、過マル。太平記、三十四、［illegible］合戰ハ、［illegible］カラント知ルベシ、若シ、合戰仕違ヘテ、引キ［illegible］シナバ」

しちきくわん（名）［自治機關］ 自治制ヲ施ケル團體、意思ヲ表示スル機關。コレニ、地方團體ト、公共組合トノ二ツアリ、地方團體ノ機關ハ、府縣會、市町村會、府縣參事會、市參事會、市町村長、等ノ類ナリ。公共組合ノ機關ハ、組合員全體ガ公民ナレバ、其執行者ハ、理事、其他ノ代表者ヲ以テス。（日本百科大辭典）

しちぎやうせい（名）［自治行政］ （官治ノ行政ニ對ス）自治制ノ團體ニヨル行政。即チ、國家間接ノ行政ニシテ、國家ガ、自治團體ナル公法上ノ人格ヲ認メ、コレニ委任シテ、自己ノ行政トシテ、行ハシムルモノ。（日本百科大辭典）

しちきよ（名）［七去］ 支那ニテ、妻ヲ去ルベキ、七箇條、即チ、父母ニ順ナラザルコト、子ナキコト、多言ナルコト、竊盜スルコト、淫亂ナルコト、嫉妬ナルコト、惡疾アルコト。大戴禮、本命篇「婦有七去、不順父母去、無子去、淫去、妬去、有惡疾去、多言去、竊盜去」

しちく（名）［絲竹］ いとたけノ條ヲ見ヨ。［illegible］「［illegible］イサメノ絲竹ノ調」

しちく（名）［紫竹］ 苦竹ノ一種、生ヒタル年ハ、緑ニシテ、翌年ヨリ、紫黑色ニ變ハルモノ。

しちくさ（名）［質種］ 質物トスベキ物。シチダネ。典物。［illegible］（文化、馬琴）

しちぐつ（名）［七月］ 年ノ、第七ニ當ル月。文月。フヅキ。「家咲ノ露草」

しちけい（名）［七經］ けいしよ（經書）ノ條ヲ見ヨ。

しちけう（名）［七教］ （一）支那ニテ、人道ニ關スル、七ツノ教。即チ、父子、兄弟、夫婦、君臣、長幼、朋友、賓客、ノ道。（禮記、王制篇「明七教以興民德」）（二）民ヲ治ムル根本ノ、七ツノ教。（下ノ出典ヲ見ヨ）小學紺珠（宋、王應麟）「七教、家語、孔子曰、七教者、治民之本、曰、敬老、尊齒、樂施、親賢、好德、惡貪、廉讓」

しちけん（名）［七賢］ 七人ノ賢人。支那ノ晉ノ代ニ於ケル、竹林ノ七賢人ノ稱。（下ノ出典ヲ見ヨ）世說、任誕篇「陳留阮籍、譙國嵇康、河内山濤、沛國劉伶、陳留阮咸、河内向秀、琅邪王戎、七人、常集於竹林之下、肆意酣暢、故世謂竹林七賢」

しちげん（名）［七絃］ 次次條ノ語ノ略。南史、江夏王鋒傳「［illegible］云云、江夏［illegible］七絃而已」

しちけん（名）［自治權］ 地方自治團體ノ、法規ニヨリテ、其ノ職務ニ從屬セシメラレタル管轄區域内ノ行政事務ヲ、自己ノ機關ニヨリテ處分スル權利

しちげんきん（名）［七絃琴］ 琴ノ一種。二絃琴ニ似テ、絃ノ、七筋アルモノ。晉書、［illegible］撫七絃琴［illegible］」

しちけんじん（名）［七賢人］ 七賢ニ同ジ。

しちこ（名）［七古］ （七言古詩ノ略）詩ノ、古詩ノ、七言ナルモノ。

しちごさん（名）［七五三］ （一）祝儀ノ物事ニ用キル數。一、三、五、七、九ヲ、陽ノ數トシ、其中ノ三ツヲ用キル、陽氣ハ、物ヲ成生セシムレバ、取ルト云フ「七五三ノ祝」（二）注連。（シメナハ）（三）次條ノ語ノ略。

しちごさんのぜん（名）［七五三膳］・饗應ニテ、七箇、五箇、三箇、ノ數ノ膳部ヲ馳走スルコト。（下ノ出典ヲ見ヨ）略シテ、七五三。貞丈雜記、六、飲食「七五三ノ膳ト云事、七トハ、めしニテモアレ、湯漬ニテモアレ、七ノ膳マデ、出スナリ、五トハ、初獻（雜煮、ソヘ肴、鯉ノ羹）、二獻（饅頭、ソヘ肴、雞ノ羽盛）、三獻（鴨ノ羹）、四獻（ムシ麥、ソヘ肴、播燒）、五獻（羊羹、又ハ、スイセンカン、ソヘ肴、鯛ノ一コン煮）、三トハ、キヤラノ膳也、三ノ膳マデ出スナリ、料理調様、庖丁人ノ家ニ定法有、右ハ、大草流也、流ニヨリテ、替ルベシ」御湯殿上日記、慶長八年三月九日「御能十一番アリ、大夫衆、大夫參ル、コン五コン、七五三ノ供御、參ル」

しちごん（名）［七言］ し（詩）ノ條ヲ見ヨ。

しちざ（名）［七座］ 鎌倉、室町時代ニ於ケル、七箇ノ商店。即チ、絹の座、炭の座、米の座、檜物座、千朶櫃座、相物座、馬商座。或ハ云フ、魚、米、器、鹽、刀、衣、藥、ナリト。（庭訓往來、四月「［illegible］七座之店」）

しちさうおう（名）［四地相應］ しじんさうおう（四神相應）ニ同ジ。四神ノ條ヲ見ヨ。［illegible］左、青龍、右、白虎、前、朱雀、後、玄武、一ツモ闕ケス、四地相應ノ靈地ナリ」

しちさん（名）［七三］ 芝居ノ花道ニテ、舞臺ヘ三分、揚幕ヘ七分目ノ所ヲ云フ。

しちし（名）［七時］ さきノ條ヲ見ヨ。

しちしち（名）［七七］ 次條ノ語ノ略。陸［illegible］（清、［illegible］）俗、以人死每七日［illegible］忌、至七七四十九日［illegible］則卒哭」錦丸（元祿、近松作）五「今月今日、七七ノ、大結願ト申スニハ」

しちしちにち（名）［七七日］ ナナナヌカ。四十九日。齋七。［illegible］記（清、［illegible］）「今人以初喪四十九日、居柩側、謂之七七日、又按、［illegible］至七七、皆爲［illegible］令七人出家」

しちじふ（數）［七十］ 十ヲ、七倍ニセル數。ナナソ。ナナソヂ。

しちじふにこう（名）［七十二候］ きこう（氣候）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しち-しやう (名) 【七生】 七タビ、生レカハルコト。 四十二章經「須陀洹者、七死七生、便證ニ阿羅漢ニ」 太平記、十六、正成兄弟討死事 七生マデ、只、同ジ人間ニ生マレテ、朝敵ヲ滅サバヤトコソ存ジ候へ」「七生マデノ勘當」

しち-じやう (名) 【七情】 喜ブコト、怒ルコト、哀シムコト、懼ルルコト、愛ヅルコト、惡ムコト、欲スルコト、ノ七ツノ情。 禮記、禮運篇「何謂ニ人情、喜、怒、哀、懼、愛、惡、欲、七者、弗レ學而能、云云、治ニ人七情、脩ニ十義ニ」 釋氏要覽「喜、怒、憂、懼、愛、憎、欲」

しち-しゆ (名) 【七衆】 佛ノ弟子トナリタル、七種ノ人。即チ、比丘、比丘尼、式叉摩那、沙彌、沙彌尼、優婆塞、優婆夷、ノ稱。

しち-しゆう (名) 【七宗】 佛敎ノ、七ツノ宗派。即チ、律宗、法相宗、三論宗、華嚴宗、天台宗、眞言宗、禪宗、ノ總稱。 類聚三代格、三、承和二年十月十五日、太政官符、應レ令ミ天台宗傳ニ弘諸國ニ事「凡、諸宗業、歷レ一不レ可、花嚴、天台等七宗年分度者、受戒之後、各試ニ其業ハ依レ次差ニ任立儀、講、及、諸國講師ニ者」

しち-しよ (名) 【七書】 支那ノ、七ツノ兵書。即チ、孫子、吳子、司馬法、尉繚子、三略、六韜、李衞公問對ノ總稱。 宋史、選擧志「凡武學生、習ニ七書、兵法、騎射ニ」 沙彌洞然長狀「兵書七書之事、六韜三略、第一、第二之卷、候之哉」

しち-しよ (名) 【七菹】 七種ノ漬物。即チ韭、菁、茆、葵、芹、菭、筍ノ總稱。 書言字考節用集、十、數量門「七菹」注「韭、菁、茆、葵、芹、菭、筍」

しち-しよく (名) 【七色】 いろ(色)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 江淹、構ニ象臺ニ詞「雲八重兮七色」

しち-せい (名) 【七聲】 音樂ノ調子ノ、七ツノ聲。即チ、宮、商、角、徵、羽、及、變宮、變徵、ノ總稱。 魏書、樂志「聲有ニ七聲ハ調有ニ七調ニ」 著聞集、六、管絃歌舞「管絃ノヲコリ、其、傳ハレル事、久シ、淸明、天ニカタドリ、廣大、地ニカタドル、始終、四時ニカタドリ、固淀、雨ニカタドル、宮商角徵羽ノ五音アリ、或ハ、五行ニ配シ、或ハ、五常ニ配ス、或ハ、五事ニ配シ、或ハ、五色ニ配ス、凡、物トシテ通ゼズト云フコトナシ、又、變宮、變徵ノ二聲アリ、合テ、七聲トス」

しち-せい (名) 【自治制】 公共團體ヲ設ケ、之レニ、國家ノ政治ノ一部分ヲ委任シテ、處置セシムル制度。

しち-せいぐわ (名) 【七淸華】 淸華ノ家柄ノ、七ツ。即チ、花山院、西園寺、大炊御門、久我、轉法輪(三條)、德大寺、菊亭、ノ稱。 書言字考節用集、十、數量門「七淸華」注「久我、花山院、德大寺、西園寺、大炊御門、轉法輪、菊亭」

しち-せき (名) 【七夕】 五節句ノ一、陰曆七月七日ナリ。(たなばたまつりノ條、見合ハスベシ)

しち-ぜつ (名) 【七絕】 〔七言絕句ノ略〕 詩ノ、絕句ノ、七言ナルモノ。 文體明辯(明、吳訥)十六「按、絕句詩、原ニ於樂府ハ云云、七言則如ニ挾悲歌、鳥栖曲、怨詩行等篇ハ並下及ニ六代ハ述作漸繁、唐初穩順、聲勢定爲ニ絕句ハ絕之爲レ言、截也、即ニ律詩ニ而截也」 淡窗詩話、上「當今、三都ニ於テ流行スル體、七絕ヨリ盛ナルハナシ、是レ、貴人、又ハ、富豪ノ町人ヲ、其社中ニ引入レンガ爲メノ計策ナリ」

しち-ソウ (名) 【七僧】 法會ノ時ノ、七種ノ僧官。即チ、講師、讀師、呪願師、三禮師、唄師、散花師、堂達、ノ稱。 北史、張元傳「請ニ七僧ハ燃ニ七燈ニ」 源、三十七、鈴蟲五「七僧ノ法服ナド、スベテ、大方ノ事ドモハ、皆、紫の上、セサセ給ヘリ」 榮花物語、十五、疑「法華經百部、ソノ中ニ、我ガ御手ヅカラ書キテ、一部讀マセサセ給ヘリ、七僧、百僧ナド、セサセ給ヒ」 狹衣、三、下五「講師ハ、山ノ座主ナリケリ、請僧ハ、六十人、七僧ナドモ、ナベテナラヌヲゾ、セサセ給ヒケル」

しち-ぞく (名) 【七族】 緣組ノ、七種ノ族。(出典ヲ見ヨ) 小學紺珠(宋、王應麟)「七族、父之姓、姑之子、姉妹之子、女之子、母之姓、從子、妻之父母」

しち-だいじ (名) 【七大寺】 大和國ノ、七ツノ大寺。即チ、東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、藥師寺、法隆寺、西大寺、ノ稱。 將門記「本天皇(朱雀)請三十日之命ハ於ニ佛天厥內ハ屈ニ名僧ハ於ニ七大寺ニ祭禮ニ」 宇津保物語、菊宴九十九「七大寺ヨリ始メテ、ラウケ所、比叡、高雄ニ誦經ス」 太平記、二、天下怪異事「七大寺詣ヅル、京家ノ靑侍ナンドノ、女性ヲ具足シタル體ニ見セテ」

しち-たう (名) 【七島】 (一)しちたうゐノ略。(二)しちたうおもてノ略。

しち-だう (名) 【七道】 東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道、ノ稱。今、北海道ヲ併セテ、八道ノ稱モアリ。 字類抄、地儀「道、ミチ、七道、東海道、東山道、南海道、西海道、北陸道、山陰道、山陽道」

しち-だう (名) 【七堂】 次次條ヲ見ヨ。

しち-たう-おもて (名) 【七島表】 七島藺ニテ織リタル疊表。琉球表。略シテ、しちたう。

しち-だう-ガラン (名) 【七堂伽藍】 山門、佛殿、法堂、方丈、食堂、浴室、東司、皆、具ハリタル伽藍ノ稱。(或ハ、方丈、食堂ヲ、僧堂、廚、トス、猶、數種アリ、出典ヲ見ヨ)略シテ、しちだう。 安齋隨筆、後編、十四「禪家七堂ハ、佛殿、法堂、僧堂、庫裏、三門、西淨、浴室、眞言七堂ハ、金堂、講堂、五重塔、大門、經藏(鼓樓トモ)、中門、鐘樓、七堂伽藍、庫裏、摠堂、西淨、山門、八塔、佛殿、湯屋、唐樣七堂、東方丈、西方丈、鐘樓、鼓樓、方塔、佛殿、山門」

しち-たう-ゐ (名) 【七島藺】 草ノ名、薩摩ノ南海ノ七島ノ地ニ產ズレバ、名トス。元ハ、琉球ノ產ナレバ、琉球藺トモ云フ、今ハ、四國、九州ニモ、多シ、莖、三稜ニシテ、かやつりぐさニ似テ、長大ナリ、高サ四五尺ニ及ブ、葉、短クシテ、互生ス、梢ニ、穗ヲ生ズ、茶褐色ニシテ、亦、かやつりぐさノ穗ニ似テ、大ナリ、莖ヲ刈リテ、乾シテ、疊表ヲ織ル、琉球表(又、七島表)ト云フ、粗ナレドモ、强シ。略シテ、しちたう。 茳芏

しち-だね (名) 【質種】 しちくさニ同ジ。

しち-ちん (名) 【七珍】 しちほう(七寶)ノ(一)ニ同ジ。 方丈記「資財ヲ取リ出ヅルニ及バズ、七珍、萬寶、サナガラ、灰燼トナリニキ」 平家物語、一、我身榮花事「七珍、萬寶、一ツトシテ、闕ケタルコトナシ」

しち-ぢゆう-ほう-じゆ (名) 【七重寶樹】 佛敎ノ語、極樂國ニアリト云フ、七重ニ整列スル、七寶ノ樹。即チ、黃金ノ根、紫金ノ莖、白銀ノ枝、瑪瑙ノ條、珊瑚ノ葉、白玉ノ華、眞珠ノ菓、ナリ。 元好問詩「七重寶樹圍ニ金界ニ」 觀无量壽經「一一觀レ之、作ニ七重寶樹想ニ」 曾我五人兄弟(元祿、近松作)四「假ヘバ、優曇華、曼陀羅華、七重寶珠ノ花トテモ」

しち-でう (名) 【七條】 次條ノ語ノ略。 顯密威儀便覽、上「官僧、七條」

しち-でう-の-ケサ (名) 【七條袈裟】 けさ(袈裟)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 玄蕃寮式「講師法服、七條袈裟一條」

しち-てん-ばつ-たう (名) 【七顚八倒】 (一)七度、起キテ、八度、倒ルルコト。幾度モ、コロビ倒ルルコト。紛亂ノ、烈シキヲ云フ語。ナナコロビ、ヤオキ。 朱子語錄「當ニ商之季ハ上下崩頽、七顚八倒」 (二)苦痛ニ

絕エズシテ、悶絕スルコト。ノタ打チマハルコト。展轉反側。聖德太子繪傳記(享保、近松作)一「七顚八倒、悶絕シ」

しち-とく (名) [七德] (一)武ノ、七ツノ德。即チ、暴ヲ禁ジ、兵ヲ戢メ、大ヲ保チ、功ヲ定メ、民ヲ安ンジ、衆ヲ和ラゲ、財ヲ豐カニスルコト。左傳、宣公十二年「楚子曰、夫武、禁暴、戢兵、保大、定功、安民、和衆、豐財者也、武有七德、我無一焉、何以示子孫」太平記、十二、公家一統政道事「天下、已ニ鎭マッテ、備七德之餘威、成九功之大化」(二)詩ノ、七ツノ德。詩式 七德、識高古、典麗、風流、精神、質幹、體裁、[illegible]」

しちとくのまひ (名) [七德舞] 唐ノ太宗ノ作ノ舞曲ノ名。秦王破陣樂ノ一名。唐書、禮樂志「七德舞者、本名秦王破陣樂、太宗爲秦王、破劉武周、軍中相與作秦王破陣樂曲、及即位、宴會必奏之」徒然草、二百廿六段「信濃前司行長、稽古ノ譽アリケルガ、樂府ノ御論議ノ番ニ召サレテ、七德の舞ヲ、二ツ、忘レタリケレバ、五德冠者ト、異名ヲツキケル」

しち-どやき (名) [七度燒] 鍍金ノ、最モ精ナルモノ、數度、施シテ、燒キツク。[illegible]一切ノメッキノ仕ヤウ、當ノ金ネノ厚キホド、色、潤ヒナルハ、[illegible]、七ドメナト云フモ、[illegible]ノバ、ホフナルベシ」

しぢのはしがき (名) [榻端書] しぢ(榻)ノ條ヲ見ヨ。

しち-ふくじん (名) [七福神] 七柱ノ、福ノ神。即チ、大黑天、蛭子ノ神、毘沙門天、辨財天女、福祿壽、壽老人、布袋和尚、ノ稱。[illegible]一「世ニ、七福神ノカケ物ト云フモノアリ、淨土ノ古法、日本ノ佐見、天竺ノ吉祥天女、倦サズ、モラサズ取コミヤウハ、貪欲者流ノ物好ナルベシ」

しち-ぶつ (名) [七佛] 佛經ノ語。過去莊嚴劫ノ三佛ト、現在賢劫ノ四佛トヲ云フ。即チ、毘婆尸佛、尸棄佛、毘舍浮佛、拘留孫佛、俱那含牟尼佛、迦葉佛、釋迦牟尼佛、ノ稱。大灌頂神呪經 七佛八大菩薩」

しちぶつ-やくし (名) [七佛藥師] (一)佛經ノ語。七體ノ藥師。即チ、善稱名吉祥王如來、寶月智嚴光音自在王如來、金色寶光妙行成就如來、無憂最勝吉祥如來、法海雷音如來、法海勝慧遊戲神通如來、藥師瑠璃光如來、ノ稱。拾玉集(慈圓)五「建久四年正月ニ、七佛藥師法トテ、内裏ニテ修ヒシニ」(二)京都ノ、七所ノ藥師。即チ、祇園觀慶寺、八幡護國寺、太秦寺、嵯峨法雲寺、延曆寺、珍皇寺、平等寺、ノ稱。[illegible]應永三十二年八月四日 今日門近臣七人、[illegible]參詣七佛藥師」

しち-べん (名) [七辨] 七人ノ辨官。即チ、左右ノ大、中、小辨ト、權辨トノ稱。太平記、十一、[illegible]七辨、五位、六位、内外ノ諸司、醫、陰ノ兩道ニ至ルマデ、我劣ラジト、參リ」

しち-ほう (名) [七寶] (一)ナナツノタカラ。七種ノ寶物。即チ、金、銀、瑠璃、玻璃、硨磲、珊瑚、瑪瑙、ノ稱(般若經)七珍。宋史、[illegible]平家物語、六、慈心坊事「七寶所成ノ大極殿アリ」(二)しっぽうやきノ條ヲ見ヨ。

しち-ほうたふ (名) [七寶塔] 七重ノ寶塔。台記、久安六年五月 當時御所、押小路殿造營、安置七寶塔一基」

しち-ほのし (名) [七步詩] 〔世說、文學篇「魏文帝、嘗令東阿王七步中作詩、不成行法、應聲便爲詩曰、云云、帝深有慚色」(文帝ハ、曹丕、東阿王ハ、弟、曹植ナリ)ノ故事ヨリ出ヅ〕詩文ノ才ノ、敏ナルコト。詞章ノ才ノ、優レタルコト。北史、魏收傳「[illegible]」太平記、十二、[illegible]一層、優レタルヲ、五步之詩ト云フ。[illegible]

しち-まん (名) [七慢] 〔慢ハ、他ヲ凌グ心ヲ云フ〕佛教ノ語。慢、過慢、慢過慢、我慢、增上慢、下劣慢、邪慢ノ稱。

シチン (名) [繻珍] 〔唐音、七絲緞ノ略、葡語、Setim. 佛語、Satin. 蘭語、Satijn.〕緞子ノ一種、舶來ス、細カキ花文ヲ織出シ、絲ニ、ネバリ少ナク、黃赤ノ雜色、多シ。又、しゅちん。七絲緞

しぢん (名) [市塵] 市街ニ立ツ塵埃。市中ノ雜閙。出世景淸(元祿、近松作)一「因市ノ說法、寶通ノ聲ハ、市塵ノ言語ヨリモ、多カラシム」「市塵ヲ、郊外ニ避ク」

しぢめ (名) [實目] マジメ。ジッテイ。世間娘氣質(享保、其磧)五「しぢめナル宗公ハ、迚モセヌ心ナレバ」

しち-めんだう (名) [七面倒] 甚ダ、メンダウナルコト。面倒クサキコト。浮世風呂(文化、三馬)二、上「嫁ヲ、姑ノヤウニアシラウ氣ニナレバ、ト六面倒ナ事ハネエ」

しち-めんてう (名) [七面鳥] 鷄ノ類ニシテ、甚ダ、大ナルモノ、北亞米利加ニ野生シ、今ハ、諸國ニ畜ヒテ、肉ヲ賞美ス。面色、時時、變ハルガ故ニ、名アリ。羽色、種種ニシテ、尾ヲ開ケバ、團扇ノ如シ、咽ニ肉アリテ、垂ル。火雞

しち-もつ (名) [質物] 金ヲ借ルニ、質トシテ渡ス物。典質。典物。[illegible]質物ニ付以テ一金[illegible]太平記、三十五、北野[illegible]サヤウノ年ハ、家中ニ、每事、倹約ヲ行ヒテ、一切ノ質物共モ、古キ物ヲ用ユ」

しち-や (名) [質屋] 質物ヲ取リテ、金ヲ借スヲ業トスル商家。ナナツヤ。一六銀行。典舖 人倫訓蒙圖彙、四「質屋、萬ヅ[illegible]日利ニ應ジテ、金銀ヲ貸ス、流ノ時刻ニ及バズ、質人ヲ取テ、コレヲ證據トシテ、札ヲ出ス也」

しち-や (名) [七夜] 兒ノ、生レテ、七日ニ當ル日ヲ祝フ稱。[illegible]先途ニ中使ヲ[illegible]七夜、仰ニ内藏寮ニ令設[illegible]源、三十五、柏木「七夜ハ、内ヨリ、ソレモ、オホヤケザマナリ」貞丈雜記、一、祝儀「小兒誕生ノ當日ヲ、初夜ト云フ、云云、七日目ヲ、七夜ト云フ、此日每ニ祝フヲ、うぶやしなひの祝ト云フ」

しちやう (名) [使廳] 撿非違使ノ廳。[illegible]原抄、下「撿非違使 注 此云使廳、本所乃賀茂[illegible]」十訓抄、下、十二、五十五條「後冷泉院御時、源中納言經衡卿、撿非違使別當ニテ、十五年マデ、使廳ヲ行ハレケリ」

しちやう (名) [支廳] 出張ノ役所。

しちやう (名) [厮丁] 仕丁、駕輿丁ノタメニ、炊事ノ役ヲ助クルモノ。賦役令「凡仕丁者、每五十戶二人、以一人充厮丁」續紀、三十六、寶龜十一年三月「諸國仕丁、駕輿丁等、厮丁及[illegible]」

しちやう (名) [紙帳] 紙ニテ作レル蚊帳。カミノトバリ。[illegible]五十年忌歌念佛(寶永、近松作)中「セメテ、嫁入リノ紙

帳ナリト、アヤカリタイ」

し-ちゃう（シチヤウ）（名）弛張　ゆるぶるコトト、はるコト。ユルヤカナルト、オゴソカナルト。緩急。寛嚴　韓非子、解老篇「萬物必有盛衰、萬事必有弛張」　太平記、十九、相摸次郎時行勅免事「我朝ニハ、[illegible]朝、其外、浩浩タルタグヒ、勝ケテ計フベカラズ、用捨無偏、弛張有時、明王ノ撰士德ナリ」

し-ちゃう（シチヤウ）（名）市長　市役所ノ長。市政ノ執行ヲ指揮、監督ス。「東京市長」

し-ぢゃう（シジヤウ）（名）市場　市場（イチバ）ニ同ジ。

し-ぢゃう（シジヤウ）（名）詞場　文壇ノ場所。詩人、文士ノ仲間。文壇。詞林。　趙嘏詩「莫下將ニ芸閣ノ經ヲ科第上須中作ニ詞場第一人上」　太平記、十二、聖廟事「貞觀十二年三月廿三日、對策、及第シテ、自ラ、詞場ニ、桂ヲ折リ給フ」

じ-ちゃう（ジチヤウ）（名）仕丁　（一）ツカヘノヨボロ。古ヘ、諸國ヨリ貢セシメテ、官衙、及、封戸ノ主ノ使役スル丁夫。　賦役令、集解、十四「朱云、仕丁、謂ニ直丁、駈使丁、等一、國差日、總名ニ仕丁一耳」　（二）又、主殿寮ニ屬シテ、禁中ヲ掃除シ、庭燎（ニハビ）ヲ焚クナド、雜役ニ使ハルル者。　民部省式「凡、毎月晦日、令ニ諸司仕丁掃ニ除宮中一（主殿寮仕丁者、以ニ廿五人一充レ之）若、有ニ闕怠一者、留ニ其月粮一斗ハ申ニ官返上」

じ-ちゃう（ジチヤウ）（名）次丁　老年、及、疾病アル丁（ヨボロ）。　東大寺正倉院文書、廿二、美濃國太寳二年戸籍「戸主、伯尼麻呂、年六十三、次丁」戸主、宮麻呂、年五十三、足折殘疾」

し-ちゅう（名）市中　イチノナカ。マチナカ。　史記、刺客傳「高漸離擊レ筑、荊軻和而歌、於ニ市中一相樂也」

し-ちゅう（名）支柱　ササヘバシラ。ツッカヒバシラ。ヒカヘバシラ。　後漢書、章帝紀「支ニ柱橋梁ニ」「坑口ノ支柱」

し-ぢゅう（シジユウ）（名）四重　佛經ノ語、四重罪ノ略、卽チ、殺生、偸盜　邪淫、妄語、ノ稱。　太平記、二、爲明詠歌事「四重、五逆ノ罪人ノ、燋熱、大燋熱ノ炎ニ、身ヲ焦ガシ」

じ-ちゅう（ジチユウ）（名）寺中　（一）テラノウチ。寺内（ジナイ）。（二）俗ニ、塔頭（タッチュウ）。

し-ぢゅうざい（シジユウザイ）（名）四重罪　前前條ヲ見ヨ。

し-ちゅう-じゅう（名）始中終　始哀終　はじめト、なかト、をはりト。始ヨリ、終リマデ。シュッチュウ。　左傳、哀公七年「君子之謀也、始衷終皆擧、而後入焉」　下學集、下、言辭門「始中終、シチウジュウ」

し-ぢょ（シジヨ）（名）士女　をとおト。をんなト。男女　書經、武成篇「肆予東征、綏ニ厥士女ニ」

し-ぢょ（シジヨ）（名）四女　（一）四人ノ女。（二）第四ノ女（ムスメ）。「三男、四女アリ」「某ノ四女」

じ-ぢょ（ジジヨ）（名）次女　（一）第二ノ女（ムスメ）。「某ノ次女」（二）古ヘノ戸籍法ノ一、卽チ、天平寳字以前ハ、十七歳以上、二十一歳以下ノモノ、又ハ、六十一歳以上、六十六歳以下ノモノヲ云ヒ、以後ハ、十八歳以上、二十二歳以下ノモノ、又ハ、六十歳以上、六十五歳以下ノ女子ノ稱。　東大寺正倉院文書、廿二、美濃國、太寳二年戸籍「戸主母、六人部乎與賣、年、六十二、次女」　同、三十八、筑前國、太寳二年戸籍　女、卜部比佐豆賣、年、拾捌歳、次女」　同、廿、下總國、葛飾郡、大島郷、戸籍「女、孔王部古富根賣、年、拾玖歳、次女」

じ-ぢょ（ジジヨ）（名）侍女　コシモト。マカダチ。侍婢。　白居易詩「春風侍女護ニ朝衣ニ」　國性爺合戰（正德、近松作）一「御乳附ノ役人、其外、乳母、侍女、阿監、役役ノ官女、附添テ」

し-ちょう（名）輜重　〔漢書、韓安國傳「擊ニ輜重ニ」註「輜、謂ニ衣車ハ重、謂ニ載重ハ故、行者之資、總曰ニ輜重ニ」〕　（一）軍ニ送ル、小荷駄ノ車ニ。　史記、淮陰侯傳「從ニ閒路ハ絕ニ其輜重ニ」　漢書、韓安國傳「往擊ニ輜重ハ必與ニ單于ニ戰」　（二）旅行スルモノノ荷物。　老子、廿六章「君子終日行、不レ離ニ輜重ニ」

し-ちょう（名）至重　至ッテ、重ンズベキコト。極メテ、大切ナルコト。

〔じちよう（名）實用　律儀（リチギ）ノ意カ。　伊勢物語、百三段「昔シ、男アリケリ、イト忠（マメ）ニ、じちようニテ、アダナル心、無カリケリ」

じ-ちょう（ジシヨウ）（名）自重　（一）己レノ身ヲ、大切ニスルコト。自愛。　詩經、小雅、北山之什、無將大車篇「無レ思ニ百憂ニ、祇自重兮」　（二）己レノ品位ヲオトサヌヤウニ、輕輕シクセザルコト。　歐陽修、答ニ范龍圖ニ書「慷慨自重之士、未レ得レ出ニ於門下ニ也」「輕擧ヲ戒メ、切ニ自重ヲ勸ム」

しちょう-へい（名）輜重兵　輜重ノ（一）ノ運搬、及、監視ニ任ズル兵。

しちょう-ゆそつ（名）輜重輸卒　モト、輜重兵ニ從屬シテ、輜重ノ運搬ニ從事スル兵卒。今ハ、輜重輸兵ト云フ。

し-ちょく（名）司直　〔公明、正直ヲ司ル義〕　裁判ヲ、ツカサドルコト。又、其人。　詩經、鄭風、羔裘篇「彼其之子、邦之司直」「司直ノ府」

〔しち-らい（名）失禮　しつれい（失禮）ト云フニ同ジ。　宇津保物語、嵯峨院九十「天下ノしちらいヲ、ツカフマツリアヘリ」　辨内侍日記、下、八月十六日「大納言、三位殿ハ、御しちらいノタビニ、コレハ、家ノヤウヤウト、仰セラルルヲ」

しちり-けっかい（句）七里結界　（一）四方七里ヲ、結界ス。（結界ノ條ヲ見ヨ）（二）俗ニ、しちりけっぱいナド訛リテ、嫌ヒ防ギテ、近ヅケヌ意ニ用キル。　室町千疊敷（享保、近松作）二「讒言申ス人ハ、七里けっぱい」又、けっかい（結界）ガ、訛リテ見敗（ケンパイ）、又ハ欠敗トモ云フ。

しちり-けっぱい（名）前條ノ（二）ヲ見ヨ。

しちりつ（名）七律　〔七言律詩ノ略〕　詩ノ律ノ、七言ナルモノ。律ノ條ヲ見ヨ。

しちり-つぎやど（名）七里繼宿　江戸時代、東海道ニテ、七里毎ニ設ケテ、人馬ノ宿繼（シュクツギ）ノ用ニ備フル宿（ヤド）。

しちり-ひきゃく（名）七里飛脚　江戸時代、東海道ニ、七里繼宿ヲ設ケ、其處ニ詰メ居リ、尾州家、又ハ、紀州家ノ急使トナリタル飛脚。　道中故實、六、尾州紀州七里飛脚之事「東海道宿宿之内、尾張殿用向飛脚相勤候者共罷在、右宅ヲ、七里役宿ト唱候由、云云、七里飛脚罷在候宿宿、六郷新町、藤澤、大磯、小田原、箱根、三島、元吉原、由比、小吉田、岡部、金谷、掛川、見付、蒲原、二川、法藏寺、池鯉鮒」

しち-りん（名）〔火氣、熾ンニシテ、炭ノ價、七厘ニテ、煮ルニ足レバ云フトゾ〕　涼爐（コンロ）ノ類、土製ニシテ、粗大ナルモノ、廚ノ用トス。今ハ、鐵製モアリ。

じちゐき（ジチイキ）（名）日域　日出ノ國。日本ノ異稱。　平治物語、一、唐僧來朝事「汝、生身觀音ヲ拜マント思ハバ、日域ニ行キテ、那智山ト云フ所ニ赴ケ」　曾我物語、一、神代始事「ソレ、じちいき秋津洲ハ、是レ、國常立尊ヨリ、事オコリ」

しつ（名）失　（一）アヤマチ。アヤマリ、過失。　諸葛亮、後出師表「先帝謀ニ操、能、猶有ニ此失ニ」　十訓抄、下、十、小大進「神木ヲ打チコボシタリケレバ、守、檢非違使、コレニ過ギタル失ヤ有ルベキ、出デ給ヘ」「千慮一失」　（二）キズ。缺點。　著聞集、十一、畫圖、鳥羽僧正ノ弟子　イカニモシテ、

[illegible]「失ヲ擧グ」

しつ (名) 質 (一)物ノ、成立テル元。タチ。[illegible] (二)人ノ、生レツキ。タチ。素性。性質。[illegible]

しつ (名) 室 (一)座敷。部屋。居間。居室。[illegible] (二)內室。奥方。妻。[illegible] (三)刀劍ノ鞘。

しつ (名) 瑟 箏ニ似テ、大キナルモノ、絃數、不定ナリ。倭名抄、四「琴瑟類「瑟、樂器、似箏而大、三十六絃」」雅樂 頌瑟八尺一寸、廣一尺八寸、二十三絃、其常用者、十九絃、頌瑟七尺二寸、廣一尺八寸、二十五絃、[illegible]」

しつ (名) 濕 しっさう(濕瘡)ノ略。

しづ (名) 賤 〔下ノ意〕 イヤシキコト。イヤシキ者。[illegible]

しづ (名) 倭文 [illegible] 古ヘノ織物ノ名。[illegible] 赤ナドニ染メテ、亂レタルヤウノ文ニ織リナスモノトイフ。シヅオリ。シヅリ。シドリ。[illegible]

しづ (他動、下二) 垂 [illegible]

拾遺集、十、神樂「イソノカミ、フルヤ男ノ、太刀モガナ、組ノ緒しでテ、宮路通ハム」金葉集、二、夏「玉ガシハ、庭モ葉廣ニ、ナリニケリ、コヤ木綿しでテ、神祭ル頃」夫木抄、廿六「今日ハ又、誰ガ禊トカ、シデノ崎、木綿トリしでテ、波モ越スラン」

じつ (名) 日 ヒ。ニチ。(熟語ニノミ用キル)「一日」日月」

じつ (名) 實 (一)マコト。虛ナラヌコト。僞リナキコト。[illegible] (二)名ニ對スル、本體。[illegible] (三)虛ニ對シテ、備ヘアルコト。[illegible] (四)芝居ノ語ニ、善人ニ扮ツコト。(惡人形ニ對ス) [illegible]

しつあう (名) 執拗 カタイヂ。エコヂ。[illegible]

じつあく (名) 實惡 芝居ニテ、殘忍ナル惡人ノ役。公家惡ナドニ對ス。[illegible]

しつい (名) 失意 「得意ニ對ス」 志ヲ失ヘルコト。不滿足。失望。[illegible]

じつい (名) 實意 マゴコロ。深切。誠心。[illegible]

じついん (名) 實印 いんぎゃう(印形)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible]

しつう (名) 四通 道路ノ、四方ヘ通ズルコト。四達。戰國策、魏策「地四平、諸侯四通、條達輻湊」「四通八達」

しつう (名) 私通 男女、私ニ、情ヲ通ズルコト。密通。史記、蘇秦傳「易王母、文侯夫人也、與蘇秦私通」

じつう (名) 實有 〔假有ニ對ス〕 宇宙間ニ於ケル總ベテノ事ハ、假有ナレドモ、凡夫ハ、迷妄心ヨリ、之レヲ、實ニ有リトスルコト。徒然草、百廿九段「オトナシキ人ノ、喜ビ、怒リ、アハレビ、樂ブモ、皆、虛妄ナレドモ、誰カ、實有ノ相ニ著セザル」

しづうた (名) 靜歌 神樂歌ノ調子ノ一、靜カニ歌フモノ。古事記、下(仁德)「此者志都歌之返歌也」

しづえ (名) 下枝 下ノ方ノ枝。シタエ。萬葉集、五[illegible]「春サレバ、木末隱リテ、鶯ゾ、鳴キテ往ヌナル、梅ガ志豆延ニ」風雅集、十六、雜、中「[illegible]松ノしづえニ、吹キトメテ、深山ノ嵐、[illegible]ムナリ」

しつえき (名) 疾疫 エヤミ。流行病。禮記、月令篇「民多疾疫、時雨不降」

じつえき (名) 實益 實際ノ利益。實利。

しづおり (名) 倭文織 しづ(倭文)ニ同ジ。約シテ、しづり。天武紀、下、十二年十二月「倭文連」注「倭文、此云之頭於利」

しつか (名) 膝下 ヒザモト。父母ナドノモト。唐書、高宗紀「國得奉至尊之居膝下」

しつか (名) 室家 (一)家。住居。家室。[illegible] (二)家庭。ウチワ。一家。[illegible] (三)妻ノ敬稱。閨室。吾妻鏡、二、壽永元年十一月十日「北條殿室家、牧御方」

じつか (名) 實家 養子、養女ナドノ、里方。(養家ニ對ス) 生家。

じつか (名) 實價 實際ノ、ネウチ。カケネ無キ、アタヒ。

しつかい (副) 悉皆 コトゴトク。皆、殘ラズ。一切。正法念經「悉皆百味、與天同等」謠曲、烏帽子折「是レハ、頼モシキ事ヲ仰セ候物カナ、悉皆、頼ミ候」

じつかい (名) 十界 佛經ノ說ニ、佛、菩薩、緣覺、聲聞、天上、人間、修羅、畜生、餓鬼、地獄、ノ十ノ法界。

じつかい (名) 十戒 佛經ノ語、じふかい(十戒)ノ條ヲ見ヨ。

しつがいこつ (名) 膝蓋骨 膝ノ關節ノ前面ヲオホフ、皿狀ノ骨。ヒザサラ。

しつかう (名) 失行 過失アル所爲ヲナスコト。北史、崔儦傳「得財失行、吾所不取」

しつかう (名) 執行 トリ、オコナフコト。「法律ヲ執行ス」裁判執行」強制執行」

しつかう (名) 膝行 ヒザマヅキテ、進ムコト。キザルコト。史記、項羽紀「無不膝行而前、莫敢仰視」平家物語、四、南都牒狀「[illegible]代要君、相放膝行之禮」「膝行頓首」

じつかう (名) 實行 實地ニ、行フコト。實施。[illegible]「好大言而少實行」

じつかう (名) 實效 マコトノ、シルシ。目前ニ現ハレタル利目。[illegible]

じつがく (名) 實學 實際ノ役ニ立ツ學問。實用ノ學問。實際ニ、我ガ身ニ行フ學問。實踐ノ學。中庸章句「皆實學也」

しッかと (副) [確聢] しかと(聢)ノ急呼音。源氏烏帽子折(元祿、近松作)三「大夫、與ニウロツキシヲ、飛ビカカッテ、確かと捕レバ」

しづかに (シズ・カ・ニ) (副) [靜] (一)音(オト)ナク。騷ガシカラズニ。新古今集、廿、釋教「しづかなる、曉ゴトニ、見渡セバ、マダ深キ夜ノ、夢ゾカナシキ」 靜寂 (二)[穩カニ、鎭マリテ。神代紀、上廿「構幽宮於淡路之洲、寂然(シツカニ)長隱者矣」四海、波風、しづかに」 (三)[オダヤカニ 徐ニ(オモムロ)。落チ着キテ。徐徐 竹取物語「イミジクしづかに、オホヤケニ、御文、奉リ給フ」枕草子、一、第四段「今、しづかに、御局ニ候ハント、辭シテ往ヌレバ」

じッかん (名) [十干] えとノ條ヲ見ヨ。

しッかり (副) [しッかハ、聢(シカ)ノ延] (一)聢(シカ)ト。堅固ニ。タシカニ。確 「しッかりト取着ク」「しッかりセヨ」「しッかり頼ム」 (二)物ノ、多キ狀ヲ云フ語。澤山。ドッサリ 浮世風呂、文化、三篇、二編、上「合卷トヤラ申ス草雙紙ガ、出ル度ニ買ヒマスガ、葛籠ニしッかり溜リマシタ」

しつき (名) [志築] [志築梭魚(シツキカマス)ノ略] 志築梭魚ノ腸ニテ作リタル醢辛。和漢三才圖會、四十九、江魚有鱗魚「志築魚、形小不過二三四寸、色淡黑者肪少、其腸作醢、名志築、自淡路志築始出得名、今、尾州、勢州之産、亦佳」

しッき (名) [濕氣] シメリケ。濕氣(シノケ)。物類相感志「冬得濕氣則爲蛀」

しッき (名) [漆器] ヌリモノ。事物紀原(宋、高承)「虞書曰、舜作漆器」

しつぎ (名) [質疑] ウタガヒヲ、質(タダ)シ問フコト。漢書、張禹傳「禹、每有所問、時時好、事音、從之質疑問、奉道經書而已」(顔師古注)

じつき (名) [字突] じさし(字指)ニ同ジ。

じつぎ (名) [實義] 眞心ヲ、ツクスコト。誠意。太平記、廿七、雲景未來記事「神明、佛陀ヲ御歸依有ル樣ニ見エシカドモ、僑慢ノミ有ッテ、實儀不御坐ニ」

しッきう (シツキユウ) (名) [濕球] 空氣ノ濕度ヲ測定スル器械ノ一種、同樣ニ造リタル、二本ノ寒暖計ヨリ成リ、其一本ハ、球部ヲ、白色ノ寒冷紗、又ハ、もきりんニテ包ミ、ソレヨリ、絲、約、十條ヲ合ハセタルモノヲ垂レテ、其端ヲ、水壺ノ中ニ入レ、常ニ、コレヲ潤シ置クモノナリ、ソノ、布ニテ包ミタル球ヲ、濕球ト云ヒ、他ノ一本ノ球ヲ、乾球ト云フ。

しつきかます (名) [志築梭魚] 淡路國、志築(今ハ、志筑)ニ產ズル梭魚。

しッきん (名) [失禁] 尿、便ノ、我レ知ラズニ出ヅルコト。

じッきやう (ジツキヨウ) (名) [實況] 有體(アリテイ)ノ景況(アリサマ)。眞ノ狀況。實情。「競技ノ實況ヲ放送ス」

しッきやく (名) [失脚] (一)足ヲ、蹈ミハヅスコト。足ノ、滑(スベ)ルコト。滑リテ、轉ブコト。棠陰比事「不覺失脚、亦墜于井二」 (二)立脚地(タチバ)ヲ失フコト。シソコナヒ。シクジリ。失敗。陸游詩「失脚臨世網、寢病怨俊尋」

しッきよ (名) [失據] 根據ヲ、失フコト。後漢書、皇甫嵩傳「州郡失據、長史多逃亡」

しつく・くル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) [仕付] (一)作リ付クル。シタツル。 (二)田植(タウエ)ヲナス。「田ヲしつく」 (三)[禮儀ヲ、敎ヘ慣ラス。敎成 宇津保物語、初秋九二十「今少シ、メヅラシカラン事、しつけテ、同ジクハ、例ニセン」

しッく (名) [疾驅] 車馬ナドノ、疾ク馳(ハ)スルコト。詩經、齊風、載驅篇、傳「薄薄、疾驅聲也」

しッく (名) [疾苦] ナヤミ、クルシムコト。人民ノ、苦シムコト。苛政ニ喩フル語。苦痛。五代史、韓建傳「出入閭里、問其疾苦」「民ノ疾苦ヲ救フ」

しづく (シズク) (名) [雫] [沈む意] 水ノ、シタタリ。涓滴 點滴 伊勢物語、五十九段「我ガ上ニ、露ゾ置(オ)クナル、天ノ河、門渡(ト)ル舟ノ、櫂ノしづくカ」

しづく・ク・ケ・カ・キ・ケ (シズ・ク) (自動、四) [沈み透(ス)く意カト云フ」 水ノ中ニ、透キ映(ウツ)リテ見ユ。萬葉集、七三十「大海ノ、水底(ミナソコ)照ラシ、石(イ)はくく玉、齋ヒテ採ラム、風ナ吹キコソ」同、十九廿「藤波ノ、蔭ナル海ノ、底清ミ、之部久(シヅク)石ヲモ、玉トゾ我ガ見ル」古今集、十六、哀傷「水ノ面ニ、しづく花ノ色、サヤカニモ、君ガ御影ノ、オモホユルカナ」

シックイ (名) [漆喰] [石灰ノ字ノ唐音] 石灰(イシバヒ)、又ハ、蠣灰(カキバヒ)ヲ、ふのりヲ煮タル汁ニ入レテ、すさヲ雜ゼテ煉リタルモノ。壁ノ上塗ニ用キ、或ハ石、瓦ノ隙ヲ塞グ。色、白シ、或ハ種種ノ色ヲモ加フ。

じづくし (シズクシ) (名) [字盡] 文字ヲ、集メ列ブルコト。國盡しナドノ類。小町踊「字盡くしノ、磐ヤ嶋リ、鳥ノ跡」

しつくす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [爲盡] 爲(ナ)スベキ限リ、爲ス。シヌク。源、九、葵五「所所ノ御サジキ、心心ニしつくしタルシツラヒ」桑花物語、四、見はてぬ夢「我、世ニアル事ノ限リ、しつくさセ給ヒテ」

しッくす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 疾驅 車馬ヲ、疾(ハヤ)ク走ラス。呂氏春秋、開春篇「鮑叔因疾驅先入」

しづくら (シズ・クラ) (名) したぐら(下鞍)ニ同ジ。萬葉集、五、長歌「赤駒ニ、志都久良打チ置キ、這ヒ乘リテ」

しッくり (副) 物事ノ、善ク食ヒ合フ意ニ云フ語。適合 狂言記、金岡「しッくりト、手ヲ締メテアレバ、現(ウツツ)ナト仰セラレタ顔ガ、アア、忘レラレヌ」「姑ト嫁トガ、しッくり合フ」「しッくり治マル」

しッくわ (シツ・カ) (名) [失火] 過チテ、發(オコ)セル火災(クワ)。粗相火(ソサウビ)。史記、汲黯傳「河內失火、延燒千餘家」太平記、廿七、淸水寺炎上事「廿七日午ノ剋ニ、淸水坂ヨリ、俄ニ失火出來テ、淸水寺ノ本堂、阿彌陀堂、云云、マデ、一字モ殘ラズ、炎滅ス」

じつぐわい (ジツ・ガイ) (副) [日外] イツゾヤ。

しッくわん (シツ・カン) (名) [疾患] ヤミ、ワヅラヒ。ヤマヒ。疾病。北史、隋、高帝紀「年七十以上、疾患沈滯、不堪居職」

しつけ (名) [仕付] (一)シツクルコト。シタツルコト。大織冠(正德、近松作)二「笠ニ仕つけノ、鋸喰ヒ反ラシ」 (二)田植(タウエ)。「しつけ時」 (三)新タニ仕立テタル衣服ノ折目ヲ馴ラサムガ爲ニ、絲ニテ、粗縫(アラヌヒ)ニ縫ヒツケオクコト。「しつけヲ取ル」しつけノ附イタ着物」

しつけ (名) [躾] [前條ノ語意ニ同ジ] 儀式、饗應、應對、接待、等ニ、物事ノ扱ヒ、起居(タチヰ)、擧動(フルマヒ)ノ行儀ヲ、敎ヘナラスコト。禮容 「しつけノ良イ家」しつけノ惡イ子供」

しッけ (名) [濕氣] (一)シメリケ。空氣ニ、濕(シメリ)、多キコト。「梅雨ノ濕氣」 (二)水地ナドノ、濕(シケ)ルコト。「窪地ノ濕氣」

しづけ (シズケ) (名) [尻附] 除目、敍位ノ時、大間(オホマ)書(ガキ)ニ書キ入レタル新任者ノ官位、姓名ノ下ニ、更ニ、內給、年給、又ハ、寶詞ヲ、細書スルコト。吾妻鏡、四十二、建長四年十二月「三品親王御所望之由、有尻附」

じッけ (名) [實化] [權化ニ對ス] 佛敎ノ語、佛ノ、眞身ヲ實現シテ、衆生ヲ化導スルコト。盛衰記 三、一院女院嚴島御幸事

[illegible]」

しっけい (名) [失敬] (一)しつれい(失禮)ニ同ジ。(二)人ト別ルル時ノ挨拶ノ語。[illegible]

しっけい (名) 失計 計略ヲ、失フコト。ヤリソコナヒ。失策。[illegible]「[illegible]之失計、宋有如二東遷之甚一者」

しっけい (名) 執圭 [illegible]ニ同ジ。[illegible]

しっけい (名) [實景] しんけい(眞景)ニ同ジ。

しつけいと (名) [仕付絲] 仕付ノ(三)ニ用ヰル、白ク滑カナル細絲。

しっけう (名) 實教 (權教ニ對ス) 大乘ノ教法。茶店門答辨説、下「夫、佛法廣シトイヘドモ、權、實ノ二ツヲ出ズ、今、流布ノ宗ヲ以テ論ズルニ、天台、眞言、禪、淨土ハ、一乘實教ノ宗ナリ、三論、法相、戒律、等ハ、三乘權教ノ宗ナリ、此權宗ニ[illegible]ランヤ」太平記十七、山門牒送南都事「南都北嶺、[illegible]」

しつけかた (名) 躾方 躾ノ法則。禮儀ノ教ヘ方。[illegible]

しづけし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [靜] 靜カナリ。[illegible]

しつけつ (名) [日月] (一)ひト、つきト。[illegible]六章「日月星辰整形」左傳、襄公十四年「愛之如二父母、仰之如二日月」[illegible]ケレバ、十日バカリ、世ノ中暗クナリニケリ」(二)日、月、陽。月ハ、(帶説ノ語) 史記、屈原傳[illegible] (三)ツキヒ。光陰。[illegible]「日月逝矣、[illegible]」

しつげふ (名) [失業] 業ヲ、ウシナフコト。家業ニ離ルルコト。クヒハグレ。失職。[illegible]「失業者ノ群」

しつげふ (名) [實業] 農、工、商ナド、實地ニ行フ事業。(學問、理論ノ業ナドニ對ス)

しっけん (名) [執權] (一)政事ノ權ヲ、執ルコト。執柄。[illegible]上、主上ノ御外戚ニテ、内外ニ附キタル、執權ノ臣トゾ、振ル舞ヒケル」(二)院廳ノ別當ノ稱。名目抄、院中「執權」注「公卿院司補之、近代事也」[illegible] (三)鎌倉將軍ノ頃、執政、第一ノ職ノ稱。[illegible] (四)室町時代 管領ノ異稱。又、應仁以後、管領ノ陪臣、又ハ、諸大名ノ家臣ノ俗稱。[illegible]每、諸人中ス條、不レ可レ然、云云、管領一人ヲバ、執權ト申スベキナリ」

しっけん (名) [失權] (一)權力ヲ、失フコト。[illegible] (二)權利ヲ、失フコト。「失權ノ宣告」

しっけん (名) [失言] イヒソコナヒ。言葉ノ、アヤマチ。イヒスギ。過言。放言。[illegible]

しつけん (名) [疾言] 早口ニ、物云フコト。クチド。クチバヤ。論語、鄕黨篇「車中[illegible]不内顧、不疾言、不親指」

しっけん (名) [實檢] 物ノ實否ヲ、檢ムルコト。平家物語、十一、[illegible]大臣殿ノ宿所ニテ、頸共ノ實檢シテオハシケル」

しっけん (名) [實驗] (一)マコトノ、タメシ。正シク、試ミルコト。(理論ニ對ス)「理科ノ實驗」(二)實地ノ經驗。[illegible]「自己ノ實驗ニ徴シテ」

しっけん (名) [實權] 實際ノ權力。「實權ヲ握ル」

しっけん (名) [實見] 實際ヲ、見ルコト。實地見分。

しつげん (名) [實現] 實際ニ、アラハレ出ヅルコト。又、事實ニ、アラハシ出スコト。「空想ヲ實現セシム」

しっけんしょく (名) [執權職] しっけん(執權)ニ同ジ。最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)下「女中ノ御身ニ、執權職ノ裝束ヲ召サレ」

しつける (動) [仕付] しつくノ口語。

しっこ (名) [疾呼] 烈シク、ヨブコト。急ハシク、ヨビタツルコト。[illegible]「府中不聞、[illegible]大聲疾呼」

しつご (名) [失誤] アヤマルコト。過誤。ヤリソコナフコト。[illegible]「伺二人隠微失誤、輙籍記」

しっこく (名) [桎梏] (易經、上經、蒙卦、疏「在レ足曰レ桎、在レ手曰レ梏」) てかせ、あしかせ。孟子、盡心、上篇「桎梏死者、非正命也」禮記、月令[illegible]「桎梏ヲ脱ス」

しづごころ (名) [靜心] 靜ケキ心。落着キタル心。シヅゴコロバセ。敦忠集「しづ心無キ、我ガ[illegible]」古今集、二、春、上「しづ心無ク、花ノ散ルラム」拾遺集、十六、雜春「春ハ惜シ、時鳥ハ、タ[illegible]思ヒワヅラフ、しづ心哉」

しづごころばせ (名) [靜意] 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]下、第十、七十三條「[illegible]モ、しづごころばせ調ヘテノ上ノ事ナリ」

しつこし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) クドクドシ。ウルサシ。シツッシ。シツッコシ。煩縟。好色[illegible]代女[illegible]六「ニセ紫ノしつこく、サマザマノ染メ入レ」「味、しつこし」

しっこす・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [疾呼] 口早ニ、ヨバハル。

しつごと (名) [實事] 芝居ノ語、俳優ノ、誠忠ノ役ニ扮裝シテスル、シグサ。[illegible]ヤツシ、フリ出テ、ヌレ、實事、狂言ノ有ル程ヲツクシ」五十年忌歌念佛(寶永、近松作)中「[illegible]ハ、實事ニテ、口說ナトスル技倆カ」

しつごとし (名) [實事師] 實事ヲスル人。誠忠ノ役ニ扮裝スル俳優。浮世風呂、文化、三[illegible]實事師モ、出タ所テハ、ワカラヌハサ」

しづこどり (名) [賤子鳥] ほととぎすノ一名。

しっこん (名) [入魂] じゅっこん(入魂)ニ同ジ。

しっさい (名) [實際] (一)實地ノ場合。「實際ニ當ル」(二)マコトノ狀態。「事ノ實際ヲ見ル」

しつざい (名) [實在] [英語 Reality. ノ譯語] (一)哲學ノ語。主觀以外ニ、實際ニ存在スルコト。客觀的存在。(二)眞實體。本體。

しっさう (名) [濕瘡] 瘡ノ名、皮膚ニ、細

カク發シテ、甚ダ痒キモノ、忽チ、全身ニ殖エ、殊ニ、他ニ傳染スル性アリ。濕。疥癬「しつヲカク」

じつ-さう（ジツ-ソウ）（名）|實相|（一）實際ノ、アリサマ。マコトノカタチ。眞相。張衡詩「以語賓實相、仮辞詩眞空」（二）佛經ノ語、萬有ノ生滅ノ相ヲ離レタル、眞實ノ相。眞如ノ相。法華經、方便品「唯佛與佛、乃能究盡諸法實相」盛衰記、十一、有王俊寛問答事「妙法ノ二字ニハ、諸法實相ノ理ヲ兼ネ、蓮華ノ兩字ニハ、權實本迹ノ義ヲ含メリ」

しっ-さく（名）|失錯|失策| アヤマチ。シソコナヒ。シクジリ。失計。失敗。周禮、春官篇、太史、疏「恐事有失錯」 陸機、辨亡論「算無遺策、舉不失策」 大鏡、上、實頼「何、懈怠ノ失錯ナリケル」

しつ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二） しつおしニ同ジ。

しっ-し（名）|嫉視| ニクミ、見ルコト。ニラムコト。ソネミ、見ルコト。孟子、梁惠王、下篇「疾、嫉視」

しつ-じ（名）|執事|（一）高官、貴人ノ家政ヲ学ル役人。家扶。史記、與少卿書「過爲宰相執事」（二）攝政、關白家ニテ、家司ノ、專ラ、家政ヲ学ルモノノ稱。拾芥抄、中、末「關白家、執事、年預、辨、別當」（三）鎌倉幕府ノ頃、政所、問注所、等ノ職名。吾妻鏡、十一、建久二年正月十五日「被行政所吉書始、云云、問注所執事、中宮大夫屬、三善康信法師」（四）足利將軍ノ頃、執政ノ職 後ニ管領ト改ム。塵嚢抄、七、第十七條「管領ト申スハ、近比ノ事也、本ハ、執事ト云ヒキ」（五）人ヲ貴ビ、直チニ其姓名ヲ云フヲ憚リ、執事ニ取次ヲ請フ意ニ云フ語 轉ジテ、貴人ノ名宛ニ添ヘテ書キ、又、直チニ貴人ノ代名詞ニモ用キル。左傳、僖公廿六年「展喜告曰、寡君使下臣犒執事」

じっ-し（名）|實子| 實ノ子。（養子ナドニ對ス）謡曲、切兼曾我「兄弟ヲ、五ツヤ、三ツノ時ヨリモ、母諸共ニ迎ヘ取リ、實子ノ如ク育テツツ」

じつ-じ（名）|實事| マコトノコト。虚ナラヌ事柄。（虚事ニ對ス）韓非子、外儲說篇「虚名不以借人、況實事乎」 盛衰記、三十四、佐佐木賜生㕞事「公ノ馬ヲ論ジテ、命ヲ捨テン事、人目、實事、面目ナシ」

じつ-じ（名）|實字| 漢字ノ、形象アル文字（名詞）ノ稱。即チ、日、月、山、川、草、木、等ノ類。コレニ對シテ、咲く、押す、清し、嬉し、ナドノ如キ動詞、形容詞トナル文字ヲ、虚字ト云フ。

じっ-し（名）|實施| 實行（ジッカウ）ニ同ジ。

じっ-し（名）|十死| 舊暦ニイフ大凶日。

しっ-しつ（名）|蟋蟀| コホロギ。詩經、唐風、蟋蟀篇「蟋蟀在堂、歳聿其莫」

しっ-しつ（副）|瑟瑟|（一）風ノ、寂シク吹ク狀ヲ云フ語。白居易詩「楓葉荻花秋瑟瑟」（二）波ノ、起ッ狀ヲ云フ語。朗詠集、下「水面風驅瑟瑟波」

しっ-しッ（副）|叱叱| 馬ヲ進ムル時ニ、掛クルカケ聲。ドウドウ。槍權三重帷子（享保、近松作）上「大坪流ノ鞍ノ內、云云、しッしッしット乘リ戻シ」

（シズ-シズ）しづ-しづ（副）|靜靜|（疾く疾くニ對ス）甚ダ、靜カニ。イト、ユルヤカニ。徐徐。蜻蛉日記、下、中「前ナル谷ヨリ、雲、しづしづト上ルニ、イト物悲シウテ」源、二、帚木「サスガニロ疾クナドハ侍リキト、しづしづト申セバ」「しづしづト起チテ」

じっ-しつ（名）|實質| 事實ノ內容、又ハ、性質。本質。正味（シヤウミ）。

じっ-しふ（ジツ-シユウ）（名）|實習| 實地ニ就キテ、學ビ習フコト。「農學部實習科」

しっ-しん（名）|失心|失神| 氣ヲ、失フコト。呆然トナルコト。氣ヌケ。喪心。

しっ-しん（名）|濕疹| 皮膚病ノ一。皮膚ガ潮紅シテ、水疱ノ生ズルモノ。カブレ。

じっ-しゃ（名）|實者|（權者ニ對ス）化現ノモノニアラザル、實體ノ神佛。盛衰記、九、宰相申二預少將一事「大神モ小神モ、屈請ノ靈ニ影向シ、權者モ實者モ、渇仰ノ前ニ顯現シ給フ」

じっ-しゃう（ジツ-シヨウ）（名）|實正| マコトナルコト。タシカナルコト。僞リナキコト。眞實。正實。盛衰記、三十七、源平侍合戰事「同ジク十七ト申シテ、西國マデ具シタリケレドモ、一ノ谷ニテハ、實正ニ任セテ、十六歳トゾ名乘リケル」

じっ-しゃう（ジツ-シヨウ）（名）|實性| 物事ノ、タシカナルトコロ。「實性ヲ見トドケテ」

じつ-じゃう（ジツ-ジヨウ）（名）|實情| マコトノココロ。飾ラヌ事譯。實況。吳報記、具述委曲實情

じっ-しゅう（名）|十宗| 佛敎ノ八宗ニ、禪宗、淨土宗ヲ加ヘタル稱。

じっ-しゅ-かう（ジツ-シユ-コウ）（名）|十炷香| じっしゅこうノ（十種香）ノ條ヲ見ヨ。

しつ-じゅん（名）|濕潤| シトルコト。シメルコト。濕氣ヲオブルコト。酉陽雜俎（唐、段成式）「竈無故自濕潤香」

じっ-しょう（名）|實證| タシカナル證據。確證。大經注「正所實證、非虚言也」

しっ-しょく（名）|失職|（一）勤務ノ職ヲ、失フコト。失業。史記、燕世家「各得其所、無失職者」（二）職務ヲ、失敗スルコト。左傳、昭公廿九年「物各有其官、脩其方、朝夕思之、一日失職、則死及之」

しっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）|失| ウシナフ。ナクス。史記、項羽紀「項王至陰陵、迷失道」

（一）しっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）|執| 深ク心ニ掛ク。執心ス。盛衰記、三十四、明雲八條宮人人被討事「法住寺殿ハ、サシモ執しオボシメシ、造リ磨カレタリケレドモ、一時ガ程ニ燒ケ亡ビヌ」

しっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）|叱| シカル。舌打シテ、シカル。叱咤ス。禮記、曲禮、上篇「尊客之前、不叱狗」 漢書、王尊傳「叱其馭曰、驅之」

じっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）|實| 中ニ、實ツ。充實ス。孟子、梁惠王、下篇「君之倉廩實」

しっ-すゐ（シツ-スイ）（名）|直歳| 禪宗ニテ、一歳、寺內ノ修理、什物ノ整頓、田園ノ栽培、等ノ、種種ノ事務ヲ管スル職。僧堂清規「直歳ハ、年中、寺內ノ修理ヲ掌ル、門窓、牆壁ヲ修補シ、動用ノ什物、道具、器具ヲ修換シ、山林ノ竹木、田園ノ栽種ヲ提擧スル」

しっ-せい（名）|叱正| シカリ、タダスコト。詩文ナドノ添削ヲ受クルコトヲ、卑下シテ云フ語。御添削。「叱正ヲ乞フ」

しっ-せい（名）|執政|（一）政ヲ、執ルコト。政權ヲ統べ行フ職。史記、孔子世家「陪臣執國政」 左傳、襄公十年「有災、其執政之三士乎」 太平記、十三、龍馬進奏事「執政吐哺、人ノ愁ヲ聞キ」（二）參議以上ノ稱。（三）江戶時代、老中ノ稱。

しっ-せい（名）|失政| 其當ヲ失シタル、マツリゴト。政治ノ仕方ノ、惡キコト。政

ヲ遂ゲタトモ、實政……「三月失政、九月不下語」

しっせう (名) 失笑 吹キダシテ、ワラフコト。傍ヘキレズシテ、笑フコト。噴飯。「……」

しっせき (名) 叱責 シカリ、セムルコト。小言ヲ云フコト。譴責。

じっせつ (名) 實說 マコトノ說。虛ナラヌ話。(虛說ノ反)「……」

じっせん (名) 實踐 實際ニ、履行スルコト。(道德ニ云フ語)「……」

じっせん (名) 實戰 實際ノ戰爭 (演習ナドニ對ス)

しっそ (名) 質素 衣食住ヲ、飾ラヌコト。奢ラヌコト。儉約ナルコト。ジミ。儉素。「南史、劉善明傳、質素、不好聲色」

しっそう (名) 失踪 カケオチ。逐電。出奔。「……」

しっそう (名) 執奏 取次ギテ、奏上スルコト。傳奏。執啓。「公式令……」

じっそう (名) 實僧 佛教ノ語。戒ヲ保チテ、得道シタル僧。「……」

しっそう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 疾走 トク、ハシル。早ク走ル。カケテ、行ク。「史記……」

しっそく (名) 疾速 ヤハヤキコト。速ナルコト。迅速。「……人生百年內、疾速……」

しっそく (名) 疾足 ハヤアシ。逸足。「史記、淮陰侯傳、……疾足者先得之」

じっそく (名) 實測 實地ノ測量。「實測圖」

しった (名) 叱咤 大聲ヲ出シテ、怒ルコト。シカリツクルコト。「史記、淮陰侯傳、項王、喑噁叱咤、千人皆廢」

しったい (名) 失體、失態 體裁ヲ、失フコト。面目ヲ、ソコナフコト 「北史、劉仁之傳、……「失體ヲ 償フ」

じったい (名) 實體 マコトノカタチ。本體。正體。「中論……其實體……於己而不可……」

しったう (名) 失當 相當ヲ、失ヘルコト。理ニ當ラヌコト。不當。「宋史、馮京傳……」

しったう (名) 執當 〔執事別當ノ略〕僧ノ官。「盛衰記、四、……執當法眼御房へ」

しった・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 叱咤 イキマキ荒ク、舌ウチシテ、シカル。「……叱咤す」

しったつ (名) 執達 上ノ意ヲ承ケテ、下ニ通ズルコト。(官府ノ指令ニ云フ)「保元物語、一、新院御所各門固事 依ニ宣旨ニ執達如レ件」

しったつり (名) 執達吏 區裁判所ニ附屬スル公吏、訴訟ニ關スル書類ヲ送達シ、裁判ノ執行ヲ掌リ、又、當事者ノ委任ニヨリテ、告知、又ハ、催告、動產、不動產ノ任意競賣、拒絕證書ノ作成事務ヲ取扱フモノ。

しづたまき (枕) 倭文環 〔しづハ、賤ニテ、賤シク下品ナル手ニ纏フ玉ト云フヨリ、數にもあらぬニカケ、又、いやしきニモカク(萬葉集古義)〕數、賤シニカケテ云フ枕詞 「萬葉集、四……倭文手纏、數ニモアラヌ、命モテ、何カモ許多、我ガ戀ヒワタル」「同、九、……倭文手纏、賤シキ我ガ故、マスラヲノ、爭フ見レバ」

シッタン (名) 悉曇 〔梵語、Siddham. 成就、又、所生ノ義、一切ノ事言、文字ニ因リテ成就スト云フ意〕(一)梵字ニ、音ヲ生ズル根本ノ字。即チ、母韻 (梵字ノ條、見合ハスベシ) (二)轉ジテ、梵字、音、韻、ノ總稱。(三)轉ジテ、梵語。

じつだん (名) 實彈 實際ノ彈丸。又、實際、彈丸ヲ裝塡スルコト。(空砲ニ對ス)「實彈演習」

シッタンしゃう (名) 悉曇章 悉曇ノ文章。梵字ノ文章、梵文。「舊唐書、天竺國傳、其人皆學悉曇章」

しっち (名) 濕地 水澤ノ邊ノ、低クシテ、濕氣多キ地。シケチ。沮洳。「元稹詩……濕地……」

シッチ (名) 悉地 〔梵語、Siddhi.〕佛經ノ語、祕法ヲ修メテ、眞言ノ妙果ヲ成就スルコト。「太平記、六、……一度、足ヲ運ブ人、二世ノ悉地ヲ成就シ」

じっち (名) 實地 マコトノ場合、推シ量リナド、ナラヌコト。有體。實際。「實地ヲ踏査ス」

じっち (名) 實智 佛教ノ語、眞如平等ノ理ヲ照ラシ、一切ノ法界ハ空寂ナリト覺ル智。コレニ對シテ、差別ノ萬法ヲ觀照スルヲ、權智ト云フ。

じっちく (名) 實竹 竹ノ一種、幹ノ中ノ、實チテ、空ナラヌモノ、石地ナドニ生ズ、陸前、松島ノ福浦島ノ產、名アリ、多ク、印材ナドトス。實心竹

しっちょく (名) 質直 質樸ニシテ、正直ナルコト。ヂミニテ、マッスグナルコト。「論語、顏淵篇、質直而好義」史記、周昌傳「其人有……」

じっちょく (名) 實直 じってい(實體)ニ同ジ。「實直ニ勤メ上ゲル」

しっつう (名) 疾痛 イタミ、ナヤムコト。「禮記、內則篇、問衣燠寒、疾痛苛癢、而敬抑搔之」

じっつぉ・し (形) じつおしニ同ジ。「浮世風呂、初編、下「オメヘモ、生醉ヒノ癖ニ、じっつぉいカラダア」

しっつゐ (名) 失墜 (一)失ヒ、オトスコト。失隕。「左傳、昭公廿五年……」(二)空シク失フ費。無用ノ入費。失費。耗費。「甲陽軍鑑、十、上、品第三十、第三條……」(三)チギレ、失スルコト。

じって (名) 十手 捕手ノ用キル具、鐵製ノ短キ棒ニテ、鉤アリ。手木。(案衛ノ條、見合ハスベシ) 鐵尺

じってい (名) 實體 心、所行ノ、眞實、正直ナルコト。マメナルコト。律儀。實直。樸直。「曾我……中、お前ハじってい、物靜カナル御生レツキ」「じっていニ働ク」

じっ-てつ (名) 【十哲】 (一)孔子ノ弟子ノ、十人ノ優レタルモノ。卽チ、顔回(子淵)、閔損(子騫)、冉耕(伯牛)、冉雍(仲弓)、宰予(子我)、端木賜(子貢)、冉求(子有)、仲由(子路)、言偃(子游)、卜商(子夏)、ノ稱。(二)木下順菴ノ弟子ノ、十人ノ優レタルモノ。卽チ、新井在中、室師禮、雨森伯陽、祇園伯玉、榊原希翊、南部思聰、松浦禎卿、三宅用晦、服部紹卿、向井魯甫、ノ稱。(三)芭蕉ノ弟子ノ、十人ノ優レタルモノ。卽チ、杉山杉風、榎本其角、服部嵐雪、脅千那、河合曾良、向井去來、内藤丈草、天野桃隣、森川許六、各務支考、ノ稱。(俳諧獨稽古)

しっ-てん-ばっ-たう (句) 【七顚八倒】 しちてんばったうヲ見ヨ。

しっ-と (名) 【嫉妬・嫉妒】 ネタミ。ソネミ。悋氣。史記、項羽紀「趙高用事、今戰能勝、必嫉妬吾功」 盛衰記、劍卷「或ル公卿ノ娘、餘リニ嫉妬深ウシテ、貴船ノ社ニ詣デテ、七日、籠リ申ス樣」

しつ-ど (名) 【濕土】 シメリタル土。濡レタル土地。范成大詩「無端星月照濕土」 太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚御事「昔ハ銷金、輕羅ノ袴ナラデハ、假リニモ蹈マセ給ハザリシ玉趾ヲ、深泥、濕土ノ鹵ニ汚レサセ給ヒ」

じっ-と (副) 【熟】 (一)ツラツラ。ヨクヨク。「じっと耐ヘル」じっと見ル」 (二)オチツキ居ル狀ヲ云フ語。「じっと控ヘ居ル」

しっ-とく (名) 【失德】 身持ヲ、アヤマテルコト。人柄ノ瑕。莊子、知北遊篇「失道而後德、失德而後仁」

じっ-とく (名) 【十德】 (一)中世、用キタリシ服ノ名、製、素袍ノ如クニシテ、腋ヲ縫ヒック、侍ナルハ、葛布ニテ、白、或ハ、黑ニ染メ、胸紐アリテ、上ニ帶ス、中間、小者ナルハ、布ニテ作リ、胸紐ナク、下ニ、四幅袴ヲ着ク。其袴ハ、前、後、四幅ニテ、膝頭ニ至リ、裾、稍、狹シ、下ニ、脚半ヲ着ク。(二)後ニハ、專ラ、醫師ノ禮服トス。腰、以下、襞アリ。

しっ-とり (副) シヅヤカニ。シトヤカニ。じっとり。深沈 百俚談「靜居、シヅカニ、オチツキタル姿也」

しづ-どり (名) 【賤鳥】 ほととぎすノ一名。吳竹集「しづ鳥、ホトトギス也「名ニモノミ、山里ニ鳴ク、しづどりハ、卯ノ花バカリ、都トヤ思フ」

じっ-とり (副) 前前條ノ語ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)四編、中「餘リ、ハスバデ無イ、じっとりトシタ女子ガ有ッタラ、世話シテクダンセ」

しつ-な・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 【無術】 術無シノ訛、其條ヲ見ヨ。(上方語)

じつ-に (副) 【實】 マコトニ。僞リナク。詩經、邶風、雄雉篇「君子實勞我心」

しづ-ぬさ (名) 【倭文幣】 倭文ヲ、幣トセルモノ。萬葉集、十九、二十四長歌「木綿襷、肩ニ取リカケ、倭文幣ヲ、手ニ取持チテ」

しづ-ぬの (名) 【倭文布】 倭文ニ同ジ。

しつ-ねん (名) 【失念】 モノワスレ。忘却「誠ニ、失念シタ事ガアル」 遺敎經「若失念者、則失諸功德」 狂言記、三本柱

しづ-の-め (名) 【賤女】 イヤシキ、ヲンナ。

しづ-の-を (名) 【賤男】 イヤシキ、ヲノコ。下民。源、四、夕顏十「アヤシキしづのをノ聲聲」 狹衣、二、上四十「言ヒ知ラヌしづのをノモトニモ、コノ御子ト名ノランハ、イカバリ憂シカラン」

しつ-ば (名) 【叱罵】 〔叱咤、罵詈ノ略〕 シカリ、ノノシルコト。

しっ-ぱい (名) 【失敗】 シソコナヒ。シクジリ。失錯。「前ノ失敗ニ懲リズ」

しつ-ばう (名) 【失亡】 ウシナヒ、ナクスコト。ナクナルコト。亡失 史記、朝鮮傳「盤先縱、失亡多」

しつ-ばう (名) 【失望】 ノゾミヲ、失フコト。アテノ、外ルルコト。氣オチ。落膽。漢書、項籍傳「羽屠咸陽、殺秦降王子嬰、燒宮室、收寶貨婦女而東、秦民失望」

しっ-ぱう (名) 【七寶】 (一)しちはうノ急呼。しちほうニ同ジ、盛衰記、廿六、入道非直人事「十人ノ下僧、七寶ノ大車化現シテ」 平家物語、六、慈心坊事「七寶所成ノ大極殿アリ」 (二)七寶燒ノ略。

じっ-ぱう (名) 【十方】 四方ト、四隅ト、上下トノ稱。宋書、訶羅陀國傳「普照十方、其白如雪」「十方世界」

しっ-ぱう-いん-でん (名) 【七寶印傳】 紋柄ヲ印傳ニ色ドリタルモノ。

じっ-ぱう-ぐれ (名) 【十方暮】 俗曆ノ上ニ、甲申ヨリ癸巳マデ、十日ノ稱、此間、十方ノ氣、暗剋シテ、和合ヲ去ルト云ヒ、相談事ニ忌ムト云フ。假名曆略註「十方暮ハ、甲申ノ日ヨリ入テ、癸巳ノ日ニ終ルナリ、以上十日ノ間ハ、天地ノ氣、相互ニ相對シテ、不和ナルノ日也、故ニ、天色、常ニ昏昧ニシテ、淸明ナラズ、是ヲ、十方暮ト云フ、此日ハ、婚姻、和合、出行、等ニ惡シ」

しっ-ぱう-つなぎ (名) 【七寶綮】 七寶ヲツナギナラベタル模樣。

しっ-ぱう-ながし (名) 【七寶流】 次條ノ語ニ同ジ。

しっ-ぱう-やき (名) 【七寶燒】 又、七寶流し、略シテ、七寶。銅器ノ上ニ、はりがねヲ用キテ、種種ノ畫樣ヲ作リツケ、五彩ノやきものぐすりニテ、其隙ヲ塡メ、燒キ成セルモノ。大食窰 嵌寶

しづ-はた (名) 【賤機】 〔賤ハ、借字〕 倭文ヲ織ル機。又、倭文。(倭文ノ條ヲ見ヨ)

しづ-はた-おび (名) 【賤機帶】 倭文ノ帶。(倭文ノ條ヲ見ヨ) 萬葉集、十一、廿五「古ヘノ、倭文旗帶ヲ、結ビ垂レ、誰レチフ人モ、君ニハ益サジ」 新千載集、十二、戀、二「古ヘノ、しづはたおびノ、幾カヘリ、我ガ片戀ノ、末ニ結バン」

しづ-はた-に (枕) 【倭文機】 倭文機ノアヤノ如クニノ意、みだるト云フ語ニカケテ云フ。貫之集「しづはたに、亂レテゾ思フ、戀シサヲ、經緯ニシテ、織レル吾ガ戀」

しづ-はた-やき (名) 【賤機燒】 〔賤機ノ燒印アリ〕 駿河國ヨリ產出セシ燒物。本朝陶器攷證、三「賤機燒、交趾ヲ寫ス」

しっ-ぱらひ (名) 【後拂】 〔しりはらひノ音便、さきがけニ對ス〕 シンガリ。アトオサヘ。殿 大友興廢記、門司城攻事「親堅ニ相從フ武士、宮武臨守親實、しっぱらひニテ、諸勢、引キトル」

しっ-ぴ (名) 【失費】 ツヒエ。カカリ。モノイリ。イリヨウ。入費。「莫大ノ失費」

じっ-ぴ (名) 【實費】 マコトノ入費。(口錢ナド加ヘヌヲ云フ) 「實費ニテ診療ス」

しっ-ぴ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 【櫛比】 くしノ齒ノ如ク、密ニナラブ。洛

[illegible]子謂韶盡美、甘露激減、嘉木總比」「人家、總比す」

しッぴつ (名) 執筆 (一)筆ヲ執リテ、物書クコト。[illegible] (二)闕官ヲ書キ置キ、除目ノ日、任官セラレタル人ノ名ヲ、其官名ノ下ニ書キ加フル役。又、其人。[illegible] (三)[illegible]書歌ナドノ會ノ時、懷紙ヲ書ク役。[illegible]

しッぷ (名) 實父 マコトノチチ。(養父、繼父、ナドニ對シテ云フ) [illegible]

しッぷ (名) 實否 實ナルト、否ラザルト。眞カ、虛カ。信否 [illegible]ハルベキカト申サレタリ」「實否ヲ糺ス」

しッぷう (名) 疾風 疾ク吹ク風。[illegible]

しッぷうもくう (名) 櫛風沐雨 風ニ梳リ、雨ニ髪洗フ。山野ニ、勞苦、[illegible]

しッぷくちゃ (名) 十服茶 又、回茶、貢茶トモ云フ。茶道ニテ、三種ノ茶ヲ、各、三服ヅツニ煎ミ、後ノ九服ニ、他ノ茶一種(コレヲ客ト云フ)ヲ加ヘテ、其十服ヲ飲ミアテテ、勝負ヲ爭フコト。カズチャ。(廢茶塔囊抄、四)

じつぶつ (名) 實物 實際ノ物。ホンモノ。現物。「實物ニ就キテ見ル」

しッぺい (名) 執柄 (一)政事ノ權柄ヲ、執ルコト。又、其人。執權。[illegible] (二)關白ノ異稱。[illegible]レドモ、大將ヲバ經ザル臣ノミアリ、執柄ノ息、英才ノ[illegible]

しッぺい (名) 疾病 ヤマヒ。病氣。疾患。[illegible]

シッペイ (名) 竹篦 〔竹篦ノ宋音〕 (一)竹製ノ、杖ノ如キモノ、禪家ニテ、人ヲ打ツニ用キルモノト云フ。[illegible] (二)又、俗ニ、戲レニ、指ヲ、指ニテ張リ反セテ、其彈カニテ、人ノ臂ヲ打ツコト。[illegible]

ジッペイがへし (名) 竹篦返 〔竹篦ニテ打タレタルヲ、打チかへす義〕 [illegible]ヨリ、擲タルルニ對シ、同ジ方法ニテ此方ヨリ、仕返シヲナスコト。

しッぺいけ (名) 執柄家 攝家ニ同ジ。

しつべん (名) 執鞭 (一)鞭ヲ、手ニ執ルコト。(二)鞭ヲ執リテ、馬ヲ御スルコト。[illegible]

しつぽ (名) 尻尾 〔しりをノ音〕 (一)獸ナドノ尾。尾巴 「猫ノしっぽ」 (二)スベテ、形ノ、尾ニ似タルモノヲ云フ語。[illegible]

しッぽ (名) 疾步 足トク、歩ムコト。急步 疾行。[illegible]

じつぼ (名) 實母 マコトノハハ。ウミノハハ。(養母、繼母ナドニ對ス) 生母

じッぽう (名) 寶法 〔字ノ音、じっぽふノ音便〕 又、じぽふ。寶質。寶鐘。[illegible]六、[illegible]テ、殊ニ、笑ヲ含マセオハシマス」

しつぼく (名) 質朴 心、所行、律儀ニテ、飾リ無キコト。樸直 [illegible]

シッポク (名) 卓子 〔卓袱ノ唐音ト云フ〕 (一)唐風ノ食事ニ用キル卓ノ名。四脚ニシテ、高サ三尺許、周リニ布帛ヲ垂ルト云フ。其饌具ヲ、卓子料理ト云ヒ、其簡速ナルヲ、普茶ト云フ。卓子臺。(二)蕎麥切ニ、松茸、椎茸、蒲鉾、菜、ナド加ヘテ、煮タルモノ。

シッポクだい (名) 卓子臺 前條ノ(一)ニ同ジ。

シッポクれうり (名) 卓子料理 前條ノ(一)ヲ見ヨ。

じッぽふ (名) 實法 實法ノ條ヲ見ヨ。

じつぼん (名) 實犯 己レ自ラ、罪ヲ犯スコト。實際ニ、罪ヲ犯スコト。[illegible]語、二、謀反人各召捕事「カノ大納言(伴善男)ハ、實犯ニテ、云云、終ニ、伊豆國ヘゾ流サレケル」

しッぽり (副) シトトニ。シメヤカニ。[illegible]汗ヲカクモノカ」[illegible]しっぽり濡ルル」

しづまる・る・れ・ら・り・れ (自動、四) [illegible] 〔[illegible]むノ自動〕 (一)靜カニナル。落チ着ク。騷ギ、止ム。夫木抄、十八「吹キシヲル、嵐ヲコメテ、埋ムラシ、フケユク山ゾ、雪ニしづまる」 (二)〔騷亂、止ミテ、穩カニナル。(世ノ亂レナドニ)〕 鎭定 [illegible]百姓無事」 (三)ヲサマル。オチツキ、トマル。止 [illegible]「痛ミガしづまる」 (四)〔其地ニ留リテ、遷ラズ。鎭座ナル。(神ノ靈ナド)〕 [illegible]キノベノ宮ヲ、[illegible]宮ト定メマツリテ、神ナガラ、安定マシヌ」 (五)〔氣象、浮キテ騷ラズ。沈着 [illegible]イトしづまりタル人ナリ」 狹衣、四、下「年ノ程ヨリモ、コヨナク大人ビ、しづまり給ヘル」 (六)〔寢ヌ。就枕 [illegible]レバ、人人モ、しづまりぬ」 [illegible]古今集、十三、[illegible]三「人、しづまる程、夜、イタク更ケテ」「御しづまる」

しづみき (名) 沈木 物ノ下ニ沈ミタル木。埋レ木。夫木抄、廿九「涙川、春ノ月ナミ、タツ毎ニ、身ハしづみ木ノ、下ニ朽チツツ」

じつみやう (名) 實名 〔假名ニ對ス〕 な(名)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]名、實名、二首ノ[illegible]

しつ・む・ム・ム・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔しあつむノ約〕 ナシ、アツム。取集 [illegible]リアツム [illegible]十五、[illegible]代ノ初ヨリしつめサセ給ヘル事トモ、記スホトニ、カカル疑ヒモアルベキナリ」

しつむ (名) 執務 事務ヲ、取扱フコト。[illegible]

しづ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 沈 (一)〔水ノ中ニ、下ル。底ノ方ヘ、行ク。沈下 (浮ぶノ反)〕 [illegible]河ニ、しづみニ、流ルレミヲノ、[illegible]ルラン」「石がしづむ」 (二)シヅマル。落チ着ク。鎭定 [illegible]十六 [illegible]中 [illegible]キ、[illegible]ノ下枝ニ、吹キト、テ、[illegible]山ノ[illegible]しづむナリ」 (三)〔身分、卑ク

テアリ。貴キニ昇リ得ズ。沈滯 沈淪 源、二、帚木六「物ノ品、貴ク生レナガラ、身ハしづみ、位、ミジカクテ」長秋詠藻、上「濁リニモ、染マヌ蓮ノ、身ナリセバ、しづむトモ世ヲ、歎カサラマシ」（四）〔奈落ニ、陷ル。ウカバズ。源、十四、澪標「イカデ、カノしづみ給フラム罪、救ヒ奉ルコトヲセムト」（五）深ク、ワヅラフ。沈痾 新古今集、十六、雜、上「秋ノ暮ニ、病ニしづみテ、世ヲ遁レ侍リニケル」（六）〔浮キ立タズ。氣ガ、フサグ。悒鬱 源、一、桐壺廿「恨ムカタナク、思シしづみテ」（七）〔泣キ俯ス。源、十、榊十三「涙ニ沈み給ヘルヲ」榮花物語、廿七、衣珠「しづみ入リテ、伏シヌ」萬葉集、二十卅「戀ニ將沈」

しづ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）沈（一）〔沈ムヤウニナス。水ノ中ニ、下ス。後撰集、十七、雜、三「面影ヲ、逢ヒ見シ數ニ、ナス時ハ、心ノミコソ、しづめラレケレ」（二）官位ヲ卑クシテ置ク。夫木抄、廿三「祈リツツ、猶コソ頼メ、陸奥ニ、しづめ給フナ、浮島ノ神」

しづ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）鎭（一）抑ヘテ、治ム。靜カニ定ム。鎭定 萬葉集、五、長歌「カラ國ヲ、ムケ平ラゲテ、御心ヲ、斯豆迷タマフト」（二）其處ニ、止メ据ウ。鎭座セサス。（神ノ靈ナド）神功紀制前紀「嚴ノ神我ヲ以鎭二坐穴門一」（三）寢サス。後撰集、六、秋、上「秋ノ夜ハ、人ヲしづめテ、ツレヅレト、掻キ鳴ス琴ノ、音ニゾ泣キヌル」

しづめ （名）沈 シヅムルコト。沈下。

しづめ （名）鎭（一）シヅムルコト。鎭定スルコト。（二）〔オモシ。オサヘ。鎭護。萬葉集、三、長歌、日ノ本ノ、大和ノ國ノ、鎭トモ、座ス神カモ」（富士山）神功紀制前紀「鎭二和魂、爲王船鎭一」續紀、廿五、天平寶字八年十月「國ノ鎭トハ、皇太子ヲ置定メテシ、心モ安ク、於多比二在リト」

しつめ （名）實目 マジメ。ジッテイ。似我蜂物語（寛永）「相客、可笑シサウニハ有リケレドモ、實目ニナリテ居タリケル」

しつめい （名）失明 視力ヲ、失フコト。目ガ潰レルコト。盲ニナルコト。史記、太史公自序「左丘失レ明、厥有二國語一」

しつめい （名）失命 生命ヲ、失フコト。イノチヲ、ナクスコト。落命。

しつめい （名）失名 姓名ノ、分明ナラヌコト。佚名。

じつめい （名）實銘 じってい（實體）ニ同ジ。實直

じつめいし （名）實名詞 めいし（名詞）ノ條ヲ見ヨ。

しづ・める （動）沈鎭 沈む（下二段）、鎭むノ口語。

しづめをり （名）沈折 扇ノ先端ノ、縮リテ、開カヌ折方。（末廣ノ先端ノ、縮ラヌ折方ニ對ス）卽チ、普通ノ扇ノ稱。東關紀遊記（玄旨）「時ヲ得テ、イルル扇ノ、箱根山、日ノ本マデモ、ナホしづめをり」

しつもん （名）質問 文義ナドノ解ケヌヲ、問ヒ質スコト。漢書、劉歆傳「質二問大義一」陸游詩「稺子挾レ書勸二質問一」

しづやか・ニ （副）靜カニ。シヅケク。深沈 靜謐 宇津保物語、樓上、上廿「今ハ、長雨ガチナリ、しづやかニ降リテ暮ラス日、時鳥、カスカニ鳴キワタリ」源、三十四、下、若菜、下八十「イデヤ、しづやかニ心ニクキケハヒ」同、十三、明石廿「カノ浦ニ、しづやかニ隱ロフベキ隈、侍リナムヤ」

しつやく （名）實役 芝居ノ語、實事ヲ演ズルモノ。又、ソレヲ得意トスル俳優。敵役ナドニ對ス。

じつよう （名）實用 人間、肝要ノ事ニ、用アルコト。（飾り、慰み、ナドニ對ス）

しつらい （名）疾雷 急激ナル、カミナリ。烈シキカミナリ。迅雷。六韜、軍勢「疾雷不レ及レ掩レ耳」

じつらい （副）日來 ヒゴロ。素日

しづらか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）シヅルヤウニス。シヅレシム。爲忠百首、下「友トテヤ、ユルギノ森ノ、雪ヲ見テ、爭フ鷺ノ、しづらかすラン」

しつらひ （名）シツラフコト。設ケ、裝フコト。裝置 源、十九、薄雲八「小サキ御調度ドモ、ウツクシゲニ調ヘサセ給ヘリ、云云、御しつらひ、雛遊ノ心地シテ、ヲカシウ見ユ」同、十五、蓬生六「サスガニ、寢殿ノ内バカリハ、アリシ御しつらひニカハラズ」

しつら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔爲繕ふ意カ〕取繕フ。構ヘ、設ク。飾リツクル。裝置 竹取物語「翁ハ、閨ヲしつらひナドス」源、四、夕顏卅「御車、入レサセテ、西ノ對ニ、御座ナドヨソフ、云云、假初ナレド、淸ゲニしつらひタリ」落窪物語、三、物運ビ、簾掛ケ、しつらふ」名義抄「繕、シツラフ、ツクロフ、ツクル」字類抄「補理、シツラフ」

しつら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）〔爲つらふノ義〕構ヘ設ケ、作ル。シアツカフ。結構 僧尼令、義解「修理佛殿」注「謂、丹二雘塔剎一之類也」遊仙窟「料理」名義抄「料理、シツラフ」

しづり （名）倭文 しづおりノ約、しづノ條ヲ見ヨ。神代紀、下五「倭文神、此云二斯圖梨俄未」

しづり （名）シヅルコト。枝ヨリ落ツル雪。シヅレ。綺語抄、上「奥山ノ、しづりノ下ノ、袖ナレヤ、思ヒノ外ニ、濡レヌト思ヘバ」爲忠後度百首、末葉濡ル、しづりヤ繁キ、吳竹ノ、古根モ雪ヲ、戴キテケリ」同「降ル雪ニ、逢坂山ノ、旅車、杉ノしづりニ、袖ゾ濡レヌル」

じつり （名）實利 實際ノ利益。現實ノ利益。「實利主義」

じつりょく （名）實力 實際ノチカラ。實地ノ力量。「實力デ爭フ」

しづ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔垂るト通ズ〕草木ノ上ニ、積レル雪ノ、解ケタルガ、枝葉ノ間ヨリ、漏リ落ツ。（名詞形ニしづり、使役相動詞ニ、しづらかすト云フ語モアリ、しづりノ條ヲ見ヨ）

しづ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）前條ノ語意ニ同ジ。爲忠百首「朝マダキ、松ノウラ葉ノ、雪ハ見ム、日影サシ來バ、しづれモゾスル」

しづれ （名）雪ノ、シヅルルモノ。枝ヨリ落ツル雪。シヅリ。散木集、四、冬「雪ヲ重ミ、垂レルミサノ、枝ナレバ、サハル小笠ニ、しづれ落ツナリ」爲忠後度百首「難波江ノ、葦ノ秋葉ノ、しづれコソ、下ハフ鷺鷥ノ、上着ナリケレ」

しつれい （名）失禮 禮ヲ失フコト。キヤ無キコト。しちらい。無禮 失敬 左傳、定公十年「於レ神爲二不祥一、於レ德爲二愆義一、於レ人爲二失禮一、君必不レ然」

じつれい （名）實例 實際アリシ、タメシ。事實ノ例證。「實例ニ徴シテ明カナリ」

じつれき （名）實歷 實際ニ、經歷シタルコト。實地ニ、試ミタルコト。

しつれん （名）失戀 コヒノ、カナハザルコト。戀ノ、失敗シタルコト。又、カナハヌ戀。

じつろく （名）實錄 實ノ記錄。アリシ

事ヲ、書ヲ、國ヲ、記シツケタル文書、小竹ナドニ對ス）　著書、司馬遷ノ…　…之管篇」

しづわ（名）【後輪】（しづハ、下ノ義）くらぼね（鞍橋）ノ條ヲ見ヨ。　盛衰記、三十七「直衡物語事、三位中將、白栄ヲモシ給ハズ、云云、鞍ニテ、鞍ノしづわニ締メ附ケテ」

しつわ（名）【實話】事實ノ、ハナシ。

しづを（名）【賤男】身分、賤シキ男。シヅノヲ。賤民　萬葉集、十八「堀江ヨリ、ミヲヒキシツツ、御船サス、之津乎ノトモハ、河ノ瀬申セ」

して（名）仕手（爲人ノ義）（一）爲ル人。行フ人。（二）能、狂言、ナドニ、舞曲ノ中ノ主トナル技ヲ行フ役。コレニ作フモノヲ、連ト云ヒ、其相手トナルモノヲ、脇ト云フ。謠物、語物、ニモ、ソレト同ジ所ヲ述ブル役ノ稱トス。　太閤記、十五、大…御能事、與服、仕手、金春大夫、脇、春藤六右衛門」

して（辭）（一）ありて、又、て、ノ意。而「長クシテ、短クシテ、別ル、巧ミニシテ、速カナリ、言ハズシテ知ル」（二）を使ひて、以て、にて、ノ意。使以　伊勢物語、三十三段「二人して、結ビシ紐ヲ、一人して」源、四、夕顏「門明ケ了、惟光ノ朝臣出來ルヲシテ、奉ラス」同、同、「アリツル御隨身シテ、遣ハス」同、同九「書キ馴レタル手シテ、口トク、書シナド、シ侍リキ」同、三十七、鈴蟲「挾持ノ香爐、オノオノ白檀シテ、造リ奉ル」夫木抄、廿三「四方ノ海ヲ、ヒトツノ筒シテ、汲ミ乾サム」

して　接　（さてノ轉）シカシテ、サウシテ、「言ネハ、して　して」「して、其ノ後ハ何ト」

しで（名）四手（垂でノ義）（一）玉串、注連ナドニ、垂デカクルモノ、古ヘ、多クハ、木綿ヲ用ヰ、木綿四手ナド云フ、紙ヲ切リテモ用ヰルヲ、紙四手ト云フ。　神樂歌、韓神「宮人ノ、志天ハ袋ユル（木綿垂ナリ）」義經記、四、土佐房…討手に上る事「白布ヲ以テ、淨衣ヲ拵ヘテ、烏帽子ニ、しでヲ付ケサセ」（二）しでやなぎノ略。

しで（名）しでのやま（死出山）ノ條ヲ見ヨ。　本朝二…　享保、近松作、一「長刀カタゲテ出デタルハ、死出ノ嫁入リト見エニケリ」

し・で（動）垂づノ條ヲ見ヨ。

してい（名）【子弟】子ト、弟ト。又、年若キモノ。（父兄ニ對ス）　周禮、地官司、師氏「掌…國中失之事、以教國子弟、凡國之貴遊子弟、學焉」史記、項羽記「籍與江東子弟八千人、渡江而西」「子弟ノ教育」

してい（名）【師弟】師ト、弟子ト。　謠曲、雷電「眞實ノ志ノ深キ事ハ、師弟三世ニ若クハナシ」崔顥、詩題「潤州逢師弟」「師弟ノチナミ」

してい（名）【仕丁】仕丁ニ同ジ。

してい（名）【指定】ソレト、サシサダムルコト。「方針ヲ指定ス」「文部大臣指定ノ學校」

してい（名）【紫庭】「紫ハ紫微星、晉書、天文志「紫微垣十五星、在北斗北、云云、天帝之座也、天子之常居也」說文「庭、宮中也」」だいり（内裏）ノ異名。　後漢書、皇甫規傳、臣生長邊遠、希涉紫庭、怖慴失守

してい（名）【紫泥】しゅでい（朱泥）ノ條ヲ見ヨ。

してい（名）【耳底】ミミノソコ。ミミノ奥。　方干詩、耳底丁東十六聲」

していかう（名）【指定港】船積、陸揚、又、積替スベク、指定セラレタル港。

していがくかう（名）【指定學校】或ル學校ノ卒業生ガ、或ル資格ヲ有スルモノト、主務省ヨリ認定セラレタル學校、

してう（名）【四鳥】古ヘ、支那ニテ、桓山ノ鳥、四羽ノ雛ヲ生ミシガ、羽翼、成レバ、皆、母ヲ置キテ飛キ去レリト云フコト。コレヲ、四鳥の別れト云フ、其條ヲ見ヨ。

してう（名）【翅鳥】（一）疾ク飛ブ鳥。「翅鳥ノ翔」（二）圍碁ノ語ニ、逃レムトスル石ヲ、兩邊ヨリ千鳥がけニ追ヒツムルコト。してうなかくト云フ。征　碁式四丁不、被、懸」守武千句「東路ノ、ハテト思ヘド、碁ヲ打テ、四てうニカクル、佐野ノ舟橋」

してう（名）【鷙鳥】鷲、鷹ナド、猛クシテ、他ノ生鳥ヲ擊チ食フ鳥ノ稱　史記、越世家「鷙鳥之擊也、必匿其形」

してう（名）【思潮】思想ノ傾向。或ル時代ニ、高マル思想ノ流レ。「時代思潮」

してう（名）【市朝】（一）マチナカ。ヒトナカ。市井。市中。　禮記、檀弓、上篇「遇諸市朝、不反兵而闘」　太平記、廿八、漢楚合戰事「只願ハクハ、我ガ首ヲ刎ネテ、市朝ニ被曝、不然、鴆毒ヲ賜ウテ、死ヲ早クセント」（二）朝廷。（市ハ、帶說ナリ）　論語、憲問篇「吾力猶能肆諸市朝」

しでう（名）【枝條】えだ（枝）ノ（一）ニ同ジ。　朗詠集、上、春「入枝條柳眼低」

しでう（名）【施條】（條ハ、線ノ義）彈丸ノ彈道ヲ強ムルタメニ、銃身、又ハ、砲身ノ内壁ニ、螺旋狀ニ彫リツケタル、細ソキ溝。

しぢてう（名）【時鳥】（時時、鳴ク鳥ノ意、時雨、同趣）ホトトギス。　蘇軾、答李…「候鳥時鳥自鳴、自已何足怪」明…「　朱雀天皇ノ頃」「時鳥」八雲御抄、三、下、鳥部、二、さきつ鳥

しでうじう（名）【施條銃】小銃ノ筒ノ内壁ニ、細ソキ螺旋ノ溝ヲ刻リツケタルモノ、彈丸ヲ發スルコト、殊ニ疾クシテ、且、遠キニ及ブ。らいふる。

しで・う・つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）【四手打】（砧ヲ、兩人、對坐シテ、打つ義）繁ク、打ツ。（砧ニテ）　後拾遺集、五、秋、下「小夜深ケテ、衣しでうつ、聲聞ケバ、イソガヌ人モ、寢ラレザリケリ」拾玉集（慈鎭）一「月影ニ、衣しでうつ、音返エテ、鹿鳴キ明カス、秋ノ山里」

してうのわかれ（句）【四鳥別】（下ノ出典、及、四鳥ノ條ヲ見ヨ）親子ノ、悲シキ別離、　孔子家語、顏回篇、回聞、桓山之鳥、生四子焉、羽翼既成、將分于四海、其母悲鳴而送之」保元物語、二、爲義降參事「鳥ニアラネドモ、四鳥の別れヲ致シ」

しでうは（名）【四條派】日本畫ノ一派。京都ノ畫工、松村吳春ヲ祖トス。後世ハ、圓山應擧ヨリ出デタル圓山派ヲモ合ハセテ、稱ス。

しでうりう（名）【四條流】（一）築山ヲ作ル技ノ一流。後嵯峨天皇ヨリ創マレリト云フ。又、嵯峨流モアリ。（二）膳部料理ノ一流。禁中ニテ用ヰラル、四條家ノ祖、山蔭中納言政朝ヨリ始マル。

しでがさ（名）【四手笠】武具。指物ノ稱、笠ノ緣ヨリ、細ソク裂キタル紙ヲ、垂ラシタルモノ。

しでか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）【仕出來】シイダス。ナシハジム。ナシトグ。「ト

ンダ事ヲしでかしテ」

じてき (名) 詩的 (一)詩ノ趣味アルコト。(二)現實ヲ離レテ、感想ニ入ルニ云フ語。「詩的情操」

してき (名) 指摘 其レトサシテ、アバキ出スコト　北史、王劭傳「劭指三摘經史謬誤一、爲二讀書記三十卷一」

じてき (名) 自適 心ニカナヒ、自ラ甘ンジテ、樂シムコト。　漢書、高鳳傳「晉心篤行、處辟(サレ)不レ應、以二漁釣一自適」「悠悠自適」

しでこぶし (名) 〔垂(シデ)こぶしノ義、花(ハナ)、幣(シデ)ヲ切リカケタルガ如シ、しでやなぎモアリ〕 樹木ノ名、こぶし(辛夷)ノ條ヲ見ヨ。

しでざくら (名) 四手櫻 しでやなぎニ同ジ。

してして (接) して(接)ヲ重ネタル語。云ヒツケタル語。　狂言記、末廣がり「ヤレヤレ太儀ヤ、してして、求メテ來タカ」

しでのたをさ (名) 時鳥 〔鳴ク聲ヲ、名トス、しでのたをさ(しでとうさ)、ほとゝぎすナド、種種ニ聞キナサルルナリ、然ルヲ、田植ノ頃、盛ンニ鳴ケバ、其聲ヲ、田ニ縁アリゲニ、勸農ノ鳥ナド云フ諸說、附會ナリ〕 ほとゝぎす(時鳥)ノ異名。シデノタヲサ、　催馬樂、妹之門「肘笠ノ、雨モヤ降ラナム、之天多乎左」古今集、十九、誹諧「イクバクノ、田ヲ作レバカ、時鳥、しでのたをさヲ、朝ナサナ呼ブ」(己ガ名ノ、しでのたをさヲ呼ブナリ)　伊勢物語、四十三段「名ノミ立ツ、しでのたをさハ、今朝ゾ啼ク、イホリ數多ニ、疎マレヌレバ」中務集、「賤人ノ、忍ビテ物云フホトニ、時鳥ノ鳴キケレバ」「今宵コソ、しでの田長モ、聞キツナレ、今ヤ五月ノ、空ニ知ラレム」(蜀帝、死シテ、時鳥トナルヲ云フ)　夫木抄、七「ワサ苗モ、植付ケ過グル、程ナレヤ、しでのたをさノ、聲ハヤメタリ」　榮花物語、廿、御賀「早苗植ウル、折ニシモ鳴ク、時鳥、しでのたをさト、宜(ムベ)モ云フナリ」 しでト云フヨリ、死出の山ニ附會シテ、黄泉(ヨミ)の國ノ鳥ナド云フ。　古今餘材抄「顯昭說ニ、時鳥ハ、死出ノ山ヨリ來テ、農ヲ勸ムル鳥故ニ、死出の田長ト云フ」伊勢集「死出ノ山、越エテヤ來ナル、時鳥、戀シキ人ノ、上語ラナム」

じてっこう (名) 磁鐵鑛 〔磁氣ヲ有スルヨリ、名アリ〕 鐵ノ酸化物ノ、天然ニ產出スルモノニシテ、灰黑色ヲ有シ、鐵ノ重要鑛物トス。我ガ國ニテハ、陸中ノ釜石ヲ、第一ノ產地トス。

していてい (名) 執轉提 〔しだらうつノ轉ナルベシ、打ッ音ト云フ、松屋筆記ニ「音ヲ名トスルナルベシ」ト見エタリ〕 鼓ヲ、打ッコト。又、鼓ノ異名。　盛衰記、三十四、木曾可二追討一由事「此知康ハ、究竟ノしていてい

ノ上手ニテ、鼓判官ト、異名ニ呼ビケル」　體源抄、六「三鼓打ツ樣、一鼓、してい、してい、してい、していてい、していてい、如レ此受ケ取リツツ大鼓ノ間拍子ヲ打ツ也」　沙石集、五、上、第八條「前得二輪子名一、故、執轉提(シテテイ)等、准レ例亦爾」 轉ジテ、音便ニ、しててんト云フ。　增補松の落葉、四、手合相撲踊「相撲しててん、立髮(タテ)、力自慢」　加增曾我(寶永、近松作)月代(サカヤキ)ニ「しててん、クリ髮、ノシ髮」 鼓ノ音ヲ、今ハ、しってんてんト云フトゾ。

しててん (名) 前條ヲ見ヨ。

しでのき (名) 四手木 しでやなぎニ同ジ。

しでのたび (名) 死出旅 死出の山ニ行クコト。冥途ノ旅。　源氏十二段長生島臺(元祿、近松作)二「今ハ歎カセ給ヒテモ、カヘリ給ハヌ死出の旅」

しでのたをさ 名 時鳥 しでのたをさ(オ) (時鳥)ノ條ヲ見ヨ。

しでのやま (名) 死出山 死シテ行ク、冥途ニアリト云フ山。(しでのたをさ(オ)ノ條ヲ參照セヨ)　地藏十王經「閻魔王國境、死天山南門、亡人重過、云云、死而重死、故曰二死天一、從レ此亡人、向二入死山一」 平家物語、六、入道逝去事「歸リコヌ死出の山、三途瀨川、黄泉、中宇ノ旅ノ空ニ、唯一所コソ、赴カレケレ」

してばしら (名) 仕手柱 〔脇柱ニ對ス〕 (一)能舞臺ニテ、橋掛ヨリ舞臺ニ入ル角ニアル柱。(常ニ、仕手ノ、技ヲ演ズル目當トスルヨリ、此名アリ) 狂言記、止動方角「ワタシヲ、仕手柱ノ本ヘ遣ッテ」 (二)古ヘ、芝居ノ舞臺ノ、上手ニアリシ柱。

じてふ (名) 寺牒 寺院ヨリ、官衙ニ上(タテマツ)ル文書。　太平記、十五、園城寺戒壇事「如二解狀一、可レ爲二延曆寺別院一之由、被レ下二寺牒一」

してん (名) 四天 (一)四時ノ天。卽チ、蒼天(春)、昊天(夏)、旻天(秋)、上天(冬)ノ稱。　爾雅、釋天篇「春爲二蒼天一、夏爲二昊天一、秋爲二旻天一、冬爲二上天一」 (二)してんわう(四天王)ノ(一)ノ略。　太平記、十六、日本朝敵事「鐵ノ四天ヲ鑄奉リテ、比叡山ニ安置シ、四天合行ノ法ヲ行ハセラル」

してん (名) 司天 てんもんはかせ(天文博士)ノ異名。　盛衰記、廿七、周武王誅二紂王一事「殊逆二司天之奏一、爲レ止二陸相之歎一、厚免レ之條」

してん (名) 支店 〔本店ニ對ス〕 デミセ。分店「支店長」

してん (名) 指點 〔點ヲ打ツガ如キヨリ云フ〕 ユビザシ、ホスコト。指示。　杜甫、少年行「指レ點銀瓶一索レ酒嘗」

しでん (名) 私田 私有ノ田地。卽チ、位田、職田、賜田、口分田、其他ノ私有ノ田地ノ總稱。　後漢書、濟南安王康傳「私田八百頃」

しでん (名) 賜田 古ヘ、勅旨ヲ以テ、功勞アル人ニ賜(タマ)ハリタル田地。　田令「凡、別勅賜レ人田者、名二賜田一」

しでん (名) 師傳 師ヨリ、受ケ傳ヘタルコト。「師傳ノ奥義」

しでん (名) 史傳 歷史ト、傳記ト。　晉書、鄭方傳「雖レ無二有志節一、博涉二史傳一」

じてん (名) 字典 漢字ノ字引。字書。

じてん (名) 辭典 じびき(字引)ノ條ヲ見ヨ。

じてん (名) 次點 第二番目ノ點數。第二點「次點ノ議員候補者」

じてん (名) 自轉 〔公轉ニ對ス〕 地球、又ハ、他ノ遊星ガ、其軸ヲメグル回轉。例ヘバ、地球ハ、一自轉ニ二十三時五十六分餘ヲ要スルモ、月ハ、二十七日七時四十三分ヲ要スルガ如シ。

じでん (名) 自傳 自ラ書キアラハシタル、自己ノ傳記。自敍傳。

じてんきょう (名) 侍天教 朝鮮ノ一教ノ名、我ガ萬延元年、崔水雲(名ハ、濟愚、慶州ノ人)ト云フ者、慶州、龜尾山中ノ龍潭亭ニ籠ルコト、年餘、天聲、人語裏ニ、宇宙ノ原理ヲ大悟シテ、人生ハ、天主ヲ奉侍シテ、天主造化ノ中ニアリ、宇宙萬物、皆、天主造化ノ跡ナリ、人ハ須ラク、人事ヲ修メテ、天命ニ從フベシトノ呪文ヲ成シ、我ガ文久元年、教門ヲ開キ、洋教ニ抗ス、後、邪教ナリトテ、元治元年三月十日、絞殺セラル。(年四十二)

じてんしゃ (名) 自轉車 〔英語、Bicycle.

ノ[illegible]人ノ、[illegible]リテ、[illegible]レガ足ニテ[illegible]、行ク[illegible]、一[illegible]、二[illegible]、三[illegible]、等、[illegible]アリ」 自行車、[illegible]車

しーてんたい (名) 司天臺 天文臺。

しーてんだう (名) 四顚倒 佛教ノ語。眞理ヲ顚倒シテ見[illegible]スル、四ツノコト、[illegible]ヲ常トシ、非樂ヲ樂トシ、非[illegible]ヲ[illegible]トシ、不[illegible]ヲ[illegible]トスルモノ。「[illegible]如來誕生會(元祿、近松作)二「世間ノ榮華ヲ樂シムトイヘドモ、四顚倒ノ[illegible]ヒ、シバラクモ離レズ」

しーてんにてん (名) 四天二天 〔四天王、二天王ノ略〕 物ノ、相對シタルニ云フ語。

しーてんのびやう (名) 四天鋲 兜ノ鉢ノ前後、左右ノ、四ケ所ニアル鋲。

しーてんばったう (名) 四顚八倒 しちてんばったう(七顚八倒)ノ訛。「釋迦如來誕生會、[illegible]」

しーてんわう (名) 四天王 (一)佛經ニ、帝釋ノ外臣ニシテ、武將ノ如キモノ四、東方、持國天王、南方、增長天王、西方、廣目天王、北方、多聞天王ノ稱、以テ四方ヲ護ルト云フ。四天大王。略シテ、四天。榮花物語、八、初花「カク幼ウオハシマス[illegible]、生レ給ヘルハ、四天王、守リ奉リ[illegible]フ」(二)轉ジテ、武將ノ護衛トスル家人ノ、最モ剛勇ナル者ヲ四人、擇ビテ呼ブ稱。賴光ノ四天王(碓井貞光、卜部季武、[illegible]綱、坂田公時)、木曾ノ四天王(今井兼平、樋口兼光、楯親忠、根井行親)ナド云フ。盛衰記、四十二、源平侍共軍、判官ニハ、[illegible]

[illegible]第二、四郎[illegible]ナリ」(三)又、技[illegible]ナドニ、最モ勝レタル者四人ヲ、取リ出デテ呼ブ稱。和歌ノ四天王(頓阿、兼好、淨辨、慶運)、弓馬ノ四天王(武田信光、小笠原長清、[illegible]氏、望月重[illegible])ナド云フ。「[illegible]ナドテ、其ノ比ノ四天王ニテアリシナリ」

しーてんわうじりう (名) 四天王寺流 〔攝津ノ四天王寺ノ名ヲ用キル〕 工匠ノ語、建築ノ一種、平安朝ノ末世以前ノモノニテ、支那、唐ノ法ヲ用キテ、俯日瓦ナリ。鎌倉時代ノ初、一變シテ、宋ノ法ヲ用キタルヲ、建仁寺流(京都ノ禪寺)ト云フ、磨瓦トナル。

しーでやなぎ (名) 四手柳 喬木ノ名、山ニ多シ、幹、粗[illegible]キテ、白キ斑アリ、葉ハ、櫻ニ似テ、小サク、互生ス、初出ニハ、白キ毛アリ、春ノ末ニ、穗ヲナシ、枝ヲ分チテ、白キ花開ク、五瓣ナリ、穗長ク、數十、垂レ[illegible]リテ開クコト、紙四手ヲ掛ケタルガ如シ、實、開ク、大キサ三分許ナリ、稀ニハ、紅花ナルモアリ、あかしでト云フ。シデ。シデノキ。シデザクラ。ザイノリ。枎栘

しーてーやられる (動) 次條ノ語ノ受身相動詞 「ウマウマ、してやられる」

しーてーやる (句) (一)他人ノ爲ニナス。ヤッテヤル。「代ハッテ、將棊ヲしてやる」(二)[illegible]其ノ[illegible]ヘ逆寄セラレ、云云、サアしてやッタ、汝レ、ニックイ[illegible]ノ」(三)[illegible]、コレニ勝ガアル、コレハ取リタイモノヂャ、云云、マ[illegible]ハ、してやッタ」(四)食フ。口ニ入ル

ル。[illegible]、むりりむりりト、[illegible]してやりナガラ」

しーと (名) 〔[illegible]レ出ヅ、意〕 小便。[illegible]バリ。「[illegible]記、下、二十八[illegible]上[illegible]。「生レ給ヒシ時ヨリ、御[illegible]御しとニ濡ルルハ、嬉シキワザカナ」紫式部日記「此宮ノ御しとニ濡ヂオハシマス」 [illegible]十六、[illegible]ノ利口「或ル夜、法師、しとノ、シタカリケレバ」[illegible]九、雜、上「容好シト言ハレケル人ノ、打チトケテ、しとシケルノ[illegible]キテ、[illegible]ヲシタリケレバ、[illegible]テ、入リニケリ」

しーと (名) 使徒 〔英語、Apostles. ノ譯語〕 耶蘇基督ノ、十二人ノ弟子ノ稱。

しーと (名) 緇徒 〔緇、黑色〕 墨染ノ衣ヲ着ル、トモガラ。僧侶。「[illegible]詩、緇徒[illegible]」

しーと (名) 仕途 官職ニ就ク、ミチスヂ。官途。「[illegible]「仕途[illegible]息[illegible]」

しーと (名) 支途 支出ノ、ミチ。ツカヒミチ。「[illegible]ノ支途ヲ明カニス」

しーど (名) 私度 佛教ノ語、古ヘ、官ノ許可ヲ得ズシテ、私シニ僧尼ノ體ヲナスコト。「僧尼令「凡、有私度及、冒名相代、幷、已判[illegible]」

しーとう (名) 指頭 指ノサキ。ユビサキ。指尖 「太平記、十一、長門探題[illegible]事「[illegible]無、中[illegible]命ヲ扶カッテ、嘲リヲ、萬人ノ指頭ニ受クトイヘドモ」

しーとう (名) 枝頭 エダノサキ。「[illegible]大[illegible]枝頭」

しーとう (名) 絲桐 こと(琴)ノ異名。「[illegible]」

しーどう (名) 紫銅 カラカネ。

しーとう (名) [illegible]頭 鏃ノ一種、じんどう(神頭)ニ同ジ。

しーどう (名) 兒童 ワラベ。コドモ。「蘇軾詩「兒童[illegible]」[illegible]「一人ノ兒童、來タリテ、[illegible]宿セント[illegible]ム」

しーどう (名) 侍僮 御側ニ仕フル童子。小性。侍豎。「唐書[illegible]侍僮[illegible]」

しーどう (名) 慈童 能面ノ一種、童子ノ顏ニ作レルモノ。謠曲ニ、菊慈童ト云フ曲アリ。

しーどう (名) 自動 語學ノ語、動詞ノ性質ニ、其動作ノ意ノ、他ノ物事ニ係ラズ、獨リ自ラ通ズルモノ、「鳥、啼く」「犬、眠る」ノ「鳴く」「眠る」ノ如シ、コレヲ、自動詞トモ云フ。又、其意ノ、他ノ物事ヲ處置シ、必ズ、其物事ヲ要シテ意ヲ成スヲ、他動ト云フ、「書ヲ讀む」「字ヲ記す」ノ「讀む」「記す」ノ如シ、コレヲ、他動詞トモ云フ。

しとうーぐわ (名) 指頭畫 爪ノ先ニ墨ヲ付ケテ描ク畫。

しどうーし (名) 自動詞 前前條ヲ見ヨ。

しどうーしや (名) 自動車 〔米語、Automobile. 英語、Motor car. ノ譯語〕 一種ノ車、瓦斯發動機、又ハ、電氣發動機ノ裝置アリテ、其動力ニヨリテ、車輪、回轉シテ、進行スルモノ。

シトキ (名) 〔蝦夷語、Shitoki.〕 蝦夷人ノ上流ノ女子ノ頸ニ纏掛クルモノ。珠ヲ繫ニ綴ルみすまる、くハ珠衣ノ如シ。

しーとぎ (名) 粢 〔白漸ノ略カト云フ〕

米粉ニテ作レル餅ノ名、神前ニ供フ、形、鶏卵ノ長キガ如シ。倭名抄、十三祭祀具「粢餅、之度岐」字鏡「粭、志止支」

しとぎ-つば (名) 粢鍔 鍔ノ形ノ、楕圓ニシテ、粢ノ如クナルモノ。本朝三國誌(享保、近松作)二「兵庫鎖ノ粢鍔」

し-とく (名) 至徳 延ベテ、しいとく。徳ノ、至極ナルモノ。論語、泰伯篇「子曰、泰伯、其可レ謂二至徳一也已矣」太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「惜、亦務、未レ非二明王之至徳一」

し-とく (名) 四徳 (一)宇宙ニ存在スル、自然ノ四ツノ徳。即チ、元、亨、利、貞、ノ稱。易經、上經、文言傳「元者、善之長也、亨者、嘉之會也、利者、義之和也、貞者、事之幹也、云云、君子行二此四徳一者、故曰二乾元亨利貞一」盛衰記、三、一院女院厳島御幸事「伏惟、四徳雖レ殊、六行雖レ闕、切侍二姑山一而承レ恩」(二)婦女ノ、四ツノ徳。即チ、言、徳、功、容。後漢書、皇后紀、論「周禮九嬪、掌レ教二四徳一」(三)佛教ニテ、涅槃ノ四ツノ徳。即チ、常、樂、我、淨。

し-とく (名) 私徳 社會、公共ニ對スル徳ニアラズシテ、自己ニ對スル徳。(公徳ニ對ス)

し-とく (名) 舐犢 老イタル牛ノ、犢ヲ愛シテ、舌ニテ舐ルコト。親ノ、子ヲ慈シミ愛スルニ喩フル語。後漢書、楊彪傳「猶懷二老牛舐犢之愛一」

し-と・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 爲遂 爲テ、成ス。爲果ス。成就ス。

じ-とく (名) 自得 (一)自ラ心ニ、能ク覺リ得ルコト。(學藝ノ奥義ナドニ) (二)自ラ心ニ、滿足スルコト。中庸、第十五章「君子無レ入而不二自得一焉」左思、東都賦「百姓莫レ不二優遊而自得一」太平記、一、玄慧文談事「吾レ無爲ノ境ニ優遊シテ、是非ノ外ニ自得ス」

じ-とく (名) 侍讀 君側ニ侍リテ、書ヲ講ジ、學問ヲ敎フル職。又、其人。侍講。唐書、百官志「東宮官侍讀、無二常員一、掌レ講二導經學一」明治職官沿革表、一、職官部、上「置二侍讀一」

〜**しどけな・し**・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔靜氣無シノ轉カト云フ〕 亂レタリ。締リナシ。しどなし。シドモナシ。亂次 小町集「しどけなき、寢クタレ髮ヲ、見セジトヤ」源、六、末摘花「十「御覽ツキノしどけなきヲ、繕ヒ給フ」同、二、帚木「直衣バカリ、しどけなく着ナシ」榮花物語、八、初花「しどけなう、打解ケレバ、エゾ、書キ續ケ侍ラヌ」宇治拾遺、九、第六條「大隅ノ守ナル人、云云、郡司ノ、しどけなかりケレバ、云云、先先ノヤウニ、しどけなき事アリケルニハ、罪ニマカセテ、重ク輕ク、戒ムル事アリケレバ」古事談、六、亭宅諸道「八十有餘ノ后、設二此曲一之由、云云、老若ノ間、無二四度解一設ケタリケリ」吾妻鏡、五、文治元年十一月六日「或就二臨臨之武士一、寄二事於左右一、動現二奇怪一候、不レ致二其用意一候者、向後無二四度計一候歟」

⁂**し-と・げる** (動) 爲遂 しとぐノ口語。

しど-ころ (名) 尻所 王朝時代、或ル官吏ノ、他官ニ轉任シタルトキ、太政官ニテ、執筆ノ人、其官名ノ下ニ、闕官ト記スコト。

しど-し (名) 四度使 しどのつかひ(四度使)ニ同ジ。政事要略、五十七、交替雜事「公文、四度使者、正税帳使、大帳使、貢調使、朝集使也」

しと-しと (副) (一)シトヤカニ歩ミナドスル狀ニ云フ語。しづしづ。吉野都女楠(正德、近松作)四「幼心ニ只一騎、云云、藤井寺ヲ弓手ニナシ、右手ヘ、サラサラ、しとしとしと」(二)雨ナドノ、シメヤカニ降ル狀ニ云フ語。シヌヌニ。「雨、しとしと降ル」

しと-しと (副) 〔しとどノ轉〕 濡レマサル狀ニ云フ語。ジタジタ。ジトジト。

〜**しど-だち** (名) 章斷 〔後戸斷ノ義ト云フ〕 喪、出ヅル日、門戸ニ縄ヲ控渡シテ、家鬼ノ歸リ入ラムヲ斷ツ、厭勝ナラムト云フ。倭名抄、十三祭祀具「注連、之利久倍奈波、章斷、之度太知」顏氏家訓、風操篇「喪出之日、門前然レ火、戸外列レ灰、祓二送家鬼一、章二斷注連一(章斷也)」古事記、上卅「以二尻久米縄一、控二度其御後方一」

しと-だる (名) 四斗樽 樽ノ、大キクシテ、酒ヲ、四斗、容ルルモノ。サレド、今ハ、稍、小サクナリテ、三斗二三升ヲ容ルベキヲ云フ。「薦被ノ四斗樽」

しど-ちやう (名) 四度帳 王朝時代、大帳、調庸帳、正税帳、朝集帳ノ、四ツノ帳簿ノ總稱。二中歷、七、公文「今案、四度帳者、注「大帳、調庸帳、税帳、朝集帳」」

しど-づつ (名) 尿筒 尿ヲ受ケ入ルル筒。古ヘ、官人、束帶ノ時、牛車ノ内ニ携ヘ、或ハ、從者ニ携持セシメシモノ。

〜**しと-と** (副) シヌヌニ。シトシト。シタタカニ。甚シク。落窪物語、一「しとと打チ給ヘバ」今昔物語(一本)十五「負ハレタル男、負ヒタル男ノ肩ヲ、しとと食ヒケレバ」

〜**しと-ど** (副) 甚シク濡ルル狀ニ云フ語。ジトジト。ジタジタ。明徳集「白露ニ、しとどニモ我ガ、濡レニケル哉」宇津保物語、國讓、下七「汗ニ、しとどニ濡レテ」同、同廿「御衣ノ袖ノ、しとどニナリヌマデ、泣キ給フ」金葉集、十、連歌「雨降レバ、岸モしとどニ、ナリニケリ」

〜**しとど** (名) 巫鳥鵐 〔巫鳥ノ字ハ、古語拾遺ニ、片巫ニ、志止止鳥ト注セルニ起ルカ、或ハ、からないしとどナドモ云ヘリ〕 小鳥ノ名、山林ニ棲ム、雀ニ似テ、黄赤ニシテ、翅ニ、黒キ縱ノ斑アリ、脚、掌、黒ク、眼ニ、菊座ノ如キ圈アリ。のじこ、あをじ、くろじ、ナド、種類、多シ。シトドドリ。天武紀、下、九年三月「巫鳥、此云二芝苔苔一」倭名抄、十八羽族名「鵐、巫鳥、之止止」字鏡「二鵐、志止止」

しとど-どり (名) 巫鳥 前條ヲ見ヨ。

しとど-め (名) 鵐目 刀ノ鞘ノ栗形、或ハ、和琴、箏ナド、諸ノ器ノ、孔アル處ノ縁ニ填ムル金具ノ名、形、しとどノ目ノ如シ。刀劍略説「鵐目、提緒ヲ通ス、栗形ノ座金物」樂家録、七、和琴「鵐目」注「是、通レ緒孔之周角座也」

しどな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) しどけなしニ同ジ。古淨瑠璃、横笛「アラ恋シノ父上ヤト、しどなきこゑも弱弱ト、語リ致キテ居タリケリ」

〜**しと-ね** (名) 茵褥 〔下延ノ約轉カ〕 坐ル下ニ敷ク敷物。褥。座蒲團。スワブトン。倭名抄、十四坐臥具「茵、之止禰」茵毯、以二虎豹皮一爲レ之」同、十一車具「鞇、車乃之度禰」名義抄「褥、シトネ、ウハシキ、ニク」天治字鏡、十二卅「褥、志止禰」枕草子、四、四十四段「式部ノ丞忠隆ガ、御使ニテ參リタレバ、しとねサシ出ダシ」

しど-の-つかひ (名) 四度使 國司ノ用事ヲ帶ビテ、時時、出京スル使。しどし(四度使)、及、四度帳ノ條ヲ見ヨ。

〜**し-とみ** (名) 蔀 〔しハ、風雨、とみハ、止ノ轉〕 檐ノ日覆、日除、ニ用キル戸、高貴ノ家、神社、佛閣ナドニ用キル。其ノ釣リアグベク作レルヲ、上蔀、釣蔀ナド云フ。倭名抄、十四居宅具「蔀、之度美、覆レ暖障レ光者也」皇極紀、四年六月「席障子」

しどみ (名) 樹ノ名、木瓜ノ屬、山野ニ多シ、高キハ三四尺ニ至ル、枝ニ、刺多シ、葉ハ、ひぼけニ似テ、小サシ、春、五瓣ノ紅黄花ヲ開ク、單瓣ニシテ、大キサ八分

許、實ハ夏、熟ス、一寸許ニシテ、頭、尾、凹シ、花ノ、白キモアリ、しろぼけト云フ。「しとみ」[illegible]

しとみや（名）蔀屋 蔀ニテ圍ヒタル假屋。 月詣集、七、雜、上「春日ノ社ニ、行宴作リケルニ、しとみやノ前ニ、花ノ散リ殘リケルヲ」 辨内侍日記「しとみやヨリ見渡シタレバ、遙カニ、沙、地、白白ト見エテ」

しと・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）湿ル。 盛衰記 [illegible] カリケリ」

しと・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［蔀］ [illegible] タッタト覺エシト、アタリヲ見廻ハシ、コリャ見ヨ、[illegible] しとむ」

しとめ（名）しとみノ訛

しと・める（動）［仕留］ 前前條ノ口語。 [illegible] 云、一人ハ、仕留める」

しともな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）しどけなしニ同ジ。 [illegible] たき小サキ人共、車ニ取リノセ奉リ、イヅクヲ指シテ行クトモナク、遣リ出ダシテ」

しとやかさ（名）〔しとやかハ、靜やかノ轉ト云フ〕 起居動止ノ、落チ着キタル狀ニ云フ語。シナヤカニ。優容 閑雅

しとり（名）濕 （一）シトルコト。シメリ。ウルホヒ。（二）手間ドルコト。遲滯。 [illegible]

しとり（名）機ノ經絲ヲ卷クトキ、間ニ入ルルモノ。

しとり（名）倭文 しづおりノ約、倭文ノ條ヲ見ヨ。 倭名抄、七「上野國、那波郡、委文、之止利」 同、九「淡路國、三原郡「倭文、之止里」（以上ハ、地名ナリ） 字類抄「和文、シトリ、紫織錦名」 神代紀、下「倭文神、此云斯圖梨俄未」

しとりべ（名）［儐從］〔後取部ノ義〕 主ノ後ニ從ヒテ、仕フルモノ。從者。供人。シンガリ。殿後 皇極紀、三年十一月「名ニ健人、曰ニ東方儐從者一」 安閑紀、元年閏十二月「儐從」

しと・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）濕 シメル。ウルホフ。しとどニナル。

しどろあし（名）亂足 シドロナル足。揃ハヌ足ツキ。 國性爺合戰（正德、近松作）五「進ミカネタルしどろあし」

しどろま（副）［取次案］〔次次條ノしどろもどろまノ約略〕 次第無ク、打亂レタル狀ニ云フ語。藤次モ無ク。シドロモドロニ。 俚言集覽「往亂來亂、シドロモドロ」 [illegible] 上「取次」 千載集、四、秋、上「踏ミシダキ、鹿ノ行ク萩ヤ、[illegible] しどろニ見ユル、野路ノ刈萱」 山家集、下「遮ナリテ、風ニ亂レテ、鳴ク雁ノ、しどろニ聲ノ、聞ユナル哉」 夫木抄、七「今日クレバ、しどろま見ユル、山賤ノ、オドロノ髮モ、葵ツケタリ」 [illegible] 十一、戀、一「朝寢髮、亂レテ戀ゾ、しどろなる、[illegible]」 月詣集、四、戀、上「しどろなる、筆ノスサビヲ、見ルカラニ」 行宗集「雨降レバ、門田ノ稻ノ、しどろなる、心ノママニ、傾キワタリテ」

シトロン（名）〔英語、Citron.〕 しどろん（枸櫞）ト云フ果實（橙ニ似タル物）ヨリ製シタル飲料。

しどろもどろま（副）〔しどろもどろハ、足取リ戻ノ略轉〕 しどろまヲ、更ニ甚シク云フ語。取締リナク、漫リガマシク、甚シク、打亂レテ、イト、シドロニ。 字鏡集 [illegible] 上「[illegible] しどろもどろま亂ヒテ」

源、三十二、梅枝「スココノ紙屋ノ色紙ノ、云云、筆ニマカセテ、亂レ書キ給ヘル狀、見所、限リナシ、しどろもどろま愛敬ヅキ、見マホシケレバ」 六帖、六「マメナレド、ヨキ名モ立タズ、刈萱ノ、イザ亂レナム、しどろもどろま」 狹衣、一、上「我ガ心、しどろもどろまナリニケリ、袖ヨリ外ニ、涙漏ルマデ」 下學集、下、言辭門「取次第斗、元亨釋、過所長所」

しどろやき（名）志戸呂燒 遠州七竈ノ一、遠江國、榛原郡、質侶（今ハ、五和村大字志戸呂）村ヨリ産出スル、水注、茶碗、等ノ磁器ノ稱。シコロヤキ。

しな（名）品科 （一）物事ノ、タグヒ。種類。 神樂歌、採物、弓「弓ト云ヘバ、志奈ナキモノヲ、梓弓、檀弓槻弓、志奈コソアルラン」（二）上下、優劣ノタガヒ。段。格。階級 等差 居宅具「塔、俗爲ニ階字、波之、一、訓ニ之奈二」（三）階段。階 倭名抄、十五（四）身柄。人品。品。品位 品格 源、一、帚木「人ノしな高ク生レヌレバ、人ニモテ傳カレテ」 同、三十四、上、若菜、上「サブラフ中ニ、しな、心ノスグレタル限リヲ、擇リテ」 徒然草、第一段「しな下リ、顏、憎サゲナル人ニモ、立チマジリテ」（五）物ノ、種種ナルモノ。イロ。「一品二品」（六）事ノ狀態 國性爺後日合戰（正德、近松作）三「事ニヨラバ、助カル品モアルヘキガ」「しなニ因レバ」（七）物。貨物。 狂言記、吃「十一ノ品デ違ウタル小包、一ツ」「此しな、粗末ナレド」「しなガ切レテ」

しな（名）科 しなのきノ條ヲ見ヨ。 神樂歌、木綿作「木綿造ル、志奈ノ原ニヤ」

シナ（名）支那 〔或ハ、震旦トモ記ス、印度ヨリ稱シタル名ニテ、文物國ノ義ナリト云フ、舊約全書ニ、Sinoa.トアルモ、是レナリトゾ、或ハ云フ、秦ノ威、胡ニ震ヒシカバ、其名ヲ、印度ニ傳ヘタルナリト〕 漢、唐、二朝、彼邦、歷代中ノ盛時ニシテ、國運長久、其文化、武威、四

方ニ傳ハリ、支那、古今ノ總稱トナル。今、中華民國 [illegible] 西域沙門、金利防等十八人、賷梵本經、來化」 印度ノ阿育王、佛教擴張ノ時ナリ） 翻譯名義集、三、諸國「脂那」注「婆沙二音、一、云ニ支那、此云ニ文物國、即、讚ニ美此方是衣冠文物之地也、二、云ニ指難、此云ニ邊鄙、即、貶ニ挫此方非ニ中國也」 西域記云「摩訶至那、此日ニ大唐」 [illegible] 支那ヲ、又、震旦トモ云ヘリ。 翻譯名義集、三、諸國「震旦」注 [illegible] 方、故云ニ震旦 [illegible] 樓炭經云、蔥河以東、名爲ニ震旦、以ニ日初出耀ニ於東隅、故得ニ名也」 下學集、上、天地門「震旦」注「支那、唐土也、又、作ニ任任、一本、作ニ仕那」

しな（接尾）〔時ノ意ヲ云フ古言ノ、しだノ轉（むだ、空。いただき、いなたき。わだく、わなく）〕 時。ツイデ。 浮世風呂（文化、三馬）二編、下「柘榴口ヨリ出ルしなニ」「行キしなニ見ル」「寐しなノ」「起キしな」「歸りしな」

しあい（名）寺内 寺ノアル、一構ヘノ地ノ内。寺ノ境内。寺中。 盛衰記、四十五、重衡向ニ南都ニ被ニ斬事「寺邊ニ發向ス、可ニ入ニ其足寺内ニ歟、於ニ境内ニ可ニ被ニ請取ニ歟」

しあう（名）子囊 植物學ノ語、胞子ヲ入レタル、小サキ囊。

しな・える（動）しなゆノ口語。

しながき（名）品書 品物ノ目錄。又、其書附。「進上物ノ品がき」

しなかたち（名）品形 人品ト、容姿ト。身分ト、ミメカタチト。 徒然草、第一段「メデタシト見ル人ノ、心劣セラルル本性見エンコソ、口惜シカルベケレ、品形コソ、生レツキタラメ、心ハ、ナドカ、賢キヨリ賢キニモ、移サバ移ラサラン」

しながどり（枕）息長鳥 〔しなかどり

ハ、鳰鳥ナリ、しハ、息、此鳥、水底ヨリ浮ビ出デ、阿阿ト、息ツキノ長キ意、尻長鳥ノ義ナリト云フハ、アラジ」鳰鳥ハ、水中ニ居ル間、息、長ク、又、雌雄、相、率キルヨリ、ゐニカケ、又、息ヲツク聲ヨリ、安房ニカクルト。新古今集、十、旅「しながの鳥、居名野ヲ來レバ、有馬山」萬葉集、七十七「四長鳥、居名ノ湖ニ」同、九「長歌「水長鳥、安房ニ繼ギタル、梓弓」

しな-がは（名）［品川］馬鹿囃子ヲ見ヨ。

シナ-カバン（名）［支那鞄］櫃形ノかばん。外側ハ、多クハ、白キ革、又ハ、白紙ナドニテ貼リタルモノ、モト、支那ヨリ作リ出シタルヨリ、此名アリ。

しな-がは-をどし（名）［品革縅］〔歯朶革縅ノ轉ト云フ（いただき、いなたき。わだく、わなく）〕鎧ヲ、藍皮ニ、歯朶ノ紋アル革ニテ、縅シタルモノ。盛衰記、十五、宇治合戰事「源三位入道ハ、薄縹染ノ長絹ノ直垂ニ、しな革縅ノ鎧、著テ、今日ヲ限リトヤ思ヒケン」

しな-がら（名）［品柄］物品ノ性質、又、有様。がら（柄）ノ條ヲ見ヨ。

しな-ぎれ（名）［品切］賣品ノ、賣リ盡クシテ、無クナレルコト。皆ニナルコト。

しな-く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［萎］しなぶ（萎）ニ同ジ。

しなけ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［呻吟］サケブ。ウナル。ニヨブ。名義抄「吟、シナケル、ニヨブ」字類抄「呻吟、シナケル」字鏡集「吟、シナケル、ニヨフ」

しな ざかる（枕）［級坂在］〔級坂ノある義ニテ、愛發ノ關路ヲ始メトシテ、スベテ、坂路、多ケレバ云フトゾ、級遐る層ノ説ハ、イカガ」越ノ國（北陸道）ノ枕詞。萬葉集、十七「長歌「之奈射加流、越ヲ治メニ」同、十九「長歌「級坂在、故志ニシ住メバ」同、同三十八「之奈謝可流、越ニ五年、住ミ住ミテ」

しな-さだめ（名）［品定］〔さだめハ、論ノ意〕人、物、ノ品位、等級ヲ、論ズルコト。又、良否ヲ分ツコト。考選　品騭（位ノ階ノ高下ヲ定ムルコト）源、四、夕顔九「アリシ雨夜ノしなさだめノ後、イブカシク思シナル、品品ノアルニ」天武紀、下、二年五月「考選　准ニ官人之例ニ」

しな しな（副）靭ヒ、タワム狀ニ云フ語。シワシワ。シネシネ。ナヨナヨ。釋迦如來誕生會（元祿、近松作）二「曼陀分陀利華、咲キ亂レ、咲キシナダレテ、しなしなト、品ヨク慕ヘ、慕フトテ」「身體ヲ、しなしなサスル」

しな-しな（名）品品　クサグサ。種種。源、七、紅葉賀十「イツシカ雛ドモ押シ据エテ、云云、三尺ノ御厨子一具ニ、しなじなシツラヒ据エテ」

しな-じな・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［品品］品格、高シ。上品ナリ。源、五十、浮舟廿「男ドモ、多クしなじなしからヌケハヒ、喋喋リツツ入リ來タレバ」同、四十九、東屋六十「田舍ビタル、ザレ心モテツケテ、品品しからズ」宇治拾遺、十、第六條「ケダカク、品品しう、ヲカシゲナルコト、田舍人ノ子ト云フベカラズ」

シナ-じん（名）［支那人］〔支那ノ條ヲ見ヨ〕唐土ノ人。カラビト。唐人。今ハ、中華民國人。

しな・す・ス・セ・サ・シ・セ（自動、四）シソコナフ。失敗ス。狂言記、鬼瓦子「扠モ扠モ、女ヂヤト思ッテ、油斷シテ、打チ倒サレタ、サテモ、しなしたり」

しな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）爲ル。爲ス。源、一、桐壺三「池ノ心、廣クしなしテ、メデタク作リ」同、十八、松風十「水ノ流レモ、ヲカシウしなしたり」同、四十五、椎本四十「帶、ハカナゲニしなしテ、數珠、引キ隠シテ持タマヘリ」

しな・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）寐サス。袖中抄、十四「陸奥ノ、十編ノ菅薦、七編ニハ、君ヲしなしテ、三編ニ我レ寐ム」歌林良材抄、一、第五十三條「下臈ノ言葉ニ、人ヲ寐サスルヲ、しなすト云フハ、死人ノ如クなすト云フ義歟」サレド、コハ、一成語ナラズ。萬葉集、十九「安宿勿令寢」同、同長歌「安寢不令宿」ナドアルヲ、誤解セルニテ、しハ、天爾波ノ休メ詞ト云フモノ、なすハ、寐ノ敬語ナリ。（なすノ條ヲ見ヨ）

しな-ずがひ（名）［不死詮］〔死なぬガ、マダシモ詮アリテ、幸福ナリト云フ意〕至ッテ、不運ナルコト。曾根崎心中（元祿、近松作）「理窟ニ詰マッテ、擧句ニハ、しなずがひナ目ニアウテ、一分ハ捨タッタ」

しな-せ-おとば（名）［爲做言葉］丁寧ナル詞遣。（花柳社會、又、藝人社會ナドニ通用スル語）あそばせおとばノ類。東海道名所記（萬治）一「禰堂ノ丁銀ハ、しなせおとばノ參ラセ物ニナス」

しな-せ-ぶり（名）［爲做振］サモ丁寧ニ、モテナス素振ニ。（藝妓、娼妓ナドノ媚ブル狀ナリ）東海道名所記（萬治）一「ニホヤカナル言葉ヲ出シテ、云云、しなせぶりノ情ヲ語リ」

しな-だま（名）［品玉］猿樂、田樂、ノ類、玉ヲ、空ニ投ゲ上ゲテ、手ニ受ケテ、弄ビナドスル技。弄丸、弄槍、弄鈴ナド、種種ノ技アリ。弄丸　新猿樂記「田樂、傀儡子、唐術、品玉、輪鼓、八玉ニ八ツノ玉ヲ、同時ニ、手ニ取ルコトナリ」俳諧犬子集（明曆）魂祭「祭ル玉ヲ、見スル放下ノ、品モガナ」

しな-たゆふ（枕）〔しなハ、坂ノ義、しなてる、しなさかるノ、しなト同趣、たゆふハ、猶豫ふニテ、上リ下リスルニ、タメラフ意〕近江國、志賀郡、佐佐那美ノ地ハ、大和ヨリ行ケバ、坂路ヲ經ルヨリ、ささなみニカケテ云フト。古事記、中七十一（吭神）長歌「志那陀由布、佐佐那美路ヲ」

しな-たり（名）［閪閪］〔したたり（滴）ノ轉（へだたり、へなたり。いただき、いなたき）説文「閪、女陰也」〕（一）精液。（二）〔女陰。陰門。シナタリクボ。名義抄「閪、シナタリ」字類抄「閪、シナタリ」

しなたり-くぼ（名）［閪］前條ノ（二）ニ同ジ。靈異記、下、第十八條「婚閪ニ閇入レ閪、携レ手俱死」訓釋「閪、シナタリクボ」

しな-だ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）（一）撓ヒテ、傾キカカル。コダル。鷹筑波「しなだるる、柳ハ細キ、目モトカナ」（二）媚ビテ、寄リ添フ。（人ニ）嬌態　傾城反魂香（寶永、近松作）上「五十餘リノ厚化粧、三平二滿ノ口紅、しなだれカカル會釋顔」

しな-だ・れる（動）前條ノ語ノ口語。

しな-てる（枕）［級照］〔級立てるノ約ニテ、級ノ立テル物ハ、片ハヘナル故ニ云フトゾ〕片ト云フ語ノ枕詞。萬葉集、九廿長歌「級照、片足羽河」推古紀、廿一年十二月、長歌「斯那提流、片岡山」

しな-どの-かぜ（名）［科戸風］〔しハ、風、などハ、莫處ニテ、ふなど、くなど、同趣、神代紀、上十ノ級長戸邊ノ命（風ノ神）ノ名ニ起ル〕風ト云フニ同ジ。源、廿、朝顔六「アナ心憂、ソノ世ノ罪ハ、皆、しなどの風ニタグヘテキ、ト宣フ」大祓祝詞「科戸之風ノ、天ノ八重雲ヲ、吹放ツ事ノ如ク」（級長戸邊ノ神ノ風）源順集「山ノ端ノ、しなどの風ハ、吹キ掃ヘ、傾ク月ヤ、シバシトマルト」

しなのうめ (名) 信濃梅　梅ノ一種。花、一重ニシテ、白ク、下ニ向ヒテ開ク。實ハ、形、扁クシテ、圓クシテ、大サ、金柑ノ如シ、二三十、一枝ニ簇リテ垂ル、梅雨中ニ、早ク熟シ、核ヲ併セテ食フベシ。一名、コウメ。小梅

しなのがき (名) 信濃柿　樹、葉、常ノ柿ニ同ジクシテ、實ノ大サ、金柑ノ如ク、稍長キアリ、又、圓キアリ、冬ノ初ニ熟ス、色、黄ニシテ、味、甘シ、皮ヲ去ラズ、乾シテ食フ、[illegible]ノ如シ。一名、サルガキ。マメガキ。君遷子

しなのかはむき (名) 信濃皮剝　剝ギタル科木ノ皮。[illegible]三十六、[illegible]信濃皮剝千束、[illegible]

しなのき (名) 科木　〔皮ノ、しなしなスル意カト云フ〕　略シテ、しな。香木ノ名、深山ニ生ズ、葉ハ、桑ノ如ク、鋸齒アリテ、[illegible]ノ如クニシテ、互生ス、夏、葉ノ中心ヨリ、梗ヲ抽出シ、五瓣ノ細白花ヲ開ク、樹皮、淡黄褐色ニシテ、水ニ漬シ、又、縄トシテ、強シ、或ハ、紙ギヌ、機ノ織トシ、下品ノ衣服トス。一名、ボダイジュ。菩提樹一種

しなのたらう (名) 信濃太郎　(一)江戸ニテ、夏日ノ晴天ニ、信濃國ノ方ニ起ル雲峰ノ稱。大阪邊方ニテ、丹波太郎ト云フ類。(二)武藏地方ニテ、毛蟲ヲ稱ス。

しなひ (名) (一)撓フコト。[illegible]、長ク、垂リナビクコト。枝垂柳ノ枝、所垂[illegible]　萬葉集、十八「春柳ノ、絲ノ細枝ヲ、春風ニ、亂レヌイ[illegible]比ヲ見レバ、今盛リナリヤ、今盛リナリヤ」枕草子、[illegible]尺六寸バカリナムアリケル」(二)鎧ノ指物。即チ、竪ノミニ竿ヲ入レタル幟。[illegible]

しなひ (名) 竹刀　〔撓竹ノ意〕　劒術ヲ習フニ用ヰル、竹ノ刀。袋竹刀。[illegible]十一「竹刀ノアタリ、シナヒノアタリモ、痛マヌヤウニスルヲ、面トシ」

しなひどり (名) つぐみ(鶫)ノ一名。[illegible]しなひどり、[illegible]ナクヲリニ、カカル思ヒニ、行ク方モナシ」

しな・びる (動) 萎　次々條ノ、しなぶ(萎)ノ口語。心中宵庚申(享保、近松作)下「見世ノ[illegible]ガ、しなびる」

しな・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四)　張ル力アリテ、撓ム。シナヤカニ、曲ガル。シナシナスル。シナユ。撓　靡　神代紀、上[illegible]萬葉集、十七[illegible]

しな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 萎　〔前條ノ語ノ轉ナルベシ〕　水氣、盡キテ、皺ム。萎レ、衰フ。シナク。「梅干ガしなぶ」「しなびたる婆サン」

しな・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 凹　しなむニ同ジ。[illegible]

しなぶれ (名) 品觸　盜マレ、紛失ナドシタル品物ヲ、世ニ觸レ示シテ、求ムルコト。

しなほし (名) 爲直　シナホスコト。ヤリナホシ。ヤリカヘ。改作

し・なほ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 爲直　改メテ、爲ス。改作。[illegible]

しな・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 隱　〔隱パスルノ意〕　かくすノ古言。オシ曲ゲテ、すシ隱ス。ヘシコム。しなぶ。[illegible]

しなん (名) 指南　〔指南車ニ起ル、其條ヲ見ヨ〕　(一)敎ヘ、示スコト。[illegible]　(二)學藝ヲ、敎フルコト。敎授。「劒術ヲ指南ス」

しなん (名) 至難　甚ダ難シキコト。

しなん (名) 四男　(一)四人ノ子、男ノ子、四人。[illegible]　(二)第四ノ息。四男。四郎。[illegible]

しなん (名) 次男　二男　第二ノ息。次子。次郎。[illegible]

しなんしゃ (名) 指南車　支那ノ古ヘニ、周ノ周公ノ造レリト云フ車ノ名、遠行スル者ヲシテ、路ニ迷ハザラシメムガ爲ニ、方角ヲ示スモノニテ、車ノ上ニ、木偶アリ、手ヲ擧ゲテ、南ヲ指ザシ、車ハ回轉ストモ、其指ス所ハ、移ラザルヤウニ作レルモノナリト云フ、蓋シ、磁石ヲ用ヰタルナルベシ。[illegible]

しなんばん (名) 指南番　古ヘ、大名ナドニ仕ヘテ、武藝ノ指南ヲセシ役。「某藩ノ御指南番」

しな・め・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 品　品ヨク、見ユ。シナジナシク、見ユ。[illegible]子、二、第十二段「愛敬無クト、言葉しなめきナド云ヘベ、云ハルル人モ、聞ク人モ、笑フ」

しなもの (名) 品物　其類ノ物。物品。貨物。

しなやか (副) (一)靭フ狀ニテ。靭ヤカニ。ナヨナヨト。(二)カドカドシカラズ、ナヨヤカニ。タヲヤカニ。(婦人ノ風采ナドニ)　婀娜　源、五十三、夢浮橋「イト淸ゲニ、しなやかなる童ノ、エナラズ裝束キタルゾ、歩ミ來タル」

しな・ゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二)　〔萎ゆノ約〕　しなふト、意、同ジ。萎レ伏ス。ナヨヨカニ、項垂ル。撓　萬葉集、二[illegible]

しなよし (名) 品好　シナヨキコト。品位ノ、好キモノ。[illegible]

しなよ・し・キ・ケレ・シ・ク (形、一) 品好　品位、コシ、見エ、ヨシ。[illegible]「竹ニ雀ハ、しなよく止マル」

〜**しならふ**(シナラ・ウ)・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 爲習 馴レテ、ヨクナス。シバシバ、ナス。 源、五十、浮舟［三］「ヨロヅ、右近ゾ、ソラゴトしならひケル」

しなる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 爲馴 爲テ、馴ル。馴レテ、熟ス。熟練ス。

✧**しなれる** (動) 爲馴 前條ノ語ノ口語。「しなれタ仕事」

〜**しに** (名) 死 死ヌルコト。死(シ)。(生(イキ)ニ對ス) 萬葉集、九［九］長歌「死(シニ)モ生(イキ)モ、君ガ隨意(マニマ)ト、思ヒツツ」 竹取物語「ウタテアル主ノ御許ニ仕ヘマツリテ、スズロナルしにヲスベカメル哉、トテ、擱(カヂ)取(トリ)、泣ク」 源、四十三、竹川［廿］「生ケル世ノ、しにハ心ニ、マカセネバ」 亭子院歌合「人戀フト、ハカナキしにヲ、我レヤセム」 榮花物語、三十、鶴林「此殿ノ御しにコソ、イトアヘナキ事ニ、世ノ人、聞ユ」

しにいき (名) 死生 死ヌルコトト、生クルコトト。死活。死生(シセイ)。イキシニ。生死(セイシ)。 心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「死に生きモ、出來カネマイト思ヘバ、胸モ塞ガッテ」

しにいちばい (名) 死一倍 父母ノ死後、倍增シテ、返却スル借錢。增利貨錢(就日錄)

しにいでたち (名) 死出立 しにしやうぞく(死裝束)ニ同ジ。 太平記、三、陶山小見山夜討事「是レ皆、千ニ一ツモ、生キテ歸ル者アラジト、思ヒ切ッタル事ナレバ、兼ネテノ死に出立ちニ、皆、阿彌陀ヲ書イテゾ、附ケタリケル」

〜**しにいる**・ルル・ルレ・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 死入 (生き出づニ對ス) 死ぬト云フニ同ジ。 源、三十九、御法［十］「死入る魂ノ、ヤガテ此御カラニ止(ト)マラナムト思ホユルモ、ワリナキ事ナリヤ」 宇治拾遺、三、第五條「年高ウナリタル人ノ、しに入りテ、云云、目ヲ上ニ見ツケテ、しにいりテ臥(ネ)タリ」

しにおくる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 死後 共ニ死ヌベキニ、後レテ、死ナズ。自分ノミ、生キ殘ル。生殘 「夫ニしにおくれタル妻」 津國女夫池(享保、近松作)三「死におくれタル面恥ヂ」

✧**しにおくれる** (動) 死後 前條ノ語ノ口語。

しにかくご (名) 死覺悟 死ヌル覺悟。死ヌル心構へ。 心中天網島(享保、近松作)上「名殘ノ文ノ云ヒカハシ、毎夜毎夜ノ死覺悟」

しにがくもん (名) 死學問 活用セザル學問。

しにがて (名) 死糧 臨終ノ時、食スル食物。 盛衰記、四十五、內大臣京上被斬事「御食、賂ヒ出シテ、進ラセタリ、是ヤ此、下﨟ノ云フナル死粮トハ」

しにがね (名) 死金 (一)己レノ、死ナム時ノ用意ニ、貯フル金。 浮世床(文化、三馬)初編、下「伯母サマノ死金ガ、千五百兩」 (二)活用ヲナサヌ金、即チ、徒ラニ貯ヘテ、利用セザル金。又ハ、徒ラニ費シテ、效驗ナキ金。

〜**しにかばね** (名) 死骸 しかばね、及、かばね(骨)ノ(二)ニ同ジ。 靈異記、中、第一緣「捨二彼屍骸於城之外一」訓釋「屍骸、死ニカバネ」 父子相迎、上「タダ、野原ニ行キテ、しにかばねノ伏セルヲ見ヨ」

しにかはる(シニカワル)・ルル・ルレ・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 死替 死シテ後、再ビ、生レ替ハル。生替(イキカハ)り死(シニ)替(カハ)りノ條ヲ見ヨ。 室町千疊敷(享保、近松作)四「夫婦ト契リシ浮名ハ、死にかはりテモ削ラレズ」

〜**しにかへる**(シニカエル)・ルル・ルレ・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 死返 (いきかへるニ對ス) (一)死入ルホドニ、心ニ堪ヘカヌ。 源、四、夕顏［四十八］「しにかへり思フ心ハ、知リ給ヘリヤト言ヒツカハス」 同、十七、總角［十三］「淺ハカナル若人ドモハ、しにかへり懸(ユカ)シガレド」 同、五十三、夢浮橋［六］「親(オヤ)ノ、しにかへるヲバ差シオキテ、モテアツカヒ、歎キテナム侍リシ」 (二)幾度モ、死ス。 萬葉集、四［三十二］「思フニシ、死ニスルモノニ、アラマセバ、千度ゾ吾レハ、死變(シニカヘ)らマシ」

しにがほ(シニガオ) (名) 死顏 死人ノ顏色。死臉 (生顏(イキガホ)ニ對ス、其條ヲ見ヨ)

しにがみ (名) 死神 人ヲ、死ニ誘フト云フ神。追命鬼 心中天網島(享保、近松作)上「死神附イタ耳ヘハ、異見モ、道理モ、入ルマジ」

しにぎは(シニギワ) (名) 死際 今際(イマハ)ノ時。死ナムトスル時。シニメ。臨終。「しにぎはニ逢フ」

しにくじ (名) 死鬮 數多ノ中ニテ、不運(フシアハセ)ナル鬮。 籠耳草子(貞享)二「鬮、四ツニシテ、一ツ、死鬮トシテ、三人ニ取ラスベシ」

しにくち (名) 死口 (生口ニ對ス) 口寄ナドニテ、死靈ノ、巫女(ミコ)ナドニ乘リ移リテ、物云フコト。又、其語。 排繪緬卯月紅葉(寶永、近松作)上「みこ、云云、シテマヅ、御用ノ事アリトハ、生口カ、死口カ」

しにぐるひ(シニグルイ) (名) 死狂 しにものぐるひ(死物狂)ニ同ジ。 盛衰記、十五、宇治合戰事「腰刀ヲ拔キ持チテ、ハネテ係リテ、戰ヒケリ、死狂ひトゾ見エタリケル」 太平記、一、賴員回忠事「思ヒ切リタル者ドモガ、死狂ヲセント」

しにごふ(シニゴウ) (名) 死業 前世ノ業報ニテ、死ヌルコト。 太平記、三十二、神南合戰事「此ノ人、死業ヤ來ラサリケン、云云、暈散ジテ後、草ノ蔭ヨリ生キ出デテ、助カリケルコソ、不思議ナレ」

しにしやうぞく(シニショウゾク) (名) 死裝束 死ヌル時ノ裝束。(切腹ナドノ時ニ) 死出立(シニイデタチ)。

〜**しにす**・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 死ヲ、ナス。死ヌ。 拾遺集、十四、戀、四「戀スル死(シニ)ニ、しにするモノニ、アラマセバ、千度ゾ我レハ、死ニカヘラマシ」 狹衣、二、下［三］「誠ニ、物思ニしにするモノトハ、此御アリサマニテゾ、見侍リヌル」 萬葉集、十五［三十］「天地ノ、神ナキモノニ、アラバコソ、吾ガ思フ妹(モ)ニ、アハズ思(シ)仁(ニ)世(セ)メ」 拾遺集、十一、戀、一「逢ヒ見テハ、しにせヌ身トゾ、ナリヌベキ」

しにせ (名) (爲似(シニ)せノ義) (一)父祖ノ業ヲ守リ、繼ギユクコト。守成「親ノしにせ」 (二)數代、承繼ギ來レル商業。老鋪「町內デノしにせ」

しにぜに (名) 死錢 しにがね(死金)ニ同ジ。

しにぞこなひ(シニゾコナイ) (名) 死損 シニソコナフコト。又、老人ヲ罵ル語。 傾城佛原(元祿、近松作)一「ヤイ、ココナ、死ぞこなひメ」

しにそこなふ(シニソコナウ)・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 死損 死ナムトシテ、死ヌルコトヲ得ズ。無益ニ生キテアリ。 心中重井筒(寶永、近松作)下「女、先立チ、男ハ跡ニ、死そこなひ」

✧**しにたえる** (動) 死絕 次條ノ語ノ口語。

しにたゆ・ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 死絕 悉ク死シテ、人種(ヒトダネ)、無クナル。無嗣類「傳染病ニテ、一家、しにたゆ」

しにのこる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 死殘 死ニオクレテ、後ニ殘ル。彼レ、死シテ、我レ、存命(ナガラ)フ。イキノコル。生存

しにば (名) 死場 死ヌル處。死場所。死所。 太平記、廿七、上杉畠山流罪死刑事「最後ノ死樣(ヤウ)コソ、執スル事ナルニ、違(キタナ)ク見エツル死場カナト、爪彈キセヌ人、無カリケリ」

しにばしよ (名) 死場所 前條ノ語ニ同ジ。

しにはだ（名）[死膚] 死人ノはだ。[illegible]

しにはだたち（名）[死膚斷] いきはだたち、ノ條ヲ見ヨ。

しにはぢ（名）[死恥] いきはぢ（生恥）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]フ、假名ノ上ニ、しにはぢゾヤ」

しにばな（名）[死花] 死シテ、映（ハエ）アルコト。死所ヲ得ルコト。「死花ヲ咲カス」

しにびかり（名）[死光] 死後ノヒカリ。死シテ後ノ譽（ホマレ）。[illegible]

しにみ（名）[死身] 生身ニ對ス。（一）死ヌベキ身。[illegible]「身ハ死身、モシヒロット、死病受ケタリトモ」（二）決死ノ身。捨身（ステミ）。「死身ニナッテ働ク」（三）殆ド、死人ノ如ク、活氣ナキ身。

しにみづ（名）[死水] 今際ニ、口中ニ注グ水。末期ノ水。[illegible]中ホノ濡レノ、身ノナラヒ、所所ノ死水ヲ、誰レニ取ラレン、讀マシト」「子ガ、親ノ死水ヲ取ル」

しにん（名）[死人] 死シタル人。シビト。[illegible]ケレバ、靈モナキ、死人アリ」

しにん（名）[自任] （一）自ラ、其事ヲ、己レノ任務トスルコト。[illegible]（二）自己ノ[illegible]、思ヒ込ムコト。[illegible]テ、自任ス」

じにん（名）[辭任] 自己ノ任務ヲ、辭スルコト。「[illegible]辭任ス」

しにめ（名）[死目] 死際（シニギハ）ニ、相、會フコト。今際ニ、對面スルコト。心中萬年草（寶永）[illegible]死目ニ逢ハウモノ」「親ノ死目」

しにものぐるひ（名）[死物狂] 命限リ（イノチ）ニ、奮ヒ働クコト。シニグルヒ。出死力。[illegible]一寸モヤラウカト、齒ヒシ為指ポッコンデ、踞ケ出デントス」

しにわか・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）[死別] 他ハ死シ、我レハ存命（ナガラ）ヘテ、相、別ル。死別（シベツ）ス。（生別（イキワカ）るニ對ス）

しにわかれ（名）[死別] 死別（シニワカ）ルルコト。

✤しにわか・れる（動）前前條ノ語ノ口語。

しぬ（名）[靡] [靡（シナ）ふノ意] しの（靡）ニ同ジ。萬葉集、七「妹ガリト、我ガ通ヒ路ノ、細竹（シヌ）スヽキ、吾レシ通ハバ、靡ケ細竹原」

しぬ（名）[篠] 前條ノ語ノ、轉ジテ、枝ノ柔軟ニシテ、靡キしなふモノヲ云フ、後、篠竹、其名ヲ專ラニス」しの（篠）ノ（一）ニ同ジ。古事記、中（景行）六十五「於二其小竹（シヌ）之苅杙[illegible]」神代紀、上[illegible]神功皇后紀[illegible]萬葉集、七[illegible]ノ邊ニ、小竹ガ下ノ、細竹ナ苅リソネ、ソレヲダニ、[illegible]同、十一[illegible]

し・ぬ・ヌ・ネ・ナ・ニ・ネ（自動、四）[死] [しノ一ぬハ、往ぬノ約] 次條ノ語ノ（一）ニ同ジ。[illegible]

し・ぬ・ヌル・ヌレ・ナ・ニ・ネ（自動、奈變）[死] [illegible]テ死ぬニ、死なレヌト云フ事ハアルマイ、云云、諦腹ヲ切ッテ死ぬゾ」（一）命（イノチ）、失（ウ）ス。息、絕ユ。ミマカル。死ス。萬葉集、五 八卅「家ニアリテ、母ガ取リ見バ、慰ムル、心ハアラマシ、死（シナ）ナバ死（シ）ぬトモ」死ヌレバ、天ニ上ルト傳フルハ、萬葉集、二 三十二[illegible]死ヌレバ、黄泉ニ行クト傳フルハ、萬葉集、五 四十男子、古日ノ死[illegible]フ見レバ、生ケリトモ、會フベクアレヤ、シシクシロ、黄泉ニ待タムト」（二）死入ルホド、堪ヘカヌ。源、廿九、行幸「御几帳ノ後ナドニテ聞ク女房、しぬべく覺ユ、可笑シサニ」同、十七、繪合「淺ハカナル若人ドモハ、しにカヘリ懷シガレド」（三）物事ニ、活用、神采、無クナル。[illegible]（四）碁ニ、石ヲ圍マレテ、取ラル。

し・ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）[爲扱] しつくす（爲盡）ニ同ジ。「亂髮ヲしぬく」

し・ぬ・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（他動、四）[凌] [忍ぶノ他動ノ意] しのぐニ同ジ。分ケ入ル。萬葉集、六「奥山ノ、眞木ノ葉凌（シヌ）ギ、降ル雪ノ、降リハ增ストモ、土ニ落チメヤモ」同、十九 三十七「伊波世野ニ、秋萩之努藝（シヌギ）、馬並メテ、初鳥狩ダニ、セズヤ別レム」同、廿 二十「女郎花、秋萩之努藝、左牡鹿ノ、露分ケ鳴カム、高圓（タカマド）ノ野ゾ」

しぬすすき（名）[篠薄] 細竹（シヌ）ノ、叢生（スス）キトナレルモノ。薄ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。萬葉集、七「妹ガリト、我ガ行ク路ノ、細竹（シヌスス）キ、我レシ通ハバ、靡ケ細竹原」

しぬみ（副）[しぬハ、靡ふノ意] 裏ニ押シフセテ、靡カスル狀ニ云フ語。撓（シナ）ヒテ。シヲレテ。しのゝ。萬葉集、十 十五「秋ノ穗ヲ、之努（シヌ）ニ押シ靡ベ、置ク露ノ」同、三 三十「淡海ノ海、夕浪千鳥、汝ガ鳴ケバ、心モ思努（シヌ）ニ、古ヘ思ホユ」

しぬぬみ（副）シトシト。シトトニ。シッポリト。シミジミ。しのゝに。萬葉集、十[illegible]之努[illegible]レテ[illegible]鳴キツヤト[illegible]ハセル、時鳥、小竹野（シヌ）ニ濡レテ、此ユ鳴キ渡ル」

しぬのめ（名）[篠目小竹芽] [しぬハ、篠ノ約、芽ヲ、目トシテ、明クルノ意ヨリ、夜ノ、ホガラホガラト明ケユケバナドヨリ轉ジテ、曉方ノ意トナル、東雲之ノ條ヲ併セ見ヨ]（一）小竹ノ、叢リ生エタルモノ、次條ヲ見ヨ。（二）轉ジテ、アカツキ。東雲。曉天。

しぬのめの（枕）[篠目] 思ぶト云フ語ノ枕詞。萬葉集、十一 二十「細竹目（シヌノメ）ノ、人ニハ忍（シヌ）ビ[illegible]」同、同、二十「小竹之眼（シヌノメ）[illegible]思ビテ寐レバ、夢ニ見エケリ」

しぬばく（動）[思] [しぬぶノ延] しぬぶ（思）ニ同ジ。萬葉集、十九 六十「年ノハニ、來鳴クモノ故、ホトトギス、聞ケバ之努波久（シヌバク）、逢ハヌ日ヲ多ミ」

しぬはら（名）[篠原] 小竹原。しのはら（篠原）ニ同ジ、しぬ（篠）ノ條ヲ參見セヨ。

しぬび（名）[忍] シヌブコト、シノビ。堪（コラ）ヘ忍スルコト。萬葉集、十四「會津嶺（アヒヅネ）ノ、國ヲサ遠ミ、逢ハナハバ、斯努比（シヌビ）ニセムト、紐結バサネ」

しぬび（名）[偲] シヌブコト。慕フコト。深ク思フコト。萬葉集、九[illegible]語（カタリ）ニシツツ、後人（ノチビト）ノ、偲（シヌビ）ニセムト」

しぬび（名）[隱] シヌブコト。アラハサヌコト。隱スコト。神代紀[illegible]

しぬびおと（名）[誄] しのびおと（誄）ニ同ジ。

しめびて (名) 短手 かしはで(拍手)ノ條ヲ見ヨ。

しめびみ (副) 隱 潛ミカクレタル狀ニ云フ語。人知レズニ。內內ニ。密密ニ。 安康即位前紀「太子欲レ襲二穴穗皇子一而密設レ兵」

しめぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 忍 コラフ。堪フ。堪忍ス。しのぶ。 萬葉集、三五十七「世ノ中シ、常カクノミト、且知レド、痛キ心ハ、不忍ツモ」(忍ノ字ノ上ニ、得ノ字ヲ脫シタルカト云フ) 同、六卅「凡ナラバ、サモトモセムヲ、恐シト、振リタキ袖ヲ、忍びテアルカモ」

しめ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 思偲 〔心ニ忍びテ、忘レヌ意〕潛カニ、心ノ底ニ戀フ。思ヒコム。深ク思フ。慕フ。しのぶ。 萬葉集、十一十「久方ノ、天光ル月モ、隱ロヒヌ、何ニ擬ヘテ、妹ヲ偲ばム」 神代紀、上十九「族悲及思哀」 萬葉集、十九卅三「月立チシ、日ヨリ招キツツ、打チ自努比、待テド來鳴カヌ、霍公鳥カモ」

しめ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 愛 〔前條ノ偲ぶト通ズ〕愛ヅ イツクシム。賞翫ス。 萬葉集、一十長歌「秋山ノ、木葉ヲ見テハ、黃葉ヲバ、取リテソ思奴布」同、廿十四「八千種ニ、草木ヲ植ヱテ、時毎ニ、咲カム花ヲシ、見ツツ思努波ナ」同、十九廿「藤波ノ、花ノ盛リニ、カクシコソ、浦漕ギ廻ミツツ、年ニ之努波メ」

しめ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 隱 〔忍びテ、アラハサヌ意〕隱ス。竊ニカクス。しのぶ。 萬葉集、十二八「人目多ミ、眼コソ忍ぶれ、少ナクモ、心ノ中ニ、吾ガ思ハナクニ」

しめぶぐさ (名) 忍草 慕ヒ思フ種ハヒ。 萬葉集、六、長歌「磯ニ生フル、莫ノ根取リテ、之努布草、解除ヘテマシヲ、往水ニ、禊ギテマシヲ」

しめぶら・ふ (動) 愛 〔しぬぶるノ延〕しぬぶ(愛)ニ同ジ。 萬葉集、十六、長歌「刺竹ノ、舍人男モ、忍經等氷、カヘラヒ見ツツ、誰ガ子ゾト」

しね (名) 鼠ノ一種。好ミテ、葦ノ根ヲ食フモノ。 三議一統、上「ヒキメヲ、しねくるト申スハ、しねト云フ鼠ハ、葦ノ根ヲ好ミテ食フ也、カノしねノ聲、蟇目ノ如クナル故ニ、しねくるトハ、蟇目ノ異名也」

しね (名) 稻 〔天爾波ノしニ、いねノ約マリタルガ附キタル語カ〕いね(稻)ニ同ジ、熟語ニノミ用キル。 顯宗即位前紀、十「握稻穗」神樂歌、篠波「見之禰舂ク女」大忌祭祝詞「和稻、荒稻」「陸しね」粳しね 糯しね」

しね・いと (名) 繦 布帛ノ織リ餘リノ絲。今、機しねト云フ、是レナリ。 玉篇「繦、織餘也」 字鏡、四十「繦、殘縷織餘也、志爾絲」 內藏寮式、縫ニ作雜履ニ料「屣、白綫」

しねう (名) 之遶 之遶ノ條ヲ見ヨ。

しねくる (名) 蟇目 蟇目ノ異名、しね(鼠ノ一種)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

しね・しね (副) 彈力アリテ、柔カナル狀ヲ云フ語。シナシナ。柔靭

しねん (名) 自然 オノヅカラ、然ルコト。自然。天然。 宇津保物語、國讓、中四十一「カノ君ノ、押シタチ惡シキニモアラズ、しねんニ恥シキニヨリテ、人ノ心ヲ使ヘバ、賢クヤウナルナリ」源二、帚木十七「しねんニ、心修メラルルヤウニナン侍リシ」同、五十一、蜻蛉七「しねんニ、事ドモノ氣色モコソ見ユレト思ヘバ」

しねんがう (名) 自然杭 次條ニ同ジ。

しねんご (名) 自然杭 竹ノ實、數十年ヲ歷テ、生ズ、形、穀ノ如ク、味、粳ノ如シ、飯トシテ食フベシ。ササミドリ。竹米。竹實。(竹ノ條、參照) 三十二番職人盡歌合、廿八番「竹賣、賣リカヌル、しねんご竹ノ、末ノ露、モトノ雫ノ、マウケダニナシ」 節用集「蔣、ジネンゴ」 大和本草、九、竹「竹實、國俗、自然粳ト云フ」

しねんじゃう (名) 自然生 やまのいもノ條ヲ見ヨ。ジネンジョ。

しねんじょ (名) 〔自然薯蕷ノ略ナリトモ云ヘド、薯蕷ナド云フ語ノ、民間ニ用キルベキニアラズ〕 前條ノ語ノ約。

しねんせき (名) 自然石 天然ニ出來タル石。(人造石ニ對ス)

しねんち (名) 自然智 生得ニ備ハレル智。天然ニ享ケタル智識。 太平記、十八、高野與二根來一不和事「百日行ヒ給ヒケレバ、其法、忽ニ成就シテ、自然智ヲ得給ヒテ、淺略、深祕ノ奧義、習ハズシテ、底ヲ極メ、聞カズシテ、旨ヲ開ケリ」

しねんどう (名) 自然銅 游離シテ、自然ニ產ズル銅。シゼンドウ。キリメイシ。

しの (名) 靡 〔しぬノ轉〕又、しぬ。薄、葦、細キ竹ナドノ、靡キ撓フモノノ稱。 萬葉集、一卅長歌「三雪降ル、秋ノ大野ニ、旗薄、四能ヲ押シ靡ベ」新千載集、一、春、上「冬枯レノ、しのノ小薄、打チナビキ」「葦ノしの屋」

しの (名) 篠 〔前條ノ語ノ、一物ノ名トナレルナリ〕(一)竹ノ、小サク、細ソク叢生スルモノノ總稱。しぬ。ササ。 倭名抄、廿竹類「篠、之乃、俗用二小竹二字一謂二之佐佐一」 字鏡、十「篠、細竹也、篠也、志乃、又、保曾太介」(二)又、一種、小サキ竹ノ、節、高カラズ、皮、白クシテ、脫セザルモノ、めだけ、やだけナド、種類、多シ。シノダケ。篠を束ぬ、篠をつくトハ、大雨、篠ヲ束ネタル如ク、降ル。 世話支那草「武藏野ノ、篠をたばねテ、降ル雨ニ、螢ナラデハ、鳴ク蟲モナシ」「篠つく雨」(三)しのぶえノ略。「しの入ノ囃子」

しのいり (名) 篠入 芝居ノ囃子ノ合方ニ、三味線ニ、篠笛ヲ加ヘ入ルルコト。(切腹、書置、ナドノ、哀レナル幕ニ) 劇場新話「篠入相方、三味線、呻笛、切腹、書置事、アハレナル事ニ用ユ」

しのう (名) 司農 くないしゃう(宮內省)ノ唐名。

しのうけい (名) 司農卿 古ヘノ宮內省ノ長官タル、宮內卿ノ唐名。 拾芥抄、中、本「宮內卿」注「司農卿」

しのうこうしゃう (名) 士農工商 士ト、農ト、工ト、商ト。各條ヲ見ヨ。コレヲ、四民ト云フ。 說苑、政理篇「所謂四民者、士農工商也」 謠曲、善知鳥「士農工商ノ家ニモ、生レズ」

しのうつはもの (名) 瓷器 〔しトハ、靑磁カ、靑瓷ト云フ語モアリ〕ヤキモノ。スエモノ。 倭名抄、十六廿二瓦器類「瓷、之乃宇豆波毛乃、瓦器也」名義抄「瓷、シノウツハモノ」

しのおぼしめし (名) 字思召 江戶時代、吉原ニテ、身長ノ低キ者ヲ云フ、隱語。高キヲ、假名のおぼしめしト云フニ對ス。 洞房語園異本考異「丈ノ高キ者ヲ、假名のおぼしめし、低キ者ヲ、しのおぼしめしト云フ」

しのがき (名) 篠垣 篠竹モテ、作リタル垣。篠ノ竹垣。 白川殿七百首、寄二垣戀一「平乃ノ、ナカニ隔ツル、しのがきノ、一ヨ二ヨモ、逢フヨシモガナ」

しのぎ (名) 凌 シノグコト。防ヘトホスコト。「一時ノしのぎ」當座しのぎ」

しのぎ (名) 鎬 〔振フニ、風ヲ凌ぐ意、次條ノ凌羽、同ジ〕刀、鏃ナドノ刃ノむねニ通リテ、高ク起レル線。刀背稜 稜道 保元物語、二、白河殿攻落事「鏑矢、云云、鎬道ノ筋目程ナルニ、手先六寸、しのぎヲ立テ、前一寸ニハ、ミ

ネニモ、羽ヲゾ附ケタリケル」 鏑なけづるトハ、リ[illegible]
[illegible]付記事、しのぎヲ削リアヒ、時ヲ移シテ戰ヒケル」

しのぎは (名) 【凌羽】〔風ヲ凌ぎテ、直ニ飛ブ意〕矢ニ剝ギタル羽。ヤバネ。[illegible]撰集、十三、長歌「梓弓、弓腹振リ起シ、志之岐羽ヲ、二ツ手挾ミ、離チケム、人シ悔シモ」

しの・ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (他動、四) 【凌】〔しぬぐノ轉〕(一)歷テ行ク。押シ分ケテ、通ル。侵シユク。[illegible]ノ葉しのぎ、降ル雪ノ」同、十四、雜、一「秋萩しのぎ、鹿ノ鳴クラム」「浪ヲしのぐ」「雨ヲしのぐ」「霜ヲしのぐ」 (二)侮リ犯ス。アナドル。[illegible]しのぐ」 (三)アラソウ。サカラフ。[illegible]武紀「各自分レ臨、用相凌轢」 (四)堪ヘ忍ブ。

しのごの (副) 【四五】〔博奕ノ語、一か八かノ類〕煩ハシク面倒ニ強フル狀ヲ云フ語。カレコレ。何ノカノ。トヤカク。[illegible]トテ、四の五の侍りケルヲ」

しのすがき (名) 【篠簀】篠竹ニテ作リタル簀。シノスガキ。[illegible]五月雨ハ、[illegible]ノ、[illegible]のすがき[illegible]ニケリ」

しのすすき (名) 【篠薄】しぬすすき(篠薄)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、四十八、寄生[illegible]「穗ニ出デズ、物思フラシ、篠薄、招ク袂ノ、露繁クシテ」

しのせん (名) 【使宣】次條ノ語ノ略。[illegible]記、四十一[illegible]使宣[illegible]九[illegible]

しのせんじ (名) 【使宣旨】檢非違使、又ハ、令外使等、任命セラルル時、下賜セラルル宣旨。[illegible]、十二、[illegible]以二[illegible]人一爲二使者一、可レ給二所宣一、仍不レ成二使宣旨一」

しのだけ (名) 【篠竹】しのノ條ノ(一)ニ同ジ。細竹。萬葉集、十[illegible]篠竹ノ、[illegible]ヨリマサル哉」

しのだずし (名) 【信田鮨】【信太鮨】いなりずし(稻荷鮨)ノ條ヲ見ヨ。

しのだのもり (名) 【信太森】【信田森】歌ノ名所。和泉國、泉北郡、信太村ニアリ。〔名所[illegible]ニ云ハク、信太村ハ、中村ニ在リ、信太明神ノ社ヲ謂フニ非ズ、社ノ西、十町許、莊官、森田氏ノ宅地ニ、[illegible]アリ、[illegible]、土人、信太森ト呼ビ、樹高、凡、八丈、枝葉、繁茂ス、[illegible]ノ勝地トソ、樹下ニ、[illegible]ヲ住マシメ、[illegible]アリ、[illegible]内[illegible]ニ、安倍晴明[illegible]信太森ノ[illegible]ニテ、[illegible]ト云ヘリ、ト云フ小說ニ因リ、好事家ノ作爲ナルベシ〕(大日本地名辭書) [illegible]、六、五十三段「森ハ、云云、コガラシノ森、しのだの森」 和泉式部集、二「ウツロハデ、シバシ信太の森ヲ見ヨ、カヘリモゾスル、葛ノ[illegible]」 六帖、二「和泉ナル、しのだの森ノ、楠ノ木ノ、千枝ニワカレテ、物ヲコソ思ヘ」 [illegible]、二十四、上、[illegible]上「しのだのもりヲ、道ノシルベニテ、詣デ給フ」[illegible]月抄、[illegible]、和泉守ナレバ也、花、和泉ナル、しのだの森ノ、云云ト出ノ六帖ノ歌ナリ、但、楠ノ木ヲ、[illegible]トセリ[illegible]ヲ、[illegible]山ナド云ヘル類也、師、森ナドハ、行ク道ノシルベニナル物ナレバ、其[illegible]ニテ、[illegible]ニテト云フ心ヲ云ヘリ」

しのだれ (名) 【篠垂】【鎬垂】兜ノ鉢ノ頂上ノ八幡座ヨリ、眞向、又、後方左右ニ、垂レタル筋金。シナダレ。シナダリ。

しのつき (名) 【篠突】篠ノ片ナドニテ、突キタル痕。盛衰記、三十七、成田來事「馬、云云、左ノ目ニ、チト、篠突ノアレバ、目[illegible]ト申ス」

しのづくり (名) 【篠造】太刀ノ拵ヘ方ノ名。足利家重代ノ寶刀、鬼丸ト、[illegible]ト、目貫トニ、金ノ篠ノ紋ヲ刻メルモノニ起ル、刃ハ、一文字ノ則宗ナリ、後ニ、摸造ノ物ニモ、此名ヲ呼ブ、

しのつづみ (名) 【四鼓】つづみ(鼓)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しのに (副) (一)しぬにノ轉。撓ヒ靡キテ。新古今集、四、秋、上「[illegible]吹ケバ、しのに[illegible]ル、刈萱モ、タハワキテ、露コボレケリ」 (二)繁ク。玉葉集、十七、雜、四「秋ニナリ、[illegible]ノ淋シク、ウハルニモ、涙ノ露ゾ、しのに散リケル」 永享三年道之記「カシ原ト云フ所ヨリ、秋ノ雨、しのに降ル」

シノニム (名) 〔英語、Synonym.〕語形、異ナリテ、意義ノ同ジキ語。類語。

しのね (名) 【羊蹄菜】〔木名、しナリ、大黃ヲ、大しト云ヒ、知母ヲ、山しト云フモ、コレナリ、根ヲ藥用トスルニ因リ、しのねト云フ〕 本名、し。又、シブクサ。シイネ。今、又、ギシギシ。野大黃。草ノ名、水邊ニ多シ、一根ヨリ叢生ス、葉ハ、幅一寸許、長サ一尺餘、春ノ末、薹ヲ起スコト一二尺、小葉、互生ス、夏ニ至リ、梢頂、葉間ニ、穗ヲ出シ、節毎ニ、十數花、層ヲ成ス、大キサ一分許、三瓣、三萼、淡綠色ニシテ、葉ハ淡黃ナリ、子ハ、蕎ノ如シ、根ヲ[illegible]トス、和大黃ト云フ。スゴバウ 字鏡「羊蹄、志乃[illegible]」 本草和名、上「[illegible]、和名、之乃[illegible]」 [illegible]、十六「[illegible]ノ、池ノ[illegible]、[illegible]シ、[illegible]ガ、[illegible]ツカバ、[illegible]ハ[illegible]レナム」

しののみ (副) しぬぬみニ同ジ。[illegible]集、[illegible]ニ、[illegible]コセノサ山ノ、杉ガ上ニ、[illegible]モしののみ、クキラ鳴クナリ」(クキラハ、郭公)

しののめ (名) 【東雲】〔しぬのめノ轉〕夜、明ケハナルルホドノ空。アカツキ。アケボノ。シラシラアケ。曉天。古今集、十三、戀、三「しののめノ、別レヲ惜シミ、我レゾ待ツ、鳥ヨリサキニ、啼キハジメツル」

しののめの (枕) 【東雲之】〔しぬのめのノ轉〕[illegible]ト云フ語ノ枕詞。古今集、十三、戀、三「しののめの、ホガラホガラト、明ケ行ケバ、己ガキヌギヌ、ナルゾ悲シキ」

しののめの (枕) 【篠目之】〔しぬのめのノ轉〕慕ふ、しのぶト云フ語ノ枕詞、[illegible]、十一、戀、一「朝ガシハ、ヌルヤ河邊ノ、しののめの、忍ビテ寢レバ、夢ニ見エツツ」

しののをふぶき (名) 〔薄(シノススキ)の吹雪ノ義、をハ、發語〕薄ノ穗ノ、ホホケテ、風ニ散ルコト。連歌ニテハ、冬ノ風體ナリ、シゲク吹ク意ニ云フ。催馬樂、近江路「近江路ノ、之乃乃乎不不支ハヤ、引カズ子持チ、待チヤ衆ヌラム、之乃乃乎不不支ヤ、サ公達ヤ」 夫木抄、廿[illegible]「[illegible]分クル、袂手[illegible]シ アダシ野ノ、しののをふぶき、心シテ吹ケ」

しのばう (名) 【師坊】師ノ御坊。[illegible]ナド賴ミテ、常ニ出入スル法師。

しのはこ (名) 【清器】〔尿の匣ノ意カ(しいトモ云フ)〕小便ヲ受クル器、箕製ナラム、溲瓶ノ類。溲器 虎子 倭名抄、十四、坐臥具「清器[illegible]」 古[illegible]ハ、おほつぼナリ、共[illegible]ノ出典ヲ見ヨ」 [illegible]、三、五[illegible]事「私[illegible]」 [illegible]、寶公十五年、注「私、謂二小便一」(大小便、共ニ云フベシ、和漢、暗合セリ) 內裏式「虎子、大壺」

しのば・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【偲】慕ハシ。忘レ難シ。戀シ。拾遺抄、八、第十三條「今更、昔モ戀シク、ソノアトモしのばしく」

しのば・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 【隱】〔しのぶ(隱、自動)ノ使役相動詞〕カクス。人知レズナス。淨瑠璃物語、笛段「橫笛(ヤウデウ)四音ヲ、云云 馬手ノ袖ニ、しのばせタリ」「匕首(アヒクチ)ヲ

[illegible]ニしのばす」

しのはら (名) 篠原 〔しぬはらノ轉〕 篠竹ノ、多ク生ヒタル原。シヌハラ。催馬樂、更衣「衣ガヘセンヤ、サ公達ヤ、我ガ衣ハ、野原之乃波良、萩ノ花ズリヤ、サ公達ヤ」

しのはらたう (名) 長尾鷄ノ條ヲ見ヨ。

しのび (名) 忍 (一)隱ブコト。匿スコト。窃カニスルコト。 源、十、榊五十「しのびニ、御文、通ハシナドシテ」 (二)シノビアリキ。微行「御しのび」 (三)全ク身ヲ隱シテ、夜、敵陣、又ハ、人家ニ、隱ビ入ルト云フ術。忍術。隱形。遁形 隱身 太平記、三十二、播磨守盛重譃ニ杉原家ニ事「佐田彥四郎、同甚五郎、同小鼠トテ、兄弟三人、勝グレテ、忍びノ上手、盜賊ノ張本ナリケリ」「しのびノ術」 (四)身ヲヤツシテ、敵地ナドニ入リ込ミ、動靜ヲ探ルコト。間者。隱密。偵 諜 細作 太平記、廿、八幡炎上事「或ル夜ノ、雨風ノ紛レニ、逸物ノ忍びヲ、八幡山ニ入レテ、神殿ニ、火ヲゾ懸ケタリケル」「しのびノ者」 (五)せったう(竊盜)ノ異名。 庭訓往來抄、下「竊盜トハ、細ソル盜人ナリ、名ヅケテ、しのびト云フ也」

しのびありき (名) 忍步 貴人ナドノ、人目ヲ隱ビ、身ヲヤツシテ、出デアリクコト。略シテ、しのび。微行 源、四、夕顏「六條ワタリノ、御しのびありきノ比」

しのびあるき (名) 忍步 前條ノ語ニ同ジ。 好色一代女(貞享、西鶴)六、「足音ナシノ、忍びあるき」

しのびいる・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) 忍入 人ニ知ラレヌヤウニ、入ル。 源、三十四、上、若菜、上五十六「イミジク忍びいり給ヘル、御寐クタレノサマヲ、待チウケテ」「敵陣ニしのび入る」

しのびかく・ク・ケ・カ・キ・ケ(他動、四) 忍書 隱シテ、カク。密カニ、書ク。 源、十、榊八三十「ヲリモアハレニ、アナガチニ、しのびかき給ヘラン御心バヘモ、憎カラネバ」

しのびがへし (名) 忍返 門、屛ノ上ナドニ、鐵、又ハ、竹木ニテ細カキ垣ノ如キモノヲ作リツケ、人ノ、踰エテ隱ビ入ラムヲ防グモノ。昔ノ、釘貫ナリ。遮欄 犬子集「軒ニ刺ス、菖蒲ヤ、忍び返しカナ」 曾我姿富士(正德)「高塀、板塀、忍び返しノ釘貫」

しのびかへす・ス・セ・サ・シ・セ(自動、四) 忍返 包ミ隱シテ、平然タル狀ヲ粧フ。 源、四十八、寄生十「何カハ、カヒナキ物カラ、カカル氣色ヲモ見エ奉ラント、しのびかへしツツ、聞キモイレヌサマニテ、過シ給フ」

しのびぐさ (名) 忍草 思ヒグサ。思ノ種。 元輔集「行ク先ノ、忍び草ニモ、アルヤトテ、露ノカタミモ、置カントゾ思フ」

しのびぐるま (名) 忍車 (一)人ニ知ラレヌヤウニ、密カニ乘リユク車。ヤツシグルマ。(連歌ノ書ニ) 夫木抄、三十三「サ夜深カス、しのび車ノ、ウハシロニ、霜降ルマデモ、外ニ立テレトヤ」 (二)人ニ隱レテ、車ヲ牽クコト。 謠曲、松風「忍車ヲ引ク汐ノ」

しのびけんどん (名) 忍慳飩 〔慳飩ノ(一)ヲ入ルルヨリ、云フ〕 四角ノ箱ノ中ニ、隔ノアリテ、廣キ方ニ、慳飩蕎麥切ヲ入レ、狹キ方ニ、汁ツギノ箱、辛ミ等ヲ入ルル樣ニ造リタルモノ。 江戶名物鑑、忍びけんどん「藪入ヤ、二階ヘ二膳、シノブ山」

しのびごと (名) 隱言 ササメゴト。ヒソヒソバナシ。密語 狹衣、四、下八三十「アリツルしのびごとドモハ、耳止マルコトヤ、マジリタリツラム」

しのびごと (名) 隱事 隱シテスル事。ナイショゴト。密事 源、四十六、總角五六十「カカル御しのびごとニヨリ、山里ノ御アリキモ、ユクリカニ、思シ立ツナリケリ」

しのびごと (名) 誄 〔思言ノ義、多クハ、貴人ノ死ニ、セシガ如シ〕 人ノ、ミマカリタル時、其人ヲ慕ヒテ、其靈ニ告グル詞。シヌビゴト。 推古紀、廿年二月、皇太夫人ノ改葬ニ「誄ニ於輕街一」 敏達紀、十四年八月「天皇崩、云云、馬子宿禰大臣、佩レ刀而誄」 續紀、廿七、天平神護二年正月、宣命「藤原大臣ニ賜ヒテアル、志乃比已止乃書」 靈異記、上、第五「誄ニ於彼忠一」訓釋「誄、シノバシム」 禮記、曾子問篇 誄 何晏注「累二其平生實行一爲レ誄、而定二其謚一」

しのびごま (名) 忍駒 三味線ノ駒ニ、物ヲ挾ミテ、音ノ高クナラヌヤウニスルコト。 長町女腹切(正德、近松作)中「心クラベノ連彈ニ、思ヒノ色ヲ忍駒、忍ブニ餘ル涙カナ」

しのびこむ・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 忍込 密カニ入リコム。潛入 「盜賊ガ忍びこむ」

しのびこむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 忍籠 イタク、ツツミ隱ス。 源、廿九、行幸廿一「キコエンニモ、イマイマシキ有リサマヲ、今日ハ、しのびこめ侍レド」

しのびごゑ (名) 忍聲 ヒソヒソゴヱ。小聲。低聲 盛衰記、十八、文覺淸水狀天神金事「念珠、押シ揉ミ、忍聲ニテ、云云、祈誓シケリ」

しのびさんぢゅう (名) 忍三重 淨瑠璃ノ手ノ一、忍音ニ彈ク三重。(さんぢゅうノ條ノ(二)ヲ合ハセ見ヨ)

しのびしのびに (副) 忍忍 イタク、人目ヲ避ケテ。イト、シノビテ。ヒタスラ、隱レテ。シノビニシノビテ 古今集、廿、大歌所「陸奧ノ、安達ノマユミ、吾ガ引カバ、末サヘ寄リコ、しのびしのびに」 源、三十一、槇柱廿六「御文ハ、しのびしのびにアリ」

しのびだ (名) 忍田 隱田 おんでん(隱田)ニ同ジ。 成形圖說、二、農事「隱田(東鑑)隱田(萬葉集)、又、田稻ヲ窃ヲモ云ヘリ、凡ソ、此ノ田ノ人、陰ニテナスコトヲ、しのぶト云フ、忍字ハ不レ當、契沖ハ、志乃毘田ハ、私田也、ト云ヘリ」

しのびぢゃうちん (名) 忍提燈 (一)貴人ノ、私用ニテ、夜行スル時ニ用キル提燈。定紋ナラズ、變ハリタル紋ヲシルス。(雲萍雜誌) (二)提燈ノ類、鐵ニテ火袋ヲ造リ、内ニ、蠟燭立ヲ、回旋ルベク作リツケテ、俯仰スレドモ、燭、倒レズ、俯スレバ、光ヲ蔽ヒ、仰ガスレバ、照スガ如ク作レルモノ。龕燈提燈。燈罩

しのびづきん (名) 忍頭巾 微行ニ冠ル頭巾。 吉原伊勢物語(寛文)「男ノ着タリケル、古紙子ノ裾ヲ切リテ、歌ヲ書キテヤル、其ノ男、忍びづきんヲナン着タリケル」

しのびづま (名) 忍夫 カクシヲトコ。ミソカヲトコ。密夫 玉葉集、十四、雜、一「しのびづま、カヘル名殘ノ、移香ヲ、袖ニ爭フ、窓ノ梅ガ枝」

しのびづま (名) 忍妻 カクシヅマ。コモリヅマ。カコヒモノ。私婦

しのびて (名) 短手 拍手ノ條ヲ見ヨ。

しのびどころ (名) 忍所 (一)ヒソカニ、隱ルル所。カクレガ。(二)懷シク思フ所。 源、三十一、槇柱廿二「ココラ、年經タマヘル御スミカノ、イカデカ忍びどころナクハアラン」

しのびながし (名) 隱流 退ケテ、遠クノ官ニ遷スコト。左遷。(陽ニ進拜シテ、陰ニ退遷ス) 孝德紀、大化五年三月「拜二日向臣於筑紫大宰帥一、世人相謂之曰、是隱流乎」

しのびなき [illegible] テズ二泣クコト。飲泣

しのびね (名) 密 人知レズ二。ヒソカ二 [illegible] 古 [illegible] コリ、すコセタリケル」

しのびね (名) 忍音 [illegible] 月ノ 時鳥ノ初音 [illegible] 月二鳴ク [illegible] ヤ、君モ鳴クラム、カヒモナキ、シテノタヲサニ、心通ハバ」

しのびのもの (名) 忍者 〔隱の者ノ義〕 マハシモノ。探偵。諜者。間諜 細作 淺井三代記、十、同士討事「しのびの者、只今、火ノ手 [illegible]

しのびのを 名 忍緒 〔九八、兜ノ内 [illegible] 二隱バセテ、髮二括リツケタル物ノ名 [illegible] 倉コレ有ルヲ、ソレ二、火ヲカケントス」

しのびび 名 忍火 音ヲタテズ二打 [illegible]

しのびびと (名) 忍人 (一)世ヲ忍ブ人。隱者。(二)人目ヲ忍ビテ、通フモノ [illegible] 給フメル人ワモ、二ツナクオボシ騷グト宜フヲ」

しのびまはり (名) 忍廻 次條二同ジ。

しのびめつけ 名 忍目附 探偵ヲ掌ル目附。カクシメツケ。シノビマハリ。

しのびもとゆひ 名 忍元結 外部ヨリ見エヌヤウ二結ブ、もとゆひ。カクシモ

トユヒ。[illegible]

しのびやかに (副) 隱 隱ブ狀ニテ。竊カニ。ミソカニ。密 [illegible] びやかに、心惡キ限リノ女房四五人、サブラハセ給 [illegible] ヒソカナリ、ヒソカニ」

しのびわらふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 忍 [illegible] ヒソカニ、笑フ。[illegible] 云ヘバ、壁ニ耳、天ニロト云フ事アリ、怖シ怖シ、聞 [illegible] ウジト云ヒナガラ、皆 [illegible] 笑ヒケリ」

しのぶ 名 草ノ名。忍草ノ條ヲ見ヨ。

しのぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 忍 〔忍ぶノ轉〕 しぬぶ。堪フ。コラフ。シノグ。我慢スル。[illegible] 新千載集、十四、戀、四 人知レズ、[illegible]

しのぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 忍 前條ノ語意ニ同ジ。[illegible] ノ、弱リモゾスル」拾遺集、十五、戀、五「世ノ中ノ、憂キモツラキモ、しのぶれバ、思ヒ知ラズト、人ヤ見ルラム」

しのぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 思 憶 〔しぬぶノ轉〕 しぬぶ。昔ヲ、慕フ。懷 思フ。戀フ。戀ヒ慕フ。思慕 [illegible] ヒシ [illegible] 「昔シヨリ、離レガタキハ、浮世哉、五ニしのぶ、中ナラネトモ、後拾遺集、十七、雜、下 思ヒ出ツル、我

[illegible] 長行紀、四十年十月「忍愛以入而殷換、一日之無不 [illegible] 七七「萬代ニ、心ハ解ケテ、我背子ガ、抓ミシヲ見ツツ、忘ラ偲カネツモ」

しのぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 思 前條ノ語意ニ同ジ。景行紀、五十三年八月 [illegible] 有望 [illegible] 源、四十、幻「亡キ人ヲ、しのぶる宵ノ、村雨ニ、濡レテヤ來ツル、山郭公」萬代集、十九、雜、六 イツトナク、濡ルル袂ハ、古ヘヲ、しのぶる露トナリヌベキ哉」仁德紀、三十年十一月「皇后 大忿而惱有 思」

しのぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 誄 亡キ人ヲ、慕フ。死去セル人ヲ、戀ヒ思フ。[illegible] 即位前紀「孝性純深、悲 [illegible] 無已」

しのぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 隱 〔隱ぶノ轉〕 隱ルル。隱レテ通フ。欽明紀、二年七月 [illegible] 永久四年百首、忍戀「包ミカネ、袖ヨリ玉ノ、散ル時ハ、忍ぶトシモヤ、人ハ見ルラン」新後拾遺集、六、冬 霜枯ノ、野中ニ見ル、忘レ衣、しのぶ影ナキ、冬ノ夜ノ月」[illegible] 政集 [illegible] 來ル、花橘ノ、道ヲアケテ、しのぶ寢床ヲ、人ニ知レヌル」同「月清ミ、シノブル道ゾ、しのばレヌ、夜ニ隱レテト、ナニ思ヒケム」「人目ヲしのぶ世ヲしのぶ」

しのぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 隱 前條ノ語意ニ同ジ。源、十八、松風 惟光ノ朝臣、例ノしのぶる道ハ、イツトナク、廣ヒツカウマツル人ナレバ」枕草子、九、九十九段「人ノしのぶるガ、夜中ナド、打チ叩キテ」千載集、十一、戀、一 忍ぶる戀 [illegible] 月清ミ、しのぶる道ゾ、シノバレヌ、夜ニ隱レテト、ナニ思ヒケム」

しのぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (他動、四) 隱 隱ス。露ハレヌヤウニナス。新拾遺集、十三、戀、三「オノヅカラ、逢フ夜稀レナル、契リヲバ、しのばズ

トテモ、誰レカ知ルベキ」新後撰集、十一、戀、一「ツラシトモ、言ヒテ心ヤ、慰ムト、しのばデダニモ、人ヲ戀ヒバヤ」

しのぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (他動、上二) 隱 前條ノ語意ニ同ジ。古今集、十一、戀、一 思フニハ、しのぶることゾ、負ケニケル、色ニハ出デジト、思ヒシモノヲ」千載集、十二、戀、二「[illegible] ヲモ、しのぶる頃ノ、我ガ袖ニ、アヤナク月ノ、宿リヌル哉」

しのぶえ (名) 篠笛 一種ノ竹ノ橫笛ノ名、里神樂、俗曲ノ囃子、ナドニ用キルモノ。略シテ、しの。クサブエ。

しのぶぐさ (名) 忍草 〔しのぶノ義〕 〔土ナクシテ生ズ、堪ヘ忍ぶノ義〕 (一)草。山谷ノ土石上ニ生ジ、蔓延ス、蔓ハ、節チ、根ニシテ、管ノ太サニテ、褐色ニシテ、毛アリ、春、舊根ヨリ葉ヲ生ズ、形、甚ダ細小ニシテ、海金沙ノ梢葉ノ如シ、花、ナシ、しのぶすりト云フハ、此ノ莖、葉ヲ用キルナリ。蔓ヲ採リ、葉ヲ連ネテ縮ネ、夏、人家ノ簷ナドニ掛ケテ、綠葉ヲ賞ス、つりしのぶト云フ、土ヲ離レテ、久シク枯レズ。略シテ、しのぶ 海州骨碎補 本草和名、上 [illegible] 「垣衣、之乃布久佐」「垣衣ハ、舊ラズ苔ナリ」倭名抄、廿 苔類 垣衣、之乃布久佐 [illegible] 草、萱草ヲ、しのぶ草トモ云フトモヘルハ、誤レリ」京羽二重 つりしのぶ、女バカリノ、物見カナ」(二)八「忍草」名義抄「烏韮、シノブグサ」(大和物語二、又、古歌ナドニ詠ムハ、のきしのぶ、略シテ、しのぶト呼ビ、簷、或ハ舊樹ノ皮、又ハ、枝ノ間ニ生ジテ、垂ル、土石ノ間ニモ、アリ、一根ニ叢生ス、葉ノ幅二三分、長サ三五寸、甚ダ厚ク、深綠色ナリ、背ニ金星アリ、兩對シテ、大キサ一分許、冬ヲ歷テ、枯レズ、年久シキモノハ、葉ノ長サ七八寸ニ至ルモアリ。瓦韋 枕草

子、三、三十三段「しのぶぐさ、イトアハレナリ、屋ノ端、サシ出タル物ノ端ナドニ、アナガチニ生ヒイデタルサマ、イトヲカシ」 古今集、十五、戀、五「獨ノミ、眺メフル屋ノ、ツマナレバ、人ヲしのぶノ、草ゾ生ヒケル」 六帖、六「戀レトモ、言ハデフル屋ノ、しのぶ草、繁サマサレバ、今ゾ穗ニ出ル」

しのぶずり (名) 〔忍摺〕 前條、及、次條ヲ見ヨ。 袖中抄、十八「遍昭寺ニ詣デ侍リシカバ、カノ母屋ノ御簾ハ、ミクリノツルト申物ニテ、忍ぶずりノ緣、皆失セテ、侍ラザリシカバ」(布帛ニ、しのぶ草ノ形ヲ、紫ノ色シテ摺リツケタルナリ) 敦忠集「しのぶヲ摺リタル布ノ袋(縫袋)ニ「打チツケニ思ヒ出ヅレヤ、故郷ノ、しのぶ草ニテ、すれるナリケリ」」

しのぶずりの狩衣トハ、小サキ水玉ノ如キ文ヲ摺リタル狩衣。 伊勢物語、初段「男、忍摺ノ狩衣ヲナム、著タリケル」

しのぶもぢずり (名) 〔忍捩摺〕 〔延喜時代ヨリ、信夫郡ノ產物トシテ、陸奥絹ノ、一種ノ亂レ模樣ヲ捺シタルヲ貢シタリト〕 布帛ニ、忍草ノ象ヲ、靑摺ニシタルモノ。蔓、葉、モヂレ亂レタレバ、云フナリ。又、しのぶの亂れナドモ云フ。現今、福島市ニ產ズ。 古今集、十四、戀、四「ミチノクノ(序)、しのぶもぢずり、誰レ故ニ、亂レソメニシ、我レナラナクニ」 童蒙抄「戾摺トハ、陸奥ノ信夫郡ニテ摺リ出セル布ナリ、打チチガヘテ、亂リガハシク摺レリ」 袖中抄、十八、顯昭注「陸奥ノ信夫郡ニ、もぢずりトテ、髮ヲ亂ルヤウニ摺リタルヲ、しのぶずりト云フ」 公忠集、東ニ下ル人ニ、白キ物ヲ、烏キ物ニテ摺リテ、火打ヲ入レテ贈ルトテ、打チ見テハ思ヒ出デヨト、我ガ宿ノ、しのぶ草シテ、摺レルナリケリ」 賴政集 戀「思ヘドモ、いはでしのぶノ、摺衣、心ノ中ニ、亂レヌルカナ」 吾妻鏡、九、文治五年九月十七日、毛越寺 此本尊造立間、基衡乞支度於佛師雲慶、云云、運功於佛師、云云、信夫毛地摺千端等也」 急就篇 縹、綟、注「綟、蒼艾色也」 以石綠、色尤光澤也」

しのべだけ (名) 〔しのべハ、節延ノ略ニテ、節ノ間長キ意カト云フ〕 メダケ。シノダケ。 新六帖、六「憂キフシヲ、思ヒモ入レズ、しのべだけ、忍ベド音コソ、先ヅ泣カレケレ」 犬子集 嘴ラバ、鳥刺竿モ、しのべ竹

しのまき (名) 〔篠卷〕 綿ヲ、細キ竹ニ卷キテ、細長キ筒ノ如クシタルモノ、コレヨリ、絲ヲ紡ギ取ル。

しのめ (名) 〔長門笋〕 〔篠芽ノ義ト云フ〕 笋、靑クシテ、最モ晚ク生ジ、味ノ、太ダ苦キモノト云フ。シノメダケ。長門竹。 倭名抄、廿、竹具「長門笋、之乃女、笋靑、最晚生、味大苦也」(にがたけ、是レカト云フ)

しのめだけ (名) 〔篠芽竹〕 前條ヲ見ヨ。

しのや (名) 〔篠屋〕 篠、葦ナドニテ葺キタル小屋。 續古今集、十、羇旅「夜ヲコムル、篠ノしのやノ、胡戸イデニ、山蔭暗キ、峯ノ松風」 永久四年百首「旅人ノ、カリノしのやニ、年暮レテ」 續千載集、八、旅「蘆ノしのやノ、夜ノ秋風」

しのやき (名) 〔志野燒〕 〔次條ノ志野宗信ノ嗜好シタルヨリ、名ヅクト〕 元龜、天正時代、尾張國ヨリ製出シタル陶器。

しのりう (名) 〔志野流〕 聞香ノ一流、足利義政ノ臣、志野三郎左衛門尉宗信ヲ祖トスルモノ。 本朝世事談綺、三、態藝「香道、法ニ、相阿彌流、志野流ノ二派アリ」

しのわかれ (名) 〔死別〕 死シテ始メテ、相、別ルルコト、卽チ、死ヌルマデ、相、連ルルコト。シニワカレ。死別。 宇治拾遺、九、第三條「コノ男、女、互ニ、七八十ニナルマデ榮エテ、男兒、女兒、生ミナドシテ、死のわかれニゾ別レニケル」

しのを (名) 琵琶ノ名所。 字類抄「鬼弦、シノヲ、琵琶ノ名所」

しは (名) 〔支派〕 支流タル、一派。エダハ。分派。 杜甫詩「聖賢冠史籍、支派羅源律」

しば (名) 〔萊草〕 〔繁草ノ意カ、萊、蕘也〕 荒地ニ生ズル蕘、莠ノ類ノ雜草ノ稱ナリト云フ。シバクサ。 萬葉集、六、四十三「立易ハリ、古キ京ト、成リヌレバ、道ノ志婆草、長ク生ヒニケリ」 新古今集、一、春、上「道ノしば草、踏ミワケテ」 字類抄「萊草、シバ」 字鏡五十六「蕘(萊)、志波」

しば (名) 〔芝〕 〔繁葉草ノ意カ、芝ノ字ハ、瑞草ノ名ニテ、當ラズ〕 細小ナル蔓草ノ名、蔓ノ、地ニ着ク處、皆、細根ヲ生ジテ、延イテ、織ルガ如シ、いとすすきノ秧芽ニ似テ、枝、梗、無シ、根、細ソク、相、延結ス、秋、細ソキ莖ヲ出シ、穗ヲ成ス、ちやひきぐさノ穗ノ如クニシテ、細ソシ、庭地、築山ナドニ布キ植エテ、美シ。結縷草 其一種、更ニ細小ニシテ美ナルヲ、高麗芝、又、絲芝ト云フ、粗大ナルニ、鬼しばアリ。 萬葉集、五、長歌「玉梓ノ、道ノ隈回ニ、草タヲリ、志婆取リ敷キテ、床ジモノ、ウチ臥イ伏シテ」

しば (名) 〔柴〕 〔繁葉ノ略ト云フ、關東、そだ、加賀、ほえ、丹波、おどろ、朝鮮語、ちょぶ(薪)〕 說文「柴、小木散材」 禮記、月令篇「收秩薪柴」注「大而可析者、謂之薪、小而束者、謂之柴」 山野ノ雜木。又、其枝ナド伐リテ、薪トシ、垣ニ結ヒナドスルモノ。シバキ。 字鏡五十五「荊、志波」 萬葉集、十四、四十四「富士ノ之婆山」 源、五十、浮舟「柴ツミ舟」 同、二、帚木二十「しば垣」 同、五、若紫上「柴ノ庵」 萬代集、十六、雜 三「しばノ編戸」 詞花集、四、冬「しばズリ衣」

しば (名) 〔司馬〕 (一)古ヘ、支那ニテ、軍事ヲ掌ル官。 禮記、曲禮、下篇「天子之五官、曰、司徒、司馬」 (二)國衙ノ掾ノ唐名。 吾妻鏡 一、治承四年九月十七日、武衞令招常胤於座右給、須以司馬爲父之由、被仰」

しば (名) 〔駟馬〕 一乘ノ車ニツクル、四頭ノ馬。又、四頭立ノ馬車。 漢書、于定國傳「少高大閭門、令容駟馬高蓋車、我治獄多陰德、未嘗有所冤、子孫必有興者」

しば (副) 〔暫〕 しばし(暫)ノ略。 謠曲、山姥「しばサセ給ヘ、トテモサラバ、暮ルルヲ待チテ、月ノ夜聲ニ、謠ヒ給ハバ」

しば (接頭) 〔繁〕 (一)繁ク。 六帖、六「しば鳴ク」 萬葉集、廿、四十九「之婆起チヌ」 宇治拾遺、十、第六條「しばダタキテ」 (二)繁キ。「しばユバリ」

しばあめ (名) 〔繁雨〕 むらさめニ同ジ。

しはい (名) 〔支配〕 〔支、分也、配、隷也〕 受持チテ、取締リヲスルコト。其部ヲ、統ベ治ムルコト。所轄。管轄。 梁書、武帝紀「使部分將士、各支配、須臾而畢」 夢溪筆談(宋、沈括)「置祕書監、支配一切祕書」 江源記「近江國十三郡ノ中、八郡ヲ、六角方、知行シ、五郡ヲ、京極方ニ支配ス」

しはい (名) 〔紙背〕 紙ノ裏。紙ノ背面。 書法鈎玄(清、宋曹)「當其用鋒、常透過紙背」 「眼光、紙背ニ徹ス」

しはい (名) 〔兒輩〕 コドモタチ。コドモラ。 晉書、王羲之傳「恒恐兒輩覺、損其歡樂之趣」

しばいき (名) 〔繁息〕 アヘグコト。

しはいしょ (名) 〔支配所〕 德川幕府時代、遠國奉行、及、代官ノ治ムル領地。

しはいにん (名) 〔支配人〕 銀行、會社、又、商家ナドニテ、其行、社、店ヲ支配スル者ノ稱。管家。管事。

しはう (名) 〔四方〕 (一)東、西、南、北。 運歩色葉集、四方、シハウ(東西南北)」「上下四方」 (二)ヨモ。メグリ。諸方。 書經、盤庚、上篇「紹復先王之大業、底綏四方」「四方八面」

しはう (名) 【四方】 膳ノ名、さんばう(三方)ノ條ヲ見ヨ。

しはう (名) 【四寶】 筆ト、墨ト、紙ト、硯ト。 [illegible]文房四寶[illegible]

しはう (名) 【至寶】 至極ノ寶。最モ貴キ寶。 [illegible]

しはう (名) 【恣放】 ワガママニスルコト。放恣。 [illegible]

しはう (名) 【私報】 (一)私ノ報知。私人ノ報知(公報ニ對ス)(二)私用ノ電報。(官報ニ對ス)

しは・う (形) 吝ノ音便、しはしヲ見ヨ。

しばう (名) 【四望】 四方ノ眺望。 世說、任誕「[illegible]四望[illegible]」

しばう (名) 【思望】 思ヒ、シタフコト。 [illegible]

しばう (名) 【志望】 ココロザシ、ノゾムコト。冀望。希望。 [illegible]

しばう (名) 【死亡】 死ニ、失スルコト。 孟子、梁惠王、上篇「[illegible]」

しばう (名) 【姿貌】 カタチ。スガタ。容姿。容貌。 [illegible]

しばう (名) 【子房】 植物學ノ語、花ノ雌蕊ノ下部ノ、常ニ膨大シ、中空ニシテ、内ニ、數室ヲ有シ、胚珠ヲ藏スル部分ニシテ、成熟シテ果實トナルモノ。

しばう (名) 【脂肪】 動物ノあぶら。 [illegible]

じばう (名) 【自暴】 じばうじき(自暴自棄)ノ條ヲ見ヨ。

しはうがみ (名) 【四方髪】 撫附髪ヲ掻キ上ゲ、手拭ニテ包ミタルモノ。 [illegible]アヅマ屋ノ、[illegible]ヤ、四方髪」

しはうぎん (名) 【四寶銀】 四寶丁銀、及、四寶豆板銀ノ總稱。 貨幣秘錄「正德元年辛卯二月、三寶銀ヲ改ム、寶字ノ極印、四ツアリ、之ヲ、四寶銀ト云フ」

しはうごし (名) 【四方輿】 いたごし(板輿)(一)ニ同ジ。

じばうじき (句) 【自暴自棄】 自ラ、其身ヲソコナヒテ、自ラ、其身ヲ棄ツルコト。ヤブレカブレ。ヤケバラ。 孟子、離婁、上篇「自暴者不可與有言也、自棄者不可與有爲也、言非禮義謂之自暴也、吾身不能居仁由義謂之自棄也」

しはうじろ (名) 【四方白】 鐵地ニ、銀ノしのだれヲ、四方ニ附ケタル兜。 [illegible]四方白ノ兜」

しばう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、サ變) 四望 四方ヲ眺望ム。見マハス。

しばうち (名) 【芝打】 (一)鞦ノ總。(二)[illegible]

しはうちく (名) 【四方竹】 しかくだけ(四角竹)ニ同ジ。

しばうちだけま (副) 【芝打長】 鞦ノ芝打ヲ、長ク垂ラシテ、[illegible]、只今、[illegible]出タル如クナルヲ、芝打長モ短クモナシ」

しはうちやうぎん (名) 【四寶丁銀】 正德元年ヨリ二年マデ、江戸幕府ニテ發行セシ丁銀。其面ニ、寶ノ字ノ極印、四ツアリ、縱、二寸九分、横、九分強、重量、四十一匁、品位、百分中、銀、二十分、銅、八十分ノモノ。享保七年、通用ヲ廢セラレヌ。

しはうはい (名) 【四方拜】 古ヘハ、元旦ノ寅ノ刻ニ、天皇、清涼殿ノ東階ノ前庭ニ出御マシマシテ、天地、四方、屬星(北斗七星ノ名)、山陵、ヲ拜セラレ、年災ヲ祓ヒ、寶祚ヲ祈ラセラレタル儀。今ハ、東京、皇城内ノ神嘉殿ノ南庭ニ、午前五時半、二雙ノ屛風ヲ立テマハシ、中央ニ、簀薦ヲ敷キ、玉座ヲ設ケ、燈臺二基ヲ居エ、此處ニテ、儀ヲ行ハセタマフ。 江家次第、一、正月「四方拜事、正月一日、寅一刻」平家物語、九、小朝拜事「主上、渡ラセ給ヘドモ、節會モ行ハレズ、四方拜モナシ」

しはうまめいたぎん (名) 【四寶豆板銀】 德川幕府ニテ、正德元年ヨリ二年マデ、發行シタル豆板銀。面ニ、寶ノ字ノ極印、四ツアリ、縱、六分、横、六分、重量、四匁二分、品位ハ、百分中、銀、二十分、銅、八十分。享保七年、通用ヲ廢セラレヌ。

しはうまゐり (名) 【四方參】 京都ニテ、節分ノ日ニ、東ハ吉田神社、南ハ伏見ノ稲荷神社、北ハ北野神社、西ハ壬生ノ地藏ニ參詣スルコト、就中、吉田神社、最モ、盛ンナリト。

しばえび (名) 【芝蝦】 うみえびノ一種、武藏國、芝浦ニ產ズルモノ、長サ三四寸ニ過ギズ、殼、薄ク白ク、手、足、鬚、共ニ、短ク細ソシ、煮レバ、淡紅ニシテ、味、佳シ。青蝦

しばがき (名) 【柴垣】 (一)柴ヲ編ミ結ヒ作レル垣。柴籬。 古事記、下、清寧記「大君ノ、心ヲユラミ、オミノ子ノ、ヤヘノ斯婆加岐、入リタタズアリ」同、同、長歌「大君ノ、ミコノ志婆加岐、ヤフシマリ、シマリモトホリ、切レム志婆加岐、燒ケム志婆加岐」 源、二、帚木「田舍家ダツしばがきシテ、前栽ナド、心トドメテ植ヱタリ」 字鏡「籬、柴垣也、竹柴等類、志波加支」 (二)次次條ノ語ノ略。(三)次條ノ語ノ略。

しばがきぶし (名) 【柴垣節】 江戸ニテ、明曆ノ頃、流行セシ端唄。初ハ、踊ニ合ハセテ謠ヒタリシガ、後、比丘尼ナドノ、びんざさらニ合ハセテ唄フモノトナリヌ。 糸竹初心集(寬文)下、しばがき「柴垣本唄「柴垣柴垣、しば垣ゴシデ、雪ノフリ袖、チラト見タ、フリ袖ヲ」云云、雪ノフリ袖、チラト見タ」

しばがきをどり (名) 【柴垣踊】 明曆ノ頃、流行セシ踊、小唄ヲ謠ヒ、二人、立チナラビ、手ヲ拍チ、胸ヲ打チテ、踊ル、故ニ、柴垣ヲ打つト云フ。 還魂紙料、下、柴垣「明曆ノ頃、盛ニ行ハレシ、柴垣ト云フ小唄アリ、是ハ、唄フノミニアラズ、二人、立チナランデ、手ヲ拍、胸ヲ打ノテ踊ル故ニ、柴垣ヲうつトモ云ヒシ、或古記、明曆三年ノ條ニ、此頃、北國下部ノ米搗唄トヤランニ、柴垣ト云フコト、流布シテ、河原者ノ業トナル、云云、酒宴ノ會合ニモ、是ヲ翫ブ、酒宴遊興ノ座ノ見物ノ上ハ、柴垣ト云フ唄ヲウタフニ、拍子ヲ取リ、形ハ、ムクツケキ田舍夷ガ、舊習ヲモツテ、口ヲ、綴ラレタル如クニ作リ、坐席ヘ罷出テ、蓬髮ヲ脫、散キ、エモ云ハレヌ[illegible]シテ、肩ヲ打、胸ヲタタキ、癲病ム人ノ狂ゼル形勢ニテ、右樣、左樣ニ踊リ、息モ繼敢ズアガキ、俯仰ニ音ヲ助ケ、手ヲ鳴ラシテ興ズ、云云、又、舞正語曆(寬治)ニ、マヅ惡シクテモ流行ル

證據ニハ、岡崎ヲ踏ミ、柴がきヲ打ツ事ハ、賤シキ藝ブリノ頂上ナレドモ、流行リヌレバ、大方、若キ者ノ、人ナミニ是ヲ好ケリ、トアルニテ、明曆ノ頃、流行シヲ見ルベシ、東海道名所記（萬治、彼比丘尼ノ事ヲ云フ條ニ）次ニ、柴垣トヤラン、原ハ、山ノ手奴ドモノ踊歌ナルヲ、比丘尼、節ニ乘セテ唄フトイヘバ、專ラ、賤キ者ノウタヒシ小唄ニテアリシナルベシ」武藏鐙、柴垣踊「コノ頃、北國ノ下部ノ米搗歌トカヤ、柴垣ト云フ事、世ニハヤリテ、歷歷ノ會合、酒宴ノ坐ニテモ、第一ノ見モノトナリ、賤シゲニ、ムクツケキ荒男ノ、マカリ出、黑ク穢キ肌ヲ脫ギ、エモ云ハヌツラツキシテ、目ヲ見出シ、口ヲ歪メ、肩ヲ打チ、胸ヲタタキ、ヒタスラ、身ヲ揉ムコト、狂人ノ如シ、右ニ、左ニ、ネヂカヘリ　アフノキ、ウツブキ、足搔キケルヲ、座中、聲ヲ助ケ、手ヲ打テ、諸共ニ興ゼラレシヲ、見ル人サヘ疏マシク、片ハラ痛カリシガ、ハタシテ、諸家トモニ、皆、柴垣トナリ、大カタハ、モヘヤ、此町ニハ住マレ申サヌモアリ、火ニ燒カレテ逍ルル方ナク、柴垣ウチウチ果ケルニゾ、謳歌ノコトモ、思ヒアハセラルルト、眉ヲ顰メ、鼻柱ヲシジメテ、ツブヤク人モアリケリ」ト發狂歌集（寛文）奴、しば垣を打つ詞「奴衆ノ、名モオサナ名モ、柴垣ヲ、結ヒタテラレテ、ウツツナノ身ヤ」しば垣ヲ、うつノ山邊ノ、ウツケモノ、夢ニモ一ツ、合ハヌ手拍子」好色一代男（天和、西鶴）越後寺泊ニテ「柴垣踊ハ知、テカト尋ケルニ、夢ニモ知ラヌト申ス、何ト云フテモ、コレヂヤモノ」（天和ノ初ニハ、廢レタリ）

しばかり（名）［柴刈］柴ヲ、刈リ取リテ、薪トスルコト。又、其人。芻蕘　狂言記、鼠山伏「此ノ中、山ヘ柴かりニヤ・テ御座レバ」「錦様ハ山ヘ、柴かりニ」

しはがる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［嗄］（咳き嗄るノ意ト云フ）聲、澁リテ、嗄ル。シャガレル。（咳嗽ヲ患フル時ノ聲、老人ノ聲ナドニ）嘶　平家物語、六、しはがれ聲の事「虛空ニ、しはがれたる聲ヲ以テ」沙石集、一、上、第四條「カラ咳ノ故ニ　聲ハ、しはがれタリケリ」

しはがれ（名）［嗄］シハガルルコト。シハガレタルコト。

しはがれごゑ（名）［嗄聲］シハガレタル聲。今訛シテ、しほからごゑ。しゃがれごゑ。平家物語、六「しはがれごゑの事」

しはぎ（名）あかめがしはノ一名。

しばき（名）［柴木］しば（柴）ニ同ジ。保元物語、二、左府御最後事「小舟ヲ借リテ、柴木ヲ、上ニ取リ掩ヒ」

しはく（名）［詩伯］〔伯、說文「長也」〕詩ニ長ケタル人。詩ノ大家。詩宗。詩豪。杜甫詩「平公今詩伯、秀發吾所」羨」晉禹秋文「張植調、陸機兄弟、文章藻麗、語」人曰、二陸乃今之詩伯也」（佩文韻府）

しはく（名）［詞伯］詩文ヲ善クスル人。詩文ノ大家。詞宗。宋之問詩「吾乃器揭絕、文稱」詞伯雄」」

しはく（名）［紫陌］〔風俗通曰「南北曰」阡、東西曰」陌、河東、以」東西」爲」阡、南北爲」陌、朱子曰、二說不」同、後說爲」正」〕（一）都ノ、美シキ路。ミヤコオホヂ。李白詩「高樓對」紫陌」甲第連」青山」」（二）郊外ノ路。劉禹錫詩「紫陌紅塵拂」面來」

じはく（名）［自白］己レノナシシナル事實ヲ、自ラ、白狀スルコト。刑事訴訟上ニ於イテハ、犯罪者ガ、己レノ犯罪ヲ、自ラ、白狀スルコト、民事訴訟上ニ於イテハ、當事者ガ、相手方ノ主張スル事實ヲ自認スルコト。漢書、吳王傳「無」以自白」」

じばく（名）［自縛］己レノ綯ヒタル繩ニテ、己レガ身ヲシバルコト。自繩自縛。傳燈錄「如」蠶吐」絲自縛」」大原問答青葉笛（寛永、近松作）三「オノレガ自力ニ　自縛セラレ」

しばくさ（名）［薬草］薬草ノ條ヲ見ヨ。

しばぐり（名）［柴栗］古名、ササグリ。今又、ヌカグリ。モミヂグリ。栗ノ一種、叢生シテ、高サ、五六尺ニ過ギズ、毛毬モ小サク、中ニ、一、二、三、子アリ、形、小サク、味、好シ。茅栗　拾玉集（慈鎭）一「柴栗ノ、色ヅク秋ノ、山風ニ、梢ヲ去ラヌ、木ノ葉猿カナ」

しばぐるま（名）［柴車］柴木ヲ積ミタル車。シバツミグルマ。夫木抄、廿「峰高キ、牛ノ尾山ニ、入ル人ハ、柴車ニテ、歸ルナリケリ」

しばくれ（名）［芝扨］扨ノ條ヲ見ヨ。

しばくれあめ（名）［柴榑雨］大雨ノ稱。色葉和難、しばくれあめ「賤シキ山人ナド、杣山ニ入リテ、榑ヲ採リタルヲ、河水ノ、少クテ、得下サヌヲ、伐カニ、雨降リテ、榑ヲ出ダストテ、榑ノ上ニ、柴ナドヲモ置イテ出スナリ」

しばざかな（名）［芝魚］江戸、芝浦邊ニテ獲リタル雜魚。好色一代女（貞享、西鶴）四「中間ト見エシガ、朝ノ買物、しばざかなヲ籠ニ入レ」

しばざけ（名）［醭］〔廣韻「醋生」白醭」」〕白キカビ。林逸節用集「醭、白醭、シバザケ」

しはし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［吝恪］〔しはハ、締ノ意、澁しニ通ズ〕財物ヲ、費ヤスベク、與フベキ所ニ、惜シミテ、出サズ。ヤブサカナリ。吝嗇ナリ。ダシヲシミナリ。ケチナリ。天治字鏡、十一、廿「僞、奇異也　不凡之貌、女豆良志、又　之波之」二〔珍ラシキハ、少ナキ意〕萬葉集、十四、廿「眞之波ニモ、告ラヌ妹ガ名、ト兆ニ出デムカモ」

しばし（副）［暫］〔しましノ轉、屢、霎時、且ノ字義ト、同意〕又、しまし。略シテ、しば。少シノ間ホド。チョットノ間。暫時。瞬間。景行紀、廿七年十二月「川上梟帥叩頭曰、且待之、吾有所言」（且ハ、苟且ナリ）萬葉集、十三　十「シクシクニ、思ハズ人ハ、アラメドモ、暫モ吾レハ、忘ラエヌカモ」「しばし留マル」しばし待テ」

しばしば（副）［屢數］〔繁ヲ重ヌ〕繁ク。繰返シテ。頻リニ。シゲシゲ。タビタビ。幾度モ。字鏡七「數、志波志波」名義抄「屢、シハシハ」數、シバシバ」萬葉集、廿　十六「君ガ家ノ、池ノ白波、磯ニ寄セ、之婆之婆見トモ、飽カム君カモ」

しばしば（副）［暫暫］呼ビ掛ケテ云フ語。しばらく、ヲ重ネタル、しばらくしばらくノ下略。枕草子、五、五十段「イツノ間ニカ、裝束シツラン、帶ハ、道ノママニ結ビテ、しばしばト追ヒ來ル」平家物語、二、新大納言死去事「侍ニ名殘惜シク覺ユルニ、しばしばトノ給ヒテ」

しばしば・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［數］頻リニ爲ス、幾度モ繰返ス。論語、里仁篇「事」君數、斯辱矣、朋友數斯疏矣」朱註「數、頻數也」

しはじ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［爲始］ナシハジム。行ヒハジム。着手ス。狂言記、文山だち「其方ト、山賊ヲしはじめテ」

しはじめ（名）［爲始］シハジムルコト。テハジメ。着手。

しはじ・める（動）［爲始］前前條ノ語ノ口語。

しはす（名）［極月、師走］〔歲極ノ略轉カト云フ、或ハ、萬事爲果つ月ノ意、又、農事終ハル意カ、むつきヲ見ヨ〕（一）［十二月ノ一稱。極月。臘月　神武紀、四十「十有二月癸巳朔」仁德紀、六十二「年五月、每」當」季冬」」神樂歌、早歌、本「霜月師走ノ、搔キ零リ」萬葉集、八　五十「十二月ニハ、沫雪降ルト、知ラヌカモ、梅ノ花咲ク、含メラズシテ」字類抄「十二月、シハス、臈月」雄略紀、十四年正月「磯齒津路」萬葉集、六　十「雨ゾ降リクル、四八津ノ泉郎」同、三　九「四極山、打越エ見レバ」（攝津ノ地名）同、十一　二十「師齒追山、責メテ問

フトモ、汝ガ名ハ告ラジ」ニ究メ終ヘテ追ル意ヨリ、[illegible]字[illegible]
[illegible]二花[illegible]

「しはすなノ假字」

しはす-あぶら（名）師走油　極月ニ、油ヲ溢セバ、火ニ祟ルトテ、溢シタル人ニハ、米ヲ溢セ、見ノト云フヨリ出デタル語。今宮心中（寶永、近松作）下「仇シ名ヲ、ヨソニ[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]モ[illegible]師走油ヲ時ノ上ニ、カカル身ト、コボレソヒ」

しはす-ぎつね（名）師走狐　極月ノ時ノ狐。此頃ノ狐ノ鳴聲ハ、おんおんト聞コエトゾ。[illegible]ひろがり[illegible]云フ師走狐ノ如ク、おんおんト云フ程、張ッテ御ザル」

しはす-ばうぜ（名）師走坊主　零落レテ、ヤツヤツシキ坊主。妾、ヤツヤツシク、便リナキナル者[illegible]ニハ、信ノ、物貰フコト常ナレド、師走ニハ、サルコトモ無ケレバ、云フ。傾城阿波鳴渡（元祿、近松作）上「紙子ザハリガ荒イ、荒イ、引ケバ破レル、[illegible][illegible]師走坊主[illegible]浪人」

しはす-らうにん（名）師走浪人　零落レテ、ヤツヤツシキ浪人。（前條ノ出典ヲ見ヨ）

しばずり（名）柴摺　くさずり（草摺）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

しばずり（名）芝摺　野袴ナドノ裾ニツクル緣。

しばずり-ごろも（名）柴摺衣　くさずり（草摺）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しば-せん（名）芝錢　江戸、芝ニテ、寬永十三年ヨリ十七年マデ鑄造セシ銅錢。徑八分强、重量九分。

しば-だた-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）〔繁叩ク〕ノ義〕瞼ヲ、繁ク開閉ス。屢、瞬ヲナス。宇治拾遺、十、第六條「顏ヲ赤クシテ、目ヲしばだたきテ、齒ヲ眞白ニ食ヒ出ダシテ」

しば-だ-つ・ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）〔繁立つノ義〕音、繁ク聞ユ。[illegible]ニ[illegible]しばたつ波ノ、[illegible]グ、伊豆手ノ舟ノ、梶ヅクメ、音之婆多知ヌ、ミヲ早ミカモ」

しは-たらう（名）吝太郎　吝嗇ナルモノヲ、人ニ擬シ、嘲リテ云フ語。[illegible]「此田太郎右衞門、サル若衆ニ惚レテ、サマサマ心ヲ盡シケレトモ、聞キイレザレバ、指ヲ切リテ遣リケル時、[illegible]イトトダニ、握リ拳ノ、しはた太郎、指ヲ斷リナバ、手ヲバ廣ゲヤ」

しは-つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）〔爲果〕爲シテ、終ハル。ナシハツ。源、十二、[illegible]「[illegible]、しはてズ、[illegible]ギタリ」同、廿一、少女「スガスガシウ、しはて給へレバ」

し-はつ（名）自發　外部ノ刺戟ニヨラズ、內部ヨリ、自ラ發動スルコト

しば-つかみ（名）芝摑　「元祿頃、楊弓ノ名手、五郎、末碩ノ二人ノ、初メシヨリノ稱トゾ。楊弓ニテ、食指ヲ伸ベテ、矢ヲ撮ムコト。本朝世事談綺、三、楊弓「芝摑、カノ五郎、末碩ガナス所ナリ、矢ヲ撮ムニ、食指ヲ曲ゲテ撮ムニ、芝摑ハ、食指ヲ伸ベテ撮ム也、矢ノヌケ心、ヨシト、專ラ、效フ」

し-はづ-す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔爲外〕ナシソコナフ。シアヤマツ。宇津保物語、嵯峨院廿「我レ、マコトノ天地ニウケラレタル、國ノ親トナラバ、はづさジトナボシテ」

しば-つみ-ぐるま（名）柴積車　柴ヲ積ミ運ブ車。シバグルマ。萬代集、十四、雜、一「柴つみたる車ノ、行キワヅラフヲ見テ「春ゴリノ、柴つみ[illegible]牛ノ[illegible]ミ、[illegible]ノ、[illegible]古、シソ」

しば-つみ-ぶね（名）柴積船　柴ヲ積ミ運ブ船。シバブネ。源、五十、浮舟「宇治橋ノ、ハルバルト見渡サルルニ、柴つみぶねノ、所所ニ行キチガヒタルナド」

しば-でんがく（名）芝田樂　鄙ビタル一種ノ舞樂、少女數人ニ、白キ襷ヲ掛ケ、紅ノ袴ヲ着セ、笛、鼓ヲ鳴ラシ、扇拍子ヲ執リテ、踊ラスルモノ。[illegible]四、[illegible]下御母[illegible]二八、五人ノ[illegible]二、[illegible]、芝田樂舞ラセテ」平家物語、一、額立事「芝田樂百番、百番ノ一ツモノ」

しば-どり（名）繁鳥　「次條ノ繁鳴鳥ノ略ナルベシ」雞ノ異稱。山家集、上「[illegible]ハ、マダタ暮ノ、臨ナルニ、明ケヌト告グル、しば鳥ノ聲」

しばなき-どり（名）繁鳴鳥　前條ヲ見ヨ

しば-な-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）〔繁鳴〕繁ク鳴ク、屢、鳴ク。萬葉集、[illegible]長歌、御笠ノ山ニ、朝サラズ、雲居タナビキ、容鳥ノ、間ナクしば鳴く」同、十七廿長歌「山邊ニハ、櫻花散リ、容鳥ノ、間ナク之婆奈久」六帖、六、下「川ノ瀨毎ニ、千鳥しばなく」萬葉集、十九四十「御苑生ノ、竹ノ林ニ、鶯ハ、之波奈吉ニシヲ、雪ハ降リツツ」萬代集、三、夏「山時鳥、來鳴ケしばなけ」

しは-な-つ・ツ・テ・タ・チ・テ（他動、四）〔爲放〕シカケテ後、其マヽニナシオク。源、四十九、東屋「[illegible]ノ、袋ニ入レコメタル、所所ニ寄セカケ何カ、荒ラカナルサマニしはなちたり」

し-はに（名）底土　〔極土ノ意、十二月ノしはモ、同意〕底ノ極ミニアル土。古事記、中、應神[illegible]長歌「ハツニハ、肌赤ラケミ、志波邇ハ、土黑キ故」

しばの（名）芝野　芝ノ生ヒタル野。中務內侍日記「還ケレバ、サダカニハアラネド、しば野ノ中ヨリ、鳥ノ立ツヲ」

しばの-あみど（名）柴編戶　柴ノ木ニテ編ミ作レル戶。シバノトビラ。萬代集、十六、雜、三「人[illegible]ハバ、しばのあみどヲ、サシ明ケテ、イツカ都ノ、秋ヲコタヘン」

しばの-いほり（名）柴庵　柴ニテ葺キタルイホリ。イブセキ住家。源、五、若紫「同ジしばのいほりナレド、少シ凉シキ水ノ流レモ御覽ゼサセント」

しばの-かど（名）柴門　次次條ノ語ニ同ジ。千五百番歌合、十、判歌「山路ヨリ、サスガ見[illegible]柴の門[illegible]ルモサビシキ、雲ノ通ニ」

しばの-したみち（名）柴下道　柴ノ木ノ下ヲ行ク道。風雅集、十六、雜、中「山人ノ、分ケ入ルホカノ、跡モナシ、峯ヨリ奧ノ、柴のしたみち」

しばの-と（名）柴門柴戶　柴ニテ作レル門。轉ジテ、イブセキ住家、シバノカド。夫木抄、三十「柴の戶モ、アケ行ク山ノ、峰ナレバ、軒ニワカルル、横雲ノ空」

しばの-とびら（名）柴扉　しばのあみど（柴編戶）ニ同ジ。[illegible]「梅ガ香ノ、タマラズ匂フ、コトノミゾ、しばのとびらノ、取リドコロナル」

しばの-とぼそ（名）柴扉　〔とぼそハ、戶樞ナリ〕前前條ノ語ノ誤。玉葉集、十四、雜、一「山里ノ、しばのとぼそハ、雪トヂテ、年ノ明クルモ、知ラズヤアルラム」

しばの-ふね（名）柴舟　柴木ヲ積ミタル舟。シバツミブネ、シバブネ。赤染衛門集、四「山里ニ行キタリシニ、送リノ人人歸リテ、二三日、音セザリシカバ、心細ウオボエテ「送リオキテ、人モ見エネバ、古ヘノ、しばのふねトモ、ナモホユルカナ」

しばのほね (名) 〔死馬骨〕 愚者ヲ優待スレバ、賢者ノ、自ラ來ルニ喩フル語。又、曾テハ拔羣ナリシカド、今ハ無價値ノモノニ喩フル語。 戰國策、燕策「郭隗先生曰、臣聞、古之人君、有下以二千金一求中千里馬上者上云云、涓人言二於君一曰、請求レ之、云云、馬已死、買二其骨五百金一、反以報レ君、君大怒曰、所レ求者生馬、安事二死馬一、云云、涓人對曰、死馬且買二之五百金一、況生馬乎、云云、不レ能二朞年一、千里馬至者三、今王誠欲レ致レ士、先從レ隗始」

しばのみぎり (名) 〔芝砌〕 聖君ノ宮殿。 續古今集、序「カカル時ヲ得テ、蓬の島ノ波モ、フルキニカヘリ、しばのみぎりノ露モ、色深クムスバレタルノミニアラズ」

しばはし (名) 〔柴橋〕 柴木ヲモテ造リタル橋。 太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚事「紀伊川ヲ渡ラセ給ヒケル時、橋柱朽チテ、見ルモ危キ柴橋アリ」

しはゆし・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 〔鹹〕 〔鹽映シノ義、口ノ締ル如キ味ナル意〕 しほはゆしニ同ジ。 字鏡集十四「鹹、シハハユシ」 名義抄、卜部「鹵、シハハユシ、シホカラシ」同、戈部「鹹、シハハユシ」 最勝王經音義注「鹹、志八八巾之」

しばはら (名) 〔芝原〕 芝ノ生ヒタル平地。芝生。

しばひき (名) 〔芝引〕 太刀ノ鞘ノ、刃ノ方ノ筋金 幸若舞曲、烏帽子折「しばひき、石ツキ、莖先ニ至ルマデ」

しばひのくわい (名) 〔柴火會〕 茶湯ノ語、のがけ(野懸)ニ同ジ。 南方錄、一「柴火之會、フスベ茶湯也、野ガケトモ云フ」

しばひめ (名) 〔芝姫〕 よたか(夜鷹)ニ同ジ。 俚言集覽、芝姫「京ニテ云フ、安賣女也、江戸ニテ夜鷹ト云フ、大坂ニテ惣嫁ニ總嫁カ ト云フ、昔ノ京ノ本ニ、立君、辻君ナド云フモ、此類也」

しはふ (名) 〔仕法〕 シカタ。爲ル手段。方法。

しはふ (名) 〔謚法〕 〔謚ヲ、謚ト記スハ、誤用ナリ〕 謚ヲ附クルシカタ。 周書、謚法解「謚者行之迹、法者功之表」 容齋續筆、共通「今世傳周公謚法、故自二文王武王一以來、始有レ謚、周之政尚レ文、斯可レ驗矣」

しはふ (名) 〔詩法〕 詩ヲ作ル法。詠詩ノ式。詩律。 六一詩話(歐陽修)「詩之法有レ五、曰體製、曰格力、曰氣象、曰興趣、曰音節」 滄浪詩話(嚴羽)「少陵詩法如二孫吳一」

しはふ (名) 〔司法〕 法律ノ違犯ヲ正シ、其執行ヲ司ルコト。

しはふ (名) 〔私法〕 私人相互ノ權利關係ヲ規定シタルモノ。卽チ、民法、商法、ノ類。(公法ニ對ス)

しばふ (名) 〔芝生〕 芝ノ生ヒタル、一面ノ地。芝原。 千載集、二、春、下「今宵寢テ、摘ミテ歸ラン、菫咲ク、小野ノしばふハ、露繁クトモ」 風雅集、五、冬「空高ク、澄ミトホル月ハ、最冴エテ、芝生ニ白キ、霜ノアケガタ」「野邊ノ芝生」路ノ芝生」

しはふがく (名) 〔私法學〕 私法ノ理ヲ、研究スル學。

しはぶかふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔咳〕 しはぶくノ延」 咳ヲスル 萬葉集、五、卅九長歌「糟湯酒、打チ啜ヒテ、之波夫可比、鼻ビシビシニ」 同、十一、廿六「嗅、鼻フゾ嚏ツル、劍太刀、身ニ副フ妹ガ、思ヒケラシモ」

しはぶき (名) 〔咳・欬嗽〕 (一)シハブクコト。咳。 倭名抄、三十病類「欬、嗽、之波不岐」 字鏡八十二「欬、嗽也、志波不支 又 己和豆久利」欬、志波不支 又 己和宇留」 源、五十二、手習四十一「イデ殿守ノクソ、東琴取リテト云フニモ、しはぶきハ絶エズ」 (二)コワヅクリ。セキバラヒ。 源、十五、蓬生九十「マヅ、しはぶきヲ先ニ立テテ」

しはふきやう (名) 〔司法卿〕 明治十八年、官制改革以前ノ司法大臣ノ舊稱。

しはぶきやみ (名) 〔咳病〕 咳嗽ノ病。咳ノ病。咳疾。咳嗽。 源、四、夕顏二十五「此曉ヨリ、しはぶきやみニヤ侍ラム」 增鏡、第十六、村時雨「今年ハ、如何ナルニカ、しはぶきやみハヤリテ、人多ク失セ給フ中ニ」 遊仙窟「兒人近來患欬」

しはぶく・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔咳・欬嗽〕 〔繁吹くノ義〕 (一)咳ヲスル。シハブカフ。 源、十、榊四十「ココカシコ、打チしはぶきテ」 (二)コワヅクル。セキバラヒヲス。 源、五、若紫四十五「大夫、妻戸ヲ鳴ラシテ、しはぶけバ」

しはふしやう (名) 〔司法省〕 一國ノ司法ノ事、卽チ、訴訟、刑罰ノ事ヲ統べ掌ル省。大審院、諸裁判所、等、之ニ屬ス。

しはふだいじん (名) 〔司法大臣〕 國務大臣ノ一、司法省ノ長官、司法行政ヲ管理スルモノ。

しばぶね (名) 〔柴舟〕 〔稻舟ノ類〕 (一)柴ヲ積ミテ、山川ヲ下ル舟。シバヲブネ。シバツミブネ。 夫木抄、七「柴舟ノ、カヘルミ谷ノ、追風ニ、波寄セマサル、岸ノ卯ノ花」 (二)黃熟香ノ異名。(伊達家ニテ云フ) 「世ノ中ノ、ウキヲ身ニ積ム、柴舟ノ、焚カヌサキヨリ、身モ焦レツツ」

しはぶる・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) ネブル。訛リテ、しやぶる 常盤嫗物語「昆布ガナ、しはぶらン」(群書類從)

しはぶろ・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔咳〕 〔しはぶるハ、欬くニ同ジ、ぶる、ぶく、通ズ〕 次條ノ語ニ同ジ。シハブク。咳ヲスル。(老人ニ云フ) 源、十、榊三十三「見奉リ送ルトテ、コノモカノモニ、アヤシキしはぶる人ドモ、集リテ」(異本)

しはぶる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔欬〕 しはぶくニ同ジ。咳ヲスル。 萬葉集、十七、四十五長歌「二上ノ、山飛ビコエテ、雲隱リ、翔リ往ニキト、歸リ來テ、之波夫禮告グレ、招ク由ノ、ソコニ無ケレバ」

しはぶるひと (名) 〔欬人〕 咳スル老人。 源、十三、明石十六「何トモ聞キワクマジキ、コノモカノモノしはぶるひとドモ、スズロハシクテ、潮風ヲヒキアリク」(咳ノ出ヅル態、冒ナリ) 此語ヲ延べテ、しはぶるひびとトモ云フ。 源、十、榊三十三「見奉リ送ルトテ、コノモカノモニ、アヤシキしはぶる人ドモ集リ居テ、涙ヲ落シツツ、見タテマツル」 類政集「我レニ劣ル、人コソナケレ、山里ニ、夏麻引キヲル、しはぶるひ人」

しはぶるひびと (名) 〔欬人〕 前條ヲ見ヨ。

しばみ (名) 〔芝見〕 〔芝ニ伏シ隱レテ見ル義〕 武家ノ役名、忍ビテ、敵狀ヲウカガフモノ。ウカミ。シノビモノミ。シノビ。 奧羽永慶軍記「白石若狹守ハ、敵若シ夜討ニ寄スルカト、芝見ヲ附ケテ、用心スレドモ」

しはん (名) 〔師範〕 (一)師トナリ、範トナルコト。手本。龜鑑。 北史、楊播傳、論「恭德愼行、爲二世師範一」 職員令、義解「太政大臣、一人、右、師二範一人一、儀二形四海一」謂「師者、敎レ人以レ道之稱也、範者、法也」 (二)師。師匠。先生。「茶道ノ師範」

しはん (名) 〔四半幟〕 (一)布帛ヲ、正方形ニ切リタルモノ。 (二)布帛ノ、幅ヨリ、丈ノ、五割、長キモノ、背旗ナドニス、多クハ、練貫ノ絹地ニ、碁盤縫ヲス、

四半ノ興ト云フ（四隅ニ、革皮ヲ施シ、又、種種ノ模樣ヲ施ストゾ）會津陣物語「鋒虎旗本印ハ、五幅懸ケノ紺地ノ四半物ニ、朱ニテ、日ノ丸ヲ付ケ候」（三）弓術ノ語ニテ、二寸四方ノ板ノ的。今川大雙紙「四半トハ、小折敷ヲ四ツニ切ル也、九半トハ、九ツニ切也」

しはん（名）［私版］民間ニテ、出版スルコト。又、其書籍。（官版ニ對ス）

しはん 名［自判］自ノ、花押ヲ書キ、又ハ、捺印スルコト。太平記、三十六「高氏數通ノ自筆自判ノ御書」

ジバン（名）［襦袢］〔葡語、Gibão〕肌ニ着ル衣。シタギ。訛リテ、じゅばん。書雅、享保世說、蠻語ノ、今モ世ニ行ハレヌルハ、云云、燈架ヲかんてらト云ヒ、鎖紐ヲほたんト云ヒ、身ニ近キ衣ヲじばんト云フノ類、猶多カリ」日本永代藏（一、西鶴）「一、不斷ノ身持、肌ニ帛襦袢、（?）布子、袴、百日ノ入レ（?）、一ツヨリ外ニ、著事ナシ」京羽二重、重寶記（?）明和、安永年中、何トゾ殿ノ御贔屓ニ、奉公ノ時ハ、コリャ御助、ソレ、年七ニ月ノ議へ、ソチガ心ニ、從ノアレ、襦袢ノ片袖、ヨイ手カカリ、イヤイヤ、コリャマモイデモ大事ナイト、振切ル袂、腕助ガ、シカト出ヘ引居ユル、ハヅミニ脱ケル襦袢ハ片袖、段々ソ…、勁クナト、尻引カノ、身振フ（此時代ニ至リテ、じばん、じゅばんト、二使用ニナレルヲ知ルベシ）

しはんがくかう（名）［師範學校］學校ノ敎員トナルベキ人ヲ、養成スル學校。

しはんきん（名）［四半斤］一斤ノ、四半分、卽チ、四ツ割リ、一ツ。小半斤

しはむし（名）［吝蟲］次次條ノ語ニ同ジ。（吝人、攜作（?）、吝蟲ハ、名ノミ（?）…）

しはんせき（名）［四半石］門前、或ハ、玄關、等ノ所ニ、角形ノ石ヲ、斜メニ敷キタルモノ、

しはんばう（名）［吝嗇坊］吝キ人ヲ卑シメテ云フ語。ケチンバウ。シハムシ。各嗇漢。嗇夫。鄙吝漢。守錢奴。後撰夷曲集（賞文）「…、居ラテ爭ユル、屋ノ内ハ、しはん棒ニヤ、オヂ恐レケム」花千句（延寶）「寺ヲ出テテモ、猶しわんばう」響ヒオク、彼ノ名物ノ、柿ノ核」（遊キニカク、柿ノ核ヲモ惜シム故也、しはん坊の柿の核ト云フ諺アリ）

しはんばた（名）［四半幡］五月幟ノ、鍾馗ヲ畫ケルモノ。

しはんぶん（名）［四半分］〔さなからノ語原ヲ見ヨ〕四ツニ割リタル、一ツ。四分一。

しばや（名）［柴屋］（一）柴葺ノ家。壬二集「中旅衣、霜キル月ノ、寒キ夜ニ、道ノ邊ノしばや、宿借シ借セ」（二）柴ヲ積ミ置ク小屋。シバゴヤ。

しばや（名）［芝屋］しばゐ（芝居、第三語）ニ同ジ。

しばやま（名）［柴山］山ノ麓ノ、小木ノ生ヒ茂リタル所。萬葉集、十四「天ノ原、富士ノ之婆夜麻、コノクレノ、時移リナバ、逢ハズカモアラム」後拾遺集、四、冬「イカバカリ、降ル雪ナレバ、シナガ鳥、ヰナノしばやま、道惑フラン」

しばゆばり（名）［淋病］（數溺ノ義）りんびやう（淋病）ノ古言。倭名抄、三、病類「淋病、（?）、小便數也」字鏡集「瘇、シバユバリ」

しばら（名）［自腹］（一）自己ノ腹。（二）自己ノ財布、身錢ヲ使フコト。「自腹ヲ切ル」

しばらく（名）［暫］歌舞伎十八番ノ一、鎧ヲ着込ミ、侍烏帽子ニ、三枡ノ紋ノ柿色ノ素袍、大太刀、髮ニ力紙ヲ纏ヒタル容姿ノ荒事師ガ、「しばらく、しばらく」ト聲ヲ掛ケテ、舞臺ニ出ヅルモノ。

しばらく（副）［暫須臾］〔しまらくノ轉〕（一）少シノ間ホド。シバシ。ツカノマ。神代紀、上「此、彼…、向、高、原、須臾、姑相旧、…」（二）假リニ カリソメニ。アカラサマニ。姑 名義抄「暫、シバラク、カリソメ、アカラサマ」「しばらく任カス」「しばらく措ク」（三）誤リテ、久シク、久シブリニテ 久闊「しばらく逢ハナンダ」「しばらく待タセラレテ」

しはらひ（名）［支拂］金錢ヲ拂渡スコト。

しはらひ（名）［仕拂］官府ガ、金錢ヲ拂ヒ渡スコト。

しはら・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（他動、四）［支拂仕拂］金錢ノ、支拂、又、仕拂ヲナス、

しばり（名）［縛］（一）シバルコト。「不動ノ金しばり」（二）期限、「一月しばり 三月しばり」（三）內金ヲ許可セズ、銀行ノ定期貸附金、

しばりくび（名）［縛首］麻繩ニテ、罪人ヲ後手ニ縛リ、首ヲ前ニ引キ出シテ斬ルコト、（切腹ニ命ゼラルルニ對シテ云フ語）松隣夜話、上「隆登ノ輩、彼レ是レ八人、縛リ首ヲ切リ、獄門ニ掛ケラル」

しばりつ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）［縛附］縛リテ、放レヌヤウニス。宇津保物語、藤原君四「オホヤケニ、只今奉ラムトテ、髮ニ繩ヲツケテ、シリヘ手ニ縛リ、大キナル木ニしばりつけタリ」

しばりつける（動）［縛附］前條ノ語ノ口語。

しば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［縛］〔緊（シイ）張るノ轉カト云フ〕（一）絲、繩ナドニテ、束ネ緊ム。結ヒックル。括ル。「荷物ヲしばる」（二）捕繩ニテ、人ヲ搦メイマシム。捕縛。孝德紀、大化五年三月「使二兵（?）縛大臣伴?蘇我田口臣筑紫等ノ著ニ枷反縛」

しばゐ（名）［芝居］芝生ノ地ニ居ルコト。夫木抄、九「芝居スル、山松陰ノ、夕涼、秋思ホユル、ヒグラシノ聲」太平記、廿三、土岐賴遠參合御幸 致狼藉事「土岐彈正少弼賴遠、二階堂下野判官行春、今、比叡ノ馬場ニテ、笠懸射テ、芝居ノ大酒ニ時ヲ移シ」

しばゐ 名［芝居］芝地ノ上ニ、席ナド敷キテ、坐ルコト。（京都ニテ、原ヲ、芝ト云フ）躬恒集、下「都人、マレニ岩根ノ、しばゐシテ、歸ル名殘ソ、大原ノ里」室町日記、廿、狂歌所望事「或時、玄旨法印、云云、野ガケニ出テタマヒテ、芝居ヲ定メ、座ニ着カレケレバ」幸若舞曲、夜討曾我「赤澤山ニテ、三日ノ狩倉、云云、人人、名殘惜シミノ酒盛スル、しばゐノ事ナレバ」義殘後覺（文祿）內野七本松ノ勸進相撲ノ寄相撲（飛入）ニ「行事申シケルハ、御芝居ニ、相撲八盡キ申候哉、若シ御望ノ方御坐候ハバ、只今御出テ候へ、芝居中コレヲ聞テ、云云、芝居中八、時ノ聲ヲ作テ笑ヒケル」

しばゐ（名）［芝居］〔又、しばや、慶長年中、出雲ノ巫女、阿國、京都ノ四條河原ニ芝居シテ演ゼシヨリ云フ〕（一）演技ノ一、歌舞伎ノ異稱 近年、書生ナドノ、現代ノ世話事ヲ演ズルモノアリ、書生芝居、壯士芝居、新派ナド云フ。演戲 演劇 寬文元年巳十二月 町觸、諸見物芝居物仕候者、人倫訓蒙圖彙、七 四ツ竹、長崎一平次ト云フ者、云云、大阪へ上リ、芝居ヲ弘フレタリ、二路上ニテ行ヒシナリ」（二）芝居興行ノ建物。歌舞伎ノ座。シバキゴヤ。劇場 戲場 東海道名所記（萬治）一、堺町「勘三郎、云云、コトゴトシキ芝居、棧敷ヲ搆ヘテ、歌舞伎ガマシキ事ヲ致セリ」

轉ジテ、觀客ハ、芝居ノ上段ニアリ、因リテ、見物ノ總稱ヲ、芝居ト云フ。(芝居トハ、舞臺ニ對シテ、見物人ノ座所) 老人雜話「江村專齋、爾世小次郎ノ弟子ニ、堀江宗室ト云フ者アリ、一、月ノ能ニ、張良ヲ二度、芝居ヨリ所望シケレバ、宗室ニサセタリ」

しばゐ-いしやう(シバイイシヨウ) (名) 芝居衣裳 芝居ヲ演ズルモノノ、扮裝スルニ用キル衣裳。 我衣(天和)「芝居衣裳ハ、寬永ノ頃、結構ニナレリ」

しばゐ-け(シバイケ) (名)・芝居氣 芝居ヲスル氣分。霸氣。

しばゐ-こ(シバイコ) (名) 芝居子 芝居ニ出ヅル俳優、舞臺子 戲子 本朝若風俗(貞享、西鶴)五「芝居子、銀一枚ニナル」

しばゐ-さかもり(シバイサカモリ) (名) 芝居酒宴 芝生ノ地ニテ、酒宴ヲスルコト。 異本、曾我物語、一「一同シテ、各、此處、彼處ニ下リ居テ、しばゐさかもりヲゾシタリケル」

しばゐ-せん(シバイセン) (名) 芝居錢 興行物ニ、芝居シテ、見物セシムルニ取ル錢 演劇ナドノ觀覽料。 昨日は今日の物語(寬永)下「聚樂ニテ、金剛太夫勸進能ニ、芝居錢三十文ヅツ取リケレバ、云云」

しばゐ-だう(シバイドウ) (名) 芝居道 芝居ヲスル藝道。劇道。

しばゐ-もの(シバイモノ) (名) 芝居者 演劇ニ關係スル人人 俳優、出方ナド。

しばゐ-やくしや(シバイヤクシヤ) (名) 芝居役者 芝居ヲスル役者。俳優。優伶 梨戸

しば-をぶね(シバオブネ) (名) 柴小舟 しばぶね(柴舟)ノ(一)ニ同ジ。 夫木抄、三十三「柴小舟、マホニカケナセ、木綿垂デテ、西ノ宮人 風祭シツ」

しひ(シイ) (名) 椎 (字ハ、實ノ尖リ、錐ニ似タレバ成レル、會意ナリ) シヒノキ。喬木ノ名、山中ニ多シ、葉ハ、樫ニ似テ、狹ク長ク、薄ク硬ク、面ハ深綠ニ、背ハ褐色ニシテ、光リ、冬、枯レズ、花ハ、葉ノ間ニ生ズ、尾ノ狀ノ穗ニテ、淡黃ナリ、子ヲ、しひのみト云フ、樫ノ子ヨリ小サクシテ、外ニ粗皮アリテ、全ク包ム、樫ノ子ノ、椀ノ形ナルト、異ナリ、炒リテ食フ、味、佳シ。 柯 神武紀「椎、此云二辭癡一」倭名抄、十七「菓類 椎子、之比」本草和名、下、十二「椎子、之比」字鏡、四十八「柞、櫟也、志比」萬葉集、十四、廿四「遲速モ 汝ヲコソ待タメ、向ツ岡ノ、四比ノ小枝ノ、アヒハ違ハジ」同、二、卅二「家ニアレバ、笥ニ盛ル飯ヲ、草枕、旅ニシアレバ、椎ノ葉ニ盛ル」集韻「椎、木名、似二栗一而小」

しひ(シイ) (名) 強 シフルコト。無理ニスルコト。 萬葉集、十七、四十「マツガヘリ、之比ニテアレカモ、サ山田ノ、老翁ガ其ノ日ニ、求メアハズケム」

しひ (名) 私費 官費ナラデ、個人、自ラ、費用ヲ出スコト。 晉書、王遜傳「給二布萬疋一以供二私費一、私費ヲ投ジテ、學校ヲ經營ス」

し・ひ(シイ) (動) 癈 しふ(癈)ノ條ヲ見ヨ。

しび (名) 鮪 (繁肉ノ約轉カト云フ) 魚ノ名、まぐろノ類、大ナルハ、七八尺ヨリ一丈許アリ、黑灰色ニシテ、黃ナル點アリ、肉、赤クシテ、血點アリ。 鱘魚 金鎗魚 (仙臺ニテハ、春ナルヲ鮪、冬ナルヲ眞黑ト云フ) 武烈卽位前紀「鮪、此云二茲寐一」倭名抄、十九「龍魚類、鮪、之比」萬葉集、六 長歌「アラタヘノ、藤井ノ浦ニ、鮪釣ルト、海人船トヨミ」同、十九、廿三「鮪突クト、海人ノ點セル、漁火ノ、ホニカ出デナム、吾ガ下思ヲ」

しび (名) 海朶 (椎柴ノ義) 海中ニ立テ列ネテ、淺草海苔ナドノ芽ヲ、附カスルモノ。元ハ、木ノ枝ナリシカド、今ハ、多ク、竹ヲ用キル。

しび (名) 侈靡 オゴリテ、ミダラナルコト。 奢侈ニシテ、淫靡ナルコト。 戰國策、楚策「專二淫逸侈靡一、不レ顧二國政一」

しび (名) 鴟尾 宮殿ナドノ屋ノ棟ノ端ノ飾物。トビノヲ。クツガタ。(おにがはら、しやちほこノ類) 倦遊錄「漢以二宮殿多一レ災、術者言、天上有二魚尾星一、宜下爲二其象一冠中於屋上、以禳上レ之、唐以來寺觀殿宇、尙有下爲二飛魚形一、尾指上レ上者上、不レ知二何時易一レ名曰二鴟尾一」北史、高恭之傳「興二屋宇一、皆置二鴟尾一」三代實錄、廿、貞觀十三年十一月廿二日「大鳥一、集二于神泉苑乾臨殿東鴟尾上一」同、四十四、元慶七年八月廿五日 大極殿西鴟尾 新落損」類聚名物考、保元三年十二月廿日 大極殿鴟尾 牛折而以二金鋼一纒レ之」倭名抄、三、廿七「屋宅具「鴟尾、唐令云、宮殿皆四阿、施二鴟尾一」

しび (名) 芝眉 (紫芝、眉宇ノ略) 人ノ顏面ヲ敬フ稱。オカホ。紫宇。 帝王世紀「呂望芝眉」唐書、卓行、元德秀傳「房琯每見二德秀一、歎息曰、見二紫芝眉宇一、使二人名利之心都盡一」

しび (名) 至微 至ッテ、カスカナルコト。極メテ、少ナキコト。 淮南子、本經訓「至微、神明弗レ能レ領也」

しび (名) 紫微 星ノ名、紫微星ノ略。 晉書、天文志「一日二紫微一、天帝之座也、天子之常居也」太平記、十一、諸將被レ進二早馬於船上一事「紫微、北辰ノ共陣モ、カクヤト覺エテ、嚴重ナリ」

しひ (名) 自費 己レ自ラ、費用ヲワキマヘテ、事ヲ爲スコト。(他ノ力ヲ借ラヌ意)

しひ (名) 侍婢 コシモト。側仕ヘノ女。マガタチ。侍女 子路詩 侍婢休レ行官樣ト」三國志、蜀志、劉琰傳 侍婢數十、皆能爲二聲樂一」

しひ (名) 慈悲 佛經ノ語、慈ハ、能ク他ト樂シム心、悲ハ、能ク他ノ苦心ヲ拔クコト。イツクシミ。アハレミ。ナサケ。 法界次第「能與二他之樂心一、名レ之爲レ慈、能拔二他之苦心一、名レ之爲レ悲」大日經 佛心者、大慈悲是」源、五十一、蜻蛉 三十「人ノ心ヲオコサセントテ、佛ノシ給フ方便ハ、慈悲ヲモ隱シテ、カヤウニコソハアナレ、ト思ヒツヅケ給ヒ」榮花物語、一、月宴「心ノドカニ、しひノ御心ヒロク、世ヲ保タセ給ヘレバ、世ノ人、イミジク惜シミ申ス」

しび (名) 孳尾 (書經、堯典篇、注「乳化曰レ孳、交接曰レ尾」) 交尾ミテ、子ヲ孕ツコト。ツルムコト。(鳥獸ナドノ) 書經、堯典篇「鳥獸孳尾」

しひ-がたり(シイガタリ) (名) 強語 自己カラ強ヒテ、語リ出ヅルコト。シヒゴト。 萬葉集、三、廿七「否ト云ヘド、強フル志斐ノガ、強 語、此ノ頃聞カデ、朕戀ヒニケリ」

しびき (名) 字引 漢字ヲ集メ列ネテ、其形、音、意義、等ヲ說キタル書ノ名、字ノ解シ難キトキ、引出シテ見ルニ云フ。 字書 字典 又、和語、其他、諸外國ノ言語ヲ集メ說キタルニモ云フ。辭典。辭書。

しび-くわ(シビカ) (名) 紫薇花 サルスベリ。

しひ-ごと(シイゴト) (名) 強言 しひがたり(強語)ニ同ジ。 萬葉集、三、廿七「否ト云ヘド、語レ語レト、宜レバコソ、志斐イハ申セ、強 言ト宣ル」

しひ-ごと(シイゴト) (名) 誣言 事ヲ、誣ヒテ、言フコト。讒言。誣言。

しひ-し(シイシ) (名) 篩 しんし(簁子)ニ同ジ。 字鏡、廿六「篩、志比之」

しひ-しば(シイシバ) (名) 椎柴 (一)椎ノ木ノ、叢立チタル所ヲ云フカ 拾遺集、十九、雜戀 ハ

シ寢ノ、ト歸ル山ノ、椎柴ノ、葉ガヘハストモ、君ハカハラジ」平家、十、下「奥山ノ、しひしばレ、[illegible]ハセ[illegible]一ニ、[illegible]服ノ染草トナルトテ、自服ヲ、しひしばノ袖ト云ノ[illegible]後拾遺集[illegible]レダニ、形見ト思フノ、都ニハ、カヘヤシツル、しひしばノ袖」新葉集、十九、哀傷「思ハズヨ、アヤメモ知ラヌ、しひしばノ、袖ニウキネノ、カカルベシトハ」續千載集、十九、哀傷「しひしばニ、カヘヌワ[illegible]袖ク、[illegible]涙ノ、[illegible]ツル」榮花物語、一、月宴「同ジ諒闇ナレド、一天下ノ人、烏ノヤウナリ、四方山ノしひしば、殘ラジト見ユルモ、哀レニナム」[illegible]精シテ、大中[illegible]

しひしばがき（シイシバガキ）（名）〔椎柴垣〕椎ノ木ノ叢リ生ヒテ、垣トナリタルモノ。太平記、五、大塔宮熊野落事「椎柴垣ノ隙アラハナル山ガツノ庵ニ、御枕ヲ傾ケサセ給ヒテ」

しひしんてう（ジヒシンテウ）（名）〔慈悲心鳥〕（一）鵑ノ類ニテ、大ナリ、下野、日光山等ノ深山ニ棲ム、背、黑褐ニシテ、腹、黄ナリ、啼ク聲、慈悲心ト聞ユ、鵑ニ先ダチテ啼ク、後レテ止ム。（二）[illegible]はふさう（佛法僧）ノ異名。

しびせい（名）〔紫微星〕支那ノ天文學ニ、天ノ紫微宮內ニ在リト云フ星ノ名、即チ、天帝ニテ、傍ニ、三台星アリテ守ル、因リテ天子ノ象トス。略シテ、紫微。

しひたぐ（シイタグ）（動）〔虐〕しへたぐノ誤。

しひたけ（シイタケ）（名）〔椎茸〕椎ニ生ズル菌、又、かし、かしは、しで、なら、等ニ生ズルヲモ、云フ、今、多クハ、人工ニテ栽培ス、櫟ヲ伐リテ、程好ク朽チタルニ、泔汁ヲ注ギ、廣ク蔭ヒテ、秋雨ノ候ニ、槌ニテ擊テバ、多ク生ズ、蓋ノ大イナルハ、七八寸ニ至ル、蓋、圓ク、莖、短ク、面、黑ク、背、黄ニシテ、香氣アリ、生ナルハ、香、淡シ、故ニ、多クハ、日光、或ハ、火ニ乾シテ、貯フ、殊ニ、芳香、甘美ナリ。香蕈（林逸節用集「椎茸、シヒタケ」）

しひたけたぼ（シイタケタボ）（名）〔椎茸髱〕御殿女中ノ髮ノ風、後ニハ、頂ニ髮ヲ卷キテ、笄ヲ横ニ貫キ、左右ノ鬢ノ毛ヲ、油ニテ薄ク固メ、鬢差ヲ入レテ、強ク張リ出ス、形、乾タル椎茸ノ如シ 嬉遊笑覧[illegible]明和[illegible]ノ御殿女中ノ髮ニ、宮仕セシ頃、京都ヨリ下リシ女中ノ髮ヲ[illegible]ト云フ髮ノ結ヒシガ、名モ面白ク、目付ト見ルレバ、御殿中、殘シ結ヒテ、ソレヨリ諸方ニ行ハレタリ、下ザマヨリ、形ヲ以テ呼ブハ、卑シゲナリト云ヘル由ヲ記セリ。文政ノ川柳「椎茸ヲ、蠶籠デ舁キダス、千代田村」（千代田城、江戶城）

しひたげる（シイタゲル）（動）しひたぐ（虐）ノ口語。

しびたひ（ジビタイ）（名）〔白額〕俳優ノ鬘ノ名、白髮ノ額ノ如ク、額帽子ヲ用ヰヌモノノ稱（守貞漫稿）

しびちゆうたい（名）〔紫微中臺〕孝謙天皇ノ御字、一時、改稱セシ、皇后宮職ノ名。續紀、十七、天平勝寶元年九月「制紫微中臺官位」

しひつ（名）〔史筆〕歷史ヲ書ク筆。[illegible]

しひつ（名）〔試筆〕カキゾメ。吉書 試毫[illegible]試筆、於[illegible]小町踊（元文）[illegible]長キ試筆ノ、手六十」

じひつ（名）〔自筆〕自ラ、書キタルコト、親シク書キタル、筆ノ蹟、自書（代筆、寫し、ナドニ對ス）手書 親書 大鏡、中、[illegible]ト云、[illegible]ノ御帶ハ、三條院ニコソハ[illegible]

[illegible]ラセタマヘレ、鞘ノ表ニ、東宮ニ奉ルト、刀ノサキシテ、自筆ニ書カセタマヘルナリ」「自筆ノ願文」

しひつく（シイツク）・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二）強付 強ヒテ、差シツク、無理ニ、勸ム

しひつける（シイツケル）（動）強付 前條ノ語ノ口語。

しひて（シイテ）（副）〔強〕必ズト、迫リテ。押シテ。無理ニ。タッテ。土佐日記、正月七日「サスガニ、恥ヂテ言ハズ、強ひて聞ヘバ」古今集、十二、戀二「ワビヌレバ、強ひて忘レムト、思ヘトモ、夢ト云フモノゾ、人頼メナル」

しひと（シイト）（名）〔舅〕〔大人ノ約ト云フ〕、朝鮮語「舅、しゆうい」しうとニ同ジ。皇極紀、三年正月、戚「婚姻之昵ニ」婚姻ノ條ヲ見ヨ。字鏡廿「婚、呼昆反、婦人之父、志比止」名義抄「婦翁、シヒト」

しびと（名）〔死人〕死ニタル人。死人。知顯抄「しびと、目ノ開キニケリ」

しびとばな（名）〔死人花〕まんじゆしやげノ異名、多ク、墓所ニ生ズレバ、名ヅク。

しひとめ（シイトメ）（名）〔姑〕〔舅妻ノ義〕しうとニ同ジ。字鏡卅「姑、志比止女」同卅四「嬌、志比止女」令集解、喪葬令「婦稱夫之母曰姑、云云、俗云、志比止、志比止賣也」名義抄「婦母、シヒトメ」

しひな（シイナ）（名）〔粃〕〔次次條ノしひなせノ略〕古言、シヒナセ。穀ノ、實ラズシテ、もみがらノミナルモノ 轉ジテ、草木ノ實ニモ云フ。

しびないしやう（シビナイシヨウ）（名）〔紫微內相〕孝謙天皇ノ御宇、設置セラレタル官。內外ノ諸兵事ヲ掌ルモノ。續紀、廿、天平寶字元年五月「以大納言從二位藤原朝臣仲麻呂、爲紫微內相」云[illegible]

云[illegible]日[illegible]將相[illegible]道、[illegible]宜[illegible]外諸兵事、其官位[illegible]祿分[illegible]物者[illegible]大臣二」

しひなせ（シイナセ）（名）〔粃〕〔眞實無稻ノ義カ〕今、略シテ、しひなト云フ、前前條ヲ見ヨ。倭名抄、十七、稻穀類「粃、之比奈世、穀不成也、但有皮而無米也」（稻ノ稻）字類抄「粃、シヒナ、シヒナセ」名義抄「粃、シヒナセ、シヒタ」

しひなつむぎ（シイナツムギ）（名）〔椎名紬〕河內國、椎名ノ地ヨリ織リ出シタル紬。貞丈雜記、三、小袖「しゐな紬ト云フ物ハ、椎名ト云フ所ヨリ出ル紬也」宗五大雙紙、上「一、人ノ衣裝ハ、云云、しゐなつむぎハ、入道モ、俗人モ、ヨク候」

しひなり（シイナリ）（名）〔椎像〕兜ノ鉢ノ像ノ名。椎ノ實ノ如ク、先ノ、尖リタルモノ。武具訓蒙圖彙、一「椎像ノ甲、筋ニ星有、眉庇ニ種目之甃輪有、但シ、鞘ノハズレニ菱縫アリ、總地ハサビ色、筋ハ金、星、銀ナリ、或ハ、總地黑塗、筋星、塗込アリ、可依好也」

しひね（シイネ）（名）〔惡核〕〔癡根ノ義カ〕腫物ノ名、肉ノ裏ニ核ヲ生ジ、豆ノ如ク、梅子ノ如ク、皮內ニ動キテ、痛ムモノト云フ。コブ。倭名抄、三、瘡類「瘤、之比禰」逸止[illegible]方、云云、醫心方、結核、訓之比禰」

しひのき（シイノキ）（名）〔椎木〕しひ（椎）ノ條ヲ見ヨ。枕草子、三、廿一段、木の花は「椎の木ハ、常磐木ハ、イヅレモアルヲ、ソレヲシモ、葉ガヘセヌ例ニ云ハレタルモ、ヲカシ」

しひのみ（シイノミ）（名）〔椎實〕椎ノ條ヲ見ヨ。

しひのわゐ（シイノワヱ）（名）〔椎枝〕大嘗宮ノ柴垣ニ、押縁ニ、間ヲオキテ、刺シ列ヌル、椎ノ小枝。大嘗祭式「椎枝、古語所謂、志比乃和惠」

しびぶし（名）〔鮪節〕鮪ヲ、かつをぶし

ノ如ク製シタルモノ。

シ-ビン (名) しゅびん(溲瓶)ノ條ヲ見ヨ。東海道中膝栗毛(文化、一九)、淀川「小用ニお困リナラ、不味ナガラ、俺ガしびん、貸シテアギョカイ」

し-びん (名) 自鬢 自ラ、己ガ鬢髮ヲ結フコト。女五枚羽子板(寶永、近松作)中「自剃、自鬢ノ初元結」

し-びん-せき (名) 泗濱石 支那ノ、泗水ノ濱ヨリ出ヅト云フ石、樂器ノ磬ニ用ヰル。平治物語、一、叡山物語事「熊野地獄ヨリ取リ傳ヘタル泗濱石モ、コノ山ニ在リトコソ候ヘ」

し-ひめ (名) 次姫 大嘗會ノ時、御膳ニ奉仕スル八人ノ采女ノ中、第二者ノ稱。第一者ノ采女ニ次ギテ、取次ノ役ヲナスモノ。しんどり。江家次第、十五、大嘗會「次姫、調、後取、傳ニ御食薦於最姫ニ」

し-びやう (名) 時病 しへい(時弊)ニ同ジ、其條ノ出典ヲ見ヨ。

し-びやうし (名) 四拍子 囃ニテ、笛、太鼓、大鼓、小鼓、ノ總稱。

し-ひやく-し-びやう (名) 四百四病 多クノ病。アラユル病氣。維摩經「是身爲ㇾ災、百一病惱」僧肇、注「一大增損、四百四病、同時俱作」千金方、八十二、論氣法「冷熱風氣、計成ニ四百四病ニ」新猿樂記、九御方夫「知ニ六府五臟之脉、探ニ四百四病之根源、療方治ㇾ病」

し-ひやく-よ-しう (名) 四百餘州 多クノ州。アラユル國(支那ニ云フ) 便用全書、一、光武中興、仍ㇾ附ニ皆州國十餘、道後國四百餘州ニ 水滸傳、首卷、宋太祖ヲ讚シテ「一條桿棒、等身齊打、四百軍州都姓ㇾ趙」呂東萊、架檄詩「安得吾皇四百州、皆如ニ此邦ニ千石ニ」有竹詩「仙詩、汚損國詩、消磨紅塵四百州」 同、二五、新月品題詩、陳三五修成、醜、敢清光四百州ニ千載賞ニ和御詩、行盡支那四百州、此中偏稱ニ道人遊ニ

し-びら (名) 褶 (背片ノ意カ、又、後翻ノ意カト云フ) 服ノ名、詳カナラズ、表裳ノ類ナラム、男ハ、袴ノ上ニ、女ハ、唐裳ノ上ニ着ル物ナリトゾ。ウハミ。ヒラビ。推古紀、十三年七月「皇太子、命ニ諸王諸臣ニ俾ㇾ著ㇾ褶」(古本訓) 源、五十、浮舟「侍從モ、アヤシキしびら着タリシヲ、鮮ヤギタレバ、其裳ヲ取リ給ヒテ、君ニ着セ給ヒテ」 同、六、末摘花「白キ衣ノ、言ヒ知ラズ煤ケタルニ、穢ゲナルしびら、引キ結ヒツケタル腰ツキ」(抄ニ、しびらハ、上裳ヲ云フ) 同、四、夕顔「しびらダツ物、託言バカリニ引キカケテ、傅ク人、侍ルナメリ」(花住ニ、裳ヲ略シテナリ) 榮花物語、八、初花「若ヤカナル女房四五人バカリ、薄色ノしびらドモ、託言バカリ結ヒツケタリ」衣服令、集解「褶、枚帶也」(裳ノ腰ニ、うはもトテ、扁メナル絹ヲ纏フナリ)

し-びら (名) 鱰 魚ノ名、しいらニ同ジ。

し-びり (名) 痺 しびれニ同ジ。鷹筑波集「月ノ夜ハ、しびりヲ切ラセ、雲ノ脚」

し-ひ-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 縮小 (癈ふニ通ズ) 脹レタルガ、空シクナリテ、縮ム。榮花物語、五、浦浦別「水ヅキモセズ出デ來テ、御腹、タダ、しひれニしひれテ、何ノ人ノ腹ヨリモ、ムゲニナラセ給ヒヌ」

し・ひる (動) 癈ふ、強ふ、又ハ、誣ふ、ノ口語。

し-び-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 痺痲 (澁るニ通ズ) (一)病ニテ、人ノ體ニ、感覺、運動ノ力、無クナル。痲醉 「脚氣デ、指尖ガしびる」(二)長坐ノ脚ナド、一時、血ノ運行ヲ止メテ、感覺ヲ失ヒ、疼ク如ク痛ム。コレヲ、しびれヲキラス、しびれガキルル、ナド云フ。脚痲

しびれ (名) 痺 シビルルコト。シビリ。(前條ヲ見ヨ)

し-び-れい (名) 紫微令 紫微中臺ノ長官。續紀、十七、天平勝寶元年八月「以ニ大納言正三位藤原朝臣仲麿ニ爲ニ兼紫微令ニ」

しびれ-ぐすり (名) 痺藥 痲醉ヲ發サシムル、種種ノ藥ノ稱。(痲醉ノ條ヲ見ヨ) 痲藥 生寫朝顔話(天保、山田案山子)宿屋段、口「此しびれ藥ヲ、薄茶ニ混ゼテ飲マス時ハ、忽チ、五體シビレテ、死人モ同然」

し-ひれ-め (名) 癈目 視力ヲ失ヒタル眼。盲。名義抄「瞎、シヒレメ、カタメシヒ」

し・び・れる (動) 痺 しびるノ口語。

しふ (名) 集 詩、文、和歌、ナドヲ、集メ記シタル書。源、十、榊「サルベキしふドモ、アマタ持タセテ、參リ給ヘリ、云云、メヅラシキ古集ノ、故ナカラヌ、少シ、擇リ出サセ給ヒテ」枕草子、四、三十九段、ありがたきもの「物語、集ナド、書キウツス本ニ、墨ツケヌコト」宇津保物語、藏開、中「後蔭ノ主ノしふ、ソノ書ニテ、小文ニ書ケリ」

しふ (名) 執 執着ノ心。執念。源、三十四、下、若菜、下「猶、ミヅカラツラシト思ヒキコエシ心ノしふナム、止ルモノナリケル」同、三十五、柏木「占ナヒヨリケン女ノ靈コソ、誠ニサル御しふノ、身ニ添ヒタルナラバ」和泉式部續集、下「憂キナガラ、存命フルダニ、アルモノヲ、何ニ此世ニ、しふヲトドメム」方丈記(長明)「身ニ官祿アラズ、何ニツケテモ、執ヲトドメム」

し・ふ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (自動、上二) 癈 (死ヲ活用セシメタル語) 機能ヲ失フ。感覺、トマル。字鏡集「瞎、カタメシヒ、シヒタリ」延慶本、平家物語「ヤガテ、保野ヲ引起シテ、手ヤ負ヒタルト問ヒケレバ、頸コソ少シしひテオボユレト云フ」字鏡六「聾、耳志比ニ」「目、しふ」耳、しふ」

し・ふ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (他動、上二) 強 押シテ、事ヲ爲ス。否ト云フヲ、押シテ勸ム。無理押ヲスル。オシックル。靈異記、中、三十四縁「偎否辭、强心聽許」訓釋「強、シヒテ」字鏡ニ「強言、志比天云ー」名義抄「強、シフ」字類抄「強、シフ」萬葉集、三「否ト言ヘド、強流志斐能ガ、強語」源、三十四、下、若菜、下「身ヲナキニシテ、此事ヲ學ビトラムト思ヒテダニ、しふるハ難クナムアリケル」四條大納言集「今ヨリハ、思フコトヲモ、言ハデ既ム、しふるハツラキ、モノニゾアリケル」孟子、離婁、上篇「惡ニ醉而強ニ酒」

し・ふ・フル・フレ・ヒ・ヒ・ヒヨ (他動、上二) 誣罔 (前條ノ強ふニ同ジ) 然アラヌヲ、枉ゲテ、然アリト言フ。非ヲ理ニ言ヒナス。押シテ、理ヲ非トス。コジックル。欽明紀、二年七月「宜ニ常設備、豈能施ニ恐ニ陷ニ誣欺網穽ニ」(施、水本、作ㇾ弛)土佐日記、二月一日「船君ノ、辛ク捻リ出シテ、フト思ヘルコトヲ、エシモコソしひヘトテ、ササメキテ止ミヌ」名義抄「誣、シフ、シフル、アザムク、イツハル」

し-ふ (名) 紙布 紙ニテ作レル布、岩城ノ刈田郡、白石ノ産ナリ、典具帖紙ヲ細ソク切リテ、絲ニ拈リ、コレヲ緯トシ、絹絲ヲ經ニ加ヘテ、織ル、甚ダ輕シ、夏ノ衣トス。和漢三才圖會、廿八、衣服「紙布、按、紙布、撚ニ紙如ニ線布、織、出ニ於奥州白石ニ人以爲ㇾ襦」

し-ふ (名) 師父 (一)師匠ト、父ト。「師父ノ如ク尊ブ」(二)父ノ如ク尊敬スル師。

し-ふ (名) 師傅 (一)太師ト、太傅ト。帝王ヲ輔佐スル官。(二)カシヅキ護リテ、敎ヘ育ツル役。又、其人。モリ役。漢書、疏廣傳「父子並爲ニ師傅ニ」

し-ふ (名) 四府 左近衞府、右近衞府、左兵衞府、右兵衞府、ノ稱。

し-ふ (名) 司符 古へ、伊勢大神宮司、造

東大寺司ヨリ下シシ符。「[illegible]、四十二」「司符、置所領國原生人等」

じふ（名）詩賦 詩ト、賦ト。又、詩賦ノ類。「[illegible]、凡詩賦百六家、千三百十八篇」

じぶ（名）澁 （或ハ、澁ノ字ノ音カ）（一）澁キ味。未熟ナル柿、梨ノ心ナドノ味。（二）栗ノ澁皮（じぶかはヲ見ヨ）（三）かきしぶ（柿澁）ノ略、其條ヲ見ヨ。（四）草木ノ莖、幹等ヨリ滲ミ出ヅル、茶褐色ノ液汁。（五）アカ。サビ。萬葉集、八「衣手ニ、ミ澁附クマデ、植エシ田ヲ、引板我レ延ヘ、守レル苦シ」

じぶ（名）四分 長官、次官、判官、主典ノ稱。（長官ノ條ヲ見ヨ）

じぶ（名）四部 四衆ノ條ヲ見ヨ

じぶ（名）支部 本部ヨリ分レ、其管理下ニ、其所在方面ノ事務ヲ取扱フ所

じぶ（名）使部 雜事ニ使ハルル、小役人。（ツカハレビト）式部省式、上「諸司使部者、云云、太政官卅三人、左右辨官各卅人」

じふ（數）十拾 ト。トヲ。ソ（大字ノ條ヲ見ヨ）

じふ（名）慈父 慈愛深キ父。又、親父ノ稱。北史、薛紹傳「愛人如慈父」

じふ（名）璽符 オシデ。御璽。印璽。史記、孝文帝紀「太尉乃跪上天子璽符」太平記、九、「主上上皇、五宮[illegible]、天子ノ璽符ヲ[illegible]、白馬素車ニ乘テ、[illegible]道ノ傍ニ到リ給ヒシ、亡秦ノ時ニ不異」

じふ（名）自負 「負、恃也、淮南子、修務訓、注「自負、自恃也」」自ラ、恃ムトコロアリテ、誇ルコト。自慢。オノボレ。ワレボメ。史記、高祖紀「高祖乃心獨自負」

じふあく（名）十惡 （一）古ヘ、罪惡ノ重キ、謀反、謀大逆、謀叛、惡逆、不道、大不敬、不孝、不睦、不義、内亂、ノ十種ノ稱 唐六典、六「乃立十惡以懲叛逆禁淫亂、沮不孝、威不道」 持統紀、六年七月「大赦天下、但、十惡盜賊、不在赦例」（二）佛經ノ語、即チ、殺生、偸盜、邪淫、妄語、綺語、惡口、兩舌、瞋恚、邪見（愚癡）ノ稱 大藏法數「惡、即乖理之行、謂、衆生於身口意、起動乖理、成此十惡」 盛衰記、三十九「重犯乞、法然、十惡、五逆モ、廻心スレバ往生スト見エタリ」

じぶいた（名）四分板 板ノ、厚サ四分ニ挽割リタルモノ。

じぶいち（名）四分一 （一）四ツニ分チタル、一ツ。四ツ割リ、一ツ。四分之一（二）銅一ニ、銀四分ノ一ヲ合ハセタルモノ、即チ、銅十匁、銀二匁五分ヲ鎔化ス。今、常ニ、銅、百ニ、銀、七十（下等ナルハ、五十、或ハ、廿五）トス、色、灰黑ナリ、種種ノ小器具ニ作ル。朧銀

じふいちぐわつ（名）十一月 年ノ、第十一ノ月。霜月。黃鐘

じふいちじ（名）十一時 とき（時）ノ條ヲ見ヨ、

じぶいちにんそく（名）四分一人足 次條ノ語ノ略 鶴江寺文書「遠州高松鶴江寺領、同寺中門前、其外、山林一切爲不入、諸公事、棟別、四分一人足等、免許之事」

じぶいちにんそくやく（名）四分一人足役 戰國時代、諸大名ノ、人民ニ課シタル夫役ノ一種 駿河國新風土記、六「武田氏ノ古キ書ヲ見ルニ、百姓ノ夫役、一二アラズ、此ノサマ、甚ダ苦シミシ事、思ヒヤルヘシ、其ノ一二ヲ云フニ、云云、四分一人足、普請役」

じふいちめんくわんぜおん（名）十一面觀世音 觀世音ノ像ノ、頭上ニ、小サキ九面アリ、頂ニ、又、一佛アリ、本體ト合ハセテ、十一面アルモノ、各、慈悲、忿怒、嗤笑、等ノ相ヲ爲ス。

じふう（名）士風 士ノ風俗。風紀。又ハ、氣風。「一藩ノ士風ヲ振作ス」

じぶうちは（名）澁團扇 團扇ノ、極メテ粗ナルモノ、方形ノ骨ニ、紙ヲ張リ、柿澁ヲ塗ル、色、赤黑シ。又、柿團扇。見ルダニ、賤シキモノナレバ、世ニ、貧乏神ノ澁團扇ト云ヒ、貧乏神トテ圖スルモノニ、澁團扇ヲ持タセテアリ。日本大代藏、貞享、西鶴「一箸、箸、澁うちはハ、貧乏神ト云ヘト、云云」雄長老狂歌「大キナル、かきの團扇ガナ、二三本、貧乏神ヲ、扇ギ往ナサム」

じぶうるか（名）うるかノ條ヲ見ヨ。

じふかい（名）十界 佛經ノ語、即チ、地獄界、餓鬼界、畜生界、修羅界、人間界、天上界、聲聞界、緣覺界、菩薩界、佛界、ノ稱。盛衰記、三十九、維盛於高野山[illegible]「塔中ノ釋迦ハ、此ノ法ヲ說キテ、佛位ヲ、十界ノ衆生ニ授ケ」

じふかい（名）十戒 佛經ノ語 即チ、殺生、偸盜、邪淫、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪欲、瞋恚、邪見ノ十惡ヲ禁ズル戒。十善戒 大鏡、下、道長「若ウヨリ、十戒ノ中ニ、妄語ヲ保チテ」「沙彌十戒法」

じふかうたう（名）集香湯 古ヘ、寺ニテ、人ニ出シヤル、粉藥ノ湯。苦參、肉桂、甘草、白朮、蜀黍ナドノ粉ヲ、調合シタルモノ。尺素往來「燒香了、點心者、先點集香湯ニ」

じぶかき（名）澁柿 柿ノ一種、實ノ味、甚シク澁キモノ、柿澁ヲ取リ、或ハ、さはしがきトシテ食フ、種類、多シ。漆柿

じぶかは（名）澁皮 （一）樹ノ甘皮（二）栗ノ實ノ甘皮 倭名抄、十七、菓具「栗扶、久利乃之不、其味、澁之義也」女ニ、澁皮ノ剝けたト云フハ、垢拔ケテ、田舍クサクアラヌヲ云フ。

じぶかはご（名）澁皮籠 竹ニテ、網代ヲ組ミタル上ヲ、紙張ニシ、澁ヲ引キタル皮籠 庭訓往來、上「組ミオキシ、竹ノカノ、破ケレバ、張リスマシタル、澁かはごカナ」

じぶかはりう（名）澁川流 柔術ノ一派、江戸時代ノ初、澁川伴五郎ノ創メタルモノ。

じふがふ（名）習合 神道ノ一派、其條ノ（二）ヲ見ヨ。

じふがふ（名）集合 （一）寄リ、アツマルコト ヨリアヒ。アツマリ。會合。（二）寄セ、アツムルコト。

じぶかぶ（動）「繁吹く」ノ延 繁ク吹ク。

じぶかみ（名）澁紙 紙ヲ、糊ニテ續ギ、貼リ重ネテ、柿澁ヲ延キテ、乾シタルモノ、敷紙トシ、又、荷物ナド包ムニ用キル。「小包ヲ、澁紙ニテ包ム」

じふかん（名）十干 陰陽道ノ語、えと（干支）ノ條ヲ見ヨ。

しふ-ぎ（シユウギ）(名) 集議 アツマリテ、評議スルコト。會議 史記、鼂錯傳「上令₂公卿列侯宗室集議₁、莫₂敢難₁、獨竇嬰爭₂之」

しぶき (名) 飛沫〔繁吹く義〕 繁吹ク(シブ)コト。飛ビ散ル、細カキ水玉。「雨ノしぶき」「浪ノしぶき」

しぶ-き (名) 澁木 ももかは、又、やまもものノ條ヲ見ヨ。

〔しぶ-き (名) 蕺 〔蕺ハ、阻立切、音、しふナリ、きハ、木ノ義カ〕 草ノ名、今、どくだみト云フ、其條ヲ見ヨ。倭名抄、十七₋水菜類「蕺、之布木」本草和名、下九三十「蕺、之布岐」 蜻蛉日記、中、中₋石山詣₋後ノ方ナル池ニ、しぶきト云フモノ、生ヒタルト云ヘバ、取リテモテコト云ヘバ、持テ來タリテケル」

じふ-き（ジユウキ）(名) 什器 〔じふもつ(什物)ノ語原ヲ見ヨ〕 ウツハ。道具。什物(ジフモツ)。 史記、五帝紀「舜作₂什器於壽丘₁」

しふ-きん（シユウキン）(名) 集金 金錢ヲ、寄セ集ムルコト。又、其金。「保險ノ集金」集金郵便」

しふぎ-ゐん（シユウギイン）(名) 集議院 明治ノ初年ニ設ケラレシ官廳、公議所ノ職務權限ヲ繼續セシモノ。

しふ-ふく (名) 雌伏 〔雌鳥ノ、雄鳥ニ伏從スル意、雄飛ニ對ス〕 服從スルコト。 後漢書、趙溫傳「大丈夫當₂雄飛₁、安能雌伏」 吾妻鏡、八、文治四年八月廿三日「縱雖₂勸₁賞状、外祖存生、爭可₂有₁存乎、是偏依₂實朝曲₁也、云云、義實雌伏」

しふ-ふく (名) 紙幅 書畫ノ幅ヲ裝フコト。表裝。裝潢

〔しぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 〔澁ノ活用、澁る意〕 進マズ。障ル。支ヘラル。 新古今集、六、冬「高瀨舟、しぶくバカリニ、モミヂ葉ノ、流レテ下ル、大井川哉」 宇治拾遺、七、第四條「鄙ノモトヲ、脇ニ挾ミテ、前ノ谷ヘ躍リオツ、鄙、風ニしぶかレテ、谷ノ底ニ、鳥ノヰルヤウニ、ヤヲラ、落チニケレバ、ソレヨリ、逃ゲテ往ニケリ」 夫木抄、四「花誘フ、比良山風、アシケレバ、櫻ニしぶく、志賀ノ浦船」 顯季集、消息「鈴鹿ノ關ニモ、フリ捨テラレズ、しぶく(名所)山ヲモ、スベラカニ、越エケレバ」

しぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 繁吹 繁(シゲ)ク吹ク。 天延三年一條大納言家歌合「クレナヰニ、深ク匂ヘル、梅ノ花、雨サヘ色ヲ、フリゾしぶける」「風、小雨ヲしぶく」

しぶ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 風吹 〔しぶ(颪)ノ條ヲ見ヨ〕 風、吹ク。 清輔集「霜枯ノ、蘆間ニしぶく、釣舟ヤ、心モユカヌ、我ガ身ナルラン」

じ-ふく (名) 時服 〔四時、製、異ナレバ、時服ト云フ〕 其時候ニ隨ヒテ、着ルベキ衣服、多ク、下賜セラルルニ云フ、古ヘノ大袿ナリ。賜ハリタルモノハ、已ガ身ニ合ハセ、裁チ直シテ作ルト。 禮紀、禮弓、下篇「坎深不₂至₁於泉₁、其斂以₂時服₁」 續紀、十二、天平八年十月「施₂唐僧道璿、波羅門僧菩提等、時服₁」 幕朝故事談「時服被₂下、御旗本熨斗目、大名ハ綸子(リンズ)、四品以上、しぢら熨斗目、三位以上ノ御下着ハ、白綾ナリ、元日ヨリ三日迄拜領ノ者、十五日着登城、是服有₂之禮儀ナリ」「時服二重ヲ賜フ」

〔しぶ-くさ (名) 〔澁草ノ義〕 しのね(羊蹄菜)ニ同ジ。 倭名抄、十七₋二十野菜類「羊蹄菜、之布久佐」

し-ふく-つゐ（シフクツイ）(名) 四幅對 にふくつゐ(二幅對)ノ條ヲ見ヨ。

じふ-く-にち（ジユウクニチ）(名) 十九日 〔十九日ノ三字ヲ草體ニ書ケバ、ぢうト讀マル、十のしまノ類〕 ばかものノ異名。(天明頃マデノ隱語) 奴師勞之(文化、大田南畝)第四條「馬鹿モノノ事ヲ、十九日ト呼ビシハ、牛込、赤城ノ緣日、十九日ナリ、其頃、赤城ニ、山猫ト云フ娼婦アリシガ、此處ニテ、言ヒ出セシ隱名ト云ヘリ、ぢ、ト書テ、十九日ト云フ字體ニ近キ故トモ云ヘリ」 文政ノ川柳「スリコギ夜郎、十九日、朝ノロリ」(十二月十八日、淺草觀音ノ年の市ニ、スリコギヲ買ヒテノ、吉原ノ朝歸リ)

しぶくり (名) 〔次條ノしぶくるノ名詞形〕 ジブクルコト。又、其人。次條ヲ見ヨ。 浮世床(文化、三馬)二編、下「ソリャしぶくり(澁栗ニカク)三年、柿八年、オラァ法ニハ構ハネヘ」

しぶ-く・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) シブリ、クネル。理窟ヲコネル。 俚言集覽「季吟歌(寄₂柿戀₁)しぶくりシ、口舌(クゼツ)ハヒクノ、七、和神、ナリハナリテモ、味ノ惡サヨ」守武千句「ナル神ニ、柿紙一重、カサナリテ」飛ビヌル雲モ、しぶくりニケリ」

じふ-く-れう（ジフクリヨウ）(名) 時服料 平安朝時代、親王以下、諸臣ニ、春秋、又ハ、夏冬ノ二季ニ、下賜セラルル衣服料。 祿令「凡、皇親、年十三以上、皆、給₂時服料₁」

しふ-くわい（シユウカイ）(名) 集會 ツドヒ、アフコト。集マルコト。ヨリアヒ。會合。 史記、樂書「皆集₂會五經家₁、相與共講習讀₂之」

しふ-くわい-がん（シユウカイガン）(名) 集塊岩 噴火山ノ噴出シタルモノノ、集合シテ成レル、一種ノ岩石。上野ノ妙義山、豐前ノ耶馬溪、等ハ、此ノ岩石ヨリ成ルトゾ。

じふ-ぐわつ（ジユウガツ）(名) 十月 年ノ、第十二アタル月。神無月(カミナツキ)。小春(コハル)。陽月。應鐘

しふ-くわん（シユウカン）(名) 習慣 ナラハシ。ナラヒ。シキタリ。クセ。慣習。沿習。 漢書、賈誼傳「少成若₂天性₁、習慣如₂自然₁」

しふ-げ（シユウゲ）(名) 集解 多クノ解釋ヲ、一ツニ集メタル書。 晉書、杜預傳「既₂思經籍₁、爲₂春秋左氏傳集解₁」「合集解」

しふ-げき（シユウゲキ）(名) 襲擊 オソヒ、ウツコト。不意討チ。 三國志、魏志、袁紹傳「曹操遣₂奇兵₁、襲₂擊紹運車₁、大破₂之、盡焚₂其穀₁」

しふ-げふ（シユウギヨウ）(名) 習業 學業、又ハ、職業ヲ、習フコト。 漢書、禮樂志「朝夕習業、以教₂國子₁」

じふ-ご（ジユウゴ）(名) 什伍 〔詩經集傳「軍法以₂十人₁爲₂什₁」禮記祭義註「五人爲₂伍₁」〕 軍隊ニテ、十人、或ハ、五人ノ兵卒ノ組合。 周禮、小司徒篇「會₂其什伍₁、而敎₂之道藝₁」

じふ-ご-ご-さう（ジユウゴゴソウ）(名) 十語五草 十種ノ物語ト、五種ノ草子ト。(下ノ出典ヲ見ヨ) 秋齋閒語(寶曆、多田秋齋)「竹取物語、うつぼ物語、世つぎ物語、いや世つぎ物語、殺世つぎ物語、ます鏡、榮花物語、狹衣、水鏡、伊勢物語、已上是レヲ、十語ト云ヒ、徒然草、枕草紙、四季、御飾の記、御湯殿の記、已上是レヲ、五草ト云フ、是レ、十語五草トテ、嫁入リノ具ナリ、棚ニ飾ルナリ、御樣ハ、小笠原ノ習ヒトスルナリ」

じふ-ご-しう（ジユウゴシユウ）(名) 十五宗 佛敎ノ十五ノ宗派。卽チ倶舍宗、成實宗、律宗、法相宗、三論宗、華嚴宗、眞言宗、天台宗、禪宗、淨土宗、大念佛宗(融通念佛宗)、一向宗(眞宗)、時宗、日蓮宗、雜宗ノ稱。 類聚名物考(山岡浚明)佛敎、一「宗派十五派外黃檗宗、欽明天皇ノ御宇ニ、佛法、皇朝ヘ渡リシヨリ、經文、傳ハリテ、ソノ後、祖師、出デ來テ、宗門、マチマチニ別カレテ、今ニ至リテハ、十五派ニ及ベリ、初メハ、八宗ト云ヘルハ、倶舍宗、成實宗、律宗、法相宗、三論宗、華嚴宗、眞言宗、天台宗ノ八ナリ、此ノ外ニ、禪宗(又ハ、佛心宗トモ云フ)、淨土宗、是レニテ、十宗ナリ、又、此ノ外ニ、大念佛宗、一向宗、時宗(遊行派ナリ)、日蓮宗(法華題目宗)、雜宗、是レニテ、都ベテ、十五宗ナリ、又、此ノ外、近年、禪宗西宗ノ内ヨリ、唐僧隱

[illegible]ナリ」

じふごだいじ（名）十五大寺　十五ノ、大イナル寺。即チ、東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、薬師寺、西大寺、法隆寺、新薬師寺、大后寺、不退寺、京法華寺、超證寺、招提寺、宗鏡寺、弘福寺、ノ稱。又ハ、東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、西大寺、法隆寺、法華寺、新薬師寺、本元興寺、招提寺、東寺、西寺、四天王寺、崇福寺、ノ稱。〔[illegible]〕[illegible]書入ニ、案、十六有、類聚抄、大后寺、又、弘福寺无レ之〕[illegible]法用僧三口、并、定座沙彌一口、講師沙彌各一口」

じふごにちがゆ（名）十五日粥　正月十五日ノ朝、年中ノ邪氣ヲ除クトテ食フ小豆粥。[illegible]食スルハ、何ノイハレノ侍ルゾヤ、答、人ノ國ノ昔、黄帝、天ニ祈リシカバ、天告ゲテ宣ハク、邪鬼ヲバ崇、粥ヲバ滅セヨトアリシニヨリテ、月毎ニ、ソノ鬼[illegible]マデ、[illegible]ニ天狗ヲ祀リテ、東ニ向ヒ拜シテ、粥キテコレヲ[illegible]ノ時、粥ヲ四方ニ注グモ、コノ功能トゾオボエ侍ル」

じふこんがうじん（名）執金剛神〔手ニ金剛杵ヲ執レル金剛神ノ義ト云フ〕金剛力士（二王）ノ條ヲ併セ見ヨ。[illegible]ナリ　佛法守護ノ神。

じふごや（名）十五夜　（一）陰暦ニ、十五日ノ夜ノ稱。三五ノ夕。（二）專ラ、陰曆八月十五日ノ夜ニ、滿月ノ光ヲ賞スル稱。此ノ半ニシテ、暑カラズ、寒カラズ、天、澄ミテ、月色、甚ダ明カナレバ、特ニ明月ト稱シ、中秋ノ月ナド云ヒ、一年ノ望月ノ節トシ、宴ナド開ク。芋名月。中秋　徒然草、二百三十九段「八月十五日、九月十三日ハ、婁宿ナリ、コノ宿、清明ナル故ニ、月ヲ翫フニ良夜トス」榮花物語、一、月宴「康保三年八月十五夜、月ノ宴セサセ給ハントテ、清涼殿ノ御前ニ、皆、ヲワカチテ、前栽植ヱサセタマフ、云云、御遊アリテ、上[illegible]ク奏リ給テ、[illegible]、サマザマナリ」

じふざう（名）四不像〔四不像トハ、鹿ニ像テ鹿ニアラズ、牛ニ像テ牛ニアラズ、驢馬ニ像テ驢馬ニアラズ、駱駝ニ像テ駱駝ニアラズ、ノ意〕鹿ノ族、滿洲ノ深山ナドニ棲ム、頭ハ鹿、又ハ、駱駝ニ似、脚ハ、牡牛ニ似、尾ハ驢馬ニ似ル。

じふさん（名）集散　アツマルコトト、チルコトト。聚散。「離合集散」

じふさんがね（名）十三鐘　大和ノ奈良ニ、七ツ時ト、六ツ時トノ間ニ撞ク鐘ノ稱。後ニ、十三歳ノ童ノ、春日ノ鹿ヲ殺シテ、石子詰ノ刑ヲ受ケタリト云フコトニ附會ス。

じふさんぎゃう（名）十三經　けいじふ。（經書）ノ條ヲ見ヨ。

じふさんぐゎつ（名）十三月〔十二月ニ次ギタル月ナレバ、云フ〕じゃうぐゎつ（正月）ノ異名。後漢書、陳寵傳「十三月、陽氣已至、天地已交、萬物皆出、蟄蟲始振、人以爲正、夏以[illegible]春」小町集「春、上　心サヘ、十三月ノ、春日カナ」

じふさんだいしふ（名）十三代集　普通ニ、新敕撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今ノ、十三部ノ敕撰歌集ノ稱。即チ、二十一代集ノ中、八代集ヲ除キタルモノ。猶異說アリ、下ノ出典ヲ見ヨ。拾芥抄、上、末、撰集「玉葉集、上古以來、十三代外撰之一」[illegible]用集、十、[illegible]十三代集、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰、玉葉、續千載、續後拾遺、風雅、新千載、新拾遺、新後拾遺、新續古今」[illegible]爲(九月)五日「古今者、延喜御宇、貫之、躬恒、友則、忠岑等撰也、後撰者、天暦御時、大中臣能宣、清原元輔、源順、紀時文、坂上望城等撰也、拾遺者、花山法皇御宇、一條攝政(伊尹)御撰也、後拾遺者、白川院御時、通俊卿撰也、金葉集者、俊頼朝臣撰也、詞花者、顯輔卿撰也、千載集者、俊成卿撰也、新古今者、通具、有家、雅經、家隆、定家等撰也、是號八代集一也、新勅撰、續後撰、續古今、續拾遺、新後撰者、定家、爲家、行家、光俊、爲氏、爲世等撰也、[illegible]二十[illegible]代集一也」

じふさんぶつ（名）十三佛　佛教ノ語、十三體ノ佛。即チ、不動、釋迦、文珠、普賢、地藏、彌勒、藥師、觀音、勢至、阿彌陀、阿閦、大日、虛空藏、ノ稱。[illegible]十三佛、逆修日ニ次第、初七日不動（秦廣王、正月十六日）、二七日釋迦（初江王、二月廿九日）、三七日文殊（宋帝王、三月廿五日）、四七日普賢（五官王、四月十四日）、五七日地藏（閻魔王、五月廿四日）、六七日彌勒（變成王、六月五日）、七七日藥師（泰山王、七月八日）、百ケ日觀音（平等王、八月十八日）、一周忌勢至（都市王、九月廿三日）、第三年阿彌陀（轉輪王）、七年阿閦（十一月十五日）、十三年大日（十一月廿八日）、卅三年虛

空藏（十二月十三日）」

じふさんもんぜき（名）十三門跡　十三ノ門跡、即チ、輪王寺、妙法院、聖護院、照高院、青蓮院、梶井宮、曼珠院、毘沙門堂、圓滿院（以上、天台宗）、仁和寺、大覺寺、勸修寺（以上、眞言宗）、知恩院（淨土宗）、ノ稱。

じふさんや（名）十三夜　（一）陰曆ニ、十三日ノ夜。（二）專ラ、陰暦九月十三日ノ夜、月ヲ賞スル稱、八月十五夜ノ中秋ノ月ニ次ギテ、特ニ、觀月ノ節トス。豆名月。栗名月。後ノ月。躬恒集「延喜十九年九月十三夜、ソノ宴セサセタマヘリ」中右記、保延元年九月十三日「今夜月明無雲、寛平法皇已爲二明月之由、被[illegible]、云云」

じふさんり（名）十三里〔味、栗（九里）より（四里）旨いト云フ判ジ詞〕さつまいもノ異名。又、八里半。（守貞漫稿）

じふじ（名）習字　文字ヲ書クコトヲ、習フコト。テナラヒ。

じぶ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）澁　（一）〔澁ノ味アリ〕舌ヲ刺シテ、締メヨスルガ如キ、快カラヌ味アリ。舌ヲ縮ムル感アリ。（澁柿ノ味ナド）名義抄「澁、シブシ」（二）澁リタリ。圓轉ナラズ。夫木抄、二「曇ノ、聲マダじぶく、聞ユナリ、巣立ノ小野ノ、春ノ鶯」（三）ハデヤカナラズシテ、趣味アリ。（衣彩、謠聲ナドニ）クスミテ、粹ナリ。（東京）雅致　「着物ノ柄ガじぶい」

じふし（名）十指　〔じふヲ、急呼ニ、じゅト云フヲ、其「ユ」ヲ省キテ、じ、ト、呼ブ、[illegible]ノド[illegible]カニ」

以下、皆、然リ」 十本ノ指。曹植詩「十指有長短、痛惜皆相似」

じふ-し（ジッ・シ）(名) 十死 (一)生クル見込ナク、危キコト。十死一生ト云フハ、九分九厘マデ、生クル見込ノナキ意。中國治亂記「十死一生ノ軍ナレバ、勝テバ、船ハタヤスカルベシ、萬一ニ負ケバ、二度、戻ルベカラズト存ジ、手船ドモヲモ著戻シ候トテ、皆、戻サレケル」(二)じっし(十死)ニ同ジ。貞享四辰年伊勢暦、注「十死ハ、病人ヲ訪ハズ、遠ク行カズ、萬事ニ惡シ」

じふ-じ（ジユウ・ジ）(名) 十時 とき(時)ノ條ヲ見ヨ。

じふ-じ（ジユウ・ジ）(名) 十字 (一)十ノ字。十文字。吳均詩「縱橫十字成陌阡」(二)くじ(九字)ノ條ヲ見ヨ。(三)蒸餅ノ異名。(卽チ、米饅頭)麪ヲ、醴ニテ作レルモノ、内ニ、餡ナシ。パン。晉書、河曾傳「帝每命取其食、蒸餅上不坼作十字不食」吾妻鏡、十三、建久四年五月十六日「召雑馬勢子輩、各賜十字、被勵列卒」俗語考「十字、餾、ヲ除キ、辛ヲ求ムル呪、祝儀ニ、餅ヲ贈ルニ、紅ニテ十字ヲ書ク、味噌醤ニ十字ヲ書クハ、腐ラヌ爲ナリ、御室ノ守覺法親王日記ニ、至テ薄切ノ客ニハ、十字ヲ出ス」(四)紋所ノ名。くつわ(轡)ノ(二)ニ同ジ。

じふし-いっしゃうのひ（ジユッシ・イッショウ・ノ・ヒ）(名) 十死一生日 武士ノ、出征シテ、生還ノ見込ナキ、大凶トスル日。卽チ、小ノ月ノ晦日。(陰陽家ニ) 山槐記、治承四年九月廿九日「今暁、東國追討使右少將維盛朝臣、出六波羅家發、云云、上總守忠清、於此部、忌十死一生日」太平記、廿二、稱宜事「兎テモ生キテハ歸ルマジキ軍ナレバトテ、十死一生ノ日ヲ、吉日ニ取リテ、大勢ノ敵ニ向カヒケル」

しふ-しふ（シユウ・シユウ）(名) 集聚 寄リ、アツマルコト。寄セ、アツムルコト。聚集。左傳、昭公十七年「鳩民」、註「鳩、聚也、治民何、其流散」「仁賢相遇、伊呂集聚」

じふじ-か（ジユウジ・カ）(名) 十字架 〔英語、Cross. ノ譯語〕十ノ字ノ形ノ磔柱。耶蘇基督ノ、十字架ニテ磔殺セラレタルヲ、救世主トシテ、基督教ノ信者ニ因リテ、犧牲、贖罪、救濟ナド、樣樣ノ美德ノ象徵トセラル。くるすノ條ヲ併セ見ヨ。

じふじ-くゎ（ジユウジ・カ）(名) 十字火 前ト、側面トヨリ發射スル砲火。

じふ-しち（ジユウ・シチ）(名) 十七 女子ノ、十七歳頃ノ娘盛リノモノノ稱。一休咄(寛文)下「キソンナ十七、寅ノ年、角ノ無イコソ、添ヒヨケレ」上總、田植歌「十七ガ、今年始メテ、田ヲ作リ、其田ガ當リテ、八重穗咲キ、丈ガ六尺、穗ガ五尺、コチラノ御庭ニ、藏七ツ、御藏ノ番ヲバ、誰レガスル、一ニ大黑、二ニ惠比須神、升ハ要ランデ、箕デ量ル」伊豆、麥搗歌「十七廿一ガ、邊ヘオリテ、水ヲ汲ム、水汲ミャ、袂濡レル、袂濡レレバ、襷カケロ、十四筋ヘツ」

じふしち-し（ジユウシチ・シ）(名) 十七史 史記、漢書、後漢書、三國志、晉書、宋書、南齊書、梁書、陳書、後魏書、北齊書、周書、隋書、南史、北史、唐書、五代史、ノ支那ノ十七種ノ歷史ノ稱。コレニ、遼史、宋史、金史、元史、ヲ加ヘテ、二十一史ト云フ。

じふしち-はち（ジユウシチ・ハチ）(名) 十七八 十七八歳。又、十七八歳ノ女。娘盛リ。日本風土記(全浙兵制、明末)「十七八ニ、二度候カ、枯木ニ花ガ、咲キ候カヨノ」「十七八ト、寝テ離ルルハ、タダ浮草ノ、水バナレヨノ」

じふしち-や（ジユウシチ・ヤ）(名) 十七屋 〔次條ノ十七夜、立待月ト云フ、忽着ノ謎〕飛脚屋(今ノ郵便集配人)ノ異名。

じふしち-や（ジユウシチ・ヤ）(名) 十七夜 陰曆十七日ノ夜。又、其夜ノ月ノ稱。立待ノ月。

しふ-しふ（シユウ・シユウ）(名) 集輯 詩文、又、種種ノ資料ナドヲ、アツメヲサムルコト。蒐集。

しぶ-しぶ (副) 澁澁 澁リ澁リテ。否ミナガラ。宇治拾遺、五、第九條「只、成レトアリケレバ、童、しぶしぶ、小法師ニナリニケリ」源、廿一、少女「上ハ、しぶしぶニ思召シタルヲ、強ヒテ御迎ヘシ給フ」同、廿六、常夏「女御殿ニ參レト宣ヘルヲ、しぶしぶナル狀ナラバ」同、五、若紫「女君、例ノ、しぶしぶニ、心モ解ケズ、モノシ給フ」

しふ-しふ-と（シユウ・シユウ・ト）(副) 習習 風ノ、ソヨソヨト吹キクル狀ニ云フ語。詩經、邶風、谷風篇「習習谷風、以陰以雨」

じふ-しまい（ジユウ・シマイ）(名) 十姉妹 薔薇ノ類、舶來品ナリ。ボサツイバラ。

じふ-しまつ（ジユウ・シマツ）(名) 十姉妹 小鳥ノ名、形、四十雀ニ似、鳴ク聲、愛ラシ。

しふ-しん（シユウ・シン）(名) 執心 佛經ノ語、固ク執リテ、思ヒ入ル心。深ク、望ヲカクルコト。執着心。保元物語、一、左府御最期事「イカニ此ノ世ニ、執心ノ留マル事、多カリケン」

じっ-しんはふ（ジッ・シン・ホウ）(名) 十進法 數學ノ語、十倍毎ニ、位取ノ、進ムコト。

しふ-しゃ（シユウ・シャ）(名) 拾捨 取リ入ルルコトト、スツルコトト。取捨。太平記、十三、龍馬進奏事「文帝、光武ノ代ニハ、是ヲ棄テテ、福祚久シク榮エ、周穆ノ時ニハ、是ヲ愛シテ、王業始メテ衰フ、拾捨ノ間、一凶一吉、的然トシテ、耳ニアリ」

しふ-しゃく（シユウ・シャク）(名) 襲爵 爵ヲ、享ケツグコト。「襲爵仰セツケラル」

じっ-しゅ（ジッ・シユ）(名) 十手 十人ノ手。多クノ手。大學「十目所視、十手所指」

しぶ-しゅう（シユウ・シュウ）(名) 四部衆 佛敎ノ語、佛ノ、四部ノ弟子。卽チ、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、ノ稱。徒然草、百六段「コハ、希有ノ狼藉カナ、四部ノ弟子ハヨナ、比丘ヨリハ、比丘尼ハ劣リ、比丘尼ヨリ、優婆塞ハ劣リ、優婆塞ヨリ、優婆夷ハ劣レリ」

じっ-しゅう（ジッ・シユウ）(名) 十宗 佛敎ノ語、佛法ノ十種ノ宗派。卽チ、律宗、俱舍宗、成實宗、法相宗、三論宗、天台宗、華嚴宗、眞言宗、禪宗、淨土宗、ノ稱。元亨釋書、廿七、諸宗、三「斯方有十宗、皆自竺支帶將來也」

しふ-じゅく（シユウ・ジユク）(名) 習熟 習ヒテ、熟練スルコト。習練。孫樵、龍多山錄「登降信宿、聞見習熟」一抨、苑別錄「大低采茶、亦須習熟」

じっ-しゅくやう（ジッ・シユ・クヨウ）(名) 十種供養 佛ヲ供養スルニ用キル、十種ノ供ヘモノ。卽チ、華籠、瓔珞、抹香、燒香、塗香、幡蓋、衣服、伎樂、飲食、合掌、ノ稱。台記、久壽二年四月五日「於東北院行十種供養」

じふ-じょう（ジユウ・ジョウ）(名) 十乘 佛敎ノ語、十種ノ、天台ノ觀法。

しふ・す（シユウ・ス）スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 執 執着ス。執念深クス。字類抄「執、シフス」

しふ-せい（シユウ・セイ）(名) 習性 習慣ノ、箇性トナルコト。習ヒ、性トナリタルコト。ナラヒ。クセ。北史、儒林傳「帝王子孫、習性驕逸」

しふ-せい（シユウ・セイ）(名) 集成 アツメテ、大成スルコト。集大成。「圖書集成」「裝束集成」

しふ-せつ（シユウ・セツ）(名) 執節 節刀ヲ執リチ、將軍トナルコト。謠曲、吉野靜「義經、執節ノ勅ヲ受ケ、洛陽ノ西南ハ、是レ、分國トナルベシ」

しふ-せん（シユウ・セン）(名) 摺扇 アフギ。扇子。

じぶせん　[illegible]　精進ノ汁ニ用ヰル　[illegible]ドト)

じふせん（名）十全〔十分、完全ノ義〕(一)缺クル所ナキコト。完全。圓滿。(二)危キ所ナキコト。安全。「明暦、天官、醫師「十全爲上、云云、十失四爲下」」

じふぜん（名）十善　佛經ノ語　十惡ヲ犯サズコト。十善ヲ守リタル功德ニ因リテ、天下ヲ得ト云フ。〔佛説ニ、不殺生、不偸盗、不邪婬、不妄語、不綺語、不惡口、不兩舌、不貪欲、不瞋恚、不邪見〕[illegible]

じふぜんかい（名）十善戒　佛書ノ語、十善ヲ守ル戒律。十戒。

じふぜんじ（名）十禪師　(一)〔ふいぐ〕ないぐぶ（内供奉十禪師）ノ略。ないぐぶ（内供奉）ヲ見ヨ。「宇津保物語、藤原君「比叡ノ山ニ、[illegible]院ノ十禪師ナル大德ノ、云フヤウ」(二)十禪師權現ノ略。日吉山王七社權現ノ一、瓊瓊杵尊ヲ、權現トシテノ稱。(國常立尊ヨリ第十ノ神ニシテ、地藏菩薩ノ垂迹ナリトス)「盛衰記、四、山門御輿振事「樹下宮（十禪師）、八王子、客人、十禪師三社ノ神輿、下洛有」

じふぜんじごんげん（名）十禪師權現　前條ノ(二)ニ同ジ。

じふぜんばし（名）十勝箸　竹製ノ小箸。(佐渡ニテ、楊枝ニ、此名アリト)

じふぞく（名）習俗〔習慣、風俗ノ義〕ナラハシ。ナラヒ。史記、始皇紀「[illegible]」太平記、廿三、土岐[illegible]合戰事「[illegible]日ノ習俗、[illegible]テ、我國ノ風トナリ」

じふたい（名）澁滯　シブリ、トドコホルコト。スラスラト運ラヌコト。「[illegible]經濟篇「必資ニ州縣力、澁滯方可ニ成」「事務、澁滯ス」

じふたい（名）十體　書體ノ十種。卽チ、古文、大篆、籀文、小篆、八分、章草、隸書、行書、飛白、草書、ノ稱。

じふたいせい（名）集大成　アツメテ、大イニ完成スルコト。孟子、萬章、下篇「孔子之謂集大成、集大成也者、金聲而玉振之也」

じふたう（名）襲蹈　他物ノ後ヲ、受ケツグコト。「前例ヲ襲蹈ス」

じふだん（名）集團　アツマリ。ムレ。「一族ノ集團」

じふち（名）十地　佛教ノ語、無明ノ惑ヲ斷チテ、眞如ヲ證スル、十級ノ位地。第一、歡喜地（堪忍地トモ云フ）、第二、離垢地、第三、發光地、第四、焔慧地、第五、難勝地、第六、現前地、第七、遠行地、第八、不動地、第九、善慧地、第十、法雲地。「平家物語、一、願立事「萬億圓滿ノ世尊、十地究竟ノ大士モ、力及バセ給ハヌ次第也」盛衰記、廿四、南都合戰同燒失事「十地ノ階級ニヨリテ、報身能化ノ[illegible]ナレドモ」

じふちかん（名）集治監　終身懲役ニ處セラレタル者ヲ拘禁シテ、各、其刑ニ服セシムル所。今ハ、刑務所ト改稱ス。

じぶちゃ（名）澁茶　煎カラシテ、味、澁クナレル茶。「[illegible]也有」知雨亭後記「昆布ニ山椒ノ澁茶ヲマウケテ」

じふぢゃく（名）執着　佛經ノ語、執心シ、思ヒ入ルコト。深ク思ヒヲカクルコト。「[illegible]」

じふちう（名）集注　其物事ニ、アツメ、ソソグコト。「注意ヲ集注ス」

じぶつ（名）死物〔活物ニ對ス〕活動セザル物。生命ノ無キモノ。

じぶつ（名）事物　ことト、ものト。モノゴト。「[illegible]」

じぶっくり（名）〔じぶくるノ急呼音ノ、名詞形トナリタルモノ〕ジブックルコト。ジブクリ。「浮世床（文化、三馬）二編、下「[illegible]町ノ木戸際カ、拳デ押付ヤウ、ムム、ヨカンベイ、又[illegible]ヤウト思ッテ、じぶっくり無シダヨ」

じぶっくる（動）じぶくるノ急呼。

じぶっつら（名）澁面　次條ノ語ノ急呼音。「浮世床（文化、三馬）二編、下「ソレガ[illegible]すらア[illegible]ガ[illegible]云テ、澁面シテキチャア[illegible]レモ來ヤアシネヘ」

じぶつら（名）澁面　不滿足ニテ、意ノ、澁リ居ル時ノ顏色ニ云フ語。ニガニガシキ顏。澁面。

じふて（名）腫　肉ノ腫。「字鏡「腫、[illegible]也、志布天」

じふて（名）十手　じって（十手）ノ條ヲ見ヨ。「博多小女郎波枕（享保、近松作）下「十手提ゲ、クルクルト、押、取リ卷キテ」

じふてつ（名）十哲　じってつ（十哲）ノ條ヲ見ヨ。

じふと（名）舅〔じひとノ轉〕じうと（舅）ヲ見ヨ。

じぶと（名）死人　じびと（死人）ノ訛。

じふとく（名）拾得　ヒロヒ、トルコト。「[illegible]杜光庭[illegible]拾得小石[illegible]遺失物ヲ拾得ス」

じふとく（名）十德　じっとく（十德）ノ條ヲ見ヨ。

じぶとぐさ（名）〔死人草ニテ、臭氣ヨリ云フカ〕どくだみ（蕺草）ノ異名。

じふとくよのばかま（名）十德四幅袴　十德ニ、四幅袴ヲ着クルコト。古ヘ、犬追物ニ、矢取、犬牽、馬ノ口取、ナドノ服裝。

じぶとし・キ・ケレ・ク・ク（形、一）〔強ひたしノ略カト云フ〕難ニ堪ヘテ強シ。懲リズマニ、強情ナリ。ヅウヅウシ。「著聞集、[illegible]政道忠臣「此酒、[illegible]じぶとき鳥[illegible]ノ音ニテ」盛衰記、十八、[illegible]「[illegible]張牛ノ[illegible]ニテ、心ノ、じぶとく[illegible]ニシテ、親ノ教訓ヲモ聞カズ」

じふとな（名）舅　じうとニ同ジ。「[illegible]記、下、第四[illegible]、シフトヲ」

じふにいんえん（名）十二因緣　佛經ノ語、人ノ、前生ヨリ今生ニ生レ出デ、老イテ死シ、又、次ノ世ニ生ルル順序。卽チ、無明、行、識、名色、六處、觸、受、愛、取、有、生、老死ノ十二ノ因果ノ關係。「朗詠集、下、山寺「三千世界眼前盡、十二因緣心裏空」平家物語[illegible]佛ノ假名ヲ聞ツトイヘドモ、法性隨妄ノ雲、厚ク覆ヒテ、十二因緣ノ峯ニ靉キシヨリ以來、本有心蓮ノ月ノ光、幽ニシテ、未、三毒、四慢ノ大虛ニ遍レズ」

じふにうん（名）十二運　運命ノ、胎、

養、長、冠、帝、沐、臨(以上、吉)、衰、病、死、墓、絶(以上、凶)、ノ十二ヲ、年ニ配シテ、其運リ當レル年ニ就キテ、吉凶ヲ云フコト。うけむけノ條ヲ併セ見ヨ。

じふに-かい（ジュウ-ニ-カイ） (名) [十二階] (一)推古天皇ノ御宇ニ、制定セラレシ位階。德、仁、禮、信、義、智、ノ六ツニ區別シ、更ニ之レヲ、大、小、ニ分テリ。(二)モト東京、淺草ノ公園內ニアリシ、十二層ノ高塔。

じふに-きう（ジュウ-ニ-キュウ） (名) [十二宮] (宮ハ星垣、天ヲ劃スルニ垣ヲ以テス、禮記、儒行篇註「宮、牆垣也」) 太陽ノ纏度ヲ記セル帶ヲ十二ニ分テル稱、總天ヲ周環シ、幅ヲ十六度トシ、十二ニ分チ、白羊宮、金牛宮、雙女宮、巨蟹宮、獅子宮、室女宮、天秤宮、天蠍宮、人馬宮、摩羯宮、寶瓶宮、雙魚宮トナシ、皆、星宿ノ象ニテ名ヅク。

じふに-ぐわつ（ジュウ-ニ-ガツ） (名) [十二月] 年ノ、第十二ノ月。年ノ、終リノ月。シハス。極月(ゴクゲツ)。臘月。除月。大呂、

じふに-し（ジュウ-ニ-シ） (名) [十二支] えとノ條ヲ見ヨ。

じふに-じ（ジュウ-ニ-ジ） (名) [十二時] とき(時)ノ條ヲ見ヨ。

じふに-しちやう（ジュウ-ニ-シチョウ） (名) [十二指腸] (指、十二本、竝ベタル長サナレバ、云フ) 醫術ノ語、小腸(セウチヤウ)ノ上部、胃ニ接スル處。十二指腸蟲トハ、寄生蟲ノ一、菜食ニ起因シ、腸ノ內部ニ食ヒツキ、血ヲ吸フ、其蟲ハ、田、畑、沼、ノ中ニ居リ、野菜ニツキテ、ロニ入ルコト、多シ、此ノ蟲ノ雄ハ、長サ三分餘、雌ハ四分內外ニテ、小腸ニ宿ル、初、十二指腸ニ居ルト見テ、名アリトゾ。

じふにしちやう-ちゆう（ジュウニシチョウ-チュウ） (名) [十二指腸蟲] 前條ヲ見ヨ。

じふに-じんしやう（ジュウ-ニ-ジンショウ） (名) [十二神將] 佛經ニ、十二ノ護法ノ神。卽チ、宮毘羅(クビラ)(金比羅)大將、伐折羅(バサラ)大將、迷企羅大將、安底羅大將、頞儞羅大將、珊底羅大將、因達羅大將、波夷羅大將、摩虎羅大將、眞達羅大將、招杜羅大將、毘羯羅大將、ノ稱。平家物語、二、座主流事「彼レラ父子ガ名字ヲ書イテ、根本中堂ニオハシマス十二神將ノウチ、こんぴら大將ノ左ノ御足ノ下ニ蹈マセ奉リ、十二神將、七千夜叉、時剋ヲメグラサズ、西光法師父子ガ命ヲ召シ取リ給ヘヤト、ヲメキ叫ンデ、呪詛シケル」

じふに-しよ-ごんげん（ジュウ-ニ-ショ-ゴンゲン） (名) [十二所權現] 熊野三所權現(クマノサンショゴンゲン)ノ條ヲ見ヨ。

じふに-てうし（ジュウ-ニ-チョウシ） (名) [十二調子] 十二律ニ同ジ。歌儛品目、二、律呂聲調「十二調子」注「十二律ヲ、我ガ邦ニテハ、十二調子ト稱シ來タレリ」

じふに-てばこ（ジュウ-ニ-テバコ） (名) [十二手匣] 假粧用ノ、十二種ノ手匣。卽チ、毛たれ箱、元結箱、捏墨(コネズミ)、香匣、ふし箱、香具箱、折鏡立、櫛入、おしろいとき、油桶、鬢水入、假粧水入、ノ稱。

じふに-とう（ジュウ-ニ-トウ） (名) [十二燈] 錢、十二文ヲ、佛閣ニ獻ズルコト。藥師佛ニ、病ノ平癒ヲ祈リテ、燃燈スルヨリ起リテ、四十九燈、二十四燈、十二燈ナド、アリ、錢ヲ以テ燈ニ代ヘテ、(錢、十二文ヲ紙ニ包ミテ)スルコトナリ、後ニハ、神社ニモ及ブ。難波鑑(延寶)六、天王寺ノ庚申ハ、云云、詣集シテ、十二燈、云云、トヨバハル聲モ、カマビスク」正章千句「ネギゴトヲ言ヒテ捧グル、十二灯」

じふに-の-おんぞ（ジュウ-ニ-ノ-オンゾ） (名) [十二御衣] 次條ヲ見ヨ。

じふに-ひとへ（ジュウ-ニ-ヒトエ） (名) [十二單] (襲衣(シタギ)ノ單(ヒトヘ)ヨリ、名トス) 女官ノ裝束ノ稱、許サレテ、服ス、先ヅ、白小袖ヲ着、其上ニ單(ヒトヘ)、五衣(イツツギヌ)、表衣(ウハギ)ヲ重ネ、打掛ニ着テ、其上ニ唐衣(カラギヌ)ヲ着ル、袴ハ、緋ノ精好(セイガウ)ニテ、背ノ腰ニ、別ニ裳(モ)ヲ着ク、其五衣ハ、練貫ノ袷ニテ、色、相、同ジ、表衣ハ、別ニ織物ナリ、唐衣ハ、素襖ノ如ク、裄(ユキ)、短ク、腰マデニテ、織物ナリ、裳ハ、白ノ生絹(スズシ)ニテ、繪ヲカク。又、十二の御衣(オンゾ)。長門本、平家物語、五、厳島次第事「壺ノ中ヨリ、メデタキ貴女ノ、十二重ニナリ見エ給ヘルガ、我ハ是、西ノ國ニアリツルガ、思フ心アル故ニ、ハルカニ還旅セリ」盛衰記、四十三、一位禪尼入海事「既ガ(?)事、眼手マデ下テ、御髮ヲカラ卷テ、御舟へ引入奉ル、豬生ノ末ノ事ナレバ、藤重ノ十二單ヘノ御衣ヲ召レタリ」(古ヘハ、綿入ナシ、單ヲ、多クカサヌ) 榮華、第十一、今日ノ御衣、中濃キ紅梅ノ十二、の御ぞニ、同ジ色ノ御ヒトヘ、紅ノ打チタル、萌黃ノ御ウハギ」

じふに-ひとへ（ジュウ-ニ-ヒトエ） (名) [夏枯草] 草ノ名、古名、ウルキ、又、ウルヒ。山中ノ陽地ニ生ズ、莖、方ニシテ、紫色ナリ、高サ三五寸、葉ハ、をぐるまニ似テ、鋸齒アリ、對生ス、莖、葉ニ、白毛多シ、春夏ノ交、莖ノ頭ニ、穗ヲナシテ、密ニ五瓣ノ小花ヲ綴リ開ク、大キサ三分許、本ハ筒ナリ、白クシテ、紫ヲ帶ブ、又、紫碧ノモノ、白色ノモノモアリ、花ノ後、蕚中ニ、小子、四粒アリ、夏月、熟シテ、枯レ、後ニ、舊根、復、生ズ。倭名抄、廿、草類「夏枯草、蘇敬本草注云、宇流木、五月枯、故以名之」本草和名、上「夏枯草 宇留比」

じふに-ぶんに（ジュウ-ニ-ブン-ニ） (副) [十二分] (十分以上、尙、二分多キニテ、十分ヲ強メテ云ヒタルナリ) 思フ存分ニ。「十二分ニ滿足ス」「十二分ニ御馳走ニ預カル」

じふにん-しう（ジュウニン-シュウ） (名) [十人衆] 江戸ノ兩替屋ノ中ニテ、幕府ノ爲替方ヲ勤ムル家ヲ、爲替組方十人組ト稱シ、又、十人衆トモ云ヘリ、元祿四年六月、爲替用達ヲ命ゼラレタルニ起ル、其家家モ、交替アリシガ、幕末ニハ十一人ニテ、駿河町三井次郎右衞門、三井三郎、三井元之助(以上、三井組)、南茅場町竹川彦十郎、三田上、新網町荒木伊右衞門、品川町奧田仁右衞門、尾張町島田八郎左衞門、田所町小野善助、駿河町上田三郎右衞門、上田傳之助、上田次助(以上三人、上田組)ナリ。

じふにん-と-いろ（ジュウニン-ト-イロ） (句) [十人十色] 十人、寄レバ、氣ハ、十心(トゴコロ)ナルコト。左傳、襄公三十一年「人心之不レ同、如二其面一焉」

じふにん-なみ（ジュウニン-ナミ） (名) [十人竝] 人ノ容貌(ミメ)、伎倆(ワザ)、ナドノ、尋常(ヨノツネ)ナルコト。ヒトナミ。尋常一樣。假名手本忠臣藏、七、竹田出雲、九、親ノ欲目カ知ラネドモ、本ニ、ソナタノ器量ナラ、十人なみニ勝ッタ顔」

じふにん-びけし（ジュウニン-ビケシ） (名) [十人火消] ひけし(火消)ノ條ヲ見ヨ。

じふに-らう（ジュウ-ニ-ロウ） (名) [十二郎] 猿樂ヲ演ズルモノ。貞丈雜記、二「十二郎、將軍家ヘ猿樂ニ參ル事、云云、十二郎ハ、猿樂ナリト、年中恒例記ニ見エタリ」

しふにりつ (名) 十二律 音樂ノ調子ノ上ニ、壹越、斷金、平調、勝絶、下無、雙調、鳧鐘、黃鐘、鸞鏡、盤渉、神仙、上無、ノ十二ノ稱。又、十二調子。



自然ノ聲音ヲ、宮、商、角、徵、羽、ノ五音トシ、其音ノ高低ヲ次第スルモノ、即チ、十二ノ調子ナリ、コレヲ、壹越ヨリ唱ヘ始ムレドモ、末ノ上無ニ次グモノハ、壹越ニテ、循環シテ止マザルコト、上ノ圖ノ如シ。十二律ニ因リテ、五音ヲ定ムルニハ、宮ヲ主トシテ、商ハ、宮ヨリ高キコト、二律ナリ、羽ハ、徵ヨリ高キコト、二律ナリ、他ハ、圖ヲ見テ知ルベシ。宮ト、徵トノ兩音ヲ、和合音トス、其音ニ高低アレドモ、相親和シテ、其調ヲ同ジウス、スベテ、和合音ヲ、圖ニ就キテ定ムレバ、左ヨリ環リテハ、第八ニ當リ、右ヨリ環レバ、第六ニ當ルヲ制トス、故ニ、圖ノ如ク、姑ク、宮ヲ壹越ト定ムルトキハ、徵ハ、左環シテ、第八ノ黃鐘ナリ、然レドモ、若シ或ハ、宮ヲ下無ト定ムレバ、徵ハ第八ノ上無トナルナリ、餘ハ、此理ニテ知ルベシ。前圖ノ中ニ記入セル黃鐘(黃鐘ト、異ナリ)、大呂、等ノ稱ハ、支那ニテ、十二律ノ名目ニシテ、前ノ十二律ト相配シテ云フ。コレヲ、又、十二箇月ニモ配當シテ、稱ス、即チ、太簇(正月)、姑洗(三月)、蕤賓(五月)、夷則(七月)、無射(九月)、黃鐘(十一月)、以上ヲ六律トモ云フ、夾鐘(二月)、仲呂(四月)、林鐘(六月)、南呂(八月)、應鐘(十月)、大呂(十二月)、以上ヲ、六呂トモ云フ

しふねがる (自動、四) 執念 執念深クスル。 落窪物語、二「…ふねがりテ、」

しふね・し・キ・ケレ・ク・ウ 形、二 執念 「次條ノ執念ノ音ヲ活用ス」 執念深シ。音便ニ、しうねしトモ云フ。シツイ。シツコイ。ネツイ。 源、廿四、胡蝶「…後レハ、しふねく止メテ、マカリニケルニコソ」 同、三十三、藤裏葉「今ヒトタビ見奉ル世モヤト、命ヲサヘしふねうナシテ、念ジケルヲ」 同、三十一、槙柱「アヤシウ、しふねき御モノノケニ、ワヅラヒ給ヒテ」 落窪物語、二「ホトホトしうねく、心深クナムオハシケル」

しふねん (名) 執念 佛經ノ語、固ク己レガ了簡ヲ執リテ、他ニ移ラヌ一念。深ク思ミ込ミテ、動カヌコト。執着ノオモヒ(多ク、頑ナナル意ニ用ヰル) [illegible]

じふねん (名) 十念 十遍、念佛ヲ唱フルコト 榮花物語、十八、玉臺「九品蓮臺ノ有樣ナリ、或ハ、年比ノ念佛ニヨリ、或ハ最後ノ十念ニヨリ、云云」 盛衰記、十一、[illegible]入道[illegible]臨終正念ニ住シテ、三百餘箇ノ花、[illegible]ニ十念稱名ノ聲、絶エズ」 山家集、下「夢サムル、鐘ノ響ニ、打チソヘテ、十度ノ御名ヲ、唱ヘツルカナ」 拾玉集、二「[illegible]願ハクハ、[illegible]シ、身ヲトトリテ、十聲唱ヘン、[illegible]」

じふねん (名) 十念 淨土宗ニテ、信者ニ、六字ノ名號ヲ授ケテ、佛ニ結緣セシムルコト。

じふの (名) 次條ノ語ノ略。

じふのう (名) 十能 (五德ニ對シテ云フ語カ、便用ナリトノ名ナルベシト云フ) 炭火ヲ盛リテ運ブ器、銅鐵製ニテ、木柄アリ。ヒトリ。オキカキ。(京都)ヒカキ。(南部、奥州) 火斗 遷火 臺ヲツケタルヲ、臺十能ト云フ。 木石居煎茶訣、上「じふのう、用ニ遷火、古ニ火斗ナド云ヒテ、火ヲ運ブ器ナルガ、煎茶家ニハ、極メテ小サキヲ良シトス」

じふのしま (名) (十のしまニテ、あほノ字ノ析字、癡呆ノ隱語、十九日ノ類) オロカモノ。アハウ。バカ。

しふはい (名) 集配 (收集分配ノ略) (一)アツムルコトト、クバルコトト。 (二)次條ノ語ノ略。

しふはいにん (名) 集配人 郵便物ヲ集配スル人。郵差 信人

じふはう (名) 什寶 寶トシテ、秘藏スル什物 [illegible]、天正ノ末、近衞龍山公、豐臣秀吉公ト、御中、不和ニシテ、龍山公ハ、筑紫ヘサマラヘ、三歳ノ程テ居ラシ給フ、後、ココニ歸ク[illegible]給フ、其ノ時、什寶多ク、離散シケルトゾ」

じつぱう (名) 十方 四方(東、西、南、北)ト、四維(乾、坤、巽、艮)ト、上、下、トノ稱 [illegible]「十方三界世尊面」 太平記、十三、龍馬進奏事「普門品ニアル二句ノ偈ヲ、[illegible]ニ書キテ授ケサセ給ヒテ、毎日ニ、十方ヲ一禮シテ、此文ヲ唱フベシト仰セラレケル」

じつぱうぐれ (名) 十方闇 十方暮 曆ニ、甲申ノ日ヨリ、癸巳ノ日マデノ十日ノ稱、此ノ間、干支、多ク相剋シ、陰雨ヲ主ル故ニ、十方ノ氣、閉ガリテ、諸事ヲ行フニ凶ナリト云フ [illegible]ニ、謂フ所ノ、十方ぐれ」

しふはうしや (名) 襲芳舍 又、しふぼうさ。カミナリノツボ。內裏十二舍ノ一。 [illegible]十一[illegible]襲芳舍、在凝華舍北、加美奈利乃豆保、以[illegible]雷鳴壺」

じつぱうせかい (名) 十方世界 佛經ノ語。全世界 (十方ノ條ヲ參見セヨ) 謠曲、羽衣「[illegible]出世ノ古ヘ、十方世界ヲ定メシニ」

しふはちがゆ (名) 十八粥 陰曆正月十八日ニ食フ小豆粥。大師供養ノタメニ行フト云フ。 東都歳事記、一、正月十八日、大師粥ト稱シテ、貴賤、小豆粥ヲ食ス(又、十八日がゆトモ云フ、元三大師ヘ供養ノ心ナルベシ)」

じふはちこう (名) 十八公 (松ノ字ノ異體ナル、枩ノ字ヲ析キテ、三字トシテ云ヘルナリ) 松ノ異名。又、十八の公。 三國志、吳志、孫晧傳、注「丁固、夢松樹生其腹上、謂人曰、松字、十八公也、後十八歲、吾其爲公乎、卒如夢焉」 朗詠集、下、松「十八公榮霜後露、一千年色雪中深」 謠曲、高砂「松ハ萬木ニスグレテ、十八公ノヨソホヒ、千秋ノ緑ヲナシテ、古今ノ色ヲ見ズ」

じふはちこくしゆ (名) 十八國主 江戸時代、大名ノ、十八家ノ國主 即チ、前田家、島津家、伊達家、細川家、池田家、淺野家、毛利家、鍋島家、藤堂家、蜂須賀家、山內家、上杉家、黒田家、等ノ稱 (國主ノ條ヲ參見セヨ)

じふはちささげ (名) 十八豇 じふろ

くささげノ條ヲ見ヨ。小町踊、夏「アダ花ハ、ニク(憎ニ、二九ヲ言ヒカク)ノ十八、ささげカナ」

ぢふ-はち-の-きみ (名) ［十八公］ ぢふはちこう(十八公)ニ同ジ。毛吹草(寛永)五、春「十八の、きみハ御門ノ、飾リカナ」

ぢふ-はち-ばん (名) ［十八番］ 歌舞伎十八番ノ略、其條ヲ見ヨ。

ぢふ-はっ-ぱん (名) ［十八般］ 種種ノ藝事。「武藝十八般」

ぢふ-ばん (名) ［十番］ ぢふばんぢたて(十番仕立)ノ略。

ぢふ-ばん-うらがき (名) ［十判裏書］ 三奉行、總ベテ十人ノ捺印アル、評定所ノ日安裏書。憲教類典、四、評定「在方之モノ、公事訴訟ニ就キ逗留中、雜用金銀出入、平日十判裏書」

ぢふ-ばん-ぎり-の-ま (名) ［十番斬間］ 江戸時代、江戸城内ニテ、曾我時致ガ十番斬ノ繪ヲ書ガキタル間。

ぢふ-ばん-ぢたて (名) ［十番仕立］ 〔江戸、麻布ノ十番(新掘割ノ時ニ立テシ、十番ト云フ、工事ノ標杭ノ、殘リテアリシヨリ、地名トナル)ニ、馬乘アリテ、用キシヨリ起ル〕 馬乘袴ノ、襠、甚ダ高ク、裾、甚ダ廣キ製ノ名。略シテ、ぢふばん。

しふ-ばり (名) ［澁張］ 澁紙ヲ以テ、張ルコト、又、其物。嬉遊笑覽、二、下「篭籠ノ制作、云云、篭籠ノ注文、長三尺三寸五分、横下一尺四寸、上一尺八寸五分、軒ノ出端一寸五分、但、四方共、甕木端一寸角、鐵物腰ノ縁六分四方ノ折廻シ、但、四方ニツカ一本ヅツ入、腰ノ籠外ヨリ見エ候、高三寸五分、但、澁張」

しふ-ふく (名) ［集福］ 幸福ヲ、寄セ集ムルコト。太平記、四十、中殿御會事「五山第二ノ招提ナレバ、聊爾ニモ、攘災、集福ノ懇祈ヲ專ラニスル、大伽藍ナルニ」

ぢふ-ぷく-ちゃ (名) ［十服茶］ 茶道ニテ、十服ノ茶ヲ、飲ミ試ミルコト。(下ノ出典ヲ見ヨ) 塵添壒囊抄、四、三十四條「十服茶ハ、記錄ニ、回茶ト書、又、廻ト書ハ、圓座ニシテ飲巡スル心歟、廻ト書ハ、誤也、又ハ、貢茶共云、豈、メグル心ナランヤ、十服茶法、茶、三種ヲ以テ、各、四服ヲ褁テ、各一服ヲ取テ試トス、仍、殘所、三三九服也、不レ試茶一種アルガ故ニ、是ヲ、客ト云也、是ヲ、三種試ト云也、近來ハ、茶、三種ヲ以テ、各、三服ヲ褁テ、客ヲ加フ、仍テ、是ヲ、褁 攻共云、无試茶共云也、最初ニ聞ヲ、一ト定テ、札ヲ不レ打故ニ、一種試共云也、是ヲ、回茶ト云、回ハ、顏回ガ回也、聞レ一ヲ知レ十、故ニ、爾云也、又、貢 茶ト云モ、子貢ガ貢也、子貢ハ、聞レ一ヲ以テ知レ二云リ、以三四種一成二十服一茶ナレバ、一種ヲ以三服ヲ褁ムヲ、聞レ一知レ二、即知レ三ヲ也、同ジ茶ナルガ故ニ、四ケ度ニ知所ハ劣ナレドモ、十ヲ知哉同キガ故也、論語云、回也聞レ一ヲ以テ知レ十ヲ、賜也聞レ一以知レ二ヲ、賜トハ、子貢ガ名也」

ぢふ-ぶん (名) ［十分］ 物事ノ、全ク具ハリ、滿チ足ヒタルコト。缺クルコトナキコト。充分。

ぢふ-ぶん-に (副) ［十分］ 全ク滿チ足ヒテ。タップリ。孔平仲、詠菊詩「花開已十分」

しふ-ぼく (名) ［輯睦］ 和ラギ、ムツブコト。左傳、僖公十五年「喪レ君有レ君、羣臣輯睦」

しふ-ほん (名) ［摺本］ ヲリホン。誤リテ、板本。(摺ハ、楷ト、字形、似タルニ因リテ、誤レルナリ)

ぢふ-まん-おく-ど (名) ［十萬億土］ 極樂ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。盛衰記、九、善光寺炎上事「西方、十萬億土ヲ過ギテ、佛、オハシマス、其ノ名ヲ、阿彌陀佛ト云フ」

ぢふ-まん-きゅう (名) ［十萬弓］ かまぼこゆみ(蒲鉾弓)ノ條ヲ見ヨ。「秀衡十萬弓、槻材ニ、竹ヲ、腹合ハセニ伏セタリ、普通ノ弓ノ、腹、背、竹ヲ伏セタルト、異ナリ、丸木弓ト、普通弓トノ中間ノ物カト云フ、長サ、七尺五寸一分、幅、握上ニテ一寸、厚サ、同所ニテ九分四厘、握ニ、葛ヲ纏フト」(考古學雜誌)

しぶ-み (名) ［澁味］ (一)シブキ、アヂハヒ。(二)クスミタル趣キ。「しぶみノアル着物ノ柄」

し-ふん (名) ［脂粉］ (一)べにト、おしろいト。紅粉。史記、佞幸傳「孝惠時郎侍中、皆冠二鵔鸃一貝帶、傅二脂粉一」 (二)ケシャウ。粉飾。庾信詩「額除珠玉麗、河陽脂粉妍」

し-ふん (名) ［私憤］ 〔公憤ニ對ス〕 ワタクシノ、イキドホリ。私事ニ就キテノウラミ。何中、讀二晉史一詩「天步政多艱、此豈私憤時」「私憤ヲ訴フ」

し-ふん (名) ［鴟吻］ くつがた(沓形)ノ條ヲ見ヨ。

し-ぶん (名) ［詩文］ 詩ト、文章ト。(各條ヲ見ヨ)

し-ぶん (名) ［斯文］ コノ文。コノ道。コノ學問。論語、子罕篇「天之將レ喪二斯文一也、後死者不レ得レ與二於斯文一也」

し-ぶん (名) ［士分］ 侍タル身分。「家中ノ士分ノ者」

し-ぶん (名) ［支分］ 枝葉ニ、分ツコト。中庸章句序「支分節解、脈絡貫通」

し-ぶん (名) ［衆分四分］ しゅぶん(衆分)ノ訛。まうくゎん(盲官)ノ條ヲ見ヨ。

じ-ふん (名) ［自奮］ ミヅカラ、發奮スルコト。漢書、常惡傳「自奮レ募一」

じ-ふん (名) ［自刎］ ミヅカラ、頸ハヌルコト。自ラ、我ガ首ヲ斬ルコト。自剄。史記、循吏傳「遂不レ受レ令、自刎而死」

じ-ぶん (名) ［時文］ (一)支那ニテ、現今、行ハルル文章。(古文ニ對ス) (二)應試ノ時ノ文體。歐陽修、記二舊本韓文後一文「是時天下學者、楊劉之作、號爲二時文一」

じ-ぶん (名) ［時分］ トキ。ヲリ。コロホヒ。時機。太平記、十六、船坂合戰事「三石ニアリシ勢ハ、皆、熊山ニ向ヒタル時分ナレバ、關ハントスルニ、勢ナク」「時分、良シ」「イツ時分」「時分ヲ伺フ」

じ-ぶん (名) ［自分］ オノレ。自身。自己。「自分ノ事ハ、自分デ爲スル」

じ-ぶん (代) ［自分］ 自稱ノ代名詞。我レ。オノレ。自己。吾。「自分ノ思フ所デハ」

じぶん-がら (代) ［時分柄］ 時節ニ相應シタルコト。時節ガラ。

し-ぶん-ご-れつ (句) ［四分五裂］ 箇箇、別別ニ、裂ケ分カル。秩序ナク、分裂ス。史記、張儀傳「天下四分五裂」

じぶん-めんきょ (名) ［自分免許］ 自分ノミ、得意トナルコト。ヒトリヨガリ。ウヌボレ。自誇。「自分免許ノ學者」

ぢふ-めん (名) ［澁面］ 〔しぶつらノ當字音讀〕 シブツラ。苦イ顏ヲスルコト。ベソヲカクコト。艷狩劍本地(寶永、近松作)二「堅イ御使者ナラバ、ぢふめん作ッタ侍衆モ、多ケレド」

ぢふ-も (副) ［什麼］ 〔佛經ニ、支那、宋代ノ俗語、何ノ意、唐書、百官志「不レ知而問曰二拾沒一、俗譌爲二什麼一」〕 何ヤラ。ドノヤウナ。イヅレノ。イカン。ソモ。

じふもく ジユウ・モク (名) 十目 多ク人ノ目。衆目。 大學「十手所ﾚ指、十目所ﾚ視」

じふもじ ジユウ・モジ (名) 十文字 次次條ニ同ジ。 古今著聞集、十六、興言利口「土器二ツヲ打合セテ、[illegible]色紙ニテ十文字ニ結ゲタルヲ取出シテ云云」

じふもつ ジユウ・モツ (名) 什物 〔什、數也(史記、五帝紀、漢書、平帝紀)常用ノ器、一ツニアラズ、衆人共用ノ器ノ意ヨリ轉ズ、韻會「什、雜也、聚也、乃是一切受用器物也」〕 (一)ツケワタリノ器。傳來ノ器具。ウツハ。ダウグ。 後漢書、宣秉傳「[illegible]」 (二)什寶。

じふもんじ ジユウ・モンジ (名) 十文字 (一)十ノ字ノ形。十字形。 太平記、二「[illegible]十文字ニ掻キ切ッテ」 (二)身ヲ、前後、左右ニ[illegible]ス狀ニ云フ語。 平家物語、四、橋合戰事「[illegible]手、カク繩、十文字、蜻蛉返、水車、八方不ﾚ透切リタリケリ」 (三)次條ノ語ノ略。 (四)次次條ノ語ノ略。 [illegible]「[illegible]門、六具シテ、十文字ヲ杖ニ突キ」 (五)道路ノ、四辻ノ稱。十字街。

じふもんじぐつわ ジユウモンジ・グツワ (名) 十文字轡 轡ノ(一)ノ一種。鏡ニ、十字形ノ透彫アルモノ。 貞丈雜記、[illegible]、馬具「十文字轡、古代ヨリ有シ物ナリ、永正日記ニ、十文字轡、小十文字轡ノ名、見エタリ、[illegible]小笠原[illegible]十文字轡ノ圖、有リ」 [illegible]九年)廿一日ニ、十文字ノ御轡、ハミヲ直サセ、進上申由、直ニ被ﾆ仰付ﾆ候、一、御轡、二月廿三日、[illegible]、直ニ進上申候、[illegible]小十文字、[illegible] 中[illegible] [illegible]、[illegible]アリ、[illegible]ク明ラカニ、珍物也ト勅アリシヨリ、明珍ト名乘ト

云、今世ノ槍、出雲槍ナリ、宗介ガ作リシ形ナルガ故ニ、出雲槍ト云フナルベシ」

じふもんじやり ジユウモンジ・ヤリ (名) 十文字槍 〔鎌槍、直槍ナドニ對ス〕 穗先ノ、十字形ヲナシタル槍。 由良家傳記「虎ノ皮ノヒッ敷懸ケテ、十文字ノ鑓ヲ持ナ[illegible]」

じふもんせん ジユウ・モン・セン (名) 十文錢 寶永ノ當時ニ、一箇ガ、十文ニ當リシ通用錢。當十錢。 貨幣秘錄「當十錢事、寶永五年戊子四月、京都七條錢座ニ於テ、新ニ大錢ヲ鑄ル、大錢一文ヲ以、並錢十文ニ換フ、世ニ是ヲ、十文錢ト云フ、背文、永久世用ノ四字、內郭ニアリ、寶永通寶、是ナリ、徑リ一寸二分、重サ二匁、同六年己丑正月、大錢ヲ廢ス」

じふや ジユウ・ヤ (名) 十夜 淨土宗ノ法會。陰曆十月六日ヨリ十五日マデ、十日、十夜ノ間、法要ヲ修スルモノ。 本朝高僧傳(釋祐崇)「[illegible]十八、相模ノ光明寺ニテ修ス、[illegible]夜念佛ヲ唱フルハ、祐崇ヨリ始マル(明應ノ頃ナリ、阿彌陀經、及、念佛ヲ諷唱シタルナリ)」 浮世風呂(文化、三馬)[illegible]「去年ノお十夜ニ、[illegible]寺樣へ御通夜ヲシタラ」

じふやく ジユウ・ヤク (名) 〔蕺藥ノ音ト云フ、或ハ云フ、馬ニ飼ヒテ十種ノ效アレバ、十藥ノ義ナリト〕 草ノ名、どくだみニ同ジ

じふやだこ ジユウヤ・ダコ (名) 十夜蛸 〔前前條ノ十夜ノ頃、出ヅト〕 又、コダコ。蛸ノ、小サキモノ。小八梢魚

じふよっかとしこし ジユウヨッカ・トシコシ (名) 十四日年越 古ヘ、正月十五日ヲ、十五日正月ト呼ビシヨリ、其ノ前日ナル十四日ヲ、年越トシテ祝ヒタル稱。 故實拾要、三「十四日年越[illegible]、六日ノ御祝ノ規式ニ同ジ」

しふらい シユウ・ライ (名) 習禮 禮儀、作法ノ豫行。

ウヱナラシ。 史記、孔子世家「與ニ弟子ﾆ習ﾆ禮大樹下ﾆ」 式部省式、上「凡賀正之日、云云、[illegible]須ﾚ令ﾆ習禮ﾆ」 北山抄、三、朝賀「王卿有ﾆ[illegible]、前兩三日、[illegible]八省院ﾆ習禮」 著聞集、三、公事「[illegible]竪カニ大内ニ御宰ナリテ白馬節會ノ習禮アリケリ」

しふらい シユウ・ライ (名) 襲來 襲ヒ、來ルコト。攻メ來ルコト。 太平記、廿六、芳野炎上事「[illegible]皇居ヘ襲來仕ル由、聞コエ候[illegible]」蒙古襲來」

じふらせつによ ジユウ・ラセツ・ニヨ (名) 十羅刹女 佛經ノ語、鬼子母神眷族ノ十人ノ鬼女。

じふりがっぱ ジユウリ・ガッパ (名) 十里合羽 たびがっぱ(旅合羽)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

しぶりかは シブリ・カワ (名) 澁皮 しぶかは(澁皮)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。 好色一代男(貞享)四、三「しぶり皮ノ剝ケタル女ハ、心ノママ、[illegible]シテ、手足モ荒レズ」

しぶりしぶり (副) 澁澁 シブシブナガラ。イヤイヤナガラ。 夫木抄、廿九「世ノ中ハ、秋ニナリユク、若栗ノ、しぶりしぶりヤ、ヱミテ過ギナム」

しぶりばら (名) 澁腹 下痢ニシテ、澁リテ、善ク通ジガタキモノ。結痢

じふりやう ジユウリ・ヤウ (名) 十兩 相撲ニ、番付ノ第二段ニ居ル者ノ中、初ノ十人(今ハ十二人)ノ稱。一ニ十兩格ト云ヒ、(昔ハ給金十兩)其首ナルヲ俗ニ貧乏神ト云フ。

じふりやうさつ ジユウリヤウ・サツ (名) 十兩札 だじやうくわんさつ(太政官札)ノ條ヲ見ヨ。

じふりよう ジユウリ・ヨウ (名) 十陵 王朝時代、年ノ終リニ、荷前ノ使ヲ立テテ、諸國ヨリ奉レル物ヲ供進スル、十ノ陵。(下ノ出典ヲ見ヨ) 三代實錄、一、天安二年十二月九日、詔「定ﾆ

十陵四墓ﾆ、獻ﾆ年終荷前之幣ﾆ、天智天皇山科山陵、在ﾆ山城國宇治郡ﾆ、春日宮御宇天皇(光仁父施基)田原山陵、在ﾆ大和國添上郡ﾆ、天宗高紹天皇(光仁)後田原山陵、在ﾆ大和國添上郡ﾆ、贈太皇太后高野氏(桓武母后、新笠)大枝山陵、在ﾆ山城國乙訓郡ﾆ、桓武天皇柏原山陵、在ﾆ山城國紀伊郡ﾆ、贈太皇太后藤原氏(平城嵯峨母后、乙牟漏)長岡山陵、在ﾆ山城國乙訓郡ﾆ、崇道天皇(桓武皇太子早良)八島山陵、在ﾆ大和國添上郡ﾆ、先太上天皇(平城)楊梅山陵、在ﾆ大和國添上郡ﾆ、仁明天皇深草山陵、在ﾆ山城國紀伊郡ﾆ、文德天皇田邑山陵、在ﾆ山城國葛野郡ﾆ

しぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 澁 〔澁ノ活用〕 (一)滑カナラズ。シブシブナリ。障ハリテ、通ゼズ。スラスラト、通ラズ。キシム。澁滯 百練抄、十四、仁治元年正月十五日「吉田社[illegible]神殿御戶、不ﾚ被ﾚ開、元日七日、安平被ﾚ開了、今日澁固、有ﾆ其恐ﾆ事也」 (二)不得心ニテ、進ミテセズ。否ム心アリ。シブクル。 著聞集、四、文學「明日持テ參レト云ハセテ返シケレバ、使、しぶる氣色ナガラ、持テ歸リケリ」 宇津保物語、藏開、上六十五「左衞門督ナドモ、イタクしぶリシヲ、制シ宜ヒテ」 夫木抄、廿九、栗「世ノ中ハ、秋ニナリユク、若栗ノ、しぶりしぶりヤ、ヱミテ過ギナム」 落窪物語、三「迫メテしぶらムモ、サバカリニテ、待チ宿ビ、ウタテケレバ、渡リ給ヒテ」 吾妻鏡、六、文治二年四月八日「靜女、云云、恥辱之由、日來內內、雖ﾚ澁ﾆ申之ﾆ」

しふれん シユウ・レン (名) 習練 ナラフコト。練習。 三國志、魏志、武帝紀、注「[illegible]兵少、新兵不ﾆ習練ﾆ」

じふろく ジユウ・ロク (名) 十六 次條ノ語ノ略。 浮世風呂(文化、三馬)四編、中「唐茄子、十六角豆、冬瓜」

じふろくささげ ジユウロク・ササゲ (名) 十六豇 ささげノ一種、莢ノ、長ク垂ルルコト、一尺餘ニ至ルモノ、豆、多クシテ、肥エタルハ、十六、乃至、十八粒アリ、故ニ、十八ささげノ名モアリ、未熟ナルハ、莢ト共ニ食フ

ベシ、豆ノ色、淡紅ナリ。ナガササゲ、略シテ、じふろく。裙帶豆

ジュウロク・ゼンジン
じふろく-ぜんじん (名) 十六善神 佛教ノ語、十二神將ト、四大天王トノ稱。運歩色葉集「十六善神（藥師十二神將、加二四天一也）」

ジュウロク・トウ
じふろく-たう (名) 十六島 うつぷるいのり（十六島海苔）ノ條ヲ見ヨ。

ジュウロク・ムサシ
じふろく-むさし (名) やさすがりノ遺物。むさしノ條ヲ見ヨ。竇菟玖波集（寛永二）二、道カクル、人ノオ與ヘチハ長ク、サセルむさしハ、上手ニテ」夢見草（明暦二）取テ荷フ、シシハ十六、むさしカナ」

ジュウロク・ヤ
じふろく-や (名) 十六夜 陰暦十六日ノ夜ノ稱。多ク、いざよひノ月ニ就キテ云フ。既望

ジュウロク・ラカン
じふろく-ラカン (名) 十六羅漢 〔羅漢ハ、阿羅漢ノ略、其條ヲ見ヨ〕佛經ノ語、佛勅ヲ受ケテ、壽命ヲ延長シ、永ク此ノ世ニ住シテ、正法ヲ守護スルト云フ、十六人ノ阿羅漢。即チ、舍利弗、目揵連、迦葉、迦旃延、俱絺羅、離婆多、周利槃陀伽、難陀、阿難陀、羅睺羅、憍梵波提、賓頭盧頗羅墮、迦留陀夷、劫賓那、薄拘羅、阿㝹樓馱、ノ稱。（阿彌陀經）謠曲、舍利「大唐ヨリ渡リタル十六羅漢、又、佛舍利ヲモ、拜ミ申シタク候フ」

ジュウワウ
じふわう (名) 十王 (一)佛經ニ、地獄ニ居ル、十人ノ王。（地府ノ十王、十干ノ義、其五ヲ、閻魔ト稱シ、最尊トス）即チ、秦廣王、初江王、宗帝王、五官王、閻魔王、變成王、泰山王、平等王、都市王、轉輪王、ノ稱。盛衰記、九、中宮御產事「鬼類ノ柄トシテ、猛火ノ中ニ侍リ、其ニダニモ、十王トモ申シ、十神トモ名附テ、十體ノ神、床ヲ並テ住給ヘリ」(二)特ニ、閻魔ノ稱。太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「冥途ノ十二閻ナル處ニ、御手嚴シク結ビテ、押籠メ奉ルアリサマ、只、地獄ノ罪人ノ、十王ノ廳ニ渡サレテ、頸械、手枷ヲ入レラレ、罪ノ輕重ヲ糺スランモ、カクヤト思ヒ知ラレタリ」謠曲、泰山府君「散リ來テ、何カ殘リノ雪ノ、消エバヤ花モ、命ノ定メ、梵釋十王閻魔宮、五道ノ冥官、泰山府君ノカヲ稱ノ、櫻木ノ櫻」

シュウ-イ
しふ-ゐ (名) 拾遺 (一)遺レルヲ、拾フコト。漏レタルヲ、補フコト。史記、汲黯傳「汲黯願出二入禁闥一補二拾遺一闕」(二)官名、侍從ノ唐名。下學集、上、官位門「侍從（注、拾遺）」(三)薫物ノ名。沈香、檀香、麝香、龍腦、薫陸、等ノ粉末ニ、甲香ヲ和シテ、蜜ニテ煉リ合ハセタルモノ。

シュウ-エ
しふ-ゑ (名) 集會 しふくわい（集會）ニ同ジ。太平記、十八、先帝潛二幸吉野一事「滿山ノ衆徒ヲ語ラヒ、講堂ニ集會シテ、僉議シケルハ」

しべ (名) 蘂蕊蘂 〔總ノ轉、總ベ括ル意カ〕(一)花ノ中心ニアルモノ、多クハ、極メテ細ソキ莖ノ端ニ、黄粉アリ、即チ、草木ノ生殖ノ機ニテ、雄蘂、雌蘂ノ二アリ、雌ハ多ク、中ニアリ、雄ハ多ク、周ニアリ。蘂。倭名抄、廿、木具類「蘂、和名之倍、花心也」源、廿八、野分「花ハ、限リコソアレ、ソソケタルしべナドモ、打雜ルカシ、人ノ御カタチノ佳キハ、譬ヘム方ナキ物ナリケリ」(二)薄、茅ナドノ莖ノ、すべすべスルモノ。袖中抄、二「綺語抄云、薄ノしべノ限リヲ拔キテ」

しべ (名) 稭 わらしべノ條ヲ見ヨ。和玉篇「稭、ワラシベ」

し-へい (名) 死兵 死ヌル覺悟ノ兵士。決死ノ兵。

し-へい (名) 私兵 〔官兵ニ對ス〕自己ノ率キル兵。手勢。陸奥話記「頼時貸、散位藤原朝臣經清、平永衡、等、皆叛、舅、以二私兵一從二將軍一、悉二軍潛進一」

し-へい (名) 紙幣 貨幣ニ代用スル、カミノフダ。金銀錢ノ札。紙錢。楮幣

じ-へい (名) 時弊 當時ノ弊害、時事ノ、惡シキ所。時病。晉書、熊遠傳記「省二非急之費一以救二時弊一」宋史、陳舜傳「疏二陳三十條一皆切二於時病一」（病ハ、弊ニ通ズ）「時弊ヲ指摘ス」

じ-へい (名) 辭柄 モノイヒノタネ。イヒグサ。口實。「藉リテ、辭柄トナス」

シヘイ-リョウ
しへい-れう (名) 紙幣寮 明治ノ初年、紙幣製作ニ關スル事ヲ掌リシ所。

シヒョウ
し-へう (名) 四表 四方ノ外。書經、堯典篇「欽明文思安安、允恭克讓、光二被四表一格二于上下一」

シ-ヒョウ
し-へう (名) 師表 〔表ハ、容ヲ見ンガタメニ立テタル木、望ミテ、標準トス〕人ノ模範。師範。儀表。史記、太史公自序「國有二賢相良將一民之師表也」後漢書、黃憲傳「潁川荀淑至二愼陽一遇二憲於逆旅一時年十四、淑竦然異之、揖與語、移レ日不レ能レ去、謂レ憲曰、子、吾之師表也」

ジ-ヒョウ
じ-へう (名) 辭表 官位ヲ辭スルニ、奉ル狀。新儀式、五「五位已上上表事、新任大臣辭表、第二度、只返二其表一、第三度、遣二勅答一不レ許レ之」

し-へき (名) 四壁 (一)四方ノ壁。韓非子「四壁堅」頌「茜帷堅」之文（假文選附）史記、司馬相如傳「乃與馳歸、家居徒四壁立」注「家空無二資儲一、但有二四壁一而已」(二)アタリ。マハリ。隣近所。四鄰。高適詩「一擲千金渾是膽、家徒四壁不レ知レ貧」大東雜記、宋、劉克莊「市四壁有二四百餘店一、重屋延閣、互相臨映」

シエタグ
しへた-ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲ・ケヨ（他動、下二）虐 〔しへハ、強ひト通ズ（字鏡六二「蹙、耳志比」天治字鏡、二十一「韓、彌彌志戸」字鏡七十「鸊、波奈志戸」屎放、屎戸ニ揚グル意ヲ云フ）挐グト云フ語アリ（其條ヲ見ヨ）手ヲ、上下、左右ニ動カスナリ、妨ぐ、たぐ、同ジ〕非道ニアツカフ。苛ク、慘クス。セタグル。シヒタグ。靈異記、中、第四條「有二一力女一云云、嫁二三野狐一、依二彼於人物一而取レ念レ試之」訓釋「蹤、師倍太計」保元物語、三、爲朝鬼島渡事「鬼神ヲ奴トシテ召仕、人民ヲ虐ル由ヲ訟申ケレバ」續紀、五、和銅五年五月甲申「郡司、云云、制斷合レ理、獄訟無レ冤」名義抄「侵、シヘタグ」「淩、シヘタグ、ヲカス」「冤、シヘタグ」字類抄「虐、シヘタグ、セタグル、イヂメル」

シエタゲル
☆**しへた-げる** (動) 虐 前條ノ語ノ口語。

し-べつ (名) 死別 〔生別ニ對ス〕シニワカレ。杜甫、夢二李白一詩「死別已吞レ聲、生別常惻惻」

し-へん (名) 四邊 (一)四方ノハテ。四方ノ邊境。朱超道、夜泊二巴陵一詩「月夜三江靜、雲霧四邊收」(二)アタリ。マハリ。四圍。(三)數學ノ語、四個ノ邊。（邊ノ條ヲ參照セヨ）「四邊ノ直線形」四邊形」

し-べん (名) 支辨 アテガヒ。仕拂。遣拂。支發。「入費ヲ支辨ス」

じ-へん (名) 事變 へんじ（變事）ニ同ジ。史記、平準書「貧、以二禮義一防二于利一、事變多レ故、而亦反是一」「北清事變」

じ-へん (名) 時變 トキノ、ウツリカハリ。時代ノ變遷。史記、貨殖傳「若二趨避之隨一也不レ知二時變一」

じ-べん (名) 自辨 自ラ、入費ヲ仕拂ヒテ、物ヲ調フルコト。「食費ヲ自辨ス」

シホ
しほ (名) 鹽 〔白穗ノ略カト云フ〕(一)〔潮水ニテ製スル、鹹キモノ、潮水ヲ沙

[illegible]ト[illegible]、[illegible]セテ、[illegible]
[illegible]ノ
如シ、其他、製法、種種アリ。又、山鹽モ、アリ。(其條ヲ見ヨ)食ニ、鹹味ヲ與ヘ、又、[illegible]用ヰ、又、[illegible]
[illegible]鹽、白鹽、[illegible]和之保、人常所ㇾ食也、又有[illegible]
[illegible]
[illegible]鹽氣不ㇾ作ㇾ疾、其音響七里、醍醐曰(長歌)「枯野ヲ、[illegible]
[illegible]
るトハ、鹽漬ニナス。醃藏　鹽を出すトハ、水ニ浸シテ、鹽氣ヲ去ル。[illegible]シヲス、[illegible]トハ、[illegible]
ハ、世ノ經驗ヲ積ム。又ハ、所帶ジム。
[illegible]文化[illegible]、上アレモ、オメヘ、[illegible]ハ、チット道樂ダッケガ、今デハ、鹽がしみタカ、ソレハソレハ、大人シクナッテ、ヨク稼ギマス」　(二)
[illegible]ニ漬ケタルコト　シホゾケ　[illegible]
[illegible]「志ほアマシ」志ほカラシ」志ほガ利ク」

志ほ　(名)　[illegible]〔[illegible]ノ[illegible]、潮ノ上ゲ〕シホワ潮、夕ノヲ汐トイフ(康熙字典[illegible])」
(一)[illegible](潮)ノ(一)ヲ見ヨ。[illegible]
[illegible]
一鳴こ」萬葉集、十五[illegible]之保待ツト、アリケル舟ヲ、知ラズシテ、惜シク妹ワ、別レ來ニケリ」新古今集、十六、雜、上「和歌ノ浦ニ、月ノ出汐ノ、サスママニ」
(二)潮ノ滿引ノ汐合ノ意ヨリ轉ジテ、ホドアヒ。ワリ。シホアヒ。時節。機會。
[illegible]ニモ淺ギ」散木集、七、雜、上「水ノ海ト、落ツル淚ヘ、ナリニケリ、逢フベキ志ほモ、ナキト聞クヨリ」「稻ノ刈リ志ほ」ソレヲ志ほニ言ヒ出ス」

志ほ　(名)　師保　師トシテ、教授、及、保育スルコト。又、其人　[illegible]下[illegible]
「无ㇾ有二師保一如ㇾ臨二父母一」書經、君[illegible]「昔周公、[illegible]

志ほ　(名)　師輔　師トシテ、輔導スルコト。又、其人　[illegible]

志ほ　名　[illegible]　見習ノ職。[illegible]

志ほ　(接尾)　入　(汐合ノ意ニテ、染ムル浸染ノ度合ニ寄セテ云フ語カト云フ、或ハ、[illegible]意ニテ、酒ヲ造リ、色ヲ染ムル汁ノ義カト云フ」)浸シテ染ムル度ヲ數フニ云フ語。染　萬葉集、十九[illegible]
ノ、八[illegible]ニ[illegible]テ、オコセタル、衣ノ襴モ、[illegible]ニ[illegible]
ヌ」[illegible]ノミ、[illegible]レル松ノ、[illegible]ほト
カハ、[illegible]ルベカルラム」[illegible]「[illegible]山、
[illegible]ノ、[illegible]スミレ、[illegible]、[illegible]ほ、[illegible]レカ染メケン」
[illegible]入、シホ一「初志ほ」二志ほ」千志ほ」

志ほ　(名)　[illegible]「[illegible]ノ語根[illegible]」鳥ノ肌ニ作リ、僞ス[illegible]、粗キヲ、大志ほト云ヒ、密ナルヲ、小志ほナドト云フ。[illegible]文又、革ニモ云フ。

志ぼ　(名)　思慕　思ヒ、慕フコト。戀慕
[illegible]

志ぼ　(名)　慈母　(一)イックシミ深キ母。又、單ニ、母。史記[illegible]
[illegible]
(二)ヤシナヒ親。保母。養母。義母
[illegible]

志ぼ　(名)　字母　假名、梵字、洋字、等、音ヲ綴リ成ス母トナル程ノ字ノ稱。玉海
[illegible]百八十四[illegible]別錄三十四[illegible]」[illegible]

志ぼ　(名)　字模[字母]　活字ノモトトナルベキ、鑄型ヲ造ル型。
八[illegible]

志ほあきうど　(名)　鹽商人　鹽ヲ商ナフ人　シホウリ、[illegible]
ト、[illegible]
ニ[illegible]入ズ

志ほあし　(名)　潮葦　海邊ニ生フル葦。住吉歌合(大治)判「汀ナル、潮葦ニ紛フ、蘆荻ハ、ヨシトゾ見ユル、[illegible]」夫木抄、廿八「[illegible]タル、コヤノ荒レヨリ、洩ル月ヤ、見シ[illegible]あしノ、メニモ有ルラン」

志ほあひ　(名)　汐合　(一)潮水ノ、差引ノ程。汐時。後拾遺集、九、[illegible]アナシ吹ク、瀬戸ノ志ほあひニ、舟出シテ」　(二)潮ノ、滿チ合フ所。古今集、十七、雜、上「ワタツ海ノ、[illegible]ツ鹽あひニ、浮ブアワノ、消エヌモノカラ、寄ル方モナシ」夫木抄、十七「夕月夜、滿ツ志ほあひノ[illegible]ヲナミ、[illegible]レテ、鳴ク千鳥カナ」同、廿五、[illegible]伊勢記云、云云、コノワタリヲ、志ほあひト云フ事ハ、[illegible]西ノ淺ヨリ滿チクル志ほノ、ココニ行カヘベナルベシ」
(三)ヲリ。ホドアヒ。コロ。機會　用明天皇[illegible]、近松作、四[illegible]ノ[illegible]合ヨキゾ、乘ッ取レ」「志ほあひヲ計ル」

志ほあま・し・キ・ケレ・ク・ク　形、一　鹽甘〔志ほからしノ反〕鹽氣、淡シ。ウスジホナリ。「志ほあまき[illegible]」志ほあまき魚」

志ほあゆ　(名)　鹽鮎　鰹鮎ニ同ジ。

志ほいり　(名)　潮入　池沼ナドニ、海水ノ、通ヒテ入ルコト。又、其所。

志ほうす　(名)　鹽臼　〔臼ハ、打棄ノ義カ、すハ、物ヲ入ルルヨリ云フ」〕鹽ヲ入[illegible]

[illegible]
白二口」

志ほうみ　(名)　潮海　[illegible]潮水ノ、湛ヘタル海(みづうみニ對ス)　土佐日記、十二月廿三日「イト怪シク、志ほうみノ邊ニテ、戲レアヘリ」

志ほうり　(名)　鹽賣　鹽ヲ、賣リアリクモノ。七十一番[illegible]、[illegible]うり、昨日ノ[illegible]ノ[illegible]マデ、今日[illegible]ハレ人モガナ」[illegible]
五、上、[illegible]一人[illegible]テ、[illegible]トテ云フ」

志ほうり　(名)　みづすまし(水黽)ニ同ジ。

志ほおし　(名)　鹽壓　蔬菜ナドヲ、鹽ニシテ、石ニテ壓シテ、漬クルコト、多ク、香ノ物ニ云フ。[illegible](文化、三[illegible])[illegible]、中「鹽押シノ茄子ヲ、地獄落シヘ掛ケタト云フ、ヒシャゲタ[illegible]」

志ほがかり　(名)　潮繋　潮時ヲ待チテ、舟ヲ泊ムルコト

志ほかぜ　(名)　潮風　潮時ノ風　海上ノ風。新古今集、十二[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ニ吹ク[illegible]ス、鹽風ノ、ナルトハスレド、手ニハタマラズ」夫木抄、十六「[illegible]、志ほ風荒キ、[illegible]ノ上ニ、ツマ木折リタキ、[illegible]レ[illegible]カスラン」

志ほがひ　(名)　潮間　潮ノ引キタル間。シホマ　[illegible]ノ海ノ、清キ渚ノ、[illegible]之保[illegible]ニ、ナノリソヤ摘マン、貝ヤ拾ハン」

志ほがひ　(名)　潮貝　潮ノ中ニ棲息スル貝。海中ニ棲ム貝。古今集、十九、長歌「伊勢ノ海ノ、浦ノ鹽貝、拾ヒ集メ、採レリトスレド」雅親集、下「知ラセバヤ、カラキ思ヒノ、汐貝ニ、混ノ玉モ、拾フ[illegible]ヲ」

志ほがひ　(名)　鹽貝　鹽漬ニシタル、貝ノ肉。好色一代女(貞享、西鶴)五、石垣の[illegible]れ「酒ヨリ前ニ、志ほがひ食ウテシマヒ」

しほ-がま (名) [鹽竈] (一)潮水ヲ、鹽ニ煮作ルニ用ヰル竈。古今集、十六、哀傷「君マサテ、煙絶エニシ、しほがま(鹽ノ竈ト、地名トヲ兼ヌ)ノ、ウラ(浦ニ、心ヲカク)淋シクモ、見エ渡ルカナ」(二)乾菓子ノ名、みぢんこヲ砂糖ニ和シテ、固メテ、方形ニ切レルモノ、初、陸前ノ鹽竈浦ニテ製シ出シタルニ起ルト云フ。(三)次條ノ語ノ略。

しほがま-ざくら (名) [鹽釜櫻] 〔葉マデ(落デ)見事ナリト云フ意ナリトゾ(松岡玄達、櫻品)〕 櫻ノ一種、陸前國、鹽竈神社ノ前ニアリ、高サ三間、蟠蜿五間、太サ四尺三寸ナリ。略シテ、しほがま。堀河天皇ノ御製「アケクレニ、サゾナ愛デ見ム、鹽竈ノ、櫻ノ本ニ、海人ノカクレヤ」井筒業平河内通(享保、近松作)鹽竈振分髪「彼岸櫻ノ雪ト散レ、煙トナレヤ鹽釜櫻」

しほ-から (名) [鹽辛] 魚介ノ肉ニテ、鹹ク作レル肉醤。醢 魚醤 腸ニテ作レルヲ、わたしほからト云フ。鱁鮧 今昔物語、廿八、第五語「鯵ノ鹽辛、鯛ノ醤ナドノ諸ニ、鹽辛キ物共ヲ盛タリ」

しほから-ごゑ (名) [鹽辛聲] シハガレタル聲 シャガレゴエ。栗稗錄「貴耳集ニ 溫台人、其聲皆鮑魚音矣ト、今ノ鹽から聲ニヤ」

しほ から・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [鹽辛] 〔しほあましノ反〕 しほはゆし、しははゆしニ同ジ。鹹 今昔物語 廿八、第五語「鹽辛き、干タル鯛ヲ切テ、盛タリ」名義集 鹵、シホカラシ、シハハユシ」鹹、シホカラシ」又、俗ニ、吝シ。吝嗇ナリ。

しほから-とんぼ (名) [鹽辛蜻蛉] 蜻蛉ノ一種、身ノ、黑クシテ、白キ絣ノ模樣アルモノ。

しほ-がれ (名) 〔汐涸ノ義ナラム〕 汐干ニ同ジキカ。新千載集、六、冬「波越サヌ、浦ノ千鳥ノ、しほがれニ、心ト起チテ、鳴ク千鳥哉」師兼卿千首、下「浦遠キ、浪花ノミツノ、汐がれニ、折リハヘ漁ル、蜑ノ少女子」

しほ-き (名) [鹽木] 鹽竈ヲ焚クニ用ヰル薪。師兼卿千首、戀「鹽木積ム、阿漕ガ浦ノ、浦人モ、カラキ思ヒニ、戀リズヤハアラヌ」夫木抄、廿四、安嘉門院四條「早河(箱根)、云云、木ノ、多ク流ルルヲ、イカニト問ヘバ、蜑ノ鹽木流スト云」

しほ-ぎぬ (名) 絹ノ一種。宇治拾遺、一、第十六條「しほぎぬノ襖ト云フ物、着テ、帶シテ、若ヤカニ、瑕ゲナキ女ドモノ」

しぼく (名) [四木] 樹木ノ四種、卽チ、桑、楮、漆、茶、ノ稱。大和本草、二「四木、桑、楮、漆、茶ニ昔ヨリ字書節用集、十、數量門、亦、同ジ」

しぼく (名) [紙墨] かみト、すみト。後漢書、鄧皇后紀「方國貢獻、競求ニ珍麗之物一、自ニ后卽ワ位、悉令ニ禁絕一、歲時、但供ニ紙墨一而已」

しぼく (名) [司牧] 人民ヲ、統ベ治ムルコト。又、其官。牧民ノ官。地方長官。左傳、襄公十四年「天生ニ民而立ニ之君一、使ニ司ニ牧之一」

しほ-くび (名) [鹽首] 槍ノ穗先ノ、柄ニ接續シタルトコロ。本朝三國誌(享保、近松作)二「素槍ノ鹽首、ムズト掴ンデ」傾城八花形(元祿、錦文流)一「ツノ槍先、叔母御前ノ肋骨下ニ、グサト立テ、しほくび越シテ、蜜カケバ」

しほ-くみ (名) [潮汲] (一)鹽ニ製スル潮水ヲ、汲ムコト。又、其人。謠曲、融「御身ハ、此アタリノ人カ、サン候、此所ノ汐汲ニテ候」(二)蝶ノ類、花ヲ吸ヒテ、暫シモ止マラズ、飛ビメグルモノ。

しほくみ-ぐるま (名) [潮汲車] 潮ヲ汲ミタル桶ヲ載スル車。謠曲、松風「潮汲車、僅カナル、浮世ニ廻ル、ハカナサヨ」

しほ-ぐもり (名) [潮曇] 〔霜曇り、同趣〕 潮ノ氣ニヨリテ、海上ノ、クモルコト。謠曲、融「潮曇ニカキ紛レテ、跡モ見エズナリニケリ」夫木抄、十六「しほ(ほイ)ぐもり、潮風荒キ、礒ノ上ニ、ツマ木折リタキ、誰レ明カスラン」

しほ-け (名) [潮氣] 海上ノ露氣ノ、立ツコト。潮ノ氣。潮風ノ濕。水煙 浮雲 浮霧 萬葉集、二、長歌「神風ノ、伊勢ノ國ハ、奥ツ藻ノ、靡キシナミニ、鹽氣ノミ、カヲレル國ニ」同、九「二十「鹽氣立ツ、荒礒ニハアレド、ユク水ノ、過ギユク妹ガ、形見トゾ來ル」

しほ-け (名) [鹽氣] 鹽ノ味。鹽分。鹹味「漬物ノ鹽氣」

しほ-けぶり (名) [鹽烟] 〔土けむり、ト云フ語モアリ〕 鹽竈ノ烟、鹽燒ク烟。新後撰集、十二、戀、二「須磨ノ浦ノ、餘リニ燃ユル、思ヒ哉、燒クしほけぶり、人ハ靡カデ」夫木抄、廿五「ナゴノ浦ニ、燒ク鹽けぶり、空ニノミ、我ガ名ヲ立テテ、ヤマントヤスル」

しほ-けむり (名) [潮烟] 潮水ノ波ノ、礒ニ碎ケテ、飛ビ散ルモノ。海水ノ飛沫。最明寺殿百人上臈(元祿、近松作)上「蹄ニ蹴立ル潮烟、隔テノ霧ト立塞ッテ」

しほ-ごし (名) [鹽越] 潮ヲ、汲ミ送ルコト。穆忠後百首「鹽ごしハ、カケ樋モ埋ム、雪間ヨリ、イカデタクモノ、烟立ツラン」

しほ-ごり (名) [鹽垢離] 海水ニテ、御禊ヲスルコト。潮ヲ浴ルコト。後鳥羽院熊野御幸記、建仁元年十月十一日「參ニ切部王子一、入ニ宿所一云云、於ニ此宿所一、鹽垢離カク」

しほ-ごろも (名) [潮衣] (一)潮汲ノ衣服。潮ヲ汲ム時ニ着ル着物。謠曲、松風「イザイザ、汐ヲ汲マントテ、汀ニ滿干ノ潮衣ノ、袖ヲ結ンデ肩ニ掛ケ」(二)〔潮氣ノ附キタル衣。林本集、名立チケル女ノ、十首詠ミテ送リケル「しほ衣、蜑ノ身カトゾ、思ヒケル、ウキ世ニフレバ、着ヌ人モナシ」

しほさい-ふぐ (名) 〔しほさいハ、潮先ノ音便、或ハ、しほさゐカトモ云ヘド、サル古言ノ、カカル魚名トナルベシヤ〕 河豚ノ類、形、小サク、毒ナク、腹ノ脹ルルコト、最モ甚シキモノ。しょうさいふぐ。イソフグ。皇都午睡、三編、上、上方ト江戸トノ言語ノ相違ヲ云フ處「名古屋鰒ヲ、鹽さい鰒」

しほ-ざかな (名) [鹽魚] 〔生魚ニ對ス〕 鹽漬ニシタル魚。醃魚 好色一代女(貞享、西鶴)六「ソレゾレノ鹽肴取リ出シ、カリソメノ樂ミ」

しほ-ざかひ (名) [潮境] 潮流ノ、分カルル境。國性爺合戰(正德、近松作)四「唐ノ姫宮相住ヲ、邊リ隣リモ浮名立テ、唐ト日本ノ汐ざかひ、チクラ沖カト疑ヘリ」

しほ-さき (名) [潮先] (一)潮ノ、滿チ來ル時。シホハナ。穆忠集「湊川、岸打ツ波ノ、荒クシテ、しほさき濁ル、五月雨ノ頃」萬代集、十四、雜、一「風渡ル、浦ノ湊ノ、しほさきニ、波乘リ越エテ、鷗鳴クナリ」(二)物事ノ、始マル時。シホドキ。又、恰モ好機。略シテ、しほ。落窪物語、一「イデ、此ノしほさきニ、手ナササヘソ」散木集、七、戀、上「水ノウミト、落ツル涙ハ、ナリニケリ、アフベキしほモ、ナキト聞クヨリ」夫木抄、三十六「誰レモ皆、惜シキしほニ、アヒニケリ、波モ音セヌ、四方ノ海カナ」(三)月ノ出シホ。

しぼさつ (名) [四菩薩] (一)佛敎ノ語、菩薩ノ四柱、卽チ、觀音、彌勒、普賢、文珠、ノ稱。謠曲、舍利「佛法東漸トテ、三如來、四菩薩モ、皆、日域ニ地ヲ占メテ」(二)數珠ノ百八ノ珠ノ以外ニアル、四ツノ珠ノ稱。

しほさば（名）鹽鯖　鯖ノ、鹽漬ニシタルモノ。生ノ鯖ニ對シテ云フ

しほさゐ（名）潮騷［潮騷ノ轉カ、又、潮先動ノ約カト云フ］潮ノ滿チ來ルトキ、浪ノ、騷騷ト起ツコト。浪ノ、高ク音立テテ、潮ノ、滿チテ鳴ルコト。萬葉集、一廿［illegible］キ島曲ヲ」同、十一「［illegible］ノ、浪ノ鹽左騷、［illegible］

しほしほと（副）萎萎　萎萎と、ノ條ヲ見ヨ。

しほしほと（副）濡レツホソル狀ニ云フ語。シホホニ。シヨボシヨボト。シッポリト。シトト［illegible］「しほしほと、先ヅ泣カルル、カリソメノ、ミルメノ磯ノ、スサビナレドモ」山家集、下「濡リ衣テ、我ガ身ニ纏フ、唐衣、しほしほとコソ、泣キ濡ラサルレ」

しほじむ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［幾入モ染ム意］［illegible］松中納言物語、三「此方ニしほじみタル人ハ、イカニ［illegible］」

しほじむ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）潮染　潮水ニ染ム。潮氣ニ濕ル。シホナル。源、十三、明石「世ヲウミニ、ココラしほじむ、身［illegible］」

しほじり（名）鹽尻［illegible］ノ、堆キ處ヲ尻トシテ、しほじり尻ナリト云フ、或ハ、鹽代カ（鹽代、ゐやじり）苗代、網代］（一）［鹽籠ニテ、沙ヲ積ミ上ゲテ、圓ク高ク、塚ノ如クシタルモノ、コレニ、潮水ヲ沒ミカケテ、日ニ曬ス。［illegible］富士ノ山ハ、云云、形ハ、しほじりノヤウニナムアリケル」（二）すりばち（擂鉢）ノ一名。後日男草子（正德）「女房ハ、御所方ニ奉公セシトテ、今ニ、其ノウツリアッテ、シホラシク、［illegible］アルフ、［illegible］山トハタテ、ナリハしほじりノヤウニ、萬ヅニキヤシヤナル云ヒヤウ」

しほじる（名）鹽汁　鹽水［illegible］

しほず（名）鹽酢　鹽ト、酢ト、混シタルモノ、鯖生姜ナドヲ、漬ク、

しほせ（名）潮瀨　海中ノ潮ノ流レ路、即チ、船ノ通ル所。シホヂ。ミナト。ミヲ。潮門［illegible］

しほせ（名）鹽瀨　菓子ノ名、奈良ノ鹽瀨氏ノ製スル饅頭、名高シ

しほぜ（名）鹽瀨　織物ノ名、緯絲ヲ太クシテ織リタル帛。

しほせん（名）子持錢（ぜに（錢）ノ條ヲ見ヨ）［illegible］

しほせんべい（名）鹽煎餅　米ノ粉ニ、鹽ヲ加ヘ、捏ネ固メテ、炙リ燒キテ、淡ク醬油ヲ延キタルモノ

しほた（名）鹽田　シホハマ。鹽田（エンデン）

しほたうぢ（名）潮湯治　潮水ヲ浴マスルコト。ウシホタウヂ。海水浴。尾張名所［illegible］

しほだし（名）鹽出　鹽漬ノ物ヲ、水ニ浸シテ、鹽氣ヲ除クコト。「鯖ノ鹽だし」

しほだち（名）鹽斷　鹽氣アル食物ヲ、斷チテ、食ハザルコト。茶だちナドノ類（立願ノ行ナドニ）宇津保物語［illegible］

しほだはら（名）鹽俵　鹽ヲ入レタル俵。米俵ナドニ對ス。［illegible］

しほだら（名）鹽鱈　鱈ノ、鹽漬ニシタルモノ。乾鱈ノ對

しほたる・ル・ル・レ・レ・レ・レヨ（自動、下二）潮垂（一）潮水ニ濡レテ、雫、垂ル。（蜑ノ袖ノ濡レタルニ云フ）源、十二、須磨「［illegible］ガツム、ナゲキノ中ニ、しほたれテ、イツマデ［illegible］ノ、［illegible］」（二）轉ジテ、涙ニテ、袖、濡レツホヅ。宇津保物語、藤開、中「聲イトオモシロキ人ノ、誦ジタレバ、イトオモシロク情切シケレバ、聞シメス帝モ、御しほたれ給フ、［illegible］ヲ流シツツ、仕ウマツリ給フ」［illegible］ノ、涙ハ、泣キしほたれ［illegible］集、十二、戀、二「アサリスル、蜑ノ衣ニ、アラネドモ、しほたれテナホ、袖ノ上哉」（三）又、轉ジテ、泣キ入ル。嘆キニ沈ム。源、一、桐壺［illegible］しほたれガチニノミ、オハシマス」同、十、榊「イト哀レニテ、打チしほたれ［illegible］」（四）齋宮ノ忌詞ニ、哭ク。死者ヲ哭ス。［illegible］

しほたれごろも（名）潮垂衣　潮ニ濡レタル衣。又、涙ニ濡レタル衣［illegible］六、秋、中「［illegible］蜑ノ、しほたれ衣、干シヤラデ、サナガラ宿ス、秋ノ夜ノ月」

しほぢ（名）潮路（一）［ウミツヂ。シホセ。海中ニテ、潮ノ流ル筋アリテ、流レ通ル所多クハ、滿潮ノ時ニ云フ。潮流　六月晦大祓祝詞「荒鹽ノ鹽ノ八百道ノ、八鹽道ノ鹽ノ八百會ニ座ス、速開都姫ト云フ神」（二）船路。海路。千載集、一、春、上「霞シク、春ノしほぢヲ、見渡セバ、緑ヲ分クル、沖ツ白浪」［illegible］「夕田ニ、都遠カニ、眺ムレバ、心ノハテモ、ナキしほぢカナ」

しほぢ（名）鹽地　樹ノ名、はりぎりニ同ジ。夫木抄、廿九［illegible］

しほぢ（名）新發意　しんぼちノ（一）ニ同ジ。源、五、若紫［illegible］ノ守、しほちノ娘ノ、カシヅキタル家、イトイタシカシ」

しほつ（名）死没　死ヌルコト。ミマカルコト。死去。死亡

しほつき（名）鹽坏［坏ハ、土器ノ義、酒つき、高つき、同意］鹽ヲ盛ル土器。

齋宮寮式、野宮年料供物「埦坏六合」儀式、四、踐祚大嘗祭儀「御鹽坏十六口」

しほ-づけ（名）鹽漬　肉、菜ナドヲ、鹽ニ漬ケテ貯フルコト。醃藏　好色一代女（貞享、西鶴）一「花鹽トテ云ヘルヲ、鹽漬ニシテ、是レヲ好ケル」　黑田故鄕物語「臺所賄人ヲ呼出シ、アレナル瓜ノ皮ヲ鹽漬ニシテ、臺所ニテ食ヲ吽候、菜ノ無者、多シ、是ヲノ菜ニセヨ」

しほ-つち（名）鹽椎　〔鹽之靈ノ義、野之靈モアリ〕神ノ名、卽チ、底筒男、中筒男、表筒男ノ三神ヲ、一神トシタル御名ノ稱。（鈴木重胤說）古事記、上五十六「於ㇾ是其弟泣患居海邊之時、鹽椎神來問曰、云云」

✣**しほつぱ・し**（形）しほはゆしノ口語。

しほ-づめ（名）鹽詰　罪人ヲ、鹽ニテ漬ケ詰ムル刑。御定書百箇條、重科人死骸鹽詰之事「一、主殺、一、親殺、一、關所破、一、重謀計、右之分、死骸、鹽詰之上、御仕置、此外ハ、不ㇾ及鹽詰ニ事」

しほ-で（名）鞖　〔後方手ノ約轉カ、絞手ノ略カ、或ハ云フ、鹽出ノ義、海アレバ云フト、又、四方出、四方手、四緒手ナドトモ、記セリ〕鞍ノ前輪、後輪ノ左右ノ四處ニ着クル紐、卽チ、むながい、しりがいヲ止ムルモノ。鞍橋ノ前輪、後輪ノ兩脚ノ内下ニ、穴アリ、しほでつけト云フ、後輪ノしほでヲ、古クハ、かれひつけト云ヒ、今ハ、左ニアルヲ、鳥付ト云ヒ、右ニアルヲ、物付ト云フ。倭名抄、十五「鞍馬具　鞖、之保天、鞍橋ノ皮也」　盛衰記、廿一、小坪合戰事「沖ヨリ寄來ル波ニ、足ヲ冷シ、息ヲ休メテ居タリケルガ、敵、定テ、寄逢ンズラント思ヒケレバ、鞍ガ肩ヲ、しをでノ根ニ結附テ、馬ニ打乘、弓杖ツキ」

しほ-で（名）〔細蔓ノ、物ニ絡フコト、鞖ノ如シトテ、名トス〕草ノ名、春、舊根ヨリ、苗、蔓ヲ生ズ、葉ハ、さるとりノ葉ニ似テ、縱紋多ク、柔カニシテ、互生ス、葉ノ本ニ細蔓アリテ、物ニ絡フ、花ハ、葉ノ閒ニ生ジテ、二三十、簇ル、形、色、うさぎノ花ニ似タリ、實ハ、豆ノ如ク、熟スレバ、黑シ。牛尾菜　本草和名、下四十「楊蘞　菜、之保天」　醫心方、一四「草木類「飛廉、シホテ」

しほ-でうけ（名）鞖附　前前條ヲ見ヨ。

しほ-どき（名）潮時　（一）潮水ノ、差引スル時。言選集「イカニセン、汐時ナラシ、波ノ音ノ、枕ニ高キ、シカノ浦舟」　夫木抄、廿五「二見潟、遠ノ港ヤ、イカナラム、云云」此歌、伊勢記云、云云、しほどき如何アラン、今ハ、港ニ臨ミヌランカシ」（二）シホアヒ。ヲリ。シホサキ。機會　「出宮ノしほどき」

しほ-ど・く　ク・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）〔鹽解くノ義カト云フ〕しほたるニ同ジ。濡レソホヅ。　榮花物語、十九、御裳着「時シモコソアレ、雨少シ降リテ、田子ノ袂ドモモ、しほどけタリ」　夫木抄、三十六「年フレバ、ケガシキ滿ニ、落チブレテ、濡レしほどけヌ、イトホシノ身ヤ」　狹衣、二、上十五「夜モスガラ、泣キアカシ給ヒケル御衣ノ氣色、イト、しほどけゲニテ、引キ被カセ給ヒケル」

しほどけ（副）鹽解　シホドクル狀ヲ云フ語。　千載集、三、夏「アナしほどけノ、波ノウキネヤ」　榮花物語、七、鳥邊野「御直衣ノ袖モ、しほどけニテ、出デ入リ、キコエ給フ」

しほどけ・し　キ・ケレ・ク・ク（形、二）鹽解　シホドケテアリ。濡レシホタル。シホドシ。　源、十三、明石四十二「寄ル浪ニ、立チ重ネタル、旅衣、しほどけしトヤ、人ノ厭ハム」

しほ-どころ（名）鹽地　鹽ヲ採ル地、鹽田。　仲哀紀、八年正月「以逆見海一爲鹽地」（此前ニ、魚鹽地ト云ヘル語モアリ）

しほ-ど・し　キ・ケレ・ク・ク（形、二）鹽解　前條ノ語ニ同ジ。相撲集「早苗引キ、裳裾ヨゴルト、云フ田子モ、我ガ如袖ハ、しほどからジナ」

しほ-どひや（名）鹽問屋　鹽ヲ卸賣スル問屋。　拾要抄、三、嘉永元申年四月、諸問屋株式銘書「下リ鹽問屋、同仲買」

しほ-な・ゆ　ユル・ユレ・エ・エ・エヨ（自動、下二）萎　シヲル。シナブ。　蜻蛉日記、下、中九「形ヲ打見レバ、イタウしほたえタリ」

しほ-ならぬ-うみ（名）不鹽海　〔潮海ニ對ス〕鹹味ヲ含マヌ水海。卽チ、湖水。淡水湖（琵琶湖、諏訪湖、ナド）　源、十六、關屋四「ワクラハニ、行キアフ道ヲ、頼ミシモ、猶カヒナシヤ、しほならぬうみ」　太平記、二、俊基朝臣再關東下向事「打出ノ濱、沖ヲ遙ニ、見渡セバ、鹽ならぬ海ニ、焦ガレ行ク、身ヲ浮舟ノ、浮キ沈ミ」

しほ-な・る　ル・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）潮馴　シホジム。　後撰集、十一、戀、三「鈴鹿山、伊勢ヲノ海士ノ、捨衣、汐馴れタリト、人ヤ見ルラム」　源、三、空蟬十「彼ノ、モヌケヲ、イカニ、伊勢ヲノ蜑ノしほなれテヤナド思フモ、タダナラズ」

しほなれ-ごろも（名）潮馴衣　潮ジミタル衣。　新拾遺集、十五、戀、五「須磨ノ蜑ノ、汐なれ衣、馴レキテゾ、間遠ニナルモ、恨ナリケル」　新葉集、七、離別「里ノ蜑ノ、しほなれ衣、忍ベトテ、カラキ別レノ、形見ニゾヤル」

しほ-なわ（名）鹽沫　潮の沫ノ約。鹽沫の留る限り、ナド云フ、海潮ノ滿チ行ク時ニ流ルル沫ノ、至リ留マル限リ、ノ意ニテ、四海ノ果マデ、ノ意。　新年祭祝詞「皇神能敷坐島能八十島者、谷蟆能狹度極、鹽沫能留限、云云」

しほ-に（名）鹽煮　魚類ナドヲ、食鹽ノミニテ、味ヲツクルコト。又、其料理。

しほ-の-め（名）鹽目　〔皺の目ノ轉カ、又、凶目ノ轉ト云フ〕（一）目許ヲ細クシテ、愛嬌ヲコメタルコト。嬰兒ニ敎フル藝ニ云フ。　狂言記、子盜人「ヨイ子ジャ、何モ鹽ハ無イカ、云云、しほのめ、しほのめ、是ハ、是ハ、しほのめモナルハ」　正章獨吟千句「睨ム目モトニ、マジル鹽の目」「雨ノ膝ニ、獅子本ノ子、据エナラベ」　長唄、面かぶり「カブリカブリ、しほのめ、頭テンテンヨ」（ささのめニ對ス）　當流小栗判官（元祿、近松作）四「御身ガ、小萩ヲ見ルタビニ、目ヲ細メテ、訝シイ目付ガ、氣ニ入ラヌ、四十、五十ニ餘ノテ、潮の眼ノ時分カエノ、エエ、笑止ナ」（二）欲セザル顏ツキヲスルコト。

しほ-ば（名）鹽場　（一）鹽濱。（二）鹽ノ産ズル地。

しほ-はな（名）鹽花　〔伊奘諾命ノ小門ノ禊ノ遺ナラム〕（一）白浪。（波浪ノ立ツハ、花ノ如カレバ云フ）　盛衰記、四十二、六條北政所使逢二義經一事「鹽干潟ニ附テ、山ノ岨ニ打ソフテ渡ラバ、鐙、鞍爪ノ浸ル程也、百騎モ二百騎モ、鹽花蹴立テ押寄バ、云云」（二）鹽ヲ、花ノ如ク散ラシテ、不淨ヲ祓フコト。「燧火ヲ打チ、鹽花ヲ撒ク」

しほ-はな（名）潮端　潮ノ、滿チ湛ヘムトスル初。シホサキ。

しほ-はま（名）鹽濱　潮水ヲ晒シテ、鹽ヲ煮作ル、海岸、沙濱ノ地。鹽場。鹽田。

しほ-はゆ・し　キ・ケレ・ク・ク（形、二）鹹　〔鹽映しノ義ト云フ〕鹽ノ味アリ。鹽氣アリ。シハハユシ。シホッパシ。ショッパシ。シホカラシ。カラシ。

しほ-ひ（名）汐干　（一）汐ノ、引キ去レルコト。　萬葉集、六、三十「潮干ノ潟」　同、十五、六「朝

[illegible]、[illegible]。今、[illegible]、引汐ノ潟ニ出デテ、魚ヲ漁リ、[illegible]ヲ拾ヒテ、遊ブコト。特ニ、[illegible]三月三日ノ大汐ナルニ云フ、サレド、春夏ノ交ノ[illegible]ナル日、皆、宜シ。[illegible]

しほひがた（名）汐干潟 汐干ニアラハルル干潟。[illegible]

しほひがり（名）汐干狩 前出條ノ（一）ノ見ヨ。

しほびき（名）鹽引（一）生魚ニ、鹽ヲ[illegible]、漬ケタルモノ。[illegible]（二）專ラ、鮭ノ[illegible]ナル、赤、切テ盛タリ」（二）專ラ、鮭ノ鹽漬ノ稱。生ナル鮭ノ内臓ヲ取リ去リ、鹽ニ漬ケテ、數日ニシテ成ル、其ハ、鹽ヲ腹中ニ滿テテ、わらづとニ包ミ、[illegible]、漸ク[illegible]、[illegible]

しほひのやま（名）潮干山 萬葉集[illegible]義、十六、下「潮干山ト云フハ、契沖、彼岸ナリ、潮ノ干キタル、生死海ノ乾キタル、[illegible]ニナシテ、ソレヲ假ブト云フハ、無爲ノ果ヲ顯ハナリ、潮干の山ハ、本ヨリ、サ云フ名所アルヲ、心ヲ借リテ用ホタルベシト云ヘリ、コレ、佛籍ニイハユル佛智海ヲ渡リタルヲ、彼岸ニ至ルト云フニ譬ヘタルナラン、彼岸ニ至ルヲ、涅槃トモ、寂滅トモ云テ、即チ、常樂我淨ノ四徳、[illegible]云フトゾ、コレヲ譬ヘテ、生死ニ[illegible]潮ノ乾キタル山ト云フナルベシトアルニテ、知ラルルナリ」涅槃。

[illegible]（彼岸ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。[illegible]

しほひるに（名）潮涸瓊 しほみつにノ條ヲ見ヨ。

しほふ（名）寺法 寺院ノ法規、寺ノ掟。[illegible]

しほふ（名）寶法 寶法。マジメ。スナホ。[illegible]、[illegible]ほふナル人ノ、ユルギ所アルマジキヲトテ」同、廿六、常夏五「イト驕ケリ來マホシゲニ思ヘルヲ、中將ノ、イトしほ行ノネヘ者ニ、長イ戒名ワ、ヤラレヌ寺法テ御座ル」

しほふき（名）潮吹（一）口ノ尖リタル假面。ヒョットコ。[illegible]ほふきノ面トテ、口ノ尖リタルモノアルハ、[illegible]名付ケタル面アルヲ、舉ビタルモノト思ハル」（此說イカガ）[illegible]（二）次條ノ語ノ略。

しほふきがひ（名）潮吹貝 コバカ。介ノ名。形、あさりニ似テ、殼、薄ク、紋ナク、味、劣ル。常ニ、潮ノ干潟ニアリテ、口ヲ閉ヅル時、水ハジキノ如ク、汐ヲ吹ク。[illegible]、とんび貝ト云、[illegible]ニテ、つぶト云」

しほぶた（名）鹽豚 豚ノ肉ヲ、鹽漬ニシタルモノ。醃豚

しほぶね（名）潮舟（一）潮海ヲ漕ギ行ク舟。[illegible]（二）潮時ヲ待チ居ル舟。（三）潮ヲ吸ミ入ルル舟。

しほぶろ（名）鹽風呂 鹽湯 鹽水ヲ沸シテ、浴スルモノ。[illegible]

しほほ（副）[illegible]しほほと（第二語）ニ同ジ。萬葉[illegible]

しほほ・ろ・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）沾 沾フ。シホタル。ソボツ。仁德紀、七年四月[illegible]

しほま（名）潮間 潮ノ、引キタル間。シホザヒ[illegible]ブ、濱千鳥、跡ミスサブラン、跡ナ惜シミソ」

しほまち（名）潮待［風待ト、同趣］潮時ヲ、待ツコト。[illegible]

しほみ（名）潮見 潮時ヲ、見ルコト。

しほみ（名）萎 シボムコト しぼむノ條ノ出典ヲ見ヨ。

しほみかは（名）潮皮 ひきはだ（蟇皮）ノ（一）ニ同ジ。

しほみぐさ（名）潮見草 うのはな（卯花）ノ（一）ノ異名。

しほみち（名）潮道 海中ニ、潮水ノ差引ニ、烈シク流レ行ク路筋

しほみづ（名）潮水 ウシホ。天治字鏡、六[illegible]

しほみづ（名）鹽水 食鹽ヲ、眞水ニ加ヘタルモノ。[illegible]

しほみつたま（名）潮滿瓊 次條ニ同ジ

しほみつに（名）潮滿瓊 神代ニ、彥火火出見尊ノ、海神ノ宮ニテ得タマヒシト云フ、玉ノ名、海ニ漬クレバ、潮滿チ來ト云フ。又、潮ノ涸ルヲ、潮涸瓊ト云フ。（神代紀、下）神功皇后ノ豐浦ノ海中ヨリ、如意珠ヲ得タマヒシト云ヒ、（仲哀紀）同ジ皇后ノ、龍宮ヨリ得テ、三韓ヲ征服シタマヘリト云フ、干珠、滿珠ト云フモノ（八幡宮緣起）モ、此類カ、スベテ、詳カナラズ。[illegible]命ノ、御裔ニ、齋ヒオキテ、跪クトフ、玉ニマサリテ[illegible]韓二、磯鹿島人、安曇磯良、乾滿ノ二珠ヲ得テ、獻ズ」

しほん (名) 四品 (一)親王ノ位。(品ノ條ヲ見ヨ) 官位令「親王、云云、四品」 (二)誤リテ、臣位ノ、四位ノ稱。平家物語、二、新大納言沙汰事「海賊ノ張本三十餘人、搦メ進ゼラレタリシ賞ニ、四品シテ、四位ノ兵衞佐ト申シ」太平記、一、武家繁昌事「威、萬人ノ上ニ被ルトイヘドモ、位、四品ノ際ヲ越ズ」(北條氏、累代ヲ云ヘリ)「四品ノ侍從」

しほん (名) 四品 〔四位ノ唐名ナレバ、しひんト云フベキヲ、しほんト云フハ、親王ノ位ト紛ラハシ、品ノ條ヲ見ヨ〕 徳川幕府ニテハ、大名ノ、從四位下ニシテ、侍從ヲ兼ネザルモノノ稱、從四位下侍從ノ次ニ居ル。

しほん (名) 子本 利子ト、資本金ト。元利。本利。本息。子母。韓愈、柳子厚墓誌銘「以男女質錢、約不時贖、子本相侔、則沒爲奴婢」

しほん (名) 資本 (一)モトデ。資金。資力。釋名(劉熙)「姿、資也、資取也、形貌之稟、取爲資本也」 (二)經濟學ノ語、廣、狹、二義アリ、廣義ハ、一事業ノ成立存續ノ要件タル基金ヲ云フ、此義ニテハ、個人事業、組合事業、會社以外ノ法人ノ事業、合名會社、若シクハ、合資會社ニモ、資本アリト云ヘドモ、商法上ノ狹義ニテハ、株主ノ醵出シタル基金ヲ云フモノニテ、株式會社、及、株式合資會社ニ限リテ、資本アルモノトス。

しほん (名) 紙本 〔紙ノ臨本ノ義、絹本ニ對ス、其條ヲ見ヨ〕 紙ニ書キタル書畫。范成大詩「生綃多俗格、紙本有眞蹟」

しぼ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 萎凋 〔癡シふニ通ズ〕 開キタルガ、ツボム。生アルガ、衰ヘテ、皺ミ縮ム。シナブ。シヲル。萬葉集、十八 長歌「雨降ラズ、日ノ重ナレバ、植エシ田モ、蒔キシ畠モ、朝毎ニ、之保美枯レユク、ソヲ見レバ、心ヲ痛ミ」 枕草子、十、百三十三段「御前ノ櫻、色ハマサラデ、日ナドニアタリテ、しぼみ惡ウナルダニ、侘シキニ」(造花ニモ云ヘリ) 夫木抄、卅六、述懷「皆人ノ、花ノ衣ヲ、着ル中ニ、一人ゾ老ニ、しぼみハテヌル」 字鏡三「瞘(瞘)、欲レ干也、志保牟」 同廿「蔽、之保牟」 字類抄「萎、シボム、凋、シボム」 名義抄「萎、シボム」 名詞形ニ。夫木抄、廿九「年毎ニ、撫ヅトハスレド、ユヅル葉ノ、カヒコソ無ケレ、老ノしぼみハ」

しほんがかり (名) 四本懸 蹴鞠ノ場所ノ四隅ニ植ウル、四種ノ木。けまり(蹴鞠)ノ條ヲ見ヨ。持統天皇歌軍法(正德、近松作)三「鞠、云云、四本掛リノ枝垂レテ、築地ノ上ニ雲入ノ、云云」 遊庭秘抄、上、懸事「本儀ハ、柳、櫻、松、鷄冠木、此四本也」

しほむき (名) 鹽剝 生キタル蛤、淺蜊ナドヲ、剝身ニスルコト。

しほんばしら (名) 四本柱 どへう(土俵)ノ條ヲ見ヨ。井筒業平河内通(享保、近松作)五「四本柱ハ、須彌ノ四州、多門、持國、增長、廣目ノ四天王ニ象レリ」 角力故記、土俵之事「土俵ヨリ四本柱マデ、土俵外法ヨリ三尺五寸、或ハ、六寸ニモ致レ之」

しほめ (名) 鹽目 (一)鹽ノ分量。(二)人ノ品格。人品。薩摩歌(元祿、近松作)中「袴ニ、媒人ガ、給羽織モ鹽目好キ、大縞、昆布、柳樽」

しほもの (名) 鹽物 〔生物ニ對ス〕 鹽魚、魚醬、ナドノ總稱。江戸總鹿子、五、鹽物や、小舟町、日本橋、四日市、廣小路」

しほもみ (名) 鹽揉 胡瓜ナド、刻ミテ、鹽ヲ振リカケ、手ニテ、揉ミ和シタルモノ。

しほや (名) 鹽屋 (一)鹽濱ノ、鹽竈ノ小屋。潮ヲ煮テ、鹽ヲ作ル舍。竈戸。源、十八、松風 四「哀ニモ、サルしほやノ傍ニ過シツランヲ、思シ宣フ」 新古今集、十九、神祇「立チ昇ル、しほやノ煙、浦風ニ、靡クヲ神ノ、心トモガナ」 (二)鹽ヲ賣ル商家。鹽賈 江戸總鹿子、五「鹽屋、小綱町新堀、新橋北出雲町横丁」 (三)傲慢ナル人ノ異稱。(鹽賣ノ動作ヨリ起リシト) 浮世風呂(文化)三編、上「拳ガ、キツイ鹽屋サ」 注「ウヌボレノコト」

しほやかねや (名) 〔しほからとんぼ、かねつけとんぼノ略〕 小兒ノ、蜻蛉ヲ捕ルニ云フ語。「しほやかねや、ヤンマ還セ、赤トンボ」

しほやき (名) 鹽燒 (一)潮水ヲ煮テ、鹽ニ作ルコト。又、其人。鹽丁 鹽戸 太神宮式、九月神嘗祭「宮守、地祭、鹽燒物忌等、三人」 (二)魚ノ生肉ナドニ、鹽ヲ振リ掛ケテ燒クコト。又、ソノ燒キタル肉。(照燒ナドニ對ス) 當流節用料理大全「一、石鰈、しほをやき」 江戸流行料理通大全、二「夏、江鮒、桂、鹽燒」 料理談合集「あらしほやき、鯛」

しほやきぎぬ (名) 鹽燒衣 次條ニ同ジ。萬葉集、三 四十四「須磨ノ蜑ノ、鹽燒衣ノ、フヂゴロモ、間遠ニシアレバ、イマダ着ナレズ」 源、廿、朝顏 十「しほやき衣ノ、餘リ目馴レ、見立テナク思サルルニヤ」

しほやきごろも (名) 鹽燒衣 鹽燒スル人ノ着ル衣。シホヤキギヌ。萬葉集、十一 四十「志賀ノ蜑ノ、鹽燒衣、馴ルトイヘド、戀トフ者ハ、忘レカネツモ」 古今集、十五、戀五「須磨ノ蜑ノ、鹽燒衣、筬ヲ荒ミ、間遠ニアレヤ、君ガ來座サヌ」

しほゆ (名) 鹽湯 (一)潮水ヲ沸カシテ、浴ムルコト。鹽風呂。詞花集、九、雜、上「津ノ國ニ、山路ト云フ所ニ、參議爲道朝臣、しほゆ浴ミテ侍ルト聞キテ、遣ハシケル」(山路ノ莊、菟原郡、海濱ナリ) (二)鹽氣ノアル溫泉。鹽類泉。夫木抄、廿六、溫泉「渡海ハ、遙ケキモノヲ、イカニシテ、有馬ノ山ニ、しほゆ沸クラム」 (三)堅鹽ヲ、湯ニ和シテ、物ヲ濯ギ清ムルモノ。又、白湯ニ、食鹽ヲ加ヘテ飲ムモノ。皇大神宮儀式帳、御調荷前供奉行事「赤引生糸、云云、絲遠令二編定一、御調絲入氏、鹽湯持氏清氏、御調倉進納並」

しほゆあみ (名) 潮浴 潮水ニ浴スルコト。シホタウヂ。海水浴。後拾遺集、九、羇旅「播磨ノ明石ト云フ所ニ、しほゆあみニ罷リテ、月ノ明カリケル夜、中宮ノ臺盤所ニ奉リ侍リケル」 金葉集、九、雜「しほゆあみニ、西ノ海ノ方ヘ罷リケルニ」 吾妻鏡、十八、建永二年正月十八日「將軍家(實朝)、所御精進始、爲二潮浴一御出也」

しぼり (名) 絞 (一)シボルコト。(二)次條ノ語ノ略。

しぼりぞめ (名) 絞染 染模樣ノ名、布帛ノ處處ヲ、絲ニテ綴ヂ括リテ、染ムルモノ、染上ガリタル後ニ解ケバ、括リタル痕、白キ地ニ殘リテ、文ヲナス。其括リヲ、目結ト云フ、其目ヲ四ツアケタルヲ、四目結ト云ヒ、目ヲ繁ク結ビタルヲ、繁目結ト云フ。ククリゾメ。ユヒガノコ。シボリ。纈

しぼりばなし (名) 絞放 絞染ノ括リヲ解キテ、熨サズ、縮ミタルママノモノ。

しほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 汐 汐、干ル。名義抄「汐、シホル、ヒルシホ」

しほ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 萎 しをるノ誤。

しほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 撓 〔入折るノ約カ、やしほをりノ條ヲ見ヨ〕 幾

[illegible]保留」

しぼ・る [illegible]（一）[illegible]〔[illegible]〕「入りオハシタル狀、しぼるバカリナリ」步行ヨリオハシタルナメリ」（雨ニ濡レテ）古今集、十二、戀、二「偽リノ、淚ナリセバ、唐衣、シノビニ袖ハ、しぼらザラマシ」「手拭ヲしぼる」（二）〔強ヒテ、抑ヘ拭フ。源、九、葵「手習ヒステ給ヘルヲ取リテ、目ヲしぼりツツ見給フヲ」（三）〔強ヒテス[illegible]〕[illegible]（四）絞[illegible]（五）[illegible]シテ、液ヲ出ス。[illegible]（六）搾ゲテ、取ル。聚斂「運上ヲしぼる」「民ノ膏血ヲしぼる」（七）寄セ疊ミ[illegible]

しほ・わた（名）潮曲 海水ノ、灣入シタル所。山家集、下「淡路島、セトノナゴロハ、高クトモ、コノしほわたニ、オシ渡ラバヤ」

しほゐ（名）[illegible]井 [illegible]ノ井 [illegible]

しほをふむ [illegible]〔踐むハ、實行ヲ云フ、此語ハ、神代ニ、火闌降命ノ、潮滿瓊ニ[illegible]溺苦ノ狀ヲ學ビ給フヨリ起リタリト」[illegible]世ノ中ニテ[illegible]世ノ海ノ風[illegible]レドモ、一升入ノ[illegible]ニテ、大海ニテモ一升ナリ」

[illegible]好色一代女（貞享、西鶴）四、桑田の[illegible]男「半季ノ立ツハ、今ノ[illegible]」

しま（名）島 〔四面、局ラレテ、狹、又ハ、縮ノ義、梵語ニモ、四摩ト云フトゾ、朝鮮語ニ[illegible]〕（一）[illegible]ノ中心ニ、現ハレテアル地 スベテ、四面、水ニ圍マレタル、一區ノ地。古事記、上[illegible]（二）〔庭ノ泉水、築山。庭園。萬葉集、廿[illegible]（三）大和國、高市郡、橘ノ島ノ特稱。[illegible]ノ時ヨリ、宅地トシテ、嶋ノ大臣ト呼ブ、後ニ、日並知皇子、領シ給ヒ、橘ノ島宮ト云フ。（四）島ノ形ヲ象レル、[illegible]ノ如キ器、島臺ノ略。（五）島ノ形ノ染模樣[illegible]

しま（名）島縞 〔島物ノ略〕（一）南洋諸島ヨリ舶齎ノモノ。島物。島織[illegible]（二）轉ジテ、其布帛ノ織樣ニ 種種ノ染絲ヲ經緯ニシテ、線ヲ織リ出セルモノノ總名。柳條

しま（名）方 〔さまノ轉、よさ、さま、よさまさ、[illegible]さかさま、さかしま。あからさま、あからしま、類〕 さま（方）ノ（一）ニ同ジ。[illegible]

しま（名）揣摩 しゐまノ條ヲ見ヨ。

しま（名）四魔 佛經ノ語、四ツノ魔。即チ、煩惱魔、五陰魔、天魔、死魔、ノ稱。

しま（名）死魔 佛經ノ語、四魔ノ一、人ノ、死滅アルヨリ、佛道修行ノ障害トナルコト。[illegible]

しま 接尾 他語ニ添ヒテ、初ノ義ヲ含マシムル語、[illegible]

しま・あぢ（名）島鰺 鯵ノ一種、頭、小サク、身、圓ク、狀、鯛、鰈ノ如ク、鰭ノ上、突起シテ、背ニ連リ、瘤疣ノ如シ、故ニ俗ニ、瘤背魚ト號ス、鱗ナシ、色、白クシテ、雲母紙ニ似タリ、或ハ、斑紋アリ、肉、厚ク、味、美ナリ、炙リテ食フベシ、煮膾ニ宜シカラズ。[illegible]下品」

しまい（名）姉妹 （一）あねト、いもうとト。女ノ兄弟。左傳、襄公十二年「無女而有姉妹及姑姉妹、則曰、先守某公之遺女若而人」（二）しまいかん（姉妹艦）ノ略。

しまい（名）四枚 [illegible]ニ云フ語、次次條ノ略。

しまい（名）自賣 しまへノ條ヲ見ヨ。

しまい・がた（名）四枚肩 駕籠ヲ、四人シテ舁グコト、（三枚肩ナドニ對ス）[illegible]

しまい・かな・どう（名）四枚金胴 四枚胴ノ、鐵製ナルモノ。幸若舞曲、高館「前八、[illegible]」

しまい・かん（名）姉妹艦 〔英語、Sister-ship ノ譯語、歐米ニテ船ヲ女性ノ名詞トス〕 軍艦ノ、同型、同大ニシテ、同所ニテ、建造セラレタルモノ。略シテ、姉妹。

しまい・どう（名）四枚胴 鎧ノ胴ヲ、革、又ハ、鐵板、四枚ヲ重ネテ、造リタルモノ。幸若舞曲[illegible]二十五[illegible]イタル征矢ヲカケ」

しまう（名）[illegible] 鶏ノ類ニテ、羽ニ、星アルモノト云フ。

しまう（名）四孟 〔玉篇「孟、始也」四時ノ孟之首、曰孟月」康熙字典〕四時ノ孟月。即チ、孟春、孟夏、孟秋、孟冬、ノ稱。[illegible]四時之孟月也」

しまう・たや（名）仕舞屋 商人ノ、商賣ヲヤメタル家。シモタヤ。好色一代男（貞享[illegible]）

しまうま（名）縞馬 馬ノ一種、亞弗利加洲ニ産ズル草食獸。形、馬ニ似、毛ニ、虎ノ如キ斑紋アリ。マダラウマ。斑驢

しま・うを（名）島魚 もろこノ一名。（其條ヲ見ヨ）[illegible]古、もろこ、一名、しまうを」

しま-えびす (名) 〔島夷〕 島ニ住居スル夷。百合若大臣野守鏡(寳永、近松作)二「島蝦夷ヲ、一陣ニ打破リ」

しま-おり (名) 〔縞織(綅織)〕〔しまおりもの卜云フガ、本語ナラム、綅ハ、廣韻「白經黑緯曰レ綅」〕 南洋諸島ヨリ來ル、柳條ニ織リタル布帛。昔ハ、衣服、多ク、染物ナレバ、縞織、希レナリシト。シマモノ。

しま-おりもの (名) 〔縞織物(島織物)〕 前條ニ同ジ。宗吾大雙紙(大永)「島織物ノ事、地下人ノ着ル物ニテ候、キトシタル人ハ、下着ニモ不レ用候」

しま-か (名) 〔縞蚊〕 やぶかニ同ジ、脚ニ斑アレバ、云フ。豹脚蚊

しま-かぎ (名) 島陰 しまかげ(島陰)ノ轉音。萬葉集、廿「暁ノ、彼ハ誰レ時ニ、之麻加枳ヲ、漕ギニシ船ノ、タヅキ知ラズモ」

〔**しま-がく・る**・ル・レ・ラ・リ・レ〕(自動、四) 〔島隱〕 次條ニ同ジ。萬葉集、十五「ワタツミノ、沖ツ白波、起チクラシ、海少女ドモ、思麻我久流見ユ」

〔**しま-がく・る**・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ〕(自動、下二) 島陰 島ノ蔭ニ、隱ル。萬葉集、十二、四十八「十梶隱ケ、島隱去者、吾妹兒ガ、留レト振ラム 袖見エジカモ」同、十五、廿五「ハシケヤシ、妻モ子供モ、タカタカニ、待ツラム君ヤ、之麻我久禮ヌル」 古今集、九、旅「ホノボノト、明石ノ浦ノ、朝霧ニ、島がくれ行ク、舟ヲシゾ思フ」

〔**しま-かげ**〕(名) 〔島蔭〕 島ノ中ニテ、物ノ蔭ニナリタル所。又、しまかぎ。萬葉集、廿、二十八「之麻可氣ニ、吾ガ船泊テテ、告ゲヤラム、使ヲ無ミト、戀ヒツツ行カム」同、十五、十「戀ヒ哉ミ、慰メカネテ、鴫ノ、鳴ク之麻可氣ニ、廬スルカモ」

しま-かぜ (名) 〔島風〕 島ニテ、吹キオロス風。島ヲ吹キ渡ル風。金葉集、七、戀、上「島風ニ、堰起ツ波ノ、立チカヘリ、恨ミテモ猶、頼マルルカナ」壬二集(家隆)上「島風ノ、森ノ葉渡ル、タ暮ニ、汀ノ鶴モ、聲通フナリ」

しま-かぜ (名) 〔暴風〕 アカラシマカゼ。アカシマカゼ。

しま-がに (名) 〔島蟹〕 蟹ノ類ノ、最モ大キナルモノ、海ニ産ズ、甲、圓ク、頂、尖リ、甲上ノ理、密ニシテ、腹、白ク、螯、青シ、故ニ、あをはさみノ名モアリ、螯、脚、細ソクシテ、長シ、脚ノ長サ、三尺餘ニ至ルモノアリ、體、脚、共ニ、刺、多シ。ウミガニ。蟙

しま-がへ (名) 〔島替〕 江戸時代、初犯ノ罪人ノ、配流ノ島ニテ、再犯ヲナシタル時、他ノ、遠キ島ニ替ヘテ、流スコト。御定書百箇條、遠島者再犯御仕置之事「一、遠島モノ、島ニテ、死罪以上之致二惡事一候ニオイテハ、於二其島一死罪、但、同類、亦ハ、於二其島一ニネダリ事致シ、或ハ、アバレ候類ハ、島替」

しま-がら (名) 〔縞柄〕 縞織物ノ縞ノ、大小、雅俗ナド。

しまき (名) 〔風卷〕 シマクコト。烈シク吹ク風。海上ノ暴風。萬代集、十一、戀、三「しまき吹ク、雲ノ難ノ、舟渡リ、心惑フモ、誰レニ因リテカ」山家集(西行)上「瀨戸渡ル、棚無シ小舟、心セヨ、霰亂ルル、しまき横ギル」仲正集「しまきスル、藤江ノ浦ニ、舟トメテ、月ノ出汐ヲ、待ツゾワビシキ」殿上藏人歌合「しまきシテ、須磨ノ浦波、騷ゲドモ、長閑ニ澄メル、夜半ノ月影」

〔**しま-き**〕(名) 〔石南草〕 とびらのきニ同ジ。字鏡五十七「石南草、志麻木」

しま-ぎ (名) 〔島木〕 衡門、及、鳥居ノ上ニ、横ニ亙ス木。カサギ。文永遷宮記 南荒垣鳥居、置二島木一、打二冠木一」

しま-ぎり (名) 〔縞桐〕 柾目ノ桐材。海桐 好色一代女(貞享、西鶴)一、國主の艶姿「しまぎりノ掛物箱ヨリ、女繪ヲ取リ出シ」

〔**しま-く**・ク・ケ・カ・キ・ケ〕(自動、四) 〔風卷〈シ意カ〉〕風、烈シク吹ク。(早風ナドナルカ) 名義抄「鏁、モトホル、ナヤマス、ヲサム、シマク、メグル、マツフ、カクム」 夫木抄、三十三、船「クレ舟ヨ、朝妻ワタリ、今朝ナセソ、伊吹ノ岳ニ、雪しまくナリ」 堀河百首、雜「浪ノ寄ル、伊良胡ガ崎ヲ、渡ル舟、ハヤ漕ギ寄セヨ、しまきモゾスル」

しま-ぐに (名) 〔島國〕 島ニテ、一國ヲ成セルモノ。海國

しま-げら (名) 小鳥ノ名、きつつきノ條ヲ見ヨ。

し-まごん (名) 〔紫磨金〕 黃金ノ異稱。紫磨黃金。即チ、紫色ヲ帶ビタルモノ。孔融、聖人優劣論「金之精者、名曰二紫磨一、猶三人之有レ聖一」觀无量壽經「紫磨金足下、亦有二七寶蓮華一」 寶藏論「金、有二外國五種一、乃、波斯紫磨金、云云」 榮花物語、十八、玉臺「紫磨金ノ尊容ハ、秋ノ月、曇リナク」 菩間集、二、釋教、行基菩薩「病者ノ云フニ從ヒテ、其膚ヲ舐リ給ニ、舌ノ跡、紫磨金色ト成ヌ」倭訓栞、しまがね「本草ニ、波斯紫磨金、東夷靑金ト見ユ、靑金ハ、日本ノ産ヲ指ニヤ、紫磨黃金ト云フハ、孔融ガ聖人優劣論ニ、云云、ト見ユ」

しま-さき (名) 〔島崎〕 島ノ、海中ニ突キ出デタル所。島ノ端。新六帖、五「風吹ケバ、浪ノ來寄スル、しまさきノ、言ハヌ思ヒゾ、碎ケワビヌル」

しま-ざらし (名) 〔島晒〕 島ニテ、晒ラシ製リタル布。好古日錄、末、條布「條布ハ、二百年來ノ物ト云、非也、云云」

〔**しま-し**〕(副) 〔暫〕 しばしノ古言。萬葉集、十八、二「奈呉ノ海ニ、船之麻志借セ、沖ニ出デテ、波立チ來ヤト、見テ歸リ來ム」同、十九、廿五「澁谿(越中、射水郡)ヲ、サシテ吾ガ行ク、此濱ニ、月夜飽キテム、馬之末時停メ」

〔**しましく-も**〕(副) 〔暫須臾〕 シバラクモ。シバシモ。萬葉集、十五、四十一「筑紫路ノ、カタノ大島、思末志久母、見ネバ戀シキ、妹ヲ置キテ來ヌ」同、十五、七「之麻思久母、一人アリ得ル、モノニアレヤ」同、同「思フ故ニ、逢フモノナラバ、之末思久毛、妹ガ目離レテ、吾レ居ラメヤモ」

〔**しま-しま**〕(名) 〔島島〕〔くにぐにト、同趣〕 數多ノ島。多クノ島。應神紀、廿二年四月 長歌「淡路島、イヤ二ナラビ、小豆島、イヤ二ナラビ、宜シキ辭嶋之魔」

しま-じゅ (名) 〔縞繻〕 次條ノ略。女殺油地獄(享保、近松作)上「アレアレ、彼處ノ、桔梗染ノ腰變リ、島繻ノ帶、音ジャハイノ」

しま-じゅす (名) 〔縞繻子〕 縞ノアル繻子。

しま・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔澄〕 すます(澄)ニ同ジ。撰集抄、九、第十條「觀音堂ニ參リテ、云云、アタリヲ見メグラスニ、尼、心ヲしましテ、念珠ヲスリ侍リ」

しま-ずり (名) 〔島摺〕 島、洲崎ナドノ模樣アル、靑キ草摺。盛衰記、五、成親妻子歎事「平治ノ亂逆ノ時、云云、六波羅ニ召サレシニ、島摺ノ直垂着テ、高手小手ニ縛ラレテ」

しま-だ (名) 〔島田〕 しまだわげノ略。東海道名所記(萬治)三「島田ノ事ナレバ、髮ヲ結フタル事ヲ詠ミ給ヘカシ、云云「旅籠屋ノ、女ハ鹽ノ、ツクモ髮、セメテ島田ニ、ユフ由モガナ」

しま-だい (名) 〔島臺〕 洲濱ノ臺ノ上ニ、松、竹、梅、ナド、作リ立テ、尉、姥、鶴、龜、ナドヲ飾レルモノ、蓬萊山ノ形ナリト云ヒ、婚禮ノ時ナドノ飾物トス。島ノ(四)ヲ見ヨ。守貞漫稿、廿六、蓬萊、貴人ノ宴ニハ、唯、臨時風流ニ製レ之、今モ、貴人ノ家ニハ、蓬萊ノ島臺ト云 島臺ト云ハ、洲濱形ノ臺ヲ云也、云云、

[illegible]ノ[illegible]トシ[illegible]」

しまだ-くづし（名）［島田崩］島田髷ヲ、略シテ結ヒタルモノ。（粹人、又、粋式ノ際ナドニ）浮世風呂（文化、三篇）二編、下「高慢ナル[illegible]、ハヤリ、しまだくづしニテ、浦衣[illegible]」

しまたて（名）［島立］［illegible］ニテ玩プ、遊戯ノ一種。［illegible］

しまだひ（名）［縞鯛］鯛ノ一種、黒鯛ニ似テ、小サク、四五寸ニ過ギズ、眼、上ニ近ク、鰭、鰓、尖リテ、體ニ、青白ノ斜紋アルモノ、味ハ、鯛ヨリ劣ル。

しまだまげ（名）［島田髷］次條ニ同ジ。

しまだ-わげ（名）［島田髷］〔しまだトハ、[illegible]中、[illegible]、島田[illegible]、結ヒ[illegible]ト云ヒ[illegible]、島田ノ[illegible]妓、始ムト云ヒ（我衣、近代世事談）種種ナレド、しめたわノ略轉ニテ、緊メタル髮ノ撓ナリト云フ說、得タルガ如シ（嬉遊笑覽）〕略シテ、しまだ。女ノ結髮ノ一。元結ヨリ、髮先、短ク、髷ノ方、長キモノ、元ハ、未婚者ノ髮風ナレド、廣ク、娘ニ用キラル。シマダマゲ。之レニ、しめつけしまだ、たげしまだ、あげしまだ、しまだくづし、つぶししまだ、やつししまだ、等、數類アリ。[illegible]文二[illegible]しまだニ、イハウヨリ、おかた（髮）、心[illegible]文、生白庵行脚）九、難、下「大井川、流レヲ立テテ、住[illegible]」

しまちぢみ（名）［縞縮］縞織ノちぢみ。[illegible]

しまつ（名）［島之］名詞ノ、島之鳥ノ略。[illegible]夫木抄、廿七「飛ビ通フ、奥副ノしまつヲ、餘所人ハ、トリモトドメバ、鵐ハアラマシ」

しまつ（名）［始末］（一）ハジメ、ヲハリ。モト、スエ。始終。[illegible]「始末正當」（二）事ノ、始終ノ來歷。ワケガラ。顚末「[illegible]始末」（三）事ノ始終ヲ、調ヘ治ムルコト。調治「始末ヲ附クル」「始末フスル」（四）善ク、始終ヲ考ヘテ、入費ヲ計ルコト。節約。儉[illegible]色一代女（[illegible]）五、石垣ノ[illegible]ニ[illegible]入ル事ノミ、何、始末シテ、[illegible]ニ附クヘキ仕覺モ無ク」[illegible]末、貯蓄へ」立身大福帳、七「紙屑、端分、手マメニ拾ヒ、溜ヘ入ルベシ、しまつト云フハ、カヤウノ事ナリ、捨ル物ヲ、捨テヌヤウニスル事、第一ノ始末也」

しまつ-がき（名）［始末書］事ノ始末ヲ書キ載セタル文書、多ク、糺問セラレタル時、差出スニ云フ。

しまった（句）失敗シタリ。シクジッタ。

しまづたひ（名）［島傳］〔浦づたひ、同趣〕シマヅタフコト。島ヨリ島ヘト、傳ヒ行クコト。[illegible]荒レケレバ、浦ヅタヒ、島づたひシテ、二月十日比ニゾ、備前ノ兒島ニ着キ給フ」

しまづた-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）［島傳］島ト島トノ間ヲ、ツタヒ行ク。萬葉集、七「島傳ふ、足速ノ小舟、風守リ、年ハヤ經ナム、逢フトハ無シニ[illegible]」ひ、イ別レ往カバ、トドマレル、我レハ」同、廿[illegible]長[illegible]」

しまづつみ（名）［縞包］紙ノ一種、質、厚クシテ、多クハ、布帛ヲ包ムニ用キルモノ、紀伊國ニ産出ス。

しまつ-どり（名）島之鳥「島ノ鳥ノ義、庭之鳥、野之鳥、同趣、次條ノ語ノ、名詞トナリタルモノ」う（鵜）ノ異名。倭名抄、十八廿羽族部「鸕、志萬豆止利」夫木抄、廿七、安[illegible]四條「白[illegible]ニ、[illegible]ノ色ナレ、まつ鳥、[illegible]モ及バ[illegible]ニ[illegible]テマシ」土佐日記「[illegible]ニ、云云、イト面白キ洲埼ニ、黑キ鳥、群レ居タルハ、うト云フ鳥ナリケリト」

しまつ-どり（枕）〔前條ノ語原ヲ見ヨ〕う（鵜）ノ枕詞。古事記、中「[illegible]」萬葉集、十七「[illegible]長歌「[illegible]」

しまつ-や（名）［始末屋］しまりやニ同ジ。

しまど（名）［島門］〔門ノ條ヲ見ヨ、河門、水門、同趣〕島島ノ間、船ノ通路島ノ瀨戶。萬葉集、三「大君ノ、遠ノ朝廷ト、アリ通フ、島門ヲ見レバ、神代シ思ホユ」同、十四「上ツ毛野、[illegible]ニ、朝日サシ、日暮ハ、シモナ、在リツツ見レバ」

しまながし（名）［島流］るざい（流罪）ニ同ジ、其條、及、ゑんたう（遠島）ノ條ヲ見ヨ。

しまぬけ（名）［島脫］島流シノ罪人ガ、竊カニ、其島ヲヌケ出ヅルコト。又、其罪人。島破リ。[illegible]七卯年十一月「伊豆國[illegible]、島[illegible]致シ候一件」

しまね（名）［島根］（一）島ト云フニ同ジ。萬葉集、十五[illegible]長歌「岩ガ根ノ、荒キ[illegible]ニ、宿リスル君ニ「[illegible]しまね」（二）島國。萬葉集、廿[illegible]「イ[illegible]子共、狂事ナセソ、天地ノ、固メシ國ソ、[illegible]之[illegible]」

しまねずみ（名）［縞鼠］蝦夷地、[illegible]、亞非利加洲、ノ北部ニ産ズ、きねずみノ類ニシテ、土中ニ棲ム、果ヲ食トス、長サ、五寸許、尾、三寸許、背上、茶黃色ニ、五條ノ黑道アリテ、頗ル美シ、走ルコト、最モ速カナリ。花金鼠

しまばへ（名）［大[illegible]蠅］蠅ノ條ヲ見ヨ。

しまばら（名）［島原］田舍ノ旅芝居ノ歌舞伎。[illegible]田舍ヲ步ク旅芝居ノ、舞妓ヲ、しまばらト云フハ、昔、狂言ハ、何ニテモアレ、京ノ島原ノ傾城買ヲスルニ、小[illegible]はら、[illegible]まばら、佐佐木[illegible]島原ナド、名題看板ニ出セルヨリ、[illegible]シト云イシ」

しまひ（名）［仕舞］（一）シマフコト。ヲハリ。スエ。ハテ。終結　川柳（安永）「人ヲ[illegible]ミ出スト、井戶替、仕[illegible]ナリ」（二）假粧　粉裝

しまひ（名）［仕舞］〔素舞ノ訛〕能ニ、裝束ヲ着ズ、鳴物ナク、謠ノミニテ舞フコト。素謠、白拍子、（囃子ノ條ヲ見合ハスベシ）甲陽軍鑑、七、品第十五「能ノ時、肴出ス事、云云、七番有時ハ、三番過ギテ、必、仕手ノ仕舞ノ間ハ不可出」

しまび（名）島傍〔接尾語、び（傍）ノ條ヲ見ヨ〕しまべ（島邊）ニ同ジ。萬葉集、廿[illegible]長歌「[illegible]之[illegible]ニ立チテ、鶴ガ音ノ、悲シク鳴ノバ、遙遙ニ[illegible]ヲ思ヒ出」

しま-ひえどり（名）島鵯　ひえどりノ一種、下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible]

しまひぐち（名）［仕舞口］終ノ頃。ヲハリガタ。[illegible]「[illegible]ノしまひぐち」

しまひ-だいこ (名) [仕舞太鼓] 江戸時代、芝居ノ終リ、或ハ、遊郭ノひけヲ、知ラスル太鼓。三番太鼓。(始中終、ノ三度ノ中ノ、三度目ニ打ツモノ) 夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)相の山「仕舞太鼓ノ音マデモ、寂滅爲樂ト響クナリ」

しま-びと (名) [島人] (一)島ニ住ム人。(二)しまもり(島守)ニ同ジ。

しまひ-ばしら (名) [仕舞柱] 古へ、劇場ニテ、最屓客ヨリ俳優ニ贈與シタル纏頭ヲ、插シコミタル柱。 甲陽軍鑑、七、品第十五、樂屋入之事「仕舞柱ヨリ、出入ヲスベシ」東海道名所記(萬治)一「仕舞柱ニ隠リ遊ス花ノ枝ハ、舞臺ニサシ上ケテ、色ヲ爭ヒ」

しまひ-ぶろ (名) [仕舞風呂] 湯ヲ拔キ放ツ、終リゴロノ風呂。シマヒユ。 好色一代女(貞享、西鶴)五、小歌の傳受女「仕舞風呂ニ入リテ、身ヲ改メ、色造ル間ニ」

しまひ-もの (名) [仕舞物] 店ヲ仕舞フ(閉店)時、賣レ殘リノ商品。 生玉心中(正德、近松作)中「京ノ淸水燒ニ、ズント安イ仕舞物ガアルト聞キ、云云、俄ニ上ッテ」

しまひもの-みせ (名) [仕舞物店] 身分ヲ替ヘナドシタル者ノ家財ナドヲ買取リテ、賣ル店。(古道具屋ナド)又、店ヲ閉ヅルニ際シ、在品ヲ賣ル店。 承應二年六月、町觸「町中仕舞物店之賣物、庇切ニ置可ㇾ申候」

しまひ-ゆ (名) [仕舞湯] しまひぶろ(仕舞風呂)ニ同ジ。 浮世風呂(文化、三馬)大意「仕舞湯ニ入損ヒ、モウ拔マシタト云ハレテ、後悔、手拭ヲ咬ムトモ、益ナシ」

しま-ふ・フ・へ・ハ・ヒ・ヘ(自動、四) [仕舞] 〔舉動まふ、見まふ、立チまふ、構まふ、ナド、同趣〕終ハル。ヲサマル。ヤム。了‖「雨ガ止ンデしまふ 鎔ケテしまふ」

しま-ふ・フ・へ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [仕舞] (一)爲シ終フ。遂ゲ成ス。濟マス。畢‖卒‖(二)藏ム。入レ込ム。藏‖ 川柳(寶曆)「半人デ、仕舞フ大工ニ、茲ヲヤリ」(三)狂言記、禰宜山伏「茶、云云、モハヤ飲ムマイ、しまへ」

〜しま-べ (名) [島邊] しまみ(島廻)ノ(一)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。 天智紀、十年十二月、童謠「鮎コソハ、施際倍モ吉キ」

じ-まへ (名) [自前] 〔自賣ノ誤リナラム〕抱へ主ナドニ賴ルニアラズシテ、己レ獨立ニテ、營業スルコト。(丸抱ナドニ對ス、多ク、藝妓ナドニ云フ) 「抱へガ、じまへニナル」

しま-へび (名) [縞蛇] 蛇ノ一種、四條ノしまノ縱線アルモノ。

しま-ほし (名) つき(月)ノ異名。 祕藏抄「サ夜フクル、綠ノ空ニ、風吹ケバ、イトド冴エマス、しまほしノ影」しまほしトハ、月ヲ云フ也」

〜しま-ま (名) [島廻] 〔しまみノ轉〕 次次條ノ(一)ニ同ジ。 萬葉集、十七(三十六)長歌「潛ニ ヘ、鶴鵆騷ギ、之麻末(一本、之麻未ニ作ル)ニハ、木末花咲キ、若干モ、見ノサヤケキ」

しま-まつ (名) [島松] 島ニ生フル松。 夫木抄、廿三、池「秋風ニ、吹キシカレタル、しままつノ、枝ノ池ニヤ、波ノ越スラン」

〜しま-み (名) [島廻] 〔み、ま、び、べ、倶ニ、同義、轉音ニテ、熟語ヲナス、浦廻、磯廻モ、意、同ジ、倘、接尾語ノび(傍)ノ條ヲ見ヨ〕(一)島ノメグリ。島ノマハリ。シマビ。シマベ。シマヽ。 萬葉集、七(十四)「百傳フ、八十ノ島廻ヲ、漕グ船ニ、乘リニシ心、忘レカネツモ」 同、廿(三十四)長歌「春爲、之麻米(古義ニ據ル、一本、之麻米ニ作ル)ニ立チテ、鶴ガ音ノ、悲シク鳴ケバ」 同、九(八)「由良ノ崎、潮干ニケラシ、白神ノ、礒ノ浦箕ヲ、敢ヘテ漕ギトヨム」 同、三(三十四)「鵙鳩集ル、石轉ニ生フル、名乘藻ノ、名ハ告ラシテヨ、親ハ知ルトモ」 同、十五(七)「月讀ノ、光リヲ淸ミ、神島ノ、伊梁末(一本、伊梁末ニ作ル)ノ浦ユ、船出ス我レハ」(二)島ヲ、メグルコト。 萬葉集、七(十四)「汐干レバ、共ニ潟ニ出、鳴ク鶴ノ、聲遠サカル、島廻スラシモ」 同、十九(廿四)「藤浪ヲ、假廬ニ作リ、灣廻スル、人トハ知ラニ、海人トカ見ラム」

しま-まん (名) [四曼] 〔四種曼荼羅ノ略〕佛敎ノ語、眞言密敎ニテ、曼荼羅ノ、四ツノ種類。卽チ、大曼荼羅、三摩耶曼荼羅、法曼荼羅、羯磨曼荼羅、ノ稱。 太平記、十八、高野根來不和事「覺鑁上人「一度、三密瑜珈ノ道場ニ入リショリ、永ク、四曼不離ノ行業ニ懈ラズ」

しま-まん (名) [四慢] 佛敎ノ語、四種ノ慢心。卽チ、身、煩惱、業、苦ノ稱。一說ニ、七慢ノ中ノ四。 平家物語、五、勸進帳事「本有心蓮ノ月、幽ニシテ、未ダ、三毒、四慢ノ大虛ニ顯レズ」

じ-まん (名) [自慢自滿] 己レ自ラ、好シトシテ誇ルコト。自負 書言字考節用集、九、言辭門「自慢、自滿」

じ-まん (名) [滋蔓] シゲリ、ハビコルコト。 左傳、隱公元年「無ㇾ使ニ滋蔓、蔓難ㇾ圖也、蔓草猶不ㇾ可ㇾ除、況君寵弟乎」

じまん-げ (名) [自慢氣] 衒フ氣ノアルコト。「自慢氣ニ話ス」

しまむら-がに (名) [島村蟹] へいけがに(平家蟹)ニ同ジ。 本朝食鑑、十、蟹「傳稱、近時、攝之尼崎、天王寺前海濱、有ニ大蟹、腹文如ニ人面、呼ニ島村蟹、後奈良帝享祿四年、細川高國、與ニ三好氏ニ戰ニ于尼崎天王寺邊ニ而敗死、高國臣島村某、膂力勝レ人、挾ニ敵二人ニ沒ニ于水中ニ、其靈化爲レ蟹、土人名曰ニ島村蟹ハ是、蜘蛛之類矣」 文祿淸談、二、島村蟹「享祿四年、細川高國、攝州天王寺ニ敗死ス、其家人、島村彈正左衞門高範、敵二人ヲ摑ミ、野里川ニ入リテ死セリ、其靈ノ化セルナリト云」

しま-まんろく-せん-にち (名) [四萬六千日] 七月十日ノ觀世音ノ緣日ノ稱。此日ニ參詣スレバ、四萬六千日間、參詣シタルト同ジ效驗アリト云ヒ傳フ。 三養雜記、二、四萬六千日「七月十日ヲ、觀世音ノ四萬六千日ト稱シテ、淺草寺ナドヘハ、前日ヨリ、參詣ノモノ、群集ナセリ」

しま-めぐり (名) [島廻] 〔山めぐりナド、同趣〕(一)島ノ周リヲ回ルコト。又、島島ヲ遊覽スルコト。(二)鷺ノ一種、甚ダ小サクシテ、冠毛ナク、背、脚、灰靑ナリ。小鷺。

しま-もの (名) [島物] 〔唐物ニ對ス〕(一)天文以後、南洋諸島ヨリ渡セル諸具ノ稱、呂宋、安南、暹羅、ヨリ來レルヲモ云ヒ、葡萄牙、西班牙、阿蘭陀、ノ品モ、南洋ヲ歷テ來レル故ニ、倂稱ス。(二)骨董家ニテ、支那製ナラズ、和製ナラヌ、南洋製ナルモノノ、陶器ナドノ稱。(三)しま(縞)ノ條ノ(一)ノ一稱。シマオリ。

しま-もの (名) [島物] 出所ノ、詳カナラヌヲ呼ブ稱。唐繪ニ似テ非ナルモノヲ、島繪ト稱スル類。 東海道名所記(萬治)六「喜六夫ト云フ者、上總ノ掾ニナリテ、太平記ヲ語ル、ソノ曲節、平家トモ、舞トモ、謠トモ知レヌ、島唐ナリ」

〜しま-もり (名) [島守] 島ヲ守ル者。島人。 萬葉集、四(三十)「八百日行ク、濱ノ眞砂モ、吾ガ戀ニ、豈マサラメヤ、沖ツ島守」

しま-やけ (名) [島燒] 海島ノ噴火。(伊豆ノ七島ナドニ云フ)

しまや-せん (名) [島屋錢] 京都ノ人、島

[illegible]ノ稱[illegible]シテ、[illegible]、[illegible]、島原[illegible]、[illegible]ノ[illegible]二、島臺何[illegible]ト云ヒ[illegible]之、[illegible]二[illegible]、[illegible]人[illegible]ノ[illegible]ノ文字ナシ、二[illegible]タル者ノ由、志ニ、文字ノ、コレアル者アリ、至テ少シ、此錢、[illegible]色、[illegible]ヲ、島原錢ト云ヘリ」

しまやぶり（名）島破　〔牢破リ、同趣〕

しまぬけ二同ジ。

しまやま（名）島山　島ノ中ノ山。又、古代ノ[illegible]ニ、庭中ニ、水ヲ通ジ、水中ニ、島ノ山ヲ作レルモノ。萬葉集、十七[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]ルトハフ、[illegible]ノ島山、今日見レバ、木立繁シモ、幾代神ビゾ」同、十九[illegible]「島山ニ、[illegible]レル橘、[illegible]ニ插シ、仕ヘマツルハ、卿[illegible]」

しまらく（名）暫　しばらく（暫）ニ同ジ。[illegible]良久乃」萬葉集、十四[illegible]「思ハ[illegible]良久ハ、寐ツツモアラムヲ、夢ノミニ、モトナ見エツツ、吾ヲネシナクル」

しまり（名）締　（一）締マルコト。ユルミナクナルコト。緊縮「口ノしまり」（二）結バルコト。約「殺ゲタ[illegible]ノしまり」（三）固ク鎖シオクコト。關鍵「戸ノしまり」（四）取リシマルコト。統ベ治ムルコト。管治「店ノしまり」（五）心ヲ、放縱ニセザルコト。[illegible]

しまりぞなへ（名）締備　軍隊ノ最後ヲ、取締ルモノ。殿　[illegible]

しまりや（名）締屋　倹約ナル人。シマツヤ。

しま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）締　〔締むノ自動〕（一）ユルミ無クナル。キック、固マル。緊縮　古事記、下（清寧）三[illegible]長歌「皇子ノ柴垣、八節士[illegible]理、シマリモトホシ、截レム柴垣」（二）結ハル。ムスバル。約　[illegible]「[illegible]ガしまる、許セ、許セ」（袋ヲ頭ヘ被セタルナリ）「帶ガしまる」「[illegible]ガしまる」（三）鎖サレテアリ。閉　「戸ガしまる」（四）放縱ナルガ、改マリテ、正シクナル。檢束「身持ガしまる」

しま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）締　統ベ治ム。取リシマル。締ム。堅ム。管治　古事記、下（清寧）長歌「[illegible]ノ、皇子ノ柴垣、八節シマリ、斯麻理[illegible]シ（タリトモ）、截レム柴垣」續紀、[illegible]、文武[illegible]八月、[illegible]ミ忘ル事無ク、務メ結而仕ヘ奉レト詔リ給フ大命」類聚國史、八、弘仁十四年十一月、[illegible]日夜忘ルコトナク、務メ志麻理、イサヲシク仕ヘマツルニ依リテ」「店ヲしまる」

しまろ（名）縞絽　縞織ノ絽。無地ノナドニ對ス　[illegible]小女[illegible]枕、享保、近松作、上「[illegible]」

しまわ（名）島曲　海ノ、島ニテ隔レル處。しまみ（島廻）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しまわうごん（名）紫磨黄金　しまごん（紫磨金）ニ同ジ。宇治拾遺、十五、第十條「[illegible]、丈六ノ御姿ニテ、紫磨黄金ノ光ヲ放チテ、空ヨリ飛ビキタリ給テ」[illegible]、廿四、依[illegible]門[illegible]公[illegible]」

しまゑ（名）島繪　唐繪ニ似テ、非ナル繪ノ稱。（島物ノ條ヲ見合ハスベシ）

しみ（名）紙魚　〔濕蟲ノ約〕蟲ノ名、衣服、書籍ナドノ間ニ、濕氣ヲ得レバ、生ジテ、物ヲ害ス、大ナルハ四五分、全身、初ハ背ク、老ユレバ白ク光リテ、銀ノ如シ、多足、能ク走リ、尾ニ二岐アリテ、略、魚ノ尾ニ似タリ。シミムシ。キラムシ。キララムシ。衣魚　白魚　[illegible]魚　壁魚　本草和名、下[illegible]衣魚、一名、白魚、[illegible]名[illegible]之美[illegible]、倭名抄、同ジ）字鏡「[illegible]、志[illegible]」源、四十四、[illegible]、[illegible]、云云、しみトイフ蟲ノ住處ニナリテ、[illegible]、[illegible]サナガラ、[illegible]ハ消エズ」拾[illegible]（定家）上「オノヅカラ、打置ク文モ、月日經テ、アクレバしみノ、スミカトゾナル」新六帖、四「ハテハヌ、しみノスミカノ、書文、[illegible]ハ[illegible]ト、見レゾ[illegible]シキ」

しみ（名）染　（一）染ムコト。源、四、夕顏「持テ馴ラシタル移リ香、イトしみ深ウ、ナツカシウテ」（二）物ノ、染ミテ、汚レタルトコロ。汚染　汚點　古今集、十三、[illegible]、[illegible]ノ葉ニ、[illegible]初潮ノ、夜ナ[illegible]ミ、しみ[illegible]ニカク[illegible]クトモ、色ニ出デメヤ」「衣ノしみ」「[illegible]ノしみ」

しみ（名）〔彩色〕〔染みノ義〕色ドリタルモノ。彩色シタルモノ。神功紀、四十六年三月「以五色綵絹各一疋、及、角弓箭、并、鐵[illegible]四十枚、幣[illegible]」推古紀、十八年三月「[illegible]」[illegible]、六年正月「阿倍臣乃[illegible]、帛[illegible]兵[illegible]等[illegible]」[illegible]、持統紀、二年三月「別所、[illegible]、佛像、[illegible]彩　[illegible]、鳥[illegible]之類」

しみ（名）凍　凍ムコト。氷（今モ、奥羽ニテハ云フ）永久百首、冬、[illegible]「夕暮ノ、[illegible]ニしみヤ、融ケヌラム、垂氷傳ヒニ、雫落ツナリ」出觀集、冬「[illegible]ノフス、小田ノ苅田ハ、氷シテ、しみ溶ケヤラヌ、[illegible]ノ細道」[illegible]道記、中[illegible]村二「箱根山　云云、夜山、[illegible]降リテ、道[illegible]シカルベシ、朝しみノ程ニ立タバ、ヨカリナムト云フヲ、聞ヘバ、道ノ氷リタルヲ申スト、云ヒケレバ」

しみ（名）旨味　ウマキ、アヂハヒ。又、其物。厚味。滋味。[illegible]、子羽[illegible]文[illegible]旨味、[illegible]、食[illegible]」

しみ（名）至味　至極、味ノヨキコト。至ッテ、ウマキアヂ。又、其物。春秋繁露「[illegible]有、天下之至味、[illegible]、知、其旨、也」

しみ（名）[illegible]　華美ナラスコト。[illegible]ノ條ヲ見ヨ　[illegible]、元祿、近松作、[illegible]七道行、前垂取テ、丸グケノ、帶ヲしみナ[illegible]へ」

しみ（名）滋味　ウマミ。滋養トナリテ、旨キ食物　列子、[illegible]「[illegible]皆有[illegible]味、[illegible]食、之皆不、老不、死」禮記、月令篇「仲夏之月、云云、薄滋味、毋、致、和」[illegible]、一、清盛行[illegible]大威德法[illegible]事「七箇年ノ間、一向、清淨ニ齋戒シ、何食ガ滋味ヲモ斷ジ、[illegible]石ガウルハシキ酒ヲモ[illegible]ジテ」「大牢ノ滋味」

しみ・い・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）凍入　氷リイル。シミトホル。拾遺愚草（定家）上「暗ミシダク、轅ガ下ニ、しみ入りテ、埋モレカハル、松ノ雪カナ」

しみかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）染返　深ク染マル。強ク染ミコム。宇津保物語、樓上、上[illegible]、袋取テ來トテ、香ノ唐櫃ヨリ、しみかへりタル、絹リタレバ」榮花物語、十三、木綿四手「御ケハヒ、匂ヒナドゾ、しみかへらセ給ヘル」

しみこほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）凍氷　しみ（凍）トイフ二同ジ。宇治拾遺、二、第十二條「雨降リ、雪降リ、風吹キ、雷鳴リ、しみ氷タルニモ、又、暑ク苦シキ夏モ」永久百首、春、餘寒「衣手ノ、薄キヤ春ノ、閨ナラン、我ガ身ハイトド、しみこほりツツ」

しみこ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）染込　深ク染マル。浸リコム。シミトホル。浸入　滲透「[illegible]二、水ガしみこむ」

しみしみ（副）染染二沁沁　靜カニ、シメヤカニ、心ニ滲ミテ。心ニ、深ク染ミテ。シンミリ。ツクヅク。ヨクヨク。徒然草、第十段「良キ人ノ長閑ニ住ミナシタル所ハ、差入リタル月ノ光モ、一際、しみじみト見ユルソカシ」[illegible]、[illegible]、元祿、近松作）中「何時、しみじみト、久振リ、行末語リ、夜半モ無シ」浮世風呂（文化、三[illegible]）二、[illegible]下「[illegible]ダノ、神ダノト云フ者ガ、しみじみ嫌イヨ」

「しみじみ好イト思フ マダ、しみじみ語モセズ」

しみ-た・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［染足］ 十分ニ、染マル。 宇津保物語、樓上、上「琴ノ聲、巣ノ聲、諸聲ニ、しみたりツキテ」

しみ-た・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［染垂］ ソマリ附ク。 落窪中納言物語、四、上「彼ノ國ノ事ナドモ、しみたれテ、露ノ殘リモナク、ワロレタル比ヲ、有リワヅラヒテ」

∴しみ-たれ（名）「急呼シテ、しみッたれ」（一）意氣地ナキコト。又、ソノ人。（京都）（二）吝嗇ナルコト。ケチ臭イコト。

しみ-づ（名）［清水］「すみみづ（澄水）ノ約トモ云フ」 泉ノ、清キモノ。清泉。 神代紀、下「門前有二一好井一」 景行紀、十八年四月「忽寒泉從二崖傍一涌出、乃酌以獻焉」 倭名抄、一、水部「妙美井、之三豆」 同、七、信濃國、更級部「清水、之美都」 新古今集、三、夏「道ノ邊ニ、清水流ルル、柳蔭、シバシトテコソ、立止マリツレ」

しみ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［染着］ 染ミテ、入ル。ソマリツク。ソマル。 源、六、末摘花「此赤鼻ヲ書キツケ、ニホハシテ、云云、サモヤ、しみつかムト、危ク思ヒ給ヘリ」 古今集、十三、戀、三「笹ノ葉ニ、置ク初霜ノ、夜ヲ寒ミ、しみ（染、凍ニカク）ハつくトモ、色ニ出デメヤ」 冥途飛脚（正德、近松作）上「氣ニ染付シ、妓ガ事」

しみ-つ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）［凍着］ コホリツク。 壬二集、中「笹ノ葉ニ、しみつく霜ノ、夜ヲ經テハ、ミ山モサヤニ、衣打ツナリ」 冥途飛脚（正德、近松作）下、忠兵衛梅川相合駕籠「紙足ニ雪散、凍ミ付バ、空ニ霙ノ、霰交リニ、吹ク木ノ葉」

∴しみッ-たれ（名） しみたれノ急呼。（靜岡縣ニテ、しびッたれ） 浮世風呂（文化）二、馬、一編、下「しみッたれナ氣性ダカラ、直ハ能好タガ、代物ハ少ネヘハネ」

しみ-どうふ（名）［凍豆腐］ コホリドウフ、其條ヲ見ヨ。（靜岡縣ニテ、氷蒟蒻ヲ、しみこんト云フ）

しみ-とほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［染徹］（一）シミコム。深ク、ハヒル。「寒サ、骨ニしみとほる」（二）〔精神ニ、強ク感ズ。〕 萬葉集、十六、長歌「慇シクノ、痛キ吾ガ身ゾ、イチジロク、身ニ染等保里、村肝ノ、心碎ケテ、死ナム命、俄カニナリヌ」

しみ-み（副）［繁茂］ 次次條ノ語ニ同ジ。 萬葉集、十七「梅ノ花、深山ト之美爾、アリトモヤ、此ノミ君ハ、見レド飽カニセム」 同、一「山ヲ茂（しみゝノ略）、入リテモ取ラズ、草深ミ、執リテモ見ズ」

しみ-ぬき（名）［染拔］ 物ノ汚染ヲ、拔キトルコト。「湯通シ、しみぬき、洗張」

しみ-み（副）［繁茂］〔しみみハ、繁繁ノ約カト云フ〕 繁ク、滿チテ。しみゝ。 萬葉集、十三、長歌「秋萩ハ、枝モ思美三荷、花咲キニケリ」 同、十三、長歌「藤原ノ、都志彌美爾、人ハシモ、滿チテアレドモ、君ハシモ、多クイマセド、云云、長月ノ、時雨ノ秋ハ、大殿ノ、砌志美彌爾、露負ヒテ、靡ケル萩ヲ」 同、十二「萱草、垣モ繁森、植エタレド」

しみん（名）［四民］（一）ヨツノタミ。士ト、農ト、工ト、商ト、ノ稱。（各條ヲ見ヨ） 書經、周官篇「司空掌二邦土一、居二四民一、時二地利一」 穀梁傳、成公元年「古者有二四民一、有二士民一、有二商民一、有二農民一、有二工民一」 漢書、食貨志「士農工商、四民有レ業」 淮南子、齊俗訓「士農工商、鄕別州異」（二）國民。百姓。庶民。

しみん（名）［士民］（一）士ト、民ト。武士ト、平民ト。 戰國策、趙策「臣是以欲下足下之速歸二休士民一」（二）四民ノ一、士ノ階級ノ民。 穀梁傳、成公元年「古者有二四民一、有二士民一、有二商民一、有二農民一、有二工民一」

しみん（名）［市民］ 市內ニ居ル住民、山民ナドニ對ス。市人。 史記、大宛傳「有二市民商賈一、用二車及船一行二旁國一」 申鑒「山民樸、市民玩」「東京市民」

しみん（名）［嗜眠］ イギタナキコト。好ク、眠ルコト。「嗜眠性腦膜炎」

しみ-むし（名） 蟲ノ名、しみ（紙魚）ニ同ジ。

じみやう（名）［自名］ 自身。自分。オノレ。 吾妻鏡、十、建久元年五月十二日「押二領所務一、宛二課土民一、況乎自名之課役、一切不レ致二其勤一之由、自二院所一被二仰下一也、所行之至、奇怪無レ極」

しみやく（名）［死脈］ 人ナドノ、死ナムトスル時ノ脈搏。死ニ近ヅキタル時ノ、脈ノ打チカタ。急ニテ、且ツ、微弱トナル。 心中重井筒（元祿、近松作）中「トカク、二人ニ、死脈ガ打ツ」 百姫盛衰記（正德）一「只今ノ御脈體ハ、雀啄ト申シテ、雀ノツツク様ニ覺エ奉ル、コレ、死脈ナレバ、參（人參）、附（附子）、獨參ニモ及ブマジ」 新刊勿聽子俗解（元和）十八、難經「一呼六至、一吸六至、曰二死脈一也、沈細夜死、浮大晝死」

しみやく（名）［支脈］ 分レタル脈。本幹ヨリノ、分岐ノ筋。 唐書、來俊臣傳「作二羅織經一篇一、具爲二支脈一」 宋无、鄒石詩「支脈崑崙析、邱運混沌先」

じみやく（名）［自脈］ 自己ニテ、脈搏ヲトリ診ルコト。 源氏十二段長生島臺（元祿、近松作）三「自脈取ルヤラ、モダモダト」

しみ-らに（副）［終］〔しみハ、繁ノ意ニテ、らハ、助辭ナラム〕 ヒネモスニ。シメラニ。 萬葉集、十三、長歌「赤根刺ス、晝ハ之彌良爾、烏玉ノ、夜ハスガラニ、寢モ寢ズニ、妹ヲ戀フルニ、生ケル便ナシ」 同卷、十四「赤根刺ス、晝ハ終爾、烏玉ノ、夜ハスガラニ」 同、十七、長歌「此夜スガラニ、寢モ寢ズニ、今日モ之賣良爾、戀ヒツツゾ居ル」 同、十九、長歌「赤根指ス、晝ハ之賣良爾、云云、夜干玉ノ、夜ハスガラニ」

∴しみる（動）［染］ しむ（染）ノ口語。

∴しみる（動）［凍］ しむ（凍）ノ口語。靜岡縣等ニテハ、しもげるト云フ。

∴じみる・ミル・ミレ・ミ・ミ・ミヨ（自動、上一）［染］ 熟語ニ用キテ、其狀ニ化シ染ム意ヲ云フ語。ニ、似タリ。何何然タリ。「學者じみる」小供じみる」婆じみる」

しみ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［染亘］ 遍ク、染ム。浸潤。「水ガ、紙ニしみわたる」

しみ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［凍亘］ 全ク、コホル。遍ク、コホル。 狹衣、四、中「日頃降ル雪、歲ノ殘リ少ナウナルママニ、イトド降リ重ナリツツ、消エヤルベクモアラズ、しみわたるヲ見出シ給ヒテモ」

しむ（名）［私務］〔公務ニ對ス〕 ワタクシノ、ツトメ。私人ノ事務。 荀悅文「私務衆二于官事一」（佩文韻府）

しむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［染］（一）〔濡ヒ、徹ル。〕ソム。ソマル。滲。 萬葉集、三、三十「中中ニ、人ト有ラズハ、酒壺ニ、成リテシカモ、酒ニ染ナム」 古今集、三、夏「蓮葉ノ、濁ニしまヌ、心モテ、何カハ露ヲ、玉ト欺ク」「水、しむ」油、しむ」色、しむ」（二）染ミテ、痛ム。刺滲。「藥ガ、傷ニしむ」冷イ風ガ、目ニしむ」（三）〔深ク、感ズ、徹ル、〕感觸。感染。 萬葉集、廿、四十五「鶯ノ、聲ハ過ギヌト、思ヘドモ、之美ニシ心、[illegible]ヒニケリ」 枕草子、二、第十八段、心ときめきするもの「頭洗ヒ、化粧ジテ、香ニしみタル衣着タル」 源、廿八、野分「大方ニ、荻ノ葉過グル、風ノ音モ、憂キ身一ツニ、しむ心地シテ」 同、四、夕顏「我ガ心ナガラ、イトカク、人ニしむ事ハ無キヲ、イカナル契ニカハアリケン、ナド思シヨル」「心ニしみテ忘ラレズ」

しむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）［染］ 染ミサス。 源、十三、明石「淺カラズしめタル紫ノ紙ニ」 同、廿三、初音「侍從（香）ヲ薫カシテ、物

ゴトニしめタルニ」同、三十二、梅枝「花ノ枝ニ、イトドしヲ、しむるカナ、人ノ咎メム、香ヲバ包メド」
[illegible]

しむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【凍】 (寒サ染ム意カ、又、締むる意カ) 寒氣ノ身ニ、物ニ、滲リ着ク。コホル。(今モ、東北、信濃ニテ、しみるト云フ) [illegible]

しむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【締】 (一)ユルミナクスル。緊ク、引キチヂムル。固ク結ブ。緊縮 著聞集、十、相撲強力、近江ノ金ト云フ強力ノ遊女「弱腰ヲ強ク挾ミテ [illegible] 吹キテ死ナントシケリ」「身代ヲ取りしむ」(二)束ネ結フ。ムスブ。約「帶ヲしむ」「繩ヲしむ」(三)閉ヅ。トザス。入レ收ム。闔「戸ヲしむ」「抽匣ヲしむ」(四)數ヲ、一ツニ合ハス。合計「金高ヲしむ」「しめテ千圓」(五)シボル。榨「油ヲしむ」(六)クビル。ククル。縊「喉ヲしむ」

しむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 【占】 (領ゐるニ通ズ) 我ガ有トス。得テ、取ル。領ス。占有ス 萬葉集、十七、[illegible] 萬葉集、十九「[illegible]奈良人ニ見ムト、我ガ[illegible]之米ケム紅葉、地ニ落チメヤモ」同、[illegible]「妹ニ似ル、[illegible]草ト見シヨリ、吾ガしめシ、野邊ノ山吹、誰レカ手折リシ」人丸集、二「三島江ノ、玉江ノ薦ヲ、標之ヨリ、己ガトゾ思フ、未ダ苅ラネド」[illegible]上、「此ノ國ノ奥ノ郡ニ、人モ通ヒ難ク、深キ山アルノ、今昔モ、しめ置キナガラ」拾遺集、十六、雜春「占めテコソ、千年ノ春ハ、來ツツ見メ、松ヲ手ダユク、何カ引クベキ」拾玉集、[illegible]「山陰ノ、岩井ノ水ニ、宿しめテ、夏ヲヨソニモ、過シツル哉」[illegible]

しむ・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (助動) 【令・使】 (一)他ヲ使役シテ、動作ヲ爲サスル意ノ助動詞。サス。ス。俾 教 神代紀、上「[illegible]性好[illegible]」[illegible]紀、七年九月、[illegible]「妹ガ手ヲ、我レニ纏カ[illegible]毎、吾ガ[illegible]ノ、捧タル[illegible]水、イ取リ來テ、君ニ奉リテ、越得之牟[illegible]モノ」同、十四[illegible]ノ上ニ、イ[illegible]カレ[illegible]ノ、カミマツク、人ゾオタバフ、イザ妹之賓トラ」「行カしむ」取ラしむ [illegible] (二)[illegible]ジテ、敬語ニ云フ助動詞。サス 神代紀、下[illegible] 萬葉集、十四「[illegible]道ハ、今ノ墾リ道[illegible]」宇津保物語、祭使「嫗ニ、男アハスル心ハ、ヤモメナル人ノ、貧シクタヨリナクテ、親ノワヅラヒトアルニヨリ、スルニハアラズヤ、殿ノセしめ給フ如クニテハ、[illegible]ノ本意ナシ」

しん (名) 心 (一)ココロ。荀子、解蔽篇「心[illegible]」[illegible] 孟子、告子、上篇「心之官、[illegible]」[illegible] (二)心ノ臟。心臟。五臟ノ一、血ノ運行ヲ司ルモノ。胸郭ノ中位、左傍リニアリテ、第五六肋骨ノ間、胸骨ニ近ク、間斷ナク、搏動シテ、鮮血ヲ動脈ニ送リ、汗血ヲ靜脈ヨリ受ク。史記、扁鵲倉公傳「心、重十二兩、中有七孔三毛」源氏冷泉院[illegible]ノ三ツモ、心、肝、腎モ、命門モ、右ニ有ルヤラ、左ヤラ[illegible] (三)タダナカ。マンナカ。中心 禮記、少儀篇[illegible] 古歌「日出當心、謂日中也」「柱ノ心」(四)物ノ、眞中ニアル物ノ稱、山谷集[illegible]

心[illegible]」狂言記、[illegible]大名[illegible]云云、左ノ方ヘ、スノト出タ[illegible]、云云、[illegible]、オクセイ、引切テ、しんニ立テウニ」(生花ノ)「樹ノ心」「梨ノ心」「筆ノ心」蝋燭ノ心」らんぷノ芯」(五)ムネ。胸部。莊子、天運篇「西施病心而矉其里」(六)オモヒ。カンガヘ。心中 左傳、襄公三十一年「人心不同、如其面焉」(七)星ノ名、二十八宿ノ一、ナカゴ。商星 史記、天官書「心爲明堂」(八)しんうち(心打)ノ略。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「芝居事、云云、己モ、しんニ入ネヘナ」

しん (名) 信 (一)マコト。五常ノ一、僞ハラズ、欺カヌコト。信義 易經、中孚卦、彖傳「信及豚魚也」論語、學而篇「與朋友交、言而有信」徒然草、百十一段「信ヲモ守ラジ、禮儀ヲモ思ハジ」名義抄「信、マコト、ツカヒ、シルシ」(二)疑ハヌコト。信ズルコト。信向。信心。荀子、非十二子篇「信信信也、疑疑亦信也」[illegible] 宇治拾遺、十[illegible] 徒然草、二百三十六段「各、拜ミテ、ユユシク、信、起シタリ」(三)オトヅレ。タヨリ。音信。史記、[illegible]信臣二 (四)二晩ドマリ。再宿。左傳、莊公三年「一宿爲舍、再宿爲信」

しん (名) 神 (一)かみ。論語、八佾篇「季氏旅於泰山」[illegible] (二)クシビナルコト。靈妙不可思議ニテ、測リ知ラレザルコト。[illegible] 易經、繫辭、上傳「陰陽不測、之謂神」[illegible] 孟子、盡心、下篇「聖而不可知之之謂神」中庸、廿四章「至誠如神」「其效、神ノ如シ」(三)人ノ精氣。精神。又、死者ノ靈、[illegible]「丁寧再三、[illegible]神ヲ傷マシム」

しん (名) 眞 (一)マコト。虚ナラズ、僞リナラヌコト、ホンタウ。(僞ニ對ス)

[illegible] (二)造妄ニ、アラザルコト、ホンモノ。「眞贋」(四)純粹ナルコト。楚辭、卜居[illegible] (五)楷書。眞書 正書 [illegible] 正シウ眞ニ書キ、ニ八、御筆トトメテ、草ニ、メデタク書キテ」

しん (名) 臣 (一)オミ。君ニ仕フルモノ、ケライ。臣下。(君ニ對ス) 易經、上經、坤卦、[illegible]「地道也、妻道也、臣道也」禮記、禮運篇「仕於公曰臣、仕於家曰僕」孟子、離婁、下篇「君之視臣如手足、則臣視君如腹心」(二)男子ノ賤稱、[illegible] 孟子、萬章、下篇「在野曰草莽之臣」

しん (名) 新 (一)アタラシキコト。アラタナルコト。又、其物。(舊、故、ニ對ス) 論語、爲政篇「溫故而知新」[illegible] (二)官位ノ、新タニナレルモノノ稱。今昔物語、廿八、第四語「新源少將ノ君」榮花物語、七、鳥邊野「新中納言、和泉式部ナド、云云」(三)穀、果、實、釀造、製造ノ物ナド、スベテ、今年、新タニ成レルモノノ稱。(陳ニ對ス) 禮記、月令篇「嘗新」「新米」「新米」新芽」新酒 新茶 新トひねト (四)新暦ノ略。(舊ノ(二)ニ對ス)「新ノ正月」(五)新年ノ略。「舊ヲ送リ、新ヲ迎フ」

しん (名) 親 (一)シタシキコト。シタシミ。ヨシミ。(疎ニ對ス) 大學「君子賢其賢、而親其親」孟子、盡心、上篇[illegible] (二)オヤ。父母。兩親。禮記、祭義篇「立愛自親始」中庸章句、廿章「不順乎親、不信乎朋友」揚子法言、孝至篇

「孝莫レ大二於嚴一レ親」(三)親族。親戚。孟子、盡心、上篇「親レ親而仁レ民」 李商隱、雜纂「不レ達二時宜一」「認二他高貴一爲レ親」

しん (名) 【箴】 (一)イマシメ。イマシメノ言。規戒。箴言。書經、盤庚、上篇「無二或敢伏二小人之攸一レ箴」 (二)文ノ一體。イマシメノ事ヲ記シ、多クハ、韻ヲ履ミタルモノ。文體明辨「按、說文云、箴者、誡也、蓋、醫者以二箴石一刺レ病、故有レ所二諷刺一而救二其失一者、謂二之箴一、喩二箴石一也」 漢書、揚雄傳、贊「箴莫レ善二于虞箴一、作二州箴一」 張華「女史箴」

しん (名) 【紳】 高貴ノ人ノ衣冠、束帶ノ時ニ、腰ヲ束ネ、其ノ餘リヲ垂ラシテ、飾リトスル帶。オホオビ。論語、衞靈公篇「子張書二諸紳一」

しん (名) 【榛】 (一)ハシバミ。詩經、邶風、簡兮篇「山有レ榛」 (二)誤リテ、ハリノキ。

しん (名) 【軫】 (一)車ノ後方ノ横木。(二)星ノ名、二十八宿ノ一、ミツウチ。史記、天官書「軫爲レ車、主レ風」 (三)琴ノ下方ニアリテ、絃ヲ緊慢セシムル具。李白詩「拂レ軫弄二瑤琴一」 事林廣記「絃之緊慢、皆由レ軫」

シン (名) 【清】 (一)滿淸ノ朝廷ノ稱。清朝。「日淸戰爭」 (二)一種ノ活字。楷書。清朝活字。(明朝活字ニ對ス)

しん (代) 【臣】 自稱ノ代名詞、君上ニ對シテ用ヰル。(漢文ニテ) 漢書、鄭崇傳「臣門如レ市、臣心如レ水、願得二考覆一」 後漢書、高祖紀「臣少、好相レ人」(呂公ガ、劉季ニ對シテ云ヘルナリ) 太平記、十三、龍馬進奏事「臣、愚、竊ニ、是ヲ按ズルニ」(藤房卿ノ、後醍醐天皇ニ申シ上グルナリ)

しん (名) 【仁】 五常ノ一、又、三德ノ一、人タル者ノ、天性、固有ノ善德、其發動スル、親ニ施セバ孝、君ニ施セバ忠、行フ所トシテ、誠ナラザルナキコト。ナサケブカキコト。イツクシミ。ウツクシビ。論語、學而篇「孝弟也者、其爲レ仁之本與」 同、顏淵篇「樊遲問レ仁、子曰、愛レ人」 同卷「克レ己復レ禮、爲レ仁」 禮記、禮運篇「仁者義之本也、順之體也、得レ之者尊」 同「何謂二人義一、父慈、子孝、兄良、弟弟、夫義、婦聽、長惠、幼順、君仁、臣忠、十者、謂二之人義一」 著聞集、八、孝行恩愛「仁、義、禮、智、信ノ五常ヲ亂ラザルヲ、德トスベシ」

しん (名) 【人仁】 〔說文、我部段注「仁者人也」論語、雍也篇「曰二井有レ仁焉一」朱注「可三以救二井中之人一」〕 人。晉書、宋纖傳「先生、人中之龍」 南史、除勉傳「此所レ謂人中騏驥、必能致二千里一」 釋氏要覽「治禪經後序云、天竺大乘沙門、佛陀斯那、天才特拔、諸國特步、內外綜博、莫二籍不一レ練、世人咸曰二人中獅子一」 沙石集、四、下「道人可レ捨二執着一事」 本朝文粹、大江匡衡文「臣謬當二其仁一、聊記二盛事一」 吾妻鏡、四十、建長二年三月廿六日「是相州仰、云云、依レ爲二尊仁一也」「彼ノ仁」

しん (名) 【腎】 古言、ムラト。又、腎の臟。五臟ノ一、形、長ク扁クシテ、二體アリ、色、赤褐ナリ、腸ノ後ニアリテ、尿水ヲ分泌スル機關ナリ。漢方醫ノ說ニテハ、誤リテ、精液ノ府ナリトス。禮記、月令篇「孟冬之月、先レ腎」 素問「藏各有レ一、腎獨兩何也、腎兩者、非二皆腎一也、其左者爲レ腎、右者爲二命門一」 增補、下學集、上、支體門「腎、ムラト、ジン」「腎虛」

しん (名) 【仞】 七尺ノ稱。(或ハ、四尺トモ、五尺六寸トモ云フ) 釋文「仞、七尺也」 禮記、祭義篇「築レ宮、仞有三尺」 漢書、賈誼傳「鳳凰翔二於千仞一」

しん (名) 【尋】 支那ニテ八尺ノ稱。我國ニテひろト訓ミテ六尺トス。周禮、地官、媒氏、注「八尺曰レ尋」

しむ (名) 【事務】 勤メノ上ノ用事。ツトメ。應璩、與二滿炳一書「適有二事務一、須二自經營一」 書經「制二治于未一レ亂」疏「張レ官設レ府、使二分レ職明察一、任レ賢委レ能、令二事務順一レ理、如レ是則政治而國安」

しむ (名) 【時務】 (一)當時ノ政務。漢書、昭帝紀「光知二時務之要一、輕レ徭薄レ賦、與レ民休息」 班固、答賓戲「李斯奮二時務一、而要二始皇一」 (二)時機ノツトメ。後漢書、張衡傳「諸陽宦、胡貴盛、間二議名行一、欲二與爲一レ交、衡逡巡不レ答、衆人笑二其不一レ識二時務一」 隋書、高祖紀「分レ職設レ官、共理二時務一、班位高下、各有二等差一」

しむ (名) 【寺務】 (一)寺院ノ事務。著聞集、一、神祇、北野宰相「寺家ノ佛事、神事ノ儀式、寺務ノアルベキ次第ナド、委シク記シオカレテ」 (二)僧官ノ稱。(興福寺ナドニ) 職原抄、後附「僧官位、寺務」

しん-あい (名) 【親愛】 〔連聲ニ、しんない ト訓ム〕 シタシミ、イツクシムコト。大學「人之二其所一レ親愛而辟焉」 孟子、萬章、上篇「身爲二天子一、弟爲二匹夫一、可レ謂レ親二愛之一乎」

しん-あい (名) 【信愛】 信ジテ、イツクシムコト。宋史、胡瑗傳「視二諸生一如二其子弟一、諸生亦信愛、如二其父兄一」

しん-あい (名) 【深愛】 フカク、イツクシムコト。禮記、祭義篇「孝子之有二深愛一者、必有二和氣一」

しん-あい (名) 【仁愛】 メグミ、イツクシムコト。仁惠。漢書、董仲舒傳「以レ此見二天心之仁愛一」

しん-あう (名) 【深奧】 オクフカキコト。深邃。深長。祕奧。易經、文言傳、疏「乾坤、易之門戶、義理深奧、故特作二文言一、以開二釋之一」 魏武帝、碣石篇「雖レ不レ入レ地、蘊藉深奧」「其理、深奧ナリ」

しん-あん (名) 【新案】 アラタナル工夫。新意匠。「新案特許」

しん-い (名) 【神異】 〔神祇、靈異ノ略〕 クシビナルコト。神ノ、不思議ナルコト。謝靈運、山居賦「投二神異於緯牒一、驗二感應於慶靈一」 釋紀、十五、述義 日本後紀曰、淳和天皇天長九年五月、云云、伊豆國言上、三嶋神伊古奈比咩神二前預二名神一、此神等、深谷、摧二高巖一、平造之地二千町許、作二神宮二院池三處一、神異之事、不レ可二勝計一」

しん-い (名) 【神意】 カミノココロ。神ノ思召。神慮。王充、論衡「人心神意、同二吉凶一也」

しん-い (名) 【心意】 ココロ。意志。精神。莊子「逍遙於天地之閒一、而心意自得」(佩文韻府) 史記、李斯傳「娛二心意一、說二耳目一者」

しん-い (名) 【眞意】 マコトノ心。マコトノ意義。陶潛詩「此中有二眞意一、欲レ辯已忘レ言」

しん-い (名) 【深意】 深キ意味。謝靈運、山居賦「醫二張左之艷辭一、尋二臺皓之深意一」 蘇軾、謝二蘇自之惠一レ酒詩「吾宗先生有二深意一、百里雙鵬遠將レ寄」「深意ノアル所」

しん-い (名) 【新意】 〔古意ニ對ス〕 新シキ意義。新義。杜預、左傳序「有二史所レ不レ書、即以爲レ義者、此蓋春秋新意」 唐書、徐旷傳「先儒異論、分二明是非一、乃出二新意一以折衷」

しん-い (名) 【新衣】 〔故衣ニ對ス〕 アタラシキ衣服。仕立オロシ。禮記、喪大記篇「徹二褻衣一、加二新衣一」 古辭「新衣誰當補、故衣誰當レ綻」(佩文韻府) 李商隱、雜纂、酸寒「村夫著二新衣一」

しん-い (名) 【寢衣】 就寢ノ時ニ着ル衣。ネマキ。論語、鄕黨篇「必有二寢衣一、長一身有半」

しん-い (名) 【襯衣】 〔唐韻「襯、近レ身衣也」〕 ハダギ。シタギ。シャツ。

しん-い (名) 【辛夷】 木ノ名。コブシ。楚辭、九歌「辛夷楣兮葯房」 白居易詩「北村尋二古柏一、南宅訪二辛夷一」

しん-い (名) 【鍼醫】【針醫】 ハリイ。本朝醫考、中「上池院民部卿法印紹胤之孫、常三、井、鍼醫、近世以二鍼醫一鳴二於世一、其徒到レ今多矣」

しん-い (名) 【嗔恚】【瞋恚】 〔連聲ニ、しんに ト訓ム〕 佛經ノ語、イカリ。ハラダチ。大藏法數「嗔恚者、卽、忿怒之心也、謂下諸衆生、或於二

[illegible]、朱祁鈺[illegible]「[illegible]」字治拾遺、十一、第十條「闘諍ノ災ハ、同ジヤウニ燃ユレドモ、敵ノ子孫ハ絶エハテタリ」

しんい (名) 人意 ヒトゴコロ。人ノ心。人心。[illegible]

しんいう (名) 親友 親シキ友。交リ深キトモダチ。ムツマジキ好友。[illegible]

しんいう (名) 心友 ココロノトモ。會心ノ友。論語、上、本「朋友ハ、互ヒニ信ヲモテ、相交ハルヲ本トス、信ハ、偽リナク、實ナル意ナリ、友達ノ交リニ、心友、面友ノ差別、肖價ノ親疎、サマザマアリトイヘドモ、畢竟ハ皆、信ノ道ヲ本トス」

しんいう (名) 辛酉 カノトノトリ。(えとの條ヲ見ヨ)

しんいう (名) 神佑神祐 [集韻]「佑、佐助也、與祐同」 神ノ冥助。神助。[illegible]

しんいう (名) 宸憂 (宸襟ノ語原ヲ見ヨ) 天皇ノ御憂慮。帝王ノ御心配。

しんいう (名) 軫憂 楚辭、九章、[illegible]王念往軫痛也」 イタミ、ウレフルコト。

しんいう (名) 深憂 フカキウレヘ。甚シキ心配。殷憂。杜甫詩「[illegible]」

しんいふ (名) 深揖 (揖トハ、拱禮ノ意ニテ、人ニ向ヒ、笏ヲ把リ、上體ヲ傾クルナリ、貂揖ノ條ヲモ見ヨ) 敬禮ノ一、

兩手ヲ以テ笏ヲ執リ、腰ヲ折リテ俛伏スルコト。中右記、大治四年正月一日、天皇(崇德)[illegible]永治二年正月十一日、[illegible]云云、入、自、御座[illegible]深揖候」

しんいん (名) 神胤 (皇胤ニ對ス) 神ノ後胤。神ノ御裔。神裔。神孫。[illegible]

しんいん (名) 心印 (佛心ノ印證スル所ノ義) 佛經ノ語、佛心印ノコト。即チ、佛ノ内證ノ心地ヲ、師資、相承スルヲ云フ。禪家ニテ [illegible]

しんいん (名) 眞印 佛敎ノ語、眞實ノ印璽。[illegible]

しんいん (名) 壬寅 ミヅノエノトラ。(えとノ條ヲ見ヨ)

しんいり (名) 新入 新タニ、仲間ニ入リ加ハルコト。又、其人。新參。

しんう (名) 甚雨 強キ雨。大雨。霖雨。[illegible]

しんうち (名) 心打眞打 略シテ、しん。落語、又ハ、講釋ナドノ、一座ノ主タルモノ。座ガシラ。巨子

しんうん (名) 進運 進歩ノ氣運。[illegible]國家

ノ進運。

しんえい (名) 神裔 しんいん(神胤)ニ同ジ。[illegible]

しんえい (名) 神詠 神ノ、詠ミ給ヘリト云フ詩歌。

しんえい (名) 神影 神ノ畫像。南史、梁[illegible]

しんえい (名) 眞影 マコトノスガタ。寫眞。[illegible]

しんえい (名) 身影 自身ノカゲ。[illegible]

しんえい (名) 人影 ヒトカゲ。蘇軾、後赤壁賦「人影在地、仰見明月」

しんえき (名) 神易 神ノ敎ニヨリテ、顯ハルル卜兆。[illegible]

しんえつ (名) 親閲 親ラ、ケミスルコト。親シク、見ソナハスコト。[illegible]

しんえふ (名) 心葉 おおろば(心葉)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しんえふじゅ (名) 針葉樹 (闊葉樹ニ對ス) 森林樹種ノ一、即チ、まつ、すぎ、さはら、ひば、ひのき、等ノ類ニシテ、其葉ノ、針狀、又ハ、鱗狀ヲナシタル樹木ヲ云フ。

しんえん (名) 宸宴 (宸襟ノ語原ヲ見ヨ) 天皇ノ、臣下ニ賜ハル御酒宴。平家

物語、[illegible]云云、宸宴アリ[illegible]太平記、四十、中殿御會[illegible]元年十月、[illegible]ヲ獻ゼシメ、宸宴アリキ」

しんえん (名) 人煙 人家ノ竈ノ煙。杜甫詩「人煙寒橘柚、秋色老梧桐」太平記、十八、後醍醐天皇潜ニ幸吉野ニ事「大和國、賀名生ト云所ノ有樣、里遠シテ、人煙幽ニ、山深シテ、鳥ノ聲モ稀ナリ」「人烟、盛ンニ起ル」「人烟、天ニ接ス」「人烟稀疏」

しんおん (名) 脣音 音韻學ト、聲音學トノ二種アリ、音韻學ニテハ、七音ノ一、悉曇ニハ、清音p、次清音p'(三)、濁音b、次濁音b'(三)、清濁音mノ五種アリ、支那ニハ、コノ破裂音ノ外ニ、摩擦音ニテ、脣ノ閒ニ發音セラルルf・v、等ノ音アリ、故ニ、韻鏡以下、脣音ヲ二種ニ分チテ、輕重ノ二目ヲ立テタリ。聲音學ニテハ、上下兩脣ノ閒ニ於イテ調節セラルル音、其中、全ク、上下ノ脣ヲ用キルモノト、上脣ノ代ハリニ、上齒ヲ用キルモノトアリ、共ニ又、破裂音ト、摩擦音トヲ有ス、脣音ノ破裂音ハ、即チ、p(無聲)、b(有聲)ノ一對アリ、p、及、bハ、齒脣音ニ發音セラルルコトナキニシモアラザレドモ、通常ハ多ク、兩脣音ナルガ如シ、我ガ國ノ、ぱ・ぴ・ぷ・ぺ・ぽ、及、ば・び・ぶ・べ・ぼ、ノ音、英語、佛語、獨語ノ、P・Bノ音モ皆、兩脣音ナリ、脣音ノ摩擦音ハ、有聲、無聲、數對アリ、兩脣ノ閒ニ、弱ク發音セラルレバ、無聲ノ際ニ、W音、即チ、英語ノ What, Who. 等ノ Wh ヲ以テ寫サルルモノヲ生ジ、有聲ノ際ニ、W音、即チ、我ガ國ノ和行ノ子音、及、英語ノWノ音ヲ生ズル類ナリ。(日本百科大辭典)

じん-おん（名）【神恩】神ノ御恩。神ノメグミ。十訓抄、上、第四、世尊寺阿闍梨仁俊「神恩ノアラタナルヲ感ジテ」盛衰記、四、山門御輿振事「年來、醫王山王ニ首ヲ傾奉テ、子孫ノ神恩ヲ仰ギ奉」

じん-おん（名）【仁恩】イツクシミ、メグムコト。アハレミテ、情ヲカクルコト。徐陵、廣州刺史歐陽頠德政碑「仁恩可ㇾ以懷ㇾ狂獸ㇾ、威名可ㇾ以懼ㇾ啼兒ㇾ」三國志、魏志、文帝紀、注「太古、聖王之治也、云云、禮教優ㇾ乎昆蟲ㇾ、仁恩洽ㇾ乎草木ㇾ」太平記、一、武家繁昌事「謙ニ居テ、仁恩ヲ施シ、己ヲ責テ、禮義ヲ正ス」

しん-か（名）【臣下】臣ト云フニ同ジ。（君上ト云フニ對ス）書經、泰誓、中篇「今商王、云云、臣下化ㇾ之ㇾ」尹文子、大道、下篇「臣下之所ㇾ宜ㇾ慎」宇津保物語、嵯峨院三ヽむかト云フ物ハ、君ノ若クオハシマス、御心ノ愚カニオハシマス時コソ侍レ、カク、明王ノコト、オハシマス世ニハ、何事ヲカハ定メ申サム」

しん-か（名）【晨霞】アサガスミ。朝ノモヤ。杜甫詩「晨霞朝可ㇾ餐」

しん-か（名）【眞箇】マコト。眞正。趙嘏詩「蕭仙眞箇是仙ㇾ」蘇軾詩「老夫眞箇是痴兒」

しん-か（名）【眞價】眞ノ價値。ホンタウノネウチ。「人物ノ眞價」

しん-か（名）眞假　ホンモノト、カリモノト。マコトト、イツハリト。眞贋。

シン-か（名）【請暇】〔しんハ、宋音〕親ノ喪ニヨリテ、暇ヲ請フコト。請暇（セイカ）南史、孝義傳「自京口ㇾ請ㇾ暇還ㇾ家」庭訓往來、十月「請暇、病暇」下學集、下、態藝門「請暇、シンカ」

じん-か（名）【人家】人ノ住メル家。李中詩「隔ㇾ岸見ㇾ人家ㇾ」狂言記、禰宜「サモ淺レタル人家ヨリ、影ノ如クニ見エ給フハ、イカナル人ニテマシマスゾ」

シンガア（名）〔英語、Singer.〕歌ヲウタフ人。歌妓。

しん-かい（名）【神階】カミカウブリ。朝廷ヨリ、神神ニ贈ラルル位階。文德實錄、二、嘉祥三年七月丙戌「進ㇾ山城國火雷神階ㇾ、授ㇾ從五位上ㇾ」同、十月辛亥「進ㇾ大和國大和大國魂神階ㇾ、授ㇾ從二位ㇾ」同、三、仁壽元年十月丙午「進ㇾ肥後國健磐龍命大神階ㇾ、加ㇾ從二位ㇾ」

しん-かい（名）【新開】荒地ヲ、新タニ、田畠、宅地、道路ナドニ開クコト。ニヒハリ。アラキバリ。新墾　地方要集錄、新田ニ開キタルヲ申候」地方凡例錄、二「他村之番ニテモ新開顯出ル時、古田畑之障リ、井、隣村之差障有無等、得ト糺シ、障無ケレバ、新開申付ル」

しん-かい（名）【深海】（一）深キ海。淺キヲ、淺海ト云フ。（二）深サ、二百めえとる以上ノ海。

しん-がい（名）【辛亥】カノトノヰ。（えとノ條ヲ見ヨ）

しん-がい（名）【津涯】キシ。ミヅギハ。書經、微子篇「今殷其淪喪、若ㇾ渉ㇾ大水ㇾ其無ㇾ津涯ㇾ」

しん-がい（名）【侵害】ヲカシ、ソコナフコト。侵入シテ、害ヲ加フルコト。侵殘　左傳、襄公十一年、註「侵ㇾ害隣國ㇾ」「權利侵害」

しん-がい（名）【震害】地震ノ被害。「震害ヲ調査ス」

しん-がい（名）【震駭】フルヒ、オドロクコト。オドロキ、オソルルコト。晉書、孫楚傳「煙塵俱起、震ㇾ天駭ㇾ地ㇾ」唐書、盧從願傳「殺ㇾ生所ㇾ忽數千家、州人震駭、皆重ㇾ足立ㇾ」

しん-かう（名）【神幸】神ノ、臨幸スルコト。神ノ、出デマスコト。神輿ノ、渡御スルコト。廿二社本緣、石淸水事「神幸乃儀、行幸仁比セフ留、六府乃將佐、弓箭乎帶志天、供奉寸」

太平記、三十九、神木御歸座事「隨人十人アリトイヘドモ、態、御先ヲバ追ズ、神幸ニ恐ヲナシ奉ル故ナリ」諸國圖會年中行事大成、四、六月、祇園會、云云、未ノ刻、御神幸、神幸ノ式、云云」

・しん-かう（名）【神效】不思議ナル效。妙ナル利目。靈驗　宜室志「云云、其他神效、不ㇾ可ㇾ具述ㇾ」

しん-かう（名）【信向・信迎・信仰】（一）佛經ノ語、心ニ、佛神ノ道ヲ信ジ賴ルコト。歸依。著聞集、一、神祇、二條宰相雅經「コノ示現聞キテ、イカバカリ、イヨイヨ、信仰ノ心モ深カリケン」同、二、釋敎、高辨上人「信仰ノ念佛ヲ勸メラル」（二）信トシ、肯フコト。其德ヲ知リ、誠意ヲ捧ゲ、志ヲ傾ケテ、之レニ事フルコト。漢書、韓延壽傳「所ㇾ信向ㇾ」

しん-かう（名）親耕　天子ノ、親ラ、田ヲ耕スコト。穀梁傳、桓公十四年「天子親耕以共ㇾ粢盛ㇾ、王后親蠶以共ㇾ祭服ㇾ」

しん-かう（名）【親好】シタシミ、ヨキコト。仲ノヨキコト。北史、王誼傳「朕共遊ㇾ庠序ㇾ、遂相親好」

しん-かう（名）【親幸】シタシク、愛スルコト。お側ニ置キテ、寵愛スルコト。史記、酷吏傳「助親幸、出ㇾ入禁闥ㇾ爪牙臣ㇾ（嚴助）」

しん-かう（名）【親交】シタシク、マジハルコト。親密ノ交際。又、其人。古詩、善哉行「親交在ㇾ門」漢書、翟方進傳「親ㇾ交略遊、以求ㇾ智學ㇾ」

しん-かう（名）【深交】フカク、マジハルコト。一通リナラヌ交際。晉書、溫嶠傳「嶠與ㇾ庾亮ㇾ深交ㇾ」

しん-かう（名）【深更】夜ノ、深ケタルコト。ヨフケ。（更ノ條ヲ見ヨ）曹伯啓詩「樓鼓縣ㇾ深更ㇾ」盛衰記、三十九、重衡酒宴事「夜ハ、深更ニナリヌ、人ハ、鳴ヲ鎭タリケレバ」

しん-かう（名）【深耕】フカク、タガヤスコト。孟子、梁惠王、上篇「施ㇾ仁政於民ㇾ、省ㇾ刑罰ㇾ、薄ㇾ稅斂ㇾ、深耕易耨」

しん-かう（名）【進行】（一）ススミ、ユクコト。行進。（二）果ノ、ユクコト。ハカドルコト。進捗。「事務ノ進行」

しん-かう（名）【進講】貴人ノ前ニ於イテ、講義スルコト。御前講義。元史、泰定帝紀「許師敬、編ㇾ類帝訓ㇾ成、請ㇾ於經筵ㇾ進講」

しん-かう（名）【新香】新漬ノ香ノ物。

しん-がう（名）神號　神ノ稱號。後法興院記、明應三年八月廿日「就ㇾ後鳥羽院神號陣儀ㇾ、仰詞事、仰旨不ㇾ可ㇾ有ㇾ子細ㇾ乎」

しん-がう（名）【信號】相圖ノ、シルシ。色、音、形、光、ナド、定リタル符號ヲ、約束シ置キテ、隔リタル雙方ニ、意ヲ通ズル方法。

しん-かき（名）眞書　筆ノ、甚ダ細ソキモノ、眞字、卽チ、楷書ヲ、細カク書クニ用キル。用明天皇職人鑑、寶永、近松作）職人盡「假名書筆ノ假名文ニ、眞書筆ノ眞賞ノ」

しん-かく（名）【審覈】〔覈ハ、考ヘ調ブル意〕ツマビラカニ、糺スコト。後漢書、賈逵傳「遊ㇾ情六藝ㇾ研ㇾ機綜ㇾ微、靡ㇾ不ㇾ審覈ㇾ」

しん-がく（名）【晨岳】朝日ノ出ヅル山。東方ニアル山。曉山　盛衰記、八、讚岐院事「月、西山ニ傾ケバ、懇誠、仙宮ノ曉ノ詠メヲ思ヒ出ヅ、日、晨岳ニ出ヅレバ、龍樓、竹園ノ甚ダシキ哭ヲ忘レズ」

しん-がく（名）心學　享保ノ頃、京都ノ石田梅巖（勘平）、始メテ唱ヘ、其門人、

[illegible]目前ノ事ニ託シテ、[illegible]、道口トモ云フ（堵庵、天明六年歿、六十九、道二、享和三年歿、七十九）道學　通俗教訓

しんがく（名）［神學］神ノ事ヲ研究スル學（多クハ、耶蘇教ニテ云フ）

しんかく（名）人格（英語、Personality ノ譯語）（一）人ノ性格。其人ニ具ハリタル品格。ヒトトナリ。ヒトガラ。「人格ヲ尊重ス」「人格ヲ無視ス」（二）人タル資格。「人格化」

しんかげりう（名）新陰流　眞影流（新、或ハ、眞、或ハ、神、或ハ、心ニ作ルト）劍術ノ一派、傳長、元和ノ頃、陰流、愛洲移香ノ門人、上泉伊勢守秀綱（初名、主水、和泉、堺ノ住人）ノ創メタリシモノ、

しんがた（名）新形　新規ナル形。斬新ナル形式　[illegible]

しんかたかな（名）眞片假名　眞字ト、片假名トヲ雜ヘテ記ス文ノ稱

しんかでん（名）［神嘉殿］古ヘ、大内裏ノ中ノ、中和院ノ正殿ノ名、神事ニ用キラル。今ハ、東京皇居ノ賢所ノ西ニアリ、祭典ヲ行ハセタマフ所。[illegible]

しんかふ（名）［親狎］シタシミ、ナルルコト。昵狎　[illegible]

しんかぶ（名）新株［舊株ニ對ス］株式會社、又ハ、株式合資會社ノ、其資本ヲ增サム場合ニ、新タニ發行スル株式、又ハ、株券。

しんがほ（名）［新顏］新タニ加ハハリタル人。新規ナル顏觸。

しんかん（名）宸翰［宸ノ義ハ、宸襟ノ語原ヲ見ヨ］天子ノ御直筆。御筆跡。宸筆。[illegible]

しんかん（名）［宸鑑］天子ノ鑒識。天子ノ、見ソナハスコト。聖鑒。[illegible]

しんかん（名）［神鑒］スグレタル、目キキ。[illegible]

しんかん（名）［神感］神ノ、感ジタマフコト。神ニ、感通スルコト。[illegible]「神感ノ餘リニ、天神、御詠吟有ケルニコソ」

しんかん（名）［震撼］フルヒ、動カスコト。宋史、洪咨夔傳「震ニ撼海宇一、天下始知レ有ニ吾君一」

しんかん（名）新刊［舊刊ニ對ス］アラタニ、書物ヲ刊行スルコト。又、アラタニ刊行シタル書物。「新刊ノ圖書」

しんかん（名）［心肝］（一）心臓ト、肝臓ト。[illegible]（二）ココロ。肺肝。衷心。丹心。赤心。[illegible]

しんがん（名）［心眼］肉眼ノ視力以外ハノ、物事ヲ覺リ知ルコト。[illegible]

しんがん（名）眞贋　ホンモノト、ニセモノト。眞僞。[illegible]

しんかん（名）甚寒　甚ダシキ寒サ。酷寒　沍寒　嚴寒「甚寒之候」

しんかんふう（名）［宸翰風］書風ノ一種、豐麗ナルモノ、有栖川家ニ傳ヘラル。

しんがら（名）新柄　斬新ナルガラ。模樣ナドノ、目アタラシキ柄。「新柄ノ浴衣」

しんがり（名）殿［後驅ノ音便カ、又、後押ノ意カ］軍、退クトキ、最後ニ立チテ、追ヒ來ル敵ヲ防グコト。シリハラヒ。後拂。アトゾナヘ。甲陽軍鑑、一、品第三「明日早早、引トルベキ、云云、サラバ、しんがりヲ彼ニ仰付ト候ヘ」

しんき（名）［神器］神靈ナル器。神ニ屬スル器物。老子、廿九章「天下神器、不レ可レ爲也、爲者敗レ之」[illegible]

しんき（名）［神氣］（一）不思議ナル雲氣。史記、封禪書「長安東北、有ニ神氣一、成ニ五采一」[illegible]（二）根氣。氣力　[illegible]（三）ココロ。ココチ。精神。南史、蔡興宗傳「小兒四歲、神氣似レ可」

しんき（名）神龜　不思議ナル龜。神靈ナル龜。アヤシキカメ。靈龜。莊子、外物篇「此神龜也」[illegible]「[illegible]神龜元年一而」

しんき（名）神駿　スグレタル馬。駿馬。[illegible]

しんき（名）［神機］測リ知ルベカラザル機略。スグレタルハカリゴト。神算。[illegible]

しんき（名）心機　心ノ、ハタラキ。氣ノ動キ。氣轉。[illegible]「心機一轉」

しんき（名）心氣　辛氣（一）ココチ。ココロモチ。氣分。禮記、月令篇「仲夏之月、云云、[illegible]」（二）俗ニ、心ガ、ムスボホレテ、悶ヘ思フコト。（上方ノ語）自由ナラズ、煩ハシキコト、シンキクサキコト。懊惱（性急ニテ、明人ノ俗語ナリト、陳元贇ハ云ヘリト）[illegible]

しんき（名）［新規］（一）新タニ立テタル規。新律。文獻通考「當レ別立ニ新規一」（二）スベテ、物事ヲ、新タニスルコト、サラ。改新。[illegible]「新規、新キナホシ」

しんき（名）新奇　新ラシク、メヅラシキコト、陳腐ナラザルコト。宋史、[illegible]傳「上疏進レ言者多矣、今皆以ニ陳腐一而別取ニ新奇之說一」

しんき（名）［新禧］［禧ハ、正韻「福也、吉

也」新年ノ幸福。新年ノ吉慶。新祉。「恭賀新禧」

しんき (名) 晨晷 朝ノ日ノヒカリ。晨光。謝荘、宋明堂歌「晨晷促二夕漏一」

しんき (名) 晨起 アサオキ。朝早ク、臥所ヨリオクルコト。夙起。早起。温庭筠、商山早行詩「晨起動二征鐸一、客行悲二故郷一」

しんぎ (名) 心木 心ニナルモノ。直中ニアリテ、物、ソレニ因リテ廻ルモノ。軸。心棒。

しんぎ (名) 眞僞 まことト、いつはりト。眞贋。漢書、宣帝紀「使二眞僞毋一レ相亂一已」後漢書、明帝紀「不レ明二眞僞一」「眞僞ヲ別ツ」

しんぎ (名) 信疑 信ズルト、疑フト。「信疑相、半ス」

しんぎ (名) 信義 信ノ道ヲ、守リ遂グルコト。不實ヲセヌコト。マコトニテ、正シキコト。南史、周敷傳「聞二敷信義一、皆往依レ之」「信義ヲ守ル」

しんぎ (名) 新義 〔古義ニ對ス〕 アタラシキ意義。アタラナル說。新意。晉書、王接傳「接注二公羊春秋一、多有二新義一」

しんぎ (名) 新儀 〔舊儀ニ對ス〕 アタラシキ儀式。王安石詩「日侍二帝側一書二新儀一」綱古事談、二、臣節、六波羅太政入道(平清盛)「善カラヌ新儀行ヒタルモノ、初ニ思立ヲリハ、中中、人ニ云アハスル事ナシ、ソノシワザ、少シク悔シム心アル時、人ニハ問フナリ」

しんぎ (名) 神儀 死者ノ靈魂。多ク、位牌、又ハ、墓石ナドノ、法名ノ下ニ書ク、神位、大覺位ナドヲ云フ。

しんぎ (名) 宸儀 主上。北史、魏紀、第一「陛下躬履二謙虛一、宸儀未レ彰、非レ所 以上允二皇天之意一、帝二三讓、乃詳定二禮樂一」(節文) 盛衰記、三、澄憲祈レ雨事「相撲ノ召合、云云、午剋ニ、宸儀、南殿ニ出御ナリケレバ、内侍、劒璽ニ候シケリ」

しんぎ (名) 審議 ツマビラカニ、協議スルコト。善ク善ク、評議スルコト。熟議。宋史、職官志「大常寺博士、掌下講二定五禮儀式一、有二改革一、則據レ經審議上」

しんき (名) 人氣 世上ノ人ノ、思入。人人ノ氣受。羣衆心理。ニンキ。人心「人氣ニカナフ」「人氣ニサハル」「人氣ガ立ツ」

しんぎ (名) 神祇 天津神、國津神。天神、地祇。神神。論語、述而篇「禱二爾于上下神祇一」書經、微子篇「今殷民乃攘二竊神祇之犧牷牲一」著聞集、一、神祇、序「オヨソ、我ガ朝ハ、神國トシテ、大小ノ神祇、部頂、靈驗、權化ノ道感、感應、遍ク通ズルモノナリ」「神祇、釋敎、戀、無常」

しんぎ (名) 神器 三種神器ノ條ヲ見ヨ。

しんぎ (名) 仁義 仁ト、義ト。(各、其條ヲ見ヨ)人ノ、履ミ行フベキ道德。易經、說卦傳「立二人之道一、曰、仁與レ義」孟子、梁惠王、上篇「王何必曰レ利、亦有二仁義一而已矣」太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「古、五帝三皇ノ、天下ニ王タリシヨリ以來、儒教ヲ以テ仁義ヲ治メ、道德ヲ以テ淳朴ニ歸シ給フ」

しんぎ (名) 辭宜 〔辭宜ノ訛〕 エシャク。挨拶。曾我物語、四、平六兵衞喧嘩事「今、勝負シテハ損也、後日ヲコソト思ヒ留メテ、何ト無キしんぎニ云ヒナシテ、靜マリヌ」

しんきう (名) 新舊 (一)アタラシキト、フルキト。新古。新陳。晉書、張華傳「撫二納新舊一、戎夏懷レ之」(二)新曆ト、舊曆ト。

しんきう (名) 鍼灸 鍼灸 鍼ヲ打ツト、灸ヲスウルト。鍼術、又ハ、灸術。史記、倉公傳「或不レ當二飮藥一、或不レ當二鍼灸一」

しんきう (名) 賑救 振救 ニギハシ、スクフコト。惠ミ、スクフコト。賑給。救助スルコト。賑恤。漢書、元帝紀「開二府庫一振救」

しんぎく (名) 新菊 (一)アラタニ、芽ヲ出シタル菊。許渾詩「新菊亦侵レ籬」(二)しゅんぎく(春菊)ノ訛。(三)のしゅんぎく(野春菊)ノ略訛。

しんきくさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 心氣臭 面倒クサシ。ジレッタシ。モドカシ。

しんぎくゎん (名) 神祇官 カミヅカサ。古ヘ、太政官ノ上ニアル官、神祇ノ祭禮、巫祝、龜卜、社領、社人、等ノ事ヲ掌ル。四等ノ官ハ、伯、副、祐、史ナリ。職員令「神祇官、伯一人」注「掌下神祇祭祀、祝部、神戸名籍、大嘗、鎭魂、御巫、卜兆、惣二判官事一」

しんぎくゎんだい (名) 神祇官代 神祇官ノ八神殿ヲ、吉田ノ神系圖ニ移シテヨリ、彼所ヲ、神祇官代ニ用キラルルモノノ稱。

しんきざみ (名) 眞刻 烟草ナド、本式ニ、細カク刻ミタルコト。又、其物。東海道名所記(萬治)六、嶋原「陽子ノ内ニハ、金屛風走ラカシ、莨菪盆ニ、眞刻、匂ヒ煙草ナンド」

しんぎしんごんしゅう (名) 新義眞言宗 (古義眞言宗ノ對)眞言宗ノ條ヲ見ヨ。

ジンギスカン (名) 成吉思汗 〔語ハ、世界ヲ成服スル君主ノ意〕 蒙古、斡難河畔ノ迭里溫孛勒答黑ヨリ起リシ、成吉思汗鐵木眞ノ稱。(西洋紀元十三世紀)

しんきぢく (名) 新機軸 從來ノモノト異ナル、新ラシキ工夫。新規ナル思ヒツキ。新案。新意匠。「新機軸ヲ出ス」

しんきつれう (名) 秦吉了 鳥ノ名、きうくゎんてうニ同ジ。サルカ。仇池筆記(蘇軾)注「秦吉了、似二鸜鵒一、腦有二肉冠一、能言笑」

しんきとり (名) 人氣取 人望ヲ得ムトテ、スル方法。ニンキトリ。

しんきま (名) 新規 アラタニ。アタラシク。「新規ニ作ル」

しんぎはく (名) 神祇伯 カミヅカサノカミ。神祇官ノ長官。繼體紀、元年二月「神祇伯」

しんきふ (名) 賑給 振給 (一)ニギハスコト。ホドコスコト。後漢書、第五訪傳「開レ倉賑給、以救二其敝一」戶令「凡遭二水旱災蝗一、不熟之處、少レ粮、應二須賑給一者、國郡撿レ實、預申二太政官一奏聞」(二)古ヘ、五月ニ、賤民ニ、米鹽ヲ賑ハシ給フ公事ノ名、大臣、陣ニ就キテ、コレヲ定メ、京中ノ條里、小路ヲ分チテ、撿非違使、承ハリテ、コレヲ引クト云フ。又、しんごふ。江家次第、七、五月「賑給使事」

しんきふ (名) 進級 等級、又ハ、學級ノ、進ムコト。「文武官ノ進級」「學生ノ進級」

しんきん (名) 宸襟 〔品字箋「宸、室之深奥者、又、帝居曰レ宸、取二北辰之義一、加レ宀象二宮室一也、又、宸聰、宸衷、宸翰、宸遊、等、不三敢直指二至尊一、稱二其居一也」〕 天子ノ御胸中。天子ノ御思召。みこころ。叡慮。何遜詩「宸衿動二時豫一」盛衰記、廿八、頼朝義仲中惡事「夜ヲ以テ日ニ繼テ、逆臣ヲ討テ宸襟ヲ休メ奉ルベキ處ニ」「宸襟ヲ悩マス」

しんきん (名) 親近 シタシミ、チカヅクコト。チカシキコト。又、其者。近親。韓非子、說難篇「親近不レ疑」戰國策、秦策、趙

不[illegible]大、實不[illegible]

しんきん (名) 眞金 〔僞金ニ對ス〕 眞實ナル黄金。 [illegible]「[illegible]金ニ無レ異」

しんきん (名) 新金 〔舊貨ニ對ス〕 新規ニ鑄造シタル金貨。 [illegible]

しんぎん (名) 新銀 新規ニ鑄造シタル銀貨。 [illegible]「[illegible]銀四百目、コリヤ、ドウシテ」

しんぎん (名) 呻吟 ウメクコト。ニヨフコト。 [illegible]「獄中ニ呻吟ス」

シンキヤウ
しんきゃう (名) 神鏡 (一)八咫鏡。 [illegible] (二)神ノ璽トスル鏡。 [illegible] (三)神體ノ前立ノ鏡。

しんきゃう (名) 神饗 酒饌ヲ奉リテ、神ニ祈禱スルコト。 [illegible]

しんきゃう (名) 新京 アタラシキ、ミヤコ。アラタナルミヤコ。新都。(古京、舊京ニ對ス) [illegible]

しんきゃう (名) 親兄 兄ヲ、親シムコト。 [illegible]「[illegible]兄ノ親ヲ重ンジ給ヒ」

シンキヤウ
しんきゃう (名) 進境 進歩シタル位地。上達シタル所。「一段ノ進境ヲ見ル」

シンギヤウ
しんぎゃう (名) 心經 はんにゃしんぎゃう(般若心經)ノ略。

しんきゅう (名) 深宮 奥ブカキ御殿。 [illegible] 太平記、一、立后事「一生、空シク玉顔ニ近カセ給ハズ、深宮ノ中ニ向テ、春ノ日ノ暮難キ事ヲ歎キ」

しんきゅう (名) 賑窮 窮民ヲ、賑ハスコト。貧乏人ヲ、惠ムコト。 [illegible]

しんきょ (名) 新居 新ラシク造リタル住居。新宅。(故居、舊居ニ對ス) 新房子 「友ノ新居ヲ訪フ」

しんぎょ (名) 進御 天子ノ、他處ニ進ミ出デタマフコト。イデマシ。 [illegible]

しんきょ (名) 腎虚 漢方醫ノ說ニ、精液ノ盡キタリト云フ病 (房事ヲ過セル結果トシテ)陰痿、

しんきょう (名) 震恐 震ヒ、怖ルルコト。 [illegible]

しんきょく (名) 宸極 オホミクラヰ。天位。 [illegible]

しんきょく (名) 新曲 新作ノ歌曲。(舊曲ノ對) [illegible]

しんきり (名) 心切 [illegible]ノ心ノ[illegible]、剪ミ切ル具。 [illegible]「御一門、及ヒ、諸大名衆ヨリ獻上物ノ品品、云云、一、しんきり、十、[illegible]」

しんきろう (名) 蜃氣樓 〔本草綱目「蜃、蛟之屬、云云、有角如龍狀、紅鬣、腰以下鱗盡逆、云云、能吁氣成樓臺城郭之狀、將雨卽見、名蜃樓、亦曰海市」、俗ニ蜃氣樓ヲ蜃ノ吐ケルモノト考ヘタルハ、禮記、月令、注ノ「大蛤曰蜃」ナドヨリ出デタルナリ〕 海上、又、沙漠ナドニ、水蒸氣ヲ發シ、陸地ノ家屋、樓臺、樹木、等ヲ反射シテ、其形ヲ空中ニ現ハスモノ、春カ、秋カ、暖カニシテ、靜カナル日、午後二時頃ニ見ユ。一名、カヒヤグラ 伊勢ニテ、ながふ、其四日市ニテ、和のわたり 嚴島ニテ、ほうらいじま。周防ニテ、はまあそび。越後ニテ、きつねのもり、津輕ニテ、きつねだな。蜃樓 海市 喜見城 乾闥婆城 史記、天官書「海旁蜃氣象樓臺」

しんむ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔任向〕 人ニ向ケテ、スル。アテガフ。「[illegible]しんむく」

しんく (名) 眞紅 深紅 深キ紅色。眞正ノ紅染(あかねナドノ僞染ニ對ス) 犬子集「紅ヤ、しんく(辛苦ニカク)ヲシタル、花ノ種」

しんく (名) 辛苦 〔書經、洪範篇、正義「辛苦之味入レ口、猶二困阨之事在レ身、故、殃厄勞役事、爲二辛苦一」〕 辛キ目ニ遇ヒテ、甚シク心身ヲ使フコト。苦辛。困苦。 史記、吳太伯世家「句踐爲人能辛苦」

しんぐ (名) 寢具 ネダウグ。臥具。 司馬相如、美人賦「寢具既設、服玩珍奇」

しんく (名) 神供 神前ヘノ供物。御供物。 [illegible]「[illegible]、死穢ニ觸サレテ、神供備フル人モナク」

しんく (名) 〔甚句、又ハ、甚九ナド、記ス、創意ノ人ノ名カ、或ハ云フ、神供ノ歌ナリト〕 小謠ノ名、七、七、七、五、ノ四句ニ成ル、諸國、其土地限リニアリテ、皆、曲調ヲ異ニス、「米山甚句」

しんくう (名) 眞空 (一)空氣ヲ排除シタル空間、空氣喞筒ヲ用ヰテ、排ス。 (二)佛教ノ語。一切、色相、意識ヲ超越シタル所 [illegible]

しんぐう (名) 神宮 (一)カミノミヤ。 [illegible] (二)伊勢ノ大神宮、 [illegible]

しんぐうじ (名) 神宮寺 古ヘ、神社ニ附屬シタル寺院。宮寺。 [illegible] 百錬抄、七、康治二年三月十六日「賀茂神宮寺供養」

しんくん (名) 神君 功績ノ偉大ナル君主ヲ、尊崇スル稱。 史記、封禪書 [illegible]「東照神君」

しんぐん (名) 進軍 軍勢ヲ、前ヘ進ムルコト。出陣。「進軍喇叭」「雪ノ進軍」

しんくん (名) 人君 〔人主ト、意、少シ異ナリ〕 衆人ニ君タル人。 [illegible]

しんくん (名) 仁君 仁德アル君。情ブカキ君。 易林 [illegible]

シン・クロウド
しんくらうど (名) 新藏人 新參ノ藏人。五位藏人、六位藏人、共ニ、云フ。(六位の藏人ヲ見ヨ)

シンクワ
しんくゎ (名) 神火 不思議ナル火。神

怪ナル火。梁簡文帝詩「屏疑ニ神火照ニ、簾似ニ夜珠明ニ」陸奥話記「伏乞、八幡三所、出レ風吹レ火焼ニ彼壘、則自把レ火、称ニ神火ニ投レ之」「伊豆大島ノ御神火」

しんくゎ（シンカ）（名）【秦火】支那ノ秦ノ始皇帝ノ、國中ノ書ヲ集メテ、悉ク、燒捨テタルコト。焚書

しんくゎ（シンカ）（名）【進化】〔英語、Evolution.ノ譯語〕世界ノ生成變化ヲ、自然ノ過程ノモノト見做シ、世界ノ事物狀態ハ、單純ヨリ複雜ニ、不定ヨリ確定ニ、同種ヨリ異種ニ、下等ヨリ高等ニ、漸進スト云フコト。此ノ說ヲ、進化論ト云フ。

しんくゎ（シンカ）（名）【心窩】ミヅオチ。

しんくゎ（シンカ）（名）【親和】（一）シタシミ、ヤハラグコト。仲良クナルコト。和熟。劉向、說苑「百姓親和」（二）熟（コナ）レテ、雜（マザ）ルコト。

しんぐゎ（シンガ）（名）【心畫】しょ（書）ノ異名。揚子法言「言、心聲、書、心畫也」

じんくゎ（ジンカ）（名）人和　衆人ノ心、相、和合スルコト。人氣ノ、寄ルコト。孟子、公孫丑、下篇「地利不レ如ニ人和ニ」「人和ヲ得」

しんくゎい（シンカイ）（名）【神怪】〔風俗通「神者申也、怪者疑也」〕アヤシキコト。不思議ナルコト。又、其物。神異。揚子法言「神怪茫茫、若レ存若レ亡」

しんぐゎい（シンガイ）（名）【心外】（一）思ノ外ナルコトヲ身ニ受ケテ、恨ミ憤ルコト。以テノ外ノコト。遺憾。曾我扇八景（寶永、近松作）上「形ニ影ノ添フ如ク、片時離レヌ曾我殿原、最期ノ供ニ外ルル事、屍ノ上ノ心外」「心外ニ思フ」心外ノ至リ」（二）心ノ外。（心ノ内ニ對ス）楞嚴經「心外無ニ別法ニ」

しんくゎう（シンコウ）（名）【神光】（一）アヤシキヒカリ。神火ノ光。漢書、禮樂志「昏祠至ニ明夜、常有ニ神光、集ニ於祠壇ニ」曹植、洛神賦「神光離合、乍陰乍陽」著聞集、二、釋敎、性信親王「誕生ノ日、神光、室ヲ照ラス」（二）眼ヲ塞ギテ、目尻ヲ強ク押セバ、暗中ニ光ヲ見ルコト。

しんくゎう（シンコウ）（名）【晨光】朝日ノ光。晨晷。陶潛、歸去來辭「問ニ征夫ニ以ニ前路、恨ニ晨光之熹微ニ」

しんぐゎん（シンガン）（名）【心願】心ノネガヒ。心カラノ願望。「心願ノ筋アリ、神社ニ日參ス」

じんくゎん（ジンカン）（名）【人寰】世ノ中。世間。鮑照、舞鶴賦「去ニ帝鄉之岑寂、歸ニ人寰之喧卑ニ」

じんぐゎん（ジンガン）（名）【神官】神ニ事フル人。カンヌシ。寄レ言字共節用集、四、人倫門「神官（シングワン）、神職（シンショク）」沙石集、一、上、第一條「太神宮ヘ詣デテ侍シニ、或神官（ジングワン）ノ語シハ」

しんくゎろん（シンカロン）（名）【進化論】〔英語、Evolutionism.ノ譯語〕動物、植物ガ、外界ノ事情ニ因リテ、下等ヨリ高等ニ進ムニ就キテ論究セシ實驗科學說。西暦一八五八年、英人、ちゃあるゐ、だあうぃん（C. Darwin.）等ノ主張シタルモノ。猶、進化ノ條ヲモ見ヨ。

しむけ（名）【仕向】シムクルコト。アツカヒ。「しむけガ良イ」

しんけ（名）【新家】べっけ（別家）ニ同ジ。（靜岡縣ニテハ、にひやト云フ）

しんけい（名）【心計】（一）胸算用。心算。史記、平準書「桑弘羊、洛陽賈人之子、以ニ心計ニ年十三侍中」（二）モクロミ。考案。計畫。李山甫詩「自恃心計今如レ此」

しんけい（名）【眞景】マコトノ景色。實景。（繪、寫眞、模型ナドニ對ス）張君房、雲笈七籤「幽冥生ニ眞景、燦落敷ニ靈文ニ」

しんけい（名）【神經】〔精神ノ經絡ノ義（解體新書）〕動物ノ體中ノ、知覺ト運動トノ機、極メテ細微ナル白キ線（スヂ）ニテ、腦髓、脊髓ヨリ出デ、凡ソ、體中ノ諸部ニ、至ラザル所ナシ。「神經過敏」

しんけい（名）【深閨】奥深キ閨（ネヤ）。富貴ノ家ノ、奥ノ間。深窗。張正見詩「深閨久離別」「深閨ノ中ニ發ハル」

しんけい（名）【晨雞】夜アケヲ告グルにはとり。陳叔達、後渚置ニ酒詩「此夕待ニ晨雞ニ」

しんげい（名）【親迎】（一）ミヅカラ、迎（ムカ）フルコト。（二）シタシク、出デ迎フルコト。支那ニテ、婚姻ノ際、夫、親シク出デテ、妻ヲ迎フルコト。詩經、大雅、文王之什、大明篇「大邦有レ子、俔（タトフ）ニ天之妹、文定ニ厥祥、親ニ迎于渭、造（ナラベテ）レ舟爲レ梁、不レ顯ニ其光ニ」

じんけい（名）【仁惠】イックシミ。メグミ。愛惠。後漢書、王暢傳「敷ニ仁惠之政ニ」

じんけい（代）【仁兄】同輩ヲ、親シミテ呼ブ、對稱代名詞。後漢書、趙壹傳、賈皇ニ仁兄昭ニ其懸遲ニ」

しんけいしつ（名）【神經質】物事ニ感ズルコトノ、強ク甚シキ氣質。キヤミスルタチ。苦勞性。

しんけいすいじゃく（シンケイスイジャク）（名）【神經衰弱】全身、何トナク倦怠（タル）ク、僅カナル仕事ニモ疲レ、物忘レシテ、不眠症ニ陷リ、頭、重ク、不愉快ニテ、食慾、減リ、心身共ニ、生氣ヲ失ヘル如クナルモノ。又、精神、苛苛（イライラ）シテ、車馬ノ響、汽笛ノ音、蹈鳴ラス敷石ノ足音ニマデ、惱メル腦裏ヲ刺戟シテ、堪ヘラレズナルコト。此レ等ハ、精神ノ過勞ニ原因シテ、營養不良、運動不足ナド、コレヲ助クト云フ。

しんけいつう（名）【神經痛】病ノ名、身體中、何處トナク、烈シキ痛ミヲナシテ、疼クモノ、痛所ヲ轉ズ。三叉神經痛ハ、顏ノ半面、痛ミ、坐骨神經痛ハ、坐骨ニ起リテ、腰部痛ミ、最モ繁ク起ル、發作ノ時以外ニハ、少シモ痛マズ。

しんけう（シンキョウ）（名）【新教】基督教ノ一派、獨逸ノるうてる等ノ唱道シタル主旨ノ派。プロテスタント。（舊教ニ對ス）

しんけう（シンキョウ）（名）【信教】宗教ノ教義ヲ、信仰スルコト。「信教ノ自由」

しんげき（名）【進擊】ススミ、ウツコト。攻メカカルコト。突擊。「進擊隊」

しんげき（名）【侵擊】敵ノ城壁ニ侵入シテ、攻メ擊ツコト。

しんけつ（名）【宸闕】禁闕。宮闕。

しんけつ（名）【心血】精力。精神。「心血ヲ濺ギテ、作爲シタル文章」

しんげつ（名）【心月】ムネノツキ。ココロノツキ。（心ノ明白ナルヲ、月ニ喩ヘタル語）

しんげつ（名）【新月】（一）朔（ツイタチ）ノ月。（二）月初メノ夜ノ月ノ汎稱。ミカヅキ。江總詩「新月半輪空」（三）鮮（アザヤ）カナル月。（三五（サンゴ）ノ條ノ（二）ト、あらたなる月トヲ見ヨ）

じんけつ（名）【人傑】スグレタ人物。英傑。俊傑。史記、高祖紀「此三者、蕭何、張良、韓信、皆人傑也」

じんけふ（名）〔任俠〕又、にんけふヲトコダテ。史記、季布傳「爲氣任俠、有名於楚」

しんけん（名）〔眞劍〕（一）儀仗ニ對シテ、實用ノ刀。通典「隋、儀仗用木劍、以木代之、其眞劍」（二）マコトノ刀劍ニテ鬪フコト。（劍術ノ竹刀、木刀、ナドニ對ス）「眞劍勝負」（三）轉ジテ、戲レナラズ、眞實ナルコト。嘘ナラヌコト。マジメ。ホンキ。ホンマ。本氣。實地。「眞劍ニ勉強ス」

しんけん（名）〔親權〕父ノ、其子ヲ監督、教育、懲戒シ、又ハ、其財産ヲ管理スル權。父、死シテ、子、幼キ時ハ、其母、親權ヲ行フ。若シ、母ナキ時ハ、後見人ヲ立テテ、未成年者ヲ保護、監督セシム。

しんけん（名）〔進見〕ススミテ、マミユルコト。後漢書、百官志「朝、時進見、則不朝」「三宮へ行、閏僕寺自界」

しんけん（名）〔進賢〕賢者ヲ、推擧スルコト。漢書、武帝紀「進賢者上賞」

しんけん（名）〔進獻〕マキラセ、タテマツルコト。獻上。進上。詩經、小雅「北山之什、信南山箋「獻有牲物而獻之」曰色」「文政九年大嘗會記、十一月十一日、…」

しんげん（名）〔進言〕言説ヲ、進獻スルコト。目上ニ申スコト。「史記、…」

しんげん（名）〔讖言〕（一）イマシメノ詞。（二）讖緯ノ意ヲ含メタル短句、即チ、齋藤ノそろん氏、ふおありで乞氏、等ノ作レル讖言詩（三一行約十書中ノ、三十一章ヨリ成レル、そろもんノ讖言ノ稱。

しんげん（名）〔森嚴〕キビシク、オゴソカナルコト。ゾノトスル程ニ、オゴソカナルコト。莊嚴。「唐書、文宗紀…」伊勢ノ神宮ニ詣デテ、ソゾロニ森嚴ノ感ユ」

しんけん（名）〔人權〕人ガ、生レナガラニ有スル、自由、及、平等ノ權利。「人權蹂躙」

しんけん（名）〔人絹〕〔人造絹絲ノ略。蠶ノ作セル絹ニ對ス〕人ノ製造シタル絹絲。又、ソレヲ以テ織リタルモノ。「人絹ノ織物」

しんけん（名）〔人件〕〔物件ニ對ス〕人事ニ關スル事件。「人件費」

しんげんち（名）〔震源地〕地震ノ起點タル土地。「震源地ヲ踏査ス」

しんげんぶくろ（名）〔信玄袋〕手提袋ノ底ニ、板ヲ附ケ、口ハ、紐ニテ引絞リタルモノ。（甲斐ノ人ノ案ト云フ）

しんけんりう（名）〔信玄流〕武田信玄ノ軍法。甲州流。

しむける（動）仕向　しむくノ口語。

しんこ（名）〔新粉〕〔新米ノ粉ノ意カ〕粳米ノ粉ヲ、水ニ捏ネテ、蒸シテ、餅ノ如クシタル物ノ稱。糝粉　粉糍　餻

しんこ（名）〔新古〕新故　しんノきう（新舊）ノ（一）ニ同ジ。淮南子、要略訓「新故相反、前後相詭」

しんこ（名）〔振古〕〔爾雅、釋言篇「振、古也」〕オホムカシ。古ヘ。太古。詩經、周頌、閔予小子之什、載芟篇「匪今斯今、振古如茲」

しんこ（名）〔親故〕うからやからト、ふるなじみト。親戚ト、故舊ト。晉書、…「一日中散與親故」

しんこ（名）〔眞箇〕〔箇ヲ、こト讀ムハ、百姓讀ナリ、か（箇）ノ條ノ語原ヲ見ヨ〕しんか（眞箇）ニ同ジ。

しんご（名）〔身後〕ソノ身、死亡ノ後。沒後。晉書、張翰傳「使我有身後名、不如即時一杯酒」

しんご（名）〔新語〕新タニ出來タル言葉。新ラシキ言語。杜甫詩「即今耆舊無新語」

じんご（名）〔人語〕人ノ言語。人ノ談話。世說、補、文學、中「雜作人語」

じんご（名）〔人後〕他人ノアト。人ノシリヘ。後漢書、…「人後」李白詩「…他人後」

じんご（名）〔壬午〕ミヅノエノウマ。（えとノ條ヲ見ヨ）晉書、…「歲在壬午」

じんご（名）〔盡期〕盡クル期。ツクル時。カギリ。際限。「新年ノ御慶、盡期アルヘカラズ」

しんこう（名）〔神工〕神ノ製作。靈妙ナル製作。

しんこう（名）〔神功〕神妙ニシテ、測ルベカラザル功績。劉義、辨命論…

しんこう（名）〔新功〕〔舊功ニ對ス〕アラタナル勳功。

しんこう（名）〔臣公〕公卿。盛衰記、四、山門御幸事「代代ノ聖主、一山ノ恩徳ヲ忘ミ、世世ノ臣公、七社ノ冥福ヲ仰ク」同、四十六、時政賞罰事「唐會昌天子、僧尼ヲ亡シケレ共、臣公ハ穩シカリキ」

しんこう（名）〔深厚〕（一）意義ノ、深ク、アツキコト。（二）恩德ノ、大イニシテ、アツキコト。蘇軾詩「…深厚」教育勅語「我カ皇祖皇宗、…德ヲ樹ツルコト深厚ナリ」

しんこう（名）〔振興〕フルヒ、オコスコト。振起。振作。「教育ヲ振興ス」

しんこう（名）〔診候〕脈ヲ候ヒテ、病症ヲ知ルコト。診察。北齊書、方伎傳「…」

じんこう（名）〔人口〕（一）ヒトカズ。人別ノ數。人頭。（二）衆人ノ口。世人ノ言。人ノ、口ノ端。史記、…「…」太平記、三、陶山小見山夜討事「今ノ世迄語リ傳テ、名ヲ、天下ノ人口ニ殘スゾカシ」（宇治川ノ先陣ナドヲ云ヘリ）

じんこう（名）〔人工〕人ノシワザ。人造。人爲（天工ニ對ス）「人工呼吸」

じんこう（名）〔仁厚〕情アリテ、手アツ

キコト。慈悲深ク、人情ニアツキコト。三國志、吳志、陳武傳「武、仁厚好施」

しんこきふ（名）［深呼吸］「支那上古ノ長壽法タル、吹呴ハ、今ノ深呼吸ナリ、莊子、刻意篇ニ見ユ」意思ヲ用キテ、空氣ヲ、深ク肺中ニ吸ヒ入レ、又、呼キ出スコト。コレニ、大略、三種アリ、一ヲ、胸式深呼吸ト云ヒ、二ヲ、腹式深呼吸ト云ヒ、三ヲ、胸腹式深呼吸ト云フ、胸式深呼吸トハ、吸ヒ入ルルトキニ、胸ヲ十分ニ張リ開キ、呼キ出ストキニ、コレヲ縮小セシムルモノ。腹式深呼吸トハ、吸ヒ入ルルトキニ、漸次ニ腹ヲ張リ出シ、呼キ出ストキニ、コレヲ縮小セシムルモノ。胸腹式深呼吸トハ、第一、第二ヲ、同時ニ行フモノナリ、卽チ、吸ヒ入ルルトキニハ、胸ト腹トヲ同時ニ張リ開キ、呼キ出ストキニハ、同時ニコレヲ縮小セシムルモノ。

しんこく（名）［神國］天照大神ヲ始メ、神神ノ鎭マリマシ、又、現人神ノ治メタマフ國。卽チ、日本國ノ稱、カミノクニ。カミグニ。神功稱制前紀「新羅王、云云、曰、吾聞、東有神國、謂日本」三代實錄、十六、貞觀十一年十二月十四日、伊勢大神宮告文「我朝乃、神國止、畏憚禮留故實乎、澆多之失比賜布奈」職原抄、上、神祇官、以神官置諸官之上、是、神國之風儀、重天神地祇故也」著聞集、一、神祇、序「ナヨソ、我ガ朝ハ、神國トシテ、大小ノ神祇、部類眷屬、權化ノ道感應、感應、區ク通ズルモノナリ」保元物語、一、內府實能意見事「吾國、邊地粟散ノ界トイヘドモ神國タルニ依テ、總ジテハ、七千餘座ノ神、別ニハ、三十番神、朝家ヲ守リ奉リ給フ」神皇正統記、開卷、七日本ハ、神國也」續千載集、九、神祇「傾カヌ、ハヤ日ノ峰ニ、天降ル、天ノ御孫ノ、國ゾ我ガ國」

しんこく（名）［新穀］〔舊穀ニ對ス〕當年、出來タル穀物。今年ノ、新シキ穀物。論語、陽貨篇「舊穀既沒、新穀既升」

しんこく（名）［新刻］新版ニ同ジ。

しんこく（名）［深刻］（一）至ッテ、殘酷ナルコト。史記、義縱傳「以深刻爲九卿矣、然其治尙寬」後漢書、光武紀「頃、獄多冤人、用刑深刻、朕甚愍之」陸龜蒙詩「名法在深刻」「深刻ナル不景氣」（二）フカボリ。深ク、彫刻スルコト。五代史、六臣傳、論「漢之羣臣、稱魏功德、而大書深刻、自列其姓名」

しんこく（名）［申告］官衙ニ、申シ出ヅルコト。「所得金額ノ申告」輸入申告」

しんこくざい（名）［親告罪］〔獨語、Antragsdelikte. ノ譯語〕被害者ノ告訴ヲ以テ、公訴提起ノ要件トスル罪。犯罪ニヨリ、損害ヲ受ケタル者ハ、何人ニ限ラズ、當該官廳ニ告訴スルコトヲ得ルモノニシテ、告訴ハ、犯罪ノ訴追ヲ希望スル被害者ノ意思表示ナリ、カカレバ、告訴ニ基キテノミ訴追セラレ得ル犯罪ヲ、親告罪ト稱ス。コレニ認メラレタルモノハ、祕密ヲ侵ス罪、猥褻姦淫ノ罪、暴行罪、過失傷害罪、名譽ニ對スル罪、親族家族間ノ橫領罪、等ノ類ナリ。

しんござ（名）［新五左］遊里ノ語、武士ヲ嘲罵シテ云フ。アサギウラ。しゃれ草子、平賀源內「武ヲ知リ、國家ヲ守ル習ヲ、人、嘲リテ、新五左ト云フ」嬉遊笑覽、九「新五左トハ、武士ヲ云フ、七歲雜ニ、初手はもののふ臨番、コレ新五左ノ始ナリト云ヘリ、今ハ、コレ武左ト云フ、武左衞門ノ略ナルベシ、其人、誰レトモ無シ、タダ、似ツカハシキ名ヲ云フノミ也」

じんごじき（名）［神今食］〔かむいまけ ト唱フベク、初米ノ新嘗ノ御食ノ意ナラムト云フ（玉かつま、六）〕王朝時代、陰曆六月ト、十二月トノ十一日ニ行ハルル神事。中和院ノ神嘉殿ニ、天照大神ヲ請ジ奉リテ、主上、親ラ、祭リ給フ、コレ、月次祭ト同日ナレドモ、此神事ハ、夜ニ入リテ行ハセラル、而シテ、儀式ハ、新嘗祭ト、略、同ジク、只、新嘗祭ハ新穀ヲ以テシ、神今食ハ舊穀ヲ以テナスヲ差違トス。二十二社註式「神今食、人皇四十四代元正天皇靈龜二年六月、始被行之」本朝月令、六月「高橋氏文云、太政官符、神祇官、定高橋、安曇、二氏、供奉神事御膳行立先後事」

じんこつ（名）［人骨］人ノほね。骸骨。蘇拯、古塞下詩「血染長城沙、馬踏征人骨」平治物語、一、叡山物語事「一ノ箱ノ修禪定ノ具足ノ中ニ、勢、手鞠許シテ、音有物アリ、云云、不空絹索、人骨ノ念珠モ、此箱ニアリトカヤ」

しんごふ（名）［賑給］〔給、吳音、こふ〕しんきふ（賑給）ノ（二）ヲ見ヨ。名目抄「賑給、シムゴウ」

しんこん（名）［神魂］タマシヒ。精神、魂魄。漁樵、對問「神魂行於天、精魄返於地」

しんこん（名）［心魂］心ノ底。徐照詩「自君之出矣、心魂還相隨」「心魂ニ徹ス」

しんこん（名）［晨昏］〔晨朝、黃昏ノ義〕（一）あさト、ひぐれト。朝暮。朝夕。晨昏 張九齡、奉使南行詩「匪惟徇行役、兼得慰晨昏」（二）朝夕、事フルコト。榮花物語、十五、疑「雖至孝備晨之子孫、不能晨昏、雖近習侍奉之僕妾、不能陪侍」

しんこん（名）［新婚］新タニ、婚禮スルコト。詩經、邶風、谷風篇「宴爾新昏、如兄如弟」（昏、婚、同ジ）王褒、雜興、可惜「新婚忽有病、少室山房筆叢、今俗、以新婚時、男稱新郎、女稱新婦」

しんこん（名）［新墾］アラタニ、地ヲ開クコト。アラキバリ。ニヒハリ。新開。

しんごん（名）［眞言］〔眞實言說ノ義〕大日如來ノ三密中ノ、語密ニ屬ス、卽チ、大日如來、自ラノ眷屬ノタメニ、如義眞實ノ語ヲ以テ說キタマフ所ノ、唯佛與佛ノ法門ヲ云フ。（佛敎辭林）源、十九、薄雲「世更ニ、佛ノ諫メ守リ給フ、しんごむノ深キ道ヲダニ、隱シトドムル事ナク、弘メ仕ウマツリ侍リ」

しんごんし（名）［眞言師］眞言ノ祈禱ヲスル僧。字類抄「眞言師、シンゴンシ」今鏡、五、故鄕の花の色「山ノ座主、行玄大僧正ト聞エ給ヒシハ、ヤムゴトナキ眞言師ニテ、鳥羽ノ院、佛ノ如ニオモホシ給ト聞エキ、三昧ノ阿闍梨良祐ト云ヒシ、ヤムゴトナキ眞言師、コマカニ習ヘ習ヒ給ヒテ」太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「宋朝ニハ、西蕃ノ帝師トテ、摩訶迦羅天ノ法ヲ修シテ、朝家ノ護持ヲ致ス眞言師アリ」

じんごんじき（名）［神今食］じんごじきノ條ヲ見ヨ。

しんごんしゅう（名）［眞言宗］佛敎八宗ノ一、密敎祕密宗トモ、又、密宗トモ云フ。卽チ、大日經、蘇悉地經、等ノ祕密ノ眞言ノ敎ヲ、所依トス、僧空海（弘法大師）延曆廿三年入唐シ、僧惠果ニ隨ヒテ、眞言ノ祕奧ヲ究メ、大同元年歸朝シ、京都ノ東寺、紀伊ノ高野山金剛峯寺ヲ開ク。後、紀伊ノ根來ノ僧覺鑁、新タニ一派ヲ興シ、前者ヲ古義ト云ヒ、後者ヲ新義ト稱ス。三代實錄、十二、貞觀八年二月「勅以眞言宗僧任東寺三綱」御當家令條、八、眞言宗諸法度、醍醐寺江被下之」德川禁令考、四十一、慶長十四年八月十八日「關東眞言宗、古義法度」寺院條目「三、關東新義眞言宗、法度」

しんこんりょかう（名）［新婚旅行］〔英語、

Honey-moon. ノ譯語、蜜月ト云フ、新婚後、一箇月ノ間 新婚ノ夫婦ガ、打揃ヒテ、旅行スルコト。明治以後、西洋風ノ、移レルナリ。

しんごんゐん（シンゴンイン）(名) 眞言院 古ヘ、大内裏ノ中和院ノ西ニアリシ院。大内裏圖考、第三十「眞言院、諸圖、中和院西、八省院北」年中行事[illegible]中立眞言院於宮中」

しんこもち (名) 新粉餅 シトギ。タガネ。

しんさ (名) 審査 審ク、檢査スルコト。ツマビラカニ、調査スルコト。精査。

しんざ (名) 神座 神ノマシマス所。靈位。盛衰記、十一、有王山送「金泥、重盛、晃ジ給ヒヌト聞キテ後ハ、大日本國武州太守、平重盛神座ト、過去帳ニ入レラレテ」

しんざ (名) 新座 (一)しんざん(新參)ニ同ジ。ニヒマヰリ。太平記、廿一、[illegible]唯一人[illegible]他事ナシ」(二)新タニ造リタル座。[illegible]

しんさい (名) 眞宰 天地ノ主宰者。造化ノ神。[illegible]山川ヲ蕩ツ」

しんさい (名) 神祭 祖先ノ靈ヲ祭ルニ、國風ノ式ヲ以テスルモノ。多クハ、神學者流ノ、朱熹ノ家禮ニ據リ、或ハ、古

來ノ神祭式ヲ折衷シテ、制定シタルモノトゾ。[illegible]

しんさい (名) 親祭 天皇ノ、親ミ、神祇ヲ祭リタマフコト。[illegible]

しんさい (名) 親裁 ミヅカラ、裁決シ給フコト。(高貴ニ就キテ云フ)「政務ヲ親裁ス」

しんさい (名) 震災 地震ノ、ワザハヒ。「大正十二年ノ關東ノ大震災 震災豫防」

しんざい (名) 心材 樹木ノ幹ノ、年ヲ經テ、赤褐色トナリタル、年輪ノ部。木ノアカミ。

じんさい (名) 人才 人材 才智アル人物。[illegible]品 漢人才ハ[illegible]「人才ヲ登用ス」

じんさいてん (名) 仁齋點 古註ノ訓點ノ一、伊藤仁齋ノ施シタルモノ。訓點ノ條ヲ見ヨ。

じんざいもち (名) 神在餅 じざいもち(自在餅)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。祇園物語「出雲國ニ、神在もちト申ス事アリ」

しんさう（シンソウ）(名) 眞相 (一)眞實ノ事相。マコトノアリサマ。眞情。後漢書[illegible]「江都王[illegible]「事ノ眞相ヲ穿ツ」(二)佛教ノ語、無我ノ境界。[illegible]

しんさう（シンソウ）(名) 身相 身體ノ相。體（カラダ）ノ狀（サマ）。

江[illegible]「光色身相、[illegible]」太平記、十五、園城寺戒壇事「大師(智證)[illegible]二立出テ、十[illegible]ヲ一禮シテ、[illegible]ヲ致サセ給ヒシカバ、佛法[illegible]持ノ不動明王、金色身相ヲ現ジテ、[illegible]二立給フ」

しんさう（シンソウ）(名) 心相 心ノ相。心ノサマ。楞嚴經「容貌如レ佛、心相亦同、名正心住」

しんさう（シンソウ）(名) 心操 心ノ、ミサヲ。ココロバヘ。志操。盛衰記、廿八、仙童琵琶事[illegible]優美ニシテ、[illegible]外ニ顯レ、心操、落居シテ、[illegible]ヲ件ニ備タリ」太平記、廿四、依[illegible]公卿僉議事[illegible]禪宗ノ模樣トスル處ハ、宋朝ノ行儀、貴ブ處ハ、祖師ノ行迹ナリ、然ルニ、今ノ禪僧ノ心操、法則、皆、是ニ相違セリ」

しんさう（シンソウ）(名) 心喪 父母ナドノ、忌、過グルモ、周忌ノ間ハ、美食、美服セズ、音樂ヲ聞カズ、心一ツニ、喪ニ居ルコト。喪ノ期、終ハリタルモ、心中ニ於イテハ、猶、喪ニ服スルコト。禮記、檀弓、上[illegible]師、云云、服勤至レ死、心喪三年」史記、仲尼世家「三年心喪畢、相訣而去」文德實錄、一、嘉祥三年四月乙丑[illegible]月之制、雖レ據[illegible]臣子之道、須レ存心喪[illegible]樂、及、著レ美服[illegible]紀略、後篇、二、承平元年十二月十七日「於二建禮門一[illegible]心喪滿限一也」

しんさう（シンソウ）(名) 神葬 (儒葬、佛葬、ナドニ對ス) 神道ノ儀式ニテ、死者ヲ葬ルコト。德川幕府寺社奉行記錄、六十二「和學神葬祭式之儀者、神代ヨリ之餘風[illegible]上、皇帝ヲ奉レ始、下、萬民ニ至迄、一統、神葬祭式ヲ以、往昔ヨリ葬リ來リ候」

しんさう（シンソウ）(名) 新粧 アラタニ、ヨソホフコト。ツクリタテノ化粧。王訓詩「新粧本絕世[illegible]」杜甫詩「借問漢宮誰得レ似、可レ憐飛燕倚二新粧一」「新粧ヲ凝ラス」

しんさう（シンソウ）(名) 晨粧 アシタニ行フ化

粧。朝、身ジマヒスルコト。[illegible]詩、金屋美人[illegible]、晨粧未レ罷車聲催」朗詠集、下「佳人盡飾二於晨粧一魏宮鐘動」

しんさう（シンソウ）(名) 深窗 深窓 奧深キ窓ノ内。深閨。[illegible]詩「深窗鎖得レ月、老屋易レ生レ風」[illegible]十九、文覺發心事「深窓ノ内ニ扶ラレテ、既ニ人トナリ」(袈裟御前ヲ云フ)「深窓ノ中ニ生育ス」

しんざう（シンゾウ）(名) 新造 (一)新シク、造ルコト。新製。書經、君奭篇「天壽平格、云云、今汝永念、則有二固命一、厥亂明、我新造邦一」史記、陸賈傳「越以二新造未レ集之越一、屈二彊於此一」[illegible]「新造ノ内裏也、若、回祿アラバ、朝家ノ御大事タルベシ」[illegible]五、和歌[illegible]修理ヲ加ヘケルニ、大略ミナ、新造ニナシタレバ」(二)轉ジテ、俗ニ、未ダ嫁入（ヨメイリ）セヌ處女ノ泛稱。(年増（トシマ）ナドニ對ス)處女 (三)妻。日次記事[illegible]新婦日二新造一、言、新造宅使レ居之義也」(四)遊女ニ添ヒテ、彼レ是レ、斡旋スル女。(遊女ニハ、新艘ノ意カ、昔ハ、舟ヲ栖（スミカ）トシタルヨリ起ルト) 寬政ノ川柳「新造ニ、ナルマデ三度、名ガ變リ」(禿、引込禿、新造ト、三度ナリ)[illegible]門松(享保、近松作)上「新艘ノ初床ヨリ」

しんざう（シンゾウ）(名) 神像 神ノ影像。カミノ御姿。本朝書史、上、宅間澄賀、云云、栂尾高山寺、有二春日、住吉、二神像、俗傳、二神來、受二法於明惠一」

しんざう（シンゾウ）(名) 心臟 しん(心)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。王建詩「心臟空夢神人割」

じんさう（ジンソウ）(名) 藎草 かきな(藎草)ノ條ヲ見ヨ。

じんざう（ジンゾウ）(名) 人造 人ノ、造レルモノ。人作。人工。(天造ニ對シテ云フ)「人造絹絲」

じんざう（ジンゾウ）(名) 腎臟 じん(腎)ニ同ジ。

じんざう-えん（ジンソウエン）（名）|腎臟炎| 惡寒、發熱シテ、腎臟ニ痛ミヲ覺エ、全身ニ浮腫ヲ來シ、尿ハ、赤褐ニ濁リ、分量、減ジ、蛋白ヲ含ム病 久、鼻血、嘔吐ガ、其尿ノ成分ノ血液中ニ入リテ、毒ヲ受ケ、頭痛、烈シク、精神朦朧、呼吸困難ナルヲ、尿毒症ト云フ。

じんざう-けんし（ジンソウケンシ）（名）|人造絹絲| 〔天然ノ絹絲ニ對ス〕普通ニハ、植物ノ纖維ヲ、あるかりいト、二硫化炭素トニテ處理シタルモノノ稱 外ニ、酸化銅あむもにあ纖維素製絹絲ト、消化纖維素製絹絲ト云フモノアリト。又、動物性ノモノニテ、ぜらちん、かぜいん、ふいぶろいん等ヲ材料トシテ製シタルモノモアリト。略シテ、人絹。

じんざう-せき（ジンソウセキ）（名）|人造石| 〔天然ノ石ニ對ス〕せめんとト、石灰ト、沙礫、等トヲ原料トシテ、凝固セシメタル、石ノ如キモノ、土木、建築材料トス。

しん-さく（名）|神作| 鞍、鐙ニ稱スル語、大坪流ノ祖、道禪、常陸ニ行キ、神宮ニ祈リ、夢中ニ曲尺（カナ）ヲ得テ、作レルモノト云フ、遠クニ行クニ、鞍、裂ケズ、馬、痛マズト云フ。後ニ、省キテ、作ノ鞍、作ノ鐙ナド云ヘリ。 雍州府志、七、土產門、下「始、平貞盛之裔、有二伊勢攝津守貞孝者一、其先貞盛、任二伊勢守一爾來、以二伊勢一爲二稱號一、世、仕二室町家一、而、爲二執事之一員一、又、爲二勢州之任一、伊勢守貞繼、曾傳二乘馬之法於大坪道禪一、而、受二作鞍鐙之巧一、其後、祈二鹿島神一、而、感二得其妙一、因、茲、爲所レ造、始謂二神作一、爾後、省二神字一、號二作鞍、作鐙一、其形模異二于他一、且、雖レ行レ遠、其鞍不レ裂、其馬不レ痛、今、伊勢貞仙、其裔也」下城小傳、四「大坪式部大夫慶秀、云云、善レ馭、後、薙髮而號二道禪一、亦能作二鞍鐙一、一日赴二常陸一而、祈二鹿島神一、夢中得二鞍鐙曲尺一、謂二之夢相鐙一云云、伊勢氏數代傳レ之、今謂二作鞍鐙一」

しん-さく（名）|新作| 〔舊作ニ對ス〕アラタニ、作ルコト。又、ソノ作リタルモノ。新造、新製。 韓愈、孔子廟碑「李宰新二作孔子廟一」

しん-さく（名）|振作| フルヒ、オコスコト。又、フルヒ、オコルコト。振興。振起。 張說、讌宴序「六樂振作、萬舞再弱」

じん-さく（名）|人作| 人造（ジンザウ）ニ同ジ。 爾雅、釋丘篇「絶高爲二之京一」注「人力所レ作」

しん-ざし（名）|後指尻刺| しりざしノ音便、其條ヲ見ヨ。

しん-ざしき（名）|新座敷| 新タニ造リタル座敷。

しん-さつ（名）|診察| 醫ノ、脈ヲ取リナドシテ、病ノ症ヲ候（ウカガ）フコト。 南史、張融傳「徐文伯子雄、亦傳二家業一、尤工二診察一」

しん-さつ（名）|審察| ツマビラカニ、取調ブルコト。審查。 說苑（漢、劉向）「耳目聰明、思慮審察」

しん-さん（名）|神算| 靈妙ナル、ハカリゴト。微妙ナル、ハカリゴト。妙策。妙計。 後漢書、王渙傳「能以二譎數一發二擿姦伏一、京師稱歎、以爲二渙有二神算一」

しん-さん（名）|心算| ムナカンヂャウ。ムナヅモリ。心計。 潘岳、楊荊州誄「强記洽聞、目睇毫末、心算無レ垠」

しん-さん（名）|辛酸| ツラキコト。クルシキコト。辛苦。辛楚。酸辛。 阮籍詩「感慨懷二辛酸一」「具サニ辛酸ヲ嘗ム」

しん-さん（名）|身三| 佛教ノ語。十善中ノ、不殺生、不偸盗、不邪淫、ノ三ツト、十惡中ノ、殺生、偸盗、邪淫、ノ三ツトノ稱。（身ニ關シテノ行ナル故ニ云フ） 四十二章經「衆生以二十事一云云、身三、口四、意三」 謠曲、柏崎「人間ノ身三、口四、意三ノ十ノ道、多カリキ」

しん-ざん（名）|深山| ミヤマ。奧山（オクヤマ）。 列子、黃帝篇「寢二吾庭一者、不レ願二深山幽谷一」 左傳、襄公廿一年「深山大澤、實生二龍蛇一」 韋光黻、雜學新編、必不レ來「邀二俗人一深山探レ梅」 盛衰記、四、殿還御議事「當座ノ御會ニ、深山見レ花ト云題、給テ」

しん-ざん（名）|神山| （一）カミノミヤマ。奇（クス）シク、尊キ山。 隋書、音樂志「黃銀出二于神山一、殊玉生二于澤嶠一」 張衡、西京賦「滄淵洋洋、神山峩峩」（二）神仙ノ棲ムト云フ山。 史記、封禪書「乃益發レ船、令下言二海中神山一者數千人、求中蓬萊神人上」

しん-ざん（名）|新參| （一）イマヰリ。イママキリ。新（アラタ）ニ、仕ヘタルコト。又、其人。新仕（古參（コサン）ニ對ス） 參考本、太平記、十三、中前代蜂起事（天正本）「汝ハイマダ新參ノ者ニテ、見知者モ有マジ」（二）スベテ、新タニ仲間ニ入リテ、事ニ未熟ナルコト。シンマイ。新入。

じんざ-もみ（名）|甚三紅| 承應ノ頃、京都、長者町ノ桔梗屋甚三郎、茜ヲ以テ、紅梅ニヒトシキ色ヲ染メ出シタルモノ。又、中紅（チュウモミ）。 浮世風呂（文化、三馬）二編、下「此中、見タ内ニ、甚三紅絹ノ、八ツ過カト云、身頃ガアッタガ」

しん-し（名）|箴子伸針| 絹布ノ類ニ、皺ナカラシムル具。竹ノ串ノ兩端ニ、爪ヲツケ、弓ノ如ク撓メテ、絹布ノ兩緣ニ插込ミテ、張ル、シイシ。キヌバリ。|簇|簇| 狂言記、姫糊「紺屋ニ足ラヌ物ナラバ、しんし、キヌバリノヤウナ物デハ無カ、タカ」

しん-し（名）|辛巳| カノトノミ。（えとノ條ヲ見ヨ）

しん-し（名）|親子| おやト、こト。オヤコ。「親子ノ情」「親子兄弟」

しん-し（名）|臣子| けらいト、こト。又、ケライ。 禮記、經解篇「喪祭之禮、所三以明二臣子之恩一也」

しん-し（名）|信士| 梵語、優婆塞、優婆夷ヲ、清信士（略シテ、信士）、清信女（略シテ、信女）、又、近來男、近事女トモ譯ス、佛法五信ノ者ノ稱。在家ノ男女、在家ノママニテ、三寶ニ親近事スル義ニテ、篤信者ノ通稱ナリ。後ニ、死後、其亡者ノ特稱トナル。 法華經、法師品「若我滅度後、能說二此經一者、我遣二化四衆比丘比丘尼及淸信士女一、供二養於法妙一、引二導諸衆生一」 趙明誠、金石錄「今人、出二財布施一、皆曰二信士一云云、今之信士、即、漢碑所レ稱之義士也」 宋魏文帝、菩提樹頌、序「信女百味之初、諸天四鉢之狀」

しん-し（名）|紳士| 〔英語、Gentle man.〕身柄ノ人。即チ、社會ノ一人トシテ、道德、禮儀、地位、財產、等ヲ具ヘタル人。 福惠全書（黃六鴻）「待紳士云、本地鄕紳、有レ任二京外一者云云」

（一）しん-し（名）|進士| 又、しんじ。大學、國學ヨリ出身セル貢學ノ人ノ、式部省ニ於イテ行フ省試ニ及第シタルモノノ稱。（大寶令制）後ニハ、文章生（モンジャウシャウ）ノ特稱トナレリ。 宇津保物語、俊蔭「ソノタビ、俊蔭一人、進士ニナリヌ」 枕草子、一、第四段「ソレハ、予定國ガ事ニコソ侍ルナレ、古キしんしナドニ侍ラズハ、承リ知ルベクモ侍ラザリケリ」 續紀、四十、延曆八年六月「進士高田道成」（非儒ノ人ハ、大學寮ニ入リテ及第シタルモノト云フ） 日蓮御書、勸學院文章博士（大夫坊覺坊）「進士藏人通廣」 支那ニ、云フハ、科學（クワキョ）ノ條ヲ見ヨ。 禮記、王制篇「大樂正、論二造

[illegible]士」

しん-し（名）進仕　進ミテ、官ニ仕フルコト。[illegible]

しん-し（名）進止〔進退ノ義〕（一）すすむト、しりぞくト。タチヰ、フルマヒ。擧作。進退。擧止。擧措。[illegible]「[illegible]進止難容、甚可觀也」（二）其土地、又ハ、其役役ナドヲ、支配スルコト。取リハカラヒ。[illegible]「[illegible]松殿再餘父業、國郡半ハ、一門ノ所領トナリ、田園悉ク、一家ノ進止タリ」

しん-し（名）新司　新任ノ國司。[illegible]十五、[illegible]新司にあふたがマウケニ、酔臥シテ、カノ國ノ名アル所所、繪ニ書カセテ」

しん-し（名）神司　かみづかさ（神司）ノ（二）ニ同ジ。[illegible]

しん-し（名）神祠　ホコラ。神ノヤシロ。神ヲ祀レル祠堂。史記、封禪書[illegible]「[illegible]比叡田口山科北里、有二神祠、號藤尾寺」

しん-し（名）心思　ココロ。オモヒ。カンガヘ。孟子、離婁、上篇「既竭心思焉、繼之以不忍人之政」

しん-し（名）心志　ココロザシ。意志。[illegible]「[illegible]身之章也」

しん-し（名）心旨　ココロ（一）思フムネ。[illegible]

しん-し（名）宸旨　天子ノ御旨。叡旨。李適詩、[illegible]宸旨、[illegible]

しん-し（名）新紙〔新聞紙ノ略〕しんぶんし（新聞紙）ノ條ヲ見ヨ。

しん-し（名）新死　死シタルバカリナルコト。シニタテ。本朝若風俗（貞享、寶永）六「新死ノ姿、美麗」

しん-し（名）震死　雷ニ打タレテ、死ヌルコト。感電シテ死ヌルコト。續紀、十、天平二年、月壬午「[illegible]神祇官屋漏、往往人畜震死」

しん-し（名）振子　さげふりノ（一）ニ同ジ。

しん-し（名）脣齒　くちびるト、はト。密接ニ、利害ノ、相、關スルコトニ譬ヘテ云フコト、多シ。陸機、文賦[illegible]

しん-し（名）眞摯　マスグニ、事ヲ爲シ極ムルコト。眞面目ナルコト。ホンキ。

しん-し（副）參差（一）カタタガヒ。物ノ丈ノ、揃ハヌ狀ニ云フ語。[illegible]（二）嚙ヒチガフ狀ニ云フ語。[illegible]

しん-じ（名）神璽（一）アマツシルシ。神鏡ト、神劍ト。神祇令「凡、踐祚之日、云云、忌部上神璽之鏡劍」義解「璽、信也、猶云神明之徵信」（二）八尺瓊の曲玉ノ稱。（三）[illegible]。天皇ノ御璽。[illegible]

しん-じ（名）心事　心ニ、思ヒ設ケテアル事柄。[illegible]心事、故仕、世多ニ[illegible]「心事ヲ明カス」[illegible]

しん-じ（名）臣事　臣トシテ、ツカフルコト。臣服。史記、淮南王傳「萬世之後、吾寧能北面、臣事豎子乎」

しん-じ（名）眞事　マコトノ事實。梁昭明太子詩「[illegible]眞事亦因依」

しん-じ（名）眞字　かいしよ（楷書）ニ同ジ。[illegible]

しん-じ（名）眞字　文政ノ初ニ、鑄造セラレタル金銀貨ノ稱。數年ニシテ改鑄セラレタルヲ、草文ト云フ。「眞字二歩判」眞文字銀、草文字銀」

しん-じ（名）新字　ニヒナ、新タニ造リタル文字。魏書、世祖紀「始光二年、初造新字千餘[illegible]」天武紀、下、十一年三月「[illegible]造新字一部四十四卷」

じん-し（名）壬子　ミヅノエノネ。（えとノ條ヲ見ヨ）

じん-し（名）人士　教育、又ハ、地位ノアル人。身柄ヨキ人。詩經、小雅、都人士之什、「[illegible]」

じん-し（名）仁祠（一）寺院。後漢書、楚王英傳「[illegible]仁祠」（二）小社。今昔物語、十九、第三十二語「神拜ト云フ事ストテ、云云、道邊木、三四本有ル所ニ、少サキ仁祠有リ」

じん-じ（名）仁慈　イツクシミ、惠ムコト。仁愛。仁惠。慈仁。[illegible]

じん-じ（名）人事　人間ノ事。人ノスベキ事柄。孟子、告子、上篇[illegible]國語、越語「夫人事必將與天地相參然後乃可以成功」史記、太史公自序[illegible]

じん-じ（名）神事　カミワザ。神ヲ祭ル事。マツリ。[illegible]

しん-しう（名）神州（一）支那人ノ、自己ノ國ノ稱。史記、孟軻傳「中國、名曰赤縣神州[illegible]」（二）神仙ノ居處。仙洞。蓬萊。河圖括地象「[illegible]」（三）カミグニ。日本國ノ稱。藤田彪、正氣歌「天地正大氣、粹然鍾神州」

しん-しう（名）新秋　陰暦、七月ノ異稱。ハツアキ。初秋。孟秋。張九齡詩、[illegible]

じん-じう（名）仁獸〔仁ハ、生蟲ヲ踐マズ、生草ヲ折ラズトテ名トス〕（文苑英華、廿四）麒麟ノ異名。公羊傳、哀公十四年「麟者仁獸也、有王者則至」

しん-しき（名）新式〔舊式ニ對ス〕アタラシキ法式。シンガタ。新法。新方。北史、周、高祖紀「[illegible]」

じんじ-きよく（名）人事局　陸軍省、及、海軍省ノ、准士官以上ノ人ノ、一身上ニ關スル事務ヲ取扱フ一局。

シンジケエト（名）〔英語、Syndicate.ノ訛〕或ル共同ノ事業ヲナサンガ爲ニ行フ、資本ノ聯合。我ガ國ニテハ、有價證券ヲ引受クル爲ニ組織セラルル組

合。企業組合。合同組合。

(一)しんじち (名) 眞實 次次條ノ語ニ同ジ。宇津保物語、俊蔭「十六君ヲ、しんじちニハアラネド、嬉シクコソアレ」源、四十九、東屋「十ニ幼ナク、年足ラヌ程ニナスハストモ、しんじちノ親ノ ヤンゴトナク思ヒオキテ給ヘラムヲ」

しんしつ (名) 寢室 ネドコ。ネヤ。魏書、崔浩傳「寢室火作」

しんじつ (名) 眞實 又、しんじち。マコトナルコト。僞ラヌコト。忠實。誠心 隋書經「佛音聲、世所レ未二曾有一、所レ言眞實者、應當レ修二供養一」韓愈、眞實者、聖樹圓備、非レ詔曰レ眞、至德凝然、無レ虛曰レ實」陸雲、與二戴季甫一書「居レ德履レ道、求レ心眞實」保元物語、一、新院御謀反事、左大臣賴長 諸人、加樣ニ恐レ奉リシカドモ、眞實ノ御心向ハ、極メテウルハシクオハシマシ」

しんじつ (名) 信實 僞リ、飾リノ無キコト。マメヤカニ、正直ナルコト。律義。

じんじつ (名) 人日 (月令廣義ノ正月ニ「七日主レ人ニ」) 五節句ノ一、陰暦、正月七日ノ稱。(七種ノ條ヲ見ヨ) 杜甫詩「元日到二人日一、未レ有二不レ陰時一」荊楚歲時記(梁、宗懍)「正月七日爲二人日一、以二七種菜一爲レ羹」云云、按、董勛問禮、俗曰、正月、云云、七日爲レ人、云云、七日帖二人於帳一」東方朔、占書「正月一日占レ雞、二日占レ狗、三日占レ羊、四日占レ猪、五日占レ牛、六日占レ馬、七日占レ人、八日占レ穀、其日晴明溫和、則爲二其物蕃息安泰之候一、陰寒慘裂、則爲二疾病之兆一」

じんじつ (名) 盡日 (月、又ハ年ノ盡くる日ノ義) 晦日。大晦日。

じんじつ (副) 盡日 ヒネモス。終日。漢書、高帝紀「今足下盡日上攻、士死傷者必多」聯珠詩格、十九、用二兩侈字一格、竹日問、花花不レ語、朗詠集、下「盡日望レ雲心不レ繫」「盡日、春ヲ尋ネテ」

しんじのいけ (名) 心字池 (一)心字形ノ池。(二)池ノ面ヲ、池の心ト云フ。

じんじのう (名) 神事能 神社ノ祭ニ催ス能樂。續記拾要集、三、元祿十五年九月十二日、御用覺帳書拔「同(神田明神 神事能之節、云云」神田明神ノ神事能、享保ニ絶ユ) 北條五代記、四、神田神事能事「能ノ祭ハ、江戶、神田明神ニ限リタリ、云云、每年、九月十六日ニ、神事能アリ、然ル處ニ、上杉修理太夫藤原朝興ハ、武藏ノ國主トシテ、江戶ノ城ニマシマス、大永四甲申ノ年、北條左京太夫氏綱、江城ヲ責落シ、上杉ヲ亡シ、武州ヲ治メ給フ、是ニヨテ、中ノ年、神事能ナクシテ、次ノ年ニアリ、是、吉例ナリト、氏綱、仰有テヨリ以來、中一年隔テ、三年目每ニ神事能アリ、京ノ八幡ニ、暮松ト云フ、舞樂堪能ノ者アリ、此人下テ、江戶ヲ居住トシ、三年ニ一度ノ神事能ヲ勤メテ、今ニ絶ズ」落穗集「暮松太夫ハ、秀吉ノ能太夫、江戶ニ來リ、大傳馬町益田助左衞門取持、佐久間平八ガ子供ヲモ弟子トシ、神事能、與行ス、暮松、歿シ、又、北條氏直ノ師、寶生四郎左衞、江戶ニ來リ、神事能ニ出ケレバ、贔屓多シ、暮松ガ子孫ハ、太神樂打ノ頭トナルト云ヘリ」事跡合考「明神神事能ハ、享保ノ初マデハ、保生太夫、凡、百年ニ餘リ、代代、コレヲ勤メシガ、失脚、不足ノ由トカ、辭退シテ、喜多十太夫ヲ頼ミ、是ヲ勤メシム、只一年、喜多、勤メシ已後、永ク止タリ、今モ、右能、道具入置候土藏一ケ所、社地ニ有レ之ヲ、町中ヨリ失脚ニテ、修覆致シ來ルト云ヘリ」

ジンジ-ビア (名) (英語、Ginger beer.) 生薑ニテ醸セル飲物ノ名。生薑麥酒。ジンジンビイア。

しんしふけう (名) 神習教 神道ノ一派、加茂規清ノ首唱シタルモノ。

じんじふせい (名) 人事不省 人事ヲ、ワキマヘザルコト。全ク、知覺ヲ失フコト。氣絶。喪心。失心。

しんしほしや (名) 脣齒輔車 (輔ハ頰骨、車ハ齒齦ナリ、互ニ持チツ持タレツスルコト、脣齒ノ關係ノ如シ、(左傳、杜注)「相、依リ、相、恃ムコト。左傳、僖公五年「輔車相依、脣亡齒寒」

じんじまひ (名) 神事舞 神社ノ祭ニ行フ舞。神事舞太夫頭、田村八太夫、公許ヲ得テ、町中ヘ火除守、鼠神火除符ナド、配ル。(嬉遊笑覽、十二)

しんしん (名) 心身 こころト、からだト。精神ト、身體ト。保元物語、一、爲義降參事「忽ニ重病ヲ受テ、心身、苦痛セラレケレバ」太平記、十二、神泉苑事「俄ニ目クレ、鼻血垂テ、心身惱亂セラレケルガ、佛壇ノ前ニ倒伏テ、遂ニ、ハカナク成ニケリ」「心身共ニ、疲レ果ツ」

しんしん (名) 心神 ココチ。精神。魏書、程老志「其爲レ教也、爵ニ去邪累、澡ニ雪心神ニ」著聞集、十五、宿執、孝博入道「樂ヲ承ラバ、苦痛、暫ク休ミヌベシ、云云、心神、安樂ナリ」「心神爽快」

しんしん (名) 搢紳 (縉紳トモ書ク、進ノ字ニテ、下ノ糸編ニ傚ハレタルナリ、輻湊ノ、輻輳トモ書スルガ如シ、漢書、郊祀志「其語不レ經見、縉紳者弗レ道」顏注「李奇曰、搢、插也、插二笏於紳一、紳、大帶也」) 官位高キ人ノ稱。薦紳 史記、封禪書「其語不レ經見、搢紳者不レ道」晉書、輿服志「古者、貴賤皆執レ笏、其有レ事、則搢二之於腰帶一、所謂、搢紳之士者、搢レ笏而垂二紳帶一也」鍾嶸、詩品、序「觀二王公搢紳之士一、每二博論之餘一、何嘗不レ以レ詩爲二口實一、隨二其嗜欲一、商搉不レ同」顯宗郎位前紀「搢紳忻レ荷二戴天之慶一、哀哀黔首悅レ逢二履レ地之恩一」

しんしん (名) 新進 新タニ、進ミ出ヅルコト。新タニ、進ミ出デタル人。元稹、上二令狐相公一啓「江湘間、多有二新進、小生不レ知二天下文有一宗主一」司馬光、論二風俗一劄子「公卿大夫習二老莊之言一、新進後生未レ知二臧否一」「新進氣鋭」

しんじん (名) 信心 (一)信向ノココロ。信仰心 觀佛三昧經「諸子聞已、無三信心一」大藏法數「中道經云、妙信常住、一切妄想、滅盡無レ餘、中道純眞、名曰二信心一」「信心、肝ニ銘ズ」(二)信向シテ、祈念スルコト。著聞集、二、釋敎、千觀內供「信心是深、豈非二極樂上品之蓮一、菩提無量也、定期二彌勒下生之曉一」「神佛ヲ信心スル」「信心深シ」

しんじん (名) 神人 (一)かみト、ひとト。書經、舜典篇「八音克諧、無二相奪一倫、神人以和」左傳、成公元年「背レ盟不祥、欺二大國一不義、神人弗レ助、將何以勝」「神、人、共ニ享ケズ」(二)神ノ如キ人。仙人。莊子、逍遙遊篇「至人無レ已、神人無レ功、聖人無レ名」列子、周穆王篇「穆王、幾神人哉」(三)神ニ仕フル人。カンヌシ。保元物語、一、新院御所各門門固事「香椎宮ノ神人等、云云」太平記、廿五、自二伊勢一上二寶劍一事「神託、不審アルベキニアラザレバ、祭主ヲ始トシテ、見及ブ處ノ神人等、云云」

しんじん (名) 眞人 道德ノ、成就シタル人。至道ヲ體得シタル人。至人。仙人。莊子、大宗師篇「入レ水不レ濡、入レ火不レ熱、謂二之眞人一(爾文)淮南子、本經訓「莫レ死莫レ生、莫レ虛莫レ盈、是謂二眞人一」推古紀、廿一年十二月「眞人」

しんじん (名) 新人 (一)新タニ、結婚シタル人。新婚ノ人。(二)基督敎ニテ、從來ノ罪ヲ除カレ、新シキ生命ヲ得タル人。(三)思想ナドノ、尖端ナル人。「新人ノ活動」

しんじん (名) 辛壬 (えとノ條ヲ見ヨ) かのえト、みづのえト。何晏、景福殿賦「皇居肆陳、綺錯鱗比、辛壬癸甲、爲二之名秩一」

じんしん (名) 壬辰 (えとノ條ヲ見ヨ) ミヅノエ、タツ。

じんしん (名) 壬申 (えとノ條ヲ見ヨ) ミヅノエ、サル。「壬申ノ亂」

じんしん (名) 甚深 甚ダ、深キコト。ノイト、神祕ナルコト。大鏡、下、道長「此前ト云モノ命ハ、希ナル事、甚深甚深、希有希有ナリトハ、コレヲ申ヘキナリ」保元物語、一、新院崇二幸讃岐一

[illegible]セ篇(ヘリ)」

しん-しん (名) [人身] (一)人ノ身。カラダ。[illegible] (二)人ノ身上ノ事情。[illegible] 世所嫌之曰、好門戸、惡人身」「人身攻撃」

しん-しん (名) [人臣] 臣タル者。臣下ノ人(人君ニ對スル語) [illegible] 人臣ニ者、無外交不敢貳君也」左傳、僖公十五年「敗而不死、又使失刑、非人臣也」十訓抄、下、「[illegible]也トイヘドモ、云云、豈、大ナル任ヲ司ドランヤ」

しん-しん (名) [人心] ヒトゴコロ。ヒトノココロ。[illegible]平」莊子、列禦寇篇「凡人心險於山川」史記、淮陰侯傳「[illegible]」[illegible]同、如其面焉、吾豈敢謂子面如吾面乎」

しん-しん (名) [仁心] ナサケゴコロ。仁ノココロ。[illegible]

しん-しん (名) [仁人] しんしや(仁者)ニ同ジ。[illegible]

しん-しん-きうり (名) 人身究理 せいりがく(生理學)ニ同ジ。

しん-しん-と (副) [深深沈沈] (一)靜マル狀、又、深ケ行ク狀ニ云フ語 [illegible]「しんしんと更ケ渡ル」 (二)鐵瓶ナドノ湯ノ、滾ル音ニ云フ語。チンチント。

しん-しん-と (副) [駸駸] 進ミユク狀ニ云フ語、(馬、又、歲月、日光ナドノ) [illegible]

しん-しん-と (副) [滲滲] 滴、汗、ノ落チ、又ハ、雨ナドノ降ル狀ニ云フ語 [illegible]

しん-しん-と (副) [蓁蓁] 衆多ノ狀ニ云フ語。[illegible]

しん-しん-と (副) [森森] 森林ノ、繁リテ、高ク生ヒ立チタル狀ニ云フ語。コンモリト。鬱蒼ト [illegible]

しん-しん-と (副) [津津] アフレ、コボルル狀、又、物ノ、湧キ出デテ、裕カナル狀ニ云フ語。莊子、山木篇「其中津津乎猶有惡」[illegible]

ジンジン-ビイア (名) しんしんびあニ同ジ。

しん-しゃ (名) [辰砂] [支那、辰州産ノ丹砂、上品ナレバ、辰ニ名トナル] 本名、丹砂。礦物ノ名、硫化汞ナリ、深山ノ石崖ノ間ニ生ズ、多クハ、水銀、珪石、等ノ中ニ混ズ、緋色ニシテ、大キナルハ雞卵ノ如ク、小サキハ石榴ノ子ノ如シ、研シテ、眞朱ニ代ヘ、漆器ヲ塗リ、又、藥用トモス。(丹砂ノ條、見合ハスベシ) 丹砂 朱砂 [illegible]

しん-しゃ (名) [親炙] しんせき(親炙)ノ條ヲ見ヨ。

しん-しゃ (名) [深謝] 深ク、謝スルコト。厚ク、ハプルコト。[illegible]

しん-じゃ (名) [信者] 信心ノアル人。信向スル人。信徒。[illegible]

しん-しゃ (名) [神蛇] 不思議ナル蛇 [illegible] 宮太夫記「七八尺許神蛇、自蘆落、參ニ入內侍所」

じん-しゃ (名) [仁者] 仁心アル者。仁德アル人。仁人。[illegible]

じん-しゃ (名) [人車] 人力車ノ略、其條ヲ見ヨ。

じん-じゃ (名) [神社] カミノヤシロ。神祠 [illegible]

しん-しゃう (名) [身上] (一)ミノウヘ。己ガ身ニ、カカハルコト。[illegible] (二)轉ジテ、身代。所帶。家產。[illegible] (三)身分。身柄 [illegible]

しん-しゃう (名) [身章] [人身、文章ノ略] 衣服ノ稱。(衣ハ、人ノ身ノ文ナレバ、云フト) 左傳、閔公二年「狐突曰、衣、身之章也」[illegible]

しん-しゃう (名) [眞症] [症ハ、證ノ俗字] 病症ノ、眞ニ、ソレト確定シタルモノ。(類似症ニ對ス) [illegible]

しん-しゃう (名) [縉商] [搢紳商人ノ略] 上流ノ商人。紳士タル商人。

しん-しゃう (名) [參商] [參モ、商モ、星ノ名、左傳、昭公元年「子產曰、昔、高辛氏有二子、伯曰閼伯、季曰實沈、居於曠林、不相能也、日尋干戈、以相征討、后帝不臧、遷閼伯於商丘、主辰、商人是因、故辰爲商星、遷實沈於大夏、主參、唐人是因、故參爲晉星」ヨリ出ヅ] 二人、相、離レテ、合ハザルコト、[illegible] 杜甫、贈衛八處士詩「人生不相見、動如參與商」

しん-しゃう (名) [信賞] 功勞アル者ハ、信ニ、之レヲ賞スルコト。[illegible]

しん-じゃう (名) [新嘗] 新穀ヲ、宗廟ニ進メテ、祭ルコト。禮記、少儀篇「未嘗不食新」[illegible]

しん-じゃう (名) [進上] マキラセ、タテマツルコト。贈ルコトノ敬語。進呈。呈上。[illegible]「進上狀」 枕草子、七、六十四段「進上、餅餤、一包ミ、例ニヨリテ、進上如件、少納言殿ニ」

しん-じゃう (名) [心情] 心。オモヒ。心思。李中詩「[illegible]心情」[illegible]「李防求詩云、社公今日沒心情、爲乞治聾酒一瓶」

しん-じゃう (名) [神情] ココロ。ココロモチ。世說、賢媛篇「王夫人神情散朗」

しん-しやう (名) 【眞情】 (一)眞實ノ心情。マコトノ心。「眞情ヲ吐露ス」 (二)眞實ノ事情。マコトノアリサマ。眞相。

しん-じやう (名) 【申狀】 マウシブミ。請願書。訴狀。 太平記、十三、龍馬進奏事「イマダ恩賞ヲ賜リタル者アラザルニ、申狀ヲ捨テテ、訟ヲ止メタルハ」

じん-じやう (名) 【尋常】 〔周禮、地官篇、媒氏、注「八尺曰ㇾ尋、倍ㇾ尋曰ㇾ常」〕 (一)八尺、一丈六尺ノ長サ、僅小ナル長サ。 韓康、聽ㇾ科目ㇾ時與ㇾ人書「其不ㇾ及ㇾ水、蓋尋常尺寸之間耳」字類抄「尋八尺、常、二尋」 (二)ヨノツネ。アタリマヘ。ナミ。通例。 張籍詩「地僻尋常來客少」名義抄「尋常、ヨノツネ」「尋常一樣」 (三)轉ジテ、ツネナミニテ、目立タズ、何トナク、品ノ好キコト。柔和。キャシャ。「尋常ナ生レツキ」「尋常ナ姿」 (四)又、轉ジテ、物ノ成立ノ、細小ナルコト。

じん-じやう-いちやう (句) 【尋常一樣】 ヨノツネナリ。ツネナミナリ。 杜耒、寒夜詩「尋常一樣窗前月、纔有ㇾ梅花便不ㇾ同」

しん-しやうが (名) 【新生姜】 〔古生姜ニ對ス〕 新シク出來タル生姜。

しん-じやう-さい (名) 【新嘗祭】 ニヒナメマツリ。(其條ヲ見ヨ)

じん-じやう-さい (名) 【神嘗祭】 カンナメマツリ。(其條ヲ見ヨ)

じん-じやう-に (副) 【尋常】 (一)ヨノツネニアルベキヤウニ。ケナゲニ。殊勝ニ。 著聞集、十二、偸盜、白川ノ強盜「イトナマヤカニテ、聲、ケハヒヨリ始メテ、ヨニ、尋常成男ノ、年、廿四五ニモヤアルラント覺ユル、有」「尋常ニ白狀セヨ」 (二)尋常ニ勝負セム」 (二)見苦シカラヌ狀ニ云フ語。 平治物語、三、常磐出六波羅事「尋常ニ出立セテ、云云、六波羅ヘゾ遣サレケル」平家物語、十一、那須與一事「沖ヨリ、尋常ニ飾ッタル小船一艘、汀ヘ向ッテ漕ギ寄セ」 太平記、三十六、細川淸氏背ㇾ義企事「氣分、飽マデ多テ、行跡、尋常ならザリケレ共」

しん-しやう-ひつ-ばつ (句) 【信賞必罰】 賞スベキハ賞シ、罰スベキハ罰シテ、賞罰ヲ嚴重ニス。 後漢書、宣帝紀、贊「孝宣之治、信賞必罰」唐書、陸贄傳「信賞必罰、霸王之資也」

しん-じやう-ゑ (名) 【新嘗會】 にひなめまつり(新嘗祭)ノ條ヲ見ヨ。 榮花物語、三十二、歌合「新嘗會ノ日、雨、降リクラスニ」平家物語、五、五節沙汰事「今年ハタダ、新嘗會、五節バカリデアルベキ由、公卿、僉議アッテ」

じん-じや-きよく (名) 【神社局】 神社、及、神官、神職ニ關スル事項ヲ取扱フ、內務省ノ一局。

しん-しやく (名) 【斟酌】 (一)事ノ心ヲ、クミワクルコト。心事ヲ、クミトルコト。 國語、周語「耆艾修ㇾ之、而後王斟酌焉」 (二)控ヘ目ニスルコト。遠慮。辭退。 太平記、三十六、細川淸氏背ㇾ義企ㇾ事「懸ル事ニハ、謀作、謀計ナドモ有ソカシ、率爾ニハ如何申入ベキト、斟酌シテ」狂言記、盜人連歌「ソレハ、思ヒモ寄リマセヌ事テ御坐ル、しんしやく致シマセウ」

しん-しやく (名) 【新釋】 新タニ、釋義スルコト。又、其解釋シタルモノ。舊キヲ、舊釋ト云フ。 唐書、藝文志「新釋二卷」

じん-しやく (名) 【人爵】 〔天爵ニ對ス〕 人ノ定メタル爵位。卽チ、官府ヨリ授クル爵位ノ稱。 孟子、告子、上篇「有ニ天爵者ㇾ、有ニ人爵者ㇾ云云、公卿大夫、此人爵也」

じん-しや-てつだう (名) 【人車鐵道】 鐵道ノ一種、土地ノ傾斜ト、惰力トヲ利用シ、人力ヲ以テ、車ヲ、軌道ノ上ニ走ラスルモノ。

しん-しゆ (名) 【神酒】 ミキ。神供ノ酒。

しん-しゆ (名) 【神主】 佛ノ、位牌ノ如キモノ。又、死者ヲ祭ルニ、主トスルモノ。面ニ、官位、姓名、神主ト記ス。 朱子家禮「神主長尺有二寸」五代史、周紀「祔三五室神主于新廟一」

しん-しゆ (名) 【新主】 〔舊主ニ對ス〕 新ラシキ主君。 史記、秦始皇紀「天下之嗷嗷、新主之資也」著聞集、四、文學、中納言顯基、御門崩レ給ヒ、云云、主殿司、新主ノ御事ヲ勤ムトテ、來ラヌ由」

しん-しゆ (名) 【新酒】 今年、釀シタル酒。古酒ニ對ス、其條ヲモ見ヨ。 白居易詩「關留ニ新客一、留ニ新酒一」

しん-しゆ (名) 【新鑄】 新タニ、鑄造スルコト。 舊唐書、食貨志「乾封新鑄之錢、令ニ有司貯納、更不ㇾ須ㇾ鑄」

しん-しゆ (名) 【進取】 ススミ、トルコト。勇進シテ、索ムルコト。進ミ出デテ、事ヲスルコト。(保守ニ對ス) 論語、子路篇「狂者進取、猖者有ㇾ所ㇾ不ㇾ爲也」「進取ノ氣象」

しん-しゆ (名) 【身首】 からだト、くびト。「身、首、處ヲ異ニス」

しん-じゆ (名) 【眞儒】 眞實ナル儒者。俗儒ナドニ對ス。 揚子法言「如用ニ眞儒一、天下無ㇾ敵」宋史、周必大傳「宣帝謂、俗儒不ㇾ達ニ時宜一、使ニ宣帝知ニ眞儒一、何至ニ雜伯一哉」

しん-じゆ (名) 【眞珠】 (一)あこやがひヨリ出ヅル珠ノ名、銀色ニ光リ、略、透明リテ、瑪瑙ノ如シ、形、正シク圓シ、靑ミアルヲ上品ナリトス、質、甚ダ堅クシテ、碎ケバ、層層、相、重ナルコト、蚌蛤ノ如シ、內外、色、同ジ、形、色ニ、種類、多シ、藥用トシ、又、飾トス。タマ。シラタマ。アコヤダマ。アコヤノタマ。珠 困學紀聞(王應麟)「王微之云、觀ㇾ昔每ㇾ得ニ一錢ㇾ、如ㇾ得ニ一眞珠船一」 (二)鰒ヨリモ、出ヅ。アハビタマ。アハビシラタマ。三重、長崎、高知、三縣下ヲ產地トシテ、鹿兒嶋、琉球ニモ、稍、異種類ノモノ、發生ス、人工方法ニテ、繁殖セシムルモ、アリ。鰒珠

しん-じゆ (名) 【神呪】 靈妙ナル呪文。 晉書、佛圖澄傳「少學ㇾ道、能誦ニ神呪一、能役ニ使鬼神一」著聞集、二、釋敎、高堯上人「諸僧、寶號ヲ唱ヘ、神呪ヲ誦スル間ニ」

しん-じゆ (名) 【神樹】 (一)しんぼく(神木)ニ同ジ。 江淹賦「潤ニ碧草之神樹一、鋪ニ紫石之靈根一」 (二)ハニハウルシ。明治ノ初、墺太利國ヨリ移植セル樹、歐洲ニ移サレ、支那原產ノ臭椿樗、其成長力ト、喬長トニ驚異セラレ、天ニ達スル木ト命ゼラレ、直譯シテ、神樹ト云フ、雌花、臭氣ヲ放ッ、ト。

しん-じゆ (名) 【新樹】 ナツコダチ。新芽ノ、萌エ出デタル樹木。 白居易詩「霽景四月初、新樹葉成ㇾ陰」

じん-しゆ (名) 【人主】 (一)キミ。人君。君主。 戰國策、秦策「語曰、人主、賞ㇾ所ㇾ愛、而罰ㇾ所ㇾ惡」 (二)トノサマ。

じん-しゆ (名) 【人種】 人類ノ中ニテ、或ル特徵ヲ共有スル一羣。白色人種、黑色人種、蒙古人種、馬來人種、等ノ類。 世說、任誕、上注「阮仲容、先幸ニ姑家鮮卑婢一、云云、人種不ㇾ可ㇾ失、卽遙集之母也」 法苑珠林、禧道世「萬人能持ニ善行一、諸善鬼神欲ㇾ令ニ人種不一ㇾ絕」

しん-しゆう (名) 【眞宗】 眞サニハ、淨土眞宗ト云ヒ、彌陀一佛ヲ、一向專念スルガ

故ニ、其宗ヲ、一向宗ト云フ、又…、門徒ヲ以テ…山トシ、信者ヲ、門徒ト唱フルニヨリ、門徒宗トモ称セリ、釋…、…ニ…ナリ、…、…、天台、…ヲ學ビ、後、…ニ隨ヒテ、淨土宗ノ奥旨ヲ稟ケ、逸世ノ人、難行ノ、修シ難キヲ憐リ、易行ノ宗ヲ起シ、在家、肉食妻帯ノ人ヲシテ、同一ニ、彼岸ニ到ラシメント欲シ、教法ヲ唱ヘテ、以テ、末代ノ機ニ合ハシメタルナリ。上人ノ寂後、法燈、別レテ、十派トナル、即チ、本願寺派、大谷派、佛光寺派、高田派、木邊派、興正寺派、出雲路派、山元派、誠照寺派、三門徒派、コレナリ。

しんじゅがひ（名）［眞珠貝］ あこや、おほひニ同ジ。（肥前）

しんしゅく（名）［振粛］（一）振ヒ興シテ、慎ムコト。（二）振ヒ恐レテ、慎ムコト。 [illegible]

しんしゅく（名）［伸縮］ ノビチヂミ。 [illegible]「伸縮自在」

しんしゅく（名）［新宿］ 新タニ建テタル宿驛。驛ヨリ往ル、故宿トイフ。 [illegible]

しんしゅつ（名）［進出］ 進ミ出ヅルコト。 [illegible]

しんじゅつ（名）［心術］ ココロダテ。 [illegible]

しんじゅつ（名）［鍼術］ 漢方ノ醫術ノ一、身體ニ鍼ヲ刺シテ、病ヲ治療スルコト。 [illegible]

しんじゅつ（名）［賑恤・振恤］ ニギハシ、メグムコト。物ヲ恤ミ、スクフコト。 [illegible]

しんじゅつ（名）［壬戌］ ミヅノエノイヌ。（えとノ條ヲ見ヨ）

じんじゅつ（名）［仁術］（一）仁ヲ行フ方法。 孟子、梁惠王、上「…、是乃仁術也」（二）醫術ノ稱。近クハ、身ヲ衛リ、遠クハ、人ヲ救フヨリ、云フ。 [illegible]「…、醫ハ、仁術ナリ」

しんしゅつ-きぼつ（句）［神出鬼沒］ 忽チアラハレ、忽チカクル。出沒、測ラレズ。 [illegible]「神出鬼沒」

しんしゅん（名）［新春］ アラタナル春。（陰暦ニテ、新年ノ意ニ用ヰル）新陽。 [illegible]「新春ノ御慶」

しんじゅん（名）［浸潤］ 次第ニ、シミコムコト。 論語、顏淵篇「浸潤之譖、膚受之愬、不行焉、可謂明也已矣」

しんしょ（名）［心緒］ 心ノ動ク端緒。情緒。心のを。 杜甫詩「…、詩心緒亂」

しんしょ（名）［臣庶］ 多クノ臣民。臣下。 [illegible]「…、惟茲臣庶」

しんしょ（名）［親署］ 天子ミヅカラ、署名シ給フコト。 宋史、禮志「…、親署…」

しんしょ（名）［宸書］ しんかん（宸翰）ニ同ジ。

しんしょ（名）［信書］ テガミ。フミ。書状。「信書ノ秘密」

しんしょ（名）［眞書］ 眞體ノ文字。楷書。

しんしょ（名）［神書］（一）神ノ作レリト云フ書。 [illegible]（二）神祇ニ關スル作ヲ記シタル書。

しんじょ（名）［神助］ 神ノタスケ。神祐。 [illegible] 太平記、十七、山門牒送南都事「…、仰和光之神助…」

しんじょ（名）［寢所］ ネヤ。ネマ。フシド。（貴人ニ）内寢。寢室。 [illegible] 平治物語、一、源氏勢汰事「カカル不思議ナカリセバ、奈良程ノ下﨟、爭カ、御寢所ヘハ參ルベキ」

しんじょ（名）［糝薯］ 魚肉、又ハ、鳥肉ヲ擂リテ、薯蕷、雞卵ノ蛋白ヲ入レ、煎出汁、味醂、鹽ヲ加ヘ、程好ク堅メテ、更ニ、汁ニテ煮タルモノ。「鯛ノ糝薯」「蝦ノ糝薯」

じんしょ（名）［甚暑］ 甚シキ暑サ。大暑。 淮南子、兵略訓「大寒甚暑、疾風暴雨、…」 [illegible]「甚暑ノ砌リ」

じんじょ（名）［仁恕］（一）イツクシミ深ク、思ヒヤリ厚キコト。 [illegible] 宋史、…「…、寬明而仁恕」（二）憐ミテ、罪咎ヲ赦スコト。 [illegible]

じんじょ（名）［尋所］ じんじょう（尋承）ヲ見ヨ。 平家物語、十一、大臣殿被斬「判官、我レモ、屋島ヘ參ルガ、案内ヲ知ラヌゾ、尋所セヨト宣ヘバ、コノ男ハ、度度參ッテ、案内ヨク存ジテ候フト申ス」

しんしょう（名）［震悚］ フルヒ、オソルルコト。 [illegible]

しんしょう（名）［晨鐘］ アケノカネ。 [illegible]

しんしょう（名）［心證］（獨語、Überzeugung-）係爭事實ニ對スル、裁判官ノ確信。スベテノ證據方法ハ、裁判官ノ感覺、及、理解力ニ訴ヘラルルモノナレバ、裁判官ハ、其感覺、及、理解力ニ依リ、事實ノ、眞實ナリヤ、否ヤヲ判斷スベキ、一ノ確信ヲ生ズ、此確信ヲ稱シテ、心證ト云フ。（日本百科大辭典）

じんじょう（名）［尋承］（尋所ハ、同意義）案内スルコト。又、其人。 [illegible] 同、三十七「…」 同、四十二「…、西國ノ案内者ニ…、尋承セヨ」

しんじょう（名）［晨鐘］ しんしょう（晨鐘）ニ同ジ、次條ヲモ見ヨ。

しんしょう-せき-ボン（名）［晨鐘夕梵］ 寺ニテ、明暮ニ、勤メヲスルニ撞ク鐘、 [illegible]「…、絶ユル事ナシ」

しんしょく（名）［神色］（一）精神ト、顔色ト。（二）カホイロ、顔色。 後漢書、劉寬傳「…、神色不異」「神色自若」

しんしょく（名）［神職］ じんぐゎん（神官）ニ同ジ。カンヌシ。 太平記、十五、賀茂神主改補事「賀茂社ノ神主職ハ、神職ノ中ノ重職トシテ」

しんしょく（名）［寢食］ 寢ぬると、食ふト。（人ノ、日日スル事ノ意） 文中子「北山…」 唐書、…「…」

レ害、不レ知二寢食一」 太平記、十五、園城寺戒壇事、「智證大師御在唐七箇年ノ間、寢食ヲ忘レテ、顯密ノ奥義ヲ究メ給ヒテ」「寢食ヲ安ンゼズ」「寢食ヲ廢ス」

しん-しょく (名) 侵蝕 ヲカシ、ムシバムコト。ヲウシ、ソコナフコト。蠶食。

しん-しょく (名) 浸蝕 水ノ、次第ニ浸ミ込ミテ、ムシクヒ、ソコナフコト。「水ノ浸蝕ニ因リテ」浸蝕作用」

しん-しょ の しゅん (名) 新所旬 古ヘ、内裏造營ノ後、主上、南殿ニ出御アリテ、群臣ニ酒ヲ賜ヒ、政ヲ聞召ス儀式。公事根源、中、孟夏旬「オホヨソ、旬ニハ、色色有リ、内裏新シク造ラレテ後、初メテ南殿ニテ行ハセ給フヲバ、新所の旬ト申ス」

しん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 襯 [襯ハ、うらうちノ意] ピッタリ、着ク。接近ス。 韓愈詩「天袍襯二神題一 花外二」

しん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 信 (一)信マコトナリト、思ヒコム。疑ハズ。 荀子、非十二子篇「信レ信信也」 孟子、盡心、下篇「盡信レ書、則不レ如レ無レ書」 源、十三、明石「九月往ヌル朔日ノ日ノ夢ニ、異ナル物ノ、告ゲ知ラスル事侍リシカバ、しんじ難キ事ト思ヒ給ヘシカド、云云」 同、五十一、蜻蛉「イカヤウナル事ヲ、急ニ、云ヒ知ラスル事アリテカ、サル事ハシ給ハン、我レナン、エしんずマジキ」 (二)信向ス。信心ス。 源、二、帚木「中將、イミジクしんじテ、頬杖ヲツキテ、向ヒ居給ヘリ」 宇治拾遺、十二、第十八條「マコトノ心ヲ興ストテ云フハ、他ノ事ニアラズ、佛法ヲ信ずるナリ」

しん・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 進 タテマツル。マヰラス。サシアグ。進上ス。 盛衰記、十九、白首事「是ソ、故下野殿ノ御首ヨ、云云、定メテ、見參シ奉ランズラン、サテハ、進ゼントテ、頸ニ懸テ下リタリキ」

しん-すけ (名) 新介 だいすけ(大介)ノ條ヲ見ヨ。

じん-すけ (名) 甚助 [助ハ、雲助、三助、ナドト同趣ナル擬人語] 男女ノ間ノ嫉妬。ヤキモチ。又、其人。

しん-すゐ (名) 薪水 [採レ薪汲レ水ノ略] 水ヲ汲ミ、飯ヲ炊グコト。即チ、下男、下女ノ業。 梁昭明太子、陶潛傳「送二一力一給二其子一曰、遣二此力一助二汝薪水之勞一、此亦人子也、可二善遇一之」

しん-すゐ (名) 浸水 ヒタシタル水。又、水ニ、ヒタルコト。「浸水家屋」

しん-すゐ (名) 信水 月經ノ異稱。

しん-すゐ (名) 深水 深キミヅ。フカキ海底。 盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「海 漫漫トシテ、直下ト見下セバ、底モナシ、雲ノ波、煙ノ波ニ紛ツツ、深水、最幽也」

しん-すゐ (名) 深邃 (一)地ノ、奥ブカキコト。幽邃。 于濆詩「洛陽大道傍、甲第何深邃」 (二)學問、藝術ナドノ、奥ブカキコト。深邃。 梁簡文帝、成實論義疏、序「窮門深邃、入レ之者固希」

しん-すゐ (名) 心醉 事ニ耽リテ、心ノ、惚クルコト。見テ、ホルルコト。 莊子、應帝王篇「鄭有二神巫一、云云、列子見レ之而心醉」 晉書、郭奕傳「見二阮咸一心醉、不レ覺歎焉」

しん-ずゐ (名) 心髓 物ノ中ニアルシン。ズヰ。中心。中樞。要樞。 唐書、盧照鄰傳「幽人死二于南一者、骸骨不レ掩、痛二心髓一」 白居易詩「竊レ之在二琴曲一、聽者酸二心髓一」

しん-ずゐ (名) 神髓 眞髓 斯道ノ奥義。「術ノ神髓ヲ極ム」

しん-ずゐ (名) 神瑞 神靈ナル祥瑞。不思議ナル、吉キ兆。 晉書、樂志「視以二神瑞一」 法苑珠林、(感通世)「神瑞紛綸、吉徴總萃」

じん-すゐ (名) 盡瘁 [瘁ハ、廣韻「病也」 韻會「勞也」] 心ヲ盡シ、力ヲ勞スルコト。力ヲ致シテ、骨折ルコト。 詩經、小雅、北山之什、北山篇「或燕燕居息、或盡瘁事レ國」 諸葛亮、出師表「鞠躬盡瘁、死而後已」「國事ニ盡瘁ス」

じん-ずゐ (名) 神水 (一)神前ニ供ヘタル水。 菊聞集、五、和歌、小大進「北野ニ籠リテ、云云、三日ト云フニ、神水ヲ打チコボシタリケレバ」 (二)靈驗アル水。 中務集「神水ニ、カゲノ傾ク、山吹ハ、蛙ノ聲ヲ、アハレトヤ聞ク」 (三)神前ニテ、水ヲ飲ミテ、誓フコトニ云フ。 太平記、廿五、住吉合戰事「一足モ引カズ討死スベシト、神水ヲ飲ミテゾ打立チケル、事ノ體、實ニ思ヒ切リタル體カナト、先、凉シク見エタリケル」 鴉鷺合戰物語、十一「一揆知音ノ衆、云云、金打シ、神水ヲ呑ミテ、其衆、幾人ト、死ヲ契ル」

しん-すゐ-しき (名) 進水式 フナオロシ。新造ノ船艦ヲ、始メテ、水ニ浮ブル時ニ行フ式。

しん-せ (名) 信施 佛教ノ語、信者ノ布施。(三寶、或ハ、僧徒ニ) 釋氏通鑑「九峰論師、戒二其徒一曰、無二虛度二光陰一、無二虛消二信施一」 盛衰記、十、有王渡二硫黄島一事「若干ノ法勝寺領ヲ知行シ給ナガラ、修理、造營ヲバシ給ハズ、恣ニ三寶ノ信施ヲ受、飽クマデ伽藍ノ寺用ヲ貪給シ罪ノ報ニ、生ナガラ、餓鬼道ニ落給タルヤラン」

しん-せい (名) 神聖 至靈、至高ニシテ、威嚴アリ、侵スベカラズ、瀆スベカラザルコト。靈シク貴ク、人間ノ外ナルコト。 孟子、盡心、下篇「大而化レ之、之謂レ聖、聖而不レ可レ知レ之、之謂レ神」 漢書、鼂錯傳「五帝神聖、其臣莫二能及一」

しん-せい (名) 神性 精神。ココロ。 北史、崔光傳「取二樂琴書一、頤二養神性一」

しん-せい (名) 心性 (一)サガ。心ノ性。心ノ本性。本心。天性。 臧懋元詩「青山心性自宜身」 (二)心。精神。神性。

しん-せい (名) 眞性 マコトノ性質。自然ノウマレツキ。 莊子、馬蹄篇「齕レ草飲レ水、翹レ足而陸、此馬之眞性也」

しん-せい (名) 眞正 マコト。僞リナラザルコト。贋ナラザルコト。假リナラザルコト。 後漢書、許劭傳「外慕二聲名一、内非二眞正一」

しん-せい (名) 晨星 (一)夜明頃、殘レル星。曉星。 韋應物、[illegible]詩「夜讀還二晨星一」 (二)マバラニテ、少ナキニ譬ヘテ云フ語。 劉禹錫、送二張盥赴二舉詩、序「同年之友、當二其盛時一、聯レ袂齊レ鑣、云云、今來落落、如二晨星之相望一」

しん-せい (名) 新制 [古制ニ對ス] 新タナル制度。 洛陽伽藍記(楊衒之)「撰二寺址新制十五篇一」

しん-せい (名) 新製 [古製ニ對ス] 新タニ、作ルコト。新造。新作。 宋史、太祖紀「召レ宴二湖南新製茶一」 陶潛詩「衣裳無二新製一」

しん-せい (名) 新聲 新作ノ音曲。新曲。 古詩「新聲妙入レ神」

しん-せい (名) 新政 新ラシキ政治。 蘇軾詩「化レ國安二新政一」「民、新政ヲ喜バズ」

しん-せい (名) 親政 天子親ラ、國政ヲ執リ給フコト。

しん-せい (名) 親征 天子自ラ出デテ、征伐シ給フコト。 書經、甘誓篇、序疏「諸侯有二扈氏叛一、王親率レ衆親征レ之」

しん-せい (名) 申請 私人ヨリ、或ル要求ヲ、官府ニ申シ出ヅルコト。

しんせい [illegible] 仁政 恵ミ深キ政治 徳政 [illegible] 董仲舒、諸ネ相公孫弘記、發ス號出ス令、利天下之民 [illegible]

しんせい (名) 人世 人ノ世ノ中。世間。

しんせい (名) 人生 人ノ、世ニ生キナガラヘテアル間 人ノ、此世ニ處シテ、生活スル状 [illegible]

ジンセイクワン しんせいくゎん (名) 人生觀 人生ノ目的、價値、下段、等ニ關スル見解 [illegible]

しんせいめん (名) 新生面 〔杜甫詩ニ、將軍下レ筆開ニ生面一トアル如ク、生面ハ新シキ方面ナリ、俗、更ニ新字ヲ加ノルハ重複ナリ〕 新ラシキ方面。新機軸。「新生面ヲ拓ク」

シンシヤウ しんせう (名) 新抄 新ラシク、抄書スルコト、又、其物 [illegible]

シンシヤウ しんせう (名) 新樵 タキギヲ、コルコト。又、薪 [illegible]

シンシヤウ しんせう (名) 秦椒 ハジカミ。カハハジカミ。さんせう(山椒)ノ條ヲ見ヨ。

シンシヤウボウダイ しんせうぼうだい (名) 針小棒大 針ホドノ物事ヲ、棒ホドニ云ヒナスコト。物事ノ、僅少ヲ誇大ニ云ヒ、誇張スルコト。

しんせかい (名) 新世界 〔舊世界ニ對ス〕 きうせかい(舊世界)ノ條ヲ見ヨ。

しんせき [illegible] 親戚 [illegible] 族内ノ戚、外戚 [illegible] 親族、傍親同レ戚 [illegible] しんるゐ(親類)ニ同ジ。[illegible]

しんせき (名) 親炙 炙ハ、火ニアブル義、出典ヲ見ヨ〕 又、しんしや。親シク、其人ニ接スルコト。警咳ニ接スルコト。孟子、盡心、下篇「況於親ニ炙之一者上乎」注 [illegible]

しんせき (名) 臣籍 (一)臣民ノ分限。「皇族、臣籍ニ降ル」 (二)皇族以外ノ、臣民ノ分限。

しんせき (名) 眞蹟 しんぴつ(眞筆)ニ同ジ。[illegible] 弘法大師ノ眞蹟」

しんせき (名) 人跡 人迹 人ノ、往來ノ足アト。人影。[illegible] 史記、秦始皇紀 人迹所レ至、無レ不臣者 [illegible]

しんせつ (名) 臣節 人臣ノ節操。臣タル者ノ、遵守スベキ節義。[illegible]

しんせつ (名) 新説 〔故キヲ、舊説ト云フニ對ス〕 アタラシキ論説。新規ナル意見。[illegible] 再論三馮濟ニ疏「王安石用レ事、自爲ニ新説 [illegible]」

しんせつ (名) 新設 アラタニ、作リ設クルコト 「[illegible]」

しんせつ (名) 深切 志ノ、深クシテ、切ナルコト。裏、心ヨリ、事ヲナスコト。懇ニ、モノスルコト。懇切。[illegible] 不レ如レ見ニ之于行事一之深切著明也。

しんせつ (名) 親切 シタシク、ネムゴロナルコト。懇篤。[illegible] 切ナル人、親切ヲ盡ス」

しんせつおかし (名) 親切仆 おためおかしノ條ヲ見ヨ。

シンシヤウ しんせふ (名) 臣妾 (一)けらい、めかけト。[illegible] 下妾 [illegible] (二)屈服スルモノ [illegible]

シンシヤウ しんせふ (名) 進捗 〔しんちよくノ誤讀〕 ススミ、果取ルコト 「仕事ノ進捗」

シンシヤウ しんせふ (名) 震慴 震懾 オソレ、ヲノノクコト。震怖。史記 [illegible] 人、未レ嘗レ見ニ天子、故、震慴」 後漢書 [illegible] 「后性猜忌、後宮無レ不ニ震懾一」

しんせん (名) 神仙 神、又ハ、仙人。史記、封禪書 [illegible] 丹後國風土記、與謝郡、日置里、嶼子答曰 [illegible] 神仙、イキボトケ、僊、ヒジリ」

しんせん (名) 神饌 神ニ獻ル酒食。ソナヘモノ、供物。[illegible] 「神饌ヲ供フ」

しんせん (名) 新鮮 アタラシキコト。アザラケキコト。舊ビヌコト。太玄經、[illegible] 「[illegible] 新鮮ナリ」

しんせん (名) 新撰 アラタニ、エラビ作ルコト。アラタナル著述。新唐書、武宗紀 [illegible]

しんせん (名) 新錢 「古錢ニ對ス」 新タニ鑄造シタル錢 南史、宋、明帝紀「新錢 [illegible]」 [illegible] 十九、寛文十年六月廿八日 [illegible]

しんせん (名) 深淺 深きト、淺きト。淺深。詩經 [illegible] 漢書、宣帝紀 各以ニ思深淺一報レ之」「河海ノ深淺ヲ測ル」

しんせん (名) 神仙 盤渉調ヨリ、五音低キ調子 ばんしき(十二律)ノ條ヲ見ヨ。

しんせん (名) 神前 神ノ御前。神社ノ廣前。[illegible] 宜山代「此方ニハ、神前テ、天下ノ御祈念ノ、致ス」

しんせん (名) 親善 交リノ、仲ヨキコト。ウルハシキコト。ナカヨシ。後漢書、范丹傳「丹、[illegible] 仲叔之爲レ人、與ニ漢中李固河内王奐一親善」「日支親善」

しんせん (名) 寢膳 寢ヌルコトト、食フコトト。寢食。李商隱文 [illegible] 寢膳 [illegible] 御母儀 [illegible] 時光茂光御ら遊給人事 [illegible] 御母 [illegible] アリテ、御寢膳モ、御心キ程ナリケリ」

しんせん (副) 荏苒 〔[illegible] 展轉也」〕 歲月ノ、移リカハリ、メグリユク状ニ云フ語。ノビノビ。延引。延滯。遷延。晉書 [illegible] 荏苒三年」「荏苒、十歲ヲ歷」

シンセンヱン しんせんゑん (名) 神泉苑 古ヘ、天皇ノ遊覽所、京都ノ二條ノ南、大宮ノ西八町、三條ノ北、壬生ノ東ニ在リシト。拾芥抄、中 [illegible] 天子 [illegible] 以近衞次將一爲別當一 [illegible] 八町、三條北、壬生東、善女龍王、常見二此所一、上代有二公卿別當一長保年中、道綱 [illegible] 延喜式、四、行幸神泉苑 [illegible] 延曆廿一年二月

「幸二神泉苑一泛レ舟曲宴」 後紀、十七、大同三年七月「幸二神泉苑一觀二相撲一令二文人賦二七夕詩一」 類聚國史、三十一、大同四年九月「幸二神泉苑一觀レ射、兼命二文人一賦レ詩」 後紀、廿二、弘仁三年二月「幸二神泉苑一覽二花樹一命二文人一賦レ詩」 著聞集、三、政道忠臣「神泉苑正殿ヲ、乾臨閣トゾ名ヅケテ、近衞ノ次將ヲ別當ニナシテ、天子ノ、常ニ遊覽有テ、風月ノ興、管絃ノ遊、有ケリ、又、宴飮モ侍ケルヲ、延喜ノ御時(醍醐)、天神(菅原道眞)ノ、臣下ニテオハシマシケルトキ、諫メ奉ラレケレバ、トドマリニケリ」

⁂しん・ぜる (動) 進すノ口語。マキラスル。

しんそ (名) 神祖 功績ノ優レタル祖先ヲ敬フ稱。しんくん(神君)ニ同ジ。(德川家康ヲ、神祖ト云フ類)

しんそ (名) 親疏 親しきト、疎きト。血縁ト、他人ト。 禮記、曲禮、上篇「夫禮者、所下以定二親疏一決中嫌疑上別二同異一明中是非上也」 尹文子、大道、上篇「親疏」 曾我物語、十一、箱根にて佛事事「曾クハヲ過ギテ、往事ヲ思フニ、親友皆空シ、指ヲ折リテ、コウシンヲ數フレバ、しんそ多ク隱レヌ」

しんそ (名) 辛楚 〔楚ハ、扑撻ノ具、痛ノ義〕 苦シミ。イタムルコト。ツラサ。ウキメ。辛酸、苦楚。 陳暨、與二客士衡一詩「俯仰悲二林薄一慷慨含二辛楚一」「具サニ辛楚ヲ嘗ム」

しんぞ (副) 神眞 神以テ。神カケテ。ホンニ。ホンマニ。 曾根崎心中(元祿、近松作)觀音廻「色ニ焦レテ死ナフナラ、しんぞ此身ハ成リ次第」 冥途飛脚(正德、近松作)上「人還ヘトハ存ズレドモ、色ニ袖ヲ引レテ、神ぞ、添ナフ思ホユル」 心中宵庚申(享保、近松作)上「前髪姿ニ神ぞ、爪先ヨリ、ギリギリマデ、打込ミ」

しんそ (名) 神訴 神ヲ戴キテノ所訴。 太平記、廿一、佐佐木道譽流刑事「五刑ノ其一ヲ以テ、山門ニ訴ヘ付セラルル上ハ、神訴、皆日ヲ開ケル」 同、三十九、神木御歸座事「神訴、忽ニ落居シテ」

しんそう (名) 申奏 申シ上グルコト。 宋書、孝武帝紀「自レ中一奏小大一以聞」

しんそう (名) 進奏 上聞ニ達スルコト。上奏。奏聞。 宋史、職官志「進奏院、隸二給事中一掌下受二詔敕一及宣制符牒上」 柳宗元、進奏院記「院以備二進奏一」 太平記、廿五、自二伊勢一上二寶劍一事「安德天皇、壇浦ニテ、海底ニ沈メサセ給ヒシ寶劍、出來レリトテ、伊勢國ヨリ進奏ス」 同、十三「龍馬進奏事」

しんそく (名) 神速 勝レテ、速カナルコト。 史記、酷吏傳「河內皆怪二其奏一以爲二神速一」 三國志、魏志、郭嘉傳「兵貴二神速一」

しんぞく (名) 臣屬 家來トナリテ、附キシタガフ者。ケライ。臣下。

しんぞく (名) 眞俗 (一)僧侶ト、俗人ト。僧俗。緇素。 太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「凡、寺ヲ建ラルル事モ、人法、繁昌シテ、僧法、相對セバ、眞俗、道備テ、尤、然ルベシ」 (二)佛教ノ語、眞諦ト、俗諦ト。 徒然草、百五十五段「眞俗ニツケテ、必ハタシ遂ゲント思ハン事ハ、機嫌ヲ云フ可カラズ」

〔しんぞく (名) 親族 親屬 又、しぞく。ウカラ、ヤカラ。アヒダカラ。ツヅキアヒ。血族、及、婚姻ノ關係ニ因リテ、相、結合セル、一國ノ人人ノ稱。今ノ民法ニテハ、其範圍ヲ、六親等ノ血族、配偶者、親等內ノ姻族トス、血族トハ、血統ノ聯結スルモノ、姻族トハ、夫婦ノ一方ト、其配偶者ノ血族トノ關係スルモノナリ。自己ト、是レ等ノ人人ト、世數ノ遠近ノ次第ヲ、親等ト云ヒテ、六等ニ分ツ、コレニ、直系ト、傍系トアリ、直系ハ、自己ヨリ直上(尊族)、直下(卑族)スル世數ニ因ル、傍系ハ、夫レ等ヨリ、兄弟マデノ系ヲ云フ。例ヘバ、一等親ハ、父母、養父母、夫、子、養子。二等親ハ、祖父母、嫡母、繼母、伯叔父母、兄弟姉妹、夫ノ父母、妻、妾、姪、孫、子ノ妻。三等親ハ、曾祖父母、伯叔父ノ妻、夫ノ姪、從兄弟姉妹、異父兄弟姉妹、夫ノ祖父母、夫ノ伯叔父母、庶子、甥ノ妻、繼父、等ナリ。 禮記、大傳篇「六世親屬竭矣」 高適詩「弟兄莫二相見一親族還粉梓一」 白虎通(漢、班固)「天下太平、乃封二親屬一者、示レ不レ私也」 枕草子、八、八十六段「近くて遠きもの「しんぞくノ中」

しんぞくくわい (名) 親族會 戶主ガ未成年者ニテ、親權ヲ行フ者ナキ時ナド、其血族近親者ヨリ、三人以上ヲ選ビ、裁判所、コレヲ認定シテ、其家ノ重要事件ヲ、諮問、議定セシムルモノ。

じんそくに (副) 迅速 極メテ、早ク。 北史、杜銓傳「爲レ文迅速、有レ如二宿構一」 羅道源、和二趙君錫一詩「迅速光陰一旅亭」

しんそこ (名) 心底 〔しんていヲ、湯桶讀ニセル語カ〕 ココロネ。マゴコロ。「しんそこカラ、君ヲ信ジマス」「しんそこ、嬉シイ」

しんそつ (名) 眞率 人ノ氣象、物事ノ成立ナドニ、有體ニテ、包ミ飾リナキコト。飾ラヌコト。 晉書、高密文獻王泰傳「性廉靜、云云、雖レ爲二宰輔一食二大國租一服飾肴膳、如二布衣寒士一、任二眞簡率一」 南史、陶潛傳「若先醉、便語レ客、我醉欲レ眠、卿且去、其眞率如レ此」

しんそん (名) 神孫 神ノ子孫。神ノスヱ。神裔。 天神記(正德、近松作)二「アキクモ、天照大神ノ御神孫、受ケ繼ガセ給フ大日本」

じんだ (名) 糂粏 糂汰 糝汰 「說文」「古文、糂、作レ糝、以レ米和レ羹也」 韻會「桑感切、音慘、又、桑錦切、音沁、義同」「糂、雜也」 細末ノ糠ニ、麴ト、鹽トヲ加ヘテ釀セルモノ、酢、又ハ、酒ニテ食フ。又、糂粏味噌。西京ニ、ぬかみそ。 俚言集覽、中、糂汰「倭字通例書、じんだ、糂汰、注、俗ニ云フ、ぬかみそ、愚案、又、五年味噌トモ云フ、又、さざじんトモ云フ」

しんたい (名) 進退 (一)すすむト、しりぞくト。スヌムルト、シリゾクルト。又、職務ノ去就。 詩經、大雅、桑柔篇「人亦有レ言、進退維谷」 進退維れ谷まるトハ、立チ往生ノ意。 禮記、鄕飲酒篇「以レ拜二其賓一而進レ退之」 太平記、一、玄惠文談事「來ツラン方モ覺エズ、云云、行クベキ末ノ路モナシ、進退、歩ヲ失ウテ」 (二)起居振舞。 周禮、夏官篇、大司馬「以敎二坐作進退、疾徐疏數之節一」「進退動作」 (三)〔心ノママニ、扱フコト。自由ニ使フコト。 枕草子、六、五十八段「小法師バラノ持タグベクモアラヌ、屛風ナドノ高キ、イト能クしんたいシ」 平治物語、三、牛若奧州下向事「兩國ノ間ニハ、國司、目代ノ外、皆、秀衡ガ進退也」 盛衰記、四十六、頼朝義經中違事「平家ハ皆亡ヌ、天下ハ、君ノ御進退ナルベシ」

しんたい (名) 神體 神社ニ、神ノ靈トシテ祀ル、像ナド。 邢邵、蘐州刺史封隆之碑「神儀秀異、老識明爽」 太平記、廿五、自二伊勢一上二寶劍一事「一面ノ鏡ヲ鑄サセ給フ、云云、今ノ紀州、日前宮ノ神體ナリ」

しんたい (名) 身體 身。カラダ。 孝經、開宗明義章「身體髮膚、受二之父母一不二敢毀傷一孝之始也」 著聞集、八、孝行恩愛「身體髮膚ヲ、父母ニ受ケタリ」 名義抄「身體、スガタ」 塵袋、六「身字ヲ、むくろト讀ム、身體二字トモニ、むくろナリ、人ニモ限ラズ、木ニモ云フ」

しんたい (名) 新體 〔古體ニ對ス〕 新ラシキ體裁。新規ナル姿。新樣。 舊唐書、元白傳「賛文二新體一」 王維詩「舊野今蕭還 新體此無レ加」

しんたい (名) 眞體 〔草體ニ對ス〕 眞字ノ體。楷書ノ字體。

しんたい (名) [illegible] 理ヲ、又、出世間ノ法。聖諦。（俗諦ニ對ス）[illegible] ハアリ共、修行、修後ノ證師、大慈大悲ノ饒益ニ値遇シテ [illegible] ヤノセン

しんだい (名) [illegible] 王朝時代ニ、[illegible]ヲ[illegible]、コレニ、利用ヲ附セザルコト。[illegible]

しんだい (名) 「身代」 ミノシロ。所有ノ土地、家屋、財貨、一切ノ物ノ稱。或ハ、田畑持、ヲモ籠メテ云フ、身上。所 [illegible] 代ノ、店下シシテクレル、若イ」[illegible] ラ、付シャ」「身代ヲ棒ニ振ル」「身代カギリ」

しんたい (名) [illegible] ダイ。「二ヲノ[illegible]」

しんたい (名) 「人體」 人ノ身體。人ノカラダ。[illegible]

しんたい (名) 「靭帶」 彈力性ノ、強キ筋、人體ニ在リテハ、關節ノ兩骨ヲ繋ギ、[illegible]ナドノ間ニ在リテハ、臓片ヲ繋ギトムルモノ。

しんたい (名) 「神代」 カミヨ。神ノ、治ヶ給ヒシ時代。[illegible]「神代文字」

しんだい (名) 「甚大」 甚ダ大イナル状。[illegible]

しんたいうかがひ (名) 「進退伺」 官人ノ、過失ナドアリシヲ、具ミテ、自ラ、罪ヲ請ヒ、身ノ處置ヲ伺フコト。

しんだいかぎり (名) 「身代限」 借財ヲ償フコト能ハズシテ、官ノ裁判ノ上ニテ、身代ノアル限リヲ貸主ニ與ヘテ、貸借ヲ濟マスコト。但シ、身代ノ立チ直レル後ハ、何時ニテモ、子孫マデモ、其不足ヲ補フベキ責アリ。家資分散。（破産）[illegible]

しんたいし (名) 「新體詩」 明治時代ニ起レル、和歌ノ一體、七五、五七、八六、等ノ調子アリ、用語ニ、漢語、口語ヲ、多ク交ヘ、[illegible]ニ、定メナシト。

しんだいじそば (名) 「神大寺蕎麥」 武藏國、中野ノ神大寺ニ産ズル蕎麥、世ニ、名アリ。[illegible] 江戸ヨリ七里、中野ノ[illegible]、[illegible]ニシテ、スグレテ[illegible]ク、[illegible]

しんだいすぎ (名) 「神代杉」 杉ノ材ノ、數千百年モ、水中、土中、等ニ埋モレテアリシモノ、古來、往往、掘リ出ス、材ノ色、淡黑クシテ、木理、細カク、美シク、器ニ作リテ、珍重ス。[illegible] スルハ、箱根ノ湖ノ水底ヨリ出ルヲ云ヘリ、土佐杉ナド、同シク、木理ヲ賞セリ」

しんたいもじ (名) 「神代文字」 日文、天名地鎮、上文ノ類ノ稱。カミヨモジ。

しんたう (名) 「[illegible]」 [illegible] 語原ヲ見ヨ。天子ノ、甚ダシク、[illegible]傳アルコト。[illegible]

しんたう (名) 「震蕩」 フルヒ、動カスコト。又、フルヒ、動クコト。左傳、襄公廿六年 [illegible]

しんたう (名) 「新刀」 (一)アラミ。新タニ鍛ヒ出デタル刀ノ刃。(二)慶長以後ニ鍛ヒ出デタル刀。（古刀ノ條ヲ見ヨ）

しんたう (名) 「神道」 (一)カミノミチ。靈妙ナル道。易經、觀卦、彖傳「聖人以神道設教、而天下服矣」(二)佛教、渡來シテヨリ、コレニ別タムガ爲ニ、かみのみち（其條ヲ見ヨ）ヲ、一ツノ宗教ノ如ク立テタリト思ハルル名稱。天武、文武朝ノ大中臣意美麻呂、其子、清麻呂ノ頃ヨリ、起レルカ。[illegible] ニモ通ズル故ニヤ」(三)佛徒ノ本地垂跡ノ説ニテ、神佛ヲ混ズルコト、起リ、コレニ對シテ、内ハ、佛教ニ據リナガラ、アラハサズ、表面ハ、天照大神ノ、人ニ教ヘタマヒ、天下ヲ治メタマヒ道ナリトテ、作リ出デテ唱フルモノ、起レリ、（文明中、卜部兼倶ノ頃）前者ヲ、兩部習合神道、略シテ、兩部神道ト云ヒ、後者ヲ、唯一神道ト云ヒ、惟神ノ道ナド、唱フ、[illegible]ノ事ナリ。（兩部神道ハ、密教ノ胎藏、金剛ノ兩部ヲ習合シタル者、唯一神道ハ、法華ノ唯有一乘ニ取リタル名）(四)後、更ニ、儒理ヲ[illegible]キ、[illegible]ヲ加ヘ、[illegible]天下ニ一ノ道ヲ以テ作リ改メタルヲ、[illegible]ト云フ、即チ、元祿中、山崎闇齋ノ唱ヘタル垂加[illegible]神道ナド、是レナリ。(五)明治以後、[illegible]變革アリテ、今ハ、神道ト云フモノ、十派ニ分ル。（細別スレバ、尚、多シ）

しんだう (名) 「臣道」 臣下タル道。臣民ノ、遵守スベキ道。[illegible]

しんだう (名) 新道 [舊道ニ對ス] 新タニ、切リ開キタル道。シンミチ。[illegible] 南粤傳「與兵絶新道」

じんだう (名) 「人道」 (一)人ノ行フベキ、正シキ理。ヒトノミチ。易經、謙卦、彖傳「天道[illegible]」(二)交接ノ道。男女ノ交合。[illegible] (三)街路ノ左右、往歩者ノ、通行スベキ道。（馬車道ト別テル道ニ云フ）

じんだう (名) 「[illegible]」 魚ヲ捕フル具、細ソキ竹ヲ編ミテ、河ナドノ中ニ立テ、魚ヲ追ヒ入レテ、捕フルヤウニシタルモノ。和漢三才圖會、廿三 [illegible]「正字未詳」

しんたうのひ (名) 「神道碑」 墓道ノ碑。[illegible]

名認一　李督施筆語「劍ニ某號某公神道碑數字手ニ正中ハ其碑竪在ニ本山之下ニ」

しんたうりう（名）［神道流］〔天眞正傳神道流ヲ、本名トス〕劍術ノ一派、常陸、鹿島ノ人、飯篠長威齋家直ノ創メタルモノ。武藝小傳、五、刀術「常陸、鹿島神人、爲ニ其長ニ者七人、以ニ刀術ニ爲レ業、至レ今號ニ關東七流ニ者、是也、中興飯篠、得ニ天眞正之術ニ、大興ニ刀槍術ニ」

しんたうりう（名）［新當流］劍術ノ一派、上野ノ人、上泉伊勢守秀綱ノ創メタルモノ。關八州古戰錄、七、上泉伊勢守事「内藤ガ組ト成テ、武田家ニ屬シ、當所（箕輪）ニ安住シタリケルガ、下總國、香取ノ鄕士、飯篠山城入道長意ガ流ノ、天眞正ノ劍術ヲ修練シ、自己ノ巧夫ヲ交ヘテ、一流ヲ立テ、新當流ト號シ、若手ノ弟子ヲ指南シケルガ」甲陽軍鑑、三、品第十一「勘介、九年、駿河ニ從在共、今川殿ヘ抱ヘ給ハズ、九年ノ内ニ、兵法ニテ、手柄二三度仕ルトイヘ共、新當流ノ兵法コソ、本ノ事ナレト、皆人ノ沙汰也」

しんだがめ（名）［糂粏瓶］糂味噌ヲ入ルル瓶。（糂粏ノ條ヲ見ヨ）沙石集、四、下、第八條「糂太瓶一ナリトモ、執心トマラン物ハ、捨ツベシトコソ心得テ候ヘ」徒然草、九十八段、一言芳談「後世ヲ思ハム者ハ、糂太瓶一ツモ、持ツマジキコトナリ」

しんたく（名）［神託］神ノ託宣。太平記、廿五、自伊勢ニ上ニ寶劍ニ事「宗廟ノ神、云云、神勅ヲ下サレテ、云云、神託不審アルベキニアラザレバ」

しんたく（名）［信託］〔信認、委託ノ略〕委託者ト、受託者トノ間ニ成立スル、信任行爲。例ヘバ、放蕩兒ニ、財產ヲ蕩盡セラルルヲ豫防スル爲ニ、財產ノ管理、監督ヲ託シ、又、未亡人ガ、巨萬ノ遺產ノ運用ヲ託スル類、信託業務（トラストビジネス）。信託會社（トラストコンパニイ）

しんたく（名）［新宅］〔舊宅ニ對ス〕（一）新タニ作リタル家。輟耕錄（明、陶宗儀）五「友人陽公道、與レ疾至レ門曰、願假ニ君新宅ニ以死」兵範記、仁平四年十二月三十日「私家雖ニ新宅ハ、令ニ追儺ニ、是先例也」（二）新家。分家。別家。

しんたく（名）［仁澤］メグミノ、ウルホヒ。恩澤。薛道衡、詩「庶品蒙ニ仁澤ニ」

しんたつ（名）［進達］（一）官府ヘノ文書ナド、取次ギ、トドクルコト。德川禁令考、十九、天明七年「遠國狀、且又、諸向ヨリ差出候諸書物、進達書等ニ相用候料紙之儀、云云」（二）進メテ、立身セシムルコト。推薦シテ、榮達セシムルコト。禮記、儒行篇「推レ賢而進ニ達之ハ不レ望ニ其報ニ」晉書、羊祜傳「皆焚ニ其草ハ云云、凡所ニ進達ニ人、皆不レ知レ所レ由」

しんたつ（名）［申達］上ノ役所ヨリ、下ノ役所ニ、文書ヲ以テ、指令スルコト。

しんだミソ（名）［糂粏味噌］しんだ（糂粏）ニ同ジ。

しんたん（名）［心膽］ココロギモ。キモ。三國志、魏志、鍾會傳「凡、敗軍之將、不レ可ニ以語ニ勇、亡國之大夫、不レ可ニ與圖ニ存、心膽已破故也」「心膽ヲ寒カラシム」

しんたん（名）［新炭］〔急就篇「取レ木而然レ之曰レ薪、木之已燒者曰レ炭」〕たきぎト、すみト。禮記、月令篇「季秋之月、草木黃落、乃伐レ薪爲レ炭」蘇軾、安國寺浴詩「山城足ニ薪炭ニ」

しんたん（名）［震旦］〔旦ハ、あふがにヲたん、へるちヲたんナドノたんカ、西域記「日出ニ東隅ハ其色如レ丹、故云ニ震旦ニ」ト云フハ、イカガ〕しな（支那）ノ條ヲ見ヨ。大灌頂經「老子、是迦葉菩薩、化遊ニ震旦ニ」徐陵、雙林寺碑「用ニ震旦之常儀ハ乖ニ闍維之舊法ニ」榮花物語、十六、本雫「天竺、震旦ノ事モ、遙ニ隔タリタレバ、知ラズ」

しんだん（名）［宸斷］天子ノ御裁斷。天子ノ、オサバキ。金史、完顏匡傳「在ニ陛下宸斷ニ耳」

しんだん（名）［診斷］診察シテ、病症ヲ見極ムルコト。病ノ見タテ。「名醫ノ診斷」

しんだんぽ（名）バイゴマ。

しんち（名）［新地］〔舊地ニ對ス〕（一）新タニ切リ開キタル土地。新開ノ土地。長阿含經「樂レ觀ニ新地ニ」（二）遊郭。多クハ、新開ノ地ニ設クルヨリ、云フ。心中天網島（享保、近松作）上「南ノ風呂ノ浴衣ヨリ、今此新地ニ戀衣、紀ノ國屋ノ小春トハ」「大阪ノ北ノ新地」（三）新シキ領地。新知。戰國策、趙策「不レ如ニ歸ニ中山之新地ニ」張籍詩「新地道圖移ニ漢界ハ古城遺堞見ニ蕃書ニ」狂言記、姫糊「此中、御前ニ詰メテアレバ、新地ヲ、クワット下サレタ、何ト、メデタイ事デハナイカ」天龍寺文書、七「新地之寺就ニ建立ハ屋敷於ニ所望ニ者、土地一坪ニ付、代銀拾錢目宛仁相定事」享保集成絲綸錄、廿一、元祿元年四月「寬永八辛未年、起立之寺院ハ古跡、云云、翌申年ヨリ起立之寺院、新地ニ成申候」

しんち（名）［新知］〔舊知ニ對ス〕（一）アタラシク、知リタルコト。新知識。（二）アラタナル、知リアヒ。新知己。新相識。楚辭「樂莫レ樂ニ兮新相知ニ」鮑照、詠ニ雙燕ニ詩「悲歌辭ニ舊愛ハ銜レ泥覓ニ新知ニ」（三）アラタナル知行。新シキ領地。新地。御家秘鑑、二「諸大名、十七ヨリ内ニ而卒去之時、云云、或ハ、一類ヲ以思召次第、新知被ニ仰付ニ」

しんち（名）［親知］シタシク、知リアフコト。シタシキ、シリアヒ。謝朓詩「浩蕩別ニ親知ニ」

しんち（名）［神智］不思議ナル智慧。靈智。劉向、新語「鑒ニ其神智ハ識ニ其才能ニ」

しんぢ（名）［鍼治］鍼ヲ用キテ、病ヲ治ムルコト。ハリ。（鍼ノ條ヲ見ヨ）

しんち（連語）［恁地］此の如しト云フ語。朱子語錄「恁也、是有ニ才智ハ只是恁地、所ニ以恁得ニ恁地ニ」

しんち（名）［人智］人間ノ智慧。淮南子、脩務訓「博聞強志、口辯辭給、人智之美也」

しんち（名）［稔知］〔康熙字典、稔「說文、穀熟也」〕成熟シタル知識。

しんちう（名）［辛丑］カノトノウシ。（えとノ條ヲ見ヨ）

しんちう（名）［神籌］不思議ナル策略。神策。神謀。後漢書、思游賦「玄武之衆歌兮、會ニ根荃之神籌ニ」

しんちき（名）［新知己］しんち（新知）ノ（二）ニ同ジ。

しんちく（名）［新築］新タニ、築キ作ルコト。又、ソノ築キタルモノ。新造。戴叔倫詩「東山有ニ遺堂ハ南野起ニ新築ニ」

しんちく（名）［人畜］〔しんきう、又ハ、しんきくノ誤讀〕人ト、畜類ト。人ト、獸ト。漢書、陳湯傳「兵來道遠、人畜罷極、食度且盡」後漢書、順帝紀「蝗、嚙人畜ニ」「人畜ニ害ナシ」

しんちしき（名）［新知識］從來ヨリ、一層、進步シタル知識。アラタナル知能。

しんぢつ（名）［親昵親暱］シタシミ、ナジムコト。親近。左傳、襄公十四年「皆有ニ親昵ハ以相輔佐也」北史、田式傳「有レ犯レ禁者ハ雖ニ至親昵ハ無レ所ニ容貸ニ」

しんちん（名）［新陳］あたらしきト、ふるきト。新舊。「新陳交替」新陳代謝

しんちん（名）［深湛］落チツキテ、重重シキコト。深重。後漢書、揚雄傳「雄、少而好

[illegible]「[illegible]、口吃而不能言、[illegible]而好深湛之思」

しんちん (副) [深沈] シヅマリカヘリ、[illegible]ニ云フ語。[illegible]「[illegible]」[illegible]口ニ「秋夜、深沈、深沈、大底アリ」

しんちんたいしゃ (句) [新陳代謝] (一) 新シキモノガ、陳キモノニ、代ハリユク。(二)生物ハ、體内ニ[illegible]ナル物質ノ、[illegible]分解ニヨリ、[illegible]、筋力等ノ生活力ヲ得、又、[illegible]ル[illegible]ハ減シテ、新ラシキモノ、コレニ代ハル、因リテ生ジタル不要物ハ、體外ニ排出セラレ、[illegible]トシテ[illegible]力ニ[illegible]メル外界ノ物質[illegible]、食物ヲ攝リ、同化シテ自己ノ成分トシ、次ギテ、又、コレヲ分解ス、此ノ如ク、生物ト、外界トノ間ニハ、力ノ交換ナド[illegible]ノ交換ノ、[illegible]間ナク行ハルルヲ云フ (大日本百科事彙)

しんちゃ (名) [新茶] [illegible]頃ニ、[illegible]新茗」[illegible]「(一)[illegible]」[illegible]

しんちゃう (名) [身長] 身ノ長。セタケ。[illegible]、[illegible]「[illegible]、身長七尺二寸」[illegible]身[illegible]長ヲ[illegible]ル」

しんちゃう (名) [深長] 意味ナドノ、深キコト。含蓄、多キコト。深味。[illegible]深長」

じんぢゃう (名) [人定] じんてい(人定)ニ同ジ。

しんちゅう (名) [illegible] 銅、十二、亜鉛、三[illegible]

ヲ合ハセタルモノノ名、色、黄ナリ、元來、鍮石トテ、天然ノモノアリテ、波斯國ニ出デ、黄金ノ如キモノナリトテ、コレヲ、眞鍮ト云ヒ、人造ナルハ、假鍮ト云フナリト云フ。然レドモ、今、一般ニ、人造ノモノニテ、常ニ、眞鍮ト呼ブナリ。[illegible]「[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]銅之精也、今、以爐甘石煉成者、假鍮也、崔昉曰、銅一斤、爐甘石一斤、[illegible]ノ[illegible]ナリ[illegible]和ノしんちうハ、銅七百錢、倭鉛二百錢[illegible]ナリ、カクノ如ク、[illegible]ヲ入レテ、倭鉛ヲ少クスル故、唐ノしんちうヨリ、色、淺シ」

しんちゅう (名) [新註] こちゅう(古註)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しんちゅう (名) [心中] ココロノウチ。胸ノ思ヒ。意中。[illegible]心中人」保元物語、一、新院御謀反事「新院ノ御心中、覺束ナシトゾ、人、申ケル」「心中ヲ明カス」

しんちゅう (名) [心性] しんのはし。(心性)ノ條ヲ見ヨ。

しんぢゅう (名) [心中] (五ニ心中立スル義) あひたいしに(相對死)ニ同ジ。情死 心中天網島(享保、近松作)上、紙治トヤラト、心中スル心ト見エタ」[illegible]心中ノホド」ツイヒヂノ、忍ビガヘシニ「忍ビコエ」好色萬金丹(元祿)七「奈良屋ノまんガ、生玉ノ心中、コレラヲ、[illegible]ニ、[illegible]ニ、[illegible]リ」[illegible]ニハ、[illegible]ノ心中、日ニ日ニ[illegible]コトナシ、[illegible]分ニハ、[illegible]シサノママ、[illegible]リ」

しんぢゅう (名) [慎重] しんちょう(慎重)

ヲ見ヨ。

じんちゅうほうこく (句) [盡忠報國] 忠義ヲ盡シテ、國家ニ報ユル。宋史、何[illegible]「[illegible]岳飛[illegible]云云、[illegible]背有二[illegible]盡忠報國四大字、深入膚理」

しんぢゅうだて (名) [心中立] (心中ヲ立てトホス意、忠義だて、男だて、同趣) 人ト契リテ、其信義ヲ守リトホスコト。アヒタイジニ。情死、元祿、[illegible]侈ノ頃、色道ノ、盛ンニナリ、金ニツカヘ、遊女ト情死スルコト、盛ンニナル、[illegible][illegible]レニ見セウトテ、[illegible]ウゾ、ミンナ立ヘノ、心中だて」

しんちょう (名) [深重] オモツキテ、オモオモシキコト。深滿。「[illegible]」

しんちょう (名) [慎重] ツツシミテ、輕輕シクセザルコト。輕率ナラザルコト、[illegible]五代[illegible]、安[illegible]、[illegible]以[illegible]」

しんちょく (名) [神勅] 神ノ、ミコトノリ。カミノ御告。神託 太平記、廿五、[illegible]伊[illegible]上[illegible]、百王[illegible]ノ宗廟ノ神、[illegible]二、神勅ヲ下サレテ」

しんちょく (名) [進捗] [進陟] (一)進メ、ノボスコト。(官位ナドヲ) 北史、高[illegible]「[illegible]」[illegible]、是其常[illegible]、何足以[illegible]之報」 (二)進行ノ(二)ニ同ジ。

しんつう (名) [心痛] (一)ココロノ、イタミ。深ク、苦ニ思フコト。痛心 王符、[illegible]「[illegible]」(二)胸ノ、イタムコト [illegible]痛、[illegible]

しんつう (名) [深痛] 甚シク、イタミ悲ムコト。[illegible]以[illegible]、其心、女[illegible]心痛」

シムコト。晁沖之詩「風俗移人可深痛」

じんづう (名) [神通] 次條ノ語ニ同ジ、[illegible]、[illegible]神通如意、於三千大千[illegible]自在也」[illegible]、一、[illegible]第四條[illegible]觀音ノ化身ト名告ルヲ、人、信ゼズバ、神通ナンドヲ現ジテ見セヨカシ」

じんづうりき (名) [神通力] (神ハ、神變不測、通ハ、無碍自在ノ意) 神ノ通力。神變不可思議ノ力。[illegible]、[illegible]、[illegible]如來今[illegible]自在神通之力、云云、諸佛威猛大[illegible]之力」

しんづしんづ (副) [靜靜] (靜靜ノ音便) イト、シヅカナル狀ニ云フ語。又、オチツキハラフ狀ニ云フ語。狂言記、[illegible]「[illegible]ガ二度ノ[illegible]ケト呼ハッテ、しんづしんづ、引イテ入リタル」

しんてい (名) [新帝] (先帝ニ對ス) 新タニ、位ニ即キタマヘル帝。平家物語、四、[illegible]「同廿二日、新帝ノ御即位アリ」

しんてい (名) [新定] アラタニ、定ムルコト [illegible]、[illegible]之初、[illegible]新定」西宮記、[illegible]、八「依[illegible]、[illegible]」

しんてい (名) [新訂] アラタニ、タダスコト。新ラシク、訂正スルコト。「新訂ノ教科書」

しんてい (名) [心底] ココロノソコ。心ニ、深ク思ヒコメテアル所。心裏。シンソコ。吾妻鏡、一、治承四年七月五日「吾有[illegible]心底[illegible]之[illegible]、[illegible]一千部之功、後、宜[illegible]、其中丹之由」太平記、十三、[illegible]「[illegible]、深ク、心底ニ[illegible]シニ、[illegible]フレズ」

しんてい (名) [心體] 心操ノ狀。ココロザマ。「賤ハシキ心體」「心體ニ任セズ」

しんてい (名) [進呈] まんきゃう(進上)

ニ同ジ。魏觀詩「方物紛紛效」進呈ニ品字箋(廣德升)「呈、貢也、献也、以文章或他物、封達御所、謂之進呈」

しん-でい (名) 【深泥】 泥ノ、深キコト。周禮、冬官篇、輪人「参分其輻之長、而殺其一、則雖有深泥、亦弗之溓也」注「溓、讀爲黏、謂泥黏不著輻」 太平記、三十九、光嚴法皇行脚事「昔ハ、錦金、輕羅ノ茵ナラデハ、假ニモ蹈セ給ハザリシ玉趾ヲ、深泥、濕土ノ蹈ニ汚レサセ給ヒ」

じん-てい (名) 【人定】 時ノ名、又、じんぢやうノ條ヲ見ヨ。にんぢやうノ條ヲ見ヨ。 後漢書、來歙傳「臣夜人定後、爲何人所賊傷、中臣要害」 海録碎事「至人定鐘鳴、始就寢」

しん-でい-ぶつ (名) 【身泥佛】 土偶。盛衰記、四十八、法皇大原入御事「一間ハ、佛所ニシツラヒテ、身泥佛ノ三尺ノ彌陀ノ三尊、東向ニ立ラレタリ」

しん-てう (名) 【新調】 (一)アラタニ、調フルコト。新規ニ、作ルコト。「新調ノ洋服」(二)アタラシキ調子。新曲。

しん-てう (名) 【清朝】 (一)支那ノ清國ノ朝廷。又、清ノ世。(二)楷書ノ一體。清朝活字ノ略、其條ヲ見ヨ。

しん-てう (名) 【晨潮】 アサシホ。(晩潮ナドニ對ス) 都賦記「晨潮下、晩潮上」

しん-でう (名) 【晨朝】 (一)明ケ六ツ時ノ稱。アサマダキ。早朝。(鐘ノ聲ナドニ云フ) 南齊書、周盤龍傳「晨朝早起」杜甫詩「晨朝降白露」 平家物語、十、維盛出家事「聖、云云、後夜、晨朝ノ鐘ノ聲ニハ、生死ノ眠ヲ覺スラン」 東海道名所記(萬治)六「ハヤ、晨朝ノ御念佛モ、初マレリ」(二)朝ニ、清淨ナル偈ヲ說クヲ聽クコト。アサジ。法華懺法「六時晨朝」神樂歌、明星、朝倉說、晨朝、淸淨偈」

しん-でう (名) 【信條】 信仰ノ個條 武士道「如何ナル信條ヲ以テスルモ、戰場ニ用ヰテ、之ヨリモ優レル民ハ、未ダ嘗テ、薫育セラレタル事ナシ」

しん-てう-くわつ-じ (名) 【清朝活字】 漢字ノ活字ノ一種、字體ハ、楷書ニテ、畫ノ縱、太クシテ、横ノ、細キモノ。略シテ、清朝。

しん-てき (名) 【神敵】 (佛敵ニ對ス) 神ニ、敵スルモノ。カミニ、寇ナスモノ。太平記、十七、日吉神託事「是ハ、佛敵、神敵ノ最タレバ、云云、山門ノ大衆、是ヲ申請テ、云云」

しん-てん (名) 【震天】 天ヲ、動カスコト。轉ジテ、勢ノ盛ンナルニ云フ語。晉書、孫楚傳「士卒奔邁、其會如林、烽鼓俱起、震天駭地」

しん-てん (名) 【振天】 聲ノ、中天ニマデ、振ヒ響クコト。孔子家語、致思篇「願得白羽若月、赤羽若日、鐘鼓之音振於天、旌旗繽紛、下蟠於地上」「振天府」

しん-てん (名) 【親展】 ぢきひ(直披)ニ同ジ。陸雲、與陸典書「無因親展、以言心」

しん-てん (名) 【神典】 神ノ事ヲ記シタル書 神道ノ書物。

しん-でん (名) 【神殿】 (一)神ヲ祀レル殿。保元物語、一、朝敵宿所燒拂事「宸筆ノ御願書 云云、座主、此御願書ヲ、大宮ノ神殿ニ籠テ」 著聞集、一、神祇、周防國、島ノ明神「烏、數萬、飛ビ來リテ、神田ノ稻ノ穗ヲ食ヒヌキテ、皆、神殿ノ上ニ置ケリ」(二)東京、皇居內、賢所ノ東ニ設ケラレテアル殿、天神、地祇ヲ祭ラセラル、明治五年、神祇官ノ廢止ノ後、八神殿ヲ、此ニ移サレタリ。

しん-でん (名) 【神田】 神社ニ屬スル田地。著聞集、一、神祇、周防、島ノ明神「烏、數萬、飛ビ來テ、神田ノ稻ノ穗ヲ食ヒヌキテ、皆、神殿ノ上ニ置ケリ」

しん-でん (名) 【新田】 新タニ開發シタル田地。韻會「田、云云 三歲曰新田」 地方凡例錄、二、一、新田切添之事「一、新田ト云ハ、云云、細カニ分テ云時、新田、新畑、新屋敷之差別有リ」

しん-でん (名) 【新殿】 アラタニ、建築シタル宮殿。枕草子、十二、百五十六段「工匠、云云、新殿ヲ建テテ、東ノ對ダチタル家ヲ造ルトテ」

しん-でん (名) 【寢殿】 貴族ノ住邸內ノ、正殿ノ稱。(しんでんづくりノ條ノ(一)ヲ見ヨ)又、主殿トモ云フ。正寢 七間四面(間ハ、一丈ナリ、間ノ條ヲ見ヨ)ヲ常法トス、其中央、五間四面ヲ、母屋トス。庋 四方ニ、格子アリ、其四周、一段低ク、一間(一丈)ドホリヲ、廂トス、廣廂、廣緣トモ云フ、(今、緣通ト云フ)四方ニ、格子アリ、廂ノ四隅ニ、妻戸アリ、スベテ、丸柱、總板敷ナリ、廂ノ四周ニ、更ニ、一段低ク、廣サ五尺ノ板敷アルヲ、簀子(又、妻庇)トス、他ノ建築ニテモ、名稱ハ、同ジ。尾根ハ、檜皮葺ニテ、四方、葺キオロシニテ、即チ、四阿造ナリ。史記、樂書「凡居室、皆曰寢」 三國志、魏志、文帝紀「無立寢殿」 唐書、吳兢傳「有上書益于政者、皆黏于寢殿之壁、坐望臥觀」 枕草子、五、四十七段 南ノ院、云云、西ノ對ニ、殿(道隆)ノオハシマス方ニ、宮(中宮定子)モオハシマセバ、(女房ドモハ)しんでんニ集リテ居テ、寂寂シケレバ」 源、四十二、紅梅三「七間ノしん殿、廣ク大キニ造リテ、南面ニ、大納言殿ノ大君、西ニ、中ノ君、東ニ、宮ノ御方ト、住マセ奉リ給ヘリ」 榮花物語、廿三、駒競「高陽院ドノ、云云、しんでんノ北、南、西、ヒムガシ、ナドニハ、皆、池アリ」

しん-でん (名) 【宸殿】 ししんでん(紫宸殿)ニ同ジ。

しん-でん (名) 【親電】 天皇ノ、親シク打タセ給フ電報 「御親電」

じん-てん (名) 【人天】 人間ト、天ト。晉書、陸雲傳「帝堯昭煥、而道協人天」 保元物語、一、鳥羽院崩御事「釋迦如來、云云、娑羅雙樹ノ下ニテ、假リニ滅度ヲ唱ヘ給ヒケレバ、人天共ニ、悲ミキ」

しん-てん-おう (名) 【信天翁】 鳥ノ名、アハウドリ。五雜組「有信天翁者、不能捕魚、立沙灘上、俟魚鷹所得、偶墜則拾食之」

しん-でん-づくり (名) 【寢殿造】 (一)平安朝ヨリ鎌倉、室町ノ世ノ、京都ノ貴族ノ住邸ノ構ヘノ稱。中央ニ、南面シテ、七間四面ノ寢殿(正殿)アリ、主人、常住ノ所トス、其東西、又ハ、北ニ、家アリ、對屋ト云フ、(東の對、又、一の對、西の對、又、二の對、北の對、又、三の對、ナド云フ)家族ノ居ル所ニテ、渡殿ニテ通ズ、寢殿ノ前、數十步ニ、池ヲ湛ヘ、中島アリ、築山アリ、橋ヲ架ク、又、東西ノ對屋ヨリ、各、南ヘ通ヒテ、東西ニ廊アリ、東廊ノ端ニ、泉殿アリ、西廊ノ端ニ、釣殿アリ、東西ノ廊ヲ、東の渡殿、西の細殿ナド云フ、所謂、回廊ナリ、其中ヲ、中庭ト云フ、又、東西廊ノ中程ヲ切通シテ、小サキ中門アリ、件ノ廊ノ內ニ、家司、所從ノ役所、役所、等アリ。(應仁以後、大イニ變ズ) (二)屋根ノ、四阿造ナルモノ。

しん-てん-どうち (句) 【震天動地】 天地ヲ、震ヒ動カス。轉ジテ、威力、又ハ、音響ノ、盛大ナルヲ云フ語。震天駭地。

しん-てん-ふ (名) 振天府 東京ノ宮城中ニ、日清戰役ノ戰利品、戰死者ノ軍服、寫眞、等ヲ陳列シアル所。コレニ同ジク、他ニ、北清事變ノ懷遠府、日露戰役ノ建安府、青島戰役ノ惇明府アリト。

しん-と (名) 【神都】 みやこノ敬稱。鮑照、

……修驗袈裟山訪「明暗…神都…」

しん-と（名）［新都］〔舊都ニ對ス〕新タニ定メタル都。新京。[illegible]

しん-と（名）［新渡］（一）アラタニ、渡ルコト。又、其物。（古渡ニ對ス）[illegible]（二）アタラシク出來タル [illegible]

しん-と [illegible]

しん-と（名）信徒 しんじゃ（信者）ニ同ジ。

しん-と（副）〔しんハ、深ノ音カ〕極メテ沈靜ナル狀、又、靜マリカヘル狀ニ云フ語。「世間ガしんとスル」

しん-ど（名）［震怒］甚シク、怒リタマフコト。帝王ニ云フ。[illegible]

しん-ど（名）［進度］……ノ程、度。[illegible]めんらうト云フ類）クタビレタルコトヲナルイコト。京都ニテ、辛度。[illegible] 東海道中膝栗毛（文化、一九）十編、上「ヤレヤレしんどヤノ、ヤウヤウノ事デ、追ヒツイタ」「オオ、しんど」

∴**しんど・い**（形）〔しんどハ、前條ヲ見ヨ〕かひたるし ニ同ジ。疲レテ、ダルシ。（上方ノ語）

しん-どう（名）心頭 心ノ上。[illegible]

しん-どう（名）［親等］親族ノ、親疎ノ等級。しんぞく（親族）ノ條ヲ見ヨ。等親。

しん-とう（名）［滲透］シミ、トホルコト。

しん-どう（名）神燈 神ニ供スル燈火。ミアカシ。御燈明。孔帖「[illegible]」崔渡、上元詩「神燈佛火百輪張」

しん-どう（名）神童 才智ノ、極メテスグレタル、不思議ナル童兒。麒麟兒。寧馨兒。[illegible]

しん-どう（名）［震動］フルヒ、ウゴクコト。動キ響キテ、鳴リワタルコト。[illegible]

しん-どう（名）［振動］（一）フルヒ、動クコト。[illegible]（二）物理學ノ語。振子ノ如ク、物體ガ、一定ノ路ヲ、前後ニ往復スル運動。

∴**しんど・う**（形）しんどい（形）ヲ見ヨ。夕霧阿波鳴渡（寶永、近松作）上「[illegible]ルモカナク、[illegible]アアしんどうヤト、[illegible]」

じん-とう（名）［人頭］（一）人ノカシラ、人ノアタマ。（二）人ノアタマカズ。人數、人頭。「[illegible]」

しん-とう（名）人痘〔人痘瘡ノ意、天然痘ニ對ス〕うゑばうさう（植疱瘡）ノ條ヲ見ヨ。

じん-どう（名）［神頭・鏑頭・蕪頭・矢頭］〔じんとう（鏑頭）ノ音便〕鏃ノ一種、蕪ニ似テ、尖ヲ平カニ切リタル如キモノ。イタツキ。平題箭。[illegible]

じんとう-ぜい（名）［人頭稅］〔英語、Capitation tax. ノ譯語〕直接ニ、一人毎ニ課スル租稅。

しん-とく（名）［神德］神ノ威德。神靈ノ（三）ニ同ジ。[illegible]

しん-どく（名）［眞讀］經ノ文句ヲ、省略スルコトナク、讀誦スルコト。（轉讀ニ對ス）[illegible]

しん-どく（名）［辛毒］クルシムコト。辛苦。[illegible]

じん-とく（名）［仁德］仁ノ、物事ニ施シ及ブコト。（仁ノ條ヲ見ヨ）宋史、樂志「[illegible]」太平記、三十七、畠山道誓逆心事「東八箇國ノ者共ノ、命ニ代ランドト、[illegible]」

しん-どり（名）［後取］〔しりどりノ音便〕（一）古ヘ、正月、宮中ニ於イテ、御齒固ノ時、屠蘇、白散ノ御オロシ（御餘リ）ヲ賜ハリテ、飲ム役。上戸ノ者ヨリ、ホラ[illegible]
江家次第、一、[illegible]（二）[illegible] 語、十一、若花「殿上人ハ、しんどりトカ云ヒテ、コチタク醉ヒノノシリテ、ウタテ、ラウガハシ」（二）しひめ（次姬）ノ一稱、其條ヲ見ヨ。

しん-とりそ（名）新鳥蘇〔古鳥蘇ニ對ス〕舞樂ノ曲ノ名。古鳥蘇ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しん-ないおん（名）［脣內音］ごいん（五音）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

しん-ない-ぶし（名）［新內節］俗謠ノ一種、豐後節ノ一派ナル宮古路豐後ノ門人、富士松薩摩、延享中、一派ヲ起スニ創マリ、其門人、鶴賀若狹、寶暦中、一派、大イニ行ハル、（天明六年、死ス）若狹ノ門人、鶴賀新內、（安永三年、死）新內節ヲ唱ヘ、ココニ、新內節ノ名ヲ專ラニス。

しん-なぞめ（名）［親和染］しんわぞめ（親和染）ニ同ジ。

しんなり-ぐんなり（副）確立セヌ狀ニ云フ語。シナシナ、グナグナ。シャナシャナ。

しん-に（名）しんい（瞋恚）ニ同ジ、連聲ノ轉ナリ。

しん-に（副）［眞］マコトニ。僞リナク。[illegible]

しん-にふ（名）［侵入］ヲカシ、イルコト。

押シテ、入リコムコト。書經、周書、泰誓、中篇、孔傳「侵入紂郊疆伐之」「敵國ニ侵入ス」

しんにふ（名）〔深入〕 敵地ニ、深ク、攻メ入ルコト。フカイリ。史記、黥布傳「深入敵國」

しんにん（名）〔信認〕〔信用、是認ノ略〕 信ジミトメテ、疑ハザルコト。「君ヲ信認シテ、此大事ヲ託ス」

しんにん（名）〔信任〕 信ジテ、事ヲ任スルコト。中庸章句、廿章、註「敬大臣、則信任專」史記、梁恬傳「始皇甚尊寵蒙氏、信任賢之」「君侯ノ信任厚シ」

しんにん（名）〔親任〕 （一）シタシミテ、任用セラルルコト。後漢書、朱穆傳「使典兵事、甚見親任」 （二）天皇ノ、親シク、任命シ給フコト。天皇、辭令書ニ親署シ、御璽ヲ鈐シ、內閣總理大臣（又ハ、主筋ノ大臣）、之レニ副署シテ、任命セラル。

しんにん（名）〔新任〕 アラタニ、官ニ任ゼラレタルコト。又、其人。「新任ノ官人」

じんにん（名）〔神人〕 神人。社家。神民。カンヌシ。盛衰記、四、白山神輿登山事「衆徒モ、神人モ、念珠ヲ揉ミ、手ヲ拍キテ、歸命頂禮」

しんにゅう（名）〔之繞〕 しんねうノ條ヲ見ヨ。

しんにょ（名）〔信女〕 しんし（信士）ノ條ヲ見ヨ。

しんにょ（名）〔神女〕 メガミ。天女。宋玉、神女賦、序「其夜王寢、夢與神女遇」 盛衰記、四、五節始事「神女、空ヨリ降下リ、淸見原ノ庭ニテ、廻雪ノ袖ヲ飜シケレドモ」「巫山ノ神女」

しんにょ（名）〔眞如〕 〔金剛經新註「不僞曰眞、不異曰如」〕 佛敎ノ語、永世不變ノ眞理。宇宙ノ諸象ノ眞相。大般若經「常如其性、不虛妄、不變易、故名眞如」 大乘起信論「眞如之體、離名字相、離心緣相、離言說相、故名離言眞如」 大藏法數「眞如者、乃眞實無妄之理」 夫木抄、三十六「鷲ノ山、眞如朽チセヌ、仙人ノ、祈リシコトハ、我ガ君ノタメ」「眞如ノ月」

しんにょのつき（名）〔眞如之月〕 佛敎ノ語、常住不變ナル、萬有一切ノ眞性ヲ、眞如ト云ヒ、煩惱解ケテ、現ハレ出ヅル心ノ本體ヲ譬ヘテ、眞如の月ト云フ。

シンニョロ（名）〔眞如路〕 〔葡語、Senhor.〕 （一）船主。（二）貴人。分限者。紳商。有德ノ商人。

しんねう（名）〔之繞〕 〔字ノ音、しねうノ音便、進繞ノ義、辵ヲ、建繞ト云フニ對ス〕 漢字ノ左下ニアル、辶ノ字ノ稱、字書ニテ、辵ノ部首ニ屬ス、迂、迎、遠、近、進、退、ナドノ如シ。史記抄（文明）四五三十「道字ノ之遶ガ、過ギタリ」（之、辶、形、似タルヨリ） 草訣百韻歌「之遶欠東邊」 しんねうをかけるトハ、ソレ以上ニスル意。輪ヲカケル。增大　屋上架屋

✣しんねし（名） 最モ靜カニ行フコト。イト、シメヤカニ、振舞フコト。假名文章娘節用（天保、曲山人）初編、下「シッポリト、しんねしデ」

しんねん（名）〔信念〕 信仰ノ念。信仰心。信心。「信念深シ」

しんねん（名）〔軫念〕 〔痛念ノ意〕 （一）心ニ、憂ヘ思フコト。軫懷　徐陵、檄周文「況復追惟在楚、無忘玉帛之言、軫念過宮、猶感盤鼓之惠」 （二）天子ノ御心。オホミココロ。宸念。

しんねん（名）〔宸念〕 前條ノ（二）ニ同ジ。劉禹錫之詩「德優宸念遠、禮備國姻崇」

しんねん（名）〔新年〕 アラタナル年。改マリタル年。後漢書、百官志「太史令、云云、凡歲將終、奏新年曆」

しんねんえんくゎい（名）〔新年宴會〕 （一）宮中ニテ、新年ノ賀トシテ、百官ニ賜ハル宴。（一月五日） （二）一般ニ、新年ノ賀ヲ祝フ宴會。「會社ノ新年宴會」

しんねり（副） 柔韌ナル狀、又、ネバリツク狀ニ云フ語。「しんねりムッツリ」しんねり

しんねりづよし・き・けれ・く・く（形、二） ネバリツキテ、ツヨシ。

しんねりむっつり（句） 決心鈍ク、發言セヌニ云フ語。

しんのう（名） しんわう（親王）ノ連聲ノ轉。

しんのざう（名）〔心臟〕 しん（心）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

じんのざう（名）〔腎臟〕 じん（腎）ノ條ヲ見ヨ。

〔しんのはしら（名）〔心柱〕 〔中央ヲ、身屋ト云ヘバ、身の柱ノ義カ、人家ノ大黑柱〕 イムハシラ。又、天之御柱。中心ノ御柱。棟木ノ端ノ方、東西ノ緣ヲ貫キテ、一本ノ柱、立ツ、コレヲ、棟持柱ト云フ、又、正殿ノ中央ニ、一本ノ柱、立ツ、床ニハ達シテアラヌガ、心の御柱ト申シテ、棟持柱ト共ニ、神宮ニ限リテ設ケラル、卽チ、伊勢神宮ノ神殿ノ床ノ板敷ノ下ニ安置ス、コレヲ、神宮第一ノ神祕トス、サテ、御柱ノ、土ニ入ル、二尺、地上、三尺、四周ニ、四木ヲ立テ、橫ニ、木ヲ交叉シテ葬ス、徑四寸、五綵ノ線ニテ絡ヒ、八重榊ニテ飾ル、內宮、外宮、共ニアリ。　㯃刹　倭名抄、十三、佛塔具「㯃、俗云、心乃波之良（心柱）佛塔中心柱也」（五重塔ナルハ、掛時計ノ振子ノ如シ） 還奉大神宮祝詞、端書「正殿心柱」 弘法大師年譜「弘仁十年六月一日、大塔心柱、造始、南峯云云、同、廿八日、心柱曳塔上」 敏達紀、十四年二月「所獲舍利、藏塔柱頭」 推古紀、元年正月「法興寺刹　柱」 大殿祭祝詞「齋鉏ヲ以テ、齋柱ヲ立テ」 儀式帳「正殿、心柱」注「其柱、名曰忌柱」

しんのみはしら（名）〔心御柱〕 前條ヲ見ヨ。

しんぱ（名）〔枕波〕 顏ナドニ印スル、枕ノ痕。謠曲、皇帝「枕波ノ斜紅ノ、世ニ類ヒナキ姿カナ」

しんぱ（名）〔新派〕 〔舊派ニ對ス〕 新規ナル流派。（歌學、演劇ナドニ） 「新派ノ和歌」新派ノ俳優」

じんば（名）〔人馬〕 ひと、うま。史記、田儋傳「人馬從者」 太平記、八、千種忠顯京合戰事「二陣、打負レバ、三陣、入替テ、人馬ニ息ヲ繼セ、云云、攻戰フ」「人馬共ニ疲ル」

しんぱい（名）〔信牌〕 〔明律集釋、府州縣、自レ上行レ下、以レ牌爲レ信、故曰信牌〕 （一）官吏ノ、地方ノ官衙ヲ巡廻スル時、攜フル證牌。シルシノフダ。日知錄、顧炎武「周禮掌節」注「節、猶信也、行者所執之信、如今人言印信、信牌之信」 （二）外國船ノ、我ガ港ニ入津スルヲ許可シタル證牌。長崎志、十「清貴在館之船主共、唐國之取沙汰ヲ聞、此後、信牌ヲ領スル事、如何可有哉ト、疑念、區區ナリシ處、郭亨統ト云船主一人、當役所ニ直訴ヲ出シ、諸船主、信牌ヲ領シ來キニ於テハ、我等一人ニ、何十枚ニテモ與ヘ給ハルベシ、我等手前ヨリ、何艘ニテモ、船ヲ仕立可令渡海云云一、於唐國此事　笑ヲ

[illegible]、一[illegible]ニ[illegible]、[illegible]
[illegible]ニ[illegible]ハ[illegible]、[illegible]リ」

しんぱい（名）[illegible]　[illegible]ヲ拜ムコト。[illegible]シ[illegible]ルニ[illegible]ノホトリヲ行クトテ」更級日記「東國ヨリ、人、來タル、神拜ト云フワザシテ、國ノ内、歩キシニ」

しんぱい（名）心配　（心[コロクバリ]配ノ字ノ音讀）心ヲ、クバルコト。[illegible]。コロクバリ。コロヅカヒ。[illegible]。[illegible]、「心配ニ及バズ」心配ノ絶間ガ無イ」

シン・ボウ
しんぱう（名）辛卯　カノトノウ。（えとノ條ヲ見ヨ）

シン・ハウ
しんぱう（名）辛抱　〔心法ヲ守ル意カト云フ〕守リテ、堪フルコト。コラヘ、シノブコト。耐忍。「[illegible]イ」辛抱ガ肝腎」

シン・ボウ
しんぱう（名）神寶　神ト崇[アガ]ムル寶、神ノ上ニ藏メテアル寶物。[illegible]「神寶ヤ、何ヤト、前ノ御時ニ、勝ラセ給ヘリ」

シン・ボウ
しんぱう（名）新方　（一）アタラシキ方法。新規ナルシカタ。（二）アタラシキ處方。新規ナル調劑。[illegible]

シン・ボウ
しんぱう（名）新[illegible]　アタラシキ[illegible]ノセ、新[illegible]「一人[illegible]新[illegible]」[illegible]

シン・ボウ
しんぱう（名）申報　ツゲシラセ。報告。[illegible]

シン・ボウ
しんぱう（名）[illegible]　（一）[illegible]ミテ、[illegible]スルコト。（二）返シ奉ルコト。[illegible]ヘ、[illegible]シマシテ、[illegible]アレカシ

ト思ヒケレバ、進報シケルニコソ」

ジン・ボウ
じんぱう（名）人望　人人ノ望[ノゾミ]。人ニ、仰ギ見[ア]ゲラルルコト。世ノ人ノ、信向シテ、侍ミトスルコト。人氣[シンキ]（功德、學藝アル人ナドニ向ヒテ）後漢書、鄧武王傳「[illegible]」[illegible]、「人望アリ」

しんはかせ（名）針博士　王朝時代ノ典藥寮ノ職員。針術ヲ教授ス。職員令「典藥寮[illegible]針博士一人」[illegible]

しんばし（副）暫　〔今、いんま。皆、みんなト、同趣〕　しばしノ音便。[illegible]（寶永、近松作）下「矢壺ヲ外サジモノト、しんばし固メ、ヒャウト切テ放ツ矢」

しんばた（名）新畑　新タニ開墾シタル畑。[illegible]

しんはちまん（副）神八幡　〔神ハ、神以テノ、神ノ義〕八幡神も照覽あれトノ意ニテ、神懸けて[illegible]ニ同ジ。弓矢八幡。[illegible]「[illegible]マジ、心底殘サズ、打アケヤ」浮世花鳥風月（正德）[illegible]テ、ナ心安クナドト[illegible]セラレ」

しんばつ（名）神罰　〔佛罰ニ對ス〕神[カミ]ノ[illegible]ニテ、中ツル罰。天罰。[illegible]記、四十六、[illegible]「[illegible]ナガラ、[illegible]ヲバ巧ミケルゾ、冥覽、頂ニ在リ、神罰、踵ヲ廻ラサズ」

しんぱつ（名）進發　出デ立ツコト。出發。（多ク、出陣ニ云フ）[illegible]、王國寶傳「不[illegible]」太平記、十六、[illegible]上洛事「[illegible]」[illegible]、白旗城、攻落サレナバ、白旗ノ城、一[illegible]日モ[illegible]マジ」

しんぱつ（名）鬒髮　〔左傳、昭公廿八年「鬒、黑而甚美」〕濃ッシテ、黑キ髮。濃クシテ、艷ノ良キ髮。黑クシテ、美シキ髮。綠ノ黑髮。詩經、[illegible]、君子偕老「鬒髮如雲、不屑髢也」（毛傳「鬒、黑髮也」）

シン・ボウ
しんばふ（名）心法　心ヲ修ムル法。修養ノ方法。（しんぼふ（心法）ノ條、見合ハスベシ）中庸章句「孔門傳授心法」白居易詩「[illegible]我學二心法、萬緣成二空二」

シン・ボウ
しんばふ（名）新法　〔舊法ニ對ス〕（一）アタラシキ法規。新規ナル法律。韓非子「利在故法前令則道之、利在新法後令則道之」淮南子、要略訓「晉國之故禮未滅、韓國之新法重出」唐書、盧弘止傳「上新法」宋史、王安石傳「[illegible]新法」（二）アラタナル方法。

しんぱん（名）新版　〔舊版ニ對ス〕新[アラ]タニ、版木ニ刻リタルコト。新刻。新雕。浮世[illegible]（文化、三[illegible]）三編、下、跋「光右衞門新板物」

しんぱん（名）審判　（一）裁判ノ（二）ニ同ジ。サバキ。「審判ノ請求」少年審判所」（二）〔英語、Umpire.ノ譯語〕競技ノ勝負ヲ、斷定スルコト、又、ソノ役目。

しんぱん（名）親藩　（一）親族ノ藩屏。同族ノ藩。同族ノ諸侯（二）江戸時代、德川家ヨリ分レタル藩。（越前、館林ノ二家ナド）

しんぱり（名）次次條ノ語ノ略。

じんばり（名）腎張　淫欲ノ、強キコト。又、其人。腎ノ條ヲ併セ見ヨ。

しんばりぼう（名）尻張棒　〔後指棒[シリサシボウ]ノ轉カト云フ〕戸ヲ支[サ]フル棒。センバリボウ。略シテ、しんばり。せんばり。松[illegible]記、九十三「俗ニ、しんばり棒ト云フハ、尻刺[シリサシボウ]棒也、甲[illegible]、十三[illegible]ニ[illegible]アハ、[illegible]ズ、ソコニ、しんさす棒ノアルヲ[illegible]テ、[illegible]ケテ、[illegible]コロバシ、繩ヲカケテ、南部殿ヘ渡ス、云云」

シンバル（名）〔英語、Cymbal.〕洋樂器ノ一種、二箇ノ金屬盤ニ、革紐ヲ附ケタルモノ、相、打チテ、音ヲ出ス。

しんぴ（名）辛未　カノトノヒツジ。（えとの條ヲ見ヨ）[illegible]本、[illegible]、代格、十七、太政官符「[illegible]以辛未年籍[illegible]年[illegible]事」

しんぴ（名）審美　美ト、醜トヲ、認識スルコト。「審美眼」

しんぴ（名）深微　奧深クシテ、微妙ナルコト。南史、齊高帝紀「[illegible]、玄道深微、惟人是弘」

しんぴ（名）深祕　深ク、ヒメオクコト。奧深キ祕密。宋史、[illegible]傳「[illegible]深祕、包[illegible]禍心」太平記、十三、[illegible]今ノ法華ノ中ノ、經律法門有ト云、深祕ノ文、是ナリ」同、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「中ニモ、[illegible]ハ、當道ノ深祕ニテ、容易ク難[illegible]不[illegible]之、適[illegible]宰ノ法席ナリ、非[illegible]可[illegible]歇止」

しんぴ（名）眞皮　動物ノ皮膚ニシテ、表皮ノ下ニアル内層ノ稱。

じんぴ（名）秦皮　トネリコ。

じんぴ（名）神祕　（一）神事[カンワザ]トシテ、祕[ヒ]メ置クコト。孔安國、古文孝經、序「王公貴人、咸神祕焉、比於禁方」（孝經ヲ、神トシ、祕スル義）劉歆叔、異苑「其間神祕」（二）不思議ニテ、測リ知ルベカラザル祕密。[illegible]詩「昔聞[illegible]洞啓、神祕」[illegible]中有仙人窟」下文[illegible]記、十九、文覺[illegible]朝對面事「此ナ師ハ、神[illegible]アル者也」

しんびがく（名）審美學　〔英語、Æsthetics.ノ譯語〕美ノ性質、及、規則、等ヲ研究スル學問。美學。

しんぴつ（名）|宸筆| 帝王ノ御手蹟。天子ノ、書カセタマヒシコト。勅筆。書紀通證「獻宗出、見宸翰、及宸筆所、被召書」保元物語、一、「朝餉宮所寫御事、宸筆ノ御書モラ、七條區主宮ヘマヰラセマシマシケレバ」著聞集、一、神祇、内侍所「寛弘ノ燒亡、云云、其時ノ公卿勅使、行成卿ナリ、宸筆ノ宣命ハ、コノ御時、始レリ」

しんぴつ（名）|眞筆| 其人ノ、眞ニ書キタル、筆ノ跡。正筆。眞蹟。（僞筆ニ對ス）劉迎、題二十眉圖一詩「周防升吉見二眞筆一」

しんぴん（名）|神品| ケダカク、スグレタル品。畫繼錄、徽宗畫、「氣韻生動、出二于天成一、人莫レ窺二其巧一者、謂二之神品一」

じんぴん（名）|人品| ヒトガラ。人ノ性質。風采。沈約、奏二彈王源一文「源雖二人品庸陋一、胄實參華」「人品、骨柄、賤シカラズ」

しんぶ（名）|神武| 不思議ナル威武。神明ノ如キ武德。易經、繫辭、上傳「古之聰明叡知、神武而不レ殺者夫」班彪、王命論「蓋在二高祖一、其興也有レ五、云云、三曰、神武有レ徵應二」

しんぷ（名）|神封| 神社ノ封戸。新抄格勅符抄、太政官符「神祇官、云云、停二止春日神封廿烟一」類聚三代格、一、太政官符「應レ令レ停二止分二神封戸一、寄中神宮寺上事」續紀、十八、天平勝寶二年二月「奉レ充二一品八幡大神封八百戸、位田八十町、二品比賣神封六百戸、位田六十町一」

しんぷ（名）|神符| 神社ヨリ出ス、守札ノ類。靈符。北夢瑣言（孫光憲）「人背二神符一道二下風集、上、神祇門「頑民將來」注「堅二神符於衣一」袖、則疫癘、死人、蘇生來故云也」東鑑、延寶記、一、上、春「正月五日（每月）、赤羽右馬寮貢守大天宮寺、云云、近キ頃ヨリ流行ラセ給ヒテ、朝ヨリタマデ、信男女、隆盛シテ、絶ス、詣人、神符ヲ請ヒテ、守トス、此御神ハ、專ラ、水難ヲ守ラセ給フガ故、部下ニ、靈驗ヲ得ルモノ、多シ」

しんぷ（名）|神府| 神社ノ寶物ヲ納メ置ク府。タカラグラ。垂仁紀、八十八年七月「天皇詔二清彦一曰、其神寶之豈得レ離レ類乎、乃出而獻焉、皆置二於神府一、然後開二寶府一而視レ之、小刀自失」天武紀、下、三年八月「遣二忍壁皇子於石上神宮一、以二膏油一瑩二神寶一、即日勅曰、元來諸家貯二於神府一寶物、令レ皆還二其子孫一」

しんぷ（名）|心腑| （一）胸ト、臟腑ト。（二）ココロ。衷心。柳宗元、與二許京兆孟容一書「常緊二心腑一」

しんぷ（名）|神父| （一）神ト、父トニ比スルホドノ敬稱。後漢書、宋登傳「爲二汝陰令一、政爲二明能一、號稱二神父一」（二）天主敎ノ敎士。

しんぷ（名）|親父| チチ。テテオヤ。莊子、寓言篇「親父不レ爲二其子一媒上」史記、韓長孺傳「雖レ有二親父一、安知二其不一レ爲レ虎、雖レ有二親兄一、安知二其不一レ爲レ狼」

しんぷ（名）|親附| シタシク、ツクコト。親シミ、ツクコト。晉書、嚴助傳「近者親附、遠者懷レ德」

しんぷ（名）|新附| アラタニ、附屬スルコト。後漢書、王梁傳「爲二山陽太守一、鎭二撫新附一」

しんぷ（名）|新婦| ハナヨメ。新郎ノ出典ヲ見ヨ。戰國策、衞策「衞人迎二新婦一」

しんぷう（名）|神風| 神ノ吹カセタマフ風。カミカゼ。陸雲詩「神風潛駭」

じんぷう（名）|仁風| （一）仁德ノ化。唐太宗、述聖賦「流二惠澤于蠶妻一、鼓二仁風于隣外一」（二）あふぎ（扇）ノ異稱。晉書、文苑傳、袁弘「出爲二東陽郡一、乃祖二道於冶亭一、時賢皆集、云云、臨レ別執二其手一、顧就二左右一、取二一扇一而授レ之、曰、聊以贈レ行、弘應聲答曰、輒當下奉二揚仁風一、慰中彼黎庶上」

しんぷく（名）|臣服| 臣下トナリテ、服從スルコト。臣事スルコト。書經、康王之誥「惟、茲四方、先公之臣、服二于先王一」漢書、地理志「接二會稽一、臣服請レ平」

しんぷく（名）|神服| 神ヲ祭ル時ニ着ル衣服。祭服。平家物語、五、五節沙汰事「大嘗會、云云、大内ノ北ノ野ニ、齋場所ヲ作ッテ、神服、神具ヲ調フ」

しんぷく（名）|心服| 心ヨリシテ、從フコト。孟子、公孫丑、上篇「以レ力服レ人者、非二心服一也、力不レ贍也」太平記、十四、將氏義貞兩執奏狀事、義貞奏狀「兵革之後、靈夷未二心服一、本枝猶不レ堅レ根之間」

しんぷく（名）|心腹| （一）むねト、はらト。腹心。書經、盤庚、下篇「今予其敷二心腹腎腸一、歷告二爾百姓于朕志一」左傳、哀公十一年「越在レ我、心腹之疾也」（二）マゴコロ。胸中。赤心。漢書、趙廣漢傳「吏見者、皆輸二寫心腹一、無レ所二隱匿一」唐書「杜審言、李嶠、崔融、蘇味道、友善、世號二心腹四友一」（倶文爾附）

しんぷく（名）|鍼腹| 治療ノタメ、腹ニ、針ヲ刺スコト。轉ジテ、自由ヲ得ザラシメヌコトニ喩フル語。唐書、吳武陵傳「徐壓二其首一、梁薄二其翼一、鋸斷二其臣一、滑鍼二其腹一」

しんぷく（名）|診腹| 腹部ヲ、診察スルコト。腹診。五雲子、腹心法「診腹之法、唐山久無二其說一、五雲子之於二此術一、豈宿有二獨得一」

しんぷく（名）|申覆| 〔正字通「官府吏文、申二請于上一者、曰レ申、曰レ覆」〕官衙ニテ、下官ヨリ、上官ニ申請スルコト。唐書、百官志「皆宜二署申覆一、然後行焉」

しんぷく（名）|震幅| 地震ノ、計器ニ感ジタル、波動ノ幅。

しんぶしやう（名）|信部省| 天平寶字二年、中務省ノ改稱。幾バクモ無クシテ、舊ニ復セラル。續紀、廿一、天平寶字二年八月「中衞大將藤原惠美朝臣押勝等、奉レ勅改二易官號一、云云、中務省、宣二傳勅語一、必可レ有レ信、故、改爲二信部省一」同、廿五、天平寶字八年九月「勅、逆人仲麻呂執レ政、奏改二官名一、宜レ復レ舊焉」

しんぶつ（名）|神佛| かみト、ほとけト。佛神。池北偶談（王子禎）「舍二神佛一非二誕謗一」「神佛ノ加護」神佛混淆

しんぶつ（名）|眞物| 〔僞物、贋物ナドニ對ス〕マコトノ物。僞ナラヌモノ。ホンモノ。梅堯臣、還二吳長文詩卷一詩「眞物固易レ辨」

じんぶつ（名）|人物| （一）ヒト。人ノ姿。（畫ナドニ）李白詩「人物鏡中來」「人物、花鳥」「人物畫」（二）其人ノ、生レツキ。ヒトガラ。人品。三國志、吳志、顧邵傳「少照二人物一、德允二衆望一」「好人物」「希世ノ人物」（三）才能アル人。人材。晉書、胡毋輔之傳「與二拔人物一」

しんぶん（名）|新聞| 〔英語、News. ノ譯語〕（一）新タニ、世上ニ出來ル事件ヲ傳ヘテ、人人ノ、聞キ込ムコト。日毎ニ、世間ニ起レル事ノ話。耳新シキ風說。新報。安得長者言「吳俗坐定、輒問二新聞一、此游閑小人入レ門之漸」（二）新聞紙ノ略。

しんぶん（名）|深文| 深刻ナル法文。意義深キ文句。漢書、張湯傳「湯與二趙禹一共定二諸律令一、務在二深文一」著聞集、二、釋教「昔予陪二議峯說法之筵一、親聞二此深文一」

しんぶん（名）|讖文| 未來記。豫言ヲ書キタル文。しんもん。太平記、六、正成披二見天王寺未來記一事「文質三統ノ禮變、少シモ違ハサリケルハ、不思議ナリシ讖文ナリ」

しんぷん（名）|脣吻| 〔釋名「脣、緣也、口之緣也、吻、免也、出則免也」〕クチサキ。クチバシ。淮南子、主術訓「聖主之治也、其猶二造父之御一、云云、急二緩之于脣吻之和一」盛衰記、十三、「周宮建二官寺一、逞二思於一身之心腑一、騁二毀於萬人之脣吻一」

じんぶん（名）|人文| （一）人類ノ文明

進化」ヘ、[illegible]ノ文明。(三)人倫ノ秩序。[illegible]

しんぶんし (名) [新聞紙] 日日ノ新聞ヲ[illegible]、發出スルモノ。文久二年、當時ノ開成所ヨリ、ばたびや新聞ヲ[illegible]官版ニ[illegible]、外國新聞ノ譯義[illegible]、岸田吟香ノ[illegible]、日日ニアラズ、後ノ新[illegible]如キモノナリ。明治[illegible]、日日ノ新聞[illegible]、活字[illegible]

しんぶんじしん (名) [illegible]

しんぶんさん (名) [不文字] [illegible]

しんへ [illegible] しんへ、[illegible]

しんぺい (名) [新兵] [illegible]

しんぺい (名) [illegible] 近衞、[illegible]ノ兵。近衞兵。[illegible]

しんぺい (名) [新兵] アラタニ、入營シタル兵士。新募ノ兵士。[illegible]

しんべう (名) [神廟] (一)神ノ、ミタマヤ。[illegible] (二)伊勢ノ大神宮。

しんべう (名) [神妙] [妙ハ、漢音、べう、呉音、めう] しんめうニ同ジ。[illegible]

しんべこ (名) [新部子] 幼クテ、藝ノ、未熟ナル俳優。略シテ、しんべ。[illegible]

しんべつ (名) [神別] 神代ノ諸神ヨリ分レタル氏族。(皇別、蕃別ニ對ス) [illegible]

しんぺん (名) [新編] 書籍ヲ、新タニ編ミ作ルコト。又、ソノ書籍。[illegible]

しんぺん (名) [鍼砭] 金屬ノ針ト、砭ト。[illegible]

しんぺん (名) [神變] 神ノ通力ナドノ、測リ知ルベカラズ、變ハルコト。[illegible]「神變不思議」

しんぺんふしぎ (名) [神變不思議] 前條ヲ見ヨ。

しんべゑ (名) [甚兵衞] 綿ナドニテ作レル、長羽織メキタルモノ。(大阪)

じんべゑばおり (名) [甚兵衞羽織] 綿入ノ、袖ナシ羽織。[illegible]

しんぼ (名) [親母] ハハオヤ。ハハ。[illegible]

しんぼ (名) [新募] アラタニ、募ルコト。「新募ノ士卒」

しんぽ (名) [親補] 天子ノ、親シク任命シ給フコト。「親補官」

しんぽ (名) [進步] [進步ノ步] 步ミヲ、進ムルコト。万事ノ、次第ニ、善キニ移ルコト。[illegible]

しんぼう (名) [神謀] 不思議ニ、スグレタル、ハカリゴト。靈妙ナル計略。神籌。奇策。妙策。[illegible]

しんぼう (名) [深謀] 深ク思ヒ構ヘタル、ハカリゴト。[illegible]

しんぼう (名) [心棒] しんぎ(心木)ニ同ジ。[illegible]

しんぼう (名) [心經] [illegible]

しんぼく (名) [神木] 社地ノ樹木ノ、中ニ、殊ニ、其神ニ緣故アルモノトシテ祀ル樹ノ稱。神靈ノ宿レリトスル木。ミキ。神樹。[illegible]

しんぼく (名) [臣僕] [illegible] ケライ。シモベ。臣隷。[illegible]

しんぼく (名) [親睦] シタシミ、ムツムコト。仲ヨクスルコト。[illegible]

しんぼく (名) [人牧] [牧ハ、牛馬ヲ飼養スルヨリ、轉ズ] (一)地方ノ長官。諸侯。大名。二千石。[illegible] (二)地方ノ豪族。[illegible]

しんぼち (名) [新發意] (一)又、しんぽち。佛教ノ語、新學ノ意、新タニ、俗ヨリ、佛門ニ入リシ人ノ稱。(入道ノ條、見合ハスベシ)又、俗ニ、法體ノ人。[illegible] (二)禪家ノ僧位。大和僧ノ條ヲ見ヨ。

しんぼふ (名) [心法] 佛教ノ語。(一)心ニ具有スル諸法。(二)心ノ中ノ祕密ノ法(心法ノ條、見合ハスベシ) [illegible]

「非レ法亦非レ心、無レ心亦無レ法、說二是心法一時、是法非二心法一」

シムボル (名) 〔英語、Symbol.〕 象徴。表徴。符號。記號。

じんま (名) 【蕁麻】 〔蕁ハ、徒含切、正音、たん、じんハ慣用音〕 イラクサ。

じんま (漢語) 【恁麼】 如何(イカニ)ト、疑問スル語。インモ。 辛弃疾詞「此身已覺二渾無一レ事、且教二兒童莫一レ恁麼一」

しんまい (名) 【新米】 (一)今年、成リタル米。新穀。(去年ノ陳米(ヒネマイ)ニ對ス) 北史、劉懷傳「人有レ餉二新米一斛一者上」 (二)新參(シンザン)。新任。(新前ノ轉カ)

しんまく (名) 【愼莫】 物事ノ、猥リナラヌヤウ、取治ムルコト。己ガ身ノ處置ヲナスコト。身ジンマク。守身 續沙石集「人ハ、常常、愼莫ノ二字ヲ忘ルベカラズ、愼莫ニ夜行、愼莫ニ不忠、愼莫ニ不孝ニ等也」 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「暫ク取組テヰタガ、身ガ重クテ、しんまくニラヘナンダヲ、漸漸、足ヲ引倒シテ、ドサト轉ンダ所ヲ」「自分デ、しんまくヲスル」

しんまち (名) 【新町】 新タニ、町トナリタル所。(傾城町、花街(クルワ)ナド)。 澪標「郭和原、諸所ノ遊女ヲ一所ニ集メ、一廓ノ内ニ軒ヲ並ベサセ、其比、木村亦次郎ト云ヘル浪人者ニ、右廓ノ庄屋年寄ヲ被レ仰付一、永ク、傾城町ト成ル、云云、新ニ町トナリシヨリ、世人、新町ト呼ブ」 浪花襍誌、街廼噂、二「高人云云、女郎ハ、大坂ノコトデムリヤス、新町ナドヘ行ノテ御覽ジャシ、媚嫡タル者ガ、餘ホド居リヤス、千代、新町ト云フノガ、江戸デ云フ吉原デムリヤスカ、高人、サヤウサ、新町ヲ、廓ト云ノテ、御免ノ場所デアリヤス」

しんまへ (名) 【新前】 新參(シンザン)ニ同ジ。

しんみ (名) 【親身】 (一)父子、兄弟ナドノ、甚ダ親シキ屬(ヤカラ)。肉親。「親身モ及バヌ介抱」 (二)心實。深切。「親身ノツキアヒ」

しんみ (名) 【新味】 (一)其年初メテ、味フモノ。ハツモノ。 後漢書、和熹鄧皇后紀「凡供二薦新味一、多非二其節一」 王建詩「新味瓜初剖」 (二)アタラシミ。「一段ノ新味ヲ加フ」

しんみ-さう (名) 【浸淫瘡】 〔しんみハ、浸淫(シムイム)ノ約〕 ミヅクサ。瘡ノ名、初、甚ダ小サク、先ヅ、痒クシテ、後ニ、痛ミテ瘡トナリ、液、出デテ、肌ヲ浸シ、延蔓シテ、體ニ遍クナルモノ。 倭名抄、三十三瘡類「浸淫瘡 俗云、心美佐宇」 醫心方、十七二「浸淫瘡(シムイムミヅクサ)、心美佐宇」 同、廿一七「浸淫」(水瘡ノ義) 名義抄「浸淫瘡、シムミサウ」

しんみせ (名) 【新店】 新タニ開キタル店。新開鋪。しにせ(老舗)ノ反(ウラ)。

しんみち (名) 【新路新道】 (一)新タニ開キタル路。新道。 (二)東京ニテ、町家(マチヤ)ノ間ニアル、狹ク細ソキ路。小路(コウヂ)。(元ハ、新開ナルヲ云ヘリシ語ナラム) 浮世床(文化、三馬)初編、下「新道トハ、鯨人(ゲイニン)ガ内ヨ」

しんみつ (名) 【親密】 シタシク、近シキコト。交誼ノ、厚キコト。 三國志、吳志、吳五子傳「夫中庶子、官最親密」「親密ノ間柄(アヒダガラ)」

しんみつ (名) 【深密】 考慮ノ、深ク、コマカキコト。綿密。 三國志、魏志、荀攸傳「攸、深密有二智防一、自從二太祖征伐一、常謀二謨帷幄一」

しんみつ (名) 【愼密】 ツツシミブカクシテ、注意ノコマカキコト。謹愼、綿密。 易經、繫辭、上傳「君不レ密則失レ臣、臣不レ密則失レ身、幾事不レ密則害成、是以、君子愼密而不レ出也」

しんみん (名) 【臣民】 統治權ニヨリテ、支配セラルル人民。被治者。臣庶。人民。 教育勅語「爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ」

じんみん (名) 【人民】 タミ。クニタミ。アヲヒトグサ。オホンタカラ。タミクサ。人民(ニンミン)。 周禮、地官篇、大司徒「知二其利害一、以阜二人民一」 詩經、大雅、蕩之什、抑篇「質二爾人民一、謹二爾侯度一、用戒二不虞一」

じんみん (名) 【神民】 じんにん(神人(グ))ニ同ジ。 盛衰記、四、白山神輿登山事「散散ニ禦ニ、疵ヲ蒙ル神民、六人、死スル者、二人」

しんみゃう (名) 【神冥】 神ノ冥助。カミノ御護。 盛衰記、三十、木曾山門牒狀事「百皇治レ天之御運、未レ盡二其時一、本朝守護之神冥、尙在二本宮一」

しんみゃう (名) 【神名】 しんめい(神名)ニ同ジ。

しんみゃう (名) 【身命】 しんめい(身命)ニ同ジ。 著聞集、二、釋教、平等院僧正行尊「我不レ愛二身命一、但惜二無上道一」

しんみゃう-ちゃう (名) 【神名帳】 醍醐天皇ノ御時ノ太政官ノ留帳、五畿、七道、三千一百三十二座ノ神社ノ名ヲ記ス、此ノ帳ニ記載セラレタルヲ、式社ト云ヒ、無キヲ、式外ト云フ。(又、諸國ニモ、神名帳ト云フモノアリ) 延喜式「神名帳」 今昔物語、十九、第三十二語「陸奥守トシテ、平維叙ト云者有ケリ、貞盛朝臣ノ子也、任國ニ、始テ下テ、神拜ト云フ事ストテ、國ノ内ヲ、所所ノ社ニ參リ、云云、其部ニ仰セテ、忽ニ、社ヲ大ニ造ラセテ、御幣ヲ參リ、神名帳ニ入奉リナドシケリ」「和泉國神名帳」若狹國神名帳」隱州神名帳」紀伊國神名帳」

しんみゃく (名) 【診脈】 脈ヲ診ルコト。脈搏ヲ、診察スルコト。切脈。 史記、扁鵲傳「視レ病、盡見二五藏癥結一、特以レ診レ脈爲レ名耳」 牛山稿、三、意足軒說「聽レ聲而知、視レ色而知、診レ脈而後知焉、是、所二以醫之有一上中下三品一也」

じんみらい-ざい (句) 【盡未來際】 未來ノ際(キハ)ヲ盡シテ。後ノ後マデ。 金光明最勝王經、如來壽量品「盡未來際、無レ有二窮盡一」 盛衰記、四十四、老松若松尋二劍一事「盡未來際マデ、此劍、日本ニ返ス事ハ、アルベカラズ」

しん-みり-と (副) 〔みっしりとノ倒語〕 シミジミト。「しんみりと話ス」しんみりと聞カセル」

しん-め (名) 【新芽】 今年、生(オ)ヒタル芽(メ)。嫩芽。「獨活ノ新め」

じん-め (名) 【神馬】 (一)神社ニ供(ソナ)ヘテ、其神靈ノ乘ル料トスル馬。 宇津保物語、梅花笠、上九「大將政賴モ、今日、此ノ御社ニ、神馬奉ラセントテナン侍リツル」 後拾遺集、廿、神祇、藤原長能ノ歌ノ左註「世中、騷ガシウ侍リケレバ、船岡ノ北ニ、今宮ト云フ神ヲ齋ヒテ、オホヤケモ、神馬奉リタマフトナン言ヒ傳ヘタル」 (二)不思議ナル馬。 孝經援神契「澤出二神馬一」

しん-めい (名) 【神明】 (一)神(カミ)。 左傳、襄公十四年「敬レ之如二神明一、畏レ之如二雷霆一」 盛衰記、十七、源中納言侍夢事「平家ハ、云云、神明ノ擁護ニモ背ケルニヤ」 著聞集、五、和歌、序「神明、佛陀モ、捨テ給ハズ、明王、賢臣モ、必、賞シ給フ」「天地、神明ニ誓フ」 (二)精神。 素問(傳、黃帝)「以轉二神明一」 (三)天照大神宮ヲ祀ル、一稱。 神祇令「神衣祭」義解「伊勢神宮祭、云云、織二成神衣一、云云、以供二神明一」「神明樣」

しん-めい (名) 【神名】 神社ノ名稱。カミノ御名。

しん-めい (名) 【身命】 からだ、又、いのち。身體ト、生命ト。身命(シンミャウ)。 漢書、鄭崇傳「以二身命一當二國咎一」「身命ヲ擲ツ」身命ヲ惜シマス」

じん-めい (名) 【人命】 人(ヒト)ノ命(イノチ)。 古詩、蒿里曲「人命不レ得二少踟躕一」 後漢書、鍾離意傳「愼二人命一、緩二刑罰一」 北史、魏宗室傳、河南王曜傳子平原、云云、齊人饑饉、平原以二私米三千餘斛一爲レ粥、以全二人命一」「人命ニカカハル」人命救助」

しんめい (名) [人名] 人ノ名。(地名ナド[illegible])

しんめい-づくり (名) [神明造] 神社制作ノ様式ノ一、伊勢ノ内外宮ノ制ニ擬シタルモノ、屋根ハ、茅ヲ以テ葺キ、コレヲ覆フニ、千木、鰹木ヲ以テス、床上ノ四面ニ、[illegible]ヲ作リ、床下ハ、掘立柱ニテ、四本アリ、正面ニ、段階アルモノ。[illegible] 二、高欄アリ、四方ニ、高欄アリ、屋根ニ、比木、堅魚木アリ、[illegible]

しんめい-どりゐ (名) [神明鳥居] 鳥居構造様式ノ一、伊勢神宮ニ立テタル、二柱ノ鳥居ノ様式ニシテ、円ク、如キ形ノモノ [illegible]

しんめう (名) [神妙] (一)奇シク、妙ナルコト。靈妙不可思議ナルコト。[illegible] (二)[illegible]ナル所法ヲ[illegible]スル語。殊勝。奇特。[illegible]

しんめう (名) [深妙] 深クシテ、微妙ナル道理。玄妙 [illegible]

しんめう (名) [針妙] (少女ヲ合スレバ、妙トナル、黄絹幼婦ノ例、字ノ隠語ニ起ル、梵妻ノ、針仕事ヲスレバ、針ノ字ヲ加フルナリト云)(一)針仕事ヲ専ラトスル使女。又、宮中高等女官ニ召使ハレ、裁縫、[illegible]ノ御用ヲ辨ズルモノ。[illegible] 醒睡笑(元和、安楽庵策傳)三、[illegible] (二)密賣女ノ稱。(名古屋ニテ)

しんめう-けん (名) [眞妙劍] 太刀打(劍道)ヲ稽古スル人ノ、至極ノ域ニ達シタル稱 [illegible] 其作ニ、[illegible]トテ、明春、橋ニ入、ツカフ、師匠云、道得ザルモ三十[illegible]

しんめ-さう (名) [神馬藻] (なのりそヲ、勿告りそ、ト解キテ、神馬ノ字ヲ當ツ) なのりそ。ほだはら。

しんめん (名) [仁俛] アハレミテ、ユルスコト。

しんめん (名) [人面] 人ノ顔面。史記、[illegible]

しんめん-じう-しん (名) [人面獸心] (人ノ面ニテ、心ハ獸ニ同ジノ義)(一)又、ニンメンジウシン。人情ナキモノヲ、罵リテ云フ語。[illegible] (二)妖怪ノ稱。史記、五帝紀、注「[illegible]人面獸心、四足、好惡ㇾ人」

しんめん-もく (名) [眞面目] (一)眞實ノ面目。實際ノ所ノ、ヨク表ハレタルコト。アリテイ。眞相 [illegible]「不ㇾ識廬山眞面目」 (二)戯レナラヌコト。マジメナルコト。眞摯

しん-もく (名) [瞋目] 目ヲ、イカラスコト。史記、項羽紀「項王瞋ㇾ目叱ㇾ之」[illegible]

しん-もつ (名) [進物] マヰラスル物、ツカヒモノ。贈物。贈品。贈貽 唐書、百官志[illegible]

しん-もつ (名) [神物] 神社ノ物品 神社ノ什器 [illegible]

しん-もつ (名) [神物] 靈妙ナルモノ。[illegible]「ソレ人ハ、天下ノ神物ナリ」

しん-もって (副) [神以而] 神明ニ誓ヒテ、以テ。神冥ノ誓ヲ以テ。神、カケテ。又、神トモ云フ。[illegible]

しんもつ-ばん (名) [進物番] 江戸幕府ノ役名。若年寄ニ隷屬シ、大名、旗本ヨリノ進物ヲ取扱フモノ。

しん-もん (名) [神文] きしやう(起請)ノ(二)ニ同ジ。

しん-もん (名) [讖文] しんぶん(讖文)ニ同ジ。

しん-もん (名) [審問] ツマビラカニ、トフコト。委シク、調ブルコト。中庸、廿章「[illegible]」

しん-もん (名) [訊問] トヒ、タダスコト。吟味。[illegible]

じん-もん (名) [尋問] タヅネ、トフコト。[illegible]

しん-や (名) [新家] (一)新築ノ家。新宅。(二)本家ヨリ分レタル家。別家。分家。

しん-や (名) [深夜] 夜ノ、深ケタル時。ヨフケ。深更 [illegible]

しん-やう (名) [新陽] しんしゅん(新春)ニ同ジ。[illegible]

しん-やく (名) [新役] (古役ニ對ス) 新タニ任ゼラレタル役。[illegible]

しん-やく (名) [新譯] くやく(舊譯)ノ條ヲ見ヨ。

しん-やく (名) [神藥] 奇異ナル効能アル藥。靈藥。仙藥 史記、始皇紀[illegible]

しんやく（名）［針藥・鍼藥］　はりト、くすりト。鍼術ト、醫藥ト。　文中子、王道「北山黃公善レ醫、先レ寢食而後ニ針藥ニ」

しんやしき（名）［新屋敷］　新タニ開墾シタル屋敷地。　地方凡例錄、二、一新田切添之事「一新田ト云ハ、云云、細カニ分テ云時ハ、新田、新畑、新屋敷之差別、有リ」

しんよ（名）［宸輿］　天子ノ乘輿。天子ノ御乘物。　王維詩「誤ニ宸輿一相國、胡賀奉ニ宸輿一」

じんよ（名）［神輿］　神靈ヲ奉安スル輿。ミコシ。　揭富小體（宋、玄裝）「思陵神輿就レ祖道ニ」宋史、禮志「遷ニ神輿一儀、史季二神輿一行」　落窪集、四、文學、江匡房「醍醐院ノ南ニ、頓宮アリ、神輿ヲ、ソノ內ニ安メテ、神事ヲ、ソノ前ニ行フ」　盛衰記、四、白山神輿登山事「本末、カヲ一ニシテ、神輿ヲ迎奉リ」

しんよう（名）［信用］（一）信ナリトシテ、用キルコト。僞リナシト、思ヒコムコト。信向。　左傳、宣公十二年「其君能下レ人、必能信二用其民一矣」　盛衰記、廿八、頭朝義仲中惡事「何ノ遺恨アリテカ、謀反ノ企アルベキ、人ノ讒言ニ依テカ、信用ニ及ヘカラズ」（二）慥カナリト、信ズルコト、賴ムコト。信賴。「信用シテ、大事ヲ托ス」（三）評判、ヨキコト。

しんよう（名）［進用］〔進ハ、史記、呂不韋傳、注「進、財也」〕入用ノ財貨。　史記、呂不韋傳「子楚質ニ於諸侯一、車乘進用不レ饒、居處困不レ得レ意」

じんよく（名）［人欲］　人ノ欲心。　禮記、樂記篇「人化レ物也者、滅ニ天理一而窮ニ人欲一者也」

しんら（名）［森羅］　アツマリ、ナラブコト。木ノ、茂リナラブコト。　張九齡詩「願人々森羅、各々白森」

しんら（名）［新羅］　朝鮮古代ノ一國名。シラギ。しんいき（新羅）ノ條ヲ見ヨ。　南史、新羅傳「新羅、在ニ百濟東南五十餘里地一」

しんらい（名）［信賴］　信用ノ（二）ニ同ジ。

しんらい（名）［神來］（一）神靈ヲ吹キ込マレタルガ如ク、感得スルコト。［靈感］（二）詩文ナドノ、常人ノ思ヒ及バザル感興ヲアラハスコト。インスピレエション（Inspiration）。

しんらい（名）［神籟］（一）音樂、詩歌ナドヲ彈ジ謠フ、靈妙ナル聲。（二）樹木ノ、晴天ニ、琅琅タル響ヲ發スルコト。又、其聲。　西王母傳（漢、桓驎）「植以ニ白環之樹、丹剛之林一空青萬條、瑤幹千尋、無レ風而神籟自韻琅琅然、皆九奏八會之音也」

じんらい（名）［人籟］〔天籟、地籟ニ對ス〕人ノ吹キ鳴ラス聲。笛ノ音。　莊子、齊物論篇「汝聞ニ人籟一而未レ聞ニ地籟一、汝聞ニ地籟一而未レ聞ニ天籟一」同卷「人籟則比竹是已」（比竹ハ、笛ナリ）

じんらい（名）［迅雷］〔迅ハ、疾ナリ〕疾ク烈シキ雷鳴。　論語、鄕黨篇「迅雷風烈、必變」禮記、玉藻篇「君子之居、云云、若有ニ疾風迅雷甚雨一、則必變」

しんらう（名）［新郞］　ハナムコ。　少室山房筆叢「今俗、以ニ新婚時一男稱ニ新郞一女稱ニ新婦一」

しんらう（名）［心勞］　心ノ苦勞。ココロヅカヒ。氣骨ノ折ルルコト。心配。心痛。［苦慮］　書經、周官篇「作レ德、心逸日休、作レ僞、心勞日拙」　宇津保物語、藏開院中「サイツ頃、ホトホトシキ病者ヲナンモテ侍リテ、カシコクしんらうシ侍ルナリ」十訓抄、下、第十「一條院、云云、夜ノオトトニ入セ給テ、御心勞有ケルヲ」

しんらう（名）［辛勞］　ホネヲリ。苦勞。辛苦。　甲陽軍鑑、十四、品第四十、下「辛勞シテ仕ル高名ハ、首級一ツニテモ、チト、クタビレ候」

しんらつ（名）［辛辣］（一）甚シク、カラキコト。ひりりと、カラキコト。　酉陽雜俎（唐、段成式）「胡椒、云云、形似ニ漢椒一、至辛辣」（二）甚シク、酷シキコト。ムゴキコト。惡辣。「辛辣ナル手段」

しんらばんしゃう（句）［森羅萬象］　次條ノ語ニ同ジ。

しんらまんざう（句）［森羅萬象］　天地ノ間ニ、萬物ノ、種種ノ有樣ニテ、數限リモナク、存在スル狀ヲ云フ語。　法句經「森羅及萬象、一法之所レ印」　證道歌「心鏡明鑒無レ礙、云云、萬象森羅影現レ中」

しんらん（名）［親覽］　シタシク、ミソナハスコト。ミヅカラ見ルコト。　傳咸、應詔詩「言所ニ親覽一、勞レ心日昃」

しんらん（名）［進覽］　御覽ニ、入レマキラスルコト。　唐書、韋處厚傳「撰ニ次一書一進覽」　太平記、十七、依ニ北口貞満奏請一而停ニ行幸一事「條條、御不審ヲ散ゼン爲ニ、一紙別ニ、進覽候フナリ」

しんり（名）［心裏・心裡］　ココロノウチ。心中。心底。　吳融詩「眼前閑事靜、心裏故人來」　朗詠集、下、山寺「三千世界眼前盡、十二因緣心裏空」

しんり（名）［眞理］　マコトノ、コトワリ。動カシ難キ道理。適當ノスヂ。　古干詩「闡ニ說眞理ニ」

しんり（名）［審理］　ツマビラカニ調査シテ、處理スルコト。訴訟ノ調。　金史、章宗紀「以レ旱、云云、責レ躬、云云、減レ膳、審ニ理冤獄ニ」

じんり（名）［人里］　ヒトザト。人ノ住ム村里。　法苑珠林（釋道世）「逐ニ其母一下趣ニ人里ニ」

しんりう（名）［新柳］　新タニ芽ザシタル柳。新綠ノ柳。　歐陽修、御壽新柳詩「垂楊御溝新ニ綠、望ニ宮池柳色一」詩「上宮新柳綠」　朗詠集、上、春「氣霽風梳ニ新柳髮ニ」

しんりがく（名）［心理學］　哲學ノ一部。人ノ心ノ作用ト、發象トヲ知ル學。知、情、意、等ノ理ヲ究ムル學。

しんりき（名）［神力］〔神通力ノ略〕（一）神ノ通力。　阿毘曇論「神力自在」　盛衰記、四十二、玉蟲立レ扇與一射レ扇事「日本國中、大小神祇、云云、弓矢ノ冥加有ベクハ、扇ヲ座居ニ定テ給ヘ、云云、扇ハ座ニソ靜レル、云云、神力既ニ指副タリ、手ノ下ナリ」（二）不思議ナル威力。怪力。　榮花物語、廿二、鳥舞「惡趣ニ落チバ、佛ノ神力ヲモテ、又、名號ヲ聞カシメテ、反リテ、人趣ニ生レテ」

しんりき（名）［信力］　信仰ノ力。信心ノ功力。　江總、攝山棲霞寺碑「甚心開發、信力明悟」　著聞集、二、釋教「是非ニ愚身ガ德ニ、歌於御信力所ニ爲也」　盛衰記、四十六、時忠流罪忠快免事「只、流罪ヲ遁ルノミニアラズ、信力ノ恩德ニ依テ、大德附テゾ上リ給」

じんりき（名）［人力］（一）人ノ、チカラ。ジンリョク。（神力、佛力ナドニ對シテ云フ）（二）次條ノ語ノ略。

じんりきしゃ（名）［人力車・俥］「俥ハ、人車ノ合字」人ヲ載セテ、人ノ力ニテ牽ク、小サキ車。腕車。　步挽車　江戶ノ八百屋、鈴木德次郎ノ創意ニテ、福岡藩士、和泉要助、車職、高山幸助、ノ三人、協力シテ、明治二年製造シ、使用、許可セラレシモノ。略シテ、人力。人車。

しんりつ（名）［新律］〔舊律ニ對ス〕新タニ定メラレタル法律。新規。新法。　北史、周高祖紀「初レ頒ニ新律ニ」　三代實錄、二、貞觀十三年十月五日「古律同條（名例律、六議條）云、議親、云云、新律上可レ議親、云云、蔭云二」

しんりつ（名）［震慄・振慄］　フルヒ、ワナナクコト。戰慄。　史記、張蒼傳「斬ニ莊賈一以徇ニ」

[illegible]「[illegible]」

しん[illegible] [illegible]

[illegible]立」 太平記、十三、龍馬進奏事「[illegible]以後ノ、新立ノ[illegible]ヲ[illegible]シテ」

しんりふ（名）【森立】 アツマリ、立ツコト。ナラビ、立ツコト。又、嚴メシク、立ツコト。シンリツ。

しんりん（名）【森林】 モリ。ハヤシ。[illegible]

しんりん（名）【深林】 奥ノフカキ林。[illegible]ハヤシ。 [illegible]「林[illegible]人而不善」

しんりん（名）【親臨】 親シク、其場ニ臨ミタマフコト。「[illegible]」 三國志、[illegible]「[illegible]」

しんりん（名）【人倫】（一）ごりん(五倫)ノ[illegible]。[illegible] （二）人ノ倫。人類。ヒト。 [illegible]「[illegible]人倫[illegible]而不[illegible]」[illegible]「[illegible]」[illegible]フコト雖ヘネドモ、アハレヲ知テ、睦ル、況ンヤ、心アル人倫ヲヤ」 新編追加「一、人倫賣買停止事」

しんりゃう（名）【津梁】 津ハ、渡し、梁ハ、橋ナリ」（一）わたしト、はしト。 後漢[illegible] （二）つて、たより、みちびきナドノ意ニ譬ヘテ云フ語。ハシワタシ。テビキ。 [illegible]

しんりゃう（名）【新涼】 新ノシキ涼氣。秋ノ初ノスズシサ。新秋ノ涼味。 [illegible]「[illegible]新涼」

じんりょう（名）【神領】 神社ニ屬キタル領地。 [illegible]

しんりゃく（名）【神略】 不思議ナル、ハカリゴト。スグレタル計略。神謀。 [illegible]

しんりゃく（名）【侵略】 侵シ、掠メ取ルコト。 [illegible]

しんりゃく（名）【侵掠】 ヲカシ、カスムルコト。他人ノ領分ヲ侵シテ、物ヲカスメ取ルコト。 左傳、[illegible]

しんりょ（名）【心慮】 オモヒ。オモンパカリ。[illegible]

しんりょ（名）【宸慮】 天子ノ御心。叡慮。 宋史、林[illegible]傳「[illegible]」

しんりょ（名）【神慮】 神ノ御心。 三國志、魏志、[illegible]

しんりょ（名）【深慮】 フカキ、オモンパカリ。フカク、考フルコト。深謀、遠慮。 後漢書、[illegible]「[illegible]深慮遠圖」

しんりょ（名）【振旅】〔左傳、隱公五年、杜註「[illegible]衆而還也、振、整也、旅、衆也」〕 軍ヲ收メテ、凱陣スルコト。 書經、[illegible] 「[illegible]振旅」 左傳、隱公五年「三年而治兵、入而振旅」杜註「出曰治兵、云云、入曰振旅」 舒明紀、九年三月「[illegible]、亦振旅」

しんりょう（名）【侵凌】 ヲカシ、シノグコト。 [illegible]

しんりょく（名）【新綠】 初夏ノ、草木ノ、青葉。ワカミドリ。 白居易詩「風吹新綠草芽[illegible]」「[illegible]ノ新綠」

しんりょく（名）【心力】 心ノチカラ。思ヒノタケ。 [illegible]

じんりょく（名）【人力】 人ノチカラ。人ノ智慧。人力。 中庸、三十一章「舟車所至、人力所通」孟子、[illegible] 史記、[illegible]「人力ノ及バヌ所」

じんりょく（名）【盡力】 チカラヲ、ツクスコト。骨折ルコト。 [illegible] 史記、[illegible] 「[illegible]盡中心力」[illegible]「老盡力、識晩病侵心」

しんるゐ（名）【親類】（一）一家ヨリ分レタル、本家、末家、等ヲ云フ。（二）父方ノ親族ノ稱。親戚。婚姻(母方)ニテ結ビタル方ヲ、緣家、緣者ト云フ。サレド、今ハ、雙方ニ通ジテ、親類トモ云フ。 [illegible] 北史、[illegible] 著聞集、八、孝行恩愛「父母、親類ニハ、孝行ノ心ヲ旨トシテ」 平治物語、一、信頼謀反事「去保元ニ、[illegible]、多ク朝敵ト成テ、[illegible]」 遠くの親類、近くの他人トハ、遠方ニ居ル親類ヨリモ、近隣ニ居ル他人ノ、マサレルコトノ意。 明心寶鑑「遠水不救近火、遠親不如近隣」

じんるゐ（名）【人類】（一）世界各部ニ住スル人人ヲ、生物ノ一トシ、別チ云フ語。其起原、進化、發達、等ヨリ、分布セル人種ノ差違、狀態、等ニワタル。ソレヲ研究スル科學ヲ、人類學ト云フ。 [illegible]「人類ノ幸福」 （二）人種。

じんるゐがく（名）【人類學】 前條ノ（一）ヲ見ヨ。

しんれい（名）【心靈】 タマシヒ。靈魂。 [illegible]

しんれい（名）【神靈】〔大戴禮「陽之精氣曰神、陰之精氣曰靈」〕（一）神ノタマシヒ。 戰國策、趙策「非社稷之神靈、即部鐵不守」（二）靈妙ナル、造化ノ神。 列子、湯問篇「神靈所生、其物異形」 （三）神ノ德ノ、靈妙不可思議ナルコト。神德。 史記、五帝紀「生而神靈」

しんれい（名）【新例】 新ラシキタメシ。新タナル例誥。「新例ヲ開ク」

しんれい（名）【浸禮】 基督教ノ洗禮ノ一、全身ヲ水ニヒタシテ行フモノ。

しんれい（名）【振鈴】 あかしんれい(閼伽振鈴)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible]

しんれい（名）【臣隷】 ケライ。臣僕。臣下。 [illegible]

しんりょう（名）【臣僚】 臣下ノ役人。 [illegible]

書、憲宗紀「宰執臣僚、同レ心輔助」

しんれう（名）［診療］ 診察ト、療治ト。「診療」「醫ニ診療」

しんれき（名）［新暦］（舊暦ニ對ス）（一）新タニ制定シタル暦。唐書、暦志「開元九年、詔僧一行作新暦、推大衍數立術以應之」宋史、律暦志「應天暦以用新暦」（二）太陽暦 さよみノ條ヲ見ヨ。

しんろ（名）［進路］ 行ク手ノ路。史記、屈原傳「進路北次兮、日昧昧其將暮」「飛行機ノ進路」「進路ヲ妨グ」

しんろ（名）［針路］［鍼路］〔羅針盤ノ示ス方向ノ義〕（一）船ノ、進ムベキ路。船ノ、指シテ行ク路。（二）轉ジテ、ムキ。方向。「勉學ノ針路」「人生ノ針路」

しんろ（名）［疲倦］〔しんどノ通音〕 しんど。しんどう。草臥レタルコト。生玉心中（正徳、近松作）下「サゾ、小野モしんろかろ、己モ、クヮヲ拔カシタ、爰デ、暫ク休マフ」

しんろう（名）［蜃樓］ しんきろう（蜃氣樓）ノ條ヲ見ヨ。蘇味道詩「還疑映蜃樓」

じんろく（名）［甚六］ カシコカラヌコト。（甚シキ愚ニ、宿六ト云フアリ）多ク、長男ノ愚鈍ナルニ云フ。「總領の甚六」トハ、順祿ノ轉ニテ、長子ハ、愚ナカリトモ、排行ノ順序ニテ、父ノ世祿ヲ襲グコトヲ得ル意ナリト云フ。

しんろん（名）［新論］ アラタナル論説。目新ラシキ議論。後漢書、桓譚傳「著書、云云、號曰新論」 蘇軾、次韻子瞻詩「近成新論無人語」「劉向新論」

しんわ（名）［神話］ 神ノ事ヲ中心トシテ云フ傳説。原始時代ヨリ傳ハリタル説話。「神話時代」

しんわ（名）［親和］（一）シタシク、ヤハラグコト。仲ヨクスルコト。親睦。親和。（二）化學ニテ、異種ノ物質ガ、ヨク化合スルコト。

しんわう（名）［親王］〔連聲ニ、しんのう〕（一）ミコ。皇兄弟皇子ノ稱、皇姉妹皇女ヲ、内親王ト申ス。上代ハ、皇族ハ、スベテ、諸王ト申ス、後ニ、天皇ノ御子女ヲスベテ、親王、内親王ト申シ、其外ヲ、諸王ト申ス、又、後ニハ、特ニ、親王ノ宣旨アリシヲ、親王ト申シ、宣旨ナキヲ、諸王ノ列トス、親王ハ、五世ヲ限リトシ、六世以下ハ、王ノ名ヲ得トモ、皇族ノ限リニアラズ、諸臣ノ列ニ入ル。親王ヲみこ、内親王ヲひめみこ、又、うちのみこト申シ、王ヲおほきみ、諸王ヲおほきんだちト申ス。唐六典「皇兄弟皇子皆封國、謂之親王」推古紀、十三年四月「詔皇太子、大臣、及諸王、諸臣」天武紀、下、四年二月「親王、諸王、及諸臣」持統紀、五年正月「親王、諸臣、内親王」繼嗣令「凡、皇兄弟皇子、皆爲親王（注、女帝子、亦同）以外、並爲諸王、自親王五世、雖得王名、不在皇親之限」（二）今ハ、天皇ノ皇子、皇女ハ、宣旨ナクシテ、親王、内親王ナリ。

しんわうはぢんらく（名）［秦王破陣樂］ 雅樂ノ曲ノ名。一名、七徳ノ舞。倭名抄、四、曲調類「乞食調曲、秦王破陣樂」

しんわぞめ（名）［親和染］〔連聲ニ、しんふぞめ〕 江戸ノ書家、三井孫之允親和（與力ノ役）ノ筆跡（楷、行、草、篆、ナド、交フ）ヲ、染模樣ニセシモノ、安永、明和ノ頃、流行スト、又、假名ノモノハ、妓女ナドノ下着ニモ、大イニ行ハレタリ。

しんゐ（名）［神位］（一）カミノ御クラヰ。周禮、春官篇、小宗伯「掌建國之神位、右社稷、左宗廟」（二）列者ノ靈魂ヲ居ウル所。（祭ル時ノ標ナドニ）

しんゐ（名）［神威］ 神ノ威光。劉禹錫詩「靈鑑有神威」 保元物語、一、將軍塚鳴動事「官軍、神威ニ恐テ、引退間」 著聞集、一、神祇「神威、イツトテモ、ナジカハ、カハリ給フベキナレドモ」

しんゐ（名）［讖緯］ 後ニ來ルベキ兆ヲ定ムル書。未來ノ因緣、吉凶ヲ云フコト。

じんゐ（名）［人爲］ 人ノシワザ。人工。（天然ニ對ス）高啓詩「天自出、巧非人爲」

しんゐき（名）［畛域］（一）畔ノ境。（二）ヘダテ。サカヒ。境界。陳造詩「未可岐畛域」

しんゐき（名）［震域］ 地震ヲ感ズル區域。

しんゐん（名）［新院］〔連聲ニ、しんにんトアルベキナリ〕 ゐん（院）ノ條ヲ見ヨ。保元物語、一、後白河院御即位事「先帝ヲバ、新院トゾ申ケル」

しんゐん（名）［神韻］（一）極メテスグレタル韻致。意識ノ、高妙ナルコト。宋書、王敬弘傳「敬弘神韻沖簡、識宇標峻」「神韻縹緲」（二）詩文ナドノ、優リタルオモムキ。神韻。

じんゐん（名）［人員］ ヒトカズ。人數。「人員ヲ點檢ス」

しんゑい（名）［親衞］ 天子ノ護衞兵。近衞。北史、裴仁基傳「少驍武、云云、以親衞從征」

しんゑん（名）［神苑］ 神社ノ境内ニアル庭園。「明治神宮ノ神苑」

しんゑん（名）［深淵］ フカキフチ。深潭。詩經、小雅、小旻之什、小旻篇「戰戰兢兢、如臨深淵、如履薄冰」 盛衰記、三十五、範賴義經京入事「宇治河（宇治川）ノ有樣、深淵、滄浪トシテ、白浪、逆ニ浮ベルガ如シ」

しんゑん（名）［深遠］ 深ク遠クシテ、測リ知ラレヌコト。戰國策、趙策「父母之愛子、則爲之計深遠」漢書、稷苴傳、贊「申三司馬兵法之閎廓深遠」

しんゑん（名）［心猿］ いばしんゑん（意馬心猿）ノ條ヲ見ヨ。沈佺期、峽山寺賦「心猿久去、怖鴿時來」

しんゑんいば（名）［心猿意馬］ いばしんゑん（意馬心猿）ニ同ジ。趙州錄遺表「心猿罷跳、意馬休馳」 鄒氏文集、三、開元寺碑銘「可以繫意馬、可以降心猿」

しめ（名）［標］〔しりくめなはノ約ナル、しめなはノ略〕（一）山道ナドニ、先ヅ行ク人ノ、柴ナド折リテ、牓示トスルモノ、又ハ、牓示トシテ、立ツルモノ。元ト、繩ヲ結ビ付ケテ、標トセシ故ニ（即チ、しめなは）、結ふト云フ。萬葉集、十七「後レ居テ、戀ヒツツアラズハ、追ヒ及カム、道ノ隈回ニ、標結ヘ吾ガ兄」同、十八「大伴ノ、遠ツ神祖ノ、奥ツ城ハ、著ク標立テ、人ノ知ルベク」後撰集、四、夏「二葉ヨリ、我カしめ結ヒシ、撫子ノ、花ノ盛リヲ、人ニ折ラスナ」金葉集、一、春「鴨ノキル、野澤ノ小田ヲ、打返シ、種蒔キテケリ、しめ延ヘテ見ユ」（二）占ムルコト。物事ニ、限リヲ立テテ、入ルヲ禁ズルコト。領有ノ標ニ、附ケオクモノ。萬葉集、二、廿「如是ラムト、豫ネテ知リセバ、大御船、泊テシ泊リニ、標結ハマシヲ」源、十、榊「斯ク、しめノ外ニハ、モテナシ給ハテ」同、十七、繪合五十「身コソ斯ク、しめノ外ナレ、ソノカミノ、心ノ中ヲ、忘レシモセズ」倭名抄、四、雜藝類「五月五日

[illegible]偽立」標」(人ヲ入ラセジトテナリ)

しめ（名）［注連］ しめなはノ條ヲ見ヨ。[illegible]守ノ神ノ、しめ延フルマデ」宇治拾遺、十、第六條「コノ御祭ノ御清メスルナリトテ、四目引メグラシテ、イカニモ、イカニモ、人ナ寄セ給ソ」

しめ（名）［緘〆］〔〆ハ、トノ字ノ崩レタルニテ、ト、居ナドヲ假リ用ヰシモノ〕（一）數ヲ、一ツニ合ハスルコト。合計（二）手紙ヲ封ジテ、糊シタル上ニ標スル字。（狀ノ〆ハ、封ノ字ノ末畫ナリ）緘封（三）紙、十束、[illegible]、百帖ノ稱。（木綿一〆ハ、十段、[illegible]」

しめ（名）［鵐］〔鳴ク聲ヲ名トス〕小鳥ノ名、しめ、まめまはしニ似テ、稍、大キク、頭、臆、黄白ニシテ、黄ナル斑アリ、嘴、太ク短ク、白クシテ、力アリ、背、尾ハ、紫ニシテ、翼ノ上ト、黒クシテ、白羽ヲ挾ム、[illegible]

しめ（名）［[illegible]］ 土ノ、粘リナキモノ、沙利ノ如シ、濕地ヲ築立テ、礎ヲ固ムルナドニ用ヰル。

しめ（名）［騸馬］ しば(騸馬)ニ同ジ。

しめあけ（名）［開明］ 閉ヘテ、明クルコト。[illegible]作)ニ「襖ヲソットしめあけニ」

しめい（名）［氏名］ ウヂト、ナト。姓ト、名ト。姓名。「氏名猶稱」氏名呼」」

しめい（名）［指名］ ナザシ。史記、項羽紀「有」所」爲而事成、旣得」封侯、事敗易」以亡、非」世所」指名」也」

しめい（名）［指命］ 指定シテ、命ズルコト。サシヅ。

しめい（名）［使命］（一）使者トシテ、承ケタルコトヲ傳フルコト。又、大事ヲ果サム爲ニ遣ハサレタル使。左傳、昭公十六年「會朝之不」敬、使命之不」聽、取二陵於大國一」「使命ヲ全ウス」（二）轉ジテ、己レノ持前トスル任務。天職。「天ノ使命」

しめい（名）［司命］（一）星ノ名。周禮、春官、宗伯「以[illegible]司中司命[illegible]」注「司命、文昌宮星」（二）威權ヲ、掌握スルコト。孫子、作戰篇「知」兵之將、民之司命」（三）イノチ。生命。[illegible]「大將、民之司命」

しめい（名）［死命］ 死ト、生命ト。イノチ。死命ヲ制スト ハ、活殺ノ急所ヲオサフル意。史記[illegible]「今陛下[illegible]命乎」

しめい（名）［耳鳴］ ミミナリ。（逆上ナドノ爲ニ）[illegible]

しめい（名）［自明］ 自己ノ直觀ニテ明亮ニ知ラルルコト。「自明ノ理」

しめいしょう（名）［自鳴鐘］ 時打ノ時計。[illegible]

しめいてんこ（名）氏名點呼 人衆ニ對シテ、其人ノ姓名ヲ、順次ニ呼ビトゲテ、點檢スルコト。

しめう（名）［至妙］ イタッテ、不思議ナルコト。至極、微妙ナルコト。晉書、[illegible]「[illegible]變化之至妙」

しめうり（名）［締賣］ 商人ノ、物ヲ買ヒシメ置キテ、多クノ利アルトキニ、賣出スコト。享保令典、永積、三十五、寛文六年九月「[illegible]屋ドモ、云云、[illegible]之內、何ニヨラズ、一處へ買取リ、しめうり致候」[illegible]

しめおく ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［占置］ 領シ置ク。所有シオク。

しめがこひ（名）［締圍］ 小サキ垣。丈低キ垣。ヒメガキ。夫木抄、五、苗代「苗代ノ、しめがこひスル、小山田ニ、又ヒクモノハ、畦ノ細道」

しめかざり（名）注連飾 しめなはノ條ヲ見ヨ。

しめかす（名）［搾滓］ 鰯ノ脂、胡麻ノ油、ナドヲ搾メテ採リタル、後ノ滓、肥料トス。

しめかたいろ（名） 片身替ノ服ノ一種。長ノ腰ヲ明ケタルモノ。嬉遊笑覽、二、上「[illegible]ナド云フモノハ、ソノカタナリ、太平記、中殿御會ノ條、[illegible]、地白紫ノ片身替リノ直垂ニ、[illegible]ノ前ニテ十六目結ヲ押、紅ノ腰ニ、白太刀ヲ帶、云云、アリ、腰ト云フハ、帷子ノ腰ナリ」

しめがね（名）［締金］ 帶、紐、ナドノ端ニ付クル金具、機アリテ、締ム。

しめぎ（名）榨木 胡麻ノ油ヲ榨メ取ル機械。[illegible]

しめきり（名）［締切］ シメキルコト。シメキリタル所。「しめきりノ路地」

しめきる ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［締切］ 鎖ス。塞グ。封鎖ス。又、終結ヲナス。「勘定ヲしめきる」「裏門ヲしめきる」

しめくくり（名）［締括］ シメククルコト。統べ治ムルコト。博多小女郞浪枕（享保、近松作）上「人ノ中宿ニシテ、貢ハメ先ノ締括リ、宮府（財布ニ言ヒカク）ノ客ヘ取ニ行ク」

しめくくる ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［締括］〔昔ハ、金錢、衣類、器什、皆、袋ニ入レタリ、故ニ、此語、出ヅ〕（一）固ク、束ネ結フ。緊束「財布ヲしめくくる」（二）統べ治ム。トリシマル。統轄「多クノ手下ヲしめくくる」

しめこ（名）［占子］〔林藤助光政ノ故事ヨリ出ヅ、官中秘選、十五、年中行事ノ條ヲ見ヨ〕兎ノ羹。ウサギノ吸物。文化ノ川柳「天ガ下、終ニしめこノ、御吉例」（幕府、元日ノ兎ノ吸物）「しめこノ兎」

しめこのうさぎ（句）［占子兎］ 占めたト云フヲ、兎ニカケテ、地口トセルモノ。

しめこみ（名）［締込］〔前陰ニ、疊紙ヲ當テ、堅ク締むるガ故ナリ〕力士ノ、裸體ニテ技ヲ演ズル時ニ、締ムル褌。繻子地、長サ曲尺二丈五尺、昔ハ、麻布ニテ、白、或ハ、茜染ナリシト。マハシ。別ニ、假粧まはしアリ。慶長元年二月、町觸「相撲取ノ下帶、絹布ニテ仕間敷候、屋敷方へ呼バレ候共、布木綿ノ下帶可」仕事」

しめころす ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［縊殺］ 喉ヲ縊リテ、殺ス。絞殺「鷄ヲしめ殺す」

しめころも（名）［染衣］ 染メタルコロモ。古事記、上（神代）[illegible]長歌「染木ガ汁ニ、染衣ヲ、眞具ニ、取リ裝ヒ」

しめし（名）［示］（一）示スコト。見スル

コト。(二)指シテ、教ヘ諭スコト。「神佛ノ御しめし」しめしが利かぬトハ、威力ガ徹ラヌ意。

しめし (名) 濕 (一)濕スコト。濡ラスコト。(二)小兒ノ大小便ヲ滲マセテ除ク布。赤子ノ尿ヲ濕シテ取ル布。ムツキ。オシメ。散木集、六、悲歎「事限リアリテ、トカクノ事モセントテアルフ、しめしノ樣ナル物ヲ着セケレバ「しめしニハ、泪ニ濡ルル、藤衣、シホルサヘコソ、カハラザリケレ」下學集、下、絹布門「襁褓、襁褓兒之衣ニ不潔ノ者也」遊歩色葉集「湿布、シメシ」

しめし-あは・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 示合 諜合 互ニ、暗合ヲ以テ、知ラスル。天神記(正徳、近松作)一「諜し合せテ、思フ儘ニ、心ヲ掛ケサセ申ベシ」

しめ-しめ-と (副) 最ト、打チシメリタル狀ニ云フ語。シメヤカニ。シミジミト。源、三十四、上、若菜、上七十「夜、イタク更ケユキ、云云、しめしめと、人目少ナキ、宮ノ内ノアリサマニ」同、十、槇四「火燒屋、幽カニ光リテ、人氣少ナク、しめしめとシテ」狹衣、三、下三十「今宵マデ、思ヒ致ク心ノ中ヲ、泣ク泣ク、しめしめと、言ヒツヾケ給ヘル」著聞集、六、管絃歌舞「西膝與助「サシモニヒツルガ、しめしめと、鎭マリテ」

しめ-じめ-と (副) 濕濕 前條ニ同ジ。「梅雨テ、しめじめとシテ」

しめ-しや (名) 四馬車 古ヘ、用ヰシ、馬、四頭立ノ、小サキ車。論語、爲政篇「大車無輗、小車無軏」包咸、注「小車、駟馬車」倭名抄、十一、車類「四馬車、論語注云、小車、四馬車也」

しめ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 示 〔爲見す、或ハ、知り見すノ轉カ〕 (一)見ス。見シム。萬葉集、十七、三十二「[illegible]下ニ[illegible]ム、[illegible]ノ妹ガ、[illegible]ハバ何ヲ、[illegible]」同、十五、十「マソ鏡、懸ケテ思ヘト、マツリダス、形見ノ物ヲ、人ニ示サナ」(二)指シテ、教ヘ告ゲ。源、十三、明石七十「アラタナル瑞、見セン、舟ヲ装ヒ設ケテ、必、雨風止マバ、此浦ニ寄セヨト、重ネテ、しめすコトノ侍リシカバ」

しめ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 濕 (一)水氣ニ染マシム。浸ス。濡ラス。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「石榴口ヘ入リ、二人ノ子ヲしめしナガラ」(二)消ス。(火ヲ) 松風村雨束帶鑑(元祿、近松作)「有明しめし出デケレバ」碁盤太平記(寶永、近松作)「螢ホドノ火モしめせ」

しめ・す (動) 爲坐 〔爲ノ連用形ノしニ、敬意ヲ表ハス動詞ノ、ますノ附キタル、しますノ轉訛〕 ナサリマス。ナサイマス。平家女護島(享保、近松作)二「己ガ樣ナ女ラ、歌、連歌ニベル部人、夢ニモ見ヤしめすマイ」

しめす-へん (名) 示偏 漢字ノ偏ニアル、示ノ字ノ稱、社、祈、祖、祝、神、ナドノ如シ、省キテハ、ネニモ作ル。遊歩色葉集、遍部、片「示」

しめ-だいこ (名) 締太鼓 たいこ(太鼓)ノ條ヲ見ヨ。

しめ-だか (名) 締高 數ヲ、集メ合ハセル高。合計

しめだし (名) 締出 シメダスコト。「しめ出しヲ食ハセル」

しめ-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 締出 戸ヲ閉ヂテ、人ヲ入レヌヤウニス。

しめ-ぢ (名) 占治 「濕出つノ約轉、成語ハ、しめぢだけ」 菌ノ名、秋、山中ニ生ズ、形、松茸ニ似テ、小サク、寸許ニ過ギズ、莖、短クシテ、肥エテ圓シ、蓋ノ面ハ、淡黑クシテ、背ト莖トハ、白シ、味、甘美ナリ。玉蕈 又、黄しめぢ(黄蕈)、紫しめぢ、鼠しめぢ、等アリ、皆、色ニ因リテ名ヅク、又、細小ニシテ、簇リ生フルヲ、千本しめぢト云フ。類聚雜要抄(大治)一、宇治平等院御幸御膳「御汁物」注「云云、熱汁、志女治」武江産物志、蕈「ねづみしめぢ、紫蕈、黄蕈、云云、千本しめぢ」類聚往來「卜治、シメヂ」林逸節用集「卜治、シメヂ」常盤嫗物語「椎茸、しめぢだけ」

しめつ (名) 死滅 シニ、ホロブルコト。シニ絶ユルコト。盛衰記、四十、觀賢拜弘法大師之影像事「分段輪廻ノ境生タル者、誰カ、死滅ノ恨ヲマヌカレタル」

じめつ (名) 自滅 己レト、滅ブルコト。己レガ所作ニテ、己ガ身ヲ亡フコト。漢書、高五王傳「濟北王逆亂、以自滅」太平記、二、唐崎濱合戰事「心得ヌ者カナ、御邊達ハ、敵ノ首ヲコソ取ンズルニ、御方ノ首ヲ欲シガルハ、武家、自滅ノ瑞相、アラハレタリ」

しめ-つき (名) 眼病ノ一種。字類抄「瑕管、シメツキ、目病也」

しめ-つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 締付 緊シク、締ム。「喉ヲしめつく」

しめつけ-しまだ (名) 締付島田 島田髷ノ、後ノ方ヲ短ク詰メテ、仰クヤウニ結フモノ、今、ひっつめト云フ。俗徒然草(西鶴)「しめつけ島田、襟先モ、後モ、同ジ長ニシテ、眞中ニ、平元結ヲカクル」元祿曾我物語「しめ付島田ハ、襟先モ、跡モ、長ミ、同ジ程ニシテ、中程ヨリ、元結ヲ二筋カクル」

しめっぽ・い (形) 〔あきっぽいノ語原ヲ見ヨ〕 濕氣、多シ。濕リガチナリ。「しめっぽい天氣」

しめて (副) 締 數ヲ、集メ合ハセテ。都合。合計

しめ-なき (名) 濕泣 〔しめりなきノ略〕 シノビナキ。他ニ隱シテ、泣クコト。夕霧阿波鳴渡(寶永、近松作)中「女房ニハ苦勞サセ、[illegible]テ色ヲ拉ヒ、聞エヌ人シャト、しめ泣ニ、[illegible]口說クゾ、不便ナル」

しめなは (名) 標繩 注連繩 〔しりくめなはノ約略、或ハ、閉ノ義ニテ、通ハセヌ意(しむ(締)ノ(三)ノ條ヲ見ヨ)〕 (一)引キ延ヘテ、路ノ導、又ハ、内外ノ界ノ標トスル繩。萬葉集、十八、十五「祝部等ガ、齋フ社ノ、モミチ葉モ、標繩越エテ、散ルトフモノヲ」金葉集、一、春「荒小田ニ、細谷川ヲ、マカスレバ、引クしめ繩ニ、モリツツゾ行ク」新古今集、三、夏「早苗取ル、山田ノ筧、漏リニケリ、引クしめなはニ、露ゾコボルル」(二)占領ノ標ニ、牓示スルコト。又、其物。萬葉集、七、二十「葛城ノ、高間ノ草野、早領知テ、標指サマシヲ、今シ悔シキ」

しめなは (名) 注連七五三 前條ノ語ニ同ジ、特ニ、神事ニ、引キ延ヘ用ヰルモノ、亦、内外ヲ限リテ、不淨ヲ入レザル意ナラム、其製、藁ニテ、左ニ綯ヒタル繩ニテ、八寸許毎ニ、藁ノ端ヲ出シテ、垂ル、七條、又、五條、又、三條ナリ、處處ニ、紙四手ヲモ插ミ垂ル。シリクメナハ。シリクベナハ。略シテ、しめ。新年ヲ賀シテ、飾リニ張ルモ、コレナリ。シメカザリ。(しりくめなはノ條ヲ見ヨ)

しめ-ぬり (名) 締塗 漆ニテ、固ク塗リ締ムルコト。盛衰記、十五、宇治合戰事「筒井淨妙明春「七モヂリナル、黛ノ、しめ塗ニ塗リタルニ、塗弦懸テ」

しめ-の (名) 標野 〔御獵ニ行幸アラム時、カネテ標メ置ク野。留場タル野原。〕禁野。萬葉集、一、二十「茜草サス、紫野行キ、標野行キ、野守ハ見ズヤ、君ガ袖振ル」古今集、五、秋、下「[illegible]ニ[illegible]レズヤ、[illegible]フニム、しめの行キ、紫野行キ、鹿ゾ鳴クナル」

しめのかみ (名) 馬ノ、鬣ノ、頭ヨリ肩ニ續ク毛。トリガミ。當流小栗判官(元祿、

[illegible]シヅトサマセ給ヘバ」

しめぼったい [illegible]〔あつぼったいノ語 [illegible]〕[illegible]

しめん (名) 四面 (一)四方ノ面。四方ノ向。ヨモ。「東、西、南、北、ノ四面」(二)四方、[illegible]

しめん (名) [illegible] 文書ナドノ面。手紙ノ上ノ文[illegible]

しめんそか [illegible] 四面楚歌 [illegible]

じめんずく (名) 自面盡 〔あひたいづく、[illegible]〕直接ニ、[illegible]對スルコト。[illegible]

しめやか (副) 深沈 〔濕やかナノ意〕[illegible]打チシメリ、鎭マリタル狀ニ云フ語。シトシトト。シメジメト。蕭然 源、四十三、竹川「サバカリ物ヒ[illegible]」[illegible]しめやかユナリユク」同、[illegible]寺ノ初夜モ、皆、行ヒハテテ、イトしめやかなり」

しめやぐ (自動、四) 深沈ニテアリ。打チシメリテ居ル。落窪物語、一「面杖ヲツキテ、佗レテ居タルヲ、少將、出ヅトテ、[illegible]失ヒタル、トテ、笑ヒ給フニ」名義抄「靖、シメヤグ、クル」

しめゆふ (他動、四) 標結 標ヲ、結ヒ廻ラス。標ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]、岩根コゴシミ、[illegible]ヲ、引カバ惜ミト、標ノミゾ結ふ」(他人ニハ得サセジト[illegible])

しめよす (他動、下二) 締寄 [illegible]メテ、一ツニスル。總括ス。

しめよせる (動) 締寄 前條ノ口語。

しめらず (副) 終 しみらずニ同ジ、其程ナリ[illegible]「[illegible]ヒヤカナレ、昼モアルヲ、寢サしめらひ、ムツカシノ夜ヤ」

しめらふ (自動、四) 濕 [illegible]ノ延[illegible]シテ、汗、流ルル[illegible]

しめり (名) 濕 (一)水ニ、シメルコト。[illegible]風雅集、七、秋、下「山陰ヤ、夜ノ[illegible]、又落チヤマヌ、[illegible]ノ下露」(二)鎭火ノ報、江戸市中ニテ、半鐘ヲ緩ク二聲ニテ、報ズ。(三)雨。「しめりガアル」しめりガ欲シ」良イ御しめり」

しめりけ (名) 濕氣 [illegible]キコト。水ニシメリタル程。シッケ。シッキ。

しめりなき (名) 濕泣 [illegible]ヲ立ズニ、泣クコト。シノビナキ。しのびなき。[illegible]

しめる (自動、四) 沈 (一)[illegible]漁火」源、十三、明石「ヤウヤウ、風ナホリ、雨ノ脚、しめり、[illegible]村雨ノヤウニ降リ出ヅ」[illegible] (二)物思ヒニ、沈ム。萎レテアリ。メイル。銷沈ス。源、三十一、槇柱「しめりテオハスル、イト心苦シ、御目ノ、甚ウ泣キ腫レタルゾ、[illegible]」榮花物語、二、花山「イト、[illegible]レ、ヲカシウオハセシ人トモ覺エズ、イミジウしめらセ給ヒテ、タダ有ベイニモアラヌ歎キノミ、セサセ給ヘバ」(三)[illegible]佛前ノ燈明、消ユ (口ニテ吹キ、消サズ、物ノ煽リニテモ)

しめる (自動、四) 濕沾 〔前條ノ語ノ轉〕(一)水ニ、ウルホフ。水氣ヲ帶ブ。枕草子、二、廿段「朝ボラケノ、イミジ[illegible]」(二)水ニテ、消ユ (火ニ) [illegible]

しめる (動) 染む、締む、占む(下二段)、令む、等ノ口語。

しめを (名) 締緒 物ヲ締メ括ル緒。[illegible]

しも (名) 霜 〔萬物、萎む意ナリト云フ、凍ニ通ズ〕(一)秋、冬、露ノ、凍リテ、白クナルモノ。千字文「露結爲霜」倭名抄一三「霜、之毛」[illegible]長行記、十八年七月「胡志毛ノ、ミケノサヲ橋、公孫、イ渡ラスモミケノサヲ橋」萬葉集、六、三十「橋ハ、實サヘ花サヘ、ソノ葉サヘ、枝ニ霜降レド、マシ常葉ノ樹」[illegible]衣ヲ、打チワビテ、寢ヌ人シルキ、淺茅生ノ宿」(二)白髪ヲ、[illegible]ヘテ云フ語。[illegible]ノ影、衰ヘマサル、霜ノ蓬ハ」出觀集、春「雲雀アガル、ウララノカゲニ、霞アケテ、我ガ霜ノ髮、ココラ[illegible]」霜の鶴トハ、霜ノ如ク白キ鶴。年ヲ歷テ[illegible]ノ、白クナリタル鶴。[illegible]コソ、久シカリケレ」

しも (名) 下 〔後末ノ約略カ、又、尻面ノ略カ〕(一)上ニ反シテ、低キ方。シタ。[illegible]下の十日トハ、月ノ、廿一日ヨリ以下ノ稱。下旬 堤中納言物語「三月しもの十日、京極ノ[illegible]」(二)時ノ後。次。終リ。[illegible](三)[illegible]シキコト劣リタルコト。(人、物、ノ階級ニ) 伊勢物語、八十二段「カミ、ナカ、しも、皆、歌詠ミケリ」土佐日記、十二月廿日「在リトアルカミ、しも、童マデ、醉ヒ痴レ[illegible]」(四)君主、朝廷、ナドニ對シテ、臣下、人民。[illegible]しも」(五)奴婢ノ類ノ、卑シク、召仕ハルルモノ。「しも人」しも部」しも仕へ」しも男」

下の屋トハ、シモジモノ者ノ住家。源、十三、明石「此處ニハ、畏マリテ、自ラモ、ヲサヲサ參ラズ、物閑タリタル、しものやニ侍フ」

しも（辭）〔しハ、意ヲ強ムル辭、もハ、詠嘆ノ辭〕力ヲ入レテ云フ辭。ソレ、マア。催馬樂、紀伊國「風シモ吹イタレバ、餘波之毛立テレバ、水底霧リテ、其珠見エズ」伊勢物語、第九段「京ニ、思フ人、無キニしもアラズ、サル折りしも、云云」古今集、十六、哀傷「時しもアレ、秋ヤハ人ノ、別ルベキ」「必ズしも然ラズ」

しもあさ（名）【霜朝】霜ノ降リタル朝。源、六、末摘花「寒キ霜あさニ」

しもいちだんくわつ（名）【下一段活】篇尾ノ語法指南ノ、動詞ノ條ヲ見ヨ。

しもう（名）【二毛】白髮マジリノ頭髮。又、ソノ年配ノ老人。斑白 班白 頒白 禮記、檀弓、下篇「古之侵伐者、不斬祀、不殺厲、不獲二毛」註「二毛、斑白之人也」

しもがかり（名）【下掛】能樂ニ云フ語、下懸 かみがかり（上掛）ノ條ヲ見ヨ。

しもがかる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【下掛】下部（陰莖、陰門ノ部分）ニ、關ス。「下がかりノ話」

しもがこひ（名）【霜圍】しもよけ（霜除）ニ同ジ。

しもかぜ（名）【霜風】霜ノ氣色ヲ帶ビタル風。心中重井筒（寶永、近松作）下「野邊ノ霜風、小夜風」

しもがる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）【霜枯】〔凋枯るノ義カトモ云フ〕霜ニ逢ヒテ、枯ル。詞花集、三、秋「霜がるる、ハジメトミエバ、白菊ノ、移ロフ色ヲ、歎カザラマシ」萬葉集、十「霜干冬ノ柳ハ、宮人ノ、蘰ニ縵ベク、萌エニケルカモ」枕草子、三、三十四段「草の花は「龍膽、云云、異花ハ、皆、霜がれハテタルニ、イト花ヤカナル色アヒニテ、サシ出タル、イトヲカシ」月詣集、十「冬深ミ、ヲフノ浦風、サエサエテ、霜枯れニケリ、伊勢ノ濱荻」夫木抄、十六、冬草「枯レシサラバ、生フル稻扱ノ、悴ケツツ、物ニモナラデ、霜がれニケリ」

しもがれ（名）【霜枯】（一）しもがるルコト。草ノ、霜ニ逢ヒテ、枯レ萎ムコト。蜻蛉日記、下、下十七「しもがれノ、草ノユカリゾ、哀レナル、コマカヘリテモ、懷ケテシガナ」後撰集、八、冬「霜がれノ、枝トナ佗ビソ、白雪ノ、消エヌ限リハ、花トコソ見レ」源順集「餌乞スル、君ガ鶺鴒、しもがれノ、野ニナ放チソ、早ク手ニ据エ」續後拾遺集、六、冬「霜枯ノ、昔ニモ冬ハ、知ラレケリ、秋ヲモ告ゲシ、荻ノ上風」（二）冬ノ、寒キ空合ノ景。荒寒「霜がれ三月」

しもきりづき（名）【霜霧月】霜ノ、盛ンニ降ル頃ノ月。壬二集、中、行路寒月「旅衣、霜きり月ノ、寒キ夜ニ、道ノ邊芝ヤ、暫シ宿貸セ」

しもく（名）【四目】四方ヲ、視ルコト。四瞿 書經、舜典篇「詢于四岳、闢四門、明四目、達四聰」

しもく（名）【指目】指ザシ、見ルコト。史記、陳勝傳「皆指目陳勝」

しもく（名）【耳目】みみト、めト。聞クト、見ルト。書經、冏命篇「爾無昵于憸人、充耳目之官」史記、張耳傳「趙人多爲耳（張耳）餘（陳餘）耳目者」同、魏其武安侯傳「武安吏、皆爲耳目」雜長記、九、山門堂塔事「玄奘三藏、云云、一十七年ヲ經廻リケルニ、耳目、見聞、三百六十箇國」「世ノ耳目ヲ驚カス」

しもくさ（名）【霜草】かるかや（刈萱）ノ一名。

しもくち（名）【瘃凍瘡】〔霜朽ノ義〕しもやけニ同ジ。蜻蛉日記、中、下十八「屋ノ上ノ霜、イト白シ、童部、昨夜ノ姿ナガラ、しもくち呪ハムトテ騒クモ、イト哀レナリ」倭名抄、三十四瘡類「瘃、之毛久知、手足中寒作瘡也」醫心方、八「凍瘡、シモクチ」同、三十「瘃、シモクチ」

しもぐち（名）【下口】後ノ入口。裏口。平家物語、十、内裏女房事「件ノ女房ノ局ノしもぐち邊ニ佇ンデ、聞キケレバ」今物語、下毛野武正「有ツル局ノしもロニ行テ」

しもくづれ（名）【霜崩】シモドケ。新六帖、二「山里ノ、門田ノ畔ノ、霜くづれ、落穗拾ヒシ、道モ絶エッツ」降女集、一「山里ノ、岩ノ棧道ノ、霜くづれ、訪ハムト云ヒシ、人モ待タレズ」

しもぐもり（名）【霜曇】夜、霜、降ラムトテ、霧ノ如ク陰ルコト。モヤ。萬葉集、七四「霜雲入、セントニカアラム、久堅ノ、夜度ル月ノ、見エヌ念ヘバ」

しもけいし（名）【下家司】けいし（家司）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しもげる・ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（自動、下一）【霜氣】〔焦げる、焼けるト、同趣〕霜ニ傷メラレテ、腐ル。（芋、菜、ナドニ）

しもごえ（名）【下肥】糞ヲ、肥ニ用キル時ノ稱。

しもざ（名）【下座】席ノ中ニテ、最モ下ナル座。下位ノ座席。ゲザ。（かみざニ對ス）

しもさうぢ（名）【下掃除】〔さうぢ（掃除）ノ條ヲ見ヨ〕雪隱ノ糞ヲ、汲ミ取ルコト、上略シテ、掃除トノミモ云フ。其汲取ル人ヲ、掃除屋ト云ヒ、其汲取ル報酬ヲ、掃除代ト云フ。

しもさき（名）【霜先】霜ノ降ラムトスル初。（井原西鶴ナド、或ハ、しほさきト混同シテ、用キタリ）本朝若風俗（貞享、西鶴）五「都ノしもさきヲ考ヘ、狼ノ黒焼、賣リアガリシガ」

しもさぶらひ（名）【下侍】清涼殿ノ殿上ノ南ニ位シテ、侍臣ノ詰所。禁秘御抄、上「下侍、三間」註「有炭櫃、四面敷疊、殿上侍臣逍遙所也、切折松於此所也、或又酒宴等、於此所行之」散木集、十、連歌「只今ノ、前ノ上ニ侍ノ、しもニオハシマスニ、惡シウ上リタルカナ、云云「前ノ上ニ、昇リ井ヌ」しもさぶらひニ、侍ヘカシナ」

しもざま（名）【下様】〔下方ノ義〕（一）下ノ方。シモツカタ。（上方ニ對ス）枕草子、二、十七段、憎きもの「サヤウノ者ハ、云云、狩衣ノ前、下ざまニ捲り入レテ居ルカシ」（二）身分ナキ、世ノ民。シモジモ。シタジタ。民間 松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）三「天上（殿上）ニテ初冠シ、終ニ、下樣ノ業ヲ知ラズ」

しもじも（名）【下下】〔上上ニ對ス〕下樣ノ者共。下下。シタジタ。スヱズヱ。下民 狂言記、瓜盜人「内ノ者ノ業テアラフ、主カ、畑ヲ見舞ウテ來イト云付タニ依テ、見舞ハシタレ共、人形計立テオイテ、虫モ其儘テ、扈、夕物チ、アラフ、惣ジテ、下下ハ、ドレモ、此樣ナ事ジャ」

しもすがた（名）【下姿】古へ、下ニ、打チクツロギテ居ル時ノ姿。即チ、直垂ヲ着テ居ルコト。上姿（直衣姿）ナドニ對ス。神事随筆「下姿」氏經日次記、文明十八年三月廿一日「予ハ、衛末天葵、下姿仁天對面」御書「しもすがた、ひたたれ」看聞日記、永享六年十月五日「天明、禁中祇候、關白以下公家人人、大略參候、上姿、下姿、相分付ニ參到」親長卿記、文明三年三月十七日「入夜參内、下姿、依御佛事用脚小也」二水記、大永六年正月廿三日「早旦、着内侍所、下姿」

しもだいどころ（名）【下臺所】〔上臺所ニ對ス〕貴族ノ家ニテ、下人ノ食物ヲ調理スル所。非情來平河内通（享保、近松作）二「伯父御樣お歸リト、下臺所、賑ハシク」

しもたや（名）【仕舞屋】〔しもたハ、しもうた（仕舞）ノ約、見せ（店）ニ對ス〕しまう

たゞノ條ヲ見ヨ」[illegible]、仕舞物ナド云フ、是レ[illegible]ヨリ仕まふたやノ[illegible]役ヲ[illegible]ノ宛任」

しもだらひ (名) 下盥 身體ノ腰部以下ヲ洗フニ用ヰル盥。[illegible]、足袋ナドヲ[illegible]。浮世風呂(文化、三西)初編、下「下だらいニ、新シキモッコウフンドシガ、湯ニ漬ケテアルヲ見テ」

しもつえ (名) 下ッ枝 [上ッ枝 中ッ枝ニ對ス] 下ノ方ノ枝。シヅエ。シタエ。[illegible]

しもつかた (名) 下之方 [上ッ方ニ對ス] 下ノ方。シモザマ。齊明紀、六年七月、[illegible]「[illegible]しもつかた[illegible]ヒヤルニ、アナガチニ、心高キ心地ゾスル」同、十四、澪標「しもつかたノ、京極ワタリナレバ、人氣遠ク」名義抄「以下、シモツカタ」

しもづかへ (名) 下仕 親王家、攝家ナドノ女房ニテ、庭上ノ事ナドヲモ勤ムルモノ。[illegible]「イト[illegible]アル[illegible]もづかへニテゾ、仕ウマツリケル」枕草子、六、七十二段「童二人、しもづかへ四人シテ、持テ參ルメリ」[illegible]「[illegible]ベミタル[illegible]、もづかへヲ出シテ」

しもつき (名) 霜月 [食物月ノ略、新嘗祭ノ初トシテ、民間ニテモ、新嘗ス、むつきノ條ヲ見ヨ] 陰暦、十一月ノ稱。[illegible]、ミナ月ノ照リハタタクニモ」字類抄「十一月、シモツキ」

しもつけ (名) 下野 [モト、下野國ヨリ出ヅ、今、日光しもつけトモ云フ] 草ノ名、高サ一二尺許、葉ハ、薔薇ニ似、夏ノ頃、紅紫色ノ花ヲ開ク、觀賞用トシテ栽培セラル。繍線菊 枕草子、三、六十四段「草の花は「しもつけノ花」拾遺集、七、物名、しもつけ「[illegible]エテ見ル、君ダニ知ラズ、花ノ名ヲ、我レ[illegible]もつけム、事ノ怪シサ」夫木抄、九、夏草「[illegible]ノ、[illegible]中ノ、しもつけニ、室ノ八島ノ、事ヤ問ハマシ」藻鹽草、八「下野、シモツケ」

しもつせ (名) 下津瀬 川ナドノ、下流ノ瀬。其上流ノ瀬ヲ上つ瀬ト云フ。古事記、下「[illegible]、長歌、初瀬ノ川ノ、[illegible]ニ、齋杭ヲ打チ、[illegible]ニ、眞杭ヲ打チ」

しもつひげ (名) 鬚 ひげノ條ヲ見ヨ。(かみつひげニ對ス) 倭名抄、三四毛髮類「鬚、[illegible]比介、[illegible]下毛也」

しもつやみ (名) 下津闇 下旬ノ闇ノ稱ト云フ。又、クダリヤミ。[illegible]「カヒクダス、鵜舟ニカガル、篝火ノ、見エヌ夜モナキ、下つ闇ニ」[illegible]七、[illegible]「花山院ノ御時ニ、五月、下つ闇ニ、五月雨モ[illegible]テ」千載集、三、夏「トモシスル、火串ノ[illegible]、[illegible]ルニ[illegible]フ、しもつ闇カナ」新千首、冬「年モハヤ、今ハノ末ノ、くだりやみ、松振リ立テテ、人急グナリ」

しもて (名) 下手 [上手ニ對ス] シモノ方。芝居ニテ、下座。[illegible]記、三十九、[illegible]「[illegible]ヲバ上手ニ立テ、弱シキ流レヲ防セヨ、弱馬ヲバ下手ニ立テ、ヌルミニ附テ渡スヘシ」

しもと (名) 葼 楉 細枝 [茂木ノ略、木ハ、木ナリ、直立ニ叢生ス、木立ノ意] 灌木ナドノ、生ヒノビテ、枝ノ、茂レルモノ。木ノ、細キ枝。[illegible]字鏡[illegible]「[illegible]、志毛止」[illegible] 萬葉集、九[illegible]「[illegible]」[illegible]、四年十月「茂林」萬葉集、一[illegible]長歌「泊瀬ノ山ハ、眞木立ツ、荒山道ヲ、石ガ根ノ、[illegible]しもと[illegible]、坂鳥ノ、[illegible]エ[illegible]シテ」[illegible]如[illegible]原」(原、作」林) 枕草子、七、六十八段「百ノ木、若ダチテ、イトしもとガチニ差シ出デタル」刈リテ、薪トシ、集メテ、葛ニテ結ヘバ、和歌ニ多ク、しもと結ふトシテ、葛城山ニ掛ケテ、枕詞ノ如ク用ヰタリ。古今集、廿、大歌所「しもと結ふ、葛城山ニ、降ル雪ノ、間ナク時ナク、思ホユル哉」

しもと (名) 笞 [細枝ヲ用ヰレバ、云フ] 刑罰ノ具、撃ツ物。スハエ。(笞罪ノ條ヲ見ヨ) 獄令「笞杖、大頭三分、小頭二分」萬葉集、五、長歌「[illegible]取ル、五十戸長ガ聲ハ、寢屋戸マデ、來立チ呼ビヌ」枕草子、八、八十三段、心もとなきもの「物見ニ急ギ出テ、白キ笞ナド見付ケルタルニ、[illegible]ル程、ワビシウ、下リテモ往ヌベキ心地コソスレ」字鏡四十五「楚、志毛止」天治字鏡、七三「楚 宇豆木、又、志毛止」倭名抄、十三九刑罰具「笞、[illegible]」[illegible]集、九、雜、下「頭白キ翁ノ侍リケルヲ、召シ勘ヘントシ侍リケル時、翁ノ詠ミ侍リケル「老イ果テテ、雪ノ山ヲバ、戴ケド、しもど(霜と)ト、笞ニ云ヒカク)見ルニゾ、身ハ冷エニケル」孝徳紀、大化二年三月「笞」(杖ヲ合ハセ見ヨ)

しもどけ (名) 霜融 霜柱ノ、日影ニ融クルコト シモゲ。シモクヅレ [illegible]六[illegible]、二「日アタリノ[illegible]ノ、しもどけニ、傳ヒカネタル、畔ノ細路」

しもどだい (名) 楉臺 京都、賀茂神社ナドニ、くぼて、ひらてヲ載セテ、奉ル臺。柴ノ枝ヲ竝ベタルヲ、紙捻ニテ編ミツケテ、足アリ。

しもどだちのまつり (名) うさかまつり(鵜坂祭)ノ條ヲ見ヨ。

しもとづくゑ (名) 楉案 ムスビヅクエ 木工寮式「[illegible]案、[illegible]、長五尺[illegible]寸、[illegible]尺四寸」[illegible]臨時祭式、宮城四[illegible]祭「[illegible]、長三尺[illegible]」[illegible]御、各、高四尺、長三尺五寸」

しもとばら (名) 茂林 [楉原ノ義、原ノ條ヲ見ヨ] 楉ノ、生ヒ茂リタル林 景行紀、四年十月「[illegible]鹿甚多、氣如朝霧、足如茂林」

しもなげし (名) 下長押 [上長押ニ對ス] しきゐ(敷居)ニ同ジ。類聚名物考(山[illegible])[illegible]宮室[illegible]「長押ハ、今モ、[illegible]居ノ上ニ打横木也、下長押ハ、敷居ト見テ、ヨシ」[illegible]後篇、五十三「上長押ト云ハ、下ナル、敷居ノ如キニ分テ、上ナル、鴨柄ノ如キ方ヲ云ヘルナリ」

しもにだんのはたらき (名) 下二段活用 語學ノ語、規則動詞ノ第二類ノ語尾變化ノ一稱。(箭尾ノ語法指南ノ、動詞ノ條ヲ見ヨ)

しもの (接尾) 自物 [接尾語ニハアラネド、衆語ニ通ジテ解カムガ爲ニ、姑ク此クノ如シ] (一)ノ、如ク。ラシク。メキテ。此語ノ屬キタル語ヲ、枕詞トスル説アレド、現實ニ、下ノ動詞ヲ修飾スル副詞ナリ。萬葉集、一[illegible]長歌「鴨自物、水ニ浮キ居テ」同、二[illegible]長歌「鹿自物、伊[illegible]代シツツ」同、三[illegible]「久方ノ、天傳ヒ來ル、白雪仕物(序)、行キ通ヒツツ、彌重座セ」同、五[illegible]長歌「伊奴(犬)時母能、道ニ臥シテヤ」同、六[illegible]長歌「馬自物、縄取リツケ」祈年祭祝詞「宇(鵜)弭物、頸根衝キヌキ」(く、ノ、如キ。萬葉集、九[illegible]長歌「鹿兒自物、吾ガ獨子ノ」沙石集、八、下、第十二條「我モハ、大時者ナリトテ、非時ニ、菓子ナド召シケル」此ノ語ノしハ、し・しき・しくト云フ形容詞ノ活用ノ、濁ルモノニテ、多クハ、名詞ヲ、形容詞ニ作ル時ノモノナリ、「同じ、同じき、同じく」「時じき、時じく」「常じく」「我じく」「家じく」ナド云フ、其終止形ヲ、直チニ名詞ニ接セシムル一格アルハ、「同じ事」「同じ枕」「細し戈」「空し車」「惡し狀」「長長し夜」ノ如

シ、「鴨しも物」大しも物」即チ、是レニテ、但シ、じき・じくノ活用ハ、物ニ表ハレズシテアルナリ、然シテ、しものトナリテ結合スル時ハ、其語ヲ副詞ノ如クニ形作ル。（二）轉ジテハ、意味ナク用キラレタル、アリ。萬葉集、十一 廿「面形ノ、忘レテアラバ、アヂキナク、男士物ヤ、戀ヒツツ居ラム」（男ガ、戀ヒツツ居ラムヤハ）續紀、十、神龜六年八月、宣命「太上天皇ノ大前ニ、恐古士物、進退匍匐廻ホリ」同、十七、天平勝寶元年七月、宣命「勅リタマフ御命ヲ、畏自物、受ケタマハリテ」（是レ等ハ、かしこく云フ意ナリ）

しも-の-く （名）［下句］く（句）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。謠曲、雨月「歌ノ下の句ナリ、此ノ上の句ヲ繼ガセ給ハバ、御宿ハ惜シミ申スマジ」

〔一〕しも-の-もろくち （名）［下諸口］下輩ノ、口口ニ云フ、蔭口。衆人ノ下馬評。宇津保物語、國讓、上 十三「下のもろくちト申事ハ、エ、否ビ給ハヌコトナリ」

しも-ばしら （名）［霜柱］嚴寒ノ頃ニ、地面、霜ノ爲ニ凍リテ、脹レ起リ立ツモノ。冰筍 新六帖、一、霜「冬深キ岩屋ニタテル霜ばしら、誰ガ冬ゴモル、柱ナルラン」

しも-はた （名）［下機］木綿ヲ織ル機。（紬ナドヲ織ル機ヲ、上機ト云フ）壽麿歌（元祿、近松作）中「布織ル下機取組テ、庭木ノ松ニ猿セカケ」日本永代藏（元祿、西鶴）五「下機ニ木綿一端、コレヲ織リ下シテ」

しも-はら （名）［霜原］霜ノ降リタル原。草根集、五、冬鳥「秋過ギシ、野田ノ芝生ノ、霜原ニ、村鳥騷グ、稻ヤ干スラン」

しも-ばら （名）［霜腹］霜ノ降ル寒夜ニ起ル、痛ミ腹。雄長老百首狂歌、也足軒、跋「此一首ノシタテ、股ダチモ取ラズ、裾野ヲ捲リ上ゲナド云ヘル、霜腹ノオコリタル、野放チノ體ニヤ」犬子集「屋根ニ降ルモ、寢テ居テ知ルヤ、しも腹ケ」

しも-はり （名）［下張］下ノ者ノ、威張ルコト。下官ノ、威勢ヲ振フコト。下剋上。岩淵夜話、別集、三「天正ノ頃、關東ニテ、下はりナルコトヲ、譬ヘニ、千葉ニ原、原ニ兩酒井ト申シケル」（下總、千葉氏ノ臣、原氏、原氏ノ臣、酒井氏、各、主ヲ凌ギ、威勢ヲ振フ）

しも-ばれ （名）［霜腫］しもやけニ同ジ。

〔一〕しも-びと （名）［下人］ゲニン。下男、又、下女。源、四、夕顏 三十五「ソノ家ナリケル下人ノ、病シケルガ、俄ニエ出デアヘデ、亡ク成リケルヲ」同、十二、須磨 廿七「月待チ出デテ、出デ給フ、御供ニ、タダ五六人バカリ、しも人モ、睦ジキ限リシテ、御馬ニテゾオハスル」

しも-ぶくら （名）［下脹］下ノ方ノ、脹ラカナルコト。シモブクレ。（顏ナドニ）下豐「下ぶくらナ顏」

しも-ぶくれ （名）［下脹］前條ノ語ニ同ジ。

しも-ふり （名）［霜降］霜ノ、降リカカレル如ク、細カク白キ斑ヲ稱スル語、布、帛、羅紗、ナドノ織樣、染樣、ニ云フ。盛衰記、四十三、源平侍遠矢事「切符ニ、鵠ノ霜降破リ合ハセテ羽メタル征矢」「霜ふり羅紗」

しも-ふり-づき （名）［霜降月］陰曆十一月ノ異稱。シモツキ。藻玉集、十二月異名、十一、霜降月「風寒ミ、霜ふり月ノ、空ヨリヤ、雪ゲト見エテ、曇リ初ムラン」

しも-ふり-まつ （名）［霜降松］五葉ノ松ノ一種、葉ノ色、白粉ヲ含ミテ、霜ニ過ヘルガ如キモノ。白松

〔一〕しも-べ （名）［下邊］（上邊ニ對ス）シモノカタ。下方 萬葉集、六 廿二 長歌「芳野ノ河ノ、河ノ瀨ノ、云云、上邊ニハ、千鳥數鳴キ、下邊ニハ、河鹿妻喚ブ」

〔二〕しも-べ （名）［下部］雜事ニ召使ハルル、卑シキ者ノ稱 下男。奴僕 下隷 枕草子、七、六十四段「此辨少納言ナドノ許ニ、カカル物持テ來タル下部ナドニハ、スル事ヤアルト問ヘバ」源、廿三、初音 十「何ノ數ナラヌしもベドモナドダニ、云云、マシテ、苔ヤカナル上達部ナド、云云」同、三十五、柏木 十「院ノしもべ、廳ノ召次」紫式部日記、上「御湯殿、云云、火トモシテ、宮ノ下部、綠ノ衣ノ上ニ、白キ當色着テ、御湯參ル」徒然草、百十九段「鎌倉ノ海ニ、鰹ト云フ魚ハ、云云、ハカバカシキ人ノ前ヘ出ルコトモ、侍ラザリキ、頭ハ、下部モ食ハズ」

しも-み-ぐさ （名）［霜見草］菊ノ一名。藏玉集、冬、霜見草、冬菊「幾代經シ、松ノ木蔭ノ、霜見草、植ヱケム時ヲ、誰レモ知ラネバ」

しも-みち （名）［下道］六町一里ノ稱。（里ノ條ヲ見ヨ）

しも-む （名）［下無］（上無ニ對ス）十二調子ノ一。（じふにりつノ條ヲ見ヨ）

しもん （名）［市門］市ノ入口ニアル門。史記、呂不韋傳「號曰二呂氏春秋一、布二咸陽市門一」

しもん （名）［諮問］トヒ、ハカルコト。尋ネ、トフコト。諮詢 後漢書、東平憲王蒼傳「朝廷毎有二疑政一、輙驛使諮問、蒼悉レ心以對」

しもん （名）試問 タメシ、トフコト。試驗ヲ行ヒ、訊問スルコト。「口頭試問」

しもん （名）［指紋］人ノ指先ノ皮ノ文。渦流レ。人類ノ指紋ハ、生涯、不變ノモノニシテ、身體ノ發育ニ隨ヒ、其大キサヲ增スノミ。而シテ、各人、各指ノ間ニ、判然タル區別アリテ、同一ノ指紋アル指トテハ、無シ。「前科者ノ指紋ヲ取ル」

しもん （名）［緇門］緇衣ヲ着スル僧徒ノ一門ノ意。僧侶。クロカド。

じもん （名）［寺門］（一）寺院ノもん。山門。崔國輔、宿二法華寺一詩「寺門淸且涼」太平記、廿四、天龍寺供養事「天龍寺ヘ參詣セラレケリ、云云、次第ヲ守リ、列ヲ引、既ニ、寺門ニ至シカバ」（二）近江國、三井寺、即チ、園城寺ノ稱。（延曆寺ノ山門ニ對ス）

じもん （名）［自門］自ラノ家門。又、自ラノ寺門。他門ニ對ス。蔭凉軒、送二藤光禪師遊二廬山一詩「告二我入レ室要一、自門仙翁導師遺レ君」盛衰記、十五、宇治合戰事「筒井淨妙明春ト云者アリ、自門、他門ニ兇サレタル、惡僧ナリ」

じもん-じたふ （句）［自問自答］自ラ、己レニ問ヒテ、己レ、自ラ答フ。獨リ心ニ思ヒテ、判斷ス。

しもん-しんけ （名）［四門親家］緣者ノ緣者。マタエンジャ。

しもん-せん （名）［四文錢］又、四當錢。波錢。靑錢。眞鍮錢。くゎんえいせん（寬永錢）ノ條ヲ見ヨ。

じもん-は （名）［寺門派］三井寺ノ宗派。即チ、天台宗。此寺ハ、總本山ニテ、智證大師中興ナリトゾ。（山門派ニ對ス、山門ノ條ノ（二）ヲ見ヨ）

〔一〕しも-もどり （名）［陰莖］（下根ノ性ニ悖ル義カ）僧侶ノ語、陰莖ノ泛稱。桑家漢語抄、六、身體「陰莖、志毛毛登里、類聚名義抄云、國俗、以二兩莖一相分、以二有二上務一與二下之陰根一、爲二男子之姿一、僧家雖レ有二下根一、不レ爲二家嗣之綱一、故、爲二女子之體一」

〔一〕しも-や （名）［下舍］シモノ家。シモザマノ家。宇津保物語、藤原君 十六「西司町、しもやドモ、皆、檜皮ナリ」源、二、帚木 三十八「皆、しもやニオロシ侍リヌルヲ、エヤ、罷リ下リ敢ヘザラン」草根集、四「イヅカカ、ワキテ涼シキ、風通フ、母屋モ下屋モ、同ジ木ノ本」

しも-やかた （名）［下館］次次條ノ語ニ同

[illegible]ノ女[illegible]依化ウマツリテ、還リシニ」

しもやけ (名) [霜焼ノ義] [illegible]寒氣ニ觸レテ、[illegible]ニ觸レ、赤[illegible]、或ハ、紫ヲアラハシ、痒ク、痛ク、甚シキハ、潰[illegible]。手足、耳殻ナドニ、多ク、作ルモノ、[illegible]。シモハレ。凍瘡 瘃 皸瘃 [illegible]

しもやしき (名) 下屋敷 [illegible]ノ苦勞ハ、ナリモセフ」

[illegible]役ヲセシ時、御しも屋敷ノ侍氣質」

しもゆき (名) 霜雪 しもと、ゆきと。(字音ニ、霜雪トモ用ヰル) 拾遺集、八、七「霜[illegible]」[illegible]ウツブシ染メノ、麻ノケサナリ」

しもよ (名) 霜夜 霜ノ降リテ、寒キ夜。[illegible]新古今集、五、秋、下「キリギリス、鳴クヤ霜夜ノ、サムシロニ、[illegible]」

しもよけ (名) 霜除 草木ノ、霜ニ傷メラレヌ為ニ、覆フ[illegible]

しもわらは (名) [下童] 下ザマノ事ニ使ハルル童。[illegible]「[illegible]」わらはノ、誰コノ頃、常相ガ里ニ出テマウデキテ」

しもをとこ (名) [下男] シモベ。下人。[illegible]ヲハヤシケレバ」浮世風呂(文化、三篇)初編、上

「洗髪ノ袋ハ、ブンブント引ヒテ、下男ノ髪ヲ浮チ」

しもをなご (名) [下女子] 次條ノ(二)ニ同ジ。[illegible]ニ、此奴ラ、憎レシ奴ヤ、下女子」

しもをんな (名) [下女] (一)身分ノ卑シキ女官。枕草子、三、廿八段、似げなきもの「主殿司コソ、猶ヲカシキ物ニハアレ、しも女ノ際ハ、サバカリ羨シキ物ハ無シ、ヨキ人ニ、セサセマホシキワザナリ」(二)ハシタメ。ミヅシメ。下婢。下女 [illegible]ヲ、下女ノ中ニ語リテ」[illegible]

しもをれ (名) [霜折] シモドケ [illegible]一、冬の雨「今日ハ又、山ノ朝ケノ、霜をれニ、空カキ曇リ、猶ハ降リツツ」

しや (名) [社] ヤシロ。神社。祠 [illegible]

しや (名) [社] (一)一事業ノ為ニ、數人、仲間ヲナスモノ。組合。正字通「團結共事者、曰社」類要詩「十八結交健兒社」(二)臺灣ニテ、最下級ノ行政區劃ノ稱。

しや (名) [赦] (一)罪ヲ赦シテ、問ハザルコト。赦罪 [illegible] (二)昔時、朝廷ニ、御慶事、亦、凶事、等ノアリシ時、罪人ノ罪ヲ限リテ、赦シタマフコト。是レ、常赦ナリ、常赦ヨリ一段重キ罪ヲ赦スヲ、大赦ト云フ、天下一般ナリ、非常大赦ト云フハ、罪人、[illegible]赦ス、又、其國、其所ニ限ル赦ヲ、曲赦ト云フ。[illegible] (三)現今ハ、刑ノ言渡シヲ受ケタル者ニ對シ、其言渡シノ效力ヲ、將來ニ向ヒテ消滅セシムルヲ、大赦ト云ヒ、各個ノ人ニ對シテ、將

來ノ刑ノ執行ヲ免除スルヲ、特赦ト云ヒ、六年ノ懲役ヲ、五年ニ減ズルガ如キヲ、減刑ト云ヒ、刑ノ言渡シニ因リテ、資格ヲ失ヒ、又ハ、停止セラレタルヲ、將來ニ於イテ回復スルヲ、復權ト云ヒ、以上ノ四ツヲ合シテ、恩赦ト云フ。

しや (名) [射] 六藝ノ一、弓、射ル術。弓術、射藝。[illegible]

しや (名) [舎] (一)ヤド。寓居。宿舍。旅舍 [illegible] (二)軍隊ノ、一宿スルコト。一夜ドマリ。左傳、[illegible]

しや (名) [斜] ナナメ。傾斜。「斜ニ構フ」

しや (名) [紗] 生絹ノ織物ノ名、織目、疎ニシテ、甚ダ粗ク、薄シ、帷、又ハ、夏ノ羽織ナドトス。ウスギヌ。ウスハタ。[illegible]

しや (名) [者] それしや(其者)ノ(二)ノ略。[illegible]

しや (名) [子夜] 子ノ時。夜、九ツ時、午後、十二時。呂温詩「涼生子夜後」

しや (感) 「しやつ」ト云フ代名詞ノ約ナラム、其條ヲ見ヨ」賤シメ嘲ルニ云フ語 [illegible]

廿八、第一語「しやツラハ猿ノ様ニテ、心ハ販婦ニテ有レバ」[illegible]「しや、口裂イテ、縛メヨ」

じや (名) [邪] (一)ココロマナツコト、邪曲。正ノ反。左傳、[illegible]「[illegible]正、邪」(二)人ニ害[illegible]。邪氣。[illegible]

じや (名) [蛇] (一)ヲロチ。ウハバミ。蟒蛇。大蛇 [illegible] (二)大酒家ヲ、蛇之助トモ云ヒ、略シテ、蛇トモ云フ。淀鯉出世瀧徳(寶永、近松作)上「[illegible]」[illegible]似テモ、蛇ノ子孫」

じや (名) [麝] 獸ノ名。大キサ、小狗ノ如ク、形、鹿ニ似テ、角ナク、體色、黑ク、腹部ニ、鶏卵大ノ塊狀皮腺アリ、之レヲ、麝香ト云フ。麝香鹿。明心寶鑑「有麝自然香、何必當風立」

しや (名) 時夜 鶏ノ、夜間、時刻ヲ告グルコト。[illegible]

じやあく (名) [邪惡] 邪ニシテ、アシキコト。又、其モノ。易經、乾卦、疏「防閑邪惡[illegible]」

しやあしやあ (副) 水ヲ灑ギカクル音ニ云フ語。蛙の面に、水をしやあしやあかけるト云フハ、平氣ノ狀ヲ云フ意。

しやあしやあ (副) [洒洒] 厚カマシクシテ、恥ヲ思ハザルニ云フ語。「イケしやあしやあトシテ、[illegible]」

じやあじやあ ( ) 多量ニ、水ヲ灑ギカクル音ニ云フ語。

ジヤアナル (名) 〔英語、Journal.〕 日刊、又ハ、定期刊行物。新聞雜誌。

しやい (名) 【謝意】 (一)御禮ヲスル心。(二)ワビヲスル心。謝罪ノ意志。

しやいう (名) 【社友】 同社ノ友人。トモダチ。ナカマ。同人。社員。蘇軾詩「寄レ語竹林社友、同レ書桂籍天倫」

しやいう (名) 【赦宥】 罪ヲ免スコト。赦免。左傳、襄公十一年「苟有ニ以藉レ手、鮮レ不ニ赦宥一」

じやいん (名) 【邪淫】 (一)ヨコシマニシテ、禮ヲ缺クコト。史記、夏紀「百吏肅謹、毋レ敢ニ邪淫奇謀一」 (二)佛敎ノ五戒ノ一、淫ルルコト。謡曲、紅葉狩「邪淫、妄語モ、諸共ニ、亂レ心ノ花カヅラ」

しやう (名) 【上】 ウヘ。ウヘサマ。オカミ。天子ヲ指シテ、呼ビ奉ル語。ジヤウ。(漢文ノ上ニテ) 台記、別記、五、久安六年正月廿三日「上渡ニ御女御直一」

しやう (名) 【正】 (一)タダシキコト。マコトナルコト。飾氣ナキコト。浮世風呂(文化、三馬)二編、下「ソノ中ニアル、姑婆ノ口マネハ、アノ婆ニ正ダヨ」「正ノ物」正デ見スル」 (二)諸司ノ長官。(司ノ條ヲ見ヨ) (三)位ノ等級ニ添フル語。(くらゐノ條ノ(一)ヲ見ヨ)但シ、神ノ位ニハ、濁リテ、じやうト讀ミ、人ノ位ニハ、清ミテ、しやうト讀ムヲ、習ヒトスト云フ。「正一位」正二位」

しやう (名) 【鉦】 (一)鉦鼓ニ同ジ。(二)タタキガネ。(三)チヤンギリ。

しやう (名) 【症】 「症ハ證ノ俗字、今、病証ノ合字トシテ用キル」 病ノ性。病氣ノ成立、病性 温疫論「此症、下與レ不レ下、皆死」「眞症」疑似症」

しやう (名) 【生】 (一)生キテ居ルコト。イノチ。榮花物語、十五、疑「一切、世間ニ生アルモノハ、皆、死ス」 (二)イキウツシ。ソノママニテアルコト。文化ノ川柳「親ニ生ダト、羅漢カラ、ホメルナリ」(芝居棧敷ノ羅漢臺ヨリ、二代目カ、三代目カノ千兩役者ヲ) 讀道遁鑑(享保、增穗殘口)花見群集「覗カラクリヲ、びいどろ無シニ、大津繪ヲ、生デ見ル景色」

しやう (名) 【性】 (一)人ノ、ウマレツキ。性質。性分。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「しやうガ、入毀ダニ、ノ、店者アガリダカラ、女、珍ラシイノヨ」「性ガ合ハヌ」 (二)陰陽家ノ語、人ノ生レタル年ノ支干ノ五行ヲ、其人ノ生得トシ、相生、相剋ノ理ヲ說キテ、人ト人トノ間ノ遇、不遇、又ハ、吉、凶、ナド、定ムルコト。(五行ノ條、見合ハスベシ) 主命 「金性」水性」 (三)物ノ、自然ノ成立。タチ 性合。質 「銀ノ性」纖切ノ性」 (四)タマシヒ。性根。精神 曾我物語、十、鬼王道三郎歸ニ曾我ニ事「馬モ、しやうアルモノナレバ」「性ガナイ」性ガツク」性ヲ失フ」

しやう (名) 【姓】 せい(姓)ニ同ジ。枕草子、十一、百四十五段「平ナド云ヘド、唯、モトノしやうヲ、若キ人人、言種ニテ笑フ」

しやう (名) 【笙】 又、サウノフエ。シヤウノフエ。さう。雅樂ニ用キル樂器ノ名、匏ヲ切リテ、上ニ、十七ノ管ヲ環ニ立テ並べ、管毎ニ、簧(其條ヲ見ヨ)アリ、律ヲ異ニス、匏ヲ、つぼ、又ハ、かしらトモ云ヒ、今ハ、桐ニテ製シテ、塗ル、ココニ孔アリテ、吹キテ、簧ヲ鼓動シテ、音ヲ發ス。詩經、小雅、鹿鳴之什、鹿鳴篇「鼓レ瑟吹レ笙、吹レ笙鼓レ簧」 下學集、下、器財門「笙、シヤウ、女媧造レ之」 名義抄「笙、シヤウノフエ」 倭名抄、四、十四管篇類「笙(音、生、俗、云ニ象乃布江一)竹之母曰レ匏(俗、云ニ豆保一)以レ瓢爲レ之、橫施ニ於管頭一曰レ簧(俗、云ニ之太一)以ニ竹鐵一作レ之」 枕草子、四、四十三段「淸政ノ君ノサウノ琴、行成ノ笛、經房少將ノさうのふえナド、イトオモシロウ、一ワタリ管絃ビテ」

しやう (名) 【莊・庄】 (一)又、莊。莊園。莊園。中世、朝廷ヨリ、國國ノ田園ヲ、褒賞ナドニ、皇子、諸臣、等ニ賜ハリシモノ。サレド、後ニハ、私ニ開墾シ、或ハ、他ヲ兼幷シ、強奪セルモ、多シ。タドコロ。別業ノ地。源、十二、須磨「領ジ給フ御さう、御牧ヨリ始メテ、サルベキ所所ノ券ナド、皆、奉リオキタマフ」 同、五十、浮舟八二十「時方ガ小父ノ因幡守ナルガ、領ズルさうニ、ハカナウ造リタル家ナリケリ」 (二)後ニハ、其主、無クナリテモ、名ノミ殘リテ、一村、數村ノ稱トナリ、鄉ト、並べ云ヘリ。

しやう (名) 【相】 支那ノ官名、執政ノ大臣ノ稱。宰相。三公ノ總稱。禮記、月令篇「命レ相、布レ德和レ令」 後漢書、虞詡傳「諺曰、關西出レ將、關東出レ相」

しやう (名) 【將】 (一)スベテ、一軍ヲ率キル職。軍勢ノ長。將帥。史記、朝鮮傳「困辱亡レ卒、卒皆恐、將心慙」 (二)古ヘノ近衛府ノ官名。大將、中將、少將、ニ分ル、今ノ陸海軍ニモ、アリ、各條ニ注ス。

しやう (名) 【商】 (一)アキビト。アキンド。商賈。國語、齊語「處ニ士農工商一若何」 (二)五音ノ一、しふにりつ(十二律)ノ條ヲ見ヨ。史記、樂書「宮爲レ君、商爲レ臣」 (三)數學ノ語、一ノ數ヲ、他ノ數ニテ割リテ、得タル數。割算ノ答。

しやう (名) 【省】 (一)官府ノ稱、支那ニテ漢以後、中書省、尚書省ナドアリ、我國ノ古制ニハ、中務、式部、治部、民部、兵部、刑部、大藏、宮內、ノ八アリ、之レヲ、八省ト云フ、上ハ、太政官ニ屬キ、下ニハ、寮、司、ヲ統ブ、其四等ノ官ヲ、卿、大輔、少輔、丞、錄、トス。今ノ制ハ、宮內、外務、內務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農林、商工、遞信、鐵道、拓務、ノ十三トス。(二)支那ニテ、今、地方ノ行政區劃ノ一。「山東省」陝西省」

しやう (名) 【賞】 ホムルコト。褒メテ、物ヲ賜ハルコト。褒美。書經、仲虺之誥「功懋懋レ賞」「軍功ノ賞トシテ、賜フ」「以レ功行レ賞」

しやう (名) 【章】 (一)文章、又、詩歌。文藻。魏書、文帝紀、評「下レ筆成レ章」 (二)文書ノ中ノ、大段落ノ稱。論衡(王充)「文字有レ意、以立レ句、句有レ數、以連レ章、章有レ體、以成レ篇」 (三)古ヘ、支那ニテ、天子ニ上表スル、文體ノ一。文體明辯(明、徐師曾)「劉勰云、章、明也、古人言レ事、皆稱ニ上書一、云云、乃有ニ四品一、其一曰、章、用以謝レ恩、及レ考ニ後漢論諫慶賀、間亦稱レ章、豈其流之寖廣歟、自レ唐而後、此制遂亡」 (四)掟。法則。法規。國語、周語「將レ以講レ事成レ章」

しやう (名) 【章】 (一)イロドリ。モヤウ。文采。文章。カザリ。文飾。書經、皐陶謨篇「五服五章哉」 (二)詩經、小雅、北山之什、裳裳者華篇「裳裳者華、芸其黃矣、我覯ニ之子一、維其有レ章矣」

しやう (名) 【象】 (一)カタチ。アリサマ。形象。莊子、齊物論篇「凡有ニ貌、象、聲、色一者、皆物也」 (二)易ノ上ニ現ハレタル、カタチ。易經、小過卦、下彖傳「剛失レ位而不レ中、是以不レ可ニ大事一也、有ニ飛鳥之象一焉」

しやう (名) 【聲】 假名ノ濁點。韻ノ條ヲ

見ヨ。 細川幽齋ノ伊勢物語闕疑抄「天福(四條天皇ノ年號)[illegible]」

しやう (名) 殤 成人セズシテ、死スルコト。十九歳以下ナルヲ云フ。七歳以下ナルヲ、無服殤ト云フ。ハヤジニ。夭死。天折。 儀禮、喪服篇「年十九至十六爲長殤、十五至十二爲中殤、十一至八歳爲下殤」

しやう (名) 觴 サカヅキ。酒杯。酒卮。 左傳、成公、[illegible] 同、昭公廿三年「[illegible]曲沃人」

じやう (名) 史生 しやう(史生)ニ同ジ。 倭名抄、五「職名、史生、俗[illegible]如讀」

しやう (名) 仕様 物事ヲ爲ル手段(テダテ)。仕法。方法。手段。 [illegible]「[illegible]本社、何トシタナラバ、二本ヅツ持タレウゾ、ヤア、思ヒ出シタ、しやうガアルゾ、身共次第ニシヤレ」

しやう (名) 廝養 [illegible]「廝、炊烹爲レ養」 軍中ニテ、薪ヲ採リ、又、賄(マカナヒ)ナドヲスルコト。又、其人。コモノ。炊夫。史記、陳餘傳、[illegible]

しやう (名) 飼養 生物ヲ、飼フコト。 [illegible]

じやう (名) 上 天子ヲ呼ビ奉ル語。清ミテ讀ムしやう(上)ニ同ジ。獨斷(漢、蔡邕)「上者、尊位所在也、[illegible]」

じやう (名) 上 (一)カミ。ウヘ。第一ニ、勝リタルコト。「上ノ品」上、中、下」外見

「上[illegible]」(二)上聲(聲ノ條ヲ見ヨ)

じやう (名) 正 しやう(正)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

じやう (名) 狀 (一)アリサマ。ヤウス。狀況。 史記、孔子世家「[illegible]」 (二)事狀ヲ記シテ、上ツル文書。上申書。 文選[illegible] (三)情シテ、手紙。(書狀ノ略) 書翰。 [illegible]

じやう (名) 情 (一)喜ビ、怒リ、哀シミ、樂シム、ナド、人ノ心ニ觸レテ起ル、スベテノ感動。 禮記、禮運篇「何謂人情、喜怒哀懼愛惡欲、七者弗學而能」 史記、屈原傳「[illegible]」 (二)情愛ニナサケ。情意。 [illegible]「情ガアル」情ガ深イ」 (三)事ノ、マコト。マゴコロ。眞情。至情。誠意。 大學「[illegible]不得盡其辭」 論語、子路「上好信、則民莫敢不用情」 (四)事情。眞相。 [illegible]「情ヲ切リテ、[illegible]」

情がはい 情を張ルト云フハ、強情ナリ。偏意地(カタイヂ)ヲオコス。剛愎 執拗

じやう (名) 城 キ。シロ。(多ク、熟語ニ用キル) 呂氏春秋「夏鯀作レ城」 承久軍物語「じやうノ中ハ、小勢ナリケレバ、防ギ戰フニ、利ヲ失ヒ」「城中」城内」城外」江戸城」

じやう (名) 鎖 〔鎖(サウ)ノ音ノ轉、鎖ハ、鎖ノ俗體トアリ、今、又、當字ニ、錠ノ字ヲモ用キル〕 門戸、筵、櫃、ナドニ付ケテ、差シ固メテ、締リトスル金具ノ名、銅鐵製ノ筒アリ、櫃(ヒツ)ト云フ、(鎖管 鎖筒)別ニ、彈機(バネ)アルモノアリテ、筒ニ插(サ)セバ、中ニテ弘ガリテ、脱(ヌ)ケズ、コレヲ、じやうノ

はねト云フ。(鍵 鎖鑰 鎖須)又、別ニ、匙ノ如キモノアリ、筒ノ小孔ヨリ入レテ、はねニ引キ懸ケテ、拔ク、鑰(ギ)、コレナリ。其他、えびじやうナド、種種ノ製ノモノモ、アリ。倭名抄、十二ニ、鑰子、鐵乃賀岐(カギ)トアリ、蓋シ、古ク、かぎト云ヘルハ、即チ、鎖ニテ、鎖筒、鎖須ノ總名ナリシニ、後ニ專ラ、解クモノ(鑰)ノ名トナレルナラム、萬葉集、十六(五十二)ニ、家爾有之(イヘニアリシ)、櫃爾鏁刺(ヒツニザウサシ)、藏而師(ヲサメテシ)トアリ、鏁、或ハ、かぎト訓ムベシ。 儀式帳、[illegible]宇、[illegible]具、戸具、鎖一勾」 下學集、下、器財門「鎖子、閉戸物也」 撮壤抄、中「鎖(鑰、[illegible]、同字、鎖子、和名、門戸具)」 台記、久安六年「自得鎖、可以閉此倉」 山槐記、治承四年「金不[illegible]御堂鎖二合、一合無レ鎖、一合有レ鎖」 源、廿、朝顏「コボコボト引キテ、じやうノ、イタク錆ビニケレバ、明カズト憂フルヲ」 落窪物語、二「帳、戸ノ扉ニ[illegible]ル部屋、云云、手ヅカラ、ツイ閉(サ)シテ、じやうヲ強ク刺シテ去ヌ」 宇治拾遺、六、第九條「戸ニ、じやうヲ強ク刺セリ、云云、じやうヲサシ、築地ヲ高ク築キタル」 著聞集、十六、興言利口「何トナク、ロズサミニ、鏁預カルモ、じやうノ大事ヤ、ト云ハレタリケルヲ」

じやう (名) 孃 〔阿母(アボ)ノ條ヲ見ヨ〕 母(ハハ)ト云フニ同ジ。近年、西洋婦人ノ名ニ、何某(ナニガシ)孃ト添ヘテ、敬稱トス。

じやう (接尾) 常 布帛ヲ數フル語。 字類抄「常、ジャウ、端布員之由、見弘仁格」

じやう (名) 滋養 飲食ノ物ノ、身體ナドニ、養ヒトナルコト。又、其物。營養。 葛長庚、[illegible]序「以佛照[illegible]而滋養其根脚以[illegible]」

じやう (名) 時様 ハヤリノ、カタ。今様(イマヤウ)。 [illegible]

じやうあい (名) 情愛 ナサケ。イツクシミ。 李華[illegible]「尚[illegible]情愛深[illegible]」「親ナノ情[illegible]」

しやうあく (名) 掌握 掌中(タナゴコロ)ニ、握ルコト。我ガ物トシタルコト。 史記、韓信傳「且漢王不可必、身居項王掌握中數矣」 漢書、張敞傳「海內之命、斷於掌握」「政權、掌握ノ中ニアリ」

しやうあひ (名) 性合 性ノ狀(サマ)。物ノタチ。質。「鍛ノ性あひ」

しやうい (名) 傷痍 キズ。創痍。 史記、[illegible]「哭泣之聲未レ絶、傷痍者未レ起」

じやうい (名) 上意 (一)朝廷ノ趣意。「上意、下達ス」 (二)君主ノ心。 漢書、元帝紀「人人自以得上意」 曾我物語、四、小次郎不語得事「唯、上意ヲ重クシテ、肩ヲ並ベ、膝ヲ組ム次第」「上意ニ因リテ」上意ノ趣キ」

じやうい (名) 情意 (一)情ト、意ト。感情ト、意志ト。「情意投合」 (二)ココロ。意。 吳均詩「何言歲月忽若馳、君之情意與我離」

じやうい (名) 攘夷 〔攘、卻也、除也〕 侵シ來ル夷狄(エビス)等ヲ、攘(ハラ)ヒ退クルコト。「尊王攘夷」

じやうい (名) 浄衣 浄衣(ジャウエ)ニ同ジ。

しやういう (名) 尚友 〔尚ハ、上ノ意〕 書ヲ讀ミテ、古人ヲ友トスルコト。 孟子、萬章、下篇「以友天下之善士爲未足、又尚論古之人、頌其詩、讀其書、不知其人可乎、是以論其世也、是尚友也」

じやういふ (名) 城邑 〔城市、都邑ノ略〕 人家ノ、多クアル地。都會ノ地。城下。 史記、主父偃傳「使[illegible]城邑、深入匈奴、燔其籠城」

しやう-いん (名) 【請印】 少納言ノ、奏上シテ、太政官ニ、官印ノ押捺ヲ請フコト。內記式「少納言、中務輔、內記、主鈴等、請印、封」函發遣」

しやう-うつし (名) 【生寫】 イキウツシ。寫生。

しやう-うん (名) 【昌運】 サカンナル、メグリアハセ。盛運。隆運。岑文本詩「時雍表ニ昌運ニ、日正叶ニ靈符ニ」

しやう-うん (名) 【祥雲】 メデタキ雲。瑞雲。景雲。庾信、宇文公碑「祥雲入レ境、行雨隨レ軒」

じやう-うんぶし (名) 【淨雲節】 おほざつまぶし(大薩摩節)ニ同ジ。

じやう-え (名) 【淨衣】 白キ狩衣ノ稱、製作、着樣、スベテ、狩衣ニ同ジ。古ヘハ、白布製(白張)ニテ、庶人ノ禮服ナリキ、後ニハ、平絹ナドニテモ、製ス、多ク、神事ニ用キル。名目抄「淨衣、神事時、多用レ之」義經記、四、土佐房上ニ義經討手ニ事「白布ヲ以テじやうゑヲ拵ヘテ、烏帽子ニ垂ヲ付ケサセ」 後松日記、一、淨衣「上皇、將軍已下、下賤之神官モ、被ニ着用ニ候事、白布粉張如ニ狩衣ニ、今少シ短ニ裁縫致シ、宜候、肩一寸、縫コシ、鰭袖ハ、奥袖ヨリ一寸オトシ、袖括、コメククリ、白生ノ絲、丸組、袴、上ニ同ジ、常ノ狩袴ノ如ク裁チ縫ベシ、六幅ニテ、裾括ナリ」

しやう-えい (名) 【觴詠】 〔觴ハ酒ノ實チテアル杯〕酒ヲ飲ミ、詩ヲ詠ズルコト。白居易詩「觴詠罷來賓閤閉」

しやう-えき (名) 【瘴疫】 瘴氣ニ觸レテ發スル熱病。唐書、良吏傳「廣州包ニ帶山海ニ、珍異所レ出、一篋之寶、可レ資ニ數世ニ、然多ニ瘴疫ニ、人情憚悪」

じやう-えつ (名) 【上謁】 (一)長者ニ、面謁スルコト。(二)人ニ、姓名ヲ通ズルコト。刺ヲ通ズルコト。史記、張儀傳「之レ趙上謁」

しやう-えん (名) 【瘴烟】 瘴氣ノアル霧。元稹詩「我隨巴蜒瘴烟中」

しやう-えんじ (名) 【生臙脂】 (一)染料ノ名、支那ヨリ舶來ス、はなもつやくノ汁ニテ、綿ニ染メテ、渡ス、綿、薄ク圓クシテ、徑、七八寸、乃至、三四寸、皆、紫紅色ナリ、湯ニ浸シテ、汁ヲ絞リ、又、湯煎ニシテ、煎ジ乾カシ、色ヲ濃クシテ、用キル、下品ナルハ、黑ミアリ。胡臙脂 綿臙脂 (二)草ノ名。あかひゆノ一名。

しやう-か (名) 【上下】 じやうげ(上下)ニ同ジ。書經、周官篇「治ニ神人ニ、和ニ上下ニ」「貴賤上下」

しやう-か (名) 【商家】 アキウドヤ。アキンドミセ。商鋪。「商家、軒ヲ連ヌ」

しやう-か (名) 【唱歌】 今、學校ノ課業トシテ教ヘ歌ハシムル歌、西洋樂器、或ハ、箏ナドニ合ハス。

しやう-が (名) 【唱歌】 又、さうが。樂ニ合ハセテ、歌ヲ唱フコト。狹衣、三、上廿「二返リバカリ彈キ給フニ、イトワリナキ聲ヲ、オトシアゲ、しやうがスルニ」 新犬筑波集(貞德)「只歎レ、葱ヒヤ汁ノ、佉羅陀仙、琴ノしやうがデ、遊ブ夏ノ日」 源、廿、少女廿九「秋風樂ニ搔キアハセテ、さうがシタマヘル聲、イト面白ケレバ」

しやう-が (名) 【生薑 生姜】 〔生ト云フハ、乾薑ニ對スルナラム、がハ、薑、姜、ノ呉音、かうノ約ト云フ〕 (一)古名、クレノハジカミ。或ハ、アナハジカミ。又、ツチハジカミ。後ニハ、單ニ、ハジカミ。(はじかみノ條ヲ見ヨ)菜蔬ノ名、舊根ヲ貯ヘテ、春ノ末ニ植ウ、莖、高サ一尺許、葉ハ、竹、又ハ、めうがニ似テ、互生ス、夏ノ末、新根ヲ生ズ、横ニ連リテ、列指ノ如ク、皆、莖ヲ出ス、根ハ、白ク、莖ノ本ハ、赤シ、根、霜後ニ老熟シテ、味、辛シ、藥用トシ、又、食用トシテ、味ヲ助ク。薑 饅頭屋本節用集「生姜」 (二)獺病ニテ、指ノ、墮チタルモノノ、其形ノ、似タルヨリ呼ブ稱。しやうがで。狂言記、すねはじかみ「ソチラノ手ハ、しやうがデハ無イカ」 (三)吝嗇ノ人ヲ稱スル語。(握ル形ヨリ云フ) 浮世風呂(文化、三馬)三編、下「生姜ノ癖ニ、金ピラナ柄ヲ云フシ」

じやう-か (名) 【城下】 (一)城ノシタ。城ノ外。左傳、襄公八年「寡君將下帥ニ諸侯ニ以見中于城下上」「城下ノ盟」 (二)大名ノ居城ノ邊ニアル市街。城市。松隣夜話「稱ニ長門ト云フ者ヲ、前橋ノ城下、幡屋ト云フ處ニ、指シ遣ハシ」

じやう-か (名) 【情歌】 戀情ヲ詠ミタル歌。戀歌。情詩。

じやう-が (名) 【嫦娥】 〔嫦ハ正音こう、じやうハ慣用音〕 後漢書、天文志「嫦娥、羿妻、竊ニ羿不死藥ニ奔レ月」 月ノ異名。

しやう-かい (名) 【詳解】 書中ノ文義ナド、詳ニ解キ記セルモノ。(略解ナドニ對ス)

しやう-がい (名) 【生涯】 〔莊子、養生主篇「吾、生也有レ涯、而知也無レ涯」〕 人ノ、世ニ生キテアル間。生キテ居ル、カギリ。終生。一期。終身 畢生 沈炯詩「生涯本漫漫、神理暫超超」 太平記、廿二、畑六郎左衞門事「生涯、山野、江海ノ獵漁ヲ、業トシテ」

しやう-がい (名) 【生害】 自ラ、咽突キ、腹切リ、ナドシテ、死ヌルコト。自害。自刃 謠曲、望月「其ガ手ニカケ、生害サセテ候」

しやう-がい (名) 【傷害】 疵ツケ、ソコナフコト。「傷害罪」

しやう-がい (名) 【障礙】 ササヘ、フセグコト。サハリ。ササハリ。サマタゲ。邪魔。障礙。白居易詩「但覺虛空無ニ障礙ニ、不レ知高下幾由旬」「障礙物」

しやう-が-いち (名) 【生薑市 生姜市】 しやうがまつり(生薑祭)ニ同ジ。萬紫千紅(蜀山人)遊ニ生薑市ニ「秋風吹送薑生姜、盡出藤花千木箱、日腐市名無ニ勿體ニ、雨晴天照太神光」 名物鹿子(享保、鷗島露月)上、題ニ神明市ニ「神風ハ、吹クトモワカジ、生姜市」

しやう-かう (名) 【將校】 (一)士卒ヲ率キテ、指揮スル者。魏書、太祖紀「班ニ賞大臣將校ニ、各有レ差」 (二)陸海軍ノ、少尉以上ノ武官ノ總稱。

しやう-かう (名) 【庠校】 〔庠ハ、養ナリ、孟子、滕文公、上篇「夏曰レ校、殷曰レ序、周曰レ庠」〕 がくかう(學校)ニ同ジ。梁武帝、建ニ學詔「宜下大啓ニ庠校ニ、博延ニ胄子ニ、務彼十倫ニ、弘中此三德上」

しやう-かう (名) 【唱考】 〔唱示、考第ノ略〕 王朝時代、考課ニヨリテ、遷敍ノ次序ヲ定メラレタル人ヲ、其所屬ノ官省ニ導キ、唱ヘ示スコト。引唱。續紀、八、養老五年十月「太政官處分、唱考之日、三位稱レ卿、四位稱レ姓、五位先レ名後レ姓、自今以來、永爲ニ恆例ニ」

じやう-かう (名) 【情交】 殊ニ親シキ、マジ

ハ[illegible]又、男女ノナジミ[illegible]

[illegible]

しやうかう (名) [情好] 交情ノ親シミ深キコト[illegible]

しやうかう (名) [上綱] 僧綱ノ上席[illegible]

[illegible]ニ同ジ」

しやうかう (名) [床香] [illegible]フトドメ、所領ヲ沒收セラル、上綱サヘ、カクナレハ[illegible]

じやうかう (名) [常香] 絶エズ、佛前ニ供フル香。不斷香。

しやうかう (名) [城壕] 城ノ周圍ノホリ。城隍。[illegible]

しやうかうばん (名) [常香盤] 常香ヲ焚クニ用ヰル香爐。形、多クハ、方ニシテ、灰ニ、絲ノ如キ溝ヲ作リ、末香ヲ盛リ、端ヨリ火ヲ點ズ、燃エテ久シク絶エズ

しやうかく (名) [商推] [商ハ、量ル、推ハ、引ク、共ニ引キ比ベテナダメスル] ハカリ定ムルコト。ハカリ確ムルコト。[illegible]

しやうかく (名) [正覺] 佛語、[illegible]正覺ニテ、悟得シタルコト[illegible]

じやうかく (名) [城郭] 城ノ物見、城櫓[illegible]

しやうがくばう (名) [正覺坊] (一)うみがめニ同ジ。青海龜、海坊主ノ名モアリ、[illegible] (二)大酒家ノ異稱。酒鬼。

しやうがくゐん (名) [獎學院] 平安朝時代、王氏ノ學問所。元慶五年、在原行平ノ創立セシモノ、後、大學寮ノ南曹トセラル。(淳和院ヲ併セ見ヨ) [illegible]五「獎學院、王氏諸生別曹、元慶五年、中納言行平卿、[illegible]所建立也」

しやうがざけ (名) [生薑酒] 酒ニ、生薑ヲ加ヘテ、暖メタルモノ、風邪ヲ驅ルト云フ。心中重井筒(寶永、近松作)上「生薑酒シテ、持チマシヤウ、ソレ、生薑酒シヤ」

じやうかた (名) [城方] 琵琶法師ノ一流ノ一、琵琶法師ノ條ヲ見ヨ (一方ニ對ス)

しやうがで (名) [生薑手] 「薑芽ヲ、斂手トイフ、手指ノ、カジカミ居ル意カ」(一)癩病ヤミノ手。生薑ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。(二)書ノ、ワルキコト。思フヤウニ、物書カレヌコト。[illegible]

しやうかどう (名) [上下動] 地震ノ搖レ方ニ云フ語、ソノ、上下、即チ、縱ニ搖ルルモノノ稱。橫ニ、水平ニ搖ルルヲ、水平動ト云フニ對ス

しやうがな・い (形) [仕樣無] セムカタナシ。「何ウニモ斯ウニモ、しやうがない」

しやうがまつり (名) [生薑祭] [生姜祭] 東京、芝ノ大神宮(神明宮)ノ祭、陰曆九月十一日ヨリ、廿一日マデ、社前ニテ、めっかち生姜トテ、土生薑ヲ商フ、同時ニ、千木筥ヲ賣ル。生薑市 江戸鹿子(貞享)「九月十六日、芝神明祭、[illegible]、しやうが市」

しやうかん (名) [傷寒] 病ノ名、熱病ノ劇クニシテ、重キモノ、陽寒扶寒[illegible]

しやうかん (名) [檣竿] 帆バシラ。帆檣。

しやうかん (名) [賞鑑] 名作ノ書畫、器物ナドノ、賞翫、鑑定、鑑賞[illegible]

しやうかん (名) [相看] 相互ニ、マミエルコト。面會[illegible]

しやうき (名) [正忌] 祥月ノ忌日。[illegible]時代門「正忌、シヤウキ、又云、[illegible]日」[illegible]文龜二年四年十二日「今日、北堂一品正忌也」[illegible]文集、五、和歌「明年ノ正忌ナリシニ、[illegible]アリテ哭セズ、ト云フナル[illegible]思ヒテ」

しやうき (名) [正氣] 精神ヲ、失ハヌコト。心ノ、確ナルコト。本氣。本心。平心 (狂氣、[illegible]ナドニ對ス)

しやうき (名) [祥氣] 瑞祥ノ氣、メデタキ氣。[illegible]

しやうき (名) [瘴氣] 熱病ヲ發スル、山川ノ惡シキ氣。[illegible]、邪氣

しやうき (名) [相器] 宰相ノ器量。宰相タルベキ人物。[illegible]

しやうき (名) [將器] 兵ニ將タル[illegible]將帥タルベキ人物。心書(蜀、諸葛亮)將器篇「將之器、其用大小不同」

しやうぎ (名) [牀几] [床机] 陣中、狩場ナドニテ、一人ニ用ヰル腰掛ノ名[illegible]ヲ打違ヘニシ、軸アリテ、折リ疊ムベク作レルヲ、疊み牀机ナド云フ、尻ノ當ル[illegible]ニ、革ナド、張ル、[illegible]、胡牀、交椅。[illegible](晉、干寶)「巢ニ小屋、施ニ牀几」[illegible]下學集、下、二、器財門「牀机、シヤウギ」[illegible]字書節用集、七、器財門「[illegible]、シヤウギ」[illegible]十、下[illegible]

しやうぎ (名) [將棋] 將棋、象棋、象戲 [illegible]一二人、相、對シテ行フ戲レ、將棋盤ト云フ木ノ盤アリ、面ニ、縱、橫、各、九行ノ線ヲ引キテ、八十一ノ區劃アリ、九區劃中ノ、我ガ方ヨリ三區劃ヲ、我ガ陣處トス、敵方ナルモ、然リ。又、駒(棋子)ト云フ小木片アリ、王將(一)、金將(二)、銀將(二)、飛車(一)、角行(一)、桂馬(二)、香車(二)、歩兵(九)、等ノ名ヲ記シ、雙方、同ジ數ヲ置キテ、用法アリテ、相、鬪ヒ、王將ヲ擒ニシテ、勝ツ、コレヲ行フヲ、差すト云ヒ、擒ニスルヲ、詰むト云フ 又、大將棋、大將棋、中將棋、大大將棋、泰將棋、摩訶將棋、摩訶大大將棋、摩將棋、ナド、アリ。今、傳ハレルハ、小將棋、即チ、和將棋ナリ、外ニ、七國將棋、象棋將棋、飛將棋、挾將棋、ナドノ名アリ [illegible]

しやうぎ (名) [商議] 相談、評議、[illegible]

しやうぎ (名) [娼妓] アソビ、遊女、女郎、倡妓[illegible]

じやうき（ジョウキ） (名) 【上氣】 (一)逆上（ノボセ）。上衝。 孕 盤常(正德、近松作)四「喰ヒックヤラ、抱キックヤラ、顔ハ上氣ノ、濃イ紅葉」 (二)狂氣。

じやうき（ジョウキ） (名) 【上機】 上等ノ機根。(中機、下機ニ對ス) 太平記、廿七、依山門嗷訴公卿僉議事「道學ノ苔ニ、三機アリ、上機ハ、人我無相ナレバ、心ニ懸カルコトモナシ」

じやうき（ジョウキ） (名) 【常軌】 常ニ、行クベキ軌道。不斷、守ルベキ道。 北史、韓麒麟傳「是百王之常軌、爲政之所先」「常軌ヲ逸ス」

じやうき（ジョウキ） (名) 【常規】 ツネノ、ノリ。通常ノ規則。

じやうぎ（ジョウギ） (名) 【情誼】 情愛ノ義理。人情ノ親シミ。「友人ノ情誼」情誼ヲ盡ス」

じやうぎ（ジョウギ） (名) 【情僞】 〔易經、繫辭、疏「情、謂實情、僞、謂虛僞」〕 まことト、いつはりト。又、ウチウチノ情實。 左傳、僖公廿八年「民之情僞、盡知之矣」

しやうぎがしら（ショウギガシラ） (名) 【將棋頭】 中、尖リテ、左右、斜ニ切リ落シタル形、將棋ノ駒ノ頭、此形ナリ。

しやうぎだふし（ショウギダオシ） (名) 【將棋倒】 〔本來ハ、象戲ニテ、戰爭ノ象（カタ）ヲナス戲ノ義、將棋ハ、當字ナリト云フ〕 小兒ノ戲レ、將棋ノ駒ヲ、數箇、一行ニ、少シヅツ間ヲ隔テテ、魚貫ケテ竝ベ立テ、端ノ一ツヲ推シ倒セバ、次第ニ推サレテ、皆、倒ルルヲ見テ、戲ル。 太平記、七、千劔城軍事「大木十バカリ、切テ落シカケタリケル間、象棋だふしヲスル如ク、寄手四五百人、押シニ打タレテ、死ニケリ」 同、廿七、田樂事、田樂ノ棧敷、多ク崩レテ、云云、「田樂ノ、將棋だふしノ、棧敷ハ、王バカリコソ、盆ラザリケリ」 幸若舞曲、和田酒盛「しやうぎだをしヲスル如ク、サンザンニ切テステ」

しやうぎどころ（ショウギドコロ） (名) 【將棊所】 〔碁所モ、アリキ〕 德川幕府ニテ、將棊ヲ学ル所、又、其職、大橋宗桂ヲ家元トス。 寶永三年武鑑「御將棊所」

しやうぎばん（ショウギバン） (名) 【將棋盤】 しやうぎ(將棋)ノ條ヲ見ヨ。 明月記、建仁三年十二月十日「其傍置圍碁、雙六、將騎等盤」

しやうきん（ショウキン） (名) 【正金】 (一)眞（マコト）ノ、金錢。(紙幣（サツ）ニ對ス) 憲法類編、九「正金、又ハ、方今發行ノ正金引換新札」 (二)現金。現生（ゲンナマ）。(目錄ニ對ス)

しやうきん（ショウキン） (名) 【償金】 ツクノヒキン。暗償金。

しやうぎん（ショウギン） (名) 【正銀】 寶永年中、德川幕府ノ、外國ニ與フルタメニ鑄造セシ丁銀。

しやうきやう（ショウキョウ） (名) 【商況】 商業ノ、アリサマ。商界ノ狀況。

じやうきやう（ジョウキョウ） (名) 【狀況情況】 アリサマ。ヤウス。景況。情勢。「四國ノ狀況」

じやうきやう（ジョウキョウ） (名) 【上京】 〔上ハ、番上ヨリ起ルカ〕 京（ミヤコ）へ、上（ノボ）ルコト。上洛。

じやうぎやう（ジョウギョウ） (名) 【淨行】 佛教ノ語、淸淨ノ修行ヲスルコト。 盛衰記、廿六、如無僧都事「淨行持律ニシテ、智慧才覺、身ニ餘リタリ」

しやうきやく（ショウキャク） (名) 【正客】 主タル客。正客（セイカク）。正賓。上客。 茶道早合點、下「上座ノ客ヲ、正客ト云ヒ、末ニ居ル客ヲ、結ビト云フ」

しやうきやく（ショウキャク） (名) 【上客】 數人ノ客ノ中ニ、特ニ、上座（カミクラ）ニ着（ツ）カスル客。上席。上座。上賓。 會我扇八景(寶永、近松作)中「上客ハ、工藤祐經」「茶湯ノ上客」

しやうきやく（ショウキャク） (名) 【償却】 ツクノフコト。返濟。償還。「債務ヲ償却ス」

しやうきやくし（ショウキャクシ） (名) 【請客使掌客使】 王朝時代、大臣ノ大饗ノトキ、尊者ヲ迎フル使、尊者ノ先驅ナドヲモ勤メシモノ。 九暦、天德元年正月五日「左大臣家(藤原實賴)大饗、忠時朝臣爲請客使來、卽參詣」 同書、天曆三年正月十一日「午終、請客使侍從延光朝臣來、卽參向、延光時時前驅、拜禮如常」 台記、仁平二年正月廿六日「於東三條、再行大饗、云云、坐親王座上頭、右兵衞督、新宰相中將、來著弁少納言座、一位中將在殿物所、仰親隆朝臣、令掌客使、云云、巳刻許、掌客使左近中將成雅朝臣來」

しやうぎよ（ショウギョ） (名) 【鯧魚昌魚】 マナガツヲ。

じやうきよ（ジョウキョ） (名) 【常居】 平常、居ルコト。又、其場所。 晉書、天文志「紫微、云云、天子之常居也」

しやうぎゐん（ショウギイン） (名) 【商議員】 或ル事件ヲ商議セシメムタメニ設クル委員。

じやうぎゐん（ジョウギイン） (名) 【常議員】 常ニ設ケテアル評議員。常設議員。臨時ノ議員ニ對ス。

しやうく（ショウク） (名) 【章句】 〔詩經、國風、疏「句者、局也、聯字分疆、所以局言也、章者、明也、總義包體、所以明情也」〕 文章ノ、章ト、句ト。文章ノ段落、句ぎり。 漢書、夏侯勝傳「建所謂章句小儒、破碎大道」

しやうぐ（ショウグ） (名) 【聖供】 佛ヘノ供物。佛供、太平記、十八、比叡山開闢事「三千ノ聖供ドモニ、國土ノ庄園ヲ頓スル事、寄、世雖、多、寶」

じやうぐ（ジョウグ） (名) 【上求】 次次條ノ語ノ略。 謠曲、西行櫻「春ノ花ハ、上求本來ノ梢ニ顯レ、秋ノ月ハ、下化冥暗ノ水ニ宿ル」

しやうぐう（ショウグウ） (名) 【賞遇】 因人ノ、改悛ノ狀アルモノニ、賞トシテ與フル待遇。

じやうぐぼだい（ジョウグボダイ） (名) 【上求菩提】 佛敎ノ語、向上シテ、菩提ノ道ヲ求ムルコト。コレニ對シ、下（シモ）、一切ノ衆生ヲ化益スルヲ、下化衆生（ゲケシュジャウ）ト云フ。 盛衰記、八、法皇三井灌頂事「受戒灌頂ト云フハ、上求菩提、下化衆生ノ秘要ナリ」

しやうくん（ショウクン） (名) 【賞勳】 勳功アルモノヲ、賞スルコト。 後漢書、光武紀「褒德賞勳、親睦九族」「賞勳局」

しやうぐん（ショウグン） (名) 【將軍】 (一)軍ヲ、統ベ率キル職。一軍ノ長。將（シャウ）。大將（タイシャウ）。イクサノキミ。イクサギミ。 事物紀原、周禮、天子六軍、軍萬二千五百人、其將皆命卿、蓋在國稱大夫、在軍稱將軍」 (二)古ヘ、事アリテ、出デ征スル時ニ命ゼラルル官。其制、兵士一萬人以上ナレバ、將軍一人、副將軍二人、軍監二人、軍曹四人、錄事四人ナリ、五千人以上ニハ、副將軍一人、軍監一人、錄事二人ヲ減ジ、四千人以下ニハ、更ニ、軍曹二人ヲ減ズ 大軍ナレバ、將軍ノ上ニ、大將軍一人ヲ置クコトアリ、鎭守府大將軍、征夷大將軍、等ナリ。(軍防令) (三)鎭守府ノ長官（カミ）「鎭守府將軍」 (四)征夷大將軍ノ略。(其條ヲ見ヨ)

しやうくんきよく（ショウクンキョク） (名) 【賞勳局】 內閣ニ屬スル一局、勳位、勳章、記章、褒章、其

他、褒賞ニ關スル事務、及、外國ノ勅章、記章ノ受領、及、佩用ニ關スル事項ヲ掌ル。

しやうぐんけ（名）［將軍家］公家ニ對シテ、幕府ヲ云ヒ、又、征夷大將軍、其人ヲモ云フ。吾妻鏡、三十八、寶治元年八月一日、近例[illegible]將軍家御事、可停止之由、被觸[illegible]、[illegible]將軍家之儀、[illegible]御後見之外者、禁制、云云」

しやうぐんせんげ（句）［將軍宣下］朝廷ヨリ、征夷大將軍ニ任ゼラルル宣旨ヲ下サルル。光圀公記、慶長八年二月十二日「將軍宣下、德川家康、右之、上卿、廣橋大納言、奉行、光廣、[illegible]」

しやうぐんぢざう（名）［將軍地藏］地藏ノ、武裝シタルモノ。

しやうくわ（名）唱和 しやうわ（唱和）ニ同ジ。

しやうくわ（名）［紫陽花］アヂサヰ。

しやうくわい（名）［商會］商社ニ同ジ。

じやうぐわい（名）［城外］シロノソト。城內ニ對ス。史記、田單傳「[illegible]」

しやうくわう（名）［上皇］次次條ノ語ニ同ジ。名目抄「上皇、シャウクヮウ」

しやうくわう（名）［笙簧］笙ノ笛ノ舌。「[illegible]」

じやうくわう（名）［上皇］だじやうくわう（太上皇）ノ條ヲ見ヨ。李白、上皇西巡南京歌「[illegible]」公武大體略記「[illegible]天子御位ヲスベラセ給ヒ、太上天皇ノ尊號マシマシテ、院ノ御所ニ渡ラセ給フヲ、上皇、仙洞ナド申ナリ、又、姑射ノ山、藐姑射山、綠洞ナド申奉ルハ、院ノ御事ナリ」山槐記、治承四年、月廿七日「今日、上皇（高倉）尊號宣下、如[illegible]之例」」神皇正統記、後伏見天皇「正和ノ頃、父ノ上皇（伏見天皇）ノ御譲リニテ、世ヲ知ロシメセ給フ、時ノミカド（花園天皇）ハ、御弟ナレド、御猶子ノ儀ナリトゾ」

じやうくわう（名）［城隍］爾雅、釋詁、注「隍、城池無水者」しろト、ほりト。城ト、城ノ周圍ノカラホリ。城濠。

じやうくわく（名）［城郭］（正韻「內曰城、外曰郭」）シロ。クルワ。禮記、禮運篇「城郭溝池、以爲固」太平記、二、天下怪異事「城郭[illegible]、官[illegible]セザル時ニ」

しやうぐわち（名）［正月］次條ノ語ニ同ジ。枕草子、一、第一段「頃ハ、正月、三月、四五月、七月、八九月、十月、十二月、スベテ、ヲリニツケツツ、一年ナガラ、ヲカシ」

しやうぐわつ（名）［正月］陰曆ニテ、年ノ第一ノ月。異稱ニ、睦月。十三月。陬月。端月。大族。書經、舜典篇「正月上日、受終文祖」[illegible]記、鳥帽子折「明日ハ、正月元日」

しやうくわん（名）［莊官庄官］（一）莊司。（二）莊屋。寶物集、五、大塔御下知「下二御庄官等二」武野燭談、十、備後村（武藏、川越）ト云フ一郷アテ、其里官ヲ、則、備後トゾ申シケル」

しやうくわん（名）［將官］武官ノ、大將、中將、少將、ノ稱。佐官、尉官ニ對ス。

しやうくわん（名）［商館］商家ノ屋敷。（多ク、開港場ノ外國人ノナルニ云フ）

しやうくわん（名）［償還］ツクノヒ、カヘスコト。償却「[illegible]償還ス」」

しやうぐわん（名）［賞翫］（一）モテハヤスコト。愛デ、貴ブコト。晉書、紀瞻傳「園池竹木、有足賞翫者」」盛衰記、[illegible]、尤モ賞翫セラルベキ者、刀劍ノ類ナリ」「古器物ヲ賞翫ス」（二）食ヒテ、味フコト。玩味。伊曾保物語（文祿二年）「身ガ賞翫セウト思切ッテ居タ、其熟柿ヲバ」「珍味ヲ賞翫ス」（三）款待スルコト。優遇。盛衰記、四十一、賴盛關東下向事「關東ニテ賞翫セラレ給ヒケルコト、心モ、詞モ、及ビ難シ」

しやうぐわん（名）［賞翫］貴キコト。身分ノ、ヨキコト。家忠竹馬記「賞翫ノ人ト、サホド無キ人ト、兩人ヘ、一札ニ調ヘテ、狀ヲ遣ハスコトアルベシ、假令、人人御中ト可書ト、進之候ト可書ト、兩人ナラバ、人人御中ト書クベシ、賞翫ノ人ヲ本トスル故也」[illegible]記「連判署大法、一人モ、二人モ、判スルニハ、日ノ下ヲ、下臈トシ、奧次第ニ、賞翫ナリ」庭訓往來、郭本、古注（永祿、天正）「自將軍出狀、三也、御敎書、奉書、內書也、此內、御敎書、賞翫也」

じやうくわん（名）［上官］（下官ニ對ス）等級ノ高キ官人。上役。後漢書、任延傳「吉事上官、無失名譽」」

じやうくわん（名）［上澣上浣］さんくわん（三澣）ノ條ヲ見ヨ。

じやうぐわん（名）［情願］情實ヲ說キテ、請ヒ願フコト。心願。歎願。晉書、劉頌傳「好惡未改、情願未移」顏延之、庭誥「施其情願、庀其衣食」」

じやうぐわん（名）［政官］太政官ノ官人。源、五十、浮舟五十三「彼ノ內記ハ、じやうぐわんナレバ、後レテゾ參レル」枕草子、八、八十三段「上官ナドノ居ル障子ヲ、皆、打通シ損ヒタリ」注「政官也、太政官ノ官人、辨、少納言、外記ナドヲ云フ也」名目抄「政官、ジヤウクヮン」」

しやうくわんぜおん（名）［聖觀世音］六觀音、又、七觀音ノ一、輕穀、瓔珞ノ衣ヲ着ケ、頭ニ无量壽佛ヲ戴キ、瓔珞ヲ垂レ、右手ニ未敷蓮華ヲ持チ、左手ハ大悲施無畏印（開ケル蓮華ノ形）ヲ爲シテ、結跏趺坐スルモノ。主トシテ、餓鬼道ヲ敎化スト云フ。聖觀音。

しやうけ（名）［庄家］莊園ノ領家職ノ居所。後ノ庄屋ノ稱ハ、コレヨリ移ル。東大寺、書、四「大井御庄家等、謹言上」大乘院寺社雜事記、延德二年九月廿日「先度御奉書、安富筑後守元家之遵行、都代高木新左衞門尉方申付之、定使等、庄家ニ罷入」吾妻鏡、六、文治二年七月廿八日「長門國向津奧庄、武士狼藉事、取庄家解狀、被下之、早可令停止狼藉之由、被載之」

しやうげ（名）［生氣］陰陽家ニ、正月ヲ、子トシ、順ニ、十二箇月ニ、十二支ヲ配シ、之レヲ、八卦ノ方位ニ當テテ、其人ノ、其年ニ吉キ方位ヲ云フコト、生氣の方ナド云フ。又、東ハ、青色ナドトシテ、其用ヰルベキ色ヲモ定ム、生氣の色ナド云フ。拾芥抄、下、末、八卦「生氣、養者、福德、此方萬事皆吉」同、同「生氣（一切療治可向方也）正、子、二、丑、三、寅、四、卯、五、辰、六、巳、七、午、八、未、九、申、十、酉、十一、戌、十二、亥」

しやうげ（名）［障礙障碍］しやうがい（障礙）ニ同ジ。法華經「雖諸障碍、於諸法中、任力所能、漸得入道」盛衰記、十八、龍神守三種心事「爲魔王、被障礙テ、所願成就ノ昔アルベカラズ」太平記、一、中宮御產御祈事「何ナル惡魔、怨靈ナリトモ、障礙ヲ難成」

しやうげ（名）［麞牙］（麞ノ牙ハ、弱シ、脆キ米ニ云フ）米ノ異名。白米。盛衰記、

十八、文覺請水狀天神金事「爲₂旅粮₁所₂奉₁預之錦眼百貫、覺牙百石、付₂使者₁可₂申請₁候」吾妻鏡、六、文治二年正月「上錦三百疋、國絹五百疋、覺牙等」同、十三、建久四年三月「御布施、口別布二端、藍摺一端、覺牙一袋也」

じやう-げ（ジヨウ・ゲ）（名）【上下】（一）かみト、しもト。うへト、したト。保元物語、一「宮軍方方手分事「上下二十餘人、都ヘ打ッテゾ上リケル」（二）のぼるト、くだるト。アガリ、オリ。狂言記、文相撲「汝ハ、上下ノ海道ヘ往テ、良ササウナ者ガ來タラバ、抱ヘテ來イ」（三）往きト、復りト。往復（片路ト云フニ對ス、舟子、昇夫ナドノ語）（四）裃。「麻上下」

しやう-けい（シヨウ・ケイ）（名）【上卿】（一）古ヘ、禁中ニ、某ノ公事アルトキ、大臣、大、中納言、等、臨時ニ、其奉行ト定メラレシ、上席ノ者ノ稱。一ノ上卿。千載集、十六、雜、上「右大將兼長、春日ノ祭ノ上卿ニ立チ侍リケルトモニ」（二）何官ニテモ、其日ノ議事ノ首座トナル名目。又、其評議員ノ上席ノ者ノ稱。

しやう-けい（シヨウ・ケイ）（名）【象形】（一）物ノ、カタチ。物ノアリサマ。形象（二）物ノカタチヲ、カタドルコト　周禮、地官註「六書」註「象形、會意、轉注、指事、假借、諧聲也」「象形文字」

しやう-けい（シヨウ・ケイ）（名）【祥慶】メデタキコト。ヨロコビゴト。宋史、度宗紀「自₂是祥慶寖臻、皆兆」

じやう-けい（ジヨウ・ケイ）（名）【上計】コヨ無キハカリゴト。最上ノ計策。上策　戰國策、齊策「適足₂以、強而自弱₁也、非₂山東之上計₁也」

じやう-けい（ジヨウ・ケイ）（名）【上啓】（一）申シ上グルコト　上書。「啓上」梁昭明太子、疏「苟有₂愚心、願得₂上啓₁」（二）古ヘ、皇太子、及、三后ニ、諸司ヨリ、事ヲ錄シテ、呈上スルコト。

しやう-けい-もんじ（シヨウケイ・モンジ）（名）【象形文字】六書ノ一。物ノ形ニカタドリテ、書シタル文字。例ヘバ、日ノ字ハ⊙、月ノ字ハ☽ノ如キモノ。形象文字。

しやう-げう（シヨウ・ギヨウ）（名）【聖教】（一）ヒジリノヲシヘ。佛陀ノ教ヲ云フ。（二）佛陀ノ教ノ書。佛經。盛衰記、十、賴豪爲₂鼠事「大鼠トナリ、谷谷、坊坊、充チ滿チテ、聖教ヲゾ齧リ食ヒケル」同、四十六、義經始終有樣事「僧ハ、聖教ヲ習學シ、書籍ヲ傳ヘ習ヒタルゾ、サル樣ニ良ケレ」

しやう-げ-じん（名）【障礙神】三寶荒神（サンボウクワウジン）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しやう-けつ（シヨウ・ケツ）（名）【猖獗】（一）タケリ、狂フコト。ワルヅヨキコト。字彙「猖獗、猖狂也」（二）カタムキ、クツガヘルコト。三國志、蜀志、諸葛亮傳「智術淺短、遂用猖獗」

しやう-げ-の-いろ（シヨウゲ・ノ・イロ）（名）【生氣色】しやうげ（生氣）ノ條ヲ見ヨ。公事根源、上、正月一日供₂御藥₁「主上、晝御座ニ出御ナリテ、生氣の色ノ御衣ヲ、ヨノツネノ御直衣ノ上ニ、襲ネ召サル」江家次第、一、正月「長久二年正月二日、有₂節分₁依₂陰陽寮勘文₁藥子衣有₂二色₁元日吉用₂舊年御生氣方色₁、二日以後、用₂今年方色₁」

しやう-げ-の-かた（シヨウゲ・ノ・カタ）（名）【生氣方】しやうげ（生氣）ノ條ヲ見ヨ。西宮記、正月、上、供₂御藥₁事「主上、起₂晝御座₁入₂自₁夜御殿南方₁、覽₂東戶₁、令₂立給₁」註「塗籠東方戶内也、但、向₂生氣方₁」江家次第、一、供₂立春水₁「當年、封₂御生氣方人家井₁」和漢名數、續編、歲時「生氣方、正月、子、二月、丑、三月、寅、順數至₂十二月、亥₁、使₂甕向₁此方₁注」

しやう-げふ（シヨウ・ギヨウ）（名）【商業】アキナヒノ、ナリハヒ。農業、工業ナドニ對ス。

しやう-けん（シヨウ・ケン）（名）【彰顯】アキラカニ、アラハスコト。又、アキラカニ、アラハルルコト。顯彰。後漢書、王符傳「不₂欲₁彰₂顯其名₁」

しやう-げん（シヨウ・ゲン）（名）【將監】近衞府ノ判官（ジヨウ）。近衞府式「將監、將曹」

しやう-げん（シヨウ・ゲン）（名）【昌言】ヨキ、コトバ。道理ヲ盡セル、コトバ。嘉言。書經、皐陶謨篇「禹拜₂昌言₁曰兪」

じやう-けん（ジヨウ・ケン）（名）【常憲】定マリタル、ノリ。書經、胤征篇「先王克謹₂天戒₁、人臣克有₂常憲₁」

じやう-けん（ジヨウ・ケン）（名）【常見】佛教ノ語、我レ等ハ、現世ニハ、死スレドモ、來世ニハ、復、生キ、相、繼ギテ、滅亡スルコト無シトノ誤謬見解。盛衰記、十、有王俊寬問答事「草露ノ英ナル命ト思ヒナガラ、愚ニ、常見ヲ成シテ、恩念ヲ含ム」

じやう-けん（ジヨウ・ケン）（名）【上件】カミノクダリ。前ニアリシ事柄。前陳。

じやう-げん（ジヨウ・ゲン）（名）【上元】節日ノ一、陰暦正月十五日ナリ、亥ノ時ニ、赤小豆ノ粥ヲ食ヒ、年中ノ疫ヲ避クトス。又、七月十五日ヲ中元（チユウゲン）ト云ヒ、十月十五日ヲ下元（カゲン）ト云フ、支那ニテハ、共ニ、夕ヨリ、太乙ヲ祀リ、人、皆、燈ヲ觀テ、朝ニ至ル、我ガ國ニテハ、中元ニ、燈ノ事アルノミ、下元ハ、用キズ。舊唐書、中宗紀「景龍四年上元夜、帝與₂皇后₁微行觀₂燈」日次紀事、一、正月「十五日、上元、今日、謂₂上元節₁」諸國圖會年中行事大成、一、正月「十五日、上元、正月十五日ヲ上元ト云、七月十五日ヲ中元ト云、十月十五日ヲ下元ト云、事林廣記、下作、聖人降陰節日、三元節日、正月十五日上元九気、天官　主錄、百司、天曹ニ上告　世人ノ罪福ヲ進呈スル日、大ニ福ヲ崇メ、過ヲ謝スルニ宜シト」改正月令博物筌、正月「十五日、上元、今日ヲ云フ、夜ヲ、元宵、元夜ト云フ、云云、唐ニハ、今夕、燈籠ヲ多ク點（トモ）シ、甚、賑ハシキ事也、本朝、中元ノ夜ノ如シ　是ヲ、花燈タト云」

じやう-げん（ジヨウ・ゲン）（名）【上弦】ゆみはりづき（ヅ）ノ條ヲ見ヨ。唐太宗詩「上弦明月半、激箭流星遠」

じやう-げん（ジヨウ・ゲン）（名）【狀元】支那ニテ、進士ノ試驗ニ、第一ニテ及第シタルモノノ稱。陔餘叢考（清、趙翼）「世稱₂進士廷試第一甲三人₁爲₂狀元、榜眼、探花₁」

しやう-げん-ぎ（シヨウ・ゲン・ギ）（名）【象限儀】物ノ角度ヲ測リ求ムル器、天體、山川、等ノ高度、距離角ナド、測量スルニ用キル、三百六十度ノ圈ヲ四分シテ、九十度ノ角度ニテ定ム。其六分シテ、六十度ナルヲ、六分（ロクブン）圈儀ト云ヒ、八分シテ、四十五度ナルヲ、八分圈儀（サクタント）ト云フ。

しやう-けら（シヨウ・ケラ）（名）化物（バケモノ）。怪物。嬉遊笑覽、三「奇怪ノ物ニ、名ノアルハ、淨土繪雙六ナド、其始ニヤ、其名ノ大略ハ、赤口、ヌラリヒョン、牛鬼、山彦、オトロン、ワイラウワン、目一ツ坊、ヌケ首、ヌ、ヘラボウ、ヌリ佛、ヌレ女、ヒャウスベ、しやうけら、フラリ火、リンボウ、サカガミ、身ノ毛ダチ、アフアフ、トウモカウモ、是等、其狀ニヨリテ、作リタル名、多カリ」

✣**じやう・ける**（ジヨウ・ケル）（動）【戲】フザケル。タハムル。浮世風呂（文化、三馬）初編、上「コリャコリャ、じやうけるナ、じやうけるナ」

しやう-こ（シヨウ・コ）（名）【鉦鼓】雅樂ニ用キル樂器、からかねニテ造リ、圓クシテ、皿ノ如シ、架ニ懸ケテ擣チ、鼓ヲ節ス。カネ。倭名抄、四、九十鉦鼓類「鉦鼓、俗云、常古」名義抄「鉦鼓、シャウコ」著聞集、廿、魚蟲禽獸「北ニ、錦ノ圓座ヲ敷キテ、大鼓、鉦鼓ヲ立ツ」

しやうこ (名) [尚古] 古ヘノ文物ヲ、尚ブコト。[illegible]
[illegible]僧不自振乙」

しやうこ (名) [商賈] 商賈[illegible] (周禮、大宰[illegible]商賈阜通貨賄」常住行日商、坐日賈」) アキウド。アキンド。[illegible]北史[illegible]人」

しやうご (名) [正午] 午ハ南、太陽ノ、正南ニ中スル時ノ意。午ノ刻ニ當ル時。[illegible]午ノ刻ニ、正午ニ、[illegible]夜ノ[illegible]招クコト[illegible]ニ對ス)

しやうこ (名) [城狐] 城ノ地ニ棲ム狐ノ、且貝(主僕)ヲ見ユト共ニ、身ヲ安全ノ地ニ置キテ惡事ヲナシ者、即チ、君側ノ姦臣ニ譬ヘテ云フ。[illegible]

しやうこ (名) [上古] オホムカシ。太古。上世。中古、近古ナドニ對ス。[illegible]

じやうご (名) [上戶] (群書類聚、卷三三、[illegible]婚禮、上戶八瓶、下戶二瓶ナドト云フ、コト見エテ、元ト、民戶ノ上下ヲ云フニハアレド、持統紀、五年十二月「詔、其戶口、其上戶一町、中戶半町、下戶四分之一」)瓶數ノ多少アルヲ以テ、飲酒ノ多キヲ上戶ト云ヒ、少キヲ下戶ト云フ」) 酒ヲ、好ムコト。多ク、酒ヲ飲ムコト。大戶。飲ミ得ヌヲ、下戶ト云フ。小戶。[illegible]也、我俗、謂多飲酒者爲上戶、不能多飲者爲下戶、[illegible]大戶小戶也」 下學集[illegible]今昔物語、十九(流布本、欠本)「上戶ニテ有ケレバ、酒ノ欲サニ」 大鏡、中、道隆「男ハ、上戶、一ツノ興ノ事ニスレド、過ギヌルハ、イト不便ナルヲリ侍リヤ」 徒然草、初段「げこナラヌコソ、男ハヨケレ」 酒食論「一人ノ男ハ、云云、酒ヲ飲ケル大上戶ナリ、一人ノ僧ハ、云云、小漬ヲ好ム最下戶ナリ、一人ノ男ハ、云云、酒モ、小漬モ好ム中戶ナリ」

じやうご (名) [漏斗] (上戶ノ義、酒ヲ飲ミ込ムヨリ名トスト云フ、或ハ云フ、承壺ノ音ナラムカト) 器ノ名、銅、又、木ナドニテ作ル、上ハ開キ、底ハ甚ダ細ソク、窄マリテ、孔ヲ通ズ、徳利、壺、ナド、口ノ狹キ器ノ口ニ插シテ、酒、水ナドヲ、口ノ外ヘ翻サヌヤウニ、注ギ入ルルニ用キル。又、穀ヲ、俵ノ口ヨリ入ルルニ用キルハ、竹ナドニテ編ミテ、大キク作ル。 和漢三才圖會、三十一「漏斗、ジヤウゴ、名之上戶、蓋取能容也」 東寺文書抄、三、寬正四年十月廿二日「京進日記、升流紐 大小漆汁、同、かうじやうご」

じやうご (名) [常語] 平常、云フ言語。ツネニ云フ、イヒグサ。常套語。 (唐書、[illegible]之常語耳、識不[illegible]」)

しやうこう (名) [正公] 正稅、公廨ノ稻、 (倭名抄、五、國郡部「武藏國、正公、各四十萬束」安房國、正公、各十九萬束」)

しやうこう (名) [庄公] 庄園ノ、年貢ノ稻。 豐後國圖田帳「豐後國庄公惣領主等之事」 吾妻鏡、[illegible]治承五年五月廿三日「[illegible]始作事、不論庄公別納地、今明日內、可召進工匠之旨、[illegible]」 同、四、元曆二年三月三日「稱使者、押妨庄園[illegible]此事、當時人庶之所愁也」

しやうこう (名) [相公] (一)宰相ノ敬稱。

相作ノ 王粲、羽獵賦「相公乃乘輕軒、駕四駱」 (二)參議ノ唐名。(宰相ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 職原抄、上「參議八人」注「唐名、諫議大夫、相公、八座」

じやうこう (名) [成功] 中古、造宮、造寺、其他、臨時ノ公用アル時、私物ヲ官ニ納メ、以テ、其功ヲ成シテ、官ヲ申シ請フコト。後ニ、衛府ノ官ナド、獻財ニ任セテ、無員數ニ補セラレテ、其子孫、何左兵衛、某兵衛ナド稱スルニ至レリ。 [illegible]廿五、西京座主祈禱事「僧正、勅命ニ依テ、成功ノ人ヲ召付ケテ」 本朝文粹、六、請特蒙天恩、依尾張國所濟功、幷、侍所帶、被拜美濃守闕狀、大江匡衡「匡衡、爲尾張守之時、撫民治國、致合期之勤、有功無過之由、諸卿僉議、早畢、又、依官符宣旨、修造國分尼寺神社、諸定額寺十二箇處、不申講官物、別進造伊勢豐受宮之料米五百斛、造宮羅殿料、進稻十萬束、依官符宣旨、藏人所召、所支見進六[illegible]、百疋等、不立用公帳、皆是、諸國吏之勤功、稱雖之事也」

しやうこうねつ (名) [猩紅熱] 急性傳染病ノ一、まらりあ性ノ、一種ノ熱病、熱、烈シク、身體、各所ニ、赤色ノ發疹ヲ生ズルモノ。

しやうこく (名) [相國] (一)支那ニ、宰相ノ稱。 史記、蕭相國世家「上已聞、淮陰侯誅、使使拜丞相何、爲相國」 (二)太政大臣ノ唐名。相國。 職原抄、上「太政大臣、唐名、相國、云云、異朝三公者、云云、無所職、置六卿、令掌天下政、秦漢以來、有相國左右丞相之名也」「平相國清盛」

しやうこく (名) [生國] 生レタル土地。生地。 蘆屋道滿(寶永、近松作)上「ワ、チガ生國ハ、陸奧ノ國」

じやうこく (名) [讓國] 讓位ニ同ジ。

じやうこく (名) [上國] (一)國ヲ、上、中、下、ノ三階級ニ區別シタル、上ノモノ。大國 [illegible]代格[illegible]上國、中國、下國」 (二)京畿ニ近キ國。近國。カミガタ。 [illegible]公廿七年「上國有[illegible]日、不知何也」

じやうこく (名) [上刻] こく(刻)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。 丹波與作(寶永、近松作)上「刻限ハ、巳ノ上刻トノ定メニテ」

じやうこく (名) [上告] (一)上ニ、告グルコト。申シ立ツルコト。 (二)法律ノ語、(二)ノ一、違法ヲ理由トシテ、第二審ノ判決ノ破棄、又ハ、變更ヲ、上級ノ裁判所ニ申シ立ツルコト。

しやうごくぐわつ (名) [正五九月] 正月、五月、九月、コレヲ、齋月ト云ヒ、又、年三長齋トモ云フ、スベテノ物事ヲスルニ忌ムト。佛說ニ、此月、素食、修善ヲ行フトアリ。(齋ノ條ヲ見ヨ) 排諧類卯月紅葉(寶永、近松作)上「正五九月ノ神守リ」 唐書、高祖紀「詔、自今、正月、五月、九月、不行死刑、禁屠殺」

しやうこと (名) [仕樣事] シカタ。テダテ。方法。 假名手本忠臣藏(延享、竹田出雲)九「風雅デモ無ク、酒デモナク、しやうことナシノ山科ニ、由良之介ガワビズマヒ」 東海道中膝栗毛(享和、一九)二編、上「借金デモ始マラネエ、ドウモ、しやうことガ無エハサ」

じやうごは (名) [情剛] 情ノ、コハキコト。又、其人。剛情。 狂言記、宗論「キヤツハ、聞ノ情ごはデオヂャル、道スガラ、爭ヒマセウズ」

じやうこふ (名) [成劫] 佛教ノ語、世界ノ、成立シ、變化スル、四劫ノ一、即チ、

最初ノ期、 神皇正統記、序說「カクテ、百億ノ世界、同時ニ成ル、之ヲ成劫ト云フ」

しやうごん (名) [莊嚴] 〔韻會「莊、盛飾也」正字通「漢明帝、諱莊、改二莊助一爲二嚴助一、莊光爲二嚴光一、後漢書、陳紀傳、註「嚴、讀曰レ裝」〕 又、莊嚴。嚴カニ、麗ハシキコト。立派。（佛像、佛堂ノ飾ナドニ云フ） 榮花物語、廿九、玉飾「堂ノしやうごん、例ノ、イトメデタシ」 夫木抄、三十四「阿彌陀佛ト、申スバカリヲ、勤メニテ、淨土ノ莊嚴、見ルゾ嬉シキ」

じやうこん (名) [上根] 佛經ノ語、上等ノ機根、スグレタル生レツキ（下根、中根ニ對ス） 傳燈錄「吾敎、定慧、勸二上根上智人一」

しやうこり (名) [性懲] 心ノ底ヨリ、懲ルルコト。 曾我五人兄弟（元祿、近松作）三「性懲りモナキ大惡人」

しやうざ (名) [上坐上座] （一）カミグラ。上ノ方ノ座。上席。 史記、鄭生傳「延二鄭生上坐一謝之」 盛衰記、六、入道企二院參一事「小松殿ハ、弟ノ右大將宗盛ヨリ、上座シ給ヒタリ」 （二）僧ノ職名、さんがう（三綱）ノ條ヲ見ヨ。 保元物語、二、關白殿本官復歸事「興福寺ノ上座、信實」

しやうさい (名) [詳細] クハシク、コマカキコト。微細。委細。詳密。「事情ヲ、詳細ニ語ル」

じやうさい (名) [上裁] 高貴ノ、親シク事ヲ裁決セラルルコト。 盛衰記、四、白山神輿登山事「宜レ待二聖斷一仰二上裁一」

しやうさい (名) [城寨城砦] しろト、とりでト。城壘。 蜀檮杌（宋、張唐英）「築二城寨一遏鏑」

じやうさい (名) [攘災] 災ヲ、攘ヒ除クコト。 晉書、郭璞傳「攘レ災轉レ禍」 庭訓往來、八月「四海太平、一天靜謐事、人人攘災、所所幸祐也」

じやうざい (名) [淨財] 佛ニ施ス財物。喜捨スル財物。「淨財ヲ喜捨ス」

じやうさいもん (名) [上西門] 大內裏ノ十二門ノ一、西面、北ノ端ノ門、上東門ト、東、西ナリ。

しやうさう (名) [將曹] 近衞府ノ主典。 近衞府式「將監、將曹」

しやうさう (名) [章草] 漢字ノ書體ノ名、草書ノ一種、支那、後漢ノ章帝ノ造レル所ナリト云フ。 法帖刊誤「凡草書、分二波磔一者、名二章草一」

しやうさう (名) [正倉] 王朝時代、朝廷ノ正稅ヲ納メオク所。御倉。「正倉院」

しやうざう (名) [正像] 佛敎ノ語、正法ト、像法ト 正法ノ條ヲ見ヨ。 盛衰記、九、宰相申二預丹波少將一事「僅ニ、聖敎渡ルトイヘドモ、正像既ニ過ギヌレバ、行ズル人モ難ク、其ノ驗モ希也」

じやうさう (名) [情操] 〔英語、Sentiment.ノ譯語〕 發作性ノ精神ニシテ、眞理ヲ尚ビ、道德ニ從ヒ、眞美ヲ愛スルナドノ感情 「詩的情操」

しやうざうまつ (名) [正像末] 佛敎ノ語、正法ト、像法ト、末法ト。 謠曲、現在七面「滅後ノ弘經モ、正像末ニ對シテ、今後、五百歲ノ時ナレベ」

しやうさうゐん (名) [正倉院] 奈良ノ東大寺ノ域內ニアル、校倉ノ名、長サ十七間、三戶前ナレバ、三藏トモ云フ、聖武天皇ノ御遺物ヲ藏ス。古來、千餘年、正倉院ノ御物ノ完存セルコト、又倉ノ製ニモ因ルベケレド、亦、勅封ナリシニ因リテ、盜人モ、畏ミテ、犯サズ、某西洋人、勅封ト云フモノノ威嚴ニ驚服セリト聞ク、皇國民ノ敬虔、欽スベキカナ、今、宮內省ニテ管督ス。

しやうざうゐん (名) [正藏院] 王朝時代、大藏省以下、諸國、諸寺ニアル藏。 三代實錄、五十、仁和三年二月「大藏省奏云、昨夜偷兒、穿二正藏院庫墻一、盜二取官物一」

しやうさく (名) [匠作] しゆりしき（修理職）ノ唐名。

しやうさく (名) [將作] もくれう（木工寮）ノ唐名。

じやうさく (名) [上策] 極上ノ策略。上計。（中策、下策ニ對ス） 漢書、匈奴傳「周秦漢征レ之、未レ有レ得二上策一者也、周得二中策一、漢得二下策一、秦ハ無レ策也」

じやうさく (名) [上作] （一）好キ出來。傑作。（二）穀物ノ實入リ、畠物ノ生立ナドノ、甚ダ好キコト。豐作。豐登

じやうさく (名) [城柵] 城ノ柵。城寨。 隋書、高祖紀「立二城柵一以拒二官軍一」

じやうさし (名) [狀差] 柱ナドニ懸ケオキテ、見終ハリタル來狀ヲ差シオク具。

じやうざせき (名) [上座石] 庭作ノ語、築山ニ据ウル、ヒラタキ石。觀音石。

しやうさつ (名) [詳察] ツマビラカニ、視察スルコト。ツマビラカニ、考フルコト。 史記、淮陰侯傳「願足下詳二察之一」

しやうさん (名) [賞讚] ホムルコト。「賞讚ヲ博ス」

じやうざんのだせい (句) [常山蛇勢] 〔支那、常山ニ棲ムト云フ、雨頭ノ蛇ノ事ヨリ云フ、出典ヲ見ヨ〕 首尾、照應シテ、互ニ相助クル姿勢ニ云フ語。 孫子、九地篇「善用レ兵者、譬如二率然一、率然者、常山之蛇也、擊二其首一則尾至、擊二其尾一則首至、擊二其中一則首尾俱至」

しやうし (名) [生死] 〔生死トモ云フ〕 （一）イキシニ、死生、死活 發心集、四、第十一條「世世生生、互ニ極マリナクシテ、生死ノ絆トナラン事ノ、イト、罪深ク侍ルナリ」 （二）ウマルルト、シヌルト。

しやうし (名) [將士] 將校ト、士卒ト。大將ト、兵卒ト。 後漢書、光武帝紀「大饗二將士一、班二勞策勳一」「將士ヲ勞フ」

しやうし (名) [賞詞] ホメコトバ。讚辭。「賞詞ヲ賜フ」

しやうし (名) [賞賜] 褒美ニ、物ヲ賜ハルコト。又、其物。 史記、李牧傳「邊士日得二賞賜一而不レ用、皆願二一戰一」

しやうし (名) [省試] 古ヘノ、文章生ノ試驗。 唐書、選擧志「諸州貢擧、省試不レ第」

しやうし (名) [尚齒] 〔齒ハ、齡ナリ〕 爾雅、釋詁篇「齒、壽也」 高齡者ヲ、尚ブコト。老者ヲ、崇敬スルコト。 莊子、天道篇「宗廟尚レ親、朝廷尚レ尊、鄕黨尚レ齒、行事尚レ賢、大道之序也」「尚齒會」

しやうじ (名) [尚侍] ナイシノカミ。 名目抄「尚侍、シヤウシ」 後宮職員令「內侍司、尚侍二人、掌、供二奉常侍、奏請、宣傳、檢二校女孺一、兼知二內外命婦朝參、及、禁內禮儀之事一」 西宮記、臨時、八、尚

[illegible]女官ノ事」續紀、三十六、天應元[illegible]月、尙侍[illegible]從[illegible]位[illegible]人之女也」[illegible]

しやうじ（名）［掌侍］ナイシノジヨウ 其第三ニ居ルヲ、勾當ノ内侍ト云フ。「掌侍、シヤウジ、百官[illegible]内侍[illegible]殿上人、諸大夫ノ女モ是ニ任ゼラルル、第一ノ内侍ヲ、勾當ト云也」禁秘御抄、下「掌侍六人、此内、以二一内侍一爲二勾當一稱二勾當一[illegible]二也」[illegible]御湯殿ノ上ノ日記[illegible]「こうたうの内侍[illegible]御乳ノ人ナリ」

しやうじ（名）［莊司］莊園ノ主ヨリ、其地ニ置キテ、其莊ノ事ヲ司ラシムル者ノ稱。莊官。又、僞司ノ、莊司ヲ兼ヌルヲ、大莊司ト云フ。 倭名抄[illegible]「莊司、シヤウシ」[illegible]

しやうじ（名）［障子］（一）（又、さうじ）室中ニ立テテ、物ヲ障ヘ、ヤリ隔ツル具。遣戸ノ如シ。組骨ニテ貼リ作ルヲ、衾障子ト云フ、（今ハ、ふすまトノミ云フ、是レナリ）緣、取リテ、衾ノ如クナレバ云フナルベシ。又、品、下リテ、唐紙ニテ貼レルヲ、唐紙障子ト云フ。（今、からかみトノミ云フ、是レナリ） 裱褙 上世ノ内部ノ製モ、今ノ物ノ如クナリシナルベシ。（ふすま、からかみノ條ヲ見ヨ）[illegible]禁秘御抄、上「南殿北障子、賢聖障子」平家物語、一、紙一事[illegible]障子ニ[illegible]一首ノ歌ヲゾ書付ケケル」（ふすま障子ナリ） 源、二、帚木「火トモシタル透影、さうじノ紙ヨリ漏リタルニ」同、四十六、總角「さうじノ口マデ送リ奉リ」狹衣、三、中「さうじノモトニ寄リ給ヒテ、ホノカナル穴ヨリ、覗キタマヘバ」倭名抄、十四、屛障具「障子、屛風之屬也」[illegible]「張レ絹、今日猶稱二唐紙一不レ可レ然」 （二）下ニ、臺脚アリテ、室中ヲ移轉セシムベキヲ、衝立障子ト云フ、荒海障子、昆明池障子ナド、是レナリ、今、ついたてトノミ云フ。 [illegible]「荒海障子」[illegible]昆明池障子[illegible]「昆明池圖、裏、嵯峨野小鷹狩」（三）通障子（又、とほりしやうじ）ト云フハ、今ノ簾屛風ノ如ク、製ナリ、今モ、衾障子ニ、此製アリ。 [illegible]「通障子、ツシャウジ、トホリシャウジ」[illegible] （四）明障子ト云フハ、紙、一枚、貼リテ、日ノ明リヲ取ルベク、製シタルモノ。紙障。 明月記[illegible]「明障子」[illegible] （五）今單ニ、障子トノミ云フハ、前項ノ明障子ノ略ニテ、細ソキ方材（ほねノ條ヲ見ヨ）ヲ、縱横ニ組ミ、四邊ニ木樁ヲツケテ、兩禮ニ、紙一枚ヲ貼ルナリ、高サ六尺、幅三尺ナルヲ常トス。其下部ヲ板張ニセルヲ、腰障子ト云フ。 [illegible]能寺藏本「四壁殘リアリ、其光ニ、御影ノ、腰障子ニ移リ候」（六）鼻ノ、二ツノ孔ノ隔テ。鼻ノ中隔 「鼻ヲカイテ、鼻ノ障子ガ落チル」

しやうじ（名）［床子］床机ノ類。 倭名抄、十四「[illegible]床子、本朝式云、行幸用赤漆床子」

しやうじ（名）［生死］しやうじ（生死）ニ同ジ。 門出八島（元祿、近松作）四「生死ノ海ノ厚衣、隔クレバ味方、結ベバ敵」「生死ノ境」

しやうじ（名）［精進］しやうじんニ同ジ。 宇津保物語、國讓、上「黑キ御衣ニヨロヒ、しやうじノ物、イト淸ラニシテ」

じやうし（名）［上巳］（舊ハ、上ノ巳ノ日ナリ）五節句ノ一、陰曆三月三日ナリ、重三トモ云フ、桃花、草餅、白酒ナドヲ、節物トス、女子、雛遊ヲナス。俗ニ、上巳。元巳。桃ノ節句。 後漢書、禮儀志「是月上巳、官民皆絜二於東流水一」 歲時記「上巳賜宴曲江、都人於江頭禊飮、踐二踏靑草一曰二踏靑一」 顯宗[illegible]元年三月上巳、幸後苑曲水宴」字鏡「三月三日、稱上巳」

じやうし（名）［上使］公方ヨリ、大小名等ヘ遣ハス使者ノ稱 平家女護島（享保、近松作）二「上使ヲ切ッタル科ニヨッテ」「御上使ノ御入リ」

じやうし（名）［上梓］（字典「俗謂下上二文書於板一曰上レ梓」）しゆっぱん（出版）ニ同ジ。

じやうし（名）［城址］シロアト。「古城址」

じやうし（名）［情死］アヒタイジニ シンヂュウ。

じやうし（名）［情詩］戀情ヲ詠ミタル詩、又ハ、歌。情歌。

じやうし（名）［狀師］訴訟ノ代理ヲ業トスル人。又、辯護士ノ異稱。クジシ。

じやうじ（名、副）［常時］ツネニ。イツニテモ。フダン。平常 「常時、供奉ス」

しやうじいる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（他動、下二）［請入］請待シ、入ルル。 竹取物語「トマレカクマレ、マヅしやうじいれ奉ラン」

しやうしう（名）［唱酬］（唱ハ、遣ル、酬ハ、答ふる義）詩文ナドヲ、互ニ、贈答スルコト。應酬。 李中詩「俗必期二康濟一詩誰五唱酬」 宋史、沈探傳「遊二名文雄一寄二唱賞一最長二於歌詩一、與二蘇軾、黃庭堅一皆與唱酬、相往來」

しやうしき（名）［生色］こがね（黃金）ノ異名。 他山石「生色ト云フハ、スナハチ、こがねヲ云フナリ」

じやうしき（名）［常式］（一）平常ノ方式、ツネノノリ。常軌。 管子「國有二常式一故法不レ隱」（二）イツモ。フダン。平生。

じやうしき（名）［常識］（英語、Common-sense.ノ譯語）世ノ常ニ通ジタル道理ヲ、辨ヘテ知リ居ルコト。普通ノ識見、思想。普通ノカンガヘ。「常識ニ富ム」

しやうしくわい（名）［尙齒會］（尙齒ノ條ヲ見ヨ）高年ノ人ヲ擇リ、請ジテ、宴ヲ饗シ、詠歌、詩作ナド、アルコト、其數、七人ナルヲ常トシ、七叟ト云フ、齡高キ方ヲ、上座トス 百練抄ニ、承安二年三月十九日、白川ノ寶莊嚴院ニテ、藤原淸輔、尙齒會ヲ行ヒシコトヲ記ス、會スル者、七人ナリキ、其記、載セテ、群書類從ノ最後ニアリ。又、唐ノ白居易、高年ニシテ、官仕セザル者ト、宴與シ、九老圖ヲ書ケリ、我ガ貞觀年中、菅原是善、コレニ倣ヒテ、尙齒會アリ、又、本朝文

粹、九二、管相國尙齒會序アリ。又 寶永五年十二月、谷中、感應寺ノ隣、空無庵ニテ、日光御門主ノ取立、渡邊幸庵(百廿七歳)其外六人ノ會アリ、渡邊幸庵對話(史籍集覽所收)ニ記ス。名目抄「七叟、尙齒會」

じやう-しよ(ジヨウ-シヨ) (名) [上鉋] あらしよ(粗鉋)ノ條ヲ見ヨ。

しやう-じ-こばん(シヨウ-ジ-コバン) (名) [正字小判] 安政年中、江戸幕府ニテ鑄テ、發行セル小判金、楷書ノ正ノ字ノ極印アリ、縱一寸、横一寸ノモノナリ、

しやう-じ-ぢやうや(シヨウ-ジ-ジヨウヤ) (名) [生死長夜] 佛說ニ、人ノ、世ニ生キテアル間ヲ、長キ夜ノ夢ニ譬ヘタル語、死シテ始メテ、覺ムトス。 盛衰記、十一、有王俊寛問答事「痛シイ哉、二死ノ滿リヲ備ヘナガラ、且死長夜ノ迷情タル事ヲ」

しやう-しつ(シヨウ-シツ) (名) [詳悉] ツマビラカニ、ツクスコト。 北史、房玄齡傳「四方縣還、雖レ可二詳悉二」

じやう-じつ(ジヨウ-ジツ) (名) [上日] 月ノ、第一ノ日。朔日。又、元日、 書經、舜典篇「正月上日、受二終于文祖二」

じやう-じつ(ジヨウ-ジツ) (名) [情實] (一)コトノ、ココロ。コトワケ、 史記、呂不韋傳「秦王下レ吏治、具得二情實二」 (二)道理ノ外ニ、人情ノ、捨テラレヌコト 「情實ニ拘泥ス」「情實ヲ排ス」

じやう-じつ(ジヨウ-ジツ) (名) [成實] 次條ノ語ノ略。 盛衰記、五、澄憲賜血脈事「俱舍、成實ノ性相ヨリ、法相、天台ノ深義ヲ極メ」

じやう-じつ-しゆう(ジヨウ-ジツ-シユウ) (名) [成實宗] 佛敎ノ八宗ノ一、成實論ヲ、所依トス、白雉四年、南都ノ僧、道詮、敕ヲ奉ジテ入唐シ、長安ノ地ニテ、玄奘ニ識ヨリ傳ヘ來レリ、 八宗綱要、上、成實宗「問、何故名二成實宗一乎、答、以二成實論一爲二所依一名二成實宗二言成實一者、釋二成如來所說三藏之中實義一故也」 元亨釋書、廿二、諸宗志「俱成二宗、亦能敍二置三寶四諦一攝二諸名相一而設二子理一者、成實也」 三國佛法傳通緣起、中、成實宗「成實論宗、由來良久、日本佛法初傳之時、成實宗與二三論宗一同時傳來、是故後代、以二成實宗一附二三論宗一聖德太子、作二三經疏一以二成實論一爲二法相門一依二光宅義一以立二義門一光宅法師、是成實師、正弘二大乘一而以二成實一判二法性相二」

しやう-じ-の-いた(シヨウ-ジ-ノ-イタ) (名) [障子板] 鎧ノ綿上ノ上ニ續キ、喉ニ當ル所ノ、半月形ノ板。 保元物語、二、白河殿攻落事「マカウ、內兜ハ、恐レモ候フ、障子の板カ、栴檀、弦走リカ」

しやう-じ-の-うみ(シヨウ-シ-ノ-ウミ) (名) [生死海] イキシニノ二ツノウミ (其條ヲ見ヨ)

じやう-じ-はん(ジヨウ-ジ-ハン) (名) [常事犯] 法律ノ語、通常ノ犯罪、卽チ、國事犯以外ノ犯罪。

しやう-しん(シヨウ-シン) (名) [正眞] マコトナルコト。僞(ニセ)ナラヌコト 眞正 白居易詩「始是摘花不二正眞二」 狂言記、粟田口「正眞ノ粟田口ヲ持タレタ御方ガ、アルニ依ッテ」

しやう-じん(シヨウ-ジン) (名) [生身正身] 父母、所生ノ身。肉身。ナマミ。サウジミ。イキミ 平治物語、一、唐僧來朝事「唐僧、來タリテ、生身ノ觀音ナリトテ、拜スルコトアリ」

しやう-じん(シヨウ-ジン) (名) [精進] (一)(父、シャウジ、サウジ。サウジン) 佛敎ノ語、意ヲ精(モハラ)ニシテ、道ニ進ムコト 一心ニ、佛道ヲ勉メ修ムルコト。 智度論「有二精進一、一、身精進爲レ小、二、心精進爲レ大」 僧尼令「凡、僧尼、云云、精進練行」 枕草子、二、十四段「一日バカリノしやうじんノ懈怠トヤ云フベカラン」 (二)身ヲ淨メ、潔齋スルコト 字類抄「齋、モノイミマ、散齋、精進也」 枕草子、二、十五段、たゆまるるもの「さうじの日ノオコナヒ」 大和物語、下「夜、晝、さうじん潔齋(イモヒ)ヲシテ、世間ノ神佛ニ願(グワン)ヲ立テタマヘド、音ニモ聞エズ」 榮花物語、一、月宴「內ニハ、ヤガテ御さうじんニテ、此程ハスベテ、戲レニモ、女御、御息所ノ宿直、絕エタリ」 (三)精進スル人ハ、美食、肉食セヌ意ヨリ轉ジテ、膳部ニ、菜蔬ノミ、用キルコト。 素膳 雲溪友議(唐、范攄)「以二餅裹二腐屍肉一而食、上座曰、汝等能食二此肉一、方可レ食二諸肉一、自レ此緇徒、因成二精進一也」 懐子俳諧集(明曆)「調菜モ、精進モノノ、海苦ノ道」 コレヲ止メテ、肉食ニカヘルヲ、精進ヨリ落ツ、精進落(オチ)ナド、云フ。 開齋 開葷 解菜

じやう-しん(ジヨウ-シン) (名) [上申] 事ヲ、官ニ申シ立ツルコト。 申稟 上稟

じやう-じん(ジヨウ-ジン) (名) [情人] コヒビト。イロ。ナジミノ人。互ニ、戀ヒ思フ人。 鮑照詩「殉レ軒駐ニ輕蓋一留レ酌待二情人一」 郭茂倩、樂府集「江南謂二情人一曰レ歡、謂二其所レ私之人一也」

しやう-じん-あげ(シヨウ-ジン-アゲ) (名) [精進揚] あげもの(揚物)ノ條ヲ見ヨ、

しやう-じん-おち(シヨウ-ジン-オチ) (名) [精進落] しやうじん(精進)ノ(三)ヲ見ヨ。 二水記、永正十八年七月廿一日「午後參內、御精進解、御盃於二御三間一之儀、如レ例」 七車(元祿七年)「忘レテハ、精進落ちる、カステイラ」

しやう-じん-がため(シヨウ-ジン-ガタメ) (名) [精進固] 佛供養ナドノ精進ヲナス前ニ、魚類ナドヲ食スルコト。精進ノ間ニ、ソレヲ欲セザラシメントテ、スルナリ。 浮世風呂(文化、三馬)四編、中「今日ハ精進がためダカラ、本直ニナリャア、出入場へ持ッテキテエガ」

しやう-じん-び(シヨウ-ジン-ビ) (名) [精進日] 精進ヲナス、定メノ日。 年中定例記「御精進日ハ、必、松梅院、精進ノ御オリ三合進上申」 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「精進日ガ、荒和布ニ、油揚ノ細引イタノガ、二切レサ」

しやう-じん-もの(シヨウ-ジン-モノ) (名) [精進物] 蔬菜、海藻ノ類、スベテ、肉ナラザル食物。又、さうじもの。 腥物(ナマグサモノ)ニ對ス。 江家次第、一、正月「七坏之內、精進物、供二於第一御盤二」 狂言記、餓鬼道心「コナタハ皆、精進物ノ事バカリオシャル」

しやう-じん-や(シヨウ-ジン-ヤ) (名) [精進屋] 齋(イモヒ)スル家。別火ニスル家。 百練抄、十四、嘉禎四年三月九日「禪定殿下姬君、令レ入二熊野精進屋一給」 吾妻鏡、三十三、仁治元年十二月十六日「爲二所御精進屋、御所巽角、被レ立二新御所一宇二」

しやう-じん-れうり(シヨウ-ジン-リヨウリ) (名) [精進料理] 肉類ヲ用キズ、菜蔬ノミナル料理、 素膳 (腥(ナマグサ)料理ニ對ス) 狂言記、鱠八「出家ノ時分ニ、精進料理ヲ手掛ケタル事ガ御座ルニヨッテ」 當流節用料理大全「大雲院御成、精進御料理、式正獻立」

しやう-しや(シヨウ-シヤ) (名) [商社] 商業ノ會社。商人(アキンド)ノ、組合ヒテ營業スルモノ。 商會 公司

しやう-しや(シヨウ-シヤ) (名) [廠舍] 四方、圍(カコヒ)無キ家、コヤ。 露舍 「馬廠舍」

しやう-じや(シヨウ-ジヤ) (名) [精舍] [梵語、Vihāra.ノ譯語、精妙ノ舍ノ意] (一)寺(テラ)ノ異名。 釋氏要覽「釋迦譜曰、息心所レ棲、曰二精舍二」 敏達紀、十四年三月「馬子、云云、新營二精舍二」 大安寺緣起「其自レ小及レ大、蓋起二上宮太子(厩戸)熊凝精舍二」 平家物語、一、祇園精舍事「祇園精舍ノ鐘ノ聲、諸行無常ノ響キアリ」 (二)儒者ノ、諸生ヲ敎フル所 書齋 後漢書、劉淑傳「淑少好レ學、明二五經一、遂隱居立二精舍一講授、諸生常數百人」 同、包咸傳「住二東海一立二精舍一講授」

しやう-じや(シヨウ-ジヤ) (名) [聖者] 佛敎ノ語、煩惱ヲ斷ジタル人 小乘ニテハ、見道位(見惑、

ヲ斷ジタル悟リノ位)以上ヲ云ヒ、大乘[illegible]「時ノ天災ヲバ、大權ノ聖者モ、免レ給ハザルニヤ」

じやうしや　(名)　[常赦]　[illegible]ノ儀ノ二ヲ見ヨ。[illegible]明)卽位於大極殿、詔曰、云云、八虐之内、已殺訖、[illegible]

じやうしや　(名)　[淨寫]　下書ナドヲ、改メテ文字ノ奇麗ニ寫シカフルコト。キヨガキ。淸書。

じやうしや　(副)　[嚮者]　〔嚮ハ、正音、[illegible]、たう、又、ふうナリ、今、慣用ニ從フ〕　サキニ。ムカシ。[illegible]

しやうしやう　(名)　[將相]　大將ト、宰相ト。[illegible]

しやうしやう　(副)　[昌昌]　サカンナル狀[illegible]

しやうしやう　(副)　[彰彰 章章]　アキラカナル狀ヲ云フ語。[illegible]

しやうじやう　(名)　[淸淨]　(一)淸クシテ、穢レナキコト。史記、秦始皇紀「昭隔内外、靡不淸淨」　(二)佛教ノ語、自我ノ[illegible]ヲ離レ、煩惱ナドノ去リテ、心ノ潔キコト。[illegible]記、十一、小松殿熊野詣事「淸淨、寂寞ノ御身ノ上ニ、[illegible]雲ヨリ崩レカカルトゾ、大臣、ウツツニ見給ヒケル」

しやうじやう　(名)　[猩猩]　(一)猿猴ノ一種。[illegible]毛色、黄褐色ニシテ、[illegible]ナリ。能ク物言フト云フ、又云フ、毛色、黄ニシテ、面、人ノ如ク、聲、小兒ノ啼クガ如シ。好ミテ、酒ヲ飲ムト。常ニ、畫ニ、人面ニシテ、人立シ、頭髮、甚ダ多ク、長ク、朱紅ニシテ、酒ニ醉ヘル所ヲカケリ。[illegible]十八、獸名「猩猩、此間云、[illegible]」　(二)好ミテ、酒、又ハ、醋ノ上ニツク、小サキ飛蟲ノ名。酒上ノ蠛蠓(スカガ)。サケノハヘ。醯鷄[illegible]字鏡「[illegible]」　(三)大酒家ノ異稱。

じやうしやう　(名)　[上姓]　下姓(ゲシャウ)ヲ見ヨ。

じやうしやう　(名)　[上聲]　ゐん(韻)ノ條ヲ見ヨ。元和活字本「上聲、[illegible]」

じやうじやう　(名)　[上上]　此上ナク、勝レタルコト。極メテ、好キコト。書經、禹貢「[illegible]上上」　[illegible]

じやうじやう　(名)　[情狀]　事ノ、アリサマ。[illegible]

しやうしやう　(副)　[凄凄]　露ノ、繁キ狀ヲ云フ語。詩經、鄭風、野有蔓草篇「野有蔓草、零露[illegible]」　[illegible]

しやうじやうがに　(名)　[猩猩蟹]　あさひがに(朝日蟹)ノ一名。

じやうしやうぐん　(名)　[上將軍]　上位ノ將軍。軍ノ主將。史記、項羽紀「[illegible]上將軍」　[illegible]

じやうしやうじん　(名)　[常精進]　平常、精進スルコト。或期間ヲ限リテナスニ對ス。[illegible]

しやうじやうせせ　(名)　[生生世世]　佛經ノ語、人ノ、生レ變ハリテ、世ニ出ヅル度毎ニ、モノスルニ云フ語。[illegible]

しやうしやうてい　(名)　遊女　女郎　(長崎ノ方言)　[illegible]

しやうじやうのり　(名)　[猩猩海苔]　うしとノ條ヲ見ヨ。

しやうじやうばかま　(名)　[猩猩袴]　草ノ名、葉ハ、蘭ニ似テ、短ク、花ハ、櫻草ニ似テ、小サシ。ゴマバナ。玉簪花

しやうじやうひ　(名)　[猩猩緋]　〔猩猩ノ血ニテ染ムルモノ、ナド云フ〕　染色ノ名、紅色ノ、極メテ濃ク、鮮カナルモノ。此染色ナル、舶來ノ羅紗ナドニ云フ。[illegible]

しやうしやきよく　(名)　[尙舍局]　とのもれう(主殿寮)ノ唐名。[illegible]

しやうじやひつすい　(句)　[盛者必衰]　盛(サカ)ナル者ハ、必ズ衰フ。(佛經ノ語)　仁王經「盛者必衰、實者必虛」　平家物語、一、祇園精舍事「沙羅雙樹ノ花ノ色、盛者必衰ノ理ヲ顯ス」

しやうじやひつめつ　(句)　[生者必滅]　生(ナ)レル者ハ、必ズ滅ブ。(佛經ノ語)　[illegible]「生者必滅、會者定離」　平家物語、十、維盛入水事「生者必滅、會者定離ハ、浮世ノ習ヒニテ候也」

しやうじやうやね　(名)　障子屋根　明障子ノ、菊花壇ナドノ屋根トスルモノ、骨ヲ、正方形ニ作リ、白紙、紺紙ナド、算崩(サンクヅシ)ニ貼ル。

しやうじゆ　(名)　[聖衆]　佛經ノ語、極樂淨土ニアル、諸ノ菩薩。榮花物語、十七、音樂「天人、聖衆ノ、伎樂、歌詠スルト聞コエ」　平家物語、一、妓王事「聖衆ノ來迎ニ預ラセハ、ナドカ、引接無カルベキ」

じやうしゆ　(名)　[城主]　江戸時代、一城ノ主。又、之レト同一待遇ヲ受クル者ヲ、城主格ト云フ。[illegible]

じやうしゆ　(名)　[城守]　(一)城ニ籠リテ、守ルコト。淮南子、[illegible]　(二)シロモチ。江戸時代ニ、領地ニ、城ヲ持ツ大名ノ稱。

じやう-しゆ（名）［情趣］オモムキ。アヂハヒ。情致。宣和畫品「……所圖繪有情趣」

じやう-しゆ（名）［上手］じやうず（上手）ニ同ジ。顏氏家訓「北齊、顏之推、雜藝篇「卜筮十中六七、以爲上手」」

じやう-じゆ（名）［上壽］百歲ヲ云フ、ソレヲ超ユルモノヲ、怪壽ト云ヒ、九十歲ヲ、中壽ト云ヒ、八十歲以下ヲ、下壽ト云フト。莊子、盜跖篇「人、上壽百歲、中壽八十、下壽六十」太平記、十三、龍馬進奏事「不老、不死ノ上壽ヲ保テリ」

じやう-じゆ（名）［成就］成リタツコト。物ニナルコト。デキアガリ。シアガリ。漢書、呂后紀「三年方築、長安城、四年就半、五年六年城就」「大願成就」「祕密ヲ成就ス」

じやう-しゆう（名）［上衆］引付衆　庭訓往來、八月「上衆、總計口入」

じやう-しゆかく（名）［城主格］じやうしゆ（城主）ノ條ヲ見ヨ。

じやう-しゆく（名）［上宿］（一）宿直スルコト。トノヰ。（二）古ヘ、清涼殿ノ鬼ノ間ニ、宿直スルコト。侍中群要、四、上宿事「入御夜御殿之後、召女官告以奏宿卿聞、仰殿司以殿上燈、令敷件所、以履置殿司庇、臥時、北枕若東枕也」

じやう-じゆく（名）［上熟］ヨク、ミノルコト。極上ニ、出來ルコト。漢書、食貨志「上熟其收自四、中熟自三、下熟自倍」

じやう-しゆび（名）［上首尾］首尾ノ、ヨキコト、ウマク、ユクコト　好結果

しやう-じゆん（名）［獎順］（勸獎、順行ノ義）タスケ、シタガフコト。孝經、事君章「獎順其美、匡救其惡」

じやう-しゆん（名）［上春］春ノ初ノ月。初春。孟春。周禮、內宰篇、疏「上春者、亦謂正歲、以其春事將興、故云上春也」梁元帝纂要「孟春、曰上春　初春　開春　發春　獻春　首春」

じやう-じゆん（名）［上旬］じゆん（旬）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。上澣。上浣。漢書、趙充國傳「七月上旬、齎三十日糧、分兵並出」古事記、中（仲哀）五十六「四月上旬之時」

しやう-しよ（名）［尚書］（一）べんぐわん（辨官）ノ唐名。職原抄、上「辨七人、左右大辨二人、唐名、尚書、左右大丞」（二）支那ニテ、勅詔ノ執行ヲ掌ル職。宋書、百官志「在殿中主發書、故謂之尚書、尚、猶主也」

しやう-しよ（名）［象胥］周禮、秋官篇「象胥、掌蠻夷閩貉戎狄之國使、掌傳王之言而諭說焉」通事。通辯。通譯官。

しやう-じよ（名）［庠序］孟子、滕文公、上篇「設爲庠序學校以敎之、庠者、養也、校者、敎也、序者、射也、夏曰校、殷曰序、周曰庠、學則三代共之、皆、所以明人倫也」學ビノ園。學ビノ窗。學校。

じやう-しよ（名）［上書］己ガ趣意ヲ記シテ、官ニ奉ルモノ。又、言上書。言上。史記、封禪書「乃上書、獻太山及其旁邑」事物紀原「太甲既立、不明、伊尹作書以戒、此上書之始也、七國時、臣子言事於其君、皆曰上書、秦改曰奏」

じやう-しよ（名）［淨書］きよがき（清書）ニ同ジ。

じやう-しよ（名）［情緒］（一）喜怒哀樂ノ、動クトコロ。情ノ、サマザマニ動ク端緒。オモヒ。司空圖詩「客路不堪頻送別、無多情緒更傷情」「情緒纏綿」（二）心理學ノ語、感情、又ハ、情操。

じやう-しよう（名）［上昇］［上升］（下降ニ對ス）上ニ、ノボルコト。上騰。公羊傳、注「天氣上昇、地氣下降」王充、論衡「孔子曰、游者可爲綸、飛者可爲繒、至於龍也、吾不知其乘風雲而上升、今日見老子、其猶龍乎」

じやう-しよう（名）［上衝］ノボセ。上氣。

じやう-じよう（名）［上乘］（一）だいじよう（大乘）ニ同ジ。傳燈錄「禪有深淺階級、悟我空偏眞之理而修者、是小乘禪、悟吾法空所顯眞理而修者、是大乘禪」（二）最モ、スグレテ居ルコト。最上。盛衰記、一、清盛行大威德法事「眞言上乘ノ祕法ノ中ニ、如何ナル法カ、加樣ノ在家ノ者ノ行、現世ノ願、利生ニ疾候」「上乘ノ策」「上乘ノ首尾」

しやう-じよく（名）［牀褥］シトネ。ネドコ。褥牀。後漢書、强禹傳「詔、禹舍宮中、給帳牀褥」

しやう-しよく-きよく（名）［尚食局］ないぜんし（內膳司）ノ唐名。職原抄、上「內膳司、唐名、尚食局」

しやう-しよ-せい（名）［尚書省］だいじやうぐわん（太政官）ノ唐名。職原抄、上「太政官、當唐尚書省、又、號都堂、南省」

しやう-す　スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［尙］（尙ハ、配ナリ、めあはすノ義）君上ノ女ヲ、娶ル。史記、司馬相如傳「使女得尙司馬長卿」

しやう-す　スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［賞］褒ム。稱フ。賞讚ス。左傳、定公三年「二三子無淫、皆賞之」柳宗元、送薛存義序「賞以酒肉」

しやう-ず　ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（自動、左變）［生］（一）生ル。生フ。生ユ。書經、咸有一德篇「桑穀共生于朝」中庸、廿六章「黿鼉、蛟龍、魚鼈生焉」「草、生ず」「花、生ず」「芽、生ず」（二）出デクル。起ル。易經、繫辭、上傳「亂之所生也、則言語以爲階」「善心、生ず」「禍、生ず」

しやう-ず　ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［生］（一）生ス　デカス。成ラス。大學「生財有大道」中庸、十七章「天之生物、必因其材而篤」「花ヲ生ず」「金ヲ生ず」（二）發ス。公羊傳、桓公八年「遂者、何生事也」「善心ヲ生ず」「禍ヲ生ず」

しやう-ず　ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ（他動、左變）［請］（請ノ字ヲ、さうト云フハ、呉音ナリ）請ヒテ、招ク。請待ス。請ず。招請。延請。竹取物語「トモアレ、カクモアレ、先ヅ、請じ入レ奉ラム」同「竹取ノ家ニ、カシコマリテ、請じ入レテ、逢ヘリ」沙石集、四、下、第六條「都ノ名僧共、アマタ請じテ、七日ノ別時念佛ヲ始ム」同、八、上、第八條「西大寺ノ思圓房ノ上人ヲ請ず」源、四十五、總角七十七「世ニ驗アリト聞ユル人ノ限リ、アマタ、さうじタマフ」同、四十三、竹川四十四「今日ノ光ト、さうじ奉リ給フ」

じやう-ず（名）［上手］（下手ニ對ス）藝術ニ、巧ナルコト。手際ノ、好キコト。巧者。テダレ。巧手。妙手。源、一、帚木十五「マコトノ物ノ上手ハ、狀異ニ見エワカレ侍リ」同、六、末摘花廿七「イト上手ニオハスレバ、イトオモシロウ吹キ給フ」（笛ヲ）大和物語、中「返シハ、上手ナレバ、ヨカリケメド、エ聞カネバ、書カズ」狹衣、四、上三十四「一行ニ引キワタサレタル筆ノ流レ、文字ヤウナド、是レヲ上手トハ云フベキゾカシ」盛衰記、廿一、小坪合戰事「太郎ハ、八十人ガリアリ、東國無雙ノ相撲ノ上手、四十八ノ取手ニ暗カラズ」同、三十四、[illegible]

此能事「知顯八、九卯第一ノ、手(シテイ)段下、一二(ヒフ)トノ上手ト謂ク、コレニテ、段下、一二ト、アルベシト云ヘ」又「人選升、中間ハ上手ナリトモ、將碁知ラザランモ、亦、無益也」

じやうず (名) [上種上衆] 身分ノ、ヨキ人。(げす(下種、下衆)ノ(一)ニ對ス)次條、及、次次條ノ出典ヲ見ヨ。

じやうずめか・し ・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [上種上衆] 次條ノ語ヲ、形容詞ニシタルモノ。上種メキテアリ。貴キ人ラシクアリ。源、一、桐壺「オボエ、イトヤムゴトナク、上ずめかしケレド」同、十八、[illegible]「[illegible]カナカ、物思ヒ亂レテ臥シタレバ、トミニモ動カレズ、餘リ上衆めかしトオボシタリ」

じやうずめ・く ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [上] 種上衆] 上種ノ如ク見ユ。人ガラ、貴ク見ユ。[illegible]「[illegible]イカバカリ思ヒソシヌベキ身ノ、イトイタウモ、上ずめくカナト云ヒケル」字津保物語、國讓、中、廿八「中納言、物モノ給ハズ、涙ヲノミ流シ給ヘバ、大臣、イトカバカリ[illegible]リシ人ゾ、カウ、涙ヲモ惜シマズ」源、十三、明石「ヤムゴトナキ人ニ、イタウ劣ルマジウ、上ずめきタリ」

しやうすゐ (名) [將帥] 軍ヲヒキヰル人。大將。[illegible]

しやうずゐ (名) [祥瑞] メデタキ、シルシ。[illegible]

じやうすゐ (名) [上水] (下水ノ(一)ニ對ス) 清キ川水、池水ナドヲ、溝、又ハ、樋ニテ、市町等ノ地ニ導キ來リテ、飲料、其他ノ用ニ供フルモノ。江戸砂子、四、牛込「上水、水源ハ、[illegible]ヨリ落ツル、至リテ清淨ニシテ、旱魃ニモ、涸ルル事ナシ」「玉川上水」

じやうすゐ (名) [淨水] (一)清淨ナル水。清水(セイスヰ)。[illegible]文帝、大法頌「[illegible]七寶之交枝、[illegible]八功之淨水」(二)手アラヒ水。テウヅ。

しやうせい (名) [將星] (一)支那ニテ、大將ノ表象アリト云フ星。[illegible]源詩「旌旆朝天不知晩、將星高處近三台」(二)しやうぐ(將軍)ノ異稱。「[illegible]將軍ノ將星、一堂ニ集ル」

しやうせい (名) [象聲] 六書ノ一、りくぎ(六義)ノ條ヲ見ヨ。漢書、藝文志「六書、謂[illegible]象形、[illegible]意、象聲、轉注、假借」

しやうせい (名) [昌盛] サカリナルコト。繁昌。隆盛。南史、[illegible]紀「子孫[illegible]昌盛」

しやうぜい (名) [正稅] 主タル租稅。定メノ年貢。(朝廷ニ納ムルヲ云ヒ、之レニ對シテ、國守以下ニ給セラルルヲ、公[illegible]ト云フ) 主稅式、上「凡諸國所[illegible]正稅[illegible]、[illegible]」民部省式「凡京職[illegible]正稅[illegible]」續紀、十三、天平十一年六月戊寅「令[illegible]國[illegible]稅、[illegible]合正稅」[illegible]東大寺[illegible]、正稅[illegible]、養倉[illegible]省與主計主稅共知出納」[illegible]三十[illegible]刈田丸討中[illegible]大臣[illegible]我ガ身ノ、帝王ト名乘リ、親類一族ヲ、大臣公卿ト定メテ、正稅、官物ヲ打チ留メ、人ノ心ヲ[illegible]カシ過ギケル程ニ」

じやうせい (名) [上世] (中世、近世ニ對ス) カミツヨ。オホムカシ。上古。[illegible]子、[illegible]上[illegible]「[illegible]世[illegible]有不[illegible]其[illegible]者」

じやうせい (名) [情性] 人情ト、性質ト。人間ノ心。史記、[illegible]「[illegible]心[illegible]、[illegible]、[illegible]情性之理也」「今代人ノ情性」

じやうせい (名) [情勢] (情狀、趨勢ノ義) アリサマ。イキホヒ。情況。五代史、[illegible]傳「[illegible]、[illegible]、[illegible]情、情[illegible]不疑」「選擧ノ情勢」

しやうぜいちやう (名) [正稅帳] 王朝時代、正稅ノ出納ヲ記入セル帳。略シテ、稅帳。

しやうせき (名) [上席] しやうざ(上座)ノ(一)ニ同ジ。「上席ノ主賓」

じやうせき (名) [攘斥] ハラヒ、シリゾクルコト。斥攘。[illegible]、[illegible]「[illegible]攘[illegible]斥佛老」

しやうせつ (名) [詳說] ツマビラカニ、說クコト。クハシキ說明。孟子、離婁、下篇「博學而詳說之、將以反說約也」

じやうセツ (名) [淨刹] (一)清淨ナル國土。淨土。沈約、內典序「神化隆[illegible]、[illegible]於淨刹」[illegible]三十九[illegible]、[illegible]川寺[illegible]法然房[illegible]「[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ニシテ、命ヲ亡ボスコトアラバ、彌陀ノ淨刹ニ往生セント可被思召」「九品ノ淨刹」(二)清淨ナル道場。寺院。

しやうせん (名) [省錢] 武家時代、錢、百文ニ滿タザルヲ、百文トスルノ稱。例ヘバ、九六錢、八丸ノ如キ類。和事始、三、「[illegible]貨、錢九十六文ヲ以テ、百文トスル事ハ、ト杉[illegible]政ノ家老[illegible]、[illegible]制ヲ立シヨリ始ル」奥州會津四家合考、六「白川ハ、奥州ノ大關ナレバ、往還ノ旅賈ヨリ役錢ヲ取ル、百文ヲ四錢省キ、九十六文ヲ以テ、百文ノ數ニ用ユ」

しやうせん (名) [商船] アキウドブネ。アキンドブネ。(兵船、軍艦ナドニ對シテ云フ) [illegible]、[illegible]傳「令[illegible]商船[illegible]以[illegible]之功[illegible]」

しやうぜん (名) [生前] 生命アリテ、未ダ死ナザル前。生前(セイゼン)。(死後ニ對ス) 太平記、一、武家[illegible]「[illegible]ニ[illegible]ヲ[illegible]ンテ、[illegible]ヲ生前ニ致サントス」

じやうせん (名) [上船] 船ニ、乘ルコト。船ヨリ下ルルヲ、下船(ゲセン)ト云フ。

じやうせん (名) [上僊] (僊ハ仙) 天ニ上リテ、僊人トナルコト。又、死スルコトノ敬語。莊子、天地篇「千歲厭世、去而上僊」

しやうせんぐう (名) [正遷宮] 神社ノ造營、工、竣(ヲハ)リテ、權殿ヨリ、正殿ニ遷座スルコト。[illegible]所大神宮例文「二所大神宮正遷宮、臨時、井、假殿遷宮次第」[illegible]所皇大神宮遷宮次第記、五「後光明天皇慶安二年式月廿五日、內宮正遷宮、自寬永六年至今年二十一年」長官守雅家[illegible]、「嘉永二年己酉九月朔日正遷宮(皇大神宮、文政十一年ヨリ二十一年)」

しやうぜんげん (名) [將然言] 語學ノ語、動詞、形容詞、助動詞、ノ接續法ノ一ツノ態度。未然言(ミゼンゲン)ト、同ジ。

じやうせんのたんじやく (名) [成選短册] 王朝時代、藝能アル人ヲ選ビテ、其姓名ヲ記シタルふだ。公事根源、六(四月)擬階奏「[illegible]月ノ列見ノ時ノ、成選の短册ヲ、二省ヨリ、モテ參レルヲ」

しやうそ (名) [障阻] ササヘ、妨グルコト。障礙。

じやうそ (名) [上疏] 事ヲ記シテ、官ニ告ゲルモノ。上書。マウシタテ。通典(唐、杜佑)「[illegible]所[illegible]、皆曰上疏」史記、封禪書「[illegible]人之上[illegible]、[illegible]神仙[illegible]者以[illegible]數」

じやうそ (名) [上訴] (一)上ニ、訴フルコ

ト。訴訟。杜甫詩「眞宰上訴天應ㇾ泣」(二)法律ノ語、裁判所ノ裁判ニ對シ、一定ノ期間内ニ、上級裁判所ニ、不服ノ申立ヲ爲スコト、即チ、控訴上告、及、抗告ノ總稱。

しやうソウ(シヨウ・ソウ) (名) [請僧] 僧ヲ、招キ請ズルコト。又、招キ請ゼラレタル僧。狹衣、三、下「常盤ノハテノ事、云云、講師ハ、山ノ座主ナリケリ、しやう僧ハ六十人、七僧ナドモ、ナベテナラヌヲゾ、セサセ給ヒケル」榮花物語、十六、本雫「コノ度ノ事ニハ、ソノ請僧ドモニモ、皆、宮宮ヨリ、被物アルベケレバ」

じやうそう(ジヨウ・ソウ) (名) [上奏] 天子ニ、奏聞スルコト。上表。漢書、路温舒傳「上奏畏ㇾ卻、則鍛錬而周内之」

じやうそう(ジヨウ・ソウ) (名) [上層] [下層、中層ニ對ス] 上方ノ層。ウハカハ。北史、崔弘度傳「嘗與ㇾ訓登ㇾ樓、至ㇾ上層、去ㇾ地四五丈」「上層ノ氣流」「社會ノ上層」

しやうぞく(シヨウ・ゾク) (名) [裝束] [裝ひ束ぬるニテ、身支度ナリ] (一)ヨソホフコト。身支度スルコト。扮裝ツコト。搜神記、晉、干寶「時已日暮、出告從者、速裝束、吾當ㇾ夜去」北史、李弼傳「至ㇾ夜勒ㇾ所部ㇾ云云、命皆裝束」(二)衣服ノ、ヨソホヒ。着服。キモノ。さうぞく(裝束)ノ條ヲ併セ見ヨ。瑯環記(元、伊世珍)「昔楊太眞裝束、毎件呼ㇾ之人謂ㇾ之神粧」(佩文韻府) (三)束帶、衣冠、直衣、等ノ服装ノ總稱。吉口傳(後醍醐天皇ノ御代)後朱雀院「御即位、人人裝束寸法、大ナル樣被ㇾ御覽及ㇾ可ㇾ爲ㇾ國家之費ㇾ云云、人人裝束、忽縮ㇾ寸法ㇾ了」鹿苑院殿御元服記「御裝束」註「衣冠」(四)カザリタテ、シツラヘ。裝飾。後醍醐天皇年中行事「四月朔日、御衣ガヘナレバ、所所、御裝束改ム、御殿、御帳ノ帷子下リテ、生絹、胡粉ニテ、繪ヲカク」

しやうぞ・く(シヨウ・ゾ・ク) (動) [裝束] 動詞ノさうぞく(裝束)ノ條ヲ見ヨ。

じやうそく(ジヨウ・ソク) (名) [上足] 門弟ノ中ニテ、最モ勝レタルモノ。上席ノ門弟。一ノ弟子。高弟。高足。雲笈七籤(張君房)「弟子數十人、唯、王遠知、陸逸沖、稱ㇾ上足ㇾ焉」

じやうぞく(ジヨウ・ゾク) (名) [上簇] 蠶兒ガ、繭ヲツクルタメニ、簇ニ上ルコト。

しやうぞくびな(シヨウゾク・ビナ) (名) [裝束雛] 次郎左衛門雛ニ似テ、男ニ、太刀ナク、女ニ、天冠ナキモノ。新野問答「今世ニモ、小兒ノ所翫、俗ニ裝束びなト申候人形ノ類、皆、柄首、鳥頸ニ候」

じやうそん(ジヨウ・ソン) (名) [讓遜] ヘリクダリ、ユヅルコト。自己ヲ後ニシ、他人ヲ先ニスルコト。謙讓。

しやうたい(シヨウ・タイ) (名) [正體] (一)正シキ體。マコトノ身。本體。漢書、匡衡傳「廣ㇾ正體ㇾ」盛衰記、三、一院女院嚴島御幸事「一院ノ御幸幣有リテ、御正體、御經、供養アリ」(二)精神。正氣。盛衰記、三十七、熊谷父子寄ㇾ城戸口ㇾ事「晩闇ニ、證人モナク死シタランハ、正體ナシト思ヒケレバ」「正體ヲ失フ」「正體ナクナル」(三)故ノ姿。狂言記、狐塚「兩人シテ、燻イテ、しやうたいヲ顯ハシ、生捕リニシテ」「化物ノ正體」

しやうだい(シヨウ・ダイ) (名) [請待] 請ズルコト。饗應ナドニ、客ヲ請ヒ招クコト。招待。延請。用明天皇職人鑑(寶永、近松作)一「明日ハ、親王ヲ請待シ、御菜ヲ上ゲ申ストテ」

しやうだい(シヨウ・ダイ) (名) [掌大] 手ノヒラ程ノ、大キサ。(物ノ、小ナルニ譬ヘテ云フ語)

じやうたい(ジヨウ・タイ) (名) [狀態] アリサマ。ヤウス。ナリフリ。「現今ノ狀態」

じやうたい(ジヨウ・タイ) (名) [情態] 心ノサマ。心ノヤウス。列子、黃帝篇「備知ㇾ萬物情態ㇾ」

じやうたい(ジヨウ・タイ) (名) [常態] 平常ノ狀態。ツネノ狀。後漢書、邊讓傳「舞無ㇾ常態ㇾ鼓無ㇾ定節ㇾ」「常態ニ復ス」

じやうだい(ジヨウ・ダイ) (名) [上代] カミツヨ。オホムカシ。上古。上世。晉書、武帝紀「迺ㇾ上代之不ㇾ通、服ㇾ前王之末ㇾ服」最明寺殿百人上臈(寶永、近松作)下「上代、異朝ノ賢婦ゾカシ」

じやうだい(ジヨウ・ダイ) (名) [城代] 一城ヲ留守スル職。安土日記、五、元龜三年八月八日「虎御前山ニハ、羽柴藤吉郎、爲ㇾ城代ㇾ」新田老談記、上「謙信公モ、前橋ヘ御出馬被ㇾ成、御逗留ノ内、小桑淵ノ城ヲ御賞有テ、落城以後、長尾殿ヘ城被ㇾ進、城代ニ、新井圖書ヲ、足利ヨリ被ㇾ置ケリ」「城代家老」

じやうだいぞめ(ジヨウダイ・ゾメ) (名) [上代染] 染模樣ノ一種。又、大閤染、高臺染トモ云フ。京都、東山ノ高臺寺ノ天井ヲ寫シタルモノ、格天井ニテ、赤、青、色色ニ塗リタリ。

しやうたいな・し・キ・ケレ・ク・ク(シヨウタイ・ナ・シ) (形、二) [無正體] 正氣、ナシ。精神、ナシ。沙石集、三、下、第五條「六人ノ器量ノ仁ヲ選ビテ、持齋シ、律學セシムトイヘドモ、時、至ラザリケルニヤ、皆、正體なき事ニテアリケレドモ」史記抄(文明)二十四「當世樣ニハ、性體なしト云ワウゾ」同、十四ノ十五「今ノ世デハ、性體なしト云ゾ」

じやうだいやう(ジヨウダイ・ヨウ) (名) [上代樣] 豫樂院近衛家熙(元祿、享保)ノ行ヒタル樣式ヲ云フ。即チ、書體ノ和樣式。

じやうだいりう(ジヨウダイ・リユウ) (名) [上代流] 紀貫之、小野道風ナドノ書風。

しやうたう(シヨウ・トウ) (名) [正當] (一)正シク、理ニ當ルコト。相當。正當。(二)丁度、相當スルコト。冥報記「正當七日」

しやうたう(シヨウ・トウ) (名) [傷悼] (一)イタミ、ナゲクコト。史記、賈誼傳「自以爲ㇾ傅不ㇾ長、傷悼之、乃爲ㇾ賦、以自廣」(二)人ノ死ヲ、イタミ哀シムコト。哀悼。哀戚

しやうだう(シヨウ・ドウ) (名) [聖道] (一)佛家ノ語。眞言、天台、二宗ノ僧ノ稱。庭訓往來、十月「聖道者、一寺檢校、執行、別當」(二)寺院ノ兒童ノ稱。太平記、廿九、松岡城周章事「禪僧ニ成タラバ、沙彌、喝食ニ指サシ、聖道ニ成タラバ、兒共ニ笑ハレズト云フ事、アルベカラズ」

しやうだう(シヨウ・ドウ) (名) [唱導倡道] (一)先ダチトナヘテ、他ヲミチビクコト。先ニ言ヒ出スコト。詩經、箋「在ㇾ上所ㇾ以倡道ㇾ」(佩文韻府) (二)法門ヲ說キテ、佛道ニ引キ入ルルコト。說敎。盛衰記、廿、小兒讀ㇾ諷誦ㇾ事「修行者ヲ招請シテ、唱導ヲ勸メケルニ」

じやうたう(ジヨウ・トウ) (名) [常套] 常ノカタ。尋常一樣ノシカタ。有リフレタル仕方。「常套手段」「常套語」

じやうだう(ジヨウ・ドウ) (名) [上道] 旅立ツコト。

じやうだう(ジヨウ・ドウ) (名) [上堂] 佛教ノ語、禪宗ノ行事ノ一、導師ノ、法堂ノ須彌壇上ニ登リ、學人ノ來向ニ答辯シ、宗論ヲ行フコト。撮壤集、上、諸宗「行事(禪家)、上堂、小參」

じやうだう(ジヨウ・ドウ) (名) [成道] 佛教ノ語、無上道ヲ證ルコト。悟道。榮花物語、十七、音樂「降魔成道轉法輪、忉利天ニノボリ給ヒテ、摩耶ヲ敎化シ奉リ給フ」

じやうだう(ジヨウ・ドウ) (名) [常道] (一)常ニ、定マレル道。史記、蔡澤傳「進退盈縮、與ㇾ時變化、聖人之常道也」「憲政ノ常道」(二)人ノ、常ニ遵由スベキ道。

じやうたうご (名) 常套語 〔言ヒナラハシタル、コトバ〕。アリフレタル言語。ク[illegible]

しやうだうし (名) 唱導師 佛教ノ語、法會ノ首位ヲ務ムル僧侶。 庭訓往來、九月「[illegible]唱導者被差定、中結日唱導師[illegible]候」

じやうだうゑ (名) 成道會 毎年十二月八日、釋尊成道ノ日ニ行フ法會。 臘八。

しやうたつ (名) 上達 學術ナドノ、進ミトドクコト。巧ミニナルコト。上手ニナルコト。向上。 論語、憲問篇「下學而上達、知我者其天乎」「學藝ノ上達」

しやうたふ (名) 牀榻 〔釋名「人所坐臥曰牀、長狹而卑曰榻」〕 コシカケ。ネダイ。 晉書、[illegible]傳「[illegible]牀榻而已」

しやうたん (名) 賞歎 感心シテ、ホムルコト。歎賞。 晉書、[illegible]傳「[illegible]文[illegible]」

しやうたん (名) 嘗膽 (一)膽ノ苦キヲ嘗メテ、苦シムコト。 史記、越世家「[illegible]」 (二)轉ジテ、讐ヲ復サントスルニイフ。 臥薪嘗膽ノ條ヲ見ヨ。

しやうだん (名) 章段 文章ノ段落。文ノキリ。 徒然草、八十二段「先賢ノ作レル内外ノ文ニモ、章段ノ缺ケタル事ノミゾ侍ル」

じやうだん (名) 上段 〔中段、下段ニ對ス〕(一)上ノ段。上階。(二)家ノ中ノ、ミノ方ノ一室ニ、床ヲ、更ニ、一段高ク設ケタル所、貴客ヲ請ズル所トス。 塞山集、甲乙錄、四「諸家之宅、有上段、備行幸也、故、四足門亦有之、其他、公卿家設上段、爲待勅使也、今大名家上段、爲待上使也、以外上段、爲[illegible]神祭耳」(三)劍術ニ、刀ノ構ヘ方ノ稱、兩手ニ柄ヲ握リテ、頭上ニ振リカザスコト。「刀ヲ、上段ニ構フ」

じやうだん (名) 常談 (一)ツネノ、ハナシ。日常ノ談話。平話。 世說、規箴篇、下「此、老生之常談」(二)平話、雜談、ノ意ヨリ轉ジテ、ザレゴト。戲レ言フ話。(或ハ、冗談ノ音カ、或ハ、雜談ノ訛カ) 謔語 「じやうだんヲ云フ」(三)又、轉ジテ、タハムレ。オドケ。イタヅラ。戲謔 狂言記、荷文「ソチガ、常常、じやうだんスル故ぢや」

しやうち (名) 上智 人ノ、氣質、極メテ清ク、智ノ、至リテ明カナルコト、又、其人。大智(下愚ニ對ス) 論語、陽貨篇「惟、上智與下愚不移」 平家女護島(享保、近松作)三「上智、博識モ、辨ズベカラズトヤ」

じやうち (名) 上知 知行ヲ、幕府ニ納ムルコト。 德川禁令考、二十七、知行「此度、江戸大坂最寄、爲御取締、上知被仰付候」

じやうち (名) 上地 (一)上等ノ土地。 管子、乘馬篇、地均「上地、方八十里、與下地、方百二十里、通於中地、方百里」(二)土地ヲ、官ニ上納スルコト。 太政官達、第四號「一段上地被仰附」

じやうち (名) 城池 城ノ周圍ニアル壕。城壕。 [illegible]「百姓心離、城池不修」 [illegible]「[illegible]城池」

じやうち (名) 城雉 城上ノ墻。城ノ垣根。 北史、[illegible]傳「據[illegible]山、以爲城雉」

じやうち (名) 情致 オモムキ、風致。 世說、文學篇、下「[illegible]詩賦、甚有情致」

しやうぢき (名) 正直 (一)心ノ、タダシク、ナホキコト。僞ラヌコト。正直(セイチョク)。 盛衰記、三十九、重衡酒宴事「千手ナハ、正直者ゾト思ヒタレバ、眞ナラヌ時モアリケルヤ」 義經記、六、白[illegible]關東被召[illegible]御條坊事「[illegible]正直ニ申サレ候ヘ」(二)鉋ノ一種。桶ヲ作ル者ノ、大イナル桶、又ハ、井戸側ナドヲ作ルニ用ヰル。 和漢三才圖會、廿四「正直、大鉋也、長三四尺、俗呼名正直、桶工用之」 [illegible]千句「正直ノ、カウベヲ照ス、月日影、秋ノ夜ヲカケ、桶ヲ結フナリ」 後撰夷曲集、五、神祇「正直ナ、人ヲバ守ル、印ニハ、社社ニ、仕フかんなぎ」

しやうちやう (名) 正丁 よぼろノちやう(丁)ノ條ヲ見ヨ。 東大寺正倉院文書、三十八、筑前國大寶二年戸籍「戸主、卜部乃母曾、年肆拾玖歳、正丁、課戸」 周防國玖珂郡玖珂鄉、延喜八年戸籍公文「戸主、久米直阿古人丸 年肆拾陸歳 正丁、[illegible]小魚丸、年伍拾參歳、正丁」

しやうちやう (名) 匠丁 王朝時代、飛驒國ヨリ、年毎ニ貢進セシ匠人(タクミ)。 賦役令、凡[illegible]「[illegible]匠丁十人」 民部省式「凡飛驒國、毎年貢匠丁一百人」 政事要略、五十九、交替雜事「太政官符[illegible]」

しやうちやう (名) 莊長 しやうじ(莊司)ニ同ジ。 [illegible]

じやうちやう (名) 上聽 上ヘノキコエ。上聞。 [illegible]

じやうちやうくわん (名) 上長官 陸海軍ノ佐官、及、其相當官以上ノ稱。

しやうちゆう (名) 掌中 タナゴコロノ、ウチ。手ノ内。 杜甫[illegible]詩「掌中[illegible]」「掌中ノ珠」「掌中ニ藏ス」

じやうちゆう (名) 城中 城ノ内。城内(シヤウナイ)。 史記、項羽紀「[illegible]」 太平記、三、笠置軍事「城中[illegible]メテ、ハアリトモ見エザリケレバ」

じやうぢゆう (名) 常住 佛經ノ語、常ニ、トドマリテアルコト。何時モ、變ハラヌコト。(無常ノ反) 千佛因緣經「常住名爲法」 平家物語[illegible]、小宰相身投事「[illegible]破レテハ、[illegible]不斷ノ香ヲ焚キ、[illegible]テハ、月、常住ノ燈ヲ挑グ」

じやうぢゆう (副) 常住 ツネニ。イツモ。シヨッチュウ。「常住アリ」「常住、使フ」

しやうちよう (名) 象徵 〔英語、Symbol.ノ譯語〕 表號ノ一種。例ヘバ、十字架ノ、基督教ニ、白百合ノ、清潔ニ於ケルガ如シ。

しやうづかのばば (名) 〔三途河婆ノ訛〕 さうづかはノ條ヲ見ヨ。

しやうつき (名) 祥月 〔元ハ、正月ト書ケリシニ(正忌ヲ、正日ト云ヘリ)正月ニ紛ルレバ、小祥、大祥ノ、祥ヲ取リテ、記シシナルベシ〕 きにち(忌日)ノ條ヲ見ヨ。 通俗編[illegible]「祥月、[illegible]毎年ノ忌日ヲ、祥月ト云フハ、如何、答曰、禮記ニ據ニ、親、亡シテ、十三月ノ祭ヲ、小祥ト云フ、二十五月ノ祭ヲ、大祥ト云フ、[illegible]一周年三年ノ月忌ヲ、祥ト云フニ因テ、此ヨリ以後ノ忌日モ、俗ニ之、祥月ト稱ク」

じやうづめ (名) 常詰 平常、詰メテ居ルコト。毎日、又ハ、終日終夜、奉仕スル所ニ、勤ムルコト。ツメキリ。

じやうづ・める (動) 常詰 常詰ニシテ、

アリ。詰メキリニシテ居ル。浮世風呂(文化、三四)三編、上「混チ合所カ、髪ハ、髪結ノお揃サンガ、常話めろ」

しやうてい(名)【上帝】天ノ主宰。天ノ神。天帝　造物主。書經、湯誥篇「予畏二上帝一、不二敢不一レ正」同、伊訓篇「上帝不レ常、作レ善降二之百祥一、作二不善一降二之百殃一」

しやうてい(名)【上丁】二月ノ上ノ丁ノ日ニ、孔子ヲ祭ルコト。釋奠。禮記、月令篇「是月也(仲春之月)上丁、命二樂正一、習レ舞釋菜」疏「必用二丁者、取二其丁壯成就之義一、欲レ使二學者藝業成就一故也」唐書、禮樂志「二月八日以二上丁日一釋二奠於文宣王一」

しやうてい(名)【祥禎】メデタキ、シルシ。メデタキ、サイハヒ。禎祥　祥瑞　張華詩「懷二柔百神一、頒二祥禎一」

しやうてい(名)【章程】〔漢書、高帝紀、注「章、歷數之章術、程、權衡、丈尺、斛斗之平法」〕ノリ　オキテ。規則　史記、太史公自序「張蒼爲二章程一、叔孫通定二禮儀一」

しやうでい(名)【障泥】アフリ。世說「此必是惜二障泥一」

じやうてう(名)【情調】(一)感情ノ、充滿シタル調。杜牧詩「江南仲蔚多二情調一、悵望春陰幾首詩」「下町情調」(二)感覺ノ調子。(心理學ニ)

じやうてふ(名)城堞　シロノ、ヒメガキ。宋史、劉錡傳「乃修二城堞一、毎依二巨木一爲レ櫓」

しやうてん(名)【上天】(一)アメ　ソラ。天、(下土ニ對ス)詩經、小雅、北山之什、小明篇「明明上天、照二臨下土一」(二)上帝。天帝。太平記、十二、兵部卿親王流刑事「上天聞ク所、忠ノ訴ヘ不レ空」(三)冬ノ天。爾雅、釋天「冬爲二上天一」(四)天ニ上ルコト。昇天。

しやうてん(名)【掌典】(一)典籍ヲ掌ルコト。舊唐書、職官志「掌二典文籍一而執行焉」(二)宮內省、式部職ノ職員、祭典ノ事ヲ掌ルモノ。

しやうてん(名)【賞典】褒美ニ賜ハル金、祿、ナド。隋書、元諧傳「宜レ隆二賞典一」

しやうてん(名)【商店】アキナヒミセ。商家ノ見世。「商店街」

しやうでん(名)【聖天】天竺ノ神ノ名、くゎんぎてん(歡喜天)ノ條ヲ見ヨ。七十一番職人盡歌合(文安)廿六番、佛師「モシ我レニ、抱キヤ逢フト、聖天ノ、如クニ人ヲ、造リナサバヤ」

しやうでん(名)　ばかばやし(馬鹿囃子)ノ條ヲ見ヨ。

じやうてん(名)【常典】常ノオキテ。不易ノ法典　常例。常度。蔡邕、宗廟迭毀議「爲二無窮之常典一」

じやうでん(名)【上田】上等ノ田地。地、肥エテ、稻ノ實リ好キ田。(中田、下田ナドニ對シテ云フ)漢書、食貨志「民受レ田、上田夫百畮、中田夫二百畮、下田夫三百畮」主稅寮式、上「凡、公田穫稻、上田五百束、中田四百束、下田三百束、下下田一百五十束、地子、各依二田品一、令レ輸二五分之一一」類聚國史、八十、政理、延曆廿一年正月壬戌「勅、如レ聞、山城國百姓、賣二買水田一、以二稻爲一レ直、准二錢論一之、町過二萬錢一、自今以後、宜下上田一町直錢四千、中下田者、准レ此差減上」

しやうでんぐ(名)【聖天供】佛教ノ語、聖天ヲ、供養スルコト。保元物語、一、調伏事「件ノ法ハ、烏芻沙魔金剛童子聖天供トゾ聞エシ」

しやうてんろく(名)【賞典祿】明治維新ノ際、國家ニ功勞アリシ者ニ、賞典トシテ賜ハリシ秩祿。

しやうど(名)　行キ着クベキ、先キノ所。目的トスル所。淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「著ノ臨デノ御追放、何所ヲしやうどニ御座ラウゾ」

じやうど(名)【淨土】〔淸淨國土ノ義ト云フ、穢土ニ對スル語〕極樂淨土ノ略、極樂ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。阿彌陀如來、其土ヲ、西方十萬億土ニ建立シ、ソレニ住ミテ、十方ノ衆生ヲシテ、往生ノ素懷ヲ遂ゲシムト云フ　安養世界　蓮華藏世界。瑜伽論、七十九「以レ無二有二四趣五濁一、淸穢ノ是名二淨土一」落窪物語、四「ヨロヅノ事、淨土ノ心地スル、我ガ殿ヲ、打捨テテ罷ランコソ、物狂ホシケレ」拾遺集、十八、雜賀「戀スルニ、佛ニナルト、云ハマセバ、我レソ淨土ノ、主ナラマシ」

じやうど(名)【壤土】ツチ。土壤。土地。又、肥エタル地　沃土。國語、齊語「惡金以鑄二鉏夷斤斸一、試二諸壤土一」

じやうど(名)【靑桐】アヲギリ。倭名抄、廿、木類「梧桐、俗訛呼爲二靑桐一、二音」名義抄、木部「靑桐、シャウト」

じやうど(名)【常度】(一)定リタル法度。不變ノ掟。常典。史記、屈原傳「刓レ方以爲レ圜兮、常度未レ替」(二)平常ノ態度。後漢書、吳漢傳「或多惶懼、失二其常度一」

しやうとう(名)【正統】いっとう(一統)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。正統。(分家、庶流ノ系ナドノ閏統ニ對ス)盛衰記、四十七、六代蒙レ免上洛事「此ノ童ハ、平家ノ嫡嫡ノ正統ナリ」「神皇正統記」

じやうとう(名)【上等】上ナル等。物事ノ、最モ勝リタルコト。(中等、下等ナドニ對ス)「御前上等」上等兵」

じやうとう(名)【上騰】立チノボルコト、アガルコト。上昇。(下降ニ對ス)禮記、月令篇「天氣上騰、地氣下降、天地不レ通、閉塞而成レ冬」

じやうとう(名)【上頭】〔許嫁シテ、頭ニ笄スル義〕女ノ、緣組シタルコト。俗ニ、ミヅアゲ。

じやうとう(名)【上棟】ムネアゲ。易經、繫辭、下傳「後世聖人、易レ之以二宮室一、上レ棟下レ宇、以待二風雨一」玉海、承安二年二月三日「建春門院、新御堂上棟」「上棟式」

じやうとう(名)【常燈】佛前ニ、常ニ絕エズ供スル燈火。終夜點ス御燈。常燈明。長明燈　宇津保物語、藤原君「比叡ノ中堂ニ、じやうとうヲ奉リ給フ」太平記、五、中堂新常燈消事「常燈ナレバ、未來永劫ニ至ル迄、消ユル事ナカルベキニ」

じやうとう(名)【成等】次條ノ語ノ略。謠曲、鐵引「忽ニ、南方無垢ノ成等ヲ稱ヘシ例アリ」

じやうとうしやうがく(名)　成等正覺　佛敎ノ語、佛ノ、覺智ヲ成就スルコト。迷ヒヲ去リテ、悟リニ就クコト　成佛　盛衰記、十、丹波少將上洛事「過去聖靈、成等正覺トゾ、祈リ給フ」謠曲、經政「法事ヲナシテ、夜モスガラ、平經政、じやうとうしやうがくト、弔ヒ給フ、有難サヨ」

じやうとうみやう(名)【常燈明】常燈ニ同ジ。又、神佛ナドニ立テタル燈明臺ヲモ云フ。

じやうとうもん(名)【上東門】大內裏ノ十二門ノ一、東面、北ノ端ノ門。上西門ト、東、西、相、對ス。

じやうとき　[illegible]　常時　時々、定メテ、常ニ。[illegible]二、[illegible]處スコト[illegible]、コノ邊ニ住ム、骨折テゴザル、今日ハ、サル方ヘ、常盤ニ參ッテ、只今、罷歸ル」

しやうとく　(名)　生得　生レナガラニ、得タルコト。ウマレツキ。天性。（[illegible]）「[illegible]一、源氏物語「此人ハ、生得、痩、小サクオハシケレバ、小別當トゾ申シケル」「生得ノオ」

ぢやうとくい　(名)　常得意　平常ノ得意。定リテ常ノ買ヒツ顧客。花客。（[illegible]）

しやうとくひら　(名)　正德平　夏季用ノ袴地ノ一種。正德年中ヨリ織出シタル絹織物。（[illegible]、ナラジマニテ、練シ、正德年中ヨリ多出ルガ故、正德平トモ云ヘリ」）

ぢやうどしんしゆう　(名)　淨土眞宗　いっかうしゆう（一向宗）ニ同ジ。

ぢやうどしゆう　(名)　淨土宗　佛教ノ一派、天台宗ヨリ出デ、僧源空（法然上人、又、圓光大師、建暦二年寂、八十）ノ、承安年中ニ創メシモノ、阿彌陀佛ノ本願力ニ因リテ、極樂淨土ニ往生スト云フ事ヲ、宗義トス、淨土專念宗トモ云フ、此宗ハ、鎭西派ト、西山派トニ別カル、今、鎭西派ハ、單ニ、淨土宗ト云フ、辨阿聖光上人、筑紫ニ善導寺ヲ開キテ、居ル、西山派ハ、善慧證空上人、山城ノ西山光明寺ニ住ス。又、親鸞上人ハ、別ニ、淨土眞宗ヲ開キタリ。

ぢやうどすごろく　(名)　淨土雙六　繪雙六ノ、最ニ古キモノ、南閻浮洲ヨリ、[illegible]ヲ振出シ、天堂アリ、地獄アリ、其天堂ヲ上リトシ、永沈ト云フ所ニ移レバ、出ヅルコト能ハズ、故ニ、又、永沈雙六ノ名モアリ。選佛圖（五雜組）　好色二代男（[illegible]）「[illegible]」[illegible]

ぢやうどせんねんしゆう　(名)　淨土專念宗　淨土宗ノ條ヲ見ヨ。

ぢやうどもん　(名)　淨土門　此世ヲ去リテ、極樂淨土ニ生ルル時ニ通ルト云フ門。（[illegible]）

ぢやうない　(名)　城內　シロノウチ。城中。城外ニ對ス。（[illegible]）

しやうなう　(名)　樟腦　樟ノ材ヨリ採リテ、藥用、其他、種種ノ用トスルモノ、樹ノ中心ノ、赤黑クシテ、香氣強キ部ヲ、釜ニテ煎ジ、盆ノ法ニ結スルヲ、採ル、白クシテ、雪ノ如シ。（和漢三才圖會、八十二、[illegible]）

しやうなうび　(名)　樟腦火　樟腦ヲ燃ヤシタル火。芝居ノ舞臺ニテ、狐火ナドニ用ヰル。

じやうなふ　(名)　上納　物ヲ、官ヘ納ムルコト（年貢、運上ナド）（[illegible]「年貢ヲ上納ス」）

ぢやうなんじまつり　城南寺祭　「出典ヲ見ヨ」[illegible]

ぢやうに　(副)　常　〔ぢやうハ、定ニ通ズ、越後ニテ、ぢやうやト云フ〕ツネニ。フダンニ。

しやうにち　(名)　正日　（一）喪ニ丁リテ、四十九日ノ稱。（[illegible]）（二）又、一週忌ノ忌日ノ稱。（[illegible]）（三）又、年年ノ、正忌ノ稱。

じやうにち　(名)　上日　〔上直日ノ義〕（一）奉公勤仕ノ日。上日。當番。（[illegible]）（二）平家琵琶ノ曲ノ名、さくら（櫻）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

しやうにん　(名)　上人 聖人　沙門ノ、秀業ノ稱、一心ニ、阿耨菩提心（無上覺ノ義）ヲ行フ者ニ名ヅクト云フ、或ハ云フ、内ニ德智アリ、外ニ勝行アリテ、人ノ上ニ在ル者ヲ名ヅクト。（[illegible]）

しやうにん　(名)　上人　僧侶ノ敬稱。尊[illegible]、天台宗、[illegible]、其宗派ノ、淨土宗、日蓮宗、等ニ云フガ如シ。（[illegible]「[illegible]ハ、四條邊ノ上人デ御座ル」）

しやうにん　(名)　商人　アキビト。アキンド。商賈。（[illegible]）

じやうにん　(名)　淨人　〔釋氏要覽、下「由レ作ニ淨業、故名ニ淨人ニ」〕僧職ノ一、寺ニ住居シ、出家セズシテ、衆僧ニ給仕スルモノ。（[illegible]）

ぢやうにん　(名)　常任　（一）常ニ、其任ニアルコト。（二）平常、委任シオクコト。（[illegible]）

しやうね　(名)　性根　〔ねハ、根ヲ和訓シタルモノカ（根ノ條ヲ見ヨ）〕こんじやう（根性）ニ同ジ。（[illegible]「性根ガ腐ル」「性根ヲ入レカヘル」）

じやうねいでん　(名)　常寧殿　キサキマチ。キサイマチ。禁中、殿舍ノ名、承香殿ノ北ニアリ。（[illegible]）

しやうねぐさ　(名)　性根草　葎ノ異名（[illegible]）

しやうねだま　(名)　性根玉　こんじやう[illegible]

(根性)ニ同ジ。俗耳鼓吹「磨イタラ、磨イタダケハ、光ルナリ、せうね玉デモ、何ノ玉デモ」

じやう-ねつ (名) 【情熱】 感情ノ、熱スルコト、感情ノ、劇シクナルコト。情火。「情熱ノ高潮」

しやう-ねん (名) 【生年】 生キテアル齡。年齡。生年。文選、古詩「生年不ㇾ滿ㇾ百」 保元物語、一、官軍方々手分ノ事「安藝守清盛ガ次男、安藝判官基盛、生年十七歲トゾ名告ッタル」

しやう-ねん (名) 【正念】 (一)佛經ノ語。正法ヲ思念スルコト。无量壽經「正念正觀、諸通明力」 千載集、九、哀傷 西住法師、身マカリケル時、終リ正念ナリケル由、聞キテ」 撰集抄、七、第三條「病ミ狂ヒテ、オヨソ、正念モ侍ラザリケルヲ、トカク慰ヘ鎭メテ」 (二)雜緣ノ爲ニ、亂サレザル信心。(三)一心ニ、念佛スルコト。增補武邊談、六「岡野左内、云云、日來借置候證文共ハ、云云、火中シテ、扨、正念ニシテ、死去ナリ」

じやう-ねんぶつ (名) 【常念佛】 絕間ナク唱フル念佛。薩摩歌(寶永、近松作)上「四十八夜ノ常念佛」

しやう-の-こと (名) 【箏】 さう(箏)ノ條ヲ見ヨ。サウノコト。(きんのこどナドニ對ス) 倭名抄、四「琴瑟類「風俗通云、神農造ㇾ箏、俗云、象乃古止」

しやう-の-ふえ (名) 【笙笛】 しやう(笙)ト云フニ同ジ。サウノフエ。倭名抄、四「樂具「笙、音生、俗云、象乃布江」(笙、漢音、さう) 名義抄「笙、シヤウノフエ」 [illegible]記、二、清暑息女事「紫宸殿ニ、時時、笙の笛ヲ調ブル聲アリ、云云、千尋ノ竹ニ宮キ給ヘル鳳凰ノ、鳴ク音ニゾ侍リケル」 源、五、若紫「例ノ篳篥吹ク隨身、さうのふえ持タセタル好者ナドアリ」 枕草子、四、四十三段「つねふさノ少將ノ、さうのふえナド、イト面白ウ、一ワタリ遊ビテ」

しやう-はい (名) 【賞牌】 功ヲ賞メタル標トシテ、與フルモノ、多クハ、金、銀、銅、ナドノ、圓ク扁キモノニ、其事柄ヲ記シツク。メダル。獎章 「有功賞牌」

しやう-はい (名) 【賞杯】 善行、又ハ、功勞ノ賞トシテ與フルさかづき。金、銀、木製、ノ三種アリ。

しやう-ばい (名) 【商賣】 (一)アキナヒ。ウリカヒノコト。商法。著聞集、十二、博奕「七半ヲシタル男、商賣シ給フ所ナレバ、家、狹ク、所、無シ」 心中天網島(享保、近松作)中「兄御ト談合シテ、商賣ノ尾ハ見セヌ」 (二)營業。職業。狂言記、煎物「祇園ノ會ノ茶屋ノ座ヲ持ッテ、煎物ヲ商賣致ス」

じやう-はい (名) 【上輩】 〔下輩ニ對ス〕 (一)身分ヨキ人タチ。上流人。(二)目上ノ人タチ。先輩。

しやうばい-あがり (名) 【商賣上】 先キニ、藝娼妓、又ハ、茶屋女ナドヲナシタルモノノ、其レヲ廢メテ、素人トナリタル人。浮世風呂(文化、三馬)二編、上「商賣あがりダカラ、大カタ、子モ出來メエ」

しやうばい-にん (名) 【商賣人】 (一)アキビト。アキンド。狂言記、合柿「流石、商賣人ナレバコソ」 (二)藝娼妓ノ異稱。

しやう-はう (名) 【詳報】 クハシキ、知ラセ。細報。「委細、詳報ヲ俟ツ」

しやう-はう (名) 【尙方】 (一)支那、漢ノ代、宮中ニ仕ヘシ官、天子ノ劍、鏡ナドヲ造リシモノ。漢書、朱雲傳「願得ニ尙方斬馬劍ハ斷ニ佞臣一人頭ハ以厲ニ其餘ニ」 (二)支那ニテ、藥ノ配劑ヲ掌ル職。漢書、郊祀志「爲ニ膠東王尙方ニ」

じやう-はう (名) 【上方】 寺院ノ寺僧。住職。方丈。古寫本、節用集「上方、常住持曰ニ上方、又、呼ニ兒曰ニ上方ニ」

じやう-はう (名) 【城堡】 しろト、とりでト。シロ。唐書、王忠嗣傳「據ニ要險ニ築ニ城堡ハ斥ㇾ地甚遠」 元史、文宗紀「修ニ城堡ハ布ㇾ兵拒守」

じやう-ばう (名) 【狀貌】 ミメカタチ。スガタ。ナリフリ。容姿。容貌。史記、高祖紀「呂公者好相ㇾ人、見ニ高祖狀貌ハ因重敬ㇾ之」

じやう-ばう (名) 【淨房】 カハヤ。便所。手水場。訓蒙字會「厠、俗呼ニ淨房ニ」

しやう-はく (名) 【商舶】 しやうせん(商船)ニ同ジ。宣和畫譜「日本國僧、與ニ其徒五六人ハ附ニ商舶ニ而至」

じやう-はく (名) 【上白】 上等ノ白米。天神記(正德、近松作)二「朱椀ノ定器ニ、上白ノ飯」

じやう-ばこ (名) 【狀箱】 書狀ヲ往復スルトキ、入ルルニ用キル、小サキ匣。フミバコ。フバコ。封筒 井筒業平河內通(享保、近松作)三「改メ開ク狀箱ノ、中ノ一通」

しやう-ばつ (名) 【賞罰】 賞ト、罰ト。(各條ヲ見ヨ) 左傳、襄公廿七年「賞罰無ㇾ章、何以沮勸」

しやう-はふ (名) 【商法】 (一)アキナヒ。商賣。(二)商ニ關スル法律。范仲淹奏「大變ニ商法ハ以行ニ山海之貨ニ」

しやう-はん (名) 【商販】 商ヒ、鬻グコト。販賣 管子、八觀篇「悅ニ商販ハ而不ㇾ務ニ本貨ニ」

しやう-はん (名) 【掌蹯】 〔蹯、正音へん、爾雅、釋獸、疏「蹯、掌也、此四獸之類、皆有ニ掌蹯ニ」〕 羆、熊ナドノ、テノヒラ。熊ノたなごころ。

しやう-ばん (名) 【相伴】 饗應ノ席ニ伴ヒ、主人ヲ助ケテ、客ノ相手トナルコト。アヒタケビト。伴食 陪食 陪膳 錢氏私誌「令ニ潔守道相伴ハ飲ニ酒菓ニ」 下學集、下、態藝門「相伴、對座也」

じやう-はん (名) 【上半】 上ノ方ノ半分。下ノ半分ヲ、下半ト云フ。「文章ノ上半ヲ缺ク」

じやう-ばん (名) 【城番】 城ニ任番スル、警固ノ兵士。「大阪城番」

しやうばん-しゆう (名) 【相伴衆】 室町幕府ノ時、一ノ重職ノ稱。此レハ、將軍ノ、殿中ニテ宴ヲ開キ、又ハ、諸家ノ宴ニ赴ク時ニ、其席ニ侍スルコトヲ得ルモノニテ、山名、一色、細川、畠山、赤松、佐佐木ノ、諸家、之レニ當ル。文明十一年記、正月十七日御的始「祇候人數、管領、治部大輔殿、細川殿、山名殿、一色五郎殿、赤松、以上、御相伴衆也」 足利季世記、五、晴元入道三好と和談事「長慶父子共ニ、御相伴衆ニナサレ、桐ノ御紋ヲ被ㇾ下、是ハ、先度、御相伴衆ニナシ給フ時、朝倉彈正左衞門ヲ、普林院殿(足利義稙)ヨリ、御相伴衆ニナサレケル、其例ヲ追レケル」

じやう-はり (名) 【淨張】 茶釜ノ一種、又、法華釜。京都ノ釜師、淨味ノ、鑄造リタルモノト云フ。淀河「十下堂ニ、秋風ゾ吹ク」淨はりノ、鏡ニ似タル、月出デテ」夜露ニ濡ルル、此ノ法華釜」注「茶釜ニ、淨張ト云フ釜ヲ、法華釜ト、異名アリ」

じやう-はり-の-かがみ (名) 【淨玻璃鏡】 佛說ニ、地獄ノ閻魔ノ廳ニ在リト云フ鏡ノ名、能ク、亡者ノ生前ノ善惡ノ業ヲ照シ顯ハスト云フ、平家物語、二、小松教訓事「冥途マデ、娑婆世界ノ罪人ヲ、云云、淨玻璃の鏡

二引返シ、[illegible]ガ叶[illegible]

しやうび（二）賞[illegible] ホメ、タタフルコト。ホメ、ソヤスコト [illegible]

しやうび（名）[薔薇]（一）灌木ノ名、ばら[illegible]ヲ見ヨ [illegible]（二）さうび、薔薇 [illegible] ノ（二）ニ同ジ

しやうひ（名）[扼腕] 腕マクリスルコト 扼腕。孟子、盡心、下篇「扼腕下車」呂氏春秋「扼[illegible]」

しやうび（名）常備 常ニ、備ヘテ置クコト [illegible]

しやうひつ（名）[正筆] しんぴつ（眞筆）ニ同ジ [illegible]

しやうびへい（名）[常備兵] 常備ノ兵。平時ニアリテモ、備ヘ置ク兵隊（豫備、後備ニ對ス）

しやうひん（名）[商品] アキナヒモノ。商賣ノ代物 賣買品

しやうひん（名）[上品]（下品ナドニ對ス）（一）品柄ノ、勝レタルモノ。品質ノ、ヨキモノ 絶品 [illegible]門、下品[illegible]（二）品ノ、好キコト 見ノ、氣高キコト。高雅「人ガラ上品ナリ」

じやうひん（名）[上賓] 上等ノ客 上客 漢書、枚乘傳「乘、久爲大國上賓、與英俊並遊」

じやうひやう（名）[精兵] はたけ花ゐれん（品水鍊）ニ同ジ。

じやうひやう（名）[上平]（下平ニ對ス）漢字ノ平聲ノ一、抑揚ナク、平カナル音 即チ、東、冬、江、支、微、魚、虞、齊、佳、灰、眞、文、元、寒、删、ノ十五韻ナリ。之レニ對シテ、先、蕭、肴、豪、歌、麻、陽、庚、青、蒸、尤、侵、覃、鹽、咸、ノ十五韻ヲ、下平ト云フ

しやうびやく（名）[省佰省百] しやうせん（省錢）ニ同ジ 貨幣通考「寛永十三年六月朔日、始行寛永通寶錢ト云云、是ノ頃ハ、金壹兩ニ、四貫文タル由ナリ、是レヨリ、鐚錢、永樂ノ諸錢ハ、廢セシ也、省佰モ、是ノ時ヨリ始マルト云フ、鑄錢局ヨリ賣リ渡ス時、百文ニ付キ、四文ヅツ、局費ヲ去リテ、渡セシ故、其ノ儘、通用セシナルト」

しやうふ（名）[生麩糊]〔支那ニハ、小粉ト云ヒ、細末ナルヲ、云フ、又、漿粉トモ云フ（おむぎおヲ洒シタルモノ）糊ノ字ハ、麥糊ノ合字〕麩ヲ製スルトキ、水ノ底ニ澱ミタル粉ヲ、乾シ曝シタルモノ、多クハ、煮テ煉リテ、糊トス。麪黏 本綱 食療、一、穀、麪麩、註「之世字不二詳解一、即麪不也、綱目、調麥粉一也、麪洗筋澄出漿粉、今本邦取二麪筋一而後、合取二水底澄一曝乾作レ粉、即是麪粉也、蓋之麪筋者、麪粉少、而色不二純白一、味亦不レ佳、麪之麪筋者、麪粉多、而色白味佳、此作レ糊、作二燒餅一、俗稱 不乃糊一、味甘微、微涼無レ毒」

しやうふ（名）祥符 メデタキ、シルシ。祥瑞 吉瑞 李白詩「造化合二祥符一」

しやうふ（名）[商布] 商物ノ爲ニ作リタル布。タニ、字類抄「商布、シャウフ」續紀、三六、和銅七年二月庚寅「制、以二商布二丈六尺一爲レ段」三代實錄、十八、貞觀十二年十二月廿五日「制、定二交易商布貢稻十束、凡商布直六束」民部省式「交易雜物、駿河國、商布二千一百段、甲斐國、商布四千一百段」

しやうふ（名）[娼婦倡婦] 遊女、女郎。元帝、蕩婦秋思賦「倡婦之居自憐」

しやうぶ（名）[菖蒲]（一）古名、アヤメ。アヤメグサ（其條ヲ見ヨ）さうぶ 草ノ名、水澤ニ生ズ、葉（劒刃アリ）、根、花、スベテ、石菖ノ如クニシテ、大キク、長サ四五尺ニ及ブ、香氣モ、多シ、端午ノ節物トシ、此葉ヲ檐ニ插シナドシテ、祝フ 白菖 泥菖 古樂府「水濱菖花未レ生レ節」吾妻鏡、十四、建長五年五月五日「御所中厚倉、菖二菖蒲一事、可レ稱二梠皮葺所一之由、被レ仰」（二）襲ノ色目ノ名、しやうぶがさねヲ見ヨ

しやうぶ（名）[尚武] 武事ヲ、タフトブコト 武事ヲ、重ンズルコト。杜甫詩「此邦今尚レ武、何處見依レ仁」

じやうふ（名）[城府] ミヤコ、都城 都邑 後漢書、馬援公傳「居二皖山之南一、未レ嘗入二城府一」城府ヲ設けずトハ、人ニ接スルニ、隔ヲナサズノ意 宋史、傅堯俞傳「堯俞、厚重寡言、遇レ人不レ設二城府一、人自不レ忍レ欺」

じやうふ（名）[情夫] マブ、ミソカヲトコ 情郎

じやうふ（名）[情婦] イロヲンナ。

じやうふ（名）[上布] 麻布ノ、上等製ナルモノ、苧ノ絲ニテ、織ル、越後、陸奥、大和、周防、等ニ産ズ、縞アリ、絣アリ。苧麻布 薩摩上布ハ、生麻ナリ、[illegible]錄、四、衣服、夏布ハ、[illegible]ノ上布ヨリ良ナルハ莫シ、抑モ此物ハ、世上ニ、薩摩上布ト稱スト雖モ、薩摩ノ産ニ非ズ、其實ハ、琉球國ノ織物ニテ、極上ノ細布ハ、佐佐島ヨリ出ヅ、白上布ハ、耶山ノ産、粗布ハ、宮古島ヨリ出ヅ、云云、何レモ、夏布ノ良物ニテ、他國ノ産ノ、比スベキ所ニ非ズ」

じやうぶ（名）[上部] ウヘノカタ カミ。下部、中部ニ對ス。史記、司馬傳、注「上部者音[illegible]一身體ノ上部」

しやうふう（名）[正風] 俳諧ノ一派、江戸ノ松尾芭蕉ノ開キシモノニテ、禪味ヲ加ヘ、閑寂ヲ主トス 又、蕉風、

しやうぶうち（名）[菖蒲打] しやうぶたたき（菖蒲敲）ノ條ヲ見ヨ。

しやうぶがさね（名）[菖蒲襲] 襲ノ色目ノ名、表ハ青、裏ハ紅梅。（桃華蘂葉）

しやうぶがた（名）[菖蒲形]（一）馬具ノ一、銀面ニ着ケテ、馬ノ額ニ當ツルモノ 倭名抄、十五、鞍馬具「金鑣、今按、俗云、銀面之菖蒲形、是 馬冠也、高廣各五寸、上如二三葉形一者也」車服圖考「菖蒲形、倭名抄、云云、作分圖ニ候歟、馬面ノ通リニ、三山形ノヤウナル物ヲ加タルニ候」飾抄、下「天仁（鳥羽）或記曰、殿下（忠實）騎馬給間、御額笑、菖蒲形一給、人人稱レ佗、自今以後、可レ用意二事也」（二）刀ノ身ナドノ、菖蒲ノ葉ノ如キ形ノモノ。太平記、十五、正月廿七日合戰事「備前長刀ノ、鎬サガリニ、菖蒲形ナルヲ、脇ニ挾ミ」

しやうぶがたな（名）[菖蒲刀]〔語彙「昔ハ、菖蒲ヲ以テ、二所ヲ束ネ、太刀ノ帶取ノ如クシテ、佩ビタリ」〕江戸時代、五月ノ端午ニ、男兒ノ玩トシタル木刀ニ幟ヲ立テ、兜人形ヲ飾ル。アヤメガタナ、寛永發句帳「今日サスハ、印地ノしやうぶ、刀カナ」日次紀事（延寶）五月五日「以二柳木一作二大小刀一、塗二胡粉一畫二菖蒲一、謂二菖蒲刀一、男兒[illegible]之[illegible]」雍州府志（天和）七、土産門「端午所レ用木刀、或、謂二菖蒲刀一」

しやうぶかは（名）[菖蒲革] 又、さうぶかは 鹿ノなめしがはヲ、地ヲ藍ニシ、菖蒲ノ花葉ノ粗ナル形ヲ、處處ニ、白ク染

メ出セルモノ、又、駒形、爪形、杉立ナドノ文モ、アリ、もえぎニ染ムルモアリ。山城ノ八幡山ノ麓、大谷ニテ染メ出ス、神功皇后、三韓征伐ノ鎧ノ縅ニ準ズトテ、高麗勝武ナドト云ヒ、勝負ニ寄セテ、多ク、武具ニ用キテ、祝フ。雍州府志(天和)七、土産門「菖蒲革、八幡山下大谷染之、傳言、準神功皇后征三韓之鎧威而以革染之、故名高麗勝武也、源義家朝臣奉勅伐東夷時、祈石清水八幡宮、從大谷獻高麗勝武、義家悦爲鎧威立軍功、故歷代幕下稱此革、其後、豐臣秀吉公征朝鮮時、徵神后嘉兆、詣石清水祈戰利、且使陪臣木下半助吉政、徵勝武革、卽、獻高麗勝武革、秀吉公賜書褒之、其書、今在矣、當時名爲菖蒲革者、以仲夏節染成之故歟」裝劍奇賞、六「菖蒲革、城州、男山ノ麓ニテ、往昔、染ル所ニシテ、是モ、鎧ノ威ニ用フ、菖蒲ハ、勝武ノ義ヲ音ニ借テ、コレヲ祝セル也」

しやうぶ-かぶと (名) [菖蒲兜] あやめのかぶと(菖蒲兜)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。禁內侍日記、下、建長四年五月五日「女房タチニ、しやうぶかぶとセサセ、花トモ、云云」 年中恆例記、五月四日「御中ノ菖蒲、檜皮師、進上之」 嬉遊笑覽、四十二「今世、五月端午ノ節、兒輩、菖蒲兜トテ、弄ブ、是ヲ、山城國藤ノ森ノ祭リヨリ起リシヤウニ云フハ、非也、端午ノ鎧ノ事、史ニモ見エテ、久シ、亦、中頃、關東武士、五月六日、野馬乘狩トテ、甲冑ヲ帶シ、馬上ニテ、兵術ノ手合セヲナス、刀引ノ太刀、長刀ヲ以テスル由、伊豆日記ニ見ユ、後、河原石打、其遺風ニシテ、云云」

じやうふ-きやう (名) [常不輕] 常ノ行トシテ、法華經ノ不輕品ノ一、十四字ノ偈ヲ誦シテ、此處、彼處、巡リ歩クコト。略シテ、不輕トノミモ云フ。源、四十六、總角「サテハ、思ヒタマヘ得タルコト侍リテ、常不輕ヲナンツカセ侍ルナド申スニ、云云、此常不輕、ソノ邊ノ里里、京マデ歩キケルヲ、云云、不輕ノ聲ハ、イカガ聞カセ給ヒツラン」

しやうぶ-きり (名) [菖蒲切] 古へ、端午ノ節句ニ、兒童ノ、印地打トテ、小石ヲ投ゲ合ヒタル後、菖蒲刀ニテ打合フ遊戲。雍州府志(天和)七、土産門「端午石戰戲後、多以斯刀相戰、是謂菖蒲切」

じやうぶ-くろ (名) [狀袋] ふうづつ(封筒)ニ同ジ。

しやうぶ-ざけ (名) [菖蒲酒] 菖蒲ノ根ヲ刻ミテ、浸シタル酒、五月節句ニ用キルモノ。年中恆例記「五月朔日、同ジ御祝之御酒ニ、菖蒲ヲ刻ミテ入也」 改正月令博物筌、五「五月五日、菖蒲酒」注「石菖ヲ切テ、酒ニ浸シテ、是ヲ飮ム、雄黃ヲ少シバカリ加ヘテ、マスマス、ヨシ、一切ノ邪氣ヲ避クル」

しやうぶ-す (名) [菖蒲醋、菖蒲酢] 菖蒲ノ根ヲ刻ミ入レタル醋、五月節句ニ用キルモノ。本朝食鑑、二、穀「有菖蒲醋者、五月五日用煮菰糯、截去首尾之菰葉、乘溫、兩箇生菖蒲莖一握、長一尺、好古酒一升、好醋一升、淸水一升、俱入甕中、以蓋掩甕口、而緊封之、置于閑暖地、最忌動盪不淨、經二月許、候醋熟用之」 小町踊、夏「菖蒲酢モ、マジルヤ軒ノ、梅ノ雨」

しやう-ふだ (名) [正札] 賣品ニ、かけねナキ、正價ヲ記シテ、附ケタル札。

しやうぶ-たたき (名) [菖蒲敲] 又、しやうぶうち。五月節句ニ、士民ノ兒童、菖蒲ノ葉ヲ、三ツ打チニ、平タク編ミテ、棒ノ如クシ、之レヲ以テ、互ニ、地上ヲ敲キ、先ヅ敲キ切レタルヲ、負トスル戲。

じやう-ふだん (副) [常不斷] 常ニ、斷エズ。イツニテモ。常住。浮世風呂(文化、三馬)初編、下「私ガ、藥ニナリ、日向ニナリシテ、父樣ノ前ヲ繕ツテ置イテ、夫レデサヘ、常不斷、シクジリマス」

しやう-ぶつ (名) [正物] 正シキ物。マコトノモノ。ホンモノ。眞物(僞物ニ對ス)

しやう-ブツ (名) [生佛] 佛經ノ語。衆生ト、佛ト。平家物語、五、勸進帳事「夫レ惟レバ、眞如、廣大ナリ、生佛ノ假名ヲ斷ツトイヘドモ」「生佛一如」

じやう-ブツ (名) [成佛] 佛經ノ語、佛ト成ルコト。死者ノ、佛果ヲ得ルコト。傳燈錄「磨甎旣不成鏡、坐禪得成佛耶」 太平記、十四、箱根竹下合戰事「坂本樣ノ袈裟切ニ、成佛セヨトテ云フママニ」「卽身成佛」

しやうぶ-ねあはせ (名) [菖蒲根合] さうぶあはせ(菖蒲合)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。アヤメアハセ。赤染衞門集「五月五日、右大將殿ヨリ、さうぶあはせシタル扇ニ、藥玉ヲ置キテ」 著聞集、十九、草木「永承六年五月五日、內裏ニ、菖蒲ノ根合、有ケリ」 今鏡、一、菊宴「六年(永承)五月五日、殿上ノあやめあはせセサセタマヒキ、ソノ歌ドモ、歌合ノ中ニ侍ルラン」

じやう-ぶみ (名) [狀文] (狀ト、文トノ重言) テガミ。書狀。本朝若風俗(貞享、西鶴)一「じやうぶみノ通ヒモ、片影ニ、忍ビ路ヲ附ケテ」

しやう-ふん (名) [祥氛] メデタキ氣。瑞氣。張景源詩「祥氛與佳色、相伴雜煙煙」

しやう-ぶん (名) [性分] ウマレツキ。生得。生來。「損ナ性分」

じやう-ぶん (名) [上文] ソレヨリ、上ノ方ニアル文句。前文。詩經、序「故詩有六義焉」疏「上文言詩功旣大明、云云」

じやう-ぶん (名) [上聞] 君主ノ、聞キ知ラルルコト。叡聞。天聽。上聽。漢書、武帝紀「積行之君子、雍於上聞也」 保元物語、一、新院御所各門固事「國人共モ、上洛スベキ由、申シケレバ、大勢ニテ罷リ上ラン事、上聞、穩便ナラズトテ、形ノ如クニ附從フ兵バカリ、召具シケリ」「上聞ニ達ス」

じやう-ぶん (名) [上分] 昔、毎月、月末ニ、正稅ノ外、國郡ヨリ、官ニ上納スル貢物。庭訓往來、卯月十一日「月迫之上分」

じやう-ふんべつ (名) [上分別] 最上ノ、カンガヘ。良キ思慮。良策。鬪取千兩幟(明和、近松半二)二「彼奴ニ勝チヲ讓ツテ置イテ、ソノ上デ、退引サセズ頼ムガ近道、じやうふんべつ」

しやうぶ-ゆ (名) [菖蒲湯] 又、さうぶゆ。端午ノ節句ニ、菖蒲ノ葉ヲ入レテ、沸カシタル風呂湯。日次紀事、五、五月「六日、菖蒲御湯」 年中定例記「五月五日、菖蒲ノ御湯ノ御行水アリ」勢州へ御成、御風呂、但、菖蒲御湯、參ル」 後水尾院當時年中行事、上、五月「五日、今日ハ、さうぶの御湯、參ル、ヨベノさうぶノ御枕一對ヲ、薄葉ニ包ミナガラ、釜殿ニ出ス、釜殿、紙捻ヲ引トキテ、御ゆニ入、御ゆ殿ノ御湯ノ中ニ、さうぶハ見エネド、匂ヒ出ダシ」

しやう-へい (名) [昌平] 國、榮エテ、世ノ、穩カナルコト。泰平。昇平。「國家昌平」

しやう-へい (名) [唱平] 王朝時代、宴會ノ時ニ、杯ヲ獻ジテ、壽ヲ祝スルコト。江家次第、一、正月「元日宴會、一獻、酒正、差內豎相對獻盃、兩行唱平」 江次第抄、一「唱平兩行、恩酢、平者、稱壽之意歟」 北山抄、一、正月、二宮大饗事「王卿以下、先、參御所拜賀、次、向玄輝門西廂著靴就座、三獻、宮司勸盃、後、王卿過勸之、其儀、於小門前石階壇上取盃、二人相對、酌酒唱平、竪把人揖之、至左腋傾垂、又、酌酒唱平、次次唱平、行之、如前儀也」 續後紀、五、承和三年四月壬辰「天皇御紫宸殿、賜餞入唐大使藤原朝臣常嗣等、云云、于

[illegible]人ニ、[illegible]、其人ノ[illegible]ニ[illegible]ジ、平均ニ飲ムベシトノコトナリト。 銘所讀、二「唱平、按ズルニ、唱平ハ、人ニ酒ヲ勸ムルニ、其人ノ酒量ニ應ジ、平均ニ飲ベシト云義ナルベシ、備ハ、[illegible]ノタメ、[illegible]モ、[illegible]ベキ由ナシ」

しやうへい (名) [障蔽] オホヒ、隱スコト。カコヒ。蔽障。[illegible]

じやうへい (名) [情弊] 情實ニ引カサルル弊害。人情ニカラマサルル弊害。情[illegible]

しやうへい-がは (名) [正平革] てんぴやうがは(天平革)ノ條ヲ見ヨ。

じやうへい-さう (名) [常平倉] 官府ノ倉。米ノ倉(穀村ナルヲ、仕官ト云フ)古ヘ、王朝時代ニ、世上、米價安キ時ハ、官ニテ、時價ヨリ高ク糴シテ貯ヘ、米價高キ時ハ、時價ヨリ安ク糶シテ賑ハシタリ。 [illegible]

じやうへい-し (名) [常平司] 陽成天皇ノ御宇ニ、常平所ノ事ヲ掌ラシメタル役所。 三代實錄、三十三、元慶二年正月廿七日「去年[illegible]京中、置常平司、出-賣官米、五畿-三使河内[illegible]」

じやうへい-しよ (名) [常平所] 王朝時代、米穀ノ價、賤シキ時ニ買ヒ置キタルモノヲ、價、貴キ時ニ、賤シキ時ノ價ニテ賣リ出シシ所。 三代實錄、十四、貞觀九年四月廿二日「東西京、始置常平所、出官米而糶之、米一斗直[illegible]、新錢一千四百、由是官羅以救-俗弊-焉」西宮記[illegible]、延喜十六、以常平所[illegible]」

しやうへい-ぞめ (名) [正平染] てんぴやうぞめ(天平染)ノ條ヲ見ヨ。 元年閏五月十一日「被定-常平所[illegible]」

しやうへい-もん (名) [昌平紋] 他ノ布帛ニテ切拔キテ作レル紋ナド、絽ノ羽織ナドノ紋所ニ、貼付ケタルモノ。キッツケモン。

しやう-へう (名) [商標] (英語、Trade-mark.ノ譯語) 一ノ商品ニ、他ト區別セムガ爲ニ、特ニ定メテ、記シ用ヰル、種種ノ標目。

じやう-へう (名) [上表] (一)表ヲ、タテマツルコト。又、其表。上書。(表ノ條ヲ見ヨ) 唐書、百官志「每歲上表、願爲宰」儀制令「陛下、上表所稱」 (二)辭職。致仕。 盛衰記、十、[illegible]大將ヲ、上表アリ」

しやう-へき (名) [牆壁] (釋名「牆、障也、壁、辟也、辟-禦風雨-也」) かきト、かべト。圍ノカベ。土塀。 初學記[illegible]

しやう-へき (名) [障壁] (一)シキリノカベ。防禦ノカベ。(二)トリデ。堡障。

じやう-へき (名) [城壁] 城ノ牆壁。城ノ塀。 晉書、王述傳「當[illegible]城壁」

しやう-べん (名) [檉椀] (檉椀ノ當字ナルベシ、檉、丑貞切、てい、呉音、ちやうナルヲ、旁ノ聖ニツキテ、誤讀セシナリ、釋紀ノ祕訓ニ、檉岸山明ト讀メルト同ジ誤ナリ(梅園日記、五)) 檉柳ノ枝條ニテ、編ミ作レル椀、大小、種種アリ、ヤナギバコ ヤナギガウリ。 [illegible]

じやう-へん (名) [上篇] 書籍ナドノ、初メノ一篇。初篇。(中篇、下篇ニ對ス) 南史、[illegible]

じやう-へん (名) [常篇] 通常、普通。 太平記、廿七、[illegible]「師直、師泰、過分ノ奢侈、身ニ餘リテ、忽、主從ノ禮ヲ亂ル、末代ト云ヒナガラ、事、常篇ニ絶エタリ」

しやう-ぼ (名) [賞募] (懸賞、募集ノ略) 賞ヲ懸ケテ、事物ヲ募集スルコト。 南史、杜[illegible]傳「出-私財-賞募」

じやう-ほ (名) [讓步] 己レノ主義、主張ヲ、縮小スルコト。己レノ主張ヲ枉ゲテ、相手ノ意見ニ從フコト。

じやう-ぼく (名) [上木] 版木ニ、刻リ起スコト。上梓。版行。出版。

じやう-ほくめん (名) [上北面] (下北面ニ對ス) 古ヘ、四位、五位ノ諸大夫ニシテ、院ノ昇殿ヲ許サレシ、北面ノ侍ノ稱。 [illegible]ハ、事ノ外ニ過分ニテ、公卿、殿上人ヲモ、物共セズ、無禮儀ノ理ヤ、下北面ヨリ、上北面ニ移リ、上北面ヨリ、殿上ヲ許サルル者モ有ケレバ、驕レル心モ、有ケル也」

しやう-ぼふ (名) [正法] (一)タダシキ道。誠ノミチ。 盛衰記、十八、龍神守三三種心-事「彼ハ、正法ヲ以テ國ヲ治、[illegible]シテ民ヲ[illegible]シカドモ、タヤスキ咎ニ與ヒ給ケリ」「正法ニ奇特ナシ」 正[illegible]不思議ナシ」 (二)佛教ノ語、佛滅後、正シク、教行證ノ具ハル時期(五百年、或ハ、一千年トス)ノ稱。此次ノ時期ヲ像法ト云ヒ、又、其次ヲ末法ト云フ。 [illegible]

じやうぼふじ-わん (名) [淨法寺椀] ぶんぶわん(南部椀)ニ同ジ。

しやう-ほん (名) [正本] (一)せいほん(正本)ニ同ジ。 明月記、天福元年五月廿七日「千載集、正本廿卷、孝行於-關東-自-武士手-買取」 (二)演劇ノ臺帳。 戲場年中鑑、下、十月「正本、セリフハ、元ヨリ、大道具、小道具、衣裳、物ズキ、鳴物迄、殘ラズ記セシ本也」

じやう-ぼん (名) [上品] (中品、下品ニ對ス) くほんじやうど(九品淨土)ノ條ヲ見ヨ。 著聞集、二、釋教「上品極樂ハ、我ガ本國也、定メテ、終ニ往生スベシ」「上品蓮臺」

じやうぼん-れんだい (名) [上品蓮臺] 佛教ノ語、極樂淨土ニアル、上級ノ蓮ノ臺。 平家物語、五、勸進帳事「文覺、無常觀門ニ涙ヲ落シ、上下ノ眞俗ヲ勸メテ、上品蓮臺ニ緣ヲ結ビ、等明覺王ノ道場ヲ建テントナリ」

しやうまい (名) [正米] 實際ニ、取引スル米(空米ニ對ス)米相場ノ條ノ(二)ヲ見ヨ 守貞漫稿、堂島米市「米商ニ、正米ト、帳合ト、二行也、正米ハ、實ニ、米ノ賣買、帳合ハ、空米ニテ、唯、賣買ノ名ノミニテ、其ノ行買ノ米ヲ賣買セズ」

じやうまい (名) [城米] 江戸時代、凶年、飢饉ナドニ備フルタメニ、譜代ノ大名ニ令シテ、城中ニ貯藏セシメタル米。 御勘定所下落覺、三十六「諸國所所ノ御城米ノ事」 御勘定所定書、中「所所城城詰置候米、城米ト唱來候得共、向後、御用米ト唱可ㇾ申候、右御用米、燒失、又者、流失等之所者見分、可ㇾ被ㇾ相伺候、右之趣、領分ニ御用米有ㇾ之分、可ㇾ被ㇾ相達ㇾ候」

じやうまいくらぶぎやう (名) [城米藏奉行] 城内ノ米廩ニ於ケル、米穀ノ出納ヲ掌ル職。 大猷院殿御實紀、五十一、寛永十九年八月十八日「小十人組多賀又左衛門某、多門勘右衛門正吉、城米藏奉行命ゼラル」

じやうまいぶぎやう (名) [城米奉行] 豐臣時代、城内ノ米廩ヲ掌ル職。 西戎遺文、二「城米之奉行、福島左衛門大夫(正則)、毛利民部大輔(高政)二被ㇾ仰付ㇾ候」

じやうまん (名) [上慢] 佛教ノ語、增上慢ノ略 太平記、二、三人僧徒關東下向事「上慢ノ幢、高クシテ、遂ニ、天魔ノ掌握ノ中ニ落チヌベシ」

しやうみ (名) [正味] (正身ナルベシ) (一)物ノ、皮、滓、屑、ナドナラヌ、眞ノ好キ部 (二)物ヲ量ルニ、風袋ヲ除キタル目方。(三)シャウブツ。ホンモノ。 井筒業平河内通(享保、近松作)二「表向ノ名前ハ、祖母ガ夫、財寶ノ正味ハ、ソナタノ儀者」

しやうみ (名) [賞味] メデ、アヂハフコト 賞美シテ、食フコト 南史、齊武帝紀「竟、此牛芳蘭竟體、八想莊政當ㇾ如ㇾ此、自ㇾ此仍被ニ賞味ニ」

じやうみ (名) じやうし(上巳)ノ重箱讀。

じやうみ (名) [情味] アヂハヒ。オモムキ。情致。情趣 韋莊物詩「主人年少情味多」

しやうみつ (名) [詳密] (一)クハシク、細カキコト。詳細、精密。 後漢書、左雄傳、論「郎選陰陽詳密、張衡機術特妙」(二)考察ノ、細カニ行キトドクコト。 唐書、楊愼矜傳、父隱穰、爲大府卿、性詳密、出納雖ニ尋尺ハ皆自按省」

しやうみやう (名) [聲明] (一)古代印度ノ五明ノ一、聲韻ノ學、悉曇ヨリ、梵唄ノ事、皆、コレナリ。五明ノ條ヲ見ヨ。 智度論「五明、一曰、聲明、釋古訓字、詮目流目」(二)ぼんばい(梵唄)ノ條ヲ見ヨ。 文明一統記、藝能可ㇾ給ㇾ嗜事「鹿苑院殿ハ、節會ノ內辨ナドモ勤仕シ給ヒ、管絃、聲明ノ道マデモ、嗜ミ給ヘリ」

しやうみやう (名) [唱名] 佛ノ名號ヲ、トナフルコト。南無阿彌陀佛ト云フガ如シ、念佛。 承久記「一人、御供ニサブラヒケルガ、小賢シク、しやうみやうヲ勸メ參ル」

じやうみやく (名) [靜脈] みやく(脈)ノ條ヲ見ヨ。

しやうむ (名) [莊務庄務] 莊園ノ事務。 吾妻鏡、七、文治三年十月五日「向後、云ニ庄務ハ、云ニ雜務ハ、一事以上、可ㇾ從ニ彼尼下知ニ之由、所ㇾ被ニ仰下ニ也」

じやうん (名) [邪雲] (瑞雲ナドニ對ス) 不祥ナル雲。理智ヲ蔽フ惡念ナドニモ云フ。 盛衰記、十一、靜憲與ニ入道ニ問答事「時ニ臨ンデ、然ルベクモ申シツヅケ給ヒタレバ、邪雲モ少シ晴レ給ヒヌラント覺ユルコソ、日出タケレ」

じやうめ (名) [上馬] 駿レタル馬、駿馬 龍馬、驥駄 北魏書、成祖紀「乃賜ニ龍廏上馬ニ」 宇津保物語、藏開、上「名高キ上め、二ツ」 源、廿

一、少女五十四「御覽シテ、世ニナキ上馬ドモヲ、調ヘ立テサセ給ヘリ」

しやうめい (名) [正銘] 正シキ銘ノアルコト。僞ナラヌコト。眞 長町女腹切(正德、近松作)上「刀屋ノ半七ト、深イ中身ト正銘ノ、五ヒノ誠、研ギ入レテ」

しやうめつ (名) [生滅] 生ズルト、滅スルト。生ジタリ、滅シタリスルコト 生死。 涅槃經、聖行品「生滅滅已、寂滅爲樂」 王維詩「有無斷ニ常見ハ生滅幻夢受」

しやうめん (名) [正面] マムキ。正シク、面ヲ向クルコト。(側面、背面ナドニ對ス) 義經記、五、靜吉野山被ㇾ捨事「御正面ニ近附キテ、拜ミ參ラセケレバ」

しやうめんこんがう (名) [青面金剛] 金剛夜叉明王ノ異名、明王ノ顏面、青色ナルガ故ニ、此名アリト。かうしんまち(庚申待)ノ條ヲ見ヨ。

しやうめんずり (名) [正面摺] 唐刻ノ墨本ヲ、正面ニ摺リタルモノ。 二老略傳「日本源始墨本、正面板墨本、廣還先生ヨリ前、日本ニ製作ヲセル人ナシ、河州儒官樽原元甫ト、友人也、兩先生、唐刻ノ墨本ヲ、以ㇾ水大洗ヒ、色色、工夫ヲメグラシ、漸、成就シタリ、其頃、柳澤家臣ニ、朱文公大字眞蹟ヲ雙鉤シテ、正面ニ墨本ニ作ル、是ヲ、大極帖ト云フ、九皐先生藏板ナリ、此大極帖、本邦正面搨ノ元始也、今ノ正面石搨ヲ製スルモノ、廣還先生始ト云フ事ヲ知ラズ、云云、日本ニテノ正面搨墨本ハ、廣還先生ヲ以テ祖トス」

しやうもん (名) [正文] 原書。眞本 奧州中尊寺北高頭衆改書ノ端書「件端文書、云云、有ニ不慮之事ハ及ニ紛失之儀ハ、爲ニ後證ニ正文ハ、忍染ニ臥毫ニ耳」

しやうもん (名) [相門] 宰相ノ家柄、宰相ノ家 史記、孟嘗君傳「相門必有ㇾ相」

しやうもん (名) [將門] 大將ノ家柄、大將ノ家。 史記、孟嘗君傳「將門必有ㇾ將」

しやうもん (名) [唱門] しやうもんし(唱門師)ノ略。 正章千句「イカニモ耳ノ、聰キしやうもん」

しやうもん (名) [聲聞] 佛教ノ語、四諦ノ理ヲ觀ズレドモ、悟ル所、猶、淺クシテ、阿羅漢ヲ極果トスル佛弟子。 太平記、三十七、身子聲聞事「昔、天竺ニ、身子ト申ケル聲聞、佛果ヲ證センタメニ、六波羅密ヲ行ヒケルニ」

じやうもん (名) [城門] 城ノ門。 戰國策、燕策「士卒不ㇾ戰、城門不ㇾ閉」

しやうもんかい (名) [聲聞界] 佛教ノ語、悟リノ四聖ノ一、即チ、一ハ、小乘四諦ノ法ヲ觀ジテ悟ルコト。二ハ、小乘ノ十二因緣ヲ觀ジテ悟ルコト。(緣覺界) 三ハ、大乘ノ六度ヲ修行シテ悟ルコト。(菩薩界)四ハ、自利、利他ノ行ヲ圓滿シテ悟ルコト。(佛界)

しやうもんし (名) [唱門師唱文師聲聞師] 又、しよもじ 賤民ノ類、畿內邊ニアリテ、一種ノ巫覡ナリ、人家ノ門ニ立チテ、經文ヲ唱ヘ、福ヲ祈リ、禍ヲ祓フト云フモノ。昔ハ、元朝、寅刻ニ、禁裏ノ日華門外ニ參リ、毘沙門經ノ文句ヲ、訓讀ニ唱ヘテ、祝ヲナセリ、祝ノ者。(山城名勝志ニ、二水記ニ、聖門師ト見エ、又、應仁廣記、卷一、御靈合戰事ニ、洛北ノ地名ニ、唱門師村ト云フ、アリ)

しやうや (名) [莊家庄屋] (莊家、庄官ノ轉) 地方ニ因リテハ、名主ノ上ノモノ。

一村[illegible]、[illegible]村ノ長ノ職、其頭ニヨリ[illegible]代、代[illegible]、多[illegible]代ノ後トニ[illegible]上荘官、其、數十村ヨリ、一郡ヲモ支配スルヲ、大(オホ)庄屋ト云フ。[illegible]「[illegible]出アタルハ、所ノ庄屋デ御座ル」

しやうや (名) [illegible] 上夜 夜ノトマリ番 トノヰ[illegible] [illegible]廿日十夜上日、代代右ニ記ス」 後撰集、つかんまつるひかず「思ノ儘ノ日記ニ、殿上人ノ參公ノ上日ニヨリテ、[illegible]トム(ヘリ。又[illegible]テ、上日ノ[illegible]ナド、見エ、朝野群載ニ、月奏ノ條、四位五位六位ノ上日夜ノ[illegible]ニ[illegible]上夜等トモ見ユ」

しやうやう (名) 賞揚 ホメ、タタフルコト。稱揚

しやうやう (名) 徜徉 立チモトホルコト。サマヨフコト。逍遙。徘徊 [illegible]、道「李愿歸盤谷」序「終ニ吾生ヲ以徜徉」

しやうやうじん (名) 上陽人 宮女ノ、不遇ヲ嘆クル語 支那、唐ノ楊貴妃、寵ヲ玄宗皇帝ニ受ケ、上陽宮ニ住ス。宮女、コレガ爲メニ、不遇ニ陥ル、因リテ、起リシトゾ。 白氏文集、三、上陽白髪人「上陽人、紅顔暗老白髪新、綠衣監使守宮門、一閉上陽多少春、玄宗末歳初選入、入時十六今六十、同時采擇百餘人、[illegible]不[illegible]カノ上陽人ノ、春ユキ、秋來レドモ、年ヲ知ラズト云フヤウニ、明ケ暮ルルモ知ラセ給ハズ」

しやうやく (名) [illegible] 王朝時代ノ語、色代ニテ、[illegible]ヲ[illegible]コト [illegible](ナイエキ) 江家[illegible]」

しやうやけん (名) 庄屋拳 狐拳(キツネケン)ニ同ジ。

じやうやど (名) 常宿 常ニ、定メテアル宿屋。泊リツケノヤド 定宿。[illegible]記、[illegible]石「コレガ、身ドモノ常宿ヂヤ」

じやうやとう (名) 常夜燈 夜中、常ニ點(トモ)シ置ク燈明 打夜燈

しやうゆ (名) 醬油 食物ニ味ヲ添フル、鹹美ナル液物(シルモノ)ノ名、大麥ヲ搗キテ、炒(イ)リテ、破キタルモノト、大豆ヲ煮タルモノトヲ合ハセテ、麹トシ、更ニ、鹽ヲ煮タル水ト和シテ、桶ニ入レ、數十日、攪キマゼタルヲ、醬油の諸味(モロミ)、又ハ、醬油のみト云フ、(醅)釀シテ、數十月ノ後、コレヲ榨リ、汁ヲ煎煉シテ、成ル 食物ヲ浸シテ、食ヒ、或ハ、物ヲ煮ルニ、加フ、吸物ヲ作ル基トナルヨリシテ、下地(シタヂ)ノ名モアリ。又、たまり、たれ、ノ別アリ、各條ヲ見ヨ [illegible]「醬油ハ、薄ク切テヨク、鍋ニテ、其儘煎ル也、但、[illegible]也」 [illegible]上「上方ニテ[illegible]ヲ、江戸ニテハ[illegible]云云、[illegible]ヲ下地(シタヂ)」

じやうゆ (名) 上諭 (一)君主ノ、オサトシ。「上諭ニ從フ」 (二)法令、條約、又、豫算、等ヲ公布スルニ際シ、其前文ニ、天皇陛下ノ裁可アラセラレタルコトヲ、表示セルモノ。

しやうゆのもろみ (名) 醬油諸味 前前條ヲ見ヨ

しやうよ (名) 稱譽 賞譽 ホムルコト。ホメ、タタフルコト 韓非子、內儲說「賞譽厚而信者、下輕死」

しやうよ (名) 賞與 賞メテ、物ヲ與フルコト 又、其物 賞賜 「年末賞與」

じやうよ (名) 讓與 他ニ、讓リアタフルコト。 說苑(劉向)「司城子罕、云云、謂ニ宋君ニ曰、夫、賞賜讓與者、人之所ニ好也、君自行ニ之」、利權ヲ讓與ス」

しやうよう (名) 請用 病者ノタメニ、加持、祈禱ナドヲ行フニ、僧侶、修驗者ヲ、請ジ入ルルコト。 盛衰記、十八、龍神守ニ三種心事「立テヌ願モナク、セヌ業モナシ、カカリケレバ、殘リ心地、物ノ氣ナド云ヒテ、請用モ暇モナシ」

じやうよく (名) 情欲 〔荀子、正名篇「情者、性之質也、欲者、情之應也」〕 色情(シキジャウ)ノ、動クコト。男女間ノ戀愛 欲 [illegible]王充、[illegible]「[illegible]、人多情欲、[illegible]子百」

しやうらい (名) 生來 ウマレナガラナルコト ウマレツキ。性分。

しやうらい (名) 將來 (一)將(モ)テ、來ルコト。「弘法大師將來目錄」 (二)將(マサ)ニ、來ラムトスル時。未來(ミライ)。後來。ノチノチ。 杜預、左傳、序「圖ニ將來之法」」 揚雄、長楊賦「延光于將來」 (三)ユクサキ。前途。 名義抄「將來、ユクサキ」

しやうらい (名) 精靈 しやうりやう(精靈)ノ訛、精靈(シャウリャウ)祭(マツリ)ノ條ヲ見ヨ

しやうらいむし (名) 蠼(ケ)蛄 (京都)

じやうらう (名) 情郎 馴(ナ)染ノ男 イロヲトコ 情夫 情人 [illegible]詩、[illegible]生事、[illegible]情郎意」

しやうらく (名) 上洛 洛(ミヤコ)へ、ノボルコト。上京。(貴人ニ云フ)らくやう(洛陽)ノ條ヲ見ヨ 北史、[illegible]「[illegible]武自[illegible]西討、遂[illegible]上洛」 保元物語、一、[illegible] [illegible]仕ルニテ候フ」

じやうらくゑ (名) 常樂會 興福寺ナドニテ修スル、涅槃會 百練抄、十四、仁治二年二月十五日「南都常樂會、入道相國被ニ參、被ニ進ニ僧料米百石ニ」 諸國圖會年中行事大成、二、上、二月「十五日、南都興福寺常樂會、[illegible]金堂ニ、[illegible]ノ釋迦佛ノ像アリ、獅子ニ安ズ、其邊ニ、涅槃像ヲ畫ク、相、傳フ、[illegible]金岡ガ筆ナリト云、今日、其[illegible]ヲ掛ク」

じやうらふ (名) 上臈 (一)臈(ラフ)ヲ、積ミタル人 (臈ノ條ヲ見ヨ) 平治物語、一、光賴卿參內事「殿上ヲ廻リテ見給ヘバ、信賴卿、一座シテ、其座ノ上臈達、皆、下ニツ着カレタル」 (二)二位、三位ノ典侍ノ稱、公卿ノ女ヲ、小上臈(コジャウラフ)ト云フトゾ。 源、二、帚木三十「コレハ、上らふノ中ニモ、多カル事ゾカシ」(女ノ、[illegible]ヲヒケラカスヲ云フ) 禁秘御抄、下「上臈、不[illegible]、是非ニ二三位典侍、號ニ上臈、著赤青色、候[illegible]也」小上臈、不[illegible]善惡、公卿女號ニ小上臈、著[illegible]也」[illegible]尾院年中行事、下「御[illegible]ニ、上臈、或ハ、典侍、候ス、近[illegible]時ニハ、[illegible]公ノ女、[illegible]公ノ[illegible]トシテ、上臈ニ定ラル」 (三)[illegible]ク、身分貴キ婦人ノ稱 宇治拾遺、二、十一條、大[illegible]、下種ノ家ヲ借リ、女ト共ニ臥ス、下種ノ妻、夫ニ云フ、「[illegible]ニハ、上らうノ、今夜バカリトテ、借ラセ給ヒツレバ、貸シ奉リテ」「都ノ上臈」

じやうらふ・し (形、二) シキ・シケレ・シク・シク 上臈 貴人ラシ。尊ゲナリ。 宇津保物語、樓上、上五十「大殿ハ、イカメシウ、上らうしう造リタル事コソアレ」 海人藻芥、中「上臈ノ上臈しきト、味噌ノ味噌臭キハ、下品ナリ」

じやうらん (名) 上覽 見ソナハスコト。覽(ミ)サセタマフコト。天子ノ御覽。借シテ、公方ニモ云フ。 詩話總龜(宋、阮閱)「上覽以第三篇爲劣」 盛衰記、十二、師長熱田社琵琶事「遣唐

使トシテ、喋状ヲ賜ハリ、云云、上賓ニ逢シテ」

しやうらんろう (名) 翔鸞樓 大內裏ノ應天門ノ西ニアル樓。 有職抄、二、禁中殿門「翔鸞樓、方、四間、是ヲ、應天門ノ西ノ樓ト云フナリ」 三代實錄、十二、貞觀八年閏三月十日「夜、應天門火、延=燒棲鳳、翔鸞兩樓ニ」

じやうり (名) 草履 ざうり(草履)ノ訛、其條ヲ見ヨ。 七十一番職人盡歌合、廿一番、草履作「じやうり、じやうり、板金剛召セ」

じやうり (名) 情理 事情ト、道理ト。事柄ノ條理。 舊唐書、代宗紀「遐=嫌疑、分=情理ニ」 「情理ヲ盡ス」

じやうりう (名) 上流 〔中流、下流ニ對ス〕 (一)ミナカミ。カハカミ。上游 左傳、昭公十八年「トレ戰不レ吉、司馬子魚曰、我得=上流、何故不レ吉」 (二)上ノ方。カミテ。ウハテ。(三)貴キ品位。貴キ身分 羅隱、詩「佳句推レ君最上流」 「上流ノ人士」上流社會」

じやうりうしやくわい (名) 上流社會 貴キ身分ノ人人ノ社會。ウヘツガタ

しやうりく (名) 商陸 ヤマゴバウ。

じやうりく (名) 上陸 船ヨリ、陸地ニ上ルコト。上岸

しやうりけん (名) 上利劍 〔鍾離權ノ當字ナルベシ〕 仙人ノ、劍ニ乘リタル圖ノ稱。列仙傳ノ鍾離權ヲ圖シタルモノト云フ。(鍾ハ、鐘ニ通ズ) 詩話類編(明、雲間王嘉侯)「下文恪公、年十二、能作レ詩、有下以=呂純陽畫=海像=求=題者上、公援レ筆日、扇作=帆乎=詞作レ舟、欲渡直渡=海洋=秋、饒=他弱水三千里、終到=蓬萊第一洲=」

じやうりつ (名) 常律 通常ノ規律。常規。常式 易林(漢、焦貢)「隨レ時轉行、不レ失=常」

じやうりん (名) 上林 〔上林苑ノ略〕 (一)天子ノ園。御苑。 史記、始皇紀「三十五年、作=朝宮渭南上林苑中、先作=前殿阿房ニ」 (二)菓物ノ異名。酒ヲ、下若ト云フニ對ス。 吾妻鏡、三、壽永三年四月廿日「稱=爲=慰=徒然、被レ遣=藤判官代邦通、工藤一臈祐經、幷官女一人等、於=羽林之方、剰、被レ副=送竹葉上林巳下、羽林殊喜悅」 松屋筆記、九十七、百六條、異名「酒ヲ竹葉、菓物ヲ上林、酒ヲ下若、米ヲ八木、云云」 (三)魚鳥ノ肉ノ、多キコト。肉林。 織錦舍隨筆、下「東鑑ニ、上林、下若ト云フ事アリ、上林苑ノ意ニテ、魚鳥ノ肉、多キ事、下若ハ、酒ノ事也、云云、一統志、浙江湖州府長興縣、有=若溪、南岸日=上若、北岸日=下若、工人取=下若水=釀レ酒、味極醇美、白樂天詩、勞將=下若=忘=憂物、吳興江城愛=酒翁、吳興記、湖州吳興縣若溪、南岸日=上若、北岸日=下若、水美、釀レ酒尤佳、亦名=上若、長興縣、即、晉吳興地」

しやうりやう (名) 商量 ハカラフコト。考ヘワクルコト。商略。 易經、兌卦、王弼注「商、商量裁制之謂也」 品字箋(淸、虞德升)「商量、猶=言=斟酌ニ」

しやうりやう (名) 精靈 聖靈 (一)佛教ノ語、訛リテ、精靈。死者ノ亡靈ノ、煩惱ヲ解脫セルモノ。(二)死者ノ靈、今、專ラ、七月ノ盂蘭盆會ニ祭ルニ就キテ云ヒ、精靈祭リナド云フ。(うらぼんゑノ條ヲ見ヨ) 保元物語、三、爲義北方入水事「心亂レテ、勸モセラルマジケレバ、愛ニテ滿シテ、聖靈達ニモ廻向セントテ、猶、石塔ヲ組ミ給フカトコソ思ヒシ」

しやうりやうおくり (名) 精靈送 聖靈送 しやうりやうまつり(精靈祭)ノ條ヲ見ヨ。

しやうりやうだな (名) 精靈棚 聖靈棚 しやうりやうまつり(精靈祭)ノ條ヲ見ヨ。 華實年浪草、七、上、七月「聖靈棚」注「自=十四日=至=十六日、人家設レ棚、安=各位之牌、謂=之靈棚、或、謂=聖靈棚ニ」

しやうりやうとんぼ (名) 精靈蜻蛉 きやんまニ同ジ。

しやうりやうばった (名) 精靈蝗蝻 〔七月ノ精靈祭ノ頃ニ出ヅルニ云フカ〕 いなごまろノ條ヲ見ヨ。

しやうりやうまつり (名) 精靈祭 聖靈祭 祖先ノ靈祭。陰曆七月十五日ノ佛事トシテ、盂蘭盆會ト稱シ、又、盆祭ト云フ、寺院ニテ、檀越ノ精靈ニ、讀經ス、今ノ俗ニテハ、御しやうらい樣ナド稱シテ、佛壇ヲ飾リ、別ニ、精靈棚(又、盆棚)ト云フヲ設ケ、特ニ、菰筵ヲ敷キ、茄牛、瓜馬、蓮飯、等、種種ノ物ヲ供ヘ、僧ヲ請ジテ、經ヲ讀マシメ、(棚經ト云フ)又、寺ニ行キ、墓參ス、十三日ノ夕ニ、門ニテ麻殼ヲ焚キテ、精靈來ルトシテ、迎フ、コレヲ、迎火、又、精靈迎ト云フ、十六日ニ、又、焚キテ送ル、送火、又、精靈送ト云フ、十三日ヨリ四日間ヲ、盆ト云ヒ、十六日ヲ、後盆ト云ヒ、此前後、每夜、屋內ニ、燈籠ヲ燈シテ、精靈ニ供ヘ、又、屋外ニモ、高ク揭グ、中元ノ燈ト、混ジタルナリ。(うらぼんゑ、及、ぼんノ條ヲ併セ見ヨ) 齊明紀、五年七月庚寅、詔「於=京內諸寺、勸=講盂蘭盆經、使レ報=七世父母ニ」 日次紀事(延寶)三十四、七月十四日「自=今日=至=十六日、人家設レ棚、安=各位之牌、修=盂蘭盆會ニ」 吾妻鏡、十、文治六年七月十五日「今日盂蘭盆之間、云云、被レ勤=修萬燈會、是爲、照=平氏滅亡衆等黃泉、云云」

しやうりやうむかへ (名) 精靈迎 前條ヲ見ヨ。

しやうりやうゑ (名) 精靈會 聖靈會 うらぼんゑ(盂蘭盆會)ニ同ジ。

しやうりやうゑ (名) 聖靈會 聖德太子ノ忌日(二月廿二日)ニ、攝津、四天王寺ナドニテ營ム法會。 日次紀事、二月「廿二日、聖德太子忌」注「是、謂=聖靈會、攝州天王寺中、太子像幷舍利塔、遷=兩輿、而安=置六時堂、一舍利、二舍利、以下合、十二坊僧徒、於=堂前舞臺、有=大法事ニ」

しやうりやく (名) 將略 大將タル才略 三國志、蜀志、諸葛亮傳、評「連年動レ兵、未レ能レ成レ功、蓋、應變將略、非=其所レ長」

しやうりやく (名) 詳略 〔詳密、粗略ノ義〕 コマカキコトト、アラアラシキコトト。精粗。 荀子、非相篇「略則擧レ大、詳則擧レ小」 孔穎達、春秋序「辭有=詳略ニ」

しやうりやく (名) 商略 (一)クラベ、ハカルコト。商量。 三國志、蜀志、楊戲傳、評「楊戲商略、意在=不羣、然智度有レ短、殆罹=世難ニ」 (二)商業上ノ計略。アキナヒノ、カケヒキ

じやうりやく (名) 上略 其處ヨリ前ニアル文句ヲ、略キテ記サヌコト。中程ヲ略クヲ、中略ト云ヒ、末ナルヲ、下略ト云フ。

しやうりよ (名) 商旅 タビアキウド。旅商。行商。客商。 易經、上象傳「先王以=至日=閉レ關、商旅不レ行、后不レ省レ方」

じやうりよく (名) 常綠 年中、落葉セズ、綠色ナルコト。「葉ハ、常綠ニシテ」常綠木」

じやうるり (名) 淨瑠璃 淸淨ナル瑠璃。 法華經、序品「見=諸如來、自然成=佛道、身色如=金山、端嚴甚微妙、如=淨瑠璃中、內現=眞金像ニ」

[illegible]八百身功德、得、清淨身如淨瑠璃、[illegible]寶生品、又今、[illegible]作、藥王世[illegible]供[illegible]多寶如來寶塔[illegible]時、娑婆世界[illegible]云云」

しやう-るり（名）【淨瑠璃】（淨瑠璃姫ハ、貴□、峯藥師（三河ノ鳳來寺山ノ瑠璃光藥師）ニ祈リテ設ケタル申子ナレバ、名トセシナリト云フ）（一）淨瑠璃物語ト云フハ、三河ノ矢作ノ宿ノ長ノ娘、淨瑠璃姫ト、源九郎義經ト契リシ事ヲ、十二段ノ草子ニ綴リナシタル書ナリ、コレガ、語物トナリテ、コレヲ、淨瑠璃ト云フ、室町時代、享祿年間、既ニ行ハレ、織田信長ノ侍女、小野お通、コレヲ改作シ、益、行ハレタリ、慶長中、岩船檢校、琵琶ニ合ハセテ、語物トシ、後、又、瀧野檢校、コレヲ三味線ニ合ハセテ、語リ弘メタリ。東海道名所圖會、[illegible]ノ頃、小野於通ト云ヘル、風流ノ妓女、淨瑠璃姫ノ生ヒノ事ヲ書キツヅネ、十二段トシ、[illegible]ト云ヘル佛仙曲ヲ教ヘテ、節ヲツケ語ラセケル、是レ、淨るりノ中祖也」宗長日記（享祿）「小座頭アルニ、淨瑠璃ヲウタハセ、興ジテ、一盃ニ及ブ」[illegible]ダニ、座頭マガヒノ、杖ツキノ、淨瑠璃語レ、燈火ノモト」今曾ハヤ、時ハ牛若、フケハテテ」（二）其後、別ニ、種種ノ物語ヲ作出シ、歌曲モ、漸ク、數派ニ分レヌ、サレド、尙、淨瑠璃節ト呼ビテ、凡ソ、三味線ニ合ハスル語物ノ總名トナレリ。（三）今、又、專ラ、義太夫節ノ稱

じやう-るり-ぶし（名）【淨瑠璃節】前條ノ（二）ヲ見ヨ。

しやう-るゐ（名）【生類】生キトシ、生ケルモノ。凡ソ、生キテ、命アルモノ。生類。動物。[illegible]

原ノ朗儀ニ生類ノ須三十月ニ後方得ノ縱火」狂言記、居杭「扨モ、汝奴ハ上手チャ、疑ヒモナイ生類チャ」「生類ヲ憐ム」

じやう-るゐ（名）【城壘】（一）城ノ、土居。（二）城。砦。城塞。晉書、高帝紀「治新亭城壘、未畢、賊前鋒已至」

しやう-れい（名）【省令】各省大臣ノ發スル、行政命令。

しやう-れい（名）【獎勵】ススメ、ハゲマスコト。後漢書、魏朗傳「到官、獎勵吏兵、討破賊」「産業ヲ獎勵ス」

しやう-れい（名）【瘴癘】氣候、風土ノタメニ發スル、熱病ノ一種。南史、任昉傳「寄命瘴癘之地」

じやう-れい（名）【常例】常ニ例トシテ、行フコト。ナラハシ。シキタリ。常典。北齊書、[illegible]傳「才高、不依常例」

しやう-れい-どく（名）【傷冷毒】風濕、りうまちすノ類。

しやう-れい-どく（名）【瘴癘毒】沼池ナドノ蒸發氣ノ、人體ノ、害毒トナルモノ。

しやう-れん（名）【青蓮】次條ノ語ノ略。謠曲、調伏曾我「降三世明王ハ、しやうれんノ眼ニ、忿怒ノ降伏シテ」

しやう-れんげ（名）【青蓮華】蓮華ノ一種、葉ハ、長ク廣クシテ、青白ノ色ノ、明瞭ナルモノ。略シテ、青蓮。法華經、妙音品「[illegible]目、如廣大青蓮華葉」

しやう-ろ（名）【正路】人ノ行フベキ、正シキ道。正直ナル所行。正道。[illegible]、安樂庵策傳）ハ「ワガ物ヲ取ラレテモ、所ニしやうろナル地頭ナクバ、アサマシヤ、取ラレ損ニコソナランズレ」「正直正路」

しやう-ろう（名）【倡樓】遊女屋。女郎屋。靑樓。駱賓王詩「倡樓粉色紅」吾妻鏡、十六、建久十年八月廿日「娛ニ倡樓ニ而不ト顧ニ人謗ニ」

じやう-ろう（名）【城樓】城ノ物見ノやぐら。城闕。城觀。後漢書、鄧禹傳「光武登ニ城樓上、披ニ輿地圖ニ」

しやう-ろん（名）【尙論】（尙ハ、上ノ義）古人ノ事ヲ、論議スルコト。孟子、萬章、下「以友天下之善士為未足、又尚論古之人」

しやう-ろん（名）【詳論】委シク、論ズルコト。ツマビラカニ、論ズルコト。賈公彥、儀禮序「詳論可否」

じやう-ろん（名）【諍論】さうろん（爭論）ニ同ジ。盛衰記、八、法皇三井灌頂事「諍論ヲ專ニシテ、サセル處モ無キ三井寺ヲ燒キ失ハントスル條、無道心ノ者共カナ」

しやう-わ（名）【唱和】（一）彼レ唱ヘ、此レ和フルコト。互ニ、調子ヲ合ハスルコト。禮記、樂記注「唱和清濁、迭相爲經」（二）他人ノ詩韻ニ、和スルコト。互ニ、詩ヲ贈答スルコト。和韻。張籍詩「酬送客時唱和詩」

じやう-わ（名）【情話】眞情ヲ露出スル談話。人情ノコモレル話。又、男女間ノ戀愛ノ話。陶潛、歸去來辭「悅親戚之情話、樂琴書以消憂」

じやう-ゐ（名）【上位】上ノ地位。（下位ニ對ス）左傳、襄公廿一年「在ニ上位ニ者、洒ニ濯其心ニ、壹以待人」太平記、十二、神泉苑事「善女龍王、本ヨリ上位ノ薩埵ニテ、御坐シケル」

じやう-ゐ（名）【讓位】ミクニユヅリ。帝王ノ、位ヲ讓ラセ給フコト。禪位。讓國。禪讓。（我ガ朝ニテハ、皇極天皇ノ、孝德天皇ニ讓リタマヒシヲ、初トス、前位ノ條、見合ハスベシ）[illegible]公子[illegible]、不以有國[illegible]、故讓位」

じやう-ゐき（名）【淨域】淸淨ナル地域。寺院、靈地ナドノ稱。淨土。淨界。南史、庾詵傳「上行先生、已生淨域矣」

しやう-ゐん（名）【正員】（一）權官ニ對シテ、正任ノ官員。式部省式、上「正員之外、特任官權」（二）轉ジテ、一家ノ主人。當主。戶主。相馬文書、曆應二年三月廿日「正員、式部大夫兼頼、年少之間、代官、氏家十郎入道道[illegible]、所令加判形候也」

じやう-ゐん（名）【上院】國會ノ中ノ、貴族ヨリ選ビ出セル議員ノ、詰ムル所。貴族院。一般人民ノ議員ノ詰ムル所ヲ、下院トス。衆議院。

しやう-ゑん（名）【莊園】【庄園】（莊ハ、田舍ノ義、田閒ノ家屋、園ハ、苑ノ、藩アルモノ、樹木ヲ植ウル所）略シテ、莊。莊ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。長祿記、上「諸國亂レテヨリ以來、國ニ國司ナク、庄園ニ地頭ナク、僅ニ下人ヲ殘シテ、或ハ、鄕ノ長ヲ命ジテ、庄屋ヲ置キ、假ニ名主ヲ立テ、奔走ス」源、五十、浮舟三十「因幡守ナルガ領ズルさうニ、ハカナウ作リタル家ナリケリ」同、三十八、夕霧十「粟栖野ノさう近カラム、秣ナド、取リ」

しやう-ゑん（名）【牆垣】カキ。カキネ。左傳、襄公三十一年「隱ニ其牆垣ニ以無ニ憂ニ客使ニ」

しや-えい（名）【寫影】人、或ハ、草木鳥獸ナドノ影ヲ、寫スコト。謝莊、[illegible]賦「寫影於[illegible]」

しや-おん（名）【謝恩】恩惠ヲ受ケタルコトノ、禮ヲ述ブルコト。後漢書、禮儀志「[illegible]」

三老五更ニ之儀、明日已閲讀ニ思、以見ニ釋迦ニ」「學生ノ謝恩會」

しゃか (名) [鷂尾草] いちはつ(鳶尾草)ニ同ジ。コヤスグサ、或ハ云フ、からすあふぎ(烏扇)ノ一名ナリト。 嬉遊笑覽、三「露ニ、連歌師ガ、露字ヲ賞ニ置ト云フハ、何ヨリ云ヒ出タルコトカ、世の人心、昔日、立花ノ家ヨリ、鷂尾ノ前置ノ、金子百兩ノ賞ニ入レ、連歌ノ花ノ下ヨリ、露ト云フ字ヲ、黄金ニ拾枚ニ置レケル、賞ニアル内ハ、花サシニ、鷂尾ヲ使ハセズ、連歌師ニ、露ト云フコトヲ出サセヌハ、此約束ヲ違惑シテ、謂ラレケルト云ヘリ」

しゃか (名) [社家] 五六軒、集マリタル家。 冥報記「賓ニ還村社家ニ」

シャカ (名) [釋迦] 〔梵語、舍枳也(シャキャモニ)訛尼 (Sakya-muni.)〕 又ハ、釋迦牟尼ノ略、能仁、寂默ト云ヘルハ、字義ヨリ譯シタルナリ、牟尼ハ、元ト「無音ノ行者」ノ呼稱ナリシヨリ、此如ク、寂默トセルモノナリ、唯、聖者、仙人ノ義ト見ルベシ、即チ、釋迦種族ナル、聖者ト云フ意(高楠順次郎ノ說ニ) 又、釋迦。佛教ノ太祖、中天竺、摩伽陀國、淨飯王ノ子、本名、悉達太、釋迦牟尼佛、釋迦佛トモ云ヒ、如來ノ一トス 西洋紀元前、約、四百八十五年、陰曆二月十五日、寂ス、年、八十。 魏書、釋老志「所謂佛者、本號ニ釋迦ハ文者、譯言ニ能仁ハ謂ニ德充道備、堪濟萬物ニ也、云云」

しゃが (名) [車駕] 〔唐六典「服御曰ニ乘輿ハ行幸曰ニ車駕ニ」猶、乘輿ノ條ノ(二)ヲ見ヨ」 (一)天子ノ御車ヲ、行幸アル時ニ就キテ、云フ語 史記、韓傳、天子車駕、駕ニ道未ニ行」儀制令「車駕、行幸所ニ稱」 (二)天子ノ敬稱、直チニ指シテ云フヲ憚リ、御車ニ託シテ、申ス 漢書昌邑王「凡ニ山車駕ニ言、天子乘車而行、不ニ敢指斥ニ也」

しゃが (名) [胡蝶花] 〔射干(シャカン)(ひあふぎ)ニ似タレバ、其字ヲ音讀シテ、名トシタルナリト云フ」 かきつばたノ屬、葉、冬、枯レズ、春、花アリ、白クシテ、青ミアリテ、心ハ、橙黄ナリ。

しゃかい (名) [沙界] (一)恆河ニアル沙ノ、無數量ノ如ク、宇宙ニ散布セル、無數量ノ世界。 鵯鷲合戰物語「凡、既有頂無間、鐵圍沙界、震動合鬘、同證佛果」(二)際涯ナキ數ニ云フ語。恆河沙。恆沙。

しゃがい (名) [車蓋] 車上ノ、オホヒ。車ノ上ノ、キヌガサ。 漢書、黃霸傳「官聰ニ車蓋ハ特高ニ丈」

ジャガいも (名) じゃがたらいもノ中略。

しゃかう (名) [社交] 社會ノ交際。世間ノツキアヒ。「社交ニ長ズ」

しゃかう (名) [射倖] 〔射、正音せき〕 僥倖ヲ、的トスルコト 偶然ノ幸福ヲ、希フコト。マグレザイハヒヲ、目當トスルコト。 徼倖。「射倖心」

しゃがう (名) [奢傲] 〔奢侈、傲慢ノ略〕 オゴリ、高ブルコト。驕奢。 左傳、昭公十六年「君幼弱、六卿強而奢傲」

じゃかう (名) [蛇行] 蛇ノ行クガ如ク、ウネリ歩クコト。匍匐シテ、行クコト。 戰國策、秦策「嫂蛇行匍伏、四拜、自跪而謝」

じゃかう (名) [麝香] 又、ざかう。麝(ジャ)ト云フ獸ヨリ出ヅル、香料ノ名、其陰部ノ上、皮内ニ、臍嚢アリ、形、圓クシテ、鳩ノ卵ノ如シ、香料、其内ニアリ、其香、最モ烈シク薫ズ、常ニ、藥用トシ、香料トシテ、珍重ス。此ノ獸ハ、亞細亞洲中部ノ山ニ棲ム、麞(クジカ)ニ似テ、長、三尺許、上腭ニ二牙アリ、下ニ反リテ、口外ニ出ヅ、全身、淡褐色ナリ。 蠻經(宋、吳季二録、韋仲將、用ニ眞珠麝香ニ物ニ」 倭名抄、十二「香名類「麝香、麝ハ脚似ニ麞而有ニ香ニ」 落窪物語、一「帶、ツキニタリ、云云、帶刀、笑フ笑フ、云云、さかうノ香トモ、嗅ギナシ參リ給ヒテム」

じゃかうさう (名) [麝香草] 草ノ名、葉ハ、稍、薄荷ニ似、春ノ末、淡赤色ノ小花ヲ開ク、莖、葉ヲ揉ム時ハ、麝香ニ似タル香氣ヲ發ス。

じゃかうじか (名) [麝香鹿] じゃ(麝)ノ條ヲ見ヨ。

じゃかうねこ (名) [麝香猫] 印度等ノ熱地ニ産ズ、體、猫ニ似テ、二尺許、頭ハ、狐ノ如シ、陰部ニ、麝香ノ氣アリト云フ、小蟲、諸鳥ヲ捕ヘテ、食トス。靈猫 持統天皇歌軍法(享保、近松作)三「麝香の猫モ同然ノ、恐銘香」

じゃかうねずみ (名) [麝香鼠] 鼠ニ似テ、頭、狹ク、身ニ、麝ノ香アリト云フ、南地ニ産ズ。香鼠

じゃかうのま (名) [麝香間] 宮中ノ御間ノ一。

じゃかうのましこう (名) [麝香間祗候] 勳功アル華族ヲ優遇スル爲ニ、麝香間ニ祗候セシムルモノ。

じゃかうぼね (名) [麝香骨] 丁子、沈香ノ類ヲ以テ、扇、又、團扇ノ骨ヲ煮テ、香ヲ留メタルモノ。 毛吹草(寛永)「薫リヌル、風ヤ扇ノ、じゃかう骨」 俳諧塵子(萬治)「じゃかう骨ハ、持扇ノ、じゃかう骨」 土佐節 曾我兄弟「御代ヲ治メテ、モノノフハ、軍配うちは、女郎ハ、塗扇ノ團扇、色色ノ、房ヲ飾リシじゃかうぼね、風モ穀アル、荻ノ葉ヤ」

しゃかく (名) [社格] 神社ノ格式 コレニ、官幣社、國幣社、府縣社、鄕社、村社、等ノ區別アリ。「社格ヲ昇ス」

じゃかご (名) [蛇籠] 長ク大キク、粗ク編メル竹籠ノ内ニ、大小ノ石ヲ滿テタルモノ、山川ナドノ岸ニ積ミテ、堤ノ用トシ、水流ノ防(ヨケ)トス、形、大蛇ノ臥セルガ如クナレバ、云フ。石笆 隄防橋梁積方大概ニ、蛇籠壹本 長五間、差渡二尺七寸、此詰石三合壹勺七才」

ジャガタラ (名) 次條ヲ見ヨ。 俳諧袋(享保)「じゃがたらノ、絲ノホツレノ、狗夏サニ」

ジャガタラいも (名) 〔じゃがたらハ、爪哇(ジャワ)島ノ Batavia. (又、咬𠺕吧(カラツパ))ノ舊名、Jacatra. ニ起ル」 草ノ名、莖、高サ二三尺、曲ガリ傾キテ、延フ、葉ハ、五葉、或ハ、七葉、對生シ、面、皺ミテ凸(タカ)ク、毛アリ、花ハ、盾形ニシテ、白シ、根ニ、數塊ヲ生ズ、丸(タマ)ノ如クニシテ、大、小、均シカラズ、味ハ、さつまいもノ如クニシテ、淡(アハ)シ。昔時、和蘭人、同地ヨリ渡スト。略シテ、ジャガタラ。ジャガイモ。ゴショウイモ。エゾイモ オランダイモ 馬鈴薯

ジャガタラじま (名) 〔前條ノ語原ヲ見ヨ」 古へ、じゃがたら島ヨリ渡來シタリト云フ織物 和漢三才圖會、廿七、綿布「咬𠺕吧(ジャガタラ)嶋(ボンマ)條、紺條、淺黄ハ縞ヲ緯トス木綿、俗ニ言島ニ」

ジャガタラみかん (名) 〔じゃがたら柚(ユ)ト云フベキノ誤、前前條ヲ見ヨ」 ざぼん(朱欒)ニ同ジ (京都)

シャカ-ホトケ (名) [釋迦佛] さ(じ)か(釋

迦)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。[illegible]三、上[illegible]「サ[illegible]」

しゃかん (名) [左官] 泥工ノ稱、さくゎん [illegible]

しゃかん (名) 舍監 學校ノ寄宿舍ヲ、監督スル職

しゃかん (名) [赭顏] アカラガホ。アカキ顏面。アカツラ。

しゃかむ (自動、四) 蹲マル カシコマル、ヒザマヅク。シジカム。[illegible]

しゃがん (名) [斜眼] やぶにらみ(藪睨)ニ同ジ。同條ヲ見ヨ。

しゃがんせき (名) [illegible] きんだせき([illegible]石)ニ同ジ

シャカムニブツ (名) [釋迦牟尼佛] しゃか(釋迦)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]「しゃかむにぶつ弟子ト名ノリテ、ユルルカニ讀ミ給ヘル、又、世ニ知ラズ聞コユ」

しゃがれる (動) [嗄] しはがるノ口語。[illegible]

しゃき (名) [車軌] 車ノ軌道 クルマノ轍。車轍。[illegible]

しゃき (名) [斜暉] 斜ニ射ス、夕陽ノ光。イリヒ。夕暉。斜照。[illegible]

しゃき (名) [謝儀] しゃれい(謝禮)ニ同ジ。[illegible]「謝儀ヲ呈ス」

しゃき (名) [邪氣] (一)ワザヒキ 風邪

(二)モノノケ。著聞集、一、神祇「先度、汝、大[illegible]」(三)惡シキ氣。惡氣。[illegible]シテ、五時、退出シケレバ」

じゃき (名) [邪鬼] アシキ神。祟リヲナス神 [illegible]ノ邪鬼」

じゃき (名) [蛇木] はひびゃくしん(矮檜)ニ同ジ

じゃぎ (名) [邪義] ヨコシマナル教義。[illegible]二天下ノ貴賤、未ダ[illegible]ノ罪、上、一人ノ御恥トナリ」

じゃぎ (名) [邪議] [正議ニ對ス] ヨコシマナル、ハカリゴト。[illegible]

しゃきしゃき (副) (一)物ヲ嚙ム音、又ハ、切リ裂ク狀ニ云フ語。(二)氣ノ利キタル人、又、スバヤクナス狀ニ云フ語。

しゃきしゃき (副) 前條ノ(一)ノ、訛ミタルニ云フ語

しゃきん (名) 謝金 謝禮ニ贈ル、金錢 [illegible]

しゃきん (名) [沙金] 又、さきん 金ノ、沙ノ形ヲナセルモノ、天然ニ、急流ノ底ナドニ、沙ニ雜リテ、アリ、粒ノ大、小、均シカラズ、黄色、淺シ、金類ノ第二等トス、或ハ、鑛石ヲ碎キテ、水ニ淘リテ取ルモアリ、共ニ、鎔カシテ、用ヰル 古ハ、沙ノママニテ、秤ニカケテ、貨幣ノ用トセリ、コレヲ、絹ナドニ包ム、一包ハ、十兩ニテ、代、二千四、錢、二十貫ニ當ル。

スナガネ。コレヲ包ムモノヲ、沙金袋ト云フ 形ニ、一、二樣アリ、今、俗、訛シテ、茶巾包トモ云フ [illegible] 兩」 貞信公記、天慶十年三月十六日「砂金百兩、入ニ[illegible]」 [illegible] 太平記、三十、吉野殿與相公羽林一御和睦事「十五日[illegible]」 [illegible] 金銀圖錄、五、附古品「砂金ハ、紙ニ褁ミ、袋ニ入テ、用フ、云云、一褁ハ、十兩ナリ、十兩ハ、代、二千疋ニシテ、錢、二十貫ニ當ルナリ、云云、近世用ル砂金褁ト云モノハ、小判金十兩ヲ、木形ノ香合ノ如キモノノ中ヘ入テ、其上ヲ、色色ノ紙ニテ包ムナリ、云云、今俗間ニ、茶巾餠ト云アリ、砂金餠ノ誤ナリ、今川大[illegible]」

しゃきんづつみ (名) [沙金褁] 前條ノ出典ヲ見ヨ

しゃきんもち (名) [沙金餠] 前前條ノ出典ヲ見ヨ

しゃきゃう (名) [舍兄] [親兄ヲ、しんきゃうト云フ、同趣] しゃけい(舍兄)ニ同ジ。[illegible]

しゃきゃう (名) [蔗境] [下ノ出典ノ故事ニテ候ヨリ、出ヅ] 漸次ニ、佳境ニ進ミ行クコト [illegible]「或怪之、愷之曰、漸入二佳境一」

しゃきゃう (名) [寫經] 經文ヲ、書寫スルコト。著聞集、二、釋教「報イ未ダ盡サザルニ、上人ノ[illegible]ノアヒダ、[illegible]ノ衆生、ミナ、人中、天上ニ

生レ、或ハ、淨刹ニ詣ヅ」

しゃきゃうしゃう (名) [寫經生] 古ヘ、佛經ヲ書寫スルヲ職トセシ者 [illegible]

しゃきゃうじょ (名) [寫經所] 古ヘ、佛經ヲ寫サシムル所。續修、東大寺正倉院文書、四十三「[illegible]寫經所」

しゃきゃく (名) [斜脚] 斜ニ、行クコト、ナナメニ、サシコムコト 朗詠集、上「斜脚[illegible]」

しゃぎょ (名) [射御] 弓術ト、馬術ト 騎射 禮記、月令篇「講武、習射御」左傳、[illegible]公七年「與其射御、教吳乘車」

しゃぎょ (名) [車御] 車ニ乘ルコト、馬ヲ御スルコト 三國志、魏志、王基傳、注「東[illegible]」

じゃきょく (名) [邪曲] ヨコシマナルコト。ネヂケテキルコト。宋史、吳奎傳「邪曲[illegible]」

しゃぎり (名) [錚] (一)鐘ノ音ニ云フ語。今、錚ト云フ。シャンギリ。吾吟我集、夏「[illegible]カハル祇園會」(二)劇場ノ幕切レ、打出シナドニスル、一種ノ囃子ノ稱 宮商律

しゃく (名) [爵] 又、さく 支那、周ノ封建ノ世ニ、隨地ニ封ゼラレタル、大小ノ國君ニ賜ヘル、世襲ノ家格、身分ノ稱、公、侯、伯、子、男、ニ分テ、コレヲ、五等ノ爵ト云ヒ、コレヲ統ベテハ、諸侯ト云ヘリ、又、諸侯ノ臣ニモ、卿、大夫、士、ノ三等ノ爵アリ、後、郡縣ノ世トナリテモ、五等ノ爵ハ、倘、高官、有功ニ賜フ 本朝ニテモ、近年、華族ニ、五等ノ爵ヲ賜ハリ、世襲セシメラル、[illegible]

「以二八柄一馭二羣臣一、一日、爵」注「爵、謂二公侯伯子男、卿大夫士一也」 名目抄「爵、凡、諸位之惣號也、但又、初敍二五位一之時、謂二敍爵一、日本ノ法也」 源、廿一、少女「心ノママナル官爵ニ昇リヌレバ」

しやく（名）【爵】 支那ニテ、酒ヲ飲ムニ用ヰル禮器。杯。 說文（漢、許愼）「爵、禮器也」

しやく（名）【癪】〔積聚ノ積ノ字ニ、疒ヲ添ヘテ、呉音ニ讀ミタルモノ〕 サシコミ。胃痙攣、子宮痙攣、胃痛、ひえてりい性ノ者ノ、感情ノ激動ニ因リテ起ルアリ、蛔蟲ニ因ルアリ、不良ノ飲食ニ因リテ起ルモアリ、冷氣ニ因ルアリ。癪ニさはるトハ、感情ヲ害スル意。

しやく（名）【勺】〔夕ト記スハ、勺ノ草書ヲ崩シタルニテ、せきト讀ムナリ、杓ヲ、杓トモ記セリ〕 枡目ノ名、合ノ十分ノ一。地坪ニモ云フ。又、夕トモ云フ。 中庸、第二十六章「今夫水、一勺之多」 字類抄「夕、勺、シャク、十撮爲レ勺」（第三語ノオイノ條ヲ見ヨ）

しやく（名）【杓】〔古言、ひさごノ轉ノ、ひさくノ略〕 ひしやく（柄杓）ノ條ヲ見ヨ。又、さく。 天治字鏡、七「枓、斟、水器、木佐久」

しやく（名）【酌】 酒ヲ酌ミテ、杯ニ注ギ入ルルコト。【行觴】 陶潛、歸去來辭「引二壺觴一以自酌」 一水記、正月淵醉ノ記太「大臣之外、取レ酌之人、無レ之歟」 謠曲、千手「お酌ニ立チテ、重衡ノ御前ニコソ坐リケレ」「酌ヲスル」

しやく（名）【石】〔石、呉音しやく〕 しやくなげノ略。しやくこ（蝦蛄）ノ語原ヲモ見ヨ。

しやく（名）【赤】〔赤、呉音しやく〕 (一)あか（赤）ノ(一)ニ同ジ。 狂言記、富士松「汝ノヤウナ奴ニハ、靑、黄、赤、白、黑、五色ニ問ハウズ」 (二)しやくのひ（赤口日）ノ略。 年中宗例記「赤ノ次ノ日、赤後ノ出仕トテ、出仕アリ」

しやく（名）【尺】 (一)尺度ノ名、丈ノ十分ノ一。十寸。古ヘノ大寶令ノ大尺（高麗尺）ハ、今ノ曲尺ノ一尺一寸七分三厘六毫（ものさしノ條ヲ見ヨ）又、大尺、小尺トニ分シテ、高麗尺ヲ、大尺ト呼ビ、表目、小ナリ、支那尺、唐尺ヲ、小尺ト呼ビ、裏目、大ナリト云ヘリ。 孟子、滕文公、下篇「枉レ尺而直レ尋、宜レ若レ可レ爲也」 雜令、義解「十寸爲レ尺、一尺二寸、爲二大尺一尺一」 正倉院天平尺「曲尺九寸七分八釐」 (二)長サ。丈。「尺ガ短イ」「尺ヲ取ル」 (三)泥障ノ具。あふりノ、長クシテ、裾ノ、廣キモノ。 諸鞍日記「泥障ハ、しやくノ泥障トテ、馬ノ皮ヲ、黑ク塗タリ、根本ハ、琵琶ノ撥盤塗様ニシテ、櫨ノ木ノ汁ニテ染タルナリ」 黄葉記、寛元四年五月廿日「予（定嗣）黑鞍（有二赤銅伏輪一、又有二菱文一）、尺泥障、不レ差二差縄一」 後松日記、十「尺（物具）」泥障、尺黑（諸鞍）」

しやく（名）【笏】〔笏ノ音ハ、忽ナリ、骨ニ通ズルヲ忌ミテ、笏モ、物ヲ量レバ、尺ノ音ヲ借リテ云フトゾ、或ハ云フ、笏尺ノ略ニテ、一笏ハ一尺ナリト、多クハ、一位ノ材ヲ用フ、コレ、一位ハ、極位ナレバ、其緣ニ取ル、飛驒ノ國ノ一位ノ木、亦、くらゐニ取ル、釋名「笏、忽也、君有レ敎命、及所二啓白一、則書二其上一、備二忽忘一也」〕 又、さく。束帶ノトキ、右手ニ持ツモノ、牙、又ハ、一位木、或ハ、櫻、柊、等ノ、薄キ板ニテ、長サ一尺二寸、上ノ幅二寸七分、下ノ幅二寸四分、厚サ二分、頭ヲ半月ノ形トス、卽チ、上圓、下方ナリ。尙、位ニ因リテ差アリ、元ハ君命、又ハ申サムトスル所ヲ記シテ、忽忘ニ備フルモノナリシト云フ。手板。 禮記、玉藻篇「笏、天子以二球玉一、諸侯以レ象、大夫以二魚須文竹一、士竹本象可也」 章孝標詩「投レ笏還辭丹鳳闕」 倭名抄、十四「服玩具「笏、音忽、俗云、尺」 名義抄「笏、官所レ執、俗云、シャク」 續紀、八、養老三年二月壬戌「職事主典已上把レ笏、其五位以上、牙笏、散位亦聽レ把、笏、六位已下、木笏」 後紀、十八、大同四年五月「聽三五位已上、通二用白木笏一」（後ニハ、上下、多クハ、木ナリ） 江家次第二、任納言ノ時、笏紙ヲ押スト云フ、アリ、コレ、紙ヲ、笏ニ粘スルナリ。 雅亮裝束抄、二「太刀ヲ帶カズ、尺ヲ持ツ、げノ尺、若ハ、常ノモ、小サク、表ノ袴、唐綾ヲ着ルベシ」帶、ツノノマロトモ（角丸鞆）、五ゐノさく（笏）、ヒキオビ、シタウヅ（襪）」 增鏡、第七、烟末末「殊更、小サキ笏ナド、造ラセテ」

しやく（名）【錫】 (一)アカガネ。赤銅。 (二)しやくぢやう（錫杖）ノ略。「錫ヲ駐ム」「錫ヲ飛バス」

しやく（名）【釋】 文ノ難義ヲ解ク文。注解。 左傳、襄公廿九年「公在レ楚、釋レ不レ朝二正于廟一也」注「釋、解也」疏「解下釋公所三以不二得親自朝一正上也」

シャク（名）【釋】 (一)僧ノ姓、其敎主ナル釋迦ノ、釋ヲ取レルナリ、人、出家スレバ、貫屬ヲ離ル、僧ニ、姓氏ナキナリ。 石林詩話（宋、葉夢得）「始晉初、爲二佛學一者、皆從二其師姓一云云、道安以三佛學一皆本二釋迦一、爲レ師、請以レ釋命レ氏、遂爲二定制一」 (二)講釋師ノ略。

しやく（接尾）【尺】 魚ヲ數フルニ云フ語。隻ノ借字。隻。 靈異記、下、第六緣「買二鯔八隻一、納二小櫃一」「鮭一尺」

しやく（名）【私約】〔公約ニ對ス〕 ワタクシニ、約ヲ結ブコト。私カニ、約束スルコト。 晉書、刑法志「崇二嫁娶之要、一以下聽爲レ正、不レ理二私約一」

じやく（名）【弱】〔強ニ對ス〕 (一)ヨワキコト。又、ヨワキモノ。 禮記、祭義篇「強不レ犯レ弱」 (二)二十歲前後ノ稱。 禮記、曲禮、上篇「二十曰レ弱、冠」 (三)イトケナキモノ。幼少。 史記、周紀「扶レ老、攜レ弱」

じやく（名）【寂】 佛敎ノ語、有無ノ境界ヲ、脱スルコト。涅槃。寂滅。 榮花物語、十八、玉臺「有作、無作ノ諸法ノ性ヲ見サル所、如ナリ、寂ナリ、解脫ナリ、乃至、般若波羅蜜ナリ」「寂ヲ示ス」

じやく（名）【蒻茸】〔ささトモ、讀ム〕 ヤリパナシモノ。イキナリモノ。 燕居雜話、六「問テ曰、蒻茸ノ字、解シ難シ、請、示サレヨ、予答曰、是ハ、俗ニ云、やりはなし者、いきなり者ナド云詞ナリ、宋、黄山谷ガ涪翁雜記ニ、蒻（卽假反）茸（音鮓）泥不レ熟也、中州人謂二蜀人放誕不レ遵二軌轍一、曰二川蒻茸一ト云ヒ、マタ、宋、趙叔向、肯綮錄ニ、不レ謹二愿一曰二蒻㩁一（上、力瓦切、下、除瓦切）トモ見エ、又、清、褚稼軒ガ堅瓠集ニ、今人謂下人作事不レ中二道理一者上曰二蒻茸一、蒻、卽假切、茸、音鮓、黄山谷集、云云、毛言二韻書一無二蒻茸一、有二蒻蔻一、蒻、盧下切、讀作レ喇、蔻、除瓦切、音鮓、ナドアルヲモテ、茸、㩁、蔻、三字、音、同ウシテ、通用セシ也」

じやく（名）【時藥】 平時ニ用ヰル藥。病ニ罹リテ、特ニ服スルニ對シテ云フ。

じやく（名）【餌藥】 オギナヒグスリ。養生ニ用ヰル藥。藥餌。 唐書、成訥傳「曉好二衛士餌藥一、瀕死而蘇」

じやく（接尾）【弱】 足らずノ條ヲ見ヨ。未滿（小百圓、小一時間ナドノ、小ノ如シ）「十里弱」

しやく-あふぎ（名）【尺扇】 石州扇ノ一名。茶器ノ寸尺ヲ取ル爲ニ作リタル扇。 大井川集（延寶）「尺の扇、ヌカヌ人ナシ、蓮ノ花」夏ノ夜ノ、寸取ル尺の、扇カナ」 智惠袋（寛文）「夏ノ暑サ、サシ見ル尺の、扇カナ」 洗濯物（寛文）「トル鮎ノ、タケモヤ尺の、扇網」

しやく-あふり（名）【尺障泥】 しやく（尺）ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。 物具裝束抄「和鞍具、尺障泥」

しやく-いち（名）【尺一】 信濃國、木曾ヨリ出ヅル材木ノ稱。

しやく-え（名）【赤衣】 アカキ色ノ服、ア

[illegible]ノ日ニ[illegible]サレテヨリ以來、宋三、宋四ト呼ブトコソ見エテ候ヘト」

しゃく-か (名) [借家] しゃくや(借家)ニ同ジ。

シャク-か (名) [釋家] 佛家。佛教家、[illegible]

しゃく-がう (名) [綽號] アダナ。譚名。

しゃく-かん (名) [尺翰] (尺牘ノ語原ヲ見ヨ) テガミ。尺牘、手翰。書翰。

じゃく-かん (副) [若干] (干ハ、若一、若十ノ、一ト、十トヲ合ハセタルモノ、漢書、食貨志ニ見エ) ソコバク。ソクバク。春秋繁露(宋、程大昌)ニ「若干者、設數之言也、干、猶箇也、[illegible]」「攻關城、殺將若干人」

しゃく-かん (名) [弱顔] (通鑑、陳、宣帝紀)[illegible]人[illegible]自美、[illegible]惜悒者、[illegible]ハ[illegible]ツカシガ[illegible]

しゃく-き (名) [借記] 借ヲ授ケラルルモノニ、其證トシテ交付スル文書。公文令、[illegible]六條、[illegible]、宮内大[illegible]

しゃく-き (名) [癪氣] 癪ノ病氣。[illegible]

しゃく-ぎ (名) [匝] さくぎニ同ジ。[illegible]

しゃく-ぎ (名) [釋義] 意義ヲ、トキアカス[illegible]

じゃく-き (名) [惹起] ヒキオコスコト、引出スコト。

しゃく-きん (名) [借金] しゃくざい(借財)ニ同ジ。

しゃっきん-とり (名) [借金取] 借金ヲ返濟セヨト、責メハタルコト。又、其人。債鬼

じゃく-きう (名) [弱弓] 強弓ニ對ス。力ノヨワキ弓。[illegible]楚人有好以弱弓微繳加歸雁之上者」

しゃく-きょく (名) [積極] せききょく(積極)ニ同ジ。

しゃっ-く-にち (名) [赤口日] 陰陽家ガ、諸事ニ凶ナリトナス日。即チ、正月、七月ノ三、九、十五、廿一、廿七、二月、八月ノ二、八、十四、廿、廿六、三月、九月ノ朔、七、十三、十九、廿五、四月、十月ノ六、十二、十八、廿四、晦、五月、十一月ノ五、十一、十七、廿三、廿九、六月、十二月ノ四、十、十六、廿二、廿八日ヲ云フ。赤日。赤舌日 略シテ、赤。

しゃく-くゎ (名) [爝火] 松明ノ火。カガリビ。篝火。莊子、逍遙遊篇「日月出矣、而爝火不息」太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「爝火不消、[illegible]之爝焰」

じゃっ-くゎう (名) [寂光] 次次條ノ語ノ略。謡曲、大原御幸「光トテヤ、ゲニ寂光ノ寂カナル、光ノ影ヲ惜シメ、タダ」

じゃっくゎう-じゃうど (名) [寂光淨土] 次條ヲ見ヨ。

じゃっくゎう-ど (名) [寂光土] 佛經ノ語、佛ノ法身土ニシテ、唯、佛ノミ住スル淨土。寂光淨土。略シテ、寂光。太平記、十八、比叡山開闢事「釋尊因[illegible]寂光土ニ歸ラントシ給ヒケル」盛衰記、十三、嚴島垂迹事「法性不二ノ色身ハ、寂光淨土ニ居スレドモ」

しゃっ-くゎ-えび (名) (石南花蝦ノ略ナルベシ) しゃこ(蝦蛄)ノ條ヲ見ヨ。(西國)

しゃっ-くゎく (名) [尺蠖] しゃくとりむし(尺取蟲)ニ同ジ。易經、繋辭、下傳「尺蠖之屈、以求信也」枕草子、十、上「のぶる物の品品、尺くゝくノ身ヲ縮メレモ、伸ビンガ爲ナリ」

しゃっ-くゎん (名) [借款] 借金ノ條件。又、負債ヲ起スコト。「借款ヲ起ス」

じゃっ-くゎん (名) [弱冠] (周制、男子、二十、加冠) 二十歳ノ異稱 禮記、曲禮、上篇「人生十年曰幼、學、二十曰弱、冠」

しゃっ-けい (名) [借景] 園外ノ、遠キ山、又ハ、樹木ナド、借リテ、園中ヨリ眺メトシテ、見越シノ景トスルモノ。笠翁一家言、中、[illegible]居室、[illegible]景在借、借景之云、云云」園冶(明、計成)ニ「借景、云云、遠借、隣借、仰借、俯借、云云」

しゃっ-けう (名) [石橋] (一)イシバシ。深谷ニ架セル石橋、苔、滑ラカニシテ、歩ミ難シ、橋ノアタリニ、咲キタル牡丹花ニ、戯レ遊ブ獅子アリ、危キヲ恐レズ、彼岸ニ達シテ、始メテ、普賢ノ座ニ至ルナドニ譬ヘテ云フ(佛教ノ理ニ因ル) [illegible]「始[illegible]作石橋」(二)能ノ曲ノ名、石ノ橋ノ傍ニ、牡丹開アリ、シテ技者、獅子ノ裝ヲナシ、(頭ニ玉アルヲ、牡獅子トシ、大巾ト云ヒ、玉ナキヲ、牝トシ、利巾ト云フ)長ク、紅ナル毛ヲ被リテ、舞フ。

シャク-けう (名) [釋教] (「[illegible]シテ、其教」ナドトモ記ス) 釋迦ノ教。即チ、佛教。高僧傳「[illegible]」神皇正統記、欽明[illegible]聖徳太子ノ御時ヨリ、釋教ヲ習ヒ[illegible]シ給ヒシ」「神祇釋教」

じゃく-けう (名) [鵲橋] かささぎのはし(鵲橋)ノ條ヲ見ヨ。白孔帖「烏鵲填河成橋、而渡織女」

しゃく-ご (名) [赤後] 赤口日ノ次ノ日ノ稱。年中定例記「赤ノ次ノ日、赤後ノ出仕トテ、出仕アリ」

じゃく-こう-にち (名) [赤口日] しゃっくにち(赤口日)ニ同ジ。

しゃく-ざい (名) [借財] 他ヨリ借リタル金錢。オヒメ。カリ。借金。借錢。債

しゃく-し (名) [杓子] 飯、又ハ、汁ナドヲ、抄ヒ取ル具、頭、皿ノ如クニシテ、柄アリ、飯杓子、介杓子、等アリ。勺子

しゃく-し (名) [笏紙] 古ヘ、朝廷ニテ、公事ヲ執行ノ時、其儀式、次第ナドヲ記シテ、笏ノ裏面ニ貼リ附ケタル紙。

しゃく-し (名) [釋師] かうしゃくし(講釋師)ノ略。

シャク-し (名) [釋氏] (一)釋迦氏。釋尊。[illegible]太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「釋氏、化導之正宗、天子、本命之道場」(二)釋門。僧侶。王惲詩「慈恩釋氏[illegible]」

シャク-し (名) [釋子] 出家シテ、佛弟子トナレル者。僧。盛衰記、十六、仁寛流罪事「釋子ニ定メマシマシケレドモ、イマダ、御出家ハ無カリケリ」

しゃく-じ (名) [石神] (三狐神ヲ、さんこじんト讀ミタル訛ト云フ) 石ニテ造リタル神像。イシガミ。(道祖神ニ、石ヲ神體ニスル、多シ) 延喜式、神名帳「能登國、羽咋郡、大穴持神像石神社、能登郡、宿那彥神像石神社」

じゃく-し (名) [弱子] 年弱キ兒童。幼兒。管子、形勢篇「弱子下瓦、慈母操箠」

じゃく-し (名) [弱志] 意志ノ、薄弱ナルコト。薄志。淮南子、主術訓「虛心而弱志」

しゃく-し-がひ (名) [杓子貝] いたやがひ(板屋貝)ノ(一)ノ異名、其條ヲ見ヨ。

しゃく-し-ぢゃうぎ (名) [杓子定規] (古製ノ杓子ハ、柄、甚シク曲レリ(おたがじゃくしノ條ヲ見ヨ)) (一)杓子ノ如キ、正シカラヌ定規。(二)他ニ用キ難キ則ヲ以テ、他ヲ律セントスルニ云フ語。

しゃく-し-づら (名) [杓子面] 額ト、顎トノ、前ニ突出シタル面相。中凹ナル顏。シャクミヅラ。曾我扇八景(寶永、近松作)中「竹ノ下ノ八左衛門ト、蹈ミ跨リシ、富士ノ初雪二合半、面ニ見エテ杓子面」

しゃく-しめ (名) [尺締] 材木ノ容積量ニ云フ語、一尺角ノ長サ一丈三尺ナルヲ、尺締、一本ト云フ。(首尾ヲ捨テ、二間物ナリ)熊野產ノ材ナルハ、一丈四尺アリ、木曾產ナルハ、一丈六尺アリテ、尾州ト云ヒ、木木ト云フ、木曾川ニ流レテ、首尾ヲ多ク損ズレバ、長クセシナリ。明治以後ニ至リ、改メテ、一尺角ノ一丈ナルヲ、石ト云フ。

じゃく-じゃう (名) [寂靜] (一)物シヅカナルコト。靜寂。(二)佛教ノ語、心身ノ活用ヲ息メテ、靜念スルコト。

しゃく-しゃく-と (副) [灼灼] (一)明ルク、輝ク狀ニ云フ語。賈誼、新書、匈奴傳「若二日出之灼灼一則信諭矣」唐書、顏少遊傳「政尙二寬簡一不レ爲二灼灼名一」 (二)花ノ色ノ、赤ク燃ユルガ如キ狀ニ云フ語。詩經、國風、周南、桃夭篇「桃之夭夭、灼灼其華」

しゃく-しゃく-と (副) [綽綽] ユッタリトシテ、餘地ノアル狀ニ云フ語。綽然 詩經、小雅、都人士之什、角弓篇「此令兄弟、綽綽有レ裕、不レ令兄弟、交相爲レ瘉」 孟子、公孫丑、下篇「吾進退、豈不二綽綽然有一餘裕一哉」

じゃく-じゃく-と (副) [寂寂] 物シヅカナル狀ヲ云フ語。ヒッソリト。寂莫 太平記、廿、結城入道墮二地獄一事「口ニハ經ヲ誦シ、心ニ妄想ヲ拂ヒテ、寂寂とシテゾ居タリケル」

しゃく-じゅ (名) [積聚] 癪ノ病。胃痙攣。

しゃく-しょ (名) [借書] 借用證書。太平記、三十五、北野通夜物語事「天下飢饉ノ時、借書ヲ調へ、判形ヲ加ヘテ、富裕ノ者ノ米ヲ借ルニ」

し-やくしょ (名) [市役所] 都市ノ吏員ノ、事務ヲ取扱フ所。市ノ(二)ニテ、事務ヲ取ル役所。

しゃく-じょ (名) [借助] 力ヲカシテ、助クルコト。助力。左傳、襄公四年「寡君是以願二借助一焉」

じゃく・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) [寂] (靜カニナル意) 死ヌ。(僧ニ云フ) 蓮祖高賢傳「還公歸寂」

しゃく-すん (名) [尺寸] (一)僅カバカリ。少シバカリ。戰國策、燕策「羣臣侍二殿上一者、不レ得レ持二尺寸之兵一」 史記、淮陰侯傳「一日數戰、無二尺寸之功一」 (二)僅カバカリノ土地。彈丸黑子ノ地。又、少シバカリノ功。史記、項羽紀「羽非レ有二尺寸一、乘レ勢起二隴畝之中一」

しゃく-ぜつ-にち (名) [赤舌日] しゃくにちニ同ジ。徒然草、九十一段「赤舌日ト云フコト、陰陽道ニハ、沙汰ナキ事ナリ」

しゃく-せん (名) [借錢] しゃくざい(借財)ニ同ジ。應仁記、一、亂世御晴事「彼ノ借錢ヲ破ラントテ、前代未聞、德政ト云フ事ヲ、此ノ御代ニ、十三箇度迄、行ハレケレバ」

しゃく-ぜん (名) [積善] せきぜん(積善)ニ同ジ。平家物語、十一、腰越事「放免ニ預ラバ、積善ノ餘慶、家門ニ及ビ、榮花、永ク子孫ニ傳へ、依リテ、年來ノ愁眉ヲ開キ、一期ノ安寧ヲ得ン」

しゃく-ぜん (副) [灼然] (一)カガヤク狀ニ云フ語。(二)明カナル狀ニ云フ語。劉寔、崇讓論「推讓之風行、則賢與二不肖一灼然殊矣」

しゃく-ぜん (副) [釋然] (一)心ノ、サハヤカナル狀ヲ云フ語。世說、言語篇「釋然無二復疑慮一」 (二)心ノ、打チトケタル狀ヲ云フ語。莊子、齊物論篇「南面而不二釋然一」

しゃく-せん-こひ (名) [借錢乞] しゃっきんとり(借金取)ニ同ジ。生玉心中(正德、近松作)上「一昨日カラ、在所ガ知レズ、附屆、借錢乞、親父樣モ、一分立タヌ」

しゃく-センダン (名) [赤栴檀] せんだん(栴檀)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。謠曲、弱法師「當寺ノ佛閣ノ御作リノ品品モ、しゃくせんだんノ靈木ニテ」 落語工隨筆「赤栴檀ハ、其香、四十里ニキコユルト、楞嚴經ノ注ニ出タリ」

シャク-そん (名) [釋尊] 釋迦ノ尊稱。榮花物語、三、樣樣悅「彼ノ釋尊ノ入滅、御覽ジテ」

しゃく-たい (名) [石帶] 石帶ニ同ジ、其條、及、革帶ノ條ヲ見ヨ。

しゃく-たい-げ (名) [赤帶下] 病ノ名、さしけノ條ヲ見ヨ。

じゃく-だう (名) [若道] (若衆道ヲ中略シテ、音讀ス) 男色。(わかしゅノ條ヲ見ヨ) 東海道名所記(萬治)二「モロコシニモ、若道ハ有ルニテ、伊川先生ヨリ始マリテ、栽尾トカヤ名ヅクメリ」 本朝若風俗(寶永、西鶴)三「或ル人ニ思ヒ込メラレ、念者ニ持タズシテハ、若道ノ一分、立タズ」

しゃく-たく (名) [借宅] しゃくや(借屋)ニ同ジ。傾城反魂香(寶永、近松作)中「外様ヘハ、借宅見タテノ其間、廓ニ少シ逗留分、スレバ、御夫婦ト云フモノヨ」

しゃく-たふ (名) [石塔] 供養ニ、石ノ卒塔婆ヲ建ツルコト。石塔。小右記、寬治二年三月廿三日「今日、侍所石塔、次、仰二所所一令レ書二寫壽命經一云云、依二例、供二養壽心經一云云」 賤者考「鴨川原ニテ、石塔ト云フ事アリテ」

しゃく-たふ (名) [積塔] 京都ノ當道派(此派ノ開祖ヲ、法性禪師宮ト稱ス(仁明天皇第四皇子人康親王)盲目ニナリタマヒ、盲人ヲ敎育、救恤シタマヒタリ)ノ盲人、二月十六日、四宮河原ニ出デテ、石ヲ積ミテ、塔ヲ作リ、天夜尊(法性禪師宮)ヲ供養スルコト。又、六月十九日ニ行フヲ、涼の塔ト云フ、親王ノ母后ノ追善ナリト。當道拾要錄「諸國ノ、當道、毎年、二月十六日、山科へ參集シテ、四宮河原ニ下リ、石ヲ拾ヒ、琵琶石ノ上ニ塔ヲ積、一萬卷ノ心經ヲ讀誦シテ、敎恩、神恩、國恩ヲ報ジ奉リ、猶又、四絃ヲ彈キ、催馬樂ヲ謳フテ、天長地久、天下太平ノ祭ヲナス、是、積塔ノ初ナリ、又、御母皇太后宮、御存命ノウチ、山科ノ御所へ行啓アリテ、夏ノ頃、當道ヲ召集テ、社ノ御庭前ニテ、琵琶ヲ彈セ、催馬樂ヲ謳セテ、涼の宴ヲ設給フ、此御母后、六月二十日ニカクレサセ給フ故、當道、又、御恩ヲ慕ヒ、毎歲、六月十九日ニ、山科ニ集リテ、琵琶ヲ彈、催馬樂ヲ謳フテ、御母后ノ御追善ニ備フ、是、今ノ世ノ涼の塔ノ始ト云ヒ傳ヘタリ」東海道名所記(萬治)二「二月ニ、しゃくたうトテ、京中ノ盲目ドモ、檢校ノ一﨟御職ノ家ニ集リテ、行ヒアリ、後鳥羽院ノ御トブラヒナリト聞キ傳ヘ侍ル」

しやくたふゑ（シヤクトウヱ）(名)【積塔會】古ヘ、二月十六日、瞽官ノ檢校、勾當、座頭、等ノ、京師、高倉、綾小路ノ、清聚庵ニ會シテ、其祖神ナル雨夜神ヲ拜シ、平家ヲ語リシ法會。

しやくち (名)【借地】地代ヲ出シテ、借リテ用ヰル地面。カリチ。[illegible]

じやぐち (名)【蛇口】(一)水ノ流レ出ヅル、金屬製ノ口。承管　(二)蛇ノ口ノ如ク、鐵筒ニ開キタル形（多クハ、活花ナドニ云フ）

しやくぢやう（シヤクヂヤウ）(名)【錫杖】翻譯名義集「錫杖、由振時作錫錫聲也、亦名聲杖」(一)又、さくぢやう。僧、修驗者ノ携フル杖、頭ニ、數個ノ環アリ、行クニ、地ヲ突キテ、響ヲ生ゼシメ、毒蟲、毒獸ヲ警ムト云フ。王維詩「上人飛錫杖」[illegible]　(二)祭文讀ノ、振リ鳴ラス具、形、僧ノ携フル錫杖ノ環ヲ去リタル上部ニ似タリ。

しやくぢ (名)【錫紵】麻布ノ喪服、素服。[illegible]

じやくづれ（ジヤクヅレ）(名)【蛇崩】（沙利崩（シヤリクヅシ）ノ意カ）山ノ崖ナドノ、崩ルルコト。ヤマクヅレ。（山崩ニ、龍ノ天上スルナド云フハ、[illegible]ハ、過ギテ、惡シキ事也」

しやくてつ (名)【尺鐵】(一)一尺程ノ、クロガネ。(二)僅カナル刃物、短キキレモノ、寸鐵。[illegible]

しやくてん (名)【釋奠】又、さくてん。セキテン。天子ノ行ハセ給フ、孔子ノ祭ノ稱。陰暦、二月、八月、ノ上ノ丁ノ日ニ、大學寮ニテ行ハレ、十哲ヲ配セ祀リ、牲ヲ供セラル。諸侯以下ノ、略シテ、唯、蘋藻ノミヲ供スルヲ、釋菜（セキサイ）ト云フ。禮記、文王世子篇「凡始立學者、必釋奠于先聖先師」唐書、禮樂志「武德七年二月丁巳、釋奠於國學」唐六典、廿一、國子監「凡、春秋二分之月、上丁、釋奠于先聖孔宣父、以先師顏回配、七十二弟子及先儒二十二賢、從祀焉」令、學令「凡、大學、國學、每年、春秋二仲之月、上丁、釋奠於先聖孔宣父、其饌酒明衣所須、並用官物」字類抄「釋奠、シヤクテン」枕草子、七、六十四段「しやくてんモ、イカナラン」源中抄、上、年中行事「二月上丁日、さくてん、大學寮ニテ、孔子ヲ祭ル」建武年中行事「さくてんノ胙」

じやくてん (名)【弱點】(一)ヨワキ所。ヒケミノアル所。「敵ノ弱點ヲ突ク」(二)不充分ナル箇所。缺クル點。缺點。

しやくど (名)【尺度】(一)長サヲ測（ハカ）ル器。モノサシ。サシ。コレニ、鯨尺、曲尺、卷尺、いんち尺、めえとる尺、等ノ種類アリ。(二)標準。

しやくどう (名)【赤銅】銅百ニ、蒼鉛（アンチモニイ）三十、金七、（下等ナルハ、四、或ハ、一）ヲ加ヘテ、鎔和シタルモノ、黒クシテ、紫ヲ帶ブ。紫金。烏銅。烏金。[illegible]太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「如何ナル極惡ノ者カ云ヒ出シケン、此邊ノ塔ノ九輪ハ、大略、赤銅ニテアルト覺ユル」

じやくとう (名)【雀頭】筆ノ名稱　字類抄「雀頭、ジヤクトウ（筆名也）」[illegible]

しやくとり (名)【酌取】酒ノ酌（シヤク）ヲスル人。酌人（シヤクニン）。行觴者　[illegible]

しやくとりむし (名)【尺取蟲】古名、招蟲（ヲキムシ）。夏秋ノ間、草木ノ上ニ生ジテ、葉ヲ食フ、形、甚ダ細長クシテ、小ナルハ寸ニ及バズ、大ナルハ二三寸ニ過グ、兩端ニ足アリ、腰ヲ屈メ、首尾、相、就キテ、屈メ、又、伸ベテ行ク、其狀、人ノ、二指ニテ、尺ヲ取ルガ如シ、色ハ、綠色、灰色、褐色、等アリ、後ニ、蝶ニ化ス。エツキムシ。スントリムシ。ハカリムシ。タカバカリムシ。ウマノマラムシ。【尺蠖】新撰字鏡「蠖、シャクトリムシ、タカバカリムシ」（動植名彙、七）

しやくなが (名)【尺長】一定ノ寸法アルモノヨリ、長ク作ラレタルモノ、例ヘバ、疊表ノ、六尺三寸ナル類

しやくなぎ (名)(一)次條ノ(一)ニ同ジ。(二)しやくこ（蝦蛄）ノ(一)ニ同ジ。

しやくなげ (名)【石南花】(一)灌木ノ名。高サ六七尺、叢生ス、葉ハ、枝ノ梢ニ簇リ、末、狹ク、本、廣ク、厚クシテ、面ハ、深緑ニシテ、背ニ、褐毛アリ、互生シ、冬、枯レズ、夏ノ初ニ、淡紫ノ花ヲ開ク、つつじニ似テ、大ナリ、五瓣、又ハ、七八瓣ニシテ、簇リ開ク、又、白花ノモノモ、アリ。サクナンゲ、シャクナギ。卯月花。(二)しやくこ（蝦蛄）ノ(一)ニ同ジ。

しやくにち (名)【赤口日 赤日】しやくくにちニ同ジ　安政雜書萬曆大成、孔明六曜日繰「先勝日（正月、七月）、友引日（二月、八月）、先負日（三月、九月）、物滅日（四月、十月）、大安日（五月、十一月）、赤口日（六月、十二月）」伊勢曆、注「しやく日ハ、出行、[illegible]ニ忌ム」

しやくにん (名)【酌人】酌取（シヤクトリ）。酒席ニ侍リテ、酌ヲスル人。行觴者　鎌田兵衛名所盃（元祿、近松作）下「酌人ノ友稱、萬事ノ仕組、合點ニテ、銚子ヲ注ギカヘ」

しやくねつ (名)【灼熱】燒ケテ、熱クナルコト。

じやくねん (名)【若年 弱年】トシワカ。青年　[illegible]

じやくねん (名)【寂念】佛教ノ語、寂莫ナル心、物シヅカナル心。[illegible]

しやくのき (名)【笏木】いちゐ（一位）ノ異名。

しやくのひ (名)【赤口日 赤日】しやくくにち（赤口日）ニ同ジ。安政雜書萬曆大成「赤日、此日モ、惡日也、ヨロヅ忌ムベシ、但シ、午ノ時、一時、サハリ無シ」年中定例記「十二月廿九日、赤口日ハ、御供衆、出仕ナシ、御公事モ、披露ナシ」

しやくば (名)【借馬】賃ヲ出シテ、借ル乘馬。「借馬ニ乘ル」

じやくはい (名)【若輩】(一)若年ノ、トモガラ。[illegible]　(二)少年ノ、未熟ニシテ、物事ニ、不案內ナルコト。「若輩ナ[illegible]ト云フ」

しやくはう（名）釋放 拘束ヲ釋キテ、放チヤルコト。身ヲ、自由ニナスコト。三國志、呉志、呉範傳「誅ニ其首惡一、餘皆釋放、復爲ニ平民二「囚徒ヲ釋放ス」

しやくはち（名）尺八 又、さくはち。笛ノ一種、筒ノ上端ヲ歌口トシ、竪ニシテ吹クモノ、面ニ、四孔アリ、背ニ、一孔アリ。今ハ、今ノ曲尺一尺八寸ニ作ル、竹ノ太サ三寸五六分ナルヲ、常トス。支那ノ尺八ハ、周尺ニテ、一尺八寸、今ノ、曲尺七寸六分ニアタルト云フ。昔ノ尺八ハ、曲尺一尺八寸、卽チ、一節切ナリ、寛永ノ頃、大森宗薫、曲尺一尺八寸ニ作ルト云フ、今ノ尺八、コレナリ。竪笛（尺八ノ曲ハ、宗佐ヲ祖トシ、宗薫ヲ中興トス、而シテ、虚無僧ノ吹奏スル本曲ト云フモノハ、廿一曲アリト、外曲ハ、琴、三味線ニ合ハセ、琴唄、地唄ニ合ハストゾ）唐書、呂才傳「稱ト才製ニ尺八凡十二枚、長短不レ同、與ニ律諧契一」倭名抄、四「竹管篇韻「尺八、爲ニ短笛、縦向吹者也」源、六、末摘花「公達、集リテ、云云、大篳篥、さくはちノ笛ナドノ、大聲ヲ吹キアゲ、云云」吉野拾遺「筑紫ノ宮ニ(懐良親王)、云云、尺八ヲメシテ、天性、妙ヲ得サセタマフ」

しやくはちいか（名）尺八烏賊 烏賊ノ一種、身、狹ク、長クシテ、竹筒ノ如キモノ、多ク、するめトス。瑣管

しやくびやうし（名）笏拍子 はうし（拍子）ノ條ヲ見ヨ 殘夜抄「打物ノ事、ウチ物、多カレド、コノ朝ニ殘ル所、云云、大拍子、銅拍子、反鼻、笏拍子、方磬、オホヤウ、コレ等ニ過グマジ」

✣✣**しやく・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ**（他動、四）〔杓ヲ、ハタラカス〕汲ミ取ル。スクフ。「水ヲしやくふ」

しやくふ（名）酌婦 料理茶屋ニ雇ハレテ、客ノ酒ノ酌ヲスル女。

しやくぶく（名）折伏 佛經ノ語、惡人、惡法ヲ、破リ伏スルコト。破邪。（攝受ニ對ス）楞嚴經「不レ能ニ折伏一」太平記、十二、公家一統政道事「折伏者、現ニ勢大忿怒形、刑罰爲レ宗」

じやくぼく（名）若木 扶桑ノ一名。說文、桑字、注「日初出ニ東方暘谷、所レ登榑桑、叒木也、徐日、叒、又、木名、東方自然之神木也」山海經「若木國」屈原、離騷「折ニ若木一以拂レ日兮」李白詩「西海裁ニ若木、東溟植ニ扶桑一」

しやぐま（名）赤熊（一）はぐまノ條ヲ見ヨ。嬉遊笑覽、八「からのかしらハ、拂子ニ作ル毛ナリ、本草ニ、牧牛、犛牛、二條ニ出セリ、今、唐山ヨリ渡ルモノ、何レナルカ、色ハ、赤白黑黃、マタ、新渡ニハ、綠ナルモアリ、染テ作レルナリ、本草啓蒙ニ、諸色、大カタ、牧牛尾ニシテ、黑色ナルハ、犛牛ノ尾ナルベシト云ヘリ、白䋅、紅䋅、ト云ヒ、黑キヲ、おおまト云フ、此ノ獸ハ、尾ヲコソ用ヰレ、頭骨ハ用ナキ物ナレバ、彼處ヨリ爲シ來ベキ由モナシ、云云、思フニ、虎頭ナルヲ、からのかしらト云ヒ傳フルニヤ（はぐまナドヲ、からのかしらト云フハ、ソノカミ、兜ニ付タル故ノ名ニテ、マコトニハ、虎頭ナドコソ、唐のかしらトハ云フベケレ）」（二）縮レ毛ニテ作リタル、入レ毛、桃割れ髷ナドニ用キルモノ。洛陽集（延寳）「杉立ヤ、赤熊カケタル、下紅葉」

じやくまう（名）雀盲 トリメ。倭名抄、三九病類「雀盲、病源論云、人至レ暮不レ見レ物、世謂ニ之雀盲、俗云、度利女」

じやくまく（名）寂寞（寂寞ノ呉音）佛經ノ語、物靜カニシテ、心靜マルコト。新古今集、廿、釋敎「寂莫ノ、苔ノ岩戸ノ、靜ケキニ、涙ノ雨ノ、降ラヌ日ゾナキ」太平記、十一、書寫山行幸事「上人、寂莫ノ扉ニ御座シマシテ」

しやくみ（名）凹 シャクムコト。又、次條ノ語ノ略。

しやくみづら（名）凹面 シャクミタル顏。上下、高ク、中、窪ミタル顏。杓子ヅラ。「假面ノ凹面」

しやくみやう（名）釋名 名義ヲ、釋キアカスコト。又、其物。榮花物語、十六、本雫「經ノ中ノ心バヘ、例ノ大殿、釋名、入文、解釋ヨリ始メテ」

✣✣**しやく・む・ム・メ・マ・ミ・メ**（自動、四）〔杓子ノ、中凹ナルヨリ云フ、杓ふヲ自動ニ活用シタルモノ〕中、凹ミテ、丈、チヂム。「顏、しやくむ」

じやくめつ（名）寂滅 佛經ノ語、物ノ、自ラ、形ヲ失フコト。ホロブルコト。死ヌルコト。涅槃經「諸聰諸聽、當レ爲レ汝說ニ生滅滅已、寂滅爲樂一」陳子昂詩「空色皆寂滅、緣業定何成」太平記、八、谷堂炎上事「堂舍三百餘箇所、在家五千餘字、一時ニ灰燼ト成リテ、佛像、神體、經論、聖敎、忽ニ、寂滅ノ煙ト立チノボル」

シヤクもん（名）釋門 釋氏ノ門。佛敎ノ門。佛門。桑門。佛家。太平記、三十、持明院吉野遷幸事「速カニ、釋門ノ徒ト成リテ、遠郡ニ、幽居ヲトメント思フ」

しやくや（名）借屋 家賃ニテ借リテ、住ム家。借家。借宅。タナガリ。賃房「借屋住ヒ」

しやくやく（名）芍藥 勺藥 古名、エビスグスリ。ヌミグスリ。草ノ名、牡丹ニ似テ、草本ナリ、冬、紅芽ヲ生ジテ、春、叢生ス、高サ一二尺、葉ハ、三枝、九葉ナリ、春、夏ノ交、牡丹ヨリ後レテ、花ヲ開ク、莖梢ニ一花アリ、五瓣、黃心ニシテ、牡丹ニ似テ、狹ク長シ、色ハ、紅、白、紫、等、種類、甚ダ多シ、常品ハ、碎瓣アリテ、花心ヲ見ハサズ、上品ナルハ、黃心ヲ露ハス、家園ニ植エテ、花ヲ賞ス、根、數箇ノ長キ塊ヲナス、藥用トス。草牡丹。詩經、鄭風、溱洧篇「維士與レ女、伊其相謔、贈レ之以ニ勺藥一」

しやくやく（副）綽約 姿ノ、シナヤカナル狀ヲ云フ語。莊子、逍遙遊篇「神人、云云、肌膚若ニ氷雪、綽約如ニ處子一」

じやくやく（名）雀躍 雀ノ躍ルガ如ク、小躍リシテ、喜ブコト。莊子、在宥篇「鴻蒙方將レ拊レ髀、雀躍而遊一」「欣喜雀躍」

しやくよう（名）借用 他ノ物ヲ借リテ、用キルコト。「借用證書」

じやくら（名）雀羅 爵羅（雀、爵、相同ジ）雀ヲ捕フル羅。史記、汲鄭傳、論贊「始翟公爲ニ廷尉、賓客闐レ門、及レ廢、門外可レ設ニ雀羅一」

しやくらん（名）灼爛 灼ケ、タダルルコト。漢書、霍光傳「灼爛者、在ニ于上行一」

しやくらん（名）借覽 他ヨリ、書物ヲ借リテ覽ルコト。借看。「祕藏書ヲ借覽ス」

しやくり（名）歔欷 さくり（歔欷）ノ條ヲ見ヨ。盛衰記、十一、有王俊寛問答事「噦噎モシ敢ヘズ、泣キ語リ給ヒケリ」

しやくり（名）吃逆 さくり（吃逆）ノ條ヲ見ヨ。

しやくり（名）赤痢 せきり（赤痢）ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

✣✣**しやくりあ・げる**（動）歔欷上 さくる（歔欷）ノ條ヲ見ヨ。曾根崎心中（寳永、近松作）「名殘惜シノ父樣ヤト、しやくりあげ、しやくりあげ、聲モ惜シマズ、歎クニゾ」

しやくりなき（名）歔欷泣 息ヲ內ヘ引キツツ、泣クコト。（さくり（歔欷）、さくりあぐノ條ヲ見ヨ）心中重井筒（寳永、近松

作)中「尻ハ、頭ヲ上ゲモヤズ、唯アイアイト、しやくりたき」

しやくりやう (名) [酌量] 酌ミ、ハカリシコト。斟酌。[illegible]

しやく・る・ル・レ・フ・リ・レ (自動、四) [歔欷] さくろ(歔欷)ノ條ヲ見ヨ。

しやく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [吃逆] さくろ[吃逆]ニ同ジ。

しやく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [決] 〔さくる(決)ノ轉、吃逆る、吃逆るノ類〕 凹ヲ穿ス如クニ、刳ル。

しやく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [杓] 〔杓ヲ、ヘタラカス〕 オダテル。オヒヤル。ソヤシタツ。

しやくれい (名) [事例] 事義ノ例 [illegible]

しやくれい (名) [弱齡] 若キトシ。若キヨハヒ。弱年。[illegible]

しやくろ (名) [借廬] カリイヘ。カリヤ。

ぢやくろ (名) [石榴] ざくろ(石榴)ノ口語 [illegible]「しやくろナリケリ、命ナリケリ」[illegible]

しやくろく (名) [爵祿] 爵位ト、俸祿ト [illegible]

ぢやくろぐち (名) [石榴口] ざくろぐちノ條ヲ見ヨ。[illegible]

ぢやくろぶろ (名) [石榴風呂] ざくろぶろノ條ヲ見ヨ。

しやくわい (名) [社會] (一)同ジ趣キノ人人、同流ノ仲間。「學者社會」上流社會」 (二)一國、一州ナド、相、賴リテ生活スル、一團ノ人民ヲ稱スル語。近思錄(朱熹、[illegible])「[illegible]社會[illegible]」

しやくわいがく (名) [社會學] 〔英語、Sociology; Social science. ノ譯語〕 社會ノ組織、及、其發達、變遷ナドヲ、講究スル學。

しやくわいしゆぎ (名) [社會主義] 〔英語、Socialism. ノ譯語〕 (一)社會ノ問題ヲ解スルヲ、標準トスル主義。 (二)社會ノ共產ヲ旨トスル主義。

しやくわう (名) [沙鑛] 沙金、沙鐵、及、沙錫、類ノ總稱

ぢやくわうぢ (名) [石王寺] 石ノ名、丹波ノ石王寺山ニ產ズ、白條、銀紋アリ、硯トス。七十一番職人盡歌合、三十九番、硯士詞「しやくわう寺ハ、シロミ吹クテ、硯リニクキ」好古小錄、坤「石硏、石王寺、丹波、銀紋ウルミ易キハ、新坑ニシテ、佳ナラズ」

しやくわん (名) [舍館] 館舍。トマリヤド。旅館。孟子、離婁、上篇「舍館定、然後求見長者乎」

しやくゐ (名) [爵位] 爵ト、くらゐト。漢書、衛青傳「吾年老矣、爵位已極」

しやくゐきよく (名) [爵位局] 爵位、及、華族ニ關スル事務ヲ掌ル、宮內省ノ一局。今ハ、宗秩寮ト改稱ス。

しやくゐん (名) [施藥院] 〔施ノ音、死ニ通ズルニヨリ、忌ミテ濁マズ、[illegible]〕 やくゐん(施藥院)ノ條ヲ見ヨ。

しやけ (名) [鮭] さけノ訛。

しやけ (名) [社家] 神社ニ事フル家。神主。

〜じやけ (名) [邪氣] もののけニ同ジ。邪氣。源、五十、浮舟「五十二例ノ御じやけノ、久シク起ラセ給ハザリツルヲ」

しやけい (名) [舍兄] 家ノ兄。アニ。舍兄。家兄。[illegible]

しやけい (名) [斜徑] ナナメナル小路。[illegible]

しやげい (名) [射藝] 弓ヲ射ル藝。射術。弓術。[illegible]

じやけい (名) [邪計] ヨコシマナル、ハカリゴト。ワルダクミ。後漢書、[illegible]

じやけう (名) [邪敎] 橫シマナル、ヲシヘ。正シカラザル宗教。邪宗。「[illegible]」

しやげき (名) [射擊] 彈丸ヲ、發射スルコト。鐵砲ヲ、打ツコト。「實彈射擊」

じやけつ (名) [蛇結] 〔じやけついばらト云フガ、成語ナルベシ〕 古名、カハラフヂ。灌木ノ名、山野ニ多シ、直立スルアリ、橫ニ延フアリ、皆、刺多キコト、いばらノ如シ、春、新葉ヲ生ズ、さいかちノ葉ニ似テ、長サ[illegible]分、[illegible]、夏、枝ノ梢毎ニ、一尺許[illegible]、黃花ヲ[illegible]、形、藤ノ花ニ似テ、[illegible]、莢ハ、ふぢまめノ如クニテ、長サ二寸許、中ニ、子アリ、大豆ノ如シ。一名、ハマササゲ。ジャケツイバラ。雲實樹 [illegible]

ジャケツ (名) 〔英語、Jacket. ノ訛〕 洋服ノ上衣ノ、短キ製ノモノ。

じやけついばら (名) 前前條ノ語ニ同ジ。

しやけん (名) [奢儉] 〔奢侈、儉約ノ略〕 おごると、つづまやかなると。北史、[illegible]

じやけん (名) [邪險] 慈悲ノ心ナク、慘タラシク、人ヲ扱フコト。刻薄。宋史、王欽若傳「天性邪險、善附會」

じやけん (名) [邪見] ヨコシマナル見方。正シカラザル見解。妄見。佛敎ニ於イテハ、正見ニ對シテ、正理ニ違背スル、一切ノ妄見ヲ云ヒ、特ニ、因果ノ理法ヲ無視スル妄見ヲ云フ。法華經「[illegible]邪見衆生、令住正見」 盛衰記、十八、[illegible]「生年三十三歲ニ成ケルガ、サシモノ邪見ヲ改メテ、菩提心ヲ發シ、髻切テ、文覺ガ弟子トナル」

しやこ (名) [車庫] クルマヤドリ。「電車ノ車庫」

〜しやこ (名) [硨磲] はまぐりノ類、至大ナルモノ、大イナルモノハ、箕ノ如シ、[illegible]、形、橫ニ長クシテ、殼、甚ダ厚シ、內ノ色ハ白ク光リ、外ノ色ハ微褐色ニシテ凸キ渠、五條アリ、切リ磨レバ、白玉ノ如クニシテ、細カキ文理アリ、七寶ノ一トシ、飾トス。扇貝 玄中記「[illegible]」

出二天竺國一」 倭名抄、十一、玉類「車渠、作二硨磲一、俗音、謝古」

しゃ-こ (名) 【鷓鴣】 鳥ノ名、支那ニ云フ、形、母鷄ニ似テ、頭ハ、鶉ノ如ク、胸ニ、白ク圓キ點アリ、背ニ、紫赤ノ浪ノ文アリ、常ニ、南ニ飛ブト云フ、日本ニ產セズ。李白詩「只今惟有二鷓鴣飛一」 康熙本草、下、廿九、禽部「鷓胡、和名、之也古、一名、越鳥、形似二母雞一」

しゃ-こ (名) 【蝦蛄】 〔石南花ノ略ナル、石花蝦ノ轉、或ハ、唐音カ〕 (一)蝦ノ類、相、似テ、長サ四五寸、頭、尾、形、同ジ、鬚、手、足、多シ、背ニ、十餘ノ節アリ、灰白ニシテ、碧ヲ帶ブ、煮レバ、淡紫色ニシテ、石南花ノ花色ノ如シ、賤民、鹽水ニ湯ガキテ、食フ。シャクナゲ。シャクナギ。シャククヮエビ。シャク。 蝦姑 (二)しゃこまげノ略。 嬉遊笑覽、一、下「櫛卷、田螺、蝦姑(何レモ、ソノ形ニ似タリ)夫婦曲、云云」

しゃ-こ (代) 【這箇】 支那、宋ノ世ノ俗語。コノ。コレラノ。 清、李調元、方言藻(官板)下「凡稱二此箇一爲二者箇一、俗多改用二這字一、這、乃迎也、按、這音彥、今特作二者、讀作二者去聲一」 祖庭事苑「這、當レ作レ者、指レ事之辭也」 寒山詩「不レ省二這箇意一」「這裏」這般」

じゃ-こ (名) 【雜喉】 ざこ(雜喉)ノ訛。

しゃ-こう (名) 【射侯】 的ノホシ。 劉克莊詩「古壁蜂穿似二射侯一」 北史、楊播傳「射侯正中」

しゃ-こう (名) 【藉口】 口ヲ、藉ルコト。言譯ヲスルコト。 左傳、成公、二年「若苟有レ以藉レ口而復二於寡君一、君之惠也」

しゃこ-さい (名) 【鷓胡菜】 マクリ。

シャコタン-だけ (名) 【積丹竹】 斑竹ノ一種、北海道、積丹ノ地ニ產ズ、雲文アリ。

じゃ-こつ (名) 【蛇骨】 (一)大蛇ノ骨。(二)化石ノ名、堅クシテ、白ク、木理アリテ、剝ガレヤスシ、龍骨ト僞ルコトアリ。(三)溫泉ノ鹽分ノ結晶物。

しゃこ-まげ (名) 【蝦蛄髷】 女ノ髮ノ結ヒ方、形、蝦蛄ニ似タルヨリ、云フ、略シテ、しゃこ。

しゃ-ざ (名) 【謝座】 古ヘ、朝廷ニテ、元日ノ節會ナドニ、殿上ノ座ニ着クトキ、先ヅ、ソノ禮ヲ申シ述ブル儀式。 公事根源、上「ソノ後、謝座ノ儀アリテ、階ヲノボリテ、堂上ノ兀子ニ着ク」 江次第抄、一、元日宴會「謝座者、內辨大臣、蒙二昇殿著座之詔命一、而先致二拜謝一之禮也、先後一揖者、起居之節也、再拜者、拜二天子一之意也」

しゃ-さい (名) 【社債】 株式會社、又ハ、株式合資會社ノ、債券ヲ發行シテ、募集スル債務。「社債ヲ償還ス」

しゃ-ざい (名) 【赦罪】 罪ヲ、ユルスコト。 左傳、成公十三年「猶願レ赦二罪于穆公一」

しゃ-ざい (名) 【謝罪】 罪ヲ、ワブルコト。アヤマルコト。 史記、廉頗藺相如傳「至二門謝一レ罪、云云、卒相與驩、爲二刎頸之交一」

しゃ-さう (名) 【社倉】 じゃうへいさう(常平倉)ノ條ヲ見ヨ。

しゃ-さふ (名) 【斜插】 (一)ナナメニ、サシ挾ムコト。 南史、王儉傳「解二散幘一、斜二插幘簪一」 (二)文章ニテ、意義ヲ補塡シ、又ハ、精彩ヲ附與センタメニ、插入スル文句。

しゃ-さん (名) 【社參】 神社ニ、參詣スルコト。カミマウデ。ミヤマヰリ。 盛衰記、三、實定厳島詣事「德大寺大納言殿、今度、大將ニ漏サセ給ヘリトテ、御祈請ノタメ、遙遙、嚴島へ御參籠七箇日、尋常ノ人ノ社參ニモ、似サセ給ハズ」

しゃ-ざん (名) 【射山】 〔はこやのやま(藐姑射山)ノ略〕 上皇、法皇ノ異稱。仙洞。 吾妻鏡、六、文治二年二月四日「去比有二御夢想一、貴僧一人、參二于御枕上一、射山事、尤可レ幸、重、不レ然者、可レ有二愼之由申一」

しゃ-し (名) 【奢侈】 衣、食、住ノ、オゴリ。身分不相應ナル所作。贅澤。驕奢。侈奢。 史記、平準書「宗室有土、公卿大夫以下、爭二于奢侈一」 太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「聞說、岩栖澗飲、大忘二人世一、道人之幽趣也、疎石獨背レ之、山レ櫛藻レ梲、自安二居所一、俗士之奢侈也」「奢侈ニ長ズ」

しゃ-し (名) 【奢恣】【奢肆】 オゴリテ、ホシイママナルコト。 後漢書、袁術傳「以二鈔掠一爲レ資、奢恣無レ厭」 唐書、魏徵傳「頃既奢肆」

しゃ-し (名) 【沙嘴】 細長ク延ビタル、沙洲。即チ、天橋立ノ類ナリ。 李中詩「魚行細浪分二沙觜一」(觜、嘴、相通ズ)

しゃ-し (名) 【斜視】 (一)横目ニ、見ルコト。ナガシメ。正視ノ反。 何遜、七召「托二斜視于遊錙一」 (二)ヤブニラミ。「斜視眼」

しゃ-し (名) 【社司】 (一)カンヌシ。神官。 新古今集、十九、神祇「社司ドモ、貫船ニ參リテ、雨乞シ侍リケルツイデニ」 (二)しゃしゃう(社掌)ノ(一)ニ同ジ。

しゃ-じ (名) 【社寺】 神社ト、佛寺ト。寺社。

しゃ-じ (名) 【寫字】 文字ヲ、寫シ記スコト。 文同詩「謾書寫字到三三更一」「寫字生」

しゃ-じ (名) 【射字】 小兒ノ遊戲ノ名稱。(出典ヲ見ヨ) 類聚名物考、人事、七「射字、今、小兒ノ戲レニ、いろはノ四十七字ヲ一紙ニ書キ、ソノ中ノ字ヲ、人ニ、印ヲ附ケサセ、傍ニテ太鼓ヲ打チ、ソノ太鼓ノ數ニテ、間ヲ隔テ、是レヲ聞キテ、ソノ字ハ何字ナル事ヲ知ル戲レ有リ、是レハ、西土ノ擊鼓射字ノ戲レナリ、人、ソノ名ヲ知ラズ、ソノサマ、目附繪ノ如シ、コレニヨレバ、目附ゑモ亦、射畫ナド云フベキモノナリ、輟耕錄ニ、射字法アリ、委シク見ユ」(輟耕錄、十九ヲ見ヨ)

しゃ-じ (名) 【謝辭】 (一)謝禮ノ詞。(二)ワビコトバ。謝罪ノ詞。

しゃ-じ (副) 【這次】 コノツギ。這箇ノ條ヲ見ヨ。

じゃ-し (名) 【邪侈】 ヨコシマニテ、オゴリ高ブルコト。 孟子、梁惠王、上篇「苟無二恆心一、放辟邪侈、無レ不レ爲已」

じゃ-じ (名) 【邪辭】 ヨコシマナル詞。 孟子、公孫丑、上篇「邪辭知二其所一レ離」

しゃ-じつ (名) 【社日】 しゃにちノ條ヲ見ヨ。 朗詠集、上「燕知二社日一辭レ巢去、菊爲二重陽一冒レ雨開」 書言字考節用集、二、時候「社日、シャジツ」

しゃ-じつ (名) 【寫實】 實際ノ風景、或ハ、狀態ヲ、文字、又、繪畫ニ、寫シ出スコト。 劉勰、文心雕龍「寫レ實追レ虛」

じゃ-しふ (名) 【邪執】 ヨコシマナル執念。 續古事談、二、臣節「故人ノ起コシタラン邪執ヲ、破リテ給ヘ」

しゃ-しん (名) 【寫眞】 (一)イキウツシ。寫生。寫照。 杜甫詩「將軍善レ畫蓋有レ神、必逢二佳士一亦寫レ眞」 (二)寫眞鏡トテ、硝子ヲ裝置ケタル器械ヲ用キ、別ニ、硝子板ニ、一種ノ藥法ヲ施シ、コレニ、山水、人物、等ノ眞影ヲ寫シ取ル術、再ビソレヲ、一種ノ紙ニモ移ス。撮影 (三)其術ニテ、寫シ取リタル畫。照相

しゃ-しん (名) 【赦身】 赦免ヲ蒙リタル身。 吾妻鏡、十三、建久四年四月十一日「是、去治承三年五月三日、所レ被レ配二流伊豆國一也、日來、雖レ未レ爲二赦身一、將仕二將軍家一云云」

しゃ-しん (名) 【捨身】 〔佛教ノ語〕 (一)俗界ノ身ヲ捨テ、法界ニ入ルコト。出家

スルコト　[illegible]「[illegible]、ナジカハ、[illegible]ヘキ、[illegible]、しやしん、抖擻ノ行者ハ、山伏修行ノタヨリナリ」(二)肉ヲ捨ツルコト。〔例ヘ〕施シスルコト　[illegible]

しやしん (名) 舍人 (一)ケライ。召使。[illegible]「[illegible]」(二)とねり(舍人)ニ同ジ

しやしん (名) [illegible] ワカゲニンジン [illegible]

しやしん (名) 邪心 ヨコシマナル心 [illegible]

しやしん (名) 邪臣 ヨコシマナル臣下。姦邪ナル家來　史記、[illegible]「今君主[illegible]」

しやしん (名) 蛇身 蛇ノ如キ身體　[illegible]作)四「嫉妬ノ恨ミニ、蛇身トナッテ」

しやしんきやう (名) 寫眞鏡 しやしん(寫眞)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

しやしや (名) 邪蛇 ヨコシマナルコト [illegible]

しやしや (副) [illegible] 物ノ、澤キ、荒キ如キ状ヲ云フ語。[illegible]四「[illegible]カケテ、しやしや中セシヲ、此太夫、頼盛ヨリ聞キテ、云云、[illegible]ノ肉、汁ノカ[illegible]、ヤウヤウ喰ヒ締メケル、後日、知己、此富士太鼓ノ事ヲ申出デ、貶メケレバ、云云」

しやしやう (名) 車掌 (一)[illegible]、又ハ、[illegible]。(二)[illegible]以下ノ[illegible]官

しやしやう (名) 車掌 汽車、電車ナドノ中ニアリテ、車内、一切ノ事ヲ掌ル人。

しやしやう (名) 車匠 車ヲ作ル職人。

しやじやう (名) 赦状 (一)罪ヲユルス書面。赦免状。(二)大赦、特赦ナドヲ命ズル書面。

しやじやう (名) 寫情 實情ヲ、寫スコト。[illegible]「[illegible]寫情」

じやしやう (名) 邪正 ヨコシマナルト、正シキト。邪ト、正ト。ヨシアシ。謠曲、山姥「邪正一如ト見ル時ハ、色即是空、ソノママヨ」「善惡邪正」

じやしやうし (名) 蛇床子 ヒルムシロ。ハマニンジン。

じやじやうま (名) (一)アバレウマ。跳馬。悍馬。心中萬年草(寶永、近松作)中「雜賀屋ノ[illegible]ガ、ヒンヒン跳ネルじやじや馬ニ乘ッテ」(二)荒レ廻リテ、人ノ妨ヲナスモノ。

しやしやく (名) 車借 賃ヲ出シテ、車ヲ借ルコト。又、其人。庭訓往來、四月「[illegible]、鳥羽白河車借」(在山城、車借也)」[illegible]下「物ヲ運ブ車ハ、庭[illegible]ナドニ見エタル、車借ト云フ者ノ業ナリ、云云、狂歌咄ニ、鳥羽ト云フ處ハ、延保年中ヨリ、此處ニ、牛車許サレ、今モ、車借ノ家家、並ビ立テ、物ヲ運ビ送ルニ、[illegible]ラカナリ、一代男[illegible]、島原ヨリ、車借ノ車ヲ借リ、ソレニ乘リテ、八幡ニ詣シコトヲ云ヘリ」

じやじやばる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 自己ノ意見ヲ通サントシテ、他人ノ言ヲ容レズ。ガンバル。浮世風呂(文化、三馬)三編、上「オッカサン一人デ、じやじやばッテお出デダヨ」

しやしやらくらく (副) 洒洒落落 〔洒落落ノ義、[illegible]ノ語原ヲ見ヨ〕人ノ性質、又ハ、動作ノ、サッパリトシテ、執念ノ無キ状ヲ云フ語。

しやしゆ (名) 謝酒 古ヘ、朝廷ニテ、宴會ノ際、杯ヲ群臣ニ賜ハル時、臣下、再拜シテ受クル禮式。儀式「凡公宴、[illegible]親王以下、皆列ニ庭中ニ再拜[illegible]之饗座ニ訖、行酒人、把[illegible]授[illegible]百人、[illegible]受、[illegible]再拜[illegible]之謝酒ニ」

しやしゆ (名) 射手 弓、又ハ、銃砲ヲ發射スル人。イテ。宋書、[illegible]傳「今羽林射手、[illegible]有八百ニ」

じやしゆう (名) 邪宗 次條ノ語ニ同ジ

じやしゆうもん (名) 邪宗門 (一)邪法ノ宗門。邪教。(二)切支丹宗門

しやしゆつ (名) 射術 弓ヲ射ル技術。弓術。射法。

しやしよ (名) 寫書 書籍ヲ、寫スコト。又、其寫シタル書籍。寫本。漢書、[illegible]「[illegible]寫書之官ニ」

しやしよく (名) 社稷 〔風俗通「社者、土地之主、稷者、五穀之長」呂氏春秋、季冬紀、註「社、后土之社、稷、田官之[illegible]」〕(一)支那ニテ、新タニ國ヲ建テタル時、壇ヲ築キテ祀ル神ノ名。社ハ、土神ナリ、稷ハ、穀神ナリ。禮記、祭法「[illegible]」字彙「社稷、后土曰社、五穀曰稷、[illegible]」[illegible]「(井ノ[illegible])皇基」[illegible]紀、廿一年八月「大將、民之司命、社稷存亡、於是乎在、[illegible]行」[illegible]「同、廿四年[illegible]月「有[illegible]、不[illegible]、其所[illegible]失、故[illegible]不[illegible]社稷、内[illegible]之、[illegible]」(二)轉ジテ、國家。又、朝廷ノ稱。[illegible]、季氏[illegible]、夫[illegible]東[illegible]、云云、是社稷之臣也」[illegible]公三年「[illegible]」[illegible]物語、十七、[illegible]「社稷ノ安危」「社稷、滅亡ス」

しやす・ス・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 舍 ヤドル。トマル。詩經、小雅、小旻之什、何人斯篇「爾之安行、亦不遑舍」「路傍ニ舍す」

しやす・ス・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 瀉 腹、瀉ル。下痢ス。[illegible]「[illegible]」

しやす・ス・スル・スレ・セ・シ・セヨ (自動、左變) 謝 (一)罷ル。辭シ去ル。退ク。[illegible]、九章[illegible]「[illegible]」(二)衰ヘ凋ム。凋ミ落ツ。枯ル。南史、[illegible]「[illegible]、花、謝す」

しやす・ス・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 謝 (一)絶ツ。斷ル。謝絶ス。史記、[illegible]傳「謝不受」漢書、[illegible]「[illegible]、謝其舍ニ」(二)辱シト、禮ヲ述ブ。ムクユ。カシコマル。漢書、張安世傳「安世[illegible]有[illegible]引、其人[illegible]謝」名義抄「謝、カシコマル、ムクユ」「恩ヲ謝す」(三)自ラ、誤チナリト、詫ブ。謝罪ス。史記、孔子世家「君子有過、[illegible]」「罪ヲ謝す」

じやすい (名) 邪推 ワルズイ。惡意ノ推量。理ナラヌ疑リ。惡猜。「邪推深シ」

しやすゐのいん (名) 洒水印 灑水印 水ヲ以テ、火ヲ消ス印相。太平記、十二、[illegible]事「[illegible]正、云云、[illegible]の印ヲ結バレケレバ、猛火、忽チ消エテ」謠曲、[illegible]「[illegible]正、[illegible]、洒水の印ヲ結ンデ、鑁字ノ明ヲ誦セシカバ、火焔ハ、消エニケリヤナ」

しやせい (名) 寫生 (一)イキウツシ。(二)物ノ狀態、景色ヲ、自然ノママニ寫スコト。[illegible]「[illegible]寫、生」

しやせい (名) 麝臍 麝香ノ臍。じやかう(麝香)ノ條ヲ見ヨ。太平記、四、呉越軍事「[illegible]路ニ花ナキ春日ハ、麝臍ヲ埋ミテ、履ヲ薫ジ、行宮ニ月ナキ夏ノ夜ハ、螢火ヲ集メテ、燭ニ代フ」

しやせう (名) 寫照 肖像畫。スガタヱ。[illegible]「[illegible]」

しやせき (名) 沙磧 沙ノ河原。[illegible]「[illegible]今[illegible]」

しやせつ（名）［社說］新聞、雜誌ナドニ、其社ノ意見トシテ、記シ掲グル論。

しやぜつ（名）［謝絶］拒ミ、辭ムコト。コトワルコト。後漢書、宗室傳「謝二絶賓客一」「面會ヲ謝絶ス」

じやせつ（名）［邪說］正道ニ背ケル說。孟子、滕文公、下篇「世衰道微、邪說暴行有」作」「異端邪說」

じやぜつ（名）［蛇舌］瓔珞ノ如キモノ。

しやせん（名）［射線］發射セル彈丸ノ、進行線。

しやせん（副）［洒然］サッパリトシテ、物事ニ關セヌ狀ニ云フ語。洒落、灑落

しやぜんさう（名）［車前草］オホバコ。オンバコ。郭璞、茉苢讚「車前之草、別名茉苢」

しやそ（名）［社鼠］（やしろニ巢クフねずみノ義）城狐ト共ニ、君側ノ小人ニ譬ヘテ云フ語。晏子春秋、問上篇「景公問曰、治國何患、晏子對曰、患二夫社鼠一云云、此鼠之所二以不一レ可レ得レ殺者、以二社故一也、夫國亦有焉、人主左右是也」「城狐社鼠」

しやソウ（名）［社僧］昔シ、神社ニ事フル僧。沙石集、一、下、第十條「所領ノ中ノ神田ヲ檢注シテ、餘田ヲ取ル加、社僧、神官、等、憤リ申シ」

しやそく（名）［社則］社ノ規則。社（第二語ノ）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ

じやそく（名）［蛇足］〔韓退之詩「畫レ蛇著レ足無二處用一」〕餘計ニテ、無用ナルコト　無クモガナト思フ事柄　下ノ出典ヨリ出ヅ。ダソク。戰國策、齊策「楚有二祠者一、賜二其舍人卮酒一、舍人相謂曰、云云、請畫二地爲一レ蛇、先成者飮レ酒、一人蛇先成、引レ酒且レ飮、乃左手持レ酒、右手畫レ地曰、吾能爲二之足一、未レ成、一人蛇成、奪二其卮一曰、蛇固無レ足、子安能爲二之足一、遂飮二其酒一、爲二蛇足一者、終亡二其酒一」

しやそん（名）［沙噀］コ。ナマコ。

しやだ（名）［射垜］アヅチ。玉篇「垜、射垜也」

しやたい（名）［車體］汽車、又ハ、電車ナドノ、旅客、又ハ、荷物ヲ乘セ積ミスル部。

しやだい（名）［車臺］汽車、電車ナドノ車體ヲ、適當ノ法ニテ支持シ、且ツ、車輪ニ連結スル、鐵製ノ枠。

しやだう（名）［車道］（一）車ノ、通ル道。史記、封禪書「遂除二車道一、上自二泰山陽一、至レ巓、立レ石」（二）車ヲ、通行セサスル道路。（人道ニ對ス）

じやだう（名）［邪道］（一）ヨコシマナル道。不正ノスヂ。邪路。史記、儒林傳「孔子閔二王路廢而邪道興一、於レ是論二次詩書一」宇治拾遺、四、第八條「三箇年、不食ノ病ニナリテ、今ハ已ニ、邪道ニ落チナムズル、心憂キ事ナリ」（二）魔道。妖法。

しやたつ（名）［車立］和船ノ名所。檣ヲ立テ、倒シ、又ハ、帆ヲ上下スル等ニ用キル綱ヲ、卷キツクル材。

しやだつ（名）［洒脫］サッパリトシテ、俗氣ヲ離レタルコト。瀟洒。

しやだん（名）［社段］神社ノ階段。

しやだん（名）［社壇］神ヲ祀リタル壇。唐書、禮樂志「立二獮於社壇四隅一」平治物語、三、賴朝遠流事「今夜ハ、此御前ニ通夜シテ、行路ノ祈ヲモ申サントテ、社壇ニゾ、留リ給ヒケル」

しやだん（名）［社團］〔英語、Association.ノ譯語〕（一）二人以上ノ人ガ、共同ノ目的ヲ以テ設立シタル團體。（二）次次條ノ語ノ略。

しやだん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［遮斷］サヘギリ、タツ。サヘギリ、トム。韋莊詩「紅塵遮斷長安陌」「交通ヲ遮斷す」

しやだんはふじん（名）［社團法人］〔英語、Corporation.ノ譯語〕法律ニヨリテ、其ノ人格ヲ認メラレタル社團。（財團法人ニ對ス）

しやち（名）［鯱］（一）しやちほこノ略、其條ヲ見ヨ。（二）海獸、さかまたノ一名。

しやち（名）［社地］神社ノ在ル、一構ヘノ地。神社ノ領域。

しやち（名）［車地］〔車軸ノ略カト云フ〕（一）大石、家屋ナド、重キ物ヲ牽キ、又ハ、擧グルニ用キル具、形、大イナル轆轤ノ如ク、地ニ据エツケテ、綱ヲ軸ニ絡ヒ、軸ヲ廻ラシ、綱ヲ卷キテ、牽ク　其類ニ、まんりき、ろくろ、まきろくろ、まきどう、かぐらさん、ナドアリ、形、種種アリ。引重器　車盤　絞車（二）船ノ具、綱ヲ卷キ上グル具。舳ト、艫トノ車立ト、筒挾トニテ、用キルモノ。

じやち（名）［邪智］ワルヂエ。惡才。奸智。伽羅先代萩（天明、松貫四）「邪智深イ榮御前」「佞奸邪智」

しやちきり（名）［鯱切］しやちほこ（鯱）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

しやぢく（名）［車軸］（一）車ノ軸。心木。心棒。史記、范雎傳「吾馬病、車軸折」車軸を流すト云フハ、車ノ軸ノ如キ太キ雨、降ル、義ニテ、雨ノ、大イニ降ル狀ニ云フ語。長阿含經「滴降二大雨一、滴如二車軸一」王安石詩「燭龍注レ雨如二車軸一」大原問答靑葉笛（寶永、近松作）五「車軸を流す雨ハ矢先」（二）草ノ名、葉ノ狀、車軸ノ如シ。

しやちほばる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）しやちほばるニ同ジ。（博多ニテ、身體、張リ固マルヲ云フ）名言通、上「鴟吻、俗、しやきり、しやきばる、しやんと、ナド云フ、又、しやちほばるト云フ言モアリ」

しやちばりかへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［鯱張返］しやちほこノ如ク、嚴メシク反リカヘル。唐船噺今國性爺（享保、近松作）中「血塗レノ劒、提ゲ、しやち張りかへ、テ歸リケリ」

しやちば・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［鯱張］しやちほばる（鯱張）ノ略。

しやちほこ（名）［鯱］〔立尾魚ノ轉、鯱ノ字ハ、魚虎ノ合字〕（一）海獸ノ名、伊勢ノ海ニアリテ、黑さんばうト云フトゾ、形、魚ノ如ク、全身、黑色、或ハ、灰色ニシテ、大ナルハ、五七尺ニ及ビ、兩ノ鰭ハ、翅ノ如ク、脊ニ、鋒刺アリテ、尾ニ連ル。波上ニ躍リテ、日ニ映ズレバ、金色ニ見ユ、額上ニ、噴潮ノ孔アリテ、群行シテ、潮ヲ吹ク、鯨ノ喉ニ飛入リテ、鯨ヲ殺ス、コレヲ、しやちきりト云フト云フ。鯱　塵添壒囊抄、一、五十九條、魚類字「鯱」大和本草、十三、海魚「鴟尾」林逸節用集、生物「鯱」書言字考節用集、五、氣形門「魚虎」和漢三才圖會、四十九「魚虎、土奴魚、鯱、俗云、奢知保古、按、西南海有レ之、其大者六七尺、形略如二老鰤一而肥有二刺鬣一、其刺利如レ劍、其鬣長、而腹下有レ翅、身赤黑色、雌ハ本則淡黑白斑、有レ齒、食二諸魚一、世俗傳曰、鯨食二鰯及小魚一、不レ食二大魚一、有二約束一、故魚虎毎在二鯨口傍一守レ之、云云」（二）宮殿、城門、櫓、ナドノ棟ノ端ニ附クル飾物、其象、頭ハ、龍ノ如ク、身ハ、魚ノ如ク、全身、鋭キ鰭刺アリテ、其尾、天ニ

反ルモノヲ、瓦製、銅製ナドトス、火災ヲ祓フモノナリトゾ、前項ノ魚ノ象ナルベシ。鴟尾　鴟甍　蚩尾　和漢三才圖會、四十九「城郭屋脊瓦、作ニ置魚頭身之形ニ、謂ニ之魚虎ニ、蓋置ニ鴟吻於殿脊ニ、以辟ニ火災ニ者、有ニ所以ニ乎」書言字考節用集、二、乾坤門「蚩吻、注、俗謂ニ之尾鯱ニ」「稱、撲ニ蚩尤首ニ、或設ニ鬼頭ニ、或稱ニ口脣ニ、以置ニ屋宇ニ、宜」照ニ考遠ニ奴師勞之（文化、蜀山人）ニ「スベテ、城門ノ渡櫓ノ上ノ鴟吻ハ（御作事ニテ、鴟吻ト云ヒ、小普請方ニテ、鯱ト云フ）棟ノ上ニ向ヒアヒテ、立テリ、大成殿ノ屋ノ棟ニ、鬼狄頭ハ、外ヲ向テ立ツ、御作事ノ人夫トモ、是ヲ怪シミテ、しやちほこトハ違ヒテ、外ヲ向キタルハ如何ト問ヒシニ、一人ノ人夫ノ、嘲笑ヒテ、脊ノ内ハ、背中合セシテモ、曉ニハ、此方ヲ向クベシト云ヒシモ、ヲカシ」

しやちほこだち　（名）［鯱立］［城門、櫓ナドノ鯱、多ク、其形ヲナセバ、云フ」（一）逆立ノ一、頭ヲ下ニシ、足ヲ上ニアゲ、手ニテ體ヲ支ヘテ、倒ニ直立スルコト。杉立。倒立　江戸職人歌合「獅子舞ノ、しやちほこだちノ、足間ヨリ、難波江ナラデ、出ヅル月影」（二）無理算段ヲナスコトニ云フ語。「借金ガ多クテ、しやちほこだちヲシテモ、追ッツカヌ」

しやちほこばる・ル・レ・ラ・リ・レ　（自動、四）［鯱張］（一）シャチバル。鯱ノ如ク、イカメシク構フ。（二）仲縮ノ出來ヌヤウニ、堅クナル。シャチコバル。硬化ス。

しやぢん　（名）［沙塵］　さぢん（沙塵）ニ同ジ。

しやちやう　（名）［社長］　社ノ長。組合仲間ノ頭。　李商隱、雜纂、不相稱「社長乘涼轎」「會社ノ社長」

しやちやう　（名）［赦帳］　江戸時代、東叡山寛永寺、又ハ、三緣山增上寺ニテ、幕府ノ爲ニ法事ヲ行フニ當リ、現ニ刑ニ處セラレタル者ノ親戚ヨリ、此ノ兩山ニ、赦ヲ請ヒ、兩山ニテハ、其ノ名ヲ錄シテ、幕府ニ致ス帳簿。　常憲院樣百回御忌御赦帳「追放御赦願、一、根岸肥前守掛、深川興川町元罷在候、平兵衞、此者、金子出入之儀ニ付、池田筑後守掛リニ而、吟味之上、寛政二戌年五月十八日、中追放被ニ仰付ニ候、此度、御赦奉ニ願候、云云、今般就ニ法會ニ右之輩、願出候、於ニ赦免ニ者、可ニ爲ニ御追福ニ者也、卯（文化四年）十二月、一品親王（東叡山宮）御花押」　折たく柴の記（新井白石）中「二月二日（寶永六年）ニ、大赦ノ事ニ就キテ、封事ヲ奉リタリキ、其大要ハ、云云、近例ヲ見ルニ、大法會行ハルル事アル時ニ、犯シシモノノ親戚等、歎申ス所ヲ、ソノ道場ニオイテ、帳ニ記シテ、奉ル、コレヲ赦帳ト云フ、其帳ヲモテ、奉行所ニ下サレ、赦スベク、赦スベカラザルカヲ議セシメラレ、赦スヘキ者共ヲバ、法會ノ場ニ召シ集テ、其事ヲ行ハル、サレバ、タトヒ、赦ニ遇ヒテ、赦スベキモノト云ヘドモ、其親戚ノ歎申スベキモノアラザレバ、死ニ至ルマデ、恩ニ潤フ事アタハズ、ソレモナホ奉行所ニ於イテ、其罪ヲ決セシモノドモ也」

しやぢやう　（名）［射場］　射術ヲ練習スル所。イバ。　拾遺記（秦、王嘉）「開ニ馬埒射場ニ、周圍四百歩」

しやちゆう　（名）［社中］　組合仲間。　吳師道詩「分ㇾ手溪上笑、擂眉社中緣」　謠曲、舞車「急ギ、社中ニ相觸レ」「社中ノ同人」

✤**しやちらこはい**　（形）　固ク、強バリタリ。　傾城反魂香（寶永、近松作）上「是ガ、何ノ藤袴、しやちらこはい皮袴ト、ドット笑ヒノ、ドヤクヤ紛レ」

しやちらさんばう　（副）［いきなり（行成）ノ語原ヲ見ヨ］　手アタリシダイ。　心中刃氷朔日（寶永、近松作）上「私モ近年、彼故ニ、旦那ノ懸ケモ、何モカモ、しやちらさんばう、近附中ニ痛手ヲ負セ、動カレヌ身ニナリシ故」

シャツ　（名）［英語、Shirts ノ訛］　肌着。襯衣。

しやつ　（代）［己ノ意ノ古言ノしト云フ語ニ、奴ノ附キテ、約マレル語ナラム、又、或ハ、其奴ノ約ニモアラムカ］　彼ニ同ジ、罵リテ云フ。キャツ。邪険　平家物語、二、西光被斬事「しやつガ首、左右ナク斬ルナ」

しやつきやく　（名）　つっぱり、又ハ、しやちほこばるコト。（室町時代ノ語、類聚名物考）　伊勢家禮「餘リしやつきやくニ、頭高キモ、尾籠ニテ、惡シ」

しやつきり　（副）　確ト立チテ、動カヌ狀、又、キットシテ、角バル狀ニ云フ語。挺然　浮世風呂（文化、三馬）三編、下「蜻蛉ガ、羽根ヲ弘ゲタヤウニ、しやつきりシテ、幅ノ狹イ帶テ御座イマセウ」

✤**しやつくり**　（名）［吃逆］［しやくりノ急呼音］　さくり（吃逆）ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。横膈膜ノ痙攣シタル時ニ發ル、息ヲ、ぐっと吸込ミ、肺臟ヲ脹ラマセ、横膈膜ヲ腹部ニ押付クレバ、止マル。　孕常盤（正徳、近松作）五「若衆ガ、姫ガ寢所ヘ忍ンデ、ヌックリヤラ、しやっくりヤラ、鼠ハシクバ、戸ヲ明ケウカ」

しやつけう　（名）　石橋、或ハ、釋敎ノ條ヲ見ヨ。

シャッタア　（名）［英語、Shutter］　寫眞器械ノ附屬物。手ヲ觸レズシテ、速カニれんずノ蓋ヲ開閉スルヤウニ裝置セルモノ。瞬間開閉器。

✤**しやつつら**　（名）　しやつらノ急呼音。　浮世風呂（文化、三馬）四編、下「大阪妙ノ家臺ボネヘ、地震ト云フシャッつらガ」

しやつぱら　（名）［しやつニ、接尾語ノばらヲ添ヘタル語］　數多アル人ヲ罵リ云フ語。ヤッパラ。キャツラ　太平記、廿六、執事兄弟奢侈事「越後守、大ニ怒リテ、安キ程ノコトカナ、夫ヲ努ラバ、しやつぱらヲ仕フベシトテ、適ニ、[illegible]」

シャップ　（名）［佛語、Chapeau］　西洋製ノ帽子ノ名。羅紗、[illegible]ナドニテ、造リ、形[illegible]ナリ。シャッポ。

しやつぷり　（副）　水ナドヲ、物ニ注ギカクル狀ヲ云フ語。ザブリ。ザブリ。　曾我會稽山（享保、近松作）二「胡椒、辛子、ノ水鐵砲、唐辛子ノ石火矢、左手ヘ廻ハッテしやつぷり、右手ヘ廻ハッテしやつぷり」

シャッポ　（名）　前前條ノ語ノ訛。

しやつめ　（代）［しやつニ、接尾語ノめヲ添ヘタル語］　キャツメ。ヤツメ。　國性爺合戰（正徳、近松作）二「總目ノ鐵砲、ホントモいハセベ、撫斬ニシテクレン、イヤ、しやつめ共ニ逃スナト、火蓋ヲ切テ、匪隱ミ」

しやつら　（名）［しやハ、罵ル詞］　顏面ト云フニ同ジ。急呼シテ、しやっつら。　平治物語、三、惡源太被誅事「義平ガ首打ツ程ノ者ガ、晴ノ所作ゾ、能ク斬レ、惡シク斬ルナラバ、しやつらニ喰ヒ附カンズルゾ」　今昔物語、廿八、第一語「しやつ顏ハ、猿ノ樣ニテ、心ハ、販婦ニテ有レバ」

しやてい　（名）［舍弟］［舍兄ニ對ス］　家ノ弟。オトウト。家弟　杜甫詩「遙憐舍弟存」　盛衰記、廿、八牧夜討事「今夜明チ、夜討ヲ入ルベシ、舍弟ヲ相催シ給ヘ、事成就アラバ、勢ノ世ナルベシ」（頼朝、佐佐木定綱ニ、其弟ノ、盛綱、高綱、等ノ事ヲ云ヒシナリ）

しやてき　（名）［射的］　的ヲ立テテ、小銃ニテ打ツコトヲ習フコト。打靶

しやてつ　（名）［沙鐵］　山獄ヨリ崩壞シテ、細粒トナリ、沙中ニ混ジタル鐵鑛。鐵砂　康熙本草、下「鐵砂、良加[illegible]、無時採之」

しやてつ　（名）［車轍］　ワダチ。車ノ、過ギタル痕。　左傳、昭公十二年「昔穆王欲ㇾ肆ニ其心ニ」

周ニ行天下ハ將ニ皆必有ニ車轍馬跡ニ焉」

しゃ-でん (名) [射田] 王朝時代、諸衛府ニ、射術奬勵ノタメニ、充テ置キタル不輸租田。續紀、十九、天平勝寶六年十月「仰ニ畿內七道諸國ハ令ニ置ニ射田ニ」

しゃ-でん (名) [社殿] 神社ノ、神體ヲ安置シタル殿。ミヤ。ヤシロ。廟宇

しゃ-とう (名) [社頭] 神社ノ、ホトリ。ヤシロノ前。ミヤマヘ。廟前 祠畔 太平記、三、櫻山自害事「入道、當社ニ首ヲ傾ケテ、年久シカリケルガ、社頭ノ、餘リニ破損シタル事ヲ歎キテ、造營シ奉ラント」「社頭ノ雪」

しゃ-とく (名) [舍匿] カクマフコト。カクスコト。史記、季布傳「敢有ニ舍匿ハ罪及三族ニ」

じゃ-どく (名) [邪毒] 邪氣アル毒。惡シキ毒。太平記、十五、園城寺戒壇事「惡念ヲ發シテ、遂ニ、三七日ガ中ニ、壇上ニシテ死ニケリ、其怨靈、果シテ、邪毒ヲナシケレバ」

シャナ (名) [遮那] 〔毘盧遮那（ビルシャナ）ノ略〕だいにちにょらい（大日如來）ノ條ヲ見ヨ。謠曲、兼平「峰ニハ、しゃなノ梢ヲ並べ、麓ニハ、止觀ノ海ヲ湛ヘ」

しゃ-なぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) かなぐるニ同ジ。關取千兩幟（明和、近松半二等）「弱ミヲツケコム厄病ノ、髮モ、頭モ、引キしゃなぐり」

しゃな-しゃな-と (副) シナヤカニ、又、しゃんなり、ぐんなりナドシタル狀ヲ云フ語。娥歌加留多（享保、近松作）四「云ヒ捨テテ、しゃなしゃな振リテゾ歸リケル」

しゃなら-しゃなら-と (副) 前條ニ同ジ。狂言記、釣狐「戻ラウ、ヤレ、我ガ古塚へ、しゃならしゃならと」

しゃなり-しゃなり-と (副) 前條ノ語ニ同ジ。

しゃに-かま-へる (句) [構斜] （一）劍術ノ語、立チテ、兩手ニ刀ノ柄ヲ持チ、刀ヲ筋違（スヂカヒ）ニシテ、向フ。正體ニ居ラズ、斜ニナリテ向フ。斜メニ備フ。（二）轉ジテ、何事ニモ云フ。東海道中膝栗毛（文化、一九）十編、上「ムカウ鉢卷ニ、手杵、しゃにかまへタル男」浮世風呂（文化、三馬）初編、上「尾頭ヲ竝ベテ、醜（ヒシコ）ガ、小笠原流デ、ト、しゃにかまへテ居ルハサ」「扇ヲしゃにかまへる」

しゃ-にち (名) [社日] 春分、秋分、ノ前後ニ近キ戊（ツチノエ）ノ日ノ稱。春ノ社日（春社）ニハ、種ヲ蒔キ、秋ノ社日（秋社）ニハ、五穀ヲ刈リテ、田ノ神ヲ祭ルベキ日トス。正字通「時令有ニ社日ハ立春後五戊、爲ニ春社ハ祭ニ后土ニ也」

しゃ-にん (名) [社人] 神社ニ事フル人。カンヌシ。神官。毛吹草（正保、維舟）五「初午ノ、馬子ハ稻荷ノ、社人カナ」

しゃに-むに (副) [遮二無二] ムチャクチャニ。メッタヤタラニ。ムヤミニ。「人込ヲ、しゃにむに進ム」

じゃ-ねい (名) [邪佞] ヨコシマニシテ、諂フコト。又、其人。唐書、李邕傳「疾ニ惡如ニ讎、不レ容ニ於衆ハ邪佞切齒」

じゃ-ねん (名) [邪念] 不正ノ思ヒ立チ。惡念。「邪念ヲ懷ク」

しゃ-のく (名) [車匿] さのくノ條ヲ見ヨ。

しゃ-の-しゃ-の-ころも (名) [紗紗衣] 傀儡師ノ着ル衣ナルベシ。（紗ニテ製スルカ）よだれかけ（寶安、貞德）一「出立ツ紗の衣手モ、遙遙來ヌル京ノ町、云云、手エノ坊主ノ末末ハ、完ヅケル大鴻ワンボウニ引キカヘ、紗の紗のころもヲ、茶ノ茶ノ衣ニ着カヘ、云云」洗濯物大鑑（寶、文二）歌デヤル、蟬ハしゃのしゃの、衣カナ」

しゃ-の-すけ (名) [蛇之助] 〔蛇ハ、吞むノ義〕大酒家ノ稱。底拔上戸。猩猩。田中常矩二百韻（延寶）「蛇之助ノ、ウラミノ鐘ヤ、花ノ暮」彼岸櫻（貞享）「蛇之助コソ、執心殘ツラ、花ニ酒」

じゃ-の-め (名) [蛇目] （一）紋所ノ名、太キ環（ワ）ノ象ヲ圖ス。弦卷ノ紋ノ變化シタルモノ。（二）次條ノ語ノ略。（三）芝居ニ云フハ、廻舞臺（マハリブタイ）ノ條ヲ見ヨ。

じゃ-の-め-がさ (名) [蛇目傘] 傘ノ端ノ紙ノミヲ、幅廣ク、濃紺ノ紙ニテ張リ、開ケバ、蛇ノ目ノ如クナルモノ、頭モ、同色ニテ張ル。蛇の目。

しゃ-ば (名) [車馬] ウマ、クルマ。くるまト、うまト。車、又ハ、馬 莊子、盜跖篇「今者闕然數日不レ見、車馬有ニ行色ニ」

しゃ-ば (名) [娑婆] 舞フコト。踊ルコト。婆娑（バサ）。字鏡九二十「娑婆、舞也、久豆加戶留、又、萬呂加可留」

シャバ (名) [娑婆] 〔梵語、Sahā. 忍界、忍土ナド、譯ス、衆生ノ、三毒諸煩惱ヲ忍受スルガ故ニ云フトハ、倫理的解釋ナリト、高楠順次郎ハ云ヘリ〕（一）又、娑婆（サバ）。佛經ニ、三千大千國土ノ總名、卽チ、此ノ世。現世。娑婆世界。法華經「釋迦牟尼佛、於ニ娑婆國土ハ成ニ阿耨多羅三藐三菩提ニ」平家物語、一、妓王事「熟（ツラツラ）熟、物ヲ按ズルニ、娑婆ノ榮花ハ、夢ノ夢、樂ミ榮エテ、何ニカセン」（二）囚人ノ、獄內ヨリ、自由ノ世界ヲ稱スル語。

じゃ-ばい (名) [麝煤] 〔麝香ノ煤煙ニテ製スル義〕すみ（墨）ノ（一）ノ異名。韓偓詩、雲紙麝煤添ニ筆媚ニ」下學集、下、器財門「麝煤、油烟、松烟、玄雲、注、以上、四者、墨異名也」

しゃ-ばう (名) [沙防] （一）土沙ノ、崩壞、流出ヲ、防グコト。（二）塘堤ナドノ、決潰ヲ防グタメノ土手

シャバ-き (名) [娑婆氣] 脫俗セヌ氣分。世間體ヲ飾ラントスル氣込。「娑婆氣ヲ出ス」娑婆氣ガアル」

しゃ-ばく (名) [沙漠] さばく（沙漠）ニ同ジ。

しゃ-ばく (副) [遮莫] サモアレバアレ。ママヨ。鶴林玉露（宋、羅大經）「詩家用ニ遮莫字ハ蓋今俗語所謂、儘敎是也」杜少陵詩「遮莫隣鷄下ニ五更ニ」

シャバ-せかい (名) [娑婆世界] しゃば（娑婆）ノ（一）ニ同ジ。宇治拾遺、八、第四條、敏行、閻魔廳ニテ「娑婆世界ニテ、何事カセシ、ト問ハルレバ」

しゃ-はふ (名) [射法] しゃじゅつ（射術）ニ同ジ。史記、李廣傳「世受ニ射法ニ」

しゃ-ばふ (名) [射乏] ヤフセギ。バフガタ。

じゃ-はふ (名) [邪法] 正シキ道ニ背（ソム）ケル敎へ。橫シマナル道。隋唐嘉話（唐、劉餗）「此邪法也」

シャバ-ふさげ (名) [娑婆塞] 益ナク生キナガラへテ、徒ラニ、世ノ邪魔モノトナルコト。世ノ、無用ノモノ。ゴクツブシ。浮世床（文化、三馬）二編、上「娑婆塞げト呼バレタル、じゃうノばりノ鳴き處也」

しゃ-はん (代) [這般] 〔這ハ、者ニ同ジ、俗字ナリ〕カヤウ。コレラ。常ニ、這般の、ト用ヰル。朱子語類「這般人占住便宜、住了、殺用、這般人占住、便宜、住便宜同一」太平樂府、第一回「太公道、休、這般、這般ノ事情」

じゃ-ばら (名) [蛇腹] 〔次條ノ蛇腹伏（ジャバラブセ）ノ略〕（一）縫紋ナドノ緣（ヘリ）ニ、左縒（ト）、右縒（コリ）ノ絲ヲ幷べ伏セテ、綴チツケタルモノ

奥アセ、古ヘノ伏（？）ナリ。（二）暗箭ノ伸縮、草、火ハ、奢ニテ、伸縮スベキヤウニ…ル…モノ。（二三十首ノ…

しゃばらぶせ (名) 奢侈伏 奢侈ノ(一)ノ見ヨ。

しゃひ (名) 奢靡 身分ニ過ギタルオゴリ。奢侈。侈靡。

しゃびせん (名) 蛇皮線 (三味線)ハ、此語ノ轉ナリトモ云フ。琉球ノ樂器ノ名、今、其地ニテ専ラ、さんしんト(三線)ト云フ。形状ハ、三味線ニ似テ、胴、圓ク、椰子ノ果皮ニテ作リ、表ヲ海蛇ノ皮ニテ張ル、其他、三味線ト、略、同ジ、胴ヲ、膝ノ中央ニ置キ、其上ニ、三筋ノ絃ヲ張ル、撥ヲ用ヰズ、食指一本ニ、筒ノ如キ懸爪ヲカケテ彈クナリ、古琉球ト云フ、新刊ノ書ニ據レバ、明治四十年ヨリ三百八九十年前ニ、琉球ノあかいんこト云フ人、此樂器ヲ用ヰ始メタリトアリ、最初ヨリ、蛇ハ、三筋ナリ、支那ノ三絃ヲ真似タルモノナルベシ、我ガ永祿年中ニ、内地ニ渡來シ、變ジテ、三味線トナルト傳フ、三味線、及、三絃ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。竹豐故事(寶曆)下「三味線來由 永祿五年、京都ニテ…ノ得シ、…、最初ノ細工人、…屋中小路…石村ト云ヒシ者、…、作リ出ナリ、…ニハ、三線ノ…、蛇ノ皮ヲ以テ張ルト云ヘドモ、我ガ朝ニ、カカル大キナル蛇皮、ナシ、依テ、猫ノ皮ニ替ヘテ…」…年代記「琉球ニテハ、椰子ヲ以テ、胴ヲ作リ、薄キ板ニテ、裏ヲハリ、蛇皮(注、えらぶうなぎト云フ海蛇ノ皮、最モ大ナル)…、表ノ…ル、石村…ニ製シカヘ…、世ニ…モテ張リタレバ、世俗ニ、しゃびせんト云ヘリ」…ニハ三味線ノよりハ、永祿年中ニ、琉球國ヨリ渡ス、其時ハ、蛇皮ニテ張リタル物ナリ」淺草川將萃地 承應、明曆 琉球「三味線ハ、蛇皮」

しゃびゃう (名) 瀉瓶 佛教ノ語、瓶ノ水ヲ、別器ニ瀉ス如ク、遺漏ナク、佛法ヲ、師ヨリ、弟子ニ傳フルコト。 …阿難領ニ受佛法一、如下寫ニ瓶水一傳中之別器上、更無ニ遺餘一」 盛衰記、卅一、「惟…位…事「大日如來ヨリ第八代、惠果和尚ノ寫瓶弟子ナリ」

しゃふ (名) 車夫 クルマヒキ。専ラ、人力車ナルニ云フ。

しゃふう (名) 邪風 惡シキ風俗 ヨコシマナル風習。惡風。 盛衰記、八、法皇三井灌頂事「日本國ノ吉凶ヲ評定候ヒシニ、今度、山門ノ大衆等、邪風、殊ニ甚シク、宸襟ヲ惱マシ奉ル條、存ジノ外ノ次第ニテ候」

しゃぶしゃぶ (副) 水中ヲ歩ク音ニ云フ語。ザブザブ。

しゃぶんと (副) 水中ニ、物ヲ入ルル音ニ云フ語。ザブント。

✣**しゃぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (他動、四) 舐 (しゃはぶるノ訛) 舐ル。ナムル。 七偏人(安政、金鷹)二編、上「骨ヲしゃぶッテ居ヤァガル」

しゃへい (名) 遮蔽 サヘギリ、オホフコト。 …經、張中丞傳、後序「遮二蔽江淮一」

じゃへき (名) 邪僻 ヨコシマナルコト。僻ムコト。邪曲。 書經、注「恐淫言之人、迂二我心一使ニ邪僻一也」

しゃべ・く・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 喋喋 (喧語ぐ、喧擾ぐノ遺ナルベシ) 語ル。シャベル。多ク、煩ハシク、物言フニ云フ 饒舌 多辯 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「若エ者並ニ、しゃべくるカラノコトサ」

しゃべつ (名) 差別 ケヂメ。サベツ。

區別。辨別 狂言記、座禪「念佛ハ、儞、在、出家ノ差別ハ御座ラヌト申ス程ニ」

しゃべん (名) 赭鞭 (一)支那上代ノ三皇ノ一ナル、神農ノ稱、即チ、醫學ノ祖ナリ。出典ヲ見ヨ。 搜神記「昔、于寶」神農以ニ赭鞭一(赤鞭)鞭ニ百草一、盡知ニ其平毒寒温之性、臭味所ニ生、以播ニ百穀一、故天下稱ニ神農一也」 (二)轉ジテ、醫學ヲ、赭鞭ノ學ト云フ。(元、本草學ノ稱ナルベキカ)

しゃべり (名) 喋 シャベルコト。又、其人。 薩摩歌(寶永、近松作)上「此奴ハ嘵舌ノテンバメ」「おしゃべりヲスル」

シャベル (名) (英語、Shovel) 形、十能ニ似テ、土沙ヲ掬フニ用ヰル具。

✣**しゃべ・る・ル・レ・ラ・リ・レ** (自動、四) 喋 しゃべくるノ略。

ジャボ (名) ざぼん(朱欒)ノ條ヲ見ヨ。

シャボてん (名) 覇王樹 さぼてんニ同ジ。

しゃほん (名) 寫本 書キ寫シタル書物。(版本ニ對ス) 大學衍義、補「唐以前書籍、皆寫本」

シャボン (名) 石鹼 (西班牙語、Jabon. 葡語、Saboa. 佛語、Savon. 石鹼ハ、其音譯字ナリ) (一)物ヲ洗ヒテ、油、垢ナドヲ脫スニ用ヰルモノ、牛脂八割、椰子油二割ニ、苛性加里ヲ加ヘテ製シ、固マラセテ、成ル、水ニ溶シテ用ヰル、(二)スベテ、油ヲ落スモノノ名、無患子ノ皮、白豆ナド、皆、言フ。 嬉遊笑覧、三、今、しゃほんトテ、無患子、芋がら、煙草莖ナドヲ燒キタル粉ヲ、水ニ漬シ、竹ノ細キ管ニ、其汁ヲ滴テ吹バ、玉、飛テ、日ニ映ジ、五色ニ光リテ見ユ、眞ノしゃぼんハ、木草、土部ニ、石鹼ト云フモノ也、ココニモ、蠻船、

將來ル、灰色ノ煉モノナリ、蠻人ハ、せっぷト云ヒ、羅甸語ニ、さぼうねト云フヲ、俗ニテ、しゃぼんト云フナリ、衣服ノ油ヲ洗フニ、無患子皮ト、白小豆ヲ粉ニシテ、澡豆ニ用フル、故ニ、白小豆ヲ、しゃぼん豆トモ呼ブ」 洛陽集「空ヤ秋、しゃぼん吹レテ、夕雲雀」記「しゃぼんノ玉ノ、門ヲ出テ行ク」又「我ガ貌ノ、面目モナキ、しゃぼん吹キ」

ジャボン (名) ざぼん(朱欒)ノ條ヲ見ヨ。

しゃほんま (副) (しゃハ、罵ル語) マア、ホントニ、オヤ、ホントニ。 出世景清(元祿、近松作)二「しゃほんま、ヲカシイ迄、能イ機嫌ヂャ」

シャボンまめ (名) 石鹼豆 しろあづきノ一名、あらひおトシテ、油ヲ洗ヒ落スガ故ニ、名トス しゃぼんノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

しゃま (名) 小利巧ナル女ヲ呼ブ語。「女ノ子ニハ、おしゃまガ多イ」

じゃま (名) 邪魔 (一)害ヲナス魔。惡魔(魔羅ノ條ヲ見ヨ) 藥師經「信ニ世間邪魔、外道妖孽之師一」 (二)物事ノ、妨ゲトナルモノ。ササハリ。故障。障礙 狂言記、河原新市「身共ガ邪魔ヲ入レ、致シヤウガアル」「邪魔ニナル」「邪魔ヲ拂フ」「邪魔ヲスル」

✣**しゃまだる・い** (形) (しゃハ、罵ル語) 手ヌルシ。面倒ナリ。 淀鯉出世瀧德(寶永、近松作)上「短氣ヲ出サズト、待タシャンセト、引キ留メレバ、しゃまだるい、最前ニ、總兵衛メ、斬リ損ウタモ、女房故」

しゃみ (名) 三味 次次條ノしゃみせんノ略、さみせんノ條ヲ見ヨ 心中宵庚申(享保、近松作)道行「我ガ稽古ハ、絲ナキ三味ヨ、何ノね(音、寢)モセデ、待チアカス」

シャミ (名) 沙彌 (梵語、Sramanera. 室羅末尼羅)ノ略、求寂、又、息慈ト譯

ス、息ㇾ惡行ㇾ慈ノ意〕又、さみ　始メテ佛門ニ入リ、髪ヲ剃リシ男子ノ稱　卽チ、得度式ノミ終ハリタルモノ。女ナルヲ、沙彌尼ト云フ。[illegible]「[illegible]沙門」太平記、十六、仁寬流罪事「今年ハ、十二歳ニゾ成ラセ給フ、カカル亂レノ世ナリケレバ、御受戒ナク、唯、沙彌ニテゾ坐シケル」

しゃみせん　(名)　三味線　さみせんノ條ヲ見ヨ。今宮心中(寶永、近松作)下「明日ヨリ同ジ三味線ニ、法ノ緒シ油屋ノ、回向ヲナスコソ哀レナレ」

しゃみせんぐさ　(名)　三味線草　なづな(薺)ノ異名。

シャミニ　(名)　沙彌尼　〔梵語、Sramaṇerikā.(室羅末尼理迦)ノ略〕しゃみ(沙彌)ノ條ヲ見ヨ。

シャム　(名)　しゃも(鬪鷄)ノ條ヲ見ヨ。

しゃむ・ム・メ・マ・ミ・メ　(自動、四)　しゃくむノ訛。三荣三幅一對「面、しゃみ給フ」

ジャム　(名)　〔英語、Jam.〕果物ニ、沙糖ヲ加ヘ、煮詰メテ煉リタルモノ。果餡。糖漿「杏ノじゃむ」苺ノじゃむ」

シャムがは　(名)　暹羅革　舶來ノ革。我衣(天和)「正德ノ頃迄、革足袋、兩種アリ、小人皮、ウスク、肌コマヤカニテ、よかも也、唐皮ナリ、しゃむ皮モ、渡リ革ナリ、小人ヨリ厚クシテ、柔カナリ、下品ナリ、享保頃ヨリ、渡リ皮、一切ナシ」

ジャンク　(名)　戎舩　戎克　〔英語、Junk.ノ音譯〕支那人ノ用キル、舟ノ一種、形、狹長ニシテ、高ク水上ニ出デ、帆、又ハ、艪ニテ操ルモノ。划子

しゃんぐしゃんぐ　(副)　鈴ナドノ、鳴ル音ニ云フ語　丹波與作(寶永、近松作)中「しゃんぐしゃんぐト、鈴鹿デ、皆ツイテ居ル」

じゃんけん　(名)　石拳　いしけん(石拳)ノ條ヲ見ヨ。(薩摩ニテ、小サキ餅、幾ツカヲ、二本ノ串ニ貫キタルヲ、じゃんぼト云フ、雨棒ナリ)

じゃんこ　(名)　痘痕　アバタ。疱瘡ノ痕。

しゃんしゃん　(副)　〔しゃんとノしゃんヲ、重ネタル語〕(一)ヨロメカズ、確ニ歩ム狀ニ云フ語。健カニ、シャントシテ。(二)湯ノ、盛ンニ沸キ立ツ狀ニ云フ語。グラグラ。丹波與作(寶永、近松作)中「据風呂モしゃんしゃん、カカリ湯取ッテ、加減見テ」(三)手ヲ拍ツ音ニ云フ語。今宮心中(寶永、近松作)上「しゃんしゃん、サアコレカラガ、本酒、云云、お肴ニ、瞽女殿、一節頼ム」

じゃんじゃん　(副)　(一)三味線ヲ彈ク音ニ云フ語。(二)半鐘ノ音ニ云フ語。

しゃむしょ　(名)　社務所　神社ノ事務ヲ執ル所。

シャンス　(名)　〔相思ノ唐音ト云フ〕(一)色事。(長崎)　物類稱呼、五「しゃんす、女色ノ事ヲ云フ」(二)情人。(九州)　東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、上「お前ヨカハタ、ワショ振リ捨テテ、ヨンニョウしゃんすト、契ランス」

しゃんす　(助動)　遊バス。ナサイマス。丹波與作(寶永、近松作)道中雙六「コレコレ御覽ぜ、打タしゃんせ、是レコソ五十三次ヲ、居ナガラ歩ム、膝栗毛馬」「彼レ見ヤしゃんせ」

しゃんと　(副)　(一)正シク、整ヒタル狀ニ云フ語。整然　賀古教信七墓廻(元祿、近松作)五「ウラ紫ノ恨ミ文、クルクルしゃんと、ヒン結ビ」「しゃんとシテ置ク」(二)傾カズ、項垂レズ、確立スル狀ニ云フ語、シカト、シ、カリト、チャント。挺然　薩摩歌(寶永、近松作)上「當座ニ、しゃんと、嫁入ッテ退ケレバ好イモノヲ、阿呆ナ酙酌、仕過ゴシテ」「しゃんと立ッテ居ル」

シャンパン　(名)　三鞭酒　〔佛國ノ(Champagne.)ノ地ヨリ、製出ス〕佛蘭西ヨリ舶來スル、一種ノ酒、烈シク揮發シ、泡立チテ、甘美ナルモノ。しゃんぺん。

しゃんばらがみ　(名)　亂髮　散亂シタル髮。チラシガミ。ワラハ。伊豆、賀茂郡ニテハ、しゃんばらげト云フ。

シャンペン　(名)　三鞭酒　前前條ニ同ジ。

シャンペンサイダア　(名)　三鞭酒ト同樣ノ製造法ニヨリテ製造シタル林檎酒。

シャムロぞめ　(名)　暹羅染　更紗染ノ(一)ノ異名、暹羅國ヨリモ產ゼシカバ、名ヲ傳フ、近江、八幡町ノ岡地勘兵衛(暹羅屋ト云フ)、暹羅ニ通商シ、彼地ニテ、染法ヲ學ビ、歸リテ、其業ヲ始ムト。本朝世事談綺、一、衣服「暹羅染、暹羅ハ、國ノ名也、日本ヨリ凡三千四百里ト云フ、此ノ國ヨリ渡リタル染物ヲ摸シテ、日本ニテ染メル、又、華布ト云フ、中華ヨリ渡ルヲ、唐華布ト云フ也」

シャムロどり　(名)　暹羅鷄　しゃも(鬪鷄)ノ條ヲ見ヨ。

しゃめん　(名)　赦免　罪ヲ、赦スコト。史記、淮南王傳「赦ニ免罪人ニ」後漢書、董卓傳「先遣ニ使長安ハ求乞ニ赦免ニ」朝野群載、十一「赦免宜旨仰、別當正二位行權中納言兼右衞門督藤原實季、宜」

しゃめん　(名)　斜面　水平ナラザル面、水平面ニ對シテ、傾斜ヲ爲ス平面。

シャモ　(名)　〔暹羅鷄ノ轉略〕正シクハ、しゃむ(Siam.)。鷄ノ一種、初、暹羅國ヨリ渡セリト云フ、形、大キク、高サ二尺許、肩、張リ、鷄冠、小サク、羽、毛、多クハ禿ゲテ、尾、殊ニ短ク、脛、太ク、距、尖リテ長ク、能ク、鬪フ。鬪鷄　其小サキモノヲ、通事ト云フ、京都ニテ、カシハ、

シャモ　(名)　〔蝦夷語、Shamo. 隣人ノ義、又、韃靼人ハ、勇猛ナル人ヲ推シテ主トシ、しゃむト云フ、君長ノ義、コレト同語カ〕蝦夷人ヨリ、日本、或ハ、日本人ヲ呼ブ語。

しゃもじ　(名)　杓文字　めしじゃくし(飯杓子)ニ同ジ。(女房詞)イヒガヒ。

しゃもつ　(名)　謝物　謝禮ノ贈物。禮物

シャモン　(名)　沙門　〔梵語、Sramaṇa.(室那摩拏、又、舍羅摩拏)ノ略、勤息ト譯ス〕善ヲ勤メ、惡ヲ息ムル人、卽チ、僧ノ汎稱。出家ノ修行ヲナシ居ル者。桑門。法師。瑞應經「天帝化作ニ沙門ハ太子曰、何謂ニ沙門ハ對曰、沙門之爲ㇾ道、捨ニ妻子ハ捐ニ棄愛欲ニ也」釋氏要覽「超ニ過染著ハ名ニ沙門ニ」孝德卽位前紀「以ニ沙門旻法師、高向史玄理ハ爲ニ國博士ニ」同、白雉元年二月「問ニ沙門等ハ沙門對曰」太平記、二、三人僧徒關東下向事「昔、天竺ノ波羅奈國ニ、戒定慧ノ三學ヲ兼備シ給ヘル、一人ノ沙門、オハシケリ」

しゃもん・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ　(他動、左變)　借問　〔借、與ㇾ假通〕假初ニ、問フ。敢ヘテ問フ。陶潛詩「借問爲ㇾ誰悲」宋書、王微傳「每ㇾ見ニ世人文賦書論ハ無ㇾ所ニ是非ハ不ㇾ解處、卽日借問」名義抄「借問、トフ」

じゃもんせき　(名)　蛇紋石　鑛物、結晶ハ、稀ニシテ、多クハ、塊狀ヲナス、色ハ、黃、褐、綠、黑、等ノ種種アリ、我ガ國ニテハ、伊勢、武藏、安房、等ヨリ產ズト、

しゃやう　(名)　斜陽　夕日。夕陽。斜照。杜牧詩「暮靄生ニ深樹ハ斜陽下ニ小樓ニ」

しやゐ (名) [illegible] 茶宅ニ同ジ [illegible]ノ山ノ[illegible]ノ[illegible]、[illegible]ノ燈ニ背ビ」易林節用集、言辭門「[illegible]」

しやよ (名) 〔車輿〕 (一)くるまト、おしト [illegible] (二)車ノ輿 [illegible]

しやよく (名) 〔邪慾〕 ヨコシマナル、慾。[illegible]シキ慾

しやら (名) 〔洒落〕 (一)遊治。シャレ。[illegible]ヅケ買ニシテ、常ニ、女ト向ヒ居ケレバ、女、イトしやらナリ、金モイト失セナム、カクナ買ヒソトモヒクレバ、(二)着飾ルコト イキ 可笑記、正[illegible]ハ、[illegible]トロトロ、[illegible]ク、[illegible]花[illegible]ニ、花車メカシテ、しやらナル風情」 横山井(寛文)「月花ハ、しやらナリ風ノ、謀略」 (三)遊女ノ異名。[illegible]好ムモノノ、しやらくさいト云フ、此語リハ、越前ノ三國アタリニテハ、遊女ノコトヲ、しやらト云フトアリ、今モ、おしやらく ト云フ、モ、洒落ノ字ヨリ出テ、甚マ、サマニ移リタルナリ」

しやらい (名) 〔射禮〕 古ヘ、禁中ニテ、正月十七日ニ、建禮門ニテ行ハレシ、射術ノ公事、コレヨリ先ニ、十五日、兵部省ニテ手番アリテ、射手ヲ調フトゾ。公事根源、正月「射禮、是ハ、建禮門ニテ行ヒ侍ル事ナリ、代ノ始ニハ、豐樂院ニテアリ」

しやらく (名) 洒落 〔洒洒落落ノ略〕 人ノ氣象ノ、嚴格ナラズシテ、打チ開ケタルコト、胸中、サラリトシ、物ニ貪着セヌコト。灑落 [illegible]

しやらくさ・い (形) しやら(洒落)ノ條ノ(三)ノ出典ヲ見ヨ。

しやらくさ・し・キ・ク・レ・シ・ク 形、二 洒落臭

利イタ風ナリ。淺學、短才ニシテ、人ニ高ブル。分限ニ過ギテ、自分ヲ衒ヒ、人ヲ侮リテ、不禮ガチナリ。生イキナリ。似我蜂物語(寛永)「人ノ見テ、しやらくさく思シメスモ、[illegible]」日本振袖始(享保、近松作)二「[illegible]名乘リ様、洒落臭く、人臭ク、身ガ、ヒトヒト、香バシシ」

しやらくら (副) ナマメキテ、賑ハシキ狀、又、色メカシキ狀ヲ云フ語 丹波與作(寶永、近松作)上「宿リ宿リノ赤前垂ニ、しやらくら致サナイヤウニ」

しやらさうじゆ (名) 娑羅雙樹 しやらじゆ(娑羅樹)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ

しやらしやら (副) 雪駄ヲ穿キテ歩ム足音ニ云フ語。チャラチャラ 壽門松(享保、近松作)上「雪駄ノ音ノ、しやらしやらト、春メク中ニ、紫ハ、色ノ司ヤ、藤屋ノ内」

しやらしやら (副) 戯レ戯ムルル狀、又、色メカシキ狀ヲ云フ語。

しやらじゆ (名) 娑羅樹 〔一名、さるすべりヲ下略シテ、音ヲ轉ジタル語カト云フ(御旅所、おたび。三味線、しやみ。するする、すらすら)さるト云フ樹名ヲ取リテ、白花ヲ開クニ因リテ、僧侶ガ、寺院ニ移植シ、神聖ナルモノトシテ、印度ノ娑羅樹ニ附會シテ、其字ヲ充テタルナルベシ、娑羅雙樹ト云フモ、同ジ、尚、さらじゆ(娑羅樹)ノ條ヲ見ヨ〕 (一)樹ノ名、又、しやらさうじゆ 樹幹、裸ニシテ滑カナルコト、百日紅ノ如シ、枝、葉、互生ス、夏、一蔕ノ四瓣ノ白花ヲ開ク、山茶花ニ似タリ、我ガ邦ノ山中ニ、野生、多シ ナツツバキ 「[illegible]山茶[illegible]ニ屬ス、日光、中禪寺湖畔、伊豆ノ天城山中ニ、多ク野生ス、夏時、椿ニ似タル白花ヲ開ク、なつつばきトモ云フ、樹幹、極メテ滑カナレバ、日光邊ニテ、さるすべりト名ヅク、印度ノ娑羅雙樹トハ、甚ダ異ナリ、比叡山、及ビ、所所ノ寺院ニ在リテ、娑羅樹ト云フモノ、此樹ナルベシ、さるすべりノ語ヨリ轉シテ、混同セシモノカ」 大和本草(元祿)十二、「娑羅樹、大坂ナドニアリ、葉ハ、櫻、又、柿ニ似テ、花、白シ、云云、花、大ナリ、夏、咲ク」 和漢三才圖會(正德)八十三、喬木「娑羅雙樹、比叡山有之、其花白單瓣、狀、似山茶花」 日光山志(天保)四「沙羅樹、[illegible]ハ、沙羅雙樹トモ唱ヘ、常ニ、夏椿ト云ヘリ、四五月比、花咲ク、云云、山中ニ、多ク生ゼリ」 (二)さらじゆ(娑羅樹)ノ條ヲ見ヨ。

しやら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 戯レルヤウニナス。ザレサス。「猫ヲしやらす」

しやらつき (名) 戯言ヲ交ヘテ、戯ムルコト。ジャラツクコト。語ルニ、

しやらつ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) (一) しやらしやらス (二)戯ル ジャレル 假名手本忠臣藏(寛延、竹田出雲)七「ソレカラ、しやらつき出シテ、ツヒ、身請ノ相談」

しやらっくせ・え (形) 〔洒落臭〕 しやらくさし(洒落臭)ノ急呼音ノ訛 浮世風呂(文化、三馬)二編、下「しやらっくせえ、お髮ダノ、ヘッタクレノト、ソンナ、遊バセ詞ハ、見ットムネエ、平ッタク、髮ト云ヒナナ」

しやらど・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) スラリト、解クル。常流小栗判官(元祿、近松作)二「縫卷ノ掌握、ホラホラト、引シゴキ帶、しやら解ケシ」

しやらんぽらん (名) 懶惰ナル人。ナマケモノ。靜岡縣ニテハ、しやらんぷらんト云フ。

しやらり (名) しやらノ(二)ニ同ジ、[illegible](貞享)うきよ組「誰レモウキ世ハ、カリノ宿、サノミ人ヲ、ツツムマショヤ、君しやらり」

しやらりん (名) 娑羅林 娑羅樹ノ林。榮花物語、三十、鶴林「カノ娑羅林ノ[illegible]ノ程ヲ、ヨミタルナルベシ」

しやり (名) 錫ノ、鉛ヲ雜ヘザル、上品ナルモノ、鏡ナドニ作ル。唐錫。純錫

シヤリ (名) 〔舍利〕 〔梵語、Sarira.(舍利羅)ノ略、又、設利羅トモ書ス、譯シテ、骨身ト云フ〕 (一)又、舍利。佛ノ、火葬ノ骨。法華經、序品「佛滅度後、供養舍利」 倭名抄、十三、佛塔具「舍利、[illegible]云、以佛舍利、起七寶塔」 名義抄「卽所遺骨分、通名舍利」 (二)白キ石ノ名、津輕ノ今別、平館ノ濱ニ生ズ。(三)蠶ノ病ノ名、十分ニ成長シテ、絲ヲ吐カズ、白ク乾固マリテ、死スモノ。オシャリ。白殭蠶 (四)米粒 [illegible]上「天竺、呼米粒爲舍利、佛舍利、亦似米粒、故曰舍利也」 [illegible]上生經疏、上「舍利者、[illegible]也、佛體大小、如米粒[illegible]」 (五)死骸ヲ火葬シタル殘骨ノ、朽チズシテ、存スルモノ。轉ジテ、ソッケナキモノ、趣キ無キモノニ譬ヘテ云フ、日本振袖始(享保、近松作)三「此ノ龍ト戰タラバ、破レ障子デ、骨バカリ、味モ、しやりモおジャルマイ」

しやり (名) 〔射利〕 せきりト讀ムヲ、正音トス、其條ヲ見ヨ。

しやり (名) 瀉痢 ハラクダリ、下痢

しやり (代) 〔這裏〕 這般ノ裏。コノウチ。碧巖集「把住卽是到這裏、若有一線道」

じやり (名) 〔沙利〕 ざり(礫)ニ同ジ。

ジヤリ (名) 闍梨 阿闍梨ノ上略、其條ヲ見ヨ、

しやりう (名) 〔[illegible]〕 者流 タグヒ。ナカマ。トモガラ。漢書、藝文志「儒家者流、蓋出於司徒之官」

志ゃり-えん（名）｜瀉利鹽｜ 硫酸まぐねしあ。製鹽ノ塊、即チ、苦鹽ニテ、氷ヲ碎ケルガ如シ、下劑トス。

志ゃり-かうべ（名）｜髑髏｜ されかうべノ音便。

志ゃり-き（名）｜車力｜ 車ニテ、荷ヲ運送スルヲ業トスル者。車脚夫 車子

志ゃり-志ゃり（副） 氷砂糖ノ粉ナド、相、觸ルル音、又、其レヲ噛ム音ヲ云フ語。

志ゃり-志ゃり（副） 小石ナドノ、相、觸ルル音、又、其レヲ噛ム音ニ云フ語。

シャリ-タフ（名）｜舍利塔｜（一）佛舍利ヲ納ムル塔。「通俗佛事編、二「舍利塔置壇」（二）寶珠ニ、火焰アルモノ、多ク、舍利塔ノ頂ニアレバ、云フ。（三）兜ノ前立物ナドニ云フ。

志ゃりっ-とう（名） されかうべニ同ジ。

シャリベツ（名）｜舍利別｜「羅典語、Sirupus.ノ音譯」白砂糖ヲ、水ニテ煮テ、濃キ液トシタルモノ、製劑ノ原料トシテ用ヰル。

志ゃりん（名）｜車輪｜（一）くるまノわ。「太平記、十、鎌倉兵火事、車輪ノ如クナル炎」（二）俳優ノ、懸命ニ勤ムルコト。志ゃりんだま。「續膝栗毛、下篇、行不ㇾ足、車輪曳ㇾ踵」八笑人（文化、嘉永）四編、追加、上「臺詞ヲ急ニ骨ヲ折ッテ、車輪デヤルカラ」劇場新話（文化）「志ゃりん玉、身ニシミテスルコト」（三）急ヒテ、働クコト。懸命ニ、働クコト。浮世床（文化、三馬）初編、上「中所へ行ッテ、先生メ、目ヲネブッテ、車輪ニ……テヰル內ニ」

志ゃりん-だま（名）｜車輪玉｜ 前條ノ（二）ニ見ヨ。

志ゃり-むり（副）｜差理無理｜ 否デモ、應デモ。シャニムニ。ムリヤリ。

志ゃ-りやう（名）｜社領｜ 神社ニ屬キタル領地。吾妻鏡、廿二、建保四年十二月八日「伊賀國壬生野庄者、爲春日社領」

志ゃ-りゃう（名）｜車輛｜（一）車ノ數。韓愈、送楊巨源少尹序「車幾輛、馬幾匹」（二）クルマ。宋書、張暢傳「車兩在後」（兩ハ、輛ニ同ジ）

シャリ-ゑ（名）｜舍利會｜ 佛敎ノ語、佛舍利ヲ供養スル法會。古今集、八、離別「雲林院ノ皇子ノ舍利會ニ、山ニ上リテ、歸リケルニ」今昔物語、十二、第九語「今昔、慈覺大師、震旦ヨリ、多クノ佛舍利ヲ持渡リテ、貞觀二年ト云フ年、總持院ヲ起テ、舍利會ヲ始メ行ヒテ、永ク、此ノ山ニ傳ヘ置ク、多クノ僧ヲ請ジ、音樂ヲ調ヘテ、一日ノ法會ヲ行フ」

志ゃ-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）｜洒落｜ 華美ニ、着飾ル。色メカシク、裝フ。落窪物語、一、上「使ヒツケタル童ノ、志ゃれタル女」

志ゃ-る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）｜曝｜ さる（曝）ノ訛。常盤問答物語「死骨ヲ燒キヌレバ、白骨トナリテ、野ニ志ゃれヌ」（群書類從）

志ゃ・る（助動） 爲ノ活用ノ、せニ、崇敬ノ助動詞ノ、らるノ附キタル、せらるノ訛。狂言記、佛師「現世、後生ヲ守ラ志ゃる、文珠ヲ作リテ進ンゼウ」

❖志ゃれ（名）｜洒落｜〔洒落テ云フ言葉、ノ意ナラム、志ゃれるノ條ヲ見ヨ、或ハ、戲ノ轉カ〕地口ノ、短キガ如キモノニテ、談話ノ間、座興ナドニ、戲レテ言フモノ。世俗ヲ脫シタル物言ヒ、振舞ヲモ云フ。風流徒然草（寶永）「長湖法師（英一蝶）ハ、すい、志ゃれノ功、積モリタル人ナリ」

志ゃれ（名）｜戲｜ ジャレルコト。フザケルコト。堀川波鼓（寶永、近松作）上「今ノハ、何モ皆、志ゃれチャ、嘘ヂャ、嘘ヂャ」

志ゃ-れい（名）｜奢麗｜ 奢リテ、華麗ニスルコト。書經、畢命篇「敝化奢麗、萬世同流」

志ゃ-れい（名）｜謝禮｜ 忝シト、禮スルコト。謝儀。

ぢゃ-れい（名）｜射禮｜ ぢゃらい（射禮）ノ條ヲ見ヨ。

志ゃれ-かうべ（名）｜髑髏｜ されかうべニ同ジ。平家女護島（享保、近松作）四「念佛、陀羅尼、御題目、一ツゴノチャニ、志ゃれかうべ」

志ゃれ-き（名）｜曝木｜ 曝レタル村。

志ゃ-れき（名）｜沙礫｜ されき（沙礫）ニ同ジ。

志ゃ-れつ（名）｜車裂｜ クルマザキ。戰國策、楚策「秦王大怒、車裂蘇秦於市」

志ゃ-れふ（名）｜射獵｜ 弓矢ニテ、鳥獸ヲ射トルコト。史記、李廣傳「屏居藍田南山中射獵」

志ゃれ-ぼん（名）｜洒落本｜ 草雙紙ノ一種、專ラ、嫖客ノヨシナシゴト、遊女ノ痴情ヲ寫シ、洞房ノ趣ヲ、滑稽ニ書キタル小册子 後ノ、人情本。

❖志ゃれ-もの（名）｜洒落者｜（一）洒落タル振舞ヲナス人。風流者。（二）華美ナル着飾ヲナス人。メカス人。（三）志ゃれヲ云フ人 洒落ニ、巧ミナル人

❖志ゃ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下一）〔人情、世態ニ曝れタル意ト云フ、或ハ、戲るノ轉カ〕（一）世俗ヲ脫ケタル物言ヒ、振舞ヲナス。洒落。色道大鏡（延寶、箕山）言辭ニテ、志ゃれタル、人ノ氣ノ、利キタルヲ、隨分ニ、志ゃれテ、イサギヨキヲ、陳オヤ、朽木ナドノ、雨露ニサラサレテ、志ゃれタル貌ニ、譬ヘタル詞也」（二）轉ジテ、華美ニ、着飾ル。色メカシク、裝フ。嬌飾。

❖志ゃ・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ（自動、下一）〔戲るノ轉訛〕（犬、猫ナド）狎レテ、戲ル。持統天皇歌軍法（享保、近松作）四「何デモ、コレニぢゃれ掛ケナバ、宿借シサウナモノナリ」

ぢゃ-ろ（名）｜邪路｜〔正路ノ反〕ヨコシマナル、ミチ。正シカラヌ道筋。邪道。王建詩「貪泉愛不ㇾ飲、邪路愛不ㇾ弃」太平記、十四、新田足利確執奏狀事「巧吐二讒謂之語一、其遁無ㇾ不ㇾ入二邪路一」

ぢゃ-ろん（名）｜邪論｜〔正論ノ反〕ヨコシマナル議論。正シカラヌ論說。邪說。

ぢゃ-ゐ（名）｜闍維遮遺｜ 志ゃゆゐ（闍維）ニ同ジ、茶毘ノ條ヲ見ヨ。

志ゃ-ゐん（名）｜社員｜ 同ジ社ノ人。結社ノ事務員「保險會社ノ社員」

志・ゆ（動）｜強｜ 志ふ（強）ノ誤。

志ゅ（名）｜主｜（一）ヌシ。アルジ。漢書、朝錯傳「約各吠非其主」（二）キミ、シュウ。主君 史記、太史公自序「主倡而臣和、主先而臣從」賊盜律「凡、家人奴婢、謀殺主者、皆斬」（三）モト。重ナルモノ。ヲサ 易經、繫辭、上傳「樞機之發、榮辱之主也」主タルモノ。（四）モチヌシ。所有者。柳宗元、鈷鉧潭西小邱記「問其主、曰、唐氏之棄地」蘇軾、赤壁賦「物各有主」（五）客ニ對シテ、行動ヲ起ス者。「主、客、轉倒」（六）耶蘇敎ニテ、耶蘇基督ノ稱。

志ゅ（名）｜朱｜（一）アカ。アケ。朱色。論語、陽貨「惡紫之奪朱也」傅休奕、太子少傅箴「近朱必赤、近墨必緇」（二）辰砂。（支那ニテ）（三）銀朱、其條ヲ見ヨ 古今著聞集（滑稽）廿、敗喉、人ノ、湯息シタリケル返事ヲ、物ニ書キケル中ノ序ニ、朱ニテ書キテヤリケレバ、押返シテ、松ノ色ノ

色ノ、紅ナル由ヲ云ヘリケル、云云「朱デ書ク」朱ヲ金ル」（四）銖ノ略字、次條ノ（二）ヲ見ヨ。

しゅ（名）銖　（一）秤目ノ名、りゃう（兩）ノ[illegible]ヲ見ヨ　[illegible]「[illegible]爲二銖、[illegible]銖爲レ兩」　（二）江戸時代ノ貨幣ニ、歩ノ[illegible]分ノ一、或ハ、兩ノ十六分ノ一、卽チ、銀目ノ三匁七分五厘ナリ。常ニ略シテ、朱ノ字ヲ書ス　[illegible]士記、二「銖ノコトハ、字書ニモ、韻書ニモ、六朱爲二一分一トアレド、通用ハ、四朱一分ナリ」

しゅ　守　位ト、官トノ間ニ置キテ、位、卑ク、官、高キコトヲ示スニ用ヰル語。（行ニ對ス、其條ヲ見ヨ）「從三位守大[illegible]」

しゅ　首　（一）ハジメ　カシラ　左傳、文公十七年「畏レ首畏レ尾、身其餘幾」「コレヲ首トス」　（二）刑法ニ、罪ヲ犯シタル發頭人　首謀（從ノ（二）ニ對ス）　政事要略、六十九「共犯レ罪者、以二造意一爲レ首」

しゅ　酒　サケ　[illegible]、今日ハ、マタ[illegible]申[illegible]レヅレ、酒ヲ勸メ申サバヤト存ジ候フ」「御酒」

しゅゆ（名）脂油　脂肪ト、油トノ總稱。通常ノ温度ニテ、固形ヲナスヲ脂肪ト云ヒ、液狀ヲナスヲ油ト云フ。

しゅ（接尾）首　「一首尾、相、具スルノ略カト云フ」　詩文、和歌ヲ數フルニ云フ語　[illegible]

しゅ（接尾）種　クサ　イロ　「若干種」[illegible]

しゅ（接尾）衆　接尾語ノ、しゅう（衆）ノ條ヲ見ヨ。「女中しゅ」「子供しゅ」

しゅ（接尾）株　（一）樹木ヲ數フルニ云フ語　カブ　本　三國志、蜀、諸葛亮傳「成都有二桑八百株一」　（二）[illegible]ヲ數フルニ云フ語　[illegible]　延喜式、上「寶竹二百六十株」

じゅ　儒　（一）支那ノ古ヘノ聖人ノ道ヲ學ビ得テ、之レヲ守リ、之レヲ教ヘナドスル人。儒者。　周禮、天官篇「四曰、儒、以レ道得レ民」　史記、[illegible]「沛公不レ好レ儒」　同、韓非傳「韓子曰、儒以レ文亂レ法」　（二）儒教。儒學。

じゅ（名）壽　「說文」壽、久也、凡、年齒皆曰レ壽」後漢書、明帝紀、註「壽者、人之所レ欲、故、卑下奉レ觴進レ酒、皆言レ上レ壽」第三義ノ祝賀ノ意ヲ、ことぶくト云フヨリ、字、同ジケレバ、遂ニ、第二義ノ年齡ヲモ、誤リテ、ことぶきトハ云フナリ」　（一）ナガイキ　長命　長壽　書經、洪範篇「五福、一曰壽」　論語、雍也篇「仁者壽」　（二）ヨハヒ　トシ　年齡　壽命　史記、[illegible]「當[illegible]自有二吾所一不レ知者壽也」[illegible]之二、壽、百歲」　（三）コトホギ。イハヒ。福壽。　戰國[illegible]

じゅ（名）樹　き（木）ノ（一）ニ同ジ。　後漢[illegible]

じゅ（名）綬　（一）支那ニテ、官職ノ標ノ印ヲ佩ブルニ用ヰル組紐。　史記、蔡澤傳「懷二黃金之印一、結二紫綬於要一」　[illegible]光武解レ綬、以帶二[illegible]」　（二）佩玉ノ緒　中務內侍日記、御禊ニ「御じゅトテ、平緒ノ白キヲ突カセ給ヒタリ」　（三）勳章、褒章、又ハ、記章ヲ佩ブルニ用ヰル紐。

じゅ（名）呪　呪詛　（一）マジナヒ　ノロヒ　關尹子、七釜篇「有二誦レ呪者一」　元亨釋書、十[illegible]城之北山、有二[illegible]尼寺、[illegible]日夜[illegible]呪、不レ歸レ家者三年、元慶二年上二台山一」　宇治拾遺、十七條、修行者ノ、アリケルガ、云云、殺打チオロシテ、内ニ入リテケリ、不動ノ呪ヲ唱ヘテ居タルニ」　（二）たらに（陀羅尼）ノ條ヲ見ヨ、

[illegible]菓子、六、五十八段[illegible]少シ[illegible]ヒツイケ。

じゅ（名）頌　佛教ノ語、げ（偈）ニ同ジ。　太平記、[illegible]十四ハ[illegible]リ、[illegible]、早キ居直リテ、辭世ノ頌ヲ書キタマフ、五蘊假成ノ形、四大今歸レ空、將、首當二白刃一、截斷一陣風」

じゅ（接頭）從　「正ノ（三）ニ對ス」　じゅう（從）ノ（二）ニ同ジ、くらゐノ條ヲモ見ヨ　「從三位」「從五位」

しゅあく（名）首惡　頭ダチタル、ワルモノ。犯罪ノ張本人　發頭人　史記、酷吏傳「景帝乃拜二都一爲二濟南太守一、至則、族二滅瞷氏首惡一」　春秋繁露、正貫「[illegible]春秋之聽レ獄也、首惡者罪特重」

しゅあん（名）朱殷　赤黑ミタル色　左傳、成公二年「左輪朱殷」杜註「血色久則殷、殷音近レ煙、今人、以二赤黑一爲二殷色一」

しゅい（名）朱衣　アケノコロモ。朱色ノ服　禮記、月令篇「天子、衣二朱衣一、服二赤玉一」　韓愈、送二殷員外使一回鶻一序「[illegible]員外郎[illegible]作御史[illegible]朱衣[illegible]承レ命以行」

しゅい（名）主意　オモナル意見。主要ナル意義　主旨。　史記、[illegible]傳「主意所レ不レ欲、因而毀レ之、主意所レ欲、因而譽レ之」

しゅい（名）趣意　心バセ。カンガヘミコミ。趣旨。　唐書、卓行傳「王室詔二闕入一朝、[illegible]趣意野素、躁知レ無レ意レ於レ世」

しゅい（名）殊異　他ノモノト、異ナルコト。通常ト、違フコト。特異　韋曜、博奕論「[illegible]古今功名士、皆有二積累殊異之迹一」　徐渭、[illegible]報[illegible]書「[illegible]有二殊異之觀一」

しゅいう（名）酒友　サケノミトモダチ。　白居易、醉吟先生傳「安定皇甫朗之爲二酒友一」

しゅいつ（名）主一　精神ヲ[illegible]シテ、散亂セシメザルコト　[illegible]

しゅいん（名）主因　オモナル原因　要因　「紛擾ノ主因」

しゅいん（名）朱印　（一）朱肉ニテ捺シタル印。　居家必用、「朱印」　（二）足利氏、德川氏ノ世ニ、命令書ノ證トシテ用キタル印、朱肉ニテ押ス。領地ヲ賜ハルヲ、特ニ、御朱印ト云フ、又、諸侯ニテモ、行フ。其、將軍ノ命令ノ書ノ、重キモノニハ、將軍、墨ニテ花押、名乘ヲ記ス、コレヲ、黑印ト云フ。　武家故實[illegible]、公方家ニ大名在所ヘノ御奉書ハ、老中、連印、カキ判ナリ、人衆ヲ出シ候得トノ御[illegible]ハ、御黑印也、御朱印ト云ハ、花押ノ事也、又字ハ、御名乘ナリ、御三河[illegible]領地等下ノ[illegible]ハ、御朱印ナリ、御黑印ガ、御朱印ヨリ重シ」　甲陽軍鑑、一、品第七「古、信玄公廿三歲ノ御時、駿州ヨリ、山本勘介ヲ、百貫ノ知行ニテ、召シヨセラレ、御朱印ノ其壁ニテ、二百貫ノ朱印ヲ被レ成下レ」

しゅいん（名）手印　（一）兩手ノ指ニテ、印ヲ結ブコト。尙、いんざう（印相）ノ條ヲ見ヨ。　平治物語、一、叡山物語事「人ハ、爭デカ知ルベキナレドモ、或ハ、宇賀神ノ法ヲ籠メ、或ハ、陀天ノ法ヲ籠メ、大師、手印ヲ以テ封ゼラル」　（二）自ラ、署名、華押スルコト　又、其書　吾妻鏡、六、文治二年七月「供料所、以二備後國大田庄一加二御手印一、今日所レ被二奉寄一」　白峯寺縁起「各、廿一通ノ、御手印ノ補任ヲ下サル」　[illegible]里見、誅セラレテ後、[illegible]ガ[illegible]ノ中ヨリ、秀[illegible]公ノ御手印ヲ取リ出ス」　（三）手ノ形ヲ、押シタルコト。テガタ　吾妻鏡、四、元暦二年七月十五日「去正月廿五日[illegible]中二下御手印一之後、[illegible]寄二附寺領於近國[illegible]、莊園一之由、有二其聞一」

しゅいん（名）手淫　己レノ手ニテ、其生殖器ヲ摩擦シテ、快ヲ取ルコト、カハツ

ルミ　センズリ　獨淫、私淫　打手鐘

じゆ-いん (名) 樹陰 樹蔭 コカゲ。樹木ノカゲ。北史、儒林傳「折レ葦二書、夏日坐二板牀一、隨二樹陰一諷誦」宋齊丘詩「行傍二綠樹蔭一、慵上二碧苔石級一」

しゅう (名) 主 己ガ仕フル君。主君。三代實錄、十三、貞觀八年十月廿五日「伴山等言、臣主右衞門佐伴宿禰中庸教、毆二殺隣取女子一」宇治拾遺、十、第一條「我主ノ大納言ヲ、高家ニ思フカ、汝ガしゅうハ、我ロニヨリテ、人ニテモ御座スルハ、知ラヌカ、我ガロアケテハ、汝ガしゅうハ、人ニテハアリナムヤ」「主ノ仰セ」「主命」「主用」 主を取るト云フハ、仕フ。主取ス。仕

しゅう (名) 宗 佛教ノ流派ニ、其宗トシテ守ル所。宗門。正字通「釋氏五宗」沙石集、十、上、第一條「宗ヲ弘ルハ、皆、一門ヲ立テ、勝劣ヲ論ジ、義ヲ正トシテ、是非ヲ判ズ」

しゅう (名) 衆 (一)モロビト。衆人。諸人。數多ノ人。書經、大禹謨「稽二于衆一舍レ己從レ人」論語、衞靈公篇「衆惡之必察焉、衆好之必察焉」狂言記、河原太郎「萬一、聡シイ酒ヲ、市立チノ衆ヘ進ゼテハ」「衆、皆、賢ナリト云フ」(二)人數ノ、多キ方。寡ノ(一)ニ對ス。大學「生レ之者衆、食レ之者寡」孟子、梁惠王、上篇「寡、固不レ可二以敵一レ衆」(三)所衆ノ略。

しゅう (名) 雌雄 (一)めト、をト。(鳥類ニ云フ) 詩經、小雅、祈父之什、正月篇「召二彼故老一、訊二之占夢一、具曰二予聖一、誰知二烏之雌雄一」(二)カチマケ。勝負。優劣。史記、項羽紀「願與二漢王一挑レ戰決二雌雄一」太平記、十七、山門牒送二南都一事「合戰ノ雌雄ハ、時ノ運ニヨル事ニテ候ヘバ、カネテ、勝負ヲ定メガタク候」

しゅう (接尾) 衆 一群ノ人ノ下ニ添ヘテ、統ベ云フ語。或ハ約メテ、衆トモ云フ。ドモ。タチ。等。(稍、敬フ意ニ云フ) 散木集、十、雜、下「堀河院御時、出納ガ腹立テ、ヘヤノしゅうト云フ者ヲ、御藏ノ下ニ籠ムナルヲ」狂言記、河原太郎「イツモノ旦那衆デゴザル程ニ」「役人衆」「年寄衆」「子供衆」

じゅう (名) 從 (一)主ニ、附キタルモノ。(二)くらゐ(位)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。(三)刑法ニ、首ニ從ヒテ、共ニ、惡ヲナセルモノ。じゅうはん(從犯)ノ略。唐律疏義「共犯レ罪者、謂、二人以上共犯、以二先造意者一爲レ首、餘並爲レ從」

じゅう (名) 銃 コヅツ。(筒ノ條ヲ見ヨ)

じゅう-い (名) 戎衣 イクサゴロモ。ヨロヒ。軍服。戎服。書經、武成篇「一戎衣、天下大定」太平記、十一、還幸事「頭大夫行房、勘解由次官光守、二人バカリコソ、衣冠ニテ供奉セラレケレ、其外ノ月卿、雲客、衞府、諸司ノ助ハ、皆、戎衣ニテ、前騎、後乘ス」

じゅう-い (名) 戎夷 〔戎ハ西方ノ蠻族、夷ハ東方ノエビス〕 エビス。野蠻國。戎狄 禮記、王制篇「中國戎夷、五方之民」

じゅう-いつ (名) 充溢 ミチ、アフルルコト。史記、平準書「太倉之粟、陳陳相因、充溢露二積於外一」

じゅう-えい (名) 充盈 ミツルコト。アフルルコト。充滿。充實。禮記、禮運篇「四體既正、膚革充盈、人之肥也」

しゅう-えん (名) 終焉 (一)命ノヲハリ。今ハノ時。シニギハ。末期。臨終。十訓抄、上、第一、三十二條「善男、終焉ノ時、當生ニハ必ズ、今一度、奉公ノ身タラント云ヘリ」盛衰記、一、忠盛卒事「今生ニハ、一千一體ノ觀音ノ利益ヲ蒙リ、四海ニ榮華ヲ開キ、終焉ニハ、上品中品ノ彌陀ノ來迎ニ預リテ、九品ノ蓮臺ニ生ル」(二)身ノ、落チツク處。隱居スルコト。國語、晉語「子犯知二文公之安一レ齊而有二終焉之志一也」世說、棲逸篇「浩然有二終焉之志一」

しゅう-おもひ (名) 主思 主君、或ハ、主人ヲ、大切ニ思フコト。娥歌加留多(享保、近松作)四「シホラシヤ、殊勝ヤ、下下ニハ奇特ナ、主思ひ」

じゅう-か (名) 銃架 小銃ヲ乘セ置ク臺。銃臺。

じゅう-かう (名) 戎行 イクサダチ。軍隊ノ、行軍スルコト。進軍。左傳、成公二年「下臣不幸、屬レ當二戎行一、無レ所二逃隱一」唐玄宗詩「三軍臨二朔野一、驅馬卽二戎行一」

じゅう-か-ぜい (名) 從價稅 〔獨語、Wertzölle. ノ譯語〕 品物ノ價ヲ標準トシテ、取立ツル關稅。(從量稅ニ對ス)

しゅう-がふ (名) 衆合 次條ノ語ノ略。順正理論、三十一「衆多苦具來逼レ身、合黨相殘、故名二衆合一」太平記、廿七、田樂事「此處、彼處ヲ突キ貫レテ、血ニマミレ、或ハ、湧セル茶ノ湯ニ身ヲ燒キ、喚キ叫ブ、只、衆合、叫喚ノ罪人モ、カクヤトゾ見エタリケル」

しゅう-がふ-ぢごく (名) 衆合地獄 佛經ノ語、八熱地獄ノ一、卽チ、殺生、邪婬ナドヲ犯スモノノ、墜落スル所。略シテ、衆合。

じゅう-がん (名) 銃眼 小銃ヲ發射スル爲ニ、障壁ナドニ穿チタル穴。射眼

しゅう-ぎ (名) 衆議 衆人ノ議論。多勢ノ評議。諸葛亮、出師表「是以衆議、擧レ寵爲レ督」唐書、禮樂志「博採二衆議一」吉野都女楠(正德、近松作)一「衆議一決ノ勅諚ハ」「衆議紛紛」「衆議ニ任ス」

じゅう-き (名) 戎器 戰爭ニ用キル器械。兵器。武器。軍器。戎具。武具。禮記、明堂位篇「越棘大弓、天子之戎器也」

じゅう-き (名) 銃器 小銃、拳銃ノ類ノ總稱。

じゅう-きう (名) 從舅 母ノ從父兄弟。爾雅、釋親篇「母之從父晜弟、爲二從舅一」

しゅう-ぎ-はん (名) 衆議判 しゅぎはん(衆議判)ノ條ヲ見ヨ、

しゅう-きょく (名) 終局 (一)碁ヲ、打チ終ハルコト。結局。馬戴詩「昨日圍レ棋未二終局一」崔塗詩「莫レ看二棋終局一」(二)事件ノ落着。シマヒ。ハテ。終結。

しゅう-きょく (名) 終極 ヲハルコト。ハテ。國語、越語「莫レ知二其所一レ終極」

しゅう-ぎ-ゐん (名) 衆議院 庶民ノ公選ニヨリ當選シタル衆議院議員ヲ以テ組織シ、貴族院ト共ニ、帝國議會ヲ成ス、立法議決ノ機關。

じゅう-ぐ (名) 戎具 じゅうき(戎器)ニ同ジ。宋史、李漢瓊傳「車駕幸二大名一云云、命爲二滄州部部署一、加二賜鐵馬金甲、寶劍戎具一」

じゅう-ぐん (名) 從軍 軍ニ從ヒテ、出デ行クコト。王粲詩「從軍有二苦樂一、但問所レ從誰」「從軍記者」

しゅう-くゎ (名) 衆寡 人數ノ多キト、少ナキト。多勢ト、無勢ト。多寡。論語、堯曰篇「君子無二衆寡一、無二小大一、無二敢慢一」三國志、吳志、孫韶傳「權問二諸屯要害遠近、人馬衆寡、魏將姓名一、盡具識レ之、所レ問咸對」「衆寡、敵セズ」

じゅう-くゎ (名) 銃火 銃器ノ發火 「銃火ノ中ヲ潛ル」

じゅう-くゎん (名) 縱觀 ホシイママニ、見ルコト。勝手ニ、ミルコト。縱覽。

じゅう-くゎん (名) 縱貫 タテニ、ツラヌクコト。タテニ、突キトホスコト。「大陸ヲ縱貫スル鐵道」

じゅうぐゎん（名）［銃丸］鐵砲ノ玉。小銃ノ彈丸。[illegible]

しゅうけい（名）[illegible] 久、スウケイ [illegible]「[illegible]以崇敬」すぎさう。

じゅうけい（名）［從兄］男ノいとこノ、我レヨリ年上ナルモノ。從父兄。[illegible]

じゅうけい（名）［銃刑］銃殺ノ刑罰。

しゅうけう（名）［宗教］[illegible]ノ教ヲ、皆 [illegible] 信ジ、コレヲ守リ、コレヲ行ヒテ、人ノ心ヲ治ムル事ノ總稱。[illegible] 佛教、耶蘇教、回回教、等、皆、是レナリ。

しゅうけつ（名）［終結］事ヲ、終ヘルコト。トヾメ。ヲハリ。終局。結局。[illegible]

しゅうけつ（名）［終決］（一）事ノ、極ノ、[illegible]（二）[illegible] 決スルコト。

じゅうけつ（名）［充血］身體ノ或局部ニ、過度ニ、血液ノ、充ツルコト。鬱血。「[illegible]充血、充血ス」

じゅうけつ（名）［戎羯］匈奴ノ種族ノえびす。轉ジテ、えびすノ稱。戎狄。唐書、[illegible]

じゅうけん（名）［戎軒］（一）じゅうしゃ（戎車）ニ同ジ。[illegible]（二）[illegible] 軍事 [illegible]

じゅうけん（名）［銃劍］（一）小銃ト、劍ト。（二）劍ヲツケタル小銃。劍ツケ鐵砲。銃槍。

しゅうこ（名）［終古］長キ年月。永遠。永久。[illegible]

しゅうこう（名）［衆口］衆人ノ口。多クノ人ノ、言フ所。[illegible]

じゅうこく（名）［戎國］エビスグニ。野蠻國。[illegible]

しゅうころし（名）［主殺］主君ヲ弑スル、悪逆ノ所行。又、其人。弑君。[illegible]

しゅうさい（名）［終歳］歳ヲ終フルマデナルコト。一年中。年中。終年。[illegible]

しゅうさう（名）［衆相］多クノ相貌。[illegible]

じゅうさう（名）［戎裝］イクサノ身支度ヲスルコト。戎衣ノ裝飾（ヨソホヒ）。武裝。北史、[illegible]

じゅうさう（名）［銃槍］けん（劍）ノ條ノ（三）、及、銃劍ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

じゅうさう（名）［充創］[illegible]

じゅうさつ（名）［銃殺］小銃ニテ、撃チ殺スコト。

しゅうし（名）［衆士］多クノ人士。多士。[illegible]

しゅうし（名）［宗旨］（一）其宗門ノ旨。宗派ノ趣旨。[illegible]（二）俗ニ、宗門。（三）其人ノ從事スル職業。（四）其人ノ嗜好。「[illegible]」

しゅうし（名）［螽斯］（一）キリギリス。[illegible]（二）子孫ノ、繁昌スルコト。（前項ノ出典ノ詩經ヨリ出ヅ）太平記、一、「[illegible]螽斯ノ化、行ハレテ、皇后、元妃ノ外、君恩ニ誇ル官女、甚ダ多カリケレバ」

しゅうし（名）［終始］名詞ノしゅうしゅう（始終）ニ同ジ。[illegible]

しゅうし（名）［終止］全ク、ヲハルコト。[illegible]「運動、終止ス」終止言

じゅうし（名）［戎士］イクサビト。兵士。軍人。[illegible]

じゅうし（名）［從子］甥。[illegible]

じゅうし（名）［從姉］女ノいとこノ、我レヨリ年上ナルモノ。[illegible]

じゅうじ（名）［充耳］（一）耳ヲ蔽フ飾リ。[illegible]（二）耳ノ、キコエヌコト。ツンボ。[illegible]

じゅうじ（名）［從事］事ニ、從フコト。事業ヲシテアルコト。[illegible]

しゅうしけん（名）［終止言］語學ノ語、[illegible] 說法ニ同ジ。

しゅうしちがひ（名）［宗旨違］（一）人ノ信仰スル宗旨ノ、同ジカラザルコト。（二）人ノ嗜好スルモノノ、同ジカラザルコト。例ヘバ、酒ズキト、菓子ズキトノ類ノ如シ。

しゅうじつ（名）［終日］朝ヨリ、夕マデ。ヒネモス。イチニチ。[illegible]

じゅうじつ（名）［充實］隙間ナク、ミツルコト。闕クル所ナク、充チ具ハルコト。充滿。充盈。充牣。[illegible]「内容充實」

しゅうしん（名）［終身］身ノ、死ヌルマデノ間。一生。生涯。[illegible]「終身官」

しゅうしん（名）［終審］（一）最後ノ、シラベ。（二）法律上ニテ、上訴ノ途ナキ、裁判所ノ審問判決。

しゅうじん（名）［衆人］（一）モロビト。諸人。衆庶。[illegible]（二）普通ノ人。ナミナミノモノ。凡人。[illegible]

じゅうしん（名）［銃身］銃ノ主要部ニシ

テ、彈丸ヲコメテ發射スル、圓筒狀ノ部分。

ぢュう-ぢん (名) 充牣充仞 〔牣ハ、說文「滿也」小爾雅「杜實、充牣、塞也、實物、滿也」〕 滿ツルコト。充滿。充實。 後漢書、清河王慶傳「珍寶玩好、充二牣其第一」 司馬相如、子虛賦「充二仞其中一」(仞、牣、相通ズ)

ぢュう-ちャ (名) 戎車 イクサグルマ。戰場ニ使用スル車。戎軒。兵車。戰車。 詩經、小雅、彤弓之什、六月篇「戎車既安、如レ輊如レ軒、四牡既佶、既佶且閑」 左傳、成公二年「唯吾子、戎車是利、無レ顧二土宜一」

ぢュう-ちャ (名) 從者 又、從者。主君ニ從フモノ。供人。 論語、八佾篇「從者見レ之」 孝德紀、大化元年八月「拜二東國等國司一云云、其長官從者九人、次官從者七人、主典從者五人」

ぢュう-ちャう (名) 銃床 小銃ノ銃身ヲ裝置スル部分。銃身ノ臺。

ぢュう-ちャう (名) 銃傷 ぢュうさう(銃創)ニ同ジ。

ちュう-ちャ-をん (名) 衆車園 佛敎ノ語、たうりてん(忉利天)ノ條ヲ見ヨ。 盛衰記、四十八、女院六道廻物語事「大梵王宮ノ高臺ノ閣、天帝釋城ノ勝妙ノ樂、衆車園ノ遊、歡喜園ノ戲」

ちュう-ぢュう (名) 主從 主君ト、從者ト。主僕。 盛衰記、十八、文覺淸水狀天神金事「千手陀羅尼ヲ誦シケレバ、其ノ後ハ、樋取已下ノ輩、手水ヲ捧ケ、履ヲ取リ、主從ノ禮ヨリモ猶深ウシテ、事ノ外ニゾ敬屈シケル」

ちュう-ちュう (副) 颯颯 涼風ノ、吹キ來ル音ニ云フ語。

ぢュう-ぢュう (副) 魚ノ脂ナドノ、燒クル音ニ云フ語。ジリジリ。

ぢュう-ぢュん (名) 從順 (一)スナホニシテ、逆ラハザルコト。逆ラハズ、順フコト。柔和。柔順。(二)正シキニ、順フコト。 韓愈詩「風巾晦明、無レ不二從順一」

ちュう-ちョ (名) 衆庶 モロビト。庶人。衆人。諸人。億兆。 左傳、襄公十八年「孫瑕怙二恃其險一、負二其衆庶一、棄レ好背レ盟、陵二虐神主一」

ちュう-せい (名) 衆聖 多クノ聖人。數多ノヒジリ。庶聖。 董仲舒、賢良策「衆聖輔レ德、賢能佐レ職、敎化大行、天下和洽」

ちュう-せい (名) 終生 命ノ、終ハルマデノ間。一生涯。畢生。 王襃、九懷「歷二九州一兮索レ合、誰可三與兮終レ世」

ちュう-せい (名) 終制 (一)三年ノ喪ヲ、勤メヲハルコト。 唐書、崔堯文傳「臥レ苦終レ制」 (二)喪ノ制度。 晉書、宣帝紀「預作二終制於首陽山一」

ちュう-せう (名) 終宵 ヨモスガラ。ヨドホシ。ヨッピテ。終夜。終夕。徹夜。 韓愈詩「終宵處二幽室一、華燭光爛爛」

ちュう-せき (名) 終夕 前條ノ語ニ同ジ。 任昉、奏二彈劉整一文「理絕二通問一、而妄肆二醜亂一、終夕不レ寢、而謬加二大杖一」

ちュう-せつ (名) 衆說 衆人ノ說。衆議。 「衆說ニ從フ」

ちュう-ぜん (名) 修繕 ツクロフコト。ツクロヒ。 漢書、食貨志「修二繕故宮一」

ぢュう-ぜん (副) 從前 マヘカタ。以前。

ちュう-そ (名) 宗祖 一宗ヲ開キタル僧。祖師。敎祖。

ぢュう-ソウ (名) 從僧 三綱ナドニ扈從スル僧。ずそう。 玄蕃寮式「凡僧正、從僧五人、云云、大少僧都、各、從僧四人」

ぢュう-そく (名) 充塞 滿チ、塞ガルコト。 白虎通「陰陽和、萬物序、休氣充塞、故、符瑞並臻」

ぢュう-ぞく (名) 從屬 (一)シタガヒ、ツクコト。下ニ、屬キシタガフコト。(二)シタガヒ、ツキタルモノ。

ぢュう-そつ (名) 從卒 モト一將校ニ專屬シテ、其使役ニ服シタル兵卒。從兵。 「將校ノ從卒」

ぢュう-そふ (名) 從祖父 父ノ從兄弟。イトコヲヂ。 爾雅、釋親篇「父之從父昆弟、爲二從祖父一」

ぢュう-そぼ (名) 從祖母 從祖父ノ妻。イトコヲバ。 爾雅、釋親篇「父之從父昆弟之妻、爲二從祖母一」

ぢュう-そん (名) 從孫 兄弟姉妹ノ孫。 左傳、哀公廿五年、注「男子謂二兄弟之孫一、爲二從孫一」

ちュう-た (名) 衆多 多キコト。多數。許多。 歐陽修、憎二蒼蠅一賦「爾衆多之無レ敵」

ちュう-たい (名) 宗體 宗旨ノ本體。 狂言記、宗論「誠ニ、我ガ宗體ヲ學メルデハ御座ラヌガ」

ぢュう-たい (名) 銃隊 小筒組。鐵砲組。

ぢュう-だい (名) 銃臺 ぢュうか(銃架)ニ同ジ。

ぢュう-たう (名) 充當 アテハマルコト。又、アテハムルコト。

ぢュう-たん (名) 絨毯 舶來ノ花毛氈ノ一種、多ク、敷物トス。絨緞。絨氈。

ぢュう-だん (名) 縱斷 タテニ、タチ切ルコト。橫斷ニ對ス。 「縱斷面」

ちュう-ちュう (名) 衆中 多人數ノ中。衆人ノナカマ。 曾我虎磨(寶永、近松作)中「所所ニ、當番ノ衆中ハ無キカ」

ぢュう-てい (名) 從弟 男ノいとこノ、我レヨリ年下ナルモノ。從父弟。 史記、李廣傳「廣從弟李蔡、亦爲レ郎」

ちュう-てう (名) 終朝 明方ヨリ、朝飯マデノ間。朝。一パイ。朝ノ間。 詩經、小雅、都人士之什、采綠篇「終レ朝采レ綠、不レ盈二一匊一、予髮曲局」

ぢュう-てき (名) 戎狄 〔戎ハ西方ノエビス、狄ハ北方ノエビス〕エビス。戎夷。夷狄。 詩經、魯頌、閟宮篇「戎狄是膺、荊舒是懲」

ちュう-てん (名) 終點 ヲハリノ個處。 「電車ノ終點」

ぢュう-てん (名) 充塡 ウヅムルコト。詰ムルコト。アテハムルコト。 宋史、兵志「取レ人分レ類充塡」「小銃ニ、彈丸ヲ充塡ス」

ちュう-と (名) 宗徒 宗門ノ信者。宗敎ヲ信仰スルモノ。信徒。

ちュう-と (名) 衆徒 數多ノ僧徒。大衆。 太平記、二、南都北嶺行幸事「多年、臨幸ノ儀モナシ、此御代ニ至リテ、絕エタルヲ繼ギ、廢レタルヲ興シテ、鳳輦ヲ廻シ給ヒシカバ、衆徒、歡喜シ、掌ヲ合セ、靈佛、威德ノ光ヲ添フ」

ぢュう-とう (名) 充棟 積ミテ、棟ニ充ツル程、書籍ノ多キコト。汗牛充棟ノ條ヲ見ヨ。 陸游詩「吾屋三四間、充棟貯二經史一」

ちュう-とく (名) 宿德 ちュくとく(宿德)ノ音便、ちうとく(宿德)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

ちュう-ねん (名) 終年 (一)年、イッパイ。一年中。終歲。(二)天年ヲ終フルマデノ間。終生。一生涯。

ちュう-は (名) 宗派 (一)宗門ノ派。 書言字考節用集、九、言辭門「宗派、シュウハ」「佛敎ノ

[illegible]」(二)流派、流儀。家法 [illegible]王十朋詩、[illegible]分[illegible]、[illegible]、[illegible]異二[illegible]不同」

しゅうは(名)衆葩 多クノ花。[illegible]芳 [illegible]

しゅうば(名)戎馬 イクサニ用ヰルウマ。軍馬。左傳、[illegible]公十六年、[illegible]

しゅうはい(名)崇拜 アガメ、尊ブコト。甚シク、尊崇スルコト。崇拜。[illegible]

しゅうばう(名)衆望 衆人ノ屬望。多クノ人望。[illegible]

しゅうはう(名)銃砲 小銃ト、大砲ト。

しゅうはん(名)從犯 〔正犯ニ對ス〕正犯ヲ、幇助シタルモノ。略シテ、從。

しゅうび(名)衆美 多クノ、美麗ナルモノ。衆多ノ佳キモノ。[illegible]

しゅうび(名)充備 ミチ、ソナハルコト。十分ニ、具備スルコト。充實。[illegible]

しゅうひつ(名)從蹕 天子ノ御車(蹕)ニ、從フコト。扈蹕。[illegible]

しゅうひでり(名)主旱 〔男ひでりナド、同趣ノ語〕奉公スベキ主人ノ無キコト。[illegible]ひでりハイカズ、斷念ニ扶持ヲ受ケントハ、勿體ナ[illegible]

しゅうひゃう(名)衆評 衆人ノ評。諸人ノ批評。

しゅうふ(名)從父 ヲヂ。伯父。叔父。[illegible]兄之子、弟之子、相謂、爲從父昆弟」

しゅうふう(名)宗風 宗門ノ風儀。宗派ノ風習。太平記、廿六、妙吉侍者事「[illegible]テ、一條堀川、村雲ノ反橋ト云フ所ニ、寺ヲ立テ、宗風ヲ[illegible]スルニ、[illegible]、日夜、[illegible]、朝夕ノ法談、[illegible]ナカリケレバ」

しゅうふく(名)從服 マツラフルコト。シタガフルコト。服從。[illegible]七命「從服[illegible]九國、[illegible]制八戎」

しゅうふく(名)戎服 (一)しゅうい(戎衣)ニ同ジ。左傳、襄公廿五年「[illegible]戎服[illegible]」(二)西洋製ノ、戰爭ノ服。

しゅうふけい(名)從父兄 イトコ。從兄ニ同ジ。爾雅、釋親「兄之子、弟之子、相謂、爲從父昆弟」大學衍義補、從父昆弟、今稱從兄弟、[illegible]兄弟」

しゅうふてい(名)從父弟 イトコ。從弟ニ同ジ。(前條ヲ見ヨ)

しゅうぶん(名)衆分 紀伊國、高野山金剛峰寺ノ僧侶ノ、最下級ノモノ。[illegible]、上、高野山[illegible]侶法式書上「衆徒、凡、千有餘之中、衆分ト、入寺ト、阿闍梨ト、三階ニ相分カル、入寺八十五供ノ内、[illegible]、若、[illegible]退等之闕座有之時ハ、衆分之上座ヨリ、順次二致昇進、阿闍梨ニ闕座有之時ハ、入寺ヨリ座頭ニ昇進仕候」

しゅうぶんに(副)充分 じゅうぶんに(十分)ニ同ジ。

しゅうへい(名)從兵 下勢。從卒。史記、[illegible]、其[illegible]天下從兵、從兵已[illegible]、足下[illegible]行天下」

しゅうほ(名)充補 (一)オギナヒ、ミタスコト。補充。(二)官職ノ缺クルヲ、補フコト。[illegible]

しゅうぼ(名)從母 母方ノをば。爾雅、釋親「母之姉妹、爲從母」

しゅうぼく(名)從僕 シモベ。ツカヒヲトコ。僕。下男。

しゅうまい(名)從妹 女ノいとこノ、我レヨリ年下ナルモノ。左傳、莊公八年「連稱有從妹、在公宮、無寵」

しゅうまん(名)充滿 十分ニ、滿ツルコト。一杯ニナルコト。充實。充盈。充牣。南史、[illegible]、[illegible]皆充滿」平家物語、一、我身榮花事「[illegible]、充滿シテ、堂上、花ノ如シ」

しゅううん(名)受蘊 佛教ノ語、五蘊ノ一ニシテ、六識ノ、六塵ヲ受クルコト。卽チ、眼識ハ色塵ヲ、耳識ハ聲塵ヲ、鼻識ハ香塵ヲ、舌識ハ味塵ヲ、身識ハ觸塵ヲ、意識ハ法塵ヲ受クルヲ云フ。

しゅうめい(名)主命 主君ノ命。君命。狂言記、人馬「如何ニ、主命ナレバトテ」

しゅうめう(名)衆妙 多クノ、スグレタル、自然ノ道理。老子、第一章「玄之又玄、衆妙之門」

しゅうもく(名)衆目 多クノ人目。衆人ノ見ル目。張籍詩「滿堂虛左待、衆目望高還」

しゅうもん(名)宗門 しゅう(宗)ノ條ヲ見ヨ。心中重井筒(寶永、近松作)中「宗門ナレバ、日[illegible]ノ御門テ、[illegible]ナセニ[illegible]」

しゅうもんあらため(名)宗門改 江戸時代、耶蘇教ノ信仰者ナルヲ[illegible]ムタメニ、毎戸、又ハ、往來ニテ、其[illegible]スル宗門ヲ、取調ベタルコト。[illegible]錄、廿一、寛永十二年九月「伴天連并切支丹宗旨之儀、[illegible]、[illegible]、[illegible]中、[illegible]、[illegible]之宗門[illegible]、[illegible]之者、[illegible]、致言上云云」同、寛文十八年五月[illegible]一、[illegible]、きりしたん宗門[illegible]シ、所所ニ番ヲ付置、往反不都合、云云、向後、往還可[illegible]自由[illegible]」[illegible]、初集、百五、寛文十一年六月十九日、[illegible]、[illegible]宗門改之儀、[illegible]入ニ[illegible]由ニ候ヘ共、[illegible]、向後ハ、「百姓一軒ヅツ、人別帳ニ記」之、一村切ニ、男女之人數[illegible]致シ、又、[illegible]限ニ[illegible]トモ、[illegible]切ニ[illegible]トモ、[illegible]シメ、[illegible]、[illegible]申付、[illegible]作リ、手前ニ被差置、此方江ハ、當年之通リ、一紙手形可被差上候」

しゅうや(名)終夜 ヨモスガラ。ヨドホシ。終宵。[illegible]、宣公十二年「晉之餘師、不能軍、宵濟、亦終夜有聲」

しゅうよう(名)主用 主君ニ言付ケラレタル用事。

しゅうらい(名)衆籟 風ノ、巖穴、又ハ、枯木ナドニアタリテ、發スル聲。カザオト。[illegible]秋[illegible]夜[illegible]衆籟二[illegible]太平記、三十、持明院殿吉野遷幸事「衆籟、[illegible]ウシテ、月、庭前ノ松ニカカリ、[illegible]、[illegible]ニ叫ビテ、[illegible]ヲ送ル」

しゅうらい(副)從來 モトヨリ。マヘカタコリ。コレマデ。史記、西南夷傳「見蜀布邛竹杖、使問所從來」宋書、下休若傳「尋休若從來、必遠」

しゅうらん(名)縱覽 縱ニ、覽ルコト。勝手ニ見物スルコト。縱觀。[illegible]

しゅうりう(名)衆流 (一)多クノ水ノ流。[illegible]百官、[illegible]、其ノ[illegible]ニ相從フ、衆流ノ、海ニ入ルガ如ク、萬木ノ、風ニ靡クニ似タリ」(二)多クノ流派。衆派。

じゅうりやうぜい（ジユウ-リヤウ-ゼイ）（名）［從量稅］〔獨語、Spezifische Zölle. ノ譯語〕品物ノ數量ヲ標準トシテ、取立ツル關稅（從價稅ニ對ス）

しゅうりょ（名）［衆慮］多クノ思慮。多クノ人ノ、オモンパカリ。魏書、楊侃傳「豈可下以二一圖不一レ全、而棄上衆慮頓廢上」

しゅうるし（名）［朱漆］朱色ノ漆。アカウルシ。［紅漆］浦島年代記（元祿、近松作）一「浦島太郎久寿、之ヲ放ツト、朱漆ノ骨附」

じゅうるゐ（ジユウ-ルイ）（名）［從類］從者ノ輩。ケライドモ。盛衰記、十一、靜憲與二入道一問答事「靜憲法師ハ云云、召仕ヒ給ヒケル從類ハ、能モ賢ク、カモ人ニ勝レタリケリ」謠曲、望月「アヘナク討タレ給ヒシ後ハ、多カリシ從類モ、散散ニナリ」

しゅうれう（シユウ-リヨウ）（名）［終了］終ハルコト。ヲハリ。シマヒ。ハテ。「試驗、終了ス」

じゅうれふ（ジユウ-リヨウ）（名）［銃獵］銃ニテ、鳥獸ヲ獵スルコト（弓矢ナドニ對ス）

しゅうろん（名）［宗論］佛敎宗派ノ優劣ヲ論ジ合ヒテ、勝負ヲ決スルコト。（安土ノ淨土宗、日蓮宗ノ宗論ナド、名高キモノナリ）太平記、廿四、依二山門嗷訴一公卿僉議事「肝要ハ只、正法與二邪法一ノ論ナリ、然ラバ、禪僧與二聖道一召合セ、宗論候ヘカシトコソ存ジ候ヘ」狂言記「宗論」

しゅうろん（名）［衆論］衆人ノ論。後漢書、冠榮傳「陛下當下班二布臣之所一レ坐、以解中衆論之疑上」

じゅうわう（ジユウ-オウ）（名）［縱橫］（一）たてト、よこト。經緯。又、南北ト、東西ト。盧綸詩「川原踐實、跂路各縱橫」（二）思フママナルコト。勝手、氣ママナルコト。漢書、谷永傳「假二之威權、縱橫亂一レ政」杜甫詩「凌雲健筆意縱橫」

じゅうわうか（ジユウ-オウ-カ）（名）［縱橫家］支那ニテ、九家ノ一、時勢ヲ熟察シテ、人主ニ對シ、合離ヲ畫策スルモノ。卽チ、蘇秦ノ合縱、張儀ノ連橫ノ如シ。漢書、藝文志「縱橫家者流、蓋出二于行人之官一」

じゅうわうむげに（ジユウ-オウ-ム-ゲ-ニ）（副）［縱橫無礙］四方ニ、礙ルモノ無ク。衆ヲ相手ニシテ、思フサマニ。太平記、四十、最勝講時及二鬬諍一事「山徒ノ召仕ヒシ中方ノ者共、太刀、長刀ノ鋒ヲ調ヘ、四脚ノ門ヨリ込ミ入リテ、縱橫無礙ヲ切リテ廻リシカバ」「縱橫無礙ニ論破ス」

じゅうわうむじんに（ジユウ-オウ-ム-ジン-ニ）（副）［縱橫無盡］思フ存分ニ。自由自在ニ。太平記、十、三浦大多和合戰意見事「慧性、鬨ノ聲ニ驚キテ、馬ヨ、物具ヨト、アワテ騷グ處ヘ、義貞、義助ノ兵、縱橫無盡ニ驅ケタツル」

じゅうゐん（ジユウ-イン）（名）［充員］人員ヲ、補充スルコト。又、補充シタル人員。

じゅえ（名）［受衣］僧衣ヲ受ケテ、着ルコト。康富記、寶德二年八月廿二日「禁裏樣、今日內有二御受衣事一、夢窻國師御影有二拜參一」京都將軍家譜、義滿「應安五年十一月廿七日、御受衣」椿葉記（道欽親王）「應永二年十二月廿八日「此日、光明院、俄カニ御出家アリ、御發心ト聞ユ、其後、伏見ノほうあん寺ニテ、禪衣ヲ着シマシマス、長谷寺ノ御庵ニ、御隱居アリ」

しゅえい（名）［輸贏］〔篇海「凡、攻戰博簺、勝曰レ贏、負曰レ輸」〕カチマケ。シヨウブ。訛リテ、ゆえい。元稹詩「似二博賭一輸贏一」

しゅえい（名）［珠纓］珠ニテ裝飾セル冠。玉ノカウブリ。嚴叔倫詩「玉佩珠纓金步搖」

じゅえい（名）［孺嬰］アカゴ。チノミゴ。嬰孩。孺子。嬰孺。陶潛、祭二妹文一「慈妣早世、時尙孺嬰」

しゅえう（シユ-ヨウ）（名）［主要］オモ。カナメ。肝要。主眼。緊要

しゅえう（シユ-ヨウ）（名）［須要］缺クベカラザルコト。必要。必須。

じゅえう（ジユ-ヨウ）（名）［需要］（一）用アリ、要（モトメ）アルコト。（供給（キヨウキフ）ニ對ス）（二）經濟學ノ語、買フベキ金錢ヲ持ツ人ノ、物ヲ買ハムトスル望ミ。コレニ對シテ、人ノ、賣ラムトシテ持出シタル物ノ分量ヲ、供給ト云フ。

じゅえう（ジユ-ヨウ）（名）［壽夭］ながいきト、わかじにト、長壽ト、夭折ト。莊子、應帝王篇「鄭有二神巫一、曰二季咸一、知二人之死生存亡、禍福壽夭一」列子、力命篇「信レ命者亡二壽夭一、信レ理者亡二是非一」

しゅえん（名）［殊艷］殊更ニ、ウルハシキコト。太平記、一、三位殿御局事「後宮ノ美人、樂府ノ妓女トイヘドモ、天子、顧眄ノ御心ヲ附ケラレズ、只ニ、殊艷、尤態ノ、獨能ク、是ヲ致スノミニ非ズ」

しゅえん（名）［酒宴］サカモリ。集リテ、酒飮ミ、樂シムコト。漢書、疏廣傳「及レ置レ酒宴、奉レ觴上レ壽」太平記、十二、聖廟事「都良香、感ニ堪ヘカネテ、自、下リテ、御手ヲ引キ、酒宴、數刻ニ及ビ、樣樣ノ引出物ヲゾ進ラレケル」

じゅえん（名）［壽宴］［壽筵］年イハヒノ宴。賀宴。壽酒

しゅおん（名）［主恩］主君ノ恩、主人ノ恩惠。說苑（漢、劉向）「主恩不レ流、化澤不レ行」

しゅおん（名）［殊恩］コトナルメグミ。特別ナル恩惠。謝偃、酒舞賦「承二國臨之殊恩一」盛衰記、四十六、土佐房上洛事「平氏ヲ討チ、父耻ヲ雪グ、云云、賴朝、又、殊恩ヲ加フベキノ處ニ、惡、所領ヲ奪取ノ上、忽、誅殺セシメント欲スルノ間」

しゅか（名）［首夏］ナツノハジメ。陰曆、四月ノ稱。初夏。孟夏。謝靈運詩「首夏猶淸和、芳草亦未レ歇」

しゅか（名）［主家］主人ノ家。漢書、欒布傳「爲二其主家一報レ讎」「犬、主家ニ還ル」

しゅか（名）［酒家］（一）サカヤ。酒鋪。杜甫、飮中八仙歌「李白一斗詩百篇、長安市上酒家眠」（二）サケノミ。酒客。上戶。

じゅか（名）［儒家］（一）儒者ノ家。（二）儒學者。儒者。漢書、藝文志「儒家者流、蓋出二司徒官一、助二人君一、順二陰陽一、明二敎化一者也」

じゅが（名）［儒雅］儒者ニシテ、雅致アルコト。儒道ノ正義。三國志、魏志、李典傳「典、好二學問一、貴二儒雅一」杜甫詩「搖落深知宋玉悲、風流儒雅亦吾師」太平記、一、資朝俊基關東下向事「俊基朝臣ハ、身、儒雅ノ下ヨリ出デテ、望、勳業ノ上ニ達セシカバ、同官モ、肥馬ノ塵ヲ望ミ、長者モ、殘盃ノ冷ニ從フ」

しゅかい（名）［酒海］（一）古ヘ、酒ヲ盛ル器ノ名。江家次第、一、元日宴會「臺盤、置二酒海、御盞、杓、等一」造酒司式、釋奠料「朱漆酒海一口」同、諸節供御酒器「金銅酒海一合」倭名抄、十六九 漆器類「酒海、俗所レ用歟、與二酒海一各異」（二）正月元日、本願寺ニテ、門主ガ、親鸞上人ノ像ニ、酒肴ヲ供フル行事。橘窻自話、上「本願寺門跡ニ、正月元日、酒海ト云フ事アリ、云云、親鸞上人ノ像ノ前ヘ、肴ヲ供ラス事ト云ヘリ、云云、酒海トハ、酒ヲ湛ヘシ器物ナルヲ、イカテ、コノ酒肴供進ノ事ヲ、酒海ト云フニヤ」

じゅかい（名）授戒　始メテ、佛門ニ入ル者ニ、戒（カイ）ヲ授（サヅ）クルコト。又、受クル方ヨリシテハ、受戒（ジユカイ）ト云フ。（戒ノ條ヲ見合ハスベシ）玄蕃寮式「延曆寺授戒」平家物語、二、山門滅亡事「昔ヨリ、御灌頂、御授戒、皆、當山ニテ遂ゲサセ給フ事、先規也」漢書、薛宣傳「歸、恩受レ戒」

[illegible]ガク俯ヒ俯リシガ、頭刺リ、いむさとうけナドシテ、ソノ後ニヤ、ヨミガヘリタリシヲ」

じゅ-かい（名）[illegible]　[illegible]ヲ見ヨ。

しゅ-かう（名）[illegible]　（一）[illegible]ザシ。[illegible]（二）[illegible]ガヘ。シクミ。工夫。意匠　[illegible]

しゅ-かう（名）酒肴　さけト、さかなト。サケサカナ　[illegible]利ロ、[illegible]ヘ歸リ給ヒ、酒肴ナド[illegible]ケレバ、[illegible]モ、如何ニカクハ有ゾト云ヒケレバ」

しゅ-かう（名）酒酵　酒ヲ醗酵セシムルモノ。サケノモト。[illegible]

しゅ-かく（名）酒客　サケノミ。酒家。酒仙。[illegible]

しゅ-かく（名）酒権　[illegible]、獨占ノ義。酒ノ專賣（政府ノ）　[illegible]

しゅ-かく（名）主客　（一）アルジト、マラウドト。（二）主ナルモノト、從ノモノト。「[illegible]」

しゅ-かく（名）主格　文法ノ語、名詞、代名詞ナドノ、主語タル格。

しゅ-かく（名）珠閣　珠ノ如キ、麗シキタカドノ。[illegible]

しゅ-がく（名）朱學　朱子學ニ同ジ。

しゅ-がく（名）修學　修學ニ同ジ。

じゅ-がく（名）儒學　又、じゅがく。儒者ノ學問。孔孟ノ學問。[illegible]「世之學老子者、則絀儒學、儒學亦絀老子」

しゅ-がく-しゃ（名）修學者　學問ヲ修ムルモノ。又、學業ヲ修メタルモノ。學者。太平記、十七、山門攻事「東坂本ニ集リ居テ、山上ニハ、[illegible]修學者ノ外ハ、兵、一人モ無カリケリ」

しゅ-がさ（名）朱傘　室町時代ニ、貴人ノ使用セシ、地紙ヲ、朱色ニ染メタル傘。シユカラカサ　[illegible]ハ、只、醉狂ヤ、頭ハ、朱傘ノ、赤キハ、猿ノ山王[illegible]」

しゅ-かつ（名）酒渴　酒ニ醉ヒテ、喉ノ、カワクコト。[illegible]

しゅ-かん（名）手簡手束手翰　テガミ。書状。書札。書簡。[illegible]

しゅ-かん（名）珠汗　珠ノ如キ、アセ。玉ナス汗。[illegible]

しゅ-かん（名）主幹主監　トリシマリ。モトジメ。主任。「[illegible]ノ主幹」

しゅ-がん（名）主眼　目ボシキ所。メヌキ。眼目。「[illegible]ノ主眼」

しゅ-がん（名）朱顏　（一）アカキカホ。アカラガホ。赭顏。[illegible]（二）年少ニシテ、血色ノ美シキ顏。紅顏。[illegible]

じゅ-がん（名）入眼　開眼ト云フニ同ジ。又、にふがん。[illegible]、九十六「入眼ハ、開眼[illegible]」

[illegible]ト云フモ同ジ。

しゅ-からかさ（名）朱傘　朱傘ニ同ジ。[illegible]ノ上ニ、朱傘ヲ指シ掛ケシ事」

しゅ-き（名）手記　手ヅカラ、記シツクルコト。自ラ書キツケタル文書。手書。後漢書、公孫述傳「[illegible]手記、不可數得」

しゅ-き（名）酒氣　（一）酒ノ臭。酒ノ氣味。サカケ。[illegible]「[illegible]酒氣」（二）酒ニ、醉ヒタルコト。一杯機嫌。

しゅ-き（名）酒器　酒ヲ酌ムニ用キル器。さかづきノ類。[illegible]

しゅ-き（名）酒旗　酒屋ノ看板ノはた。サカバタ　杜牧詩「山村水郭酒旗風」[illegible]

しゅ-き（名）珠璣　「急就篇「圓者曰珠、不圓曰璣」」大小ノタマ。方圓ノタマ。[illegible]

しゅ-ぎ（名）主義　論ノ、旨ト立ツル所。説ノ、モトダテ。「主義ヲ枉ゲズ」

しゅ-ぎ（名）手技　手ニテナスワザ。手藝。史記、張安世傳「家童七百人、皆有手技作事」

しゅ-ぎ（名）酒妓　ゲイシャ。ゲイコ。

じゅ-き（名）授記　記莂ヲ、授クルコト。即チ、云云ノ因緣ニヨリ、將來、必ズ、菩提ノ果ヲ得ベキヲ說キ、人ヲシテ、コレヲ、心ニ期セシムルコト　[illegible]太平記、十八、一宮御息所事「[illegible]ゲテ、佛ノ授記ヲ得タルモノニテ候ヘバ、全ク、惡業ノ手向ヲ受クベカラズ」

しゅ-きう（名）守舊　[illegible]ヲ、守ルコト。保守。[illegible]

しゅ-きう（名）首丘　丘ニ、枕スルコト。モトヲ忘レザルコトニ云フ。（出典ノ故事ニヨリ）[illegible]首丘、[illegible]丘、不忘本也」字彙「[illegible]、云云、死則首丘矣」

しゅ-ぎう（名）種牛　タネウシ。タネトリウシ。[illegible]

じゅ-き-しゃ（名）受寄者　寄託ノ契約ニヨリテ、其受取リタル物品ヲ保管スルモノ。又、其保管ノ義務ヲ負フモノ。

しゅ-き-だいばん（名）朱器臺盤　王朝時代、藤原氏ノ氏ノ長者ノ大臣家ノ大饗ノ時ニ用キル、食器ノ名。食ヲ盛ル器モ、臺盤モ、スベテ、朱漆ナリ。他ノ大臣ハ、朱塗ヲ用キルコト能ハザリキト云フ。盤ノ長サ四尺、或ハ、八尺、幅三尺、脚アリ。床几ニ倚リテ、盤ニ就ク。[illegible]

しゅ-ぎ-はん（名）衆議判　歌合セノ際、讀ミ人ノ中ニテ、左右ノ方人、相互ニ、其優劣ヲ批評シテ決セザル時、判者ノ、裁定スルコト。[illegible]「衆議判ジュギハン」[illegible]一度モ違ヒヌレバ、千度、二千度ノ稽古ニモ超ス也」[illegible]、日日ニ去テ、[illegible]、タ、右中將ヲ設ケリ、自餘人數、不參日アレドモ、寂蓮、顯昭ハ、毎日ニ參テ、イサカヒ有ケリ、顯昭ハ、獨ニテ、[illegible]ヲ持タリケリ、寂蓮ハ、[illegible]ヲ擧ケテ、イサカヒケリ、殿中ノ女房、例ノ獨鈷、かま首ト名付ラレケリ」

增鏡、一、おどろの下「水無瀨殿ニテノ事ニヤ、當座ノ衆議判ナレバ、人人ノ心地、イトド置キ所ナカリケンカシ」吾妻鏡、五十一、弘長三年八月九日「御歌合、衆議判訖、有二御連歌一」

しゅ-きふ（名）首級 〔接尾語ノ級ノ條ヲ見ヨ〕討取リタル首。北史、張妄之傳「當以二短兵一接レ刃、親授二首級一」

しゅ-きん（名）手巾 テヌグヒ。テフキ。古詩、焦仲卿妻「手巾掩二口啼一」世說、文學篇「殷浩語二左右一取二手巾一與二謝郎一拭レ面」

しゅ-きゃう（名）酒狂 醉ヒテ、怒リ狂フコト。サカガリ、サカグルヒ。酒亂。漢書、蓋寬饒傳「無二多酌一我、我廼酒狂」著聞集、十、相撲強力「召加ヘテ、盃酌タビタビニ及ブ間、弘光、酒狂ノ言葉ヲ出ス餘リニ、亭主ノ卿ニ向ヒテ、申ス」

しゅ-ぎゃう（名）修行 （一）佛法ニ、行ヲ修スルコト。佛道ヲ修メ、善行ヲ積ムコト。又、しゅぎゃう。晉書、鳩摩羅什傳「務レ性率達、不レ拘二小檢一、修行者頗共疑レ之」續紀、八、養老五年六月戊戌、詔「沙門行善、負レ笈遊學、既經二七代一、備嘗二難行一、云云、如有下修二行天下諸寺一恭敬供養上、一同二僧綱之例一」古事談、三、僧行「自二京方一修二行東國一之僧、武藏國ニ落留テ、法花經ナド、時時、讀テアリケル」太平記、三十五、北野通夜物語事「最勝園寺貞時モ、追二先蹤一、又、修行シ給ヒシ」（二）スベテ、藝術ナドヲ、研キ習フコト。學ブコト。稽古。漢書、儒林傳「凡通二經術一、固當レ修二行先王之道一」「武者修行、爲問修行」

しゅ-ぎゃう（名）執行 （一）事務ヲ、執リ行フコト。執行。（二）寺院ノ事務ヲ統ブル職。（しぎゃうトモ讀ム）平家物語、三、有王島下事「法勝寺ノ執行、俊寛僧都ト申ス人ノ、御行末ヤ知リタルト、問フ」「法性寺ノ執行、祇園ノ執行、吉野ノ執行」

じゅ-きゃう（名）誦經 又、じゅきゃう。聲ヲ立テテ、經文ヲ誦ミアグルコト。諷經。平家物語、三、御產卷事「御誦經ノ御使ニハ、宮ノ侍ノ中ニ、有官ノ輩、是ヲ勤ム」

じゅ-ぎゃう（名）孺形 あまがつ（天兒）ノ（一）ニ同ジ。殿中日日記「御加持爲二御使一、御產所ヘ御參リ、例式、御上下著ナリ、御衣、平裹ニ包ミテ、御臍蓋ニ据ワル、御護刀、御しゅぎゃう、別ノ御長持ニ入レ、大門ヨリ出ヅ」

しゅぎゃう-じゃ（名）修行者 （一）又、しゅぎゃうざ。佛道ヲ修行スルタメニ、行脚スル僧。山林、抖擻ノ身トナリテ、托鉢、行脚スル僧。晉書、鳩摩羅什傳「修行者、頗共疑レ之」太平記、三十五、北野通夜物語事「故宮ノ有樣ヲ見給テ、何ナル人ノ棲處ニテカアラント、事問給處ニ、云云、修行者、感涙ヲ押テ、立歸ニケリ」（二）廻國、順禮スル者。

しゅ-きゃく（名）手脚 てト、あしト。テアシ。手足。楊基詩「手脚皴皺雙鬢禿」

しゅ-きゅう（名）守宮 （一）ヤモリ。（二）トカゲ。（蜥蜴）事文類聚（宋、祝穆）「漢武帝時、以二端午日一取二蜥蜴一置二之器一、飼以二丹砂一、至二明年端午一搗レ之、以塗二宮人臂一、有レ所レ犯消沒、不レ爾則如二赤痣一、故、得二守宮之名一」

じゅ-ぎょ（名）入御 內ニ、入リ給フコト。（帝王ニ申シ、僭シテハ、公方ニモ云フ）太平記、十二、聖廟事「後生、菩提ノ御追善ヲノミ申シ居候ニ、少シモ替ラヌ元ノ御形ニテ、入御候ヘバ、夢幻ノ間、辨ヘ難クコソ覺エテ候ヘ」

しゅ-きょう（名）酒興 酒ニ醉ヒタル上ノ興。元稹、送二友封一詩「顛狂酒興病來孤」「酒興ニ乘ジ、立チテ舞フ」

じゅ-きょう（名）入興 興ニ、入ルコト。遊ビノ、一段、面白クナルコト。著聞集、十六、興言利口「比興ノ事、彼ノ卿聞カレテ、入興セラレケリトナン」下學集、下、言辭門「入興、ジユキョウ」

しゅ-ぎょく（名）珠玉 （一）又、しゅぎょく。眞珠ト、玉ト。タマ。字類抄「珠玉」孟子、盡心、下篇「寶二珠玉一者、殃必及レ身」「金銀珠玉」（二）貴ビ重ンズベキモノニ譬ヘテ云フ語。（三）美麗ナル狀ニ譬ヘテ云フ語。晉書、王衍傳「夷甫處二衆中一、如二珠玉在二瓦石間一」杜甫、和二賈至早朝一詩「詩成珠玉在レ揮毫」

しゅく（名）叔 （一）父母ノ弟妹。をぢ、又ハ、をば。（二）夫ノ弟。爾雅、釋親篇「夫之弟爲レ叔」

しゅく（名）祝 かんぬし、及、かみなぎノ條ヲ見ヨ。

しゅく（名）柷 樂器ノ一、形、角ナル炭櫃ノ如クニシテ、方二尺四寸、深サ一尺八寸、內ニ椎柄アリテ、底ニ連ナリ、側ニ孔ヲ穿チ、手ヲ中ニ入レテ、コレヲ擊ツ。書經、益稷篇「合止柷敔」教訓抄、九「柷敔、謂二之魚鼓一、樂器也」

しゅく（名）宿 （一）ヤドヤ。トマリヤド。旅宿、旅舍。（二）ウマヤ。街道ノ、宿アル處。驛。宿場 著聞集、一、神祇「顯通大納言、云云、公卿勅使承リテ下ラレケルニ、何レノ宿トカヤニテ、宸筆ノ宣命ヲ取リ落シ、立タレニケリ」

しゅく（名）縮 鎧ヲ、着ルコト。いっしゅく（一縮）ノ條ヲ見ヨ。

しゅく（名）夙宿 しゅく（戶倶）ノ語原、及、其條ノ（一）ヲ見ヨ。賤者考「夙ト云フ地、諸國ニアリテ、本村ナルト、枝鄕、小名ニテアルト、クサグサナレド、皆、普通ノ里民ヨリ、忌ミテ、婚ヲ通ゼズ、同火ハ、忌ム所、忌マサル所アリテ、云云、夙ハ、守戶ノ轉稱ニテ、卽、昔ノ陵戶ナドノ殘レルナラムト、或人ノ云ヘル、宜宜シク聞ユ」

しゅく（接尾）宿 旅ノ宿リヲ數フル語。トマリ「一宿三宿」

じゅく（名）塾 學術ヲ教フル者ノ家ニテ、弟子ヲ寄宿セシムル室。禮記、學記篇「古之教者、家有レ塾、黨有レ庠」

しゅく-あ（名）宿痾 久シク癒エザルやまひ。持病。痼疾 沈痼 王安石、賀レ生二王子一表「以二宿痾一而自困」

しゅく-あく（名）宿惡 古ク、ナシタル惡事。舊惡。唐書、李頣傳「郎城送レ獄、盡條二宿惡一、請二於尹一殺レ之」

しゅく-あん（名）宿案 しゅくこう（宿構）ニ同ジ。

じゅく-あん（名）熟案 じゅくかう（熟考）ニ同ジ。

しゅく-い（名）宿意 （一）カネテノ意趣。太平記、十二、兵部卿親王流刑事「直義朝臣、日來ノ宿意ヲ以テ、禁籠シ奉リケルコソ、淺マシケレ」（二）年來ノ意見。宿志 晉書、王渾傳「非二陛下追二述先帝文明太后待一、攸之宿意一也」平家物語、二、西光被レ斬事「新大納言ヘ、山門ノ騷動ニヨリテ、私ノ宿意ヲバ、暫ク抑ヘラレケリ」

しゅく-いん（名）宿因 佛經ノ語、宿世ノ業因。前世ニ作リシ、善惡應報ノタネ。前因。宿緣。楞嚴經「汝宿世與二摩登伽一、歷劫因緣、恩愛習氣、非二是一生、及與二一劫一」張喬詩「千燈有二宿因一、長老許二相親一」盛衰記、十八、文覺高雄勸進事「此ニ、文覺、思ケルハ、宿因、多幸ニシテ、出家入道ノ身ヲヘ、破壞ノ堂舍ヲ修補シ、無緣ノ道場ヲ相訪テ」

しゅく-う（名）宿雨 （一）連日、降リツヅク雨。霖雨（二）前夜ヨリノ雨。王維詩「桃紅復含二宿雨一、柳綠更帶二朝煙一」

しゅ-ぐう（名）殊遇 特別ノ、手厚キモテナシ。殊ナル待遇。優遇。諸葛亮、前出師表「蓋追二先帝之殊遇一、欲レ報二之於陛下一也」

しゅく-うん（名）宿運 前世ヨリ、定マレ

[illegible]ペキニハアラネドモ、宿曜、忽ニ起キヌレバ、大法、祕法ノ[illegible]

しゅくえ（名）宿衣 [illegible]

しゅくえい（名）宿衛 （一）宿直ノ番所。（二）[illegible]陣屋 兵[illegible]

しゅくえう（名）宿曜 しゅくえう（宿曜）ニ同ジ。

しゅくえうし（名）宿曜師 [illegible]

しゅくえうだう（名）宿曜道 又、しゅくえう。宿曜ヲ說ジタル、宗教ノ如キモノ。二十八宿、七曜、九曜、等ノ星ノ運行ヲ見テ、日曜、月曜、又ハ、人命ノ吉凶、禍福ヲ占フ、コレヲ行フ者ヲ、宿曜師ト云フ。[illegible]仁二年二月一日「今日可」有三日蝕一之由、宿曜道勘法[illegible]御抄、上、凡僧「御修法作僧之外、宿曜東寺不」入[illegible]ナドスルハ別事也、御所不」坐事也」同、下、御祈[illegible]道、宿曜ト云フ宿曜師、大殿（師實）劫クオハシケル時、宿曜ノ勘文ニ、十九ニテ、大臣ニナリ給ベシト勘[illegible]

[illegible]

しゅくえき（名）宿驛 シュクバ。シュク。ウマヤ。ツギバ。驛 [illegible]道五十三驛ノ一ナリ、云云、相、傳フ、此地、宿驛ヲ置レシハ、元和以後ノ事ナリ」享保集成絲綸錄、廿[illegible]ニテ渡世致サセ可」申候」吾妻鏡、四十二、建長四年[illegible]

しゅくえん（名）宿緣 宿世ノ緣、宿因。[illegible]

しゅくえん（名）祝宴 祝ヒノ酒盛。賀宴「天長節ノ祝宴」

しゅくえん（名）祝筵 イハヒノ宴席。賀席「[illegible]ノ祝筵」

しゅくおくり（名）宿送 或ル宿ヨリ、或ル宿ヘ、遞送スルコト 宿次 宿繼 驛次。郵傳。梅花無盡藏、三、上「出二上田山大義[illegible]

しゅくおん（名）熟音 五十音中ノ、あ・い・う・え・お・ノ五母韻ヲ除キテ、其他、スベテ、發聲ト、母韻ト熟シテ成ル音ノ稱。

しゅくが（名）祝賀 イハヒ。コトホギ。ヨロコビ。

しゅくかう（名）宿好 以前ヨリノ嗜好。年頃ノコノミ 陶淵詩「詩書敦二宿好一」

しゅくかう（名）淑行 （一）善良ナルおこなひ [illegible]（二）婦人 美德 貞淑ナル行爲

じゅくかう（名）熟考 ツラツラ、カンガフルコト。深ク思案スルコト。熟思。熟慮。熟案「熟考ヲ要ス」

しゅくがく（名）宿學 以前ヨリ、名望ノ高キ學者。久シク、經驗ヲ積メル學者。積學 宿儒 史記、莊周傳「雖二當世宿學一不レ能二自解免一也」

しゅくかご（名）宿駕籠 驛路ノ駕籠。驛家ノ雇夫ヲシテ、昇カシム。一ニ、雲助駕籠トモ云フ 守貞漫稿、後集、三、駕車「宿駕籠、宿吾ニテ、しゅくかごト云、俗ニ、驛ヲ、宿ト云、故ニ、驛路ノ駕ト云心也、自驛ヲ越サル旅人ハ、用之、俗ニ、雲助ト云、驛家ノ雇夫ヲシテ昇カシム、故ニ、雲かごトモ云」

しゅくがよひ（名）宿通 宿場ノ遊女ノ許ニ、通フコト、宿場ガヨヒ [illegible]八景[illegible]中「下人一人拾タズシテ、宿通ひノヲカシサヨ」

しゅくき（名）宿耆 トシヨリ、老人。

しゅくき（名）淑氣 春ノ、和カキ氣。春ノ、メデタキ氣。杜審言詩「淑氣催二黃鳥一、晴光轉二綠蘋一」

しゅくき（名）夙起 朝ハヤク、起クルコト ハヤオキ 蚤起

じゅくぎ（名）熟議 善ク、評議シ合フコト ツラツラ、談合スルコト 熟談 宋史、[illegible]

じゅくくゎう（名）熟荒 米價、賤シクナリテ、士人ノ、困窮スルコト [illegible]

しゅくくゎん（名）宿官 本年新タニ敍爵セル外記、史、等ノ、巡ニヨリテ、受領スベキモノガ、其ノ順ヲ待ツ間、暫シ任ズル、諸國ノ權守、權介、等ノ稱 江次第抄、[illegible]所宿任一也」

しゅくくゎん（名）宿患 （一）以前ヨリノウレヘ （二）ナガワヅラヒ 年來ノ病氣。宿痾。

しゅくぐゎん（名）宿願 久シク掛ケシ願ヒ カネテノ願望 宿望 [illegible]大將軍、痛ク存ズル仔細、多ク侍リ、聊カ、宿願ノ事アリテ、八幡ニ[illegible]侍フニ、サトシ侍リキ」

しゅくけい（名）肅敬 ツツシミ、ウヤマフコト 恭敬 [illegible]

しゅくけい（名）夙慧 ツトニ、サトキコト 幼稚ヨリ、敏慧ナルコト 早慧

しゅくけい（句）肅啓 ツツシミテ申上グ、ト云フ義ニシテ、書狀ノ初ニ書ク語、拜啓。

しゅくけい-しゃ (名) 「淑景舍」 しげいさノ條ヲ見ヨ。

じゅく-ご (名) 「熟語」 (單語ニ對ス) 數語、相、連ナリテ、一語ノ意義ヲナスモノ。成語。

しゅく-こう (名) 「宿構」 詩文ヲ作ルニ、豫ネテ工ミ設ケシモノ。宿案。懷劒。 三國志、魏志、王粲傳「善屬レ文、擧レ筆便成、無レ所二改定一、時人常以爲二宿構一」

じゅく-こく (名) 「熟谷」 天明頃、江戸、牛込、若松町ニアリシト云フ、切店ノ稱 (切見世ノ條ヲ併セ見ヨ) 寛天見聞記「牛込若松町ニ、じゅくこくトテ、切りみせアリ」

しゅっ-こつ-と (副) 「倏忽」 タチマチニ。 戰國策、楚策「倏忽之間、墜二於公子之手一」 漢書、敍傳「辰倏忽其不レ再」

じゅくご-はふ (名) 「熟語法」 語學ノ語、動詞ノ語尾ノ變化ノ、他語ト、結合シテ、熟語トナルモノ。

しゅく-ごふ (名) 「宿業」 宿世ノ業。前世ノ報。 平治物語、一、光頼卿參內事「惟方ハ、人モヤ聞クラント、ヨニ、冷ジゲニテ立タレタレドモ、且ハ悲シクテ、我、如何ナル宿業ニ依リテ、カカル世ニ生レ合ヒ、憂キ事ヲノミ、見聞クラン」

しゅく-こん (名) 「宿根」 (一)本草家ノ語、草ノ、其年ニ、苗、枯レテ、根、存リ、明年、其根ヨリ、苗ヲ生ズルモノ。其草ヲ、宿根草ト云フ。 蘇軾、甘菊詩「宿根寒不レ枯」 (二)佛敎ノ語、前世ヨリ定マレル機根 平家物語、一、鵜川合戰事「師光ハ、阿波ノ國ノ在廳、成景ハ、京ノ者、宿根、賤シキ下﨟ナリ、健兒童カ、若クハ、格勤者ニテモヤ、アリケン」

しゅくこん-さう (名) 「宿根草」 前條ノ(一)ヲ見ヨ。(一年生ノ草ニ對ス)

しゅく-さい (名) 「祝祭」 (一)イハヒ、マツルコト。 詩經、小雅、北山之什、楚茨篇「祝祭二于祊一、祀事孔明」 (二)祝日ト、祭日ト。

しゅく-さい (名) 「宿債」 以前ヨリノ負債。以前ノ借財。舊債。 徐陵、陳武帝即位詔文「逋租宿債、皆勿二復收一」 黃公度詩「千畝償二宿債一」

しゅく-ざい (名) 「宿罪」 以前ヨリノ罪障。過去ノ罪科。 三國志、吳志、孫權傳、註「先王恩仁、既釋二其宿罪一」 盛衰記、九、康賴熊野詣事「朝夕ハ、南無懺悔、至心懺悔、六根罪障ト、宿罪ヲ悔、寢テモ、覺テモ、心ニ心ヲ誠テ、三歸、五戒ヲ守ツツ」

しゅく-さつ (名) 「肅殺」 秋氣ノ、物ヲ、ソコナヒ枯ラスコト。 禮記、鄕飮酒義篇、疏「天地肅殺、此天地之義氣也」 唐書、韓皐傳「秋者、天將二搖落肅殺一」

しゅく-さつ (名) 「縮刷」 縮メタル印刷物。「辭書ノ縮刷」

じゅく-さつ (名) 「熟察」 ツラツラ、察スルコト。篤ト、考察スルコト。熟思。 史記、鄒陽傳「願大王熟察、少加二憐焉一」

しゅく-し (名) 「夙志」 夙クヨリ、立テタル志望。幼時ヨリノ志願。宿志。 韓愈詩「吾聞九疑好、夙志今欲レ伸」

しゅく-し (名) 「宿志」 年來、抱懷シタル志望。カネテノ志願。宿望。夙志。素志。 後漢書、王霸妻傳「奈何忘二宿志一、而慙二兒女子一乎」

しゅく-し (名) 「宿食」 前ノ日ニ、炊キタル飯 北周書、姚僧坦傳「此有二宿食一」

しゅく-し (名) 「宿紙」 又、すくし、漉返シノ紙、色、薄黑ケレバ、薄墨紙トモ云ヒ、古ヘ、禁中ノ雜用トセルモノ。カミヤガミ。(紙屋院ニテ、禁中御用ノ反古紙ヲ漉返シタレバ、云フ) 下學集、下、器財門「宿紙、注「薄墨之紙也、又、云二紙屋一、紙ハ、公家之所レ用也」 薩戒記、應永三十三年七月廿八日「今日、雜談之次、右大辨宰相云、除目召名、於二奏任一者、可レ書二白紙一之由、見二舊記一、而近代必用二紙屋紙一、不レ可レ然之由、注二故瑞雲院贈左府記一者、此事尤不審、往昔所レ謂之白紙者、宿紙之事也」 海人藻芥、中「綸旨書紙、曰二宿紙一」 好古小錄、下、雜考「或說ニ、宿紙ハ、還魂ナラズ、淡黑色ニ染タル者也、其故ハ、製、麁ナリトイヘドモ、故紙ノ墨色、此ノ如ク存センヤト、予云、此說、非ナリ、承元中ノ宿紙ニ、故紙ノ文字、存スル者有レバ、反古ヲ以漉キ返シタル者ナルコト、必セリ」

しゅく-し (名) 「祝史」 神主。ハフリ。ミコ。 唐書、禮樂志「祝史陪二其後一、皆北向」

しゅく-し (名) 「祝詞」 (祝詞ナルベシ) (一)神ニ祈ルコトバ。ノリト。 唐樂章「祝詞以レ信、明德惟馨」 (二)賀儀ナドノ席ニテ、祝フ意ヲ述ブルコトバ。多クハ、文ニ綴リ記セルヲ云ヒ、又、祝文ナドトモ云フ。祝辭。

しゅく-じ (名) 「祝辭」 前條ノ(二)ニ同ジ。

しゅく-じ (名) 「宿次」 (一)トマルコト。ヤドリ。ヤド。宿泊。(二)しゅくおくり(宿送)ノ條ヲ見ヨ。

じゅく-し (名) 「熟視」 ツラツラ、ミルコト。善ク、見ツムルコト。熟覽 戰國策、齊策「徐公來熟視、自以爲レ不レ如」 莊子、知北遊篇「熟視二其狀貌一、窅然空然」

じゅく-し (名) 「熟柿」 ヨク、ウルミタル柿。キザハシ。キザガキ。ぞくし。 狂言記、成上物「習柿ガ、熟柿ニ成リ上ガリマス」 伊曾保物語(文祿)「身ガ賞翫セウト思切ッテ居タ、其熟柿ヲバ」

じゅく-し (名) 「熟思」 ツラツラ、考フルコト。ヨク、思慮スルコト。熟考。熟慮。 梁元帝箴「事之大小、先當二熟思一」

じゅく-し (名) 「熟紙」 (生紙ニ對ス) 礬水ヲビキノ紙。礬紙 邵博、聞見後錄「唐有二熟紙一、有二生紙一、熟紙所レ謂妍妙輝光者、其法不レ一、生紙非レ有二喪故一不レ用」 夜航詩話「唐人書二詩文一、必用二熟紙一」 式部省式「凡五位已上、歷名及補任除目、并、年中宣旨、奏、每色、抄二寫熟紙一、以爲二長案一」 主稅寮式「凡、租稅損益帳者、以二堅厚熟紙一書レ之」

じゅく-じ (名) 「熟字」 漢字ノ、二箇以上ノ字、相、連リテ、一語ノ意義ヲナスモノ。漢字ノ熟語。

じゅく-しき (名) 「熟識」 (一)物ヲ、ヨク知リ居ルコト。熟知 (二)親シク知リ合フ友。

しゅく-しつ (名) 「宿疾」 以前ヨリ、治ラヌ疾。持病。痼疾。宿痾 宿患 北史、裴寬傳「弟漢、少有二宿疾一、恒帶二羸瘵一」

しゅく-じつ (名) 「祝日」 祝フ事アル日。イハヒビ。「天長祝日」

しゅく-しふ (名) 「宿執」 佛敎ノ語、宿世ノ執念、以前ヨリノ因果 十訓抄、中、第七、廿八條「思ヒ知ラヌニハ無ケレドモ、前世ノ宿執ニヤ、コノ事、去リ難ク心ニカカリ侍レバ」 徒然草、百四十四段「アナ尊ヤ、宿執開發ノ人カナ、阿字阿字ト唱フルゾヤ、イカナル人ノ御馬ゾ、餘リニ尊ク覺ユルハト」

しゅく-しふ (名) 「宿習」 以前ヨリノ習慣。フルキ、ナラハシ。舊習 張九成詩「宿習猶未レ除、新侍漫懷レ舊」

しゅく-じふ (名) 「宿習」 佛敎ノ語、過去世ヨリ來レル風習、 天台別傳「宿習開發、煥若二華敷一矣」 太平記、四、笠置囚人死罪流刑事「道譽、中納言殿ノ御前ニ參リ、如何ナル先世ノ宿習ニヨリテカ、多クノ人ノ中ニ、入道、預リ進ラセテ」

しゅく-しん (名) 「宿心」 以前ヨリノ心。

カネテノ志望。宿志 素志 [illegible]

しゆくしん (名) 肅愼 支那ノ北方ノ地名(今ノ滿洲ノ地)。此地ハ、一ニ、挹婁トモイヒ、又、靺鞨トモイフ、後世ノ女眞ハ、正ニ此地ニ當ルトイフ、後、條天皇ノ寬仁中、我ガ國ニ來寇セシトイフハ、刀伊ハ、女眞ヲ稱セルモノニテ、後ニ、女直トモイヒ、國號ヲ、金トイフ アシハセ [illegible]「…北極ニ弱水ハ其土界、廣袤數千里、居ニ深山窮谷、其路險阻、車馬不ㇾ通、夏則巢居、冬則穴處、父子世爲ニ君長ニ無ニ文墨ハ以ニ言語ニ爲ㇾ約、有ニ馬不ㇾ乘、但…」[illegible]

しゆくしん (名) 淑人 善良ナル人。德行アル人。[illegible]「…淑人ハ正ニ是國人ハ胡不ニ萬年ニ」

しゆくしんば (名) 肅愼羽 隼、鷲ナドノ羽(矢ニ矧グ)ニイフ [illegible] 記、仁安三年十月廿一日「左、師子、蘭渕下鍛、蘇芳…」[illegible]、本朝軍器考、四、弓矢「肅愼羽ハ、古、肅愼之地ナリトハ…」[illegible]ヲ、肅愼トハ稱セシニヤ、今モ、蝦夷地方ヨリ出ル物ハ、其品、スグレテ侍リト」

しゆくしや (名) 宿舍 ヤドル屋舍。宿泊所 ヤド ヤドリ 史記、張儀傳「蘇秦使ㇾ人…」[illegible]

しゆくしや (名) 縮寫 モトノ形ヲ、小サク縮メテ寫スコト「[illegible]」

しゆくしやう (名) 宿將 古クヨリノ大將 老功ナル大將 老將 戰國策、[illegible]「用晗宿將也、而孫子善用ㇾ兵」

しゆくしやう (名) 宿生 さくせ(宿世)ニ同ジ。

しゆくじやう (名) 宿情 以前ヨリノ心。モトヨリノ心。宿志。禮記、王制篇、疏「聽…[illegible]…其宿情、立ニ其爲ㇾ義、ハ爲ニ平原之忠、而免ㇾ放」

しゆくしゆ (名) 祝酒 祝ヒニ飲ム酒 イハヒザケ。

しゆくしゆ (名) 宿儒 博學、年功ノ儒者、老儒 宿學、宿碩 漢書、[illegible]、是時宿儒…[illegible]

しゆくしゆくと (副) 肅肅 (一)靜カナル狀ニ云フ語 [illegible]「…兮肅肅」(二)整ヒタル狀ニ云フ語 [illegible] (三)嚴カナル狀ニ云フ語 詩經、小雅、都人士之什、[illegible]「…召伯…之」(四)[illegible]散ノ狀ニ云フ語 詩經、小雅、文王之什、思齊篇「雝雝在ㇾ宮、肅肅在ㇾ廟」(五)羽音ニ云フ語。詩經、小雅、彤弓之什、鴻雁篇「鴻雁于飛、肅肅其羽」(六)松聲ニ云フ語。世說「嵇康肅肅、如ニ松下風ニ」(七)疾速カナル狀ヲ云フ語。詩經、召南、小星篇「肅肅宵征、抱ㇾ衾與ㇾ裯」

しゆくしゆくと (副) 蹜蹜 小股ニ步ク狀ヲ云フ語 禮記、玉藻篇、執ㇾ龜玉ハ擧ㇾ前曳ㇾ踵、[illegible]如也」

しゆくしゆくと (副) 蹙蹙 チヂマル狀ヲ云フ語 詩經、小雅、祈父之什、節南山篇 [illegible]

しゆくしよ (名) 宿所 ヤドルトコロ 住ム家 スマヒ [illegible] 平治物語、一、信西宿所燒拂ハ事「…姉小路西洞院ヘ押寄セテ、火ヲカケタレバ」[illegible]「…四方ハ壁壘ハ所ㇾ聚」

しゆくしよう (名) 祝勝 勝軍ノ祝ヒ 勝利ヲ、祝フコト 祝捷。

しゆくしよう (名) 蹙踖 恐レテ、安ンゼザルコト。漢書、揚雄傳、徒角搶題注、[illegible]魂亡魄失」

しゆくしろ (名) 宿城 平地ニ、城ヲ構ヘ、城下ヲ設ケタルモノ [illegible] 名目抄、居所、廿二、所ㇾ引、足利義氏狀)「今般、佐竹義重、向ニ于宿表ニ動候處、中務大輔入、惣御家中…」[illegible]、宿城ノ矢倉、[illegible]、則チ、御…、入カハル者也、其外、新城、岩盬宿城、等、悉ク城ヲ披テ、御方ニ出入ス」

しゆくす (スル・スレ・セ・シ・セヨ)(自動、左變) 宿 ヤドル。泊ル。宿泊ス。史記、孔子世家「孔子遂行、宿乎屯」」

しゆくす (スル・スレ・セ・シ・セヨ)(他動、左變) 祝〔祝すノ誤〕 イハフ。コトブク。賀「凱旋ヲ祝す」入學ヲ祝す」

じゆくす (スル・スレ・セ・シ・セヨ)(自動、左變) 熟 (一)煮ラレテ、成ル。左傳、宣公二年「宰夫胹ニ熊蹯ニ不ㇾ熟」「飯、熟す」(二)熟ム ウム ユ (稻、果ナドニ) 禮記、[illegible]「五穀不ㇾ時、果實未ㇾ熟、不ㇾ粥ニ於市ニ」「柿、熟す」(三)維リテ、熟ル (醸ス物ナドニ) 宋書、[illegible]「酒熟ハ取ニ頭上葛巾ニ漉ㇾ酒」(四)全ク調フ 十分ニ成ル。「相談、熟す」(五)爲ルニ、馴ル。巧ミニナル、上手ニナル 熟練ス、練磨ス (學術ナドニ)(六)適ス、適合ス

しゆくすゐ (名) 宿醉 フツカエヒ。宿酲 [illegible]「…宿酲初醒一倍…」「…宿醉、未ダ醒メズ」

じゆくすゐ (名) 熟醉 十分ニ、醉フコト、爛醉 蘇軾詩、[illegible]「…熟醉呼不ㇾ起」

じゆくすゐ (名) 熟睡 靜カニ善ク、寐入ルコト。グッスリト、ネムルコト。熟眠。蘇軾詩「東坡但熟睡、一夕一展轉」

しゆくせ (名) 宿世 スクセ 宿生 平家物語、一、妓王事「ソノ上、我御前ハ、男女ノ…、宿世、今ニ始メヌ事ゾカシ」

しゆくせい (名) 夙成 夙ク、成就スルコト。早ク、成人トナルコト。マセルコト。早熟 晚成ニ對ス 後漢書、[illegible]、[illegible]「…聰敏、有ニ夙成之德ニ」

しゆくせい (名) 叔世 スヱノ世。末世。左傳、昭公六年「三辟之興、皆叔世也」

しゆくせい (名) 淑清 (一)天下、能ク治マリテ、清キコト [illegible] 漢、丁零「今海內樂ㇾ業、朝廷淑淸」(二)朗カニシテ、清キコト 淮南子、本經訓「日月淑淸而揚ㇾ光」

しゆくせい (名) 肅清 嚴重ニ取締リテ、不正ヲ除去スルコト 後漢書、[illegible]「…姦、善糾ㇾ違、肅ニ淸朝府ニ」「官紀肅淸」

しゆくせい (名) 肅靜 ツツシミテ、シヅカナルコト。靜肅 北史、[illegible]「…北城肅靜、一方肅靜」

しゆくせい (名) 塾生 塾ニ居ル生徒

しゆくせう (名) 縮小 チヂマルコト 小サクスルコト 釋名「人及物老、皆縮ニ小於舊ニ也」「軍備縮小」

しゅく-せき (名) 宿夕 〔宿ハ、夜ノ義〕一夕、一夜。ヒトヨ、ヒトバン。(僅少ノ意) 戰國策、趙策「不ㇾ出宿夕ニ人必危ㇾ之矣」

しゅく-せき (名) 宿昔 (一)ヨベ。昨夜、(二)キノフ。昨日サクジツ (三)フダン。平生。張九齡、照ㇾ鏡見ニ白髮ヲ詩「宿昔青雲志、蹉跎白髮年」

しゅく-せき (名) 宿碩 碩學ノ大學者。老功ノ大家

しゅく-せき (名) 蹙蹐 ヌキアシ。足ヲ縮メ、爪先ヲ立テテ步クコト。(恐懼ノ貌) 謝照、尺蠖賦「逢ㇾ險蹙蹐、値ㇾ夷舒步」

しゅく-ぜん (名) 宿善 佛敎ノ語、前世ニ爲セル善根。保元物語、一、後白河院御卽位事「御齡モイマダ盛ニ、玉體モ恙ナクオハシマセドモ、宿善、内ニ催シ、善緣、外ニ勸レテ、眞實、報恩ノ道ニ入ラセ給フゾ、メデタキ」

しゅく-せ-むすび (名) 宿世結 えんむすび(緣結)ノ(二)ニ同ジ。

しゅく-ぜん-と (副) 肅然 (一)嚴カニシテ、整ヒタル狀ニ云フ語。史記、封禪書「時去時來、來則風肅然」 (二)靜カナル狀ニ云フ語 「滿坐肅然トシテ傾聽ス」

しゅく-せん-りょう (名) 縮線綾 シジラヲ寄セテ織リタル綾。卽チ、地ニ、縮チヂミヲ織リタルモノ。又、しぢら地トモ云フ。三條家裝束抄「一、上袴、壯年ノ人、縮線綾ト稱シテ、白キ浮織物、地ハ、小石疊、(號ニ之霰ニ也)其中ニ、有ニ窠ノ文ニ」

しゅく-そ (名) 宿訴 積ネテノウッタヘ。年來ノ訴訟 盛衰記、十、賴豪祈ニ出御子ニ事「勸賞ハ、乞ニ依ベキヨシ、敎約、今更、改ヘカラス候ナリ、寺門ノ宿訴ト云、賴豪カ本意ト云、所望、只此事ニ有ト奏申」

しゅく-たい (名) 縮退 チヂマリ、シリゾクコト。恐縮シテ、尻込スルコト。三國志、吳志、呂蒙傳「數爲ニ邊寇ニ、遣ニ使ニ人誘ニ之、不ㇾ從則伺ㇾ隙襲擊、奇遂縮退」

しゅく-だい (名) 宿題 詩文ノ題ニ、會日ノ數日前ニ出シ置キテ、作ラシムルモノ。兼題。(席上ノ題ニ對ス)

しゅく-たう (名) 祝禱 シュクトウ 神官ヲシテ、神ニ禱イノラシムルコト。宋史、天文志「主ニ北方邑居、廟堂祭祀祝禱事ニ」

しゅく-だく (名) 宿諾 承諾シタル事ヲ、直チニ實行セズ、其儘、打チステ置クコト。論語、顏淵篇「子路無ニ宿諾ニ」

じゅく-たつ (名) 熟達 熟練シ、上達スルコト。上手ニナルコト。「技藝、熟達ス」

じゅく-だん (名) 熟談 (一)善ク、話シ合フコト。懇談。熟議。(二)示談ジダン。和談。

しゅく-ち (名) 朱口 魚ノ名、西國ニテ、いせおひイノ稱。又、シクチ。

しゅく-ち (名) 縮地 仙術ナドニヨリテ、地脈ヲ縮メ、距離ヲ近ヅクルコト、神仙傳(晉、葛洪)「費長房從ニ壺公ニ有ニ神術、能縮ニ地脈ニ」 舊唐書、音樂志「高祖縮ㇾ地補ㇾ天、重張ニ區宇ニ」

じゅく-ち (名) 熟知 善ク、知リ居ルコト。

じゅく-ち (名) 熟地 ヨク、案内ヲ知リタル土地、(生地セイチノ(三)ニ對ス)

しゅく-ちん (名) 宿賃 しゅくれうリヨウ(宿料)ニ同ジ。

しゅく-ぢょ (名) 淑女 シュクジョ 德行アル女。品位ノ氣高キ婦人、貞淑ナル女 詩經、周南、關雎篇「窈窕淑女、左右采ㇾ之、窈窕淑女、琴瑟友ノフシムㇾ之」 太平記、十二、大內裏造營事「三十六ノ後宮ニハ、三千ノ淑女、妝ヲ粧リ、七十二ノ前殿ニハ、文武ノ百司、詔ヲ待ツ」

しゅく-ちょく (名) 宿直 トノヰ。トマリバン。晉書、周顗傳「以ㇾ顗有ニ醉態ニ引ニ入殿內ニ親近宿直」 公式令「凡、內外百官、司別、量ㇾ事閑繁ニ各、於ニ本司ニ分番宿直」 太政官式「凡諸司、每ㇾ日作ㇾ番宿直、各錄ニ名簿ニ進ニ辨官ニ」 今昔物語、廿五、第十二語「然ラバ、今夜ハ御宿直仕リテ、朝見給ヘムト云テ、留ニケリ」 同、廿七、第廿一語「東三條殿(兼家)ノ長宿直ニ召上タリケルガ、其宿直、亞ニケレバ、暇取セテ、返シ遣ケレバ」 吾妻鏡、十四、建久五年九月十一日「永福寺內新造御堂宿直人事、今日被ㇾ結ㇾ番之ニ云云」 太平記、一、賴員回忠事「土岐ガ宿所ヘ馳テ行、門前ニ馬ヲバ乘捨テ、小門ヨリ、內ヘツト入テ、中門ノ方ヲ見レバ、宿直シケル者ヨト覺テ、物具、太刀、刀、枕ニ取散シ、高鼾タカイビキカキテ寢入タリ」 太田康有記「大樓宿直事、當時者、如ニ前前ニ兩人可ㇾ致ニ沙汰ニ也、追、可ㇾ有ニ御計ニ」

しゅく-づ (名) 縮圖 シュクズ 原形ヲ、縮小シテ描キタル圖。

しゅく-つぎ (名) 宿繼 〔しゅくおくり(宿送)ノ條ヲ見ヨ〕宿場ヨリ宿場ヘ、人馬ヲ繼ギ替ヘテ、荷ナドヲ送ルコト。驛送 遞送

しゅく-てい (名) 淑弟 シュクテイ 美德アルおとうと。魏文帝誄「於惟淑弟、懿矣純良」

しゅく-てい (名) 宿醒 しゅくゑイ(宿醉)ニ同ジ。劉克莊詩「只喚ニ梨花ニ醒ニ宿醒ニ」

しゅく-てき (名) 宿敵 以前ヨリノ敵。年來ノカタキ。盛衰記、廿六、兼遠起請事「八幡殿ノ後胤トシテ、一門ノ宿敵ヲ、徐ニ見ルベキニ非ズ、平家ヲ誅シテ、世ニ立バヤト存ズ」

しゅく-てつ (名) 淑哲 善良ニシテ、賢キコト。又、其人。後漢書、后紀、上「明選ニ聘納ニ詳求ニ淑哲ニ」

じゅく-てつ (名) 熟鐵 キタヒガネ。ナマガネ (生鐵ニ對ス、鐵テツノ條ノ(一)ヲ見ヨ) 和漢三才圖會、五十九、熟金「本綱、再三銷拍、可ニ以作ㇾ鍱アラガネ者、爲ニ熟鐵ニ」

しゅく-てん (名) 祝典 イハヒノ儀式。「祝典ヲ擧グ」

しゅく-でん (名) 祝電 イハヒノ電報。「當選ノ祝電」

じゅく-でん (名) 熟田 ヨク耕作シタル田地。コナタ。後漢書、張禹傳「禹爲開ニ水門ニ通引灌漑、遂成ニ孰田ニ數百頃」(孰、熟、相、通ズ)

じゅく-と (名) 熟圖 ツラツラ、考ヘハカルコト。深ク、企圖スルコト。戰國策、趙策「封地不ㇾ定、不ㇾ可ㇾ不ニ熟圖ニ也」

じゅく-どう (名) 熟銅 ヨク鍛ヘタル銅。生銅ニ對ス。壬生家文書、一、採銅所「啓ニ早進ニ上熟銅陸佰斤、金肆佰兩、綠青佰兩ニ事、右、左大臣宣、奉ㇾ勅、件熟銅等、爲ㇾ充ニ伊勢豐受太神宮、二十年一度遷宮神寶用途料ニ宣ㇾ仰ニ彼所ニ早令ㇾ進上ㇾ者、所宜承知、依ㇾ宣行之、用途有ㇾ限、不ㇾ得ニ延怠ニ」

しゅく-とく (名) 宿德 しゅうとく(宿德)ニ同ジ。漢書、武帝紀、皆名儒宿德爲ㇾ之」遊延祕抄、下「やくっノ聲ハ、しゅくとくノ人ノ乞フ聲ナリ」

しゅく-とく (名) 淑德 正シキ婦德。貞淑、善良ナル、婦人ノ美德。易林(漢、焦贛)「頤氏淑德、未ㇾ有ニ爵祿ニ」

しゅく-とく (名) 淑慝 よきト、あしきト。善良ナルト、不良ナルト。善惡。書經、畢命篇「旌ニ別淑慝ニ表ニ其宅里ニ」

じゅく-どく (名) 熟讀 善ク、讀ミ味フコト。朱子語錄「書只貴ニ熟讀ニ別多自然曉」、「熟讀玩味」

しゅく-の-もの (名) 祝者 しゅうもんしゅ(唱門師)ニ同ジ。

しゅく-の-もの (名) 夙者宿者 しゅく(夙、宿)、及、しゅく(戶俱)ノ條ヲ見ヨ。

しゅく-ば (名) 宿場 うまや(驛)、又、しゅ

く(宿)ノ(二)ニ同ジ。「[illegible]」

しゅく-はい (名) 祝杯　いはひニ酌ムさかづき。いはひノ酒杯。「祝杯ヲ擧グ」

しゅく-はい (名) 肅拜　(一)俯シテ、手ヲ下ゲ、頭ヲ低クセザル敬禮。[illegible]「肅拜、但俯下ㇾ手、今時揖、是也」說文解字、段注、少[illegible]

しゅく-はう (名) 祝砲　祝儀ニ放ツ大砲。「天長節ノ祝砲」

しゅく-はう (名) 宿報　佛教ノ語、宿世ノ果報。太平記、廿七、雲景未來記事「涯分ノ政道ヲ[illegible]マズ、サレドモ、宿報漸ク傾ク時、天心ニ背キ、[illegible]」

しゅく-ばう (名) 宿坊　(一)[illegible]ノ[illegible]大寺ニ詣ヅルトキ、其塔頭ナドヲ、休息所ニ用ヰルモノ。[illegible]鳥羽殿發歌「此法印ハ、ウルハシキ人、濁レル世ヲモ[illegible]羽殿へ參リ給ヘリ」狂言記、[illegible]、宿前、宿坊へ寄ラナンダニ因ッテ、直ニ下向セウ」

しゅく-ばう (名) 宿望　(一)カネテノ志望。年來ノ願望。宿志。宿願。[illegible]う」平家物語、十一、[illegible]事「甲胄ヲ枕トシ、弓箭ヲ[illegible]業トスル本意、シカシナガラ、亡魂ノ憤ヲ休メ奉リ、[illegible]ント欲スル[illegible]　(二)

以[illegible]ヨリノ名望。[illegible]

しゅく-はく (名) 叔伯　[叔季、伯仲ノ略]おとうと、あにト。兄弟。[illegible]

しゅく-ばく (名) 菽麥　まめト、むぎト。[illegible]トヲ辨別スルコト能ハズト云フ義ニテ、[illegible]白癡[illegible]立」

しゅく-はつ (名) 祝髮　[祝、斷也] 髮ヲ、剃リ去レルコト。薙髮。[illegible]

しゅく-ばん (名) 熟蕃　せいばん(生蕃)ニ對ス、其條ヲ見ヨ。

しゅく-ふ (名) 叔父　[釋名「仲父之弟曰ニ叔父、叔、少也」] ヲヂ。父ノ弟。又、母ノ弟。爾雅、釋親篇「父之晜弟、先生爲ニ世父、後生爲ニ叔父」[illegible]

しゅく-ふく (名) 宿福　前世ヨリノ幸福。宿世ノ福德。宿德。[illegible]

しゅく-ふく (名) 祝福　イハフコト。ヨロコビ。易林(漢、焦贛)「王母祝福、禍不ㇾ成ㇾ災」「君ノ前途ヲ祝福ス」

しゅく-ぶん (名) 祝文　しゅくし(祝詞)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

しゅく-へい (名) 宿弊　惡シキ習慣。フルキ弊害。積弊。國老談苑(宋、王銍)「[illegible]宿[illegible]」

しゅく-ぼ (名) 叔母　ヲバ。父ノ妹。又、母ノ妹。爾雅、[illegible]「父之[illegible]妻、爲ニ叔母ニ」

しゅく-まい (名) 熟米　ヨク煮タル米。[illegible]

しゅく-まう (名) 宿望　しゅくばう(宿望)ニ同ジ。[illegible]遂ゲヌル事ヲ悅ブトイヘ共」

しゅく-みん (名) 熟眠　じゅくすゐ(熟睡)ニ同ジ。[illegible]

しゅく-みやう (名) 宿命　しゅくめい(宿命)ニ同ジ。

しゅく-くん (名) 主君　アルジノキミ。シュウ。主人。[illegible]枕草子、十一、百三十三段「此中ノ主君ニハ、御[illegible]」

しゅく-くん (名) 殊勳　しゅこう(殊功)ニ同ジ。[illegible]

しゅく-くん (名) 酒醺　酒ヲ飲ミテ、心地ノヨキコト。ホロエヒキゲン。[illegible]

しゅく-めい (名) 宿命　前世ヨリ定マリタル運命。宿運。[illegible]

しゅく-や (名) 夙夜　朝、ハヤキト、夜、オソキト。明暮。朝夕。[illegible]同、召南、小星篇「夙[illegible]」

夜在ㇾ公[illegible]ニ夙夜シテ、別ヲ夢裏ノ花ニ哀フ」

しゅく-ゆう (名) 祝融　[祝、大也、融、明也] (一)支那ニテ、火ノ神。左傳、昭公廿九年「火正、日ニ祝融ニ」淮南子、時則訓、高誘、注「祝融、[illegible]」(二)火災ノ異名。「祝融ノ災」

しゅく-らう (名) 宿老　(一)年功ヲ積ミタル老人。老宿。耆老。[illegible]天下等[illegible]宿老ノ寺僧[illegible](二)[illegible]老中、家老、年寄役、ナドノ稱。[illegible]備中守阿部正次、元和九年七月、宿老(老中)ノ職ニナサレ」[illegible]ノ判ハ、先月二十五日ニ紛失シタト云フ判ガ、内ニアルノハ、イブカシイト」

しゅくらう-しゅう (名) 宿老衆　ないだんしゅう(內談衆)ノ一名。(內談衆トハ、引付衆ノ異稱)[illegible]

しゅく-らん (名) 熟覽　ツラツラ、打チ見ルコト。篤ト、視ルコト。熟視。[illegible]

しゅく-らん (名) 熟爛　熟シテ、潰ユルコト。熟ミ、タダルルコト。爛熟。[風俗ナドノ、甚シク亂レタルニ云フ] 漢書、董仲舒傳[illegible]如ㇾ此之甚也」(熟ハ、熟ニ通ズ)

しゅくりょ（名）［熟慮］ヨクヨク、思ヒハカルコト。ツラツラ、考ヘヲ廻ラスコト。熟考。史記、游俠傳「何爲而不得、何爲不成、顧君熟慮之、而無行危」

しゅくりょう（名）［宿料］旅宿、寄宿ノ、食料。宿賃。

しゅくれん（名）［熟練］學術ヲ學ビ、又ハ、物事ニ馴レテ、巧ミニナルコト。熟達。「熟練ナル職工」

しゅくろ（名）［熟路］通ヒ馴レタル路筋。容子ヲ、ヨク知リタル道路。生路ニ對ス。韓愈、送石處士序「若駟馬駕輕車就熟路、而王良造父爲之先後也」

しゅくゎい（名）［首魁］（一）サキガケスルコト。先登。（二）カシラ。張本人。巨魁。頭目。

しゅくゎう（名）［珠光］茶道ノ鼻祖、文明年間ノ人、俗姓ハ、村田、南都、稱名寺ノ僧ナリ、年、二十五ニシテ、還リテ、洛陽、三條街ニ寓セリ、性、敏ニシテ、茶事、故實ニ通曉セザルハ、ナシ、其室、四顧、四筵ノ外ニ、半筵ヲ加ヘ、以テ、茶ヲ嗜ム處トナス、後世、茶室ニ、四疊半敷ヲ慣用スルハ、之レニ倣ヘルナリ。世、其風雅ヲ慕ヒ、其名、宇内ニ聞ユ、將軍足利義政、嘗テ珠光ヲ召シ、茶禮ヲ問ヒキ、茶道ノ宗工ト稱スルハ、此レニ始レリト（茶人大系譜）古今茶人系譜、上「東山義政公御師範、南都稱名寺珠光」

しゅくゎうもち（名）［珠光餅］（前條ヲ見ヨ）茶人、珠光宗工ノ創製シタル餅。書言字考節用集、六、飲食門「珠光餅」注「今世、茶會所用、蓋、珠光、南都稱名寺僧也、嘗二茶式一立花善ノ書、東山殿有恩遇、使之還俗、住洛醒井邊云云」

しゅくゎん（名）［首卷］書物ノ、首ノ卷。第一卷。

しゅくゎん（名）［主觀］〔英語、Subject.ノ譯語、客觀ハ、Object.〕知覺シ、思惟シ、又ハ、感動スル自身。外物ニ對スル心ノ稱。コレニ對シテ、認識、思考、又ハ、感得セラルル客體ヲ、客觀ト云フ。

しゅくゎん（名）、［主管］（一）ツカサドルコト。管掌。（二）支配人。番頭。浮世風呂（文化、三馬）初編、上「ドウダ番頭、所謂、主管ナル者モ、大役ダテナ」

じゅくゎん（名）［儒官］儒學ヲ教授スル官。漢書、貢奉傳「子及孫、皆以學在儒官」著聞集、一、神祇「大外記、云云、助教、仲隆、師尚、師季、ナド、競望シケル上、師方ハ、大監物ニテ、未ダ儒官ヲ歴ザリケレバ、ヂキニ拜任イカガト、沙汰有ケリ」

じゅくゎん（名）［儒冠］儒者ノカブル冠。學者ノ被ルかんむり。漢書、酈食其傳「諸客冠儒冠來者、沛公輒解其冠、溺其中」（溺ハ、尿）

じゅぐゎん（名）［呪願］（一）佛教ノ語、法會ノ時、施主ノ所願ヲ、祈ルコト。又、其文。呪願文。盛衰記、廿七、信濃横田川原軍事「其時ハ、朝綱ノ宰相、勅ニ依テ、呪願ヲ書キテ、驗アリト云ヘリ、今度ハ、呪願ノ沙汰ナシ」（二）次條ノ語ノ略。太平記、二、南都北嶺行幸事「呪願ハ、時ノ座主、大塔尊雲法親王ニテゾ御座シケル」

じゅぐゎんし（名）［呪願師］法會ノ時、呪願ノ文ヲ讀ミ上グル僧職。（前條ヲ見ヨ）

しゅくゎんてき（名）［主觀的］〔英語、Subjective.ノ譯語、客觀的ハ、Objective.〕自己ヲ基トシテ、自己ニ對スル關係ニテ、觀察スルニ云フ語、コレニ對シテ、客ヲ基トシテ、認識、觀察、思考ナドヲナスヲ、客觀的ト云フ。

じゅぐゎんもん（名）［呪願文］呪願ノ事ヲ認メタル文。願文。略シテ、呪願。菅家文草、十二、願文「踐祚一修仁王會呪願文、至心敬禮、教主牟尼、稽首歸依、仁王般若、三摩地寂、千葉靈飛、放大光明、發殊勝樂、其言不遜、所說甚深、爲國爲身、應解應入、仁和歲、龍集旃蒙、歷數在躬、鴻基聖運、朱明孟夏、時哉此時、黑月庚辰、吉之又吉、愍人民故、安國土故、三寶惟崇、萬機暫息、迺自華叢、霜仗九重、遍報竹符、煙城七道、都凡百座、講演一時、勝因結衆、水月同照、莊嚴種種、讚唄聲聲、蟠空殘虹、華吹四面、見者無數、聞者有緣、發菩提心、仰明行足、所修功德、福不唐捐、諸尊證明、聖衆遊喜、陰難陽難、未然滅除、天災地災、剎那銷復、獨吾譯少、年有二七秋、修齡消長、府無虛月、人之類化、黔黎含歡、俗之欣和、諸質同利、羽毳蹄乳、蠕伏蚑行、因善知識、得安樂果」

しゅくゑい（名）［宿衞］宿直シテ、衞ルコト。又、其人。周禮、地官篇、註「士庶子、卿大夫士之子弟、宿衞王宮者」續紀、十、神龜四年三月「衞府人等、日夜宿衞闕庭、不得輒離其府、散使他處」後紀、廿一、弘仁二年九月「侍平城宮諸衞府官人等、任意不直、已闕宿衞、宜改前勅、即命少將已上、便按校焉」

しゅくゑん（名）［宿怨］ゐこん（遺恨）ニ同ジ。孟子、萬章、上篇「仁人之於弟也、不藏怒焉、不宿怨焉、親愛之而已矣」唐書、李道宗傳「長孫無忌、褚遂良、與道宗有宿怨、誣與遺愛善」

しゅけい（名）［主計］（一）會計ヲ、ツカサドルコト。（二）勘定方。會計官。史記、張丞相傳「以列侯爲主計」（三）陸海軍ノ會計、給與、等ノ事ヲ掌ル、高等官。

しゅげい（名）［手藝］手サキニテスルわざ。手工。手技。柳宗元、梓人傳「彼將捨其手藝、專其心智、而能知體要者歟」

しゅげい（名）［種藝］農作物ヲ、種ヱツクルコト。栽培。龍城錄（唐、柳宗元）「洛人宋單父、字仲孺、善吟詩、亦能種藝術」

しゅけいりょう（名）［主計寮］カズヘレウ。

じゅけう（名）［儒教］孔子ヲ祖トスル教。儒學ノ教。佛教、道教ナドニ對ス。史記、游俠傳「魯朱家者、與高祖同時、魯人皆以儒教、而朱家用俠聞」

しゅげふ（名）［修業］業ヲ、ヲサムルコト。學ビ習フコト。稽古。管子「退身不舍端、修業不息版」

じゅげふ（名）［儒業］又、じゅげふ。儒者ノ業務。南史、王承傳「承獨好儒業」太平記、一、「俊基ハ、累葉ノ儒業ヲ繼ギテ、才學優長ナリシカバ、顯職ニ召仕ハレテ」

じゅげふ（名）［授業］學科、又ハ、藝術ヲ、教授スルコト。漢書、董仲舒傳「弟子傳以久次相授業、或莫見其面」

じゅげふ（名）［受業］學業ノ教ヘヲ、受クルコト。史記、孔子世家「弟子頗衆、至自遠方、莫不受業焉」

しゅけん（名）［主權］〔英語、Sovereignty.ノ譯語〕（一）オモナル權力。主要ノ權柄。（二）國家ヲ統治スル、最高ノ權力。大權。最高權。

しゅけん（名）殊眷　コトサラニ贔屓スルコト。特別ノ眷顧。殊寵。北史、柳莊傳「昔以開府從役江陵、深蒙梁主殊眷」

しゅげん（名）［修驗］しゅげんだう（修驗道）ノ略。盛衰記、三、法皇熊野御幸並新宮事「三井ノ流ノ修驗ノ人、サコソ嬉シク思ヒケメ」

しゅげん (名) 入眼 (敍任、入眼ノ轉) 無名ノ除書ヘ、名ヲ書入ルルコト。 羽倉考、二「除目ニ、入眼ト云事、イマダ見及バズ、蓋、敍位ノ入眼ニ准ジテ、知ベシ、敍位ノ入眼ハ、後成恩寺禪閤ノ江次第抄ニ、無名位記ニ書入名ヲ之人[illegible]ノ義アリ、江次第ノ文ニモ、[illegible]敍位儀ノ內記一兩ニ、一入眼、入眼ノ筥進之、入眼之後、合點於敍位簿ニ、通ハナドト見エタリ、敍位簿ニハ、數人列ネ記シタルヲ、一一ニ、其名ヲ位記ニ書入ルル事ト見エタレバ、[illegible]ナルベシ」 [illegible]二十四、仁治[illegible]日[illegible]御所、內覽[illegible]資親賜御覽、是合學二甲常住院ナ僧正敍任事[illegible]之由、去七日[illegible]入眼[illegible]之由、[illegible]御[illegible]也」

しゅげんしゃ (名) 修驗者 次條ヲ見ヨ。

しゅげんだう (名) [修驗道] (優婆塞ニテ、隱ノ學ヲセズ、唯、驗ノ行ノミ修むれバ云フトゾ) 佛教ノ一派、醍醐ノ僧、聖寶(理源大師、延喜九年寂、七十八歲) コレヲ起シ、役公小角ヲ祖トス、胎藏界、金剛界ノ兩部ヲ旨トシ、加持、祈禱ヲナシ、本山派ノ說ヲ以テ、神ニモ事フ、コレヲ、兩部神道ナド云フ、當山、本山ノ二派、當山修驗(眞言宗、三寶院)、本山修驗(天台宗、聖護院)アリ、其人ヲ、修驗者トモ云ヒ、牛、頭巾ヲ戴シ、篠懸ノ裝束、頭巾ヲ着ケ、大刀ヲ佩ビ、金剛杖ヲツキ、法螺ヲ吹キテ、山野ニ露宿シ、修行ス、故ニ、山伏ノ名モアリ、吉野ノ大峯ニ入ルヲ、先務トス (おほみねいりノ條ヲ見ヨ)

しゅこ (名) 守戸 陵戶ノ條ヲ見ヨ。

しゅご (名) [守護] (一)守リテ、禍ヲ防ギナドスルコト 保護。 增鏡、序、[illegible]、自守護、[illegible]、主上六歲[illegible]一御門[illegible]ニ符ヲカケリ、御事ノ後ヲ守護シ、六波羅ヘコソ入セリケレ」 (二)又、しゅご 守護職。武家ノ職名、文治元年、源賴朝、朝廷ニ奏請シテ、諸國ニ置ケリ、土地、人民ヲ守護シテ、平家ノ殘黨、又ハ、盜賊ナド、鎮壓セム爲ナリ、朝廷ヨリノ國司ハ、依然トシテ、守護ハ、大番催促、謀反人、殺害人ノ檢斷ナド、司レリシガ、後ニハ、國司ノ實權、守護ニ移リテ、世襲ノ職トナリ、遂ニ、封建ノ勢ヲナセリ、豐臣氏ノ時、全ク廢セラル。 守護、任地ニ赴カズ、人ヲシテ、代ハリテ事務ヲ執ラシムルヲ、守護代、又ハ、代官ト云ヘリ。 太平記、三十三、公家武家榮枯易地事「前代、相模守ノ天下ヲ成敗セシ時、諸國ノ守護、大犯三箇條ノ檢斷ノ外ハ、締フ事ナカリシニ、今ハ、大小ノ事共ニ、只、守護ノ計ヒニテ、一國ノ成敗、雅意ニ任ス」

しゅご (名) 主語 文法ノ語、說明語ノ主タル語 主格ノ語 客辭 又、說明語ノ、有對自動詞、又ハ、單對他動詞、複對他動詞ナルトキハ、各、其標準ノ語、又ハ、目的ノ語ヲ要ス、其語ヲ、客語ト云フ、例ヘバ、水は(主語)低きに(客語)就く(說明語)。火は(主語)物を(客語)乾かす(說明語)ノ類ノ如シ。

しゅごいし (名) [守護石] 庭園ノ景色ノ、主眼トナル石

しゅこう (名) 手工 手サキニテスル工藝 手藝、手工者」

しゅこう (名) 殊功 スグレタル、テガラ。 拔群ノ功績 殊勳 出藍、高祖賦「[illegible]勳於百王」

しゅこう (名) 首肯 ウベナフコト。ウナヅクコト。ガヘンズルコト。承諾。 制府錄「張公首肯久之」

しゅこう (名) 收公 政府ニ、取上グルコト 沒收 沒官 吾妻鏡、一、治承四年十月廿三日「河村三郎義秀、被收公河村鄉、被預景義二」

じゅごう (名) [准后] (一)女官ノ、皇子、皇女ヲ生ミマキラセタルナドニ、時トシテ賜ハル稱號、皇后ニ准ズル意ナリ (二)准三后ノ略稱 著聞集、二、釋敎「誰レトモ知ラヌ俗、來リテ、玉ヲ持テ、僧ニ授ケテ云ヒケルハ、コノ珠、准后ヘ進ラセテ給ハルベシト」 御湯殿上日記、慶長二年五月四日「じゅごうノ御かたヨリ、御イヘオカストテ、御魚、參ラル」

しゅこし (名) [酒胡子] (一)舞樂ノ曲ノ名 樂家錄、廿八、中華曲「壹越調、酒胡子、一名、酒公子、又、醉胡子、又、酒飲子」仁智要錄、五「酒胡子、一名、醉公子、拍子十四、小曲、古樂、無舞、南宮譜云、唐人得酒飲ノ時、樂ノ音聲ニ」 (二)拳人形 おきあがりこぼふし 倭名抄、四、雜藝具「酒胡子、諸葛相如、酒胡子賦、云、因木成形、象二人質、在掌握而可玩、過盃盤而則出」箋注倭名抄、一「按雜藝具注、墨莊漫錄云、宋、張邦基云、飲席、刻木爲人、而銳其下、置之盤中、左右欹側、僛僛然如舞狀、久之、力盡乃倒、視其傳籌所至、酬之以盃、謂勸酒胡、或有不作傳籌、但倒而指者、當飲、見亦、酒胡子之類、皆仿俗、呼人形也、人、陸游詩(消、遊戲)云、兒童嬉戲、有不倒翁、周密作、醉翁狀、據其中、而實其底、雖按捺旋轉、不倒也、吳偉業集中有詩、蓋是、今俗所謂、起上小法師者、或、謂達磨像者、誤」

しゅごしょく (名) 守護職 地方ノ守護ノ職 略シテ、守護。 吾妻鏡、十六、建久十年十二月廿九日「以小山左衞門尉朝政、補播磨國守護職二畢」「長門國守護職次第 [illegible] 書類從、補任部、所收)

しゅごだい (名) [守護代] 守護職タル人ノ代官。守護ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。守護代官。代官。 吾妻鏡、十八、建永二年六月廿二日「[illegible]門[illegible]使者[illegible]、所[illegible]仁和寺御室令旨也、是、[illegible]國土民等、亂入高野山、[illegible]押[illegible]寺領、和泉、[illegible]國守護代、[illegible]」

しゅごだいくゎん (名) 守護代官 前條ニ同ジ。

しゅごふにふち (名) [守護不入地] 領主ニ、由緒アリテ、守護職ヨリ手出シノナラヌ地 (神社、佛寺、權門ノ領地ナド) 惡人、逃込ミタラムニハ、領主ノ代官ニテ捕ヘテ、守護ニ渡スベキナリ、(貞永式目) 大乘院寺社雜事記 春日社領、越前國河口庄之內、兵庫鄉公文職事、爲守護不入地、可全領知之由、去永享十一年、被成下御判於大乘院家」 武家嚴制錄、十一、伊勢內宮御條目「一、伊勢大神宮領之內、可停守護使不入事」

しゅこん (名) 種根 スジャウ。タネ。 盛衰記、四、泉涌寺事「成景ハ、京ノ者、小舍人童太郎丸ト云ケリ、師光ハ、阿波國ノ者、種根 田舍人也ケリ」

しゅこん (名) 鬚根 親根ヨリ出ヅル、鬚ノ如キ根。 遯齋閒覽(宋、范正敏)「栽時當去二松中[illegible]根、惟留四旁鬚根二」

しゅこん (名) [酒痕] 酒ノ、染ミタルアト 韓愈詩、「昔酒日、醉後衣裳見酒痕二」

じゅこん (名) [入魂] じゅっこん(入魂)ノ條ヲ見ヨ。 盛衰記、三十五、高綱渡宇治河事「抑、此川國メタル輩ハ、木曾殿ノ入魂ノ郎等ニハ、ヨモアラジ」

じゅごん (名) [呪禁] 又、じゅこん。マジナヒヲシテ、物怪ナドヲ祓フコト 桑門呪禁、所謂、移精變氣之術也」

じゅごんし (名) [呪禁師] 典藥寮ノ官、呪禁ノ事ヲ學リ、又、病ヲモ癒ヤス。 敏達紀、六年十一月「獻經論若干卷、幷、律師、禪師、比丘尼、呪禁師、造佛工、造寺工、六人二」

じゅごん-はかせ (名) 呪禁博士 典藥寮ノ官、呪禁ヲ以テ、邪魔ヲ祓除スルヲ掌ル 職員令、典藥寮「呪禁博士一人、掌レ教二呪禁生一」

しゅ-さ (名) 主査 主トナリテ、調査スルコト。頭立チテ、シラブルコト。又、其人。「會計主査」

しゅ-ざ (名) 朱座 江戸時代ニ、朱（シュ）ヲ調進セシメシ所ノ稱、尙、遍ク世ニモ、專賣セリ。燒朱所 天保十一年武鑑、朱座、新橋竹川町、江戸」 羅州府志、六、七彦門、凡、硃、各權レ之而賣レ之、他人不レ能二監賣一之、是謂二硃座一在二兩替町一、自レ古権沽、世之所レ禁也、然、硃、金、銀、三座、蒙二免許一者也、此事、不レ交二他人一住二此職一而不レ去、故謂レ座」 圖制記、三「朱座ハ、慶長十四年、始被 御仰渡二」

しゅ-ざ (名) 首座 (一)カミクラ。上座（カミザ）。上席 (二)禪家ニテハ、しゅそト讀ミ、座中ノ首位ノ僧ノ稱號、東堂（トウケウ）ノ條ヲ見ヨ。 祖庭事苑、八、雜志「首座、卽、古之上座也、梵語、悉替那、云云、今禪門所レ謂首座者、卽其人也、必擇下其己事已辨、衆所二服從一德業兼備者上充レ之、亞華日工集、應安二年五月十八日、聞レ言所奉二府命一請二霖珍首座於善福寺一、珍再三拒レ之、余勸令レ應レ命」

しゅ-さい (名) 主宰 頭立チテ、ツカサドルコト。杜本詩、春風誰主宰、客夢自清安」

しゅ-さい (名) 首歲 年ノハジメ。年頭。歲首 左傳、桓公元年、杜注、諸侯每二首歲、必有二禮於廟一」

しゅ-さい (名) 守歲 十二月晦日ノ夜ニ、去ル歲ヲ惜シムトテ、夜明シスルコト。 東京夢華錄（宋、孟元老）士庶之家、圍レ爐團坐、達レ旦不レ寐、謂二之守歲一」

しゅ-ざい (名) 首罪 (一)犯罪ノ中ニテ、最モ重キ犯罪。(二)共犯者中ノ、發頭人。張本。

しゅ-さう（シュソウ） (名) 朱三 賽目（サイノメ）ノ(一)ヲ見ヨ。

しゅ-ざう（シュゾウ） (名) 酒造 酒ヲ、釀（カモ）シツクルコト。釀酒。

じゅ-さう（ジュソウ） (名) 儒葬 儒者ノ家ニテ行フ葬式、朱子家禮ナドニ據ル。（佛葬ヲ嫌ヒテ、ナリ） 奏山集、雜著、甲乙錄、一「浮屠葬法、創二聖德太子一、儒法之葬、始二于羅山及土佐野中氏一、京都儒葬、僅三十年來所レ見也」 病間長語、二「世ニ、儒葬ト云ヘル目ノアルハ、昔ノ性理家ノ、朱氏家禮ニ據テ建タル葬式ニテ、佛家ニ對シテ云フタル詞ナリ、冠婚喪祭ハ、上ノ制度ニアルコトナレバ、歷代ノ儒者モ、制度ニ漏ルコトハアルマジキナレバ、別ニ、儒葬ト云フコトハ無キ筈ナリ」

じゅ-ざう（ジュゾウ） (名) 鑄造 鑄（イ）テ、ツクルコト。ちうざう（鑄造）ニ同ジ。

じゅ-ざう（ジュゾウ） (名) 壽藏 生前ニ、自ラ營ミ置ク墓。逆修ノ墓。壽家。 後漢書、趙岐傳、註「壽藏謂二冢壙一、稱レ壽者、取二其久遠之意一也」 唐書、姚崇傳「崇自立二壽藏於萬安山兆一、曰二安居穴一、以レ土爲レ床、曰二化臺一」 拾遺集、八、雜、上「淸原元輔、神明寺ノホトリニ、無常所マウケテ」

しゅ-さつ (名) 手册 〔さつハ、さくノ通音〕 手帳。テビカヘ。覺帳。

しゅ-さつ (名) 手札 (一)テフダ。(二)テガミ。手書。手翰。 白居易詩「手札八行詩一篇、無レ由二相見一但依然」

しゅ-ざね (名) 朱札 朱塗ノ、鎧ノ札（サネ）。 應仁記、義視西陣出事「金吾ハ、赤絲ノ朱札ノ具足ニテ」

しゅ-さび (名) 酒皶鼻 アカバナ。ニキミバナ。ザクロバナ。

しゅ-さん (名) 主饌 大炊寮ノ次官ナル、大炊助ノ唐名。

しゅ-さん (名) 聚散 しうさん（聚散）ニ同ジ。

じゅ-さんぐう (名) 准三宮 內親王、女御、御外祖母、執政ノ臣、等ニ授ケラル、重キ稱號、三宮ノ年給ニ等シキ年官ノ、掾一人、目一人、內官一人ト、年爵ノ、五位一人ヲ給與セラル。又、准三后。略シテ、准后。 紀略、後篇、十二、長和四年十二月廿七日、勅「禎子內親王、年官年爵、准三宮一、本封之外、加二千戶一」 扶桑略記、廿九、延久四年十二月一日「女御源朝臣基子、准三后一、給二年官年爵一、井、封戶五百煙一」 一代要記「資子內親王、（村上天皇皇女）天祿三年十二月、授二一品准后一」 三代實錄、十九、貞觀十三年四月十日、御外祖太政大臣良房ヘノ勅ニ「准二三宮一、給二年官給一、先帝之恩寵也」

じゅ-さんごう (名) 准三后 前條ニ同ジ。

しゅ-さん-り-がふ（シュサンリゴウ） (名) 聚散離合 アツマリタリ、チリタリ、ハナレタリ、アヒタリスルコト。 太平記、十七、長崎次郞高重最後合戰事「火ヲ散ラシテゾ戰ヒケル、聚散離合ノ有樣ハ、須臾ニ變化シテ、前ニ有ルカトスレバ、忽焉トシテ、後ヘニアリ、御方カト思ヘハ、屹トシテ敵ナリ」

しゅ-ざや (名) 朱鞘 朱塗ノ、刀ノ鞘。 信長公記、首「信長、十六七八マデハ、別ノ御遊ハ無二御座一云云、其比ノ御形儀、明衣ノ袖ヲハヅシ、半袴、燧袋、色色、餘多付サセラレ、御髮ハ茶筅ニ、クレナヰ絲、モヱギ絲ニテ、卷立結ワセラレ、大刀、朱ざやヲ刺サセラレ、悉、朱武者ニ被二仰付一」

しゅ-し (名) 種子 (一)植物ノたね。 齊民要術「五穀種子」 (二)スベテ、事物ノ發生スル、もとノ物ニ譬ヘテ云フ。タネ。

しゅ-し (名) 趣旨 ムネ。オモムキ。趣意。旨趣 文心彫龍（梁、劉勰）「陳思稱、楊馬之作、趣幽旨深」

しゅ-し (名) 酒食 〔食ノ字、飯ノ意ナル時ハ、音、嗣〕 さけト、めしト。 論語、爲政篇「有二酒食一、先生饌（セン）ニス」

しゅ-し (名) 酒巵 サカヅキ。酒盃。酒觴 北史、魏常山王遵傳「以二銀酒巵容二升許一、懸二於百步外一」 李嶠詩「新月娟娟照二酒巵一」

しゅ-し (名) 酒肆 サカヤ。サカミセ。酒鋪。 晉書、會稽王道子傳「使二宮人爲二酒肆一、沽二賣之飲食一」 李白詩「笑入胡姬酒肆中」

しゅ-し (名) 朱四 さいのめニ云フ語、其條ノ(一)ヲ見ヨ。

しゅ-し (名) 洙泗 「孔子ノ住居セシ、山東省內ニアル、洙水ト、泗水ト、夫子、其邊ニテ、弟子ヲ敎フ、因リテ、孔子ノ學ノ稱トナル」 孔子ノ學問。儒敎。洙泗學。 史記、孔子世家「孔子設二敎洙泗之上一、修二詩書禮樂一、弟子彌至」

しゅ-し (名) 殊死 〔漢書、注「殊、絕也、言、身首離絕而異レ處也」〕 (一)ひっし（必死）ニ同ジ。 史記、淮陰侯傳「韓信、張耳、已入二水上軍一、軍皆殊死戰、不レ可レ敗」 (二)しざい（死罪）ニ同ジ。 吏學指南「殊死、漢律、斬刑也」 持統紀、八年十一月「赦二殊（オモキツミヨリ）死一以下一」

しゅ-し (名) 銖錙 〔銖ハ、兩ノ廿四分ノ一、錙ハ、兩ノ四分ノ一ニシテ、輕少ノ義〕 僅カナルモノ。錙銖。

しゅ-じ (名) 朱字 印ノ文字ノ部ヲ凸（タカ）ク刻リテ、朱肉ニテ押セバ、字ノ、朱色ニ現ハルルモノ。朱文 又、字ヲ凹（クボ）クシテ、白ク現ハスヲ、白字（ハクジ）ト云フ。白文

しゅ-じ (名) 主事 頭ダチテ、事ヲ取扱フ役、又、其人 宋史、職官志「中書省、錄事三人、主事四人」「學生主事」

しゅ-じ (名) 主辭 〔論理學ノ語、文法ニ云フ、主語ニ同ジ、（賓辭ニ對ス）〕

しゅ-じ (名) 取次 亂ルルコト。ミダリ

ガハシキコト。シドロモドロナルコト

[illegible]

しゆ-しゆ (名) 樹間 樹木ノ間。[illegible]

しゆ-しゆ (名) 儒士 又、じゆし。儒者。學者

しゆ-しゆ (名) 孺子 豎子 (一)コドモ。稚キモノ。[illegible] (二)若者ヲ、罵リ呼ブ語。アヲニサイ。[illegible]

しゆ-しゆ (名) 呪師 又、じゆし。呪文ヲ誦シテ、まじなひヲスル人。 百練抄、十四、延應元年七月五日「今日法成寺呪師、參入吉田社、施曲五十也、依太閤御祈也」

しゆし-がく (名) 朱子學 又、朱學。支那ノ宋ノ朱熹ノ、經書ノ註義ヲ奉ズル學。(古學、陽明學ナドニ對ス) 室町時代、南禪寺ノ僧桂庵、渡明シテ、宋學ヲ傳ヘ、朱註ヲ用ヰル、後、江戸時代ノ初メニ、藤原惺窩、朱註ヲ主張シ、林道春ナド、コレヲ承ケテ、幕府ニ用ヰラレ、大イニ行ハル。抑、此學ハ、專ラ、性理トイフコトヲ以テ、經書ノ義ヲ解ク、其性理トハ、人人、生レテヨリ備ハリタル性ヲ開キ發リテ、道ヲ行フヲイフナリ。宋學。道學。

しゆし-がく (名) 洙泗學 しゆし(洙泗)ノ學。[illegible]

しゆ-しん (名) 珠簪 玉ノ簪。玉簪 [illegible]

しゆ-じん (名) 主人 (一)一家ノ主。アルジ。[illegible] (二)己ガ仕フル君。主君。[illegible]「有」役往、主人有」言」

じゆ-しん (名) 儒臣 儒學ヲ以テ、仕フルけらい。[illegible]

じゆ-しん (名) 受信 音信ヲ、受取ルコト。電信、又ハ、手紙ヲ、受取ルコト。「無線電信ノ受信装置」

しゆ-じん (名) 孺人 支那ニテ、大夫ノ爵ノ人ノ妻ノ稱。 禮記、曲禮、下篇「諸侯曰ニ夫人ニ、大夫曰ニ孺人ニ」

しゆ-じん-し (名) 主神司 イツキノミヤノカミヅカサ。

しゆ-しや (名) 朱砂 しゆしや(辰砂)ニ同ジ。 [illegible]

しゆ-しや (名) 取捨 取舍 取るト、捨つるト。用ヰルト、用ヰザルト。 [illegible]「取捨」

じゆ-しや (名) 儒者 又、じさ、じゆ(儒)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 孟子、滕文公、上篇「儒者之道、古之人若保赤子」

じゆ-しや (名) 輜車 じしや(輜車)ノ誤讀。

しゆ-しやう (名) 首相 (一)首座ニ侍ル、宰相 (二)内閣總理大臣ノ異稱

しゆ-しやう (名) 首唱 初ニ、唱フルコト。言ヒ出スコト [illegible]

しゆ-しやう (名) 主將 總大將 三國志、吳志、[illegible]、甲陽軍鑑、四、「品第十二」七十ケ年以前ニ、伊[illegible]主將法、務攬ニ英雄之心トアル所マデ聞キ、ハヤ合點シタルツ、攬ケトアリシ」

しゆ-しやう (名) 酒觴 サカヅキ。酒盞

しゆ-しやう (名) 修正 昔時ノ年中行事ノ一、毎年正月八日ヨリ三日間、又ハ、五日間、諸寺ニ於イテ行ハルル法會 [illegible]

しゆ-じやう (名) 主上 天子ヲ、其御身ニ就キテ、指シ呼ビ奉ル語。至尊。オカミ。上 [廣韻「上、君也」] 史記、吳王濞傳「今者主上、[illegible]」保元物語、一、「主上三條殿行幸[illegible]、東三條殿ヘ行幸成ル、主上ハ、御輿ニ入レ進ラセラル」

しゆ-じやう (名) 衆生 又、しゆぜう。佛經ノ語、モロモロノ、生ケルモノ。世上ノ、アラユル動物。有情。 [illegible]

しゆ-じやく (名) 朱雀 すざく(朱雀)ニ同ジ、しゆじん(四神)ノ條ヲ見ヨ 淮南子、天文訓「大微主朱雀」

しゆしやく-もん (名) 朱雀門 すざくもん(朱雀門)ノ條ヲ見ヨ。

しゆ-しゆ (名) 守株 膠柱ノ類、出典ニ起ル」くひぜヲ守ルコト。物事ヲ守リテ、臨機應變ノ處置ヲ知ラザルコト、舊習ヲ守リテ、變通ノオニ乏シキコト [illegible]

しゆ-しゆ (名) 侏儒 (一)ヒキヒト。背ノ、低キ人ノ稱。一寸法師。 禮記、王制篇[illegible]「侏儒、俗云、一寸法師」(二)俳優ノ異稱。(短小ノ人ヲ用ヰタレバ、云フ) 史記、孔子世家[illegible] (三)ツカバシラ。梁ノ上ノ、短キ柱 淮南子、主術訓[illegible]

しゆ-じゆ (名) 種樹 木ヲ、植エ、ヤスコト。ウエツケ。 史記、李斯傳「所不去者、醫藥卜筮、種樹之書」[illegible]

しゆ-じゆ (副) 種種 クサグサ。サマザマ。イロイロ [illegible] 保元物語、一、[illegible]

じゆ-じゆ (名) 授受 さづくるト、うくるト。ヤリトリ。 禮記、祭統篇「夫婦相授受、不相襲處」

しゆ-じゆう (名) 主從 主人ト、家來ト。主人ト、供人ト しゆう、じゆう。主僕 古[illegible]主人ニテ成敗スルモノナリ、凡、ソノ科人ハ、主人ニ[illegible]シテ、供歸リノ馬ニ乘タルモノ、云云」

しュ-じュう (名) 首從 首犯ノモノト、從犯ノモノト。 唐律疏議、五、名例「諸共犯罪、而本罪別者、雖_相因爲_首從_、其罪各依_本律首從_論」

しュ-じュつ (名) 手術 (一)手サキノわざ、手藝、手工。(二)醫術ニ於イテ、患部ヲ切開シ、又ハ、切斷スルコト。

しュ-しョ (名) 手書 自筆ノ書狀。自筆ノ書付。手記。 史記、封禪書「天子識_其手書_、問_其人_、果是僞書」

しュ-しョ (名) 手署 テヅカラ、署名スルコト。

しュ-しョう (名) 殊勝 (一)佛經ノ語。殊ニ、勝レタルコト。德ノ、讃歎スベキコト。 大无量壽經「超_發無上殊勝之願_」 朱熹、梅花詩「天然殊勝、不_關_風露冰雪_」 盛衰記、廿八、經正竹生島詣事「衆生、利益ノ爲ニトヤ、此島ニ跡ヲ垂ル、神德、殊ニ勝重也、眺望モ又、殊勝ナリ」(二)ケナゲナルコト、神妙、奇特。

しュ-しョく (名) 殊色 勝レタル容姿。 應瑒、鸚鵡賦「何翩翩之麗鳥、表_衆艶之殊色_」「女、殊色アリ」

しュ-しョく (名) 酒色 飲酒ト、女色ト。 漢書、朱博傳「不_好_酒色_」「酒色ニ耽ル」

しュ-しョく (名) 手燭 テシヨク。ボンボリ 周禮、疏「若_今臘燭_、對_人手爇者、爲_手燭_」

シュ-ス (名) 繻子 〔唐音ナリ〕 絹布ノ一種、地、厚クシテ、甚ダ光澤多キモノ、緯ヲ、經ノ間ニ隱シテ、織ル 天正年間、支那ノ法ニ傚ヒテ、京都、西陣ニテ始ムト、八絲緞 駿府院殿御實紀、五十二、延寶四年正月九日「千代姫御方、マウノラレ、伽羅一本、色繻子十卷、錦手食籠ヲ遣ハサル」

しュ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 修 ヲサム。行フ。 大學「欲_修_其身_者、先正_其心_」「法ヲ修ス」

〔〕じュ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 誦 ヨム。ウタフ。誦ス。 枕草子、六、五十段「くちをしき物「漢詩ヲじュ(一本、ず)して、黑戸ニ、殿上人、イト多ク居タルヲ」

じュ-ず (名) 數珠 數珠ノ條ヲ見ヨ。

じュ-ず-かけ-ばと (名) 數珠掛鳩 ずずかけばとニ同ジ。

しュ-すずり (名) 朱硯 朱墨ヲ研ルニ用キル硯。

じュ-ず-だま (名) 數珠玉 ずずだま(數珠玉)ニ同ジ。 狂言記、つたう山伏「數珠ト云ッペ、マコトノ數珠デアラバコソ、數珠玉ヲ百八、繫ギ、數珠トスル、一祈リ、祈ッタリ」

じュ-ず-つなぎ (名) 數珠繫 ずずつなぎ(數珠繫)ニ同ジ。 唐船噺今國性爺(享保、近松作)下「斬首、生首、數珠繫ぎ」

シュス-びん (名) 繻子鬢 (一)男女ノ髮ノ、鬢ノ作リヤウノ、毛筋ヲ透サズ、繻子ノ如キモノ。(燈籠鬢ヲ見ヨ) 長町女腹切(元祿、近松作)「ハレ、ヨイ男ノ、江戸元結ニ、しュすびん」 (二)昔シ、江戸ニテ、比丘尼ノ、淫ヲ賣リシモノ。(當時、繻子ノ附鬢帽子ヲ被リシヨリ云フト) 用捨箱(柳亭種彥)中、十五、唄歌「土手節、前日ハ、面白カッタガ、今日ハ、ドコヤラ物淋シ、綿摘ヲ呼ビニヤラウカ、しュすびんヲ招カウカ」 近世奇跡考(京傳)二、八、歌比丘尼「殘口之記ニ、歌比丘尼、昔ハ、脇挾シ、文匣ニ卷物入テ、地獄ノ繪說シ、血ノ池ノ穢レヲ忌マセ、不産女ノ哀ヲ泣スル業ヲシ、年籠ノ戾リニ、烏牛王配リテ、熊野權現ノ事觸メキタリシガ、イツノ程ヨリカ、黛白粉、薄紅ツケテ、付鬢帽子ニ、帶、幅廣ク成シ、云云」

しュ-ずみ (名) 朱墨 辰砂ト、銀朱トヲ、秦皮ノ水ニテ膠ニ和シテ、固メタルモノ、研リテ、朱色ノ書畫ナドヲ書ク。朱錠子

しュ-すゐ (名) 主帥 (一)軍隊ノ大將。 左傳、桓公二年、杜註「不_稱_主帥_、微者也」 (二)部隊ノ、五十人以上ノ長ノ稱 宮衞令、義解「凡、車駕有_所_臨幸_、若夜行、部隊主帥」註「謂、五十人爲_隊、卽、五十人以上長、是爲_主帥_也」集解、廿四「釋云、續漢書、大將軍有_營五部_、部有_校尉一人_、比_二千石_、杜預注、左傳云、百人爲_二隊_、今令_五十人_爲_隊、然則五十長以上、是謂_部隊主帥_、古記云、部隊主帥、謂_左右兵衞府番長、左右衞士府主帥、衞門府門部以上_也」軍防令 主帥者、隊正以上、校尉以下也」衣服令、義解「胡服、主帥」註「謂、門部、使部、其隊正等者、依_衞士例_也」

じュ-すゐ (名) 入水 自ラ水ニ入リテ、死ヌルコト。身投。自水。投身

しュ-せい (名) 守成 創業ノ後ヲ承ケテ、之レヲ固メ守ルコト。 貞觀政要(唐、吳兢)「唐太宗謂_侍臣_曰、帝王之業、草創與_守成_孰難」

しュ-せい (名) 酒精 アルコオル。燒酒。

しュ-ぜい (名) 酒稅 酒ヲ釀造シ、又ハ、賣買スルニ、課スル稅。 大學衍義補「唐德宗建中元年、罷_酒稅_」

じュ-せい (名) 儒生 儒學ヲ修ムル者、儒學生。儒者。 列子、周穆王篇「魯有_儒生_自媒能治_之」 史記、叔孫通傳「諸弟子儒生、隨_臣久矣、與_臣共爲_儀」

じュ-せい (名) 壽星 南極星ナリト云フ。壽老人ノ條、見合ハスベシ 爾雅、釋天篇「壽星、角亢也」 盛衰記、十六、司天臺事「司天ノ大史、是ヲ見ルトイヘ共、無道ノ君ニ恐レテ、明光殿ニ望ム每ニ、只、慶雲、壽星トテ、御悦、來リ、御祭、長カルベキ天變トノミ奏セシカバ、政、正ス事ナクシテ、終ニ、國亂、帝亡給ニケリ」

しュ-ぜい-きョく (名) 主稅局 國稅ノ賦課、徵收、ソノ他、スベテ、租稅ノ事ニ關スル事項ヲ取扱フ大藏省ノ一局

じュ-せい-たう (名) 壽星桃 カラモモ。アメンドウ。 書言字考節用集、六、生植門「壽星桃、又、云_婆淡杏_」 重修本草綱目啓蒙、廿五、五果「古名、からもも、今、からももト呼ブ者ハ、壽星桃ナリ、今ハ、あんずト云、卽、唐音、杏子ノ音ノ轉ナリ」

しュ-ぜい-れう (名) 主稅寮 ちかられう(主稅寮)ニ同ジ。チカラノツカサ。

じュ-せう (名) 樹梢 コズヱ。樹杪。 謝靈運、泉山詩「石室冠_林陬_、飛泉發_樹梢_」

しュ-せき (名) 手跡 手迹 筆ノ迹。其人ノ書キタル文字。筆蹟。墨蹟 漢書、孝武紀「封_呈其手迹_」 著聞集、七、能書「アル時、御手本アマタ取出サセ給テ、大師(弘法)ニ見セ參ラセラレケリ、其中ニ、殊勝ノ一卷アリケルヲ、天皇(嵯峨)、仰言有ケルハ、是レハ、唐人ノ手跡ナリ、其名ヲ知ズ、イカニモカクハ學ビ難シ、目出タキ重寶ナリ」

しュ-せき (名) 殊績 他ニ殊ナリタル功績、拔羣ノ功績 殊勳。 晉書、王宏傳「在_郡有_殊績_、武帝下_詔稱_之」

しュ-せき (名) 酒席 酒宴ノ席。宴席。 白居易詩 遊_謝詩_酒席、還_布被_寢床_」

しュ-せき-えい (名) 酒石英 葡萄酒ヲ貯ヘタル樽ノ中ニ、自ラ生ズルモノ、形、色、共ニ、石英ニ似タリ、酒石酸ニ製ス。

しュ-せき-さん (名) 酒石酸 酒石英ニテ製スル藥品、無色ノ結晶ニテ甚ダ酸シ。

しュ-せつ (名) 守節 節義ヲ、守ルコト。節操ヲ、マモルコト 左傳、襄公三十一年「季子守_節者也、雖_有_國不_立」

しュ-せん (名) 酒仙 〔酒中ノ仙人ノ義、詩仙ナドト同趣ノ語〕 オホザケノミ。

大酒家。酒豪。 史記、[illegible]

しゅせん（名）［酒饌］ さけト、食物ト。酒肴。 [illegible] 著聞集、十八、飲食、中ノ関白（道隆）、春日ノ行幸ニ[illegible]シ給ヒタリケルニ、[illegible]レテ」

しゅせん（名）「酒戦」 酒ノ、飲ミクラベヲナスコト。 [illegible]ナリ」

しゅせん（名）［鬚髯］ 〔史記、高祖紀、注「在レ頤曰レ鬚、在レ頬曰レ髯」〕 あおひげト、ほおひげト。 史記、[illegible]

しゅせん（名）[illegible] しゅぜん（修繕）ニ同ジ。 [illegible]

しゅせん（名）［主膳］ かしはで（膳夫）ノ長。(一)ニ同ジ。 官位令、主膳正、云云、主膳佑、云[illegible]

しゅせん（名）［受禅］ 帝位ノ、禅リヲ受クルコト。宣旨（両位ノ條ノ(二)(三)）ヲ見ヨ。 [illegible]「受禅ト、譲位トハ、新舊ノ兩主ニワタレル名ナリ」

しゅせんかん（名）［主膳監］ ミコノミヤノカシハデノツカサ。春宮坊ニ屬シテ、皇太子ノ、御膳ノ事ヲ掌ル官。四等ノ官ハ、正、佑、（判官ヲ闕ク）令史ノミナリ。 [illegible]

しゅせんし（名）［主船司］ 王朝時代、公私ノ舟楫、及、舟具ノ事ヲ掌ル司。摂津ニ置カレ、兵部省ニ管セラル。 [illegible]

しゅせんし（名）［修禅紙］ 次條ヲ見ヨ。

しゅぜんじがみ（名）［修禅寺紙］ 伊豆ノ修禅寺（今ハ、修善寺町）ノ地ヨリ出ヅル紙、色、薄紅ナリ。略シテ、修禅紙。 平家物語、[illegible]「修禅紙」注「坂東豆州紙名也、色薄紅也」

しゅせんし（名）［鋳銭司］ 王朝時代、銭ヲ鋳造ルコトヲ掌ル司。 倭名抄、五、職官[illegible]以二直大肆中臣朝臣意美麻呂一爲二長官一」

しゅせんど（名）［守銭奴］ 金持ノ、吝キヲ罵リ云フ語。富ミテ、銭ヲ散ズルコトヲセヌ者。有財餓鬼。 [illegible]

しゅそ（名）［首鼠］ 〔鼠ハ、性、疑深ク、首ヲ穴ヨリ出シテ、観望スル義ナリト〕 疑ヒテ、決シ得ザル状。又、心ノ、確定セザル状ニ云フ語。狐疑。遅疑。躊躇。 [illegible]

しゅそ（名）［呪詛］ 又、しゅそ。呪ヒ、詛フコト。 百錬抄、五、嘉保元年八月十七日「源仲宗、[illegible]

可、[illegible]六月八日[illegible]

しゅそう（名）［趨走］ 趨ハ、七遇切、音、しゅ、しゅそうハ、通音」 オモムキ、ハシルコト。疾ク走ルコト。 [illegible]

じゅそう（名）［儒宗］ 又、じゅそう。学者ノ長。 [illegible]

しゅそく（名）［手足］ てト、あしト。テアシ。手脚。 論語、子路篇「刑罰不レ中、則民無レ所レ措二手足一」 太平記、[illegible]

しゅぞく（名）［種族］ (一)種類。トモガラ。ヤカラ。 [illegible] (二)一族ヲ、殘ラズ殺スコト。族殺。 [illegible]

しゅぞく（名）［殊俗］ 風俗ヲ殊ニスルコト。 詩[illegible]

じゅそつ（名）［戍卒］ 関所、又ハ、とりでナドヲ守ル兵卒。番兵。 史記、[illegible]

しゅそん（名）［酒樽］ サカダル。酒ヲ入ルル樽。 書経、[illegible]

しゅそりょうたん（句）［首鼠両端］ 遅疑心アリテ、何レニモ従カズ、ヒヨリミ。洞ケ峠。 史記、灌夫伝「田蚡怒曰、與二長孺一共、一老禿翁、何爲首鼠両端二」

シュダ（名）［首陀、須陀］ 〔梵語、Sudra.〕

刹利ナドニ對ス〕又、しゅだら、首陀羅。古代、印度人ノ四階級ノ中ノ、最下ニ位シ、賤業ヲ以テ職トスル者。賤民。奴隷。（四姓ノ條、參照） 保元物語、一、[illegible]「有待ノ御身ハ、[illegible]利モ首陀モ、カハラザリケリ」

しゅたい（名）［主體］ 他ノ物ニ對シテ行ヒ、又ハ意志ヲ及ボス、ソノモノ。動作、状態、又ハ存在ニ對シテ、其動作ヲ爲シ、其状態ニ在リ、又ハ、其存在スルモノノ稱。コレニ對シテ、其意志、又ハ、行爲ヲ及ボサルルモノヲ、客體ト云フ。

しゅだい（名）［主題］ 主要ノ題目。主眼ノ題。

じゅたい（名）［受胎］ 子ヲ、孕ムコト。身持ニナルコト。懐妊。 [illegible]

じゅだい（名）［入内］ 皇后、中宮、等ノ、冊立ノ前ニ、先ヅ、式ヲ具シテ、禁内ニ入リタマフコト。 玉海、[illegible]安元年十二月十四日[illegible] 春記、長暦三年十二月廿一日「内大臣（教通）長女（生子）、今夜入内、可レ御二西北對一也」 中右記、寛治五年十月廿五日「有三品篤子内親王入内之事二」 長秋記、大治四年正月九日「攝政大相國（忠通）長女従二位聖子、入内」

しゅどう（名）［衆道］ 〔若衆道ノ略〕 男色。ワカシュ。カゲマ。若道。 本朝若風俗（貞享、西鶴）一二「女道、衆道」

じゅどう（名）［儒道］ (一)又、じゅだう。儒ノ教へ。 太平記、[illegible] (二)儒教ト、道教ト。

じゅたうゑ（ジユトウエ） (名) 授刀衞 近衞府（コノヱフ）ノ前稱。續紀、廿二、「天平寶字三年十二月、置授刀衞」 同、廿六、「天平神護元年二月、改授刀衞、爲近衞府」

しゅたく (名) 手澤 〔澤ハ、潤澤（ツヤ）ノ義〕 手ノ垢（アカ）。其人ノ手ニ觸レタル遺物。 禮記、玉藻「父沒、而不能讀父之書、手澤存焉爾」

じゅたく (名) 受託 (一)囑託ヲ、受クルコト。タノマルルコト。(二)寄託ヲ、受クルコト。アヅカルコト。

しゅだん (名) 手段 テダテ。シカタ。シヤウ。作法。方法。 吳萊詩「酒客心情辟酒兵、英雄手段役英雄」 太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「宗旨ヲ說ク時ハ、超佛、越祖ノ手段有リト雖、向利他之權實ニ媚ブル時ハ、檀那ニ諂ヒ、富人ニ不下ト云フ事ナシ」「手段ヲ擇バズ」

しゅだん (名) 手談 ゐご（圍碁）ノ異稱。 下學集、下、器財門「圍碁、又、云手談」

シュタラ (名) 修多羅 〔梵語、Sûtra. 其說ク所、理ニ契（カナ）フ故、契經ト譯ス〕 (一)經。經典。 翻譯名義集、四「修多羅注 何晉從古及今、譯梵爲漢、皆翻爲經、若依部屬、經是正、何不改作契經、若準護命然、則經正明矣、以此方周孔之教、名爲五經、故以經字、翻修多羅、然其典雖三乘通經、諸高所指、皆曰契經、所謂契理、契機、名契經也」 狗猫合戰物語、十一「結句ハ、是非ヲ云ヒテ、修多羅ノ教ハ、月ヲサス指トテ、是ヲ嫌ヒ、祖師ノ言句ハ、門ヲ叩ク瓦礫トテ、是ヲモサナガラ擲却ス」 (二)種種ノ色相ノ絲ヲ集メテ、種種ニ組ミテ、袈裟ヲ飾ルコト。 釋道衣料編、下「修多羅條帶修多羅ノ事、本トハ、是レ、鈎紐ノ代ワリナリ、是ヲ、修多羅ト名ヅクルコトハ、種種ノ色相ノ糸ヲ集メテ、種種ニ組ミテ、袈裟ヲ飾ルナリ、云云、今、種種ノ模樣ノ糸ヲ交ヘテ組ミシ、結ンデ、袈裟ニ附ケ、故ニ、修多羅ト名ヅクルナリ」

しゅち (名) 趣致 オモムキ。フゼイ。趣味。

しゅち (名) 主治 (一)藥ノ、功能アルトコロ。藥ノキキメ。(二)主トナリテ、治療スルコト。「主治醫」

しゅち (名) 酒池 酒ヲ湛（タタ）ヘタル池。肉林ト共ニ、豪奢ヲ極メテ、酒肉ノ多キコトニ云フ語。 史記、大宛傳「行賞賜、酒池肉林」

シュチン (名) 繻珍 しゅちんノ條ヲ見ヨ。 西鶴織留（元祿）二「しゅちんノ帶、紫ノ革足袋」

しゅちゃう（シユチヨウ） (名) 首長 主宰ヲナスモノ。

しゅちゃう（シユチヨウ） (名) 主張 (一)ウケバルコト。主トシテ、固ク言ヒ張ルコト 宋史、徐中行傳「國安、時處順、主張世道」 (二)自己ノ持說。自說。 韓愈、送窮文「各有主張、私立名字」 (三)主宰スルコト。 莊子、天運篇「天其運乎、地其處乎、日月其爭於所乎、孰主張是、孰綱維是」

しゅちゃう（シユチヨウ） (名) 主帳 フミビト。郡司ノ佐官。大郡ニ人、上郡二人、中郡、下郡、小郡、一人ナリ。(職員令)

しゅぢゃう（シユジヨウ） (名) 拄杖 手杖 又、拄杖子。禪宗ノ僧侶ノ用キル杖 狂言記、拄杖「某、イツゾヤ、都ヘ用事アリテ上ボリ、其ノ次手ニ、しゅぢゃうヲ求メ置キマシタ」 謠曲、熊坂「一壁ニハ、大長刀、手杖（カナ）ニアラサル鐵ノ棒」

しゅぢゃう（シユジヨウ） (名) 朱錠 朱ノ墨。シュズミ。

しゅちゃう・す（シユチヨウ・ス） スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變） 主張 己ガ說ヲ、推シ張ル。言ヒ張ル。

しゅちゃうづきん（シユチヨウズキン） (名) 首丁頭巾 古ヘ、僧侶ガ、出陣ノ時、被（カブ）リシモノ、紺布ニテ、將棋頭ニ縫ヒタル頭巾、(目ノミ出ヅルモノ)首丁頭巾ハ、當字ニテ、正シクハ、拄杖頭巾ニテ、モト、拄杖ヲ持ツ場合ニ被リシ頭巾ナリト云フ。 盛衰記、十二、敎盛夢ニ忠正爲義ニ事「數百騎ノ勢共有ケル中ニ、或、柿衣ニ不動袈裟係タリ、或、龜甲ニ鎧著タリ、或、首丁頭巾ニ腹卷着タリナンドシテ」 同、廿九、新八幡願書事「覺明、其日ノ裝束ニハ、褐衫ノ鎧直垂ニ、首丁頭巾シテ、黑絲（フシナハ）目ノ冑ニ、黑ツ羽ノ征矢ヲ負テ」

しゅちゅう (名) 酒中 酒杯ノ中。杯中。 章孝標詩「梅花帶雪飛琴上、柳色和煙入酒中」 世說、言語篇「公但未知酒中趣耳」

しゅちゅうくゎ（シユチユウカ） (名) 酒中花 山吹ノ莖ノ髓（ズイ）ニテ、花鳥、其外、樣樣ノ形ナド作リ、酒ニ浮ブレバ、開クヤウニセシモノ。ソノ、脹レテ開クヲ見テ、酒興トス。 俳諧江戶新道「酒中花ヤ、見ヌ唐ノ、吉野川」 後撰六帖（延寶、講式）「酒中花ヤ、彼赤人ノ、詠殘シ」 江戶向の岡（延寶）「柚ノ花ハ、是酒中花ノ、盛ナリ」 嬉遊笑覽、六、下、兒戲「虛栗集、名ヲカヘテ、綠カ禿、オトナシク」ウキヲ盛リノ、酒中花ノ時」

しゅちょう (名) 殊寵 特別ノ寵愛 後漢書、陰皇后傳「以先后近屬故、得爲貴人、有殊寵」

じゅちょう (名) 壽冢 じゅざう（壽藏）ニ同ジ。 後漢書、宦者傳「豫作壽冢」

しゅちょく (名) 手勅 宸筆ノ勅書。天皇、御親ラノ勅書。 三代實錄、十三、貞觀八年十二月八日「天皇降手勅、進大納言正四位下行左近衞中將兼伊豫守藤原朝臣基經階、加從三位、任中納言」

しゅつ (名) 出 (一)其人ノ腹ヨリ、出デタルコト。所生。産出。 易經、說卦傳「萬物出乎震」「藤原氏ノ出」 (二)其處ヨリ、出デタルコト、又ハ、其モノ。「我ガ黨ノ出」

じゅつ (名) 術 (一)ワザ。藝（ゲイ）。學術。 史記、田完世家「易之爲術、幽明遠矣」 (二)テダテ。ハカリゴト。方法。手段。 戰國策、韓策「亡其行、子之術、而受子請乎」「敵ノ術ニ落ツ」 (三)陰陽師、修驗者ナドノ、呪（マジナヒ）、又ハ、詛（ノロヒ）ニ修スル事（ワザ）。方術。妖術。 史記、封禪書「燕齊海上之方士、傳其術不能通」「術ヲ行フ」

しゅつえう（シユツヨウ） (名) 出要 〔出離、要道ノ義〕 解脫ノ道 盛衰記、六、西光卒都婆事「一朝、命終ノ刻ニ臨ン時ハ、八大奈落ノ底ニ入ランカ、生前ノ一善ナケレバ、沒後ノ出要ニ惑ヘリ」

しゅつえん (名) 出捐 金錢、物品ヲ出シテ、棄捐スルコト。代償ナドニヨリテ、自己ノ利益ヲ減ズルコト。 史記、陳丞相世家「大王誠能出捐數萬斤金」

しゅつえん (名) 出演 出デテ、ノブルコト。其場ニ出デテ、演說、演藝ナド、スルコト。

じゅつえん (名) 述演 ノブルコト。云フコト。演說 應劭、風俗通義、序「予寔頑闇、無能述演」

しゅつが (名) 出駕 駕籠（カゴ）、又、車ニ乘リテ、出ヅルコト。(貴人ニ云フ)

しゅっかう（シユツコウ） (名) 出港 〔入港ニ對ス〕 船ノ、湊ヲ出ヅルコト。船出（フナデ）。

しゅっかく (名) 出格 格（カク）ヲ、出ヅルコト。掟ニ、拘ハラヌコト。別格 別段

じゅっきう（ジユツキユウ） (名) 卹救 恤救 アハレミ、スクフコト。救卹。

しゅっきん (名) 出勤 勤メニ、出ヅルコト。上衙 狂言記、武惡「明日ハ、出勤ヲモスルカト思ウテ居レバ」

しゅっきん (名) 出金 金錢（カネ）ヲ、出スコト。出銀。醵金。入金ニ對ス。

しゅつぎん　(名)　出銀　前條ニ同ジ。

しゅつきゃう　(名)　出京　(一)京ヲ出デテ、田舍ヘ趣クコト。離京　(二)誤リテ、田舍ヨリ、京ヘ行クコト　上京

しゅつぎょ　(名)　出御　〔出御ナルベシ、入御ノ反〕　天子ノ、外ヘ出デサセ給フコト　[illegible]シテ、公リニモ云フ　出[illegible]　「[illegible]記、一、聞所停止事、訴訟ノ人、出來ノ時、若シ、下情、上ニ達セザルコトモヤアラントテ、記録所ヘ出御成リテ、直ニ、訴ヲ聞召シ明メ、理非ヲ決斷セラレシカバ、雲霄ノ下、忽ニ停リテ」

しゅっくう　(副)　〔しゅっハ、自由ノ訛〕　氣ママ。勝手。浮世風呂(文化、三篇)二編、上「人ノ下云フモノハ、自由ッくうナ事バッカリ云フ物ヨ」

しゅつぐん　(名)　出群　ばつくん(拔群)ニ同ジ。「[illegible]」「[illegible]一等拔出ノ事」

しゅっくゎ　(名)　出火　火ヲ出シテ、家ノ、燒クルコト　失火　江戸時代ニ、出火ヲ[illegible]ニ、幕府ノ大火消ハ、太鼓ヲ以テ、[illegible]ハ、拍子木ヲ以テ、大名[illegible]ハ、[illegible]ヲ以テ、町方ハ、半鐘ヲ以テセリ。

しゅつくゎい　(名)　出會　イデアフコト。デアヒ。

じゅつくゎい　(名)　述懷　[illegible]ヲ、述ベ[illegible]コト。言志　「[illegible]集、四、文學「依人而興」事、雖ニ[illegible]代、天而授、官、雖ニ運命、ナド、述懷ノ歌[illegible]」

しゅつくゎん　(名)　出棺　葬式ノ時、家ヨリ、棺ヲ出スコト　「小右[illegible]」

しゅつぐゎん　(名)　出願　ネガヒイヅルコト　「[illegible]ノ[illegible]ヲ出願ス」

しゅっけ　(名)　出家　〔在家ニ對ス〕　(一)俗ノ、いへ、イヘデ、家ヲ、出ヅルコト　家ヲ、捨ツルコト　父母、生[illegible]ノ家ヲ出デテ、佛門ニ入ルコト。舍利弗問經「夫出家者、捨ニ父母生死家、入ニ[illegible]」　今昔物語集、十一、「[illegible]公[illegible]以下、[illegible]ニハ[illegible]ルトナン、弘[illegible]、少年ノ時、出家シタリケルガ、後ニ、還俗シタルモノ也」　(二)僧ノ通稱　僧　天武紀、下、六年八月「[illegible]親王諸王及群臣[illegible]人賜ニ出家一人一」

しゅっけい　(名)　術計　テダテ。ハカリゴト　計略　「[illegible]」「[illegible]術計[illegible]キテ」

しゅっけおち　(名)　出家落　僧ノ、還俗シタルモノ　「三[illegible]、久保[illegible]門ニ下「しゅっけおちナド[illegible]ヲ引キツレテ」

しゅつげん　(名)　出現　出デ、アラハルルコト　〔[illegible]〕　[illegible]出現シ給フニ」「強敵出現」

しゅっと　(副)　崒乎　山ノ、高ク嶮シキ狀ニ云フ語　「[illegible]、崒乎[illegible]山、不足[illegible]」

しゅつご　(名)　術語　學術語　專門語。

じゅつご　(名)　述語　〔主語ニ對ス〕　文法ノ語、せつめいご(說明語)ニ同ジ。

しゅつごく　(名)　出獄　しゅつらう(出牢)ニ同ジ。「[illegible]」

じゅっこん　(名)　入魂　〔字ノ音、じふこん、又ハ、しゅこんノ音便、或ハ云フ、昵懇ノ音カト〕　殊ニ、親シク交ルコト　心交　「入魂ノ間柄」

しゅつざ　(名)　出座　其座ニ、出ヅルコト。

じゅっさく　(名)　術策　ハカリゴト。術計。計略

じゅっさく　(名)　述作　ノベ、ツクルコト。著述　著作　「禮記、樂記「作者之謂聖、述者之謂明」　明[illegible]、述作之謂也」

しゅっさん　(名)　出產　生レ、出ヅルコト。出生。(胎兒ニ)生誕

しゅっし　(名)　出仕　(一)出デテ、仕フルコト。仕官。東坡集「元不ニ出仕ニ而已」　(二)勤ニ、出ヅルコト。出勤。上街　「[illegible]集、三、攻道[illegible]臣「小野宮殿、九條殿、御同車ニテ、出仕セサセ給ケル時」　太平記、廿六、直冬[illegible]西國下向事「[illegible]ニシヨリ後、早、人々[illegible]ニテ、[illegible]モ出來リ、時時、將軍ノ御方ヘモ出仕シ給シガ共ニ」　(三)員外官ノ稱　「海軍省出仕」「文部省出仕」

しゅっし　(名)　出資　資本ヲ出スコト。事業ナドノ資金ヲ、醵出スルコト

しゅっしん　(名)　出身　(一)官ニ、擧ゲ用キラルルコト。立身。　漢書、[illegible]「[illegible]」　[illegible]「[illegible]」　(二)其土地、其學校、又ハ、其黨ナドヨリ、世ニ出デタルコト。「政[illegible]出身ノ代議士」

しゅっしゃ　(名)　出車　イダシグルマ。

しゅっしゃう　(名)　出生　(一)出產　(二)其土地ノ、生レナルコト　「某國ノ出生」

しゅっしょ　(名)　出處　(一)デドコロ。出典　「[illegible]詩話(宋、[illegible])[illegible]不ニ必拘ニ來歷ニ「出處ヲ問フ」　(二)[illegible]シテ官ニ仕フルト、家ニ處テ仕ヘザルト。在朝ト、在野ト。「[illegible]表「出處進退[illegible]不[illegible]」

しゅっしょく　(名)　出色　他ニ異ナリテ、勝レタルコト　他ヨリマサリテ、一際、目立ツコト。出藍。

しゅっ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變)　卒　死ぬニ同ジ、但シ　四位、五位ノ人ニ就キテ云フ　支那ニテハ、大夫ノ爵ノ人ノ死ニ云フ。卒去　禮記、曲禮、下篇「天子死曰崩、云云、大夫曰卒」　孝德紀、五年二月「押使高向玄理、卒於大唐」

じゅっすう　(名)　術數　(一)ハカリゴト。タクラミ。權略　術策　管子、明法解「[illegible]主[illegible]術數、而不可[illegible]」　(二)算數ノ術　算術　北史、[illegible]「明[illegible]好[illegible]術數」

しゅつずい　(名)　出穗　ホバラミ。出穗。

しゅっせ　(名)　出世　世ニ、成リ出ヅルコト、仕官シテ、榮アルコト　出身　立身、發跡　李白詩、[illegible]出世ニ[illegible]」　[illegible](近松作)上「見付ケラレテハ、出世ノ妨[illegible]」

しゅっせ　(名)　出世　(一)佛敎ノ語。しゅっせけん(出世間)ニ同ジ。(二)世ニ、生レ出ヅルコト。特ニ、諸佛ノ、衆生濟度ノ爲ニ、淨土ヲ捨テテ、假リニ、娑婆世界ニ出デ來ルコト　太平記、[illegible]「[illegible]一朝ノ國師トシテ、四海ノ倚賴タリシカバ、天下ノ[illegible]出世[illegible]ノ如クナリ」　(三)僧侶ガ、得道ノ後、人ヲ敎化セムガ爲ニ、世間ニ出ヅルコト、(四)しゅっせしゃ(出世者)ノ(二)ノ略。「出世坊官」

しゅっ-せい (名)【出精】 精ヲ、イダスコト。務ノ勵ムコト。勵精。

しゅっ-せい (名)【出征】 出陣シテ、征伐スルコト。戰地ヘ、出向クコト。詩經、小雅、彤弓之什、六月篇「王于出征、以匡二王國一」「出征ノ將士ヲ慍フ」

しゅっ-せき (名)【出席】〔缺席ニ對ス〕其席ニ、出デアフコト。列席。

しゅっ-せけん (名)【出世間】 佛經ノ語。(一)俗ノ世間ヲ出離シテ、僧トナルコト。出世。出家。(二)有爲(ウヰ)ノ世間ヲ離脫シテ、涅槃ノ境界ニ入ルコト。

しゅっせ-ごひ (名)【出世鯉】 雙鯉ノ圖ノ稱、田沼玄蕃頭ガ、宋ノ徽宗ノ雙鯉ノ圖ヲ藏セシヨリ、僥倖ヲ希フ輩、傳摸シテ、名ヅケタリト云フ。

しゅっせ-しゃ (名)【出世者】(一)世事ヲ捨テテ佛道ニ入リタル者。出家。(二)僧職ノ名、持佛堂ノ法事ヲ勤ムル役、延曆寺ニテハ公家ノ子、仁和寺ニテハ御室ノ近習、此職ニ就ク、官位ハ僧綱マデ昇ルヲ得。平家物語、七、經政都落事「數輩ノ同行、出世者、坊官、侍僧ニ至ル迄、經政ノ名殘ヲ惜シミ」

しゅっ-せん (名)【出船】 デフネ。船出(フナデ)。開洋。晉書、盧循傳「戴石水急、出船甚難」

しゅっ-そ (名)【出訴】 ウッタヘ、イヅルコト、訴訟ヲ、起スコト。

しゅっ-たい (名)【出來】 しゅつらいノ音便。應仁記、二、室町亭行幸事「彼ノ阿諛フ、殿中ヲ追出スベシ、サナクバ、大事出來セント云」

しゅつ-だい (名)【出題】 詩文ナドノ題ヲ、出スコト。晉書、選擧志「從二內出一題、以試二進士一」

じゅつ-だう (名)【術道】 祈禱、禁厭(マジナヒ)ナドノ術。盛衰記、廿六、平家可レ亡夢事「後ニハ、板ニ伏マロビテ、冷給ヘドモ、猶助カル心地シ給ハズ、療治モ、術道モ、驗ヲ失ヒ、佛神ノ祈誓モ、空シキガ如シ」

しゅっ-たく (名)【啐啄】〔佛家ニテハ、そつたくト讀ム〕啐合(クヒアヒ)ノ、ヨロシキコト。息(イキ)ノ、シノクリト、ヨク合フコト。禪林寶訓音義「啐啄、如二雞抱一卵、小雞欲レ出、以レ嘴吮レ殼曰レ啐、母雞憶レ出、以レ嘴啄レ之曰レ啄、作家機緣相投而解、亦猶レ是矣」

しゅっ-たつ (名)【出立】〔出立(イデタチ)ノ湯桶讀〕旅ニ、出デ立ツコト。カドデ。イデタチ。タビダチ。カシマダチ。發途 發程

じゅつ-ぢ (名)【術治】 マジナフコト。庭訓往來、十一月「針治、湯治、術治、養生之逕否、殊大切事候」

しゅつ-ぢん (名)【出陣】 戰ニ、出ヅルコト。戰場ニ向フコト。出征。大草相傳聞書「出陣、門出ノ時ハ、支度ノ樣躰ノ事」今川大雙紙「出陣ノ門出ノ時、酌ノ事」信玄家法、下「一、出陣之砌、一日不レ可レ殘二大將之跡一事」相州兵亂記、三、府中軍之事「享祿三年夏ノ比、上杉修理大夫朝興ハ、河越ノ城ニ在リケルガ、云云、武州府中マデ出陣シテケルト聞ヘケレバ」

しゅつ-ぢん (名)【出塵】〔塵ハ、塵世ノ義〕俗世間ヲ、脫ケ出ヅルコト。脫俗。孔稚圭、北山移文「耿介拔レ俗之標、蕭灑出レ塵之想」太平記、八、山徒寄二京都一事「王事靡レ盬、釋門假使雖レ爲二出塵之徒一、此時奈何無レ盡二報國之忠一、早翻二武家合體之前非一、宜レ盡二朝廷扶危之忠膽一矣」

しゅっ-ちゃう (名)【出張】〔出張(デバリ)ノ音讀〕デバルコト。其方ヘ、出向クコト。豆相記「越國景虎、巳出二張于關東一之風說、多聞之間」

しゅつ-ぢゃう (名)【出定】 禪定ヨリ、出ヅルコト。坐禪ヨリ、起ツコト（入定ニ對ス） 方干、贈二江南僧一詩「思山海月上、出定印香終」盛衰記、十九、文覺入定京上事「今日ハ、出定ノ日也トテ、又、國中ノ男女、雲霞ノ如クニ集テ、拜ントス、弟子ノ僧、鎖ヲハヅシテ、戶ヲ開タリ、威儀亂レズ、定印違ヘズ、髮、生伸ビテ、瘦黑タリ、弟子銅ノ鈴ヲ以テ、入定ノ前ニテ、二ツ、是ヲ鳴ス、文覺、鈴ニ驚テ、出定セリ、見ル人、猶、佛ノ如クニ貴ミケリ」

じゅっ-ちゅう (名)【術中】 テダテノウチ、策略ノ中(ナカ)。史記、張儀傳「嗟乎、此吾在二術中一而不レ悟、吾不レ及二蘇君一明矣」「敵ノ術中ニ陷ル」

しゅっ-つ (名)【出津】〔入津(ニフツ)ニ對ス〕船ノ、津(ミナト)ヲ出ヅルコト。出港

じゅっ-てき (名)【怵惕】 恐レテ、心、安カラザルコト。孟子、公孫丑、上篇「今人乍(タチマチ)見二孺子將一レ入二於井一、皆有二怵惕惻隱之心一」賀古敎信七墓廻（元祿、近松作）二「怵惕、惻隱ハ、仁ノ端」

しゅっ-てん (名)【出典】 某事ハ、某典(ショモツ)ニアリト、其出處(デドコロ)ヲ云フコト。典據。「熟語ノ出典」

しゅっ-とう (名)【出頭】(一)身ノ、其處ニ出デ向フコト。「官署ニ出頭ス」(二)臣下ノ、最モ寵愛セラルルモノ。武邊咄聞書、四、堀三十郞「秀吉公、御小性ニ召出サレ、御前不レ去ノ出頭ナリ」

しゅっとう-にん (名)【出頭人】(一)出頭シタル人。(二)古ヘ、武家ニテ、要路ニ當リ、政務ニ與(アツカ)リシ人ノ稱、卽チ、三管領、四職、奉行ナドヲ云ヒ、又、大名ノ家ニテハ、老臣、奉行ヲ云フ。

じゅつ-なが・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）【無術】 術無ク思フ。爲(セ)ム方(カタ)ナク思フ。沙石集、八、上、第一條「物狂ハシキニコソト、看病ノ者、思フ程ニ、餘リニ術ながりケル時、見レバ」

じゅつ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）【無術】 又、そつなし 爲(セ)ム方(スベ)、ナシ 困(コウ)ジタリ、今、そつなし。沙石集、二、下、第八條「飢渴ニ責メラレテ、術なく候」今昔物語、廿三、第十九語「被ヲ少シ緩ベサセ給ヘ、目、拔ケ、腰、切候ヌヘシト、術無氣ナル音ヲ出シテ、云ケレバ」油糟（貞德）「食ヒアヒテ、術なサウナル、[illegible]」

しゅつ-なふ (名)【出納】(一)藏人所ノ官名、職事ノ雜務ヲ取扱ヒ、雜具ノ出納ヲ掌ルモノ。(二)大臣ナドノ家ニテ、上ノ如キ役ヲ勤ムル下吏。(三)延曆寺ニテ、被物(カヅケモノ)ナドノ出納ヲ掌ル僧。

しゅつ-にふ (名)【出入】 イデイリ。デハイリ。書經、冏命篇「出入起居、罔レ有レ不レ欽(ツツシマ)」

しゅつ-ば (名)【出馬】(一)馬ニ乘リテ、立出ヅルコト。（貴人ニ） 毛利家記「秀吉、九州御出馬、必定ト聞コエケレバ」(二)戰場ニ、出ヅルコト。出陣。奧羽永慶軍記、七、佐竹武威附宇津宮事「伊勢壽丸、少年ノ身ニシテ、父ノ敵討ント、骨髓ニ徹シ、思フ事コソ哀レナレ、武林ノ家ニ生レ、是ヲ餘所ニ見ル事ヤアラン、イデイデ、出馬シテ、力ヲ合セ、壬生ヲ討ント」常山紀談、六「尾州、蟹江ニ、瀧川一益、中入スト告來ル時、神君、尊遁ト云フ者、御出馬可レ被レ成者也ト書ケルヲ」(三)轉ジテ、自身、其場ニ臨ムコト。

しゅつ-ばい (名)【出梅】〔入梅ニ對ス〕ばいう(梅雨)ノ條ヲ見ヨ。

しゅっ-ぱつ (名)【出發】 イデタツコト。出向フコト。旅ダチ。

しゅっ-ぱん (名)【出版】 書物ヲ、版ニ刻リ、摺リテ、世ニ出スコト。版行(ハンカウ) 上梓。梓行。印行

しゅっ-ぱん (名)【出帆】 船ノ、帆ヲ上ゲテ、港ヲ出ヅルコト。フナデ。拔錨。解纜。

しゅっ-ぴ (名)【出費】 入費ヲ、出スコト。散財「出費、ダシ」

しゆつ-ぴ (名) [出悲] アハレミ、悲ム(カナシ)コト。 [illegible]

しゆつ-ぴん (名) 出品 品物ヲ、出スコト。(博覽會ナドニ)

しゆつ-ぷ (名) 出府 地方ヨリ都ヘ、出ヅルコト。上京

しゆつ-ぺい (名) 出兵 兵隊ヲ、繰リ出スコト。出師 孔子家語 [illegible]

しゆつ-ぺい (名) [恤兵] 戰役ナドニ際シ、軍人ヲ慰恤セムタメニ、金錢、或ハ、物品ヲ、寄附スルコト。「恤兵品」

しゆつ-ぽ (名) 出穗 ホバラミ。出穗(シユツスキ)

しゆつ-ぽつ (名) 出沒 出デモシ、隱レモスルコト。隱見 [illegible]

しゆつ-ぽん (名) 出奔 (一)出デ、奔ルコト。逃ゲテ、他ヘ行クコト。カケオチ。逐電。 左傳、桓公十年「虞叔公、出二奔共池一」「他郷ヘ出奔ス」 (二)江戸時代、徒士以上ノ逃亡(名) 稱 [illegible]

しゆつ-みん (名) 恤民 人民ヲ、アハレミ惠ムコト。 國語、魯語「在位者恤二民之患一、是以……」

しゆつ-やく (名) 出役 出張(バリ)ノ勤メ。役目ニ、出張スルコト

しゆつ-らい (名) [出來] (出來る(イタ)ノ音讀、……) (一)出テ來ルコト (二)物事ノ、成リ調ヒタルコト。出來上ガルコト。成就

しゆつ-ろう (名) [出牢] 牢屋ヨリ、出サルルコト。出獄 御定書百箇條「……之モノ、出牢ノ上、不レ及レ咎事」

しゆつ-らん (名) 出藍 (荀子、勸學篇「青出二于藍一、而青二于藍一」ヨリ出ヅ) 本ヨリ出デテ、却ッテ、本ニ勝(マサ)ルコト。他ニ學ビテ、他ヨリ上ニ出ヅルコト。出色。 北史、李謐傳「初師二博士孔璠一、……同門生語曰、青成レ藍、藍謝レ青、師何常、在二明經一」異本、山家集「鶯ノ、古巣ヨリ立ツ、ホトトギス、藍ヨリモ濃キ、色ノ聲カナ」「出藍ノオ」「出藍ノ譽レ」

しゆつ-り (名) 出離 佛經ノ語、俗ノ世ヲ、出デ離ルルコト。出世間。 華嚴經…… 代衆生、令レ究二竟出離一 平家物語、十、戒文事「夫、出離ノ道、區區ナリト八申セドモ、末法濁亂ノ機ニハ、唱名ヲ以テ勝レタリトス」 鴉鷺合戰物語、十「山深ウシテ、……山中ノ色眼ニアリ、此ヲ樂ヅルモノ、……居スル輩ハ、出離、速ニ進ム」

しゆつ-るい (名) 出類 同類ヲ、拔ケ出ヅルコト。拔萃。 任昉詩「高行絶レ俗、盛德出レ類」

しゆ-てい (名) [朱提] (支那、四川省ニテ、銀ヲ出ス山名。提、一音、司(シ)) 銀ノ異名。

しゆ-でい (名) 朱泥 支那、江蘇省、蘇常道、宜興縣ニ製出スル陶器ノ名、天然ノ石黃泥ト稱スル土中ノ石骨ヲ燒ケバ、硃砂ノ色ヲ成スヲ以テ製ス、色、暗朱ニシテ、質、極メテ堅緻、叩ケバ、金石ノ聲ヲ發ス、急須(陽羨茗壺)、其外、種種ノ器ヲ作ル、又、天青泥ト稱スル土ヲ燒ケバ、赭色ノ、黑ミアルモノトナル、コレニテ製スルヲ、紫泥ト云フ、色、暗紫ナリ、外面ニ詩畫ヲ刻リツケタルモ、多シ、其外、黑キヲ烏泥、白キヲ白泥ト云ヒ、倚、種種ノ色ナルヲ産ズ。

しゆ-てん (名) [主典] フミビト。フンビト。サクヮン かみ(長官)ノ條ヲ見ヨ。

しゆ-でん (名) [主殿] 一家總構ノ内ニ、宗トアル殿舍、卽チ、寢殿、客殿、對面所、ナドノ稱 義經記、八、判官御自害事「寢殿ハ、持佛堂ノ……ヲ後ニアテテ、しゆでんノ垂木ニ取ツキ……寶庇ニ飛ビ入リ」成氏年中行事「御主殿ハ、南向、御座九間六間、是ハ、御客中也」 甲陽軍鑑、十一、品第三十九「天正元年三月九日ニ、信玄公、御煩、能クマシマシテ、御主殿マテ御出被レ成、御庭ノ築山ニ、櫻ノ漸開キタルヲ御覽ナサレ、廣縁ニ御立アリ、古歌ヲ吟ジ給フ」 公方樣正月御事始記「御成ノ時、進物之事、先ツ主殿ニテ、式三獻……候時、一族御人候ハ、御弓、征矢ヲ被レ持候テ、御座ニ被レ置候」云云」

しゆ-でん (名) [守殿] ごしゆでん(御守殿)ノ條ヲ見ヨ。

しゆ-と (名) [首都] しゆふ(首府)ニ同ジ。

しゆ-と (名) 首途 カドデ。タビダチ。 北史、……「於レ是出……定州刺史……」

しゆ-と (名) 酒徒 酒飲ノ、トモガラ。好ミテ酒ヲ飲ミ、禮法ニ拘ハラザル、輩(トモガラ)。 史記、酈生傳「吾高陽酒徒也、非二儒人一也」

しゆ-と (名) 衆徒 (一)寺院ノ法會ニ集レル僧俗。(二)寺院ニテ使フ、下級ノ僧侶(未得度ノ者ヲモ含ム)延暦寺、興福寺、園城寺ナドノ大寺ニ、數多居タル衆徒ヲ、大衆ト云フ 盛衰記、四十五、重衡向二南都一被レ斬事「返事ヲモ聞バヤト思シカ共、宛ナケレバ、叶ハズ、南都ノ衆徒ニ渡サレナバ、再、還來ルベキ身ニハアラズ」

しゆ-とう (名) 種痘 ウエバウサウ 兩殻秋雨齋隨筆「種痘、始二於宋眞宗朝王旦一、其後、各相授受、以……」云云、蓋其……、房州海一

村、有二白……數百年前、行二種痘一法、多用二乾苗一、乃先……於……上一而知……用、此、亦奇矣、夫、痘之……逆、係二于受……毒之……不、由二種與不種一……不種而逆、人必委二之於天一、種而逆、必……種者一、不レ若レ任二其自然一也、有二人間一種可二種者一、予則常以二此為一……」 種痘傳習録 中土八、宋眞宗ノ時、峨眉山神人、丞相王旦ノ兒ノ爲メニ、天行痘瘡ノ痂ヲ採リ、鼻孔ニ吹ク、此ヲ、世界中、種痘ノ嚆矢ト爲ス、予、今(寬弘中)八百六十餘年、在二皇國一、種痘ノ法、中土ヨリ傳ヘ、口授、心傳、明和四年丁亥、平安……、始テ種痘心法ヲ述シ、……スル所ヲ表出シ、其利益アルヲ稱セリ」

しゆ-どう (名) [主動] 主トナリテ、行動スルコト。「主動者」

しゆ-どく (名) 酒毒 酒ヲ飲ミ過(スグ)スニ就キテ、血脈ナドニ生ズル病 ……「……浦島年代記(元祿、近松作)二、風邪ノ、入リシカ、酒毒カ」

しゆ-のう (名) 首腦 物事ノ、主要ナル部分。「反軍ノ首腦」

しゆのう-はんたい (句) [酒囊飯袋] さかぶくろト、めしぶくろト。徒食シテ、何ノ役ニモ立タヌモノヲ嘲リ云フ語。 翔相近事 馬氏南唐書、諸院王子……文武之道、未二……意一、時、謂二之酒囊飯袋一 (通俗編、廿七)

しゆ-のう (名) 收納 租稅、物成(モノナリ)ノ、取リイレ。收穫

じゆ-のう (名) [受納] ウケ、ヲサムルコト。納受。(賄物ナド) 後漢書、侯覽傳「……初……中常侍……侯覽……、受……納賂遺……巨萬……計」

しゆ-にく (名) 朱肉 朱色ノ印肉、黑肉ナドニ對ス。

しゆ-にく (名) [酒肉] 酒ト、肴ト。酒肴。 孟子、離婁、上篇「曾子養二曾晳一、必有二酒肉一」 太平

記、十二、千種殿著侈ノ事、「毎日ノ酒宴ヲ握舞ヒケルニ、堂上ニ袖ヲ連ヌル諸大夫侍、三百人ニ餘レリ、其酒肉、珍膳ノ費、一度ニ、萬錢モ、尚、足ルベカラズ」

しゅにん (名)「主任」 專ラ、任セラレタルコト。受持。又、其人。「會計ノ主任」

しゅぬり (名)「朱塗」 朱漆ニテ、塗レルコト。朱漆。朱髹。 大炊寮式「其飯器、參議已上、並朱漆椀」

しゅはい (名)「手背」 手ノこふ。 宋史、仁宗紀「詔、河北强壯ハ刺ニ手背ハ爲ニ義勇軍一」

しゅはい (名)「酒杯」 サカヅキ。酒盞。 杜甫詩「苦遭ニ信使ハ稀少ハ莫ニ怪頻勸ニ酒杯一」

しゅばう (名)「酒坊酒房」 サカミセ。サカヤ。酒肆。 張祐詩「玉貌當ニ壚坐ニ酒坊ハ黃金飲器索ニ人嘗一」

しゅはん (名)「首班」 席次ノ、第一。首席。首座。

しゅはん (名)「手板」 しゃく(笏)ニ同ジ。 文獻通考(宋、馬端臨)王禮考「笏、晉以來謂ニ之手板一」

ジュバン (名)「襦袢」 (字ハ、汗ニ濡ル半衣ノ意カ、或ハ云フ、葡語、(ジュバン)ノ轉ナリト) 肌ニ親シクツケテ着ル、單ノ、短キ衣。ハダギ。襯衣。 今宮心中(寶永、近松作)上「早フ早フ、合點カ、心得マシタト、帶モセズ、襦袢一ツノ裸身ヤ、百貫町ヘゾ走リケル」

しゅび (名)「首尾」 (一)首ト、尾ト。初ト、終ト。本末。 戰國策、魏策「擊ニ其中身ハ首尾俱救」「首尾、全シ」 (二)其事ノ一件。始末。顚末。 (三)事ノ成行。結果。 信州川中島合戰(享保、近松作)一「首尾ヨク、先ヅ當所ヲ引キ取リ」「首尾ワルシ」 (四)事ノ、前後ノ支度。計畫。「首尾ヲスル」

しゅび (名)「麈尾」 「名苑「麈、似ニ鹿大者、羣鹿隨レ之、視ニ其尾所ニ轉而往、古之談者、揮レ焉ニ」」 又、しゅみ。をび。ほっを(拂子)ニ同ジ。ハヘハラヒ。 晉書、王衍傳「毎捉ニ玉柄麈尾一」 大安寺資財帳「麈尾」 倭名抄、十四「服玩具「麈尾、俗音、朱美」」

しゅび (名)「守備」 マモリ。ソナヘ。カタメ。 左傳、昭公廿三年「完ニ其守備ハ以待ニ不虞ニ」「守備ヲ嚴ニス」

しゅびき (名)「朱引」 (一)朱墨ニテ、物ニ、線ヲ引クコト。朱抹。 (二)古書ニ、文字ノ右、中、左ニ、朱墨ニテ、單線、或ハ、雙線ヲ引キテ、地名、人名、官名、書名、等ノ標トシタルモノ。 朱引ノ歌「右ハ處、中ハ人ノ名、左ヲバ、官ノ朱引ト、カネテ知ルベシ 二ツ引、中ノ二ツハ、物ノ本、左二ツハ、年號ゾカシ」 (三)東京市ト、郡部トノ境ノ稱。地圖ニ、朱線ニテ分チシカバ、云フ。「朱引地」

しゅひつ (名)「執筆」 カキヤク。記錄方。書記。右筆。執筆。 太平記、七、千劍破城軍事「長崎四郎左衛門尉、軍奉行ニテアリケレバ、手負、死人ノ實檢ヲシケルニ、執筆十二人、夜晝、三日ガ間、筆ヲモ置カズ、記セリ」

しゅひつ (名)「主筆」 新聞、又ハ、雜誌ヲ記スル、主ナル人。主トシテ、新聞、雜誌ニ筆ヲ執ルモノ。

シュビン (名)「溲瓶」 (字ノ唐音) 臥床ニ備ヘテ、尿スルニ用キル、陶製ノ器。シビン。シノハコ。虎子。 書言字考節用集、七、器財門「溲瓶、本名、虎子」 書經噂記、慶長八年二月廿五日「一、しゅびん之事、可レ有レ之候」

しゅふ (名)「主婦」 其家ノ主人ノ妻 又、其家ノ女主人。「下宿屋ノ主婦」

しゅふ (名)「首府」 一國ノ政府ノアル都ノ稱。首都。

しゅふく (名)「首服」 げんぶく(元服)ニ同ジ。 故實拾要、九「首服、首飾、是皆、元服ノ事也、云云、常ノ詞ニモ、被ニ加ニ首飾ハ被ニ加ニ元服ニナド云事ナリ」 園太曆、貞和二年正月二日「今日、孫小童公定(生年七歲)令ニ首服ニ也」 吾妻鏡、九、文治五年四月十八日「北條殿三男(十五歲、時房)於ニ御所ニ被レ加ニ首服ニ」 實隆卿記、嘉永二年三月十五日「今日、中務卿宮(有栖川幟仁親王)息男、熾仁親王(十五歲)、令レ加ニ首服ニ給一」

しゅふく (名)「首伏」 罪ヲ、白狀スルコト。

しゅふく (名)「修復」 ヲサメ、ナホスコト。ツクロヒ。修繕。 著聞集、四、文學「治安ノ都督惟憲卿、彼跡ヲ悲ビテ、一伽藍ヲ、其所ニ修復シテ、法花三昧ヲ修ス一」

じゅふく (名)「儒服」 儒者ノ着ル衣服。 禮記、儒行篇「夫子之服、其儒服與、孔子對曰、丘少居ニ魯、衣ニ逢掖之衣ハ長居ニ宋、冠ニ章甫之冠ハ丘聞ニ之也、君子之學也博、其服也鄕、丘不ニ知ニ儒服ニ」

しゅぶん (名)「守文」 (漢書、顏師古、注「守文、言下遵ニ成法ニ不上レ用ニ武功ニ」ト云フヨリ出ヅ) 繼承ノ君ノ稱。 漢書、外戚傳「帝王及繼體守文之君、非ニ獨內德茂ニ也」 太平記、一、關所停止事「是則、所レ以草創雖レ幷ニ天ハ守文不レ越ニ三載一也」

しゅぶん (名)「朱文」 印ナドノ文字ノ、凸ク刻リテ、朱ニテ押シテ、字ノ、朱ニウツルモノ。凹ク刻リテ、字ノ所、白クナルヲ、白文ト云フ。

しゅぶん (名)「衆分」 盲官ノ名。(其條ヲ見ヨ)四分ナドトモ書ク。

しゅへき (名)「酒癖」 サカクセ。酒ニ醉ヘバ、惡シキ癖ノ、出ヅルコト。 皮日休詩「妻仍嫌ニ酒癖ニ」

しゅべつ (名)「種別」 種類ニヨリテ、區別ヲナスコト。類別。 漢書、劉歆傳「集ニ六藝羣書ハ種別爲ニ七略ニ」

しゅほ (名)「酒鋪」 サカヤ。酒店。酒肆。

しゅほ (名)「酒保」 酒ヲ賣ル店。 鶡冠子、天則篇「酒保」注「酒保、賣ニ酒者ニ也」 今、軍隊ノ中ニテ、軍人ニ飲食物ナドヲ賣ル所。

しゅぼ (名)「酒母」 酒ノモト。醸母。 王安石詩「剩ニ置官壚ニ貯ニ酒母ニ」

しゅぼう (名)「首謀」 事ヲ企テタル發頭人。首(多ク、惡事ニ云フ) 漢書、武帝紀「將軍王恢、坐ニ首謀不ニ進、下ニ獄死一」

じゅぼく (名)「入木」 (書斷「王羲之、晉帝時、祭ニ北郊ハ更ニ祝版ハ工人削レ之、筆入レ木ニ分」ヨリ出ヅ) 又、にふぼく。書法ノ異名。入木道。 讒草「和俗、筆法ヲ謂テ、入木ト云フ」

じゅぼくだう (名)「入木道」 前條ニ同ジ。

しゅほふ (名)「修法」 ずほふ(修法)ニ同ジ。

じゅほふ (名)「受法」 弟子ノ、師匠ヨリ、法門ヲ受クルコト。 平家物語、四、三井寺炎上事「宿老、碩德ノ名師ハ、行學ニ怠リ、受法、相承ノ弟子ハ、マタ經教ニ別レタリ」

しゅみ (名)「趣味」 (一)オモムキ。オモシロミ。アヂハヒ。興味。風韻。風致。 水心題跋(宋、葉適)「怪偉伏ニ平易之中ハ趣味在ニ言語之外ニ」 (二)智的嗜好。「趣味、廣シ」 (三)美ヲ、知覺、辨別スル能力。

しゅみ (名)「麈尾」 しゅび(麈尾)ニ同ジ。

シュミ (名)「須彌」 次次條ノ語ノ略 謠曲、[illegible]先、天上ノ五衰ヨリ、須彌ノ四州ノサマザマニ、北州ノ千年、ツヒニ朽チヌ 國性爺合戰(正德、近松作)九仙山「時分ハヨシト、夕暗ニ、日本祕密ノ陶器火矢、打テ放ツ其響キ、須彌モ崩ルルバカリナリ」 須彌の髮トハ、取髮 髻 太平記、

十三、[illegible]ヲ得ル。

シュミ-ざ (名) 須彌座 (一)[illegible]ノ八角、[illegible]壇ノ異稱。(二)佛像ヲ安置スル壇。佛ノ座。須彌壇。

シュミ-せん (名) 須彌山 (梵語、[illegible]) 妙高山ト譯ス。又、スミノヤマ。略シテ、須彌。佛說ニ、山ノ、極メテ大ナルモノ、四洲ノ地心ニシテ、大海ノ中ニアリ、高サ、三百三十六萬八千由旬、日、月、横ニ周リテ、地ニ出入セズト云フ。[illegible]

シュミせん-しる (名) 須彌山汁 味噌汁ノ中ニ、菜ト、豆腐トヲ入レタルモノ。後ノ、ざくざく汁ト云フニ同ジ。[illegible]

シュミ-だん (名) 須彌壇 しゅみざ(二)ニ同ジ。

しゅみゃう (名) 壽命 イノチ。ヨハヒ。命數。[illegible]

しゅん (名) 旬 (字ノ漢音、物ノ初ノ意カトモ云フ) (一)古ヘ、朝中ノ公事ノ稱。夏ト、冬トニアリ、夏ナルヲ、孟夏ノ旬ト云ヒ、夏ノ時候ノ改マル初ニ、臣下ニ御酒ヲ賜ヒ、政ヲ聞召ス義ナリトゾ、扇ヲ賜フ、冬ナルモ、同ジコトニテ、孟冬ノ

旬ト云ヒ、氷魚ヲ賜フ、合ハセテ、二孟ノ旬ト云ヘリ。其他、内裏新營ノ後、始メテ南殿ニテ行ハルルヲ、新所ノ旬ト云ヒ、卽位ノ後、始メテ政ニ臨ミ給フヲ、萬機ノ旬ト云ヒ、十一月一日、冬至ニ當ル年ニ行ハルルヲ、朔旦ノ旬ト云フ。[illegible] (二)[illegible]旬ノ物ハ、扇、氷魚ナル意ヨリ轉ジテ、果、蔬ナド、スベテ、食物ノ成熟シテ、恰モ食フベキ時ノ稱。「旬ノ物」(三)又、轉ジテ、物事ニ、其時ニ至リ、其度ニ相應スルコト。

じゅん (名) 旬 (字ノ呉音) (一)十日間ノ稱。一ケ月ノ初、一日ヨリ十日マデヲ上旬(又、上澣、上浣)ト云ヒ、十一日ヨリ二十日マデヲ中旬(又、中澣、中浣)ト云ヒ、二十一日ヨリ末ヲ下旬(又、下澣、下浣)ト云フ。さんくゎん(三澣)ノ條ヲ

併セ見ヨ。(二)一年ヲ、旬歳ト云フ、(正字通)(三)十年ヲ、一期トナス稱。

じゅん (名) 順 (一)正シキニ、順フコト。(逆ノ(一)ニ對ス) [illegible] (二)順ル序。次第。順序。順。[illegible] (三)シトヤカナルコト。オトナシキコト。柔順。[illegible]

じゅん (名) 閏 ウルフ。[illegible]

じゅん (接尾) 巡 メグル數ヲ云フ語。「詩、一巡二巡」

しゅん-あい (名) 春靄 ハルガスミ。春ノモヤ。[illegible]

しゅんあう-てん (名) 春鶯囀 春鶯囀。雅樂ノ曲ノ名。梅花春鶯囀。又、天長寶壽樂、等ノ別名アリ。皇帝、后帝ト、三曲同傳ニテ、四大曲ノ一ナリ、唐高宗、聲律ニ通ジ、管テ鶯聲ヲ聞キ、白明達ニ命ジテ、其聲ヲ寫サシメ、此曲ヲ作ルト云フ、女舞ニテ、舊譜ニ、舞女十人トアリ。和訓シテ、はるのうぐひすさへづる、略シテ、うぐひすのさへづり。[illegible]「ヤウヤウ入日ニナル程ニ、はるのうぐひすさへづると云フ舞、イトオモシロク見ユルニ」枕草子、九、百八段、[illegible]出ルナリ、[illegible]

[illegible]

しゅん-い (名) 俊異 通常人ヨリスグレテ、異ナリタルコト。又、其人。[illegible]

じゅん-い (名) 鶉衣 ヤブレ衣。弊衣。うづらのきろもノ條ヲ見ヨ。[illegible]

じゅん-いう (名) 準由 シタガヒ、ヨルコト。準由。

じゅん-いう (名) 巡遊 方方ヲ、メグリアソブコト。[illegible]

しゅん-いつ (名) 俊逸 ナミハヅレテ、スグレテ居ルコト。又、其人。[illegible]

じゅん-いつ (名) 純一 雑リ氣ノ無キコト。純粹。[illegible]

しゅん-いん (名) 春蚓 春ノ蚯蚓。字體ノ描キヲ譬ヘ云フ語。ひじきノ行列。[illegible]

しゅん-う (名) 春雨 ハルサメ。ハルノアメ。[illegible]

じゅん-えい (名) 准穎 代米。物ノ價ヲ、穎稻ニ換フルコト。[illegible]

しゅん-えき (名) 純益 純粹ノ利益。全クノマウケ。

じゅん-えき (名) 潤益 カザリテ、マスコト。潤飾。[illegible]

しゅんえん (名) 旬宴 旬(シュン)(一)ノ日、諸臣ニ、酒宴、或ハ、祿ナドヲ賜フコト。 張說詩「皇恩頒旬月、旬宴在兵功二」續日本後紀、五、承和三年三月朔「天皇御紫宸殿、賜侍從已上酒、具樂而罷」

しゅんえん (名) 順延 順繰リニ、期日ヲ延バスコト 「雨天順延」

じゅんえん (名) 順緣 佛敎ノ語、事物ノ成立ヲ助クル、積極的ノ緣。(逆緣ノ(一)ニ對ス) 太平記、廿四、壬生地藏事「彼レハ依順緣、今生ニ助命、是レハ依逆緣、來生ノ得値遇」謠曲、巴「同所ノ人ナレバ、順緣ニ弔ハセ給ヘヤ」

じゅんおう (名) 順應 (一)境遇ニシタガヒテ、之レニ相應スルコト (二)生活ガ、外界ノ狀態ニ、ヨク應ズルヤウニ變化スルコト。

しゅんかい (名) 悛改 かいしゅん(改悛)ニ同ジ 高允表「居上者未能悛改、從下者習以爲俗」

しゅんがう (名) 俊豪儁豪 才德ノ、衆ニスグレタルコト。又、其人 王安石詩「選一時荒郊謝俊豪」

じゅんかう (名) 巡幸 天子ノ御巡廻。 唐書、西突厥傳「如西州、中書門下、擇巡幸所過四」

じゅんかう (名) 巡行 メグリユクコト。歩キマハルコト。遍歷 周禮註「請正字以、騎夫巡行」戶令「凡國守、每年一巡行屬郡、觀風俗、問百年」主稅寮式「凡大宰及國司、巡行部內」

じゅんかう (名) 遵行 (一)シタガヒ、行フコト。 類聚三代格、一、太政官符「奉勅依請者、宜施一國、遵行有便」 (二)守護ヨリ下ス指令。 武家名目抄、七、十七條「當時ハ、管領ノヲ、施行ト云、守護ノヲ、遵行ト云、守護代ノヲ、打渡狀ナンド云歟」 和簡禮經、五「遵行事、其國之守護、施行ヲ、從官領ニ請取テ、守護代ニ被付ヲ、遵行ト云」御札委細令拜見候了、如哀田保事、遵行申候間、御代官方被請取候訖、當知行人、千萬難申子細候共、落居候間、先以恐悅候」 寶簡集、廿八「備後國、太田庄內、桑原方、六ケ鄕地頭職事、任去四月十五日之遵行之旨、早可被打渡高野山西塔雜掌之狀、如件、應永二年五月三日」

じゅんかう (名) 順行 (逆行ニ對ス) (一)順ニ、オコナハルルコト。 庾信賦「從三月建而左轉、七三黃鐘而順行」「四時ノ順行」 (二)天文學ノ語、遊星ノ、西ヨリ東ヘ向フ運行。

じゅんかう (名) 順講 りんかう(輪講)ニ同ジ。

じゅんがふ (名) 准合 隣村ノ合毛(ガフマウ)(一歩ノ籾、何合何勺ト定ムル義)ノ通リ、歩刈帳ニ記スコト 地方凡例錄、三、有毛檢見事「准合ト云ハ、村內離レ、耕地カ、或ハ、新田場所、等、別ニ歩刈可致處、本田歩刈之合毛ニ而請度旨願、又ハ、村村入組タル田場、一ケ村致坪刈外村モ、其通之合毛ニ而請度段、相願、別段ニ歩刈不致、隣村之合毛通リ、歩刈帳ニ記ヲ、准合ト云フ」

しゅんかん (名) 筍乾 (元ハ、乾シタルタケノコ(タケノコ)ヲ用キシトゾ」 筍ヲ乾シタルモノ。舶來セルモノハ、皮ヲ剝キテ切ラズニ、煮テ乾シタルモノ、其形、壓シ平メタルガ如シ。 異制、庭訓往來、復陽(十一月)十五日「筍干、干栗、松茸、衮昆布」 親元日記、三、寬正六年七月十一日「小島同敬(飛驒)筍千一箱、進上」 料理物語(寬永)「しゅんかんハ竹ノ子ヲ、ヨク湯煮シテ、色色ニ切リ、鰒、小鳥、落鋒、云云、右ノ内ヲ入レ、ダシタマリニテ煮候テ、ヨシ」

しゅんかん (名) 瞬間 マタタク間(マ)。瞬時。暫時。刹那。

しゅんかん (名) 春寒 春(ハル)ノ寒サ。 韓偓詩「羅幕生春寒」

しゅんき (名) 春季 (一)春ノ季(スヱ)。季春。班固、終南山賦「三春之季、孟夏之終」 (二)春ノ時。春ノ時節。

じゅんぎ (名) 旬儀 旬(一)ノ儀式。しゅん(旬)ノ條ノ(一)ノ出典ヲ見ヨ。

じゅんぎ (名) 順義 道義ニ、順(シタガ)フコト。正シキスヂニ、順フコト、 書經、傳「以富資而能順義、則可以長年命矣」 武陣八島、元祿、近松作)二「殊ニ、順義ト申シ、姉ヲ申シ入レテ給ハレ」

じゅんぎ (名) 準擬 ナゾラフルコト。 盧光義詩「洌洌玄冬暮、衣裳無準擬」 庭訓往來、十二月「調進準絹、準布」注「準布準擬納錢也」

しゅんぎう (名) 駿牛 スグレタルうし。逸物ノ牛。「駿牛繪詞」

しゅんぎく (名) 春菊 菊ノ一種、春、又ハ秋、種ヲ下ス、葉ハ、細ソク白クシテ、互生ス、冬、春ノ間、コレヲ食フ、春、薹(タウ)ヲ出ス、高サ一二尺、春ノ末、梢ニ白花ヲ開ク、單葉(ヒトヘ)ノ菊花ニ似テ、大キサ一寸餘、蘂、黃ナリ、きくな。訛リテ、しんぎく。 茼蒿 又、野春菊アリ、其條ニ注ス。

じゅんきふ (名) 巡給 年給ノ一、卽チ、親王給ナリ、コレハ、世系ノ次序ヲ逐ヒテ、遞(カタミ)ニ、年官ニ合ヲ給ハルコトニテ、例ヘバ、第一年ハ、白河天皇ノ親王ノ巡給、第二年ハ、堀河天皇ノ親王ノ巡給ナルガ如シ、然レドモ、此巡給ノ事ハ、古來、異說アリテ、其實ハ、詳カナラズ。(二合ト云フコトハ、目(二分)一人、史生(一分)一人ナルヲ、合併シテ、掾(三分)一人トスルガ如シ) 除目抄「一、親王巡給事」注「巡給、別巡給、別給、已上、其號有三種、年給、日一人、一分一人、外巡給一、合爲也」 中右記、保安元年正月十六日「今日政始也、云云、頭辨奉、仰、若宮損ニ巡給之宣旨被下歟、書三件宣旨、持來左府ニ長秋記、天承元年正月廿日「除目始也、云云、凡、雖當親王宣旨可、預巡給之由、不給宣旨不、出年給中文云云」

じゅんきん (名) 純金 純粹ノ黃金 雜(マ)ゼモノナキ金。 南史、扶南國傳「國王、云云、常遣扶南王純金五十人食器、形如圓盤」

じゅんぎん (名) 純銀 雜(マ)ゼモノナキ銀。純粹ノ白銀(シロガネ)。

じゅんきゃう (名) 順境 萬事、都合ヨクユク境遇 得意ノ境遇。シアハセ。(逆境ニ對ス)

しゅんきゃく (名) 隼脚準脚 早飛脚(ハヤビキャク)。 吾妻鏡、三十五、寬元二年四月廿一日、平新左衞門尉盛時、爲其準脚、已賜及云々、吉日之上、依、急事、遂嘉、行移被定六箇日ニ

じゅんぎゃく (名) 順逆 (一)シタガフコトト、サカラフコトト。「順逆ヲ誤ラズ」 (二)順當ト、不順當ト。正當ト、正當ナラザルト。 史記、天官書「察日月之行、以揆歲星順逆二」 (三)順緣ト、逆緣ト 太平記、三、櫻山自害事「傳、乘許、和光ノ悲願ヲ思ヘバ、順逆ノ二緣、イヅレモ、濟度、利生ノ方便ナレバ、今生ノ逆罪ヲ翻シテ、當來ノ値遇トヤナラント」

しゅんきゅう (名) 春宮 (一)春ノ神ノ宮。 屈原、離騷「溘吾遊此春宮兮」 (二)とうぐう(東宮)ニ同ジ。竹書紀年「周穆居于春宮二」

じゅんきょ (名) 準據 ノリ。標準 太平

[illegible]非、醍醐寺、勸修寺、[illegible]、後醍醐天皇御書[illegible]建立ニ記」(當寺ハ、延暦寺ナリ)(

しゅんこうでん (名) 春興殿 京都ノ皇居内、紫宸殿ノ東北、元ト溫明殿ノ在リシ跡ニ新建セラレタル宮殿。大正四年十一月、御即位ノ時、賢所ヲ奉安アラセラル。(春興殿ノ位置ハ、古今、差アリ)

しゅんぐ (名) 蠢愚 無知ニシテ、事理ヲ解セザルコト。オロカナルコト。無知。「[illegible]」

しゅんぐう (名) 春宮 とうぐうト讀ム。東宮ニ同ジ。

しゅんぐり (名) 順繰 次第ヲ追ヒテ、モノスルコト。順次。「順ぐりニ、前へ進ム」

しゅんくゎ (名) 蕣花 (一)むくげノはな。「[illegible]」(二)あさがほノはた あさがほ(牽牛子)ノ條ヲ見ヨ。

しゅんくゎ (名) 春畫 淫レタル事ヲカキタル畫。又、其本。枕繪。「[illegible]」

しゅんくゎ (名) 醇化 (一)曲リタル心ノ、ナクナルコト。手アツキ教ヘノ感化。張衡、東京賦「淸風協於玄德、醇化通於自然」(二)哲學ニテ、曖昧ナル知識ヲ除去シテ、純粹、且ツ、組織的ナラシムル作用

じゅんくゎい (名) 巡廻 ミマハリ。ミメグリ、「管内ノ巡廻、[illegible]」

しゅんくゎう (名) 春光 春ゲシキ。春ノヤウス。春氣。春色。「林下[illegible]明、[illegible]九十ノ春光」

じゅんくゎうづきん (名) 順光頭巾 おこそづきん(御高祖頭巾)ニ同ジ。

じゅんくゎん (名) 循環 環ニツキテ、メグルコト。メグリメグリテ、止マヌコト。「[illegible]四時循環」「天運循環」

じゅんげ (名) 巡化 僧侶ガ、處處ヲ說法シテ、廻リ歩クコト

しゅんげい (名) 狻猊 (狻ハ、素官切、さんげいト讀ムヲ、本音トス) 獅子ノ一名。彫物ナドニ、獅子ノ貌シテ、臣ヲ持ツモノ 「[illegible]」

じゅんけい (名) 閏刑 (本刑、正刑ニ對ス) 老、幼、癈疾、或ハ、爵位アル者ナドニ、本刑ヲ加ヘズシテ、代ヘテ行フ刑、贖罪(シヨクザイ)、禁錮、等アリ。

じゅんけい (名) 巡警 巡視シテ、警戒スルコト 「宋史、[illegible]」

しゅんけいぬり (名) 春慶塗 (京都、油小路住ノ春慶ト云フ者、創ム) 漆塗ノ一法、純粹ナル薄キ漆一品ニ、油ヲ加ヘテ塗ル、淡黃褐色ニシテ、透明(スキトホ)リテ、木地、見ユ 「日光山志、七、春慶塗、指物細工、曲物類、挽物、栗山掛子」

しゅんけいやき (名) 春慶燒 [春慶ノ字ハ、寶倉(寬文)、及、鹽尻ニ、俊慶トアリ] 尾張國、瀨戶ノ陶工、加藤四郎入道春慶ト云フ者、後堀河天皇貞應二年、永平寺ノ開祖、道元ニ從ヒテ入宋シ、在留五年、陶器ノ法ヲ傳ヘ得テ、安貞元年八月歸朝シ、支那ノ土ト、藥トヲ攜ヘ歸リテ、

尾張國、瓶子窰ニテ燒キタルヲ、唐物ト稱ス。和土、和藥ニテ燒キタルヲ、古瀨戶物ト稱ス、支那土ト、和土トヲ交ゼテ燒キタルヲ、春慶燒ト云フ 二代目藤四郎ノ燒キタルヲ、藤四郎作ト云フ 瀨戶ニ、祖母懷(ウバガフトコロ)ト云フ谷アリ、其地ノ石ニテ燒キタルヲ、祖母懷(ボッテイ)ト云フ、多クハ、茶入ナリ (堺舜慶(和泉)トテアル茶入ハ、別種ノモノナリ)

しゅんけつ (名) 俊傑 「淮南子、泰族訓「知過萬人者謂之英、千人者謂之俊、百人者謂之豪、十人者謂之傑」」 智能ノ、衆ニ超エタルコト 又、其人 俊彥、「孟子、公孫丑、上篇「尊賢使能、俊傑在位、則天下之士皆悅、而願立於其朝矣」」

じゅんけつ (名) 純潔 (一)雜リモノ無クシテ、清キコト (二)私慾、邪念ナクシテ、心ノ潔白ナルコト。 蔡邕、李子材碑「可謂純潔皓素、[illegible]矣」

じゅんげつ (名) 旬月 (一)十ケ月。トツキ (二)僅少ノ月日(ツキヒ) 「後漢書、[illegible]旬月之間、[illegible]」

じゅんげつ (名) 閏月 ウルフヅキ。書經、堯典篇「以閏月定四時成歲」

じゅんげふ (名) 巡業 所所ヲメグリ歩キテ、興行ヲナスコト。「相撲ノ巡業」玉乘ノ巡業」

しゅんけん (名) 春暄 しゅんだん(春暖)ニ同ジ 詩經、豳風、七月篇「春日載陽」[illegible]「[illegible]」

しゅんげん (名) 俊彥 しゅんし(俊士)ニ同ジ 俊傑 書經、太甲、上篇「[illegible]俊彥、啓迪後人」

じゅんけん (名) 巡見 メグリテ、見分スルコト。ミマハリ。巡視。

じゅんけん (名) 巡檢 見マハリテ、取リ調ブルコト 「北史、[illegible]、使巡檢」

じゅんけんし (名) 巡檢使 鎌倉時代ノ使者ノ一、國中ヲ巡廻シテ、民間ノ苦樂ヲ察シ、五穀ノ豐凶ヲ檢スルコトヲ掌ルモノ。 吾妻鏡、十五、建久六年九月十九日「新藤[illegible]、[illegible]御分國巡檢使也、是不辨[illegible]之故也」[illegible]

じゅんけんし (名) 巡見使 江戶時代ノ使者ノ一、諸國ヲ巡邏シテ、政治ヲ視察スルコトヲ掌ルモノ。 職掌錄「諸國巡見使ハ、御使番一人、兩番二人、[illegible]七道、幾組ニモ分遣ル事也」[illegible]寬永十年正月六日、コノ日、諸國巡使等ニ、每國ヲ分命セラル、[illegible]「諸國巡見使覺、山城、大和、河內、和泉、久留島庄兵衛、攝津、紀伊、播磨、但馬、永田孫左衞門、丹波、丹後、[illegible]五郎大夫」

じゅんこ (副) 純乎 至ッテ純粹ナル狀ヲ云フ語、純然 「[illegible]確乎純乎、[illegible]」「純乎トシテ純ナルモノ」

じゅんこう (名) 竣功 工事ノ、終ハルコト。デキアガリ。落成。

じゅんこう (名) 准后 じゅさんごう(准三后)ニ同ジ。

じゅんこう (名) 醇厚 素朴ニシテ、人情ノ厚(アツ)キコト、敦厚 「漢書、景帝紀、贊「移風易俗、黎民醇厚」」

じゅんこく (名) 峻刻 峻酷 人情愛ノ、ナクシテ、嚴シキコト、「宋史、李[illegible]和傳、上」

以ニ還和肢酷一、欲ニ軍士忘ニ其患一」

じゅん-こく (名) [殉國] 國難ニ、殉ズルコト。國家ノタメニ、身命ヲ投ゲスツルコト。漢書、李陵傳「常奮不顧身、以殉國家之急」

じゅん-こくしゅ (名) [准國主] 國主(第二熟語)ノ條ヲ見ヨ。

じゅん-さ (名) [巡査] 警察ノ官吏、專ラ、路上ヲ巡リテ警ムルモノ。

しゅん-さい (名) [俊才] 才智ノ、俊レタルコト。又、其人。王延壽、魯靈光殿賦「非夫通神之俊才、誰能克成乎此勳」

じゅん-さい (名) [旬歳] 旬ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。漢書、翟方進傳「旬歳間、免兩司隸」

じゅん-さい (名) [蓴菜] 古名、ヌナハ。水草ノ名、池澤、等ノ中ニ生ズ、葉ノ形、楕圓ニシテ深綠色、厚クシテ光ル、莖ハ、葉ノ中央ニ附ク、葉ハ、水面ニ浮ビテ、根ハ、水底ニアリ、故ニ、莖、長クシテ、蔓ノ如シ、莖ト、葉ト、背トニ、涎アリテ、氷ノ如シ、嫩葉ハ、卷キテ、荷ノ卷葉ノ、小サキガ如シ、春、夏ノ間、採リテ、食フ、夏ノ末、花ヲ開ク、細瓣ニシテ、紅紫ナリ　蒓菜　陶振、汾湖賦「春水桃花之鱠、秋風蒓菜之羹」

じゅん-さつ (名) [巡察] メグリテ、視察スルコト。北史、魏、文帝紀「遣侍臣巡察、開倉賑恤」政事要略、六十一、糺彈雜事「右大臣宣、奉勅、又非違使毎旬巡察、井、與謁、山崎、大津等非違者」彈正臺式「凡京中、巡察以下、毎月巡察、勘糺彈非違」(略)天慶、年正月元日(元ノ字ハ、恐ラクハ誤ナラン)「遣巡察等於三位已上家、糺彈他司人使、令其門禁」

じゅん-さつ-し (名) [巡察使] 王朝時代ノ使者ノ一、諸國ヲ巡察シテ、國郡司ノ治定ヲ考ヘ、人民ノ疾苦ヲ問フコトヲ掌ルモノニテ、內外官ノ、清正著聞ナル者ヲ選ビテ、臨時ニ、コレヲ任命ス。持統紀、八年七月丙戌「遣巡察使於諸國」續紀、五、和銅五年五月乙酉、詔「自今以後、毎年遣巡察使、撿校國內豐儉得失、宜使者至日、意存公平、直告莫隱」同、六、靈龜元年五月辛巳、勅「自今以後、遣巡察使、分行天下、觀省風俗、宜勸敦德政、庶彼周行」同、廿二、天平寶字四年五月戊申、勅「頃者、疾疫流行、黎元飢苦、宜天下高年、鰥寡孤獨、癈疾及臥疫病者、量加賑恤、當道巡察使、與國司、親問患苦、賑給」

しゅん-さん (名) [春蠶] 春、カヘル蠶。蠶ノ、春子、夏蠶、秋蠶ニ對ス。李白詩「昔視秋蛾飛、今見春蠶生」

しゅん-さん (名) [春衫] ハルギ。春、着ル衣。岑參詩、醉酒飲未盡、春衫猶已成」

じゅん-さんぎ (名) [准參議] さんぎ(參議)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

じゅん-さんぐう (名) [准三宮] じゅさんぐう(准三宮)ニ同ジ。

じゅん-さんごう (名) [准三后] じゅさんごう(准三后)ニ同ジ。

しゅん-し (名) [俊士] スグレタル人士。俊彥、俊傑、禮記、王制篇「司徒論選士之秀者、而升之學、曰俊士」

しゅん-し (名) [春子] キンタマ。睾丸。

しゅん-し (名) [春思] しゅんじょう(春情)ノ(一)ニ同ジ。張旭詩「瑤霖烟條拂地垂、城邊樓畔結春思」

しゅん-じ (名) [瞬時] マタタク間　瞬間、

しゅん-じ (副) [蠢爾] (一)蟲ノ、ウゴメク狀、又ハ、物ノ、うぞうぞト動ク狀ニ云フ語。(二)事理ヲ辨ヘズ、不遜ナル狀ニ云フ語。詩經、小雅、彤弓之什、采芑篇「蠢爾蠻荊、大邦爲讎、方叔元老、克壯其猶」

じゅん-じ (名) [巡視] じゅんけん(巡見)ニ同ジ。宋史、食貨志「春秋巡視、書其數」

じゅん-し (名) [殉死] 主君ノ死セル時、近臣ノ、コレニ殉ヒテ、死ヌルコト。上古ハ、君ノ遺骸埋葬ノ側ニ、生キナガラ埋メラレタリシガ、死穢ニ染マルヲ忌ミテ、垂仁天皇ノ時、止メラレタリ。王粲詩「自古無殉死、達人所共知」垂仁紀、廿八年十月「倭彥命薨、近習者悉生而埋、詔曰、天以生所愛、令殉亡者、是甚傷矣、止殉」(節文) 安康紀、元年二月「難波日香蚊、(略)其君无罪死、曰、生事之、死不殉、是不臣矣、即自刎」(節文) 持統即位前紀「賜死大津皇子、妃山邊、殉焉」(節文) 職員令義解「彈正臺、信濃國俗、夫死者、即以妻爲殉」武家ノ世トナリテ、主君ノ死ニ殉フ者、多ク、主ノ討死ニ從キテ討死スルアリ、就中、追腹切ル者、男女共ニ、最モ多カリキ。(おひばら(追腹)ノ條ヲ見ヨ)

じゅん-じ (名) [順次] ジュングリ。順番。太平記、十、鹽飽入道自害事「父ノ入道、大ニ諫メテ、暫ク、吾ヲ先立テ、順次ノ孝ヲ尊ニシ、其後、自害セヨト申シケレバ」

しゅん-しゅう (名) [俊秀] 才智ノ、秀デタルコト。又、其人。俊才。俊邁。英俊。漢書、(略)傳「天下俊秀王叔在」

しゅん-じゅう (名) 春秋 (一)はるト、あきト。ハルアキ。禮記、王制篇「春秋教以禮樂、冬夏教以詩書」(二)一箇年。(漢籍讀ニ)「三春秋ヲ歷テ」(三)轉ジテ、ヨハヒ。トシ。年齡。漢書、賈誼傳「天子春秋鼎盛」太平記、一、後醍醐天皇御治世事「(略)天、(略)波動地、至今四十餘年、一人而不得富春秋、萬民無所措手足」詞花集、五、賀「九十賀、九ノソヂ、餘リ君ニ、譲リオキテ、ユホ春秋ノ、富草ノ花」春秋高シトハ、高年ナリ、年トリタリ、ノ意。戰國策、秦策「王之春秋高」春秋ニ富むトハ、老先長キ意ニテ、年、猶、若シ。後漢書、梁統傳「陛下富於春秋、纂承大業」菅家文草「君富春秋、臣漸老、恩無涯淚報猶遲」(四)支那ニテ、孔子ノ作リタル、魯國ノ歷史ノ名、嚴正ナル筆法ニテ記シタレバ、亂臣、賊子、畏ルト云フ。(五)孔子ガ、其著ナル春秋ニ記セル時代ノ稱。即チ周ノ平王、都ヲ洛陽ニ遷シシ時ヨリ、(我ガ紀元前六十一年)敬王ノ三十九年マデ、凡ソ、二百四十年間、域內、十二國(次條ヲ見ヨ)ニ分ル、

しゅんじゅう-じゅうにこく (名) [春秋十二國] 前條ノ(五)ヲ見ヨ。即チ、魯、衞、晉、鄭、曹、蔡、燕、齊、陳、宋、楚、秦、ナリ、後ニ、戰國七雄トナル。其條ヲ見ヨ。

じゅん-じつ (名) [旬日] 十日。周禮、泉府篇「凡賒者、祭祀無過旬日」「旬日ヲ出テズ」

しゅん-しん (名) [春信] 春、來レリトノ、信、春ノ、オトヅレ。春ノタヨリ。劉克莊詩「春信分明到草廬」

しゅん-しゃ (名) 春社 春ノ社日。宋史、閻守恭傳「左并州、因春社會賓客」

しゅむ-しょう (名) [主務省] 專ラ、其事ヲ管掌スル官省。

しゅん-じょう (名) [春情] (一)春ラシキ、ヤウス。春思。唐、太宗詩「披襟眺靈極、目暢春情」(二)支那ニテ、古ヘハ、婚姻ヲ、仲春ト定ム、男女、青年ノ、婚ヲ思フ心ノ義。イロゴコロ。イロケ。詩經、召南、野有死麕篇「野有死麕、白茅包之、有女懷春、」

[illegible]」

しゅん-しゃく　(名)　巡爵　古へ、六位藏人ガ、極臈ニ至レバ、五位下ニ敍爵セラルルコト。[illegible]

しゅん-しゃく　(名)　巡錫　(錫杖ヲ携ヘテ巡廻スル義)　高僧ノ、教化ナドノ爲メ、諸國ヲ巡廻スルコト。

しゅん-しゅ　(名)　巡酒　各、宿所ニテ、順順ニ主人トナリテ、酒宴スルコト。[illegible]

しゅん-しゅ　(名)　巡狩｜巡守　天子ガ、諸侯ノ國國ヲ、メグリ給フコト。書經、舜典「五載一巡守」孟子、梁惠王、下篇「天子適諸侯曰巡狩、巡狩者、巡所守也」[illegible]

しゅん-しゅ　(名)　醇酒　精良ナル酒。[illegible]

しゅん-しゅ　(名)　遵守　シタガヒ、マモルコト。[illegible]

しゅん-じゅう　(名)　順從　じゅんじゅう(順從)ノ(一)ニ同ジ。三國志、魏志、夏侯太初傳「順從乃安、此爲理一要也」

しゅん-じゅく　(名)　純熟｜醇熟　善ク和ギ、調フコト。和熟。[illegible]

しゅん-じゅん　(名)　逡巡　アトシザリ。シリゴミ。[illegible]「躊躇逡巡」

しゅん-じゅん-と　(副)　諄諄　懇ロニ說ク狀ニ云フ語。[illegible]

じゅん-じゅん-と　(副)　循循　順次アル狀ニ云フ語。論語、子罕篇「夫子循循然善誘人」

しゅん-じゅん-と　(副)　恂恂　(一)溫恭ナル狀ヲ云フ語。論語、鄕黨篇「孔子於鄕黨、恂恂如也」(二)信實ナル狀ヲ云フ語。[illegible]

しゅん-じゅん-に　(副)　順順　次第ニ、順リテ。ツギツギニ。輪番。

しゅん-じょ　(名)　順序　ツイデ。次第。ジュン。次序。[illegible]

じゅん-じょう　(名)　準繩　(一)みづもりト、すみなはト。[illegible]　(二)ノリ。オキテ。標準。規則。

しゅん-しょく　(名)　春色　春ノ景色。春光。[illegible]

しゅん-しょく　(名)　潤色　飾リテ、色澤ヲ添フルコト。文彩ヲ加フルコト。論語、憲問篇「東里子產潤色之」太平記、十、[illegible]隱レアルヘキ事ナラネバ、聞エテ、哀レ、潤色ヤト悅ビ」

じゅん-ず・ずる・ずれ・ぜ・じ・ぜよ　(自動、左變)　準　ノトル。ナラフ。ナゾラフ。ヨソフ。[illegible]天地之道」「コレニ准ず」

じゅん-ず・ずる・ずれ・ぜ・じ・ぜよ　(自動、左變)　殉　(一)主君ノ死シタル後ヲ追ヒテ、自殺ス。殉死ス。(二)道義ナドノ爲ニ、身命ヲ擲ツ。犧牲トナル。[illegible]「殉財」「列士殉名」「國難ニ殉ず」

じゅん-すい　(名)　純粹　雜物ナクシテ、善キ部ノミナルコト。精粹。史記、[illegible]「名實純粹」「[illegible]」

しゅん-せい　(名)　旬政　二孟ノ旬ヲ云フ。しゅん(旬)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

じゅん-せい　(名)　純正　(一)純粹ニシテ、正シキコト。(二)理論ヲ專一ニシテ、應用等ノ事ニ及バザルコト。「純正化學」

しゅん-しょう　(名)　春宵　はるノ夜。蘇軾詩「春宵一刻直千金」

しゅん-せつ　(名)　峻節　オゴソカナル節操。[illegible]

しゅん-せつ　(名)　浚渫　サラフコト。水底ヲサラヒテ、深クスルコト。水經注「[illegible]浚渫」

じゅん-せっしょう　(名)　准攝政　王朝時代、攝政ニ准ジテ、敍位、除目ノ事ヲ行フベキ宣下ヲ被リタルモノ。百錬抄、四、長和四年十月廿七日「左大臣(道長)准攝政可行敍位除目事之由、宣下」[illegible]

しゅん-ぜん　(副)　蠢然　しゅんしゅん(蠢蠢)ニ同ジ。[illegible]

じゅん-せん　(名)　准錢　布ナドヲ、錢ヲ以テ、換フルコト。[illegible]

じゅん-ぜん　(副)　純然　雜氣ノ無キ狀ニ云フ語。純乎。「純然タル理論」

じゅん-そ　(名)　淳素　質素ニシテ、飾リケ無キコト。素朴。[illegible]

しゅん-そく　(名)　瞬息　マタタク間。一息スル間。瞬間。杜甫詩「得失瞬息間」[illegible]

しゅん-そく　(名)　駿足　しゅんめ(駿馬)ニ同ジ。[illegible]

じゅん-そく　(名)　準則　ノトルコト。準據スル法則。[illegible]

じゅん-ぞく　(名)　醇俗｜淳俗　醇朴ナル風俗。手アツクシテ、飾リナキ風習。杜甫詩「[illegible]淳俗、坦然心神舒」

しゅん-だい-か　(名)　春庭花　しゅんだいらく(春庭樂)ノ條ヲ見ヨ。

しゅん-だい-し　(名)　春庭子　次次條ヲ見ヨ。

じゅん-だいじん　(名)　准大臣　大臣ニ准ゼラルル稱號、大臣ノ祿ヲ賜ハリ、內大臣ノ下、大納言ノ上ニ居ル。儀同三司。榮花物語、八、初花「帥殿(伊周)ノ、御位モ無キ定メニテオハスルヲ、イトイト悲シキ事ナリナド、殿(道長)オボシテ、准大臣ノ御位ニ、御封ナド

得サセ給フ」紀略、後篇、十一、寛弘五年正月十六日「今日、前太宰帥伊周、准ニ大臣ニ給ニ封千戸ニ」公卿補任、弘安十一年、准大臣從一位源兼具一藤原抄、中原家伴總守、上二、正曆、宣賢公、弘安十一年九月十二日、辭ニ大納言ニ正曆五年八月十四日、叙ニ從一位ニ同九月五日、准ニ大臣ニ可ニ朝參ニ之由、宣下」

しゅんだいらく (名) 【春庭樂】 舞樂ノ曲ノ名。一名、春庭花、又、春庭子トモ云フ。教訓抄、三、春庭樂「此曲、延曆御時、遣唐使舞生久禮眞藏、所ニ傳來ニ也、則給ニ內教房ニ奏ニ御前ニ初大食調爲ニ樂ニ、而承和御時、有ニ勅、改成ニ壹調ニ了、仍、春節會參音聲、用ニ之」台記、仁平二年正月廿四日「今日、少納言以下來、習ニ明後日大嘗會ニ云云、舞人、樂人、乘船奏ニ樂、春庭樂、宗進ニ」北山殿行幸記、應永十五年三月十四日「まいり音聲、春庭樂一曲、舞童二人、左、鶴丸、右、はれわか丸、コレヲ舞フ、康舞二切ナド、例ノ切シ」

じゅんたう (名) 【順當】 理ニ順ヒテ、相當ナルコト。「小兒、順當ニ育ツ」

じゅんだう (名) 【順道】 (一)順當ナル道筋。本道路。 盛衰記、三十二、義仲行家京入事「鳥羽、桂原、野ニ河原ニ陣ヲ取タルヲモ、打具センガ爲ニ、又、順道也、且ハ、見ノ京入ナレバトテ、湖上ヲ押渡テ」 (二)順當ナル道理。當然ノコトワケ。 漢書、谷永傳「漢興九世、云云、繼體之主七、皆、承ニ天順道、遵ニ先祖法度ニ」

じゅんたく (名) 【潤澤】 (一)ウルホヒ。ツヤ。光澤。 孟子、滕文公、上篇「若夫潤ニ澤之、則在ニ君與ニ子矣」 (二)物ノ、餘分ニアルコト。フンダンナルコト。「酒ガ、潤澤ニ在ル」

じゅんたつ (名) 【順達】 くゎいぢゃう(廻狀)ニ同ジ (官府ヨリノ達シニ云フ)

しゅんだん (名) 【春暖】 春ノ時候ノ、アタタカサ。春暄。 [illegible]「時下、春暖ノ候」

じゅんち (名) 【馴致】 (一)ヤウヤクニ、馴レ至ルコト。 (二)馴レテ、或事柄ニ到達スルコト。 易經、上象傳「履霜堅冰、陰始凝也、馴ニ致其道ニ至ニ堅冰ニ也」

じゅんちう (名) 【醇酎】 濃キ酒。醇酒。 左思、魏都賦「醇酎中山、流湎千日」

じゅんてい (名) 【準胝】【准提】 〔準胝ハ、梵語、Candi. 清淨ト譯ス〕 七觀音(千手、馬頭、十一面、聖、如意輪、準胝、不空羂索)ノ一、佛母ナリ。 佛像圖彙、二、七觀音「準胝觀音」注「止觀ニ云、此觀音、如幻三昧、等ノ三昧ニ入テ、人道ミナ三障ヲ破シ、憍慢ヲ降伏シ、佛性ヲ見ハシ玉フ、天人丈夫觀音」 鹽尻、四十五「七觀音ノ中、准提ハ、佛母ナリ、金剛智義軌ニ、兩臂、六臂、八臂、十臂、十八臂、三十二臂、八十四臂、等ノ說有、胎ノ變相ノ像ハ、八十八臂也」

しゅんてう (名) 【春鳥】 ウグヒス。 萬葉集、九ノ三十四長歌「思ヒ亂レテ、春鳥ノ、啼ノミ泣キツツ」 倭名抄、十八ノ六羽族名「鶯、漢語抄云、春鳥子、宇久比須」 字鏡六十一「鶯、宇久比須」

じゅんてう (名) 【順潮】 (一)潮ニ順ヒテ、サカラハヌコト。 元史、張弘範傳「李恆等、順ニ潮而退」 (二)物事ノ、都合ヨクユクコト。「話ガ、順潮ニ進ム」

じゅんてき (名) 【順適】 シタガヒ、カナフコト。人ノ氣ニ適フヤウニスルコト。適順。 戰國策、燕策「恐ニ荊軻所ニ欲、以順ニ適其意ニ」

しゅんどう (名) 【蠢動】 (一)蟲ナドノ、ウゴメクコト。 (二)愚癡ノ者ナドノ、騷グコト。 三國志、吳志、呂岱傳「武陵蠻夷蠢動」

じゅんとう (名) 【閏統】 いっとう(一統)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

じゅんとう (名) 【順痘】 症ノ善キ疱瘡。

しゅんとく (名) 【俊德】 俊レタル、ヨキ行爲。高德。 書經、堯典篇「光ニ被四表ニ格ニ于上下ニ克明ニ俊德ニ以親ニ九族ニ」

じゅんなん (名) 【殉難】 國家ノ禍難ノ爲ニ、忠死スルコト 身ヲ犧牲ニシテ、國難ニ殉ズルコト。 晉書、姚萇載記「卿以ニ身殉ニ難、將ニ爲ニ誰乎」

じゅんに (副) 【順】 序ニ順ヒテ。次第次第ニ、メグリテ。セングリニ。順次

じゅんねん (名) 【閏年】 〔平年ニ對ス〕 (一)ウルフドシ。陰曆ニテ、十三ケ月アル年。 蘇軾詩「國中草木春無數、只有ニ黃楊ニ厄ニ閏年ニ」 (二)陽曆ニテハ、地球ガ、太陽ヲ一周スル時間ハ、三六五、二四二二日ナルヲ以テ、三百六十五日ヲ一年トナサバ、四年ニシテ、約、一日ノ差ヲ生ゼム、此ヲ以テ、大略、四年毎ニ、一日(二月ニ)ヲ加ヘテ、三百六十六日ヲ一年トシ、コレヲ、閏年ト呼稱ス。

じゅんねん (名) 【旬年】 トトセ。十ケ年。 三國志、魏志、劉廙傳「修之旬年、國富民安矣」

じゅんのいち (名) 【准一】 飼鶯ノ名鳥ノ稱。なきあはせくゎいノ條ヲ見ヨ。

しゅんのおんまりぶぎゃう (名) 【旬御鞠奉行】 次條ヲ見ヨ。

しゅんのまり (名) 【旬鞠】 鎌倉時代ニ、旬御鞠トテ、正月、鞠始アリテヨリ、月月ニ、此事ヲ興行セラレ、公家、武家ノ堪能ノ輩、其役ニ從フ、其中ニテ、殿上人、北條家ノ門族、及、奉行人ノ內、業ニ堪ヘタル人ヲ番ヒテ、旬御鞠奉行ト定メ、堪否ヲ選ビ、人數ヲ催ヘヨリ始メ、毎時、當日ノ事ヲ奉行セシメラレタリ。(武家名目抄、職名) 明月記、建永二年四月一日「午時許參上、申時出御、今日旬御鞠、毎旬堪能衆、召ニ京畿、酉時許、於ニ南庭ニ御鞠、滿ニ千」 吾妻鏡、廿、建曆二年三月一日「可ニ有ニ旬御鞠ニ之由、今日依ニ被ニ仰出、及ニ鎭西ニ沙汰、人人不ニ顧ニ藝之堪否、成ニ競望ニ云云、武州爲ニ奉行ニ被ニ書ニ撰人數ニ」同、五十一、弘長三年正月十日「爲ニ和泉前司行方奉行ニ被ニ定ニ旬御鞠之奉行、皆是所ニ被ニ撰ニ堪能ニ也」

じゅんのみねいり (名) 【順峯入】 山伏ノ、三熊野山ヨリ、葛城、大峯ニ入ルコト。コレニ反シテ、大峯ヨリ熊野ニ出ヅルヲ、逆峯入ト云フ。(出典ヲ見ヨ) 雍州府志(貞保)四、寺院門、聖護院「凡、山伏、役小角爲ニ祖、然有ニ二流、天台之兩流、天台山伏、屬ニ聖護院門主、毎秋、自ニ三熊野山ニ入ニ葛城大峯、修練、故、稱ニ修驗道、又、謂ニ入峯、或、稱ニ順峯入、是、謂ニ本山衆、然中世、大蛇當ニ大峯前路、横行出ニ其首、山伏不ニ得ニ入ニ大峯ニ也、年尚矣、醍醐寺理源大師、之自提ニ劍入ニ自ニ大峯後山ニ而出ニ大蛇之不意、先斬ニ其尾、終斷ニ其首、自ニ是行路平安、而山伏再得ニ入峯、故是、稱ニ當山衆ニ然先登ニ大峯ニ而出ニ熊野、依ニ之、謂ニ逆峯入、眞言山伏、悉屬ニ醍醐寺三寶院門主、此兩門主、一代一度入峯」

しゅんば (名) 【駿馬】 しゅんめ(駿馬)ニ同ジ。 戰國策、燕策「人有ニ賣ニ駿馬ニ者、比ニ三日立ニ市、人莫ニ之知ニ」

じゅんぱい (名) 【巡拜】 巡リテ、禮拜スルコト (神社、佛閣ヲ) 巡禮。歷拜

じゅんぱい (名) 【順盃】 盃事ニ、多數ノ客ト、主人ト、一一、獻酬セズ、客ヨリ客ヘト、順ニ、盃ヲ廻ハスコト 貞丈雜記、一、「武藏野ノ盃、按ズルニ、古代ノ作ニ、武藏野ト號シ、大盃アリテ、內一面、芒ノ描金ヲ畫タリ、正ク、此武藏野ヲ順盃ニシテ、納メ給ヘト言シヲ、後世略シテ、武藏ト云ヒ、又、其風ヒニテ、今樣ノ盃ノ大ナルヲ出シテ、納ノ盃トナシ、ヲモ武藏ト言ヘルナルヘシ」

しゅんばう (名) 【春坊】 とうぐうばう(東宮坊)ノ唐名。

しゅんばう 〔名〕 俊髦 〔髦ハ、毛中ノ長毛ノ義〕 スグレタル士。衆人ヨリ、才徳ノ秀デタルモノ、俊彦、俊彦。 [illegible]

しゅんぱう 〔名〕 巡方 又、じゅんぱう 革帯ノ後ニアタル所ニ、方形、又ハ、圓形ヲ付ケタリ、方形ナルモノヲ巡方ト云ヒ、圓形ナルモノヲ丸鞆ト名ヅク、各、有文、無文、ノ別アリ、有文トハ、鬼、獅子、唐鳥、唐草、ナド、彫レルナリ [illegible]「シュンハウ」名目抄 有文巡方帯、節會行幸、皮、[illegible]時、着之 無文巡方帯、天子之外、不着之 有文丸鞆帯、無文丸鞆帯、常用之」

じゅんぱうのおび 〔名〕 巡方帯 前條ノ出典ヲ見ヨ

しゅんぱく 〔名〕 純白 (一)眞白。マッシロ。「純白ナル布」 (二)自然ノママニテ、純潔ナルコト。 莊子、天地篇「機心存於胸中、則純白不備、純白不備、則神意不定」

しゅんはづれ 〔名〕 旬外 時候ハヅレ。 「旬はづれノ野菜」

しゅんはん 〔名〕 春半 春ノナカバ。 [illegible]

しゅんばん 〔名〕 順番 順ニ、代ハル代ハル、其事ニ當ルコト。輪番。 「輪番ノ來ル[illegible]」

しゅんび 〔名〕 純美 (一)雜リケナク、美麗ナルコト [illegible] (二)美的情操ヲ起サシム [illegible]

しゅんび 〔名〕 醇美 ブッケ、ウルハシキ

コト [illegible]

しゅんび 〔名〕 準備 ソナヘ。マチマウケ。用意。仕度。 宋史[illegible]「準備衣服、以待不[illegible]」「出動ノ準備ヲ[illegible]」

しゅんびきん 〔名〕 準備金 或ル事柄ニ使用セムガ爲ニ、豫ネテ備ヘオク金。

じゅんぴつ 〔名〕 潤筆 (一)筆ヲウルホスコト [illegible] シテ、書畫ナドヲ書クコト [illegible] (二)次條ノ語ノ略。 宋史[illegible]「[illegible]何以潤筆」

じゅんぴつれう 〔名〕 潤筆料 書畫、或ハ、詩物ヲ書キタル報酬。 [illegible] 近世物之本江戸作者部類、一、山東京傳、昔ハ、草紙ノ作者ニ、潤筆ヲ贈ル事ハ無カリキ、云云、寛政ニ至テ、京傳、馬琴ノミ、殊ニ、年年ニ行ハレテ、部數一萬餘ヲ賣ルコロ、商賈 蔦屋重三郎、鶴屋喜右衛門ト相謀リテ、初テ、草ぞうしノ作ニ、潤筆ヲ定メタリ」

[illegible]比比、坊間ニ行ハルル、敵討ノよみ本ノ插畫、北齋、豐國ナドノ畫ガケルハ、一枚、金壹歩貳朱グラヒ也、作者ヘ、[illegible]セシモ、近比マテ、五冊物ニテ、五兩ヅツ也シカ、今ハ、京傳、馬琴ナト、七兩ニ至レリ、十五兩トマデナリシト云」

しゅんぶ 〔名〕 巡撫 (一)地方ヲ巡廻シテ、人心ヲ撫デ安ンズルコト 晉書、[illegible] (二)支那、明、清ノ代ニ、一省ノ政治ノ得失、人民ノ疾苦ヲ視察シ、併セテ軍事ノ統治ヲ掌リシ役。

しゅんぷ 〔名〕 准布 布ノ、價ニ、換算シタルモノ。 [illegible]十三、[illegible]年正月十一日、今日、[illegible]沙汰、是、准布之例、沙汰人百[illegible]、所済乃貞[illegible]、年不[illegible]之由」同、脱漏、寛喜二年八月一日「今日止准布、可用錢之由被仰下、武州殊令沙汰申給、云云」

しゅんぷう 〔名〕 春風 ハルカゼ、春ノ、

ノドカナル風。 李白詩、烟花宜落日、絲管醉春風」

しゅんぷう 〔名〕 順風 (逆風ニ對ス) 追手ノ風 オヒカゼ 後漢書、岑彭傳「[illegible]」太平記、[illegible]「[illegible]、所向無前」「遥ノ澳ニ乘リ浮ベタル大船、順風ニナリヌト悦ビテ、帆ヲ立テ、纜ヲ卷ク、山臥、手ヲ上ゲテ、其船、是ヘ寄セテタビ給ヘ」

しゅんぷく 〔名〕 順服 歸順、歸服 マツラフコト。 後漢書、[illegible]「[illegible]、誠心順服、信賞分明、由是先[illegible]、[illegible]、皆[illegible]順服」

しゅんぷく 〔名〕 馴服 ナレ、服フコト。 史記、秦紀「[illegible]、佐舜調馴鳥獸、鳥獸多馴服」

しゅんぶん 〔名〕 春分 二十四氣ノ一、春ノ中ニシテ、晝夜、平分ノ時トス、今、大抵、三月二十一日ナリ 晉書、天文志「南極[illegible]以春分之夕見、於丁二」日本歳時記、三、二月「春分ハ、日夜ノ長サ、等シキ時ナリ、寒暖モ、亦等シ、然レトモ、夜アケテ、日ノ出ルマデ、二分半ヲ曉トシ、日入テ、暮マデ、二分半ヲ昏トス、昏曉合テ、半時ハ、夜ニ屬スト云ヘドモ、ソノ明ラカナルコト、晝ニ同ジケレバ、日夜等シキ時ト云ヘドモ、猶、夜ヨリ、日ハ、長シ、云云、春分ハ、陽氣ノ、ヤウヤク發クル時ニシテ、寒温ノサカヒナリ、故ニ、春分ノ節ニ入シ後、早ク諸菜蔬ノ種ヲドスベシ、蔬ノ種ヲ植ユルニ、春分ヲ期トスル事ヲ、惡シク云ヒナラハシテ、彼岸ニ、物種ヲ蒔クト云フ農民ハ、責ムルニ足ラズ」

しゅんぶんがく 〔名〕 純文學 人ノ感情ニ訴フル、美シキ思想ヲ表出シタル文學。即チ、詩歌、小說、戯曲、等ナリ。

しゅんぼ 〔名〕 准母 國母ニ、准ズルコト。即チ、内親王ニ、立后、又ハ、院號ヲ賜ハル時ニ呼ブ稱 中右記、嘉承二年閏十月九日「前齋院(白河皇女令子)准母儀、(鳥羽)可有立后事、云云、人人被申旨、諒闇之中、不可有輝、

至母后ハ、一條院母后、猶早可有立后也」女院記「式乾門院(利子)後高倉院御女、云云、嘉禄二年十一月廿六日内親王、ト定齋王、天福元年二月五日伊勢ヨリ退リ、同年六月廿日皇后、准母后二四條太后」文和元年十二月五日、官外記勘例抄、坊門院、高倉院皇女、土御門院准母、春花門院、後鳥羽院皇女、順徳院准母、遊義門院、後深草院皇女、後宇多院妻后、二條院准母」今鏡、上、内宴「カクテ、平モカハリヌレド(保元三年)、朝覲ノ行幸(後白河)、美福門院(鳥羽后得子)ニセサセ給フ、實ノ御子ニオハシマサネドモ、近衛ノ帝オハシマサヌ世ニモ、國母ナなぞらへラレテオハシマス、イトカシコキ御榮ナリ、又、春宮(二條)、行啓アリテ、姫君ノ御母ニ鳥羽皇女暲子、二條准母トテ、拜シ奉リ給フ、コノ姫宮ト申ハ、八條院ト申ナルベシ」

しゅんぼう 〔名〕 俊茂 しゅんばう(俊髦)ニ同ジ 漢書、武帝紀「賢、罷黜百家、表章六經、遂疇咨海内、舉其俊茂、與之立功」

しゅんぽう 〔名〕 遵奉 遵ヒ、奉ズルコト。シタガヒ、守ルコト。遵守。奉遵。 晉書、武帝紀「三祠典制、所宜遵奉、自非軍事、不得妄有改革」

しゅんぼく 〔名〕 瞬目 メバタキスル間。暫時ノマ。瞬間。 吳融詩「人家好壁試揮拂、瞬目已留三五行」太平記、十一、金剛山寄手等被誅事「哀哉、此等ノ勇士、久シク天下ヲ保チ、威ヲ遠ク海内ニ覆ヒシカドモ、國ヲ治ル心ナカリシカバ、堅甲、利兵、徒ニ梃楚ノタメニ摧カレテ、滅亡ヲ瞬目ノ中ニ得タル事、驕レル者ハ失シ、儉ナル者ハ存ス、古ヘヨリ今ニ至ルマデ、是アリ」

しゅんぼく 〔名〕 醇樸 淳樸 醇朴 淳朴 心、專一ニシテ、僞リ飾リノナキコト。人情、風俗ノ、スナホニシテ、質朴ナルコト 宋齊詩「風俗歸醇朴」後漢書、天文志「協神淳樸」太平記、廿四、依山門嗷訴公卿僉議事「古、五帝、三皇ノ、天下ニ王タリシヨリ以來、以儒教仁義ヲ治メ、以道德淳朴ニ歸シ給フ、然ルニ今、摩騰法師等、釋氏ノ敎ヲ傳ヘテ、佛骨ノ貴キコトヲ說ク」

しゅんまい (名) 俊邁 〔邁ハ、勇往力行ノ意、又、過ノ義〕 才智ノ、人ヨリ過ギテ、秀デタルコト。俊秀。 宋史、蘇貫傳「俊邁能レ文、尙二氣節一」

じゅんみ (名) 醇味 濃厚ナル、アヂハヒ。 楊萬里詩「上將醇味易レ酡レ顏」

しゅんみん (名) 春眠 はるノ夜ノねむり。 孟浩然詩「春眠不レ覺レ曉、處處聞二啼鳥一」

しゅんむ (名) 春夢 (一)はるノ夜ノゆめ。 岑參詩「醉眠醒二白髮一、春夢渡二黃河一」 (二)人生ノ無常ナルコトニ喩ヘテ云フ。 侯鯖錄(宋、趙德麟)「內翰昔日富貴、一場春夢」

しゅんめ (名) 駿馬 勝(スグ)レテ善キ馬。強クシテ、善ク走ル馬。駿馬(シユンバ)。駿足。驚馬ノ反。 字鏡、十一「駿、駿馬也、止支馬」 倭名抄、十一 牛馬部「駿馬、土岐宇萬、私記云、須久禮太留宇萬」 太平記、十三、龍馬進奏事「文帝、笑ヒテ曰ク、吾、吉ニ行ク日ハ三十里、凶ニ行ク日ハ五十里、鸞輿在レ前、屬車在レ後、吾獨乘二千里駿馬一、將レ安レ之乎トテ、乃、其道ノ費ヲ償ヒテ、遂ニ、之ヲ引キ返サル」

じゅんもん (名) 詢問 タヅネ、トフコト。訊問。諮問。 後漢書、劉寬傳「桓帝時、大將軍辟、五遷二司徒長史一、時京師地震、特見二詢問一、再遷出爲二東海相一」

じゅんもんぜき (名) 准門跡 格式ノ、門跡ニ准ゼラルル寺。卽チ、本願寺、東本願寺、興正寺、佛光寺、專修寺、錦織寺ノ類 (雲上明鑑、上、准御門跡方) 加越闘諍記 明應九年十月廿日、皇太子(後柏原)踐祚アリ、云云、後ニ、三條西實隆公、如何ニモシテ、御卽位ヲ成シ奉ラント、武家ヲ賴ミ給、前其比、僧ノ中ノ大福者ナレバ、山科本願寺ヘ被レ仰下ケレバ、本願寺、諸檀那ヲ勸メ、壹萬貫ノ金子ヲ獻ゲ奉ル、叡感ノ餘リニ、行成卿ノ三十六番ノ歌ノ集ヲ、白紙ニ書ワレシ歌書ヲ、本願寺ニ下シ賜ハル、其ノ上、永代、子子孫孫、准門跡ニ補任セラレケル、奇代ノ朝恩ナリ」 御當家令條、二十、禁中幷公家諸法度「攝家門跡、親王門跡之外之門跡者、可レ爲二准門跡一事」

しゅんやう (名) 春陽 ハルビ。はるノ日かげ。又、春ノ時季。 古詩「蘭若生二春陽一、涉レ冬猶盛滋」 晉書、樂志「經二春陽一而自容、過二秋影一而不レ悅」

じゅんやう (名) 馴養 馴(ナラ)シ、ヤシナフコト。飼(カ)ヒ馴ラスコト。 盧思道、孤鴻賦、序「有二離群之鴻一、爲二羅者所一レ獲、野人馴養、貢二之於余一」

じゅんやうかん (名) 巡洋艦 軍艦ノ一種、石炭ノ積載量、多ク、速力、迅速、運轉、輕快ニシテ、遠ク根據地ヲ離レ、主力隊ノ耳目トナリテ、行動スルニ適スルモノ、裝甲ト、非裝甲トノ二種アリ。

じゅんやうし (名) 順養子 弟ヲ、嗣子トシテ、兄ノ子ヲ、又、其嗣子トシ、或ハ、養父ノ末子ヲ、養子ノ嗣子トスルナドノ稱 例書、六「訴訟人申立候者、私親、三左衛門養、私伯父、三四郎義、親、三左衛門ヨリ家督讓受、尙亦、右三四郎ヨリ、私、家督讓受候定ニ而、前前ヨリ、順養子ニ家督相續仕來候處」

じゅんよ (名) 旬餘 一旬ノ餘リ。十日餘リ。 史記、田齊世家「秦韓之兵、毋レ東旬餘」

しゅんよう (名) 春容 ハルゲシキ。春ノ容子。春光。 張說詩「雲霞交二暮色一、草樹喜二春容一」 太平記、三十九、光嚴院禪定法皇行脚事「住吉ノ遠里小野(ウリフノ)ヘ出サセ給ヒタレバ、嶺寂同、綠春容早、松影淳、紅日西ナリ、海天、野景、步ムニ隨ヒテ、新ナル風流ニ、御足タユムトモ思召サレズ」

じゅんら (名) 巡邏 見マハルコト。又、其役人。 元史、成宗紀「給二江西河南巡邏、私鹽、南軍兵仗一」 明治ノ初期、今ノ巡査ヲ、巡邏ト稱シタリ。

じゅんらう (名) 醇醪 濃厚ナル濁酒。 漢書、袁盎傳「悉以二其裝齎一、買二二石醇醪一」

しゅんらん (名) 春蘭 蘭ノ一種。山ニ生ズ、葉ハ、粗、秋蘭ニ似テ、狹ク短ク、春ノ半ニ、花ヲ開ク、一莖ニ一花ナリ、亦、粗、秋蘭ノ花ニ似テ、小サク、香、無シ。

じゅんらん (名) 巡覽 歷巡(ヘメグ)リ、見マハルコト。歷覽。

じゅんり (名) 循吏 法ニ循(シタガ)ヒテ、能ク民ヲ治ムル官吏。循良ナル役人。 史記、太史公自序「奉レ法循レ理之吏、不レ伐レ功矜レ能、百姓無レ稱、亦無二過行一、作二循吏列傳一」

じゅんり (名) 醇醨 (一)濃厚ナル酒ト、淡泊ナル酒ト。(二)人情ノ、醇朴ナルト、輕薄ナルト。 爾雅、註疏、序「醇醨旣異、步驟不レ同」

じゅんりう (名) 順流 〔逆流ニ對ス〕 水ノ流レノマニマニ、下ルコト。 史記、留侯世家「諸侯有レ變、順レ流而下、足二以委輸一」

じゅんりつ (名) 恂慄 オソレ、フルフコト。戰慄。 大學「瑟兮僴兮者、恂慄也」

じゅんりゃう (名) 循良・順良 性質ノ、スナホナルコト。 柳宗元、柳州謝上表「常以、萬邦共理、必藉二于循良一」

じゅんりゃう (名) 純良 純粹ニシテ、善良ナルコト。 元史、成遵傳「得二純良者一九人」

じゅんりゃう (名) 淳良 樸素(スナホ)ニシテ、善良ナルコト。 宋史、趙必愿傳「知二婺州一、立二淳良頑慢二籍一」

しゅんれい (名) 峻厲 性質ノ、スルドク、ハゲシキコト。峻烈。 晉書、王濬傳「主者處レ事、或不レ當、濬性峻厲、明レ法繩レ之」

じゅんれい (名) 巡禮・順禮 諸國ヲ歷巡(ヘメグ)リ、所在ノ神社、佛閣ニ詣デ、禮拜スルコト。又、其人。(多クハ、三十三所ノ觀音詣(マウデ)ニ云フ) 雜筆往來「拋二世間名利一、巡二禮靈地一、可レ紹二隆佛法一、擁二護神威一」 三十二番職人歌合、廿三番、巡禮「同行ノ、メグル御寺ノ、ソノ數ニ、三十三ノ、花ガハリモガナ」 太平記、十二、解脫上人事「利生、山川ヲ抖擻シ給ヒケルガ、或時、伊勢太神宮ニ參リテ、內外宮ヲ巡禮シテ、潜ニ、自受法樂ノ法施ヲゾ奉ラレケル」「巡禮ニ御參詣」

じゅんれい (名) 醇醴 (一)濃キ酒ト、甘キ酒ト。 列仙傳(漢、劉向)「酒客賣二醇醴一、殊レ味」 (二)雜物(マゼモノ)ナキ、濃キアマザケ。醇酒。 杜預、酒論「重醴、醇醴」

しゅんれつ (名) 峻烈 キビシク、ハゲシキコト。峻厲。 王安石、答二韶州張殿丞一書「雄奇雋烈、道德滿衍」(雋、峻ニ同ジ) 「取調ベ峻烈」

じゅんろ (名) 順路 〔迂路(マハリミチ)ナドニ對ス〕 順次ノヨキ道。本筋ノ路。行クニ、正シクテ、便(タヨリ)ヨキ路筋。 曾我物語、一、杵臼程嬰事「コレマコトニ、順路、ノガルル所ナシ」

じゅんろく (名) 馴鹿 トナカイ。

じゅんわゐん (名) 淳和院 〔元ト、西院(サイヰン)〕 平安朝時代、王氏ノ學問所、元慶五年ニ、公卿ノ別當ヲ置カル、後ニ、別當ハ、奬學院ト同ジク、源氏長者ノ兼補スルコトトナリ、コレヲ、兩院別當ト稱セリ。 拾芥抄、中、末、宮城「淳和院、天長十一上皇離宮」 三代實錄、四十、元慶五年十二月十一日「淳和院、永置二公卿別當一」

じゅんゐ (名) 閏位 いっとう(一統)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。 漢書、王莽傳「紫色蛙聲、餘分閏位、聖王之驅除云爾」

ジュンゐんけ(名) [淳和院家] [illegible]ノ、[illegible]（十五院アリト） 文久三年、雲上明鑑、上[illegible]、以下、十一院、略ご

シュめ(名) 馬ノ名、しゆめ(馬)ノ訛

シュめのかみ(名) 主馬首 シュノミヤノ[illegible]、令制ニ、東宮坊ニ屬シ、乘馬、鞍具ノ事ヲ掌リタル役所。シュメノツカサ。[illegible]

シュめのつかさ(名) [主馬署] 前條ニ同ジ。

シュめれう(名) 主馬寮 今、宮内省ノ一局、車馬、乘具、調馬、自動車、及、牧場ナドニ關スル事ヲ取扱フ所。

シュもく(名) [撞木] (一) 鉦ヲ打鳴ラス具、形、丁ノ字ノ如シ。宇治拾遺、一、十一「[illegible]ノ、[illegible]ニ立リテ、少シ顏色タガヒタルヤウニナリテ、撞木ヲ取リテ、振リマハシテ、打チモヤラデ、暫アリケレバ」 (二)つくぼう(突棒)ノ一名、其條ヲ見ヨ。

シュもく(名) 樹木 木。[illegible]「[illegible]ノ[illegible]、樹木ノ[illegible]、[illegible]人ハ入、山行ハ木、林ハ石ニ斷伐ご」「樹木、[illegible]タリ」

シュもくがた(名) 撞木形 撞木ノ如キ形。丁字形。

シュもくざめ(名) 撞木鮫 鮫ノ一種、頭、撞木、即チ、丁ノ字ノ形ヲナシ、其兩端ニ眼アリテ、甚ダ、異形ナリ、[illegible]大キク、性、猛シ、[illegible]

シュもくづゑ(名) [撞木杖] [illegible]丁字杖 [illegible]「[illegible]アルヲ云ヘバ(俗ニ、ナベテハ、鹿木杖ト云フ)、鹿杖トハ別ナルヲ、同物ノ如クニモ注シ誤ラレタルハ、[illegible]ツルカラ、橦首杖ヲ併セテ、加世都恵トハ訓メルナリ」

シュもつ(名) [腫物] ハレモノ。瘡。デキモノ。フキデモノ。腫瘍 [illegible]年八月三日「二位中將腫物、今日加ㇾ針、侍醫和氣時[illegible]」[illegible]

シュもん(名) 朱門 朱ヌリノ門。アカモン。[illegible]

シュもん(名) [朱門] いんもん(陰門)ニ同ジ。[illegible]

シュもん(名) 手紋 手ノヒラノ筋。手ノスヂ。手理「犯人ノ手紋」

シュもん(名) 呪文 陰陽家、修驗道、等ニ、[illegible]ニ唱フル詞 [illegible]

ジュもん(名) [儒門] 又、ぞもん。儒者ノ家柄 [illegible]

[illegible]

シュやく(名) 主鑰 主鎰 古ヘ、内藏寮[illegible]、云云、大主鎰二人、小主鎰二人」

シュゆ(名) 茱萸 「字ヲ、[illegible]ニ、[illegible]ニ當ツルハ、誤リナリ」山茱萸ハ、灌木ニシテ、[illegible]丈餘、葉ハ、ぐみのきつちニ似テ、毛ナク、對生ス、春、葉ニ先ダチテ、枝ノ節毎ニ、四瓣ノ黄花、簇リ開ク、大キサ三分許、實ハ、おほぐみノ實ノ如ク、秋後、熟シテ、赤シ。呉茱萸ハ、喬木ニシテ、高サ丈餘、枝、四方ニ蔓延リ、根ニ、ひこばえ叢生ス、葉ハ、漆ニ似テ大キク、數、少ナク、厚クシテ、對生ス、夏、黄白花、枝ノ梢ニ簇リ開ク、略、楓ニ似タリ、實ノ大キサ二分餘、扁クシテ、五稜アリ、紫赤ナリ。古名、カハハジカミ。食茱萸モ、喬木、二三丈、枝條、繁茂ス、木ニ、刺多シ、葉ハ、おにぐるみニ似テ、狹ク長ク、鋸齒アリ、一葉ニ、二三十ノ小葉、排生ス、夏、枝ノ梢ニ、花、簇リ開ク、花、實、共ニ、略、楓ノ如シ [illegible]

シュゆ(副) 須臾 シバシ。少シノマ。暫時 中庸、第一章「道也者、不ㇾ可須臾離ㇾ也、可離非ㇾ道也」 [illegible]、十七、[illegible]ハ、タダ須臾ノ間ニ、本坊ニ行ツキニケリトナン」太平記、八、[illegible]

ジュよ(名) [入輿] コシイレ。ニフヨ。(貴人ナルニ云フ)

ジュよ(名) [授與] サヅケ、アタフルコト。[illegible]記、四十、弘法大師入唐事「汝ハコレ凡在[illegible]

[illegible]

シュよう(名) [主用] しゅうよう(主用)ニ同ジ。

ジュよう(名) [需用] 需メ、用キルコト。モトメ イリヨウ。供給ニ對ス。

シュラ(名) [修羅] (梵語) (一)又、修羅。アスラ。天。(二)阿修羅ノ略。(其條ヲ見ヨ) 法苑珠林「往昔、修羅兄弟、爲二一玉女[illegible]」[illegible]修羅道」修羅ガ燃ストハ、怒ル。腹立ツ。心中宵庚申(享保、近松作)下「[illegible]ノ立ツ時、[illegible]、云云」(三)栗ナドノ堅キ木ノ、三四寸角ノ材ヲ、幅三四尺、長サ六尺乃至一丈許ニ、梯子ノ如クニ組ミタルモノ、大石ヲ載セテ、引クニ用キル、下ニ、多クノ丸太ヲ敷キ横タヘテ、マロバス。シュラグルマ。(阿修羅王ト、帝釋ト闘ヘルニ寄セテ、大石ヲ動カス意ナリト)伊豆ノ稲取ニテ、舟ノ下ニ敷ク木ヲ、こり、又、しゆらト云フ [illegible]抄、一、七十六條「石引物ヲ、しゆらト云フハ、大石(帝釋)ヲ動カス事、修羅ニアラズバアルベカラズ」[illegible]用集[illegible]器財門「修羅、引大木、材木也」[illegible]「[illegible]守殿ヲホッシ、金銀ノ塊リヲしゆらニ載セ、五六百人ニテ挽出ス」(四)石ヲ載スル船。平田船。

シュらあふぎ(名) [修羅扇] (修羅の衛ノ扇ノ義) 日ノ丸ト、月ノ形トヲ描キタル軍扇。武者扇 [illegible]集「日月ハ、手ニモ握ルヤ、しゆら扇」[illegible]キ日ノ、若葉ヤ揺フ、しゆらあふぎ」

シュらい(名) [集禮] 雜用。入費 [illegible](近松作)中、[illegible]

じゅらい (名) [入來] 入リ來ルコト、來リ訪フコトノ敬語 「君ノ御入來ヲ待ツ」

じゅらいせん (名) [集禮錢] 諸事ノ勘定ニ仕拂フ錢 似我蜂物語「アゝ錢、じゅらい錢、急ニ乞ヒケレバ、延ベルコトモ、クツロゲル事モ、ナラズシテ」

じゅらう (名) [入牢] 牢ニ、入ルルコト。入牢 入獄 下獄

じゅらうじん (名) [壽老人] 支那、宋ノ元祐中ノ人ニテ、壽星ノ化身ナリト云フ、七福神ノ一トシテ、常ニ畫ク、其像、白髮、多ク垂レ、秀目、豐耳、幅巾、野服シ、身ノ長三尺、頭ト、相半シ、杖ヲ携ヘ、團扇ヲ持シ、鹿ヲ伴フ所ヲ圖ス (福祿壽ノ條、見合ハスベシ) 南極老人 海錄、十三、壽老人「此頃、曲亭ノ方ニテ、京師、角鹿桃窠ノ翻刻シタル 宋東坡ガ老人星ノ圖ヲ見タリ、風俗記、三、老人星傳云、元祐間、(宋哲宗年號)京都有二一老人、長才三尺、身與頭相半、秀目豐耳、幅巾野服、以卜筮於市、得錢則飯、叩其頭、則曰、吾身壽而聖人移ヨリテ按フニ、壽老人(今云フ福祿壽、長頭、短身ノモノ)ノ圖ハ、東坡ノ論キタルモノヨリ、古キアルベカラズ」 日本七福神傳、凡例「一、國俗、以吉祥、辯才、多聞、大黑四天、布袋和尚、南極老人、及吾國蛭子神、稱七福神祭之」

じゅらく (名) [入洛] 京ニ入ルコト。入京 (貴人ニ云フ) 盛衰記、四十四、平家歸都「人共、四月二十六日申時ニ、前内大臣、前平大納言時忠、前右衛門督清宗已下虜、入洛ス」

じゅらく (名) [聚洛] 人ノ、アツマリタル都。即チ、京都。 法然上人行狀畫圖、四十八「法性寺ノ空阿彌陀佛ハ、何レノ所ノ人ト云フ事ヲ知ラズ、延曆寺ノ住侶ナリケルガ、叡山ヲ辭シテ、聚洛ニ出ヅ」

じゅらく (名) [聚落] 人ノ、アツマリナシタル村落。部落ヲナシタル邑里。 後漢書、王符傳「扶少修行、客居琅邪、所止聚落、化其德」

じゅらくど (名) [聚樂土] 壁塗ノ土ノ一種。練拼ノ如クナスニ用キルモノ。 雍州府志、六、土産門「聚樂土、京都良賤屋壁、悉採用之、特塗倉庫之家、宜、土性周密、而雖逢火災不使火氣入內」

じゅらくやき (名) [聚樂燒] らくやき(樂燒)ニ同ジ。 本朝陶器攷證、五、一樂十代旦入書通「先達而、長次郎印之事、御尋御座候所、長次郎ニ、印ハ無之候、只、京燒ト唱ヘ候、一、代目聚樂之瓦被仰付候節、樂之印判、豐公ヨリ拜領仕候以來、聚樂燒ト唱ヘ申候、のんこうニ拜領印ハ無之、印ニ大小有之候、拜領印ハ、二代目常慶下拙(旦入)、紀御殿ヨリ拜領、御文字計リニ御座候」

シュラぐるま (名) [修羅車] しゅら(修羅)ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

シュラだう (名) [修羅道] あしゅら(阿修羅)ノ條ヲ見ヨ。 太平記、三十一、新田起義兵事「斯ル亂世ニ生レ逢ヒテ、或ハ、餓鬼道ノ苦ヲ、生キナガラ受ケ、或ハ、修羅道ノ奴ト、死セザル前ニナリヌラント、歎カヌ人ハ無カリケリ」

シュラぢゃう (名) 修羅場 爭鬪ノ、烈シキ場所。 修羅ノ巷。合戰ノ場所。戰場。軍場。 北條五代記、二、北條氏綱與上杉朝定合戰事「十五日(天文六年七月)、河越ノ城ニ押寄スル、三木ト云ヘル原ハ、武藏野ノ北ニテ、河越ノ城ニ、僅カ五十餘町ヲ隔ツ、此野ハ、人馬ノ備、所狹カラズ、求ムルニ幸ナル修羅場ナリトテ、陣ス」

シュラでたち (名) 修羅出立 しにしゃうぞく(死裝束)ニ同ジ。 傾城反魂香(寶永、近松作)中「私ガタメノしゅら出立」

シュラのう (名) [修羅能] 戰爭ノ事ヲ仕組ミタル能樂。

シュラのちまた (名) [修羅巷] 劇シキ戰爭、又ハ、爭鬪ノ場所。 北條五代記、七、於駿河海船軍事「浮島ガ原、田子ノ浦ハ、分テ、殊ナル名所、云云、其頃(天正)ハ、昔ニカハリ、波ニハ、軍船數數浮カビ、原ニハ、鐵炮ノ音ノ聲、空ニ横ヲレ、鬨聲、矢サケビノ音ノミ、ヤン事ナク、修羅のちまたトナレリ」

シュラば (名) [修羅場] 芝居ニテ、鬪ノ場面。アレバ。

しゅらん (名) [酒亂] サカグルヒ。醉ヘバ、荒レ狂フコト、酒癖ノ、惡シキコト。酒狂。 酗 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「納兵衛サンノヤウニ、酒亂デ無イカラ、能イヨ」

しゅらん (名) [朱蘭] しらん(紫蘭)ニ同ジ。其條ヲ見ヨ。

しゅり (名) [手裏] テノウチ。掌中。 白居易、羽扇詩「引秋生手裏、藏月入懷中」 本朝三國誌(享保、近松作)一「大將ノ首ハ、手裏ニ在リ」

しゅり (名) [手理] テスヂ。手紋。 韓非子、說使篇「卜筮視手理」

しゅり (名) [修理] 又、そり。しうり(修理)ニ同ジ。 雙生隅田川(享保、近松作)一「手斧始メノ御祝儀、勸メマセイト述ベケレバ、木工、修理ノ兩棟梁、大紋ノ露、結ビアゲ」

しゅり (名) [主理] モト海軍ノ軍法會議ヲ組織スル文官。今ハ、錄事ト云フ。

しゅり (名) [侏離] サヘヅルコト。野蠻人ノ語聲ヲ形容シテ云フ語。即チ、語ノ、聞キ取リ難キコト。 鴃舌 後漢書、南蠻傳「語言侏離」注「侏離、蠻夷語聲」

じゅり (名) [受理] ウケ、ヲサムルコト。受付クルコト。 「訴訟ヲ受理ス」「願書ヲ受理ス」

しゅりうだん (名) [手榴彈] 罐ノ如キモノニ、爆發藥ヲ詰メ、導火索ヲ附シ、火ヲ點ジテ、敵方ニ擲チテ、爆發セシムルモノ。手投爆彈。

しゅりけん (名) [手裏劍] 手ノ裏ニ執リテ、敵ニ投ゲツクルニ用キル、小サキ刀、小柄ノ刀ノ如ニシテ、柄ヲモ、鐵製ニ作リツク。 渡邊幸庵對話「一、竹村武藏、子ハ、與右衛門ト云ニケリ、父ニ不劣、劔術ノ名人、手裏劍ノ上手也、川ニ桃ヲ浮ケテ、一尺三寸ノ劍ニ而打ニ、桃ノ核ヲ貫キタリ」

しゅりしき (名) [修理職] ヲサメツクルツカサ。古ノ職ノ一、宮城ノ破壞ヲ修理スル事ヲ掌ル。唐名、匠作。 朝野群載、六、太政官、諸司訓詞、修理職、ヲサメツクルツカサ」享祿本、職原三代格、四「應停修理左右坊城使、置修理職事」(弘仁九年ノ官符) 職原抄、下「修理職、唐名、匠作」 續紀、廿九、神護景雲二年七月「從四位上伊勢朝臣老人、爲修理長官云云」

じゅりつ (名) [樹立] (一)立ツコト。植ヱツクルコト。(二)確ト、自ラ立ツコト。 後漢書、陳蕃傳「樹立風聲、抗論惛俗」 (三)扶ケテ、守リ立ツルコト。 三國志、魏志、明帝紀、注「以此表著之、而樹立之意、定」

しゅりん (名) [殊倫] 種類ヲ、殊ニスルコト。絕倫。 李白詩「君非叔孫通、與我本殊倫」

じゅりん (名) [儒林] 又、ぞりん。儒者ノ仲間。 史記、太史公自序「建元元狩之間、文辭粲如也、作儒林列傳」 任昉、王文憲集序「儒林之亞」 字類抄「儒者、儒林」

じゅりん (名) [壽林] なべかづき(鍋被)ノ一名。(下ノ出典ヲ見ヨ) 喚子鳥、下、粒餌小鳥分「じゅりん、なべかづきトモ云フ、大キサ、雀ニ少シ大ブリ、毛色、雀ニ似ク、年ヲ重ネテ、頭黑ク、白キ頭巾入、見事ニテル、若鳥ハ多ク、なべかづきハ、稀ニアリ、霜リ少シアリ」 飼鳥必用、下、壽林「此鳥、春秋、渡ル鳥也 雛鳥ノ内ハ、頭、雀ニ似テ、時ニ依ヘバ、鍋かぶりトナリ、胸、腹ハ、白クナル也、粟ニテ、

[illegible]分量也」

しゅりゃう（名）｜酒量｜　酒ヲ飲ム分量。宋史、[illegible]ナシ」

しゅりゃう（名）｜首領｜（一）クビ。アタマ。[illegible]（二）長。カシラ。[illegible]

しゅりゃう（名）｜主領｜　さいりゃう（宰領）ニ同ジ。[illegible]

じゅりゃう（名）｜受領｜（一）受ケ、ヲサムルコト。領收。[illegible]（二）又、ずりゃう。ぞりゃう。國司ノ官ニ、任ズルコト。其、京ニ侍テ任ズルヲ、遙任ト云フ。[illegible]（三）專ラ、國守ノ稱。[illegible]（四）從五位下ニ、敍セラルルコト。新刀[illegible]時代ノ鍛冶ト云ヘドモ、受領ナシ、後、元龜ノ比、[illegible]受領アリ」

しゅりょう（名）｜壽陵｜　生存ノ時ニ、陵墓ヲ造ルコト。又、其陵墓。[illegible]

[illegible]ヘル、サモ有ベシ」

しゅりょく（名）｜主力｜　オモナル力。主要ナル勢力。「主力ヲ注ク」[illegible]」

✤しゅ・る（動）強ふ、又ハ、誣ふノ口語。

しゅるゐ（名）｜種類｜　クサグサノ類。[illegible]「瑞穗之出、殆無二種類一、因」善而起、氣和而生」

しゅれい（名）｜酒禮｜　酒宴ノ時ノ禮儀。[illegible]

しゅれい（名）｜酒醴｜　さけト、あまざけト。[illegible]

しゅれふ（名）｜狩獵｜　鳥獸ヲ、カルコト。[illegible]

しゅれふきょく（名）｜主獵局｜　モト宮内省ノ一局、狩獵、及、獵場ニ關スル事ヲ取扱ヒシ所。今ハ、主獵課ト改稱シテ、式部職ニ屬ス

しゅれふくゎ（名）｜主獵課｜　前條ヲ見ヨ。

しゅれん（名）｜手練｜　手際ノ、練磨シタルコト。テダレ。巧手　八笑人（文化、鯉丈）二編、上「兼ネテ手練ノ扇ガ、山ダ」

しゅれん（名）｜珠簾｜　又、たれん。タマノ、スダレ。タマダレ。[illegible]

しゅれん（名）｜酒帘｜　サカバタ。酒肆ノ標ノ幟。酒旗。[illegible]

しゅろ（名）｜棕櫚｜椶櫚｜　又、そろ。樹ノ名、暖國ノ產、直ニ聳エテ、枝、無ク、梢ニ葉ヲ叢生ス、一莖、數岐ニシテ團扇ノ如ク、車輪ノ如シ、冬、枯レズ、夏、花穗ヲ垂ル、黃白色ニシテ魚卵ノ如シ、（椶魚）後ニ實ヲ生ズ、幹ハ、赤黑ク、節ヲナシテ、絲毛、絡ヒテ生ズ、毛ヲ去リテ、材ヲ皮ノママニテ用キル　椶櫚　毛ハ、錯綜、織ルガ如シ、甚ダ强クシテ、用、多シ、縄トシテ、棕櫚縄ト云ヒ、椶縄　帚トシテ、棕櫚帚ト云フ　椶帚　[illegible]名義抄「椶櫚、シュウロ」字類抄「椶櫚、スロ」[illegible]カナ」

しゅろ（名）｜手爐｜　テアブリ。

しゅろ（名）｜朱鷺｜　トキ。

しゅろう（名）｜朱樓｜　朱ニ塗リタル樓。[illegible]十五、伊藤太郎「一ノ樓門アリ、開キテ内ヘ入ルニ、[illegible]

しゅろう（名）｜鐘樓｜　又、そろう。鐘ヲ吊リ置ク建物。カネツキダウ。[illegible]

しゅろう（名）｜酒樓｜　料理屋。料理茶屋旗亭。[illegible]

しゅろがさ（名）｜棕櫚笠｜　棕櫚ノ葉ヲ晒シ、三四枚、重ネテ、作リタルかぶり笠。

我衣（天和）「しゅろ笠、薩摩ヨリ出ル、元祿ノ比、重寶シタル笠也、云云、しゅろノ葉ヲ晒シ、三枚、四枚、合セテ作ル、しゅろノ葉ハ、[illegible]切レテ、[illegible]不作、[illegible]葉ナリト云」

しゅろく（名）｜手錄｜　手ヅカラ、記錄スルコト。又、其物。手記。宋史、[illegible]手錄ニ唐李勣遺戒ニ」

しゅろさう（名）｜棕櫚草｜　古名、ヤマウバラ　草ノ名、春、宿根ヨリ、數葉、叢生ス、幅五六分、長サ一尺、棕櫚ノ秧ニ似タリ、夏、一二三尺ノ莖ヲ出シ、小葉、互生シ、上ニ、枝ヲ分チテ、花ヲ開ク、紫黑色ニシテ、大キサ三四分、六瓣ナリ、日光山ニモ多ケレバ、日光蘭ノ名モ、アリ。藜蘆　本草和名、上「[illegible]一名、[illegible]和名、也末宇波良、一名、之之乃久比乃岐」倭名抄「同ジ」典藥寮式、諸國進年料雜藥「伊勢國五十種、云云、藜蘆一斤四兩[illegible]國九種、云云、藜蘆十斤」

しゅろちく（名）｜棕櫚竹｜　竹ノ一種、中、實ス、枝、無クシテ、高キハ、丈餘ニ至ル、幹ニ、黑キ毛アリ、節、高カラズ、葉、棕櫚ニ似タリ　椶竹　又、犬棕櫚竹ト云フハ、高サ四五尺、扇ノ骨ニ作ル。樸竹　又、琉球棕櫚竹ト云フハ、觀音竹ニ同ジ。和漢三才圖會、八十五、苞木竹「椶竹、實竹、本綱、椶竹、其葉似椶、可爲杖、按、椶櫚竹、來於琉球、[illegible]大和本草、九、竹「椶竹、椶竹ニ、大小アリ、大ニ、二種アリ、一種ハ、[illegible]小椶竹アリ、[illegible]一名、實竹、其葉似椶、可爲杖[illegible]ニ宜シ、冬春ハ、上ニ被ヒヲスベシ、一處ニ叢生ス、

其莖、杖ニシテ輕ク、勁クシテ不レ折、諸草木ノ内、杖ニ用ルモノ、多シ、是ヲ尤良シトス」

しゅろなは (名) [棕櫚繩] しゅろ(棕櫚)ノ條ヲ見ヨ。

しゅろばうき (名) [棕櫚箒][椶櫚箒] 椶櫚ノ毛ヲ以テ作リタル箒。 雍州府志、七、土產門「棕櫚箒、五條大佛邊人製レ之、又、八幡山南橋本村之內、中芝土人、是爲ニ巧手ハ來ニ賣京師ハ造レ之法、至レ秋剝ニ取棕櫚毛皮ハ束レ之、以ニ圓竹ハ爲レ柄、是謂ニ棕櫚箒ハ近世、棕櫚葉細割、束レ之作レ箒、然不レ及ニ毛皮ニ」 大江俊矩記、文化三年十二月廿七日、淸涼殿御煤拂「一、棕箒、例年七本相廻處、當年六本、仕丁持廻ニ付、例年七本之旨、自ニ諸司ニ申之處」

しゅわき (名) [受話器] 電話器ノ、耳ニツケテ、音聲ヲ聞ク器。卽チ、一部ニおいるヲ捲キタル磁石ト、其ノ端ニ接近シタル軟鐵製ノ振動板トヲ、一小器ノ中ニ納メタルモノ。送話器ニ對ス。

しゅわん (名) [朱椀] 朱塗ノ椀。黑椀ナドニ對ス。 茶道筌蹄、五「利久マデハ、悉ク朱椀ナリ、利久ヨリ、黑椀ヲ用ユ、朱モ、兼用」 日本永代藏、元祿、西鶴、二「花菱ノ大紋ニ、家名ヲ知ラセ、云云、朱椀、龍田ノ紅葉ヲ散シ」 四方のあか(蜀山人)上、遊女高尾朱椀記「今モ世ニ、名ノミ高尾ノ、紅葉ハ、朱椀朱折敷、昔ナリケリ」

しゅわん (名) [手腕] (一)ウデ。カヒナ。 晉書、淳于智傳「智乃以ニ朱書ニ手腕ハ橫文後三寸、作ニ田字ニ」 (二)テナミ。ウデマヘ。ハタラキ。伎倆。「手腕ヲ揮フ」

しゅゐ (名) [首位] 第一ノ位。首席。「學級ノ首位」

じゅゐん (名) [入院] 僧侶ノ、住職トナリテ、其ノ寺院ニ入ルコト。又、靑山トモ云フ。 勅修百丈淸規抄、六、入院ト、開堂トハ、二事也、開堂ハ、爲ニ祝聖ニ也、禪儀外文序云、唐宋ノ間、迄ニ于汴京ハ入院、開堂、兩也、南渡以後、合爲ニ一焉」 敎令類纂、初集、九十二、延寶三年閏四月廿日「覺、增上寺方丈入院之時、附來上座之僧、於レ被レ列者、不レ可レ過ニ三人ハ座配去月行事中、遂ニ僉議ニ可レ定之事」 下學集、下、態藝門「入院、ジュイン」

しゅゑ (名) [衆會] 衆徒ノ集會。 謠曲、吉野靜「衆會ノ御座敷トモ存ゼズ候フ」

しゅゑい (名) [守衞] マモルコト。警固。 列子、楊朱篇「人者、爪牙不レ足ニ以供ニ守衞ニ」 太平記、十一、還幸事「凡、路次ノ行粧、行列ノ儀式、前前ノ臨幸ニ事替リテ、百司ノ守衞、嚴重ナリ」

じゅゑい (名) [戍衞] マモルコト。衞戍。 晉書、譙忠王尙之傳「兵止數千、不レ足ニ戍衞ニ」

しょ (名) [書] (一)文字ヲ、書クコト。手。筆蹟。書法。 周禮、地官篇、大司徒「六藝、禮、樂、射、御、書、數」 易經、繫辭、上傳「書不レ盡レ言、言不レ盡レ意」 史記、項羽紀「書足ニ以記ニ姓名ニ」 唐書、百官志、注「習レ書、書、出ニ禁中書法ハ以授レ之」「書ヲ學ブ」 (二)文書。書物。書籍。本。 易經、繫辭、上傳「河出レ圖、洛出レ書」 史記、儒林傳「及レ至ニ秦焚レ書、書散亡益多」 韓非子、喩老篇「下書負レ書而行、云云、馮(徐馮)曰、云云、書者、言也、言生ニ於知ハ知者不レ藏レ書」 孟子、盡心、下篇「盡信レ書、則不レ如レ無レ書」 夢溪筆談(宋、沈括)「宋宣獻、博學、喜レ藏ニ異書ハ皆手自仇校、常云、校レ書如レ掃レ塵、一面掃則一面生、每ニ三四校、猶有ニ脫誤ニ」 狂言記、栗田口「イツゾヤ、小父御樣カラ、栗田口ノ書ガ來タハ」「書ヲ讀ム」「書ニ記ス」 (三)手紙。書狀。 史記、匈奴傳「漢、遺ニ匈奴書ニ曰、云云」 古詩、焦仲卿妻「阿母謂ニ阿女ハ適得ニ府君書ハ明日來迎レ汝」 韓愈、答ニ陳商ニ書「辱ニ惠書ハ語高而旨深」

しょ (名) [暑] (一)夏ノ日ノアツサ。暑氣。 易經、繫辭、上傳「日月運行、一寒一暑」 論語、鄕黨篇「當レ暑、袗絺綌」 李商隱雜纂、不レ得レ已「冒レ暑迎レ客」「暑ヲ避ク」 (二)小暑、大暑、二候、三十日ノ間ノ稱。 (三)後、轉ジテ、夏ノ土用、十日ノ間ノ稱。(寒ノ(二)ニ對ス) 千字文「寒來暑往」

しょ (名) [署] (一)ツカサ。官署。 倭名抄、五、官名「署、職員令云、主殿署、美古乃美夜乃止乃毛里乃豆加佐」「警察署」「稅務署」 (二)署名スルコト。 唐書、鄭虔傳「帝大ニ署ニ其尾ニ曰、鄭虔三絕」

しよ (名) [詩餘] 〔塡詞圖譜、序「宋人以爲、詞者、詩之餘也」詞トハ、謠フ言葉ヲ云フ〕 詞曲。管絃ニカケテ謠フモノ。塡詞 蜀中詩話「唐人長短句、詩之餘也、始ニ於李太白ハ太白以ニ草堂ニ名レ集、故謂ニ之草堂詩餘ニ」 文體明辨「詩餘者、古樂府之流別、而後世歌曲之濫觴也」 塡詞圖譜、下、附錄「凡ソ、唐ヨリ以前ハ、樂府ノ詞ヨリ外ニ、譜アリテ 管絃ニ被ラシムルナリ、本邦、天王寺ニ傳ル所ノ樂、及ビ、猿樂ノ笛大鼓ニ、譜アルガ如シ、詩餘ニ至テ、始テ、其詞ヲ唱ヘテ、直ニ、管絃ニカケ、別ニ、譜ヲ用ザルナリ、是レ、古ノ樂ト異ナル所以ニシテ、今ノ雜謠ニ似タル所ナリ」

しょ (接頭) [諸] モロモロノ 北齊書、循吏傳「諸證人、莫レ不レ灑レ泣」「諸國」「諸人」「諸家」

しょ (接尾) [所] トコロ。場所。「休息所」「學問所」「數箇所ノ手疵」

じょ (名) [恕] オモヒヤリ。宥恕。 論語、衞靈公篇「有ニ一言而可ニ以終身行ニ之者上乎、子曰、其恕乎、己所レ不レ欲、勿レ施ニ於人ニ」

じょ (名) [序][敍] 〔文體明辯「按、爾雅云、序、緒也、字亦作レ敍、言下其善敍ニ事理ハ次第ハ有レ序、若中絲之緒上也」〕 (一)ツイデ。次第。順序。 禮記、經解篇「萬事得ニ其序ニ」 孟子、滕文公、上篇「長幼有レ序」 (二)イトグチ。ハジメ。發端。端緒。 今宮心中(寶永、近松作)上「序ニテ作リシ惡心ノ、切リデ報イノ來ル時ハ」「序ノ幕」「序ノ口」 (三)〔ハシガキ。序文。緒言。(文章ノ一種)又、ハシカザリ。序詞。(歌、文、ナドノ) 「卜商、毛詩、序」孔安國、尙書、序」杜預、春秋左氏傳、序」皇甫謐、三都賦、序」「大井川行幸和歌序」 枕草子、五、四十五段、めでたきもの「博士ノ、才アルハ、イトメデタシ、云云、願文モ、サルベキ物ノ序、作リ出シテ、褒メラルル、イトメデタシ」 源、廿二、玉鬘五「船人ハ、誰レヲ戀フトカ、大島の、うら悲シゲニ、聲ノ聞ユル」 後撰集、戀、一「人知レズ、思フ心ハ、大島の、なるとハナシニ、歎ク頃カナ」(以上、大島のハ、歌詞ノ序ナリ) (四)人ノ、旅立ツニ就キテ、我ガ感想ヲ敍ベテ、之レニ與フル、一種ノ文體 (五)雅樂ノ、緩急ノ拍子ニテ、初ニ起ル調子。 十訓抄、下、第十、六十一條「蘇合、皆ツクシテ、萬秋樂ノ序ヨリ、五帖マデ」「序、破、急」 (六)殷代ノ學校。 孟子、滕文公、上篇「夏曰レ校、殷曰レ序」「庠、序」

じょよ (名) [自餘][爾餘] コレヨリ外。以外。 唐書、后妃傳「自餘六尙、分ニ典乘輿服御ニ」 盛衰記、廿三、入道奉レ勸ニ起請ニ事「入道ト、宗盛ト、父子、二人、院ノ御前ニ參ヨリテ、自餘ノ人人ヲバ除ラレテ」

しょあく (名) [諸惡] モロモロノ惡事。 衆惡 指月錄「鳥窠道林禪師、云云、(白居易)訪レ師問曰、於何是佛法大意、師曰、諸惡莫レ作、衆善奉行」 著聞集、五、和歌、隴西上人「諸惡莫作、衆善奉行ノ文ヲ、銘ニ書カレタル、色紙形アリ」

しょあつ (名) [阻遏] 又、そあつ。サヘギリ、トムルコト。

しょあん (名) [書案] (一)フヅクヱ。學問ノ机。書几。 歐陽修、讀書詩「至哉天下樂、終日在ニ書案ニ」 (二)文書ノ草案。又、文書。 南史、江秉之傳「秉之、爲ニ新安太守ハ在レ郡、作ニ書案ニ一通ニ去」

しょい (名) [書意] (一)書狀ノ意義。フミノココロ。 史記、匈奴傳「單于若稱ニ書意ハ明告ニ諸吏ハ使レ無レ負レ約有レ信」 (二)書法ノ精神。 竇泉、述書賦「漢上童年、自得ニ書意ニ」

しょい (名) [初意] ハジメノ意見。 鄭谷詩「館殿非ニ初意ハ圖書是舊貧」

しょいう (名) 所位 [illegible]物トシテ、依チ[illegible]ルコト [illegible]モノ、又、[illegible]、法制[illegible]ニ因リテ、其[illegible]物トスルコト [illegible] [illegible]

しょいちねん (名) 初一念 最初ノ一念。ハジメノ考。 關八州繫馬(享保、近松作)三「背ケバ不孝ト、思ヒ初メシしょいちねん」

しょう [illegible] (名) [illegible] [illegible]アカシ シルシ [illegible]

[illegible] 不レ深引ニ依ニ諸而科」十訓抄、下、第十、五十六條「聖人、播磨ノ名ヲアラハス振舞、其證、多カレドモ」

しょう (名) 升 枡ノ名、斗ノ十分ノ一。合ノ十倍 マス。[illegible] 量具「升、庶須、十合器也」 字類抄「升、マス、十合器也」 枕草子、六、五十一段「一ます瓶二、二ます八容ルヤト云フヲ、ナデフ事ト知ル人八無ケレド、イミ[illegible]」

しょう (名) 稱 (一)トナヘ。呼名。名[illegible] (二)ホマレ。[illegible]

しょう (名) [illegible] (一)トホリミチ [illegible] (二)向ノ方 [illegible] ツキアタリ。(三)カナメ。要所。要衝。「[illegible]ンデ、衝ニ當ル」

しょう (名) 頌 [illegible] 頌、又、頌、容也、[illegible] 也」」 詩文ノ一體、功徳ヲ褒メタタフル [illegible]

[illegible]

しょう (名) 訟 ウッタヘ。訴訟 [illegible] 顏淵「子曰、聽ニ訟吾猶ニ人也」

しょう (名) 勝 (一)カチ 勝利。(負ニ對ス) 史記、魏世家「百戰百勝」 唐書、裴度傳「一勝一負、兵家常勢」 (二)風景ノ、スグレタルコト 勝地 [illegible]

しょう (名) 承 漢詩ノ、承句ノ略。「起、承、轉、結」

しょよう (名) 私用 (一)私事ニ、モチヰルコト [illegible] (二)公用ナラヌ、自分ノ用事 私事 (公用ニ對ス) 宋書、[illegible] 黄囘傳「以ニ擬ニ私用ニ」

しよう (名) 使用 ツカフコト。モチヰルコト。「使用人」器具ヲ使用ス」

しよう (名) 試用 ココロミニ、用ヰルコト [illegible] 吏事ニ者試ニ用之ニ」

じょう (名) 判官 [八省ノ丞ノ音モテ、一般ノ稱トス、或ハ、判官ヲ、ナホ、[illegible]トモ云フ] 故ノ字音ヲ取リテ、じゃうト云フ、ナリトハ、イカガ」 かみ(長官)ノ條ヲ見ヨ。ゾウ。誤リテ、ぜう。 [illegible]記、下、第四「任ニ於與國掾ニ」訓釋「掾、六乘反」

じょう (名) 尉 [衛府ノ丞ノ音] 衛門府、兵衛府、撿非違使、等ノ判官。

じょう (名) 尉 [或ハ、丞ノ音ヲトモ云フ] (一)老翁ノ稱。[illegible] 翁ト二(限リテ、[illegible]ト書ク [illegible] (二)[illegible] [illegible]ノ [illegible] 白髮ニ寄セテ、じょう語ナラム)

じょう (名) 縄 [illegible]小町翁、冬、[illegible]じょうトナルヤ、一夜白髮、炭ガシラ」

じょう (名) 繩 四器具ノ一、墨繩。孟子、[illegible] [illegible] 三戸子曰、古者、[illegible] [illegible]

しょう (名) 乘 (一)一對 [illegible] (二)物事ノ、四ツナルコトノ稱、[illegible] (三)ノリモノ。「誰レノ乘ゾ」 (四)算術ノ、かけざん。「加、減、乘、除」

じよう (名) 自用 (一)ミヅカラ、用ヰルコト。「自用車」 (二)勝手ニ、處理スルコト 中庸章句、廿八章「子曰、愚而好ニ自用」 [illegible] 好ニ自專ニ」

じょう (接尾) 乘 車ノ數ヲ云フニ用ヰル語 稱 詩經、小雅 形弓之什、六月篇「元戎十乘、以先啓行」 孟子、[illegible]上、上篇「萬乘之國、弑ニ其君ニ者必千乘之國 [illegible]百乘」

しょうあい (名) 鍾愛 十人ノ愛ヲ、一人ニ鍾メテ、愛スルコト。メデ、イツクシムコト。 北史、隋煬帝紀「上美ニ姿儀ニ少敏慧、高[illegible] [illegible] 明紀、元年正月「大王、先朝鍾愛、幽顯屬ニ心」

しょうい (名) 稱唯 [いしょうト倒讀スルヲ、讀癖トス] いしょう(唯稱)ノ條ヲ見ヨ。

しょういつ (名) 縱逸 ホシイママナルコト 投ニヤリナルコト 放逸 [illegible]

しょういん (名) 承引 ウケヒクコト 承知 承諾 肯 [illegible] ノ意義ニテラズト[illegible] 承引モナケレバ[illegible]

しょういん (名) 承允 ユルスコト 聞キイルルコト。

しょうえい (名) 松影 マツカゲ。松ノ樹ノ、物ニ映リタル影 [illegible] 松下[illegible]上下」

しょうえん (名) 松煙 (一)松明ノ煙 [illegible] (二)[illegible]ノ異名 [illegible] [illegible] 云、此物、イカ程ノ物ゾ、試ミヨ」 [illegible] 大方三小屋ヅツ、毎日ニ焼出、當年享保二[illegible]而、[illegible]十八箇也、然モ、此十八箇、一小屋ヨリ二而、割ヘ、年中ニ、休日多シ、[illegible]バ、[illegible]モ減少致、但、松煙[illegible]前前ニ不ニ替ト」

しょうか (名) 證歌 引證シタル和歌、[illegible] 三人人[illegible] [illegible] 皆、名ハ同ジクシテ、所ハ替レル證歌ナリ」

しょうか (名) 頌歌 功徳ヲ稱讚セル歌。褒メ、タタフル歌。宋璟、三月三日謝ニ賜ニ宴表「[illegible]」

しょうか (名) 升遐 昇遐 [說文「遐、遠也」] 貴人ノ、逝去セラルルコト。登遐。 [illegible] [illegible]十一、[illegible]道ニ問答ニ事「昇遐ノ煙、哀ナリトテ、御立願ノ八幡詣、[illegible]以テ果テサセ御座ニケリ」

しょうがい (名) 勝概 勝槩 スグレタル風景。勝景 [illegible]

しょうかう (名) 昇降 升降 (一)のぼると、くだると。アガリ、オリ。「階段ノ昇降」 (二)[illegible]ジテ、盛ニ[illegible]ニナルト、衰フルト [illegible] [illegible]

しょうがう (名) 稱號 (一)トナヘ。名。

名稱。名目。史記、黥布傳「稱號曰二皇帝一」後漢書、劉盆子傳「今將軍、擁二百萬之衆一、西向二帝城一、而無二稱號一、不レ如レ立二宗室一、挾レ義誅伐以レ此號令、誰敢不レ服」太平記、十三、「藤房卿諫言事」諸國ノ御家人ノ稱號ハ、頼朝卿ノ時ヨリ有テ、既ニ、年久シキ武名ナルヲ、此御代ニ始テ、其號ヲ罷ラレヌレバ」(二)苗氏。名字。隠尻、上、一「和俗、家ノ稱號ヲ、名字ト呼、是ヲ、近世、名ト、字トノ事ト心得、當ラヌ事トシテ、苗字ナトト書ハ、却テ、誤レルニヤ、是ハ、中頃、武家出身セシ者、其知里、本貫ノ名田ノ字ヲ呼シヨリ、名字ト云(天野、北條、等ノ如シ)人ノ名ト、字トニテハ無シ、譬ヘバ、居所ヲ以テ呼モ、同ジケレド、是ハ、其人ヲ尊ンデノ事ナリ、一條殿、九條殿、鎌倉殿、等ナリ、公家衆ノ稱號、花山院、德大寺ナンド申モ、花山院氏、德大寺氏ト云事、更ニナシ、近世、名字ニ、氏ヲ添テ、武田氏、長尾氏ナンドト云モ、古書ニハ無キ事ナリ、コノ頃ハ、又、コレヲ姓ト書ク、林家ノ學士ヲ、姓ハ林ナド、記セリ、イサヤ、姓氏ハ、昔ヨリ勅授ニテ、今ハ私ニ、姓トモ、氏トモ云ハンハ、イトモ忌憚ベキ事ナリ」

しようこうき (名) 昇降機 (一)えすかれえたあニ同ジ。(二)えれべえたあニ同ジ。各條ヲ見ヨ。

しようかく (名) 衝角 軍艦ノ艦首ニ裝置シタル、鋼鐵ノ尖角、(敵艦ヲ衝キ破ルタメニ設ケタルモノ)

じようかく (名) 乘客 船、又ハ、車ナドニ乘ル人。乘客。

じようがひげ (名) 尉髭 ばくもんどう(麥門冬)ノ條ヲ見ヨ。

じようかん (名) 乘艦 軍艦ニ、坐乘スルコト。南史、徐世譜傳「乘二大艦一」

しようき (名) 鍾馗 支那ノ唐ノ世ニ、終南山ノ進士ナリトテ、玄宗皇帝ノ夢ニ見エテ、天下ノ虚耗ノ妖孽(貧乏神)ヲ厭ハムト云ヒシ人、常ニ畫キテ、魔ヲ驅ルトス、其像、巨眼、多髯ニシテ、黑キ衣冠ヲ着ケ、拔劍シテ、小鬼ヲ捽ス。五代史、吳越世家「獻二鍾馗擊レ鬼圖一」

しようぎ (名) 證義 最勝會、法華會、等ノ法會ニテ、學徒ノ論義ヲ判決スル役。證誠。江家次第、七、五月、最勝講「次、行道、證義者、僧綱講師、凡僧講師、聽衆等、次第行道」日光法華八講記「東照權現三十三回ノ神忌ニ當レリトカヤ、天ガ下ユスリテ、響キノノシル、云云、ヤガテ十三日(慶安元年四月)ヨリ、御法事始マル、其日ノ證義ハ、妙法院ノ宮(堯然法親王)トゾ」

じようき (名) 蒸氣 (一)湯氣。蒸發スル氣。淮南子、主術訓「草木之發、若二蒸氣一、禽獸之歸、若二流泉一」唐越王貞、奉レ和二聖製過二溫湯一詩「寒氣空外擁、蒸氣沼中浮」(二)じようきせん(蒸氣船)ノ略。

じようききかい (名) 蒸氣器械 器械ニ裝置アリテ、蒸氣力ニテ種種ノ仕事ヲナサシムルモノ。蒸氣機關。汽機

しようきく (名) 松菊 まつト、きくト。陶潛、歸去來辭「三徑就レ荒、松菊猶存」

じようきしや (名) 蒸氣車 蒸氣器械ヲ用キテ、鐵道ノ上ヲ走ラスル車。汽車。

じようきせん (名) 蒸氣船 蒸氣器械ヲ、車、又ハ、螺旋ニ仕掛ケテ、水ノ上ニ進マシムル船。略シテ、蒸氣。汽船。火船 嘉永明治年間錄、四、安政二年七月廿九日「阿蘭陀國、蒸氣船ヲ獻貢ス」「蒸氣ハ出テ行ク、煙ハ殘ル」

しようきやう (名) 勝境 風景ノ、スグレテ好キ場所。勝區。勝地 南史、梁始興王憺傳「勝境名山、多レ所二尋履一」李商隱、謝二河東公和一詩啓「徘二徊勝境一、顧二慕佳辰一」

しようきやうでん (名) 承香殿 〔承香殿ハ、そきやうト讀ム、承和菊ノ例〕禁中殿舍ノ名、仁壽殿ノ北ニアリ。(江家次第ノ古寫本ニ、承香殿ヲ、そきやうでんト見エタリ、又、仙源抄、浜江入楚ニモ、そきやう殿トアリ) 紀略、後篇、二、天慶三年十月七日「於二承香殿一有二菊花宴一賦レ詩、詠レ歌」百錬抄、四、天元元年八月十六日「於二承香殿一有二御遊與一、延喜、昌泰以後、久絕」

じようきやく (名) 乘客 じようかく(乘客)ニ同ジ。

しようきよ (名) 松炬 たいまつ(松明)ニ同ジ。蘇軾詩「更然二松炬一照二幽深一」

しようぎよ (名) 松魚 〔鰹節ノ、松ノ節ニ似タルヨリ云フカ〕(一)鰹。(二)鮭ノ、朝鮮名。

しようく (名) 承句 きく(起句)ノ條ヲ見ヨ。

しようく (名) 勝區 風景ノ、スグレテ好キ場所。勝境。勝地。

しようく (名) 悚懼 オソレ、ヲノノクコト。恐懼 書經、大禹謨篇、疏「夔夔然、悚懼之貌」

じようく (名) 冗句 無駄ノ文句。

じようぐ (名) 乘具 馬ナドニ乘ルトキ用キル鞍、鐙、手綱ナドノ具。唐書、車服志「尚乘局、司庫一人、掌二鞍轡乘具一」廐牧令「凡、諸道、須レ置レ驛者、每二三十里一置二一驛一云云、其乘具及蓑笠等、各准二所レ置馬數一備レ之」

しようぐんぼく (名) 勝軍木 ヌルデ。ヌリデ。武人、軍ニ勝つ義ニ取リテ、采配、又ハ、軍配團扇ノ柄ナドニ用キル。崇峻卽位前紀、厩戸皇子ノ、物部守屋ヲ攻メラルル時「斮二取白膠木一、疾作二四天王像一、置二於頂髮一」下學集、下、草木門「白膠木、卽、勝軍木也、昔、聖德太子誅二守屋一造二四天王之像一、用二此木一也」

しようくわ (名) 松火 タイマツ。松炬。皮日休詩「數莖貝葉松火暗」柳貫詩「一簇松火照欲花」

しようくわ (名) 證果 佛敎ノ語、證ノ結果。無明、煩惱ヲ斷破シ、無生、無滅ノ眞理ヲ證スルコト。今昔物語、四、第八語「今昔、天竺ニ、優婆崛多ト云、證果ノ羅漢、在マス、人ヲ利益シ給フ事、佛ノ如シ」

じようくわん (名) 冗官 無用ノ官職、又ハ、官吏。漢書、中屠嘉傳「錯所レ穿、非二眞廟垣一、乃外堧垣、故、冗官居二其中一、錯無レ罪」品字箋「冗、散也、無二事職一之員、曰二冗官一」「冗官ヲ淘汰ス」

しようけい (名) 承繼 ウケ、ツグコト。孟子、萬章、上篇「啓賢、能敬承二繼禹之道一」

しようけい (名) 勝景 スグレテ好キ景色。絕景。元好問詩「每恨勝景不レ得レ窮」

しようけい (名) 憧憬 〔どうけいト云フハ、誤〕ハルカニ、思ヒ寄ルコト。アコガルルコト。「歐米ノ文化ニ憧憬ス」

しようけう (名) 松喬 〔松ハ、赤松子、喬ハ、王子喬、共ニ、長壽セシ仙人〕赤松子ト、王子喬トノ壽。長壽スルコト。漢書、王吉傳「心有二堯舜之志一、則體有二松喬之壽一」

しようげき (名) 衝激 激シク、衝キアタルコト。衝突。庾信、鄭偉墓誌銘「崤函憑陵、波瀾衝激」

しようげどり (名) 悄氣鳥 活氣ナキ人ヲ、しようげタル鳥ニ譬ヘタル語。冥途飛脚(寶永、近松作)中「トヤセン、カクヤしようげ鳥、鶍ノ嘴ノ、喰違フ」

しようけん (名) 證驗 證據トナル效驗。シルシ、又、アカシトナスコト。左證。後漢書、張衡傳「參二前世成事一、以爲二證驗一」

しようけん (名) [illegible] 證據ノ劵、證文

しようげん (名) 證言 言語ヲ以テ、或事實ヲ證明スルコト。證人ノ陳述スル言。

しようけん (名) [illegible] 講メ掃ルコト。[illegible]

しようけんいんし (名) 證劵印紙 政府ヨリ發行シテ、民間一般ノ證劵ニ貼リ用キシムル、小サキ切手ノ如キモノ、以テ、後日ノ公證ニ供ス、金高、又ハ、約束ノ事柄ニ因リテ、種種、差等アリ。今ハ、廢セラレテ、收入印紙ヲ貼リ用キル。

しよう・げる (動) 悄氣 しょげるニ同ジ。

しようこ (名) 稱呼 トナヘ ヨビナ [illegible]

しようこ (名) 證據 證トシ、據所トスル物、又、事。左證。證左 [illegible]

しようご (名) [illegible] [illegible]ノ語、實際ニ[illegible] [illegible]三條「サル事、無シ、何ヲせうこニテ、カウハ宣フゾ」

しようご (名) 冗語 無用ナル言語 無駄ナル詞。贅言。「賦、冗語、多シ」

しようこう (名) 昇汞 白色、針狀ノ結晶體、醫藥ニシテ、殺菌ノ效アリ、防腐劑、消毒劑ナドニ用キラル。鹽化第二水銀。

しようこく (名) 勝國 他ノ國ヲ滅シテ、勝ツコト。又、其國（亡國ニ對ス、國ニテ、[illegible]ヲ云ヒ、國ニテ、亡ヲ云フ類） [illegible]

しようごく (名) 訟獄 〔周禮、地官篇、大司徒、註「爭レ罪曰レ獄、爭レ財曰レ訟」疏「對文例也、若獄訟不ニ相對一、則爭レ財亦爲レ獄」〕ウッタヘ。訴訟。獄訟。孟子、[illegible]

しようこだ・つ ツル・ツレ・テ・テ・テヨ 他動、下二 證據立 證據ヲ示ス。アカス。裏書ス。證明。「[illegible]立つるニ、出典ヲ以テス」

⁂しようこだ・てる (動) 前條ノ語ノ口語。

しようこにん (名) 證據人 しょうにん（證人）ニ同ジ [illegible] 元年六月、以前モ如[illegible]、公事仕ル[illegible]モノハ、證人、五人組、召シ連レ、罷リ出デ可レ申事」

しようさ (名) 證左 〔當時、左右ノ側ニアリテ、其事ヲ見テ、證スル義〕しょうこ（證據）ニ同ジ。史記、五宗世家 [illegible] 山王劉勃）所ニ與奸ニ語證左ヒ」

しようさ (名) 乘槎 「正韻「槎、桴也」」槎ニ乘ルコト 北史、[illegible]

しようさいふぐ (名) しほさいふぐノ條ヲ見ヨ。

しようさく (名) 繩索 「急就篇「[illegible]索[illegible]曰レ繩、草謂ニ之索ニ」」細ソキなはト、太キなはト ナハ [illegible]

じようさく (名) 繩則 準繩ニ從ヒテ、則リタダスコト [illegible]「不レ[illegible]ニ」

しようさん (名) 松杉 まつト、すぎト、[illegible]

しようさん (名) 稱讚 ホメ、タタフルコト 讚稱。稱歎。[illegible]

史、王莽傳[illegible] 太平記、十二、北野天神事「山門ノ效驗、天下ノ稱讚、是ニアリトゾ聞エシ」

しようさん (名) 勝算 勝ツベキ見當 カツ見コミ 孫子、始計「多レ算勝、少レ算不レ勝」

しようし (名) 承嗣 後ヲ、受ケツグコト。ウケツギ。繼嗣。[illegible]

しようし (名) 承仕 （一）古へ、剃髮シテ、仙洞、又ハ、攝家、ナドノ雜役ヲ勤メシ者。承仕法師。[illegible] 月八日「山、云云、藏ニ、承仕アリケルガ、件ノ山ノ峯ヨリ、ヤンゴトナキ老僧、出キテ」（二）僧ノ、佛前ノ莊嚴、佛具ナドヲ掌ルモノ [illegible] 佛具ノ取沙汰アルナリ、幼時、御童子也」（三）禪家ニ、鐘ヲ撞ク者ノ稱

しようじ (名) 勝事 （一）スグレタル事。（二）奇怪ナル事。非常ナル事件 [illegible] 記、十、中宮御産事「頌、云云、皇子御誕生ニハ、南ヘコソ落スニ、聞キ誤リタリケルニヤ、希代ノ勝事トゾ、私語キケル」平家物語、一、二代后事「此事、天下ニ於テ、異ナル勝事ナレバ、公卿、詮議アリ」

しようじ (名) 頌辭 ホメ、タタフル詞。ホメコトバ。讚辭 柳宗元、[illegible]、世有ニ頌辭ニ益[illegible]其多ニ」

しようしゆう (名) 誦習 誦ミ、ナラフコト。[illegible]

しようじほふし (名) 承仕法師 しょうじ（承仕）ニ同ジ [illegible]

しようしん (名) 昇進 升進 陞進 官位ニ、ノボリススムコト [illegible] 平治物語、一、信賴信西不快事「一ノ人ノ家嫡ナドコソ、加樣ノ昇進ハ、シ給フニ」著聞集、五、和歌「カクト打續キ、昇進セラレタルニ」「官位、昇進ス」

しようしん (名) 衝心 心臟、大キクナリテ、脈ヲ張シ、血ノ循環、惡シクナリテ、呼吸、セハシクナルコト。「脚氣ノ衝心」

しようしや (名) 勝者 勝利ヲ得タルモノ。敗者ニ對ス。[illegible]

しようしや (名) 乘車 車ニ、乘ルコト。又、其車。[illegible]

しようしやう (名) 證誠 しょうぎ（證義）ニ同ジ 古今著聞集、二、僧行「鳥羽法皇御登山ノ時、於ニ中堂ニ[illegible]、云云、問者、[illegible]、證誠ニテ候ヒケルガ」

じようしやう (名) 丞相 （一）支那ニ、執政大臣ノ官（三公九卿ノ條ヲ見ヨ）史記、[illegible] （二）大臣ノ異稱 平家物語、一、[illegible]、六納言ニ歷上テ、剰ヘ、丞相ノ位ニ至ル」百練抄、四、正暦四年六月廿五日「[illegible]丞相ニ[illegible]左大臣正一位ニ」

じようしやう (名) 繩牀 繩床 繩ヲ張リタル腰掛 又、木綿ヲ張リタル胡床（主トシテ、禪僧ノ用）[illegible] 太平記、廿七、[illegible] 徒然草、百五十七段「散亂ノ心ナガラモ、繩床ニ坐セバ、覺エズシテ、禪定ナ

ルベシ」字類抄「淨床、ジャウシャウ、俗語、如‐禪盤‐者也」

しョう-しャく (名) 松爵 松ノ異名。(下ノ出典、及、五大夫ノ(二)ヲ見ヨ) 十訓抄、上、第一、第九條「唐ニハ、秦ノ始皇、泰山ニ幸シ給フニ、俄ニ雨ニ逢ヒテ、五松ノ木ノモトニ立チヨリテ、雨ヲ過ゴシ給ヘリ、此ノ故ニ、彼ノ松ニ位ヲ授ケテ、五大夫ト云ヘリ、五品ナ、松爵ト云フ、是レナリ」

じョう-しャく (名) 繩尺 準繩。標準。規定。金史、文藝傳「元好問文、有‐繩尺‐、備‐衆體‐」

しョう-じュ (名) 松樹 まつノ木。松。漢官儀(宋、劉攽)「秦始皇封‐泰山‐、逢‐疾風暴雨‐、賴‐得松樹‐、因覆‐其下‐、封爲‐五大夫‐」白居易、放言詩「松樹千年終是朽、槿花一日自爲‐榮」 著聞集、十九、草木「松樹ヲ、貞木ト云フ事ハ、云云、霜雪ノ烈シキニモ、色ヲ改メズ、イツモ綠ナレバ、コレヲ、貞心ニ比ブル也」

しョう-じュ (名) 誦呪 呪文ヲ、誦ムコト。關尹子、七釜篇「有‐誦‐呪者‐、有‐事‐神者‐」 皮日休詩「誦‐呪空中‐散‐蜃樓‐」

しョう-じュつ (名) 稱述 (一)タタヘ、ノブルコト。稱說。稱道。(二)意見ヲ、言ヒ述ブルコト。唐書、杜甫傳「甫、細碌」大、所‐以‐言‐死稱述‐」

しョう-じュつ (名) 頌述 功德ナドノ美ヲ、ホメノブルコト。班固、典引「頌‐述功德‐」

しョう-じュん (名) 承順 ウケ、シタガフコト、承服 禮記、樂記篇「理發‐諸外‐、而民莫‐不‐承順‐」

しョう-しョ (名) 證書 しょうもん(證文)ノ(一)ニ同ジ。

しョう-じョ (名) 陞敍 昇敍 官位ヲ、上級ニ陞セラルルコト。元稹文「文武竝用、云云、久次不‐遷、則自‐昇敍‐」

じョう-しョ (名) 烝庶 ヒラビト。平民。庶民。漢書、武帝紀「將何以佐‐朕、燭‐幽隱‐、勸‐元元‐、厲‐烝庶‐」(烝ハ、烝ニ通ズ)

しョう-しョう-と (副) 悚悚 竦竦 しょうぜんと(悚然)ニ同ジ。王延壽、魯靈光殿賦「魂悚悚其驚斯」

じョう-じョう-と (副) 烝烝 (一)物ノ、盛ンニ作ル狀ヲ云フ語。爾雅、釋訓篇「烝烝、遂遂、作也」(二)隨ヒ行ク狀ヲ云フ語。詩經、魯頌、泮水篇「烝烝皇皇」(三)火氣ノ、昇ル狀ヲ云フ語。韓駒、食、苟詩「烝烝沸鼎中、亂下白玉岸」(四)事ノ、進ム狀ヲ云フ語。書經、堯典篇「烝烝、乂不‐格‐姦」

じョう-じョう-と (副) 茸茸 (一)草ノ、茂リ生ヒタル狀ヲ云フ語。皇甫湜、春心文「草茸茸兮既長」(二)轉ジテ、小人ノ、聚リ居ル狀ヲ云フ語。皮日休、九諷「彼羣小之茸茸兮、如‐蒸‐蟻之螢蛆‐」

じョう-じョう-と (副) 繩繩 (一)物ノ、多キ狀ヲ云フ語。老子、第十四章「繩繩不‐可‐名、復‐歸於無物‐」(二)事物ノ、絕エザル狀ヲ云フ語。綿綿 詩經、周南、螽斯篇「宜‐爾子孫、繩繩兮‐」

しョう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 稱 (一)トナフ。呼ブ。名ヅク。云フ。左傳、隱公七年「凡諸侯同盟、於‐是稱‐名」(二)褒ム、稱フ。論語、泰伯篇「民無‐得而稱‐」禮記、表記篇「君子稱‐人之善‐、則爵‐之」太平記、一、飢人窮民施行事「誠ニ、理世、安民ノ政、若、機巧ニ附テ是ヲ見バ、命世、亞聖ノオトモ稱しツベシ」

しョう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 誦 聲ヲ立テテ、ヨム、誦ス。トナフ。漢書、賈誼傳「以‐能誦‐詩書‐、屬‐文、稱‐於郡中‐」

しョう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 頌 文詞ニ述ベテ、功德ヲ褒メタタフ。禮記、少儀篇「頌而無‐諂」註「頌、謂‐將‐順其美‐」史記、周紀「民皆歌‐樂之‐、頌‐其德‐」太平記、一、後醍醐天皇御入洛事「帝德ヲ頌シ奉ル聲、洋洋トシテ耳ニ盈リ」

しョう・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 證 證據立ツル。アカス。證明ス。論語、子路篇「其父攘‐羊、而子證‐之」

じョう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (自動、左變) 乘 ノル。ツケイル。ツケコム。カコツク。易經、上經、乾卦「時乘‐六龍‐、以御‐天」孟子、公孫丑、上篇「雖‐有‐智慧‐、不‐如‐乘‐勢」「興ニ乘ず」醉ニ乘ず」亂ニ乘ず」

じョう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ (他動、左變) 乘 算術ノ語、掛算ヲナス。掛ク。

しョう-すゐ (名) 松翠 マツノミドリ。朱慶餘詩「山深松翠冷、潭靜菊花秋」

しョう-せい (名) 松聲 松風ノ音。颯颯タル風ノ、松ニ吹ク聲 宋玉、高唐賦「不‐見‐其底‐、虛聞‐松聲‐」李白、白毫子歌「南窓蕭颯松聲起」

しョう-せい (名) 頌聲 功德ヲ讚美スル聲。又ハ、太平ヲ謳頌スル聲。傅休奕詩「聖道過‐乾坤‐、天下興‐頌聲‐」

しョう-せい (名) 鐘聲 撞ク鐘ノ聲。カネノ音。禮記、樂記篇「鐘聲鏗、鏗以立‐號」云云、君子聽‐鐘聲‐、則思‐武臣‐」張繼詩「姑蘇城外寒山寺、夜半鐘聲到‐客船‐」

しョう-せい (名) 稱制 皇后ノ、朝ニ臨ミテ、國政ヲ行ヒタマフコト。史記、呂后紀「今太后稱‐制、王‐昆弟諸呂‐、無‐所‐不‐可」漢書、呂后紀、顏注「天子之言、一曰‐制書‐、云云、制書者、謂‐爲‐制度之命‐也、非‐皇后所‐‐得‐稱、今呂太后、臨‐朝行‐天子事‐、斷‐決萬機‐、故稱‐制詔‐」持統稱制前紀「臨朝稱制」(ミカドマツリゴトキコシメス)

しョう-せき (名) 證跡 證據トナル、痕形。

しョう-せき (名) 蹤跡 (釋名「蹤、從也、人形從‐之也、跡、積也、積‐累而前也」)(一)アシアト。アト。痕跡。事跡。史記、酷吏傳「上問曰、言‐變事‐、蹤跡安起」盛衰記、三十三、太神宮勅使事「太上天皇ノ、太神宮ヘ、公卿ノ勅使ヲ立ラルル事ハ、朱雀、白河、鳥羽ノ蹤跡有トイヘ共」(二)ユクヘ。ユキガタ。李白詩「譬如‐雲中鳥、一去無‐蹤迹‐」春渚紀聞(宋、何薳)「往‐青州‐、躡‐蹤跡之‐、果有‐州民厲氏‐」

しョう-せき (名) 勝蹟 (名勝、古蹟ノ略) 名所ノ古蹟。名勝ノ、舊キアト。岑參詩「勝迹不‐在‐遠、愛‐君池館幽‐」(迹ハ、蹟ニ通ズ)

じョう-せき (名) 乘積 或數ニ、或數ヲ乘ケ合ハセタル數。卽チ、62×3＝186ニ於ケル、186ハ、乘積ナリ。

しョう-せつ (名) 稱說 しょうじゅつ(稱述)ノ(一)ニ同ジ。漢書、鼂錯傳「太常遣‐錯、受‐尚書伏生所‐、還、因上‐書稱說‐」

しョう-ぜつ (名) 勝絕 (一)極メテ、スグレタルコト。絕勝。白居易詩「觸目勝絕不‐可‐名」(二)十二律ノ一、其條ヲ見ヨ。徒然草、二百十九段「横笛、云云、干ノ穴ハ平調、五ノ穴ハ下無調ナリ、ソノ間ニ、勝絕調ヲ隔テタリ」

しョう-ぜん (名) 承前 前ノ文句ヲ、承ケツグコト。

じョう-せん (名) 乘船 船ニ、乘ルコト。史記、夏紀「陸行乘‐車、水行乘‐船」同、伍子胥傳「江上有‐一漁父乘‐船」

しョう-ぜん-と (副) 悚然 竦然 オソルル狀ニ云フ語。悚悚 後漢書、黃憲傳「荀淑至‐愼陽‐、遇‐憲于逆旅‐、時年十四歲、淑、竦然異‐之」

しョう-ぜん-と (副) 聳然 戰慄シテ、容貌ヲ改ムル狀ニ云フ語。後漢書、蔡邕傳「吾心聳然、唯恐‐螳螂之失‐之也」

しようそ（名）［勝訴］〔[illegible]〕訴訟ニ、打チ勝ツコト。カチクジ。

しようそく（名）［承足］〔[illegible]〕ケラルルトキ、足ヲ承クル具。字類抄「承足[illegible]」[illegible]

しようそん（名）［仍孫］〔仍ハ、[illegible]〕[illegible]昆孫ノ子（七代ノ孫ナリ）爾雅、釋親「[illegible]」

しようた（名）［冗多］徒ラニ、多キコト。冗雜、繁多キコト

しようたう（名）［松濤］松風ノ音ヲ、波ノ音ニ譬ヘテイフ語。松風。松籟。[illegible]

しようたう（名）［承當］ウケ、ツグコト。繼承。太平記、廿六、[illegible]

しようだう（名）［稱道］〔道ハ、正韻「言也」〕タタヘ、道フコト。稱說。

しようだう（名）［鐘堂］かねつきだう（鐘撞堂）ニ同ジ。[illegible]

しようだく（名）［承諾］ウベナフコト。承引。承知。[illegible]、和俗、承諾シテ「渡海セント宣フ」

しようたん（名）［稱歎］タタヘ、ホムルコト。ホメ、ハヤスコト。稱讃。歎稱。三國志、[illegible]、天下ノ稱歎ニ預サレケル、數奇ノ程コソ、ヤサシケレ」

しようだん（名）［冗談］冗長ナル談話。無駄話。

しようち（名）［承知］（一）ウケタマハリ、知ルコト。領命。[illegible]（二）ウケヒクコト。ウケガフコト。ウベナフコト。承引。納得。承諾。肯。（三）知リテ居ルコト。存知。「委細承知」

しようち（名）［勝地］景色ニ勝レタル地。名所。勝區。[illegible]

しようち（名）［勝致］スグレタル趣致。[illegible]

しようぢ（名）［聳峙］ソビエ、立ツコト。ソバダツコト。[illegible]

しようちく（名）［松竹］まつト、たけト。[illegible]

しようちくばい（名）［松竹梅］まつたけうめノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しようちのすけ（名）［承知之助］〔擬人語〕何事ヲモ、承知シテ居ルコト。[illegible]承知之助ハ、早[illegible]」

しようぢん（名）［承塵］床ノ上ニ張リテ、塵土ヲ承ケシムル布帛。[illegible]

しようちやう（名）［冗長］徒ニ、ナガタラシキコト。[illegible]

しようぢよ（名）［乘除］（一）カケルト、割ルト。乘法ト、除法ト。[illegible]（二）フヤスト、減ラスト。滿タスト、缺クルト。盈缺。[illegible]「天地ノ乘除」

しようていもんじ（名）［鐘鼎文字］〔鐘ハ、樂器ニテ、鏡ノ如キモノ、鼎ハ、功績ヲ記スル具、共ニ、宗廟ノ用器ナリ〕支那ノ古銅器（三代以前ノ）ノ款識ナドニ、刻リツケテアル古文字體。（自ラ、一種ノ字體ヲナス）

しようてき（名）［悚惕］オソレ、ヲノノクコト。悚懼。[illegible]「悚益悚惕」

しようてん（名）［衝天］天ヲ、衝クコト。「意氣衝天」

しようてん（名）［昇天］天ニ、ノボルコト。上天。[illegible]

しようでん（名）［昇殿］禁中、殿上ニ昇ルコトヲ、聽サルルコト。即チ、四位以上、及、六位ノ藏人ナリ。聽サレザルヲ、地下トス。[illegible]袋草紙（藤原清輔）三「予、應保二年三月三日、昇殿」

しようでん（名）［剩田乘田］古ヘ、官ヨリ、田地ヲ、人民ニ、口分田トシテ給與シ、其剩餘トナレル田ノ稱。割餘ノ田。請願ノ耕作人ニ賃與シテ、出擧トス。令集解、十二、田令、釋云、乘田、謂二公田一也」民部省式「凡、乘田、可レ充二品位田一者、以二全町一給レ之」同「凡、出羽國放生田一町、割二乘田一永充レ之」同「凡、田九歩以下、無レ加二給口分一割為二乘田一」同「凡、口分田、[illegible]」[illegible]弘仁二年四月「近江國乘田廿八町、賜二中務省一」文德實錄、六、齊衡元年七月「[illegible]遠江國、以二乘田七町一[illegible]」

しようとう（名）［升騰昇騰］（一）上ニ、ノボルコト。[illegible]（二）物價ノ、騰貴ルコト。

しようとう（名）［昇等］等級ノ、ノボルコト。

しようどう（名）［竦動］フルヘテ、心ヲ動カスコト。[illegible]

しようどう（名）［衝動］（一）ツキ、ウゴカスコト。（二）〔英語、Impulse. 獨語、Trieb. ノ譯語〕心理學ノ語、單ニ、或ル動作ヲ、直チニ起スヤウニ、吾人ヲ突キ動ス、心ノ力。急ナル動機。刺戟。

しようどう（名）［聳動］オソレ、オドロカシムルコト。オソレ、ウゴクコト。

しようとく（名）［所得］しよとく（所得）ニ同ジ。宇治拾遺、十四、第六條「被タリケル衣干ヲ

脫ギテ、コレニ替ヘテンヤト云ヒケレバ、玉ノ主ノ男、しょうどくシタリト思ヒケルニヤ、惑ヒ取リテ」

しょうとく (名) 【頌德】 功德ヲ、ホムルコト。 漢書、諸侯王表「或廼稱、美頌、德、以求二容媚一」 北史、房彥謙傳「甚有二惠化一、其後百姓思レ之、立二碑頌一德一」「頌德表」

しょうどく (名) 【誦讀】 聲ヲ揚ゲテ、ヨムコト。默讀ニ對ス。 史記、留侯世家「良(張良)因異レ之、常習二誦讀之一」 晉書、范汪傳「汪少孤貧、依二外家一、然二薪寫一書、寫畢誦讀亦遍、遂博學」

しょうとくひょう (名) 【頌德表】 功德ヲ、ホメタタヘテ奉ル表。

しょうとつ (名) 【衝突】 〔廣韻「衝、當也、突也、又、要也」〕 ツキアタルコト。ブツカルコト。カチアフコト。ツノヅキアヒ。 南史、蕭摩訶傳「選二精騎八千一、率先衝突」 朱子語類「張子所出來衝突了」「電車ノ衝突」「意見、合ハズシテ、衝突ス」

じょうなん (名) 【拯難】 危キ難義ヲ、スクフコト。救難。 北齊書、王晞傳「拯レ難匡レ輔、方俟二聖哲一」

じょうに (副) 〔饒多ノ意カ〕 澤山ニ。多ニ。

しょうにん (名) 【陞任】 上ノ官等ニ陞シ任ズルコト。

しょうにん (名) 【證人】 證ニ立ツ人。證據人 北齊書、循吏傳「諸證人、莫レ不レ灑レ泣」 保元物語、二「義朝白河殿夜討事、己、證人ニ立ベシトテ、下人一人、相具シテ」 松屋筆記、一「江戸幕府ノ初、大名ノ重臣ノ妻子ヲ、年數ヲ定メテ、江戸屋敷ニ置キタルコトヲ、證人ト云フ、コレ、人質トシタルナリ」

しょうにん (名) 【承認】 〔承知、認諾ノ略〕 承ケ引キテ、可シト認ムルコト 宋史(宋、沈淑)「謀斷二此獄一、宜乎其不二承認一也」「條約ヲ承認ス」

しょうにゅうせき (名) 【鐘乳石】 ツララ イシ。イシノチ。 本草綱目譯義、九、石「石鐘乳、鐘乳石トモ云ナリ、草多ク繁タル所ニ、巖ニ、風穴ト云テ、洞穴アルモノナリ、コレハ必、奧廣ク、或ハ、深クシテ、先分ラレズ、或ハ、横へ廣ク通ズルモアリ、コノ洞穴ノ奧ニハ、諸國共ニ、鐘乳アルモノナリ、コレハ、石間ヨリ、石ノ脂ノ、年年、滴リ、堅マリタルナリ、形、氷柱ノ如ク、上ヨリ下ヘ垂レテアルナリ、又、柱ノ如ク、下迄達キテアルモアリ、形ハ、色色ニナリアリ、年久キハ、追追ニ、上ヨリ乳下リテ、甚太クナリタルモアリ、和州、大峯ニハ、別シテ、鐘乳生ズル穴、多シ、江州ノ佐目村ニ、風穴ト云深キ洞アリ、云云、コノ穴ニモ生ズルナリ、コノ類、諸國共ニアリ、勢州ニモアリ、又、備中ノ鐘乳大明神ト云社ノ邊ニモ、穴アリ、鐘乳石ニ、色白クシテ、透明ナルアリ、又、透明ナラヌアリ、薄黃色ニシテ、透明ナルモ、透明ナラヌモアリ、薄赤キモアリ、藥店ニアルハ、小指ノ大サ、或ハ、筆ノ太サニシテ、多ク、薄黃ニシテ、透明ナル也」 長防産物名寄、土石「鐘乳石、美禰郡ノ內、長登村、赤村、青景村、カマ村、秋吉村、已上五ケ村ノ堅山岩穴ニ有レ之、同郡、伊佐村ノ內、江ノ上山」

しょうね (名) 婦女ヲ呼ブ稱。 牛馬問(温知叢書、三十)「江戸ニテハ、女ヲ、せうねト云フ」

しょうねん (名) 【稱念】 佛教ノ語、口ニ、佛名ヲ稱ヘテ、心ニ、佛ヲ念ズルコト。 盛衰記、三十九、重衡請二法然房一事「一聲稱念罪皆除ト釋シテ、一聲モ彌陀ヲ唱レバ、過現ノ罪、皆除カル」

しょうのもちい (名) 【勝餠】 〔かちいひ(搗飯、かちん)ニ、勝飯ト當字シテ、音讀シタル語カ〕 節分ニ食フ餠ノ稱。物ニ勝つトテ、祝フ。 世諺問答、十二月「節分ニ、しょうのもちひトテ、食ヒ侍ル、云云」

じょうば (名) 【乘馬】 (一)馬ニ、乘ルコト。騎 易經、繫辭、下傳「服レ牛乘レ馬、引レ重致レ遠、以利二天下一」「乘馬ニテ行ク」 (二)乘馬 詩經、大雅、蕩之什、韓奕篇「其贈維何、乘馬路車」箋「所レ謂之馬、曰二乘馬一」 (三)四頭立ノ馬。駟馬。

詩經、小雅、桑扈之什、鴛鴦篇「乘馬在レ廐」(廐一同) 大雅、蕩之什、崧高篇「王遣二申伯一、路車乘馬」毛傳「乘馬、四馬也」

しょうはい (名) 【勝敗】 しょうぶ(勝負)ニ同ジ。 史記、黥布傳「勝敗之數、未レ可レ知也」 孫子、軍形篇「善用レ兵者、修レ道而保レ法、故能爲二勝敗之政一」「勝敗ハ、兵家ノ常」

しょうはく (名) 【松柏】 〔栢ハ、俗字〕 (一)まつト、かへト。まつト、はくトノ類。 詩經、小雅、鹿鳴之什、天保篇「不レ騫不レ崩、如二松柏之茂一」 論語、子罕篇「歳寒然後、知二松柏之後一レ凋也」 太平記、七、船上合戰事、船上城「松柏、生茂テ、イト深キ木蔭ニ」 (二)松柏ハ、四時、色ヲ變ヘザルニヨリテ、節操ノ堅キニ喩フル語。 禮記、禮器篇「松柏之有レ心也、貫二四時一而不レ改レ柯易レ葉」 南史、樂預傳「與二松柏一比レ操、風霜等レ烈、皆不レ美耶」

じょうはつ (名) 【蒸發】 水ノ、熱ニ蒸サレ、湯氣ト爲リテ、發ツコト。「海水ノ蒸發ス」

じょうはつき (名) 【蒸發氣】 水氣ノ、蒸發スルモノ。蒸氣。

じょうほう (名) 【乘法】 かけざん(掛算)ニ同ジ。

しょうはんのじょう (名) 【證判狀】 勁功ノ賞狀。感狀。 庭訓往來、六月「蒙二一命一、被レ遂二粉骨一者、宜レ載二證判狀一、可レ被レ備二後鑑之龜鏡一也」

しょうび (名) 【魚狗】 〔古言、そびノ轉〕 又、しょうびん。かはせみニ同ジ。

しょうび (名) 【稱美】 タタヘ、ホムルコト。稱讚。 北齊書、楊雄傳「移レ書稱二美之一」 著聞集、三、政道忠臣、寬治八年正月二日「稱美スル事限リナシ」

しょうび (名) 【頌美】 功德ヲ、ホムルコト。稱美。 唐書、徐齊傳「以二清毅一聞、吏民頌美」

しょうび (名) 【鍾美】 美ヲ、鍾ムルコト。イタク、メデ、イツクシムコト。 左傳、昭公廿八年「子貉早死無レ後、而天鍾二美于是一」

じょうひ (名) 【冗費】 徒用ノ入費。 唐書、康承訓傳「罷二冗費一、市レ馬益レ軍、軍乃還振一」 蘇軾文「爲レ政在レ去二三冗一、曰、冗官、曰、冗兵、曰、冗費」

しょうびん (名) 【魚狗】 せうびん(魚狗)ノ訛。

しょうひょう (名) 【證憑】 しょうこ(證據)ニ同ジ。

しょうぶ (名) 【勝負】 勝つト、負くるト。カチ、マケ。勝敗 韓非子、喩老篇「未レ知二勝負一」 唐書、裴度傳「一勝一負、兵家常勢」 袋草紙(藤原清輔)三「次第講レ歌、彼是相互難頌、論雖殊爲二張本一テ、定二勝負一間」 著聞集、十、馬藝、秦賴次、下野敦近、競馬「勝負、首遍ナラズト、沙汰有テ」

しょうふう (名) 【松風】 マツカゼ。松ノ、颯颯タル風。松籟 南史、陶弘景傳「特愛二松風一、庭院皆植レ松、每レ聞二其響一、欣然爲レ樂」 李德裕詩「松風清有レ露、蘿月淨無レ烟」 太平記、三十二、天竺震旦物語事「松風、澗水ノ清キ音聞キテ、爽カナル耳ニ」「松風、蘿月ヲ友トス」

しょうふく (名) 【承服・承伏】 背ヒテ、從フコト。納得 諸史(宋、沈淑二逆一)獄鞫勘、及略不二承服一 保元物語、一、軍評定事「爲朝、上ニ八幡伏申テ、御前ヲ罷立テ」 袋草紙(藤原清輔)三「予云、基俊判歌、頗讀此時、承伏了然也ト云」

しょうぶおく (名) 【勝負競】 〔接尾語ノおくら、并ニ、くらべノ語原ヲ見ヨ〕 勝負ヲ相、競フコト。(京阪ニテハ、瞰めくらヲ、にらみおくト云フ) 狂言記、鎌腹「汝ガ寢ウダ者ト、某ト、勝負おくヲシタレバ」 俚言集覽「おくら「鬼おくら、酒ケおくら」ナド云フ、又、おくトバカリモ云フ」

しょうぶごと (名) 勝負事 賭事、博奕。[illegible]「[illegible]大事ト申シマス」

しょうぶし (名) 勝負師 博徒。[illegible]「子役人「此アタリ已來レモナイ、勝負師デゴザル」」

しょうぶづけ (名) 勝負附 相撲ノ勝負ヲ書キ附ケタルモノ。[illegible]

しょうぶん (名) 冗文 冗長ナル文句。[illegible]

しょうへい (名) 昇平、升平 たいへい(太平)ニ同ジ。[illegible]

しょうへい (名) 承平 [illegible]ケ繼グコト。[illegible]民、書數錯亂」(昇ハ、賀ニ通ズ)

しょうへい (名) 冗兵 無駄ナル兵卒。役ニ立タズ、餘リモノノ兵。[illegible]

しょうべい (名) 蒸餅 ぱん(麵包)ニ同ジ。[illegible]食」(蒸ハ、蒸ニ通ズ)

しょうぼく (名) 繩墨 [illegible] (一)スミナハ。[illegible] (二)規則。ノリ。準繩。標準。[illegible]

しょうま (名) 升麻 アハボ。其條ヲ見ヨ。

しょうまん (名) 冗漫 クダクダシク、シマリノ無キコト。冗長、散漫。

しょうみん (名) 烝民 モロモロノタミ。萬民、衆民、庶民。[illegible]若トゾ成ニケル」

しょうみょう (名) 稱名 佛名ヲ、稱フルコト。阿彌陀ノ名號ヲ、稱フルコト。念佛。[illegible]

しょうめ (名) 乘馬 人ノ乘ルニ供フル馬。乘用ノ馬匹。鞍馬。(馱馬ニ對ス)

しょうめい (名) 鐘銘 釣鐘ノ銘。[illegible]

しょうめい (名) 證明 證據立ツルコト。アカシ。[illegible]「身分ヲ證明ス」

しょうめい (名) 松明 タイマツ。松炬。[illegible]ト進ムレバ」

しょうめいもん (名) 承明門 紫宸殿ノ南庭ノ正面ノ御門ノ名。此東ノ掖門ヲ、長樂門ト云ヒ、西ノ掖門ヲ、永安門ト云フ。

しょうもん (名) 證文 (一)後ノ證トスル文書。證書。(二)アカシトナル文章。典據トナル文。出典。[illegible] (三)契約ノ文書。契約書。

しょうもん (名) 松門 松ノ立木ノ、自然ナル門。[illegible]

しょうよう (名) 稱揚 ホメ、ソヤスコト。[illegible]

しょうよ (名) 乘輿 (一)天子ノ、召サセ給フ車馬ヨリ、衣服、器具、一切ノ御物ノ稱。[illegible] (二)天子ヲ敬稱スル語。直チニ指スヲ憚リテ、行幸ノ御輿ニ託シテ申ス。[illegible]

じょうよ (名) 剩餘 アマリ。餘分。餘剩。「本年度ノ剩餘金」

しょうよう (名) 慫慂 イザナヒ、ススムルコト。勸メコムコト。[illegible]

しょうよう (副) 從容 人ノ氣象、風采ノ、優游シテ、迫ラズ、急カヌ狀ニ云フ語。[illegible]

しょうら (名) 松蘿 (一)サルヲガセ。[illegible] (二)松ノ木ニ絡ミタル、つたかづら。轉ジテ、男女、契ルコト。[illegible]

しょうらい (名) 松籟 松風。又、松風ノ聲。松濤。[illegible]

しょうらん (名) 縱覽 じゅうらん(縱覽)ニ同ジ。[illegible]

しょうり (名) 勝利 (一)カチ、鬪ヒ、又ハ、爭ヒニ、勝ツコト。捷利。(二)佛教ノ語。スグレタル利益。[illegible]

じょうりゅう (名) 蒸溜 水物ヲ沸カシテ、其蒸氣ヲ冷シテ、其露ヲ滴ラセ、溜ラスルコト。「蒸溜水」

しょうりゃう (名) 稱量 物ノ輕重ナドヲ、ハカルコト。又、其物。[illegible]

しょうれう (名) 承了 ウケタマハルコト。領承。了承。承知。

しょうれつ (名) 勝劣 まさるト、おとるト。マサリ、オトリ。優劣。[illegible]

しょうれつは (名) 勝劣派 日蓮宗ノ二大派ノ一。本、迹ノ二門ニ、勝劣、差別アリト說クモノ、卽チ、顯本法華宗(妙滿寺派)、本門宗(興門派)、本門法華宗(八品派)、法華宗(本成寺派)、本妙法華宗(本隆寺派)、日蓮正宗(富士派)ノ六派。

しょうろ (名) 松露 (一)マツノツユ。

王勃詩「兩階常候早、松澗夕陰深」柳宗元、種朮詩「松露墜＝嫩柯＝」(二)植物ノ名、松ノ樹ノアル邊ノ、沙ノ中ニ生ズ、形、むかごニ似テ、圓ク大キク、外ハ褐色ニシテ、肉ハ白シ、純白ニシテ、軟カナルヲ上品トス、春ノ末ヨリ夏ニ涉リテ、盛ンニ生ズ、食用トス、香氣アリ。麥蕈

しようろ (名) 衝路 物事ノ、湊リ、ツキアタル所。要路。「外交ノ衝路」

じようろ (名) 噴壺 〔如雨露ノ義〕ミヅフキ。今、如露、又、徐滷ト云フ。其條ヲ見ヨ。續無名抄「世話字盡、如雨露」

じようろカン (名) 蒸露罐 らんびきニ同ジ。

しようゐ (名) 稱謂 (一)名稱。トナヘ。(二)考ヘヲ、述ブルコト。宋書、武帝紀「功高、開闢、理微＝稱謂＝」

しようゐん (名) 松韻 松韻 松風ノ音 松聲。白居易詩「松韻徒煩＝聽、桃夭不＝足＝觀」王維詩「更向松韻切、疑是大哀」

じようゐん (名) 冗員 剩員 無用ノ人員。無駄ナル人。白氏六帖「招＝不急、罷＝冗員＝」「冗員ヲ淘汰ス」

しよえ (名) 所依 依ルトコロ。韓愈詩「去＝寒就＝暖識＝所＝依」

しようえう (名) 所要 イリヨウ。イルダケ。「所要ノ金額」

しよえん (名) 所緣 ユカリ。シルベ。盛衰記、廿五、小督局事「今一度、君ノ御言傳モヤ承ルト思ヒ、所緣アリテ、是ニ、此程、侍リツレドモ、傳ヲ承ル事モ無シ」

しよえん (名) 初緣 始メテノ緣組。初度ノ嫁入。(再緣ニ對ス)

しよえん (名) 諸緣 モロモロノ、ユカリ。多クノ因緣。蘇軾詩「思我無＝所＝思、安能觀＝諸緣＝」朱熹、誦＝經詩「世紛未＝云遣、伎＝此息＝諸緣＝」盛衰記、卅九、重衡請＝法然房＝事「行住、坐臥ヲ嫌ハネバ、四儀ノ稱念ニ煩ナク、時所、諸緣ヲ論ゼネバ、散亂ノ衆生ニ據アリ」

しよおく (名) 書屋 〔屋ハ、本音、をくナリ、習ク慣用ニ據ル〕書物ヲ入ルル家。又、讀書ヲナス部屋。書堂。書樓。書齋。李商隱詩「陶令棄＝官後、仰眠書屋中」

じよおん (名) 助音 人ノ歌フニツレテ、助ケ歌フコト。コワダスケ。盛衰記、三十九、重衡酒宴事「其助音、仕ルニ、憚アリ、云云、今樣、四五遍、唄ヒケルニゾ、中將、助音シ給ケル」

シヨオル (名) 〔英語、Shawl.〕かたかけ(肩掛)ニ同ジ。

しよか (名) 初夏 (一)ハツナツ。夏ノ初メ。首夏。楊萬里詩「後園初夏無＝題目、小樹微芳也得＝詩」(二)陰曆、四月ノ稱。

しよか (名) 諸家 モロモロノ、イヘ。多クノ家門。諫王經「諸家内外」

しよか (名) 書家 文字書ク技ニテ、家ヲ成ス人。郝經詩「冠絕百代書家師」鮮于樞、王大令保母帖詩「不＝讓＝黃求＝配、駸＝書家自有＝九方皋＝」

しよか (名) 書架 書物ダナ。書棚。梅堯臣詩「宿匳書架自層層」

しよかう (名) 初更 かう(更)ノ條ヲ見ヨ。

じよかう (名) 徐行 〔疾行ニ對ス〕シヅカニ、行クコト 緩ヤカニ、進ミユクコト。孟子、告子、下篇「徐行後＝長者、謂＝之弟＝」「車馬、徐行ス」

しよがく (名) 初學 ウヒマナビ。始メテ、學問ニ就クコト。大學章句「大學、孔氏之遺書、而初學入＝德之門也」

しよかん (名) 所感 心ニ、感ジ思フトコロ。儀禮、傳「妊＝子之時、必謹＝所＝感」「所感ヲ述ブ」

しよかん (名) 書簡 書翰 〔翰ハ、筆、筆跡〕テガミ。書狀。書札。韓非子、五蠹篇「無＝書簡之文＝」陸璣、詩疏「蜾蠃取＝桑蟲＝負＝之、于＝木空中、或、書簡筆筒中＝七日而化、爲＝其子＝」宋書、王弘傳「書翰儀體」文心彫龍(劉勰)「符者孚也、徵召防＝僞事＝、資＝中孚＝三代玉瑞、漢世金竹、末代從＝省、易以＝書翰＝矣」

しよかん (名) 書函 フバコ。書狀ヲ入ルル箱。後漢書、祭祀志「以＝吉日＝刻＝玉牒＝書函藏＝金匱＝璽印封＝之」

しよかんがみ (名) 書簡紙 手紙ヲ書クニ用キル紙。書簡箋。便箋。牋紙

しよかんひら (名) 暑寒平 一種ノ袴地、麻絲ヲ雜ゼテ織リタルモノ。夏、冬、共ニ、用キルヨリ、此名アリ。

しよかんぶくろ (名) 書簡袋 ふうづつ(封筒)ニ同ジ。

しよき (名) 書記 (一)文字ヲ、書キシルスコト。(二)書キシルス役。モノカキ。カキヤク。右筆。白居易詩「青衫書記何年去、紅旆將軍昨日歸」謝靈運詩、序「阮瑀管＝書記之任＝」

しよき (名) 書櫃 書物ヲ入ルル箱。ホンバコ。王安石、勸學文「有即起＝書樓、無即致＝書櫃＝」

しよき (名) 書几 フヅクエ。書案。陸游詩「睡餘但欲＝依＝書几＝」

しよき (名) 所期 待チ、マウクルコト。期待。南史、蔡約傳「今用＝卿爲＝近needs上佐＝想副＝我所期＝」「所期ニ反ス」

しよき (名) 暑氣 アツサ。夏、太陽ノ熱ノ、烈シキコト。寒氣ニ對ス。淮南子、天文訓「暑氣多＝天、寒氣多＝壽」

しよきあたり (名) 暑氣中 アツサアタリ。

しよきう (名) 暑休 暑中休暇ノコト。

しよきう (名) 雎鳩 (一)ミサゴ。(二)淑德アル婦女ニ喩ヘタル語。詩經、周南、關雎篇「關關雎鳩、在＝河之洲＝窈窕淑女、君子好逑」保元物語、三、新院御遷幸事「關關タル雎鳩、君子ノ德ヲ助クト」

しよきう (名) 杵臼 きねト、うすト。桓譚新論(漢、桓譚ニ易、繫辭(下傳)曰、神農氏沒、黃帝堯舜氏作、斷＝木爲＝杵、掘＝地爲＝臼、臼杵之利、萬民以濟、蓋取＝諸小過＝此疑、杵臼之始也」

しよきくわん (名) 書記官 (一)書記ノ事ヲ掌ル官。カキヤク。(二)今、内閣、諸省、府縣、等ノ長次官ノ下ニアル官、奏任ノ官ナリ。

しよき・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 庶幾 (一)コヒネガフ。詩經、小雅、桑扈之什、車舝篇「雖＝無＝旨酒＝式飲庶幾、雖＝無＝嘉殽＝式食庶幾」(二)近シ。似テ居ル。易經、繫辭、下傳「顏氏之子、其殆庶幾乎」

しよきふ (名) 書笈 書物ヲ入ルルおひ。本箱。書筬。神仙傳(晉、葛洪)「有＝二侍者＝一負＝書笈＝一攜＝藥笥＝」王安石詩「偕偕一囊衣、偶以＝一書笈＝」

しよきやう (名) 書經 又、尙書。五經ノ一、支那ノ、唐虞ヨリ、夏殷周代マデノ、訓戒、命令、等ノ記錄ヲ、五十八篇ニ分チテ、載ス。古へ、聖人ノ言行ナレバ、

修身、治國ノ經典トス。

しよぎやう [illegible] 行 [illegible] 行ヒ [illegible] 道世)「所行惡事」 後漢記、三十四、公明時政關東下 [illegible]

しよぎやう (名) [諸行] 佛語ノ語、萬行。萬物。次條ヲ見ヨ。

しよぎやうむじやう (名) [諸行無常] 佛語ノ語、因果ノ偈。一切萬物ハ、常住、變ハラザルモノニアラズト云フコト。涅槃經、聖行品、七「諸行無常、是生滅法」 [illegible]「諸行無常ノ響アリ」

しよく (名) [食] (一)物、食フコト。史記、[illegible]傳「中ル食、亞夫顧欲、殺ニ箸公ニ」「食、進ム」 (二)食物 [illegible] 十八、飲食[illegible]者、人之本也、八政爲ニ以、食爲ニ首」「米ヲ食トス」

しよく (名) [蝕] にっしよく(日蝕)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しよく (名) [職] (一)ツトメ。ヤクメ。職務。(二)官ノ條ノ(二)ヲ見ヨ) 書經、周官篇「六卿分職、各率其屬」 [illegible] ワモ辭シ、利ヲモ捨ツルハ、樂間ノカナリ」「職ニ殉ズ」 [illegible]「共二職ニ而已矣」 狂言記、[illegible]「今八年 [illegible] ケ、鐵色ノ、凌ノ翁ヤ當リタルカヤ、しよくノアリサマ、鐵悩セヨ」「手ニ職ヲ持ツ」「職ニアリツク」

しよく (名) [燭] [illegible] 燭ニ點シタル燈火。燭 [illegible]

しよく (名) [軾] 軾ハ、[illegible] 車前也 [illegible] 古ヘ、

支那ノ馬車ノ前ニアル横木ニテ、人ノ、憑ル所。史記、[illegible]

ショク (名) 卓 [字ノ唐音] 机ノ、脚、高キモノ。太平記、三十五、北野通夜物語事 [illegible] ノ中ヨリ、小硯取リ出ダシ、卓ノ上ニ立ッタリケル位牌ノ裏ニ、一首ノ歌ヲ書カレケル」

しよく (名) 私欲 己レニノミ、利セムトスル心。[illegible] (享保、近松作) 一「私欲ニバカリ、目ガ光ル」

しよく (名) [嗜欲] 嗜ミ、欲スルコト。スキ、嗜好。[illegible]記、王制篇「五方之民、言語不通、嗜欲不同」

しよく (名) [蓐] (一)シキワラ。[illegible] (二) [illegible] シトネ、ネドコ [illegible] 臥蓐七年」「蓐瘡」

しよくあたり (名) [食中] 多量ニ、物ヲ食ヒ、或ハ、消化シ難キモノヲ食ヒテ、胃ニ變ヲ起シ、吐瀉ナドスル病。急性胃加答兒 食傷

しよくいう (名) [職由] 主トシテ、ソレニ基ヅキ由ルコト。主ニ、其ニヨルコト

じよくいう (名) [辱友] [交際ヲかたじけなうスル友ノ義] 目上ノ友ニ對スル、自己ノ地位ヲ卑下シテ云フ語。

しよくいふ (名) [食邑] 知行所、采邑 史記、[illegible] 食邑[illegible]

しよくいん (名) 職印 官吏ナドノ、其職務上ニ使用スル印

しよくえん (名) 食鹽 食用トスル鹽

[illegible] 凡食[illegible] 丈夫五升、少半一

しよくえん (名) [屬饜] アキ、足ルコト。十分ニ、ナルコト。饜足。 左傳、昭公廿八年「願以二小人之腹一爲二君子之心一屬饜而已」

しよくかう (名) [屬稿] 詩文ノ草稿ヲ、作ルコト。屬文 [illegible]

しよくかう (名) 蜀江 蜀江ノ錦ノ略。[illegible] 四「蜀江、地組、厚ク、二、重織ナリ、色モヤウ、色色アリ」

じよくかう (名) [辱交] 辱知ニ同ジ。

しよくかうがた (名) 蜀江形 次條ノ語ノ(二)ヲ見ヨ。

しよくかうのにしき (名) [蜀江錦] (一)支那、蜀江ノ產ナル錦ノ稱、上品ナリトス [illegible] (二)今、常ニハ、錦ノ織樣ニ、切籠、如キ文ヲ織リ成セルモノヲ稱ス、コレヲ、蜀江形ナド云フ

しよくかく (名) [食客] カカリウド。キサフラフ。史記、孟嘗君傳「招ニ致諸侯賓客ニ [illegible] 食客數千人」

しよくかく (名) [觸覺] 動物ノ觸官ガ、外物ニ觸レテ起ル感覺。觸感。

しよくかん (名) [觸感] 前條ノ語ニ同ジ

しよくき (名) [蜀葵] 黃蜀葵ヲ見ヨ。

しよくき (名) [食氣] 物、食ハムト欲スル心。食欲 「病人ニ」「少シヅツ、食氣カツク」

しよくき (名) [食器] 食物ヲ入ルルうつは。[illegible]記、少儀篇 [illegible] 食器不二 [illegible]

[illegible]

しよくきん (名) [食禁] 食物ニテ、食フコトヲ禁忌スルコト。[illegible]

しよくくわ (名) 燭火 トモシビ。燈火。人物志(魏、劉邵)「夫智出ニ於明、明之於人、猶ニ晝之待ニ白日、夜之待ニ燭火一」

しよくくわう (名) 燭光 (一)燭火ノ光。(二)英國ニテ、鯨蠟製ノ蠟燭(直徑一吋、重サ六分ノ一封度)ノ、燭ノ高サ四十五粍ニテ、一時間ニ、百二十ぐれえん(七・七七瓦)ヅツノ割合ニテ燃ユル時ノ光度。

しよくくわけい (名) [食火鷄] ひくひどり(火食鳥)ノ條ヲ見ヨ。

しよくくわん (名) [觸官] 動物ノ觸覺ヲツカサドル器官。例ヘバ、人ノ皮膚、蝸牛ノ角ノ類

しよくけい (名) [食頃] 飯ヲ食フ頃ノ時間。僅少ノ時 史記、孟嘗君傳「出如ニ食頃一、秦追果至[illegible]」 [illegible] 六十小劫、謂如ニ食頃一」

じよくげつ (名) 蓐月 ウミヅキ 臨月、

しよくげふ (名) 職業 ナリハヒ コワタリ スギハヒ 渡世 稼業 史記、孔子世家 [illegible]

しよくけん (名) 職權 官吏ノ、職務上ノ權限。官吏ガ、職務上、命令シ、又ハ、處分スル權力 「[illegible]職權ヲ濫用」

しよくげん (名) [食言] 前言ヲ、食ムコト、言ヒ契リタル事ヲ、違フルコト。書經、湯誓 [illegible] 不食言」 左傳、哀公十五年「我食言」

吾言ハ、背ニ天地ニ也」太平記、廿六、廉頗藺相如事「夫レ君子ハ、食言セズ、約ノ堅キ事、金石ノ如シ」

しよく-げん (名) 囑言 言語ヲ、委囑スルコト。コトヅテ。傳言。

しよく-けん-ひ-に-ほゆ (句) 蜀犬吠日 〔蜀地ハ、四方、山、高ク、日、出ヅルコト遲ク、沒スルコト、早シ、犬ノ、日ヲ見ルコト少ナキヲ以テ、日ヲ見レバ、怪シミテ吠ユト云フ義〕通常人ノ、非常人ノ行爲ヲ見テ、疑問ヲ起スニ喩フル語。韓愈文「蜀中高霧重、見日時少、毎至日出、則羣犬疑而吠之也」

しよく-ご (名) 食後 飯ヲ食ヒタル後。ノチ。メシスギ。(食前ニ對ス)「食後ノ散步」

しよく-こう (名) 職工 しよくにん(職人)ニ同ジ。工匠

しよく-こん (名) 蜀魂 〔蜀帝、死シテ、時鳥トナルト云フ、くつてどりノ條ヲ見ヨ〕ほとゝぎすノ異名。華陽國志「晉、常璩」「帝(望帝)遜ニ位於開明、升ニ西山、隱焉、時適二月、子規鳥鳴、故蜀人悲ニ鳥鳴ニ也」蜀字記(宋、樂史)「蜀之後主、名杜宇、號ニ望帝、讓ニ位開明、望帝自逃、後欲ニ復ニ位不得、死、化爲ニ鵑、每ニ春月間、晝夜悲鳴、蜀人聞ニ之曰、我望帝魂也」

しよく-ざい (名) 贖罪 ぞくざい(贖罪)ノ條ヲ見ヨ。

しよく-さん (名) 殖産 生産物ヲ、殖ヤスコト。唐書、李愷傳「愷通ニ左氏春秋、頗殖ニ産伊川、占ニ春陂ニ「殖産興業」

しよく-し (名) 食指 ヒトサシユビ。クスリユビ。ベニサシユビ。左傳、宣公四年「楚人獻ニ黿於鄭靈公、公子宋與ニ子家ニ將ニ見、子公(公子宋)之食指動」宋書、張暢傳「方搖ニ食指、半日乃息」

しよく-じ (名) 食事 飯ヲ、食フコト。餐。喫飯 楚辭、九章「心煩憺兮忘ニ食事ニ」太平記、十八、金崎城落事「馬共ヲモ、皆、食ヒ盡クシテ、食事ヲ斷ツ事、十日計」

しよく-じ (名) 植字 活字ヲ、植エ組ムコト。「植字工」

しよく-しつ (名) 蜀漆 木ノ名、くさぎ(恆山)ノ條ヲ見ヨ。

しよく-しや (名) 職者 有職ノ人。故實ヲ知リタル人。著聞集、三、政道忠臣「三條左大臣入道(實房)「職者ノシ給フ事ナレバ、ヤウゾ侍ラン」

しよく-しやう (名) 職掌 ツトメカタ。役目。晉書、樂志「伯益佐ニ舜禹、職ニ掌山與川」

しよく-しやう (名) 食傷 しよくあたり(食中)ニ同ジ。醫學天正記、坤「食傷、一、今上皇帝御食傷、瀉利、吐逆」

しよく-しゆ (名) 食茱萸 古名、オホタラ。からすのさんせうヲ見ヨ。

しよく-しよ (名) 蜀黍 モロコシキビ。モロコシ。孔平仲、遇雨詩「蜀黍林中氣慘淡」

じよく-しよ (名) 溽暑 ムシアツキコト。蒸暑、溽熱 禮記、月令篇「是月也、土潤溽暑、大雨時行」柳宗元詩「南州溽暑醉如酒」

しよく-しよく (副) 惻惻 アハレミ、イタム狀ヲ云フ語。後漢書、張酺傳「張酺前入侍講、屢有ニ諫正、閒閒惻惻、出ニ於誠心、可謂ニ有ニ史魚之風ニ矣」

しよく-しよく (副) 喞喞 (一)蟲ノ小サキ鳴キ聲ノ、茂キ狀ヲ云フ語。古詩「喞喞復喞喞、木蘭當ニ戶織、不聞ニ機杼聲ニ」(二)蟲ノ鳴ク聲ヲ云フ語 歐陽修、秋聲賦「唯四壁蟲聲喞喞、如助ニ余之歎息ニ」

じよく-しよく (名) 蓐食 朝早ク、寢所ニテ、食事スルコト。左傳、成公十六年「蓐食申禱、明日復戰」史記、淮陰侯傳「晨炊蓐食」

しよく-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 食 クラフ。クフ。ハム。タブ。書經、益稷篇「暨稷播、奏ニ庶艱ニ食」著聞集、三、政道忠臣「三條左大臣入道(實房)「職者ノシ給フ事ナレバ、ヤウゾ侍ラントヤ思ハレケン、諸人皆、同ジ物ヲ食せラレケリ」

しよく-す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 囑 タノム。付託ス。委囑ス。囑託ス。

しよく-せい (名) 職制 勤メ方ノ制。サダメ官制。

しよく-せう (名) 蜀椒 〔支那、蜀國ノ産ヲ上品トスレバ、名アリ〕アサクラザンセウ。フルハジカミ。フサハジカミ。

しよく-せき (名) 職責 職務上ノ責任。「辭シテ、職責ヲ全クス」

しよく-せん (名) 燭剪 蠟燭ノ芯切。シンキリ。和漢三才圖會、三十二、家飾具「燭剪、可ニ以切ニ去燭燼ニ、每置ニ於燭臺ニ」異制、庭訓往來、復陽(十一月)十五日「白鑞燭臺、赤銅之燭剪等、各五對」饅頭屋本、節用集「燭剪、シヨクセン」書言字考節用集、七、器財門「燭剪、シンキリ」

しよく-せん (名) 食饌 膳ニ取揃ヘタル食物。料理。王維詩「空勞酒食饌、持底解ニ人頤ニ」

シヨク-せん (名) 卓氈 卓ヲ被フニ用キル毛布。ケオリモノ

しよく-ぜん (名) 食前 (一)食事ヲスル前。メシマヘ。(食後ニ對ス)(二)次條ノ語ノ略。

しよく-ぜん-はう-ぢやう (句) 食前方丈 座邊ニ、方、一丈ノ食饌ヲ、陳ヌル贅澤ナル食事ヲ云フ。孟子、盡心、下篇「食前方丈、侍妾數百人、我得レ志不レ爲也」韓詩外傳(漢、韓嬰)「北郭先生妻曰、結ニ駟列レ騎、所レ安不レ過ニ容レ膝、食方ニ丈於前ニ、所レ甘不レ過ニ一肉ニ(楚ノ莊王、北郭先生ヲ聘シテ、宰相タラムコトヲ請フ、北郭、其妻ニ謀ルニ、妻ノ言、カクナリ)

しよく-たい (名) 食滯 食物ノ、胃ニ滯リテ、消化レヌコト。モタルルコト。不消化。食モタレ。

しよく-だい (名) 燭臺 又、そくだい。蠟燭ヲ立ツル具、臺ト、棹ト、アリテ、其上ニ、立ツ。蠟燭立。燭架 白居易詩「且留ニ蠟燭臺ニ、誰レ不レ敢ニ注文、所レ進也」倭訓雅、五、器用「燭臺、燭奴(燭架、爲ニ人形ニ者)」後水尾院當時年中行事、上、正月「藏人、階ノ南ニ在ル燭だいノ蠟燭ヲ取リテ、修理職ノ者ニ與フ」公方樣正月御事始之記「一、しよくのめい披露ノ事、樣體ハ、大ナル盆ニ、香爐、同、小サキそく臺ニ蠟燭ヲ燈シテ、しよくのめいヲモ、盆ニ据ヘテ、蔭涼軒被ニ渡候ヲ請取申、御前へ持參申候」

しよく-だう (名) 食道 (一)喉ヨリ胃ヘ、飲食ノ物ノ下ル道、大イナル膜ノ管ナリ。食管。(二)糧食運搬ノ道。糧道。戰國策、趙策「韓、絕ニ食道ニ」

しよく-だう (名) 食堂 食事スルニ用キル座敷。又、食堂。ジキダウ 柳宗元、新食堂記「新作ニ食堂於縣內之右、始會食也」

しよく-たく (名) 食卓 食事盤。チャブダイ。飯臺。食事ノ時、用キルてえぶる。通書後錄「指ニ食卓ニ而問曰」「食卓ニ着ク」

しよく-たく (名) 色澤 イロツヤ。淮南子、淑眞訓「鍾山之玉、炊以ニ爐炭ニ三日三夜、而色澤不レ變」

しよく-たく (名) 囑託 或ル事務ヲ執ルコトヲ、賴ムコト。賴ミテ、任スルコト。漢書、外戚李夫人傳「夫人病甚、殆將レ不レ起、一見レ我、

しょくぐち (名) 初口 ハジメ、ハジマリ。[illegible]
しょくぐち (名) 序知 [illegible]
しょくちゅう (名) 植蟲 動物學ノ語、[illegible]メテ小サキ蟲ノ、集リテ、植物ノ如キ形ヲナスモノ、即チ、珊瑚ノ類。
しょくぢょ (名) 織女 たなばたノ條ヲ見ヨ。[illegible]
しょくでん (名) 職田 しきでん(職田)ノ條ヲ見ヨ。
しょくとつ (名) 觸突 フレ、アタルコト。接觸、衝突スルコト。[illegible]
しょくにん (名) 職人 テビト。タクミ。大工、左官ナド、スベテ、手技ニテ物造ルヲ生業トスル者ノ總稱。職工。工匠。[illegible] 安齋隨筆、[illegible]人ヲ、職人ノ字ヲ用ルハ、非ナリ、諸工人ト書クベシ」
しょくねつ (名) 溽熱 しょくしょ(溽暑)ニ同ジ。[illegible]
しょくばんのあらそひ (句) 觸蠻爭 爭ヒノ、極メテ小ナルニ喩ヘテ云フ語。[illegible]
しょくひ (名) 食費 食事ノ費用。賄料。[illegible]

しょくび (名) 式微 しきび(式微)ニ同ジ。
しょくひん (名) 食品 食用ニ供スル物品。食料品。
しょくふ (名) 褥婦 子ヲ生ミテ、產褥ニ臥スル婦人。
しょくふく (名) 職服 職務上、着用スベキ服。[illegible]
しょくぶつ (名) 植物 根、土中ニアリテ、夫レヨリ莖、幹ヲ生ジ、夫レヨリ枝葉ヲ生ジ、又、花ヲ生ジ、實ヲ結ブ物ノ總名、木、灌木、亞灌木、草、其他、凡ソ、土上ニ生ズルモノ、皆、是レナリ。根ハ、實ヨリ生ズルアリ、或ハ、舊根ノ、殖エテ長ズルアリ、殊ニ、苔、菌ニ至リテハ、其狀、甚ダ異ナルモノ、多シ。(動物、鑛物ナドニ對ス) [illegible]
しょくぶつがく (名) 植物學 博物學ノ一部。植物ノ品類、構造、等ヲ知ル學。[illegible]
しょくぶん (名) 職分 職トシテ、爲スベキコト。[illegible]
しょくぶん (名) 屬文 しょくかう(屬稿)ニ同ジ。[illegible]
しょくべに (名) 食紅 食物ヲ染ムルニ用キル紅。細工紅ナドニ對ス。
しょくほう (名) 食封 知行所。食邑。[illegible]
しょくみん (名) 殖民 無人ノ地、又ハ、外國ノ一定ノ地ニ、民ヲ移シ住マシムルコト。未開ノ地ニ、人種ヲ住マシムルコト。(はるま(寛政八年、和版)蘭語「Volk.(人民)planting.(人民ヲ植ル)多クハ、殖民ト書ス」文久二年、開成所英和辭書「Colony.(殖民)」元治元年、佛語明要「Coloniser.(人ヲ植テ殖ス)」英華字典「Colony.(新地、人民ヲ、本國ノ未開墾地ニ、國民ノ移住シテ、開拓スルコト」)

しょくむ (名) 職務 職トシテ、スベキ事。[illegible]
しょくん (代) 諸君 敬意ヲ表シテ、多クノ人ニ對シテ云フ、對稱代名詞。皆樣。[illegible]
しょくん (名) 敍勳 勳等ニ敍シテ、勳章ヲ賜ハルコト。「敍勳ノ御沙汰」
しょくめい (名) 燭明 蠟燭ノ照明。燭火。[illegible]
しょくめい (名) 續命 生命ヲ、續グコト。存命。太平記、十、[illegible]チニ公方ノ御恩ヲ蒙リタル事ハ候ハネドモ、一家ノ續命、悉ク是レ、武恩ニ非ズト云フ事ナシ」
しょくめいる (名) 續命縷 くすだま(藥玉)ニ同ジ。[illegible]
しょくもく (名) 屬目 目ヲ注ギテ、視ルコト。注目。[illegible]
しょくもたれ (名) 食滯 しょくたい(食滯)ニ同ジ。
しょくもつ (名) 食物 しきもの。又、クヒモノ。食フベキ物。食料。クヒモノ。[illegible]

しょくやう (名) 侍養 親ノ命ヲ待タズ、其顏色ヲ承ケテ、奉養スルコト。[illegible]
しょくよう (名) 食用 食物ニ、モチヰルコト。[illegible]「食用紅」[illegible]
しょくよく (名) 食欲 しょくき(食氣)ニ同ジ。「食慾、旺ンナリ」
しょくりやう (名) 食糧 食用トスル糧。糧食。[illegible]
しょくるゐ (名) 燭淚 蠟燭ヨリ滴ル蠟ヲ、涙ニ擬シテ云フ語。[illegible] 杜牧、贈別詩「蠟燭有心還惜別、替人垂淚到天明」
しょくれい (名) 縟禮 クダクダシキ禮儀。煩多ナル儀式。宋史、李若水傳[illegible]
しょくれう (名) 食料 (一)食フベキモノ。食物。[illegible] (二)日日ノ食事ノ代金。[illegible]
しょくろく (名) 食祿 食ムニ受クル祿。俸祿。史記、[illegible]
しょくわ (名) 所課 課スル所。負課スルコト。[illegible]
しょぐわ (名) 書畫 書ト、畫ト。[illegible]
しょくわい (名) 所懷 心ニ思フトコロ。所思。所感。[illegible]

淸詩ニ副ニ所懷ニ」 魏氏春秋「阮籍作ニ詠門先生論ニ以寄ニ所懷ニ」「所懷ヲ述ブ」

しょくゎい (名) 初會 始メテ、相、會フコト。初對面。(京都ニテ、一見) 生客 陶弘景、水仙賦「小周娰後、初會ニ婚前ニ」「初會ノ客」

しょぐゎい (名) 書外 書狀ニ記シタル以外。書面ニ揭ゲタル以外ノ事柄。「書外、面謁ニ讓ル」

しょぐゎくゎい (名) 書畫會 文人ノ同好ノ者ヲ、料理茶屋ナドニ招キ集メ、書畫ヲカキ、酒宴スルコト。面面ノ持寄ル、金錢ノ殘餘ヲ利セムトスルワザナリ、花會ニ等シ。

しょくゎう (名) 曙光 (一)夜明ノヒカリ。東雲ノ明、曉光。岑參詩「雞鳴紫陌曙光寒、鶯囀皇州春色闌」 (二)暗黑中ニ、僅カニ現ハレ出ヅル光明。好事ノ、來ラムトスル兆。「平和ノ曙光」「紛擾解決ノ曙光」

しょくゎつ (名) 所轄 しはい(支配)ニ同ジ。「所轄ノ警察署」

しょぐゎでふ (名) 書畫帖 書畫ヲ貼リ込メル折手本。

しょくゎん (名) 書卷 書物。書冊。南史、臧嚴傳「孤貧勵學、行止書卷不ㇾ離ㇾ手」 杜甫詩「雨檻臥ニ花叢ニ風牀展ニ書卷ニ」

しょくゎん (名) 庶官 モロモロノ官。書經、皐陶謨篇「兢兢業業、一日二日萬幾、無ㇾ曠ニ庶官ニ天工人其代ㇾ之」

しょくゎん (名) 所管 アヅカルトコロ。支配。所轄。

しょぐゎん (名) 所願 ネガフトコロ、ネガヒノ筋。正法念經「所願成就」 太平記、三、櫻山自害事「神、非禮ヲ受ケ給ハサリケルニヤ、所願、空シウシテ、討死セント」

じょくゎん (名) 舒緩 ユルヤカナルコト。緩舒。漢書、朱博傳「遷ニ瑯琊太守ニ齊部舒緩貪ㇾ名」

しょくゎんじん (名) 諸勸進 モロモロノ勸化。各種ノ勸進。冥途飛脚(正德、近松作)下「師走ノ果ニ、コノ如ク、しょくゎんじん、諸商人、春トテモ無イコト」

しょくゐ (名) 即位 そくゐノ條ヲ見ヨ。名目抄「即位」

しょくゐん (名) 職員 役所、又ハ、學校ノ職務ヲ擔任スル人。

しょくゑ (名) 觸穢 穢レニ觸レタリトテ、神事、幷ニ、朝參、等ニ忌ムコト。死穢、產穢、月經、或ハ、踏合ナド、皆、云フ。古ヘ、神事ニ、人ノ死ニハ、三十日、(葬日ヨリ計ル)同產、七日、畜ノ死、五日、同產、三日(雞ハ、忌マズ)、喪ヲ弔ヒ、病ヲ問フハ、三日ナドトアリ。張籍詩「不ㇾ數ニ人間觸穢ニ偏說ニ此山靈ニ」 盛衰記、四、山門御輿振事「子ヲ先立ル親、哀慾ノ深キ袖ヲ絞ル、兄弟、夫婦、互ニ、別レ亡ケレバ、京中モ、田舍モ、皆、觸穢ニテ、社參ノ者、ナシ」

しょけ (名) 所化 (能化ニ對ス) 僧家ニテ、弟子ノ稱。正法念經「所化衆生」 法華經「如ㇾ是等大士華光佛所化」 御當家令條、八、長谷寺諸法度「一、爲ニ學問ニ住山之所化、不ㇾ滿ニ貳拾年ニ者、不ㇾ可ㇾ執ニ法幢ニ事」 諸宗階級「東叡山學校所化、昇進之次第」

しょけい (名) 庶兄 妾腹ニ生レタル兄。史記、宋世家「太子茲甫、讓ニ其庶兄目夷ニ爲ㇾ嗣」 古事記、中(神武)三「天皇崩後、其庶兄當藝志美美命、娶ニ其嫡后伊須氣余理比賣ニ之時」

しょけい (名) 書契 文字ヲ、木ニ刻ミテ、事ヲ約スル契。文字ニテ記シタル書附。易經、繫辭、下傳「上古結ㇾ繩而治、後世聖人、易ㇾ之以ニ書契ニ百官以治、萬民以察」 著聞集、四、文字「伏犧氏ノ、天下ニ王トシテ、初メテ、書契ヲ作テ、繩ヲ結ビシ政ニ代ヘ給シヨリ」

しょけい (名) 書痙 病ノ名、指、顫ヒテ、字ヲ書キ得ヌモノ。

しょけい (名) 處刑 刑罰ニ、處スルコト。處罰。晉書、食貨志「雖ㇾ處以ニ嚴刑ニ而不ㇾ能ㇾ禁也」

じょけい (名) 敍景 (敍事、敍情ニ對ス) 自然ノ景色、又ハ、其中ニアル動植物ノ類ヲモ敍ベテ、其容子ヲ、讀者ノ眼ニ浮バシムルヤウナル作。(和歌ナラバ、朝ボラケ、宇治ノ河霧、タエダエニ、ノ類)

じょけう (名) 助敎 學校ニテ、敎授ヲ助クル職。柳宗元、四門助敎廳壁記「助敎之職、佐ニ博士ニ云云」

しょけつ (名) 處決 (一)處置ヲ、決斷スルコト。唐書、李輔國傳「輔國謂ニ帝曰、大家第坐ニ宮中ニ外事聽ニ老奴處決ニ」 (二)覺悟ヲ、定ムルコト。「自ラ處決ス」

しょげつ (名) 初月 (一)初メテ出ヅル月。三日月。書言咀「纖纖乎似ニ初月之出ニ天涯ニ」 (二)初メノ月。第一回ノ月。蟬丸(元祿、近松作)五「先ヅ初月ハ、一氣、體中ニ孕マレ」

しょげつ (名) 暑月 アツキ季節。夏ノ時。左傳、襄公廿一年、注「暑月多ㇾ衣、所ニ以示ㇾ疾」 李商隱、雜纂、惱ㇾ人「暑月排ㇾ筵久坐」

しょげつ (名) 庶孽 妾腹ノ子 庶子 史記、商君傳「商君者、衞之諸庶孽公子也」 同、漢興諸侯年表「賓弼ニ庶孽ニ」

ぎょげつ (名) 如月 キサラギ。陰曆、二月ノ異名。

しょげふ (名) 所業 シワザ。所爲。所作。所行。許棠詩「遶春不ㇾ得ㇾ意、所業已疑ㇾ非」

しょけん (名) 所見 (一)見ルトコロ。見タルモノ。晉書、嵇康傳「何所ㇾ聞而來、何所ㇾ見而去」「古書ニ、所見無シ」 (二)意見ヲツクル所。「所見ヲ陳ブ」

しょけん (名) 書見 書物ヲ、見ルコト。書ヲ讀ムコト。讀書「書見ノ妨ゲ」

しょけん (代) 諸賢 敬意ヲ表シテ、多クノ人ニ對シテ云フ、對稱代名詞。諸君。諸彥。

しょげん (名) 緒言 ハシガキ。マヘガキ。序言。序文。莊子、漁父篇「竊者先生有ニ緒言ニ而去、云云、幸聞ニ咳唾之音ニ以卒ㇾ相ㇾ丘也」

しょげん (名) 諸彥 モロモロノ人。多クノ俊レタル士。南史、齊豫章王嶷傳「臣與ニ二三諸彥、兄弟友生、時復[illegible]」

しょけん (代) 諸彥 しょけん(諸賢)ニ同ジ。謝靈運、擬ニ魏太子鄴中集ニ詩序「今昆弟友朋、二三諸彥、共盡ㇾ之矣」

じょげん (名) 序言 しょげん(緒言)ニ同ジ。

じょげん (名) 助言 助言ニ同ジ。

じょげん (名) 如幻 夢幻ノ如ク、ハカナキコト。蘇軾詩「此生如ㇾ幻耳、戲語吾勿ㇾ慍」

✣しょげる ゲル・ゲレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (自動、下一) 悄氣 萎氣 失望シテ、勢ヲ失フ。アテガハヅレテ、興、醒ム。

しょこ (名) 書庫 (一)書物グラ。文庫。(二)博

宋史、職官志「淳化五年、始置ニ書庫監官ニ」

[illegible] 史、時人稱爲[illegible]」

しょこ（名）書賈 書物ヲ商ナフ人。[illegible]

しょこ（名）諸子 モロモロノ、ミナシ[illegible]

[illegible] 幼少ハ存二諸公二」

しょこ（名）如拭 [illegible]ノ條ヲ見ヨ。

しょこ（名）助詞 [illegible]ニ同ジ

しょこう（名）諸公 諸ノ公。多クノ貴キ人。杜甫、醉時歌「諸公袞袞登臺省二」

しょこう（名）諸侯 諸侯 (一)支那ニテ、公、侯、伯、子、男、ノ爵アル者ノ總稱（爵ノ條ヲ見ヨ）[illegible] (二)大名。

しょこうわう（名）諸侯王 古ヘ、支那ニテ、皇子ノ、封ゼラレテ、王トナリタルモノ。[illegible]

しょこなし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）無詮方 セニカタナシ シカタナシ セウコトナシ。[illegible] ノ運ヂャ、しょこなどがない」

しょこん（名）初婚 初度ノ結婚（再婚ニ對ス）[illegible] 初婚之說」

しょこん（名）如今 イマ。タダイマ。當今 [illegible] 今、イマ」

しょごん（名）助言 助ケテ、言葉ヲ添フルコト、ジョゲン。[illegible]

しょさ（名）所作 (一)爲ストコロ。シワザ。[illegible] 所爲 [illegible] 謠林「日日ノ所作ニ、大佛頂ヲコソ、七返讀ミ給ヒケレ」 著聞集、四、文學「古人ノ所作、仰而可レ信歟」 (二)所作事（手振）、振事（手振）、等ノしかた。體ノおなし。（舞踊ニ云フ）

しょさ（名）書佐 カキヤク。書記。書手。[illegible]

しょさい（名）書齋 [illegible]「歐陽修、東齋記、齋、[illegible] 於此而 [illegible] 書ヲ讀ミ物書クニ用キル部屋。書室。[illegible]

しょざい（名）所在 (一)物ノ、在ルトコロ。アリカ。[illegible]「所在不明」 (二)ココ、カシコ。トコロドコロ。[illegible] 所在 [illegible] キサゲ、引キサゲ、錢スマジト追ッカクル」 所在 [illegible] 無いトハ、身ノ在ルベキ所ヲ、求メ得ズ。身ノ、落着ナシ。手モチ不沙汰ナリ。

しょさい（名）如在 [神、在すが如しノ意ニテ、怠ラヌ心、如在アルヨリ、如在なしト云フ語、出來タルハ、みな(無な)ニ] (一)神ヲ祭ルニ、神ノ在スガ如ク、敬ヒ謹ミテ、スルコト。[illegible] (二)轉ジテ、疎意、或ハ、疎略ノ意。[illegible]

[illegible] 云云、昔ノ主ノ子ニ、如在ヲセヌハ、奇特ナル心バセナリ」 丹波與作（寶永、近松作）上「夫ノ事、我子ノ事、[illegible] (三)[illegible] 意ニ云フ。但馬地方ニテ「金ヲ預ケテモ、アノ人ナラバ、如在ない」(四)疎意ノ義 [illegible]

しょさいなし・キ・ケレ・ク・ク（形、二）無如才 氣轉利キテ、遺失無シ。「しょさいなく立働く」

しょさう（名）書窗 書窗（書齋）書齋ノまど。[illegible]

しょさう（名）所相 文法ノ語、助動詞ノ、る・らる、ノ受身相。

しょざう（名）所藏 自己ノ物トシテ、藏メテアルコト。收藏。[illegible] 石墨鐫華六今分寄二一緣二」

しょさくる・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）所作 所作ヲ、ナス 仕事ヲナス。[illegible]（元文、自笑）一「店へ出テ、しょさくりテ居ラルル所へ」

しょさこと（名）所作事 所作事ヲ略シテ、所作ヲ見ヨ。東京ノ芝居ニ、踊、又、振事ト云フ、其條ヲ見ヨ。色老居（正德、野郎[illegible]）[illegible] あやめ草 所作事ハ、[illegible] ナリ、所作ごとノ珍シカラン事ヲノミ思ウテ、地ヲ、踊出サヌハ、花バカリ見テ、實ヲ結バヌニ等シカルベシ」

しょさし（名）所作師 所作事ニ、巧妙ナルモノ。[illegible] 所作師トハ云ハズ、皆皆、ヲドリ師也」

しょさつ（名）書札 カキモノ。テガミ。手札。[illegible]

二、[illegible]

しょさつ（名）書冊 書籍。書物。本。[illegible]

しょさん（名）助産 次條ノ語ノ略。[illegible]

しょさんぷ（名）助産婦 さんば（産婆）ノ(二)ニ同ジ。

しょし（名）所司 [侍所ノ司ノ義] (一)鎌倉幕府ノ侍所ノ次官。侍所（第一語ノ條ノ(一)）ヲ見ヨ。吾妻鏡、四、元暦二年四月廿一日[illegible] (二)ヲ見ヨ 將士ノ進退、檢斷、決罰、朝廷 幕府ノ警衞、洛中ノ雜事、山城國ノ公、武、寺、社、ノ領地ノ事ヲ掌ル、室町幕府ノ侍所ノ長官。侍所（第一語ノ(二)）ヲ見ヨ 後ニハ、一色、山名、京極、赤松ノ四氏、代ハル代ハル所司ヲ稱ス、世ニコレヲ、三管領ニ對シテ、四職ト稱セリ、所司ガ、幕府ニ請ヒテ、家臣ノ長タル者ニ、代ハリテ事務ヲ執ラシムル者ヲ、所司代ト稱シキ [illegible]

ヲ指シテ云フ習ヒ、出デ來シナルベシ」下學集（文安）下、態藝門「所司代（ショシダイ）」 （三）僧侶ノ職名、三綱（サンガウ）ノ一稱。 二中歷、四「三綱、謂二之所司一」 盛衰記、二、淸水寺燒失事「同十日、祇園所司、奏狀ヲ獻ル」

しょ-しょ（名）【所子】 ヤシナヒゴ。養子（ヤウシ）。 漢書、宣帝紀、顔注「所子者、言下養二弟子一以爲上レ子」

しょ-しょ（名）【庶子】 （一）嫡子ノ外、次男、三男、或ハ、妾腹ノ子ナドノ稱。庶孼。 戰國策、西周策「周共太子死、有二五庶子一、皆愛レ之」 （二）德川氏ノ時、大名ノ連枝、分家ノ稱。

しょ-しょ（名）【處子】 しょぢょ（處女）ノ（一）ニ同ジ。 莊子、逍遙遊篇「藐姑射之山、有二神人一居焉、肌膚若二氷雪一、淖約（ヒャク）若二處子一」 孟子、告子、下篇「踰二東家牆一而摟二其處子一則得レ妻」

しょ-しょ（名）【處士】 士ノ、仕官セヌモノノ稱。又、道德アリテ、仕ヘザル人。 孟子、滕文公、下篇「諸侯放恣、處士橫議」

しょ-しょ（名）【諸士】 モロモロノ人。多クノ士。 史記、魏其武安傳「諸士在二己之左一」 假名手本忠臣藏（寛延、竹田出雲）四「並居ル諸士」

しょ-しょ（名）【諸子】 孔子、孟子ノ外、老子、莊子、管子、孫子、韓非子、等、スベテ、子ト呼ブ人タチ。又、其書類、又ハ、其學說。 史記、賈誼傳「頗通二諸子百家之學一」 漢書、藝文志、顔注「諸子、百六十九家」

しょ-しょ（名）【諸司】 モロモロノツカサ。百司。 左傳、桓公十三年「訓二諸司一以レ德」 公式令「凡、諸司奏レ事、皆不レ經二長官一、不レ得二輒奏一」 後紀、七、承和五年十二月、彈正尹奏「傳二文武諸司、移二八位以下人位姓名於臺一」 勘解由使式、注「在京諸司、不レ修二内祭幷解文一」

しょ-しょ（名）【書史】 書物。書籍。又、經書ト史籍ト。 韓愈詩「歸還閲二書史一、文字浩千萬」

しょ-しょ（名）【書師】 字ヲカクモノ。テカキ。書家。 列仙傳（漢、劉向）「東方朔者楚人也、久在二吳中一爲二書師一」

しょ-しょ（名）【書肆】 ほんや（本屋）（第二語ノ）ニ同ジ。 揚子法言、吾子篇「好レ書而不レ要二諸仲尼一、書肆也」 朱熹、建陽縣學藏書記「讀二聖賢之書一、而不レ通二于心一、不レ有二于身一、猶不レ免レ爲二書肆一」

しょ-しょ（名）【初志】 初ノ心ザシ。初一念。 曹植、黃初六年令「修二吾往業一、守二吾初志一」「初志ヲ錄サズ」

しょ-しょ（名）【所思】 オモフトコロ。カンガヘ。所感。 文選、古樂府、傷歌行「感レ物懷二所思一、泣涕忽霑レ裳」「所思ヲ述ブ」

しょ-しょ（代）【諸子】 師匠ガ、弟子タチニ對シテ云フ、對稱代名詞。オノオノガタ。諸君。 三國志、蜀志、李嚴傳、注「若滅レ魏斬レ叡、帝還二故居一、與二諸子一並升、雖二十命一可レ受」

しょ-しょ（名）【諸事】 モロモロノ事。多クノ事柄。萬事。 史記、李斯傳「未三必盡通二諸事一」 同、賈誼傳「短二賈生一曰、雒陽之年少初學、專欲レ擅レ權、紛二亂諸事一、於レ是天子後亦疏レ之」 假名手本忠臣藏（寛延、竹田出雲）二「年配ト云ヒ、諸事、物馴レタル侍」

しょ-しょ（名）【庶事】 イロイロノ事柄。多クノ事務。 書經、益稷篇「元首明哉、股肱良哉、庶事康哉」

しょ-しょ（名）【初次】 〔支那ノ俗語〕 初回。第一次。

じょ-しょ（名）【序詞】 枕詞ノ如ク、語句ノ上ニ冠ラセテ、修飾スル語。ハシカザリ。序ノ詞（コトバ）。卽チ、「靑柳ノ、イト長ク」足引ノ、山鳥ノ尾ノ、シダリ尾ノ」ハマヒサギ、久シクナリヌ」ニ於ケル、靑柳の、足引の、山鳥の尾の、はまひさぎ、ナドノ、いと、しだり尾、久しく、ヲ修飾スル類ノ如シ。

じょ-しょ（名）【助詞】 てにをは（オ）ニ同ジ。

じょ-じょ（名）【助辭助字】 漢文ニテ、他ノ語ニ附キテ、其意味ヲ助ケ補フモノ。卽チ、焉、哉、乎、耶、於、也、矣、ナドノ類ノ助語。オキ字。

じょ-じょ（名）【敍事】 〔敍景、敍情、及、議論ナドニ對ス〕 文ニ、事柄ヲ、アリノママニ記シツクルモノ。又、過去ノ事ヲ述ブルモノ。

じょ-じょ（名）【序次敍次】 次第。ツイデ。次序。順序。 國語、周語「陰陽序次、風雨時至」 大學章句「別爲二序次一如レ左」

しょ-しゅう（名）【初秋】 （一）ハツアキ。秋ノ初メ。早秋。 曹植詩「初秋凉氣發、庭樹微銷落」 南史、褚彦回傳「初秋凉夕、風月甚美」 （二）陰曆、七月ノ稱。

しょ-しき（名）【書式】 願書、證文、ナドニ、制（サダメ）ノアル文體（カキカタ）。文書ヲ書ク方式。 「寄留屆ノ書式」

しょ-しき（名）【諸式】 〔諸色ナルベキカ〕 （一）工匠ノ語。諸ノ材料。モロモロノ物。品品ノモノ。 太平廣記「諸式假借付物」（式、一本、色ニ作ル）「諸式高直」 （二）モロモロノ方面。 韓愈、停二舉選一狀「今年諸式舉選」（式、一本、色ニ作ル）

しょ-しき（名）【所職】 帶ビテ居ル職。勤ムル所ノ職。所職（ショシキ）。 菅闘集、六、管絃歌舞、源義光「義光ハ、所職ヲ辭シ申テ、都ヲ出シヨリ、命ヲ亡キ物ニナシテ、思ムカヘバ」

しょしき-かうぢき（名）【諸式高直】 モロモロノ物價ノ、高キコト。物價騰貴。

しょし-だい（名）【所司代】 （一）室町幕府ノ頃、侍所（サブラヒドコロ）ノ所司（ショシ）ガ、幕府ニ請ヒテ、其家臣ノ長ヲシテ、所司ノ所務ヲ代理セシメシ職名。所司ノ（一）、及、侍所（サブラヒドコロ）（第二語ノ）ノ（二）ヲ參見セヨ。 庭訓往來、八月「管領、執事、奉行人、檢斷、所司代」 鹽尻、七十三「東山殿（義政）ノ時、京極大膳大夫持淸、佐佐木本家、侍所ノ司ニ補セラレ、京都ノ事ヲ奉行セシガ、其身、江州ニ在シ時、多賀豐後守中原高忠ヲシテ、京都ニ置テ、政、宰セシメシヲ、所司代ト呼シ、是、始ナルト云フ（但シ、前ニモ、諸司代ノ名、貞和ノ比モ有シニヤ）」 （二）織田氏、豐臣氏、德川氏ニ至リテハ、其任ズル人、陪臣ナラネドモ、其稱ヲ改メズシテ、京都ニ置キテ、禁裏ニ係ル一切ノ事、及、近畿ノ民政ヲモ、掌ラシムル職ノ稱トナレリ。 東職記聞、一「京都所司代一人、住二京都一、守二護禁中一、掌二堂上及京中一切事一之職也」 台德院殿御實紀、五十三、元和六年「京所司代板倉伊賀守勝重、致仕ノ請ヲ許サレ、ソノ子周防守重宗、云云、父ニ襲テ、京ノ所司代タラシメラレ」

しょ-しちにち（名）【初七日】 しょなのかノ條ヲ見ヨ。

しょ-しつ（名）【書室】 書齋（ショサイ）ニ同ジ。

しょ-しん（名）【初心】 （一）學術ノ、學ビ始メナルコト。ウヒマナビ。初學。 （二）事物ニ、馴レヌコト。ウブ。 倚蓮經「檀越初心」 色道大鏡（延寶、箕山）「髮ノ厚キハ、賤シカラネド、初心メキタリ」 （三）初メニ思ヒタル心。初一念。素志。 吳融詩「駿鹿愧二初心一」

しょ-しん（名）【書信】 手紙ノ、オトヅレ、消息。 晉書、陸機傳「笑語レ犬曰、我家絕無二書信一、汝能齎レ書取二消息一不」 何遜詩「故鄉有二書信一、縱橫印檢開」

しょ-しん（名）【所信】 信仰スルトコロ。信ズルトコロ。 「所信ヲ枉ゲズ」「所信ヲ披瀝ス」

しょ-しん（名）【所親】 シタシム人。親切ナル人。 杜甫詩「所親驚二老瘦一、辛苦賊中來」

しョしん（名）初人　（一）身分ナキ人。[illegible]（二）ミヤヅカト[illegible]

しョしャ（名）［書寫］書キ、寫スコト。筆寫。[illegible]リケレバ、[illegible]シタリ、此ミニケリ」

しョじャう（名）書状　[illegible]必用、注[illegible]

じョじャう（名）［助成］じョせい（助成）ニ同ジ。[illegible]アレ

じョじャう（名）敍情　［敍事、敍景ニ對］スニ自他、彼ニ、自然ニ對シテ、己ガ感情ヲ主題トシテ、述ヘ表ハシタル作（カ、ケノ月ノ桂モ、折ルバカリ頃ハク八、花ノヒトニテ、我レ可ナムニノ類）

しョじャく（名）書籍　しョもつ（書物）ニ同ジ。支那ノ古ヘニハ、竹ヲ殺リテ、青色ヲ去リ、漆ニテ字ヲ書キ、韋ニテ編ム、漢ノ世ニ、紙、出來テ、帛ニテ書キ、卷物ニス、數フルニ、卷、又、まきト云フ。書冊　唐ノ世ニ、綴本トナル。［書冊］冊子[illegible]

じョしャく（名）敍爵　（一）官人ノ始メテ從五位ニ敍セラルルコト。王朝時代ハ、五位ヨリ以上ハ、位田ヲモ賜ヒ、大イニ規模トスル所ナレバ、殊ニ稱ス。太平記、[illegible]ヲゾ附ケタリ」（二）爵ヲ授ケラルルコト。

しョしャぬり（名）［書寫塗］漆器ノ名、播磨ノ書寫山ノ産ナルベシ。

しョしゅ（名）諸種　モロモロノ種類。クサグサ。種種。

しョしゅ（名）所衆　藏人所ノ衆。古ヘ、藏人所ニ仕ヘシ者。所ノ衆。[illegible]

しョしゅ（名）書手　（一）カキテ。寫字生。[illegible]（二）モノカキ。テカキ。（三）一本御書所ノ主典ノ稱。

じョしゅ（名）助手　（一）仕事ノ、補助ヲスル人。教官、又ハ、醫官ナドノ指圖ヲ受ケテ、其仕事ヲ補助スル職。スケ。（二）相撲ニテ、脇ノ稱。

しョじゅう（名）所從　ケライ。トモビト。從者。[illegible]

しョしゅつ（名）庶出　［嫡出ニ對ス］庶腹ニ、生レ出デタルコト。

じョじゅつ（名）敍述　次第ヲ逐ヒテ、陳述スルコト。ノベ、云フコト。ノブルコト。敍說。

しョしゅん（名）初春　（一）ハツハル。春ノ初メ。早春。（二）陰暦、正月ノ稱。[illegible]

しョじゅん（名）初旬　じョうじゅん（上旬）ニ同ジ。旬ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。[illegible]「[illegible]初旬、吉日[illegible]」

しョしョ（名）處暑　處ハ、止む意。陰暦七月ノ中。[illegible]（二十四氣）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しョしョ（名）處處　所所　トコロ、ドコロ。ココ、カシコ。ソコラ、ココラ。[illegible]ノ新關ヲ止メラル」

しョじョ（名）［初敍］初メテ、位階、勳等ニ敍セラルルコト。ウヒカウブリ。

しョじョ（名）［沮洳］（一）土地、低クシテ、ウルホフコト。ヌカルミ。又、其地。漸濕。[illegible]（二）轉ジテ、獄屋ノ稱。[illegible]

じョじョ（名）草履ノ、小兒ノ語。ゾゾ。

しョしョく（名）［黍稷］きびト、あはト。又、五穀ノ稱。[illegible]

しョしョく（名）［所職］しョしき（所職）ニ同ジ。[illegible]

じョじョと（副）徐徐　シヅシヅト。ソロソロト。ユルユルト。シヅカニ。易[illegible]

しョしョむしョしョ（句）「林道春云、上上無上上ノ義ナリト」極メテ、無上ナリ。至ッテ、此上ナシ。[illegible]

しョ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（自動、左變）處　ヲルニ住ム。身ヲ置ク。[illegible]

しョ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）處　定メ行フ。取リ計ラフ。取リサバク。孟子、公孫丑、下篇「若ニ於齊ニ、則未ダ有ラ處也」晉書、食貨志「人[illegible]」[illegible]

しョ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）書　カク。シルス。[illegible]

しョ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）署　姓名ヲ、書キ記ス。記名ス。署名ス。[illegible]

じョ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［恕］思ヒ遣リテ、免ス。宥恕ス。[illegible]

じョ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［序敍］（一）ツイヅ。順次ヲ立ツ。[illegible]（二）次第ヲ立テテ、陳ベアラハス。書キツヅル。[illegible]（三）序文ヲ書ク。

じョ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ（他動、左變）［敍］「位階ニ敍ヅる意」位ヲ進メ賜フ。新タニ賜フニハ、授クト云フ。[illegible]

しよせ（名）仕寄　城攻ニ、押シ寄スルコト。[illegible]ノアタラザル、云云、島原ニテ、仕寄ニ、一人モ討タレタル者ナシ」

しョせい（名）初生　ウマレタテ。

しョせい（名）［所生］（一）生ノ子。「之レヲ親ルコト、所生ノ如シ」（二）生ノ親。詩經、

小雅、小旻之什、小宛篇「夙興夜寐、無忝爾所生」」「所生ノ恩」之レニ事フルコト、所生ノ如シ」

しョ-せい（名）［諸生］（一）多クノ學生。（二）次條ノ（一）ニ同ジ。史記、曹相國世家「盡召長老諸生問所安集百姓」

しョ-せい（名）［書生］（一）書ヲ、讀ミ學ブ人。學業ヲ習フ者。學生。儒生。後漢書、袁安傳「道逢三書生、云云、爲指一處」（二）家事ヲ手傳ヒ、旁、學問スル食客。

しョ-せい（名）［書聖］ 能書家ヲ、敬稱スル語。梁書、王志傳「志善草隷、當時以爲楷法、齊遊擊將軍徐希秀、亦號能書、常謂志爲書聖」

しョ-せい（名）［處世］ 世ニ、處スルコト。ヨワタリ。晉書、郄愔傳「益無處世意」「處世ノ術」

しョ-せい（名）［庶政］ モロモロノ、マツリゴト。多クノ政事。易經、賁卦、象傳「山下有火、賁、君子以明庶政、无敢折獄」

しョ-せい（名）［所濟］ 納ムル所。上納。貢租。盛衰記、四十一、大嘗會被行事「正稅、官物ノ所濟無ケレバ、如何シテカ、加樣ノ大禮モ行ハルベキ」

じョ-せい（名）［助成］ 又、じョじョう。タスケ、ナスコト。助力。書經、孔傳「助成道化」

じョ-せい（名）［助勢］ じョりき（助力）ニ同ジ。淸正記「一萬山下ヘ押シサゲ、助勢ノ體ナリ」

しョ-せき（名）［書籍］ しョじャく（書籍）ニ同ジ。

しョ-せき（名）［書跡］［書蹟］ 筆ノアト。筆跡。手跡 南史、蕭子雲傳「其書跡雅、爲武帝所重」酉陽雜俎（四）、段成式「書跡甚工」

しョ-せつ（名）［諸說］ モロモロノ說。衆說。「諸說、紛紛」諸說ヲ參照ス」

じョ-せつ（名）［敍說］ じョじュつ（敍述）ニ同ジ。

じョ-せつ（名）［絮說］ 縷縷トシテ、說キ明カスコト。クドクド、說クコト。縷說。

じョ-せつ（名）［絮雪］ 柳ノ花ノ、絮ノ如ク、又、雪ノ如ク、飛散スルコト。又、其モノ。蘇軾詩「風吹絮雪愁縈骨」

しョ-せん（副）［所詮］（一）又、そせん。詮ズルトコロ。理ノ、ツマル所。明カニスルトコロ。明ラメタル。オシキハメタル。ツキツメタル。ツマリ。結局。到底。究竟（佛經ノ語ニ、人ヲシテ、道ヲアキラメシムル（能詮）、人ニアキラメサセラルル（所詮）ト云フ語アリ）法苑義林章「所詮法者、所詮義也、名句字者、能詮文也」字類抄「所詮、シヨセン」盛衰記、一、五節夜闇打事「所詮、身ヲ全ウシテ君ニ仕フルハ、忠臣ノ法ト云フ事アリ」（二）トテモ。イカニシテモ。「所詮、出來ヌ」

しョ-ぜん（名）［諸善］ モロモロノ善行。多クノ作善。衆善。

じョ-せん（名）［如船］ うきぶくろ、うきぐつニ同ジ。似我蜂物語「今ハ、川海ヲ游グコト、上手、下手ナク、浮嚢ト云フ物アリテ、自在ニアリク也、卽チ、其ノ名ヲ、如船ト云ヒケル」

しョ-そ（名）［書疏］ しョじャう（書狀）ニ同ジ。晉書、陶侃傳「遠近書疏、莫不手答」

しョ-ぞく（名）［所屬］ 屬キ從ヒテアルモノ。「某省所屬ノ某局」

しョ-そん（名）［書損］ カキソコナヒ。

しョ-ぞん（名）［所存］ 心ニ存ズル所。カンガヘ。存ジヨリ。オモヒ。ミコミ。思慮。平治物語、二、六波羅合戰事「御曹司モ、定メテ御所存アリテゾオハスラン」伽羅先代萩（天明、松貫四）「五十四郡ノ一家中、所存ノ臍ヲ固メサス、誠ニ國ノ礎ゾヤ」

しョ-たい（名）［所帶］（一）官職ニカケテ云フ語、後ニ、領地、財產ニカケテ云フ。身代。身上。家產。平家物語、三、御産卷事「官加階ニ望ミヲカケ、所帶、所職ヲ帶スル程ノ人ノ、一人モ漏ルルハ無カリケリ」著聞集、十、馬藝「府生、下野敦近、御氣色惡シク成テ、所帶モ相違シテケルトカヤ」「所帶ヲ沒收ス」（二）家ヲ立テ、生業ヲ成スコト。世帶。生計。生玉心中（正德、近松作）上「出店ヘ泊リニ行ク夜サハ、女夫、所帶ヲスル心、同ジ寢ルノモ、身ニ附クヤウデ」「所帶ヲ持ツ」「所帶ヲ潰ス」

しョ-たい（名）［書體］ しョてい（書體）ニ同ジ。北史、江式傳「書體與孔子相類、卽前代之古文矣」

じョ-だい（名）［序代］［序題］ 序ノ文。序言。大鏡、六、道隆「內ノ、生レサセ給ヘリシ七夜ニ、和歌ノ序代、書カセ給ヘリシゾカシ」榮花物語、三十一、殿上花見「檽太夫ナン、其ノ日ノ歌ノ序代、書キ記シ給ヒケル」

しョ-だいぶ（名）［諸大夫］（一）四位、五位ノ官人ノ稱、禁裏ヨリ、攝關、淸華、大臣家、等ニ附ケ置カレ、其家ニ召仕ハルル者、地下ナリ、然レドモ、昇殿ヲ聽サルル例モアリ。取替ばや物語、諸太夫、殿上人、幄ニ着キタリ」江家次第、五、春日祭使「諸大夫、各着三色色狩袴」（二）武家ニテ、五位ノ侍ノ稱。（六位ノモ、アリ）

しョ-たいめん（名）［初對面］ 始メテノ對面。初會。ウヒゲンザン。生客。盛衰記、廿二、佐藤太將門中違事「此ノ人ノ體、輕骨ナリ、墓蓙敷、日本ノ主トナラジトテ、初對面ニ、心替リシケル」

しョ-たう（名）［初唐］ 支那ノ唐代ノ詩家ヲ四大別ニナシタル、第一ノ稱、卽チ、武德ヨリ開元マデニテ、此間ニ、魏徵、王績、張九齡、駱賓王、等アリ。第二ヲ盛唐ト云フ、開元ヨリ大曆マデニテ、此間ニ、李白、孟浩然、杜子美、李頎、等ノ四十二人、輩出シ、最盛ナル時代ナリ。第三ヲ中唐ト云フ、大曆ヨリ太和マデニテ、此間ニ、柳宗元、錢起、孟東野、韓退之、等アリ。第四ヲ晩唐ト云フ、開成ヨリ天祐マデニテ、此間ニ、李商隱、司馬禮、張喬、等アリ。コノ區別ハ、宋ノ嚴滄浪ノ唱ヘ始メシ詩論ナリ、次ニ、李攀龍ト云フ人 選唐詩ヲ編セシカド、後ニ、改刪セリ、原本、行ハレズ、今ノ唐詩選ハ、僞作ナリト云フ。

しョ-たう（名）［所當］（一）賦稅。カカリモノ。盛衰記、三十四、木曾內裏守護事「東西ノ亂逆、道、塞ガッテ、公ノ御調モ奉ラズ、年貢、所當モ上ラザリケレバ」（二）相當スルコト。適當。平家物語、二、敎訓事「所當ノ罪科、被行ヌル上ハ、退イテ、事ノ由ヲ陳ジ申サセ給ヒテ」

しョ-だう（名）［諸道］ モロモロノミチ。多クノ業。保元物語、一、新院御謀反思召立事「禮儀ヲ調ヘ、自他ノ記錄ニ暗カラズ、文才、世ニ知ラレ、諸道ニ淺深ヲ探ル、朝家ノ重臣、攝籙ノ器量ナリ」「諸道ニ通達ス」貧ハ、諸道ノ妨ケ」

しョ-だう（名）［書道］ 文字ヲ書ク道。書法。入木道。鄭杓、衍極造書篇「顏魯公下問于長史曰、云云、如錐畫沙、如印印泥、書道畢矣」

しョ-だう（名）［書堂］ しョさい（書齋）ニ同ジ。白居易詩「昔住匡廬下、書堂對藥臺」

じョ-だし（名）［序出］ 書キハジメ。發端。

しョ-だな（名）［書棚］ 廚子棚ノ如ク、專ラ、書籍ナド、載セテオク棚 書架。

しョ-たん（名）［書丹］ 石碑ニ、撰文ヲ書ク

しヨ-しん (名) 【庶人】 (一)身分ナキ人。庶民。平民。左傳、襄公九年「庶人カニ於農穡ニ」(二)シロウト

しヨ-しヤ (名) 書寫 書キ、寫スコト。 [illegible] 菅聞集、[illegible] リケレドモ、空シクテ、止ミニケリ」

しヨ-じヤう (名) 書狀 [illegible] 居家必用、注、演義「狀、貌也、以、貌寫、情於紙筆一也」[illegible] 書簡 書狀 [illegible] シテ、牽テ參ル」

じヨ-じヤう (名) 助成 じヨ-せい(助成)ニ同ジ。 [illegible] 此大願ヲモ思ヒ立チテアレ」

じヨ-じヤう (名) 【敍情】 〔敍事、敍景ニ對ス〕自他、共ニ、自然ニ對シテ、己ガ感想ヲ主題トシテ、述ベ表ハシタル作（人ノ方ノ、月ノ桂モ、折ルバカリ、願ハクハ、花ノモトニテ、我レ死ナム」ノ類）

しヨ-じやく (名) 書籍 しヨ-もつ(書物)ニ同ジ。支那ノ古ヘニハ、竹ヲ炙リテ、青色ヲ去リ、漆ニテ字ヲ書キ、革ニテ編ム、漢ノ世ニ、紙、出來テ、墨ニテ書キ、卷物ニス、數ノ[illegible]ニ、卷、卷、まきトモ云フ。書卷。唐ノ世ニ、綴本トナル。書冊。冊子 [illegible] 「[illegible]依、爲久遠之義ニ」

しヨ-しやく (名) 【敍爵】 (一)官人ノ始メテ從五位ニ敍セラルルコト「王朝時代ハ、五位ヨリ以上ハ、位田ヲモ賜ヒ、大イニ

規模トスル所ナレバ、殊ニ稱ス。太平記、三十五、青砥左衞門事「出仕ノ時ハ、木鞘卷ノ刀ヲサシ、木太刀ヲ持セケルガ、敍爵ノ後ハ、此太刀ニ、弦袋ヲゾ附ケタリ」(二)爵ヲ授ケラルルコト。

しヨ-しやぬり (名) 書寫塗 漆器ノ名、播磨ノ書寫山ノ産ナルベシ。

しヨ-しゆ (名) 諸種 モロモロノ種類、クサグサ。種種。

しヨ-しゆ (名) 所衆 本所ノ衆 古ヘ、領家ニ仕ヘシ者 所ノ衆 盛衰記、廿九、西京座主祈禱事「堀川院ノ御宇、極メテ貧シキ所衆アリ」

しヨ-しゆ (名) 書手 (一)カキテ 寫字生 [illegible] 書手ニ」(二)モノカキ。テカキ。(三)一本御書所ノ主典ノ稱

じヨ-しゆ (名) 【助手】 (一)仕事ノ、補助ヲスル人。教官、又ハ、醫官ナドノ指圖ヲ受ケテ、其仕事ヲ補助スル職。スケ。(二)相撲ニテ、脇ノ稱。

しヨ-じゆう (名) 所從 ケライ。トモビト。從者 盛衰記、廿五、西京座主祈禱事「出家入道シテ、行方知ラズ失セナントゾ思ヒナシケル、云云、年比ノ妻子、所從モ、名殘惜シク」

しヨ-しゆつ (名) 庶出 〔嫡出ニ對ス〕庶腹ニ、生レ出デタルコト。

じヨ-じゆつ (名) 【敍述】 次第ヲ逐ヒテ、陳述スルコト。ノベ、云フコト。ノブルコト 敍說。

しヨ-しゆん (名) 【初春】 (一)ハツハル。春ノ初メ。早春。(二)陰曆、正月ノ稱。 梁元帝纂要「孟春曰上春、初春」

しヨ-じゆん (名) 初旬 じヤう-じゆん(上旬)ニ同ジ、旬ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。潘尼社詩

「孟月涉二初旬一、吉日惟上酉」

しヨ-しヨ (名) 【處暑】 〔處ハ、止む意〕陰曆七月ノ中。にじふしき(二十四氣)ノ條ヲ見ヨ。 隋書[illegible]「[illegible]」

しヨ-しヨ (名) 處處 所所 トコロ、ドコロ、ココ、カシコ。ソコラ、ココラ。 [illegible] 陶、故西助二友人別墅一詩「村南村北多相似、處處倚闌[illegible]」太平記、一、關所停止事「商買往來ノ弊、年貢運送ノ煩アリトテ、大津、葛葉ノ外ハ、悉ク、所所ノ新關ヲ止メラル」

しヨ-じヨ (名) 【初敍】 初メテ、位階、勳等ニ敍セラルルコト。ウヒカウブリ。

しヨ-じヨ (名) 【沮洳】 (一)土地、低クシテ、ウルホフコト。ヌカルミ。又、其地。漸濕 詩經、[illegible]「彼汾沮洳、言采其莫」(二)轉ジテ、獄屋ノ稱 文天祥、正氣歌「哀哉沮洳場、爲我安樂國」

じヨ-じヨ (名) 草履ノ、小兒ノ語。ゾゾ。

しヨ-しヨく (名) 【黍稷】 きびト、あはト。又、五穀ノ稱。 書經、盤庚、上篇「惰農自安、不昏作勞、不服田畝、越其罔有黍稷」

しヨ-しヨく (名) 所職 しヨ-しき(所職)ニ同ジ。 盛衰記、五、座主流罪事「前座主、所職ヲ被止之上、大衆ノ張本ヲ出ダスベキ由」

じヨ-じヨ-と (副) 【徐徐】 シヅシヅト。ソロソロト ユルユルト、シヅカニ 易經、下經、困卦「九四、來徐徐、困于金車、吝有終」王弼、注「徐徐、疑懼之辭也」

しヨ-しヨむ-しヨ-しヨ (句) 〔林道春云、上上無上上ノ義ナリト〕極メテ、無上ナリ。至リテ、此上ナシ。 狂言記、[illegible]「[illegible]ル、鬼ノ持チタル、隱蓑、隱笠、打出ノ小槌、しヨむしヨ」

しヨ・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(自動、左變) 處

ヲル。住ム。身ヲ置ク。 左傳、襄、二十四年、民有寢廟、獸有茂草、各有[illegible]」[illegible] 世塘[illegible]」

しヨ・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 處 定メ行フ。取リ計ラフ。取リサバク。 孟子、公孫丑、下篇「若於齊、則未有處也」晉書、食貨志「人間巧僞滋多、雖處以嚴刑、而不能禁也」「事ヲ處す」死刑ニ處す」

しヨ・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 書 カク。シルス。 論語、衞靈公篇「子張書諸紳」

しヨ・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 署 姓名ヲ、書キ記ス。記名ス。署名ス。 唐書、鄭虔傳「帝大署其尾曰、鄭虔三絕」

じヨ・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 恕 思ヒ遣リテ、免ス。宥恕ス。 左傳、隱公十一年「恕而行之、德之則也」

じヨ・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 【序敍】 (一)ツイヅ。順次ヲ立ツ。 詩經、大雅、生民之什、行葦篇、序「賓以賢」箋「以射中多少、爲次第」 書經、舜典「百揆時敍」疏「皆得次序」(二)次第ヲ立テテ、陳ベアラハス。書キタツル 詩經、衞風、碩人、小序「序其事以風焉」(三)序文ヲ書ク。

じヨ・す スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) 【敍】 〔位階ニ敍つる意〕位ヲ進メ賜フ。新タニ賜フニハ、授くト云フ。 菅聞集、五、和歌「從三位ニ敍す」

しよせ (名) 仕寄 城攻ニ、押シ寄スルコト。 渡邊幸庵對話「城責ニ、仕寄ヲナスニ、鐵炮ノアタラザル、云云、島原ニテ、仕寄ニ、一人モ討タレタル者ナシ」

しヨ-せい (名) 【初生】 ウマレタテ。

しヨ-せい (名) 【所生】 (一)生ノ子。「これヲ親ルコト、所生ノ如シ」(二)生ノ親。詩經、

小雅、小旻之什、小宛篇「夙興夜寐、無レ忝ニ爾所生一」「所生ノ恩ニ之レニ事フルコト、所生ノ如シ」

しょ‐せい (名) 諸生 (一)多クノ學生。(二)次條ノ(一)ニ同ジ。史記、曹相國世家「盡召ニ長老諸生一、問ニ所ニ以安ニ集百姓一」

しょ‐せい (名) 書生 (一)書ヲ、讀ミ學ブ人。學業ヲ習フ者。學生。儒生。後漢書、袁安傳「道逢ニ三書生一云云、爲指ニ一處一」(二)家事ヲ手傳ヒ、旁、學問スル食客。

しょ‐せい (名) 書聖 能書家ヲ、敬稱スル語。梁書、王志傳「志善ニ草隷一、當時以爲ニ楷法一、齊遊擊將軍徐希秀、亦號ニ能書一、常謂ニ志爲ニ書聖一」

しょ‐せい (名) 處世 世ニ、處スルコト。ヨワタリ。晉書、郄將傳「雖ニ無ニ處世意一」「處世ノ術」

しょ‐せい (名) 庶政 モロモロノ、マツリゴト。多クノ政事。易經、賁卦、象傳「山下有レ火、賁、君子以明ニ庶政一、无ニ敢折一レ獄」

しょ‐せい (名) 所濟 納ムル所。上納。貢租。盛衰記、四十一、大嘗會被ニ行事「正稅、官物ノ所濟無ケレバ、如何シテカ、加様ノ大禮モ行ハルベキ」

じょ‐せい (名) 助成 又、じょじょう。タスケ、ナスコト。助力。書經、孔傳「助ニ成道化一」

じょ‐せい (名) 助勢 じょりき(助力)ニ同ジ。滿正記、一「嵩山下ヘ押シサゲ、助勢ノ體ナリ」

しょ‐せき (名) 書籍 しょじゃく(書籍)ニ同ジ。

しょ‐せき (名) 書跡 書蹟 筆ノアト。筆跡。手跡。南史、蕭子雲傳「其書跡雅、爲ニ武帝所ニ重一」酉陽雜俎(唐、段成式)「書蹟甚工」

しょ‐せつ (名) 諸說 モロモロノ說。衆說。「諸說、紛紛」「諸說ヲ參照ス」

じょ‐せつ (名) 敍說 じょじゅつ(敍述)ニ同ジ。

じょ‐せつ (名) 絮說 縷縷トシテ、說キ明カスコト。クドクド、說クコト。縷說。

じょ‐せつ (名) 絮雪 柳ノ花ノ、絮ノ如ク、又、雪ノ如ク、飛散スルコト。又、其モノ。蘇軾詩「風吹ニ絮雪一愁ニ縈骨一」

しょ‐せん (副) 所詮 (一)又、そせん。詮ズルトコロ。理ノ、ツマル所。明カニスルトコロ。明ラメタル。オシキハメタル。ツキツメタル。ツマリ。結局。到底。究竟(佛經ノ語ニ、人ヲシテ、道ヲアキラメシムル(能詮)、人ニアキラメサセラルル(所詮)ト云フ語アリ)法苑義林章「所レ說法者、所詮義也、名句字者、能詮文也」字類抄「所詮、シヨセン」盛衰記、一、五節夜闇打事「所詮、身ヲ全ウシテ君ニ仕フルハ、忠臣ノ法ト云フ事アリ」(二)トテモ。イカニシテモ。「所詮、出來ヌ」

しょ‐ぜん (名) 諸善 モロモロノ善行。多クノ作善。衆善。

じょ‐せん (名) 如船 うきぶくろ、うきぐつニ同ジ。似我蜂物語「今ハ、川海ヲ游グコト、上手、下手ナク、浮履ト云フ物アリテ、自在ニアリク也、即チ、其ノ名ヲ、如船ト云ヒケル」

しょ‐そ (名) 書疏 しょじょう(書狀)ニ同ジ。晉書、陶侃傳「遠近書疏、莫レ不ニ手答一」

しょ‐ぞく (名) 所屬 屬キ從ヒテアルモノ。「某省所屬ノ某局」

しょ‐そん (名) 書損 カキソコナヒ。

しょ‐ぞん (名) 所存 心ニ存ズル所。カンガヘ。存ジヨリ。オモヒ。ミコミ。思慮。平治物語、二、六波羅合戰事「御曹司モ、定メテ御所存アッテゾオハスラン」伽羅先代萩(天明、松貫四)「五十四郡ノ一家中、所存ノ臍ヲ固メサス、誠ニ國ノ礎ゾヤ」

しょ‐たい (名) 所帶 (一)官職ニカケテ云フ語、後ニ、領地、財產ニカケテ云フ。身代。身上。家產。平家物語、三、御產卷事「官加階ニ望ミヲカケ、所帶、所職ヲ帶スル程ノ人ノ、一人モ漏ルルハ無カリケリ」著聞集、十、馬藝「府生、下野敦近「御氣色惡シク成テ、所帶モ相違シテケルトカヤ」「所帶ヲ沒收ス」(二)家ヲ立テ、生業ヲ成スコト。世帶。生計。生玉心中(正德、近松作)上「出店ヘ泊リニ行ク夜サハ、女夫、所帶ヲスル心、同ジ寢ルノモ、身ニ附クヤウデ」「所帶ヲ持ツ」「所帶ヲ潰ス」

しょ‐たい (名) 書體 しょてい(書體)ニ同ジ。北史、江式傳「書體與ニ孔子一相類、即前代之古文矣」

じょ‐だい (名) 序代 序題 序ノ文。序言。大鏡、六、道隆「內ノ、生レサセ給ヘリシ七夜ニ、和歌ノ序代、書カセ給ヘリシゾカシ」榮花物語、三十一、殿上花見「橘太夫ナン、其ノ日ノ歌ノ序代、書キ記シ給ヒケル」

しょ‐だいぶ (名) 諸大夫 (一)四位、五位ノ官人ノ稱、禁裏ヨリ、攝關、清華、大臣家、等ニ附ケ置カレ、其家ニ召仕ハルル者、地下ナリ、然レドモ、昇殿ヲ聽リタル例モアリ。取替ばや物語「諸太夫、殿上人、幄ニ着キタリ」江家次第、五、春日祭使「諸大夫、各着ニ色色裝束一」(二)武家ニテ、五位ノ侍ノ稱。(六位ノモ、アリ)

しょ‐たいめん (名) 初對面 始メテノ對面。初會。ウヒゲンザン。生客。盛衰記、廿二、佐藤太將門中違事「此ノ人ノ體、輕骨ナリ、婁敬、日本ノ主トナラジトテ、初對面ニ、心替リシケル」

しょ‐たう (名) 初唐 支那ノ唐代ノ詩家ヲ四大別ニナシタル、第一ノ稱。即チ、武德ヨリ開元マデニテ、此間ニ、魏徵、王績、張九齡、駱賓王、等アリ。第二ヲ盛唐ト云フ、開元ヨリ大曆マデニテ、此間ニ、李白、孟浩然、杜子美、李頎、等ノ四十二人、輩出シ、最盛ナル時代ナリ。第三ヲ中唐ト云フ、大曆ヨリ太和マデニテ、此間ニ、柳宗元、錢起、孟東野、韓退之、等アリ。第四ヲ晚唐ト云フ、開成ヨリ天祐マデニテ、此間ニ、李商隱、司馬禮、張喬、等アリ。コノ區別ハ、宋ノ嚴滄浪ノ唱ヘ始メシ詩論ナリ、次ニ、李攀龍ト云フ人、選唐詩ヲ編セシカド、後ニ、改刪セリ、原本、行ハレズ、今ノ唐詩選ハ、僞作ナリト云フ。

しょ‐たう (名) 所當 (一)賦稅。カカリモノ。盛衰記、三十四、木曾內裏守護事「東西ノ亂逆、道、塞ガッテ、公ノ御調モ奉ラズ、年貢、所當モ上ラザリケレバ」(二)相當スルコト。適當。平家物語、二、教訓事「所當ノ罪科、被レ行ヌル上ハ、退イテ、事ノ由ヲ陳ジ申サセ給ヒテ」

しょ‐だう (名) 諸道 モロモロノミチ。多クノ業。保元物語、一、新院御謀反思召立事「禮儀ヲ調ヘ、自他ノ記錄ニ暗カラズ、文才、世ニ知ラレ、諸道ニ淺深ヲ探ル、朝家ノ重臣、攝籙ノ器量ナリ」「諸道ニ通達ス」「貧ハ、諸道ノ妨ゲ」

しょ‐だう (名) 書道 文字ヲ書ク道。書法。入木道。鄭杓、衍極造書篇「顏魯公、問ニ于長史一曰、云云、如ニ錐畫沙一、如ニ印印泥一、書道畢矣」

しょ‐だう (名) 書堂 しょさい(書齋)ニ同ジ。白居易詩「昔住ニ爐峰下一、書堂對ニ藥臺一」

じょ‐だし (名) 序出 書キハジメ。發端。

しょ‐だな (名) 書棚 廚子棚ノ如ク、專ラ、書籍ナド、載セテオク棚。書架。

しょ‐たん (名) 書丹 石碑ニ、撰文ヲ書ク

じょびらき (名) 序開 發端。ハジマリ。ハジメ、序ノ口。

しょ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (動、四) 脊負ふノ訛。[illegible]ピイト、オテンバヲネ、一人デ脊負ッテヲリマス」

しょふ (名) 諸父 父ノ衆兄弟。(一)チ、(二)レノ伯父、叔父、季父、等ノ通稱。[illegible]

しょふう (名) 書風 文字ノ、カキブリ。[illegible]

しょふく (名) 書幅 文字ヲカキタル掛物。書幅。[illegible]ト云フ。

しょふく (名) 暑伏 夏季ノ土用 即チ、三伏ノ時。[illegible]

しょふく (名) 初伏 さんぷく(三伏)ノ一、其條ノ出典ヲ見ヨ。

しょぶつ (名) 庶物 諸物 種種ノ物。[illegible]

しょふで (名) 初筆 初メニ書キ記スコト。一ノ筆。

しょぶん (名) 處分 取リ計ラヒ、捌クコト。處置。[illegible]

しょぶん (名) 所分 領分。所知。知行。[illegible]重盛入道ニ授ケテ、相殘レル數公ノ地ハ、結數ノ所分トセラレケリ」

じょぶん (名) 序文 序ノ文章。[illegible]キ。「序文ヲ書ク」

しょへき (名) 書癖 書ヲ好ム癖。讀書[illegible]

[illegible]」

しょべん (名) 處辨 處置、辨理スルコト。處斷。處分。

しょほ (名) 初歩 (歩き出しノ初ノ一足ノ意) 事ノ入口。手始メ。「初歩ノ學問」

しょほ (名) 書舗 書肆 本屋。書肆。[illegible]

しょぼ (名) 庶母 (一)嫡母ナドニ對ス[illegible]父ノ妾ナド。[illegible]

しょぼ (名) 諸母 モロモロノハハ。多クノ小母。[illegible]

じょほ (名) 徐歩 シヅカニ、アユムコト。緩歩。徐行。[illegible]

じょぼく (名) 如木 (絹ヲ張ク張リタル[illegible]水干ニシテ、木ノ如き意) (一)装束ヲ、強張シク着ナシタル[illegible]。[illegible](二)前使行列ノ時、羽林名家ノ召連ル雜色、白平絹ノ狩衣ノ如キヲ着、柳[illegible]ノ立烏帽子、紅袴、帶劍ス。同ジ装束ニテ、帶劍セザルヲ、平禮ト云フ。(故實拾要) [illegible]人、云云、如木雜色一人、云云」

しょぼしょぼ (副) 「しょぼハ、そぼ降るナドノそぼノ轉カ」 (一)小雨ノ、ソボフル狀ナドニ云フ語。シホシホ。シホホ。(二)雨ニ濡ルル狀ニ云フ語。ソボヌレテ。(三)目ノ、涙ニ濕リテアル狀ニ云フ語。[illegible]

しょぼしょぼ (副) 悄悄 しょんぼりニ同ジ。「しょぼしょぼ歩ク老人」

しょほっしん (名) 初發心 發心シテ、初メテ佛門ニ入リタルモノ。シボチ。シンボチ。今道心。[illegible]初發心ノ音」

しょほふ (名) 諸法 (法ハ、梵語、Dharma. アラユルモノ、ヲ云フ) 佛經ノ語、萬有。萬物。萬象。法華經、方便品「[illegible]」

しょまう (名) 所望 又、そまう。ノゾミ。コノミ。注文。囑望。[illegible]

じょまく (名) 序幕 (一)芝居ノ、口アケノ幕。(二)物事ノはじまりニ譬ヘテ云フ。序ノ口。

しょみん (名) 庶民 (一)モロモロノ民。衆民。[illegible](二)平民。

しょむ (名) 庶務 雜多ノ事務。一般ノ事務。[illegible]

しょむ (名) 所務 (一)ツトムルトコロ。ツトメ。(二)しょやく(所役)ニ同ジ。[illegible]

しょんがえぶし (名) (所外踊ノ節カ、或ハ、所皆踊ノ節カ) 一種ノ俗曲、己レガ住所以外ニテ踊ル、謠ノ節。[illegible]「逢ハデ戻ル夜ハ、夢コソ戻メ、打ツナ妻戸ヲ、夜ノ[illegible]」

ションジツ (名) 中食 ちゅうじき(中食)ノ唐音ノ訛。

ションズヰ (名) 祥瑞 (字ノ唐音) 磁器ノ製様ノ名、伊勢ノ人、五郎太夫ト云フ者、明國ニ渡リ、陶法ヲ學ビ、祥瑞ト號ス、永正十年、歸朝シテ、其法ヲ、肥前ノ有田、唐津ノ人ニ傳フ、染付ノ、甚ダ光澤アリテ、最モ良キモノニテ、質、甚ダ密ニ、釉、甚ダ白シ。

しょむづかしい (形) 小ムヅカシイ。シチムヅカシイ。浮世床(文化、三馬)初編、上「ナゼ又ソンナ、しょむづかしい事ヲ云ッタモンダラウ」

しょんべん (名) 小便 せうべん(小便)ノ音便。

しょんぼり (副) 悄然 (しょんぼハ、しょぼしょぼノ、しょぼノ音便延) (一)獨リ居テ、淋シク佗シキ狀ニ云フ語。「しょんぼり立ッ」(二)姿、面影ノ、サビシゲナル狀ニ云フ語。信州川中島合戰(享保、近松作)偏門姫道行「アトニハ夫婦、しょんぼりト、身ヲ悔ヤミタル、カコチ泣キ」

しょめい (名) 書名 書籍ノ題名。

しょめい (名) 署名 姓名ヲ、記シツクルコト。記名。北史、魏收傳「詔平原王高隆之總監之、署名而已」

じょめい (名) 助命 命ヲ、助カルコト。殺スベキヲ、免スコト。曾我會稽山(享保、近松作)五「助命願ヒ奉ルト、思ヒ込ンデ、言上ス」

しょめん (名) 書面 (一)カキモノノオ

モテ。文言ノ上。文面。(二)文書。手紙。「委細以書面可申上候」

しよもく (名) 書目 書物ノ目錄。書名。姚合詩「就架題書目」

しよもし (名) 唱門師 しやうもんし(唱門師)ノ條ヲ見ヨ

しよもつ (名) 書物 フミ。文書ヲ綴ヂタル物。版本、寫本、共ニ云フ。本。綴本。書籍。書冊。後漢書、竇融傳「同學石敬平溫病卒、云云、悉敬平行時書物、皆在柩中」

しよもつぐら (名) 書物藏 書物ヲ收メオク藏。書庫。

しよもつだな (名) 書物棚 床ノ間ノ、床ノ上ニ設ケ、書物、硯ナドヲ載スル棚。

しよや (名) 初夜 (一)又、そや。古クハ、前夜ノ夜半ヨリ、今朝マデノ稱、コレヲ、今日ノ初夜トス、又、今日ノ夕ヨリ、夜半マデヲ、今日ノ後夜ト云フ。遺教經「初夜後夜、亦勿有廢」著聞集、六、管絃歌舞「白河院「初夜ノ鐘ハ、撞キヌルカ」」(二)今、常ニ云フ所ハ、夕ヨリ、夜半マデノ稱。夜半ヨリ、朝マデヲ、後夜トス。(三)又、漏刻ニテハ、亥ノ二刻ヨリ、子ノ二刻マデノ稱。子ノ三刻ヨリ、丑ノ四刻マデヲ、後夜トス。(晨、及、刻ノ條ヲ見ヨ)(四)又、或ハ、戌ノ刻ノ稱、子ノ刻ヲ、中夜トシ、寅ノ刻ヲ、後夜トス。

しよやう (名) 初陽 初日ノ出。旭日。溫庭筠詩「初陽到古寺、宿鳥起寒林」

しよやく (名) 所役 武家時代、田租以外ノ雜稅ノ稱。所務。吾妻鏡、三十、寬元四年七月廿七日「六波羅御家人所役事」

しよやく (名) 諸役 モロモロノ稅。種種ノ稅。唐書、食貨志「耗、七者、諸役皆免」長町女腹切(元祿、近松作)上「刀屋石見、何某トテ、諸役御免ノ受領號」

じよやく (名) 助役 市長、町村長、又ハ、驛長ナドヲ補助スル吏員。

しよよ (名) 緒餘 アマリ。物ニ用ヰタル殘餘。莊子、讓王篇「道之眞以治身、其緒餘以爲國家、其土苴以治天下」

しよよ (名) 薯蕷 ヤマノイモ。杜甫詩「充腸多薯蕷」

しよよう (名) 所用 (一)モチヰルコト。ツカフモノ。佛本行經「任王所用」(二)用事。用件。狂言記、惡坊「今日ハ、所用アッテ、東近江ヘ參ル」

しよらう (名) 初老 齡ノ、四十歲ニ及ビタルコト。菅家文草、左金吾善相公詩「程里一千五百路、星霜四十六廻人、人是初老路何遠、所以流連歲再巡」類聚國史、廿八、帝王、天長二年十一月丙申「奉賀、太上天皇五八之御齡」(嵯峨天皇)

しよらう (名) 所勞 (勞氣ヨリ出デタル語) 又、そらう。イタハリ。イタヅキ。ヤマヒ。ワヅラヒ。病患。類聚集、雜「大事ナル所勞アリテ、人シテ書カセテ進シケル」著聞集、十八、飮食「壬生二品(家隆)「不食ノ所勞ノ比、蓮ノ實バカリヲ食スル由、聞キテ」

じよらう (名) 助老 脇息ニ類スル具、老僧、坐禪ノトキ、脇ヲカケテ休ムニ用ヰルモノ。平治物語、一、叡山物語事「一尺計リアルモノヲ、桛ノ如クニ違ヘテ、先毎ニ絹ヲカケテ、塗リタル物アリ、大師、坐禪ニ、御胸痛ムトキ、是レヲ以テ押サフ、押サフレバ止ム、助老ト、是レヲ云フ」

しより (名) 書吏 古ヘノ親王家ノ職員ノ一、家從ノ下ニ在リシモノ。家令職員令「大書吏一人」注「掌、勘署文案、讀書吏准此」

しより (名) 胥吏 小吏員。小役人。白居易詩「誰知對胥吏、未暇接親賓」

しより (名) 處理 取リ捌キ、ヲサムルコト。取リ計ラヒテ、始末ヲ附クルコト。處置。舊唐書、韓皇傳「皇奏報失實、處理無方」

しよりう (名) 庶流 (嫡流ニ對ス) (一)庶子ノ血脈。庶系。(二)本家ノ次三男ナドニテ、分家シタル家柄。諸例集、三「先年、林大學頭樣江、御内内及掛合候處、嫡流者、本家之嫡子、別段ニ被召出、次男ニ而本家致相續候節、嫡子之家筋、嫡流與唱、庶流者、本家之次男以下、別段被召出、別家ニ相成候家筋ヲ、庶流與唱候由、承知仕候」

じよりう (名) 敍留 古ヘ、官位ノ、相當ヨリ進メバ、其官ヲ辭スベキヲ、尙、留メテ、其官ニ任ジオクコト。白石先生小品「左右ノ衞門大夫、左右ノ兵衞大夫ナド聞ヘシハ、皆コレ、敍留ノ輩ナリ、五位ニ敍シヌレドモ、其官ハ、モトノ六位官ナレバ、左右ノ衞門、兵衞大夫ナド申セシナリ、敍任ノ後、ソノ官ハ、モトノ如クナルヲ、敍留トハ申スナリ」

じよりき (名) 助力 助クル力。力ヲ、添フルコト。テツダヒ。助力。助勢。合力。幇助。蜀書、孔光傳「得其助力」

しよりしより (副) 細カク碎ケテ、口中ニ觸ル狀ヲ云フ語。今宮心中(寶永、近松作)上「口中ノ、しよりしよりシタル、雀鮨」

じよりじより (副) 頭髮ナドヲ、剃ル音ヲ云フ語。ゾリゾリ。小兒語ニ、名詞トシテ、ソレヲ剃ルコトヲモ云フ。狂言記、路蓮坊主「じよりじより、サア剃リマシタ」

しよりん (名) 書林 (一)書物ノ、多ク集レル所。後漢書、和帝紀「帝幸東觀、覽書林、閱篇籍」揚雄、長楊賦「今朝廷純仁、遵道顯義、并包書林」(二)ほんや(本屋)(第二語ノ)ニ同ジ。

じよりん (名) 如鱗 次條ノ語ノ略。

じよりんもく (名) 如鱗木 (魚鱗木ノ轉) 木理ノ、鱗ノ如キ文ヲナスモノ、くす、けやきノ材ナドニ云フ。

しよりやう (名) 初涼 秋、初メテノ涼氣。劉鑠詩「旻天淸且高、秋風發初涼」

しよりやう (名) 所領 又、そりやう。領スル所。領分。領地。北魏書、賀琛傳「邊外小縣所領、不過三百戶」著聞集、五、和歌「鳥羽宮、和泉國ニ、相傳ノ所領ノ候ヲ、人ニ、押シ取ラレテ候フ」

しよりようれう (名) 諸陵寮 ミササギノツカサ。古ヘ、治部省ニ屬セル寮、山陵ノ事ヲ掌ル(初、諸陵司ト稱ス)。今ハ、宮内省ニ隸ス。倭名抄、五、官名「諸陵寮、美佐佐岐乃豆加佐」職員令「諸陵司、正一人、掌祭陵靈、喪祭凶禮、諸陵及陵戶名籍事」續紀、十、天平元年八月「詔、改諸陵司爲寮」

じよりよく (名) 助力 じよりき(助力)ニ同ジ。

しよるゐ (名) 書類 カキモノ。カキツケ。「重要書類」

しよれい (名) 諸禮 交際、諸儀式ニ、物事ノ扱ヒ、坐作、進退、等、一切ノ禮儀、作法。シツケ。シツケカタ。

しよれう (名) 庶僚 モロモロノツカサ。諸役人。百僚。「百卿庶僚」張衡賦「戒庶僚以夙會」

じよれつ (名) 序列 序次ヲ追ヒテ、列ブルコト。史記、伯夷傳「孔子序列古之仁聖賢人」

じよれん (名) 如簾 蘆ノ莖ニテ編メル、小サキ簾ノ如キモノ、食器ノ上ヲ被フナドニ用ヰル。

しよれん (名) [illegible]

しよろ (名) 如露 [illegible] 如雨露。鉢植、花壇ノ草木ナドニ、水ヲ注グニ用キル器。とたん、ぶりっき、銅ナドニテ製シ、[illegible] 管ノ末ニ、[illegible] 細カキ孔ヲ穿テリ、水ヲ盛レバ、孔ヨリ、[illegible]

しよろう (名) 書樓 [illegible]

しよろしよろ (副) 少シヅツ、水ノ、注ゲ [illegible] ろ水ニ、鶯ノ戯グラン」

しよろん (名) 所論 [illegible] 説。持論。又、論ズルトコロ。

しよろん (名) 書論 書法ノ論 [illegible] 不 [illegible] 書畫」

しよろん (名) 緒論 [illegible] 發端ノ [illegible]

しよろん (名) 叙論 [illegible] 十二律 [illegible] 與司馬遷正同」

しよろん (名) 敍論 (一) 序次ヲ立テテ、[illegible] (二) 前篇ノ語ニ同ジ。

しよわう (名) 諸王 [illegible] 皇孫ノ、親王宣下ヲ蒙ラズ、又、姓ヲ賜ハリ臣籍ニモ入レサセラレズシテアル稱。オホキンダチ [illegible]

[illegible] 百官人等、給「祿各有」差」宮内省式「凡、親王諸王名 [illegible]

しよわけ (名) 諸分 江戸時代、遊里ノ語、事諸種ノ情ヲ、聞キ分クルコト。處分 [illegible] テハ、此里ノ所わけガ諸聞デゴザル」

しよゐ (名) 所爲 爲セル事。シワザ。[illegible]

しよゐ (名) 暑威 夏ノ暑サノ、烈シキコト。[illegible]

しよゐ (名) 初位 そゐ(初位)ニ同ジ。[illegible] (一)ヲ見ヨ。[illegible]

じよゐ (名) 敍位 (一) 位ニ、敍スルコト。(敍すノ條ヲ見ヨ) (二) 古ク、正月五日(或ハ、六日)ノ禁中ノ公事、諸臣ノ敍位ヲ行ハセ [illegible] リアヒテ」

しよゐん (名) 書院 (一) 書物棚ナリ、廚子ノ如キモノ、書物、硯ナド、飾リオク。[illegible] ニ文臺、上ハ歌書一帖、両ノ脇ニ、蓬書卷物、置カル」(二) 書院の間ノ略。(支那ニテハ、天子ノ、建テテ、文學ノ士ヲ置ク所、唐ノ玄宗ノ麗正書院、宋ノ白鹿洞書院ナド) [illegible]

十七、佐渡判官都落事「會所(客殿)ニハ、大紋ノ疊ヲ [illegible] (二) [illegible] 客 [illegible] レ」秋夜長物語(玄惠)「後堀河院ノ御宇ノ時、三井寺ノ坊ニテ、書院ノ杉障子ヨリ、遙ニ見出シタルニ」

しよゐん-けぬき (名) 書院毛拔 書院ノ [illegible] 拔キ作ルヲ好ム時、客ノ用トセシナリ [illegible]

しよゐん-づくり (名) 書院造 室ノ構造ノ一、室ト室トノ間ニハ、襖障子ヲ建テ、室ト入側トノ境ニハ、明障子ヲ設ケテ、開閉、自在ナルモノ。

しよゐん-どこ (名) 書院床 いだしふづくゑ(出文机)ニ同ジ

しよゐん-のま (名) 書院間 書物ヲ讀ム部屋。讀書室。書齋。

しよゐん-ばん (名) 書院番 (初、殿中、白書院ニ勤番セシヨリ、云フ) 江戸幕府ニテ、本丸ノ諸門ナドノ警衞、儀式ノ席ノ陪侍、將軍出行ノ扈從、江戸市中ノ巡邏、等ニ從事シタル職。西丸ニモアリ、小性番ト並ビテ、兩番ト稱ス [illegible]

しよゐんばん-ぐみ (名) 書院番組 書院番ノ [illegible]

しよゐんばん-しゆう (名) 書院番衆 前條ノ語ニ同ジ

しよゑい (名) 所衞 [illegible] (六衞府) [illegible]

しよゑん (名) 書院 しよゐん(書院)ノ [illegible]

しら (名) 白 (一) しろ(白)ノ轉、熟語ニノミ用キル。[illegible] しら露」(二) 染メズ、塗ラズ、ソノママナルコト。素「しら箸」しら鞘」しら木」(三) 裝ハヌコト、飾ノヌコト、マジメナルコト。[illegible]

しら-あしげ (名) 白葦毛 しろあしげ(白葦毛)ニ同ジ。

しら-あへ (名) 白韲 豆腐ト、白胡麻トニテ、韲フルコト。又、其料理。(ごまあへヲ見ヨ) [illegible] ル也」浮世風呂(文化、三馬)二編、下「雲脂ノ溜ッタ御前ノ天窓ハ、鼠尾韲ノ白和ダ」

しら-あり (名) 白蟻 しろあり(白蟻)ノ條ヲ見ヨ。

しら-あわ (名) 白沫 白キアワ。後撰集、[illegible] 行ク、春風ニ、落ツルしらあわヤ、緩ナルラン」盛衰 [illegible]

しら-あを (名) 白青 [illegible] 保元物語、一、宮 [illegible]

しらい (接) 【爾來】 然アリショリ、此方。ソレヨリ後。諸葛亮、出師表「後値傾覆、受任於敗軍之際、奉命於危難之間、爾來二十有一年矣」

しらいし (名) 【白石】 しろいし(白石)ニ同ジ。爲忠後度百首「鴫驚ク、沖ノ白石、白波ノ、ヲリヲリ見エテモ、濡ル、袖カナ」 多識編、一「石膏、一名、寒水石、志良伊之」 康頼本草、下、七「石膏、志良以志」

しらいと (名) 【白絲】 (一)染メヌ、白キ絲。後撰集、十、戀、二「節無クテ、君ガタエニシ、白絲ハ、ヨリ(寄り二、縒りヲ云ヒカク)ツキ難キ、物ニゾ有リケル」 (二)瀧ノ異名。後撰集、十九、羇旅、「法皇、宮ノ瀧ト云フ所、御覽ジケル御供ニテ、菅原右大臣(道眞)「水引ノ、白絲ハヘテ、織ル機ハ、旅ノ衣ニ、裁チヤ重ネム」 (三)次條ノ語ノ略。(四)さうめん(索麪)ノ女房詞。

しらいともち (名) 【白絲餅】 しんさいノ餅ニテ、捩ヂテ、桛絲ノ如ク作レルモノ。(女房詞)略シテ、しらいと。捻頭 日次紀事(延寶)「八朔ニ、云云、行器ニ、藤花トテ、白絲餅ニ、赤小豆付ケテ、花ノ形シタルヲ入レテ、贈ル」 續山の井(寛文)「餅腸ヲ、白絲トナス、柳カナ」

しらう (名) 【私勞】 內內ノ骨折 人知レヌ勞苦。左傳、昭公五年、周任有言曰、爲政者不賞私勞」

しらう (名) 【四郎】 第四ノ男子。四男、南史、王訓傳「幼聰警、云云、四郎眉目疎朗、云云、此是興門戶者」猶、次條ノ出典ヲモ見ヨ。「佐佐木四郎高綱、仁田四郎忠常」

じらう (名) 【次郎二郎】 じなん(次男)ニ同ジ、多ク、其幼名トス 唐書、郎餘令傳「餘令、云云、與兄餘慶之俱有名、云云、時諺語稱二郎」 宇津保物語、藤原君「宮、オホイ君、太郎、次郎、三郎、四郎、取リ續キ生ミ給フ」 榮花物語、三十六、根合「云云、[illegible]ハ、云云、太郎、二郎、二人ナガラ、角髮結ヒテ、オハス」

じらうがき (名) 【次郎柿】 柿ノ一種、遠江ノ產、味、極メテ美ナリ、弘化ノ末年、駿府ノ農、松本次郎吉ノ創製セシモノ、今、遠江國、周智郡、森町ノ特產ナリ。

しらうさ (名) 【白兎】 うさぎ(兎)ノ條ヲ見ヨ。

しらうし (名) 【紙老鴟】 〔鴟ノ形ニ作レルガ原ナルカ、紙鳶ノ名モアリ、今モ、とんびだこアリ〕 いかのぼりニ同ジ。倭名抄、四、九雜藝類「紙老鴟、世間云、師勞之、一云、紙鳶」(字音ニ呼ビシモノト思ハル) 名義抄「紙老鴟、シラウシ」

しらうちで (名) 【白打出】 笠ニ云フ語、しろうちで(白打出)ニ同ジ、うちいでノ條ヲ見ヨ。

じらうばう (名) 【次郎坊】 天狗。たらうばう(太郎坊)ノ條ヲ見ヨ。

しらうめ (名) 【白梅】 (一)白色ノ花ノ咲ク梅。白梅。(二)襲ノ色目ノ名。表ハ白ニ、裏ハ蘇芳ナルモノ。又、裏ハ紅梅ナルモノトモ云ヘリ。ウラウメ。

しらうり (名) 【白瓜】 しろうり(白瓜)ニ同ジ。小大君集「アリ所、コマカニイヅラ、しら瓜ノ、ツラヲ尋ネテ、我レナラサナム」

しらうを (名) 【白魚】 古名、シロヲ。(出雲ニ、ふト云フ、ひうをヲ約メタルナリ) 河海ノ間ニ生ズル魚、長サ一二三寸、幅二三分、身、扁ク、背、尖リ、形、粗、鮎ニ似テ、細長ク、鱗、無シ、全身、白ク、稍、青ミアリテ、只、睛ノ黑キヲ見ルノミ、冬、春ノ間ヲ候トス。鱠殘魚 王餘魚 銀魚 江戶、佃島ノ漁夫、每冬、捕リテ、幕府ニ獻ジタリ、今ハ、陽曆三月初、宮內省、幷ニ、德川公爵家ニ進獻スト。林逸節用集「鮊、シラウヲ」 東雅、十九、鱗介「鮊魚、シロヲ」注「鮊魚ハ、長六七寸ノ者ト見エタリ、此ニ云フしろをナルベシ、トハ見エズ、卽今、しろうをト云フハ、鹹淡水ノ間ニ生ズルモノ、大ナルモノモ、僅ニ三四寸ニハ過ギズ、卽是、江陰常熟志、等ニ、銀魚似鱠殘魚小者ト見エシモノ、舜水朱氏モ、此ニ云フしろをハ卽、銀魚也ナリト云ヒキ、東醫本草、閩志、等ノ如キハ、銀魚ハ、鱠殘魚ノ一名トナシケリ」 續猿蓑、下「白魚ヲ、フルヒ寄セタル、四手カナ」

しらえ (名) 【白柄】 木地ノママニテ、塗ラヌ柄。狂言記、姫糊「白柄ノ長刀、カイ込ウデ」

しらえぬ (句) 【不知】 知ラレヌ。知ラレナイ。萬葉集、五、廿「漁スル、海人ノ子共ト、人ハ云ヘド、見ルニ之良延奴、貴人ノ子ト」

しらおりもの (名) 【白織物】 絹ノ練絲ニテ織リタル織物。

しらが (名) 【白髮】 〔しらかみ(白髮)ノ略〕 (一)年老イテ、髮ノ色ノ、白クナレルモノ。シラカミ。白髮。字鏡、六十「白髮、志良加」 萬葉集、四、三十「吾ガ袂、纏カムト思ハム、丈夫ハ、淚ニ沈ミ、白髮生ヒニケリ」 後撰集、八、冬「年每ニ、しらがノ數ヲ、マス鏡、見ルニモ雪ノ、友ト知リケル」 新古今集、十六、雜、上「老イニケル、しらがモ花モ、諸共ニ、今日ノミユキ(行幸、深雪)ニ、雪ト見エケリ」 (二)木綿。(白髮ニ似タレバ、云フ、元ト、木綿ノ枕詞ニ、白髮付ト云ヘリシヨリ、轉ズ) 萬葉集、十九、四十二「四ツノ船、早還リ來ト、白香著ケ、朕ガ裳ノ裾ニ、垂デテ待タナム」 (三)麻苧ノ異名、婚禮ノ結納ニ云フハ、麻ハ、白髮ノ如シ、共白髮ヲ祝スル意ナラム、又、小兒ノ髮置ナドノ祝事ニ用キルニ云フハ、昔ハ、髮置ニ、綿帽子ヲ被ラシメタリ、長生スベキ白髮ヲ祝スル意ナラム、後ニハ、眞綿ト、麻苧トヲ被ラシム、因リテ、麻ニ、白髮ノ名ノ移リシニモアラム。

しらが (名) 【白紙】 〔しらかみノ略、前條ノしらがノ如シト云フ〕 シラカミ。白キ紙。萬葉集、三、三十七、長歌「賢木ノ枝ニ、白香ツク、木綿取リツケテ」 同、十二、二十七「白香ツク、木綿ハ花物、事コソハ、何時ノ眞枝モ、常忘ラレネ」

しらがあたま (名) 【白髮頭】 白髮ノ生エタル頭。シラガツブリ。白頭。狂言記、朝比奈「親ニテ候義盛、しらがあたまニ甲ヲ戴ケバ」

しらがおやぢ (名) 【白髮親仁】 白髮頭ノおやぢ。唐船噺今國性爺(享保、近松作)上「後ナ白髮親父、切ラレテ惜氣モ無イ年記」

しらがくび (名) 【白髮首】 白髮ノ生エタル首。國性爺合戰(正德、近松作)五「此白髮首ヲ取テ給ベ」

しらかげ (名) 【白鹿毛】 馬ノ毛色、鹿毛ニ、白毛ノ雜レルモノ。シロカゲ。驃 倭名抄、十一、六牛馬毛「驃馬、白鹿毛馬也、黃白色馬也」

しらがコブ (名) 【白髮昆布】 細ソク刻ミテ、白髮ノ如クシタル昆布。「しらがこぶノ吸物」

しらがさね (名) 【白重】 白キ薄物、生絹ヲ、半臂、下襲ニ着ルモノ、白キ張單、白キ汗取ヲ襲ネ着ル 陰曆、四月朔日ヨリノ更衣ニ用キルナリ。シロガサネ。枕草子、二、十四段、すさまじきもの「八月ノしらがさね」 堀河百首、更衣「夏衣、裁チキル今日ノ、しらがさね、知ラジナ人ニ、裏モ無シトハ」 新千載集、三、夏「タチカフル、蟬ノ衣、しらがさね、重ネテモ猶、薄キ袖カナ」 夫木抄、七、夏「クレバ、衣更シテ、山賤ノ、卯月垣根モ、しらがさねスル」

しらかし (名) 【白樫】 かし(樫)ノ一種、其條ヲ見ヨ。景行紀、十七年三月、長歌「命ノ、全ケム人ハ、云云、平群ノ山ノ、志邏伽之ガ枝ヲ、髻

[illegible]ラズ、白杜枝、枝モトヲヲニ、雪ノ消レレバ」

しらがしら [illegible] 白[illegible] [illegible]

[illegible]

しらかす (名) 醨 〔白糟ノ義カ〕 甘酒ノ類、[illegible]ヲ作ル二[illegible]、[illegible]セシム ルモノ。[illegible] 酒甘也」

しらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 〔白〕 シラケサス。興ヲ醒マス。 十訓抄、上、二、序「我、イマダ亂レヌ據ニ、事ウルハシク、組サシ固メテ、人ヲしらかし、ソノ座ヲサマスナリ」

しらか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) しらす ニ同ジ。

しらがたいふ (名) 白髮大夫 [illegible]

しらがたらう (名) 白髮太郎 河太郎 ト、同趣」 てぐすむし(天蠶)ノ異名。 白髮ニモトモ云フ。

しらがつぶり (名) 白髮頭 しらがあたまニ同ジ。[illegible]

[illegible] ル事カ」

しらかば (名) 白樺 かば(樺)ノ條ヲ見ヨ。

しらかはいし (名) 白川石 山城ノ愛宕郡、モト白川村ノ東北ノ山中ヨリ出ヅル石、色、白シ、[illegible] ナドトナス。 堀川波鼓(寶永、近松作)下「白川石ヲ擬ヒニ、親ノ鳴ラガ、殿ヲ迷テ」 最心ひゃう(寛文) [illegible] チテ、京町ヲ、馬ヲ引キ、石召サレヨト賣ルゾカシ」

しらかはよぶね (名) 白河夜船 寢込ミテ、[illegible]後ヲ知ラヌコト。下ノ出典ヲ見ヨ。[illegible] 白河ハ、如何ニト問ヘバ、[illegible] 川ニテ、舟、通ハズ、何事モ知ラヌ狀ナリ」

しらが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 知合 〔知交ふノ轉カ〕 物、壓、相、觸ル。觝 枕草子、四、四十四段「後ニハ、ナラヒタルニヤ、常ニ [illegible] 許ニ出宜ナリテ見ケルニ」 宇治拾遺、六、第九條「[illegible] コレヲ食ヒケリ」

しらかべ (名) 白壁 (一)白キ漆喰ニテ、上塗シタル壁。粉壁 (二)豆腐ノ異名、色、白ケレバ云フ。女房詞ニ、おかべ[illegible]

しらかべづくり (名) 白壁造 白キ壁ヲ塗リテ造ルコト。又、其家。[illegible]

しらがまじり (名) 白髮雜 黒髮ニ、白髮ノ、生ヒ雜レルコト。ゴマシホアタマ。頭白 斑白 [illegible] 「白髮まじりノ下髮」

しらがまつ (名) 白髮松 松ノ一種、其葉、半ハ白ク、半ハ綠ナルモノ。

しらかみ (名) 白髮 しらが(白髮)ノ(一)ニ同ジ。 新拾遺集、十九、雜、中「老ラクノ、[illegible] シサ」

しらかみ (名) 白紙 白キ紙、文字書カヌ紙。白紙。 若菜集、五、和歌「白紙ヲ[illegible]ハ、[illegible]

しらかんば (名) 白樺 かば(樺)ニ同ジ。

しらかゆ (名) 白粥 [illegible]ニ對ス一 白米ノ粥 [illegible] 伊文集 [illegible] 降レル朝ノ、しら粥ハ、イトヨクに(似、煮)タル、物ニゾ有リケル」

しらき (名) 白木 (一)木器ノ、漆ナドニテ塗ラザルモノ。 江家次第、六、三月「宮主[illegible]」 若菜集、三、[illegible] (二)樹ノ名、[illegible] 賞ノ油ヲ、鐵器ニ塗ルニ用ヰルモノ。

シラギ (名) 新羅 〔新羅ノ初ノ國號ハ、徐羅伐(伐ハ、朝鮮ノ古言、城ノ義)譯シテ、徐羅城ノ轉(金澤庄三郎說)〕 新羅 古ヘ、今ノ朝鮮ノ東南部ノ國、我ガ崇神天皇ノ四十一年、朴赫居世ノ建テタルモノ。後、高句麗、百濟ヲ併セ、半島全部ヲ有セシガ、朱雀天皇ノ承平五年、高麗ニ滅サル。 出雲國土記、楯縫、志羅紀 [illegible] ノ島、行カ[illegible] 姓氏錄、右京、皇別、下「新良貴、良、[illegible]

しらきがふし (名) 白木合子 漆ヲ塗ラヌ合子。がふし(合子)ノ條ヲ見ヨ。 [illegible] 窓國師、本來面「山賤ノ、白木ノ合子、ソノママニ、漆ツケネバ、兎色モ無シ」

しらぎく (名) 白菊 (一)〔白色ノ花ノ咲ク菊〕又、其花 古今集、五、秋、下「心宛テニ、折ラバヤ折ラム、初霜ノ、置キ惑ハセル、白菊ノ花」 (二)襲ノ色目ノ名、表ハ白、裏ノ蘇芳ナルモノ、(胡曹抄、女官餝抄)一說ニ、裏ハ、青ナルモノ。(雁衣抄) (三)香ノ名 [illegible]

シラギごと (名) 新羅琴 琴ノ、十二絃ナルモノニテ、絃ノ名ニ、十干ノ字、及、天地ノ字ヲ用キルトゾ、初、新羅國ヨリ來レルカト云フ。 倭名抄、四 [illegible] [illegible] 文德實錄、三、嘉祥三年十一月「新羅人沙良眞熊、善彈新羅琴、[illegible]主相 [illegible]

しらきじ (名) 白雉子 鳥ノ名、形、雉ニ似、羽毛、白色ナリ、支那ニ產ズ。 多識編、四「白[illegible]、志良[illegible]、異名、閑客」

しらきちゃうめん (名) 白几帳面 實直ニシテ、眞面目ナルコト、毛モ、俊昭キ處、無キコト。 東海道中膝栗毛(文化、一九)四編、下「[illegible] しらきちゃうめんノ旅人ダ」

しらきゆみ (名) 白木弓 幹ニ、漆ヲ塗ラヌ弓。 太平記、十七、山門攻事「白木ノ弓ノ、幹短カニハ見エケレドモ」

しらぎり (名) 白桐 桐ノ(一)ニ同ジ。

しらぎ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 白ク黄バミテアリ。 [illegible]、廿九、行末[illegible]ノしらぎり見ユル、[illegible]ノ御小[illegible]」

シラギをの (名) 新羅斧 新羅ノ國ヨリ渡來ノ斧 [illegible] 来ノヤラニ、[illegible]入レ、ワシ、云云、浮キ出ヅヤト見ム、ワシ」

しらく (名) 刺胳 醫術ニ、手足ノ動脈ヲ刺シテ、惡血ヲ去ルコト。

しら・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 〔白〕 (一)〔白クナル〕 萬葉集、九、浦島長歌「若カリシ、肌モ皺ミヌ、黑カリシ、髮モ白斑けヌ」 名義抄

「暗暗、シラケタリ」 公任集「シラシラト、しらけタル夜ノ、月影ニ、雪搔キワケテ、梅ノ花折ル」 沙石集、五、下、廿一條「しらけテ見ユル、青狐カナ」契アラバ、夜コソコウト、云ベキニ」 忠岑集、春、イタダク髮ノ、しらくるマデニ」 宇津保物語、嵯峨院「散ル花ニ、頭ノ多ク、しらくるハ、世世ヲ隔ツル、宿ニ咲ケ春」

（二）褪ル。ウスラグ。醒ム。 傾城島原蛙合戰（享保、近松作）一「御前しらけテ、笑止ナリ」「座ガしらける」興しらく」（三）負色ニナル。シラム。

しら・く ［呈敗色］ 合類節用集、九、言辭門「含羞、シラケル」 十訓抄、下、第八、行成「言 正シク云ハレタリ、實方ハ、しらけテ、逃ゲニケリ」

しら・く クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（他動、下二） 打ツ。タタク 平家物語、一、鹿谷事、其時、神人、白杖ヲ以テ、カノ聖ガ項ヲしらけテ」

しら・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ（他動、下二） ［精］（一）米ヲ搗キ、糠ヲ去リテ、白クナス。精白 天治字鏡、十一「諸食物調謂草「糈、米志良久」字鏡、八「䊪、春也、治、米也、志良久」 同、十二「稃、與米志良久」 宇津保物語、吹上、下、二十「米、しらげタリ」

（二）仕上ゲヲナス。精製ス。 拾遺集、二十、夏「神祭ル、卯月ニ咲ケル、卯ノ花ハ、白クモ砥ガ、しらげタルカナ」 出世景清（貞享、近松作）一「天ノ河原ニ橋柱、しらげ立ツルヤ突鉋」

しらくし （名） ［白圖］ 何モ記シテ無キくし、カラクジ、延慶本、平家物語、一、本、得長壽院導師事「十三ノ内ニ、一ニハ、導師タルベシト書キテ、餘ノ十二ハ、物モ不レ書、白孔子也」

しら・ぐし （名） 白櫛 木地ノママニテ、塗リヲカケザル櫛 保元物語、二、爲朝生捕遣流事「一條ヲ西へ渡ス、云云、髻ニ、白櫛ヲゾ刺シタリケル」

しらくち （名） ［獼猴桃］ 又、コクハ 共ニ、紀伊、陸中ニテハ、今モ云ヘリ 蔓生ノ植物、他樹ニ着キテ生ズ、葉、圓クシテ、毛アリ、實、鴨卵ノ大キサニテ、冬ノ初ニ熟ス、食フベシ。サルナシ。 倭名抄、十七、菓蓏部「獼猴桃、之良久知、一云、古久波」 重修本草綱目啓蒙、廿二、蓏菓「獼猴桃、シラクチ（紀州、奥州）コクハ、（紀州）」 字鏡五十「萇、志良久知」 醫心方、三十「獼猴桃、己久波」 宇治拾遺、十一、第一條「一人ニハ、青ク色ドリタル折敷ニ、青磁ノ皿ニ、こくはヲ盛リテ捧ゲタリ」

しらくぼ （名） 瘡ノ名、次次條ヲ見ヨ。 運歩色葉集、志「白雲、頭病、白屑」 多門院日記略、一、天文八年八月三日「しらくぼ、井ニ、童部ノ頭ノ瘡ニハ、串柿ノ核ヲ燒キテ、髮ノ油ニテ附クベシ」

しらくも （名） ［白雲］ 色白ク見ユル雲。白雲、シラサグモ。 萬葉集、五、廿二「遥遥ニ、思ホユルカモ、志良久毛ノ、千重ニ隔テル、筑紫ノ國ハ」

しらくも （名） ［白禿瘡］ 「頭ナレバ、雲ト云フカト云フ」古ク、カシラガサ。カブロ。頭部ニ生ズル一種ノ瘡、灰白色ノ、圓キ鱗ノ屑ノ如キモノニテ、患部ノ毛髮、薄クナリ、殘レル毛ハ、代赭色トナル。シラクボ。 ［白癬］ 萬安方「白禿瘡、シラクモ」 醫科秘錄、五「白禿瘡、俗ニ、しらくもト稱ス、大人モ、患フル事アレドモ、先ヅ、小兒ニ多シ、頭瘡ト同轟ニテ、蔓延シテ、面ニ出デ、或ハ、父母ニ傳染スル時ハ、常ノ頭瘡ニナルナリ」 浮世床（文化、三馬）初編、下「留ノ、しらくもも天窓ノ、鄕在者ノ、ヘチムクリ野郎」 倭名抄、三十「瘡類「瘍、賀之良加佐、頭瘡也、周禮注云、禿、加不路、頭瘡也、野王案、無髮也」

しらくら （名） ［白鞍］ かがみぐら（鏡鞍）ニ同ジ。

しらくら （名） ［白黑］ 〔しろくろノ轉〕 彼レコレト、云フコト。 浮世床（文化、三馬）初編、下「質ヲ入ル使ハ、何時デモ、主カ、ウウ、サゾ、上借ヲスルダラウナ、ヘン、ソリャア無ヘ、其處ニカケチャア、しらくら無シ」

しらげうた （名） ［後擧歌］ 〔しりあげうたノ約〕 古ノ雅樂ノ歌、末ノ節ヲ、高ク歌フモノ。 古事記、下（允恭）廿「此者、志良宜歌也」

しらげよね （名） ［精米］ 搗キ精ゲタル米。下白米。更ニ善ク精ゲタルヲ、眞精米ト云フ。上白米 精グルコト、最モ麁ナルヲ、平精米ト云フ。玄米、ゲンマイ。糲米 字鏡、十「稗、志良介米」 同、六十「稗、志良介與禰」「粲、精米也、志良與禰」 倭名抄、十七、米類「粺米、之良介與禰」「鑿米、萬之良介乃與禰」「糲米、比良之良介乃與禰」

しら・ける （動） ［白］ しらく（白）ノ口語。

しら・げる （動） ［精］ しらぐノ口語。

しらこ （名） 白子 又、シロコ。魚ノ雄ノ腹ニアル、白キ餅ノ如キモノ、卽チ、精ナリ。雄魚精

しらこかし （名） オタメゴカシ。 心中二枚繪草紙（寶永、近松作）中「紙花、云云、今改メテ、コリヤ、バット打チ直スハト、投テ出セシ鼻紙ノ、しらこかしコソ笑止ナレ」

しらごけ （名） ［白苔］ 花苔ノ條ヲ見ヨ。

しらこし （名） ［白輿］ 木地ノママニテ、塗ヲナサヌ輿、檜ノ白木ニテ、指シタル輿。（光臺一覽、二） 故實拾要、六、白輿「是、親王攝家清華大臣以上ノ乘輿也、於二諸家中一者、白輿ヲ用ル事、不レ可レ叶義也、白輿トハ、木地ノ以レ板、輿ヲ仕立タル物也」

しらごしらへ （名） ［白拵］ 矢ノ、白篦ニ、白羽ヲ矧グコト。 曾我物語、一、「河津三郎被レ討事「鶴ノ本白ニテ矧イダル、しらごしらへノ白矢、篦高ニ色ヒナシ」

しらごゑ （名） ［白聲］ カナキリゴヱ。本朝若風俗（貞享、西鶴）五「風吹ケバ、沖ツ白波ニテ、思ヒ出シテ」 浮世風呂（文化、三馬）二編、下「ゴウギト、堅いか堅い白聲ヤ、白聲テ、湯ノ中ヲ五色ニスルダラウ」

しらさうぞく （名） 白裝束 白キ裝束。古ヘハ、產室ノ裝束ナリシガ、後ニハ多ク、凶事ニ用キル。シロサウゾク。 榮花物語、八、初花「女房ノしらさうぞくドモ」

しらさえび （名） ［白佐蝦］ 色ノ白キ蝦。 傾城島原蛙合戰（享保、近松作）三「しらさ海老ニテ鯊ヲ釣リ、麥飯デ鯉ヲ釣ルハ、子供ワザ、武勇ダテスル若者ガ、娘ヲ餌ニシテ親ヲ釣ルトハ」

しらさぎ （名） ［白鷺］ さぎ（鷺）ト云フニ同ジ。羽色、白ケレバ、云フ。 萬葉集、十六、卅「池神ノ、力士舞カモ、白鷺ノ、桙食ヒ持チテ、飛ビ渡ルラム」 師賴集「千首、下「山川ノ、淺瀬ニ立テル、白鷺ノ、ミノ毛シホルル、夕暮ノ雨」 字鏡、六十「鷺、白佐支」 倭名抄、十八、羽族名「白鷺、佐木」

しらさぐも （名） ［白狭雲］ しらくも（白雲）ト云フニ同ジ。 祕藏抄、中「山ノ端ヲ、横ギリワタル、しらさぐも、月ニモ紛フ、早ク消ネカシ」（夫木抄、十九「天ノ原、横ギリワタル、しらさぐも、月ニモ紛フ、早ク消ネカシ」）

しらさめ （名） ［白佐目］［白鮫］ 〔馬ノ、目、白クシテ、鮫ノ目ニ似タルヲ以テ云フト云フハ、イカガ〕 馬ノ毛色ノ名、白色ナルモノ。月毛馬ニ多シ、鮫月毛トモ云フ。（白眼馬ノ條ヲ併セ見ヨ） 太平記、三十一、武藏野合戰事「二陣ニハ、白鮫一揆ニ葦毛、白瓦毛、白佐目、鴾毛ナル馬ニ乘テ」

しらさや （名） ［白鞘］ 刀ノ新刃ナドノ、白木作リノ、假リノ鞘、及、柄。（拵附キニ對ス） 素鞘 好色床談（元祿、近松作）當世畫讚標「白柄ニ白鞘、兜巾頭、云云、出雲ノ松江」

しらしぼり （名） 白搾 ごまのあぶらノ條ヲ見ヨ。

しらしめ・す ス・セ・サ・シ・セ（他動、四） ［知食］ しろしめすノ條ヲ見ヨ 萬葉集、十八、二十「長歌「葦原ノ、瑞穗ノ國ヲ、天降リ、之良志賣之ケル、天皇ノ、神ノ尊ノ」 同、廿「長歌「難波ノ國ニ、天ノ

[illegible]

しらしらあけ [illegible] 白白明ノ義 夜ノ明ケ[illegible]時。ホノボノト明クル時。アサボラケ。アケボノ。アケグレ。拂曉 昧爽

しらしら・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 白白 (一)顯ハ、白ク見ユ。[illegible]「シラシラシ」夫木抄、廿七「人モ見バ、アナしらじらし、老狐、イトド毛露ノ、マジラヒナセソ」 (二)興、醒ム。 枕草子、三、廿八段「イミジク興ジ[illegible]、しらじらし」[illegible] リ。ソラゾラシ。シラバクレル。

しらしらと (副) 白白 [illegible] 著し ト通ズ」白ク、明ク。夜ノ、明ケユク狀ニ云フ語 [illegible]

しらす (名) 白洲 (白沙ノ義) (一)白キ沙ノ洲。[illegible] (二)庭ニ、白沙敷ケル所 [illegible] 白銀カト見エタルニ、木草ノタタズマヒマデモ、ナベテナラズ見エタルニ」 (三)武家ナドノ、玄關ノ前ノ、白キ小石ヲ敷ケル所。轉ジテハ、直ニ、玄關前ノ稱。大宮[illegible] (四)江戸時代、[illegible]前ノ地ニ、[illegible]人ノ、糺問セラルル所。轉ジテハ、直チニ、裁判[illegible]

[illegible]番所ニテ、白洲江入置」

しらす (名) 白子 魚ノ名、いかなごノ(一)ニ同ジ

しら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 知 (一)知ろノ敬語 知ラセラル。萬葉集、四「[illegible]思ハステ、[illegible]ナル、[illegible]ノ杜ノ、神シ[illegible]」 (二)國ヲ、治メ有チタマフ シロス。物ヲ知ルモ、見ルモ、聞クモ、皆、他ノ物ヲ身ニ受ケ入ルル意、同ジヤガ故ニ、聞す(きこす)、見す(めす)、聞すヲ、敬語ニ用キテ、君ノ、國ヲ治メ有チ給フヲ、知ルガ如ク、見ルガ如ク、聞クガ如ク、御身ニ受入レ有チ給フ意トス。領リ給フ [illegible]「可以治高天原」」同、下「[illegible]皇孫、就而治焉」 萬葉集、六 [illegible] 天皇ノ、神ノ尊ノ、[illegible]御代御代。

しら・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ (他動、下二) 爲知 他ノ、知ルヤウニナス。告ゲ聞カス。通報 [illegible] 萬葉集、廿「常陸サシ、行カム雁モガ、吾ガ戀ヲ、記シテツケテ、妹ニ知ラセム」

しら・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 他ヲ、ジレルヤウニナス。戲レニ困セテ、ナブル。ジラカス。

しらずがほ (名) 不知顏 知リテ居リナガラ、知ラヌ風ヲスルコト。ソ知ラヌ顏 [illegible] 落窪物語、一、下「しらずがほニテ、クレテヤラムト[illegible]」 [illegible] 人ナレヤ、[illegible]しらずがほナル」

しらすげ (名) 白菅 濕地ニ生ズ。多年生ノ草本、すげノ一種、莖ノ高サ一尺餘、葉ハ、細長ク、花ハ、單性ニテ、雌雄同株ニ生ズ、雌花ハ、上部ニ一箇アリ、雄花ハ、下部ニ二三箇アリ、夏季、淡綠色ヲ呈ス。 萬葉集、三「イザ兒ドモ、大和ヘ早ク、白菅ノ、眞野ノ榛原、手折リテ往カム」同、十一「[illegible]ノ、騷グ入江ノ、白菅ノ、知ラレム爲ト、言痛カルカモ」

しらずしらず (副) 不知不識 イツノ間ニカ。ツヒヒ、考ヘナシニ、偶然ニ。[illegible]

しらすな (名) 白沙 白キ、スナ。白沙。 六帖、四「百敷ノ、庭ニカキ敷ク、しらすなノ、曝レタリキトモ、思ハサリシヲ」

しらすぼし (名) 白子乾 白子、即チ、[illegible]魚ヲ煮テ、乾シタルモノ チリメンザコ [illegible]

しらずみ (名) 白炭 しろずみ(白炭)ニ同ジ、えだずみノ條ヲ見ヨ

しらずみ (名) 白墨 しろずみ(白墨)ニ同ジ。

しらせ (名) 爲知 (一)知ラスルコト。告グルコト。通報。「稀居ノしらせ」「不幸ノしらせ」 (二)キザシ。前表。兆。「海嘯ノしらせ」

しらせがほ (名) 爲知顏 知ラスル如キ顏附。知ラスル風。 續後撰集、三、春、下「吉野川、言ハデウツロフ、山吹ニ、春ノ日數ヲ、しらせがほナル」

しら・せる (動) 知す(下二段)ノ口語。

しらそ (名) 白麻 からむし(苧)ニ同ジ。

しらた (名) (一)杉ノ材ノ、白キモノ、

(杉ノ條ヲ見ヨ) (二)スベテ、木ノ材ノ、色、白キ[illegible]、赤身ノ[illegible]ノ(一)ヲ見ヨ

しらだいも (名) 白大衆 官位ナキ、平凡ノ僧侶ドモ 凡僧ドモ 平家物語、一、[illegible]大衆、[illegible]滿チテ、幾ラト云フ數ヲ不レ知」

しらたか (名) 白鷹 鷹ノ一種、羽毛、白クシテ、少シク、青色ヲ帶ブ 蒼鷹 倭名抄、十八「[illegible]白[illegible]雌雄、皆名之良太加」

しらたき (名) 白瀧 (一)白ク見ユル瀑布。 (二)いとごんにゃくノ婦人詞。「蒟、しらたき」

しらたけ (名) 白茸 一種ノ菌、色、白シ、味、佳ナリト云フ。

しらたづ (名) 白鶴 しろづる(白鶴)ニ同ジ。 萬代集、十六、雜、三「[illegible]ヤ、丹ヤ寄マラン、しらたづノ、許レテ志賀浦ノ、浦傳ヘル」 散木奇歌集「しらたづノ、其毛衣ノ、心地シテ、今宵ノ月ハ、[illegible]ケシ」

しらたて (名) 白楯 白木ニテ造リタル楯 神代紀、下「供造百八十縫之白楯」

しらたへ (名) 白妙 しろたへニ同ジ。 日本[illegible]、御門カシコミ、斯門[illegible]ノ、波カキワケテ、來マセルモノヲ」

しらたま (名) 白玉白珠 (一)色、白キ玉 白玉 (二)眞珠 鰒ヨリ出ヅルヲ、あはびしらたま、又、あはびたまト云フ 鰒珠 倭名抄、十一「[illegible]珠、明珠、眞珠、[illegible]之良太麻」 武烈卽位前紀「琴頭ニ、來居ル影媛、珠ナラバ、我ガ欲ル珠ノ、鰒白珠之羅陀魔」 允恭紀、十四年九月「[illegible]眞珠有二腹中、其大如二桃子」 萬葉集、十九「[illegible]ノ海人ノ、潛キ取ルチフ、眞珠ノ」 同、六「[illegible]、海ノ底、沖津海石ニ、

蝦(ヒサマ)、珠、多ニ潜キ出デ」同、十八、卅二長歌「珠洲ノ海人ノ、沖ツ御神ニ、イ渡リテ、潜キ採ルト云フ、阿波妣珠(シンジユ)多爾」(三)おさやがひヨリ出ヅル眞珠アコヤノタマ。(四)白玉粉ト云フハ、糯米(モチゴメ)六分、粳米(ウルゴメ)四分ヲ水ニ漬(ヒタ)シ、磨(ヒ)キテ粉トシ、水ヲ去リテ、乾シテ成ル、寒晒シニ製セルモノ、最モ、潔白ナリ。コレヲ水ニテ捏(コ)ネテ、丸(タマ)トシテ、煮(ユ)デタルヲ、白玉ト云フ、冷水ニ浸シ、砂糖ヲ加ヘ、夏ノ食物トス。(五)〔しらたまつばきノ略。山茶(ツバキ)ノ一種ノ、花ノ、色、白キモノ。

しらたまいたみ (名) |疝| 〔しらたまハ、陰嚢ノ事ナリト云フ〕疝氣ノ類、シラタミ。童蒙頌韻「疝 瘕(シヤクマイクミ)」

しらたまふ (名) |白玉粉| カンザラシ。略シテ、しらたま。前前條ノ(四)ヲ見ヨ。

しらたまつばき (名) |白玉椿| 略シテ、しらたま、其條ノ(五)ヲ見ヨ。催馬樂、高砂「高砂ノ、サイサゴノ、高砂ノ、尾ノ上ニ立テル、之良太末、太方川波支、玉ヤ」後拾遺集、七、賀「君ガ代ハ、白玉椿、八千代トモ、何ニ數ヘム、限リ無ケレバ」

しらたまの (枕) |白玉| 〔寶トシ、愛デテ見むト欲する意〕見が欲しノ枕詞。萬葉集、十九、長歌「白玉之、見ガ欲シ君ヲ、見ズ久ニ」

しらたまのふ (名) |白玉粉| しらたま(白玉)ノ條ノ(四)ヲ見ヨ。

しらたまひめ (名) |白玉姫| 霞(カスミ)ノ異名。古今六帖式、春山ニ、白玉ひめノ、立ツ時ハ、見マクホシゲニ、花ヲコソ見メ」

しらたみ (名) 疝 〔痴痛(シレイタミ)ノ約轉ト云フ〕又、アタハラ 腹ノ、急ニ痛ム病 倭名抄、三、病類「疝、阿太波良、一云、之良太美、腹急痛也」

しらち (名) |白血| 病ノ名、おしけノ條ヲ見ヨ。字類抄、志、病癈「白血、シラチ」

しらち (名) |爲埒| 爲(シ)テ、埒(ラチ)アクルコト。シマツ。處置。「しらちヲ附ケル」

しらぢ (名) |白地| (一)燒物(ヤキモノ)、又ハ、瓦ナドノ下地ノ、未ダ、燒キ成サヌモノ。素(ス)燒(ヤキ)坏。 質今昔物語、廿、廿三語「白地ノ小瓶」(二)今、擂鉢。(素燒ナリ) 物類稱呼、四、器用「すりばち、東國ノ女言ニ、しらち」(三)地合ノ、白キモノ。ト養狂歌集(寛文)夏、或人、白地ノ扇ニ、ダテナル歌ヲ詠メトアリケレバ「御所望ニ、アヒテ扇ヲ、書キ汚(ヨゴ)ス、元ノしらちガ、ヤアマシヂャモノ」(四)生娘。 風俗文選(寶永、許六)「白地ノ娘ドモ、傾城ノ風俗ヲ見習ヒ」

しらちゃ (名) |白茶| 染色ノ名、茶色ノ、甚ダ淡クシテ、黃赤ヲ帶ブルモノ。

しらつか (名) |白柄| (一)刀ノ柄ヲ、白キ柄絲ニテ卷キタルモノ。(二)次條ノ語ノ略。

しらつかぐみ (名) |白柄組| 江戸時代、旗本奴ノ組ノ名。刀ノ柄絲、下緖、皆、白絲ヲ用キル。略シテ、しらつか。

しらつきげ (名) |白月毛| しろつきげ(白月毛)ニ同ジ。 平家物語、九、二度魁事「子息ノ小次郎直家ハ、澤潟ヲ一入摺ノタル直垂ニ、拔縄(フシ)目ノ鎧、着テ、西樓ト云フ白月毛ナル馬ニゾ乘ノタリケル」

しらつくし (名) |知之串| みをつくし(澪標)ニ同ジ。

しらっこ (名) しろこ(白子)ノ(一)ノ訛、其條ヲ見ヨ。

しらつち (名) |白土堊| (一)土ニ似テ、色ノ、甚ダ白キモノ。堊 倭名抄、一、十七塵土類「堊、白土也、之良豆知」(二)又、鑛物ノ名、上ニ似テ、又、石ノ如ク、甚ダ堅シ、碎キテ、粉トシ、磁器ヲ作ル、其粘(ネバリ)ナキヲ、粳(ヌカ)土(ツチ)トス、肥前ノ西松浦郡、有田町、泉山ニ產ズルヲ、比類無シトス。伊萬里(イマリ)土(ツチ)。白堊 本草和名、上九「白堊、一名、白土、之良都知」(三)漆喰(シツクイ)。石灰 倭名抄、十六、十六壇飾具「白土、一名、堊、木工寮式、堊」

しらっちゃ・ける (動) |白化| 染色、剝ゲテ、白ク化(ケ)ル。

しらつつじ (名) |白躑躅| しろつつじノ(一)ニ同ジ。 萬葉集、九、十一「細領巾(タクヒレ)ノ、鷺坂山ノ、白管(シラツ)自、吾レニ匂ハネ、妹ニ示サム」

しらつゆ (名) |白露| 葉ノ上ナドノ露ノ、白ク見ユルモノ。 萬葉集、廿、四十一「秋風ニ、置ク之良都由ノ、厭カズノミ、アヒ見ルモノヲ、月ヲシ待タム」古今集、五、秋、下「白露ノ、色ハ一ツヲ、イカニシテ、秋ノ木ノ葉ヲ、千千(チヂ)ニ染ムラム」同、同「しら露モ、時雨モイタク、モル山ハ、下葉殘ラズ、色ヅキニケリ」

しらつゆの (枕) |白露| 消ゆ、置くノ枕詞。(置クヲ、起クニカケテモ云フ) 萬葉集、十、十五「秋ノ田ノ、穗ノ上ニ置ケル、白露之、消(ケ)ぬべク吾レハ、オモホユルカモ」古今集、十一、戀、一「白露の、起くトハ歎キ、寢(ヌ)トハ思(シノ)バム」後撰集、十二、戀、四「白露の、起きテワビシキ、別レセマシヤ」

しらつる (名) |白鶴| しろづる(白鶴)ニ同ジ。夫木抄、三十一「しらつるハ、千代モ長閑ニ、片岡ノ、中ヲ所ト、群レツヅ(ヌ)ルル」

しらつるばみ (名) 白橡 橡ノ色ノ、白キモノ。即チ、鈍色(ニビイロ)ノ、薄キモノ。 宇津保物語、吹上、下、九「萬キしらつるばみノ唐衣」 草根集、十四「立テル洲ノ、白つるばみノ、毛衣ニ、オノガ引ク尾ノ、長キ夜ノ霜」 西宮記、臨時、八「天皇、服ニ白橡御服ニ」

しらと (名) |白砥| 砥ノ一種、粗砥(アラト)ト、合(アハセ)砥(ド)トノ間ニ用キルモノ、色、薄白シ、伊豫ノ宇和島ノ產ヲ上トシテ、伊豫砥(イヨト)ト云フ。萬葉集、十四、廿六「志良登掘ル、小新田(ヲニヒ)山ノ、守ル山ノ、末(ウラ)枯レセナナ、常盤(トコ)ニモガモ」

しらどう (名) |白籐| 弓ヲ卷キタル籐ノ、漆ニテ塗ラズ、ソノ儘ナルモノ。(塗籐ニ對ス) 異本、曾我物語、八「鷹ノ羽ニテ矧ギタリシ大ノ鹿矢、しらどうノ弓ヲ持チ」

しらとほふ (枕) |白遠| 〔白所(シラトニホ)匂ふノ意、丹(ニ)ニカクト云フ〕新(ニヒ)ノ枕詞。常陸國土記、新治郡「白遠新治之國」

しらとり (名) |白鳥| (一)〔詳カナラズ、鵠(クグヒ)ナラムト云フ〕(釋日本紀、辭考) 仲哀紀、元年十一月「神靈化ニ白(シラ)鳥(トリ)、上天(日本武尊)、云云、蒙獲ニ白鳥ニ之於ニ陵域之池ニ」(二)しろとり(白鳥)ニ同ジ 平治物語、一、源氏勢汰事「次男中宮大夫進朝長、云云、白篦ニ、白鳥ノ羽ニテ作ダル矢、負」

しらとりの (枕) |白鳥| 〔しらとりハ、羽色ノ白キ鳥、或ハ云フ、今ノ白鳥(ハクテウ)ナリト〕飛ぶ、又、鷺ノ枕詞。 萬葉集、四、十三「白鳥能、飛羽(トバ)山(ヤマ)松(マツ)ノ、待チツツゾ」同、九、十三「白鳥の、鷺坂山ノ、松影ニ」

しらなは (名) |白繩| 古ヘ、鵜川ナドニテ、魚ヲ逃サザラムガ爲ニ、引キメグラシシ繩。 散木集(俊頼)二「夏「丈夫(マスラヲ)ハ、鵜川ノ瀨ニ、鮎捕ルト、引ク白繩ノ、斷エズモアルカナ」山家集(西行)下「しら繩ニ、小鮎曳カレテ、下ル瀨ニ、待チ設ケタル、小目ノ敷網」

しらなみ (名) 白波 波ノ、打寄セ碎ケテ、白ク見ユルモノ。 萬葉集、十五、十五長歌「沖邊ニハ、之良奈美高ミ」

しらなみ (名) |白波| 〔支那ノ地名、白波(ハクハ)谷(コク)ノ文字讀ナリ〕盜人ノ事ヲ云フ。支那、後漢ノ靈帝紀ニ、中平元年ニ、張角ト云フ者、西河ノ白波谷ニ起リテ、盜ヲ

ナシタ[illegible]人、[illegible]、白波[illegible]ト號セシニ起ル。古今集、十八、雜、下「風吹ケバ、沖津白波[illegible]」[illegible]雜、下、盜人ノ、盜人ニアヒタル形、設ケル「しらなみノ、立田ノ山ニ、入リニケリ、同ジカサシノ、名ニヤ[illegible]ナリトモ、盜ガクレ、思ヒナカケソ、沖ツしらなみ」[illegible]新勅撰集、十、釋教、不偸盜戒「超エジタダ、同ジカザシノ、名モツラシ、立田ノ山ノ、夜半ノ白波」[illegible]

[illegible]遊之時、白波[名]他方ニ」吾妻鏡、廿一、建保四年二[illegible]

しらに（名）白土　に（土）ノ條ヲ見ヨ。

しらに（名）白粉　シロキモノ。オシロイ。[illegible]雅、七、器用「粉、粉デ、しろきものト云ヒ、又、白粉ノ字ヲ出シテ、粉デ、はふにト云フ、はふにトハ、白粉ノ字ノ音ノ轉ゼシ也、しろきものトハ、今[illegible]ハ、鉛色ヲ云ヒシナリ、はふにトハ、今俗ニハ、おしろいト云フモノ、卽、是也」

しらに（名）白煮　醬油ヲ用ヰズ、鹽ニテ煮タルモノ。[illegible]西鶴）三「汁ハ、鯉ノ白煮」

しらにぎて（名）白幣　〔青幣ニ對ス〕にぎて（幣）ノ條ヲ見ヨ。[illegible]

しらぬの（名）白布　しろぬの（白布）ニ同ジ。[illegible]白布五十反、送ラレタリ」

しらぬひ（名）不知火　肥後ノ海上ニ、夜中、時アリテ、一面ニ、燦爛タル靑光ノ、見ユルモノ、夜光蟲（海水生物ニテ、[illegible]）ノ光ルガ如ク、發光體ト云フモノヲ有ス）ノ、群ヲナスナリ。此光、三四里四方ニ滿ツ、龍燈ト云フ、陰曆七月ノ末ヨリ八月頃マデ見ユル內ニ、八月朔日ノ曉、殊ニ多シ、宇土、益城、八代、葦北ノ四郡ヨリ、向ヒハ、天草ヲカケテ、[illegible]ノ海ニ亘ルト。

しらぬひの（枕）白縫　〔しらぬひハ、白之日ノ轉、白日ハ、夕日ナリ、光、薄ケレバ云フ、古事記、上ニ、筑紫國ヲ白日別ト見エタリ、筑紫ハ、九州ノ北部ノ稱ニテ、道、盡クルヨリ、つくしト云フ〕つくし（筑紫）ノ枕詞。萬葉集、三「[illegible]白縫の、筑紫ノ綿ハ、身ニ著ケテ、未ダハ著ネド、暖カニ見ユ」同、五、長歌「[illegible]ノ、遠ノ朝廷ト、[illegible]筑紫ノ國ニ、泣ク兒ナス、慕ヒ來マシテ」

しらぬり（名）白塗　しおねぬり　ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、十七、長歌[illegible]、ヤカタ尾ノ、[illegible]二、二良[illegible]ノ、[illegible]河白首、[illegible]しらぬりノ、[illegible]ユララニ、イハセ野ニ、合ハセテゾ見ル、眞白斑ノ鷹」

しらね（名）繁哭　シゲシゲ、泣クコト。[illegible]六帖、六「人知レズ、物思フ時ハ、[illegible]ナル、[illegible]しらね（白キ根ニ云ヒカク）ノ、知ラレヤハスル」

しらね（名）[illegible]シク、獨リ寢ルコト、イタヅラネ。イタヅラブシ。散木集（俊頼）六、[illegible]テモ、しらねヲゾスル」

しらの（名）白篦　竹ノ儘ニテ、飾ヲ附ケザル矢簳。シロノ。[illegible]ニテ作レル[illegible]」

しらは（名）白羽　（一）矢ノ羽ノ、斑ナク、眞白ナルモノ。[illegible]十四、[illegible]入道入[illegible]ゾ負タリケル」（二）〔衣服。古語拾遺「令長白羽[illegible]」[illegible]今俗、衣服、謂之白羽、此緣也」

しらは（名）白刃　刀ノ刃ヲ、鞘ヨリ拔キタルニ云フ語。ヌキミ。白刃。

しらは（名）白齒　鐵漿ニテ染メヌ齒。（多ク、未婚ノ女ニ云フ）[illegible]世繼[illegible]名告ルベキ、十八九ノ白齒」

しらばくれる・レル・レレ・レ・レヨ（自動、下二）シラジラシク、化クル。知リテ居ナガラ、知ラヌフリス。ソラトボケル。知ラズ顏スル。急呼シテ、しらばっくれる。

しらばけ（名）白化　白粉ヲツケ裝ヒタル女。[illegible]情浮名横櫛（嘉永、瀨川如皐）[illegible]時代ノ玄冶店、ソノ、しらばけカ、黑塀ニ、格子造リノ[illegible]」

しらはこ（名）白筥　木地ノママノ筥。[illegible]

しらはた（名）白旗　（一）〔白キ旗〕染色ナラヌ旗。白旗（多ク、降服ノ際ニ用ヰル、ソハ、死ニ就カムトスル意ヲ表ハスナリ）[illegible]行紀、十二年九月「神夏磯媛、云云、[illegible]、云云、素幡[illegible]而白旗」[illegible]欽明紀、廿三年七月、新羅[illegible]白旗、投兵降首」[illegible]云云、[illegible]一[illegible]白旗一[illegible]云云、[illegible]」（二）無地ノ、白キ旗、源家ノ用ヰシモノ。平家ノ赤旗ニ對ス。[illegible]

しらはた（名）白[illegible]　[illegible]しらはた[illegible]名抄、三[illegible]太」名義抄「[illegible]、シラハタケ、シラハタ」推古紀、廿年五月[illegible]」

しらはたざくら（名）白旗櫻　八幡太郎義家、奧州征伐ノ首途ノ時、白旗ヲ立テタリト云フ櫻、其實ハ、花瓣ニ、白キ旗ノ如キ斑アリトゾ。

しらばっくれる（動）しらばくれるノ急呼。

しらはひ（名）白灰　白キ灰水。アク。永久百首、秋、作「柞原、露ノしら灰、サシツレバ、時雨ノ雨ゾ、ウハ染ハスル」

しらはま（名）白濱　白キ沙濱、[illegible]六十七[illegible]時作[illegible]テ、シヌバエ行カム、淸キ白濱」

しらばむ・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）白味ヲ帶ブ。シロバム。[illegible]六、第九段「色しらばみ、[illegible]レホレタル老尼」

しらばやし（名）白囃子　芝居ノはやしノ一、擊劍、相撲ナドノしぐさノアル場合ニ行フモノ。ミヅウチ。

しらはり（名）白張　ハクチャウ。白キ布ノ狩衣ノ名。糊ヲ强ク張ル、布ノ淨衣。シラハリシャウゾク。著聞集、二、釋敎、[illegible]白張ニ、立烏帽子キタル男」

しらはりしゃうぞく（名）白張裝束　前條ヲ見ヨ。[illegible]六、下、第十九段「[illegible]ナル[illegible]白はり裝束ニテ」

しらはりぢゃうちん（名）白張提燈　紋所ナドヲ書カズ、タダ、白紙ヲ張リタ

ル提燈、葬式ニ用キルモノ、白提燈。

しらば・る　(動)　〔しらべらる(得調)ノ約轉、しまろト、同例〕　調ベラル。

しら-ひげ　(名)　[白髭]　老人ノ鬚ノ、白クナレルモノ。白髯。　萬葉集、廿十六長歌「チチノミノ、父ノミコトハ、タクヅヌノ、之良比氣ノ上ユ、涙垂リ、歎キ宣バク」　續古事談、一、王道后宮「しらひげナル翁ノ、鬚放チタル」

しら-びと　(名)　[白人]　しろなまづノアル人。シロビト。　大祓祝詞「白人、古久美」

しら-びと　(名)　素人　しろうとニ同ジ。　著聞集、十二、偸盗「大殿、小殿、先、思召候へ、タダノしら人ガ、強盗ト、ミヅカラ、名乗リテ、命ヲマカセ参ラセテ、何ノ詮カ候フベキ」

しら-ひも　(名)　白紐　白色ノ紐。　萬葉集、八廿四「春山ノ、咲ノタヲリニ、春菜摘ム、妹ガ白紐、見ラクシ良シモ」

しら-びやうし　(名)　[白拍子]　(一)雅樂ノ拍子ノ名、笏拍子ノコトナリト云フ。拍子ノ條ヲ見ヨ　(二)昔ノ遊女ノ舞ノ名、鳥羽院ノ頃ニ、島の千歳、和歌の前、二人ノ遊女、舞始メタリト云フ、或ハ云フ、通憲入道、作リテ、磯の禪師ニ舞ハシメタリト　初ハ、水干ニ、立烏帽子、白鞘卷ヲ刺シテ舞ヒシカバ、男舞ト云ヘリ、後ニ、水干ノミ用キタレバ、白拍子ト名ヅケタリ、物ヲ數ヘ歌ヒタリトゾ。　平家物語、一、妓王事「ソノ比、京中ニ聞エタル白拍子ノ上手、妓王、妓女トテ、姉妹、刀自ト云フ白拍子ガ女ナリ」　七十一番職人盡歌合、四十八番、白拍子、詞「所所ニ引クホハ、山田ノ井戸ノ當代歌　鼓打チ、ミハヤシクルモ、イチジルク、月ニ奏ツル、白拍子哉」　(三)延年舞ノ曲ノ名。

しら-ふ　名　白斑　他ノ色ノ地ニ、白ク出デタル斑。　萬葉集、十九十詠二白大鷹一歌、長歌「ツマ屋ノ内ニ、鳥座結ヒ、据エテゾ、吾ガ飼フ、眞白部ノ鷹」　後拾遺集、六、冬「鳥屋カヘル、白斑ノ鷹ノ、木居ヲ無ミ、雪消ノ空ニ、合ハセツルカナ」

しら-ふ　(名)　[白面]　酒ニ醉ハヌ、常ノ時。素面。　醒　酌　浮世風呂(文化、三馬)大意「暮ニ紅顏ノ醉客モ、朝湯ニ醒的トナルガ如ク」

しら-ふ　(名)　[屍蠟]　葬リタル死體ノ、年ヲ經テ、地味、又ハ、體質ノ關係ニテ、腐ラズ、灰白色ナドニ固マリテアルモノ。

しら・ふ　(動)　合　互ニ物スル意ヲ云フ動詞、常ニ、恥ヂしらふ、言ヒしらふ、引キしらふナド、熟語ニノミ用キル、各條ヲ見ヨ。(或ハ、しろふトモ)　天武紀、上二「有蒞　而言矣」　倭名抄、十八廿三「鯢、豆岐之良比、以角觸物也」

しら・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ(他動、下二)　[調]　(白ヲ活用シテ、明白ニスル意カト云フ)　(一)〔音ノ律呂ヲ、合ハセ調フ。奏ヅ。　源、八、花宴十「トリドリニ、物ノ音ドモ、しらべ合ハセテ、遊ビ給フ」　同、七、紅葉賀十八「箏ノ琴ハ、云云、平調ニ押シクダシテ、しらべ給フ」　新拾遺集、三、夏「琴ノ音ニ、響キ通ヘル、松風ニ、しらベテモ鳴ク、蟬ノ聲哉」　(二)カレコレト照リ合ハセテ、見ル。査　點檢　「和漢ノ故事ヲしらぶ」　(三)罪狀ヲ糺ス。吟味ス。詮議ス。糾問ス。審理　「罪人ヲしらぶ」

ジラフ　(名)　〔英語、Giraffe.〕　亞弗利加洲ニ產ズル大獸、形、鹿ニ似、頸、及、前脚、甚ダ長ク、頭ハ、地上一丈五尺以上ノ高キニ達ス　麒麟。

しら-ふぢ　(名)　[白藤]　(一)しろふぢニ同ジ　(藤ノ條ヲモ見ヨ)　(二)襲ノ色目ノ名、表ハ薄紫、裏ハ濃紫ナルモノ。(二)ながをどり(長尾鷄)ノ條ヲ見ヨ。

シラブル　(名)　〔英語、Syllable.〕　口音ノ一衝動ヲ以テ發セラルル、元素的ノ音、又ハ、其結合ニシテ、語ノ一部分、又ハ、語ヲ成スモノ。綴音。

しらべ　(名)　[調]　(一)〔シラブルコト、音ノ律呂ヲ、調フルコト。調子。　源、十三、明石三十九「琴ノ御琴、取リニ遣ハシテ、心殊ナルしらべヲ、仄カニ掻キ鳴ラシ給ヘル」　六帖、四「常磐ナル、松ノしらべニ、彈ク琴ハ、緒每ニ君ヲ、千年トゾ鳴ル」　字類抄「徽、シラベ、琴上修注處、所裝發撫抑之處」　倭名抄、四廿琴瑟類「琴、云云、徽以鍾山之玉」　又、笛ニモ、堀鏡、十六、秋のみ山「絲竹ノしらべハ、ヲリ惡シケレバ」　(二)カレコレト、照リ合ハセテ、見ルコト。査　點檢　(三)罪狀ヲ、問ヒ糺スコト。吟味。詮議。糺問。審理

しらべ-いと　(名)　[調絲]　紡錘ニ掛ケテ、絲繰車ノ周圍ニ纏ヒ、紡錘ヲ回轉セシムル絲。

しらべ-かは　(名)　[調革]　〔鼓ノ調べの緒ノ如ク懸クレバ、云フ〕　蒸氣器械ノ車ナドニ、細長キ革ヲ、環ノ如クニシテ、引懸ケテ、車輪ヲ廻ラスモノ。

しらべ-のを　(名)　[調緒]　腰鼓ノ兩面ノ皮ノ緣ニ貫キ縢リテ、胴ニ引キ寄セ絡フ紐。擊ツ時、手ニテ締メツ、緩メツシテ、調子ヲ操ル。(又、太鼓ニモ)猶、鼓ニモアレ、太鼓ニモアレ、緒ハ、常ナルハ赤色ナリ、紫色ナルハ免許ノ上ナリト。

しらべ-やく　(名)　[調役]　(一)下案ナド、調べ作ル役目。(二)罪狀糺問ノ役目。吟味方。

しら・べる　(動)　しらぶ(調)ノ口語。

しら-ほ　(名)　[白帆]　船ノ、白キ帆。席帆ナドニ對ス。「沖ノ暗イノニ、白帆ガ見エル」

しら-ほ　(名)　漉返しノ白キ紙。

しら-ぼし　(名)　白星　兜ノ星ノ、銀色ナルモノ。　保元物語、一、官軍方手分事「基盛、云云、上折シタル烏帽子ノ上ニ、白星ノ兜ヲ着」　平治物語、一、源氏勢汰事「次男中宮大夫進朝長、云云、澤瀉威ニシタル重代ノ鎧ニ、白星ノ兜ヲ着」

しら-ぼし　(名)　白乾　肉、菜ナド、スベテ、鹽モ何モ添ヘズ、ソノママニ乾スコト。スボシ。風乾　徒然草、百八十二段「鮭ノ白ぼし、ナデフ事カアラム、鮎ノしらぼしハ、參ラヌカハ」

しら-ほね　(名)　[白骨]　次條ノ語ノ略。今川大雙紙、馬に付ての式法之事「乘鞍、白木ナルヲバ、白木トハ云ハズ、白骨ト云也」　同「貴人ニ、しら骨ノ鞍ヲ御目ニ懸ル事、左ノ腕ニカケ、前輪ヲ、我前方ヘナシテ、主人ノ左ノ脇ニ召ス如ク置也」　岡本記「鞍ノしらほねモ、總ジテ、乘マジキ事也」

しらほね-ぐら　(名)　白骨鞍　木地ノママニテ、漆ヲ塗ラザル鞍、塗骨ニ對ス。略シテ、しらほね。　七十一番職人盡歌合、四十五番、鞍細工「イカニシテ、マヅ人口ニ、乘リヌラン、しらほね鞍ノ、ヌルヨ無キ身ニ」

しらま・か・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　白　次條ノ語ニ同ジ。　保元物語、二、白河殿攻落事「敵、魚鱗ニ懸破ラントスレバ、御方、鶴翼ニ連リテ、射しらまかす」　山家集(西行)下「山里ノ、心ノ夢ニ、惑ヒヲレバ、吹キしらまかす、風ノ音カナ」

しらま・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　[白]　〔白むノ他動、第二語ノしらむノ條ノ(二)ヲ見ヨ〕　敵勢ヲ挫ク　衰ヘシム　辟易セシム。シラマカス。　長門本、平家物語、十四、西藤別當ノ云云、コレヲしらまさジト、平家ノ方ヨリ、云云、押寄タリ」「敵ヲ射しらます」

しらまなご (名) [illegible] 白眞砂 [illegible] 白キ沙ノ、[illegible] 萬葉集、[illegible] 一 廿「白細砂、三津ノ黄土ノ、色ニ出デテ、云ハナクノミゾ、我ガ戀フラクハ」

しらまほ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) |欲知| 知ラムト欲ス。知リタシ。源、四、夕顔 廿「若シ彼ノ、忘レザリシ人ニヤト思シヨルモ、イトヾ [illegible]」

しらまゆみ (名) 白眞弓 白檀弓 檀ノ白木ノ弓 [illegible] 白檀弓 [illegible] 拾遺集、十四、戀、四「陸奥ノ、安達ノ [illegible] 心ヲハ [illegible]」

しらまゆみ (枕) 白檀弓 張ル、射ル、引クナド云フ、語ノ枕詞。[illegible] 白檀弓、[illegible] カケタル、夜鳴ハヨケム」同、十 廿「白檀弓、今春(張るニカク)山ニ、ユク雲ノ、行キヤ別レム、戀ヒシキモノヲ」同 廿「天ノ原、[illegible] 同、十一 九「白檀、石(射るニカク)邊ノ山ノ、常磐ナル、命ナラバヤ、戀ヒツツ居ラム」同、十二 廿「白檀、斐(引く)[illegible] 寢カネツル」

しらみ (名) [illegible] 虱 白蟲ノ約トイフ。一古名、キササ。動物ノ甚ダ不潔ナルヨリシテ生ズル、甚ダ小サキ蟲、六足ニシテ、足毎ニ鉗アリ、二角アリ、嚙ヒツカルレバ、痒シ、[illegible] 毛しらみ、つびしらみナド云フ、其 [illegible] 字鏡 [illegible] 和名抄 [illegible] 孫田舍人「頸ノ、痒カリケルヲ探リタレバ、

大ナル白虫ノ喰ヒツキタリケル也」徒然草、九十七 [illegible] しらみアリ [illegible] ニテ食シケリ」

しらみぬのこ (名) 蝨布子 蝨ノ、集リタル故布子。[illegible] 小袖、今日タツヲ、しらみ布子ノ、恨ミテゾ着ル」

しらみほん (名) 蝨本 しらみトハ、字ノ細カキヲ云フナルベシ」寛文以前ノ [illegible] ノ頃、[illegible] ノ板本ノ名、本文、[illegible] 五枝ナルヲ、[illegible] ニ書キ、其間ニ、一枚毎ニ、繪アリ、童子ノ玩トス、繪雙紙ナリ。

しら・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |白| (一) 白クナル。明クナル。曉ノ空トナル。山家集(西行)上「月出ヅル、軒ニモアラヌ、山ノ端ノ、しらむモ [illegible] 夜ノ白雪」[illegible] 藤助康「庭ニハ、雪降リテ、しらみワタリタルニ」「東 [illegible] しらむ (二) シラクル 興サムル

しら・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) |白| (一) [illegible] 荒ム [illegible] イカデ作リシゾ、手觸レデ久シクナリニケルニ、[illegible] ルゾ、ト問ヒ給フ」宇治拾遺、十一、第三條「晴明ガ [illegible] (二) 軍ノ勢、挫ク 敗北セムトス 辟易ス [illegible] ユルヨリ云フトゾ、又、戰ニ、勝ミニナルヲ、しらむト云フ ニ對ストゾ」[illegible] [illegible] ト、下 [illegible] レバ」

しら・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) |調| しらぶニ同ジ。 枕草子、十一、百三十三段「法服、云云、モシ又、サヤウノ物ヲ、切リしらめタルニ、トノ給ハスルニ」

しらん (名) 芝蘭 [illegible] 芝ト、蘭ト (共ニ、香草) [illegible] 不聞其香 [illegible] 之化矣」

しらん (名) 紫蘭 草ノ名、人家ニ植エテ、花ヲ賞ス、葉ハ、ちまきざさニ似テ、[illegible] 二、[illegible] 多シ、夏月、莖ヲ生ジ、三四葉、互生シ、上ニ、數花ヲ開ク、蘭ニ似テ、紅紫ナリ 朱蘭 白及 白根 [illegible] 蘭生、滋滋明月光」盛衰記、十七、福原京事「[illegible] ハ、只荒ニ荒レ行テ、云云、雉兎ノ栖カト成替、紫蘭ノ野邊トゾ紛ヒケル」

しらむし (名) 白蟲 しらみ(蝨)ノ條ヲ見ヨ

しらむし (名) |白蒸| 強飯ノ條ヲ見ヨ。

しらめ (名) |白眼| しろめ(白眼)ニ同ジ 竹取物語 [illegible] しらめニテ、代シ [illegible] 人人 [illegible] ロニ、水ヲ抄ヒ入レ奉ル」

しらめ (名) 白目 又、シロメ 權衡ノ數量、即チ、一百三十錢ヲ一斤トスルモノ。 地方新書「二百三十錢ヲ一斤トスル、アリ、之ヲ、白目、又、輪目ト云、藥舖ニテ專ラ之ヲ用ヰル也」(一錢ハ、一貫目ノ千分ノ一ナリ)

しらも (名) 白藻 海草、石ノ上ニ生ズ、形、髮ノ如ク、枝アリテ、一二尺ニ至ル、生ナルハ、淡紫ニシテ、晒セバ、白シ、生ニテ食フ [illegible] 萬葉集 [illegible] シラモ」[illegible] 島白藻 [illegible] 馬盤而有」[illegible] 長一二尺許、附石而生、生時淡紫色、[illegible] 有 [illegible]」

しらもち (名) 白餅 ミトギ 粢餅 (神ニ供フ)

しらや (名) 白矢 白キ羽ニテ矧ギタル矢 [illegible] 白箸へノしらや [illegible] ニ白ヒナシ」

しらやき (名) 白燒 鹽燒ノ (二) ナドニ對ス」(一) 魚肉ナドヲ、何モツケズニ燒クコト 又、其燒方ニシタル魚肉ナド [illegible] 膳「一、大鯛白燒、カケ汁」(二) 鰻ヲ割キ、串ニ刺シテ燒キ、蒸シテ、山葵ノ生醬油ニテ食フモノ。

しらゆ (名) 白湯 タダノ湯。サユ。

しらゆき (名) 白雪 ゆき(雪)ト云フニ同ジ。萬葉集、十 廿 旋頭歌「白雪ノ、降リシク冬ハ、過ギニケラシモ、春霞、タナビク野邊ニ、鶯鳴キヌ」古今集、七、賀 白雪ノ、降リシク時ハ、三吉野ノ、山下風ニ、花ゾ散リケル」

しらゆふ (名) 白木綿 色、白キゆふ。[illegible] 四、冬 [illegible] 紅ニ、見エシ楠モ、雪降レバ、白木綿カクル、神ナビノ森」[illegible] 高キ、河原ノ木ノ、[illegible] 葉ニ、しらゆふカケテ [illegible] ゾスル」

しらよね (名) 白米 精ゲタル米。ハクマイ。字鏡 六十「稞、殺實也、糯米也、志良與禰」

しらしらかみ (副) 白 白ク明ラカナル狀ニ云フ語。シララニ。名義抄「白皙、シララカナリ」字類抄「白皙、シララカナリ」楚辭、[illegible]「皎 皎」

しらしらみ (副) |白| 前條ノ語ニ同ジ。堀川百首、夏、卯花「卯ノ花ノ、しららみ咲ケル、夕暮ハ、賤ガ垣根ゾ、月夜ナリケル」

しられ (動) [爲て遣られノ略] 他ニ、物ヲ取ラレ、他人ニ、自己ノ所有物ヲ竊取

セラレ」生玉心中(正德、近松作)中「十六兩、唯、しられ、夫ガ源ニ、武平次ガ、損ヲ始メ、命ヲ沈ニ及ンダ」

しらわらひ (名) [冷笑] しれわらひニ同ジ 兒女口(宗祇)「しららひシテ、火燈ニテ、人モ用ヰヌ、腹立テテ」

しらゑ (名) [白繪] 七佐繪ニ、(彩色)セザルモノ、即チ、墨繪 シロヱ 白描 嫁遊笑覽、三、(書畫)「土佐家ノ繪ニ、著色ナキヲ、白繪ト云フトゾ、漢土ニ、白描ト云ヘルニ似タリ、榮花(初花)シラサウゾクドモノ、サマサマナルハ、タダ墨繪ノ心地シテ、イトナマメカシトアル、墨繪、件ノしら繪ニ同ジ」

しらをきる (句) シラジラシク、キメル。切るノ條ノ(十一)ヲ見ヨ。

しり (名) [後] (一)〔ウシロノ方。ノチ。アト 古事記、中(崇神)「長歎、己ガ夫ヲ、盜ミ殺セムト、所理ツ戸ヨ、イ行キ違ヒ、前ツ戸ヨ、イ行キ違ヒ、窺ハク知ラニト」伊勢物語、廿四段「しりニ立チテ追ヒ行ケド、エ追ヒツカデ」源、三、空蟬「二御車ノしり」枕草子、九、百十段「車、云云、しりノ簾、上ゲテ」宇治拾遺、十三、第三條「しりニ見レバ、人一人モ、見エズナリヌ」(二)〔スヱ。ハテ。シマヒ。最後 枕草子、五、四十七段、ねたきもの「トミノ物、縫フニ、賢ウ縫ヒハテツト思ヒテ、針ヲ引キ拔キタレバ、早ウ、しりヲ結バザリケリ」(三)俗ニ、所作ノ報 「惜財ノしり」「しりガ來ル」

しり (名) [尻臀] 〔身ノ後ノ義ナラム〕(一)〔脊ノ下ノ、肉ノ、出デテ、坐スレバ、席ニ着ク所 ヰサラヒ ヰシキ。オヰド シリタブラ 倭名抄、三、身體「尻、之利、尾也」竹取物語「御迎ニ來ン人ヲバ、云云、己ガしりヲ掻キ出テテ、ココラノ公人ニ見セテ、恥見セン」源、二、帚木「前ノ寶ノ子ダツ物ニしりカケテ、トバカリ見ル」 尻を拔ッるトハ、端折るノ條ヲ見ヨ。尻が重いトハ、容易ニ起タズ擧動、マメナラズニ、鶉衣(也有)自名づく說「玉ト云フ下女、光モナク、かろトツケニモ、尻おもし」尻が輕いトハ、起居、氣重ナラズシテ、カヒガヒシ。又、女ノ、浮氣ナルヲモ云フ 尻がすわるトハ、外ヘ動カントスル心ナク、其處ニ落チツク。大織冠(正德、近松作)三「内ニ尻がすわらヌトテ、蝶鳥殺ノ五郎介ト、土地デ、異名ガ附イテアル」尻が割れるトハ、惡業、露見ス。尻を敷くトハ、(イ)蔑ニス。浮世床(文化、三馬)二編、上「亭主ヲ尻ヲ敷く浮虛的ノ女房」尻をつくトハ、(イ)他人ノ後ニ附キ隨フ。七十一番職人歌合、四十九番、放下「彼レ僧、烏帽子被タレバ、小女童ノ、男ト見テヤ、しりをつくラン」(ロ)他人ノ配下トナル。尻に帆を掛けるトハ、退去ス。一參ニ、逃ゲ出ス。尻を拭ふトハ、後ノ始末ヲス。尻拭ひヲナス。宗長手記「落馬シテ、半身痛ミ、右ノ手、叶ハズシテ「イカニセン、物書キスサブ、手ハオキテ、書取ル事ト、尻のぬぐひ」浮世風呂(文化、三馬)三編、下「ウヌ一人デ、身ジンマクデモスル事カ、オメヘ、イツデモ私ニ、尻をぬぐはセルダ」(二)スベテ、物ヲ居エテ、地ニ附ク所。底「土瓶ノしり」(三)〔先、鋒 萬葉集、七廿六「鋒ノ後、猶ニ純野ノ」倭名抄、十三七征戰具「鏃、夜佐岐、夜之利」(四)〔きぬのしりノ略。裾 宇津保物語、祭使「御衣ノしり、走リ引キテ」源、廿九、行幸十五「下襲イト長ウ、しり引キテ」建武年中行事「關白、御下襲ノしり、疊ミ寄セテ、殿上ニカヘリ出ヅ」

しり (名) 市利 市ニテ得ル利益。商賣ノ利得。 孟子、公孫丑、下篇「有二賤丈夫一焉、必求二龍斷一而登レ之、以左右望而罔二市利一」(龍斷ハ、壟ニ同ジ)

しり (名) [私利] 〔公利ニ對ス〕一己ノ利益。私欲。 管子、禁藏篇「民多二私利一者、其國貧」晉書、石勒載記「公侯牧宰、競興二私利一、百姓失レ業、十室而九」「私利ヲ營ム」

しり (名) [支離] 〔莊子、人間世篇「支離」注「身體無二收拾一之貌」〕離レ離レニナルコト。ササラサッポウ。チャチャフチャ。 莊子、人間世篇「夫支二離其形一者、猶足三以養二其身一、終二其天年一」支離滅裂ト云フハ、チリヂリバラバラノ意。

しり (名) [至理] 至極ノ道理。 張協詩「貞身非二有像一、至理本無レ名」梁簡文帝、上大法頌表「至理解而德音闡、成功致而頌聲作」

じり (名) [事理] (一)事ノ、スヂミチ。 黃公望詩「以二玄對一學眞、心通二忘事理一」「事理ヲ辨ヘズ」(二)佛敎ノ語、事相ト、理體ト。 徒然草、百五十七段「事理、モトヨリ二ナラズ、外相、若シ背カサレバ、內證、必ズ熟ス」

じり (名) [自利] 己レヲ、利スルコト。他人ヲ措キテ、自己ノ利益、幸福ヲ求ムルコト (利他ニ對ス) 莊子、讓王篇「不下以二一身一自利上也」列子、楊朱篇「大禹不三以二一身一自利一、一體偏枯」

しりあがり (名) [後上] 〔後下ニ對ス〕後方ノ、上ルコト。「しりあがりノ言語」

しりあげうた (名) 後擧歌 歌ノ末ヲ擧ゲテ謠フコト。約メテ、しりげうた。 神樂譜「後擧ハ、三度、拍子ヲ用フル、即チ、調ノ音振ナリ、樂府ニテ、歌ノ末ヲアゲテ、唄フナルベシト云フ」

しりあげむし (名) [後擧蟲] 蜻蛉ニ似テ、小サキ昆蟲、翅、薄クシテ、二條ノ黑線アリ、尾ノ端ニ、小サキ鋏アリテ、コレヲ擧グル性アリ、因リテ、名トス。

しりあし (名) [後足] アトアシ。 盛衰記、四十三、平家亡虜人人事「能登守教經、判官ハ、組デハ叶ハジト思テ、尻足蹈デゾ、ヤスラヒケル」

しりあて (名) [尻當] 單衣ナドノ裏ノ、尻ニ當ル所ニ附クル切地。キシキアテ。

しりあひ (名) [知合] 知リ合フコト。チカヅキ。シリビト。相識

しりあふ ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ(他動、四) [知合] 交リテ、互ニ相知ル。相識 「互ニ心ヲ知りあふ」

しりう (名) [支流] 〔本流ニ對ス〕(一)エダガハ 列子、楊朱篇「呑舟之魚、不レ游二支流一、鴻鵠高飛、不レ集二汚池一」晉書、南蠻傳「佛代國有二江支流三百六十一」 (二)分家ノ系。 王勃詩「佇我系出二自有周一、分レ錫祉、派二別支流一」

しりう (名) [士流] 士人ノ流派 南史、王僧儒傳「士流選用、奏無レ不レ可」

しりう (名) [緇流] 〔詩經、鄭風、傳「緇、黑色」〕僧侶ノ流派。緇林。 盧綸詩「將レ新竟何得、混二跡在緇流一」

じりう (名) [時流] (一)當時ノ俗流。 南史、袁昂傳「年位貴顯、而時流所二推重一」韋莊詩「因有二穀時流一、時二莊發頌一由二國士恃一」「時流ニ侫ル」(二)當時ノ流行。當時ノ風潮。時代思潮。 李成用詩「刀騐、劍逐二時流一」

しりうぎたなし ・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 「しりぎたなしノ延」後言シテ、心、キタナシ。シリギタナシ。

しりうごつ ・ツ・テ・タ・チ・テ(自動、四) [後言] 〔次條ノ語ヲ活用ス〕後言ヲ言フ。陰言ヲ云フ 源、三十四、上、若菜、上五「しりうごち聞エ給フニツケテモ」同、同、下廿「メザマシキ女ノ宿世哉ト、己ガジシハ、しりうごちケリ」紫式部日記、下「ナデフ女ガ、眞名書ハ讀ム、昔ハ、經ヲ讀ムダニ、人ハ制シキト、しりうごち云フヲ聞キ侍ルニモ」

しりうごと (名) [後言] 「しりごとノ延」 其人ノ聞カヌ所ニテ、其人ノ上ヲ言フコト。カゲゴト。カゲグチ。 源、三十八、夕霧六十三「しりうごとニモ聞ニ給フメルコソ、サカシ

ダツ人ノ、己ガ上知ラヌヤウニ覆エ侍レ」同、三十四、下、若菜、下「イト拙ナルしりうたどナリカシ」(中院右大臣宗忠ノ、後、[illegible]ト云フ書アリ)

しりうた・ぐ(ガ・グ・グル・グレ・ゲ・ゲヨ)[illegible]　[尻打擧ぐノ約]（一）蹠ヲ地ニ着ケ、膝ヲ立テ、尻ヲ浮キアゲテ坐ル。中腰ニテ居ル。名義抄「踦踞、シリウタゲ、ウズクマル」字類抄「踞、シリウタゲ」（二）足ヲ擧ゲ、尻ヲ物ニ上ゲ居ル。尻カク。腰カク。欽明紀、十五年三月、注、明主、乘踞胡[illegible]

しりうど（名）[illegible]人　[illegible]　枕草子、十二、百五十六段「イミジウ佗ビ歎キタル狀ノ、心苦シサヲ、遠人ノしりうどナドハ、ラウタク思エ[illegible]」八、しりうど八持チ給ハヌカ」

しりうま（名）[尻馬後馬]　人ノ乘リタル馬ノ、後ニ乘ルコト。又、前馬ノ、後ニ行クコト。シリマヒ。[illegible]

しりおし（名）尻押後押　[illegible]シ、勸メ唆スコト。アトオシ。ウシロ[illegible]

しりおも（名）[尻重]　[尻重ノ義]（一）[illegible]（二）尻ノ、[illegible]トノ尻ノ條ノ（一）、尻が重いヲ見ヨ。(しりがるニ對ス)

しりおよ・ぶ(バ・ビ・ブ・ブ・ベ・ベ)(自動、四)[illegible]　知リトドク。知リワタル。源、十二、須磨[illegible]ジキ、長女、[illegible]

しりがい（名）鞦　次條ノ語ノ音便。字[illegible]草ノ形ヲ、[illegible]ハセ給ヘリ」枕草子、九、百十段「車、云云、牛ノしりがいノ香ノ、アヤシウ嗅ギ知ラヌサマナレド」

しりがき（名）鞦　[尻繋ノ義]　馬具ノ名。今、音便ニ、しりがいト云フ、おしかけノ條ノ（二）ヲ見ヨ。[illegible]

しりがきつけ（名）[illegible]　鞍ノ後輪ノ、[illegible]鞦ヲ着クル紐。カレヒッケ。[illegible]本、倭名抄、一「鞍馬具「接鞦、四里加岐豆介、一云、鞦[illegible]」

しりがさ（名）尻瘡　尻ノ邊ニ吹キ出ヅル瘡。[illegible]

しりかせ（名）尻枷　[illegible]ノ名所　牛馬ノ臀部ニ着クル木。[illegible]

しりがた・し(キ・ケレ・ク・ク)(形、一)　知難　知ルニ難シ。辨ヘガタシ。續後撰集、十二[illegible]ツ、タベナルラム」

しりがほ（名）知顔　知リ居ル風ヲナス顏。辨ヘ居ル顏ツキ。枕草子、四、四十三段[illegible]十九、蒲生[illegible]「秋ノアハレヲしりがほニ、聽ヘキコエケルモ、クヤシウ、恥カシ」

しりからげ（名）[尻紮尻褰尻揭]　衣ノ背後ノ裾ヲ、掲ゲルコト。又、捲リテ、

其端ヲ帶ニ挾ムコト。ハショルコト。[illegible]

しりがる（名）[尻輕]　しり(尻)ノ條、しりが輕いニ同ジ。(しりおもニ對ス)

しりき（名）事力　朝廷ヨリ宛テラレテ、太宰帥以下、國守ニ召仕ハシムル者。[illegible]

しりき（名）[自力]　ミヅカラノ、チカラ。己レ一人ノ働。(他力ヲ假ラヌニ云フ)[illegible]

しりぎたな・し(キ・ケレ・ク・ク)(形、一)　しりうぎたなしニ同ジ。

しりきりざうり（名）[尻切草履]　蹠ニ當ル方ノ、後キ切レタル如キ形ノ草履ノ類。[illegible]

しりきりとんぼ（名）尻切蜻蛉　物事ヲナスニ、斷斷トナリテ、永續セヌ人ヲ罵リ云フ語。

しりきりばんてん（名）尻切半纏　腰ノ邊マデアル、短キ半纏。長キ半纏ニ對ス。

しりきれ（名）尻切　藁草履ノ類。しりきれ[illegible]今昔物語、廿四、第六語「此者ニハ、亦、[illegible]

しりくさ（名）[尻草]　[尻刺草ノ略]　ゐ（藺）ノ異名。(契沖說)　萬葉集、十一[illegible]

しりくせ（名）[尻癖]（一）人人ニ特有ナル、尻ノ癖(寢小便ナドノ)（二）婦女子ナドノ、特ニ、淫事ヲ欲スル癖。(男子ニモ云フ)[illegible]

しりくち（名）[尻口]　うしろト、まへト。アトト、サキト。前後。枕草子、十一、百三十三段[illegible]

しりくべなは（名）　次條ノ語ニ同ジ、其條ヲ見ヨ

しりくめなは（名）[尻久米繩]（しりくめハ、後籠ノ義、後方ヲ遮ル意、顏氏家訓ニ、章斷注連トアル、斷ヲ、倭名抄ニ、之度太知ト訓ジタルハ、(其條ヲ見ヨ)後戶斷ナリ、藁ノ本ヲ絢ヒ込ムト云フ說ハ、イカガ）注連ノ古言。シリクベナハ。[illegible]

しりくらいくわんおん（名）後暗觀音　(陰曆ニテ、六觀音ノ緣日ノ終ハル、廿三日後ハ、闇ニナル、故ニ、後暗ノ語路ニ

テ、尻喰觀音トモ云フ」暗キ夜ノコト。暗キ夜ノ事ヲ、藥師(緣日、八日)の前、地藏(緣日、廿四日)の後、ト云フ諺アルニ同ジト云フ。東海道名所記(萬治)二「三十三身ノ外ニ、昔ヨリ、尻くらい觀音トテ、コレ有」用捨箱、後暗い觀音「しりくらい觀音ト云フモ、後暗いニテ、地藏ノ後ト云ヒシニ同ジ、六觀音ノ緣日ヲ、十八日ヨリ配當シテ、廿三日ニ終ル(七觀音ニハ、十七日ヲ加フ)觀音ノ緣日ノ後ハ暗いト、轉ジテ解スベシ、云云、ハヤ當時、尻喰ひト思ヒ解メシナルベシ」後撰夷曲集「尻くらへ、觀音トテヤ、歸ルラム、淸水山ヲ、過グルカリガネ」

しりげ (名) 知氣 知リ居ル風。知リテアル樣子。菅闘集、十六、與利口「定改(進士志定改)、我レヲ笑フトハ、知げモ無クテ」

しりこそば・い (形) 尻操 〔おそばいハ、痒キコトノ輕キヲ云フ意ニテ、身ニ受クル味ヲ云フ〕足心、酸澁ノ、甚シクテ、尻臀ニ及ブ。俗ニ、平然トシテ座シ居ラレスコトニ云フ。

しりごた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(自動、下二) 後答 後部ニ答フ。ウシロニアタル。今昔物語、廿七、三十四語「音ヲ押量テ射タリケレバ、尻答ヘツト思エテ、云云、音ニ付テ射候ツレバ、尻答ふる心地シツ」

しりこだま (名) 尻子玉 肛門ノ口ニアリトスル玉。(想像ニ) 傾城買二筋道(寬政)合縁ニ、しりこだまヲ拔カレネヘヤウニシヤ」

しりこぶた (名) 尻臀 しりたぶら(尻臀)ニ同ジ。雙生隅田川(享保、近松作)三「九寸五分、スルリト拔テ、云云、尻臀ヲ突カウカ」

しりこぶら (名) 尻臀 しりたぶらノ轉。

しりごみ (名) 後込 シリゴムコト。アトシザリ。逡巡 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)四「……ハシ、尻込シ、士ニ付キ、泣叫ブ」

しりご・む・ム・メ・マ・ミ・メ(自動、四) 後込 シリゴミヲナス。逡巡ス。

しりさがり (名) 後下 〔後上ニ對ス〕後方ノ、下ガルコト。アトシザリスルコト。國性爺合戰(正德、近松作)二「茶碗ハ、砂地ノ得物、汐ノ溜へ引込マント、尻下リニ引入ルル」

しりさき (名) 後前 後ト、前ト。うしろト、まへト。アトサキ。宇治拾遺、十三、第三條「ヤウヤウ、日モ暮方ニナリヌ、しりさき見レバ、人、一人モ、見エズナリヌ」盛衰記、十七、大場早馬事「北條四郎時政ハ、親シク(賴朝ニ)成テ侍レバ、實ニ、しりさきニモ立候ラン」

しりざし (名) 尻刺/後指 〔音便ニ、しんざし〕戸、障子ノ後ニ、掛金ヲ刺スコト。又、遣戸ノ後ヲ鎖スモノ。源、三十四、上、若菜、上五十二「御障子ノしりハ、固シケレバ」孟律抄「しりざしヲシタルナリ」賴政集、下「堅バカリ、通フ遣戸ノ、しりざしヲ、猶額マヌガ、ナキ心地スル」

しりざや (名) 尻鞘 虎、豹、熊、鹿、水豹ナドノ毛皮モテ、太刀ノ鞘ニ合ハセテ袋ニ作リ、其上ニ懸クルモノ、遠行ノ時、雨露ヲ防グ用トストゾ。毛太刀。又、絹ニテ作リ、虎、豹ノ斑ナド畫キタルヲ、繪ノ尻鞘ト云フト云フ。略シテ、しざや 刀鞘 名義抄「尻鞘、シリサヤ」新儀式、四、野行幸事「王卿、云云、帶レ劍者、著二後鞘一」吉部秘訓抄「天子十里以外、行幸ノ供奉ニハ、尻鞘ノ太刀ヲ帶ス」保元物語、一、新院御所各門固事「爲朝「三尺五寸ノ太刀ニ、熊皮ノ尻鞘入」夫木抄、廿七「武夫ノ、太刀しりさやノ、虎ノ尾ハ、此ノ國ニテモ、蹈マバ恐ロシ」

しりざら (名) 後盤 杯ヲ置クベキ具。酒瓶ヲ置クベキ具ヲ、酒臺ト云フ、齋宮寮式「酒臺、後盤」倭名抄、十六、漆器類「酒臺子、志利佐良(後盤ノ誤)」

しりしたひ (名) 軒渠 〔後漢書、薊子訓傳「兒識ニ父母ニ軒渠笑悅、往欲レ就レ之」〕笑フ狀ニ云フ語。名義抄「軒渠、シリシタヒ」

しりじり (副) 〔躙る意カ〕足、蹈ミ固メツツ、漸クニ押シ進ム狀ニ云フ語。狂言記、花盜人、後ノ大石ガ、寄藥ニ引レテ、しりじり、しりじりト吸ヒ寄セタ」「しりじり詰メ寄ス」

しりしり (副) しゅうしゅうニ同ジ。

しりすか・す・ス・セ・サ・シ・セ(他動、四) 知透 しりぬくニ同ジ。太平記、三十三、菊池合戰事「菊池、此二十餘年ガ間、筑紫、九國ノ者共ガ、軍立、手柄ノ程ヲ、敵ニ受、御方ニナシテ、能、知透しタリケレバ」

しりぞ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四) 退 〔後退くノ轉ト云フ、或ハ、後放くノ轉カ、進むノ反〕しぞく。後へ退ク。後ヘ引ク。サガル。後退 神代紀、上十八「採二其實一以擲二雷者一、雷等皆退走矣」源、十三、明石十「しりぞきテ咎ナシトコソ、昔ノ賢シキ人モ、云ヒ置キケレ」

しりぞ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ(他動、下二) 退 〔前條ノ語ノ他動〕(一)後へ、退クル。後へ引カス。サグ。卻 (二)遣フ。逐ヒカヘス。擯斥 (三)〔地位ヲ、オトス。黜 續紀、廿一、寶龜三年五月、詔「他戸王乎、皇太子之位停賜比、却賜布止宣」

しりぞ・ける (動) 退 前條ノ語ノ口語。

しりそ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ(他動、下二) 知初 知リハジム。辨ヘハジム。續千載集、十、釋敎「遂ヒニバ、誰ガ敎ヨリ、知りそめテ、諸ノ道ノ、疑ハルラム」

しりだちのまつり (名) うさかまつり(鵜坂祭)ノ條ノ出典ヲ見ヨ。

しりたぶ (名) 尻臀 次條ヲ見ヨ。

しりたぶら (名) 尻臀 尻ノ、肉、多キ處。今、俗ニ、シリコブラ シリタブ シリベタ シリタムラ。シリブタ。シリムタ。臀肉 臀 醫心方、七、六「尻持肉」名義抄「臀、シリタブラ」撮壤集「臀、シリタブラ」欽明紀、廿三年七月「新羅闘將、拔レ刀欲レ斬、逼而脫レ褌、追令下以二尻臀一向中日本上」

しりたむら (名) 尻臀 前條ヲ見ヨ。倭名抄、三五身體類「臀片、之利太无良、今案、臀謂之尻也」字鏡「臀、尻太牟良」名義抄「尻、臀、シリタムラ」

しりつ (名) 詩律 しはふ(詩法)ニ同ジ。杜甫、遣レ悶詩「晚節漸於二詩律一細、誰家數去酒杯寬」蘇軾、與二晁過一聯句「傳家詩律細、已自過二宗武一」

しりつ (名) 市立 市ニテ、取立ツルコト。(國立、町立ナドニ對ス)「市立ノ圖書館」

しりつ (名) 私立 私ニ、作リ立ツルコト。(官立、公立ナドニ對ス)

じりつ (名) 而立 〔論語、爲政篇「吾十有五而志二于學一、三十而立」トアルニ基ヅキテ云フ〕三十歲ノ稱。

じりつ (名) 自立 ヒトリダチ。他力ニ賴ラヌコト。戰國策、楚策「遂以二冠纓一絞レ王殺レ之、因自立也」史記、田儋傳「諸侯皆反、各自立」

じりつ (名) 侍立 傍ニ、立ツコト。はべり、立ツコト。三國志、蜀志、劉正傳「侍婢百餘人、皆執レ刀侍立」「總理大臣、侍立ノ上」

しりつけ (名) 尻付/後付 〔前付ニ對ス〕本文ノ後ニ付ケテ注スコト。又、其文。盛衰記、四十一、賴朝敍二正四位下一事「元曆元年三月二十八日ノ除目ニ、兵衞佐賴朝、正四位下ニ敍ス、尻付ニハ、義仲ヲ追討ノ賞、トゾ有リケル」

しりつた・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ(他動、下二) 領傳 所領シ、傳フ。相傳シテ、領シ來

ル。[illegible]十八、松風「自ラ領ズル所ニ侍ラネド、又、しりつたへ給フ人モ無ケレバ」

しりっぱね (名) [illegible] (一)後方ノ、ブガルコト。(二)泥ノハネ

しりとど・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) [知屆] しりおよぶ(知及)ニ同ジ

しりとり (名) 尻取 言葉ノ尻ノ文字ヲ取リテ、更ニ、他ノ言葉ニ云續クル遊。

しりとりもんく (名) [尻取文句] 前ノ句ノ終リノ音ヲ、次ノ句ノ首ニ置キテ、綴リ行クモノ。昔ノ文字鎖ナリ。[illegible] 八飼ひ七ツ梅、梅松櫻ノ菅原デ、ノ類ナリ。寵子手習[illegible]咲クヤ、江戸ノ花、浪靜カナル品川ヤ、ヤガテ越エユク[illegible]

しりなが (名) 尻長 前長ニ對ス 汗衫ノ裾ヲ、後ニ長ク、引キ垂ラスコト [illegible]前長(一丈一尺三寸、御鏡口料)云云」[illegible]云、尻ハ、裏合セニ折リテ、簀殿上ノしりながノ様ニ、カクル也」

しりぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [知拔] 十分ニ知ル。底ノ底マデ、知ル。[illegible]

しりぬぐひ (名) [尻拭] (一)尻ヲ、拭フコト。(二)人ノ、失敗ナドナシタル、跡始末ヲ、スルコト。[illegible]

しりばさみ (名) [尻挾] はさみむし(挾蟲)ノ一名。

しりはな (名) [尻鼻] 尻ノハシ。[illegible]リノサキ。宇治拾遺、二、第十三條「何主、ソノ男ノしりはな、血ユバカリ、必ズ頭給へ」

しりばや (名) 尻早 後早 牛馬ナドノ、後ヨリ行キタルガ、却ッテ早ク行キ過グルコト。後ノ雁ガ、先ニナルコト。[illegible]物語、[illegible]先ナル車ハ、しりばやニ追ハレテ、人人、ワビニタリ[illegible]

しりはら (名) 産後腹 あとばらノ(一)ニ同ジ。[illegible]

しりばらひ (名) [後拂] シンガリ。シッパラヒ。

しりび (名) [後下] 末ノ、弱クナルコト。トイフ。源、三十二、梅枝「徒然ト物スレバ、思フ心アルニヤト、世ノ人モ、推シ量ルランヲ、宿世ノ引ク方ニテ、平凡シキ方ニ、アリアリテ靡ク、イト、しりびニ、人ワロキ事ゾヤ」 歌ノ結句ノ手弱キナドヲモ云フトゾ。龍頭蛇尾

しりび (名) 後火 火災ノ、風上ノ方ヘ燒ケユクコト

しりひき (名) [尻引] (一)おとひきニ同ジ [illegible]ドメラレヌニヤ」(二)後押。後援。盛衰記、十六、[illegible]アリ」

しりびと (名) [知人] 音便ニ、しりうど。相知ル人。知人 シリアヒ チカヅキ [illegible]

しりぶた (名) 尻臀 しりたぶらヲ見ヨ。

しりふり (名) [瘂] りびやう(痢病)ノ異名 [illegible]

しりぶり (名) [後振] ウシロスガタ。ウ[illegible]サブル子ニ、サドハス君ガ、宮出之理夫利」

しりへ (名) 後 後方ノ義 シリノ方 ウシロノ方 物ノ後方 事ノ背後(前ニ對ス) [illegible]代草、百夜出デマセ、我ガ來タルマデ」舒明紀、五年正月「後方羊蹄[illegible]シリヘシ」

しりへざま (名) [後方] ウシロノカタ。ウシロザマ。後方 宇津保物語、藏開[illegible]しりへざまニシ、[illegible]「しりへざまニ退キテ、見ヅフセ給フ」

しりへしぞき (名) 後退 しりぞきハ、しりぞきノ略 後ノ方へ、退クコト アトシザリ。土佐日記、二月五日、船「風、吹キテ、タケドモ、タケドモ、しりへしぞきニ退キテ」

しりべた (名) 尻臀 しりたぶらニ同ジ。

しりぺた (名) 尻臀 前條ニ同ジ [illegible]ノ句「行ク春ノ、尻ぺた掃フ、落花カナ」

しりへで (名) [後手] 手ヲ、後方ニメグラスコト ウシロデ (誠ひ、くハ、詛ふナドニスルナリ) 神代紀、下[illegible]「後手投棄與[illegible]」古事記、上[illegible]於後手[illegible]宇津保物語、藤原君[illegible]「しりへでニ縛リ、大キナル木ニ縛リツケタリ」

しりへのくらゐ (名) [後位] (後方の宮ノ位ノ義) 低キクラヰ。宇津保物語[illegible]「松ニ鳴ク、蟬トシナラバ、雲ノ上ノ、後の位、何ニカハセン」

しりへのまつりごと (名) [後政] 後宮ノ政事 皇后ノ御内助ノ御事業 [illegible]十、天平[illegible]年八月[illegible]不有、必母、斯理幣能政有倍之」

しりへのみや (名) [後宮] こうきゅう(後宮)ノ和訓 [illegible]しりへのみや」

しりほね (名) 尻骨 尻ノ骨 宇治拾遺[illegible]

しりまき (名) 尻卷 ヲハリ 最後 ウシロマキ。今昔物語、廿六、第十四語「先ヅ我ヲ呼立ンズラムト聞ニ、四五人マデ不ニ呼上ニケレバ[illegible]」

しりまさ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [知增] 知ル上ニモ知ル。一層、ヨク知ル。大和物語、中「イツハトハ、ワカネド絶エテ、秋ノ夜ゾ、身ノワビシサハ、知りまさりケル」

しりまひ (名) 尻舞 人ノ後ニ附キテ、事共眞似ヲスルコト 人ノ後ニ附キテ、事ヲスルコト 二ノ舞 ヤヂウマ シリウマ [illegible]迷ヒアリキ給フヲゾ、人トハ言ハズ」同、三十七、守長括、主事[illegible]思懸ケ尼公ノ尻舞シテ[illegible]デ、あるへいガ尻まひスルモノナリ」

しりん (名) [四隣四鄰] 四方ノ、トナリ。[illegible]

しりん (名) 士林 士タル者ノナカマ。士ノ類 士流 [illegible]

しりん (名) 史林 歷史ノ書 [illegible]

しりん (名) 詩林 詩ヲ集メタル書 [illegible]

しりん (名) [詞林] 詩文ヲ集メタル書。

詞場、文林、（梁昭明太子、答晉安王書「殺ニ核文史、漁ニ獵詞林ー」）

しりん（名）［緇林］（一）黑キ帷ノ如ク、茂リタル林。轉ジテ、道ヲ講ズル所。莊子、漁父篇「孔子遊ニ乎緇帷之林ー、休ニ坐杏壇之上ー、弟子讀レ書」庾信詩「浮陰逢ニ荷葉ー、緇林見ニ枚聲ー」（二）黑キ衣ヲ纏フ仲間。即チ、僧衆。僧徒。緇流。緇侶。盛衰記、十四、興福寺返牒「凡、緇林之言ニ乙甲ー者、則是、兄弟之詩也」

しりん（名）［緇磷］くろむト、うすらぐト。李白詩「趨磴無ニ緇磷ー、爇石非ニ貞直ー」

しりん（名）［絲綸］りんし（綸絲）ニ同ジ。禮記、緇衣篇「王言如レ絲、其出如レ綸、王言如レ綸、其出如レ綍」翰林志「翰林之司、掌ニ絲綸之命ー」杜甫、和ニ賈至舍人早朝ニ大明宮ー詩「欲レ知ニ世掌ニ絲綸美ー、池上於レ今有ニ鳳毛ー」吾妻鏡、八、文治四年八月三十日「殺生之誡、殿制重疊、隨又、去年十二月、殊被レ下ニ絲綸ー畢」

じりん（名）［字林］文字ヲ集メ、且ツ、解釋シタル書。字書。隋書、經籍志「字林七卷、晉弦令呂忱撰」

じりん（名）［辭林］辭ヲ集メ、且ツ、解釋シタル書。辭書。陳書、周弘正傳「論字疑深、叢菉通儒、辭林書府、國老民宗」

シリング（名）［志］五志ガ、一くらうんナリ。しるりんぐノ條ヲ見ヨ。

しりん-しや（名）［四輪車］四ツノ車輪アル車。一輪車、二輪車ナドニ對ス。

しりむた（名）［尻臀］しりたぶら（尻臀）ノ條ヲ見ヨ。倭名抄、三、形體「尻臀、尻片、之利無多」撮壤集、支體「臀、シリブタ」

シリンドル（名）〔英語、Cylinder.〕機械ノ中ニ裝置シタル圓柱體ノモノ。

しりめ（名）［後目］睛ノミ動カシテ、後方ヲ見ヤルコト。ナガシメ。睥睨。源、七、紅葉賀「イト嫉ゲナルしり目ナリ」狹衣、一、上「しりめニ見オコセ給ヒテ」同、一、下「しりめ恥カシゲニ、見入レツツ」

しりめつれつ（名）［支離滅裂］整ハズシテ、徹底セヌコト。バラバラニナルコト。メチャクチャニナルコト。ササホウサ。莊子、人間世篇「夫支ニ離其形ー者、猶足ニ以養ニ其身ー、終ニ其天年ー、又況、支ニ離其德ー者乎」駱賓王詩「生涯一滅裂、岐路幾徘徊」

しりもち（名）［尻餅］「尻ヲ上下スルコト、餅ヲ、杵ニテ搗クガ如キ意カ」（一）喜ビテ、小躍リスルコトヲ、尻餅つくト云フ。雀躍。淀河（貞德）「咄シム時、尻もちつくモノナリ」一休咄（寛文）二「一休、キコシメシ、善哉、善哉トテ、尻餅ついテ、喜ビタマフ」（二）江戸ニテ、小兒、生レテ、一歲未滿ニ、立チ歩ムコトアレバ、祝ヒテ、搗キテ、親類ニ贈ル餅ノ名、善哉餅ノ意ニテ、喜ブヨリノ名目カト云フ。（三）後ニ倒レテ、體ヲ立テ、尻ニテ、地ヲ突クコト。シリヰ。東海道名所記（萬治）二、箱根長坂「雨降ニハ、馬モ、人モ、滑リテ、しりもちヲつく、横投ニスル、手足モ、泥塗ニナリテ、這フ這フ、下ル」

しりや（名）［後家］後方ノ家。今昔物語、廿七、第十一語「家内ノ事共、皆ナシ畢テケレバ、亥ノ時許ニ、人皆、靜マリテ、後家ヘ出ケルニ」

しりやう（名）［死靈］死者ノタマシヒ。死シタル人ノ怨念ナドノ、祟ヲナスコト。（生靈、生靈ニ對ス、其條ヲ見ヨ）

しりやう（名）［思量］オモヒ、ハカルコト。考フルコト。思料。謝惠連詩「除ニ却思量ー、太平在ニ俯仰ー」白居易詩「別有ニ好思量ー」

しりやう（名）［資糧］旅行ノ糧（乾飯ナド）左傳、僖公四年「出ニ於陳鄭之間ー、共ニ其資糧屝屨ー、其可也」

しりやう（名）［私領］ワタクシノ領分。自分ノ領地。（公領、御領ナドニ對ス）著聞集、二、釋敎、知證大師起文「諸國之刺史、稱ニ私領之地ー、然而氏人、无ニ力ニ辨定ー」

じりやう（名）［寺領］寺ニ屬キタル領地。保元物語、二、爲義降參事「是ハ、無レ下寺領ナレバ、大衆起テ、寺領ヲ追捕スル條、無念也、云云、トテ」著聞集、七、能書「法深房、住僧モ安堵シ、寺領モ[illegible]也」

しりやく（名）［史略］歷史ノ事ヲ、略キテ、短ク編メルモノ。唐書、藝文志「杜信史略三十卷」「十八史略」

しりやく（名）［資略］天賦ノ才略アルコト。又、其人。枚乘、七發「將下爲ニ太子ー奏中方術之士、有ニ資略ー者、若ニ莊周、云云、之倫上」

しりよ（名）［思慮］オモンパカリ。カンガヘ。工夫。禮記、祭義篇「耳目不レ違、心、思慮不レ違レ親」十訓抄、中、第七「可レ專ニ思慮ー事」

しりよ（名）［師旅］詩經、小雅、都人士之什、黍苗篇「我師我旅」箋「五百人爲レ旅、五旅爲レ師」軍人ノ衆。軍隊。論語、先進篇「千乘之國、攝ニ乎大國之間ー、加レ之以ニ師旅ー、因レ之以ニ饑饉ー」

しりよ（名）［緇侶］僧侶。緇徒。任華、送ニ虔上人遊ニ天台ー序「緇侶之渴望、詞場之沈謝」

しりよく（名）［死力］必死ノ力。漢書、李陵傳「擧ニ圖所レ過山川地形ー、使ニ麾下騎陳步樂還以聞ー、步樂召見、道ニ陵將率得ニ士死力ー」「死力ヲ竭ス」

しりよく（名）［資力］資金ノ高。資產ノ力。三國志、魏志、滿寵傳「國小民寡、資力單薄」董仲舒文「因ニ乘富貴之資力ー、以與レ民爭ニ利於下ー」「資力闕乏」

しりよく（名）［視力］眼ノ、物ヲ見ルチカラ。「視力、衰ヘズ」

しりよりくちよりあくやまひ（名）〔嘔吐、下痢スル義〕くわくらん（霍亂）ノ古稱。倭名抄、三、病類「霍亂、俗云、之利與利久智與利古久夜萬比」

しりわ（名）［後輪、尻輪］くらぼねノ條ヲ見ヨ。保元物語、二、義朝白河殿夜討事「鞍ノ前輪ヨリ、鎧ノ草摺ヲ、尻輪懸テ、矢先三寸餘ソ、射通シタル」

しりわらひ（名）［尻笑］猿のしりわらひト云ヒテ、己レガ尻ノ赤キヲ知ラズ、他ノ赤キヲ笑フコト。自分ノ越度ニ心附カズ、他人ノ缺點ヲ嘲ル、愚ヲ云フナリ。目糞、鼻糞を笑ふト云フ類。

しりゐ（名）［尻居］後方ヘ倒レテ、尻ヲ、地ニ着クルコト。尻餅ヲ搗クコト。著聞集、十、馬藝「新日吉五月會、其騎ヲ打チナガラ、しりゐニマロビヌ」同卷、相撲強力「畠山重忠（長居相撲人）ヲしりゐニ、ヘシスヘテゲリ」

しりを（名）［尻尾］を（尾）ト云フニ同ジ。シッポ。シリッポ。「犬ノしりを」

しる（名）［汁液］（一）物ヨリ浸ミ出デナドシテ、流ルルモノノ總稱。（水、血、脂、ナド）古事記、上（神代）「日子長[illegible]、染木ガ斯流ニ、染メ衣ヲ」榮花物語、七、鳥邊野「寸白、云云、しるナト、アヘサセ給ヒ」字類抄「汁、シル」（二）アツモノ。しるモノ。羹。宇津保物語、藏開、中「黄葉ノしるシテ、持テ來タリ」宇治拾遺、十三、第八條「飯ヲ持テ「コレガ汁吸レ」盛衰記、三十五、木曾首級渡「信濃ナル、木曾ノ御料ニ、汁懸テ、只一口ニ、九郎（義經）判官」（三）ニそふる（味噌汁）ノ略、其條ヲ見ヨ。

しる（名）［醨］〔液ノ義〕酒ノ、薄キモノ。モソロ。（朝鮮語ニ、しる）龍田祭祝詞「初穗者、汁ニモ、穎ニモ、八百稻、千稻ニ」

[illegible]」

しる・るル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) [痴] (器[illegible]ノ[illegible]ル義カ)心、[illegible]ニナル。惚クル。無知ナリ。愚ル。萬葉集、九[十八]長歌「[illegible]」竹取物語「心地、タダしれニしれテ」源、廿一、少女「[十二]子ノ、大人ブルニ、親ノ、立チカハリ、しれ行クコトハ、何ナラヌ際ナガラ」榮花物語、八、初花「此ノ宮達、五六人オハスルニ、スベテ、しれ、頑シキガ無キナリ」

しる・ル・レ・ラ・リ・レ(他動、四) [知識] (物ノ[illegible]) (一)萬事ヲアキラム。物事ノ理ヲ、心ニ承ク。解シテアル。心得テアリ。覺アリ。見知ル。意識ス。古事記、下(仁德)長歌「根白ノ、白タダムキ、纏カズ來バコソ、知ラズトモ云ハメ」[illegible]紀、三[illegible]「[illegible]」[illegible]リテ、サヤウノおしりツル人ノ前ニテ、彈ク」「老馬、[illegible]」(二)[illegible]ニテアリ。知リ合フ。面識 相識 枕草子[illegible]リタル人ノ許、ナホザリニ書キテヤリタルニ」千載[illegible]

しる・レ・レ・ル・リ・レ(他動、四) [領] [illegible] 知領 [illegible]サドル。占ム。領ス。領ズ。ウシハク。[illegible]ノ方コソハ、しり給フベケレバ、彼ノ宮ノ御料トモ[illegible]ハ、[illegible]二、しる所アリケルニ、云云、狩ノ方ニ行キケリ」[illegible]ヤウニ、後モ亡セニケレバ、云云、しる所ナドモ無ク[illegible]

[illegible]ド、賜ビタリケルトナン」

しる・るル・ルレ・レ・レ・レヨ(動) [被知] 知ラる。受身相動詞ノ約、他ノ知ルコトトナル。口語ニ、しれル。[illegible]伊勢物語、第五段「人知れヌ、我ガ通路ノ、關守ハ」[illegible]ニ、淡貧ル娘子ノ、妻戀ニ、己ガ邊ヲ、人ニ令知ツツ」[illegible]

しるあめ (名) 汁飴 みづあめニ同ジ。[illegible]

しるかけめし (名) 汁撒飯 汁物ヲ撒ケタル飯。茶漬飯ナドノ類。倭爾雅、六、[illegible]

しるかゆ (名) [汁粥] かゆノ條ヲ見ヨ。

シルク・ハット (名) 英語、Silk hat. 禮帽ノ一種、頂、平ニシテ、鍔アリ、山ノ、極メテ高キモノ。絹帽

しるけ・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [著] シルクアリ。イチジルシ。明白ナリ。萬葉集、十[二]「[illegible]ガ、露ノ知家口」

しるこ (名) [汁子汁粉] (汁ノ實ヲ、子ト云フ) 赤小豆ノ餡ヲ、汁ニ溶キテ煮タルモノ、小サキ燒餅ヲ入レテ、食フ。シロコ。しるこもちトモ云フ。(今ハ、御膳しるこ、田舍しるこナド、アリ) 俳諧の發句(昭巴)「もち雪ノ、落チクル道ハ、しるこカナ」寛永發句帳「芋ノ子モ、食フヤしるこノ、もち月夜」油糟(寛永、貞德)「しるこノ餅ハ、箸ソヘテ出セ」洞房語園(享保)饅頭賦「汁粉もちハ、上戸ニ叱ラレ」

しるこう (名) 汁講 人ヲ招クニ、客、銘銘ニ、飯ヲ持參シ、主人、汁、一品ヲ出シテ、饗スルコト。[illegible]位亭、有汁」落穗集「小身ナル武家、云云、何ゾ、肴ノ一種モ求メラレ候ヘバ、云云、人ヲ招シ、[illegible]中「昔世ニ、汁講ト云フ事アリ、ソノ樣子ハ、客ヲ請[illegible]ドニ入、携ヘ來リ、亭主ハ唯、汁一色ノミ拵ヘ、能時分、[illegible]テハヤシテ、[illegible]無ケレドモ、興ニ入、咄シ候由」

しるこぼし (名) 屋形船ノ、稍、小サキモノ、屋形船ノ條ヲ見ヨ。花暦八笑人、文政、猫亭鯉丈)五編、下「私ガ傍ニ付ケテ來タ汁こぼしハ、神田川ノ船デ、船頭ハ、私ガ友達サ」

しるこもち (名) [汁粉餅] しるこヲ見ヨ。

しるし (名) [標印徵籤符契證] [記すノ活用、記しノ義] (一)[シルスコト。物ノ、他ト紛レヌ、心覺エトナルモノ] 源、四、夕顏「頭中將ノ隨身、ソノ小舍人童ヲナン、しるしニ[illegible]」枕草子、五、四十七段[illegible]ナリ、何ヲカしるしニテカ、云云」同、十、百十六段、蛇ノ雌雄ヲ識別シ「しるし附ケテ、遣シケリ」 (二)[證トナルモノ] 證據。[illegible]取リカヘテ、出テ給ヒヌ」平家物語、九、河原合戰事「紙ヲ、廣サ一寸許リニ切ッテ、左卷ニ卷キタル、コレゾ、今日ノ大將軍ノ印トハ見エシ」 (三)紋所。徽號「家家ノしるし」 (四)[キザシ。サガ。氣] 前表 瑞兆 [illegible]シ留シ」孝德紀、大化元年十二月「鼠向[illegible]之兆也」仁德紀、元年正月「是何瑞也、大臣對言、吉祥也」 (五)[契] 割符 [illegible] (六)

首級 [illegible]しるしの帶トハ、イハタオビ。源、四十八、寄生[illegible]チ給フしるしのおびノ、引キ結ハレタル程ナド」

しるし (名) [璽] [前條ノ語意ニ同ジ] 三種ノ神器。允恭紀、元年十二月[illegible]

しるし (名) 效驗 [一次條ノ著しニ通ズ] キキメ。カヒ。功能 利益 效驗 垂仁紀、九十九年七月「臣雖生之、亦何益矣」萬葉集、三[十六]長歌「戀フレドモ、効ヲ無ミト」同、四[三十]長歌「嘆クトモ、知師ヲ無ミ」同、三[四十]「後ニ悔ユトモ、驗アラメヤモ」同、三[三十]「驗無キ、物ヲ思ハズハ、一坏ノ、濁レル酒ヲ、飲ムベクアルラシ」(驗ハ、益ノ意) 同、十五[四十]「秋ノ野ヲ、匂ハス萩ハ、咲ケレドモ、見ル之留思(驗ノ意)ナシ、旅ニシアレバ」同、十五[二十]長歌[illegible]同、十八[十七][illegible]留事アリ」宇津保物語、樓上、下「佛ノ御しるしモアラント、嬉シウオボス」枕草子、一、第四段「驗者、云云、しるシアル驗エ、出デ來ヌレバ、此處、彼處ニ招バレ、時メクニツケテ、易ゲモ無シ」源、五、若紫「加持ナドセサセ給ヘド、しるし無クテ」

しる・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) [著] [知るノ活用、前條ノ效ト通ズ、明白ノ義] 際立チタリ。アキラカナリ。明白ナリ。イチジルシ。著明ナリ。シルケシ。齊明紀、四年五月「今城ナル、小山ガ上ニ、雲ダニモ、旨靈倶シ立タバ、何カ歎カム」允恭紀、八年二月「吾ガ夫子ガ、來ベキ夜ナリ、ササガネノ、蜘ノ行ヒ、今夜著シモ」萬葉集、八[illegible]「心モ[illegible]照ル月夜カモ」同、十八[illegible]「大伴ノ、遠ツ神祖ノ、[illegible]人ノ知ルベク」源、三十一、槇柱[illegible]「愛デテ、サザメキ騷ク聲、イトしるし」古今集、一、春、上「梅ノ花、

匂フ春邊ハ、クラブ山、闇ニ越ユレド、しるくゾアリケル」貫之集、上「篝火ノ、影しるけれバ、ヌバ玉ノ、夜川ノ底ハ、水モ燃エケリ」狹衣、一、上三十「君モ、顏ノ氣色ヤしるかラムト思セバ、立チ給ヒヌルニ」

しる・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [泥濘] 〔汁ヲ活用セシモノカ〕雨降、又ハ、水撒ノ後、ヌカル。宗五大雙紙、騎馬の事「道ノしるき時ハ、返シ殿立ヲ取ルベシ」「道ガしるい」(京都)

しるし-がね (名) [印金] 江戸時代ニ行ハレタル、金ト、錢トノ空相場。幕令彙抄、一「常地(大坂)兩替トモ之内、印し金ト名付、正金ニ而無之帳合金ヲ賣買致シ候者有之、不埒ニ付」

しるし-ちゃう (名) [首帳] くびちゃう(首帳)ニ同ジ。甲陽軍鑑、九、下、品第廿一「信州衆ヲ討取申、其數、漸、雜兵共ニ、百七十二ノしるし帳ヲ持テ、同、子ノ時、勝時ヲ執行給フ」

しるし-のき (名) [驗木] へんゐ(版位)ニ同ジ。名義抄「版位、シルシノキ」江家次第、五、列見「丞仰云、驗乃木置介、省掌、稱唯」

しるし-の-すぎ (名) [驗杉] 大和ノ三輪神社ニアル杉。古今集、十八、雜、下ニアル「我ガ庵ハ、三輪ノ山本、戀シクバ、訪ラヒ來マセ、杉立テル門」ト云フ歌ヨリ、名アリ。拾遺集、八、雜、上「三輪ノ山、しるしの杉ハ、アリナガラ、教ヘシ人ハ、亡クテ幾世ゾ」續後撰集、十五、戀、五「三輪ノ山、しるしの杉ハ、ワカズトモ、誰レカハ人ノ、我レヲ尋ネム」又、山城ノ稻荷ノ社ノ傍ニアル杉ノ枝ヲ、詣ヅル者、折リ採リテ、歸ル。其杉、久シク枯レズアレバ、祈ノ驗アリトシ、枯ルレバ、納受ナシト定ムル、慣習アリキ。新六帖、一「二月ヤ、今日初午ノ、しるしトテ、稻荷ノ杉ハ、元ツ葉モナシ」

しるし-の-やま (名) [標山] 大嘗祭ノ、悠紀、主基ノ國郡ヨリノ、神饌供御ノ料ヲ、京都ニ運ブ時、其國郡ノ名ヲ書キタル建札、種種ノ造物ヲ附ケテ、盛ンニ飾レルモノ。後ノ山鋒、山車、コレニ起ル。ヒヲノヤマ。代初和抄、大嘗會事「標山ト云フハ、大嘗宮ノ前ニ、兩國ノ國司、列立スベキ所ノしるしの木ニ、大ナル山ヲ作リ、サマザマノ作物ヲ飾テ、是ヲ立ル事アリ」

〜**しるし-ばかり** (副) 少シバカリ。イササカ。宇津保物語、樓上、下四十「猶、しるしばかり宣ヘト、切ニ宣ヘバ」同、藏開、上廿二「しるしばかり打チホノメク、蒜ノ臭ナドハ、事ニモアラズ」源、十七、繪合四「しるしばかりモ聞エサセ給ヘ」

しるし-ばんてん (名) [印半纏] [印半天] カンバン。記號、定紋ナドヲ、白ク染拔キタル半纏、下部、出入ノ者ナドニ着ス。[號衣] 守貞漫稿、十四、男服「江戸ニ、木綿ノ印半天アリ、印ハ、標目ヲ云也、云云、地紺、紋白也、鳶ノ者、或ハ、大工、左官、諸他業ニ因テ、平日モ著」之、又、火場ニハ、下賤輩、專ラ著」之、單アリ、袷アリ、因云、定紋、家紋ト云、又、印ト云、共ニ、記號也、紋ト云ハ、源氏ハ笹龍膽、平氏ノ蝶ノ類ヲ云、印ト云ハ、幕府ノ日ノ丸、紀州家紀字、尾州家⑧等ヲ云、市民モ如」此、家號有」縁ノ字、或ハ、戸主過稱ノ一字、或ハ、無因ニテモ、大字、上字、等ヲ、□○ノ中ニ書キ、或ハ「〈〈」等ヲ附るハルモノヲ、しるしト云也、木綿半天ノ大紋ト云ニハ、專ラ、此印ヲ描ク」

〜**しる-しる** (副) [知知] シリツツ。シリナガラ。伊勢物語、五十二段「昔、男、色好トしるしる、女ヲ逢ヒ云ヘリケリ」後撰集、十三、戀、五「夏蟲ノ、しるしる惑フ、思ヒヲバ、懲リヌ悲シト、誰レカ見サラム」同、十四、戀、六「會フ期ナキ、身トハしるしる、戀ストテ」源、三十四、下、若菜、下八十四「カク、人ヅテナラズ、憂キ事ヲしるしる、アリシ隨見奉ランヨト、我ガ心ナガラモ、エ思ヒ直スマジク思ユルヲ」

〜**しる・す・ス・セ・サ・シ・セ** (他動、四) [記] [書] [誌] [註] [識] [錄] [署] (一)記憶シテ知ルタメニ、書キツク。萬葉集、廿廿六「常陸サシ、行カム雁モガ、我ガ戀ヲ、志留思テ附ケテ、妹ニ知ラセム」源、三十四、下、若菜、下四百「何事モ、人ニ異ナル差別ヲバ、しるし傳フベキナリ」天治字鏡、三十「誌、識也、志留志」(二)前兆ヲ、示ス。吉キ兆ヲ、豫ネテ表ハス。[徵] 萬葉集、十七四「新シキ、年ノ初ニ、豐ノ年、思流須トナラシ、雪ノ降レルハ」(三)覺エテ居ル。記憶ス。古今集、十九、長歌、「積レル年ヲ、しるせレバ、五ツノ六ツニ、ナリニケリ」

〜**しるす-つかさ** (名) [外記] 太政官ノ判官、記錄ノ事ヲ掌ル、大外記、少外記アリ。外記。倭名抄、五一職官部「大外記、於保伊之流須豆加佐」

しる-つぎ (名) [汁注] 〔飯注ニ對ス〕汁ヲ、注グモノ。汁瓶(會典)

しる-づけ (名) [汁漬] 汁ニ漬ケタルモノ。(海産物ナド) 江家次第、十五、踐祚大嘗會「內膳司高橋朝臣一人、執」鰒汁漬、次」之、安曇宿禰一人、執」海藻汁漬、次」之」

しる-ふっとう (名) [汁納豆] ふっとう(納豆)ノ條ヲ見ヨ。

しる-なます (名) [汁鱠] 鱠ヲ、汁ニナシタルモノ。定家朝臣記、康平五年正月廿日「有二大饗事、云云、此間、羞二汁物一」注「汁膾、雉燒物」廚事類記、汁物「依」時調美不」同也、或供二鳥羅汁、或供二鯛汁鱠、然而近代多供二鮑汁、可」爲二佳例一歟」

しる-ひと (名) [知人] しりびと(知人)ニ同ジ。宇治拾遺、四、第五條「言ヒ語ラヒテ後ハ、常ニ行キ通ヒツツ、しる人ニナムナリニケル」

〜**しる-へ** (名) [後方] しりへノ訛。ウシロノカタ。古ヘノ東國ノ方言。萬葉集、廿十三、下總葛飾郡防人ノ歌「行コ先ニ、浪ナ音動ヒ、志流敝ニハ、子ヲト妻ヲト、置キテトモ來ヌ」

〜**しる-べ** (名) [導] 〔知る方ノ義〕(一)致ヘ知ラスルコト。ミチビキ。指南。名義抄「指南、シルベ」拾遺集、八、雜、上「闇ヨリ、見ユル長柄ノ、橋柱、昔ノ跡ノ、しるべナリケリ」盛衰記、廿五、小督局事「琴ノ爪音ヲ指南トシテ、ナドカ、尋ネ逢ヒ進ラセサルベキ」(二)行ク手ノ路ヲ、案内スルコト。又、其人。ミチシルベ。[嚮導] [導者] 古今集、一、春、上「花ノ香ヲ、風ノ便リニ、タグヘテゾ、鶯誘フ、しるべニハ遣ル」源、五十三、夢浮橋廿「法ノ師ト、尋ヌル道ヲ、しるべニテ、思ハヌ山ニ、踏ミ惑フカナ」拾遺集、十八、雜賀「濃紫、垂レ引ク雲ヲ、しるべニテ、位ノ山ノ、峰ハ尋ネム」

〜**しる-べ** (名) [知邊] 〔前條ノ語原ニ同ジ〕交リテ、相、知レル方。緣アル人。知人。[知緣] 古今集、十一、戀、一「知ル知ラヌ、何カアヤ無ク、ワキテ云ハム、思ヒノミコソ、知るべナリケレ」後撰集、十四、戀、四「思ヒツツ、經ニケル年ヲ、知るべニテ、馴レヌルモノハ、心ナリケリ」

しるべ-がほ (名) [導顏] 案内ヲナス樣子。十六夜日記(阿佛尼)「濱千鳥、イト多ク先立チテ行クモ、しるべ顏ナル心地シテ」續拾遺集、十三、戀、三「厭カナクニ、マダ夜ヲコメテ、歸ルサノ、知るべ顏ナル、月モ恨メシ」

〜**しる-まし** (名) [怪] 〔知るあらましノ略〕兆。前表。仁德紀、六十年十月「今視二是怪一者、甚憾」之」崇神紀、十年九月「聰明叡智、能識二未然一、乃知二其歌怪一」神功稱制前紀、忍熊王「謂二倉見別一日、是事大怪也」三代實錄、十六、貞觀十一年十二月十四日「隱岐兵庫等上稱、依」有二大鳥之怪一天一」同、四十六、元慶八年十月三日「以下雨二石鏃一之、怪、見二兵役之凶一也」

〜**しる-もの** (名) [汁物] 味附ケタル汁ニテ煮タルモノ。アツモノ。吸物。宇津保物語、藏開、上四十五「御しる物、御ミキ、度度、參リヌ」枕草子、十二、百五十六段「匠ノ、物、食フコソ、イトアヤシケレ、云云、持テ來ルヤ遲キト、しる物、取リテ、皆、飲ミテ、土器ハ、ツイ据エツツ、次ニ、菜ヲ、皆、食ヒツレバ、御飯ハ不用ナメリト見ル程ニ、ヤガテコソ失セニシカ」著、今昔物語、廿八、第十七語「平茸ヲ、汁物ニセサセテ、云云、食ヒテケリ」

シルリング (名) [illegible]

しるわん (名) [汁椀] (飯椀ナドニ対ス) [illegible] 汁ヲ盛ルモノ。[illegible] ノ盛ニシ挽、盛ノしるわんニテ、汁ヲ可レ盛」

しるゐ (名) [子類] 支那ノ書籍ノ分類法ノ一。[illegible] 老子、荘子、孫子、韓非子ナドヲ法家、墨子、列子、淮南子ナドヲ雑家ト云フ。諸子。

しるゐ (名) [士類] 士人ノ流派。士人ノ仲間。[illegible]

しるゐ (名) [支類] 支系ノ流派。支流ノ仲間。[illegible]

しれ (名) [痴] 痴ルルコト。痴レタルモノ。バカ。宇津保物語、嵯峨院八十「アナしれや、同ジ心ナリケム人ヲ、何ニ似ミテ、云云」栄花物語、十三、玉村菊「男ハ、女一人ノミヤハ持タル、しれノ献さ」

しれい (名) [四霊] 四ツノ、霊妙ナルモノ。下ノ出典ヲ見ヨ。礼記、礼運篇「何謂二四霊一 [illegible]」

しれい (名) [使令] (一) 指図シテ、使フコト。[illegible] (二) 使者 [illegible]

しれい (名) [指令] 願ひ、伺ひ、ナドノ文書ニ、官ヨリ示ス指図。「上司ノ指令ヲ仰グ」

しれい (名) 司令 指図スルコト。指揮、統率。

しれい (名) [市令] いちのかみ (市正) ノ [illegible] 南史、[illegible]「於二苑中一立二市 [illegible]」

しれい (名) [砥礪] [illegible] (一) トイシ。山海経「崍嶇之山、其中多二砥礪一」(二) トギ、ミガクコト。研窮 (磨励、品性ナドヲ) [illegible]

しれい (名) 時令 四時ノ季節ニヨリテ行フベキ、儀式ノ作法。年中行事。[illegible]

しれい (名) [辞令] (一) 官ニ任ジ、職ニ補スル時、其旨ヲ記シテ授クル文書。(二) 応対ノ言葉。[illegible] 明二於治乱一嫻二於辞令一」「辞令ニ巧ミナリ」(三) 詩文ノ文。[illegible]

しれい (名) [事例] 事実ノ先例。實例。[illegible]

しれいたふ (名) [司令塔] 軍艦ニテ、艦長、又ハ、司令官ノ、上リテ指揮スル、甲板上ノ小高キ所。

しれう (名) [史料] 歴史ノ材料。[illegible]

しれう (名) [思料] しりやう (思量) ニ同ジ。

しれう (名) [資料] モトトナル シナ。材料。原料。

じれう (名) [時料] 時服ノ料。[illegible] 七、祇王祇女仏前事「衣裳、絹布ノ類ヲ、送遺スノミニ [illegible]」

しれがま・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 痴レタルラシ。バカクサシ。[illegible]「世ノ中ノしれがましき名ヲ取リシカド、堪ヘ [illegible]」[illegible] ズ宣ヘバ」

しれごと (名) 痴事 白事 (白ノ字ハ、白痴ノ意) 痴レタルコト。愚ナルコト。[illegible] 白河亭「イカデ、汝レ程ノ奴メハ、大臣家ヲバ、忝クウニタメスゾ」今昔物語、廿八、第一語「昔ヲモエ聞キ知ラデ、嗚呼ヲフルマヒテ、人ニ咲ハルルハ、イミジキ白事ニハアラズヤ」同、三十三語「本ヨリ、片白レタリケル男ノ、云云、好ミケレバ、カカル白事ヲモ [illegible]」

しれごと (名) [痴言] 痴レタル言ノ葉。[illegible] ラルルゾト問ヒケレバ、しれごとナ云ヒソ」

しれ・しれ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 痴痴 甚ト、痴レタル状ナリ。[illegible] 落窪物語、一、下「アナしれしれしノ世ヤト、打チムツカリテ行ク」

しれしれと (副) [痴痴] 甚ト、痴レタル [illegible]

[illegible] 六十五段「誰レガ文ヲ、誰レガ取ラセシゾト言ヘバ、しれしれと打チ笑ミテ、トモカク言ハデ、走リニケリ」

しれだ・す・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [痴出] 痴テ来ル。思ヒノママニナラヌヲ、怒リ出ス。[illegible]

しれった・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) (しれ痛しノ義) 懊悩ル思ヒアリ。モドカシ。シンキクサイ。ハガユイ。イライラシ。[illegible]

しればむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 痴レテ見ユ。[illegible]

しれびと (名) [痴人] 痴レタル人。オロカナル人。愚人。シレモノ。オレモノ。バカモノ。アハウ。ヲコ。ウツケ。痴漢。

しれもの (名) [痴者白物] 前條ノ語ニ同ジ。宇津保物語 [illegible]「世ニ迷ヘルしれものニテ、過シ侍ルゾヤ」[illegible] 名義抄「白人、シレモノ」字類抄「白痴、シレモノ」

しれものぐるひ (名) [痴者狂] 痴者ニテ、物狂ホシキコト。又、其人。宇治拾遺 [illegible] ぐるひトハ知リタリツレドモ、云云」

しれゆ・く・ク・ケ・キ・ケ (自動、四) [痴行] 痴レテ行ク。愚ニナル。老イ老ク。[illegible] 廿一、少女「子ノ、大人ブルニ、親ノ、立チカハリ [illegible]

れゆく事ハ、イクバクナラヌ齢ナガラ、カカル世ニコソ侍リケレ」

✣✣しれる (動) [知] しる(知、受身相)ノ口語。 狂言記、寶笠「知ラヌ事ハ、ヨバハレバ知れるサウナ」

✣✣しれる・レル・レレ・レ・レヨ (自動、下二) 心イラレス。思ヒノ如クナラヌヲ、悶エ怒ル。タジレル。 [懊惱] [焦燥] [焦慮]

しれわらひ (名) [痴笑] 痴レタルヤウニ笑フコト。シラワラヒ。 義經記、八、衣川合戰事「アノ法師、我レ等ヲ討タムトテ、此方ヲ守ラヘ、しれわらひシテアルハ、唯事ナラズ、近ク寄リテ討タルナ」

(一)しろ (名) [白] (著キ色ノ義カ) 色ノ名、雪ノ如キ色。サレド、物理學ニテハ、色トセズ、七色ノ、一ツニ混合シタルモノトス。 萬葉集、十六廿「駒ツクル、土師ノ志婢麻呂、白ニアレバ、サモ欲シカラム、其ノ黑色ヲ」 山家集、下「烏崎ノ、濱ノ小石ト、思フカナ、しろモ雜ラヌ、菅島ノ黑」 白黑をわくるトハ、善惡ヲ判ツ。

しろ (名) [代] (標ノ、しりト約リ、しろト轉ジタルカ) (一)(其用トナルモノ。其料ノモノ。 萬葉集、十四三十九「苗之呂ノ、小水葱ガ花ヲ、衣ニ摺リ、馴ルルマニマニ、何カ悲シケ」 榮花物語、三十六、根合、廿少女ノ、山田ノしろニ、降リ立チテ、急ゲヤ早苗、室ノハヤワセ」「壁しろ」 (二)(其代リトナルモノ。カハリ。 萬葉集、八九五「櫻ラヒ、雪モ降ラメカ、梅ノ花、咲カヌガ代ニ、添ヘテダニ見ム」 拾遺集、七、物名「鶯ノ、鳴カムしろニハ、我レゾ鳴ク、花ノ匂ヤ、暫シ止マルト」 (三)其物ノ代ハリトシテ渡ス金錢。 [價] 代物。 盛衰記、十一、有王俊寛問答事「硫黃ヲ取ッテ、商人ノ舟ノ着キタルニ取ラセテ、形ノ如ク、代ヲ得テ、日ヲ送リ、命ヲ繼ギシカドモ」「身ノしろ」 (四)(物トナルベキモノ。サネ。ガネ。 [實] 神代紀、十年九月、物實(注「此云、物能志呂二」

祝詞、遣唐使時奉幣「禮代」 出雲國造神賀詞「神ノ禮自利」「母しろ」「机しろ」 (五)界ヲ限リテ、定メタルコト。區域 「御戸しろ」「田ノ幾しろ」

(二)しろ (名) [代] (敷廣ノ意) 田ヲ作ルベク、墾リシ土地。田作リノ料ノ地。上古、高麗尺ノ、方、六尺ヲ歩トシ、五歩ヲ代トス。 政事要略、五十三、雜田事「令前租法、熟田五十代、租稻一束五把、以二大方六尺一爲レ歩、歩内得二米一升一(此大升也)二百五十歩爲二五十代一」(五十代、卽チ、和銅步法ノ一段ノ地) 拾芥抄、中、末、田籍部「凡田、以二方六尺一爲二一歩一云云、積二七十二歩一爲二十代一」 仁德紀、十四年十一月「四萬餘頃之田」 天武紀、下、十二年十一月、土左國田苑五十餘萬頃」 上宮法王帝說「播磨國、揖保郡、佐勢地、五十萬代」(壹萬町ナリ) 萬葉集、八四十五「タダナラヌ、五百代小田ヲ、苅リ亂リ、田ブセニ居レバ、都シ思ホユ」

しろ (名) [城] (山背國ヲ、延暦年中ニ、山城國ニ改メラレシヲ、舊稱ニ因リテ、しろト訓ミ來リシニ起ルト云フ) 古言、城。敵ヲ防ガムガ爲ニ、四方ヲ堅固ニ構ヘタル、一區ノ地ノ稱、外ニ、土石ノ郭、堀、ナドアリ、內ニ、家アリ、兵ヲ屯シテ、住ム。 十訓抄、上、第一、第六條「妻ノ敵ニ攻メラレテ、城モ破レ、兵モ悉ク打失ニケリ」 紀略、前篇、十三、延暦十三年十一月、詔「山勢實合二前聞一云云、此國、山河襟帶、自然作レ城、因二斯形勝一可レ制二新號一宜レ改二山背國一爲二山城國一又、子來之民、謳歌之輩、異口同辭、號曰二平安京一」

しろ (名) [質] 性質。氣質。氣性。 宇治拾遺、三、第一條「大太郎ガ捕ラレテ、ムサノしろノ恐ロシキ由ヲ語リケルナリ」

しろ (名) [支路] (幹路ニ對ス) エダミチ。ワキミチ。 [旁徑]

(一)しろあさごろも (名) [白麻衣] 白キアサゴロモ。 萬葉集、七廿九「カニカクニ、人ハ云フトモ、織リツガム、我ガ機物ノ、白麻衣」

しろあしげ (名) [白葦毛] 葦毛ノ、白ミ多キモノ。しらあしげ。 [白驄] 保元物語、一、義朝白河殿夜討事、爲朝「白葦毛ナル馬ニ、金覆輪ノ鞍置テ、乘タリケルガ」

しろあづき (名) [白小豆] 赤小豆ノ、子ノ色、白キモノ、洗粉ニ用キレバ、しやぼんまめトモ云ヒ、又、菓子ノ白餡ナドトス。 [白豆]

しろあと (名) [城址] 昔シ、城ノ在リシ地。「赤蕃ノ城あと」

しろあぶら (名) [白油] 白胡麻ヨリ取リタル油。シラシボリ。

しろアン (名) [白餡] あん(餡)ノ條ノ(二)ヲ見ヨ。

しろあり (名) [白蟻] 又、しらあり。蟻ノ一種、溫度高ク、濕氣多ク、空氣通ゼザル所ニ多シ、家ノ土臺木、柱ノ根ノ內部ヲ、初トシテ、木造物、文書、布帛、革細工物、蔬菜、果樹、等ノ根髓部ヲ犯サレ、蝕害、甚シキモノナリ。之レヲ防グニハ、けれおそうと油ヲ塗ルヲ可トスト云フ。(寒國ニハ、少ナシ)

しろいし (名) [白石] (一)石ノ、色、白キモノ。(二)碁石ノ白キモノ。黑石ニ對ス。ごいしノ條ヲ見ヨ。

(一)しろいもの (名) [粉] しろきものノ條ヲ見ヨ。

しろいものうり (名) [粉賣] 白粉ヲ賣ル人。 七十一番職人盡歌合、十四番「しろいものうり、白ケモ、中ムモ、我ラモ召セ、イカホト佳キ御しろいガ候ゾ」

しろうすやう (名) [白薄樣] (一)白キ、薄樣ノ紙。(二)五節ノ舞姫ノ、衣ノ、薄ク透キ徹リテ、美クシキ狀ニ喩ヘタル語。 盛衰記、一、五節夜闇討事「彼ノ舞ノ手ヲ撲シツツ、雲ノ上人、舞フトカヤ、其ノ時拍子ニハ、白薄樣、厚染紫ノ紙、卷上ゲノ絲、楠繪書キタル筆ノ軸ヤト、囃スナリ、仙女ノ衣ノ、薄ク透キ通リテ、鬱シキ有樣ガ、薄樣ト、厚染紫ノ紙ニ、相、似タリ」

しろうちで (名) [白打出] 笠ニ云フ語、うちいでノ條ヲ見ヨ。

しろうと (名) [白人] (しろひとノ音便) 白癩ヲ疾メル人。

しろうと (名) [素人] [白人] (身分、技藝、本職ナキ人ノ意) (一)タダビト。 [庶人] [平人] (二)藝術ナドノ職業ノ人ニ對シテ、ソレヲ學バヌ人ヲ稱スル語。又、仕事ニ、經驗ナキ人、事ニ、馴レザルモノ。(黑人ノ(一)ニ對ス) (三)藝妓、遊女ナドニ對シテ、普通ノ女ノ稱。(黑人ノ(三)ニ對ス)

しろうとくさ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [素人臭] 藝術家ナドノ、未熟ノ域ヲ脫セズアリ。「しろうとくさい藝」

しろうとざいく (名) [素人細工] 素人ノ作リタル細工モノ。 [俗工]

しろうとばなれ (名) [素人離] 素人ラシカラヌコト。垢脫シタルコト。「しろうとばなれノシタ藝」

しろうま (名) [白馬] (一)毛色ノ白キ馬。アヲウマ。黑馬ナドニ對ス。 菟玖波集、廿、[illegible]「白馬ハ、泥カタニコソ、ナリニケレ、土器毛トヤ、云フベカルラン」 (二)にごりざけ(濁酒)ノ異名。「居酒屋デ、白馬ヲ飲ム」

(一)しろうり (名) [白瓜] 瓜ノ一種、春、苗ヲ

生[illegible]、[illegible]、花、[illegible]ニシテ、故ニ、冬瓜ノ如クニシテ、小サシ、實ハ、夏秋ノ間ニ、黄瓜ニ次ギテ、熟ス。黄瓜ヨリ長大ニシテ、刺ナク、色、白青シ、稍[illegible]ニシ、[illegible]。シロウルリ。京ニ、アサウリ。越瓜 [illegible]

しろうるり (名) |白瓜| 前條ノ語ニ同ジ。[illegible]白うるりト云フ名ヲ付ケタリケリ、トハ、何物ゾト、人ノ問ヒケレバ、サル物ヲ、我レモ知ラズ、若シ有ラマシカバ、北條ノ[illegible]ニ似テムトゾ云ヒケル」(比古婆衣、四ニ、白鍋ニテ、鍋ケタル意ナリト) よだれかけ [illegible]

しろうを (名) |白魚| 白魚ノ條ヲ見ヨ。

しろえ (名) |白柄| しらえ(白柄)ニ同ジ。[illegible]

しろえり (名) |白襟| (一)衣服ノ襟ノ、白キコト。(二)白キ襟ノ服 (下着、襦袢ナド)「[illegible]」

しろおどり (名) [illegible]ノ、女房詞 大上臈御名之事、女房詞「一、キジ、しろおどり」

しろガウライ (名) 白高麗 初、高麗ヨリ渡リシ故ニ名アルカト云フ 支那製ノ陶器、[illegible]ニテ製セリ、釉、乳白ニシテ、[illegible]ノ像ナド、多シ 高麗燒、白燒[illegible]

しろかが (名) |白加賀| 加賀絹ノ、白キモノ。

しろかげ (名) 白鹿毛 しらかげ(白鹿毛)ニ同ジ。

しろがさね (名) |白重| しらがさね、及、[illegible]ノ(二)ヲ見ヨ、

しろがしら (名) 白頭 能裝束ノ一種、老體ノ鬼神ナドノ被ル、白髮ノ毛。

しろかたびら (名) |白帷子| 帷子ノ、色ノ白キモノ。助無智祕抄、二孟旬「若キ上達部ハ、コノ日、[illegible]ノ大刀」

しろがね (名) |銀| (白金ノ義、黄金、赤金ニ對ス) 金類ノ一、常ニ、銀ト呼ブ、色、白クシテ、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]ク、水ヨリ重キコト、十倍半ナリ、貨幣トシ、諸ノ[illegible]トシ、黄金ニ次ギテ、[illegible]セラル。[illegible]ムニ、勝レル寶、子ニ若カメヤモ」竹取物語「東ノ海ニ、蓬萊ト云フ山アルナリ、ソレニ、しろがねヲ根トシ、黄金ヲ莖トシ、白キ玉ヲ實トシテ、樹テル木アリ」

しろがねいろ (名) |銀色| 銀ノ如ク白ク光ル色 ギンイロ ギンショク。

しろがねし (名) |銀師| 銀細工ヲスルモノ。[illegible]天文八年八月十[illegible]日[illegible]十六人[illegible]人扶持、イハイ町、安田又五郎、御太刀白銀師、二百石、[illegible]」

しろがねづくり (名) |銀造| 銀、又、鍍銀ノ金具ニテ、裝飾、或ハ、製作シタルモノ。銀裝 黄金造リナドニ對ス。[illegible]州白、特ニ銀作劍」

しろかはらげ (名) |白川原毛| 馬ノ毛色ノ名、川原毛ノ、特ニ白バミタルモノ。

[illegible]

しろがひ (名) |白貝| 色、白キ貝殼 [illegible]抄、廿五、落「月影ニ、シロコノ濱ノ、しろ貝ハ、波モ一ツニ、見エワタルカナ」

しろがまへ (名) |城構| 城郭ヲ、構へ造ルコト 又、其構へ方。[illegible]、廿七、矢矧川[illegible]」

しろかみ (名) |白髮| しらが(白髮)ノ(一)ニ同ジ。萬葉集、十七、卅「降ル雪ノ、之路髮マデニ、大君ニ、仕ヘマツレバ、貴クモアレカ」[illegible]

しろからす (名) 白烏 白キ羽毛ノ烏。[illegible]元年七月丙戌「下總國、獻ニ白烏ニ 金葉集、九、雜、[illegible]院ノ御時、近江國ヨリ、白キ烏ヲ奉リタリケルヲ」

しろき (名) |白| (白しノ名詞形) 色ノ、白キコト。(多ク、雪、霜ナドニ云フ) 白色 千載集、六、冬、[illegible]ニ、置ク霜ノ、白きヲ見レバ、夜ヤ更ケヌラン」新古今集、六、冬「[illegible]ノ、渡セル橋ニ、置ク霜ノ、白きヲ見レバ、夜ゾ更ケニケル」

しろき (名) 白酒 黒酒ノ條ヲ見ヨ。

しろき (名) |白木| 建築ニ、杉、檜ノ稱、松ヲ、黒木ト云フニ對ス (白書院、黒書院ト云フ類)

しろきぬ (名) 白衣 (一)染メヌ衣、白衣。(二)俗人 タダビト 僧ノ黒染衣ナルニ對シテ云フ語 [illegible]

[illegible]

しろきは (名) |白際| 婦人ノ化粧ニ、濃キ白粉ニテ、[illegible]ノ如キ形ニ[illegible]ルコト

しろぎは (名) |城際| 城郭ノ端、城ノ眞際。[illegible]ヨリニ仕リ」

しろきもの (名) |粉| (白き物ノ義) 古ヘ、婦人ナドノ面ニ傳ケテ、色ヲ白ク見セシメシモノ。米ノ粉ニテ製セルガ如シ 音便ニ、しろいものト云フ [illegible]ニ、雪ノ、[illegible]エタル心地シテ」榮花物語、十一、若花「大イナル硝子ヲシテ、白いもの、着物ナトヲ入レテ、出シ給ヘリケル」同、十六、本雫「顔ニハ、紅、しろいものヲ傳ケタラムヤウナリ」典藥寮式「供御白粉料、糯米一石五斗、粟一石」字類抄「粉、シロイモノ」雄略紀、七年八月「吉備上道臣田狹、云云、日、天下麗人、莫如吾婦、云云、[illegible]花[illegible]」持統紀、六年五月「[illegible]」[illegible]二(古本ニ、しろきものト傍訓ス) 賤女ノ面ニ傳クルニ用キタリト思ハルル、白粉アリ、同物カ 又、今ハ、鉛粉ニテ製シテ、おしろいト云フ。又、古へ、京都ニテ、たうのつちヲ、おしろいト云ヘリ。

しろく (名) 四六 骨牌ノ語、十ハ、皆目ナレバ、四ト、六トニテハ、目無シトナル。因リテ、極メテ好クヲ、目がないト云フ [illegible]ニ立ツ少人好」

しろぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ (自動、四) |繁動| (しりごくノ約) 動作ヲ、屢スル。「目しろ

ぐ」身しろぐ」立チしろぐ」

しろく-じ-ちゅう (句) ［四六時中］ (一)二十四時間ノ中。晝夜ノアヒダ。夜晝ワカズ。(二)始終。年中。

しろ-ぐつわ (名) ［白轡］ 鐵ニテ作リ、磨キテ、白ク光ル轡。平家物語、九、宇治川事「小總ノ鞦懸ケ、白轡ハゲ、白泡嚙マセテ」

しろく-ばん (名) ［四六版］ 西洋綴ノ書籍ノ製本ニ云フ語。長サ三尺六寸、幅二尺六寸ノ西洋紙ヲ、三十二ニ折リタル大キサナリ、製シテ凡ソ、六寸五分トナリ、仕上ノ際、周圍ヲ裁ツ、故ニ、四寸二、六寸トナル、因リテ云フ。(菊版ヲ併セ見ヨ)

しろ-くび (名) ［白首］ 白粉ヲ、頸筋ニ濃ク塗リツケタル女ノ異名。江戸時代ノ末期、明治ノ初年頃ヨリ、東京ニテハ、私娼タル矢場女、銘酒屋女、茶屋女、夜鷹、等ヲ云ヒ、京阪ニテハ、辻君ヲ云フ。

しろく-ぶん (名) ［四六文］ 漢文ノ一體、其發端、必ズ、四字ト、六字トニ成レル對句ヲ排列シテ、文ヲ成スモノ、コレヲ、駢四儷六、又ハ、四六駢儷體ト云フ、略シテ、駢儷。中間ニ、三七、五八、六八字ノ句アリ、サレド、皆、對句ナリ。漢時代ニ起リ、六朝ニ盛ンナリ。(散文ニ對ス) 十駕齋養新錄「駢儷之文、宋人或謂之四六。」宋、楊囦、道山莊四六話「四六駢儷、於文章家、爲至淺、然上自朝廷命令詔冊、下而縉紳之間、牋書祝疏、無所不用」

しろ-ぐま (名) ［白熊］ 熊ノ一種、大キサ八九尺ニ達シ、性、勇猛ナリ、色ハ、白クシテ、褐色ヲ帶ブ、寒帶地方ノ海岸ニ棲息ス。其毛ヲ以テ作リタル鞘アリ。隆摩歌(元祿、近松作)諸國鑓標「白熊ノ天目鞘、コレガ秋田ノ佐竹殿」

しろ-ぐら (名) ［白鞍］ (一)白覆輪ノ鞍。銀地ノ鏡鞍。［銀鞍］ 太平記、三十四、畠山道誓上洛事「引馬三十匹、白鞍置キテ引カセケル」(二)木地ノ鞍。平治物語、一、從三六波羅一被レ立二早馬於紀州一事「重盛、祕藏セラレケル、飛鹿毛ト云馬ニ、白鞍置テ、神馬ニ引給ヘバ」

しろ-くりげ (名) ［白栗毛］ 馬ノ毛色ノ名、栗色ニ、少シ黃バミアルモノ。著聞集、廿、魚蟲禽獸「猿、云云、白栗毛ナル馬ヲ飼ヒケル馬屋ニ至テ、件ノ馬ヲ盜ミテ」吾妻鏡、一、養和二年正月廿八日「神馬十疋、引二立庭上一俊兼候レ簀子一勘レ毛付一云云、一疋、白栗毛」

しろ-くれなゐ (名) ［白紅］ みづひきノ一種、白ト、赤ト、染分ケニシタルモノ。

しろ-くろ (名) ［白黑］ (一)しろきト、くろきト。狂言記、雙六僧「五六ノヤウナル相手モ拔キ持チ、白黑ニナッテ、追フツ捲ッツ、鎬ヲ削リ、切ッツ切ラレツ」「眼ヲ、しろくろニスル」(二)黑白。善惡。邪正。

しろ-くわゐ (名) ［白慈姑］ くわゐ(慈姑)ノ條ヲ見ヨ。東雅、十三、穀蔬「澤瀉、古俗、おもだかト云ヒシモノ、今俗ニ、しろくわゐト云フナリ、しろくわゐハ、陶弘景ガ云ヒシ、藉姑生二水田中一葉有二極狀一如二澤瀉一其根黃、似レ芋而小、煮レ之可レ啖ト云フ物ニシテ、卽、慈姑、一名、河鳧茨、一名、白地栗、一名、水萍、又、剪刀草、箭搭草、燕尾草ナド云フモノ、是也、ソレヲ、しろくわゐト云フハ、倭名鈔ニ見エシ烏芋、俗俗ニ、黑慈ナド云ヒ、此ニ、くわゐト云フ物ニ、紫、黑ノ二種アルニ對シテ云フナリ、其慈姑ハ、三瓣ノ小白花ヲ開クナリ、慈姑ノ如クニシテ、深藍色ノ花ヲ開キヌルヲモ、雨久花ナド云フナリ」

しろ-げ (名) ［白毛］ 馬ノ毛色ノ名、色、白キモノ。狂言記、目物左衞門「御馬屋、云云、額白、クロゲ、しろげ」

しろ-こ (名) ［白子］ (一)人ノ、生レナガラニ、全身ノ膚色ノ、粉ノ如ク、白キ性ノモノ、髮、褐色ニシテ、薄ク、大抵、眼モ赤クシテ、眼力、弱ク、近眼ナリ。シロッコ。シラッコ。シロビト。Q疾草紙「しろこト云フ者アリ、幼クヨリ、髮毛眉モ、皆、白ク、目ニ、黑睛モ無シ」(故事類苑、方技部、疾病) 大祓祝詞「白人」推古紀、廿年「是歲、自二百濟國一有二化來者一其面身、皆斑白」(二)魚ノ、しらこ。

しろ-こ (名) ［汁子汁粉］ しるこ(汁子)ノ訛。

しろ-こそで (名) ［白小袖］ 小袖ノ、全體、色、白キ製ノモノ。狂言記、烏帽子折「明日ノ禮ツキハ、ドウシタ物デアラウゾ、マヅ、下ニハ、白小袖ヲ召シマセウ」

しろ-ごま (名) ［白胡麻］ ごま(胡麻)ノ條ノ(一)ヲ見ヨ。

しろ-ごめ (名) ［白米］ シラゲヨネ。ハクマイ。くろごめ ニ對ス。常盤嫗物語「白米ガナ、ヒメニシテ、湯ヲモ飲マバヤ、シナシナト」

しろ-ざくら (名) ［白櫻］ (一)しらかんば(白樺)ノ異名。(二)みやまざくら(山素櫻)ノ異名。(三)襲ノ色目ノ名、表、裏、共ニ、白キモノ、又、裏ハ、紫ナリトモ云ヘリ。(宸翰抄)

しろ-ざけ (名) ［白酒］ 飲物ノ名、精ゲタル糯米ヲ蒸シ、久シク味醂ニ浸シテ、味醂ヲ加ヘナガラ、磑ニテ碾キテ成ル、色、白クシテ、甚ダ濃シ、多ク、上巳ノ雛遊ニ用キル。扶桑名處名物集、駿河「一杯デ、オカレヌ味ノ、ヨシ原ト、重ネテ通ル、不二ノ白酒」

しろ-ざたう (名) ［白砂糖］ 白ク精製シタル砂糖、さたう(砂糖)ノ條ヲ見ヨ。

しろ-さんご (名) ［白珊瑚］ 珊瑚珠ノ一種、中軸、白ク、中心、赤キモノ。我ガ四國、九州ニ産ズ。(赤珊瑚ナドニ對ス)

しろ-ざやまき (名) ［白鞘卷］ さやまき(鞘卷)ノ條ヲ見ヨ。

じろざゑもん-びな (名) ［次郎左衞門雛］ 古風ノ雛人形、京都ノ雛屋次郎左衞門(野野口立圃、寬文九年、歿)作リ始ム、往時ハ、其家、御所ノ御用ヲ勤メタリ、ヨリテ、古今雛ニ對シテ、有職雛ト云フ。又、內裏雛。(有職、正シク、衣紋ノ織出シ、優レタリ)

しろ-し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) ［白］ (一)白ノ色ナリ。古事記、上(神代)四十長歌「栲綱ノ、斯路伎腕」古今集、十九、旋頭歌「打チ渡ス、遠方人ニ、物申ス、ワレ其其處ニ、しろく咲ケルハ、何ノ花ゾモ」(二)鮮明ナリ。神樂歌、庭燎「御火志呂久燒ケ」散木集、冬「霜神ニ、袖振ル程ハ、殿守ノ、伴ノミヤツコ、御燈しろく焚ケ」

しろ-し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) ［著］ (著しノ轉) イチジルシ。アキラカナリ。萬葉集、三廿長歌「山高ミ、河遠志呂之」同、十七十六「隱沼ノ、下ユ戀ヒ餘リ、白浪ノ、イチ之路久出デヌ、人ノ知ルベク」

しろ-しか (名) ［白鹿］ 毛色ノ白キ鹿。治部省式、祥瑞「白鹿」注「仁鹿也、色如二霜雪一」紀伊國續風土記、物産、十、下「白鹿、國中、深山、稀ニアリ、享和二年、在田郡、三木庄、尾鷲ノ間、八鬼山ニテ捕ルモノ、白、及、四足ノ爪、赤シ」

しろ-しげどう (名) ［白重籐］ しげどう(重籐)ノ條ヲ見ヨ。

しろ-じし (名) ［白獅子］ 白毛ノ獅子。隆摩歌(元祿、近松作)諸國鑓標「鉤鑓ニ白獅子ノ摘毛ノ棒ハ、備中松山」

しろしぞ　(名)　白柴[illegible]　[illegible]ノ[illegible]ヲ見[illegible]

しろした（シロ・シタ）　(名)　白下　〔白ク[illegible]ノ下地ノ[illegible]〕[illegible]（[illegible]）ノ[illegible]ヲ見ヨ。

しろした　(名)　白舌　[illegible]ニ同ジ。

しろしめ・す（シロシ）・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔知食〕　知スヲ、更ニ敬ヒテ云フ語。又、しらし[illegible]　[illegible]　[illegible]　断様ノ御消息、承リワクベキ人モ、物シ給ハヌ状ハ、しろしめしタリゲナルヲ、誰レニカハト聞ユ」名義抄「[illegible]、シロシメス」

しろしやうえ（シロ・ジヤウエ）　(名)　白浄衣　しやうえ（浄衣）ニ同ジ。[illegible]十八、[illegible]、白浄衣[illegible]ニ[illegible]タル[illegible]、六人」

しろしやうぞく（シロ・シヤウゾク）　(名)　白装束　しろしやうぞく[illegible]ニ同ジ。[illegible]十七、[illegible]白装束[illegible]、[illegible]十二月十二日、[illegible]、白中宮[illegible]

しろしよゐん（シロ・シヨヰン）　(名)　白書院　〔白ハ、檜ノコト、黒書院ノ、松材ナルニ對ス、外殿ヲ白、内殿ヲ黒ト云フ類〕　江戸城中ニアリシ一大室ノ名。勅使、其外、大禮ニ、三家、三[illegible]ハ黒書院、黒漆ヲ塗レル室）ニ詰ムル、大廊下ドノ部屋詰ノ大名ハ、白書院（白木作リノ室）ニ詰ムル、又、月次、朔日、十五日ノ禮ニハ、諸大名ハ白書院ナリ。（白書院、黒書院ト云フコト、室町家ヨリ、倫樂記ナドニモ、見ユ）[illegible]

しろ・しろ　[illegible]　目ヲ立ケテ、見廻ハス状ニ云フ語　[illegible]、[illegible]、今[illegible]ハ、[illegible]、[illegible]ヘテ、此二人ノ間ニ居テ、占ノ面ヲ、しろしろ見テ居ル」

しろしろと　(副)　白白　[illegible]ト目立チテ、白キ状ニ云フ語。自我[illegible]（寶永、近松作）傾城十番斬「雪ノ光ノしろしろと、山ノ名ニ負フ[illegible]坂」

しろ・す（シラ）・セ・サ・シ・セ（他動、四）　知　〔知すト云フモ、同ジ、其條ヲ見ヨ〕（一）知ルノ敬語。知リタマフ。シラス。源、八、花宴「[illegible]ノ、[illegible]ノ上手トモ、多カルコロホヒ、[illegible]しろしメシ謂ヘサセ給ヘルナリ」（二）領シタマフ。統べ治メ、有チタマフ。シラス。[illegible]、[illegible]ろしメス」[illegible]所知食、古語云ニ志呂志女須ニ

しろすずめ　(名)　白雀　羽色ノ白キ雀。[illegible]、[illegible]云云、[illegible]、中瑞、[illegible]六、[illegible]瑞應所[illegible]

しろずみ　(名)　白炭　えだずみノ條ヲ見ヨ。

しろずみ　(名)　白墨　（一）白色ノ繪ノ具、胡粉ヲ精煉シテ、固メテ作ル。粉錠子（二）ハクボク。白堊

しろずゐしやう（シロ・ズイシヤウ）　(名)　〔白水晶白水精〕　白キ水晶、即チ、白石英ナリ。本草[illegible]、[illegible]八、[illegible]、[illegible]ノ、白キモノナリ、水精、石英、[illegible]ニハ、アラス、[illegible]」[illegible]、上[illegible]玉石「白石英、一名、白紫飛霜（出ニ丹口訣ニ）」

しろぜめ　(名)　城攻　敵城ヲ攻撃スルコト　攻城　兵法一家言、九、攻城、[illegible]ニテ、[illegible]武將中、城攻ノ上手ナルハ、毛利元就主ニ如者ナシ、然レドモ、彼主、山陽、山陰、諸州ニ於テ、數多、城ヲ攻取タルハ、大抵、臨時ノ[illegible]シテ、以後、城攻ノ[illegible]トスベキノ定法、有コト無シ」太平記、廿、[illegible]、[illegible]廿一日ニハ、黒丸ノ城ヲ攻ラレヘシトテ、堀、[illegible]、[illegible]ニ、[illegible]ヲ、[illegible]ノ人夫ニ持[illegible]サセ、[illegible]、[illegible]ヲ、[illegible]立テ、樣樣ノ資支度ヲセラレケル」

しろそこひ　(名)　〔白内障〕　そこひ（内障）ノ條ヲ見ヨ。

しろだち　(名)　〔白太刀〕　銀、又ハ、鍍銀（ギンメツキ）ノ金物ニテ、飾リタル太刀。太平記、三十二、神南合戰事「白太刀一振、聖ニ與ヘテ」同、四十、中[illegible]初[illegible]會事「[illegible]、[illegible]」[illegible]ル[illegible]ニ、白太刀ヲ帶タリ」御供古實「[illegible]キコシメシ候時、白太刀ヲ御[illegible]」[illegible]大[illegible]子[illegible]事「佩キ候太刀ハ、白太刀トテ、柄鞘共ニ白シ、柄、[illegible]ノ打鮫」

しろたなごひ（シロ・タナゴヒ）　(名)　〔白手拭〕　〔たなごひハ、てぬぐひ（手拭）ノ音轉〕　白布ノ手拭。[illegible]記、三十[illegible]、[illegible]、[illegible]ニ[illegible]タル源氏也、云云「赤サイデ、しろたなごひニ、取替テ、頭ニシマク、小入道哉」

しろたひら（シロ・タイラ）　(名)　魚ノ名。タナゴ

しろたへ（シロ・タエ）　(名)　〔白栲白妙白細〕　〔妙、細、ハ、借字、又、しらたへ〕（一）栲ヲ、其色ノ白キニ就キテ云フ語　萬葉集、三[illegible]長歌「舍人ハ、白栲ニ、服取り着テ」同、同[illegible]長歌、白細ニ、舍人裝ヒテ」（二）白栲ノ如クナルコト。又、其物。萬葉集、七[illegible]「マソ鏡、照ルベキ月ヲ、白妙ノ、雲カ隱セル、天津霧カモ」同、十五[illegible]長歌「之路多倍ノ、羽サシカヘテ（[illegible]）」古今集、十七、雜、三「白妙ノ、浪モテユヘル、淡路島山」萬葉集、廿、長歌[illegible]「之路多倍ノ、袖打チ返シ」同、[illegible]「春過ギテ、夏來ルラシ、白妙ノ、衣乾シタリ、天ノ香山」（三）轉ジテ、白キコト。萬葉集、十[illegible]「白妙ノ、カカレル雲ハ」同、十七「[illegible]ノ、羽白妙ニ、泡雪ゾ降ル」同、十七[illegible]長歌「高キ立山、冬夏ト、ワクコトモ無ク、之路多倍ニ、雪ハ降リオキテ」

しろたへごろも（シロタエ・ゴロモ）　(名)　白栲衣　白栲ニテ織レル布ニテ製セル衣。萬葉集、十[illegible]「君ニ逢ハズ、久シキ時コ、織ル服ノ、白栲衣、垢ツクマデニ」[illegible]十二、下[illegible]「[illegible]ノ、白たへ衣、今日ヨリハ、千歳ノ秋ニ、タチヤ重ネン」

しろたへ・の（シロタエ・ノ）　(枕)　〔白妙〕　衣、袖、たすき、轉ジテハ、雲、雪、等ノ枕詞　萬葉集、二[illegible]「之路多倍乃、多[illegible]長[illegible]、白妙之、衣[illegible]チテ」同、五[illegible]長歌「之路多倍乃、多[illegible]神[illegible]リカハシ」同、同[illegible]長歌「之路多倍乃、[illegible]ヲカケ」同、七[illegible]「白妙之、雲カ隱セル」新勅撰集、廿、物名、アナシニハ、コノ島ノミヤ、白妙の、雪ニ紛ヘル、浪ハ立ツラム」

しろぢ（シロ・ヂ）　(名)　〔白地〕　織物ノ、白キ地。又、其物ニ。シラヂ　拾玉集[illegible]五「唐錦、殘ル梢ノ、初雪ハ、白地ニナレル、心地コソスレ」實躬卿記、弘安八年十月十九日、住吉御幸、上皇「白地錦御單」[illegible]付ニ白生[illegible]」「白地ニ赤ク、日ノ丸染メテ」しろぢノ布帛」

しろちや　(名)　白茶　〔宣和苑貢茶錄「白茶ハ、政和二年ニ造ル」〕　灰汁ニ漬ケズ、蒸熟シテ焙リタル極品ノ茶。卯月潤色（寶永、近松作）中「茶屋テ、此方ノ[illegible]ル茶ハ、云云、白ノ白茶カ、[illegible]イタ[illegible]ジ茶カ」[illegible]一[illegible]「過分ナリ、國ノ目ノ、召シニアヒ、露ノしろ茶ヲ、賜ハリニケリ」

しろぢやうちん（シロ・チヤウチン）　(名)　〔白提燈〕　しらはりぢやうちん（白張提燈）ニ同ジ。心中刃氷朔日（寶永、近松作）[illegible]「四匁四分テ白提灯、云云、チャト、紋ヲ[illegible]、セテ來ウ」

しろちりめん　(名)　〔白縮緬〕　〔緋縮緬ナドニ對ス〕　色ノ白キ縮緬　卯月潤色（寶永、近松作）中「白縮緬ノシ、キン帶、衣ノ上ニ良カラウ」

しろづかさ（シロ・ズカサ）　(名)　代官　ダイクワン、カハリノ役人。江家次第、五、大原野祭、和舞「外

記、中二代宮二」

しろ-つき（名）［城付］大名ノ領分ノ、居城ノ附近ノ稱、「城つき寂萬石」城つき百姓」

しろ-づき（名）［白搗］米ノ、眞白ニ搗キ精ゲタルモノ。精白米　松風村雨束帶鑑（元祿、近松作）三「コレ、公家様ノ御膳米、踏ムトハ鬪ガ當ロカモ、イザ白搗ヤ、白キ肌」

しろ-つきげ（名）［白月毛］馬ノ毛色ノ名、月毛ノ、白ミタルモノ、シラツキゲ。盛衰記、三十七、忠度通盛等最期事「忠度、白鵝毛ノ馬ニ、遝雁ノ文ヲ打タル鞍置テゾ、乘タリケル」

しろ-つゝ（名）しろつゝ（白子）ノ（一）ニ同ジ。

しろ-つゝじ（名）［白躑躅］（一）躑躅ノ一種、花ノ、白色ナルモノ。（赤、紫ナドニ對ス）（二）襲ノ色目ノ名、表ハ白クシテ裏ノ紫ナルモノ（胡曹抄、藻鹽草）

しろっ-ぽ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）（一）白ミヲ帶ビタリ。「しろっぽい衣服」（二）素人臭シ。浮世風呂（文化、三馬）四編、下「隈取ト云ヒナセヘ、隈エドリダケ、古風テ、素ッぽい」

しろ-づめ（名）［城詰］〔江戸詰ニ對ス〕城中ニ、詰メ居ル コト。堀川波鼓（寶永、近松作）上「小身人ノ悲シサハ、隔年ノお江戸詰、お國ニ居テハ、毎日ノ御城詰」

しろ-づる（名）［白鶴］鶴ノ一種、形、大キク、全身、白ク、翼ノ端、僅カニ黑シ、頂ヨリ眼ヲメグリテ、淡赤ク、嘴、脚、モ、淡赤シ。シラヅル。シラタヅ。

しろ-づる（名）［白弦］〔塗弦ニ對ス〕何モ塗ラザル、弓ノ弦　今川大雙紙「塗弓ニ白弦ヲ懸ケ可カラズ、馬上ニテ不可持」

しろ-で（名）［白手］磁器ノ、白キ釉ナル製ノ名稱、白瓷器（錦手、金襴手、染付、ナドニ對ス）

しろ-と（名）［庶人］親王、諸王ナラザルモノ。庶民。平人。續紀、三十二、寶龜三年五月「廢二皇太子他戸王一爲二庶人一」

しろ-と（名）［素人］しろうと（素人）ノ約。本朝若風俗（貞享、鶴永）七「ワケ里トテ、女ノ風俗モ、しろと女ヨリハ、見ヨゲニ」

しろ-とり（名）［白鳥］ククヒ。今、ハクテウ。シラトリ。續紀、三、慶雲元年七月「下總國、獻二白鳥一」撮壤集「鵠、シロトリ」

しろ-とり（名）［城取］城ヲ、構ヘ造ルコト。築城。甲陽軍鑑、三、品第十一「山本勘介、大剛ノ者ナリ、殊更、城どり、陣取、一切ノ軍法ヲ、ヨク鍛錬致ス」

しろ-とりげ（名）［白鳥毛］白キ鳥ノ羽毛。藤原歌（元祿、近松作）諸國鐵標「コマナリノ白鳥毛、云云、安藝ノ廣島」

しろ-なすび（名）［白茄］茄子ノ、色、白キモノ。銀茄

しろ-なまづ（名）［白癜］なまづはだノ條ヲ見ヨ。

しろ-なまり（名）［白鑞］〔白鉛ノ義〕（一）錫ノ古名。なまり（鉛）ノ條ヲモ見ヨ。倭名抄、十一ノ金類「鑞、之路奈萬利」（二）シロメ。（白鑞）

しろ-なめし（名）［白滑］次條ノ語ノ略。藤原歌（元祿、近松作）諸國鐵標「白なめしノ裾ブクラ、云云、肥前、佐賀ノ御居城」

しろ-なめしがは（名）［白滑革］白クシテ、黃バミヲ帶ビタルなめし革。略シテ、しろなめし。

しろ-にせ（名）［白僞］シラジラシク、似スルコト。見エスキタル贋物。御伽名代紙衣（元文、其磧）五「至リ旦那ノ風ヲ移セバ、誰レカ、しろにせノ大臣ト思フベキ」

しろ-ぬの（名）［白布］晒シタル、白キ布、シラヌノ。齋宮寮式、年料供物「白布端帖七枚」七十一番職人盡歌合、五十八番、白布賣「しろぬの召セ、ナウ、機張モ、尺モ、ヨク候ゾ」

しろ-ぬめ（名）白絖　色ノ白キ絖。（絖ハ、絹布ノ一種）世間胸算用（元祿、西鶴）一「襦モ、本紅ノ二枚重ネ、白絖ノ足袋穿クナド、昔ハ、大名ノ御前方ニモ遊バサヌ事」

しろ-ねずみ（名）［白鼠］（一）鼠ノ一種、毛色ノ、白キモノ。續紀、九、神龜三年正月辛巳「京職、獻二白鼠一」壽門松（享保、近松作）中「白鼠ノ、富貴ト榮エルヲ、親鼠ガ見ル、嬉シサ」居行子（安永）二「白鼠ト云フモノ、吾ガ幼年ノ頃マデハ、云云、稀ナルモノニテ、云云、大黑天ノツカハシメ、ノミ思ヒ、白狐ハ、稻荷ノツカハシメト云フ心持ニテ、町人ノ手代、正直質貞ニテ、金マウクルヲ、何某所ノ白鼠ナド云ヒテミレバ、福ノ有ルヤウニ思ヒシ事ナルニ」（主人ハ、大黑、番頭ハ、鼠、白キハ、瑞祥ノモノ、白キ鼠ノ、珍ラシキ時代ニ云出シタル語）抱朴子（晉、葛洪）「鼠壽滿二百歲一則色白、能知二一年中吉凶、及、千里外事一」（二）染色ノ名。うすねずみ（薄鼠）ニ同ジ。（三）商家ノ番頭ノ、忠ナルモノノ稱。鼠ノ鳴聲、ちゅうト云フヨリ云ヘルナルベシ。コレニ反シテ、不忠ナルヲ、黑鼠ト云フ。好色一代女（貞享、西鶴）四、越後屋「年ガマヘナル男、云云、夢ニモ、十露盤、現ニ、掛硯ヲ忘レズ、京ノ旦那ノ爲ニ、白鼠ト云ハレテ、大黑柱ニ寄リソヒ」廣小路（延寶）「酒藏ノ、白鼠ナリ、上野ノ花」（酒屋ニ取リテ、花ハ、福ノ神ナル意）

しろ-ねり（名）［白練］白キ練絹。大磯虎稚物語（元祿、近松作）御狩馬揃「河原毛ノ（馬）、云云、白練ノ馬被ヲ掛ケ」

しろ-の（名）［白箆］しらの（白箆）ニ同ジ。

しろ-ばと（名）［白鳩］白キ羽色ノ鳩　續紀、一、文武天皇三年三月甲子「河内國、獻二白鳩一」治部省式、祥瑞、白鳩、云云、中瑞」

しろ-はぶたへ（名）［白羽二重］はぶたへ（羽二重）ノ條ヲ見ヨ。

しろ-ば・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［白］白色ヲ帶ブ。シロム。十訓抄、上、第三、第六條「色、白ばみタル尼ノ、影ノ如ク瘦セ衰ヘタルガ」

しろ-びと（名）［白人］シロコ。シラビト。

しろ・ふ（動）［合］〔しらふ（合）ノ轉、意、通ズ〕互ニモノスル意ノ語、常ニ、熟語ニ、突キしろふ、引キしろふ、言ヒしろふナド用キル、各條ヲ見ヨ。枕草子、四、四十三段「物語ノ、善キ、惡シキ、憎キ所ナドヲゾ、定メ云ヒしろひ、誦ジ」源、三十八、夕霧十「小サキ兒、這ヒカカリ、引キしろへバ」同、七、紅葉賀廿八「脫ガセ給ヘバ、脫ガジト爭フヲ、トカク引キしろふ程ニ、綻ビハ、ホロホロト斷エヌ」

しろ-ぶか（名）［白鱶］もだま（鮀魚）ノ一名。

しろ-ぶか（名）ふか（鱶）ノ別名。

しろ-ぷくりん（名）［白覆輪］ぎんぷくりん（銀覆輪）ニ同ジ。きんぷくりん（金覆輪）ノ條ノ（一）ヲ見ヨ。保元物語、二、白河殿攻落事、爲義、連錢葦毛ナル馬ニ、白覆輪ノ鞍置イテゾ乘ラレタル」太平記、十七、瓜生判官心替事「白輻輪ノ細絲ノ鎧」

しろ-ふぢ（名）［白藤］藤ノ一種、花、白ク、莖、葉、稍、細小ナルモノ。シラフヂ。

しろ-ぶち（名）［白斑］白キ色ノ勝チタル斑。「白ぶちノ猫」

しろふんごう (名) 白分銅 白キ色ノ分銅。[illegible]

しろへび (名) 白蛇 白キ色ノ蛇。烏蛇ナドニ對ス。中右記、[illegible]年五月十三日、今日[illegible]白蛇[illegible]

しろへり (名) 白端、白緣 白キフチ。(多ク、疊ノ、[illegible]、高麗緣ナドニ對シテ云フ) [illegible]

しろほう (名) 白保 あさくさがみ(淺草紙)ノ條ヲ見ヨ。

しろぼけ (名) 白木瓜 しどみノ條ヲ見ヨ。

しろほそぬの (名) 白細布 白色ノ細布。(ほそぬのノ條ヲ見ヨ) 江家次第、十七、御元服「又其上、覆ニ白細布一幅」注「長六尺餘」

しろぼたん (名) 白牡丹 白キ花ノ牡丹。(紅牡丹ナドニ對ス) 浦島年代記(元祿、近松作)二「白牡丹ノ[illegible]、紅牡丹ノ[illegible]」

しろほろ (名) 白母衣、白袰 白キ布ノ母衣。(黑母衣ナドニ對ス) 太平記、六、人見本間抜懸事「[illegible]ノ母衣ニ、白母衣懸テ、鹿毛ナル馬ニ乘タル武者、一騎」大坂軍記、下「天下寺口ヨリ、[illegible]レニ、云云、[illegible]白母衣[illegible]、青山信濃守[illegible]、[illegible]闕ヲ揚ゲテカカル」

しろまく (名) 白幕 色ノ白キ幕。(黑幕ナドニ對ス) 吾妻鏡、五十二、文永二年三月七日「以白幕五帖、曳廻北幷[illegible]西道」

しろます (名) 白升 木地ノママニテ、何モ塗ラヌ升。[illegible]

しろまなこ (名) 白眼 しろめ(白眼)ニ同ジ。字鏡集「眼、シロマナコ」

しろまめ (名) 白豆 大豆ノ一種、粒ノ色、白クシテ、黃ヲ帶ブルモノ、單ニ、まめ、又ハ、大豆(ダイヅ)トノミモ呼ブ。黃大豆 夏、熟スルヲ、なつまめト云フ、粒、小サクシテ、下品ナリ、豆腐ニ製ス、故ニ、さうふまめノ名モアリ。梅豆 又、秋、熟スルヲ、あきまめト云フ、粒、大キクシテ、上品ナリ、味噌ニ釀ス、故ニ、みそまめトモ呼ベリ。報秋豆

しろみ (名) 白鑞 しろめ(白鑞)ニ同ジ。七十一番職人歌合、三十二番、鏡磨「しろみノ御鏡ハ、磨ギニクク侍」

しろみ (名) 白身 (一)材、又ハ、肉ナドノ、色、白キ部。(あかみ(赤身)ノ條ヲ見合ハスベシ) (二)卵ノ中ノ、白キ液。蛋白。卵白。(たまごノ條ヲ見ヨ)

しろみがき (名) 白磨 白ク、琢ギ磨クコト。太平記、六、[illegible]、云云、[illegible]「[illegible]白磨[illegible]」

しろみそ (名) 白味噌 製法、常ノ味噌ニ同ジクシテ、但、豆ノ皮ヲ去リ、白麴ヲ用ヰテ釀スモノ、色、白ク、味、甘シ。

しろみつ (名) 白蜜 はちみつ(蜂蜜)ノ條ヲ見ヨ。

しろみづ (名) 白水 精米ヲ淅ギタル水、色、白ク、濁ル。物ヲ洗ヒテ、垢ヲ去ルナド、種種ノ用トス。淅

しろむ (名) [illegible] 牛乳 字鏡[illegible]「[illegible]、牛乳也、志呂牟」

しろ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 白 (一)白クナル。枕草子、十、百三十三段「未ダ闇クテ、ヨクモ見侍ラザリツルヲ、しろみタル物ノ侍レバ、花ヲ折ルニヤト、後メタサニ、申侍リツル」源、六、末摘花「空拭ヲシテ、更ニコソ、しろまね、ヨウナキスサビナリヤ」狹衣、三、下「女郎花、色カハリ、尾花ノ袖モ、白みワタリツツ、心細ケニ、打チ靡キタルニ」(二)しらむ(第二語)ノ(二)ニ同ジ。太平記、三十二、神南合戰事「三人張ニ十四束三伏、[illegible]マデ引テ放ケルニ、楯モ、物具モ、タマラネバ、山名ガ兵共、進カネテ、少、白うデゾ見ヘタリケル」

しろ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 白 (前條ノ語ノ他動) 白クナス。枕草子、四、四十四段「衣、[illegible]ケタリ、白クテ、[illegible]ヨ、云云、衣モしろめズ、同ジ樣ケニテアレバ」

しろ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) [illegible] 蹙シテ、液ヲ出ス。シボル。シムル。倭名抄、十二、十五「[illegible]火具、胡麻[illegible]、[illegible]收、子[illegible]之、[illegible]押、俗語、云、之路无」

しろん (名) 史論 歷史ニ關スル論說。文心雕龍(梁、劉勰)「史論序注、則師範[illegible]要」」徐鉉詩「古詩尤精與、史論皆宏致」

しろん (名) 至論 至極ノ論旨。[illegible]子、精神[illegible]「[illegible]修、文學、而不知至論之旨、則[illegible]」班固、幽通賦「[illegible]、貴聖人之至論兮、[illegible]天性而[illegible]」

しろん (名) 私論 (公論ニ對ス) ワタクシノ論。一人一己ノ論。晉書、石季龍載記「[illegible]私論之條、偶語之律」[illegible]「其惡[illegible]而點[illegible]之、以爲聞者、是、漢人之私論」

しろん (名) 詩論 詩ニ就キテノ論說。後漢書、周燮傳「始在[illegible]、而知[illegible]、十歲就學、能通[illegible]詩論」[illegible]「[illegible]年八歲、誦[illegible]詩論、目所一見、必貫於心」

じろん (名) 時論 當時ノ世論。時事ノ議論。三國志、魏志、常林傳[illegible]、林[illegible]尚虞[illegible]、[illegible]之公輔」蘇[illegible]、會合聯句「君才[illegible]、時論方[illegible]」

しろむく (名) 白無垢 (白ク、むくむくト柔カキ意) シロコソデ。むく(無垢)ノ條ヲ見ヨ。假名手本忠臣藏(竹田出雲)四「下ニ白無垢、麻上下」

しろむくでっか (名) ハオリゴロツキ。テッカモノ。

しろめ (名) 白鑞 (白むノ活用、白めノ義) 純錫(シャク)十兩ニ、鉛一斤ヲ雜ヘタルモノ、鎔シテ、銅、からかねナドニテ作レル鍋、藥鑵ナドノ內面ニ塗リツケテ、其臭ヲ防グナドニ用ヰル。又、シロナマリ。シロミ。白鑞(ビヤクラフ)。和漢三才圖會、五十九、金[illegible]「白鑞、俗、云白女、按、白鑞造法、鉛一斤、唐錫十兩、[illegible]、云云、銅器不可吃、鑄工必用之物也」[illegible]「白目者、無別用、止可[illegible]於[illegible]火[illegible]之穀、[illegible]得、[illegible]不[illegible]、[illegible]、模刻、[illegible]分明」

しろめ (名) 白女 (形、麗ハシク、身體、白きガ故ニ云フ) (一)古ヘノ遊女ノ名。古今集、八、離別「源ノ實ガ、筑紫ヘ、湯浴ントテ罷リケル時ニ、山崎ニテ、別レヲ惜シミケル所ニテ詠メル、しろめ」二中歷、十三、一能「遊女、主水、乙阿古、宮城、小鳥、白女、小乙」著聞集、五、和歌「亭子院(宇多天皇)、[illegible]院ニテ御遊有ケルニ、とりかひト云フコトヲ、人人ニ詠マセラレケルニ、あそび數多集レリ、其中ニ、歌ヨク唄ヒテ、聲ヨキ者ノ有ケルヲ問ハルルニ、丹後守玉淵ガ女、白女トナン申ケル」(二)轉ジテ、遊女ノ總稱。賣淫婦。

しろめ (名) 白眼 (黑眼ニ對ス) 睛(メノタマ)ノ、白キ部。シラメ。シロマナコ。白睛 [illegible]、二、[illegible]目「[illegible]」、[illegible]、同訓、今俗、呼ニ久路女、白眼、呼ニ之路女、云云、[illegible]、五臟六府之精[illegible]、皆上注於目、而[illegible]之精[illegible]眼、骨之精爲[illegible]子、[illegible]之精[illegible]、[illegible]之精爲[illegible]白眼」[illegible]甲乙經、作白睛」北條五代記、九、三浦介道寸父子滅亡事「荒次郎(三浦)ハ廿一歲、器量、コツガ

ラ、人ニスグレ、長、七尺五寸、黒髪有テ、血（白ナラムカト）眼ナリ、手足ノ筋骨、荒荒シク、八十五人ガカヲ持テリ」

しろめし (名) 〔白飯〕 精白米ノ飯。（麥飯ナドニ對ス）兵範記、仁平二年十二月十二日「佛供（注、白飯二杯居）之」

しろもち (名) 〔城持〕 武家ニテ、城ヲ持チタルモノノ稱。城主。 奥羽永慶軍記「城持、井、旗本諸士」

しろもち (名) 〔白餅〕 〔餡餅ナドニ對ス〕 搗キタルママニテ、何モツケザル餅。 吉野都女楠（正徳、近松作）四「ヤイ、大名トハしろもち、深草トハ鶉餅、大納言ハ赤小豆餅」

しろもの (名) 代物 （一）價ニ代フベキ商品 貨物 （二）錢、ダイモツ。 〔價錢〕 （三）人ヲ指シ云フ語。奴。 浮世風呂（文化、三馬）三編、下「悶キナ、アア云フ代呂物ダワナ」（山出シノ下女ヲ云ヘリ）「困ッタしろもの」困ッタしろもの」

しろもの (名) 〔白物〕 （一）禁裏ノ女房詞、鹽ヲ云フ。 大上臈御名之事「しほ、オイタミ、しろもの」（二）同女房詞、豆腐ヲ云フ。 大上臈御名之事「とうふ、しろもの、カベ」

しろゆもじ (名) 〔白湯文字〕 〔白地ノ腰卷ヲ着クル故ニ云フ〕 江戸時代、雜遊ノ人ノ妻ナド、往來ノ人ヲ引止メテ、ぼん屋ニテ賣淫セシモノノ稱。（天保頃ノ私娼ハ、白腰卷、公娼ハ、赤腰卷ナリシト） 皇都午睡「路側ニハ、辻君アリ、市中ニハ、白湯文字トテ、隠シ賣女アリ」（大坂、私娼ノ條） 膝路鈴口「京、ほんと町、ココノ女ヲ、白湯文字ト云フ」

しろよもぎ (名) 〔白蒿〕 〔白蓬ノ義〕 かはらよもぎ（茵蔯蒿）ノ古名、其條ヲ見ヨ。又、ゴサギリサウ 本草和名、上、十八「白蒿、之呂與毛岐、一名、加波良與毛岐」倭名抄、同ジ）

しろりと (副) チョット、物ヲ見認ムル狀、又、氣味惡ゲナル目ニテ見ル狀ニ云フ語。 瞥視 薩摩歌（元祿、近松作）下「眼ヲ開キ、ぢろりと見タル眼ハ涙」「ぢろりと睨メツケテ」

しろわた (名) 〔白綿〕 〔赤綿ナドニ對ス〕 白色ナル綿。 曾丹集「茅花拔ク、淺茅ガ原モ、老イニケリ、しろわた曳ケル、野邊ト見ルマデ」

しろゐ (名) 〔白猪〕 毛色ノ白キ野猪。 薩摩歌（元祿、近松作） 諸國鑑標「白猪ノ丸筒、裾ブクラ、云云、代代、肥後ノ御國主」

しろゑ (名) 〔白繪〕 しらゑノ轉、其條ヲ見ヨ。 増鏡、第五、内野雪「しろゑノ五尺ノ屛風、立テワタシテ」

しろを (名) 〔鮊〕 〔白魚ノ約〕 鰷殘魚ノ古名。シロウヲ。 倭名抄、十九 龍魚類「鮊、漢語抄云、之呂乎」（鮊ハ、白魚ノ和字ナリ） 字類抄「鮊魚、シロイヲ」 康頼本草、下、二十九「白魚、之呂宇乎」

しわ (名) 〔皺〕 〔萎れタルルモノノ義〕 皮、撓ミテ、其面ニ、理ノ、細カニ縮ミテ寄ルモノ。又、紙、布、帛、或ハ、波ノ面ナドニモ云フ。 倭名抄、三 五 肌肉類「皺、之和、皮細起也」 名義抄「皺、シワ」 萬葉集、五 九 長歌「紅ノ、面ノ上ニ、何クユカ、斯和掻キ垂リシ、丈夫ノ」 源、三十四、下、若菜、下 十六「老ノ浪ノ、しわ延ブバカリニ」 枕草子、二、第十七段、憎きもの「火桶、炭櫃ナドニ、手ノ裏、打チ反シ、しわ押し延ベナドシテ、炙リ居ルモノ、イツカハ、若ヤカナル人ナドノ、然ハ爲タリシ」 貫之集、上「菊ノ花、漬ヂテ流ルル、水ニサヘ、浪ノしわナキ、宿ニサリケル」 古今集、十九、長歌「浪ノしわニヤ、オボホレム」

しわ (名) 〔詩話〕 詩ニ就キテノ說話。詩ノ評判。 「歐陽修、六一詩話」

しわ (名) 〔私話〕 ヒソヒソバナシ。耳語。

しわ (名) 〔私和〕 當事者雙方ガ、法廷ニ持チ出ダサズ、示談ニテ、事ヲ濟マスコト。 賊盗律「凡祖父母、父母、外祖父母、及、夫、爲人所殺、私和者、徒三年、二等親、徒二年、三等以下親、遞減一等」

しわう (名) 〔四王〕 してんわう（四天王）ノ（一）ニ同ジ。 十訓抄、上、第一、第七條「帝釋四王、龍神八部、所モ無ク、滿チ滿テリ」

しわう (名) 〔雌黃〕 （一）〔鑛物ノ名、舶來ス、藥用トシ、古ヘ、繪ノ具トセリ、硫黃ト、砒素トノ混合シタル物ニテ、色、黃ニシテ、光ルコト、金ノ如シ、硫黃ニ似タレドモ、碎ケ易シ、今ハ、人造ノ品ニ分チテ、コレヲ、石雌黃ト云ヘリ。又、キワウ。 石黃 史記、司馬相如傳「其土則丹青赭堊、雌黃白坿」 倭名抄、十三 六 圖繪具「雌黃、一名、金液、俗云三之王、山有」金、其精、密則生雌黃耳」 （二）今、專ラ、繪ノ具ニ用キルハ、人造ニテ、亦、舶來品ナリ、樹ノ脂ニテ製スト云フ、黃赤ニシテ、塊ヲナセリ、草雌黃トモ云フ。 藤黃 晉書、王衍傳「妙善玄言、唯談老莊爲事、云云、義理有所不安、隨卽改更、世號口中雌黃」

しわうで (名) 〔皺腕〕 老人ノ、皺寄リテ、カヨワキ腕。 曾我會稽山（享保、近松作）三「母上、籌、追取、用捨モ波ノ皺腕モ、共ニ折レヨト、打立テ、打立テ」

しわうでん (名) 〔四王天〕 佛經ノ語。天部ノ一種、須彌山ノ半腹、四方ニ位シ、東ヲ持國天、西ヲ廣目天、南ヲ增長天、北ヲ多聞天ト云フ、コレラノ諸天ハ、佛法ヲ守護シ、世間ヲ護持スル故ニ、護世四天王トモ稱ス 略シテ、四王。 太平記、八、谷堂炎上事「四天ノ佛弟子、驚キ見テ、是ヲ留メントシ給ヒケルニ、片時ガ間ニ、四萬由旬ヲ飛ビ越エテ、須彌ノ半、四王天ヘ逃ゲ上ラル」

しわおやぢ (名) 〔皺親仁〕 皺寄リタル老翁。シワヂイ。 浦島年代記（元祿、近松作）「祖父ト名乘ルハ、三十許ノ若男、七世ノ孫ハ、七十餘ノ皺親仁」

しわく ・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 〔仕分〕 ソレゾレニ、別ク。區別ス。區處 「ロロニしわく」

しわくた (名) 〔皺腐ノ義〕 甚シク、皺寄リタルコト。轉ジテ、しわくちゃ。

しわくちゃ (名) 〔皺苦茶〕 前條ノ語ノ轉。

しわぐむ ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 皺むニ同ジ。 住吉物語「しわぐみ、惡サゲナル顏シテ」

しわけ (名) 〔仕分〕 （一）シワクルコト。區別。區處 （二）簿記ノ語、種種ノ取引ヲ、勘定科目ヲ定メテ、貸借ニ區別スルコト。

しわける (動) 〔仕分〕 しわくノ口語。

しわざ (名) 〔爲業〕 爲ルワザ。爲シタル仕事。オコナヒ。シグサ。所爲 行爲 神代紀、上 九「常以哭泣爲行」 伊勢物語、五十八段「イミジノ、スキ者ノしわざヤ」

しわし ・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔吝〕 「假名遣、サダカナラズ、皺ヨリ出デタル語カトモ云フ、しはしノ條ニモ、出セリ」ヤブサカナリ。吝嗇ナリ。

しわしわ (副) 撓ル狀ニ云フ語。シナシナ。

しわしわ (副) （一）水ナドノ、浸ミ出ス狀ニ云フ語。 「汗、しわしわ出ヅ」燒ケバ、しわしわ、脂出ヅ」 （二）漸次ニ、徐徐ト、物事ノ進ミ行ク狀ニ云フ語 「しわしわ締メテ」しわしわ、寒サニ感ズ」

しわちい（名）[illegible] 皺ノ寄リタル[illegible]
[illegible]
[illegible]、位
[illegible]ゼシト言ハレテ、末代ノ恥辱」

しわのばし（名）[皺伸皺延] 老人ノ慰ミ。「しわのばしニ茶屋遊ビ」

しわばら（名）[illegible] 老人ノ異名。又、[illegible]ヲ切ルノ略、老人、切腹シテ、[illegible]スル。吉野忠信（貫木、近松作）一「是ニテ、皺腹仕リ、再ビ、御所ヘハ露フジ」

しわ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ（他動、上二）[侘] [illegible]ニ艱ム。處置ニ苦シム。大和物語 [illegible] 十一段「イミジク老ケテ、物モ覺エヌヤウニテアリケレバ、しわびテ、法師ニナリテケリ」

しわふるびと（名）[皺古人] しはぶるひと[illegible]ノ訛。[illegible]、山賤ノ、サシモ、ケニ、しわふるびとト見ユルニモ」

しわ・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）[皺] 〔皺ヲ活用ス〕[illegible] シワム。[illegible] ム。シボム」萬葉集、九十段歌「若カリシ、膚モ皺ミ」[illegible]

しわんばう（名）[吝坊] 〔しわしヲ、擬人[illegible]〕[illegible] ヌハ、しわんはタン箆」

しわよ・る（自動、四）[皺寄] 皺、タタナハル。シワム。

しわ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）[撓] 〔萎るノ轉ナラム〕シワル。撓ム。シナフ。「竹ガしわる」

しゐ [illegible] 位 くらゐノ條ノ（一）ヲ見ヨ。[illegible]、云云、中文時テ[illegible]
[illegible]ニ心[illegible]ケナレバ、イト[illegible]モシケナリ」 清輔集、四位ノ後、荷前使ト云フコトニ催シケレバ、詠メル「アマタ度、霜キテ先ニ、過ギニシヲ、しゐノ持夫ニ、我レヲ思ヘル」

しゐ（名）[尸位] 〔書經、五子之歌篇「太康尸位、以逸豫、滅厥德、黎民咸貳」トアルヨリ出ヅ〕徒ラニ、其位ニ居テ、其事ヲ爲サザルコト（多クハ、尸位素餐ト併セ用ヰル、其條ヲ見ヨ）[illegible] 尸位ノ[illegible]ヲ譏レタリ」

しゐ（名）師位 僧位ノ一、大法師位 [illegible] 天平、下、[illegible]元年六月甲申[illegible]、十七、天平寶字元年閏五月、[illegible]、小田郡人丸子連宮麻呂、授[illegible]位二」

しゐ（名）[四圍] （一）四方ヨリ、取リ圍ムコト [illegible]（二）四人ニテ抱フル程ノ太サ [illegible]

しゐ（名）[四維] 「維ハ、天地ノ極隅、詩經、小雅、節父之什、節南山篇ニ「秉國之均、四方是維」又、素問ニ「不及四維」トアルニ本ヅク、小學紺珠（宋、王應麟）「四維、東南、東北、西南、西北」（一）四方。四隅。即チ、うしとら、たつみ、ひつじさる、いぬゐノ總稱 淮南子、原道訓[illegible]（二）禮、義、廉、恥、ノ稱 管子、牧民篇ニ「國有四維、云云、何謂四維、一曰禮、二曰義、三曰廉、四曰恥

トアルニ本ヅク [illegible]

しゐ（名）[思惟] 考ヘ、思フコト。オモンパカルコト。漢書、董仲舒傳「思惟往古、而務以求賢、此亦堯舜之用心也」維摩經「禪門八正道、正見、正思惟、正語、正業、正精進、正定、正念、正命」

しゐ（名）示威 威力ヲ、示スコト [illegible]

しゐ（名）[施爲] 物事ヲ、施シナスコト 施行 [illegible]

じゐ（名）[illegible] 詩經、大雅、蕩之什、召旻篇「草不潰茂」[illegible] 潰茂之潰、當作[illegible]、茂貌」 じしょ（字書）ニ同ジ
[illegible] 引ノ條ヲ見ヨ。

じゐ（名）辭彙 じしょ（辭書）ニ同ジ。

しゐぎ（名）[四威儀] 佛教ノ語、行、住、坐、臥、ノ四ツノ作法 宇治拾遺、一、第一條「念佛、讀經、四威儀ヲ破ルコト勿レ」

しゐそさん（句）尸位素餐 〔王充、論衡、量知篇「文吏空胸、無仁義之學、居住食祿、終無以效、所謂尸位素餐者也、素者空也、空虛無德、餐人祿、故曰素餐、無道藝之業、不曉政治、默坐朝廷、不能言事、與尸無異、故曰尸位」然則文吏、所謂尸位素餐者也」〕才德無キニ、位ニ居リ、功勞無キニ、祿ヲ受ク 漢書、朱雲傳「今朝廷大臣、上不能匡主、下無以益民、皆尸位素餐」

しゐん（名）[市尹] 市ノツカサ。市ノカミ。市長

しゐん（名）[四韻] （一）八句ノ詩ナリト云フ。王勃、滕王閣序「一言均賦、四韻俱成」源、廿一、少女二「博士ノ人人ハ、しゐん、タダノ人ハ、大臣ヲ始メ奉リテ、絕句作リ給フ」（二）平、上、去、入、ノ四聲

しゐん（名）子韻 發聲ノ條ヲ見ヨ。

しゐん（名）子院 禪宗、淨土宗、等ニテ、本寺ニ從屬スル諸院、稱、或ハ、塔頭、又ハ、寺中ト稱スルコトモアリ。三緣山志、[illegible]、第八子院[illegible]、子院ハ、[illegible]、本院ニ對シ、名ク、我宗ノ制掟トシテ、他山諸寺院ノ子院ニ住スレバ、[illegible]、身ニ、[illegible]、上人ノ號ヲ賜リ、年老、[illegible]タリトイヘトモ、[illegible]、[illegible]ノ次座ニ列リテ、唱導、下炬、演說、教化ヲ許サズ、シカハアレド、御當山ノ子院ハ、他寺ノ子支ニ異ナリ、一旦、學席ニ列リ、又、[illegible]ノ數ニ加ハリ、年月ヲ[illegible]、[illegible]ノ後、上人號ノ勅許ヲ蒙リ、其後、[illegible]流ノ跡ヲ補任シ、御[illegible]ノ[illegible]仕ヲ[illegible]トシ、諸侯ノ宿坊ヲ兼ヌ、何レモ[illegible]ヲ賜リ、[illegible]ヲ[illegible]チテ、小[illegible]モアリ、丘ニ、[illegible]ノ法流ヲ[illegible]シ、[illegible]ノ[illegible]ヲ亂サズ、[illegible]、學功トイヘトモ、[illegible]ヲ許サザレバ、規格、住居ヲ守リ、列座、戒臘ニヨル」

じゐん（名）[寺院] テラ 唐書、高僧傳「亦[illegible]、[illegible]寺院二」[illegible]、社寺[illegible]、四天王[illegible]、子[illegible]立ニ而、[illegible]最初ノ寺タル事ハ、普ク、世人ノ知レル所ナリ、先年、諸堂修復ノ助カトシテ、日本國中ノ諸宗ノ寺院ニ寄進ノ事アリ」

じゐん（名）[次韻] 〔文體明辯（明、徐師曾）ニ「次韻、和韻、和ニ其原韻、而先後次第、皆因之也」〕 わゐん（和韻）ノ條ヲ見ヨ 宋史、兜仲[illegible]傳「作詩[illegible]、[illegible]、[illegible]當時以爲[illegible]、[illegible]主、[illegible]遂以雨後遊蓮塘爲題、而各賦詩、一時佳會也、予[illegible]、[illegible]詩以寄焉」

しゑ（名）死穢 死者ニ觸レタルけがれ、忌服ニハ拘ハラズ、地ヲ隔テテ、親ノ喪ニ會フトモ、服ハ一年ナレド、穢ハ無

シ。(年年隨筆)又、家ノ内ニテ、人、死シタル時、同室セシハ、一日ノ死穢ナリ。死後ニ、其處へ行合ハセタルハ、(屍アリトモ)觸合ノ穢ト云フ、行水スレバ、穢無シトゾ。(鹽尻、上)

しゑ (名) 四衞　左右ノ衞士府ト、左右ノ兵衞府トノ稱。

しゑい (名) [自衞] 自ラ、防ギマモルコト。後漢書、呂布傳「卓(董卓)自知ニ凶恣一、毎懷ニ猜畏一、行止常以ニ布(呂布)自衞一」

しゑい (名) [侍衞] 貴人ニ側近シテ、護衞スルコト。晉書、嵇紹傳「王師敗ニ績于蕩陰一、百官及侍衞、莫レ不ニ散潰一」

しゑん (名) [私怨] 一人、一己ノ遺恨。私憾。私恨。列子、力命篇「賢君無ニ私怨一」左傳、昭公五年「撟レ政者、不レ賞ニ私勞一、不レ罰ニ私怨一」

しゑや (感) [よしゑやしノ略] (一)歎息ノ聲。萬葉集、四「アラカジメ、人言繁シ、斯シアラバ、四惡也吾ガ背子、奥モ如何ニアラメ」同、十一「[illegible]チハフ、神モ吾レヲバ、打棄乞、四惡也命ノ、惜シケクモナシ」(二)口惜しやト云フ意。ママヨ。萬葉集、十六「秋萩ニ、匂ヒ處サジト、思ヘドモ、思惡也アタラシ、マタ逢ハメヤモ」(三)許ス辭。縱ヤ。萬葉集、十二「我カセコガ、來ムト語リシ、夜ハ過ギヌ、思咲八更更、思リ來メヤモ」

しをさめ (名) 仕納　仕事ノ最後。事ヲナス、ヲハリ。淀鯉出世瀧徳(寶永、近松作)下「御奉公ノし納ト、存ジ立タル所ニ」

しをしをと (副) 萎萎　萎レニ萎レテ。悄悄　延慶本、平家物語、五、木馬、諸ニ泳ギ上テ、しをしをとシテ、畜生ナレドモ、年來ノヨシミ、忘レ難クヤ思ヒケム」同、六、木 女院ハ、取上ケラレサセ給ヒテ、しをしをとシテ、ワタラセ給ヒケルヲ」

しをに (名) [紫苑] [字ノ音ノ紫苑ノ轉] (一)古名、ノシ。今、しをんト云フ、次條ノ(一)ヲ見ヨ。倭名抄、廿「草類「紫苑、一名、紫蒨、和名、能之、俗云、之乎邇」古今集、十、物名、しをに「フリハヘテ、イザ故郷ノ、花見ムト、來しをにホヒゾ、移ロヒニケル」(二)又、しをん。襲ノ色目ノ名、表ハ濃キ薄色ニ、裏ノ青キモノ、又、表ハ紫ニ、裏ハ蘇芳トモ云ヒ、又、表ハ蘇芳ニ、裏ハ萌黃トモ云フ。

しをん (名) [紫苑] [本草「紫苑、其根、色紫而柔宛、故名」] (一)古名、ノシ。シヲニ。草。春、舊根ヨリ叢生ス、葉、互生シ、邊ニ鋸齒アリ、秋ニ至リ、莖、七八尺、梢ニ枝ヲ分チ、數百ノ花、傘ノ狀ヲナシテ開ク、單瓣ニシテ、形、よなめノ花ニ似テ、淡紫ニ青ミアリ。又、花ノ、黃ナルモアリ。黃菀　又、葉ノ、小サク柔カニシテ、花ノ白キヲ、小紫菀、姬紫菀、ナド云フ。女菀　(二)襲ノ色目ノ名、前條ノ(二)ニ同ジ。枕草子、七、六十八段「女房ノ裝束、云云、薄色ノ裳、しをん、萩ナド、ヲカシウ居ナミタル哉」源、廿八、野分「しをん、撫子ノ、淡キ、濃キ、袙トモ」

しをらし シキ・シケレ・シク・シク (形、二) [萎るる意ナラム] 穩順ニシテ、禮アリ。柔順ニシテ、憐ムベシ。カハユラシ。狂言記、笠下「アア、扨モ、扨モ、しほらしい事カナ」吾嬬物語(寛永、吉原)「今様ヲウタヒ、朗詠シ、扇オッ取リ、一節しほらしく舞タルヲ、大夫ト名付ケ」後日男草子(正德)「女房ノ、御所方ニ奉公セシトテ、今ニ、其ウツリアッテ、しほらしく、云云、花車ナル言ヒ方」

しをり (名) 栞[枝折] [柴折ノ略] (一)[枝折リタルモノ] 奥山ナドニ入ル人ノ、木ノ枝ヲ枝折リカケテ、道ノ目標トスルモノ。六帖、二「しをりシテ、行カマシモノヲ、會津山、晴レヌ思ヲ、何シ初メケン」(下ノ句、夫木抄、廿、入ルヨリ惑フ、道ト知リセバ」トアル、正シ) 頼政集、冬「しをりセシ、柴ノ小枝ノ、埋モレテ、歸ル山路ノ、雪ニ惑ヒヌ」拾玉集(慈鎭)一、雪「アサマシヤ、雪踏ミ分ケシ、深山路ノ、しをりヲ見レバ、梢ナリケリ」新古今集、一、春、上「吉野山、去年ノしをりノ、路カヘテ、マダ見ヌ方ノ、花ヲ尋ネム」堀川百首、雜、旅「暮レヌサキ、山ヲ出デムト、急グ間ニ、しをりヲモセデ、越エニケルカナ」山家集(西行)下「しをりセデ、ナホ山深ク、分ケ入ラム、憂キコト聞カヌ、所アリヤト」(二)文房ノ具、書物ヲ讀ミサシタル時、紙ノ間ニ插ミオキテ、後ノ目標トスルニ用キルモノ、長方形ノ厚紙ヲ、絹ナドニテ糊リ包ミ、或ハ、薄キ木ニテモ、作ル。雅遊漫錄、二、栞「此具ハ、本邦ノ制、大サ、短册ニ同ジ、頭ハ、錐シ、白紅ノ條ヲ、左糾ニシテ、付ル、厚紙ニ、絹ヲ、袋ニ縫テ入ル、書ヲ讀カケテ置時、コレヲ入ル、摺疊ヲ付ルハ、君子ノ愼シム事也、是ヲ用ユベシ」茅窓漫錄、中、枝折「文房ノ具、書紙ノ間ニ插ミオク枝折ハ、近歲ノ物ニテ、黃門義公、始テ製シタマヒ、大内ヘ獻ゼラル、後水尾帝、枝折ノ名ヲ付ケタマヒ、新古今集ニ載セタル、西行ノ歌ヲ書キツケタマフ、云云」

しをりがき (名) [枝折垣] 木ノ枝ヲ折リカケナドシテ、造レル垣。石組園生八重垣傳、上「大籬垣(枝折垣トモ云フ)、大庭モノナリ、シカシ、茶庭、又ハ、亭ノ園ナドニモ、是ヲ用ユ」

しをりど (名) [柴折戸] 木ノ枝ヲ枝折リカケナドシテ、作レル扉。書言字考節用集、二、乾坤門「枝折戸、シヲリド」紙上蜃氣「枝折戸、シヲリド」

しをりど (名) [柴折門] 柴ヲ折リカケテ作レル門。柴門

しをる ・ルル・ルレ・レ・レヨ (自動、下二) [萎] [撓ひ折るる意カ、或ハ、荒折るるノ約カト云フ] (一)撓ヒ弱ル。撓ミ凋ム。シナブ。古今集、五、秋、下「吹クカラニ、秋ノ草木ノ、しをるれバ」萬葉集、十九、四十「事繁ミ、相間ハサルニ、梅ノ花、雪ニしをれテ、移ハムカモ」新古今集、一、春、上「霜迷フ、空ニしをれシ、雁ガネノ、歸ル翼ニ、春雨ゾ降ル」夫木抄、八「五月雨ニ、しをれツツ鳴ク、時鳥」(二)勢力、弱ル。氣ヲ落ス。悄然　源、二、帚木、廿六「ムゲニ、思ヒしをれテ、心細カリケレバ」同、四、夕顏、十「イトド、カク、ツラキ御夜ガレノ、寢ザメ寢ザメ、思シしをるるコト、イトサマザマナリ」同、四十五、椎本、卅「ラウタゲナル狀ニ、泣キしをれテオハスルモ、イト心苦シ」

しをる ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [萎] [前條ノ語ノ他動] シヲレシム。シヲラス。玉葉集、五、秋、下「秋風ハ、軒端ノ松ヲ、しをる夜ニ、月ハ雲居ヲ、ノドカニゾ行ク」

しをる ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [栞][枝折] 枝折ヲナス。濱松中納言物語、一「世ノ憂サニ、しをらデ入リシ、奥山ニ、何トテ人ノ、尋ネ來ツラン」千載集、一、春、上「咲キヌヤト、知ラヌ山路ニ、尋ネ入レ、我レヲバ花ノ、しをるナリケリ」

しをる ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [撓] [撓ハセ折る意カ] 撓ハス。撓メ傷ムル。新葉集、六、冬「マキモクノ、山ニヤ雪ノ、積ルラム、アナシノ檜原、風しをるナリ」

しをる ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [責] サイナム。折檻スル。イヂメル。伊勢物語、六十五段「倉ニ籠メテ、しをり給フケレバ、倉ニ籠リテ泣ク」落窪物語、一「北ノ部屋ニ籠メテ、云云、しをり殺シテヨ」大和物語、上「しをりシテ、行ク旅ナレド、カリソメノ、命知ラネバ、歸リシモセジ」(父ノ折檻ニ逆ヒタル時ノ歌ナリ、責ヲ、路ノ栞ニカケタリ)

しをる ・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) [爲居] ナシヲル。ナス。狂言記、どぶかっちり「コレ、オ

ドレ、何事ゐをッタゾ、轉ビマシタワイノ」

すゐれあし （名） 萎足、萎レタル葉 [illegible] 萎れ萎ノ、忍ビニ燃ユル、物ヲコソ思ヘ」

すゐれば （名） 萎葉 萎レタル葉 [illegible]

すゐ・れる （自動、下二） 萎 すゐる（萎、自動）ノ口語。

す（す）　せ（せ）

す 五十音圖、佐行第三ノ假名、（さノ條ヲ見ヨ）

ず すノ濁音ノ假名。（ざノ條ヲ見ヨ）

す （名） 巣・栖 〔住居ヲ占ムル意〕（一）鳥ノ、自ラ構ヘテ、ソノ棲トシ、又、卵ヲ産ミ、雛ヲ育ツル所。通ジテ、獸、蟲、ニモ云フ。[illegible] 八、七十八段、むつかしげなるもの「鼠ノ、イマダ毛モ生ヒヌヲ、すノ中ヨリ、數多、轉バシ出デタル」（二）轉ジテ、スベテ、物ノ群リ集ミ居ル處。淵藪「盗人ノす」（三）田舍ニテ、菓子、柿子、瓜、茄子、ナドヲ持集ル市場ヲ、栖ト云フ、ソレヨリ買出シニ行クヲ、栖ニ行クト云ヒ、賣成、秋成ニ、賣リ捨ツルヲ、栖賣リト云フ、歷史ニ、引田ノ栖、伊豆栖、吉田栖、又ハ、山村小栗栖ナドアルハ、是レナルベシ。

す （名） 絢紐 〔巣ノ義カ、簀ノ義カ〕古ク、くものい。蜘蛛ノ尻ヨリ吐ク、絲ノ如キモノ、蜘蛛ノ條ヲ見ヨ。萬葉集、五[illegible]長歌「[illegible]ニハ、烟吹キタテズ、甑ニハ、蜘蛛ノ須掻キテ、飯炊グ、事モ忘レテ」

す （名） 洲 〔前前條ノ巣、栖ト通ズ、人ノ住ム所ヲ云フト云フ、或ハ云フ、清ノ義、沙ニ汚泥無キヲ云フト、或ハ云フ、洲ノ音ノ約ナリト〕（一）海、川ナドノ中ニ、自ラ、淺クナリテ、出來タル所。[illegible]（二）國ヲ、島、又、洲トモ云フ「大和島、伊勢洲」

す （名） 沙砂 〔清清シクテ、汚泥ナキ意〕すな（沙）ニ同ジ。神代紀、上「[illegible]土煑」[illegible] キリギリス、聲ハイヅクゾ、草モ無キ、白沙ノ庭ノ、秋ノ夜ノ月」

す （名） 酢醋 〔すがすがし、すずしノ意〕古名、又、カラザケ。味、酸キ、液ノ名、玄米ヲ蒸シ、熱ニ乘ジテ、麹、水ヲ加ヘ、桶ニ密閉シ、其間、時時、開ケテ、攪キマゼ、斯クスルコト六七十日ニシテ、熟シテ成リ、最初ニ搾リトリタルヲ、一番醋ト云ヒ、酸味、最モ強シ、次ナルヲ、二番醋ト云フ。其他、醸法、尚、種種アリ、或ハ、敗酒、澁柿ヨリモ製スレド、下品ナリ、食物ニ、酸キ味ヲ添ヘ、又ハ、染料ナドトシテ、用、多シ。古ヘハ、梅酢ヲ用キキ。[illegible]

す （名） 簀 〔透く意カ〕（一）竹條、又ハ、蘆葦ナドニテ、粗ク編メル席。[illegible] 抄、十[illegible]居宅具「簀、[illegible]乃古、床上藉竹名也」（二）馬尾、銅絲ナドヲ、縱横ニ、透アルヤウニ編メルモノ。アミ。羅「水嚢ノす」

す （名） 簾 〔前條ノ簀ノ義〕スダレ。源、二、帚木[illegible]「女ノ、物ヤハラカニ、掻キ鳴ラシテ、すノ内ヨリ聞エタルモ」同、四十三、竹川[illegible]「すノ内、心恥カシウ聞エレバ、心ヅカヒセラレテ」枕草子、二、廿段、「すノ内ニ、半バカリ入リタレバ」同、五、四十六段「青ヤカナル、御す」夏ノ頭額ノ鮮カナルすノ外ノ、高欄ノワタリニ」「伊豫す」簾す」

す （名） 馬尾 〔水囊ノ簀ニ用キルヨリ云フカ〕馬ノ尾ノ毛ヲ、種種ノ細工ニ用キル時ノ稱。

す （名） 鬆 〔透く意〕牛蒡、大根ナドノ心、或ハ、煮過シタル豆腐ノ肌ナドニ生ズル、極メテ細カク貫リタル、無數ノ孔。「すノ有ル大根」

せ （名） 銖 ㇱュ（銖）ニ同ジ、[illegible]

す・ス・サ・シ・セ （他動、四） 爲 〔元來、爲ノ語ハ、佐行變格活用ノモノナリシガ（次條）、轉ジテ、四段活用トナリタルナリ〕物事ヲ、ナス。「帽子ヲ被す」人ヲ宿す」花ヲ咲カさウ」

す・スル・スレ・セ・シ・セヨ （自動、左變） 爲 次條ノ、他動詞ノすニ對スル、極メテ廣キ意義ノ自動詞。アリ。起ル。感ゼラル。古事記、中（神武）[illegible]「サヰ川ヨ、雲タチ渡リ、畝傍山、木ノ葉サヤギヌ、風吹カムトす」萬葉集、十五[illegible]「[illegible]ギ出テ來レバ、[illegible]ノ浦ノ、朝下ノ潟ニ、田鶴ガ聲す、モ」同、十五[illegible]「[illegible]ノ音ハ、海少ナカモ」同、十六[illegible]「[illegible]」ヤ死ニスル、山ヤ死ニスル、死ネコソ、海ハ潮干テ、山ハ枯レ爲ス」「時雨ノ、ゐケレバ」聲すナリ」聲ハ高テ」戸ヲ叩ク音す」怪シキ心地す」

す・スル・スレ・セ・シ・セヨ （他動、左變） 爲 業ヲ行フ。ナス。イタス。手ヲ下ス。古事記、下[illegible]「[illegible]」[illegible] ケキ葉セサス物モ無シ」源、廿二、玉鬘[illegible]「動すベクモ[illegible]」[illegible] 又、濁音トナリテ、「忘ずる」「晩ずる」ずノ第一語ヲ見ヨ。

す・スル・スレ・セ・セ・セヨ （助動） 令 他ヲ使役シテ、動作ヲ起サシムル意ノ助動詞。其連續ハ、四段、奈變、良變ノ三活用ノ未然形ニ屬ク。シム、さす（令）ノ條ノ（一）ヲ併セ見ヨ。萬葉集、七[illegible]「白玉ヲ、手ニハ纏カズテ、箱ノミニ、置ケリシ人ゾ、玉令詠ル」古事記、下（允恭）長歌「足曳ノ、山田ヲ作リ、山高ミ、下ビヲ走シ勢、下ドヒニ、我ガ訪フ妹ヲ」「行カす往カす」有ラす」

す （接頭） 素 〔直ノ意カ、素ノ音ノ轉カ〕（一）物事ノ、装ハズ、被ハズ、他物ヲ加ヘズシテ、アリノママナル。ハダカ。持統即位前紀[illegible]「徒跣」浮世床（文化、三馬）二編、下「御佩刀ハ極メル、形ハりうとシテ居ルカラ、ナカナカ、素一歩ノ御客トハ、見エネヘ」「す顔」す手」す足」す肌」す飯」す通り」（二）他念ナク、專一ナルコト。「す早シ」すバシコシ」（三）又、俗ニ、平凡ノ意トシテ、賤ル語トス。「す浪人」す丁稚」

せ （接頭） 數 物事ノ、數アルヲ云フ語「數日」數年」數人」數代」數度」數十」數百」數千」

す （接尾） 〔美稱〕 禽蟲ノ名ノ下ニ添フル語。（萩、荻、薄ノ、きノ如シ）「ウグヒす」ホトトギす」キギす」カラす」キリギリす」ギす」モす」ミミず」又、「メす」ヲす」カケす」モ、此類ナルベシ。

ス （接尾） 子 〔宋音ナリ〕 漢語ノ下ニ添ヘテ、意ナキ語。「扇子」緞子」金子」拂子」樣子」

ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ （自動、左變） 爲（自動）

ノ轉ニテ、む、又ハ、んノ下ニアルトキ、連濁ニ呼ブモノ　竹取物語「□ヘニ、八、八、若デ來ムず」伊勢物語、第六段「夜モ明ケナムずト思ヒ一」七、同、上、時十「君ハ、□□二ゾ會ヒ給ハムずるト」猿衣、三、上十一「尼君ノ最後ニ、追ヒ作ラムずれバ」宇治拾遺、六、廿一「□ユユシキ事、出テ來ナムず」「行カムずモノヲ」以上ハ「來ムとす」給ハムとす」ナドノ略カ、又「語ンず」「重ンず」ナドハ、「虚ニす」「重ミす」ナドノ音便ナリ。

ず・ヌ・ネ・ズ（助動）〔不〕動作ヲ反面ニ説キテ、打消ス助動詞　古事記、上「長鳴「沖ツ鳥、胸見ルトキ、羽タタギモ、コレハ適ハず」同、同、八十「長歌、太刀ガ緒モ、未ダ解カずテ、襲ヲモ、未ダ解カねバ」後撰集、一、春、上「松モ引キ、若菜モ摘マず、ナリヌルヲ、イツシカ櫻、ハヤモ咲カナム」「打タず」「受ケず」「似ず」「有ラず」「舌足ラず」「土踏マず」「鼠入ラず」「親知ラず、子知ラず」

すあう（名）〔素襖〕「素ハ、染メズ、褒ナキ意、誤リテ、素袍トモ書ス、然レドモ、襖モ、袍モ、うへのきぬナレバ、借リ用キタルニヤ」狩襖ノ、表、布ニテ、裏、絹ナルモノノ、裏ヲ除キタルモノト云フ、（襖ノ條ヲ見ヨ）サレバ、布製ニテ、即チ、布衣ナリ。諸禮紙、衣服制度的例「素襖、全體、素襖ハ、上古、京都ニテ、軽キ人ノ装束ニシテ、布ニテ拵ヘテ、文柄モ無ク、サ、トシタル物故、素ト云フ、襖ハ、同ジ、上ニ着タル装束ノ一體ノ名ナリ」後賓□「素襖、上下ト云フ、下部共ノ用フル也」德川幕府ノ制ニテハ、布衣ニ次ギテ、武士ノ第五級ノ禮服トセリ。（直垂ヲ見ヨ）　貞丈雜記、五、装束「一、上下ト云事、今ハ、肩衣袴ヲ云、古ハ、すあふ袴ノ事ヲ云、古ハ、常ニ、素襖ニ小袴ヲ着スル間、すあふ袴ノ事ヲ、上下ト云シ也、上ト、下ト、同ジ色、同ジ紋ニテ、上下、一對ナルヲ云也、上ト、下ト、色モ、紋モ、違タルハ、すあふ袴ト云ナリ」

すあうえぼし（名）素襖烏帽子　風折烏帽子ノ一種ニシテ、俗ニ、侍烏帽子ト稱ス、其條ヲ見ヨ、少年ノハ、小結アリ、之レヲ被リタル時ノ服装ハ、小袖ノ色ハ、掛萌葱（夏ハ、白帷子）、或ハ、大身替、片身替、等ナリシガ、德川幕府ノ時ニハ、熨斗目ニ一定シ、小サ刀ヲ帶シ、蝙蝠（扇）ヲ持チ、繭下下ヲ履ク例ナリ。

すあうぬぎ（名）〔素襖脱〕猿樂ノ能ノ時、觀客、素襖ヲ脱ギテ、能役者ナドニ與フルコト。小袖脱ヲ參照セヨ。貞丈雜記、五、装束「すあふぬぎト云ハ、猿樂ニ、能ヲサセラルル時、すあふヲぬぎテ、猿樂ニ取ラスル事也、翌日、猿樂、ソノ素襖ヲ給リタル人ノ家家ヘ持チ廻リテ、鳥目ヲ申受ル也」大内問答「素袍ぬぎノ事、殿中ニ而モ、御座候、御直垂ヲ被」出候ヘバ、各各モ、ぬがレ候、前ノ如ク、舞臺ヘ持テ出ヲカレ候」諸大名出仕記「猿樂等ニ、素襖ぬぎ、又、肩衣ぬぎ候テ、遣シ候時、其儘、素襖又肩衣、不」着ガ能候」

すあうびき（名）〔素襖引〕酒宴ノ時、盃ヲ獻シタル人ニ、素襖ヲ脱ギテ引出物ニスルコト。貞丈雜記、五、装束「すあふ引ト云ハ、古ハ、酒盛ノ時、人ニ盃ヲサシテ、扨、着タルすあふヲぬぎテ、盃サシタル人ニ遣ハス、互ヒニ如」此スルヲ云フ也」宗五大雙紙、上「大酒ノ時、小袖引、すはう引、刀引、常ノ事也、小袖モ、すはうモ、當座ニ着カヘ候、刀モ刺シカヘ候、定マリタル法、有ベカラズ」

すあげ（名）〔素揚〕あげもの（揚物）ノ條ヲ見ヨ。

すあし（名）〔素足〕（一）履物ヲ、穿カヌコト。裸足。徒跣　名義抄「跣、スアシ、ハダシ」持統紀、朱鳥元年十月「徒跣」布衣記（永正）「馬ニハ、はだか足ニテ乘ルナリ、徒歩ニテハ、淺沓ヲハク、云云、馬ノ沓ヤウ、云云、乘リヤウ、同前、沓不」用、すあしナリ」（二）足袋ヲ、ハカヌコト。好色一代女（貞享、西鶴）一「す足道中ノ浮ケ歩ミ」広作（元禄）「足袋ハキテ、素足美シ、今日千鳥」至本集（延寶）「足袋ヲミゾ、思フ霜夜ハ、す足カナ」

すあはせ（名）〔素袷〕襦袢、襯衣ナドヲ着ズシテ、直チニ、袷ノミヲ肌膚ニ着クルコト。

すあひ（名）〔牙儈〕〔市間カ、市ヲ、すトト云フ、巢ノ條ノ（三）ヲ見ヨ、牙ハ、互ノ訛ニテ、互市ノ意〕賣買ノ取次ヲシテ、中間ニテ、利ヲ取ルコト。又、其人。スアヒトリ。ナカガヒ。サイトリ。七十一番職人盡歌合、四十一番「すあひ、御用ヤ、サブラフ」歌「思フコト、人ニ勞フル、道ナラデ、御用ヤ有ルト、云フハ由無シ」和漢三才圖會、七、人倫類十「牙儈、須阿比」尤草子（寛永）いつはるもの「物賣ニ「すあひ」」知新錄「今人、謂」主二貿易一、爲二牙行一」異稱日本傳、武備志ヲ引キテ、日本考津要ニ「貿易用二銀金銀錢一、□□□、名曰二乃阿依理一」（中入）

すあひ（名）〔巢間ノ義カ〕鳥銃ノ筒ノ中。銃腹

すあひとり（名）〔牙儈取〕前條ヲ見ヨ。

すあひをんな（名）〔牙儈女〕牙儈ヲ業トスル女。才取ヲスル女　好色一代女（貞享、西鶴）五「一人ハ、室町ノすあひ女」

すあへ（名）〔酢韲〕物ヲ、酢ニ韲ヘタルモノ。狂言記、岡太夫「貝ノ酢韲ニ、雉冠海苔バシ、參、タカ」

すあま（名）すはま（洲濱）ノ音便訛。

すあを（名）〔素襖〕「あをノ假名遣ハ、其條ヲ見ヨ」すあう（素襖）ノ條ヲ見ヨ。

すい（名）〔粹〕「好、數寄ナドノ音便ナラム、或ハ、推シテ知ル意カ、平家物語、一、鱸事「忠盛モ、すいタリケレバ、カノ女房モ、すいタリケリ」（歌ヲ）粹ノ字ハ、米ヲ精ゲタル義、不粹、野暮ニ對ス」（一）人ノ氣性ニ、洒落ニシテ、物堅カラズ、人ノ苦心ナドヲ、言ハヌニ覺リ、思ヒ遣リテ物スルコト。イキナルコト。長町女腹切（正徳、近松作）上「伯母ハ粹ジャ、訴デ、シ、ポリトお話シャイノ」博多小女郎波枕（享保、近松作）上「日本一ノ粹樣、金貸シテ下ンセトハ、言憎イ事」萬治三年、吉原かがみ「男ニ、金銀クレヨトハ、サスガニキタナク、申シ惡シ、其時、伽羅少シ御コシト云フ、云云、男、すいナレバ、伽羅ト云フヨリ早ク、金銀ノ事ト悟ルナリ」（用捨箱）文選、六臣註「魏國先生有」睟其容」註「翰云、孟子曰、君子生色睟然見」面、不」言而喩」（二）案内、知レル人。萬事ニ精シキ人。通リモノ。通（京、大阪ニテ）

すいかい（名）〔酒海〕しゅかい（酒海）ノ（二）ニ同ジ。字類抄「酒海、スイカイ」

すいがい（名）〔透垣〕次條ヲ見ヨ。

すいがき（名）〔透垣〕〔すきがきノ音便〕竹垣ノ、密ナラズ、間ノ透キタルモノ。又、板垣ノ、板ト板トノ間ヲ、透シ作レルモノ。（家屋雜考）更ニ、音便ニ、すいがいトモ云フ。詞花集、三、秋「本院ノすいがきニ、朝顔ノ花、咲キカカリ侍リケルヲ」源氏物語、花園「南面ノ花園ニハ、籬、すいがき、疏ニテ、月見ムタメノ夜庇」字類抄「透垣、スイカキ」源、四十四、總角「竹ノすいがい、爲籠メテ」同、六、末摘花「すいがいノ、タダ少シ、折レ殘リタル」同、廿八、野分九「所所ノ、堅蔀、すいがいナドヤウノ物、亂リガハシク」枕草子、九、九十七段「すいがい、羅文、薄ナドノ上ニ構イタル蜘ノ巣」同、同、九十八段「野分ノ又ノ日、云云、堅蔀、すいがいナドノ、臥シナミタルニ」

すいがさ（名）〔透笠〕目ノ粗キ網代笠。

ずいき（名）〔芋莖 芋苗〕〔假名遣、サダカナラズ、或ハ、蘂アリテ、引き乾ス意カトモ云フ〕芋ノクキ。イモガラ。萩 蓼

[illegible]、[illegible]ノ、[illegible]ハ、コレヤすいき(隨喜ニカク)ノ、涙ナルラム」[illegible]名[illegible]、[illegible]ヲ刻リ、芋ノ子ヲ植ユル、天地ノ潤ヒヲ以テ、ずゐき(芋莖ト、隨喜トニ云ヒカク)ヲ出ス、又、ユルユルト成人シタルヲ、刃物ヲ以テ瑞郎シ、斧子デ、辛辛ト[illegible]へ」

すいきり (名) 剥切 〔すききりノ音便〕 魚ヲ、三枚ニ殺シテ、薄身ヲ去リテ、左ノ方ヨリ、庖丁ヲ、成ル[illegible]、[illegible]ヒ切リニ切ルコト [illegible]

すいくき [illegible] ヨリ、名トス」 すいば(酸葉)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]雜談、十「南部ニハ、吉酸草ヲ、ヒリヒリト云リ、云云、食フ」女郎花物語、上「若ニ、すいくきヲシテ」

すいぐさ (名) [illegible] 草ノ一名 [illegible] 攝、出雲ニテすいぐさ、相模ニテハすぐさ、江戸ニテすぐさ、尾張ニテすいもの草ト云」

すいけん (名) 毛ノ長キ犬。相模入道千疋[illegible]、[illegible]けん扶持、色黒ノ尨犬扶持」 本草紀聞(小野博)「多[illegible]、猫ノ類ナリ、狆ノ種類ナリ」

すいすい [illegible] 風ノ、[illegible]ル聲」 浄瑠璃(貞德)「すいすい風ノ、荻ニ吹ク聲」[illegible]

すいた (名) 簀板 船ノ底ニ敷ク板。[illegible] 川舟モ、舳ニ鋪板、又、簀板ト云、荷舟ハ、海舟、河[illegible]

すいっちょ (名) 〔鳴キ聲ニテ名ヅク〕 うまおひむしニ同ジ。

すいご (名) 蟲ノ名、くだまきニ同ジ。(近江)

ずいと (副) ツイト。ツット。 浮世風呂(文

[illegible]「道路ヲナシニ、すゐと、[illegible]へ[illegible]歸リ」「すいと通ル」「すいと立ツ」

すいば (名) 酸葉 〔すきはノ音便〕 古名、すし。 草ノ名、水邊、山麓ナドニ生ズ、形状、スベテ羊蹄菜ニ似テ、葉、細小ニシテ、味、酸シ、春、莖ヲ起シテ、花ヲ開ク、色、紅、或ハ、紫ナリ、秋ノ紅葉モ、紅、或ハ、紫ニシテ、觀ルニ堪フ、根ハ、牛蒡ニ似テ、黄ニ、延フ スカンポ。ススカンポ。スカンポウ。スイクキ。スゴバ [illegible] バ、スイダウ」注「山羊蹄、蓚、當藥、並同」多識編、二 [illegible] ハウレンサウ [illegible] クバ(能州)、スイゴキ(木曾)、スイコキ(上野)」

すいば (名) [illegible]原 [illegible]

すいはら (名) [illegible]ノ名、[illegible] 八卷、井、陽話ノ二種ヲ、題字ニ書タルアリ」

すいものぐさ (名) 〔味、酸し〕 おかたばみ(酢漿草)ニ同ジ。[illegible] 名、スイモノグサ」 重修本草綱目啓蒙、十六、石草「酢漿草、カタバミ、スイモグサ、スイモノグサ(尾州)、スイグサ(雲州)、スグサ(江戸)、スカンコ(津輕)、スカスカ(南部)、ハスグサ(相州)」

すいらう (名) 透廊 すきわたどの(透

渡殿)ニ同ジ。 古事談、六、[illegible]入道殿、[illegible]

すいり (名) 酢入 [illegible]、物ヲ、汁ニ煮テ、[illegible]

すいりしる (名) 酢入汁 味噌ヲ濾クシテ、根芋ノ莖共ニ入レ、ヨク煮エタル時、[illegible]ノ頭ヲ切入レ、だしヲ作リテ、ナシタル汁。(料理物語)

すいわたどの (名) 透渡殿 すきわたどのノ音便。

すう (名) 數 (一)カズ。[illegible] (二)數學。 周禮、地官篇、大司徒「三日、六藝、禮、樂、射、御、書、數」 (三)天命[illegible]

すう (名) 樞 (一)クルル。(二)必要ノ所、[illegible]

スウ (名) 四 〔字ノ唐音〕 拳ノ語、けん(拳)ノ條ヲ見ヨ。

す・う・ウル・ウレ・エ・エ・エヨ (他動、下二) 据 〔直居ノ義、居るノ他動〕 (一)〔置キ定ム。スワラス。止ラス。 安置 名義抄「居、スフ」瑕、スフ」 崇神紀、十年九月「以急兵、鎭坐於

[illegible] 目ノ上ニ捧ゲツツ、狩衣ヲ、主人寄テ、取居う」 宇治拾遺、[illegible] ナハ、シマセトテ[illegible]うト思ヒシニ」 山家集(西行)上「夕立ノ、晴ルレバ[illegible] (二)定ム。鎭ム。オチツクル。「心ヲすう」「膳ヲすう」 (三)押ス。捺印ス。[illegible](寶永、近松作)上「腐レ爛レト、血判ヲ据ゑタ、小舌タルイ女子文」 (四)艾ヲ、灸穴ニツケテ、燃ク。[illegible]ニ、一炷すへウカト成サレテ、云云、灸點ヒノ從男」 拾芥抄、下、末「灸治、據者七日、居」灸之人、三日」

すう [illegible] 數 [illegible]ニ同ジ。「數人、數月」

スウィイト・ホオム (名) 〔英語、Sweet home〕 [illegible]ナル家庭。

すうえう (名) 樞要 物事ノ、要ノトコロ。メヌキ。[illegible] 關鍵 [illegible]

すうえつ (名) 趨謁 〔趨ハ、七遍切、正音、[illegible]、すう」〕 走リテ、謁見スルコト [illegible]

すうが (名) 趨賀 拜趨シテ、賀スルコ

ト。慶賀ノタメ、參內スルコト。

すうかう（名）【趨向】オモムキ。趨勢。趨向。漢書、韓延壽傳「敎二化吏民一、欲後趨二鄕之一」（鄕ハ、嚮、向ト通ズ）柳宗元、送二嚴公貺一序「以二沖退之志一、端二其趨向一、以二辞儒之誠一、修二其文雅一」

すうかう（名）【崇高】〔崇ハ、正音、しゅう、通音、すう〕タフトク、タカキコト。ケダカキコト。易經、繫辭、上傳「崇高莫レ大二乎富貴一」王維、詩「舍弟官崇高、宗兄此劉髮」「崇高ナル理想」

すうかう（名）【嵩高】〔白虎通「中嶽猶加二高字一、中央在二四方之中一、可レ高、故曰二嵩高一」〕支那ノ五嶽ノ一ナル、嵩山ヲ云フ。爾雅、釋山「嵩高爲二中嶽一」詩經、大雅、蕩之什、崧高篇「崧高維嶽、駿極二于天一」（崧、嵩、同ジ）

すうかう（名）【樞衡】肝要ノ職。魏書、韓子熙傳「竊惟、故主太傅清河王、職綜二樞衡一、位居二輪道一、盡二忠貞一以奉レ公」

すうかう（名）【數行】二三行、或ハ、五六行。史記、高祖紀「慷慨傷レ懷、泣數行下」梁書、昭明太子傳「太子謁レ書、數行並下」常山紀談（元文）四、上杉謙信詩「霜滿二軍營一秋氣淸、數行過雁月三更」

すうがく（名）數學 物事ノ數（カズ）、量（カサ）、等ヲ測リ知ル學、即チ、空間ニ就キテ研究スル幾何學、數ニ就キテ研究スル算術、及、代數、三角術、微分、積分、等ノ總稱。

すうき（名）數奇〔數ハ、命ナリ、奇ハ、耦合セザルナリ、すきト云フハ訛〕幸（サチ）ナキコト。不運。フシアハセ。轗軻不遇。史記、李廣傳「以爲、李廣老數奇、毋レ令三當二單于一、恐不レ得レ所レ欲」漢書、李廣傳「數奇」注「如淳曰、數爲二匈奴一所レ敗、爲レ奇不レ耦、師古曰、言廣之命隻、不二耦合一也」文選、古詩「……封侯者、數奇良可レ歎」名義抄「數奇、サチナシ」

すうき（名）【樞機】〔樞ハ、くるる（戸ノ、由リテ、開閉スル所）機ハ、弩ノ引き金（弩ノ、由リテ、弛張スル所）ナリ、共ニ、肝要ナルモノ〕（一）戸ノ、クルル。淮南子、人間訓「知慮者、禍福之門戸也、動靜者、利害之樞機也」（二）物事ノ、要（カナメ）ノトコロ。樞要。易經、繫辭、上傳「言行、君子之樞機、樞機之發、榮辱之主也」疏「樞、謂二戸樞一（クルル）、機、謂二弩牙一」太平記、廿四、朝儀年中行事事「是等ハ皆、云云、世ヲ鎭メ、國ヲ治ムル樞機ナレバ」（朝儀年中行事ヲ云フ）「政治ノ樞機」

すうぎ（名）【雛妓】マヒコ。オシャク。半玉。

すうきん（名）【樞近】天子ニ側近スル、樞要ナル地位ニアル人。幽閒鼓吹（唐、張固）「李德裕鎭二揚州一、監軍使楊欽義追入、必爲二樞近一、而德裕致レ禮、皆不レ越二尋常一」

すうきょう（名）【足恭】〔足ハ、子遇切、音、しゅ、通音、すう、過（スゴ）すノ意〕恭敬ノ儀ヲ、過スコト。馬鹿鄭寧。論語、公冶長篇「子曰、巧言令色、足恭、左丘明恥レ之、丘亦恥レ之」

すうく（名）【芻狗】〔芻ハ、唐韻「芻、側愚切」音、そ、そうハ、通音ニテ、草ナリ、草ヲ結ビテ狗ヲ作リ、祭事ニ供ス、祭、了ハリテ、之レヲ棄ツト、蒭ハ、俗字〕用アレバコレヲ用ヰ、用ナケレバ、コレヲ棄ツルニ喩フル語。老子、第五章「天地不仁、以二萬物一爲二芻狗一、聖人不仁、以二百姓一爲二芻狗一」

すうくゎん（名）【芻豢】〔芻ハ、草ヲ食フ畜類、豢ハ、穀ヲ食フ畜類〕牛羊ト、犬豕ト。孟子、告子、上篇「理義之悅二我心一、猶二芻豢之悅二我口一」荀子、榮辱篇「人之情、食欲レ有二芻豢一」

すうけい（名）【崇敬】〔しゅうけいハ、正音、そうけいハ、通音、そうきゃうハ、呉音〕しゅうけい（崇敬）ノ條ヲ見ヨ。

すうけい（名）【趨迎】急ギ走リテ、迎（ムカ）フルコト。戰國策、齊策「王因趨而迎二之於門一」

すうげつ（名）【陬月】〔陬、正音ハ、將侯切、そう、通音、すう〕正月ノ異名。ムツキ。爾雅、釋天篇「正月爲レ陬、二月爲レ如」

すうげつ（名）數月 五六ケ月、又ハ、若干ノ月。數ケ月。孟子、盡心、上篇「其傅、爲レ之請二數月之喪一」「滯在、數月」

すうこう（名）【數口】五六ノ人數。若干ノ人口。孟子、梁惠王、上篇「百畝之田、勿レ奪二其時一、數口之家、可二以無一レ飢矣」「一家、數口」

すうさん（名）【趨參】他ノ人ノ家ニマヰルコト。走リテ、行クコト。參趨。梅堯臣詩「樞門詎解更趨參」

すうし（名）【數詞】語學ノ語、數ヲ云フ言（コトバ）。ひとつ、ふたつ、とを（オ）、もも、ち、よろづ（ズ）、一、五、十、百、千、萬、ナド、皆、是レナリ。（語尾ノ語法指南ノ、數詞ノ條ヲ見ヨ）

すうじ（名）【數字】（一）數ヲ記スニ用キル文字、又ハ、符號。即チ、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、百、千、萬（万）、億、ノ類ナリ。又、入レ筆ヲ防ガムガ爲ニ、畫多キ字ヲ用キ、壹、貳、參、（一、二、三ノ字ト、意、同ジ）肆、伍、陸、柒（漆）、捌、玖、拾、佰、阡、ナリ、コレヲ、大字ト云フ、（又、密トモ云フト云フ）今モ、會計其類ニハ此、大字ヲ用キル。公式令「凡、簿帳、科罪、計贓、過所、抄牓之類、有二數者一、爲二大字一」持統紀、三年十月「奴婢、陸拾口」同、六年閏六月「赤引絲、參拾伍斤」（二）數數（カズカズ）ノ字。幾ツカノ文字。若干字。南史、任昉傳「王儉出二所自作一文、令二昉點正一、昉因定二數字一」

すうじ（名）【趨時】時世ヲ、追ヒユクコト、時代ノ趨勢ニ從フコト。時ト共ニ、移リユクコト。易經、繫辭、下傳「變通者、趨レ時者也」

すうじつ（名）【數日】（…）五六日、又ハ、若干ノ日。史記、封禪書「遂至二東萊一、宿留之、數日無レ所レ見」

すうじん（名）【數仞】じん（仞）ノ條ヲ見ヨ。五六仞、又ハ、若干ノ仞。潘岳、西征賦「擢二百尋之層觀一、今數仞之餘址」「高サ數仞」

すうしゃ（名）【趨舍】進むト、退くト。進退。去就。史記、伯夷傳「巖穴之士、趨舍有レ時」

すうしやう（名）【樞相】（一）支那ニテ、樞密使ノ稱。文獻通考、職官考「樞密使、帶二相印一、爲二樞相一」（二）樞密院議長ノ異稱。

すうじゅう（名）騶從 騎馬ニテ、隨從スルコト。東齋紀事（宋、許觀）「上命、特給二騶從一、傳呼」

すうじゅく（名）【芻菽】まぐさト、まめト。魏書、盧昶傳「卿若殺レ身成レ名、貽二之竹素一、何如、甘二彼芻菽一、以辱二君父一乎」

スウス（名）【鑷子】〔字ノ唐音〕ケヌキ。ねふす（ニョウ）（鑷子）ノ條ヲ見ヨ。

〜**ずう・ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ**（他動、左變）【誦】誦（ズ）すノ音便。枕草子、二、四十三段「御前ニ、人人、多ク集ヒ居テ、物語ノ、好キ、惡シキ、憎キ所ナドヲゾ、定メ言ヒシロヒ、ずうじ」

すうすう（副）（一）呼吸ノ、細ソク激スル狀ニ云フ語。「鼻ガ詰マッテ、すうすう云フ」（二）物事ノ、滯リナク、進ミ行ク狀ニ云フ語。スラスラ。

すうせい（名）【樞星】北斗ノ第一ノ星。宋書、符瑞志「黃帝母曰二附寶一、見下大電光繞二北斗樞星一、照中郊野上」

すうせい（名）【趨勢】趨（オモム）カムトスル、イ

キホヒ、物事ノ、ナリユク形勢。[illegible]向。「三國志、魏志、[illegible]傳「[illegible]士、不レ以ニ[illegible]」

すうせい (名) [數世] 五六代。若干ノ代。[illegible]「數世賢之、刑[illegible]也夫」

すうせい (名) [芻生] (芻ハ、正音、そう、ゐ、すう、せんナリ、通音、ゐう」(一)自稱ノ代名詞。[illegible]ナリ [illegible] (二)[illegible]ノ代名詞(他人ニ、[illegible]) [illegible]

すうせう (名) [芻蕘] (芻ハ、草、蕘ハ、薪ナリ」草刈。下賤ナル者ニ云フ語。詩[illegible] [illegible]是ナリ、ゲニモ、樵夫ガ中處、サモト[illegible]ユルゾ」

すうせん (名) [騶[illegible]] (騶ハ、正音、すう、ゐ、通音、ゐう」すゅぜん(騶[illegible])ニ同ジ。

すうそう (名) [趨[illegible]] 疾ク、走ルコト、疾走。「戰國策、不レ[illegible]」

すうソウ (名) [[illegible]] 少年ノ僧、小僧。

すうぞく (名) [芻粟] まぐさト、穀物ト。[illegible]

すうそん (名) [[illegible]孫] 幼キ孫。幼孫。[illegible]

すうた (名) [數多] 數ノ、多キコト。アマタ。許多。[illegible]

すうたひ (名) [[illegible]] 能ニ、笛ナク、鳴物ナク、ただ、謡ノミヲ歌フコト。

すうちう (名) [[illegible]] 文章ノ、肝要ノトコロ。[illegible]

すうぢく (名) [樞軸] 軸ハ、車ノ心木ナリ」肝要ノトコロ。樞要。[illegible]

すうねん (名) [數年] 若干ノ年。五六年。[illegible]

すうはい (名) [數杯] 酒ヲ飲ミテ、杯ノ數ヲ重ヌルコト。冥祥記(晉、王琰)「頻傾」數[illegible]」

すうはい (名) [趨拜] 小走シテ、ヲガムコト。[illegible]

すうはい (名) [崇拜] すうはい(崇拜)ノ條ヲ見ヨ。

すうふ (名) [樞府] (一)肝要ナル事務ヲ掌ル官衙。[illegible] (二)樞密院ノ異稱

スウプ (名) [英語、Soup.] そっぷニ同ジ。(羹湯、淡羹、ト同趣)

すうぶん (名) [崇文] 文學ヲ、タフトブコト。[illegible]

ズウフル (名) ろうぷるノ訛。

すうべい (名) [芻米] まぐさト、こめト。[illegible]

すうぼく (名) [芻牧] 草ヲ刈ルコトト、牛、羊、馬、等ヲ飼フコトト。又、其人。[illegible]

すうまつ (名) [芻秣] マグサ。[illegible]

すうみつ (名) [樞密] 「唐六典、[illegible]」(一)極メテ、秘密ニナスベキ大事。機密。[illegible] (二)秘密ニスベキ大政ヲ掌ル官衙(即チ、樞密院ナリ) 樞府。北史、[illegible]

すうみつこもんくゎん (名) [樞密顧問官] 樞密院議長、及、副議長ト共ニ、樞密院ヲ組織シ、天皇ノ諮詢ニ應ヘ、重要國務ヲ審議スル親任官。

すうみつゐん (名) [樞密院] 天皇ノ諮詢ニ對シテ、會議ヲ開キテ奉答スル、合議制ノ官府。樞密顧問官ヲ以テ、組織ス。樞府。

すうむ (名) [樞務] 樞要ナル事務。機務。[illegible]

すうめいもん (名) [崇明門] 古ヘ、禁中ノ陣座ノ北ニアル門。[illegible]

すうもく (名) [數目] 數ノ、見出シ。

すうり (名) [酢賣] 酢ヲ、賣リ歩ク人。酢ノ行商。狂言記、酢薑「一人ノ酢うり、禁中ヲ賣リマハル」

すうり (名) [數理] 數學ノ理論。數ヲカゾフル理法。

すうりゃう (名) [數量] カズ。カサ。分量。[illegible]

すうりゃう (名) [芻糧] まぐさト、兵糧ト。[illegible]

すうれい (名) [芻靈] くさひとがたニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

すうわり (副) シナヤカナル狀ニ云フ語。[illegible] ノ、[illegible]二編、上「細ソリ、すうわり、柳腰、トサヘ云フヂャア」

すうゑん (名) [崇遠] タフトク、トホキコト。崇高、悠遠。[illegible]

すうゑん (名) [陬遠] 「陬ハ、隅ノ義」遠キ田舍。僻陬。遐陬。邊陬。

すえもの (名) [饐物、廢物] スタレモノ。

すえる (動) 饐 饐ゆノ口語。

すか (接頭) [數箇] 數アル。若干ノ。スウカ。[illegible]

―すが (名) すげ(菅)ニ同ジ、熟語ニ用キル。古事記、中(神武)「葦原ノ、シケコキ小屋ニ、菅畳いやさや敷キテ、我ガ二人寢シ」萬葉集、十四「アシガリノ、ママノ小菅ノ、須我枕、アゼカ枕カサム、子等セ手枕」古今集、十一、戀、一「奥山ノ、すがノ根シノギ、降ル雪ノ、消ヌトカ云ハム、戀ノ繁キニ」「すが菅」すが笠」すが原」

すが (名) [清] (すがすがしノ語根) (一)イサギヨキコト。清淨。(二)すがそ(清[illegible])ノ略、其條ノ(二)ヲ見ヨ。

すが (名) [薄氷] ウスゴホリ。(仙臺)

すが (名) [須賀] 「洲處ノ略ナル、洲處ノ義ト云フ」(一)沙原ノ地。東海道名所記(高谷三、遠江、白須賀「東國ノ俗語ニ、沙ノ、集リテ、小高キヲバ、須賀ト云フナリ」) (二)海河ニ瀕スル、高キ地。大[illegible]、[illegible](駿河)、[illegible](伊勢國、尊志郡)、須可」

すが (接尾) [蠶絲] 絲ヲ數フル語。「一すが」二すが」

スカアフ (名) [英語、Scarf.] 肩掛。

又、襟卷。

すか・い (形) [酸] スイ。ス、パイ。

すが-いと (名) 〔清絲ノ義カ〕 練ラヌ生絲ヲ、縒リ合ハセタルモノ、種種ノ用トス。

すか-う (名) [速香] スミヤカニ燃エ盡クル、下等ノ香。 下學集、下、器財門「速香、惡香、速消盡、故、云二速香一也」

すかうべ (名) [素頭] 頭ヲ賤シメテ云フ語。ソクビ。 津國女夫池(享保、近松作)一「其ノ女メ、素頭ハ打リ拂イテクレンズ」

すがかき (名) [清掻・清攪・素掻] 〔靜掻ノ約、早掻ニ對ス〕 (一)〔スガガクコト〕 和琴ヲ、靜カニ掻鳴ラスコト、唄ナクテ、曲ヲ掻キ鳴ラス手事。今ハ、箏、三味線ニモ云フ、元ハ、唄ノ間ノ手、後ニハ、唄ハ止ミテ、すがかきノミ彈クトゾ。 源、廿六、常夏「タダハカナキ、同ジすがかきノ音ニ、萬ヅノ物ノ音、籠リ通ヒテ、云フ方モ無クコソ、響キノボレ」 夫木抄、十八「神代ヨリ、今ニカハラヌ、すがかきモ、彈クハ一ツノ、大和琴ノ音」 本朝事始「和琴、彈以二須雅(菅)乃葉一調二左右之手一發、又、號二須賀古止一云云、有二須賀加機之調一」 (二)轉ジテ、江戸、吉原ノ青樓ニテ、毎夕、張店ヲ始ムル合圖ニ彈ク三味線ヲ、見世すががきト云フ。(大盡舞考證) (三)虛無僧ノ尺八ノ曲ノ名。

すが・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) [清掻] 清掻ヲナス。 源、三十一、槇柱三十六「和琴ノ調ベ、すがかきテ」

すが-がさ (名) [菅笠] すげがさニ同ジ。 萬葉集、十六、廿長歌「師着セル、菅笠小笠」 六帖、五「ナシテルヤ、難波すが笠、オキフルシ、後ハ誰ガ被ン、笠ナラナクニ」 大神宮式「菅笠一枚」「三島すがかさ」有馬すがかさ」眞野ノすがかさ」

すがき (名) スガクコト。蜘網ヲ構クルコト。 拾遺集、十七、雜秋「秋風ハ、吹キナ破リソ、我ガ宿ノ、荒ラ隱セル、蜘ノすがきヲ」

すがき (名) [簀掻] 床ニ構キタル簀子。 堀川百首、冬、霰「東屋ノ、賤ノすがきノ、下冴エテ、山響ムマデ、霰降ルナリ」 夫木抄、三十「山賤ノ、蘆屋ニ構ケル、竹すがき、フシ惡シトモ、思ヒケル哉」 同、同「蘆ノ篠屋ノ、篠すがき」

すがき (名) [簀垣] 〔或ハ、透垣ノ約カ〕 竹ノ籬。竹垣。 散木集(俊賴)八、戀、下、思不レ言「心アヒノ、風ホノメカセ、八重すがき、隙ナキ思ニ、立チ休ラフト」

すがき (名) [素畫] 彩色ヲ加ヘズニ、圖畫ヲカクコト。素描。 東大寺獻物帳、御屛風壹佰疊「素畫夜遊屛風一具」「すがきノ畫」

すが-ぎぬ (名) [清衣] 祓ニ用キル、清淨ナル衣。 拾玉集(慈鎭)六「夏終ツル、今日ノ祓ノ、すがぎぬヲ、越エテヤ秋ニ、ナラントスラン」

すが・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 蜘、網ヲ構ク。 後撰集、十八、雜、四「ササガニノ、空ニすがけル、絲ヨリモ」 後拾遺集、四、秋、上「蜘蛛ノ、すがく淺茅ノ、末毎ニ、亂レテ消ヌル、白露ノ玉」 詞花集、三、秋「萩ノ葉ニ、すがく絲ヲモ、蜘蛛ノ、七夕ニトヤ、今朝ハ引クラム」

ぞ-がく (名) [儒學] ずゅがく(儒學)ニ同ジ。

すが・くる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) [巣隱] 巣ニ隱ル。スゴモル。 源、三十一、槇柱三十八「すがくれテ、數ニモアラヌ、雁ノ子ヲ、何方ニカハ、取リ隱スベキ」

すが-け (名) [素懸・簾懸] 絲目ヲ粗ク、所所ニ、二筋ヅツ竝ベテ綴リタル、鎧ノ緘ノ稱。

すが-ごと (名) [菅琴] 和琴ノ一名。

すが-ごも (名) [菅菰] すげト、ごもト。 續古今集、十一、戀、一「濁江ニ、生フル菅ごも、水隱レテ、我ガ戀フラクニ、知ル人ゾ無キ」

すが-ごも (名) [菅薦] 菅ニテ、編ミ作レル薦。古ヘ、陸奥ノ產トシテ、名アリ、今、陸前、宮城郡、利府村、字加瀨ヨリ出ス、山野自生ノ菰ヲ晒シテ、水ニ浸シ、綿布ニテ拭ヒ、絹絲、綿絲ヲ緯トシ、大小、方形、十段ニ編ム。 主計寮式「菅薦二枚」 袖中抄(顯昭)十四「陸奥ノ、十編ノすがごも、七編ニハ、君ヲ寐サセテ、三編ニ我レ寐ム」

すかし (名) [透] (一)透スコト。穴ヲ穿チタルモノ。(二)〔スカシボリ〕刻リ、又ハ、開キテ、隙ヲ起セル所。透涼 宇津保物語、貴宮廿八「すかしノ長櫃」 狂言記、盜人連歌「欄間ノ透しナドハ」

すかし-がた (名) [透形] 透キテ、先ノ見ユルヤウニシタル模樣。

すかし-くらおほひ (名) [透鞍覆] 紗、羅ナドニテ作リタル鞍覆。 車服問答「一、鞍覆、打鞍覆、織物鞍覆、透鞍覆、虎皮鞍覆、鹿皮鞍覆」 古今要覽稿、器財「透鞍覆ハ、薄物ニテ作ル、單也(物具裝束抄)ト云ヘリ、薄物ト云フハ、紗、縠、羅ノ類ナレバ、マキ通リテ見ユルガ故ニ、カク名付シモノナリト、伊勢貞丈、云ヘリ」

すかし-たごぼう (名) 草ノ名、田間ニ生ズ、莖ノ高サ一尺許、葉ノ形、いぬがらしニ似テ、鋸齒、深シ、花モ、實モ、いぬがらしニ同ジ。風花菜

すかし-だ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [賺出] スカシテ、誘ヒ出ダス。騙シテ、連レ出ス。 義經記、三、辨慶生るる事「我ガ身コソ惡戲者ナラメ、人ノ所ニ學文スル者ヲダニ、すかし出し、不定ニナス事、イハレナシ」

すかし-だはら (名) [天蠶繭] 〔繭ノ形、俵ノ如クナレバ、名トス〕 天蠶ノ繭、天蠶ノ條ヲ見ヨ。

すかし-つば (名) [透鍔] 透シ彫リニシタル鍔。 倭訓栞、つば「すかし鍔ハ、義教將軍ノ物好ニ出ヅト云ヘリ」

すかし-べ (名) [竊屁] 音ノセザルヤウニ、ナシタル放屁。 東海道中膝栗毛(文化、一九)初編、中「飯ニ焚ク、麥藁細工、買ヒ給ヘ、コレハ子供ヲ、すかし屁ノタメ」

すかし-ぼり (名) [透刻・透彫] 刻物ノ細工ニ、表ヨリ裏ヘ刻リ貫キ、透シタルモノ。漏空鏤

すがし-め (名) [清女] スガスガシキ女。清ラカナル女。クハシメ。 古事記、下(仁德)九長歌「子持タズ、立チカ荒レナム、云云、可惜須賀志賣」

すかし-もん (名) [透門] (一)外ヨリ、門内ノ、見エ透クヤウニ作リタル門。(二)扉ノ中央ヨリ下ハ、板戸ニテ、上ハ、格子ニ組ミタル門。

すか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [透] 〔透くノ他動〕 (一)透クヤウニナス。透カシム。隙ヲ起ス。(二)〔疎ニナス〕竹木ノ枝ナドノ、繁キ部ヲ、切リ減ラス、マビク。疏通　洗 枕草子、五、四十六段「五節ノ局ヲ、皆毀チすかしテ、イトアヤシクテ在ラスル、イト、異樣ナリ」 下學集、下、言辭門「洗、スカス」注「除二竹木枝一義也」「枝ヲすかす」「竹林ヲすかす」 (三)〔隙ヨリ、透ス〕 スキトホラス。 枕草子、二、廿段「二藍ノ直衣、指貫、淺葱ノ帷子ヲゾ、すかし給ヘル」 春曙抄「直衣ノ薄キニ、スキトホリシ也」「紙ヲすかして、光ヲ見ル」「硝子ヲすかして、影、差ス」

すか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [竊] 音ナ

ク、モノスル。「屁ヲすかす」

すか・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）［賺］〔他ノ用心ニ、透アラシムル意カ〕（一）他ノ[illegible]。タブラカス。　夫木抄、三十六「人ナラバ、假ミモスベシ、イカニセム、吾レヲすかすハ、吾ガ心ナリ」　後拾遺集、廿、誹諧「忘レテモ、アルベキモノヲ、此頃ノ、月夜ニイタク、人ナすかせソ」（スカサセソ）　源、二、帚木「イト、サバカリナラム邊ニハ、誰レカハ、すかさ[illegible]」[illegible]「[illegible]テ寝ル、物トモ知ラデ、夏衣、ヒトヘ心ハ、すかさレニケリ」　拾遺百首「ツラキ哉、アベラ殘ノ、カクレナク、我レヲすかしテ、逢ハヌ心ハ」　源、二、帚木「我リヲ言ハセムトテ、サテサテ、ヲカシカリケル女カナト、すかい給フヲ」（二）ウラガス。慰メ、ナダム。ナグサム、ダマス。[illegible]　宇津保物語、菊宴、六十「侘シク、ナドカ、世離レタル住ヒハシ給フ、思フ心ナキ人人、すかすヤナド宣フ」　宇治拾遺、四、第二條「物取ラセナドシテ、すかし聞ヒケレバ」「小兒ノ泣クヲすかす」　すくノ反、すかすト云フ語　古今集、十九、雜体「ヨソナガラ、我ガ身モ絲ノ、ヨルト云ヘバ、タダイツハリニ、すく（賺）バカリナリ」

すがすが・し・シャ・シケレ・シク・シク（形、二）［清清］〔すがハ、[illegible]ノ義〕　神代紀、上「[illegible]清地、此云[illegible]」[illegible]しノ約ヲ、重ネタル語ト云フ〕（一）〔心、潔ギタル如ク、イサギヨシ。爽カニテ、快シ　古事記、上「[illegible]」（二）スズシ。ソガソガシ。[illegible]（三）[illegible]　[illegible]　（四）〔イチハヤシ。氣、[illegible]」

遠シ　[illegible]ハ、物セサセ給ヒテヤ、ヨク侍ラントノ氣色、イトすがすがし」[illegible]ケナガラ、すがすがしうハ、エ交ラヒ侍ラザメルヲト申ス」

すか・すか・と（副）〔すくすくとノ轉〕滯リナク、直チニ、事ノ行ク狀ニ云フ語。スクヤカニ。マガヤカニ。直行　[illegible]「[illegible]ト云フ所モ、すかすかと過ギテ」

すが・すが・と（副）［清清］サハヤカニ、滯リ無ク。　源、一、桐壺「[illegible]ク參リ給ヒ、ン事ナ、ソソノカシ聞コユレド、云云、すがすがとモ、エ交ラセ奉リ給ハヌナリケリ」　狹衣、四、下ニ「すがすがとモ、思シ立ツベキ事ニモアラザリケリ」

ずか・ずか・と（副）前前條、或ハ、すくすくとノ訛「ずかずかと押シ入ル」

すがそ（名）抽麻〔すぐりそノ約轉、そハ、さをノ約ニテ、眞緒ノ義〕（一）〔菅ヲ割キ抽リタル眞緒。（菅麻）あまつすがそノ條ヲ見ヨ。（二）絲ヲ抽リタルママニテ、練ラザル眞緒。スガ（清麻）

すがた（名）［姿］〔直形ノ義ト云フ〕（一）身體ノ、ナリフリ。ミエ。貌。　雄略紀、元年三月「[illegible]女子行歩、容儀[illegible]天皇」　萬葉集、十八「[illegible]ノ、[illegible]ヲ、[illegible]ズ久ニ、獨ニシ住メバ、我レ戀ヒニケリ」　枕草子、一、第二段「正月一日、云云、世ニ有リトアル人ハ、すがたカタチ、心異ニ繕ヒ」（二）アリサマ。オモムキ。容子。ナリユキ。形勢　枕草子、三、廿四段「すがた無ケレド、棕櫚ノ木、唐メキテ、ワロキ家ノ物トハ見エズ」「[illegible]、佐保姫ハ、枝垂柳ノ、髮シテケリ」「世ノすがた」「平常ノすがた」

すがた（名）髮飾ノ具　あまつを草[illegible]ノ時ハ、云云、元結ノ上ニ、すがたトテ、金ニテ打タル物ノ、[illegible]クル也」

すがた・おし（名）小サキ風ヲ、[illegible]ギテ、一筋ノすが絲ニテ揚グルモノ、鳥ノ形ナル、多シ、からすだおトモ云フ。　嬉遊笑覽、六、下「兒戲[illegible]モ、[illegible]、すがだおトテ、鳥ヲ作ル紙、からすだおトモ云フ、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]色シタルモ、アリ、菅絲ニテ、たおノ數多ク繫ギテ、一筋ノスガ絲ニテ揚グルモノアリ、此物、江戸ナドニハ、春ノ戲トスレ共、[illegible]、[illegible]時ニ揚ブ所、多シ」

すがた・ざかり（名）［姿盛］容姿ノ、美シキ盛リ　[illegible]「[illegible]行ニ姿盛リモ[illegible]ラニ、[illegible]レニ[illegible]セテ、[illegible]ラント」

すがた・じまん（名）姿自慢　自身ノ容姿ヲ、美麗ナリト、自慢スルコト　キリャウジマン　好色一代女（貞享、西鶴）ニ「太夫ト呼バレシ[illegible]、云云、すがた自慢シテ、手ノ見エタル男ニハ、言葉モカケズ、高ウ止マッテ」

すが・だたみ（名）菅疊　菅薦ニテ作リタルたたみ　古事記、中「[illegible]ノ、[illegible]キ小屋ニ、[illegible]、[illegible]キテ、我ガ二人寢シ」

すがたち（名）菅裁　天津菅麻ヲ、本刈リ、末刈リ切リテ、八ツ針ニ取リ辟クコト　大祓宮式、九月[illegible]、[illegible]、土師器作物忌[illegible]、三人」

すがた・つき（名）姿付　體ツキ。風ツキ　源、三十四、上、若菜、上「すがたつき、髮ノカカリ給ヘル目、云ヒ知ラズ貴ニ、ラウタゲナリ」

すがた・にんぎゃう（名）姿人形　容姿ヲ、人間ニ摸シ作リタル人形　好色一代女（貞享、西鶴）三「形ヲ生移シナル女人形、云云、彼ノ姿人形ニ、シガミ付キケルハ」

すがた・み（名）姿見　大イナル鏡ノ、衣服ヲ裝フトキ、全身ヲ映シテ見ルモノ、照身大鏡　[illegible]（寛永、[illegible]）[illegible]ハ、姿見ノ、十寸見ノ鏡ニ對ヒ給ヘバ」

すか・たん（名）〔賺されたる意〕クヒチガフコト。[illegible]クコト。[illegible]ヒタル事ヲスルコト。待チボウケルコト。スカヲ喰ハスコト（ダシヌク）すかたん、すかまた　[illegible]、下「[illegible]、[illegible]行[illegible]、行過グルハ、ソノ壽、上、下、喰ヒ差フヲ云フ、俗、すかたんナド云フ、すかモ、同ジ、すかたん、或、すかたんトモ云フ、云云、[illegible]、[illegible]マナリ、俗、すかたんナドモ云フ、又、すやすトモ、そやすト云フ、皆、轉ナリ」[illegible]ニすかたん、若代[illegible]」　雙生隅田川（享保、近松作）四「此ノ軍介ヲ東ヘ遣リ、ホノカリすかたハサセント」[illegible]ガ詞トハ、モンチモンチニ出シ[illegible]」「[illegible]カ、すかたんダ」（立テ方ガ、[illegible]タ）

すがたり（名）素語　三味線ナシニ、淨瑠璃ヲ語ルコト。

すがたゑ（名）［姿繪］人ノ容姿ヲ、摸シタル繪　肖像畫　本朝若風俗（貞享、寛永）五「出尻ナルコト、最前ノ姿繪ヲ思ヒ合セテ、ヲカシ」

すか・と（副）滯リナク、物ヲ切ル狀ニ云フ語　[illegible]ヲ、すかと切ル」

すか・ど（名）［數箇度］五六タビ。若干度　太平記、十七、山門攻事「數箇度ノ戰ニ、[illegible]、[illegible]ク、氣、疲レケルニヤ」

すが・どり（名）菅鳥　詳カナラズ、今姑ラク、萬葉集品物解ノ說ヲ、下ニ揭グ「菅鳥、一說（賀茂眞淵ノ略解ニ）、菅ハ、管ノ字ノ誤ニテ、管鳥ナラムト云ヘリ、字鏡ニ、鶍、豆豆萬奈柱トアリ、（古事記傳ニ、阿米都都、知杼理麻斯登登トアル、云云、都都ハ、鶺鴒ノ一名ナリトアルハ、コノ、都都萬奈柱ト同物トスル歟、云云）是ヲ云カ、小野博、つつどりハ、大サ、鳩ノ如ク、背、黑ク、小白點アリ、鳴聲、竹筒ヲ敲クガ如シ、コレヲ、播磨ニテハ、苗代どり、土佐ニテハ、婆から

し卜云卜云ヘリ、(按ニ、つつどりハ、和名抄ニ、布穀鳥、和名、布布土利トアルモノナリ、コノ布布ヲ、後ニ、都都ニ誤レルナルベシ)寺島良安云、布穀鳥、二月至ニ五月一有レ聲、其鳴也、如レ言ニ豆豆豆豆一卜云ヘル、是ナリ、若シ、都都杼理ト言フガ古名ナラムニハ、和名抄ニ布布トアルハ、中中ニ、都都ヲ誤レルモノトスベキ歟、ナホ考フベシ」ト見エタリ。 萬葉集、十二 廿七「白檀、斐太ノ細江ノ、菅鳥ノ、妹ニ戀フレヤ、寢ヲ寐カネツル」 名義抄「鴳、スガドリ、菅鳥」 字類抄「鴳、スガドリ、亦作レ鴽、田鼠化爲レ鴽是」 仁安二年歌合(歌袋)祐盛法師「イヅカタモ、同ジ浮寢ヲ、何トカハ、浦ワタリスル、サヨノすが鳥」

〔すが-な・し・キ・ケレ・ク・ク(形、二) 無情 〔因所無しノ略カト云フ、轉ジテ、すげなしト云フ(加ノ字ニ、吳音ノけノ音アリ、加行ナド云フ)〕 オボツカナク思フ。心ニ樂シマズ、ナゲク。 催馬樂、鷹垣「菅ノ根ノ、須可奈支事ヲ、我レハ聞クカナ」 萬葉集、十七 四十七「心ニハ、緩ブコトナク、スガノ山、須可奈久ノミヤ、戀ヒワタリナム」 字鏡 八十九「嗚咽、心中不ニ悅樂一貌、坐歎貌、須加奈加留、又、佐久佐久之」 天治字鏡、十二 廿四「嗚咽、獨坐不レ樂皃、須加奈志、乎佐奈志、又、佐久久志」 名義抄「嗚、スガナシ、サククシ、ヲサナシ、唸、スカナシ、ヲロカナリ、オボツカナシ、ニブシ」 字類抄「嗚咽、スカナシ」

〔すが-ぬき (名) 菅拔 〔或ハ、清拔ノ借字カ〕 ちのわ(茅輪)ニ同ジ。小サク作リテ、首ニモ懸クルガ如シ。 夫木抄、九「水無月ノ、今日ゾ夏越ノ、祓シテ、すがぬき棄テツ、佐保ノ河原ニ」 法性寺集、六月祓詩「未レ知何物號ニ菅拔一、結ニ草如レ輪合ニ首叢一」 新千載集、十八、誹諧「年ナミノ、半ヲ今宵、越ユル輪ニ、すがぬきカケテ、七十八經ヌ」 拾玉集(慈鎭)四「夏終ツル、今日ノ御祓ノ、すがぬきヲ、越エテヤ秋ノ、風ハ立ツラン」

すが-ぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 菅拔 菅拔ヲ懸ク。 夫木抄、九「身ハ棄テテ、人形トダニ、思ハヌヲ、何ニすがぬく、祓ナルラム」 堀川百首、夏、荒和祓「三歲マデ、人ナカラメヤ、六月ノ、三度すがぬき、祈ル御祓ニ」

〔す-がね (名) 〔素鐵ノ意カ〕 てつ(鐵)ノ條ヲ見ヨ。 宇治拾遺、四、第一條「能登ノ國ニハ、クロガネト云フモノ、すがねト云フ程ナルヲ取リテ、守ニ取ラスルモノ、六十人ゾアナル」

すが-ね-どり (名) 菅根鳥 雉ノ一名。 祕藏抄、下「哀ニモ、子ヲ思フトテ、すがねどり、野邊ヲ燒ク火ノ、灰トナリヌル」すがね鳥トハ、雉ナリ」

〔すが-の-ね-の (枕) 菅根 長き、亂る、根、懇懇(根も凝ト續クナリト云フ)ナド云フ語ノ枕詞。 萬葉集、十 十六「菅根乃、長キ春日ヲ」 同、四 四十二「菅根之、念ヒ亂レテ」 同、廿四 十七「高山ノ、巖ニ生フル、須我乃根能、ネモコロコロニ、降リオク白雪」 同、四 廿九「菅根乃、懇見マク、欲シキ君カモ」 同、十一 十七「菅根の、懇隱君ガ、結ビタル、我ガ紐ノ緖ヲ、解ク人ハアラジ」

〔す-かは (名) 透キタル齒カ。 名義抄「齱、スカハ」齲、スカハ」

す-かは-いり (名) 素皮煎 料理ノ皮煎ノ一種、下ノ出典ヲ見ヨ。 四條流庖丁聞書(長享)「一、かはいりノ事、雁ノ皮煎ナラバ、必、木ノコ、王瓜以下ノ物、入ベシ、何ヲモ不レ入ヲバ、す皮煎ト云也」

すが-はら (名) 菅原 (一)〔菅ノ、茂リ生エタル野原。 古事記、下(仁德)九長歌「八田ノ、一本菅ハ、子持タズ、立チカ荒レナム、可惜須賀波良」 萬葉集、七 三十「眞玉ツク、越ノ菅原、我レ刈ラデ、人ノ刈ラマク、惜シキ菅原」 (二)煙草入ノ一種。

すが-はら-やき (名) 菅原燒 大阪ノ天滿天神ノ境内ニテ燒キタル、飴色ノ土器。 攝陽群談、十六、名物土產「菅原燒土器、天滿天神ニアリ、雜器ノ類、隨レ所レ好造レ之、飴色ノ土器也、菅原ノ神靈廟ノ地ニ於テ以レ造レ之、菅原燒卜號タリ」

すが-ひ (名) 番 つがひノ轉。「鷄、二すがひ」

す-がひ (名) 酷貝 酢貝 (一)からくもがひノ蓋、形、さざえノふたニ似テ、大キサ二三分、外ハ、凸クシテ、淡白ク、或ハ、淡青シ、肉ハ、平ニシテ、淡褐ナリ。皿ニ酢ヲ盛リテ、數箇ヲ、其緣ニ置ケバ、暫シシテ、沫ヲ吐キ、皿ノ底ニ相集ル。 相思螺 郎君子 國性爺合戰(正德、近松作)蓋傳「君ハ酢貝卜吸付ケド、我レハ鮑ノ片思ヒ」 (二)料理ニ、鮑、赤貝ナドノ肉ヲ、生ニテ刻ミテ、酢ニ浸セルモノ。

すがひ-すがひ-に (副) 次次條ノ語ノ活用ヲ重ネタル語カ、或ハ、すがひハ、次合ノ略カ。 夫木抄、九「山賤ノ、スドノ竹垣、枝モ狹ニ、夕顏ナリヌ、すがひすがひに」 山家集(西行)上「垂リ咲ク、萩ノ古枝ニ、風カケテ、すがひすがひに、男鹿鳴クナリ」

すがひ-びやうし (名) 交互ニ奏スル拍子。 太平記、十七、山門攻事「遠矢ナ射ソ、矢ダフナニト云儘ニ、鎧ヅキシテ上ゲタル應ヲ、云云、弦音高ク切ッテ放ツ手答ヘト、すがひ拍子ニ聞コエテ」

〔すが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔次ぐノ延〕 次グ。竝ブ。追付ク。匹敵ス。 亞 匹 源、五十二、手習 四十一「オドロオドロシキ鼾シツツ、前ニモ、打チすがひタル尼ドモ、二人、臥シテ、劣ラジト、鼾合ハセタリ」 同、廿一、少女 八十「人知レズ思ヒ給ヘ志シタルヲ、カウ云フ、サイハヒ人ノ腹ノ后ガネコソ、マタ生ヒすがひヌレ」

すが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 志がふニ同ジ。

す-がほ (名) 素顏 假粧セヌ顏。生地ノ顏。 浦島年代記(元祿、近松作)三「富士ヤ淺間ト、花ノ素顏ハ比ブレド」「俳優ノすがほ」

〔すが-まくら (名) 菅枕 〔薦枕、同趣〕 菅ヲ束ネテ、枕トスルモノ。 萬葉集、十四 七「足柄ノ、ママノ小菅ノ、須我麻久良、何ゼカ纏カサム、兒等爲手枕」

す-かまた (名) 間違ニナルコト。スカヲ喰フコト。氣ノ利カヌコト。ヘマ。すこたん。 浮世風呂(文化、三馬)三編、上「拳、云云、五ダノ、七ダノト云フハ、大すかまたサ」 浮世床(文化、三馬)初編、下「內證へ廻ッテ見ルト、大すかまた、すはト云フ時ノ、一向、役ニ立タズ」

す-かみこ (名) 素紙子 紙子ノ外ニ、別ニ着ルモノ無キコト。 東海道名所記(萬治)二「一跡ヲホツキアゲテ、素紙子一重、帷子一枚、テツルテンノ獨身トナル」

すが-みの (名) 菅蓑 菅ニテ編ミタル蓑。 用明天皇職人鑑(寶永、近松作)二「石地ヲ開キ、畠ヲ打ツ、士民ノ業ヲ菅蓑ニ、命ヲ繫グ繩ノ帶」

すが・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 眇 〔すがハ、細ソキ義〕 眇ニテアリ。一目、眇タリ。 盛衰記、一、五節夜闇打事「伊勢瓶子(平氏)ハ酢瓶(眇)ナリケリト、囃シタリケリ、目ノすがみタリケレバ、取リナシ囃サル」 平家物語、一、殿上闇討事「忠盛ノ目ノすがまレタリケル故ニコソ、斯樣ニハ囃サレケルナレ」

すが・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 眇 〔前條ノ語ヲ、他動トシタルモノ〕 眼ヲ、すがめノヤウニス。眼ヲすがめノヤウニシテ、視ル。眼ヲ細クシテ、視ル。 曾我物語、九、屋形屋形の前にて咎められし事「十郎ガ顏ヲ、ツクヅクト守リケリ、祐成、云云、目ヲ少シすがめテ居タリケリ」「タメツ、すがめツ」

すが-むしろ (名) 菅筵 菅ニテ編ミタル筵。 新後撰集、十二、戀、二「笛竹ノ、伏見ノ里ノ、すがむしろ、ネニノミ泣キテ、獨カモ寢ム」

すかんぴん (名) [illegible]　[illegible]テ、貧シキコト。一文ナシ。文ナシ。又、其人。東海道中膝栗毛(文化、一九)十編、上「身ノ上ノ、すかんぴんナル事モ打チアケテ、頼ミケレバ」

すかんぽ (名) 次條ノ(一)ニ同ジ(東京)

すかんぽう (名) (一)草ノ名、すいば(酸葉)ニ同ジ。(二)いたどり(虎杖)ノ別名。

すがむら (名) 菅村 菅ノ、生エ聚リタル處。[illegible]

すがめ (名) 眇 〔すがみ目ノ約〕片眼、常ノ如クナラズ、不具ノ名。ヲチカタメ、ヤブニラミ。[illegible]一目小也、目[illegible]偏不見[illegible]、字鏡、目偏[illegible]。[illegible]ノ字ニ一目眇、[illegible]目」[illegible]、[illegible]、比加目、須加目」名義抄「眯、スガメ、カタハラミル」

すがめ (名) 酢瓶 酢ヲ入ルル瓶。主計寮式、上「[illegible]、酢[illegible]、下[illegible]、[illegible]、小[illegible]」

すがも (名) 菅藻 〔海草ノ甘藻ニ、すげモノ名アレド、是レハ、淡水ニ生ズ〕淡水ニ[illegible]草、葉ハ、菅ニ似テ、食フベキモノナリト云フ。(契沖ノ説) 出雲國土記、島根郡「[illegible]、[illegible]、[illegible]」[illegible]、宇治河ニ、生フル菅藻ヲ、河早ミ、取ラズ來ニケリ、裹ニセマシヲ」

すがもん (名) すがいとノ縫紋

すがやか-み (副) 清清シク、スクヤカニ、スクスクト、滯リ無ク。[illegible]、一、上「此ノ乳母、出デタチ、イトすがやかなる氣色ニテ」榮花物語、廿七、衣珠「御産御座ノ[illegible]、すがやかニハ、今ハ、[illegible]ノ女御ノ御[illegible]、イカニト思シメシケリハテズ[illegible]ノ、アヤシサモ」同、廿、日[illegible]、内セド、すがやかニ[illegible]ニハ中サセ給ハズ程ニ」

すがら (接尾) 〔すがハ、盡るヨリ轉ズ〕盡ルマデ。通シテ。萬葉集、十七、長歌「此ノ夜すがらニ、[illegible]モ寢ズニ」同、十九、長歌「夜干玉ノ、夜ハ須我良ニ、曉ノ、月ニ向ヒテ」同、十三、長歌「ヌバタマノ、夜ハ[illegible]ニ、此ノ床ノ、ヒシト鳴ルマデ、嘆キツルカモ」同、十五「ヌバタマノ、夜ハ須我良ニ、哭ノミシ泣カユ」(以上三首ノ須我良ハ、晝はもみみニ對ス) 後撰集、九、戀、一「唐衣、キテ歸リニシ、小夜すがら、アハレト思フヲ、恨ムラムハタ」[illegible]紀、十九、[illegible]二年二月、長歌「如何シテ、陳べ[illegible]ムト、[illegible]、[illegible]日[illegible]、[illegible]玉ノ、[illegible]夜通シテ、晴日[illegible]テ」拾遺集、三、秋「夜モすがら、見テヲ明サム、秋ノ月、今宵ノ空ニ、雲ナカラナム」後拾遺集、四、秋、上「古里ハ、淺茅ガ原ト、荒レハテテ、夜すがら蟲ノ、音ヲノミゾ鳴ク」師氏集「白露ヲ、萬葉ニすきてて、秋ノ夜ヲ、露モすがらニ、鹿ゾ鳴クナル」「大夜すがら」

すがら (接尾) 〔直從ノ約カ〕ナガラ。ソレナリニ。ソノママ。ツイデニ。永久百首、上「[illegible]、行クすがら、心モユカズ、別レ路ハ、ナホ故郷ノ、事ゾカナシキ」公任集「小忌衣、摺リステ着ツル、露ケサハ、春ノ日すがら、又ゾ忘レヌ」夫木抄、三十三、秋「露ノ、立チヌルすがら、心アテニ」「路すがら」身すがら」

すかり (名) 樗蒲 ちょぼ(樗蒲)ニ同ジ。[illegible]、[illegible]、凡、[illegible]、作[illegible]及[illegible]二者」注「[illegible]、[illegible]六、樗[illegible]之類也」金玉[illegible]中抄、博戲[illegible]「[illegible]亡令云、雙六、樗[illegible]之[illegible]」

すがり (名) 鏁鏈 〔縋ノ轉〕其條ノ(一)ヲ見ヨ。數珠ノ總ノ、フサネテ、網ノ如ク編メル所ナリト云フ。又、法螺ニ懸クル網ヲモ云フトゾ。又、袋ノ口ノ縫ニモ云フ　後撰集、十八、雜、四「或法師ノ、云云、數珠ノすがりヲ落シケルヲ」

すがり (名) 蜾蠃 すがるノ轉。(奥州)

すがり (名) 履物ノ一種、雪ノ上ヲ歩ムニ用ヰル、樏ノ、大イナルモノ。

すがり (名) 盡 盡ルコト。物ノ、盛リノ過ギテ、盡キナントスルコト。傾城吉岡染(正德、近松作)「コノ吉岡ガ、すがりノ花ナレバコソ、主達ニ、身ヲ、ブンマカスル」

すかり-すかり-と (副) 次次條ニ同ジ。

ずかり-ずかり-と (副) 次條ニ同ジ(前條ノ語ヲ強メテ、濁リタルモノ)

すかり-と (副) 一刀ニ切ル聲ナドニ云フ語。スカト。

すがりまた (名) 柔雁股 鏑矢ノ次ニ射ル雁股　高忠聞書「すがりまたト云事ハ、鏑ヲ射テ後、ヤガテ、雁股ヲ射ルヲ、すがりまたトハ云ナリ、只、すがりまたト云事ハ、アルマジキナリ、鏑ヲ射テ、二ノ矢ニ、すがりまたヲ射ナナトトハ云也、サレバ、[illegible]三郎、狐ヲ射タルニモ、[illegible]モ尾ヘ行ケト、鏑ニテ、ミミ、一ノ矢ヲバヒカセテ、二ノ矢ニ、すがりまたヲ射テ、狐ノ生尾ヲ射切タルナド、物語ニモ語ル也」

すがる (名) 蜾蠃 〔鳴ク聲ヲ名トセルカ〕(一)似我蜂ノ古名。又、サソリ。コシボソバチ　雄略紀、六年三月「蜾蠃、此云須我屢」(人名) 萬葉集、十六、長歌「殿ノ蠱ニ、飛ビ翔ケル、すがるノ如キ、腰細ニ」女ヲモ譬ヘテ、腰細ノすがるをとめト云ヘリ。すがるをとめノ條ヲ見ヨ。(二)轉ジテ、草木ノ花ニ睦レテ、露ヲ吸フ蛇ノ類マデヲモ云フ。(三)誤リテ、鹿ノ事トモス、鹿ハ、腰、細ソシ、蜾蠃ニ譬ヘテ呼ビタルナリ　古今集、八、離別「すがる鳴ク、秋ノ萩原、朝タチテ、旅行ク人ヲ、イツトカ待タム」(女、自身ヲ鹿ニ譬ヘテ、妻戀スル意) 堀河百首「すがる伏ス、野中ノ草ヤ、茂カラム、行交フ人ノ、笠ノ見エヌハ」夫木抄、十二、原上鹿「秋クレバ、シメヂガ原ニ、咲キソムル、萩ノハツエニ、すがる鳴クナリ」拾玉集(慈鎮)一「奥山ニ、招キコモリナム、後ハサハ、すがる[illegible]ヤ、友トナルベキ」

すが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 縋 〔下るト通ズルカ〕取リツク。寄ル。頼トシテ、ツラマル　[illegible]　名義抄「[illegible]、[illegible]、スガル」[illegible]古今集、十六、哀傷「誰レトテモ、止マルベキカハ、アダシ野ノ、草ノ葉每ニ、すがる白露」拾玉集(慈鎮)四、虛橘子低山雨重「香ヲトメテ、昔ヲ忍ブ、袖ナレヤ、花橘ニ、すがる雨カナ」夫木抄、八「見渡セバ、葛葉ニすがる、五月雨ノ、軒ノ雫ヤ、今日ノ菖玉」同、廿七「[illegible]蟲ノ、すがる木ノ葉モ、落チハテテ、ツクヅクモナキ、秋ノ[illegible]哉」堀河百首、上[illegible]ノ葉ニ、すがる垂氷ノ、春風ニ、打チトケテ鳴ク、[illegible]ノ聲」拾玉集(慈鎮)一、無常「朝ヅク日、サスヤ岡邊ノ、草ノ葉ニ、すがれる露ヲ、ヨソニヤハ見ル」金葉集、三、夏「此里モ、夕立シケリ、淺茅生ニ、露ノすがらヌ、草ノ葉モナシ」金槐集(實朝)下「道遠シ、腰ハ二重ニ、カガマレリ、杖ニすがりテ、ココマテモ來ル」「袖ニすがる」言葉ニすがる」

すが・る・ル・ラ・ル・リ・レ (自動、四) 箝 〔次ぐノ延、插ぐるノ自動〕スゲラル。箝マル　取リツケラル。「下駄ノ[illegible]ガ、すがる」

すが・る・ルル・レ・レ・レヨ (自動、下二) 盡 〔末枯るノ略カト云フ〕末ニナリテ、盡キムトス。消エムトス。衰ヘムトス。(香ニ、聲ニ、時刻ニ、刀ノ燒ニ) 字鏡七十九「[illegible]、須加留、ツカルル」(天治本、同ジ) 說文「[illegible]、疲也」

すが・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 酸 酸ク、酸味ヲ感ズ。枕草子、三、廿八段、似氣なきもの「齒モ無キ嫗ノ、梅喰ヒテ、すがりタル」

すがるのたち (名) 細太刀 〔すがるハ、前前條ヲ見ヨ〕鋭利ナル太刀、ホソダチ　太神宮式、神寶「須我流橫刀一柄」注「柄長六寸、鞘長二尺、其鞘、以金鏤泥畫之、柄以鴾羽纏之」本朝式「[illegible]賀流橫刀、後細太刀」

すがるをとめ (名) 蜾蠃少女 蜾蠃ノ如ク、腰ノ細キ、シナヤカナル少女。萬葉集、九、長歌「梓弓、スヱノ珠名ハ、胸分ノ、廣キワギ

モ、腰細ノ、須我螺蠃ノ」

❖すが・れる (動) 〔盡〕 すがる(盡)ノ口語。

すがゑんざ (名) 〔菅圓座〕 菅ニテ編ミタル圓座 雅亮裝束抄、二「大床子ハ、云云、上ニ、高麗ヲ、タダ、牛帖ノヤウニ打チ、裏ヲ附ケ敷キ、ソノ上ニ、すがゑんざヲ敷キタリ」

〔すき (名) 〔主基〕 〔濯ぎノ約、淸淸シク、淸マハル意ト云フ〕 ゆき(悠紀)、幷ニ、だいじやうゑ(大嘗會)ノ條ヲ見ヨ。 天武紀、下、五年九月「齋忌ハ、新嘗ノ國郡也、齋忌、云云、次、云云、以云二須岐一也」 儀式、二、踐祚大嘗祭儀「天皇卽位之年、云云、大臣奉レ勅召二神祇官一、密封令レト二定悠紀主基國郡一、奏書訖、卽下二知其國一」

〔すき (名) 〔鋤〕 〔一鋤くノ名詞形〕 地ヲ掘ル具、幅廣キ刃ニ、直ニ柄ヲ着ゲテ、直ニ地ニ突キ入レテ、用キル、(鍬ノ、横ニ用キルト、用ヲ異ニス) 鍤 鍬● 倭名抄、十五、農耕具「鍤、云岐、去、鍬助、岐也、鍤、插二地起一土也」 字鏡「鍬、須支」 孝德紀、大化二年「鍬一口」

すき (名) 〔透〕 (一)透キタル閒。アハヒ。ハナレメ。スキマ。隙 「戶ノすき」 (二)ヒマ イトマ 閒暇 著聞集、布施經、云「コナタサヘ、御すきデ御座ラバ」「仕事ノすき」 (三)窺ル機 虛 盛衰記、三十五、高綱渡二宇治河一事「息喘メバ、馬ノ弱ルニ、透ヲアラセデ、押並守並テ、馬ニモ人ニモ、力ヲ副ヘヨ、二すきヲ狙フ」すきニツケイル」

〔すき (名) 〔窩〕 透ノアル山 名義抄「窩、スキ」

〔すき (名) 〔食〕 食クコト 食ムコト 宇津保物語、貴宮、廿「黃金ノ壺ノ大キナルニ、彼ノ御すきノ米、一盛容レテ、奉リ給フ」

すき (名) 〔好〕 (一)好クコト。コノミ。嗜好 浮世風呂、二、上、三、(二)ニ同、下、ウ、モ、すキニアルナレ」 (二)ニ文雅、風流ニ、心ヲ寄スルコト。スキゴト。モノズキ。好事。 源、十三、明石「十三日ノ月ノ、花ヤカニ指出デタルニ、タダ、アタラ夜ノ、ト聞エタリ、君ハ、すきノサマヤ、ト思セド」 古今集、廿、誹諧「梅ノ花、散リテノ後ノ、みナレバヤ、すき(好、酸)モノトノミ、人ノ言フラム」 (三)好色。イロゴノミ。多情 源、十九、薄雲「古ヘノすきハ、思ヒヤリ少ナキ程ノ過チニ」 同、九、葵「人ノ御名モ、我ガ爲モ、すきガマシウ、イトホシキニ」 同、五十一、蜻蛉「すきバミタル氣色アルカトハ、思シカケザリケリ」 後撰集、十、戀、二、女ノ許ニ遣ハシケル「音ニノミ、聞キコシ三輪ノ、山ヨリモ、すき(好、杉)ノ數ヲバ、我レハ見エニシ」 (四)次條ノ數奇ノ(二)ニ同ジ。 (五)歌。和歌。 戴恩記(松永貞德)下「昔ハ、すきト云ヘバ、歌ノ事ト、人ノ、心得侍リタリ、歌ノ事ヲ言ヒテ、忠盛モすいタリケレバ、カノ女房モすいタリケリト、平家(平家物語、一、鱸事)ニモ謠ヘリ、好士ト云フモ、歌人ノ事ナリ、然ルヲ今、茶ノ湯ヲ、押出シテ、數奇ト云フハ、歌道ノ、世ニ廢レタル故ナリ」 宗長手記「連歌、神ノ世ヨリモ、すきノズンギリ」此頃、數奇ナド云ヘル、云云」

すき (名) 〔數奇 數寄〕 〔字ハ、當字、好ノ義、さうき(數奇)ト混ズルヲ恐レテ、寄ノ字ニナス〕 (一)前條ノ(二)ニ同ジ。 下學集、下、言辭門「數奇、辟愛之義也」 節用集「茶數奇」 慶長節用集「數奇」 正保慶安節用集「數寄」 難波江、五、上「孝(岡本保孝)云、下學集ヨリ、慶長十六年ノ節用集マデハ、奇辟ノ奇ノ字ヲ書キ、正保三年ノ節用集ヨリ、今日マデハ、寄附ノ寄ノ字ヲ書ク、イカナル事ニカ、云云、抑、すきト云フ詞ハ、數奇ノ字音ニアラヌコト、云フモ更ナリ、史記、李廣傳ニ、數奇ノ字面アレド、ココニ由アル事ニアラズ、只、すきト云フ詞ヲ、數奇ト書ケルマデノ假字ナリ、字義ヲ採ルニアラズ、すきト云フハ、物ニ執着スル事、其事ニ偏ル事ニテ、好色ノ事ノミニアラズ、歌ニモ、諸ニモ、佛事ニモ、何ニモ云ヘバ、茶ノ道ニ限ラヌコトモ、推シテ知ルベシ、物語文ナドニ、好色ノ事ニ、多ク用フルハ、人人ノ好ミ、サマザマアルガ中ニ、好色ハ、ナシ渡シテアルモノナレバ、オノヅカラ、所所ニ、多ク見ユルナリ、枕草子ニ、ミカドノ、女御ニ、古今集ノ歌、試給フ所、又、大臣ノ誦經セサセ給フ所ニ、すきずきしトアルハ、歌ト、佛事トナリ、源氏物語ノ繪合ノ卷ニ、すきずきしト云フハ、繪ナリ、同物語ノ松風ノ卷ナルハ、風流ノ事ニ云フニテ、好色ノ事ニアラズ、鴨長明ガ發心集、六ノ卷ナル、永秀法師ノすきハ、横笛ノ事ナリ、又、源氏物語ノ若紫ノ卷ニ、嗄レタル聲ノ、イトイタウすき辟メルモ、アハレニトアルハ、世ノ人ニハ、物遠ク、頑ナニ、偏リテ、打辟メルヲ云フ也ケリ、老人ノ齒落テ、聲ノすくト云フ說ハ、取ルニ足ズ」 海人藻芥、下「年少ノ時ハ、能事ニダニモ數奇タルハ、成長ノ後、必ズ惡ク成也」 紀遇雜話抄「器用ヲ地盤トシテ、數奇ヲ第一トスベシ、器用ト、稽古ト、すきト、三ツノ內、すきコソ、物ノ上手ナリケレ」 著聞集、十二、博奕「十二月ノ廿九日、サシモノ紛レノ中ニ、圍碁ヲ打ツダニ、打マカセテハ、心付ナカリヌベキニ、所所へ使ヲ走ラカシテ、判ゼサセケルコソ、異、數サルル程ノ數奇ニテ侍レ」 (二)茶ノ湯。(前條ノ(三)、(五)ノ語ヲ、茶道ニ、專ラ ニス) 一水記、大永六年七月廿二月、靑蓮院「有二御茶一云云、當時數奇宗珠、祗候ス、下京地下入道也、數奇之上手也」 東國紀行(宗牧)「數奇ノ御茶湯」 落穗集、六、小堀「公方慈照院殿、茶ノ事ヲすかせ給ヒ、云云、信珠光ハ、此道ノすき者ニテ、將軍家、愛シタマヒ」 三好記「中國ノ大內介殿ハ、云云、此御家ノ滅ビ候事ハ、天文廿年ニ、御茶すきヲ被レ成候トテ、境ノ町ノせうおう(紹鷗)ト申スわびずきノ者ヲ呼下シ、四疊半ノすきやヲ立テテ一筆つすさび、上茶事ヲ計ムニ、佗ト云ヒ、數奇ト云フ事、第一ノ義ナリ、風雅ニ、物好ミヲシ、閑寂ノわびタルヲ樂シム事ヨリ云フナリ、ソノわびヲ樂シム中ニ、好古ノ志アリテ、古器ノ雅致アルヲ鑒定シテ、翫ビ樂シム、是レ、數奇ナリ」

〔すき (名) 〔繦〕 〔助ノ轉カ〕 小兒ヲ負フニ用キル帶。又、すけ、オブヒヒモ 字鏡「繦、繈、襁有、須支」 同「繦、負、兒帶也、須支」 萬葉集、十六、長歌「綠子ノ、若子ガ身ニハ、タラチシ、母ニ抱カエ、襁、遊フ子ガ身ニハ、木綿肩衣、ヒヅラニ縫ヒ着」「手すき二襷」

〔すき (名) 〔坏〕 つき(坏)ニ同ジ。 大嘗祭式「多賀須伎、比良須伎」

〔スキ (名) 〔村〕 〔朝鮮語、今、さきこ〕 百濟語、邑ノ義。 神功紀、四十九年「百濟意流村、今云二州流須祇一」 天智紀、二年八月「白村」(百濟ノ地)

さき (名) 〔數奇〕 さうき(數奇)ノ條ヲ見ヨ。

〔すぎ (名) 〔次〕 つぎ(次)ト云フニ同ジ。 天武紀、下、五年九月「次、次此云二須岐一也、丹波國、訶沙郡、云云」 古事記、上、廿五「手次繋二天香山之天之日影一」 萬葉集、一、八、長歌「珠手次、懸ケノ宜シク」

〔すぎ (名) 〔杉 楹〕 〔すくすくト生フル木、又、すくすくト立ツ木ノ義、すぎの木ト云フガ、成語ナベシ、古クハ、榲、楹ノ字ヲモ用キキ〕 喬木ノ名、幹、直ニ聳ユ、葉ハ、針ノ如ク、枝ニ着キテ生ジ、硬クシテ、稍、扁シ、冬、紅葉シテ、落チズ、夏ニ至リテ、新葉ト代ハル、實ハ、疊疊シテ、細株ノ如シ、種ヲ下シテ、育テテ、材ヲ取ル、皮ハ、屋ヲ葺クベシ、材、最モ良クシテ、凡ソ、建築、作ニ、用キザル所ナシ、之レニ、赤、白、ノ二種アリ、赤杉ハ、油杉トモ云フ、色、紫ヲ帶ビテ、香氣多ク、材、實シテ、最モ良シ、赤杉 たハ、色白クシテ、朽チ易ク、下品ナリ、白杉 倭名抄、廿、木類「杉、須木」 天治字鏡 七十「杉、須支乃木」 本草和名、下「杉材、須岐乃岐」 雄略紀「此云二須擬一」 萬葉集、十四、六「足柄山ノ、須疑ノ木ノ間カ」 同、三、六「香山ノ、梓 楹ノ本ニ」

すぎ (接尾) 過 物ノ、度ヲ越エタルコトニ云フ語、「食ヒすぎ」言ヒすぎ」干時すぎ」

すぎあひ (名) 〔生業〕 すぎはひ(生業)ノ訛 三河物語(大久保忠教)下「若黨、小者ノ扶持米ニモ足ラズ候ヘバ、內儀ハ、昔、親、祖父ノすぎあひノ如ク成リ、無弱ノ體成リ」

すきあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 〔好合〕

ノ一合フ、心ニ適ヒ合フ。[illegible] スルゾト、心得テ」

すきあふぎ（名）透扇 竹ノ生地ヲ削リ[illegible]あふぎヲ持タス」 安斎随筆、前編、三、五節の舞[illegible]アリ、是ヲ、透扇トテ、骨ノ板ヲ切キスキテ、絵ヲ張リタルナリ、[illegible]第二巻ニ」

すきあぶら（名）梳油 髪ヲ梳クニ付クル油、胡麻ノ油一合ニ、生蝋六匁ヲ和シテ、香料ナド加ヘテ、煉ル、但シ、夏（四月）ヨリ秋（八月）ニ亘ケテハ、蝋二匁ヲ増ス、甚ダ固ラズ、ソノ、[illegible]多クシテ固キヲ、鬢付油ト云フ。[illegible]髪付、伽羅[illegible] 好世女装考、四「すき油モ、古クアリ[illegible]すき油」

すきありき（名）好歩 スキアリクコト。[illegible]

すきあり・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）好歩 物好ニテ、アルク。色好ニテ、浮カレ歩ク。[illegible]とりかへばや、一「サバカリノ人サマニテハ、残ル隈無クテ、すきありかンモ、イカニ咎ムベキゾ」

スキイ（名）［英語、Ski］雪橇 雪ノ上ヲ滑ルニ用ヰルモノ、[illegible]、樺樟ナリ、細長キ材ノ、先ノ、上ヘ反リタル、其中央ヲ蹈ミ、杏トシテ用ヰル。雪橇。穿橇（ハキゾリ）。

すきいた（名）杉板 杉ノ木ノ板。[illegible]集、十二、戀、二「杉板モテ、葺ケル板間ノ、合ハザラバ、イカニセムトカ、我ガ寝ソメケム」

すきいひ（名）次飯 「上飯ニ對ス」上ニ次グ飯。[illegible]大[illegible]一汁[illegible]

すきいれ（名）[illegible] 次條ノ語ノ略。

すきいれがみ（名）漉入紙 模様、又ハ、文字ナドヲ、漉キ込ミタル紙。略シテ、すきいれ。

すきうつし（名）透寫 ［分類、違ヘシトテ、スルコトナリ」書畫ノ上ニ、薄キ紙ヲ載セ、下ノ書畫ヲ透キトホラセテ、寫シ取ルコト。シキウツシ。摸寫 影寫 [illegible]すきうつし[illegible]ヤ、カキツバタ」

すきがき（名）透垣 間ニ、透目（スキメ）ノアル垣。音便ニ、すいがき。すいがい。

すきかげ（名）透影 物ノ影ノ、物ノ隙ヨリ透キテ見ユルコト。源、二、帚木「火影（ホカゲ）ニ[illegible]シタルすきかげ」同、四、夕顔「若キ女ドモノすきかげ、見エ侍ル」同、廿、[illegible]卯月ノ頃、[illegible]着籠メ給ヘル髪ノすきかげ」枕草子、七、七十段、清しと見ゆるもの「水ヲ、物ニ入ルルすきかげ」

すきがさ（名）透笠 透シタル笠。網代笠ノ、編目ノ、透キタルモノ。今鏡、三、四、藤波、上、宇治川[illegible]白河院ノ御時ハ、[illegible]仕ハ皆、馬ニ乗リテ、すきがさ、タダノ笠ナト、着テ」

すきかは（名）杉皮 杉ノ樹ノ皮ヲ、長サ三尺許ヅツニ剝ギ取リタルモノ、屋根ヲ葺キ、壁板トスルナド、用、多シ。

すきがへし（名）漉返 スキガヘスコト。反古紙ヲ、水ニ浸シ、打叩キテ、漉キ改メタルモノ、宿紙（シュクシ）。宿紙（スクシ）。ウスズミガミ。草子紙（サウシガミ）。還魂紙。好色一代女（西鶴）六、夜發の附聲「漉返しノ鼻紙ヲ入レ」

すきかへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）鋤返 鋤キ、又ハ、鍬ナドニテ、地ヲ掘リカヘス。古今集、十五、戀、五、[illegible]小山田ヲ、アラすきかへし、カヘシテモ、人ノ心ヲ、見テコソ止マメ」

すきがへ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）漉返 古紙ヲ洗ヒ溶シテ、再ビ漉キテ、紙ニ作ル。七十一番職人盡歌合、十九番、紙漉「すきがへし、薄墨染ノ、夕暮モ、白紙色ニ、月ゾ出デヌル」

すきがま・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）好 好色ラシ。源、二、帚木「コノ君モ、イト[illegible]物憂クシテ、すきがましき徒（アダ）ナリ」同、九、葵「人ノ御名モ、我ガ名モ、すきがましう、イトホシキニ」

すきがまへ（名）透構 築城法ノ語、城内ノ見ユルヤウニ、柵ヲ透シテ構ヘ作ルコト。築城記「一、城ノ口ヨリ家モ見エ、又、土居モ、柵ヲ振、内ノ見ユルヲバ、透がまへト云也」

すきがみ（名）梳髪 （一）女ノ結髪ノ一、頭ノ前髪ノミヲ分ケ取リ、殘リヲ髻（タブサ）、髱（タボ）ナドヲ出サデ、結フモノ。（二）梳リタル髪。

すきぎ（名）透木 茶道具ノ一、鬲釜カ、甑（ノカキ）ノ釜ヲ、風爐ニ掛クル時、用ヰル、厚朴、又ハ、桐ニテ作リタル、三木ノ木。敷木。茶道筌蹄、三、茶器品目「透木、利休形ハ厚朴、元伯形ハ桐、イヅレモ、風爐共アリ、山中氏所持ニ、元伯書付、大、中、小、三ツアル由」茶道要録、上、風爐之事「透木之事、是ハ、刃釜カ、甑ノ釜ヲ、風爐ニ掛ル時、透木ト云物ヲ用、厚朴ニテ、長サ二寸バカリ、厚サ四五分、幅六七分ニシテ、二ツ、兩脇ニ可置、釜ノ大小ニ因テ、見合有ベシ、常ニ仕掛ルニハ、木ヲ略シテ、鐶ニテ、鐶ノ如クシテ、漆付ニス、大サ二分四分程タルベシ、三ツヲ以ス、脇ニ一ツ、後ノ眞中ニ、一ツヲ用ユ」茶湯集、十、「風爐、透木 透木トモ云フ」、座ノ白木、長貳寸、巾七分、厚五分」

すきぎり（名）剝切 スキキルコト、宇治拾遺、一、十八條「薄ラカナル刀ノ、長ヤカナル、持タルガ、十餘人バカリ出デ來テ、此薯蕷ヲ剝キツツ、すきぎりニ切レバ、早ク、芋粥煮ル也ケリト見ルニ」

すきき・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）剝切 薄ク、剝ギ切ル。

すきぎれ（名）漉切 紙ヲ漉キ損ヒテ、透ヲ生ジタルモノ。抄絶

すきぐし（名）梳櫛 ［解櫛（トキグシ）ナドニ對ス］齒、甚ダ密ニシテ、髪ノ油垢ヲ梳（ス）キ去ルニ用ヰル櫛。密篦子。用明天皇職人鑑（寶永、近松作）職人盡「髪櫛引ク、ヒクヤタナノすき櫛ヤ、亂レ髪櫛、人ハヨモ、水櫛トコソ思ヒシニ、誰ガ二ツ櫛ニ、名ヲ立テテ」

すきくは（名）鋤鍬 すきト、くはト。すき、又ハ、くは。百姓、土方、ナドノ用具ニ云フ 國性爺後日合戰（正德、近松作）「干將、莫耶ヲ持チタリトモ、鋤鍬選ブ腕前テハ、[illegible]ヲ持ッタモ[illegible]」

すきぐるま（名）透車 外ヨリ、内ノ、透キテ見ユル車。狭衣、三、下九「車ハ、所所、透キ通リテ、晴レナウ、メデタウシテ、云云、挑ミカハシテ出デタランすきぐるまニ、生ヨロシカラン髪ツキ、サマカタチニテ、乗リタランハ、マバユカリヌベキワザカナ」夫木抄、三十三「哀レナド、賀茂ノミアレノ、すき車、飾リテ渡ル、世トナリニケン」

すきくれ（名）杉榑 杉ノ榑木（クレギ）。杉ノ材木。内匠寮式、五尺屏風骨五十粘料「杉榑（スギクレ）、十七十五村」六帖、一、杣「杣山ニ、立ツ杉くれノ、ナモテナモテ、人ニ引カルル、君ハ猶マジ」

すきごこち（名）好心地 次條ノ語ニ同ジ。源、二、帚木廿「若キ程ノすきごこちニハ、コノ人ヲトマリニモト、思ヒトドメ侍ラズ」

すきごころ（名）好心 好色ノ心。スキゴコチ 源、二、帚木四十「アナガチナルすきごころハ、更ニ慣ハヌヲ」同、七、紅葉賀廿「すき心ナシト、常ニモテ惱ムメルヲ」

すきおと (名) 好事　好事ノコト、好色ノコト。竹取物語、大伴御行大納言「カカルすき事ヲシ給フ事ト、譏リアヘリ」伊勢物語、七十段「カノ宮ニ、すきおとと云ヒケル女」蜻蛉日記、上、上三「昔、すきおとセシ人モ、今ハオハセザルカナ、ト、人ニ附キテ聞エゴツヲ」源、二、帚木二「イトド、斯ルすきおとドモヲ、末ノ世ニモ聞キ傳ヘテ、輕ビタル名ヲヤ流サン」同、廿六、常夏六「サスガニ、人ノすきおと言ヒ寄ラムモ、ツキ無シカシ」

すきおみ (名) 漉込　(一)スキコムコト。スキイレ。(二)杉原紙ノ一種。十帖、重ネテ、中ヲ水引ニテ結ビ、上ニ緘子壹本、末廣一本ヲ添ヘテ、獻上スルモノ。

すきお・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 漉込　紙ニ、模様、又ハ、文字ナドノ、表ハルルヤウニ漉ク。又、紙ノ中ニ、木ノ葉ナドノ入ルヤウニ漉ク。

すきおめ (名) 〔丘米〕 ヲシゴメ。喰フ米。飯米。宇津保物語、貴宮廿「飯食、云云、省エ物ニセサセン、すきおめノオロシ、少シ賜ハセヨ」

すきごゑ (名) 透聲　笛ナドノ音ノ、十分ニ張ラヌコト。又、其音。盛衰記、十五、蟬折笛事「此御笛ヲ給リテ吹キケルガ、すき聲ノシケルヲ」

すぎさいぼう (名) 杉尖棒　杉丸太ノ棒(鐵尖棒ニ因ミテノ稱) 太平記、三十六、頼宮心變事「此ヲ敵ニ受テハ、力者二三人ニ、杉材棒突カセテ差向ケタランニ、不足アルマジ」

すきささ (名) 酢　〔さかきささト云フモ、アリ〕 酢ノ上ニ浮ブ、萍ノ如キモノ。黴ノコトナリ。名義抄「醭、スキササ、サケキササ」

すき 者ャ (名) 數寄者　(一)風流人。(二)茶ノ湯ヲナスモノ。茶人。酒茶論(沙門蘭叔)「本朝諺、謂二好茶者一曰二數奇者一」甲陽軍鑑、十四、品第四十、下、堺ノ紹鷗ノ言「數寄者ト、茶湯者ハ、別ナリ、云云、數寄者ト申ハ、振舞ニ、一汁一菜ナリトモ仕リ、茶ハ、雲脚ニテモ、心ノ寄麗ナルヲ、數寄者ト名付テ呼ビ候」

すぎしゃうじ (名) 杉障子　すぎど(杉戸)ニ同ジ。遊歩色葉集「杉障子」庭訓往來、三月「屏障子」海人藻芥、下「杉障子ノ繪ノ繪」秋夜長物語(應永頃)「カラガキ(唐垣)ノ戸ヲ、人ノ、アクル音スルニ、書院ノ杉障子ヨリ、遙カニ見出シタルニ」

すきす (名) 漉簀　紙ヲ漉クニ用キル簀。字類抄「漉簀、スキス」圖書寮式「簀十枚」注「漉、紙料」

すきすあう (名) 透素襖　ちぢみヲ染メテ作リタル素襖。貞丈雜記、五「條條聞書ニ云ク、すきすあうトハ、越後布ヲ染メタルヲ申シ候フ、云云、越後布トハ、今ノチヂミナリ」

すきずき (名) 隙隙　ヒマヒマ。アヒマ。アヒマ。狂言記、狂瀨「連歌、云云、是非ヤメ難クバ、世帶ヲ營ムすきずきニ、ソナタト兩吟ニスルデアラウ」

すきずき (名) 好好　コノミゴノミ。「銘銘、すきずきナ物ヲ買フ」

すぎすぎ (副) 次次　〔次ぐノ條ヲ見ヨ〕次次ニ。續キテ。源、三十四、下、若菜、下百「此度ノ御子ハ、又、男ニテナムオハシマシケル、すぎすぎ、イトヲカシゲニテオハスルヲ」同、同、上、同、上二五「深キ、淺キ、すぎすぎニ、アマタ重ナリタル差別」同、四十九、東屋三「マダ幼キナド、すぎすぎニ、五六人アリケレバ」

すきずき・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 好好　(一)モノズキラシ　好事ラシ。スキキャウラシ。源、十、賢木五十「すきずきしき歌ナドモ、互ニ聞エカハサセ給フツイデニ」同、五、若紫十「ワザト迎ヘ出デムモ、すきずきしかるべし」(二)好色メキテ見ユ。多情　源、廿二、玉鬘卅六「女ト云フ者ノ心深サヲ、アマタ見聞キシカバ、更ニすきずきしき心ハ、使ハジトナム」宇津保物語、藤開、下九「ソレナン、此貴宮ヲ思ヒ聞エ給ヘド、すきずきしくモヤトテ、色ニモ出デ給ハネド」著聞集、八、好色、慶滋註記ノ伯母「心、すきずきしくテ、好色、甚シカリケリ」

すきす・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 鋤　鋤ニテ鋤ク。ウナフ。

すぎだち (名) 杉立　逆立ノ一、兩手ヲ地ニ突キ、兩脚ヲ揃ヘテ、天ニ朝セシムルコト、越後獅子ナドノスル技ナリ。鯱立。犬子集(寛永)「三輪山デ、杉立スルヤ、春霞」曖筑波集(寛永)「獅子舞ハ、大和ノ國ニ、アリツキテ、見テモ目、アカヌ、三輪ノ杉立」

すきたわ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 好撓　色ゴノミス。色メク。源、二、帚木廿四「某ガ賤シキ諫ニテ、すきたわめラン女ニハ、心オカセタマヘ」

すぎぢゅう (名) 杉重　〔杉重箱ノ下略〕 杉村ニテ作リタル重箱。好色一代女(貞享、西鶴)四「菓子、杉重ノ殺マテモ取集メテ、小宿ノ嚊ガ機嫌取リニ、心附クルモ、ヲカシ」

すきて (名) 梳手　女髮結ノ助手トシテ、毛髮ヲ梳ク人。「女髮結ノすきて」

すきと (副) 空盡　殘リ無ク。サッパリト。スッキリト。又、ズンド。目ダチテ。殊ニ。狂言記、針立雷、鐵「モ、一本立テタラ、痛ミモ、中中モ、すきと治シマシテ、根ヲ切テ進ジマセフ」浮世風呂(文化、三馬)初編、下「螽蟖ハ、見エルカノ、此間、すきと、お出ガ無イ」鳩巣小說、下、三島明神ヲ護ニセシ奴ニ就キテ「執キ義トテ、捨置カレ候テハ、透と、紙等ノ無キコト二相成リ候」

すぎど (名) 杉戸　廊下、緣側ナドヲ遮ルニ設クル遣戸、多クハ、杉板ニテ作ル、妻戸ノ、變ジタルモノナルベシ。杉障子、杉張障子。杉の板戸。杉の門。家屋雜考、五、書院造「杉戸ハ、モト、妻戸ヲ略シ、遣戸ニシテ用ヒタル物トオボシ、其故ハ、古畫ニ、妻戸ノ在ルベキ所ヲ、板戸ノ遣戸ニシテ、明リウケノ所ヘ建テタル圖、多ク、又、ソノ木理ヲ見ルニ、必シモ、杉ヲ用ヒシトハ見エズ、古歌ニ、槇の板戸ナド詠メル、杉ニ限レルハ、ヤヤ、後ノ事ナルベシ、云云、秋の夜長物語ニ、杉障子ト書ケルモ、卽、此杉戸ノ事ナリ」今物語、延應元年正月十九日「或人ノ夢ニ、清水ノ地主ヨリトテ、御文アリケルヲ見ケレバ「月日ノミ、杉の板戸ノ、アケクレテ、過ギニシ方ハ、夢カ現カ」ト有ケリ」

すきどうろう (名) 透燈籠　透キ通ルヤウニ作リタル燈籠。嬢山姥(正德、近松作)燈籠段「歌仙ノ姿、畫ク上ニ、文字ヲ透シノ透燈籠、額燈籠」

すきとほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 透通　透徹　物、物ヲ透キテ、映リテ見ユ。透明　透徹　擧白集(木下長嘯子)一「すきとほる、野原ノ雪ノ、下緑、此處ニアリトヤ、若菜摘ムラン」著聞集、二、釋敎「其頭ノ色、瑠璃ノ如クニ、青クすき通り」狹衣、三、下九「乘ルベキ車ハ、所所、すきとほりテ、膿レ無ウ、メデタウシテ」

すきと・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 剝取　薄ク、削ギトル。

すぎな (名) 杉菜　草ノ名、水邊、沙地ニ多シ、春、舊根ヨリ、先ヅ、花ヲ生ズ、莖、高サ數寸、梢ニ花アリテ、筆ノ頭ノ如シ、コレヲ、つくづくし(筆頭菜)ト云フ、其二三寸ナルヲ採リテ、食フ、莖ニ節アリ、花、終ハリテ、葉、生ズ、細カク、短ク、八九寸、節毎ニ、細枝、簇リ生ジテ、杉ノ葉ニ似タリ。問荊　名義抄「問荊、スギナ」藻玉集、おもり(畠)「片山ノ、賤ガコモリニ、生ヒニケリ、すぎなマジリノ、ツクツクシカナ」

すきながびつ (名) 透長櫃　透ノアル長

侯」曾我物語、十九、…八月廿一日、長…ニ、…ノ事ニテ、…花ノモ…タリケリ」

すきなつめ (名) 棗 さねぶとなつめ ニ同ジ。宇津保物語、…「…スキナツメ」

すきなべ (名) 鋤鍋 すきやきニ用ヰルなべ。

すぎなり (名) 杉形 〔杉樹ノ枝葉ノ形ノ、森ノ字ノ如クナルヨリ云フ〕略シテ、すぎ。中央、尖リテ、左右、次第ニ張リ下リタル形ノ稱。物ヲ積ミ、又、盛ルニ云フ。金字形 …記…「…波殿、杉なりノ舳ヘノ舳先ニ乘リ出ダシテ、下知召サレ候」浄瑠璃(元祿、近松作)…「黑飛紗ノ杉形綱ニ、羽織着テ、お駕籠舁クノハ、是バカリ」杉形ノ中將ハ、駕籠ノ小倉中納言ノ主」「杉なりニ積ム」「…なりニ盛ル」盛衰記、三十五、…「…木曾…、木曾十騎…、馬ノ鼻ヲ引返シ、杉ノサキニ、サト立テ、…賞ケルハ」(馬除ヲ、杉なりニ立テタルナリ)

すきにかは (名) 透膠 支那舶來ノ膠、阿膠ニ對シテ、常ノ井水ニテ製セルモノノ稱ナリ。黃明膠

すぎのかど (名) 杉門 すぎど(杉戸)ニ同ジ。古今集、十八、雜、…「…思ヘトモ、云ハテ月日ハ、杉の門、サスガニイカガ、忍ビハツベキ」

すきば (名) 透齒 前齒、ハワレ、齒ノ間ニ、透アリテ、緻密ナラヌモノ。歷齒 …後…抄、二…「…、歷齒…、…、何分…、…不…、…、呼…齒…」

すぎば (名) 杉葉 杉ノ葉 猶、さかばやし(酒林)ノ條ヲ見ヨ。狂言記、河原新市「酒ヲ賣リニ參ラウ、云云、竹ノサキニ、杉ば附ケ、…」

すきばこ (名) 透箱 透ノアル箱。宇津保物語、…「…すきばこ、…」

ノすきばこ一ツニハ、唐綾五疋」榮花物語、三十四、暮待星「今片ツ方ニハ、透箱ナルヲ」著聞集、十一、畫圖、「永承五年、…女御…合、カネノ透箱、ウケニ…テ、…ノ草紙六帖、新シキ繪ノ草子一帖ヲ入」

すぎばし (名) 杉箸 〔竹箸ナドニ對ス〕杉ノ材ニテ削リ作レル箸。好色二代男(貞享、西鶴)三「竹箸ノ端ニ、丹波ニ入レテ、杉箸ヲ洗ウテ、干シテ置カセシハ」

すぎばしら (名) 杉柱 杉ノ材木ニテ作リタル柱。夫木抄、三十二「行キ尋レテ、宿借ル庵ノ、杉ばしら、一よノ節モ、忘レヤハセン」

すぎはひ (名) 生業 ナリハヒ。世過ニ營ム業。渡世。稼業。

すきばむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 好 好色メキテ見ユ。源、五十一、蜻蛉「すきばみタル氣色アルカトハ、オボシカケザリケリ」

すきはら (名) 空腹 胃ノ、空トナルコト。空腹。枵腹

すぎはら (名) 杉原 (一)杉ノ林。スギバヤシ。萬葉集、七、旋頭歌「御幣帛取リ、神ノ祝ガ、齋フ杉原、薪樵リ、殆シクニ、手斧取ラエヌ」(二)次條ノ語ノ略。庭訓往來、四月「播磨杉原」蔭凉記、永享五年十一月三日、「料紙…杉原、只尋常杉原也」蔭凉軒日錄、長享元年閏十一月廿九日、…云、數日前、…杉原一束、…一个、不…惡…之」…、康永三年二月廿一日、左大臣表狀、尋常杉原」海人藻芥、下「…杉原」秋草「…紙ノ中ニ、杉、小杉ノ名モ、杉原ヲ折リテ、懷中セシ、其寸法ヨリ起ル」…記、…廿六年三月八日「…召…日被…行…之、云云、…年…御…杉原…之…如…此…杉原…之」

すぎはらがみ (名) 杉原紙 音便ニ、すいばらトモ云ヒ、又、略シテ、杉トモ云フ。紙ノ一種、播磨國、揖東郡、杉原村ノ產、今ハ、多ク、加西郡、三原村ヨリ出ス、(一說ニ、美濃國、揖斐郡、坂內村杉原ノ產トモ云フ)奉書紙ノ屬ニシテ、稍、薄ク、柔カナリ 多クハ、糊ヲ加ヘテ、糊入ト稱シ、眞ノ杉原ハ、少ナシ。又、小杉原アリ、判、小サシ、略シテ小杉ト稱ス 好古小錄、下、雜考「古代ノ杉原紙ハ、板皂トテ、簾目ナシ、奉書モ、杉原ナレドモ、奉書ハ、簾目アリ」北條九代記、上「承久元年己卯、杉原紙、始而流布」心中天網島(享保、近松作)上「紙屋ノ治兵衛、小春狂ガ杉原紙デ、一分小判紙、チリ座紙デ、內ノ身代蟲破紙ノ、鼻モ拭カマレヌ、紙屋治兵衛」傾城色三味線、賞永、其鏡、大坂「杉原紙モ、延ハ、女メクトテ、小菊ノ五ツ折、云云」

すぎはらもち (名) 杉原餅 餅ノ一種、下ノ出典ヲ見ヨ。料理物語、菓子「杉原もちハ、めぐりトモ云フ、杉原ヲ細カニ裂リ、山ノ藷ノ葉ヲ茹デテ、筋、蔕ヲ取リ、搗、餅米六、うるち四分ノ粉ヲ捏ネ、湯煮シテ、三色一度ニ、ヨク搗キアハセ候、是ハ、六月土用ニ、大臣ノ祭物ニテモ、小臣モ、佳シ」

すぎはりしやうじ (名) 杉張障子 スギシヤウジ。スギド。狂言記、酢薑「すぎはりしやうじヲ、スルリト開ケ、スルスルト御出アッテ」

すきびたひ (名) 透額 冠ノ一種、甲ニ、小サキ月形ヲ透シ作レルモノ、元服以後、十六歲未滿ノ時ニ用キル物トゾ。…抄、透額(御元服之御時、用、諸臣、同)十六未滿也」…抄、冠「透額冠、常ノ冠ノ額ノ上方ノ透タル也、透ク所ハ、羅一重ニテ張タル也、往昔ハ、及二廿歲一著レ之歟、近代、限二十五歲一著レ之、不レ可二必然一事也、但、既爲二流例一、不レ得レ已事矣」西三條裝束抄、臣下冠「押、透額ノ冠ハ、忠義公(藤原兼通)ノ息、閑院大將朝光、始テ、シ出シ侍ル由、見エタリ」盛衰記、三十一、青山琵琶流泉啄木事「皇后宮亮經正、十七ニテ初冠シテ、頸テ、五位ニ成ヌ、すき額ノ冠ヲ給テ、宇佐宮ノ御使ニ立ラレケル時、云云」

すぎびつ (名) 杉櫃 杉ノ板ニテ作リタル櫃。…歌合、八番、すぎびつ「三輪山ニ、スミアルカヒハ、無ケレドモ、杉ノシルシヲ、猶ヤ頼マム」

すぎふ (名) 杉生 杉ノ、生ヒ立チタル所。スギハラ。新後拾遺集、八、雜秋「集メ來シ、シルシモアレヤ、我ガ山ノ、杉ふノ窓ニ、積ル白雪」夫木抄、四「今朝見レバ、花モすぎふニ、ナリニケリ、國ハ稲荷ニ、吹クト見ツレド」

すぎぶね (名) 杉舟 (一)杉ノ材ニテ造リタル舟。義經記、四、義經都落事「三十艘ノ杉ぶねニ、播磨ヲ構キ」(二)杉ノ材木ヲ運ブ舟。續古今集、七、神祇「熊野川、瀨ギリニ渡ス、杉舟ノ、舳波ニ袖ノ、濡レニケルカナ」

すきま (名) 透間 隙間 (一)透キタル間。ヒマ。アヒダ。スキメ。罅隙 源、三、空蟬「單衣打チカケタル木丁ノすきまニ、暗ケレド、打チ身ジロキ寄ルケハヒ、イト著シ」拾遺集、十四、戀、四「手枕ノ、すきまノ風モ、寒カリキ」(二)怠ル機。虛。破綻 源、四十九、宿屋「スベテ、イトすきま無キ心モアリ」盛衰記、四十二、義經解纜向二西國一事「今日ノ矢一ハ、敵百人、禦グベシ、透間ヲ數ヘテ、弓ヲ引ケ、徒矢射ナトゾ、下知シ給フ」

すきまかぜ (名) 隙間風 隙洩ル風。物ノ隙間ヨリ通フ風。冥途飛脚(正德、近松作)中「上ル二階ノすきま風、男交ゼズノ火鉢酒」

すきまかぞへ (名) 透間算 善ク、敵ノ虛ニ乘ズルコト。「透間かぞへノ大將」

すぎまるた (名) 杉丸太 杉ノ材ノ丸太。松ノ丸太ナドニ對ス。

すきみ (名) 透見 物ヲ透シテ、見ルコト。隙ヨリ、窺フコト。ノゾクコト。カイマミ。窺隙「穴カラすきみヲスル」

すきみ (名) 剝肉 薄ク切リタル肉。キリミ。膾 平家女護島(享保、近松作)三「鱈ノすきみ、乾…鮑」

すぎ-むら（名）［杉叢］ 杉ノ、叢立チタル所。後拾遺集、十三、雜、三「すぎむらト言ヒテ印モ、ナカリケリ、人ノ尋ネメ、三輪ノ山モト」

すき-め（名）［透目］ 透キテアル處。スキマ。間隙。

すき-もの（名）［好者］（一）モノズキ。好事ノ人。スキキャウモノ。スキシャ。源、五、若紫二「隨身、笙ノ笛ヲ持タセタルすきものナド、アリ」江談抄、三、アハレ、興アル夜哉、若シ、我レナラヌすきもの、今夜、世間ニアラナム、今夜、心得タラム人ノ、來リ遊ビヨカシ」（二）好色ノ人。色好ノ者。伊勢物語、五十八段「田舍ナレバ、田刈ラストテ、此男、見居リケルニ、イミジノすきものノ所業ヤトテ、集マリ、入リ來ケレバ」古今集、十九、誹諧「梅ノ花、咲キテノ後ノ、みナレバヤ、すきものトノミ、人ノ言フラム」紫式部日記「梅ノ枝ニ敷カレタル紙ニ「すきもの（以上、二首、酸き物ニカケタリ）ト、名ニシ立テレバ、見ル人ノ、折ラデ過グルハ、アラジトゾ思フ」拾遺集、九、雜、下「定メナク、成ル成ル瓜ノ、ツラ見テモ、立チヤ寄リ來ム、狛村ノすきもの」仲文集「すきものヲ、花ノアタリヘ、寄セサラバ、此常夏モ、根ダエマシヤハ」

すぎ-もの（名）［過者］ 身分ニ過ギタルモノ。分不相應ナルモノ。浮世床（文化、三馬）初編、中「頭公ハ、好イ男ダ、アノ女ニハ、過ぎものダハナ」

すき-や（名）［透綾］［すきあやノ約］ 生絹ニテ、物ノ、透キトホリテ見ユルバカリニ、薄々織レル織物、夏ノ服トス。文政ノ頃、越後國、魚沼郡、十日町ニテ、始メテ製出シタリト。「すきやノ夏羽織」

すき-や（名）［數寄屋］ 好屋ノ義、數寄ノ條ヲ見ヨ」（一）茶會ノ爲ニ、殊ニ建テ設ケル、小サキ庵ノ名。茶寮。茶室。（圍）[illegible]云フ一書、[illegible]二、乾坤門「[illegible]茶屋一、後[illegible]かこひ、世一、茶寮ヲ、かこひト稱スルハ、珠光、慈照寺ノ界内、東求堂ノ東北ニ一室ヲ設ケ、同仁齋ト名ケ、四疊半方丈ノ室ニ准ヘ、屛障、是ヲ圍メリ、ヨテ、此稱アリ」同、すきや「茶寮ヲ云フ、數寄屋ノ義、佗ト稱スル意ナリト云ヘリ」和爾雅、五、居處「茶寮」注「俗、云二數奇屋一」茶道早合點、上、茶室「小座敷トモ云フ、數寄屋トモ云フ、家ノ内ヲ仕切リテ、茶室ヲシツラフヲ、圍ト云フ、四疊半ノ小座敷ヲ、東山殿（足利義政）、始メテ作ラレシヨリ、人人ノ物數寄ニテ、段段、今ノ間取トハナレリ」太閤記、十三、名護屋旅館作事「一、御本丸すきや、長河宗仁法眼、一、山里すきや、石田木工頭、老松、替エタリシヲ、便リトシテ、一興有リ」（二）紙ノ一種、障子ニ貼ル美濃紙ノ稱。

す-ぎゃう（名）［修行］ しゅぎゃう（修行）ニ同ジ。狹衣、三、上三十六「尼君ノ最期ニ遇ヒ侍ラムズレバ、遠キすぎゃうナド、エ仕ウマツルマジケレバ」

ず-きゃう（名）［誦經］（一）佛經ヲ、誦ムコト。僧ニ、讀經セサスルコト。誦經。源、三十六、橫笛二「御ハテニモ、誦經ナド、取リワキ、セサセ給フ、云云、黃金百兩ヲナム、別ニ、セサセ給ヒケル」同、四、夕顏三十「カカル頃ノ事ニハ、ず經ナドヲコソスナレ」同、七、紅葉賀四「御ず經ナド、所所ニセサセ給フヲ」（二）誦經ノ施物。誦經物。新古今集、八、哀傷「小式部ノ内侍、身マカリテ後、常ニ持チテ侍リケル手箱ヲ、誦經ニセサストテ」大和物語、下「我ガ裝束、上下、帶、太刀マデ、皆、ずきゃうニシケリ」

す-ぎゃう-ざ（名）［修行者］ しゅぎゃうざ（修行者）ニ同ジ。伊勢物語、第九段「物心細ク、スズロナル目ヲ見ルコトト思フニ、す行者、逢ヒタリ」源、廿一、玉鬘三十「尊キすぎゃうざ語ラヒテ、率テ來タルカト、問ヒ給ヘバ」

す-ぎゃう-じゃ（名）［修行者］ 前條ノ語ニ同ジ。枕草子、六、五十八段、あはれなるもの「高ク打チテデニ、聞ミタレニ、ワザト、尊シトモアラズ、修行者ダチタル法師ノ、讀ミナリト、フト、打チオドロカサレテ、アハレニ聞コユ」

ずきゃう-もの（名）［誦經物］ 誦經、又ハ、祈禱ノ禮ニ贈ル施物。盛衰記、十、中宮御產事「御誦經物ニハ、御劍、御衣、諸寺、諸社ヘ進セラル」

すき-やき（名）［剝燒鋤燒］［モト、古キ鋤ニテ、燒キタル故ノ名トモ云フ。（料理談合集）］ 薄切肉ニ、醬油ヲツケテ燒クコト。炒煮。「牛肉ノすきやき」

すぎ-やき（名）［杉燒］ 料理法ノ一、コレニ、二種アリ、杉ノ折ニ種種ノ物ヲ包ミタルト、杉板ニ魚肉ヲツケテ燒キタルト、アリ、下ノ出典ヲ見ヨ。嬉遊笑覽、十、上、飲食「杉燒ト云ニ、二種アリ、コレハ、料理物語ニ、へぎやきト云ヘリ、鴫ヲ大キニ作リ、タマリ掛ケ置テ、皮ヲ煮、身ヲ挾ミ入、一枚宛ビニ置キ、燒クコトナリ、又、調味抄ニ 杉ノ箱、又、面面、和、鼓ニ[illegible]加事モアリ、鴫、若シクハ、鱧、鯉、鮭、取合ニ、葱ヨク茹テ、又、後、卵餠ヲ入煮、ト有リ、面面ト云ヘルハ、面面杉燒ナリ、是、古ノ杉ノ折櫃ナリ、又一種ハ、一代男ニ、杉板ニツケテ燒タル魚、御定リノ蛸、漬梅、色付ノ薑」後撰夷曲集（寬文、行風）冬「花ニ酒、月ニ芋食フ、春秋モ、冬ニハイカデ、すぎ燒ノ鴫」本朝櫻陰秘事（元祿、西鶴）「杉燒ノマハリ振舞シテ、町衆四五人、岩倉、伊呂ニ鉉ニ、面面、杉燒モ、鴫、青鷺ナラデハ、喰レズ」

すきや-たび（名）［數寄屋足袋］（一）革足袋ニ對シテ、木綿、絹、其他ノ足袋ノ稱、茶室ノ數寄屋ニ用キタル故ノ名カ。寬永十九年金銀掃張「銀八匁四分ハ、御すきやたび二足ノ代、[illegible]絹トモニ」男色十寸鏡（貞享）「足袋ハ、さろめん、すきや足袋、ヨシ」吞海味（天文ノ茶書）ニ「革袴、革たび、一、重道服、着スベカラズ」（二）黃染ノ綿布ニテ作リタル足袋。原武太夫雜記「遊所ヘ通フ客、茶字ノ袴、すきや足袋」坊主衆ハ、皆、百庵ヲ學ビ、云云、黃色ナルたび、今トテモ殘リ、百庵ヲ元祖トス、二百庵ハ、寺町百庵ト呼ビ、茶坊主ナルベシ、本名、桑三、住居ヲ、數多タビ變フ、因リテ、百庵ト號スト）

すぎやま-りう（名）［杉山流］ 鍼治ノ一派、元祿中、江戸ノ盲人、檢校杉山和一ノ創メタルモノ。

すぎ-やりど（名）［杉遣戸］ 杉ノ材ニテ造リタル遣戸。新六帖、六「オノヅカラ、サテモ我ガ身ノ、杉やり戸、ヲリヲリ弱キ、世ヲイカガセン」明月記、寬喜二年四月十二日「妻戸西、依二略儀一不レ塗レ壁、皆欲レ立二杉遣戸一」

す-ぎょ（名）［出御］ 常ニ、しゅつぎょト讀ムハ、誤レド、暫ク、習慣ニ從ヒ、其處ニ解ケリ。

す-ぎょく（名）［珠玉］ 珠玉ニ同ジ。

すき-らう（名）［透廊］ すきわたどのニ同ジ。武家名目抄稿、六、居處「按、廊ノ、左右ヲ蔽ハズ、見透サルル如ク造リタルヲ、透廊ト云フ、何ノ、幾ヲ、伊ニ通ハシテ、須伊廊ト稱也」嬉遊笑覽、一、上、居處「透廊ハ、同廊ニ、細キ木ヲ、竪ニ繁ク打タル窗有テ、透テ見ユルナリ」吾妻鏡、三十、文曆二年正月廿日「忠尚、親職、晴賢、文元、等、候二于渡殿透廊北妻一」

スキリ（名）［村］ すき（村）ニ同ジ。欽明紀、十五年五月「佐知村飼馬奴苦都」

す・ぎる（動） 過グノ口語。狂言記、麗の酒「モ一ツ、重ネテ飲マシマセ、イヤ、大杯ヂャ、ソレデハ過ぎる」「新シすぎる」「廣すぎる」「小サすぎる」

すき-わざ（名）［好事］ 好色ノ事。スキゴト。源、九、葵三「心ノスサビニ任セテ、斯クすきわざスルハ、イト、世ノモドキ、負ヒヌベキ事ナリ」

すき-わたどの（名）［透渡殿］ 音便ニ、すいわたどの。左右ニ壁ナキ廊。吹拔ノ廊。スキラウ。スイラウ。類聚名物考（山岡浚明）宮室、一「透渡殿ハ、格子透垣ヲ仕マハシタルヲ云フナリ」[illegible]「透渡殿ト云ハ、殿ノ上ヨリ見ユル廊下續ノ、人ノ通レガ見ユル所ヲ、すきわたどのト云フ」[illegible]「康和二年七月十

七日、[illegible]其饌[illegible]満[illegible]長者[illegible]饌二ゾ饌ハレケル」

すきゑぶくろ（名）[illegible]袋　食物ヲ入ル、袋（携帯用ノモノ）[illegible]、上二「白銀ノすきゑぶくろニ、御菓物、容レタリ」（頭阿ノ[illegible]袋ニハ、[illegible]ナト[illegible]ケテシタルモノ也、コレハ、其ノ籠ヲ、銀ニテ作レルモノカ、然レドモ、透ト云ヘルヲ思ヘバ、常ニハ、籠ヲ用ヰズシテ、綿布ナドニテ作ルト見ユ、籠ノハ、透ト云ヘルナルベシ、籠ニモ、彫リすかしタルヲ、すきばこト云ヘル例アリ、ト云ハレタリ）

すぎをり（名）杉折　杉ノ、甚ダ薄キ材ニテ、四角ク作レル小匣、假リニ、菓子、食物ナドヲ入ルルニ用ヰル。[illegible]貴[illegible]杉ヤ、[illegible]ガ[illegible]二[illegible]ノ」

すく（名）路　〔つくノ轉、つぐのひノ略、清ヘ、清す、同趣〕博奕ヲ打ツコト。字類抄「賭、スク、博弈、バクヤウノスク」

すく（名）生　生ズルコト。字類抄「生、スク」

せく（名）秀句　志うく（秀句）ノ（二）ニ同ジ。大鏡、中、伊尹「イミジキ、せく宜ヘル人ナリ」

すく・く・け・か・き・け（自動、四）次　〔つぐニ通フ〕つぐ（次）ニ同ジ。天武紀、下、五年九月「以[illegible]次[illegible]土佐次田郷」近江國湯次郷、由須岐「備中足次郷、安須岐」

すく・く・け・か・き・け（自動、四）透　（一）物ニ、隙、生ズ、空隙、生ズ。隙アリ。生隙「[illegible]すく」（二）物ヲ徹リテ、影、見ユ（光ニ、色ニ）透徹[illegible]二十四、下、[illegible]「色

ハ、[illegible]二[illegible]ク、美シゲニ、すきタルヤウニ見ユレ[illegible]十、[illegible]二十ク、ラウタゲナリ」[illegible]代[illegible]十四、[illegible]一[illegible]ノ、ウラ[illegible]シクモ、見ユルサナ[illegible]ニすけル、蟹ノ釣舟」（三）疎ニナル。稀ニナル。稀疎　源、四十六、[illegible]「オソロシキ[illegible]ゾ[illegible]キ[illegible]リツラント、[illegible]ハ、打チすきテ、[illegible]ナゲニ云ヒナスなアリ」「枝ガすく」人込ミガすく」（四）滯リナクナル。クツログ。明ク。「暇ガすく」胸ガすく」（五）暇、生ズ。生暇「仕事ガすく」手ガすく」

すく・く・け・か・き・け（他動、四）透　手ヲ以テ、透カシ通ス。[illegible]日本書紀[illegible]八「手[illegible]云[illegible]ニ[illegible]多[illegible]岐仁加[illegible]トアルヲ、年中行事秘抄ニ載レルニハ、多須岐仁多須岐弖トアレバ、須久トハ、手ヲ以テ、透シ通シシ謂ノ言ナリ」

すく・く・け・か・き・け（他動、四）漉　〔水ノ、透くヤウニスル意カ〕紙ヲ作ル。かみ（紙）ノ條ヲ見ヨ。抄紙　又、海苔ヲ製スルニモ云フ。字類抄「漉、スク」源、三十七、鈴蟲「紙屋ノ人ヲ召シテ來ト、仰セゴト給ヒテ、心殊ニ、清ラニすかセ給ヘルニ」加茂保[illegible]女集「[illegible]キ集メバ、陸奥ノ、檀紙モ、すき合フマジク」

すく・く・け・か・き・け（他動、四）梳　〔透き通ルヤウニスル意カ〕梳ノ歯ニ通スクシケヅル、「[illegible]ヲすく」すき櫛」

すく・く・け・か・き・け（他動、四）結　〔透くヤウニ結フ意カ〕絲ニテ、目ヲ編ミ結ヒ作ル。結網　神武紀[illegible]「高尾張邑、有土蜘蛛、其爲人也、[illegible]結[illegible]網[illegible]殺之」夫木抄、三十三「伊勢島ヤ、鹽ノタヘレニ、すく網ノ、目ナラブ人モ、[illegible]キ」名義抄「[illegible]、アミヲスク、ムスブ」

すく・く・け・か・き・け（他動、四）抄　スクフ。スクヒ取ル。シャクフ。和名類聚抄、二、雜「イザタマヘ、磯殿、大津ノ西ノ浦ヘ、雜魚すきニ」（雜喉ヲすくふナリ）

すく・く・け・か・き・け（他動、四）好　（一）好ム。愛ス。嗜ム。古今集、序「難波ナル アシキモ良キモ、同ジコト、すくモすかヌモ 異ナラズ」「[illegible]す[illegible]イ」すいたお方」（二）過ギテ好ム。物好ニテアリ。（好事ノ意）枕草子 十二、百五十六段「君達ニアラネド、其心、イタクすきタル者ニ言ハレ、心バセナドアル人ノ」平家物語、一、我身榮華事「抑モ、此殿[illegible]ヲ、櫻町中納言ト申シツル事ハ、勝レテ、心、すき給ヘル人ニテ、常ハ、吉野山ヲ戀ヒツツ、町ニ、櫻ヲ植ヱナラベ」（三）好ム（色ヲ）色好ニテアリ。色情　伊勢物語、四十一段「昔シノ若人ハ、斯クすけル物思ヲナムシケル」源、四、夕顔「すき給ハザラムモ、情ナク、サウザウシカルベシ」

すく・く・け・か・き・け（他動、四）食　〔好きテ食フ意カ、物ヲ喉ニ透し通ス義カ〕進ミ食フ。クラフ。ハム。タブ。皇極紀、四年六月「以[illegible]飯、恐而反吐」字類抄「[illegible]、スク、呑也」宇津保物語、貴宮十「穀ヲ斷チ、鹽、斷チテ、木實、松ノ葉ヲすきテ」同、嵯峨院、十「先ヅ、湯殿レトテ、云云、物取リテ、すかセ給ヘバ、エすかセ給ハズ、云云、物一口ト[illegible]奉リ給ヘバ、すき給ヒツ」源、五、若紫「サルベキ物作リテ、すかセ奉ル」曾我物語、五、巣父許由事「首陽山ニ入リ、蕨ヲ折リテすきケルト、中傳ヘサブラヒケリ」播磨國風土記「宍禾郡 安師里、本名、須加里、大神[illegible]於此處、故日[illegible]加」

すく・く・か・き・け（他動、四）鋤　〔すくすくト突入ルル意カ〕直下ニ突キサシテ、土ヲ掘ル。鋤ニテ、土ヲ起ス。鍤　字類抄「[illegible]、スク、鋤、[illegible]」古事記、下（雄略）六「[illegible]織鉏、云云、須岐爐ヌルモノ」薬性集「山田すき、春ノ[illegible]ヲバ、蒔キシカド、秋タツ身（實ニ言ヒカク）ニハ、ナラジトゾ思フ」仲文集「中將殿、前栽ハセ給フニ、心ナキ人ノ、瞿麥ヲすきテ捨テタルヲ」「田ヲすく」畠ヲすく」

すく・く・け・か・き・け（他動、四）剝　〔前條ノ語ノ意カ〕薄ク切ル。ヘグ。名義抄「剝、スク、ケヅル」宇治拾遺、一、十八條「此芋ヲ剝キツツ、すき切リニ切レバ」「すき肉」すき燒」

すく・くる・くれ・け・け・けよ（他動、下二）助　〔透ヲ補フ義〕補ヒ、助ク。たすく（助）ニ同ジ　三河物[illegible]六[illegible]保[illegible]門[illegible]上[illegible]右京大[illegible]討死若有ル間敷キニ、內前殿、一ヱン、介サセ給ハズ」

すぐ（名）直　ソノママナルコト。マスグナルコト。轉ジテ、曲ラヌコト。垂直。[illegible]政集、春、引[illegible]大原山ノ、[illegible]、すぐニ昇ルヤ、烟ナルラム」徒然草、六十二段、平假名ノしノ字ヲ、歌ニ「すぐナ文字」「すぐナル道」

すぐ・ぐ・げ・が・ぎ・げ（自動、四）次　つぐ（次）ニ同ジ（名詞法ニ、すぎト云ヒ、重ネテ、すぎすぎト云ヒ、差次ぎヲ、さしすぎト云ヒ、すぐヲ延ベテ、すがふナド云ヘリ）

すぐ・ぐる・ぐれ・ぎ・ぎ・ぎよ（自動、上二）過　（一）越エテ、行ク。過ル。經過　古事記、中（景行）五十二「新治、筑波ヲ過ギテ、幾夜カ寢ツル」「山ヲすぐ」川ヲすぐ」（二）前ヲ歴テ、行ク。ヨギル。萬葉集、廿四十九「ホトトギス、マヅ鳴ク朝ケ、イカニセバ、我ガ門[illegible]過ギジ、語リ繼グマデ」伊勢物語、廿三段「喜ビテ待ツニ、度度すぎヌレバ」名義抄、過、スグ、ヨギル」「門ヲすぎテ、入ラズ」（三）移リ行ク。去ル。推移　古今集、一、春、上「梅ガ香ヲ、袖ニ移シテ、止メテバ、春ハすぐトモ、形見ナラマシ」同、七、賀「從ラニ、すぐる月日ハ、オモホエデ、花見テ暮ラス、春ゾ少ナキ」萬葉集、廿四十五「露ノ、霜ハ過ギヌト、思ヘドモ、染ミニシ心、ナホ戀ヒニケリ」「年、すぐ」時、すぐ」（四）死ヌ。ミマカル。[illegible]紀、十四年八月「何故事死　王之庭[illegible]生王之所也」萬葉集、五廿八長歌「道ニ臥シテヤ、命過ギナム」「すぎニシ人」雄略紀、九年二月「今臣婦命　過之際」（五）程ヲ超ユ。度ニ餘ル。分ヲ越ス。崇神紀、五年「國內多疾役、民有死亡者、且　大半」雄略紀、七年「國家情深、君臣義切、忠踰白日、節冠青松」（冠ハ、勝ノ意）源、七、紅葉賀「[illegible]頭ノ紅葉、甚ウ散リすぎテ」「言葉ガすぐ」分量ガすぐ」（六）勝ル。マ

サル。超ユ。超絕「オカ、人ニすぐ」力、萬人ニすぐ」

す・ぐ・グル・グレ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) [插] [着くノ轉] (一)閉ニ箝ム。差シ込ミテ、着ク 合類節用集、九、言辭門「插、スケル(矢ニ)」 (二)[付クル] 刺シ通ス (針穴ニ、絲ナドヲ)嵌メコム。古今集、十九、誹諧「ヨソナガラ、我ガ身ニ絲ノ、ヨルト云ヘバ、唯イツハリ(僞、針)ノ、すぐバカリナリ」 同、十七、雜、上「都マデ、ヒラキ通ヘル、唐琴ハ、浪ノ緒すげテ、風ゾ彈クラム」 貫之集「松ノ音ヲ、琴ニ調ブル、山風ハ、瀧ノ絲ヲヤ、すげテ彈クラム」 六帖、二「斧ノ柄ハ、朽チナバ又モ、すげカヘム、憂キ世ノ中ニ、歸ラズモガナ」 枕草子、八、八十三段、心許なきもの「暗キ時ニ、針ニ、絲付クル、云云、唯ナすげソト云ヘド、サスガニ、ナドテカハト思ヒ顏ニ、エ刺サヌハ、憎ササヘ添ヒヌ」 同、一、第三段「屐子履ナドノ緒、すげサセ」

すぐ (副) [直] すぐす(直)ノ略、其條ヲ見ヨ。「すぐ行ク」すぐ知レル」

✧✧**すぐ・い** (形) すぐし(直)ノ音便。

スクウネル (名) [英語、Schooner.] 兩桅船。(縱帆式ノ帆船)

すく-えう (名) [宿曜] 二十八宿、九曜ノ行度ヲ以テ、人ノ運命ヲ考フル技。其人ヲ、宿曜師ナド云フ。 源、一、桐壺廿三「すくえうノカシコキ道ノ人ニ、勘ヘサセ給フニモ」 同、十四、澪標六「すくえうニ、皇子三人、帝(冷泉)、后(明石中宮)、必ズ竝ビテ生レ給フベシ、中ノ劣リ(夕霧)ハ、太政大臣ニテ、位ヲ極ムベシ、ト勘ヘ申シタリシ」 榮花物語、六、耀藤壺「今年ハ、人ノ愼ムベキ年ニモアリ、すくえうナドニモ、心細ソクノミ言ヒテ侍レバ」

すくえう-し (名) [宿曜師] 前條、及、宿曜師ノ條ヲ見ヨ。 鶴岡放生會職人歌合、二、番、宿曜師「憂キ人ノ、生レノ月日、問ヒキケン、ゲニアヒ難キ、事ヤ見ユルト」 續古事談、五、諸道「聖昭ト云フ宿曜師、大殿(藤原師實)、幼クオハシマシケル時、宿曜ノ勘文ニ、十九ニテ、大臣ニナリ給ベシト勘タリケルニ、果シテ 其ママ、十九ニテ、大臣ニナリ給ニケリ、宇治殿(藤原賴通)、感ジ給ケリ」

すくえう-だう (名) [宿曜道] しゅくえうだう(宿曜道)ノ條ヲ見ヨ。

すく-かに (副) 細ソヤカナル狀ニ云フ語。 名義抄「纖、スクカナリ、ソビヤカナリ、ホソシ」

すく-き (名) [酸莖] 京都ノ上賀茂、下賀茂、御菩薩池邊ヨリ出デテ、女ノ、京中ヲ賣リアルク、一種、酸味アル菜漬、酒客ナド、賞翫ス。

すく-さ (名) [酸草] かたばみニ同ジ。(東京)

すぐ-さま (副) [直樣] タダチニ。スグニ。直「すぐさま參上」

すく-し (名) [宿紙] (宿ヲ歷テ成ルヨリ名トスト云フ) 漉返シノ紙。しゅくし(宿紙)ニ同ジ。 江家次第、五、圓宗寺最勝會「當日御物忌一通、藏人所宿紙ニ書レ之」

すぐ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 直 直ナリ。直シ。歪、無シ。音便ニ、すぐいトモ云フ。

すく-じん (名) [守宮神] (一)宮殿、又ハ、官衙ヲ守護スルト云フ神。 榮花物語、二、花山「中納言ハ、守宮神、賢所ノ御前ニテ、伏シマロビ給ヒテ、我ガ寶ノ君ハ、何處ニ、傍視セサセ給ヘルゾヤト」 (二)諸道ノ技藝ヲ守護スルト云フ神。 續古事談、五、諸道、典藥頭雅忠ガ夢ニ、云云、此程、火事アランズルニ、愼ムベシト見テ、廿日計リアリテ、家、燒ケニケリ、サレドモ、文書一卷モ燒カズトゾ、昔ハ、諸道ニ、斯ク、守宮神達、添ヒケレバ、驗モ、冥加モ、アリケルニコソ」

すぐ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) [過] [すぐ(過)ノ他動] (一)すぐす(過)ニ同ジ。 源、一、桐壺廿四「今宵すぐさズ御返リ奏セン」 萬葉集、五九長歌「時ノ盛リヲ、止ミカネ、周具斯ヤリツレ」 竹取物語「疾ク下サントテ、時ヲ引キすぐしテ、纔、絕ユ」 (二)打チ棄ツ。 源、七、紅葉賀廿「御年、ネビサセ給ヒヌレド、カヤウノ方ハ、エすぐさせ給ハズ」 同、四、夕顏七「サシテ聞エカカレル心ノ、憎カラズすぐし難キゾ、例ノ、此方ニハ、重カラヌ御心ナメリカシ」 (三)齡ノ程ヲ超ユ。 源、一、桐壺三十「女君ハ、少シすぐし給ヘル程ニ、イト若ウオハスレバ、似氣ナク、恥カシトオボイタリ」 枕草子、八、八十三段「すぐしタル人人、皆、立チマジリテ」

すく-すく・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 一向ナリ。スクヨカナリ。キスグナリ。 源、五十、浮舟五「すくすくしき立文ヲ取リ添ヘテ、奧ナク走リ參ル」 同、二、帚木四十三「常ハ、イト、すくすくしく、心ヅキナシト思ヒ侮ル伊豫ノ方ノミ、思ヒヤラレテ」 枕草子、四、三十九段「すくすくしう、サシ歩ミテ出デヌルモアレバ」

すく-すく-と (副) [滯] [進ミ行ク義] 滯ラズ、速カニ成リユク狀ニ云フ語。スガスガシク。スカスカト。スガヤカニ。スクヨカニ。 古事記、中(應神)七十長歌「サザナミ路ヲ、須久須久登、我ガイマセバヤ」(他方ヘ心ヲ振ラズ、一向ニ我ガ志ス方ヘト行ク) 竹取物語「此兒、養フ程ニ、すくすくと大キニ成リマサル」(速カニ、障リナク、一向ニ成長ス)三月許ニ成ル程ニ、ヨキ程ナル人ニナリヌレバ」 狹衣、四、中廿五「火ノ光リ見ユル方ヘ、すくすくとオハスレドモ」

すく-せ (名) [宿世] (一)佛經ノ語、前世ニ同ジ。 無量壽經、下「宿世見諸佛」 法華經「宿世因緣」「すくせノ業」すくせノ緣」 (二)[前世ノ宿緣] 伊勢物語、六十五段「斯ル君ニ仕ウマツラデ、すくせ拙ク、悲シキコト」 蜻蛉日記、下、上十「すくせヤアリケム、イトアハレナルニ」 大和物語、上「行ク末ノ、すくせヲ知ラヌ、心ニハ、君ニ限リノ身トゾ云ヒケル」 源、三十四、下、若菜、下九十三「すくせナド言フラムモノハ、目ニ見エヌワザニテ、親ノ心ニ任セ難シ」 同、同、上、同、上五十六「今ハ、御身ニ添ヒテ、出デ入リ給フモ、アラマホシキ御すくせナリカシ」 同、廿一、少女三十五「メデタクトモ、物ノ初ノ六位すくせヨト、ツブヤクモ、ホノ聞ユ」 同、十二、須磨廿六「御すくせノホド」(東京ニ生レタマヘル、御宿緣ノホド) 濱松中納言物語、三「世ニ知ラズ、メヅラカニ侍リケルすくせヲ聞カセ給ヒケム、御心ノ中」 (三)宿世の約束ノ略。 淨瑠璃物語、忍段「すくせヲ結ブ出雲路ノ、道ノ導モ、タヨリナキ」 (四)宿世のむくいノ略。 大和物語、上「行ク末ノ、すくせモ知ラデ、我ガ昔、契リシ事ハ、オモホユヤ君」

すくせ-すくせ (名) [宿世宿世] [前條ノ宿世ヲ重ネタル語] ソレゾレノ宿世。 源、三十四、上、若菜、上五十五「凡テ、惡シクモ、善クモ、サルベキ人ノ心ニ許シオキタルママニテ、世ノ中ヲ過スハ、すくせすくせニテ、後ノ世ニ衰アル時モ、ミヅカラノ過ニハナラズ、在リヘテ、コヨナキ幸アリ」 同、廿一、少女三十二「イデ、ムツカシキ事ナ聞エラレソ、人ノ御すくせすくせノ、イト定メ難ク、トノ給フ」

ずく-せん (名) [銑錢] [ずく(銑)ヲ、俗ニ、づくト書ク] 銑鐵ニテ鑄タル錢。ザクセン。略シテ、ずく。 地方凡例錄、十一「元文以後、延享ヨリ天明迄之間、數十年ノ內、江戶深川錢座、井於二大坂一鍋地鐵之錢、年年吹キ出ス、是レヲ、ずく錢ト言フ、唐金、銅ハ、少シモ不レ入、都テ、鍋、釜ニ成ル鐵ヲ以テ鑄レ之、脆キモ不レ堅、文字能書ヲ撰ブト云フニモアラズ、唯、錢ノ形有ル而已」

すくせ-むすび (名) [宿世結] えんむすび(緣結)ノ(二)ニ同ジ。 異制庭訓往來、正月「文字書、書占、何立、宿世結、宿世燒、祖父祖母之物語、云云、指引、腕推、指抓、等、是尤雖二不レ離之振舞一、尙費二力指一肝之慣也」

すくせ-やき (名) [宿世燒] 餅ヲ燒キテ、其ノ脹ラミタル狀ニテ、緣結ヲ占フ戲。前條ノ出典ヲ見ヨ。

すぐ-ち (名) [素口] 空腹ナルコト。食物ナキコト。 盛衰記、十八、文覺淸水狀天神金事

すぐち (名) [巣口] 小銃ノ筒ノ孔ノ端。[illegible]

すぐち (名) [illegible] ミツクチ [illegible] すぐち、[illegible]

すぐち (名) [直言] (一)マダチ [illegible] (二)チカミチ。今モ、靜岡縣ニテハ、云フ。

すぐてつ (名) [illegible] すぐ [illegible] 及、せんてつ(銑鐵)ノ條ヲ見ヨ。

すくと (副) [直] スックト。[直然]

すくなからず (副) [不少] 數多ニ。澤山ニ。[illegible]「すくたからず、僧ヲ祈ラセル」

すくな・し・き・く・しく・けれ (形、二) [少・鮮] (一)チヒサシ。小。官名ニ、少ト云フ、コレナリ。(二)數量、乏シ。極メテ、幾程モ無シ。少シナリ。僅カナリ。多カラズ。(多しニ對ス) 少寡 [illegible] 十一「サニツラフ、色ニハ出デズ、小 [illegible] 心ノ中ニ、吾ガ念ハナクニ」同、十四「[illegible]吹ケバ、黄 [illegible] 十八「[illegible]クシテヤ、アヒ見ルモノヲ、須久奈久モ、年月經レバ、戀シケレヤモ」古今集、四、秋、上「年毎ニ、逢フトハスレド、七夕ノ、寝ル夜ノ數ゾ、すくなくアリケル」

すくなひこ-の-くすね (名) [少名彦藥根] [illegible] ノ義ナラム」又、イハグスリ。せきこく、[illegible]

すくな-みかみ (名) [少御神] 少彦名神ヲ [illegible] 云云、マツリコシ御酒ゾ」萬葉

[illegible] 見レバシ良シモ」

すぐなもじ (名) [直文字] 〔しノ字形、直ナレバ、云フ〕平假名ノ、しノ字ノ隱語。こしつつもじノ條ノ出典ヲ見ヨ。

すぐみ (副) [直] (一)正直ナル狀ヲ云フ語。タダシク。[illegible]十八、[illegible]ノヒクニ、マカセズハ、今モすぐなる、世ニヤ忍ラン」(二)[illegible]ナラザル狀ヲ云フ語。[illegible]集、十六、雜、中「ヒトスヂニ、人ヲモ身ヲモ、思フカナ、打ツ墨繩ノ、すぐなれトノミ」(三)タダチニ。ソノママニ。ヂキニ。[illegible]記、前文「サア又、汝、持テ、ハテ[illegible]イ物デハ無シ、すぐみ持テ、イヤイヤ、持ツ事ハナラヌ」「すぐみ行ク」すぐみ分カル」

すぐにふ (名) 「俗入道ノ約轉」づくにふノ條ヲ見ヨ。

すくね (名) [宿禰] 少兄ノ約、兄ハ、崇メ呼ブ語、昔ハ、皇子ヲ、大兄トシ、近臣ヲ、少兄ト稱シタリト云フ、日本紀私記ニ「[illegible]」(一)古ヘ、[illegible]ノ職名、後ニ、氏ノ尸トナル。[illegible]天武紀、下、十三年十月「更改諸氏之族姓、作八色之[illegible]宿禰」(二)親シミ云フ、[illegible]ノ人人ニ賜ハルモノ。崇神紀、七年八月「穗積臣遠祖、大水口宿禰」[illegible]十二、[illegible]四年五月「足尼[illegible]宿禰」」

すくね-びな (名) [宿禰雛] 土ニテ作リ、[illegible]

[illegible]」

すくばり-かへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [竦反] 甚ク、スクム。甚シク、縮マル。日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)四「流ルル涙、流ルル血、ア痛、ア痛ノ聲高ク、身内ニ動ク八口[illegible]、すくばり返って、引クモ有リ」

すくば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [竦] すくむ(自動、四)ニ同ジ。太平[illegible]竹田出雲)五「太刀取リ直シ、我レト我ガ首、エイエイト搔キ落トシ、立チすくばって、死シテケリ」

すくひ (名) [救] (一)救フコト。救助。(二)賑ハスコト。賑恤。賑救。「[illegible]すくひ米」(三)兵ヲ出シテ、他ヲ助クルコト。加勢。助勢。援兵。齊明紀、六年十二月「[illegible]」

すくひ-あみ (名) [掬網] さで(小網)ニ同ジ。スクヒダマ。タモ。[illegible]「江戸、[illegible]手玉ノすくひ網ニテ」

すぐひだ (名) よせひだニ同ジ。(下ノ出典ヲ見ヨ) [illegible]

すくひ-だま (名) 〔たまハ、古言、攩網ノ轉カ〕さで(小網)ニ同ジ。

すくひ-まい (名) [救米] 救ヒ賑ハス米。[賑恤米] 德川禁令考、廿八、救恤使、天明七未年五月[illegible]一[illegible]三十六「此段、飢饉ニテ、天明七未年五月、江戸中、[illegible]」

すく・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [救濟拯] 〔助く[illegible]〕(一)[illegible]危キヨリ、助ケ出ス。救助ス。[illegible]「[illegible]すくひヤハセヌ」[illegible]チニすくひケン例ニモ、エツカセ給ハザラン物カラ」[illegible]レテ、浪ルベキ人モ、アラジトゾ思フ」(二)饑饉、貧困ニ、物ヲ與ヘ、賑ハス。賑恤。(三)兵ヲ出シテ、他ヲ助ク。加勢ス。援[illegible]

すく・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) [抄掬撈] (一)水中ニアル物ヲ、取リアグ。匙ノ類ナドニテ、物ヲ、掬ムガ如クニ、没ミ取ル。シャクフ。[illegible]「水ヲすくひ入レ奉ル」榮花物語、十九、御裳著「宇治川ノ、底ニ沈メル、魚ヲ、網ナラネドモ、すくひツルカナ」[illegible]すくふ(前條ノ語ニ云ヒカク)トゾ知ル」(二)[illegible]「[illegible]すくふ」

すく・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) [結巣] 巣ヲ構フ。巣ヲ造ル。スガク。倭名抄、十八[illegible]六帖、六「[illegible]ノ、すくへル枝ヲ、折リ取ラバ、子ヲバイカデカ、生マントスラム」

すくま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [竦] すくむ(自動)ノ語意ニ同ジ。

すくみとり（名）徳川時代ノ租税法ノ一、收穫ノ全部ヲ、徴收スルコト。（下ノ出典ヲ見ヨ）地方要集錄、上方國家方取箇大法「當反ノ石盛、壹石五斗ナレバ、是ヲ壹石五斗取ハ、すくみ取ト云フテ、拾五之取也」

〔すく・む・ム・メ・マ・ミ・メ（自動、四）［竦］〔背屈むノ約轉、或ハ、直屈むノ約〕（一）屈ミテ、動キ得ズ。スクマル。宇津保物語、樓上、上廿九「身モすくみテ侍リヤ」蜻蛉日記、上、上廿八「足手ナド、タダすくみニすくみテ」榮花物語、廿四、若枝「女房タチ、居すくみテ立ツ心地、イトワビシ」宇治拾遺、十、第四條、强盜「各、立チすくみテ、更ニスル事無シ」（法力ニ縛ラレテ）（二）縮ム。源、三十二、梅枝十六「唐ノ紙ノ、イトすくみタルニ、草ニ書キ給ヘル」紫式部日記「すくみタル衣ドモ押シ遣リ、厚肥エタル、重ネテ」（三）強バリ、チヂム。イヂケル。落窪物語、二「冬ノ夜ナレバ、身モすくむ心地ス」

〔すく・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二）竦〔前條ノ語ノ他動〕竦ム如クニナス。縮ムル。［壓屈］源、二、帚木三十一「眞名ヲ走リガキテ、サルマジキドチノ女文ニ、半バ過ギテ書キすくめタル、アナ、ウタテ」新六帖、一「木枯ノ、吹キすくめタル、冬ノ夜ニ、月見テ寒キ、我ガ姿哉」「言ヒすくむ」押シすくむ」首ヲすくむ」無理ずくめ」壓狀すくめ」射すくむる」

✧すく・める（動）前條ノ語ノ口語。

〔すくも（名）稽 モミヌカ。（靜岡縣ニテハ、今モ云ヒ、又、稻ノはかまヲ、すくべト云ヒ、播磨國ニテハ、籾皮ヲ、すくもト云フ）字鏡六十「稽、米皮也、稃也、須久毛」天治字鏡、八三「稽、米皮也、穅也、稽同、須久毛」名義抄「稽、スクモ、ヌカ」

〔すくも（名）〔藻潮燒キタル煉黑藻カト云フ、其枯レ乾タル藻ヲ、次次ニ薪トスルカ〕藻屑ナリト云ヒ、葦ノ根ナリトモ云フ、サレド、次條ノ泥炭ノ事ナラムカ。後撰集、十一、戀、三「津ノ國ノ、なには（難波、名ニハ）立タマク、惜シミコソ、すく藻焚ク火ノ、下ニ焦ルレ」新勅撰集、三、夏「難波女ガ、すくも焚ク火ノ、深キ江ニ、上ニ燃エテモ、行ク螢哉」續後撰集、十二、戀、二「すくも焚ク、藻鹽ノ烟」

すくも（名）でいたん（泥炭）ノ稱。（近江國、蒲生郡、老曾（今ハ、老蘇村）ノ語）

すくも（名）蒅 一種ノ染料、藍ノ葉ヲ醱酵セシメテ、製造シタルモノ。

すくもいし（名）せきたん（石炭）ノ一名。

すくもび（名）すくもヲ燒ク火。散木集（俊頼）二、夏「山賤ノ、蚊ヲ厭ヒケル、すくも火ニ、心ヲサヘモ、添ヘテヤルカナ」

〔すくもむし（名）［蠐螬］〔竦蟲ノ轉カ、又、糞土蟲ノ義カ、東雅「蠐螬、俗ニ、糞土ヲ、すくもト云フナリ」爾雅、釋蟲篇、註「蠐螬、在糞土中」〕ぢむし（地蟲）ノ古名。根切ウジ。キリウジ。本草和名、下八十「蠐螬、須久毛牟之」倭名抄、十九十蟲豸類「蠐螬、一名、蛣蝠、須久毛牟之」字鏡六十九「蠐、須久毛」天治字鏡、八廿二「蠐、須久毛虫」字鏡集「蠐、モムシ、スクモムシ」重修本草綱目啓蒙、廿八、化生蟲「孟子ノ註ニ、螬ハ蠐螬也ト云ヘリ、すくもむしト訓ズ」

〔すくやかに（副）［健］すくすくト、強ク。スコヤカニ。スクヨカニ。今昔物語、廿七、第二語「此ノ大臣ノ靈ニ合テ、此様ニ痓やかに、異人ハ否不答ジカシ」著聞集、十七、變化「固ヨリ、すくやかなる者ナレバ、强ク取テ、放サズ」同、十二、偸盜「すくやかならム者ヲ、三十餘人バカリ賜ハリテ、迎ヘ侍ルベシ」

〔すくやかもの（名）［健者］スクヤカナル人。ケナゲモノ。シタタカモノ。義經記、五、義經給、落ニ吉野山ニ事「すくやか者ヲ先ニ立テ、惡所ニ向ヒテ、追ヒカケ」

すぐやき（名）［直燒］刀ノ燒ノ名、肌理ヲ、眞直ニ現ハスモノ。［亂文］亂れ燒ナドニ對ス。狂言記、長光「マヅ、鎺本ヨリ物打ハ、直燒」

すぐやり（名）［直槍］すやり（素槍）ニ同ジ。

〔すくよかごころ（名）［健心］スクヨカナル心。健氣ナル心。源、三十八、夕霧五十三「カバカリノすくよかごころニ、思ヒソメテンコト、諫メンニ、叶ハジ」

〔すくよかに（副）［健］（一）傾カズ、撓マズ、すくすくトシタル狀ニ云フ語、スクスクト、強ク。スコヤカニ、スクヤカニ。スガスガシク。ナマメカシキ事無ク。宇津保物語、嵯峨院五十二「大臣、イトすくよかに言ヒテ、物強キ居給ヒテ」源、五、若紫五十五「すくよかに起キ狀、シタマヘレバ」同、三十一、槇柱五「すくよかなる時モナク、萎レ給ヘルヲ」同、二、帚木四十一「侘シケレバ、すくよかに心ヅキナシトハ見エ奉ルトモ」同、三十八、夕霧五十五「紫ノ濃カナル紙、すくよかにテ」宇治拾遺、十二、十五條「只ノ人ハ、ソノ大臣ニ逢ヒテ、サヤウニすくよかにハ言ヒテムヤ」名義抄「健、スクヨカナリ、ツヨシ、タケシ」字類抄「健、スクヤカナリ、スコヤカ」白氏文集、十二「勁而健」（二）險阻ナル狀ニ云フ語。ケハシク。源、二、帚木六十二「すくよかならヌ山ノケシキ」（繪ノ山ニ云フ）

スクリ（名）［村主］〔百濟語、村ヲ、すき、主ヲ、にりむト云ヒ、其ヲ續ケタルすきにりむノ約ト云フ、今ノ朝鮮語ニ、田舍ヲ、すいたるト云フ〕姓氏錄「村主、一ニ、勝トス、職名ナリ、縣主ニ屬シテ、戶口、租調ノ事ヲ掌ル、後ノ鄕長ナリト云フ、多クハ、歸化人ヲ以テ充ツト云フ、大化以後、歸化人ヲ、鄕長、保長、主政、主帳ニ補ス、其才行ヲ擇リ取ル、故ニ、すぐりト云フカ」ト、イカガ」戶ノ名、古ヘ、韓、漢ヨリ歸化ノ蕃人ニ賜ヒシモノ、縣主ニ屬シテ、戶口催科ノ事ヲ掌リ、村村ニ居テ、職ヲ行ヒタリトゾ。倭名抄、六十九國郡部「伊勢國、安濃郡、村主鄕、須久利」雄略紀、二、年十月「身狹村主、靑」（姓氏錄ニ、村主氏ニ、二流アリ、漢師建王、漢受王ヨリ出ヅ、其子孫ノ住居ニ、武藏國、入間郡、勝呂鄕、遠羽莊アリ、廻國雜記ニモ、勝呂トアリ）

すぐり（動）〔過ぎノ延〕物ヲ越エ過ギ、風俗歌、手津久波「小筑波ヲ、越須久利來ヌ」萬葉集、十三廿四長歌「橘ノ、末枝ヲ須具里」

スクリュウ（名）〔英語 Screw.〕すゐしんらせんき（推進螺旋機）ニ同ジ。

すぐりわら（名）［抽稈］稻、麥ナドノはかまヲ去リテ、精選シタル稈。稭

すぐ・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［勝］〔分ニ過ぐる意ヨリ、移ル〕（一）〔他ニ超ユ。勝ル。秀ヅ。抽ンヅ。拔羣ナリ。倭名抄、十一五牛馬類「駿馬、須久禮太留宇萬、馬之美稱也」字鏡七十五「魁、大也、勝也、須久禮太利」字類抄「勝、スクル、絕、傑出」靈異記、中、第二縁「異秀」土者也」訓釋「秀、須久禮爾多留、又云、備伊弓爾多流」古今集、序「すぐれタル人モ、クレ竹ノ、世世ニ聞エ」源、一、桐壺二「すぐれテ時メキ給フ、アリケリ」狹衣、四、上廿「齋宮ノ御手ナド、何レカ、すぐれテ侍ラン」（二）スコヤカナリ 堅勝ナリ 健「顏色ガすぐれヌ」

すぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［選］〔前條ノ勝ルノ他動カ〕（一）選ブ。擇リ取ル。宇津保物語、吹上、上八「選ビすぐりタル上手」源、一、桐壺三十「御方方ノ人人、世ノ中ニ押竝ベタラヌヲ擇リ調ヘ、すぐりテ候ハセ給フ」義經記、一、常盤都落事「百人ノ中ヨリ、十人すぐりタル」「精兵ヲすぐる」（二）善惡ヲ試ム。（三）扱キ取ル。扱ク。「稻ヲすぐる」藥ヲすぐる」

すぐ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 抽 ヌキトル。選ビトル。「秤ヲすぐる」

すぐる (連体) 過 過ギタル。「すぐる何[illegible]」すぐる[illegible]日」

すぐ・れる (動) すぐる(勝)ノ口語。

すぐろ (名) 〔末黒ノ略〕 [illegible] 立チシ昨日ハ、イツノマニ、今日ハ山辺ノ、すぐろ刈ルラム」後拾遺集、一、春、上「春日野ノ、すぐろノ薄、ツノグメバ、冬タチナツム、駒ゾ嘶ユル」夫木抄、三「早蕨ノ、武蔵野ノ、すぐろガ中ノ、下蕨」同、廿七「すぐろニ焼クル、下草ニ」同、廿九「[illegible]ル、小田ノすぐろノ、常盤木ニ、秋ヲ聞カスル、百舌ノ[illegible]」[illegible]中抄([illegible])十九「春山ノ、[illegible]ノをすぐろ([illegible])[illegible] [illegible]ガ白絲、見ラクシ好シモ」トアル、手爾葉ハ、手鳥里(字鏡)二十「時、由岸也、太乎里」ノ誤ナルベキヲ、[illegible]

すぐろ (副) 直 〔ろハ、意味ナキ接尾語ナルベシ〕スグニ。真直ニ。夫木抄、三十[illegible]ル、人ノ心ヲ」

スグ・ロク (名) 雙六 そごろくノ條ヲ見ヨ。

すく・い (名) [illegible] 五六タビ 若干々 [illegible]

すくゐん (名) 宿院 すくはう(宿坊)ノ(二)ニ同ジ。蜻蛉日記、中、下「春日ヘトテ、すくゐんノ、イトムツカシゲナルニ、トドマリヌ」

すけ (名) 助 (一)助クル コト。タスケ。[illegible]ニ[illegible]ネ一(二)兒ヲ負フ帶 [illegible] オブヒモ。(三)雇人。ユヒ。

すけ (名) 楉柱支柱 〔前條ノ助けノ義〕家ノ、傾キ倒レムトスルヲ、助ケ支フル柱。ツッパリ。ツッカヒボウ。今、カウバリ。[illegible] 日工集「[illegible]、用[illegible]」

すけ (名) 次官 [illegible] 條ノ、助ノ義ナルカ、長官ノ條ヲ見ヨ。

すけ (名) 鮭 古ヘ、鮭ノ大イナルモノノ稱。[illegible] テ、鮭ノ大イナルモノヲ云フト云フ) 新編常陸國誌 [illegible] ヘ、鮭ノ大ナルヲ、佐介乃須介ト云ヒ、鮭ノ大ナル [illegible] 本國ニテモ、往古ハ、此稱アリシコト、明ラカナリ、[illegible] 縁故アリテノ事トゾ思ハル」

すけ (名) [illegible] 功徳ハ、量無キモノナレバ」狭衣、二、下「すけノ[illegible]」

すげ (名) 菅 〔すがすが(清清)ノ轉、すがすがしノ條ヲ見ヨ、祭祀、苞苴ノ用ニ供ス、菅ノ字ハ、かやナドヲ、誤用ス〕 草ノ名、形状、スベテ、茅ニ似テ、滑カニテ、モロシ、[illegible]キモノヲ笠トシ、[illegible]キヲ蓑トス、[illegible] 中臣ノ、天ノ古[illegible]ニ門ジ、ラヒ[illegible]

すけ (名) [illegible] 字類抄「僧家、ズケ」

スケエチング (名) 〔英語、Skating.〕 靴ニ、すけえとヲ附ケテ、氷上ヲ滑ル遊 コホリスベリ。

スケエト (名) 〔英語、Skate.〕 靴ニ附ケテ、氷上ヲ滑ルベキヤウニ作リタル、鐵製ノ具。[illegible]ニ、タッペイ、(立氷ノ轉)

すけがう (名) 助郷 江戸時代、驛路ノ夫役ノ足ラザル時ニ、其邊ニ在ル村ヨリ、人夫ヲ、助ニ出スコト。[illegible] 割極之事「一、先年ハ定候助郷無之、宿人馬ニ而不足之[illegible] 相極」但、先年ハ、定助、大助ト、相分候テ、定助、村村ニテ不足之時ハ、大助エ[illegible] [illegible] ハ、差タル事ニナケレバ、役村ニハ不レ立ナリ」

すけがうこく (名) 助郷役 江戸時代、[illegible] ハ[illegible] 毛賃トイヘドモ、武家之證文ニテハ不レ賃」

すけがうちやう (名) 助郷帳 助郷ニテ、出ダスベキ人馬ノ定數ヲ記シタル帳面。[illegible]

すけがさ (名) 菅笠 又、すげがさ、菅ノ葉ニテ編メル笠。深カラズ、色白シ、武士ノ用トシテ、上總産ノ殿中ト云フモノ、專ラ行ハレキ、享保頃マデハ、女モ用ヰタリ。「近江すげがさ」加賀すげがさ」

すげがさぶし (名) 菅笠節 りうたつぶし(隆達節)ノ條ヲ見ヨ。

すけがな (名) 助假名 ステガナ、ふりがなノ條ヲ見ヨ。

すげ・か・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 着替 取リカヘ スゲ [illegible] ズモガナ」「煙管竹ヲすげかふ」

すげき (名) 隙 〔透くヲ語根トシタル形容詞ノ、[illegible]〕 隙ノ粗キ格子ヲ云フ語 [illegible]

すけぜい (名) 助勢 援ニ送ル軍勢。[illegible]

すけそう (名) 助惣 麩のやきノ異名。

すけたう (名) [illegible] ニ同ジ、下ノ出[illegible]ヲ見ヨ [illegible] 品」

すけだち (名) 助太刀 助ケテ、鬪フコト（仇討、刃傷、ナドニ） 常山紀談、廿四「本望遂ナバ、何ノ、身命ノ惜シカルベキ、御法ニ背キタリトテ、刑罰ニ逢フトモ、附屆ニ及ブベカラズト、必死ニ、兄弟トモ思ヒ極メテ候ト、少シモ屈セズ申述ル、又、三田ハ、近キ親シミナリ、聞ガ、助太刀ハイカガト聞ハル」 御仕置裁許帳、五、長八ト、新八ト、昨廿七日之晩、致口論、切結罷在候處、長三郎、勘兵衞、兩人ニテ、致助太刀、新八ヲ切付候」

スケッチ (名) 〔英語、Sketch.〕 生物ナドヲ見ツツ、其形ヲ寫シ取ルコト。カキトリ。寫生。又、短篇。小品文。

すけて (名) 助手 (一)助クル人。手傳ヒ。助手。(二)上朝時代、相撲ノ最手ニ次グモノ。 江家次第、八、相撲召仰、注「最手、助手、皆近衞府、各補ニ其人ニ也」

すけとだら (名) 鯳 〔鮭の鱈ナラムカ、さけ、すけ、轉音〕 鱈ノ一種、形、小サキモノ。朝鮮ニテ、コレヲ明太魚ト云フ。其卵巣ヲ、紅葉子ト云フ、美麗ニシテ、味、佳ナリ。

すけない (形) すくなしノ轉訛。

すげなし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 冷淡 薄情 〔すがなしノ轉ト云フ、因るべ無しノ義〕 (一)〔人ヅキ、ワロシ。愛想ナシ。ツレナシ。 無情 源、廿一、少女、二十「世ノ僻者ニテ、才ノ程ヨリハ用キラレズ、すげなくテ、身貧シクナムアリケルヲ」 同、一、桐壺、九「状惡シキ御モテナシ故コソハ、すげなう嫉ミ給ヒシカ」 同、廿六、常夏、廿五「此ノ御方ノ、すげなうモテナシ給ハムニハ、殿ノ中ニハ、立テリナムヤ」 (二)〔思ヒヤリ無ク、心強シ。ソッケナシ。 蜻蛉日記、下、下、廿七「打チソバミ、君ヒトリ見ヨ、丸小菅、麻呂ハ、人すげなしト云フナリ」 字津保物語、忠仕、七「すげなき遊ビヲ、心一ツヤリテ、異心ナシ」 (三)饗應、無シ。何ノ風情モ無シ（京都）

すけばしら (名) 助柱 控ノ柱。

すげ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 嘶 すげむ(嘶)ニ同ジ。 狂言記、枕物狂「極メテ色ハ黒ウシテ、口ハすげびテ、目ハ腐リ、老イボレタル」

ずげふ (名) 儒業 ずゅげふ(儒業)ニ同ジ。 字類抄「儒業、ズゲフ」

すけべゑ (名) 助兵衞 助平 〔好ヲ、擬人シタル語〕 色好ミナル人ヲ呼ブ稱。 艶狩劍本地（寶永、近松作）「其跡ノカカリガ、すけべいノへいノ字ナリニ、見エマス」 江戸八百韻（延寶）「ばいノ貿ノ、發ニ成リテモ、すけべいジャ」

すけん (名) 素見 〔素見物ノ略カ〕 見ルノミニテ、買ハヌコト。ゾメキ。ソソリ。ヒヤカシ。 海録、十二「靜盧イハク、五車拔錦、積玉全書ナド云ヘル、唐土ノ俗書ノ中ニ、風月機關ト云ヘルモノヲ收メタル、アリ、之ハ、遊女ナドノ話ヲ記セシモノトゾ、ソノ中ニ、今云フ、素見トテ、見テノミ歸ルヲ、眼嫖ト云フ」「遊郭ノ素見」

〔**すげ・む・ム・メ・マ・ミ・メ** (自動、四) 嘶 又、すげぶ。年、老イテ、口、ユガム。又、齒、疎ナリ。（老人ノ） 舌出 源、九、葵、十九「口、打チすげみテ」 同、廿、朝顔、十四「イタウすげみニタルロツキ、思ヒヤラルル聲ヅカヒ」

すげも (名) 菅藻 りゅうぐうのおとひめのもとゆひのきりはづしニ同ジ。ウミスゲ 馬ノ背ノ日覆ニ用キタリ、從來、何ノ用ヲモナサザリシガ、現今、細長キ蔓ノ如キ葉ヲ刈リ、灰水ニテ一時間煮テ、清水ニテ濯ギ、更ニ、糠水ニテ三十分煮レバ、外皮、剝ガレテ、純白ナル纖維トナル、ソレヲ機械ニカケテ紡ゲバ、纖絲トナリ、堅靭ニシテ、光澤アリ、綿絲以上ナレバ、絹、又ハ、毛織物ノ代用トナリ、又、染ムルコトヲ得ト。是レ、近年ノ新發見ナリ。アマモ。

す・ける (動) (一)助くノ口語。(二)客ノ酒杯ヲ、助ケ飲ム。 嬉遊笑覽、十、上「中飲ト云フハ、今川大雙紙ナドニ出テ、今、俗ニ、相ヲスルト云フ、是ナリ、すけるト云フコトト心得ルハ、非ナルベシ」

す・げる (動) 插ぐノ口語。

ずこ (名) 出擧 すいこ(出擧)ニ同ジ。 古文零聚、一「申シウクル、ずこノ米ノ事」

ずこ (數) 數箇 二三、又ハ、五六箇。

すこ (名) 素子 〔賤子ノ約、飾ナキ子ノ義カ〕 賤シキ身分ノ者。シヅ。賤民。下衆。 拾遺愚艸、員外（定家）下「すこガ守ル、山田ノ鳴子、風吹ケバ、己ガ夢ヲヤ、驚カスラン」 平兼盛集「アシビキノ、山田守ルすこ、明日マデト、稻負鳥ヲ、逐フモ手弛シ」 夫木抄、十二「山田守ル、すこガ庵ノ、ウタタネニ」 芳雲集「下リタチテ、田面ノ里ニ、菜摘ムすこ、暇アル春ノ、己ガスサビニ」

ずご (名) 守護 ずゅご(守護)ノ(二)ニ同ジ。

すこい (形) 黠 〔こすいノ倒語〕 ススドシ。（靜岡縣ニテ、黠智きヲ云フ）

すこう (名) 數口 三四人、又ハ、五六人ノ人別。「數口ノ家」

すご・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 素扱 〔相手ナキニ、扱く意カ、或ハ、しごくノ轉カ〕 槍ナドヲ、扱く。

すこ・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 少 スクナシ。 名義抄「微、スコシ、スコシキ」「小、スコシキ」「少、スコシキ」 字類抄「細、スコシキ」 字鏡、十「俏、小貌、又、古志支奈留貌」 群書治要、一、詩經、召南、小雄鷄 雄略紀、七年八月「小雄鷄」 同、廿年冬「有二少許遺衆一」 著聞集、二、釋敎、西行法師「日食すこしきニシテ、飢、忍ビガタキハ、餓鬼ノ悲シミヲ報フナリ」 沙石集、二、下、第八條「上生ノ因ハ、云云、希求ノ志深ソ、すこしき淨業アラバ、生ジツベシ」 同「すこしきモ結緣シ、強ヒテモ勸行スベシ」 寶物集（平康頼）下「大海ノ、すこしき流ヲ、厭ハザルガ如シ」

〔**すこし** (副) 少 〔多しノ活用ノ、多くノ反〕 ワヅカニ。イササカ。スクナク。チット。セウセウ。ポッチリ。 貫之集「故鄕ニ、咲ケルモノカラ、櫻花、色ハすこしモ、荒レズゾアリケル」 源、一、桐壺、十三「女君ハ、すこし過グシ給ヘルホドニ（年齡ヲ）」 同、三十九、御法、十一「風、すこし吹キ出デタル夕暮ニ」 狹衣、一、下、十四「雨サヘ、すこし降リテ、イトド霧深ク見エタル、空ノ景色」

〔**すごし** (名) 簾越 スダレゴシ。 後撰集、十一、戀、三「荒カリシ、浪ノ心ハ、ツラケレド、すごしニ寄セシ、聲ゾ戀シキ」

〔**すご・し・キ・ケレ・ク・ク** (形、一) 凄 〔すごハ、醜ニ通ズルカ〕 恐ロシク、スサマジ。淋シク、氣味ワルシ。荒涼。 東關紀行「橋本ト云フ所ニ着キヌレバ、聞キワタリシカヒアリテ、景色、イト心すごし」 源、二、帚木、廿「言ハム方ナクすごき言ノ葉」 拾玉集、二「すごき哉、加茂ノ河原ノ、川風ニ、蓑毛亂レテ、鷺立テルメリ」 山家集、下「古畑ノ、ソバノ立ツ木ニ、居ル鳩ノ、友呼ブ聲ノ、すごき夕暮」 源、二、帚木、四十「タダ、見ル人カラ、艶ニモ、すごくモ見ユルナリケリ」 赤染衞門集、二「秋風ハ、すごく吹クトモ、葛ノ葉ノ、ウラミ顔ニハ、見エジトゾ思フ」 紫式部日記「イトすごう、スズロナル」

〔**すこしき** (形) 少 すこし(形)ノ條ヲ見ヨ。

〔**すこしばかり** (副) 少許 スコシホド。スクナキクラキ。チットバカリ。 名義抄「無多、スコシバカリ」「些些、スコシバカリ」

〔**すご・す・ス・セ・サ・シ・セ** (他動、四) 過 〔すぐすノ轉〕 (一)過ギシム。送ル。スグス。 源、二、帚木、十一「トアラン折モ、カカラン刻ヲモ、見過

しタラン中コソ」「聞キすゐす」年ヲすゐす」(二)打チ[illegible]、[illegible]ニ出デ[illegible]ヘル御賀ノコト、對ノ上、思シ設クルニ、大臣モ、ゲニすゐ[illegible]ト思シテ(三)[illegible]ヲ起ス[illegible]ニスル[illegible]、エ[illegible]すゐすマジウ覺エ給ヘド」「言ヒすゐす」酒ヲすゐす」

すゐすゐ (副) 悄悄 悄メテ、草草ニ去ル状、物氣無ク、逃ゲ歸ル状ナドニ云フ語。ソコソコ。コソコソ。意氣銷沈 [illegible]「すゐすゐ去ル」すゐすゐ歸ル」

すゐたん (名) すかたんノ轉 其條ヲ見ヨ。靜岡縣ニテ、狡猾ナルヲ云フ。[illegible]下人ノ[illegible]ト云フ人、[illegible]ヘハヒルト、すゐたノ[illegible]「ワシャ商人ヂャ、ミンナ聞違ダ」

スコッチ (名) [英語、Scotch.] 英國、そこっとらんど地方ヨリ出ヅル毛織、又ハ、毛布。

すごばう (名) 酸牛蒡 (一)すいば(酸葉)ニ同ジ。(二)羊蹄菜ノ一名

すゐ・びる・ビル・ビレ・ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) 拙ク、コビル。拙ダ、コマシャクレル。大鏡[illegible]

すゐぶる (副) 頗 [少方あるノ約ナル、少ぶるノ義。] (一)少シ、多カラズ。[illegible] (二)程ニ比ベテハ、多ク。餘程。拙ダ。大鏡、上、時平「此左大臣、物ノ可笑シサゾ、エ念ゼサセ給ハザリケル、笑ヒタタセ給ヒヌレバ、すゐぶる、事モ亂レケルトカ」(三)非常ニ「すゐぶる美人」

ぞごん (名) 數獻 若干ノ獻盃 數杯 徒然草、七十九段「心ヨク、數獻ニ及ビテ、興ニ入ラレ侍リキ」

ぞごん (名) 呪禁 ずゅごん(呪禁)ニ同ジ。

すゐも (名) 簀薦 竹ヲ、簾ノ如ク編ミテ、白キ生平絹ヲ裏ニツケ、白キ縁アルモノ、饌具ヲ置ク料トシ、食机ノドニ敷クニモ用キル。食單 倭名抄、十四、厨膳具「食單、須古毛」太神宮儀式帳、食單一 萬葉集、十[illegible]「チハヤブル、神ノすゐもニ、齋サエテ、ソノ曉ハ、今モ忘レズ」[illegible]

すゐもり (名) 巣籠 (一)[スゴモルコト] [illegible] (二)鶴巣籠ノ上略、虚無僧ノ尺八ノ曲ノ名。

すゐも・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 巣籠 (一)鳥ナド、巣ノ中ニ籠ル。宇津保物語、[illegible]「松ガ枝ニ、すゐもる鶴モ」[illegible] 千年すゐもる、心ナク、世ヲ隔テ見ユル、霜邊コソ[illegible]リケレ」夫木抄、二「氷解ク、谷ノ音ニヤ、すゐもれル、谷ノ蛙、春ヲ知ルラム」 (二)蟲、冬、土中ニ籠ル、蟄 倭名抄、十九[illegible]「蟄、[illegible]」

すゐやかみ (副) 健 [すくやかまノ轉] スクヤカニ 身體ニ、障ルコト無ク 病ナク 丈夫ニ。達者ニ「子供、すゐやかまニ育ツ」

スゴロク (名) 雙六 双六 雙陸 [古言、すごろくノ轉、字ノ唐音ナラム、此戲、支那ニ入リ[illegible]、天竺ニ出デ、波羅塞戲ト名ツク、支那ニ入リ、[illegible]、箸ヲ投ジ、白黒、各、六ヲ行ル、故ニ、名トス、又、二ツノ箸ニ、六ノ目ノ雙ビ出デタルヲ勝トスルヨリ、名アリトモ云フ] 古ク、ぞぐろく。二人、相、行フ戲レ、木盤アリ、(局) 雙方、各、十二ノ格アリ、各、馬、十二ヲ竝ベ、黒白ヲ以テ分ツ、二箇ノ賽ヲ竹筒ニ入レテ、代ハル代ハル振リ出シ、其出デタル數ホド、格ヲ數ヘテ、馬ヲ送リ、早ク、敵ノ格中ニ送リ了リタル方ヲ勝トス 道中雙六ト云フハ、江戸ニ始リ、東海道五十三驛ヲ、渦ナドノ狀ニ圖シ、中央ヲ京都トシ、數人、順ニ一ツノ賽ヲ振リ、其出デタル數ホド己ガ馬ヲ送リ、早ク、京ニ到レルヲ勝トス、小兒ノ玩ナリ。五雜組(明、謝肇淛)人部、二「雙陸、本胡戲也、云、胡王有二弟一人、得罪將殺之、其弟於獄中作此戲[illegible]以上、其意[illegible]、以[illegible]王也」[illegible]「日 雙六[illegible]」[illegible]六、則無不勝也」[illegible](元、王元[illegible]「雙陸、今名遷遷也」)[illegible]六、呼新五六古二[illegible]十二月[illegible]雙六ニ(博奕ノ具トシタレバナリ) 菅聞集、十二、博奕「小野宮ハ、昔、[illegible]ノ皇子ノ、双六ノ質ニ取給ヘル所也」倭名抄、四、雜藝類「雙六、一名、六采、博奕是也、須久呂久」萬葉集、十六「吾妹子ガ、額ニ生ヒタル、雙六ノ、牡ノ[illegible]ノ上ノ[illegible]」同、同卷、詠雙六頭歌「一二之、目耳不有、五六、三四佐倍有、雙六乃佐叡」枕草子、六、六十五段、つれづれなるもの「馬トリヌ双六、又、[illegible]ヲ乞ヒテ、[illegible]ニモ入レネバ、盤ヲ盤ノ上ニ立テ」拾遺集、十九、[illegible]「すぐろくノ、市バニ立テル、人妻ノ、逢ハデ巳ミナム、物ニヤハアラヌ」蜻蛉日記、上、下[illegible]「ぞぐろく打たムト云ヘバ、良カナリ、物見ツクノヒニトテ、女、打ちヌ」「[illegible]雙六」官職雙六」(仕階昇進) 名目雙六 (天台ノ名目)源氏雙六」

スゴロク・ばん (名) 雙六盤 雙六ニ用[illegible]、[illegible]二[illegible]東大寺獻物帳「木畫紫檀雙六局一具」雍州府志、七、土産[illegible]、云云、[illegible]、以[illegible]之一年中行事祕抄、三月三日曲水宴事「天平二年三月三日、行[illegible]宮[illegible]五位以上賜雙六局二」 おほうみのはし「元和ノ御時、沈ノ御すごろく盤ヲ、人ノ奉リケルガ、其盤、アリガタキ香アリケレバ、切ラセ給ヒテ」

すゐろも (名) 素衣 色ノ無キ衣。白キ衣。白衣。[illegible]「人妻ト、云フハ[illegible]ガコト、すゐろもノ、コノモトケシト、云フハ誰ガコト」

すゐゑ (名) 素聲 ツクロハヌ聲。生得ノ聲 ヂゴエ。夫木抄、二「朝ガスミ、霞ノ長路ニ、立チニケリ、すゐゑニ見ユル、遠ノ旅人」

すさ (名) 寸莎 [寸寸ノ轉カ、つたトモ云ヘリ] 沙莎。すた。東國ニ、つた。壁土ニ雜ヘテ、乾キテ後ニ、裂レザラム爲トスルモノ。莇、藁ヲ、寸許ニ刻ミテ、荒壁ニ用キルヲ、わらずさト云フ。上塗ノ漆喰ニハ、麻、又ハ、紙ヲ刻ミテ、ふのりノ汁ニ雜ヘテ用キル、コレヲ、麻すさ、紙すさナド云フ。[illegible]往來「[illegible]、紙莇」[illegible]「寸莎」和漢三才圖會、八十一、家宅類二十「壁[illegible]用[illegible]、粗切和土、[illegible]、和[illegible]、用紙府、鹿角菜[illegible]古[illegible]用之、佳」

ぞさ (名) 朱砂 ずゅさ(朱砂)ノ轉、ずんさ(辰砂)ニ同ジ。枕草子、八、七十二段、賤しげなるもの「新ラシク仕立テテ、櫻ノ花多ク咲カセテ、胡粉、ずさナト、色取リタル遣戸」

ぞさ (名) 從者 ずゅうざ(從者)ニ同ジ。枕草子、四、三十九段、有り難きもの「主、謗ラヌ、人ノぞさ」大和物語、中「カカル心バヘニテ、フリハヘ來タレド、吾ガ時マジキぞさモ無シ」

すさ (名) 儒者 じゅしゃ(儒者)ニ同ジ。

すさい (名) 醋菜 醋ニ漬シタル蔬菜、古ヘ、點心ニ添ヘテ出シシモノ。狂言記、岡太夫「若シ、カヒノすさい、雜鮓菜バシ、參ラタカ」

すさい (名) 秀才 しうさい(秀才)ニ同ジ。宇津保物語、嵯峨院三十「學生ドモ、御前四人、すさい二人、進士二人」同、田鶴村鳥十九「人ニ文讀マセナドスル程ニ、すさい四人、參レリ、云云、すさい、宣旨ハ、受ケ給ハリニキ」

すさう (名) 殊勝 しゅしょう(殊勝)ニ同ジ。

すさき (名) 洲崎 (一)〔洲ニシテ、崎トナリ、水中ニ差シ出デタル處。沙嘴 源、五十、浮舟三十「山ノ方ハ、霞隔テテ、寒キすさきニ立テル鵲ノ姿モ、所ガラハ、イトナカシウ見ユルニ、宇治橋ノ、ハルバルト見渡サルルニ」 (二)洲濱ノ(一)ニ同ジ。

すざく (名) 朱雀 しゅしゃく(四神)ノ條ヲ見ヨ。スジャク。シュジャク。

すざく-もん (名) 朱雀門 大内裏ノ十二門ノ一、南面中央ニアリ。是レヨリ、京ノ南ノ極、九條ノ羅城門ニ至ル路ヲ、朱雀大路ト云フ、路ノ廣サ、廿八丈アリキ。シュジャクモン。

すさい (名) 取虵尾 蛇ノ一種ナルベシ。名義抄「取虵尾、スサヒ」字類抄「取虵尾、スサヒ」入江昌喜ノ著ニ、久保ノ取虵尾アリ。(虵ハ俗字)

すさび (名) 進荒 スサブコト、愈、進ムコト、物事ノ、勢ニ乘ズルコト。(下ノ段ノすさぶノ條ヲ見ヨ) 萬葉集、四廿五「大船ヲ、漕ノ進ニ、磐ニ觸リ、覆ラバ覆レ、妹ニヨリテハ」六帖、五「存ル時ハ、存ノすさびニ、語ラハデ、戀シキモノト、別レテゾ知ル」(存ルニ乘ズルコト) 風雅集、十五、雜、上「此頃ハ、月ニモ猶ソ、馴レマサル、寐ラレヌママノ、老ノすさびニ」萬代集、十一、戀、三「厭フベキ、コハ幻ノ、世ノ中ニ、アナアサマシノ、戀ノすさびヤ」

すさび (名) 遊 心ノ、荒ビテスル、遊戲ノ事。スサミ。源、廿五、螢五十「御方方、繪物語ナドノすさびニテ、明カシ暮ラシ給フ」同、十五、蓬生六「古物語ナドヤウノすさびゴトニテコソ、徒然ヲモ紛ラハシ」同、八、葵三「心ノすさびニ任セテ、斯ク好事スルハ」同、六、末摘花廿六「用ナキすさびナリヤ」山家集、下「歎キ餘リ、筆ノすさびニ、盡セドモ、思フバカリハ、書カレザリケリ」新古今集、十、羈旅「都ニテ、月ヲアハレト、思ヒシハ、數ニモアラヌ、すさびナリケリ」同、五、秋、下「マドロマデ、眺メヨトテノ、すさびカナ、麻ノ狹衣、月ニ擣ツ聲」新勅撰集、廿、雜歌「難波ノコトモ、津ノ國ノ、葦ノシヲレノ、苅リステテ、すさびニノミゾ、ナリニシヲ」拾遺愚草、夏「檐ニ、風吹キカヲリ、霽ル日ヲ、すさびニ名ノル、時鳥カナ」「手ずさび」「口ずさび」

すさび-ごと (名) 遊事 遊ニナル事。ナグサミゴト。ソゾロゴト。源、七、紅葉賀六「御心ヅキナキニ、サモアルマジキすさびごとモ、出デクルゾカシ」同、十五、蓬生六「古物語ナドヤウノ、すさびごとニテコソ、徒然ヲモ紛ラハシ、カカル住居ヲモ、思ヒ慰ムルワザナメレ」

すさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 進荒 〔進ミ荒ぶるノ約略〕 (一)すさむ(四段)ノ(一)ニ同ジ。愈、進ム。愈進 輔親集「ミヤビタル、聲ニモアル哉、鹿ノ音ノ、深キ山邊ニ、すさぶモノカラ」新古今集、十七、雜、中「雨降りすさぶ、夕暮ノ空」風雅集、七、秋、下「落チすさぶ、槇ノ下露」鴨長明集「今ハトテ、吹キすさぶナリ、牧ノ笛ノ、音ヲバ八聲ノ、鶏ニ讓リテ」(吹キ止ム) 萬葉集、十五十「朝露ニ、咲キ酢左乾タル、月草ノ」千載集、十五、戀、五「有明ノ、月見すさびテ、起キテ往ニシ、人ノ名殘ヲ、眺メシモノヲ」 (二)荒ビ行キテ、闌ルル。衰ヘ止ム。闌盡 源、五、若紫四十「書クベキ言ノ葉モ、例ナラネバ、筆打チ置キツツ、すさび居給ヘリ」夫木抄、十八「初雪ノ、降りすさびタル、雲間ヨリ、拜ム詮アル、三日月ノ影」新古今集、十四、戀、四「思ヒカネ、打チ寐ル宵モ、アリナマシ、吹キダニすさべ、庭ノ松風」

すさ・ぶ・ブ・ベ・バ・ビ・ベ (自動、四) 遊 心ニ入レズ、何トナク、ハカナク物ス。遊ビ慰ム。源、四、夕顏六「扇、云云、ヲカシウ、すさび書キタリ」同、六、末摘花三十二「云云、ト、歌ヒすさびテ、出デ給ヒヌルヲ」枕草子、八、九十一段「火箸シテ、灰ナド、搔キすさびテ」天治字鏡、十三廿五「樂盜、須佐比」「彈キすさぶ」「歌ヒすさぶ」

す-さ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 進荒 (一)〔動キ出ス。(動作ノ發作)ソノ方ヘノミ、頻リニ進ム。荒ルル。殺風景ニナル。源、廿、朝顏六十「心ヅカラノ、ト宣ヒすさぶるヲ、ゲニカタハラ痛シト、人人、例ノ、聞ユ」 (二)すさむ(四段)ノ(二)ニ同ジ。迷ヒ耽ル。「酒色ニすさぶ」

すさま・じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク (形、二) 進 〔進むヲ、形容詞トス〕愈、進ム狀ナリ。夫木抄、十六「冬枯ノ、すさまじゲナル、山里ニ、月ノ澄ム(澄むト、住むトヲカク)コソ、アハレナリケレ」

すさま・じ・ジキ・ジケレ・ジク・ジク (形、二) 凄 〔荒むヲ、形容詞トス、惡シキニ荒む意〕 (一)〔氣、進マズ。厭氣ガサス。不興ナリ。面白カラズ。興醒ム 無興 索莫 枕草子、二、十四段、すさまじきもの「晝吹ユル犬、火起サヌ火桶、兒ノ亡クナリタル産屋、博士ノ、打續キ、女子生マセタル、除目ニ官得ヌ人ノ家、極月ノ晦日ノ長雨」狹衣、一、上五三十「ナカナカ無禮ニ侍ラムトテ、すさまじゲナル御氣色ナレバ」宇治拾遺、二、第五條「物食ヒ、酒飲ミツル遊ビモ、皆、すさまじくナリテ、一人起チ、二人起チ、皆、起チテ往ヌ」同、五、第八條「饗應、すさまじからヌヤウニセヨ、ト言ヒケレバ」 (二)〔轉ジテ、物凄シ。荒涼 舒明紀、四年十月「風、寒之日」源、廿三、初音六十「影すさまじき曉月夜ニ、雪ハ、ヤウヤウ降り積ム」河海抄、冷物「十二月扇、老女假粧、女醉、無酒神樂」唐物語「月ノ光リ消ク、すさまじき夜」宇治拾遺、十、二十四條「風吹キ、雨降リテ、すさまじかリケルニ」萬代集、六、冬「天ツ空、雲立チ騷グ、山風ニ、音すさまじく、降ル霰哉」名義抄「白、スサマシ、キヨシ」「冷、スサマジ」「酸、スサマジ、カナシ、イタム」字類抄「冷、涼、徒、白、酸、爽、スサマジ」爲忠集「花ハフ、荒家ノ月ヲ、眺ムレバ、風ハラハラト、影モすさまじ」 (三)又、轉ジテ、恐ルベク、甚シ。可恐 井筒業平河内通(享保、近松作)四「立田ノ山、すさまじき惡所ノ、アリト聞クモノヲ」「すさまじき力量」

すさみ (名) 進荒 スサムコト。スサビ。夫木抄、三十五「鶯髮兒ガ、すさみニ鳴ラス、麥笛ノ、聲ニ驚ク、夏ノ晝臥」

すさ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 進荒 (一)〔愈、進ム。甚シク成リユク。スサブ。愈進 源、三、空蟬十一「サシハヘタル御文ニハアラデ、手習ノヤウニ、書キすさみ給フ」拾玉集、五「五月雨ノ、降りすさみヌル、小山田ニ」同、七「秋霧ノ、晴レすさみタル、尾上ヨリ」月詣集、二「山人ノ、焚キすさみタル、椎柴ノ」風雅集、八、冬「時雨すさめル、遠山ノ松」「雨、降りすさむ」「風吹キすさむ」 (二)迷ヒ耽ル。「酒色ニすさむ」

すさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 進荒 荒マシメ、闌レシム。棄ツ。措ク。止ムル。源、四十二、紅梅十四「我レヲバ、すさめタリト、氣色取リ、怨ジ」榮花物語、三十六、根合「御心、イトヲカシウ、ナヨビカニオハシマシ、人ヲすさめサセ給ハズ」平治物語、三、牛若奥州下向事「常盤ハ清盛ニ、云云、すさめラレテハ」

すさ・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 賞翫 心ノ荒ミニ、賞翫ス。遊ノモノトス。賀茂保憲女集「春駒ノ、すさむる淀ノ、若草モ、ツマニハ若カヌ、モノニゾアリケル」俊頼無名抄、序「君モすさめ給ハズ、世ノ人モ、傳フコトナシ」

すさめ-ごと (名) 荒事 荒ムル事柄。打チステテオク事實。宇津保物語、樓上、下二

「イザヤ、[illegible]、すさめ事ナリ、今ノ一條西ノ對ノ君ハ、尋ネ侍ラント聞エ給フ」

すさめず（句）［不進］〔すさめハ、すさむノ活用、打消ニ云ヘバ、心ニ[illegible]ヌニテ、心ノ動クコト無ク、モテハヤサズノ意〕賞翫セズ。古今集、十七、雑、上「オホアラギノ、森ノ下草、老イヌレバ、駒モすさめず、刈ル人モ無シ」同、一、春、上「山高ミ、人モすさめぬ、櫻花、イタクナ侘ビソ、我レ見ハヤサム」後撰集、一、春、上「[illegible]、イマダ[illegible]タヌ[illegible]ノ、[illegible]」すさめぬ[illegible]果テヌベシ」

すさやき（名）須佐焼　長門國、阿武郡、須佐町ヨリ産出スル陶器、白釉ニテ、模様アリ。

すさ・る（動）ずさる（退）ニ同ジ。狂言記、[illegible]十[illegible]、[illegible]ずさりや、[illegible]何ヲモセイコト、退リ居レ、エッ」

すし（名）［鮨］〔酸しノ義、説文「鮨、魚[illegible]醤也」今、通用ス〕（一）古ヘ、飯ト塩トニテ魚ヲ蔵シ、酸味ヲ生ゼシメタルモノ、即チ[illegible]鮓ノ如シ、又、魚介ノ内ニ飯ヲ塡ヘ、数日ヲ経テ、自然ニ酸味ヲ生ジタルモノ、即チ[illegible]鮨ノ如シ。倭名抄、十六、[illegible]之ニ字、[illegible]鮓ハ、[illegible]也、[illegible]ト、[illegible]ゼテ、五六日ヲ経テ、即チ、[illegible]食フ、作ル者ニ読フルニ、数日過ギテ御出デアレ、ト云フニ因リテ、おちゃれ鮓ト云フ、江戸ニテ、延宝ノ頃、官醫松本[illegible]、新製ス、松本鮓、又、早鮓ト云フ、待ツ内ニ成ル、まちゃれずしト云フ」沙石集、七、下、十六條「大ナル鮎ヲ、三十バカリ取リテ、鮨テ、少少ハ、煮テ食ヒ候、殘リハ、すしニシテ置キ候」（二）[illegible]、今ノ[illegible]ハ、米一升ニ、水一升一合入レテ炊ギタル飯ニ、酢一合五勺、砂糖、十匁、鹽大匙一杯ニ、水少シ加ヘタルヲ、徐徐ニ、飯ニ振リカケ、扇ギナガラ攪キマゼタルモノナリ、又、或ハ、菜蔬ヲ煮テ加ヘタルモノヲモ云フ、ソノママナルヲ、ちらしずしト云ヒ、匣ニ入レテ壓シ固メテ切ルヲ、おしずしト云ヒ、握リ摶ムルヲ、にぎりずしト云フ。「すしノ立チ食ヒ」

すし（名）酸模〔酸くシテ、羊蹄菜ニ似タリトノ義〕草ノ名、今、すいばト云フ、其條ヲ見ヨ　すかんぽ　倭名抄、廿、草類「[illegible]、羊蹄[illegible]、味酢[illegible]」

す・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［酸］酢ノ味ナリ。梅ノ實ノ味ナリ。スッパシ　スカイ。酸味アリ。字鏡、十「醋、酢也、酸也、加良之、又、須志」今昔物語、廿八、第五語「酒、少シ濁リテ、すき様ナレドモ」

ずし（名）辻［つぢノ轉］京都ニテ、短キ横丁ノ稱。大阪ニテ、筋ト記ス　字類抄「辻、ズシ」

ずし（名）［儒士］ずゅし（儒士）ニ同ジ。字類抄「儒士、ズシ」

ずし（名）呪師　ずゅし（呪師）ニ同ジ。字類抄「呪師、ズシ」

すしあはび（名）［鮨鰒］鮨漬ニシタル鰒　[illegible]土佐日記、正月十三日「老海鼠ノツマノ貽鮨、すしあはび」

すしあゆ（名）鮨鮎　古ヘ、元旦ノ供御ノ押鮎、是レナリ、其條ヲ見ヨ、宇治拾遺、七、第三條「すしあゆノ、オセグクニ、[illegible]ラカナルガ、[illegible]バカリ押シテ、三十バカリ」[illegible]十八、[illegible]ノすしト云フ物ヲ、五六十計」

スーシウ（名）［泗州］〔字ノ宋音、故事要[illegible]〕漢土ノ泗州人民、必ズ、頭巻ス、是レ、國ノ風儀也、始メ、此國ヨリ出ス與、云云、泗州ノ僧、伽和尚、始メテ作ルト云ヘリ」僧ノ用キル襟巻　下學集、下、[illegible]

すしもの（名）酸物　味、酸キモノ、スノモノ。スッパイモノ。宇津保物語、藏開、[illegible]「生物、干物、すし物、貝ツ物」

すずし（名）［素紗］染色ナキ紗。白キ紗。庭訓往來、十月「素紗（无紋云也）梅花（有紋云也）」

すじゃう（名）修正　諸寺ニテ、正月ノ初ニ修スル法會。修正會。[illegible]日記「[illegible]ノ正月ニ、おすじゃう行フトテ、内ニサブラヒシヲ」

すじゃう（名）［種姓］素姓　氏姓、世系ノ、出ヅル所。オヒタチ　ウマレツキ　海人藻芥、下「我ヨリ、種姓遙ニアガリタル人」沿革金譜、上杉景勝ハ、素性、賤シク、一代、栄爵ヲ見タルコト無シ」「すじゃう八爭ヘヌ」

すじゃう（名）衆生　すゅじゃう（衆生）ニ同ジ。源、三十七、鈴蟲「[illegible]經ハ、六道ノ衆生ノ為ニ、六部、書カセタマヒテ」

すざく（名）朱雀　すざく（朱雀）ニ同ジ。

ずしりと（副）ずしりとニ同ジ、井筒業平河内通（享保、近松作）五、[illegible]、踏石松ノ介、ずしりずしりと搖ギ出デ」

すす（名）煤〔巣炭ノ意カト云フ、又、巣ニ棲ム義カ〕（一）竈、爐出ナドニ、煙ヨリ成リテ、凝リ着ク、黒キモノ。煤煙。倭名抄、十二、燈火具「[illegible]」古事記、上「[illegible]」萬葉集、十一、廿七「[illegible]すすぶノ[illegible]」[illegible]ノ約）テアレド」（二）煙ト、埃ト、雑ハリテ、梁、天井ナドニ積リ着キテ、蜘蛛ノ巣ノ如ク、黒ク垂ルルモノ。「天井カラ、すすガ垂ル」

すす（[illegible]）［[illegible]］[illegible]、シイシイ、[illegible]萬葉集、十四、[illegible]

すず（名）鈴〔響ヲ名トス、或ハ云フ、音ノ清しき意カト〕（一）金類ニテ造リ、丸ノ如ク、中、空シキモノ、下ニ、横ニ、細ソキ孔アリ、内ニ、銅珠ヲ含ム、振リ鳴ラシテ、音ヲ出サシム、大、小、種種ニシテ、神事ニ用キ、或ハ、什器ニ付ケテ、飾トス。倭名抄、十四、服玩具「鈴、須受、似鐘而小」萬葉集、十四、廿七「須受ガ音ノ、驛馬驛ノ、ツツミ井ノ、水ヲ賜ヘナ、妹ガ直手ヨ」同、同「ツムガ野ニ、須受ガ音聞コユ、カムシダノ、殿ノ仲兒シ、鳥狩スラシモ」[illegible]私記、[illegible]「鈴、須受」松屋筆記、百十七、廿七條「須受ハ、總名ニテ、其中ニ、大キナルヲ、奴理[illegible]ト云フナリ、故、古書ニ、須受ヲバ鈴ト書キ、奴理[illegible]ヲ鐸ト書テ、鈴トハ書ズ」（二）かぐらすず（神樂鈴）ノ（一）ノ略。

すず（名）錫〔清涼ノ意カ、色ノ清涼ナルヨリ、名トス〕古名、シロナマリ　鑞　金物ノ名、打鳴スニ、一種ノ、細ソク清キ音ヲ發ス、其純ナルヲ、すゞり（純錫）ト云ヒ、多クハ、塊ヲ成ス、鉛ニ似テ、色、白ク、質、鉛ヨリ堅ケレド、鎔ケ易シ、鏡ナド、作ル。すゞりニ、鉛ヲ雑ヘタルモノ、即チ、錫ナリ、諸器具ニ作ル。

すず（名）［酒壜］徳利ニ似テ、口ノ細ソキモノニテ、酒ヲ盛ル器、錫ニテ作ル。轉ジテ、陶製ナルニモ云フ。仙臺ニテハ、今モ云フ。[illegible]道[illegible]寺ノ千飯ト、錫ニ酒ヲ入レタルヲ、得テ」

すず（名）篠篠〔風ニすずすずく意ニテ名ヅケタルカト云フ、ささト通ズ〕細ソ

キ竹。小竹。 著聞集、二、釋教、鞍馬別當石泉法師「コノすずハ、鞍馬ノ福ニテ、候フゾ、サレバトテ又、鋼カデ食サルナ」 六百番歌合、寒松「吉野山、すずノ苅根ニ、霜近エテ、松風疾シ、更ケヌ此ノ夜ハ」 月清集、上「逢フ人モ、無キタグヒ哉、山伏ノ、すず分ケワブル、峯ノ通路」 風雅集、廿、賀「苟ノ、細ソキヲ捲ラレテ、是レハ、すずカ、竹カ、イヅレ、見ワキテト」 延慶本、平家物語、三、本「繁キ木蔭ヲ伐リ拂ヒ、すずノ下道踏ミアケテ、奥院ヘゾ參ラレケル」 犬子集「すずノ子ハ、竹ノ一寸、法師カナ」「ミすず刈ル」すず篶」

〜ずず・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ(他動、左變) |誦| 誦ス。讀ム。ズウズ。ズンズ。 源、三十九、御法「法華經ナド、ずずせサセ給フ、カタガタ、イト哀レナリ」 續詞花集、十一、戀、上「御供ニ侍リケルニ、僧トモ、物具シテ、物誦セサセケル頃ノ、心ニカカリテ」 伊勢物語、八十二段「歌ヲ、返ス返スずずし給ウテ、返シ、エ、シタマハズ」 源、八、花宴「講師モ、エ讀ミヤラデ、句毎ニ、ずずしノノシル」

〜ずず (名) |數珠| ネンズ。ネンジュ。ジュズ。念ノ珠。數箇ノ珠ヲ、絲ニテ貫キテ、環トシタルモノ、僧ノ、念佛ナド、課シ唱フルニ、爪ニテ珠ヲ繰リテ、其遍數ヲ計ルニ用ヰル、コレヲ、爪繰ルト云フ、眞言持誦、又ハ、稱名念佛ノ數ヲ忘レヌ爲ニモ用ヰル。珠ハ菩提子、木槵子、或ハ、水晶ナドニテ作リ、其數、種種ナルモアレド、常ニハ、百八箇トス、或ハ、五十四、廿七、十四顆、又ハ、四十二、廿七顆モ、アリ。兩手ノ指ニカケ、兩ノ掌ヲ合ハセテ搯ルコトアリ、コレヲ、揉む、又、搯るト云フ。三井寺ノ覺猷僧正、鳥羽法皇ノ御惱平癒ヲ祈ラレシ時ニ始マルト云フ。念珠 倭名抄、十三、僧坊具「念珠、一云、數珠」字類抄「數珠、ズズ」功德經「一百八顆、當除百八結業、獲得樂果」 源、五、若紫「金剛子ノずずノ玉ノ、裝束シタル」 同、三十九、御法「阿彌陀佛、阿彌陀佛ト引キ給フ、ずずノ數ニ紛ラハシテゾ、涙ノ玉ハ、モテ消チタマヒケル」 新拾遺集、十二、戀、二「まさみちノ朝臣、ずずヲ置キテ、取リニオコセタルニ「人知レズ、おもひのたまノ、緒絶エナバ、何シテアハヌ、數ヲ取ラマシ」

すすいろ (名) |煤色| 煤ノ如キ色。帶黃淡黑色。

すずおし (名) すずおニ同ジ。

すずか (名) |鈴鹿| (一)雌鹿ノ異稱。 秘藏抄、下「秋山ノ、霧ニヤ友ヲ、迷ハセル、物アハレゲニ、すずか鳴クナリ」すずかトハ、雌鹿ヲ云フナリ」 (二)名物ノ和琴ノ名。 名目抄「鈴鹿、和琴」

すずかがは (名) |鈴之川| 催馬樂ノ歌曲ノ稱。 催馬樂、鈴之川「須須加加波、八十瀬ノ瑞ヲ、皆人ノ、メグル著クヤ、時ニ逢ヘルカモ」

すずかがみ (名) |錫鏡| 錫ニテ作リタル鏡。 宇治拾遺、十四、第五條「后、持チ給ヘル寶ドモ、云云、其中ニ、大ナルすずかがみ、カネノ臍、今ニ在リトゾ」

すずがき (名) |鈴柿| しなのがき(信濃柿)ニ同ジ。

すずかけ (名) |篠懸| 修驗者ノ服ノ上ニ被フ衣、麻布ニテ、素襖ノ如ク作ル、深山ニ入レバ、篠、茂レルガ故ニ、其露(山露ト云フ)ヲ防グモノナリト云フ。(俗、誤リテ、袈裟ノ名トス) すずかけおろも。 下學集、下、絹布門「篠懸、スズカケ」 義經記、七、於愛發山御産事「辨慶、御腰ヲ抱上ゲケレバ、御産、安安トシタマヒケル、武藏、少人ノムヅカル聲ヲ聞イテ、すずかけニ押シ卷キテ、抱キ奉ル」 謠曲、安宅「旅ノ衣ハ、篠懸ノ、露ケキ袖ヤシヲルラム」御篠懸ヲ脫ギカヘテ、麻ノ衣ヲ御身ニ纏ヒ」 夫木抄、三十三、すずかけノ、苔縫衣ノ、古衣、ヲテモコノモニ、着ツツ馴レケム」

すずかけおろも (名) |篠懸衣| 前條ノ語ニ同ジ。 金槐集(實朝)雜「幾返リ、往來ノ峰ノ、ソミカクダ、すずかけ衣、着ツツ馴レケム」

ずずかけばと (名) |數珠掛鳩| 山ニ多シ、形、鴿ヨリ稍小サクシテ、羽ノ色、數十品アリ、皆、頸ニ白キ斑アリ、聲、高クシテ、清ム。又、八幡鳩。 |斑鳩|

すずかぜ (名) |涼風| 初秋ノ頃ノ、涼シキ風。 壒囊(芭蕉)夏「涼風ヤ、我レヨリサキニ、百合ノ花」「すずかぜノ立ツ時分」

すすかんぽ (名) |酸葉| すいばノ異名、其條ヲ見ヨ。

すずかも (名) |鈴鴨| 游禽類ノ一、鴨ノ一種、腹部ハ白ク、他ハ、黑色、又ハ、暗褐色ナリ、翼、及、背ニ、白斑、或ハ、白キ横條アリ、冬季、我ガ國ニ來ル。 草根集、七「折ニアフ、里神樂セリ、神ノマス、森ノ池邊ノ、すずかもノ聲」 同、九「人住マヌ、野澤ノ水ニ、傾キテ、荒ルル篠屋ノ、すずかもノ聲」 爲忠前百首「山川ノ、岩瀨ニスダク、すずかもノ、聲ハ菰セヌ、物ニゾアリケル」

〜すすき (名) |薄| (すすハ、すくすくト生立ツ意、きハ、木ト同ジク、草ノ體ヲ云フ、はぎ、をぎト同趣、接尾語ノ草ノ條ヲ見ヨ」 (一)草ノ、叢リテ生フルモノ。 倭名抄、廿、草類「薄、波奈須須岐」 雅言集覽(笠亭仙果)「今ハ、尾花ヲ、專ラ、すすきト云ヘド、古クハ、群ガリ繁ル草ヲ、スベテ、すすきト稱ヒ、爾雅、釋草ニ、草聚生曰薄ト云フニ從ヒ、薄ノ字ヲ、すすきト訓マセタリ、和名抄、廿卷、草名、見可シ」 萬葉集、七、九「妹ガリト、我ガ行ク路ノ、細竹爲酬寸、我レシ通ハバ、靡ケ細竹原」 神功皇后前紀「幡荻、穗出吾也」 孝德紀、大化二年三月「三河大伴直蘆」(人名) 釋紀「攝津風土記、雄伴郡、有萩野、云云、「須紀草、生太利」 催馬樂、逢路「篠ノ小須須岐」 赤染衛門集、小序「なでしこノ、すすきニナリタルヲ見テ「生ヒカハル、コヤナデシコノ、花すすき、招カバ人モ、行キテ見ツベシ」 長明、四季物語「放免ノ下人ノ袖袂ニツケタル百生鬘ノ、すすきニ成リタルナド、ケシカラヌ見モノナリ」 山家集(西行)「吉野山、風ニすすきニ、咲ク花ハ、人ノ折ルサヘ、惜シマレヌカナ」 爾雅、釋草篇「草叢生爲薄」 (二)前項ノ語ノ、一草ノ名トナリタルモノ。葉ハ、茅ノ如ク、長サ四五尺、色、白シ、緣、利クシテ、人ニ傷ツク、秋ニ至リ、長キ莖ヲ出シ、白キ花ヲ開ク、穗ヲ成シテ、葦ノ花ノ如シ、コレヲ、尾花ト云フ。マクサ。ミクサ。 |芒| 萬葉集、十、五十四「左牡鹿ノ、入野ノ爲酢寸、初尾花」 枕草子、三、三十四段、草の花は「秋ノ野ノ、押シナベタルヲカシサハ、すすきニコソアレ、穗先ノ蘇枋ニ、イト濃キガ、朝霧ニ濡レテ、打靡キタルハ、サバカリノ物ヤハ有ル、秋ノ果ゾ、イト見所ナキ、色色ニ亂レ咲キタリシ花ノ、形モ無ク散リタル後、冬ノ末マデ、頭、イト白ク、蓬レタルヲモ知ラデ、昔シ思出顔ニ靡キテ、カヒロギ立テル人ニコソイミジウ似タメレ」

すすぎ (名) |濯| (一)スヽグコト。「洗濯物ノすすぎガ足ラヌ」すすぎ洗濯」 (二)足ヲ洗フニ用ヰル、水、或ハ、湯ノ稱。洗足。

〜すずき (名) |鱸| (進くノ活用ノ、進きノ義カ、或ハ、すずきおノ略カ、名言通、上、すずき「筋雪ノ轉、すぢゆきハ、古名ナリ、せいおハ、すずきお(鱸子)ナリ、一說ニ、鱸ハ、出雲國、松江ノ產ヲ美トス、せいおハ、松江ノ字音ナルベシト云フ、未ダ、肯フベカラズ」ト見エタリ) 魚ノ名、河海ノ間ニ產ズ、春ノ末、川ニ溯リ、秋ニ至リテ、海ニ入ル、夏月ノ川鱸ヲ、殊ニ美味ナリトス、口、大キク、鱗、細カク、鱈ニ似テ、質、白ク、黑キ斑アリ、頭、大キク、鰭、翅、堅キコト、鯛ノ如シ。其一年兒ヲ、せいおト云ヒ、二年兒ヲ、にさいト云ヒ、長ジテ尺餘ナルヲ、ふっおト云

ヒ、更ニ長ノタルハ、[illegible]チ、[illegible]リ[illegible]支[illegible]ノ[illegible]ト、[illegible]、[illegible]ナレリ [illegible]シ、[illegible]九[illegible]名[illegible]、[illegible] 字[illegible]記、上[illegible]「[illegible]之千尋[illegible]打延、[illegible]」釣[illegible]人之口大之尾[illegible]、[illegible][illegible]

すすぎそろ・ふ・フレ・フレ・ハ・ハ・ハヨ [illegible] 二）[濯汰] エリスク、エリスグル。選拔。[illegible]モ、濯ぎ汲ヘタル[illegible]ノ[illegible]八十[illegible]、八牧ガ磯ヘゾ寄セケル」

すす・く・ク・ク・キ・キ・ケ（自動、四）［進］ すすむ、[進]ニ同ジ

すす・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ（自動、下二）［煤］ 煤ニ、染ミツク。煤ノ色ツク。ススバム。スヽブ　ススブル　染煤 [illegible]、[illegible]ソノ、すす[illegible]ハ、[illegible]ノ、[illegible]リケリ」山家集、上「賤ノ女ガ、すすくる衣ニ、譲リオキテ、思フニ違フ、思モスルカナ」同、同「限アラハ[illegible]ソアラメ、[illegible]ノ、[illegible]モ、すすけ[illegible]ナ」枕草子、四、四十四段「衣、すすけタリ、白クテ着[illegible]コトテ、投ケ取ラセタレバ」續古今集、六、冬「すくもたく[illegible]ノ[illegible]、すすけ[illegible]リ、すすけ通リタルコト、イツノ世ニ貼リタリトモ見エズ」夫木抄、三十二「年ヲ經テ、世ニすすけタル、伊豫簾、懸ケ下ゲラレア、身ヲバ捨ツベキ」

すす・ぐ・グ・ガ・ギ・グ・ゲ（他動、四）［濯・漱・洒］ 一（一）水ニテ、物ノ汚レヲ、洗ヒ淨ム。洗濯ス。ソソグ。[illegible]、ソソグ、アラフ」字類抄「洗、濯、スヽグ」建禮門院右京大夫集[illegible]モ、[illegible]ソル[illegible]ニ、すすがれテ、[illegible]ニ[illegible]ヘキ、色ダニモ[illegible][illegible]云云、[illegible]人[illegible]洗之、[illegible]自分也」「衣ヲすすぐ」

（二）口スヽグ。漱ス。[illegible]、[illegible]口ヲすすぐ[illegible]、[illegible]、汚名ヲ[illegible]、ソヽグ[illegible]、[illegible]ナシ」源、廿、胡蝶「此一ツ事ニテ、此世ノ濁ヲすすぎ給ハザラント」「恥ヲすすぐ」

すずくさ（名）［鈴草］ だいくわんさう二同ジ　毛不留行 [illegible]和名、上[illegible]不留行、[illegible]久佐、加佐久佐」[illegible]、ダウクワンサウ、クサウサ」[illegible]、[illegible]、[illegible]六、[illegible]不[illegible]、[illegible]、[illegible]小花[illegible]白色[illegible]云云」

すずぐち（名）［鈴口］ 大名ノ屋敷ナドノ、表ト、奧トノ堺、此處ニ、赤キ組緒ノ[illegible]ニ鈴ヲ附ケタルヲ、長ク引延ヘ置ク、表、奧、事ヲ通ハス時、鈴ヲ引キ鳴ラシテ、表役人、[illegible]中、出デテ、事ヲ告グ。

すずくら（名）［篶倉］ 篠竹ニテ葺キタル倉。[illegible]十、雜、下「筑紫ニ作リケル所、すずくらニ、乾飯ノ有リケルヲ見テ「すずくらニ、フルキ[illegible]ゾ、ツキモセヌ」

すずくれぐさ（名）［涼暮草］ 松風ノ異名[illegible]、[illegible]、[illegible]ク[illegible]ハ、山ノ高ミニ、[illegible]コユナリ、すずくれぐさノ、風ノ夕暮」

すずくれづき（名）［涼暮月］ 陰曆六月ノ異名。[illegible]、六月[illegible]、池ニ[illegible]ル、京ナル、すずくれづきノ、頃ニコソナレ」

すすけ（名）［煤］ ススクルコト　ススケタルコト　枕草子、四、四十四段「衣モ白メズ、同じすすけニテアレバ」

すす・ける（動）［煤］ 煤くノ口語。

すずこ（名）［鈴籠］ 泊狩ニ、鷹ニカケタル鈴ヲ鳴ラサジトテ、掛クル袋、鳥ヲ[illegible]カサジトテナリ。スズノコ。スズオシ。[illegible]寺[illegible](異本)、[illegible]、すずこ[illegible]夜ノ、[illegible]

すずこ（名）すずたまノ（一）ニ同ジ、（關東）

二、音ノミ高ク、雉鳴クナリ」

すずこだま（名）すずだまノ（二）ニ同ジ（關東）

すずこつり（名）數珠子釣 魚ヲ釣ル方法。絲ノ先ニ竹串ヲツケ、四五尺許ノ間、大キ蚯蚓ヲ貫キ、ソレヲ縮ネテ、一所、絲ニテ結ヒ固メ、五尺バカリノ竹ノ先ニ結ヒツク、又、五尺バカリノ柄ヲツケタル小網ヲ持チ、夜中ニ魚ヲ釣ル、魚餌ヲ食ヘバ、小網ノ内ヘ釣リ込ムナリ。

すずさいこ（名）鈴柴胡 古名、ヒメカガミ、今、又、ヤナギザイコ。コマナバラ　草ノ名、山野ニ多シ、春、宿根ヨリ生ズ、莖、細ソク堅ク、高サ一二尺、葉ノ形、なでしこニ似テ、對生ス、夏、莖ノ頭ニ、枝ヲ分チテ、五瓣ノ黄紫花ヲ開ク、大キサ三分許、莢ヲ結ブ、長サ一寸許、圓クシテ、尖ル。徐長卿

すずし（名）［生絹］ （次條ノ語ノ、清しノ義）生絲織ノ、練ラヌ絹布ノ名、練ニ對シテ云フ、輕ク薄クシテ、紗ノ如シ [illegible]源、三、空蟬八「すずしナル單、一ツヲ着テ、スベリ出デニケリ」枕草子、三、廿三段「九月九日ノ菊ヲ、アヤシキすずしノキヌニ包ミテ持ラセタル」字類抄「生衣、スズシノキヌ」「生絲、スズシノイト」禪、スズシノキモノ、太神宮儀式帳「生[illegible]御裳」人車記「[illegible]御袍、生[illegible]、下襲、以生絹[illegible]調之」

すず・し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）［清涼］ （一）一スガスガシ　輕ク、寒シ　程好ク、冷カナリ（暑日ノ風ナドニ）清亮 字鏡「[illegible]凉、[illegible]」[illegible]紀、元年六月[illegible]、[illegible]、[illegible]伊勢物語、四十四段「イト暑キ頃ホヒ、云云、夜更ケテ、ヤウヤウすずしき風、吹キケリ」（二）サハヤカナリ。澄ミテ、清シ。清爽「鈴ノ音、すずし」「眼中すずし」（三）潔白ナリ。イサギヨシ　源[illegible]、[illegible]一[illegible]、[illegible]ヒ[illegible]シタレ[illegible]住居士ト二[illegible]ヒキコエサセ[illegible]ノ内ハ、何事モすずしく推量ラレ侍レバ」拾遺集、廿、[illegible]、[illegible]シ侍レド[illegible]キテ、云遣ハ、シケレ、ササ波ヤ、志賀ノ[illegible]、イカハカリ、心ノ内ノ、すずしかるラム」太平記、廿三、佐[illegible]事、一足モ引ナス討死スベシト、神水ヲ飲ミテゾ打チ立チケル、[illegible]ノ頭[illegible]二[illegible]ヒ[illegible]カー[illegible]ト、先ヅ、涼しくゾ見エタリケル」

すずし・きほ・ふ・フ・ハ・ハ・ヒ・ハ（自動、四）［進］ 競 ススミ、爭フ [illegible]、九[illegible]、長[illegible]、[illegible]キ、[illegible]、[illegible]、シケレ時ニ」

すずしきみち（名）［清淨道］ 一（淨土ノ訓讀）ごくらく（極樂）ノ（一）ニ同ジ。源、四十五、[illegible]世ニ心トトメ給ハネバ、出立チ急ギヲノミ思セバ、すずしき道ニモ[illegible]ヒヌヘキヲ」[illegible]、四、下[illegible]一巻ハカリハ、すずしき道ノ[illegible]ニモナシ侍ラン」

すずし・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ（他動、下二） （一）涼シクス [illegible]、[illegible]ノ、[illegible]テ暑キ折リニハ、枕ヤ、座ヲ、すずしめテ」（二）清クス　[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ[illegible]ノ拍子ヲ揃ヘテ、すずしめ給ヘ、ミヤツコタチ」

すずしめ（名）［巫女］ （前條ノ（二）ヲ、名詞トス）ミコ。カンナギ。（竈拂ナドノ）好色一代男（天和、西鶴）「アラオモシロノ竈神ヤ、お竈ノ前ニお[illegible]テト、すずしめノ、鈴ヲ鳴ラシテ、[illegible]巫、來タレリ、下ニハ、檜皮ノ色ノ[illegible]ヲ重ネ、薄衣ニ月日ノ影ヲウツシ、[illegible]カケ、[illegible]サゲ、淡化粧シテ、眉墨濃ク、[illegible]ハ、[illegible]ラ[illegible]テサゲ」

すずしろ（名）［蘿蔔］ 〔清代ノ義ニテ、蘿蔔ヲ以テ、おほね、即チ、すずなニ代ヘ用キルヨリ、名アリシナラム、すずほりノ條ヲ

見ヨ」大根ヲ、春ノ七種ニ用キル時ノ稱。[蘿蔔] 節用集「蘿蔔、スズシロ」源氏十段長生島臺(元祿、近松作)淨瑠璃御前道行「青菜、すずしろ、芹、薺」

〔すずしろ (名) [鬠]〔蘿蔔ノ苗葉ノ、地ニ敷ケル狀ニ似タレバ、名トスト云フ、鬠シ栗坊主ナド云フガ如シ〕小兒ノ髮ヲ、剪ミ餘セルモノ。又、嬰兒ノ頂ニ剃リ殘シタル髮。コレヨリ長ジテ、わらはトナル。倭名抄、三毛髮類「鬠、須須之路、小兒剪髮所餘也」名義抄「鬠、小兒垂髮、スズシロ」

〔すすす・ス・セ・サ・シ・セ (自動、四) [進] 競ヒ、進ム。スズログ。イススク。すすしきほふノ條ノ出典ヲ見ヨ。

すすぞめ (名) [煤染] 煤色ニ染ムルコト。又、其染物。

すすたけ (名) [煤竹] (一)竹ノ、煤ケテ、色ノ、赤黑クナレルモノ。(二)次次條ノ、煤竹色ノ略。狂言記、比丘貞「鎌倉ノ上﨟ハ、すすたけノ冷(縅ノ夜着ナリ)ニ、織物ノ手綴」(三)煤拂ニ用キル、枝葉附キタル竹。

すずたけ (名) 小サキ、色ノ黑キ竹。シノベダケ。

すすたけいろ (名) [煤竹色] 煤竹ノ如ク、赤黑キ色。古銅色。我衣(天和)「寶曆五年ノ比ヨリ、江戸町町、男女、煤竹色ノ小袖、ハヤル、羽織モ、帷子、單物、何レモ、煤竹ナリ」

ずずだま (名) 數珠玉 (一)數珠ノ珠。數珠ノ條ヲ見ヨ。(二)〔薏苡ノ古名ノ、つしだまヨリ轉ジテ、今、又、數珠ノ意トス〕草ノ名、原野ニアリ、春、種子ヨリ叢生ス、莖、葉ハ、薏苡ニ異ナラズ、秋、子、大キクシテ、白ク光ル、或ハ、黑キアリ、又、黑白ノ斑ナルアリ、皮、甚ダ堅クシテ、中ニ、自ラ穴アリ、兒童、採リテ、絲ニ貫キ、數珠ノ如クシテ玩ブ。ズズゴ。ズズゴダマ。川穀 林逸節用集「薏苡、スズダマ、ツシダマ」字鏡五十八「薏苡子、玉豆志」

〔すすたる・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) [煤垂] 煤、垂リ下ル。散木集「隙ヨリ、螢火ノ烟、漏レ來ツツ、焚カヌ宿ニモ、すすたりヌベシ」

〔すすぢ (名) [踉蹡鉤] イススクコト。進ルコト。古事記、上六十「此鉤者、淤煩鉤、須須鉤、貧鉤、宇流鉤云」神代紀、下三十「踉蹡鉤」三十四「踉蹡鉤、此云須須美膩」

すすっと (副) 抽ンデ、進ム狀ニ云フ語。すっと。

ずずっと (副) 前條ノ語ヲ、強ク云フ語、ずっとニ同ジ。

ずずつなぎ (名) [數珠繫] 數珠ノ珠ヲ、緒ニ貫キタルガ如ク、多クノ物ヲ、一連ニツナグコト。ジュズツナギ。「博徒ノ群ヲ捕ヘテ、數珠つなぎニス」

すすどし・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [銳]〔進疾しノ意ト云フ〕(一)疾ク、速シ。スルドシ。敏捷 宇治拾遺、十一、第八條「サレバコソト思ヒ、すすどく歩ミテ過グルヲ」平家物語、十一、八島軍事(大阪越)「九郎ハ、すすどき男ニテ侍フナレバ、大風、大波ヲモ嫌ハズ、寄セ侍フラム」(二)コスシ。ワルガシコシ。狡猾

〔すずとり (名) [弄鈴]〔鈴取ノ義、弄玉、同趣〕數箇ノ鈴ヲ、手玉ニ取ル藝。倭名抄、四十八雜藝類「弄鈴、須須止利」

すずどり (名) [鷩]〔すずトハ、鳴聲ヨリ名トスト云フ〕鳳凰ニ似タル鳥ナリト云フ。林逸節用集「鷩、五色而似鳳凰」

すずな (名) [菘]〔小菜ノ義ナラム〕アヲナ。又ハ、蕪菁。專ラ、春ノ七種ニ用キル時ノ稱トス。拾芥抄、下、末、廿八、飲食部ニ、七種ノ若菜アリ、其中ニ、蕪、須須之呂、見エタリ、又、河海抄ニモ、すずなト見ユ。

すずなり (名) [鈴成] 果ナドノ、神樂鈴ノ如ク、房トナリテ、生レルヲ云フ語。離離 狂歌咄(寬文)「松フグリ、枝ニ鈴なり、神樂岡、風吹ク毎ニ、颯颯ノ聲」

ずずなり (名) 數珠成 前條ノ語ノ訛。

ずずねぎ (名) [數珠根木] やまひらぎノ條ヲ見ヨ。

すずのお (名) [鈴緒] すずおニ同ジ。

すずのそう (名) [鈴奏] 古ヘ、行幸ナドノ時、御先ヲ拂フ爲ニ振リ鳴ラス鈴ヲ、請ヒ奉ル奏上。少納言、長樂門ノ前橋ヲ經テ、版位ニ就キテ、御供ニ持チ仕ヘマツラム鈴、賜ハラムト申ス、ト奏シ、還御ノ時ハ、御供ニ持チマツレル鈴、奉ラムト申スト、奏ス。(西宮記、臨時、北山抄、行幸條、裏書) 續後紀、十九、承和五年正月七日「天皇將御豐樂院、於紫宸殿南階欲駕御輿、敕宗以少納言、祇候鈴奏、也立大庭」山家集、下「讃岐(崇德院)ノ、位ニオハシマシケル折リ、行幸ノ鈴のそうヲ聞キテ詠ミケル「折リニケル、君ガ行幸ノ、鈴のそうハ、イカナル世ニモ、絕エズ聞エン」

すずのつかさ (名) [主鈴] 古ヘ、中務省ノ被管ニシテ、驛路ノ鈴、關所ノ割符ナドノ事ヲ掌リシ官、大主鈴ト、少主鈴トアリ。職員令、中務省「大主鈴二人、掌出納鈴印傳符、飛驛函鈴、少主鈴二人、掌同大主鈴」

すすのみお (名) 猿ノ異稱。篠目抄「古ヘハ、イトモカシコシ、すすのみお、猿丸ヲコソ、思ヒ出ミラメ」

すずのや (名) [鈴屋] 本居宣長ノ書齋ノ號。大人、三十六ノ鈴ヲ書齋ニ懸ケオキテ、倦メバ、紐ヲ引キ鳴ラシテ慰ミタリトゾ。

すすはき (名) [煤掃] すすはらひ(煤拂)ニ同ジ。下學集、下、態藝門「焙煤掃、十二月所作」宗長手記「師走ノすすはきスル家」榮花咄(貞享)江戸事「春ノ事ハジメニテ、武家、在家ノ煤はき」

〔すすばな (名) [洟] 鼻液ノ垂ルルヲ、鼻息ニテ啜ル如クスルコト。ハナススリ。倭名抄、三十三鼻口類「洟、須須波奈、鼻液也」名義抄「洟、ススハナ、ハナススリ」枕草子、七、七十一段、きたなげなるもの「すすばなシ步ク兒」宇治拾遺、一、十八條「鼻高ナルモノノ、先ハ赤ミテ、穴ノアタリ濡レバミタルハ、すすばなヲ拭ハヌナメリト見ユ」雅亮集「洟ヲダニ、啜リモアヘズ、我レガ身ニ、イカニ添ヘタル、戀ノ涙ゾ」

すすばむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) すすく(煤)ニ同ジ。

すすはらひ (名) [煤拂] 年中行事ノ一、家ノ內ノ煤、埃ヲ、大イニ掃除スルコト。昔ハ、貴賤、多ク、十二月十三日(鬼宿ニテ、吉日ナリ)トス、煤掃餠ヲ祝フ。スハキ。除殘 暑中ニ行フヲ、土用掃ト云フ。今ハ、春ニ、清潔法ヲ施行ス。明月記、天福元年十二月十九日「令拂窪庭煤」康富記、寶德元年十二月廿日「於給事中文亭、煤拂也」宣胤卿記、永正元年十二月十九日「比屋煤拂」吾妻鏡、三十一、嘉禎二年十二月己丑「御煤拂」川柳「手ノ甲ヘ、餠ヲ受取ル、十三日」

ずずひき (名) [數珠挽] 數珠ヲ挽キ作ル人。ネズヒキ。東北院職人歌合、十番、數珠引「サヤケサハ、秋ヲタメシニ、ひくずずノ、露ヨリ傳フ、袖ノ月影」

すすひのさんせい (名) [酢吸三聖] 畫題ノ語、虎溪三笑ノ類、蘇東坡、黃山谷ト共ニ、佛印禪師ヲ訪ヒ、桃花醋ヲ吸ヒ、

[illegible]ヲ輩ムコレヲ三暖ト云ヒ又三暖ト云フ。南鐐[illegible]、[illegible]、[illegible]月影三人」(俗ニハ、コ[illegible])

すす・ぶ・ブル・ブレ ビ・ビ・ビヨ(自動、上二) すすく(煤)ニ同ジ。萬葉集、十一、廿「難波人、葦火焼ク屋ノ、酢四手アレド」(すすびてノ意)

すずぶね (名) 鈴舟 官船ニ、鈴ヲ懸ケラレタルモノ。[illegible]、[illegible]、[illegible]ノ御鈴ノ鋼手ヲ取リテ引落セヨ)私記「鈴船、[illegible]舟ワ、路スル者ニヤ、駆グラム、須磨ノ上野ニ、建立ツナリ」散牧令「水驛ニ鈴」

すずふりばな (名) 鈴振花 とうだいぐさニ同ジ。

すす・ぶ・る・ル・レ・ラ・リ・レ(自動、四) すすく(煤)ニ同ジ。

すずほり (名) 㴖 〔𥲤籠入ノ約ニモアヤカ〕𥲤代(鈴代)、同ジ。[illegible]ノ楽、多クハ、あなな、即チ、すずなヲ用キル。[illegible]「[illegible]」[illegible]「清菜、スズヲリ」[illegible]、須須保利」[illegible]

すずま・し・シキ・シケレ・シク・シク(形、二) 進 心、マ、スミタリ。勇ミテアリ。[illegible]十八、[illegible]「[illegible]すすましからヌ程ノ仲ラヒナリ」無名抄、上「心ニ面白ク、すすましく覺ユトモ」

すすみ (名) 進 (一)ススムコト。前、又ハ、上へ、行クコト。進行。萬葉集、九、廿二「[illegible]人ノ、行キノ進みニ、ココニ[illegible]」 (二)イサミ。ハヤリ。「心ノすすみ」氣ノすすみ」 (三)漸ク、巧ミニナルコト。上達。「學問ノすすみ」

すすみ (名) 烽 〔進火ノ轉カ、又、空ニ高ク進ム火ノ義カト云フ〕とぶひ(飛火)ニ同ジ。天智紀、三年、[illegible]、對馬島、壹岐島、筑紫國等、置ニ防與ニ烽一」

すずみ (名) 納涼 スズムコト。涼シキ空氣ニ、アタルコト。[illegible]キ日ハ[illegible]ニ八、人人、すずみナトシ給フ」[illegible]、夏日[illegible]、タツタ川原ノ、柳蔭、すずみニ來ツツ、聞ラク歸カナ」

すずみ (名) 雀 すずめノ轉。[illegible]スズメ スズミ」本草和名、下、廿「雀卵、須須美」同、廿二「[illegible]、須須美乃[illegible]」[illegible]「[illegible]、スズミノカヒコ」[illegible]「スズミ」

すすみ・い・づ・ヅル ヅレ・デ・デ・デヨ(自動、下二) 進出 進ミテ、前へ出ヅ。サシイヅ。狹衣、三、上「今、大臣ノ氣色見テコソハ、思フ片ニモアランヲ、すすみ出で、ハシタ無ウヤナド、ノ給ハセテ」著聞集、十六、[illegible]「[illegible]、[illegible]官代ニ走リ向ヒテ、すすみ出でテ云フヤウ」

すずみだい (名) 納涼臺 腰掛臺ヲ、納涼ニ用キル稱。即チ、夏時、地上ニ居エテ、納涼ムニ用キル、腰掛ノ類。エンダイ。涼床 涼榻 涼棚

すずみだか (名) 雀鷂 「悦哉ノ條ノ語原ヲ見ヨ」鷹ノ屬、えっさいノ條ヲ見ヨ。

すすみぢ (名) 躑躅鉤 すすぢノ條ヲ見ヨ。

すずみ・と・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 納涼 すずむニ同ジ。[illegible]、[illegible]水ニ浸シテ涼みとる」

すずみのたふ (名) 涼塔 ちゃくたふ(積塔)ノ條ヲ見ヨ。

すずみのつぼ (名) 雀甕 すずめのたおノ(一)ノ古言。本草和名、下、廿「雀甕、須須美乃[illegible]」

すずみぶね (名) 納涼船 船遊ノ一、屋形船ノ、水上ヲ流スモノ。納涼マムトテ、水上ニ浮ベタル船。

すす・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 進 〔すすくト行ク義〕(一)退クノ反。前へ行ク。出ヅ。源、三、明石「人、すすみ參ラバ、サル方ニテ紛ラハシテント」新葉集、十六、雜、上「年ナミノ、進み退ク、事モアラジ、流ルル月日、道シ變ヘズバ」 (二)心ニ思フ所ヲ、セムトス。勇ム。ハヤル。玉葉集、十、戀、二「待ツコトノ、心ニすすむ、今日ノ日ハ」風雅集、十一、戀、三「更ニコソ、明日ノ頼モ、頼マレネ、進まヌちノ、障リト思ヘバ」源、三十一、眞木柱「直すすモムキニ、すすみ給ヘル御心ニテ」「氣ガすすむ」心ガすすむ」 (三)上ヘ行ク。ノボル。字鏡「昇、[illegible]」「官位、すすむ」(四)好キニ移ル。漸ク、勝ル。上達ス。學術ナドニ〕源、十七、繪合十九「才學ト云フモノ、云云、イタウすすみヌル人ノ命、幸ナラビヌル、イト難キモノニナン」同、廿、朝顏廿二「少シ頃ハシキ氣添ヒテ、才オシサノすすみ給ヘルヤ、苦シカラン」

すす・む・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 進 〔前條ノ語ノ他動〕 (一)進ムヤウニナス。前ノ方へ遣ル。出ス。「膝ヲすすむ」兵ヲすすむ」 (二)上ノ方へ遣ル。ノボス。「位ヲすすむ」 (三)他ヲ諭シテ、爲サス。誘ヒ立ツ。勸 奬 勸誘 源、十九、薄雲廿一「功徳ノかトテモ、すすむるニ依リ給ヒテ」同、四十四、竹河三十「猶マタマタ、ヨク氣色見給ヘト、人ヲすすめ給ヒテ」千載集、六、冬「圓位法師、人人ニすすめテ、百首ノ歌詠マセ侍リケル時」山家集、下「前ニ納[illegible]ヲすすむ」 (四)〔參ラス。奉ル。勸 呈 源、四十三、竹川三十「盃ヲノミすすむれバ」著聞集、十二、博奕「[illegible]」 (五)用キラレムコト、取持ツ。推擧ス。薦 [illegible]「[illegible]」 (六)貴人ニ、陪食スル 飲食ノ興ヲ添ヘテ、勸ムル 術 [illegible]夫、以ニ樂術一食」

すず・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 納涼 暑サヲ醒サムト、身ヲ、涼シキ空氣ニ當ツ。スズミトル。涼シクスル。避暑 三代實錄、十三、貞觀八年十月廿[illegible]「[illegible]」[illegible]、三十八年七月「天皇[illegible]」[illegible]夏「イト暑キ日、東ノ釣殿ニ出給ヒテ、すずみ給フ」

すずむし (名) 鈴蟲 〔すずハ、聲ヲ名トス〕(一)蟲ノ名、古キハ、褐色ナルヲ云フ、古歌ニ云ヘリ、即チ、今ノ、まつむしニテ、其聲、ちんちろりんト聞ユルモノ、まつむしノ條ヲ見ヨ(すずむしまつむし、ノ名、古、今、相、反セリ) 金鐘兒 源、三十七、鈴蟲「聲聞エタル中ニ、すずむしノ振出デタル程、花ヤカニヲカシ、云云、すず蟲ハ、心易ク、今メイタルコソ ラウタケレ」同、廿七、篝火五「篝ノ少將、拍子打チ出デテ、忍ビヤカニ歌フ聲、すずむしニ紛ヒタリ」著聞集、十九、草木「天曆三年[illegible]子内親王[illegible]宮、薄、蘭、紫苑、苅萱、女郎花、萩ナドヲ植エサセ給テ、松蟲、鈴むしヲ放サセ給ケリ」 (二)侍從ノ(三)ノ異名。

すずむし (名) 鈴蟲 蟲ノ名。古名、まつむし。おほろぎノ屬、色、黑ク、松蟲ニ似テ、首、小サク、尻、大キク、背、スボク、腹、黄白ナリ、秋ノ夜、鳴ク、其聲、りんりんト云フガ如シ、畜ヒテ、聲ヲ愛

ス。金琵琶

すすむ-しん（名）詔 はたしん（秦）ノ條ヲ見ヨ。

〔すすめ（名）勸 勸ムルコト。諭シテ、事ヲセサスルコト。源、四十八、寄生六十「後ノ世ノ御すすめトモナルベキ事ニ侍リケリ」同、三十七、鈴蟲十五「物ハカナサヲ、イカデ良ウ言聞カセン、人ノすすめヲモ聞キ侍リケリ」

〔すずめ（名）雀 〔すずハ鳴ク聲、めハ群ノ約、或ハ云フ、鷦群ノ義ナリト〕（一）又、スズミ。小鳥ノ名、人ノ善ク知ル所ナリ、人家、堂、社、等ノ簷ノ間ナドニ巣クフ、全身、黒褐ニシテ、背ニ斑アリ、頷、觜、黒ク、尾、寸餘、爪、距、黄白ナリ、躍ルノミ、歩マズ、其卵ニ斑アリ。黄雀 倭名抄、十八 羽族名「雀、須須米」古事記、下（雄略）二十九「長歌」「庭須受米」神代紀、下二「以雀爲碓女」崇神紀、四十八年正月「逐食粟雀」著聞集、廿、魚蟲禽獸「アル貴所ニ、まろねト云フ猫ヲ飼ハセ給ヒケル、ソノ猫、鼠、すずめナドヲ、取ケレドモ、敢エテ食ハザリケリ、人ノ前ニテ放チケル、不思議ナル猫ナリ」（二）多辯ナル人。オシャベリ。

すずめ-ありき（名）雀歩 雀ノ躍ルガ如キ歩附。チョコチョコアルキ。隆信集、下「暁ノ寐覺ニ、すずめありきスル阿彌陀ノ聖ノ聲（要念佛ノ類カト云フ）モ、我ガ身一ツニ染ム心地シテ」

すすめ-い・る・ルル・ルレ・レ・レヨ（他動、下二）勸入 勸メテ、入ラシム。勸誘シテ、ハヒラシム。續後拾遺集、十九、釋教「親ヲ、眞ノ道ニ、すすめ入れテ、コハ如何バカリ、嬉シカルラム」

すずめ-いろ-どき（名）雀色時 暮レ六ツ時。夕暮。薄暮 黃昏 東海道中膝栗毛（文化、十返舍一九）「オノヅカラ、道急グ馬士唄ノ、竹ニトマル雀色時、ヤウヤク、蒲原ノ宿ニ至ル」「夕時分ニ旬娠、朝時分不嫌（遊ぶノ書ニ）」

すずめ-うを（名）雀魚 すずめふぐニ同ジ。齊明紀、四年十一月「出雲國言、於北海濱魚死而積、厚三尺許、其大如鮐、雀喙針鱗、鱗長數寸、俗曰、雀入於海化爲魚、名曰雀魚」

〔すずめ-がくれ（名）雀隱 春ノ末ニ、草木ノ芽、葉ノ、漸ク生ヒ立チテ、雀ノ、トマリテ、身ノ隱ルル程ニナルコト 蜻蛉日記、下、上十九「三月ニナリヌ、木ノ芽、すずめがくれニナリテ」新六帖、六「萌エ出デシ、野邊ノ若草、今朝見レバ、すずめがくれニ、早ナリニケリ」曾丹集、春「淺茅生モ、すずめがくれニ、ナリニケリ、宜木ノ本ハ、小暗カリケリ」

すずめ-がた（名）雀形 雀ノ、翅ヲ張リタル樣ヲ、圓ク描キタル形。

すずめ-がひ（名）雀貝 貝。磯ノ石、或ハ、蚫ノ殼ニ着キテアリ、殼、一片ニシテ、よめがさらニ似テ、小サク厚ク、尖リテ、形、略、雀ノ如ク、又、千鳥ノ如シ、色ハ、淡白ク、又ハ、褐色ナリ、品類、多シ。別名、イソガヒ。チドリガヒ。遊歩色葉集「雀貝、スズメガヒ」山家集、下「波ニ寄ル、タケノ泊リノ、雀貝、嬉シキ世ニモ、逢ヒニケルカナ」

すすめ-がほ（名）勸顏 勸ムルガ如キ顏ツキ。勸ムルヤウナル素振。建禮門院右京大夫集「迷ヒ入リシ、戀路クヤシキ、折ニシモ、すすめがほナル、法ノ聲カナ」

すす-めぐり（名）洲洲廻 洲ヨリ洲ヘト、濟ギ廻ルコト（倭訓栞）永久百首、船「雲津ヨリ、すすめぐりスル、浦舟ノ、沖漕ギ離リ、ホノボノト見ユ」

すずめ-こゆみ（名）雀小弓 すずめゆみ（雀弓）ニ同ジ。海人藻芥、上「諸門跡ノ藝ハ、詩歌、管絃ノ會、春ハ、雀小弓也」後鳥羽院宸記、建保二年四月廿五日「有雀小弓會、賭勝負一分之紈舞」庭訓往來、正月「楊弓、雀小弓勝負」抄、上「雀小弓、弓ノ、ホコ二尺七寸、的ヲ四寸ニシテ、中ニ釣リ、五間口ニ置イテ射ル也」武家義理物語（天和、西鶴）「小娘藝ニ、雀小弓、名譽ニ、一筋モ外サズ」

すずめ-ずし（名）雀鮨〔腹、脹ルルコト、雀ノ如キ意〕鮒ノ腹ニ、飯ヲ詰メタルモノ、近江ノ産ナリ。續山井（寛文）「羽根ノ生ヘタ、飯ニ漬ケテヤ、雀ずし」（飯ノ強キヲ、羽根の生へたト云フ）炭俵「薊ヤ苣ニ、雀鮓盛ル」後撰夷曲集、八、雜、上「チョコチョコト、踊レド減ラヌ、我ガ腹ハ、飯ノ過ギタル、雀鮓カモ」

すずめ-だか（名）雀鷂 えっさい（悦哉）ノ條ヲ見ヨ。

すずめ-の-きんちゃく（名）葶藶〔雀の巾着ノ義〕いぬなづなニ同ジ。

すずめ-の-こ-を-どり（名）雀子取 兒戲ニ云フ語、コヲトロコトロ 長唄、面かぶり「トカク子供タチャ、イタイケガ良イモノヂャ、云云、頭テンテンヨ、駒鳥、すずめのこをとり、其尾ニ取付ク太郎松、米松、云云」

すずめ-の-たご（名）雀擔桶（一）古名、スズミノツボ。いらむしノ巢、秋ノ末、樹ノ枝ニ作ル、白乳ノ如ク、身ヲ其中ニ隱ス、後ニ、凝リテ、卵ノ如ク堅シ、長サ五六分、淡黑クシテ、堅ニ白キ紋アリ、雀、好ミテ、中ノ蛹ヲ食フ、古クハ、藥用トセリ。スズメノマクラ。スズメノツボ。雀甕（二）女靑ノ實。

すずめ-の-つぼ（名）雀壺 前條ノ（一）ニ同ジ。

すずめ-の-まくら（名）雀枕 前前條ノ（一）ニ同ジ。

すずめ-の-ゑんどう（名）雀豌豆 のゑんどうノ條ヲ見ヨ。

すずめ-の-をごけ（名）雀苧桶 宿根草、春、一根ニ叢生ス、高サ一尺餘、葉ハ、橢圓形ニシテ、對生シ、莖ト共ニ、微毛アリ、夏ノ初、梢ノ葉ノ間ニ、數花ヲ開ク、五瓣ニシテ、白シ。ノカガミ。白前。

すずめ-はぎ（名）雀萩 ひめはぎニ同ジ。（東京、花戸）

すずめ-ふぐ（名）雀河豚 魚ノ名、北海ニ産ズ、形、河豚ニ似テ、小サク、大キサ三四寸ニ過ギズ、灰白色ナリ、全身ニ、堅キ甲アリテ、紋ヲナス、額ニ二角アリテ、前ニ向ヒ、腹ノ兩翼、長ク後ニ向フ、腹、背、方ニシテ、四稜アリ、喙ハ、鳥ノ觜ノ如シ、全體、稍、雀ノ飛ベルガ如シ、食フベカラズ。スズメウヲ。イシフグ。鯯魚

すすめ-ほふし（名）勸法師 佛道ヲ修ムルコトヲ勸ムル法師。又、寺院ノ建立ナドヲ勸進スル法師。著聞集、十五、宿執、西行法師「出家ノ身ニテ、口入セン事、すすめ法師ニ似タランズレバ」

すずめ-や（名）雀矢 獵矢負ヒタル雀。（伴信友全集、五、弓矢古義推考）

すずめ-やき（名）雀燒 一種ノ料理、鮒ノ雀燒トハ、鮒ヲ燒キテ、醬油ト味醂、又ハ酒トヲ雜ゼタル汁ヲカケタルモノ。

すずめ-ゆみ（名）雀弓 雀射ル爲ノ、小サキ篠弓。小サキ弓ノ、雀ナド、射テ捕ルモノ、楊弓ノ類。雀小弓。夫木抄、三十二、弓「篠タメテ、雀弓張ル、男ノ童、額烏帽子ノ、欲シゲナルカナ」

⁂すす・める（動）進む（下二段）ノ口語

すずめ-をどり（スズメ・オドリ）（名）[illegible]（ワヤクヤク）[illegible]ノ[illegible]一種ノ[illegible]ニ[illegible]、[illegible]ノ如キモノ[illegible]セノ[illegible]ス、すずめをどりや、格ノ花笠」

すずもち（名）[illegible] [illegible]ヲ[illegible]、日ニ、[illegible]テ、祝フ餅。

すずやかみ（形）[illegible] スズシク、[illegible]、サエ[illegible]ザ[illegible]シ[illegible]、[illegible]マメキテオハシマス」

すずらん（名）**鈴蘭**（一）辨慶草（ベンケイサウ）ノ（一）ニ同ジ。（二）[illegible]ノ草。[illegible]リ生ジ、[illegible]、只[illegible]、[illegible]行[illegible]ヲ有シ、[illegible]、[illegible]白色[illegible]鈴ノ花ヲ、[illegible]、[illegible]

すずり（[illegible]）[illegible] スズルコト [illegible]、[illegible]コシ、セト、[illegible]ク[illegible]コエ給ヘバ、一すずり笑ルヲ」

すずり（名）**硯**〔墨研（スミスリ）ノ約〕古名、スミスリ。墨ヲ水ニ和シテ、研（ス）リオロスニ用キル器。石、又ハ、瓦ナドニテ、方、圓、[illegible]ノ形ニ作ル、[illegible]、[illegible]、其上方ニ、一層、凹キ處ヲ作ル、海（硯池）ト云フ、水ヲ貯フ。スズリイシ。源、三十八、夕霧「[illegible]すずり押シスリテ」同、三十七、鈴蟲「御硯ニサシ濡ラシテ、[illegible]ナル御[illegible]ニ書キツケ給ヘリ」

すずり-あ-ぐ（[illegible]）[illegible]（自[illegible]、[illegible]）嘔上、[illegible]、[illegible]、内ヘスリコム、[illegible]ナス、[illegible]すずりこ[illegible]」

すずり-あらひ（スズリ・アライ）（名）[illegible] 七月六日ニ、硯ヲ洗ヒタルコト。此日ハ、[illegible]ニ、[illegible]、[illegible]、[illegible]

[illegible]昔[illegible]、[illegible]ニ供スル日ナレバ、其神事ニ傚ヒテ行ヒシモノナリトゾ。

すずり-いし（名）**硯石** すずり（硯）ト云フニ同ジ。七十一番職人盡歌合、三十九番、硯士「逢フコトハ、[illegible]ケレバ、すずりいし、金[illegible]シャウモ[illegible]ハヤリケリ」

すずり-がめ（名）**硯瓶** 水滴（スイテキ）。又、スミスリガメ。[illegible]、九、岩[illegible]、[illegible]ノ[illegible]子ヲ、人ノ、[illegible]、宮ノ[illegible]すずりがめ二[illegible]サセ給ヘルヲ、東宮、取り散ラサセ給ヘバ」[illegible]、宮、[illegible]すずりがめニ、[illegible]ノ[illegible]リテ入レタリシ、生ヒイデタリシヲ埋ラストテ「誰レ[illegible]ン、廿二ミノエノ、[illegible]人ノ、硯の[illegible]ニ、[illegible]ス[illegible]流ヲバ」

すずり-し（名）**硯師** **硯士** 硯ヲ作ル職人。前前條ノ出典ヲ見ヨ。

すすり-なき（名）**啜泣** ススリナクコト。泣カジト思ヘド、初メ泣キタルママニ、[illegible]、[illegible]リアゲテ、不覺（スズロ）ニ泣クコト。シャクリナキ。歔欷

すすり-な-く・ク・ケ・カ・キ・ケ（自動、四）**啜泣** サクリアゲテ、不覺（スズロ）ニ泣ク [illegible]八[illegible]

すずり-の-うみ（名）**硯海**〔硯海（ケンカイ）ノ字ノ[illegible]〕[illegible]ノ[illegible]、條ヲ見ヨ。硯池。[illegible]

〔文保、近松作）三「我レヲ忘レテ、すすりなく」

すずり-ばこ（名）**硯箱** 硯、墨、筆、等ヲ入レ置ク、小サキ匣。アタリバコ。**硯函**（スズリバコ）[illegible]、[illegible]、[illegible]、[illegible]月廿五日、[illegible]ニ[illegible]ノ[illegible]テ[illegible]、[illegible]出サレタルニ」同、二十、[illegible]、[illegible]二十[illegible]月九日、[illegible]日「[illegible]ニテ、一[illegible]置カセ給フトテ、先ノ人ノ置違ヘラレタル[illegible]ニ用キタル、[illegible]、[illegible]すずりばこ[illegible]」[illegible]ヲ、御[illegible]ノ内ニ差シ入テ、オハシニケリ」

すずり-ぶた（名）**硯蓋**（一）硯箱ノ蓋。

昔シハ、ソレヲ、花果ナド、載スルニ用キタリ。三巴[illegible]（寛永[illegible]）[illegible]ノ香ニ、[illegible]子取リマゼテ、[illegible]」助辭ノのヲ加ヘテ、熟語名詞ニ用キタルハ、[illegible]、五十一、[illegible]「硯のふたニ[illegible]エテ、心モトナキ花ノ末末、手折リテ、モ[illegible]ヒケリ」[illegible]花集、一、春、[illegible]硯のふたニ、[illegible]ヲ入レテ、出サレタリケル」夫木抄、十四「或所ヘ、すずりのふた返ストテ、菊ヲ[illegible]キタリケレバ「[illegible]ラス、花モ[illegible]キケル、[illegible]、ふたみノ浦ノ、秋ノ白菊」更級日記「ワサトメデタキ草子ドモ、硯の箱のふたニ容レテ、[illegible]セタリ」山乃井（慶安）五、花見「硯箱ヤウノ物ノ蓋ニ、果物入レ」（二）轉ジテ、後世、別ニ、其形ノ器ヲ作リテ、口取肴ナド、盛ル二用キル。廣蓋ノ類ナリ。

すずり-みづ（スズリ・ミズ）（名）**硯水**（ケンスイ）墨ヲ研ル時、硯ニ用キル水。水滴ニ貯フル水。

すす-る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）**啜**〔吸ヒ（スヒ）[illegible]〕（一）口ニ、吸ヒ入ル。吸フ音（オト）ヨリ云フ」粥ナド、息ヲ引キテ食フ。宇治拾遺、一、十八條「芋粥すすりテ、舌打ヲシテ」字[illegible]抄「[illegible]、スス[illegible]ル、[illegible]、同、[illegible]也」（二）垂ルル洟ヲ、息ト共ニ、鼻（ハナ）ヘ引キ入ル。源、三十一、眞柱「洟ヲ、すすりアヘリ」雅言集「洟ヲダニ、すすりモアヘズ、我レガ身ニ、イカニ[illegible]ヘタル、[illegible]ゾ」

すずろ-ありき（名）**漫歩** 何處ヲ當（アテ）トモナク、歩クコト。ソゾロアリキ。散步。[illegible]仙[illegible]行」（スズロアリキ）[illegible]、[illegible]ノ、すずろありき、[illegible]ニカク）ニ、アラバコソ、カリトモ人ノ、思ヒナサメヤ」

すずろ-がま-し・シキ・シケレ・シク・シク（形、二）**漫** スズロナルサマナリ。ソゾロガマシ。夫木抄、九「山里ノ、外面ノ岡ノ、高キ木ニ、すずろがましき、秋[illegible]ノ聲」

すずろ-ぐ・グ・ゲ・ガ・ギ・ゲ（自動、四）**漫不覺**〔すすハ、進むノ語根、ろくハ、動搖ノ義、進むニ適ズ、おごろく、同趣〕心、スズロニ進ム、[illegible]、[illegible]ム、進ミ競フ。ソゾログ。ソソク。ソソル。山家集（西行）下「[illegible]ノ、すずろがサデモ、フルサセテ、据エタル人ノ、アリガタノ世ヤ」源、二、帚木「[illegible]モトヨリ、サル心ヲカハセルニヤアリケム、[illegible]、イミクすずろぎテ」[illegible]、十六、[illegible]利口、故[illegible]官代「イトすずろぎテ、[illegible]ニ[illegible]ト毛出サズ」

すずろ-ぐさ（名）**漫種** スズロナルワザ。スズロゴト。[illegible]左京大夫集「すずろぐさナリシヲ、ツイデニテ、賀シク申シワタリシカド」

すずろ-ごころ（名）**漫心** スズロナル心。由ナキ心。ソゾロゴコロ。更級日記「すずろごころニテモ、[illegible]ノ外ニ選ヒヌル[illegible]、ナツカシ」源、廿三、初音「マシテ、若ヤカナル上達部ナドハ、思フ心ナド物シ給ヒテ、すずろニ心化粧シ給ヒツツ」

すずろ-ごと（名）**漫言** スズロナル言語。由ナシゴト。ソゾロゴト 源、三十五、[illegible]木[illegible]ハ、[illegible]ニ[illegible]ヒスエテ、すずろごとヲサヘ云ハセマホシウシ給フヲ」

すずろ-ごと（名）**漫事** スズロナル事柄（コトガラ）。ヨシナシゴト。源、四十三、竹川「タノモシゲナル御中ニ、ナドカウ、すずろごとヲ思ヒ云フラン」

すずろ-に（副）**漫不覺**〔すずろハ、すずろぐ意〕（一）何故トモナク、心、進ミテ。何トナク、ソハソハト。ソゾロニ。スゾロニ。オボエズ。名義抄「[illegible]、スズロ」字類抄「[illegible]、スズロ、徒、[illegible]、[illegible]」[illegible]仙[illegible]「不覺（スズロ）、[illegible]」伊勢物語、百十六段「昔シ、男、すずろニ、[illegible]ノ[illegible]マデ、[illegible]ヒ往ニケリ」萬代集、四、秋「[illegible]ムレバ、すずろニ落ツル、[illegible]哉、イカナル字ゾ、秋ノ夕暮」新古今集、十、[illegible]「[illegible]人、[illegible]タク[illegible]ニ、[illegible]リテ、すずろニ袖ノ、[illegible]」同、四、秋、上二十六、[illegible]十、秋ハイカナル、故ノアレバ、すずろニ物ノ、悲シカルラム」伊勢物語、第九段「物心ボソク、すずろなる目ヲ見ルコトト思フニ」（二）然ハ[illegible]マジキニ、

不覺ニ、ハシタナク。伊勢物語、七十八段「コレヲ、タダニ奉ラバ、すずろなるべシトテ、人人ニ、歌ヨマセ給フ」源、十三、明石、三十「今モ昔モ、すずろなる事ニテ、身ヲ墮落スラム」

すずろは・し・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 漫然 心、スズロニナル。ハシタナシ。不覺ナリ。スゾロハシ。ソゾロハシ。源、三十四、下、若菜、下、二十「聞ク人、直ナラズ、すずろはしきマデ、愛敬ヅキ」同、三十八、生物憂ク、すずろはしけれド」同、四十五、椎本、六十「ケウトク、すずろはしくナドハアラネド」同、十三、明石、廿七「咳ブル人ドモ、すずろはしくテ、潮風ヲ引キ歩ク」榮花物語、八、初花「ソレニツケテモ、ケシカラヌ事ドモ出デ來テ、帥殿、イトド、世ノ中、すずろはしう、思シ歎ク」

すずろ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 啜 〔「すする」ノ延、續ケテススル〕萬葉集、五、廿九長歌「堅鹽ヲ、取リツツシロヒ、糟湯酒、宇知須須呂比テ」

すずろ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 漫不覺 スズロナリ。源、六、末摘花、六十「サスガニ打チ笑ミ給ヘル氣色、ハシタナウ、すずろびタリ」今昔物語、廿八、十一語「守、歸リ來タリケルニ、怪シク、ヒモ、女房共モ、すずろびタル氣色、見エケレバ」同、廿九、十五語「只すずろびニすずろびテ、腹立ツ氣色ヲ、郎等共、雜色共、見ツツ」

すずろものがたり (名) 漫物語 スズロニ物語ルコト。由ナキ物語。雜談。漫談 著聞集、十六、興言利口「三條中納言實綱卿家ニ、侍共、集マリテ、すずろ物語シケルニ」

すずなり (名) 蓏 すずほりノ訛。字鏡集「蓏、スズナリ、ニラギ、ツマクサビラ」名義抄「蓏、スズナリ、ニラ、ミラ、ニラギ、ニラグ」宇津保物語、藏開、下、廿八「御飯少シ盛リテ、すずをり、ハジカミ、蕪、固イ鹽バカリシテ」

すぜう (名) 芻蕘 すうぜう(芻蕘)ノ略、其條ヲ見ヨ

すそ (名) 裾襴裔裙 〔末衣ノ略カ、又、末殺ノ略カ、はたばり、はば。かたはら、かは〕(一)〔衣ノ下ノ緣。衣服ノ、腰、脚ニ接スル所。キヌノシリ。(裾ト云ヒ、襴ト云フニハ、別アリ、各條ヲ見ヨ) 倭名抄、十二、廿衣服具「裾、古呂毛乃須曾」古今集、四、秋、上「吾ガセコガ、衣ノすそヲ、吹キカヘシ、裏メヅラシキ、秋ノ初風」源、四、夕顔、廿四「衣ノすそヲ、物ニ引キカケテ」伊勢物語、初段「男、着タリケル狩衣ノすそヲ切リテ」(二)〔二〕髻ナドノ髮ノ末。源、九、葵、十一「イトラウタゲナル髮ドモノ、すそ、花ヤカニ除ギワタシテ」(童女ノ深除) 狹衣、一、上、廿八「すそハ、ヤガテ後ト等シウ引カレ行キテ、コチタウ、タタナハリタルすそノ削末、幾年ヲ限リニ生ヒユカムトスラン」(三)山ノ麓 麓 山脚 方丈記「すそワノ田居ニ下リテ、落穗ヲ拾ヒ」續千載集、二、夏「足引ノ、山下水ヲ、引キカケシ、すそワノ田井ニ、早苗取ルナリ」「山ノすそ」「富士ノすそ野」(四)馬ノ四足ヲ洗フコト。(俗ニ、四下ノ合字ヲ用キル、又、此語、四足ノ音ノ轉ト云フハ、イカガ) 洗馬 狂言記、人馬「身共ガ馬ニナッタラバ、定メテ口取ハ、我御料デアラウ、云云、すそナドヲモ、度度、シテクレサシメ」「すそヲ使フ」(五)カハシモ。下流 東海道名所記(萬治)六「鹿ガ谷、白川ヨリ出ヅル水ノすそナリ」

ずそ (名) じゅそ(呪詛)ニ同ジ。宇津保物語、藏開、下、廿二「右大將ノ朝臣ヲ仇ニテ、ずそシ舉ル」枕草子、二、廿段「陰陽師シテ、河原ニ出デ、ずそノ祓ヘシタル」

ずそう (名) 殊勝 じゅしょう(殊勝)ニ同ジ。

ずそう (名) 儒宗 じゅそう(儒宗)ニ同ジ。字類抄「儒宗、ズソウ」

ずソウ (名) 從僧 じゅうそう(從僧)ニ同ジ。拾遺集、九、雜、下「或所ニ、說教シ侍リケル法師ノずそうバラノ」

すそがき (名) 裾書 裾模樣ヲ、エガクコト。又、其模樣。本朝若風俗(貞享、西鶴)八「幽禪ガ、萩ノすそがき」

すそかづき (名) 裾被 貴人ノ衣服ノ裾ヲ、持ツコト。思出日記「すそかづきノ女房、三十八人、御前ニサブラフ」

すそがなもの (名) 裾金物 鎧ノ袖、草摺ノ菱縫ノ板ノ端ニ打ツ金物。本朝軍器考、九、甲冑「裾金物ト云フハ、菱縫ノ板ニ打シヲ云フ」失考、保元物語、二、義朝白河殿夜討事「重盛、云云、其出立ハ、赤地錦ノ直垂ニ、逆澤瀉ノ鎧ノ、蝶ノ丸ノ裾金物繁ク打タルガ、白葦毛カケタルニ」平治物語、一、源氏勢汰事「紫裾濃ノ鎧ニ、菊ノ裾金物打ツタル」相州兵亂記、三、小弓義明合戰事「義明、云云、其日ノ裝束ニハ、赤地ノ錦ノ直垂ニ、桐ノすそがな物ヲ打タル唐綾縅ノ鎧着テ」後松日記、四「裾金物モ、鎧ノ外ニ打タルハ、似氣ナシ、又、小櫻鋲ハ、鎧ニ打シ例ナシ」

すそぐくり (名) 裾括 袴ノ裾ヲ、ククルコト。又、其モノ。「指貫袴ノすそぐくり」

すそご (名) 裾濃 (一)〔染色ノ名、衣、又ハ、鎧ノ絲ナドニ、何色ニモアレ、下ハ濃ク、中程ハ薄ク、上ノ白キモノ。コレト反對ナルヲ、にほひト云フ。枕草子、一、第三段「すそご、村濃、卷染ナド」源、廿五、螢、十「今メキタルすそごノ御几帳、云云、下仕ハ、棟ノすそごノ裳」夫木抄、十一、秋「花薄、すそごノ絲ヲ、撚リカケテ、玉ヲ貫ク、秋ノ白露」貞丈雜記、三、小袖「すそごト云ハ、何色ニテモ、上ノ方ノ色ヲ淡クシテ、すそノ方ヲバ、濃ク染タルヲ云也、鎧ノ紅すそご、紫すそごモ、右ノ心也」平治物語、三、頼朝生捕、常盤落事「嵐ニ凝ル道芝ノ、氷ニ足ハ破レツツ、血ニ染ム衣ノすそご故、跡所ノ袖サヘ絞リケリ」「紺すそご」「蘇芳すそご」(二)琵琶ノ名器。教訓抄、八、管絃「琵琶、云云、遺物者、云云、木繪、下濃、元興寺、醍醐、無名、蟬丸比巴也」夜鶴庭訓抄、琵琶名「井手、渭橋(已上、宇治殿)、玄上(大內)、牧馬(醍醐)、下濃(內大臣殿)、元興寺(大內)、兩道、小比巴、木繪、元名(蟬丸比巴也)、以上皆、紫檀也」

すそごにほひ (名) 裾濃匂 鎧ノ縅ノ一種、裾濃ト、にほひト。前條ヲ見ヨ。武家節用集「裾濃匂、スソゴニホヒ」

すそつかた (名) 裾方 山ノ、麓ノ方。爲忠後度百首「櫻咲ク、舟岡山ノ、すそつかた、春ハ過ギ憂キ、泊リナリケリ」

すそつき (名) 襴 〔裾着ノ義〕らん(襴)ノ條ヲ見ヨ。天武紀、下、十三年閏四月「男女並衣服者、有襴無襴、云云、其會集之日、著襴衣」

すそつぎ (名) 裾繼 (一)小袖ノ裏ノ裾ヲ、各種ノ絹ニテ、繼合ハセタルモノ。(二)明和頃ヨリアリシ、江戶、深川、岡場所ノ遊女ノ名。文政ノ川柳「古イ羽織(藝妓)ハ、すそつぎへ、マハサレル」

すそづけのころも (名) 襴衫 〔襴ヲ着ケタル衣ノ義〕なほし(直衣)ニ同ジ、倭名抄、十二、十八衣服類「襴衫、須曾豆介乃古路毛、一云、奈保之能古呂毛」

すそぬはず (名) 髱 喪服ノ一種。字鏡「髱、喪服、須曾奴波須」

すその (名) 裾野 山ノ麓ノ、遠ク延ビテ、野ヲナセル所。フモト。千載集、一、春、上「春雨ノ、降リソメシヨリ、片岡ノ、すそのノ原ハ、淺綠ナル」「富士ノすその」

すそばり (名) 裾張 〔裾ハ、身體ニテハ、腎ヲ云フ、故ニ、性慾ノ義〕色慾ノ、強キコト。又、其人。腎張。風流徒然草(寶永二)「筒モタセトテ、男、合點ニテ、女房ヲウマク捺へ、すそばりナル者、引コミ、首尾ヨキ時分、夫、出アヒ、ネダリテ、金銀ヲ取リケル」

すそべら (名) 裾邊 山ノ、麓ノホトリ。六帖、五「碧ラクノ、トマセノ山ヲ、すそべらト、

神ノ、落キシ紅」

すそまはし（名）[裾廻]　衣服ノ裾ノ裏ニ[illegible]。上下、異ナル物ノ裾ヲ、京坂ニ、はっかけト云、八掛[illegible]……すそまはしト云[illegible]……不[illegible]著ノ裾まはしノ、秩父絹ナドア、切レルニ限テキルカ

すそみ（名）裾回　〔みハ、接尾語、び（傍）ノ條ヲ參見セヨ、鳥み、浦み、同趣〕麓ノ[illegible]。[illegible]スソワ　萬葉集、九[illegible]「[illegible]根ノ、[illegible]井ニ、秋田刈ル」同、十[illegible]、長歌「鼠[illegible]ノ、須蘇未ノ山ノ」同、廿「[illegible]ノ、宮ノ須蘇[illegible]ノ[illegible]ニ」

すそもやう（名）裾模様　衣服ノ裾ニ附ケタル模様。又、其衣服。[illegible]年中[illegible]、[illegible]、金銀ノ[illegible]、色[illegible]ニモ、[illegible]、フキワタ、浮世[illegible]模様ダノ」

すぞろみ（副）漫不[illegible]　すずろみニ同ジ。[illegible]すぞろなるモノニ、十ツフヘカラズ[illegible]、十二、六代[illegible]モ、すぞろニ、[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]サレケル」

すぞろはし　シキ・シケレ・シク・シク（形、二）漫然　すずろはしニ同ジ。建禮門院右京大夫集[illegible]心ノ中モ、ツレナクすぞろはし」

すそわ（名）裾回　裾曲　すそみニ同ジ。[illegible]、十七、[illegible]、中、[illegible]ノ、すそわノ田居モ、住ミ[illegible]ニケリ」夫木抄、十二「大江山、すそわノ小田ニ、[illegible]ノ、ハダレノ霜ノ、[illegible]ソ消エユク」

すそわけ（名）裾分　物ノ餘分ヲ分ケテ、人ニ贈ルコト。福分。「多ク、卑下ニ對シテ云フ」浮世風呂（文化、三馬）初編、下「一杯すそわけヲシテクリャレ」

すそを（名）〔裾緒ノ義ナラム〕くつびき（臥機）ニ同ジ。

すた（名）寸莎　すさ（寸莎）ニ同ジ

スダ（名）首陀[illegible]　しゅだ（首陀）ニ同ジ、[illegible]モ、[illegible]ハネバ、[illegible]ラシモセシナ、[illegible]ナラズトモ、[illegible]集[illegible]「云フナラク、奈落ノ底ニ、入リヌレバ、[illegible]利モ[illegible]モ、[illegible]ラザリケリ」

スタアト（名）〔英語、Start.〕競走ノ發足。又、出發點。「すたあとヲ切ル」

スタイル（名）〔英語、Style.〕風體。體裁。様式。「洋服ヲ着タルすたいる」

ずだう（名）僧道　ずゅだう（僧道）ニ同ジ。字類抄「僧道、ズダウ」

すだく　ク・ク・ウ・キ・ケ（自動、四）集　〔「集ヒ挙ク」ノ約、集ヒ居テ動ク義〕（一）アツマル。多ク集フ。ムラガル。集ル。萬葉集、十九「水鳥ノ、須太久水沼ヲ」同、十一[illegible]「[illegible]ノ、[illegible]、[illegible]レトモ、マケ[illegible]カタニ、吾レ[illegible]エメヤモ」[illegible]ノ、すだく[illegible]ノ、下[illegible]ハ」[illegible]ノ[illegible]ニ、すだく[illegible]ノ」伊勢物語、五十八段「荒レタル宿ノ、ウレタキハ、カリニモ鬼ノ、すだくナリケリ」[illegible]、三十六、[illegible]「[illegible]テ、[illegible]シク[illegible]ナキ[illegible]ト、すだきアワテ[illegible]」[illegible]集、十[illegible]、[illegible]、野モダニ、[illegible]太[illegible]ト、丈夫ノ」（二）誤リテ、鳴ク。[illegible]集「我ガ宿ノ、板井ノ[illegible]ヤ、[illegible]ムラン、[illegible]ノ[illegible]ノ、[illegible]ナリ」同「[illegible]ノ上ニ、雀ノ巣ゾ、すだくナル、出立ガタニ、子ヤナリヌラム」

すだこ（名）酢蛸　煮蛸ノ肉ヲ、酢ニ浸シタルモノ。

すたすら（副）次條ノ語ニ同ジ。

すたすた（副）急ギ歩ム状、小早ク歩ク状ニ云フ語　スタコラ　[illegible]

[illegible]すたすた[illegible]、すたすた[illegible]ニ、[illegible]シャ[illegible]

ずたずたぎり（名）寸寸切　ズタズタニ切ルコト。又、其切リタルモノ。寸斷。[illegible]合[illegible]（[illegible]作）[illegible]ノ[illegible]、[illegible]メ、探シ出ダシテ、ずたずた切り」

ずたずたに（副）寸寸　「つだつだに」ノ轉。次條ノ語ニ同ジ。[illegible]寸[illegible]　[illegible]「[illegible]」同「[illegible]」

ずたずたに（副）寸寸　前條ノ語ノ轉　細カニ、斷レ斷レニ。寸斷。[illegible]合戰（正徳、近松作）五「鎮西王、李將天ニ押並ベテ、むずト組ミ、ずたずたニ切ンデ[illegible]、[illegible]百千萬ノ[illegible]功モ、[illegible]ノ忠モ、[illegible]ノ仁義モ、[illegible]ハ、不孝ノ罪」「ずたずたニ切ル」

すたすたばうず（名）乞食ノ一種、手ニ、扇ト、錫杖トヲ取リ、腰ニ、注連縄ヲ引キマハシ、すたすた歩キテ、家家ニ就キテ、物ヲ乞フ願人坊主（其條ヲ見ヨ）ナリ。又、寒垢離ノ代垢離ニ、裸體ニテ、縄ヲ帶ニシ、見附ノ橋ナドニ立チテ居リ、又ハ、商家ノ店先ニ來リ、「すたすた坊主ノ來ル年ハ、世ノ中善イトヤ申シマス」ト云ヒテ、錢ヲ乞フ、寛政ニ絶ユ。[illegible]ノ内ノ丸裸、すたすた坊主ノイキゴミ」

すだち（名）巣立　（一）スダツコト。巣起　出窩　雛ノ、巣ヨリ飛ビ立ツコト。孕常盤（正徳、近松作）一「巣立ちノ鷺ノ若鳥」（二）産婦ノ、日數ヲ經テ、産褥ヨリ出ヅルコト。ヒダチ。

すだち（名）直立　眞直ニ、生ヒタル木。盛衰記、三十七、馬因縁事「椎ノ木ノすだち一本、[illegible]手切リ、杖ニ突キ」

すだつ　ツ・テ・タ・チ・テ（自動、四）巣立　鳥ノ子、巣ヨリ飛ビ立ツ。巣起　出窩　[illegible]シ雛ノ子、梧立ちナバ」蜑字百首「春ノ來テ、明クル[illegible]」

すだつ　ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）巣立　〔前條ノ語ノ他動〕巣立ツヤウニスル　スダタシム　[illegible]枝ノ、通ヘル枝ヲ、[illegible]ニテ、すだてラルヘキ、[illegible]ノ[illegible]ニ、[illegible]交フ[illegible]ノ、燕、すだてムコトモ、思ヒヤラレテ」

すだつ　ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）育　〔前條ノ語ノ義〕ソダツル。ハグクム。[illegible]元輔集「ハグクミテ、君すだて（[illegible]ニ云ヒカク）ズバ、鶴ノ子ノ、雲ノ中ニヤ、千代ヲ[illegible]ラマシ」

すだて（名）簀立　（一）湖沼ノ捕魚ニ用キル具、いり（圦）ノ類。（二）味噌、又ハ、醬油ノ諸味ノ中ニ立テ置キ、編目ヨリ漉サレ來ル汁ヲ取ル竹籠。[illegible]立、スダテ」注「味噌汁、[illegible]之也」

すだて（名）巣建　新築ノ家ノ、未ダ造作ノ出來アガラヌコト。又、其家。

すだま（名）魑魅　〔「棄窮」ノ略、放棄シテ祭ラザル意ト云フ、或ハ、生窮ノ義、鬼ナルベシト〕山林ノ異氣ヨリ生ズル精物ナリト云フ　倭名抄、二十[illegible]類「魑魅、[illegible]多萬、鬼類也」下學集「魑魅、老物精也」[illegible]十二「下露ニ、雨サヘモリノ、木ノすだま、ハカリシ思ヤ、ウテノ里人」

スタンプ（名）〔英語、Stamp.〕（一）印判。（二）消印「記念すたんぷ」（三）印紙

スタメン（名）〔蘭語、Stamet.〕經絲織物ノ一種　羊毛ニ、[illegible]ヲ交ヘテ織リタル布　[illegible]記、天明、安永頃、[illegible]ト[illegible]、[illegible]、すためんニテ、[illegible]ナシノ[illegible]アリ」

博多小女郎波枕(享保、近松作)上「金ニ飽カシタ衣裳ツキ、名、さゝぜ、羅紗、むためん」

すたらん-シホ　(名)　むじな(貉)ノ異名。秘藏抄「ノトコ人、すたらんホホヲ、取ラントテ、岩ヤノ内ニ、草火ケブ起ツ、云云、すたらんホホトハ、むじなト云フモノナリ」

すたり　(名)　廢　スタルコト。すたれニ同ジ。「すたりガ無イ」

〔一〕すた・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(自動、四)　廢　〔棄てらる(被棄)ノ、約リテ、四段活用ニ變ジ、自動トナル、ゆでらる、ゆだる。助けらる、たすかるト同例〕次條ノ語意ニ同ジ。名義抄「廢、スタル」丹波與作(寶永、近松作)中「腰名ガ立テバ、トントすたッテ、出入リノ門モ塞ガレバ」

すた・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ　(自動、下二)　廢　棄テラル。不用トナル。衰ヘ行ク。流行ラズナル。廢頽　袋草集、五、和歌、崇徳院「此道ノ和歌ヲ云フ)すたれヌルニヤト、悲シク覺エテ」

すたれ　(名)　廢　スタルルコト。不用ニナルコト。流行セヌコト。スタリ。廢頽

〔一〕すだれ　(名)　簾　〔簀垂ノ義〕又、をす。コス。ミス。す。細ソク削リタル竹ニテ、帳ノ如ク編メルモノ、物ノ隔テトシ、日光ヲ遮ルナドニ、懸ケ垂ル。又、葦ノ莖ニテ編メルヲ、よしずト云フ。葦簾　倭名抄、十四十一障具「簾、須太禮、編竹帳也」字鏡六十二「箔、須太禮」萬葉集、四十六「君待ツト、吾ガ戀ヒ居レバ、我ガ宿ノ、簾動シ、秋ノ風吹ク」同、十一八十「玉垂ノ、小簾ノ垂簾ヲ、往キガチニ、寐ヲバ眠ネドモ、君ハ通ハズ」

すだれ-がひ　(名)　簾貝　貝ノ、形、あさりニ似テ、大キク、殼ノ面ニ、簾ノ如キ筋アルモノ。運歩色葉集「簾貝、スダレガヒ」山家集(西行)下「波カクル、吹上ノ濱ノ、簾がひ、風モゾオロス、急ギ拾ハン」

すだれ-おし　(名)　簾越　簾ヲ隔ツルコト。スゴシ　拾遺集、十四、戀、四「寶明ノ朝臣、詣デ來タリケレバ、すだれおしニ物語シ侍リケルニ」

すだれ-ちどり　(名)　簾千鳥　模樣ノ名、千鳥ノ形ヲ翳マセタルモノ。

すだれ-びゃうぶ　(名)　簾屛風　屛風ニ、窓ノ如キモノヲ作リテ、簾ヲ塡メタルモノ、内ヨリ、見透スベク、外ヨリハ、見エズ。

すだれ-ぶ　(名)　簾麩　麩ヲ、紙ノ如クニ製シ、簀ノ間ニテ相壓シテ、細カキ凹凸ノ條ヲ出シタルモノ。

すだれ-よし　(名)　簾葦　ひめよしニ同ジ。葦　和漢三才圖會(正德)九十四、本「葦、須太禮與之、本草綱目、似荻而細長、高數尺、中實者也、按、葦、多出於豫州、以編簾窓之簾、甚美也」重修本草綱目啓蒙(享和)十、蘆「葦、ヒメヨシ、一名、スダレヨシ、云云、蘆ノ一種、形、小ナル者ナリ」

✣すた・れる　(動)　廢る(下二段)ノ口語。

すぢ　(名)　筋　〔直路ノ意カト云フ〕(一)〔肉ノ中ニ、直キ理アリテ、堅クシテ、彈力アルモノ、骨ノ關節ナドニ絡ヒテ、屈伸、運用セシム、筋肉ノ纖維。倭名抄、三五身體類「筋、須知」字鏡六十「筋、肉之有力也、須知」名義抄「筋、スヂ」(二)〔血液ノ脈管。「脉、スヂ、チノミチ」「手背ノ靑すぢ」(三)〔細ソク長キ標。細長ク通リタルモノ。線。條理　枕草子、九、九十一段「髮ノすぢナトモ、中中、晝ヨリハ顯證ニ見エテ、マバユケレド」「すぢヲ引ク」「すぢヲツク」絲すぢ、路すぢ、川すぢ」(四)物ノ面ノ文。紋理「手ノすぢ」(五)〔チスヂ、素姓。家筋。筋目。血系　源、廿二、玉鬘七「父大臣ノすぢサヘ加ハレバニヤ、品高ク、美シゲナリ」同、同九「ヨキ人ノ御すぢ」同、四十四、橋姫二「母方ナドモ、ヤンゴトナク物シ給ヒテ、すぢ異ナルベキ覺エナド、オハシケルヲ」「母方ノすぢ」(六)〔スヂミチ。道理。コトワケ。ワケガラ。理　理由　名義抄「理、スヂ、ミチ、ノリ」源、二、帚木十六「マコトノすぢヲ、コマヤカニ書キ得タルハ」(繪ニ云フ)「事ノすぢ」(七)〔其方樣ノ事。後撰集、二、春、中「イカナル筋ニ、思ヒ寄ラマシ」源、一、桐壺六十「大和言ノ葉ヲモ、唐土ノ歌ヲモ、只、ソノすぢヲゾ、枕言ニセサセ給フ」「其すぢノ學問」「其すぢノ指圖」(八)シクミ。趣向。八笑人(文化、鯉丈)五編、中「ドウモ、本讀中、交ゼラレルニハ、困ル、筋ヲ聞イテ、仕舞ナ」(九)道。「關東すぢ」上方すぢ」中國すぢ」西國すぢ」

すぢ　(接尾)　筋　細長キモノヲ數フルニ云フ語。條　吾妻鏡、廿六、貞應三年二月廿九日「去年冬比、高麗人乘船、流寄于越後國寺泊浦、云云、寶之、奥州以下群參、弓一張、羽壺一、太刀一、刀一、帶一筋、彼帶、中央付銀簡、其中注銘四字也」太平記、七、吉野城軍事「宮ノ御鎧ニ立ツ所ノ矢、七筋」假名手本忠臣藏(寬延、出雲)五「一すぢ道ノ後カラ」「三すぢノ絲」

すぢ-あひ　(名)　筋合　(一)事ノ理ノ趣キ。條理　(二)ハダアヒ。キアヒ。

スチウ　(名)　〔英語、Stew.〕をちゅうニ同ジ。

すぢ-うち　(名)　筋打　(一)料理ノ語、下ノ出典ヲ見ヨ　庖丁聞書「筋打ト云フハ、鶴ヲ、毛無膣ノ方ヨリ、刀目ヲ入レテ引割ケバ、能キ頃ニ裂クルナリ、炙リテ、鶴足ヲ刺シテ、添ヘ肴ナドニ出ダスナリ」(二)きずうちニ同ジ。(長崎方言)長崎歳時記、正月二日「此日ハ、云云、下賤ノ輩ハ、スホ引キ、ヨセ、ケシ、カンキリ、カラバ、筋打ナドシテ」

すぢ-がき　(名)　筋書　(一)事ノ理ヲ、書キ付ケタルモノ。(二)芝居ノ趣向ヲ記シタルモノ。

すぢ-がね　(名)　筋金　(一)細長キ銅鐵ナドヲ、槍ノ柄、刀ノ鞘、ナドニ、塡メ込ミタルモノ。内匠寮式「腰輿筋金四枚」(二)銅鐵ノ細長キ板ヲ、門ノ扉ノ目板ニ貼リ用キタルモノ。(三)芝居ニ、荒事師ガ、衣裳ノ下ニ着込ミタル、筒袖ノ、鏈帷子ノ如キモノ。

すぢ-かひ　(名)　筋違　スヂカフコト。斜ニ、打チ交ヒタルコト。スミチガヘ。スヂチガヒ。斜線(縱横ノ直キニ對ス)太平記、四、備後三郎高德事「美作ノ杉坂コソ、究竟ノ深山ナレ、此處ニテ待チ奉ラントテ、三石ノ山ヨリ直違ニ、道モ無キ山ノ雲ヲ凌ギテ、杉坂ヘ著キタリケレバ」

すぢ-か・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ　(自動、四)　筋違　〔條交ふノ義ト云フ〕(一)〔斜ナル線ニ、打チ交フ。筋違ニナル。交叉　源、二、帚木三十「女君ハ、タダ此曹司口、すぢかひタル程ニゾ、臥シタルベキ」同、廿六、常夏五廿「近江ノ君ノ文「タダヨヒタル書キザマ、云云、行ノホド、端ザマニすぢかひテ、倒レヌベク見ユルヲ」爲忠集「天ノ原、遥リワタル、初雁ハ、雲すぢかひテ、橫折レニケリ」(二)他ト、趣キヲ異ニス。乖ク。睽異　濱松中納言物語、四「アマリ、世ニすぢかひテ、ミズロナル山籠リガチニ物セサセ給フ、僻僻シキヤウナリ」酒食論、中左衛門大夫仲成「佛ノ敎モ信ズベシ、凡夫ノ方ニモすぢかはデ」

すぢ-か・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ　(他動、下二)　筋違　〔前條ノ語ノ他動〕スヂカフヤウニナス。中務内侍日記「太刀ヲ、橫サマニ、すぢかへタルヤウニ附ケテ」世俗淺深祕抄、上、朝覲行幸「近、御劍、郡外長、仍頗乍前方寄左方、須千加倍留之也」

すぢ-かへ　(名)　筋違　スヂカフルコト。スヂカヒ　爲忠後度百首「すぢかへニ、渡ス朽木

ノ、凸ノ上ヲ、片[illegible]キニモ、[illegible]カナ」

すぢかまぼこ (名) 筋蒲鉾 蒲鉾ノ、粗製ナルモノ、魚ノ筋、皮ナドヲ、肉ニ雑ヘテ作ル。略シテ、すぢ。

すぢきり (名) 筋切 畠ナドニ、野菜ノ[illegible]

[illegible]ゲ、畦ヲ作リ、掘リアゲタル高キ處ノ土ハ、ソノ土性ニ從ヒ、右ニ記ス如ク、杷ヲモテ搔キナラセバ、[illegible]作ニ[illegible]八[illegible]テ[illegible]便利ナルナリ。

すぢきりふ (名) 筋切生 切生ノ一種。矢羽ノ、黒ト白トノ斑ノ、太ク鮮カニ切レテアルモノ。 運歩色葉集、筋切符[illegible]「白[illegible]

すぢぐま (名) 筋隈 俳優ノ顔ノくまどりノ一[illegible]ルモノニテ、二代目團十郎ノ創意、牡丹ノ花ヲ見テ造リタルナリト。コレニ、紅隈、[illegible]

すぢこ [illegible] 筋子 [illegible]ノ子ヲ、[illegible]ニ包マレタルママ、鹽漬ニシタルモノ、卅子トモ云フ。[illegible]くをいちよノ子[illegible]テ、紅鮭ニシテ、[illegible]アリ。又、[illegible]

[illegible]

すぢすだれ (名) 筋簾 織物ノ地ニ云フ語、[illegible]簾ノ目ノ如ク長ハシタルモノ。スヂミス。スヂミゾ。 貞丈雜記、三、小袖、すぢみす、すぢみぞ、又ハ、筋すだれトモ云、筋[illegible]だれヲ織リタル織物ヲバ、中臈モ召シ候」

すぢすぢ (副) 筋筋 カドカド 條條 [illegible]、廿八、野分「物ナド云ヒ戲ルレド、思フコトノすぢすぢ、難カシク」

すぢちがひ (名) 筋違 (一)すぢかひニ同ジ。(二)筋肉ノ筋、横ニ逸レ、痛ムコト。「轉ンデ、すぢちがひヲスル」

すぢづ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 筋附 物ニ、筋ヲツク 宇津保物語、國讓、中「[illegible]有ルヤウニ書給ヒシナリ、すぢづきテ、大キヤカニ[illegible]

すぢな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 無筋 為ベキ道、無シ セムスベナシ 宇治拾遺、十三、[illegible]「[illegible]レテ、すぢなし」[illegible]

すぢバチ (名) 筋鉢 筋金ノ入リタル、[illegible]ノ鉢

すぢば・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 筋張 筋、吊リテ、張ル。筋、吊リテ、屈伸不自由ニナル 「[illegible]すぢばる」

すぢべい (名) 筋塀 築地ノ柱間ニ、石灰ノ横線アルモノ、コレヲ、定規筋トモ云フ

すぢぼう (名) 筋棒 (一)筋金入リノ棒。(二)毛スヂタテ 毛筋棒

すぢみす (名) 筋簾 すぢすだれニ(筋簾)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

すぢみぞ (名) 筋溝 すぢすだれ(筋簾)ニ同ジ、其條ヲ見ヨ。

すぢみち (名) 筋道 事ノ理ノ、通ルトコロ。條理 事理 徑路 [illegible]心中ニ正[illegible]、近松作)上「一ツ屋ノ五兵衛トテ、若イ時ハ、男ヲ研キ、物ノ筋道、六義ヲ立テ、無理ヲ云フ人デモ無ク」

すぢむかひ (名) 筋向 筋違ニ、向ヒ合フコト。少シ外レテ、相、對シ居ルコト。スヂムカフ 斜對

すぢむかふ (名) 筋向 前條ノ語ニ同ジ。

すぢめ (名) 筋目 (一)線ノ、互ニ相分ル處 條理 (二)家筋ノ、別レ目 家系 [illegible]、近松作)中「[illegible]ヲ立ヌキシ作[illegible]、[illegible]ム小金モ[illegible]チセサル、筋目[illegible]カシ、哀ナリ」「すぢめ正シキ家」

すぢもみ (名) 筋揉 按摩ノ療法ノ一、身體ノ筋ヲ揉ミテ、療治スルコト。

すちやうづきん (名) 首丁頭巾 ちゅうちゃうづきんニ同ジ 平家物語、十二、土佐坊被レ斬「[illegible]地ノ直垂ニ、すちやう頭巾ヲゾシタリケル」

すちやうにん (名) 素町人 [町役人ナドナラヌ、平ノ町人ノ意カ] 尋常ノ町人、卽チ、商人ヲ賤シメテ云フ語。由緒ナキ平町人。「素町人、土百姓」

スチュウ (名) [英語、Stew.] 西洋料理ノ一種、肉ヲ細カク切リ、肉漿ニテ、菜カニナルマデ、徐徐ト煮込ミタルモノ、多クハ、野菜ヲ刻ミ入レテ、煮込ム

すぢりもぢり (副) [次條ノ語ノ名詞形ヲ、副詞ニ用キタルモノ] 身ヲ、スヂリ、又、モヂリテ。 宇治拾遺、一、第三條「翁、伸ビアガリ、屈マリテ、云云、すぢりもぢり、エイ聲ヲ出シテ、一庭ヲ走リ廻ハリ、舞フ」 櫻井基佐集、[illegible]語ヘト、[illegible]リシ雁ノ、後ハタダ、すぢりもぢりト、[illegible]ミ消エユク」

すぢりもぢ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 彼方此方へ行キ廻ル。 玉鹽、三十一「錯ハ、マジワルト[illegible]ムゾ、[illegible]ノ[illegible]ガ、すぢりもぢりテ、アチコチエ、行キチガ[illegible]タソ」 [illegible](正[illegible]、近松作)下「此處ハ知ル人多ケレバ、此方へ、此方ヘト、袖[illegible]ヒ、里ノ裏道、畦道ヲ、すぢりもぢりテ、[illegible]井寺」

すぢ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 捩 [筋ヲクヂル意] 活用セル語カト云フ] 身ヲ、曲ゲ、拗ラスル、モヂル ヨヂル ネヂル [illegible]本、[illegible]、スヂリユガム」 徒然草、百七十五段「年老イタル法師、召シ出サレテ、黒キ穢キ身ヲ、肩ヌギテ、目モ當テラレズ、すぢりタルヲ、興ジ見ル人サへ、[illegible]マシク、[illegible]シ」

す・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ (他動、下二) 棄捨 捐 丟 舍 不用トシテ、投ゲヤル。差措キテ、構ハズ。ハフル。ホホカス。ホカス。ウッチャル。ハフラカス。ウツ。フツ。 新古今集、十六、雜、上「すつトナラバ、憂世ヲ厭フ、驗アラム、我レニハ曇レ、秋ノ夜ノ月」 新千載集、十八、雜、下「同ジ世ヲ、心一ツニ、住ミカヘテ、すつれバ易キ、我ガ身ナリケリ」 古今集、十九、誹諧「身ハすてツ、心ヲダニモハフラサジ」 源、四、夕顔廿「身ヲすてテ行クニ、君ハ、物モ覺エ給ハズ」 同

十八、松風ハ「世ノ中ヲすて初メシニ、カカル人ノ國ニ、思ヒ下リ侍リシコトモ」和泉式部集、下「殘リテモ、何ニカハセン、朽チニケル、袖ハ皆ガラ、すてヤシテマシ」「芥ヲすつ」「家ヲすつ」「命ヲすつ」「乘りすつ」「脫ギすつ」「思ヒすつ」

ぞつ (名) [術] ずゅつ(術)ニ同ジ。字類抄「術、ズツ」「ぞつ無シ」

すッかすッかと (副) 〔すかすかとノ急呼音〕すかすかとニ同ジ。

ずノかずッかと (副) 〔ずかずかとノ急呼音〕すくすくとニ同ジ。

すッかと (副) すかりとニ同ジ。狂言記、酢薑「大イ大竹デオヂャルノ、ナウ、皆、唐竹デオヂャル、アレヲすノかと切リテ、酢筒ニシタラバ、オヂャロ」

すッかり (副) 〔すかりノ急呼〕すッぱりニ同ジ。「すッかり無クナッタ」すッかり快クナッタ」すッかり忘レタ」すッかり改心シタ」

すッきりと (副) [素切] 〔切りきめノ意〕奇麗、サッパリト。アッサリト。スッキリシャント。(畿內ノ語) 狂言記、法師物狂「女房ヲ去ッタレバ、心ガ、すッきりとシタ」「すッきりとシタ人」

すッきりしゃんと (副) 前條ニ同ジ。浦島年代記(元祿、近松作)二「悋デ飮ンダ酒氣ガ、すッきりしゃんと、醒メハテタ」

ズック (名) 〔蘭語、Doek.〕つなそノ織維ヲ織リテ作リタル、厚キ布。

すッくと (副) [直] 〔すくすくとノ轉〕直ク立チ上ガル狀ナドニ云フ語。吉野都女楠(正德、近松作)二五「毘沙門ダチニ、すッくと立チ」

すッくり (副) そッくりニ同ジ。心中宵庚申(享保、近松作)上「食ハ、赤マジリノ古臭イヲ、すッくりト炊カセ、極立汁ニ、小菜ノ浮シ」

す-づくり (名) [酢造] 酢ヲ、造ルコト。

又、其人。七十一番職人盡歌合、七十一番、酢造「イツマデカ、待ツ宵毎ノ、ロツケニ、アスヤアスヤト、云フヲ頼マム」

す-づけ (名) 酢漬 食物ヲ、酢ニ漬クルコト。又、其食物。酢藏 易林節用集(慶長)食服門「酢漬、スヅケ」

すッこぬけ (名) 多クノ物ノ中ヨリ、一部分ガ、拔ケ落ツルコト。

すッこむ・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) ヒキコム。退キ居ル。狂言記、鼠塗「又シテモ、ムザトシタ事ヲ云フカ、すッこんデ居ロ」

ずッしと (副) 物ノ、重キ狀ニ云フ語。ズシリト。ズッシリト。狂言記、朝比奈「熊手、薙鎌、鐵撮棒ヲ持タスル中間ノ無キママニ、閻魔王ニ、ずッしと持タセテ」

ずッしりと (副) 前條ノ語ニ同ジ。浮世風呂(文化、三馬)二、編、下「ずッしりと、地響キガシテ」

すッすッ (副) 滑カニ行ク狀ニ云フ語。薩摩歌(元祿、近松作)上「手先上リノ頭八分、腰ノ捻リニ、足取ニ、すノ、すノ、すッすッ、砂地ニ膝ヲ摩ル」

ずッずッと (副) 滯リナキ狀ニ云フ語。ズズット。「ずッずッと進ム」

すッたもんだ (副) 〔摩りたり揉みたりノ音便略〕イサクサ。ヤッサモッサ。

す-づつ (名) [酢筒] 昔、酢ヲ入レタル竹筒。餘花千句「秋ノ酢筒ノ數津マデ來ル」

すッてん (副) 俄然、轉倒スル狀ニ云フ語。「すノてんコロリ」すノてんすノてん、一物ナシ」

すッてんてれつく (名) 至ッテ、貧シキコト。極貧。赤貧。

すッと (副) (一)物ノ、サシ出デタル狀ニ云フ語。狂言記、萩大名「アノ左ノ方へ、すッと出タ枝ヲ見タカ」(二)滯リナク、速カニナス

狀ニ云フ語。凱陣八島(元祿、近松作)三「ダブダブト引受ケ、押シ俯伏イテ、すノと乾シ」浮世風呂(文化、三馬)三編、下「小桶ヲ二ッ、兩手デ、すッと押シナガラ來タリ」

ずッと (副) (一)物事ノ、他ニ抽ンデタル狀ニ云フ語。「ずッと先ニ出ル」ずッと勝ル」(二)進ミ行ク狀ニ云フ語。(三)針ナド、滑リナク、通ル狀ニ云フ語。

すッとんと (副) 物ノ、アタリテ鳴ル音ニ云フ語。丹波與作(寶永、近松作)道中雙六「府中、江尻ニ、すノとん、すッとん、とんと打チタル、興津波」

ぞつな・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) [無術] 〔ずゅつなしノ轉〕ずゅつなし(無術)ノ條ヲ見ヨ。「頭痛ガシテ、ぞつない」

すッぱ (名) [素破] [透波] (一)兵家ニ、間者ノ稱。忍ビノ者。間諜 武家名目抄、職名「透波、或ハ、亂波ト云フ、コレハ常ニ、忍ヲ役スル者ノ名稱ニシテ、一種ノ賤人ナリ、タダ、忍トノミ呼ベル中ニハ、庶士ノ內ヨリ役セラルルモアレド、透波ト呼バハル種類ハ、大カタ、野武士、強盜ナドノ內ヨリ召ビ出サレテ、扶持セラルルモノナリ、サレバ、間者、カマリ、夜討ナドニハ、殊ニ便アルガ故ニ、戰國ノナラヒ、大名諸家、何レモ、コレヲ養置シト見ユ」淺井物語、四「今波ニハ、然ルベキ者モ、コレナキ由、告ゲキタルニ因リテ、すノぱヲ遣シ、樣子ヲ見屆クル」太閤記、一、秀吉輕二一命一於二敵國一成二要害之主一事「すノぱノ功者共、評議シケルハ、今日ノ返禮ニ、今夜、一手際、夜討ヲシ、敵ノ機ヲ折ラデハ不レ叶所也」甲陽軍鑑、九、上、品第廿二「信濃ノ國ヨリ抱ヘ置給フすノぱ、七十人ノ內ヨリ、三十人、足手健カナル者撰ビ出シ、云云、此方ヨリ出ムカヒ候侍ニ申渡シ、すッぱ共ハ、又、敵地ヘ罷越候ヘト、晴信公、すッぱ共ニ、直ニ仰付ラレ、指越給フ」同、十二、品第三十九「家康ハ、味方ガ原合戰ニ負ケテ、其夜、又、夜合戰ニ出ベキ支度ヲ、專、仕タルニ、家老ノ酒井左衛門尉、石川伯耆、兩人、すノぱヲ出ダシ見セツレバ、當方脇備ヲ先へ乘リ、跡備ヲ脇へ繰廻シ」 誰家集(嵐雪)

「素波ニ出デテ、朝歸ル月」北條五代記、五、昔矢軍事「對陣ヲ張テ、境ヲ隔テ挑ミ戰フ、日モ暮レバ、先手ノ者、敵陣へ夜討ヲ催ス、其比ハ、其國國ノ案內ヲヨク知リ、心、横道ナル癖者多カリシ、此名ヲ、亂波ト名付、國大名衆扶持シ給ヘリ、夜討ノ時ハ、彼等ヲ先立レバ、知ラヌ所へ行ニ、灯ヲ取テ夜行ガ如ク、道ニ迷ハズ、云云、或時ハ、夜討、分捕、高名シ、或時ハ、境目へ行、藪原、草村ノ中ニ隱レ伏テ、每夜、敵ヲ窺ヒ、何事ニモ逢ハザレバ、曉ガタ、敵ニ知ラセズ歸リヌ、是ヲ、かまり共、しのび共、くさトモ名付タリ」(二)貪慾ニシテ、盜賊ヲナス者ノ類ニテ、戰國時代、村落ニ入リテ、人ヲ惱シタル者ノ稱。狂言記、惣八ト云フすッぱ、詐リテ、料理人ニナリタル事ヲ作レリ。鹽尻、八十六「篠木莊、出川村ニ、曾呂利惣八ト云フ盜人有リ、是レヲ、時俗、すッぱト云フ、云云、戰國ノ時、村落ニ有テ、人ヲ惱マシケル者共ノ稱也」(惣八、其子、信長公ニ仕フ)「すッぱノ皮」(三)すり、ちぼナドノ類。狂言記、居杭「すノぱナラバ、攫ヲ懸ケマショウ」同、寶笠「寶買ハウ、買ハウ、すッぱ、コレハ洛中ニ、心モ直ニ無イ者デ御座ル、見レバ、田舍者ヤラ、わッぱト云フ、騙シテヤラウ、コレコレ、コチノ事カ、何事デ御ジャル、すッぱ、如何ニモ、ソチノ事ヂャガ、云云」赤烏帽子都氣(安永)二「此勇介ト云フハ、辯舌ヨク、人ニ取入ルコトノ上手、云云、心ノ內ハ、世事ニスバシコキすノぱ、近所ノ息子ャ手代ノ、遊ビニ行ク中店ニテ、文ノ取次ギ、云云、親切ニ、野良タチノ世話燒キシ故」

すッぱ・い (形) 次次條ノ語ノ口語。

すぱう-めし (名) [素飯] 湯、又ハ、汁ヲカケヌ飯。又、菜(副食物)ヲ添ヘズシテ食フ飯 スノポリメシ。

すッぱ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) [酸] 〔すはゆしノ急呼轉〕酸シ。

すッぱと (副) 物ヲ、容易ク切ル狀ニ云フ語。スカリト。狂言記、鱸庖丁「板ニ引キ寄セ、すノぱと切ッテハ、こッと打チツケ」

❖**すっぱと** (副) 物ヲ貫キ通ス狀ニ云フ語。薩摩歌(元祿、近松作)中「拔クレ拔リガ、一透(ヒトハズミ)、二透(スキミ)、ノ比丘尼ガ小腕ニ、切先ハッレニ、ず、ぱと立ッ」

すっぱぬき (名) 素破拔 スッパヌクコト 秘事ヲ發(アバ)クコト 昔昔物語「[illegible]近番ニテ、露[illegible]野郎ヲすっぱ拔シテ、威ス分ニテ、奴ノ手側、入ラセルコトナリ」 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)二「氣ノ毒ヤ、又、醉狂カ、餘ノ酒飲ミニ事變リ、疑ヒノ立ツ素羽拔、鎧ヲ、殿ニ見セマシタナ」

❖**すっぱぬ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ** (他動、四) 素破拔 〔忍者(スッパ)ノ、思ヒカケヌ所ニ立入ルニ譬ヘ云フカ〕(一)刀ナドヲ、人ノ不意ニ、スッパリ拔ク。ダシヌケニ、拔ク。(二)突然、人ノ隱事ヲ發(アバ)ク。秘事ヲ暴露セシム。

すっぱのかは (名) 素破皮 〔すっぱノ(二)ヲ見ヨ、かはハ、絲瓜(ヘチマ)のかは、てんぽのかは、嘘(ウソ)の皮、化の皮ナドト、同趣〕 盜人ノ仲間(ナカマ)。盜賊者流 後撰夷曲集(寛文)九「白波ノ、濁リテ黑キ、ドロバウヤ、すっぱのかは(川ニ、皮ヲカク)ノ、流レナルラン」

❖**すっぱり** (副) 〔すっかりノ轉〕 全ク。悉ク。スッカリ。サッパリ。悉皆 「すっぱり仕上ゲル」すっぱり忘レタ すっぱり無クナル」

すっぷりと (副) 湯、水ナドノ中ニ、全身ノ沈ミ入ル狀ニ云フ語。又、雨ナドニ濡レソボチタル狀ニ云フ語

すっぺらぽん (名) すっぺりトナリタルモノ。轉ジテ、副詞トナリ、スッポカサレタル狀ニ云フ語 浮世床(文化、三馬)初編、後序「汝ガ樣ニ怠(ナマ)ケテハ、發(ウリダシ)市タクモ、製本(シコミ)ガ出來ズ、牢(ドチ)呑(ラッカズ)牛吐ノぬっぺらぽん、お藏デ書舗(ホンヤ)ハすっぺらぽん」

すっぺり (副) (一)殘ラズ。スッカリ。サッパリ。心中宵庚申(享保、近松作)中「和女(ソナタ)ノ顏、御覽ナサレタラ、イヨイヨ、父樣ノ病ハ、すっぺり癒(ナ)ラフ、嬉シイ」(二)物ノ、平坦ニナル狀、又、頭ノ、滑カニ、圓キ狀ニ云フ語「すっぺりトシタ顏」

すっぺりあっぺり (副) 遁辭ヲ云フ狀ニ云フ語。ヌラリクラリ。

すっぽう (名) 次條ノ略、其條ヲ見ヨ。

すっぽうに (名) 〔すっぽんにノ音便〕 ふくらに(脹煮)ニ同ジ。料理物語、ふくらいり「海鼠(ナマコ)ヲ、大キニ切リ、ダシタマリ噴カセ、出シサマニ入、其儘盛ルコトナリ、すっぽうトモ云フ、蛤、烏賊モ、ヨシ」

すっぽかし (名) 素放 スッポカスコト。東海道中膝栗毛(文化、一九)七編、下「サノキノ女共ガ、トンダすっぽかしヲ敎ヘヤァガッタ」

すっぽか・す・ス・セ サ・シ・セ (他動、四) 素放 物ヲ、ソノママニス。ナゲヤリニス。「爲サシタ仕事ヲ、すっぽかしテ、遊ビニ出ル」

すっぽぬけ (名) 素拔 スッポヌケルコト。

すっぽぬ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 素拔 (一)スッポリト、拔ケル。スッカリヌケル。(二)スッカリ、忘ルル。

すっぽん (名) 鼈 〔すぼんぽノ轉、或ハ、葡萄牙語ナリト云フ說モアリ〕(一)古ク、カハガメ。龜ノ類、池沼中ニ產ズ、形、龜ニ似テ、甲、圓ク薄ク、四邊ニ肉裙アリ、口、尖リテ、脊、高クシテ、横紋アリ、大ナルハ、徑(ワタリ)二尺ニ至ル、肉ノ味、甚ダ美ナリ。ドロガメ。ドンガメ。ドウガメ。トチガメ。スボンボ。團魚 大同類聚方、五十四、「鼈、度布加免」 閑田耕筆、三「鼈ヲ、すぽんト云フモ、其鳴聲ニヨレリ、是ハ、聞違ニ、すぽん、すぽんト云」 かたこと(安原貞室)二「鼈ノ鳴聲、すぽんト云フト云ヘド、未ダ、其聲ヲ聞カズト云ヘリ」 元祿曾我物語、京ノ人ヘ、大坂ノ人「料理シタモ、すぽんガアルカ」 浮世風呂(文化、三馬)二編、上「丸デ料理シテ、食ヒ見タイ、云云、丸トハ、何ダエ、御當地デ云フ、鼈ジャナ」 「月ニすっぽんト云フハ、相、似テ、實ハ甚ダ懸隔シタル意」 月鼈(ゲッベツ) [illegible] (二)尿斗(アカトリ) 「どろ池ノ端」どう龜ノ、脊甲ノ露ヤ、拂フラム」(三)鍋、釜、樽、ナドノ蓋(フタ)ノ[illegible]形、圓ケレバ、畿內ニテハ、まるト云フト、又、龜ノ類ヲモ云ヘリ) (四)芝居ノ花道ノ切穴(キリアナ)。

すっぽんに (名) ふくらに(脹煮)ニ同ジ。調味抄、鼈、今、すっぽん煮ト云フハ、すっぽうニテ、土器ヲ、直ラ食フヤウニナリテ、名ハ紛ヒタリ 其熊ハ、すっぽん煮トハ云ヘド、其名ヤ、殊ナル事ナク 何ヲモ、カク煮ルニ、是ニノミ、すっぽん煮ト云ヘルハ、すっぽう煮ト云フ事アリシカ、是ニ紛ヘルナリ」 「鯛ノすっぽん煮ト云フハ、鯛ヲ三枚ニ截シ、一寸角ニ切リテ、味醂ヲ振リカケテオキ、次ニ、牛蒡ノ皮ヲ刮ケ取リ、笹搔トナシテ、水ニ浸シ、後、水ヲ切リテオキ、次ニ、椎茸ヲ、微温湯ニ、砂糖ヲ摘ミ入レタル中ニ入レテ、柔カクナリシナラバ、取リ出シテ、纖切(セン)トナス、次ニ、ふらいぱんニ、胡麻油ヲ少シ入レ、此中ニテ、先ヅ、牛蒡ヲ油揚メ、取リ上ゲ、又、胡麻油ヲ少シ入レテ、椎茸ヲ油揚メ、此牛蒡ト、椎茸トヲ、深鍋ニ移シ入レテ、コレニ煮出シヲ入レ、火ニカケテ沸騰セシメ、味醂ヲ加ヘ入レ、又、沸騰セシメ、此中ニ、鯛ノ切リタルヲ入レ、一二度沸騰セシメ、先ヅ、鹽ヲ入レ、次ニ、醬油ヲ加ヘテ、味ヲ附ケ、火ヨリ下シテ、成ル。

❖**すっぽり** (副) 物事ノ、工合好ク成リ行ク狀ニ云フ語 浮世床(文化、三馬)二編、[illegible]「手拭ヲ、すっぽり[illegible] [illegible]すっぽり[illegible]拔ケル」

すっぽりめし (名) 素飯 [illegible]ニ同ジ

すづみ(スズミ) (名) 〔貢積ナラムト云フ、或ハ、[illegible]〕 [illegible]積カ 冬ノ比、田面ニ、藁ヲ束ネ集メオクモノ。

すて (名) 捨棄 捨ツルコト。[illegible] 雅集、[illegible] すてモ[illegible]、其ニノミコソ」

すで (名) 素手 手ニ、得物(エモノ)ヲ持タヌコト。カラテ。ムナデ。ムナシデ。空手 白手 徒手 「す手ニテ立向フ」

すていし (名) 捨石 (一)庭ナドニ、雅趣ヲ添ヘンタメニ、[illegible]置ク石 [illegible] (二)河川ナドニテ、水底ノ工事ノ礎ヲ作ルタメ、又ハ、堤防ノ決潰ヲ防ガンタメニ、水中ニ投ズル石 [illegible] 圍碁ニテ、打ツ八ノ節略トシテ打ッ、石

すてうり (名) 捨賣 價ノ低キヲ顧ハズ、賣リ[illegible]ルコト。ナゲウリ [illegible]

ステエション (名) 停車場 〔英語、Station.〕 鐵道ノ處處ニ、蒸氣車、又ハ電車ヲ一時、停メテ、乘客、又ハ貨物ヲ、アゲオロシスル所。鐵道ノ驛。停車場 タテバ。訛リテ、すてんしょ。車站

すてお・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 捨置 捨テテ、置ク。構ハズニ、オク。 [illegible]

すてがき (名) 捨書 ステガクコト。筆[illegible]

ノマニマニ、カクコト。注意セズシテ、カクコト。

〔すてが・く・ク・ケ・カ・キ・ケ（他動、四）［捨書］ステガキニスル。源、六、末摘花三十三「歌、云云、ト、白キ紙ニ、すてがいタマヘルシモゾ、中中、ヲカシゲナリ」

すてがな（名）［捨假名］〔助假名ノ誤カトモ云フ〕ふりがなノ條ヲ見ヨ。文教溫故、上、訓點「經典ノ文字ノ傍ニ、訓讀ノタメニ、假名ヲ付ルヲ、捨假名ト云ハ、非ナリ、すけ假名ト云フベシ、訓ノ動用ヲ助クルナリ、譬ヘバ、始ノ字ノ傍ニ、めト付ケ、むるト付クルノ類ナリ、土佐ノ人ハ、きり假名ト云フ、訓ノ後ヘニ付クル意ナルベシ」

すてがね（名）［捨鐘］時ノ鐘ヲ撞ク時、先ヅ、三度、撞クコト、人ニ知ラスル爲ニテ、捨テテ、時ノ數ニ加ヘズ。（江戸）上方ニテハ、一度、撞ク。（金曾木）

すてがね（名）［捨金］消費シテモ、效力ノ無キ金錢。生カシテ使ハヌ金錢。又、返濟ヲ豫期セザル金錢。ステキン。雪女五枚羽子板（寶永、近松作）中「此方カラ沙汰ガ仕度ウテモ、彼方ガ、キツイ隱密、三十兩ハ捨金、四季ノ仕着ニ遣ヒ銀、未來モ惡フハアルマイゾ」

すてき（名）［素敵］［素的］〔出來過ノ倒語〕最モ、スグレタルコト。浮世床（文化、三馬）初編、上「すてきト並ベヤアガッタ」「すてきニ高イ木」すてきナ美人」

すてきん（名）［捨金］前前條ノ語ニ同ジ。好色一代女（貞享、西鶴）一「奉公人ノ肝煎、渡世トスルコト、捨てきん百兩ノ内、十兩取ルナリ」

すてぐひ（名）［捨杙］埋込ノ杙。

すてぐるわ（名）［捨郭］山城ヲ築クニ、郭ノ如ク、地ヲ切リ平シ、屏ヲ掛ケズシテ、捨テオキタルモノ。北條五代記、十、小田原籠城攻ニ入捨曲輪ノ事「此ノ出曲輪、有リテ益ナシト、塀ヲ破リ、すてぐる輪ト號シ、橋ヲバ架ケオキ」

すてご（名）［棄子］竊カニ、路端ナドニ棄テラレタル小兒。（親ノ、貧ニ迫リナドシテ、爲ル業ナリ）棄兒　闌子　博多小女郎波枕（享保、近松作）中「正道ニナイ金儲ケ、榮耀スル様ナレド、天道ノ乳首ニ放レ、三界ノ捨子トナリ、野倒レ死スルハ、幾人カ」金葉集、十、雜、下「大路ニ、子ヲすてテ侍リケル、オシククミニ書キツケ侍リケル歌」

すてごぐさ（名）［棄子草］まんぢゅしゃげ（曼珠沙華）ノ異名。

すてことば（名）［捨詞］ナゲノ詞。去ルトキ、言捨テ置ク言葉。ステゼリフ。

すてごばな（名）［棄子花］前前條ノ語ニ同ジ。

すてごへん（名）［棄子偏］漢字ノ偏ニアル、子ノ字ノ稱。即チ、子ノ字ニテ、孔、孤、孩、孫、ナドナリ。

〔すてごろも（名）［捨衣］着捨ノ衣。着ル人ナキ衣服。後撰集、十一、戀、三「女ノ許ニ、衣ヲ脱ギ置キテ、取リニ遣ハストテ「鈴鹿山、伊勢ヲノ蜑ノ、すて衣、汐馴レタリト、人ヤ見ルラム」新六帖、五「今ハ我レ、主ナキ野邊ノ、すてごろも、取リキテノミゾ、世ヲ過スベキ」

すてごろ（名）［捨城］あきごろ（明城）ニ同ジ。籾井日記、籾井矢織明退事「籾井越中守敎業ハ、矢織ヲ、捨城ニ致シ」

すてぜりふ（名）［捨臺詞］（一）芝居ニテ、俳優ガ、花道ナドニテ、相手ナシニ云フコトバ。（二）すてことばニ同ジ。浮世風呂（文化、三馬）二編、上「ハイサヤウナラト、捨てぜりふニテ、風呂ヘ入ル」

すてそ（名）［捨訴］又、捨文トモ云フ。訴狀ヲ、評定所、其他、諸官衙、若シクハ、老中以下ノ門前、等ニ、竊カニ置クコト。（江戸時代ニ）德川禁令考、後聚、三、聽前廣懿、安永五申年十一月十四日「別紙ヲ以申達候、捨訴、捨文之類ハ、封之儘、燒捨候事ニ候、然共、心得ノタメ、内見致事モ有レ之候、重而捨物有レ之候ハバ、手代共江不レ申聞、其方密密内見致シ、元之通封ヲ附、取計方之儀相伺、内見之趣ハ、別段ニ可レ被ニ申聞一候」

ステッキ（名）〔英語、Stick.〕（一）西洋風ノ杖。（二）活字ヲ組ム時、文選シタル活字ヲ入レテ列ブル具。

すてつづみ（名）［捨鼓］捨鐘ノ類、古ヘ、鼓ヲ打チテ時ヲ報ズルニ、時數ニ加ヘデ打チ鳴ラス鼓。倭訓栞、すてつづみ「貞觀式ニ、凡知ニ時以レ鼓、示レ剋以レ鐘、資仲卿節會抄ニ、古人曰、時剋鐘鼓、以ニ九相倍、至ニ三十六一暮、至ニ三十六一朝、各打ニ捨十以上一、眞要ニ其餘一、天智天皇御宇始レ之、朝參官人入ニ外門一、其剋其時捨鼓進ト見エタリ」

すてッパチ（名）〔すてばち（捨鉢）ノ急呼音〕ムテッパチ。ヤブレカブレ。「ソンナニすてッぱちノ事ヲ云フナ」

すでに（副）［既已］〔既、盡也〕（一）〔盡ク。全ク。スッカリト。マルキリ。ヒキクルメテ。全體ニ。一般ニ。スッカリ互リテ。古事記、序「已因レ訓述者、詞不レ逮レ心」同、下（反正）七十「御齒、云云、上下等齊、既如レ貫レ珠」神代紀、上九十「此二一門、潮既太急」同、七十「蘂芟鳴饌所レ生之兒、皆已男矣」繼體紀、廿三年三月「朝貢使、云云、濕レ所レ賣、全壞無レ色」萬葉集、十七、十七「天ノ下、須泥爾被ヒテ、降ル雪ノ」（二）〔前ニ。夙ク。マヘカタ。未だノ反。萬葉集、十七、六「君ニ因リ、吾ガ名ハ須泥爾、立田山」同、十二、廿六「梓弓、引キミ弛ベミ、思ヒミテ、既心ハ、寄リニシモノヲ」夫木抄、三十六「月見テモ、我ガ世ハすでに、久方ノ、遍ク照ラセ、秋ノ心ヲ」「すでに去レリ」「すでに終ハリキ」（三）轉ジテ、ハヤ。モハヤ。スンデノコトニ。著聞集、十、相撲強力、近江ノ金「タダ、締メニ締メマサリケレバ、既ニ、沫ヲ吹キテ死ナムトシケリ」玉葉集、九、戀、一「夕暮ハ、必ズ人ヲ、戀ヒ馴レテ、日モ傾ケバ、すでに戀シキ」太平記、三十一、武藏野合戰事「小手差原ヨリ石濱マデ、坂東道、已ニ四十六里ヲ、片時ガ間ニゾ追ヒツキタル」建禮門院右京大夫集「内裏ニ近キ火ノ事アリテ、すでに危カリシカバ」

すてね（名）［捨直］捨賣ニスル價。

すでのこと（副）ホトンド。音便ニ、スンデノコト。安永ノ川柳「すでのこと、柳百本ニ、ナルトコロ」（柳澤甲斐守ノ、百萬石ニ）

すでのまござゑもん（名）［素手孫左衛門］〔擬人語〕一物モ、持タヌコト。無一物。

すてばうず（名）［捨坊主］世ヲ捨テタル坊主。世ステ坊主。卜養狂歌集「或ル人、身上衰ヘ、世ヲ捨坊主トナリテ、南無アミ笠ヲ、引キカブリ」

すてばち（名）［捨撥］三味線ヲ彈ク時、定マリタル彈方ノ外ニ、撥ノ都合ニテ、或音ヲ、加ヘ鳴ラスコト。

✣すてバチ（名）［捨鉢］自暴自棄。ヤケ。ヤブレカブレ。

すては・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ（他動、下二）［捨果］全ク、捨ツ。捨テテ、シマフ。續後拾遺集、十七、雜、下「すてはつる、人ゾ少ナキ、身ヲ歎キ、世ヲ恨ムルハ、習ヒナレドモ」拾遺集、十五、戀、五「すてはてム、命ヲ今ハ、頼マレヨ、逢フベキ事ノ、此世ナラネバ」

すてび（名）［捨火］（一）古ヘ、物ナド煮ル時、汚レタル火ヲ捨テテ、新ラシク燧リタル火ヲ用ヰルコト。（二）ゑたヨリ、平民ニ、喫煙ノ火ナド乞フ時ハ、捨ツル如クシテ與フル火　平民ト、火ヲ共ニセ

ザリシナリ、「嬉香集、さはやかなる捨火、伊勢、山田ヨリ、其ノ近郷、尾張、熱田ナドヤウノ所ナラデハ、人、知ラズ、火替ト云ヒテ、今マデ、火ノカカリタル物ヲ、悉ク棄テテ、捨火トシテ、後、管ニ、鑽火ニテ調フ、是レ、マコトノ捨火ナリ」心中刃氷朔日(寶永、近松作)上「アノ衆ハ、大和ノ、金剛、タント持ッタ村ノ、牛馬ヲ持タヌ棒、云云、鈴ハ火ノ改ヘ、衣ヲ改ヘ、其モ替ユル備伎町、宿屋ノ遣渡ソ、大和ノ忍たノ、鍛冶屋ヘ注文ニ來リシナリ」

すてひだ (名) 捨襞 裃ノ袴ノ兩側、相引ノ上部ニ、斜ニ作ル襞。貞丈雜記、五、裝束「今ノ袴上下ノ袴ノ腰ニ、すてひだトテ、相引ノ縫目ノ所ニテ、ひだヲ摘ソクシテ、ソレギリニ、ひだヲ取ステ」

すてびと (名) 捨人 (一)世ニ捨テラレタル人。宇津保物語、藏開、下「色ヲ好ムル、捨ノ樣ハ、ヨキデ、捨人ノ、袖ニ時雨ノ、フルガワビシサ」(二)世捨人。高野日記「カカル御モテナシ、すて人ノ身ノ上ニハ、メヅラシウ侍ル、云云」殊シ、猶シキコトモ、墜キコトモ、共ニ忘ルル、人ゾすて人」

すてふだ (名) 捨札 罪人ヲ刑ニ行ノトキ、札ニ、其罪狀ヲ記シテ、衆ニ示シ、刑ニ行ヘル後モ、尚、三十日、其地ニ掲ゲ置クモノ。法揚加木 犯由牌 御定書百箇條、御仕置仕形之事「於 淺草品川、獄門ニ掛ル、在方ハ、犯事致候所江差遣候儀モ有之、引廻、捨札、晒、番人、右同斷 三日之内、非人晒番ニ」同「於 淺草品川 磔ニ申付、在方ハ、犯事致シ候所江差遣候儀モ有之、尤、捨札等ハ之捨札建之、三日之内、非人番附置」同、火罪「御仕置之事、引廻シ申候節、人數不依多少、捨札書之、捨札建置可申候、尤、火ヲ附候所、其所町中引廻之上、火罪可申付・事、但、捨札ハ、三十日建置可申候」

すてぶち (名) 捨扶持 老幼、婦女、癈疾ナド、全ク無用ノ者ノ扶助ニ與フル扶持米。散秩

すてぶね (名) 捨舟 すてをぶねニ同ジ。風代集、三、夏「入江ナル、海士ノすて舟、浮キイデテ、浦ニ流ルル、五月雨ノ頃」新續古今集、十二、戀、二「ササ波ヤ、寄邊モ知ラズ、ナリニケリ、逢フハカタダノ、蜑ノ捨舟」續後拾遺集、六、冬「難波潟、水際ノ蘆ハ、霜枯レテ、難ノすてぶね、露ハレニケリ」

すてぶみ (名) 捨文 棄文 (一)すてそ(捨訴)ニ同ジ。(二)趣意ヲ書キ、名ヲ記サズニ、目差ス所ヘ、棄テオクモノ。落書。

すてみ (名) 捨身 棄身 己ノ身ヲ投ゲ捨ツル積リニテ、事ヲスルコト。又、其身。「捨身ニナリテスル」

すてん (副) (一)物ノ、落ツル音ニ云フ語。(二)人ヲ投ゲ倒シ、又、人ノ、倒ルル音ニ云フ語。

すてむち (名) 捨鞭 驅ケ去ル時ニ、馬ノ尻ニ鞭打ツコト。太平記、三、笠置軍事「高橋、始ノ勢ニモ似ズ、敵ノ大勢ヲ見テ、一返モ返サズ、捨鞭ヲ打チテ引キケル」同、八、山崎合戰事「京勢、叶ハジトヤ思ヒケム、捨鞭ヲ打ッテ引返ス」

すてんきう (副) ステキニ。甚ダシク。非常ニ。浮世床(文化、三馬)初編、上「妹ノサマア見ヤ、姉御トハ、すてんきう違ッテラア」

ステンショ (名) すてえしよんノ訛。

ずでんどう (副) 人ナドヲ投ゲ倒ス音ニ云フ語。博多小女郎波枕(享保、近松作)上「市五郎、胸ヲ取ヒ、摑ミ付バ、取テ投ゲ、投ゲラレナガラ、足首ヲ捕ト取リ、蹴倒ス樣ニずでんどう」

⁂**す・てる** (動) 棄つノ口語。

ステレオタイプ (名) 〔英語、Stereo-type.〕 えんばん(鉛版)ニ同ジ。

ステロ (名) 前條ノ語ノ略訛。

すてわな (名) 捨罠 掛ケタルママニテ、打チステオク罠。狂言記、釣狐「捨罠ト申ス物ニ致イテ置イテ、御座ルガ」

すてをぶね (名) 捨小舟 乘リ捨テテ、人ナキ舟。ステブネ。虚舟 太平記、十三、北山殿謀叛事「大納言殿、泪ヲ抑ヘテ宣ヒケルハ、我身カク、引ク人モナキ捨小舟、沈ミヌルニツキテモ」

すど (名) 簀戸 (一)竹ニテ編ミ作リタル戸。傾城酒呑童子(享保、近松作)二「雲井ノ月モ、山賤ノ、軒端ニ懸ル御住居、松ノ柴垣、竹ノ簀戸、錦ノ褥、引換ヘテ」「すど門荒すど」(二)土藏ノ網戸。

すど (副) 數度 タビタビ。シバシバ。數箇度。數回「數度ノ合戰」

ストウブ (名) 〔英語、Stove.〕 かっぺるニ同ジ。煖爐。

すどうふ (名) 酢豆腐 (一)料理ノ一種、生豆腐ニ、酢ヲカケタルモノ。(二)利イタ風ノ人。ナマイキ。半可通。

ストオン (名) 〔英語、Stone.〕 英國ノ重量ノ名。十四ボンド。

すどくり (名) 酢徳利 酢ヲ入ルル徳利。酒徳利ナドニ對ス 好色一代女(貞享、西鶴)四「胡ノ買物、芝酢ヲ袂ニ入レ、片手ニすどくり、附木ヲ持チ添ヘ」

すどほし (名) 素通 (一)度ノ無キ眼鏡。平眼鏡。(二)賣買ニ、口錢ナキコト。

すどほり (名) 素通 スドホルコト。其前ヲ過ギテ、立寄ラヌコト。平家物語、八、猫間事「少無カランカラニ、何條、す通リヲバスベキトテ、遂ニ、後ヨリゾ下リテケル」盛衰記、三十三、木曾院參事「イカガ、重ナランカラニ、忽忽敷す通ヲバスベキ」

すどほ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 素通 其前ヲ過ギテ、立チ寄ラズ。又、障無ク通ル。林葉集 二「隣ナル、荻ニハカクト、音ヅレテ、宿ヲすどほる、秋ノ夕風」同、三「月影ノ、壁ノ崩レヲ、すどほれバ、トドメ顔ナル、蟋蟀カナ」

ずどん (感) 大砲ナドヲ發シタル響ナドノ稱。ドン。

すどんと (副) 物ノ、落チアタリ、又、投グル時ニ發スル響ナドニ云フ語。丹波與作(寶永、近松作)中「奥ノ炬燵ニ、すどんと蹴ケテ、泣イテ、忍ブハ鸞ノ二階」「珠ガ、上ヨリ、すどんと落ツル棒ヲ、すどんと投グ」

すどもん (名) 簀戸門 門ノ木戸ノ扉ニ、竹簀ヲ打チツケテ、外ヲ透シテ見ルベク造レルモノ。

ストライキ (名) 〔英語、Strike.〕 (一)資本主ニ對シテ、要求ヲ迫リ、又ハ、報復ヲナス手段トシテ、勞働者ノ、團結シテ、其職業ヲ休止スルコト。同盟罷工。(二)雇人、生徒、又ハ、配下ノ者ナドガ、團結シテ、業ヲ休ムコト。(三)野球ニテ、投手ノ投ゲタル球ガ、本壘ヲ通過スル際、打者ガ打タザリシタメ、本壘ニ立ツ權利ヲ失ヒ、一點ヲ損フコト。

すどり (名) 洲鳥 (一)浦洲ニ居ル鳥。洲ニ棲ム鳥。萬葉集、十五、具「ムコノ浦ノ、入江ノ渚鳥、羽グクモル、君ヲ離レテ、戀ニ死ヌベシ」同、十七、三十七長歌「イヅミ川、ミナトノ渚鳥、朝凪ニ、潟ニ求食シ、潮滿テバ、妻呼ビカハス」(二)みさご(鶚)ノ一名。

すな (名) 沙 砂 すなごノ略。イサゴ。狂言記、富國「砂ノ上ニ、團扇ヲ打チ敷キ、衣ヲ脫ギ捨テ、座ヲ組ンデ」

すない (連體) 少從 すなきノ音便、おほき(大)ノ條ヲ見ヨ。齊明紀、二、年九月「大判官 大上君白麻呂、中判官河內書首、小判官大藏衣縫造麻呂」

すない-おほともひ (名) 左右ノ少辨ノ古稱。倭名抄、五、職官部「左右少辨、須奈伊於保止毛比」

スナイドル (名) 〔米國人、Jacob Snider. ノ發明シタルヨリ、名トス〕 志でうぢゅう(施條銃)ニ同ジ。

すない-ものまうし (名) 次條ノ語ニ同ジ。倭名抄、五、職官部「少納言、須奈伊毛乃萬宇之」

すない-ものまうす-つかさ (名) 少納言 せうなごん(少納言)ノ古稱。

すな-がき (名) 沙書 沙畫ニ同ジ。

すな-がし (名) 洲流 絹、或ハ、紙ニ、沙子、又ハ、金銀ノ沙子ヲ置散シタルモノ。卽チ、洲アリテ、水ノ流ルル形ナリ。草根集、十「サ波ユク、洲流し遠ク、影見エテ、齊國涼シ、夏ノ夜ノ月」 太平記、四十、中殿御會事「地白ニ、金泥ニテ、洲流ヲ書キタル直垂ニ 白太刀佩イテ、相隨フ」

すな-がね (名) 沙金 志ゃきん(沙金)ノ訓讀、其條ヲ見ヨ。

すなき (連體) 少 〔すくなきノ略音便、〕 皇子ヲ大兄ト稱スルニ對シテ、近臣ヲ少兄ト稱ス、宿禰、卽チ、其約ナリ〕 おほき(大)ノ條ヲ見ヨ。 繼體紀、元年二月「生二三女、長曰二神前皇女、仲曰二茨田皇女、少曰二馬來田皇女」

すな-ぎも (名) 沙肝 鳥ノ後胃。又、沙囊トモ云フ。鳥類ハ、齒ヲ有セザルガ故ニ、其胃壁、厚ク、殊更ニ沙粒ヲ嚥下シ、コレヲ用キテ、食物ヲ磨碎スルナリ。

すな-ぐさ (名) 沙草 かにぐさニ同ジ。

すな-けむり (名) 沙烟 沙ノ、吹キ散ラサレテ、空ニ漂ヒ、烟ノ如ク見ユルモノ。

すな-ご (名) 沙子 〔沙之子ノ轉、すハ、取扱フトキ、發スル音、なハ、粉ノなノ義、ごハ、物ノ意、俗ニ、沙ト、砂ト、混用ス〕 (一)〔石ノ、極メテ細カキモノ。ス。沙。マナゴ。マサゴ。イサゴ。 倭名抄、一五岩類「砂、須奈古」 字鏡、二十七「砂、埖、石微細而、隨レ風飛也、伊佐古、又、須奈古」 孝德紀、元年十二月「沙上有レ跡、如二耕田狀一」 宇津保物語、俊蔭七十「御前ニ、すなご撒カセ、前栽植ヱサセ」 貫之集「波ノ間ニ、すなご踏ミ越エ、鳴ク田鶴ハ」 (二)金粉、銀粉ヲ、蒔繪ニ蒔キツケ、又、襖紙ナドニ押シ用キルモノ。 曾我五人兄弟(元祿、近松作)五「見上グル床ノ掛繪ノ富士、屛風襖ノ薄原、砂子ノ露ヲ押シ分ケテ」「金すなご」銀すなご」

すな-ごし (名) 沙漉 桶ナドニ、淨キ沙ヲ貯へ、濁レル水ナドヲ注ギテ、下ニ漉シ出スコト。濁リハ、沙ニ留リテ、淸水トナル。

すな-さくゎん (名) 〔すなハ、すないノ略〕 小史ノ(三)ノ古稱。 倭名抄、五、職官部「小史、須奈佐官」

すな-すな (副) 靜カニ歩ム狀ニ云フ語。スナラスナラ。シャナシャナ。シャナラシャナラ。 孕常盤(正德、近松作)四「庭ノ撒キ砂、すなすなト歩ミ寄り」

すな-ずり (名) 腴 〔沙摩ノ義〕 魚ノ腹ノ下ノ、肥エタル處。ツチズリ。

すな-ぢ (名) 沙地 地面ニ、土無ク、沙ノミナル所。スナバ。 國性爺合戰(正德、近松作)說傳「蛤ハ砂地ノ得物、汐ノ溜へ引込マント」

すな-どけい (名) 沙時計 〔英語、Sand-glass. ノ譯語〕 時ヲ計ル具、硝子ノ壺ノ、中、括レテ、括レタル處ニ、小サキ孔アリ、上ニ沙ヲ貯ヘテ、倒ニシ、沙ノ、孔ヨリ下へ漏レ下ル時間ヲ計リテ、時ヲ知ル。 沙漏 小町踊「時見セテ、重ナル露ヤ、砂土圭」 博物志、補「五輪沙漏、北ナ水善速、壺漏不レ下、新安、詹希元、以レ沙代レ水、人以爲二古未一レ有也」

すなどり (名) 漁 スナドルコト。イサリ。レフ。 倭名抄、十五四漁釣具「漁、捕レ魚也、須奈度利」 欽明紀、五年十二月「有二肅愼人、乘二一船舶、而淹留、春夏捕レ魚充レ食」 持統紀、六年閏五月「大水、遣二使循二行郡國、稟二貸災害不レ能二自存一者、令レ得レ漁二採山林池澤一」

すな-ど・る ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 漁 〔磯魚捕るノ約ト云フ〕 魚ヲ求メテ、捕ル。イサル。獵ヲスル。 字類抄「漁、スナドル、イサル」 神武紀、八「作レ梁、取レ魚者」 萬葉集、四五十二「沖べ行キ、邊ニ行キ、今ヤ妹ガタメ、吾ガ漁有ル、藻臥束鮒」

すな-ば (名) 沙場 すなぢ(沙地)ニ同ジ。

すなはち (副) 卽 〔次條ノ語ノ轉〕 夫レガ、ソノママ。取リモナホサズ。ヤガテ。「すなはち是レナリ」

すなはち (接) 乃則卽便迺輒 「其程ノ轉ト云フ、當レリ、六帖、四「春立タム、すなはち每ニ」 宇津保物語、藏開、上五十五「生レ給ヒシ、すなはちヨリ」ナド、見ルベシ、爲之後ノ轉、直路ノ轉、ナド云フハ、イカガ、又、墨繩路ノ略カ〕 (一)〔其時ニ。ソコデ。サウシテ。 乃 名義抄「仍、スナハチ」便、スナハチ」卽、スナハチ」則、スナハチ」 古事記、上三「如レ此云期、乃詔二汝者自レ右廻逢、云云一」 同、同廿九「八俣遠呂智、信如レ言來、乃每レ船垂二入己頭一」 著聞集、十六、興言利口「ヤヲラ叩キケレバ、すなはち、明ケテ、誰ソト問へバ」 (二)〔ヤガテ。直ニ。卽座ニ。卽時ニ。 萬葉集、八十七三「霍公鳥、鳴キシ登時、君ガ家ニ、往ケト追ヒシハ、至リケムカモ」 竹取物語「綱ヲ引キ過シテ、綱、絕ユル、すなはちニ、八島ノ鼎ノ上ニ、仰ザマニ落チタマヘリ」 宇津保物語、藏開、下四十「片時、外ニ止ル事ナク、稀ニ、內ニ參リテハ、すなはち、急ギ罷出ヅ」 同、俊蔭三「帝、驚カセタマヒテ、すなはち、式部丞ニナサレヌ」 同、同廿「生レ落ツル、すなはち、女、已ガ布ノ懷ニ抱キテ」 同、吹上、上廿六「雪、云云、降ル、すなはち、消エヌ」 同、藏開、上五十六「鶴子「生レタマヒシすなはちヨリ、御懷、放チ奉リタマハズ」 源、四十八、寄生四十「許サセタマヘリシ落ビニ、すなはちモ參ラマホシク侍リシヲ」 (三)其ノ如クナルトキハ。然ルトキハ。(漢籍讀ニ) 則 「思へバすなはち得」

すな-バチ (名) 沙鉢 粗製ノ、皿形ノ鉢。

すなもふ (名) 出納 收納 をゐたふノ(二)ニ同ジ。 宇治拾遺、七、第二條「怪シノ郡ノもふナドセサセケレバ、悦ビテ、其ノ郡ニ行キテ」

すな-ふき (名) 沙吹 魚ノ名、かはぎすニ同ジ。

す-なほ-ま (副) 淳朴 〔すなほハ、素直ノ義カ〕 (一)〔有リノママニ。繕フコトナク。 素樸 字鏡、八十四「樸、素、質直之貌、須奈保」 名義抄「白、スナホニ」質、スナホ」淳、スナホニ」 字類抄「質、朴、素、淳、厚、樸、白、已上、スナホナリ」 神武紀廿七「民心朴素」私記「須奈保」 應神紀、十九年十月「夫國樔者、爲レ人、甚淳朴也」 古今集、序「千早振ル神代ニハ、歌ノ文字モ定マラズ、すなほニシテ、事ノ心、分キ難カリケラシ」 源、三十四、下、若菜、下八十五「帝ト聞ユレバ、タダすなほニ、大ヤケザマノ心バヘバカリニテ」 無名抄(長明)「姿モすなほなる歌ニテ」 堀河百首、夢「夢ニ見シ、人ヲ現ニ、見テシヨリ、世モすなほニハ、ハヤ成リニケリ」 (二)轉ジテ、正直ニ。 朴直 徒然草、五十八段「人ヲ謀ルコトアラムニ、すなほニ、直ト思ヒテ、言フママニ謀ラルル人アリ」 新後拾遺集、十九、神祇「身ヲ祈ル、人ヨリモナホ、男山、すなほなるヲゾ、守ルトハ聞ク」 (三)又、轉ジテ、柔和ニ。人ニ逆ハズ。 淳 從順 浮世床(文化、三馬)初編、下「ドウデ、直すな

ほユッア行クマイ」「すなほな人」

すなほり (名) 砂掘　魚ノ名、[illegible]ノ語ニ同ジ。

すなめり (名) [illegible]ノ[illegible]ノ名、東南海ニ產ズ、鯨類ノ小サキモノニテ、海豚ノ屬ナリ、長サ、二三尺ヨリ七八尺ニ至ル、全身、黑ク、腹ハ、灰黑ナリ、頭、圓ク、眼、小サク、頭上ノ噴孔、半月ノ形ノ如シ、冬ヲ時トシテ、食フ、味、海豚ニ似テ、[illegible]　ナメウヲ　ナメリ

すなもち (名) 沙持　建築ニ、土臺、ニ、[illegible]ヲ持チ運ブコト　仕事ノ、道營ニハ、信者、多ク出デテ、助力ナドス。

すならすなら (副) すなすなニ同ジ　日本[illegible]、近松作ニ「小袖ノ擦イ衣ノテ、すならすならト歩ミ來ル」

すなりすなり (副) すなすなニ同ジ。　井[illegible]近松作[illegible]ズ、[illegible]セズ、土俵ノ中、すたりすなりト、摺リ込ンデ」

すなゐ (名) 淳和院　ぢゅんわゐん(淳和院)ノ略。(下ノ出典ヲ見ヨ)　閑田耕筆、一「高西、西院村、高山寺、モトハ、高西寺ト云ヘル事ハ、[illegible]記ニモ、六地藏廻リノ中ニ見ユ、此邊ノ田ノ名ニ、もぶいト云フ有、是ハ、淳和院ノ略ニテ、[illegible]、西院ノ、さいト唱ヘ、[illegible]、ぢゅさート唱フルニ同ジ、高西寺、[illegible]、淳和院ノ舊當ノ地ナルコト、分明ナリ、按ルニ、[illegible]、淳和院、北京、[illegible]西院トアリ」

すなゑ (名) 沙畫　乙[illegible]ナドノ爲シタル技、五色ノ沙ヲ手ニ握リ、指ノ股ヨリ漏ラシテ、地上ニ書畫ヲカク、先沙ニテ作リ了レバ、又、白沙ヲ握リテ、ス、跡ヲ、箒ニテ掃キ分ケテ、各、其袋ニ入ル。スナガキ。針の供養(安永頃)「砂ヲ摑ミ詠テ、字ヲ書ク

法師アリ」

すに (名) 酢煮　汁ニ、酢ヲ加ヘテ煮ルコト。スイリ。

すね (名) 髓　骨中ノ脂、今、髓ト云フ。　倭名抄、[illegible]「髓、[illegible]、骨中脂也　名義抄「髓、骨ノナヅキ　字鏡[illegible]「髓、[illegible]汁」天治字鏡、三[illegible]「髓、骨中脂也、保[illegible]乃奈[illegible]」[illegible]經私記音義、髓、[illegible]」親のすねをかじるト云フハ、脛ニハアラズ、コノ髓ヲ云フナルベシト云フ。

すね (名) 臑〔脛骨中ニモ、髓アルヨリ、云フカ〕はぎ(脛)ニ同ジ。脛　狂言記、[illegible]坊[illegible]ニ[illegible]ウタニヨッテ[illegible]カ流レテ、使ハレヌ」「親ノ前ニ、すねヲ投出シテ座ル不作法者」　臑に疵持つトハ、ウシログラシ。

すねあて (名) 臑當　鎧ノ具、臑ヲ包ムモノ、布、脛巾ナリ。布帛ニ、鐵板、鎖ナド附ケテ、綴ル。脛甲　[illegible]色[illegible]集、[illegible]、[illegible]阿[illegible]充」[illegible]、廿、兵[illegible]、[illegible]、[illegible]天」保元物語、二、白河殿攻落事「平野平太ガ左ノ臑當ヲ射切ラレテ、馬ノ太腹、彼方ヘ、ツト射通サルレバ、眞逆ニ倒レタリ」　太平記、六、關東大勢上洛事「長崎惡四郎左衛門尉ハ、云云、銀ノ臀着ノ臑當ニ」同、廿二、[illegible]六郎左衛門事「六郎左衛門、云云、大立揚ノ臑當ヲ、膝ノ下マデ引籠テ」　明德記、上「大内介、云云、小[illegible]、長刀ヲ切放サント、少、[illegible]仰キケル處ヲ、長刀ヲ取直テ、臑當ノ端レヲ、横樣ニ薙イダリケレバ、[illegible]、[illegible]、片股ヲ、カケズ切テゾ落シケル」

すねあらひ (名) 臑洗　他人ノ臑ヲ洗フ程ノ、賤シキ者。アシアラヒ　井筒業平河内通(享保、近松作)三「ヤイ、脚あらひ作ノ馬喰者」

すねおし (名) 臑押　一種ノ遊戲、二人、一方ノ臑ト臑トヲ相交ヘ、押シアヒテ、勝負スルモノ。　狂言記、れんちゃく「腕オシ、すねおし」[illegible]、石州長[illegible]「[illegible]、萩ノ花摺」[illegible]リアゲ、野ヲ行ケバ、すねおしガマシ、萩ノ花摺」

すねき (名) 〔拗ねる氣ノ中略〕　逆リテ、クネクネスル容子。　犬子集「待ツニ遲キ、花ハすねきノ、心カナ」

すねきち (名) 脛吉〔脛ヲ、擬人シタル語〕　すね(臑)ニ同ジ。(膝吉、同趣)

すねすねし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二)〔すねるヲ重ネテ、形容詞ニシタル語〕クネクネシ。甚ク、すねテアリ。物事ニ、執拗ニテアリ　日本[illegible](享保、近松作)一「心マデ、すねすねしく、親ノ眼ニサヘ、[illegible]マシキ性質」

すねっぱぎ (名) 臑脛　すねト、はぎト　[illegible](享保、近松作)一「[illegible]ヤレ、[illegible]レト傳ヘテ、八枚屑、[illegible]、[illegible]、ヤ、コラサ」

すねもの (名) 強者 拗者　スネル人。ツムジマガリ。執拗　信州川中島合戰(享保、近松作)二「アア冷エル事ヤト、圍爐裏ニ踏ミ出ス、すね者」「[illegible]すねもの」

すねる・ネル・ネレ・ネ・ネ・ネヨ (自動、下一)　我意ヲ張リテ、クネクネシクスル　逆リ慣テテ、他ニ從ハズ　拗[illegible]　兒教訓(宗祇)「人ニハすねテ、憤シテ」　合類節用集、九、言辭門、[illegible]、スネル」　狂言記、岡太夫「其ノ樣ニすねタ事ヲ云ハズトモ、今ノヲ、云ウテ聞カサシメ」

すのこ (名) 簀子　(一)〔家ノ内ニ、簀ヲ架シテ、床トシ、人ノ座所トシタルモノ〕　倭名抄、十[illegible]居宅具「簀、床上籍、竹名也、板[illegible]簀子、[illegible]乃古」字鏡[illegible]「簀、[illegible]也、[illegible]也」　狂言記、[illegible]庖丁「[illegible]、云云、板ナル鯉ヲバ切ラズシテ、すのこノ竹ヲ、一間外シ」(二)〔中世、竹ヲ改メテ、板トシタレド、尚、舊名ニ因ル、(今ノ世ノ緣ハ、幅五六寸ノ板、間ヲ透カシテ張ル)コレハ、廂ノ外ニアリ、(簀子緣ノ略)小板敷ニテ、竹簀、如ク、板ノ間ヲ、少シヅツ透カシテ張ル、故ニ、名アリ、(闇ヲ透カシテ面ヲ取ルハ、雨露ノ溜マラヌ爲ナリ)板敷。板緣。緣側。古ヘハ、寢殿ナドノ廂ノ外、正面ヨリ左右ニ廻リ、廣サ五尺ノ板敷、勾欄アリ、正面ニ、五級ノ階アリ、[illegible]アリ　[illegible]、二、[illegible]「[illegible]人、すのこニ臥シツツ、寢マリヌ」同、同卷[illegible]、門近キ[illegible]ノ、すのこダツ物ニ尻カケテ、トバカリ、月ヲ見ル」　後撰集、十一、[illegible]、三「人ノ許ニマカリテ、入レザリケレバ、すのこニ臥シ明シテ」　天德四年内裡歌合記「後涼殿ノすのこニ、北南ニ着キテ並ミ居タリ」　江家次第、[illegible]、元日宴會、白馬、[illegible]部[illegible]立三音聲入人[illegible]於簀子南階以西ニ」三代實錄、十一、貞觀七年九月十四日「步板、簀子、[illegible]、[illegible]、厚薄、云云、步板八枚、簀子十枚、云云」常山紀談、一「本丸ヨリ二ノ丸ヘ移ル廊下ノ路、すのこニテ作リタル」(三)〔簀子ヲ作ルベキ材〕　内匠寮式「[illegible]料、簀子廿六枚」(四)今、農家ナドニテ、家ノ中ニテ、竹ヲ編ミテ、坐臥ノ處トスル所。

すのこえん (名) 簀子緣　前條ノ(二)ニ同ジ。　狂言記、[illegible]「簀子緣ニ、スクト立チ」

すのこがは (名) 簀子皮　いわしくぢら　ノ條ヲ見ヨ　本朝食鑑、九、[illegible]「座頭鯨、云云、[illegible]長一丈餘、一片黑、一片白、比皮重疊作[illegible]」[illegible]、如、[illegible]竹片[illegible]、[illegible]簀子皮[illegible]也」

すのこんにゃくの (句)　四の五のヲ、戲レテ云フ語。　一葉句「月ノ梅、酢の蒟蒻のト、今日モ過ギヌ」

すのもの (名) 酢物　料理ニ、魚肉、蔬菜、スベテ、酢ニ浸シタルモノ(砂糖、味醂ヲ加ヘ、或ハ、白胡麻ヲ炒リ、擂リテ、加フ)

すのり (名) 洲海苔　洲ニ生フル海苔　いほぬし(増基)「すのり採ル、沼川水ニ、降リ立チテ、採レニモ先ハ、袖ゾ濡レヌル」

すは (感) 〔然はノ意カ〕人ヲ驚カシ告ゲ示スナドニ發スル聲。ソラ。ソレハ。

蘇破 著聞集、十七、恠異「すは見給ヘトテ、古狸ヲ投ケ出シタリケリ」更級日記(長元)長谷詣「打眠リタル夜、御堂ノ方ヨリ、すは稲荷ヨリ賜ハル、印ノ杉ヨトテ、物ヲ投ゲラルルヤウニスルニ」太平記、二、唐崎濱合戰事「すは取ラセント云フママニ」

ずは (辭) [不者] 物事ヲ、云云、せずはノ意ノ語。 神功稱制前紀、長歌「頭槌ノ、痛手負ハズハ、鳰鳥ノ、潛セナ」(負ハムヨリハ、入水セムヲ欲ス)

すはい (名) [楚] 〔すはえノ轉〕 すはえ(楚)ニ同ジ。 史記抄、十一、三十「荊ハ、荊楚トテ、薪ノ中ノ、長イすはいゾ」

スパイ (名) 〔英語、Spy.〕 犬。間諜。

すはう (名) [素襖] 〔古ク、すあをトアリ、素襖ノ音ニテ、布の襖ノ意ナリトモ云フ、或ハ、布の袍ト見テモ、通ゼムカ〕 古ヘ、庶人ノ常服、後ニ、侍(德川氏ノ制ニハ、六位(布衣)ノ次ノ士)ノ禮服タリ、製、直垂ニ異ナラズ、但シ、布地、五ツ所紋ニテ、腰板、相引ニ、紋、三所アリ、菊綴、胸紐、皆、革緒ニテ、下ニ、長袴ヲ着ク、上、下、同ジ染色トス、藍色、褐色、等、種種ナリ。 饅頭屋本節用集「素袍」 深窓秘抄「素襖、上下ト云、下部共ノ用ル也」 細流抄、狩襖(狩衣)「面、布ニテ、裏、絹也云、當時、すあをトテ着スルハ、此あをノ裏ヲ除ケタルナリ」

スハウ (名) [蘇方][蘇枋][蘇芳] 〔馬來語、さぱん(Sapang)ノ轉略ナリト云フ〕 (一)熱帶地方ニ産ズル樹ノ名、落葉木ニシテ、蛾形ノ黄花ヲ開クト云フ、外皮ハ白シ、皮ヲ去リテ、材ニテ舶來ス、楊弓ナドニ作ル、又、其削片ヲ、水ニテ濃ク煮テ、紫色ヲ染ムル染料トス 延喜式「蘇芳大十兩」 倭名抄 廿染色具「蘇枋、俗云須方」 (二)又、其染料ニ、白礬ヲ加ヘテ染メタル色ノ名、紅染ニ似テ、微シ暗シ。 土佐日記、二月朔日「松ノ色ハ青ク、磯ノ浪ハ雪ノ如クニ白ク、貝ノ色ハをはうニテ」 (三)襲ノ色目ノ名、表ハ、薄赤クシテ、裏ノ、濃キ赤ナルモノ。スハウガサネ。 源、三十四、下、若菜、下 廿九「童ハ、青色ニ、をはうノ汗衫」

ぞばう (名) [主坊] 〔ばうぞノ倒語〕 ばうぞ(坊主)ニ同ジ。 元祿曾我物語(都の錦)堺町芝居「頭坊雲樂ヂャ、彌之助踊ヂャ」

すはうえぼし (名) [素袍烏帽子] 侍烏帽子ノ一名。

スハウがさね (名) [蘇芳襲] をはう(蘇芳)ノ(三)ニ同ジ。 源、三十四、下若菜、下 廿七「上達部ハ、云云、匂モ無ク黑キ上ノ衣ニ、をはうがさね、蒲萄染ノ袖ヲ、俄カニ引キ綻バシタルニ」

スハウがひ (名) [蘇芳貝] ウマノクボガヒ。ニシキガヒ。 康頼本草、下 四十二「貝子、紫色貝也 宇末乃久保加比、須和宇加比」

スハウぎく (名) [蘇芳菊] 襲ノ色目ノ名、きくがさね(菊襲)ニ同ジ。

スハウのかう (名) [蘇芳香] 襲ノ色目ノ名、表ハ蘇芳ニテ、裏ハ蘇芳ノ黄バミタルモノ。(胡曹抄、西三條裝束抄)

スハウのき (名) [蘇芳木] (一)をはう(蘇芳)ノ(一)ノ異名。(二)はなぞはう(紫荊)ノ條ヲ見ヨ

スハウのにほひ (名) [蘇芳匂] 襲ノ色目ノ名、女房ノ衣ニテ、下ハ、蘇芳ヲ濃クシ、上ハ、薄クシタルモノ、(雅亮裝束抄)

スハウばな (名) [蘇芳花] はなぞはうノ條ヲ見ヨ。

すはえ (名) [楚][氣條] 〔すくすくト生えタルモノノ意、條ハ、小枝ナリ〕 (一)樹ノ幹根ナドヨリ、殊ニ、直ク細ソク、長ク生ズル枝。訛シテ、ズハエ。スハイ。スワイ。 字鏡 四十六「檖、弩可(弩牙ノ誤)、須波江」 天治字鏡、七 四「檖、弩牙也、(つゐかけ)須波紅」(紅ハ、江ノ誤) 名義抄「楉、シモト、スハヘ」「楚、スハヘ」「荊、スハエ」 字類抄「楉、楚、スハエ」(楉ハ、若木ノ合字) 倭名抄、十六 七 魚鳥類「魚條、楚割、須波夜利」(すはえやりノ約) 此語ノ假名遣ノ說、種種ナリ、大嘗祭式ニ「椎枝、古語所レ謂志比乃和惠」トアリ、末弱ノ約轉ナリト云フ說モアレド、は行、わ行ノ發音ハ、平安朝ノ初ヨリ、亂レタレバ、何レトモ定メ難シ、字鏡ニ「嬋媛、宇留和志」靈異記ニ「花、ウルハシ」姝、于留和シ」絕、タヘ」 名義抄ニ「凋、カハク」惶、アハツ」沃、ウルヲス」ナド、見ユ、式ノ和惠、何トモ解セラレヌ語ナリ、椎ニ、氣條ナシ、別語ナラム、況シヤ、古語トアルヲヤ、椎ノ枝ハ、スクスクトハ生エズ。(二)刑罰ノ具。笞。 孝德紀、大化二年三月「笞杖」

ずはえ (名) 前條ノ語ノ訛。 盛衰記、廿八、源氏追討使事「白淨衣ニ立烏帽子着タル老翁、六人、梅ノ楉ニ、卷數附テ」

すはえしりがい (名) [楚鞦] 〔東雅「俗ニ、すはえしりがひト云フモノニ、楚鞦ノ字ヲ用ヒシ如キハ、楚ノ字、訓ムデ、すはえトセシナリ、楚ノ字ノ音ヲ轉ジテ、をはトハ呼ブベシ、すはえト云フ如キハ、イカニヤアルベキ、又、極楚ノ、楚ヲモ、すはえト讀ムナリナドモ云フナリ、コレハ、細枝ノ義ニ因レリト見エタリ」ト、參考ニ供スベシ〕 鞍具ノ名、鞦ノ一種、革ニテ作リ、總ナキモノ。 後松日記、十「楚鞦」注「物具」 御禊行幸服色部類「寬治時節記云、外記二人」注「三善雅仲、惟宗仲信、倭鞍、楚鞦、結唐尾、各著二深綠袍一」 中右記、寬治三年九月十五日「有二齋宮群行一、四位、巡方帶、螺鈿劍、楚鞦、杏葉」 爲房卿記、承曆二年九月八日「今日伊勢齋宮、亥剋遷二御野宮一、云云、侍從、五位四人、云云、四位四人、云云、件侍從等、云云、皆、倭鞍、楚鞦、杏葉、巡方、着レ靴」

すばきり (名) [結縷草截] 結縷草ノ塊ヲ、茅葺屋根ノ棟ノ上ニ置クモノ、鳶尾草ナド、雜フルモ、アリ。 名言通、上「すばきりト云フ物アリ、白昌ノ叢生ニシテ、くれノ中ニアルモノ、其ママ、截トリ、屋脊ニ用ユ」

ぞばく (名) [寸白] (一)寸白蟲ニ同ジ。(二)轉ジテ、婦人生殖器病ノ總名、隱名ナリ。訛シテ、ぞばこナド云フ、又、轉ジテ、白帶下ヲモ云フ。 榮花物語、七、鳥邊野「中宮、若キ御心ナレバ、云云、御アリサマヲ、醫師ニ語リ聞カスレバ、寸ばくニオハシマスナリトテ、其方ノ療治ドモ、ツカウマツル」 字類抄「寸白、スハク」 雜兵物語(天和、貞享頃)下「草履取、折フシ、ぞばこガ起ッテ、細腸ガ痛ンデ」

ぞばこ (名) [寸白] 〔前條ノ語ノ轉〕 前條ノ語ニ同ジ。

すばし (名) [簀橋] 木ヲ、簀ノ如ク、數多並ベテ架ケタル橋。 古事記、中(垂仁)四十「肥河之中、作二黑樔橋一」

すばしこ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、一) すばやしニ同ジ。

すばしり (名) 洲走 〔瀨走りノ義〕 鯔ノ、おぼこヨリ長ジタルモノ。鮵 林逸節用集「鮵、スバシリ」 撮壤集「鮵鮁、スバシリ」

すばし・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［䱱］水面ニ簀ヲ立テ、魚ヲ迎ヘ、進メバ、驚キ躍リテ、簀ノ中ニ走リ入ル。跳鋋細ソキ竹ヲ簀ニ編ミテ、魚ヲ追ヘバ、簀ノ上ニ跳ネアガルヲ取ルヲ、簀引ト云フ。

すはす（動）［他］拭フ。ノゴフ。字鏡、一廿「[illegible]也、拭也、乃己不、又、[illegible]」、字鏡抄[illegible]同ジ」

すはすは（副）［すはヲ重ネタル語］（一）ソレハソレハ。ソラソラ。盛衰記、十九、「[illegible]ノ智ヒトシテ、一日ナレドモ、數フ日ニ[illegible]カズ、すはすは只今撫シ殺サントテ」（二）容易ク、物ヲ切ル狀ニ云フ語。狂言記、庖丁聟「刀バヤニ、スハリスハリ、すはすはト作ッテ」

すばすば（副）（一）物ヲ吸フ狀ニ云フ語。[illegible]集、十七、變化「俯キテ、世ニ心ヨゲニ、すばすばト、吸ヒ飲ミテケリ」（二）シナヤカニ、物ニ觸ル狀ニ云フ語。宇治拾遺、一、第六條「毛ノ中ヨリ、松茸ノ大キヤカナル物ノ、フラフラト出テ來テ、腹ニ、すばすばト打チツケタリ」

すぱすぱ（副）（一）煙管ニテ、烟草ノ煙ヲ吸フ音ニ云フ語。小兒語ニ、ぱッぱ。（二）容易ク物ヲナス狀ニ云フ語。「大根ヲ、すぱすぱ切ル」

ずばずば（副）（一）前條ヲ強メテ云フ語。「ずばずば切ル」「ずばずば行ル」（二）無遠慮ナル狀ニ云フ語。「ずばずば言フ」

すはだ（名）素肌　次條ノ語ニ同ジ。甲冑ヲ着セズシテ、戰ニ出ヅルヲ、素肌者ト云ヒ、又、素肌攻め、ナドモアリ。太平記、三、赤坂城軍事「矢、正成ガ[illegible]ノカカリニ答ヘテ、纔カニ立チスト覺エケルガ、すはだナル身ニ、少シモ立タズシテ、筈ヲ反シテ、飛ビ翻ル」盛久記「すはだナル者ノ、敵ノ矢ニ當ン事」

すはだか（名）素裸　衣、無クシテ、肌ノ、露ナルコト　マルハダカ、マバダカ、アカハダカ。赤裸　國性爺後日合戰（正德、近松作）五「敵陣へ、素裸デ來ル、世伜」

すはだし（名）素跣　せんそく（跣足）ニ同ジ。

すはだぜめ（名）素肌攻　甲冑ナドヲ着セズシテ、素肌ニテ、敵ニ攻メカカルコト。すはだ（素肌）ノ條ヲ見ヨ。

すはだむしや（名）素肌武者　甲冑ヲ着セズシテ、戰場ニ出ヅル武者。甲州眞傳、歩騎[illegible]用口傳、四、行軍事「牛頭武者トハ、薄手ヲ負、其[illegible]、未[illegible]サルニ、大合戰アレバ、出ズシテ叶ヌ故、ソレゾレノ支配頭ヘコトハリ、具足ヲ着テ出ルモノヲ云フ、又一說ニ、手負武者、頭ニコトハリ、具足ヲ着ズ、羽織バカリニテ出ルヲ云フトノ二說ナリ」（後說ヲ採ルベシ）吉野都女楠（正德、近松作）三「すはだ武者ノ錆刀、拾ヒ弓ニ、拾ヒ矢」

すはだもの（名）素肌者　すはだ（素肌）ノ條ヲ見ヨ。

ずばと（副）勢ニ乘リテ、斬リ入ル音ナドニ云フ語。心中天網島（享保、近松作）名殘橋「夫婦ノ魂、放レヌ印、合掌ト、揚差ずばと抜キハナシ、元結際ヨリ我ガ黑髮、フツツト切ッテ、是レ見ヤ」「ずばと斬ル」

すばなし（名）素話　（一）酒食ナキ會話。白話（二）鳴物ナキ落咄。

すばな・し・キ・ケレ・ク・ク（形、一）無衆望　衆人ノ望ミナシ。ツマラヌモノナリ。好古日錄「古書ノ假名文ニ、すばなきモノヲ指テサセ給ハヌ惡ノ程トアリ、すばなきハ、無二衆望一ナラム、江家次第二、無二衆望一下部トアリ、鄙野ノ辭ニ、すッぱト云フモ、此傳訛ト見ユ」

すばな・る・ルル・ルレ・レ・レヨ（自動、下二）［素離るノ意カ］獨リ離レテ居ル　源、

三十九、御法「今宵ハ、すばなれタル心地シテ、無徳ナリヤ」

すはひ（名）［僧牙］すあひノ誤。

すばひ（名）［素灰］はひ（灰）ト云フニ同ジ。浮世風呂（文化、三馬）四編、上「素灰ト、消炭ヲ、俵ニシテ賣ルハ、お内儀ノ私得ニナル」

すはひら（名）諏訪平　麻布ノ名、袴地ス、信濃、諏訪郡、上諏訪ヨリ製出ス。

すはぶき（名）咳　しはぶき（咳）ニ同ジ。字鏡集「咳、スハブキ」太秦廣隆寺牛祭祭文「安多腹、頭病、風、咳嗽」

すはま（名）洲濱　（一）洲アル濱邊ノ、凹凸セル處。スサキ。洲ノ一方、陸地ニナリタルヲ片洲ト云フ。又、泉水ノ稱。䱱 名義抄「濱、スハマ」「渚、スハマ」古今集、五、秋、下「寬平ノ御時セラレケル菊合ニ、洲濱ヲ造リテ、菊ノ花、植ヱタリケルニ」宇津保物語、藤原君「イトヲカシキすはまニ、千鳥ノ行キチガヒタル」中務集「中宮ノ離合ニ、河原ノ形、すはまニ造レリ」雍州府志、八、古蹟門「洲濱町、在二岩神通二條南、俊俗、假山池水、謂二洲濱一、泉石之模樣、象二水邊洲渚一之謂也、今[illegible]洲濱、或謂二泉水一、斯處、今不レ知二何人之爲二泉水一也」（二）轉ジテ、スベテ、製作、畫樣、模樣、等ノ緣ニ、其象ヲカタドレルモノ。（三）又、其形ニ作レル物ノ臺、洲濱の臺ナド云フ、島臺モ、コレナリトゾ。貞丈雜記、七、酒盃「今世、島臺ト云フ物、昔モ有レ之、云云、洲濱形ニ、臺ノ板ヲ作ル、海中ノ島ノすそノ、海ヘサシ出タル形ナルヲ、洲濱ト云フナリ、サレバ、島形トモ、洲濱形トモ云フ、其上ニ、肴ヲ盛ル也、飾ニハ、岩木、花鳥ナドヲ置ク也」松屋筆記、百十二、蓬[illegible]、島臺、洲濱「島臺ハ、蓬萊島ノ造物ノ臺ナレバ、サ云フ也、洲濱ナド、同物也」（四）餅菓子ノ名、黄粉ト、米ノ粉トヲ和シテ、竹ノ皮ニ包ミテ蒸シ、竪ニ數條ノ渠ヲ押シツケ、解

キテ、輪切ニシ、緣、凹凸形ヲナシタルモノ。[illegible]、六、服食門「州濱、又、云二豆飴一」雍州府志、六、土産門「洲濱、或、謂二豆飴一、[illegible]大豆粉末煉レ之、作二三角等形一、然以二竹楾一包レ之、[illegible]食二竹楾霰飴一之、其狀似二洲濱一、故今專、謂二洲濱一」和漢三才圖會、百五、造醸「豆飴（俗云、豆飴）、謂二洲濱一（本出石見之說、謂二洲濱末一）、按、字彙云、飴和二豆曰[illegible]、造法、大豆[illegible]、用二餅飴一和レ之如二纓形一、[illegible]竹皮周切レ之、如二洲形一名、名二洲濱末一」（五）鞍ノ名所。ワニグチ。ミニレ。

すはまがた（名）洲濱形　洲濱ノ如ク、輪郭ノ出入シタル狀ヲ、象リタルモノ。盛衰記、十一、金剛力士兄弟事「射的ノ上手ニテ、百手ノ矢ヲ以テ、的ヲ洲濱形ニ射成シケレバ」

すはまだい（名）洲濱臺　緣ノ、洲濱形ナル臺。島臺。洲濱ノ條ノ（三）ヲ見ヨ。

すばま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）［統］（すぼまるノ轉）一ツニナル。集マリ定マル。マトマル。スマル。スバル。統一

すはや（感）［すはニ、やヲ添ヘタル語］人ニ警告スル時ナドニ發スル聲。ソソヤ。驚破　太平記、八、[illegible]河合戰事「すはや、敵ハ色メキタルハ」白居易、長恨歌「漁陽鼙鼓動レ地來、驚破霓裳羽衣曲」

すはやかに（副）「すはハ、そは（岨）ノ轉ナルベシ」高ク聳ユル狀ニ云フ語。ソビヤカニ。今昔物語、廿九、第三語「長、すはやかニテ、少シ赤鬚ナル、アリケリ」

すばや・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）［素早］（すばハ、發語カ）爲ルコトニ、敏シ。氣轉、ハヤシ。スバシコシ。ハシコシ。敏捷　機敏「擧動、すばやし」「すばやく逃ゲル」

すはやッと（副）すはやニ同ジ。日本武尊吾妻鑑（享保、近松作）一「馬、鼻ヲ向ベシガ、すはやッ

と聲ヲカケ、一鞭クレテ驅ケ」

すはやり (名) 楚割 〔楚ト、割トノ約、楚割トモ云フハ、更ニ、其約ナリ、楚ノ音ナラズ〕魚肉ヲ、細ソク割リテ、鹽ヲ附ケ、乾シテ、氣條ノ如クシタルモノ。削リテ、食用トセシガ如シ、鯛ノすはやり、平魚ノすはやり、鮫ノすはやり、すはやり鮭、雜魚ノすはやりナド、古ク見エタリ。略轉シテ、ソハヤリ。スハリ。ソワリ。魚條 倭名抄、十六2魚鳥類「魚條、讚三須波夜利、本朝式云、楚割」 撮壤抄「魚條、楚割、スハヤリ」 遊仙窟「魚條」 大膳職式「平魚楚割」 內膳司式「楚割鮭」 宮內省式「鯛楚割」 庭訓往來「楚割、鮭ヲ鹽漬ケズシテ、乾シテ、削テ、供」之」 吾妻鏡、十、文治六年十月十三日、佐佐木盛綱、云云、鮭ノ楚割ヲ獻ズ、賴朝ノ歌ニ「待チエタル、人ノ情モ、すはやりノ、わりナク見ユル、心ザシカナ」(すはえわりノわりなくノ意)

すはら (名) 〔素腹ノ義カ〕婦人ノ、子ヲ孕マヌヲ稱セル語。ウマズメ。 榮花物語、二、花山「御子モオハセヌ女御ノ、后ニ居給ヒヌル事、云云、すはらノ后トゾ附ケ奉リタリケル」

すばら・し シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 素晴 甚ダ盛ンニ、大イナリ。嚴シ。エラシ。非常ナリ。雄偉 「すばらしい人出」「すばらしい美人」

すはり (名) 楚割 〔すはえわりノ略〕すはやりニ同ジ。訛シテ、そわり。 齋宮寮式「鯛楚割、鮫楚割、各、七斤八兩」

すばり (名) 窄 〔すばりわかしゅノ下略〕若衆 カゲマ。 犬子集「薄ナサケ、カクル若衆ハ、すばりニテ」兒ノ淫編ニ、一夜寢ヨカシ」

すばりかわき (名) 窄乾 すばりわかしゅニ同ジ。 增補、下學集、上、一、人倫門「窄乾、口嗟呼 無、心若衆ヲ云、或作乾二」

すはりすはりと (副) 物ヲ撫デ擦ル音ニ云フ語。 盛衰記、一、五節夜闇討事「忠盛、見咎テ、物ヲバ云ハズ、一尺三寸ノ鞘卷ヲ抜、手ノ内ニ、翫ク様ナルヲ、鬢ノ髮ニ、すはりすはりと掻撫デ」

すぱりと (副) 物ヲ、勢ヨク斷チ切ル狀ニ云フ語。スポリ。

すばりわかしゅ (名) 窄若衆 〔すばりハ、小ノ義、卽チ、スボマルコト、干すばるナドノ如キ語類〕男色ヲ賣ル少年。男色。カゲマ。若衆。 臘筑波「夜逃ニシタリ、此レハシリモノ」すばり若衆ノ、痔ヤ起ルラン」 犬子集「我レバカリ、物ヲ思ウテ、タシナミヌ」すばり若衆モ、人ノ許サズ」

すばる (名) 昴 〔形、御統ニ似タレバ云フカト云フ〕星ノ宿ノ名、七星、相、聚リ、統べ括ラレタル如キ象ヲナセルモノ、古クハ、六星、火神ナリ、トアリ、後世、觀測シテ、七星ナリトゾ。又、六連星。スバルボシ。ミスマル。 倭名抄、一、天部「昴星、六星、火神也、須八流」 名義抄「昴、スバル」

すば・る ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 統 (一)〔すばまるニ同ジ。 名義抄「總、スバル」字類抄「窄、スバル」總、スバル、スマル」 延喜六年日本紀竟宴歌、天穗日命「天ノ穗日、神ノ皇祖ハ、八尺瓊ノ、五百津偶波屢ノ、玉トコソ聞ケ」 (二)縮小スル。縮ミ固マル。「干すばる」

すばるぼし (名) 昴星 前前條ノ語ニ同ジ。 運歩色葉集「昴星、スバルボシ」

すび (名) 甕尾 すゅび(甕尾)ニ同ジ。 字類抄「甕尾、スビ」

すひあ・ぐ グル・グレ・ゲ・ゲ・ゲヨ (他動、下二) 吸上 水ナドヲ、機ナドニテ吸ヒテ、上方ニ來ラシム。

すひあげ (名) 吸上 スヒアグルコト。

管ニ機アリテ、水ヲ吸上グルモノ。

すひかつら (名) 犬神ノ類。(下ノ出典ヲ見ヨ) 落髮工醫筆「何處ニモ限ラズ、所所ニ、すひかつらト云フ物アリトナン、ソノ祀リ樣ハ、人ノ知ラザル、密ナル所ニ、穴ヲ掘テ、蛇(蛇カ、蚫カ)ヲ數多入置タルヲ、神ニ崇メテ遣フ法、大カタ、犬神ニ等シク、憎シト思フ者アレバ、すひかつらヲ着クルニ、着ケラレタル人、熱、甚シク、身心惱亂スルヲ、病家、ソレガ故ナリト知リヌレバ、財寶ヲモテ、すひかつら使ヒニカクレバ、病、忽ニ愈ユト」

すひかづら (名) 〔水ヲ吸ふ蔓ノ義、水邊ニ生ズト云フ〕にんどう(忍冬)ノ古名。 本草和名、上十九「忍冬、須比加都良」 倭名抄、廿四葛類「忍冬、須比可豆良」 字鏡五十八「忍冬、須比豆良」

すひがら (名) 吸空 (一)烟草ヲ吸ヒタル後ノ灰。烟糞 喫烟餘燼 本朝若風俗(貞享、西鶴)六「烟草ノ吸ひがらニ、袖ノ烟ヲ知ラザルニ」 (二)善良ナル部分ヲ吸取リタル、後ノ滓。 大織冠(正德、近松作)三「一期連添フ大事ノ男、すひがらニセマイト、本女房サヘ、懸引スル」

すびき (名) 素引 白引 (一)弓ニ、矢ヲ矧ガズシテ、弦ノミ引クコト。虛控 空張(武經開宗) 盛衰記、廿二、衣笠合戰事「弓、云云、押ハリテ、素引シタリケレバ」 義經記、二、伊勢三郎初て義經の臣下に成る事「白マ弓押シ張リ、すびきシ、肩ニカケ」 (二)敵ナキニ、矢ヲ射ルコト。 太平記、十四、宮方京攻事「白引ノ精兵、畠水鍊ノ言葉ニ怖ルル人、アラジ」

すびき (名) 簀引 網ノ一種、すばしりヲ捕ルニ用キルモノ。すばしるノ條ヲ見ヨ。

すひくち (名) 吸口 (一)烟管ノ、口ニ當ル處。がんくびノ(一)ニ對ス。(烟管ノ條ヲ見ヨ) 本朝三國誌(寶永、近松作)四「烟管ノ細キ吸口ニ、後ノ大事モ見通サレ、二人モ雁首

傾ケテ」 (二)卷煙草ノ、口ニ當ル部分ニ、別ニ、紙ナドヲ付ケタルモノ。(三)卷煙草ヲ插込ミテ、吸フ具。(四)柚子、木芽、蕗、薹ナド、吸物ニ加ヘテ、香ヲ添フルモノ。香味料。

すひこみ (名) 吸込 (一)吸ヒ込ムコト。(二)手水鉢ノ下ノ水溜ノ、中央ノ穴、水、外へ流レズ、地中ニ吸込ムヤウニ作ル。

すひこ・む ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 吸込 吸ヒテ、中ヘ入ル。「空氣ヲ深ク吸込む」

すひだし (名) 吸出 膏藥ノ、膿ヲ吸出サシムルニ用キルモノ、ばぶりノ類。

すひだ・す ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 吸出 吸ヒテ、外ヘ出ダサシム。「膿ヲすひだす」

すひぢ (名) 洲泥 洲土 ツチ。ドロ。 名義抄「洲土、スヒヂ」

すびつ (名) 〔炭櫃ノ略ト云フ〕爐。キロリ。扁ク大キナル物ニ、灰ヲ盛リテ、炭火ヲ入レ置クモノ。(筠庭雜考) 字類抄「爐、スビツ、火爐」 枕草子、二、十四段、すさまじきもの「火燒サヌ火桶、すびつ」 大鏡、中、閑院左大將「す櫃ニ、銀ノ提二十バカリヲ据ヱテ、サマザマノ藥ヲ置キ竝ベテ、祭リタマフ」 無名抄「火燒サヌ、夏ノすびつノ、心地シテ、人モスサメズ、スサマジノ世ヤ」 散木集(俊頼)九、雜、上「前ノす櫃ニ、スル事モ無クテ、鐵輪ト云フ物ノ立テルヲ」 方丈記(長明)「枕ノ方ニ、すびつアリ、コレヲ、柴折り燻ブル因トス」 今ハ、床ヲ切リ落シテ作レル火燵ノ、灰ヲ盛リ、火ヲ貯フル物ノ名トナル、石ニテ作レルアリ、木ニテ作リ、石灰塗ニスルアリ、多クハ、方形ナリ。

すひつ・く ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 吸附

吸ヒテ、〓レ〓、〓〓〓〓〓七、〓化「〓シゲニ思ヒテ、すひつきマヰラセケリ」 〓性〓合戦(近松作)〓〓「君ハ辭貝ト吸ひつけド、我レハ鮑ノ片思ヒ」「〓ガすひつく」

すひ・つ・く・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 吸附 スヒツクヤウニス。吸ヒテ、他ノ物ヲ、附クヤウニス。東海道名所記(〓〓)一「〓ヒハ、吸ひ附けタル煙管ヲ所望シテ」

すひつけタバコ (名) 吸附煙草 火ヲ吸附ケ、直チニ吸フヤウニシ、人ニサシ出ス煙草。丹波與作(寶永、近松作)中「足〓テ、〓打ッテ、吸付煙草ノ煙管ノ雁首」

すひ・づつ (名) 吸筒 酒、又ハ、水ヲ入ルル、竹ノ筒、又ハ、其他、筒形ノ器 ササエ。〓〓〓〓〓〓、近松作〓「トント〓ツレバ、云云、何ト〓〓イ、〓、〓、〓ト」

すひ・づら (名) 忍冬 すひかづら(忍冬)ノ異名、其條ノ出典ヲ見ヨ。

すひとりがみ (名) 吸取紙 いんきニテ書キテ、未ダ乾カヌヲ、上ヨリ押シテ、吸ヒ取ラスル紙 スヰガミ

すひ・と・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 吸取 (一)吸ヒ出シテ、取ル。「〓〓ヲすひとる」 (二)セビリトル。掠取 〓〓〓〓〓〓〓〓(〓近松作)一「百姓ハ、頭数ニセブリ取リ、吸ひ取り」

すひ・ふくべ (名) 吸瓢 醫術ノ具、硝子製ニテ、圓ク、内、空シク、口、窄マリタルモノ、附木ノ火ニテ、内ノ空氣ヲ燒キ、水蛭ニ血ヲ吸ハセタル後ナドニ當テ、吸ヒツカシメ、血ヲ吸出サシム。

ス・ヒン (名) 師兄 〔字ノ宋音〕 禪家ニテ、兄弟子ノ稱 コレニ對シテ、弟弟〓〓〓ト云フ 〓〓〓〓〓〓〓〓ニ下〓〓、下、〓〓、〓〓〓〓〓〓、下、〓〓、下〓〓〓〓「ソノコノウミト思ヘルニテトモ〓〓、コノウミ、〓〓ニマサリタルヲ云ヘリ、〓〓〓ト云フガ如シ」

すひ・もの (名) 吸物 アツモノ。味噌汁、すまし汁ナドニ、菜、肉ヲ入レテ煮タルモノ。二の汁ノ次ニ出ス。羹 鈴鹿家記〓〓〓〓〓〓〓〓十二月廿六日「〓〓〓〓〓〓ヨリ〓〓〓〓〓、云云、〓〓ノ〓〓、〓〓〓〓〓〓〓心中〓〓〓〓、〓〓〓〓〓〓〓〓ハ、云云、サラバ何ゾお吸物ト、〓〓カシテソケチニケル」

すびらき (名) 柄開 巣ノ條ノ(三)ヲ見ヨ。

す・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (他動、四) 吸 「〓〓ヨリ云フ、中〓ニテ、すふる、吐くニ對ス」 (一)氣ト共ニ、口ヘ引キ入ル。スヌル。土佐日記、正月元日「タダ、押鮎ノ口ヲノミゾすふ」〓石集、〓、下、第九條、大蛇、云云、昔ヲ思ヒテ、〓ヲ〓ガル、〓多クすひ食フニ」〓〓〓、上、廿八〓、〓〓〓〓〓〓之〓ニ「〓ヲすすふ〓〓ヲすふ」 (二)吸ヒ取ル。吮 「〓ヲすふ」血ヲすふ」 (三)浸ミコマス。吸收 「地、水ヲすふ」 (四)引キ寄ス。引 〓異記、上、序「〓ニ利貸ニ貪ニ財物ニ〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓不與リモニ〓石、〓ヲすふ」

す・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) 窄 スボマス。縮マス。 御伽草紙、廿四孝、今マデ猛キ形ニテ、掴リ食ハントセシニ、虎、俄ニ尾ヲすべテ、逃ゲ退キケレバ」

す・ぶ・ブル・ブレ・ベ・ベ・ベヨ (他動、下二) 統總 〔前條ノ語ノ轉〕 (一)一ツニナス。集メ括ル。クルム。總ムル。束ヌ。統括ス 字鏡〓〓、スブ、フサヌ」垂仁紀、廿五年二月「〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓」萬葉集、三〓、〓タサレバ、浪〓ス池ノ、〓葉ニ、玉ユリすぶる、風ノ涼シサ」 (二)配下ニ治ム。支配ス。統治ス。管

スフウン (名) 〔英語、Spoon.〕 西洋形ノ匙。

すぶくろ (名) 素袋 刀ノ鞘袋ノ一種。〓〓〓〓〓刀、〓指ハ、鹿ノ皮ノすぶくろナリ」

すぶすぶ (副) 窄マリタル狀ニ云フ語。古事記、上「内ハホラホラ、外ハスブスブ」

ずぶずぶと (副) 〔ずぶりとノ條ヲ見ヨ〕 (一)物ヲ、刺シ貫ク狀ヲ云フ語。 (二)物ノ、水ニ入ル狀ヲ云フ語。

すぶた (名) 簀蓋 竹ノ簀ニ、檜物ヲ縁トシタルモノ、夏、飯櫃ノ蓋ナドトス

すぶりと (副) 水ニ入ル音ニ云フ語。「水ニ、すぶりと落チ入ル」

ずぶりと (副) 〔前條ノ語ヲ濁ル〕 水ニ入リ、又ハ、柔キ物ニ突キ込ム音ナドニ云フ語。ズンブリト。「ずぶりと陷ル」「ずぶりと刺シ込ム」 重ネテハ、ずぶずぶとトモ云フ。

すべ (名) 辷 辷ルコト。スベリ。

すべ (名) 〔爲方カ、爲可カ〕 爲べキ手段。セムカタ。セムスベ。名義抄「將爲、セムスベ、爲之爲、セムスベ」景行紀、十八年四月「〓中鎮、大、不知所爲、〓〓之所〓手足」〓〓〓〓即位前紀「不〓所由」萬葉集、四、長歌「言ヒヤラム、爲便ヲ知ラニト」同、五、長歌「言ハム爲弊、セム爲便知ラニ」同、同「〓妹ガ心ノ、〓別モ〓別ナサム」

すべ (接頭) 皇 すべら(皇)ニ同ジ 新年祭祝詞「皇睦神漏伎命」、すべ神」

スペエド (名) 〔英語、Spade.〕 西洋骨牌ノ札ノ名、心臟形ニ似タル鋤形ヲ描キタルモノ。(えべたノ條ヲ併セ見ヨ)

すべ・がみ (名) 皇神 神代ノ神ノ尊稱。スメガミノ、スベ、〓〓 スベラギノカミ 〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓トキマセシ皇神「〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓皇ニ、十ラマシモノヲ、すべ〓〓〓〓ニ取ラレテ、〓〓ハ、マシヨ」

すべからく (副) 須 〔可爲かるノ延、いはく(曰)ノ條ヲ見ヨ〕 べしニ、須、應、當、ナドノ字ヲ宛ツルニ別タム爲ニ、須ノ音ニ附ケテ讀ミ習ヘル漢籍讀ナリト云フ、須、教、應、行、宜、定、ノ類ニ〓〓メ爲ベキ方法ヲ立テ、又ハ、示スヤウナル意ニ云フ語。多クハ、下ニ再ビ、すべしト受ク。〓〓〓、三十二年四月 〓〓〓〓〓〓以〓〓〓〓〓打〓〓、封〓〓任〓〓〓〓〓〓、スベカラク、云云、スベシ」著聞集、二、〓〓、一〓〓大〓〓〓〓「〓〓〓〓ヲ〓シテ、すべからく、一切ヲ渡スベし」「すべからく行フべし」

すべからくえ (副) 須 前條ニ同ジ。大〓、上、〓一條「すべからくえ、次第ノママニ、一ノ御子ヲナム、春宮トすべけれド、〓見スベキ人無キニ因リ、思ヒカケズ、サレバ、二ノ宮ヲバ立テ奉ルナリ」

すべくくり (名) 總括 スベ、ククルコト。取リシマルコト。ソウククリ。シメククリ。

すべ・くく・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 總括 取リシマル。總括ス。統括ス。

スペクトル (名) 〔英語、Spectrum.〕 光線ヲ、ぷりずむナドニテ、屈折、分散セシメテ生ズル、種種ノ色ノ層。

すべしもとどり (名) 垂髻 古へ、成人ノ女ノ髮風、全髮ヲ、頂上ニ束ネ結ヒテ、其末ヲ、背ニ垂ラシオクモノ、神代ヨリ、江戸時代ノ初マデ、貴賤上下ノ女ハ、皆、此如クナリシナリ、故ニ、女ヲ、髮長トモ云フ、後ニハ、貴婦人ノ、式正ニノミ結フ

コトトナリ、さげがみトモ云フ。スベラカシ。墮髻　天武紀、下、朱鳥元年七月「婦女垂髪于背、猶如故」

〔すべ・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔辷〕〔「すべる（辷）ノ他動」（一）滑ラカス。滑ラカシテ、脱グ。　源、十、榊廿四「御衣ヲすべし置キテ、居ザリ退キ給フ」同、三、空蟬十「脱ぎすべしタル薄衣ヲ取リテ」狹衣、三、下三十六「御袖ハ、トミニモ許シ給ハズ、云云、心ニモアラズ、引キすべしテ、立出デ給フ」落窪物語、一「女、衣ヲ引キ着セ給フニ、單モ無クテ、イト冷ケレバ、一ツヲ脱ギすべしテ、起キ出給フ」（二）滑ラカニ、磨キ洗フ。

すべ-すべ（副）〔滑滑〕物ノ、滑ル狀ニ云フ語。甚ダ滑ラカニ。ヌラヌラ。　狂言記、末ひろがり「信濃木賊ヲカケテ、磨イタニヨッテ、すべすべ致ス」

スベタ（名）〔劍ノ西班牙語、Espada.（英語、Spade.）ノ訛ニテ、其頭ノ象ヲ、牌面ニ記シタルモノヨリ云ヘルカ〕西洋骨牌ニ云フ語、一枚ガ、一ニナラデハ價セヌ、平凡ナル牌ノ稱。

スベタ（名）〔素女〕（一）安永七八年頃ヨリ、美カラヌ女ヲ、すべたト云フハ、前條ノ骨牌ヨリ出タル詞トゾ。（醜ヲ、へちゃトモ云フト）　浮世床（文化、三馬）初編、中「己ガ、すべたヲ持、タカラ、負惜ヲ云フヂャアネエガ」（二）伊豆ニテ、色情深キ女。（男ノ、すけべゑニ對ス）

⁘すべっ-こ・い（形）滑ラカナリ。

〔すべ-て（副）〔總〕〔統〕〔都〕〔渾〕（一）悉ク束ネテ殘ラズ。皆。　字類抄、都、スベテ、總、スベテ」古今集、序「すべて、千歌、二十卷、名ヅケテ、古今和歌集ト云フ」源、一、桐壺十「すべて、近ウ侍フ限リハ、男モ、女モ、イト理ナキ業カナト云合ハセツツ致ク」（二）オヨソ。總ジテ。オシナベテ。凡　源、二、帚木上四「すべて、ヨロヅノ事、ナダラカニ、怨ズベキ事ヲバ、見知レル狀ニホノメカシ」枕草子、三、廿五段、節は「五月ニ若クハ無シ、云云、夕暮ノ程ニ、時鳥ノ名ノリシタルモ、すべてヲカシウ、イミジ」同、五、四十五段「すべて、紫ナルハ、何モ何モ、メデタクコソアレ」風雅集、十三、戀、四「カクヤハト、覺エシ時モ、覺エケリ、すべて人ニハ、馴レテゾアラマシ」

すべ-な（名）〔總名〕一ツニ總ベテ云フ稱呼。總稱。ソウミャウ。

〔すべ-な・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔無爲方〕〔無術〕爲スベキ手段、ナシ。便ナシ。　風俗歌、陸奥「夫ヲバ還ラジ、待テバ須戸難之ヤ」古今集、廿、大歌所「阿武隈ニ、霧立チワタリ、明ケヌトモ、君ヲバ遣ラジ、待テバすべなし」萬葉集、五十二長歌「カクバカリ、須部奈伎モノカ、世ノ中ノ道」同、十五三十九「時鳥、間暫シ置ケ、汝ガ鳴ケバ、吾ガ思フ心、イタモ須敵奈之」源、二、帚木上「又サヤカニモ見テシガナト、すべなく待タセ」同、四、夕顏十四「清水ノ觀音ヲ念ジテモ、すべなく思ヒ惑フ」

〔すべ-むつ（名）〔皇睦〕又、すめむつ。天皇ノ御親族。皇祖。皇親　祈年祭祝詞「高天原爾神留坐、皇睦神漏伎命、神漏彌命」

すべ-やか-な（副）〔滑〕すべらかなニ同ジ。　異本、曾我物語、七「十郎ハ、里ニ成長シタレドモ、色白ク、すべやかなり」

〔すべ-ら（接頭）〔皇〕〔統べ知リマス意〕天神、天皇、等ニ係ル語ニ冠シテ、尊稱スル語。スベ。スメ。スメラ。「皇大御神」「皇君」

⁘ずべ-ら（名）〔放縱〕檢束ナキコト。締ノ無キコト。ズボラ。

すべら-おほんかみ（名）〔皇大神〕天照皇大神ヲ申シ奉ル稱。　後拾遺集、廿、神祇「祖父、孫、輔親、三代マデニ、戴キ奉ル、すべらおほん神」

すべらかし（名）〔滑〕（一）スベラカスコト。（二）垂髮。すべしもとどりニ同ジ。

すべら-か・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔滑〕すべらすニ同ジ。　中務内侍日記「母屋ノ簾すべらかしテ、御帳ノ前ニ、御引直衣ニテ、渡ラセ給フ」著聞集、十六、興言利口「縫殿頭信康「強盜ヲすべらかさン料ニ、日暮ルレバ、家ニ、管ト云フ小竹ノ節ヲ、多ク散シオキテ」

すべら-か-な（副）〔滑〕滑ル狀ニ云フ語。ナメラカニ。スベヤカニ。

すべら-がみ（名）〔皇神〕すべがみニ同ジ。　夫木抄、九「瀧ツ瀬ニ、木綿懸ケ祈ル、すべらがみ、今日ノ夏越ノ、岩戸明クラン」

〔すべら-ぎ（名）〔皇〕〔統君ノ轉約〕天ノ下ヲ統べ知シメス大君、卽チ、大日本ノ主ダチ給フ天皇ヲ稱シ奉ル稱。スメラギ。スメロギ。スベラミコト。スメラミコト。　古今集、序「今すべらぎノ、天ノ下領シメスコト、四ツノ時、九カヘリニナムナリヌル」玉葉集、廿、神祇「すべらぎモ、頼ム宮居ト、成リニケリ、タダ山藍ノ、ナゴリバカリニ」堀河百首、夏、氷室「すべらぎノ、命ノ末ノ、絕エセネバ、今日モ氷室ノ、貢物立ツナリ」月詣和歌集、中納言雅頼「子ヲ思フ、道ヲゾ祈ル、すべらぎニ、仕フルアトヲ、違ヘザラナム」名義抄「天皇、スベラキ」字類抄「皇、スベラギ」

すべらぎ-の-かみ（名）〔皇神〕すべがみ（皇神）ニ同ジ。　相撲集「疾クモ疾ク、目ニ見スモ、見セヨトテ、祈リシゾカシ、すべらぎの神」

すべら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）〔滑〕スベラシム。滑ルヤウニナス。滑ルヲ、止メ得ズ。スベラカス。「足ヲすべらす」口ヲすべらす」

⁘ずべら-ばう（名）〔放縱坊〕ずべらナル人。取リシマリ無キ人。

〔すべら-みこと（名）〔皇尊〕すべらぎ（皇）ニ同ジ。　舒明紀、十一年正月「車駕還自溫湯」

すべり（名）〔滑〕〔辷〕スベルコト。滑カニ走ルコト。「すべりガ良イ」

すべり-い・づ・ヅル・ヅレ・デ・デ・デヨ（自動、下二）〔辷出〕（一）辷ルヤウニシテ、罷リ出ヅ。　竹取物語「王子ハ、立ツモ、端、居ルモ端ニテ居給ヘリ、日ノ暮レヌレバ、すべりいで給ヒヌ」源、三、空蟬八「生絹ナル單一ツヲ着テ、すべり出でニケリ」同、廿五、螢六「異方ヨリ、ヤヲラすべり出で、渡リ給ヒヌ」（二）躙ルヤウニテ、前へ進ム。

〔すべり-い・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔辷入〕辷ルヤウニシテ、內ニ入ル。　源、五、若紫三十八「聡ナムト云フモノヲトテ、強ヒテ引キ入リ給フニ附キテ、すべり入りテ」大和物語、下「ヤヲラすべり入りテ、此人ヲ奧ニモ入レズ」

〔すべり-う・す・スル・スレ・セ・セ・セヨ（自動、下二）〔辷失〕辷リ出デテ、消エ失ス。　枕草子、八、八十三段「細殿ノ一ノ口ニ、殿上人數多立テリシヲ、ヤウヤウ、すべりうせナドシテ」

〔すべり-お・る・ルル・ルレ・リ・リ・リヨ（自動、上二）〔辷下〕辷リテ、下へ行ク。　源、四、夕顏四「馬ヨリすべりおりテ」義經記、一、遮那王殿馬出事「吉次、座敷ヲすべり下り、烏帽子ノ先ヲ地ニ附ケテ」

すへり-くさ・し・キ・ケレ・ク・ク（形、二）〔饐臭〕〔すへハ、すえノ訛〕饐エタル如キ、臭氣アリ。酸ッパキヤウニテ、厭ニ臭シ。熟柿臭シ。　酒食論四「上戶ノ香ハ、云云、すへりくさゲナ、穢サハ、餘所ノ鼻マデ、堪ヘ難ヤ」

すべり-ごころ（名）〔辷心〕辷リガチナル心。脫線シガチノ心。ウツリ氣　爲尹卿千首、戀「ウキ名又、落チブレヤセン、元結ノ、すべり心ハ、衣ニタマラズ」

すべり-ひゆ（名）〔滑莧〕〔葉ノ、滑ラカナ

ルヨリ云フト、又、スベリヒユ、古名、ウマヒユ。草ノ名、夏ノ初、生ズ、莖、圓クシテ、赤ク、地ニ布キテ、直ニ立タズ、節ハ、食ノバシ、葉ハ、對生シ、形、楕圓ニシテ、端、廣ク、厚ク、長サ五七分、光ル、葉ノ間ニ、黄花ヲ開ク、大キサ一二分許、十瓣ナリ、實ハ、尖圓ニシテ、内ニ、細子アリ。馬齒莧

すべり・ひょう (名) 前條ノ語ノ訛

〔**すべりよ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔辷寄〕 辷ルヤウニシテ、近ヅキ寄ル。躙リ寄ル。 源、四十八、寄生六十「今少シ近ク、すべりよりテ」 枕草子、四、三十九段「…ガラ、すべりよりテ、闇クヲリモアリ」

すへ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔隨〕 〔據ヲ活用ス〕 すゆ(隨)ニ同ジ。 仁徳紀、四年三月「…、不隨、…不…也」

すべ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔辷〕 〔ぬめるノ轉カ、すべすノ自動〕 (一)滑ラカニ、障リナク行ク。滑リ走リテ、止マラズ。滑。 狭衣、四、中三十「御髪、云云、取ル手モすべる、御筋ノ美シサナドノ」 宇治拾遺、四、十七條「ヨク滑マルルナリ、シカソサレハ、すべりテ、…マレヌナリ」 又、口がすべるトハ、誤リテ、言フマジキヲ言フ。失言 (二)御位ヲ、降リ給フ。降リ居給フ。遜位。 平家物語、一、清水炎上事「御位ヲすべりテ、新院トゾ申シケル」 (三)居ナガラニ、躙リ移ル。 源、五、若紫十三「…引キ入リ給フニ…、すべり入リテ」 同、四十八、寄生六十「今少シ近ク、すべり寄リテ」 同、廿九、行幸三十「物笑ヒニ堪ヘネバ、すべり出デテナム、隠メケル」 同、四、夕顔十四「馬ヨリすべり下リテ」 (四)〔從ル〕 退出ス。 枕草子、八、八十三段「殿上人アマタ立テリシヲ、ヤウヤウ、すべり失セナドシテ」 竹取物語「王子ハ、立ツモ端、居ルモ端ニテ居給ヘリ、日ノ暮レヌレバ、すべり出デ給ヒヌ」 (五)足、滑ラカニ走リテ、止メ得ズ。失脚 著聞集、十六、興言利口「周章テ惑ヒテ出ルトテ、其管ノ小竹ニすべりテ、轉ビニケリ」

❖**す・べる** (動) すぶ(統)ノ口語。

スポイト (名) 〔蘭語、Spuit.〕 藥液ヲ注射シテ、患部ヲ洗フニ用キル器。

スポウツ (名) 〔英語、Sports.〕 戸外遊戲。又、屋外運動競技。

ズ・ボウトウ (名) 〔蘭語、Drop zoet hout. ノ訛〕 和蘭ヨリ舶來セシ、痰ノ藥、甘草ノ濃キ煮汁ナリ。聲ヲ善クスト。オランダタンキリ。甘草膏

すぼけ・マラ (名) 〔包莖〕 陰莖ノ龜頭ノ、皮ヲ被リタルモノ。カハカムリ。キヌカツキ。

すぼ・さし (名) 〔土佐ニテ、わらさべヲ、すぼトモ云フハ、さべノ轉カ〕 陶磁器ヲ燒クニ、針ノ如キモノニテ支フルタメ、燒上リノ底ニ生ズル小穴。(肥前、有田)

すぼし (名) 〔素乾〕 (一)日ニモ火ニモ當テズ、籠ナドノ上ニテ乾スコト。カゲボシ。シラボシ。風乾 (二)おまめノ異名。 物類稱呼、(安永)「おまめ「すぼしト云フハ、籠ノ上ニテ干スヲ云フナリ」

すぼ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 〔窄〕 〔末細しノ約略〕 (一)窄ミテ、細ソシ。 名義抄「…、スボシ、セバシ」 字鏡「…、スボシ、セバシ、サシ」 (二)見スボラシ。肩身、狭シ。 方丈記「富メル家ノ隣ニ居ル者ハ、朝夕、すぼき姿ヲ恥ヂテ、媚ヒツツ」

すぼ・すぼ (副) 一閑張ノ茶筒ノ蓋ナド、拔ケ、又、嵌リ易キ音ニ云フ語。

ずぼ・ずぼ (副) 嵌リ易キ狀ヲ云フ語。ズバズバ。

〔**ぞほふ** (名) 修法 〔修法〕 佛法ノ祈リヲ、行フコト。修法 源、五十一、蜻蛉八「ぞほふ、讀經、祭リ、祓ヘト、道道ニ騷グ」 同、四、夕顔六十「修法ナド、又又、始ムベキコトナド、掟テノ給ハセテ、出テ給フトテ」 落窪物語、四「中納言、重ク惱ミ給ヘバ、大將殿イトホシク思シ歎キテ、ぞほふナドセサセ給ヘバ」

すぼま・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔窄〕 〔次條ノすぼむノ延、かがまるノ語原ヲ見ヨ〕 次次條ノ語ニ同ジ 窄ムヤウニナル。

すほん (名) 〔素本〕 無點ノ書籍。(漢文ノ本文ノミニテ、訓點、又ハ、註釋ナドノ無キ書物) 白文ノ本。

すぼ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 〔窄〕 〔末含むノ意カト云フ〕 (一)末、次第ニ、細ソク狹クナル。スボマル。スボル。ツボム。 (二)シボム。チヂム。 (三)衰フ。ユルム。

〔**すぼ・む**・ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (他動、下二) 〔窄〕 窄ムヤウニナス。ツボムル。 落窪物語、一「口すぼめタル方ヲ書給ヒテ」「傘ヲすぼむ」

ズボン (名) 〔洋袴〕 〔佛語、Jupon.〕 (一)洋服ノ表ノ股引。 (二)女ノ洋服ナドノ、下履ノ上ニ履クモノ。長ぞぼんトモ云フ。

スポンジ (名) 〔英語、Sponge.〕 海綿。ウミヘチマ。海綿。

ズボン・つり (名) ぞぼんノ下垂ラザルヤウニ、肩ニ懸ケテ、其前後ヲ吊ルモノ。

すぽん・と (副) 物ヲ、筒ナドヨリ拔キ、又ハ、其中ニ入ルル時ナドニ發スル音ニ云フ語 「すぽんと拔ケル」

すぽん・ぬき (名) 出シヌクコト。不意打ヲ食ハスコト。 丹波與作(寶永、近松作)中「關染ノ己ヲ、すぽんぬきニ逢ハセタ」

すぽん・ぽ (名) 〔鼈〕 〔苔坊ノ略轉〕 かはがめ(川龜)ニ同ジ。鼈ノ條ヲ見ヨ。

❖**すぼ・める** (動) 〔窄〕 すぼむ(他動)ノ口語。 卯月紅葉(寶永、近松作)中「腹ガリシ浮名ハ、何トすぼめテモ」

❖**ずぼ・ら** (名) 〔放縦〕 〔大阪ノ堂島言葉ニ、ずるずるト下ガル相場ヲ、ずぼらト云フヨリ起ルト云フ〕 ヤリハナシ。ナゲヤリ。ズベラ。

すぽ・り (副) すぽりとニ同ジ。「すぽりト脱ケル」

〔**すぼ・る**・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 〔窄〕 すぼむ(自動)ノ(一)ニ同ジ。 名義抄「淪、スボル」 博多小女郎波枕(享保、近松作)上「金銀無ケレバ、肩、すぼり、己レト、心奥田屋ノ」

すま (名) 〔隅〕 すみ(隅)ノ訛。 山家集(西行)下、戀「播磨路ヤ、心ノすま(攝津ノ須磨浦ニ云ヒカク)ニ、關据エテ、イカデ我ガ身ノ、戀ヲトドメム」 (攝津ノ武庫郡、須磨ハ、國ノ西南隅ノ意ナリト云フ) 「…ノすま」

すまう (名) 〔相撲〕 すまひ(相撲)ノ音便、其條ヲ見ヨ。 著聞集、十、相撲強力「相撲息男伊成、云云、弘光ト云フすまう、又、來レリ」

すまう・じんく (名) 〔相撲甚句〕 特ニ、相撲取ノ唄フ、一種ノ甚句。

すまう・とり (名) 〔相撲取〕 すまふとり(相撲取)ノ音便。すまひ(相撲)ノ條ヲ見ヨ。 七十一番職人歌合、六十三番、すまうとり「道ノ思ヒ出ニ、相撲ノ節ニ召サレバヤ」

すまき (名) 〔簀卷〕 (一)簀ニテ、卷キ括

ルコト。(二)人ヲ、簀巻ニスルコト、往時ノ私ノ刑罰ナドニアリ、斯クシテ、水中ニ投ゲ入レナドス。松風村雨束帯鑑(元祿、近松作)二「夜ニ入ッテ、切戸ノ沖ヘ、簀巻ニシテ、沈メニカケヨ」

すま-ごと　(名)　須磨琴　絃、一線ナル琴、別ニ、曲アリ、譜アリ。一絃琴。北邊隨筆、一、一絃琴「近キ世ニ、須磨琴ト云ヒテ、一絃ノ琴、世ニ散リボヘリ、好事ノ人ノ、サル名ヲ附ケテ、造リ出デタル物ナルベシ、行平卿ノ、云云、ヲモテ、出據トスルナド、笑フニ堪ヘタル事ナリ」閑田次筆、二「河内國、駒ガ谷、金剛輪寺ノ僧、一絃ノ須磨琴ト云フ物ヲ弘メラル、其圖、又、譜フ歌モ、板琴知要ト云フ小冊子ヲ印行シテ、世ニ公ニセラル」

すまし　(名)　澄　(一)水ヲ、澄スコト。濁リヲ無クスルコト。(二)スマシジル。(三)眞面目ナルコト。氣取ルコト。賤小手卷、腰物、云云、身ニ於テハ、吟味モセズ用ニ立テテハ、淸マヌモノト、大悟、發明シテ、高ヲ括リタルハ、浦山シキすましカタ也」

すまし　(名)　淸洗　(一)洗スコト。洗ヒ淨ムルコト。洗淨　宇津保物語、藤原君、四十「賀茂川ニ、御禊すましニ、云云、出デ給ヘリ」同、國讓、上四「彼ノ山里ニ物シ給フ人、迎ヘ奉リテ、御すましノ料ナト、セサセ奉リ給ヘ」(二)洗ヒ淸シナドヲ務メトスル、下司ノ女。スマシンド。枕草子、四、四十四段「オホヤケ人、すまし、專ナドシテ、絕エズ、戒メニヤリ」禁祕御抄、上、恆例每日次第、「御膳、湯、〔…〕志女官(二人)取ヒ」「樋すまし」(三)杯洗ノ水。

すまし-じる　(名)　淸澄汁　鰹節ノ煮出シニ、薄ク、醬油ヲ加ヘタルモノ、吸物ノ汁トス。又、味噌汁ナドニ對シテ、煮出汁ヲモ云フ。

すまし-んど　(名)　洗人　〔すましびとノ音便〕　すまし(淸)ノ(二)ニ同ジ。江家次第、十、鎭魂祭「女孺、洗人等」(孺ハ、嬬ノ誤)

すまし-もの　(名)　褌　〔至穢ニシテ、常ニ、淸し洗フベキ物ノ意〕　たふさぎニ同ジ。チヒサキモノ。倭名抄、十二、衣服類「褌、須萬之毛能」名義抄「褌、スマシモノ」童蒙頌韻「褌、〔…〕、下褌、褌」

すま・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　淸澄　〔澄むノ他動〕　(一)水ヲ、澄ムヤウニナス。濁リヲ無クス。淸ラカニスル。靈異記、上、序「濁澄難」澄、訓釋「澄、スマシ」(二)落チ着カス。靜カニ鎭ムル。源、廿一、少女三十五「泉ノ水、遠クすまし、遣水ノ音マサルベキ岩ヲ立テ並べ、瀧落シテ」平家物語、十二、土佐坊被斬事「內侍所、璽ノ御箱、事故ナク都ヘ返シ入レ奉リ、一天ヲ鎭メ、四海ヲすます、勸賞、行ハルベキ所ニ」「心ヲすます」耳ヲすます」聞キすます」見すます」(三)眞面目ナル面持ヲナス。ヲサマル。カタヅケル(顏色ヲ澄ます意、多ク自動ノ動作トシテモ云フ)「イヤニ、すまして居ル」

すま・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　洗　〔淸ますノ意〕　淸ムル。洗ヒ淨ム。洗淨　名義抄「洗、スマス、アラフ」落窪物語、一「マヅ、水トテ、御足、すます」源、三十四、下、若菜、下七十「御髮すまして、云云、頤ニモ、乾カネド」宇津保物語、俊蔭六十「御手ヲ、搔イすましテ、神佛ニ、云云、ト、申シ給フ」大鏡、上、時平「半插盥シテ、御手すまさヌコト無カリキ、云云、御手ヅカラゾ、すましケル」

すま・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　住　〔住むノ他動〕　住ムヤウニス。「邸內ニ住ます」

すま・す・ス・セ・サ・シ・セ　(他動、四)　濟　〔濟むノ他動〕　(一)濟ムヤウニナス。濟ス。遂グ。終フ。完　狂言記、鑿の目「如何樣ノ、難シキ算ナリトモ、仰セツケラレエ、眞キすまいテ、御目ニ掛ケウ」「用事ヲすます」(二)借リテ、還ス。物ヲ買ヒタル値ヲ、出ス　拂フ。狂言記、對馬祭「何程カ、算用セウ、すまさウト云ウテ、聯シマシタニヨッテ」

す-また　(名)　素股　(一)股間ニテ行フ、悖理交接。本朝若風俗(貞享、西鶴)七「金ガ敵ト、是非モ無ク、自由サセナガラ、祕密ノすまたヲ以テ參リ」(二)要所ヲ、外レタルコト。「すまたヲ食フ」

すまッ-こ　(名)　隅　すみッこニ同ジ。

すま-ふ　(副)　數　〔すまハ、屢ニ通ズ〕　シバシバ。度度ニ。萬葉集、八、三十五「手モ須麻爾、植ヱシ萩ニヤ、還リテハ、見レドモ飽カヌ、心盡サム」同、同卷廿「和氣ガタメ、我ガ手モ須麻爾、春ノ野ニ、拔ケル茅ゾ、食シテ肥エマセ」

すまは・し・シキ・シケレ・シク・シク　(形、二)　住　住居ニ相應シ。住ムベキ狀ナリ。三部抄「逃レヌ道モ、すまはしけれバ」

すまひ　(名)　住　住フコト。スミカ。住居。住處　宇津保物語、俊蔭五十六「ナデフ人カ、カカルすまひニテ、世ニハ經ン」

すまひ　(名)　相撲　〔爭ふノ名詞形、爭ひノ義、戰場ノ組打ノ慣習ナリ、源平時代ノ武士ノ習ヒシすまふモ、ソレナリ〕　二人、力ヲ鬪ハスル技、其相、當ルヲ、取ルト云フ、其手、種種アリ。(すまふ(相撲)ノ條、見合ハスベシ)其、鬪フ者ヲ、相撲人ト云ヒ、第一ノ人ヲ、最手ト云ヒ、第二ノ人ヲ、最手脇ト云フ。古ヘ、相撲ノ節トテ、禁中、七月ノ公事タリ、先ヅ、左右ノ近衞、方ヲ分ケテ、國國ヘ部領使ヲ下シテ、相撲人(防人)ヲ召ス、廿六日ニ、仁壽殿ニテ、內取(地取)トテ、習禮アリ、御覽アリ、力士、犢鼻褌ノ上ニ、狩衣、烏帽子ニテ、取ル、廿八日、南殿ニ出御、召仰アリ、勝負ヲ決ス、其中ヲ選リテ、拔出トテ、翌日、復タ、御覽アリ。盛袋記、三、澄憲祈レ雨事ニ、承安四年七月廿七日、相撲召合アリテ、此後、絕エタルガ如シ。角觝　倭名抄、四十八、雜藝類「相撲、角觝、須末比」名義抄「角觝、スマヒ」垂仁紀、七年七月「當麻蹶速、與野見宿禰令二捔力一」雄略紀、十三年九月「著犢鼻、露所相撲」天武紀、下、十一年七月「大隅隼人、與阿多隼人、相撲於朝廷」續紀、十、天平二年七月丙寅「天皇、觀相撲戲」類聚國史、七十三、歲時部、四、相撲、天平六年七月「天皇觀相撲戲」閑田耕筆、四「相撲ノ、赤裸ニナルコトハ、後世ノ弊風成ベシト思ヒシニ、古キ繪卷物ノ相撲ノ圖ヲ見レバ、皆、赤裸ナリ、是ニ附テ、又、玉串正視生ノ考ヲ得タレバ、左ニ揭グ、西宮記、內取條、註曰、左相撲、犢鼻上著狩衣、經陣向、幕、右、犢鼻上著狩衣入幕、近代不分別、又、江家次第、內取條云、左相撲人先入、犢鼻褌上著狩衣差紐、插狩衣前云云、右相撲、犢鼻褌上著狩衣開紐、以狩衣前相遮夾之、棄書曰、延久三年江記云、次相撲人三十人、次第行列(其裝束、烏帽、狩衣、犢鼻褌也)差紐、狩衣上著帶、不著下衣袴徒跣、或人曰、大內時、左相撲人如此、是依渡陣前也、右相撲、依不渡陣前開紐、狩衣前不加帶、左右引還夾之、今、仗座在右方、若左方可用右體歟、然而依爲年來例不改也、詞云、或ハ、袴ヲ著、或ハ、不著、或ハ、紐ヲ差シ、或ハ、紐ヲ開、帶ヲ加フルト、加ヘザルトノ差別ハアレドモ、畢竟ハ、裸ニ狩衣ヲ附ケテ參ルナリ、手合セヲスル時ハ、狩衣ヲモ脫グベシ、玉串生、又按、榮花物語、根合卷、裸ナル姿ドモノ並ミ立チタルゾ、疎マシカリケルト見ユ、古今著聞集ニハ、烏帽子、水干袴ナガラ、重忠ノ、相撲取リシコト見ユレドモ、是ハ、トミノ事ニテ、取敢ヘヌ狀ナルベシ、只、何レノ御前ニテモ、裸ニテ取ル成ベシト云ヘルハ、實ニ然ルベシ」

すまひ-ぐさ　(名)　相撲草　又、すまふぐさ。ひるがほナルベシ。字鏡五十九「旋復花、須万比久佐、一本云、早人草」金葉集、十、雜、下「すまひぐさト云フ草ノ、多カリケルヲ、引キ捨テサセケルヲ見テ「取ル手ニハ、ハカナク移ル、花ナレド、

[illegible]すまひぐさ、創ルル方ニ、ナリヌルカ、心強シト、且ハ見[illegible]すまひ[illegible]さ、露ニハ所謂ル、モノニゾアリケル」

すまひ-ぐし（名）〔相撲櫛〕古ヘ、相撲取ノ插シタル櫛、元祿ノ頃、雨舟梶之助ト云フ相撲取ノ、插シ始メシモノ。

すま-びと（名）〔須磨人〕〔都人、なにはびと、同趣〕播磨ノ須磨ノ地ニ住スル人ヲ稱スル語。萬葉集、十七「須磨人ノ、海邊常去ラズ、燒ク鹽ノ、辛キ戀ヲモ、吾レハスルカモ」

すまひ-の-せち（名）〔相撲節〕又、相撲ノ節會。すまひ（相撲）ノ條ヲ見ヨ。宇津保物語、初秋「其すまひのせち、九日ナリテ、登リ給フベキ御裝束ドモ」名目抄「相撲節」

すまひ-の-つかひ（名）〔相撲使〕おさりづかひ（部領使）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

すまひ-の-をさ（名）〔相撲長〕相撲ノ節ニ、相撲人ヲ監督スル職。倭名抄、四「雜藝具、本朝相撲記、有古手、取手、脇、最手之名、別又、有立合、相撲長一也」儀式、八、相撲節儀「相撲長、左右各四人、相二頭爽代相撲人一陣列」

すまひ-びと（名）〔相撲人〕スマフトリ。力士。力者。宇津保物語、初秋「すまひ人トモハ、選ビ定メテム」甘露寺職人盡歌合「すまひ人」北山抄、六、相撲召仰事、正曆四年七月廿二日、於梨田口、相撲人給食」江家次第、八、相撲召仰「相撲人者、敍近衞之類也」

すまふ（名）〔角力〕牛ノ角突合ヒ。牛鬪。

すまふ（名）〔相撲角力〕〔すまひ（相撲）ノ訛〕（一）すまひ（相撲）ノ技ニ同ジ、武技ノ一、昔ハ、組討ノ技ヲ練ル目的ニテ、武藝トス、其取方ハ、蹶掛（勝チタル人ニ、ソノ負クルマデ、何人モ、相撲ヒカカルコト）ト云フ、此技、戰法、漸ハリテ、組討ヲ好マズナリシヨリ、下賤ノ業トナル。（卽チ、常人ノ取ル相撲ナリ）江家次第、八、相撲召仰、九、相撲、拳、甞ヘ、腰挫手上、著甲、約兵八著、料一」榮花物語、三十六、根合「種々ナル義トモノ、並ミタルゾ、疎マシカリケル」曾我物語、一、奧野相撲事「股野ハ、すまふノ大番勤メニ、都ニ上リ、三年ノ間、都ニテすまふニ慣レ、云云、日本一番ノ名ヲ得タルすまふナリ」易林節用集「相撲、スマフ」（二）後ニ、一種、專業トスル者、起ル、力士、力者、相撲取、ト稱シ、所在ニ、假場ヲ開キテ、觀客ヨリ錢ヲ收メテ、興行ス、場ノ中央ニ、土俵ヲ設ケ、力士ヲ、東西ニ分チ、裸體ニテ、褌ノミヲ着ケ、素手ニテ取ル、其技ニ、反、捻、投、掛、ノ四手アリテ、各、十二ニ分レテ、四十八手ナド云ヘリ。力士ノ力ノ優劣ニ因リテ、階級アリ、東西ニ、各、大關、關脇（古ヘノ最手、最手脇ナリ）、小結（以上ヲ、三役ト云フ）、前頭ト、次第ス、番附ヲ作リテ、名ヲ記シ、其下段ナルヲ、幕の內ト云ヒ、以下ナルヲ、幕下、二段、三段目ナド、云フ、勝負ヲ判ズル者ヲ、行司ト云フ、興行スル者ヲ、勸進元ト云フ、今ハ、コレラノ團體ヲ、相撲協會ト云フ。勸進相撲、寄相撲ナド、アリ、勸進相撲ハ、京畿ニテハ、古クコリアリシガ、江戸ニテハ、寛永元年、四谷、鹽町ニテ興行セシヲ、始トス、（相撲大全）晴天、六日間ナリキ、然ルニ、寄相撲ニ爭鬪アリテ、慶安元年、禁止トナリ、又、寛文元年、再禁止ニテ、中絶ス、後、正德中、深川ノ三十三間堂（明和六年、暴風雨ニ倒ル）ニテ興行許可セラレシガ、堂、破壞ニ及ビタレバ、同ジ深川ノ八幡社內ニテ、興行スルコトトハナレリ、爾來、興行地ニ變遷アリテ、文政十年、兩國橋東、回向院境內ニテ、毎年、春ト、夏ト（春場所、夏場所）ノ二期ニ、各、晴天十日ヅツ興行スルコトトナリタリ（初ハ六日、後ニ八日ナリシガ）相撲道ニテ、コレヲ、本場所（花相撲ナドニ對ス）ト稱ス、今ハ、同地ニ、常設ノ場、出來テ、國技館ト稱セリ　角觝

すま-ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔爭〕（一）〔アラソフ。負ケジト、張リ合フ。爲サムトスルコトヲ、爭ヒテ、爲サセズ　源、七、紅葉賀「中將ノ帶ヲ引キ解キテ、脫カセ給ヘバ、脫ガジトすまふヲ」後拾遺集、四、秋、上「秋風ニ、折レジトすまふ、女郞花、幾タビ野邊ニ、起キ伏シヌラム」宇治拾遺、十一、第一條「アラガヒテ、爲ジトすまひケレド」惡靈法師集「吹ク風ニ、すまひヤスラム神奈備ノ、占手ノ山ノ、峯ノモミヂバ」狹衣、四、中四「粥杖、引隱シツツ、互ニ爭ヒ、又、打タレジト用意シタルすまひ、思ハク共モ、各、ヲカシウ見ユルヲ」（二）相撲ヲ取ル。角觝（三）〔辭ム。辭退ス。推辭　伊勢物語、百一段「固ヨリ、歌ノ詞ハ知ラザリケレバ、すまひケレド、強ヒテ詠マセケレバ」枕草子、一、十三段「御前ニテ、册子ニ、歌一ツ書ケト、殿上人ニ仰セラレケルヲ、イミジウ書キニクク、すまひ申ス人アリケル」源、十四、澪標「サルモアリケレバ、すまひ果テ給ハデ、太政大臣ニ成リ給フ」遊仙窟「不敢推辭」（四）〔滯ル。タメラフ。古事記、中（垂仁）「逗留」其猶ハ、不急攻追、如此逗留之間」依事記、三、天神紀「還、何神、間、天稚彥所以逗留之所以也」

すま・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ（自動、四）〔住〕〔住むノ延〕住ミテ居ル。續ケテ住ム。住ム。萬葉集、七「木末ニ住居、鼯鼠ノ」同、二「ツレモナキ、佐太ノ岡邊ニ、還リ居バ、島ノ御階ニ、誰レカ住舞ム」同、四「天地ト、共ニ久シク、住渡ムト、念ヒテアリシ、家ノ庭ハモ」

すまふ-ぐさ（名）〔相撲草〕すまひぐさ（相撲草）ニ同ジ　宇津保物語、大和國「喚レウ、露レジノ、すまふぐさ」

すまふ-とり（名）〔相撲取〕スマヒビト。チカラビト。力士。力者。相撲ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

すまふとり-ぐさ（名）〔相撲取草〕（一）めひぢはノ一名。（東京）（二）すみれノ（一）ノ一名。

すまふ-ば（名）〔相撲場〕相撲ヲ取ル場所。土俵場。俵子集、明曆「相撲場ニ、破ヤ見ユラン、河津ガケ」

すま・る・ル・レ・ラ・リ・レ（自動、四）〔統〕すばる（統）ノ（一）ニ同ジ。スバマル。古事記、下（雄略）「長歌、庭雀、ウズ須具理居テ」神代紀、上「八坂瓊之五百箇御統」註「御統、此云美須磨屢」

すまろ-ぐさ（名）〔根ニ附キタル子ノ、緒ニ貫キタル統るノ玉ノ如キ意〕てんもんどう（天門冬）ノ古名。本草和名、上「天門冬、須末呂久佐」倭名抄、同ジ　字鏡「天門冬、須萬呂久佐」

すみ（名）〔炭〕〔染みノ轉、觸ルレバ、黑カラシムル意ト云フ、或ハ、濟ニテ、火氣、消滅後ノ意ト〕（一）木ノ餘燼ノ、黑キモノ。（二）〔又、製造シテ、火鉢、爐ナドノ中ニ置キ、火ヲ點ジテ、火ヲ貯フルモノ、木ヲ伐リテ、炭竈ニテ燻ベ燒キテ、作ル、色、純黑ナリ、椚、楢、樫ナドノ材ヲ用キル。にぶずみ、かぢずみ、さくらずみ、あまぎすみ、びんちやう、ざがまずみ、らくだずみ、等アリ、各條ニ注ス、樫ノ如キ堅キ材ヲ燒キタルヲ、かたずみト云

フ、古名、アラズミ。倭名抄、十二 五十 燈火具「炭、須美、燒木未レ燼也」 枕草子、一、初段「イト寒キニ、火ナト、急ギ熾シテ、すみ持テ渡ルモ、イト、ツキヅキシ」 茶湯ニ、爐ニ炭ヲ加グ式アリ。名將言行錄「台德院、御茶湯ヲ好マレ、御直ニ御花ヲ遊バシ、又ハ、御炭ヲ遊バサレ候」

すみ (名) 【墨】 〔油煙ノ炭ノ意ナラム〕 (一)書畫ヲ書ク料ニ用キル、黒キ汁ヲ出スモノ、油煙ヲ、膠汁ニ溶キ、香料ナド、加ヘ、捏ネテ、模ニ入レ、固メ作ル、硯ニテ、更ニ、水ニ研リ溶キテ、用キル。上品ナルハ、胡麻ノ油煙ナリ、菜種油ナルヲ、次トス、古ヘハ、專ラ、松煙ヲ用キタレド、今ハ、下品トス。形、種種ニ作レド、多クハ、長方形ニス、古キニハ、細ソク圓キヲ、押シ扁メタル如キ、アリ。墨汁。倭名抄、十三 五 文書具「墨、須美、以二松煙一和レ膠所レ成也」 推古紀、十八年三月ニ、高麗ノ僧曇徵、能ク紙墨ヲ作ルトアリ。枕草子、二、十七段、憎きもの「すみノ中ニ、石コモリテ、きしきしト軋ミタル」 同、四、三十九段、ありがたきもの「物語、集ナド書キ寫ス本ニ、すみ付ケヌコト」 康頼本草、上 五十五「墨、マツヲモスケムリノスミ、からすみ」 (二)轉ジテ、繪ノ具ノ、固メテ、研ルベク作レルモノ。「朱ずみ」藍ずみ」 (三)墨繩ノ略。「すみヲ打ツ」 (四)墨染。「すみノ衣」 (五)スベテ、黒キ、煤ノ如キモノノ稱。「鍋ノすみ」 (六)烏賊ノ體中ヨリ出ヅル、墨ノ汁ノ如キモノ。「烏賊ノすみ」 (七)スミサシ。

すみ (名) 【隅】 (一)角ノ、内ノ方。圍マレタル所ノ、最モ奥ナルトコロ。スマ。字類抄「角、スミ、隅、陬、維、同」 源、三、空蟬 五「我レハ、南ノすみノ間ヨリ、格子叩キ罵リテ、入リヌ」 (二)角 皇極紀、元年十一月「丙辰夜半、雷一鳴二於西北角一、云云、辛丑、雷三鳴二於東北角一」 (三)すみまへがみノ略。貞丈雜記、二、人物「額ノすみ拔ク事ハ、近代、男、逕ト云フ者ドモ、額ヲ、恐ロシク見セムトテ、仕出シケルト也、今ハ、好色ノ爲ニモ、拔ク也」

ずみ (名) 【桷】 〔染ノ義〕 ずりんずノ一種、其條ヲ見ヨ、染料トス。

すみあか (名) 【角赤】 布ヲ着セテ、黒漆ニ塗レル匣、角ノミ、赤漆ニス、婦人ノ元結ヲ納ルルモノ。松屋筆記、八十七、三十一條「角赤、大角赤ハ、駒小袖ヲ納レ、里ヘ遣ス古實ナドアリ、小角赤ハ、初紅葉ノ事、合セ納ル、藤原基俊ナドノ古實アリ、后宮名目抄ニ見ユ、大角赤ハ、棚飾リノ具ニアラズ、小角赤ハ、黒棚ニ置ク也、廚子棚、黒棚、共ニ、婚禮三ツ目ノ飾也」 女郎花物語「黒棚ニハ、元結ノ箱、小すみあか、云云」

すみあかる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(他動、下二) 【住離】 すみはなるニ同ジ。更級日記「人人ハ、皆外ニ住みあかれテ、古郷ニ、ヒトリ心細ソウ」

すみあし・シキ・シケレ・シク・シク (形、二) 【住惡】 〔住みよしノ反〕 住ムニ惡シ。住ミニクシ。萬葉集、十五 三十四「人國ハ、須美安之トゾ云フ、速ケク、ハヤ還リマセ、戀死ナヌ內ニ」

すみあらす・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 【住荒】 住ミテ、舊ス。新古今集、十七、雜、中「八十餘リ、西ノ迎ヘヲ、待チカネテ、すみあらしタル、柴ノ庵ゾ」 玉葉集、四、秋、上「見シ人モ、すみあらしテシ、古郷ニ、ヒトリ露ケキ、女郎花カナ」

すみいし (名) 【炭石】 せきたん(石炭)ニ同ジ。

すみいれ (名) 【隅入】 次條ノ語ノ略。

すみいれがく (名) 【隅入角】 四隅ニ、少シ凹ヲ附ケタル方形。略シテ、すみいれ。

すみいろ (名) 【墨色】 (一)墨付ノ色合。百日曾我(元祿、近松作)五「安倍ノ御判ノ墨色モ」 (二)陰陽家ニ、人ニ、墨ニテ、花押ナド書カシメ、其色合ヲ占ヒテ、其人ノ身ノ上ノ吉凶ヲ云フ、一種ノ術。墨色相

すみうかる・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ(自動、下二) 【住浮】 住處ニ落チ居ズシテ、浮カレ歩ク。新古今集、十四、戀、四「名殘ヲバ、庭ノ淺茅ニ、留メオキテ、誰レ故君カ、住みうかれケム」 續古今集、十九、雜、下「老ノ後、都ヲ住みうかれテ、野中ノ清水ヲ過グトテ」

すみうし・キ・ケレ・ク・ク (形、一) 【住憂】 住ムニ、物憂シ。快ク、住ミ難シ。新古今集、十七、雜、中「今更ニ、すみうしトテモ、イカガセム、灘ノ鹽屋ノ、夕暮ノ空」 後撰集、十三、戀、五「人ハイサ、深山隱レノ、時鳥、慣ハヌ里ハ、すみうかルベシ」

すみうち (名) 【墨打】 墨繩ニテ、線ヲツクルコト。

すみか (名) 【住處棲】 住ム所。スマヒ。名義抄「棲、スミカ、栖、スミカ」 儀式、大儺儀「千里之外、云云、汝等、疫鬼之住加ト定メタマヒ」 源、四、夕顏 八「イカナル人ノすみかナラントハ、往來ニ、御目トマリ給ヒケリ」 同、十五、蓬生 三「イトド、狐ノすみかニナリテ」 詞花集、四、冬「今更ニ、己ガすみかヲ、立タジトテ、木ノ葉ノ下ニ、鴛鴦ゾ鳴クナル」

すみかき (名) 【炭鉤】 〔炭搔ノ義〕 炭ヲ搔ク具。倭名抄、十五 八 鍛冶具「炭鉤、須美賀岐」 字鏡 二十「炭鉤、須美加支」

すみがき (名) 【墨書】 繪ヲ、只、墨ノミニテカクコトヲ、作繪ニ對シテ云フ語、古ヘハ、繪ヲカキテ後ニ、彩色ヲバ、別人ニセサスル事アリシ故ニ、別チテ、墨書、作繪ト云ヒ、作繪トハ、卽チ、彩色スルコトナリトゾ。(墨繪、彩色繪ト云フト、少シ異ナレリ) 源、二、帚木 十二「繪所ニ、上手多カレド、すみがきニ選バレテ、次次ニ、更ニ劣リ勝ル差別、フトシモ見エワカレズ」 出觀集、冬「ムラムラニ、消ユル繪島ノ、雲見レバ、マダ墨書ノ、果テヌナリケリ」

すみかくし (名) 【角隱】 〔額付ノ角ヲ隱す意カ、角頭巾モ、アリ、つのかくしト讀ムハ、非ナリ〕 眞宗信者ノ、婦女ナドガ、寺詣ニ、被ルモノ、綿帽子ノ遺風カ。御堂帽子。一向帽子。塵塚咄(寛政)「一向宗門徒ノ婦人、角かくしトカ云ヒテ、寺參ニカブル物、綿帽子ノ遺風ナルベシ」 長崎歲時記(寛政)「一向宗御正忌トテ、女子ハ、晒木綿、或ハ、布ノ類ヲ以テ、頭ニカヅキ、是ヲ、すみ手拭、又、角かくしト異名ス」

すみかご (名) 【炭籠】 籠製ノ炭取。スミコ。

すみがさ (名) 【墨傘墨笠】 地紙ヲ、黒ク染メタル傘。下學集(文安)下、器財門「傘、墨傘、唐傘、是也」 古今要覽稿、器財、墨傘「此名ハ、下學集ニ見エタルヨリ古クハ、未ダ見アタラズ、圓光大師行狀繪ニ、大宮内府(實宗)ノ亭ヘ行カレシ時、對面ノ間、門外ノ屛ニ、墨傘ヲ立カケタル圖、見エタリ、サテ、墨傘ハ、雨傘ニノミ有モノト思ヘリシニ、行狀繪ニ、日傘ニ、墨傘ヲ畫ケリ」 御供故實「大帷裏打ノ時、墨傘ノ事、大名モ、御傘サセ候間敷候間、墨笠ヲモ致、持マジク候歟、袞裳、裏打大帷ノ時ハ、すみかさ、御傘サセ候マジク候」 家中竹馬記「墨笠ヲ馬上ニ傘サス事、不レ可レ有、但、貴人、馬上ニテ傘サスル時ハ、小者ナド、傘シ懸ル也」

すみがね (名) 【墨曲尺】 マガリガネ。書言字考節用集、七、器財門「墨曲尺、スミガネ」 東北院職人盡歌合、三番、番匠「墨がねノ、直キヲ正ス、身ナレドモ、傾ク月ニ、支柱ゾ無キ」

すみかふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ (他動、下二) 【住替】 取リカヘテ、住ム。移住ス。續後撰集、六、秋、中「秋ノ夜ハ、須磨ノ關守、すみかへテ、月ヤ往來ノ、人トドムラム」 新千載集、一、春、上「古巢ヲバ、都ノ春ニ、住みかへテ、花ニ馴レユク、谷ノ鶯」

すみかへ (名) 【住替】 スミカフルコト。藝妓、遊女、一般ノ奉公人ナド、甲ノ主人ノ家ヨリ、乙ノ主人ノ家ニ、住ミ替ハルコト。デガハリ。クラガヘ。

すみがま (名) 炭竈　炭ヲ燒キ作ル竈。瓦竈ノ如ク、石、又ハ土ニテ造リ、中ニ木ヲ積ミ、火ヲ點ジテ、燻べ燒ク。スミヤキガマ。炭竈（拾遺集、四、冬、すみがまニ、立ツ煙サヘ、小野山ハ、雪消ノ程ト、見ユルナリケリ」）

すみがれ (名) 墨枯　筆ノ、年ヲ經テ、枯レタルモノ。

すみぎ (名) 棯　〔隅木ノ義、説文「棯、榱也、椽方曰レ桷」〕屋ノ四隅ニ、斜ニ下ル、大キナル椽。四方葺下シノ屋ニ、棟ヨリ、四隅ヘ下ス木。斜角（倭名抄、十「棯　宅具、棯、須美岐、屋四阿大椽也」）

すみぎ (名) 炭木　燒キテ、炭トスル木。（新六帖、二「トニカクニ、山ノ、荷ヲ重ミ、冬ハ炭木ヲ、樵リヤ添フラン」）

すみきはり (名) 木ヲ張リテ、弓ノ如クニ造レルモノ。（營業記、廿二、合立ノ器具ハ、角きはりノ形ヘ讀ト」）

すみきり (名) 隅切　(一)隅ノ、切リテアルコト。(二)次條ノ語ノ略。(三)紋所ノ名、すみきりがくノ輪郭ヲ、二重ニシタル形。

すみきりがく (名) 隅切角　〔すみたてがくニ對ス〕方ナルモノノ四隅ヲ、切リ落シタル形。（紋所ナドニ）切角トモ云フ、切子ト云フモ、是レナリ。スミトリガタ。其切落シタル角ヲ、圓ク面取リタルヲ、撫角ト云ヒ、其切隅撫角ノ部ノ中央ニ、圓キ凹ヲ造ルヲ（葉、卽チ、刳形ヲ造ルコトニテ、コレヲ、葉入ト云フ）入隅、又、入角、四方入、ト云フ。

すみくち (名) 隅口　事ノ、闕ヶ際。事ノ、ハル所。（五「」）ノ、雪ニ山ヲナシテ、此ノすみくちヲ見ルハ、□シ」

すみこ (名) 籠　炭籠。字類抄「籠、スミコ、炭籠也」

すみこむ ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 住込　奉公住ニ、アリツク「大家ニ住みこむ」

すみざか (名) 隅坂　入リクミタル坂。曲リコミタル坂。（萬葉集、三「百足ラズ、ヤソ隅坂ニ、手向セバ、過ギニシ人ニ、蓋シ逢ハムカモ」）

すみざけ (名) 清酒　美味ナル酒。濁リ酒ニ對ス（天治字鏡、四「醨、須美佐介、美酒」）

すみさし (名) 墨刺　竹條ノ端ヲ、細カニ割キタルモノ、大工ナドガ、墨斗ニ添ヘテ、筆ノ用トス。墨芯（倭名抄、十五、六「工匠具、墨芯、須美佐之」大安寺伽藍緣起「墨刺」）

すみずみ (名) 隅隅角角　諸方ノスミ。スミズマ。（天神記（正徳、近松作）三「末ノ末ノ角角マデ、心ヲ配ル親ノ慈悲」）

すみすり (名) 硯　〔墨研石ノ義、今、約略シテ、すずり〕すずり（硯）ニ同ジ。（倭名抄、十三、文書具「硯、須美須利」名義抄「硯、スミスリ、スズリ」）

すみすりがめ (名) 水滴器　〔硯瓶ノ義〕すずりがめニ同ジ。（倭名抄、十三、文書具「水滴器」夜鶴庭訓抄「硯瓶」本朝文粹、七月三日陪二第七親王讀書閣一「筆硯生、座右、水滴含二冬冰一而徒唱」源、六、末摘花廿六「御硯ノかめノ底ニ、紙ヲ濡フシテ、云云」）

スミせん (名) 須彌山　しゅみせん（須彌山）ニ同ジ。（榮花物語、十六、本雫「コノ御心ザシ、すみせんヨリモ高ク、四大海ヨリモ深シ」）

すミソ (名) 酢味噌　味噌ヲ擂リテ、酢、味醂、砂糖ノ三味ヲ、等分ニ加ヘ、どろどろニ煮メタルモノ。魚菜ナドニ塗ヘテ、用キル、すみそあへト云フ。（ぬた鱠ニ、分葱ニ」本朝若風俗、五「櫻、云云、花ヲ曇レ、今日ノ詰肴ニ、酢味唱デ食ベル」）

すミソあへ (名) 酢味噌韲　前條ヲ見ヨ。

すみそむ ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 住初　初メテ、住ム（拾遺集、十八、雜賀「住みそむる、末ノ心ノ、見ユルカナ、汀ノ松ノ、蔭ヲ映セバ」新後撰集、十七、雜、上「入ルマデノ、月見ムトテゾ、住みそめシ、名ニ負フ秋ノ、西ノ山里」）

すみそむ ムル・ムレ・メ・メ・メヨ (自動、下二) 澄初　澄ムコト、初マル。スミハジム。（新後撰集、九、釋教「如二清水珠能清濁一の心を「すみそめシ、元ノ心ノ、濁ケレバ、濁リモハテヌ、玉ノ井ノ水」）

すみぞめ (名) 墨染　(一)墨汁ニテ染メタル如ク、黑キコト。古今集、十九、長歌「すみぞめノ、夕ベニナレバ、一人居テ、哀レ哀レト、歎キ餘リ」同、十六、哀傷「深草ノ、野邊ノ櫻シ、心アラバ、今年バカリハ、すみぞめニ咲ケ」「すみぞめ櫻」(二)衣ノ、黑ク染メタルモノ、僧ノ服ニ云フ。（僧衣ニ、涅染ト云フハ、絹ニマレ、羅ニマレ、下地ヲ、紺ニ染メオキ、其上ニ、油烟墨ヲ漬ケ浸シ、五七返モ染メテ、色ヲ止メシモノナリ）衣服令「家人奴婢、橡、墨衣」源、三十五、柏木廿九「イデ、アナ、心憂、すみぞめコソ、猶イトウタテ、目モ暗ルル色ナリケレ」(三)喪服ノ、鼠色ニ染メタルモノ。鈍色。ニビイロ。フヂゴロモ。古今集、十六、哀傷、「おもひニ侍リケル人ヲ、訪ヒニ罷リテ、詠メル「墨染ノ、君ガ袂ハ、雲ナレヤ、タエズ涙ノ、雨トノミ降ル」

すみぞめごろも (名) 墨染衣　前條ノ語ノ(二)(三)ニ同ジ。（新六帖、五「憂キ度ニ、餘リ泪ヲ、絞ルトテ、すみぞめ衣、袖ゾ解ルル」）

すみぞめざくら (名) 墨染櫻　〔仁明天皇、愛セラレシ櫻ヲ見テ「深草ノ、野邊ノ櫻シ、心アラバ、今年バカリハ、墨染ニ咲ケ」（前前條ノ(一)ノ出典）翌年、墨染ノ色ニ咲ケリト云フ〕櫻ノ一種、花、小サク、單瓣ニテ、細ソク、色、白ク、莖、葉、共ニ青ク、薄墨ノ如シトゾ。

すみぞめの (枕) 墨染之　たそがれ、暗きナドノ枕詞（夫木抄、十九「墨染の、たそがれ時ノ、大空ニ、アヒ見シ君ハ、サダカニモ見ツ」後撰集、十二、戀、四「墨染の、クラマノ山ニ、入ル人ハ、辿ル辿ルモ、還リ來ナナム」）

すみだがは (名) 隅田川　江戸時代ノ銘酒ノ名。（寛政ノ川柳「有リヤ無シヤト、振ッテミル、隅田川」）

すみたてがく (名) 隅立角　〔すみきりがくニ對ス〕方形ノ四隅ノ、上下、左右、角バリタルモノ。紋所ナドニ云フ。

すみだはら (名) 炭俵　〔米俵、鹽俵ナドノ類〕炭ヲ納ルル俵、葦ナドノ莖ヲ、皮ナガラニ編ミテ、作ル。

すみだふれ (名) 墨倒　遊戯ノ一、小兒ノ、遊ビニ負ケタルモノニ、墨ヲ塗ルコト。（油糟（寛永、貞德）「拭フベキ、紙ヲ手ニ持チ、泣クバカリ、すみだふれニヤ、負ケテ腹立ツ」）

すみちがひ (名) 角違　次條ノ語ニ同ジ。

すみちがへ (名) 角違　〔縱、横ニ對ス〕四角ナル紙ヲ、二角ヲ採リテ、二ツニ折ルコト。（三角トナル）四角ナルモノノ、二角ニ渉ルコト。斜ナルコト。スヂカヒ。ハス。

すみづか (名) 墨柄　墨ヲ插シテ、研ルニ用キル具、形、種種ナレド、手習スル兒童ナドハ、竹ニテ作リ、墨、研リ減ラ

シテ、短クナリシ時ニ、施ス。スミバサミ、祕閣

すみ-つき　(名)　[墨付]　(一)〔墨ノ、染ミツク狀〕源、四十五、椎本「黑キ紙ニ、夜ノすみつきモ、タドタドシケレバ」同、四十四、橋姬「白キ色紙ノ厚肥エタルニ、云云、すみつき見所アリテ、書キ給フ」(二)黑印ノ稱。又、其押シテアル文書。まゆいん(朱印)ノ條ヲ見ヨ。籾井家日記、桂川合戰「跡備ハ、筒井順慶ニテ候、云云、信長ヨリ每度、墨付ヲ貰ウテ、人ナゲニ思フ」

すみ-つぎ　(名)　[墨次]　〔墨繼ナルベシ〕書札ナド記スニ、敬フベキ字ノ所ハ、改メテ、筆ヲ墨ニ浸シテ、濃クナルヤウ書クコト。

すみ-づきん　(名)　[角頭巾]　〔額付ニ、角マデ被フヤウニ作レル頭巾ノ義ナルカ、角隱モ、アリ〕又、ツノヅキン。後ニ、錣ノ如キ垂レノ有ル頭巾、寬永ノ頃、行ハレシモノ。正德以後ハ、まゐろづきんト云フ。寶藏(山岡元鄰)「花ノ宿ニモすみづきん」藥師通夜物語(寬永)「醫者ノ服「長胴服ニ角頭巾」佐夜中山集(寬文)「丸額ニ、ナルヤ額ノ、すみ頭巾」同「角立テテ、カブル頭巾ニ、山オロシ」崑山集(慶安)「冬ノ來タ、カドヲ見セケリ、すみ頭巾」洗濯物(寬文)「すみ頭巾、カブルカ鹿ノ、袋角」空林風葉集(天和)「山寒シ、ソノ御姿、角頭巾」

〔すみ-つ・く〕・ク・ケ・カ・キ・ケ　(自動、四)　[住着]　住ミテ、落チ着ク。住居、定マル。占居安堵　源、廿二、玉鬘「娘ドモモ、男子ドモモ、所ニツケタル便ドモ出デキテ、すみつきニケリ」同卷十六「從ヒ來タリシ者ドモモ、云云、モトノ國ニ歸リ散リヌ、すみつくベキヤウモ無キヲ」

すみ-つお　(名)　[隅]　すみ(隅)ノ條ノ(一)ニ同ジ。すまっお。「すみっおニ、小サクナッテ居ル」

〔すみ-つぼ〕　(名)　[墨壺]　工匠ノ具、木製ニシテ、池アリ、中ニ、墨汁ヲ貯フ、墨繩、墨刺ノ墨ノ用トス。(各條ヲ見ヨ)　墨斗　倭名抄、十五六工匠具「墨斗、須美都保」天治字鏡、十二十三「墨斗、須彌豆毛」萬葉集、十六十二長歌「吾ガ耳ハ、御墨坩」圖書寮式「行幸從駕御硏案、硏筆、銀小瓶墨」

すみ-てまへ　(名)　[炭手前]　茶湯ノ技、爐ニ、炭ヲ加グコト。又、其手腕。

〔すみ-どころ〕　(名)　[住所]　人ノ、住ム場所。スミカ。住所。伊勢物語、第八段「東ノ方ニ、すみどころ求ムトテ」源、十八、松風「寢殿ハ塞ゲ給ハズ、時時渡リ給フ御すみどころニシテ」同、五十、浮舟三「暫シハ、人ノ知ルマジキすみ所シテ」

〔すみ-とり〕　(名)　[炭取]　炭ヲ取リ別ケテ、運ブ器、籠、匣ナド、製、種種ナリ。炭斗　宇津保物語、藏開、中十五「すみとりニ、小野ノ炭取リイレテ、奉リ給ヘリ」散木集(俊頼)十、連歌、すみとりノ、炭無キヲ見テ「すみとりノ、スミモ取ラレテ、居タルカナ、火モ燒サレヌ、火桶ノツラニ」字鏡六十二「籮、炭籠、阿良須彌乃古」

すみ-とり-がた　(名)　[角取形]　すみきりがくニ同ジ。

すみ-とり-がみ　(名)　[角取紙]　古ヘ用キシ軍旗ノ一種、紙ヲ、角取形ニ疊ミテ、笠標トシタルモノ。平家物語「熊谷、角取紙ノ笠印ヘ、城内ヨリ、火ヲ附ケシガ」

〔すみ-ながし〕　(名)　[墨流]　紙ヲ染ムル模樣ニ、墨汁ヲ、水ノ上ニ流シテ、亂レタル狀ノモノ。又、五彩ナルニモ云フ。古今集、十、物名、すみながし「春がすみ、なかし(中ノ)通路、無カリセバ、秋來ル雁ハ、歸ラザラマシ」尺素往來「內量、墨流等之短策、疊紙」

〔すみ-なは〕　(名)　[墨繩]　工匠ノ、直キ線ヲ作ルニ用キル具、墨壺ノ一方ニ、輪アリ、細ソキ麻繩ヲ卷キ置キ、其端ハ、墨壺ノ中ヲ潛リテ、他ノ緣ノ小孔ヨリ出ヅ、其端ニ、小サキ錐アリ、かるさト云フ、コレヲ、材ノ一端ニ刺シ、繩ヲ強ク引キ張リ、控キテ放テバ、材ニ、直キ墨ノ痕ヲ附ク、コレヲ、墨を打つト云フ。又、ロクズミ。イトズミ。常ニ、泛ク、直キコトノ意ニモ云フ。繩墨　倭名抄、十五六工匠具「端直不曲、喩如繩墨、須美奈波」雄略紀、十三年九月、長歌「猪名部ノ工匠、繫ケシ須彌繩」靈異記、中、第十六縁「路廣平直、如繩墨」萬葉集、五三十長歌「墨繩ヲ、延ヘタル如ク」同、十一七廿「カニカクニ、物ハ念ハズ、斐太人ノ、打ツ墨繩ノ、直一道ニ」

〔すみ-な・る〕・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ　(自動、下二)　[住馴]　住ミテ、其地ニ馴ル。後拾遺集、十五、雜、一「住みなるる、都ノ月ノ、サヤケキニ、何カ駿馬ノ、山ハ戀シキ」源、十三、明石十六「すみなれ給ヒシ、故郷ノ池水ニ、思ヒ紛ヘラレ給フニ」同、三十八、夕霧七十三「斯ク、セメテすみなれ顏ニ造リ給フホド」

すみ-な・れる　(動)　[住馴]　前條ノ語ノ口語。

すみ-に・く・し・キ・ケレ・ク・ク　(形、二)　[住惡]　すみあしニ同ジ。

すみのくら-ぎれ　(名)　[角倉切]　嵯峨本ノ斷片。

すみのくら-ぼん　(名)　[角倉本]　さがぼん(嵯峨本)ノ(一)ヲ見ヨ。

すみのくら-りう　(名)　[角倉流]　書道ノ一派、本阿彌光悅ノ門人ニテ、角倉與一ノ創メタルモノ。

すみ-の-ころも　(名)　[墨衣]　すみぞめ(墨染)ノ條ノ(二)(三)ヲ見ヨ。

すみ-のぼ・る・ル・レ・ラ・リ・レ　(自動、四)　[澄昇]　(一)月光、澄ミツツノボル。金葉集、三、秋「すみのぼる、心ヤ空ヲ、拂フラム、雲ノ塵居ヌ、秋ノ夜ノ月」頼政集、冬「すみのぼる、月ノ光ニ、橫切レテ、渡ル秋沙ノ、音ノ寒ケサ」(二)〔音調、澄ミテ、響ク。源、四十五、椎本「笛ヲ、云云、コレハすみのぼりテ、事事シキ氣ノ添ヒタルハ」金葉集、九、雜、上「琴ノ音ハ、月ノ影ニモ、通ヘバヤ、空ニ調ベノ、澄みのぼるラム」永久四年百首「笛竹ノ、ヨヲサヘ月ヤ、照スラン、空ニモ聲ノ、すみのぼるカナ」

〔スミ-の-やま〕　(名)　まゅみせん(須彌山)ニ同ジ。源、三十四、上、若菜、上七十九「夢ニ、云云、自ラ、まみの山ヲ、右ノ手ニ捧ゲタリ」

すみ-ばお　(名)　[炭箱]　箱製ノ炭取。

すみ-ばさみ　(名)　[墨挾]　すみづか(墨柄)ニ同ジ。

〔すみ-は・つ〕・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ　(自動、下二)　[澄果]　全ク、澄ム。スッカリ、澄ム。源、十八、松風廿「浮世ニ、シバシ紛ヒシ、月影ノ、すみはつる世ゾ、ノドケカルベキ」同、三十一、槇柱廿「淺ケレド、石間ノ水ハ、すみはてテ、宿守ル君ヤ、カケ離ルベキ」

すみ-は・つ・ツル・ツレ・テ・テ・テヨ　(自動、下二)　[住果]　終ツルマデ、住ム。最後マデ住ム。續古今集、十六、哀傷「ハカナクモ、月ニ心ノ、トマルカナ、住みはつマジキ、身ヲバ忘レテ」續千載集、十八、雜、下「一筋ニ、山ノ奧トモ、急ガレズ、住みはてヌベキ、心ナラネバ」

〔すみ-はな・る〕・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ　(他動、下二)　[住離]　(一)住居ヲ離ル。世バナル。源、十二、須磨三十「すみはなれタラン岩ノ中、思シヤラル」(二)男女ノ愛情、離レテ、近寄ラズ。源、五十二、手習廿「心ノ內、哀ニ、過ギニシ方ノ事ドモ、思ヒ給ヘラヌ折無キヲ、アナガチニ、すみはなれ顏ナル御有樣ニ、忘リツツナン」細流抄「尼君ノ、世ばなれタル住居故ニ、オノヅカラ、疎遠ニナルト也」取替ばや物語、一「マダ見及バヌ文ノ所所、聞キアラハサント思ヒナガラ、サバカリすみはなれタル所アル御心ニ、ヨモ、受ケヒキ給ハジト思ヒ憚リテ、クチ

ヲシク思ヒ過スヲ」

すみ-は-むし (名) 蠹 [illegible]ニ(衣魚)ニ同ジ。字鏡集「蠹、スミハムシ、メノムシ」

すみ-び (名) 炭火 炭ニ燃リツキタル火。静岡縣ニテハ、おきりト云フ。字類抄「炭、スミ」「炭火也」 心中重井筒(寳永、近松作)中「逢フ御座ルト抱キ合ヒ、繋ノ立スノ暗キ、炭火モ消エテ、凍ルラン」

すみ-びたひ (名) 角額 角前髪ヲ置キタル額。 室町千疊敷(享保、近松作)一「指遣ヘ抜イテ、角額、様ノ御姿、フット切ッテ、投ゲ給ヘバ」

すみ-まへがみ (名) 角前髪 江戸時代、若衆ノ、前髪ノ髪際ノ左右ヲ剃リテ、角ヲ入レタルモノ、(ひたひノ條ヲ見ヨ) 角ノ中ニ、結綿ヲ附ケタリ。商店ノ丁稚ナド、明治前マデ、角前髪シタリ。噺訛シテ、すんまへト云ヒ、直チニ、丁稚ノ稱トセリ。 大振袖(元祿)「四十越エタル者ハ、一人[illegible]」 [illegible] 八十一「故山口玄蕃允宗永ガ次男左馬介ハ、色白ク、角前髪也」 夕霧阿波鳴渡(正徳、近松作)上「頭巾デ、顔ハ見ネドモ、角前髪ノ御小姓ラシイ」

すみ-やか-み (副) 速 [すみやかハ、進みやかノ義] 時ヲ隔ヘルコト、極メテ短ク。スムヤケク。ハヤク。タチマチ。急遽。 神代紀、上「宜[illegible]」 [illegible] 萬葉集、二十、[illegible]「コレハ、すみやかニ殺サレ給ヒヌルト」 同、九、第一段「コノ疾ハ、大ヤケノ御使也、すみやかニ上リタマヒテ」

すみ-やき (名) 炭燒 炭ヲ燒キ作ルヲ、生業トスルコト。又、其人。 宇治拾遺、

九、下、「[illegible]すみやき、木樵ナド云フ者共、集リテ、擧リ」 拾遺集、十七、雑秋「深山木ヲ、朝ナタナニ、伐リツメテ、寒サヲ乞フル、小野ノすみやき」

すみやき-がま (名) 炭燒竈 すみがま(炭竈)ノ條ヲ見ヨ。

すみやき-ごろも (名) 炭燒衣 炭燒ノ着ル衣。穢レテ、黒ミタル衣ニ云フ。 萬代集、十二、戀、四「冬山ノ、すみやき衣、穢レヌトテ、人ヲバ人ノ、厭ムモノカハ」

すみや-ぐ・ク・ケ・カ・キ・ケ (自動、四) 速 [すみやかヲ活用ス、進ミ行ク意] スミヤカニナル。スムヤケクナル。急グ。焦燥 字鏡八十「惶遽、於地加之古須須須也久」 詞花集、八、戀、下「君ヲ我ガ、思フ心ハ、大原ヤ、イツシカトノミ、すみやかレッツ」(炭燒くニ掛ク)

すみ-やぐら (名) 角櫓 郭ノ角ニ立テル櫓。角樓。

すみ-やり (名) 墨遣 つとさし(髱差)ニ同ジ。 賀文心化粧(延享、其磧)「嫁ノ髪見ルニ、鬢ノ中ニ、鯨ノ墨遣ヲ、二三本モ入レラルルハ、何ノ爲ニセラルルゾ」

すみ-よ・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 住吉 [住みよしノ反] 住ムニ善シ。住心地、ヨシ。 萬葉集、六、[illegible]長歌「住リガ欲シ、住吉里ノ、荒ルラク惜シモ」 古今集、十七、雑、上「住吉しト、蜑ハ告グトモ、長居スナ、人忘レ貝、生フト云フナリ」(地名ニ言ヒカク)

すみよし-は (名) 住吉派 大和繪ノ一、土佐派ヨリ分ル、住吉法眼如慶ヲ祖トス、展、東福門院ノ御用ヲ勤メ、遂ニ、徳川幕府ノ繪師トナリ、子孫、職ヲ襲グ。

すみよし-をどり (名) 住吉踊 一名、カッポレ 攝津、住吉神社ノ御田ノ祭(田植)ニ、赤キ長柄ノ傘ヲ開キ、其周ニ、十人

餘リ、赤キ絹ヲ笠ノ縁ニ張リ置キテ、赤前垂シテ、團扇持チ、拍子取リテ、傘ノ周圍ヲメグリ踊ルモノ。江戸ニ來リ、深川ニテ流行ス、故ニ、深川踊トモ云フ、少シ變ハリテ、長柄ノ傘ノ縁ニ、一尺幅ノ緋木綿ヲ垂レテ、笠ノ縁ノ赤絹ニ代ヘタリ、踊ル者ハ、坊主ニテ、赤前垂ニ代ヘテ、桃色手拭ヲ鉢卷ニシ、白衣ニ腰衣ヲ着テ、一人、傘ノ柄ヲ左ニ持チ、右ニ、平竹ヲ持チ、柄ヲ叩キ、やっとさせ、よいやなト、囃ノ音頭ヲ取ル、七八人ノ坊主、何レモ、平竹ヲ、左右ノ手ニテ打合ハセテ、踊ル、後ニハ、染浴衣ニ、平絎帶ヲ締メテ、かっぽれ、かっぽれ、甘茶でかっぽれ、ト云ヒ囃シテ踊ル(かっぽれト云フ語ハ、搔掘れノ意ナラム)因ニ云ハム、かっぽれト云フ語、阿蘭陀語、Kappen. ノ訛、かっぷりニテ、小刀ナリ、吉原ハ、帶刀ヲ禁ゼシガ、かっぷりハ許ストノ掟アリ、故ニ、小刀ヲ以テ、情死ノ事アリ、遂ニ、心中ノ傍訓ノ事トナリシトゾ。 人倫訓蒙圖彙、七「住吉踊、住吉ノホトリヨリ出ヅル、下品ノ者也、菅笠ニ、赤キ絹ノ縁ヲ垂レテ、顏ヲ隱シ、白キ着物ニ、赤前垂、團扇ヲ持チ、中ニ、笠鉾ヲ立テテ踊ル、アトノトメハ、住吉樣ノ岸ノ姫松、メデタサヨ、千歳樂萬歳樂、ト云フ故ニ、住吉をどりト云フ也」 海錄(山崎美成)六、廿八條「住吉踊、是、住吉ノ神社ヨリ出ル事ナシ、大坂、長町、牧元坊ヨリ、御祓トシテ、傘ニ赤キ絹ヲ附、菅笠ニ赤絹ヲ附、顏ヲ隱シ、神イサメトテ、初穂ヲ集ムルナリ」(此ノ説ハ、原因ニ基ヅカズシテ、末ニ走リタルモノナリ、笑話トシテ掲グ)

スミル-ちゃ (名) 素海松茶 「素海松茶ハ、借字ナリ、元來、此染色ハ松蘿國ヨリ渡リタル絹ノ色ナリ、故ニ、そみるハ、唐音ニコソ、此音ノ轉訛シテ、松蘿茶ト

云フモ、アリ」 染色ノ名、黄櫨染ノ色ノ、黒ミザカリタルモノ。 衣裳ノ天和二羽織紐、眞木ゴロ平打、出ル、畑紋ク、短ク、ボタンガケ、さみる染、多クハ、「[illegible]シ」 衣食住記(天明)「享保ノ頃マデモ、褐紬、羽二重、色ハ淺黄、萌黄、すみる茶ナドノ段引」 當節工商等「黄櫨染ニ於テハ、各別ノタガヒニシテ、延喜式ノ儀ニ染ラレタル物ハ、俗ニ、鶯色ト云フ色ニ似テ、當服ノ御袍ノ色ハ、すみいる茶ト云フモノニ、青メノ入タルナレバ」

すみれ (名) 菫 [花ノ形、墨斗ノ墨芯ニ似タレバ、墨入筆ナド云ヘル、略ナラムカト云フ] (一)草ノ名、原野ニ多シ、高サ四五寸、葉、長ク叢生スルコト、柳ノ如シ、春ノ末、莖ヲ出シテ、花ヲ開ク、瓣ハ蓮花ニ似テ、甚ダ小サク、紫色ナリ、又、白キモアリ、花ノ蔕、曲リ垂レテ、鉤ノ如シ、小兒、コレヲ相交ヘ、引キ合ヒテ玩トス、故ニ、すまふとりぐさノ名モアリ。スミレグサ。コマヒキグサ。紫花地丁 又、葉ノ圓キアリ、駒の爪ト云フ。菫菜 本草和名、下、上「菫汁、須美禮」 倭名抄、十七「野菜類「菫菜、須美禮」」 萬葉集、八、十五「春ノ野ニ、須美禮摘ミニト、來シ吾レゾ、野ヲ懐シミ、一夜宿ニケル」 (二)襲ノ色目ノ名、表ハ紫ニシテ、裏ノ薄紫ナルモノ。(三)次條ノ語ノ略。

すみれ-いろ (名) 菫色 菫ノ花ノ如キ色。淡紫色。黄櫨染。

すみれ-ぐさ (名) 菫草 前前條ノ(一)ニ同ジ。 爲忠集「春クレバ、カタ野ノ原ノ、すみれぐさ、摘ミシ片手ニ、菫花抜クナリ」

すみ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 澄亙 物、一圓ニ、澄ム。 榮花物語、十三、木綿四手「コノ宿ニ、我レヲトメナム、池水ノ、深キ心ニ、澄みわたるベク」 源、十三、明石「小止無カリシ空ノ景色、名ゴリナクすみわたりテ」「中秋ノ月、すみわたる」

すみ-わた・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 住亙

斷エズ、住ム、常ニ住ム。萬葉集、十廿「橘ノ、林ヲ植エム、霍公鳥、常ニ冬マデ、住度ガネ」同、九廿「長歌「遲クナ去キソ、吾ガ宿ノ、花橘ニ、住度鳥」

〔すみ-わ・ぶ・ブル・ブレ・ビ・ビ・ビヨ (自動、上二) 住侘〕 住ミナヤム。住ムニ苦シム。風雅集、十七、雜、下「住みわぶる、我レコソ常ニ、急ガルレ、月ハ何故、山ニ入ルラム」古今集、三、夏「ヤヨヤ待テ、山時鳥、言ヅテム、我レ世ノ中ニ、すみわびヌトヨ」伊勢物語、五十九段「すみわびヌ、今ハ限リト、山里ニ、身ヲ隱スベキ、宿求メテン」

すみ-ゑ (名) 【墨繪】 (一)彩色ナク、墨ノミニテ畫キタル畫。(彩色畫ニ對ス) 水墨畫 夫木抄、二「霞「朝霞、都ノ長道ニ、立チニケリ、すみゑニ見ユル、遲ノ旅人」紙ニ、墨ノ模樣ヲ染ムル法、古キハ、淡墨ニテ、一條ノ烟ノ、風ニ靡クガ如キ文ヲナセリ、今ハ、墨汁ノ淡キニ、桐ノ白灰一匁、明礬三分、松脂五分ヲ雜ゼアハセ、五彩ニセムトナラバ、紅、藍ナド、加ヘ、先ヅ、油氣ナキ器ニ、水ヲ盛リオキテ、筆ヲ墨ニ漬シテ、筆先ヲ水ノ上ニ入ルレバ、墨、圓ク浮ブ、竹串ノ先ニ、油ヲ少シ着ケテ、其圓ニ差入ルレバ、墨、開キ散リメグル、其時、器ヲ靜カニ動カセバ、色色ニ渦卷ク、其上ニ、白紙ヲ浸シテ、移シ取ルナリ。金泥ハ、紙ヲ板ニ張リ、乾カシテ、墨ノ闇ヲ色取ル。(二)彩色セザル繪。白繪。白描 榮花物語、八、初花「白裝束ノモノ、種種ナルハ、タダ、すみゑノ心地シテ、イトナマメカシ」

す・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【澄清】 〔清しき意〕 (一)濁、無クナル。挨ナク、淨ク、透明ナルヤウニナル。(濁るニ對ス) 源、廿六、常夏「冷ナク、すますまに宿レレ月ハ、曇リナキヤウ、イカデカ有ラン」「水、すむ」「月、すむ」 (二)曇ナク明ラカナリ。源、十三、明石「廿「月モ、入ル方ニナルママニ、すみマサリテ」同、同四十「小止ナカリシ空ノ氣色、名殘無クすみワタリテ」 (三)他ノ音ヲ雜ヘズ、冱エテ聞ユ。源、四十五、椎本三「物ノ音、すみマサル心チシテ」永久百首「笛竹ノ、ヨヲサヘ月ヤ、照ラスラム、空ニモ聲ノ、すみノボル哉」 (四)物靜カニ、落チ着ク。クスム。源、三十五、柏木八三十「物深ウナリヌル人ノ、すみ過ギテ」同、廿八、野分廿「ケダカク、すみタル氣色、アリサマヲ見ルニモ」同、廿六、常夏九十「イト貴ニ、すみタル物ノ、ナツカシキ狀、添ヒテ」同、二、帚木廿「思ヒ立ツ程ハ、イト、心すめルヤウニテ、世ニ、カヘリミスベクモ思ヘラズ」 (五)假名ノ音ニ、清音ナリ。即チ、濁音、半濁音ナラズ。(語法指南ノ、假名ノ條ヲ見ヨ)

す・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【住棲栖】 〔前條ノ澄むニ通ズ、落チック意〕 (一)居所ヲ定メテ居ル。居着ク。スマフ。古今集、十五、戀、五「久方ノ、天ツ空ニモ、すまナクニ、人ハヨソニゾ、思フベラナル」萬葉集、十五四三十「人國ハ、須美惡シトゾ云フ、速ク、ハヤ歸リマセ、戀ヒ死ナヌ内ニ」字類抄「住、スム、棲、栖、寓、同上」 (二)男、女ノ許ニ通ヒテ、交會ス。同棲 伊勢物語、九十三段「イカガアリケム、其男、すまズナリニケリ」萬葉集、四五十「君ガ家ニ、吾ガ住坂ノ、家路ヲモ」 竹取物語「安倍ノ大臣ハ、火鼠ノ裘持テイマシテ、かぐや姬ニすみ給フトナ」 古今集、十三、戀、五「業平朝臣、紀有常ガ女ニ住みケルヲ、恨ムル事アリテ、暫ノ間、晝ハ來テ、夕サリ還リノミ爲ケレバ」同、十八、雜、下「昔、大和國ナリケル人ノ娘ニ、或人、すみワタリケル」 元輔集「親ヒテ、人すみ侍リケル女ノ親ニ代ハリテ」 (三)巢ニ居ル。其所ヲ、棲トシテ居ル。(鳥、獸、蟲、魚、ナドニ) 栖棲 萬葉集、十四二十「鴨ノ頃年、スサノ入江ノ、コモリ沼ノ、アナ息ヅカシ、見ズ久ニシテ」 拾遺集、七、物名、鼠「年ヲ經テ、君ヲノミコソ、寢住みツレ、異ノ腹ニヤ、子ヲバ生ムベキ」

す・む・ム・メ・マ・ミ・メ (自動、四) 【濟】 〔前前條ノ澄むニ通ズ、落チツキ、カタヅク意〕 成ル。終ハル。果ツ。シマフ。完 狂言記、胸突「マダ、すまヌ事ガオヂャル」「事、すむ」

〔す・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 統〕 すぶ(統)ト云フニ同ジ。萬葉集、三四十「頂ニ、者須賣ル玉ハ、二ツ無シ、カニモカクニモ、君ガマニマニ」

すん (名) 【寸】 (一)〔古言、キ。度目ノ名、尺ノ十分ノ一。分ノ十倍。漢書、律歷志「度量衡、皆起二於黃鍾之律一云云、十分爲レ寸、十寸爲二一尺一」 公式令「凡、度、十分爲レ寸」 源、三十四、上、若菜、上「御髮ノ裾マデ、云云、七八寸バカリゾ、餘リタマヘル」 (二)寸法。寸尺。孔子家語「布レ指知レ寸」狂言記、長光「すんノ長サヲ、彼ガ、エ聞カヌヤウニ、耳語イテ、申シマセウ」 (三)少キコト、短キコトニ云フ。少許。老子「不三敢進レ寸而退二尺一」蘇軾詩「寸田尺宅今誰耕」 (四)吉原ニテ、局女郎ノ揚代ニ云フ語、さんすんつぼね(三寸局)ノ條ヲ見ヨ。「五寸つぼね」「三寸つぼね」

〔すん (名) 【順】 ずゅん(順)ノ(二)ニ同ジ。次第ニ、巡ルコト。宇津保物語、藏開、上三十一「人人、物ノ音仕ウマツリ合ハセテ、すんノ舞歌ウタヒ」同、同廿「すんノ和歌、行政ノ少將ノ、書キツク」 紫式部日記「盃ノすんノ來ルヲ」「すん流ル」

すん-い (名) 【寸意】 すんし(寸志)ニ同ジ。晉書記「丹心寸意、愁二君未一レ知」

すん-いん (名) 【寸陰】 〔一寸光陰ノ略〕 又、そんいん。暫シノ暇。寸暇。淮南子、原道訓「聖人不レ貴二尺之璧一、而重二寸之陰一、時難レ得而易レ失也」 晉書、陶侃傳「陶侃曰、大禹聖者、乃惜二寸陰一、至二于衆人一、當レ惜二分陰一」

すん-か (名) 【寸暇】 少シノ暇。寸隙。寸暇無シ」

すん-がう (名) 【寸毫】 極メテ、僅カナルコト。ゴク、少シ。秋毫。

ズンガウ-の-すずき (名) 【松江之鱸】 〔松江ハ、宋音、鱸ノ字ハ、我ガ國ニテ古來、すずきト訓ズレド、淡水魚ニテ、當ラズト〕 支那ノ吳松江(今、江蘇省、滬海道、松江縣、所在)ニ產ズル、鱸ト云フ淡水魚、長サ、三尺餘アリト。支那ニテ、古來、盛饌トシテ、名アリ。搜神記、晉、干寶「今日高會、珍羞略備、所レ少者、吳松江鱸魚爲レ膾」 蘇軾、後赤壁賦「今者薄暮、擧レ網得レ魚、巨口細鱗、狀如二松江之鱸一」 東雅、四「吳江ニアル鱸ノ如キハ、三尺餘アリシ事ハ、後漢書ニモ見エタリ、又、松江府志ニモ、鱸出二澱湖中一、小者僅數寸許、間有二四腮者一、海鱸乃有二絕大者一ト」

すん-かん (名) 【寸閒】 すんのま(寸閒)ニ同ジ。

すん-かん (名) 【寸簡】 短キ書簡。寸楮。

ずん-ぎり (名) 【寸切】 〔直切ノ音便轉カト云フ〕 (一)勾配モ無ク、面モ取ラズ、眞直ニ斷チ切ルコト。ツツギリ。ヅンギリ。ヅンドギリ。ワギリ。直截 (二)茶入ノ稱、棗ノ實ノ形シテ、頭ヲ、ずんぎりニシタルモノ。頭切ナドト、記ス。(三)筒狀ノ茶椀ノ口ニ、靑キ筋アル所ノ稱。靑切。宗長手記(大永)「神ノ代ヨリモ、杉ノずんぎり」チハヤブル、三輪山モトノ、茶屋坊主」 (四)植木ナド、大木ヲ、半ヨリ、橫ニ伐リタルモノ。(茶室ノ路次ナドニ)

ずんぐり-むっくり (句) 脊低クテ、肥滿リタル體ヲ云フ語。

すん-くゎん-しゃく (名) 【寸關尺】 手首ノ下ノ、動脈ノ搏ッ處。即チ、醫者ノ常ニ、脈ヲ診ル所。寸口。難經「脉三部寸關尺」

すん-げき (名) 【寸隙】 少シノ隙。寸暇。

すん-こう (名) 寸口 「說文「寸、十分也、人手卻二一寸一、動脈謂二之寸口一」 皮莽集「生三十歲、寸隙無」

人手ヨリ二十分ノ一取リ[illegible]ノ寸目ニ」　前前條ノ語ニ同ジ。（足ニモ云フカ）

すん-こう　（名）　寸功　聊カナル手柄　一寸功無シ」

すん-ころ　（名）　寸頃　長サノ程合（身長、刀身ナドノ）　狂言記、粟田口「某ハ、寸頃モ良シ、銘ノ鑑賞ニトアッテ、殺シ羅カレタレドモ」

スンコロク　（名）　宋胡六　宋胡錄　〔暹羅ノ地名、すわんかろおくノ訛音〕　宋代ヨリ八百年前ノ陶窯ノ在ル所。

すん-ざ　（名）　從者　從者ノ音便。　枕草子、四、三十九段、ありがたきもの「使ヒヨキずんざ」

すん-し　（名）　寸志　聊カバカリノ志。寸心。寸意。寸情。微衷。　梁簡文帝、答講上開講啓「微寸志、重敬拔萃」　浄瑠璃、正徳、近松作）二、「且ハ、小松ガ寸志ノ忠義」

すん-し　（名）　寸紙　（一）小サキ紙片。　北堂書鈔（唐、虞世南）「善書、寸紙不遺」　（二）短キ手紙。寸簡。寸楮。寸書。

すん-しん　（名）　寸心　又、すんしん。前條ニ同ジ。　何遜詩「目想不可識、寸心知」　杜甫詩、文章千古事、得失寸心知」

すん-じやう　（名）　寸情　すんし（寸志）ニ同ジ。　范雲答寄詩「寸情百重結、一心萬處懸」

すん-しやく　（名）　寸尺　（一）寸ト、尺ト。（二）長サ。タケ。寸法。　狂言記、長光「然ラバ、寸尺ヲ申セ」

すん-しよ　（名）　寸書　すんし（寸紙）ノ（二）ニ同ジ。

すん-ず・ズル・ズレ・ゼ・ジ・ゼヨ　（他動、左變）　誦　誦ずノ音便。誦ス。　宇津保物、藤原君「ずんず雲ニテ、云云、ト聞エル二」　宇津保物語、藏開、中「一度ハ詠、一度ハ聲ニ詠マセタマヒテ、オモシロシト聞コシメスヲバ、すんぜサセタマフ」　同、吹上、下「歌作リナドシツツ、誦ミアゲテ、琴ニアハセテ、諸聲ニすんじ給フ」

ずん-ず-と　（副）　滑リ無ク進ム狀ニ云フ語。ズンズト。ズンズント。　積橋三重帷子（享保、近松作）下「磯ノ千鳥ヲ追ッカケテ、石突鋼ンデ、ずんずと伸バシャル」「ずんずと肥ル」

ずん-ずッ-と　（副）　前條ノ語ノ急呼。　本朝三國誌（享保、近松作）二「ヒッソギ竹槍、シシツキ槍、鉤槍シノメ、タ突キ、云云、前後左右、ずんず、と、避ケンナク、身ヲ冷ス」

ずん-ずん-と　（副）　前前條ノ語ニ同ジ。

すん-すん-に　（副）　寸寸　物ヲ、寸斷スル狀ヲ云フ語。ズタズタニ。　晉書、郗超傳「寸寸毀裂」　津國女夫池（享保、近松作）二「命ハ、金デ買ッタ物、すんすんに刻マレテモ、申サヌ」

すん-せつ　（名）　寸節　小ナルみさを。小節。「寸節ヲ守ル」

すん-ぜん-しやく-ま　（句）　寸善尺魔　善キ事ハ、甚ダ少ナクシテ、惡シキ事ハ、甚ダ多シ。　中閣眞鑑、九、下、品第廿七「慈悲ヨリ出ヅル、ヨキ法度ハ、寸善尺魔ト中シテ、善ニハ、必ズ、邪魔出來シテ、闘ヒ兼ネ中スモノニテ候間」

すん-だん　（名）　寸斷　ズタズタニ、切ルコト。切リキザムコト。　胡天游詩「閒緘曉試腸夫手、寸斷日送先生盤」

すん-ち　（名）　寸地　少シノ地。寸土。　杜甫詩、寸地尺天皆入貢」「寸地モ餘サズ」

すん-ちん-ぼん　（名）　寸珍本　しうちんぼん（袖珍本）ニ同ジ。

すん-ちゆう　（名）　寸忠　（一）僅カノ忠義。イササカノ忠節。（二）己レノ忠義、忠節ヲ、卑下シテ云フ語。

すん-ちよ　（名）　寸楮　すんし（寸紙）ノ（二）ニ同ジ。「寸楮拜呈」

すむ-づかり　（名）　酢憤　大豆ヲ炒リテ、熱ヲヌルクセザル時ニ酢ヲ注ケテ、ヤウニナレルコト。（武藏、下總、上野、日光山ノ邊ニテ、すみづかりト云フ）　宇治拾遺、四、十七條「大豆ヲ炒リテ、酢ヲ注ケケルヲ、云云、援カナル時、酢ヲ注ケツレバ、すむづかりトテ、にがみテ、ヨク挾マルルナリ、然ラザレバ、辷リテ、挾マレヌナリ」　精進魚類物語「御前ナル瓶ニ、酒ノ殘リノ有ケルヲ取リテ、武太郎（煎大豆ノ太郎）ガ面ニ沃懸ケタリ、而、にがにがトシテ、酢むづかりニゾ成ニケル」　海錄、十二、七十一條、酢むづかり「野州、佐野ノ邊ニテ、二月初午、大豆ヲ煠アテ、酢ヲカケテ、稻荷ヘ供スルヲ、すみづかりト云ト、彼地ニ居レル友人ニ聞ケリ、又、其後、彼地ノ僧ニ尋ネシニ、寺院ニテハ、常ニモ、調ジテ喰フ、酢ニ、少シ醬油ヲ加ヘ、大根オロシヲ注クルトゾ、是、宇治拾遺ニ見エタル、すむづかり也」

すん-てつ　（名）　寸鐵　（一）針ホドノ鐵。甚ダ小サキ刃物。　盧仝詩「臣有二一寸鐵、刳妖蟇癡腸二」　（二）短クシテ、警拔ナル語句ノ、人ノ急處ヲ衝クニ譬フル語。　鶴林玉露（宋、羅大經）七「曾子之守約、寸鐵殺人者也」

✣すんで-に　（副）　既ノ音便。ホトンド。スンデノコトニ。「すんでに、轉バウトシタ」

すんでの-こと　（副）　〔既の事ノ音便〕　ホトンド。モウ、少シノコト。

すん-ど　（名）　寸土　すんち（寸地）ニ同ジ。　宋史、地理志「民罔耕作、無寸土之曠」

✣ずん-ど　（副）　〔ずっとノ音便〕　衆ニ抽デタル狀ニ云フ語。殊ニ。目ダチテ。スキト。　松の落葉（元祿、流行）「ずんど凹ンダ、菊花」　假名手本忠臣藏（寛延、竹田出雲）六「ずんど此細ナ、内證事」

ずんど-ぎり　（名）　ずんぎりノ條ノ（一）ヲ見ヨ。

ズンド-の-すし　（名）　松江鮨　〔すんどハ、松江（すんかう）ノ訛ニテ、宋音ナリ、松江之鱸ノ條ヲ見ヨ〕　松江ノ鱸ニテ作リタル鮨ノ義ナルベシ。

すん-とり-むし　（名）　寸取蟲　しゃくとりむしニ同ジ。

すん-なが・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ　（自動、下二）　順流　巡流　盃、次第ヲ逐ヒテ順ニ巡ル。次次ニ、順送リニ、移リユク。　源、十八、松風「大御酒、數多度すんながれテ」　同、三十三、藤裏葉八「次次ニ、皆、すんながるメレド、醉ノ紛レニ、ハカバカシカラデ、コレヨリ勝ラズ」　増鏡、一、おどろの下「元久二年三月廿六日、竟宴ト云フコト、春日殿ニテ行ハセタマフ、云云「敷島ヤ、大和言ノ葉、海ニシテ、拾ヒシ玉ハ、磨カレニケリ」次次、すんながるメリシカド、サノミハ、ウルサクテナン」

すん-なら　（感）　〔それならだの約略ナル、そんならノ轉〕　離別スル時ニ云フ語。サヤウナラ。ソンナラ。　浮世床（文化、三馬）初編、下「オイ、すんならト、出テユク」

すん-なり-と　（副）　閑雅（シャヤ）カニ歩ム狀ニ云フ語。シャナリ、シャナリト。　本朝三國誌（享保、近松作）二「心ハ太キな武者、云云、細柄ノ薙刀、掻イ込ウデ、すんなり、すんなりと歩ミ來ル」

すん-の-くび　（名）　寸首　喉笛、一寸程ノ所。　平治物語、一、信賴出家由來事「鬢水ニ、面像ヲ見レバ、寸の首、劍ノ前ニカカリテ、空シクナルト云フ面相アリ」

すん-の-ま　（名）　寸間　僅カノアヒダ。チヨットノマ。チョンノマ。寸閒。

すん-の-まひ　（名）　順舞　酒宴ノ興ヲ添フル爲ナドニ、並ミ居ル人人、順順ニ立チテ、舞フコト。　宇津保物語、藏開、上「コノすんの舞ハ、知リタラムカシ」　重編應仁記、十九「巡の舞、始リ、何レモ、御縁ノ上ニテ舞フ」　室町日記、

十三、織田信長公記ニ、侍「大盃ニテ、上戸モ、下戸モ、押シナラシニ絡フベキ由、仰セラルル、扨、御肴ニハ、頃の舞アルベシトテ、面面、嗜ミケル藝ドモヲ取出テテ、舞フツ、歌フツ、入亂レテ」

すむ-のり　(名)　紫苔　あまのり、むらさきのりニ同ジ　本草和名、下十二「紫苔、生二水底石上一(須牟乃利)」　倭名抄、十七水菜類「紫苔、須无能利」　天治字鏡、十二二十「紫苔、須牟乃利」

すん-ば　(名)　寸馬　遠方ヨリ、小サク見ユル馬。「寸馬豆人」

ずん-ばい　(名)　大打刀　大キナル打刀ノコトナルベシ。　鹽尻、廿四「大打刀ハ、初井日記ニアリ、近世ノ作リ字ナリ、古ヘ、無シ」

ずん-ばう　(名)　巡方　ずゅんぼう(巡方)ノ條ヲ見ヨ。

すん-ばう-す　(名)　角帽子　〔すみばうすノ音便〕能裝束ノ一、僧ノ着ル、角ノ立チタル頭巾。

すん-ぱく　(名)　寸白　すばく(寸白)ノ條ヲ見ヨ。

すん-ぱく-ちゅう　(名)　寸白蟲　〔色白、其長一寸〕　さなだむしノ條ヲ見ヨ。今、すばくト云ヒテ、婦人ノ疝氣トス。

すん-ば-づ-ずん　(名)　寸馬豆人　遙カニ望ミテ、人馬ノ、小サク見ユルニ云フ語。荊浩、畫山水賦「凡畫山水、意在二筆先一、丈山尺樹、寸馬豆人、遠人無目、遠樹無枝」

すん-ばふ　(名)　寸法　すんぽふ(寸法)ニ同ジ。

ずん-ばふ-む-しゃ　(名)　寸法武者　甲冑ヲ着シ、指物ヲ插サザル武者　清正記、中「甲冑ヲ着シ、指物ヲサザルヲ、ずんばふ武者ト云フ」

すん-ぱ-もの　(名)　寸端物　刀ノ刃ノ、長サ、二尺ニ足ラヌモノ、武家時代、商人ノ、佩ブルヲ許シタリ。

すん-ぶくろ　(名)　寸袋　〔寸トハ、細ソキ意ト云フ、だんぶくろニ對ス〕　刀劍ノ鞘ヲ包ム、革ノ袋。　雍州府志(天和)七、土産門「刀袋、俗俗、漆革七小韃一之爲二袋一、裹二刀室一、是謂二寸袋一、言、應二刀劍長短之寸尺一而造之義也、行旅人、多用レ之」

すん-ぶん　(副)　寸分　スコシ。イササカ。一寸一分。「寸分、違ハズ」

ずん-ぶ-り-と　(副)　ずぶりとニ同ジ。　狂言記、鱸庖丁「悲シヤ、悲シヤ、陷リマシタ、コレハコレハ、ずんぶりと濡レタワ」

すん-ぺい　(名)　寸兵　少シバカリノ兵士。　王炎詩「簞竹無二人弄二寸兵一」

すん-ぽ　(名)　寸歩　少シノアユミ。僅カノ足ガカリ。　盛衰記、四十二、義經解二纜四國一事「東國ノ官兵ハ、寸歩ヲ失ヒテ、實平、每度ニ敗ラレケリ」

すん-ぽふ　(名)　寸法　(一)タケ。長短ノ度。寸。寸尺。「寸法ヲ取ル」(二)有樣。模様。　盛衰記、廿、佐殿大場勢汰事「佐殿ノ當時ノ寸法ヲ以テ、平家ノ世ヲ取ラムトシ給ハン事ハ」(三)手順。計畫「左ウ云フ寸法デハ無カッタ」

すん-ま　(名)　角前髪　すみまへがみ(角前髪)ノ略轉、其條ヲ見ヨ。

すむや-け-し　キ・ケレ・ク・ク(形、二)　速　スミヤキ狀ナリ。スミヤカナリ。イトナシ。　天治字鏡、字鏡十「𠊳、須牟也介志、又、伊止奈志」　同、二三十「𠊳、須牟也介志、又、伊止奈志」　同、二廿「迫急、須牟也介之」　萬葉集、十五三十「人國ハ、住ミ惡シトゾ云フ、須牟也氣久、ハヤ歸リマセ、戀ヒ死ナヌ時ニ」

すめ　(接頭)　皇　(一)すべ、すべらニ同ジ。「皇神」皇睦」皇御孫命」(二)轉ジテハ、尊稱トナル。　古事記、中(欽明)五十「三枝部穴太部王、亦名、須賣伊呂杼ニ「須賣伊呂杼」」

すめ-がみ　(名)　皇神　〔天ノ下ヲ統ベタマフ神ノ意〕(一)皇祖、皇宗ヲ稱シ奉ル語。スベガミ。　新年祭祝詞「皇神ノ敷キマス島ノ、八十島ハ」　萬葉集、五十三長歌「日本ノ國ハ、皇神ノ、嚴シキ國」(二)轉ジテハ、唯、神タチヲ崇メ申ス語。　萬葉集、十三六長歌「山科ノ、石田ノ森ノ、須馬神ニ」　同、廿八三十長歌「住ノ吉ノ、我ガ須賣神ニ」

すめ-く　ク・ケ・カ・キ・ケ(自動、四)　呻吟スコウメク。　盛衰記、三十七、長時秀句事「大名、小名、ウメキすめきケレドモ、付クル者無カリケルニ」

すめ-みおや　(名)　皇御祖　天皇ノ御先祖、皇祖。又、天皇ノ御母ニ云フ。　皇極紀、二年九月「吉備島皇祖母命、薨」

すめ-みま　(名)　皇孫天孫　天照大神ノ御子孫ノ稱。次條ヲ見ヨ。

すめみま-の-みこと　(名)　皇御孫尊　〔みまハ、御眞子ノ略〕　天照大神ノ御子孫ノ尊稱、神祇ニ對シテ、稱セラレ、臣下ニハ、天皇ト稱セラル。スメミマ。アメミコ。ミマノミコト。アマツヒツギノミコ。又、邇邇藝命以後、御代御代ノ天皇ヲ申シ奉ル語(書紀ニ、皇孫、天孫ヲ訓ミ、續紀聖武紀ニ、美麻乃彌己止ト見ユ)　常陸國風土記、久慈郡「珠賣美萬命、自レ天降時」　神代紀、下「欲下立二皇孫天津彦彦火瓊瓊杵尊一、以爲中葦原中國之主上」　天武紀、上十「事代主神ニ「皇御孫尊」」　日本紀竟宴和歌(延喜六年)事代主神「須女美萬ニ、八島ヲ去リテ、浪ノ上ノ、青柴垣ニ、隱居スルカモ」　大殿祭祝詞「皇御孫命ノ、大御聞シメサムタメ」　祈年祭祝詞「高天ノ原ニ、千木高知リテ、皇御孫命ノ、瑞ノ御舍ヲ仕ヘ奉リテ」　大祓祝詞「神漏岐、神漏美ノ命、云云、我ガ皇御孫之命ハ、豐葦原ノ水穗ノ國ヲ、安國ト、平ラケク知シメセト、事依シ奉リキ」　垂仁紀、廿五年三月、注、大倭大神ノ御言ニ「皇御孫尊」

す-めん　(名)　素面　(一)劍槍術ニ、面ヲ被ラズシテ、鬪フコト。「素面素籠手」(二)ホシラフ。酒氣ヲ帶ビヌコト。「素面デハ話シニククテ、一杯引ッカケテ來タ」

すめ-むつ　(名)　皇睦　すべむつニ同ジ。

すめら　(接頭)　皇　すべらニ同ジ。天祖、天皇ノ御上ニ係ル物事ニ冠ラセテ、尊稱スル語。　萬葉集、六廿五長歌「天皇ガ、珍ノ御手モチ、掻撫デゾ、勞ギタマフ」　同、廿廿「須米良御兵」　「皇大御神」皇御國」　名詞トシテ用キタルハ、　大祓祝詞「天皇我朝廷」　鎮御魂齋戸祭祝詞「皇良我朝廷乎」　新年祭祝詞「皇吾ガ睦神漏伎命」

すめら-おほもとを　(名)　〔社稷ノ字ノ訓讀〕　天神地祇。又、國家。　字鏡、「社稷、后土曰レ社、五穀曰レ稷、須女良於保毛止乎」

すめら-ぎ　(名)　皇　〔すめら君ノ略、日本紀竟宴和歌(天慶六年)秦酒公「數梅羅機彌」〕　すべらぎニ同ジ。

すめら-みくさ　(名)　皇御兵　〔すめらみいくさノ約〕　天皇ノ軍兵、親兵、皇軍。　萬葉集、廿廿「霰降リ、鹿島ノ神ヲ、祈リツツ、須米良美久佐ニ、我レハ來ニシヲ」(御軍兵、卽チ、防人ノコトナリ)

すめら-みくに　(名)　皇御國　天皇ノ領ラシメス國、卽チ、日本ノ國　「すめらみくにノ武夫」

すめら-みこと　(名)　天皇　「統べらるる由ノ尊稱ニテ、皇尊ノ義」　スベラギ。スメラギ。スメロギ。スベラミコト。オホキミ。ミカド。天皇。大日本ノ大君

ノ御代、臣下ニ對シテ、稱セラレ[illegible]

[illegible]

年二月、天皇不許」 日本紀竟宴和歌(延喜六年)「[illegible]天皇[illegible]ノ井ノ底ニシヅ[illegible]ル、花ノ色ヤ、數女良美已及ノ、御名トナリケム」 續紀、一、文武天皇、元年八月、[illegible]詔「[illegible]天皇[illegible]命」 [illegible]

〔すめろぎ (名) 〔皇〕 〔皇祖ノ約略〕 御自ノ天皇ヲ稱シ奉ル語、又、皇祖ヨリ、御代御代ノ天皇ヲ、兼ネテ廣ク稱シ奉ルコトアリ、但シ、和歌ニ用ヰル詞ナリ。後ニ轉ラ、當今天皇ヲ、すべらぎト稱シ奉ルモ、此語ノ轉ナリ。 萬葉集、廿、長歌、「[illegible]御代ヨリ」 同、六、長歌、「ヤスミシシ、吾大王ノ、高敷カス、日本ノ國ハ、皇祖ノ、神(神武)ノ御代ヨリ、敷キマセル、國ニシアレバ」 同、十八、長歌「皇神祖ノ、神(垂仁)ノ大御世ニ、田道間守、常世ニ渡リ」 同、[illegible]、長歌、[illegible]ノ國ノ、[illegible]ノ、大津ノ宮ニ、天ノ下、知ラシメシケム、天皇ノ、[illegible] 天智 同、十八、長歌、[illegible]代ノ、[illegible] 同、廿、長歌、[illegible]代ニモ」

すもうえ (名) 果物。(静岡縣ニテ)

すもぢ (名) すし(鮨)ニ同ジ。(婦人ノ語)

スモタラ (名) 香合ニ用ヰル、六種ノ香ノ一、初、蘇門答剌(Sumatra.)島ヨリ渡セルモノナラム。

すもどり (名) 素戻 用事ヲ果サズシテ、空シク歸リ來ルコト。 [illegible] 長町女腹切 元祿、近松作)上「折角來テ、素戻リカ」

すもとりぐさ (名) すまふとりぐさニ同ジ。

すもの (名) 〔ろうすものノ上略〕 青物屋ニテ、きすものノコト

ずもん (名) 〔儒門〕 ずゅもん(儒門)ニ同ジ。 字[illegible]、儒門、ズモン」

〔**すもも** (名) 〔李〕 〔酸桃ノ義〕 樹ノ名、枝、幹、桃ニ似テ、高サ丈餘ニ及ブ、春、桃ニ次ギテ、五瓣ノ白花、簇リ開ク、梅ノ花ニ似テ、稍、小サク、花、落チテ、葉、生ズ、亦、桃ニ似テ、小サク、鋸齒、細カニシテ、互生ス、實ヲ結ブコト、諸果ヨリ繁シ、梅ノ實ヨリ小サク、正シク圓クシテ、夏ノ末、熟シテ、赤ク光ル、核、小サク、味、甘ク、酸シ、又、實ノ、白ク青キアリ、青李ト云フ。 本草和名、下、十七、李核、[illegible]「李、[illegible]毛毛」 倭名抄、十七五「李子、須毛毛、一字[illegible]」 萬葉集、十九、「我ガ園ノ、李ノ花カ、庭ニ散ル、ハダレノ未ダ、殘リタルカモ」 古今集、十、物名、すもも「今イクカ、春シ無ケレバ、鶯モ、モノハ眺メテ、思フベラナリ」

すもり (名) 〔殿〕 〔巣守ノ義、具サニハ、すもりこト云フ、次條ヲ見ヨ、木守ト、同趣ノ語〕 (一)〔卵ノ、皆、孵リテ巣立チタル後ニ、孵ラデ、巣ノ中ニ殘レルモノ。 倭名抄、十八羽族類「鷄卵多、殿、須毛利」 宇津保物語、藤原君「[illegible]宮ニ、すもりニナリ給ふルかりのこ、御覽ゼヨトテ、奉レバ」 大和物語、上「故中務ノ宮ノ北方、失セタマヒテ後、云云「亡キ人ノ、すもりニダニモ、ナルベキニ、今ハトかへる、今日ノ悲シサ」返シ「すもりニト、思フ心ハ、トドムレド、かひ(殻ニ、卵ヲカク)アルベクモ、無シトコソ聞ケ」 (二)他ノ卵ノ巣立チシ後ニ殘ル實ヨリシテ、物ノ、後ニ取リ殘サルルコト [illegible] 寶記、十、[illegible]少[illegible]上[illegible]只一人、[illegible]ノ巣守ト成リ果テテ、思ヒニ[illegible]ヘス、ハカナクヤ[illegible]ラン」 [illegible] [illegible]記、七、[illegible] [illegible]、[illegible]ト三[illegible]ヒケル、云云、物ノ心ヲ知ラヌ先ニ、疾ク疾ク、此山ノすもりニナセ」

〔**すもりこ** (名) 〔殿〕 〔すもりハ、前條ヲ見ヨ、こハ、子〕 (一)前條ノ(一)ニ同ジ。 六帖、三、「年ヲ經テ、[illegible]リケ野ノ、すもりこノ、君ニシ會ヘバ 飛立ナミベシ」 宇津保物語、[illegible]上、上「すもりこノ、カヘラヌ母ハ、[illegible]ノ後ノ、[illegible]ノ[illegible]ソ、林シカリケル」 櫻井基佐集、すもりこノ、いひ出デヌ言ノ、イブセキニ、かひ(卵)ニ、[illegible]ヲカクコメ打ツル、身トヤナリナム」 (二)前條ノ(二)ニ同ジ。 忠見集、同御息所ノ、マカデタマヒケルニ、屢トマリテ、或女ノ出デニケルニ「すもりこモ、出デニケルカト見ルニコソ、かひナキ身サヘ、恨ミアリケレ」 宇津保物語、藏開「[illegible]千[illegible]、[illegible]ミコミ給ニ、すもりこノ、カヘラヌ跡ハ、[illegible]ラナム」

すや (名) 〔須屋〕 御陵、又ハ、貴紳ノ墓上ニ、假リニ設ケラレタル建物。

すや (名) 素矢 〔中ラヌ意ナルベシ〕 (一)約束シテ、人ノ所ニ訪レシガ、其約ヲ違ヘラレ、不在ニテ、空シク歸サレタルコト。スッポカシ (まちぼうけ)ニ對ス)「すやヲ食フ」すやヲ食ハサレタ」 (二)徒勞。

ずや (名) 〔買窩〕 〔かひずやノ上略〕 かひずや(買窩)ノ條ヲ見ヨ

すやき (名) 〔素燒〕 陶器ノ、一度、燒キ成シテ、釉ヲカケヌモノ。 生瓷 生玉心中(正德、近松作)中「浮ハ、素燒ノ陶徳利、今日ノ萬請ノ窗句ニモ、ミセ指身皿」

すやす ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 賺ス ダマス。

すやすや (副) 心穩カニ寢入ル狀ニ云フ語。(疲レタル後ナド) 熟眠 日本武尊吾妻鑑(享保、近松作)二「すや、やト寢入リ端ニ」

〔**すやつ** (代) 其奴 そやつノ轉 源、廿二、玉鬘「「サリトモ、すやつバラヲ、等シナミニハシ侍リナンヤ」 落窪物語、二「すやつハ、イヅチ行クト

モ、[illegible]クアリナムヤ」

すやり (名) 〔素槍〕 常ノ槍ノ、刃ノ、直ナルモノ スグヤリ 〔十文字槍、鎌槍ナドニ對ス〕 直槍 [illegible]、[illegible]合戰[illegible]「素槍ヲ持チタル敵一人、大膳ニ突キカカル」

〔**すゆ** ユル・ユレ・エ・エ・エヨ (自動、下二) 〔饐〕 〔酸ノ活用、酸クナル意〕 飲食ノ物、腐敗シテ、酸味ヲ生ズ。スヘル。 倭名抄、十六[illegible]「[illegible]、[illegible]飲、冷飯[illegible]、冷酢、[illegible]比伊[illegible]ル」 [illegible]流こ」(ひいハ、ひえノ轉、下二段活用ニ、すゆれるハ、異ナリ、四段活用モアリシカ) 字[illegible]抄「酢、スユ」

∴**すゆる** (動) 据うノ口語。

〔**スラ** (名) 〔修羅〕 ずゅら(修羅)ノ(一)ニ同ジ。

〔**すら** (辭) 〔尚〕 〔指スモノハ重ク、夫レニ對シタル物ハ輕キヲ云フ語〕 又、そら、幹ハ然ルモノニテ、ソノ枝葉マデモ。サヘ、マデ、(尚、さへト別ナド、語法指南ノ天爾遠波ノ條ニ、委シク說ケリ、就キテ見ヨ) 萬葉集、三、四「鴨尚ニ、玉藻ノ上ニ、ヒトリ寐ナクニ」 同、同、三十八長歌「山道尚ヲ、遊滞ミゾ我ガ來シ」 同、九、十一「春雨須良ヲ、間使ニスル」 同、十五長歌「鴨[illegible]良モ 配[illegible]ト比ヒテ」 躬恆集「草木すら、春ニハナベテ、逢坂ノ」「我ガ身すら、容レラレズ」

〔**ずらう** (名) 〔受領〕 ずゅりやう(受領)ノ(一)ニ同ジ 源、十八、松風「更ニ都ニ還リテ、古ずらうノ沈メル類ニテ」

すらうにん (名) 〔素浪人〕 浪人ヲ、卑シメテ云フ語。 關八州繫馬(享保、近松作)二「心鬮クマデ[illegible]因ニテ、親光ニ見放サレ、一家ニ背クすらうにん」

〔**すらく** (動) 〔爲〕 爲ノ連體ナル、する(爲)ノ延言 [illegible]神紀、十年九月、長歌「覲ヒテ、我サムト、[illegible]知ラニ」

すら・す・ス・セ・サ・シ・セ（他動、四）スベラス。スベス　オメラス。「足ヲずらす」「膝ヲずらす」

すら-すら（副）次次條ノ語ニ同ジ。浮世風呂（文化、三馬）二編、下「思ヒノ外ニ、すらすらト治ルコトモアルカラノ」「すらすら通ル」「すらすら讀ム」

スランガ-ステエン（名）［吸毒石］〔蘭語、Slang-（蛇）steen-（石）〕又、ウミスヒイシ。往時、蘭人ノ舶來シタル藥、西洋島中ニ産ズル、毒蛇ノ腦中ノ石ナリト云フ、大キサ、黒棊子ノ如ク、水ニ浸セバ、泡、出ヅ、蛇毒ナド、一切ノ腫毒ノ處ニ着クレバ、膿ナド、吸ヒ出シテ、毒ヲ解ス、後、又、乳汁ニ投ズレバ、吐キ出ス。

すらり-と（副）（一）安ラカニ、障リナク。スラスラ。スルリト。傾城反魂香（寶永、近松作）中「此ノおみやノ辯舌デ、すらりと遣リマシタガ」「刀ヲ、すらりと拔ク」事、すらりと行ハル」（二）身長ノ伸ビタル狀ニ云フ語。直ク、曲リ無ク　スクスクト。「脊、すらりと高シ」

ずらり-と（副）竝ビ連ル狀ニ云フ語　傾城島原蛙合戰（享保、近松作）二「御家中殿衆ノ長屋中、殘ラズ、ずらりと揃レマシタ」「ずらりと竝ブ」

⁂**すり**（名）［掏摸］［掏兒］〔摩リノ義〕路行ク人ニ摩リ寄リテ、其携フル品ヲ掠メ盗ムコト。又、其盗人。キンチャクキリ。チボ。攫徒　狂言記、粟田口「罷リ出デタルハ、洛中ニ住ヒ仕ル、すりデ御座ル」ト賣狂歌集、上「或人、葡萄ヲ栗鼠ガ食フ所ヲ、繪ニ書キテ、コレニ讃キテヨト云フ「己ガ名ノ、ヒックリカヘシ、すりト云ヘバ、人ノ葡萄ヲ、盗ミ食ヒシ」飜譯名義集「朱利、草、竊、盗賊ノ異稱篇、朱利、竊賊」

す-り（名）［簏］〔簀折ノ約ニモアランカ〕竹細工ノ匣ニテ、旅ノ用トスルモノ。アマバコ。倭名抄、十四 八十 行旅具「簏子、須利、竹篋也」同、十六 二十 竹器「簏、須利、竹篋也」主鈴式「凡、行幸從駕、内印、并、驛鈴傳符等、皆納ニ漆簏子ニ主鈴與ニ少納言ニ共預供奉」萬葉集、十八 三十 七「針袋、コレハ賜バリヌ、須里袋、今ハ得テシカ、翁サビセム」宇津保物語、吹上、上 十 三「種松ガ奉ル物ハ、一所ニすり二カケ、イカメシキ馬ニ負フセタリ」同、藏開、上 五 四「未ダ仄暗クテ、サキノ如ク、すりヤ在リト、見侍レバ」兼盛集「旅人ハ、すりモ箱モ、空シキヲ、早ク往マシネ、山ノ刀禰タチ」

〔**修-り**（名）**すうり**（修理）ニ同ジ。ツクロヒ。源、十四、澪標 廿 八「六條ノ故宮ヲ、イト良ク修リシ、繕ヒタリケレバ」枕草子、八、九十一段「女ノ、一人住ム家、云云、物賢ゲニ、ナダラカニ修リシテ、門イタウ固メ、際際シキハ、イトウタテコソ覺ユレ」

すり-あげ-びたひ（名）［剃上額］剃リアゲテ、廣クシタル額附。寶藏記「額ノ作リヤウ、云云、火燈口、すりあげびたひ、皆、人人ノ生レツキニ應ジテ、計ラヒ、作リ給フベシ」

すり-あし（名）［摺足］音立テジトテ、足ヲ曳キズリテ、徐ニ歩ムコト。元祿曾我物語、三「拜領ノ内衣、裾ニ鈴ノ音ヲカケ、すり足ニ歩ミ」

すり-いも（名）［擂芋］芋ヲ、擂リタルモノ。アタリイモ　料理物語「山ノ芋ヲ擦シ、鍋ヲ擂キテ、すりいもノ三分一、入レ」

〔**すり-うす**（名）［磨臼］籾ヲ磨リ破ル具、竹木ヲ編ミテ、縁トシ、土ニテ塡メテ、圓ク扁シ、コレヲ二座、重ネテ、中央ニ軸アリ、下座ハ動カズ、上座ニ手アリテ、廻ハス、籾ヲ送レバ、其間ニテ相磨レテ、皮、破レ、米、損ゼズシテ、出ヅ、約メテ、スリス。スルス。一名、タウウス。礱　倭名抄、十六 十 木器「礱、須利宇須」萬葉集、十六「長歌「サヒヅルヤ、杵臼ニ搗キ、庭ニ立ツ、碓子ニ搗キ」ニ占義ノ語」

すり-かたぎ（名）［摺形木］版木。東北院職人盡歌合、二番、經師「禿ビハテシ、文字カタモ無キ、すりかたぎ、今宵ノ月ニ、現ハカサバヤ」落書露顯「三百句ヲ、摺形木ニヒラキテ」

すり-がね（名）［擦鉦］鉦ノ一種、擦リテ、鳴ラスモノ。叩鐘ナドニ對ス。

すり-がひ（名）［摺貝］らでん（螺鈿）ニ同ジ。齋戒記、正長元年八月十七日、御堂、佛壇井柱等、皆摺貝」

すり-か・ふ・フル・フレ・ヘ・ヘ・ヘヨ（他動、下二）［摩替］僞物ヲ、眞物ニ取リカフ。他人ノ物ト、自己ノ物ト、取リカフ。東海道名所記（萬治）二「一ツ宿ニ泊リテ、荷物ヲすり替ヘラレ」

⁂**すり-か・へる**（動）［摩替］前條ノ語ノ口語。

すり-からし（名）すれからし（擦枯）ニ同ジ。

すりからし-ばう（名）［擦枯坊］スリカラシノ坊主。人ズレシタル僧。東海道名所記（萬治）二「モトヨリ、鳩ノ戒ノすりからし坊ナレバ、ソレヨリ、勸進聖ニナリテ、迴ル」

〔**すり-かりぎぬ**（名）［摺狩衣］すりぎろもノ狩衣。摺衣ノ條ヲ見ヨ。伊勢物語、百十四段「すりかりぎぬノ袂ニ、書キツケケル」

すり-ぎ（名）［擂木］すりこぎノ（一）ニ同ジ。

すり-きず（名）［擦疵］擦リ剝キタル、膚ノ傷　スリムキ。挫傷　打疵ナドニ對ス。

すり-ぎぬ（名）［摺衣］すりごろもニ同ジ　著聞集、十七、怪異、延長八年七月五日「水ヲ…シタル者ハ、すりぎぬヲ着タリ」

すり-きり（名）［摺切］摺切ルコト。金ナドヲ、使ヒハタスコト。無一物。窮乏。赤貧。堀川狂歌集「左歌、代代、すりきりト見エタリ、何トシテ、今ヨリ、子孫ニ讓ラヌヤウニ、分別アルベキカ」三河物語（大久保彦左衛門）下「池田昇平次ト云フ者、博奕打ノ寶引師ナリ、然レドモ、ウキ世ニ無キすりきりナレバ」

すり-き・る・ルル・ルレ・レ・レ・レヨ（自動、下二）［摩切］摩擦シテ、切ルル。摩レ合ヒテ、切ルル。

すり-き・る・ル・レ・ラ・リ・レ（他動、四）［摺切］金ナドヲ、使ヒハタス。貯ヘ、盡ク。一文無シトナル　赤貧ニ至ル。「昨日は今日の物語、ソノ向ヒ隣ニ、イカニモすりきりタル、連歌ノ上手アリ」増補、武道傳來記、六「上中下共ニ、金子ヲ不ㇾ持、すり切りテハ、武邊モナラズ、心ガケモ不ㇾ叶」

⁂**すり-き・れる**（動）［摩切］前前條（自動）ノ口語。

〔**すり-くづ**（名）［摩屑］金屬ノ細工ノ際ニ、摩レテ出ヅル屑。倭名抄、十一「金銀鑪「金屑、古加禰乃々利久豆、銀屑、銀乃須利久豆」賀古教信七墓廻（元祿、近松作）一「賀茄ノ銀…削ルすり屑、五蘊皆散シテ、梅櫻ノ畑ニ伴フ」

すり-くび（名）［磨首］首ヲ、鈍刀ニテ、磨リテ切ルコト。異本、曾我物語、九「ワザト、鈍キ刀ヲモッテ、すりくびニゾシタリケル」

すり-こ（名）［擂粉］米ヲ擂リテ、粉トナシタルモノ、色、白シ、湯ニ溶シ攪キテ、嬰兒ノ飲料ナドトス。更級日記「大井川、云云、水ノ、世ノ常ナラズ、すりこナドヲ、濃クシテ流シタランヤウニ、白キ水、疾ク流レタリ」沙石集、七、下、第六條「すりこヲコソゲテ、嘗メテ試テ」

すり-こ-ぎ（名）［擂小木］〔擂粉木ノ義、又、研碎木ノ約略カ〕（一）擂鉢ノ物ヲ擂ル具、多クハ、椒樹ノ幹ヲ用キル。俗ニ、アタリギ。擂木。畿内以西ニ、連木。

揩槌 [illegible]下、[illegible]ノ[illegible]ナ[illegible]人レ、[illegible]ハ[illegible]レタルヲ、揩リ碎キテ」下瀬集(明德、貞密)「下、男ノ、すり木モ[illegible]ク、[illegible]アラメ[illegible]、すり小木ノサキ」(二)人ヲ、罵リ呼ブ語。「すりこぎ野郎」

すりゐ・バチ (名) 〔擂粉鉢ノ義〕 すりばちニ同ジ。[illegible]「[illegible]スリコハチ」沙石集、五、下、廿條「藥師如前御誕生、心大キニゾ似タリケル、すりゐ鉢ニ塗シ入レテ、國ノ本ニゾ置テケル」

すりゐみ (名) 揩込 布帛ニ、染料ヲ揩リ込ムコト。古ヘハ、鴨跖草、萩ノ花ナド染メシハ、此レナリシナリ。[illegible]「すり箔ノ、小袖ヲ見テハ、物思ヒ」妻ノ爲トテ、縫ヘル打敷」

すりゐ・む・ム・メ・マ・ミ・メ (他動、四) 揩込 染料、又、箔貝ヲ、揩リツケテ、染ム。ナ スリコム。揩染

すりゐろも (名) 揩衣 古ヘ、山藍、鴨跖草、其他ノ物ヲ以テ、種種ノ象ヲ、衣ニ揩リツケ、染メ出シタルモノ。青揩ノ衣、丹揩ノ袖、紫ノ根揩ノ衣、忍揩、揩狩衣、揩袴ナドテフ、皆、コレナリ。スリギヌ。[illegible] 伊勢物語、第一段「春日野ノ、若紫ノ、すりゐろも、シノブノ亂レ、限リ知ラレズ」

すりゐ (名) 揩師 衣服ニ、模樣ヲ揩リ附クルヲ職トスル人。七十一番職人盡歌合、[illegible]「[illegible]キ[illegible]、エビズリノ、花田(縹)ニ雜ル、ミ紫、何レニ移ル、人ノ心ゾ」

すりゐき (名) ゐュりゐき(修理職)ニ同ジ。[illegible]、男ノ[illegible]ハ、ゐりゐき、内[illegible]ニ、宣旨下リテ、二無ウ改メ造ラセタマフ」

すり・す (名) 磨臼 すりうすノ略。袖中抄、十六[illegible]「[illegible]、云云、籾ヲバ扱キテ、すりすト云フ物ニ入レテ、磨リテ、米ニハナスナリ」

すり・すひ (名) 刷梳 馬ノ毛ヲ洗フ刷毛。ウマハタケ。字類抄「刷梳、スリスヒ、馬式見之」

すり・だし (名) 擦出 すりつけぎ(擦付木)ニ同ジ。

すり・ちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 摩違 すれちがふ(摩違)ニ同ジ。[illegible]近松作)中「すり違うテ、妹ノお藤」

すり・ちゃ (名) 擂茶 磨茶 (一)石臼ニテ磨リタル茶。挽茶。[illegible]、すりノ粟、京師ノ[illegible]ニ、むキテ、尋スヤすり茶、[illegible]」(二)一種ノ茶壺ノ名。其形、口、作リ延ビテ、周ニ菊座ノ如キ圓形、又、腹ニ、渦卷ノ如キ筋アリ、[illegible]茶ヲ入レテ、[illegible]セシモノカ。

すり・づくし (名) 揩盡 種種ニ、模樣ヲ揩リ出ダスコト。[illegible]「すりづくしノ直垂ニ、秋毛ノ行縢、履イテ」

すり・つけぎ (名) 擦付木 火ヲ發スルニ用キル具、近年、西洋製ニ傚ヒテ、作ル、小楊枝ホドノ木ニ、藥品ヲ附ケ、其小匣ニ、又、藥品ヲ塗リ置キ、相擦リテ、火ヲ發ス。ハヤツケギ。スリダシ。メッチ。マッチ。燐寸

すり・つづみ (名) 揩鼓 羯鼓ノ類ニテ、指ニテ摩リ鳴ラスモノノ如シ。答臘鼓 [illegible]「[illegible]、スリツヅミ」[illegible]

スリッパ (名) 〔英語、Slipper〕 爪革アル、西洋風ノ上草履。ウハバキ。

すり・つぶ・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 摩潰 摩リテ、ツブシ毀ス。沙石集、一、下、第十條「地藏ノ頭ニテ、葛ヲ摩リナンドシケリ、云云、隣ノ家ノ地藏ハ、既ニ、目ノ許マデ、すりつぶしタルゾヤ」「味噌ヲすりつぶす」

すり・ぬか (名) 磨糠 もみぬかニ同ジ。

すり・ぬ・ける・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動、下二) 摩脱 群集ノ中ヲ、摩リ通リテ、出ヅ。「人込ヲすりぬけテ來ル」

すり・はがし (名) 〔揩剝しノ義カ〕 漆器ノ、五色ノ彩文アルモノ、金馬手ノ類。[illegible]之トアリ、是ヲ、名物六帖ニ、すりはがしト云ヘリ、[illegible]ナルベシ」

すり・ばかま (名) 揩袴 揩衣ノ袴、又、袴ノ股立ヲ、絲ニテ綴リタルモノ。[illegible]「すり袴、揩リニ遣ハシケルヲ、遅シト責セメラレケレバ」[illegible]

すり・はく (名) 揩箔 布帛ニ、金銀ノ箔ヲ揩リツケテ、文ヲナセルモノ、印金ノ類。[illegible]「すり箔ノ、小袖ヲ見テハ、物思ヒ」妻ノ爲トテ、縫ヘル打敷」

すり・バチ (名) 擂鉢 味噌、胡麻、ナドヲ揩リ潰スニ用キル器、深ク大キク開キタル陶器ニテ、內面ニ、細カキ刻ミアリ、擂槌ニテ擂ル。又、スリコバチ。俗ニ、アタリバチ。カガチ 山陽道、四國ニ、カガツ 擂盆 [illegible]「擂鉢、擂盆、スリバチ」

すりバチ・むし (名) 擂鉢蟲 蟲、樹ノ陰ナドノ沙土ノ中ニ、擂鉢ノ形ニ孔ヲ作リ、其底ニ棲ミテ、蟻ナドノ小蟲ヲ陷レテ、食トス、形、はへとりぐもニ似テ、大イナルハ、六七分、六脚ニシテ、首ニ兩鉤アリ、行クニ、後ヘ退ル、身ニ、横條、多ク、毛アリ、後ニ、うすばかげろふト云フ蜻蛉ニ羽化ス。一名、アトズサリ。アトビサリ。アリノヂゴク。アリヂゴク。ウシムシ。ツボムシ。沙挼子

すり・び (名) 擦火 燧石ヲ、火打金ニテ擦リテ、發シタル火。キリビ。

すり・びしほ (名) 擂醬 魚鳥ナドノ肉ヲ、細カニ切リ、鹽ヲ撒リ、酒ヲ掛ケタルモノ。(庖丁聞書)

すり・ぶくろ (名) 箭ヲ包ム囊カ、又、草揩ノ袋カ、又、火打袋トモ云フ。萬葉集、十八 三十七「針袋、コレハ賜バリヌ、須理夫久路、今ハ得テシカ、翁サビセム」

すり・ぼふし (名) 剃法師 新タニ剃髪シタル法師。今道心。義經記、一、正門坊事「四條室町ニ、[illegible]リタル[illegible]ノ、在リケリ、すりぼふしナリケルガ、コレハ、恐ロシキ者ノ子ナリ」

すり・ほん (名) 揩本 版木ヨリ揩リ取リタル書物。スリマキ 版本 (寫本ニ對ス) 印本 [illegible]「揩本、スリホン」百練抄、四、永延元年二月十一日「入唐僧[illegible]歸朝、隨身、云云、十六羅漢繪像、並、揩本一切經」

すりまき (名) 摺卷 前條ニ同ジ。

すりみ (名) 擂肉 魚肉ヲ擂リテ、潰シタルモノ、丸ジテ、吸物ナドニ入ル。

すりむき (名) 擦剝 スリムクコト。又、スリムキタル傷。スリキズ。挫傷

すりむ・く・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 擦剝 擦リ、剝ス。(皮膚ニ傷ツクルナドニ) 挫傷

ずりりん (名) 儒林 ずゅりん(儒林)ニ同ジ 字類抄「儒林、ズリン」

すりめ (名) 摺目 摺リタル跡、摺模様ノ筋目。 取替ばや、一「逢フ事ハ、マダ遠山ノ、すりめニテ、靜心ナク、見ケル戀レナリ」 夫木抄、三十三「年ヲ經テ、日カケニ見レト、小忌衣、すりめ異ニモ、メヅラシキカナ」

すりも (名) 摺裳 草摺ノ裳。 榮花物語、一、月宴「后ノ宮ノ女房、車、三ツ四ツニ乘リコボレテ、大海ノすりも、打出シタルニ」

(一)すりもどろか・す・ス・セ・サ・シ・セ (他動、四) 摺斑 摺亂 入リ亂レタル模樣ヲ、摺リツク 枕草子、六、五十八段「青色ノ紅ノキヌ、すりもどろかしタル水干、袴ニテ」

すりもの (名) 摺物 刷物 版木、又ハ、活版、銅版ナドヨリ摺リ、或ハ、印刷シ、取レル書畫。印刷物。

すりゃ (接) 〔すれだノ轉〕 然スレバ。ソレナラバ。ソンナラ 狂言記、吟聲 罪人ノ書ガ、物ノ本ノ上ニオリヤッタ、ハレ、すりゃ、仕合セデ御座リマス」

(二)ずりりゃう (名) ずゅりゃう(受領)ノ(一)(二)ニ同ジ 類聚雜要抄、一「ずりゃうト云ヒテ、人ノ國ノ事ニカカヅラヒ營ミテ」 同、四、夕顏巻十「若シ、ずりゃうノ子ドモノ、スキズキシキガ」 字類抄「受領、ズリャウ」

すりよ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 摩寄 相、摩ルバカリニ、近寄ル。「すり寄ッテ、顏ヲ見ル」

すりわり (名) 研割 器ナド、物ノ頭ニ、刻ミヲ附ケタルモノ。(照星ニ)

すりゑ (名) 擂餌 鶯、駒鳥、みそさざいナド、小鳥ヲ畜フニ用キル餌、はったい、炒リタル玄米、燒鮒、どぢゃう、蕪、芹、ナドヲ水ニ雜ゼテ、擂ル、單ニ、穀菜ナル餌ニ對シテ、生餌トモ云フ。 運歩色葉集「磨餌、スリヱ」

すりゑ (名) 摺繪 白地ノ織物ニ、染草ヲ摺リテ表ハシタル、草木ノ花、葉ナドノ模樣。 異本、曾我物語、一「祐道、ソノ日ノ裝束ニハ、秋ノ花野ノすりゑセシニ」

すりを (名) 摺尾 矢羽ノ名、黑キ羽ニ、白ク絣リタル斑アルモノ。 長門本、平家物語、十六、義經自二腰越一始院参事「相模國ノ住人、澁谷三郎庄司重國、褐衣ノ直垂ニ、大荒目ノ洗革ノ冑ニ、カラすりをノ征矢ヲ負ヒタリ」

す・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 擦 摩 (一)物ニ、強ク觸レシム。コスル。 源、三十八、夕霧廿六「アガ君、トカク持立チテ、ヒタブルナル御心、ナ遣ハセ給ヒソト、手ヲする」 竹取物語「嫗ヲ我レニ賜ベト、伏シ拜ミ、手ヲすりテ宣ヘドモ」 源、五、若紫「顏ハ、イト赤クすりナシテ、立テリ」 一茶ノ句「ヤレ打ツナ、蠅ガ手ヲする、足ヲする」 (二)〔擦リオロス〕ミガク。研グ 磨 研 枕草子、二、十七段、憎きもの「硯ニ、髮ノ入リテ、すられタル」 同、一、第十三段「御硯ノ墨、すれト仰せラルルニ」「玉ヲする」 (三)擂槌ノ尖ヲ當テマハシテ、碎キ潰ス スリツブス 擂 「味噌ヲする」「胡麻ヲする」 (四)磨碧ヲマハシ、其間ニ相觸レシメテ、碎キテ、粉ニナス ヒク 碾 「打ヲする」 (五)俗ニ用キ盡ス。費ヤシテ、無クナス。スリキル。 耗 「身代ヲする」「元手ヲする」

す・る・ル・ル・レ・レ・レヨ (自動、下二) 摩 強ク觸ル。擦ル如ク當ル。

(一)す・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 摺 〔前前條ノ語意ニ同ジ、摺ノ字ヲ慣用スルハ、搨ノ字ノ旁ヲ倒ニシテ誤用セルカ〕 版木ニ、墨、繪ノ具ヲ塗リ、紙ニ擦リテ、移シ取ル。 搨 萬葉集、七廿四「採色衣、將摺ト思ヒテ」 古今集、四、秋、上「月草ニ、衣ハすらム、朝露ニ、濡レテノ後ハ、變ヒヌトモ」 古事記、下(雄略)五十一「青摺衣」

す・る・ル・レ・ラ・リ・レ (他動、四) 〔摩る義〕 すりノ盜ミヲナス。すり(掏摸)ノ條ヲ見ヨ。 搶奪 「田舍者ノ袂ヲする」

す・る (動) 剃るノ訛。 他我身の上(明曆)「小鬢すりサゲ、絲鬢巾」「鬢ヲする」

(一)す・る (動) 爲ノ變化、其條ヲ見ヨ。

(二)す・る (助動) 令ノ變化、其條ヲ見ヨ。「行カする」「取ラする」

ずる (名) 狡キコト。狡猾ナルコト。又、其人。「ずるヲ極メル」

ず・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動 四) 〔摩るノ轉訛〕 (一)滑リ行ル。(二)弛ミテ、下ガル。「帶ガずる」

するがうた (名) 駿河歌 東國ノ風俗歌ノ稱。あづまあそびノ條ヲ見ヨ。

するがたらう (名) 駿河太郎 「たらうトハ、條ヲ見ヨ、利根川ヲ、坂東太郎ト云フ類」 富士山ノ異名。 延寶(延寶二)「初雪ノ、花ノ兄キヤ、富士太郎」 さへづり草「駿河太郎ト云フベキヲ、俳諧詞ニ製シテ、富士太郎ト云ヒシナルベシ、スベテ、物ノ秀タルヲ、太郎ト呼ブコト、多カリ」

するがどひ (名) 駿河問 江戸時代ノ拷問ノ一種。(下ノ出典ヲ見ヨ) 慶長見聞集、六、大鳥一兵衞組事「爰ニ、彥坂九兵衞ト云フ人、工ミ出ダセル、駿河どひトテ、四ツノ手足ヲ後ヘマハシ、一ツニ括リ、背中ニ、石ヲ重荷ニ置キ、天井ヨリ繩ヲ下ゲ、中ヘ繰リアゲ、一振リ振レバ、タダ車ヲマハスニ似テ、總身ノ脂、頭ヘ下リ、油ノ垂ルコト、水ヲ流スガ如シ」

するがばんし (名) 駿河半紙 半紙ノ一種、多ク駿河國、駿東郡ニ産ズ、みつまたノ皮ニ、糊ヲ入レテ作ル、質ハ雁皮紙ニ似テ、弱クシテ裂ケ易シ、下品ナリトス、今ハ、改良シテ普通ノ半紙トナル。

するがまひ (名) 駿河舞 あづまあそび(東遊)ニ同ジト云フ。 江家次第 六、石淸水臨時祭「舞人等、次第相分進立、駿河舞畢、自上、到二竹臺下一」

するがらん (名) 駿河蘭 らん(蘭)ノ條ヲ見ヨ。

ずるけ (名) 狡 ズルケルコト。又、其人。 八笑人(文化)三編、上「此ノ頃、又、ずるけカエ、困ッタモンダ」

ず・る・け・る・ケル・ケレ・ケ・ケ・ケヨ (自動 下二) 狡 狡クスル。怠ル。故意ニ、ナマケル。怠慢 「奉公人、ずるける」

ず・る・し・キ・ケレ・ク・ク (形、二) 狡 〔するする卜締リ無キ意ヨリ、怠ル意ニ移ル〕 (一)務ムルニ、緩シ 爲ベキコトト知リナガラ、怠ル。 横着ニテ、爲ズ。 故意ニ怠リテ、義務ヲ知ラヌ顏スル。 怠慢 (二)仕事、捗取ラズ。

するす (名) 磨臼 すりうすノ約。

(二)するすみ (名) 匹如身 少シノ資財モ無

キコト[illegible]一[illegible]、字[illegible]、[illegible]スル[illegible]ミ 大木抄、三十四「するすみノ、云フバカリ無キ、古ヘモ、今日迄キツクル、心地コソスレ」 史記抄(文明)四十二[illegible]佐[illegible]持タズ、住所モナク、捨テハテヌル身ハ、求ムル所モナク、リ[illegible]ナシ」[illegible]「[illegible]ナベテ、詮多カル人ノ、[illegible]ヒ、深キヲ見テ、無下ニ思ヒ報スハ、[illegible]ナリ」 發心集、七十「台宗ノ[illegible]ト[illegible]佐[illegible]ノ御兄ナリシカバ、[illegible]ニハ、貧シキ御ナカラヒニテ、イマソカリシ」

するすみ (名) [illegible] 又ハ、摺るモノ故ニ名ツク」 すみ(墨)ノ(一)ニ同ジ。 長明無名抄、するすみノ、モトキ話ニテ、洗フカナ、カクカヒナシト、[illegible]モヤ知ル」

するする (名) するめ(鯣)ノ女房詞 大上臈御名之事「一、するめ、ヨコガミ、するするトモ」

ずるずる (副) 滑リナク、滑(スベ)ル状、又、引キズル状ナドニ云フ語。

するすると (副) (一)滑リナク、スガスガト。スラスラト。ツラツラト。ツルツルト。[illegible]「立チモ[illegible]レズ、泣キ[illegible]シテ侍リシカバ、するするとモ、エ、背キヤラズ」 宇治拾遺、三、十六段「猫ノ律、云云、取リテ、三所ニ植エテケリ、例ヨリモ、するするとモ[illegible]イミジクハキニナリタリ」 小見[illegible]「[illegible]ノ行ク先、するするとモアラデ[illegible]ノミゾ積リケル」 (二)ナメラカニ。 (三)[illegible]リ、又ハ、摩リ行ク状ヲ云フ語。 盛衰記、[illegible]、十七、[illegible]「[illegible]、小太刀ノ[illegible]リ、[illegible]字ニ持チニ[illegible]、するすると[illegible]リ」「杖ヲ横タヘテ、側ヨリ、するすると寄リテ、首ノ根ヲ強ク打チタリケレバ、打タレテ、[illegible]ミケル」「するすると滑(スベ)ル」

ずるずるべったり (副) 物事ノ、其ノ儘ニナリ行ク状ニ云フ語。「二三日ト云ッテ泊ッタ人ガ、ずるずるべったり、[illegible]ニナッタ」

スルタン (名) 〔亜剌比亜語、Sultan.〕 [illegible]者、又ハ、[illegible]力ノ義 回教國ノ君主、殊ニ土耳其國ノ皇帝ノ稱號 又、さるたん。

するど・し・キ・ケレ・ク・ク (形 二) 鋭 〔すすどしノ轉〕 (一)刃、利(ト)クシテ、善ク切ルベシ。鋭利ナリ。 名義抄「尖、スルドナリ」 字類抄「尖、スルドナリ、鋭、トシ、トクハヤシ」「切レ味、するどし」 (二)勢ヒ、疾(ト)シ。ハゲシ。タケシ。「眼ツキ、するどし」

するぼ (名) 草ノ名、つるぼニ同ジ。

するめ (名) 鯣 〔[illegible]群(スミムレ)ノ約轉〕 烏賊(イカ)ヲ、割キ開キテ、乾シタルモノ。炙リテ食フ、多ク、祝ヒノ肴トス。 脯鰲 又、小サキ蛸ニモ云フ 倭名抄、八[illegible]「小蛸魚、知比佐岐太古、一云、須流米」 林逸節用集「鯣、スルメ」

するめいか (名) 鯣烏賊 烏賊(イカ)ノ一種、多ク、するめトスレバ、名アリ、身、稍、長クシテ、體ニ、赤黒ノ斑アリ、後ニハ、白クナル、いかのこふ(ウ)、無クシテ、薄キ骨アリ、硝子紙(ビイドロがみ)ノ如シ。 柔魚

するめがね (名) 鯣金 ぜんまいノ(二)ノ條ヲ見ヨ、

するもぎ (名) 鳥ノ羽ノ名所、羽ノ眞直ニ通レル莖ノ、側ニアル、狭キ部分ノイソ、 [illegible]物語、九「[illegible]手ノ大将[illegible]ハ、黒絲ノ大鎧、云云、黒ノ二鴻ノするもぎ附ケタル矢、四十二刺シタル、負ヒテ」

するりと (副) すらりとノ(一)ニ同ジ。 盛衰記、十四、三井寺僉議事「足輕二三百人、法勝寺ノ北ノマヨリ、二條河原、祇園ノ[illegible]マテ、するりと[illegible]ハシテ、在家ニ火ヲ放チナナバ」「人込ノ中ヲ、するりと抜ケル」

ずるりと (副) 前條ノ語ヲ、[illegible]メテ云フ語。

すれあ・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 摩合 (一)互ニ、摩ルル。摩擦 (二)交リ惡シクナリテ、互ニ惡(ニク)ム。軋轢

すれからし (名) 擦枯 (一)甚シク、摩(ス)レテアルコト。(二)人ズレシテ、狡猾(ワルガシコ)クナリタルコト。又、其人。(三)貯ヘノ、盡キタルコト。無一物。

すれちが・ふ・フ・ヘ・ハ・ヒ・ヘ (自動、四) 摩違 路行ク人ノ、互ノ袖、摩リアフ。相、觸レテ、行キ交フ。ミチユキブリニ、行キ違フ。 肩摩 浮世風呂 文化、二編、初編、下「カヤウナ俺相ガナクバ、御互ニ、すれ違ッテモ、ワカリマセヌ」

すれっからし (名) 前前條ノ語ノ急呼轉

すれん (名) 珠簾 しゅれん(珠簾)ニ同ジ。 字類抄「珠簾、スレン」

す・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 摩 (一)摩(ス)るノ下二段ノ訛 (二)[illegible]種種ノ交際ヲ爲(シ)來リテ、狡猾(ヘズガシコ)クナル 世ノ風潮ニ、サラサル。

ず・れる・レル・レレ・レ・レ・レヨ (自動、下二) 〔摩(ス)るるノ訛〕 自然ニ、滑(スベ)リ行(ユ)ル。シザル。 移動

すろ (名) 棕櫚 しゅろ(棕櫚)ニ同ジ。 枕草子、三、廿四段「[illegible]ナケレド、すろノ木、唐メキテ、惡キ家ノ物トハ見エズ」

すろう (名) 鐘樓 しゅろう(鐘樓)ニ同ジ。 [illegible]花物語、十七、音樂「[illegible]、すろう、廊ノ[illegible]ナドノ」 字類抄「鐘樓、スロウ」

ずろう (名) 疏漏 ナゲヤリ。ソロウ。

スロバン (名) 算盤 そろばんノ轉。 異本、今昔物語、十一「算盤(スロバン)取リ出シテ」

すわえ (名) 楚 「すはえノ轉」 すはえ(楚)ニ同ジ。 平家物語、八、猫間事「逸物ナル牛、云云、一すわえ當テタラムニ、ナジカハ善カルベキ」

すわり (名) 坐 スワルコト。居ツクコト。「器ノすわりガ良イ」

すわりかぶら (名) 坐蕪 あふみ(オウ)かぶらニ同ジ。

すわりずまふ (名) 坐相撲 坐(スワ)リナガラ、相撲(スマヒ)ヲ取ルコト。キズマフ。

すわりだこ (名) 坐胼胝 常ニ坐リテノミ居ル者ノ、足ノ甲ニ生ズル胼胝。 文化ノ川柳「底豆ノ、カハリ能因、坐りだこ」

すわりだひ (名) 坐鯛 祝儀ナドニ用キル鯛、二匹ノ鯛ヲ、腹合セニシテ、頭ト、尾トヲ高クシタルモノ。

すわりブトン (名) 坐蒲團 シトネ。ザブトン。

すわりもち (名) 坐餅 かがみもち(鏡餅)ニ同ジ。

すわ・る・ル・レ・ラ・リ・レ (自動、四) 坐 〔居(ス)うノ自動〕 (一)膝ヲ折リ、足ヲ重ネテ、體ヲ、席ニ落チツクル。下ニ居ル。坐(ザ)ス。 御[illegible]先代萩(天明、松貫四)「何時迄モ、斯ウ、キトすわッテ、お膝ニ手ヲ突イテ、待ッテ居リマス」 (二)定(サダ)マリテ、動カズ。居所、善ク適フ。(物事ニ) 治定 狂言記、不[illegible]立、「夫レハ、出家ノ望ム所デ御座ル、据ゑテサヘ下ダサルルナラバ、据わりマセウ」「俗、寺ニすわる」「器物、ヨクすわる」「腹がすわる」 (三)舟、水底ニ着キテ、動カズ。キル。 膠擱 (四)目がすわるト云フハ、睛(ヒトミ)、動カズ。 凝目 印がすわるト云フハ、印判

ガ捺サル。捺印」

すわる-とばあ-とる（名）「坐わると場取るノ義」戯レニ、袴ノ異名。（鬮語、流行ノ頃ノ語）

すゐ（名）［水］［玉篇「尸癸切、音、尸」其志ヲ忌ミテ、ゑゐト云フ］（一）水ノ總名。書經、洪範篇「五行、一曰、水」淮南子、天文訓「積陰之寒氣、爲レ水」（二）佛教ノ語、四大ノ一。

すゐ（名）［粹］（一）雜リ氣ノ、無キコト。純一。純粹。荀子、非相篇「粹而能容レ雜」（二）［常ニ、粹ノ字ヲ書ケドモ、好きノ音便ナラムカ］すい（粹）ノ（一）ニ同ジ。榮花咄（貞享、西鶴）手ヲ盡シタル粜代ノ高キヲ云ヒテ「セメテ、其様樣ガ、人モ其レホトニ見テ、喋者ニモナレバナリ、只、紺屋ガ氣ヲ盡シテ、ムヅカシキモノト、粹仲間ニ知ルバカリゾ、ヲカシ」

すゐ（名）［粹］［十二分ノ義ト云フ］大阪ノ堂島言葉ニ、場所ヲ支配スルヲ、水ト云ヒシニ起ルト云フ、西鶴ハ、帥ト記シ、仕這大臣ニ、推ト書キ、後ニハ、粹トノミ書カレテ、野暮ノ反トナル。謠曲、太鼓「人間ノ水ハ南、星ハ北ニ（其角ノ句「踊子ヲ、馬デ何處ヘ、星ハ北」）水ト云フ字ヲ、粹ノ字ノ處ニ遣ヒタル例ハ、浮世草子ニ多シ、粹ト、野暮ト云フ處ニ、水月ト云ヘリ。（月ノ條ヲ見ヨ）

すゐ（名）［膵］ゑゐざう（膵臓）ノ略。

すゐ（名）［帥］（一）將軍。隊長。將帥。禮記、子罕篇「三軍可レ奪レ帥也」（二）衆ヲ率キルモノ。ヲサ。カシラ。孟子、公孫丑、上篇「夫志、氣之帥也」

すゐ（名）［推］ゑゐりやう（推量）ノ略。浮世床（文化、三馬）初編、中「今思ヘバ、推ガ惡イハイ」「良イ推」

すゐ（名）［錐］キリ。史記、平原君傳「平原君曰、夫賢士之處レ世也、譬若二錐之處一レ嚢中二」

すゐ（名）［騅］葦毛ノ馬。詩經、魯頌、駉篇「有レ騅有レ駓」注「蒼白雜毛曰レ騅」

すゐ（名）［緌］［說文、緌「系レ冠纓也」］オイカケ。ホホスケ。かけをノ條ヲ見ヨ。詩經、齊風、南山篇「冠緌雙止」

すゐ（名）［錘］秤ノ重。フンドウ。博雅「權謂二之錘一、其形垂也」

すゐ（名）［燧］（一）ヒウチ。キリビ。燧火。禮記、內則篇「左佩二金燧一、右佩二木燧一」論語、陽貨篇「鑽レ燧改レ火」（二）ノロシ。烽火。史記、司馬相如傳「烽擧、燧燔」索隱、注「烽主レ晝、燧主レ夜」

すゐ（名）［隧］アナノミチ。地中ノ、通フ路。トンネル。隧道 左傳、隱公元年「闕レ地及レ泉、隧而相見」

ずゐ（名）［髓］［髄］（一）古名、スネ。ホネノナヅキ。骨ノ中ニアル、脂ノ如キモノ。腦髓、脊髓ナド云フモ、コレナリ。字類抄「髓、ズイ、骨中脂也」天治字鏡、三十五「髓、骨中脂也、保禰乃奈豆支」（二）植物ノ莖、幹ノ中心ニアル、柔軟ナル部分。（三）轉ジテ、中ノ穴。「葦ノ管カラ天覗ク」（四）藝術ノ妙技。神髓 李成用語「筆ト繪畫ト文章髓」陰德太平記（年代不詳）二、「播磨守於レ畫髓一杉原家ニ事」好クチ細ニ氣ヲ配ル、所、得ニ吾髓一トテ、甚ダ感ジケルトカヤ」

ずゐ（名）［蘂］［正字通「花心鬚也、花外曰レ萼、花內曰レ蕊、蘂、俗蕊字」］シベ。雄蘂ト雌蘂トノ總稱。韵會「草木華蘂」

ずゐ（名）［穗］穗ノ中ノ莖。ワラシベ。「葉ノ穗」

ずゐ（名）［瑞］メデタキ兆。祥瑞。瑞兆史記、五帝紀「有二土德之瑞一、故號二黃帝一」

すゐ-あい（名）［翠靄］翠色ノモヤ。王筠、望二夕霽一詩「空樹含二綠滋一、遙峰凝二翠靄一」

すゐ-あて（名）［推當］オシアテ。アテ推量。大織冠（正德、近松作）二「追ッ附ケ、帝位ニ立チ給ハン御祝儀ナリト、物識顏ノ推當て」

すゐ-い（名）［推移］オシ、ウツルコト。ウツリ、カハルコト。史記、屈原傳「夫聖人者、不レ凝二滯於物一、而能與レ世推移」

すゐ-い（名）［水衣］［白ケレバ、名アリ］汗衫ノ類、衣服ノ上ニ被ヒ着ル白絹、方領、廣袖ノモノ。長サ、膝ニ達スト。

ずゐ-い（名）［隨意］ココロマカセ。キママ。朱熹詩「身世年來欲二兩忘一、一春隨意住二僧房一」

ずゐ-いち（名）［隨一］［粹一ノ轉カト云フ］第一。サキガケ。魁 太平記、三十九、諸大名讒二高經入道道朝一事「法ヲ犯ス咎アリトテ、新恩ノ地、大庄一所、召收セラル、是レヌ、赤松ガ恨ミヲ含ム隨一也」

すゐ-いん（名）［推引］人ヲ、引キ立ツルコト。推薦。唐書、蕭穎士傳「穎士、樂レ聞二人善一、以レ推二引後進一、爲二己任一」

すゐ-う（名）［邃宇］幽邃ナル屋宇。奧深ク、大イナル家。宋玉、招魂賦「高堂邃宇」

すゐ-う（名）［翠羽］ミドリ色ノ鳥ノ羽。カハセミノハネ 漢書、江都易王非子建傳「犀甲、翠羽」

すゐ-うん（名）［水運］［陸運ニ對ス］水路ニ寄リテ、物ヲ運搬スルコト。漢書、地理志「符離、淮宅、臨淮、則山、皆便二水運一」

すゐ-うん（名）［衰運］オトロヘ行ク氣運、又、其時勢。衰勢。「衰運ヲ挽回ス」

ずゐ-うん（名）［瑞雲］メデタキ雲氣。瑞氣。洞冥記（郭憲）「東海大明之墟、有二釜山一、出二瑞雲一」

すゐ-えい（名）［垂纓］えい（纓）ノ條ヲ見ヨ。陸雲表「垂二纓玉階一、論二道紫宮一」

すゐ-えい（名）［翠影］ミドリナル、樹ノカゲ。杜牧詩「數樹新開翠影齊、倚レ風情態被二春迷一」

すゐ-えい（名）［水泳］「泳ハ、ゑいノ音ナレド、永、詠、味、榮、ナドニ從ヒテ、慣習ノ假名遣ニ從フ」オヨギ。遊泳。水練。

すゐ-えう（名）［水曜］ゑちえう（七曜）ノ條ノ（二）ヲ見ヨ。

すゐ-えき（名）［水驛］ミヅウマヤ。ミヅマヤ。水邊ノ舟ツキバ。津驛 唐書、百官志「水驛有レ舟」平家物語、六、洲股合戰事「水驛ヲ後ニスル事無カレトコソ云フニ、今度ノ源氏ノ謀ハ、疎カナリトゾ、人、申シケル」

すゐ-えん（名）［炊烟］煮炊スルけむり。竈ノけむり。黃庭堅詩「野僧早飢不レ能レ饘、朝見二寒谿有一炊烟一」

すゐ-えん（名）［水烟］（一）ミヅケムリ。水上ヨリ起チ上ル烟。水氣。梁簡文帝詩「水烟浮レ岸起、遙鳳逐レ舟征」（二）塔ノ九輪ノ頂上ニアル、火焰狀ノ裝飾 火ト云フヲ忌ミテ、名附ケタルナルベシ。

すゐ-えん（名）［水鉛］［學名、もりぶでん（Molybdenum）ト稱ス］雲母ニ似タル鑛物、我ガ日本ノ特產ナリト云フ、熱ヲ、速ク導キ、速ク放ツ效用アルモノ、火ニ

投ズレバ、赤クナリ、引出セバ、故ニ復シテ、[illegible]、[illegible]ニ入レテ、[illegible]ド、作ルニ、熱ヲ持ツコト少ナク、長ク、使用ニ耐フ、富山縣ノ劒山鑛山、其他、中國地方ニ產ズレド、何レモ、少量ナリ。

すゐえん（スイ・エン）(名) [推演] 義理ヲ、オシ弘ムルコト。敷衍。[illegible]

すゐえん（スイ・エン）(名) [瑞烟] メデタキ兆ノ、ケムリ。祥雲。[illegible]

すゐえんしんにょ（ズイ・エン・シン・ニョ）(名) [隨緣眞如] 佛家ノ語、眞如ハ、萬有ノ本體ニシテ、平穩ナル大海ノ如ク、不生、不滅、自然トシテ、寂靜ナレドモ、大海ノ、風ニ因リテ、波浪ヲ生ズルガ如ク、諸ノ緣ニ應ジテ、種種ノ差別相ヲ生ズ、此寂靜ナル方面ヲ、不變眞如ト名ヅクルニ對シテ、差別相ヲ生ズル方面ヲ、隨緣眞如ト名ヅク。[illegible]

すゐか（スイ・カ）(名) [翠霞] ミドリノカスミ。[illegible]

すゐか（スイ・カ）(名) [誰何] 誰レナルゾト、問キ詰ムルコト。[illegible]

すゐがい（スイ・ガイ）(名) [水涯] ミヅギハ。水ノホトリ。水ノキシ。水畔。水際。[illegible]

すゐがい（スイ・ガイ）(名) [水害] 田畠ノ、洪水ノワザハヒ。[illegible]「[illegible]水害」[illegible]

すゐかう（スイ・カウ）(名) 水行 (一)水上ヲ、行クコト。陸行ニ對ス。[illegible] (二)水ノ、流レ行クコト。[illegible]

すゐかう（スイ・カウ）(名) [遂行] ナシ、トグルコト。[illegible]ゲルコト「[illegible]ノ行ス」

すゐかう（スイ・カウ）(名) [推考] 「推ノ字ハ、押ス意ノ時ハ、正音、他回切、たいナレド、通俗ニ從フ」オシハカリ、考フルコト。

すゐかう（スイ・カウ）(名) [推拷] 推究シテ、拷問スルコト。[illegible]

すゐかう（スイ・カウ）(名) [推敲] [劉公嘉話ニ「賈島初赴擧京師、一日於驢上得句、云、鳥宿池邊樹、僧敲月下門、始欲著推字、又欲著敲字、練之未定、遂於驢上吟哦、時時引手作推敲之勢、時韓愈、吏部權京兆、島不覺衝至第三節、左右擁至尹前、島具告所以云云、韓立馬、良久曰、作敲字佳矣」トアル故事ニ出ヅ] 詩文ヲ作ルニ、考ヘヲ盡シ、善ク詞句ヲ練ルコト。[illegible]

すゐがう（スイ・ガウ）(名) [衰耗] オトロヘ、耗ルコト。[illegible]

すゐかう（ズイ・カウ）(名) [瑞香] ヂンチャウゲ。[illegible]

すゐかう（ズイ・カウ）(名) [隨行] 後ニ隨ヒテ、行クコト。隨從。[illegible]

すゐかうしゃ（スイ・カウ・シャ）(名) [水交社] 海軍將校ノ集會所、東京、及、各鎭守府、各要港部ノ所在地ニ設置セラル。

すゐかく（スイ・カク）(名) [醉客] 酒ニ醉ヒタル人。ヨヒドレ。ヨッパラヒ。醉漢。[illegible]

すゐかく（スイ・カク）(名) [推覈] 推シ究メテ、取調ブルコト。十分ニ、取調ブルコト。[illegible]

すゐかく（スイ・カク）(名) [水閣] 水ノ邊ニ在ルたかどの。水樓。[illegible]

すゐかん（スイ・カン）(名) [水干] (一)糊ヲ用キズ、水張ニシテ、干シタル絹。「水干ノ袍、水干ノ狩衣」(二)常ニ、專ラ、水干の狩衣ノ略稱、[illegible]、狩衣ニ異ナラズ、但シ、菊綴、平ニシテ、菊花ノ如ク、一處ニ二ツヅツ著ク、胸紐ノ、前ハ、領ノ上角ニアリ、後ハ、領ノ中央ニアリ、二條ヲ、右ノ肩ノ上ニテ打違ヘ綟リテ、胸ニテ結ブ、或ハ、一重ノ紗、精好、平絹、等、定メナク、色、多クハ白シ、袴ハ、直垂ノ袴ノ如シ。[illegible]

すゐかん（スイ・カン）(名) [水旱] 洪水ト、旱魃ト。[illegible]

すゐかん（スイ・カン）(名) [醉漢] 酒ニ醉ヒタル男。醉客。[illegible]

すゐがん（スイ・ガン）(名) [醉眼] 酒ニ醉ヒタル時ノ目。チロチロメ。[illegible]

すゐかりう（スイカ・リウ）(名) [垂加流] 神道ノ一派、山崎闇齋ノ唱ヘ始メシモノ、神儒習合ナリ。[illegible]「神垂以祈禱為先、冥加以正直為本」ノ二字ヲ採リテ、垂加ト號シ、遂ニ、垂加流ナドト稱ス。

すゐき（スイ・キ）(名) [水氣] (一)ミヅケ。シメリ。[illegible] (二)海川ノ面ヨリ立昇ル、水烟。(三)病ノ名、體中ノ水樣液ノ、タマリテ、全身、又ハ、一部ニ脹ルルモノ。ムクミ。水腫。[illegible]

すゐき（ズイ・キ）(名) [瑞氣] メデタキ雲氣。瑞雲。唐太宗詩「瑞氣縈丹闕、祥烟散碧空」

すゐき（ズイ・キ）(名) [隨喜] 佛經ノ語、服從シテ、喜ブコト。[illegible]

ずゐき（ズイ・キ）(名) [芋苗芋莖] [假名遣、定カナラズ、隨喜ニ寄セテ云ヘル文アリト云ヘバ、此ニ收メヌ、或ハ、蘂引ノ義ニテ、蘂アリテ、引乾スベキ意ナリトモ云フ] いもがらノ條ノ(二)ヲ見ヨ。[illegible]

すゐきう（スイ・キウ）(名) [推究] 道理ヲ推シ考ヘ、究ムルコト。[illegible]

すゐきう（スイ・キウ）(名) [衰朽] オトロヘ、朽ツルコト。[illegible]

すゐ-ぎう（スイギユウ）（名）【水牛】（一）印度ニ野生スル獸、形、牛ヨリハ、甚ダ肥大ニシテ、毛、粗ク、灰蒼色ナリ、角モ、大ナリ。今ハ、馴ラシテ運搬、又ハ農耕ナドニ使役ス。番牛 漢書、西南夷傳「…云云、出二封牛、水牛、云云、蠻流譚」倭名抄、十一「牛馬部「水牛、文選、上林賦注云、沈牛、即、水牛也、能沈二没於水中一者也、唐韻云、犩、水牛也」（二）又、其角ノ稱、舶來ス、長大ニシテ、稜アリ、扁ク黑クシテ、堅實ナリ、彫刻シテ、種種ノ飾トス、半透明ナレバ、玳瑁ニモ僞ル。番牛角 本朝食鑑、十一、獸「牛、云云、西國和名、謂二水牛一、然今本邦無二水牛一、唯有二舶來一、多謂二水牛角一、常二于長崎一、以販之、云云、其角有レ過二丈尺一者、則如二篦子一」

すゐ-きく（スイキク）（名）【推鞫】罪人ヲ、取調ブルコト。推問。訊問。北史、裴藴傳「藴知二上意一、張行本ハ、奏二蘇威罪惡一、付藴推二鞫之一」

すゐ-きふ（スイキユウ）（名）【推及】オシ、オヨボスコト。又、オシ、オヨブコト。

すゐ-きふ（スイキユウ）（名）【垂泣】涙ヲ垂ラシテ、泣クコト。涙ヲ流スコト。後漢書（祢、袁康）「子胥臨而垂泣」

すゐ-きん（スイキン）（名）【水禽】ミヅトリ。游禽。後漢書、馬融傳「水禽、鴻、鵠、鴛鴦、鷗、鷖」曹植、洛神賦「或□□而夾レ轂、水禽翔而爲レ衞」

すゐ-きん（スイキン）（名）【水金】海ノ沙、又ハ、流水ノ中ヨリ採取シタル金。山相秘録、上「流砂中、流水中ヨリ出デタル者ヲ、水金ト名ヅク、其色、□□ナリ」

すゐ-きん（スイキン）（名）【炊金】「金ヲ炊グ、意」極メテ驕奢ナル食事。玉食 □□□、□□□、平□□□□□□□□□、玉□□□」

すゐ-ぎん（スイギン）（名）【水銀】〔本草綱目「時珍曰、其狀如レ水似レ銀、故、名二水銀一」〕ミヅカネ。汞 史記、始皇紀「以二水銀一爲二百川江河大海一、機相灌輸」

すゐ-ぎん（スイギン）（名）【醉吟】酒ニ醉ヒテ、詩歌ヲ吟ズルコト。鄭谷詩「紅葉黄花秋景寬、醉吟朝夕在二樊川一」

すゐ-きやう（スイキヤウ）（名）【醉狂】サカグルヒ。醉ヒテ、狂フコト。酒狂。白居易詩「春初携レ手春深散、無二日花間不二醉狂一」

すゐ-きやう（スイキヤウ）（名）粹狂〔醉狂シタル如キ意カ、粹ニ狂ズル意カ〕モノズキ。好事。「すゐきやうナ人」

すゐ-きやう（スイキヤウ）（名）【水鏡】（一）みづかがみ（水鏡）ヲ見ヨ。（二）人ノ鑑トナルコト。又、其人。龜鑑。三國志、蜀志、龐統傳、注「司馬德操爲二水鏡一」

すゐ-きやう（スイキヤウ）（名）【水鄕】水ノ邊ニアル村。水村。水郭。陸機、答二張士然一詩「余固水鄕士、總□臨二清渦一」新古今集、一、春、上「詩ヲ作ラセテ、歌ニ合ハセ侍リシニ、水鄕春望ト云フコトヲ」

すゐ-きやく（スイキヤク）（名）【水脚】フナアシ。吃水。

すゐ-きやく-ちん（スイキヤクチン）（名）【水脚賃】ふなちん（船賃）ニ同ジ。三代實錄、廿四、貞觀十五年十二月十七日「凡、使狼并水脚賃、及、府家雜用、凡百庶事」

すゐ-きよ（スイキヨ）（名）【吹噓】【吹擧】【推擧】人ヲ、官途ナドニ勸ムルコト。推薦。推轂。推輓。杜甫詩「頗借二吹噓一送二上天一」史記、韓安國傳「貪二嗜於財一、所レ推擧皆廉士、賢二于己一者也」吾妻鏡、三、壽永三年六月廿一日「源九郎主、頻雖レ望二官途一、吹擧、武衞不レ被レ許容一」書言故事「求二薦擧一、曰二倚信二吹噓之力一、是也、推擧薦拔之義也」

すゐ-ぎよ（スイギヨ）（名）【水魚】みづト、うをト。交リ善キコト。（うをおもろノ條ヲ見ヨ）三國志、蜀志、諸葛亮傳「先主曰、孤之有二孔明一、猶二魚之有一レ水」「水魚ノ交リ」

すゐ-ぎよ（スイギヨ）（名）【出御】常ニ、しゅつぎょト訓ムハ、誤リナレドモ、暫ク、慣習ニ從ヒテ、其條ニ出セリ。

すゐ-きよう（スイキヨウ）（名）【垂拱】（一）袖ヲ垂レ、手ヲコマヌクコト。ウデグミ。（二）何事モ、手ヲ下シテセザル義ニ云フ。書經、武成篇「垂拱而天下治」

すゐ-ぐん（スイグン）（名）【水軍】〔陸軍ニ對ス〕船手。舟師。海軍。水師。水軍。晉書、王濬傳「臣水軍風發、行有二次第一」三代實錄、廿七、貞觀十七年十一月十六日「水軍八十艘、殺二略秋田飽海兩郡百姓二十一人一、勑二牧宰一討二平之一」陰德太平記、廿六、能島久留島與二力元就一事「赤川十郎左衞門モ、元就、兼テヨリ、今度、水軍ノ行、云含給ケル故、是モ同ク、先陣ニ進ケリ」

スヰ-クワ（スイカ）（名）【水瓜】〔西瓜ノ唐音、西域渡來ノモノナルベシ〕瓜ノ一種。春ノ半ニ、種ヲ下ス、花、葉、まくはうりニ似タリ、瓜ハ、秋ノ初ニ熟ス、大キサ、冬瓜ノ如ク、皮ハ、深綠ニシテ、堅ニ淺キ襞アリ、肉、赤ク、核、黑ク、水氣、多ク、味、甘シ、果トシテ、生ニテ食フ。大阪ニテ、さいうり。沖繩ニテ、くわんとうい（廣東瓜）。西瓜 又、皮、白ク、肉、淡黄ニシテ、核、赤キモノアリ、しろすゐくわト云フ。月明瓜 大和本草、十八、西瓜「寬永ノ頃、琉球ヨリ、薩摩ニ渡リテ、長崎ニアリ、寬文、延寶ノ頃、諸國ニ弘マル」近代世事談（享保）二「西瓜、寬永年中、琉球ヨリ、薩摩ニ渡ル」猿蓑（天和、芭蕉）「秋海棠、西瓜ノ色ニ、咲キニケリ」三吟百韻（延寶、芭蕉）附句「春半ヨリ、西瓜ハ西瓜ハ」空華日工集（義堂）和二西瓜一詩「西瓜今見、生二東海一、剖破猶含二玉□□、種性不レ同二江北枳一、人猶似二邵門冬一」

すゐ-くわ（スイカ）（名）【水化】〔風化ナドニ對ス〕水ニ曝サルルコト。岩石ナドノ、水ニヨリテ、變化ヲ來タスコト。

すゐ-くわ（スイカ）（名）【水火】（一）ひト、みづト。（二）勢ノ烈シキニ云フ語。（洪水、火災ノ如クノ意）左傳、昭公十三年「衆怒如二水火一焉、不レ可レ爲レ謀」（三）甚ダ苦シキニ云フ語。（水ニ溺レ、火ニ燔カルル如クノ意）孟子、梁惠王、上篇「救二民於水火之中一」（四）交際ノ、良カラザルニ云フ語。氷炭。王符、潛夫論「邪之與レ正、猶二水與一レ火不レ同」ヒミヅ。孟子、盡心、上篇「民非二水火一不二生活一」

すゐ-くわ（スイカ）（名）【燧火】（一）キリビ。論語、陽貨篇「鑽レ燧改レ火、期可レ已矣」（二）トブヒ。ノロシ。烽火。

すゐ-くわ（スイカ）（名）【翠花】〔司馬長卿、上林賦ニ「建二翠華之旗一」トアリテ、天子ノ旗ハ、翠羽ヲ以テ裝飾トスルヨリ、云フ〕天皇ノ御旗。錦ノ御旗。太平記、二、持明院殿御二幸六波羅一事「六軍、翠花ヲ警固シ奉ル」

すゐ-ぐわ（スイガ）（名）【醉臥】酒ニ醉ヒテ、轉ビ寢ルコト。醉ヒタフルルコト。史記、高祖紀「常從二王媼武負一貰レ酒醉臥」

ずゐ-くわ（ズイカ）（名）【瑞花】〔瑞兆タル花ノ意〕ゆき（雪）ノ異稱。六花。劉孝綽、答二雲法師一書「瑞花承レ足、人覩二醉雪之盛一」駱賓王、詠レ雪詩「龍雪瑞花新」

すゐ-くわう（スイコウ）（名）【水光】ミヅノヒカリ。水ノ色。列仙傳「風動二水光一含二遠霧一、雨添二嵐氣一没二青林一」

すゐ-くわく（スイカク）（名）【水郭】水ノ邊ノ村。水村。水鄕。李紳詩「水郭正□尾抱二鐘□一、大郭□□」

[illegible]」

すゐくゎん (名) [水管] (一)水ノ通ル管。(二)動物學ノ語、軟體動物ノ有スル器官、[illegible]ノ一部、[illegible]セルモノ。

すゐくゎん (名) [吹管] 火焔ノ熱ヲ高ムルタメニ、細孔ヨリ[illegible]ヲ吹キツケシムル管。

すゐくゎん (名) [翠鬟] (一)ミドリノ黒髮。(二)屹立シタル山ノ、翠色ナル狀ニ云フ語。[illegible]

[illegible]」

すゐけい (名) [水雞] (一)クヒナ。杜甫詩「水雞啣魚來去飛」(二)南支那、臺灣ニテ食用蛙ノ稱。一名、ツイコエ。

すゐきやう (名) [垂教] [illegible]ルコト。善キ教ヲ、後世ニ殘スコト。指教。垂示。

すゐげう (名) [翠翹] 翠色ノ羽 [illegible]」

すゐげつ (名) [水月] (一)みづト、つきト。[illegible] 水月ノ交リトハ、水ト月ト相照ラシ合ワザ如キ、親シキ交リ。(二)水ニ映リタル月影。[illegible]」

ずゐげつ (名) [瑞月] メデタキ月。佳キ月。[illegible]」

すゐげん (名) [水源] ミナモト。[illegible]」

[illegible]「水源地」

ずゐけん (名) [瑞驗] メデタキ、シルシ。瑞兆。[illegible]

[illegible]ノアタリ」

すゐこ (名) [出擧] [illegible]イラシノイネ。古ヘ、官ヨリ、稻田ヲ、人民ニ貸與シテ、其利息ヲ取ムルコト。(利ハ、凡ソ、公稻ハ五割、私稻ハ、八倍ナリト) [illegible]」

すゐこ (名) [邃古] (一)オホムカシ。太古。[illegible]」(二)崖深ナドノ、奧深クシテ、至ッテ、古雅、閑靜ナルコト。

すゐこく (名) [推轂] (推ノ字ノ音ノコトハ、[illegible]) 轂ヲ推スト云フ意ヨリ云フ語」推擧。推薦。[illegible]」

すゐこせん (名) [出擧錢] 古ヘ、官ヨリ、錢ヲ貸シテ、利息ヲ取ルコト。[illegible]」

すゐこたう (名) [出擧稻] イラシノイネ。いらし(貸)ノ條ヲ見ヨ。タネカシ。[illegible]」

すゐこちやう (名) [出擧帳] 官ヨリ出擧シタル錢穀ノ、出納ヲ記シタル帳簿。民[illegible]」

すゐこまい (名) [出擧米] 官ヨリ、米ヲ貸シテ、利米ヲ取ルコト。[illegible]」

すゐさい (名) [水際] ミギハ。水ノホトリ。水涯。水邊。[illegible]」

すゐさい (名) [水災] [火災ナドニ對ス] 大水ノワザハヒ。水害。水難。[illegible]」

すゐさい (名) [水塞] ミツキ。水ノ邊ニ在ルとりで。

すゐさい (名) [水犀] (一)犀ノ一種、水中ニ棲息スルモノ。[illegible]」(二)すゐぐん(水軍)ノ異名。[illegible]」

すゐさいぐゎ (名) [水彩畫] 水ニ溶カスベキ繪具ヲ用ヰテ描ク、西洋風ノ畫(油繪ニ對スル語)

すゐさう (名) [水草] (一)ミヅクサ。[illegible]」(二)みづトくさト。[illegible]」

すゐさう (名) [水晶] すゐしやう(水晶)ニ同ジ。[illegible]」

すゐさう (名) [水葬] 佛教ニ、土葬、火葬、等ニ對シテ、屍ヲ、水ニ流スコト、其身肉ヲ、魚介ニ施サムガ爲ナリト云フ。

ス、山林ニ棄ツルヲ、林葬、[illegible]葬ト云フ、[illegible]」

すゐざう (名) [膵臟] 胃ノ下方ニ在リテ、膵液ト稱スル消化液ヲ分泌スル、舌狀ノ腺。

ずゐさう (名) [瑞相] (一)メデタキ、キザシ。吉兆。瑞驗。前表。前兆。[illegible]」(二)キザシ。[illegible]」(三)幸福ヲ具備シタル人相。吉相。[illegible]」

すゐさうはうし (名) [水晶包子] 葛ノ葉ニテ、上ヲ包ミタル餅。[illegible]」

すゐさつ (名) [推察] 推シ量リテ、知ルコト。推量。[illegible]」

すゐさん (名) [推參] (一)オシカクルコト。オシテ、マヰルコト。我レヨリ、訪フコト。[illegible]」(二)露ヒテコソ參レ、左右ナク、推參スルヤウヤアル」[illegible]」(二)差シデガマシキコト。出過。[illegible]」

すゐさん (名) [推算] (一)數理ヲ推シテ、計算スルコト。(二)序次ヲ推シテ、

数ヘ、ハカルコト。史記、五帝紀、注「黄帝得ㇾ蓍、以推ニ筭暦數ニ」

すゐさん (名) 水產 〔陸產ニ對ス〕水ニ、產出スルコト、又、其モノ。卽チ、魚貝、水草、ノ類。水產物。博物志(張華)「東南之人食ニ水產、西北之人食ニ陸畜ニ」

すゐさん (名) 炊爨 カシグコト。ニタキ。爨炊。禮記、月令篇「收ニ秩薪柴ニ」注「薪施ニ炊爨、柴以給ㇾ燎」

すゐさん (名) 衰散 衰ヘ、チルコト。(花ナド) 王昌齡詩「握中何爲ㇾ贈、瑤草已衰散」

すゐさんきよく (名) 水產局 農林省ノ一局、水產ニ關スル事務ヲ取扱フ所。

すゐさんぶつ (名) 水產物 水中ニ產ズル物。水中ノ動植物。「水產物ニ富ム」

すゐさんもの (名) 推參者 推參ナルモノ。デスギモノ。吉野都女楠(正德、近松作)五「又、妨グル推參者」

すゐし (名) 垂示 (一)すゐけう(垂敎)ニ同ジ。後漢書、皇后紀「述ニ遵先世、垂ニ示後世ニ也」(二)禪家ニテ、師家ガ學人ニ敎訓ヲ垂ルルコト。スヰジ。示衆。「碧巖集ノ垂示」

すゐし (名) 垂死 〔康熙字典「垂、將ㇾ及也」〕死ニ、ナリナムトスルコト。瀕死。元稹詩「垂死病中驚坐起」

すゐし (名) 垂枝 シダルルコト。枝ヲ、垂ルルコト。又、垂レタル枝。太平御覽「鷙鳥不ㇾ立ニ垂枝ニ」

すゐし (名) 垂翅 〔翅ヲ垂るる義〕失意ノ狀ニ云フ語。失脚。李賀詩「君憐垂翅客」吾妻鏡、五十一、弘長三年四月十四日、二所御參詣、云云、不ㇾ齒ニ垂翅之閒、打梨定有ㇾ憚歟」

すゐし (名) 水司 もひとりのつかさ(水取司)ニ同ジ。

すゐし (名) 水死 水ニ溺レテ、死ヌルコト。溺死。禮記、祭法篇「冥勤ニ其官ニ而水死」

すゐし (名) 水師 ゐぐん(水軍)ニ同ジ。宋書、孝武帝紀「可ㇾ克ㇾ日於ニ元武湖ニ大閱ニ水師、並巡ニ江右ニ講ㇾ武校ㇾ獵」

すゐし (名) 出師 軍兵ヲ、繰出スコト。出兵。左傳、文公十六年「乃出師旬有五日、百濮乃罷」「諸葛亮、出師表」

すゐじ (名) 遂事 成シ遂ゲラレタル事柄。論語、八佾篇「成事不ㇾ說、遂事不ㇾ諫」

すゐじ (名) 炊事 炊ノ事。食物ノ煮タキ。「寄宿舍ノ炊事場」

ずゐじ (名) 隨時 時代ニ隨フコト。又、其ノ時時ニ隨フコト。易經、上經、上彖傳「大亨貞、无ㇾ咎、而天下隨ㇾ時、隨時之義、大矣哉」 源氏烏帽子折(元祿、近松作)牛若宮巡「雨ノ宮、風ノ宮、風雨、隨時ノ御空ノ雲井」

すゐじつ (名) 衰日 ゐにちニ同ジ。盛衰記、二、新帝崩御事「日時ハ、母后ノ御衰日ヲ選ビ、方角ハ、公家ノ御方忌ヲ用ヒル」

すゐしん (名) 推進 オシ、ススムルコト。三國志、吳志、妃嬪傳「性不ニ妬忌ニ多所ニ推進ニ」「汽船ノ推進器」

すゐしん (名) 水心 水面ノ中心。水面ノ眞中。晉書、束晳傳「見ニ金人奉ニ水心之劍ニ」 薩都剌詩「水心驚起鴛鴦飛」

すゐじん (名) 水神 水ノ神。水伯。史記、始皇紀「水神不ㇾ可ㇾ見」 漢書、王尊傳「投ニ沈白馬、祀ニ水神河伯ニ云云、請以ニ身塡ニ金隄ニ」

すゐじん (名) 水潯 水ノ邊。ミヅギハ。水際。江淹詩「涼葉照ニ沙嶼、秋榮冒ニ水潯ニ」

すゐじん (名) 粹人 粹ナル人。清爽ナ人。快闊ケタル人。通人。

すゐじん (名) 醉人 酒ニ醉ヒタル人。ナマエヒ。ヨッパラヒ。醉漢。酉陽雜俎(唐、段成式)「如ニ醉人ニ」

ずゐしん (名) 隨身 (一)隨ヒテ、行クコト。供ヲスルコト。隨從。又、其人。供人。漢書、貨殖傳「隨身數十百」(二)身ニ、隨フルコト。携帶スルコト。庭訓往來、二月「破籠、小竹筒等者、從ㇾ是可ニ隨身ニ」 塵袋抄、二、廿七條「各、一種物ヲ隨身シテ、殿上ニ於テ、興宴アリ」

ずゐじん (名) 隨身 (一)前條ノ(一)ニ同ジ。源、三十三、藤裏葉五「ワヅラハシキずゐじんヲ、否トテ、返シ給フ」 狹衣、四、中二十「同ジクハ、ずゐじんシテヲ、歩キ給ヘ」(二)近衞ノ舍人ノ、兵仗ヲ帶シ、卽チ、弓箭、帶劍シテ、供奉スル者ノ稱。上皇ニモ給シ奉リ、(十四人)攝政、關白、(十人)兵仗ヲ賜ヘル大臣、(八人)同納言、參議、(六人)及、大將、(八人)ニモ從フ。又、中將、(四人)少將、(二人)衞門、兵衞ノ督、(四人)佐、(二人)ナドニ從フハ、小隨身ト云フトゾ。伊勢物語、七十八段「御ずゐじん、舍人シテ、取リニ遣ハス」 枕草子、三、廿八段「イミジク美美シクヲカシキ公達モ、ずゐじんナキハ、イト白白シ」

すゐしんき (名) 推進器 〔英語、Propeller. ノ譯語〕すゐしんらせんき(推進螺旋機)ニ同ジ。

ずゐじんどころ (名) 隨身所 院司、及、攝關家ノ隨身ノ、伺候スル所。榮花物語、四、不見果夢「御隨身所、小舍人所ハ、酒ヲ飮ミノノシリ、打チアゲノノシル」 同、十三、木綿四手「御隨身所、召次所、數知ラズ、机ノ物ドモ、シ据ヱタリ」

ずゐじんもん (名) 隨身門 神社ノ門ヱ、左右ニ、兵仗ノ隨身ノ裝シタル像ヲ置ケルモノ。豐磐間戶命、奇磐間戶命ノ二神(御門守ノ神)ナリト云フ。俗ニ、コレヲ、矢大神、左大神、ナドト呼べリ、矢ハ、右ナルベキヲ、矢ヲ負ヘレバ、訛レルナルベシ。古語拾遺「令ニ豐磐間戶命、櫛磐間戶命二神、守ニ衞殿門ニ」

すゐしんらせんき (名) 推進螺旋機 〔英語、Screw. ノ譯語〕二箇以上ノ拗レタル翅ヨリ成リ、船艦ノ後部ニ取附ケ、水中ニ回轉シテ船艦ヲ推シ進ムルモノ。又、飛行機、飛行船ニモ用キル。推進器。

すゐしや (名) 水車 ミヅグルマ。事物紀原(宋、高承)「魏略曰、云云、今田家有ニ水車ニ」

すゐしや (名) 水瀉 水ノ注グガ如ク、烈シク下痢スルコト。

すゐしや (名) 水榭 水邊ニ設ケタル臺。水亭。杜甫詩「杖ㇾ藜登ニ水榭、揮ㇾ翰宿ニ春天ニ」

すゐしやう (名) 水上 (一)水ノホトリ。水邊。吳均、行路難詩「洞庭水上一株桐、經ㇾ霜觸ㇾ浪困ニ嚴風ニ」(二)水ノオモテ。水面。易經、下象傳「風行ニ水上ニ渙」 後漢書、夫餘傳「魚鼈皆聚浮ニ水上ニ」「水上運動會」(三)川ノ上流。カハカミ。

すゐしやう (名) 水晶、水精 又、ゐさう。コホリイシ。珪酸鑛屬、自然ナルハ、形、皆、六稜ニシテ石英ト云ヒ、細工シタルヲ水晶ト云フ、色、純白ナルヲ常トス、コレヲ白水晶ト云フ、最モ透明ニシ

テ[illegible]、其外、[illegible]ノ[illegible]ス、白石英[illegible]含ミテ、色ノ、紫ナルアリ、紫水晶ト云フ。紫石英 又、酸化鐵ヲ含ミテ、色、黒キヲ、黒水晶ト云フ、黒石英[illegible]、色ノ、紅ナルアリ、紅水晶、又、紅石英ト云フ。[illegible]色[illegible]「[illegible]水晶ノ第一」枕草子、九、百十段「月ノ、イト明キニ、川ヲ渡レバ、牛ノ歩ムママニ、すゐしやうナドノ割レタルヤウニ、水ノ散リタルコソ、ヲカシケレ」[illegible]、水晶ノ玉バカリノ[illegible]「[illegible]キコボルル」

すゐしやう (名) 水精 ミヅ取ル珠。[illegible]語、注「珠水精、故以禦火災」

すゐしやう (名) 水漿 ノミモノ、飲料。戰國策、楚策「七日不得告、水漿無入口」

すゐしやう (名) 垂裳 衣裳ヲ垂ラシ、手ヲ拱キテ、用事ヲナサザルコト。垂拱。[illegible]

すゐしやう (名) 推闡 すゐせん(推薦)ニ同ジ。[illegible]「[illegible]一次推闡」

すゐしやう (名) 推獎 オシ、獎ムルコト。取リタツルコト。褒メ、引立ツルコト。[illegible]

すゐじやう (名) 推讓 オシ、ユヅルコト。他人ヲ薦メテ、己レハ讓ルコト。謙退。[illegible]

ずゐしやう (名) 瑞祥 ずゐさう(瑞相)ニ同ジ。

ずゐしやう (名) 隨性 生得ミタル運命。

すゐしやうくわ (名) 水晶花 うのはな(第一語ノ)ノ(一)ニ同ジ。宋史、錢俶傳「太[illegible]」[illegible]

すゐしやうたい (名) 水晶體 眼球ノ、虹彩ト硝子體トノ間ニアル透明ナル凸れんぜ形ノモノ。光線ヲ屈折セシムル用ヲナス。

すゐしやうらん (名) 水晶蘭 いうれいだけニ同ジ。

すゐしやうれん (名) 水晶簾 水晶ニテ造リタル簾。又、美麗ナルすだれ。宋之問詩、[illegible]初[illegible]、水精簾外轉逶迤」(精、晶、通ズ)

すゐじやく (名) 衰弱 オトロヘ、ヨワルコト。戰國策、楚策「太子衰弱、疾而不起」

すゐじやく (名) 垂迹 ほんぢ(本地)ノ條ヲ見ヨ。[illegible]、二「何即非本無以垂迹、非迹無以顯本」

すゐしゆ (名) 水手 フナコ。カコ。唐書、[illegible]傳「江淮之人、不習河事、轉運河師、水手、[illegible]」

すゐしゆ (名) 水腫 病ノ名、そゐき(水氣)ノ(三)ニ同ジ。日本振袖始(享保、近松作)二「[illegible]レ、云云、(言ハネド、水腫、腹満神)」

ずゐじゆう (名) 隨從 ツキ、シタガフコト。供ヲスルコト。又、其人。隨身。扈從。漢書、王莽傳「門從隨從者、千餘人」

すゐじゆん (名) 水準 (一)ミヅモリ、ミヅナハ。元史、[illegible]「[illegible]、大率[illegible]」(二)次條ノ語ノ略。

すゐじゆんき (名) 水準器 平面ノ、水平ナルカ否カヲ験スル具、硝子管ニあるこおるヲ入レ、小サキ泡ヲ造リ込ミ、臺ヲ附ケタルモノ。水平面ノ上ニ置キ、水平ナレバ、泡、管ノ眞中ニ在リ、然ラザレバ、側方ニ在ルヲ以テ、知ラル。

ずゐしよ (名) 隨處 心ノママニ往ク處。到ルトコロ。杜甫詩「早花隨處發、春鳥異方啼」

すゐしよう (名) 推頌 オシ崇メテ、褒ムルコト。推獎。推譽。韓愈、何蕃傳「大學諸生、推頌不敢與蕃齒」

すゐしよう (名) 水腫 ミヅブクレ。水氣。そゐきゆ。後漢書、律曆志、注「大水、多病[illegible]、少氣五病水腫」

すゐじようき (名) 水蒸氣 地上ノ水ノ、日ノ熱ノ爲ニ、蒸氣トナリテ、空ニ上ルモノ。

すゐしよく (名) 水色 みづノいろ。水光。林泉高致(宋、郭熙)「水色、春綠夏碧、秋青冬黑」

すゐしよく (名) 炊食 いんしよく(飲食)ニ同ジ。義經記、六、自關東被召勸修坊事「判官ノ御台提ヲ用ヒテ、我ガ御身ヲバ、そゐしよくヲ止メテ」

すゐ・す・スル・スレ・セ・シ・セヨ (他動、左變) 推 オシハカル。推量ス。推察ス。漢書、劉向傳「有意推其極本之也」註「[illegible]其宗本揆根本、深有意也」[illegible]、十、相模[illegible]力「世ノ人、推する事ノ侍リケルトカヤ」保元物語、三、爲朝鬼島渡事「怖シナドモ云フバカリナシ、申ス詞モ聞キ知ラザレバ、大方推シテ、アヒシラフ」

すゐすゐと (副) 垂垂 (一)物ノ、垂レ下ガル狀ニ云フ語。[illegible]詩「不[illegible]風[illegible]垂[illegible]」(二)物ノ、傾カントスル狀ニ云フ語。[illegible]「一[illegible]垂垂老」

ずゐずゐと (副) 惴惴 憂ヘ、恐ルル狀ニ云フ語。ビクビク。詩、秦風、黄鳥篇「維此奄息、百夫之特、臨其穴、惴惴其慄」

すゐせい (名) 彗星 ハウキボシ。屈原、九歌「登九天兮撫彗星」

すゐせい (名) 水星 太陽ヨリ第一位ノ行星ノ名、八十八日ニシテ、太陽ヲ一周ス、行星ノ中ノ、最モ小サキモノナリ。詩經、疏「水星與日、辰在其位」

すゐせい (名) 水聲 ミヅオト。水ノ流ルル聲。許渾詩「[illegible]管絃聞水聲」

すゐせい (名) 水勢 水ノ流ルル勢。晉書、垣崇祖傳「水勢奔下」「水勢、滔滔」

すゐせい (名) 水棲 水中ニスムコト。(陸棲ニ對ス)「水棲動物」

すゐせい (名) 衰世 衰ヘタル世。澆季トナリタル代。季世。(盛世ノ反) 史記、司馬相如傳「反衰世之陵遲、繼周氏之絶業」

すゐせい (名) 醉醒 酒ニ、醉ひタルト、醒めタルト。宋書、孔覬傳「世祖欲引見(徐安陸王ヲ)先遣人視其醉醒」

すゐせいがん (名) 水成岩 河海ノ底ナド、水中ニ沈積シテ生ゼル岩石。火成岩、變成岩、等ニ對ス。

すゐせいむし (句) 醉生夢死 人生ノ意義ヲ解セズ、徒ラニ一生ヲ、酒ヲ飲ミテ醉ヒ、又ハ、寢テ夢ヲ見ルノ間ニ送ル。程子語錄「雖高才明智、膠於見聞、醉生夢死、不自覺也」

すゐせき (名) 水石 (一)山水。假山水。

園池。築山、泉水。（二）水中ニ在ル石。 劉禹錫詩「行見ニ汝南泉、飛落ニ水石ニ」

すゐ-せき（スイ・セキ）（名）【燧石】 ヒウチイシ。

ずゐ-せつ（ズイ・セツ）（名）【瑞雪】 メデタキ兆ノ雪。（豐年ノ兆トシテ）張正見、玄圃觀ニ春雪ニ詩「同雲遥映レ嶺、瑞雪近浮レ空」

すゐ-せん（スイ・セン）（名）【水仙】 〔本草「水仙、宜ニ卑濕處ニ、不レ可レ缺レ水、故、名ニ水仙ニ」〕草ノ名、根ハ、らっきょう、又ハ、蒜ニ似テ、長ク、赤キ皮アリテ、包ム、冬、葉ヲ生ズ、亦、相、似タリ、春ノ初メ、莖ヲ出ス、葱ニ似タリ、頭ニ、六辨、單葉ノ白花ヲ開ク、蕊、黃ナリ、金盞銀臺ト云フ、又、重瓣ノモノモ、アリ、玉玲瓏ト云フ。近年、舶來スル臺灣種ハ、根、大キク、水ノミニシテ、花ヲ開ク、土ニ下セバ、一年閒、花ナシ。雅客 本草「水仙、稱名、金盞銀臺」

すゐ-せん（スイ・セン）（名）【水戰】 フナイクサ。舟戰。後漢書、岑彭傳「大司馬、習ニ用步騎ニ、不レ曉ニ水戰ニ」兵法新論、十五、下、水戰ニ、二アリ、一ハ、水ニ沿ヒタル城ヲ攻ムルト、又、大川、及、湖水等ヲ隔テ、舟ヲ泛テ戰、是也、一ハ、海岸ニ在テ、海上ヨリ、船ニテ來ル敵ト戰ヒ、又、島嶼ニ城ヲ構タル者、敵ヲ受テ戰ヒ、又、互ニ、海上ニテ、船戰ヲナス、是也」

すゐ-せん（スイ・セン）（名）水線水纖 〔一ニ、水蟾トモ書クハ、蟾ノ如ク作リタリトテ、名トセルカ〕 食物、葛煉ノ事ナリト云フ。後撰夷曲集（寬文）九、雜、下、水纖「葛粉ハ、味モ吉野ノ、名物ト、食ハヌ先ヨリ、誰レモすゐせん」

すゐ-せん（スイ・セン）（名）垂線 數學ノ語、一ノ直線、又ハ、平面ト、直角ヲナス直線。垂直線。

すゐ-せん（スイ・セン）（名）【垂涎】 （一）食ヲ欲シテ、涎ヲ垂ラスコト。（二）甚シク、物ヲ欲シ、又ハ、慕フコト。張元幹詩「扁舟莫ニ浪發ニ、從魚正垂レ涎」一「垂涎三尺」

すゐ-せん（スイ・セン）（名）【推薦】 すゐきょ（吹擧）ニ同ジ。北史、崔季舒傳「推ニ薦人士ニ、獎ニ勸文學ニ」

すゐ-ぜん（スイ・ゼン）（副）【粹然】 雜リ氣ノ無キ狀ニ云フ語。純粹ナルサマ。キッスヰ。藤田彪、正氣歌「天地正大氣、粹然鍾ニ神州ニ」

すゐ-ぜん（スイ・ゼン）（副）【睟然】 艶艶シキ狀ニ云フ語。孟子、盡心、上篇「其生レ色也、睟然見ニ於面ニ、盎ニ於背ニ」

すゐぜんじ-のり（スイゼンジ・ノリ）（名）【水前寺海苔】 川苔ノ一種、肥後ノ飽託郡、水前寺（今ハ、熊本市内）ヨリ産ズルモノ。

すゐせん-なべ（スイセン・ナベ）（名）【水纖鍋】 料理ニ用キル鍋、淺クシテ、扁キモノ。

すゐ-そ（スイ・ソ）（名）【水素】 化學ニテ、元素ノ一、無色、無味、無臭ナル氣體ニシテ、元素中ノ、最モ輕キモノニテ、燃ユベキ瓦斯ナリ、特リ成立ツコトナシ、酸素ト化合シテ、水ヲ成ス、動植物體中ニモ、皆、備ハル。

すゐ-そ（スイ・ソ）（名）【捶楚】 ちぢょう（笞杖）ニ同ジ。漢書、路溫舒傳「捶楚之下、何求而不レ得」

すゐ-そう（スイ・ソウ）（名）【吹奏】 笛ナドヲ、吹キ奏ヅルコト。「吹奏樂」

すゐ-そく（スイ・ソク）（名）【推測】 オシハカルコト。推量。李商隱、進ニ賀表ニ狀「敢ニ推測ニ、則彼如ニ周ト」

すゐ-ぞく（スイ・ゾク）（名）【水族】 水中ニ生ズル動物（卽チ、魚介ノ類）ノ總稱。水棲動物。南史、何遠傳「江左水族、甚賤」「水族館」

すゐ-そん（スイ・ソン）（名）【水村】 すゐきゃう（水鄉）ニ同ジ。杜牧、江南春詩「水村山郭酒旗風」

すゐ-そん（スイ・ソン）（名）【水損】 田畠ノ、水害ノ損亡。狂言記、針立雷「今年ハ、水損ガ往タ、干損ガ往タノト申シテ、藥代クレマセヌ」

すゐ-そん（スイ・ソン）（名）【推尊】 推シ戴キ、尊ブコト。推尙。韓九齡詩「畫史推尊爲ニ第一ニ」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【推戴】 オシ、イタダクコト。宋史、王彥昇傳「爲ニ衆推戴ニ」「皇族ヲ、總裁ニ推戴ス」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【水蠆】 ヤマメ。ミヅムシ。

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【水苔】 ミヅゴケ。爾雅、釋草篇「藫、石衣」注「水苔也、一名、石髮、江東食レ之」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【翠苔】 ミドリ色ノコケ。蒼苔。徐商詩「節ニ杖嚴邊ニ剔ニ翠苔ニ」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【翠黛】 （一）ミドリノ黛。（二）山ノ、ミドリ色ナル狀ヲ云フ語。朗詠集、下「翠黛紅顏錦繡粧」 彥周詩話「烟波山色翠黛横」 平家物語、十二、大原御幸事「緑蘿ノ垣、翠黛ノ山」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【綏退】 繰引ニ同ジ。

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【衰退】 オトロヘ、シリゾクコト。陳傅良詩「却因ニ衰退ニ更蕭疎」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【衰頽】 オトロヘ行クコト。梅堯臣詩「還嗟短髮已衰頽」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【衰態】 老衰シタル狀態。陸游詩「此生本幻錢、衰態尊ニ足」

すゐ-たい（スイ・タイ）（名）【醉態】 酒ニ醉ヒタル狀。白居易詩「醉態任ニ天眞ニ」

すゐ-たう（スイ・トウ）（名）【推盪】 オシ、盪カスコト。王符、有司述職「然ニ陰陽之推盪ニ、我則難レ移」

すゐ-たう（スイ・トウ）（名）【推倒】 オシ、倒スコト。宋史、陳亮傳「龍蛇虎豹、變現而出沒、推ニ倒一世之智勇ニ、開ニ拓萬古之心胸ニ」

すゐ-たう（スイ・トウ）（名）【錐刀】 （一）きりト、かたなト。（二）穗先ノ尖リタル刃物。（三）聊カナルコト。毫末。左傳、昭公六年「錐刀之末、將ニ盡爭レ之」

すゐ-たう（スイ・トウ）（名）【醉倒】 酒ニエヒテ、タフルルコト。岑參詩「斗酒相逢須ニ醉倒ニ」

すゐ-だう（スイ・ドウ）（名）【水道】 （一）上水ヲ導ク溝。水渠（二）下水。東海道名所記（萬治）二「小田原石、水道ノ爲ニ、江戸ニ出シ商フ」（三）すゐろ（水路）ノ（一）ニ同ジ。史記、西南夷傳「今以ニ長沙豫章ニ往、水道多絕難レ行」

すゐ-だう（スイ・ドウ）（名）【隧道】 アナミチ。トンネル。晉書、杜預傳「隧道唯塞ニ其後ニ、而空ニ其前ニ」

すゐ-たく（スイ・タク）（名）【水澤】 水ノ溜リタルさは。史記、淮陰侯傳「兵法、右倍ニ山陵ニ、前左ニ水澤ニ」

すゐ-たく（スイ・タク）（名）【推擇】 〔推ハ、下ヨリ推薦スルコト、擇ハ、上ヨリ選拔スルコト〕人ヲ、登庸スルコト。史記、淮陰侯傳「不レ得ニ推擇爲ニ吏」

すゐ-だつ（スイ・ダツ）（名）【錐脫】 〔嚢ニ納レタル錐ノ尖ノ、外ヘ突キ出ヅル義、出典ノ文ヨリ云ヒ初メタル語〕才智ノ、衆人ヨリ、拔ケ出デタルコト。史記、平原君傳「夫、賢士之處レ世也、譬若ニ錐之處ニ嚢中ニ、其末立見」

すゐ-たふ（スイ・トウ）（名）【出納】 （一）金錢ノ出シ入レ。すゐふ。論語、堯曰篇「出納之吝、謂ニ之

有司ニ」(二)出納ノ官、藏人所ノ下司ニテ、該所ノ公事ヲ奉行スルモノ。すゐぶ。職原抄、下、藏人所「出納」立テテ、ヘヤノ衆トムフ者ソ、御前ノドニ籠ムルト聞キテ「ヘヤノ衆、御前ノ下ニ、コモルナリ、をさめとのニハ、所ナシトテ」庭訓往來、十月「兄部、出納」

すゐ-だん（名）吹彈　笛ナドヲ吹キ、琴ナドヲ彈ズルコト、音樂ヲ奏ヅルコト。

すゐ-だん（名）推斷　道理ヲ推究シテ、斷定スルコト。唐令、凡犯罪、皆於事發處官司推斷」

すゐ-ち（名）推知　オシハカリテ、知ルコト。推量シテ、知ルコト。揣知

すゐ-ちく（名）翠竹　ミドリ色ノタケ。綠竹。杜甫詩、白沙翠竹江村暮、相對柴門月色新」

ずゐ-ちく（名）隨逐　ツキ、シタガフコト。供スルコト。隨從。南史、梁武帝紀「周捨有大臣、常隨逐」宇治拾遺、十一、第二、僧、次第、年來、隨逐スレドモ、コノ心ヲ知ラズシテ、コレヲ問フ、上人ハ、始メテ來レドモ、我ガ心ヲ知ル」

すゐ-ちやう（名）翠帳　ミドリ色ノ帳。謝朓詩「翠帳」「翠紅閨」婦人ノ居ル室。

スヰ-チャオ（名）睡覺〔字ノ北京音〕睡ルコト。

すゐ-ちゆう（名）水注　ミヅサシ。

すゐ-ちゆう（名）醉中　酒ニ醉ヒテ居ル間。

すゐ-ぢゆう（名）推重　上トシテ、尊ビ重ンズルコト。推尊。宋書、顏延之傳、顏延之云云、少有高行、爲當時所推重」

ずゐ-ちよう（名）瑞徵　ずゐてう（瑞兆）ニ同ジ。司馬相如、封禪文「厥壤…天瑞之徵」

すゐ-ちよく（名）垂直〔英語、Vertical. ノ譯語〕(一)數學ノ語、一ノ直線、又ハ、平面ト、直角ヲナスコト。(二)物ヲ、絲ニテ吊リ垂ラシ、其絲ノ向フ方向、竪ニ、眞直ナルコト。鉛垂。直角　鉛直。

すゐちよく-せん（名）垂直線　すゐせん（垂線）ニ同ジ。

スヰッチ（名）〔英語、Switch.〕電流ノ通路ヲ開ケ閉テスル器。電路開閉器。

スヰッチ-ボオルド（名）〔英語、Switch board.〕はいでんばん（配電盤）ニ同ジ。

すゐ-てい（名）水底　ミヅソコ。ミナソコ。杜甫、飲中八仙歌「知章騎レ馬似レ乘レ船、眼花落レ井水底眠」朗詠集、下「水底模…」

すゐ-てい（名）水程　水路ノ行程。元史、世祖紀「命…一人、沿二黄河一計二水程一」

すゐ-てい（名）水亭　水ノ邊ニアル亭。杜審言詩「…水亭開」

すゐ-てい（名）綏定　安ラカニ、落チツカスルコト。左傳、昭公廿六年「…不端以綏定王家」

すゐ-てい（名）推定　(一)推量シテ、定ムルコト。(二)反對ノ證ノ擧ガルマデ、眞實ノモノト、假定スルコト。(三)損益勘定ニ於イテ、一切ノ收支ヲアゲテ、純益、又ハ、純損ノ概算ヲナスコト。

すゐ-てう（名）水鳥　(一)ミヅドリ。水禽。詩「山花水鳥皆知己、百…」(二)水鳥ノ義ニテ、酒ノ異名。「水鳥記」

すゐ-てう（名）垂釣　釣鉤ヲ垂レテ、魚ヲ釣ルコト。孟浩然詩、…「…垂釣…」

すゐ-てう（名）垂髫　(一)ウナヰ。小兒ノ、垂レ髮。垂髮。(二)ウナヰコ。幼キ時。幼時。三國志、魏志、毛玠傳「垂髫執レ節…」

ずゐ-てう（名）瑞兆　メデタキ、キザシ。サガ。吉兆　瑞徵。

すゐ-てき（名）水滴　(一)水ノしづく。(二)ミヅイレ。類書纂要「水滴、俗名二水碓一」

すゐ-てつ（名）水蛭　ヒル。本草「水蛭、大者名二馬蜞、馬蛭、馬蟥一、主二逐惡血一」

すゐ-てん（名）水天　(一)みづト、そらト。水ニ映ル天。雍陶詩「…水天一…」(二)佛教ノ語、十二天ノ一、西方守護ノ龍王ニテ、水ヲ掌ルモノ。…「往昔恒河沙劫、有レ佛出レ世、名二水天一」「水天宮」

すゐ-てん（名）水點　佛家ノ出ス守札ノ上ニ記ス、氵ノ字ノ稱。（水ノ字ノ左右ノ點ヲ取レリナド云フ）

すゐ-でん（名）水田　ミヅタ。旱田、陸田ナドニ對ス。後漢書、馬援傳「開二導水田一、勸以二耕牧一」

すゐ-とう（名）水筒　飲料ヲ入ルル、硝子、又ハ、金屬製ノ、稍、扁平ナル壜、紐ヲ付ケ、肩ニ掛ケテ、携フ。

すゐ-とう（名）水頭　すゐはん（水畔）ニ同ジ。卓文君、白頭吟「今日斗酒會、明旦溝水頭」

すゐ-とう（名）水痘　ミヅイモ。水疱瘡。

すゐ-とう（名）水竇　水吐ノ溝。五代史、劉鄩傳「鄩乃以二步兵五百一、從二水竇一鑿二破之一」

すゐ-とう（名）垂統　統ヲ垂ルルコト。事業ヲ、子孫ニ傳フルコト。孟子、梁惠王、下篇「君子創レ業垂レ統、爲レ可レ繼也」

ずゐ-とく-じ（名）隨德寺〔ずいと跡ヲ晦マス、ナド云フべきずいとヲ、洒落テ、寺ノ名ラシク言ヒナシタルナランカ〕逃ゲテ、跡ヲ晦マスコト。出奔。

すゐ-トン（名）水團〔團ハ、字ノ唐音〕饂飩の粉ヲ水ニ捏ネテ、程コク擣メ、汁ニ落シテ、煮タルモノ。運歩色葉集「水團、スヰトン」

すゐ-なう（名）水嚢〔漉水嚢ノ略〕古名、ミツブルヒ。今、又、ミヅコシ。形、篩ノ如クニシテ、馬尾ニテ、簀ヲ、細カニ編ミ作レルモノ、水ト、物トヲ、漉シ分クルニ用ヰル。羅斗　漉水羅　馬尾篩

ずゐ-なう（名）髓腦　(一)すねト、なづきト。髓ト、腦ト。史記、扁鵲傳「訣二脈結一、筋、搦二髓腦一」(二)轉ジテ、奧義ノ義。經書、或ハ、和歌ナドノ語釋ナドノ書。神髓。極處。隋書、經籍志「周易髓腦二卷」、俊頼口傳、上「俳諧ト云ヘルモノアリ、コレヲヨク知レル人ナシ、又、髓腦ニ見エタル事ナシ」「悦目抄ハ、基俊朝臣ノ和歌ノ髓腦」

すゐ-なふ（名）すゐたふ（出納）ニ同ジ。宇治拾遺、十、第一條「伴大納言ノ出納ノ家ノ幼キ子ト、舍人ガ小童ト、イサカヒヲシテ、出納、罵レバ、出」

デテ、取リサヘムトスルニ」

●すゐなん（スイナン）(名) 【水難】 水ノ災難、水災。（洪水、難船ナド、火難、盗難、等ニ對ス） 韓非子、喩老篇「是以白圭無二水難一」

すゐにち（スイニチ）(名) 【衰日】 陰陽家ニ云フ語、子、午ノ年ニ生レタル人ハ、丑、未ノ日ヲ衰日トシテ忌ムナド云フガ如シ、衰ト云フヲ避ケテ、德日トモ云ヒ、劣日（トクニチ）ナドトモ記ス。 江談抄、一「酉日主上廿二歳、仍以二酉日一爲二御衰日一、依レ然又避レ之」 殿中申次記、五、正月五日「御太刀一腰、昨日御德日ノ間、今日被レ下レ之」

すゐにん（スイニン）(名) 【推任】 上ノ思召ニヨリテ、官ニ任ゼラルルコト。 諸家傳、中山「孝親公、云云、依二所勞危急一、可レ被レ推二任内大臣一由、被レ仰之」

ずゐねん（ズイネン）(名) 【瑞年】 メデタキ年。 李嶠詩「六出迎二仙騎一、千箱答二瑞年一」

すゐは（スイハ）(名) 【水波】 水上ノなみ、ナミ。波浪。 蘇軾、前赤壁賦「淸風徐來、水波不レ興」 呂氏春秋「早雲烟火、雨雲水波」

すゐは（スイハ）(名) 【水破】 鷲ノ黑キ羽ニテ矧（ハ）ギタル矢ノ名 兵破（ヒヤウハ）（或ハ、氷破トモ書ク）ト竝ベ云フ、兵破ハ、山鳥ノ羽ナリ。 盛衰記 十六、頼政射二鵺事、大衆、兵破ト云フ、鏑矢二ツ手挾シ、雷上動ト云フ弓ヲ、持タセタリ」 南留別志（徂徠）「兵破、水破、穴アル鏑矢ト、無キト、飛ビ行ク聲ノカハリアルヨリ、云フ」

すゐば（スイバ）(名) 【水馬】 （一）馬術ニ、馬ニ伴ヒテ、水ヲ泳ギ渡ラスルコト 裸脊馬ニ、裸ニテ乘リテ、浮キツ、沈ミツ、川ヲ渡スコト。馬ノ水練。（二）馬ニ乘リテ、水ヲ渡ルコト。

すゐば（スイバ）(名) 【醉罵】 酒ニ醉ヒテ、人ヲ罵（ノノシ）

ルコト。 後漢書、班固傳「矜誇奢行、因奴干二其車騎一、吏推呼之、奴醉罵、競大怒」

すゐはい（スイハイ）(名) 【衰廢】 オトロヘ、スタルコト。 史記、太史公自序「周道衰廢、孔子爲二魯司寇一」

すゐはい（スイハイ）(名) 【衰憊】 オトロヘ、ツカルルコト。衰弊。 王安石詩「晩扶二衰憊一寄二人間一、應レ接紛紛枕席顏」

すゐはう（スイホウ）(名) 【水泡】 ミナワ。水ノアワ。 漢書、藝文志「山陵水泡、雲氣雨旱」 水泡に歸すト云フハ、ムダニナル。「積日ノ努力、水泡に歸す」

すゐはう（スイホウ）(名) 【水疱】 ミヅブクレ。ミヅイモ。水痘。

すゐはう（スイホウ）(名) 【醉飽】 ゑ（ヱ）ふコトト、あくコトト。酒ニ醉ヒ、且ツ、飽（ア）クマデ食フコト。 史記、灌夫傳「具言二灌夫醉飽事一」

すゐばう（スイボウ）(名) 【衰亡】 ゑゐ（イ）めつ（衰滅）ニ同ジ。

すゐばう（スイボウ）(名) 【衰耄】 老イ、ホルルコト。衰老 マウロク。 宋書、張永德傳「俄以二衰老一、命還二本郡一」

ずゐはうしやう（ズイホウシヨウ）(名) 【瑞寶章】 勳章ノ一、一等ヨリ八等マデアリ、章ハ、鏡珠ノ形ヲ以テ飾リ、綬ハ、淡藍色ノ地ニ、橙黃色ノ雙線アルモノ。

すゐはく（スイハク）(名) 【水伯】 ゑゐ（イ）ぢん（水神）ニ同ジ。 山海經「朝陽之谷神曰二天吳一、是爲二水伯一」

すゐはく（スイハク）(名) 【垂白】 白キニ、垂（ナリ）ナムトスルコト。（頭髮ナド）「垂白叟」

すゐばち（スイバチ）(名) 【垂撥】 花瓶（ハナイケ）ヲ懸クル具、

大キサ、柱隱（ハシラカクシ）ノ如ク、形、琵琶ノ撥（バチ）ノ如シ、床ノ間ノ中央ナドニ垂レ掛ケ、中程ニ釘アリテ、花瓶ヲ懸ク。 中院通茂集「垂撥ニ書キ給フ歌」

すゐはつ（スイハツ）(名) 【垂髮】 （一）ゑゐてう（イチヨ）（垂髫）ニ同ジ。 倭名抄、二十三老幼類、注「髫髮、宇奈爲、俗、用二垂髮二字一」 吾妻鏡、五、文治元年十一月二日「實者、越前國齋藤一族也、垂髮而候二仁和寺宮一、首服時屬二平家一、其後向背相二從木曾一」 （二）スベシモトドリ。スベラカシ。サゲガミ。

すゐはん（スイハン）(名) 【水畔】 水ノホトリ。水涯、水頭。 白居易詩、水畔行來上二小船一」

すゐはん（スイハン）(名) 【水飯】 （一）〔古ク云ヘルハ、水多ク炊ギタル飯ニテ、ひめいひ（イ）ナリト云フ〕 伍喬、謝二何明府見レ訪詩「多謝從容水飯迴」 源、廿六、常夏「すゐはんナド、取リ取リニ、サウドキッツ、食フ」 （二）今、ミヅメシ。水漬ノ飯。 今昔物語、廿八、廿三語「冬ハ湯漬、夏ハ水漬ニテ、御飯ヲ可レ食也、云云、水飯食ヒテ見セン」

すゐばん（スイバン）(名) 【水盤】 ミヅバチ。盆栽、盆石、等ニ用キル、淺クシテ扁キ、陶製、又ハ、金屬製ノ器。水盆。

すゐばん（スイバン）(名) 【推輓】 車ヲ、後ヨリ推シ、前ヨリ輓（ヒ）クコト、轉ジテ、人ヲ推擧スルコト。 左傳、襄公十四年「衞君必入、夫二子者、或輓レ之或推レ之、欲レ無レ入得乎」

ずゐはん（ズイハン）(名) 【隨伴】 供ニナリテ、附キシタガフコト。同伴。

すゐばんど（スイバンド）(名) 【水礬土】 化學ノ語、水酸化あるみにうむノ、自然ニ產ズルモノ。顏料、媒染劑、トシテ用キル。

すゐひ（スイヒ）(名) 【水飛】 「水簸（ミヅヒ）ノ誤カ」 極メテ細末ナル粉ヲ得ル法、粉ヲ水ニ搔キ雜ゼテ、粗（アラ）キハ澱（オド）ミ、細カキハ浮ベル部ヲ、別ノ器ニ移シ、斯クスルコト數度ニシテ、ソノ澱ミタルヲ乾カシテ、取ル。漂去

すゐび（スイビ）(名) 【粹美】 〔純粹、美麗ノ略〕 雜（マジ）リ氣無クテ、ウツクシキコト。 柳宗元、賀レ進表「陶二陰陽之粹美一、孕二造化之精英一」

すゐび（スイビ）(名) 【翠眉】 （一）みどりノまゆ。 古今注「魏宮人多、作二翠眉驚鶴髻一」 （二）柳葉ノ、細ソク青キ狀ヲ云フ語。 權器刺詩「高柳風軽掃二翠眉一」 （三）次條ノ（二）ニ同ジ。

すゐび（スイビ）(名) 【翠微】 〔雅俗稽言「凡、山遠望レ之則翠、近レ之則翠漸微、故曰二翠微一也」〕 （一）山ノ頂上ヨリ、少シク下リタル處。山ノ中腹。 爾雅、釋山篇、疏「山氣青縹色、故曰二翠微一」 爾雅、釋山篇、疏「謂下未レ及二頂上一、在二旁陂陀之處一、名中翠微上」 （二）薄縹色（ウスハナダ）ノ山氣。又、遠クニ、青ク見ユル山、翠眉。 左思、蜀都賦「鬱二蒼蘢以翠微一」

すゐび（スイビ）(名) 【衰微】 オトロヘテ、カスカニナルコト。衰退、式微。 史記、周本紀「平王之時、周室衰微、諸侯彊幷レ弱、齊、楚、秦、晋、始大」

すゐひつ（スイヒツ）(名) 【水筆】 〔椎筆ノ義、筆ノ頭、椎ノ實ノ形シタレバ、名トス、水ハ、借字〕 筆ノ一種、毛、多クシテ、行書、草書ナド書クニ用キルモノ。

ずゐひつ（ズイヒツ）(名) 【隨筆】 〔容齋隨筆（宋、洪邁）序ニ「意之所レ之、隨卽紀錄、因二其後先一、無二復詮次一、故目レ之、曰二隨筆一」〕 時時ノ見聞、感想ヲ記シタルモノ 思ヒノ

マニマニ、筆記シタルカキモノ。筆ズサミノ[illegible]。[illegible] 漫錄

すゐひん（スイ・ヒン）(名) [illegible]（一）十二律ノ一、其條ヲ見ヨ。（二）陰暦五月ノ異稱。[illegible]

すゐびん（スイ・ビン）(名) [衰鬢] 衰ヘタル、鬢ノ毛。[illegible]

すゐびやう（スイ・ビヤウ）(名) [水瓶] みづがめ（水瓶）ニ同ジ。[illegible]

ずゐひやう（ズイ・ヒヤウ）(名) [隨兵]（一）供ニ連ルル兵士、從兵。（二）將軍出行ノ時、前後ヲ警衛スル兵士。[illegible]

すゐふ（スイ・フ）(名) [水夫] カコ。舟子。

すゐふ（スイ・フ）(名) [炊夫] 炊事ヲスル男。飯炊キ男。

すゐぶ（スイ・ブ）(名) [綏撫] 慰メ、落チツカスルコト。撫デ、安ンズルコト。[illegible]

すゐぶ（スイ・ブ）(名) [醉舞] 酒ニ醉ヒテ、舞フコト。[illegible]

ずゐふう（ズイ・フウ）(名) [瑞鳳] 良キ聲音ニテ、諷誦スルコト。[illegible]

すゐふく（スイ・フク）(名) [推服] 推シ尊ビテ、服フコト。[illegible]

すゐふく（スイ・フク）(名) [推覆] 反覆シテ、推問スルコト。[illegible]

すゐぶん（スイ・ブン）(名) [推分] 身分ヲ推シハカリ考ヘテ、ソレニ安ンズルコト。[illegible]

すゐぶん（スイ・ブン）(名) 水分 其物ノ中ニ含マレタル水。ミヅケ。濕氣。「[illegible]水分多シ」

ずゐぶん（ズイ・ブン）(名) 隨分 分際ニ、シタガフコト。分相應。[illegible]「[illegible]分有二榮枯一」保元物語、三「[illegible]カヤウニ隨分ノ勇士共八、ワロビレテ進ミ得ズ」盛衰記、四、白山神輿登山事「[illegible]」安[illegible]小サキ足ニ、少シモナキカヲ、ずゐぶんト出シテ、蹈ミケリ」

ずゐぶん（ズイ・ブン）(副) [隨分] 分際ニ隨ヒテ。分相應ニ。スコブル。ヨホド。[illegible]「ずゐぶんニ、宜シキモ多カリ」沙石集、六、上、第六條「隨分、[illegible]ナリケリ」平家物語、三、[illegible]中納言、中將、[illegible]位中將、[illegible]所ヲ[illegible]、入道、隨分、[illegible]共、[illegible]引ナクシテ」「隨分好シ」「隨分面白シ」

すゐふろ（スイ・フロ）(名) [水風呂]〔蒸風呂ニ對ス〕すゑふろノ誤。昔ハ、風呂ト云ヘバ、蒸湯ナレバ、ソレニ對シテ、井水ナルヲ、水風呂ト云フ。[illegible]京都、水風呂ヨリ、湯ぶろ（蒸風呂）ガ[illegible]ナレド、拵ヘルコトヲ、[illegible]ニ思ヒ」[illegible]、六、江戸町ニ、大谷年人ト云フ者有、云云、すいふろト云フモノヲ、我、工ミ出シタリ」[illegible]、小舟ニ、風呂ヲ拵ヘ、錠ヲ下シタル大船ノ邊ヲ漕ギアリキ、一人、[illegible]云云」[illegible]

すゐへい（スイ・ヘイ）(名) [水兵] 海軍ノ兵士。

すゐへい（スイ・ヘイ）(名) 水平（一）すゐぢゅん（水準）ノ（一）ニ同ジ。通典（唐、杜佑）「木簡長二尺四寸、兩頭及中間鑿爲二三池、[illegible]上[illegible]立齒、以水注之、三池浮木齊起、以目視之、三齒[illegible]平、則高下丈尺分寸可知、謂之水平」（二）靜止スル水ノ平面ニ、平行スルコト。又、水面ノ如ク平カナルコト。[illegible]

すゐへい（スイ・ヘイ）(名) [水萍]（一）水ノ上ノ浮草。杜甫詩「日月[illegible]中[illegible]、乾坤水上萍」[illegible]（二）漂蕩トシテ、定住ナキコト。萍蓬。

すゐへい（スイ・ヘイ）(名) [翠屛]（一）翠色ノ衝立。[illegible]（二）草木、繁茂シ、苔、蒸シタル翠色ノ崖。杜甫詩「細雨荷鋤立、江猿吟翠屛」

すゐへい（スイ・ヘイ）(名) [衰斃] 衰ヘ、ツカルルコト。衰微。衰弊。衰憊。三國志、蜀志、孟光傳「[illegible]必不得已、然後乃可施也」

すゐへう（スイ・ヘウ）(名) [水豹]（一）アザラシ。（二）みづちノ類。張衡、南都賦「追水豹兮鞭蝄蜽」[illegible]

すゐへん（スイ・ヘン）(名) [水邊] ミヅギハ。水ノホトリ。水涯。[illegible]詩「水邊楊柳綠烟絲、立馬煩君折一枝」

すゐほ（スイ・ホ）(名) 推步〔後漢書、馮緄傳、注「推步、謂推二究日月星之度、昏旦節氣之差一」〕天文學ノ語。數ヘテ、推シ測ルコト。抱朴子「[illegible]推步」

すゐぼ（スイ・ボ）(名) [水母] クラゲ。郭璞、江賦「[illegible]水母目鰕」

すゐほう（スイ・ホウ）(名) [燧烽] ノロシ。トブヒ。

すゐほう（スイ・ホウ）(名) [推奉] 推擧、奉戴スルコト。晉書、下[illegible]心[illegible]

すゐぼく（スイ・ボク）(名) [水墨] スミヱ、白描。[illegible]萬里、晚風[illegible]林詩「[illegible]一葉、[illegible]江水[illegible]」

すゐぼん（スイ・ボン）(名) [水盆] すゐばん（水盤）ニ同ジ。[illegible]

すゐま（スイ・マ）(名) [揣摩]「揣ハ、[illegible]、志まトイフハ、誤」己レノ心ヲ以テ、他ノ心中ヲ揣ルコト。思ヒ量ルコト。村度。[illegible]太公陰符之謀、伏而誦之、[illegible]以爲二揣摩一」「揣摩臆測」

すゐま（スイ・マ）(名) [睡魔] ねむけヲ催ス魔物。[illegible]三十斤、不[illegible]味如何、[illegible]討包居士、[illegible]坊[illegible]二」「睡魔ニ襲ハル」

すゐまう（スイ・マウ）(名) 吹毛 毛ヲ吹キテ疵ヲ求ムルコト。け（毛）（第一語）ノ條ノ（五）ヲ見ヨ。[illegible]所[illegible]、非[illegible]吹毛、人安[illegible]足」太平記、廿六、上杉畠山[illegible]事「吹毛ノ咎ヲ爭ヒテ、讒ヲ構フルコト、休ム時ナシ」

すゐまつ（スイ・マツ）(名) [水沫] ミナワ。ミヅノアワ。抱朴子「水[illegible]石」曹唐詩「[illegible]吹ニ水沫[illegible]花一」

すゐまん（スイ・マン）(名) [翠幔] ミドリ色ノ幕。[illegible]詩、金剛[illegible]」

すゐみ（スイ・ミ）(名) [睡味] ネムタキ心地。ネムキ氣味。陸游詩、春濃日永有二佳處一、睡味苦」人如蜜甜」

すゐみつたう（スイ・ミツ・タウ）(名) [水蜜桃] 略シテ、水蜜。桃ノ一種、果實、大ニシテ、核、小サク、甚ダ漿液ニ富ミ、美味ナリ、人口ニ膾炙セラル。

すゐみん（スイ・ミン）(名) [睡眠] 又、すゐめん。ネムルコト。ネムリ。易林（漢、焦贛）「[illegible]睡眠、不知東西」「睡眠不足」

すゐみやく（スイ・ミヤク）(名) [水脈] 地ノ下ニテ、水ノ

通ズル脈。水路。 華陽國志（晉、常璩）「李冰爲蜀郡守、識水脈、穿廣都鹽井諸陂池」

すゐ-む（スイ-ム）(名) [水霧] キリ。カハギリ。 伏挺詩「水霧雜山烟、冥冥不見天」

すゐ-む（スイ-ム）(名) [翠霧] ミドリ色ノきり。 柳宗元詩「丹霞翠霧飄奇香」

ずゐ-む（ズイ-ム）(名) [瑞夢] メデタキ兆ノゆめ。吉夢。 隋煬帝、答智顗遺旨書「卽于今月十八日、仍感瑞夢」 傾城島原軒合戰（享保、近松作）一「日月ノ雲ヲ踏ミ折レバ、王法忽チ覆リ、地ニ墮ツル瑞夢ナラズヤ」

ずゐ-むし（ズイ-ムシ）(名) [螟蟲] メイチュウ。害蟲ノ一ニシテ、種類、多シ、農作物ヲ害スルコト、甚大ナリ。

すゐ-めい（スイ-メイ）(名) [水明] 淸ク澄メル水ノ、日ナドニ映リテ、爽快ニ見ユルコト。 杜甫、月詩「殘夜水明樓」「山紫水明」

すゐ-めつ（スイ-メツ）(名) [衰滅] オトロヘ、ホロブルコト。衰亡。

すゐ-めん（スイ-メン）(名) [水面] ミヅノオモテ。ミノモ。水上。 宋史、河渠志「西湖水面、唯務深闊」 劉禹錫詩「水面初平雲腳低」（「上」卓頭有酒、呼客、水面無風撲鷗池」）

すゐ-めん（スイ-メン）(名) [睡眠] ねゐみん（睡眠）ニ同ジ。 著聞集、二、釋敎「大原良忍上人「日夜不斷ニ稱念シテ、イマダ睡眠セズ」」 謠曲、三井寺「少シ睡眠ノ中ニ、靈夢ナル靈夢ヲ蒙リテ候フハ、如何」

すゐ-も（スイ-モ）(名) [水藻] 海月ニ同ジ

すゐ-もん（スイ-モン）(名) [推問] （一）オシ尋ネ、問フコト。推究、審問スルコト。 晉書、嵇康傳「北法田舍、傳、李氏、推問皆符驗」「口頭推問」

（二）罪ヲ、問ヒタダスコト。訊問。 吾妻鏡、十八、建永二年十月二日「被推問囚人盤五家次」

すゐ-もん（スイ-モン）(名) [水門] （一）ヒノクチ。閘。 漢書、召信臣傳「視郡中水泉、開通溝瀆、起水門、提閼凡數十處、以廣溉灌」 注「閼、所以壅水」 宇治拾遺、十三、第十條「思ヒカケヌ、水門ノアルヨリ、引出シツ」 （二）下水口。水竇。

すゐ-もん（スイ-モン）(名) [水悶] 水責。 保元物語、二、謀叛人各召捕事「皇后宮權大夫師光入道、云云、ヲバ、東三條ニテ、水問セラル」

すゐ-もん（スイ-モン）(名) [水紋] 水面ノ波紋 韓愈詩「水紋浮枕簟」

すゐ-やう（スイ-ヨウ）(名) [水楊] カハヤナギ。 古今注（晉、崔豹）「水楊、蒲楊也、枝勁細」

すゐ-やう（スイ-ヨウ）(名) [垂楊] ねゐりう（垂柳）ニ同ジ。 梁元帝詩「巫山巫峽長、垂柳復垂楊」

すゐ-やく（スイ-ヤク）(名) [水藥] ミヅグスリ。丸藥、散藥、ナドニ對ス。

すゐ-よ（スイ-ヨ）(名) [睡餘] 眠ノ覺メタル後。 蘇軾詩「清風時來驚睡餘」

すゐ-よ（スイ-ヨ）(名) [推譽] ねゐしょう（推頌）ニ同ジ。 宋史、士晤傳「文藝卓絕、衆所推譽」

すゐ-よう（スイ-ヨウ）(名) [悴容] 憔悴レタル容貌。 謝靈運詩「朽貌改鮮色、悴容變柔顏」

すゐ-よく（スイ-ヨク）(名) [水浴] カハアミ。水ニ浴スルコト。冷水浴。

すゐ-らい（スイ-ライ）(名) [水雷] 水中ニ仕掛ケテ、敵艦ナドヲ破壞スルタメニ、爆發藥ヲ裝塡シタルモノ。攻擊用ノ魚形水雷、防禦用ノ敷設水雷、等アリ

すゐらい-くゎ（スイライ-カ）(名) [水雷火] 火藥ヲ、水中ニ仕掛ケテ、敵船ヲ打壞ルモノ。

すゐらい-てい（スイライ-テイ）(名) [水雷艇] 艦船ノ一、薄キ鋼板ニテ、柳葉形ニ造リ、水雷發射管アリテ、水雷ヲ發射スルモノ。

すゐ-らう（スイ-ロウ）(名) [水潦] （一）オホミヅ。洪水。 禮記、月令篇「行夏令、則水潦敗國」 （二）ニハタヅミ。タマリミヅ。 左傳、定公四年「水潦方降、疾瘧方起」

すゐ-らう（スイ-ロウ）(名) [衰老] 老イテ、體ノ衰フルコト。又、其人。老衰 禮記、月令篇「仲秋之月、云云、養衰老、授几杖」 史記、刺客傳「騏驥盛壯之時、一日而馳千里、至其衰老、駑馬先之」

すゐらふ-じゅ（スイロウ-ジュ）(名) [水蠟樹] イボタノキ。

すゐ-らん（スイ-ラン）(名) [翠巒] 翠色ノ連山。 江淹、思北歸賦「踐金峰與翠巒、涉桂水與碧湍」

すゐ-らん（スイ-ラン）(名) [推覽] 推測シテ、見ルコト。 運歩色葉集「推覽、スヰラン」

すゐ-り（スイ-リ）(名) [推理] 理ヲ、推シ考フルコト。既知ノ事ヨリ推シテ、或ル結論ニ達スルコト。

すゐ-り（スイ-リ）(名) [水利] （一）高低ヲ測リテ、水ヲ流シ導クコト。水ノ利用。（灌漑ナド） 史記、河渠書「用事者、爭言水利」 （二）水ノ上ノ運漕ノ便利。

すゐ-りう（スイ-リユウ）(名) [水流] 水ノナガレ。川ノナガレ。川。 嵇叔倫、贈段亮詩「日日河邊見水流、傷春未已復悲秋」「水流ヲ橫切ル」

すゐ-りう（スイ-リユウ）(名) [垂柳] シダレヤナギ。垂楊。 王維詩「君家御溝上、垂柳夾朱門」

すゐ-りく（スイ-リク）(名) [水陸] みづト、くがト。水路ト、陸路ト。 晉書、石崇傳「庖膳窮水陸之珍」 同、宣帝紀「襄鄧、水陸之衝」

すゐり-しき（スイリ-シキ）(名) [推理式] ねゐろんしき（推論式）ノ條ヲ見ヨ。

すゐ-りん（スイ-リン）(名) [垂綸] 綸ヲ、水ニ垂ルルコト。魚ヲ釣ルコト。 杜甫詩「那」云江湖有垂綸」 世說、棲逸篇「下弘之、性好釣魚、上虞江有二處、名三石頭、弘之常垂綸於此」

すゐ-りやう（スイ-リヨウ）(名) [水量] ミヅカサ。ミカサ。水ノ分量。「貯水池ノ水量」

すゐ-りやう（スイ-リヨウ）(名) [推量] オシハカルコト。推察。推測。 狂言記、石神「此ノ樣ニ出テ坐ル妾ガ心ヲ、御推量ナサレテ下ダサレ」

すゐ-りょく（スイ-リョク）(名) [水力] （一）水ノ勢力。 新論（梁、劉晝）「河發崑崙、江起岷山、水力盛多」 （二）水ノ壓力。水ノ落下スル鉛直距離。落差ト水量トノ積ヲ以テ、之レヲ測ル。

すゐ-れい（スイ-レイ）(名) [衰齡] 老衰スル年齡。頽齡。（壯齡ナドニ對ス）

すゐ-れい（スイ-レイ）(名) [翠嶺] ミドリ色ノミネ。 唐太宗詩「秋光凝翠嶺」

すゐ-れん（スイ-レン）(名) [翠簾] アヲスダレ。ミドリ色ノスダレ 元稹、憶事詩「明月滿庭池水綠、桐花垂在翠簾前」

すゐ-れん（スイ-レン）(名) [水簾] たき（瀑）ノ異名。 范成大、甘雨應祈詩「今朝健起巡檐看、恰似廬山看水簾」

すゐ-れん（スイ-レン）(名) [垂簾] （一）スダレ。垂レタル簾。 李端、宿深福寺詩「倚杖雲離月、垂簾竹有霜」 （二）幼帝ノ御代ニ、皇太后ガ代ハリテ、國政ヲ聽キ給フコト。簾ヲ垂

レ、其内ニテ蓮ノ意 [illegible]

すゐれん (名) 睡蓮 水草ノ名、蓮ニ似テ、葉、細長シ、色ニ、紅、紫、白、黄、桃色、斑咲ナド、アリ、香氣、高ク、大イナルハ、直徑、尺ニ至ル、朝ニ開キ、午後ニ花瓣ヲ夕夕ミテ、水中ニ睡ル、又、稀ニ、晝睡リ、夜開ク、アリ、花ハ、七八九月頃マデアリ、一箇ノ花、三日位ニテ、實ヲ結ブ爲ニ、水中ニ沈ルト。ヒツジグサ。

すゐれん (名) 水練 (一)オヨギ。水ヲ泳グ技。水泳。(二)泳ギノ達者。水練者。[illegible]

すゐれん-しゃ (名) 水練者 水練ノ達人。[illegible]

すゐろ (名) 水路 〔陸路ニ對ス〕(一)船ノ、往來スル路。船路。水道。航路。(二)水流ノ通路。水脈。又、潮ノ通フ路。シホヂ。

すゐろ (名) 垂露 (一)露ノ、垂ルルコト。[illegible] (二)書法ノ一、竪ニ引ク線ノ末ヲ、勾ネズニ、押ヘ止ムルコト。[illegible]「垂露ノ點ヲ下シケリ」

すゐろう (名) 翠樓 緑色ニ塗リタル高殿。支那ニテ、娼家ヲ云フ。[illegible]

すゐろう (名) 水樓 水邊ノ樓閣。水榭。[illegible]

すゐろん (名) 水論 ミヅアラソヒ。田ニ引ク水ノ、アラソヒ。[illegible]

すゐろん (名) 推論 (一)推シテ、論及スルコト。[illegible] (二)論理法ニ、一ノ斷定ヨリ推シテ、他ノ斷定ヲ知ルコト。「推論式」

すゐろん-しき (名) 推論式 論理學ニテ、一ノ命題ヨリ、他ノ命題ヲ介シテ、第三ノ命題ヲ引キ出ス推理法。例ヘバ「人ハ死ス」ヨリ、「孔子ハ人ナリ」ヲ介シテ、「故ニ、孔子ハ死ス」ト云フ語ヲ引キ出ス類 其第一、及、第二ノ命題ヲ前提、第三ノ命題ヲ斷案ト云フ 推理式 三段論法。

すゐゐ (名) 翠帷 ミドリ色ノトバリ [illegible]

すゑ (名) 末 (一)木ノ末(ウラ) ノチ ヲハリ シモ ハシ。[illegible] (二)上ノ方ノ枝。梢。ウレ。梢 [illegible] ニ、近キ紅梅ノすゑニ、打鳴キタルヲ」[illegible]「すゑノ露、本ノ雫ヤ、世ノ中ノ、後レ先ダツ、例ナルラム」夫木抄、廿八「深山木ノ、末マデ還ヘル、玉葛、取リツク方モ、今ハ無キ身カ」(三)終ラムトスル時 シマヒ 季 [illegible]「季、スヱ」[illegible]「君ガ手ヲ、離レ行ク秋ノ、末ニシモ、野飼ニ放ツ、馬ゾ悲シキ」「年ノすゑ」「月ノすゑ」(四)兄弟ノ中ノ、最モ幼キモノ。スヱコ。末子。末弟 季子 [illegible] テ、イト愛シクシ侍リケルヲ」[illegible]「故常陸ノ宮ノ子ノ、末ニマウケテ、イミジウ傅キ給ヒシ御娘」(五)子孫。後胤。ウミノコ。ハツコ アナスヱ 末孫 裔 古事記、下(清寧)「押齒王之奴末」源、三十四、上、若菜、上「先祖ノ大臣ハ、云云、ソノ報ニテ、カク、末ハ無キナリ」「平家ノすゑ」(六)後ノ時 未來 以後 ユクサキ 後來 [illegible] 拾遺集、十八、雜賀「住ミソムル、末ノ心ノ、見ユルカナ、汀ノ松ノ、影ヲ映セバ」「すゑヲ思フ」「行クすゑ」(七)政事、風俗ノ、漸クニ、衰ヘ亂ルルコト 末世 澆季 季世 源、廿八、野分「イト賢キ人ノ、末ノ世ニ餘ルマデ、ナ比ヒナク」「世ハすゑトナル」(八)大刀ノ切先。武烈紀、十一年八月「大太刀ヲ、垂レ佩キ立チテ、拔カズトモ、すゑハ果シテモ、會ハムトゾ思フ」古事記、中 [illegible]「佩カセル太刀、本ツルギ、末フユ」(九)山ノ上。麓(踏本ノ義)ヲ、山本ト云フニ對ス。大祓詞「國津神ハ、高山ノ末、短山ノ末ニ上リマシテ」萬葉集、十三、長歌「三諸ハ、人ノ守ル山、本邊ハ、馬醉木花咲キ、末邊ハ、椿花咲ク」濱松中納言物語、三「何ノ嶺ミ所ニテカハ、イト、カウ、タヅキナウ、ワビシキ山ノ末ニハ、過スベカラム」

すゑ (名) 假髮垂髻 〔髮ノ末ノ略〕他ノ髮ノ毛ヲ以テ作リテ、垂髮ノ末ニ添ヘ被フモノ 今ノ、髢 天治字鏡、三「髢、加美乃末」倭名抄、十四、容飾具「假髮、[illegible]以此假髮、髮上也」名義抄「垂髮、カミノスヱ」類聚雜要抄、大治三、五節理髮具「末額髮二流」注「末、七尺」

すゑ (名) 陶 すゑもの(陶物)ノ略。ヤキモノ。字鏡「窯、燒、瓦器也、又、作陶」[illegible] 名義抄「陶、スヘ」[illegible] 雄略紀、七年七月「新漢陶部高貴」萬葉集、十六長歌「陶人ノ、作レル瓶ヲ」

す-ゑ (動) 据 すう(据)ノ條ヲ見ヨ。

すゑ-いし (名) 据石 据ヱ置キタル石。(庭ナドニ) 太平記、十四、長年歸洛事「內裏ノ置石ノ邊ニテ」

すゑ-うす (名) 陶臼 陶物製ノうす。四時祭式、下「太[illegible]戸社、云云、陶臼各四口」儀式、三、踐祚大嘗祭儀「酒缶二口、陶臼二口」成形圖說、十三、農事「陶臼(貞觀儀式)、按、是、燒物ノ臼ニヤ、延喜、神祇式ニ、贄所、[illegible]燒物ニテハ、米ヲ精グベクモ覺ハレネド、祠具ノ米ハ、眞精ニアラザルガ故トモ云ヘリ」

すゑ-おき (名) 据置 (一)スヱオクコト。(二)公債ナドノ、利子ノミヲ仕拂ヒ、一定ノ期間內、其元金ヲ拂戻サザルコト

すゑ-お・く・ク・ク・ケ・カ・キ・ケ (他動、四) 据置 (一)スヱテ、オク。萬葉集、六十四長歌「野上ニハ、跡見居置テ、御山ニハ、射目立テ渡シ」(二)手ヲ着ケズシテ、其儘ニナシオク。

すゑ-がま (名) 陶竈 かはらがまノ條ヲ見ヨ。陶窯

すゑ-こ (名) 末子 最モ後ニ生レタル子 バッシ 季子

すゑ-おし（スヱゴシ）(名) 据腰 腰ヲスヱテ居ルコト。 好色一代女(貞享、西鶴)三「人ノ嫁子モ、温順シカラズシテ、云云、すゑおし、蹴出シノ道中」

すゑ-ざ（スヱザ）(名) 末座 末席ノ座、座席ノ、末ノ方。末座。 義經記、七、平泉寺御見物事「ホノ暗キ所ヨリ出デ給ヒテ、少人ノすゑざニゾ居給ヒケル」

すゑ-しじゆう（スヱシジユウ）(副) 末始終 行末、永ク。末ノ末マデ。 浮世風呂(文化、三馬)四編、上「末始終、江戸ヘ連レテ來テ」

すゑ-ずゑ（スヱズヱ）(名) 末末 〔末ノ重言〕 (一) 後ノ時、行ク末、後來。 玉葉集、十六、雜、三「此君ノ、御世長シト、呉竹ノ、すゑずゑマデモ、イカデ云ハレム」 狂言記、柿賣「末末ハ、金銀ナドヲ商フヤウニ、致シタイト存ズル」 (二) 子孫。後裔。 枕草子、五、五十段「歌詠ムト云ハレ侍リシすゑずゑハ」 源、六、末摘花三十六「カカル人人ノ末末、イカナリケン」 同、三十五、柏木三十二「弟ノ君達モ、又、末末ノ若キハ、親トノミ賴ミ聞エ給ヘルニ」 狹衣、四、下四十四「我レモ、人モ、カヤウノ事云ヒカハスバカリ、末末アマタ、出給フマデニナリニケルヨ」 (三) 賤シキ者ドモ。シモジモ。シタジタ。 凱陣八島(元祿、近松作)二「末末ノ者ニハ、皆、御暇ヲ賜ハリ」

すゑ-ぜん（スヱゼン）(名) 据膳 (一) 食膳ヲ、人ノ前ニ据ヱツクルコト。 浮世床(文化、三馬)初編、下「己ガ飯ヲ貰ツテル内デハ、水モ汲マズ、居膳デ居テ」 (二) 轉ジテ、物事ヲ供ヘテ、之レヲ受ケムコトヲ勸ムルコト。

すゑ-つかた（スヱツカタ）(名) 末方 (一) 末ノ方。スヱヘ。 源、三十六、横笛十「タダ末つかたヲ、イササカ彈キ給フ」「二月ノすゑつ方」 (二) 末ノ頃。終ハラントスル頃。 源、四十四、橋姫二「御病ノ末つかた」 宇治拾遺、一、第三條「舞、云云、すゑつかたヨリ、出テ來テ、賀ノ繰返シタブゾトテ」

すゑ-つき（スヱツキ）(名) 末付 垂髮ノ末ノ狀。スソツキ。 源、五十二、手習五十「髮ハ、五重ノ扇ヲ弘ゲタルヤウニ、コチタキすゑつきナリ」

すゑ-つき（スヱツキ）(名) 陶坏 カハラケ。 遠江の道の記(增基)「高師山ニテ、すゑつき造ルト聞キテ」

すゑ-つ・く（スヱツク）・クル・クレ・ケ・ケ・ケヨ (他動、下二) 据附 物ヲ、居ヱ置ク。置キ定ム。

すゑ-つくり（スヱツクリ）(名) 陶工 陶器ヲ作ルコトヲ、業トスル人。スヱビト。 遠江の道の記(增基)「タヅナラヌ、高師ノ山ノ、すゑつくり、物思ヲゾ、ヤクトスト聞ク」

すゑつくり-べ（スヱツクリベ）(名) 陶部 古ヘ、陶器ヲ作ル部曲。 雄略紀、七年七月「陶部」

✧**すゑ-つ・ける**（スヱツケル）(動) 据附 すゑつく(据附)ノ口語。

すゑつむ-はな（スヱツムハナ）(名) 末摘花 〔花、末ヨリ咲キソムルヲ、摘み取ル意〕 べにばな(紅花)ノ一名。 萬葉集、十四二十四「外ニノミ、見ツツヤ戀ヒム、紅ノ、末採花ノ、色ニ出デズトモ」 古今集、十一、戀、一「人知レズ、思ヘバ苦シ、紅ノ、末つむはなノ、色ニ出デナン」 源、六、末摘花二十五「ロオホヒノ側目ヨリ、猶、彼ノ末つむはな、イト匂ヒヤカニ差シ出テタリ」 萬代集、五、秋、下「山姫ノ、天ツヒレカモ、紅ノ、末摘花ニ、染ムル梢ハ」 式子內親王集「我ガ袖ノ、濡ルルバカリハ、包ミシニ、末つむはなハ、イカサマニセン」

すゑ-なり（スヱナリ）(名) 末成 草木ノ實ノ、最後ニ生ルモノ。ウラナリ。 蜻蛉日記、下、下十三「千代モ經ヨ、立チカヘリツツ、山城ノ、駒ニ比ベシ、瓜ノすゑなり」

すゑ-の（スヱノ）(名) 末野 野原ノ末、野ノ端。 新勅撰集、十四、戀、四「忘ルナヨ、消エナバ共ニト、云ヒオキシ、末野ノ草ニ、結ブ白露」 新後撰集、五、秋、下「長月ノ、末野ノ眞葛、霜枯レテ、カヘラヌ秋ヲ、猶恨ミツツ」

すゑ-の-まつ（スヱノマツ）(名) 末松 次條ノ語ノ略。 源、五十、浮舟五十七「波越ユル、頃トモ知ラズ、末のまつ、待ツラントノミ、思ヒケルカナ」 續千載集、十五、戀、五「忘レジト、契リシ中ノ、末の松、誰ガツラサニカ、浪ハ越ユラン」 新後拾遺集、五、秋、下「末の松、待ツ夜更ケユク、空晴レテ、波ヨリ出ヅル、山ノ端ノ月」 袖中抄(顯昭)十八「越エニケル、浪ヲバ知ラデ、末の松、千代マデトノミ、賴ミケルカナ」 同巻「松山ニ、ツラキナガラモ、浪越サム、コトハサスガニ、悲シキモノヲ」

すゑ-の-まつやま（スヱノマツヤマ）(名) 末松山 陸奥ノ歌枕ニ用キル語、昔シ、男、女ニ逢ヒテ、末の松山ヲ指シテ、彼山ニ、浪ノ越エナム時ゾ、異心ハアルベキト誓ヒケルヨリ、男モ、女モ、異ナル擧動スルヲバ、末の松山波越す、トハ詠ムナリ。此地ハ、今、陸前國、宮城郡、多賀城村ノ南、八幡ノ地ニアル高邱、青松、茂ル所トゾ。略シテ、すゑのまつ。まつやま。 古今集、廿、東歌「君ヲオキテ、徒シ心ヲ、我ガ持タバ、末の松山、波モ越エナム」 同、六、冬「浦近ク、降リ來ル雪ハ、白波ノ、末の松山、越スカトゾ見ル」 俊成ノ女ノ歌「浪ニウツル、色ニヤ秋ノ、越エヌラム、宮城ノ原ノ、末の松山」 都のつと(觀應、宗久)「宮城野ノ、木ノ下露モ、云云、サテ、ソレヨリ、多賀ノ國府ニモナリヌ、ソレヨリ、奥ノ細道ト云フ方ヲ、南ザマニ、すゑのまつやまニ尋ネユキテ、松原越シニ、遙遙、見渡セバ、ゲニ、波越スヤウナリ、蜑ノ釣舟ナド、サナガラ、梢ヲ渡ルト見ユ」

すゑ-の-ゑ（スヱノヱ）(名) ゑノ字ノ稱。(もとのえニ對ス) 醒睡笑(元和、安樂庵策傳)三「笛ノえハ、縮ミえカ、末ノゑカ、何レガ良イト云フニ」

すゑ-ば（スヱバ）(名) 末葉 (一) 草木ノ、先ノ方ノ葉。ウラバ。ハズヱ。 詞花集、十、雜、下「朝ナ朝ナ、鹿ノ柵ム、萩ガ枝ノ、すゑ葉ノ露ノ、アリガタノ世ヤ」 千載集、五、秋、下「蟲ノ音ハ、淺茅ガモトニ、埋モレテ、秋ハすゑばノ、色ニゾアリケル」 (二) 末孫。末裔。 曾我五人兄弟(元祿、近松作)小袖紋盡「雲ヲ招クヤ、天ツ帝ノ末葉ノ栗」

すゑ-びと（スヱビト）(名) 陶人 陶器ヲ作ル人。スヱツクリ。 萬葉集、十六三十一長歌「陶人ノ、造レル瓶ヲ、今日行キテ、明日取リ持チキ」 垂仁紀、三年、注「近江國、鏡谷陶人」

すゑ-ひろ（スヱヒロ）(名) 末廣 〔數ノ骨ノ本ヲ、要ニテ綴ヂ、其末ヲ廣ゲテ、紙ヲ貼ル、末廣扇ト云フガ、成語ナルベシ、開ケバ、末ノ方、廣クナル、末廣がる(子孫繁榮)トテ、祝賀ニ用キル〕 (一) 扇ノ異名。又、すゑひろがり。初見、歲首、婚姻ナドノ、祝賀ノ進物トスル稱。 裝束抄(正和)「檜扇、蝙蝠トハ、今ノ末廣也」 光源院殿(足利義輝)御元服記「若君、御座ヘ出御也、御扇、傍ニ置カル、末廣也」 田樂法師由來之事、日光山參勤之節、頂戴仕候消具覺「末廣扇六本」 類聚名物考、裝飾、二「末廣の扇、今ハ、タダ末廣トノミ云ヒテ、扇ノ名トセリ」 視聽草(天保)六集、九、扇之記「末廣ト云フ名目ハ、手元ヲバ、要ニテ締寄セ、先ノ方ハ、地紙ヲ挾ム故ニ、自然ト、末ノ方開ク、故ニ、祝シ名付ケテ、末廣ト云フナリ」 倭訓栞、あふぎ「今ノ人、初見、或ハ、歲首、又ハ、冠婚ノ禮ニハ、必ズ、摺扇ヲ以テ、祝賀ノ要物トス、末廣ノ佳名ニ因ルナリ」 (二) 中啓。カハホリ。紙貼ナリ、骨、七本ナルヲ式トシ、朱塗、又、黑漆ニ塗ルト、塗ラザルト、アリ、親骨ニ透アリ、猫間骨ト云フ。(猫眼骨ノ意カト云フ) 永久百首、夏、扇「すゑひろく、七ツ骨ニテ、貼ル扇、褻レニケリナ、本ノ姿ニ」 海人藻芥、中「猫間骨、大臣家物也」

すゑ-ひろがり（スヱヒロガリ）(名) 末廣 前條ヲ見ヨ。 狂言記、すゑひろがり「ソレガシハ、すゑひろがりヲ出サウト思ウガ、何トアラウゾ」

すゑ-ぶろ（スヱフロ）(名) 居風呂 〔持運ビテ、何處

ニモ居ヱ附クベケレバ、云フ」大イナル[illegible]ニ、[illegible]ヲ作リ、[illegible]ケテ、湯ヲ沸カシテ、浴スルニ用ヰルモノ。スヰフロ。其桶ヲ、居風呂桶ト云フ。世間[illegible]容氣(寶曆)[illegible]

呂ト云ヘリ、行水モ、是ニ同ジ、今ハ、据風呂ナドト[illegible]ナケレバ、[illegible]ノドシ[illegible]

ヨ。

すゑふろをけ（スヱフロ・ヲケ）(名) 居風呂桶 [illegible]ノ見

すゑへ（スヱヘ）(名) 末方 [もとへニ對ス] 末ノ方[illegible]、妹ヲ[illegible]

ハ、イクミ竹生ヒ、須[illegible]ニハ、タシミ竹生ヒ」

すゑませ（スヱマゼ）(名) 居交 [illegible]ト[illegible]

[illegible]相合之時、[illegible]居交ト云云、六[illegible]

遊アルベシ、殿上ノ盛[illegible]モすゑませ也」

すゑむすめ（スヱムスメ）(名) 末女 最後ニ生レタル女子。最明寺殿百人上﨟(元祿、近松作)女房[illegible]中將殿ノ末女」

すゑもの（スヱモノ）(名) 居物 (一)飾リツケテ、置クモノ。置物。(二)土壇ニ、罪人ノ屍ナドヲ居エテ、刀劍ノ試斬ヲスルコト、土壇[illegible]ナド云フ [illegible]十、[illegible]、ためし[illegible]ク切ル人ニテ、シカモ上手ナレバ、既ニすゑものヲ切ッテ」 (三)据物宿ニ居テ、密賣淫ヲスル女、[illegible]其ノ

内ヘ[illegible]ノ外ノ[illegible]アヒニ行カズ」

すゑもの（スヱモノ）(名) 陶物 [机ナドノ上ニ居うるヨリ名トス、齋瓮ノ、底圓キニ對ス] やきものノ(一)ニ同ジ。陶器。倭名抄、十六、瓦器[illegible]「陶器、[illegible]乃[illegible]毛[illegible]」同、[illegible]工[illegible]キ作レル器)名義抄「陶、スヱモノ」

すゑものづくり（スヱモノヅクリ）(名) 陶工 すゑづくり(陶工)ニ同ジ。

すゑものやど（スヱモノヤド）(名) 据物宿 淫賣婦ノ、他家ヘハ行カズ、其家ニ飾リ据エッケラルルモノノ宿。居物ノ(三)ヲ見ヨ。好色[illegible]六「すゑものやどニ行キテ、ワケノ[illegible]メモ、恥ヅカシ」

すゑる（ス・ヱル）(動) 据うノ口語。

すおかう（ス・オ・コウ）(副) [illegible] 此方ヨリ、事ヲ仕カケテ、怒ラシム(俗語ノ微生高ノ故事ニ起ルト云フガ、イカガ、假名遣、タガヘリ)

すをり（スヲリ）(名) 魴鮄 (一)はうぼう(魴鮄)ニ同ジ。古寫本節用集「魴、スヲリ」易林節用集(慶長)氣形門「鮄、スヲリ」 (二)かがみだひ(鏡鯛)ノ異名。

「大言海」第二卷奥附

〔價金七圓五拾錢〕

昭和八年五月廿五日印刷
昭和八年五月廿八日發行
昭和八年六月一日二十版發行
昭和八年六月八日四十版發行
昭和八年六月十五日六十版發行
昭和八年六月廿二日八十版發行
昭和十一年一月十八日八十五版發行
昭和十一年二月二十日八十八版發行
昭和十一年九月廿八日九十版發行
昭和十三年十月十日九十二版發行

著者　故 大槻文彦

右相續者　大槻茂雄
東京市荒川區日暮里町二丁目一六番地

發行者　合資會社 冨山房
東京市神田區神保町一丁目三番地

右代表者　坂本嘉治馬
合資會社冨山房社長

印刷者　平野喜代松
東京市牛込區榎町七番地

印刷所　大日本印刷株式會社榎町工場
東京市牛込區榎町七番地

發行所　合資會社 冨山房
東京市神田區神保町一丁目三番地
電話神田(25)〔自二一七一 至二一七八〕番　電信略號(ヤマフ)　振替貯金東京五〇一番